2025年度
実務経験のある教員による授業科目
講義概要（シラバス）



法政大学

科目一覧［発行日：2025/5/1］最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

凡例　その他属性

〈他〉：他学部公開科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目
〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs
〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ
〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル
〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室

【18003】経営学特講[ロジスティクス論]（春期スクーリング）［恩田　登志夫］春期 …… 1
【18004】演習[貿易概論]（春期スクーリング）［恩田　登志夫］春期 …… 2
【A0001】憲法Ⅰ［金子　匡良］春学期授業/Spring …… 3
【A0002】憲法Ⅱ［金子　匡良］秋学期授業/Fall …… 4
【A0011】ジェンダーと法Ⅰ［寺原　真希子、三浦　徹也］秋学期授業/Fall …… 5
【A0014】法律学特講（企業経営と労働法）［中村　景子］春学期授業/Spring …… 6
【A0046】親族法［和田　幹彦］春学期授業/Spring …… 7
【A0047】相続法［和田　幹彦］秋学期授業/Fall …… 9
【A0095】労働法特論［細川　良］秋学期授業/Fall …… 11
【A0110】国際組織法［菅野　直之］春学期授業/Spring …… 13
【A0112】国際刑事法［菅野　直之］秋学期授業/Fall …… 15
【A0129】社会安全政策論Ⅰ［梶原　田鶴、久米　一郎］春学期授業/Spring …… 16
【A0132】法と遺伝学Ⅰ［和田　幹彦］春学期授業/Spring …… 18
【A0133】法と遺伝学Ⅱ［和田　幹彦］秋学期授業/Fall …… 21
【A0159】演習［田尻　有斗］年間授業/Yearly …… 24
【A0189】演習［和田　幹彦］年間授業/Yearly …… 26
【A0281】経済政策Ⅰ［森脇　大輔］春学期授業/Spring …… 28
【A0282】経済政策Ⅱ［前田　佐恵子］秋学期授業/Fall …… 29
【A0429】法律学特講（政策と法）［髙橋　彰］秋学期授業/Fall …… 30
【A0503】外国書講読（英語）Ⅰ［和田　幹彦］春学期授業/Spring …… 32
【A0504】外国書講読（英語）Ⅱ［和田　幹彦］秋学期授業/Fall …… 34
【A0514】憲法と政治Ⅰ［金子　匡良］春学期授業/Spring …… 36
【A0515】憲法と政治Ⅱ［金子　匡良］秋学期授業/Fall …… 37
【A0531】都市の環境問題［松村　正治］秋学期授業/Fall …… 38
【A0596】現代イスラム世界論［出川　展恒］春学期授業/Spring …… 40
【A0606】財政と金融Ⅰ［島澤　諭］春学期授業/Spring …… 41
【A0607】財政と金融Ⅱ［島澤　諭］秋学期授業/Fall …… 42
【A0649】国際ＮＧＯ論Ⅰ［高橋　清貴］春学期授業/Spring …… 43
【A0662】アジア国際政治概論［水野　孝昭］秋学期授業/Fall …… 45
【A0717】国際協力論Ⅰ［志賀　裕朗］春学期授業/Spring …… 47
【A0718】国際協力論Ⅱ［志賀　裕朗］秋学期授業/Fall …… 49
【A0725】アジア比較政治論Ⅰ［高橋　徹］春学期授業/Spring …… 51
【A0726】アジア比較政治論Ⅱ［高橋　徹］秋学期授業/Fall …… 53
【A0769】国際社会の法Ⅰ［新垣　修］秋学期授業/Fall …… 54
【A0770】国際社会の法Ⅱ［新垣　修］秋学期授業/Fall …… 56
【A0921】現代政策学特講Ⅰ（立法学）［正木　寛也］春学期授業/Spring …… 58
【A0922】現代政策学特講Ⅱ（立法学）［正木　寛也］秋学期授業/Fall …… 59
【A0963】演習［木内　真理子］春学期授業/Spring …… 60
【A0964】演習［木内　真理子］秋学期授業/Fall …… 62
【A2441】日本文章史A［中沢　けい］春学期授業/Spring …… 64
【A2443】日本文章史B［中沢　けい］秋学期授業/Fall …… 65
【A2445】文章表現論A［田中　和生］春学期授業/Spring …… 66
【A2447】文章表現論B［田中　和生］秋学期授業/Fall …… 67
【A2568】メディアと社会［中沢　けい］秋学期授業/Fall …… 68

【A2584】表現と著作権A［平井　彰司］春学期授業/Spring …… 69
【A2586】表現と著作権B［平井　彰司］秋学期授業/Fall …… 70
【A2647】ゼミナール１７Ａ［中沢　けい］春学期授業/Spring …… 71
【A2648】ゼミナール１７Ｂ［中沢　けい］秋学期授業/Fall …… 72
【A2649】ゼミナール１８Ａ［中沢　けい］春学期授業/Spring …… 73
【A2650】ゼミナール１８Ｂ［中沢　けい］秋学期授業/Fall …… 74
【A2651】ゼミナール１９Ａ［田中　和生］春学期授業/Spring …… 75
【A2652】ゼミナール１９Ｂ［田中　和生］秋学期授業/Fall …… 76
【A2653】ゼミナール２０Ａ［田中　和生］春学期授業/Spring …… 77
【A2654】ゼミナール２０Ｂ［田中　和生］秋学期授業/Fall …… 78
【A2655】ゼミナール２１Ａ［山口　和人］春学期授業/Spring …… 79
【A2656】ゼミナール２１Ｂ［山口　和人］秋学期授業/Fall …… 80
【A2687】日本文芸研究特講（９）表現Ａ［藤谷　治］春学期授業/Spring …… 81
【A2688】日本文芸研究特講（９）表現B［藤谷　治］秋学期授業/Fall …… 82
【A2709】編集理論Ａ［武田　俊］春学期授業/Spring …… 83
【A2710】編集理論Ｂ［武田　俊］秋学期授業/Fall …… 85
【A2717】情報メディア演習A［武田　俊］春学期授業/Spring …… 87
【A2718】情報メディア演習B［武田　俊］秋学期授業/Fall …… 88
【A2719】書道A(書写を中心とする)［橋本　匡朗］春学期授業/Spring …… 89
【A2720】書道B(書写を中心とする)［橋本　匡朗］秋学期授業/Fall …… 90
【A2721】書道A(書写を中心とする)［橋本　匡朗］春学期授業/Spring …… 91
【A2722】書道B(書写を中心とする)［橋本　匡朗］秋学期授業/Fall …… 92
【A3101】日本史概説Ⅰ［小倉　淳一］春学期授業/Spring …… 93
【A3119】日本考古資料学Ⅰ［小倉　淳一］春学期授業/Spring …… 94
【A3120】日本考古資料学Ⅱ［小倉　淳一］秋学期授業/Fall …… 95
【A3128】日本考古学演習［小倉　淳一］年間授業/Yearly …… 96
【A3228】基礎ゼミⅠ（文・史）［小倉　淳一］春学期授業/Spring …… 97
【A3461】測量学及び測量実習Ⅰ［菅　富美男］秋学期授業/Fall …… 98
【A3462】測量学及び測量実習Ⅱ［菅　富美男］秋学期授業/Fall …… 99
【A3510】地学実験(1)（コンピュータ活用含む）［吉岡　美紀］春学期授業/Spring …… 100
【A3527】理科教育法(1)［狩野　真規］春学期授業/Spring …… 101
【A3528】理科教育法(2)［狩野　真規］秋学期授業/Fall …… 102
【A3530】理科教育法(3)［狩野　真規］春学期授業/Spring …… 103
【A3531】理科教育法(4)［狩野　真規］秋学期授業/Fall …… 104
【A3601】心理学概論［福田　由紀］春学期授業/Spring …… 105
【A3623】教育心理学［福田　由紀］秋学期授業/Fall …… 106
【A3646】研究法Ⅰ（４）［福田　由紀］春学期授業/Spring …… 107
【A3654】研究法Ⅱ（４）［福田　由紀］秋学期授業/Fall …… 108
【A3667】言語心理学［福田　由紀］春学期授業/Spring …… 109
【A3723】言語心理学特講［福田　由紀］秋学期授業/Fall …… 110
【A3728】心理学特殊講義Ⅲ［福田　由紀］秋学期授業/Fall …… 111
【A3813】文学部生のキャリア形成［渡辺　弥生、利根川　真紀、田中　雅人］春学期授業/Spring …… 112
【A3814】現代のコモンセンス［菅沢　龍文、皆川　卓、森　陽香］秋学期授業/Fall …… 113
【A3919】人文地理学演習B（Ⅰ）［増淵　敏之］春学期授業/Spring …… 114
【A3920】人文地理学演習B（Ⅱ）［増淵　敏之］秋学期授業/Fall …… 115
専門入門科目100番台【A4002】組織論入門［中西　善信］秋学期授業/Fall …… 116
専門入門科目100番台【A4003】組織論入門［橋本　諭］春学期授業/Spring …… 117
専門入門科目100番台【A4004】組織論入門［橋本　諭］秋学期授業/Fall …… 118
専門入門科目100番台【A4009】マーケティング入門［岡田　庄生］春学期授業/Spring …… 119
専門入門科目100番台【A4010】マーケティング入門［岡田　庄生］秋学期授業/Fall …… 120
専門入門科目100番台【A4030】簿記入門Ⅰ［近藤　大輔］春学期授業/Spring …… 121
専門入門科目100番台【A4031】簿記入門Ⅱ［近藤　大輔］秋学期授業/Fall …… 122
専門入門科目100番台【A4056】情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）［金子　聡］春学期授業/Spring 123
専門入門科目100番台【A4057】情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）［金子　聡］秋学期授業/Fall 124
専門入門科目100番台【A4058】情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）［金子　聡］春学期授業/Spring 125
専門入門科目100番台【A4059】情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）［金子　聡］秋学期授業/Fall 126

専門入門科目100番台【A4078】情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）［田中　元一朗］春学期授業/Spring 127
専門入門科目100番台【A4079】情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）［田中　元一朗］秋学期授業/Fall 128
専門入門科目100番台【A4084】情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）［田中　元一朗］春学期授業/Spring 129
専門入門科目100番台【A4085】情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）［田中　元一朗］秋学期授業/Fall 130
専門入門科目100番台【A4086】情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）［木村　昌史］春学期授業/Spring 131
専門入門科目100番台【A4087】情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）［木村　昌史］秋学期授業/Fall 132
専門入門科目100番台【A4088】情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）［田中　元一朗］春学期授業/Spring 133
専門入門科目100番台【A4089】情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）［田中　元一朗］秋学期授業/Fall 134
専門入門科目100番台【A4090】情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）［田中　元一朗］春学期授業/Spring 135
専門入門科目100番台【A4091】情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）［田中　元一朗］秋学期授業/Fall 136
専門入門科目100番台【A4096】情報学入門Ⅰ（データベース）（2019年度以降入学者）［木村　昌史］春学期授業/Spring 137
専門入門科目100番台【A4097】情報学入門Ⅱ（データベース）（2019年度以降入学者）［木村　昌史］秋学期授業/Fall 138
専門入門科目100番台【A4100】情報学入門Ⅰ（空間情報処理）（2019年度以降入学者）［森本　洋一］春学期授業/Spring 139
専門入門科目100番台【A4101】情報学入門Ⅱ（空間情報処理）（2019年度以降入学者）［森本　洋一］秋学期授業/Fall 141
専門入門科目200番台【A4303】会計学入門Ⅰ［近藤　大輔］春学期授業/Spring 142
専門入門科目200番台【A4304】会計学入門Ⅱ［近藤　大輔］秋学期授業/Fall 143
専門入門科目200番台【A4305】会計学入門Ⅰ［近藤　大輔］春学期授業/Spring 144
専門入門科目200番台【A4306】会計学入門Ⅱ［近藤　大輔］秋学期授業/Fall 145
【A4319】経営管理論Ⅰ（2018年度以前入学者）［中西　善信］春学期授業/Spring 146
【A4320】経営管理論Ⅱ（2018年度以前入学者）［中西　善信］秋学期授業/Fall 147
【A4323】経営戦略論Ⅰ（2018年度以前入学者）［李　瑞雪］春学期授業/Spring 148
【A4324】経営戦略論Ⅱ（2018年度以前入学者）［李　瑞雪］秋学期授業/Fall 149
【A4325】マーケティング論Ⅰ（2018年度以前入学者）［岡田　庄生］春学期授業/Spring 150
【A4326】マーケティング論Ⅱ（2018年度以前入学者）［岡田　庄生］秋学期授業/Fall 152
【A4329】金融論Ⅰ（2018年度以前入学者）［片桐　満］春学期授業/Spring 154
【A4330】金融論Ⅱ（2018年度以前入学者）［片桐　満］秋学期授業/Fall 155
経営学科専門科目200番台【A4353】経営管理論Ⅰ（2019年度以降入学者）［中西　善信］春学期授業/Spring 156
経営学科専門科目200番台【A4354】経営管理論Ⅱ（2019年度以降入学者）［中西　善信］秋学期授業/Fall 157
経営学科専門科目200番台【A4357】検定会計Ⅰ（2019年度以降入学者）［近藤　大輔］春学期授業/Spring 158
経営学科専門科目200番台【A4358】検定会計Ⅱ（2019年度以降入学者）［近藤　大輔］秋学期授業/Fall 159
経営学科専門科目300番台【A4360】組織行動論Ⅱ［池田　心豪］秋学期授業/Fall 160
経営学科専門科目200番台【A4361】キャリア・マネジメントⅠ（2019年度以降入学者）［小川　憲彦］春学期授業/Spring 161
経営学科専門科目200番台【A4362】キャリア・マネジメントⅡ（2019年度以降入学者）［小川　憲彦］秋学期授業/Fall 162
経営学科専門科目300番台【A4393】組織経済学［奥西　好夫］秋学期授業/Fall 163
【A4394】組織経済学Ⅰ（2018年度以前入学者）［奥西　好夫］秋学期授業/Fall 164
経営戦略学科専門科目200番台【A4403】経営戦略論Ⅰ（2019年度以降入学者）［李　瑞雪］春学期授業/Spring 165
経営戦略学科専門科目200番台【A4404】経営戦略論Ⅱ（2019年度以降入学者）［李　瑞雪］秋学期授業/Fall 166
経営戦略学科専門科目200番台【A4405】国際経営論Ⅰ［洞口　治夫］春学期授業/Spring 167
経営戦略学科専門科目200番台【A4406】国際経営論Ⅱ［洞口　治夫］秋学期授業/Fall 169
経営戦略学科専門科目200番台【A4411】日本経済論Ⅰ［平田　英明］春学期授業/Spring 171
経営戦略学科専門科目200番台【A4412】日本経済論Ⅱ［平田　英明］秋学期授業/Fall 172
経営戦略学科専門科目300番台【A4431】システム管理論Ⅰ［児玉　靖司］春学期授業/Spring 173
経営戦略学科専門科目300番台【A4432】システム管理論Ⅱ［児玉　靖司］秋学期授業/Fall 174
市場経営学科専門科目200番台【A4451】マーケティング・マネジメント論Ⅰ［岡田　庄生］春学期授業/Spring 175
市場経営学科専門科目200番台【A4452】マーケティング・マネジメント論Ⅱ［岡田　庄生］秋学期授業/Fall 177
市場経営学科専門科目200番台【A4455】金融論Ⅰ（2019年度以降入学者）［片桐　満］春学期授業/Spring 179
市場経営学科専門科目200番台【A4456】金融論Ⅱ（2019年度以降入学者）［片桐　満］秋学期授業/Fall 180
市場経営学科専門科目200番台【A4457】マーケティング・リサーチ論Ⅰ（2019年度以降入学者）［西川　英彦］春学期授業/Spring 181

市場経営学科専門科目200番台【A4458】マーケティング・リサーチ論Ⅱ（2019年度以降入学者）［西川　英彦］秋学期授業/Fall 183
市場経営学科専門科目200番台【A4467】製品開発論Ⅰ［田路　則子］春学期授業/Spring 184
市場経営学科専門科目200番台【A4468】製品開発論Ⅱ［田路　則子］秋学期授業/Fall 185
市場経営学科専門科目300番台【A4475】産業組織論Ⅰ［矢野　智彦］春学期授業/Spring 186
市場経営学科専門科目300番台【A4476】産業組織論Ⅱ［矢野　智彦］秋学期授業/Fall 187
市場経営学科専門科目300番台【A4481】経営のための経済学［宮澤　信二郎］春学期授業/Spring 188
【A4483】マーケティング・リサーチⅠ（2018年度以前入学者）［西川　英彦］春学期授業/Spring 189
【A4484】マーケティング・リサーチⅡ（2018年度以前入学者）［西川　英彦］秋学期授業/Fall 191
【A4487】ファイナンス論Ⅰ（2018年度以前入学者）［山嵜　輝］春学期授業/Spring 192
【A4488】ファイナンス論Ⅱ（2018年度以前入学者）［山嵜　輝］秋学期授業/Fall 193
市場経営学科専門科目300番台【A4495】Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ［山嵜　輝］秋学期授業/Fall 194
市場経営学科専門科目300番台【A4496】広告論［宮井　弘之］秋学期授業/Fall 195
【A4497】応用経済学Ⅰ（2018年度以前入学者）［宮澤　信二郎］春学期授業/Spring 196
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4501】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）［吉村　喜予子］春学期授業/Spring 197
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4506】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）［依田　光広］春学期授業/Spring 199
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4507】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）［依田　光広］秋学期授業/Fall 200
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4508】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）［秋友　一広］春学期授業/Spring 201
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4509】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）［秋友　一広］秋学期授業/Fall 203
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4510】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）［岡本　慶子］秋学期授業/Fall 205
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4515】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）［片桐　満］秋学期授業/Fall 207
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4519】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）［鴨志田　晃］春学期授業/Spring 208
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4520】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）［鴨志田　晃］秋学期授業/Fall 209
グローバル・ビジネス/GBP科目【A4529】入門外国語経営学（2019年度以降入学者）［岡本　慶子］秋学期授業/Fall 210
【A4541】入門外国語経営学Ⅰ（2018年度以前入学者）［吉村　喜予子］春学期授業/Spring 211
【A4546】入門外国語経営学Ⅰ（2018年度以前入学者）［依田　光広］春学期授業/Spring 213
【A4547】入門外国語経営学Ⅰ（2018年度以前入学者）［依田　光広］秋学期授業/Fall 214
【A4548】入門外国語経営学Ⅰ（2018年度以前入学者）［秋友　一広］春学期授業/Spring 216
【A4549】入門外国語経営学Ⅰ（2018年度以前入学者）［秋友　一広］秋学期授業/Fall 218
【A4550】入門外国語経営学Ⅰ（2018年度以前入学者）［岡本　慶子］秋学期授業/Fall 220
【A4558】入門外国語経営学Ⅰ（2018年度以前入学者）［鴨志田　晃］春学期授業/Spring 221
【A4559】入門外国語経営学Ⅰ（2018年度以前入学者）［鴨志田　晃］秋学期授業/Fall 222
【A4566】入門外国語経営学Ⅰ（2018年度以前入学者）［岡本　慶子］秋学期授業/Fall 223
【A4569】入門外国語経営学Ⅰ（2018年度以前入学者）［片桐　満］秋学期授業/Fall 224
【A4585】検定会計Ⅰ（2018年度以前入学者）［近藤　大輔］春学期授業/Spring 225
【A4586】検定会計Ⅱ（2018年度以前入学者）［近藤　大輔］秋学期授業/Fall 226
【A4587】キャリア・マネジメントⅠ（2018年度以前入学者）［小川　憲彦］春学期授業/Spring 227
【A4588】キャリア・マネジメントⅡ（2018年度以前入学者）［小川　憲彦］秋学期授業/Fall 228
演習【A4606】入門演習（2019年度以降入学者）［山嵜　輝］春学期授業/Spring 229
演習【A4675】演習1［中西　善信］春学期授業/Spring 231
演習【A4676】演習2［中西　善信］秋学期授業/Fall 232
演習【A4677】演習3［中西　善信］春学期授業/Spring 233
演習【A4678】演習4［中西　善信］秋学期授業/Fall 234
演習【A4679】演習5［中西　善信］春学期授業/Spring 235
演習【A4680】演習6［中西　善信］秋学期授業/Fall 236
演習【A4693】演習1［小川　憲彦］春学期授業/Spring 237
演習【A4694】演習2［小川　憲彦］秋学期授業/Fall 239
演習【A4695】演習3［小川　憲彦］春学期授業/Spring 241
演習【A4696】演習4［小川　憲彦］秋学期授業/Fall 243
演習【A4697】演習5［小川　憲彦］春学期授業/Spring 245
演習【A4698】演習6［小川　憲彦］秋学期授業/Fall 247
演習【A4699】演習1［奥西　好夫］春学期授業/Spring 249
演習【A4700】演習2［奥西　好夫］秋学期授業/Fall 250
演習【A4701】演習3［奥西　好夫］春学期授業/Spring 251
演習【A4702】演習4［奥西　好夫］秋学期授業/Fall 252
演習【A4703】演習5［奥西　好夫］春学期授業/Spring 253

演習【A4704】演習6［奥西　好夫］秋学期授業/Fall 254
演習【A4825】演習1［岡田　庄生］春学期授業/Spring 255
演習【A4826】演習2［岡田　庄生］秋学期授業/Fall 256
演習【A4827】演習3［岡田　庄生］春学期授業/Spring 257
演習【A4828】演習4［岡田　庄生］秋学期授業/Fall 258
演習【A4829】演習5［岡田　庄生］春学期授業/Spring 259
演習【A4830】演習6［岡田　庄生］秋学期授業/Fall 260
演習【A4897】演習1［平田　英明］春学期授業/Spring 261
演習【A4898】演習2［平田　英明］秋学期授業/Fall 262
演習【A4899】演習3［平田　英明］春学期授業/Spring 263
演習【A4900】演習4［平田　英明］秋学期授業/Fall 264
演習【A4901】演習5［平田　英明］春学期授業/Spring 265
演習【A4902】演習6［平田　英明］秋学期授業/Fall 266
演習【A4921】演習1［洞口　治夫］春学期授業/Spring 267
演習【A4922】演習2［洞口　治夫］秋学期授業/Fall 269
演習【A4923】演習3［洞口　治夫］春学期授業/Spring 271
演習【A4924】演習4［洞口　治夫］秋学期授業/Fall 273
演習【A4925】演習5［洞口　治夫］春学期授業/Spring 275
演習【A4926】演習6［洞口　治夫］秋学期授業/Fall 277
演習【A4933】演習1［山嵜　輝］春学期授業/Spring 279
演習【A4934】演習2［山嵜　輝］秋学期授業/Fall 280
演習【A4935】演習3［山嵜　輝］春学期授業/Spring 281
演習【A4936】演習4［山嵜　輝］秋学期授業/Fall 282
演習【A4937】演習5［山嵜　輝］春学期授業/Spring 283
演習【A4938】演習6［山嵜　輝］秋学期授業/Fall 284
情報関係科目【A5205】プログラミング言語Ⅰ（JAVA）（2019年度以降入学者）［飯塚　康至］春学期授業/Spring 285
情報関係科目【A5206】プログラミング言語Ⅱ（JAVA）（2019年度以降入学者）［飯塚　康至］秋学期授業/Fall ... 286
情報関係科目【A5207】プログラミング言語Ⅰ（JAVA）（2019年度以降入学者）［飯塚　康至］春学期授業/Spring 287
情報関係科目【A5208】プログラミング言語Ⅱ（JAVA）（2019年度以降入学者）［飯塚　康至］秋学期授業/Fall ... 288
情報関係科目【A5260】情報学応用Ⅰ（データベース）（2019年度以降入学者）［木村　昌史］春学期授業/Spring . 289
情報関係科目【A5261】情報学応用Ⅱ（データベース）（2019年度以降入学者）［木村　昌史］秋学期授業/Fall..... 290
情報関係科目【A5262】情報学応用Ⅰ（データベース）（2019年度以降入学者）［木村　昌史］春学期授業/Spring . 291
情報関係科目【A5263】情報学応用Ⅱ（データベース）（2019年度以降入学者）［木村　昌史］秋学期授業/Fall..... 292
情報関係科目【A5268】情報学応用Ⅰ（データ可視化）（2019年度以降入学者）［田中　元一朗］春学期授業/Spring 293
情報関係科目【A5269】情報学応用Ⅱ（データ可視化）（2019年度以降入学者）［田中　元一朗］秋学期授業/Fall .. 294
情報関係科目【A5270】情報学応用Ⅰ（データ可視化）（2019年度以降入学者）［飯塚　康至］春学期授業/Spring . 295
情報関係科目【A5271】情報学応用Ⅱ（データ可視化）（2019年度以降入学者）［飯塚　康至］秋学期授業/Fall..... 296
情報関係科目【A5272】情報学応用Ⅰ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）［上野　京子］春学期授業/Spring 297
情報関係科目【A5273】情報学応用Ⅱ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）［上野　京子］秋学期授業/Fall 298
情報関係科目【A5274】情報学応用Ⅰ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）［上野　京子］春学期授業/Spring 299
情報関係科目【A5275】情報学応用Ⅱ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）［上野　京子］秋学期授業/Fall 300
情報関係科目【A5276】情報学応用Ⅰ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）［上野　京子］春学期授業/Spring 301
情報関係科目【A5277】情報学応用Ⅱ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）［上野　京子］秋学期授業/Fall 302
情報関係科目【A5278】情報学応用Ⅰ（空間情報）（2019年度以降入学者）［沼尻　治樹］春学期授業/Spring 303
情報関係科目【A5279】情報学応用Ⅱ（空間情報）（2019年度以降入学者）［沼尻　治樹］秋学期授業/Fall 304
情報関係科目【A5332】情報学発展Ⅰ（情報通信ネットワーク）（2019年度以降入学者）［飯塚　康至］春学期授業/Spring 305
情報関係科目【A5333】情報学発展Ⅱ（情報通信ネットワーク）（2019年度以降入学者）［飯塚　康至］秋学期授業/Fall 306
情報関係科目【A5334】情報学発展Ⅰ（ホームページ）（2019年度以降入学者）［上野　京子］春学期授業/Spring . 307
情報関係科目【A5335】情報学発展Ⅱ（ホームページ）（2019年度以降入学者）［上野　京子］秋学期授業/Fall..... 308
情報関係科目【A5336】情報学発展Ⅰ（ホームページ）（2019年度以降入学者）［上野　京子］春学期授業/Spring . 309
情報関係科目【A5337】情報学発展Ⅱ（ホームページ）（2019年度以降入学者）［上野　京子］秋学期授業/Fall..... 310
情報関係科目【A5338】情報学発展Ⅰ（ホームページ）（2019年度以降入学者）［上野　京子］春学期授業/Spring . 311
情報関係科目【A5339】情報学発展Ⅱ（ホームページ）（2019年度以降入学者）［上野　京子］秋学期授業/Fall..... 312
連環科目【A5381】民法［松田　佳久］年間授業/Yearly 313
特殊講義【A5401】広告論（2018年度以前入学者）［宮井　弘之］秋学期授業/Fall..... 315
特殊講義【A5411】寄附講座・日本の物流と企業経営［李　瑞雪］秋学期授業/Fall 316

専門教育科目／Business Administration Courses_専門基礎科目／Introductory Courses of Business Administration【A5506】Introduction to Operations Management ［Kiyoko YOSHIMURA］春学期授業/Spring 317
専門教育科目／Business Administration Courses_専門基礎科目／Introductory Courses of Business Administration【A5507】Introduction to Japanese Economy ［Hideaki HIRATA］春学期授業/Spring ... 318
専門教育科目／Business Administration Courses_専門科目／Intermediate/Advanced Courses of Business Administration【A5511】Organizational Management Ⅰ ［Akira KAMOSHIDA］秋学期授業/Fall 320
専門教育科目／Business Administration Courses_専門科目／Intermediate/Advanced Courses of Business Administration【A5515】Human Resource Management Ⅰ ［Yoshio OKUNISHI］秋学期授業/Fall..... 322
専門教育科目／Business Administration Courses_専門科目／Intermediate/Advanced Courses of Business Administration【A5516】Human Resource Management Ⅱ ［Yoshio OKUNISHI］春学期授業/Spring .. 323
専門教育科目／Business Administration Courses_専門科目／Intermediate/Advanced Courses of Business Administration【A5518】International Business Ⅰ ［Haruo HORAGUCHI］秋学期授業/Fall 324
専門教育科目／Business Administration Courses_専門科目／Intermediate/Advanced Courses of Business Administration【A5533】Operations Management Ⅰ ［Kiyoko YOSHIMURA］秋学期授業/Fall 326
専門教育科目／Business Administration Courses_専門科目／Intermediate/Advanced Courses of Business Administration【A5534】Operations Management Ⅱ ［Kiyoko YOSHIMURA］春学期授業/Spring 327
専門教育科目／Business Administration Courses_専門科目／Intermediate/Advanced Courses of Business Administration【A5538】Entrepreneurship ［Noriko TAJI］春学期授業/Spring..... 328
専門教育科目／Business Administration Courses_特殊講義／Special Topics in Management【A5540】Special Topics in Management B ［Akira KAMOSHIDA］春学期授業/Spring 329
専門教育科目／Business Administration Courses_GBP科目／Global Business Courses【A5542】Workshop Ⅰ ［Akira KAMOSHIDA］秋学期授業/Fall 330
専門教育科目／Business Administration Courses_GBP科目／Global Business Courses【A5546】Special Topics in Global Business C ［Kazuhiro AKITOMO］秋学期授業/Fall 331
専門教育科目／Business Administration Courses_GBP科目／Global Business Courses【A5548】Internship ［Akira KAMOSHIDA］秋学期授業/Fall 333
専門教育科目／Business Administration Courses_GBP科目／Global Business Courses【A5552】Seminar ［Kiyoko YOSHIMURA］秋学期授業/Fall 334
専門教育科目／Business Administration Courses_GBP科目／Global Business Courses【A5553】Seminar ［Kiyoko YOSHIMURA］春学期授業/Spring..... 335
専門教育科目／Business Administration Courses_GBP科目／Global Business Courses【A5554】Seminar［Akira KAMOSHIDA］秋学期授業/Fall 336
専門教育科目／Business Administration Courses_GBP科目／Global Business Courses【A5555】Seminar［Akira KAMOSHIDA］春学期授業/Spring..... 337
【A6065】Leadership and Career Development ［Takamasa Fukuoka］春学期授業/Spring 338
【A6177】Introduction to Tourism Studies ［John Melvin］春学期授業/Spring 339
【A6178】Introduction to Tourism Studies ［John Melvin］秋学期授業/Fall..... 340
【A6231】Brand Management ［Takamasa Fukuoka］春学期授業/Spring..... 341
【A6232】Business Negotiation ［Takamasa Fukuoka］秋学期授業/Fall..... 342
【A6264】Event Management ［John Melvin］秋学期授業/Fall 343
【A6265】Tourism Development in Japan ［John Melvin］春学期授業/Spring 344
【A6337】Services Marketing ［John Melvin］春学期授業/Spring 345
【A6352】Cultural Tourism ［John Melvin］秋学期授業/Fall..... 346
【A6421】Seminar: Tourism Management I ［John Melvin］春学期授業/Spring..... 347
【A6422】Seminar: Tourism Management I ［John Melvin］春学期授業/Spring..... 348
【A6423】Seminar: Tourism Management II ［John Melvin］秋学期授業/Fall 349
【A6424】Seminar: Tourism Management II ［John Melvin］秋学期授業/Fall 350
【A6429】Seminar: Global Strategic Management I ［Takamasa Fukuoka］春学期授業/Spring 351
【A6430】Seminar: Global Strategic Management I ［Takamasa Fukuoka］春学期授業/Spring 352
【A6431】Seminar: Global Strategic Management II ［Takamasa Fukuoka］秋学期授業/Fall 353
【A6432】Seminar: Global Strategic Management II ［Takamasa Fukuoka］秋学期授業/Fall 354
【A8000】ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation &Discussion: Intermediate I ［Sandor Dome］春学期授業/Spring 355
【A8001】ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation &Discussion: Intermediate I ［Joe Trujillo］春学期授業/Spring 356

【A8002】ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation &Discussion: Intermediate I［Matt McCabe］春学期授業/Spring 357
【A8003】ERP CE1 (Ichigaya): Writing &Discussion: Intermediate I［Steven Braunbach］春学期授業/Spring 358
【A8004】ERP CE1 (Ichigaya): Writing &Discussion: Intermediate I［Sandor Dome］春学期授業/Spring ... 359
【A8005】ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation &Discussion: Higher-Intermediate I［Jason Burnett］春学期授業/Spring 360
【A8006】ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation &Discussion: Higher-Intermediate I［Steven Braunbach］春学期授業/Spring 361
【A8007】ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation &Discussion: Higher-Intermediate I［Samuel Harper］春学期授業/Spring 362
【A8008】ERP CE2 (Ichigaya): Writing &Discussion: Higher-Intermediate I［Matt McCabe］春学期授業/Spring 363
【A8009】ERP CE2 (Ichigaya): Writing &Discussion: Higher-Intermediate I［Sandor Dome］春学期授業/Spring 364
【A8010】ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation &Discussion: Advanced I［Steven Braunbach］春学期授業/Spring..... 365
【A8011】ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation &Discussion: Advanced I［Samuel Harper］春学期授業/Spring 366
【A8012】ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation &Discussion: Advanced I［Matt McCabe］春学期授業/Spring 367
【A8013】ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation &Discussion: Advanced I［Jason Burnett］春学期授業/Spring 368
【A8014】ERP CE3 (Ichigaya): Writing &Discussion: Advanced I［Sandor Dome］春学期授業/Spring..... 369
【A8015】ERP CE3 (Ichigaya): Writing &Discussion: Advanced I［Andrew Finegan］春学期授業/Spring ... 370
【A8016】ERP CE3 (Ichigaya): Writing &Discussion: Advanced I［Steven Braunbach］春学期授業/Spring . 371
【A8017】ERP CE3 (Ichigaya): Writing &Discussion: Advanced I［Samuel Harper］春学期授業/Spring..... 372
【A8018】ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation &Discussion: Advanced I［Sandor Dome］春学期授業/Spring 373
【A8030】ERP CE1 (Ichigaya): Intensive English 1［ERP講師］サマーセッション/Summer Session 374
【A8031】ERP CE2 (Ichigaya): Intensive English 2［ERP講師］サマーセッション/Summer Session 375
【A8032】ERP CE1 (Ichigaya): Intensive English 1［ERP講師］サマーセッション/Summer Session 376
【A8033】ERP CE2 (Ichigaya): Intensive English 2［ERP講師］サマーセッション/Summer Session 377
【A8050】ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation &Discussion: Intermediate II［Matt McCabe］秋学期授業/Fall..... 378
【A8051】ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation &Discussion: Intermediate II［Sandor Dome］秋学期授業/Fall..... 379
【A8052】ERP CE1 (Ichigaya): Writing &Discussion: Intermediate II［Sandor Dome］秋学期授業/Fall 380
【A8053】ERP CE1 (Ichigaya): Writing &Discussion: Intermediate II［Matt McCabe］秋学期授業/Fall 381
【A8054】ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation &Discussion: Higher-Intermediate II［Sandor Dome］秋学期授業/Fall 382
【A8055】ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation &Discussion: Higher-Intermediate II［Andrew Finegan］秋学期授業/Fall..... 383
【A8056】ERP CE2 (Ichigaya): Writing &Discussion: Higher-Intermediate II［Samuel Harper］秋学期授業/Fall..... 384
【A8057】ERP CE2 (Ichigaya): Writing &Discussion: Higher-Intermediate II［Sandor Dome］秋学期授業/Fall 385
【A8058】ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation &Discussion: Advanced II［Jason Burnett］秋学期授業/Fall 386
【A8059】ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation &Discussion: Advanced II［Steven Braunbach］秋学期授業/Fall 387
【A8060】ERP CE3 (Ichigaya): Writing &Discussion: Advanced II［Steven Braunbach］秋学期授業/Fall ... 388
【A8061】ERP CE3 (Ichigaya): Writing &Discussion: Advanced II［Ryan Olimer］秋学期授業/Fall..... 389
【A8062】ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation &Discussion: Advanced II［Matt McCabe］秋学期授業/Fall 390
【A8063】ERP CE3 (Ichigaya): Writing &Discussion: Advanced II［Samuel Harper］秋学期授業/Fall..... 391
【A8080】ERP CE1 (Ichigaya): Intensive English 1［ERP講師］スプリングセッション/Spring Session..... 392
【A8081】ERP CE2 (Ichigaya): Intensive English 2［ERP講師］スプリングセッション/Spring Session..... 393
【A8082】ERP CE1 (Ichigaya): Intensive English 1［ERP講師］スプリングセッション/Spring Session..... 394
【A8083】ERP CE2 (Ichigaya): Intensive English 2［ERP講師］スプリングセッション/Spring Session..... 395
【A8100】ERP CE1 (Tama): Oral Presentation &Discussion: Intermediate I［Matt Fuller］春学期授業/Spring 396
【A8101】ERP CE1 (Tama): Oral Presentation &Discussion: Intermediate I［Matt Fuller］春学期授業/Spring 397
【A8102】ERP CE1 (Tama): Writing &Discussion: Intermediate I［Matt McCabe］春学期授業/Spring 398

【A8103】ERP CE1 (Tama): Writing &Discussion: Intermediate I［Joe Trujillo］春学期授業/Spring..... 399
【A8104】ERP CE2 (Tama): Oral Presentation &Discussion: Higher-Intermediate I［Joe Trujillo］春学期授業/Spring 400
【A8105】ERP CE2 (Tama): Oral Presentation &Discussion: Higher-Intermediate I［Takao Kasumi］春学期授業/Spring..... 401
【A8106】ERP CE2 (Tama): Writing &Discussion: Higher-Intermediate I［Sandor Dome］春学期授業/Spring 402
【A8107】ERP CE2 (Tama): Writing &Discussion: Higher-Intermediate I［Ryan Olimer］春学期授業/Spring 403
【A8108】ERP CE3 (Tama): Oral Presentation &Discussion: Advanced I［Ron Reid］春学期授業/Spring ... 404
【A8109】ERP CE3 (Tama): Oral Presentation &Discussion: Advanced I［Matt McCabe］春学期授業/Spring 405
【A8110】ERP CE3 (Tama): Oral Presentation &Discussion: Advanced I［Ryan Olimer］春学期授業/Spring 406
【A8111】ERP CE3 (Tama): Writing &Discussion: Advanced I［Matt Fuller］春学期授業/Spring 407
【A8112】ERP CE3 (Tama): Writing &Discussion: Advanced I［Takao Kasumi］春学期授業/Spring 408
【A8113】ERP CE3 (Tama): Writing &Discussion: Advanced I［Matt Fuller］春学期授業/Spring 409
【A8150】ERP CE1 (Tama): Oral Presentation &Discussion: Intermediate II［Stephen O' Leary］秋学期授業/Fall 410
【A8151】ERP CE1 (Tama): Oral Presentation &Discussion: Intermediate II［Ryan Olimer］秋学期授業/Fall 411
【A8152】ERP CE1 (Tama): Writing &Discussion: Intermediate II［Ryan Olimer］秋学期授業/Fall 412
【A8153】ERP CE2 (Tama): Oral Presentation &Discussion: Higher-Intermediate II［Jason Burnett］秋学期授業/Fall..... 413
【A8154】ERP CE2 (Tama): Oral Presentation &Discussion: Higher-Intermediate II［Matt Fuller］秋学期授業/Fall 414
【A8155】ERP CE2 (Tama): Writing &Discussion: Higher-Intermediate II［Stephen O' Leary］秋学期授業/Fall..... 415
【A8156】ERP CE2 (Tama): Writing &Discussion: Higher-Intermediate II［Ryan Olimer］秋学期授業/Fall 416
【A8157】ERP CE3 (Tama): Oral Presentation &Discussion: Advanced II［Takao Kasumi］秋学期授業/Fall 417
【A8158】ERP CE3 (Tama): Oral Presentation &Discussion: Advanced II［Joe Trujillo］秋学期授業/Fall ... 418
【A8159】ERP CE3 (Tama): Writing &Discussion: Advanced II［Ryan Olimer］秋学期授業/Fall 419
【A8160】ERP CE3 (Tama): Writing &Discussion: Advanced II［Matt Fuller］秋学期授業/Fall 420
【A8161】ERP CE3 (Tama): Oral Presentation &Discussion: Advanced II［Takao Kasumi］秋学期授業/Fall 421
【A8200】ERP CE1 (Koganei): Oral Presentation &Discussion: Intermediate I［Ron Reid］春学期授業/Spring 422
【A8201】ERP CE1 (Koganei): Writing &Discussion: Intermediate I［Steven Braunbach］春学期授業/Spring 423
【A8202】ERP CE2 (Koganei): Oral Presentation &Discussion: Higher-Intermediate I［Samuel Harper］春学期授業/Spring 424
【A8203】ERP CE2 (Koganei): Writing &Discussion: Higher-Intermediate I［Steven Braunbach］春学期授業/Spring 425
【A8204】ERP CE3 (Koganei): Oral Presentation &Discussion: Advanced I［Ron Reid］春学期授業/Spring 426
【A8205】ERP CE3 (Koganei): Writing &Discussion: Advanced I［Ron Reid］春学期授業/Spring 427
【A8250】ERP CE1 (Koganei): Oral Presentation &Discussion: Intermediate II［Ron Reid］秋学期授業/Fall 428
【A8251】ERP CE1 (Koganei): Writing &Discussion: Intermediate II［Steven Braunbach］秋学期授業/Fall 429
【A8252】ERP CE2 (Koganei): Oral Presentation &Discussion: Higher-Intermediate II［Samuel Harper］秋学期授業/Fall 430
【A8253】ERP CE2 (Koganei): Writing &Discussion: Higher-Intermediate II［Steven Braunbach］秋学期授業/Fall 431
【A8254】ERP CE3 (Koganei): Oral Presentation &Discussion: Advanced II［Ron Reid］秋学期授業/Fall... 432
【A8255】ERP CE3 (Koganei): Writing &Discussion: Advanced II［Ron Reid］秋学期授業/Fall 433
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1009】知的財産権［加納　昌彦］秋学期授業/Fall 434
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1009】知的財産権［加納　昌彦］秋学期授業/Fall.. 435
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1009】知的財産権［加納　昌彦］秋学期授業/Fall 436
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1010】開発と国際協力［浅川　英理子、小野澤　雅人、宮川　聖史］秋学期授業/Fall..... 437
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1010】開発と国際協力［浅川　英理子、小野澤　雅人、宮川　聖史］秋学期授業/Fall..... 439
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_環境分野【B1018】環境とエネルギー［下田　昭郎］春学期授業/Spring . 440
建築学科_基盤科目_総合系_環境分野【B1018】環境とエネルギー［下田　昭郎］春学期授業/Spring 441
都市環境デザイン工学科_基盤科目_総合系_環境分野【B1019】環境とエネルギー［下田　昭郎］春学期授業/Spring 442
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1051】マーケティング［林　奈生子］秋学期授業/Fall 443
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1051】マーケティング［林　奈生子］秋学期授業/Fall 445

都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1051】マーケティング［林　奈生子］秋学期授業/Fall 447
都市環境デザイン工学科_基盤科目_留学生科目【B1066】日本文化論［尾形　太郎］春学期授業/Spring 449
建築学科_基盤科目_留学生科目【B1066】日本文化論［尾形　太郎］春学期授業/Spring 451
システムデザイン学科_基盤科目_留学生科目【B1066】日本文化論［尾形　太郎］春学期授業/Spring 453
建築学科_基盤科目_理工系_自然科学分野【B1150】数学１［浜田　英明］春学期授業/Spring 455
都市環境デザイン工学科_基盤科目_理工系_自然科学分野【B1262】物理２［工藤　聡、池田　弘一］秋学期前半 .. 456
都市環境デザイン工学科_基盤科目_理工系_自然科学分野【B1264】工業力学及演習 X［網谷　岳夫］秋学期授業/Fall 457
都市環境デザイン工学科_基盤科目_理工系_自然科学分野【B1265】工業力学及演習 Y［内田　大介］秋学期授業/Fall 458
都市環境デザイン工学科_基盤科目_理工系_自然科学分野【B1266】図学及演習［山田　裕貴、福井　恒明、今井　裕久］秋学期授業/Fall 459
都市環境デザイン工学科_基盤科目_理工系_自然科学分野【B1268】ジオロジカルエンジニアリング［中谷　匡志］秋学期授業/Fall 460
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1300】技術者倫理［北原　義典］春学期授業/Spring 462
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2007】色彩論［大高　知子］秋学期授業/Fall 464
建築学科_基盤科目_人文社会系_人文分野【B2009】哲学［大西　悟、横山　奈那］秋学期授業/Fall 466
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_人文分野【B2009】哲学［大西　悟、横山　奈那］秋学期授業/Fall .. 468
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_人文分野【B2009】哲学［大西　悟、横山　奈那］秋学期授業/Fall 469
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2051】都市デザイン［高見　公雄］春学期前半/Spring(1st half) 471
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B2051】都市デザイン［高見　公雄］春学期前半/Spring(1st half) . 472
建築学科_専門科目_基礎科目【B2051】都市デザイン［高見　公雄］春学期前半/Spring(1st half) 473
建築学科_専門科目_基礎科目【B2055】都市・地域政策［土屋　愛自］春学期前半/Spring(1st half) 474
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B2055】都市・地域政策［土屋　愛自］春学期前半/Spring(1st half) 475
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2055】都市・地域政策［土屋　愛自］春学期前半/Spring(1st half) . 476
建築学科_専門科目_展開科目【B2056】公共空間デザイン及演習［竹内　豪、下吹越　武人、高見　公雄、杉浦　榮、伊藤　登、大西　景太］秋学期授業/Fall 477
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B2056】公共空間デザイン及演習［竹内　豪、下吹越　武人、高見　公雄、杉浦　榮、伊藤　登、大西　景太］秋学期授業/Fall 478
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2056】公共空間デザイン及演習［竹内　豪、下吹越　武人、高見　公雄、杉浦　榮、伊藤　登、大西　景太］秋学期授業/Fall 479
建築学科_専門科目_導入科目【B2150】デザインスタジオ２（建築）W［小堀　哲夫］秋学期授業/Fall 480
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B2230】導入ゼミナール（都市）［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明、尾関　智子、原田　大輔］春学期前半/Spring(1st half) 482
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B2230】導入ゼミナール（都市）［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明、尾関　智子、原田　大輔］春学期前半/Spring(1st half) 483
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B2230】導入ゼミナール（都市）［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明、尾関　智子、原田　大輔］春学期前半/Spring(1st half) 484
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B2230】導入ゼミナール（都市）［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明、尾関　智子、原田　大輔］春学期前半/Spring(1st half) 485
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B2230】導入ゼミナール（都市）［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明、尾関　智子、原田　大輔］春学期前半/Spring(1st half) 486
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B2230】導入ゼミナール（都市）［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明、尾関　智子、原田　大輔］春学期前半/Spring(1st half) 487
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B2230】導入ゼミナール（都市）［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明、尾関　智子、原田　大輔］春学期前半/Spring(1st half) 488
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B2230】導入ゼミナール（都市）［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明、尾関　智子、原田　大輔］春学期前半/Spring(1st half) 489

都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B2230】導入ゼミナール（都市）［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明、尾関　智子、原田　大輔］春学期前半/Spring(1st half) …… 490
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B2232】国土・地域概論［高見　公雄、堀川　洋子］秋学期授業/Fall 491
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B2234】都市計画法と政策［福井　恒明］秋学期前半/Fall(1st half) 492
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B2237】地盤力学及演習X［酒井　久和］春学期授業/Spring …… 493
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B2238】地盤力学及演習Y［澤田　俊一（Shunichi SAWADA）］春学期授業/Spring …… 494
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B2240】工業英語X［大友　敬三］秋学期授業/Fall …… 495
建築学科_専門科目_導入科目【B2250】デザインスタジオ２（建築）X［板坂　留五］秋学期授業/Fall …… 497
システムデザイン学科_専門科目_導入科目【B2344】デザインスタジオ２（SD）［安積　伸、片山　典子、田中　聡一郎、山田　泰之、西岡　靖之］秋学期授業/Fall …… 499
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2345】デザイン理論（SD）［秋元　淳］秋学期授業/Fall …… 501
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_デザイン分野【B2346】図形科学基礎演習X［梶本　博司、石橋　忠人］秋学期授業/Fall …… 503
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_デザイン分野【B2347】図形科学基礎演習Y［梶本　博司、石橋　忠人］秋学期授業/Fall …… 504
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2356】クリエーション基礎論［土屋　雅人、大西　景太］秋学期授業/Fall …… 505
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2357】プレゼンテーション技術X［豊島　純子］秋学期授業/Fall … 506
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2358】プレゼンテーション技術Y［豊島　純子］秋学期授業/Fall … 508
建築学科_専門科目_基礎科目【B2402】材料の力学［浜田　英明］春学期授業/Spring …… 510
建築学科_専門科目_基礎科目【B2405】骨組の力学［浜田　英明］秋学期授業/Fall …… 511
システムデザイン学科_専門科目_特別科目【B2414】Design Basics in English［ディン　ボリバン］秋学期授業/Fall …… 512
都市環境デザイン工学科_専門科目_特別科目【B2414】Design Basics in English［ディン　ボリバン］秋学期授業/Fall …… 514
建築学科_専門科目_特別科目【B2414】Design Basics in English［ディン　ボリバン］秋学期授業/Fall …… 516
建築学科_専門科目_導入科目【B2450】デザインスタジオ２（建築）Y［山道　拓人］秋学期授業/Fall …… 518
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B2531】交通計画［今井　龍一］春学期前半/Spring(1st half) …… 520
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B2533】建築設計基礎［瀬戸　健似、今井　裕久］秋学期授業/Fall. 521
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B2538】鋼構造デザイン実習［鈴木　泰之］春学期授業/Spring …… 522
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B2545】工学実験２［酒井　久和、鈴木　善晴、原田　大輔、鈴木　弘明、池田　勇司］春学期前半/Spring(1st half) …… 524
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B2549】メンテナンス工学［溝渕　利明、臼井　則生］秋学期前半/Fall(1st half) …… 526
建築学科_専門科目_導入科目【B2550】デザインスタジオ２（建築）Z［塩田　能也］秋学期授業/Fall …… 528
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2708】プロダクトデザイン理論［安積　伸］春学期授業/Spring …… 530
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2715】プロダクトデザイン１（２０１９～２０２２年度入学生用）［安積　伸、秋山　かおり、林　登志也］春学期授業/Spring …… 531
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2716】プロダクトデザイン２（２０１９～２０２２年度入学生用）［安積　伸、秋山　かおり、林　登志也］春学期授業/Spring …… 532
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2717】プロダクトデザイン３（２０１９～２０２２年度入学生用）［梶本　博司、宮沢　哲、谷口　武司、安積　伸］秋学期授業/Fall …… 533
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2718】プロダクトデザイン４（２０１９～２０２２年度入学生用）［梶本　博司、安積　伸、宮沢　哲、谷口　武司］秋学期授業/Fall …… 534
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2719】３DCADデザインX 秋学期授業/Fall …… 535
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2720】３DCADデザインY 秋学期授業/Fall …… 536
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2721】デザインシンキング［吉見　奈々、金田　遼平］秋学期前半/Fall(1st half) …… 537
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2728】インクルーシブデザイン［安積　伸、三浦　秀彦］秋学期前半/Fall(1st half) …… 538
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2729】デザイン・バックキャスティング［松山　祥樹］秋学期後半/Fall(2nd half) …… 539
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2730】サービスＵＸデザイン［平田　昌大］春学期後半/Spring(2nd half) …… 541
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2733】映像制作演習［北村　拓司］秋学期前半/Fall(1st half) …… 543

システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B3010】ランドスケープデザイン［大木　一、保　清人］春学期授業/Spring 545
建築学科_専門科目_基礎科目【B3010】ランドスケープデザイン［大木　一、保　清人］春学期授業/Spring 547
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3010】ランドスケープデザイン［大木　一、保　清人］春学期授業/Spring 549
建築学科_専門科目_展開科目【B3011】建築フォーラム［下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、渡邉　竜一、山道　拓人］秋学期授業/Fall 551
都市環境デザイン工学科_外国語科目_英語【B3014】テクニカルライティングX［大友　敬三］秋学期授業/Fall 553
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3014】テクニカルライティングX［大友　敬三］秋学期授業/Fall 555
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B3014】テクニカルライティングX［大友　敬三］秋学期授業/Fall 557
都市環境デザイン工学科_外国語科目_英語【B3015】テクニカルライティングY［浅川　英理子］秋学期授業/Fall 559
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B3015】テクニカルライティングY［浅川　英理子］秋学期授業/Fall 561
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3015】テクニカルライティングY［浅川　英理子］秋学期授業/Fall 563
建築学科_基盤科目_総合系_情報分野【B3016】数理統計学［牧野　倫子］春学期授業/Spring 565
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_情報分野【B3016】数理統計学［牧野　倫子］春学期授業/Spring 566
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3017】タウンマネジメント［藤澤　浩子、土屋　愛自］秋学期前半/Fall(1st half) 567
建築学科_専門科目_展開科目【B3017】タウンマネジメント［藤澤　浩子、土屋　愛自］秋学期前半/Fall(1st half) 568
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B3017】タウンマネジメント［藤澤　浩子、土屋　愛自］秋学期前半/Fall(1st half) 569
建築学科_専門科目_基礎科目【B3402】デザインスタジオ４［下吹越　武人、福留　愛、池田　賢、青木　弘司、野藤　優、津川　恵理］秋学期授業/Fall 570
建築学科_専門科目_展開科目【B3403】デザインスタジオ５［下吹越　武人、山道　拓人、御手洗　龍、アリソン理恵］春学期授業/Spring 571
建築学科_専門科目_展開科目【B3404】デザインスタジオ６［赤松　佳珠子、渡邉　健介、藤井　由理、平井　政俊］秋学期授業/Fall 573
建築学科_専門科目_基礎科目【B3413】建築材料［網野　禎昭］春学期前半/Spring(1st half) 575
建築学科_専門科目_展開科目【B3416】施工管理［三上　孝明］春学期授業/Spring 576
建築学科_専門科目_展開科目【B3417】木造建築の構法［網野　禎昭］秋学期前半/Fall(1st half) 579
建築学科_専門科目_展開科目【B3427】空間の構造デザイン［浜田　英明］春学期授業/Spring 580
建築学科_専門科目_展開科目【B3428】鉄筋コンクリートのデザイン［浜田　英明］春学期授業/Spring 581
建築学科_専門科目_展開科目【B3446】構造計算プログラミング［浜田　英明］秋学期前半/Fall(1st half) 582
建築学科_専門科目_基礎科目【B3535】設備入門［石川　裕司］秋学期授業/Fall 583
建築学科_専門科目_展開科目【B3538】建築デザイン論１［下吹越　武人、今村　創平］春学期授業/Spring 585
建築学科_専門科目_展開科目【B3539】建築デザイン論２［赤松　佳珠子、山道　拓人］秋学期授業/Fall 586
建築学科_専門科目_基礎科目【B3541】構法スタジオ１［永野　尚吾、溝部　公寛、飯塚　豊、鍋野　友哉、鈴木理考、河野　泰治］春学期前半/Spring(1st half) 587
建築学科_専門科目_基礎科目【B3542】構法スタジオ２［永野　尚吾、溝部　公寛、飯塚　豊、鍋野　友哉、鈴木理考、河野　泰治］秋学期前半/Fall(1st half) 588
建築学科_専門科目_展開科目【B3544】ビルディングワークショップ［浜田　英明］年間授業/Yearly 589
建築学科_専門科目_展開科目【B3545】ビルディングワークショップ［宮田　雄二郎］年間授業/Yearly 590
建築学科_専門科目_展開科目【B3546】ビルディングワークショップ［中山　翔太］年間授業/Yearly 591
建築学科_専門科目_展開科目【B3548】エンジニアリングスタジオX［浜田　英明、富岡　庸平］春学期授業/Spring 592
建築学科_専門科目_展開科目【B3549】エンジニアリングスタジオY［中野　淳太、加用　現空］春学期授業/Spring 593
建築学科_専門科目_展開科目【B3550】エンジニアリングスタジオZ［宮田　雄二郎］春学期授業/Spring 594
建築学科_専門科目_展開科目【B3566】卒業制作２［藤本　貴子］秋学期授業/Fall 595
建築学科_専門科目_展開科目【B3567】卒業制作２［宮田　雄二郎］秋学期授業/Fall 597
建築学科_専門科目_展開科目【B3568】卒業制作２［山道　拓人］秋学期授業/Fall 599
建築学科_専門科目_展開科目【B3569】卒業制作２［安藤　直見］秋学期授業/Fall 601
建築学科_専門科目_展開科目【B3570】卒業制作２［下吹越　武人］秋学期授業/Fall 603
建築学科_専門科目_展開科目【B3571】卒業制作２［網野　禎昭］秋学期授業/Fall 605
建築学科_専門科目_展開科目【B3572】卒業制作２［赤松　佳珠子］秋学期授業/Fall 607
建築学科_専門科目_展開科目【B3573】卒業制作２［浜田　英明］秋学期授業/Fall 609
建築学科_専門科目_展開科目【B3575】卒業制作２［高村　雅彦］秋学期授業/Fall 611
建築学科_専門科目_展開科目【B3576】卒業制作２［岩佐　明彦］秋学期授業/Fall 613
建築学科_専門科目_展開科目【B3577】卒業制作２［小堀　哲夫］秋学期授業/Fall 615
建築学科_専門科目_展開科目【B3578】卒業制作２［加用　現空］秋学期授業/Fall 617

【B3581】デザインフォーラム［下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、渡邉　竜一、山道　拓人］秋学期授業/Fall 619
【B3581】デザインフォーラム［下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、渡邉　竜一、山道　拓人］秋学期授業/Fall 621
【B3581】デザインフォーラム［下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、渡邉　竜一、山道　拓人］秋学期授業/Fall 623
【B3589】デザイン思考基礎演習［安積　伸、三浦　秀彦、相川　真実、石橋　忠人］春学期後半/Spring(2nd half) 625
【B3591】図学設計基礎演習X［梶本　博司、石橋　忠人］秋学期授業/Fall 626
【B3592】図学設計基礎演習Y［梶本　博司、石橋　忠人］秋学期授業/Fall 627
【B3595】プロダクトデザイン演習［安積　伸、秋山　かおり、林　登志也］春学期授業/Spring 628
【B3596】インダストリアルデザイン実習［梶本　博司、宮沢　哲、谷口　武司、安積　伸］秋学期授業/Fall..... 630
【B3597】メディアデザイン演習［大西　景太、大庭　広明、舟山　貴士］秋学期授業/Fall 631
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3601】測量実習X［今井　龍一］春学期後半/Spring(2nd half)... 632
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3602】測量実習Y［大山　容一、渡辺　一博］春学期後半/Spring(2nd half)..... 633
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3611】都市調査解析［今井　龍一］春学期後半/Spring(2nd half). 634
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3617】構造力学２［小笠原　照夫］秋学期前半/Fall(1st half)..... 635
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3630】ゼミナール［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明］秋学期授業/Fall 636
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3630】ゼミナール［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明］秋学期授業/Fall 637
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3630】ゼミナール［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明］秋学期授業/Fall 638
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3630】ゼミナール［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明］秋学期授業/Fall 639
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3630】ゼミナール［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明］秋学期授業/Fall 640
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3630】ゼミナール［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明］秋学期授業/Fall 641
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3630】ゼミナール［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明、尾関　智子、原田　大輔］秋学期授業/Fall..... 642
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3630】ゼミナール［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明］秋学期授業/Fall 643
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3630】ゼミナール［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明］秋学期授業/Fall 644
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3645】上下水道システム［鈴木　善晴］秋学期前半/Fall(1st half) 645
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3649】PC構造デザイン［山野辺　慎一］秋学期授業/Fall 647
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3660】建築法規（都市）［田中　美都］春学期前半/Spring(1st half) 649
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3662】海洋環境工学［東　博紀、越川　海］秋学期後半/Fall(2nd half) 650
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3670】卒業研究１（都市）［溝渕　利明］春学期授業/Spring..... 651
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3671】卒業研究１（都市）［今井　龍一］春学期授業/Spring..... 652
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3672】卒業研究１（都市）［内田　大介］春学期授業/Spring..... 653
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3673】卒業研究１（都市）［尾関　智子］春学期授業/Spring..... 654
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3674】卒業研究１（都市）［高見　公雄］春学期授業/Spring..... 655
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3676】卒業研究１（都市）［福井　恒明、荻原　知子］春学期授業/Spring 656
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3677】卒業研究１（都市）［山本　佳士］春学期授業/Spring..... 657
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3678】卒業研究１（都市）［酒井　久和］春学期授業/Spring..... 658
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3679】卒業研究１（都市）［原田　大輔］春学期授業/Spring..... 659
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3680】卒業研究２（都市）［溝渕　利明］秋学期授業/Fall 660
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3681】卒業研究２（都市）［今井　龍一］秋学期授業/Fall 662
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3682】卒業研究２（都市）［内田　大介］秋学期授業/Fall 663
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3684】卒業研究２（都市）［高見　公雄］秋学期授業/Fall 664
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3686】卒業研究２（都市）［福井　恒明、荻原　知子］秋学期授業/Fall 665
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3687】卒業研究２（都市）［山本　佳士］秋学期授業/Fall 667
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3688】卒業研究２（都市）［酒井　久和］秋学期授業/Fall 669
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3689】卒業研究２（都市）［原田　大輔］秋学期授業/Fall 670

都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3690】卒業研究２（都市）［090175］秋学期授業/Fall 672
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B3700】基礎ゼミナール［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明、尾関　智子、原田　大輔］秋学期授業/Fall ... 673
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B3700】基礎ゼミナール［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明］秋学期授業/Fall..... 675
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B3700】基礎ゼミナール［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明］秋学期授業/Fall..... 677
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B3700】基礎ゼミナール［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明］秋学期授業/Fall..... 679
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B3700】基礎ゼミナール［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明］秋学期授業/Fall..... 681
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B3700】基礎ゼミナール［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明］秋学期授業/Fall..... 683
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B3700】基礎ゼミナール［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明］秋学期授業/Fall..... 685
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B3700】基礎ゼミナール［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明］秋学期授業/Fall..... 687
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B3700】基礎ゼミナール［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明］秋学期授業/Fall..... 689
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3704】鋼構造学及演習 X［内田　大介］秋学期授業/Fall..... 691
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3705】鋼構造学及演習 Y［平山　繁幸］秋学期授業/Fall..... 692
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3709】デザインスタジオ［高見　公雄、袴田　喜夫、金城　正紀、佐多　祐一、福井　恒明］春学期授業/Spring 693
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3711】プロジェクトスタジオ（都市）［高見　公雄、袴田　喜夫、椿　真吾、福井　恒明］秋学期授業/Fall..... 694
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3713】景観とデザイン［福井　恒明］春学期後半/Spring(2nd half) 695
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3714】ジオテクニカルデザイン［酒井　久和］春学期授業/Spring 696
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3715】環境マネジメント［弘末　文紀］秋学期後半/Fall(2nd half) 697
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B3809】メカトロニクス［伊藤　文臣］秋学期前半/Fall(1st half)..... 699
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B3812】システム工学［森　健一郎］春学期後半/Spring(2nd half)... 701
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B3816】素材と機能［堀井　辰衛］春学期後半/Spring(2nd half) 703
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B3830】品質マネジメント［池庄司　雅臣］秋学期授業/Fall 705
建築学科_専門科目_展開科目【B3830】品質マネジメント［池庄司　雅臣］秋学期授業/Fall..... 706
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3830】品質マネジメント［池庄司　雅臣］秋学期授業/Fall..... 707
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B3831】プロジェクトマネジメント（ＳＤ）［川村　武也］秋学期前半/Fall(1st half) 708
【B3832】ブランディングデザイン［金田　遼平、吉見　奈々］秋学期前半/Fall(1st half) 709
【B3837】マテリアルサイエンス概論［伊崎　健晴］秋学期前半/Fall(1st half) 710
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3837】マテリアルサイエンス［伊崎　健晴］秋学期前半/Fall(1st half) 711
【B3837】マテリアルサイエンス概論［伊崎　健晴］秋学期前半/Fall(1st half) 712
建築学科_専門科目_基礎科目【B3837】マテリアルサイエンス［伊崎　健晴］秋学期前半/Fall(1st half)..... 713
【B3837】マテリアルサイエンス概論［伊崎　健晴］秋学期前半/Fall(1st half) 714
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B3837】マテリアルサイエンス［伊崎　健晴］秋学期前半/Fall(1st half) 715
【B3840】プロモーション映像制作［北村　拓司］秋学期前半/Fall(1st half)..... 716
【B3841】素材と機能のデザイン［堀井　辰衛］春学期後半/Spring(2nd half) 718
【B3844】インクルーシブデザイン［安積　伸、三浦　秀彦］秋学期前半/Fall(1st half)..... 720
【B3847】数理統計学［牧野　倫子］春学期授業/Spring 721
【B3848】公共経営戦略［平石　和昭、由利　昌平、竹末　直樹、白戸　智、松永　久］秋学期授業/Fall 722
【B3848】公共経営戦略［平石　和昭、由利　昌平、竹末　直樹、白戸　智、松永　久］秋学期授業/Fall 724
【B3848】公共経営戦略［平石　和昭、由利　昌平、竹末　直樹、白戸　智、松永　久］秋学期授業/Fall 725
【B3853】鋼構造デザイン［鈴木　泰之、小林　佑輔］春学期授業/Spring 726
【C0210】統計処理法［吉田　一星］春学期授業/Spring 728
【C0242】国際文化協力［松本　悟］春学期授業/Spring 729
【C0243】平和学［松本　悟］秋学期授業/Fall 730
【C0410】メディア情報基礎［大嶋　良明］秋学期授業/Fall..... 731
【C0411】メディア情報基礎［大嶋　良明］秋学期授業/Fall..... 732
【C0412】メディア情報基礎［菊池　司］秋学期授業/Fall 733

【C0413】メディア情報基礎［米倉　明男］秋学期授業/Fall …… 734
【C0414】メディア情報基礎［菊池　司］秋学期授業/Fall …… 735
【C0415】メディア情報基礎［菊池　司］秋学期授業/Fall …… 736
【C0420】ネットワーク基礎［大嶋　良明］春学期授業/Spring …… 737
【C0421】ネットワーク基礎［大嶋　良明］春学期授業/Spring …… 739
【C0422】ネットワーク基礎［和泉　順子］春学期授業/Spring …… 741
【C0423】ネットワーク基礎［金　勇］春学期授業/Spring …… 743
【C0424】ネットワーク基礎［金　勇］春学期授業/Spring …… 745
【C0432】メディア表現法［大嶋　良明］秋学期授業/Fall …… 747
【C0439】メディアアートの世界［大嶋　良明］春学期授業/Spring …… 749
【C0810】道具のデザイン学［甲　洋介］春学期授業/Spring …… 751
【C0821】コンピュータ音楽と音声情報処理［大嶋　良明］春学期授業/Spring …… 752
【C0860】マルチメディア表現法［大嶋　良明］春学期授業/Spring …… 754
【C0864】五感共生論［川村　たつる］秋学期授業/Fall …… 756
【C0883】空間デザイン論［前田　尚武］秋学期授業/Fall …… 757
【C1040】国際関係研究Ⅰ［松本　悟］春学期授業/Spring …… 759
【C1041】国際関係研究Ⅱ［松本　悟］秋学期授業/Fall …… 760
【C1048】実践国際協力［松本　悟］秋学期授業/Fall …… 761
【C1049】途上国経済論［武貞　稔彦］春学期授業/Spring …… 762
【C1060】インターンシップ事前学習［岩下　弘史］春学期授業/Spring …… 764
【C2019】労働環境法［櫻井　洋介］秋学期授業/Fall …… 766
【C2104】現代企業論［長谷川　直哉］春学期授業/Spring …… 768
【C2105】ビジネスヒストリー［長谷川　直哉］秋学期授業/Fall …… 770
【C2109】中小企業論［松本　敦則］春学期授業/Spring …… 772
【C2116】CSR論Ⅰ［長谷川　直哉］春学期授業/Spring …… 773
【C2117】CSR論Ⅱ［長谷川　直哉］秋学期授業/Fall …… 775
【C2120】途上国経済論Ⅰ［武貞　稔彦］春学期授業/Spring …… 777
【C2121】途上国経済論Ⅱ［武貞　稔彦］秋学期授業/Fall …… 779
【C2122】国際経済協力論Ⅰ［武貞　稔彦］春学期授業/Spring …… 781
【C2123】国際経済協力論Ⅱ［武貞　稔彦］秋学期授業/Fall …… 783
【C2124】労働経済論Ⅰ［山田　久］春学期授業/Spring …… 785
【C2125】労働経済論Ⅱ［山田　久］秋学期授業/Fall …… 786
【C2208】ファシリテーション論［德田　太郎］秋学期授業/Fall …… 787
【C2220】労働環境論Ⅰ［櫻井　洋介］春学期授業/Spring …… 789
【C2221】労働環境論Ⅱ［櫻井　洋介］秋学期授業/Fall …… 791
【C2226】ローカルスタディーズⅡ［坂本　昭夫］秋学期授業/Fall …… 793
【C2227】災害政策論［中川　和之］春学期授業/Spring …… 794
【C2240】ファシリテーション論［德田　太郎］春学期授業/Spring …… 797
【C2243】ファシリテーション論［德田　太郎］春学期授業/Spring …… 799
【C2402】サイエンスカフェⅢ［高田　雅之］春学期授業/Spring …… 801
【C2413】自然環境政策論Ⅰ［高田　雅之］春学期授業/Spring …… 802
【C2416】環境科学Ⅰ［藤倉　良］春学期授業/Spring …… 803
【C2417】環境科学Ⅱ［藤倉　良］秋学期授業/Fall …… 804
【C2418】環境科学Ⅲ［藤倉　良］春学期授業/Spring …… 805
【C2421】衛生・公衆衛生学Ⅲ［宮川　路子］春学期授業/Spring …… 806
【C2433】自然環境論Ⅳ［佐々木　美貴］秋学期授業/Fall …… 807
【C2504】キャリア入門［櫻井　洋介］春学期授業/Spring …… 808
【C2582】人間環境特論（ヨーロッパ地域研究）［松本　敦則］秋学期授業/Fall …… 810
【C3015】研究会A［武貞　稔彦］年間授業/Yearly …… 812
【C3020】研究会A［櫻井　洋介］年間授業/Yearly …… 814
【C3024】研究会A［長谷川　直哉］年間授業/Yearly …… 816
【C3035】研究会A［高田　雅之］年間授業/Yearly …… 818
【C3043】研究会B［武貞　稔彦、竹本　研史］年間授業/Yearly …… 820
【C3047】研究会B［櫻井　洋介］年間授業/Yearly …… 822
【C3049】研究会B［長谷川　直哉］年間授業/Yearly …… 824
【C3052】研究会A［高田　雅之］年間授業/Yearly …… 826
【C3054】研究会B［永野　秀雄］春学期授業/Spring …… 828

【C3080】研究会A［松本　敦則］年間授業/Yearly …… 829
【C3082】研究会A［山田　久］年間授業/Yearly …… 831
【C3095】研究会B［高田　雅之］年間授業/Yearly …… 833
展開科目／Disciplinary &Elective Courses_日本社会とサステイナビリティ／Japan &Sustainability【C3511】Japan's International Development Cooperation and Sustainable Society［武貞　稔彦］春学期授業/Spring 835
展開科目／Disciplinary &Elective Courses_人文科学関連／Humanities【C3551】Global Human Resources Management［櫻井　洋介］秋学期授業/Fall …… 837
展開科目／Disciplinary &Elective Courses_環境総合科目／Environment &Society【C3607】Environmental Science［藤倉　良］秋学期授業/Fall …… 838
【C5020】ビジネスキャリア入門A【2025年度以降入学生用】［酒井　理］秋学期授業/Fall …… 839
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C5042】教育心理学［輕部　雄輝］春学期授業/Spring …… 841
【C5082】サービスビジネス論［村田　茂］春学期授業/Spring …… 842
【C5105】キャリアカウンセリングⅡ（ケーススタディ）【2025年度以降入学者用】［宮脇　優子］春学期授業/Spring 844
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C5148】キャリア研究調査実習D（仕事とビジネスの質的研究）［岸田　泰則］秋学期授業/Fall …… 846
演習科目【C5221】演習（ビジネス）【2年生用】［酒井　理］秋学期授業/Fall …… 847
演習科目【C5222】演習（ビジネス）【3・4年生用】［酒井　理］春学期授業/Spring …… 848
演習科目【C5223】演習（ビジネス）【3・4年生用】［酒井　理］秋学期授業/Fall …… 849
演習科目【C5239】演習（ビジネス）【2年生用】［松浦　民恵］秋学期授業/Fall …… 850
演習科目【C5240】演習（ビジネス）【3・4年生用】［松浦　民恵］春学期授業/Spring …… 852
演習科目【C5241】演習（ビジネス）【3・4年生用】［松浦　民恵］秋学期授業/Fall …… 853
演習科目【C5278】卒業論文（ビジネス）［酒井　理］年間授業/Yearly …… 854
演習科目【C5284】卒業論文（ビジネス）［松浦　民恵］年間授業/Yearly …… 856
関連科目【C5299】就業応用力養成Ⅰ［鈴木　美伸］春学期授業/Spring …… 858
関連科目【C5300】就業応用力養成Ⅱ［鈴木　美伸］秋学期授業/Fall …… 860
資格関係科目【C6737】図書館情報学概論Ⅱ［竹之内　明子］秋学期授業/Fall …… 862
資格関係科目【C6739】図書館情報学概論Ⅱ［竹之内　明子］春学期授業/Spring …… 864
資格関係科目【C6740】図書館制度・経営論［竹之内　明子］秋学期授業/Fall …… 866
資格関係科目【C6743】情報資源組織論［竹之内　明子］春学期授業/Spring …… 867
資格関係科目【C6744】情報資源組織演習［竹之内　明子］年間授業/Yearly …… 868
資格関係科目【C6746】情報資源組織演習［竹之内　明子］年間授業/Yearly …… 870
資格関係科目【C6747】情報資源組織演習［竹之内　明子］年間授業/Yearly …… 872
展開科目_選択必修（体験型）【C7115】キャリア体験事前指導（インターン）［酒井　理］春学期授業/Spring …… 874
展開科目_選択必修（体験型）【C7117】キャリア体験事前指導（インターン）［松浦　民恵］春学期授業/Spring … 876
展開科目_選択必修（体験型）【C7120】キャリア体験学習（インターン）［酒井　理］秋学期授業/Fall …… 878
展開科目_選択必修（体験型）【C7122】キャリア体験学習（インターン）［松浦　民恵］秋学期授業/Fall …… 880
展開科目_選択必修（体験型）【C7351】職業能力ベーシックスキルⅠ【2022～2024年度入学者用】［島村　泰子］春学期授業/Spring …… 882
展開科目_選択必修（体験型）【C7352】職業能力ベーシックスキルⅡ【2022～2024年度入学者用】［島村　泰子］秋学期授業/Fall …… 884
応用情報工学科_学科専門科目【H4020】プログラミング言語Ｃ＋＋［彌冨　仁］秋学期授業/Fall …… 886
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5003】機械要素［御法川　学］秋学期授業/Fall …… 888
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5017】ＣＡＤ入門［御法川　学］秋学期授業/Fall …… 889
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5018】機械プラクティス［御法川　学、加藤　友規］春学期授業/Spring 891
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5023】機械製図［五嶋　裕之］春学期授業/Spring …… 892
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5024】機械製図［吉田　一朗］春学期授業/Spring …… 894
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5042】ＣＧと形状モデリング［御法川　学］秋学期授業/Fall …… 896
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5043】ＣＧと形状モデリング［高橋　玄行］秋学期授業/Fall …… 897
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5049】設計工学［吉田　一朗］秋学期授業/Fall …… 898
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5051】機械設計製図［御法川　学］春学期授業/Spring …… 900
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5062】音響工学［御法川　学］春学期授業/Spring …… 902
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5065】宇宙工学［矢野　創］秋学期授業/Fall …… 904
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5075】製品開発工学［吉田　一朗］春学期授業/Spring …… 907
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5076】ＣＡＤ／ＣＡＭ／ＣＡＥ［吉田　一朗、加藤　友規］秋学期授業/Fall …… 910
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5079】機械設計製図［御法川　学］春学期授業/Spring …… 912
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5099】卒業研究［吉田　一朗］年間授業/Yearly …… 914

機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5111】工業数学基礎演習［加藤　友規、吉田　一朗］秋学期授業/Fall.. 915
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5119】図形科学［吉田　一朗］春学期授業/Spring 917
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5127】機械力学入門［相原　建人］秋学期授業/Fall 919
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5137】機械力学Ⅰ［相原　建人］春学期授業/Spring 920
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5142】流体力学Ⅰ［平野　利幸］春学期授業/Spring 921
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5145】機械力学Ⅱ［相原　建人］秋学期授業/Fall..... 923
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5153】自動車工学［相原　建人］秋学期授業/Fall 924
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5156】流れの力学［平野　利幸］秋学期授業/Fall 925
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5157】データサイエンス・計測工学［吉田　一朗］春学期授業/Spring. 927
電気電子工学科_学科専門科目【H5516】基礎電気電子材料工学［笠原　崇史］春学期授業/Spring..... 930
電気電子工学科_学科専門科目【H5520】ロボット知能［伊藤　一之］春学期授業/Spring 931
電気電子工学科_学科専門科目【H5530】知的制御［伊藤　一之］秋学期授業/Fall 932
電気電子工学科_学科専門科目【H5541】電磁波情報工学［柴山　純］春学期授業/Spring 933
電気電子工学科_学科専門科目【H5566】認知ロボティクス［伊藤　一之］秋学期授業/Fall..... 934
電気電子工学科_学科専門科目【H5572】マイクロ・ナノプロセス工学［笠原　崇史］秋学期授業/Fall..... 935
電気電子工学科_学科専門科目【H5575】マイクロ・ナノエレクトロニクス［笠原　崇史］春学期授業/Spring..... 936
電気電子工学科_学科専門科目【H5580】電気機器設計［近藤　稔］春学期授業/Spring..... 937
電気電子工学科_学科専門科目【H5606】分布定数回路論［柴山　純］秋学期授業/Fall..... 938
電気電子工学科_学科専門科目【H5612】自然科学の方法（電気）［柴山　純］春学期授業/Spring 939
電気電子工学科_学科専門科目【H5621】電気電子工学基礎実験［岡本　吉史、笠原　崇史、中村　壮亮、岩城　敏］
秋学期授業/Fall..... 940
電気電子工学科_学科専門科目【H5661】制御工学入門［伊藤　一之］春学期授業/Spring 941
電気電子工学科_学科専門科目【H5687】半導体工学入門［笠原　崇史］秋学期授業/Fall 942
応用情報工学科_学科専門科目【H6006】セキュリティ概論［金井　敦］春学期授業/Spring..... 943
応用情報工学科_学科専門科目【H6007】基礎電気回路（情報）［品川　満］秋学期授業/Fall..... 945
応用情報工学科_学科専門科目【H6009】組込システムの基礎［足立　正二］春学期授業/Spring 946
応用情報工学科_学科専門科目【H6034】ネットワークプログラミング［下村　道夫］秋学期授業/Fall..... 948
応用情報工学科_学科専門科目【H6047】情報ネットワーク設計論［金井　敦］春学期授業/Spring..... 950
応用情報工学科_学科専門科目【H6070】セキュアシステム設計［金井　敦］秋学期授業/Fall 952
応用情報工学科_学科専門科目【H6102】インターネットプロトコル［金井　敦］秋学期授業/Fall..... 954
応用情報工学科_学科専門科目【H6105】電磁気学基礎［品川　満］春学期授業/Spring..... 955
応用情報工学科_学科専門科目【H6110】クラウドコンピューティング［下村　道夫］秋学期授業/Fall..... 957
応用情報工学科_学科専門科目【H6159】電子回路［品川　満］春学期授業/Spring 959
応用情報工学科_学科専門科目【H6186】アプリケーション開発演習［荒谷　光］秋学期授業/Fall..... 961
応用情報工学科_学科専門科目【H6187】機械学習演習［彌冨　仁］秋学期授業/Fall 963
応用情報工学科_学科専門科目【H6198】IoTシステム工学［品川　満］秋学期授業/Fall..... 965
経営システム工学科_学科専門科目【H6809】産業組織論［髙野　直樹］春学期集中/Intensive(Spring) 967
経営システム工学科_学科専門科目【H6817】金融政策論［湯山　智教］春学期授業/Spring..... 969
経営システム工学科_学科専門科目【H6863】金融システム［湯山　智教］春学期授業/Spring 971
学部共通科目【H7023】物質構造化学［緒方　啓典］秋学期授業/Fall..... 973
学部共通科目【H7033】物質機能化学［緒方　啓典］春学期授業/Spring 974
学部共通科目【H7035】物質循環化学［明石　孝也］秋学期授業/Fall..... 975
学部共通科目【H7040】蛋白工学［常重　アントニオ］秋学期授業/Fall 976
生命機能学科_学科専門科目【H7045】生体超分子［曽和　義幸］春学期授業/Spring 977
学部共通科目【H7083】分子生物学　ＩＩ［木口　悠也］秋学期授業/Fall..... 978
学部共通科目【H7085】生物化学　Ⅰ［廣野　雅文］春学期授業/Spring..... 979
学部共通科目【H7087】蛋白質構造機能学　Ⅰ［廣野　雅文］春学期授業/Spring 980
学部共通科目【H7088】蛋白質構造機能学　ＩＩ［曽和　義幸］秋学期授業/Fall..... 981
学部共通科目【H7304】植物病学概論［濱本　宏］秋学期授業/Fall 982
生命機能学科_学科専門科目【H7533】細胞工学［廣野　雅文］秋学期授業/Fall..... 983
生命機能学科_学科専門科目【H7551】生物化学　ＩＩ［西川正俊］秋学期授業/Fall 984
生命機能学科_学科専門科目【H7552】生物物理学　Ⅰ［西川正俊］春学期授業/Spring 985
生命機能学科_学科専門科目【H7553】生物物理学　ＩＩ［曽和義幸］秋学期授業/Fall..... 986
学部共通科目【H7554】細胞生物学　Ⅰ［金子　智行］春学期授業/Spring 987
学部共通科目【H7562】細胞構造機能学　Ⅰ［川岸　郁朗］春学期授業/Spring 988
生命機能学科_学科専門科目【H7571】バイオエナジェティクス［常重　アントニオ］春学期授業/Spring 990
生命機能学科_学科専門科目【H7572】医用生体工学［林　真人］秋学期授業/Fall 991

応用植物科学科_学科専門科目【H8005】植物病防除学［池田　健太郎］秋学期授業/Fall 992
学部共通科目【H8024】植物ウイルス学［津田　新哉］秋学期授業/Fall 993
応用植物科学科_学科専門科目【H8027】媒介システム学［津田　新哉］春学期授業/Spring 995
応用植物科学科_学科専門科目【H8028】植物メディカルシステム学［濱本　宏］春学期授業/Spring 997
応用植物科学科_学科専門科目【H8031】植物臨床医科学［池田　健太郎］春学期授業/Spring 998
応用植物科学科_学科専門科目【H8106】基礎植物害虫学［大井田　寛］秋学期授業/Fall 999
応用植物科学科_学科専門科目【H8113】応用植物害虫学［大井田　寛］春学期授業/Spring 1000
環境応用化学科_学科専門科目【H8512】無機化学概論［明石　孝也］秋学期授業/Fall 1001
環境応用化学科_学科専門科目【H8525】物理化学　Ⅰ［緒方　啓典］春学期授業/Spring 1002
環境応用化学科_学科専門科目【H8527】無機化学　Ⅰ［藤井　孝太郎］春学期授業/Spring 1003
環境応用化学科_学科専門科目【H8528】無機化学　ⅠⅠ［藤井　孝太郎］秋学期授業/Fall 1004
環境応用化学科_学科専門科目【H8556】触媒化学［藤井　孝太郎］春学期授業/Spring 1005
環境応用化学科_学科専門科目【H8581】環境化学工学応用［山下　明泰］春学期授業/Spring 1006
環境応用化学科_学科専門科目【H8582】環境化学工学演習［山下　明泰］秋学期授業/Fall 1008
環境応用化学科_学科専門科目【H8584】無機素材反応化学［明石　孝也］春学期授業/Spring 1009
創生科学科_学科専門科目【H9016】電子回路・デバイス［大久保　友幸］春学期授業/Spring 1010
創生科学科_学科専門科目【H9046】創生科学基礎実験III［鈴木　郁、若林　哲］秋学期授業/Fall 1011
創生科学科_学科専門科目【H9048】創生科学基礎実験III［鈴木　郁、若林　哲］秋学期授業/Fall 1013
創生科学科_学科専門科目【H9062】数値計算［田村　祐介］春学期授業/Spring 1015
創生科学科_学科専門科目【H9063】シミュレーション技法［田村　祐介］秋学期授業/Fall 1016
創生科学科_学科専門科目【H9071】メディアインタラクション［鈴木　郁］春学期授業/Spring 1017
創生科学科_学科専門科目【H9268】科学哲学［大牟田　透］秋学期授業/Fall 1019
創生科学科_学科専門科目【H9269】科学実験リテラシー［田中　幹人］春学期授業/Spring 1021
創生科学科_学科専門科目【H9274】電気電子回路の基礎［鈴木　郁］春学期授業/Spring 1022
創生科学科_学科専門科目【H9367】確率統計・演習Ⅳ（統計モデリング入門）［田中　幹人］春学期授業/Spring 1024
創生科学科_学科専門科目【H9374】天文学Ⅱ［田中　幹人］春学期授業/Spring 1025
創生科学科_学科専門科目【H9375】天文学Ⅲ［田中　幹人］秋学期授業/Fall 1026
【J0401】情報科学入門［日高　宗一郎］春学期授業/Spring 1027
【J0403】コンピュータシステム入門1［高村　誠之］春学期授業/Spring 1029
【J0432】プログラミング入門3［高村　誠之］秋学期授業/Fall 1030
【J0512】形式言語とオートマトン［日高　宗一郎］春学期授業/Spring 1031
【J0521】情報基礎学A［尾花　賢］秋学期授業/Fall 1033
【J0524】情報理論［尾花　賢］秋学期授業/Fall 1034
【J0551】プログラミング(MATLAB)［伊藤　克亘］秋学期授業/Fall 1035
【K5353】物理学A［藤田　貢崇］春学期授業/Spring 1037
【K5354】物理学B［藤田　貢崇］秋学期授業/Fall 1038
【K5355】物理学A［藤田　貢崇］春学期授業/Spring 1039
【K5356】物理学B［藤田　貢崇］秋学期授業/Fall 1040
General Education Courses／総合教育科目_Tama Campus General Education Courses／多摩総合教育科目
【K5365】Basic Science for Global Environment A［山﨑　友紀］春学期授業/Spring 1041
General Education Courses／総合教育科目_Tama Campus General Education Courses／多摩総合教育科目
【K5366】Basic Science for Global Environment B［山﨑　友紀］秋学期授業/Fall 1042
【K6243】社会保障論A［小黒　一正］春学期授業/Spring 1043
【K6244】社会保障論B［小黒　一正］秋学期授業/Fall 1044
【K6501】特別講義（寄付講座　証券市場論）［大和証券（株）］春学期授業/Spring 1045
【L0106】職業社会論［依田　素味］秋学期授業/Fall 1046
【L0115】地球と自然Ⅰ［吉岡　美紀］春学期授業/Spring 1047
【L0116】地球と自然Ⅱ［吉岡　美紀］秋学期授業/Fall 1048
【L0125】自然科学へのとびら（地学）［吉岡　美紀］春学期授業/Spring 1049
【L0126】自然科学へのとびら（地学）［吉岡　美紀］秋学期授業/Fall 1050
【L0131】コンピュータ入門［湯本　正実］春学期授業/Spring 1051
【L0132】プログラミング入門［湯本　正実］秋学期授業/Fall 1052
【L1402】演習２［青木　貞茂］年間授業/Yearly 1053
【L1403】演習３（卒業論文）［青木　貞茂］年間授業/Yearly 1055
【L1446】演習１・２［岡野内　正］年間授業/Yearly 1057
【L1448】演習３（卒業論文）［岡野内　正］年間授業/Yearly 1058
【L1680】演習１［長沼　建一郎］年間授業/Yearly 1060

【L1681】演習２［長沼　建一郎］年間授業/Yearly 1062
【L1682】演習３（卒業論文）［長沼　建一郎］年間授業/Yearly 1063
教職関係科目【L3107】教育心理学［安齊　順子］秋学期授業/Fall 1064
教職関係科目【L3108】教育心理学［安齊　順子］秋学期授業/Fall 1065
資格関係科目【L3153】生涯学習支援論［栗山　究］年間授業/Yearly 1066
教職関係科目【L3160】特別な教育的ニーズの理解と支援［山下　洋児］春学期授業/Spring 1068
教職関係科目【L3161】特別な教育的ニーズの理解と支援［山下　洋児］秋学期授業/Fall 1069
教職関係科目【L3162】総合的な学習の時間の指導法［篠塚　昭司］春学期授業/Spring 1070
教職関係科目【L3163】総合的な学習の時間の指導法［篠塚　昭司］秋学期授業/Fall 1071
【L5013】基礎演習Ⅰ［岡野内　正］春学期授業/Spring 1072
【L5014】基礎演習Ⅱ［岡野内　正］秋学期授業/Fall 1073
【L5092】基礎演習Ⅰ［中村　尚樹］春学期授業/Spring 1074
【L5093】基礎演習Ⅱ［中村　尚樹］秋学期授業/Fall 1075
【LA019】政策と制度［長沼　建一郎］春学期授業/Spring 1076
【LA201】サステイナビリティ論Ｂ［長沼　建一郎］秋学期授業/Fall 1077
【LA210】社会保障法Ⅰ［長沼　建一郎］春学期授業/Spring 1078
【LA211】社会保障法Ⅱ［長沼　建一郎］秋学期授業/Fall 1079
【LA300】グローバル市民社会論Ａ［岡野内　正］春学期授業/Spring 1080
【LA308】国際協力論［岡野内　正］秋学期授業/Fall 1081
【LA309】イスラム社会論［岡野内　正］春学期授業/Spring 1082
【LD010-a】クリエイティブ・ライティング［梨屋　アリエ］春学期授業/Spring 1083
【LD010-b】クリエイティブ・ライティング［梨屋　アリエ］秋学期授業/Fall 1084
【LD010-c】クリエイティブ・ライティング［梨屋　アリエ］春学期授業/Spring 1085
【LD010-d】クリエイティブ・ライティング［梨屋　アリエ］秋学期授業/Fall 1086
【LD017】プログラミングと論理的思考［湯本　正実］春学期授業/Spring 1087
【LD018-b】ウェブ・プログラミングＡ［湯本　正実］春学期授業/Spring 1088
【LD022-a】メディアプログラミング実習［湯本　正実］春学期授業/Spring 1089
【LD022-b】メディアプログラミング実習［湯本　正実］秋学期授業/Fall 1090
【LD101-b】映像制作技法［小坂　一順］春学期授業/Spring 1091
【LD102-b】映像制作実習［小坂　一順］秋学期授業/Fall 1093
【LD103-a】広告・消費文化論［青木　貞茂］春学期授業/Spring 1095
【LD104】広告・ＰＲ論［青木　貞茂］秋学期授業/Fall 1096
【LD105】広告制作実習［青木　貞茂］春学期授業/Spring 1097
【LD111-b】ニュース・ライティング［飯田　裕美子］秋学期授業/Fall 1098
【LD112】メディア社会学特講（表現）［青木　貞茂］秋学期授業/Fall 1099
【LD125】広告制作実習［青木　貞茂］秋学期授業/Fall 1100
【LL007-d】プログラミング初級［湯本　正実］秋学期授業/Fall 1101
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0530】経営学［新海　貴弘］春学期授業/Spring 1102
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0600】情報リテラシーⅠ［新海　貴弘］春学期授業/Spring 1104
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0601】情報リテラシーⅠ［新海　貴弘］春学期授業/Spring 1106
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0602】情報リテラシーⅠ［新海　貴弘］春学期授業/Spring 1108
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0610】情報リテラシーⅡ［新海　貴弘］秋学期授業/Fall 1110
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0611】情報リテラシーⅡ［新海　貴弘］秋学期授業/Fall 1111
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0612】情報リテラシーⅡ［新海　貴弘］秋学期授業/Fall 1112
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0660】哲学［小館　貴幸］秋学期授業/Fall 1113
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0670】生命倫理［小館　貴幸］秋学期授業/Fall 1114
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0710】障害者福祉論［青木　尚人］秋学期授業/Fall 1115
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1040】スポーツ哲学［小田　佳子］春学期授業/Spring 1116
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M1730】スポーツリスクマネジメント［木下　訓光］秋学期授業/Fall 1117
専門教育科目_専門基幹科目【M1780】予防医学概論［瀬戸　宏明］秋学期授業/Fall 1119
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2060】運動処方・負荷テスト［木下　訓光］春学期授業/Spring 1120
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2080】生活習慣病と身体活動［木下　訓光］春学期授業/Spring 1122
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2090】運動生理学［瀬戸　宏明］春学期授業/Spring 1124
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2190】運動負荷テスト実習［木下　訓光］秋学期授業/Fall 1125
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2320】スポーツ医科学実習［瀬戸　宏明］秋学期授業/Fall 1127
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2370】スポーツ医学Ａ［日浦　幹夫］秋学期授業/Fall 1129
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2400】スポーツ医学Ｂ［瀬戸　宏明］秋学期授業/Fall 1132

専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2430】整形外科学［瀬戸　宏明］秋学期授業/Fall 1133
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3020】スポーツ経済論［得田　進介］秋学期授業/Fall 1134
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3030】スポーツと経済［得田　進介］秋学期授業/Fall 1135
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3210】スポーツ組織論［得田　進介］秋学期授業/Fall 1136
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4380】バドミントン指導論演習［升　佑二郎］秋学期授業/Fall 1137
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4440】バレーボール指導論演習［荒牧　亜衣］秋学期授業/Fall 1138
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4550】剣道指導論演習［小田　佳子］秋学期授業/Fall 1139
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4551】剣道指導論演習［小田　佳子］秋学期授業/Fall 1140
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4610】バレーボール実習［荒牧　亜衣］春学期授業/Spring 1141
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4640】バドミントン実習［升　佑二郎］春学期授業/Spring 1142
専門教育科目_専門演習【M5016】専門演習Ⅰ［木下　訓光］年間授業/Yearly 1143
専門教育科目_専門演習【M5018】専門演習Ⅰ［高見　京太］年間授業/Yearly 1145
専門教育科目_専門演習【M5028】専門演習Ⅰ［瀬戸　宏明］年間授業/Yearly 1146
専門教育科目_専門演習【M5116】専門演習Ⅱ［木下　訓光］年間授業/Yearly 1148
専門教育科目_専門演習【M5118】専門演習Ⅱ［高見　京太］年間授業/Yearly 1150
専門教育科目_専門演習【M5128】専門演習Ⅱ［瀬戸　宏明］年間授業/Yearly 1151
専門教育科目_専門演習【M5216】専門演習Ⅲ［木下　訓光］年間授業/Yearly 1152
専門教育科目_専門演習【M5228】専門演習Ⅲ［瀬戸　宏明］年間授業/Yearly 1154
【N0002】基礎演習Ⅰ（B・Oクラス）［宮城　孝］春学期授業/Spring 1155
【N0006】基礎演習Ⅰ（F・Sクラス）［水野　雅男］春学期授業/Spring 1156
【N0009】基礎演習Ⅰ（I・Vクラス）［杉浦　ちなみ］春学期授業/Spring 1157
【N0010】基礎演習Ⅰ（J・Wクラス）［野田　岳仁］春学期授業/Spring 1158
【N0012】基礎演習Ⅰ（L・Yクラス）［小林　由佳］春学期授業/Spring 1159
【N0014】基礎演習Ⅱ（B・Oクラス）［宮城　孝］秋学期授業/Fall 1160
【N0018】基礎演習Ⅱ（F・Sクラス）［水野　雅男］秋学期授業/Fall 1161
【N0021】基礎演習Ⅱ（I・Vクラス）［杉浦　ちなみ］秋学期授業/Fall 1162
【N0022】基礎演習Ⅱ（J・Wクラス）［野田　岳仁］秋学期授業/Fall 1163
【N0024】基礎演習Ⅱ（L・Yクラス）［小林　由佳］秋学期授業/Fall 1164
【N0025】フィールドスタディ入門［岩崎　晋也、水野　雅男、服部　環］秋学期授業/Fall 1165
【N0053】文化人類学［松井　生子］春学期授業/Spring 1166
【N0057】ホスピタリティ論［山田　祐子］春学期授業/Spring 1167
【N0101】法学［清水　弥生］春学期授業/Spring 1168
【N0102】日本国憲法［清水　弥生］秋学期授業/Fall 1169
【N0117】老年学［新名　正弥］春学期授業/Spring 1170
【N0151】人体の構造と機能及び疾病［瀬戸　宏明］春学期授業/Spring 1171
【N0152】リハビリテーション概論［後藤　圭介、酒井　克也、細井　雄一郎］秋学期授業/Fall 1172
【N0159】スポーツ総合Ⅰ［坪田　智夫］春学期授業/Spring 1173
【N0160】スポーツ総合Ⅰ［坪田　智夫］春学期授業/Spring 1174
【N0161】スポーツ総合Ⅰ［坪田　智夫］春学期授業/Spring 1175
【N0162】スポーツ総合Ⅱ［坪田　智夫］秋学期授業/Fall 1176
【N0163】スポーツ総合Ⅱ［坪田　智夫］秋学期授業/Fall 1177
【N0164】スポーツ総合Ⅱ［坪田　智夫］秋学期授業/Fall 1178
【N0406】基礎英語A（K・O・Tクラス）［田高　信一］春学期授業/Spring 1179
【N0407】基礎英語A（C・J・Qクラス）［田高　信一］春学期授業/Spring 1180
【N0416】基礎英語B（K・O・Tクラス）［田高　信一］秋学期授業/Fall 1181
【N0417】基礎英語B（C・J・Qクラス）［田高　信一］秋学期授業/Fall 1182
【N0462】発展英語A（英文講読入門）［相馬　美明］春学期授業/Spring 1183
【N0463】発展英語A（ビジネス英語入門）［松下　晴彦］春学期授業/Spring 1184
【N0464】発展英語A（ライティング入門）［田高　信一］春学期授業/Spring 1185
【N0472】発展英語B（英文購読）［相馬　美明］秋学期授業/Fall 1186
【N0473】発展英語B（ビジネス英語）［松下　晴彦］秋学期授業/Fall 1187
【N0474】発展英語B（ライティング）［田高　信一］秋学期授業/Fall 1188
【N0481】資格英語A　基礎［相馬　美明］春学期授業/Spring 1190
【N0482】資格英語A　基礎［松下　晴彦］春学期授業/Spring 1191
【N0486】資格英語A　中級［松下　晴彦］春学期授業/Spring 1192
【N0491】資格英語B　基礎［相馬　美明］秋学期授業/Fall 1193
【N0492】資格英語B　基礎［松下　晴彦］秋学期授業/Fall 1194

【N0496】資格英語Ｂ　中級［松下　晴彦］秋学期授業/Fall 1195
【N0501】時事英語Ａ［相馬　美明］春学期授業/Spring 1196
【N0511】時事英語Ｂ［相馬　美明］秋学期授業/Fall 1198
【N0541】中国語１Ａ［邱　奎福］春学期授業/Spring 1200
【N0542】中国語１Ｂ［邱　奎福］春学期授業/Spring 1201
【N0543】中国語１Ｃ［邱　奎福］秋学期授業/Fall 1202
【N0544】中国語１Ｄ［邱　奎福］秋学期授業/Fall 1203
【N0545】中国語２Ａ［劉　紅］春学期授業/Spring 1204
【N0546】中国語２Ｂ［劉　紅］秋学期授業/Fall 1205
【N0601】日本手話言語１Ａ［宮本　一郎］春学期授業/Spring 1206
【N0603】日本手話言語１Ｂ［宮本　一郎］秋学期授業/Fall 1208
【N0605】日本手話言語２Ａ［宮本　一郎］春学期授業/Spring 1210
【N0606】日本手話言語２Ｂ［宮本　一郎］秋学期授業/Fall 1212
【N1001】地域問題入門［野田　岳仁］春学期授業/Spring 1214
【N1002】コミュニティマネジメント入門［水野　雅男、図司　直也、土肥　将敦、野田　岳仁、杉浦　ちなみ］春学期授業/Spring 1215
【N1003】社会問題論［髙良　麻子］春学期授業/Spring 1216
【N1004】社会福祉概論［岩崎　晋也］春学期授業/Spring 1217
【N1005】ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ［安西　美咲］秋学期授業/Fall 1218
【N1051】地域福祉論［宮城　孝］秋学期授業/Fall 1220
【N1052】社会的包摂論［水野　雅男］秋学期授業/Fall 1221
【N1053】地域計画論［杉浦　ちなみ］秋学期授業/Fall 1222
【N1055】ローカルイノベーション論［野田　岳仁、水野　雅男、図司　直也、土肥　将敦］秋学期授業/Fall 1223
【N1056】ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）Ⅱ［宮城　孝］春学期授業/Spring 1224
【N1057】ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ［伊藤　正子］春学期授業/Spring 1226
【N1058】心理学的支援法［末武　康弘］春学期授業/Spring 1228
【N1101】社会福祉原理［岩崎　晋也］秋学期授業/Fall 1229
【N1102】医療政策論［小磯　明］オータムセッション/Autumn Session 1230
【N1103】社会保障論［赤澤　公省］春学期授業/Spring 1231
【N1107】都市住宅政策論［水野　雅男］春学期授業/Spring 1232
【N1108】地域文化政策論［杉浦　ちなみ］春学期授業/Spring 1233
【N1109】環境政策論［藤澤　浩子］春学期授業/Spring 1234
【N1111】政策評価論［倉根　明徳］サマーセッション/Summer Session 1236
【N1114】刑事司法と福祉［辰野　文理］春学期授業/Spring 1237
【N1151】地域経営論［遠藤　聖子］春学期授業/Spring 1239
【N1153】ソーシャルマネジメント論［樋口　邦史］春学期授業/Spring 1241
【N1154】ソーシャルファイナンス論［徳永　洋子］春学期授業/Spring 1242
【N1155】NPO論［渡真利　紘一］秋学期授業/Fall 1243
【N1156】協同組合論［西井　賢悟］秋学期授業/Fall 1245
【N1159】災害支援論［青木　信夫、正谷　絵美］春学期授業/Spring 1247
【N1160】人権活動論［寺中　誠］春学期授業/Spring 1249
【N1162】コミュニティアート［吉野　裕之］秋学期授業/Fall 1250
【N1163】コミュニティスポーツ［深野　聡］オータムセッション/Autumn Session 1251
【N1164】地域遺産マネジメント論［須田　英一］春学期授業/Spring 1253
【N1165】地域ツーリズム［野田　岳仁］秋学期授業/Fall 1254
【N1167】精神保健福祉制度論Ⅰ［三木　良子］春学期授業/Spring 1255
【N1168】精神保健福祉制度論Ⅱ［三木　良子］春学期授業/Spring 1256
【N1169】精神保健学［行實　志都子］春学期授業/Spring 1257
【N1203】障害者福祉論［眞保　智子］秋学期授業/Fall 1258
【N1204】子ども家庭福祉論［板倉　香子］秋学期授業/Fall 1259
【N1205】若者支援論［眞保　智子］春学期授業/Spring 1260
【N1207】権利擁護と成年後見［西田　ちゆき］秋学期授業/Fall 1261
【N1208】セルフヘルプグループ［横川　剛毅］春学期授業/Spring 1262
【N1209】スクールソーシャルワーク［宮地　さつき］春学期授業/Spring 1263
【N1210】ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅱ［西田　ちゆき］春学期授業/Spring 1264
【N1211】多文化ソーシャルワーク［伊藤　正子］秋学期授業/Fall 1265
【N1212】死生観とソーシャルワーク［安西　美咲］春学期授業/Spring 1266

【N1214】ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅲ ［山口　創生］秋学期授業/Fall 1267
【N1215】精神障害リハビリテーション論［行實　志都子］春学期授業/Spring 1269
【N1216】精神疾患とその治療［関谷　秀子］春学期授業/Spring 1270
【N1218】発達心理学［前田　基成］春学期授業/Spring 1271
【N1220】障害者・障害児心理学［星井　純子］秋学期授業/Fall 1272
【N1222】コミュニティ心理学［丹羽　郁夫］春学期授業/Spring 1273
【N1223】異文化心理学［奥山　今日子］春学期授業/Spring 1274
【N1224】教育・学校心理学［前田　基成］秋学期授業/Fall 1276
【N1225】教育心理学特講［金山　裕介］春学期授業/Spring 1277
【N1226】芸術療法［蜂谷　和郎］春学期授業/Spring 1278
【N1227】芸術療法［蜂谷　和郎］春学期授業/Spring 1279
【N1502】社会・集団・家族心理学［丹羽　郁夫］秋学期授業/Fall 1280
【N1504】産業・組織心理学［小林　由佳］春学期授業/Spring 1281
【N1505】臨床心理学特講［末武　康弘］秋学期授業/Fall 1282
【N1506】精神分析学［関谷　秀子］秋学期授業/Fall 1283
【N1507】児童精神医学［関谷　秀子］春学期授業/Spring 1284
【N1512】グループアプローチ［大竹　直子］秋学期授業/Fall 1285
【N1551】司法・犯罪心理学［西田　俊男］春学期授業/Spring 1286
【N1651】関係行政論［小磯　明］サマーセッション/Summer Session 1287
【N2001】ソーシャルワーク演習Ⅰ ［中條　桂子］秋学期授業/Fall 1288
【N2002】ソーシャルワーク演習Ⅰ ［根本　輝］秋学期授業/Fall 1289
【N2004】ソーシャルワーク演習Ⅰ ［西田　ちゆき］秋学期授業/Fall 1290
【N2011】ソーシャルワーク演習Ⅱ ［伊藤　正子］春学期授業/Spring 1291
【N2012】ソーシャルワーク演習Ⅱ ［佐藤　繭美］春学期授業/Spring 1292
【N2013】ソーシャルワーク演習Ⅱ ［岩崎　晋也］春学期授業/Spring 1293
【N2016】ソーシャルワーク演習Ⅱ ［宮城　孝］春学期授業/Spring 1294
【N2018】ソーシャルワーク演習Ⅱ ［安西　美咲］春学期授業/Spring 1295
【N2021】ソーシャルワーク演習Ⅲ ［中條　桂子］春学期授業/Spring 1296
【N2022】ソーシャルワーク演習Ⅲ ［島谷　綾郁］春学期授業/Spring 1297
【N2024】ソーシャルワーク演習Ⅲ ［西田　ちゆき］春学期授業/Spring 1298
【N2031】ソーシャルワーク演習Ⅳ ［中條　桂子］春学期授業/Spring 1299
【N2032】ソーシャルワーク演習Ⅳ ［島谷　綾郁］春学期授業/Spring 1300
【N2034】ソーシャルワーク演習Ⅳ ［西田　ちゆき］春学期授業/Spring 1301
【N2035】ソーシャルワーク演習Ⅴ ［髙良　麻子］秋学期授業/Fall 1302
【N2036】ソーシャルワーク演習Ⅴ ［髙良　麻子］秋学期授業/Fall 1303
【N2037】ソーシャルワーク演習Ⅴ ［髙良　麻子］秋学期授業/Fall 1304
【N2038】ソーシャルワーク演習Ⅴ ［髙良　麻子］秋学期授業/Fall 1305
【N2051】ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ［伊藤　正子］秋学期授業/Fall 1306
【N2052】ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ［佐藤　繭美］秋学期授業/Fall 1307
【N2053】ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ［岩崎　晋也］秋学期授業/Fall 1308
【N2056】ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ［宮城　孝］秋学期授業/Fall 1309
【N2058】ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ［安西　美咲］秋学期授業/Fall 1310
【N2061】ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ［伊藤　正子］春学期授業/Spring 1311
【N2062】ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ［佐藤　繭美］春学期授業/Spring 1312
【N2063】ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ［岩崎　晋也］春学期授業/Spring 1313
【N2066】ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ［宮城　孝］春学期授業/Spring 1314
【N2068】ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ［安西　美咲］春学期授業/Spring 1315
【N2071】ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ［伊藤　正子］秋学期授業/Fall 1316
【N2072】ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ［佐藤　繭美］秋学期授業/Fall 1317
【N2073】ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ［岩崎　晋也］秋学期授業/Fall 1318
【N2076】ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ［宮城　孝］秋学期授業/Fall 1319
【N2078】ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ［安西　美咲］秋学期授業/Fall 1320
【N2081】ソーシャルワーク実習Ⅰ ［伊藤　正子］春学期授業/Spring 1321
【N2082】ソーシャルワーク実習Ⅰ ［佐藤　繭美］春学期授業/Spring 1322
【N2083】ソーシャルワーク実習Ⅰ ［岩崎　晋也］春学期授業/Spring 1323
【N2086】ソーシャルワーク実習Ⅰ ［宮城　孝］春学期授業/Spring 1324
【N2088】ソーシャルワーク実習Ⅰ ［安西　美咲］春学期授業/Spring 1325

【N2091】ソーシャルワーク実習Ⅱ［伊藤　正子］年間授業/Yearly 1326
【N2092】ソーシャルワーク実習Ⅱ［佐藤　繭美］年間授業/Yearly 1327
【N2093】ソーシャルワーク実習Ⅱ［岩崎　晋也］年間授業/Yearly 1328
【N2096】ソーシャルワーク実習Ⅱ［宮城　孝］年間授業/Yearly 1329
【N2098】ソーシャルワーク実習Ⅱ［安西　美咲］年間授業/Yearly 1330
【N2101】精神保健ソーシャルワーク演習Ⅰ［眞保　智子］春学期授業/Spring 1331
【N2102】精神保健ソーシャルワーク演習Ⅱ［眞保　智子］秋学期授業/Fall 1332
【N2103】精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅰ［眞保　智子］秋学期授業/Fall 1333
【N2104】精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅱ［眞保　智子］春学期授業/Spring 1334
【N2105】精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅲ［眞保　智子］秋学期授業/Fall 1335
【N2106】精神保健ソーシャルワーク実習［眞保　智子］年間授業/Yearly 1336
【N2151】スクールソーシャルワーク演習［安西　美咲］春学期授業/Spring 1338
【N2152】スクールソーシャルワーク実習指導Ⅰ［安西　美咲］春学期授業/Spring 1339
【N2153】スクールソーシャルワーク実習指導Ⅱ［安西　美咲］秋学期授業/Fall 1340
【N2154】スクールソーシャルワーク実習［安西　美咲］年間授業/Yearly 1341
【N2202】コミュニティマネジメント・インターンシップⅠ［図司　直也、土肥　将敦、水野　雅男］春学期授業/Spring 1342
【N2203】コミュニティマネジメント・インターンシップⅡ［図司　直也、土肥　将敦、水野　雅男］秋学期授業/Fall 1343
【N2501】心理演習Ⅰ［末武　康弘、丹羽　郁夫、小野　純平、金築　優、小林　由佳、古畑　僚］春学期授業/Spring 1344
【N2502】心理演習Ⅱ［末武　康弘、丹羽　郁夫、小野　純平、金築　優、小林　由佳、古畑　僚］秋学期授業/Fall 1345
【N2503】心理実習［久保田　幹子、服部　環、関谷　秀子、望月　聡、末武　康弘、小野　純平、丹羽　郁夫、金築　優、小林　由佳、古畑　僚］年間授業/Yearly 1346
【N3001】専門演習ＩＡ［伊藤　正子］春学期授業/Spring 1347
【N3002】専門演習ＩＡ［岩崎　晋也］春学期授業/Spring 1348
【N3005】専門演習ＩＡ［髙良　麻子］春学期授業/Spring 1349
【N3007】専門演習ＩＡ［眞保　智子］春学期授業/Spring 1350
【N3008】専門演習ＩＡ［杉浦　ちなみ］春学期授業/Spring 1351
【N3011】専門演習ＩＡ［野田　岳仁］春学期授業/Spring 1352
【N3012】専門演習ＩＡ［水野　雅男］春学期授業/Spring 1353
【N3016】専門演習ＩＡ［久保田　幹子］春学期授業/Spring 1354
【N3017】専門演習ＩＡ［小林　由佳］春学期授業/Spring 1355
【N3018】専門演習ＩＡ［末武　康弘］春学期授業/Spring 1356
【N3019】専門演習ＩＡ［関谷　秀子］春学期授業/Spring 1357
【N3020】専門演習ＩＡ［丹羽　郁夫］春学期授業/Spring 1358
【N3031】専門演習ＩＢ［伊藤　正子］秋学期授業/Fall 1359
【N3032】専門演習ＩＢ［岩崎　晋也］秋学期授業/Fall 1360
【N3035】専門演習ＩＢ［髙良　麻子］秋学期授業/Fall 1361
【N3037】専門演習ＩＢ［眞保　智子］秋学期授業/Fall 1362
【N3038】専門演習ＩＢ［杉浦　ちなみ］秋学期授業/Fall 1363
【N3041】専門演習ＩＢ［野田　岳仁］秋学期授業/Fall 1364
【N3042】専門演習ＩＢ［水野　雅男］秋学期授業/Fall 1365
【N3046】専門演習ＩＢ［久保田　幹子］秋学期授業/Fall 1366
【N3047】専門演習ＩＢ［小林　由佳］秋学期授業/Fall 1367
【N3048】専門演習ＩＢ［末武　康弘］秋学期授業/Fall 1368
【N3049】専門演習ＩＢ［関谷　秀子］秋学期授業/Fall 1369
【N3050】専門演習ＩＢ［丹羽　郁夫］秋学期授業/Fall 1370
【N3061】専門演習ⅡＡ［伊藤　正子］春学期授業/Spring 1371
【N3062】専門演習ⅡＡ［岩崎　晋也］春学期授業/Spring 1372
【N3063】専門演習ⅡＡ［宮地　さつき］春学期授業/Spring 1373
【N3066】専門演習ⅡＡ［髙良　麻子］春学期授業/Spring 1374
【N3068】専門演習ⅡＡ［佐野　竜平］春学期授業/Spring 1375
【N3069】専門演習ⅡＡ［杉浦　ちなみ］春学期授業/Spring 1376
【N3072】専門演習ⅡＡ［野田　岳仁］春学期授業/Spring 1377
【N3073】専門演習ⅡＡ［水野　雅男］春学期授業/Spring 1378
【N3074】専門演習ⅡＡ［宮城　孝］春学期授業/Spring 1379
【N3077】専門演習ⅡＡ［久保田　幹子］春学期授業/Spring 1380
【N3078】専門演習ⅡＡ［小林　由佳］春学期授業/Spring 1381

【N3079】専門演習ⅡA［末武　康弘］春学期授業/Spring 1382
【N3080】専門演習ⅡA［関谷　秀子］春学期授業/Spring 1383
【N3081】専門演習ⅡA［丹羽　郁夫］春学期授業/Spring 1384
【N3091】専門演習ⅡB［伊藤　正子］秋学期授業/Fall 1385
【N3092】専門演習ⅡB［岩崎　晋也］秋学期授業/Fall 1386
【N3093】専門演習ⅡB［宮地　さつき］秋学期授業/Fall 1387
【N3096】専門演習ⅡB［髙良　麻子］秋学期授業/Fall 1388
【N3098】専門演習ⅡB［佐野　竜平］秋学期授業/Fall 1389
【N3099】専門演習ⅡB［杉浦　ちなみ］秋学期授業/Fall 1390
【N3102】専門演習ⅡB［野田　岳仁］秋学期授業/Fall 1391
【N3103】専門演習ⅡB［水野　雅男］秋学期授業/Fall 1392
【N3104】専門演習ⅡB［宮城　孝］秋学期授業/Fall 1393
【N3107】専門演習ⅡB［久保田　幹子］秋学期授業/Fall 1394
【N3108】専門演習ⅡB［小林　由佳］秋学期授業/Fall 1395
【N3109】専門演習ⅡB［末武　康弘］秋学期授業/Fall 1396
【N3110】専門演習ⅡB［関谷　秀子］秋学期授業/Fall 1397
【N3111】専門演習ⅡB［丹羽　郁夫］秋学期授業/Fall 1398
【N3121】専門演習ⅢA［伊藤　正子］春学期授業/Spring 1399
【N3122】専門演習ⅢA［岩崎　晋也］春学期授業/Spring 1400
【N3123】専門演習ⅢA［宮地　さつき］春学期授業/Spring 1401
【N3126】専門演習ⅢA［髙良　麻子］春学期授業/Spring 1402
【N3128】専門演習ⅢA［佐野　竜平］春学期授業/Spring 1403
【N3129】専門演習ⅢA［眞保　智子］春学期授業/Spring 1404
【N3132】専門演習ⅢA［野田　岳仁］春学期授業/Spring 1405
【N3133】専門演習ⅢA［水野　雅男］春学期授業/Spring 1406
【N3134】専門演習ⅢA［宮城　孝］春学期授業/Spring 1407
【N3137】専門演習ⅢA［久保田　幹子］春学期授業/Spring 1408
【N3138】専門演習ⅢA［小林　由佳］春学期授業/Spring 1409
【N3139】専門演習ⅢA［末武　康弘］春学期授業/Spring 1410
【N3140】専門演習ⅢA［関谷　秀子］春学期授業/Spring 1411
【N3141】専門演習ⅢA［丹羽　郁夫］春学期授業/Spring 1412
【N3144】専門演習ⅢB［伊藤　正子］秋学期授業/Fall 1413
【N3145】専門演習ⅢB［岩崎　晋也］秋学期授業/Fall 1414
【N3146】専門演習ⅢB［宮地　さつき］秋学期授業/Fall 1415
【N3149】専門演習ⅢB［髙良　麻子］秋学期授業/Fall 1416
【N3151】専門演習ⅢB［佐野　竜平］秋学期授業/Fall 1417
【N3152】専門演習ⅢB［眞保　智子］秋学期授業/Fall 1418
【N3155】専門演習ⅢB［野田　岳仁］秋学期授業/Fall 1419
【N3156】専門演習ⅢB［水野　雅男］秋学期授業/Fall 1420
【N3157】専門演習ⅢB［宮城　孝］秋学期授業/Fall 1421
【N3160】専門演習ⅢB［久保田　幹子］秋学期授業/Fall 1422
【N3161】専門演習ⅢB［小林　由佳］秋学期授業/Fall 1423
【N3162】専門演習ⅢB［末武　康弘］秋学期授業/Fall 1424
【N3163】専門演習ⅢB［関谷　秀子］秋学期授業/Fall 1425
【N3164】専門演習ⅢB［丹羽　郁夫］秋学期授業/Fall 1426
【N3201】卒業論文［伊藤　正子］年間授業/Yearly 1427
【N3202】卒業論文［岩崎　晋也］年間授業/Yearly 1428
【N3203】卒業論文［宮地　さつき］年間授業/Yearly 1429
【N3206】卒業論文［髙良　麻子］年間授業/Yearly 1430
【N3208】卒業論文［佐野　竜平］年間授業/Yearly 1431
【N3209】卒業論文［眞保　智子］年間授業/Yearly 1432
【N3212】卒業論文［野田　岳仁］年間授業/Yearly 1433
【N3213】卒業論文［水野　雅男］年間授業/Yearly 1434
【N3214】卒業論文［宮城　孝］年間授業/Yearly 1435
【N3217】卒業論文［久保田　幹子］年間授業/Yearly 1436
【N3218】卒業論文［小林　由佳］年間授業/Yearly 1437
【N3219】卒業論文［末武　康弘］年間授業/Yearly 1438

【N3220】卒業論文［関谷　秀子］年間授業/Yearly …… 1439
【N3221】卒業論文［丹羽　郁夫］年間授業/Yearly …… 1440
【N5117】老年学(SSI)［新名　正弥］春学期授業/Spring …… 1441
【N5406】英語１（K・O・Tクラス）［田高　信一］春学期授業/Spring …… 1442
【N5407】英語１（C・J・Qクラス）［田高　信一］春学期授業/Spring …… 1443
【N5416】英語３（K・O・Tクラス）［田高　信一］秋学期授業/Fall …… 1444
【N5417】英語３（C・J・Qクラス）［田高　信一］秋学期授業/Fall …… 1445
【N5462】英語７（英文講読入門）［相馬　美明］春学期授業/Spring …… 1446
【N5463】英語７（ビジネス英語入門）［松下　晴彦］春学期授業/Spring …… 1447
【N5464】英語７（ライティング入門）［田高　信一］春学期授業/Spring …… 1448
【N5472】英語８（英文講読）［相馬　美明］秋学期授業/Fall …… 1449
【N5473】英語８（ビジネス英語）［松下　晴彦］秋学期授業/Fall …… 1450
【N5474】英語８（ライティング）［田高　信一］秋学期授業/Fall …… 1451
【N5501】英語５［相馬　美明］春学期授業/Spring …… 1453
【N5511】英語１０［相馬　美明］秋学期授業/Fall …… 1455
【N5601】日本手話１Ａ［宮本　一郎］春学期授業/Spring …… 1457
【N5602】日本手話１Ａ［宮本　一郎］春学期授業/Spring …… 1459
【N5603】日本手話１Ｂ［宮本　一郎］秋学期授業/Fall …… 1460
【N5604】日本手話１Ｂ［宮本　一郎］秋学期授業/Fall …… 1462
【N5605】日本手話２Ａ［宮本　一郎］春学期授業/Spring …… 1463
【N5606】日本手話２Ｂ［宮本　一郎］秋学期授業/Fall …… 1465
【N6002】まちづくりの思想［水野　雅男、図司　直也、土肥　将敦、野田　岳仁、杉浦　ちなみ］春学期授業/Spring 1467
【N6005】ソーシャルワークⅠ［安西　美咲］秋学期授業/Fall …… 1468
【N6055】地域の歴史と文化［野田　岳仁、水野　雅男、図司　直也、土肥　将敦］秋学期授業/Fall …… 1470
【N6056】コミュニティソーシャルワーク［宮城　孝］春学期授業/Spring …… 1471
【N6057】ソーシャルワークⅢ［伊藤　正子］春学期授業/Spring …… 1473
【N6114】司法福祉論［辰野　文理］春学期授業/Spring …… 1475
【N6151】地域経営論（SSI）［遠藤　聖子］春学期授業/Spring …… 1477
【N6155】NPO論（SSI）［渡真利　紘一］秋学期授業/Fall …… 1479
【N6162】コミュニティアート（SSI）［吉野　裕之］秋学期授業/Fall …… 1481
【N6165】地域ツーリズム（SSI）［野田　岳仁］秋学期授業/Fall …… 1482
【N6167】精神保健福祉論Ⅰ［三木　良子］春学期授業/Spring …… 1483
【N6168】精神保健福祉論Ⅱ［三木　良子］春学期授業/Spring …… 1484
【N6204】児童福祉論［板倉　香子］秋学期授業/Fall …… 1485
【N6210】ソーシャルワークⅡ［西田　ちゆき］春学期授業/Spring …… 1486
【N6215】精神科リハビリテーション学［行實　志都子］春学期授業/Spring …… 1487
【N7011】ソーシャルワーク演習Ⅱ［伊藤　正子］春学期授業/Spring …… 1488
【N7012】ソーシャルワーク演習Ⅱ［佐藤　繭美］春学期授業/Spring …… 1489
【N7013】ソーシャルワーク演習Ⅱ［岩崎　晋也］春学期授業/Spring …… 1490
【N7016】ソーシャルワーク演習Ⅱ［宮城　孝］春学期授業/Spring …… 1491
【N7018】ソーシャルワーク演習Ⅱ［安西　美咲］春学期授業/Spring …… 1492
【N7021】ソーシャルワーク演習Ⅲ［中條　桂子］春学期授業/Spring …… 1493
【N7022】ソーシャルワーク演習Ⅲ［島谷　綾郁］春学期授業/Spring …… 1494
【N7024】ソーシャルワーク演習Ⅲ［西田　ちゆき］春学期授業/Spring …… 1495
【N7031】ソーシャルワーク演習Ⅳ［中條　桂子］春学期授業/Spring …… 1496
【N7032】ソーシャルワーク演習Ⅳ［島谷　綾郁］春学期授業/Spring …… 1497
【N7034】ソーシャルワーク演習Ⅳ［西田　ちゆき］春学期授業/Spring …… 1498
【N7035】ソーシャルワーク演習Ⅴ［髙良　麻子］秋学期授業/Fall …… 1499
【N7036】ソーシャルワーク演習Ⅴ［髙良　麻子］秋学期授業/Fall …… 1500
【N7037】ソーシャルワーク演習Ⅴ［髙良　麻子］秋学期授業/Fall …… 1501
【N7038】ソーシャルワーク演習Ⅴ［髙良　麻子］秋学期授業/Fall …… 1502
【N7091】ソーシャルワーク実習［伊藤　正子］年間授業/Yearly …… 1503
【N7092】ソーシャルワーク実習［佐藤　繭美］年間授業/Yearly …… 1504
【N7093】ソーシャルワーク実習［岩崎　晋也］年間授業/Yearly …… 1505
【N7096】ソーシャルワーク実習［宮城　孝］年間授業/Yearly …… 1506
【N7098】ソーシャルワーク実習［安西　美咲］年間授業/Yearly …… 1507

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0301】情報処理演習［大間　哲］春学期授業/Spring 1508
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0303】情報処理演習［大間　哲］春学期授業/Spring 1511
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0305】情報処理演習［大間　哲］春学期授業/Spring 1514
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2071】心理学Ⅰ［望月　由紀子］春学期授業/Spring 1517
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2072】心理学Ⅱ［望月　由紀子］秋学期授業/Fall 1518
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2075】心理学Ⅰ［望月　由紀子］春学期授業/Spring 1519
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2076】心理学Ⅱ［望月　由紀子］秋学期授業/Fall 1520
福祉社会専攻_専門共通科目【S0001】福祉社会研究法Ⅰ［野田　岳仁、土肥　将敦、岡田　栄作、金　慧英］春学期授業/Spring 1521
福祉社会専攻_専門共通科目【S0003】地域共生社会特論［水野　雅男、図司　直也、宮城　孝、金　慧英、杉浦　ちなみ、眞保　智子、渡辺　寛人］秋学期授業/Fall 1522
福祉社会専攻_専門共通科目【S0004】社会福祉学特論［岩崎　晋也］秋学期授業/Fall 1523
福祉社会専攻_専門展開科目（ソーシャルワーク系）【S0005】ソーシャルワーク特論Ⅰ［佐藤　繭美］春学期授業/Spring 1524
福祉社会専攻_専門展開科目（ソーシャルワーク系）【S0007】ソーシャルワーク理論研究特論［伊藤　正子］秋学期授業/Fall 1525
福祉社会専攻_専門展開科目（ソーシャルワーク系）【S0009】ソーシャルワーク・スーパービジョン［佐藤　繭美、伊藤　正子、髙良　麻子］秋学期授業/Fall 1526
福祉社会専攻_専門展開科目（ソーシャルワーク系）【S0010】地域福祉特論［宮城　孝］春学期授業/Spring 1527
福祉社会専攻_専門展開科目（ソーシャルワーク系）【S0013】障害者福祉特論［眞保　智子］秋学期授業/Fall 1528
福祉社会専攻_専門展開科目（ソーシャルワーク系）【S0015】生活問題特論［結城　俊哉］オータムセッション/Autumn Session 1529
福祉社会専攻_専門展開科目（ソーシャルワーク系）【S0016】社会リハビリテーション特論［行實　志都子］秋学期授業/Fall 1530
福祉社会専攻_専門展開科目（システム・マネジメント系）【S0018】保健医療福祉システム特論［小島　香］春学期授業/Spring 1531
福祉社会専攻_専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）【S0022】住宅政策特論［水野　雅男］秋学期前半/Fall(1st half) 1532
福祉社会専攻_専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）【S0024】地域文化と教育特論［杉浦　ちなみ］秋学期後半/Fall(2nd half) 1533
福祉社会専攻_専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）【S0025】環境社会学特論［野田　岳仁］秋学期後半/Fall(2nd half) 1534
福祉社会専攻_専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）【S0034】都市・住宅政策特論［水野　雅男］秋学期前半/Fall(1st half) 1535
福祉社会専攻_専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）【S0036】地域マネジメント特論［杉浦　ちなみ］秋学期後半/Fall(2nd half) 1536
福祉社会専攻_専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）【S0037】地域環境特論［野田　岳仁］秋学期後半/Fall(2nd half) 1537
福祉社会専攻_演習科目【S0101】論文研究演習Ⅰ［伊藤　正子］年間授業/Yearly 1538
福祉社会専攻_演習科目【S0102】論文研究演習Ⅰ［岩崎　晋也］年間授業/Yearly 1539
福祉社会専攻_演習科目【S0104】論文研究演習Ⅰ［髙良　麻子］年間授業/Yearly 1540
福祉社会専攻_演習科目【S0105】論文研究演習Ⅰ［佐藤　繭美］年間授業/Yearly 1541
福祉社会専攻_演習科目【S0106】論文研究演習Ⅰ［眞保　智子］年間授業/Yearly 1542
福祉社会専攻_演習科目【S0107】論文研究演習Ⅰ［宮城　孝］年間授業/Yearly 1543
福祉社会専攻_演習科目【S0121】論文研究演習Ⅱ［伊藤　正子］年間授業/Yearly 1545
福祉社会専攻_演習科目【S0122】論文研究演習Ⅱ［佐藤　繭美］年間授業/Yearly 1546
福祉社会専攻_演習科目【S0123】論文研究演習Ⅱ［野田　岳仁］年間授業/Yearly 1547
福祉社会専攻_演習科目【S0124】論文研究演習Ⅱ［宮城　孝］年間授業/Yearly 1548
福祉社会専攻_演習科目【S0201】実践研究演習Ⅰ［伊藤　正子］年間授業/Yearly 1550
福祉社会専攻_演習科目【S0202】実践研究演習Ⅰ［岩崎　晋也］年間授業/Yearly 1551

福祉社会専攻_演習科目【S0204】実践研究演習Ⅰ［髙良　麻子］年間授業/Yearly 1552
福祉社会専攻_演習科目【S0205】実践研究演習Ⅰ［佐藤　繭美］年間授業/Yearly 1553
福祉社会専攻_演習科目【S0206】実践研究演習Ⅰ［眞保　智子］年間授業/Yearly 1554
福祉社会専攻_演習科目【S0207】実践研究演習Ⅰ［宮城　孝］年間授業/Yearly 1555
福祉社会専攻_演習科目【S0221】実践研究演習Ⅱ［伊藤　正子］年間授業/Yearly 1557
福祉社会専攻_演習科目【S0222】実践研究演習Ⅱ［佐藤　繭美］年間授業/Yearly 1558
福祉社会専攻_演習科目【S0223】実践研究演習Ⅱ［野田　岳仁］年間授業/Yearly 1559
福祉社会専攻_演習科目【S0224】実践研究演習Ⅱ［宮城　孝］年間授業/Yearly 1560
臨床心理学専攻_専門基幹科目【S1001】臨床心理基礎実習［久保田　幹子、末武　康弘］年間授業/Yearly 1562
臨床心理学専攻_専門基幹科目【S1003】臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）［末武　康弘］春学期授業/Spring 1564
臨床心理学専攻_専門基幹科目【S1004】臨床心理面接特論Ⅱ［末武　康弘］秋学期授業/Fall 1565
臨床心理学専攻_専門基幹科目【S1007】臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）［金築　優、丹羽　郁夫］年間授業/Yearly 1566
臨床心理学専攻_専門基幹科目【S1008】臨床心理実習Ⅱ［金築　優、丹羽　郁夫］年間授業/Yearly 1567
臨床心理学専攻_専門展開科目（研究法科目）【S1011】臨床心理学研究法特論［小林　由佳］秋学期授業/Fall 1568
臨床心理学専攻_専門展開科目（家族・社会心理科目）【S1017】犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）［西田　俊男］秋学期授業/Fall 1569
臨床心理学専攻_専門展開科目（関連専門領域科目）【S1018】精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）［関谷　秀子］春学期授業/Spring 1571
臨床心理学専攻_専門展開科目（関連専門領域科目）【S1020】産業・労働分野に関する理論と支援の展開［小林　由佳］春学期授業/Spring 1572
臨床心理学専攻_専門展開科目（専門技能科目）【S1023】教育分野に関する理論と支援の展開［谷　由紀子］春学期集中 1573
臨床心理学専攻_専門展開科目（専門技能科目）【S1025】家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践［飯田　敏晴］春学期授業/Spring 1575
臨床心理学専攻_専門展開科目（専門技能科目）【S1028】力動的心理療法特論［関谷　秀子］秋学期授業/Fall 1576
臨床心理学専攻_専門展開科目（専門技能科目）【S1029】心理療法特論［小林　由佳］秋学期授業/Fall 1577
臨床心理学専攻_専門展開科目（専門技能科目）【S1030】心理臨床演習［丹羽　郁夫］春学期授業/Spring 1578
臨床心理学専攻_研究指導科目【S1103】論文研究指導［久保田　幹子］年間授業/Yearly 1579
臨床心理学専攻_研究指導科目【S1104】論文研究指導［小林　由佳］年間授業/Yearly 1580
臨床心理学専攻_研究指導科目【S1105】論文研究指導［末武　康弘］年間授業/Yearly 1581
臨床心理学専攻_研究指導科目【S1106】論文研究指導［関谷　秀子］年間授業/Yearly 1582
臨床心理学専攻_研究指導科目【S1107】論文研究指導［丹羽　郁夫］年間授業/Yearly 1583
【S1201】福祉社会系特殊講義Ⅰ［岩崎　晋也］春学期授業/Spring 1584
【S1203】福祉社会系特殊講義Ⅰ［眞保　智子］春学期授業/Spring 1585
【S1204】福祉社会系特殊講義Ⅱ［岩崎　晋也］秋学期授業/Fall 1586
【S1206】福祉社会系特殊講義Ⅱ［眞保　智子］秋学期授業/Fall 1587
【S1207】福祉臨床系特殊講義Ⅰ［伊藤　正子］春学期授業/Spring 1588
【S1208】福祉臨床系特殊講義Ⅰ［髙良　麻子］春学期授業/Spring 1589
【S1209】福祉臨床系特殊講義Ⅰ［佐藤　繭美］春学期授業/Spring 1590
【S1210】福祉臨床系特殊講義Ⅰ［宮城　孝］春学期授業/Spring 1591
【S1211】福祉臨床系特殊講義Ⅱ［伊藤　正子］秋学期授業/Fall 1592
【S1212】福祉臨床系特殊講義Ⅱ［髙良　麻子］秋学期授業/Fall 1593
【S1213】福祉臨床系特殊講義Ⅱ［佐藤　繭美］秋学期授業/Fall 1594
【S1214】福祉臨床系特殊講義Ⅱ［宮城　孝］秋学期授業/Fall 1595
【S1219】地域・文化系特殊講義Ⅰ［野田　岳仁］春学期授業/Spring 1596
【S1220】地域・文化系特殊講義Ⅰ［水野　雅男］春学期授業/Spring 1597
【S1221】地域・文化系特殊講義Ⅱ［野田　岳仁］秋学期授業/Fall 1598
【S1222】地域・文化系特殊講義Ⅱ［水野　雅男］秋学期授業/Fall 1599
【S1224】臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅰ［小林　由佳］春学期授業/Spring 1600
【S1225】臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅰ［末武　康弘］春学期授業/Spring 1601
【S1226】臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅰ［丹羽　郁夫］春学期授業/Spring 1602
【S1229】臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅱ［小林　由佳］秋学期授業/Fall 1603
【S1230】臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅱ［末武　康弘］秋学期授業/Fall 1604
【S1231】臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅱ［丹羽　郁夫］秋学期授業/Fall 1605
【S1234】臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅰ［久保田　幹子］春学期授業/Spring 1606
【S1235】臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅰ［関谷　秀子］春学期授業/Spring 1607

【S1238】臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅱ［久保田　幹子］秋学期授業/Fall 1608
【S1239】臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅱ［関谷　秀子］秋学期授業/Fall 1609
【S1251】人間福祉特別演習Ⅰ［伊藤　正子］年間授業/Yearly 1610
【S1252】人間福祉特別演習Ⅰ［岩崎　晋也］年間授業/Yearly 1611
【S1255】人間福祉特別演習Ⅰ［久保田　幹子］年間授業/Yearly 1612
【S1256】人間福祉特別演習Ⅰ［髙良　麻子］年間授業/Yearly 1614
【S1257】人間福祉特別演習Ⅰ［佐藤　繭美］年間授業/Yearly 1615
【S1258】人間福祉特別演習Ⅰ［眞保　智子］年間授業/Yearly 1616
【S1259】人間福祉特別演習Ⅰ［末武　康弘］年間授業/Yearly 1617
【S1261】人間福祉特別演習Ⅰ［関谷　秀子］年間授業/Yearly 1618
【S1263】人間福祉特別演習Ⅰ［丹羽　郁夫］年間授業/Yearly 1619
【S1265】人間福祉特別演習Ⅰ［水野　雅男］年間授業/Yearly 1620
【S1266】人間福祉特別演習Ⅰ［宮城　孝］年間授業/Yearly 1621
【S1271】人間福祉特別演習Ⅱ［末武　康弘］年間授業/Yearly 1622
【S1281】人間福祉特別演習Ⅲ［末武　康弘］年間授業/Yearly 1623
修士課程授業科目/Master's Course_基礎科目/Basic courses【S5030】スポーツ健康学特論Ⅱ(自然科学)［瀬戸　宏明］春学期授業/Spring 1624
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目（スポーツマネジメント科目群）/Advanced courses(sport management program)【S7100】スポーツ組織構造特論［得田　進介］秋学期授業/Fall 1625
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses【S9220】スポーツ健康学演習Ⅲ［瀬戸　宏明］春学期授業/Spring 1626
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses【S9320】スポーツ健康学演習Ⅳ［瀬戸　宏明］秋学期授業/Fall 1627
修士課程_建築学専攻_共通基盤科目【U0101】近現代デザイン概論［今村　創平］秋学期授業/Fall 1628
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_共通基盤科目【U0101】近現代デザイン概論［今村　創平］秋学期授業/Fall 1629
修士課程_システムデザイン専攻_共通基盤科目【U0101】近現代デザイン概論［今村　創平］秋学期授業/Fall 1630
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_共通基盤科目【U0102】環境工学概論［加用　現空］秋学期前半/Fall(1st half) 1631
修士課程_建築学専攻_共通基盤科目【U0102】環境工学概論［加用　現空］秋学期前半/Fall(1st half) 1632
修士課程_システムデザイン専攻_共通基盤科目【U0102】環境工学概論［加用　現空］秋学期前半/Fall(1st half) .. 1633
修士課程_建築学専攻_共通基盤科目【U0103】景観デザイン概論［福井　恒明］春学期前半/Spring(1st half) 1634
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_共通基盤科目【U0103】景観デザイン概論［福井　恒明］春学期前半/Spring(1st half)..... 1635
修士課程_システムデザイン専攻_共通基盤科目【U0103】景観デザイン概論［福井　恒明］春学期前半/Spring(1st half)..... 1636
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_共通基盤科目【U0104】地域・都市再生概論［高見　公雄］春学期後半/Spring(2nd half)..... 1637
修士課程_建築学専攻_共通基盤科目【U0104】地域・都市再生概論［高見　公雄］春学期後半/Spring(2nd half)... 1638
修士課程_システムデザイン専攻_共通基盤科目【U0104】地域・都市再生概論［高見　公雄］春学期後半/Spring(2nd half)..... 1639
修士課程_システムデザイン専攻_共通基盤科目【U0105】環境技術英語［大友　敬三］春学期授業/Spring 1640
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_共通基盤科目【U0105】環境技術英語［大友　敬三］春学期授業/Spring 1643
修士課程_建築学専攻_共通基盤科目【U0105】環境技術英語［大友　敬三］春学期授業/Spring 1646
修士課程_システムデザイン専攻_共通基盤科目【U0107】知的財産権論［宮武　久佳］秋学期後半/Fall(2nd half) . 1649
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_共通基盤科目【U0107】知的財産権論［宮武　久佳］秋学期後半/Fall(2nd half) 1650
修士課程_建築学専攻_共通基盤科目【U0107】知的財産権論［宮武　久佳］秋学期後半/Fall(2nd half) 1651
修士課程_システムデザイン専攻_共通基盤科目【U0108】現代産業論［渡邊　徹］春学期授業/Spring 1652
修士課程_建築学専攻_共通基盤科目【U0108】現代産業論［渡邊　徹］春学期授業/Spring 1653
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_共通基盤科目【U0108】現代産業論［渡邊　徹］春学期授業/Spring 1654
修士課程_建築学専攻_スタジオ科目【U1317】建築プロフェッショナル総合演習１［赤松　佳珠子、志賀　良和、坂田　泉、藤澤　百合、武石　正宣］春学期授業/Spring 1655
修士課程_建築学専攻_スタジオ科目【U1318】建築プロフェッショナル総合演習２［赤松　佳珠子、石渡　智秋、鈴木　研一、畠中　克弘、内海　慎一］秋学期授業/Fall 1656
修士課程_建築学専攻_スタジオ科目【U1332】建築構造デザイン［浜田　英明］春学期授業/Spring 1657
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_基盤科目【U2001】都市環境デザイン工学基礎２［高見　公雄、酒井　久和、内田　大介］春学期後半/Spring(2nd half)..... 1658
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_基盤科目【U2004】材料科学概論［羽原　俊祐］春学期後半/Spring(2nd half) 1659

修士課程_都市環境デザイン工学専攻_基盤科目【U2005】災害リスクマネジメント［竹末　直樹、細川　雅則、真下　義章、泉　千年、加古　聡一郎、溝口　宏樹］春学期授業/Spring 1660
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_専門科目【U2102】比較都市環境デザイン［高見　公雄、伊藤　香織、橋本　圭央］秋学期後半/Fall(2nd half) 1661
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_専門科目【U2109】社会基盤施設の資産管理［丸山　明］春学期授業/Spring 1662
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_専門科目【U2110】鋼橋の点検・診断・対策技術［杉本　一朗］春学期後半/Spring(2nd half) 1664
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_専門科目【U2111】複合材料構造解析［山本　佳士］春学期後半/Spring(2nd half) 1665
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_スタジオ科目【U2300】サステイナブル都市デザイン［高見　公雄］春学期後半/Spring(2nd half) 1666
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_スタジオ科目【U2302】構造解析と設計［奥井　義昭］春学期前半/Spring(1st half) 1667
修士課程_システムデザイン専攻_基盤科目【U3000】テクニカルライティング［豊島　純子］春学期授業/Spring .. 1668
修士課程_システムデザイン専攻_基盤科目【U3002】ヒューマンサイエンス論［谷　直道、榎原　毅］秋学期後半/Fall(2nd half) 1670
修士課程_システムデザイン専攻_専門科目【U3100】ソシオシステムデザイン論［廣田　尚子］春学期前半/Spring(1st half) 1672
修士課程_システムデザイン専攻_専門科目【U3102】インタフェースデザイン論［土屋　雅人］秋学期授業/Fall ... 1674
修士課程_システムデザイン専攻_専門科目【U3114】品質マネジメント論［池庄司　雅臣］春学期授業/Spring 1675
修士課程_システムデザイン専攻_専門科目【U3115】プロダクトデザイン論［安積　伸］秋学期後半/Fall(2nd half) 1676
修士課程_システムデザイン専攻_スタジオ科目【U3300】システムデザインワークショップ（ＰＢＬ）［安積　伸、田中　豊］春学期授業/Spring 1677
博士課程_システムデザイン専攻_専門科目【U3500】デザイン創生学特論［土屋　雅人、安積　伸、大西　景太］春学期授業/Spring 1678
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5403】建築学修士研修１［小堀　哲夫］春学期授業/Spring..... 1679
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5411】建築学修士研修１［浜田　英明］春学期授業/Spring..... 1680
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5417】建築学修士研修2［山道　拓人］春学期授業/Spring..... 1681
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5418】建築学修士研修2［小堀　哲夫］春学期授業/Spring..... 1682
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5426】建築学修士研修2［浜田　英明］春学期授業/Spring..... 1683
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5441】建築学修士プロジェクト１［浜田　英明］秋学期授業/Fall 1684
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5448】建築学修士プロジェクト２［川久保　俊］秋学期授業/Fall 1685
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5456】建築学修士プロジェクト２［浜田　英明］秋学期授業/Fall 1686
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5903】修士論文（建築）［山道　拓人］秋学期授業/Fall 1687
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5911】修士論文（建築）［浜田　英明］秋学期授業/Fall 1688
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6404】都市環境デザイン工学研究１［高見　公雄］春学期授業/Spring 1689
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6407】都市環境デザイン工学研究１［福井　恒明］春学期授業/Spring 1690
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6408】都市環境デザイン工学研究１［酒井　久和］春学期授業/Spring 1691
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6410】都市環境デザイン工学研究２［山本　佳士］秋学期授業/Fall..... 1692
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6414】都市環境デザイン工学研究２［高見　公雄］秋学期授業/Fall..... 1693
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6417】都市環境デザイン工学研究２［福井　恒明］秋学期授業/Fall..... 1694
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6418】都市環境デザイン工学研究２［酒井　久和］秋学期授業/Fall..... 1695
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6423】都市環境デザイン工学研究３［内田　大介］春学期授業/Spring 1696
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6424】都市環境デザイン工学研究３［高見　公雄］春学期授業/Spring 1697
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6427】都市環境デザイン工学研究３［福井　恒明］春学期授業/Spring 1698
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6428】都市環境デザイン工学研究３［酒井　久和］春学期授業/Spring 1699

修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6429】都市環境デザイン工学研究３［尾関　智子］春学期授業/Spring 1700
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6433】都市環境デザイン工学研究４［内田　大介］秋学期授業/Fall 1701
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6434】都市環境デザイン工学研究４［高見　公雄］秋学期授業/Fall 1702
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6437】都市環境デザイン工学研究４［福井　恒明］秋学期授業/Fall 1703
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6438】都市環境デザイン工学研究４［酒井　久和］秋学期授業/Fall 1704
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6439】都市環境デザイン工学研究４［今井　龍一］秋学期授業/Fall 1705
博士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6600】都市環境デザイン工学特別研究１_2014年度以降入学［今井　龍一］春学期授業/Spring 1706
博士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6610】都市環境デザイン工学特別研究2_2014年度以降入学［今井　龍一］秋学期授業/Fall 1707
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6902】修士論文（都市）［今井　龍一］秋学期授業/Fall 1709
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6904】修士論文（都市）［高見　公雄］秋学期授業/Fall 1710
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6905】修士論文（都市）［溝渕　利明］秋学期授業/Fall 1711
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6906】修士論文（都市）［鈴木　善晴］秋学期授業/Fall 1712
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7401】システムデザイン修士研修１［安積　伸］春学期授業/Spring 1713
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7406】システムデザイン修士研修１［姜　理恵］春学期授業/Spring 1714
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7412】システムデザイン修士研修２［安積　伸］秋学期授業/Fall 1715
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7417】システムデザイン修士研修２［姜　理恵］秋学期授業/Fall 1716
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7423】システムデザイン修士研修３［安積　伸］春学期授業/Spring 1717
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7428】システムデザイン修士研修３［姜　理恵］春学期授業/Spring 1718
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7434】システムデザイン修士研修４［安積　伸］秋学期授業/Fall 1719
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7439】システムデザイン修士研修４［姜　理恵］秋学期授業/Fall 1720
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7445】システムデザイン修士プロジェクト１［安積　伸］春学期授業/Spring 1721
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7456】システムデザイン修士プロジェクト２［安積　伸］秋学期授業/Fall 1722
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7461】システムデザイン修士プロジェクト２［姜　理恵］秋学期授業/Fall 1723
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7467】システムデザイン修士プロジェクト３［安積　伸］春学期授業/Spring 1724
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7472】システムデザイン修士プロジェクト３［姜　理恵］春学期授業/Spring 1725
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7478】システムデザイン修士プロジェクト４［安積　伸］秋学期授業/Fall 1726
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7483】システムデザイン修士プロジェクト４［姜　理恵］秋学期授業/Fall 1727
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7901】修士論文（SD）［安積　伸］秋学期授業/Fall 1728
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7906】修士論文（SD）［姜　理恵］秋学期授業/Fall 1729
基礎科目【W0001】経営イノベーション体系［玄場 公規、高田 朝子、丹下 英明、豊田 裕貴］春学期前半/Spring(1st half) 1730
基礎科目【W0003】中小企業戦略［丹下　英明］春学期前半/Spring(1st half) 1731
基礎科目【W0004】マーケティング論［坂本　和子］春学期前半/Spring(1st half) 1733
基礎科目【W0007】ファイナンスⅠ［山﨑　泰明］春学期前半/Spring(1st half) 1735

基礎科目【W0008】ファイナンスⅡ［山﨑　泰明］春学期後半/Spring(2nd half) 1737
基礎科目【W0009】人的資源管理［山田　久］春学期前半/Spring(1st half) 1739
基礎科目【W0010】人的資源管理論Ⅰ［山田　久］秋学期前半/Fall(1st half) 1741
基礎科目【W0012】財務会計論（M特必修）［石島　隆］春学期前半/Spring(1st half) 1743
基礎科目【W0013】財務会計論［内山　峰男］秋学期前半/Fall(1st half) 1745
基礎科目【W0014】管理会計論［石島　隆］秋学期後半/Fall(2nd half) 1746
基礎科目【W0015】ビジネスと租税法［金田　勇］春学期後半/Spring(2nd half) 1748
基礎科目【W0017】ロジカル・シンキング［村上　健一郎］春学期前半/Spring(1st half) 1749
基礎科目【W0018】コンサルティング技法［並木　雄二］春学期前半/Spring(1st half) 1751
基礎科目【W0019】エスノグラフィのビジネス応用［石山　恒貴］春学期前半/Spring(1st half) 1752
基礎科目【W0020】経営情報戦略論［大塚　有希子］春学期授業/Spring 1754
基礎科目【W0021】企業倫理［碓井　茂樹］秋学期後半/Fall(2nd half) 1756
基礎科目【W0023】消費者行動論［坂本　和子］春学期集中/Intensive(Spring) 1757
専門科目【W0101】創業・ベンチャー起業論［丹下　英明］秋学期前半/Fall(1st half) 1758
専門科目【W0102】コーチング［稲川　由太郎］秋学期後半/Fall(2nd half) 1760
専門科目【W0103】Project Design ManagementⅠ(Japanese curriculum)［大塚　有希子］春学期後半/Spring(2nd half) 1762
専門科目【W0103】プロジェクト・デザインマネジメントⅠ［大塚　有希子］春学期後半/Spring(2nd half) 1764
専門科目【W0104】Project Design ManagementⅡ(Japanese curriculum)［大塚　有希子］春学期集中/Intensive(Spring) 1766
専門科目【W0104】プロジェクト・デザインマネジメントⅡ［大塚　有希子］春学期集中/Intensive(Spring) 1768
専門科目【W0105】リスクマネジメント概論［指田　朝久］春学期前半/Spring(1st half) 1770
専門科目【W0106】事業リスクマネジメントと内部統制［石島　隆］秋学期前半/Fall(1st half) 1772
専門科目【W0107】生産マネジメント論［都丸　孝之］春学期後半/Spring(2nd half) 1774
専門科目【W0108】サプライチェーンマネジメント［都丸　孝之］秋学期集中/Intensive(Fall) 1776
専門科目【W0111】プラットフォーム戦略［長谷川　純一］秋学期後半/Fall(2nd half) 1777
専門科目【W0112】グローバルビジネス経営論［山本　晋也］秋学期後半/Fall(2nd half) 1779
専門科目【W0113】コミュニケーションマネジメント［浦上　早苗］春学期後半/Spring(2nd half) 1781
専門科目【W0114】ヘルスケアマネジメント［山田　敦弘］秋学期前半/Fall(1st half) 1783
専門科目【W0115】コンテンツビジネス論［岩崎　達也］秋学期集中/Intensive(Fall) 1785
専門科目【W0116】中小企業総合経営論Ⅰ［並木　雄二］秋学期前半/Fall(1st half) 1787
専門科目【W0117】中小企業総合経営論Ⅱ［都丸　孝之］秋学期後半/Fall(2nd half) 1788
専門科目【W0118】店舗施設マネジメント［花畑　裕香］春学期前半/Spring(1st half) 1789
専門科目【W0119】サービスマネジメント［齋藤　隆行］秋学期集中/Intensive(Fall) 1791
専門科目【W0121】公共・非営利・社会的企業経営論［佐藤　裕弥］秋学期前半/Fall(1st half) 1792
専門科目【W0122】収益モデルの構築［山﨑　泰明］秋学期後半/Fall(2nd half) 1794
専門科目【W0123】事業再生・経営革新［栗本　興治］秋学期前半/Fall(1st half) 1796
専門科目【W0125】デジタル・マーケティング［村上　健一郎］秋学期前半/Fall(1st half) 1798
専門科目【W0126】ITCケース研修［大塚　有希子］秋学期授業/Fall 1800
専門科目【W0127】デジタル広告論［高田　勝裕］秋学期後半/Fall(2nd half) 1803
専門科目【W0129】デザイン思考とビジネス創出［都丸　孝之］春学期前半/Spring(1st half) 1806
専門科目【W0130】ビジネス活用のためのPython基礎［飛田　北斗］秋学期前半/Fall(1st half) 1807
専門科目【W0131】DXとデジタルガバナンス［大久保　光伸、湯山　敬太、石島　隆］秋学期後半/Fall(2nd half) 1809
専門科目【W0132】リテールサイエンスとAI［山下　理夫］春学期後半/Spring(2nd half) 1811
専門科目【W0133】スタートアップの創業からIPOまで［伊藤　章子］秋学期前半/Fall(1st half) 1812
専門科目【W0134】インキュベーション・マネジメント［山本　晋也］秋学期集中/Intensive(Fall) 1814
専門科目【W0135】ガバナンス経営論（ステークホルダーと企業価値経営）［関　雄太］秋学期後半/Fall(2nd half) 1816
専門科目【W0136】ファミリー・ビジネス＆ファミリーオフィス［中島　努、高田　朝子］秋学期前半/Fall(1st half) 1818
専門科目【W0137】ヘルスケア・イノベーション［倉浪　孝明］秋学期集中/Intensive(Fall) 1820
応用科目【W1002】ビジネスイノベータ育成セミナー［坂本　和子］秋学期後半/Fall(2nd half) 1821
応用科目【W1005】経営診断実習Ⅰ［並木 雄二、岩瀬 敦智、佐藤 裕弥、郷 保直、斉藤 徹、山岡 雄己、手塚 邦雄、花畑 裕香、仁保 聡一郎.青木 季博、高橋 利治、齊藤 信］春学期授業/Spring 1822
応用科目【W1006】経営診断実習Ⅱ［並木 雄二、丹下 英明、岩瀬 敦智、佐藤 裕弥、郷 保直、斉藤 徹、山岡 雄己、手塚 邦雄、花畑 裕香、宮川 孝文、仁保 聡一郎、高橋 利治、齊藤 信］秋学期授業/Fall 1824
応用科目【W1007】経営診断特講Ⅰ［並木　雄二、岩瀬　敦智］春学期前半/Spring(1st half) 1826
応用科目【W1008】経営診断特講Ⅱ［知念　毅、岩瀬　敦智］春学期後半/Spring(2nd half) 1828
応用科目【W1009】経営診断特講Ⅲ［宮川　孝文］春学期後半/Spring(2nd half) 1829

基礎科目【W3001】データベースの基礎［五月女　健治］秋学期前半/Fall(1st half) 1830
基礎科目【W3002】会計入門［石島　隆］春学期後半/Spring(2nd half) 1831
専門科目【W3005】クラウドコンピューティング［五月女　健治］秋学期後半/Fall(2nd half) 1833
専門科目【W3006】モバイルプログラミング［五月女　健治］春学期前半/Spring(1st half) 1835
専門科目【W3007】モバイルプログラミング（アドバンス）［五月女　健治］春学期後半/Spring(2nd half) 1836
Foundation Courses【W7001】Global Management ［山本　晋也］秋学期後半/Fall(2nd half) 1838
Foundation Courses【W7002】Business Communication in Japanese Organization ［一守　靖］春学期後半/Spring(2nd half) 1840
Foundation Courses【W7003】Management Strategy ［栗原　浩一］秋学期前半/Fall(1st half) 1843
Foundation Courses【W7004】Strategic Organizational Management（Corporate Governance and Ethics）［Nichols David］春学期前半/Spring(1st half) 1844
Foundation Courses【W7005】Business Practice in Japan［高田　朝子、Kenneth Pechter］秋学期前半/Fall(1st half) 1846
Specialized Courses【W7050】Accounting ［鳥飼　裕一］秋学期後半/Fall(2nd half) 1848
Specialized Courses【W7051】Logical Thinking vs Intuition ［西出　香］秋学期前半/Fall(1st half) 1850
Specialized Courses【W7052】Financial Management（Analyzing and Leveraging Financial Information）［GORDON Samuel Frederick］秋学期後半/Fall(2nd half) 1851
Specialized Courses【W7053】The Foundations of Corporate Finance in a Global Context［GORDON Samuel Frederick］春学期後半/Spring(2nd half) 1853
Specialized Courses【W7054】Human Resource Management in Japan ［LANE Gary Matthew］秋学期後半/Fall(2nd half) 1855
Specialized Courses【W7055】Managing Talent ［豊嶋　晴美］秋学期前半/Fall(1st half) 1857
Specialized Courses【W7056】Opportunity and Entrepreneurship in Japan ［KENNETH G PECHTER］春学期後半/Spring(2nd half) 1859
Specialized Courses【W7057】Media and Entertainment ［KENNETH G PECHTER］春学期前半/Spring(1st half) 1861
Specialized Courses【W7058】Marketing in Japan ［大澤　裕］秋学期後半/Fall(2nd half) 1863
Specialized Courses【W7059】Service Management in Japan［KENNETH G PECHTER］秋学期後半/Fall(2nd half) 1864
Specialized Courses【W7060】Innovation in Global business ［WOLFGANG BIERER］秋学期前半/Fall(1st half) 1866
Specialized Courses【W7061】Leadership, Strategy, and Entrepreneurship ［TIMOTHY M CONNOR］春学期前半/Spring(1st half) 1868
Specialized Courses【W7062】Applied Marketing ［坂本　和子］春学期後半/Spring(2nd half) 1869
Applied Courses【W7100】Project 1-A (Internship) ［Kenneth Pechter、HUG, Jose、高田　朝子］秋学期授業/Fall 1870
Applied Courses【W7101】Project 1-B (Field Research) ［KENNETH G PECHTER］秋学期授業/Fall 1873
Applied Courses【W7102】Project 2-A (Internship) ［Kenneth Pechter、大澤　裕］年間授業/Yearly 1877
Applied Courses【W7103】Project 2-B (Field Research) ［Kenneth Pechter、佐藤　裕弥］年間授業/Yearly 1880
Applied Courses【W7104】Japanese Management ［長谷川　卓也］秋学期前半/Fall(1st half) 1884
Applied Courses【W7105】Japanese Production Management & Supply Chain Management ［長谷川　卓也］春学期前半/Spring(1st half) 1886
Applied Courses【W7106】Open Innovation ［RADHAKRISHNAN NAIR］秋学期前半/Fall(1st half) 1888
Applied Courses【W7107】Entrepreneurship and New Business Creation［小村　隆祐］春学期後半/Spring(2nd half) 1890
【XB002】地域創造ワークショップ［柿野　成美］春学期前半/Spring(1st half) 1892
【XB003】調査法［高尾　真紀子］秋学期後半/Fall(2nd half) 1893
【XB004】研究法［上山　肇］春学期前半/Spring(1st half) 1894
【XB005】質的研究法［齊藤　弘通］春学期前半/Spring(1st half) 1895
【XB006】特別講義（地域から考える日本経済）［梅溪　健児］秋学期前半/Fall(1st half) 1897
【XB007】人的資源管理論［石山　恒貴］秋学期前半/Fall(1st half) 1898
【XB008】地域活性化システム論［高尾　真紀子］春学期後半/Spring(2nd half) 1899
【XB009】文化地理学［増淵　敏之］秋学期前半/Fall(1st half) 1900
【XB010】都市空間論［上山　肇］秋学期前半/Fall(1st half) 1901
【XB011】観光社会学［北郷　裕美］秋学期前半/Fall(1st half) 1902
【XB012】地域産業論［橋本　正洋］秋学期前半/Fall(1st half) 1903
【XB013】中小企業論［黒澤　佳子］秋学期後半/Fall(2nd half) 1905

【XB014】CSR論［佐々木　恭子］秋学期後半/Fall(2nd half) 1906
【XB101】ウェルビーイング論［高尾　真紀子］春学期前半/Spring(1st half) 1907
【XB102】実証分析入門［柿野　成美］秋学期後半/Fall(2nd half) 1908
【XB103】雇用政策研究（マクロ）［石山　恒貴］春学期前半/Spring(1st half) 1909
【XB104】キャリア理論と統計分析［佐藤　雄一郎］春学期前半/Spring(1st half) 1911
【XB105】キャリア政策研究［岸田　泰則］秋学期前半/Fall(1st half) 1912
【XB106】地域雇用政策事例研究［石山　恒貴］秋学期後半/Fall(2nd half) 1913
【XB107】人材育成論［石山　恒貴］春学期後半/Spring(2nd half) 1914
【XB108】地域コミュニティ論［中島　由紀］秋学期後半/Fall(2nd half) 1915
【XB109】消費者政策論［柿野　成美］春学期後半/Spring(2nd half) 1917
【XB110】生活政策論［柿野　成美］秋学期前半/Fall(1st half) 1918
【XB111】男女共同参画政策論［池永　肇恵］春学期後半/Spring(2nd half) 1919
【XB112】実践地方行政論［池永　肇恵］秋学期後半/Fall(2nd half) 1920
【XB113】まちづくり事例研究［上山　肇］春学期後半/Spring(2nd half) 1921
【XB114】比較都市事例研究［伴　宣久］春学期後半/Spring(2nd half) 1922
【XB115】コミュニティーメディア論［北郷　裕美］秋学期後半/Fall(2nd half) 1923
【XB116】都市文化論［増淵　敏之］春学期前半/Spring(1st half) 1924
【XB118】観光開発論［北郷　裕美］春学期前半/Spring(1st half) 1925
【XB119】フィールドワーク論［北郷　裕美］春学期後半/Spring(2nd half) 1926
【XB120】観光マーケティング論［青木　洋高］春学期集中/Intensive(Spring) 1927
【XB121】地域経営戦略論［橋本　正洋］春学期後半/Spring(2nd half) 1928
【XB122】地域イノベーション論［橋本　正洋］春学期前半/Spring(1st half) 1929
【XB123】新産業創出論［小具　龍史］春学期集中/Intensive(Spring) 1930
【XB126】コーポレートガバナンス［林　順一］秋学期後半/Fall(2nd half) 1931
【XB127】地域活性特論［橋本　正洋］秋学期後半/Fall(2nd half) 1932
【XB128】特別講義（統計学入門）［後藤　嘉孝］秋学期前半/Fall(1st half) 1933
【XB129】経済学［梅溪　健児］春学期前半/Spring(1st half) 1934
【XB131】レポートライティング［佐藤　雄一郎］春学期後半/Spring(2nd half) 1935
【XB203】地域創造演習A［石山　恒貴］春学期授業/Spring 1936
【XB204】地域創造演習B［石山　恒貴］秋学期授業/Fall 1937
【XB205】地域創造演習A［高尾　真紀子］春学期授業/Spring 1938
【XB206】地域創造演習B［高尾　真紀子］秋学期授業/Fall 1939
【XB207】地域創造演習A［増淵　敏之］春学期授業/Spring 1940
【XB208】地域創造演習B［増淵　敏之］秋学期授業/Fall 1941
【XB209】地域創造演習A［上山　肇］春学期授業/Spring 1942
【XB210】地域創造演習B［上山　肇］秋学期授業/Fall 1943
【XB211】地域創造演習A［北郷　裕美］春学期授業/Spring 1944
【XB212】地域創造演習B［北郷　裕美］秋学期授業/Fall 1945
【XB225】地域創造演習A［土肥　将敦］春学期授業/Spring 1946
【XB226】地域創造演習B［土肥　将敦］秋学期授業/Fall 1947
【XB227】地域創造演習A［野田　岳仁］春学期授業/Spring 1948
【XB228】地域創造演習B［野田　岳仁］秋学期授業/Fall 1949
【XB301】研究論文指導A［高尾　真紀子］春学期授業/Spring 1950
【XB302】研究論文指導B［高尾　真紀子］秋学期授業/Fall 1951
【XB502】フィールドワーク演習（1単位）［水野　雅男］秋学期集中/Intensive(Fall) 1952
【XB503】フィールドワーク演習（1単位）［石山　恒貴］秋学期集中/Intensive(Fall) 1953
【XB505】住宅政策特論［水野　雅男］秋学期前半/Fall(1st half) 1954
【XB507】環境社会学特論［野田　岳仁］秋学期後半/Fall(2nd half) 1955
【XB509】ソーシャル・イノベーション特論［土肥　将敦］春学期前半/Spring(1st half) 1956
【XB514】特別講義（九州地域創生論）［岡野　秀之］秋学期集中/Intensive(Fall) 1957
（修士課程）基本科目_必修【XW002】政策ワークショップ［柿野　成美］春学期前半/Spring(1st half) 1959
（修士課程）基本科目_選択必修【XW003】調査法［高尾　真紀子］秋学期後半/Fall(2nd half) 1960
（修士課程）基本科目_選択必修【XW004】研究法［上山　肇］春学期前半/Spring(1st half) 1961
（修士課程）基本科目_選択必修【XW005】質的研究法［齊藤　弘通］春学期前半/Spring(1st half) 1962
（修士課程）基本科目_選択必修【XW006】日本経済論［梅溪　健児］秋学期前半/Fall(1st half) 1964
（修士課程）基本科目_選択必修【XW007】人的資源管理論［石山　恒貴］秋学期前半/Fall(1st half) 1965
（修士課程）基本科目_選択必修【XW008】地域活性化システム論［高尾　真紀子］春学期後半/Spring(2nd half) 1966

（修士課程）基本科目_選択必修【XW009】文化地理学［増淵　敏之］秋学期前半/Fall(1st half) 1967
（修士課程）基本科目_選択必修【XW010】都市空間論［上山　肇］秋学期前半/Fall(1st half)..... 1968
（修士課程）基本科目_選択必修【XW011】観光社会学［北郷　裕美］秋学期前半/Fall(1st half) 1969
（修士課程）基本科目_選択必修【XW012】地域産業論［橋本　正洋］秋学期前半/Fall(1st half) 1970
（修士課程）基本科目_選択必修【XW013】中小企業論［黒澤　佳子］秋学期後半/Fall(2nd half)..... 1972
（修士課程）基本科目_選択必修【XW014】CSR論［佐々木　恭子］秋学期後半/Fall(2nd half) 1973
（修士課程）プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW101】ウェルビーイング論［高尾　真紀子］春学期前半/Spring(1st half)..... 1974
（修士課程）プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW102】実証分析入門［柿野　成美］秋学期後半/Fall(2nd half)..... 1975
（修士課程）プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW103】雇用政策研究（マクロ）［石山　恒貴］春学期前半/Spring(1st half)..... 1976
（修士課程）プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW104】キャリア理論と統計分析［佐藤　雄一郎］春学期前半/Spring(1st half)..... 1978
（修士課程）プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW105】キャリア政策研究［岸田　泰則］秋学期前半/Fall(1st half)..... 1979
（修士課程）プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW106】地域雇用政策事例研究［石山　恒貴］秋学期後半/Fall(2nd half) 1980
（修士課程）プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW107】人材育成論［石山　恒貴］春学期後半/Spring(2nd half)..... 1981
（修士課程）プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW108】地域コミュニティ論［中島　由紀］秋学期後半/Fall(2nd half) 1982
（修士課程）プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW109】消費者政策論［柿野　成美］春学期後半/Spring(2nd half)..... 1984
（修士課程）プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW110】生活政策論［柿野　成美］秋学期前半/Fall(1st half) 1985
（修士課程）プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW111】男女共同参画政策論［池永　肇恵］春学期後半/Spring(2nd half) 1986
（修士課程）プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW112】実践地方行政論［池永　肇恵］秋学期後半/Fall(2nd half)..... 1987
（修士課程）プログラム科目_文化・都市・観光創造群【XW113】まちづくり事例研究［上山　肇］春学期後半/Spring(2nd half)..... 1988
（修士課程）プログラム科目_文化・都市・観光創造群【XW114】比較都市事例研究［伴　宣久］春学期後半/Spring(2nd half)..... 1989
（修士課程）プログラム科目_文化・都市・観光創造群【XW115】コミュニティーメディア論［北郷　裕美］秋学期後半/Fall(2nd half) 1990
（修士課程）プログラム科目_文化・都市・観光創造群【XW116】都市文化論［増淵　敏之］春学期前半/Spring(1st half)..... 1991
（修士課程）プログラム科目_文化・都市・観光創造群【XW118】観光開発論［北郷　裕美］春学期前半/Spring(1st half)..... 1992
（修士課程）プログラム科目_文化・都市・観光創造群【XW119】フィールドワーク論［北郷　裕美］春学期後半/Spring(2nd half) 1993
（修士課程）プログラム科目_文化・都市・観光創造群【XW120】観光マーケティング論［青木　洋高］春学期集中/Intensive(Spring)..... 1994
（修士課程）プログラム科目_地域産業・企業創造群【XW121】地域経営戦略論［橋本　正洋］春学期後半/Spring(2nd half)..... 1995
（修士課程）プログラム科目_地域産業・企業創造群【XW122】地域イノベーション論［橋本　正洋］春学期前半/Spring(1st half)..... 1996
（修士課程）プログラム科目_地域産業・企業創造群【XW123】新産業創出論［小具　龍史］春学期集中/Intensive(Spring) 1997
（修士課程）プログラム科目_地域産業・企業創造群【XW126】コーポレートガバナンス［林　順一］秋学期後半/Fall(2nd half) 1998
（修士課程）プログラム科目_地域産業・企業創造群【XW127】地域活性特論Ⅰ［橋本　正洋］秋学期後半/Fall(2nd half)..... 1999
（修士課程）関連科目【XW128】特別講義Ⅰ（統計学入門）［後藤　嘉孝］秋学期前半/Fall(1st half)..... 2000
（修士課程）関連科目【XW129】経済学［梅溪　健児］春学期前半/Spring(1st half)..... 2001
（修士課程）関連科目【XW131】レポートライティング［佐藤　雄一郎］春学期後半/Spring(2nd half)..... 2002
（修士課程）演習科目【XW201】プログラム演習［柿野　成美］春学期授業/Spring..... 2003
（修士課程）演習科目【XW202】プログラム演習［柿野　成美］秋学期授業/Fall 2004

（修士課程）演習科目【XW203】プログラム演習［石山　恒貴］春学期授業/Spring 2005
（修士課程）演習科目【XW204】プログラム演習［石山　恒貴］秋学期授業/Fall 2006
（修士課程）演習科目【XW205】プログラム演習［高尾　真紀子］春学期授業/Spring 2007
（修士課程）演習科目【XW206】プログラム演習［高尾　真紀子］秋学期授業/Fall 2008
（修士課程）演習科目【XW207】プログラム演習［増淵　敏之］春学期授業/Spring 2009
（修士課程）演習科目【XW208】プログラム演習［増淵　敏之］秋学期授業/Fall 2010
（修士課程）演習科目【XW209】プログラム演習［上山　肇］春学期授業/Spring 2011
（修士課程）演習科目【XW210】プログラム演習［上山　肇］秋学期授業/Fall 2012
（修士課程）演習科目【XW211】プログラム演習［北郷　裕美］春学期授業/Spring 2013
（修士課程）演習科目【XW212】プログラム演習［北郷　裕美］秋学期授業/Fall 2014
（修士課程）演習科目【XW213】プログラム演習［橋本　正洋］春学期授業/Spring 2015
（修士課程）演習科目【XW214】プログラム演習［橋本　正洋］秋学期授業/Fall 2016
（博士後期課程）研究指導科目【XW315】雇用政策特殊研究Ⅱ［石山　恒貴］集中・その他/intensive・other courses 2017
（博士後期課程）研究指導科目【XW318】文化政策特殊研究Ⅱ［増淵　敏之］集中・その他/intensive・other courses 2019
（博士後期課程）研究指導科目【XW319】文化政策特殊研究Ⅲ［増淵　敏之］集中・その他/intensive・other courses 2020
（博士後期課程）研究指導科目【XW334】地域社会政策特殊研究Ⅲ［高尾　真紀子］集中・その他/intensive・other courses 2021
（博士後期課程）専門領域科目【XW351】経済政策特殊講義（実証分析入門）［柿野　成美］秋学期後半/Fall(2nd half) 2022
（博士後期課程）専門領域科目【XW352】経済政策特殊講義（消費者政策論）［柿野　成美］春学期後半/Spring(2nd half) 2023
（博士後期課程）専門領域科目【XW353】経済政策特殊講義（生活政策論）［柿野　成美］秋学期前半/Fall(1st half) 2024
（博士後期課程）専門領域科目【XW354】雇用政策特殊講義（雇用政策研究（マクロ））［石山　恒貴］春学期前半/Spring(1st half) 2025
（博士後期課程）専門領域科目【XW355】雇用政策特殊講義（人的資源管理論）［石山　恒貴］秋学期前半/Fall(1st half) 2027
（博士後期課程）専門領域科目【XW356】雇用政策特殊講義（人材育成論）［石山　恒貴］春学期後半/Spring(2nd half) 2028
（博士後期課程）専門領域科目【XW357】雇用政策特殊講義（地域雇用政策事例研究）［石山　恒貴］秋学期後半/Fall(2nd half) 2029
（博士後期課程）専門領域科目【XW358】地域社会政策特殊講義（ウェルビーイング論）［高尾　真紀子］春学期前半/Spring(1st half) 2030
（博士後期課程）専門領域科目【XW359】地域社会政策特殊講義（地域活性化システム論）［高尾　真紀子］春学期後半/Spring(2nd half) 2031
（博士後期課程）専門領域科目【XW360】都市政策特殊講義（都市空間論）［上山　肇］秋学期前半/Fall(1st half) 2032
（博士後期課程）専門領域科目【XW361】都市政策特殊講義（まちづくり事例研究）［上山　肇］春学期後半/Spring(2nd half) 2033
（博士後期課程）専門領域科目【XW362】文化政策特殊講義（都市文化論）［増淵　敏之］春学期前半/Spring(1st half) 2034
（博士後期課程）専門領域科目【XW363】文化政策特殊講義（文化地理学）［増淵　敏之］秋学期前半/Fall(1st half) 2035
（博士後期課程）専門領域科目【XW364】観光政策特殊講義（観光社会学）［北郷　裕美］秋学期前半/Fall(1st half) 2036
（博士後期課程）専門領域科目【XW365】観光政策特殊講義（フィールドワーク論）［北郷　裕美］春学期後半/Spring(2nd half) 2037
（博士後期課程）専門領域科目【XW366】観光政策特殊講義（コミュニティーメディア論）［北郷　裕美］秋学期後半/Fall(2nd half) 2038
（博士後期課程）専門領域科目【XW367】観光政策特殊講義（観光開発論）［北郷　裕美］春学期前半/Spring(1st half) 2039
（博士後期課程）専門領域科目【XW368】産業政策特殊講義（地域産業論）［橋本　正洋］秋学期前半/Fall(1st half) 2040
（博士後期課程）専門領域科目【XW369】産業政策特殊講義（地域経営戦略論）［橋本　正洋］春学期後半/Spring(2nd half) 2042
機械工学専攻【YA037】機械振動学特論［相原　建人］春学期授業/Spring 2043

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講[ロジスティクス論]（春期スクーリング）

恩田　登志夫

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：
その他属性：**〈実〉**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロジスティクスは、経営戦略の一つであり、企業成長を図るうえで重要なシステムです。したがって、最近の企業では、調達・生産・物流システムの有機的連携を図った事例が多く見られます。これらの事例を通して、これまでの物流の概念とは異なるロジスティクスの概念を学ぶことができます。

【到達目標】
授業の終了時には、以下のことが修得できる。
①ロジスティクスは経営戦略であることを説明できる。
②収益性劣化率の計算式を使用して、どの輸送手段が最善なのか判断できる。
③ロジスティクスの重要性についてレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学, 自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
一般的な講義のほかに、統計資料や視聴覚メディアを活用したり、ディスカッションを行い、参加型の授業を行う。なお、授業内でロジスティクス企業による3PLの現状と課題について講演を予定している。なお、試験に関するフィードバックは、
試験終了後に、口頭にて説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ロジスティクスの概要	ロジスティクスの定義 棚卸資産粗利益率の考え方
2	ロジスティクスと物流の相違	ロジスティクス管理 物流管理
3	物流管理の問題点とABC分析手法	物流管理の問題点 ABC分析
4	ロジスティクス管理手法（1）	収益性劣化率の概要 収益性劣化率の計算
5	ロジスティクス管理手法（2）	収益性劣化率の利用事例
6	ロジスティクス管理手法（3）	収益性劣化率から輸送手段の選択手法 海上、国際複合、航空輸送
7	ロジスティクス戦略を実施する企業の事例研究（1）	仕出し弁当企業の事例紹介
8	ロジスティクス戦略を実施する企業の事例研究（2）	仕出し弁当企業の調達、製造、配達システムの概要
9	ロジスティクス戦略を実施する企業の事例研究（3）	仕出し弁当企業と他企業との企業分析比較
10	自動車メーカーの生産システムの概要	自動車メーカーの販売・生産計画策定 自動車メーカーの部品調達システム
11	自動車メーカー物流システムの概要	自動車メーカーの物流システムの概要 ミルクラン輸送 中継地物流
12	ロジスティクスの類型	1 PL, 2 PL, 3 PL, 4 PLの相違と具体例
13	3PLの現状と課題	3PL市場規模 3PL企業動向の特徴 3PLビジネスの課題
14	3PL事業の事例研究	国際物流事業者による3 PL事業への取り組みの現状と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、授業の事前にテキストを確認して要点を整理すること。
復習として、準備学習として要点を整理したことを授業中のメモと確認し、理解を深めること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
必要なプリントを配布する。

【参考書】
『現代ロジスティクス論』齊藤実他、中央経済社、2009年、3080円

【成績評価の方法と基準】
期末テスト100％

【学生の意見等からの気づき】
受講生より、授業の時間割を6時限と7時限を隔年で変更して欲しいという要望があり、2025年度の経営学特講（ロジスティクス論）は7時限にて対応する予定。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」
航空会社に約20年勤務していたことから、実務経験を踏まえて説明する。

【Outline (in English)】
(Course outline)
Logistics is one of the management strategies, and it is an important system to promote corporate growth. Therefore, recent companies often see examples of organically coordinating procurement, production, and distribution systems. Through these examples, we can learn the concept of logistics different from the concept of physical distribution so far.
(Learning Objectives)
By the end of this class, you will be able to:
1. Explain that logistics is a business strategy.
2. Use the profitability deterioration formula to determine which
transportation mode is best.
3. Write a report on the importance of logistics.
(Learning activities outside of classroom)
As preparation, you will need to review the text before class and organize the key points.
As review, you will need to check what you have organized in your preparation against your notes taken during class to deepen your understanding.
The estimated preparation and review time for this class is two hours each.
(Grading Criteria/Policy)
Term-end examination:100%

【実務経験のある教員による授業科目】
○

MAN300TG（経営学 / Management 300）

演習[貿易概論]（春期スクーリング）

恩田　登志夫

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：
その他属性：**〈実〉**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル経済が進展すると海外との貿易取引が活発になります。米国と中国の貿易戦争のように保護主義の主張とTPPのように貿易を活発化させる取組みも進展しています。この講義では、貿易取引の基礎的な物の流れやお金の流れを理解することにより、貿易ビジネスの実態を学ぶことができます。

【到達目標】
貿易取引に関係する国際ビジネスの観点から国際物流、輸出入通関に関係する基礎的知識を習得することができる。さらに、秋期スクーリングにて開講される国際物流を履修することにより、国際流通全般を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
一般的な講義のほかに、統計資料や視聴覚メディアを活用したり、ディスカッションを行い、参加型の授業を行う。授業内にて、貿易関係企業より「貿易実務現場の状況」をテーマに講演を予定している。なお、試験に関するフィードバックは、
試験終了後に、口頭にて説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業全般の説明と貿易取引の全体像の理解	貿易取引と国内取引の相違
2	日本の貿易の現状	日本の貿易収支 産業組織の変化 輸出入の流れ
3	貿易取引全体の理解	貿易取引のしくみ 貿易取引と関係機関 貿易取引の種類
4	貿易保険	貨物海上保険 貿易保険 製造物賠償責任保険（PL保険）
5	貿易取引契約条件	取引交渉の全体像 各種取引条件
6	貿易条件とトレードタームズ（1）	インコタームズ2000とインコタームズ2010の比較
7	貿易条件とトレードタームズ（2）	インコータームズの具体例 FOB,CFR,CIF等
8	取引一般条件	取引一般条件と契約書の概要 ウィーン売買条約の概要
9	貿易代金決済	信用状決済の概要と仕組み
10	通関手続きと関税	通関制度の概要 AEO制度の概要 保税制度の概要
11	貨物輸送と船積書類（1）	海上貨物の船積み手続きの概要
12	貨物輸送と船積書類（2）	航空貨物の積み込み手続きの概要
13	貨物輸送と船積書類（3）	国際複合輸送の概要と国際複合輸送の国際ルール
14	貿易書類の概要	インボイス パッキングリスト 船積依頼書

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、授業の事前にテキストを確認して、要点を整理すること。
復習として、準備学習として要点を整理したことを、授業中のメモと確認し、理解を深めること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
授業毎に資料を配布する。

【参考書】
『新貿易取引・基礎から最新情報まで』石原伸志他著、経済法令研究会出版、3024円（税込）

【成績評価の方法と基準】
期末テスト100％

【学生の意見等からの気づき】
受講生より、この演習（春学期スクリーング）の授業を隔年で6時限、7時限に入れ替えて欲しいという要望から、2025年度のこの演習は、6時限にて対応する予定。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」
航空会社に約20年勤務していたことから、貿易と国際輸送に関する内容において実務経験を踏まえて説明する。

【Outline (in English)】
(Course outline)
Trade transactions with overseas will become active as the global economy progresses. As in the trade war between the United States and China, protectionism advocacy and efforts to activate trade like TPP are progressing as well. In this lecture, you will be able to learn the realities of trading business by understanding the flow of basic trade transactions and the flow of money.
(Learning Objectives)
Students can acquire basic knowledge related to international logistics and import/export customs clearance from the perspective of international business related to trade transactions. Furthermore, by taking the International Logistics course offered in the fall schooling, students can gain an understanding of international distribution in general.
(Learning activities outside of classroom)
As preparation, you will need to review the textbook before class and organize the key points.
As review, you will need to check what you have organized as preparation against your notes taken during class to deepen your understanding.
The estimated preparation and review time for this class is two hours each.
(Grading Criteria/Policy)
Term-end examination:100%

【実務経験のある教員による授業科目】
○

LAW100AB（法学 / law 100）

憲法Ⅰ

金子　匡良

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定科目　※法律1年A-G・法律2〜4年（他学科他学部はクラス指定なし）**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、憲法の土台を成す立憲主義とそれが成立した歴史的経緯を概観した上で、国民主権などの日本国憲法の基本原理、および人権の分類や主体などの人権に関わる総論的な事項について学んでいく。この授業は法律学科のすべてのコースに配置されている。

【到達目標】
①立憲主義の内容およびその歴史的背景について理解する。
②日本国憲法の基本原理、特に国民主権の規範内容について理解する。
③人権の分類と個々の権利の特質について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】
授業は学習支援システム（WebClass）を通じて配布するプリントを教材にして、対面の講義形式で行う。質問に対する回答やリアクションペーパーに対するコメントなどは、適宜授業中に行うことによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方や学び方について説明する。
第2回	立憲主義の意義	法体系における憲法の意義と機能、および立憲主義の意義について学ぶ。
第3回	憲法の内容と特質	憲法を構成する規範内容と憲法の特質および憲法の類型について学ぶ。
第4回	憲法の歴史①：近代憲法の成立	近代国家と近代憲法の成立過程について学ぶ。
第5回	憲法の歴史②：現代憲法の成立	近代国家から現代国家への変容と、それに伴う現代憲法の成立について学ぶ。
第6回	日本憲法史	明治憲法と日本国憲法の対比、および日本国憲法成立の法理について学ぶ。
第7回	天皇制	象徴天皇制の意義および天皇の国事行為について学ぶ。
第8回	国民主権	国民主権の意義とその規範的意味について学ぶ
第9回	平和主義	平和主義の内容と戦力不保持規定の意義について学ぶ。
第10回	人権の類型	人権の類型と個々の人権の特質、および新しい人権について学ぶ。
第11回	人権の享有主体	人権の享有主体、特に外国人の人権享有主体性について学ぶ。
第12回	人権の限界	人権の限界、特に公共の福祉の規範的意味について学ぶ。
第13回	人権の私人間効力	人権の私人間効力に関する学説と判例について学ぶ。
第14回	人権の国際的保障	国際人権条約の意義と人権条約の国内適用について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、授業前にプリントをよく読み、疑問点や課題を明らかにしておくこと。また、必要に応じて、下記の参考書の該当ページに目を通しておくこと。授業終了後に、復習として、授業内容を振り返り、授業前に抱いた疑問や課題が解消されたか確認すること。必要に応じて参考書の該当ページに目を通すこと。なお、本授業の準備・復習に要する時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは指定しない。授業はWebClassを通じて配布するプリントに沿って行う。

【参考書】
入門レベルのテキストとして、中村睦男ほか編著『はじめての憲法学〔第4版〕』（三省堂、2021年）、標準レベルのテキストとして、新井誠ほか著『憲法Ⅰ・Ⅱ〔第2版〕』（日評ベーシックシリーズ）（日本評論社、2021年）、発展レベルのテキストとして、毛利透ほか著『憲法Ⅰ・Ⅱ』（LEGAL QUEST）（有斐閣、2022年・2023年）を推薦する。また、判例集としては、入門レベルのものとして、小泉良幸ほか編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）、標準レベルのものとして、長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣、2019年）を推薦する。

【成績評価の方法と基準】
学期末に行う定期試験の点数によって成績を評価する（100％）。なお、学期中に中間テストを行う場合は、その点数を適宜加味する。

【学生の意見等からの気づき】
理解度向上のために、なるべく平易な解説を心がけるようにしたい。

【その他の重要事項】
【実務経験のある教員による授業】
授業担当者は、国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。授業では、その経験を活かし、憲法と現実政治との関係についても論及する。

【Outline (in English)】
In this class, we first learn about the contents of constitutionalism, which is the foundation of the constitutional law, and the historical background of the establishment of constitutionalism. Next, we learn about the history and the fundamental principles of the Constitution of Japan.
Before/after each class meeting, students will be expected to read the printouts distributed by WebClass. Your required study time is at least four hours for each class meeting.
Grading will be decided based on term-end examination (100%).

LAW100AB（法学 / law 100）

憲法Ⅱ

金子　匡良

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定科目　※法律1年A-G・法律2〜4年（他学科他学部はクラス指定なし）**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、日本国憲法に規定された個々の人権について、保障内容と特質を明らかにした上で、その権利に関する学説・判例を学んでいく。この授業は法律学科のすべてのコースに配置されている。

【到達目標】
①日本国憲法が保障する人権の体系について理解する。
②個々の人権の保障内容について理解する。
③個々の人権に関する論点と、その論点に関する学説・判例を理解する。
④現代社会の様々な人権問題について、憲法学的な視点から分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】
授業は学習支援システム（WebClass）を通じて配布するプリントに沿って、対面形式の講義で行う。質問に対する回答やリアクションペーパーに対するコメントなどは、適宜授業中に行うことによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方や学び方について説明する。
第2回	人権の類型	日本国憲法が保障する人権の体系と類型について学ぶ。
第3回	法の下の平等（平等権）	法の下の平等の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第4回	思想・良心の自由	思想・良心の自由の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第5回	信教の自由	信教の自由の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第6回	政教分離原則	政教分離原則の内容、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第7回	表現の自由①：表現の自由の内容	表現の自由およびそこから派生する権利の内容について学ぶ。
第8回	表現の自由②：表現の自由の限界	表現の自由の限界について、それに関する学説・判例を中心に学ぶ。
第9回	経済的自由権	経済的自由権の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第10回	身体的自由権	身体的自由権の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第11回	社会権①：生存権	生存権の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第12回	社会権②：教育を受ける権利・労働基本権	教育を受ける権利と労働基本権の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第13回	参政権	参政権の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第14回	国務請求権	国務請求権の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、授業前にプリントをよく読み、疑問点や課題を明らかにしておくこと。また、必要に応じて、下記の参考書の該当ページに目を通しておくこと。授業終了後に、復習として、授業内容を振り返り、授業前に抱いた疑問や課題が解消されたか確認すること。必要に応じて参考書の該当ページに目を通すこと。なお、本授業の準備・復習に要する時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは指定しない。授業はWebClassを通じて配布するプリントに沿って行う。

【参考書】
入門レベルのテキストとして、中村睦男ほか編著『はじめての憲法学〔第4版〕』（三省堂、2021年）、標準レベルのテキストとして、新井誠ほか著『憲法Ⅰ・Ⅱ〔第2版〕』（日評ベーシックシリーズ）（日本評論社、2021年）、発展レベルのテキストとして、毛利透ほか著『憲法Ⅰ・Ⅱ』（LEGAL QUEST）（有斐閣、2022年・2023年）を推薦する。また、判例集としては、入門レベルのものとして、小泉良幸ほか編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）、標準レベルのものとして、長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣、2019年）を推薦する。

【成績評価の方法と基準】
学期末に行う定期試験の点数によって成績を評価する（100％）。なお、学期中に中間テストを行う場合は、その点数を適宜加味する。

【学生の意見等からの気づき】
理解度を高めるため、なるべく平易な解説を心がけるようにしたい。

【その他の重要事項】
【実務経験のある教員による授業】
授業担当者は、国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。授業では、その経験を活かし、憲法と現実政治との関係についても論及する。

【Outline (in English)】
In this class, students will learn the content and characteristics of the individual human rights guaranteed by the Constitution of Japan, and then study theories and judicial precedents concerning these rights.
Before/after each class meeting, students will be expected to read the printouts distributed by WebClass. Your required study time is at least four
hours for each class meeting.
Grading will be decided based on term-end examination (100%).

LAW200AB（法学 / law 200）

ジェンダーと法Ⅰ

寺原　真希子、三浦　徹也

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法コース（労働法中心）」「文化・社会と法コース」に属する。
１．ジェンダーという言葉は多義的だが、本講義では「性差についての観念」と広く捉え、交際関係、職場、政治、行政、司法などの様々な場面におけるジェンダーに基づいた偏見や差別の問題を取り上げる。そして、ジェンダーに基づいた偏見や差別の構造を理解し、法律による対処とその理論的な問題について学ぶ。
対象とするのは女性差別に限られず、男性差別やセクシュアル・マイノリティに対する差別を含む。特にセクシュアル・マイノリティに関する議論は、近年、重要な裁判所の判断が続いているため、実際の裁判の事例を通じて、セクシュアル・マイノリティに関する議論に対する理論的なアプローチについて学ぶ。
２．本講義の終盤では、それまでの講義の応用編として、選択的夫婦別姓訴訟と結婚の自由をすべての人に訴訟（いわゆる同性婚訴訟）について取り上げ、現在進行形の取組みとその法的な課題について学ぶ。

【到達目標】
１ 日常の様々な場面にジェンダーの問題が潜んでいることを知り、それに対して日本や国際社会がどのように取り組んできた内容や議論の到達点を知る。
２ ジェンダーや人権に鋭敏な問題意識を養い、ジェンダーに関する新たな問題に対しても、理論的なアプローチができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
１ 対面での授業をおこなう。資料は授業日の2日前までに学習支援システムに掲示するので、予習として授業の前に資料に目を通してくること。
２ 授業では毎回リアクションペーパーを作成し、学習支援システムに非公開で提出する。なお、講義ではセンシティブな内容を扱うことがあるが、リアクションペーパーは自分のことについて無理に開陳する必要は全くない。講義の感想や意見を、教員に開示できる範囲で記載して欲しい。リアクションペーパーに対しては適宜講義の中でフィードバックをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ジェンダー論の歴史と意義
2	交際関係とジェンダー	デートＤＶ、性加害等の問題
3	労働とジェンダー	男女間の雇用差別、賃金格差等の問題
4	政治・行政とジェンダー	政治参加の分野や行政における男女格差の問題
5	司法とジェンダー	国連憲章、女性差別撤廃条約
6	男性にとってのジェンダー論	男性学、男性差別
7	セクシュアル・マイノリティをめぐる諸問題	セクシュアル・マイノリティに関する基本的な知識
8	性自認にかかる裁判事例	経済産業省事件、特例法4号要件事件
9	性的指向にかかる裁判事例	同性カップルをめぐる裁判例等
10	応用編：選択的夫婦別姓訴訟１	夫婦の氏に関する裁判の歴史
11	応用編：選択的夫婦別姓訴訟２	夫婦の氏に関する憲法論の現在
12	応用編：結婚の自由をすべての人に訴訟（同性婚訴訟）１	日本における婚姻平等の展開
13	応用編：結婚の自由をすべての人に訴訟（同性婚訴訟）２	法律上同性の者同士の婚姻に関する憲法論の現在
14	総括	これまでの講義の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前にアップする資料を使って予習すること。実際の裁判例を取り上げる場合には、紛争の内容や事件の争点、判断基準や各要素の評価の方法を整理して把握するよう努めること。
また、講義において取り上げる法は、憲法、民法、刑法、労働法など多岐にわたる。講義の中でも必要に応じて解説をするが、受講者において、予習・復習として各法の関連分野を学習し、各法の議論の中で、ジェンダーの問題がどのように位置づけられるのかを体系的に整理することが望ましい。
授業後は、毎回リアクションペーパーを提出すること。
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
六法（『ポケット六法』『デイリー六法』等）

【参考書】
授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験（90％）及び平常点（リアクションペーパー含む）（10％）で判断する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
【実務経験のある教員による授業】
授業担当者は、ジェンダーやセクシュアリティに関する事案や訴訟に日頃から関与している弁護士として、その経験と知識を踏まえた授業を行う。

【Outline (in English)】
In this course, we are going to learn gender-based biases and discrimination in everyday situations.
Furthermore, students will delve into theoretical approaches to discussions about sexual minorities by analyzing real legal cases.
Towards the end of the course, we will examine ongoing efforts and legal challenges, including cases like selective surname use and same-sex marriage lawsuits.
【Learning Objectives】
１ To know about gender issues in various everyday situations, understand Japan's and the international community's efforts in response, and grasp the current state of gender discussions.
２ To aim to develop theoretical approaches to new gender-related issues.
【Learning activities outside of classroom】
Reading textbook and making your own answer about each topic are recommended for 2 hours each before and after lecture.
【Grading Criteria /Policy】
1 In-class contribution(including reaction papers)(10%)
2 Term-end examination(90%)

LAW200AB（法学 / law 200）

法律学特講（企業経営と労働法）

中村　景子

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業経営において、労働環境の整備や法的規制の遵守を不可欠です。加えて、テレワークの台頭やフリーランス新法の制定等に明らかなように、労働法をめぐる実務は日々刻々と変化しています。
この授業では、企業経営における労働法の基本原則および実務上における対応の視点を学びます。
具体的には、労働契約、労働条件、雇用の多様性、労働時間管理、ハラスメント防止、働き方改革、外国人労働者の雇用措置、解雇・退職等に関する関連法規や裁判例を学ぶとともに、リスク管理や従業員のモチベーション向上などについて考察します。
理論だけでなく、ケーススタディや実際の企業事例を通じて、法的視点と経営戦略の統合を図る実践的な内容も扱います。

【到達目標】
１．授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理について理解できる。
２．労働法における法的問題点について、自己の見解を説得的に論じることができるようになる。
３．１～２で獲得した知識をもって、人事労務に関する発展的な問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
・本講義は、対面授業とする。
※新型コロナウイルス感染症の状況によってはオンライン授業、あるいはハイフレックス授業になる場合がある。オンライン授業あるいはハイフレックス授業ととなった場合は、Zoomを使用する。
・授業の進め方の説明については、第1回ガイダンス（4月9日（水））で行う。
・講義は、PowerPointを用いながら講義形式で授業を進める。
・授業に関する質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワーにて対応し、その場でフィードバックする。
・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容、進め方、学習方法などについて説明を行う。
第2回	企業における労働法と就業規則	人事労務の観点から見た労働法の概観と就業規則について
第3回	従業員の採用	求人・採用・内定・試用期間について
第4回	賃金の仕組み	賃金制度に関する裁判例を踏まえた実務対応について
第5回	労働時間管理	労働時間制度の原則と例外を踏まえた労務管理について
第6回	人事異動	配置転換・出向・転籍について
第7回	従業員の健康管理	メンタルヘルス不調や労働災害を防止するための施策について
第8回	企業秩序と労働契約の終了	懲戒制度・解雇について
第9回	育児介護休業の取得とハラスメントの防止	育児介護休業法やパワハラ防止法等により求められる企業対応について
第10回	人事制度	同一賃金同一労働やジョブ型雇用を含めた人事制度について
第11回	多様な働き方	テレワーク、兼業・副業、フリーランスへの対応について
第12回	情報保護	個人情報保護法や企業の営業秘密の流出・漏洩の予防策について
第13回	外国人労働者と企業	在留資格を有する外国人労働者を巡る労務上の問題について
第14回	IPOやM＆Aと労務管理	IPOやM＆Aの際の実務上の対応や留意点について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習については、事前に資料の紹介などがなされた場合、一読してから授業に臨んでください。
授業後、リアクションペーパーの提出をそれぞれ学習支援システムから行ってください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特にありません。（授業の資料は学習支援システムにアップします。）

【参考書】
参考書は、必要に応じて、各回の授業において提示されます。

【成績評価の方法と基準】
⑴毎回、授業後に、学習支援システムを通じてリアクションペーパーを提出してもらい、これによって成績評価をします（30％）。
⑵期末試験を行い、成績評価をします（70％）。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】
【実務経験のある教員による授業】
経営法曹会議に所属する弁護士として使用者側の労働法務を取り扱う実務経験を有しており、企業経営に不可欠である人事労務の実務対応を取り扱う授業を行います。

【Outline (in English)】
Course outline
This course will provide an understanding of the fundamental principles of labor law and practical approaches relevant to corporate management. Specifically, it will cover topics such as labor contracts, working conditions, employment diversity, working hours management, harassment prevention, work style reforms, employment measures for foreign workers, and laws and case precedents related to dismissals and resignations. Furthermore, it will explore issues such as risk management and enhancing employee motivation.
In addition to theoretical discussions, the course will include case studies and real-world corporate examples, offering a practical perspective that integrates legal viewpoints with management strategies.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to:
1. Be able to understand the areas of law presented in the course overview and the related case law principles.
2. Develop the ability to persuasively discuss legal issues in labor law, presenting one's own viewpoints effectively.
3. Utilize the knowledge acquired in points 1 and 2 to actively engage in advanced issues related to human resources and labor management with a legal mindset.
Learning activities outside of classroom
For preparation, if materials are introduced in advance, please ensure to read them before attending the class.
After the class, submit a reaction paper (reflection essay) through the learning support system.
The standard preparation and review time for this course is set at two hours each.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Reaction Paper:30％、Term-end examination:70％

LAW300AB（法学 / law 300）

親族法

和田　幹彦

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
★この科目は「他学部公開科目」でもあり、どの学部の学生でも3-4年生は履修できます。
●この科目は「裁判と法」「行政・公共政策と法」「企業・経営と法（労働法中心）」「国際社会と法」および「文化・社会と法」の各コースに属します。
【授業の概要と目的】：
●民法典の「第4編　親族」の法解釈と、法改正論を取り上げます。学生各自が履修後には独自の解釈論を展開して論証できる能力と、法改正論を含めた法制度を論じられる能力を身につけます。
●法学部生、他学部生とも、必ず人生で1度は深く考える「婚姻」や「夫婦別氏」、そして日本で比率がどんどん高まっている「離婚」を含む「民法・親族法」の諸問題などを、法学が必ずしも身近ではないであろう他学部生にも解りやすく解説し、学生は教師と一緒に「対話」をしながら考えていきます。
●「何を学ぶか」つまり授業の目的のキーワード：解釈・対話・親族法と法改正、そして「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）。正しい答は一つではない。」
●学生同士のグループディスカッションにより、教科書の論点についての疑問点・解釈の情報を交換し、相互に知的刺激を与えることで、「独自の考察」を行い、教員を含む授業全員でさらに議論を重ねて、親族法およびその中の個別条文・制度・判例・諸学説・新説の理解を深めることも目的です。

【到達目標】
●学生は、学説や判例を覚えるだけではなく、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」ことにより、親族法の説得的な解釈論を法的根拠を明示した上で展開できる能力を身につけます。
●また21世紀に民法の第3編「債権法」と第5編「相続法」の大改正が行われました。第1編の「総則」も部分的に改正されています。こうした「民法大改正」のうねりの中で、本授業で扱う第4編「親族法」も去年2024年4月から改正・施行されたのが、≪女性のみの再婚禁止期間をついに撤廃した改正民法≫です。さらに同じ2024年には国会で≪離婚後の嫡出子、そして父に認知された嫡出でない子、双方について：旧来の単独親権に加えて、共同親権も選択肢とする≫民法（親族法）の新改正が行われました（近々、施行されます）。
●こうした親族法の激動の中で、さらにどのような親族法改正が必須かも学び、考えます。本科目では「夫婦別姓」・「同性婚」も含めて、憲法との関連で学生と教員がともに考察を深めます。
以上を含めて、「民法、その中でも『親族編』すなわち親族法の諸問題を、独自の思考で考察し、法制度として論じ、根拠を明示した上で論述する能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
【成績評価の方法と基準】も参照すること：
●講義・解説形式に加えて講義内容の質疑応答（ディスカッション）形式を取ります。教室で、そして学習支援システム上の「掲示板」を用いた学生の自由な発言・質問が必須です。
●学生は、学期中に毎回、学習支援システム上の「掲示板」にリアクションペーパー提出の方法で、独自の考察に加えて、授業への質問・感想・批判などを書き、提出します（匿名・ペンネームの可否などについては初回の授業で詳しく説明します）。次回の授業でこれを教員が発表し、質問には応え、その他にはコメントします。
●リアクションペーパー提出の方法については【成績評価の方法と基準】も参照してください。
●学生は、指定された教科書の箇所を、次回の授業までに必ず予習します。
●学生は、法の解釈を学ぶには、一に適用できる条文の有無の確認、二に判例、三に学説を参照し、教師との対話を通して独自の説を建てる姿勢が大切です。法解釈でも、人生でも、正しい答は一つではありません。
●学生皆さんが生きていく21世紀の日本では、国内外、実務・生活、どこでも、他文化との接触に際し、紛争解決の手段としての「法」は、必要不可欠です。
●学生の皆さんが授業で学ぶ民法の「親族法」が、ただの「教室での勉強」に終わらず、卒業後の実務や生活でも役立つように、教員が工夫して授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション・民法立法過程（1）	開講にあたって、シラバスの説明も含めて、この授業で学ぶこと及び教科書や成績評価方法などの確認＆質疑応答
第2回	民法立法過程（2）・家族法概論	現行民法改正過程（主に1946-47年）に関する解説＆ディスカッション
第3回	婚姻法（1）成立要件	民法中の婚姻、特に婚姻の成立要件に関する解説＆ディスカッション
第4回	婚姻法（2）夫婦財産制度	民法中の婚姻、夫婦財産制度に関する解説＆ディスカッション
第5回	離婚法（1）成立要件	民法中の離婚、特に離婚の成立要件に関する解説＆ディスカッション
第6回	離婚法（2）財産分与	民法中の離婚、特に離婚の際の財産分与に関する解説＆ディスカッション
第7回	婚外関係の法的処理	旧くは判例で「内縁」、現在社会では「事実婚」と呼ばれる（法律婚では無い）関係の保護に関する解説＆ディスカッション
第8回	実親子関係の発生（1）：嫡出推定制度	法的夫婦間にできた子どもの法的地位の発生に関する解説＆ディスカッション
第9回	実親子関係の発生（2）：認知制度	法的婚姻関係に無い女性・男性の間の子どもの法的地位の発生に関する解説＆ディスカッション
第10回	実親子関係の発生（3）：人工生殖	不妊治療や､そうではない人工生殖により出生した子の実親子関係の発生に関する解説＆ディスカッション
第11回	養親子関係；子の親権；扶養	養親子関係、特に「特別養子縁組」、および子全般の親権、親子や夫婦の間の扶養に関する解説＆ディスカッション
第12回	親族法中の新たな論点(1)	教科書にもまだ掲載の無い、親族法中の幾つかの新たな問題・論点を考察する解説＆ディスカッション
第13回	親族法中の新たな論点(2)	教科書に掲載の無い、親族法中の民法改正に関する幾つかの新たな問題・論点を考察する解説＆ディスカッション
第14回	本授業の総括	本授業「親族法」の「到達目標」に達したかを、毎回の授業の解説・ディスカッションとその評価を振り返って総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
●学生は、各回に必ず教科書の予習箇所を指定するので、各自自宅で予習をすること。
●学生は、授業で扱った教科書の箇所と授業内容を必ず復習すること。
●準備（予習）・復習時間は、1回の授業につき各々2時間（合計4時間）である。

【テキスト（教科書）】
教科書は以下を使用する【秋学期の「相続法」でも同一の教科書を使用する】：
高橋朋子・床谷文雄・棚村政行『民法7　親族・相続』第7版 2023年刊 有斐閣アルマ ￥2,500+税

【参考書】
必要に応じて指示する。【購入は必須では無い。】

【成績評価の方法と基準】
【予定】：新・学習支援システム(lms2025；以下同様)の機能に従い、初回授業で詳しく説明する。
［1］平常点【配点100点】：【授業計画】の各回も参照。
以下の詳細は初回の授業で指示する：
各回の授業テーマの教員による解説の後、教室の履修者/授業参加者を数グループに分け、事前に学習支援システムでの「お知らせ」等で告知したテーマ（法的課題・論点)について、教室でグループディスカッションを行い、各グループから議論の内容を発表してもらう。その結果を踏まえ、授業の最後に充分な時間を取り、各自が今度は独自に深めた考察で、テーマを論じる「ミニ課題（長めのリアクションペーパー）」を書いて提出する。以上全体を、授業1回につき、0～10点で評価する。
【5回以上、教室での授業に欠席した者は、単位を与えない。】
各回の授業で：
【例a】評価が高い9点を毎回取得　⇒10回授業に参加⇒90点⇒成績S
【例b】評価が低い5点を毎回取得⇒全14回授業に参加⇒70点⇒成績B-
【例c】評価が中程度の平均6点取得⇒10回授業に参加⇒60点⇒成績C-
【例d】評価が低い5点を毎回取得　⇒10回授業に参加⇒50点⇒成績D
病気その他やむを得ない事情で欠席した学生などの例外は初回の授業で詳しく説明する。
［2］期末試験・レポートは無い。その代わりに、［1］の教室での授業参加に基づく平常点評価を厳密に行うので、単位取得予定者は十分に注意すること。
●春学期を通じて、グループディスカッションとその内容の発表、その内容を踏まえたリアクションペーパーの内容では、到達目標である：
1）親族法の学説や判例を覚えるだけではなく、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、「独自の思考で考察する（自分の頭で考える)」ことにより、親族法の説得的な解釈論を法的根拠を明示した上で展開できる能力
2) 親族法の改正論を含む諸問題を、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、独自の思考で考察し、法制度として論じ、根拠を明示した上で論述する能力
以上2点を身につけたかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】
●質問をしやすい環境をより良く整備します。
●授業のスピードを速くしすぎず、ゆったりしたテンポで、学生がフォローし、ついていきやすいように工夫します。
●【動画教材】「目からも学ぶ」ことを重視し、ビデオ、DVD、ブルーレイ、ネット上の内容・質の良い動画などの教材を多用する予定です。
●時々、【教科書】にもないが、法解釈や、民法・法学・法そのものの理解に役に立つ「手がかり」を挿入し、授業に参加しやすくします。

【学生が準備すべき機器他】
電子機器として、最低限、スマートフォンは毎回教室に持参すること（パソコン持参が可能な学生は持参を勧める)。

【その他の重要事項】
●「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して、日本民法の特徴を踏まえた「親族法」を、実務の観点からもこの授業で取り上げます。
●法学部以外の学生も、3-4年生はどなたでも履修ができます。
「親族法」履修以前の、他の法律科目の履修も必要ありません。
●法学部法律学科の学生は、民法の「総則」「物権」「債権」をなるべく履修していることが望まれます。義務ではありません。
●法学部政治学科・国際政治学科の学生も、他の民法科目を事前に履修する必要はありません。しかし、この「親族法」では「法学を学ぶ」という姿勢をしっかり持って下さい。
●全学部生に、秋学期の「相続法」との合わせての履修を、強く勧めます。義務ではありません。

【Outline (in English)】
【Course outline】：To learn the Japanese Family Law, the fourth book of the Japanese Civil Code.
【Learning Objectives】：To learn, to think on your own, and further to express your own interpretations of Articles of and court precedents on Family Law and of and on current issues of institutions set forth therein, all showing your reasoning.
【Learning activities outside of classroom】: Read the class material in advance and as review, taking 2 hours each, making the activity 4 hours per a weekly class.
【Grading Criteria/Policy】: Class participation for 50/100 points. Final exam for 50/100 points.

LAW300AB（法学 / law 300）

相続法

和田　幹彦

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
★この科目は「他学部公開科目」でもあり、どの学部の学生でも3-4年生は履修できます。
●この科目は「裁判と法」「行政・公共政策と法」「企業・経営と法（労働法中心）」「国際社会と法」および「文化・社会と法」の各コースに属します。
【授業の概要と目的】：
●民法典の「第5編　相続」の法解釈と、法改正を含む法制度論を取り上げます。学生各自が履修後には独自の解釈論を展開して論証できる能力と、法改正を含む法制度論を論じられる能力を身につけます。
●法学部生、他学部生とも、必ず人生で1度は深く考える「相続」の諸問題などを、法学が必ずしも身近ではないであろう他学部生にも解りやすく解説し、学生は教師と一緒に「対話」をしながら考えていきます。
●「何を学ぶか」つまり授業の目的のキーワード：解釈・対話・相続法と法改正、そして「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）。正しい答は一つではない。」
●学生同士のグループディスカッションにより、教科書の論点についての疑問点・解釈の情報を交換し、相互に知的刺激を与えることで、「独自の考察」を行い、教員を含む授業全員でさらに議論を重ねて、相続法およびその中の個別条文・制度・判例・諸学説・新説の理解を深めることも目的です。

【到達目標】
●学生は、学説や判例を覚えるだけではなく、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、「独自の思考による考察（自分の頭で考えること）」により、相続法の説得的な解釈論を法的根拠を明示した上で展開できる能力を身につけます。
●また21世紀に入って、同じ民法の第3編「債権法」の大改正が、まさに行われました。それに伴い、第1編の「総則」も　部分的に改正されています。並行して、第4編「親族法」でも昨年2024年中には、改正民法が施行され、さらに国会では新たな改正が議決されました（近々、施行されます）。
　こうした「民法大改正」の一環として、第5編「相続法」にも2018年に国会で大きな改正が行われ、すでに施行されていることを学びます。
そこで、どのような相続法改正がなされたかと合わせて、さらに「民法、その中でも『相続編』の諸問題を、独自の思考で考察し（自分の頭で考え）、今後必要となるであろう法改正論も含めて法制度論を論じ、根拠を明示した上で論述する能力」を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
【成績評価の方法と基準】も参照すること：
●講義・解説形式に加えて講義内容の質疑応答（ディスカッション）形式を取ります。教室で、そして学習支援システム上の「掲示板」を用いた学生の自由な発言・質問が必須です。
●学生は、学期中に毎回、学習支援システム上の「掲示板」にリアクションペーパー提出の方法で、独自の考察に加えて、授業への質問・感想・批判などを書き、提出します（匿名・ペンネームの可否などについては初回の授業で詳しく説明します）。次回の授業でこれを教員が発表し、質問には応え、その他にはコメントします。
●リアクションペーパー提出の方法については【成績評価の方法と基準】も参照してください。
●学生は、指定された教科書の箇所を、次回の授業までに必ず予習します。
●学生は、法の解釈を学ぶには、一に適用できる条文の有無の確認、二に判例、三に学説を参照し、教師との対話を通して独自の説を建てる姿勢が大切です。法解釈でも、人生でも、正しい答は一つではありません。
●学生皆さんが生きていく21世紀の日本では、国内外、実務・生活、どこでも、他文化との接触に際し、紛争解決の手段としての「法」は、必要不可欠です。
●学生の皆さんが授業で学ぶ民法の「相続法」が、ただの「教室での勉強」に終わらず、卒業後の実務や生活でも役立つように、教員が工夫して授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	全体的な授業計画	開講にあたって、シラバスの説明も含めて、この授業で学ぶこと及び教科書や成績評価方法などの確認＆質疑応答
第2回	相続法総論	相続法総則 相続の開始　法定相続と遺言相続　相続回復請求権：相続法改正要点と今後の改正の展望の解説＆ディスカッション
第3回	相続人（1）	1．胎児と相続 2．相続人の範囲 の解説＆ディスカッション
第4回	相続人（2）	3．相続権の喪失・相続欠格と廃除 4．同時死亡の推定 の解説＆ディスカッション
第5回	相続の効力(1)	1．相続財産の範囲 2．法定相続分 の解説＆ディスカッション
第6回	相続の効力（2）	3．指定相続分 4．具体的相続分・特別受益、寄与分 の解説＆ディスカッション
第7回	遺産分割	1．遺産の共有 2．分割協議と利益相反 3．分割の効力 4．遺産分割の指定または禁止 の解説＆ディスカッション
第8回	相続の承認・放棄、財産分離、相続人の不存在	1．相続の承認と放棄 2．相続財産の分離 3．相続人の不存在 の解説＆ディスカッション
第9回	遺言	1．遺言の要式性 2．遺言能力 3．共同遺言の禁止 4．普通方式遺言と特別方式遺言 の解説＆ディスカッション
第10回	遺言の効力	1．効力発生時期 2．公序良俗違反の内容を含む遺言の効力 3．遺贈 4．遺言の執行 5．遺言の撤回 ＆質疑応答
第11回	遺留分	1．遺留分制度の趣旨 2．遺留分権利者の範囲と遺留分の分割 3．遺留分算定の基礎になる財産 4．遺留分侵害額請求権 5．遺留分の放棄 の解説＆ディスカッション

第12回	相続法中の新たな論点(1)	教科書にもまだ掲載の無い、相続法中の幾つかの新たな問題・論点を考察する解説＆ディスカッション
第13回	相続法中の新たな論点(2)	教科書に掲載の無い、相続法中の民法改正に関する幾つかの新たな問題・論点を考察する解説＆ディスカッション
第14回	本授業の総括	本授業「相続法」の「到達目標」に達したかを、毎回の授業の解説・ディスカッションとその評価を振り返って総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
●学生は、各回に必ず教科書の予習箇所を指定するので、各自自宅で予習をすること。
●学生は、授業で扱った教科書の箇所と授業内容を必ず復習すること。
●準備（予習）・復習時間は、1回の授業につき各々2時間（合計4時間）である。

【テキスト（教科書）】
教科書は以下を使用する【春学期の「親族法」と同一の教科書を使用する】：
高橋朋子・床谷文雄・棚村政行『民法7　親族・相続』第7版 2023年刊 有斐閣アルマ ￥2,500+税

【参考書】
必要に応じて指示する。【購入は必須ではありません。】

【成績評価の方法と基準】
【予定】：新・学習支援システム(lms2025；以下同様)の機能に従い、初回授業で詳しく説明する。
[1] 平常点【配点100点】：【授業計画】の各回も参照。
以下の詳細は初回の授業で指示する：
各回の授業テーマの教員による解説の後、教室の履修者/授業参加者を数グループに分け、事前に学習支援システムでの「お知らせ」等で告知したテーマ（法的課題・論点)について、教室でグループディスカッションを行い、各グループから議論の内容を発表してもらう。その結果を踏まえ、授業の最後に充分な時間を取り、各自が今度は独自に深めた考察で、テーマを論じる「ミニ課題（長めのリアクションペーパー）」を書いて提出する。以上全体を、授業1回につき、0～10点で評価する。
【5回以上、教室での授業に欠席した者は、単位を与えない。】
各回の授業で：
【例a】評価が高い9点を毎回取得　⇒10回授業に参加⇒90点⇒成績S
【例b】評価が低い5点を毎回取得⇒全14回授業に参加⇒70点⇒成績B-
【例c】評価が中程度の平均6点取得⇒10回授業に参加⇒60点⇒成績C-
【例d】評価が低い5点を毎回取得　⇒10回授業に参加⇒50点⇒成績D
病気その他やむを得ない事情で欠席した学生などの例外は初回の授業で詳しく説明する。
[2] 期末試験・レポートは無い。その代わりに、[1] の教室での授業参加に基づく平常点評価を厳密に行うので、端取得予定者は十分に注意すること。
●秋学期を通じて、グループディスカッションとその内容の発表、その内容を踏まえたリアクションペーパーの内容では、到達目標である：
1）相続法の学説や判例を覚えるだけではなく、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」ことにより、相続法の説得的な解釈論を法的根拠を明示した上で展開できる能力
2) 相続法の改正論を含む諸問題を、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、独自の思考で考察し、法制度として論じ、根拠を明示した上で論述する能力
以上2点を身につけたかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】
●質問をしやすい環境をより良く整備します。
●授業のスピードを速くしすぎず、ゆったりしたテンポで、学生がフォローし、ついていきやすいように工夫します。
●【動画教材】「目からも学ぶ」ことを重視し、ビデオ、DVD、ブルーレイ、ネット上の内容・質の良い動画などの教材を多用する予定です。
●時々、【教科書】にもないが、法解釈や、民法・法学・法そのものの理解に役に立つ「手がかり」を挿入し、授業に参加しやすくします。

【学生が準備すべき機器他】
電子機器として、最低限、スマートフォンは毎回教室に持参すること（パソコン持参が可能な学生は持参を勧める）。

【その他の重要事項】
●「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して財産法とも関連の深い相続法を、実務の観点からもこの授業で取り上げます。
●法学部以外の学生も、3-4年生はどなたでも履修ができます。
「相続法」履修以前の、他の法律科目の履修も必要ありません。
●法学部法律学科の学生は、民法の「総則」「物権」「債権」「親族」をなるべく履修していることが望まれます。義務ではありません。
●法学部政治学科・国際政治学科の学生は、他の民法科目を事前に履修する必要はありません。しかし、この「相続法」では「法学を学ぶ」という姿勢をしっかり持って下さい。
●全学部生に、春学期の「親族法」との合わせての履修を、強く勧めます。義務ではありません。

【Outline (in English)】
【Course outline】：To learn the Japanese Law of Inheritance (Inheritance Law), the fifth book of the Japanese Civil Code.
【Learning Objectives】：To learn, to think on your own, and further to express your own interpretations of Articles of and court precedents on Inheritance Law and of and on current issues of institutions set forth therein, all showing your reasoning.
【Learning activities outside of classroom】: Read the class material in advance and as review, taking 2 hours each, making the activity 4 hours per a weekly class.
【Grading Criteria/Policy】: Class participation for 50/100 points. Final exam for 50/100 points.

LAW300AB（法学 / law 300）

労働法特論

細川　良

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この講義では、労働法のうち、非正規労働者に関する法（労働契約法のうち有期契約労働者に関する部分、パートタイム労働法など）、労働市場に関する法（職業安定法、労働者派遣法など）、高齢者雇用・障害者雇用に関する法を扱う。
　法律学科の「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目である。また「企業・経営と法（商法中心）」「文化・社会と法」を除くすべてのコースで履修が推奨されている。

【到達目標】
１．授業の概要で示した法領域における基本的な制度の概要、およびそこで生じている法的な議論や紛争の論点がどのようなものであるかについて理解できる。
２．授業の概要で示した法領域における制度の詳細や、関連する政策についての歴史的な変遷、およびそこで生じている法的な議論における一般的・通説的な理解を把握し、基本的な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト〈上級〉コースレベル）に解答できるようになる。
３．授業の概要で示した法領域における制度、関連する政策をめぐって生じている法的な議論状況を整理し、関連する裁判例を理解し、事例問題（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。
４．１～３で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認してください※
・本講義は、対面授業とします。
※状況によって、オンライン授業またはハイフレックス授業を併用する場合があります。オンライン授業またはハイフレックス授業となった場合は、ZoomまたはWebexを使用します。
・授業の進め方の説明については、第1回ガイダンスで行います。ガイダンスの受講方法については、学習支援システム「HOPPII」で確認してください（シラバス執筆時点（2024年2月）では、第1回のガイダンスは、オンラインで配信する予定です）。
・授業計画に記されている予定は、あくまでも「予定」です。変更が生じることがあり得ることに留意してください。
・講義は、PowerPointを用いながら講義形式で授業を進める予定です。
・授業に関する質問等については、原則として、授業終了後にて対応し、その場でフィードバックします。学習支援システムを通じた質問については、全てに対応できない場合や、複数の同趣旨の質問に対して、まとめて解答する場合があります。個別に確実に対応がほしい場合は、授業終了後の時間を利用してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義内容や評価方法の説明。労働法の全体像の説明。労働法特論の労働法における位置付けの説明。
第2回	女性・年少者の保護	女性・年少者の保護のカタログについて学習する。
第3回	性差別の禁止（１）	男女同一賃金原則について学ぶ。
第4回	性差別の禁止（２）	均等法の制定と発展について学ぶ。
第5回	ハラスメント	職場における様々な形態のハラスメントについて学ぶ。
第6回	育児介護休業法	育児介護休業法上の諸制度について理解する。
第7回	有期雇用労働者・パート労働者（１）	有期契約労働者に関する保護策について学習する。
第8回	有期雇用労働者・パート労働者（２）	均衡・均等処遇を中心にパート有期法について学習する。
第9回	派遣労働者（１）	労働者派遣の歴史について学ぶ。労働者派遣の基本的枠組みを理解する。
第10回	派遣労働者（２）	派遣元事業主と派遣先事業主が講じるべき措置等ついて学習する。
第11回	高年齢者	高年齢者の雇用の安定に関する措置について学ぶ。
第12回	障害者	障害者権利条約の批准と障害者雇用促進法の改正点について学習する。
第13回	外国人労働	外国人労働者の就労と関連する法制度、法政策について学習する。
第14回	まとめ	本講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事前に配布するレジュメ、資料を熟読のうえ受講すること。
・労働関係、労働法に関心を持ち、日頃から新聞、雑誌などの記事を読んでおくこと。法改正の動向は厚生労働省のホームページなどで随時確認すること。
・関連科目である労働契約法、労働基準法について、履修前に自学しておくこと。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
・授業時間中における進行速度などによっては、講義内容を補完するための動画を配信し、視聴してもらう場合があります。

【テキスト（教科書）】
・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）
・プリント教材

【参考書】
・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014年、有斐閣）
・別冊ジュリスト『労働判例百選（第10版）』（2022年、有斐閣）
＊その他、労働法を学習するための基本的な文献については、初回の講義で解説します。また、各回の授業内容に関連する文献や論文等を適宜紹介したいと思います。

【成績評価の方法と基準】
試験（100点）
・期末試験として1回実施。択一式問題、説明問題、論述形式の問題（事例問題）を組み合わせて出題する予定です。変更がある場合には、授業時間中に説明します。
・単位認定の基準は、本講義において求められる最低限の到達目標がクリアできているか否かで判断します。そのうえで、成績評価の基準としては、講義内容の全体にわたっての理解度、およびより深い内容の理解ができているか（より高い到達目標に達しているか）によって振り分けられることになります。

【学生の意見等からの気づき】
本年度担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
・オンラインあるいはハイフレックス授業（オンラインで参加する場合）の場合は、インターネットに接続できる環境とZoomないしWebexを利用可能な端末。
・レジュメ等はPDFデータで提供するため、データを保存・表示可能な端末。

【その他の重要事項】
・「労働法総論・労働契約法」、「労働基準法」を履修していることが望ましい。

・同時に、「社会政策」、「雇用・福祉政策」を履修するとより理解を深めることができる。
【実務経験のある教員による授業】
講義担当者は、厚生労働省所管のシンクタンク（独立行政法人　労働政策研究・研修機構）で研究員として勤務しており、労働政策立案に関する調査・研究および厚労省における委員会・検討会での報告、政策立案担当者に対するレクチャーなどに従事していました。本講義においても、こうした経験を生かして、法制度の立法および運用に関する背景や経緯についても解説したいと思います。

【Outline (in English)】
1. Course Outline
The objective of this course is to lecture on development subjects of Japanese Labor Law.
The outline is as follows:
－1. A law on non-regular workers;
－2. The Law of the Labor Market;
－3. A law on Employment of the Elderly;
－4. A law on Employment of Persons with Disabilities.
2. Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
－A. Understand the legal domain shown in the "Class Outline" above and the related case law.
－B. You will be able to answer basic questions about the legal domain and related case law and slightly more difficult questions (work rule test /legal test advanced < advanced > course level) shown in the above "Outline of class".
－C. You can answer the case questions (simplified bar examination questions) related to the legal domain and related judicial doctrine shown in the above "Outline of Class" in sentences.
－D. With the knowledge acquired in A to C, you will be able to actively participate in the developmental problems of labor relations with a legal mind.
3. Learning Activities Outside of Classroom
Lecture/Exercise（two-credits）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
4.Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
－Term-end examination: 100%

LAW300AB（法学 / law 300）

国際組織法

菅野　直之

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際組織のうち政府間組織に関する法制度（国際（公）法分野）を中心に取り上げる。まず国際組織に関する法制度の基本的な考え方について学び（総論）、どのような特色があり、どのように機能しているか理解する。その後、具体的な国際組織の活動と法的課題について取り上げて問題解決を考える。この科目は「行政・公共政策と法コース」と「国際社会と法コース」に属している。

【到達目標】
国際組織に関する法制度の基本構造（基本的考え方、法規範の原則と例外、手続や制度など）について基礎的な知識を修得する。
その上で、国際組織が関わる法的課題の実際について、関連条約や先例から基本的な判断枠組を理解して適切に説明ができる。
具体的には、授業の後半で取り上げる具体的分野（「グローバル経済」「地球環境」「安全保障」「個人の保護」など）について、授業の前半で学ぶ「国際組織の法的地位」「国際組織と加盟国との関係」などの観点から、関連条約の条文や事例などに基づいて整理して適切に説明でき、その課題について指摘できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
下記【授業計画】に示す項目について、授業については原則として教員が解説を行う講義方式で実施し、関連する条約の条文や国際組織による文書、事例などを参照しながら基本構造について教員が解説する。各授業回の資料は、学習支援システム等によって事前に配布することを予定している。理解度チェックの小テストによって知識修得状況を確認する。
受講人数等に応じて授業における口頭質疑または授業後のリアクションペーパーによって学生の理解状況を確認しながら進める。フィードバックは原則として授業での解説に取り入れる形で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	科目全体の内容、授業の進め方と注意事項の確認をして、国際組織法の射程について取り上げる。
2	国際組織の萌芽	主権国家を中心とした国際社会の構造の中から誕生した国際組織の萌芽的形態について学ぶ。
3	国際組織の発展	国際組織の歴史的な発展について国際聯盟期～第二次世界大戦後の国際連合体制について学ぶ。
4	国際法と国際組織法	国際法全体の体系の中で国際組織に関する法制度がどのように位置づけられるのか確認する。
5	国際組織の設立・活動・解散	国際組織を設立するための設立条約について取り上げ、国際組織の設立・活動・解散について学ぶ。
6	国際組織の法的地位	国際法・国内法の観点から、国際組織の法的地位（法主体性、法人格、特権・免除など）について学ぶ。
7	国際組織と加盟国	国際組織と加盟国との関係について、加盟国の地位の変動、加盟国の権利・義務などについて学ぶ。
8	国際組織の内部構造	国際組織の一般的な組織構造を確認して、意思決定手続きなどについて学ぶ。
9	国際組織と海洋法	国際組織による海洋資源・海洋環境の保護・保全の仕組みについて学ぶ。
10	国連による安全保障・平和維持活動	国際組織による具体的活動として、国連による安全保障と平和維持活動について学ぶ。
11	グローバル経済と国際組織	グローバル経済体制における国際組織の役割や活動についてWTOを中心に取り上げる。
12	国際組織による地球環境問題対策	気候変動など地球環境問題における国際組織の機能について特徴と課題を学ぶ。
13	国際組織による個人の保護	難民保護、人権保障、公衆衛生など個人が関わる問題について国際組織が果たす役割と課題について学ぶ。
14	国際組織の役割と課題	科目全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自が、到達目標の達成に必要と考える内容の授業時間外の学習を行う必要がある。本科目の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。ただし学習時間については個人差があることに留意が必要である。また期末試験のための復習などに重点的に配分することもできる。参考例としては、準備学習としては、教科書・参考書・参考資料の関連分野に目を通してわからない部分を把握する。復習としては、教科書、配布資料と自分で作成したノートを見直し整理する。
その他、授業において個別の課題を指示する場合がある。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しない（下記の参考書のなかから1冊手元において授業内容を確認しながら受講することが望ましい）

【参考書】
横田洋三（監修）『入門　国際機構』法律文化社（2016年）
佐藤哲夫『国際組織法』有斐閣（2005年）
家正治（編・著）『講義国際組織入門』不磨書房（2003年）
庄司克宏『国際機構　新版』岩波書店（2021年）
山田哲也『国際機構論入門』（第2版）東京大学出版会（2023年）
他の国際法科目を受講している場合、そのテキスト等も活用すること。個別の参考資料については授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
理解度チェック小テスト（20％）、期末試験（国際組織法の現状・課題に関する論述型筆記試験またはレポート課題）（80％）により評価する。
期末試験（論述型筆記試験またはレポート課題）の評価基準は、出題の意図を正しく捉えて、正確な知識に基づいて論理的に私見を述べているもの（単なる意見や感想は不可）を単位修得の水準として、論じている視点・論点の豊富さ、記述内容の正確さ、論拠の説得力、他の法制度との比較の巧みさなどにより加点し、文章の稚拙さ、余計な表現・表記や誤字・脱字などは減点する。
以上を基本的な評価方法・基準としたうえで、授業への能動的な参加（積極的な質問等）および各授業回のリアクションペーパーを加点要素とする。

【学生の意見等からの気づき】
具体的事例を取り上げて、法規範の理解を深める内容にする予定である。大枠は、上記授業計画に従って行うが、受講者数、受講者の希望等に応じて調整する。また細かな知識の修得も重要であるが、基本的な考え方の修得を重視する。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム等を活用して資料配布や連絡指示などを行うため、対応した情報機器（パソコン等）および通信環境をできるだけ整備してほしい。

【その他の重要事項】
【実務経験のある教員による授業】
外務省において外交交渉に関わった経験をもとに、実務における国際法の意義にも触れつつ授業を行う。

【Outline (in English)】
This course serves as an introduction to fundamental principles governing the law of International Organizations (Inter-Governmental Organizations) for enrolled students.
The primary objective of this course is to provide students with a foundational understanding of international organizational law, enabling them to articulate and analyze contemporary issues in the field.
Students are expected to diligently complete assigned course-work following each class session. A minimum of four hours of study time per class is recommended.
Final grades will be determined based on the following criteria: mini-tests administered via the Learning Management System (20%), a comprehensive term-end examination or report (80%), and active participation in class discussions (additional points).

LAW300AB（法学 / law 300）

国際刑事法

菅野　直之

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、国際法の一分野である国際刑事法の基本構造を理解し、国際刑事法に関する基礎的な知識を修得することを目的とする。特に、主として国家間関係を規律する法である国際法体系において、個人がいかなる法的地位を有し得るかという点について、国際犯罪の処罰という観点から理解することを目指す。この科目は「国際社会と法コース」に属している。

【到達目標】
（1）ニュルンベルク裁判から国際刑事裁判所（ICC）にいたる国際社会における個人の処罰の歴史を理解する。
（2）国際犯罪の基本的な類型について学び、その処罰の枠組みについて理解する。
①コア・クライムと称される国際社会における最も重大な犯罪（ジェノサイド、戦争犯罪、人道に対する犯罪、侵略犯罪）について概要を確認したうえで、国際的な刑事裁判所（ICTY, ICTR, ICC）の基本構造および活動について学ぶ。またシエラレオネやカンボジアなどに設置された国際混合法廷についても、設置の経緯や活動内容等を理解する。
②国際テロリズム、海賊行為、その他の国際犯罪（例として薬物犯罪、金融犯罪）などの概要を確認し、これらの処罰の法的構造についても理解する。
（3）上記（1）、（2）をもとに、国際刑事法に関わる国際社会の今日的問題について考察し、自らの言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式とする（原則として対面にて実施予定）。
授業の具体的な進め方などに関する詳細は、初回の授業において説明する。
課題等に対しては、以下の方法でフィードバックを行う。
・リアクションペーパー：授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフォードバックを行う。
・小テスト：授業の初めに前回の授業で課された小テストに関する解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画の概要説明、参考文献紹介、成績評価に関する説明
第2回	国際刑事法とは	国際刑事法の発展・特色
第3回	国際社会における個人の処罰の歴史	戦間期の動き、ニュルンベルク裁判から国際刑事裁判所（ICC）設立まで
第4回	国際犯罪の種類	国際犯罪の3類型
第5回	国際刑事司法協力	犯罪人引渡制度の概要、意義
第6回	海賊行為と海上犯罪	海賊行為とその他の海上犯罪規制の歴史と現状
第7回	国際テロリズム（1）	テロリズムの定義、テロリズム防止関連諸条約の概要
第8回	国際テロリズム（2）	テロリズムの処罰方式の特徴、現代のテロリズムへの対処枠組み
第9回	その他の国際犯罪	薬物犯罪、金融犯罪など
第10回	国際裁判所における個人の処罰（1）	旧ユーゴ国際刑事裁判所（ICTY)、ルワンダ国際刑事裁判所（ICTR)
第11回	国際裁判所における個人の処罰（2）	国際刑事裁判所（ICC）：設立経緯、対象犯罪、管轄権行使の要件など
第12回	国際裁判所における個人の処罰（3）	国際刑事裁判所（ICC（続き））：裁判例、ICCの課題など
第13回	その他の訴追方法	国際混合法廷（カンボジア、シエラレオネなど）
第14回	まとめと解説	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：授業に関連する資料を事前に配布する場合があるので、それを十分に読んだうえで授業に臨む。
復習：各回の授業後に、講義内容についてノートを見つつ十分に復習する。
本授業の準備学習・復習時間は、1回につき、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
条約集を準備すること。岩沢雄司ほか編『国際条約集 2025年版』（有斐閣、2025年）を推奨するが、これ以外のものでも可。出版年度は最近のものであれば、2025年版でなくとも構わない。

【参考書】
開講時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
筆記試験（1回）（80％）。
授業内容に関する課題（小テスト（短答式クイズ）、リアクションペーパーなど）（20％）
詳細は初回の授業において説明する。

【学生の意見等からの気づき】
講義内容に関連する参考資料などを配布するが、受講者はノートを取り、講義内容についてその都度復習することが重要である。

【その他の重要事項】
【実務経験のある教員による授業】
外務省において外交交渉に関わった経験をもとに、実務における国際法の意義にも触れつつ授業を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
The objective of this course is to understand the basic structure of International Criminal Law. Through this course, students will learn and understand the legal status of individuals in International Law which is the set of rules among nations.
Learning Objectives:
At the end of the course, students are expected to understand and explain the historical evolution of international crimes and international criminal tribunals, principle of individual criminal responsibility, and legal structure of punishment of individuals who are responsible for international crimes, such as genocide, war crimes, crime against humanity, international terrorism and piracy.
Learning activities outside classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to spend each two hours to understand the course content.
Grading Criteria:
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 80%, quizzes and reaction papers: 20%

LAW300AB（法学 / law 300）

社会安全政策論Ⅰ

梶原　田鶴、久米　一郎

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
犯罪等の人の行為に起因する危険から個人や社会を守るためには、誰がどのような行動をとればよいのでしょうか。本講義では、現実社会で問題となっている各種の治安事象について説明しつつ、それに対する各方面からの取組を紹介します。講義や議論を通じて、犯罪の発生状況や犯罪対策について正確に理解するとともに、社会を担う一員として、社会の安全安心についての考え方を確立することを目指します。

【到達目標】
人は常に犯罪の危険にさらされています。よって、この講義により、犯罪リスク、逸脱行動への対処の仕方を学びます。
また、人は犯罪を抑止することができます。この講義を受けることで、皆さんが社会の構成員として担うべき役割、責務を学び、安全な社会を作るプレーヤーとしての能力を養うことを目指します。
その他、近年の我が国における治安情勢についての理解を深め、効果的かつ均衡のとれた政策の在り方について考察する素養を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
グラフや画像を活用した分かりやすい資料を講師が毎回作成し、配布します。
出席した皆さんから講義に関する質問や意見を受け付け、いただいた質問には次回講義で回答します。
講義時間外の質問も可能です。その場合は、メールを原則とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション・総論①(担当:久米一郎)	授業のテーマ、進め方、評価の仕方、警察組織の概要、社会安全政策論の定義等
第2回	総論②(担当:久米一郎)	日本の犯罪情勢に係る統計、”安全”と”安心”の違い、犯罪予防の理論等
第3回	総論③(担当:久米一郎)	捜査の概要、刑事司法手続の概要、捜査の高度化のための取組等
第4回	ストーカー・DV・児童虐待(担当:梶原田鶴)	ストーカー・DV・児童虐待をめぐる現状と対策等
第5回	薬物対策(担当:久米一郎)	薬物の基礎知識、薬物犯罪情勢、対策等
第6回	暴力団対策(担当:久米一郎)	暴力団の現状、資金獲得活動の実態、対策等
第7回	匿名・流動型犯罪グループ対策(担当:久米一郎)	匿名・流動型犯罪グループの現状と対策等
第8回	特別講義(担当:特別講師)	警察実務者による講義
第9回	少年を取り巻く現状と課題(担当:梶原田鶴)	少年非行、少年保護など少年を取り巻く現状と課題等
第10回	テロ対策(担当:特別講師)	国内外のテロ情勢及びテロ対策等
第11回	交通安全対策(担当:梶原田鶴)	交通事故情勢、交通事故防止等の交通安全対策等
第12回	特別講義(担当:特別講師)	警察実務者による講義
第13回	サイバー空間をめぐる脅威への対処(担当:梶原田鶴)	サイバー犯罪の現状と対策等
第14回	犯罪被害者等支援(担当:久米一郎)	被害者等が直面する現実(困難)、被害者等支援施策の概要等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
治安事象に関する報道等に広く関心を持って下さい。
本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
全体を通じて、警察政策学会編『社会安全政策論』立花書房（2018年）、警察白書、犯罪白書等を参考としてください。警察白書は警察庁ウェブサイトに、犯罪白書は法務省ウェブサイトに掲載されていますので、購入せずとも見ることができます。
その他、講義ごとに参考資料を示します。

【成績評価の方法と基準】
授業での学習状況や課題提出状況（ミニレポート・数回程度）等を平常点として評価します。
また、学期末にレポートを提出してもらいます。
成績評価に当たっては、それぞれ50％を配分します。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容について概ね肯定的な評価をいただいたことから、新年度の授業についても、基本的な構成は踏襲しつつ、学生の関心に応えられるよう最新の情勢を反映するなど、さらなる改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
講義で使用する資料は、原則として事前に学習支援システムにアップロードしますので、可能な限り資料を印刷して目を通しておいてください。

【その他の重要事項】
【実務経験のある教員による授業】
講師は警察庁職員であり、警察庁のほか、他省庁や都道府県警察でも勤務した経験を持ちます。講師の知見を活かしつつ、現実社会に即した社会安全政策論について、分かりやすく解説します。
刑法、刑事訴訟法の基礎知識があると理解が平易になります。

【Outline (in English)】
This course, Theory on Social Security Policy, deals with policies for protecting the individual or society from dangers arising from people's behavior, mainly related to crimes. The course provides theoretical understanding of the dramatic improvement of the public safety situation in the recent years. The students can also get some keys to properly handle the risks or other challenges they might face in the future. This course ultimately aims to develop their ability to grasp and analyze various kinds of problems in society, and find out solutions.
(Learning Objectives)
People are always at risk of crime. Therefore, by this lecture, the students will learn how to deal with criminal risks and deviant behavior.
Also, one can deter crime. By taking this lecture, the students will learn the roles and responsibilities they should play as members of society to create safer society. In addition, the course will help the students to deepen the understanding of the security situation in Japan in recent years, and acquire the ability to consider an effective and balanced policy.
(Learning activities outside of classroom)
Please pay attention to media reports on security events.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria/Policy)

The learning situation and degree of participation in class is evaluated as normal points.
The students will also be asked to submit a report at the end of the semester.
50%will be allocated to each grade evaluation.

LAW300AB（法学 / law 300）

法と遺伝学 I

和田　幹彦

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
★この授業は、「他学部公開科目」であり、他学部生も3-4年生ならどなたでも履修できます！
●テーマ：21世紀の遺伝学・医学・細胞学と 法・法学・政策
そこの人！　ハイ、この頁に目をとめたあなたです。ちょっと考えてみて下さい。
【授業の概要】
①デザイナー・チャイルド：ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる「理想的な？」子どもって法的・政策的にアリでしょうか？2018年に中国において現実に誕生したデザイナー・チャイルド3人はどうなったのでしょうか？
②同性婚の法制度が議論されています。それとは別に「同性間の実子」つまり女性2人の遺伝子を、あるいは男性2人の遺伝子を継ぐ子どもってありえるのでしょうか？
③イギリスでは2015年に既に「3人のDNAを受け継ぐ子ども」が法制度上認められました。日本ではどうなっているのでしょうか？
【授業の目的・意義】
以上の中の一つでも関心があれば…これらの問いを解明するのが本授業の目的・意義です。ただ、ちょい待ち…正しい答は一つではない。世界中で誰もこの3つの問に絶対的な答を出した人はいないのです。答は一人一人が「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」のです。論理的に、法学的に。法学部生以外の方も市民の目線で。本授業「法と遺伝学I」の内容は、21世紀の人類社会の構図を決める問題なのです。ならば、遺伝学・医学・細胞学という自然科学の発展を踏まえ、「法と遺伝学」の関係を、法学の専門家だけでなく、市民が自ら考察し、理解を深めましょう。それこそがこの授業の問いかけであり、目的・意義なのです。
★この科目は「文化・社会と法コース」に属します。

【到達目標】
●学生は、21世紀の遺伝学・医学・細胞学の発展の中で、新たな法的問題を発見し、その法的・政策学的・社会的な解決法を、「正しい答えは一つではない」という大前提の下に、「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」能力を身につけます。
●学生同士のグループディスカッションにより、教材中の論点についての疑問・理解の情報を交換し、相互に知的刺激を与えることで、上記の新たな問題について「独自の考察」を行い、教員を含む授業全員でさらに議論を重ねて、新たな解決策を見いだす能力を身につけることも目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
【成績評価の方法と基準】も参照すること：
●講義・解説形式に加えて講義内容の質疑応答（ディスカッション）形式を取ります。教室で、そして学習支援システム上の「掲示板」を用いた学生の自由な発言・質問が必須です。
●法学部生・他学部生の皆さんには馴染みが薄い遺伝学・医学・細胞学の分野を、まず解りやすく解説します。
●学生は、学期中に毎回、学習支援システム上の「掲示板」にリアクションペーパー提出の方法で、独自の考察に加えて、授業への質問・感想・批判などを書き、提出します（匿名・ペンネームの可否などについては初回の授業で詳しく説明します）。次回の授業でこれを教員が発表し、質問には応え、その他にはコメントします。
●リアクションペーパー提出の方法については【成績評価の方法と基準】も参照してください。
●学生は、指定された教材の箇所を、次回の授業までに必ず予習し、後日復習します。
●学生は、法的問題とその解決を学ぶには、教員との対話を通して独自の説を建てる姿勢が大切です。
●授業の進め方の基本方針：「自分の頭で考える：正しい答は一つではない！」日々の生活で実践できる、論理的・法学的思考を訓練します。＜法と遺伝学＞の問題には、いまだに世界中のどこにも「一つの正しい答」はありません。だから「誤った発言」はありえない。安心して自分から議論して下さい。その中で、法学的思考が少しずつ身に付くように、教員が工夫します。発言・掲示板投稿が恥ずかしいという学生も、毎年、皆すぐ慣れて発言・投稿しています。それに「モノ言う能力」は21世紀を生きていく中で必須です！ これこそ国際市場と日本の社会で、今、求められている技能です。
●学生の皆さんが授業で学ぶ「法と遺伝学I」の内容が、ただの「教室での勉強」に終わらず、卒業後の実務や生活でも役立つように、教員が工夫して授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「法と遺伝学」を学ぶに当たっての「遺伝学入門」	テーマに基づく講義＆質疑応答・ビデオ動画教材による遺伝学入門；および最新遺伝学に基づく過去の遺伝学の誤解と現在の理解；さらに21世紀社会を生き抜く我々にとって、特に法学を学ぶ学生にとって、なぜ「遺伝学の基礎的知識」が必須か、そして「法と遺伝学」の学びが必要か、の解説とディスカッション
第2回	デザイナー・チャイルド：ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる「理想的な？」子どもの是非(1)	2001-02年の国際連合の「ヒトクローン禁止条約」の試みで、デザイナーチャイルド問題は、どのように取り上げられていたか？ の解説＆ディスカッション
第3回	デザイナー・チャイルド：ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる「理想的な？」子どもの是非(2)	2003-05年の日本で、デザイナー・チャイルド問題はどのように取り上げられていたか？ を解説した上で(場合によの解説＆ディスカッション
第4回	デザイナー・チャイルド：ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる「理想的な？」子どもの是非(3)	2015-17年の中国における研究で、デザイナー・チャイルド問題は、どのように取り上げられていたか？ そして2018年、ついに中国でも規程違反とされたデザイナー・チャイルドの現実での誕生に世界はどう応じたか？ の解説＆ディスカッション
第5回	デザイナー・チャイルド：ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる「理想的な？」子どもの人権・法的権利	2018年に中国において現実に誕生したデザイナー・チャイルド3人が日本国籍を取得し、日本在住である事例を想定し、子の人権・法的権利、特に「出自を知る権利」、その父・母の「出自を知らせる権利・義務」についての解説＆ディスカッション
第6回	同性間の実子(1)	多くの国で同性婚が立法化され、日本を含む諸国でも立法が検討される中、本授業「法と遺伝学I」は近未来のテーマとして≪同性2者から精子と卵子が細胞学により作成可能となり、同性間の実子誕生があり得る場合≫を想定し、法的・倫理的・社会的問題を考察する。関連するビデオ動画教材も見て、ディスカッションを行う。

第7回	同性間の実子(2)	現時点で既に哺乳類で可能となっている≪同性2者から精子と卵子が細胞学により作成され、同性間の実子が誕生している≫マウス(ネズミ)、試行中のサイ(絶滅危惧種)、政府の委員会でも議論中のヒトの現実を解説する。その法的・倫理的・社会的問題の解説＆ディスカッションについてディスカッション
第8回	同性間の実子(3)	法的に同性婚をした2者の≪遺伝子を受け継いだ子の姿をデジタルアーティストがシミュレーション≫した例(動画)を見て、「人工主体」の観点も交えての解説＆ディスカッション
第9回	「人工主体」と「法と遺伝学」	ブレイン・マシン・インターフェース(Brain Machine Interface; BMI)を超えて、自己・各自の脳の記憶が死後も完全に「人工主体」として保存される「新たな遺伝」の可能性を解説し、その法的・倫理的・社会的問題について解説＆ディスカッション
第10回	3人のDNAを受け継ぐ子ども(1)	2015年2月、イギリスで改正されたこの法律が及ぼした波紋の解説と、ディスカッション；アメリカ・メキシコほかでも、法改正に先行して「3人のDNAを受け継ぐ子ども」が出生した正当性と法的・倫理的・社会的諸問題の解説＆ディスカッション。日本政府の対応も検討する。
第11回	3人のDNAを受け継ぐ子ども(2)	2015年2月、イギリスで改正されたこの法律の模範性の評価の解説と、ディスカッション；アメリカ・メキシコほかで、法改正に先行して「3人のDNAを受け継ぐ子ども」が出生した諸問題、および日本政府の対応の適否について解説＆ディスカッション
第12回	「法と遺伝学I」の新たな論点(1)	教材にもまだ掲載の無い、「法と遺伝学I」に直結する幾つかの新たな問題・論点を考察する解説＆ディスカッション
第13回	「法と遺伝学I」の新たな論点(2)	教材にもまだ掲載の無い、「法と遺伝学I」に直結する幾つかの新たな問題・論点、特に新たな【法・法律の構築・法改正】を考察する解説＆ディスカッション
第14回	本授業の総括	本授業「法と遺伝学I」「到達目標」に達したかを、毎回の授業の解説・ディスカッションとその評価を振り返って総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

●学生は、各回に必ず教科書の予習箇所を指定するので、各自自宅で予習をすること。
●学生は、授業で扱った教科書の箇所と授業内容を必ず復習すること。
●準備（予習）・復習時間は、1回の授業につき各々2時間（合計4時間）である。

【テキスト（教科書）】

●【教科書/教材】必須の教材文献を初回および各回の授業で指示する。教員の和田がネット上のURLを教示、またはPDF化して学習支援システムの「教材」にアップロード・配布する予定。【教材の例】のPDF配布は以下の通り：

★和田幹彦著『法と遺伝学』2005年より、抜粋した教材。
★和田幹彦著「『デザイナー・ベビー』『同性間の実子』再訪：実現性高まる――『ゲノム編集』『男性iPS細胞からの卵子作製』の新技術と法規制・立法の要否：同性婚認容のアメリカ連邦最高裁判決」2015年
★和田幹彦著「３人のDNAを継ぐ子を認める法改正――英国の新『ヒト受精及び胚研究法』」2015年
★ほかに、2020-2025年の「内閣府生命倫理専門調査会」の最新公表資料など
★経塚淳子（監修）『遺伝のしくみ』新星出版社、2021年刊の必要な頁のみ【購入不要】

【参考書】

必要に応じて指示する。【購入は必須では無い。】

【成績評価の方法と基準】

【予定】：新・学習支援システム(lms2025；以下同様)の機能に従い、初回授業で詳しく説明する。
［1］平常点【配点100点】：【授業計画】の各回も参照。
以下の詳細は初回の授業で指示する：
各回の授業テーマの教員による解説の後、教室の履修者/授業参加者を数グループに分け、事前に学習支援システムでの「お知らせ」等で告知したテーマ（法的課題・論点)について、教室でグループディスカッションを行い、各グループから議論の内容を発表してもらう。その結果を踏まえ、授業の最後に充分な時間を取り、各自が今度は独自に深めた考察で、テーマを論じる「ミニ課題（長めのリアクションペーパー）」を書いて提出する。以上全体を、授業1回につき、0～10点で評価する。
【5回以上、教室での授業に欠席した者は、単位を与えない。】
各回の授業で：
【例a】評価が高い9点を毎回取得　⇒10回授業に参加⇒90点⇒成績S
【例b】評価が低い5点を毎回取得⇒全14回授業に参加⇒70点⇒成績B-
【例c】評価が中程度の平均6点取得⇒10回授業に参加⇒60点⇒成績C-
【例d】評価が低い5点を毎回取得　⇒10回授業に参加⇒50点⇒成績D
病気その他やむを得ない事情で欠席した学生などの例外は初回の授業で詳しく説明する。
［2］期末試験・レポートは無い。その代わりに、［1］の教室での授業参加に基づく平常点評価を厳密に行うので、単位取得予定者は十分に注意すること。
●春学期を通じて、グループディスカッションとその内容の発表、その内容を踏まえたリアクションペーパーの内容では、到達目標である：
≪21世紀の遺伝学・医学の発展の中で、新たな法的問題を発見し、その法的・政策学的・社会的な解決法を、「正しい答えは一つではない」という大前提の下に、「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」能力を身につけた≫かどうかを基準として、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

●質問をしやすい環境をより良く整備します。
●授業のスピードを速くしすぎず、ゆったりしたテンポで、学生がフォローし、ついていきやすいように工夫します。
●ビデオ、DVD、ブルーレイ教材を多用する予定です。
●時々、教科書や参考書にもないが、法学・法そのものの理解、遺伝学・遺伝子操作・最先端医学・細胞学などの理解に役に立つ「手がかり」を挿入し、授業を聞きやすくします。

【学生が準備すべき機器他】

電子機器として、最低限、スマートフォンは毎回教室に持参すること（パソコン持参が可能な学生は持参を勧める）。

【その他の重要事項】

●「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して、各国の法・法律・法制度・政策・政治が本科目のテーマにどのように対応しているかを、実務の観点からもこの授業で取り上げます。
●法学部以外の学生でも3-4年生はどなたでも履修ができます。この科目を履修以前の、他の法律科目の履修も必要ありません。
●法学部法律学科生は、通常の選択必修科目・選択科目を適正に履修していれば、準備は十分です。

●法学部政治学科・国際政治学科生は、他の法律科目履修の必要はありません。本授業で「政策と同時に、法学も学ぶ！」姿勢をしっかり持って下さい。
●全学部生に、同じく私による秋学期の「法と遺伝学II」との合わせての履修を強く勧めます。義務ではありません。

【Outline (in English)】
【Course outline】：To learn the new issues of "Law and Genetics" which emerged in our domestic and international society of 21st Century.
【Learning Objectives】：To learn and to think on your own, further to express your own understanding of the new issues of "Law and Genetics" with the backdrop of most recent developments of genetics, medicine and cytology.
【Learning activities outside of classroom】: Read the class material in advance and as review, taking 2 hours each, making the activity 4 hours per a weekly class.
【Grading Criteria/Policy】: Class participation for 50/100 points. Final exam for 50/100 points.

LAW300AB（法学 / law 300）

法と遺伝学Ⅱ

和田　幹彦

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
★この授業は「他学部公開科目」でもあり、他学部生も3-4年生はどなたでも履修できます！
★そこの人！　ハイ、この頁に目をとめたあなたです。ちょっと考えてみて下さい。
【授業の概要】
人間の法と行動って、どこまで遺伝子・生物進化､そしてその産物である脳・思考の影響があるのでしょう？ 例えば：
①なぜ民法の「親族法」には、そもそも結婚についての法律があるの？ その根源的な理由って何？ ヒトの進化と関係があるの？（あります！ 第8回授業【人類進化でなぜ家族は重要か､そこから「家族法」がいかに進化したか】を参照）
②なぜ民法の「相続法」により相続はできるのか？ その根源的な理由って何？ ヒトの進化と関係があるの？（あります！ 第9回授業【「家父長制・相続の起源」「現代の個人相続」の解説】を参照）
③憲法や民法の詳しい法律の根底には、他の生物と共通の「法の根源的基盤」があるのか？（あります！ 第5回授業【「法の進化的基盤」の解説】を参照）
【授業の目的・意義】
以上の中の一つでも関心があれば…これらの問いを解明するのが本授業の目的・意義です。ただ、ちょい待ち…正しい答は一つではない。世界中で誰もこの3つの問に絶対的な答を出した人はいないのです。答は一人一人が「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」のです。論理的に､法学的に。法学部生以外の方も市民の目線で。本授業「法と遺伝学Ⅱ」の内容・到達目標の1つ「進化の結果を踏まえて人間集団・国際社会での不当な差別をどのように解消すべきか」は、21世紀の人類社会の構図を決める問題なのです。ならば、自然科学の発展を踏まえ、「法と遺伝学」の関係を、法学の専門家だけでなく、市民が自ら考察し、理解を深めましょう。それこそがこの授業の問いかけであり、目的・意義なのです。
★この科目は「文化・社会と法コース」に属します。

【到達目標】
【1】学生は、21世紀の遺伝学・進化生物学・文化進化論の発展の基礎を学び、これらの自然科学と連動して、新たに「法とは何か？」という法学の根源的な問いと向き合います。そして「正しい答えは一つではない」という大前提の下に、「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」ことにより「この問いに『応える』」能力を身につけること。
【2】さらに「生物とヒトとヒトの法がこのように進化した」結果は決して「現代の人間集団と国際社会」を束縛するのではなく、逆に「進化の結果を踏まえて人間集団・国際社会での不当な差別をどのように解消すべきか」という問いへの考察に繋げること。
【3】学生同士のグループディスカッションにより、教材中の論点についての疑問・理解の情報を交換し、相互に知的刺激を与えることで、上記の新たな問いについて「独自の考察」を行い、教員を含む授業全員でさらに議論を重ねて、新たな解決策を見いだす能力を身につけることも目標です。
以上の【1】【2】【3】がこの授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
【成績評価の方法と基準】も参照すること：
●法学部生・他学部生の皆さんには馴染みが薄い科学の分野を、まず解りやすく解説します：遺伝学・進化生物学・文化進化論の基礎と､さらに法・法学との関係を解説していきます。
●講義・解説形式に加えて講義内容の質疑応答（ディスカッション）形式を取ります。教室で、そして学習支援システム上の「掲示板」を用いた学生の自由な発言・質問・投稿を歓迎します。
●学生は、学期中に毎回、学習支援システム上の「掲示板」にリアクションペーパー提出の方法で、独自の考察に加えて、授業への質問・感想・批判などを書き、提出します（匿名・ペンネームの可否などについては初回の授業で詳しく説明します)。次回の授業でこれを教員が発表し、質問には応え、その他にはコメントします。
●リアクションペーパー提出の方法については【成績評価の方法と基準】も参照してください。
●学生は、指定された教材の箇所を、次回の授業までに必ず予習し、後日復習します。
●授業の進め方の基本方針：「自分の頭で考える：正しい答は一つではない！」日々の生活で実践できる、論理的・法学的思考を訓練します。＜法と遺伝学＞の問題には、いまだに世界中のどこにも「一つの正しい答」はありません。だから「誤った発言」はありえない。安心して自分の心の中で議論して下さい。その中で、法学的思考が少しずつ身に付くように、教師が工夫します。発言・掲示板投稿が恥ずかしいという学生も、毎年、皆すぐ慣れて発言・投稿しています。それに「モノ言う能力」は21世紀を生きていく中で必須です！これこそ国際市場と日本の社会で、今、求められている技能です。
●学生の皆さんが授業で学ぶ「法と遺伝学II」の内容が、ただの「教室での勉強」に終わらず、卒業後の実務や生活でも役立つように、教員が工夫して授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「法とは何か？」の自然科学による再分析・定義の可能性の解説とディスカッション; 動画教材による人類400万年史の解りやすい紹介【リアクションペーパー全員提出；以下同様】
第2回	法の新たな定義と新たな法源	「法」の再定義に先立つ、遺伝学・行動遺伝学・進化生物学・進化心理学・脳科学の基礎的解説とディスカッション；動画教材の人類400万年史視聴(続き)
第3回	ヒト集団・社会に法が進化した要因(1)［(2)は第11回］	教科書欄の【教材1】に基づき、ヒト集団・社会に法が進化した「機能」「進化史」「しくみ」「発達」の概要解説とディスカッション
第4回	遺伝学モデルに基づく「文化進化論」による「法の進化」	教科書13章「ヒトに於ける文化の重要性」に基く「文化としての法」の「文化進化」の解説とディスカッション
第5回	「遺伝学」による「生物進化学」の解説：「自然淘汰」の基礎(1)	教科書1,2,3章+【教材2】に基き「遺伝学は生物進化に直結する」ことと「法の進化的基盤」の解説；動画教材視聴；テーマの解説＆ディスカッション
第6回	「遺伝学」による「生物進化学」の解説：「自然淘汰」の基礎(2)	教科書1,2,3章に基き「生物進化の遺伝学上のしくみ」の解説；テーマのディスカッション
第7回	ヒト属集団・社会の200万年史における「法の進化」	教科書4,5,6章【+河田雅圭・動画教材】に基き「人類史上の進化の中で法はどのように進化し得たか」の解説；テーマのディスカッション
第8回	ヒト属集団・社会における「家族・家族法」の重要性；及び「家族以外との協力行動」としての「法の進化」	教科書7, 8, 9章に基き「人類進化でなぜ家族は重要か､そこから「家族法」がいかに進化したか；家族以外との協力行動こそ「法の進化」の中核であることの解説；テーマのディスカッション

第9回	「遺伝学」による「生物進化学」の解説：「性淘汰」の基礎	教科書10,11章に基き「生物とヒトにおける性淘汰」と性差・「家父長制・相続の起源」「現代の個人相続」の解説；それがジェンダー・性的志向・性自認ほかに基づく「差別の根拠とならない」ことの学び；テーマのディスカッション
第10回	ヒトの心の進化と「法の進化」の結びつき	教科書12章に基き「ヒトの心の進化」が「法の進化」にいかに結びつくかの考察・解説；テーマのディスカッション
第11回	ヒト集団・社会に法が進化した要因(2)［(1)は第3回］	教科書欄の【教材1】【教材4】に基づき、ヒト集団・社会に法が進化した「機能」「進化史」「しくみ」「発達」「言語進化と法の進化の連動性」の詳細解説とディスカッション
第12回	ヒト集団・社会に法が進化した要因(3)	新たな「教材」で提示する藤本悠雅博士の研究に基づく、≪言語進化以前のヒト集団・社会における法の進化≫の詳細解説とディスカッション
第13回	ヒト集団・社会に法が進化した要因(4)	縄文時代の日本において、「認知考古学」という新しい研究方法に基づく ≪言語進化以後の集団・社会規範とそれに基づく法の進化≫の詳細解説とディスカッション
第14回	本授業の総括	本授業「法と遺伝学II」の「到達目標」に達したかを、総括する解説とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
●学生は、各回に必ず【教科書】と【教材】の予習箇所を指定するので、各自自宅で予習をすること。
●学生は、授業で扱った【教科書】と【教材】の箇所と授業内容を必ず復習すること。
●準備（予習）・復習時間は、1回の授業につき各々2時間（合計4時間）である。

【テキスト（教科書）】
●【教科書】長谷川寿一・長谷川眞理子・大槻久『進化と人間行動』第2版（2022年）東京大学出版会(2,500円+税）：多用するので、必ず入手すること。
●【教材】追加的に、最新の文献を含めて初回および各回の授業で指示する。教員の和田がネット上のURLを教示、またはPDF化して学習支援システムの「教材」にアップロード・配布する予定。
【例】【教材1】和田幹彦(2021年刊)「律する」『進化で゛わかる人間行動の事典』234-238頁.pdf
【教材2】和田幹彦(2023年刊)「『法の進化』研究・素描」.pdf
【教材3】河田雅圭［東北大学教授・進化生物分野］(2021年版；学術的内容)「ヒトはいつ出現し、どう進化をたどってきたのか」
https://note.com/masakadokawata/n/n79991282d860
【教材4】河田雅圭［同上］『多様性と異文化理解』（東北大学出版会/2021年）の第1章「進化的視点からみる人間の『多様性の意味と尊重』」（購入は不要；以下の公式サイトを用いる）
https://note.com/masakadokawata/n/nb758462b63fb
【教材5】経塚淳子（監修）『遺伝のしくみ』新星出版社、2021年刊の必要な頁のみ【購入不要】

【参考書】
不要（特に指定しない）。

【成績評価の方法と基準】
【予定】：新・学習支援システム(lms2025；以下同様)の機能に従い、初回授業で詳しく説明する。
［1］平常点【配点100点】：【授業計画】の各回も参照。
以下の詳細は初回の授業で指示する：
各回の授業テーマの教員による解説の後、教室の履修者/授業参加者を数グループに分け、事前に学習支援システムでの「お知らせ」等で告知したテーマ（課題・論点)について、教室でグループディスカッションを行い、各グループから議論の内容を発表してもらう。その結果を踏まえ、授業の最後に充分な時間を取り、各自が今度は独自に深めた考察で、テーマを論じる「ミニ課題（長めのリアクションペーパー）」を書いて提出する。以上全体を、授業1回につき、0～10点で評価する。
【5回以上、教室での授業に欠席した者は、単位を与えない。】
各回の授業で：
【例a】評価が高い9点を毎回取得　⇒10回授業に参加⇒90点⇒成績S
【例b】評価が低い5点を毎回取得⇒全14回授業に参加⇒70点⇒成績B-
【例c】評価が中程度の平均6点取得⇒10回授業に参加⇒60点⇒成績C-
【例d】評価が低い5点を毎回取得　⇒10回授業に参加⇒50点⇒成績D
病気その他やむを得ない事情で欠席した学生などの例外は初回の授業で詳しく説明する。
［2］期末試験・レポートは無い。その代わりに、［1］の教室での授業参加に基づく平常点評価を厳密に行うので、単位取得予定者は十分に注意すること。
●秋学期を通じて、グループディスカッションとその内容の発表、その内容を踏まえたリアクションペーパーの内容では、到達目標である：
【1】21世紀の遺伝学・進化生物学・文化進化論の発展の基礎を学び、これらの自然科学と連動して、新たに「法とは何か？」という法学の根源的な問いと向き合えたか。そして「正しい答えは一つではない」という大前提の下に、「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」ことにより「この問いに『応える』」能力を身につけられたか。
【2】さらに「生物とヒトとヒトの法がこのように進化した」結果は決して「現代の人間集団と国際社会」を束縛するのではなく、逆に「進化の結果を踏まえて人間集団・国際社会での不当な差別をどのように解消すべきか」という問いへの考察に繋げることができたか。
【3】学生同士のグループディスカッションにより、教材中の論点についての疑問・理解の情報を交換し、相互に知的刺激を与えることで、上記の新たな問いについて「独自の考察」を行い、教員を含む授業全員でさらに議論を重ねて、新たな解決策を見いだす能力を身につけることができたか。
以上を基準として、評価します。

【学生の意見等からの気づき】
●質問をしやすい環境をより良く整備します。
●授業のスピードを速くしすぎず、ゆったりしたテンポで、学生がフォローし、ついていきやすいように工夫します。
●【動画教材】ビデオ、DVD、ブルーレイ、ネット上の内容・質の良い動画などの教材を多用する予定です。
●時々、【教科書】【教材】【参考書】にもないが、法学・法そのものの理解、遺伝学・進化生物学・進化心理学・脳科学などの理解に役に立つ「手がかり」を挿入し、授業を聞きやすくします。

【学生が準備すべき機器他】
電子機器として、最低限、スマートフォンは毎回教室に持参すること（パソコン持参が可能な学生は持参を勧める）。

【その他の重要事項】
●「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して、各国の法・法律・法制度の共通点に着眼し、「法とは何か？」という主題を、実務の観点からもこの授業で取り上げます。
●法学部以外の学生も、誰でも履修ができます。
　この科目履修以前の、他の法律科目の履修も必要ありません。
●法学部法律学科の学生は、通常の選択必修科目、選択科目を適正に履修していれば、準備としては十分です。
●法学部政治学科・国際政治学科生は「法学を学際的に学ぶ！」姿勢をしっかり持って下さい。
●全学部生に、同じく私による春学期の「法と遺伝学I」との合わせての履修を強く勧めます。義務ではありません。

【Outline (in English)】
【Course outline】: To learn the new issues of "Law, Behavioral Genetics, Evolutionary Biology &Psychology, and Neuroscience".
【Learning Objectives】：To learn and to think on your own, further to express your own understanding of the evolutionary foundations of law, and law's evolution itself.
【Learning activities outside of classroom】: Read the class material in advance and as review, taking 2 hours each, making the activity 4 hours per a weekly class.
【Grading Criteria/Policy】: Class participation for 50/100 points. Final exam or paper for 50/100 points.

LAW200AB（法学 / law 200）

演習

田尻　有斗

授業形式：**演習**　｜　開講セメスター：**年間授業**/Yearly
単位数：**4単位**
備考（履修条件等）：**旧高須ゼミです。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
民事法についてのケーススタディを行います。民法の解釈能力の向上を目指し、法科大学院への進学や各種法律試験の受験に有意義なゼミであると思っています。「裁判と法コース」に直結する演習と理解しています。

【到達目標】
２年間のゼミを通じて民法の主要な争点について、ひととおり学習することを目標とします。とりわけ、121年ぶりの抜本改正となった改正債権法の内容を十分に理解してもらえるようなゼミを行い、新民法の実像を理解することを目指します。また、ゼミ受講によって主体的に勉強するというスキルを身につけることができるようにします。法律の知識の習得はもちろんのこと、法的なものの考え方を体得することもできるようにします。
また、他大学との合同ゼミやインターカレッジ民法討論会に参加し、プレゼンテーション能力の向上にも務めることも検討しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】
あらかじめ設例として提示された紛争事例の当事者の立場に立ってもらい、紛争の解決を目指す模擬裁判・シミュレーション形式を採用しています。このような方式を取る関係上、毎回のゼミについて予習を行うことが不可欠です。そして、ゼミ当日は自分の頭で考え、対立当事者に対して自分の考えを主張し説得することを心がけてもらいます。また、私のゼミは単位の取得のみを目的とすることなく、卒業後も付き合っていけるような人間関係を作っていきたいと考えています。「元気一杯、田尻ゼミ」のキャッチフレーズのもと、勉強以外の活動も活発に行います。
ゼミ課題に関するフィードバックは、毎回の授業においてその都度、行うこととします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	１年間のゼミの運営方法等を説明する。
第2回	シミュレーション問題の実例	実際にシミュレーション問題を利用してゼミを行ってみる。
第3回	総則法を中心とする問題の検討その1	権利の濫用及び公序良俗則を扱う。
第4回	総則法を中心とする問題の検討その2	意思表示の問題を取り上げ、虚偽表示や詐欺等を扱う。
第5回	総則法を中心とする問題の検討その3	代理人の権限濫用及び表現代理等を扱う。
第6回	総則法を中心とする問題の検討その4	時効を扱う。
第7回	物権法を中心とする問題の検討その1	不動産物権変動論、とりわけ所有権の移転時期に関する議論を扱う。
第8回	物権法を中心とする問題の検討その2	不動産対抗問題を扱う。
第9回	物権法を中心とする問題の検討その3	動産の即時取得を扱う。
第10回	物権法を中心とする問題の検討その4	抵当権に基づく物上代位を扱う。
第11回	物権法を中心とする問題の検討その5	抵当権に基づく不法占拠者等への明渡請求の問題を扱う。
第12回	改正債権法を中心とする問題の検討その1	履行障害法のうち特定物売買をめぐる問題を扱う。
第13回	改正債権法を中心とする問題の検討その2	履行障害法のうち動産売買（種類売買）をめぐる問題を扱う。
第14回	改正債権法を中心とする問題の検討その3	履行障害法のうち請負契約をめぐる問題を扱う。
第15回	改正債権法を中心とする問題の検討その4	債権者代位権を扱う。
第16回	改正債権法を中心とする問題の検討その5	詐害行為取消権を扱う。
第17回	改正債権法を中心とする問題の検討その6	不動産賃借権をめぐる問題を扱う。
第18回	改正債権法を中心とする問題の検討その7	債権譲渡をめぐる問題を扱う。
第19回	改正債権法を中心とする問題の検討その8	差押えと相殺の問題を扱う。
第20回	改正債権法を中心とする問題の検討その9	契約不適合責任のうち追完請求の問題を扱う。
第21回	改正債権法を中心とする問題の検討その10	契約不適合責任のうちの代金減額請求権等の問題を扱う。
第22回	改正債権法を中心とする問題の検討その11	不法行為責任を扱う。
第23回	改正債権法の検討その1	債権法改正に関する資料等を使用して、改正法に特化したゼミを行う。４大論点のうちの保証法制の改正を扱う。
第24回	改正債権法の検討その2	債権法改正に関する資料等を使用して、改正法に特化したゼミを行う。４大論点のうちの定型約款の改正を扱う。
第25回	改正債権法の検討その3	債権法改正に関する資料等を使用して、改正法に特化したゼミを行う。履行障害法の改正を扱う。
第26回	改正相続法の検討その１	相続法改正に関する資料等を使用して、改正法に特化したゼミを行う。対抗要件主義の導入に関する改正を扱う。
第27回	改正相続法の検討その２	相続法改正に関する資料等を使用してゼミを行う。配偶者居住権の新設に関する改正を扱う。
第28回	改正所有権法の検討	物権編の中の所有権に関する改正法に関して資料等を使用して概括的なゼミを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前身である高須ゼミでは他大学のゼミとの合同ゼミの実施や、毎年、関西で行われるインターカレッジ民法討論会への参加などの対外的な活動を積極的に行っていました。私のゼミでも同様にこれらの活動を積極的に行っていきたいと思いますので、こうした機会を通じて、民法の実力を付けてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
オリジナルのゼミ教材（問題集）をテキストとして使用します。その他にも、債権法改正に関して法務省が作成した法制審議会資料等についても適宜、利用する予定です。

【参考書】
必要があれば、その都度、指摘します。

【成績評価の方法と基準】
１年を通じたゼミにおける平常点で成績を評価します（１００％）。ただし、ゼミ内においてレポート等を提出してもらうこともあります。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート該当科目ではありませんので、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
特に使用する予定はありません。

【その他の重要事項】
私は本学の卒業生であり、本ゼミの前身である高須ゼミに所属していました。大学を卒業後はロースクールに進学し、司法試験及び国家公務員総合職採用試験（院卒・行政区分）に合格した後、法務省に入省しました。現在は出入国在留管理庁で国家公務員として働いています。

現代社会はますます複雑で多様化していますが、それに伴い、法曹や国家公務員に求められる役割も変わりつつあります。しかし、今も昔も共通して求められるのは、大小さまざまな意見に耳を傾けつつも、本質を見失うことなく柔軟に問題を解決できる能力です。本ゼミでは、架空の事例問題を通じて、実務的な視点を踏まえつつ、こうした能力を養うことを目的としています。これから法曹や国家公務員を目指す後輩の皆さんに、少しでも役立つことができればと思っています。

また、若い皆さんにとって勉強はもちろん大切ですが、それと同じくらい大切なことがあると、私自身の学生時代を通じて実感しています。限られた学生時代の中で、何をするべきかを考え、自分の力で将来を切り開いていくために努力することの重要性を感じてほしいと思います。このゼミが、熱気あふれる学びの場となることを目指していますので、元気な皆さんの参加を心から期待しています。

【副題】
民法・改正債権法

【聴講について】
基本的には聴講は予定していません。

【Outline (in English)】
【Course outline】
It is a case study about the civil law. Aiming at the improvement of the ability for interpretation of the civil law, I think it to be significant for the examination of the entrance into a school of higher grade to the law school and various law examinations. It is understood with practice to be connected directly with "a trial and the law course".
【Learning Objectives】
This two-year seminar is designed to provide students with a broad understanding of the key issues in civil law. A particular focus will be placed on the reformed law of obligations, which was fundamentally revised for the first time in 121 years. Through careful study and discussion, students will gain a clear understanding of the content and significance of the new Civil Code.In addition to acquiring legal knowledge, the seminar encourages students to develop independent learning skills and the ability to think from a legal perspective.We also plan to consider participation in joint seminars with other universities and intercollegiate civil law debate competitions, with the aim of enhancing students' presentation and communication skills.
【Learning activities of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the course content
Experiment/Practice(one-credit)
【Grading Criteria/Policies】
Grading will be decided based on the normal points in class (100%).

LAW200AB（法学 / law 200）

演習

和田　幹彦

授業形式：**演習**　｜　開講セメスター：**年間授業**/Yearly
単位数：**8単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・「法・生命工学・法解釈学 ― 家族と民法特に『親族・相続法』、『法と遺伝学』を素材として ―」【それ以外の法的問題の検討も、学生の希望により歓迎する】
・この科目は、６つのコースすべてに属する。

【到達目標】
１）家族法：学説や判例を覚えるだけではなく、「答えは一つではない」との大前提の下に、「自分の頭で考え」、親族法・相続法の説得的な解釈論を展開できる実力を身につける。
２）「法と遺伝学・神経科学（脳科学）」：21 世紀の遺伝学・脳科学・医学の発展の中で、新たな法的問題を発見し、その法的・政策学的な解決法を、「答えは一つではない」という大前提の下に、「自分の頭で考える」能力を養う。
３）学生は【授業の概要と目的】の枠外でも、家族・生命工学・生命倫理に直接関わらないテーマならすべて、法的観点から研究テーマとすることが可能。
４）自由に自分の頭で考えたテーマについて、自力で図書館やデータベース、インターネットでリサーチを行い、チームを組んでディベートを行う能力を養う。さらにゼミ生と教員の前でレジュメをまとめ、口頭発表する能力を養う。
５）資料を調べる際に、さらに自分の発表資料・ディベートの読み上げ原稿作成の際に、生成系AIを【適切に】使うスキルを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】
●キーワード：【ワクワクするテーマ】 について【自分の頭で考える】！　ゼミのネライは、教育の最終ステージ の大学だからこそ可能な【好きなことをやる！】　【自由にモノを考える！】というチャンスを最大限に活かすこと。これを家族法と「法と遺伝学・脳科学」他の自由テーマの理解の深化につなげます。
●課題・報告等に関するフィードバックは、授業において、適宜、行います。
●概要：授業計画に示します。でも、この概要もテーマも過去の和田ゼミの例に過ぎません。今年度のゼミの方法も、ディベート・模擬裁判（やるとして）も、テーマは皆で話し合って決めます！
●「ディベートなんかできない」と当初言ったゼミ生も、半年後には「やって良かった」という感想が多々出ています。
●私は日本とスイスで 6 年間銀行勤務し、ドイツに 5年、アメリカに3年住みました。「自国の文化・他文化・多文化」を反映した日本法・諸国の法の理解は、教員の私にとっても、21世紀を生きる学生にとっても、ヒトゴトではありません。ディベートの論題や、個人/グループ研究のテーマに値する、「自分が当事者の課題」です。
●2001-03年、2020年にアメリカで「法と遺伝学/法と進化生物学・心理学」を研究しました。遺伝子操作によるデザイナー・ベビー出生は、遂に2018年11月中国で実現しましたが、事後的に法的対処がなされました。21世紀を生きる諸君に他文化・多文化との接触・紛争解決は日常茶飯事。激動の時代を生きるのに、法・遺伝学・脳科学・生命工学への取り組みも必須。ゼミでの法と文化、法と生命工学、そして法解釈学の研究は、在学中かぎりの「机上の空論」ではなく、諸君の人生に深く関連しり、役に立つことに目覚めてほしいです。
●「親族法」「相続法」と、「法と遺伝学Ⅰ＆Ⅱ」の同時履修を勧めますが、義務ではありません。
●【重要】2-3年生、または3-4年生の2年間を続けて履修することが前提です。
●したがって、秋のゼミ生募集の際は「その時の1年生」の応募を歓迎します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ゼミ生と教員の自己紹介、今後の予定の打ち合わせ
第 2 回	ゼミ研究方法の選定	春学期～夏合宿にかけて、ディベートをやるかどうか選定：その一貫として「模範的なディベート試合」の録画を見る
第 3 回	ゼミの研究テーマの選定とディベート技術の習得(1)	ディベートを行う場合、指定する「ディベートの教科書」を少しずつ読み進め、ディベートの技術を身につける。質疑応答を歓迎する（次回以後も同様。）
第 4 回	ゼミの研究テーマの選定とディベート技術の習得(2)	全員で取組むテーマの絞り込み
第 5 回	ゼミの研究テーマの選定とディベート技術の習得(3)	全員で取組むテーマのさらなる絞り込み
第 6 回	ゼミの研究テーマの選定とディベート技術の習得(4)	全員で取り組むテーマの決定
第 7 回	ディベートの論題（全体テーマ）についての発表 (1)	決定されたテーマについて、資料収集、発表
第 8 回	全体テーマについての発表 (2)	決定されたテーマについて、さらに詳しい資料収集、発表
第 9 回	全体テーマについての発表 (3)	決定されたテーマについて、さらに詳しい資料収集、発表
第10 回	全体テーマについての発表 (4)	決定されたテーマについて、さらに詳しい資料収集、発表
第11 回	全体テーマについての発表 (5)	決定されたテーマについて、さらに詳しい資料収集、発表
第12 回	全体テーマについての発表 (6)	決定されたテーマについて、さらに詳しい資料収集、発表
第13 回	全体テーマについての討論 (1)	ディベートを行う場合、練習試合：第1試合
第14 回	全体テーマについての討論 (2)	ディベートを行う場合、練習試合：第2試合
第15 回	全体テーマについての討論 (3)	ディベートを行う場合、練習試合：第3試合
第16 回	［場合により：ゼミ特別補講として行う］	ディベート本番試合 3ラウンドを行う
第17 回	ゼミ合宿ディベートの成果発表	ディベートの「決勝戦」を行う
第18 回	個人・グループ研究発表 (1)	各自興味のあるテーマについて発表を行う。個人でも、2人以上のグループでもOK。
第19 回	個人・グループ研究発表 (2)	各自興味のあるテーマについて発表を行う。個人でも、2人以上のグループでもOK。
第20 回	個人・グループ研究発表 (3)	各自興味のあるテーマについて発表を行う。個人でも、2人以上のグループでもOK。
第21 回	個人・グループ研究発表 (4)	3年生は、翌年の進入ゼミ生にディベートを教えるため、研鑽のために3年生だけでディベートのテーマを決め、試合を行うことも可能。
第22 回	個人・グループ研究発表 (5)	3年生は、翌年の進入ゼミ生にディベートを教えるため、研鑽のために3年生だけでディベートのテーマを決め、試合を行うことも可能。

第23回	個人・グループ研究発表(6)	3年生は、翌年の進入ゼミ生にディベートを教えるため、研鑽のために3年生だけでディベートのテーマを決め、試合を行うことも可能。
第24回	個人・グループ研究発表(7)	各自興味のあるテーマについて発表を行う。個人でも、2人以上のグループでもOK。
第25回	個人・グループ研究発表(8)	各自興味のあるテーマについて発表を行う。個人でも、2人以上のグループでもOK。
第26回	個人・グループ研究発表(9)	各自興味のあるテーマについて発表を行う。個人でも、2人以上のグループでもOK。
第27回	個人・グループ研究発表(10)	各自興味のあるテーマについて発表を行う。個人でも、2人以上のグループでもOK。
第28回	ゼミ総括・総合討論	教材として、映像教材を用いる（予定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は必須である。
●準備（予習）・復習時間は、1回の授業につき各々2時間（合計4時間）である。
●春学期は、各回とも、ディベート行う場合は、教員が教科書を指定する。指示されたら必ず予習して、質問を考えてくること。
●秋学期は、個人・グループ・研究発表の1週間前に、発表者は簡単なレジュメを配布する。発表者以外のゼミ生は、これを読んで自分の意見＆質問を形成して、翌週の本番の個人発表に臨むこと。

【テキスト（教科書）】
ディベートを行うことをゼミ生自身が決定した場合の教科書：
西部直樹『はじめてのディベート 聴く・話す・考える力を身につける ― しくみから試合の模擬練習まで』あさ出版、2009年刊、1,575円（あくまで予定なので、ゼミ開講前には、絶対に買わないこと。）

【参考書】
個人・グループ研究発表を行うゼミ生には、必要に応じて参考書・文献・資料を教員からも紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点(30％)と、授業のディスカッション・ディベートへの参加(40％)、そして各自・各グループが取組んだ研究発表(30％；初年度ゼミ生の秋学期は2度目のディベート等も可能)を、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
●質問をしやすい環境をより良く整備する。
●授業のスピードを速くしすぎず、ゆったりしたテンポで、学生がフォローし、ついてきやすいように工夫する。
●時々、教科書や、参考書にもないが、法解釈や、「家族法」・「法と遺伝学」・「法と脳科学」・「家族に関わる諸問題」・法学・法そのものの理解に役に立つエピソードを挿入し、授業をに参加しやすくする。
●ゼミは、憲法と、民法の「総則」「物権」「債権」をなるべく履修済み、または履修中であることが望まれます。義務ではありません。
●オフィスアワーはアポイントメントが必要です。ゼミ生も、誰でも質問や相談に来ることを歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】
●ディベート、研究発表、およびその準備に際して、パソコン、タブレット、最低限スマートフォンの教室への持参が必要な場合があります。

【その他の重要事項】
●「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して主に日本の法学を、実務の観点からもこの授業で取り上げます。

【【副題】】
「民法、特に親族法・相続法」「法と遺伝学」

【【聴講について】】
許可していません。

【Outline (in English)】
Seminar of approximately 20-25 students only,

【Course outline】：We focus on "Law, Life Technology, Legal Interpretation: Family Law, Laws of Inheritances of Japan; 'Law, Genetics &Neuroscience'" (Other topics are welcome to be discussed or debated on, provided that the students choose to.)
【Learning Objectives】：To learn, to think on your own, and further to express your own understandings/opinions/assertion through debate and/or academic presentations on "Law, Life Technology, Legal Interpretation: Family Law, Laws of Inheritances of Japan; 'Law, Genetics &Neuroscience'" (or other topics, which are welcome to be discussed, provided that the students choose to.)
【Learning activities outside of classroom】: Read the class material in advance and as review, taking 2 hours each, making the activity 4 hours per a weekly class.
【Grading Criteria/Policy】: Class participation for 30/100 points; class presentation through debate and/or of academic research for 70/100 points.

ECN200AC（経済学 / Economics 200）

経済政策Ⅰ

森脇　大輔

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**
備考（履修条件等）：**経済学部「経済政策論A（K6349）」との合併科目**

その他属性：〈実〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、経済政策に関する基本的な知識とその応用について学びます。公共サービスの提供と配分、厚生とその最大化、政策設計と効果検証など、現代社会で直面する課題を理論的かつ実践的に探求します。また、メカニズムデザインや行動経済学の観点から、政策立案とその実効性を高める方法について考察します。これらを通じて、経済政策の全体像を理解し、実践的な政策立案能力の向上を目指します。

【到達目標】
この講義では，受講者各人が，現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には，メカニズムデザインや行動経済学の考え方に基づき，外部性の問題や望ましい公共サービスの供給について主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
直感的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら，講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や授業後に復習問題を解く時間を設け，受講者が自分の頭で考える機会も作る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済政策とは何か 政策に関する情報を獲得する方法
2	公共サービス	公共サービスの種類 日本における公共サービスの現状
3	公共サービスの配分	公共サービスの配分はどのような場合に問題になるか メカニズムデザインの基礎
4	厚生	厚生とは何か 厚生の測定方法
5	厚生最大化	厚生最大化のための制度設計
6	政策	政策ツールの種類と特徴
7	情報介入	情報介入による行動変容 限定合理性
8	外部性	外部性の概念 負の外部性の具体例
9	ナッジ	ナッジの概念 ナッジの応用例
10	補助金	受取意思額 補助金の具体例
11	政策の副作用	無償化や低すぎる自己負担が引き起こす問題
12	効果検証1	効果検証の意義、意思決定
13	効果検証2	ランダム化比較実験
14	効果検証3	差分の差法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義スライドを復習すること、また講義中に示した参考書・関連資料を読むこと（所要：1時間ずつ）。また、講義において出題した復習問題を解くこと（所要：2時間）。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
マッチング理論とマーケットデザイン(2024)小島 武仁 (著), 河田 陽向 (著)
分析者のための行動経済学入門 プロスペクト理論からナッジまで、人間行動を深く網羅的に解明する(2024) 黒川博文
Pythonで学ぶ効果検証入門(2024)伊藤寛武、安井翔太、金子雄祐

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100%）によって評価する。
期末試験は各講義において示した基礎的な公共政策や経済学の知識（50%）と計算問題（50%）による。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように，授業中に簡単な質問に答えてもらったり，授業内容に即した復習問題を課したりする。また，経済学の抽象的な概念の説明の際には，必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【その他の重要事項】
講師は中央省庁やテック企業における実務経験を有しており、実践的観点からの講義を行う。

【Outline (in English)】
This course provides an in-depth exploration of economic policies, focusing on their theoretical foundations, practical applications, and evaluation methods. Topics include the provision and allocation of public services, welfare maximization, policy design, and evidence-based evaluations. Students will also learn about mechanism design, behavioral economics, and simulation techniques to analyze and propose effective solutions to contemporary policy challenges. Through lectures, case studies, and interactive discussions, the course equips students with the knowledge and skills necessary to engage with real-world economic policy issues.
Students are expected to:
Review lecture materials (1 hours/week): Access and study lecture slides and reading materials uploaded.
Read assigned references (1 hours/week): Engage with recommended texts as well as additional materials provided.
Complete exercises and assignments (2 hours/week): Solve calculation problems and case studies to deepen understanding of course concepts.
Grading Criteria /Policy
Grades will be determined based on the final exam:
Basic knowledge (50%): Understanding of the core concepts covered in lectures.
Calculation problems (50%): Evaluated through problem-solving exercises.

ECN200AC（経済学 / Economics 200）

経済政策Ⅱ

前田　佐恵子

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**
備考（履修条件等）：**経済学部「経済政策論B（K6350）」との合併科目**

その他属性：〈実〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
マクロ経済政策を検討するにあたって、政策当局者は様々な統計や分析を参照します。本授業では、さまざまなマ、クロ経済統計のデータの動きを確認し、IS-LM分析などの基本的なフレームワークについても触れ過去の経済の状況や政策について考察します。

【到達目標】
現実の経済政策を評価する力を身に着けるため、マクロ統計データの種類を知り、その動きから経済の状態を説明・考察できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
各種統計の概念を図表などを用いて説明し、経済政策に関するトピックを紹介するなど講義形式で進めます。授業の途中、あるいは、授業後に分析課題等を考える機会を設け、その解答の提出を求めます。翌授業の際に課題の解説等を行い、関連資料をアップロードします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済統計と政策分析について
2	マクロ政策分析のフレームワーク１	ＧＤＰ、マクロ経済政策とは何か。
3	経済政策とマクロ経済統計１	統計の特徴と見方、生産と企業行動
4	経済政策とマクロ経済統計２	労働と賃金
5	経済政策とマクロ経済統計３	所得と家計消費
6	経済政策とマクロ経済統計４	物価、実質と名目
7	経済政策とマクロ経済統計５	財政と公共財・サービス
8	経済政策とマクロ経済統計６	貨幣と金融
9	経済政策とマクロ経済統計６	景気循環
10	マクロ政策分析のフレームワーク２	総需要総供給分析、乗数理論等
11	経済政策１	景気対策と効果
12	経済政策２	財政政策と金融政策
13	経済政策３	短期的政策対応と長期計画
14	期末試験	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備学習・復習時間は，各１～２時間を目安とします。課題では統計データをパソコンを用いて分析する内容を出題することがあります。

【テキスト（教科書）】
N・グレゴリー・マンキュー，2024,『マクロ経済学I（第5版）』東洋経済新報社
（あるいは、N・グレゴリー・マンキュー，2017,『マクロ経済学I（第4版）』東洋経済新報社）

【参考書】
福田慎一・照山博司，2023,『マクロ経済学・入門（第6版）』有斐閣
鶴光太郎・前田佐恵子・村田啓子，2019,『日本経済のマクロ分析』日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】
期末試験（約60％）、課題提出（約40％）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業で授業中に質問に答えていただくことがあります。また、課題（復習問題）では、授業内容に即したデータを加工し、データの動きを確認してもらう内容を含む予定です。

【学生が準備すべき機器他】
対面授業中は必ずしも必要ありませんが、オンラインでの授業や課題のため、パソコンの利用が必要となります。

【Outline (in English)】
Course Outline
Policy makers consider economic and financial policies based on a variety of statistics and analysis. In this class, we will look back on past policies and macroeconomic conditions through actual data and basic frameworks such as IS-LM model.

Learning Objectives
At the end of the course, students are expected to acquire the ability to evaluate economic policies based on economics.

Learning Activities Outside of Classroom
Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy
Final grade will be decided based on the following:
Term-end examination: 60%, Review questions after each class: 40%

LAW200AB（法学 / law 200）

法律学特講（政策と法）

髙橋　彰

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
民主主義国家、また法治国家である日本では、私たちの生活の多くの事柄は法律と密接に関わっている。しかし、公共政策と一口に言っても、調査や補助金、法律に限らず政令や省令といった行政命令、自治体などの条例とさまざまな方法がとられる。
法律の裏付けはもちろん重要な一方、法規制だけでは社会課題を解決することはできない。この授業では、最初に公共政策や政策形成、政治も含めた意思決定の基本を学んだ上で、様々な社会課題における「法」と「政策」それぞれの役割、その課題や限界について学ぶ。担当教員は官僚（官）、議員秘書（政）、大手広告代理店（民）、大学院留学（英国）...と豊富な実務経験や海外経験を有しているため、国内外の実例なども交えながら、学生が幅広く知見を習得し、多角的に社会課題を分析する能力を獲得できるよう手助けする。

【到達目標】
①公共政策における法律と政策の内容、意義、役割について理解できる
②社会課題について、雰囲気や大衆的な意見で考えるのではなく、法と政策の観点から分析し、解決策を見出す能力を得る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は原則として教員作成の資料に沿って講義形式で行う。
原則として講義形式だが、授業中、テーマを決めてグループディスカッションを行い、グループごとに簡単な発表を行う。「正解」がない問いに各学生が活発に意見交換することで他者の意見を尊重し、また刺激を受け合うことを目的とする。また、ディスカッション後に教員による解説やフィードバックを行う。
なお、テーマに関連して、「第一線のプロに聞く」コーナーを設け、実社会で活躍する政治家、官僚、研究者、ビジネスパーソンのコメントを紹介する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1講	イントロダクション-公共政策における「法」と「政策」とは？	①授業の全体像、②講義の進め方、③評価方法 ④「法と政策」を学ぶ意義などについてオリエンテーションを行う。 また、公共政策における「法」と「政策」の役割について概要を学ぶ
第2講	政策形成論①-政策形成過程と事前審査制	国の政策形成と立法過程、年間の政策形成スケジュールを知り、日本政治において重要な位置付けを占める事前審査制についても学ぶ。
第3講	政策形成論②-自民党政治と鉄の三角形	「世界で最も安定している」と言われた自民党の55年体制と派閥、鉄の三角形を学ぶ。また、関連して実際に「必要な」政治資金とは何か、その透明化についても学ぶ
第4講	政策形成論③-政策形成過程の日米比較	世界のリーダーでありながら、実は「国内では不自由」と言われるアメリカ大統領の行政リーダーシップ、立法過程、２大政党制について学び、日本の政策形成との比較を行うことで、理解を深める。
第5講	政策課題①-物価高と賃上げ政策	2025年春闘や最低賃金の動向、物価高の要因の分析、日本国内外での政策動向などの概要を学ぶとともに、法律では誘導できない賃上げの限界についても考察する。
第6講	政策課題②-“足りない日本” - 労働力不足(2024年問題/2025年問題)は解消するか	従来から続く労働力不足(2024年問題・2025年問題)に加え、厳格化される残業規制が続くことで影響を受ける産業（医療機関や輸送 業など）やその解決策を学ぶ。 また、労働政策や残業規制(労働法)についての基礎的知識を身につける。
第7講	政策課題③-「歓迎」か「排斥」か-先進国の移民・難民問題	人手不足解消によく言及される「移民の受け入れ」だが、欧州や欧米では移民排斥が相次ぐ。かつては移民を受け入れることで労働力不足を補った各国の現状や制度、歴史を紐解き、日本の技能実習制度も含めた課題を考える。また、難民の受け入れ問題についても、思いやりだけでは解決できない、先進国が悩む課題について学ぶ。
第8講	政策課題④-金融立国を目指す日本の課題	金融立国を目指そうとする日本の取組について学ぶ。英国などの金融先進国の失敗や、個人誘導型の規制緩和についても学ぶ。
第9講	政策課題⑤-変わる社会保障と制度概論	保険証廃止、運転免許証との統合といった技術的だが歴史的な変化に加え、「年収の壁」や社会保険の適用拡大などの制度変更が相次 ぐ社会保障について、その制度と変化を学ぶ。その際、医療や年金、雇用保険の仕組みなど、政策の基礎や背景の考え方についても知り、知見を深める。
第10講	政策課題⑥-偽情報、情報戦、サイバーセキュリティ	選挙介入や世論操作、災害後の混乱増加など、様々な場面で用いられる偽情報について学ぶ。 また、日本の技術を守る情報戦や、近年の「能動的サイバー防御」をはじめとした日本のサイバーセキュリティについて法的・政策的枠組みについても学ぶ。
第11講	政策課題⑦-地域創生と持続的な地域の発展	異次元の少子化対策や観光など、本来、各種の政策を担い、リードする役割を持つ「現場」である地域だが、「地域創生」は大きくフォーカスされてこなかった。 他方で、「伸びる地域」、「伸びない地域」の明暗も分かれつつあり、人口増加のための「高付加価値型」産業への転換や、市民が「自分ゴトだ」と感じることで活性化に成功した事例など、国内外のケーススタディーから知見を深める。

第12講	政策課題⑧-異次元？の子育て政策はどこへ向かうのか	2024年から始まった異次元の少子化・子育て政策について、法律上の位置付けと、これまでの政策の流れも含めた全体像を把握し、将来を担う世代の育成はどうあるべきかを考える。
第13講	ロビーイング実践-乳児用液体ミルクの国内解禁	特定の政策目的を達成するために行われる「ロビーイング」について、実例で学ぶ。本講では、一人の主婦のアンケートから始まった「赤ちゃんミルク」の日本における解禁事例をケーススタディとして扱い、政策形成におけるNGO、企業、行政、立法それぞれの役割を学ぶ。
第14講	試験・まとめと解説	講義における基礎部分（政策形成論）及び個別政策における共通課題について振り返り、最終試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回テーマについて、図書館やインターネットで概観を調べ、「気になること」や「自分の意見」を考えてくること(2h)。毎回授業後にミニテストに回答すること。また、加点要素として、任意で事後レポートを提出することができる(2h)。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しない。

【参考書】
砂原他,「政治学の第一歩〔新版〕」,有斐閣, 2020
各回に関連する資料を必要に応じて授業において配布するほか、テーマ別の参考書籍は各回において紹介する

【成績評価の方法と基準】
各回の授業後ミニテスト(40%), 最終試験(40%), 平常点(20%※)
※平常点は、クラスへの貢献（発言など）や授業後レポート（任意・加点要素）を加味。なお、授業態度が不良な場合、レポートや試験点などが高くとも、総合点を大幅に減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
万一オンラインにて行う場合に備えて、ZOOMが視聴できる環境。

【その他の重要事項】
事前に政治学などの基礎知識は不要である（基礎から理解できる内容とする）。
ただし、特に序盤は理論の解説が続くため、積極的に授業に参加する態度がないと、中盤以降の内容の理解が表層的になり、最終的に本講の到達目標に達しない（＝単位不認定になる）場合がある。
【実務経験のある教員による授業】
厚生労働省（I種法律職）で危機管理や省内統括部門を中心に勤務。退職後、英国グラスゴー大学で国際安全保障学修士号。帰国後、参議院議員秘書として、政策提言等に従事。直近はエジンバラ大学博士課程(中途退学)を経て、株式会社博報堂で大型公共事業の中核チーム等を担当。官・民・政での実務経験を担当科目に活かし、実践的教育を行っている。

【Outline (in English)】
In Japan, a democratic and rule-of-law-based country, many aspects of our daily lives are closely connected to legal frameworks. Public policy, however, is not limited to legislation and subsidies; it also involves various methods such as government ordinances, ministerial regulations, and municipal bylaws.
While a legal basis is undoubtedly crucial, legal regulations alone cannot resolve all social issues. In this course, students will first learn the basics of public policy, policymaking, and decision-making, including political processes. Following this, they will explore the roles, challenges, and limitations of both "law" and "policy" in addressing various social issues.
The instructor brings extensive practical and international experience, having worked in diverse fields such as government (bureaucracy), politics (as a parliamentary secretary), the private sector (major advertising agency), and overseas graduate studies in the United Kingdom. By incorporating real-world examples from both domestic and international contexts, the course aims to help students gain broad knowledge and develop a multifaceted perspective to analyze social issues.

LAW200AB（法学 / law 200）

外国書講読（英語）Ⅰ

和田　幹彦

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
★本授業は、2年生も含めて、2, 3, 4年生が履修できます。
★本授業「外国書講読（英語）Ⅰ」は、同じ教員・和田幹彦担当で過去に履修済の2,3,4年生の方も、再度履修できます（制度上、許可されています）。該当する学生がいる場合、教材は全て新たな英文を取り上げます。
★法律学科、政治学科、国際政治学科の学生、どなたも歓迎します。
★法・政治・国際政策にかかわる、質の高い時事英語ニュース記事、やや専門的な英語の文献の読解力の向上が最重要な目的です。並行して、英語で聞き、理解する能力の向上も目的とします。
★学生同士の日本語を（場合により英語も）用いたグループディスカッションにより、英文テキストについての疑問点・解釈の情報を交換し、相互に知的刺激を与えることで、「独自の考察」を行い、教員を含む授業全員でさらに議論を重ねて、英文テキストの理解を深めることも目的です。

【到達目標】
★法・政治・国際政策にかかわる、質の高い時事英語ニュース記事、やや専門的文献な英語の読解力の向上。
★英語の基礎的および応用的な文法の復習や、新たな文法上の学び。
★英語の新たな表現、（たとえば「法と遺伝学」といった）学問や研究の新分野の新しいボキャブラリーの習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】
概略以下のとおり予定：
★現時点の英語力レベルにかかわらず履修可能。どの授業参加者も、各自が望み目指す英語力を向上させられるよう、個別の学生のレベルに応じて教師が工夫しながら授業を勧める。具体的には：
★第1，2，3回目の授業の時期に、学習支援システム上で、各学生の自己申告による≪各自の現時点の英語力・本授業で目標とするのはどのような英語力の向上か etc.≫をヒアリング調査し（教員のみが見ます；個人情報として保護します）、それに基づき、英語力レベルが多様な多くの学生に対しても、個々人の英語力向上希望に応じた授業の進行を工夫します。
★初回授業以後：必ず英和辞典を持参すること（電子辞書・スマホ・英英辞典も可）。
★授業方法：基本的にゼミ形式で、日本語と英語双方を使いながら行います。（但し、英語の聞き取り／発言が不得手でも、努力により参加は十分可能です。）ネット上の質の高い動画・ビデオ・DVD・ブルーレイの教材や映画も見ます。
　事前：次回以後の英語文献を学習支援システム上の「教材」で配信・配布――参加者はダウンロード・持ち帰り、予習する。予習に際しては、新出単語・表現・内容に関連する疑問点を（英和・英英）辞書やグーグルで徹底的に調べてくる。
　授業：①参加学生全員による英語文献の音読・講読　意味内容の把握（要約；部分的に精読・全訳）：授業時間の一部で、数グループに分かれてのグループディスカッションも行う。
　　②文献の検討：国際的生命政策・先端的法分野 について、質問し、議論する。
●課題・発表・質問等に関するフィードバックは、授業において、適宜、行います。
★本授業の準備学習・復習時間は各2時間、合計4時間を標準とします。
★予習・復習における翻訳AI、生成系AIの使用を許可する。ただその場合、「どのAIをどの部分の予習・復習（さらに授業中）に使ったか」を必ず授業で教員に各自申し出ること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	教材①の配信・配布・講読	英和辞典（電子辞書・スマホ・英英辞典も可能）での法学専門用語の見つけ方の基礎の解説と、ディスカッション
第2回	教材①【複数英文テキストを順に；以下同様】の講読（1）	教材①テキストの音読→学生に質問させる→教師から学生に質問する→全体の内容の把握と理解→学生・教員間のディスカッション
第3回	教材①の講読（2）	教材①の英文の特徴の把握とディスカッション
第4回	教材①の講読（3）	教材①における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解の学習とディスカッション
第5回	教材①の講読（4）	教材①における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解のさらなる学習とディスカッション
第6回	教材①の講読（5）	教材①における、法的・倫理的・社会的問題の英語による議論の総括的理解の確認と、ディスカッション
第7回	教材②【複数英文テキストを順に；以下同様】の講読（1）	教材②テキストの音読→学生に質問させる→教師から学生に質問する→全体の内容の把握と理解
第8回	教材②の講読（2）	教材②の英文の特徴の把握とディスカッション
第9回	教材②の講読（3）	教材②における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解の学習とディスカッション
第10回	教材②の講読（4）	教材②における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解のさらなる学習とディスカッション
第11回	教材②の講読（5）	教材②における、法的・倫理的・社会的問題の英語による議論の総括的理解の確認と、ディスカッション
第12回	教材③【複数英文テキストを順に；以下同様】の講読（1）	教材③テキストの音読→学生に質問させる→教師から学生に質問する→全体の内容の把握と理解
第13回	教材③の講読（2）	教材③の英文の特徴の把握とディスカッション
第14回	教材③の講読（3）	教材③における、法的・倫理的・社会的問題の英語による議論の総括的理解の確認と、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
★本授業の予習・復習時間は、各2時間（合計4時間）を標準とします。
★次回の授業以後の英語文献を学習支援システム上の「教材」で配信・配布するので、授業参加者（履修者）は、事前にダウンロード・持ち帰り、予習する。
★予習に際しては、教材の英語のみならず、【内容】を理解できるように、解らない新出の単語・熟語・表現、そして英文テキストの内容に関連する疑問点を、（英和・英英）辞書やグーグルで徹底的に調べてくること。
★繰り返しますが：予習・復習における翻訳AI、生成系AIの使用を許可する。ただその場合、「どのAIをどの部分の予習・復習（さらに授業中）に使ったか」を必ず授業で教員に各自申し出ること。

【テキスト（教科書）】
初回の授業時に教員が指示します。その後は、その都度、必要な資料を、教員が学習支援システム上の「資料」で配信・配布します。
【以下の具体的例は2022-23年度の例を含む；2025年度は更新した最新内容の英文テキストを教員が指示する。】
①国際的政策に関する法的・倫理的・社会的諸問題に関する英語文献。具体的例としては：
★国連関連の条約や付随文書：国連憲章；国連人権規約；最新の国連総会議決:
"Resolution adopted by the General Assembly on 26 April 2022"
"Optional Protocol to the International Covenant on Civil and Political Rights"
https://www.ohchr.org/en/instruments-mechanisms/instruments/optional-protocol-international-covenant-civil-and-political
★The International Society for Stem Cell Research (ISSCR), "ISSCR Guidelines for Stem Cell Research and Clinical Translation"
https://www.isscr.org/guidelines
②先端的法分野：「医事法」「人工生殖」「法と遺伝学」等。具体的例としては：
★イギリスの代表的新聞 The Guardian, "Chinese scientist who edited babies' genes jailed for three years," 31 Dec 2019
https://www.theguardian.com/world/2019/dec/30/gene-editing-chinese-scientist-he-jiankui-jailed-three-years
★同上紙 "Scientist who edited babies' genes says he acted 'too quickly'," 4 Feb 2023
https://www.theguardian.com/science/2023/feb/04/scientist-edited-babies-genes-acted-too-quickly-he-jiankui

③SOGI (sexual orientation and gender identity)関連。具体的例としては：
★2015年6月のアメリカ連邦最高裁の、同性婚を全国で合憲とした判決文。
★CBS NEWSの書き起こし記事："Diving into the debate over trans athletes," MARCH 27, 2022
https://www.cbsnews.com/news/diving-into-the-debate-over-trans-athletes/
★BBC NEWS記事："What Singapore's move to legalise egg freezing says about its society," 28 April, 2022
https://www.bbc.com/news/world-asia-61076349
★同上："Toronto professor Jordan Peterson takes on gender-neutral pronouns," 4 November 2016
https://www.bbc.com/news/world-us-canada-37875695
④その他、履修者が高い関心を示す分野の、質の高い英文テキスト

【参考書】
参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】
毎週の授業での質問や議論への参加（平常点：50点）と、事前の予習準備の程度（50点）で評価します。（期末試験なし。）

【学生の意見等からの気づき】
●クラス内の、うち解けた雰囲気でのディスカッションをもっとも重視します。
●英語の教材や、映画をDVD、ブルーレイも見ます。
●春学期・秋学期合わせての履修を推奨しますが、義務ではありません。
●春学期の「法と遺伝学I」、秋学期の「法と遺伝学II」の履修を推奨しますが、義務ではありません。
●持参すべきものは、英和・和英辞典（電子辞書、スマホも可能）、グーグル検索のできるスマホ。

【学生が準備すべき機器他】
英和辞書（電子辞書・書籍）を所持していない場合は、それに代わるスマホ（英英辞典も可能）。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して特に英米法・日本法と、法制度に関連する英語圏・日本の政策・政治を、実務の観点からもこの授業で取り上げます。

【Outline (in English)】
【Course outline】: To learn how to read English text on legal, political and international issues.
【Learning Objectives】: Acquire the skill of understanding most recent news English of high quality and essential English text, on law, international /national politics and political science.
【Learning activities outside of classroom】: Check new words, idioms, expressions of English and the unknown contents of the text in advance before the class, using dictionary and reliable websites on the Internet.
【Grading Criteria /Policy】: attendance/participation (50%) and preparation for the class (50%).

LAW200AB（法学 / law 200）

外国書講読（英語）Ⅱ

和田　幹彦

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
★本授業は、2年生も含めて、2, 3, 4年生が履修できます。
★本授業「外国書講読（英語）II」は、同じ教員・和田幹彦担当で過去に履修済の2,3,4年生の方も、再度履修できます（制度上、許可されています）。該当する学生がいる場合、教材は全て新たな英文を取り上げます。
★法律学科、政治学科、国際政治学科の学生、どなたも歓迎します。
★法・政治・国際政策にかかわる、質の高い時事英語ニュース記事、やや専門的な英語の文献の読解力の向上が最重要な目的です。並行して、英語で聞き、理解する能力の向上も目的とします。
★学生同士の日本語を（場合により英語も）用いたグループディスカッションにより、英文テキストについての疑問点・解釈の情報を交換し、相互に知的刺激を与えることで、「独自の考察」を行い、教員を含む授業全員でさらに議論を重ねて、英文テキストの理解を深めることも目的です。

【到達目標】
★法・政治・国際政策にかかわる、やや専門的文献な英語の読解力の向上。
★英語の基礎的および応用的な文法の復習や、新たな文法上の学び。
★英語の新たな表現、（たとえば「AIと法」「法と心理学」という）学問や研究の新分野の新しいボキャブラリーの習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】
概略以下のとおり予定：
★現時点の英語力レベルにかかわらず履修可能。どの授業参加者も、各自が望み目指す英語力を向上させられるよう、個別の学生のレベルに応じて教師が工夫しながら授業を勧める。具体的には：
★第1，2，3回目の授業の時期に、学習支援システム上で、各学生の自己申告による≪各自の現時点の英語力・本授業で目標とするのはどのような英語力の向上か etc.≫をヒアリング調査し（教員のみが見ます；個人情報として保護します）、それに基づき、英語力レベルが多様な多くの学生に対しても、個々人の英語力向上希望に応じた授業の進行を工夫します。
★初回授業以後：必ず英和辞典を持参すること（電子辞書・スマホ・英英辞典も可）。
★授業方法：基本的にゼミ形式で、日本語と英語双方を使いながら行います。（但し、英語の聞き取り／発言が不得手でも、努力により参加は十分可能です。）ネット上の質の高い動画・ビデオ・DVD・ブルーレイの教材や映画も見ます。
　事前：次回以後の英語文献を学習支援システム上の「教材」で配信・配布――参加者はダウンロード・持ち帰り、予習する。予習に際しては、新出単語・表現・内容に関連する疑問点を（英和・英英）辞書やグーグルで徹底的に調べてくる。
　授業：①参加学生全員による英語文献の音読・講読　意味内容の把握（要約；部分的に精読・全訳）：授業時間の一部で、数グループに分かれてのグループディスカッションも行う。
　　②文献の検討：国際的生命政策・先端的法分野 について、質問し、議論する。
●課題・発表・質問等に関するフィードバックは、授業において、適宜、行います。
★本授業の準備学習・復習時間は各2時間、合計4時間を標準とします。
★予習・復習における翻訳AI、生成系AIの使用を許可する。ただその場合、「どのAIをどの部分の予習・復習（さらに授業中）に使ったか」を必ず授業で教員に各自申し出ること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	教材①②の配信・配布	英和辞典（電子辞書・スマホ・英英辞典も可能）での法学専門用語の見つけ方の基礎の解説と、ディスカッション
第2回	教材①【複数英文テキストを順に；以下同様】の講読（1）	教材①テキストの音読→学生に質問させる→教師から学生に質問する→全体の内容の把握と理解
第3回	教材①の講読（2）	教材①における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解の学習とディスカッション
第4回	教材①の講読（3）	教材①における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解のさらなる学習とディスカッション
第5回	教材①の講読（4）	教材①における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解に基づく≪この論文が例えば「サイエンス誌(Science)」「ネーチャー誌(Nature)」に掲載された意味≫の英語による学習とディスカッション
第6回	教材②【複数英文テキストを順に；以下同様】の講読（1）	教材②テキストの音読→学生に質問させる→教師から学生に質問する→全体の内容の把握と理解
第7回	教材②の講読（2）	教材②における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解の学習とディスカッション
第8回	教材②の講読（3）	教材②における法学と、法学に直結する科学の専門的英語・熟語の学び方の解説と、ディスカッション
第9回	教材③【複数英文テキストを順に；以下同様】の講読（1）	教材③テキストの音読→学生に質問させる→教師から学生に質問する→全体の内容の把握と理解
第10回	教材③の講読（2）	教材③における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解の学習とディスカッション
第11回	教材③の講読（3）	教材③における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解のさらなる学習とディスカッション
第12回	教材③の講読（4）	教材①における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解に基づく≪この論文が例えば一流新聞の「ガーディアン紙(The Guardian」「ニューヨークタイムズ紙(New York Times)」に掲載された意味≫の英語による学習とディスカッション
第13回	教材④の講読（1）	教材④テキストの音読→学生に質問させる→教師から学生に質問する→全体の内容の把握と理解
第14回	教材④の講読（2）	教材④における、法的・倫理的・社会的問題の英語による議論の発展性の理解と、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
★本授業の予習・復習時間は、各2時間（合計4時間）を標準とします。

★教材の内容を理解できるように、分からない単語、熟語は全て辞書（スマホで使える辞書でも良い）とグーグルで予習して調べておくこと。
★繰り返しますが：予習・復習における翻訳AI、生成系AIの使用を許可する。ただその場合、「どのAIをどの部分の予習・復習（さらに授業中）に使ったか」を必ず授業で教員に各自申し出ること。

【テキスト（教科書）】
初回の授業時に教員が指示します。その後は、その都度、必要な資料を、教員が学習支援システム上の「資料」で配信・配布します。【以下の具体的例は2022-23年度の例を含む；2025年度は更新した最新内容の英文テキストを教員が指示する。】
①国際的生命政策 関連:「デザイナー・ベビーの是非と国際的な規制の要否（ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる子どもに関する法的・倫理的・社会的諸問題）」。具体的例としては：
Rosario Isasi et al. (2016), "Editing policy to fit the genome?" in “Science”
https://www.science.org/doi/10.1126/science.aad6778
②先端的法分野：例「法と心理学」。具体的例としては：
Keelah E.G.Williams et al. (2019), "Capital and punishment: Resource scarcity increases endorsement of the death penalty"
https://www.sciencedirect.com/science/article/abs/pii/S1090513818300175
③質の高い時事英語ニュース記事。具体的例としては：
Nature誌："The effects of overturning Roe v. Wade in seven simple charts," 10 August 2022
https://www.nature.com/articles/d41586-022-02139-3
④その他、履修者が高い関心を示す分野の、質の高い英文テキスト。例えば日本語ではほとんど紹介されない諸外国の文化に関する記事。具体的例としては：
"Inclusion for All in Bengkala, Bali’s Deaf Village"
https://www.ashleyderrington.com/blog/post-9

【参考書】
参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】
毎週の授業での質問や議論への参加（平常点：50点）と、事前の予習準備の程度（50点）で評価します。（期末試験なし。）

【学生の意見等からの気づき】
●クラス内の、うち解けた雰囲気でのディスカッションをもっとも重視します。
●英語の教材や、映画をDVD、ブルーレイも見ます。
●春学期・秋学期合わせての履修を推奨しますが、義務ではありません。
●春学期の「法と遺伝学I」、秋学期の「法と遺伝学II」の履修を推奨しますが、義務ではありません。
●持参すべきものは、英和辞典（電子辞書・スマホ・英英辞典も可能）、グーグル検索のできるスマホ。

【学生が準備すべき機器他】
英和辞書（電子辞書・書籍）を所持していない場合は、それに代わるスマホ（英英辞典も可能）。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して特に英米法・日本法と、法制度に関連する英語圏・日本の政策・政治を、実務の観点からもこの授業で取り上げます。

【Outline (in English)】
【Course outline】: To learn how to read English text on legal, political and international issues.
【Learning Objectives】: Acquire the skill of understanding most recent news English of high quality and essential English text, on law, international /national politics and political science.
【Learning activities outside of classroom】: Check new words, idioms, expressions of English and the unknown contents of the text in advance before the class, using dictionary and reliable websites on the Internet.
【Grading Criteria /Policy】: attendance/participation (50%) and preparation for the class (50%).

POL100AC（政治学 / Politics 100）

憲法と政治Ⅰ

金子　匡良

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、憲法の土台となっている立憲主義の内容、および立憲主義が成立した歴史的沿革について学んだ上で、日本国憲法の成立経緯と基本原則について概観する。

【到達目標】
①憲法の土台となっている立憲主義の意義とその歴史的背景について理解する。
②日本国憲法の成立経緯について理解する。
③日本国憲法の構造について理解する。
④日本国憲法の基本原理・基本原則について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】
学習支援システム（WebClass）を通じて配布するプリントを教材として、講義形式で授業を進める。質問やリアクションペーパー等に対するフィードバックは、授業中に適宜行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と受講上の注意点等を説明する。
第2回	社会科学としての法学	法と法学の意義・内容・特徴等について学ぶ。
第3回	立憲主義の意義	立憲主義の意義・内容について学ぶ。
第4回	憲法の内容と特質	憲法を構成する規範内容と法体系における憲法の特質について学ぶ。
第5回	憲法の歴史①：近代憲法の成立	近代国家および近代憲法の成立過程について学ぶ。。
第6回	憲法の歴史②	近代国家から現代国家への変容とそれに伴う現代憲法の成立について学ぶ。
第7回	日本憲法史①：明治憲法の成立	明治憲法の成立過程とその運用について学ぶ。
第8回	日本憲法史②：日本国憲法の成立	日本国憲法の成立過程とその法理について学ぶ。
第9回	法の支配	法に支配と意義について学ぶ。
第10回	天皇制	象徴天皇制の意義と天皇の国事行為について学ぶ。
第11回	平和主義	平和主義の内容と戦力不保持の法的意味について学ぶ。
第12回	国民主権・選挙制度	国民主権の意義、および選挙制度の現状と課題について学ぶ。
第13回	憲法改正	憲法改正の手続と改正の限界について学ぶ。
第14回	全体のまとめ	授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【予習】WebClassを通じて配布するプリントを事前によく読んで、疑問点や課題を明らかにしておく。
【復習】授業内容を振り返り、授業前に抱いた疑問点や課題が解明できたかを確認する。また、下記に示す参考書等を使って、自分なりに学習を深める。
なお、この授業の予習・復習に要する時間は、それぞれ２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストはせず、WebClassを通じて配布するプリントを用いて授業を進める。

【参考書】
毛利透『グラフィック憲法入門〔第3版〕』（新世社、2024年）
芦部信喜（高橋和之（補訂））『憲法〔第8版〕』（岩波書店、2023年）
安西文雄・巻美矢紀・宍戸常寿『憲法学読本〔第4版〕』（有斐閣、2024年）
その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記到達目標が達成できたか否かを学期末に行う定期試験によって判定し、成績を評価する（100％）。

【学生の意見等からの気づき】
初学者が多いことに配慮して、基本的な知識に関する説明を丹念に行うように心がける。

【その他の重要事項】
国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。その経験を活かして、授業では現実政治における憲法の意義や役割についても言及する。

【Outline (in English)】
In this class, we first learn about the contents of constitutionalism, which is the foundation of the constitutional law, and the historical background of the establishment of constitutionalism. Next, we learn about the history and the fundamental principles of the Constitution of Japan.
Before/after each class meeting, students will be expected to read the printouts distributed by Hoppii. Your required study time is at least four hours for each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading will be decided based on term-end examination (100%).

POL100AC（政治学 / Politics 100）

憲法と政治Ⅱ

金子　匡良

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、日本国憲法が定める各種の人権と国家機構の概要について学ぶ。その際、憲法が定める人権と現実の人権状況との乖離、あるいは憲法が定める国家運営の在り方と現実の政治との乖離を考えることによって、憲法と政治の間の落差と緊張関係について考察する。

【到達目標】
①日本国憲法が定める各種の人権の内容と現実の保障状況について理解する。
②日本国憲法が定める国家機構の原理と構造について理解する。
③日本国憲法が定める国家運営の在り方と現実政治とのギャップについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】
学習支援システム（WebClass）を通じて配布するプリントを教材として、講義形式で授業を進める。質問やリアクションペーパー等に対するフィードバックは、授業中に適宜行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と受講上の注意点等を説明する。
第2回	人権の類型	人権の類型の個々の人権の特質について学ぶ。
第3回	人権の享有主体	人権の享有主体、特に外国人の人権享有主体性について学ぶ。
第4回	人権の私人間効力	人権の私人間効力の意義と内容、およびそれをめぐる学説・判例について学ぶ。
第5回	平等権	平等権の意義と内容、およびその解釈・適用をめぐる問題点について学ぶ。
第6回	思想・良心の自由	思想・良心の自由の意義と内容、、およびその解釈・適用をめぐる問題点について学ぶ。
第7回	信教の自由	信教の自由の意義と内容、およびその解釈・適用をめぐる問題点について学ぶ。
第8回	政教分離原則	政教分離原則の意義と内容、およびその解釈・適用をめぐる問題点について学ぶ。
第9回	表現の自由	表現の自由の意義と内容、およびその解釈・適用をめぐる問題点について学ぶ。
第10回	社会権	社会権の意義と内容、およびその解釈・適用をめぐる問題点について学ぶ。
第11回	権力分立制	権力分立制の制度概要と現代的な問題点について学ぶ。
第12回	議院内閣制	国会と内閣の関係、および議院内閣制の意義と問題点について学ぶ。
第13回	違憲審査制	違憲審査制の意義および違憲審査の範囲と限界について学ぶ。
第14回	全体のまとめ	授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【予習】WebClassを通じて配布するプリントを事前によく読んで、疑問点や課題を明らかにしておく。
【復習】授業内容を振り返り、授業前に抱いた疑問点や課題が解明できたかを確認する。また、下記に示す参考書等を使って、自分なりに学習を深める。
なお、この授業の予習・復習に要する時間は、それぞれ２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストはせず、WebClassを通じて配布するプリントを用いて授業を進める。

【参考書】
毛利透『グラフィック憲法入門〔第3版〕』（新世社、2024年）
芦部信喜（高橋和之（補訂））『憲法〔第8版〕』（岩波書店、2023年）
安西文雄・巻美矢紀・宍戸常寿『憲法学読本〔第4版〕』（有斐閣、2024年）
その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記到達目標が達成できたか否かを学期末に行う定期試験によって判定し、成績を評価する（100％）。

【学生の意見等からの気づき】
初学者が多いことに配慮して、基本的な知識に関する説明を丹念に行うように心がける。

【その他の重要事項】
国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。その経験を活かして、授業では現実政治における憲法の意義や役割についても言及する。

【Outline (in English)】
In this class, we will learn about the human rights and national institutions stipulated by the Constitution of Japan. And, we will consider the gap and tension between the Constitution and actual politics.
Before/after each class meeting, students will be expected to read the printouts distributed by Hoppii. Your required study time is at least four hours for each class meeting.
Grading will be decided based on term-end examination (100%).

POL200AC（政治学 / Politics 200）

都市の環境問題

松村　正治

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義で扱う範囲は、都市の中で発生する環境問題だけではありません。都市に伴う力が引き起こす地方や遠方の環境問題も扱います。こうした対象に迫るために、都市と環境に関わる社会学・都市計画学・地理学・歴史学・生態学など、複合領域の知見を取り入れます。都市と環境は対立的な概念と思われがちですが、本講義では、都市が環境問題を引き起こす必要悪とは捉えません。環境問題を都市の問題として引き受け、どのような都市をつくれば、誰ひとり取り残さない環境を実現できるのかを考えます。

【到達目標】
・環境問題とは何かについて、社会学的に考えられるようになる。
・都市に伴う権力を理解し、さまざまな環境問題を都市の問題として認識できるようになる。
・環境-社会-経済というレイヤーで、環境問題の解決法を模索できるようになる。
・都市のあり方について具体的に考え行動することが面白いと思えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業をおこないます。基本的にシラバスに示した進めますが、受講生の理解度や社会情勢の変化などによって変更することがあります。
授業に用いる教材は学習支援システムを通して提供します。
基本的に毎回リアクションペーパーを提出していただき、次の授業にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／「環境問題」とは何か	本講義の進め方などを短く案内したあと、本講義でいう「環境問題」とは社会的に構築されるものであることを説明します。
2	都市の公害史・終わらない公害	都市の環境問題として「公害」に焦点を当て、おもに1960年代以降の公害史と今日の公害（光害・香害など）を紹介します。
3	「東京」にとっての水俣・福島	公害を象徴する水俣病事件と今世紀最悪の公害である福島第一原発事故による放射能汚染を、見田宗介『現代社会の理論』を参考にして、これを「東京」の都市問題として考えます。
4	グローバル化と環境正義	現在の都市環境がきれいになったとしても、都市から排出される廃棄物が地方に、遠方に、将来に運ばれているとしたら公正ではありません。その不公正をただす環境正義や、近年話題の気候正義について考えます。
5	都市と物質循環・水循環	物質循環・水循環の視点から都市を見つめます。江戸のリサイクル事情、東京ごみ戦争、ダム問題、水道事業の民営化などを取りあげます。
6	都市と権力	都市は食料自給率が低いにもかかわらず、戦時中を除いて飢えることがありません。藤田弘夫『都市の論理』を参考にしながら、このような都市を支える権力構造について考えます。
7	都市の交通問題	都市内の交通問題と都市間の高速交通ネットワークの問題について考えます。宇沢弘文『自動車の社会的費用』、新幹線公害、リニア中央新幹線などを取りあげます。
8	都市再開発・ジェントリフィケーション	都市の再開発は環境の改善を目指すものですが、それによって行き場を失う人々が現れることがあります。批判的地理学の研究からジェントリフィケーションの議論を学びながら、誰ひとり取り残さない都市環境について考えます。
9	東京一極集中と脱成長	コロナ禍が落ち着き、日本国内では東京一極集中の傾向が依然として見られます。この弊害を理解するとともに、脱成長や里山資本主義の議論を参考に、これからの日本の都市のありかたを考えます。
10	都市と農・里山コモンズ	かつて都市には農地は不要と言われていましたが、今日では都市の諸問題を解決する場として農的な役割が期待されています。都市農業、コミュニティガーデン、里山コモンズなど、最新の動向を取りあげます。
11	都市の生態学	都市は人間生活の利便性を高めるための空間に違いないですが、この中にはさまざまな生きものがいます。都市生態学の最新の知見を参照しながら、都市の生物多様性を高め方について考えます。
12	都市に生きる幸福な若者	少子高齢化、低成長が続く日本社会ですが、若者の主観的な幸福感は高いことが知られています。コミュニティが希薄化し、社会問題・環境問題への当事者意識は低いなかで、都市の環境問題をどう解決できるのかを考えます。
13	社会を変えるには	都市的な経済社会のあり方に疑問を感じても、課題を解決していくイメージが湧かなければ、社会を変えようという気持ちにならないでしょう。環境や社会が「こうあるべき」と、私が「こうありたい」を両立させる方法を探ります。
14	まとめにかえて：都市と分解	これまでの講義をふりかえりながら、分解という視点からあらためて都市を捉えます。その上で、誰ひとり取り残さない環境に向けて、どうすれば持続可能な都市を実現できるのかを考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業終了後に、授業をふりかえり、リアクションペーパーを提出してください。
本講義に関連する参考図書を読むことを勧めます。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。

【参考書】
さらに深く学びたい場合、以下の参考書が助けになります（発行年順）。
宇沢弘文（1974）『自動車の社会的費用』岩波書店.
藤田弘夫（1993）『都市の論理：権力はなぜ都市を必要とするか』中央公論社.
見田宗介（1996）『現代社会の理論：情報化・消費化社会の現在と未来』岩波書店.
品田譲（2004）『ヒトと緑の空間：かかわりの原構造』東海大学出版会.
小熊英二（2012）『社会を変えるには』講談社.
デビッド・ハーヴェイ（2013）『反乱する都市：資本のアーバナイゼーションと都市の再創造』作品社.
宮内泰介編（2013）『なぜ環境保全はうまくいかないのか：現場から考える「順応的ガバナンス」の可能性』新泉社.
矢部宏治（2014）『日本はなぜ、「基地」と「原発」を止められないのか』集英社.
藤原辰史（2019）『分解の哲学：腐敗と発酵をめぐる思考』青土社.
セルジュ・ラトゥーシュ（2020）『脱成長』白水社.
エマ・マリス（2018）『「自然」という幻想: 多自然ガーデニングによる新しい自然保護』 草思社.
安藤聡彦・林美帆・丹野春香編（2021）公害スタディーズ：哀しみ、闘い、語りつぐ』ころから.
マシュー・サイド（2021）『多様性の科学』ディスカヴァー・トゥエンティワン.
新保奈穂美（2022）『まちを変える都市型農園：コミュニティを育む空き地活用』学生出版社.
山本眞人（2022）『コモンズ思考をマッピングする：ポスト資本主義的ガバナンス』BMFT出版部.
ジェレミー・リフキン（2023）『レジリエンスの時代：再野生化する地球で、人類が生き抜くための大転換』集英社.
斎藤幸平（2023）『マルクス解体：プロメテウスの夢とその先』講談社.
藤川賢・友澤悠季編（2023）『なぜ公害は続くのか：潜在・散在・長期化する被害 (シリーズ 環境社会学講座 1)』新泉社.
福永真弓・松村正治編（2025）『答えのない人と自然のあいだ：「自然保護」以後の環境社会学(シリーズ 環境社会学講座 4)』新泉社.

【成績評価の方法と基準】
毎回授業後に提出するコメント：65%
期末に提出するコメント：35%
※授業内容をまとめても評価できません。授業で取りあげた概念、方法論、事例などをもとに、何を考えたのかを評価します。
※授業中の発言内容によって加点することがあります。

【学生の意見等からの気づき】
授業中に発言を求めることが難しいですが、そのことを前提にできるだけ双方向型の授業にしていきたいと考えています。

【その他の重要事項】
【実務経験のある教員による授業】環境コンサルタント会社・環境系行政研究機関に約5年勤務、環境NPO代表など市民活動の経験は20年以上。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
The scope of this lecture covers not only environmental problems that arise within cities, but also local and remote environmental problems caused by the power that accompanies cities. In order to approach these subjects, we will incorporate knowledge from multidisciplinary fields such as sociology, urban planning, geography, history and ecology related to cities and the environment.We take on environmental problems as urban problems and consider what kind of city can realise an environment where no one is left behind.
【[Learning objectives】
· Be able to think sociologically about what environmental problems are.
· Be able to understand the power that comes with cities and to recognise various environmental problems as urban problems.
· Be able to seek solutions to environmental problems on an environment-social-economic layer.
· It becomes interesting to think and act specifically about how cities should be.
【Learning activities outside of classroom】
After the class, look back at the class and submit a reaction paper.
I recommend that you read a reference books.
【[Grading Criteria /Policies】
Reaction papers (may include quizzes): 100%
*Additional points may be given depending on what is said in class.

POL300AD（政治学 / Politics 300）

現代イスラム世界論

出川　展恒

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代のイスラム世界（中東・アフリカ・アジアなど）で起きている重要な出来事や事象について、原因、背景、影響などを理解し、自ら考える習慣を身につけることを目標とする。たとえば、イスラエルとイスラム組織ハマスの戦闘が起きた原因とパレスチナ問題の今後。シリアのアサド政権崩壊の背景と影響。イランとアメリカ、イスラエルの敵対関係の歴史的背景と核開発をめぐる問題。こうした具体的な問題の原因や背景を学び、解決への道筋を考えることで、激動する現代の国際社会で生きてゆくための基礎知識と思考力を身につける。

【到達目標】
▼イスラエルとイスラム組織ハマスの戦闘が起きた歴史的背景とパレスチナ問題の今後。▼イスラム革命後のイランとアメリカ・イスラエルが激しく敵対している歴史的背景、および、イラン核開発問題の今後。▼シリアを半世紀にわたって支配してきたアサド政権が崩壊した原因とシリアの今後。▼同じイスラムの国でも、サウジアラビアとイランが激しく対立してきた理由。▼イスラム過激派組織が生まれ、テロを行うのはなぜか。▼アフガニスタンでイスラム主義勢力タリバンの支配が復活した背景と今後。▼イスラム世界で民主主義は定着するのか。▼イスラム世界では、国や地域によってイスラム教の戒律（たとえば飲酒、女性の服装）の規定や習慣が異なるのはなぜか。▼日本とイスラム世界の関係はどう変化してきたか。____こうした具体的な問題の背景や原因を学び、考えることで、激動する国際社会への理解を深め、異文化の人々との相互理解の態度を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。映像資料や雑誌記事などを活用し、具体的なイメージを持てるよう工夫する。問題意識を持ち、能動的に考える習慣を身につけることを目指す。そのため、リポートやリアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の紹介と現代イスラム世界で起きている問題の概略
第2回	イスラエル・パレスチナ問題①	イスラエルとイスラム組織ハマスの軍事衝突、その歴史的背景と今後
第3回	イスラエル・パレスチナ問題②	イスラエル建国とパレスチナ問題、中東和平プロセスとその挫折、パレスチナ問題の今後
第4回	シリア	シリア内戦とアサド政権の崩壊、新しい国づくりの課題
第5回	イラン①	イラン革命とイスラム体制
第6回	イラン②	イランと対アメリカ、イスラエル、サウジアラビア関係、核開発問題の経緯と今後
第7回	サウジアラビア	イスラム教の２大聖地、女性の社会進出、脱石油の経済改革
第8回	アラブの春	２０１１年の通称「アラブの春」の経緯と、その後のアラブ諸国
第9回	イスラム過激派	２００１年アメリカ同時多発テロ事件、アルカイダ、ＩＳ（イスラム国）の台頭と欧米
第10回	イラク	湾岸戦争とイラク戦争、宗派対立とＩＳ台頭、民主化プロセス
第11回	アフガニスタン	タリバン政権の復活と国際社会
第12回	トルコ	トルコ共和国の世俗主義、エルドアン政権とイスラム、クルド問題
第13回	イスラムと日本	日本のイスラム社会、日本とイスラム世界の関係
第14回	現代世界とイスラム	現在起きている問題のアップデート。および、欧米における反イスラム感情、難民問題、共存への努力

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で提示する資料には必ず目を通してもらいたい。新聞や放送などメディアを通じて、イスラム世界（中東、アフリカ、アジアなど）で起きている大きな出来事や問題に関心を持つよう努力してほしい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。新聞や雑誌の記事、映像資料などを適宜使用する。

【参考書】
適宜紹介する。ベーシックな参考書としては、平凡社『新イスラム事典』、岩波書店『イスラーム辞典』、明石書店『イスラエルを知るための６２章』、『パレスチナを知るための６０章』、『現代イラクを知るための６０章』、『現代エジプトを知るための６０章』など、エリア・スタディースのシリーズの関連図書。

【成績評価の方法と基準】
中間と期末に計２回のリポート提出を求め、その内容評価によって成績をつける。【中間リポート３０％】現代イスラム世界で起きていることについて何を学び、どんな問題意識を持ち、さらに知りたいことは何かについて、記述を求める。【期末リポート６０％】全講義を通じた内容からテーマを設定し、記述を求める。【リアクションペーパー１０％】毎回の講義の終わりに提出を求めるリアクション・ペーパーの内容を評価対象に加える。

【学生の意見等からの気づき】
講義ごとにリアクションペーパーの提出を求める。質問も受け付ける。関心が集まった問題、理解しにくかった問題、良い質問については、講義の中でより理解が深まるようフィードバックする。

【その他の重要事項】
【実務経験のある教員による授業】
講師は、現職のＮＨＫ解説委員で、長らく国際報道の記者を務め、その後、解説委員として、通算３５年にわたり、中東・イスラム地域の報道に携わってきた。戦争報道も経験している。現場での取材体験に基づいた具体的な話を多く盛り込み、関連する映像も活用して、受講生の理解促進を図りたい。

【Outline (in English)】
The main goals of this lecture are to understand the causes and background or effects of important events and issues happening in the modern Islamic world (in the Middle East, Africa, Asia), as well as, to have habits of thinking about those issues by yourselves. We focus on current world news events, such as the war between Israel and Hamas, Syria after Assad regime, or conflict between Iran and USA-Israel, and so on.

ECN100AC（経済学 / Economics 100）

財政と金融Ⅰ

島澤　諭

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**
備考（履修条件等）：**経済学部「財政学A（K6347）」との合併科目**
その他属性：〈優〉〈実〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③金融システムの安定化、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府や金融機関の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、現実の日本財政や金融についてデータを参照しながら学習する。

【到達目標】
市場主義経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解する。また、日本の財政や金融を取り巻く問題を把握する。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかまた今後どうあるべきかについて、自分なりの意見を持てるようになるための論理的思考力、分析能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
現在のところ、基本的には講義資料に沿って講義を進めることを予定している。参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 財政学の歴史	ガイダンス 財政学の歴史
第2回	外部性（1）	外部性の本質
第3回	外部性（2）	ピグー税・補助金
第4回	外部性（3）	コースの定理
第5回	公共財（1）	公共財、準公共財
第6回	公共財（2）	公共財の最適供給
第7回	公共選択（1）	リンダールメカニズム、ただ乗り
第8回	公共選択（2）	アローの不可能性定理、直接民主制
第9回	公共選択（3）	間接民主制、ログローリング
第10回	税の帰着（1）	租税原則
第11回	税の帰着（2）	税の帰着
第12回	最適課税（1）	超過負担
第13回	最適課税（2）	最適物品税
第14回	最適課税（3）	最適所得税

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。
（1）井堀利宏『財政学（第4版）』新世社
（2）畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
（3）釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社
（4）小黒一正等『財政学15講』新世社
（5）林宜嗣等『財政学（第4版）』新世社
（6）Gruber Public Finance and Public Policy Worth Publishers Inc.

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
官庁エコノミスト（経済企画庁（現内閣府））として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】
Japan is currently facing a number of challenges, including (1) coping with the declining birthrate and aging population, (2) dealing with fiscal reconstruction, and (3) stabilizing the financial system. In this lecture, we will study the actual situation and basic theories on economic activities of the government and financial institutions, and then refer to data on the actual Japanese fiscal and financial situation.
To understand the concept of the role of government in a market-based economy. Also, understand the issues surrounding Japan's public finances and finance. Students will then acquire the logical thinking and analytical skills to be able to form their own opinions on the role of the government and how Japan's finances should be and will be in the future.
At present, we plan to basically follow the lecture materials. If there is any reference literature, it will be indicated each time. In addition, the following topics will be covered in each session, but the speed of the class will be changed as necessary, taking into account the level of knowledge and understanding of the students.
Preparation and review time is estimated to be 4 hours each.
The plan is to evaluate the students on the basis of their in-class assignments (40%) and a final exam (60%).

ECN100AC（経済学 / Economics 100）

財政と金融Ⅱ

島澤　諭

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**
備考（履修条件等）：**経済学部「財政学B（K6348)」との合併科目**
その他属性：〈優〉〈実〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか)】
日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③金融システムの安定化、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府や金融機関の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、現実の日本財政や金融についてデータを参照しながら学習する。

【到達目標】
日本財政や金融、社会保障制度・財源の現状と課題を理解し、経済学の視点から財政・社会保障制度、金融政策の効果について考察するための基礎知識の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】
現在のところ、基本的には講義資料に沿って講義を進めることを予定している。参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 財政学の歴史	ガイダンス 財政学の歴史
第2回	日本の財政の歴史	日本の財政史
第3回	予算制度	財政と法律、予算制度
第4回	政府の大きさ	経済活動と政府、財政の役割、大きな政府と小さな政府
第5回	財政金融政策の効果（1）	景気循環、GDPギャップ
第6回	財政金融政策の効果（2）	国民所得の決定、乗数、ビルトインスタビライザー
第7回	財政金融政策の効果（3）	IS-LM分析、財政・金融政策の効果
第8回	所得再分配	ベンサム、ロールズ、ジニ係数
第9回	国債の負担（1）	国債の種類、新正統派
第10回	国債の負担（2）	新古典派
第11回	国債の負担（3）	リカード＝バローの等価定理
第12回	財政の持続可能性（1）	日本の財政再建の歴史
第13回	財政の持続可能性（2）	ドーマーの条件、ドーマーの命題
第14回	財政の持続可能性（3）	ポンジスキーム、プライマリーバランス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書)】
なし

【参考書】
受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。
（1）井堀利宏『財政学（第4版)』新世社
（2）畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
（3）釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社
（4）小黒一正等『財政学15講』新世社
（5）小塩隆士『社会保障の経済学（第4版)』日本評論
（6）島澤諭『シルバー民主主義の政治経済学』日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
経済企画庁（現内閣府）の官庁エコノミストとして様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】
Japan is currently facing a number of challenges, including (1) coping with the declining birthrate and aging population, (2) dealing with fiscal reconstruction, and (3) stabilizing the financial system. In this lecture, we will study the actual situation and basic theories on economic activities of the government and financial institutions, and then refer to data on the actual Japanese fiscal and financial situation.
The goal of this course is to acquire basic knowledge to understand the current status and issues of Japanese public finances, finance, and social security systems and financial resources, and to examine the effects of fiscal and social security systems and monetary policies from an economics perspective.
At present, it is planned to basically follow the lecture materials. If there is any reference literature, it will be indicated each time. In addition, the following topics will be covered in each session, but the speed of the class will be changed as necessary, taking into account the level of knowledge and understanding of the students.
Preparation and review time is estimated to be 4 hours each.
The plan is to evaluate the students on the basis of their in-class assignments (40%) and a final exam (60%).

POL300AD（政治学 / Politics 300）

国際ＮＧＯ論Ⅰ

高橋　清貴

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会が健全に機能するためには、社会資本や公共サービスなどの「公共財」を供給する政府（行政）の役割、社会が必要とする商品やサービスを提供し経済活動を回しながら利益追求型で成長する企業の役割、そして、NGOを含めた非営利組織の役割が必要と言われる。近年では、教育、環境、災害、貧困、人権、福祉、医療などでも非営利組織の顕著な活動が増えてきている。
この授業では、実際に国際協力NGOの実務に関わる講師と共に、世界のNGO・NPO、日本のNGO・NPOの発展と歴史について学ぶ。
また、授業ではNGOの社会的意義のみならず、現場の経験や葛藤から感じた困難や課題について議論を行い、今後私たちが考えるべき論点を探る。
これらを通して、現代社会、未来におけるNGO・NPOの可能性と課題を学ぶ。

【到達目標】
1、社会における非営利組織の存在意義/役割について理解できるようになる
2、非営利組織の構造的・制度的な課題について理解できるようになる
3、非営利組織の存在を身近なものと捉え、自分の意見をもてるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
実際に現役でNPOの代表を務める講師が、スライドや映像を使って具体的事例なども組み込んで実践的に学びます。講師が長年従事してきた国際協力NGOや政府開発援助での経験を踏まえて、その社会的意義と役割のみならず葛藤や課題についても率直に共有し、議論したいと思います。講義だけではなく、なるべくグループワークや議論、発表などを通して学生が参加する機会も設けます。グループディスカッションに参加する姿勢を持って授業に臨んでください。
授業後には、毎回振り返りのコメントを提出してもらいます。それを必要に応じて、次回の授業での材料とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の狙い、春学期の授業計画の説明。また、講師の経験を通して得たNGOの意義について概説。
第2回	NGO・NPOとは何か	社会におけるNGO・NPOの位置付け。政府や企業との違い。国際NGOの歴史と主な活動。
第3回	国際NGOの実践手法	参加型開発と対話型ファシリテーション手法について
第4回	ワークショップ①	関心課題に取り組んでいるNGOについてリサーチ
第5回	ワークショップ②	グループワーク発表、質疑応答、講評。
第6回	『アフリカ支援は甘くない』を観る①	テーマ「無益な施し」。質疑応答、講評。
第7回	『アフリカ支援は甘くない』を観る②	テーマ「村人の協力」。質疑応答、講評。
第8回	『アフリカ支援は甘くない』を観る③	テーマ「時間との闘い」。質疑応答、講評。
第9回	『アフリカ支援は甘くない』を観る④	テーマ「村に残されたもの」。質疑応答、講評。
第10回	『アフリカ支援は甘くない』を観て	国際協力プロジェクトの進め方について、PCM手法を使って分析し、批評する。
第11回	NGO・NPOの組織マネジメント	NGOの財源、組織運営、ガバナンス、アカウンタビリティ
第12回	NGO・NPOの法人制度	組織に人格を与えるとは？ 1998年に成立したNPO法の背景と成立過程、税制優遇制度の導入
第13回	NGOと社会運動	市民社会とは？ ニーズに応えるだけがNGOの役割か？ NGOは、「新しい社会」を拓けるか？
第14回	まとめ	春学期の授業の全体を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義において、適時次回授業までの課題および予習がある際には内容を指示します。
また、期末にレポート提出があります。
本授業の準備学習・復習時間は計2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業にて固定的に使用するテキストはありません。必要に応じて、レジュメと参考文献をこちらで準備します。
また、授業にて使用するパワーポイント（スライド）は授業後、適切な方法で共有します。

【参考書】
『NPO・NGOの世界』大橋 正明／利根川 佳子編、放送大学教育振興会、2021年
『国際協力NGOダイレクトリー』JANIC編、JANIC、2008年
『「連続講義」国際協力NGO』今田克司／原田勝弘編著、日本評論社、2004年
『NGOの選択』JVC、めこん、2005年
『人道援助、そのジレンマ』ロニー・ブローマン、産業図書、2000年
『子どものための小さな援助論』鈴木啓嗣、日本評論社、2012年
『NGOとボランティアの21世紀』デビッド・コーテン、学陽書房、1995年
『変容する参加型開発』サミュエル・ヒッキィ／ジャイルズ・モハン編著、明石書店、2008年
『開発援助か社会運動か』定松栄一著、コモンズ、2002年

【成績評価の方法と基準】
「テスト/アンケート機能」での振り返りコメント提出（40％）
グループ発表（20%）
期末レポート（40%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システムを使えるようにしておいてください

【その他の重要事項】
授業後10分を、オフィスアワーとします。質問等がある方は、有効活用してください。
・【実務経験のある教員による授業】
授業担当者は、30年近くODA、NGOで国際協力関係の仕事に従事してきた教員による授業です。これによって国際NGOの社会的意義と役割について実務者の視点から講義をすることができます。また、実際に活動する場合に必要となるプロジェクト立案や組織マネジメントについても学ぶことができます。概念学習に終わらず、体験にもとづく具体的かつ実践的な授業科目です。

【Outline (in English)】
（Course outline）

In order for society to function soundly, there is a role for the government (administration) to provide "public goods" such as social capital and public services, and there are companies that provide products and services and grow in pursuit of profit. In addition to these roles, it is said that the roles of non-profit organizations, including NGOs, are necessary.In recent years, notable activities of non-profit organizations have increased in areas such as education, environment, disasters, poverty, human rights, welfare, and medicine.
In this class, students will learn about the development and history of NGOs and NPOs in the world and in Japan with a lecturer who is actually involved in development NGO practice. In addition, students will share the issues and difficulties attained from the experiences of the lecturer who has been directly involved in NGOs, and will be invited to explore through questions and discussions.
Through these activities, students will learn about the possibilities and challenges of NGOs and NPOs in today's society and in the future.
（Learning Objectives）
1、To be able to understand the significance/role of non-profit organizations in society
2, To be able to understand the structural and institutional challenges of nonprofit organizations
3、 Become familiar with non-profit organizations and be able to have your own opinion
Instructors who are actually active representatives of NPOs use textbooks and use slides and videos to proceed with the lessons. I would like to share and discuss frankly not only my experiences, but also my conflicts and challenges, as my generation is somewhat similar to yours.
（Grading Criteria /Policy）
In addition to lectures, there will be opportunities for student participation through group work, discussions, and presentations. Please come to class with an attitude of participation in group discussions.
After each class, students are asked to submit comments on their reflections using the "test/survey function". This will be used as material for the next class.
Submission of reflection comments via the "test/survey function" (40%)
Group presentation (20%)
Final report (40%)

POL300AD（政治学 / Politics 300）

アジア国際政治概論

水野　孝昭

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
米国のトランプ2.0政権は国際関係を揺るがせています。超大国の米国が「覇権国」であることを放棄するなら、欧州やアジア諸国も外交・安全保障の見直しを迫られます。中台関係や朝鮮半島の緊張は高まり、民主化の挫折や平和構築の失敗も続きます。過去の事例を学び、日々のニュースを追いながら、領土問題や歴史認識など立場の違いを理解しつつ「共存」できる視点を探ります。

【到達目標】
①アジアの現代を欧州と比較し、国際政治の基礎知識と理論を把握する
②軍事、経済、ソフトパワーなど国際社会を動かすパワーの視点から日米中のトライアングル関係を理解する
③中国と台湾、朝鮮半島、ベトナムなど「分断国家」を通じてアジアのナショナリズムを理解する
④グローバルサウスを代表するASEAN諸国の視点や、APEC,TPPなど経済統合を理解する
⑤以上を通じて、日本とアジアの将来について自分の言葉で語れるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
事前にアップした資料や動画をもとに、対面授業と討論を行います。前半はアジアの戦争を欧州と比較して「米国による平和@アジア」を考えます。後半は領土紛争、歴史認識、地域統合など争点を取り上げます。授業のテーマ毎に受講生から「報告者」「討論者」を募集します。その時々の国際ニュース解説もまじえます。複雑な国際問題を歴史的背景から理解して「議論する力」を身につけましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション・「新冷戦の時代とは」	トランプ2.0は何を目指す？／リアリズムとリベラリズム／アジアと米国／外交理念と「国益」
第2回	「冷戦とは？」欧州とアジアの経験	欧州とアジアの冷戦の違い／「封じ込め」と熱い戦争／アジアの「分断国家」とドイツ統一の教訓
第3回	分断国家①：「二つの中国」と台湾の地位	国共内戦と「中国の喪失」／毛沢東と蒋介石／中ソ対立と米中接近／中国共産党の世界観
第4回	分断国家②：朝鮮戦争と日米安保	植民地と「民族解放」／米韓同盟と日米同盟の違い／日韓基本条約と平壌宣言
第5回	分断国家③　ベトナム戦争と「グローバルサウス」	内戦と代理戦争／第3世界のナショナリズム／ソフトパワーとしてのメディアと反戦運動
第6回	冷戦後①中国の「平和的台頭」から「民族復興」への変質	天安門事件と鄧小平／米中関係とWTO加盟／香港返還と「一国二制度」／習近平路線へ
第7回	冷戦後②韓国の民主化と「核保有国」となった北朝鮮	韓国民主化まで／金大中の太陽政策から／「非核化」交渉の失敗・六者協議
第8回	冷戦後③カンボジア和平と米越和解	ドイモイと市場経済／日本の和平努力／国連PKOの役割／
第9回	冷戦後④ＡＳＥＡＮ：地域機構の意義と限界	ベトナムの加盟とARF外交／アジア金融危機と開発独裁／APECの迷走／CCTPPと「一帯一路」
第10回	民主化と関与政策：フィリピン、ミャンマー、タイ	「開発独裁」から民主化したフィリピンやインドネシア、民主化から逆戻りしたタイ、ミャンマー
第11回	習近平体制のいま	対米関係と台湾問題／少数民族と「中華民族の偉大なる復興」／「共同富裕」と市場経済／ロシア、インド、日本の位置づけ
第12回	米中関係の展開	トランプ2.0政権の対中政策／経済安全保障と台湾／ウクライナ戦争と核抑止
第13回	日本の選択は	「日米同盟」の歴史と現状／台湾海峡と尖閣問題／朝鮮半島有事と日韓関係／歴史認識問題への姿勢
第14回	まとめ：日本の選択は？	「平和国家」のアイデンティティー／「経済大国」のパワーと国家安全保障戦略／日本の「抑止力」とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
初回に配る参考文献リストから毎回の参考文献や資料を紹介するので、事前に目を通して下さい。アジアで日々起きる問題について、国際政治の視点から背景、現状、対応を説明できるようにニュースを日々読んでください。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は指定しません。学習支援システムやgoogleクラスルームを使ってレジュメや資料などを配布します。
参考文献は授業の初回で指示します。

【参考書】
小原雅博『戦争と平和の国際政治』（ちくま新書）
千々和泰明『戦後日本の安全保障』（中公新書）
千々和泰明『戦争はいかに終結したか』（中公新書）
佐橋亮『米中対立』（中公新書）
毛利和子　『日中漂流』（岩波新書）
服部龍二　『外交ドキュメント　歴史認識』（岩波新書）
同『日中国交正常化』（中公新書）
阿南友亮『中国はなぜ軍拡を続けるのか』（新潮選書）
五味洋治『朝鮮戦争はなぜ終わらないのか』（創元社）
ジョン・ダワー　『敗北を抱きしめて』（岩波書店）
イアン・ブルマ　『戦争の記憶　日本人とドイツ人』
若宮啓文　『和解とナショナリズム』（朝日新書）
波多野澄雄『日本の歴史問題』（中公新書）
朴裕河『帝国の慰安婦』（朝日新聞出版）
木宮正史『日韓関係史』（岩波書店）
ドン・オーバードーファー　『二つのコリア』（共同通信）
吉田文彦『核のアメリカ』（岩波書店）
加納雄大『東南アジア外交』（信山社）

【成績評価の方法と基準】
期末試験７０％、授業参加３０％で評価します。
期末試験の代わりに、自分で選んだテーマについてプレゼンをして、その内容を3000字程度のレポートにまとめて提出することも認めます。プレゼンする人はシラバスに沿ったテーマを選んで、7回目までに決めて下さい。やり方は授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業内容や順序はできるだけ現実の国際社会の動きに合わせていく。必ずアジアに関する日々の国際ニュースをチェックすること。

【学生が準備すべき機器他】
ipadなどネットが閲覧できる情報機器を持参するのが望ましい。

【その他の重要事項】
朝日新聞での30年間の記者経験、とくにハノイ、ワシントン、ニューヨークでの特派員としての経験をいかして、戦争報道や国際報道のメディアリテラシーを高めることを目指す。

【Outline (in English)】
This class tries to provide a fresh look at strategic landscapes in Asian region through Japan's experiences. Asian countries in general have been enjoying economic growth and development by trade and investment. Regional economic integrations and economic interdependences, however, do not mean political reconciliation nor a stable regional order. We will examine these trends and think of the future perspectives in Asia.

POL100AD（政治学 / Politics 100）

国際協力論 I

志賀　裕朗

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ウクライナ戦争やトランプ第二次政権の登場は世界のあり方を大きく変えつつある。国際社会が団結して環境問題や貧困問題、感染症対策等の地球規模課題に取り組む必要性は明白だが、大国の対立や各国の思惑の違いなどのために国際社会は一致団結できておらず、世界の将来はますます不確実となっている。
こうした不安定な世情のなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めたうえで、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代社会を生きる上で不可欠のリテラシー（基礎的素養）となっている。
本講義ではまず、途上国問題や開発援助のあり方について建設的な議論と創造的な発想をするうえで不可欠の前提となる基礎知識を習得することを目指す。次いで、「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを目指す。講師は、政府開発援助（ODA）の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。

【到達目標】
まず、途上国問題および開発援助についての基礎知識を習得することを目指す。途上国問題を理解するとは、開発途上国において、何が、なぜ問題になっているのか、その原因は何か（何と考えられているか）を理解することである。また開発援助を理解するとは、途上国問題に対してどのようなアクターが、どのような問題意識と動機にもとづいて、どのような方法で対処しようとしているか、その試みは上手くいっているのか、成功していないとすればそれは何故かを理解することである。本講義では、こうした論点を、大きな国際政治経済史の流れの中に位置づけて理解することを目指す。
次いで、こうした知識を活用しつつ、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
インターアクティブな授業とする。講師はしつこく「なぜ？」という問いを投げかけ、議論を奨励するので、受講生は積極的に議論に参加してほしい。自分らしい“Something New”を創造して世界に訴えたい、主体性と自律性をもって自分の夢を追いかけたい！ と願う学生の積極的な受講を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目的と概要、成績評価方法、学生の心構え等の説明を行う。
2	危機に瀕する国際協力	アメリカをはじめとする先進国における自国第一主義的な行動や排外主義の高まり、大国間競争の激化が国際協力をどのように難しくしているかを検討する。
3	危機に瀕する国際協力②	同上。
4	途上国が直面する課題	途上国が長年直面してきた様々な課題を、SDGS（持続可能な開発目標）を参考にしながら広く検討する。
5	開発援助の仕組み	開発援助にはどのようなアクター（援助機関、途上国政府、企業、NGO等）が携わっているのか、援助政策はどのようにして決定されているのか、等を検討する。
6	開発思想の歴史①	貧しい国はなぜ貧しく、豊かな国はなぜ豊かなのか、貧しい国を豊かにするには何が必要なのか。こうした問いにどう答えるかは、途上国の開発戦略・援助機関の援助戦略を立案する上で重要である。こうした開発思想の歴史的展開を振り返る。
7	開発思想の歴史②	開発思想については、アメリカや欧州諸国と日本のあいだで大きな相違がある。それは如何なるものか、そうした違いがなぜ存在するのかを考える。
8	中間振り返り	これまで学習・議論したことを振り返り、ディスカッションを行う。
9	日本の政府開発援助（ODA）①	欧米諸国、世界銀行のような国際機関、または中国の援助と比較して、日本のODA にはどのような特徴があるのか、その長所と欠点を検討する。
10	日本の政府開発援助（ODA）②	日本のODA の代表的な事例（借款によるインフラ整備支援や、法整備を目指した技術援助）を取り上げ、その特徴を、他国による援助と比較しながら検討する。
11	途上国問題と開発援助の新潮流①	近年の国際政治経済情勢の変動のなかで、途上国問題や開発援助のあり方がどのように変化しつつあるかを検討する。
12	途上国問題と開発援助の新潮流②	近年の日本を取り巻く国際政治経済情勢の変化や途上国問題の変動を受けて、日本はどのような援助政策を打ち出そうとしているのかを検討する。
13	ロールプレイング・ゲーム	途上国問題あるいは開発援助に関する具体的なテーマを取り上げ、それに関連するアクター（二国間援助機関、国際機関、途上国政府、NGO等）の役割を各自で分担して実際に戦略立案や交渉を体験するゲームを行う。
14	振り返りと総括	改めて、コロナ危機が我々に突き付けたものを振り返る。それは、途上国だけの問題だろうか？ 日本を含む先進国にもその問題は存在しないだろうか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は、講師からの指示に基づき、参考文献等を使用しながら特定のテーマについてのレポートを作成・提出するほか、グループディスカッションの準備等を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
西垣昭、下村恭民、辻一人、2009年、『開発援助の経済学:「共生の世界」と日本のODA』、有斐閣。

木村宏恒、近藤久洋、金丸裕志編、2013年、『開発政治学の展開: 途上国開発戦略におけるガバナンス』、勁草書房。
木村宏恒編、2018年、『開発政治学を学ぶための61冊：開発途上国のガバナンス理解のために』、明石書店。

【成績評価の方法と基準】
授業中に提出を求める課題（40 %）と最終試験（60%）で成績を評定する予定であるが、履修学生数によって変更がありうる。

【学生の意見等からの気づき】
授業時間の延長が無いように心がける。また、前回よりも講義（講師からの説明）の比重を減らし、学生自身が参加し議論する時間の割合を高めるつもりである。なお、授業の内容・方法等に関する要望・提案・批判は大歓迎であるので、随時受け付けます。

【学生が準備すべき機器他】
各自PC持参が望ましい。

【その他の重要事項】
■本講義は、国際協力機構、国際協力銀行、財務省等で開発援助の実務に携わってきた講師が、援助の実務と理論の双方を踏まえた講義を行う。
■本講義の履修に先立って履修しておくべき科目は無い。途上国問題、開発援助、国際政治経済に関する前提知識も一切必要としない。
■「国際開発論Ⅱ」を併せて受講することを推奨する。
■本講義は決して「ラクタン」（楽に単位が取れる科目）では無いので、その点を十分に理解して臨むよう希望する。
■提出物において剽窃が認められた場合には、理由の如何を問わずに不合格判定とするので十分に注意すること。受講生は「剽窃」の意味を事前に確認しておくこと。

【Outline (in English)】
How should we eradicate poverty and inequality? How should we achieve peace and justice? How should we guarantee prosperity, health, education, and decent work for all? Japan has been tackling these challenges for over sixty years, by providing aid (Official Development Assistance: ODA) to developing countries with distinctive aid philosophy and unique instruments.
This course firstly introduces a basic knowledge about development issues and Japan's ODA policy. Then students are encouraged to think critically about the conventional wisdom on global agendas. The course will be interactive, with the combination of lecture, group discussion, and role-playing game. No prior knowledge is required.

POL100AD（政治学 / Politics 100）

国際協力論Ⅱ

志賀　裕朗

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の政治経済を巡る秩序が大きな転換点を迎え、世界の先行きはますます不透明になっている。こうしたなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めたうえで、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代国際社会を生きる上で不可欠のリテラシー（基礎的素養）となっている。

本講義では、途上国や開発援助に関する様々な問題を、ひとつひとつ時間をかけて深く掘り下げて検討することを通じて、正解の無い難問について「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを目指す。講師は、政府開発援助（ODA）の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。

【到達目標】

本講義では、ひとつのテーマについて徹底的に議論することを通じて、「国際協力論Ⅰ」で学んだ幅広い知識を深めることを目指す。同時に、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示するためのスキルを獲得することも目指す。

なお、国際情勢の変動や受講生の希望により議論するテーマを変更する可能性が高い（そのため、シラバスに提示したテーマはあくまでも暫定的なものである）。議論したいテーマ、疑問に思うテーマの提案を大いに歓迎する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義では、各テーマについて講師が導入の説明を行ったのち、受講生からの発表およびディスカッションを行う。重点は後者にあり、その意味で本講義は「講義」よりも「ゼミ」に近い形態となる。講師はしつこく「なぜ？」という問いを投げかけ、議論を奨励するので、受講生は事前に十分な準備を行ったうえで積極的に議論に参加することが求められる。主体性と自律性をもって自分の夢を追いかけたいと願う学生の受講を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目的と概要の説明を行う。
2	途上国が直面する多様な課題①	サブサハラ・アフリカには、世界のHIV-AIDS患者の7割が集中すると言われ、特に南アフリカ共和国では30代前半の女性の罹患率が36％という深刻さである。なぜこうした事態が起きているのか、これに効果的に対処するにはどうすればよいかを議論する。
3	途上国が直面する多様な課題②	「戦後最悪の人道危機」と言われ、国民の実に半数が難民となっているシリア紛争と難民問題に国際社会はどう対処すべきかを、近年欧米を中心とする先進国で台頭する排外主義的な動きと関連づけながら議論する。
4	途上国が直面する多様な課題③	「なぜ異なる民族は殺し合うのか、殺し合った民族を共存・和解させるにはどうすればよいのか」を、1990年代に発生したボスニア・ヘルツェゴヴィナ紛争とその後の同国の状況、日本の援助（平和構築支援）の実例を題材に議論する。
5	途上国が直面する多様な課題④	1970年代の東京の深刻な交通渋滞を見たタイの政府関係者は「バンコクは東京のようにはならない」と言ったが、バンコクは世界有数の交通渋滞都市になってしまった。これを見たベトナムの政府関係者は「ハノイはバンコクのようにはならない」と言ったが、ハノイもまた深刻な交通渋滞に悩まされている。他の国の教訓から学ぶことはなぜ難しいのだろうか？ アジアの都市交通問題を例に、考えてみたい。
6	開発思想と援助手法①	「東・東南アジア諸国の多くが高度経済成長を達成したのに対して、アフリカ諸国の多くはなぜ長期にわたる経済停滞を経験し、今なお貧しいままなのか？」という問いを検討する。
7	開発思想と援助手法②	「汚職腐敗がひどい権威主義体制国に対しては援助すべきではない」という主張の是非を検討する。
8	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序①	これまで国際開発援助を主導してきた欧米先進国において、異なる文化や価値観に対する軽蔑や不寛容が台頭しているほか、客観的な事実が重視されない「ポスト真実（post-truth）の時代」が来たと言われる。こうした動きは、今後の開発援助や途上国問題の解決にどう影響するのかを議論する。
9	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序②	2015年に採択されたSDGs（持続可能な開発目標）を読み、2000年に策定されたMDGs（ミレニアム開発目標）と比較しながら、その特徴と問題点を議論する。
10	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序③	「2000年代以降、中国は援助を急増させ、人権侵害を行っている独裁国家を支援したり環境を破壊したりしているほか、アジアインフラ投資銀行（AIIB）等の援助機関を設置して開発援助に関する既存の国際秩序を混乱させている」という見解について議論する。

11	日本の政府開発援助（ODA）の特徴①	第二次大戦における敗北から10年も経っていない1954年、日本はアメリカや世界銀行から多額の援助を受けながら、途上国に対する援助を開始した。それは何故だったか、そうした経験が日本のその後の援助のあり方にどのように影響したかを検討する。
12	日本の政府開発援助（ODA）の特徴②	日本のODAは借款を多用するという特徴を持っている。このことは、「援助は豊かな国が貧しい国に対して行う慈善なのだから無償であるべきだ」と考える欧州諸国からの強い批判にさらされてきた。「金利を取ってカネを貸す」援助方式の是非を議論する。
13	日本の政府開発援助（ODA）の特徴③	2015年に日本政府が発表し23年に改訂された「開発協力大綱」を読み、日本がODAを通じてどのように国際貢献をしようとしているか、過去の「ODA大綱（1992年制定、2003年改訂）」と比較しながら読み解く。
14	授業内容の振り返りと総括	これまで学習した内容を振り返り、これから学習すべきことを展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は、講義で取り上げる問題について事前に調べ、自分の意見とその根拠を簡潔に記載したペーパー（A4サイズで2枚以内）を作成して講義に臨むこと。事前の調査に際しては、英語のソースにアクセスすることを推奨する。なお、講義のトピックは学生の興味も勘案して決定する（シラバス通りとは限らない）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しないが、第一回講義に際しては、事前に講読文献を指定し、その感想を当日講師に直接提出することを求める。これを提出しない学生は、それ以降の受講を一切認めないので留意すること。

【参考書】
近藤康太郎、2020年、『三行で撃つー< 善く、生きる> ための文章塾』、CCCメディアハウス。
小坂井敏晶、2017年、『答えのない世界を生きる』、祥伝社。

【成績評価の方法と基準】
授業で提出を求める課題（60％）およびディスカッションへの積極的参加の度合い（40％）によって成績を評定する予定（最終試験は行わない）であるが、履修学生の数によって変更がありうる。

【学生の意見等からの気づき】
授業時間の延長が無いように心がける。なお、授業の内容・方法等に関する要望・提案・批判は大歓迎であるので、随時受け付けます。

【学生が準備すべき機器他】
各自PC持参が望ましい。

【その他の重要事項】
■本講義は、国際協力機構、国際協力銀行、財務省等で開発援助の実務に携わってきた講師が、援助の実務と理論の双方を踏まえた講義を行う。
■途上国問題や開発援助に関する前提知識があることが望ましい。本講義の履修に先立って履修しておくべき科目は無いが、「国際協力論Ⅰ」を併せて受講することを推奨する。
■本講義は決して「ラクタン」（楽に単位が取れる科目）ではない。特に、全く発言しないような消極的姿勢の場合には単位を与えないので、その点を十分に理解したうえで履修に臨むよう希望する。
■提出物において剽窃が認められた場合には、理由の如何を問わず不合格判定とするので十分に注意すること。受講生は「剽窃」の意味を事前に確認しておくこと。

【Outline (in English)】
How should we eradicate poverty and inequality? How should we achieve peace and justice? How should we guarantee prosperity, health, education, and decent work for all? Students are encouraged to think critically about the conventional wisdom on the global agendas mentioned above. The course will be interactive, with the combination of lecture, group discussion, and role-playing game. No prior knowledge is required.

POL300AD（政治学 / Politics 300）

アジア比較政治論Ⅰ

高橋　徹

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「グローバルサウス」という言葉を近ごろよく目にしませんか？ 新興国・途上国の総称で、人口パワーや高い経済成長を背景に、国際社会で発言力を強めています。とりわけ東南アジアや南アジアは、激化する米中対立の最前線ともなっています。日本にとってアジアとの関係はいっそう重要になり、皆さんも将来、好むと好まざるとにかかわらず、必ず接点を持つはずです。「アジアの中の日本」の行く末を考えるには、何よりも隣人たちとの相互理解が不可欠です。本講座では最新のアジア情勢を紹介しつつ、歴史の「縦軸」と国際関係の「横軸」に視野を広げながら、アジア地政学の理解に努めます。

【到達目標】
・アジアの基本知識が身につき、国際ニュースの背景がわかるようになります。
・アジア情勢を題材に、これまでの経緯や他国との関係を踏まえながら、物事を多面的に分析・理解する力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義を中心に、皆さんの意見や問題意識も適宜問いかけます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	グローバルサウスとアジア	何を、なぜ、どのように学ぶか
第2回	東南アジアとＡＳＥＡＮ	多様性と結束
第3回	ＡＳＥＡＮと日本	50周年を迎えた友好協力の歩み
第4回	米中対立とアジア	冷戦からポスト冷戦、そして「新冷戦」へ
第5回	タイ㊤	繰り返すクーデターと民主化の曲折
第6回	タイ㊦	「タクシン」と失われた２０年
第7回	ミャンマー	遅れてきた民主化、「失敗国家」への退行
第8回	インドネシア	「多様性の中の統一」と民主化の歩み
第9回	マレーシアとシンガポール	多民族国家の曲折
第10回	カンボジア	悲劇の現代史と「権力世襲」の力学
第11回	インド㊤	グローバルサウスの雄と「戦略的自律」
第12回	インド㊦	「世界最大の民主主義国家」の虚実
第13回	パキスタンとバングラデシュ	分離・独立の歩み、足踏みする民主化
第14回	まとめ	全体講評と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・新聞や雑誌、ネットやテレビの時事ニュースを日々チェックするよう心がけてください。
・講義の前後で、興味を持ったテーマや国・地域があれば、後述する参考文献の一読をお薦めします。
・本授業の準備・復習時間は各４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、講師が用意するパワーポイント等の資料を使って進めます。

【参考書】
入門書を列記します。読みやすい新書が多いので、興味に応じて手にとってみてください。
併せて基本情報にアクセスできるウェブサイトを記しております。
※アジア比較政治論（１）（２）共通です。
・アジア政治とは何か（岩崎育夫著、中公業書）
・入門 東南アジア近現代史（岩崎育夫著、講談社現代新書）
・グローバルサウスの時代（脇祐三著、光文社新書）
・東南アジア史１０講（古田元夫著、岩波新書）
・アジア経済とは何か（後藤健太著、中公新書）
・デジタル化する新興国（伊藤亜聖著、中公新書）
・新貿易立国論（大泉啓一郎著、文春新書）
・老いていくアジア（大泉啓一郎著、中公新書）
・消費するアジア（大泉啓一郎著、中公新書
・インド――グローバル・サウスの超大国（近藤正規著、中公新書）
・第三の大国　インドの思考（笠井亮平著、文春新書）
・インドの正体（伊藤融著、中公新書ラクレ）
・「モディ化」するインド（湊一樹著、中公選書）
・ミャンマー現代史（中西嘉宏著、岩波新書）
・タイ混迷からの脱出（高橋徹著、日本経済新聞社）
・経済大国インドネシア（佐藤百合著、中公新書）
・日本型開発協力（松本勝男著、ちくま新書）
・マレーシアに学ぶ経済発展戦略（熊谷聡・中村正志著、作品社）
・東南アジアスタートアップ大躍進の秘密（中野貴司・鈴木淳著、日経プレミアシリーズ）
・国際機関日本アセアンセンター　https://www.asean.or.jp/ja/
・日本外務省　https://www.mofa.go.jp/mofaj/index.html
・日本貿易振興機構（ジェトロ）　https://www.jetro.go.jp/

【成績評価の方法と基準】
期末テスト＝５０点／平常点＝５０点

【学生の意見等からの気づき】
・毎回の講義資料の最後に「本日のまとめ」を記載し、理解の確認や予習・復習に役立つようにしています。
・前年度に引き続き、講義冒頭での時事問題の解説や、リアクションペーパーを介した相互コミュニケーションを行います。

【学生が準備すべき機器他】
講師資料を事前にポータル上にアップロードします。講義中はスクリーンに投影しますが、手元で参照したい人は、ＰＣやスマホ、タブレット等を持ち込んでいただいて構いません。

【その他の重要事項】
【実務経験のある教員による授業】
日本経済新聞社の上級論説委員兼編集委員です。2010年～15年にバンコク支局長、19年～22年にはアジア総局長としてタイに計８年間駐在し、広くアジア情勢を取材してきました。現在は主にアジアに関連する社説やコラムを執筆しています。政治・経済・社会・外交・事件に関する現場での取材、要人インタビューなどのエピソードも適宜紹介しながら、アジアに興味を持ってもらえる講義を心がけます。

【Outline (in English)】
Have you heard the term 'Global South' used a lot these days? It is a collective term for emerging and developing countries that are gaining a stronger voice in the international community because of their population power and high economic growth. Southeast Asia and South Asia in particular are also at the forefront of the escalating US-China conflict. Japan's relations with Asia are becoming increasingly important, and you are bound to come into contact with them in the future, whether you like it or not. Mutual understanding with our neighbours is essential for the future of "Japan in Asia". In this course, while introducing the latest developments in Asia, we will strive to understand Asian geopolitics by broadening our perspective to the "vertical axis" of history and the "horizontal axis" of international relations.

POL300AD（政治学 / Politics 300）

アジア比較政治論Ⅱ

高橋　徹

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「グローバルサウス」と総称される新興国・途上国の中で、とりわけアジア経済は力強い成長を続け、世界経済のけん引役となっています。この地域はまた国境をまたいだ工程間の水平分業や、その原動力となる自由貿易協定（ＦＴＡ）網でも世界の先頭を走り、日本にとって最重要地域となっています。激化する米中対立は、その入り組んだサプライチェーン（供給網）の再編を迫り、我々にも大きな課題を突きつけています。現代の国際関係において、政治と経済、地政学と「地経学」は不可分です。本講座では、主にマクロ経済や産業、通商といったプリズムを通して、アジア地政学の理解に努めます。

【到達目標】
・アジア経済の基本知識が身につき、国際ニュースの背景がわかるようになります。
・アジア経済を題材に、これまでの経緯や他国との関係を踏まえながら、物事を多面的に分析・理解する力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義を中心に、皆さんの意見や問題意識を適宜問いかけます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	アジア～経済安全保障の最前線	何を、なぜ、どのように学ぶか
第2回	アジア通貨危機と域内金融協力	ＩＭＦとドル依存からの脱却
第3回	ＡＳＥＡＮの自動車産業	日本車の金城湯池の行方
第4回	「一帯一路」と円借款	開発援助に映る地政学競争
第5回	エネルギーと安全保障	「脱炭素」と「成長」は両立可能か
第6回	勃興するデジタル経済	スーパーアプリが社会を変える
第7回	タイ	「アジアの工場」の発展史
第8回	マレーシア	「中所得国の罠」抜け出すか
第9回	ベトナム	「輸出立国」の行方
第10回	インドネシア	「２０４５年先進国入り」への難路
第11回	インド	製造業「カエル跳び」の落とし穴
第12回	バングラデシュ	脱・最貧国と日本式インフラ開発
第13回	オーストラリア	アジアで生きる西欧国家
第14回	まとめ	全体講評と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・新聞や雑誌、ネットやテレビのニュースを日々チェックするよう心がけてください。
・講義の前後で、興味を持ったテーマや国があれば、後述する参考文献の一読をお薦めします。
・本授業の準備・復習時間は各４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、講師が用意するパワーポイント等の資料を使って進めます。

【参考書】
入門書を列記します。読みやすい新書が多いので、興味に応じて手にとってみてください。
併せて基本情報にアクセスできるウェブサイトを記しております。
※アジア比較政治論（１）（２）共通です。
・アジア政治とは何か（岩崎育夫著、中公業書）
・入門 東南アジア近現代史（岩崎育夫著、講談社現代新書）
・グローバルサウスの時代（脇祐三著、光文社新書）
・東南アジア史１０講（古田元夫著、岩波新書）
・アジア経済とは何か（後藤健太著、中公新書）
・デジタル化する新興国（伊藤亜聖著、中公新書）
・新貿易立国論（大泉啓一郎著、文春新書）
・老いていくアジア（大泉啓一郎著、中公新書）
・消費するアジア（大泉啓一郎著、中公新書
・インド――グローバル・サウスの超大国（近藤正規著、中公新書）
・第三の大国　インドの思考（笠井亮平著、文春新書）
・インドの正体（伊藤融著、中公新書ラクレ）
・「モディ化」するインド（湊一樹著、中公選書）
・ミャンマー現代史（中西嘉宏著、岩波新書）
・タイ混迷からの脱出（高橋徹著、日本経済新聞社）
・経済大国インドネシア（佐藤百合著、中公新書）
・日本型開発協力（松本勝男著、ちくま新書）
・マレーシアに学ぶ経済発展戦略（熊谷聡・中村正志著、作品社）
・東南アジアスタートアップ大躍進の秘密（中野貴司・鈴木淳著、日経プレミアシリーズ）
・国際機関日本アセアンセンター　https://www.asean.or.jp/ja/
・日本外務省　https://www.mofa.go.jp/mofaj/index.html
・日本貿易振興機構（ジェトロ）　https://www.jetro.go.jp/

【成績評価の方法と基準】
期末試験＝５０点／平常点＝５０点

【学生の意見等からの気づき】
・毎回の講義資料の最後に「本日のまとめ」を記載し、理解の確認や予習・復習に役立つようにしています。
・前年度に引き続き、講義冒頭での時事問題の解説や、リアクションペーパーを介した相互コミュニケーションを行います。

【学生が準備すべき機器他】
講師資料を事前にポータル上にアップロードします。講義中はスクリーンに投影しますが、手元で参照したい人は、ＰＣやスマホ、タブレット等を持ち込んでいただいて構いません。

【その他の重要事項】
【実務経験のある教員による授業】
日本経済新聞社の上級論説委員兼編集委員です。2010年～15年にバンコク支局長、19年～22年にはアジア総局長としてタイに計８年間駐在し、広くアジア情勢を取材してきました。現在は主にアジアに関連する社説やコラムを執筆しています。政治・経済・社会・外交・事件に関する現場での取材、要人インタビューなどのエピソードも適宜紹介しながら、アジアに興味を持ってもらえる講義を心がけます。

【Outline (in English)】
Among the emerging and developing countries called " Global South", the Asian economy in particular continues to grow strongly and is a driving force behind the global economy. The region also leads the world in the horizontal division of labor between cross-border processes and the network of free trade agreements (FTAs) that drive them, making it a region of paramount importance for the Japanese economy. The escalating conflict between the US and China is forcing a restructuring of its complex supply chains and posing a major challenge to Japan. In contemporary international relations, politics and economics, geo-politics and 'geo-economics' are inseparable. In this course we will seek to understand Asian geopolitics through the prism of macroeconomics, industry and trade.

POL100AD（政治学 / Politics 100）

国際社会の法Ⅰ

新垣　修

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際社会における法の役割について学びます。具体的には、毎回取り上げる様々なトピックを通じ、国際法や国内法が果たす機能について理解を深めます。

【到達目標】
1　国際社会における国際法や国内法の意味について理解します。
2　メディアで取り上げられる国際時事問題を法的視点から捉え、これについて議論できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
1　講義形式ですが、ディスカッションを含むインターアクティブな授業を行います。したがって、授業への積極的な参加が求められます。
2　アウトライン集（添付）に示された計画にしたがい、講師の説明とパワーポイントの資料を用いて授業を進めます。
3　授業内で適宜、クイズに対する答案の提出を求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	プロローグ：法とは何か？	1　はじめに 2　法とは何か？ 3　国際法の法源 4　国際法の変化 5　まとめ
2	国際社会における法と政治	1　はじめに 2　国際法の法的性質 （1）否定説 （2）肯定説 3　法と社会の構造 4　国際社会における法と政治の関係 5　まとめ
3	法政大学は独立国家になれるか？	1　国家であるということ：主権 2　国家承認 （1）　法政大学は独立国家になれるか？ （2）　国家承認とは？ （3）　国家承認の法的性質 （4）　国家と認められるための要件 （5）　国家承認の方法 3まとめ
4	戦争と平和について考えよう	1　はじめに 2　正戦論 3　無差別戦争観 4　国際連盟の時代：戦争の違法化 5　国際連合の時代：武力行使禁止 6　平和のための結集決議と国連平和維持活動（PKO） 7　冷戦時代のPKO 8　冷戦終結後のPKO 9　まとめ
5	ウクライナ戦争	1　はじめに 2　背景事情 3　プーチョン大統領の根拠 4　国連憲章と国連安保理理事会 5　国連はどうあるべきか？ 6　まとめ
6	国籍と無国籍	1　はじめに 2　国籍とその決定 3　国籍の得喪 4　国際法の機能：国籍の調整 5　無国籍 6　まとめ
7	ツアーでみるニュージーランド	1　はじめに 2　ニュージーランドの概 3　異文化の衝突と共存 4　ニュージーランドの難民保護制度 5　ニュージーランドでの体験：自分の発見と発掘 6　まとめ
8	授業内試験（1）	第1回− 第7回までの範囲の試験
9	人道支援と法：救済と正義	1　はじめに 2　国際赤十字の誕生 3　その後のデュナン 4　国際人道法の発展 5　人道支援とは何か？ 6　人道支援のジレンマ 7　まとめ
10	気候変動で海に沈む国々？	1　はじめに 2　気候変動・海水面上昇と適応策 3　ツバル 4　国外移住政策と外交 5　開発と適応策 6　まとめ
11	ルワンダとジェノサイド	1　はじめに 2　ルワンダ略史 3　ルワンダと植民地政策 4　ウガンダにおけるツチ難民 5　ジェノサイド 6　国際社会の対応 7　まとめ
12	フリチョフ・ナンセン	1　はじめに 2　極北探検と科学 3　外交官 4　国際連盟 5　現代の国際難民法の礎 6　おわりに
13	予備日	その時に話題となっている時事問題を法の観点から取り上げる
14	エピローグ＆授業内試験（2）	本講義全体のまとめ＆授業内試験（2）（第8回ー第13回）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
アウトライン集（添付）にしたがって予習を行なってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
アウトライン集（添付）に記載しています。

【成績評価の方法と基準】
授業内クイズ　40%
授業内試験（１）の成績　30%
授業内試験（２）の成績　30%

【学生の意見等からの気づき】
「ディスカッションや意見共有の機会が多くて良かった」との趣旨の意見がありました。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを通じてクイズを提出できるよう、パソコンやタブレット、スマホなどのデバイスをご持参ください。

【その他の重要事項】
アウトライン集(添付)を参照してください。
教員は国連機関と開発援助機関での実務経験を有しており、実践を批判的視点から考察します。

【Outline (in English)】
This course explores the role of law in international society. Examining various topics, participants of the course will learn functions both of international law and municipal law.

POL100AD（政治学 / Politics 100）

国際社会の法Ⅱ

新垣　修

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際人権法に関する基本的な概念や枠組み、思想を学びます。さらに、国際社会における国際人権法の機能について理解を深めます。

【到達目標】
1　国際人権法の基本的概念を理解します。
2　国際社会における人権の価値や意義について考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
1　講義形式ですが、ディスカッションを含むインターアクティブな授業を行います。したがって、授業への積極的な参加が求められます。
2　アウトライン集（添付）に示された計画にしたがい、講師の説明とパワーポイントの資料を用いて授業を進めます。
3　授業内で適宜、クイズへの答案の提出を求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	プロローグ：法と何か？	1　コースオリエンテーション 2　法とは何か？ 3　国際社会と法 4　まとめ
2	人間とは何か、人権とは何か？	1　はじめに 2　人間である条件 3　人権と人間 4　人間と他の境界 5　人間という不確実な存在 6　変化する人間の概念 7　人間と人権 8　おわりに
3	国際人権法の始まりと世界人権宣言	1　はじめに 2　国際人権法の萌芽 3　国際人権法の誕生と展開 （1）国際連盟と人権：労働と少数者保護 （2）国際連合と人権：平和と人権の連結 4　世界人権宣言 5　国際人権法の拡張
4	国際人権規約	1　はじめに 2　市民的及び政治的権利に関する国際規約 （1）内容 （2）性質 （3）実施制度 3　経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約 （1）内容 （2）性質 （3）実施制度 4　その後の展開 5　まとめ
5	第三世代の人権論	1　はじめに 2　第三世代の人権論 （1）背景 （2）人権としての発展の権利 （3）概念 （4）批判 3　地域的取組み （1）欧州 （2）米州 （3）アフリカ 4　まとめ
6	第1回授業内テスト	第1回～第5回までの内容
7	子ども（1）	1　はじめに 2　子どもの権利の歴史 （1）第一次世界大戦後：ジュネーブ宣言（1924年） （2）第二次世界大戦後：子どもの権利宣言（1959年） （3）子どもの権利条約（Convention on the Rights of the Child: 1989年国連総会で採択、1990年発効） 3　子どもの権利条約：性質と内容 （1）「親によって保護される対象」から「権利の主体」へ ① 保護思想と解放思想の対立 ② 生きる権利、意見表明権、表現・情報の自由、良心、宗教の自由、結社・集会の自由、プライバシー・通信・名誉の保護、参加する権利 （2）「発達するもの」としての子ども ① 家庭環境の重視、差別禁止、親に養育される権利 ② 親と国家の責任 （3）子どもの最善の利益 4　子どもの権利条約：実施措置
8	子ども（2）	1　はじめに 2　子ども兵（少年兵・少女兵：child soldier）とは？ （1）定義 （2）歴史 2　子ども兵の実態 （1）子どもの徴兵：貧困と恐怖の背景 （2）紛争で消費される子ども達 （3）子どもを兵士に仕立てる方法 3　紛争における子ども消費の構造 （1）洗脳と訓練 （2）武器の変化 （3）冷戦構造の崩壊と地域紛争の変化 4　子ども兵の心の傷の回復と社会復帰

9	ジェンダー（1）	1　はじめに 2　国際社会における女性 （1）国連憲章 （2）世界女性会議：Mankind から Humankind へ 3　女性差別撤廃条約（女性に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約：1979年） （1）権利の内容 （2）条約の特徴 （3）条約の実施措置 4　貧困の中の女性 5　まとめ
10	ジェンダー（2）	はじめに 1　セックスとジェンダー 2　女性の排除 3　FGM（Female Genital Mutilation：女性器切除） 4　FGMと国際人権法 おわりに
11	人種差別	1　はじめに 2　人種差別撤廃条約 （1）背景 （2）国連と条約締結 （3）実施制度 3　人種差別撤廃委員会 4　「人種化」する沖縄人 5　沖縄の基地と差別効果 6　プラグマティズムとしてのレイシズム禁止規範 7　おわりに
12	難民（1）	1　はじめに 2　第一次世界大戦後 3　第二次世界大戦後の難民問題と米国、国連 4　難民条約 5　難民議定書 6　まとめ
13	難民（2）	1　はじめに 2　難民認定 3　武力紛争と難民
14	エピローグ＆第２回授業内試験	第7回～第13回までの範囲のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバスと添付のアウトラインにしたがい、予習を行います。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
アウトライン集（添付）参照。

【成績評価の方法と基準】
授業内クイズ 40%
授業内試験(1)の成績 30%
授業内試験(2)の成績 30%

【学生の意見等からの気づき】
「具体的な事例を通して学んだことが良かった」との趣旨のフィードバックが多かったです。

【その他の重要事項】
教員は国連機関と開発援助機関での実務経験を有しており、実践を批判的視点から考察します。

【Outline (in English)】
This course will explore history of international law and global policy concerning human rights. It deals with thematic areas including child, gender, refugees and so on.

POL300AC（政治学 / Politics 300）

現代政策学特講Ⅰ（立法学）

正木　寛也

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
皆さんが学んでいる法制度は、多くの人間の「利害」が交わる中で作られ、社会の動きに対応して日々変化し続けるものです。立法学は、この観点から法の有り様を捉えなおす学問であり、古くから、日本の法学（教育及び研究）の中心にある解釈法学に対する概念としてその必要性が指摘され、様々な分野の研究者が各自の視点から論じてきました。
本科目は、法制度の形成過程を着眼点として、Ⅰ・Ⅱを通して立法学の全体像を俯瞰しようとするものです。具体的には、これまでの立法学に関する議論を整理した上で、法制度がいかにして形成されていくかを、立法過程論にとどまらず、立法される（べき）内容と憲法を頂点とする法体系、ひいては法や正義との関係といった立法政策論の観点も加えて多角的に分析することにより、立法学を政治学と解釈法学及び基礎法学の間に体系的に位置付けることを試みます。Ⅰでは、主に政策の形成過程から分析します。

【到達目標】
政治学科・国際政治学科の皆さんにおいては、政治過程における政策形成からそのアウトプットの一形態としての法制度構築までの一連の流れを理解することにより、また、法律学科の皆さんにおいては、解釈の対象としてのみ捉えられがちな実定法を、それを誰が主体的に作っているのかという視点を加えることで動的なものとして理解することにより、各々の専攻分野に対する理解を深めるとともに、今後、皆さんが社会において（法）制度に関わる場面で、制度を使う側に立っても制度を作る立場に立っても、有益な視点を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義形式で行い、映像も使用します。立法学の理論だけでなく、国会でリアルタイムに展開している政治・立法過程を随時紹介し、理論と交差させることで理解の深化を図ります。また、具体的に取り上げる事例についても、授業中にアンケートを取り、皆さんの要望に可能な限り対応する予定です。さらに、各段階において、考える時間を確保することにより法制度の形成過程における立法者の思考の流れを追体験してもらうとともに、提出された質問や課題の回答を端緒にしたフィードバックを適宜行うこと等を通じて、「実用」性を高める工夫もしたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のアウトライン
第2回	「立法学」とはなにか	テーマに沿った講義
第3回	立法学の再定位	テーマに沿った講義
第4回	政策形成過程総論	テーマに沿った講義
第5回	政府における政策形成過程（1）	テーマに沿った講義
第6回	政府における政策形成の事例研究（1）	テーマに沿った講義
第7回	政府における政策形成過程（2）	テーマに沿った講義
第8回	政府における政策形成の事例研究（2）	テーマに沿った講義
第9回	政党における政策形成過程	テーマに沿った講義
第10回	政党における政策形成の事例研究	テーマに沿った講義
第11回	政策形成と選挙制度の関係	テーマに沿った講義
第12回	日本の選挙の実態（1）	テーマに沿った講義
第13回	日本の選挙の実態（2）	テーマに沿った講義
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
政治の場で議論される社会における諸課題と法制度は、密接に結びついています。政治と法との関係を常に意識するとともに、授業で紹介する文献等を読むことにとどまらず、普段意識していないところにも法があり、それは所与のものではなく人によって作られたものである、という視点から幅広く学び、深く考えるようにしてください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。まず、この「時間」の記載がどのような根拠に基づいているか、を入口にして、なぜそういう時間が必要なのか、時間数の根拠は何か、さらに、それは妥当なものであるのか、と思考を進めてもらえるといいと思います。

【テキスト（教科書）】
毎回レジュメを配布します。

【参考書】
法制執務・法令用語研究会『条文の読み方〔第2版〕』（有斐閣、2021年）。その他については、講義において適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業の進度に合わせて適時（学期中に数回）課す課題（５０％）、学期末レポート（５０％）

【学生の意見等からの気づき】
国といった大きな枠で語られると忘れがちですが、法制度や政治というものは本来極めて身近で、我々の日常生活の中にあるものです。授業を通して、より皆さんにそのこと、その「面白さ」を感じてもらえるような話ができるように努めたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムの利用及びオンライン授業に対応するための通信機器

【その他の重要事項】
教員は、25年以上にわたり衆議院で勤務しており、この間、議員立法の補佐等を通じて衆議院の政治・立法過程に携わってきました。授業では、題材として実際の法律の立法過程を取り扱うのはもちろん、その時点で国会の争点となっている重要テーマ（近年の授業で紹介した事例としては、安全保障関連法案、違法伐採、入管法改正、旧統一教会問題、旧優生保護法問題、選択的夫婦別氏制度などがあります。）を取り上げて具体的に説明することで、皆さんが興味を持ち、より深く理解してもらえるような授業を心がけています。
授業は基本的に対面で行いますが、仕事の関係でオンライン（オンデマンド）に切り替えることがあります。いずれの場合も、授業の内容は配信する予定です。

【Outline (in English)】
In this course, the students will learn about formulating policy and law-making process in Japan.
The goal of this course is to get some points of view about five Ws on legislative process in Japan.
Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the course cotents.
Students will be graded on:
Short reports(50%), Term-end report(50%).

POL300AC（政治学 / Politics 300）

現代政策学特講Ⅱ（立法学）

正木　寛也

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
皆さんが学んでいる法制度は、多くの人間の「利害」が交わる中で作られ、社会の動きに対応して日々変化し続けるものです。立法学は、この観点から法の有り様を捉えなおす学問であり、古くから、日本の法学（教育及び研究）の中心にある解釈法学に対する概念としてその必要性が指摘され、様々な分野の研究者が各自の視点から論じてきました。
本科目は、法制度の形成過程を着眼点として、Ⅰ・Ⅱを通して立法学の全体像を俯瞰しようとするものです。具体的には、これまでの立法学に関する議論を整理した上で、法制度がいかにして形成されていくかを、立法過程論にとどまらず、立法される（べき）内容と憲法を頂点とする法体系、ひいては法や正義との関係といった立法政策論の観点も加えて多角的に分析することにより、立法学を政治学と解釈法学及び基礎法学の間に体系的に位置付けることを試みます。Ⅱでは、議会（国会）における議論・調整を通じた法制度の形成過程から分析します。

【到達目標】
政治学科・国際政治学科の皆さんにおいては、政治過程における政策形成からそのアウトプットの一形態としての法制度構築までの一連の流れを理解することにより、また、法律学科の皆さんにおいては、解釈の対象としてのみ捉えられがちな実定法を、それを誰が主体的に作っているのかという視点を加えることで動的なものとして理解することにより、各々の専攻分野に対する理解を深めるとともに、今後、皆さんが社会において（法）制度に関わる場面で、制度を使う側に立っても制度を作る立場に立っても、有益な視点を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義形式で行い、映像も使用します。立法学の理論だけでなく、国会でリアルタイムに展開している政治・立法過程を随時紹介し、理論と交差させることで理解の深化を図ります。また、具体的に取り上げる事例についても、授業中にアンケートを取り、皆さんの要望に可能な限り対応する予定です。さらに、各段階において、考える時間を確保することにより法制度の形成過程における立法者の思考の流れを追体験してもらうとともに、提出された質問や課題の回答を端緒にしたフィードバックを適宜行うこと等を通じて、「実用」性を高める工夫もしたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のアウトライン
第2回	選挙制度概論	テーマに沿った講義
第3回	比較選挙制度論	テーマに沿った講義
第4回	選挙制度と二院制	テーマに沿った講義
第5回	日本の選挙制度改革の歴史と方向性	テーマに沿った講義
第6回	議会制度概論	テーマに沿った講義
第7回	立法過程論	テーマに沿った講義
第8回	立法過程と二院制	テーマに沿った講義
第9回	日本の立法の量的・質的分析	テーマに沿った講義
第10回	立法の今日的課題	テーマに沿った講義
第11回	事例研究（1）	具体的な法律の立法過程の分析
第12回	事例研究（2）	具体的な法律の立法過程の分析
第13回	事例研究（3）	具体的な法律の立法過程の分析
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
政治の場で議論される社会における諸課題と法制度は、密接に結びついています。政治と法との関係を常に意識するとともに、授業で紹介する文献等を読むことにとどまらず、普段意識していないところにも法があり、それは所与のものではなく人によって作られたものである、という視点から幅広く学び、深く考えるようにしてください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。まず、この「時間」の記載がどのような根拠に基づいているか、を入口にして、なぜそういう時間が必要なのか、時間数の根拠は何か、さらに、それは妥当なものであるのか、と思考を進めてもらえるといいと思います。

【テキスト（教科書）】
毎回レジュメを配布します。

【参考書】
法制執務・法令用語研究会『条文の読み方〔第2版〕』（有斐閣、2021年）。その他については、講義において適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業の進度に合わせて適時（学期中に数回）課す課題（５０％）、学期末レポート（５０％）

【学生の意見等からの気づき】
国といった大きな枠で語られると忘れがちですが、法制度や政治というものは本来極めて身近で、我々の日常生活の中にあるものです。授業を通して、より皆さんにそのこと、その「面白さ」を感じてもらえるような話ができるように努めたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムの利用及びオンライン授業に対応するための通信機器

【その他の重要事項】
教員は、25年以上にわたり衆議院で勤務しており、この間、議員立法の補佐等を通じて衆議院の政治・立法過程に携わってきました。授業では、題材として実際の法律の立法過程を取り扱うのはもちろん、その時点で国会の争点となっている重要テーマ（近年の授業で紹介した事例としては、安全保障関連法案、違法伐採、入管法改正、旧統一教会問題、旧優生保護法問題、選択的夫婦別氏制度などがあります。）を取り上げて具体的に説明することで、皆さんが興味を持ち、より深く理解してもらえるような授業を心がけています。
授業は基本的に対面で行いますが、仕事の関係でオンライン（オンデマンド）に切り替えることがあります。いずれの場合も、授業の内容は配信する予定です。

【Outline (in English)】
In this course, the students will learn about formulating policy and law-making process in Japan.
The goal of this course is to get some points of view about five Ws on legislative process in Japan.
Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the course cotents.
Students will be graded on:
Short reports(50%), Term-end report(50%).

POL300AD（政治学 / Politics 300）

演習

木内　真理子

授業形式：**演習**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**4単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では、開発途上国を取り巻く地球規模の「グローバル課題」とその対応（国際開発/international development）について学習・研究し、以下について理解を深めます。
・開発理論の変遷（概観）と、現代のグローバル課題（原因、過去対応策、なぜ解できていないか）。
・課題解決に取り組む多様なアクター（役割、強みと課題、関係性）。
・課題を解決するための事業の企画・形成方法（基本編）。

【到達目標】
・開発途上国を取り巻くグローバル課題について先行研究の概要を理解するとともに、これまで取られてきたさまざまな過去対策事例の得失を比較考察することを通じ、多角的な情報収集力・分析力・ロジック構築力を高める。
・プレゼンテーションと討論を通じて、企画立案力・提案力・デリバリー力・聴く力を高める。
・開発途上国を取り巻くグローバル課題と対応に関する基本的な事項について、自分なりに他者に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は通年を大きく3フェーズに分けて、以下のように構成します。
・第1フェーズ（演習I）：開発理論の変遷、グローバル課題（貧困、飢餓、保健・水衛生、教育、ジェンダー、紛争・災害、気候変動など）を取り上げ、開発途上国を取り巻く複雑な事象・現状を理解する。
・第2フェーズ（演習II）：各課題に対する過去の対策事例と取り組む多様なアクターについて、効果と課題について考察する。
なお、第1、第2フェーズとも毎回学生が複数の文献を調査し（可能であれば関係者にヒアリングを行い）、概要をプレゼンテーションする（30分程度）。プレゼン内容を受けてディスカッションすることで理解を深化させる。
・第3部（グループワーク）（演習I,II）：第1部、第2部で学んだことを受けて、グループ毎にワーク対象とするグローバル課題を選択し、その解決に向けた事業を企画・形成する。提案内容をプレゼンテーションし、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション①	参加学生の自己紹介。ゼミの進め方と参加学生への期待。目標設定(SMART)
2	イントロダクション②	開発理論の変遷。次回以降の進め方と準備
3	グローバル課題①貧困	プレゼンテーション・ディスカッション
4	グローバル課題②飢餓	プレゼンテーション・ディスカッション
5	グローバル課題③水・衛生・栄養・保健	プレゼンテーション・ディスカッション
6	グローバル課題④教育	プレゼンテーション・ディスカッション
7	グローバル課題⑤ジェンダー	プレゼンテーション・ディスカッション
8	グローバル課題⑥紛争・災害	プレゼンテーション・ディスカッション
9	グローバル課題⑦気候変動	プレゼンテーション・ディスカッション
10	グローバル課題⑧crosss cutting issueとしての平和構築	プレゼンテーション・ディスカッション
11	⑨SDG: グローバル課題の連関	プレゼンテーション・ディスカッション
12	事業形成①	事業形成の基本的考え方、方法、グループワーク
13	事業形成②	グループワーク
14	総括・振り返り	個人・グループワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・関連文献を少なくとも複数読み、アジェンダに対し多角的な見方があることを理解してください。
・プレゼンテーションは事前の準備が肝要です。PPTスライドの内容、他者に伝わりやすい見せ方、発表内容・デリバリー（必要あればスクリプト準備、読み上げ練習含む）のいずれもしっかり準備してください。
・グループワークでは、メンバーの特性を見ながら自分なりの貢献を考え、積極的に参加してください。
・通常は授業以外に2時間程度の予習・復習、プレゼンテーションやグループワークのためには5時間程度の準備が標準ですが、ケースによりそれ以上を要することがあります。

【テキスト（教科書）】
山田満、堀江正伸編　『新しい国際協力論』　明石書店、2023年。

【参考書】
各授業のテーマ毎に参考文献（複数：和文、英文）を別途紹介します。

【成績評価の方法と基準】
個人およびグループワークでのパフォーマンスから総合的に判断します。以下4分野が各25％。：
①授業内容・文献の理解
②プレゼンテーション（コンテンツ/PPTスライド）の完成度
③プレゼンテーション（デリバリー）の完成度
④ディスカッションへの参加・貢献度

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【学生が準備すべき機器他】
プレゼンテーション担当、グループワーク時はPC持参が望ましい。

【その他の重要事項】
【実務経験のある教員による授業】
担当教員は、政府開発援助(ODA)とNGOの双方で途上国における開発支援事業を担当した他、NGOでは組織経営（中長期戦略、資金・人的資源の動員と管理、人材育成）にも携わっています。これらの現場経験を踏まえて授業を進めます。
・外部講師による講義を取り入れる可能性があります。
・担当教員は現在も国際NGOで勤務していることから、職務上海外/国内出張が入ることがあります（海外での災害・紛争発生時等含む）。その際は授業のスケジュールや形式を変更することがあります。変更時は事前に連絡します。

【Outline (in English)】
【Course Outline】This seminar explores the global challenges confronting developing countries and examines the responses historically implemented through international development initiatives. Students will gain a comprehensive understanding of the following critical areas:
- The evolution of development theories (overview) and contemporary global challenges, focussing root causes, historical responses, and persistent obstacles to resolution.
- The roles and interactions of diverse stakeholders, including their strengths, limitations and relationships in addressing global challenges in developing countries.
- Basic methods of formulating and designing projects aimed at resloving development issues.
【Learning Objectives】
By the end of this seminar, students are expected to develop the following skills:

1. Analytical and logical reasoning skills: Gain an understanding of key studies on global challenges facing developing countries, while comparing the advantages and liminations of the past intervention expamples to enhance research, analysis and augumentation skills."
2. Communication and propsal skills: Improve planning, proposal-making, delivery and active listenning abilities through presentations and discussions.
3. Deep understanding and articulation skills: Attain a thorough understanding of global challenges and responses related to develping countries, enabling them to clearly explain these isseus in their own words with comfidence and clarity.
【Learning actvities outside of classroom】
- studens should read at least a few reference materials/articles to gain a multifaceted undersatnding of the agenda to be discussed in the class.
- students are expected to thoroughly prepare for the presentation, ensureing the contents of the PowerPoint slides are appropriate and organised, the presentation is clear and easy to understand, and the delivery is engaging. If needed, students are encouraged to draft a script and practice their presentation to enhance clarity and confidence.
- Students should spend an average of 2 hours each for preparing and reviewing materials for every class, five hours (or more) for preparing for each presentation and group work.
【Grading Criteria】
Final grade will be decided based on the following (25%each):
1) Understanding of the contens of the classes and the related materials/articiles
2) Level of richness/appropriateness of the PowerPoint slides (contents)
3) Level of engagement of the presentation (delivery)
4) Level of participation and contribution to the discussion

POL300AD（政治学 / Politics 300）

演習

木内　真理子

授業形式：**演習**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**4単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では、開発途上国を取り巻く地球規模の「グローバル課題」とその対応（国際開発/international development）について学習・研究し、以下について理解を深めます。
・開発理論の変遷（概観）と、現代のグローバル課題（原因、過去対応策、なぜ解決できていないか）。
・課題解決に取り組む多様なアクター（役割、強みと課題、関係性）。
・課題を解決するための事業の企画・形成方法（基本編）。"

【到達目標】
・開発途上国を取り巻くグローバル課題について先行研究の概要を理解するとともに、これまで取られてきたさまざまな過去対策事例の得失を比較考察することを通じ、多角的な情報収集力・分析力・ロジック構築力を高める。
・プレゼンテーションと討論を通じて、企画立案力・提案力・デリバリー力・聴く力を高める。
・開発途上国を取り巻くグローバル課題と対応に関する基本的な事項について、自分なりに他者に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は通年を大きく3フェーズに分けて、以下のように構成します。
・第1フェーズ（演習Ⅰ）：開発理論の変遷、グローバル課題（貧困、飢餓、保健・水衛生、教育、ジェンダー、紛争・災害、気候変動など）を取り上げ、開発途上国を取り巻く複雑な事象・現状を理解する。
・第2フェーズ（演習Ⅱ）：各課題に対する過去の対策事例と取り組む多様なアクターについて、効果と課題について考察する。
なお、第1、第2フェーズとも毎回学生が複数の文献を調査し（可能であれば関係者にヒアリングを行い）、概要をプレゼンテーションする（30分程度）。プレゼン内容を受けてディスカッションすることで理解を深化させる。
・第3部（グループワーク）（演習Ⅰ,Ⅱ）：第1部、第2部で学んだことを受けて、グループ毎にワーク対象とするグローバル課題を選択し、その解決に向けた事業を企画・形成する。提案内容をプレゼンテーションし、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	前期振り返り。後期ゼミ進め方。参加学生への期待。目標設定
2	グローバル課題①：貧困と貧困緩和の取組み	プレゼンテーション・ディスカッション
3	グローバル課題②：飢餓への取組み・対策	プレゼンテーション・ディスカッション・グループワーク
4	グローバル課題③：水・衛生・栄養・保健分野の取組み	プレゼンテーション・ディスカッション・グループワーク
5	グローバル課題④：教育事業（インクルーシブ、紛争下など）	プレゼンテーション・ディスカッション・グループワーク
6	グローバル課題⑤：プロテクション、参画（エンパワーメント）	プレゼンテーション・ディスカッション・グループワーク
7	グローバル課題⑥：紛争下の緊急人道支援	プレゼンテーション・ディスカッション・グループワーク
8	グローバル課題⑦：気候変動下での対応	プレゼンテーション・ディスカッション・グループワーク
9	グローバル課題⑧：平和構築	プレゼンテーション・ディスカッション・グループワーク
10	開発におけるアクター①：国際機関、政府	プレゼンテーション・ディスカッション・グループワーク
11	開発におけるアクター②：NGO、企業、アカデミア（大学）	プレゼンテーション・ディスカッション・グループワーク
12	グループワークのプレゼンテーション（事業形成）	プレゼンテーション・ディスカッション・グループワーク
13	グループワークのプレゼンテーション（事業形成）	プレゼンテーション・ディスカッション・グループワーク
14	総括・振り返り	個人・グループワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・関連文献を少なくとも複数読み、アジェンダに対し多角的な見方があることを理解してください。
・プレゼンテーションは事前の準備が肝要です。PPTスライドの内容、他者に伝わりやすい見せ方、発表内容・デリバリー（必要あればスクリプト準備、読み上げ練習含む）のいずれもしっかり準備してください。
・グループワークでは、メンバーの特性を見ながら自分なりの貢献を考え、積極的に参加してください。
・通常は授業以外に2時間程度の予習・復習、プレゼンテーションやグループワークのためには5時間程度の準備が標準ですが、ケースによりそれ以上を要することがあります。

【テキスト（教科書）】
山田満、堀江正伸編　『新しい国際協力論』　明石書店、2023年。

【参考書】
各授業のテーマ毎に参考文献（複数：和文、英文）を別途紹介します。

【成績評価の方法と基準】
個人およびグループワークでのパフォーマンスから総合的に判断します。以下4分野が各25％。：
①授業内容・文献の理解
②プレゼンテーション（コンテンツ/PPTスライド）の完成度
③プレゼンテーション（デリバリー）の完成度
④ディスカッションへの参加・貢献度

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【学生が準備すべき機器他】
プレゼンテーション担当、グループワーク時はPC持参が望ましい。

【その他の重要事項】
【実務経験のある教員による授業】
・担当教員は、政府開発援助(ODA)とNGOの双方で途上国における開発支援事業を担当した他、NGOでは組織経営（中長期戦略、資金・人的資源の動員と管理、人材育成）にも携わっています。これらの現場経験を踏まえて授業を進めます。
・外部講師による講義を取り入れる可能性があります。
・担当教員は現在も国際NGOで勤務していることから、職務上海外/国内出張が入ることがあります（海外での災害・紛争発生時等含む）。その際は授業のスケジュールや形式を変更することがあります。変更時は事前に連絡します。

【Outline (in English)】
【Course Outline】This seminar explores the global challenges confronting developing countries and examines the responses historically implemented through international development initiatives. Students will gain a comprehensive understanding of the following critical areas:
- The evolution of development theories (overview) and contemporary global challenges, focussing root causes, historical responses, and persistent obstacles to resolution.
- The roles and interactions of diverse stakeholders, including their strengths, limitations and relationships in addressing global challenges in developing countries.
- Basic methods of formulating and designing projects aimed at resloving development issues.
【Learning Objectives】
By the end of this seminar, students are expected to develop the following skills:
1. Analytical and logical reasoning skills: Gain an understanding of key studies on global challenges facing developing countries, while comparing the advantages and liminations of the past intervention expamples to enhance research, analysis and augumentation skills."
2. Communication and propsal skills: Improve planning, proposal-making, delivery and active listenning abilities through presentations and discussions.
3. Deep understanding and articulation skills: Attain a thorough understanding of global challenges and responses related to develping countries, enabling them to clearly explain these isseus in their own words with comfidence and clarity.
【Learning actvities outside of classroom】
- studens should read at least a few reference materials/articles to gain a multifaceted undersatnding of the agenda to be discussed in the class.
- students are expected to thoroughly prepare for the presentation, ensureing the contents of the PowerPoint slides are appropriate and organised, the presentation is clear and easy to understand, and the delivery is engaging. If needed, students are encouraged to draft a script and practice their presentation to enhance clarity and confidence.
- Students should spend an average of 2 hours each for preparing and reviewing materials for every class, five hours (or more) for preparing for each presentation and group work.
【Grading Criteria】
Final grade will be decided based on the following (25%each):
1) Understanding of the contens of the classes and the related materials/articiles
2) Level of richness/appropriateness of the PowerPoint slides (contents)
3) Level of engagement of the presentation (delivery)
4) Level of participation and contribution to the discussion

LIT200BC（文学 / Literature 200）

日本文章史Ａ

中沢　けい

昼間時間帯
授業コード：A2441　｜　曜日・時限：木3/Thu.3
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：**文芸コースのみ履修可。文学・言語コースの学生は夜間時間帯のみ。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語の文章の変遷を学びます。言葉は時代とともに変化しています。言葉の変化とともに文章もまた変化していきます。その変化を文章を表現する技術の変化と並行させながら学んで行きます。

【到達目標】
文章の変化と表現技術の変化を理解する。とくに現在は従来の活版印刷からデジタル技術への転換期にあるので、過去の変化をもとに将来的な変化を想像する手がかりを得ることが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式。授業中に発言を求める場合があります。また映像資料を用いる場合もあります。Hoppiiを用いて授業の感想を求めます。時にはこちらから質問をする場合もあります。皆さんのお答えの中から必要なものを選び授業時にコメント付きでご紹介いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	日本語文章の変化の概略を辿ります。
第2回	原稿用紙について	原稿用紙と活版印刷の関係、現代の日本語の正書法についてお話します。
第3回	活版印刷の登場	デジタル技術は活版印刷登場以来の革命と言われました。出は活版印刷は何をもたらしたのでしょう。
第4回	グーテンベルグ登場当時の日本	グーテンベルクが活版印刷を普及した時代は日本の鎌倉時代から室町時代にあたります。日欧の比較をお話します。
第5回	宗教改革から大航海時代へ。	活版印刷は欧州に新旧のキリスト教による宗教戦争をもたらしました。それが後の大航海時代へとつながります。
第6回	大航海時代と日本の戦国時代。	日本が最初に欧州と出会うのは戦国時代末期です。日本語文章の変化の視点から日本と諸外国との関係を辿り直します。
第7回	ちょっとお休み。毎月の本だな。	毎月１回程度、本を紹介する回をもうけます。同時に私が文学上どのような興味を持っているかをお話します。
第8回	古代から中世末期までの日本の文章変化　1	中国からの文字（漢字）の輸入から中古の文字の変化（かな、カタカナ）中世の倭館混交文まで大急ぎで振り返ります。
第9回	古代から中世末期までの日本の文章変化　2	漢文と和文の二系統の文章が継続的に存続したことをお話します。
第10回	古代から沖積末期までの日本の文章変化　3	漢文脈、和文脈の２系統の文章が現代の文章にも影響を与えていることをお話いたします。
第11回	町人の文化形成とプレ口語文の時代	近世の出版文化と、近代の口語文の前身となる町人の話言葉を反映させた文章の登場についてお話いたします。
第12回	福沢諭吉と口語文の工夫活版印刷の登場と造本の変化	幕末から明治にかけて膨大な文章を口語文で書いた福沢諭吉についてお話します。
第13回	樋口一葉は原稿用紙を使っていた。	活版印刷の登場によって、日本語の正書法が変化をしたことをお話いたします。
第14回	表現のための技術と文章の関係	最終回はみなさんのご意見をうかがう回といたします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
デジタル技術やネット関連のニュースを新聞などで読んでおいてください。文学作品を読む時、時代背景を考察するようにこころがけてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時にプリントをお渡しします。

【参考書】
授業時に随時お示しします。また「今月の本だな」の項目で新しい本をご紹介いたします。
「現代の歴史総合　みる・読みとく・考える」　山川出版社 歴総 708 高校教科書 テキスト－ 2022/1/1　1310円

【成績評価の方法と基準】
授業への意欲的な参加４０パーセント、授業後コメントシートの提出とレポート４０パーセント、期末レポート２０パーセント

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
小説家。代表作に「海を感じる時」「女ともだち」「楽隊のうさぎ」などがある。実際の創作の観点から授業を行う。

【Outline (in English)】
Course Outline: This lecture surveys the history of written Japanese and transitions in the forms that those written texts have taken.
Learning Objectives: The goal of this lecture is to understand changes in the written language and in techniques for its expression, with a view to anticipating changes that the digital revolution may bring.
Learning Activities Outside of the Classroom: Students should make efforts to keep up with news of new developments in digital techniques, and take care to understand the historical background of literary works that they read.
Grading Criteria/Policy: Grading will be based on: active participation in the class (40%); contents of reaction papers written after each lecture (40%); and an end-of-semester report (20%).

LIT200BC（文学 / Literature 200）

日本文章史Ｂ

中沢　けい

昼間時間帯
授業コード：A2443　｜　曜日・時限：木3/Thu.3
秋学期授業/Fall・２単位　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：**文芸コースのみ履修可。文学・言語コースの学生は夜間時間帯のみ。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語文章の変化を近代から現代までを技術変化に着目しながら考察します。

【到達目標】
活版印刷から出版文化の隆盛、デジタル技術の登場とそれによる表現の変化について各自が考察できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と質疑応答。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	近代とはどのような時代でしょうか。	文語文から口語文への変化を近代と言う社会背景から概略を説明します。
第2回	産業革命から市民革命と日本の近世　1	欧州で産業革命と市民革命が起きた時代と日本の近世を並行的に考察します。
第3回	産業革命と市民革命と日本の近世　2	欧州に登場した市民と日本の近世に登場した町人の比較を試みます。
第4回	近代口語文の登場	春学期でお話した福沢諭吉の登場がもたらした日本語文章の改革について再度、お話をします。
第5回	近代に登場した数々の表現技術と出版文化。	写真、映画、ラジオなどが登場します。また新聞が社会の中で大きな役割を占めることをお話します。
第6回	近代の映像を見てみましょう。	HNKで放送された「映像の世紀」から近代初期の映像を視聴します。
第7回	近代のイメージ	受講生の皆さんが近代についてどのようなイメージを持ったのかを質問しながら質疑応答いたします。
第8回	戦争と映画。戦争と新聞、雑誌報道	日清、日露、第一次世界大戦、日中戦争、日米戦争での主要メディアについてお話します。
第9回	テレビの登場、週刊誌の登場	マスメディアについてお話します。マスメディアは後に頂上するパーソナルなメディアとの比較を試みます。
第10回	デジタル技術の登場	デジタル技術とインターネットは文章を変化させるのか？ この疑問について、現在、考えていることをお話します。
第11回	世論形成とフェイクニュース	デジタル技術はパーソナルな情報発信を可能にしました。一方で、フェイクニュースの流布などの問題をもたらしたことをお話します。
第12回	アジア諸国の台頭と新しい比較文学	アジア諸国の経済発展は神話学や物語の比較文学に新しい研究成果をもたらしています。
第13回	大航海時代以来形成された価値観の問い直しと、文章への影響。	大航海時代以来、世界に形成された価値観の構造的な問い直しが進んでいます。価値観の問い直しは文章へどのような影響を与えるでしょうか。
第14回	これからの文章	これからどのような文章が創造されて行くのか、受講生に皆さんと質疑応答をいたします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
考デジタル技術やネット関連のニュースを新聞などで読んでおいてください。文学作品を読む時、時代背景を考えるようにこころがけてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時にプリントをお渡しします。

【参考書】
授業内の随時ご紹介します。また「今月の本だな」の項目を使って私の興味関心のある本を紹介してゆきます。
現代の歴史総合　みる・読みとく・考える」　山川出版社 歴総 708 高校教科書 テキスト－ 2022/1/1　1301円

【成績評価の方法と基準】
授業への意欲的な参加４０パーセント、授業後コメントシートの提出とレポート４０パーセント、期末レポート２０パーセント

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
小説家。代表作に「海を感じる時」「女ともだち」「楽隊のうさぎ」などがある。実際の創作の観点から授業を行う。

【Outline (in English)】
Course Outline: This lecture surveys transitions in the forms that written Japanese texts have taken in the modern and contemporary periods.
Learning Objectives: The goal of this lecture is to understand the boom in print culture brought about by type printing, and the changes and challenges presented by the introduction of digital technology.
Learning Activities Outside of the Classroom: Students should make efforts to keep up with news of new developments in digital techniques, and take care to understand the historical background of literary works that they read.
Grading Criteria/Policy: Grading will be based on: active participation in the class (40%); contents of reaction papers written after each lecture (40%); and an end-of-semester report (20%).

LIT200BC（文学 / Literature 200）

文章表現論 A

田中　和生

昼間時間帯
授業コード：A2445　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
書きたいことを自分で見つけ、それを自分の好きなように書く、という新しい文章がはじまることの自由さを味わい、同時にその困難さも理解します。その自由さと困難さを入り口にして、どうしたら自分の言いたいことをうまく言葉にできるのか、日本語による表現を模索し、その延長線上に現れる、詩や物語や批評といった文学的な言葉の使い方を身につけることを目指します。

【到達目標】
まず書きたいことを見つけて文章を書きはじめる、という基本的な構えを身につけて文章に向かうこと。
次にその書きたいことをできるだけ明確に他人に伝える、という自分なりの表現を模索する姿勢を手に入れること。
以上を目標とし、理想としてはそれでもうまく言葉にすることができない、文学的な文章を書くということの自由さと困難さを実感します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
書いてもらった作文を軸にして講義を進めます。作文には毎回フィードバックとして書き込みの指摘と講評を行い、また学生自身が評価をする機会も設けて、作文を書くことと評価されることについて、双方向的に理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文章表現とはなにか	作文の基礎知識について確認します。
第2回	メモと作文	メモを取って作文することを実践します。
第3回	テーマと題名	書きたいことを自分で見つけるとはどういうことかを考察します。
第4回	詩の言葉への触手	散文と詩の違いを理解します。
第5回	書き出しの言葉を待つ	書き出しに注意して作文を実践します。
第6回	作文を評価する（1）	学生自身が他の学生の作文を評価し、よい作文を選ぶという作業を行います。
第7回	具体的に書く	抽象的な書き方の問題について理解を深めます。
第8回	物語の力	小説と物語の違いについて考察を加えます。
第9回	別の角度から考える	客観的な言葉を書くための準備を行ってから作文に取り組みます。
第10回	紋切り型と一般論	自分の言葉を見つけるとはどういうことかを理解します。
第11回	批評性のある文章	批評的な言葉に触れます。
第12回	感情のなかで書く	言葉の力を実感しながら作文することを目指します。
第13回	作文を評価する（2）	学生自身が他の学生の作文を評価し、コメントを交換します。
第14回	書き終わりは突然に	文章の終わりについて考察します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要時応じて指示しますが、とくに2回目以降の作文では事前にテーマを発表して作文の準備をしてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回プリントを配布します。

【参考書】
加藤典洋『言語表現法講義』（岩波書店）、荒川洋治『日記をつける』（岩波現代文庫／岩波アクティブ新書・絶版）をあげておきます。

【成績評価の方法と基準】
授業中に4回800字程度の作文を書いて提出してもらいます。またおたがいに作文を評価しあう機会が2回あります。作文自体の評価（5割）と、作文へ取り組む姿勢（5割）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出される作文に応じ、いつも文章表現とはなにかを考えながら授業に臨んでいます。

【その他の重要事項】
文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして講義し、作文を評価します。

【Outline (in English)】
< Course Outline > Through the exploration of discovering what they want to write and writing it as they like, students experience the freedom of starting a new text and come to understand the difficulties involved in it. With an understanding of both its freedom and difficulties, they will search for phrases in Japanese to express what they want to say effectively, and acquire skill in the use of literary expression within poetry, stories and criticism.
< Learning Objectives > Students learn the basic stance necessary in writing, and learn how to write what they want to write as clearly as possible. This gives them an understanding of the nearly inexpressible freedom and difficulty that literary creation involves.
< Learning Activities Outside of the Classroom > Guidance will be given as necessary, but as a general rule students prepare and give a presentation on the topic of their writing before moving on to its actual creation. Standard preparation and review for this class will take two hours each.
< Grading Criteria/Policy > During the semester students submit four examples of creative writing more than 800 Japanese characters in length. They are then given opportunities to critically review each other's creations. Grading takes into account the creative works themselves (50%) and a comprehensive appraisal of individual students' stance toward literary creation (50%).

LIT200BC（文学 / Literature 200）

文章表現論Ｂ

田中　和生

昼間時間帯
授業コード：A2447　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分がよく知っていることを正確に書く困難さと、その内容に限界があることを理解し、知らないことやフィクションを交えた文章を書く自由さを体験します。そうして知っていることだけを書く文章と知らないことを交えた文章の違いに注意することで、フィクションとして自分が書きたいことはどんなことなのか、自らの主題を深く模索することを目指します。

【到達目標】
まずよく知らないことを交えた内容を、知っていることだけを書いた文章であるかのように書こうとすること。
次にそうでなくては明確に他人に伝える文章で書けないこと、むしろ書きやすいものがあるということを知ること。
以上を目標とし、主に小説の歴史を参照しながらフィクションの自由さについて理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
書いてもらった作文を軸にして講義を進めます。作文には毎回フィードバックとして書き込みの指摘と講評を行い、また学生自身が評価する機会も設けて、作文を書くことと評価されることについて、双方向的に理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	フィクションと事実	文章表現の本質について考察を加えます。
第2回	他人になりきって書く	事実を離れて作文することを実践します。
第3回	細部まで想像する	文章が真実らしくなる条件について考察します。
第4回	一人称と三人称	人称から小説の文章について分析します。
第5回	スピードを落とす	客観的な言葉を選ぶことを目指して作文を書きます。
第6回	フィクションを評価する（1）	学生自身が他の学生の作文を評価し、コメントを交換します。
第7回	フィクションの真実	知っていることを書くとはどういうことかを考察します。
第8回	描写と「もの」	リアリズムという視点から小説の歴史をふり返ります。
第9回	声を合わせる	他人の言葉で書くことを実践します。
第10回	主観と客観のあいだ	読者にとってリアリティのある文章とはどういうものか考察します。
第11回	衣装としての文章	引用と参照による文学史を構想します。
第12回	知らない人に向かって書く	引用と参照を行った作文を実践します。
第13回	フィクションを評価する（2）	学生自身が他の学生の作文を評価し、よい作文を選ぶという作業を行います。
第14回	時間を流す	散文的芸術の本質について考察を加えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて指示しますが、とくに作文では事前にテーマを発表して作文の準備をしてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回プリントを配布します。

【参考書】
村上春樹『若い読者のための短編小説案内』（文春文庫）、高橋源一郎『一億三千万人のための小説教室』（岩波新書）をあげておきます。

【成績評価の方法と基準】
授業中に4回800字程度の作文を書いて提出してもらいます。またおたがいに作文を評価しあう機会が2回あります。作文自体の評価（5割）と、作文へ取り組む姿勢（5割）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出される作文に応じ、いつも文章表現とはなにかを考えながら授業に臨んでいます。

【その他の重要事項】
文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして講義し、作文を評価します。

【Outline (in English)】
< Course Outline > Students will come to understand the difficulty of writing what they know well precisely and the limitations on the content if they do so, and experience the freedom of writing what they don't know about, while incorporating fictional elements. With an understanding of the differences between writing about what they know and what they don't know, they will be able to explore their own subject matter deeply, and come to a realization as to what they really want to write as fiction.
< Learning Objectives > Students should first write about things with content that they do not know much about, as if they were writing only about things that they know well. Secondly, by doing so they learn that otherwise it is not possible to write in a way that clearly communicates content to others, and that some things are easier to write than others. With these goals in mind, they will deepen their understanding of the freedom of fiction, with reference to historical examples of successful novels.
< Learning Activities Outside of the Classroom > Guidance will be given as necessary, but as a general rule students prepare and give a presentation on the topic of their writing before moving on to its actual creation. Standard preparation and review for this class will take two hours each.
< Grading Criteria/Policy > During the semester students submit four examples of creative writing more than 800 Japanese characters in length. They are then given opportunities to critically review each other's creations. Grading takes into account the creative works themselves (50%) and a comprehensive appraisal of individual students' stance toward literary creation (50%).

LIT300BC（文学 / Literature 300）

メディアと社会

中沢　けい

夜間時間帯
授業コード：A2568　｜　曜日・時限：火5/Tue.5
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　文芸創作は社会から孤立した営為ではありません。文芸作品は社会の中に置かれています。この講義では、社会の中に置かれた文芸創作、文章表現などがどのような問題性をもっているのかを学んでもらいます。同時に創作とは何か？ 表現とは何か？ という根本的な問題を現実の事例を通して、受講生ひとりひとりに考察してもらうことが目標になります。
Relationship between media and society

【到達目標】
　社会的制度から創作とは何をか考えるのが目的です。また情報技術の変化がメディアにもたらす変化についても考察する手がかりを得てください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
　オムニバス形式です。講師にはそれぞれの分野の第一線で活躍している先生方をお招きしています。授業時にはコメントつきの出席をとります。　コメントはHOPPIIを用いて提出してもらいます。コメントの内容については授業時に適宜、御紹介いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業のねらいについてお話します。（中沢けい）
第2回	韓国文学を紹介する。	近年、韓国の文化、芸術は多方面にわたり注目を集めています。そのなかから日本での韓国文学の受容についてお話いただきます。
第3回	同上	金承福講師（クオン主催者）
第4回	海外の版権取得について	翻訳書を作る時、海外から版権を取得します。それはどのような作業なのでしょうか。
第5回	同上	山口和人講師（元講談社文芸局勤務）
第6回	アニメーションをプロデュースする。	多様な人が関わるアニメーション制作の現場でのプロデュースについてお話いただきます。
第7回	同上	石井龍講師（アニメーションプロデューサー）
第8回	編集とはどのような仕事か	編集をいうものが持つ意味を広い視野で捉えます
第9回	同上	仲俣暁生講師（編集者）
第10回	ノンフィクションの現在	ノンフィクションの意味。現在のノンフィクションについて考えます。
第11回	同上	安田浩一講師（ノンフィクション作家）
第12回	建築と文学の空間創造	文学と建築、この一見、異なる世界の繋がりを考えてみましょう。
第13回	建築と文学の空間創造	鈴木隆之講師（建築家、小説家）
第14回	現代社会と表現の相克	中沢けい まとめの講義とともに受講生の意見交換をいたします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第一線で御活躍の講師の先生をお招きしてお話をお聞きします。講師の御著作を紹介いたしますので、読んでおくようにしてください。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　授業時にそれぞれの講師からプリントが配布されます。プリントはレポートで使用しますのでファイルしておいて下さい。

【参考書】
　講師から提示されます。

【成績評価の方法と基準】
　「配分（%）」：レポート30％　平常点　70％
　「評価基準」：積極的な授業参加と洞察力に富んだレポート内容。

【学生の意見等からの気づき】
　現在、起きていることについて具体的な講義を聞くのがこの授業の目的ですから、新聞報道などに多く目を通し、感覚を磨くようにしておくことが重要になります。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
　授業計画補足：ご都合などにより講義の順番が変更されることがありますのでご注意下さい。
中沢けい
小説家。1978年「海を感じる時」で第21回群像新人賞受賞。1985年「水平線上にて」で第6回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline (in English)】
Course Outline: Literary creation is not an activity isolated from society; on the contrary, literary works are situated within society. In this course, students will learn about the issues involved in literary creation and written expression in society.
Learning Objectives: The objective is to consider what creation means from the perspective of social systems and institutions. The course will also provide hints for considering the changes that shifts in information technology are bringing to the media.
Learning Activities Outside of the Classroom: We will invite lecturers who are active in the forefront of the field to speak to us. Please be sure to read the lecturers' publications. Standard preparation and review time for each class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy: Performance in class (70%); report (30%). The criteria are active class participation and insightful report content.

LIT200BC（文学 / Literature 200）

表現と著作権Ａ

平井　彰司

夜間時間帯
授業コード：A2584　｜　曜日・時限：火5/Tue.5
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
著作権の歴史と権利の淵源を概観し、著作権法を読み解くことを通じて、著作権思想の全体像をつかむ。著作権の基礎を学習して、著作権と社会との関係がテーマの秋学期へと繋ぐ。

【到達目標】
我が国著作権法の主要な規定について、その内容と効用を習得することを目指す。併せて文学部生に求められる法秩序の基本を理解し、法律の記述ルールや条文読解のポイントを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
受講者が法律学の基礎カリキュラムを通過していないことを前提に講義形式で行います。また、必要に応じて発言を求める場合があります。原則として、毎回授業終了時にリアクションペーパーの提出を求めます。疑問や意見、感想など自由に記入してください。次回以降にフィードバックを行うとともに、授業の進行に反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	文学部生が身につけるべき著作権理解について考える。
第2回	創作の系譜	作品の形式と伝達の変化を抑えつつ、創作行為と受容の類型を理解する。
第3回	近代著作権の概要	著作権誕生の背景とそれを支える思想、概念の変遷をたどる。
第4回	著作権法	我が国の法秩序における位置づけの確認と、基本的な構成を概観する。
第5回	著作物	著作物とは何か。類例を基に著作性について考える。
第6回	著作者	著作者とは誰か。著作権者との違いとは何かを整理する。
第7回	保護の対象・期間	法律で保護される種類と範囲を見ていく（海外作品も含めて）。
第8回	権利の種類	著作権者が専有する権利（支分権）の詳細を理解する。
第9回	権利の制限	例外的に権利者の許諾なしに利用可能な場合と、その要件を整理する
第10回	人格権・隣接権	著作者の財産権以外で法律に規定されている権利を知る。
第11回	許諾・契約	著作物の利用許諾の態様や利用契約の実際に触れる。
第12回	著作権管理，補償金	多くの著作権を集めて管理したり、補償金を分配する組織の実際に触れる。
第13回	裁定・登録・あっせん	私権である著作権に対して行政が調整的機能を持つ事例を見ていく。
第14回	補足・まとめ	学習の成果を踏まえ、著作権の基礎を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で紹介した参考文献・資料等には極力目を通しておくこと。折に触れて、世界史や国際関係、ビジネスに関する知識が求められます。各受講者の必要に応じた予備学習を心掛けてください。本授業の準備・復習時間は、各１時間を標準とします。
Please make an effort to read through the references and materials introduced in class as much as possible. Knowledge of world history, international relations, and business will be required from time to time. Please be mindful of doing preliminary study according to your needs. The standard preparation and review time for this class is one hour each.

【テキスト（教科書）】
最新の著作権法をネットや図書館等を通じて準備すること。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーを含む平常点50％、期末レポートの内容50％を評価の目安とします。
The grading criteria will be 50%based on regular class performance including reaction papers and 50%on the content of the final report.

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
表現と著作権Ａ・Ｂの通年履修を推奨します。
日本文藝家協会事務局長。筑摩書房にて知的財産の保護・活用、デジタルビジネスの企画・開発、表現の自由と人権問題等の編集コンプライアンスを掌管。著作権領域に関する出版界全体の調整、著作者団体・各種利用者・関係省庁等へのロビイングに従事。2021年より現職。
＜専門領域＞出版分野を中心とした著作権実務全般
＜研究テーマ＞著作権制度、メディア論、出版論
＜主要研究業績＞特になし

【Outline (in English)】
The course provides an overview of the history of copyright and the abyss of rights, and through a reading of copyright law, students will grasp the overall picture of copyright thought. The course will connect to the fall semester, in which the theme will be the relationship between copyright and society, by learning the basics of copyright.

LIT200BC（文学 / Literature 200）

表現と著作権Ｂ

平井　彰司

夜間時間帯
授業コード：A2586　｜　曜日・時限：火5/Tue.5
秋学期授業/Fall・２単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
著作権そのものへの理解を深めた春学期を受けて、テクノロジーの進化／深化を軸に著作権と外部とのかかわり＝社会との相互関係やビジネスとの相克等を総合的に考察していく。

【到達目標】
法律条文の解釈論にとどまらず、社会全体の視座から著作権が創作・媒介・受容の営みに果たす役割について理解し、文学部生として身につけるべき著作権リテラシー習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
受講者が法律学の基礎カリキュラムを通過していないことを前提に講義形式で行います。また、必要に応じて発言を求める場合があります。原則として、毎回授業終了時にリアクションペーパーの提出を求めます。疑問や意見、感想など自由に記入してください。次回以降にフィードバックを行うとともに、授業の進行に反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	著作権の基本を再確認し、現状が抱える諸問題の射程を整理する。
第2回	紛争処理・罰則	民事解決と刑事罰、賠償額の算定や罰則の水準について学ぶ。
第3回	係争と裁判手続	著作権裁判の実例を見ていくとともに、和解解決やソフトローを紹介する。
第4回	著作権制度	法律改正の要件から成立、公布・施行、運用までのプロセスを理解する。
第5回	知的財産権	知的財産権一般と対比しながら、他とは一線を画す特殊な性格を知る。
第6回	文字記録・印刷物	グーテンベルク以前から現代まで。パッケージの進歩や頒布方法を含めて。
第7回	保存・再生技術の歴史	画像・音声・映像。創作の領域を拡張する技術の進化をたどる。
第8回	伝達手段の展開	移動・運搬から通信・放送へと位相を転じた伝達の変遷を見ていく。
第9回	デジタルテクノロジー	コンピューターとネットワークの進化は著作物をめぐる環境をどう変えたか。
第10回	出版物の電子化	書籍書籍・電子ジャーナル等を手掛かりに読書行為への影響を探る。
第11回	海賊版・アーカイブ	著作権を制限する運動やデジタルアーカイブの展開、海賊版対策の実態を知る。
第12回	ＡＩ・メタバース	創作と伝達、受容をとりまく最新のトピックを採り上げる。
第13回	著作権とは	著作権の性質と構造を再確認し、社会における意義や射程について考察する。
第14回	補足・まとめ	現在の著作権システムの考察を通じて、創作・媒介・受容の未来を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で紹介した参考文献・資料等には極力目を通しておくこと。折に触れて、世界史や国際関係、ビジネスに関する知識が求められます。各受講者の必要に応じた予備学習を心掛けてください。本授業の準備・復習時間は、各１時間を標準とします。
Please make an effort to read through the references and materials introduced in class as much as possible. Knowledge of world history, international relations, and business will be required from time to time. Please be mindful of doing preliminary study according to your needs. The standard preparation and review time for this class is one hour each.

【テキスト（教科書）】
最新の著作権法をネットや図書館等を通じて準備すること。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーを含む平常点50％、期末レポートの内容50％を評価の目安とします。
The grading criteria will be 50%based on regular class performance including reaction papers and 50%on the content of the final report.

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
表現と著作権Ａ・Ｂの通年履修を推奨します。
日本文藝家協会事務局長。筑摩書房にて知的財産の保護・活用、デジタルビジネスの企画・開発、表現の自由と人権問題等の編集コンプライアンスを掌管。著作権領域に関する出版界全体の調整、著作者団体・各種利用者・関係省庁等へのロビイングに従事。2021年より現職。
＜専門領域＞出版分野を中心とした著作権実務全般
＜研究テーマ＞著作権制度、メディア論、出版論
＜主要研究業績＞特になし

【Outline (in English)】
Following the spring semester in which we deepened our understanding of copyright itself, we will comprehensively examine the relationship between copyright and the outside world = interrelationships with society and conflicts with business, etc., centered on the evolution/deepening of technology.

LIT300BC（文学 / Literature 300）

ゼミナール１７Ａ

中沢　けい

授業コード：A2647　｜　曜日・時限：木4/Thu.4
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　創作について学びます。春学期は妖怪・怪異研究をします。創作とは何か、イメージとはなにかを学びます。
夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。
後期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。
Literature creation

【到達目標】
妖怪や怪異を通し虚構とは何か、創作とは何かを各自がイメージできるようになるのが目標です。好きな妖怪を見つけましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですすんで授業を作ってゆくと考えてください。授業では各自にレジュメを作成してもらいます。発表で用いてください。授業時にレジュメの内容などを質問することがあります。適宜リアクションペパーを求めます。レアクションペパーの内容を授業内と紹介する場合があります。授業内の質疑応答を通じてリアクションペパーなどの内容をフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	ガイダンス2 なぜ妖怪や怪異について調べるのか	妖怪や怪異について私のイメージや考えを講義します。
第3回	受講生による発表	好きな妖怪、気になる怪異について発表してください。
第4回	受講生による発表 他の学生の発表を聞きましょう。	内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。
第5回	受講生による発表 発表内容に対する質問を考えましょう。	具体的な文章の引用をしましょう。
第6回	受講生による発表 発表者に質問する前に、おとなりの人と少し相談するといいかもしれません。	引用に基づいた感想を話すようにしましょう。
第7回	受講生よる発表 レジュメの作り方受講生にを研究してみましう。	読むことはすなわち「創造」です。
第8回	受講生による発表 発表に機材が必要な場合は申し出てください。	「読むこと」と「書く」ことのつながりを考えましょう。
第9回	ゼミ誌制作の準備	作品は「本」になって初めて原稿ではなく作品になります。
第10回	受講生による発表	再び、リストによる作品購読でさまざまな読み方を学びます。
第11回	受講生による発表 ときには脱線してお喋りをするのもおもしろいものです。	作品の研究論文、評論などを探しましょう。
第12回	受講生による発表 夏季休暇が近づいてきました。ゼミ誌の作品制作は進んでいるでしょうか？ という時期になります。	先行研究や評論とあなたの感じ方の違いを比べてみましょう。
第13回	受講生による発表 ゼミ誌作品制作の進行具合をお尋ねするかもしれません。	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第14回	受講生による発表 最終授業日までにゼミ誌の制作にめどがたっているといいのですけど。	先行作品から新しい作品を生み出すヒントを探してみましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
できるだけたくさんの本を読みましょう。詩、批評、戯曲なども読みましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
参考書欄のテキストを適宜に用います。博物館などのＨＰも適宜に用います。

【参考書】
小松 和彦 (監修), 常光 徹 (編集), 山田 奨治 (編集), 飯倉 義之 (編集)
日本怪異妖怪大事典 普及版 （東京堂出版） – 2025/1/28　4950円
妖怪や怪異については無数の本があります。探してみましょう。

【成績評価の方法と基準】
　配分（%）は授業へ積極的参加50％ゼミ誌作品50％。　評価基準は創作のセンスの良さ。

【学生の意見等からの気づき】
とくにありません。

【学生が準備すべき機器他】
原稿用紙のアプリケーション

【その他の重要事項】
授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。新型コロナの感染状況によっては合宿は中止となることがあります。あしからずご了解ください。
小説家。1978年「海を感じる時」で第21回群像新人賞受賞。1985年「水平線上にて」で第6回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline (in English)】
We will learn about creative writing. In the spring semester, we will study monsters and other supernatural phenomena. We will learn what creative writing is and what images are.
During the summer vacation, students will produce a seminar journal. This will be the textbook for the second semester, the object of joint critiques. A camp is also scheduled during the summer.
Learning Objectives: The goal is to be able to critically read creative works.
Learning Activities Outside of the Classroom: Read as many books as possible, including poetry, criticism, plays, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy: active participation in class (50%), seminar journal work (50%). The evaluation criterion is good taste in creative writing.

LIT300BC（文学 / Literature 300）

ゼミナール１７Ｂ

中沢　けい

授業コード：A2648　｜　曜日・時限：木4/Thu.4
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。
後期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。

【到達目標】
ゼミ生相互に作品批評をします。同一の作品でも人により読み方が違うことが理解できます。その中で自分の作品について必要な批評を聞き分けられるようになりましょう。自分自身がどのような形態の作品を書きたいのかを意識できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですすんで授業を作ってゆくと考えてください。授業では各自にレジュメを作成してもらいます。発表で用いてください。授業時にレジュメの内容などを質問することがあります。授業内で作品の講評をお話します。また質疑応答を通じて個々の作品について考察します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	講読作品の選定とスケジュール作り	講読作品の選定とスケジュール作り
第3回	受講生による発表	リストによる購読で批評の方法を学びます。
第4回	受講生による発表	内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。
第5回	受講生による発表	具体的な文章の引用をしましょう。
第6回	受講生による発表	引用に基づいた感想を話すようにしましょう。
第7回	受講生による発表	読むことはすなわち「創造」です。
第8回	受講生に発表	「読むこと」と「書く」ことのつながりを考えましょう。
第9回	受講生による発表	作品は「本」になって初めて原稿ではなく作品になります。
第10回	受講生による発表	人によって読み方はさまざまです。
第11回	受講生による発表	自分の作品の理解者を探してみましょう。
第12回	受講生による発表	作品はイメージ通りに書けましたか。
第13回	受講生による発表	作品の修正の方法を考えてみましょう。
第14回	受講生による発表	修正したほうがいいのかあ新しい作品を書いたほうがいいのかを考えてみましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
できるだけたくさんの本を読みましょう。詩、批評、戯曲なども読みましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ゼミ誌

【参考書】
ゼミ誌の批評をレジュメにまとめてもらいます。各自でほかのゼミ生のレジュメを読み比べてみましょう

【成績評価の方法と基準】
　配分（%）は授業へ積極的参加50％ゼミ誌作品50％。　評価基準は創作のセンスの良さ。

【学生の意見等からの気づき】
とくにありません。

【その他の重要事項】
授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。新型コロナの感染状況によっては合宿は中止となります。あしからずご了解ください。
小説家。1978年「海を感じる時」で第21回群像新人賞受賞。1985年「水平線上にて」で第6回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline (in English)】
Course Outline: Students will produce a seminar journal during the summer vacation period. The seminar journal will be the textbook for the second semester classes, in which we will undertake joint critiques of each student's work.
Learning Objectives: The seminar students will critique each other's work. This will help students to understand that even the same work can be read in different ways by different people. Through this process, you will learn to distinguish necessary critiques of your own work. You will become aware of what form of work you would like to write yourself.
Learning Activities Outside of the Classroom: Read as many books as possible, including poetry, criticism, plays, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy: active participation in class (50%), seminar journal work (50%). The evaluation criterion is good taste in creative writing.

LIT300BC（文学 / Literature 300）

ゼミナール１８Ａ

中沢　けい

夜間時間帯
授業コード：A2649　｜　曜日・時限：金6/Fri.6
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　創作について学びます。春学期は妖怪・怪異研究をします。創作とは何か、イメージとはなにかを学びます。
夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。
　後期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。
Literature creation

【到達目標】
妖怪や怪異を通し虚構とは何か、創作とは何かを各自がイメージできるようになるのが目標です。好きな妖怪を見つけましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですすんで授業を作ってゆくと考えてください。授業では各自にレジュメを作成してもらいます。発表で用いてください。授業時にレジュメの内容などを質問することがあります。適宜リアクションペパーを求めます。レアクションペパーの内容を授業内と紹介する場合があります。授業内の質疑応答を通じてリアクションペパーなどの内容をフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	ガイダンス2 なぜ妖怪や怪異について調べるのか	妖怪や怪異について私のイメージや考えを講義します。
第3回	受講生による発表	リストによる講読で批評の方法を学びます。
第4回	受講生による発表 他の学生の発表を聞きましょう。	内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。
第5回	受講生による発表 発表者に質問する前に、おとなりの人と少し相談するといいかもしれません。	具体的な文章の引用をしましょう。
第6回	受講生による発表 レジュメの作り方を研究してみましょう。	引用に基づいた感想を話すようにしましょう。
第7回	受講生よる発表 レジュメの作り方受講生にを研究してみましょう。	読むことはすなわち「創造」です。
第8回	受講生による発表 発表に機材が必要な場合は申し出てください。	「読むこと」と「書く」ことのつながりを考えましょう。
第9回	ゼミ誌制作の準備	作品は「本」になって初めて原稿ではなく作品になります。
第10回	受講生による発表	再び、リストによる作品購読でさまざまな読み方を学びます。
第11回	受講生による発表 ときには脱線してお喋りをするのもおもしろいものです。	作品の研究論文、評論などを探しましょう。
第12回	受講生による発表 夏季休暇が近づいてきました。ゼミ誌の作品制作は進んでいるでしょうか？ という時期になります。	先行研究や評論とあなたの感じ方の違いを比べてみましょう。
第13回	受講生による発表 ゼミ誌作品制作の進行具合をお尋ねするかもしれません。	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第14回	受講生による発表 最終授業日までにゼミ誌の制作にめどがたっているといいのですけど。	先行作品から新しい作品を生み出すヒントを探してみましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
できるだけたくさんの本を読みましょう。小説に限らず詩、批評、戯曲なども読みましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
参考書欄のテキストを適宜に用います。博物館などのＨＰも適宜に用います。ゼミ誌を受講生自身で制作します。

【参考書】
小松 和彦 (監修), 常光 徹 (編集), 山田 奨治 (編集), 飯倉 義之 (編集)
日本怪異妖怪大事典 普及版（東京堂出版） – 2025/1/28　4950円
妖怪や怪異については無数の本があります。探してみましょう。

【成績評価の方法と基準】
　配分（%）は授業へ積極的参加50％ゼミ誌作品50％。　評価基準は創作のセンスの良さ。

【学生の意見等からの気づき】
とくにありません。

【学生が準備すべき機器他】
原稿用紙アプリケーション

【その他の重要事項】
授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。新型コロナの感染状況によっては合宿は中止といたします。あしからずお許しください。
小説家。1978年「海を感じる時」で第21回群像新人賞受賞。1985年「水平線上にて」で第6回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline (in English)】
We will learn about creative writing. In the spring semester, we will study monsters and other supernatural phenomena. We will learn what creative writing is and what images are.
During the summer vacation, students will produce a seminar journal. This will be the textbook for the second semester, the object of joint critiques. A camp is also scheduled during the summer.
Learning Objectives: The goal is to be able to critically read creative works.
Learning Activities Outside of the Classroom: Read as many books as possible, including poetry, criticism, plays, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy: active participation in class (50%), seminar journal work (50%). The evaluation criterion is good taste in creative writing.

LIT300BC（文学 / Literature 300）

ゼミナール１８Ｂ

中沢　けい

夜間時間帯
授業コード：A2650　｜　曜日・時限：金6/Fri.6
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　創作について学びます。まず、注意深くいろいろな作品を読んでゆくことにしましょう。夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。秋学期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。

【到達目標】
ゼミ生相互に作品批評をします。同一の作品でも人により読み方が違うことが理解できます。その中で自分の作品について必要な批評を聞き分けられるようになりましょう。自分自身がどのような形態の作品を書きたいのかを意識できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですすんで授業を作ってゆくと考えてください。授業では各自にレジュメを作成してもらいます。発表で用いてください。授業時にレジュメの内容などを質問することがあります。授業内で作品の講評をお話します。また質疑応答を通じて個々の作品について考察します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	講読作品の選定とスケジュール作り	講読作品の選定とスケジュール作り
第3回	受講生相互の批評	作品にたいする批評をレジュメにして提出してもらいます。
第4回	受講生による発表	内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。
第5回	受講生による発表	具体的な文章の引用をしましょう。
第6回	受講生による発表	引用に基づいた感想を話すようにしましょう。
第7回	受講生による発表	読むことはすなわち「創造」です。
第8回	受講生による発表	「読むこと」と「書く」ことのつながりを考えましょう。
第9回	受講生による発表	読みかたは人によって異なります。
第10回	受講生による発表	自分はどのような作品を書きたかったのかを考えてみましょう。
第11回	受講生による発表	作品の理解したうえでの批評を探しましょう。
第12回	受講生による発表	作品の修正の方法を考えてみましょう
第13回	受講生による発表	作品を修正したほうが良いのか、それとも新しい作品を書くほうがよいのかを考えてみましょう。
第14回	受講生による発表	次作のイメージを作ってみましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
できるだけたくさんの本を読みましょう。小説に限らず詩、批評、戯曲なども読みましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ゼミ誌を受講生自身で制作します。

【参考書】
自分の作品のイメージを喚起する作品を先行作品の中から探してみましょう。

【成績評価の方法と基準】
　配分（%）は授業へ積極的参加50％ゼミ誌作品50％。　評価基準は創作のセンスの良さ。

【学生の意見等からの気づき】
とくにありません。

【学生が準備すべき機器他】
とくにありません。

【その他の重要事項】
授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。新型コロナの感染状況によっては合宿が中止となることがあります。あしからず。

小説家。1978年「海を感じる時」で第21回群像新人賞受賞。1985年「水平線上にて」で第6回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline (in English)】
Course Outline: Students will learn about creative writing. First, we will carefully read a variety of works. During the summer vacation, students will produce a seminar journal. This will be the textbook for the second semester, the object of joint critiques. A camp is also scheduled during the summer.
Learning Objectives: The seminar students will critique each other's work. Students will understand that even the same work can be read in different ways by different people. In this way, you will learn to distinguish necessary critiques of your own work. You will become aware of what form of work you would like to write yourself.
Learning Activities Outside of the Classroom: Read as many books as possible, including poetry, criticism, plays, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy: active participation in class (50%), seminar journal work (50%). The evaluation criterion is good taste in creative writing.

LIT300BC（文学 / Literature 300）

ゼミナール１９Ａ

田中　和生

授業コード：A2651　｜　曜日・時限：火4/Tue.4
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

【到達目標】
創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むことが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦し、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
小説についての研究発表を中心に進め、夏休み明けに提出する創作の準備を行います。できるだけ学生同士の自発的な議論に時間を使いますが、それを踏まえて授業の最後に教員からフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	役割分担と創作の計画。
第2回	日本の短篇を読む（1）	発表と質疑、リレー小説1。
第3回	日本の短篇を読む（2）	発表と質疑、リレー小説2。
第4回	日本の長篇を読む（1）	発表と質疑、リレー小説3。
第5回	日本の長篇を読む（2）	発表と質疑、リレー小説4。
第6回	日本の長篇を読む（3）	発表と質疑、リレー小説5。
第7回	日本の長篇を読む（4）	発表と質疑、リレー小説6。
第8回	日本の長篇を読む（5）	発表と質疑、リレー小説7。
第9回	日本の長篇を読む（6）	発表と質疑、リレー小説8。
第10回	日本の長篇を読む（7）	発表と質疑、リレー小説9。
第11回	日本の長篇を読む（8）	発表と質疑、リレー小説10。
第12回	日本の長篇を読む（9）	発表と質疑、リレー小説11。
第13回	日本の長篇を読む（10）	発表と質疑、リレー小説12。
第14回	日本の長篇を読む（11）	発表と質疑、リレー小説13。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて指示しますが、とくに夏期休暇中の課題創作が重要です。春学期からじっくり書き方や内容を準備して取り組んでもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
ゼミナールでの発表（6割）と授業への積極的な参加姿勢（4割）によって、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

【その他の重要事項】
文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして創作について指導します。

【Outline (in English)】
< Course Outline > Choose the form of expression that suits you for creative writing in Japanese.
< Learning Objectives > Any genre of creative writing is acceptable, but students should determine the form of expression they create on the condition that they like to read works in that form. Students will also learn to understand literary works internally from the author's point of view, as a prerequisite for literary creation. The students will then improve their language skills by challenging themselves to write original works, not only through imitation.
< Learning Activities Outside of the Classroom > I will give you instructions as necessary, but it is especially important that you write during the summer vacation. Take time to prepare, and work on your writing style and content from the spring semester. The standard preparation and review time for this class is two hours each.
< Grading Criteria/Policy > Students will be evaluated based on their presentations (60%), and their performance in class (40%).

LIT300BC（文学 / Literature 300）

ゼミナール１９Ｂ

田中　和生

授業コード：A2652　｜　曜日・時限：火4/Tue.4
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

【到達目標】
創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むのが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦し、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
夏休み明けに創作を提出し、その作品について合評を行います。できるだけ学生同士の自発的な議論に時間を使いますが、それを踏まえて授業の最後に教員からフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	校正について	課題提出と授業計画。
第2回	ゼミ誌について	リレー小説の校正。
第3回	創作合評（1）	合評と作者質疑。
第4回	創作合評（2）	合評と作者質疑。
第5回	創作合評（3）	合評と作者質疑。
第6回	創作について	創作についての考察。
第7回	創作合評（4）	合評と作者質疑。
第8回	創作合評（5）	合評と作者質疑。
第9回	創作合評（6）	合評と作者質疑。
第10回	文学を探せ！	文学的なものの調査。
第11回	創作合評（7）	合評と作者質疑。
第12回	創作合評（8）	合評と作者質疑。
第13回	創作合評（9）	合評と作者質疑。
第14回	創作合評（10）	合評と作者質疑。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて指示しますが、とくに秋学期に提出する課題創作が重要です。夏期休暇中にじっくり納得のいくものを仕上げてもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
ゼミナールでの創作（6割）と授業への積極的な参加姿勢（4割）によって、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

【その他の重要事項】
文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして創作について指導します。

【Outline (in English)】
< Course Outline > Choose the form of expression that suits you for creative writing in Japanese.
< Learning Objectives > Any genre of creative writing is acceptable, but students should determine the form of expression they create on the condition that they like to read works in that form. Students will also learn to understand literary works internally from the author's point of view, as a prerequisite for literary creation. Students will then challenge themselves to write original works and improve their language skills.
< Learning Activities Outside of the Classroom > I will give you instructions as necessary, but it is especially important that you write works to be submitted in the fall semester. Take time during the summer vacation to complete your work to your satisfaction. The standard preparation and review time for this class is two hours each.
< Grading Criteria/Policy > Students will be evaluated based on the content of their creative work in seminar activities (60%), and their performance in class (40%).

LIT300BC（文学 / Literature 300）

ゼミナール２０Ａ

田中　和生

夜間時間帯
授業コード：A2653　｜　曜日・時限：月6/Mon.6
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

【到達目標】
創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むのが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦し、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
小説についての研究発表を中心に進め、夏休み明けに提出する創作の準備を行います。できるだけ学生同士の自発的な議論に時間を使いますが、それを踏まえて授業の最後に教員からフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	役割分担と創作の計画。
第2回	世界の短篇を読む（1）	発表と質疑、リレー小説1。
第3回	世界の短篇を読む（2）	発表と質疑、リレー小説2。
第4回	世界の長篇を読む（1）	発表と質疑、リレー小説3。
第5回	世界の長篇を読む（2）	発表と質疑、リレー小説4。
第6回	世界の長篇を読む（3）	発表と質疑、リレー小説5。
第7回	世界の長篇を読む（4）	発表と質疑、リレー小説6。
第8回	世界の長篇を読む（5）	発表と質疑、リレー小説7。
第9回	世界の長篇を読む（6）	発表と質疑、リレー小説8。
第10回	世界の長篇を読む（7）	発表と質疑、リレー小説9。
第11回	世界の長篇を読む（8）	発表と質疑、リレー小説10。
第12回	世界の長篇を読む（9）	発表と質疑、リレー小説11。
第13回	世界の長篇を読む（10）	発表と質疑、リレー小説12。
第14回	世界の長篇を読む（11）	発表と質疑、リレー小説13。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて指示しますが、とくに夏期休暇中の課題創作が重要です。春学期からじっくり書き方や内容を準備して取り組んでもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
ゼミナールでの発表（6割）と授業への積極的な参加姿勢（4割）によって、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

【その他の重要事項】
文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして創作について指導します。

【Outline (in English)】
< Course Outline > Choose the form of expression that suits you for creative writing in Japanese.
< Learning Objectives > Any genre of creative writing is acceptable, but students should determine the form of expression they create on the condition that they like to read works in that form. Students will also learn to understand literary works internally from the author's point of view, as a prerequisite for literary creation. The students will then improve their language skills by challenging themselves to write original works, not only through imitation.
< Learning Activities Outside of the Classroom > I will give you instructions as necessary, but it is especially important that you write during the summer vacation. Take time to prepare, and work on your writing style and content from the spring semester. The standard preparation and review time for this class is two hours each.
< Grading Criteria/Policy > Students will be evaluated based on their presentations (60%), and their performance in class (40%).

LIT300BC（文学 / Literature 300）

ゼミナール２０Ｂ

田中　和生

夜間時間帯
授業コード：A2654　｜　曜日・時限：月6/Mon.6
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

【到達目標】
創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むのが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦し、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
夏休み明けに創作を提出し、その作品について合評を行います。できるだけ学生同士の自発的な議論に時間を使いますが、それを踏まえて授業の最後に教員からフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	校正について	課題提出と授業計画。
第2回	ゼミ誌について	リレー小説の校正。
第3回	創作合評（1）	合評と作者質疑。
第4回	創作合評（2）	合評と作者質疑。
第5回	創作合評（3）	合評と作者質疑。
第6回	創作について	創作についての考察。
第7回	創作合評（4）	合評と作者質疑。
第8回	創作合評（5）	合評と作者質疑。
第9回	創作合評（6）	合評と作者質疑。
第10回	文学を探せ！	文学的なものの調査。
第11回	創作合評（7）	合評と作者質疑。
第12回	創作合評（8）	合評と作者質疑。
第13回	創作合評（9）	合評と作者質疑。
第14回	創作合評（10）	合評と作者質疑。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて指示しますが、とくに秋学期に提出する課題創作が重要です。夏期休暇中にじっくり納得のいくものを仕上げてもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
ゼミナールでの創作（6割）と授業への積極的な参加姿勢（4割）によって、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

【その他の重要事項】
文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして創作について指導します。

【Outline (in English)】
< Course Outline > Choose the form of expression that suits you for creative writing in Japanese.
< Learning Objectives > Any genre of creative writing is acceptable, but students should determine the form of expression they create on the condition that they like to read works in that form. Students will also learn to understand literary works internally from the author's point of view, as a prerequisite for literary creation. Students will then challenge themselves to write original works and improve their language skills.
< Learning Activities Outside of the Classroom > I will give you instructions as necessary, but it is especially important that you write works to be submitted in the fall semester. Take time during the summer vacation to complete your work to your satisfaction. The standard preparation and review time for this class is two hours each.
< Grading Criteria/Policy > Students will be evaluated based on their creative work (60%), and their performance in class (40%).

LIT300BC（文学 / Literature 300）

ゼミナール２１Ａ

山口　和人

授業コード：A2655　｜　曜日・時限：月6/Mon.6
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
小説の書き方について学びます。誰でも、これは傑作！　という“会心の作”を書いてみたいですよね。しかしアウトプットの前にはインプットが必要です。春学期では同時代作家（大江健三郎、村上春樹、小川洋子、角田光代、多和田葉子、堀江敏幸、川上未映子、村田沙耶香、東野圭吾、西尾維新ほか多数）の短篇小説を講読します。優れた作品に触れることは何よりインスピレーションを与えてくれます。グラスの水があふれるくらい、自分も書きたくて堪らなくなるくらい、多くの作品に触れましょう。絵画でも音楽でも、スポーツでもダンスでも、最初は憧れとマネから始まります。
同時に毎回、創作の具体的ヒントについて解説します。テーマ、プロット（ストーリー）、構造、タイトル、書き出し、登場人物、セッティング、場面、描写、会話、文体、視点、推敲などについて実践的なコツを示します。
また夏休み期間を利用してゼミ誌を制作します。このゼミ誌は秋学期のテキストになります。文芸編集者として培った目を生かしながら、これを皆さんと一緒に合評し、気づきを通して小説の楽しさ、奥深さを探求します。
※本ゼミは原則として2年連続で受講されることを想定しています。
したがって、「創作のヒント」については、本年度（1年目）はテーマ、プロット（ストーリー）、小説構造、書き出し、登場人物、場所（セッティング・トポス、場面（シーン）、描写、会話、文体、視点、推敲などに焦点を当てますが、次年度（2年目）はアナロジー、喩え（直喩・暗喩・メタファー）、伏線、小道具、声（ヴォイス）、引用、語り方（ナラティヴ）、タイトル、校正、社会・歴史・哲学的事象（大きな問題）への接続、風俗への接続、エンジンとしての”謎・ミステリー”、どうしても書きあぐねた場合、既存小説構造の解体・脱臼などを取り上げたいと思います。つまり1年目と2年目で扱う項目を別立てにして交互に論じます。

【到達目標】
・ひとつの小説作品を書けるようになる。
・小説作品を多面的・批評的に読解できるようになる。
・自分の創作作品を読者の目で客観的に批評できるようになる。
・正確で豊かな文章表現力が身に着く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミ形式ゆえ積極的なクラス参加・貢献が必要です。
楽しく温かい雰囲気の中で、自由闊達な議論ができるゼミを目指します。
春学期では既存の有名作家の作品を読みます。
夏休み開始直後には創作を提出していただき、夏休み中にゼミ誌を制作します。
秋学期ではこのゼミ誌を使って自分たちの作品を合評します。
授業中、課題として提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション＆オリエンテーションおよび自己紹介	ゼミ概要、講読テキスト指定と作品批評発表の割り当て
第2回	現代日本の小説読解・批評その1	名作短篇小説を合評。創作のヒント①優れた小説とは？
第3回	現代日本の小説読解・批評その2	名作短篇小説を合評。創作のヒント②テーマ
第4回	現代日本の小説読解・批評その3	名作短篇小説を合評。創作のヒント③プロット（ストーリー）
第5回	現代日本の小説読解・批評その4	名作短篇小説を合評。創作のヒント④小説構造
第6回	現代日本の小説読解・批評その5	名作短篇小説を合評。創作のヒント⑤書き出し
第7回	現代日本の小説読解・批評その6	名作短篇小説を合評。創作のヒント⑥登場人物（キャラクター）
第8回	現代日本の小説読解・批評その7	名作短篇小説を合評。創作のヒント⑦場所（セッティング・トポス）
第9回	現代日本の小説読解・批評その8	名作短篇小説を合評。創作のヒント⑧場面（シーン）
第10回	現代日本の小説読解・批評その9	名作短篇小説を合評。創作のヒント⑨描写
第11回	現代日本の小説読解・批評その10	名作短篇小説を合評。創作のヒント⑩会話
第12回	現代日本の小説読解・批評その11	名作短篇小説を合評。創作のヒント⑪文体
第13回	現代日本の小説読解・批評その12	名作短篇小説を合評。創作のヒント⑫視点
第14回	現代日本の小説読解・批評その13	名作短篇小説を合評。創作のヒント⑬推敲 ※創作のヒントの各項目扱い順は変動します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎週論じる課題短篇小説の読了と予めの考察。
・リアクションペーパー執筆と事前提出。
・創作作品執筆とゼミ誌制作。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
随時指定、あるいは配布します。

【参考書】
特にありませんが、できるかぎり多くの文学作品、映画、コミック、美術、音楽等の芸術表現に親しむようにしましょう。

【成績評価の方法と基準】
・クラス参加への積極性・貢献度５０％、提出創作作品の評価５０％
・正当な理由（体調不良・就活・公式部活動等）がない場合、および欠席する（した）旨の教官への連絡がない場合の欠席は減点の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】
皆さんからの意見、感想等のフィードバックは常時大歓迎です。
ゼミの進め方に生かしますので、ご遠慮なくお聞かせください。

【学生が準備すべき機器他】
Wordを搭載したPCを使用できる環境にあること。

【その他の重要事項】
【プロフィール】
講談社・文芸出版部および「群像」にて永年にわたり編集に携わる。この間、赤坂真理、阿部和重、新井満、伊藤比呂美、絲山秋子、大江健三郎、小川洋子、奥泉光、加賀乙彦、角田光代、鹿嶋田真希、倉橋由美子、小島信夫、佐伯一麦、鷺沢萠、庄野潤三、諏訪哲史、高橋源一郎、高橋たか子、多和田葉子、津島佑子、中沢けい、平野啓一郎、藤野千夜、星野智幸、村上龍、村田沙耶香、室井光広、山田詠美、吉村昭各氏等多くの作家を担当。特に大江健三郎氏担当は28年に及ぶ。同時に海外翻訳小説の紹介にも力を入れ、J.K.ローリングの小説ほか、欧米の話題作、ベストセラー多数を編集・刊行。上智大学卒、マサチューセッツ大学大学院英米文学専攻修士課程修了、ペンシルヴェニア州立大学大学院比較文学専攻博士課程中退。

【Outline (in English)】
【Course outline】
We will learn how to write a short story in this creative writing course. I am sure that everybody hopes to write a “masterpiece.” However, we need “input” before “output.” In the spring semester, we will read short stories by contemporary writers. Reading excellent stories will inspire our creativity. Let’s read as many stories as possible, until you cannot wait to start writing something yourself, until water flows over the rim of a glass. In other fields such as painting, music, sports, and dance, they also start with admiration and imitation. In every class, I will explain some practical writing tips: theme, plot, structure, beginning, character, setting, scene, showing/telling, conversation, style, point of view, and elaboration.
Students will edit and make a small literary magazine consisting of their own short stories during the summer break and we will use it as a textbook in the fall semester.
【Learning Objectives】
· Students will be able to write a novel.
· Students will be able to read novels in a multifaceted and critical manner.
· Students will be able to objectively critique their creations through the eyes of readers.
· Students will acquire accurate and rich writing expression.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Creative works: 50%, in class contribution: 50%

LIT300BC（文学 / Literature 300）

ゼミナール２１Ｂ

山口　和人

授業コード：A2656　｜　曜日・時限：月6/Mon.6
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
小説の書き方について学びます。誰でも、これは傑作！　という“会心の作”を書いてみたいですよね。しかしアウトプットの前にはインプットが必要です。春学期では同時代作家（大江健三郎、村上春樹、小川洋子、角田光代、多和田葉子、堀江敏幸、川上未映子、村田沙耶香、東野圭吾、西尾維新ほか多数）の短篇小説を講読します。優れた作品に触れることは何よりインスピレーションを与えてくれます。グラスの水があふれるくらい、自分も書きたくて堪らなくなるくらい、多くの作品に触れましょう。絵画でも音楽でも、スポーツでもダンスでも、最初は憧れとマネから始まります。
同時に毎回、創作の具体的ヒントについて解説します。テーマ、プロット（ストーリー）、構造、タイトル、書き出し、登場人物、セッティング、場面、描写、会話、文体、視点、推敲などについて実践的なコツを示します。
また夏休み期間を利用してゼミ誌を制作します。このゼミ誌は秋学期のテキストになります。文芸編集者として培った目を生かしながら、これを皆さんと一緒に合評し、気づきを通して小説の楽しさ、奥深さを探求します。
※本ゼミは原則として2年連続で受講されることを想定しています。
したがって、「創作のヒント」については、本年度（1年目）はテーマ、プロット（ストーリー）、小説構造、書き出し、登場人物、場所（セッティング・トポス、場面（シーン）、描写、会話、文体、視点、推敲などに焦点を当てますが、次年度（2年目）はアナロジー、喩え（直喩・暗喩・メタファー）、伏線、小道具、声（ヴォイス）、引用、語り方（ナラティヴ）、タイトル、校正、社会・歴史・哲学的事象（大きな問題）への接続、風俗への接続、エンジンとしての”謎・ミステリー”、どうしても書きあぐねた場合、既存小説構造の解体・脱臼などを取り上げたいと思います。つまり1年目と2年目で扱う項目を別立てにして交互に論じます。

【到達目標】
・ひとつの小説作品を書けるようになる。
・小説作品を多面的・批評的に読解できるようになる。
・自分の創作作品を読者の目で客観的に批評できるようになる。
・正確で豊かな文章表現力が身に着く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミ形式ゆえ積極的なクラス参加・貢献が必要です。
楽しく温かい雰囲気の中で、自由闊達な議論ができるゼミを目指します。
春学期では既存の有名作家の作品を読みます。
夏休み開始直後には創作を提出していただき、夏休み中にゼミ誌を制作します。
秋学期ではこのゼミ誌を使って自分たちの作品を合評します。
授業中、課題として提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション＆オリエンテーション	ゼミ誌の配布。毎回、批評をリアクションペーパーとして提出しましょう。
第2回	ゼミ生創作作品の合評・相互鑑賞	以降毎回、春学期で学んだ下記のポイント（創作のヒント）に着目して作品を読んでみましょう。
第3回	ゼミ生創作作品の合評・相互鑑賞	主要着目点：テーマ（以下順不同）
第4回	ゼミ生創作作品の合評・相互鑑賞	主要着目点：プロット（ストーリー）
第5回	ゼミ生創作作品の合評・相互鑑賞	主要着目点：小説構造
第6回	ゼミ生創作作品の合評・相互鑑賞	主要着目点：書き出し
第7回	ゼミ生創作作品の合評・相互鑑賞	主要着目点：登場人物（キャラクター）
第8回	ゼミ生創作作品の合評・相互鑑賞	主要着目点：場所（セッティング・トポス）
第9回	ゼミ生創作作品の合評・相互鑑賞	主要着目点：場面（シーン）
第10回	ゼミ生創作作品の合評・相互鑑賞	主要着目点：描写
第11回	ゼミ生創作作品の合評・相互鑑賞	主要着目点：会話
第12回	ゼミ生創作作品の合評・相互鑑賞	主要着目点：文体
第13回	ゼミ生創作作品の合評・相互鑑賞	主要着目点：視点
第14回	ゼミ生創作作品の合評・相互鑑賞	主要着目点：推敲・校正

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎週論じる課題短篇小説の読了と予めの考察。
・リアクションペーパー執筆と事前提出。
・創作作品執筆とゼミ誌制作。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
随時指定、あるいは配布します。

【参考書】
特にありませんが、できるかぎり多くの文学作品、映画、コミック、美術、音楽等の芸術表現に親しむようにしましょう。

【成績評価の方法と基準】
・クラス参加への積極性・貢献度５０％、提出創作作品の評価５０％
・正当な理由（体調不良・就活・公式部活動等）がない場合、および欠席する（した）旨の教官への連絡がない場合の欠席は減点の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】
皆さんからの意見、感想等のフィードバックは常時大歓迎です。
ゼミの進め方に生かしますので、ご遠慮なくお聞かせください。

【学生が準備すべき機器他】
Wordを搭載したPCを使用できる環境にあること。

【その他の重要事項】
【プロフィール】
講談社・文芸出版部および「群像」にて永年にわたり編集に携わる。この間、赤坂真理、阿部和重、新井満、伊藤比呂美、絲山秋子、大江健三郎、小川洋子、奥泉光、加賀乙彦、角田光代、鹿嶋田真希、倉橋由美子、小島信夫、佐伯一麦、鷺沢萠、庄野潤三、諏訪哲史、高橋源一郎、高橋たか子、多和田葉子、津島佑子、中沢けい、平野啓一郎、藤野千夜、星野智幸、村上龍、村田沙耶香、室井光広、山田詠美、吉村昭各氏等多くの作家を担当。特に大江健三郎氏担当は28年に及ぶ。同時に海外翻訳小説の紹介にも力を入れ、J.K.ローリングの小説ほか、欧米の話題作、ベストセラー多数を編集・刊行。上智大学卒、マサチューセッツ大学大学院英米文学専攻修士課程修了、ペンシルヴェニア州立大学大学院比較文学専攻博士課程中退。

【Outline (in English)】
We will learn how to write a short story in this creative writing course. I am sure that everybody hopes to write a “masterpiece.” However, we need “input” before “output.” In the spring semester, we will read short stories by contemporary writers. Reading excellent stories will inspire our creativity. Let’s read as many stories as possible, until you cannot wait to start writing something yourself, until water flows over the rim of a glass. In other fields such as painting, music, sports, and dance, they also start with admiration and imitation. In every class, I will explain some practical writing tips: theme, plot, structure, beginning, character, setting, scene, showing/telling, conversation, style, point of view, and elaboration.
Students will edit and make a small literary magazine consisting of their own short stories during the summer break and we will use it as a textbook in the fall semester.
【Learning Objectives】
・Students will be able to write a novel.
・Students will be able to read novels in a multifaceted and critical manner.
・Students will be able to objectively critique their creations through the eyes of readers.
・Students will acquire accurate and rich writing expression.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Creative works: 50%, in class contribution: 50%

LIT200BC（文学 / Literature 200）

日本文芸研究特講（９）表現Ａ

藤谷　治

授業コード：A2687　｜　曜日・時限：水3/Wed.3
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文学における多様な表現の諸相を、小説を例にとり原理的に考えていきます。

【到達目標】
文学における「表現」の意義、目的を多角的にとらえる。「読む」ことから見えてくる文学のあり方の基本を、小説を例にとって考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
藤谷治「小説は君のためにある」を読みながら、講義形式で進めます。レポートを課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「君」とは何か	文学が成り立つ最低必要条件である「君」という存在について
第2回	表現の存在意義	なぜ表現はあるのか
第3回	文学とは何か	文学を定義する
第4回	文学の評価	文学を評価するための基本について
第5回	文学の拠点	文学のありかについて
第6回	書く	文学における創作という側面と、その価値について
第7回	表現と情報	表現と情報の違いについて
第8回	小説- 人物の複数性	小説の顕著な特徴である「登場人物」とその複数性について
第9回	作者の存在	小説における作者の役割と、その存在がもたらす文学への影響について
第10回	小説の自由	小説表現が本来持っている自由について
第11回	稗史としての小説	稗史と、その子孫としての小説の一面について
第12回	非現実	小説における荒唐無稽や空想について
第13回	ストーリー	小説にとってのストーリーの位置と価値
第14回	まとめ	これまでのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容によって読むべき文献が指示される可能性あり。
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
藤谷治「小説は君のためにある」（ちくまプリマー新書）

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
授業の参加状況５０％。レポート５０％。

【学生の意見等からの気づき】
授業後に毎回リアクション・ペーパーを提出していただきます。そこからの意見や質問等を選び、次回の授業で応じます。

【その他の重要事項】
講師は小説家。2003年デビュー。2015年『世界でいちばん美しい』で第31回織田作之助賞受賞。他に『いつか棺桶はやってくる』（第21回三島由紀夫賞候補）『船に乗れ！』（第7回本屋大賞第7位）『燃えよ、あんず』『小説は君のためにある』など。

【Outline (in English)】
Course Outline: We will undertake an elementary study of various aspects of literature with selected examples from novels.
Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to be able to see the significance of “expression” from multiple perspectives.
Learning Activities Outside of the Classroom: Before and after each class meeting, students will be expected to spend two hours to read the textbook.
Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and short reports (50%).

LIT200BC（文学 / Literature 200）

日本文芸研究特講（９）表現Ｂ

藤谷　治

授業コード：A2688　｜　曜日・時限：水3/Wed.3
秋学期授業/Fall・２単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文学における表現の諸相が、作品を実際に書く上でどのように実現されるか、小説の創作を例にとって解析する。

【到達目標】
表現と創作の実際的な困難や非論理性などを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めます。レポートを課します。
各授業ごとにHoppiにてリアクションペーパーを提出してください。
レポートの課題は授業内、およびHoppiにて告知します。
提出された課題は合否判定の上、短評をつけてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	発想	趣向について
第2回	取材	空気を吸うことについて
第3回	文章	スタイルの選択
第4回	起筆	書き出しについて
第5回	持続	書き続けることの困難
第6回	題名	題名を決める
第7回	人物	性格の否定について
第8回	禁止	自らに課す禁止事項及びボルノの自戒について
第9回	推敲	文章の検討と批判
第10回	改稿	初稿の否定について
第11回	構成	作品全体について
第12回	秘密	語りえないこと及び読者との秘密の共有について
第13回	完成	作品の独立について
第14回	まとめ	一年間のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容によって読むべき文献が指示される可能性あり。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
藤谷治「燃えよ、あんず」（小学館文庫）

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
授業の参加状況５０％。レポート５０％。

【学生の意見等からの気づき】
「情報」ではなく、経験に基づいた「思索」を中心に講義を進めます。

【その他の重要事項】
職業作家である講師が、創作の現場で考察し、また直面する文学とその表現について指導します。

【Outline (in English)】
Course Outline: We will analyze the way a story progresses, with selected example from novels, and discuss how aspects of expression are realized in literary works.
Learning Objectives: The goal of this course is to understand the realistic difficulty and inconsequentiality of expression.
Learning Activities Outside of the Classroom: Before and after each class meetings, students will be expected to spend two hours to read the textbook.
Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and short reports (50%).

LIT200BC（文学 / Literature 200）

編集理論 A

武田　俊

夜間時間帯
授業コード：A2709　｜　曜日・時限：木4/Thu.4
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディアの特性を理解し、それを活かした「編集思考」を身につけることを目指します。
各メディアについて、前半ではその歴史的な成り立ちと特性を理解し、後半では編集的思考を通じてその可能性を探ります。編集とは単なる技術ではなく、対話を設計し、文脈を創造し、表現を構造化する思考法です。歴史を振り返りながら、そこで培われた知恵や技術が現代にどうつながっているのかを考えます。
春学期は主に従来型メディアを対象に、書物、雑誌、新聞、放送、音楽、映像といった各メディアの特性と編集技術について学びます。

【到達目標】
従来型メディアの歴史的展開と特性について理解を深め、そこで培われた「編集思考」の基礎を身につけることを目指します。各メディアの特性を踏まえた上で、対話を設計し、文脈を創造し、表現を構造化する考え方を理論的に学び、メディアを通じた新しい可能性について考察できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的にスライドを用いながら、お話します。講義内でミニワークなども行うため、PCを活用（情報演習室の備品でも自前のものでも可）し、GoogleDriveやその他、様々なツールを使用します。
協同的な学びを生むために、リアクションペーパー内の感想コメントは名前を伏せた上でシェアします。課題については、授業内の講評で具体的なフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「メディアとは何か」―情報と「対話」の歴史	メディアの本質について考えることからはじめます。人類がどのように情報を記録し、共有し、対話を重ねてきたのか。その歴史を振り返りながら、「編集」という営みが果たしてきた役割について理解を深めます。
第2回	「編集思考」―文脈を創造する	「編集思考」とは何か、その基本的な概念について学びます。情報の取捨選択から、文脈の創造、対話の設計まで、編集という営みが持つ様々な側面について理解を深めます。メディアと編集の関係性、そして創造性と継続性の両立という課題についても考察します。
第3回	「書物という形式」―知の記録と継承	編集とは何か、その基本的な概念について学びます。情報の取捨選択から、文脈の創造、対話の設計まで、編集という営みが持つ様々な側面について理解を深めます。メディアと編集の関係性、そして創造性と継続性の両立という課題についても考察します。
第4回	「本を編む」―編んで集めて束ねて	雑誌というメディアの特性について学びます。定期刊行性がもたらす独自の価値、読者との継続的な関係性、グラフィックとテキストからなるエディトリアルデザイン。現代のデジタルメディアにも通じる「場」としての編集について考えます。
第5回	「雑誌の誕生」―グラフィック+テキストの地平面	雑誌というメディアの特性について学びます。定期刊行性がもたらす独自の価値、読者との継続的な関係性、グラフィックとテキストからなるエディトリアルデザイン。現代のデジタルメディアにも通じるその特性について考えます。
第6回	「雑誌を編集する」―持続的な対話の設計	雑誌づくりの現場で実践される編集技術について学びます。企画立案から、連載の構成、特集の組み方まで、雑誌ならではの編集手法を理解します。また、コミュニティの形成や、持続可能なメディアづくりについても考察します。
第7回	「新聞の時代」―情報伝達の革新	新聞の歴史的な発展を追いながら、速報性というメディア特性について考えます。活版印刷の革新から輪転機の発明、通信技術の発展まで、テクノロジーと報道の関係を学びます。また、新聞が果たしてきた社会的役割についても理解を深めます。
第8回	「新聞と現場」―届けるための情報網	その制作のしかたから流通まで、新聞ならではの特徴について学びます。またデジタルメディアが速報性において優位に立つ現代に、各社がどんな工夫を行っているか、リサーチします。
第9回	「放送という体験」―同時性がつくる対話	ラジオとテレビという放送メディアの特性について学びます。電波による同時性がもたらした革新、視聴者との新しい関係性、そして放送文化の形成について理解を深めます。現代の動画配信サービスとの比較も交えながら、放送メディアの本質を考察します。
第10回	「放送を編成する」―時間の編集術	放送における「編成」という特殊な編集技術について学びます。時間軸に沿ったコンテンツの配置、視聴者の生活リズムとの関係、そして「編成権」という概念について理解を深めます。動画配信時代における編成の意味についても考えます。
第11回	「音楽とメディア」―体験の記録	音楽メディアの変遷を通じて、体験を記録し共有することの意味を考えます。レコード、カセット、CD、そして配信サービスまで、技術の発展が音楽体験をどのように変えてきたのか、理解を深めます。
第12回	「音楽を届ける」―体験の編集	音楽の制作から配信までのプロセスを通じて、音楽における編集について考えます。録音や選曲といった技術的な側面から、プレイリストの構成やプロモーションまで、音楽体験を設計する様々な方法について学びます。
第13回	「映像の世界」―総合芸術としての映像	映画からテレビ、そして現代の動画配信まで、映像メディアの発展を概観します。動く映像がもたらす臨場感や没入感、物語性など、映像表現の特性について理解を深めます。視聴環境の変化が映像体験にもたらす影響についても考察します。
第14回	「編集の現在地」―春学期のまとめ	春学期の学習を総括し、従来型メディアから学んだ編集思考の本質について整理します。各メディアの特性と、そこで培われた編集技術が、現代のデジタルメディアにどのようにつながっているのかを確認します。また、これからのメディアと編集の可能性について展望します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回で扱うメディアについて、自分の経験や身近な事例を観察し、その特徴について考えてきてください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しません

【参考書】
授業内で参考となる書籍やURLなどを、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（70%）：設定されたテーマをもとに「編集思考」を用いて執筆してもらいます
出席・授業内でのワーク（30％）

【学生の意見等からの気づき】
受講生とのコミュニケーションを重視し、随時講義内容をアップデートしていきます。また最新の事例を紹介しながら講義することで、実際に社会で起こっているメディアを取り巻く課題に実感を持てるよう工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】
PCの利用が必須となります。教室の備品を活用するか、自前のPCやタブレットを持ち込んでください。スマートフォンでの作業は推奨しません。また課題の提出、資料配付、出席確認について、Google Classroomを活用します。

【その他の重要事項】
講師の武田俊は、本学の文学部日本文学科のOBで、起業経験を持つ現役の編集者です。その視点から、単純な座学ではなく最新事例をもとにした、ゼミのような双方向的な講義を目指します。春学期・秋学期それぞれで受講することが可能ですが、通年で受講することでより深く実践的な学びが得られます。また、本科目では「理論」を重視しますが、「情報メディア演習」では編集の仕事について、実践的に学ぶことができます。あわせて受講いただくと、より効果的なためおすすめします。

【Outline (in English)】
This course explores the historical development and characteristics of various media, focusing on editorial thinking as a method to design dialogue, create context, and structure expression. The spring semester covers traditional media (books, magazines, newspapers, broadcasting, etc.), while the fall semester examines digital media (web, social media, video platforms, etc.).
Classes will consist of lectures and discussions, examining both historical examples and contemporary cases. Students will be expected to engage in critical thinking about media and editorial practices.
Please come with your own experiences and observations of familiar examples of the media to be covered in each session, and think about their characteristics. 1 hour should be sufficient.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
- Assignments in lectures: 70%
- Attendance &reaction paper: 30%

LIT200BC（文学 / Literature 200）

編集理論 B

武田　俊

夜間時間帯
授業コード：A2710　｜　曜日・時限：木4/Thu.4
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、メディアの特性を理解し、それを活かした編集的思考を身につけることを目指します。
各メディアについて、前半ではその歴史的な成り立ちと特性を理解し、後半では編集的思考を通じてその可能性を探ります。編集とは単なる技術ではなく、対話を設計し、文脈を創造し、表現を構造化する思考法です。歴史を振り返りながら、そこで培われた知恵や技術が現代にどうつながっているのかを考えます。
秋学期は主にデジタルメディアを対象に、Web、SNS、動画配信、ゲームなど、新しいメディアの可能性と課題について考察します。
それぞれの学期は独立して受講できますが、両方の受講を通じて、メディアと編集についてより深い理解が得られるよう設計されています。

【到達目標】
デジタルメディアの特性と可能性について理解を深め、各メディアの特性を踏まえた上で、対話を設計し、文脈を創造し、表現を構造化する考え方を理論的に学び、メディアを通じた新しい可能性について考察できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的にスライドを用いながら、お話します。講義内でミニワークなども行うため、PCを活用（情報演習室の備品でも自前のものでも可）し、GoogleDriveやその他、様々なツールを使用します。
協同的な学びを生むために、リアクションペーパー内の感想コメントは名前を伏せた上でシェアします。課題については、授業内の講評で具体的なフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「デジタルという場」―新しい対話の基盤	デジタル技術がもたらした変化の本質について考えます。情報のデジタル化は、単なる技術的な変革ではなく、私たちの表現や対話の可能性を大きく広げました。その特性と可能性について、具体的な事例を通じて理解を深めます。
第2回	「デジタルの作法」―創造性の再定義	デジタル環境における新しい表現の在り方について考えます。コピー&ペースト、リミックス、引用といった手法が、どのように新しい創造性を生み出しているのか。デジタル時代の作法と倫理について学びます。
第3回	「Webという空間」―リンクが織りなす世界	Webという巨大な情報空間の特性について考えます。リンクによって互いに結びつき、常に更新され続ける情報の在り方が、どのように新しい表現や対話を可能にしているのか。その仕組みと思想について理解を深めます。
第4回	「Webを編集する」―文脈の設計	Webサイトという場をどのように設計するのか、その考え方を学びます。ユーザー体験、ナビゲーション、アクセシビリティなど、デジタル空間における対話の設計について考えます。
第5回	「プラットフォームという思想」―場をつくる編集	プラットフォームという概念とその影響力について考えます。人々の活動の場を設計し、対話を方向づけるプラットフォームの特性について学び、その可能性と課題を探ります。
第6回	「参加型文化」―集合的な創造性	ユーザー生成コンテンツ（UGC）がもたらした創造性の民主化について学びます。誰もが表現者となり、対話に参加できる環境で、編集がどのような役割を果たすのか。その可能性と課題について考えます。
第7回	「動画という文化」―映像による新しい対話	動画プラットフォームがもたらした表現革新について考えます。YouTubeやTikTokなどが生み出した新しい映像文化と、そこでの対話の特性について学びます。従来の映像メディアとの違いにも注目します。
第8回	「動画を展開する」―関係性の構築	動画コンテンツを通じた対話の設計について考えます。チャンネルの運営、視聴者とのコミュニケーション、コミュニティの形成など、持続的な関係性を構築するための考え方を学びます。
第9回	「インタラクティブ性」―対話的な表現	インタラクティブ性がもたらす新しい表現について考えます。ゲームやインタラクティブアートなど、受け手の参加を前提とした表現の可能性について学びます。
第10回	体験を設計する」―参加型の物語	インタラクティブな体験をどのように設計するのか、その考え方を学びます。参加者の行動や感情を考慮した設計、フィードバックの活用、新しい物語の可能性について理解を深めます。
第11回	「AIとの共創」―編集の新しい形	人工知能が創造性にもたらす影響について考えます。AIによる創作支援と人間の編集思考の関係、新しい表現の可能性について学びます。
第12回	「実験的表現」―メディアを超えて	デジタル環境における実験的な表現について学びます。メディアアートやインターネットカルチャーにおける創造的な実践、ミームやパロディの文化的意味について考えます。
第13回	「クロスメディア」―領域を横断する	メディアの境界を超えた表現について考えます。トランスメディアストーリーテリング、プラットフォームを横断する展開など、新しい物語体験の可能性について学びます。
第14回	「編集はどこから来てどこへ行くのか」―秋学期のまとめ	秋学期の学習を総括し、デジタルメディアにおける編集思考の可能性について整理します。新しい技術がもたらす表現の地平と、それを活かすための編集思考について確認し、これからのメディアと表現の可能性について展望します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回で扱うメディアについて、自分の経験や身近な事例を観察し、その特徴について考えてきてください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しません

【参考書】
授業内で参考となる書籍やURLなどを、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（70%）：設定されたテーマをもとに「編集思考」を用いて執筆してもらいます
出席・授業内でのワーク（30％）

【学生の意見等からの気づき】
受講生とのコミュニケーションを重視し、随時講義内容をアップデートしていきます。また最新の事例を紹介しながら講義することで、実際に社会で起こっているメディアを取り巻く課題に実感を持てるよう工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】
PCの利用が必須となります。教室の備品を活用するか、自前のPCやタブレットを持ち込んでください。スマートフォンでの作業は推奨しません。また課題の提出、資料配付、出席確認について、Google Classroomを活用します。

【その他の重要事項】
講師の武田俊は、本学の文学部日本文学科のOBで、起業経験を持つ現役の編集者です。その視点から、単純な座学ではなく最新事例をもとにした、ゼミのような双方向的な講義を目指します。春学期・秋学期それぞれで受講することが可能ですが、通年で受講することでより深く実践的な学びが得られます。また、本科目では「理論」を重視しますが、「情報メディア演習」では編集の仕事について、実践的に学ぶことができます。あわせて受講いただくと、より効果的なためおすすめします。

【Outline (in English)】
This course explores the historical development and characteristics of various media, focusing on editorial thinking as a method to design dialogue, create context, and structure expression. The spring semester covers traditional media (books, magazines, newspapers, broadcasting, etc.), while the fall semester examines digital media (web, social media, video platforms, etc.).
Classes will consist of lectures and discussions, examining both historical examples and contemporary cases. Students will be expected to engage in critical thinking about media and editorial practices.

Please come with your own experiences and observations of familiar examples of the media to be covered in each session, and think about their characteristics. 1 hour should be sufficient.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
- Assignments in lectures: 70%
- Attendance &reaction paper: 30%

PRI100BC（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報メディア演習A

武田　俊

夜間時間帯

授業コード：A2717　｜　曜日・時限：木5/Thu.5

春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：1〜4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディアとは何か、編集とは何か。この2つの問いをベースに、人類とメディアの関係から、現代のメディアビジネスのあり方までを実践的に学ぶことができます。演習形式のため、様々なツールを使い受講生一人ひとりに考えるだけではなく、実践してもらいます。また、現役編集者という立場から近年のメディアトピックについて、具体的例も随時取り上げます。情報化社会を生きる上で避けて通れない「情報」の扱い方について、それぞれの問いを見つけ出すことを目的とします。

【到達目標】
座学と実践的なワークショプを組み合わせたプログラムを通して、メディアや編集の持つ特性を理解し、クリエイティブな意図を持って扱う技術を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義ではスライドを用いた座学だけでなく、グループワークなど実際に手を動かすワークショップの時間を重要視しています。講義ではPCを活用（情報演習室の備品でも自前のものでも可）し、GoogleDriveやその他、様々なツールを使用します。また数回、外部のクリエイターを招いたゲスト回も予定しています。
協同的な学びを生むために、リアクションペーパー内の感想コメントは名前を伏せた上でシェアします。課題については、授業内の講評で具体的なフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：メディアとはなにか	カリキュラム説明、講師のプロフィール紹介ののち、ミニワークを通してメディアとはなにかという問いと向き合います。
第2回	人類とメディア	人類とメディアの関わりについて、その歴史を旅するように眺めます。
第3回	現代のメディアビジネス	新聞、雑誌、書籍、Web…現代の主要メディアの特性とビジネスモデルについて学び、考え、実際に触れてみます。
第4回	記事制作 ワークショップ1：メディアにはどのような記事があるか	実在するメディアを参照し、記事のタイプや特徴などをグループに分かれリサーチします。
第5回	記事制作ワークショップ2：企画会議	いい企画とはなにか。いいアイディアはどう生み出せるのか。企画会議を通して学びます。
第6回	記事制作ワークショップ3：取材のしかた	いい回答を引き出すための、いい取材とはなにか。インタビューを通して学びます。
第7回	記事制作ワークショップ4：構成・校正	読み応えのある記事はどうつくれるのか。構成と校正を通して学びます。
第8回	講評	出来上がった記事について、プレゼンと講評を行います
第9回	現代の編集者	編集は書籍や雑誌に限った仕事ではありません。メディアを横断した編集者の仕事について、講師の経験と事例をもとにお話しします。
第10回	編集者とクリエイター1	編集者が仕事をともにする、クリエイターをゲストに招き、受講生とともにインタビューを行います。
第11回	編集者とクリエイター2	編集者が仕事をともにする、クリエイターをゲストに招き、受講生とともにインタビューを行います。
第12回	企画制作ワークショップ1	企画はどのようにうまれるのか。よい企画と悪い企画では、何が異なるのか、事例をもとに学びます。
第13回	企画制作ワークショップ2	アイディアを実現させるために、企画書には何を盛り込むべきなのか。実際に企画書を制作します。
第14回	講評	企画書課題の講評を行い、春学期の内容を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ワークショップやプレゼンなどの課題があります。講義の中で作業時間を設けますが、進捗状況に応じて講義外で作業をしてもらう可能性があります。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
明確な教科書はありません。適宜資料やURLを紹介します。

【参考書】
適宜資料やURLを紹介します。

【成績評価の方法と基準】
講義内での課題70％、リアクションペーパーの提出率と内容評価で30％。加えて講義への参加意識などを加味し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生とのコミュニケーションを重視し、随時講義内容をアップデートしていきます。また最新の事例を紹介しながら講義することで、実際に社会で起こっているメディアを取り巻く課題に実感を持てるよう工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】
PCの使用が必須となるため、情報実習室の備品を活用ください。あるいは、自前のPCやタブレットを持ち込む形でも結構です。スマートフォンでの作業は推奨しません。また課題の提出、資料配付、出席確認について、Google Classroomを活用します。

【その他の重要事項】
講師の武田俊は、本学の文学部日本文学科のOBで、起業経験を持つ現役の編集者です。その視点から、単純な座学ではなく最新事例をもとにした、ゼミのような双方向的な講義を目指します。春学期・秋学期それぞれで受講することが可能ですが、通年で受講することでより深く実践的な学びが得られます。また、本科目では実践を重視しますが、「編集理論」では編集の仕事について、理論的に学ぶことができます。あわせて受講いただくと、より効果的なためおすすめします。

【Outline (in English)】
This course introduces modern media and how to edit it to students taking this course.It is supposed not only to lecture but also to actually use some media and practice.
There will be workshops, presentations, and other assignments. Work time will be allotted during lectures, but students may be asked to work outside of lectures depending on their progress.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Assignments in lectures 70%、Attendance&reaction paper : 30%

PRI100BC（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報メディア演習B

武田　俊

夜間時間帯

授業コード：A2718　｜　曜日・時限：木5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：1〜4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディアとは何か、編集とは何か。この2つの問いをベースに、人類とメディアの関係から、現代のメディアビジネスのあり方までを実践的に学ぶことができます。演習形式のため、様々なツールを使い受講生一人ひとりに考えるだけではなく、実践してもらいます。また、現役編集者という立場から近年のメディアトピックについて、具体的例も随時取り上げます。情報化社会を生きる上で避けて通れない「情報」の扱い方について、それぞれの問いを見つけ出すことを目的とします。

【到達目標】
座学と実践的なワークショプを組み合わせたプログラムを通して、メディアや編集の持つ特性を理解し、クリエイティブな意図を持って扱う技術を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義ではスライドを用いた座学だけでなく、グループワークなど実際に手を動かすワークショップの時間を重要視しています。講義ではPCを活用（情報演習室の備品でも自前のものでも可）し、GoogleDriveやその他、様々なツールを使用します。また数回、外部のクリエイターを招いたゲスト回も予定しています。
協同的な学びを生むために、リアクションペーパー内の感想コメントは名前を伏せた上でシェアします。課題については、授業内の講評で具体的なフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	メディアと編集	この授業のねらいとカリキュラムについての説明のほか、メディアと編集の基礎を理解するためのミニ講義を行います。
第2回	デジタルメディアの誕生と変遷	インターネット誕生以降のデジタルメディアの歴史を紐解きます。
第3回	デジタルメディアワークショップ1：リサーチ	グループに分かれ、デジタルメディアの特徴やマネタイズモデルをリサーチしてもらいます。
第4回	デジタルメディアワークショップ2：プレゼン	リサーチ結果のプレゼンを行います
第5回	デジタルメディアワークショップ3：ヒアリングとアイディアメイク	与えられたお題に対し、ヒアリングを実施。それをもとにデジタルメディアを活用した企画のアイディアを生み出してもらいます。
第6回	デジタルメディアワークショップ4：企画化	生まれたアイディアを元に、具体的に企画書を制作してもらいます。
第7回	デジタルメディアワークショップ5：プレゼン	グループごとに企画書をプレゼンしてもらい、講評します。
第8回	デジタルメディアの編集感覚	多種多様化するデジタルメディアにおいて、編集者はどのような存在として仕事をしているのか。講師の経験と事例をもとにお話しします。
第9回	AIとの協働	生成AIが一般化した現在、デジタルメディアは大きな変化の渦中にあります。どのように協働・活用ができるのか、講師の事例をもとにお話しします。
第10回	編集者とクリエイター1	編集者が仕事をともにする、クリエイターをゲストに招き、受講生とともにインタビューを行います。
第11回	編集者とクリエイター2	編集者が仕事をともにする、クリエイターをゲストに招き、受講生とともにインタビューを行います。
第12回	レビューワークショップ1：レビューとはなにか	レビューとはなにか。批評とどう違うのか。事例をもとにリサーチします。
第13回	レビューワークショップ2：レビューの実践	お題に対して、レビューを執筆してもらいます。
第14回	講評／まとめ	課題の講評を行い、秋学期の内容を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ワークショップやプレゼンなどの課題があります。講義の中で作業時間を設けますが、進捗状況に応じて講義外で作業をしてもらう可能性があります。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
明確な教科書はありません。適宜資料やURLを紹介します。

【参考書】
講義の際に、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
講義内での課題70％、リアクションペーパーの提出率と内容評価で30％。加えて講義への参加意識などを加味し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生とのコミュニケーションを重視し、随時講義内容をアップデートしていきます。また最新の事例を紹介しながら講義することで、実際に社会で起こっているメディアを取り巻く課題に実感を持てるよう工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】
PCの使用が必須となるため、情報実習室の備品を活用ください。あるいは、自前のPCやタブレットを持ち込む形でも結構です。スマートフォンでの作業は推奨しません。また課題の提出、資料配付、出席確認について、Google Classroomを活用します。

【その他の重要事項】
講師の武田俊は、本学の文学部日本文学科のOBで、起業経験を持つ現役の編集者です。その視点から、単純な座学ではなく最新事例をもとにした、ゼミのような双方向的な講義を目指します。春学期・秋学期それぞれで受講することが可能ですが、通年で受講することでより深く実践的な学びが得られます。また、本科目では実践を重視しますが、「編集理論」では編集の仕事について、理論的に学ぶことができます。あわせて受講いただくと、より効果的なためおすすめします。

【Outline (in English)】
This course introduces modern media and how to edit it to students taking this course.It is supposed not only to lecture but also to actually use some media and practice.
There will be workshops, presentations, and other assignments. Work time will be allotted during lectures, but students may be asked to work outside of lectures depending on their progress.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Assignments in lectures 70%、Attendance&reaction paper : 30%

LIT300BC（文学 / Literature 300）

書道A(書写を中心とする)

橋本　匡朗

授業コード：A2719　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：3〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「書は文字を書くによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基本的な鑑賞力や、書を愛好する心情を養えるように配慮します。

【到達目標】
良い字とはどんな字か、どうしたらよい字が書けるのか、「心に欲するところに従って、規矩を踰えず」という境地を最終目標に考え方・制作手順・制作方法等をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持てるように努力してください。
What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の筆の使い方・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。各課題における添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス①	構え・執筆方法・文房四宝
第2回	ガイダンス②	書体の変遷・書の特徴・いろいろな書
第3回	楷書①基本点画	「上下大小日同」（大筆）「上下大」を中心に習い全体をまとめる。
第4回	楷書①基本点画	「上下大小日同」（大筆）「小日同」を中心に習い全体をまとめる。
第5回	楷書②基本点画	「人近力字心式」（大筆）「人近力」を中心に習い全体をまとめる。
第6回	楷書②基本点画	「人近力字心式」（大筆）「字心式」を中心に習い全体をまとめる。
第7回	楷書③筆使い	「登山雲海」（大筆）「登山」を中心に習い全体をまとめる。
第8回	楷書③筆使い	「登山雲海」（大筆）「雲海」を中心に習い全体をまとめる。
第9回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」（大筆）背勢の原理で書く。
第10回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」（大筆）向勢の原理で書く。
第11回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」（大筆）「談笑無」を中心に習い全体をまとめる。
第12回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」（大筆）「還期」を中心に習い氏名の書き方も工夫する。
第13回	楷書⑥文字の並べ方	「思即老而逾妙学乃小而可勉」（小筆）前半６文字を中心に学び全体をまとめる。
第14回	楷書⑥文字の並べ方	「思即老而逾妙学乃小而可勉」（小筆）後半６文字を中心に学び全体をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された展覧会の鑑賞とレポート提出。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】
①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻（講談社）
②プリント配布

【参考書】
プリント配布

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度と清書課題および夏休みの宿題をもって行います。（８０％）
適時レポート（２０％）

Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外科目のため非実施。

【学生が準備すべき機器他】
用具・用材
大筆・小筆（最低各一本）/硯一面/墨一丁（墨汁の使用可ただし墨も必要）/文鎮/水滴（スポイドも可）/半紙（毎回最低２０枚ぐらい用意）/雑巾一枚/古新聞紙数枚/下敷（書道用フェルト）/その他必要な道具は事前に連絡

【その他の重要事項】
書道家。書写ボランティア活動の経験あり。

【Outline (in English)】
Course Outline: From the viewpoint that "calligraphy is expression through writing," the class will take the form of practical exercises to enhance the students' expressive power of calligraphy, but will also take care to cultivate their basic appreciation of and love for calligraphy. This is a course on the basics of calligraphy.
Learning Objectives: What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.
Learning Activities Outside of the Classroom: Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy: Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

LIT300BC（文学 / Literature 300）

書道B(書写を中心とする)

橋本　匡朗

授業コード：A2720　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：3〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「書は文字を書くによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基本的な鑑賞力や、書を愛好する心情を養えるように配慮します。

【到達目標】
良い字とはどんな字か、どうしたらよい字が書けるのか、「心に欲するところに従って、規矩を踰えず」という境地を最終目標に考え方・制作手順・制作方法等をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持てるように努力してください。
What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の筆の使い方・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。各課題における添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「清泉」（大筆）
第2回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「東越青丘」（大筆）
第3回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「以文徳懐遠人」（大筆）
第4回	行書①	行書の特徴・各書体（篆書・隷書・楷書・行書・草書）の歴史
第5回	行書②筆使い	「我忘吾」（大筆）「我忘」を中心に習い全体をまとめる。
第6回	行書②筆使い	「我忘吾」（大筆）「吾」と氏名の書き方を工夫し全体をまとめる。
第7回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」（大筆）「徳不孤」を中心に習い全体をまとめる。
第8回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」（大筆）「必有隣」を中心に習い全体をまとめる。
第9回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天風」（大筆）
第10回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗気清」（大筆）
第11回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「恵風和暢」（大筆）
第12回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「仰観宇宙之大」（大筆）
第13回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗気清恵風和暢仰観宇宙之大」（小筆）
第14回	かなの筆使い	書写における平がなの書き方「いろは歌」（大筆）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された展覧会の鑑賞とレポート提出。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】
①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻（講談社）
②プリント配布

【参考書】
プリント配布

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度と清書課題および夏休みの宿題をもって行います。（８０％）
適時レポート（２０％）

Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外科目のため非実施。

【学生が準備すべき機器他】
用具・用材
大筆・小筆（最低各一本）/硯一面/墨一丁（墨汁の使用可ただし墨も必要）/文鎮/水滴（スポイドも可）/半紙（毎回最低２０枚ぐらい用意）/雑巾一枚/古新聞紙数枚/下敷（書道用フェルト）/その他必要な道具は事前に連絡

【その他の重要事項】
書道家。書写ボランティア活動の経験あり。

【Outline (in English)】
Course Outline: From the viewpoint that "calligraphy is expression through writing," the class will take the form of practical exercises to enhance the students' expressive power of calligraphy, but will also take care to cultivate their basic appreciation of and love for calligraphy. This is a course on the basics of calligraphy.
Learning Objectives: What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.
Learning Activities Outside of the Classroom: Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy: Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

LIT300BC（文学 / Literature 300）

書道A(書写を中心とする)

橋本　匡朗

夜間時間帯
授業コード：A2721　｜　曜日・時限：金5/Fri.5
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：3〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「書は文字を書くによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基本的な鑑賞力や、書を愛好する心情を養えるように配慮します。

【到達目標】
良い字とはどんな字か、どうしたらよい字が書けるのか、「心に欲するところに従って、規矩を踰えず」という境地を最終目標に考え方・制作手順・制作方法等をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持てるように努力してください。
What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の筆の使い方・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。各課題における添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス①	構え・執筆方法・文房四宝
第2回	ガイダンス②	書体の変遷・書の特徴・いろいろな書
第3回	楷書①基本点画	「上下大小日同」（大筆）「上下大」を中心に習い全体をまとめる。
第4回	楷書①基本点画	「上下大小日同」（大筆）「小日同」を中心に習い全体をまとめる。
第5回	楷書②基本点画	「人近力字心式」（大筆）「人近力」を中心に習い全体をまとめる。
第6回	楷書②基本点画	「人近力字心式」（大筆）「字心式」を中心に習い全体をまとめる。
第7回	楷書③筆使い	「登山雲海」（大筆）「登山」を中心に習い全体をまとめる。
第8回	楷書③筆使い	「登山雲海」（大筆）「雲海」を中心に習い全体をまとめる。
第9回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」（大筆）背勢の原理で書く。
第10回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」（大筆）向勢の原理で書く。
第11回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」（大筆）「談笑無」を中心に習い全体をまとめる。
第12回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」（大筆）「還期」を中心に習い氏名の書き方も工夫する。
第13回	楷書⑥文字の並べ方	「思即老而逾妙学乃小而可勉」（小筆）前半６文字を中心に学び全体をまとめる。
第14回	楷書⑥文字の並べ方	「思即老而逾妙学乃小而可勉」（小筆）後半６文字を中心に学び全体をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された展覧会の鑑賞とレポート提出本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】
①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻（講談社）
②プリント配布

【参考書】
プリント配布

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度と清書課題および夏休みの宿題をもって行います。（８０％）
適時レポート（２０％）
Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外科目のため非実施。

【学生が準備すべき機器他】
用具・用材
大筆・小筆（最低各一本）/硯一面/墨一丁（墨汁の使用可ただし墨も必要）/文鎮/水滴（スポイドも可）/半紙（毎回最低２０枚ぐらい用意）/雑巾一枚/古新聞紙数枚/下敷（書道用フェルト）/その他必要な道具は事前に連絡

【その他の重要事項】
書道家。書写ボランティア活動の経験あり。

【Outline (in English)】
Course Outline: From the viewpoint that "calligraphy is expression through writing," the class will take the form of practical exercises to enhance the students' expressive power of calligraphy, but will also take care to cultivate their basic appreciation of and love for calligraphy. This is a course on the basics of calligraphy.
Learning Objectives: What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.
Learning Activities Outside of the Classroom: Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy: Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

LIT300BC（文学 / Literature 300）

書道B(書写を中心とする)

橋本　匡朗

夜間時間帯
授業コード：A2722　｜　曜日・時限：金5/Fri.5
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：3〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「書は文字を書くによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基本的な鑑賞力や、書を愛好する心情を養えるように配慮します。

【到達目標】
良い字とはどんな字か、どうしたらよい字が書けるのか、「心に欲するところに従って、規矩を踰えず」という境地を最終目標に考え方・制作手順・制作方法等をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持てるように努力してください。
What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の筆の使い方・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。各課題における添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「清泉」（大筆）
第2回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「東越青丘」（大筆）
第3回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「以文徳懐遠人」（大筆）
第4回	行書①	行書の特徴・各書体（篆書・隷書・楷書・行書・草書）の歴史
第5回	行書②筆使い	「我忘吾」（大筆）「我忘」を中心に習い全体をまとめる。
第6回	行書②筆使い	「我忘吾」（大筆）「吾」と氏名の書き方を工夫し全体をまとめる。
第7回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」（大筆）「徳不孤」を中心に習い全体をまとめる。
第8回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」（大筆）「必有隣」を中心に習い全体をまとめる。
第9回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天風」（大筆）
第10回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗気清」（大筆）
第11回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「恵風和暢」（大筆）
第12回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「仰観宇宙之大」（大筆）
第13回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗気清恵風和暢仰観宇宙之大」（小筆）
第14回	かなの筆使い	書写における平がなの書き方「いろは歌」（大筆）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された展覧会の鑑賞とレポート提出本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】
①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻（講談社）
②プリント配布

【参考書】
プリント配布

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度と清書課題および夏休みの宿題をもって行います。（８０％）
適時レポート（２０％）
Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外科目のため非実施。

【学生が準備すべき機器他】
用具・用材
大筆・小筆（最低各一本）/硯一面/墨一丁（墨汁の使用可ただし墨も必要）/文鎮/水滴（スポイドも可）/半紙（毎回最低２０枚ぐらい用意）/雑巾一枚/古新聞紙数枚/下敷（書道用フェルト）/その他必要な道具は事前に連絡

【その他の重要事項】
書道家。書写ボランティア活動の経験あり。

【Outline (in English)】
Course Outline: From the viewpoint that "calligraphy is expression through writing," the class will take the form of practical exercises to enhance the students' expressive power of calligraphy, but will also take care to cultivate their basic appreciation of and love for calligraphy. This is a course on the basics of calligraphy.
Learning Objectives: What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.
Learning Activities Outside of the Classroom: Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy: Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

HIS100BE（史学 / History 100）

日本史概説Ⅰ

小倉　淳一

授業コード：A3101　｜　曜日・時限：水1/Wed.1
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：1〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
旧石器時代から古墳時代までの概要を学ぶ。
日本史の基盤となる原始・古代の人間集団の動向を掴み、自己の研究基盤形成の基礎とすることを目標とする。
歴史学・考古学の研究を行う上で、歴史的事実とその解釈について理解する。

【到達目標】
考古学的な成果に基づき、各時代における文化的な特色を説明することができる。
各時代の人々の自然環境・社会環境への対応について検討することができる。
旧石器時代から古墳時代までの人間集団のありかたについて説明することができるとともに、それらを比較検討することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
日本列島において人類が活動を開始した旧石器時代から、狩猟・採集経済に生活の基礎がおかれた縄文時代、大陸型の水稲耕作が広く行われる弥生時代、前方後円墳が営まれ政治権力が広範囲に発達してゆく古墳時代までの展開について、考古学資料を中心として学ぶ。列島の原始・古代像を考えるための基礎となる授業と位置づけたい。
授業方法は講義形式による。受講者は必ず自分のノートを作成すること。プリントも併用する。
質問やリアクションペーパーへのフィードバックについては授業内に行うかオフィス・アワー（月曜5限）で対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	概要説明	授業の概要と方法・評価基準
第2回	旧石器時代の姿	人類の進化と旧石器文化の概要
第3回	日本の旧石器文化	日本列島における旧石器文化の概要
第4回	旧石器時代から縄文時代へ	旧石器時代後期の石器から土器の登場まで
第5回	縄文時代の生業	採集・狩猟文化の概要
第6回	縄文時代の社会	集落や墓からみる縄文時代の社会構造
第7回	縄文時代から弥生時代へ	縄文時代の終焉と新文化の形成
第8回	稲作の開始	稲作農耕技術の姿と主体者
第9回	弥生農村の姿	環濠集落と集団関係
第10回	金属器の普及とその意義	青銅器を中心とする儀器・祭器のありかた
第11回	弥生墓制と社会の特質	地域的な墓制の展開と地方間の関係
第12回	前方後円墳の成立と波及	弥生墳丘墓から古墳への変化と社会
第13回	古墳時代中期の政治と外交	中期古墳の特徴とヤマト王権の変質
第14回	古墳時代の終焉	後期古墳の特徴および古墳の消滅

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献を読み、旧石器時代から古墳時代にかけての理解を深めておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。ただし、参考書として掲げたもののうち、新書等は非常に読みやすいので、十分に活用すること。

【参考書】
日本列島を中心とした旧石器時代から古墳時代にかけての概説書を読んでおくこと。通史のシリーズなどに触れ、各時代の特色を理解すべきである。このほかの文献については授業内で紹介する。
吉田晶（1998）『新日本新書　490　倭王権の時代』新日本出版社
今村啓爾（1999）『歴史文化ライブラリー　76　縄文の実像を求めて』吉川弘文館
白石太一郎編（2002）『日本の時代史　1　倭国誕生』吉川弘文館
鈴木靖民編（2002）『日本の時代史　2　倭国と東アジア』吉川弘文館
石川日出志（2010）『農耕社会の成立　シリーズ日本古代史1』岩波新書
吉村武彦（2010）『ヤマト王権　シリーズ日本古代史2』岩波新書
佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ

【成績評価の方法と基準】
期末に論述式の筆記試験を行う（参照不可）。授業内にも小テストを実施することがある。試験は成績評価の70％とする。平常点は成績評価の30％とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業外に取り組む学習が成績に結びつくことを理解してほしい。参考書類を事前に読んで授業に臨むことで理解度も高まり、試験にも余裕を持って臨むことが可能となる。
高校までの授業形態を意識した講義形式で授業を進めるので、聴く力、まとめる力を十分に発揮し、考える力を伸ばしてほしい。

【その他の重要事項】
※担当者は博物館学芸員としての実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく歴史展開を中心に講義する。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to learn about Japan from the Paleolithic Age to the Kofun period.
Students will be able to describe the cultural characteristics of each period based on archaeological materials.
Students will be able to examine how people in each period responded to their natural and social environments.
Students will be able to explain and compare the characteristics of human groups from the Paleolithic to the Kofun period.
The standard preparation and review time by students is 2 hours each.
The final grade will be calculated based on the final exam (70%) and normal score (30%).

HIS300BE（史学 / History 300）

日本考古資料学Ⅰ

小倉　淳一

授業コード：A3119　｜　曜日・時限：木4/Thu.4
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
考古学資料である遺物の観察視点・方法を学びとることを目的とする。遺跡発掘調査報告書や考古学の論文などに示される内容が、どのような手続きを経て成り立っているかを意識し、その記録方法等を学ぶ。本科目においては土器を中心とする。

【到達目標】
発掘調査報告書や考古学の論文に示される実測図等が何を意味しているかがわかるようになる。
考古学資料の観察と記録ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
土器や石器など考古学の基礎資料となる実際の遺物を観察してそれらの情報を読みとり、実測図や拓影図、写真などによって表現し、それをもとに観察所見を記録する。原始社会に生きた人々の行為によって残された考古学資料から情報を引き出すことで、人々がそれらをどのように製作・使用したのかを理解し、学術的な記録を行うことを目指す。これらは物質資料を用いてレポートを作成することはもちろん、卒業論文や遺跡の発掘調査報告を執筆するために必須の技術と作業になる。
室内での作業を基本とし、遺物を観察する能力を涵養する。授業のテーマにもとづいた解説を行い、数回の授業時間をかけて観察・実践・作図等を通じて技術を習得していく。このため出席は必須である。
実習形式の授業のため、質問は基本的にその場か授業前後に受けるが、オフィス・アワー（月曜5限）でも対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業計画・土器研究方法
第2回	動作研究とは	縄のより方
第3回	縄文原体作成　1	1・2段の縄
第4回	縄文原体作成　2	3段の縄、撚り戻し
第5回	縄文原体作成　3	合わせ撚り
第6回	縄文原体作成　4	結束・結節の縄
第7回	縄文原体作成　5	撚り糸文、組紐
第8回	土器の文様復元	縄圧痕の確認
第9回	土器の理解と表現1	土器の観察と実測1
第10回	土器の理解と表現2	土器の観察と実測2
第11回	土器の理解と表現3	土器の観察と実測3
第12回	土器の理解と表現4	土器の観察と実測4
第13回	土器片の理解と表現1	土器の拓本1
第14回	土器片の理解と表現2	土器の拓本2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博物館等で考古学資料を観察すること。発掘調査報告書を参照して考古学資料がどのような方法で情報化されているかを検討すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。授業内で資料を配付する。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加（30％）、授業内での実践による成果物、成果物について記したレポートの内容（成果物とレポートを合わせて70％）で評価する。授業各回の作業量は多く、授業は積み上げ式であるため、欠席すると次の作業に取り組めなくなり、成果物とレポートの提出に到達できなくなるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
特になし（2025年度より授業担当者変更）。

【その他の重要事項】
土器や石器は実物資料であるため、実習室外への持ち出しを厳禁とする。資料は壊れやすいため、取り扱いには注意を要する。実測用具等は実習室で準備しておくが、鉛筆等は各自で用意すること。用具の中には高価な器材が含まれるため、取り扱いには十分注意すること。

※担当者は博物館学芸員としての実務経験を有しており、授業では物質資料からの情報の引き出し方、それをもとにした研究の方法についても実践的に解説・指導する。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to learn how to record archaeological materials, particularly pottery.
Students will be able to understand the observational perspective expressed in measured drawings of archaeological materials.
Students will gain the ability to observe and record archaeological materials.
The standard preparation and review time by students is 2 hours each.
The final grade will be calculated based on the report (70%) and normal score (30%).

HIS300BE（史学 / History 300）

日本考古資料学Ⅱ

小倉　淳一

授業コード：A3120　｜　曜日・時限：木4/Thu.4
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
考古学資料である遺物の観察視点・方法を学びとることを目的とする。遺跡発掘調査報告書や考古学の論文などに示される内容が、どのような手続きを経て成り立っているかを意識し、その記録方法等を学ぶ。本科目においては石器を中心とする。
また、実測図のトレースや写真撮影といった、発掘調査報告書作成の基礎技術も学ぶ。

【到達目標】
発掘調査報告書や考古学の論文に示される実測図等の見方がわかるようになる。考古学資料の観察と記録ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
土器や石器など考古学の基礎資料となる実際の遺物を観察してそれらの情報を読みとり、実測図や拓影図、写真などによって表現し、それをもとに観察所見を記録する。原始社会に生きた人々の行為によって残された考古学資料から情報を引き出すことで、人々がそれらをどのように製作・使用したのかを理解し、学術的な記録を行うことを目指す。これらは物質資料を用いてレポートを作成することはもちろん、卒業論文や遺跡の発掘調査報告を執筆するために必須の技術と作業になる。
室内での作業を基本とし、遺物を観察する能力を涵養する。授業のテーマにもとづいた解説を行い、数回の授業時間をかけて観察・実践・作図等を通じて技術を習得していく。このため出席は必須である。
実習形式の授業のため、質問は基本的にその場か授業前後に受けるが、オフィス・アワー（月曜5限）でも対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業計画・石器研究方法
第2回	石器製作実験	原石の打ち割り
第3回	石器使用実験	剥片で切断作業
第4回	原石への復元	実験石器接合作業1
第5回	剥離順序の把握	実験石器接合作業2
第6回	剥片石器の理解1	打製石器の実測1
第7回	剥片石器の理解2	打製石器の実測2
第8回	剥片石器の理解3	打製石器の実測3
第9回	磨製石器の理解1	磨製石器の実測1
第10回	磨製石器の理解2	磨製石器の実測2
第11回	磨製石器の理解3	磨製石器の実測3
第12回	図版作成1	原図トレース
第13回	写真図版作成1	石器写真撮影1
第14回	写真図版作成2	石器写真撮影2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博物館等で考古学資料を観察すること。発掘調査報告書を参照して考古学資料がどのような方法で情報化されているかを検討すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。授業内で資料を配付する。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加（30％）、授業内での実践による成果物、成果物について記したレポートの内容（成果物とレポートを合わせて70％）で評価する。授業各回の作業量は多く、授業は積み上げ式であるため、欠席すると次の作業に取り組めなくなり、成果物とレポートの提出に到達できなくなるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
特になし（2025年度より授業担当者変更）。

【その他の重要事項】
土器や石器は実物資料であるため、実習室外への持ち出しを厳禁とする。資料は壊れやすいため、取り扱いには注意を要する。実測用具等は実習室で準備しておくが、鉛筆等は各自で用意すること。用具の中には高価な器材が含まれるため、取り扱いには十分注意すること。

※担当者は博物館学芸員としての実務経験を有しており、授業では物質資料からの情報の引き出し方、それをもとにした研究の方法についても実践的に解説・指導する。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to learn how to record archaeological materials, particularly stone tools.
Students will be able to understand the observational perspective expressed in measured drawings of archaeological materials.
Students will gain the ability to observe and record archaeological materials.
The standard preparation and review time by students is 2 hours each.
The final grade will be calculated based on the report (70%) and normal score (30%).

HIS300BE（史学 / History 300）

日本考古学演習

小倉　淳一

授業コード：A3128　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
年間授業/Yearly・4単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本考古学に関する研究を自立的に進めていくための演習形式の授業とする。考古学の実践研究例を研究論文によって検討し、考古学資料から歴史を再構成し考察を加えてゆくための方法や基礎力をつける。

【到達目標】
2年生：考古学の専門論文を読み解く力がつき、その成果を他者に説明し、討論に参加することができる。また、考古学の扱う範囲や研究方法について実践的に理解することができる。
3年生以上：考古学の専門論文を解説し、自らの着眼点や問題意識をもとにして検討を加え、討論を主導していくことができる。また、卒業論文を執筆するためのテーマと実践方法を獲得し、研究構想に関する発表を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
考古学の研究論文を読解し、その論理構成、資料の扱い方などを批判的に検討する。その結果をもとに自己の研究レポートや論文の制作につなげる。卒業論文を書くための準備作業に相当する。そのほかに考古学方法論に関する文献講読や、リポートの研究発表も実施する。
毎回の授業は演習形式とする。司会進行役を設け、各回の発表者が資料を作成した上で論文を解題し、論旨や方法について集団で検討する。課題が残れば調査の上で追加発表する。基本的には演習参加者の討論が基礎となるので、事前に資料を読み込んでおくことが必要である。受講者は各回とも必ず出席し、討論に参加して自己の見解を表明すること。なお、ゼミの際に事前準備をしていない者は退室してもらうことがある。
レポート等のフィードバックについては授業内に行うかオフィス・アワー（月曜5限）で対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	概要説明	授業の概要と方法・授業進行の打ち合わせ
第2回	論文講読発表（1）	文献解題と討論（1）
第3回	論文講読発表（2）	文献解題と討論（2）
第4回	論文講読発表（3）	文献解題と討論（3）
第5回	論文講読発表（4）	文献解題と討論（4）
第6回	論文講読発表（5）	文献解題と討論（5）
第7回	研究発表（1）	卒業論文に関連する研究発表（1）
第8回	研究発表（2）	卒業論文に関連する研究発表（2）
第9回	研究発表（3）	卒業論文に関連する研究発表（3）
第10回	論文講読発表（6）	文献解題と討論（6）
第11回	論文講読発表（7）	文献解題と討論（7）
第12回	論文講読発表（8）	文献解題と討論（8）
第13回	論文講読発表（9）	文献解題と討論（9）
第14回	春学期のまとめ	春学期講評・レポート課題提示
第15回	概要説明・レポート提出	授業の概要と方法・授業進行の打ち合わせ・春学期レポートの提出
第16回	論文講読発表（10）	文献解題と討論（10）
第17回	論文講読発表（11）	文献解題と討論（11）
第18回	論文講読発表（12）	文献解題と討論（12）
第19回	論文講読発表（13）	文献解題と討論（13）
第20回	論文講読発表（14）	文献解題と討論（14）
第21回	研究発表（4）	卒業論文に関連する研究発表（4）
第22回	研究発表（5）	卒業論文に関連する研究発表（5）
第23回	研究発表（6）	卒業論文に関連する研究発表（6）
第24回	論文講読発表（15）	文献解題と討論（15）
第25回	論文講読発表（16）	文献解題と討論（16）
第26回	論文講読発表（17）	文献解題と討論（17）
第27回	論文講読発表（18）	文献解題と討論（18）
第28回	秋学期のまとめ・レポート提出	秋学期の講評と課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表担当者は扱う文献にもとづいて発表資料を作成し、解説と検討ができるよう準備すること。参加者はあらかじめ当該文献を批判的に読み、討論に備えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
考古学の研究雑誌は多く出ており、研究室や図書館で検索することができる。演習の素材にふさわしい研究論文を各自で探すことを求める。情報収集能力を涵養することも大切である。

【参考書】
佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、勅使河原彰（1995）『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』（全9巻）、コリン・レンフルー，ポール・バーン／池田裕ほか訳（2007）『考古学　理論・方法・実践』東洋書林

【成績評価の方法と基準】
春学期・秋学期それぞれレポートを提出すること（必須・評価割合は30％）。発表時の内容（テーマの選択・論理構成・説明・討論など）および通常の参加態度（司会・質問・討論など）も含め（授業時の評価は発表と参加態度をあわせて70％）、総合的に成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】
2年生から4年生までのゼミ生が一堂に会して行う学生主体の授業です。論文講読やゼミ合宿等も含めた自主的な取り組みが大切です。共に学び合い、実力を涵養しましょう。

【その他の重要事項】
※担当者は博物館学芸員としての実務経験を有しており、授業では物質資料からの情報の引き出し方、それをもとにした研究の方法についても実践的に解説・指導する。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students deepen the discussion through reporting articles of their own choice on Japanese archaeology.
The new students will be able to read and understand archaeological papers, explain their findings to others, and participate in discussions. They will also be able to understand the scope of archaeology and its research methods.
Advanced students will be able to explain technical papers on archaeology, examine them based on their own points of view and awareness of the issues, and lead discussions. In addition, students will be able to acquire themes and practical methods for writing graduation theses, and to give presentations on their research concepts.
The standard preparation and review time by students is 2 hours each.
The final grade will be calculated based on the mid-term report and final report (30%), and the presentation and questions (70%).

BSP100BE（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎ゼミⅠ（文・史）

小倉　淳一

授業コード：A3228　｜　曜日・時限：木2/Thu.2
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：1年
備考（履修条件等）：ILAC100番台0群として履修

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校までの受け身の学習を脱し、大学生として必要な学習上の心構えと技術を身につける。大学での学習においてはレポート・論述試験・ゼミ発表など、自主的に学び、かつ自分の言葉で表現することが求められる。これらに主体的に向きあい、大学生としてふさわしい学習方法について検討・実践していく。

【到達目標】
大学生としての授業への参加方法を理解する。
論説文の読み方と要約方法が身につく。
資料の集め方、レポートの書式と執筆方法、発表資料の作成方法を習得する。
ゼミ発表の方法を実践する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めていくが、授業中に出るさまざまな課題に取り組み、大学の授業への向き合い方を考える授業とする。各回のテーマにもとづく意見交換・討論・発表・レポートなどを通じて授業内容を共有することになる。
レポート等のフィードバックについては授業内に行うかオフィス・アワー（月曜5限）で対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この授業の概要説明
第2回	ノートの作り方　1	学習計画と大学の授業形態
第3回	ノートの作り方　2	役立つノートとは何か
第4回	図書館の利用と情報検索	図書館実習
第5回	テキスト・論文の読み方　1	一般的な文章と論説文の違い
第6回	テキスト・論文の読み方　2	論説文を読み込む
第7回	要約の方法　1	要約とは何か
第8回	要約の方法　2	要約の実践
第9回	要約からの展開	自分の意見を述べる準備
第10回	レポートを書く　1	レポートの書式
第11回	レポートを書く　2	レポートの内容
第12回	レジュメの作り方　1	レジュメの書式
第13回	レジュメの作り方　2	レジュメの内容・ゼミ発表の心構え
第14回	成果提出と講評	リポート提出と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回ともテキストを事前に読んでおくこと。レポート等の課題には必ず対応すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
藤田哲也（編）2006『大学基礎講座　改増版』北大路書房（税込2,090円）

【参考書】
歴史学関係の文献等は授業中に紹介する。授業内ではプリント等も利用する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加度）：30％　授業内課題への取り組み：30％　期末レポート：40％
ただし、3回以上の連続欠席者および出席率70％未満のものは自動的に単位を失う。

【学生の意見等からの気づき】
大学での学業を修めるためには授業内外における多様な課題に応えながら、自らを高めていく必要がある。この授業では多くの場面を通じて大学生として必要な姿勢と技術について伝えることにしたい。

【Outline (in English)】
The aim of this class is to develop the necessary learning attitudes and skills for college students.
Students will understand how to participate in class. Students will learn how to read and summarize an editorial.
Students will learn how to gather materials, write reports, and make presentations.
The standard preparation and review time by students is 2 hours each.
The final grade will be determined by the normal score (30%), in-class assignments (30%), and the final report (40%).
However, students who are absent more than three times in a row or whose attendance rate is less than 70%will receive a grade of D.

GEO300BF（地理学 / Geography 300）

測量学及び測量実習Ⅰ

菅　富美男

授業コード：A3461　｜　曜日・時限：金3/Fri.3
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：3・4年
備考（履修条件等）：「測量学及び測量実習Ⅰ」を履修する場合は，「測量学及び測量実習Ⅱ」も同時に履修すること。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
空間に関する最も基本的な情報は位置に関する情報である．位置に関する情報を取得する手段として用いられるのが測量である．この授業では，測量に関する基礎理論を学ぶとともに，実習を行い，測量の基礎的技術の習得を目指す．特に，測量データの基礎的な取り扱い及び測地測量の一つの柱である高さを測る水準測量を中心に講義・実習を行う．

【到達目標】
測量に関する基礎的知識を習得する．測量に関する誤差を理解し誤差の計算ができるようになる．距離測量と水準測量の技術を習得し実施することができる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
測量法及び測量の資格と社会との関係，測量の基本となる事項やさまざまな測量についての講義，測量で得られたデータ処理の基礎である誤差学に関する講義・計算実習，測地測量の一つの柱である高さを測る水準測量の講義・実習・計算処理を行う．教室で行う講義と実際に測量機器を使った測量を組み合わせて学ぶ．測量結果に基づき計算を行い，最終成果として測量結果に基づき測量簿冊及び成果表を作成する．
課題等のフィードバックは「学習支援システム」及び講義中に適宜，講評・解説を行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	測量とは	写真測量や地図作成・編集を含む測量の概要と歴史について講義する
第2回	測量の法律と資格	測量に関する法律と測量の資格，法律に定められた作業規程について講義する
第3回	地球の大きさ・形状	地球の大きさ，形と測量の原理について講義する
第4回	誤差の種類	誤差の種類と対処方法について講義する
第5回	最確値の計算法	誤差を除去し最も確からしい値を計算する方法の計算実習を行う
第6回	各種測量とその原理	角測量，距離測量，GPS測量，トータルステーションを用いた測量，簡易測量の原理と方法について講義する
第7回	水準測量の原理	水準測量の原理，使用する機器について講義する
第8回	水準測量の機器の使用方法	レベルの使用方法を習得する
第9回	水準測量の観測方法	観測方法の習得と観測方法による誤差の除去方法を学ぶ
第10回	水準測量の往路観測	構内において水準測量の往路の観測実習を行う
第11回	水準測量の復路観測と観測値の点検方法	構内において水準測量の複路の観測実習及び観測値の点検方法を習得する
第12回	水準測量の観測データの整理法	観測データの整理方法について講義する
第13回	水準測量実習データを用いたデータ整理	実習で行った観測データの整理する
第14回	標高の最確値の計算	観測結果を使用して新点の標高及び最確値等を計算する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題の宿題は，次の授業時までに必ず提出すること．
授業時間内に終了しなかったデータ整理はグループごとに協力して次に授業時までに終わらせておくこと．本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
参考書：長谷川 昌弘・川端 良和『改訂第３版　基礎測量学』電気書院

【参考書】
書店では測量学に関するさまざまなテキスト，図解テキストが売られている．自分の興味やレベルに応じた本を参考とするとよい．
中堀義郎ほか著『絵で見る基準点測量　第２版』日本加除出版
斉藤博ほか著『新版　教程　基準点測量』山海堂

【成績評価の方法と基準】
平常点(20%)，授業中に行う計算・測量の成果（最終課題）(50%)，実習態度(30%)を総合して評価する．提出物の欠如者には単位は与えられない．
なお，測量学及び測量実習Ⅰを履修する場合は，測量学及び測量実習Ⅱも同時に履修すること．測量学及び測量実習Ⅰだけの履修は認めない．また，受講を希望する者は第１回授業から出席すること．
また，使用する教室の関係から抽選によって履修者の決定を行う場合がある．

【学生の意見等からの気づき】
講義・実習は基礎的なものに重点を置き，測量の基礎について修得を目指す．また，測量機器の操作方法等の実習内容について判りやすい説明を行う．

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓を必ず持参すること．

【その他の重要事項】
国土地理院職員として測地測量に従事した者が，高さを測る水準測量を中心に講義及び実習を指導する．
授業がオンライン実施に変更となった場合は，Zoom を使用してリアルタイムで実施する．なお，実習についてはサンプルデータを使用した測量計算の演習とする．

【Outline (in English)】
This course introduces land surveying, that is the method used to get geo-spacial information regarding position, especially focusing on levelling survey.
In this class, studies along with actual practice will be held for learning the basic theories concerning surveying, all with the aim of learning the basics of surveying.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end reports and the results of practices:　50%、in class contribution: 50%.

GEO300BF（地理学 / Geography 300）

測量学及び測量実習Ⅱ

菅　富美男

授業コード：A3462　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：3・4年
備考（履修条件等）：「測量学及び測量実習Ⅱ」を履修する場合は，「測量学及び測量実習Ⅰ」も同時に履修すること。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「測量学及び測量実習Ⅰ」に引き続き，測地測量のもう一つの柱である水平位置を求める測量の理論を学ぶとともに実習を行い，測量に関する基礎的技術の習得を目指す．特に，トータルステーションを用いた基準点測量及び最新の測量であるGNSS測量を中心に講義・実習する．

【到達目標】
基準点測量の理論を理解しデータ処理ができるようになる．GNSS測量の原理，方法を理解できる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基準点測量の方法について学び，実習を行う．実習で得られたデータに基づいて誤差処理，計算を行う．また，GNSS測量などについても簡単な実習を行う．この授業では，教室で行う講義と実際に機材を使った実習を組み合わせて測量の方法について学ぶ．
課題等のフィードバックは「学習支援システム」及び授業を通じて行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	基準点測量の概要と使用機器	基準点測量の概要及び使用機器の原理について講義する
第2回	基準点測量の方法	基準点測量の方法について講義する
第3回	基準点測量の観測計画	トータルステーションを用いた基準点測量の観測計画（選点）の講義する
第4回	基準点測量の観測１	基準点測量の観測方法と観測結果の許容範囲の見方について講義する
第5回	基準点測量の観測２	トータルステーションを用いて角観測及び距離観測の方法を実習する
第6回	基準点測量の実習１	構内においてトータルステーションを用いた観測点１の観測を実習する
第7回	基準点測量の実習２	構内においてトータルステーションを用いた観測点２の観測を実習する
第8回	基準点測量の実習３	構内においてトータルステーションを用いた観測点３の観測を実習する
第9回	基準点測量データの処理１	観測データ整理を行う
第10回	基準点測量データの処理２	距離補正計算を行う
第11回	基準点測量データの処理３	標高計算を行う
第12回	基準点測量データの処理４	座標計算を行う
第13回	GNSS測量１	GNSS測量の原理及び測量について講義する
第14回	GNSS測量２	GNSS受信機を用いてネットワーク型RTK測量を体験する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題の宿題は，次の授業時までに必ず提出すること．
授業時間内に終了しなかったデータ整理はグループごとに協力して次に授業時までに終わらせておくこと．また，授業時間内で終了しなかった計算は次に授業時までに各自終わらせておくこと．本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
参考書：長谷川昌弘・川端良和『改訂第３版　基礎測量学』電気書院

【参考書】
書店では測量学に関するさまざまなテキスト，図解テキストが売られている．自分の興味やレベルに応じた本を参考とするとよい．
斉藤博ほか著『新版　教程　基準点測量』山海堂
飯村友三郎ほか著『公共測量教程　TS-GPSによる基準点測量　三訂版』東洋書店

【成績評価の方法と基準】
平常点(20%)，授業中に行う計算・測量の成果（最終課題）(50%)，実習態度(30%)を総合して評価する．提出物の欠如者には単位は与えられない．
なお，測量学及び測量実習Ⅱを履修する場合は，測量学及び測量実習Ⅰも同時に履修すること．測量学及び測量実習Ⅱだけの履修は認めない．また，受講を希望する者は第１回授業から出席すること．
また.使用教室の関係から抽選によって履修者の決定を行う場合がある．

【学生の意見等からの気づき】
講義・実習は基礎的なものに重点を置き，測量の基礎について修得を目指す．
また，測量機器の取り扱いを含め実習内容について判りやすく説明を行う．

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓（度分秒単位の60進法の角度入力による三角関数の使用ができる機種を推奨。スマートフォンなどの標準の関数電卓にはない機能なので対応アプリを導入するなど注意）および直定規を必ず持参すること．三角関数を用いた計算を行う．

【その他の重要事項】
国土地理院職員として測地測量に従事した者が，水平位置を求める基準点測量について講義及び実習を指導する．
授業がオンライン実施に変更となった場合は，Zoom を使用してリアルタイムで実施する．なお，実習についてはサンプルデータを使用した測量計算の演習とする．

【Outline (in English)】
In succession of [surveying and survey training Ⅰ], this course introduces land surveying, especially focusing on the theory of acquiring horizontal position. In particular, a course and practice will be held for control point surveying by total station and the latest GNSS surveying. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end reports and the results of practices: 50%、in class contribution: 50%.

GEO100BF（地理学 / Geography 100）

地学実験(1)（コンピュータ活用含む）

吉岡　美紀

授業コード：A3510　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
春学期授業/Spring・1単位　｜　配当年次：2022年度以前入学生1～4年、2023年度以降入学生2～4年年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地学のうち、主に地形学に関わる内容を、野外での簡易測量、実際の地形の観察、簡易地形模型の作製、３Ｄ判読などにより、総合的に学習する。これらの実習を通して各人が地形学の基礎を修得することを目標とする。

【到達目標】
地学、特に地形学に関わる内容を、この実習を通してより深く理解し、自分のものとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・この授業では、キャンパス周辺にでかける回と、室内作業を行なう回とがあります。
・毎回、作業結果(課題)とリアペの提出があります。
・提出された課題等は返却し、必要な場合は授業中に解説します。
・授業計画は天候等によって順番が前後することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と進め方の説明 /野外地形観察の準備
第2回	PCの地図	ネット地図の活用
第3回	野外地形観察 1	キャンパス周辺の地形観察、市ヶ谷周辺
第4回	地形実体視	アナグリフ(赤青メガネ)による地形実体視
第5回	野外地形観察 2	キャンパス周辺の地形観察、番町周辺
第6回	防災と地図 /地盤液状化実験	地図で防災情報を入手 /地盤液状化実験ボトル作製
第7回	地球の大きさを測る /野外地形観察 3	GPS計測 /キャンパス周辺の地形観察、九段坂付近
第8回	地質図入門	地層境界線を書き入れる
第9回	簡易測量	平面図作成のための簡易測量
第10回	計測データ整理、作図	計測したデータから作図する
第11回	天体望遠鏡	天体望遠鏡の使用方法と星空情報
第12回	鉱物観察	鉱物の洗い出しと実体顕微鏡による観察
第13回	地形模型	簡易地形模型の作製
第14回	展望と地図	高所からの展望で地理情報入手

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業実習で修得した方法を、日常の場面でも活用してみること。
本授業の準備学習・復習時間はあわせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しませんが、必要な資料を配付します。

【参考書】
・フィールドに入る（100万人のフィールドワーカーシリーズ 1）、椎野若菜ほか編、古今書院
・フィールドワークの安全対策（100万人のフィールドワーカーシリーズ 9）、澤柿教伸ほか編、古今書院
その他、必要に応じ提示します。

【成績評価の方法と基準】
実習授業なので、毎回の作業を重視します。
評価割合は、毎回の提出課題が70%、授業への積極的な関与が30%

【学生の意見等からの気づき】
外に出る回は時間が不足しがちなので、前の授業回のうちに一部説明をしておく。

【学生が準備すべき機器他】
野帳を1人1冊、持参してください (例えば「コクヨ、セ-Y3」等)。すでに他の授業で使用しているものがあればそれで可。

【その他の重要事項】
教員の実務経験の内容は、北極観測・研究の補助、中学高校地学教員、日本語教員、測量会社での地図関連作業で、それらを授業に生かします。

【Outline (in English)】
This course focuses on the practical skills required to understand geomorphological nature of the earth. The goals of this course for each student are to acquire a basic understanding of geomorphology and make them their own.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Grading will be decided based on tasks, reports (70%) and class contribution (30%).

EDU200BF（教育学 / Education 200）

理科教育法(1)

狩野　真規

授業コード：A3527　｜　曜日・時限：水5/Wed.5
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学習指導要領の内容を踏まえつつ、学習指導案・教材の作成や、模擬授業の実践を通じて、理科の授業を成立させるために必要なことを学ぶことを基本とする。例えば、中学校の理科の授業を実践するにあたり、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うには、どのような方法や考え方が必要かという視点を養うための内容などが想定される。
また、今の日本の教育環境の変化の中で理科をどのように教えていくべきかを学生とともに考える場所となるような授業にすることも目指す。

【到達目標】
教科としての理科を指導できる能力を獲得することを最大の狙いとするが、到達目標としては、中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するとともに、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけることとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義冒頭に資料を配布し、それに基づいて進める。当然、受講者同士での議論もしてもらうし、講義終盤で次回のための予習課題を提示するので、一週間の中で準備をして、次回に小テストに取り組んでもらうこともする。フィードバックについてはできるだけその時間内で模範解答を提示したり、コメントをつけて次の回に返却していく予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	理科教育とは何か	理科教育の目的や理科教員に求められる育成を目指すための資質や能力について理解する。
第2回	理科教育の目標	中学・高校の学習指導要領などを通じて、理科の教育目標を確認する。
第3回	学習指導要領について・その 1	現行の中学学習指導要領の内容を確認するとともに学習内容ごとに指導上の留意点について確認する。
第4回	学習指導要領について・その 2	現行の高校学習指導要領の内容を確認するとともに学習内容ごとに指導上の留意点について確認する。
第5回	日本の理科教育の変遷	明治以降の理科教育課程の変遷について追う。
第6回	国際学力調査とその結果の検討	ゆとり教育からの転換点となった国際学力調査について、その設題の実態や日本の結果とその推移から現状に対する課題を探る。
第7回	中学理科の科目研究・その 1	現行の中学理科の教科書を通じて、教材研究のヒントを示していく。
第8回	中学理科の科目研究・その 2	中学理科の学習に対する評価方法とその考え方について、テストや実験レポートなどの経験から探る。
第9回	中学理科の科目研究・その 3	実験機器の効果的活用とその指導法について理解するとともに授業設計に活かせる考え方を身に付ける。また、ICT教育に関する内容について、文科省の動画などを通じて考えていく。
第10回	中学理科の科目研究・その4	実験実施に必要な安全管理と応急処置等について考える。
第11回	授業実践にむけて・中学理科の模擬授業の準備	学習指導案の作成について確認していく。
第12回	授業実践にむけて・中学理科の模擬授業の実践（第1回）	学習指導案を作成した上で、それに沿った形での模擬授業を実施してもらう。
第13回	授業実践にむけて・中学理科の模擬授業 の実践(第2 回)	学習指導案を作成した上で、それに沿った形での模擬授業を実施してもらう。特に前回での授業実践者の反省を踏まえたものとしてもらう。
第14回	授業実践にむけて・中学理科の模擬授業 の実践(第3 回)	学習指導案を作成した上で、それに沿った形での模擬授業を実施してもらう。特にこれまでの授業実践者の反省を踏まえたものとしてもらい、実践に立てるレベルに到達することをめざす。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探す必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究をすることである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けって時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領（文部科学省　最新版）

【参考書】
中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編（文部科学省　最新版）その他については講義内にて適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】
授業出席に伴う要素（議論への参加姿勢などで20%）、授業期間中に提示された課題に対するレポートや解答(15%)、模擬授業のために作成した学習指導案（25%）と模擬授業の内容(25%)、模擬授業についての他の受講者の評価(15%)も加える。これらの合計で評価を決める。したがって、定期試験による評価を行う予定はない。特に模擬授業の指導案とその指導案を使って行った模擬授業の内容は重視する予定なので、知識だけではなく、授業実践のために必要な視点や能力などの獲得は重要である。また、教壇で生徒に模範を示す手前上、出席は当然であり、無断欠席はありえないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業をするための教材研究、教材づくりに関しては貸し出す教科書の内容にとどまることが多いようなので、もっと広い視点で教科書を使った授業を構築する意味を考えられるような視点を養うことが必要と考える。

【学生が準備すべき機器他】
事態が変化すれば、オンラインに移行することがある。その時にはインターネットに常時接続できる環境の構築が必須となるので、大学の支援について各自で確認するなどの対応が望まれる。また、Hoppiiについては必ず利用できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】
単なる学習指導要領の内容や教科教育の方法を講義するのみではなく、学生には指導案を作成して授業の組み立て方や教材研究のノウハウを獲得していくなど、教育実習でも役立つような実践的な内容も行いたいと考えている。担当者は複数の中学校・高等学校で地学などの科目を担当した経験を有するので、教育実習だけではなく、将来教壇に立った時にフィードバックできるような内容の授業とすることを目指す。また、情勢の変化によって、模擬授業の実施が困難な場合は代替措置を持って評価となることもあり得る。

【Outline (in English)】
The main aim is to acquire the ability to teach science as a subject, but the goal to be achieved is, in conjunction with grasping the overall purpose and contents of the science curriculum guidelines in junior high school and high school, to learn how to design lesson plans that presume various classroom situations.
By the end of the course, students should be able to do the following:
1. An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
2. To　assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.
4. Apply theories or findings to real world situations.
Make it more developed content than (1) or (2).
Learning activities outside of classroom:In preparations learning, the review time for this class, I assume for each two hours a standard.
The teaching materials study is necessary for contents.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Class attendance and attitude in class(20%)
Reports and tests (15%)
Teaching plan (25%)
Contents of the simulated class(25%)
Mutual evaluations between the student attending a lectures for the simulated class(15%)

EDU200BF（教育学 / Education 200）

理科教育法(2)

狩野　真規

授業コード：A3528　｜　曜日・時限：水5/Wed.5
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学習指導要領の内容を踏まえつつ、学習指導案・教材の作成や、模擬授業の実践を通じて、理科の授業を成立させるために必要なことを学ぶことを基本とする。例えば、高校の理科の授業を実践するにあたり、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うには、どのような方法や考え方が必要かという視点を養うための内容などが想定される。
また、高校理科の物化生地の四分野の内容に通じているだけではなく、生徒の状況を踏まえつつ、ICT教材の的確な利用や授業改善の視点や最新の理科教育の実践研究に触れながら、授業設計力ができる資質・能力の獲得ができるような内容も盛り込んでいく。

【到達目標】
中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するとともに、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけることとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には担当教員が話題提供する際には冒頭で資料を配布し、それに沿った講義形式である。その他にも課題実習や、模擬授業など、その実施形式は様々なものとなる予定である。課題に対するフィードバックについては、原則次回にしていく予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	高校理科の学習内容の再確認	学習指導要領を通じて、高校理科の目標や全体の構成とその内容、指導上の留意点などを中学校理科と比較しながら改めて確認していく。
第2回	地学分野の発展的学習内容について（1）	高校地学における発展的学習内容に対する実践的にその内容を確認していく。この回では地質図についてみていく。
第3回	地学分野の発展的学習内容について（2）	前回に引き続き、高校地学の発展的内容として、高層天気図を見ていく。
第4回	地学分野の発展的学習内容について（3）	前回同様、高校地学の発展的内容として、HR図を中心に天文の話題をみていく。
第5回	地学分野の発展的学習内容について（4）	前回に引き続き、高校地学の天文分野についてみていく。特にケプラーの3法則について扱っていく。
第6回	アクティブラーニングについて	理科教育におけるアクティブラーニングについて考える。特に先人の指導実践記録から発展的内容を探る。
第7回	高校理科の科目研究・その1	物理学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第8回	高校理科の科目研究・その2	化学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第9回	高校理科の科目研究・その3	生物学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第10回	高校理科の科目研究・その4	地学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第11回	授業実践・高校理科の模擬授業(第1回)	先人による授業実践の動向を踏まえた授業設計への取り組みに主眼をおく。
第12回	授業実践・高校理科の模擬授業(第2回)	授業の実践・振り返りから授業改善の視点を養うことに主眼をおく。
第13回	授業実践・高校理科の模擬授業(第3回)	生徒の認識・思考・学力などの実態を考慮しつつ、発展的内容を盛り込んだ授業設計に主眼をおく。
第14回	授業実践・高校理科の模擬授業(第4回)	ICT機器などの効果的利用を考慮した授業設計に主眼をおく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探す必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究をすることである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けって時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領（文部科学省　最新版）

【参考書】
中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編（文部科学省　最新版）その他については講義内にて適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】
授業出席に伴う要素（議論への参加姿勢などで20%）、授業期間中に提示された課題に対するレポートや解答(15%)、模擬授業のために作成した学習指導案（25%）と模擬授業の内容(25%)、模擬授業についての他の受講者の評価(15%)も加える。これらの合計で評価を決める。したがって、定期試験による評価を行う予定はない。特に模擬授業の指導案とその指導案を使って行った模擬授業の内容は重視する予定なので、知識だけではなく、授業実践のために必要な視点や能力などの獲得は重要である。また、教壇で生徒に模範を示す手前上、出席は当然であり、無断欠席はありえないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
高校地学で行う実験などを実際に行い、教材化の視点を養うことや発展的内容までを担当できる知識の獲得を目指すことが必要であることを痛感させられているので、それらを意識した展開を目指したい。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppiiは必ず利用できるようにしておくこと。また、状況によってはオンライン講義に移行することもあるので、その際にはインターネットに常時接続できる環境が必要となる。大学からの支援などについて各自で確認し、対応すること。

【その他の重要事項】
単なる学習指導要領の内容や教科教育の方法を講義するのみではなく、学生には指導案を作成して模擬授業を行ったり、教材研究のノウハウを獲得していくなど、教育実習でも役立つような実践的な内容も行いたいと考えている。担当者は複数の中学校・高等学校で地学などの科目を担当した経験を有するので、教育実習だけではなく、将来教壇に立った時にフィードバックできるような内容の授業とすることを目指す。また、情勢の変化によっては模擬授業などが実施できなくなることもあり得るので、その際には代替措置に切り替える予定である。

【Outline (in English)】
The main aim is to acquire the ability to teach science as a subject, but the goal to be achieved is, in conjunction with grasping the overall purpose and contents of the science curriculum guidelines in junior high school and high school, to learn how to design lesson plans that presume various classroom situations.
By the end of the course, students should be able to do the following:
1. An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
2. To　assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.
4. Apply theories or findings to real world situations.
Make it more developed content than (1) or (2).
Learning activities outside of classroom:In preparations learning, the review time for this class, I assume for each two hours a standard.
The teaching materials study is necessary for contents.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Class attendance and attitude in class(20%)
Reports and tests (15%)
Teaching plan (25%)
Contents of the simulated class(25%)
Mutual evaluations between the student attending a lectures for the simulated class(15%)

EDU200BF（教育学 / Education 200）

理科教育法(3)

狩野　真規

授業コード：A3530　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理科教育法(1)・(2)の内容から発展させたものとして位置付けている。具体的には学習指導案の内容理解を深めるとともに、より実態に即した中学理科の授業設計のための視点を養うことが出来る内容だけではなく、発展的内容の扱い方やICT機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための実践的な能力の獲得も行えるものを目指す。

【到達目標】
中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するだけではなく、現場で実践的に教科指導を行うにあたって必要な知識・能力を身につける。具体的には学習指導案および板書計画の作成やICT機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための教材研究を通じて、現場での理科の授業を実践するための指導方法を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には、講義冒頭で資料を配布し、それに基づいて進めていく講義形式とするが、受講者同士での意見交換、課題実習（紙ベース）への取り組みとそのフィードバック（添削した上で次回返却）、受講者による模擬授業等、様々な形式のものも取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	理科教育とは何か	理科教育の目的や、理科教員に求められる生徒の育成に必要な資質や能力について改めて確認する。また、ICT教育の導入についても担当教員の実践例などを紹介しつつ、考えていく。
第2回	理科教育の現状	各種報道から伺える理科教育の現状について確認しつつ、理科の学習評価の考え方を考える。
第3回	学習指導要領について・その1	中学理科の旧課程と現行課程の比較をしつつ、改定により外された内容を知るとともに、現行課程の発展的内容の扱い方を探る。
第4回	学習指導要領について・その2	高校理科の旧課程と現行課程の比較をしつつ、改定により外された内容を知るとともに、現行課程の発展的内容の扱い方を探る。
第5回	中学入試から大学入試にみられる理科の位置づけ	進学指導と直結した現場での理科教育の現状を様々な角度から確認し、より現実的な指導内容について考える。
第6回	課題研究への取り組みとその指導法	クラブ等の課外活動を通じた課題研究について、先人の指導実践を辿るとともに、その指導の可能性について考える。
第7回	中学理科の発展的学習・その1	物理分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。
第8回	中学理科の発展的学習・その2	化学分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。
第9回	中学理科の発展的学習・その3	生物分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。
第10回	中学理科の発展的学習・その4	地学分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。
第11回	授業実践・中学理科の模擬授業(第1回)	教科書の発展的内容を盛り込んだ授業設計及び実践を目指す。
第12回	授業実践・中学理科の模擬授業(第2回)	生徒の実態(認識力・思考力・学力など)に応じた発展的内容を盛り込んだ授業設計及び実践を目指す。
第13回	授業実践・中学理科の模擬授業(第3回)	校外学習での指導実践を意識した授業設計及び実践を目指す。
第14回	授業実践・中学理科の模擬授業(第4回)	知的好奇心の開発を意識した授業設計及び実践を目指す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探す必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究をすることである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けって時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領（文部科学省　最新版）

【参考書】
中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編（文部科学省　最新版）その他については講義内にて適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】
授業期間中に提示された課題に対するレポートや解答(15%)、模擬授業のために作成した学習指導案(25%)、模擬授業の内容(25%)、授業内討論での発言等(20%)を評価の視点とする。また、模擬授業については他の受講者の評価(15%)も加える。これらの合計で評価を決める。したがって、定期試験による評価を行う予定はない。特に模擬授業の指導案とその指導案を使って行った模擬授業の内容は重視する。また、教壇で生徒に模範を示す手前上、出席は当然であり、無断欠席はありえないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
他の科目の履修の都合で（1）・（2）を履修せずにいきなり（3）から履修するケースへの対応が求められることがあるので、それについては状況を見て考えることとしたい。

【学生が準備すべき機器他】
緊急時の連絡を授業支援システムを通じて行うこともあるので、できるだけ本システムを利用できる状態にしておくこと。

【その他の重要事項】
担当教員は複数の中学校・高等学校で地学等の科目を担当した経験を有するので、特に実践的指導能力の獲得を狙った本科目については、その経験をフィードバックしていくことを考えている。なお、情勢の変化により予定通りシラバスの内容が実施できず、評価の手段も変更せざるを得ないことも可能性として否定できないので、その際には事前に相談させてもらうつもりでいる。
また、上記の内容にも関連するが、本来ならば本科目は発展的内容を主とする科目であることから理科教育法（1）及び同（2）の履修を済ませている、ないしは履修中であることが望ましい科目であるので、同（1）〜（4）の履修の順についてはよく考えた上で履修してもらいたい。

【Outline (in English)】
The students not only will understand the goals and contents of the guidelines of science curriculum in junior high school and high school but will also acquire the knowledge and abilities necessary for providing practical guidance of the subject in the educational settings. Specifically, the students will acquire teaching methods for science courses in the educational settings through the creation of learning guidance plans and plans for board writings, the use of ICT equipment, and by studying the teaching materials for lesson plans that incorporate active learning.
By the end of the course, students should be able to do the following:
1. An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
2. To　assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.
4. Apply theories or findings to real world situations.
Make it more developed content than (1) or (2).
Learning activities outside of classroom:In preparations learning, the review time for this class, I assume for each two hours a standard.
The teaching materials study is necessary for contents.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Class attendance and attitude in class(20%)
Reports and tests (15%)
Teaching plan (25%)
Contents of the simulated class(25%)
Mutual evaluations between the student attending a lectures for the simulated class(15%)

EDU200BF（教育学 / Education 200）

理科教育法(4)

狩野　真規

授業コード：A3531　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理科教育法(1)・(2)の内容から発展させたものとして位置付けている。具体的には学習指導案の内容理解を深めるとともに、より実態に即した高校理科の授業設計のための視点を養うことが出来る内容だけではなく、発展的内容の扱い方やICT機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための実践的な能力の獲得も行えるものを目指す。

【到達目標】
中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するだけではなく、現場で実践的に教科指導を行うにあたって必要な知識・能力を身につける。具体的には学習指導案や板書計画の作成やICT機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための教材研究を通じて、現場での理科の授業を実践するための指導方法を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には、講義冒頭で資料を配布し、それに基づいて進めていく講義形式とするが、受講者同士での意見交換、課題実習（紙ベース）への取り組みとそのフィードバック（添削した上で次回返却）、受講者による模擬授業等、様々な形式のものも取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	高校理科の学習内容の再確認	学習指導要領を通じて、全体の構成とその内容、指導上の留意点などを再確認していく。
第2回	視聴覚及びICT教材の活用	視聴覚・ICT教材の効果的活用法について、現場での実態と報告を元に考えていく。
第3回	高校理科の学習評価	理科における定期テストやレポートの評価について、現場での実態を元に考えていく。
第4回	理科教育の安全管理	実験室利用に伴う安全対策と危機管理について、実態を元に現場での対応能力の獲得につながる事柄について検討していく。
第5回	アクティブラーニングについて	高校理科におけるアクティブラーニングについて、実際に使えそうな新しい指導法の構築を目指す。
第6回	SSHについて	文部科学省が指定するスーパーサイエンススクール(SSH)について、その取り組みから実態を探る。
第7回	高校理科の科目研究・その1	物理学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第8回	高校理科の科目研究・その2	化学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第9回	高校理科の科目研究・その3	生物学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第10回	高校理科の科目研究・その4	地学の授業法の検討をする。地球科学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第11回	授業実践・高校理科の模擬授業(第1回)	先人による授業実践の動向を踏まえた発展的内容の授業設計への取り組みについて考える。
第12回	授業実践・高校理科の模擬授業(第2回)	授業の実践・振り返りから授業改善の現実的対応法について考える。
第13回	授業実践・高校理科の模擬授業(第3回)	これまでの模擬授業の経験から授業改善を狙うとともに、生徒の実態を考慮しつつ、発展的内容を盛り込んだ授業設計の現実的対処法を考える。
第14回	授業実践・高校理科の模擬授業(第4回)	ICT機器の効果的利用を考慮した授業設計から、現状の問題点とその改善点を見出す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探す必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究をすることである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けって時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領（文部科学省　最新版）

【参考書】
中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編（文部科学省　最新版）その他については講義内にて適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】
授業期間中に提示された課題に対するレポートや解答(15%)、模擬授業のために作成した学習指導案(25%)、模擬授業の内容(25%)、授業内討論での発言等(20%)を評価の視点とする。また、模擬授業については他の受講者の評価(15%)も加える。これらの合計で評価を決める。したがって、定期試験による評価を行う予定はない。特に模擬授業の指導案とその指導案を使って行った模擬授業の内容は重視する。また、教壇で生徒に模範を示す手前上、出席は当然であり、無断欠席はありえないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
理科は場合により教材を自作することがあるが、実際に工作などをしてもらう際に明らかに工作の経験が少なく、講義時間内での完成に至らないケースが過去にあった。ただ、講義だけでそれらの経験不足はカバーできないはずなので、何かしら自らで対処する発想を持つようにしてもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】
緊急時の連絡を授業支援システムを通じて行うこともあるので、できるだけ本システムを利用できる状態にしておくこと。

【その他の重要事項】
担当教員は複数の中学校・高等学校で地学等の科目を担当した経験を有するので、特に実践的指導能力の獲得を狙った本科目については、その経験をフィードバックしていくことを考えている。なお、情勢の変化により予定通りシラバスの内容が実施できず、評価の手段も変更せざるを得ないことも可能性として否定できないので、その際には事前に相談させてもらうつもりでいる。
また本科目は発展的内容を主とする科目であることから理科教育法（1）及び同（2）の履修を済ませている、ないしは履修中であることが望ましい科目であるので、同（1）〜（4）の履修の順についてはよく考えるように。

【Outline (in English)】
The students not only will understand the goals and contents of the guidelines of science curriculum in junior high school and high school but will also acquire the knowledge and abilities necessary for providing practical guidance of the subject in the educational settings. Specifically, the students will acquire teaching methods for science courses in the educational settings through the creation of learning guidance plans and plans for board writings, the use of ICT equipment, and by studying the teaching materials for lesson plans that incorporate active learning.
By the end of the course, students should be able to do the following:
1. An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
2. To　assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.
4. Apply theories or findings to real world situations.
Make it more developed content than (1) or (2).
Learning activities outside of classroom:In preparations learning, the review time for this class, I assume for each two hours a standard.
The teaching materials study is necessary for contents.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Class attendance and attitude in class(20%)
Reports and tests (15%)
Teaching plan (25%)
Contents of the simulated class(25%)
Mutual evaluations between the student attending a lectures for the simulated class(15%)

PSY100BG（心理学 / Psychology 100）

心理学概論

福田　由紀

授業コード：A3601　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：1〜4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学の諸領域の基本的な理論や考え方に関する基礎知識を得ることが本授業の目的です。それにより，日常生活において心理学的な見方が身につくでしょう。また，法政心理で学べる心理学分野の概略が理解できます。さらに，実社会で望まれるスキルである「聞きながらメモを取る」「階層構造を意識したノートを取る」こともこの授業で身につけられます。

【到達目標】
①心理学の基礎知識が身につく。
②心理学的な見方ができる。
③聞きながらメモをとることができる。
④階層構造を意識したノートをとることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
　基本は講義形式です。教科書は毎時間「使用します！」ので持参してください。また，Hoppiiを通じて，授業の前に宿題の提出，授業後に小テストへの回答をしてください。なお，授業の初めに、提出された宿題の内容に関して，全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション，心理学的な見方	授業の進め方の説明，心理学的な見方とは
第2回	感覚・知覚	知覚の特性，視覚システムの特徴
第3回	行動の形成	遺伝－環境論争，人間の行動の特徴
第4回	学習理論とその応用	古典的条件づけ，道具的条件づけ，社会的学習
第5回	記憶とその変容	ワーキングメモリ，記憶の変容
第6回	読むことと書くこと	文章の理解と産出
第7回	思考	問題解決，人の思考のクセ
第8回	自他のこころの理解	自己意識の発達，心の理論
第9回	動機づけ	動機づけの機能と種類，ストレス
第10回	認知発達	ピアジェ・ヴィゴツキー・情報処理論的な考え方
第11回	集団の中の個人	集団の圧力，研究の倫理的な問題
第12回	帰属過程	帰属理論，帰属のバイアス
第13回	性格	性格の記述の考え方，性格測定法
第14回	期末テストとその解説，まとめ	期末テストの実施とその解説，授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
＊次週の授業内容にあわせて，短い宿題が出ます。授業前にHoppiiから提出して下さい。
第1回　錯視を体験する。
第2回　ヒトの行動の形成に影響する要因を考え，書く。
第3回　自動的に行っている日々の行動を省察する。
第4回　自分の記憶術を振り返る。
第5回　行間を理解することを体験する。
第6回　覆面算と水がめ問題を体験する。
第7回　中間テストの準備を行い，自己評価する。
第8回　日常のストレス状態を省察する。
第9回　保存課題を体験する。
第10回　一人きりで一日を過ごせないことを省察する。
第11回　他者の行動の帰属を推測する。
第12回　性格テストを体験する。
第13回　期末テストの準備を行い，自己評価する。
＊受講した授業の内容に関して，小テストをHoppiiを通じて行います。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　「心理学要論-こころの世界を探る-　改訂版」福田由紀編　培風館　2010年

【参考書】
　適宜授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
　評価は、平常点20%（宿題と小テスト）と期末テストの結果を80%として，総合点により決定されます。期末テストの追試は，履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行われます。期末テストでは授業で紹介した内容，自分で教科書を読んだ内容，そして応用問題が問われます。形式は多肢選択式です。

【学生の意見等からの気づき】
「工夫していた」8割超，「授業を受けてよかった」が約8割と回答してくれました。ありがとうございます！ 主に1年生が受講している授業です。法政大学では100分授業。高校までよりかなり長いですね。そのために，授業を2ないしは3分割して，そこまでのまとめを自分で書いてもらう活動を入れています。その活動に関する自由記述です。「まとめの時間が個人的には非常に有意義な学習時間だった。単純に講義を受けるだけでは，先生のわかりやすい説明を聞いてさもわかったかのような気分になって終わってしまうが，まとめを自分の言葉でまとめ，記述することで，自身の理解度を客観性を持って理解することができた。」このように，まとめの時間を入れることは学習効果がありそうなので，続けていきますね。

【その他の重要事項】
大学の授業では，高校までの授業とは異なり，科目担当者の専門性に反映した内容が取り上げられます。そのため，類似した科目名であっても重点が置かれている内容が異なります。例えば，ILAC科目には「心理学I/II（100番台）」，「心理学LA/LB（200番台）」，総合科目「人間行動学A/B（300番台）」，教養ゼミI/II「心理的ウェルビーイングを考えるA/B（300番台）」などがあります。それぞれの科目担当者の先生は，以下の通りです。
＊宇野カオリ先生担当：ポジティブ心理学
＊櫻井登世子先生担当：発達心理学（特に児童心理学）
＊浅川希洋志先生担当：フロー理論，臨床心理学，文化心理学
シラバスの内容をよく読んで，履修可能性年次も考慮しつつ，自分の興味にあった科目を選択して下さい。
　また，本授業は，様々な分野を抱えている心理学全般に関する入門的内容になっています。そのため，授業の中で，心理学科に置かれている2年次以降に履修できる基礎科目や専門科目を紹介します。特定の授業回で興味を持った場合には，それらの科目を受講してください。
【教員の実務経験】
・小学校国語科教科書編集委員（教育出版）1996年4月1日－2015年3月31日
・中央教育審議会初等中等教育分科会言語能力の向上に関する特別チーム 2014年10月21日－2017年2月14日
・文化審議会臨時委員（国語分科会）2016年3月20日－2023年3月31日

【実験や調査への参加】
　授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく，他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【Outline (in English)】
Course outline：This course introduces psychology.
Learning Objectives：By the end of the course, students should be able to do the following:
－ A. deepen their understanding about psychology
－ B. broaden their perspectives form psychology
－ C. take memos while hearing
－ D. take notes organized hierarchically
Learning activities outside of classroom：Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.
Grading Criteria：Your overall grade in the class will be determined based on the following: final examination: 80%, in-class contribution: 20%.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

教育心理学

福田　由紀

授業コード：A3623　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育心理学とは、教育における人間の営みに関する心理学です。教育心理学は，発達心理学や学習心理学，言語心理学，脳科学などの知見を教育に応用する学問です。毎日，皆さんが通っている「学校」という場を心理学的な観点から紹介していきます。また，実社会で望まれるスキルである「聞きながらメモを取る」「階層構造を意識したノートを取る」こともこの授業で身につけられます。

【到達目標】
①教育心理学の基礎的な知識が身につく。
②学ぶー教える関係に関して，心理学的な観点から分析できる。
③聞きながらメモをとることができる。
④階層構造を意識したノートをとることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本は講義形式です。教科書は毎時間「使用します！」ので持参してください。また，Hoppiiを通じて，授業の前に宿題の提出，授業後に小テストへの回答をしてください。なお，授業の初めに、提出された宿題の内容に関して，全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション・教育心理学とは	授業の進め方の説明，教育心理学の目標・対象・研究法，教育心理学への３つのアプローチ
第2回	円滑なコミュニケーションの実現のために	言語力と心の理解の発達
第3回	教える人と教わる人の関係	友人関係の発達，道徳性の発達
第4回	学習理論・記憶理論とその応用	自己意識の発達，他者理解の発達，円滑なコミュニケーション
第5回	深い理解とは	適応的熟達者，知識のネットワーク
第6回	読み書きからの学習	文章による学習，読解力，書くことの学習
第7回	学校不適応とその予防	いじめのメカニズム，いじめ防止策
第8回	上手に教える１	授業過程，伝統的な教授法
第9回	上手に教える２	最近流行の教授法，素朴概念への挑戦
第10回	上手に学ぶ	メタ認知，学習方略
第11回	知能と認知スタイル	知能検査の結果や認知スタイルを教室に活かす
第12回	学力と評価	最適な評価とテストの組合せとは
第13回	学習障がいとその支援	学習障がい，ADHDなど
第14回	期末テストとその解説，まとめ	期末テストの実施とその解説，授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
＊次週の授業内容にあわせて短い宿題が出されます。Hoppiiから提出して下さい。
第1回　自分の心の理解の発達と他者の心の理解の発達はどちらの方が早いと思いますか？　それとも同じくらいですか？　その理由は？
第2回　一番好きだった先生は，いつのどの教科，あるいは部活の先生でしたか？
第3回　記憶の定着は休息すると良くなるのでしょうか？　それとも，睡眠を取ると良くなるのでしょうか？　ヒントはコラム3！　"
第4回　使える知識にするためには，学習者にはどのような工夫が必要ですか？
第5回　読書の効用を３つ挙げてください。
第6回　生徒同士のいざこざをいじめに発展させないために，どうしたらいいと思いますが？　自分の意見を書いてください。
第7回　どのような形式の授業が一番好きでしたか？
第8回　小集団に分かれての授業形式の良い点を２つと悪い点を２つ挙げてください。
第9回　添付ファイルを読んでください。記事の中に下線が引かれた部分が2カ所あります。これらは，ある心理学的な概念を活用した具体的な例です。それぞれについて，その心理学的な概念は何でしょうか？
第10回　添付ファイルを開いて下さい。標準図形と全く同じ図形を選択図形AからFの中から１つ選んでください。
第11回　テスト以外に生徒・学生の思考力をどのように評価をしたらいいと思いますか？
第12回　模擬期末試験問題を基礎問題と応用問題の二つを作成して下さい。
第13回　期末レポートの準備を行い，自己評価する。
＊受講した授業の内容に関して，小テストを授業支援システムを通じて行います。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「教育心理学」　原田・福田・森山（編）　大学教育出版　印刷中

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
評価は、平常点20%（宿題と小テスト）と期末テストの結果を80%として，総合点により決定されます。期末テストの追試は，履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行われます。期末テストでは授業で紹介した内容，自分で教科書を読んだ内容，そして応用問題が問われます。形式は多肢選択式です。

【学生の意見等からの気づき】
2023年度と2024年度のこの授業は他の先生が担当してくださいましたので，2022年度の授業改善アンケートの気づきを掲載します。
教育心理学の知識や考え方は，教室場面だけではなく，人生の様々なところで役立ちます〜という観点から授業をしていました。そのような授業に対して，「心理学的な概念だけではなく，日常にどのように応用できるかという視点から学ぶことができた。過去に自分が受けてきた教育の意図が知れて楽しかった。」とのコメント。嬉しいです〜。また，「教材が階層構造でまとまっていたり、様々なイラストを使っていたりして、とても工夫されていて復習しやすかったです。毎回宿題があったので、これも復習に活用できました。」といった授業資料ややり方についてもお褒めのコメント。次回も頑張ります。

【その他の重要事項】
授業のテーマにも記しましたが，教育心理学は応用心理学の一つです。そのために，心理学に対する基礎的な知識が必要です。具体的には，心理学概論といった授業を修得したレベルを考えています。また，授業では，時間の制約のために，基礎知識については扱いません。教科書の指定した箇所は，自分で読んできてください。
【教員の実務経験】
・小学校国語科教科書編集委員（教育出版）1996年4月1日－2015年3月31日
・中央教育審議会初等中等教育分科会言語能力の向上に関する特別チーム　2014年10月21日－2017年2月14日
・文化審議会臨時委員（国語分科会）2016年3月20日－2023年3月31日

【実験や調査への参加】
授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく，他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【Outline (in English)】
Course outline：This course introduces educational psychology.
Learning Objectives：By the end of the course, students should be able to do the following:
－A. deepen their understanding about educational psychology
－B. analyze educational activities in terms of educational psychological perspective
－C. take memos while hearing
－D. take notes organized hierarchically
Learning activities outside of classroom：Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.
Grading Criteria：Your overall grade in the class will be determined based on the following: final examination: 80%, in-class contribution: 20%.

PSY300BG（心理学 / Psychology 300）

研究法Ⅰ（4）

福田　由紀

授業コード：A3646　｜　曜日・時限：水2/Wed.2
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：3・4（※2011以前入学者は4）年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、演習Ⅰと演習Ⅱで習得したことをふまえて、実際に実験・調査実施のための計画を立て，実施し，分析することが目標です。心理学は実証科学です。自分の興味をどのように実験や調査に持っていくのか？！ そこが研究のポイントです。自分の興味にあったテーマについて研究の「いろは」を体験しましょう。

【到達目標】
＊３年生:実際に実験を行い，分析し考察し，発表を行う。この一連の過程により，研究における注意事項を確認できるようになる。また，様々な装置を用いてその使い方を知る。そして，４年生の発表に対して積極的に聴くことにより，自分の研究テーマを絞り込んでいく。
＊４年生：３年時に蓄積した先行研究の知見をさらに発展させる。そして，目的にあった研究を自分自身で計画し，実施し発表する。その結果，一人で問題を発見し，それを解決できるようになる。また，自分の研究を発表することにより，よりよいプレゼンテーションができ，わかりやすい文章を書くことができるようになる。
＊共通の目標：論文として的確な文章を書ける。また，授業中，みんなの前で発表したり，それに対してクリティカルな意見を発言したり，他者が書いてきた文書をピアレビューしたりする。その結果，他者の仕事（発表・文書）に対して，建設的なアドバイスができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
３年生と４年生による協同学習を目指した合同授業です。両学年とも自分の研究を個別に発表したり，それぞれが書いた文書を推敲したりする方式が中心となります。その際，他の人の発表や抱えている問題点を自分自身の問題として受けとめる姿勢を持って下さい。具体的には，発表者が抱えている問題のうち自分にも当てはまることがないだろうかという態度で注意深く聞き，分からないことの質問や発表者の発表内容に対するコメントを積極的に行ってください。特に，研究計画書の書き方，発表の仕方，論文の書き方などは全員に共通する課題なので，お互いの発表・発言を生かしてよりよいものを作り上げる努力をしてください。
また，Hoppii を通じて，授業の前に提出した事前課題に関しては，授業中に，全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方とアジェンダの確認。 卒論の概要説明。
第2回	発表スキル1・文章力1アップ	PPTを使った自己紹介，文章力アップ1のピアレビュー。
第3回	分析力1・文章力アップ2	分析や結果を表現するための表計算ソフトの習得と確認，文章力アップ2のピアレビュー。
第4回	分析力2・文章力アップ3	分析ソフトの習得と確認，文章力アップ3のピアレビュー。
第5回	研究力1・発表スキル2アップ	３年生：眼球運動測定装置の講習。 ４年生：研究の進捗状況の発表。
第6回	研究力2・文章力3アップ	３年生：種論文の発表１。 ４年生：３年生へのアドバイス。 Touch &Go!
第7回	研究力3・発表スキル4アップ	３年生：種論文の発表２。 ４年生：３年生へのアドバイス。 共通：コメントシートの修正のピアレビュー。
第8回	研究力4・文章力4アップ	実験・調査前後に作成する書類の書き方のコツの講習。 文章力アップ4のピアレビュー。
第9回	研究力5・発表スキル5アップ	３年生：研究の構想発表１。 ４年生：３年生へのアドバイス
第10回	研究力6・文章力5アップ	倫理申請書類の書き方のピアレビュー１：研究計画申請書，同意書。
第11回	研究力7・文章力6アップ	倫理申請書類の書き方のピアレビュー２：デブリーフィング用紙，参加者募集のちらし。 文章力アップ5のピアレビュー。
第12回	文章力7アップ	やり取りのある文章の書き方講習会
第13回	文章力8アップ	段落とは何か？ の講習会。 文章力アップ6のピアレビュー。
第14回	研究力8・文章力9アップ	序論のピアレビュー。 Touch &Go!

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，発表や作業があります。授業計画に沿って，事前の課題を行い，自分の発表の準備と他人の発表資料を予習し，コメントを考えてくる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
適宜，授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
自分が発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対してコメントすることも重視します。評価は発表40％とコメント20％，事前の課題提出40%によって決められます。発表は，わかりやすく的確に説明することが求められます。また，コメントは発表者に資するような建設的な意見を述べることが求められます。演習なので必ず出席してください。特に、自分の発表時に絶対に！ 欠席しないこと。やむを得ず欠席する場合には、事前に福田に連絡して下さい。

【学生の意見等からの気づき】
「工夫していた」100％，「授業を受けてよかった」100％。ありがとうございます！！「週２時間以上３時間未満」が6割超。時間がすべてではありませんが，この授業はやればやるほど学習効果がありますよ。また，発表に関するコメントシートやフィードバックや，参考文献の書き方や効果的な話し方などの紹介がよかったようです。また，行程表が明示されていることも評価されました。続けていきますね。さらに，Tobiiの講習も好評でした。皆さんのプレ卒論・卒論がとても楽しみです。

【その他の重要事項】
授業の運営方針や発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。実験・調査の内容は福田の守備範囲である言語心理学や教育心理学関係だとより詳細な指導が受けられると思います。また，この科目は3年次生と4年次生の合同授業となります。重複履修を原則としていますので，3年次と4年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。
【教員の実務経験】
・小学校国語科教科書編集委員（教育出版）1996年4月1日－2015年3月31日
・中央教育審議会初等中等教育分科会言語能力の向上に関する特別チーム 2014年10月21日－2017年2月14日
・文化審議会臨時委員（国語分科会）2016年3月20日－2023年3月31日

【Outline (in English)】
Course outline：The purpose of this course is to learn how to conduct psychological research.
Learning Objectives：By the end of the course, students should be able to do the following:
－ A. make one's research plan
－ B. carry it out
－ C. analyze it appropriately
Learning activities outside of classroom ： Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.
Grading Criteria：Your overall grade in the class will be determined based on the following: presentation: 40%, comment for the presentation of other people:20%, in-class contribution: 40%.

PSY300BG（心理学 / Psychology 300）

研究法Ⅱ（4）

福田　由紀

授業コード：A3654　｜　曜日・時限：水2/Wed.2
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：3・4（※2011以前入学者は4）年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、演習Ⅰ，演習Ⅱと研究法Ⅰで習得したことをふまえて、実際に実験・調査したことを学術論文の形にまとめて，効果的に発表することが目標です。自分の興味にあったテーマの研究を公刊できる形にまとめていきましょう。

【到達目標】
＊3年生:自分の関心ある研究テーマに対し，心理学研究の計画を作り上げる。これにより，自分自身で問題を発見し，それを解決できるようになる。そして，4年生の発表に対して積極的に聴くことにより，分析技能や考察する力が身につく。
＊4年生：春学期で蓄えた知見や技能を用いて，適切な分析や考察を行い，発表する。これにより，高い分析技能や論理的に考察する力が身につく。また，ピアに発表することにより，自分の状態を客観的に評価するスキルも身につく。
＊共通の目標：論文として的確な文章を書ける。また，授業中，みんなの前で発表したり，それに対してクリティカルな意見を発言したり，他者が書いてきた文書をピアレビューしたりする。その結果，他者の仕事（発表・文書）に対して，建設的なアドバイスができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
　3年生と4年生による協同学習を目指した合同授業です。3年生は卒論を見据えた研究について発表を行います。4年生は個人の研究を個別に発表したり，それぞれが書いた文書を推敲したりする方式が中心となります。その際，他の人の発表や抱えている問題点を自分自身の問題として受けとめる姿勢を持って下さい。具体的には，発表者が抱えている問題のうち自分にも当てはまることがないだろうかかという態度で注意深く聞き，分からないことの質問や発表者の発表内容に対するコメントを積極的に行ってください。特に，発表の仕方，論文の書き方などは全員に共通する課題なので，お互いの発表・発言を生かしてよりよいものを作り上げる努力をしてください。
　また，Hoppiiを通じて，授業の前に提出した事前課題に関しては，授業中に，全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション・文章力1アップ	授業の進め方とアジェンダの確認。 各自の進捗状況の報告。
第2回	研究力1・文章力2アップ	方法のピアレビュー。 文章力アップ7のピアレビュー。
第3回	発表スキル1アップ	3年生：4年生へアドバイス。 4年生：結果・考察の発表1。
第4回	発表スキル2アップ	3年生：4年生へアドバイス。 4年生：結果・考察の発表2。
第5回	研究力2・発表スキル3アップ	3年生：関連論文の発表1。 4年生：3年生へのアドバイス。 Touch &Go!
第6回	研究力3・発表スキル4アップ	3年生：関連論文の発表1。 4年生：3年生へのアドバイス。 共通：文章力アップ8のピアレビュー
第7回	研究力4・発表スキル5アップ	3年生：プレ論文の結果・考察の発表1。 4年生：3年生へのアドバイス。 Touch &Go!
第8回	研究力5・発表スキル6・文章力3アップ	3年生：プレ論文の結果・考察の発表2。 4年生：3年生へのアドバイス。 共通：結果のピアレビュー。
第9回	研究力6・文章力4アップ	修正された結果と考察のピアレビュー。 Touch &Go!
第10回	研究力7・文章力5アップ	引用文献・図表・要旨のピアレビュー。
第11回	文章力6・発表スキル7アップ	共通：論文の仮提出。 文章力アップ9のピアレビュー。 効果的な発表のコツの講習会
第12回	発表スキルアップ8	3年生：卒論構想発表1 4年生：発表予行練習1
第13回	発表スキルアップ9	3年生：卒論構想発表2 4年生：発表予行練習2
第14回	発表スキルアップ10とまとめ	3年生：卒論構想発表3 共通：Touch &Go!　授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　毎回，発表や作業があります。授業計画に沿って，事前の課題を行い，自分の発表の準備と他人の発表資料を予習し，コメントを考えてくる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　特に指定しません。

【参考書】
　適宜，授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
　自分が発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対してコメントすることも重視します。評価は発表40％とコメント20％，事前の課題提出40%によって決められます。発表は，わかりやすく的確に説明することが求められます。また，コメントは発表者に資するような建設的な意見を述べることが求められます。演習なので必ず出席してください。特に、自分の発表時に絶対に！ 欠席しないこと。どうしても欠席する場合には、事前に福田に連絡して下さい。

【学生の意見等からの気づき】
　「大変工夫していた/工夫していた」100％。よかったです。「週1時間以上2時間未満」が5割。時間がすべてではありませんが，この授業はやればやるほど学習効果がありますよ。皆さんのプレ卒論・卒論がとても楽しみです。ただ，今回は回答率が低かったです。授業中の時間を割いてアンケートに回答してもらう方法に修正する予定です。

【その他の重要事項】
　授業の運営方針や発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。実験・調査の内容は福田の守備範囲である言語心理学や教育心理学関係だとより詳細な指導が受けられると思います。また，この科目は本年度より3年次生と4年次生の合同授業となります。重複履修を原則としていますので，3年次と4年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。
【教員の実務経験】
・小学校国語科教科書編集委員（教育出版）1996年4月1日－2015年3月31日
・中央教育審議会初等中等教育分科会言語能力の向上に関する特別チーム 2014年10月21日－2017年2月14日
・文化審議会臨時委員（国語分科会）2016年3月20日－2023年3月31日

【Outline (in English)】
Course outline：The purpose of this course is to learn how to summarize psychological research.
Learning Objectives：By the end of the course, students should be able to do the following:
－ A. make a paper of one's research
－ B. present it effectively
Learning activities outside of classroom ： Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.
Grading Criteria：Your overall grade in the class will be determined based on the following: presentation: 40%, comment for the presentation of other people:20%, in-class contribution: 40%.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

言語心理学

福田　由紀

授業コード：A3667　｜　曜日・時限：月3/Mon.3
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ヒトが文章を読む時に，どのようなことが頭の中で起こっているか，言語心理学・脳生理学・認知心理学・教育心理学の研究の成果の知識や見方を得ることが目的です。また，実社会で望まれるスキルである「聞きながらメモを取る」「階層構造を意識したノートを取る」こともこの授業で身につけられます。

【到達目標】
①言葉を読むときに何が起こっているかに関する心理学的・脳科学的な知識が身につく。
②言葉の働きについて，心理学的な見方でできる。
③聞きながらメモをとることができる。
④階層構造を意識したノートをとることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本は講義形式です。教科書は毎時間「使用します！」ので持参してください。適宜，様々な問題について作業をし，その内容を体験したり，グループで討論したりしてもらいます。
また，Hoppiiを通じて，授業の前に宿題の提出，授業後に小テストへの回答をしてください。なお，授業の初めに、提出された宿題の内容に関して，全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション，言語心理学の研究の対象とその目的	授業の進め方，心的表象の特徴と種類
第2回	言語力の発達	語彙の発達，読み書きの発達の概観
第3回	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション	言葉を使わないコミュニケーションの難しさの体験
第4回	単語認知に影響する要因	心的辞書，認知に影響する要因，材料を統制するとは？
第5回	処理過程からみた単語認知	ボトムアップ処理とトップダウン処理
第6回	文の理解：曖昧性の解消	ガーデンパス文，作業記憶量
第7回	文章の理解：対象と構成された知識	文章の何を理解するのか，読み手の推論の力
第8回	文章理解に影響する要因１：既有知識	物語文法，物語スキーマ
第9回	文章理解に影響する要因２：既有知識	スクリプト，視点
第10回	文章の理解モデル	状況モデル
第11回	状況モデルの新たな展開１：モデルの深まり	最近の状況モデル研究
第12回	状況モデルの新たな展開２：対象の広がり	メタ認知，自己概念，感情
第13回	状況モデルの新たな展開３：日常生活への応用	広告の作成や教育
第14回	期末テストとその解説，まとめ	期末テストの実施とその解説，授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
＊次週の授業内容にあわせて短い宿題が出されます。授業前にHoppiiから提出して下さい。
第1回　モーラの概念を使えるようにする。
第2回　コミュニケーションにおける言葉とそれ以外の割合を考え，書く。
第3回　類似語を選定する。
第4回　規則語と例外語の例を書く。
第5回　ガーデンパス文を修正する。
第6回　Sacksの実験材料を読み，質問に答える。
第7回　桃太郎の物語の要約を書く。
第8回　行間を読むとは具体的にはどのようなことを指すかを書く。
第9回　Morrow et al.の実験材料である地図を記憶する。
第10回　文庫本には行間が空いている箇所がある。その理由を書く。
第11回　小説を読んだときの体験を書く。
第12回　大学案内と車内広告作成におけるポイントを書く。
第13回　期末テストの準備を行い，自己評価する。
＊受講した授業の内容に関して，小テストを授業支援システムを通じて行います。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「言語心理学入門－言語力を育てる－」福田由紀編　培風館　2012年

【参考書】
適宜，紹介します。

【成績評価の方法と基準】
評価は、平常点20%（宿題と小テスト）と期末テストの結果を80%として，総合点により決定されます。期末テストの追試は，履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行われます。期末テストでは授業で紹介した内容，自分で教科書を読んだ内容，そして応用問題が問われます。形式は多肢選択式です。

【学生の意見等からの気づき】
「大変工夫していた/工夫していた」が90％越え。「大変理解できた/理解できた」が70％越えでした。様々な学科の人が受講している授業なので，これらの結果は嬉しいです。宿題のFBや小テストがあったために復習がしっかりできたといった声がありました。また，授業内でまとめの時間をとり，その場で自分でまとめたり，確認をする方法が高評価でした。これからも，続けていきますね。

【その他の重要事項】
【教員の実務経験】
・小学校国語科教科書編集委員（教育出版）1996年4月1日－2015年3月31日
・中央教育審議会初等中等教育分科会言語能力の向上に関する特別チーム 2014年10月21日－2017年2月14日
・文化審議会臨時委員（国語分科会）2016年3月20日－2023年3月31日

【実験参加へのお願い】
授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく，他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【Outline (in English)】
Course outline：This course introduces various activities of language in terms of psychological perspective.
Learning Objectives：By the end of the course, students should be able to do the following:
－ A. deepen their understanding about psychology of language
－ B. analyze various activities of language in terms of psychological perspective
－ C. take memos while hearing
－ D. take notes organized hierarchically
Learning activities outside of classroom ： Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.
Grading Criteria ： Your overall grade in the class will be determined based on the following: final examination: 80%, in-class contribution: 20%.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

言語心理学特講

福田　由紀

授業コード：A3723　｜　曜日・時限：月3/Mon.3
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は，私たちが日々直面している言語的コミュニケーションの問題を心理学的なアプローチから解決することです。その方策をグループ活動（実習）を通して考えて，自分の言語力をあげていきましょう。この授業では，言語力とは，1つの能力だけでなく，話す・聞く・読む・書くといった領域にまたがる総合的な言語運用能力を指します。

【到達目標】
①言葉を読むときに何が起こっているかに関する心理学的・脳科学的な知識が身につく。
②言語心理学的知識を基礎にして，日常への応用ができる。
③自分の言語力を省察し，開発することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は講義と実習を組み合わせた形式です。授業中，教科書を使いますので用意しておいてください。また，様々な問題について10回の実習を行います。そこでは，グループで討論をし、発表します。
また，Hoppiiを通じて，授業の前に宿題の提出してください。なお，授業の初めに、提出された宿題の内容に関して，全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション，言語力とは	授業の進め方の確認，言語力とは？
第2回	共有された世界	よりよいコミュニケーションの実現のために必要なこと
第3回	合意形成とは：実習①「砂漠に不時着」	合意形成を体験する
第4回	キャリア教育からみた言語力：実習②グループディスカッション	グループディスカッションを体験し，より良い合意形成を目指す
第5回	伝わる文章１：言葉の特性，実習③どんな情景？	言語の特性を知る
第6回	伝わる文章２：実習④悪文から学ぶ	校正を通して，分かりやすい文章を作成する
第7回	医療現場からみた言語力：実習⑤「スキーマって何ですか？」	既有知識に差がある相手に対して，わかりやすく説明をする
第8回	物語文の指導：実習⑥感情推論	情景理解，イメージ能力，心情理解，感情推論
第9回	説明文の指導：実習⑦トピックセンテンス	ＰＩＳＡの読解力，米国の実践例，眼球運動の実験
第10回	英語教育からみた言語力：実習⑧英語のRST	第二言語の難しさ
第11回	発達性読み書き障がいとは１	ビデオの視聴
第12回	発達性読み書き障がいとは２：実習⑨支援をグループディスカッションから考える	どのような支援ができるか，洗練された討論を通じて合意形成を目指す
第13回	発達性読み書き障がいへの支援：実習⑩模擬テスト	支援を見据えた障がいの捉え方，支援の考え方
第14回	期末テストとその解説，まとめ	期末テストの実施とその解説，授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
＊次週の授業内容にあわせて短い宿題が出されます。授業前にHoppiiから提出して下さい。
第1回　言葉は何かを伝える道具です。何を伝えると思いますか？ 思いつく限り，書いてください。
第2回　集団で合理的な意志決定を行うためにはどんな方法がいいと思いますか？
第3回　合意形成の極意は何だと思いますか？ 1番重要だと思う事から順に3つ挙げてください。
第4回　言葉にまつわることで，何か誤解したことや，笑い話しはありませんか？
第5回　『彼女(あなたの友人)は視線を外して「おはよう・・・」と言った。』どうしてだと思いますか？ その理由を書いてください。
第6回　スキーマの定義を書いてください
第7回　次の文章を読んでください。トムはどんな気持ちになったと思いますか？
第8回　文章の挿絵は理解を促進しますか？
第9回　あなたはどのくらい英語が得意ですか？
第10回　発達性読み書き障がい字・者の日常生活上の困難を予想する。
第11回　WAIS-Rの数唱は何を調べているか？
第12回　模擬期末テスト（客観式）を作成する。
第13回　期末テストの準備を行い，自己評価する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「言語心理学入門－言語力を育てる－」　福田由紀編　培風館　2012年

【参考書】
適宜，紹介します。

【成績評価の方法と基準】
評価は、平常点40%（宿題と実習点）と期末テストの結果を60%として，総合点により決定されます。期末テストの追試は，履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行われます。期末テストでは授業で紹介した内容，自分で教科書を読んだ内容，そして応用問題が問われます。形式は多肢選択式です。

【学生の意見等からの気づき】
2023年度と2024年度のこの授業は他の先生が担当してくださいましたので，2022年度の授業改善アンケートの気づきを掲載します。
教育心理学の知識や考え方は，教室場面だけではなく，人生の様々なところで役立ちます〜という観点から授業をしていました。そのような授業に対して，「心理学的な概念だけではなく，日常にどのように応用できるかという視点から学ぶことができた。過去に自分が受けてきた教育の意図が知れて楽しかった。」とのコメント。嬉しいです〜。また，「教材が階層構造でまとまっていたり、様々なイラストを使っていたりして、とても工夫されていて復習しやすかったです。毎回宿題があったので、これも復習に活用できました。」といった授業資料ややり方についてもお褒めのコメント。次回も頑張ります。

【学生が準備すべき機器他】
特定の授業回では，PCを用意することもあります。その場合には，事前に授業内，あるいはHoppiiのお知らせで連絡します。自分の機器，あるいは情報カフェテリアで借りた機器を持参して下さい。

【その他の重要事項】
【教員の実務経験】
・小学校国語科教科書編集委員（教育出版）1996年4月1日－2015年3月31日
・中央教育審議会初等中等教育分科会言語能力の向上に関する特別チーム 2014年10月21日－2017年2月14日
・文化審議会臨時委員（国語分科会）2016年3月20日－2023年3月31日

【実験や調査への参加】
授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく，他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【Outline (in English)】
Course outline：The purpose of this course is to learn various psychological approaches trying to solve the problems in our communication.
Learning Objectives：By the end of the course, students should be able to do the following:
－A. deepen their understanding about psychology of language
－B. apply knowledge about psychology of language to one's daily life
－C. develop one's verbal abilities by participating in group activities
Learning activities outside of classroom：Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.
Grading Criteria：Your overall grade in the class will be determined based on the following: final examination: 60%, in-class contribution: 40%.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

心理学特殊講義Ⅲ

福田　由紀

授業コード：A3728　｜　曜日・時限：火4/Tue.4
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は，言葉を使っている時の脳活動に関する知識と，NIRS(近赤外分光法）を使い，脳血流量を測定するスキルを身につけることです。

【到達目標】
①言語使用時の脳活動に関する基礎知識が身につく。
②NIRSを使った測定スキルが身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は講義と実習を組み合わせた形式です。実習を行った結果は，グループで討論をし、発表します。
また，Hoppiiを通じて，授業の前に課題の提出してください。なお，授業の初めに、提出された課題の内容に関して，全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方の確認
第2回	脳の基礎知識	中枢神経系の仕組みについて分担発表
第3回	脳の機能的働き	言語使用時の脳活動について分担発表
第4回	言語使用時の脳の活動測定方法：fNIRS，fMRI，脳波など	言語使用時の心理学で利用されている測定方法：fNIRS，fMRI，脳波などの実例について分担発表
第5回	fNIRSの仕組み	fNIRSの仕組みを知る
第6回	言語流暢性課題を使用したfNIRSの実習１	言語流暢性課題について分担発表
第7回	言語流暢性課題を使用したfNIRSの実習２	NIRS装置の使い方が身につく
第8回	言語流暢性課題を使用したfIRSの実習３	基本的な測定方法が身につく
第9回	言語流暢性課題を使用したfNIRSの実習４	高度な測定方法が身につく
第10回	言語流暢性課題を使用したfNIRSの実習５	基本的なデータの分析方法が身につく
第11回	言語流暢性課題を使用したfNIRSの実習６	高度なデータの分析方法が身につく
第12回	言語流暢性課題を使用したfNIRSの実習７	考察の観点が身につく
第13回	言語流暢性課題を使用したfNIRSの実習８	効果的なプレゼンテーションの仕方が身につく
第14回	言語流暢性課題を使用したfNIRSの実習９	実習の発表とディスカッション，全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第2回から毎回，授業計画に沿った事前の課題を行い，Hoppiiを通じて提出します。第2回から第5回の講義形式の授業では，該当授業の内容に関して事前に調べてもらいます。第6回から第14回の実習形式の授業では，実際に自分がスムーズに測定するための準備に関する事前課題が用意されています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
福田正人（編）「光トポグラフィー検査ガイドブック　改訂」中山書店
など，適宜授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
最後の授業の発表（70%）と他者の発表に対するコメント（10%），実習への積極的な参加態度（20%）から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
この授業では，実際にNIRSを使うことが目的でした。受講生全てがNIRSの測定はできるようになったと感じてくれました。良かったです。ただし，分析に関してもう少し説明が欲しかったなど，測定後のスキルをもっとフォローした方が良かったようです。来年度以降はその点を配慮します。回答，ありがとうございました。

【その他の重要事項】
NIRSを使った測定を実習する授業のために，受講希望者が多数の場合は抽選となる場合があります。受講希望者は【初回の授業に必ず出席】してください。
【教員の実務経験】
・小学校国語科教科書編集委員（教育出版）1996年4月1日－2015年3月31日
・中央教育審議会初等中等教育分科会言語能力の向上に関する特別チーム 2014年10月21日－2017年2月14日
・文化審議会臨時委員（国語分科会）2016年3月20日－2023年3月31日

【実験や調査への参加】
授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく，他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【Outline (in English)】
Course outline ： The purpose of this course is to learn brain activities when we use language and to develop measurement skills for fNIRS.
Learning Objectives ： By the end of the course, students should be able to do the following:
－ A. deepen their understanding about brain activities during verbal activities
－ B. develop measurement skills for fNIRS
Learning activities outside of classroom ： Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.
Grading Criteria ： Your overall grade in the class will be determined based on the following: presentation: 70%, comment for the presentation of other people: 10%, in-class contribution: 20%.

CAR200BA（キャリア教育 / Career education 200）

文学部生のキャリア形成

渡辺　弥生、利根川　真紀、田中　雅人

授業コード：A3813　｜　曜日・時限：金5/Fri.5
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
法政大学文学部生として学ぶ皆さんは、自らの人生の中で、「働くこと」・「働き方」をどのように考えているでしょうか。文学部を卒業していった諸先輩はどのような進路や目標を定めて現在の社会で活躍しているのでしょうか。この授業ではさまざまな業界でご活躍の多くの卒業生をゲスト講師として迎え、それぞれの働き方の具体的な経験や働くことに対する考え方をお話しいただきます。それを通して、受講生の皆さんが自らの人生の中での「働くこと」の意義・位置づけ（＝キャリア）を考え、在学中に何をすべきかについて考える機会とします。
＊この授業は, 就業力に関連する「総合的」な能力を涵養する効果があります。

【到達目標】
以下の３つが到達目標です。
① 人生の中で「働くこと」の意義について、多角的な視点から考えることができる。
② 自らの目指す「働き方」を達成するために、どのような力が必要かを理解する。
③ 将来のライフプランを描くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
哲学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連
日本文学科のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連
英文学科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連
史学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連
地理学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連
心理学科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
オンラインで行います。さまざまな分野で活躍している文学部卒業生を各回のゲスト講師に迎え、現実の職場で起きていること、仕事の喜びや苦労などを具体的に話していただきます。また、そうしたゲスト講師との質疑応答も行ないます。受講生はそれをふまえた上で、毎回授業内に小レポートを提出します。また、学期末には全体のテーマに関わるレポートを提出します。皆様からの質問やコメント、およびフィードバックについては、質疑応答のかたちで時間を十分に確保して交流します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンス（授業の目的と進め方、評価方法などの説明）と「ライフプラン」
第2回	ゲスト講師の講演（1）	ホテル業界
第3回	ゲスト講師の講演（2）	地方公務員（市町村機関、総合職）
第4回	ゲスト講師の講演（3）	人事関係
第5回	Workshop	キャリアセンター職員によるワークショップ
第6回	ゲスト講師の講演（4）	私立中高校教師
第7回	ゲスト講師の講演（5）	教育（大学職員）
第8回	ゲスト講師の講演（6）	民間放送局
第9回	ゲスト講師の講演（7）	メーカー
第10回	ゲスト講師の講演（8）	保険会社
第11回	ゲスト講師の講演（9）	IT・外資系
第12回	ゲスト講師の講演（10）	公立中学校教師
第13回	ゲスト講師の講演(11)	観光協会職員
第14回	まとめ	総括レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
さまざまな職種に就いている卒業生をゲスト講師として迎え、その講演が続きますので、自らの将来の生き方や、働くことの意義などを考え、卒業後の進路の選択などについて広い視野を持つように心がけてください。また、それぞれの業種や資格の概要についてもあらかじめ調べておいてください（いわゆる業界研究）。この講義の予習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定テキストはありません。必要に応じて担当教員あるいはゲスト講師が印刷物を配布します。

【参考書】
適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】
①毎回の小レポート（10 〜 15 分程度でまとめるもの）
②学期末レポート
※①②は成績評価のために必須とします。
・上記①・②の内容が一定の基準を満たしていると判断されれば、「P」評価（合格）となり、単位が認定されます。条件を満たしていないと判断された場合「F」評価（不合格）となり、単位は認定されません。
・①、②ともに授業の終了後にその都度、提出することとなります。出席をしないで小レポートのみを提出することや、指定時間帯以外の提出は原則的に認められません。
・また、4回以上の欠席がある場合にはF評価とします。10 分以上の遅刻は欠席扱いとし、遅刻2回で欠席1回とカウントします。
・「未受験代替措置」を申請可能な欠席（競技参加による欠席、教職実習、介護実習、就職活動での採用選考、学校保健安全法に定める感染症に罹患、忌引き、などによる欠席）であることを証明する文書が提出された場合は、欠席扱いとはしません。
・Zoom への接続時間には十分気を付け、午後 4 ： 50 までに接続して出席してください。
・第1回のガイダンスには必ず出席し、2回目から慌てないように、授業の進め方、操作方法、課題提出方法について理解し、慣れておいてください。

【学生の意見等からの気づき】
「様々な職業の方のお話が聞けて有意義な時間を過ごすことができました」「様々な職種、経験をしてきた先輩方の話を聞くことで就活とその先の社会人になったときのイメージが鮮明になってよかった」「文学部は就活で苦労する、という言葉を度々耳にしていたため不安に思った時もあったが、講師の方々が様々な業界で活躍しているのを聞いて安心できた」といったポジティブな意見が多く寄せられました。担当教員一同、この授業の意義を再確認しました。
　その一方で、授業の形態については批判的な意見が散見されました。具体的には、「授業開始時間ギリギリに入室許可されることが度々あったため改善して欲しい」「毎回の課題の時間がギリギリになって焦るのでもう少し時間が欲しい」といった意見です。「課題を書く時間が欲しい」といった意見でした。ゲスト講師の先生方にお話しいただけるよう支援しながら、約200名の出欠を管理することがなかなかオンラインや学習支援システムの操作上難しいことが多いので、皆さんに多少の負担はかかってしまうかもしれませんが、次年度改善できるところはしたいと思います。とても多くの受講の喜びの声をいただいていますので、ご協力のほどよろしくお願いします。
　最後に、アンケートには個人が特定される情報や、他の方を傷つける表現はご遠慮ください。皆さまにとって安心してご意見を共有できる場となるようご理解をお願いします。

【その他の重要事項】
本授業の参加には法政大学統合認証ID・パスワードによるサインインが必須となります。必ず、事前にサインインの方法を確認し、当日はスムーズに入室できるようにしておいてください。
またZoomでの表示名（ユーザ名）は、必ず事前に「学生証番号　氏名」の表示にしておいてください。「学生証番号　氏名」の表示になっていない場合、待機室からの入室を許可しない場合があります。
【Zoomへのサインイン方法】 法政大学 全学ネットワークシステムユーザ支援WEBサイト に、詳細な手順の記載があります。こちらを確認してください。
①ゲスト講師の都合により、スケジュールが変更になる可能性があります。
②定員は200名程度です。受講希望者多数の場合には、第1回目の授業参加者（授業レポート提出者）の中から選抜を行います。受講希望者は必ず第 1 回目の授業に出席してください。この授業は文学部生のみを対象として開講します。他学部の学生は受講できません。
③担当教員が全授業に同席し、担当します。
④本学学部を卒業し、公務員、教員、教育、放送、交通、サービス業など様々な業種での勤務経験を有する講師が、オムニバス形式により、それぞれの職種における業務内容、仕事と様々なライフイベントとの関係、卒業後のキャリア形成に向けた学部時代の学びなどについて講義をします。
⑤写真撮影、録画および無断転載・無断アップロードを禁止します。

【Outline (in English)】
This aim of this course is to let students understand the basic knowledge and skills which are needed to help students decide their future jobs.
This careers education course provides an ideal stepping stone for students seeking to enter the career development profession.
Guest speakers, Hosei graduates, from a variety of fields will give a talk about job search techniques and their job search experiences.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policies: If the content of each short report and the end-of-term report are judged to meet specific criteria, the student will receive a "P" grade (pass), and credit will be awarded. If it is determined that the requirements are not met, the student will receive an "F" grade (Fail), and no credits will be awarded.

CAR200BA（キャリア教育 / Career education 200）

現代のコモンセンス

菅沢　龍文、皆川　卓、森　陽香

授業コード：A3814　｜　曜日・時限：金5/Fri.5
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会は日々ますます複雑化し、かつては考えられなかったような出来事や問題が頻繁に生じている。こうした中で、以前の常識や対処方法では通用しなくなっている事柄も数多い。この授業では、今まさに起こっている様々な事例を取り上げ、そうした事柄をどのように判断・評価し、さらにどのようにそれに対処していくべきかについての指針を学ぶ。
この授業によって、受講生は、情報収集・選択力、資料批判力、状況判断・対応力、自己変革力、架橋・変革力、協同行動力など総じて就業力を身につけることとなる。

【到達目標】
①自分自身を顧み、改善できるようになる。
②対人関係を顧み、改善できるようになる。
③自分の考えを適切な言葉で表現・伝達できるようになる。
④難しい行為選択について考え、適切に対処できるようになる。
⑤社会の諸問題について考え、適切に対処できるようになる。
⑥国際化のなかで異文化について考え、適切に対処できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
哲学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連
日本文学科のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連
英文学科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連
史学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連
地理学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連
心理学科のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
オンラインで行う。学内外から招いた講師による60分程度の講義・それに関する質疑・応答，そして授業の最後に課題テーマに関する小レポートを作成・提出してもらう。学期末の授業時に全体のテーマに関するレポートを作成・提出してもらう。授業の性格上、学生のコメントおよびそれへのフィードバックについては、質疑応答のかたちで行う。そのための時間を十分に確保する。なお、学外から招く講師の事情により、授業日程が変更される可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	担当教員によるガイダンスと講義
第2回	社会と規範１	LGBTと日本の性教育
第3回	実践と倫理１	「常識」を問い直す――「常識」の根拠は何か
第4回	社会と規範２	ビジネス・コンプライアンス入門
第5回	対人問題	いじめを取り巻く感情
第6回	実践と倫理２	安楽死は認められるか
第7回	社会と規範３	大学生の消費者問題と法
第8回	社会と規範４	自律的キャリアを紡ぐためのモラルとマナーとは
第9回	実践と倫理３	働き方を変える主体は―「耐える」・「辞める」以外の選択肢を考える―
第10回	実践と倫理４	著作権の現在地――創作・媒介・受容をめぐって
第11回	社会と規範５	身近なハラスメントと DV
第12回	社会と文化	日本庭園を通してみた世界
第13回	社会と規範６	国際条約、国際的契約、Global public goods（国際公益）とはなにか
第14回	まとめ	総括　レポート課題の呈示

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
現代が抱えている様々な問題について考察・議論することになるので、新聞・雑誌・テレビ・インターネット等の各種メディアで報じられている社会事象のうち、各回のテーマに関わる事例に対して、これまで以上に注意を払う。また、その際に、単一のメディア情報に偏ることなく、複数のメディア情報から、一時的にではなく常々情報を収集し、評価・分析すると共に、冷静かつ客観的な判断を下す思考トレーニングを繰り返し行う。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定しない。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に挙げた省察力や改善力、表現力や伝達力、諸問題への対処力の現れが小レポートや学期末レポートの評価基準となる。
①毎回の小レポート（10 〜 15 分程度でまとめるもの）
②学期末レポート
※①②は成績評価のために必須とします。
・上記①・②の内容が一定の基準を満たしていると判断されれば、「P」評価（合格）となり、単位が認定されます。条件を満たしていないと判断された場合「F」評価（不合格）となり、単位は認定されません。
・①、②ともに授業の終了後にその都度、提出することとなります。出席をしないで小レポートのみを提出することや、指定時間帯以外の提出は原則的に認められません。
・また、4回以上の欠席がある場合には「F」評価とします。10 分以上の遅刻は欠席扱いとし、遅刻２回で欠席１回とカウントします。
・Zoom への接続時間には十分気を付け、午後 4 ： 50 までに接続して出席してください。
・「未受験代替措置」を申請可能な欠席（競技参加による欠席、教職実習、介護実習、就職活動での採用選考、学校保健安全法に定める感染症に罹患、忌引き、などによる欠席）であることを証明する文書が提出された場合は、欠席扱いとはしません。
・第１回のガイダンスには必ず出席し、２回目から慌てないように、成績評価の仕方、授業の進め方、操作方法、課題提出方法について理解し、慣れておいてください。

【学生の意見等からの気づき】
・学生の皆さんからは、これまでも有益な意見を数多くいただいています。こうした声をできるだけ活かしながら、現代のコモンセンスを考える授業を行いたいと思います。
・アンケートには個人が特定される情報や、他の方を傷つける表現はご遠慮ください。皆さまにとって安心してご意見を共有できる場となるようご理解をお願いします。

【その他の重要事項】
①本授業の参加には法政大学統合認証ID・パスワードによるサインインが必須となります。必ず、事前にサインインの方法を確認し、当日はスムーズに入室できるようにしておいてください。
②Zoomでの表示名（ユーザ名）は、必ず事前に「学生証番号　氏名」の表示にしておいてください。「学生証番号　氏名」の表示になっていない場合、待機室からの入室を許可しない場合があります。
【Zoomへのサインイン方法】 法政大学 全学ネットワークシステムユーザ支援WEBサイト に、詳細な手順の記載があります。こちらを確認してください。
③ゲスト講師の都合により、スケジュールが変更になる可能性があります。なお、担当教員が全授業に同席します。
④成績評価の仕方や授業の進め方などについて、初回の授業で説明をしますので、必ず初回の授業に出席してください。
⑤写真撮影、録画および無断転載・無断アップロードを禁止します。

【Outline (in English)】
[Course outline and learning objectives]
This course aims to learn various approaches to solving the problems our society faces today.　Many social issues will be covered, such as relationships with others, modern social norms, practical ethics, and multiple cultures.　Students will be expected to broaden their perspectives and deepen their understanding by participating in group activities and individual literature studies.
[Learning activities outside of the classroom]
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the course content.
[Grading Criteria/Policies]
The manifestation of the ability to reflect and improve, to express and communicate, and to deal with various problems, as listed in the learning objectives, will be the criteria for evaluation in small reports and the end-of-semester report.
Your overall grade in the class will be decided based on the following: short reports at each class meeting and the term-end report.

HUG400BF（人文地理学 / Human geography 400）

人文地理学演習Ｂ（Ｉ）

増淵　敏之

授業コード：A3919　｜　曜日・時限：月2/Mon.2
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：3・4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では人文地理学の中のメディア・コンテンツを活用した地域再生を軸にした観光地理学、メディア・コンテンツを軸にした文化地理学を中心に卒業論文作成を目指していきます。文献調査、フィールドワークの手法など卒業論文作成のためのスキルを議論を通じて学んでいきます。3年生は卒業論文のテーマを明確にし、問題意識を高めていき、4年生は卒業論文の作成に取り組んでいきます。授業外では、様々な事象に関心を持ち、適宜、深堀もして下さい。成績は平常点（50％）と発表内容（50％）により評価します。

【到達目標】
・研究テーマを明確に設定し、リサーチクエスチョン構築、仮説の設定ができる。
・研究遂行の上で必要な資料、統計分析、データ化、フィールドワークの手順を把握する。
・倫理的で、独自性のある卒業論文を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
3年生は卒業論文のテーマを明確にするため、レクチャーを基にした議論、先行研究サーベイ、グループワークなどを行っていきます。4年生は卒業論文の進捗報告、議論への参加を行っていきます。授業は演習形式、ゼミ生の発表、議論、フィールドワークにより進めていきます。、

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	教員自己紹介、学生自己紹介、発表順の確定
第2回	レクチャー	学術論文、文献のサーベイの手法を学ぶ
第3回	レクチャー	教員の研究を基に調査方法について学ぶ。
第4回	4年生の卒業論文のテーマ発表①	研究テーマ、リサーチクエスチョン、仮説構築を交えた形での発表
第5回	4年生の卒業論文のテーマ発表②	研究テーマ、リサーチクエスチョン、仮説構築を交えた形での発表
第6回	3年生の輪読発表①	テキストの要約を発表、議論
第7回	3年生の輪読発表②	テキストの要約を発表議論
第8回	3年生の輪読発表③	テキストの要約を発表、議論
第9回	3年生の輪読発表④	テキストの要約を発表、議論
第10回	3年生の輪読発表⑤	テキストの要約を発表、議論
第11回	4年生による卒業論文進捗状況発表①	卒業論文の進捗状況、夏季休暇中の調査計画
第12回	4年生による卒業論文進捗状況発表②	卒業論文の進捗状況、夏季休暇中の調査計画
第13回	4年生による卒業論文進捗状況発表③	卒業論文の進捗状況、夏季休暇中の調査計画
第14回	レクチャー	教員の研究を基に調査方法について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外では、様々な事象に関心を持ち、適宜、深堀もして下さい。絶えず卒業論文作成を意識して、必要な文献購読、データ作成、発表のためのレジュメ作成などの授業外の学習時間を確保してもらいたいものです。本授業の復讐、予習等の時間は各2時間程度を希望します。
授業の予定は状況により、変更する場合もあります。

【テキスト（教科書）】
適宜、紹介します。

【参考書】
適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50％）と発表内容（50％）により評価します。基本的にはレポート、小テスト等は課しません。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
hoppiiを利用します。

【その他の重要事項】
オフィスアワー月曜日16－18時（新一口坂、5 F15）です。学部のゼミは初めてなので、ご迷惑をおかけすることも多々ありますが、ご容赦ください。不案内な部分は教えてください。また授業計画は状況によって変わることもご理解ください。
【教員経歴】
1981年からNTV映像センター、AIR-G'（FM北海道）、東芝EMI、ソニー・ミュージックエンタテインメントにおいて放送番組、音楽コンテンツの制作及び新人発掘等に長きに渡って従事。

【Outline (in English)】
In this seminar, students will aim to write their graduation thesis, focusing on tourism geography centered on regional revitalization using media and creative works within human geography, and cultural geography centered on media and creative works. Through discussions, you will learn skills for writing a graduation thesis, such as literature research and fieldwork techniques. Third-year students clarify the theme of their graduation thesis and increase their awareness of issues, while fourth-year students work on writing their graduation thesis.Outside of class, please be interested in various phenomena and dig deeper into them as appropriate.Your performance will be evaluated based on your average score (50%) and your presentation content (50%).

HUG400BF（人文地理学 / Human geography 400）

人文地理学演習Ｂ（Ⅱ）

増淵　敏之

授業コード：A3920　｜　曜日・時限：月2/Mon.2
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：3・4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では人文地理学の中のメディア・コンテンツを活用した地域再生を軸にした観光地理学、メディア・コンテンツを軸にした文化地理学を中心に卒業論文作成を目指していきます。文献調査、フィールドワークの手法など卒業論文作成のためのスキルを議論を通じて学んでいきます。3年生は卒業論文のテーマを明確にし、問題意識を高めていき、4年生は卒業論文の作成に取り組んでいきます。授業外では、様々な事象に関心を持ち、適宜、深堀もして下さい。成績は平常点（50％）と発表内容（50％）により評価します。

【到達目標】
・研究テーマを明確に設定し、リサーチクエスチョン構築、仮説の設定ができる。
・研究遂行の上で必要な資料、統計分析、データ化、フィールドワークの手順を把握する。
・倫理的で、独自性のある卒業論文を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
3年生は卒業論文のテーマを明確にするため、レクチャーを基にした議論、先行研究サーベイ、グループワークなどを行っていきます。4年生は卒業論文の進捗報告、議論への参加を行っていきます。授業は演習形式、ゼミ生の発表、議論、フィールドワークにより進めていきます。、

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	教員自己紹介、学生自己紹介、発表順の確定
第2回	レクチャー	学術論文、文献のサーベイの手法を学ぶ
第3回	レクチャー	教員の研究を基に調査方法について学ぶ。
第4回	4年生の卒業論文のテーマ発表①	研究テーマ、リサーチクエスチョン、仮説構築を交えた形での発表
第5回	4年生の卒業論文のテーマ発表②	研究テーマ、リサーチクエスチョン、仮説構築を交えた形での発表
第6回	3年生の輪読発表①	テキストの要約を発表、議論
第7回	3年生の輪読発表②	テキストの要約を発表議論
第8回	3年生の輪読発表③	テキストの要約を発表、議論
第9回	3年生の輪読発表④	テキストの要約を発表、議論
第10回	3年生の輪読発表⑤	テキストの要約を発表、議論
第11回	4年生による卒業論文進捗状況発表①	卒業論文の進捗状況、夏季休暇中の調査計画
第12回	4年生による卒業論文進捗状況発表②	卒業論文の進捗状況、夏季休暇中の調査計画
第13回	4年生による卒業論文進捗状況発表③	卒業論文の進捗状況、夏季休暇中の調査計画
第14回	レクチャー	教員の研究を基に調査方法について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外では、様々な事象に関心を持ち、適宜、深堀もして下さい。絶えず卒業論文作成を意識して、必要な文献購読、データ作成、発表のためのレジュメ作成などの授業外の学習時間を確保してもらいたいものです。本授業の復讐、予習等の時間は各2時間程度を希望します。
授業の予定は状況によって変更もあります。

【テキスト（教科書）】
適宜、紹介します。

【参考書】
適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50％）と発表内容（50％）により評価します。基本的にはレポート、小テスト等は課しません。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
hoppiiを利用します。

【その他の重要事項】
オフィスアワー月曜日16－18時（新一口坂、5 F15）です。学部のゼミは初めてなので、ご迷惑をおかけすることも多々ありますが、ご容赦ください。不案内な部分は教えてください。また授業計画は状況によって変わることもご理解ください。
【教員経歴】
1981年からNTV映像センター、AIR-G'（FM北海道）、東芝EMI、ソニー・ミュージックエンタテインメントにおいて放送番組、音楽コンテンツの制作及び新人発掘等に長きに渡って従事。

【Outline (in English)】
In this seminar, students will aim to write their graduation thesis, focusing on tourism geography centered on regional revitalization using media and creative works within human geography, and cultural geography centered on media and creative works. Through discussions, you will learn skills for writing a graduation thesis, such as literature research and fieldwork techniques. Third-year students clarify the theme of their graduation thesis and increase their awareness of issues, while fourth-year students work on writing their graduation thesis.Outside of class, please be interested in various phenomena and dig deeper into them as appropriate.Your performance will be evaluated based on your average score (50%) and your presentation content (50%).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

組織論入門

中西　善信

専門入門科目100番台　1～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］
営1年F～K

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織の仕組みや行動には，何らかの理由や意図がある。このような組織の行動の理由や意図は，組織論の各理論によって説明することが可能である。それらを理解することは，社会を生きる上で有用であろう。
そこでこの講義では，組織論の基本的な考え方，すなわち，組織の仕組みや行動の背景は何か，そして組織を構成する個人を動かすものは何か，学ぶ。そして，現在および将来において，組織論を実際に適用できるようになることを目指す。
その際，可能な限り学生の日常生活（ゼミ活動，サークル，アルバイトなど）を参照する形で説明する。
なお，本授業は，必ずしも組織論の内容を「広く薄く」網羅するものではない。組織論を中心に，経営学の特徴や魅力を知ってもらえるようなトピックを中心に選んでいる。

【到達目標】
1. 経営学の中での，組織論の位置付けと他領域との関係を説明できる。
2. 組織論の基本的な概念について，説明することができる。
3. 組織の仕組みと行動，並びにそれらの意図・機能を，理論に関連付けて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
対面講義による（ただし，内容により，一部の回をオンラインに変更することがある）。
また，毎授業終了時に小レポートの提出を課す（解答の概要を，次回講義冒頭においてフィードバックする）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義概要・履修要件など
第2回	経営学と組織論	組織論とはどのような学問領域か
第3回	組織とは何か	組織はなぜ成り立つのか
第4回	官僚制組織と逆機能	規則の体系としての組織とその副作用
第5回	組織におけるコミュニケーション	コミュニケーション・ミスをなくすために
第6回	組織形態	仕事を分割する，間を取り持つ
第7回	組織間関係	組織の間の関係性のさまざまなタイプ
第8回	戦略的提携	企業はなぜつるむのか
第9回	社会ネットワーク	組織や人のつながりのカタチ
第10回	組織文化と制度	組織の個性と没個性
第11回	組織学習	組織学習とは何か，なぜそれが困難なのか
第12回	企業制度とガバナンス	企業を動かすしくみ
第13回	キャリアと人的資源管理	仕事からみた人の生涯とそのマネジメント
第14回	まとめ	講義全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は，各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。
適宜資料を配布する。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
各回提出の小レポート（100%）。
ただし，各回のウエイトを変えることがある。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用した資料配布や課題提出のため，これに対応可能な情報機器（パソコン等）が必要。

【関連科目】
経営管理論I/II，経営組織論，組織行動論等

【Outline (in English)】
[Course outline] In this course, we will learn the fundamental knowledge on organizational management.
[Learning objectives] Students can explain essential concepts of organizational management.
[Learning activities outside of classroom]
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy] Evaluated by papers submitted at each session (100%).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

組織論入門

橋本　諭

専門入門科目100番台　1～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］
営1年L～Q

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織論入門は、3つの特徴があります。
1）経営学における組織論に関する基礎的な内容を広く学習する
経営学が対象とする分野は多岐にわたります。中でも組織や人が関係する内容について初学者に向けて基礎的な内容から全体像を把握できるように体系的に学びます
2）経営学のモノの見方を学ぶ
現実の諸現象(たとえば企業を取り巻く諸現象）を経営学ではどのように捉えるのかについて、事例を元に学びます
3）今後の学習へのガイド
多様な分野がある経営学の中で専門とすべき内容を選択するためのガイドとなるよう、学習内容に沿って今後のキャリアを意識した情報提供を行います

【到達目標】
本授業の到達目標は、以下の3点です。
1）組織論の基礎的な内容について、主要なキーワード、概念について説明することができる
2）経営学としてのモノの見方を意識し、日常生活の現象を経営学の観点から説明することができる
3）その後の発展的な内容の学習につながる学習プランを作成することができる
また、これらを通じて主体的に考えるというマインドを身に付けることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
・対面授業として実施します（授業内容に沿って事前に告知した上でオンラインで実施することもあります）。
・授業内容に沿って小レポートおよびリアクションペーパーの提出を求めます。
・各回の詳細は、学習支援システムに記載します。
・小レポートおよびリアクションペーパーについては、授業の中で解説を行い、また点数を個別にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第2回	経営学とは何か（1）	企業経営とは何か：株式会社とは何か、企業を取り巻くステークホルダー
第3回	経営学とは何か（2）	現代の働き方：採用、キャリア、転職に関する課題
第4回	組織マネジメント（1-1）	組織マネジメントとは：組織をマネジメントするとはどういうことか
第5回	組織マネジメント（1-2）	組織マネジメントの現代的課題：現代の企業を取り巻く課題
第6回	事例講義（ゲスト講義1）	現在の組織課題に関連する事例学習
第7回	組織マネジメント（2-1）	組織文化：組織文化は変革できるのか
第8回	組織マネジメント（2-2）	組織開発：組織開発の光と闇
第9回	人材マネジメント（1-1）	人材マネジメント概要：人材マネジメントの範囲と内容
第10回	人材マネジメント（1-2）	人材マネジメントの現代的課題：人材マネジメント上の問題点は何か
第11回	事例講義（ゲスト講義2）	現在の組織課題に関連する事例学習
第12回	人材マネジメント（2-1）	リクルーティング：就職活動と採用活動
第13回	人材マネジメント（2-2）	人材育成：人材育成の現代的課題と論点
第14回	ラップアップ	授業の振り返りと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業項目、授業内容を確認して授業に参加すること。また、授業後に該当分野に関連する実例を生活の中で探すこと、そしてそれをきっかけとした学びを深めることを期待しています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各講義に関連した資料を配布します。資料は「学習支援システム」上にPDFファイルにて配布します。

【参考書】
1）平野 光俊 江夏 幾多郎 （2018）『人事管理』有斐閣.
2）桑田耕太郎　田尾雅夫（2010）『組織論　補訂版』有斐閣.
その他、授業と合わせて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、以下の通りとします。
期末試験：40%　小レポート：60％
小レポートについては授業中に出題し、内容は授業内でのグループワークの振り返り、ゲスト講義への感想、授業項目に関連するトピックで行います。

【学生の意見等からの気づき】
身近なテーマをもとにした内容について好評を得た。このクラスについても、時事ネタを取り入れながら進めていく

【学生が準備すべき機器他】
対面授業に加えて、リアルタイム配信型（zoomを利用）のオンライン授業形式を取り入れることがあります。
オンラインでの学習ができるように、インターネット環境、PC環境、カメラオンで授業に参加できる環境を用意してほしい。

【その他の重要事項】
特になし

【関連科目】
なし

【Outline (in English)】
Course Outline
This introductory course is designed to provide students with a solid foundation in understanding organizations. It covers three main topics: the fundamentals of business management, organizational behavior, and human resource management. The course serves as a stepping stone for more advanced studies in these areas.
Learning Objectives
1) Explain key terms and concepts related to the fundamentals of organization theory.
2) Analyze everyday phenomena from the perspective of business administration.
3) Develop a study plan that prepares students for more advanced content.
Learning Activities Outside of Class
- Review sessions for each class
- The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy
- End-of-Term Examination: 40%
- Sub-report: 60%

MAN100FA（経営学 / Management 100）

組織論入門

橋本　諭

専門入門科目100番台　1～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］
営1年R～U

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織論入門は、3つの特徴があります。
1）経営学における組織論に関する基礎的な内容を広く学習する
経営学が対象とする分野は多岐にわたります。中でも組織や人が関係する内容について初学者に向けて基礎的な内容から全体像を把握できるように体系的に学びます
2）経営学のモノの見方を学ぶ
現実の諸現象(たとえば企業を取り巻く諸現象）を経営学ではどのように捉えるのかについて、事例を元に学びます
3）今後の学習へのガイド
多様な分野がある経営学の中で専門とすべき内容を選択するためのガイドとなるよう、学習内容に沿って今後のキャリアを意識した情報提供を行います

【到達目標】
本授業の到達目標は、以下の3点です。
1）組織論の基礎的な内容について、主要なキーワード、概念について説明することができる
2）経営学としてのモノの見方を意識し、日常生活の現象を経営学の観点から説明することができる
3）その後の発展的な内容の学習につながる学習プランを作成することができる
また、これらを通じて主体的に考えるというマインドを身に付けることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
・対面授業として実施します（授業内容に沿って事前に告知した上でオンラインで実施することもあります）。
・授業内容に沿って小レポートおよびリアクションペーパーの提出を求めます。
・各回の詳細は、学習支援システムに記載します。
・小レポートおよびリアクションペーパーについては、授業の中で解説を行い、また点数を個別にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第2回	経営学とは何か（1）	企業経営とは何か：株式会社とは何か、企業を取り巻くステークホルダー
第3回	経営学とは何か（2）	現代の働き方：採用、キャリア、転職に関する課題
第4回	組織マネジメント（1-1）	組織マネジメントとは：組織をマネジメントするとはどういうことか
第5回	組織マネジメント（1-2）	組織マネジメントの現代的課題：現代の企業を取り巻く課題
第6回	事例講義（ゲスト講義1）	現在の組織課題に関連する事例学習
第7回	組織マネジメント（2-1）	組織文化：組織文化は変革できるのか
第8回	組織マネジメント（2-2）	組織開発：組織開発の光と闇
第9回	人材マネジメント（1-1)	人材マネジメント概要：人材マネジメントの範囲と内容
第10回	人材マネジメント（1-2)	人材マネジメントの現代的課題：人材マネジメント上の問題点は何か
第11回	事例講義（ゲスト講義2）	現在の組織課題に関連する事例学習
第12回	人材マネジメント（2-1)	リクルーティング：就職活動と採用活動
第13回	人材マネジメント（2-2)	人材育成：人材育成の現代的課題と論点
第14回	ラップアップ	授業の振り返りと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業項目、授業内容を確認して授業に参加すること。また、授業後に該当分野に関連する実例を生活の中で探すこと、そしてそれをきっかけとした学びを深めることを期待しています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各講義に関連した資料を配布します。資料は「学習支援システム」上にPDFファイルにて配布します。

【参考書】
1）平野 光俊 江夏 幾多郎 （2018）『人事管理』有斐閣.
2）桑田耕太郎　田尾雅夫（2010）『組織論　補訂版』有斐閣.
その他、授業と合わせて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、以下の通りとします。
期末試験：40%　小レポート：60％
小レポートについては授業中に出題し、内容は授業内でのグループワークの振り返り、ゲスト講義への感想、授業項目に関連するトピックで行います。

【学生の意見等からの気づき】
身近なテーマをもとにした内容について好評を得た。このクラスについても、時事ネタを取り入れながら進めていく

【学生が準備すべき機器他】
対面授業に加えて、リアルタイム配信型（zoomを利用）のオンライン授業形式を取り入れることがある。
オンラインでの学習ができるように、インターネット環境、PC環境、カメラオンで授業に参加できる環境を用意してほしい。

【その他の重要事項】
特になし

【関連科目】
なし

【Outline (in English)】
Course Outline
This introductory course is designed to provide students with a solid foundation in understanding organizations. It covers three main topics: the fundamentals of business management, organizational behavior, and human resource management. The course serves as a stepping stone for more advanced studies in these areas.
Learning Objectives
1) Explain key terms and concepts related to the fundamentals of organization theory.
2) Analyze everyday phenomena from the perspective of business administration.
3) Develop a study plan that prepares students for more advanced content.
Learning Activities Outside of Class
- Review sessions for each class
- The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy
- End-of-Term Examination: 40%
- Sub-report: 60%

MAN100FA（経営学 / Management 100）

マーケティング入門

岡田　庄生

専門入門科目100番台　1～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］
営1年A～E

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【仲間と一緒にマーケティングを楽しく学ぼう！】
マーケティングを取り巻く環境は、インターネットやスマートフォン、人工知能（AI）の普及により大きく変化しています。一方で、どれだけ環境が変わっても、マーケティングの本質的な目的は変わりません。それは、「消費者のニーズを満たす価値を作り、適切なコミュニケーションをすること」です。本授業では、マーケティングを初めて学ぶ方を対象に、STPや4Pといったマーケティングの基本的な概念を、具体的な企業の事例とともに、わかりやすく解説します。また、グループディスカッションを通じて仲間と共に議論を重ね、学んだ知識を応用できる力を身につけることを目指します。

【到達目標】
・マーケティングの基礎概念を説明できる
・身近な製品・サービスのマーケティング戦略を説明できる
・マーケティング課題に対して適切な戦略の提案ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
この授業は1回目はオンラインで、2回目以降は対面で実施します。
1回目に授業の詳細をお伝えしますので、必ず参加してください。
①授業中：講師より、具体事例を交えながらマーケティングの基礎的な知識に関するレクチャーを行います。また、授業中に簡単なクイズを実施したり、教室内でグループディスカッションを行うなど、双方向型のインタラクティブな授業を行います。
②授業後：毎回の授業に関連する課題を授業の最後に提示しますので、期日までに提出してください。授業に対する感想や質問も合わせて回収し、重要な内容については次回の授業にてフィードバックを行います。
③学期末テスト：授業で学んだ重要な概念やキーワードなどに関連した質問に答えるテストを行います。テストの詳細は授業の中で説明します

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	・マーケティング発想法とは ・授業の進め方と評価方法
第2回	マーケティング・ミックス	STPやマーケティング・ミックス（製品，価格，チャネル，コミュニケーション）など
第3回	製品戦略	新製品開発による顧客創造
第4回	価格戦略	価格戦略による顧客創造
第5回	チャネル戦略	流通チャネルの構築による顧客創造
第6回	コミュニケーション戦略	消費者とのコミュニケーションによる顧客創造
第7回	顧客理解	顧客理解のためのマーケティング・リサーチ（市場調査）
第8回	関係構築	企業と顧客間の継続的な関係構築
第9回	デジタル・マーケティング	マーケティング活動におけるデジタルの活用方法
第10回	ブランド構築	ブランドを構築・維持・強化する方法
第11回	営業活動	営業活動の多様さとネットワーク構築
第12回	マーケティングの戦略展開	市場分析とマーケティング戦略の立案方法
第13回	社会共生	マーケティングと社会との関わり
第14回	クラス内テスト	・学期末テストの実施と解説 ・コース全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業後に、関連する課題に取り組んで頂きます。
また、教科書の該当章を読み、学習内容を復習することを推奨します。
この授業の標準的な予習・復習時間はそれぞれ2時間です。
上記以外に、学期末テストの準備があります。学期末テストは授業および教科書の内容が出題範囲です。テストの詳細は授業内に説明します。

【テキスト（教科書）】
石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文『1からのマーケティング・デザイン』碩学舎（2016）
大学生協にて、電子テキスト版（税別生協定価2,000円）を購入することをお勧めします。
電子テキスト版は、法政大学生協のホームページから購入してください。
以下のページよりご確認お願いします。
https://www.univcoop.jp/hosei/order/order_66.html

電子テキスト版を大学生協で購入後、以下の法政大学専用のURLからログインすることで、電子テキスト（EDX UniText）を利用することができます。
https://app.d-text-service.jp/browser/start?uneidantai_ryakugo=UC&soshiki_cd=10035
大学生協での購入に加えて、オンラインでの登録が必要ですので、早めに購入してください。
なお、紙版（税別定価2,400円）を選ぶことも可能です。
詳細は初回の授業にて説明します。

【参考書】
・石井淳蔵・廣田章光『1からのマーケティング 第4版』碩学舎（2019）
・久保田進彦・澁谷覚・須永努『はじめてのマーケティング 新版』有斐閣（2022）
・小川孔輔『マーケティング入門』日本経済新聞出版社（2009）

【成績評価の方法と基準】
1.授業中の課題：30%
2.授業後の課題：30%
3.学期末テスト：40%
上記に加えて、課題等でのコメントが授業で取り上げられた場合には加点があります。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更により、特にありません

【学生が準備すべき機器他】
授業中課題に対応するため、スマートフォンではなくノートPCやタブレットを持参してください。

【その他の重要事項】
本講座は、広告会社およびコンサルティング会社にてマーケティング分野で20年間の実務経験を持つ教員が担当します。教科書を用いた理論的な解説に加えて、実務での実例を交えて、マーケティングの世界を幅広く紹介します。

【関連科目】
・マーケティング・マネジメント論I/II
・マーケティング・リサーチ論I/II
・消費者行動論I/II
・流通論I/II
・サービス・マネジメント論I/II

【Outline (in English)】
Course outline
"Let's Learn Marketing with Curiosity and Interest, Together with Your Peers!"
The environment surrounding marketing has changed significantly with the widespread use of the internet, smartphones, and artificial intelligence (AI). However, despite these changes, the fundamental purpose of marketing remains unchanged: it is to "create value that meets consumer needs and communicate it effectively."
In this course, we will introduce basic marketing concepts, such as STP and the 4Ps, to those who are new to marketing. These concepts will be explained clearly through real-world business examples. Additionally, through group discussions (conducted in Japanese), you will have the opportunity to engage with your peers and apply the knowledge you have gained, helping you develop the skills to use it in practice.
Learning Objectives
-Gain a solid understanding of fundamental marketing concepts
-Explain the marketing strategies used for everyday products and services
-Propose effective strategies to solve marketing challenges
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy
1. In-class assignments: 30%
2. Post-class assignments: 30%
3. End-of-term test: 40%

MAN100FA（経営学 / Management 100）

マーケティング入門

岡田　庄生

専門入門科目100番台　1～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］
営1年F～K

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【仲間と一緒にマーケティングを楽しく学ぼう！】
マーケティングを取り巻く環境は、インターネットやスマートフォン、人工知能（AI）の普及により大きく変化しています。一方で、どれだけ環境が変わっても、マーケティングの本質的な目的は変わりません。それは、「消費者のニーズを満たす価値を作り、適切なコミュニケーションをすること」です。本授業では、マーケティングを初めて学ぶ方を対象に、STPや4Pといったマーケティングの基本的な概念を、具体的な企業の事例とともに、わかりやすく解説します。また、グループディスカッションを通じて仲間と共に議論を重ね、学んだ知識を応用できる力を身につけることを目指します。

【到達目標】
・マーケティングの基礎概念を説明できる
・身近な製品・サービスのマーケティング戦略を説明できる
・マーケティング課題に対して適切な戦略の提案ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
この授業は1回目はオンラインで、2回目以降は対面で実施します。
1回目に授業の詳細をお伝えしますので、必ず参加してください。
①授業中：講師より、具体事例を交えながらマーケティングの基礎的な知識に関するレクチャーを行います。また、授業中に簡単なクイズを実施したり、教室内でグループディスカッションを行うなど、双方向型のインタラクティブな授業を行います。
②授業後：毎回の授業に関連する課題を授業の最後に提示しますので、期日までに提出してください。授業に対する感想や質問も合わせて回収し、重要な内容については次回の授業にてフィードバックを行います。
③学期末テスト：授業で学んだ重要な概念やキーワードなどに関連した質問に答えるテストを行います。テストの詳細は授業の中で説明します

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	・マーケティング発想法とは ・授業の進め方と評価方法
第2回	マーケティング・ミックス	STPやマーケティング・ミックス（製品，価格，チャネル，コミュニケーション）など
第3回	製品戦略	新製品開発による顧客創造
第4回	価格戦略	価格戦略による顧客創造
第5回	チャネル戦略	流通チャネルの構築による顧客創造
第6回	コミュニケーション戦略	消費者とのコミュニケーションによる顧客創造
第7回	顧客理解	顧客理解のためのマーケティング・リサーチ（市場調査）
第8回	関係構築	企業と顧客間の継続的な関係構築
第9回	デジタル・マーケティング	マーケティング活動におけるデジタルの活用方法
第10回	ブランド構築	ブランドを構築・維持・強化する方法
第11回	営業活動	営業活動の多様さとネットワーク構築
第12回	マーケティングの戦略展開	市場分析とマーケティング戦略の立案方法
第13回	社会共生	マーケティングと社会との関わり
第14回	クラス内テスト	・学期末テストの実施と解説 ・コース全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業後に、関連する課題に取り組んで頂きます。
また、教科書の該当章を読み、学習内容を復習することを推奨します。
この授業の標準的な予習・復習時間はそれぞれ2時間です。
上記以外に、学期末テストの準備があります。学期末テストは授業および教科書の内容が出題範囲です。テストの詳細は授業内に説明します。

【テキスト（教科書）】
石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文『1からのマーケティング・デザイン』碩学舎（2016）
大学生協にて、電子テキスト版（税別生協定価2,000円）を購入することをお勧めします。
電子テキスト版は、法政大学生協のホームページから購入してください。
以下のページよりご確認お願いします。
https://www.univcoop.jp/hosei/order/order_66.html

電子テキスト版を大学生協で購入後、以下の法政大学専用のURLからログインすることで、電子テキスト（EDX UniText）を利用することができます。
https://app.d-text-service.jp/browser/start?uneidantai_ryakugo=UC&soshiki_cd=10035
大学生協での購入に加えて、オンラインでの登録が必要ですので、早めに購入してください。
なお、紙版（税別定価2,400円）を選ぶことも可能です。
詳細は初回の授業にて説明します。

【参考書】
・石井淳蔵・廣田章光『1からのマーケティング 第4版』碩学舎（2019）
・久保田進彦・澁谷覚・須永努『はじめてのマーケティング 新版』有斐閣（2022）
・小川孔輔『マーケティング入門』日本経済新聞出版社（2009）

【成績評価の方法と基準】
1.授業中の課題：30%
2.授業後の課題：30%
3.学期末テスト：40%
上記に加えて、課題等でのコメントが授業で取り上げられた場合には加点があります。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更により、特にありません

【学生が準備すべき機器他】
授業中課題に対応するため、スマートフォンではなくノートPCやタブレットを持参してください。

【その他の重要事項】
本講座は、広告会社およびコンサルティング会社にてマーケティング分野で20年間の実務経験を持つ教員が担当します。教科書を用いた理論的な解説に加えて、実務での実例を交えて、マーケティングの世界を幅広く紹介します。

【関連科目】
・マーケティング・マネジメント論I/II
・マーケティング・リサーチ論I/II
・消費者行動論I/II
・流通論I/II
・サービス・マネジメント論I/II

【Outline (in English)】
Course outline
"Let's Learn Marketing with Curiosity and Interest, Together with Your Peers!"
The environment surrounding marketing has changed significantly with the widespread use of the internet, smartphones, and artificial intelligence (AI). However, despite these changes, the fundamental purpose of marketing remains unchanged: it is to "create value that meets consumer needs and communicate it effectively."
In this course, we will introduce basic marketing concepts, such as STP and the 4Ps, to those who are new to marketing. These concepts will be explained clearly through real-world business examples. Additionally, through group discussions (conducted in Japanese), you will have the opportunity to engage with your peers and apply the knowledge you have gained, helping you develop the skills to use it in practice.
Learning Objectives
-Gain a solid understanding of fundamental marketing concepts
-Explain the marketing strategies used for everyday products and services
-Propose effective strategies to solve marketing challenges
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy
1. In-class assignments: 30%
2. Post-class assignments: 30%
3. End-of-term test: 40%

MAN100FA（経営学 / Management 100）

簿記入門Ⅰ

近藤　大輔

専門入門科目100番台専門基礎科目A群　1～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］
営1年A～E

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ビジネスの言語と言われている「簿記」の基本的事項を学ぶ。簿記の学習は、将来、会計の分野を学習するときの基礎となるもので、経営学部の学生は早い段階でマスターすべき内容である。この科目は、「会計学入門」と並んでもっとも重要な科目の1つです。簿記の3級の試験を目指して学習することも1つのやり方です。

【到達目標】
簿記入門Ⅰ・Ⅱの授業内容を理解することによって、日商簿記検定の3級の出題範囲の内容が理解できるようになります。到達目標はその検定試験に合格できる力，会計および関連するビジネスに関する論点を議論する力を身に着けることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
対面とオンデマンドの併用で行うことを予定しています。まずオンデマンド授業で説明を行い、例題等の問題も解いてもらいます。さらに簿記および会計に関する論点を共有し，課題を対面講義までに検討してきてもらいます。対面講義ではグループごとに課題を検討し，課題を提出してもらいます。そして，最も優秀な課題答案を表彰し，成績評価で加点します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験その資格案内、会計情報が読めるメリット
第2回	【講義】 ・簿記の必要性 ・記帳のルール	・貸借対照表/損益計算書 ・仕訳と勘定記入
第3回	【議論・発表・表彰】 ・簿記の必要性 ・記帳のルール	・貸借対照表/損益計算書 ・仕訳と勘定記入
第4回	【講義】 ・商品売買Ⅰ ・商品売買Ⅱ	・掛け取引 ・手付金/内金
第5回	【議論・発表・表彰】 ・商品売買Ⅰ ・商品売買Ⅱ	・掛け取引 ・手付金/内金
第6回	【講義】 ・商品売買Ⅲ ・商品売買Ⅳ	・商品券/返品 ・諸掛り/有高帳
第7回	【議論・発表・表彰】 ・商品売買Ⅲ ・商品売買Ⅳ	・商品券/返品 ・諸掛り/有高帳
第8回	【講義】 ・商品売買Ⅴ ・現金/預金Ⅰ ・現金/預金Ⅱ	・有高帳/現金 ・当座預金
第9回	【議論・発表・表彰】 ・商品売買Ⅴ ・現金/預金Ⅰ ・現金/預金Ⅱ	・有高帳/現金 ・当座預金
第10回	【講義】 ・現金/預金Ⅲ ・現金/預金Ⅳ	・当座借越 ・小口現金
第11回	【議論・発表・表彰】 ・現金/預金Ⅲ ・現金/預金Ⅳ	・当座借越 ・小口現金
第12回	【講義】 ・売掛金Ⅰ ・手形取引Ⅰ ・手形取引Ⅱ	・小口現金 ・クレジット売掛金/手形 ・手形
第13回	【議論・発表・表彰】 ・売掛金Ⅰ ・手形取引Ⅰ ・手形取引Ⅱ	・小口現金 ・クレジット売掛金/手形 ・手形
第14回	ゲストスピーカー講演	ビジネスパーソンの講演，質疑応答，議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習としては、その回の授業で何を学ぶかをあらかじめ確認しておき、授業を聞いた後は関連する問題を解くことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
TAC出版『合格テキスト日商簿記３級－ver15.0』2025年

【参考書】
TAC出版『合格トレーニング日商簿記３級－ver15.0』2025年

【成績評価の方法と基準】
①対面授業時の課題提出・発表・表彰（30％）
②対面授業の平常点（10％）
③対面授業時の質問・発言（10％）
④ゲストスピーカーへの事前質問・当日質問・感想（10％）
⑤確認テスト（10％）
⑥定期試験（30％）

【学生の意見等からの気づき】
グループごとに学生間で教え合い，議論するエッセンスを対面講義で実施することで，簿記・会計に関する理解を深めるだけでなく，ビジネスで不可欠であるコミュニケーション能力を身に着けて欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
対面授業の際は電卓を持参すること。

【その他の重要事項】
この科目は、経営学部の1年の科目の中でも重要な科目であり、すべての学生に身に着けて欲しい内容です。また2年次に学ぶ「会計学入門」や「財務会計論」「国際会計論」、「管理会計論」等のすべての会計専門科目を学ぶ上での基礎となる部分です。簿記の基礎をマスターすることによって、2年次、3年次以降の各会計科目がより学びやすくなります。

【Outline (in English)】
Bookkeeping is the process of recording daily transactions.The objective of this class is to understand fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate finance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2hours to understand the course content. Grading will be decided based on ① Assignment submission/presentation/awards during face-to-face classes (30%),②Attitude score for face-to-face classes (10%),③Questions and comments during face-to-face classes (10%), ④ Questions to guest speakers, questions on the day, and impressions (10%), ⑤Confirmation test (10%), ⑥Regular exam (30%).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

簿記入門Ⅱ

近藤　大輔

専門入門科目100番台専門基礎科目A群　1～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］
営1年A～E

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ビジネスの言語と言われている「簿記」の基本的事項を学ぶ。簿記の学習は、将来、会計の分野を学習するときの基礎となるもので、経営学部の学生は早い段階でマスターすべき内容である。この科目は、「会計学入門」と並んでもっとも重要な科目の1つです。簿記の3級の試験を目指して学習することも1つのやり方です。

【到達目標】
簿記入門Ⅰ・Ⅱの授業内容を理解することによって、日商簿記検定の3級の出題範囲の内容が理解できるようになります。到達目標はその検定試験に合格できる力，会計および関連するビジネスに関する論点を議論する力を身に着けることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
　対面とオンデマンドの併用で行うことを予定しています。まずオンデマンド授業で説明を行い、例題等の問題も解いてもらいます。さらに簿記および会計に関する論点を共有し，課題を対面講義までに検討してきてもらいます。対面講義ではグループごとに課題を検討し，課題を提出してもらいます。そして，最も優秀な課題答案を表彰し，成績評価で加点します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験その資格案内、会計情報が読めるメリット
第2回	【講義】 ・様々な取引Ⅰ ・様々な取引Ⅱ	・電子記録債権/債務，貸付金/借入金 ・利息，役員貸付金/借入金，手形貸付金/借入金
第3回	【議論・発表・表彰】 ・様々な取引Ⅰ ・様々な取引Ⅱ	・電子記録債権/債務，貸付金/借入金 ・利息，役員貸付金/借入金，手形貸付金/借入金
第4回	【講義】 ・様々な取引Ⅲ ・様々な取引Ⅳ	・有形固定資産，未収入金・未払金，仮払金/仮受金 ・給与，さまざまな帳簿
第5回	【議論・発表・表彰】 ・様々な取引Ⅲ ・様々な取引Ⅳ	・有形固定資産，未収入金・未払金，仮払金/仮受金 ・給与，さまざまな帳簿
第6回	【講義】 ・試算表 ・決算整理Ⅰ	・残高試算表 ・現金過不足，売上原価
第7回	【議論・発表・表彰】 ・試算表 ・決算整理Ⅰ	・残高試算表 ・現金過不足，売上原価
第8回	【講義】 ・決算整理Ⅱ ・決算整理Ⅲ	・貸倒① ・貸倒②
第9回	【議論・発表・表彰】 ・決算整理Ⅱ ・決算整理Ⅲ	・貸倒① ・貸倒②
第10回	【講義】 ・決算整理Ⅳ ・決算整理Ⅴ	・減価償却 ・貯蔵品，当座借越
第11回	【議論・発表・表彰】 ・決算整理Ⅳ ・決算整理Ⅴ	・減価償却 ・貯蔵品，当座借越
第12回	【講義】 ・決算整理Ⅵ ・決算整理Ⅶ	・経過勘定項目① ・経過勘定項目②
第13回	【議論・発表・表彰】 ・決算整理Ⅵ ・決算整理Ⅶ	・経過勘定項目① ・経過勘定項目②
第14回	ゲストスピーカー講演	ビジネスパーソンの講演，質疑応答，議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　予習としては、その回の授業で何を学ぶかをあらかじめ確認しておき、授業を聞いた後は関連する問題を解くことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
TAC出版『合格テキスト日商簿記３級－ver15.0』2025年

【参考書】
TAC出版『合格トレーニング日商簿記３級－ver15.0』2025年

【成績評価の方法と基準】
①対面授業時の課題提出・発表・表彰（30％）
②対面授業の平常点（10％）
③対面授業時の質問・発言（10％）
④ゲストスピーカーへの事前質問・当日質問・感想（10％）
⑤確認テスト（10％）
⑥定期試験（30％）

【学生の意見等からの気づき】
　グループごとに学生間で教え合い，議論するエッセンスを対面講義で実施することで，簿記・会計に関する理解を深めるだけでなく，ビジネスで不可欠であるコミュニケーション能力を身に着けて欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
　対面授業の際は電卓を持参すること。

【その他の重要事項】
　この科目は、経営学部の1年の科目の中でも重要な科目であり、すべての学生に身に着けて欲しい内容です。また2年次に学ぶ「会計学入門」や「財務会計論」「国際会計論」、「管理会計論」等のすべての会計専門科目を学ぶ上での基礎となる部分です。簿記の基礎をマスターすることによって、2年次、3年次以降の各会計科目がより学びやすくなります。

【Outline (in English)】
Bookkeeping is the process of recording daily transactions.The objective of this class is to understand fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate finance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2hours to understand the course content. Grading will be decided based on ① Assignment submission/presentation/awards during face-to-face classes (30%),②Attitude score for face-to-face classes (10%),③Questions and comments during face-to-face classes (10%), ④ Questions to guest speakers, questions on the day, and impressions (10%), ⑤Confirmation test (10%), ⑥Regular exam (30%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）

金子　聡

専門入門科目100番台　1～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要（Course outline）】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く(日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム（hoppii）を参照すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しとWebブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト(レポート提出や授業中の小テストに代えることもある)を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%)評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

[Learning Objectives]

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

[Learning Activities outside of classroom]

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study /review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

金子　聡

専門入門科目100番台　1～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

[授業の概要]

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く(日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

[授業の方法]

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

[補足]

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第13回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト(レポート提出や授業中の小テストに代えることもある)を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%)評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

[Course Outline]

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

[Learning Objectives]

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

[Learning Activities outside of classroom]

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study /review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）

金子　聡

専門入門科目100番台　1～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要（Course outline）】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く(日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム（hoppii）を参照すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しとWebブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト(レポート提出や授業中の小テストに代えることもある)を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%)評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

[Learning Objectives]

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

[Learning Activities outside of classroom]

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study /review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

金子　聡

専門入門科目100番台　1～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

[授業の概要]

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く(日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

[授業の方法]

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

[補足]

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第13回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト(レポート提出や授業中の小テストに代えることもある)を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%)評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

[Course Outline]

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

[Learning Objectives]

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

[Learning Activities outside of classroom]

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study /review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）

田中　元一朗

専門入門科目100番台　1～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要（Course outline）】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く(日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム（hoppii）を参照すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しとWebブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト(レポート提出や授業中の小テストに代えることもある)を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%)評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

[Learning Objectives]

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

[Learning Activities outside of classroom]

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study /review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

田中　元一朗

専門入門科目100番台　1～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

[授業の概要]

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く(日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

[授業の方法]

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

[補足]

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第13回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト(レポート提出や授業中の小テストに代えることもある)を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%)評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

[Course Outline]

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

[Learning Objectives]

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

[Learning Activities outside of classroom]

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study /review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）

田中　元一朗

専門入門科目100番台　1～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要（Course outline）】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く(日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム（hoppii）を参照すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しとWebブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト(レポート提出や授業中の小テストに代えることもある)を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%)評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

[Learning Objectives]

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

[Learning Activities outside of classroom]

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study /review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

田中　元一朗

専門入門科目100番台　1～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

[授業の概要]

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く(日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

[授業の方法]

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

[補足]

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第13回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト(レポート提出や授業中の小テストに代えることもある)を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%)評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

[Course Outline]

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

[Learning Objectives]

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

[Learning Activities outside of classroom]

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study /review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）

木村　昌史

専門入門科目100番台　1～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要（Course outline）】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く(日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム（hoppii）を参照すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しとWebブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト(レポート提出や授業中の小テストに代えることもある)を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%)評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

[Learning Objectives]

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

[Learning Activities outside of classroom]

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study /review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

木村　昌史

専門入門科目100番台　1～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

[授業の概要]

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く(日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

[授業の方法]

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

[補足]

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第13回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト(レポート提出や授業中の小テストに代えることもある)を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%)評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

[Course Outline]

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

[Learning Objectives]

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

[Learning Activities outside of classroom]

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study /review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）

田中　元一朗

専門入門科目100番台　1～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要（Course outline）】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く(日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム（hoppii）を参照すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しとWebブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト(レポート提出や授業中の小テストに代えることもある)を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%)評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

[Learning Objectives]

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

[Learning Activities outside of classroom]

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study /review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

田中　元一朗

専門入門科目100番台　1～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

[授業の概要]

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く(日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

[授業の方法]

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

[補足]

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第13回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト(レポート提出や授業中の小テストに代えることもある)を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%)評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

[Course Outline]

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

[Learning Objectives]

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

[Learning Activities outside of classroom]

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study /review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019年度以降入学者）

田中　元一朗

専門入門科目100番台　1～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要（Course outline）】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く(日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム（hoppii）を参照すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第3回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第5回	電子メールの受渡しとWebブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第6回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第8回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第9回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第10回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第11回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第12回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第13回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各1回ずつテスト(レポート提出や授業中の小テストに代えることもある)を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%)評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

[Learning Objectives]

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

[Learning Activities outside of classroom]

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study /review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019年度以降入学者）

田中　元一朗

専門入門科目100番台　1～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Webブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。

この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

[授業の概要]

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く(日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

[授業の方法]

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

[補足]

各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第2回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第3回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第4回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第5回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第6回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第7回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第8回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第9回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第10回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第11回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第12回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第13回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト(レポート提出や授業中の小テストに代えることもある)を行い（25%）、出席や課題提出も考慮し（75%)評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

[Course Outline]

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

[Learning Objectives]

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

[Learning Activities outside of classroom]

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study /review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(25%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(75%).

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅰ（データベース）（2019年度以降入学者）

木村　昌史

専門入門科目100番台　1～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］
※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報学の基礎としてまずPCを用いた文書の作成、プレゼンテーション、表計算、ネットワーク利用による情報収集する方法を学ぶ。データベースコースでは特にExcelを基礎としたデータ処理法とAccessデータベースや他ソフトウェアとの連携の方法を学び、現代のネットワークで重要になっているデータベースの基礎を理解する。

【到達目標】
学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方から、より表現力の高い問題解決のためのデータ処理の基礎を理解することを目標とする。さらにデータベースの基礎と活用法を学び、実務に必要な問題解決の事例を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
[授業の概要]
情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く(日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの利用、Webブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションの方法等を学習する。以上とPCのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。
さらに、〔データベースコース〕では標準的ソフトウェアであるExcelと連携しながらAccessやWebによるデータベースの基礎などを学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的なデータの例題を取り上げ、独自のデータ処理のためにPCを活用できるようにする。
[授業の方法]
コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに小さい課題に自ら取り組み考える力を養う。
[課題等に対するフィードバック方法]
各回の課題はネット(Classroomなど)を利用するので、その中で全体の回答例を示したり学生個別に回答の問題点などをフィードバックする。また必要に応じて授業の中でデモ回答を示すものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第2回	キーボード入力練習	キーボードからの入力と練習とブラインドタッチについて学ぶ。
第3回	Microsoft Wordの基本操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第4回	Microsoft PowerPointの基本操作	PowerPointの基本的な使い方、プレゼンテーションについて学ぶ。
第5回	Google Workspaceの利用法	電子メールはじめクラウドサービスの活用について学ぶ。
第6回	Microsoft Excelの基本操作	表計算の基礎について学ぶ。
第7回	Excelによる基本集計	データの基本集計、関数の利用について学ぶ。
第8回	Excelによるデータ処理	応用として簡単なデータ処理について学ぶ。
第9回	Excelによるクロス集計	応用としてピボットテーブルによるクロス集計について学ぶ。
第10回	Excelによるデータ分析(1)	2種類のデータについての分析方法について学ぶ。
第11回	Excelによるデータ分析(2)	2種類以上のデータについての分析方法について学ぶ。
第12回	Excelによるデータベース的処理	データベース関数の役割と利用法について学ぶ。
第13回	ExcelとWebの連携	外部データベースとの連携を含む処理方法について学ぶ。
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめと総合レポートの作成を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
PCの基本操作、各種ソフトウェアやクラウドサービスについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。
各回教材資料やデータについてはなるべく事前に配布する。

【参考書】
各回テーマごとに必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
春学期に1回のテスト（または総合レポートの提出）40％と各回授業の課題提出60％により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
適度に課題の進捗状況の確認を行い、受講者の理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】
実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システムClassroomを利用し効率的な授業を行う。
自宅PCなどで法政大学IDからのクラウド環境を整備することを推奨する。

【その他の重要事項】
問題解決のための情報活用能力およびデータ処理能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。
〔関連科目〕
情報学に関する基礎科目

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。
また授業時間外ではネットを利用して質問を受け付ける予定である。

【実務経験のある教員による授業】
実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】
This course introduces Infomatics to students taking this course.
As an introduction to Informatics we first learn documentation, presentation and spreadsheet using a PC and methods of information collection using network. Next in this course we learn data processing and ways of connections to database such as Access and other softwares, especially using Excel's operations.
The goals of this course are to understand basic concepts of database crucial to the basis of modern network.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process term-end report: 40%and in class contribution: 60%.

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅱ（データベース）（2019年度以降入学者）

木村　昌史

専門入門科目100番台　1～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報学の基礎としてまずPCを用いた文書の作成、プレゼンテーション、表計算、ネットワーク利用による情報収集する方法を学ぶ。データベースコースでは特にExcelを基礎としたデータ処理法とAccessデータベースや他ソフトウェアとの連携の方法を学び、現代のネットワークで重要になっているデータベースの基礎を理解する。

【到達目標】
学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方から、より表現力の高い問題解決のためのデータ処理の基礎を理解することを目標とする。さらにデータベースの基礎と活用法を学び、実務に必要な問題解決の事例を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
[授業の概要]
情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く(日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの利用、Webブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションの方法等を学習する。以上とPCのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。
さらに、〔データベースコース〕では標準的ソフトウェアであるExcelと連携しながらAccessやWebによるデータベースの基礎などを学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的なデータの例題を取り上げ、独自のデータ処理のためにPCを活用できるようにする。
[授業の方法]
コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに小さい課題に自ら取り組み考える力を養う。
[課題等に対するフィードバック方法]
各回の課題はネット(Classroomなど)を利用するので、その中で全体の回答例を示したり学生個別に回答の問題点などをフィードバックする。また必要に応じて授業の中でデモ回答を示すものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	データベースの基本	ネットワークにおいて重要なデータベースの考え方について学ぶ。
第2回	データの収集	ネットワーク上の公開データの活用法について学ぶ。
第3回	Excelとデータベースの関係	Officeの中のExcelとAccessの役割の違いについて学ぶ。
第4回	Excelデータのエクスポート	Excelを中心としてCSVファイルなどのデータ交換について学ぶ。
第5回	SQLiteデータベースの基本(1)	データベースの例としてSQLiteの基本操作について学ぶ。
第6回	SQLiteデータベースの基本(2)	SQLiteによる基本的検索方法について学ぶ。
第7回	クエリとSQLの利用(1)	データベースにおけるSQLの役割について学ぶ。
第8回	クエリとSQLの利用(2)	データベースにおけるSQLの種類と利用について学ぶ。
第9回	SQLiteデータベースの設計	ネットワーク上のデータベースの構築のための設計を学ぶ。
第10回	SQLiteデータベースの構築	ネットワーク上のデータベースの構築の実際について学ぶ。
第11回	Google Colabの基本	Google Colabからのデータベースの利用について学ぶ。
第12回	Google Colabの活用	Google Colabからのデータベースの活用について学ぶ。
第13回	独自データベースの構築	自ら収集したデータからデータベースの構築を行う。
第14回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめと総合レポートの作成を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
PCの基本操作、各種ソフトウェアやクラウドサービスについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。
各回教材資料やデータについてはなるべく事前に配布する。

【参考書】
各回テーマごとに必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
春学期と秋学期に各1回ずつのテスト（または総合レポートの提出）40％と各回授業の課題提出60％により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
適度に課題の進捗状況の確認を行い、受講者の理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】
実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システムClassroomを利用し効率的な授業を行う。
自宅PCなどで法政大学IDからのクラウド環境を整備することを推奨する。

【その他の重要事項】
問題解決のための情報活用能力およびデータ処理能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。
〔関連科目〕
情報学に関する基礎科目

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。
また授業時間外ではネットを利用して質問を受け付ける予定である。

【実務経験のある教員による授業】
実際に、データベースに関連した業務にあった経験のある教員が講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】
This course introduces Infomatics to students taking this course.
As an introduction to Informatics we first learn documentation, presentation and spreadsheet using a PC and methods of information collection using network. Next in this course we learn data processing and ways of connections to database such as Access and other softwares, especially using Excel's operations.
The goals of this course are to understand basic concepts of database crucial to the basis of modern network.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process term-end report: 40%and in class contribution: 60%.

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅰ（空間情報処理）（2019年度以降入学者）

森本　洋一

専門入門科目100番台　1～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］
※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報学入門＜空間情報処理＞コース情報科学実習＜fコース＞

大学において様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する

特に応用面では，様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図(WEBで閲覧できる地図など）や位置情報を持った統計情報などの扱い方，それらを用いた分布図の作成法を習得する．
その際、簡易ＧＩＳソフトを用いた空間情報解析の基礎能力を身につけることを目的とした作業を行う。GISソフトはフリーで誰もが利用できるMANDARAを使用することを想定ている。
※　履修者の希望や理解度に応じて別のソフト（QGIS）を使った実習を行う可能性もある。

【到達目標】
情報リテラシーの基礎と応用能力を修得及び、空間情報解析の基礎能力を育成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
前半は、電子メール、ワープロ、プレゼンテーションソフト、表計算ソフト、インターネットの利用方法やこれらを活用した表現方法について学ぶ。
後半は、前半で培った知識を生かして、WEB地図や簡易GISの使い方や表現方法について学ぶ。
授業形式は、実習形式（講義⇒実習⇒まとめ（課題提出））で行う。
実習内容は、提供した情報や各自の興味のあるテーマにそったものとなるように、実習を通して、ワープロや表計算ソフト、プレゼンテーション、簡易GISなどのツールの利用方法を習得できるように工夫する。
講義の進度は、学生の習熟度を考慮しながら決める。
授業内で行った課題や小レポートに対する講評や解説も適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報リテラシーについて	情報リテラシーについて学び、調べ、まとめる
第2回	コンピュータの構成（ハードウェア、ソフトウェア）	コンピュータの構成（ハードウェア、ソフトウェア）について、学び、調べ、まとめる
第3回	電子メール	電子メールの基礎（使い方、メールでの文章表現）
第4回	クラウド環境	クラウドの基礎（クラウドストレージの種類、クラウドを用いたデータの保存方法や共有方法）
第5回	ワープロ入門	Wordの基礎（文章入力の基本、伝わりやすい表現方法）
第6回	ワープロ応用	Wordの応用（フォーマットによる文章作成）
第7回	表計算ソフト入門	Excelの基礎（機能と使い方）
第8回	表計算ソフト活用	Excelの基礎（表・図の作成）
第9回	表計算ソフト活用	Excelの応用（統計解析）
第10回	プレゼンテーション入門	PowerPointの基礎（機能と使い方）
第11回	プレゼンテーション応用	PowerPointの応用（わかりやすい表現や図表の作成）
第12回	WEB地図①	インターネットで見られる様々なWEB地図
第13回	空間情報解析入門	GIS（MANDARA）の基本（都道府県別の主題図の作成）
第14回	総合実習	個別テーマによる総合実習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業で学んだことを利用して，様々な学習・課題作成などに取り組むよう努力する。本授業の準備学習・復習時間は，各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
前半：第1回授業時に指示。
後半：後藤真太郎ほか（２０１３）：『MANDARAとEXCELによる市民のためのＧＩＳ講座（第３版)』,古今書院

【参考書】
・中村和郎ほか（2002）：『地理情報システムを学ぶ』,古今書院
・佐土原　聡ほか（2005）：『図解！　Arc ＧＩＳ 身近な事例で学ぼう』，古今書院
・川崎昭如ほか（2008）：『図解！　Arc GIS Part2 ＧＩＳ実戦に向けてのステップアップ』,古今書院
その他、授業の進度に合わせて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
実習形式の授業のため、平常点（出席点）と各授業ごとの小課題を重視します。
①平常点（30％）
②課題（30％）
③試験　または　レポート（40％）
授業進捗等によっては配点を変更することもあります。

【学生の意見等からの気づき】
学部・学科の専門に関係なく，幅広い情報リテラシーの基礎能力を育成し，秋学期では，各専門分野の興味に従った応用に対応するようにする。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室のＰＣで実習を行う。

【その他の重要事項】
本講義は情報実習室でパソコンを用いた実習を行う。

・初回講義時までに，大学のパソコンにログインするためのIDとパスワードを取得すること
・統計データやGISデータを扱うため、USBメモリ（4GB以上）を持参することが望ましいが、詳細は初回授業において説明する。

・秋学期は春学期に習得する内容を前提とした内容となっているため、春学期、秋学期連続して受講することが望ましい。

【関連科目】
コンピュータ・リテラシーに関連する科目
SIS
GIS

【オフィス・アワー】
授業前後に質問を受け付ける。

【担当教員の専門分野等】
＜研究領域＞
水文学、河川環境、河川工学

【Outline (in English)】
（Course outline）
Learn the basics of information literacy and GIS.
（Learning Objectives）
Learn the basics and applied skills of information literacy, and develop basic skills of spatial information analysis.
（Learning activities outside of classroom）
The standard time for preparation and review for this class is two hours each.
（Grading Criteria /Policy）
① Normal point (30%)
② Assignment (30%)
③ Exam or report (40%)
The points allocated may change depending on the progress of the class.

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報学入門Ⅱ（空間情報処理）（2019年度以降入学者）

森本　洋一

専門入門科目100番台　1～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］
※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報学入門＜空間情報処理＞コース情報科学実習＜fコース＞

大学において様々な分野の学習を進めていく上で必要な情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する

秋学期はＩで習得した基本的なリテラシーを活かし，様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった位置情報を持った統計情報や空間情報などの扱い方，それらの情報とGIS用いた分布図の作成法を習得する．
簡易ＧＩＳソフトを用いた空間情報解析の基礎能力を身につけることを目的とした作業を行う。GISソフトはフリーで誰もが利用できるMANDARAを使用することを想定している。
※　履修者の希望や理解度に応じて別のソフト（QGIS）を使った実習を行う可能性もある。

【到達目標】
情報リテラシーの基礎と応用能力を習得する。
GISを用いた位置情報の扱い方や作図方法などの基本的なスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
秋学期はＩで培った知識を生かして、簡易GISの使い方や表現方法について学ぶ。
授業形式は、実習形式（講義⇒実習⇒まとめ（課題提出））で行う。
実習内容は、提供した情報や各自の興味のあるテーマにそったものとなるように、実習を通して、ワープロや表計算ソフト、プレゼンテーション、簡易GISなどのツールの利用方法を習得できるように工夫する。
講義の進度は、学生の習熟度を考慮しながら決める。
授業内で行った課題や小レポートに対する講評や解説も適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地理情報システム（GIS）とは	GISの基礎知識を学び、まとめる
第2回	地理空間情報の収集・管理・活用方法	インターネットで公開されている地理情報や各種統計情報を収集し、GISで表示する
第3回	主題図の作成①（全国データの利用）	日本全体のデータをもとに空間解析を学ぶ
第4回	主題図の作成②（都道府県データの利用）	都道府県別データをもとに空間情報解析を学ぶ
第5回	主題図の作成③（市区町村データの利用）	市区町村別データをもとに空間情報解析を学ぶ
第6回	地図の編集①	属性の作成と編集
第7回	地図の編集②	図形データの作成と編集
第8回	メッシュデータ解析の基礎	土地利用データの解析の基礎について
第9回	メッシュデータ解析の活用	複数年の土地利用データの解析と連続表示について
第10回	メッシュデータ解析の応用	複数年の土地利用変化について解析する方法
第11回	総合実習①	個別のテーマに沿って空間情報を収集し主題図を作成する
第12回	総合実習②	個別のテーマに沿って空間情報を収集し主題図を作成する
第13回	総合実習③	作成した主題図の編集や解析を行う
第14回	まとめ	これまで培ったリテラシーやGIS実習の成果をもとにまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学会で学んだことを利用して，様々な学習・課題作成などに取り組むよう努力する。自ら選んだテーマに沿って、様々な地域環境情報を収集し、主題図を作成し、時空間解析を行う。
本授業の準備学習・復習時間は，各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
第1回授業時に指示。

【参考書】
・後藤真太郎ほか（２０１３）：『MANDARAとEXCELによる市民のためのＧＩＳ講座（第3版）』,古今書院
・中村和郎ほか（2002）：『地理情報システムを学ぶ』,古今書院
・佐土原　聡ほか（2005）：『図解！　Arc ＧＩＳ 身近な事例で学ぼう』,古今書院
・川崎昭如ほか（2008）：『図解！　Arc GIS Part2 ＧＩＳ実戦に向けてのステップアップ』,古今書院
その他、授業の進度に合わせて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
実習形式の授業のため、平常点（出席点）と各授業ごとの小課題を重視します。①平常点（30％）②課題（30％）③試験　または　レポート（40％）授業進捗等によっては配点を変更することもあります。

【学生の意見等からの気づき】
学部・学科の専門に関係なく，幅広い情報リテラシーの基礎能力を育成し，秋学期では，各専門分野の興味に従った応用に対応するようにする。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室のＰＣで実習を行う。

【その他の重要事項】
本講義は情報実習室でパソコンを用いた実習を行う。
・初回講義時までに，大学のパソコンにログインするためのIDとパスワードを取得すること
・統計データやGISデータを扱うため、USBメモリ（4GB以上）を持参することが望ましいが、詳細は初回授業において説明する。
・秋学期は春学期に習得する内容を前提とした内容となっているため、春学期、秋学期連続して受講することが望ましい。

【関連科目】
コンピュータ・リテラシーに関連する科目
SIS GIS

【オフィス・アワー】
授業前後に質問を受け付ける。

【担当教員の専門分野等】
＜研究領域＞水文学、河川環境、河川工学

【Outline (English)】
（Course　outline）
Learn how to handle statistical information and spatial information with location information, which are increasingly used in various academic fields and industries, and how to create distribution maps using that information and GIS.
（Learning　Objectives）
Learn the basics and applied skills of information literacy.
Learn basic skills such as how to handle location information using GIS and how to draw diagrams.
（Learning activities outside of classroom）The standard time for preparation and review for this class is two hours each.
（Grading Criteria/Policy）
①Normal point(30%)
②Assignment(30%)
③Examorreport(40%)
The points allocated may change depending on the progress of the class.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

会計学入門Ⅰ

近藤　大輔

専門入門科目200番台専門基礎科目B群　2～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］
営2年Q～U

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
会計学入門Ⅰでは,主に財務会計について考えていく。具体的には損益計算書や貸借対照表，さらに売上原価，有形固定資産といった問題である。さらに利益構造の分析，原価管理といった管理会計の手法についても学んでいく。この講義は，会計学総論的な入門講義であるといえる。

【到達目標】
会計情報の役割について理解するとともに、損益計算書と貸借対照表の構造を理解してもらいたい。また企業が獲得する利益の源泉についての分析や利益構造の分析についても一定の理解を得て欲しい。最終的には財務会計と管理会計の基本的会計思考を身に着けて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
対面とオンデマンドの併用で行うことを予定しています。まずオンデマンド授業で説明を行い、例題等の問題も解いてもらいます。さらに会計に関する論点を共有し，課題を対面講義までに検討してきてもらいます。対面講義ではグループごとに課題を検討し，課題を提出してもらいます。そして，最も優秀な課題答案を表彰し，成績評価で加点します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験その資格案内、会計情報が読めるメリット
第2回	【講義】 会計情報の役割 会計制度と社会	財務会計と管理会計の性格と機能 株式会社の仕組み、会社法、金融商品取引法、法人税法に基づいて行われる会計
第3回	【議論・発表・表彰】 会計情報の役割 会計制度と社会	財務会計と管理会計の性格と機能 株式会社の仕組み、会社法、金融商品取引法、法人税法に基づいて行われる会計
第4回	【講義】 会計の仕組み 貸借対照表	貸借対照表、損益計算書の構造 貸借対照表の構造と資産・負債・資本の細目
第5回	【議論・発表・表彰】 会計の仕組み 貸借対照表	貸借対照表、損益計算書の構造 貸借対照表の構造と資産・負債・資本の細目
第6回	【講義】 在庫品の会計 生産設備の会計	商品の取得原価、製品の製造原価の計算と売上原価の計算、期末在庫品の評価方法 有形固定資産の取得、減価償却、減損処理
第7回	【議論・発表・表彰】 在庫品の会計 生産設備の会計	商品の取得原価、製品の製造原価の計算と売上原価の計算、期末在庫品の評価方法 有形固定資産の取得、減価償却、減損処理
第8回	【講義】 金融資産の会計 負債と資本の会計	金融資産の種類、現金・預金の範囲、有価証券の評価 自己資本と他人資本による資金調達法と純資産の内訳と配当
第9回	【議論・発表・表彰】 金融資産の会計 負債と資本の会計	金融資産の種類、現金・預金の範囲、有価証券の評価 自己資本と他人資本による資金調達法と純資産の内訳と配当
第10回	【講義】 損益計算書 営業活動の会計	損益計算書の仕組み、利益算出の流れ、業種ごとの損益計算書の特徴 企業の営業活動と営業循環、売上代金の回収と収益の認識、代金回収の不確実性
第11回	【議論・発表・表彰】 損益計算書 営業活動の会計	損益計算書の仕組み、利益算出の流れ、業種ごとの損益計算書の特徴 企業の営業活動と営業循環、売上代金の回収と収益の認識、代金回収の不確実性
第12回	【講義】 儲かる仕組みの分析 利益構造の分析	収益性の分析、ROEの3分解、安全性の分析 損益分岐点分析にみる利益構造、内部経営分析としてのCVP分析
第13回	【議論・発表・表彰】 儲かる仕組みの分析 利益構造の分析	収益性の分析、ROEの3分解、安全性の分析 損益分岐点分析にみる利益構造、内部経営分析としてのCVP分析
第14回	ゲストスピーカー講演	ビジネスパーソンの講演，質疑応答，議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後はテキスト各章末の問題について解答を作ることが求められる。章末問題は自分で考える問題が多いが，そのヒントは授業中に十分話したい。なお本授業の準備・復習時間は，合計で2時間程度は必要である。

【テキスト（教科書）】
谷武幸・桜井久勝他編『1からの会計（第2版）』中央経済社、2021年

【参考書】
近藤大輔『ビギナー原価計算』中央経済社，2020年
小山晃弘『ぶっちゃけ会計のことがまったくわかりません… YouTuber会計士がゆる～く教える会計「超」入門』飛鳥新社，2021年
谷武幸『エッセンシャル管理会計〈第4版〉』中央経済社、2022年

【成績評価の方法と基準】
①対面授業時の課題提出・発表・表彰（30％）
②対面授業の平常点（10％）
③対面授業時の質問・発言（10％）
④ゲストスピーカーへの事前質問・当日質問・感想（10％）
⑤確認テスト（10％）
⑥定期試験（30％）

【学生の意見等からの気づき】
グループごとに学生間で教え合い，議論するエッセンスを対面講義で実施することで，簿記・会計に関する理解を深めるだけでなく，ビジネスで不可欠であるコミュニケーション能力を身に着けて欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
対面授業の際は電卓を持参すること。

【その他の重要事項】
日商簿記3級程度の知識があれば良いが，まだ簿記の基礎を学習していない学生は「簿記入門Ⅰ」を並行履修して欲しい。
この科目履修後の会計関連専門科目として，『財務会計論』，『国際会計論』，『原価計算論』，『管理会計論』，『監査論』，『税務会計』，『経営分析論』『企業評価論』といった会計科目があげられる。

【Outline (in English)】
The purpose of this lecture is to understand financial accounting mainly.　we learn basic analysis of financial statements. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2hours to understand the course content. Grading will be decided based on ① Assignment submission/presentation/awards during face-to-face classes (30%),②Attitude score for face-to-face classes (10%),③Questions and comments during face-to-face classes (10%), ④ Questions to guest speakers, questions on the day, and impressions (10%), ⑤Confirmation test (10%), ⑥Regular exam (30%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

会計学入門Ⅱ

近藤　大輔

専門入門科目200番台専門基礎科目B群　2～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］
営2年Q～U

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
会計学入門Ⅱでは,会計学入門Ⅰの知識をもとに主に管理会計の入門的な内容について学ぶ。利益構造の分析や管理会計における原価管理といった手法についても学んでいく。この講義は，会計学総論的な入門講義であるといえる。

【到達目標】
管理会計の役割について理解して欲しい。意思決定，利益計画など管理会計手法についても一定の理解を得て欲しい。最終的には管理会計の基本的会計思考を身に着けて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
対面とオンデマンドの併用で行うことを予定しています。まずオンデマンド授業で説明を行い、例題等の問題も解いてもらいます。さらに会計に関する論点を共有し，課題を対面講義までに検討してきてもらいます。対面講義ではグループごとに課題を検討し，課題を提出してもらいます。そして，最も優秀な課題答案を表彰し，成績評価で加点します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験その資格案内、会計情報が読めるメリット
第2回	【講義】 意思決定	マネジメントコントロールと意思決定，差額原価
第3回	【議論・発表・表彰】 意思決定	マネジメントコントロールと意思決定，差額原価
第4回	【講義】 原価管理	PDCAサイクル，直接費，間接費
第5回	【議論・発表・表彰】 原価管理	PDCAサイクル，直接費，間接費
第6回	【講義】 設備投資計画	経済性計算の方法と資本コスト
第7回	【議論・発表・表彰】 設備投資計画	経済性計算の方法と資本コスト
第8回	【講義】 予算管理	予算差異分析
第9回	【議論・発表・表彰】 予算管理	予算差異分析
第10回	【講義】 原価企画	日本的管理会計，源流管理，PDCA，組織，VE
第11回	【議論・発表・表彰】 原価企画	日本的管理会計，源流管理，PDCA，組織，VE
第12回	【講義】 アメーバ経営	ミニ・プロフィットセンター，インタラクション
第13回	【議論・発表・表彰】 アメーバ経営	ミニ・プロフィットセンター，インタラクション
第14回	ゲストスピーカー講演	ビジネスパーソンの講演，質疑応答，議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後はテキスト各章末の問題について解答を作ることが求められる。章末問題は自分で考える問題が多いが，そのヒントは授業中に十分話したい。なお本授業の準備・復習時間は，合計で2時間程度は必要である。

【テキスト（教科書）】
谷武幸『エッセンシャル管理会計〈第４版〉』中央経済社、2022年

【参考書】
近藤大輔『ビギナー原価計算』中央経済社，2020年
谷武幸・桜井久勝他編『1からの会計（第2版）』中央経済社、2021年
小山晃弘『ぶっちゃけ会計のことがまったくわかりません… YouTuber会計士がゆる～く教える会計「超」入門』飛鳥新社，2021年

【成績評価の方法と基準】
①対面授業時の課題提出・発表・表彰（30％）
②対面授業の平常点（10％）
③対面授業時の質問・発言（10％）
④ゲストスピーカーへの事前質問・当日質問・感想（10％）
⑤確認テスト（10％）
⑥定期試験（30％）

【学生の意見等からの気づき】
グループごとに学生間で教え合い，議論するエッセンスを対面講義で実施することで，簿記・会計に関する理解を深めるだけでなく，ビジネスで不可欠であるコミュニケーション能力を身に着けて欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
対面授業の際は電卓を持参すること。

【その他の重要事項】
日商簿記３級程度の知識があれば良いが，まだ簿記の基礎を学習していない学生は「簿記入門Ⅰ」を並行履修して欲しい。
この科目履修後の会計関連専門科目として，『財務会計論』，『国際会計論』，『原価計算論』，『管理会計論』，『監査論』，『税務会計』，『経営分析論』『企業評価論』といった会計科目があげられる。

【Outline (in English)】
The purpose of this lecture is to understand management accounting mainly. we learn basic analysis of management accounting. Before /after each class meeting, students will be expected to spend 2hours to understand the course content. Grading will be decided based on ① Assignment submission/presentation/awards during face-to-face classes (30%),②Attitude score for face-to-face classes (10%),③Questions and comments during face-to-face classes (10%), ④ Questions to guest speakers, questions on the day, and impressions (10%), ⑤Confirmation test (10%), ⑥Regular exam (30%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

会計学入門Ⅰ

近藤　大輔

専門入門科目200番台専門基礎科目B群　2～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］
営2年H～O

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
会計学入門Ⅰでは,主に財務会計について考えていく。具体的には損益計算書や貸借対照表，さらに売上原価，有形固定資産といった問題である。さらに利益構造の分析，原価管理といった管理会計の手法についても学んでいく。この講義は，会計学総論的な入門講義であるといえる。

【到達目標】
会計情報の役割について理解するとともに、損益計算書と貸借対照表の構造を理解してもらいたい。また企業が獲得する利益の源泉についての分析や利益構造の分析についても一定の理解を得て欲しい。最終的には財務会計と管理会計の基本的会計思考を身に着けて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
対面とオンデマンドの併用で行うことを予定しています。まずオンデマンド授業で説明を行い、例題等の問題も解いてもらいます。さらに会計に関する論点を共有し，課題を対面講義までに検討してきてもらいます。対面講義ではグループごとに課題を検討し，課題を提出してもらいます。そして，最も優秀な課題答案を表彰し，成績評価で加点します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験その資格案内、会計情報が読めるメリット
第2回	【講義】 会計情報の役割 会計制度と社会	財務会計と管理会計の性格と機能 株式会社の仕組み、会社法、金融商品取引法、法人税法に基づいて行われる会計
第3回	【議論・発表・表彰】 会計情報の役割 会計制度と社会	財務会計と管理会計の性格と機能 株式会社の仕組み、会社法、金融商品取引法、法人税法に基づいて行われる会計
第4回	【講義】 会計の仕組み 貸借対照表	貸借対照表、損益計算書の構造 貸借対照表の構造と資産・負債・資本の細目
第5回	【議論・発表・表彰】 会計の仕組み 貸借対照表	貸借対照表、損益計算書の構造 貸借対照表の構造と資産・負債・資本の細目
第6回	【講義】 在庫品の会計 生産設備の会計	商品の取得原価、製品の製造原価の計算と売上原価の計算、期末在庫品の評価方法 有形固定資産の取得、減価償却、減損処理
第7回	【議論・発表・表彰】 在庫品の会計 生産設備の会計	商品の取得原価、製品の製造原価の計算と売上原価の計算、期末在庫品の評価方法 有形固定資産の取得、減価償却、減損処理
第8回	【講義】 金融資産の会計 負債と資本の会計	金融資産の種類、現金・預金の範囲、有価証券の評価 自己資本と他人資本による資金調達法と純資産の内訳と配当
第9回	【議論・発表・表彰】 金融資産の会計 負債と資本の会計	金融資産の種類、現金・預金の範囲、有価証券の評価 自己資本と他人資本による資金調達法と純資産の内訳と配当
第10回	【講義】 損益計算書 営業活動の会計	損益計算書の仕組み、利益算出の流れ、業種ごとの損益計算書の特徴 企業の営業活動と営業循環、売上代金の回収と収益の認識、代金回収の不確実性
第11回	【議論・発表・表彰】 損益計算書 営業活動の会計	損益計算書の仕組み、利益算出の流れ、業種ごとの損益計算書の特徴 企業の営業活動と営業循環、売上代金の回収と収益の認識、代金回収の不確実性
第12回	【講義】 儲かる仕組みの分析 利益構造の分析	収益性の分析、ROEの3分解、安全性の分析 損益分岐点分析にみる利益構造、内部経営分析としてのCVP分析
第13回	【議論・発表・表彰】 儲かる仕組みの分析 利益構造の分析	収益性の分析、ROEの3分解、安全性の分析 損益分岐点分析にみる利益構造、内部経営分析としてのCVP分析
第14回	ゲストスピーカー講演	ビジネスパーソンの講演，質疑応答，議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後はテキスト各章末の問題について解答を作ることが求められる。章末問題は自分で考える問題が多いが，そのヒントは授業中に十分話したい。なお本授業の準備・復習時間は，合計で2時間程度は必要である。

【テキスト（教科書）】
谷武幸・桜井久勝他編『1からの会計（第2版）』中央経済社、2021年

【参考書】
近藤大輔『ビギナー原価計算』中央経済社，2020年
小山晃弘『ぶっちゃけ会計のことがまったくわかりません… YouTuber会計士がゆる～く教える会計「超」入門』飛鳥新社，2021年
谷武幸『エッセンシャル管理会計〈第4版〉』中央経済社、2022年

【成績評価の方法と基準】
①対面授業時の課題提出・発表・表彰（30％）
②対面授業の平常点（10％）
③対面授業時の質問・発言（10％）
④ゲストスピーカーへの事前質問・当日質問・感想（10％）
⑤確認テスト（10％）
⑥定期試験（30％）

【学生の意見等からの気づき】
グループごとに学生間で教え合い，議論するエッセンスを対面講義で実施することで，簿記・会計に関する理解を深めるだけでなく，ビジネスで不可欠であるコミュニケーション能力を身に着けて欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
対面授業の際は電卓を持参すること。

【その他の重要事項】
日商簿記3級程度の知識があれば良いが，まだ簿記の基礎を学習していない学生は「簿記入門Ⅰ」を並行履修して欲しい。
この科目履修後の会計関連専門科目として，『財務会計論』，『国際会計論』，『原価計算論』，『管理会計論』，『監査論』，『税務会計』，『経営分析論』『企業評価論』といった会計科目があげられる。

【Outline (in English)】
The purpose of this lecture is to understand financial accounting mainly. we learn basic analysis of financial statements. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2hours to understand the course content. Grading will be decided based on ① Assignment submission/presentation/awards during face-to-face classes (30%),②Attitude score for face-to-face classes (10%),③Questions and comments during face-to-face classes (10%), ④ Questions to guest speakers, questions on the day, and impressions (10%), ⑤Confirmation test (10%), ⑥Regular exam (30%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

会計学入門Ⅱ

近藤　大輔

専門入門科目200番台専門基礎科目B群　2～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］
営2年H～O

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
会計学入門Ⅱでは,会計学入門Ⅰの知識をもとに主に管理会計の入門的な内容について学ぶ。利益構造の分析や管理会計における原価管理といった手法についても学んでいく。この講義は，会計学総論的な入門講義であるといえる。

【到達目標】
管理会計の役割について理解して欲しい。意思決定，利益計画など管理会計手法についても一定の理解を得て欲しい。最終的には管理会計の基本的会計思考を身に着けて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
対面とオンデマンドの併用で行うことを予定しています。まずオンデマンド授業で説明を行い、例題等の問題も解いてもらいます。さらに会計に関する論点を共有し，課題を対面講義までに検討してきてもらいます。対面講義ではグループごとに課題を検討し，課題を提出してもらいます。そして，最も優秀な課題答案を表彰し，成績評価で加点します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験その資格案内、会計情報が読めるメリット
第2回	【講義】 意思決定	マネジメントコントロールと意思決定，差額原価
第3回	【議論・発表・表彰】 意思決定	マネジメントコントロールと意思決定，差額原価
第4回	【講義】 原価管理	PDCAサイクル，直接費，間接費
第5回	【議論・発表・表彰】 原価管理	PDCAサイクル，直接費，間接費
第6回	【講義】 設備投資計画	経済性計算の方法と資本コスト
第7回	【議論・発表・表彰】 設備投資計画	経済性計算の方法と資本コスト
第8回	【講義】 予算管理	予算差異分析
第9回	【議論・発表・表彰】 予算管理	予算差異分析
第10回	【講義】 原価企画	日本的管理会計，源流管理，PDCA，組織，VE
第11回	【議論・発表・表彰】 原価企画	日本的管理会計，源流管理，PDCA，組織，VE
第12回	【講義】 アメーバ経営	ミニ・プロフィットセンター，インタラクション
第13回	【議論・発表・表彰】 アメーバ経営	ミニ・プロフィットセンター，インタラクション
第14回	ゲストスピーカー講演	ビジネスパーソンの講演，質疑応答，議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後はテキスト各章末の問題について解答を作ることが求められる。章末問題は自分で考える問題が多いが，そのヒントは授業中に十分話したい。なお本授業の準備・復習時間は，合計で2時間程度は必要である。

【テキスト（教科書）】
谷武幸『エッセンシャル管理会計〈第４版〉』中央経済社、2022年

【参考書】
近藤大輔『ビギナー原価計算』中央経済社，2020年
谷武幸・桜井久勝他編『1からの会計（第2版）』中央経済社、2021年
小山晃弘『ぶっちゃけ会計のことがまったくわかりません… YouTuber会計士がゆる～く教える会計「超」入門』飛鳥新社，2021年

【成績評価の方法と基準】
①対面授業時の課題提出・発表・表彰（30％）
②対面授業の平常点（10％）
③対面授業時の質問・発言（10％）
④ゲストスピーカーへの事前質問・当日質問・感想（10％）
⑤確認テスト（10％）
⑥定期試験（30％）

【学生の意見等からの気づき】
グループごとに学生間で教え合い，議論するエッセンスを対面講義で実施することで，簿記・会計に関する理解を深めるだけでなく，ビジネスで不可欠であるコミュニケーション能力を身に着けて欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
対面授業の際は電卓を持参すること。

【その他の重要事項】
日商簿記３級程度の知識があれば良いが，まだ簿記の基礎を学習していない学生は「簿記入門Ⅰ」を並行履修して欲しい。
この科目履修後の会計関連専門科目として，『財務会計論』，『国際会計論』，『原価計算論』，『管理会計論』，『監査論』，『税務会計』，『経営分析論』『企業評価論』といった会計科目があげられる。

【Outline (in English)】
The purpose of this lecture is to understand management accounting mainly. we learn basic analysis of management accounting. Before /after each class meeting, students will be expected to spend 2hours to understand the course content. Grading will be decided based on ① Assignment submission/presentation/awards during face-to-face classes (30%),②Attitude score for face-to-face classes (10%),③Questions and comments during face-to-face classes (10%), ④ Questions to guest speakers, questions on the day, and impressions (10%), ⑤Confirmation test (10%), ⑥Regular exam (30%).

MAN200FB（経営学 / Management 200）

経営管理論Ⅰ（2018年度以前入学者）

中西　善信

専門基礎科目B群　2～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織のマネジメントの仕組みには，何らかの理由や意図がある。一方で，その仕組みが，意図しない副作用（逆機能）をもたらすことがある。

このようなマネジメントの理由や意図，並びに逆機能の多くは，経営管理論の各理論によって説明することが可能である。それらを理解することは，社会を生きる上で有用であろう。

そこでこの講義では，マネジメントの仕組みや行動の背景は何かについて学ぶ。

その際，可能な限り学生の日常生活（ゼミ活動，サークル，アルバイトなど）の実態を参照する。

なお，経営管理論I/IIのうち，経営管理論Iは，より基本的な内容を扱う。内容はそれぞれ独立だが，経営管理論IIと併せて履修することを推奨する。

【到達目標】

1. 経営管理の基本的な概念について，説明することができる。
2. 経営管理の仕組みと行動，並びにそれらの意図・機能・逆機能を，理論に関連付けて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

対面講義による（ただし，内容により，一部の回をオンラインに変更することがある）。

また，毎授業終了時に小レポートの提出を課す（解答の概要を，次回講義冒頭においてフィードバックする）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義概要・履修要件など
第2回	経営管理論とは	経営管理論とはどのような学問領域か
第3回	会社の役割と機能	社会における会社の役割
第4回	コーポレートガバナンス	会社は誰が動かしているのか
第5回	組織とは何か	組織を成立させる要素は何か
第6回	科学的管理法と管理過程論	経営管理のルーツ
第7回	人間関係論	ホーソン実験と非公式集団
第8回	モチベーション	人は何に，どのように動かされるのか
第9回	リーダーシップ	様々なリーダー像
第10回	グループダイナミクス	「三人寄れば文殊の知恵」か
第11回	組織安全	組織事故と安全文化
第12回	キャリア	仕事からみた人の生涯
第13回	人的資源管理	人に働いてもらうためのしくみ
第14回	まとめ	講義全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は，各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。
適宜資料を配布する。

【参考書】

高橋伸夫（編著）『よくわかる経営管理』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

各回提出の小レポート（100%）。
ただし，各回のウエイトを変えることがある。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用した資料配布や課題提出のため，これに対応可能な情報機器（パソコン等）が必要。

【関連科目】

経営管理論II，経営組織論，組織行動論等

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, we will learn the background of management systems and actions. Of the two, Business Management I deals with more basic topics.
[Learning objectives] Students can explain basic concepts of business management.
[Learning activities outside of classroom]
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy] Evaluated by papers submitted at each session (100%).

MAN200FB（経営学 / Management 200）

経営管理論Ⅱ（2018年度以前入学者）

中西　善信

専門基礎科目B群　2～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織のマネジメントの仕組みには，何らかの理由や意図がある。一方で，その仕組みが，意図しない副作用（逆機能）をもたらすことがある。

このようなマネジメントの理由や意図，並びに逆機能の多くは，経営管理論の各理論によって説明することが可能である。それらを理解することは，社会を生きる上で有用であろう。

そこでこの講義では，マネジメントの仕組みや行動の背景は何かについて学ぶ。

その際，可能な限り学生の日常生活（ゼミ活動，サークル，アルバイトなど）の実態を参照する。

なお，経営管理論I/IIのうち，経営管理論IIは，より高度な内容，実際の具体例等を扱う。内容はそれぞれ独立だが，経営管理論Iと併せて履修することを推奨する。

【到達目標】

1. 経営管理の基本的な概念について，説明することができる。
2. 経営管理の仕組みと行動，並びにそれらの意図・機能・逆機能を，理論に関連付けて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

対面講義による（ただし，内容により，一部の回をオンラインに変更することがある）。

また，毎授業終了時に小レポートの提出を課す（解答の概要を，次回講義冒頭においてフィードバックする）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義概要・履修要件など
第2回	官僚制組織	規則の体系としての組織
第3回	組織デザイン	分業と調整
第4回	コンティンジェンシー理論	環境や技術と組織構造のマッチング
第5回	経営戦略	組織の目標と活動の指針
第6回	組織文化	メンバーの行動に影響する見えない力
第7回	新制度派組織論	組織はなぜ似るのか
第8回	組織学習①	組織が学ぶとはどのようなことか
第9回	組織学習②	組織学習の課題・人のマネではだめなのか
第10回	イノベーション	なぜイノベーションは難しいのか
第11回	知識創造	アイディア創造と「場」
第12回	事例①	スリーエム社における知識創造
第13回	事例②	トヨタのサプライヤーチェーンにおける知識創造
第14回	まとめ	講義全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は，各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。
適宜資料を配布する。

【参考書】

高橋伸夫（編著）『よくわかる経営管理』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

各回提出の小レポート（100%）。
ただし，各回のウエイトを変えることがある。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用した資料配布や課題提出のため，これに対応可能な情報機器（パソコン等）が必要。

【関連科目】

経営管理論I，経営組織論，組織行動論等

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, we will learn the background of management systems and actions.　Of the two, Business Management II deals with more advanced topics.
[Learning objectives] Students can explain basic concepts of business management.
[Learning activities outside of classroom]
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy] Evaluated by papers submitted at each session (100%).

MAN200FB（経営学 / Management 200）

経営戦略論Ⅰ（2018年度以前入学者）

李　瑞雪

専門基礎科目B群　2～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、経営学における中核領域の一つである経営戦略論に関する概論的講義です。経営戦略論の基本的な理論や概念を理解するとともに、具体的な企業の取り組みとの関連について検討することを通じて、企業の戦略的行動を分析する能力を養います。

【到達目標】
主要な経営戦略に関する理論と概念を使って、現実の経営戦略を説明し、分析することができるようになることを、本講義の主たる到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
ある程度大人数となることが予想されるため、基本的には講義方式で行いますが、講義中で具体的なケースを用いた作業（小レポート、ディスカッションなど）を適宜行う予定です。事前に講義資料を学習支援システムにアップロードし予習を求めます。質問や発言等は講義中にも随時受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第１講　イントロダクション	講義内容の構成、戦略の定義、経営戦略の定義、経営ビジョンと経営戦略などの説明
第2回	第２講　プランニング・アプローチ（Ⅰ）	製品・市場ポートフォリオ、戦略的意思決定と業務的意思決定、成長ベクトル、シナジー、企業目標のヒエラルキー
第3回	第３講　プランニング・アプローチ（Ⅱ）	戦略策定の手順、SWOT分析、PPM、ビジネス・スクリーン、バランスド・スコアカード
第4回	第４講　ポジショニング・アプローチ（Ⅰ）	S-C-Pモデル（産業構造- 企業行動 - 経営業績モデル）、ファイブ・フォーセズ・モデル、ハーフィンダール指数、参入障壁
第5回	第５講　ポジショニング・アプローチ（Ⅱ）	PIMSモデル、戦略グループ、移動障壁
第6回	第６講　ポジショニング・アプローチ（Ⅲ）	産業構造と戦略的機会（前半）。集約・統合戦略、先行者優位、市場リーダーシップ戦略、ニッチ戦略、収穫戦略、撤退産業、勝者総取り戦略など
第7回	第７講　ポジショニング・アプローチ（Ⅳ）	産業構造と戦略的機会（後半）。ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ戦略、ﾏﾙﾁﾅｼｮﾅﾙ戦略、ﾄﾗﾝｽﾅｼｮﾅﾙ戦略、ﾃﾞﾌｧｸﾄ・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ戦略、勝者総取り戦略、先制破壊戦略、埋没コスト、破滅的競争など
第8回	第８講　リソース・ベース・アプローチ（Ⅰ）	経営資源、経営資源の異質性と固着性、VRIO分析フレームワーク、一時的競争優位と持続的競争優位
第9回	第９講　リソース・ベース・アプローチ（Ⅱ）	経営資源模倣困難の要因、経路依存性、社会的複雑性のある経営資源、経営資源保有のパラドックス、経営資源蓄積のメカニズム、戦略的意図、コア・コンピタンスの探究など
第10回	第１０講　ゲーム・アプローチ、コーピティション（Ⅰ）	価値相関図（バリュー・ネット）、「付加価値」の概念、競争と協調、顧客への「本質的サービス」の分析視点
第11回	第１１講　ゲーム・アプローチ、コーピティション（Ⅱ）	「価値」貢献度、明示的ルールと暗黙の認識、MFC条項とMCC条項、戦略的補完関係、意図的抑止（contrived deterrence）
第12回	第１２講　学習アプローチ、創発戦略（Ⅰ）	分析型・計画型アプローチとの違い、意図された戦略と実現された戦略、プロセス重視・学習重視、間接的戦略、帰納的戦略
第13回	第１３講　学習アプローチ、創発戦略（Ⅰ）	学習の「場」、実験による学習、「反省」の重視、ダイナミック・シナジ
第14回	第１４講　競争優位と一般戦略	競争優位とその累計、スタック・イン・ザ・ミドル、三つの一般戦略、見える差別化と見えざる差別化、垂直的差別化と水平的差別化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃に日本経済新聞、日経ビジネス、Bloomberg Businessweekなどの経済紙、ビジネス誌を読む習慣を身に着け、とりわけ企業の戦略的取り組みをめぐる記事や論説を読んで考えることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくにテキストを指定し購入を求めることはありません。事前に講義資料を学習支援システムにアップロードします。毎回の授業に先だって必ず該当する資料を予習してください。授業中は必ずしっかりとノートをとってください。

【参考書】
1）青島矢一・加藤俊彦『競争戦略論』有斐閣
2）沼上幹『経営戦略の思考法』日本経済新聞出版社
3）M.E.ポーター『競争の戦略』ダイヤモンド社
4）ジェイ・B・バーニー『企業戦略論』（上、中、下）ダイヤモンド社
5）G. サローナーほか『経営戦略論』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】
ディスカッション参加（＋α）、小レポートなど平常点（40%）、期末テスト（60%）、授業中の私語や携帯使用（－α）。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度を勘案しながら授業スピードを適宜調整するように心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
経営戦略論Ⅰと経営戦略論Ⅱは、一貫した講義構成になっているため、通年で履修することをお勧めします。とくに、秋学期（経営戦略論Ⅱ）のみの履修では、内容の理解において困難を伴う可能性があります。ご注意ください。主な関連科目として、戦略論入門、国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳ、日本経営論Ⅰ/Ⅱ、経営組織論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱなどが挙げられます。

【Outline (in English)】
This course is an basic lecture on strategic management which is one of the core areas in business administration. The main objectives include understanding the basic theories and concepts of strategic management and cultivating the ability to analyze strategic behaviors by reviewing some real cases related to companies.The final grade will be calculated according to the following process. Term-end examination: 60%, Short reports: 20%, and in-class contribution: 20%.The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

MAN200FB（経営学 / Management 200）

経営戦略論Ⅱ（2018年度以前入学者）

李　瑞雪

専門基礎科目B群　2～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、経営学における中核領域の一つである経営戦略論に関する概論的講義です。経営戦略論の基本的な理論や概念を理解するとともに、具体的な企業の取り組みとの関連について検討することを通じて、企業の戦略的行動を分析する能力を養います。

【到達目標】
主要な経営戦略に関する理論と概念を使って、現実の経営戦略を説明し、分析することができるようになることを、本講義の主たる到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
秋学期は対面授業を実施する予定です。状況によってオンライン開催を余儀なくされる場合は，講義形式などの詳細について学習支援システムを通じて適宜提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第１講　イントロダクション、一般戦略	春学期（経営戦略論Ⅰ）の内容の復習、秋学期講義内容の構成、3つの一般戦略と競争優位
第2回	第２講　ゲームアプローチ	価値相関図（バリュー・ネット）、戦略的補完関係、「付加価値」と価値貢献度、競争と協調、顧客への「本質的サービス」、明示的ルールと暗黙の認識、MFC条項とMCC条項、意図的抑止
第3回	第３講　学習アプローチと創発戦略	意図された戦略と実現された戦略、プロセス重視・学習重視、間接的戦略、帰納的戦略、学習の「場」、実験と「反省」による学習、ダイナミック・シナジ
第4回	第４講　競争優位の持続可能性	隔離メカニズム、強みの源泉の専有化、経営資源の不確実性、暗黙知と形式知、強みの累積、先手の連鎖、戦略フィット、活動システム、柔道ストラテジー
第5回	第５講　ネットワーク外部性と競争優位	ネットワーク外部性、互換性、デファクト・スタンダード獲得戦略（クローズド戦略とオープン戦略）、クリティカル・マス、プラットフォーム戦略
第6回	第６講　イノベーションと競争優位	イノベーションの定義と分類、イノベーションの特徴とそのマネジメント、イノベーションと競争優位との関係、イノベーションのジレンマ、「死の谷（デスバレー）」、知的財産戦略（イノベーションの収益化）、ｵｰﾌﾟﾝ・ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ、ﾘﾊﾞｰｽ・ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ、ﾌﾙｰｶﾞﾙ・ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ
第7回	第７講　吸収合併（M&A）	M&Aの類型、戦略的関連性の源泉、M&A戦略の動機、M&A戦略と企業パフォーマンス、ビディング企業の経営者の規範、ターゲット企業の経営者の原則、ターゲット企業の行動、ターゲット企業の対抗策
第8回	第８講　戦略的提携	戦略的提携の定義と形態、戦略提携と業務提携、戦略的提携と業界構造、戦略的提携の動機、提携におけるリスク、アウトソーシング
第9回	第９講　垂直統合と競争優位	垂直方向の事業展開、垂直統合度、Make or Buyの意思決定、第３の取引形態、取引統治メカニズムの類型（スポット市場契約やクランなど）、垂直統合と持続的競争優位との関係、垂直統合のための組織
第10回	第１０講　サプライチェーンマネジメント（SCM）の戦略	SCMの定義、サプライチェーンのプロセス（SCORモデル）、プロセス統合、企業の競争基盤とサプライチェーンの貢献、SCM戦略の構成要素、制約理論（TOC）、投機と延期
第11回	第１１講　調達戦略	調達戦略の多様な目標、TCOの最小化、調達方式の4類型、調達戦略のマトリクス、調達プロセスの基本原則、調達戦略と企業間コラボレーション
第12回	第１２講　製造戦略と生産プロセス	ETO、MTO、ATO、MTO、ジョブショップ、バッチフロー、ライン・フロー、連続フロー、製品・工程マトリックス、製品・工程ライフサイクルと生産性ジレンマ、マスカスタマイゼーション、リーン生産システム
第13回	第１３講　ロジスティクス戦略と競争優位	スピードの経済とロジスティクス戦略、ロジスティクス戦略の類型、ジャストインタイムの物流、サードパーティ・ロジスティクス（3PL）、共同物流
第14回	第１４講　秋学期の内容のまとめ	1回目から13回目までの授業内容のまとめ・総括。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃に日本経済新聞、日経ビジネス、Bloomberg Businessweekなどの経済紙、ビジネス誌を読む習慣を身に着け、とりわけ企業の戦略的取り組みをめぐる記事や論説を読んで考えることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくにテキストを指定し購入を求めることはありません。事前に講義資料とリーディング資料を授業支援システムにアップロードします。毎回の授業に先だって必ず該当する資料を予習しておいてください。授業中は必ずしっかりとノートをとってください。

【参考書】
1）青島矢一・加藤俊彦『競争戦略論』有斐閣
2）沼上幹『経営戦略の思考法』日本経済新聞出版社
3）M.E.ポーター『競争の戦略』ダイヤモンド社
4）ジェイ・B・バーニー『企業戦略論』（上、中、下）ダイヤモンド社
5）G．サローナーほか『経営戦略論』東洋経済新報社
6）デビッド・コリス＆シンシア・モンゴメリー『資源ベースの経営戦略論』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】
「平常点」20％，「小テスト」30％，「期末テスト」50％

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度を勘案しながら授業スピードを適宜調整するように心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
経営戦略論Ⅰと経営戦略論Ⅱは、一貫した講義構成になっているため、通年で履修することをお勧めします。主な関連科目として、戦略論入門、国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、日本の物流と企業経営、経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳ、日本経営論Ⅰ/Ⅱ、経営組織論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱなどが挙げられます。

【Outline (in English)】
This course is a basic lecture on strategic management which is one of the core areas in business administration. The main objectives include understanding the basic theories and concepts of strategic management and cultivating the ability to analyze strategic behaviors by reviewing some real cases related to companies. Students will be expected to have read the relevant chapters from the references and other materials suggested by the teacher before each class meeting. The final grade will be calculated according to the following process. Term-end examination: 50%, Short reports: 30%, and in-class contribution: 20%.The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

マーケティング論Ⅰ（2018年度以前入学者）

岡田　庄生

専門基礎科目B群　2～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、マーケティングの中心的な概念である、マーケティング・マネジメントについて学びます。具体的には、企業の事例をもとに、マーケティングの普遍的な理論（STPや4Pなど）や新しい潮流（デジタルやサステナビリティなど）を幅広く扱います。なお、マーケティング・マネジメント論Ⅰ（春学期）は伝統的なマーケティングについて、マーケティング・マネジメント論Ⅱ（秋学期）はデジタル時代のマーケティングについて学びます。両方を学ぶことで、マーケティング・マネジメントに対する深い理解を得ることができます。

【到達目標】
① マーケティング・マネジメントの全体像を俯瞰して捉えるとともに、各領域の専門的な知識を習得し、自ら説明できるようになる
② 毎回の授業での課題や学期末テストに取り組むことにより、マーケティング・マネジメントの基本的なフレームの活用方法を身につけることができる
③ 日々の暮らしや買い物をマーケティング視点で過ごすことにより、経営や市場に対する情報感度を強化する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」と「DP-5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
この授業は1回目はオンラインで、2回目以降は対面で実施します。
1回目に授業の詳細をお伝えしますので、必ず参加してください。
①授業中：講師より教科書に基づいて講義を行います。また、授業中に簡単なクイズに回答します。その場で回答結果を共有しながら学習を深めていく、双方向型の授業を行います
②授業後：毎回の授業に関連する課題を授業の最後に提示しますので、期日までに提出してください。また、授業に対する感想や質問も合わせて回収し、重要な内容については次回の授業にてフィードバックを行います
③学期末テスト：授業で学んだ重要な概念やキーワードなどに関連した質問に答えるテストを行います。テストの詳細は授業の中で説明します

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	・マーケティング・マネジメントとは何か ・授業の進め方や評価方法について
第2回	マーケティングの基礎概念	マーケティング・マネジメントの基本概念と市場環境分析
第3回	ゲスト講師：マーケティングの現場より	最前線でマーケティングを行なっている実務家による講義
第4回	製品のマネジメント	製品開発のプロセスと製品ライフサイクル
第5回	価格のマネジメント	価格設定の考え方と適正価格の調査方法
第6回	広告のマネジメント	広告コミュニケーションによる市場創造
第7回	チャネルのマネジメント	メーカーによるチャネルの選択と管理
第8回	サプライチェーンのマネジメント	在庫管理と安定供給
第9回	営業のマネジメント	営業活動の基礎知識と市場活性化
第10回	顧客のマネジメント	カスタマーリレーションシップ
第11回	ブランド構築のマネジメント	ブランド構築の基礎概念
第12回	顧客理解のマネジメント	顧客インサイトとマーケティングリサーチ
第13回	社会責任のマネジメント	企業における社会的責任の重要性
第14回	クラス内テスト	・学期末テストの実施と解説 ・コース全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業後に、関連する課題に取り組んで頂きます。
また、教科書の該当章を読み、学習内容を復習することを推奨します。
この授業の標準的な予習・復習時間はそれぞれ2時間です。
上記以外に、学期末テストの準備があります。
学期末テストは授業および教科書の内容が出題範囲です。
テストの詳細は授業内に説明します。

【テキスト（教科書）】
石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著『1からのマーケティング 第4版』碩学舎（2019年）
大学生協にて、電子テキスト版（税別生協定価2,000円）を購入することをお勧めします。
電子テキスト版は、法政大学生協のホームページから購入してください。
以下のページよりご確認お願いします。
https://www.univcoop.jp/hosei/order/order_66.html

電子テキスト版を大学生協で購入後、以下の法政大学専用のURLからログインすることで、電子テキスト（EDX UniText）を利用することができます。
https://app.d-text-service.jp/browser/start?uneidantai_ryakugo=UC&soshiki_cd=10035
大学生協での購入に加えて、オンラインでの登録が必要ですので、早めに購入してください。
なお、紙版（税別定価2,400円）を選ぶことも可能です。
詳細は初回の授業にて説明します。

【参考書】
フィリップ・コトラー、ケビン・レーン・ケラー、アレクサンダー・チェルネフ著、恩藏直人監修・翻訳『コトラー&ケラー&チェルネフ マーケティング・マネジメント』丸善出版(2022年)
恩藏直人、 坂下玄哲編『マーケティングの力: 最重要概念・理論枠組み集』有斐閣（2023年）

【成績評価の方法と基準】
1.授業中の課題：30%
2.授業後の課題：30%
3.学期末テスト：40%
上記に加えて、課題等でのコメントが授業で取り上げられた場合には加点があります。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更により、特にありません

【学生が準備すべき機器他】
授業中課題に対応するため、スマートフォンではなくノートPCやタブレットを持参してください。

【その他の重要事項】
本講座は、他のマーケティング系の専門科目の基盤となる講座です。そのため、他のマーケティング系の科目（消費者行動論、マーケティング・リサーチ論、サービス・マネジメント論、流通論、製品開発論等）の履修を予定している学生や、マーケティング関連のゼミに所属したいと考えている学生は、早い段階での履修をお勧めします。
本講座は、広告会社およびコンサルティング会社にてマーケティング分野で20年間の実務経験を持つ教員が担当します。教科書を用いた理論的な解説に加えて、実務での実例を交えて、マーケティングの世界を幅広く紹介します。

【関連科目】
・マーケティング入門
・マーケティング・リサーチ論I/II
・消費者行動論I/II
・流通論I/II
・サービス・マネジメント論I/II
・製品開発論I/II

【Outline (in English)】
Course outline
In this lecture, you will learn about marketing management, a core concept of marketing. Specifically, we will cover a wide range of universal marketing theories (such as STP and the 4Ps) and new trends (such as digital and sustainability) based on case studies of companies. Marketing Management I (Spring Semester) covers traditional marketing, while Marketing Management II (Fall Semester) covers marketing in the digital age. By studying both, you will gain a deep understanding of marketing management.
Learning Objectives
1.Gain a comprehensive understanding of marketing management, acquire specialized knowledge in key areas, and develop the ability to explain these concepts independently.
2.Learn to apply the fundamental frameworks of marketing management by completing class assignments and preparing for the end-of-term test.
3.Enhance your sensitivity to management and market-related information by adopting a marketing perspective in your daily life and shopping habits.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy

1. In-class assignments: 30%
2. Post-class assignments: 30%
3. End-of-term test: 40%

MAN200FA（経営学 / Management 200）

マーケティング論Ⅱ（2018年度以前入学者）

岡田　庄生

専門基礎科目B群　2～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、マーケティングの中心的な概念である、マーケティング・マネジメントについて学びます。具体的には、企業の事例をもとに、マーケティングの普遍的な理論（STPや4Pなど）や新しい潮流（デジタルやサステナビリティなど）を幅広く扱います。なお、マーケティング・マネジメント論Ⅰ（春学期）は伝統的なマーケティングについて、マーケティング・マネジメント論Ⅱ（秋学期）はデジタル時代のマーケティングについて学びます。両方を学ぶことで、マーケティング・マネジメントに対する深い理解を得ることができます。

【到達目標】
① マーケティング・マネジメントの全体像を俯瞰して捉えるとともに、各領域の専門的な知識を習得し、自ら説明できるようになる
② 毎回の授業での課題や学期末テストに取り組むことにより、マーケティング・マネジメントの基本的なフレームの活用方法を身につけることができる
③ 日々の暮らしや買い物をマーケティング視点で過ごすことにより、経営や市場に対する情報感度を強化する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」と「DP-5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
この授業は1回目はオンラインで、2回目以降は対面で実施します。
1回目に授業の詳細をお伝えしますので、必ず参加してください。
①授業中：講師より教科書に基づいて講義を行います。また、授業中に簡単なクイズに回答します。その場で回答結果を共有しながら学習を深めていく、双方向型の授業を行います
②授業後：毎回の授業に関連する課題を授業の最後に提示しますので、期日までに提出してください。また、授業に対する感想や質問も合わせて回収し、重要な内容については次回の授業にてフィードバックを行います
③学期末テスト：授業で学んだ重要な概念やキーワードなどに関連した質問に答えるテストを行います。テストの詳細は授業の中で説明します

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	・デジタル時代のマーケティングとは何か ・授業の進め方や評価方法について
第2回	デジタル社会の消費者行動	カスタマージャーニーやデジタルリテラシーについて
第3回	ゲスト講師：マーケティングの現場より	最前線でマーケティングを行なっている実務家による講義
第4回	デジタル・マーケティングの基本概念	顧客との協働、マーケティングミックス
第5回	デジタル時代の製品戦略：基本	デジタル材、IoTについて
第6回	デジタル時代の製品戦略：拡張	ユーザーイノベーションの活用
第7回	デジタル時代の価格戦略：基本	ダイナミックプライシング
第8回	デジタル時代の価格戦略：拡張	消費者間取引と価格、電子決済
第9回	デジタル時代のチャネル戦略：基本	ダイレクトモデル、オムニチャネル
第10回	デジタル時代のチャネル戦略：拡張	シェアリングエコノミー
第11回	デジタル時代のプロモーション戦略：基本	デジタルプロモーション戦略
第12回	デジタル時代のプロモーション戦略：拡張	口コミや格付けの影響力
第13回	デジタル社会のリサーチ	探索的調査と検証的調査
第14回	クラス内テスト	・学期末テストの実施と解説 ・コース全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業後に、関連する課題に取り組んで頂きます。
また、教科書の該当章を読み、学習内容を復習することを推奨します。
この授業の標準的な予習・復習時間はそれぞれ2時間です。
上記以外に、学期末テストの準備があります。
学期末テストは授業および教科書の内容が出題範囲です。
テストの詳細は授業内に説明します。

【テキスト（教科書）】
西川英彦・澁谷覚編著『1からのデジタルマーケティング』碩学舎（2019年）
大学生協にて、電子テキスト版（税別生協定価2,000円）を購入することをお勧めします。
電子テキスト版は、法政大学生協のホームページから購入してください。
以下のページよりご確認お願いします。
https://www.univcoop.jp/hosei/order/order_66.html

電子テキスト版を大学生協で購入後、以下の法政大学専用のURLからログインすることで、電子テキスト（EDX UniText）を利用することができます。
https://app.d-text-service.jp/browser/start?uneidantai_ryakugo=UC&soshiki_cd=10035
大学生協での購入に加えて、オンラインでの登録が必要ですので、早めに購入してください。
なお、紙版（税別定価2,400円）を選ぶことも可能です。
詳細は初回の授業にて説明します。

【参考書】
フィリップ・コトラー、ケビン・レーン・ケラー、アレクサンダー・チェルネフ著、恩藏直人監修・翻訳『コトラー&ケラー&チェルネフ マーケティング・マネジメント』丸善出版(2022年)
恩藏直人、坂下玄哲編『マーケティングの力: 最重要概念・理論枠組み集』有斐閣（2023年）

【成績評価の方法と基準】
1.授業中の課題：30%
2.授業後の課題：30%
3.学期末テスト：40%
上記に加えて、課題等でのコメントが授業で取り上げられた場合には加点があります。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更により、特にありません

【学生が準備すべき機器他】
授業中課題に対応するため、スマートフォンではなくノートPCやタブレットを持参してください。

【その他の重要事項】
本講座は、他のマーケティング系の専門科目の基盤となる講座です。そのため、他のマーケティング系の科目（消費者行動論、マーケティング・リサーチ論、サービス・マネジメント論、流通論、製品開発論等）の履修を予定している学生や、マーケティング関連のゼミに所属したいと考えている学生は、早い段階での履修をお勧めします。
本講座は、広告会社およびコンサルティング会社にてマーケティング分野で20年間の実務経験を持つ教員が担当します。教科書を用いた理論的な解説に加えて、実務での実例を交えて、マーケティングの世界を幅広く紹介します。

【関連科目】
・マーケティング入門
・マーケティング・リサーチ論I/II
・消費者行動論I/II
・流通論I/II
・サービス・マネジメント論I/II
・製品開発論I/II

【Outline (in English)】
Course outline
In this lecture, you will learn about marketing management, a core concept of marketing. Specifically, we will cover a wide range of universal marketing theories (such as STP and the 4Ps) and new trends (such as digital and sustainability) based on case studies of companies. Marketing Management I (Spring Semester) covers traditional marketing, while Marketing Management II (Fall Semester) covers marketing in the digital age. By studying both, you will gain a deep understanding of marketing management.
Learning Objectives
1.Gain a comprehensive understanding of marketing management, acquire specialized knowledge in key areas, and develop the ability to explain these concepts independently.
2.Learn to apply the fundamental frameworks of marketing management by completing class assignments and preparing for the end-of-term test.
3.Enhance your sensitivity to management and market-related information by adopting a marketing perspective in your daily life and shopping habits.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy
1. In-class assignments: 30%

2. Post-class assignments: 30%
3. End-of-term test: 40%

ECN200FA（経済学 / Economics 200）

金融論Ⅰ（2018年度以前入学者）

片桐　満

専門基礎科目B群　2～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
投資やお金に関して学ぶことは、将来、社会で生きていくために必須の知識になりつつあります。また、金融業界への就職やフィナンシャルプランナーなど金融に関する資格の取得を考えている学生はもちろん、金融以外の業種で働く人たちも、仕事を進めていく上で金融に関する様々な知識が求められます。このコースでは、投資やお金について、個人が生活していく上で必要な金融の知識や、経済における金融機関の役割など、金融論の基礎を学びます（秋学期の後半部分では、こうした金融の基礎知識を前提として、金融政策など金融に関わる政策や、財政や税金の仕組みなど、金融の公的側面について学びます）。

【到達目標】
このコースでは、金融理論が、個々人の生活や社会に出てからビジネスにおいてどのように役立つのか、という実務的な視点を重視します。実務と理論のつながりを理解し、金融に関する課題について、自分なりの解決方法が見いだすことができるだけの十分な知識を身につけることが、このコースの到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
テキストは指定せず、毎回、スライドに基づいた授業を行います。特に、実務とのつながりを重視する観点から、授業と関連する新聞や雑誌の記事を紹介し、授業の内容と関連付けながら解説します。本コースは、オンデマンド方式によるオンライン授業です。毎回、視聴を確認するためのリアクションペーパーの提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	金融論Ⅰの概要	金融論Ⅰで学ぶ内容を概観します。
第2回	債券と株式	債券・株式に関する基礎的な内容について概観します。
第3回	企業の資本調達	株式や借り入れなど、企業の資金調達手段の選択について解説します。
第4回	資産価格の決定１	効用関数やリスク・リターンの概念について学びます。
第5回	資産価格の決定２	CAPMやファクターモデルなど、資産価格（＝株価）の決定理論を学びます。
第6回	先物とオプション	デリバティブの仕組みと金融市場での役割について解説します。
第7回	間接金融の役割	金融機関を介した金融仲介について、金融市場との違いを中心に学びます。
第8回	金融仲介機関（銀行）	銀行を中心として、金融仲介機関が間接金融で果たす役割を学びます。
第9回	投資信託と保険	銀行以外の金融仲介機関である投資信託と保険について学びます。
第10回	住宅ローンと不動産	家計にとって身近な不動産と住宅ローンについて学びます。
第11回	ESG投資	ESG投資の概要と、その重要性について解説します。
第12回	起業とベンチャーキャピタル	起業における金融機関の役割を学びます。
第13回	金融のグローバル化	海外投資の現状と為替レートについて学びます。
第14回	為替レートの決定	為替レートの決定理論として、購買力平価と金利平価について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。復習では、以下に挙げる参考文献のほか、関連する新聞や雑誌の記事を読むなど、実務的な観点から学んだ内容をどう活かすかについて考えてください。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。

【参考書】
参考文献として、以下の教科書を参照します。
・田中茉莉子「金融論への招待」（新世社）
・内田浩史「金融」（有斐閣）
・J. Berk and P. DeMarzo「コーポレートファイナンス 入門編 第2版」（丸善出版）

【成績評価の方法と基準】
評価は、期末試験（100％）に基づいて決定します。リアクションペーパーは提出することを前提とし、提出しなかったり、視聴したと思えないほど内容が酷かったりした場合、テストの点から減点していきます。

【学生の意見等からの気づき】
期末試験だけではなく、授業への参加度を評価に加えて欲しいという要望があったため、リアクションペーパーの提出を求めることにしました。

【学生が準備すべき機器他】
教材の共有のため学習支援システムを利用します。オンデマンドの映像教材も含まれるため、通信環境の確保をお願いします。

【その他の重要事項】
・春学期・秋学期の金融論Ⅰ/Ⅱを連続で履修することを推奨します。
・日本銀行や国際通貨基金（IMF）において、金融の実務に15年程度かかわりました。そうした経験から、いかに金融理論を実務的な問題解決に役立てるかを伝えられればと思います。

【関連科目】
「ファイナンス入門」を受講していることが望ましいです（必須ではありません）。そのほか、コーポレートファイナンスⅠ／Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ／Ⅱ、国際金融論Ⅰ／Ⅱと関連しています。

【Outline (in English)】
Learning about investments and money is becoming essential knowledge for future life in society. In addition, students who wish to work in the financial industry after graduation, as well as those who work in non-financial industries, are required to have a variety of knowledge about finance in order to carry out their work. In this course, students will learn the basics of financial theory necessary for individuals to live their lives, as well as the role of financial institutions in the economy. (In the latter part of the fall semester, based on this basic knowledge of finance, students will learn about policies related to finance, such as monetary policy, and the public sector of finance, including fiscal and tax systems). The goal of this course is for students to understand the connection between practice and theory and to acquire sufficient knowledge to be able to find their own solutions to financial problems. After the class, students are expected to review what they learned in class and read articles in newspapers and magazines related to the lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. The grades are based on the final exam (100%). If a reaction paper is of extremely low quality or not submitted, the student's final exam score will be reduced.

ECN200FA（経済学 / Economics 200）

金融論Ⅱ（2018年度以前入学者）

片桐　満

専門基礎科目B群　2～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
投資やお金に関して学ぶことは、将来、社会で生きていくために必須の知識になりつつあります。また、金融業界への就職やフィナンシャルプランナーなど金融に関する資格の取得を考えている学生はもちろん、金融以外の業種で働く人たちも、仕事を進めていく上で金融に関する様々な知識が求められます。このコースでは、春学期の金融論Ⅰで学んだ金融の基礎知識を前提として、金融政策や金融規制など金融に関わる政策や、財政の仕組み（年金、社会保険、税金など）について学びます。

【到達目標】
このコースでは、金融理論が個々人の生活や社会に出てからのビジネスにおいてどのように役立つのか、という実務的な視点を重視します。実務と理論のつながりを理解し、金融に関するビジネス上の課題について、自分なりの解決方法が見いだせるだけの十分な知識を身につけることが、このコースの到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
特にテキストは指定せず、毎回、スライドに基づいた授業を行います。また、実務とのつながりを重視する観点から、授業と関連する新聞や雑誌の記事を紹介し、授業の内容と関連付けながら解説します。本コースは、オンデマンド方式でのオンライン授業です。毎回、視聴を確認するためのリアクションペーパーの提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	金融論Ⅱの概要	金融政策や金融規制、財政の仕組みなど、金融論Ⅱを概観します。
第2回	貨幣と金融政策	金融論における貨幣の定義と金融政策との関係（貨幣数量説）を学びます。
第3回	金融政策の効果	金融政策が、経済活動やインフレ率に影響する仕組みを学びます。
第4回	金融政策の手段	伝統的な金融政策の基本となる金融調節と短期金融市場について学びます。
第5回	金融政策の運営	金融政策がどう決定されているか（されるべきか）を学びます。
第6回	非伝統的金融政策	量的緩和など、新しい金融政策の枠組みについて学びます。
第7回	財政１：税の仕組み	生活やビジネスで必須となる様々な税の仕組みを学びます。
第8回	財政２：年金と社会保険	個人の資金計画で重要な年金と社会保険（介護、医療など）を学びます。
第9回	財政と金融政策	国債発行と財政インフレを中心に、金融政策と財政の関係を学びます。
第10回	金融のデジタル化	電子マネーや暗号資産、中央銀行デジタル通貨（CBDC）等について学びます。
第11回	為替市場と通貨危機	為替介入や通貨危機の原因・帰結について学びます。
第12回	金融危機の発生と影響	金融危機の発生メカニズムとその影響について学びます。
第13回	事後のﾌﾟﾙｰﾃﾞﾝｽ政策	金融危機への政策対応として、銀行の破綻処理などについて学びます。
第14回	事前のﾌﾟﾙｰﾃﾞﾝｽ政策	金融危機を未然に防ぐ政策として、自己資本比率規制などを学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。復習では、以下に挙げる参考文献のほか、関連ある新聞や雑誌の記事を読むなど、実務的な観点から学んだ内容をどう活かすかについて考えてください。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。

【参考書】
参考文献として、以下の教科書を参照します。
・田中茉莉子「金融論への招待」（新世社）
・内田浩史「金融」（有斐閣）
・白塚重典「金融政策 理論と実践」（慶応大学出版会）
・白川方明「中央銀行―セントラルバンカーの経験した３９年」（東洋経済新報社）
・土居丈朗 「入門 財政学［第２版］」（日本評論社）

【成績評価の方法と基準】
評価は、期末試験（100 %）に基づいて決定します。リアクションペーパーは提出することを前提とし、提出しなかったり、視聴したとは思えないほど内容が著しく酷かったりした場合、テストの点から減点していきます。

【学生の意見等からの気づき】
期末試験だけではなく、授業への参加度を評価に加えて欲しいという要望があったため、リアクションペーパーの提出を求めることにしました。

【学生が準備すべき機器他】
教材の共有のため学習支援システムを利用します。オンデマンドの映像教材も含まれるため、通信環境の確保をお願いします。

【その他の重要事項】
・春学期・秋学期の金融論Ⅰ/Ⅱを連続で履修することを推奨します。
・日本銀行や国際通貨基金（IMF）において、金融の実務に15年程度かかわりました。そうした経験から、いかに金融理論を実務的な問題解決に役立てるかを伝えられればと思います。

【関連科目】
ミクロ経済学、マクロ経済学が関連科目ですが、事前履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】
Financial economics is essential knowledge for businesspersons in any industry. In this class, students study introductory financial economics such as the role of financial markets and financial institutions in the spring term and then learn about public policy including monetary policy and financial regulations in the fall term. The goal of this class is to acquire sufficient knowledge about financial economics for resolving business challenges. After the class, students are expected to review what they learned in class and read articles in newspapers and magazines related to the lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. The grades are based on the final exam (100%). If a reaction paper is of extremely low quality or not submitted, the student's final exam score will be reduced.

MAN200FB（経営学 / Management 200）

経営管理論Ⅰ（2019年度以降入学者）

中西　善信

経営学科専門科目200番台　2～4（経営学科）3～4（経営戦略学科・市場経営学科）年次／2単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織のマネジメントの仕組みには，何らかの理由や意図がある。一方で，その仕組みが，意図しない副作用（逆機能）をもたらすことがある。
このようなマネジメントの理由や意図，並びに逆機能の多くは，経営管理論の各理論によって説明することが可能である。それらを理解することは，社会を生きる上で有用であろう。
そこでこの講義では，マネジメントの仕組みや行動の背景は何かについて学ぶ。
その際，可能な限り学生の日常生活（ゼミ活動，サークル，アルバイトなど）の実態を参照する。
なお，経営管理論I/IIのうち，経営管理論Iは，より基本的な内容を扱う。内容はそれぞれ独立だが，経営管理論IIと併せて履修することを推奨する。

【到達目標】
1. 経営管理の基本的な概念について，説明することができる。
2. 経営管理の仕組みと行動，並びにそれらの意図・機能・逆機能を，理論に関連付けて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
対面講義による（ただし，内容により，一部の回をオンラインに変更することがある）。
また，毎授業終了時に小レポートの提出を課す（解答の概要を，次回講義冒頭においてフィードバックする）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義概要・履修要件など
第2回	経営管理論とは	経営管理論とはどのような学問領域か
第3回	会社の役割と機能	社会における会社の役割
第4回	コーポレートガバナンス	会社は誰が動かしているのか
第5回	組織とは何か	組織を成立させる要素は何か
第6回	科学的管理法と管理過程論	経営管理のルーツ
第7回	人間関係論	ホーソン実験と非公式集団
第8回	モチベーション	人は何に，どのように動かされるのか
第9回	リーダーシップ	様々なリーダー像
第10回	グループダイナミクス	「三人寄れば文殊の知恵」か
第11回	組織安全	組織事故と安全文化
第12回	キャリア	仕事からみた人の生涯
第13回	人的資源管理	人に働いてもらうためのしくみ
第14回	まとめ	講義全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は，各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。
適宜資料を配布する。

【参考書】
高橋伸夫（編著）『よくわかる経営管理』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
各回提出の小レポート（100%）。
ただし，各回のウエイトを変えることがある。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用した資料配布や課題提出のため，これに対応可能な情報機器（パソコン等）が必要。

【関連科目】
経営管理論II，経営組織論，組織行動論等

【Outline (in English)】
[Course outline] In this course, we will learn the background of management systems and actions.　Of the two, Business Management I deals with more basic topics.
[Learning objectives] Students can explain basic concepts of business management.
[Learning activities outside of classroom]
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy] Evaluated by papers submitted at each session (100%).

MAN200FB（経営学 / Management 200）

経営管理論Ⅱ（2019年度以降入学者）

中西　善信

経営学科専門科目200番台　2～4（経営学科）3～4（経営戦略学科・市場経営学科）年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織のマネジメントの仕組みには，何らかの理由や意図がある。一方で，その仕組みが，意図しない副作用（逆機能）をもたらすことがある。
このようなマネジメントの理由や意図，並びに逆機能の多くは，経営管理論の各理論によって説明することが可能である。それらを理解することは，社会を生きる上で有用であろう。
そこでこの講義では，マネジメントの仕組みや行動の背景は何かについて学ぶ。
その際，可能な限り学生の日常生活（ゼミ活動，サークル，アルバイトなど）の実態を参照する。
なお，経営管理論I/IIのうち，経営管理論IIは，より高度な内容，実際の具体例等を扱う。内容はそれぞれ独立だが，経営管理論Iと併せて履修することを推奨する。

【到達目標】
1. 経営管理の基本的な概念について，説明することができる。
2. 経営管理の仕組みと行動，並びにそれらの意図・機能・逆機能を，理論に関連付けて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
対面講義による（ただし，内容により，一部の回をオンラインに変更することがある）。
また，毎授業終了時に小レポートの提出を課す（解答の概要を，次回講義冒頭においてフィードバックする）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義概要・履修要件など
第2回	官僚制組織	規則の体系としての組織
第3回	組織デザイン	分業と調整
第4回	コンティンジェンシー理論	環境や技術と組織構造のマッチング
第5回	経営戦略	組織の目標と活動の指針
第6回	組織文化	メンバーの行動に影響する見えない力
第7回	新制度派組織論	組織はなぜ似るのか
第8回	組織学習①	組織が学ぶとはどのようなことか
第9回	組織学習②	組織学習の課題・人のマネではだめなのか
第10回	イノベーション	なぜイノベーションは難しいのか
第11回	知識創造	アイディア創造と「場」
第12回	事例①	スリーエム社における知識創造
第13回	事例②	トヨタのサプライヤーチェーンにおける知識創造
第14回	まとめ	講義全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は，各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。
適宜資料を配布する。

【参考書】
高橋伸夫（編著）『よくわかる経営管理』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
各回提出の小レポート（100%）。
ただし，各回のウエイトを変えることがある。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用した資料配布や課題提出のため，これに対応可能な情報機器（パソコン等）が必要。

【関連科目】
経営管理論I，経営組織論，組織行動論等

【Outline (in English)】
[Course outline] In this course, we will learn the background of management systems and actions. Of the two, Business Management II deals with more advanced topics.
[Learning objectives] Students can explain basic concepts of business management.
[Learning activities outside of classroom]
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy] Evaluated by papers submitted at each session (100%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

検定会計Ⅰ（2019年度以降入学者）

近藤　大輔

経営学科専門科目200番台　2～4（経営学科）3～4（経営戦略学科・市場経営学科）年次／2単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ビジネスの言語と言われている「簿記」の基本的事項を学ぶ。簿記の学習は、将来、会計の分野を学習するときの基礎となるもので、経営学部の学生は早い段階でマスターすべき内容である。簿記の2級の試験を目指して学習することも1つのやり方です。

【到達目標】
検定会計Ⅰ・Ⅱの授業内容を理解することによって、日商簿記検定2級の出題範囲の内容が理解できるようになります。到達目標はその検定試験に合格できる力，会計および関連するビジネスに関する論点を議論する力を身に着けることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
対面とオンデマンドの併用で行うことを予定しています。まずオンデマンド授業で説明を行い、例題等の問題も解いてもらいます。さらに簿記および会計に関する論点を共有し，課題を対面講義までに検討してきてもらいます。対面講義ではグループごとに課題を検討し，課題を提出してもらいます。そして，最も優秀な課題答案を表彰し，成績評価で加点します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験その資格案内、会計情報が読めるメリット
第2回	【講義】 簿記一巡，財務諸表 現金・預金	貸借対照表・損益計算書 銀行勘定調整表など
第3回	【議論・発表・表彰】 簿記一巡，財務諸表 現金・預金	貸借対照表・損益計算書 銀行勘定調整表など
第4回	【講義】 債権・債務 有価証券	クレジット売掛金など 有価証券の範囲，分類など
第5回	【議論・発表・表彰】 債権・債務 有価証券	クレジット売掛金など 有価証券の範囲，分類など
第6回	【講義】 有形固定資産Ⅰ 有形固定資産Ⅱ	有形固定資産の購入，売却など 割賦購入など
第7回	【議論・発表・表彰】 有形固定資産Ⅰ 有形固定資産Ⅱ	有形固定資産の購入，売却など 割賦購入など
第8回	【講義】 リース取引 無形固定資産と研究開発費，引当金	リース取引の分類と処理 無形固定資産と研究開発費，引当金
第9回	【議論・発表・表彰】 リース取引 無形固定資産と研究開発費，引当金	リース取引の分類と処理 無形固定資産と研究開発費，引当金
第10回	【講義】 外貨換算会計と税金 課税所得の算定と税効果会計	為替換算など 税効果会計の会計処理など
第11回	【議論・発表・表彰】 外貨換算会計と税金 課税所得の算定と税効果会計	為替換算など 税効果会計の会計処理など
第12回	【講義】 株式の発行と剰余金の配当と処分 決算手続きと収益認識基準	株式申込証拠金など 契約資産と債券など
第13回	【議論・発表・表彰】 株式の発行と剰余金の配当と処分 決算手続きと収益認識基準	株式申込証拠金など 契約資産と債券など
第14回	ゲストスピーカー講演	ビジネスパーソンの講演，質疑応答，議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習としては、その回の授業で何を学ぶかをあらかじめ確認しておき、授業を聞いた後は関連するワークブックの問題を解くことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
TAC出版『合格テキスト日商簿記２級（商業簿記）－ver17.0』2024年

【参考書】
TAC出版『合格トレーニング日商簿記２級（商業簿記）－ver17.0』2024年

【成績評価の方法と基準】
①対面授業時の課題提出・発表・表彰（30％）
②対面授業の平常点（10％）
③対面授業時の質問・発言（10％）
④ゲストスピーカーへの事前質問・当日質問・感想（10％）
⑤確認テスト（10％）
⑥定期試験（30％）

【学生の意見等からの気づき】
グループごとに学生間で教え合い，議論するエッセンスを対面講義で実施することで，簿記・会計に関する理解を深めるだけでなく，ビジネスで不可欠であるコミュニケーション能力を身に着けて欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
対面授業の際は電卓を持参すること。

【その他の重要事項】
この科目は、経営学部の科目の中でも重要な科目であり、すべての学生に身に着けて欲しい内容です。また2年次に学ぶ「会計学入門」や「財務会計論」「国際会計論」、「管理会計論」等のすべての会計専門科目を学ぶ上での基礎となる部分です。簿記の基礎をマスターすることによって、2年次、3年次以降の各会計科目がより学びやすくなります。

【Outline (in English)】
Bookkeeping is the process of recording daily transactions.The objective of this class is to understand fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate finance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2hours to understand the course content. Grading will be decided based on ① Assignment submission/presentation/awards during face-to-face classes (30%),②Attitude score for face-to-face classes (10%),③Questions and comments during face-to-face classes (10%), ④ Questions to guest speakers, questions on the day, and impressions (10%), ⑤Confirmation test (10%), ⑥Regular exam (30%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

検定会計Ⅱ（2019年度以降入学者）

近藤　大輔

経営学科専門科目200番台　2～4（経営学科）3～4（経営戦略学科・市場経営学科）年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ビジネスの言語と言われている「簿記」の基本的事項を学ぶ。簿記の学習は、将来、会計の分野を学習するときの基礎となるもので、経営学部の学生は早い段階でマスターすべき内容である。簿記の2級の試験を目指して学習することも1つのやり方です。

【到達目標】
検定会計Ⅰ・Ⅱの授業内容を理解することによって、日商簿記検定2級の出題範囲の内容が理解できるようになります。到達目標はその検定試験に合格できる力，会計および関連するビジネスに関する論点を議論する力を身に着けることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
対面とオンデマンドの併用で行うことを予定しています。まずオンデマンド授業で説明を行い、例題等の問題も解いてもらいます。さらに簿記および会計に関する論点を共有し，課題を対面講義までに検討してきてもらいます。対面講義ではグループごとに課題を検討し，課題を提出してもらいます。そして，最も優秀な課題答案を表彰し，成績評価で加点します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験その資格案内、会計情報が読めるメリット
第2回	【講義】 個別原価計算Ⅰ 個別原価計算Ⅱ	原価計算表の作成 仕訳と勘定記入①
第3回	【議論・発表・表彰】 個別原価計算Ⅰ 個別原価計算Ⅱ	原価計算表の作成 仕訳と勘定記入①
第4回	【講義】 部門別個別原価計算Ⅰ 部門別個別原価計算Ⅱ	仕訳と勘定記入② 部門費の集計 補助部門費の配賦
第5回	【議論・発表・表彰】 部門別個別原価計算Ⅰ 部門別個別原価計算Ⅱ	仕訳と勘定記入② 部門費の集計 補助部門費の配賦
第6回	【講義】 部門別個別原価計算Ⅲ 総合原価計算Ⅰ	製造部門から製品への配賦 月初がない場合
第7回	【議論・発表・表彰】 部門別個別原価計算Ⅲ 総合原価計算Ⅰ	製造部門から製品への配賦 月初がない場合
第8回	【講義】 総合原価計算Ⅱ 総合原価計算Ⅲ	月初がある場合・先入先出法 月初がある場合・平均法
第9回	【議論・発表・表彰】 総合原価計算Ⅱ 総合原価計算Ⅲ	月初がある場合・先入先出法 月初がある場合・平均法
第10回	【講義】 標準原価計算Ⅰ 標準原価計算Ⅱ	直接費の分析 間接費の分析
第11回	【議論・発表・表彰】 標準原価計算Ⅰ 標準原価計算Ⅱ	直接費の分析 間接費の分析
第12回	【講義】 CVP分析Ⅰ CVP分析Ⅱ	基本公式 感度分析
第13回	【議論・発表・表彰】 CVP分析Ⅰ CVP分析Ⅱ	基本公式 感度分析
第14回	ゲストスピーカー講演	ビジネスパーソンの講演，質疑応答，議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習としては、その回の授業で何を学ぶかをあらかじめ確認しておき、授業を聞いた後は関連するワークブックの問題を解くことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
近藤大輔『ビギナー原価計算』中央経済社，2020年

【参考書】
TAC出版『合格トレーニング日商簿記2級（工業簿記）－ver10.0』2024年
岡本清・廣本敏郎編著『検定簿記講義－2級工業簿記2024年度版』中央経済社
岡本清・廣本敏郎編著『検定簿記ワークブック－2級工業簿記2024年度版』中央経済社

【成績評価の方法と基準】
①対面授業時の課題提出・発表・表彰（30％）
②対面授業の平常点（10％）
③対面授業時の質問・発言（10％）
④ゲストスピーカーへの事前質問・当日質問・感想（10％）
⑤確認テスト（10％）
⑥定期試験（30％）

【学生の意見等からの気づき】
グループごとに学生間で教え合い，議論するエッセンスを対面講義で実施することで，簿記・会計に関する理解を深めるだけでなく，ビジネスで不可欠であるコミュニケーション能力を身に着けて欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
対面授業の際は電卓を持参すること。

【その他の重要事項】
この科目は、経営学部の科目の中でも重要な科目であり、すべての学生に身に着けて欲しい内容です。また2年次に学ぶ「会計学入門」や「財務会計論」「国際会計論」、「管理会計論」等のすべての会計専門科目を学ぶ上での基礎となる部分です。簿記の基礎をマスターすることによって、2年次、3年次以降の各会計科目がより学びやすくなります。

【Outline (in English)】
Bookkeeping is the process of recording daily transactions.The objective of this class is to understand fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate finance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2hours to understand the course content. Grading will be decided based on ① Assignment submission/presentation/awards during face-to-face classes (30%),②Attitude score for face-to-face classes (10%),③Questions and comments during face-to-face classes (10%), ④ Questions to guest speakers, questions on the day, and impressions (10%), ⑤Confirmation test (10%), ⑥Regular exam (30%).

MAN300FB（経営学 / Management 300）

組織行動論Ⅱ

池田　心豪

経営学科専門科目300番台経営学科専門科目　3～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織におけるひとに関わる課題・問題に対して、社会心理学、社会学を中心とした学際的知見を応用し解決をはかるのが組織行動論です。組織行動論Ⅱは、集団・組織の一員としての個人に焦点をあてます。集団内での人間関係を促進したり阻害したりする要因についての理解を深めていきます。

【到達目標】
①個人が組織と関わる際の態度や行動に関する基礎概念や基本理論を理解する。②学んだ概念や理論を自らの集団活動上の経験に応用できるようになる。③集団でのひとに関わる課題や問題に対する改善策・解決策を自ら考え実践に生かす力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」、「社会学」、「心理学」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
各回において、まず、①導入としてテーマを理解するためのグループディスカッションをします。その後、②各回のテーマに沿った講義を行います。講義では、アルバイトやサークル、ゼミ活動等受講生の実体験にも十分活用できるレベルでの理論や概念の説明を行います。③その上で、講義内容を踏まえ組織行動論の視点で自身の体験を振り返るリフレクションを行います。リフレクションの結果は小レポートとして提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方と評価方法 組織行動論とは 組織行動論Ⅱの学習内容
第2回	集団	集団の種類 集団の発達 集団の意思決定
第3回	チーム	チームの種類 チームと業績
第4回	コミュニケーション１	相互作用としてのコミュニケーション コミュニケーション上の障害
第5回	コミュニケーション２	効果的なコミュニケーション コミュニケーションスキル
第6回	コンフリクト	コンフリクトの捉え方 コンフリクトのプロセス コンフリクトのマネジメント
第7回	ストレス	ストレス発生のプロセス ストレスとパフォーマンス コーピング
第8回	リーダーシップ１	リーダーシップとは何か リーダーシップと資質、スキル、行動
第9回	リーダーシップ２	コンティンジェンシー理論１
第10回	リーダーシップ３	コンティンジェンシー理論２
第11回	リーダーシップ４	現代のリーダーシップ論
第12回	パワーと影響力	パワーと依存 パワーの行使
第13回	ケーススタディ	これまでの学習内容を踏まえてケース分析を実施
第14回	まとめ	学習内容の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、春学期の教科書『はじめての組織行動論』（西川真規子著）を読んでください。また、リフレクションの結果を復習課題として提出していただきます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。授業に使用する資料を学習支援システムを通じて配布します。尚、配布資料に記載されているのは要点のみなので、毎回授業中に講義ノートをできるだけ詳しく取ってください。

【参考書】
この授業では組織行動論Ⅰの内容を引用することがあります。組織行動論Ⅰの内容については、西川真規子『はじめての組織行動論』新世社、2021を参考にしてください。

【成績評価の方法と基準】
期末試験を実施します。試験では授業内で取り上げた概念や理論の理解度（50%）と、その実体験への応用力(50%)について審査します。

【学生の意見等からの気づき】
授業終業後に質問を受け付けます。また、リフレクションとして執筆するペーパーに不明点や疑問点を書いて下さい。

【学生が準備すべき機器他】
授業で使用する資料を学習支援システム上で公開します。授業に関するお知らせ等についても学習支援システムを通じて行っていますので、受講希望者は秋学期開始後速やかに学習支援システムに登録を行ってください。

【その他の重要事項】
組織行動論の理解を深めるため、組織行動論Ⅰ/Ⅱ両方の受講を勧めます。但し、組織行動論Ⅰと組織行動論Ⅱは、授業内容のみならず授業方法・担当者が異なります。授業方法の詳細は初回で説明しますので、組織行動論Ⅱの受講希望者は初回オリエンテーションを必ず受講してください。

【関連科目】
組織行動論Ⅰ
人的資源管理Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】
Course Outline
Organizational behavior seeks to understand human behavior in organizational contexts. Students will learn the basic concepts and theories of organizational behavior, mainly developed in social psychology, and sociology. This course will examine the behavior of people in group and organization, such as teamwork, communication, and leadership.
Learning Objectives
The goal of this course is to understand 1) the basic concepts and theories of organizational behavior, and 2) apply the concepts and theories to students' own experiences.
Learning activities outside of classroom
Every class will require students to do some exercises. Students will also need to reflect on the contents of the lecture after the class. Preparation and reflection will take at least 4 hours every week.
Grading Criteria/Policy
Students will be required to take the final examination. Grading will be based on the understanding of the concepts and theories of organizational behavior (50%) and the effective application of the concepts and theories to their own experiences (50%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

キャリア・マネジメントⅠ（2019年度以降入学者）

小川　憲彦

経営学科専門科目200番台　2～4（経営学科）3～4（経営戦略学科・市場経営学科）年次／2単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリア論の基本について学習します。その中で、キャリアを歩んでいく上での考え方、就職活動のことに加えて、会社のこと、会社組織を取り巻く社会環境についてもお話したいと考えています。自分の考えと照らし合わせながら参加できるよう、適宜ディスカッション等を行います。
The purpose of this class is to learn fundamental career theories including basic minds for career development, processes of job-hunting and recruiting, the ways that companies work, and social environments surrounding your career and organizations at which you may work.

【到達目標】
①キャリアの基本理論の概要やこれに関わる術語を知っていること
②就職活動、および就職以降も続く各自のキャリア形成について、暫定的でも自分なりの考え方を持って臨めるようになること
Students who complete the course will be expected to:
(1) understand the basic terms and concepts of the career development theories,
(2) begin preparations for job-hunting　according to your own ideas, even if tentative. It will be the first step for lifelong career development /management.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・初回はZoomを用いたオンライン、以降は原則的に対面での講義を実施します。
・参加ルールは以下です。詳細は授業で伝えます。
　①他人の迷惑になる行為を行わないこと
　②授業に関係のないことをしないこと
　③その他については教員の指示に従うこと
・Zoomでの実施の場合、詳細は授業で伝えます。
・適宜リアクションペーパーを課します。
・グループ・ディスカッションを行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明
第2回	キャリアとは	経営学におけるキャリア論の位置づけやキャリアという概念の理解
第3回	キャリアを取り巻く環境の変化	これからの世の中で、どのような変化が生じうるのか、その上でどのようなキャリアが求められるのか
第4回	企業の新卒採用活動（1）	採用側の理論について
第5回	企業の新卒採用活動（2）	採用研究について紹介します
第6回	企業の新卒採用活動（3）	面接研究について紹介します
第7回	企業の採用活動事例の紹介（1）	過去は、金融、メーカー、マスコミ、小売、サービスなどの各種業界の採用活動の実際を紹介しました（業界や会社は皆さんの要望を踏まえ変わることがあります）
第8回	企業の採用活動事例の紹介（2）	過去は、金融、メーカー、マスコミ、小売、サービスなどの各種業界の採用活動の実際を紹介しました（業界や会社は皆さんの要望を踏まえ変わることがあります）
第9回	職場適応の理論（1）	入社した後の会社への適応について（概要）
第10回	職場適応の理論（2）	入社した後の会社への適応について（人間関係）
第11回	キャリア発達の理論（1）	長期にわたるキャリアの見通しについて
第12回	キャリア発達の理論（2）	長期にわたるキャリアの見通しについて
第13回	キャリア・トランジション論	転職など、キャリアの移行期について
第14回	近年のキャリア論	偶発性アプローチの紹介など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
任意の宿題（レポート等）を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業は配布資料を基に進めますので、必ずしも購入する必要はありません。参考書も同様です。
鈴木竜太・西尾久美子・谷口智彦編著（2023）『1からのキャリア・マネジメント』碩学舎。

【参考書】
金井壽宏（2002）『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所。
大久保幸夫（2006）『キャリアデザイン入門〈1〉基礎力編』・『キャリアデザイン入門〈2〉専門力編』日経文庫。
エドガー・H・シャイン (著)・金井壽宏（訳）（2003）『キャリア・アンカー　―自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル―職務と役割の戦略的プラニング』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】
・期末試験ないしレポート（80％）、平常点（20％：参加態度、リアクションペーパー、課題等含む）

【学生の意見等からの気づき】
平日の時間帯なので難しいかもしれませんが、可能であればキャリア・マネジメントⅡのようにゲストを招く回を設けたいと思っています。

【その他の重要事項】
Ⅰは理論編、Ⅱは事例偏です。前者は講義が中心ですが、後者では社会人ゲストを呼んで業界のことや仕事、キャリアについて具体的に話してもらいます。Ⅱは現役社会人ゲストを呼ぶので土曜日開講ですが、1回1回の授業がOBOG訪問のような場になりますので、2，3年生の早いうちから受講することを勧めます。どのようなゲストかはⅡのシラバスを見てください（過年度のゲストなので同じ方々ではありませんが、多様な業界業種の方をお呼びしています。）

【Outline (in English)】
Outline
The purpose of this class is to learn fundamental career theories including the basic mind for career development, the process of job-hunting and recruiting, the ways that companies work, and the social environment surrounding an individual career and organizations at which you will work.
Learning objectives
Students who complete the course will be expected to:
(1) understand the basic terms and concepts of career development theories,
(2) begin preparations for job-hunting　according to your own ideas, even if tentative. It will be the first step for lifelong career development /management.
Learning activities outside of the class
Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) will be given at the instructor's discretion.
Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.
Grading criteria/policy
Grading will be decided based on the mid-term or term-end examination (80%) and in-class attitudes and regular assignments (20%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

キャリア・マネジメントⅡ（2019年度以降入学者）

小川　憲彦

経営学科専門科目200番台　2～4（経営学科）3～4（経営戦略学科・市場経営学科）年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアマネジメントⅠの知識を前提に、やや応用的な内容について扱います。また、この授業では各界の老若男女様々な社会人ゲストをお呼びして、業界や仕事の紹介、ご自身のキャリアについて話をしてもらいながら、質疑応答を行います。様々な働き方・考え方に触れることで視野を広げながら、自分自身のキャリアについて考える契機として下さい。
The purpose of this class is to learn advanced career theories and to think about your career development through interactions with guest-speakers who have diverse backgrounds: career, jobs, positions, occupations, and industries. They will talk about not only their careers but the lives overall. You will be able to learn a lot from them.

【到達目標】
①就職活動、および就職以降も続く各自のキャリア形成について暫定的でも自分なりの考え方を持って臨めること
②社会人との交流が適切に行えること
Students who complete the course will be expected to:
(1) begin preparation for job-hunting (including visiting OBs &OGs and participation in internships) initiatively as the first step for lifelong career development/management,
(2) be able to communicate and exchange views with working people (guests) in an adequate manner.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
ゲストを招くことで社会人とのコミュニケーションの場を設けます。仕事世界やキャリアに関する知見・視野を広げてほしいと思います。また、キャリア形成に関する理論、研究、事例等の紹介等も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明、キャリア・マネジメント論Ⅰの振り返り
第2回	就職活動について	学生の就職活動報告を共有し気付きを共有します
第3回	企業の採用活動	就職活動を企業の側から、すなわち採用活動について具体的な選抜方法やその視点について紹介します
第4回	ゲスト（キャリアセンター職員）	キャリア・センターの活用と３０代の女性職員の方のキャリア
第5回	ゲスト（菓子メーカー）	40代人事部長（1社内でのタテ型のキャリア）
第6回	ゲスト（リクルート）	リクリート社5年目の若手OB
第7回	ゲスト（鉄道会社）	大手私鉄入社20年近いOB
第8回	ゲスト（サービス・販売）	入社30年近い段階での管理職者の転職
第9回	ゲスト（三菱電機）	入社4年目の若手OB
第10回	ゲスト（アクセンチュア）	コンサル会社入社1年目の新人OB
第11回	ゲスト（中国でのキャリア）	外国籍の女性による中国でのキャリア（日本でのコンサル会社勤務などを経て現在は帰国し教員）
第12回	近年のキャリア論①	プロティアン・キャリア
第13回	近年のキャリア論②	バウンダリレス・キャリア（転職等の効果について）
第14回	まとめ or 出世について	伝統的キャリアと近年のキャリア観、あるいは大企業での出世や昇進のメカニズムについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
任意の宿題（レポートや課題図書）を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) might be given at the instructor's discretion.
Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.

【テキスト（教科書）】
授業は配布資料を基に進めますので、必ずしも購入する必要はありません。参考書も同様です。
鈴木竜太・西尾久美子・谷口智彦編著（2023）『1からのキャリア・マネジメント』碩学舎。

【参考書】
金井壽宏（2002）『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所。
大久保幸夫（2006）『キャリアデザイン入門〈1〉基礎力編』・『キャリアデザイン入門〈2〉専門力編』日経文庫。
エドガー・H・シャイン (著)・金井壽宏（訳）（2003）『キャリア・アンカー　―自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル―職務と役割の戦略的プラニング』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％(リアクションペーパーや小レポート等含む)
・出席は取りませんが適宜課題を出すことがあります。
・高い評価を目指す方や単位が心配な方向けに任意のレポートを設けます。
　ただし内容が不十分であれば加点にはなりません。
　（質の低さ、コピペ、読めないものなど）
・参加しないで出されたリアクションペーパーは不正とみなします。
・詳細は授業で指示します。
Grading will be decided based on your in-class attitudes and regular assignments (100%).

【学生の意見等からの気づき】
出来るだけ男女バランスよくゲストをお呼びしたいと思います。

【その他の重要事項】
各回の内容は過年度のものです。ゲストは毎年変更しています。
参加上の注意点は以下です。常識的に参加すれば問題ありません。
①初回講義で具体的な注意など示します。以後は1度は注意をしますが、2回目以降は②のような対応をします。なお、スマホ（携帯電話）で写真や動画をとったりUPしたりしない、関係のないおしゃべりをしない、帽子やサングラスをしない等は基本です。
②仮に1度目であっても、度を越えた不適切な参加態度であると私がみなした場合は退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定もあります。
関連科目：キャリア・マネジメントⅠ

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to learn advanced career theories and to think about your career development through interactions with guest-speakers who have diverse backgrounds: career, jobs, positions, occupations, and industries. They will talk about not only their careers but the lives overall. You will be able to learn a lot from them.
Learning objectives
Students who complete the course will be expected to:
(1) begin preparation for job-hunting (including visiting OBs &OGs and participation in internships) initiatively as the first step for lifelong career development/management,
(2) be able to communicate and exchange views with working people (guests) in an adequate manner.
Learning activities outside of the class
Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) will be given at the instructor's discretion.
Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.
Grading criteria/policy
Grading will be decided based on your in-class attitudes and regular assignments.

ECN300FB（経済学 / Economics 300）

組織経済学

奥西　好夫

経営学科専門科目300番台経営学科専門科目　3～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・伝統的なミクロ経済学は、企業を市場取引の参加者として重視してきたが、企業組織内の意思決定や雇用関係などの非市場取引、企業グループや系列などの企業間関係についてはほとんど立ち入らなかった。しかし、1980年代以降、組織や人事制度を経済学的な手法を用いて分析する「組織の経済学」が徐々に形成されるのに伴い、こうした状況は大きく変化した。本授業はそうした「組織の経済学」の基本的内容を講義する。
・学生は、本講義を通じて組織内の人間行動や組織の意思決定、それらに影響する環境・制度要因の作用を理解し、さらに改善の方途を考案することを学ぶ。

【到達目標】
・学生は、組織経済学の基本的な方法論、分析ツールを説明できる。特に人間の行動原理、組織や取引の評価基準、組織デザイン、インセンティブ問題などの理解は必須である。
・経済合理性を主たる方法論とする伝統的経済学が組織のさまざまな問題を理解し解決する上でどこまで有用なのか、そしてどのような点で限界があるのかを説明できる。
・そうした理解を踏まえ、現実の組織の問題を分析し、何らかの改善策を具体的に考案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・授業内容の概要を記した教材（ハンドアウト）は、学習支援システムにアップするので、各自ダウンロードすること。
・原則として全て対面授業で行う。最低限、事前に講義ハンドアウトや指示された資料等に目を通して参加すること。
・課題提出等は学習支援システムを通じて指示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要、人間の行動原理（1）	・組織経済学の内容、方法論 ・経済合理性に関するアンケート
第2回	人間の行動原理（2）	・経済合理性
第3回	人間の行動原理（3）	・経済非合理性
第4回	人間の行動原理（4）	・不完全情報下の経済合理的行動
第5回	取引・組織の評価基準（1）	・効率性 ・公正性に関するアンケート
第6回	取引・組織の評価基準（2）	・さまざまな公正性概念
第7回	コースの定理（1）	・効率性概念の応用
第8回	コースの定理（2）	・市場と組織の選択 ・ルール化の損得
第9回	組織デザイン（1）	・組織構造
第10回	組織デザイン（2）	・コーポレート・ガバナンス
第11回	組織デザイン（3）	・職務設計 ・多様性管理
第12回	インセンティブ問題（1）	・本人-代理人関係 ・インセンティブの強度 ・ナッジ
第13回	インセンティブ問題（2）	・賃金制度への応用
第14回	講義内容のまとめ	・全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・学生は、授業前に学習支援システムにアップした講義ハンドアウトや資料に目を通しておくこと。
・事前にアンケートや小課題の回答を求めることがあるので、それらを誠実にこなすこと。
・講義内容に関する質問は、なるべく当該授業中か、次回授業の冒頭に全員の前で行うこと。（その方が、受講生全員の理解向上につながるため。）
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・単一のテキストは特に用いない。
・担当教員が作成する授業ハンドアウト等は学習支援システムを通じて配付する。
・より進んだ学習を希望する学生は、下記の【参考書】を参照のこと。

【参考書】
・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ『組織の経済学』NTT出版、1997年。組織経済学の包括的かつ基本的な教科書。
・エドワード・P・ラジアー、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』日本経済新聞出版社、2017年。人事制度や組織デザインを扱っている。
・ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』NTT出版、2005年。上記、ミルグロム、ロバーツ著と重複するが、組織問題の経済学的エッセンスを扱っている。
・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になる。
・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016年。経済非合理性に立脚した経済学のパイオニアによる自伝的入門書。
・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011年。経済学者が重用する「効率性」（功利主義）以外のさまざまな正義観を知ることができる。
・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したもの。

【成績評価の方法と基準】
・学期中に1回課題提出を行い、それらと期末試験の合計得点（ウェイトは50：50）で成績を評価する。
・課題や試験は、講義内容の理解度と上記【到達目標】の達成度を評価できる内容とする。

【学生の意見等からの気づき】
・2021年度は、全てZoomで行ったが、学生の顔が見えず、問いかけへの反応も乏しかったため、どこまで授業内容を理解できたか不安であった。実際、課題のフィードバック時に初めて、「合理性」と「効率性」の意味の違いが分かったという学生もいた。同じ用語でも、日常的な意味と経済学の専門用語としての意味が異なる場合があるので注意されたい。
・2022年度以降は、全て対面で行っているが、月曜1限（2025年度は金曜1限）ということもあり、出席状況は良くなかった。実質的には少人数授業なので、積極的に出席し不明な点は質問等をしてもらいたい。特に、上記で指摘した用語の意味などは授業中に詳しく説明している。

【学生が準備すべき機器他】
・学習支援システムへのアクセスが必須であることから、オンライン接続可能なPCないしタブレットの利用が不可欠である。

【その他の重要事項】
・本科目は以前、I、IIの通年開講授業であったが、2018年度以降、新カリキュラムに合わせてIのみの開講となった。このためIIの主要テーマであった人事制度に関する部分は大幅にカットされた。ただし、それに該当する内容は、より詳細にGBP用の「HRM I/II」（Iは秋学期、IIは春学期）でカバーしている。履修にあたっては一定の英語力が必要だが、興味ある学生は是非そちらも受講してほしい（ただし、日本語の「人的資源管理I/II」との重複履修は不可）。
・担当教員は、1980～89年、（旧）労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。本講義の内容と直接的には重ならないが、組織での仕事経験から得られた知見は、本講義でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】
・ミクロ経済学、組織行動論、人的資源管理等が関連科目だが、本科目の履修にあたっての前提条件とはしない。

【Outline (in English)】
・Traditional micro-economics has emphasized the role of firms as players of markets. But it did not fully study non-market transactions such as those within firms and between firms. Such a situation has changed greatly, however, since the advent of "organizational economics," whose basics are the topic of this course.
・Students will understand human behaviors and decision-making within an organization, and the influence of environmental or institutional factors. Furthermore, they can think of how to improve the present situation.
・Students are expected to read the course handouts and reference materials before the class, and to submit assignments diligently.
・The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
・The final grade depends on the total points of the assignment and the final exam (the weights are 50:50).

ECN300FB（経済学 / Economics 300）

組織経済学Ⅰ（2018年度以前入学者）

奥西　好夫

経営学科専門科目　3～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・伝統的なミクロ経済学は、企業を市場取引の参加者として重視してきたが、企業組織内の意思決定や雇用関係などの非市場取引、企業グループや系列などの企業間関係についてはほとんど立ち入らなかった。しかし、1980年代以降、組織や人事制度を経済学的な手法を用いて分析する「組織の経済学」が徐々に形成されるのに伴い、こうした状況は大きく変化した。本授業はそうした「組織の経済学」の基本的内容を講義する。
・学生は、本講義を通じて組織内の人間行動や組織の意思決定、それらに影響する環境・制度要因の作用を理解し、さらに改善の方途を考案することを学ぶ。

【到達目標】
・学生は、組織経済学の基本的な方法論、分析ツールを説明できる。特に人間の行動原理、組織や取引の評価基準、組織デザイン、インセンティブ問題などの理解は必須である。
・経済合理性を主たる方法論とする伝統的経済学が組織のさまざまな問題を理解し解決する上でどこまで有用なのか、そしてどのような点で限界があるのかを説明できる。
・そうした理解を踏まえ、現実の組織の問題を分析し、何らかの改善策を具体的に考案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・授業内容の概要を記した教材（ハンドアウト）は、学習支援システムにアップするので、各自ダウンロードすること。
・原則として全て対面授業で行う。最低限、事前に講義ハンドアウトや指示された資料等に目を通して参加すること。
・課題提出等は学習支援システムを通じて指示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要、人間の行動原理（1）	・組織経済学の内容、方法論 ・経済合理性に関するアンケート
第2回	人間の行動原理（2）	・経済合理性
第3回	人間の行動原理（3）	・経済非合理性
第4回	人間の行動原理（4）	・不完全情報下の経済合理的行動
第5回	取引・組織の評価基準（1）	・効率性 ・公正性に関するアンケート
第6回	取引・組織の評価基準（2）	・さまざまな公正性概念
第7回	コースの定理（1）	・効率性概念の応用
第8回	コースの定理（2）	・市場と組織の選択 ・ルール化の損得
第9回	組織デザイン（1）	・組織構造
第10回	組織デザイン（2）	・コーポレート・ガバナンス
第11回	組織デザイン（3）	・職務設計 ・多様性管理
第12回	インセンティブ問題（1）	・本人-代理人関係 ・インセンティブの強度 ・ナッジ
第13回	インセンティブ問題（2）	・賃金制度への応用
第14回	講義内容のまとめ	・全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・学生は、授業前に学習支援システムにアップした講義ハンドアウトや資料に目を通しておくこと。
・事前にアンケートや小課題の回答を求めることがあるので、それらを誠実にこなすこと。
・講義内容に関する質問は、なるべく当該授業中か、次回授業の冒頭に全員の前で行うこと。（その方が、受講生全員の理解向上につながるため。）
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・単一のテキストは特に用いない。
・担当教員が作成する授業ハンドアウト等は学習支援システムを通じて配付する。
・より進んだ学習を希望する学生は、下記の【参考書】を参照のこと。

【参考書】
・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ『組織の経済学』NTT出版、1997年。組織経済学の包括的かつ基本的な教科書。
・エドワード・P・ラジアー、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』日本経済新聞出版社、2017年。人事制度や組織デザインを扱っている。
・ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』NTT出版、2005年。上記、ミルグロム、ロバーツ著と重複するが、組織問題の経済学的エッセンスを扱っている。
・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になる。
・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016年。経済非合理性に立脚した経済学のパイオニアによる自伝的入門書。
・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011年。経済学者が重用する「効率性」（功利主義）以外のさまざまな正義観を知ることができる。
・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したもの。

【成績評価の方法と基準】
・学期中に1回、課題提出を行い、それらと期末試験の合計（ウェイトは50:50）で成績を評価する。
・課題や試験は、講義内容の理解度と上記【到達目標】の達成度を評価できる内容とする。

【学生の意見等からの気づき】
・2021年度は、全てZoomで行ったが、学生の顔が見えず、問いかけへの反応も乏しかったため、どこまで授業内容を理解できたか不安であった。実際、課題のフィードバック時に初めて、「合理性」と「効率性」の意味の違いが分かったという学生もいた。同じ用語でも、日常的な意味と経済学の専門用語としての意味が異なる場合があるので注意されたい。
・2022年度以降は、全て対面で行っているが、月曜1限（2025年度は金曜1限）ということもあり、出席状況は良くなかった。実質的には少人数授業なので、積極的に出席し不明な点は質問等をしてもらいたい。特に、上記で指摘した用語の意味などは授業中に詳しく説明している。

【学生が準備すべき機器他】
・学習支援システムへのアクセスが必須であることから、オンライン接続可能なPCないしタブレットの利用が不可欠である。

【その他の重要事項】
・本科目は以前、Ⅰ、Ⅱの通年開講授業であったが、2018年度以降、新カリキュラムに合わせてⅠのみの開講となった。このためⅡの主要テーマであった人事制度に関する部分は大幅にカットされた。ただし、それに該当する内容は、より詳細にGBP用の「HRM Ⅰ/Ⅱ」（Ⅰは秋学期、Ⅱは春学期）でカバーしている。履修にあたっては一定の英語力が必要だが、興味ある学生は是非そちらも受講してほしい（ただし、日本語の「人的資源管理Ⅰ/Ⅱ」との重複履修は不可）。
・担当教員は、1980～89年、（旧）労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。本講義の内容と直接的には重ならないが、組織での仕事経験から得られた知見は、本講義でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】
・ミクロ経済学、組織行動論、人的資源管理等が関連科目だが、本科目の履修にあたっての前提条件とはしない。

【Outline (in English)】
・Traditional micro-economics has emphasized the role of firms as players of markets. But it did not fully study non-market transactions such as those within firms and between firms. Such a situation has changed greatly, however, since the advent of "organizational economics," whose basics are the topic of this course.
・Students will understand human behaviors and decision-making within an organization, and the influence of environmental or institutional factors. Furthermore, they can think of how to improve the present situation.
・Students are expected to read the course handouts and reference materials before the class, and to submit assignments diligently. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
・The final grade depends on the total points of the assignments and the final exam (the weights are 50:50).

MAN200FC（経営学 / Management 200）

経営戦略論Ⅰ（2019年度以降入学者）

李　瑞雪

経営戦略学科専門科目200番台　2～4（経営戦略学科）3～4（経営学科・市場経営学科）年次／2単位　［春学期授業/Spring］
営2年M～O

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、経営学における中核領域の一つである経営戦略論に関する概論的講義です。経営戦略論の基本的な理論や概念を理解するとともに、具体的な企業の取り組みとの関連について検討することを通じて、企業の戦略的行動を分析する能力を養います。

【到達目標】
主要な経営戦略に関する理論と概念を使って、現実の経営戦略を説明し、分析することができるようになることを、本講義の主たる到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
ある程度大人数となることが予想されるため、基本的には講義方式で行いますが、講義中で具体的なケースを用いた作業（小レポート、ディスカッションなど）を適宜行う予定です。事前に講義資料を学習支援システムにアップロードし予習を求めます。質問や発言等は講義中にも随時受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第１講　イントロダクション	講義内容の構成、戦略の定義、経営戦略の定義、経営ビジョンと経営戦略などの説明
第2回	第２講　プランニング・アプローチ（Ⅰ）	製品・市場ポートフォリオ、戦略的意思決定と業務的意思決定、成長ベクトル、シナジー、企業目標のヒエラルキー
第3回	第３講　プランニング・アプローチ（Ⅱ）	戦略策定の手順、SWOT分析、PPM、ビジネス・スクリーン、バランスド・スコアカード
第4回	第４講　ポジショニング・アプローチ（Ⅰ）	S-C-Pモデル（産業構造- 企業行動 - 経営業績モデル）、ファイブ・フォーセズ・モデル、ハーフィンダール指数、参入障壁
第5回	第５講　ポジショニング・アプローチ（Ⅱ）	PIMSモデル、戦略グループ、移動障壁
第6回	第６講　ポジショニング・アプローチ（Ⅲ）	産業構造と戦略的機会（前半）。集約・統合戦略、先行者優位、市場リーダーシップ戦略、ニッチ戦略、収穫戦略、撤退産業、勝者総取り戦略など
第7回	第７講　ポジショニング・アプローチ（Ⅳ）	産業構造と戦略的機会（後半）。ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ戦略、ﾏﾙﾁﾅｼｮﾅﾙ戦略、ﾄﾗﾝｽﾅｼｮﾅﾙ戦略、ﾃﾞﾌｧｸﾄ・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ戦略、勝者総取り戦略、先制破壊戦略、埋没コスト、破滅的競争など
第8回	第８講　リソース・ベース・アプローチ（Ⅰ）	経営資源、経営資源の異質性と固着性、VRIO分析フレームワーク、一時的競争優位と持続的競争優位
第9回	第９講　リソース・ベース・アプローチ（Ⅱ）	経営資源模倣困難の要因、経路依存性、社会的複雑性のある経営資源、経営資源保有のパラドックス、経営資源蓄積のメカニズム、戦略的意図、コア・コンピタンスの探究など
第10回	第１０講　ゲーム・アプローチ、コーピティション（Ⅰ）	価値相関図（バリュー・ネット）、「付加価値」の概念、競争と協調、顧客への「本質的サービス」の分析視点
第11回	第１１講　ゲーム・アプローチ、コーピティション（Ⅱ）	「価値」貢献度、明示的ルールと暗黙の認識、MFC条項とMCC条項、戦略的補完関係、意図的抑止（contrived deterrence）
第12回	第１２講　学習アプローチ、創発戦略（Ⅰ）	分析型・計画型アプローチとの違い、意図された戦略と実現された戦略、プロセス重視・学習重視、間接的戦略、帰納的戦略
第13回	第１３講　学習アプローチ、創発戦略（Ⅰ）	学習の「場」、実験による学習、「反省」の重視、ダイナミック・シナジ
第14回	第１４講　競争優位と一般戦略	競争優位とその累計、スタック・イン・ザ・ミドル、三つの一般戦略、見える差別化と見えざる差別化、垂直的差別化と水平的差別化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃に日本経済新聞、日経ビジネス、Bloomberg Businessweekなどの経済紙、ビジネス誌を読む習慣を身に着け、とりわけ企業の戦略的取り組みをめぐる記事や論説を読んで考えることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくにテキストを指定し購入を求めることはありません。事前に講義資料を学習支援システムにアップロードします。毎回の授業に先だって必ず該当する資料を予習してください。授業中は必ずしっかりとノートをとってください。

【参考書】
1）青島矢一・加藤俊彦『競争戦略論』有斐閣
2）沼上幹『経営戦略の思考法』日本経済新聞出版社
3）M.E.ポーター『競争の戦略』ダイヤモンド社
4）ジェイ・B・バーニー『企業戦略論』（上、中、下）ダイヤモンド社
5）G. サローナーほか『経営戦略論』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】
ディスカッション参加（＋α）、小レポートなど平常点（40%）、期末テスト（60%）、授業中の私語や携帯使用（－α）。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度を勘案しながら授業スピードを適宜調整するように心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
経営戦略論Ⅰと経営戦略論Ⅱは、一貫した講義構成になっているため、通年で履修することをお勧めします。とくに、秋学期（経営戦略論Ⅱ）のみの履修では、内容の理解において困難を伴う可能性があります。ご注意ください。主な関連科目として、戦略論入門、国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳ、日本経営論Ⅰ/Ⅱ、経営組織論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱなどが挙げられます。

【Outline (in English)】
This course is an basic lecture on strategic management which is one of the core areas in business administration. The main objectives include understanding the basic theories and concepts of strategic management and cultivating the ability to analyze strategic behaviors by reviewing some real cases related to companies.The final grade will be calculated according to the following process. Term-end examination: 60%, Short reports: 20%, and in-class contribution: 20%.The standard preparation and review time for this class is 2 hours each

MAN200FC（経営学 / Management 200）

経営戦略論Ⅱ（2019年度以降入学者）

李　瑞雪

経営戦略学科専門科目200番台　2～4（経営戦略学科）3～4（経営学科・市場経営学科）年次／2単位　［秋学期授業/Fall］
営2年M～O

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、経営学における中核領域の一つである経営戦略論に関する概論的講義です。経営戦略論の基本的な理論や概念を理解するとともに、具体的な企業の取り組みとの関連について検討することを通じて、企業の戦略的行動を分析する能力を養います。

【到達目標】
主要な経営戦略に関する理論と概念を使って、現実の経営戦略を説明し、分析することができるようになることを、本講義の主たる到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
秋学期は対面授業を実施する予定です。状況によってオンライン開催を余儀なくされる場合は，講義形式などの詳細について学習支援システムを通じて適宜提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第１講　イントロダクション、一般戦略	春学期（経営戦略論Ⅰ）の内容の復習、秋学期講義内容の構成、3つの一般戦略と競争優位
第2回	第２講　ゲームアプローチ	価値相関図（バリュー・ネット）、戦略的補完関係、「付加価値」と価値貢献度、競争と協調、顧客への「本質的サービス」、明示的ルールと暗黙の認識、MFC条項とMCC条項、意図的抑止
第3回	第３講　学習アプローチと創発戦略	意図された戦略と実現された戦略、プロセス重視・学習重視、間接的戦略、帰納的戦略、学習の「場」、実験と「反省」による学習、ダイナミック・シナジ
第4回	第４講　競争優位の持続可能性	隔離メカニズム、強みの源泉の専有化、経営資源の不確実性、暗黙知と形式知、強みの累積、先手の連鎖、戦略フィット、活動システム、柔道ストラテジー
第5回	第５講　ネットワーク外部性と競争優位	ネットワーク外部性、互換性、デファクト・スタンダード獲得戦略（クローズド戦略とオープン戦略）、クリティカル・マス、プラットフォーム戦略
第6回	第６講　イノベーションと競争優位	イノベーションの定義と分類、イノベーションの特徴とそのマネジメント、イノベーションと競争優位との関係、イノベーションのジレンマ、「死の谷（デスバレー）」、知的財産戦略（イノベーションの収益化）、ｵｰﾌﾟﾝ・ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ、ﾘﾊﾞｰｽ・ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ、ﾌﾙｰｶﾞﾙ・ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ
第7回	第７講　吸収合併（M&A）	M&Aの類型、戦略的関連性の源泉、M&A戦略の動機、M&A戦略と企業パフォーマンス、ビディング企業の経営者の規範、ターゲット企業の経営者の原則、ターゲット企業の行動、ターゲット企業の対抗策
第8回	第８講　戦略的提携	戦略的提携の定義と形態、戦略提携と業務提携、戦略的提携と業界構造、戦略的提携の動機、提携におけるリスク、アウトソーシング
第9回	第９講　垂直統合と競争優位	垂直方向の事業展開、垂直統合度、Make or Buyの意思決定、第３の取引形態、取引統治メカニズムの類型（スポット市場契約やクランなど）、垂直統合と持続的競争優位との関係、垂直統合のための組織
第10回	第１０講　サプライチェーンマネジメント（SCM）の戦略	SCMの定義、サプライチェーンのプロセス（SCORモデル）、プロセス統合、企業の競争基盤とサプライチェーンの貢献、SCM戦略の構成要素、制約理論（TOC)、投機と延期
第11回	第１１講　調達戦略	調達戦略の多様な目標、TCOの最小化、調達方式の4類型、調達戦略のマトリクス、調達プロセスの基本原則、調達戦略と企業間コラボレーション
第12回	第１２講　製造戦略と生産プロセス	ETO、MTO、ATO、MTO、ジョブショップ、バッチフロー、ライン・フロー、連続フロー、製品・工程マトリックス、製品・工程ライフサイクルと生産性ジレンマ、マスカスタマイゼーション、リーン生産システム
第13回	第１３講　ロジスティクス戦略と競争優位	スピードの経済とロジスティクス戦略、ロジスティクス戦略の類型、ジャストインタイムの物流、サードパーティ・ロジスティクス（3PL)、共同物流
第14回	第１４講　秋学期の内容のまとめ	1回目から13回目までの授業内容のまとめ・総括。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃に日本経済新聞、日経ビジネス、Bloomberg Businessweekなどの経済紙、ビジネス誌を読む習慣を身に着け、とりわけ企業の戦略的取り組みをめぐる記事や論説を読んで考えることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくにテキストを指定し購入を求めることはありません。事前に講義資料とリーディング資料を授業支援システムにアップロードします。毎回の授業に先だって必ず該当する資料を予習しておいてください。授業中は必ずしっかりとノートをとってください。

【参考書】
1）青島矢一・加藤俊彦『競争戦略論』有斐閣
2）沼上幹『経営戦略の思考法』日本経済新聞出版社
3）M.E.ポーター『競争の戦略』ダイヤモンド社
4）ジェイ・B・バーニー『企業戦略論』（上、中、下）ダイヤモンド社
5）G. サローナーほか『経営戦略論』東洋経済新報社
6）デビッド・コリス＆シンシア・モンゴメリー『資源ベースの経営戦略論』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】
「平常点」20％,「小テスト」30％,「期末テスト」50％

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度を勘案しながら授業スピードを適宜調整するように心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
経営戦略論Ⅰと経営戦略論Ⅱは、一貫した講義構成になっているため、通年で履修することをお勧めします。主な関連科目として、戦略論入門、国際経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、日本の物流と企業経営、経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳ、日本経営論Ⅰ/Ⅱ、経営組織論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱなどが挙げられます。

【Outline (in English)】
This course is a basic lecture on strategic management which is one of the core areas in business administration. The main objectives include understanding the basic theories and concepts of strategic management and cultivating the ability to analyze strategic behaviors by reviewing some real cases related to companies. Students will be expected to have read the relevant chapters from the references and other materials suggested by the teacher before each class meeting. The final grade will be calculated according to the following process. Term-end examination: 50%, Short reports: 30%, and in-class contribution: 20%.The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

MAN200FC（経営学 / Management 200）

国際経営論Ⅰ

洞口　治夫

経営戦略学科専門科目200番台経営戦略学科専門科目　2～4（経営戦略学科）3～4（経営学科・市場経営学科）年次／2単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際経営論とは、企業経営の国際化に伴う諸問題を解決に導く方途を研究する学問の総称です。トヨタ、全日空（ＡＮＡ）、東京ディズニーランド、吉野家とマクドナルドなど、豊富な事例を学びながら、企業経営の課題を学びます。国際経営論の目的は、グローバル化を進める企業経営の実態を知り、経営の失敗を避ける方途を社会科学的に示すことにあります。どのような企業が製品開発を海外で行ったり、国際的なマーケティングを行っているのでしょうか。国家間の通貨安競争や国境を越えた人的資源管理などの課題を持つ日本の多国籍企業はいかに行動すべきでしょうか。こうした問題を考えるための基礎的な概念を学んでいきます。

【到達目標】
この授業では国際経営論の入門を解説します。国際経営論は「国際」的に行われる「経営」を「論」ずる、という意味ですから、経営学の学習を行うとともに、国境を越えた企業経営の基礎を学びます。つまり、経営とは何か、とともに、国家とは何か、を論ずる必要もあります。そうした講義によって、学生諸君が、将来、国際的なビジネスで活躍するときに必要となる基礎知識を学習します。
多国籍企業が現代社会に対してどのような影響を与えているのかを知り、また、多国籍企業に関する理論を学習して、その動向への見通しを立てること、および、理論的な考え方の面白さを知ることを目標とします。国家による経済政策を理解することで、さらに長期的な視点を獲得します。国際経営に関する日本語および英語の資料や新聞記事を読み、国際ビジネスの理論と見識を現実に応用できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
何回かの授業では、Zoomを利用したオンライン授業または学習支援システムを利用したオンデマンドの授業を行います。Zoomの接続URLは「学習支援システム」（Hoppii）の「お知らせ」に掲示しますので注意して確認して下さい。
何回かの授業ではグループを分け、教科書や配布資料の音読を軸としたグループワークを行うので教科書の予習をして参加して下さい。ノート・テイキングを確実に行うことを確認しながら授業を進めます。ビジネスの世界では、営業先での会話や交渉のやりとり、会社内で受ける上司からの指示や会議内容の議事メモ作成などは、自らノートにとって整理する必要があります。英文資料を読み、ビジネス用語を学ぶとともに英語力の確認をしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際経営論Ⅰの概要説明	講義目的と概要、経営学の理論と実務との関連。教科書第１章、経済活動のグローバル化。国際経営と資本主義、グローバリゼーション。
第2回	企業の組織	教科書第１章の復習。第2章、多国籍企業の参入形態。貿易と関税。対外直接投資。ライセンシング。組織としての国家。資本主義の発展と進化。
第3回	企業の戦略	教科書第3章、グローバル化の歴史的変遷。戦略と資源をめぐる論争。スミス、マルクス、ハイマー、キンドルバーガー。
第4回	競争戦略論と資源戦略論	教科書第3章、グローバル化の歴史的変遷。ライセンシング戦略と知識をめぐる論争。資本主義の七世代。
第5回	戦略と組織の認知	教科書第4章、多国籍企業と国際展開のリスク。リスクと不確実性。テロリズム、フォーカルポイント、ゲーム理論、囚人のジレンマ、両性の闘い、ナッシュ均衡、イテレイテッド・ストリクト・ドミナンス。
第6回	戦略策定と会計情報	参考書第7章、財務と情報。投資決定の基準。利子率、割引率、インカムゲイン、キャピタルゲイン、損益計算書と貸借対照表。NPV、IRRとその投資への利用。
第7回	企業成長と組織	教科書第5章、多国籍企業の知識創造。知識創造の理論。暗黙知、形式知、集合知。科学哲学。
第8回	国際経営と日本的経営	教科書第6章、技術移転のサブシステム。芸術と契約。コアとコピー。プロデューサーとディレクター。クリエイティブ・インダストリーの国際化と創造性のマネジメント。ホフステッドと不確実性の回避、権力格差、個人主義・集団主義、男性性と女性性。
第9回	多国籍企業と文化	教科書第7章、多国籍企業とM&Ａ。新聞記事にみる合併・買収とＴＯＢ。
第10回	多国籍企業の知識管理とイナクトメント	教科書第7章、多国籍企業とM&Ａ。コーポレート・ガバナンス、デューデリジェンス、減損。
第11回	創造性のマネジメント	教科書第2章、多国籍企業の参入戦略、オンデマンドでの復習。対外間接投資、対外証券投資、キャピタルゲインとインカムゲイン。
第12回	国際経営とイノベーション	教科書第5章、多国籍企業の知識創造、オンデマンドでの復習。ＳＥＣＩモデルとWise Company。
第13回	国際経営研究の最前線	教科書第1章から第7章までの復習。参考書、第3章、第6章、第7章の復習。多国籍企業の管理。
第14回	企業倫理とＣＳＲ。授業内試験ないしレポート試験。	企業経営の国際展開と国際経営。授業内試験ないしレポート提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業に参加する前にテキスト（教科書）、原田順子・洞口治夫編著『企業経営の国際展開』2025年、放送大学教育振興会、2800円＋税を購入し、各章を読み、わからない用語の意味を調べる必要があります。春学期は第1章から第7章までを学習します。
参考書、洞口治夫・行本勢基著『入門 経営学(第2版)』2012年、同友館、の該当章を解説します。図書館などで手に取って読み、わからない用語の意味を調べる必要があります。
期末試験問題は、これらの教科書と参考書から出題されます。日本語、英語で新聞記事が配布された回には、内容を理解する必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
(1)原田順子・洞口治夫編著『企業経営の国際展開』2025年、放送大学教育振興会、2800円＋税。
＜授業では、理解を確認するために授業内で音読をしますので単位取得を目指す諸君は購入して下さい。＞
(2)そのほかに適宜、講義資料を配布します。配布資料には英語も含まれます。

【参考書】
(1)洞口治夫・行本勢基(2012)『入門 経営学(第2版)』同友館。＜期末試験問題は教科書(1)および参考書(1)から出題されます。試験で高得点を目指す学生諸君には購入を薦めます。＞
(2)洞口治夫(2018)『ＭＢＡのナレッジ・マネジメント－集合知創造の現場としての社会人大学院－』文眞堂。＜大学院進学してＭＢＡ取得を考える大学生のためのスタディ・ガイドです。この参考書からは期末試験問題は出題しません。＞
(3)Daniels, J.D., Radebaugh, L.H., Sullivan, D.P. (2015) International Business: Environments and Operations, Pearson, 15th edition.(Global Edition).＜海外留学を目指す大学生のための参考書です。本書は授業内容に関連しています。分厚い本なので図書館などで参照すると良いでしょう。＞

【成績評価の方法と基準】
成績評価は下記の項目を総合的に判断して行います。
(1)授業参加（授業支援システムの出席確認テスト回答ないし課題レポート）（56％）
(2)期末試験(授業内筆記試験)（44％）
良い成績を取るためには毎回の授業に出席することが望ましいでしょう。授業に参加せずに「授業支援システムの出席確認テスト」だけを受けた場合には、減点の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】
過去のアンケートでは「大学らしい授業で学んだ気がした」、「大学での学問と、ビジネス実務とのつながりが理解できた」、「数学もやさしく教えてもらえた」、「授業内容が就職活動に役立つ」といった感謝の言葉が並びました。学生どおしで議論するグループワークについても「満足している」という意見が寄せられました。社会で活躍する洞口ゼミ卒業生のＺｏｏｍでの講演や有名企業から内定を得た四年生のプレゼンテーションも好評でした。意外なことに「雑談が面白い」という意見も多く、この授業からの「気づき」といえます。

【学生が準備すべき機器他】
授業内のテストに回答するためのスマホ、Wi-Fiの利用できるパソコン、ノートテイキングのためのノートと筆記用具。英和辞書機能つき電子辞書ないしスマホ。授業支援システムが閲覧でき、課題のワードファイルなどをダウンロードかつアップロードできるパソコンないしスマホ。

【その他の重要事項】
2023年度は新型コロナ対策に関する法政大学からの指針にもとづき第1回目の授業はリモートで行いました。2025年度については4月時点での法政大学からの指針に従う予定です。対面、オンデマンド、オンラインなどの授業開講方式については、学習支援システムの「お知らせ」に告知しますので、その指示に注意してください。
毎年、やる気のある学生諸君が授業に参加しています。授業開始５分前には教室に来て授業の準備をして「もうすぐ社会人」となることを意識して礼節を欠かさぬよう心掛けてほしいと思います。洞口は法政大学経営学部経営戦略学科の教授です。また、東証プライム市場に上場する企業の社外取締役を務めており、日本企業の経営実務にも接しています。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
International Management explores how to address various challenges associated with the internationalization of corporate management. Students will examine key issues faced by businesses through a wide range of case studies, including Toyota, All Nippon Airways (ANA), Tokyo Disneyland, Yoshinoya, and McDonald's. The course aims to provide insights into how companies drive globalization while highlighting strategies for avoiding management failures from a social science perspective. Key questions include: What types of companies develop products for overseas markets or conduct international marketing? How should Japanese multinational corporations, facing challenges such as currency fluctuations, international competition, and cross-border human resource management, respond? Students will acquire foundational concepts essential for analyzing these issues.
【Learning Objectives】
This course provides an introduction to International Management, focusing on business administration and the fundamentals of cross-border corporate management. Students will explore not only the principles of management but also broader concepts, such as the role of nations in shaping business strategies.
Through lectures, students will develop foundational knowledge necessary for future roles in international business. Course goals include:
· Understanding the impact of multinational corporations on modern society.
· Learning key theories related to multinational corporations.
· Developing critical perspectives on global business trends.
· Cultivating an appreciation for theoretical thinking.
By analyzing economic policies and reading news articles on international management in both Japanese and English, students will gain a long-term, practical perspective on international business issues.
【Learning Activities Outside of Classroom】
Before participating in the class, you need to read the textbook "Kigyo Keiei no Kokusai Tenkai (International Expansion of Corporate Management)," and look up any unfamiliar terms. Students should also be prepared to engage with Japanese and English newspaper articles distributed in class. The recommended preparation and review time for this class is 2 hours each.
Textbooks:(1) Junko Harada and Haruo Horaguchi eds. (2025), Kigyo Keiei no Kokusai Tenkai (International Expansion of Corporate Management), Housoudaigaku kyoiku shinkokai, in Japanese.
(2)In addition, lecture materials will be handed out as needed, including English materials.
References: (1) Haruo Horaguchi and Seiki Yukimoto (2012), Nyumon Keieigaku (Introduction to Business Administration) (2nd Edition), Doyukan, in Japanese.
【Grading Criteria/Policy)】
Grading will be based on a comprehensive evaluation of the following items.
(1) Class participation (responses to quizzes and/or assignment reports via the learning support system) (56%)
(2) Final exam (Written exam in class and/or through the learning support system) (44%)
Regular attendance is essential for achieving higher grades.

MAN200FC（経営学 / Management 200）

国際経営論Ⅱ

洞口　治夫

経営戦略学科専門科目200番台経営戦略学科専門科目　2～4（経営戦略学科）3～4（経営学科・市場経営学科）年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際経営論の目的は、グローバル化を進める企業経営の実態を知り、経営の失敗を避ける方途を社会科学的に示すことにあります。国際経営論とは、企業経営の国際化に伴う諸問題を解決に導くための研究をする学問の総称です。三菱商事、三菱UFJ銀行、日産自動車、楽天、ユニクロなど豊富な事例を学びながら企業経営の課題を学びます。どのような企業が製品開発を海外で行ったり、国際的なマーケティングを行っているのでしょうか。国家間の通貨安競争や国境を越えた人的資源管理などの課題を持つ日本の多国籍企業はいかに行動すべきでしょうか。こうした問題を考えるための基礎的な概念を学んでいきます。

【到達目標】
この授業では学生諸君が、将来、国際ビジネスで活躍するときに必要となる基礎知識を学習し、経営理論と関係づけて理解することを目標とします。マーケティングや人事労務管理という専門領域の理解を目標とします。多国籍企業が現代社会にどのような影響を与えているのかを知り、さらに、世界各国の政治、経済、文化、歴史が多国籍企業にどのような影響を与えてきたかを学習します。多国籍企業に関する理論を学習し、その動向への見通しを立てることの面白さを知ることを目標とします。国際経営に関する日本語および英語の新聞記事を読み、「ものの見方」として経営理論の内容を検討し、国際ビジネスの理論と見識を現実に応用できるようになることが目標です。国際経営に関する標準的な教科書を読破することで、独自に国際経営の専門書を読めるようになるための学習をします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
何回かの授業では、Zoom を利用したオンライン授業または学習支援システムを利用したオンデマンドの授業を行います。Zoom の接続 URL は「学習支援システム」（Hoppii）の「お知らせ」に掲示しますので注意して確認して下さい。
この授業では輸出・直接投資・ライセンシングに代表される多国籍企業の経営活動について説明します。パワーポイントや動画などの補助教材も利用しつつ、ノート・テイキングを確実に行うことを確認しながら授業を進めます。ビジネスでは営業先での会話や交渉、会社内で受ける上司からの指示や会議内容の議事メモ作成など、自らノートにとって整理する必要があります。参加学生によるグループワークや音読も行い、専門用語の理解を確認します。様々な資料からの英文を読み、ビジネス用語を学ぶとともに英語力の確認をしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際経営論Ⅱの概要説明	講義目的と概要。教科書第8章、多国籍企業のグローバル競争。経営理論と実務との関連。歴史・地理・政治と国際経営。M&A、株式投資、コーポレート・ガバナンス。
第2回	多国籍企業とグローバル競争	教科書第8章。多国籍企業のグローバル競争。
第3回	グローバル競争と企業の進化論	教科書第9章、デジタル化と巨大ＩＴ企業の出現。経営資源、無形資産、ネットワーク効果、規模の経済性、範囲の経済性。
第4回	多国籍企業の事例研究	教科書第10章。ＩＴ機器産業における東アジア企業の成長。後発性の利益、後発性の不利益。
第5回	韓国・台湾・中国と世界情勢	教科書第11章、東アジア企業の能力構築。参考書第4章、国際経営。TSMCの重要度。
第6回	多国籍企業と外国為替レート	教科書第12章、多国籍企業と外国為替レート。購買力平価、金利平価、オーバーシューティング、ランダムウォーク。
第7回	日本企業の国際ファイナンス	教科書第12章。直物、先物、オプション。オーバーシューティング、ランダムウォークと確率分布。
第8回	多国籍企業のコーポレート・ガバナンス	教科書第13章、国際経営と資金調達。日本企業の現状。自己資本と他人資本、資本コスト、流動性、ＡＤＲ。
第9回	国際ファイナンスの基礎理論	教科書第13章。財務諸表の読み方と経営戦略。株式投資の成果。配当と利回り。
第10回	社会的責任と国際投資	教科書第14章、多国籍企業の社会的責任。ＣＳＲ、ＥＳＧ、ＳＤＧｓ。
第11回	人事部の仕事	教科書第15章。日本的人事慣行とワークライフバランス。職務と人事評価。
第12回	組織管理の国際潮流	教科書第15章、組織と文化。ダイバーシティ・マネジメントと女性活躍推進。
第13回	マネジメントの未来像	第8章から第15章の復習。期末試験問題の傾向と予測。
第14回	組織理念	授業内試験(筆記試験またはレポート提出)。21世紀の経営課題。地球環境問題とＡＩ組織哲学。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業に参加する前に教科書『企業経営の国際展開』の該当箇所を読み、わからない用語を調べる必要があります。日本語、英語で新聞記事が配布された回には、内容を理解する必要があります。

【テキスト（教科書）】
(1)原田順子・洞口治夫編著『企業経営の国際展開』2025年、放送大学教育振興会、2800円＋税。
＜授業では、理解を確認するために授業内で音読をしますので単位取得を目指す諸君は購入して下さい。＞
(2)そのほかに適宜、講義資料を配布します。配布資料には英語も含まれます。

【参考書】
(1)洞口治夫・行本勢基(2012)『入門 経営学(第2版)』同友館。＜秋学期の参考書ですが、試験問題はこの教科書からも出題されます。＞
(2)洞口治夫(2018)『ＭＢＡのナレッジ・マネジメント－集合知創造の現場としての社会人大学院－』文眞堂。＜大学院進学してＭＢＡ取得を考える大学生のためのスタディ・ガイドです。＞
(3)Daniels, J.D., Radebaugh, L.H., Sullivan, D.P. (2015) International Business: Environments and Operations, Pearson, 15th edition.(Global Edition).＜海外留学を目指す大学生のための参考書です。＞

【成績評価の方法と基準】
成績評価は下記の項目を総合的に判断して行います。
(1) 授業参加（授業支援システム応答ないし課題レポート）（56 %）
(2) 期末試験(授業内筆記試験)（44 %）
良い成績を取るためには毎回の授業に出席することが望ましいでしょう。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートでは「大学らしい授業で学んだ気がした」、「大学での学問と、ビジネス実務とのつながりが理解できた」といった言葉が並んでいます。授業内容が就職活動に役立つことは、この授業からの「気づき」といえます。20年近くにわたって一時限に授業時間が設定されてきましたが「国際経営論を一時限以外の時間に開講して欲しい」という声も、長年、学生諸君から寄せられてきました。学生諸君の声に応えて木曜日の二時限開講になりました。遅刻しないように授業に参加して下さい。

【学生が準備すべき機器他】
授業内試験および期末試験に回答するためのスマホないしパソコン。ノートテイキングのためのノートと筆記用具。英和辞書、ＡＩ検索用のスマホ。授業支援システムが閲覧でき、課題のワードファイルなどをダウンロードおよびアップロードできるパソコン。

【その他の重要事項】
洞口は法政大学経営学部経営戦略学科の教授です。また、東証プライム市場に上場する企業の社外取締役を務めており、日本企業の経営実務にも接しています。この授業で実務と理論とのつながりを理解してもらいたいと願っています。毎年、やる気のある学生諸君が授業に参加しています。授業開始５分前には教室に来て授業の準備をして「もうすぐ社会人」となることを意識して常識と礼節を欠かさぬよう心掛けてほしいと思います。春学期と同様にグループワークを行うので「心の準備」をして参加して下さい。

【Outline (in English)】
【Course Outline】

International Management explores how to address various challenges associated with the internationalization of corporate management. Students will examine key issues faced by businesses through a wide range of case studies, including Toyota, All Nippon Airways (ANA), Tokyo Disneyland, Yoshinoya, and McDonald's. The course aims to provide insights into how companies drive globalization while highlighting strategies for avoiding management failures from a social science perspective. Key questions include: What types of companies develop products for overseas markets or conduct international marketing? How should Japanese multinational corporations, facing challenges such as currency fluctuations, international competition, and cross-border human resource management, respond? Students will acquire foundational concepts essential for analyzing these issues.
【Learning Objectives】
This course provides an introduction to International Management, focusing on business administration and the fundamentals of cross-border corporate management. Students will explore not only the principles of management but also broader concepts, such as the role of nations in shaping business strategies.
Through lectures, students will develop foundational knowledge necessary for future roles in international business. Course goals include:
· Understanding the impact of multinational corporations on modern society.
· Learning key theories related to multinational corporations.
· Developing critical perspectives on global business trends.
· Cultivating an appreciation for theoretical thinking.
By analyzing economic policies and reading news articles on international management in both Japanese and English, students will gain a long-term, practical perspective on international business issues.
【Learning Activities Outside of Classroom】
Before participating in the class, you need to read the textbook "Kigyo Keiei no Kokusai Tenkai (International Expansion of Corporate Management)," and look up any unfamiliar terms. Students should also be prepared to engage with Japanese and English newspaper articles distributed in class. The recommended preparation and review time for this class is 2 hours each.
Textbooks:(1) Junko Harada and Haruo Horaguchi eds. (2025), Kigyo Keiei no Kokusai Tenkai (International Expansion of Corporate Management), Housoudaigaku kyoiku shinkokai, in Japanese.
(2)In addition, lecture materials will be handed out as needed, including English materials.
References: (1) Haruo Horaguchi and Seiki Yukimoto (2012), Nyumon Keieigaku (Introduction to Business Administration) (2nd Edition), Doyukan, in Japanese.
【Grading Criteria/Policy)】
Grading will be based on a comprehensive evaluation of the following items.
(1) Class participation (responses to quizzes and/or assignment reports via the learning support system) (56%)
(2) Final exam (Written exam in class and/or through the learning support system) (44%)
Regular attendance is essential for achieving higher grades.

ECN200FC（経済学 / Economics 200）

日本経済論Ⅰ

平田　英明

経営戦略学科専門科目200番台経営戦略学科専門科目　2～4（経営戦略学科）3～4（経営学科・市場経営学科）年次／2単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界的に有名な投資家のジム・ロジャースはインタビューで「長期的には（日本経済について）かなり悲観的だ。」「もし私がいま10歳の日本人ならば……この国を去ることを選ぶ」「いま10歳の日本人は、これからの人生で大惨事に見舞われるだろう」という衝撃的な発言しています。その一方で、毎年初に注目されるユーラシア・グループによる「世界10大リスク」の最新版では、日本経済に関する「リスク」は全く指摘されていません。日本経済は「（良い意味で）ヤバイ」のでしょうか、それとも「（悪い意味で）ヤバイ」のでしょうか。

海外との取引の拡大している中で日本の経済は影響をどのように受け、どのような影響を与えるのでしょうか。Covid-19の経済への影響は？ ウクライナ戦争を受けた分断の下の諸政策の影響は？ そして、これらの影響をどう分析すればいいのでしょうか。

皆さんは経営学部に所属していますから、将来、企業人として活躍されることを展望されていると思います。それならば、企業を取り巻く環境、つまり日本と世界の経済のポイントを押さえておく必要があることは自明だとご存じのはずです。あのアップルやユニクロであっても、経済情勢に経営は大きく影響されます。そして、上述のように、あいにく経済の見通しに関する見立てには"the answer(s)"があるわけではありません。ですから、自社の置かれた立場を踏まえて、自ら分析する能力が必要です。

この授業はなぜ様々な主張があり得るのか、その背後にある考え方を理解し、自らの力で日本の経済、世界の経済を俯瞰できる素養を身につけることを目的とします。

【到達目標】

究極的には「企業経営者や企画戦略を練るような企業の中枢の人々が、経営的な視点から経済の何をみる（べきな）のか、どう見る（べきな）のか」について多角的に学生が理解できるようになることが目標です。大企業のトップのインタビュー等をみると、皆さんも彼らの日本経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかると思います。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。

ただ、皆さんがそのような立場になるまでにはかなりの時間を要するでしょう。その意味では、目先の目標として「学生が経営学の各分野と日本経済の関わり方を理解できるようになる」ことも意識します。そもそも経営学は経済学から発展した学問分野であり、経営学の各分野は、全て何らかの形で日本経済と関わっています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

今年度はオンデマンドと対面の組み合わせで授業を行います。正式な日程や告知はHoppii上に掲載するオンラインシラバスを参照してください。オンデマンドは、スライドや資料を使った講義形式を軸とします。対面はアクティブラーニングを中心に行います。

授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

例年、授業内で数回講演してもらっています（過去の登壇者の例：国会議員、政府・日銀の要人、実務家、学者など）。皆さんの意見も踏まえ、今年度は財務省の役人と医療スタートアップを手がける医師にご講演頂く予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業説明 マクロ的視点からの経済の捉え方1	授業計画の紹介 1－3章について講義します。
第2回	マクロ的視点からの経済の捉え方2	1－3章の続きを講義します。
第3回	マクロ的視点からの経済の捉え方GS	マクロ的視点からの経済の捉え方に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第4回	日本の企業とその特徴1	4章について講義します。
第5回	日本の企業とその特徴2	4章の続きを講義します。
第6回	日本の企業とその特徴GS	日本の企業とその特徴に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第7回	日本の労働とその特徴1	5章について講義します。
第8回	日本の労働とその特徴2	5章の続きを講義します。
第9回	日本の労働とその特徴GS	労働に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第10回	わが国の財政の特徴1	7章について講義します。
第11回	わが国の財政の特徴2	7章の続きを講義します。
第12回	わが国の財政の特徴GS	財政に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第13回	講演	ゲストスピーカーをお呼びする予定です。
第14回	春学期の復習	春学期の学習内容を振り返ります

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で配布するスライドや資料は、全て授業支援システム上に掲載予定です。予習を前提とはしません。代わりに学生の皆さんは復習に重点を置いてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

浅子・飯塚・篠塚『新　入門・日本経済』(有斐閣、2024)を必ず購入してください。内容や筆者がかなり異なりますので、必ず最新版を購入してください。

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験（とＧＳ）によって評価を行います。なお、＋αとして授業内での発言や等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。詳細は以下の１の通りです。

１．成績の評価はａまたはｂの方法で行います（期末試験時に学生が選択）。詳細は授業にて説明します。

ａ．Ｓ～Ｄの評価
　　期末試験１００％＋αで成績評価を行います。

ｂ．Ｃ～Ｄの評価
　　問題数を絞った期末試験

２．例年、サボっていた学生から救済措置等を求める連絡が来ますが、本科目だけの特別な措置はしません。

３．単位取得率は例年95％程度であり、落第者の大半は殆ど授業に出席しておらず、とてつもなく低い点数をとる（ほぼ間違いなく勉強していない）学生です。なお、持ち込み可であるからといって、スライドの記述をすればそのまま点数を取れるような問題ではないので、授業から学び、復習等をすることがきちんと成績を取るために必要です。

【学生の意見等からの気づき】

成績評価の方式を複数用意し、多くの学生のニーズに応えられるようにしました。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでのスタンダードな授業環境を用意してくれれば大丈夫です。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金や世界銀行におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【関連科目】

Ⅰ、Ⅱを連続履修することを薦めます。マクロ経済学Ⅰ/Ⅱ、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ等が関連科目ではありますが、事前履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to current economic issues of Japan and to basic macroeconomic principles and methods with a bunch of examples. I try to help you understand why they can be so very powerful. By January, you should be able to use the analysis taught in the course to form your own opinions about Japan's macroeconomic problems.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Evaluation will be based on the open-book style final exam. In addition, extra points may be given for comments made in class.

At the time of the final exam, you can choose one of the following options.

(a) Ask for a grade based on the evaluation criteria of S to D (students answer all questions).

(b) Ask for a grade based on the evaluation criteria of C to D (students answer a limited number of questions).

ECN200FC（経済学 / Economics 200）

日本経済論Ⅱ

平田　英明

経営戦略学科専門科目200番台経営戦略学科専門科目　2～4（経営戦略学科）3～4（経営学科・市場経営学科）年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界的に有名な投資家のジム・ロジャースはインタビューで「長期的には（日本経済について）かなり悲観的だ。」「もし私がいま10歳の日本人ならば……この国を去ることを選ぶ」「いま10歳の日本人は、これからの人生で大惨事に見舞われるだろう」という衝撃的な発言しています。その一方で、毎年初に注目されるユーラシア・グループによる「世界10大リスク」の最新版では、日本経済に関する「リスク」は全く指摘されていません。日本経済は「（良い意味で）ヤバイ」のでしょうか、それとも「（悪い意味で）ヤバイ」のでしょうか。

海外との取引の拡大している中で日本の経済は影響をどのように受け、どのような影響を与えるのでしょうか。Covid-19の経済への影響は？ ウクライナ戦争を受けた分断の下の諸政策の影響は？ そして、これらの影響をどう分析すればいいのでしょうか。

皆さんは経営学部に所属していますから、将来、企業人として活躍されることを展望されていると思います。それならば、企業を取り巻く環境、つまり日本と世界の経済のポイントを押さえておく必要があることは自明だとご存じのはずです。あのアップルやユニクロであっても、経済情勢に経営は大きく影響されます。そして、上述のように、あいにく経済の見通しに関する見立てには"the answer(s)"があるわけではありません。ですから、自社の置かれた立場を踏まえて、自ら分析する能力が必要です。

この授業はなぜ様々な主張があり得るのか、その背後にある考え方を理解し、自らの力で日本の経済、世界の経済を俯瞰できる素養を身につけることを目的とします。

【到達目標】

究極的には「企業経営者や企画戦略を練るような企業の中枢の人々が、経営的な視点から経済の何をみる（べきな）のか、どう見る（べきな）のか」について多角的に学生が理解できるようになることが目標です。大企業のトップのインタビュー等をみると、皆さんも彼らの日本経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかると思います。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。

ただ、皆さんがそのような立場になるまでにはかなりの時間を要するでしょう。その意味では、目先の目標として「学生が経営学の各分野と日本経済の関わり方を理解できるようになる」ことも意識します。そもそも経営学は経済学から発展した学問分野であり、経営学の各分野は、全て何らかの形で日本経済と関わっています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

今年度はオンデマンドと対面の組み合わせで授業を行います。正式な日程や告知はHoppii上に掲載するオンラインシラバスを参照してください。オンデマンドは、スライドや資料を使った講義形式を軸とします。対面はアクティブラーニングを中心に行います。

授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

例年、授業内で数回講演してもらっています（過去の登壇者の例：国会議員、政府・日銀の要人、実務家、学者など）。皆さんの意見も踏まえ、今年度は財務省の役人と医療スタートアップを手がける医師にご講演頂く予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業説明 日本の社会保障とその特徴1	授業計画の紹介 6章について講義します。
第2回	日本の社会保障とその特徴2	6章の続きを講義します。
第3回	日本の社会保障とその特徴GS	日本の社会保障に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第4回	データ経済1	経済を理解する上でのデータの重要性について解説します。
第5回	データ経済2	データの経済分析における使われ方を紹介します。
第6回	日本の金融とその特徴1	8章について講義します。
第7回	データ経済GS	データ経済に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第8回	日本の金融とその特徴2	8章の続きを講義します。
第9回	日本の金融とその特徴GS	日本の金融に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
第10回	国際貿易と国際金融の特徴1	9章とそれに関する国際金融の基本について講義します。
第11回	国際貿易と国際金融の特徴2	9章の続きとそれに関する国際金融の基本を講義します。
第12回	国際貿易と国際金融の特徴GS	国際貿易と国際金融に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。または、ゲストスピーカーをお呼びします。
第13回	景気の国際的連動	景気変動が世界的に波及するメカニズムとその背景にあるグローバル化の動向を考えます。
第14回	秋学期の復習	秋学期の学習内容を振り返ります

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で配布するスライドや資料は、全て授業支援システム上に掲載予定です。予習を前提とはしません。代わりに学生の皆さんは復習に重点を置いてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

浅子・飯塚・篠塚『新　入門・日本経済』(有斐閣、2024)を必ず購入してください。内容や筆者がかなり異なりますので、必ず最新版を購入してください。

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験（とＧＳ）によって評価を行います。なお、＋αとして授業内での発言や等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。詳細は以下の１の通りです。

１．成績の評価はａまたはｂの方法で行います（期末試験時に学生が選択）。詳細は授業にて説明します。

ａ．Ｓ～Ｄの評価
　　期末試験１００％＋αで成績評価を行います。

ｂ．Ｃ～Ｄの評価
　　問題数を絞った期末試験

２．例年、サボっていた学生から救済措置等を求める連絡が来ますが、本科目だけの特別な措置はしません。

３．単位取得率は例年95％程度であり、落第者の大半は殆ど授業に出席しておらず、とてつもなく低い点数をとる（ほぼ間違いなく勉強していない）学生です。なお、持ち込み可であるからといって、スライドの記述をすればそのまま点数を取れるような問題ではないので、授業から学び、復習等をすることがきちんと成績を取るために必要です。

【学生の意見等からの気づき】

成績評価の方式を複数用意し、多くの学生のニーズに応えられるようにしました。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでのスタンダードな授業環境を用意してくれれば大丈夫です。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金や世界銀行におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【関連科目】

Ⅰ、Ⅱを連続履修することを薦めます。マクロ経済学Ⅰ/Ⅱ、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ等が関連科目ではありますが、事前履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to current economic issues of Japan and to basic macroeconomic principles and methods with a bunch of examples. I try to help you understand why they can be so very powerful. By January, you should be able to use the analysis taught in the course to form your own opinions about Japan's macroeconomic problems.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Evaluation will be based on the open-book style final exam. In addition, extra points may be given for comments made in class.

At the time of the final exam, you can choose one of the following options.

(a) Ask for a grade based on the evaluation criteria of S to D (students answer all questions).

(b) Ask for a grade based on the evaluation criteria of C to D (students answer a limited number of questions).

INF300FC（その他の情報学 / Information science 300）

システム管理論Ⅰ

児玉　靖司

経営戦略学科専門科目300番台経営戦略学科専門科目　3～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期（Ⅰ）は、ICT(情報通信技術)の基本的な知識の修得を目的とする。具体的にはシステムとは何かを学び、システム設計法を中心に学ぶ。特に、近年注目されている要求定義手法について学ぶ。

【到達目標】
情報学の基礎として ICT(情報通信技術)の基本的な知識を活用し、上位者の指導の下で、業務の分析と解決およびシステム化の支援を行うための手法を学ぶ。経営学に必要な数理的分析に関する素養や、離散数学的素養をつけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
〔授業の概要〕経営情報学として必要な様々な概念について学習する。
〔授業の方法〕授業は基本的に資料に沿って行う。専門性の高い分野に関する講義の場合は、別途、参考文献を指定する場合がある。原則として毎回簡単な小テスト(確認テスト)を行い、理解度を調査しながら進める。
さらに、本年度は米国滞在２年間の話題に触れ、最新情報を講義するように努力する。
〔補足〕
本年度は、原則として「オンディマンド授業」である。各回の講義動画を受講し、アンケート、チェックテストに回答することで出席となる。各回の授業計画の変更については学習支援システムと Google Classroom でその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータのはじまり等	システム開発をする上で基本的なコンピュータに関する知識を学ぶ。
第2回	システム開発	システム開発の全体的な流れについて学ぶ。
第3回	システム開発プロセス	システム開発プロセス全体について、種々の開発方法を学ぶ。
第4回	要求分析（１）	要求分析について概説し、要求獲得について学ぶ。
第5回	要求分析（２）	要求分析について概説し、要求表現、要求検証について学ぶ。
第6回	外部設計（１）	システムへの入出力について主に 設計する外部設計について学ぶ。
第7回	外部設計（２）	外部設計の具体的事例について学ぶ。
第8回	内部設計	内部設計について学ぶ。
第9回	テスト手法について（１）	システム開発におけるテスト手法について学ぶ。
第10回	オブジェクト指向設計	オブジェクトとは何か、さらに、 オブジェクトを用いた設計方法について学ぶ。
第11回	IOTと社会（１）	IOTを用いた情報社会の基礎について学ぶ。
第12回	IOTと社会（２）	IOTを用いた情報社会の応用について学ぶ。
第13回	人工知能	人工知能について学ぶ。
第14回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
原則として毎回簡単な確認テストを行い、次の時間に解説を行うので、予習、復習を行うこと。授業中に紹介する参考図書等も読むことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
開講後､指定する。原則としてパワーポイント（PDF）による資料を Classroom より配布する。

【参考書】
「情報学基礎」（培風館）ISBN978-4-563-01605-0
http://www.baifukan.co.jp/cgi-bin/db/baifu_new_search.pl?ISBN=4-563-01605-5
（後半の講義で使用）

【成績評価の方法と基準】
（課題）定期試験（80%）、確認テストおよび取り組み姿勢（20%）
〔補足〕
本年度は、オンディマンド授業であるので、具体的な内容は学習支援システムと Google Classroom で提示する。

【学生の意見等からの気づき】
満足度は高いが、テーマ設定をじっくり行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
PC 上でのパワーポイントによるプレゼンテーションを多用する。

【その他の重要事項】
〔関連科目〕
情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】
実際に、外資系コンピュータメーカ研究開発本部にてシステム設計および基本ソフトウェア開発を行った経験を活かし、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】
情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】
[Course Outline]
As a professional person, you can learn the basic knowledge of ICT (Information and Communication Technology), and learn the techniques to analyze works, to solve problems under the guidance of superiors. We aim to establish a knowledge on mathematical problems necessary for business management.
[Learning Objectives]
Utilize basic knowledge of ICT (Information and Communication Technology) as the basis of informatics, and learn methods for supporting business analysis, solution, and systematization under the guidance of superiors. The goal is to acquire a background in mathematical analysis necessary for business administration and a background in discrete mathematics.
[Learning Activities Outside of Classroom]
We will do a simple confirmation test each time and explain next time. It is advisable to read the reference books introduced during the class. The standard preparatory /review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
Regular examination (80%), Confirmation test (20%)

INF300FC（その他の情報学 / Information science 300）

システム管理論Ⅱ

児玉　靖司

経営戦略学科専門科目300番台経営戦略学科専門科目　3～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
秋学期（Ⅱ）は、ICT に関わる問題分析手法について学ぶ。具体的には、情報セキュリティ、新聞売り子問題、作業工程分析、ゲーム理論、線形計画法等である。

【到達目標】
情報学の基礎として ICT(情報通信技術)の基本的な知識を活用し、上位者の指導の下で、業務の分析と解決およびシステム化の支援を行うための手法を学ぶ。経営学に必要な数理的分析に関する素養や、離散数学的素養をつけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
〔授業の概要〕経営情報学として必要な様々な概念について学習する。
〔授業の方法〕授業は基本的に資料に沿って行う。専門性の高い分野に関する講義の場合は、別途、参考文献を指定する場合がある。原則として毎回簡単な小テスト(確認テスト)を行い、理解度を調査しながら進める。
〔補足〕
各回の授業計画の変更については学習支援システムと Google Classroom でその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、情報とは	データ、情報、知識の違いについて概説し、情報学の定義について学ぶ。
第2回	情報セキュリティ	コンピュータウィルスを中心にセキュリティについて学ぶ。共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式を中心に学ぶ。
第3回	新聞売り子の問題（1）	新聞売り子の問題について学ぶ。
第4回	新聞売り子の問題（2）	新聞売り子の問題について応用事情について学ぶ。
第5回	プロジェクト管理（1）	プロジェクト管理に重要な作業工程分析について学ぶ。
第6回	プロジェクト管理（2）	作業工程分析について応用事例について学ぶ。
第7回	ゲーム理論（1）戦略をたてる	ゲーム理論全体について学ぶ。
第8回	ゲーム理論（2）ミニマックス戦略	ミニマックス戦略について学ぶ。
第9回	ゲーム理論（3）確率用いたモデル	確率モデルを用いた戦略について学ぶ。
第10回	データ理論（4）基本定理	ゲーム理論の基本定理について学ぶ。
第11回	データ理論（5）囚人のジレンマ	囚人のジレンマについて学ぶ。
第12回	線形計画法(1)	線形計画法について戦略を学ぶ。
第13回	線形計画法(2)	線形計画法の応用を学ぶ。
第14回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
原則として毎回簡単な確認テストを行い、次の時間に解説を行うので、予習、復習を行うこと。授業中に紹介する参考図書等も読むことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
開講後､指定する。原則としてパワーポイント（PDF）による資料を Classroom より配布する。

【参考書】
開講後、指定する。

【成績評価の方法と基準】
（課題）確認テストおよび取り組み姿勢(20%)、定期試験（80%）
〔補足〕
具体的な内容は学習支援システムと Google Classroom で提示する。

【学生の意見等からの気づき】
満足度は高いが、テーマ設定をじっくり行っていきたい。板書が出来るように、授業の進め方を工夫(進度をやや遅く)する。

【学生が準備すべき機器他】
PC 上でのパワーポイントによるプレゼンテーションを多用する。

【その他の重要事項】
〔関連科目〕
情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】
実際に、外資系コンピュータメーカ研究開発本部にてシステム設計および基本ソフトウェア開発を行った経験を活かし、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】
情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】
[Course Outline]
As a professional person, you can learn the basic knowledge of ICT (Information and Communication Technology), and learn the techniques to analyze works, to solve problems under the guidance of superiors. We aim to establish a knowledge on mathematical problems necessary for business management.
[Learning Objectives]
Utilize basic knowledge of ICT (Information and Communication Technology) as the basis of informatics, and learn methods for supporting business analysis, solution, and systematization under the guidance of superiors. The goal is to acquire a background in mathematical analysis necessary for business administration and a background in discrete mathematics.
[Learning Activities Outside of Classroom]
We will do a simple confirmation test each time and explain next time. It is advisable to read the reference books introduced during the class. The standard preparatory /review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
Regular examination (80%), Confirmation test (20%)

MAN200FD（経営学 / Management 200）

マーケティング・マネジメント論Ⅰ

岡田　庄生

市場経営学科専門科目200番台　2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2単位　［春学期授業/Spring］
営2年Q～U

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、マーケティングの中心的な概念である、マーケティング・マネジメントについて学びます。具体的には、企業の事例をもとに、マーケティングの普遍的な理論（STPや4Pなど）や新しい潮流（デジタルやサステナビリティなど）を幅広く扱います。なお、マーケティング・マネジメント論Ⅰ（春学期）は伝統的なマーケティングについて、マーケティング・マネジメント論Ⅱ（秋学期）はデジタル時代のマーケティングについて学びます。両方を学ぶことで、マーケティング・マネジメントに対する深い理解を得ることができます。

【到達目標】
① マーケティング・マネジメントの全体像を俯瞰して捉えるとともに、各領域の専門的な知識を習得し、自ら説明できるようになる
② 毎回の授業での課題や学期末テストに取り組むことにより、マーケティング・マネジメントの基本的なフレームの活用方法を身につけることができる
③ 日々の暮らしや買い物をマーケティング視点で過ごすことにより、経営や市場に対する情報感度を強化する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」と「DP-5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
この授業は1回目はオンラインで、2回目以降は対面で実施します。
1回目に授業の詳細をお伝えしますので、必ず参加してください。
①授業中：講師より教科書に基づいて講義を行います。また、授業中に簡単なクイズに回答します。その場で回答結果を共有しながら学習を深めていく、双方向型の授業を行います
②授業後：毎回の授業に関連する課題を授業の最後に提示しますので、期日までに提出してください。また、授業に対する感想や質問も合わせて回収し、重要な内容については次回の授業にてフィードバックを行います
③学期末テスト：授業で学んだ重要な概念やキーワードなどに関連した質問に答えるテストを行います。テストの詳細は授業の中で説明します

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	・マーケティング・マネジメントとは何か ・授業の進め方や評価方法について
第2回	マーケティングの基礎概念	マーケティング・マネジメントの基本概念と市場環境分析
第3回	ゲスト講師：マーケティングの現場より	最前線でマーケティングを行なっている実務家による講義
第4回	製品のマネジメント	製品開発のプロセスと製品ライフサイクル
第5回	価格のマネジメント	価格設定の考え方と適正価格の調査方法
第6回	広告のマネジメント	広告コミュニケーションによる市場創造
第7回	チャネルのマネジメント	メーカーによるチャネルの選択と管理
第8回	サプライチェーンのマネジメント	在庫管理と安定供給
第9回	営業のマネジメント	営業活動の基礎知識と市場活性化
第10回	顧客のマネジメント	カスタマーリレーションシップ
第11回	ブランド構築のマネジメント	ブランド構築の基礎概念
第12回	顧客理解のマネジメント	顧客インサイトとマーケティングリサーチ
第13回	社会責任のマネジメント	企業における社会的責任の重要性
第14回	クラス内テスト	・学期末テストの実施と解説 ・コース全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業後に、関連する課題に取り組んで頂きます。
また、教科書の該当章を読み、学習内容を復習することを推奨します。
この授業の標準的な予習・復習時間はそれぞれ2時間です。
上記以外に、学期末テストの準備があります。
学期末テストは授業および教科書の内容が出題範囲です。
テストの詳細は授業内に説明します。

【テキスト（教科書）】
石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著『1からのマーケティング 第4版』碩学舎（2019年）
大学生協にて、電子テキスト版（税別生協定価2,000円）を購入することをお勧めします。
電子テキスト版は、法政大学生協のホームページから購入してください。
以下のページよりご確認お願いします。
https://www.univcoop.jp/hosei/order/order_66.html

電子テキスト版を大学生協で購入後、以下の法政大学専用のURLからログインすることで、電子テキスト（EDX UniText）を利用することができます。
https://app.d-text-service.jp/browser/start?uneidantai_ryakugo=UC&soshiki_cd=10035
大学生協での購入に加えて、オンラインでの登録が必要ですので、早めに購入してください。
なお、紙版（税別定価2,400円）を選ぶことも可能です。
詳細は初回の授業にて説明します。

【参考書】
フィリップ・コトラー、ケビン・レーン・ケラー、アレクサンダー・チェルネフ著、恩藏直人監修・翻訳『コトラー&ケラー&チェルネフ マーケティング・マネジメント』丸善出版(2022年)
恩藏直人、 坂下玄哲編『マーケティングの力: 最重要概念・理論枠組み集』有斐閣（2023年）

【成績評価の方法と基準】
1.授業中の課題：30%
2.授業後の課題：30%
3.学期末テスト：40%
上記に加えて、課題等でのコメントが授業で取り上げられた場合には加点があります。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更により、特にありません

【学生が準備すべき機器他】
授業中課題に対応するため、スマートフォンではなくノートPCやタブレットを持参してください。

【その他の重要事項】
本講座は、他のマーケティング系の専門科目の基盤となる講座です。そのため、他のマーケティング系の科目（消費者行動論、マーケティング・リサーチ論、サービス・マネジメント論、流通論、製品開発論等）の履修を予定している学生や、マーケティング関連のゼミに所属したいと考えている学生は、早い段階での履修をお勧めします。
本講座は、広告会社およびコンサルティング会社にてマーケティング分野で20年間の実務経験を持つ教員が担当します。教科書を用いた理論的な解説に加えて、実務での実例を交えて、マーケティングの世界を幅広く紹介します。

【関連科目】
・マーケティング入門
・マーケティング・リサーチ論I/II
・消費者行動論I/II
・流通論I/II
・サービス・マネジメント論I/II
・製品開発論I/II

【Outline (in English)】
Course outline
In this lecture, you will learn about marketing management, a core concept of marketing. Specifically, we will cover a wide range of universal marketing theories (such as STP and the 4Ps) and new trends (such as digital and sustainability) based on case studies of companies. Marketing Management I (Spring Semester) covers traditional marketing, while Marketing Management II (Fall Semester) covers marketing in the digital age. By studying both, you will gain a deep understanding of marketing management.
Learning Objectives
1.Gain a comprehensive understanding of marketing management, acquire specialized knowledge in key areas, and develop the ability to explain these concepts independently.
2.Learn to apply the fundamental frameworks of marketing management by completing class assignments and preparing for the end-of-term test.
3.Enhance your sensitivity to management and market-related information by adopting a marketing perspective in your daily life and shopping habits.
Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy
1. In-class assignments: 30%
2. Post-class assignments: 30%
3. End-of-term test: 40%

MAN200FD（経営学 / Management 200）

マーケティング・マネジメント論Ⅱ

岡田　庄生

市場経営学科専門科目200番台　2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2単位　［秋学期授業/Fall］
営2年Q～U

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、マーケティングの中心的な概念である、マーケティング・マネジメントについて学びます。具体的には、企業の事例をもとに、マーケティングの普遍的な理論（STPや4Pなど）や新しい潮流（デジタルやサステナビリティなど）を幅広く扱います。なお、マーケティング・マネジメント論Ⅰ（春学期）は伝統的なマーケティングについて、マーケティング・マネジメント論Ⅱ（秋学期）はデジタル時代のマーケティングについて学びます。両方を学ぶことで、マーケティング・マネジメントに対する深い理解を得ることができます。

【到達目標】
① マーケティング・マネジメントの全体像を俯瞰して捉えるとともに、各領域の専門的な知識を習得し、自ら説明できるようになる
② 毎回の授業での課題や学期末テストに取り組むことにより、マーケティング・マネジメントの基本的なフレームの活用方法を身につけることができる
③ 日々の暮らしや買い物をマーケティング視点で過ごすことにより、経営や市場に対する情報感度を強化する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」と「DP-5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
この授業は1回目はオンラインで、2回目以降は対面で実施します。
1回目に授業の詳細をお伝えしますので、必ず参加してください。
①授業中：講師より教科書に基づいて講義を行います。また、授業中に簡単なクイズに回答します。その場で回答結果を共有しながら学習を深めていく、双方向型の授業を行います
②授業後：毎回の授業に関連する課題を授業の最後に提示しますので、期日までに提出してください。また、授業に対する感想や質問も合わせて回収し、重要な内容については次回の授業にてフィードバックを行います
③学期末テスト：授業で学んだ重要な概念やキーワードなどに関連した質問に答えるテストを行います。テストの詳細は授業の中で説明します

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	・デジタル時代のマーケティングとは何か ・授業の進め方や評価方法について
第2回	デジタル社会の消費者行動	カスタマージャーニーやデジタルリテラシーについて
第3回	ゲスト講師：マーケティングの現場より	最前線でマーケティングを行なっている実務家による講義
第4回	デジタル・マーケティングの基本概念	顧客との協働、マーケティングミックス
第5回	デジタル時代の製品戦略：基本	デジタル材、IoTについて
第6回	デジタル時代の製品戦略：拡張	ユーザーイノベーションの活用
第7回	デジタル時代の価格戦略：基本	ダイナミックプライシング
第8回	デジタル時代の価格戦略：拡張	消費者間取引と価格、電子決済
第9回	デジタル時代のチャネル戦略：基本	ダイレクトモデル、オムニチャネル
第10回	デジタル時代のチャネル戦略：拡張	シェアリングエコノミー
第11回	デジタル時代のプロモーション戦略：基本	デジタルプロモーション戦略
第12回	デジタル時代のプロモーション戦略：拡張	口コミや格付けの影響力
第13回	デジタル社会のリサーチ	探索的調査と検証的調査
第14回	クラス内テスト	・学期末テストの実施と解説 ・コース全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業後に、関連する課題に取り組んで頂きます。
また、教科書の該当章を読み、学習内容を復習することを推奨します。
この授業の標準的な予習・復習時間はそれぞれ2時間です。
上記以外に、学期末テストの準備があります。
学期末テストは授業および教科書の内容が出題範囲です。
テストの詳細は授業内に説明します。

【テキスト（教科書）】
西川英彦・澁谷覚編著『1からのデジタルマーケティング』碩学舎（2019年）
大学生協にて、電子テキスト版（税別生協定価2,000円）を購入することをお勧めします。
電子テキスト版は、法政大学生協のホームページから購入してください。
以下のページよりご確認お願いします。
https://www.univcoop.jp/hosei/order/order_66.html

電子テキスト版を大学生協で購入後、以下の法政大学専用のURLからログインすることで、電子テキスト（EDX UniText）を利用することができます。
https://app.d-text-service.jp/browser/start?uneidantai_ryakugo=UC&soshiki_cd=10035
大学生協での購入に加えて、オンラインでの登録が必要ですので、早めに購入してください。
なお、紙版（税別定価2,400円）を選ぶことも可能です。
詳細は初回の授業にて説明します。

【参考書】
フィリップ・コトラー、ケビン・レーン・ケラー、アレクサンダー・チェルネフ著、恩藏直人監修・翻訳『コトラー&ケラー&チェルネフ マーケティング・マネジメント』丸善出版(2022年)
恩藏直人、坂下玄哲編『マーケティングの力: 最重要概念・理論枠組み集』有斐閣（2023年）

【成績評価の方法と基準】
1.授業中の課題：30%
2.授業後の課題：30%
3.学期末テスト：40%
上記に加えて、課題等でのコメントが授業で取り上げられた場合には加点があります。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更により、特にありません

【学生が準備すべき機器他】
授業中課題に対応するため、スマートフォンではなくノートPCやタブレットを持参してください。

【その他の重要事項】
本講座は、他のマーケティング系の専門科目の基盤となる講座です。そのため、他のマーケティング系の科目（消費者行動論、マーケティング・リサーチ論、サービス・マネジメント論、流通論、製品開発論等）の履修を予定している学生や、マーケティング関連のゼミに所属したいと考えている学生は、早い段階での履修をお勧めします。
本講座は、広告会社およびコンサルティング会社にてマーケティング分野で20年間の実務経験を持つ教員が担当します。教科書を用いた理論的な解説に加えて、実務での実例を交えて、マーケティングの世界を幅広く紹介します。

【関連科目】
・マーケティング入門
・マーケティング・リサーチ論I/II
・消費者行動論I/II
・流通論I/II
・サービス・マネジメント論I/II
・製品開発論I/II

【Outline (in English)】
Course outline
In this lecture, you will learn about marketing management, a core concept of marketing. Specifically, we will cover a wide range of universal marketing theories (such as STP and the 4Ps) and new trends (such as digital and sustainability) based on case studies of companies. Marketing Management I (Spring Semester) covers traditional marketing, while Marketing Management II (Fall Semester) covers marketing in the digital age. By studying both, you will gain a deep understanding of marketing management.
Learning Objectives
1.Gain a comprehensive understanding of marketing management, acquire specialized knowledge in key areas, and develop the ability to explain these concepts independently.
2.Learn to apply the fundamental frameworks of marketing management by completing class assignments and preparing for the end-of-term test.
3.Enhance your sensitivity to management and market-related information by adopting a marketing perspective in your daily life and shopping habits.
Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy
1. In-class assignments: 30%
2. Post-class assignments: 30%
3. End-of-term test: 40%

ECN200FD（経済学 / Economics 200）

金融論Ⅰ（2019年度以降入学者）

片桐　満

市場経営学科専門科目200番台　2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
投資やお金に関して学ぶことは、将来、社会で生きていくために必須の知識になりつつあります。また、金融業界への就職やフィナンシャルプランナーなど金融に関する資格の取得を考えている学生はもちろん、金融以外の業種で働く人たちも、仕事を進めていく上で金融に関する様々な知識が求められます。このコースでは、投資やお金について、個人が生活していく上で必要な金融の知識や、経済における金融機関の役割など、金融論の基礎を学びます（秋学期の後半部分では、こうした金融の基礎知識を前提として、金融政策など金融に関わる政策や、財政や税金の仕組みなど、金融の公的側面について学びます）。

【到達目標】
このコースでは、金融理論が、個々人の生活や社会に出てからビジネスにおいてどのように役立つのか、という実務的な視点を重視します。実務と理論のつながりを理解し、金融に関する課題について、自分なりの解決方法が見いだすことができるだけの十分な知識を身につけることが、このコースの到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
テキストは指定せず、毎回、スライドに基づいた授業を行います。特に、実務とのつながりを重視する観点から、授業と関連する新聞や雑誌の記事を紹介し、授業の内容と関連付けながら解説します。本コースは、オンデマンド方式によるオンライン授業です。毎回、視聴を確認するためのリアクションペーパーの提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	金融論Ⅰの概要	金融論Ⅰで学ぶ内容を概観します。
第2回	債券と株式	債券・株式に関する基礎的な内容について概観します。
第3回	企業の資本調達	株式や借り入れなど、企業の資金調達手段の選択について解説します。
第4回	資産価格の決定１	効用関数やリスク・リターンの概念について学びます。
第5回	資産価格の決定２	CAPMやファクターモデルなど、資産価格（＝株価）の決定理論を学びます。
第6回	先物とオプション	デリバティブの仕組みと金融市場での役割について解説します。
第7回	間接金融の役割	金融機関を介した金融仲介について、金融市場との違いを中心に学びます。
第8回	金融仲介機関（銀行）	銀行を中心として、金融仲介機関が間接金融で果たす役割を学びます。
第9回	投資信託と保険	銀行以外の金融仲介機関である投資信託と保険について学びます。
第10回	住宅ローンと不動産	家計にとって身近な不動産と住宅ローンについて学びます。
第11回	ESG投資	ESG投資の概要と、その重要性について解説します。
第12回	起業とベンチャーキャピタル	起業における金融機関の役割を学びます。
第13回	金融のグローバル化	海外投資の現状と為替レートについて学びます。
第14回	為替レートの決定	為替レートの決定理論として、購買力平価と金利平価について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。復習では、以下に挙げる参考文献のほか、関連する新聞や雑誌の記事を読むなど、実務的な観点から学んだ内容をどう活かすかについて考えてください。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。

【参考書】
参考文献として、以下の教科書を参照します。
・田中茉莉子「金融論への招待」（新世社）
・内田浩史「金融」（有斐閣）
・J. Berk and P. DeMarzo「コーポレートファイナンス 入門編 第2版」（丸善出版）

【成績評価の方法と基準】
評価は、期末試験（100％）に基づいて決定します。リアクションペーパーは提出することを前提とし、提出しなかったり、視聴したと思えないほど内容が酷かったりした場合、テストの点から減点していきます。

【学生の意見等からの気づき】
期末試験だけではなく、授業への参加度を評価に加えて欲しいという要望があったため、リアクションペーパーの提出を求めることにしました。

【学生が準備すべき機器他】
教材の共有のため学習支援システムを利用します。オンデマンドの映像教材も含まれるため、通信環境の確保をお願いします。

【その他の重要事項】
・春学期・秋学期の金融論Ⅰ/Ⅱを連続で履修することを推奨します。
・日本銀行や国際通貨基金（IMF）において、金融の実務に15年程度かかわりました。そうした経験から、いかに金融理論を実務的な問題解決に役立てるかを伝えられればと思います。

【関連科目】
「ファイナンス入門」を受講していることが望ましいです（必須ではありません）。そのほか、コーポレートファイナンスⅠ／Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ／Ⅱ、国際金融論Ⅰ／Ⅱと関連しています。

【Outline (in English)】
Learning about investments and money is becoming essential knowledge for future life in society. In addition, students who wish to work in the financial industry after graduation, as well as those who work in non-financial industries, are required to have a variety of knowledge about finance in order to carry out their work. In this course, students will learn the basics of financial theory necessary for individuals to live their lives, as well as the role of financial institutions in the economy. (In the latter part of the fall semester, based on this basic knowledge of finance, students will learn about policies related to finance, such as monetary policy, and the public sector of finance, including fiscal and tax systems). The goal of this course is for students to understand the connection between practice and theory and to acquire sufficient knowledge to be able to find their own solutions to financial problems. After the class, students are expected to review what they learned in class and read articles in newspapers and magazines related to the lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. The grades are based on the final exam (100%). If a reaction paper is of extremely low quality or not submitted, the student's final exam score will be reduced.

ECN200FD（経済学 / Economics 200）

金融論Ⅱ（2019年度以降入学者）

片桐　満

市場経営学科専門科目200番台　2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
投資やお金に関して学ぶことは、将来、社会で生きていくために必須の知識になりつつあります。また、金融業界への就職やフィナンシャルプランナーなど金融に関する資格の取得を考えている学生はもちろん、金融以外の業種で働く人たちも、仕事を進めていく上で金融に関する様々な知識が求められます。このコースでは、春学期の金融論Ⅰで学んだ金融の基礎知識を前提として、金融政策や金融規制など金融に関わる政策や、財政の仕組み（年金、社会保険、税金など）について学びます。

【到達目標】
このコースでは、金融理論が個々人の生活や社会に出てからのビジネスにおいてどのように役立つのか、という実務的な視点を重視します。実務と理論のつながりを理解し、金融に関するビジネス上の課題について、自分なりの解決方法が見いだせるだけの十分な知識を身につけることが、このコースの到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
特にテキストは指定せず、毎回、スライドに基づいた授業を行います。また、実務とのつながりを重視する観点から、授業と関連する新聞や雑誌の記事を紹介し、授業の内容と関連付けながら解説します。本コースは、オンデマンド方式でのオンライン授業です。毎回、視聴を確認するためのリアクションペーパーの提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	金融論Ⅱの概要	金融政策や金融規制、財政の仕組みなど、金融論Ⅱを概観します。
第2回	貨幣と金融政策	金融論における貨幣の定義と金融政策との関係（貨幣数量説）を学びます。
第3回	金融政策の効果	金融政策が、経済活動やインフレ率に影響する仕組みを学びます。
第4回	金融政策の手段	伝統的な金融政策の基本となる金融調節と短期金融市場について学びます。
第5回	金融政策の運営	金融政策がどう決定されているか（されるべきか）を学びます。
第6回	非伝統的金融政策	量的緩和など、新しい金融政策の枠組みについて学びます。
第7回	財政１：税の仕組み	生活やビジネスで必須となる様々な税の仕組みを学びます。
第8回	財政２：年金と社会保険	個人の資金計画で重要な年金と社会保険（介護、医療など）を学びます。
第9回	財政と金融政策	国債発行と財政インフレを中心に、金融政策と財政の関係を学びます。
第10回	金融のデジタル化	電子マネーや暗号資産、中央銀行デジタル通貨（CBDC）等について学びます。
第11回	為替市場と通貨危機	為替介入や通貨危機の原因・帰結について学びます。
第12回	金融危機の発生と影響	金融危機の発生メカニズムとその影響について学びます。
第13回	事後のﾌﾟﾙｰﾃﾞﾝｽ政策	金融危機への政策対応として、銀行の破綻処理などについて学びます。
第14回	事前のﾌﾟﾙｰﾃﾞﾝｽ政策	金融危機を未然に防ぐ政策として、自己資本比率規制などを学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。復習では、以下に挙げる参考文献のほか、関連ある新聞や雑誌の記事を読むなど、実務的な観点から学んだ内容をどう活かすかについて考えてください。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。

【参考書】
参考文献として、以下の教科書を参照します。
・田中茉莉子「金融論への招待」（新世社）
・内田浩史「金融」（有斐閣）
・白塚重典「金融政策 理論と実践」（慶応大学出版会）
・白川方明「中央銀行―セントラルバンカーの経験した３９年」（東洋経済新報社）
・土居丈朗 「入門 財政学［第２版］」（日本評論社）

【成績評価の方法と基準】
評価は、期末試験（100 %）に基づいて決定します。リアクションペーパーは提出することを前提とし、提出しなかったり、視聴したとは思えないほど内容が著しく酷かったりした場合、テストの点から減点していきます。

【学生の意見等からの気づき】
期末試験だけではなく、授業への参加度を評価に加えて欲しいという要望があったため、リアクションペーパーの提出を求めることにしました。

【学生が準備すべき機器他】
教材の共有のため学習支援システムを利用します。オンデマンドの映像教材も含まれるため、通信環境の確保をお願いします。

【その他の重要事項】
・春学期・秋学期の金融論Ⅰ/Ⅱを連続で履修することを推奨します。
・日本銀行や国際通貨基金（IMF）において、金融の実務に15年程度かかわりました。そうした経験から、いかに金融理論を実務的な問題解決に役立てるかを伝えられればと思います。

【関連科目】
ミクロ経済学、マクロ経済学が関連科目ですが、事前履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】
Financial economics is essential knowledge for businesspersons in any industry. In this class, students study introductory financial economics such as the role of financial markets and financial institutions in the spring term and then learn about public policy including monetary policy and financial regulations in the fall term. The goal of this class is to acquire sufficient knowledge about financial economics for resolving business challenges. After the class, students are expected to review what they learned in class and read articles in newspapers and magazines related to the lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. The grades are based on the final exam (100%). If a reaction paper is of extremely low quality or not submitted, the student's final exam score will be reduced.

MAN200FD（経営学 / Management 200）

マーケティング・リサーチ論Ⅰ（2019年度以降入学者）

西川　英彦

市場経営学科専門科目200番台　2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
たくさんの商品企画の実例を通して、マーケティング・リサーチの基礎と方法を身につけよう。
はじめてマーケティング・リサーチを学ぶ学生が理解しやすいように、本授業では、リサーチがよく活用される「商品企画」をテーマにした実際の企業ケースや、リサーチの具体例をもとに、講義を行う。リサーチの最前線として、日清食品の執行役員と、花王の事業部長による講演がある。本授業は、インタビュー法や観察法など、定性的調査の理論と実践を学ぶことを目的としている。
なお、マーケティング・リサーチ論Ⅰ（春学期）はインタビュー法などの定性的調査、Ⅱ（秋学期）はアンケート作成やデータ分析などの定量的調査を学ぶ。両方を学ぶことで、相乗効果が期待できる。

【到達目標】
到達目標は、以下の2点である。
①ケースをもとに、インタビュー法や観察法、リード・ユーザー法などの定性調査のスキルを身につける。
②簡単な定性調査を行い、商品企画の仮説となるレポート（企画書）を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
授業では、実際にリサーチを商品企画に活用しているゲストスピーカーの講演をはじめ、企業のケースや具体例を通して、リサーチの活用イメージをつかんだ上で、リサーチの基礎と方法を学ぶことで、その理解を深める。一方的に講義をするのではなく、学生からのコメントや質問をもとに、学生参加型の講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	商品企画プロセスにおけるリサーチの重要性	**商品企画プロセス**（テキスト1章） ・ライオン「トップナノックス」の事例 ・電子テキストについて
第2回	ゲスト講師①	**大塚製薬株式会社 浅見慎一氏講演** ・ポカリスエット、イオンウォーターなどのリサーチやマーケティングの実際
第3回	デプスインタビューから顧客ニーズを把握する	**インタビュー法**（テキスト2章） ・資生堂「マジョリカマジョルカ」の事例
第4回	観察から顧客ニーズを把握する	**観察法**（テキスト3章） ・デザイン企業IDEO「ATMのミラー」の事例
第5回	リード・ユーザー法からユーザー・イノベーションを知る	**リード・ユーザー法**（テキスト4章） ・フェリシモ「生活雑貨大賞」の事例
第6回	顧客ニーズからアイデアを発想する 最終レポートの説明	**アイデア発想**（テキスト5章） ・TOTO「クラッソ」の事例 ・最終レポートの説明 ・昨年の優秀例の紹介
第7回	アイデアをもとにコンセプトを開発する	**コンセプト開発**（テキスト6章） ・エースコック「JANJANソース焼きそば」の事例
第8回	コンセプトをもとに試作品を作成する	**プロトタイピング**（テキスト7章） ・IDEO「ショッピング・カート」のプロトタイピング
第9回	コンセプトが顧客ニーズに合っているかを確認する	**顧客ニーズの確認**（テキスト10章） ・ハウス食品「C1000ビタミンレモンコラーゲン」の事例
第10回	いままでのことをまとめ、企画書を作成する	**企画書作成**（テキスト14章） ・フジッコ「フルーツセラピー」の事例
第11回	効果的なプレゼンテーションを行う	**プレゼンテーション**（テキスト15章） ・グリコ「メンズポッキー」の事例
第12回	ゲスト講師②	**日清食品ホールディングス株式会社 執行役員・CMO 深澤勝義氏講演** ・カップヌードルやチキラーメンなどのリサーチやマーケティングの実際
第13回	早期優秀レポートの報告	**早期優秀レポート報告** ・学生によるプレゼンテーション
第14回	優秀レポートの報告	**最終優秀レポート報告** ・学生によるプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備として、電子テキストの次回の章を読んでくる。また、レポートを作成して、学期末に提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書として、『1からの商品企画』（西川英彦・廣田章光編著、碩学舎2012年）の大学生協の電子テキストを使用する。大学生協にて、電子テキスト（税別生協定価2,000円）を購入のこと。なお、紙版（税別定価2,400円）もあるが、授業やフィードバックは電子テキストをもとに進めるので注意すること。

・講師が、授業の補足情報を、電子テキストにアップするので、予習や復習がしやすくなるため、教科書は、大学生協の電子テキストを購入すること。
・こうした双方向型の授業をおこなうために、講師は生協より電子テキストへのマーカーやコメントなどの個人ログデータの提供をうける場合がある。
・法政大学生協のホームページを確認して、早めに購入すること。
https://www.univcoop.jp/hosei/order/order_66.html
・電子テキストを購入後に、以下のURLからログインして、電子テキスト（EDX UniText）を利用する。組織コードは、10035である。ログインID、パスワードは、購入後に設定できる。
https://app.d-text-service.jp/api/v2/soshiki-cd-nyuryoku

【参考書】
ベルク・フィッシャー・コジネッツ『消費者理解のための定性的マーケティン グ・リサーチ』碩学舎、2016年

【成績評価の方法と基準】
＜通常の成績評価（100点満点）＞
・授業中の課題（授業中に、学習支援システムの「テスト/アンケート」への回答）：42%
・レポートの提出（いずれかの定性調査と、それを利用した商品企画アイデア）：58%

＜以下は、加点となる＞
・授業中の発言：1点加点。
・事前課題：該当章の重要なキーワードとその事例を学習支援システムにアップ。紹介時に発言された場合に、2点加点。
・事後課題：学習支援システムに感想や質問をアップ。紹介時に発言された場合に、1点加点。
・早期レポートの提出者：全体のレポートの質向上のため、10点加点。ただし、当日参加が条件。
・早期・最終レポートの報告者：優秀レポートの報告者に、2点加点。

【学生の意見等からの気づき】
受講生が難しかったプロセスを考慮して、2点を改善した。
①レポートをイメージしやすいように、レポート例を紹介する。
②全体レポートの質向上をはかるために、参加学生の優秀レポート報告が提出前に確認できる、早期レポート制度を採用する。

【学生が準備すべき機器他】
電子テキストを利用するため、パソコンあるいはタブレットを用意すること。スマホでも閲覧可能だが、パソコンやタブレットを推奨する。

【その他の重要事項】
関連科目は、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ、統計学Ⅰ/Ⅱである。
授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】
複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした講義を実施する。

【Outline (in English)】
Let's learn the basics and methods of marketing research through many empirical examples of product development. In order to make it easier for students who learn marketing research for the first time to understand, the lecture will be based on actual cases and specific examples of research on the theme of "product development" where marketing research is often used.

The purpose of this class is to learn the theory and practice of qualitative research, such as interview and observation methods. Students are required to read the textbook before the class, submit comments after the class, and submit a report (a proposal for product planning) at the end of the semester.

In preparation, students will read the next chapter of the e-textbook. In addition, a report will be prepared and submitted at the end of the semester. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grades will be determined by in-class exercises (42%), and a final report (58%).

In Marketing Research I (spring semester), students will learn qualitative research such as interview methods, and in Marketing Research II (fall semester), students will learn quantitative research such as questionnaire creation and data analysis. By studying both, a synergistic effect can be expected.

MAN200FD（経営学 / Management 200）

マーケティング・リサーチ論Ⅱ（2019年度以降入学者）

西川　英彦

市場経営学科専門科目200番台　2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　たくさんの実例を通して、マーケティング・リサーチの基礎と方法を身につけよう。
　はじめてマーケティング・リサーチを学ぶ学生が理解しやすいように、本授業では、リサーチがよく活用される「商品企画」や「マーケティング」をテーマにした実際の企業ケースや、リサーチの具体例をもとに、双方向の講義と簡単な演習を行う。リサーチの実際として、ゲストよる講演がある。
　なお、Ⅰ（春学期）はインタビューや観察法などの定性的調査、Ⅱ（秋学期）はアンケート作成やデータ分析などの定量的調査を学ぶ。両方を学ぶことで、相乗効果が期待できる。

【到達目標】
　到達目標は、以下の2点である。
①具体例をもとに、アンケート作成やデータ分析などの定量調査のスキルを身につける。
②簡単な定量調査を行い、商品企画の仮説を検証するレポートを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
　授業では、実際にリサーチを商品企画に活用しているゲストスピーカーの講演をはじめ、企業のケースや具体例を通して、リサーチの活用イメージをつかんだ上で、リサーチの基礎と方法を学ぶことで、その理解を深める。一方的に講義をするのではなく、学生からのコメントや質問をもとに、学生参加型の講義を行う。
　演習は、無料版の「RStudio」（統計分析ソフト「R」を便利につかえるアプリ）を用いるが、テキスト通りに入力すれば分析できるので、数学が苦手な学生でも大丈夫である。講義では、学生アシスタントの操作画面を映しつつ、説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	なぜマーケターに統計分析が必要なのか？	**記述統計**（テキスト第Ⅰ部） ・RStudioの操作、パソコンを持参のこと（次週以降も同様）
第2回	データは平均だけでなく「ばらつき」も大事	**標準偏差**（テキスト1章） ・RStudioを使ったミニ演習
第3回	2つの変数の関係は強い、弱い？	**相関分析と連関分析**（テキスト2章） ・RStudioを使ったミニ演習
第4回	その「仮説」はマーケティングに使えるか？	**推測統計と仮説検定**（テキスト第Ⅱ部-3章）
第5回	関係性をマーケティングに活かす	**無相関検定**（テキスト4章） ・RStudioを使ったミニ演習
第6回	クロス集計表から効果をあぶり出せ	**カイ二乗検定**（テキスト5章） ・RStudioを使ったミニ演習
第7回	その平均値の差に意味があるか、検証する	***t*検定**（テキスト6章） ・RStudioを使ったミニ演習
第8回	ある変数から目的の変数の予測モデルをつくる	**単回帰分析**（テキスト7章） ・RStudioを使ったミニ演習
第9回	複数の変数の影響を考慮したモデルを使いこなせ	**重回帰分析**（テキスト8章） ・RStudioを使ったミニ演習
第10回	実験に必須の手法を学ぶ	**分散分析** ・RStudioを使ったミニ演習
第11回	報告書のイメージをつかむ	**レポートの説明** ・レポートの説明
第12回	ゲスト講師	**元P&G 東浦和宏氏講演** ・関西学院大学 経営戦略研究科 教授 ・同氏は、P&G、ユニリーバ、ニールセン、モンデリーズ等で、調査を実践 ・講演と質疑
第13回	適切なアンケートの作成とサンプリングの仕方を学ぶ	**アンケートとサンプリング** ・アンケートフォームを実際に作成
第14回	優秀レポートの報告	**優秀レポートの報告とフィードバック**

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　本授業の準備や復習をしつつ、最終レポートを授業時間外に作成すること。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
西川英彦・佐保圭(2025)『文系マーケターのためのゼロから使える統計分析』日経BP

【参考書】
①山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎(2008)『Rによるやさしい統計学』オーム社
②山田剛史・村井潤一郎(2004)『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房
③恩藏直人・冨田健司(編)(2022)『1からのマーケティング分析(第2版)』碩学舎
④南風原朝和(2002)『心理統計学の基礎』有斐閣

【成績評価の方法と基準】
＜通常の成績評価（100 点満点）＞
・授業中の課題（授業中に、学習支援システムへの回答）：42%
・レポートの提出：58%
＜以下は、加点となる＞
・授業中の発言：1点加点。
・事後課題：学習支援システムに感想や質問をアップ。紹介時に発言された場合に、1 点加点。
・最終レポートの報告者：優秀レポートの報告者に、2点加点。

【学生の意見等からの気づき】
　受講生が難しかったプロセスを考慮して、2点を改善した。
　①より理解が深まるように、基礎的なテキストを採用した。
　②レポートをイメージしやすいように、レポート例を紹介する。

【学生が準備すべき機器他】
　各自、ノートパソコンを持参すること。なお、無料版アプリの「RStudio」を使うために、学習支援システムの資料を参考に、同ソフトと無料統計分析ソフトの「R」を、事前にパソコンにインストールしてくること。

【その他の重要事項】
　関連科目は、マーケティング・リサーチ論Ⅰ、マーケティング入門、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ、統計学Ⅰ/Ⅱである。
　授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】
　複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした講義を実施する。

【Outline (in English)】
Let's learn the basics and methods of marketing research through examples of many product planning. To make it easier for students to learn about marketing and research for the first time, this class gives interactive lectures and exercises based on actual corporate cases with the theme of "product planning" and "marketing" where research is often used and the concrete examples of research. In the spring semester, students will study qualitative surveys such as interviews and observation methods, and in the fall semester, they will study quantitative surveys such as questionnaire creation and data analysis. By learning both, a synergistic effect can be expected.

The goals are as follows.
(1) To acquire skills in quantitative research, such as questionnaire creation and data analysis, based on specific examples.
(2) To be able to conduct simple quantitative research and create a report to verify a hypothesis for product planning.

In addition to the class time, students are expected to review this class and prepare a final report. The standard preparation and review time for this class is two hour each.

Grades will be determined by in-class exercises (42%) and reports (58%).

MAN200FD（経営学 / Management 200）

製品開発論 I

田路　則子

市場経営学科専門科目200番台市場経営学科専門科目　2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
PC、TV、スマートフォン等ハイテク製品の進歩は目覚しく、我々の生活に便益を与えている。そのハイテク製品とは、どのような技術知識が統合されているのか、製品として世に出るまでにどのようなプロセスをたどるのか、どのような組織で製品開発は行われているのかを学ぶ。
顧客の満足を高めるために、サイエンスを製品化することが製品開発である。サイエンスそのものを追求して研究することは理工系人材の仕事であるが、戦略上の位置づけを考えること、組織の設計や運営は、社会科学系人材の役割である。ハイテク産業のマネジメントについて理解を深めることが目標である。

【到達目標】
以下に関する知識を習得し、将来、製品開発に携わる職務に就いた際に役立つ考察力と判断力の基礎を固めることが目標である。
ハイテク製品を生み出す製品開発を学ぶ意義
・サイエンスとビジネスの関係、ハイテク製品がもたらす便益、製品開発を文科系が学ぶ意義
ハイテク製品の構造
・統合される多様な技術知識
・コスト構造
製品開発のプロセス
・研究、開発、製造、販売までのプロセス
・コンセプト・デザインの重要性
・マニュファクチャリング（製造）
イノベーション
・市場と技術の関係
・イノベーションの定義
・ドミナント・デザインの決定
製品開発戦略
・競争戦略論と資源蓄積論
・ライセンシング、アウトソーシング、アライアンス、ハイテク・スタートアップ
製品開発組織
・研究所と事業部
・プロジェクト・マネージャーの仕事
・グローバル市場への対応

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
原則、オンデマンド形式の講義となる。解説をする講義の映像を試聴しながら、ビジネスケースを読んだり、ビジネス映像を見て理解を深める。製品の感覚や製品開発の仕事のイメージが持てるようなメニューを用意している。
ほとんどの事例は、ビジネスケースが用意されているので、指示に従って、事前または事後に読むことが望ましい。ケースは大学院レベルのものを使用しているので、かなり難解である。ビジネス映像と解説講義を試聴した後に、受講生は設問に対する考察を考え、提出する必要がある。
春学期はラディカルイノベーション、コモディティ化、技術蓄積のテーマを扱う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	時計(セイコーのクオーツ1)	ラディカル・イノベーションとインクリメンタル・イノベーション
2	時計(セイコーのクオーツ2)	コモディティ化と統合型企業のジレンマ
3	時計(セイコーのクオーツ3)	コモディティ化の考察解説とその後のイノベーション
4	時計(カシオのG-Shock1)	製品開発と事業化
5	時計(カシオのG-Shock2)	グローバルブランドの構築
6	スイッチ(NKK1)	技術蓄積
7	スイッチ(NKK2)	海外展開と新市場創出
8	アライアンスとオープン・イノベーション	戦略的提携と外部資源の活用
9	医療機器(テルモ1)	組織改革
10	医療機器(テルモ2)	技術蓄積
11	医療機器(テルモ3)	事業ドメインの構築
12	炭素繊維(東レ1)	素材の製品開発と市場開拓
13	炭素繊維(東レ2)	川上から川下に広がる事業ドメイン
14	液晶テレビ(シャープ)	電子半導体産業におけるコモディティ化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前または事後にビジネスケースを読む必要がある。事前にケースを読んだり、課題提出のために、2時間程度の予習と、受講後の復習に2時間程度が必要となる。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
①「イノベーション・マネジメント」近能善範・高井文子　新世社　2010年
②『ハイテク・スタートアップの経営戦略―オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子　東洋経済新報社　2010年
③『MOT“技術経営”入門』延岡健太郎 日経新聞社 2006年

【成績評価の方法と基準】
全部で4回程度の課題の提出及び最終課題（またはテスト）によって評価する。毎回の課題の合計(50%)と最終課題（50%)。なお、映像とビジネスケースを理解しなければ、課題に答えることは難しいので、すべてを習得してほしい。

【学生の意見等からの気づき】
なじみのない製品を扱う回もあるが、映像や写真等を使うことにより、「製品を理解することができた」という意見は多かった。

【学生が準備すべき機器他】
オンデマンドであるため、PCとwifi環境がなければ、学習できない。

【その他の重要事項】
関連科目は、技術管理論Ⅰ/Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、国際経営論Ⅰ/Ⅱ等

【教員の研究テーマ】
「イノベーション・マネジメントにおける戦略と組織行動」
「グローバル戦略」
「ハイテク・スタートアップの成長」

【主要研究業績】
①「スウェーデンの起業家大学から生まれるハイテク・スタートアップ」田路則子・五十嵐伸吾『マーケティングジャーナル』43号4巻, pp.31-42,2024年. ②「大学生の起業意思形成モデルの検証」田路則子・藤村まこと・玉井由樹『組織科学』56巻3号, 2023年. ③「新興国スタートアップの資金調達と新興企業向けの株式市場の役割-バルト三国のケース・スタディから」簗田優・田路則子『ベンチャーズレビュー』日本ベンチャー学会, 第37巻, pp.73-77,2021. ④『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020年. ⑤「アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント・半導体露光機産業の事例から」榎波龍雄・田路則子『一橋ビジネスレビュー』第65巻号,pp172-184,2017年. ⑥ Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies," Noriko Taji, Technology, Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group,Vol. 14,pp.263-287,2014. ⑦「WEBビジネスの起業家像ーシリコンバレーのモバイル＆ソーシャルメディア・ビジネス」田路則子『赤門マネジメントレビュー』第10巻10号, pp.753-774.2011年. ⑧『ハイテク・スタートアップの経営戦略―オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子,東洋経済新報社,2010年. ⑨「半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也,『赤門マネジメント・レビュー』東京大学,第8巻,5号,pp211-231,2009年. ⑩『アーキテクチュラル・イノベーション』田路則子,白桃書房,2005年

【Outline (in English)】
【Outline &Objectives】: Students learn how to integrate technological knowledge and manage the process of product development. Product development is to commercialize science/technology in order to increase customer satisfaction. Research &development is a task of engineering people. On the other hand, making a strategy and designing and operating organization is a task of people related to social science. This class has an objective of deep understanding management in high-tech industries.
【Learning activities outside of classroom】: Students have to read business cases before or after class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】: About four small reports （５０％）and a final report/test（５０％）

MAN200FD（経営学 / Management 200）

製品開発論Ⅱ

田路　則子

市場経営学科専門科目200番台市場経営学科専門科目　2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
PC、TV、スマートフォン等ハイテク製品の進歩は目覚しく、我々の生活に便益を与えている。そのハイテク製品とは、どのような技術知識が統合されているのか、製品として世に出るまでにどのようなプロセスをたどるのか、どのような組織で製品開発は行われているのかを学ぶ。
顧客の満足を高めるために、サイエンスを製品化することが製品開発である。サイエンスそのものを追求して研究することは理工系人材の仕事であるが、戦略上の位置づけを考えること、組織の設計や運営は、社会科学系人材の役割である。ハイテク産業のマネジメントについて理解を深めることが目標である。

【到達目標】
以下に関する知識を習得し、将来、製品開発に携わる職務に就いた際に役立つ考察力と判断力の基礎を固めることが目標である。
ハイテク製品を生み出す製品開発を学ぶ意義
・サイエンスとビジネスの関係、ハイテク製品がもたらす便益、製品開発を文科系が学ぶ意義
ハイテク製品の構造
・統合される多様な技術知識
・コスト構造
製品開発のプロセス
・研究、開発、製造、販売までのプロセス
・コンセプト・デザインの重要性
・マニュファクチャリング（製造）
イノベーション
・市場と技術の関係
・イノベーションの定義
・ドミナント・デザインの決定
製品開発戦略
・競争戦略論と資源蓄積論
・ライセンシング、アウトソーシング、アライアンス、ハイテク・スタートアップ
製品開発組織
・研究所と事業部
・プロジェクト・マネージャーの仕事
・グローバル市場への対応

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
原則、オンデマンド形式の講義となる。解説をする講義の映像を試聴しながら、ビジネスケースを読んだり、ビジネス映像を見て理解を深める。製品の感覚や製品開発の仕事のイメージが持てるようなメニューを用意している。
ほとんどの事例は、ビジネスケースが用意されているので、指示に従って、事前または事後に読むことが望ましい。ケースは大学院レベルのものを使用しているので、かなり難解である。ビジネス映像と解説講義を試聴した後に、受講生は設問に対する考察を考え、提出する必要がある。
秋学期はビジネスプラットフォーム、グローバル化、日米のスタートアップの事例を扱う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	カメラ(コダック)	イノベーションとドミナント・デザイン
第2回	カメラ(コダックと富士フィルム	イノベーターのジレンマ
第3回	イメージセンサー (ソニー)	イノベーターズ・ジレンマと統合型企業のジレンマ
第4回	PC(Apple)	ＰＣの誕生と進化
第5回	PC&スマートフォン (Apple)	ビジネス・プラットフォームの構築
第6回	ビジネスプラットフォーム	ビジネス・プラットフォーム
第7回	空調機(ダイキン工業1)	欧州におけるローカリゼーション一
第8回	空調機(ダイキン工業2)	ダイキンのグローバル展開と人材育成・中国展開
第9回	スタートアップとは	スタートアップとは
第10回	シリコンバレーのスタートアップ1	シリコンバレーの起業エコシステム
第11回	シリコンバレーのスタートアップ2	シリコンバレーのITビジネス
第12回	日本のスタートアップ1	ITビジネスの起業プロセスーグラモ
第13回	日本のスタートアップ2	半導体ビジネスの起業プロセスー RAYTEX
第14回	シリコンバレーのスタートアップ3	半導体ビジネスの連続起業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前または事後にビジネスケースを読む必要がある。事前にケースを読んだり、課題提出のために、2時間程度の予習と、受講後の復習に2時間程度が必要となる。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
①『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020年
②『ハイテク・スタートアップの経営戦略―オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子　東洋経済新報社　2010年

【成績評価の方法と基準】
全部で4回程度の課題の提出及び最終課題（またはテスト）によって評価する。毎回の課題の合計(50%)と最終課題（50%)。なお、映像とビジネスケースを理解しなければ、課題に答えることは難しいので、すべてを習得してほしい。

【学生の意見等からの気づき】
なじみのない製品を扱う回もあるが、VTRや写真等を使うことにより、「製品を理解することができた」という意見は多かった。

【学生が準備すべき機器他】
オンデマンドであるため、PCとwifi環境がなければ、学習できない。

【その他の重要事項】
関連科目は、技術管理論Ⅰ/Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、国際経営論Ⅰ/Ⅱ等

【教員の研究テーマ】
「イノベーション・マネジメントにおける戦略と組織行動」
「グローバル戦略」
「ハイテク・スタートアップの成長」

【主要研究業績】
①「スウェーデンの起業家大学から生まれるハイテク・スタートアップ」田路則子・五十嵐伸吾『マーケティングジャーナル』43号4巻, pp.31-42,2024年.②「大学生の起業意思形成モデルの検証」田路則子・藤村まこと・玉井由樹『組織科学』56巻3号, 2023年.③「新興国スタートアップの資金調達と新興企業向けの株式市場の役割-バルト三国のケース・スタディから」簗田優・田路則子『ベンチャーズレビュー』日本ベンチャー学会, 第37巻, pp.73-77,2021.④『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020年.⑤「アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント・半導体露光機産業の事例から」榎波龍雄・田路則子『一橋ビジネスレビュー』第65巻号,pp172-184,2017年.⑥ Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies," Noriko Taji, Technology, Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group,Vol. 14,pp.263-287,2014.⑦「WEBビジネスの起業家像ーシリコンバレーのモバイル＆ソーシャルメディア・ビジネス」田路則子『赤門マネジメントレビュー』第10巻10号, pp.753-774.2011年.⑧『ハイテク・スタートアップの経営戦略―オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子,東洋経済新報社,2010年.⑨「半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也,『赤門マネジメント・レビュー』東京大学,第8巻,5号,pp211-231,2009年.⑩『アーキテクチュラル・イノベーション』田路則子,白桃書房,2005年

【Outline (in English)】
【Outline &Objectives】: Students learn how to integrate technological knowledge and manage the process of product development. Product development is to commercialize science/technology in order to increase customer satisfaction. Research &development is a task of engineering people. On the other hand, making a strategy and designing and operating organization is a task of people related to social science. This class has an objective of deep understanding management in high-tech industries.
【Learning activities outside of classroom】: Students have to read business cases before or after class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】: About four small reports （５０％）and a final report/test（５０％）

ECN300FD（経済学 / Economics 300）

産業組織論Ⅰ

矢野　智彦

市場経営学科専門科目300番台市場経営学科専門科目　3～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業組織論は、特定の市場における企業の意思決定や産業の構造について考察する経済学の一分野です。その知見は実務と密接に関係しており、価格戦略やマーケティングなどの企業戦略の場面や、M&A、独占禁止法違反に関わる規制・訴訟等などの実務で用いられています。講師は実際に産業組織論を用いて主にM&A、独占禁止法違反に関わる規制・訴訟等の場面でコンサルティングを行うコンサルタントです。
この講義では、産業組織論の基本的な考え方と用いられ方を学び、自分自身が産業組織論のものの見方を実務や実生活で活用できるようになることを目指します。
具体的には、寡占競争、製品差別化、価格差別、垂直的な取引契約、合併など産業組織論の各トピックをミクロ経済学の理論を道具として分析し、また、実務における用いられ方について考察します。
Ⅰでは、まず、より現実的な市場競争の構造である寡占市場を理論的に分析する方法を学びます。カルテルや寡占競争など市場で実際に見られる現象についても理論的に分析すると共に、これらの産業組織論の考え方が実際に用いられる実務の現場を具体的に解説します。

【到達目標】
産業組織論の基本的な考え方と用いられ方を学び、将来的に産業組織論の実務に関わる基礎を作り、また、産業組織論に基づくものの見方で普段目にするビジネスを分析するなど実生活で活用できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
オンデマンド型オンライン授業として、全14回、YouTubeによる動画配信で授業を実施します。
全て講義形式で行い、講義にはスライドを用います。授業内課題として、授業の基本的な理解を問う課題を出題し、各回の講義内容の理解を深めます。
学習内容の確認のために期末試験を行います。
学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを活用して、随時、受講者とインタラクションを持つ機会を確保します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	産業組織論とはどのような分野であるか 授業の方式・評価方法
第2回	ミクロ経済学の復習と産業組織論のトピックの概観	ミクロ経済学の復習（主に企業の利潤最大化と完全競争） 産業組織論Ⅰで取り扱うトピックの紹介
第3回	独占	独占企業の行動と完全競争市場における企業の行動との違い なぜ独占になるのか
第4回	寡占競争(1)	企業が生産・販売の数量を決定して競争を行う場合（クールノー競争）に、企業の数の変化に応じて競争がどのように変わるのか
第5回	寡占競争(2)	消費者が企業間の差異を質的に区別できないような財・サービスの市場（同質財市場）において、企業が生産・販売の数量の代わりに価格を決定して競争を行う場合（ベルトラン競争）にはクールノー競争とどのように競争が異なるか
第6回	寡占競争(3)	消費者が企業間の差異を質的に区別できる財・サービスの市場（製品差別化市場）におけるベルトラン競争
第7回	競争の実務 (1)	競争法・競争政策の概要
第8回	競争の実務(2)	独禁法違反事件や独禁法違反に関わる訴訟・紛争の実務
第9回	合併	企業が合併したら消費者と企業それぞれに何が起きる
第10回	ゲーム理論(1)	ゲーム理論とは何か
第11回	ゲーム理論(2)	最適反応とナッシュ均衡
第12回	ゲーム理論(3)	ゲーム理論による寡占市場の理論（第4回から第6回）の整理
第13回	復習	期末試験に向けて本講義で扱ったトピックを整理
第14回	問題演習	期末試験のための問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
期末試験を念頭に、授業後の復習が必要です。各トピックに応じて紹介する参考文献での自主学習も期待しています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
講義中に以下の参考書の該当箇所を適宜紹介します。自主的に読むことで一層の学習効果が期待できます。
『ミクロ経済学』奥野正寛編著 東京大学出版会 2008年
『産業組織とビジネスの経済学』花薗誠著　有斐閣　2018年
また、定期試験に向けた準備としては、以下の書籍が有益です。
『ミクロ経済学演習（第2版）』奥野正寛編・猪野弘明・井上朋紀・加藤晋・川森智彦・矢野智彦・山口和男著 東京大学出版会 2018年

【成績評価の方法と基準】
期末試験100%

【学生の意見等からの気づき】
受講生のレベルや関心に合わせ、授業内容の難易度やスピード、扱うトピックを調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業動画のURL、関連するスライド等の資料や、期末試験等の重要なお知らせは、学習支援システムに掲載します。
学習支援システムへの頻繁なアクセスが出来る環境が必要になります。

【その他の重要事項】
ミクロ経済学について基本的な知識を習得していること、または同時に履修して学習していることを受講の前提とします。
産業組織論ⅠとⅡは密接に関係しているので、産業組織論の全体を理解するためにも、連続した履修を強く薦めます。（春学期のⅠの内容を前提として秋学期のⅡが進められます。Ⅰを履修せずⅡを履修する場合は、関連する箇所については自習によってキャッチアップしてください）
この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学と強く関連しています。

【関連科目】
経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学

【Outline (in English)】
This course provides an introduction to Industrial Organization. The course introduces a broad range of topics in the theoretical Industrial Organization. Students will learn the firm behavior and its consequences in oligopolistic markets where the assumptions of perfect competition do not hold. Topics include the pricing and marketing strategies of individual firms in monopoly and oligopoly; price discrimination, product differentiation, merger, and platform strategies.
Studying Industrial Organization will help you to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated based on term-end examination (100%).

ECN300FD（経済学 / Economics 300）

産業組織論Ⅱ

矢野　智彦

市場経営学科専門科目300番台市場経営学科専門科目　3～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業組織論は、特定の市場における企業の意思決定や産業の構造について考察する経済学の一分野です。その知見は実務と密接に関係しており、価格戦略やマーケティングなどの企業戦略の場面や、M&A、独占禁止法違反に関わる規制・訴訟等などの実務で用いられています。講師は実際に産業組織論を用いて主にM&A、独占禁止法違反に関わる規制・訴訟等の場面でコンサルティングを行うコンサルタントです。
この講義では、産業組織論の基本的な考え方と用いられ方を学び、自分自身が産業組織論のものの見方を実務や実生活で活用できるようになることを目指します。
具体的には、寡占競争、製品差別化、価格差別、垂直的な取引契約、合併など産業組織論の各トピックをミクロ経済学の理論を道具として分析し、また、実務における用いられ方について考察します。
Ⅱでは、春学期で学んだ産業組織論Ⅰを前提として、価格差別、製品差別化など現実によく観察される企業の行動を経済学的に考察するツールを学ぶと共に、これらの産業組織論の考え方が実際に用いられる実務の現場を具体的に解説します。

【到達目標】
産業組織論の基本的な考え方と用いられ方を学び、将来的に産業組織論の実務に関わる基礎を作り、また、産業組織論に基づくものの見方で普段目にするビジネスを分析するなど実生活で活用できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
オンデマンド型オンライン授業として、全14回、YouTubeによる動画配信で授業を実施します。
全て講義形式で行い、講義にはスライドを用います。授業内課題として、授業の基本的な理解を問う課題を出題し、各回の講義内容の理解を深めます。
学習内容の確認のために期末試験を行います。
学習支援システムの掲示板を活用して、随時、受講者とインタラクションを持つ機会を確保します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	秋学期に扱うトピックの概要
第2回	産業組織論Ⅰの復習	産業組織論Ⅰで扱ったトピックの中で、Ⅱでも重要な内容について復習
第3回	価格差別(1)	価格差別の考え方
第4回	価格差別(2)	第1種価格差別、第2種価格差別、第3種価格差別
第5回	価格差別(3)	各種価格差別のうち価格差別(2)で扱えなかったもの
第6回	参入と退出・参入阻止	市場における企業の数はどのように決まるのか？ 参入阻止と市場競争との関係 参入阻止を可能にする企業の戦略
第7回	製品差別化(1)	差別化の源泉と経済モデル
第8回	製品差別化(2)	製品差別化の経済モデルの紹介
第9回	特許と知的財産	技術開発・特許制度と市場競争との関係
第10回	ネットワーク外部性とプラットフォーム（1）	ネットワーク外部性、スイッチングコスト
第11回	ネットワーク外部性とプラットフォーム（2）	直接ネットワーク効果と間接ネットワーク効果
第12回	再販価格維持	再販化価格維持
第13回	復習①	秋学期に学んだ内容について総復習
第14回	復習②	秋学期に学んだ内容について総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
期末試験を念頭に、授業後の復習が必要です。各トピックに応じて紹介する参考文献での自主学習も期待しています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
講義中に以下の参考書の該当箇所を適宜紹介します。自主的に読むことで一層の学習効果が期待できます。
『ミクロ経済学』奥野正寛編著 東京大学出版会 2008年
『産業組織とビジネスの経済学』花薗誠著　有斐閣　2018年
また、定期試験に向けた準備としては、以下の書籍が有益です。
『ミクロ経済学演習（第2版）』奥野正寛編・猪野弘明・井上朋紀・加藤晋・川森智彦・矢野智彦・山口和男著 東京大学出版会 2018年

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】
受講生のレベルや関心に合わせ、授業内容の難易度やスピード、扱うトピックを調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業動画のURL、関連するスライド等の資料や、期末試験等の重要なお知らせは、学習支援システムに掲載します。
学習支援システムへの頻繁なアクセスが出来る環境が必要になります。

【その他の重要事項】
ミクロ経済学について基本的な知識を習得していること、または同時に履修して学習していることを受講の前提とします。
産業組織論ⅠとⅡは密接に関係しているので、産業組織論の全体を理解するためにも、連続した履修を強く薦めます。（春学期のⅠの内容を前提として秋学期のⅡが進められます。Ⅰを履修せずⅡを履修する場合は、関連する箇所については自習によってキャッチアップしてください）
この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学と強く関連しています。

【関連科目】
経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学

【Outline (in English)】
This course provides an introduction to Industrial Organization. The course introduces a broad range of topics in the theoretical Industrial Organization. Students will learn the firm behavior and its consequences in oligopolistic markets where the assumptions of perfect competition do not hold. Topics include the pricing and marketing strategies of individual firms in monopoly and oligopoly; price discrimination, product differentiation, merger, and platform strategies.
Studying Industrial Organization will help you to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated based on term-end examination (100%).

ECN300FD（経済学 / Economics 300）

経営のための経済学

宮澤　信二郎

市場経営学科専門科目300番台市場経営学科専門科目　3～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業の経営者あるいは部門の責任者は，どのようなことに注意して，どのように行動したら良いのでしょうか。どのような人を雇って，どのように処遇したら良いでしょうか。必要となるお金はどのように調達したら良いでしょうか。この授業では，ミクロ経済学の考え方を企業の取引関係，人事・組織，財務に関するさまざまな問題に当てはめる（応用する），いわゆる，「企業の経済学」，「経営の経済学」について，その初歩を学びます。
同時に，最適化理論，ゲーム理論，情報の経済学，契約理論といった理論の基礎を学びます。

【到達目標】
以下の3点をこの授業の到達目標とします。
1）企業の取引関係，人事・組織，財務に関して，どのようなことに注意して，どのような決定をすればよいのかについて自分の頭で考えられるようになる。
2）関連する経済学の考え方，つまり，最適化，ゲーム，契約の理論に関して，その基本を押さえ，具体的な状況に当てはめて考えられるようになる。
3）複雑な状況の本質を押さえて，より論理的に考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」と「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
この授業では，各テーマについて，具体的な状況の例を挙げながら，基本的な考え方を説明します。説明にあたっては，概念図や簡単なグラフなどを用い，なるべく直観的に理解できるようにします。質疑・応答の時間を十分に取り，必要に応じて，簡単な例題を出題するなどして，受講者の理解度を確認しながら進めます。受講者は，毎回，授業内容の復習をすることが求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序論：企業を経営する！？	企業の経営に関して，まず何を把握しなくてはいけないのかについて考えます。
2	企業の意思決定：経営についてじっくり考えよう！	企業の目的について検討したのちに、便益と費用を比較して意思決定する方法について学びます。
3	生産：何をどうやって作る？	生産技術と生産の決定に関して学びます。
4	販売：誰にいくらで売る？	市場の環境に応じて、誰にいくらで売ることになるのかについて学びます。
5	交渉：もうけを分け合う？！	特定の相手との間の交渉について学びます。
6	情報：良いものなんだけど売れない？	取引相手との間で情報の非対称性があるときにどのようなことが起こるのかについて学びます。
7	組織：いつも一緒にやる！？	「組織を形成するのはなぜか」「組織で生じる問題は何か」について検討したうえで、「どのような組織が良いのか」について学びます。
8	採用（1）：学歴で選ぶのはあり？	労働者の能力に関する情報の問題と学歴のシグナリング機能に関して学びます。
9	採用（2）：仕事を選んでもらおう！	コース別採用のスクリーニング機能について学びます。
10	人材（1）：仕事を頑張ってもらおう！	労働者の努力に関する情報の問題と成果給の役割と問題について学びます。
11	人材（2）：スキルアップしてもらおう！？	能力開発における企業と労働者との利害関係と待遇上の工夫について学びます。
12	財務（1）：いいビジネスなんだけどお金はどうする？	企業が必要な資金を調達する手段として、負債と株式の違いについて学びます。
13	財務（2）：どうしたらお金を出してもらえるの？	資金を調達する際にどのような問題が起こり得るのかについて学びます。
14	倒産と企業再生：失敗したけどどうなる？	企業が財務危機についてどのように考え，対応したらよいのかについて学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，授業内容の復習をしてください。それ以外では，他の授業の復習や新聞を読んだりニュースを聞いたりする中で，この授業で扱っている内容と関連がある話を探し，当てはめて考える訓練をしてみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
伊藤秀史『ひたすら読むエコノミクス』有斐閣（2012年）
伊藤元重『ビジネス・エコノミクス（第2版）』日本経済新聞出版（2021年）
神戸伸輔『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社（2004年）
柳川範之『契約と組織の経済学』東洋経済新報社（2000年）
デイビッド・ベサンコほか（奥村昭博・大林厚臣監訳）『戦略の経済学』ダイヤモンド社（2002年）
エドワード・ラジアー、マイケル・ギブス（樋口美雄監訳）『人事と組織の経済学実践編』日本経済新聞出版社（2017年）
などです。必要に応じて授業中に追加分を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（30％）と期末試験（70％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
過年度の授業中に回収したリアクションペーパーへの記載内容等を踏まえ，学生が興味を持つような内容を，より丁寧に説明しようと思います。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出に学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
1）専門入門科目の「経済学入門」と「ミクロ経済学入門Ⅰ／Ⅱ」（旧カリキュラムの学生の場合は専門基礎科目A群）を履修している，あるいは同等以上の内容を学習していることが望ましいです。
2）関連する専門科目として，「産業組織論」，「組織経済学」，「コーポレートファイナンス入門」（旧「企業財務論」），「金融論」，「日本経済論」，「国際経済論」などがあります。
3）担当者は銀行において貸出業務に従事した実務経験を有しています。これに関連して，企業の資金調達（銀行借入を含む）に関する授業を行います。

【Outline (in English)】
[Course outline] In this class, you will learn various applications of basic ideas of microeconomics on corporate management regarding (i) trade relation, (ii) personnel and organization, and (iii) corporate finance.
You will also learn the basics of optimization theory, game theory, informational economics, and contracting theory.
[Learning Objectives] By the end of the course, students should be able to do the followings:
A) Analysing various matters regarding trade relation, personnel and organization, and corporate finance, by themselves.
B) Investigating various practical situations based on the basics of optimization theory, game theory, informational economics, and contracting theory.
C) Understanding the essence of complex situations and thinking more logically.
[Learning activities outside of classroom] Students are required to review the lesson contents after each class meeting. Further they will be expected to find some contents related to what they have learned in this class in other classes of lessons and daily news, and to train themselves to apply the ideas they have learned. Before/after each class meeting, they will be expected to spend four hours to practice the above activities.
[Grading Criteria/Policy] Final grade will be decided based on term-end examination (70%) and in class contribution (30%).

MAN300FD（経営学 / Management 300）

マーケティング・リサーチⅠ（2018年度以前入学者）

西川　英彦

市場経営学科専門科目　3～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
たくさんの商品企画の実例を通して、マーケティング・リサーチの基礎と方法を身につけよう。
はじめてマーケティング・リサーチを学ぶ学生が理解しやすいように、本授業では、リサーチがよく活用される「商品企画」をテーマにした実際の企業ケースや、リサーチの具体例をもとに、講義を行う。リサーチの最前線として、日清食品の執行役員と、花王の事業部長による講演がある。本授業は、インタビュー法や観察法など、定性的調査の理論と実践を学ぶことを目的としている。
なお、マーケティング・リサーチ論Ⅰ（春学期）はインタビュー法などの定性的調査、Ⅱ（秋学期）はアンケート作成やデータ分析などの定量的調査を学ぶ。両方を学ぶことで、相乗効果が期待できる。

【到達目標】
到達目標は、以下の2 点である。
①ケースをもとに、インタビュー法や観察法、リード・ユーザー法などの定性調査のスキルを身につける。
②簡単な定性調査を行い、商品企画の仮説となるレポート（企画書）を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
授業では、実際にリサーチを商品企画に活用しているゲストスピーカーの講演をはじめ、企業のケースや具体例を通して、リサーチの活用イメージをつかんだ上で、リサーチの基礎と方法を学ぶことで、その理解を深める。一方的に講義をするのではなく、学生からのコメントや質問をもとに、学生参加型の講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	商品企画プロセスにおけるリサーチの重要性	**商品企画プロセス**（テキスト1章） ・ライオン「トップナノックス」の事例 ・電子テキストについて
第2回	ゲスト講師①	**大塚製薬株式会社 浅見慎一氏講演** ・ポカリスエット、イオンウォーターなどのリサーチやマーケティングの実際
第3回	デプスインタビューから顧客ニーズを把握する	**インタビュー法**（テキスト2章） ・資生堂「マジョリカマジョルカ」の事例
第4回	観察から顧客ニーズを把握する	**観察法**（テキスト3章） ・デザイン企業IDEO「ATMのミラー」の事例
第5回	リード・ユーザー法からユーザー・イノベーションを知る	**リード・ユーザー法**（テキスト4章） ・フェリシモ「生活雑貨大賞」の事例
第6回	顧客ニーズからアイデアを発想する 最終レポートの説明	**アイデア発想**（テキスト5章） ・TOTO「クラッソ」の事例 ・最終レポートの説明 ・昨年の優秀例の紹介
第7回	アイデアをもとにコンセプトを開発する	**コンセプト開発**（テキスト6章） ・エースコック「JANJANソース焼きそば」の事例
第8回	コンセプトをもとに試作品を作成する	**プロトタイピング**（テキスト7章） ・IDEO「ショッピング・カート」のプロトタイピング
第9回	コンセプトが顧客ニーズに合っているかを確認する	**顧客ニーズの確認**（テキスト10章） ・ハウス食品「C1000ビタミンレモンコラーゲン」の事例
第10回	いままでのことをまとめ、企画書を作成する	**企画書作成**（テキスト14章） ・フジッコ「フルーツセラピー」の事例
第11回	効果的なプレゼンテーションを行う	**プレゼンテーション**（テキスト15章） ・グリコ「メンズポッキー」の事例
第12回	ゲスト講師②	**日清食品ホールディングス株式会社 執行役員・CMO 深澤勝義氏講演** ・カップヌードルやチキラーメンなどのリサーチやマーケティングの実際
第13回	早期優秀レポートの報告	**早期優秀レポート報告** ・学生によるプレゼンテーション
第14回	優秀レポートの報告	**最終優秀レポート報告** ・学生によるプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備として、電子テキストの次回の章を読んでくる。また、レポートを作成して、学期末に提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書として、『1からの商品企画』（西川英彦・廣田章光編著、碩学舎 2012年）の大学生協の電子テキストを使用する。大学生協にて、電子テキスト（税別生協定価2,000円）を購入のこと。なお、紙版（税別定価2,400円）もあるが、授業やフィードバックは電子テキストをもとに進めるので注意すること。

・講師が、授業の補足情報を、電子テキストにアップするので、予習や復習がしやすくなるため、教科書は、大学生協の電子テキストを購入すること。
・こうした双方向型の授業をおこなうために、講師は生協より電子テキストへのマーカーやコメントなどの個人ログデータの提供をうける場合がある。
・法政大学生協のホームページを確認して、早めに購入すること。
https://www.univcoop.jp/hosei/order/order_66.html
・電子テキストを購入後に、以下のURLからログインして、電子テキスト（EDX UniText）を利用する。組織コードは、10035である。ログインID、パスワードは、購入後に設定できる。
https://app.d-text-service.jp/api/v2/soshiki-cd-nyuryoku

【参考書】
ベルク・フィッシャー・コジネッツ『消費者理解のための定性的マーケティン グ・リサーチ』碩学舎、2016 年

【成績評価の方法と基準】
＜通常の成績評価（100点満点）＞
・授業中の課題（授業中に、学習支援システムの「テスト/アンケート」への回答）：42%
・レポートの提出（いずれかの定性調査と、それを利用した商品企画アイデア）：58%

＜以下は、加点となる＞
・授業中の発言：1点加点。
・事前課題：該当章の重要なキーワードとその事例を学習支援システムにアップ。紹介時に発言された場合に、2点加点。
・事後課題：学習支援システムに感想や質問をアップ。紹介時に発言された場合に、1点加点。
・早期レポートの提出者：全体のレポートの質向上のため、10点加点。ただし、当日参加が条件。
・早期・最終レポートの報告者：優秀レポートの報告者に、2点加点。

【学生の意見等からの気づき】
受講生が難しかったプロセスを考慮して、2点を改善した。
①レポートをイメージしやすいように、レポート例を紹介する。
②全体レポートの質向上をはかるために、参加学生の優秀レポート報告が提出前に確認できる、早期レポート制度を採用する。

【学生が準備すべき機器他】
電子テキストを利用するため、パソコンあるいはタブレットを用意すること。スマホでも閲覧可能だが、パソコンやタブレットを推奨する。

【その他の重要事項】
関連科目は、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ、統計学Ⅰ/Ⅱである。
授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】
複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした講義を実施する。

【Outline (in English)】
Let's learn the basics and methods of marketing research through many empirical examples of product development. In order to make it easier for students who learn marketing research for the first time to understand, the lecture will be based on actual cases and specific examples of research on the theme of "product development" where marketing research is often used.

The purpose of this class is to learn the theory and practice of qualitative research, such as interview and observation methods. Students are required to read the textbook before the class, submit comments after the class, and submit a report (a proposal for product planning) at the end of the semester.

In preparation, students will read the next chapter of the e-textbook. In addition, a report will be prepared and submitted at the end of the semester. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grades will be determined by in-class exercises (42%), and a final report (58%).

In Marketing Research I (spring semester), students will learn qualitative research such as interview methods, and in Marketing Research II (fall semester), students will learn quantitative research such as questionnaire creation and data analysis. By studying both, a synergistic effect can be expected.

MAN300FD（経営学 / Management 300）

マーケティング・リサーチⅡ（2018年度以前入学者）

西川　英彦

市場経営学科専門科目　3～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
たくさんの実例を通して、マーケティング・リサーチの基礎と方法を身につけよう。
はじめてマーケティング・リサーチを学ぶ学生が理解しやすいように、本授業では、リサーチがよく活用される「商品企画」や「マーケティング」をテーマにした実際の企業ケースや、リサーチの具体例をもとに、双方向の講義と簡単な演習を行う。リサーチの実際として、ゲストよる講演がある。
なお、Ⅰ（春学期）はインタビューや観察法などの定性的調査、Ⅱ（秋学期）はアンケート作成やデータ分析などの定量的調査を学ぶ。両方を学ぶことで、相乗効果が期待できる。

【到達目標】
到達目標は、以下の2点である。
①具体例をもとに、アンケート作成やデータ分析などの定量調査のスキルを身につける。
②簡単な定量調査を行い、商品企画の仮説を検証するレポートを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
授業では、実際にリサーチを商品企画に活用しているゲストスピーカーの講演をはじめ、企業のケースや具体例を通して、リサーチの活用イメージをつかんだ上で、リサーチの基礎と方法を学ぶことで、その理解を深める。一方的に講義をするのではなく、学生からのコメントや質問をもとに、学生参加型の講義を行う。
演習は、無料版の「RStudio」（統計分析ソフト「R」を便利につかえるアプリ）を用いるが、テキスト通りに入力すれば分析できるので、数学が苦手な学生でも大丈夫である。講義では、学生アシスタントの操作画面を映しつつ、説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	なぜマーケターに統計分析が必要なのか？	**記述統計**（テキスト第Ⅰ部） ・RStudioの操作、パソコンを持参のこと（次週以降も同様）
第2回	データは平均だけでなく「ばらつき」も大事	**標準偏差**（テキスト1章） ・RStudioを使ったミニ演習
第3回	2つの変数の関係は強い、弱い？	**相関分析と連関分析**（テキスト2章） ・RStudioを使ったミニ演習
第4回	その「仮説」はマーケティングに使えるか？	**推測統計と仮説検定**（テキスト第Ⅱ部-3章）
第5回	関係性をマーケティングに活かす	**無相関検定**（テキスト4章） ・RStudioを使ったミニ演習
第6回	クロス集計表から効果をあぶり出せ	**カイ二乗検定**（テキスト5章） ・RStudioを使ったミニ演習
第7回	その平均値の差に意味があるか、検証する	***t*検定**（テキスト6章） ・RStudioを使ったミニ演習
第8回	ある変数から目的の変数の予測モデルをつくる	**単回帰分析**（テキスト7章） ・RStudioを使ったミニ演習
第9回	複数の変数の影響を考慮したモデルを使いこなせ	**重回帰分析**（テキスト8章） ・RStudioを使ったミニ演習
第10回	実験に必須の手法を学ぶ	**分散分析** ・RStudioを使ったミニ演習
第11回	報告書のイメージをつかむ	**レポートの説明** ・レポートの説明
第12回	ゲスト講師	**元P&G 東浦和宏氏講演** ・関西学院大学 経営戦略研究科 教授 ・同氏は、P&G、ユニリーバ、ニールセン、モンデリーズ等で、調査を実践 ・講演と質疑
第13回	適切なアンケートの作成とサンプリングの仕方を学ぶ	**アンケートとサンプリング** ・アンケートフォームを実際に作成
第14回	優秀レポートの報告	**優秀レポートの報告とフィードバック**

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備や復習をしつつ、最終レポートを授業時間外に作成すること。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
西川英彦・佐保圭(2025)『文系マーケターのためのゼロから使える統計分析』日経BP

【参考書】
①山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎(2008)『Rによるやさしい統計学』オーム社
②山田剛史・村井潤一郎(2004)『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房
③恩藏直人・冨田健司(編)(2022)『1からのマーケティング分析(第2版)』碩学舎
④南風原朝和(2002)『心理統計学の基礎』有斐閣

【成績評価の方法と基準】
＜通常の成績評価（100 点満点）＞
・授業中の課題（授業中に、学習支援システムへの回答）：42%
・レポートの提出：58%
＜以下は、加点となる＞
・授業中の発言：1点加点。
・事後課題：学習支援システムに感想や質問をアップ。紹介時に発言された場合に、1 点加点。
・最終レポートの報告者：優秀レポートの報告者に、2点加点。

【学生の意見等からの気づき】
受講生が難しかったプロセスを考慮して、2点を改善した。
①より理解が深まるように、基礎的なテキストを採用した。
②レポートをイメージしやすいように、レポート例を紹介する。

【学生が準備すべき機器他】
各自、ノートパソコンを持参すること。なお、無料版アプリの「RStudio」を使うために、学習支援システムの資料を参考に、同ソフトと無料統計分析ソフトの「R」を、事前にパソコンにインストールしてくること。

【その他の重要事項】
関連科目は、マーケティング・リサーチ論Ⅰ、マーケティング入門、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ、統計学Ⅰ/Ⅱである。
授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】
複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした講義を実施する。

【Outline (in English)】
Let's learn the basics and methods of marketing research through examples of many product planning. To make it easier for students to learn about marketing and research for the first time, this class gives interactive lectures and exercises based on actual corporate cases with the theme of "product planning" and "marketing" where research is often used and the concrete examples of research. In the spring semester, students will study qualitative surveys such as interviews and observation methods, and in the fall semester, they will study quantitative surveys such as questionnaire creation and data analysis. By learning both, a synergistic effect can be expected.

The goals are as follows.
(1) To acquire skills in quantitative research, such as questionnaire creation and data analysis, based on specific examples.
(2) To be able to conduct simple quantitative research and create a report to verify a hypothesis for product planning.

In addition to the class time, students are expected to review this class and prepare a final report. The standard preparation and review time for this class is two hour each.

Grades will be determined by in-class exercises (42%) and reports (58%).

ECN300FD（経済学 / Economics 300）

ファイナンス論Ⅰ（2018年度以前入学者）

山嵜　輝

市場経営学科専門科目　3～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を扱います。最初に「デリバティブとは何か？」という基本的な問いから講義を始めますが、その後、金融や財務のさまざまな場面でデリバティブ取引がどのように活用されているかを具体的に理解していきます。本授業の主な目的は、ファイナンスの重要な概念である「無裁定条件」を前提としたデリバティブの価格決定理論を学ぶことです。同時に、金融実務における活用例も詳しく解説します。さらに、デリバティブ理論の応用として、「将来の為替レートは予想できるのか？」や「中央銀行の金融政策を占うには？」といったトピックについても取り上げます。また、デリバティブに関連する歴史的な出来事や著名な事件なども適宜紹介し、理論と実務の両面から学びを深めます。本授業の内容は、「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」など、金融実務に関連する資格試験にもつながる知識を提供します。

【到達目標】
次の４つを到達目標に掲げます。
(1) 金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
(2) 先渡取引のしくみや活用方法を説明できる。
(3) 無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論を理解し、説明できる。
(4) 金融市場やデリバティブ取引の初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テスト及びそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、講義概要、到達目標、授業計画、成績評価基準、資格試験との関連性
第2回	金融・証券市場の基礎知識（1）	金融・証券市場の概観、直接金融と間接金融、発行市場と流通市場、金融市場の規制と監視
第3回	金融・証券市場の基礎知識（2）	債券市場、債券の種類、利付債と割引債、国債と社債の発行市場、債券の流通市場
第4回	金融・証券市場の基礎知識（3）	株式市場、株式の種類、普通株と優先株、株式の発行市場、株式の流通市場、株式市場の再編
第5回	金融・証券市場の基礎知識（4）	外国為替市場、短期金融市場、デリバティブ市場、デリバティブに関連する事件
第6回	キャッシュフローと現在価値（1）	金融取引の基礎概念、キャッシュフロー、将来価値、現在価値、複利運用
第7回	キャッシュフローと現在価値（2）	付利期間、半年複利、キャッシュフローの価値比較、割引因子とその性質
第8回	効率的市場と無裁定価格理論	ケインズの美人投票、効率的市場仮説、裁定取引、無裁定条件、無裁定価格理論
第9回	先渡取引（1）	先渡取引の概要、為替予約のしくみ、為替予約のペイオフ、為替予約によるヘッジ取引と投機取引
第10回	先渡取引（2）	先渡価格の決定理論、為替予約と無裁定条件、金利パリティ、フォワード・プレミアム・パズル
第11回	債券と金利の関係（1）	債券の価格公式、複利最終利回り、所有期間利回り、スポットレート、イールドカーブ
第12回	債券と金利の関係（2）	フォワードレート、ブートストラップ法、短期金利と将来価値・現在価値
第13回	先渡取引（3）	金利先渡取引、FRAのしくみ、FRAのペイオフ、FRAによるヘッジ取引と投機取引
第14回	先渡取引（4）	先渡金利の決定理論、FRAと無裁定条件、先渡金利の公式、中央銀行の金融政策と先渡金利

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料の復習をしっかり行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。講義資料は各自で学習支援システムの「教材」からダウンロードしてください。

【参考書】
(1) 岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
(2) フィナンシャルバンクインスティチュート編、『うかる！ 証券外務員一種 必修テキスト 2024-2025年版』、2024年、日本経済新聞出版
(3) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
(4) ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001年、桐原書店

【成績評価の方法と基準】
試験期間中に行う定期試験（80％）と授業期間中の小テスト（20％）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】
金融実務での実例を多く紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【その他の重要事項】
講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」などに関連しています。

【関連科目】
ファイナンス入門、デリバティブ入門Ⅱ、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】
[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including forwards and futures. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as the forward premium puzzle. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

ECN300FD（経済学 / Economics 300）

ファイナンス論Ⅱ（2018年度以前入学者）

山嵜　輝

市場経営学科専門科目　3～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を扱います。特に、デリバティブの中でも最も重要とされる「オプション」のしくみと価格決定理論を学ぶことが主な目的です。また、金融実務におけるオプション取引やスワップ取引の活用例についても詳しく解説します。
さらに、デリバティブ理論の応用として、「さまざまな相場観に基づく投資戦略」や「株式公開買付（企業買収）の分析」などのトピックを取り上げ、理論と実務の両面から学びを深めます。また、デリバティブに関連する歴史的な出来事や重要な事件も適宜紹介し、背景知識の理解を助けます。
本授業の内容は、「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」など、金融実務に関連する資格試験にも役立つ知識を提供します。

【到達目標】
次の4つを到達目標に掲げます。
（1）金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
（2）先物取引やスワップ取引、オプション取引のしくみや活用方法を説明できる。
（3）無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論を理解し、説明できる。
（4）オプション取引の関する簡単な計量分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テスト及びそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、講義概要、到達目標、授業計画、成績評価基準、資格試験との関連性
第2回	デリバティブ入門Ⅰの復習	キャッシュフローと現在価値、無裁定条件、無裁定価格理論、スポットレート、短期金利
第3回	先物取引（1）	先物取引の概要、日経平均先物、債券先物、値洗いと証拠金、先物によるヘッジ取引と投機取引
第4回	先物取引（2）	先物価格の決定理論、日経平均先物と無裁定条件、レバレッジ型投資信託と先物
第5回	スワップ取引（1）	スワップ取引の概要、金利スワップとその活用方法、通貨スワップとその活用方法
第6回	スワップ取引（2）	IRSとスワップレート、スワップレートの決定理論、固定・変動利付債の同時取引、パーレート、ブートストラップ法
第7回	オプション取引（1）	オプション取引の概要、代表的なオプション取引、コールとプット、オプションのペイオフ
第8回	オプション取引（2）	オプションのペイオフ関数、複製戦略、プット・コール・パリティ、オプションによる取引戦略
第9回	確率論の基礎（1）	確率論の基礎概念、確率とその性質、確率変数、無裁定価格理論と確率
第10回	確率論の基礎（2）	期待値、分散、標準偏差、平均リターン、ボラティリティとリスクの概念
第11回	オプション価格理論（1）	オプション価格の決定問題、1期間2項モデル、複製ポートフォリオと無裁定条件
第12回	オプション価格理論（2）	リスク中立確率と期待収益率、オプション価格理論を用いたTOB（株式公開買付）の分析
第13回	オプション価格理論（3）	2期間2項モデル、複製ポートフォリオの組み替えと無裁定条件
第14回	オプション価格理論（4）	動的複製ポートフォリオ、オプションのデルタ、ブラック・ショールズ理論の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料の復習をしっかり行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。講義資料は各自で学習支援システムの「教材」からダウンロードしてください。

【参考書】
（1）岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
（2）フィナンシャルバンクインスティチュート編、『うかる！ 証券外務員一種 必修テキスト 2024-2025年版』、2024年、日本経済新聞出版
（3）佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
（4）ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001年、桐原書店

【成績評価の方法と基準】
試験期間中に行う定期試験（80％）と授業期間中の小テスト（20％）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】
金融実務での実例を多く紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【その他の重要事項】
講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」などに関連しています。

【関連科目】
ファイナンス入門、デリバティブ入門Ⅰ、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】
[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including swaps and options. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as takeover bid (TOB). [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

ECN300FD（経済学 / Economics 300）

Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ

山嵜　輝

市場経営学科専門科目300番台市場経営学科専門科目　3～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、Microsoft社のExcelを分析ツールとして活用しながら、ファイナンスの実践的な分析手法を学びます。金融取引や証券投資においては、知識や理論を熟知するだけでなく、実際のデータに基づいた多様な計算が求められます。Excelを用いることで、ファイナンスに関連する計算を効率的に行えるだけでなく、複雑な理論を直感的に理解することが可能になります。
授業の目的は、リアルデータを取得し、ファイナンスに関する実証的な分析を実践できる力を養うことです。本授業では、以下のテーマを中心に進めていきます。（1）企業や株式の実証分析、（2）株式投資の意思決定、（3）債券価格と利回り計算、（4）不動産投資への応用。これらの内容は、金融業界を目指す学生にとって有益であると同時に、株式投資や個人の資産運用に関心のある学生にも役立つものです。
個人の資産形成における投資理論の重要性についても詳しく解説します。近年話題となっている老後2,000万円問題やFIRE（Financial Independence, Retire Early）、NISAの活用法についても考察し、身近な問題を取り上げながら理解を深めます。本授業は初歩から始めますが、後半には本格的な分析に挑戦する予定です。

【到達目標】
次の4つを到達目標に掲げます。
（1）ファイナンス理論を正確かつ直感的に説明できる。
（2）金融データの特徴を理解し、分析に必要なデータを取得することができる。
（3）Excelを使って債券と金利に関する分析ができる。
（4）Excelを使って株式投資の意思決定に関する分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP1-4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
この授業は情報実習室での対面授業となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。講義とExcel演習を交互に行うことで授業を進めます。講義及びExcel演習の資料を用意しますが、黒板（ホワイトボード）にも板書するので、ノートをとる準備が必須となります。授業内でExcel演習の課題のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、講義概要、到達目標、授業計画、成績評価基準、金融リテラシーの重要性
第2回	キャッシュフローと現在価値（講義）	キャッシュフロー、将来価値、現在価値、複利運用、付利期間、割引因子とその性質
第3回	キャッシュフローと現在価値（Excel演習）	リスク資産の利回り、再投資、複利の力、積立投資の将来価値、つみたてNISA
第4回	債券投資と利回り（講義）	債券のキャッシュフロー、債券価格、複利最終利回り、所有期間利回り、スポットレート
第5回	債券投資と利回り（Excel演習）	複利最終利回りの計算、所有期間利回りの計算、YIELD関数、債券価格と金利の関係
第6回	不動産投資と内部収益率（講義）	不動産投資、予想キャッシュフローの価値評価、内部収益率、正味現在価値
第7回	不動産投資と内部収益率（Excel演習）	マンション／アパート投資、IRR関数、J-REITのしくみ、分配金利回り、NAV倍率
第8回	株式投資のための確率統計入門（講義）	確率統計の基礎概念、確率とその性質、確率変数、期待値、分散、標準偏差
第9回	株式投資のための確率統計入門（Excel演習）	株価データの取得と加工、株式投資の収益率、平均リターン、ボラティリティ、ルートT倍法
第10回	株式分析1（講義）	株式のキャッシュフロー、期待収益率、配当割引モデル、サスティナブル成長率、成長機会の現在価値
第11回	株式分析1（Excel演習）	配当割引モデルによる個別株の価値評価、ROE、配当性向、内部留保率
第12回	株式分析2（講義）	残余利益モデル、企業価値と時価総額、クリーンサープラス関係、相対価値評価
第13回	株式分析2（Excel演習）	残余利益モデルによる個別株の価値評価、残余利益の現在価値、PBR、PER
第14回	株式投資のための総合演習（Excel演習）	個別株の定量分析、個別株の定性分析、同業他社比較分析、個別株の投資判断

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Excel演習の課題をしっかりと完成させてください。指定した参考書を併用すると授業の理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しません。学習支援システムから授業資料を配付します。

【参考書】
（1）藤林宏 他、『エクセルで学ぶファイナンス 証券投資分析 第3版』、2009年、金融財政事情研究会
（2）岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
（3）佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
（4）伊藤敬介 他、『新・証券投資論Ⅱ 実務篇』、2009年、日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】
Excel演習の課題（70％）と平常点（30％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生は楽しんで授業の課題に取り組んでいるようです。実践的な投資スキルや金融リテラシーが身に付く授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
授業時間外の学習のために、情報実習室の外でExcelの使える環境を確保してください。PCを所有していない学生は大学の施設や機器を利用してください。

【その他の重要事項】
「Excelで学ぶファイナンス理論」はⅠとⅡを毎年交互に開講しています。今年度はⅠの開講となります。

【関連科目】
ファイナンス入門、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説します。

【Outline (in English)】
[Course outline] This course provides students with a practical theory of finance with Microsoft Excel as an analytical tool. [Learning objective] The objective of the course is to analyze financial markets based on real market data by using Excel. The four major subjects are: (1) quantitative analysis of individual firms and stocks; (2) rational decision making on stock investments; (3) computation of bond prices and yield to maturity; and (4) measuring the profitability of property investment. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Exercises with Excel: 70%, in class contribution: 30%.

MAN300FD（経営学 / Management 300）

広告論

宮井　弘之

市場経営学科専門科目300番台市場経営学科専門科目　3～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈他〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「広告」は、「マーケティング」の中でも実際に顧客との接点をつくる活動となるため、企業の成長に決定的な役割を演じることがあり、大変重要な活動である。本講義では、「広告」に関する基本的な概念や理論を解説した上で、近年中心となっているデジタル広告などの最新の動向も解説する。また、実際に広告業に従事する様々な社会人の方に来ていただき、講義をしてもらう。以上を通じて広告に関する理論と実践論を網羅的に把握してもらうことを目的とする。

【到達目標】
広告とはどういった活動で、経営のなかでどのように役立っているかを理解し、説明できる。
学術的な広告論における基本的な概念について理解し、説明できる。
広告戦略や広告の計画、実施の手順について理解し、説明できる。
広告ビジネスに関わる会社の業種や働くひとの職種について理解し、説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
教室による対面での授業を前提とする。ただし、ゲストスピーカーをお呼びする場合はキャンパスまで来ていただくのが難しいことがある。その場合ZOOMとなる可能性が高い。
数回グループワークを行う。授業ごとにリアクションペーパーを書いてもらう。
広告業界に従事する主要な業種から実務家を招き、講話をいただく。
また、実務家からいただいた講話に関して質問を行ってもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	教員自己紹介 授業の進め方と評価方法 広告とはなにか
第2回	マーケティング計画と広告	マーケティングの中の広告 マーケティング・コミュニケーションとは
第3回	広告業界に関わる様々な業種	広告会社とは 広告主とは 【講話】大手広告代理店　　営業部長
第4回	広告計画の流れ	広告業務の流れ 広告のための様々な調査 広告以外の手法との統合
第5回	広告戦略の立案	広告戦略とは 広告目標の設定 セグメンテーションとターゲット設定
第6回	広告予算の決定方法	世界や日本の広告費の規模 広告予算の設定方法 【講話】広告制作会社　　プランナー
第7回	広告と心理学	広告コミュニケーション過程とは 広告効果測定方法
第8回	広告表現計画	広告表現の意味 広告表現制作プロセス 【講話】大手広告代理店　クリエイティブ・ディレクター（録画を利用）
第9回	媒体計画	広告媒体の種類と特徴 媒体計画立案過程 【講話】大手メディアレップ　テレビ担当（録画を利用）
第10回	インターネット広告（1）	インターネット広告とは インターネット広告の種類 【講話】若手デジタルマーケティングプランナー（録画を利用）
第11回	インターネット広告（2）	インターネット広告の実例紹介
第12回	ブランド広告	ブランド構築における広告の役割 企業広告の実例
第13回	広告効果測定と法務	広告測定の様々な手法 グローバル広告の可能性と実例 広告規制と法務
第14回	これまでの総まとめ	これまでの総まとめ（授業内試験を予定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適宜、具体的な広告事例を収集してもらう準備学習を課す。また、復習においては習得した知識や理論で現実の広告活動を分析するよう促す。予習復習の時間は毎授業あたり4時間を想定する。

【テキスト（教科書）】
「現代広告論 第３版」岸志津恵/田中洋/嶋村和恵、有斐閣、2017

【参考書】
適宜指示する

【成績評価の方法と基準】
期末試験は行わない
１）授業毎のグループワーク等を通じた、リアクションペーパーの内容（60%）
２）最終回におけるレポート課題　（40%）
授業中は私語は一切禁止するので、静かに聴講できない生徒は受講しないこと。特に入学以来オンライン講義が多い世代はグループディスカッションの経験が少ないため、授業内にグループワークを取り込む。グループワークに参加できないものには単位を与えないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
就職活動など将来の進路に悩む学生も多く、実務家の講話が極めて有効であることがわかったため、本年も実務家の講話は継続する

【学生が準備すべき機器他】
実務家の講話は、ZOOMで実施になるので、視聴できる機器等を準備すること。

【その他の重要事項】
現役の実務家として博報堂で働いている経験は必要に応じて伝えていく。また広告業界の仕事は多岐にわたり様々な職種があるため、そのような実務家をなるべく多く授業に招いて講話をしてもらう予定である。広告業界に対する正しい理解を基に、興味をもった生徒は就職活動でぜひ広告業界を対象にしてほしい。

【関連科目】
マーケティング論

【Outline (in English)】
【Outline】In this lecture, we will explain the basic concepts and theories of "advertising" and the latest trends in digital advertising. In addition, we will have various working people who are actually engaged in the advertising industry come and give lectures. Through the above, the course aims to provide students with a comprehensive understanding of the theory and practice of advertising.
【Goal】
1. understand and explain what advertising is and how it is useful in management.
2. understand and explain basic concepts in academic advertising theory.
3. understand and explain advertising strategies and procedures for planning and implementing advertising
4. understand and explain the types of companies involved in the advertising business and the types of people who work there.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
As a preparatory study, students will be asked to collect specific advertising case studies. Students are expected to analyze real-life advertising activities based on the knowledge and theories they have acquired. Students are expected to spend about 4 hours per class for preparation and review.
【Grading criteria】
No final exam will be given.
1. reaction paper through group work in each class (60%)
2.final report assignment (40%)
No private conversation is allowed during class, so students who cannot listen quietly should not take this course.
Group work will be incorporated into the class. No credit will be given to students who cannot participate in group work.

ECN300FD（経済学 / Economics 300）

応用経済学Ⅰ（2018年度以前入学者）

宮澤　信二郎

市場経営学科専門科目　3～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業の経営者あるいは部門の責任者は，どのようなことに注意して，どのように行動したら良いのでしょうか。どのような人を雇って，どのように処遇したら良いでしょうか。必要となるお金はどのように調達したら良いでしょうか。この授業では，ミクロ経済学の考え方を企業の取引関係，人事・組織，財務に関するさまざまな問題に当てはめる（応用する），いわゆる，「企業の経済学」，「経営の経済学」について，その初歩を学びます。
同時に，最適化理論，ゲーム理論，情報の経済学，契約理論といった理論の基礎を学びます。

【到達目標】
以下の3点をこの授業の到達目標とします。
1）企業の取引関係，人事・組織，財務に関して，どのようなことに注意して，どのような決定をすればよいのかについて自分の頭で考えられるようになる。
2）関連する経済学の考え方，つまり，最適化，ゲーム，契約の理論に関して，その基本を押さえ，具体的な状況に当てはめて考えられるようになる。
3）複雑な状況の本質を押さえて，より論理的に考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」と「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
この授業では，各テーマについて，具体的な状況の例を挙げながら，基本的な考え方を説明します。説明にあたっては，概念図や簡単なグラフなどを用い，なるべく直観的に理解できるようにします。質疑・応答の時間を十分に取り，必要に応じて，簡単な例題を出題するなどして，受講者の理解度を確認しながら進めます。受講者は，毎回，授業内容の復習をすることが求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序論：企業を経営する！？	企業の経営に関して，まず何を把握しなくてはいけないのかについて考えます。
2	企業の意思決定：経営についてじっくり考えよう！	企業の目的について検討したのちに、便益と費用を比較して意思決定する方法について学びます。
3	生産：何をどうやって作る？	生産技術と生産の決定に関して学びます。
4	販売：誰にいくらで売る？	市場の環境に応じて、誰にいくらで売ることになるのかについて学びます。
5	交渉：もうけを分け合う？！	特定の相手との間の交渉について学びます。
6	情報：良いものなんだけど売れない？	取引相手との間で情報の非対称性があるときにどのようなことが起こるのかについて学びます。
7	組織：いつも一緒にやる！？	「組織を形成するのはなぜか」「組織で生じる問題は何か」について検討したうえで、「どのような組織が良いのか」について学びます。
8	採用（1）：学歴で選ぶのはあり？	労働者の能力に関する情報の問題と学歴のシグナリング機能に関して学びます。
9	採用（2）：仕事を選んでもらおう！	コース別採用のスクリーニング機能について学びます。
10	人材（1）：仕事を頑張ってもらおう！	労働者の努力に関する情報の問題と成果給の役割と問題について学びます。
11	人材（2）：スキルアップしてもらおう！？	能力開発における企業と労働者との利害関係と待遇上の工夫について学びます。
12	財務（1）：いいビジネスなんだけどお金はどうする？	企業が必要な資金を調達する手段として、負債と株式の違いについて学びます。
13	財務（2）：どうしたらお金を出してもらえるの？	資金を調達する際にどのような問題が起こり得るのかについて学びます。
14	倒産と企業再生：失敗したけどどうなる？	企業が財務危機についてどのように考え，対応したらよいのかについて学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，授業内容の復習をしてください。それ以外では，他の授業の復習や新聞を読んだりニュースを聞いたりする中で，この授業で扱っている内容と関連がある話を探し，当てはめて考える訓練をしてみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
伊藤秀史『ひたすら読むエコノミクス』有斐閣（2012年）
伊藤元重『ビジネス・エコノミクス（第2版）』日本経済新聞出版（2021年）
神戸伸輔『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社（2004年）
柳川範之『契約と組織の経済学』東洋経済新報社（2000年）
デイビッド・ベサンコほか（奥村昭博・大林厚臣監訳）『戦略の経済学』ダイヤモンド社（2002年）
エドワード・ラジアー、マイケル・ギブス（樋口美雄監訳）『人事と組織の経済学実践編』日本経済新聞出版社（2017年）
などです。必要に応じて授業中に追加分を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（30％）と期末試験（70％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
過年度の授業中に回収したリアクションペーパーへの記載内容等を踏まえ，学生が興味を持つような内容を，より丁寧に説明しようと思います。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出に学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
1）専門入門科目の「経済学入門」と「ミクロ経済学入門Ⅰ／Ⅱ」（旧カリキュラムの学生の場合は専門基礎科目A群）を履修している，あるいは同等以上の内容を学習していることが望ましいです。
2）関連する専門科目として，「産業組織論」，「組織経済学」，「コーポレートファイナンス入門」（旧「企業財務論」），「金融論」，「日本経済論」，「国際経済論」などがあります。
3）担当者は銀行において貸出業務に従事した実務経験を有しています。これに関連して，企業の資金調達（銀行借入を含む）に関する授業を行います。

【Outline (in English)】
[Course outline] In this class, you will learn various applications of basic ideas of microeconomics on corporate management regarding (i) trade relation, (ii) personnel and organization, and (iii) corporate finance.
You will also learn the basics of optimization theory, game theory, informational economics, and contracting theory.
[Learning Objectives] By the end of the course, students should be able to do the followings:
A) Analysing various matters regarding trade relation, personnel and organization, and corporate finance, by themselves.
B) Investigating various practical situations based on the basics of optimization theory, game theory, informational economics, and contracting theory.
C) Understanding the essence of complex situations and thinking more logically.
[Learning activities outside of classroom] Students are required to review the lesson contents after each class meeting. Further they will be expected to find some contents related to what they have learned in this class in other classes of lessons and daily news, and to train themselves to apply the ideas they have learned. Before/after each class meeting, they will be expected to spend four hours to practice the above activities.
[Grading Criteria/Policy] Final grade will be decided based on term-end examination (70%) and in class contribution (30%).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

吉村　喜予子

グローバル・ビジネス/GBP科目　1～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］
※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「外国語経営管理入門」では、ビジネス環境におけるさまざまなトピックを14週間にわたって学びます。
この講義では、テーマに関する講義と英語資料（記事、ニュース、文献）を読みながら、グローバルビジネスについて理解を深めます。
学生は毎週、課題として英語の資料を事前に読むことが必須になります。
講義を通じて，学生がビジネスで使用される英語に慣れることで，将来，グローバル環境で，自分で考えて，情報を組織に発信する」という基礎となることをを期待します。

【到達目標】
この講義では、テーマに関する講義と英語資料（記事、ニュース、文献）を読みながら、グローバルビジネスについて理解を深めます。
講義の到達目標としては以下のとおり。
- 経営学の各テーマに関連する情報や用語を理解する。
- ビジネスで使われる英語単語に慣れること。
- グローバル環境の中で，言語を超えて参加意識を持つ準備が整うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
対面（#1セッションを除く）
本講義は，英語を活用する企業を想定して，少しずつビジネスで使われる英語に慣れてもらうことを想定しています.
講義は日本語で行いますが，「入門外国語経営学」の講義として，提示するスライド等の多くは英語で作成されていることは，前提として理解してください.
各週（各回）のテーマについて講義と課題として出された英語の資料（記事，ニュース，論文等）を読んだことを前提としたディスカッション（日本語）を行います.
ビジネスアイデアの実現を想定したシミュレーションを予定しています。学生にシミュレーションを体験してもらい，ビジネス上の課題発見や学びを想定しています.
特に，講義のなかでは，ディスカッションで交わされた内容が「正しい」か「間違っている」かは重要ではなく，将来企業で働く際に，「自分で考えて，情報を組織に発信する」という基礎作りを念頭に置いています。
したがって、学生はディスカッション スキルの構築に参加することが期待されます。 課題のフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション Introduction	コース概要 ビジネス環境を理解する
第2回	ビジネス環境を理解する。 Understanding the business environment	ビジネスの外部環境と内部環境
第3回	企業の倫理と社会的責任 Corporate ethics and social responsibility	企業倫理 業務における倫理 社会的責任
第4回	起業家精神とビジネスオーナーシップ I Entrepreneurship, and Business Ownership I	起業とは 起業の環境
第5回	起業家精神とビジネスオーナーシップ II Entrepreneurship, and Business Ownership II	起業を考える（シュミレーション） レポート提出あり
第6回	経営管理 Managing the business enterprise	マネージャーの役割 組織管理
第7回	組織管理 Organizing the business enterprise 中間クイズ	組織とは何か 組織における判断要件
第8回	オペレーションズ・マネジメントと品質管理 Operations management and Quality	オペレーション・マネジメントとは何か？ 品質管理の重要性
第9回	組織とモチベーション Motivating and leading employee	組織を作る 従業員の役割
第10回	リーダーシップと意思決定 Leadership and decision making	リーダーシップの重要性ケース 毎のリーダーシップの必要性
第11回	人財資源管理 Human Resource Management	人財とは 人財管理とはなにか
第12回	マーケティングプロセスと消費者行動 Marketing process and Consumer behavior	マーケティングとは 消費者行動とは
第13回	企業におけるITの役割 Information Technology	ITとはなにか ITの役割
第14回	企業のリスク管理 Corporate Risk management 期末クイズ	企業リスクとはなにか 対応策とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各週（各回）のテーマについて講義と課題として出された英語の資料（記事，ニュース，論文等）を読むこと。(2時間)
各週（各回）のテーマについて授業資料を復習すること。(2時間)

【テキスト（教科書）】
特に定めない。講義資料はHoppiに掲示する。

【参考書】
特に定めない。各回，講義にて指示する。

【成績評価の方法と基準】
各回小テスト（QUIZという）の累計：50％
中間Quiz: 10％
シュミレーションレポート：20％
最終クイズ：20％　（14週の授業中に行います）
Total:100％
全体のトータルスコアに対して，％形式でグレーディングします。

【学生の意見等からの気づき】
QUIZの際に，「わからなかったこと(もう少し説明してほしかったこと)」「講義へのFeedback]を記載してもらい，次週の講義の冒頭に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】
PC等，講義の資料を読み，質問に回答できる機器。

【その他の重要事項】
教員は，実務経験のある教員である。

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline (in English)】
（Course Outline）
In "Introductory Foreign Language Business Administration Management," you will learn about various topics in the business environment over 14 weeks.
In this lecture, students will deepen their understanding of global business by reading lectures and English materials (articles, news, literature) regarding the theme.
Students must prepare for each week's assignment by reading English materials in advance. Through the course, the expectation is that students will become accustomed to the English used in business, enabling them to think independently and effectively communicate information within a global context in the future."
（Learning Objective）
In this lecture, students will deepen their understanding of global business through lectures on various themes and by reading English materials (articles, news, literature). The learning objectives of the course are as follows:
- To understand information and terminology related to various topics in business management.
- To become familiar with English vocabulary used in business.
- To be prepared to engage in a global environment, with an awareness of participation beyond language barriers.
（Learning activities outside of classroom）
The students are expected to read the uploaded materials (course materials and cases) for each class beforehand and prepare for discussions during the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
（Grading Criteria/Policy）
In-class-Quiz: 50%
Mid-term Quiz: 10%
Report　（Based on the simulation work): 20%
Final Quiz (in-class): 20%
Total: 100 %

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

依田　光広

グローバル・ビジネス/GBP科目　1～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、世界の中核産業であり近年変革が著しい自動車（モビリティ=移動）産業とその中の注目企業を対象に、日本語での教師作成の講義教材（英語の資料・動画を含む）や英語での課題を通じ、CASE戦略（つながるクルマConnected、自動運転Autonomous、シェアリング・サービスShared & Services、電動車Electric）の先端動向を学びます。同時に基礎レベルながら、実際にビジネスの現場や海外生活でも役立つ英語のリーディング、ヒアリング、スピーキング、そして日本語でのディスカッション能力の向上をはかります。こうした勉強を通じて、就活の際や社会人・教師になってからも役立つ知見やものの見方を習得することを目指します。
準備学習は、課題が出された時の英語のビジネス資料や動画の日本語訳（要旨）が中心となります。復習は、講義資料と課題のレビューです。
評価は、平常点、課題、講義での発表・質問により総合的に評価します。

【到達目標】
理解力：教師による日本語でのCASE戦略の講義を一定程度理解する。
読む力：課題の英語ビジネス文書を理解し、要旨を日本語で整理する能力を身につける。
聞く力：英語のニュース動画を大まかに把握し、日本語で整理することを目指す。
書く力：授業で学習した内容をもとに日本語・英語のビジネス文書を作成することを目指す。
話す力：初級レベルのビジネス英会話を学習し、講義で実践する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
講義の前半は教師が主に日本語でのＣＡＳＥ戦略（英語の資料・動画を含む）関する講義を実施します。後半は関連するビジネス英文の説明を行い、指名された数名の生徒は英語で発表を行います。課題（英語）が与えられた時は「課題」フォルダーへの提出が必要となります。優秀な提出結果については講義の最初でコメントします。なお講義資料や動画はAutomotive News 、教師執筆のレポート、専門研究者・アナリストの論文、日本経済新聞、日経XTech、マークラインズ社のデータベースなどから引用します。
第一回講義で、授業の進め方と評価などについてオリエンテーションを行いますので、受講希望者は必ず出席（Online）してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction & Lecture	授業の概要と進め方の説明（Outline and Objectives）、グローバル自動車市場（Global Automotive Market）
第2回	Electric (1)	電動車（EV等）のTrend & Background
第3回	Electric (2)	対象企業：日Nissan, Toyota
第4回	Electric (3)	対象企業：米Tesla
第5回	Connected (1)	つながるクルマのTrend & Background
第6回	Connected (2)	対象企業：独Daimler etc.
第7回	Autonomous (1)	自動運転のTrend & Background
第8回	Autonomous (2)	対象企業：米Waymo(Google)
第9回	Autonomous (3)	対象企業：日Tier Ⅳ
第10回	Field Work	訪問先：自動車企業の施設（Automotive Company Facilities）
第11回	Shared &Service (1)	シェアリング/サービス（MaaS）のTrend & Background
第12回	Shared &Service (2)	対象企業：米Uber
第13回	Shared &Service (3)	対象企業：日Toyota etc.
第14回	Conclusion, Discussion	総括講義Lecture、グループ討議Group Discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は、課題が出された時の英語のビジネス資料や動画の日本語訳（要旨）や英語での要旨の作成です。復習は、講義資料と課題のレビューです。準備学習と復習の時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義資料は、教師がビジネスでの経験と調査研究を通じ独自に作成したものを使用します。

【参考書】
木村将之Masayuki Kimura他2名『モビリティ X』（2022）日経BP社 →購入は任意
中西孝樹Takaki Nakanishi『CASE革命』（2018）日本経済新聞出版社 →購入は任意
NEC『CASEとは？ 自動車業界で期待される技術革新とその影響』
https://www.nec-solutioninnovators.co.jp/ss/mobility/column/15/index.html

【成績評価の方法と基準】
評価は、平常点（40%）、適宜指定する課題（40%）、講義での発表と質疑（20%）などにより総合的に評価します。期末試験は実施しません。なお講義中の私語や内職は慎んでください。

【学生の意見等からの気づき】
CASE戦略の動向、特に先端技術の説明は画像や動画などを使用し分かりやすく説明し、同時にフィールドワークでそれらを補完します。一方で、履修する学生の意見や希望を考慮したいと思いますので、学期内のいつでも積極的なフィードバックもお願いします。

【学生が準備すべき機器他】
PC、Tablet、Smart Phoneのいずれかを用意しておいてください。授業への持ち込みは自由です。

【その他の重要事項】
担当教師はトヨタ自動車Toyota Motor Corp.（海外営業部門）ならびにトヨタ自動車子会社の国際経済研究所（Instituted for International Economic Studies）での勤務経験を有します。研究所での専門分野は、Global経営戦略、CASE戦略、自動車産業・企業の分析、IoT戦略（Internet of Things）、コーポレートガバナンスなどです。現在はYoda Group Limitedでの調査研究を中心に、医療系サービス会社Nihon Visca Co., Ltd.の相談役、自動車問題研究会の幹事、RRI（Robot Revolution &Industrial IoT Initiative、産官学団体）の委員などを兼務しており、自らのビジネス経験や調査研究の成果を活かした授業を心がけます。
生成AIについては、講義の復習に使用することは推奨します。留意点としては、結果が完全に正しいわけではないことがありますので必ずチェックをしてください。なお課題の作成にあたっての使用は自身の学力の向上につながらないので禁止とします。課題での使用禁止は厳守してください。

【関連科目】
特になし

【Outline (in English)】
This class is aimed at studying the automobile (or mobility) industry, which is one of the world's core industries of the world and has been rapidly evolving recently, and its notable companies, using Japanese lecture materials(including English materials and videos) and English homework. You can learn the advanced trends of CASE strategy (Connected, Autonomous, Shared &Services, Electric) and improve English reading, listening and speaking skills in English, and discussion skills in Japanese. Getting in touch with the latest technologies and services of the automobile industry and English skills, you can deepen knowledge and thinking that will be useful during job seeking and after getting a job at a company or a teacher. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2hours to understand the content of the lecture. Comprehensive evaluation will be made based on in class contribution(40%), homework(40%), and presentation(20%).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

依田　光広

グローバル・ビジネス/GBP科目　1～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、世界の中核産業であり近年変革が著しい自動車（モビリティ=移動）産業とその中の注目企業を対象に、日本語での教師作成の講義教材（英語の資料・動画を含む）や英語での課題を通じ、CASE戦略（つながるクルマConnected、自動運転Autonomous、シェアリング・サービスShared & Services、電動車Electric）の先端動向を学びます。同時に基礎レベルながら、実際にビジネスの現場や海外生活でも役立つ英語のリーディング、ヒアリング、スピーキング、そして日本語でのディスカッション能力の向上をはかります。こうした勉強を通じて、就活の際や社会人・教師になってからも役立つ知見やものの見方を習得することを目指します。
準備学習は、課題が出された時の英語のビジネス資料や動画の日本語訳（要旨）が中心となります。復習は、講義資料と課題のレビューです。
評価は、平常点、課題、講義での発表・質問により総合的に評価します。

【到達目標】
理解力：教師による日本語でのCASE戦略の講義を一定程度理解する。
読む力：課題の英語ビジネス文書を理解し、要旨を日本語で整理する能力を身につける。
聞く力：英語のニュース動画を大まかに把握し、日本語で整理することを目指す。
書く力：授業で学習した内容をもとに日本語・英語のビジネス文書を作成することを目指す。
話す力：初級レベルのビジネス英会話を学習し、講義で実践する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
講義の前半は教師が主に日本語でのＣＡＳＥ戦略（英語の資料・動画を含む）関する講義を実施します。後半は関連するビジネス英文の説明を行い、指名された数名の生徒は英語で発表を行います。課題（英語）が与えられた時は「課題」フォルダーへの提出が必要となります。優秀な提出結果については講義の最初でコメントします。なお講義資料や動画はAutomotive News 、教師執筆のレポート、専門研究者・アナリストの論文、日本経済新聞、日経XTech、マークラインズ社のデータベースなどから引用します。
第一回講義で、授業の進め方と評価などについてオリエンテーションを行いますので、受講希望者は必ず出席（Online）してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction & Lecture	授業の概要と進め方の説明（Outline and Objectives）、グローバル自動車市場（Global Automotive Market）
第2回	Electric (1)	電動車（EV等）のTrend & Background
第3回	Electric (2)	対象企業：日Nissan, Toyota
第4回	Electric (3)	対象企業：米Tesla
第5回	Connected (1)	つながるクルマのTrend & Background
第6回	Connected (2)	対象企業：独Daimler etc.
第7回	Autonomous (1)	自動運転のTrend & Background
第8回	Autonomous (2)	対象企業：米Waymo(Google)
第9回	Autonomous (3)	対象企業：日Tier Ⅳ
第10回	Field Work	訪問先：自動車企業の施設（Automotive Company Facilities）
第11回	Shared &Service (1)	シェアリング/サービス（MaaS）のTrend & Background
第12回	Shared &Service (2)	対象企業：米Uber
第13回	Shared &Service (3)	対象企業：日Toyota etc.
第14回	Conclusion, Discussion	総括講義Lecture、グループ討議Group Discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は、課題が出された時の英語のビジネス資料や動画の日本語訳（要旨）や英語での要旨の作成です。復習は、講義資料と課題のレビューです。準備学習と復習の時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義資料は、教師がビジネスでの経験と調査研究を通じ独自に作成したものを使用します。

【参考書】
木村将之Masayuki Kimura他2名『モビリティ X』（2022）日経BP社 →購入は任意
中西孝樹Takaki Nakanishi『CASE革命』（2018）日本経済新聞出版社 →購入は任意
NEC『CASEとは？ 自動車業界で期待される技術革新とその影響』
https://www.nec-solutioninnovators.co.jp/ss/mobility/column/15/index.html

【成績評価の方法と基準】
評価は、平常点（40%）、適宜指定する課題（40%）、講義での発表と質疑（20%）などにより総合的に評価します。期末試験は実施しません。なお講義中の私語や内職は慎んでください。

【学生の意見等からの気づき】
CASE戦略の動向、特に先端技術の説明は画像や動画などを使用し分かりやすく説明し、同時にフィールドワークでそれらを補完します。一方で、履修する学生の意見や希望を考慮したいと思いますので、学期内のいつでも積極的なフィードバックもお願いします。

【学生が準備すべき機器他】
PC、Tablet、Smart Phoneのいずれかを用意しておいてください。授業への持ち込みは自由です。

【その他の重要事項】
担当教師はトヨタ自動車Toyota Motor Corp.（海外営業部門）ならびにトヨタ自動車子会社の国際経済研究所（Instituted for International Economic Studies）での勤務経験を有します。研究所での専門分野は、Global経営戦略、CASE戦略、自動車産業・企業の分析、IoT戦略（Internet of Things）、コーポレートガバナンスなどです。現在はYoda Group Limitedでの調査研究を中心に、医療系サービス会社Nihon Visca Co., Ltd.の相談役、自動車問題研究会の幹事、RRI（Robot Revolution &Industrial IoT Initiative、産官学団体）の委員などを兼務しており、自らのビジネス経験や調査研究の成果を活かした授業を心がけます。
生成AIについては、講義の復習に使用することは推奨します。留意点としては、結果が完全に正しいわけではないことがありますので必ずチェックをしてください。なお課題の作成にあたっての使用は自身の学力の向上につながらないので禁止とします。課題での使用禁止は厳守してください。

【関連科目】
特になし

【Outline (in English)】
This class is aimed at studying the automobile (or mobility) industry, which is one of the world's core industries of the world and has been rapidly evolving recently, and its notable companies, using Japanese lecture materials(including English materials and videos) and English homework. You can learn the advanced trends of CASE strategy (Connected, Autonomous, Shared &Services, Electric) and improve English reading, listening and speaking skills in English, and discussion skills in Japanese. Getting in touch with the latest technologies and services of the automobile industry and English skills, you can deepen knowledge and thinking that will be useful during job seeking and after getting a job at a company or a teacher. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2hours to understand the content of the lecture. Comprehensive evaluation will be made based on in class contribution(40%), homework(40%), and presentation(20%).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

秋友　一広

グローバル・ビジネス/GBP科目　1～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は米国の経営学専攻の学部学生が、入学初年度に履修する基礎的かつ網羅的な教科書を活用し、企業経営の全体像ならびに経営に影響を与える外部環境を学習することを目的とする。企業経営における専門用語は米国由来が大半を占める為、英語で経営学の基礎を習得することは、グローバル化した企業活動の現場で実際に活用でき、非常に有用な知識となりうる。学生諸君にチームを組んでもらい、テキストの章毎に毎週チームでの内容発表を英語で行い、他チームからの活発な質問と議論により、現代のグローバル企業経営に必須の専門用語の意味を体得してもらう。また、このコースでは、ロジックと内容がしっかりしたプレゼンテーションの作成方法と英語で効果的に発表を行う訓練も行い、将来グローバルに活躍できるビジネスパーソンの育成も目的とする。

【到達目標】

本授業終了後は下記の能力が備わる:

1. 辞書無しで大量の英文を読み、ポイントとなる内容を理解する為の方法を習得
2. プレゼンテーションの資料を作成する過程で、パラフレージングの方法を習得
3. 聞き手を納得させ、聞き手が共感する説得性を持ったロジカルなプレゼン力を習得
4. プレゼンテーションの間のつなぎ言葉を自然に活用できる為の方法を習得
5. 経営学で頻出する単語の意味、定義を体得する（中間、期末試験で理解度を確認）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

履修登録完了日以降の授業は、履修登録者を何組かのグループに分け、各グループに割当てられた各章の要約と関連分野の課題に関する発表を英語で行ってもらう。　第一回目の授業で、"Your Career in Business"（教科書第１７章P655 – P684）、ならびに企業経営に不可欠な職能別組織の説明を講師が行う（例：経営企画、財務・経理、人事、調達、営業企画・マーケティング（含むグローバル展開）、物流、IT　他を含む）ので、各自卒業後の進路を念頭に置き、興味のある分野を選択しておくこと。グループ編成は、可能な限り同じ分野に興味を持つ者同士で組むこととし、プレゼンテーションの割当ては、そのチームが興味を持つ分野を説明した章を可能な限り割当てる。第三回目からの授業は、割当てられた章のチームがその章の要約、その章での現代社会における課題とその解決策等を発表し、他チームからの質問と議論、講師による解説と総括を行う流れとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	＊本授業の概要、進め方 ＊講師による教科書の第１７章 Your Career in Businessの説明 ＊一般企業の職能別組織説明
第2回	第１章 Understanding Economic Systems & Business 第４章 Forms of Business Ownership	＊講師による第１章と第４章の説明、Q＆A, Discussion ＊チーム編成
第3回	第14章 Using Financial Information &Accounting 第16章 Understanding Financial Management and Securities Market	＊チームによる第１４章、第１６章の説明、Q＆A、Discussion ＊講師総括
第4回	第6章 Management and Leadership in Today's Organizations 第2章 Making Ethical Decisions and Managing a Socially Responsible Business	＊チームによる第６章、第２章の説明、Q＆A、Discussion ＊講師総括
第5回	第7章 Designing Organizational Structures 第8章 Managing Human Resources and Labor Relations 第9章 Motivating Employees	＊チームによる第７章、第８章、第９章の説明、Q＆A、Discussion ＊講師総括
第6回	第7章 Designing Organizational Structures 第8章 Managing Human Resources and Labor Relations 第9章 Motivating Employees	＊第５回からの継続：チームによる第７章、第８章、第９章の説明、Q＆A、Discussion ＊講師総括
第7回	第11章 Creating Products and Pricing Strategies to Meet Customers' Needs 第12章 Distributing and Promoting Products and Services	＊チームによる第１１章、第１２章の説明、Q＆A、Discussion ＊講師総括
第8回	中間テスト /Mid-term exam	＊テスト時間は1時間 ＊残りの時間はデイスカッション
第9回	第３章 Competing in the Global Marketplace 第５章 Entrepreneurship	＊チームによる第３章、第５章の説明、Q＆A、Discussion ＊講師総括
第10回	第１０章 Achieving World-Class Operations Management	＊チームによる第１０章の説明、Q＆A、Discussion、 ＊講師総括 ＊効果的なプレゼンテーションの方法について
第11回	第１３章 Using Technology to Manage Information	＊チームによる第１３章の説明、Q＆A、Discussion ＊講師総括 ＊英語でのプレゼンテーションに使われる繋ぎの言い回し、表現について。
第12回	第１５章 Understanding Money and Financial Institutions Appendix: Understanding the Legal and Tax Environment	＊チームによる第１５章、Appendixの説明、Q＆A、Discussion ＊講師総括 ＊効果的なプレゼンテーション資料作成方法
第13回	MBA 授業の英語で書かれたケース・スタディーに挑戦してみよう	＊実際のMBA授業で使われるケース・スタディーを使って議論してみる ＊講師はファシリテータとして学生諸君の議論を深め、最後に総括を行う
第14回	期末テスト /Final Exam	＊テスト時間は1時間 ＊コース全体の振り返りとQ＆A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 毎回シラバスで指定されている章を精読のうえ、質問を英語で準備のこと
2. 発表チームは内容をMSパワーポイントに英語でまとめ、英語で発表する
3. 発表チームは担当の章に関連する現代の企業経営における課題一つを探し、その解決策も含めて必ず発表に入れること
4. 各自その章に出てくる主要な経営学関連用語の単語帳を作成し英語で定義を書くこと
5. 本授業の準備学習時間・復習時間は、それぞれ２時間とする
6. 辞書は予習、復習の際にどうしてもわからない頻出単語のみ引くこと、速読を重視

【テキスト（教科書）】

Introduction to Business, OpenStax, Rice University.

【参考書】

Principles of Management、 OpenStax, Rice University.
Entrepreneurship, ibid.

【成績評価の方法と基準】
平常点（グループワーク・プレゼンテーション含む）20%– 遅刻は減点、また毎回出席を確認する。体調不良等やむを得ない理由で授業を欠席する場合は、欠席とその正当な理由を必ずメールで授業開始前までに講師へ連絡のこと。　2回以上の無断欠席や正当な理由無き欠席者は単位取得不可
中間テストの点数: 40%
期末テストの点数: 40%

【学生の意見等からの気づき】
授業の第一回目に、先期履修の学生からのフィードバックを紹介し、講師が今期どのような改善や工夫を授業に加えるかを説明する。

【学生が準備すべき機器他】
教科書も参考書もダウンロード版があるので、毎回ダウンロードしたPCを持参のこと
カメラ・マイク付きPCとハイスピードインターネット（オンラインの場合）
MS Word, PPT, エクセル搭載のPC。

【その他の重要事項】
1. 履修希望者は必ず事前にHoppiiに掲載されているStudent Biodata Memoへ必要事項を記入すること。
2. 履修希望者が多い場合は、エントリー期間中にWeb抽選を行う。
3. 早い段階でTOEICを受験し各自の英語のレベルを把握しておくこと。
実務経験のある講師による授業。講師は日本の製造業者（海外ビジネス売上比率60％）に42年勤務。米国にて自社製品の市場や顧客開拓で通算11年間駐在しただけでなく、同社の欧州地域統括会社社長として6年間ドイツに駐在した。2018年からは、同社の内部監査部門にて、主に同社の海外子会社の内部監査時の監査長として勤務した。

【関連科目】
無し。

【Outline (in English)】
This course is designed to provide undergraduate freshmen majoring in business administration with an opportunity to learn the essentials of corporate management and the external environment that influences it. It uses a basic and comprehensive textbook commonly assigned to U.S. college freshmen with business majors. Most of the terminology used in business management originates from the U.S., making learning the basics of business administration in English a highly useful endeavor that can be applied to globalized business activities.
Students will be asked to form teams and present the contents of each chapter of the textbook weekly in English. Through active questioning and discussion with other teams and seasoned guidance from the instructor's years of global business experience, students will learn the meaning and real-world application of technical terms essential for modern global business management.
In addition to its other objectives, this program seeks to nurture future Japanese businesspersons equipped with logic and substance who can effectively deliver presentations in English.
Grading and Attendance policy:
Regular Coursework (including group work and presentations): 20%
Points will be deducted for tardiness. Attendance is mandatory and will be checked at each class. In case of unavoidable absences, such as illness, notify the instructor via email before the class begins. Students absent more than twice without authorization or a valid reason will not be eligible for course credits.
Mid-term Exam: 40%
Final Exam: 40%
【Learning activities outside of the classroom】
1. Before each class, carefully read the chapter specified in the syllabus and prepare your questions in English.
2. The presentation team must summarize the content in English using MS PowerPoint and deliver their presentation in English.
3. The presentation team must identify a modern corporate management issue related to their assigned chapter and propose a solution in their presentation.
4. Each student must create a vocabulary notebook for key business-related terms from the chapter and write their definitions in English.
5. Students should spend approximately two hours preparing for and reviewing each class.
6. When preparing for or reviewing a class, do not look up an English-to-Japanese dictionary whenever you encounter unknown English words. To focus on speed reading, use the dictionary only when the unknown words are critical to understanding the context of a whole sentence.

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

秋友　一広

グローバル・ビジネス/GBP科目　1～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は米国の経営学専攻の学部学生が、入学初年度に履修する基礎的かつ網羅的な教科書を活用し、企業経営の全体像ならびに経営に影響を与える外部環境を学習することを目的とする。企業経営における専門用語は米国由来が大半を占める為、英語で経営学の基礎を習得することは、グローバル化した企業活動の現場で実際に活用でき、非常に有用な知識となりうる。学生諸君にチームを組んでもらい、テキストの章毎に毎週チームでの内容発表を英語で行い、他チームからの活発な質問と議論により、現代のグローバル企業経営に必須の専門用語の意味を体得してもらう。また、このコースでは、ロジックと内容がしっかりしたプレゼンテーションの作成方法と英語で効果的に発表を行う訓練も行い、将来グローバルに活躍できるビジネスパーソンの育成も目的とする。

【到達目標】
本授業終了後は下記の能力が備わる:
1. 辞書無しで大量の英文を読み、ポイントとなる内容を理解する為の方法を習得
2. プレゼンテーションの資料を作成する過程で、パラフレージングの方法を習得
3. 聞き手を納得させ、聞き手が共感する説得性を持ったロジカルなプレゼン力を習得
4. プレゼンテーションの間のつなぎ言葉を自然に活用できる為の方法を習得
5. 経営学で頻出する単語の意味、定義を体得する（中間、期末試験で理解度を確認）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
履修登録完了日以降の授業は、履修登録者を何組かのグループに分け、各グループに割当てられた各章の要約と関連分野の課題に関する発表を英語で行ってもらう。　第一回目の授業で、"Your Career in Business"（教科書第１７章P655 – P684）、ならびに企業経営に不可欠な職能別組織の説明を講師が行う（例：経営企画、財務・経理、人事、調達、営業企画・マーケティング（含むグローバル展開）、物流、IT　他を含む）ので、各自卒業後の進路を念頭に置き、興味のある分野を選択しておくこと。グループ編成は、可能な限り同じ分野に興味を持つ者同士で組むこととし、プレゼンテーションの割当ては、そのチームが興味を持つ分野を説明した章を可能な限り割当てる。第三回目からの授業は、割当てられた章のチームがその章の要約、その章での現代社会における課題とその解決策等を発表し、他チームからの質問と議論、講師による解説と総括を行う流れとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	＊本授業の概要、進め方 ＊講師による教科書の第１７章 Your Career in Businessの説明 ＊一般企業の職能別組織説明
第2回	第１章 Understanding Economic Systems & Business 第４章 Forms of Business Ownership	＊講師による第１章と第４章の説明、Q＆A, Discussion ＊チーム編成
第3回	第14章 Using Financial Information &Accounting 第16章 Understanding Financial Management and Securities Market	＊チームによる第１４章、第１６章の説明、Q＆A、Discussion ＊講師総括
第4回	第6章 Management and Leadership in Today's Organizations 第2章 Making Ethical Decisions and Managing a Socially Responsible Business	＊チームによる第６章、第２章の説明、Q＆A、Discussion ＊講師総括
第5回	第7章 Designing Organizational Structures 第8章 Managing Human Resources and Labor Relations 第9章 Motivating Employees	＊チームによる第７章、第８章、第９章の説明、Q＆A、Discussion ＊講師総括
第6回	第7章 Designing Organizational Structures 第8章 Managing Human Resources and Labor Relations 第9章 Motivating Employees	＊第５回からの継続：チームによる第７章、第８章、第９章の説明、Q＆A、Discussion ＊講師総括
第7回	第11章 Creating Products and Pricing Strategies to Meet Customers' Needs 第12章 Distributing and Promoting Products and Services	＊チームによる第１１章、第１２章の説明、Q＆A、Discussion ＊講師総括
第8回	中間テスト /Mid-term exam	＊テスト時間は1時間 ＊残りの時間はデイスカッション
第9回	第３章 Competing in the Global Marketplace 第５章 Entrepreneurship	＊チームによる第３章、第５章の説明、Q＆A、Discussion ＊講師総括
第10回	第１０章 Achieving World-Class Operations Management	＊チームによる第１０章の説明、Q＆A、Discussion、 ＊講師総括 ＊効果的なプレゼンテーションの方法について
第11回	第１３章 Using Technology to Manage Information	＊チームによる第１３章の説明、Q＆A、Discussion ＊講師総括 ＊英語でのプレゼンテーションに使われる繋ぎの言い回し、表現について。
第12回	第１５章 Understanding Money and Financial Institutions Appendix: Understanding the Legal and Tax Environment	＊チームによる第１５章、Appendixの説明、Q＆A、Discussion ＊講師総括 ＊効果的なプレゼンテーション資料作成方法
第13回	MBA 授業の英語で書かれたケース・スタディーに挑戦してみよう	＊実際のMBA授業で使われるケース・スタディーを使って議論してみる ＊講師はファシリテータとして学生諸君の議論を深め、最後に総括を行う
第14回	期末テスト /Final Exam	＊テスト時間は1時間 ＊コース全体の振り返りとQ＆A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 毎回シラバスで指定されている章を精読のうえ、質問を英語で準備のこと
2. 発表チームは内容をMSパワーポイントに英語でまとめ、英語で発表する
3. 発表チームは担当の章に関連する現代の企業経営における課題一つを探し、その解決策も含めて必ず発表に入れること
4. 各自その章に出てくる主要な経営学関連用語の単語帳を作成し英語で定義を書くこと
5. 本授業の準備学習時間・復習時間は、それぞれ２時間とする
6. 辞書は予習、復習の際にどうしてもわからない頻出単語のみ引くこと、速読を重視

【テキスト（教科書）】
Introduction to Business, OpenStax, Rice University.

【参考書】
Principles of Management、 OpenStax, Rice University.
Entrepreneurship, ibid.

【成績評価の方法と基準】
平常点（グループワーク・プレゼンテーション含む）20%– 遅刻は減点、また毎回出席を確認する。体調不良等やむを得ない理由で授業を欠席する場合は、欠席とその正当な理由を必ずメールで授業開始前までに講師へ連絡のこと。　2回以上の無断欠席や正当な理由無き欠席者は単位取得不可
中間テストの点数: 40%
期末テストの点数: 40%

【学生の意見等からの気づき】
授業の第一回目に、先期履修の学生からのフィードバックを紹介し、講師が今期どのような改善や工夫を授業に加えるかを説明する。

【学生が準備すべき機器他】
教科書も参考書もダウンロード版があるので、毎回ダウンロードしたPCを持参のこと
カメラ・マイク付きPCとハイスピードインターネット（オンラインの場合）
MS Word, PPT, エクセル搭載のPC。

【その他の重要事項】
1. 履修希望者は必ず事前にHoppiiに掲載されているStudent Biodata Memoへ必要事項を記入すること。
2. 履修希望者が多い場合は、エントリー期間中にWeb抽選を行う。
3. 早い段階でTOEICを受験し各自の英語のレベルを把握しておくこと。
実務経験のある講師による授業。講師は日本の製造業者（海外ビジネス売上比率60％）に42年勤務。米国にて自社製品の市場や顧客開拓で通算11年間駐在しただけでなく、同社の欧州地域統括会社社長として6年間ドイツに駐在した。2018年からは、同社の内部監査部門にて、主に同社の海外子会社の内部監査時の監査長として勤務した。

【関連科目】
無し。

【Outline (in English)】
This course is designed to provide undergraduate freshmen majoring in business administration with an opportunity to learn the essentials of corporate management and the external environment that influences it. It uses a basic and comprehensive textbook commonly assigned to U.S. college freshmen with business majors. Most of the terminology used in business management originates from the U.S., making learning the basics of business administration in English a highly useful endeavor that can be applied to globalized business activities.
Students will be asked to form teams and present the contents of each chapter of the textbook weekly in English. Through active questioning and discussion with other teams and seasoned guidance from the instructor's years of global business experience, students will learn the meaning and real-world application of technical terms essential for modern global business management.
In addition to its other objectives, this program seeks to nurture future Japanese businesspersons equipped with logic and substance who can effectively deliver presentations in English.
Grading and Attendance policy:
Regular Coursework (including group work and presentations): 20%
Points will be deducted for tardiness. Attendance is mandatory and will be checked at each class. In case of unavoidable absences, such as illness, notify the instructor via email before the class begins. Students absent more than twice without authorization or a valid reason will not be eligible for course credits.
Mid-term Exam: 40%
Final Exam: 40%
【Learning activities outside of the classroom】
1. Before each class, carefully read the chapter specified in the syllabus and prepare your questions in English.
2. The presentation team must summarize the content in English using MS PowerPoint and deliver their presentation in English.
3. The presentation team must identify a modern corporate management issue related to their assigned chapter and propose a solution in their presentation.
4. Each student must create a vocabulary notebook for key business-related terms from the chapter and write their definitions in English.
5. Students should spend approximately two hours preparing for and reviewing each class.
6. When preparing for or reviewing a class, do not look up an English-to-Japanese dictionary whenever you encounter unknown English words. To focus on speed reading, use the dictionary only when the unknown words are critical to understanding the context of a whole sentence.

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

岡本　慶子

グローバル・ビジネス/GBP科目　1～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］
※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語からだけでなく、英語からも情報を集められるようにし、集めた情報をもとに、理解を深め、さらに考え、自分の考えを理論的に述べることを学ぶ。
そして、それを英語で話す、書くために、日本語と英語の違いを知って、考えることを繰り返し実践する。

【到達目標】
違う文化背景を持つ人たちとのコミュニケーションを取れるようになることを目標とする。そのために、日本語と英語の違いをまず理解して、英語で伝わるように考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
毎回、リーディング、リスニング等の宿題があります。宿題に基づいて、授業を進めますので、内容の理解、又は不明点を明確にして授業に出席してください。授業では宿題の内容を元に、自分の考えをまとめたり、グループでディスカッションします（日本語）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction 対面	Course overview Self Introduction
第2回	AI Generated Art 1	He used AI to win a fine-arts competition.
第3回	AI Generated Art 1	He used AI to win a fine-arts competition.
第4回	Market Segmentation, Targeting, and Positioning 1	PepsiCo Brands Target Different Markets
第5回	Market Segmentation, Targeting, and Positioning 2	PepsiCo Brands Target Different Markets
第6回	Global Marketing 1	Walmart Extends Its Global Reach
第7回	Global Marketing 2	Walmart Extends Its Global Reach
第8回	Global Marketing Strategy 1	Walmart Annual Report Analysis
第9回	Group Project Walmart Strategies 1	Walmart Growth Strategies (video recording)
第10回	Group Project Walmart Strategies 2	Walmart 小レポート プレゼンビデオ
第11回	Strategic Management 1	Does Kellogg Have the Tiger by the Tail?
第12回	Strategic Management 2	Does Kellogg Have the Tiger by the Tail? Kellogg's Sprit into Two Companies
第13回	Group Work 1 Kellogg	Kellogg Group Work
第14回	Final exam	wrap up Final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前々日の23:59までに授業支援システムで提出
宿題１．課題の予習、復習、グループワークの準備
宿題２．単語帳、質問
宿題３．数学の問題
宿題の詳細は、授業中に逐次説明します。
本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。（合計2時間）

【テキスト（教科書）】
特にありません。課題、ワークシート、参考ウェブリンク等はHoppiで配布します。

【参考書】
Kurtz, David L. 2016. Contemporary Marketing. Boston. Cengage Learning.
Hitt, Michael A., Ireland R. Duane, and Hoskisson, Robert E. 2017. Strategic Management: Competitiveness & Globalization. Boston, Cengage Learning.
2冊とも図書館蔵書

【成績評価の方法と基準】
授業への出席とリアペ評価　　40％
宿題の提出と宿題の評価（個人、グループワーク含む）、期末レポート、プレゼンなど　40％
期末テスト　20%
評価、宿題、課題については初回授業で説明します。
*欠席、宿題の未提出はその分、点数が下がりますのでご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】
＊宿題の予習、復習をしておかないと、授業のグループワークが大変になる
＊リスニングは、回が進むごとに聞き取れるようになる実感があった
＊課題文を学習した後、戦略を考えたりまとめたりする課題が良かった
＊AIは今後も、利用方法を決めて、利用可とするのが良いと思う
以上は継続予定
＊毎回、学生の気づき（英語に関する）の発表の場があると良い（今は無い）
どの様に取り入れるか考慮中
＊単語帳の作成については賛否両論あり
授業で相談予定

【学生が準備すべき機器他】
お知らせ、課題、宿題、資料配布等はHoppiを利用します。
授業履修を考えている人は初回授業までにHoppiに仮登録してください。
Hoppiで配布したもの、及び自分の宿題、予習、単語帳は授業中に参照できるようにご用意ください。
辞書または電子辞書は毎回授業に持参してください。
Googleの辞書機能はお勧めしません。

【その他の重要事項】
対面授業です。欠席や宿題の提出が無いと評価に影響します。
前年度は定員に余裕がありましたので、本年度は初回授業から対面で行う予定です。変更がある場合は、初回授業の１週間前までにHoppiにてお知らせします。
Hoppiのお知らせメールを受け取れるよう設定してください。

授業の課題、内容、テストの期日等は、授業の進捗によって変更になる場合があります。

【関連科目】
なし

【実務経験のある教員による授業】
アメリカ留学中にボランティアやNPOでの活動経験があり、国内外のファッション業界で勤務経験を持つ教員の授業です。
英語が上手でも言いたいことが相手に通じるとは限りません。AI翻訳機を使っても、頭の中が整理されていなければ、伝わる英語になりません。伝えるために、どうするか、それをどうやって身につけるか。いろいろ実践してみる授業を行います。

【Outline (in English)】
[Course outline] This class is designed for Japanese students to learn English as a second language. Students will learn English through marketing &strategic management materials and middle school mathematics.
[Learning objectives] The goal of this class is to learn how to think logically for English speaking and writing.
[Learning activities outside of class room] Students are required to study at home about two hours every week.
[Grading Criteria/Policy]
Class participation &Reaction paper - 40%
Homework, Group &Individual works (including essay & presentation) - 40%
Final exam - 20%

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

片桐　満

グローバル・ビジネス/GBP科目　1～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済やビジネスに関する書物や記事は英語でしか存在しないことも多く、英語で学習したり情報収集したりできれば、見える世界が大きく広がります。このコースでは、経済学の初歩的な英語の教科書を用いて、経済学の基本的な考え方について英語で学び、経済やビジネスでよく用いられる英語の用語に慣れてもらいます。そのうえで、Financial TimesやWall Street Journalなどの新聞記事を題材として、経済やビジネスに関する時事問題を英語で学びます。

【到達目標】
経済やビジネスに関する英語の記事や書物を独力で読み、理解できるようになることが到達目標です。Financial Timesなどのビジネス系の英字新聞は難しいように感じるかもしれませんが、用いられている用語や言い回しは意外に限られているほか、小説のように比喩的な表現が少ないため、努力して慣れれば理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
毎回、前半の40分は入門経済学の教科書に関する講義を行い、残りの60分は経済記事を題材として時事問題について英語で学びます。経済記事は、教科書でカバーした内容と関連ある記事のコピーを授業中に配布し、その場で参加者に読んでもらったのち、その内容や背景とともに重要な英語の用語や言い回しを解説します。例えば、生産性の概念について教科書で学んだのち、人工知能（AI）が生産性に与える影響に関するFinancial Timesの記事を読んでもらうなど、教科書で学んだ概念が、現実のビジネスでどの様に役立つのかという実務的な観点を重視します。何度かオンデマンド方式のオンライン授業を入れる予定ですが、どの回がオンラインになるのかについては、授業の進み具合をみて決める予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと経済記事の解説（オンデマンド方式）	初回は、授業の進め方を含むガイダンスをした後、経済記事を読みます。
第2回	教科書（Principle 1）、経済記事の解説	教科書のPrinciple 1を学び、関連する経済記事を読みます。
第3回	教科書（Principle 2）、経済記事の解説	教科書のPrinciple 2を学び、関連する経済記事を読みます。
第4回	教科書（Principle 3）、経済記事の解説	教科書のPrinciple 3を学び、関連する経済記事を読みます。
第5回	教科書（Principle 4）、経済記事の解説	教科書のPrinciple 4を学び、関連する経済記事を読みます。
第6回	教科書（Principle 5）、経済記事の解説	教科書のPrinciple 5を学び、関連する経済記事を読みます。
第7回	経済記事の解説（中間レポートの提出）	時事問題に関する記事を解説し、それに関する中間レポートを提出してもらいます。
第8回	教科書（Principle 6）、経済記事の解説	教科書のPrinciple 6を学び、関連する経済記事を読みます。
第9回	教科書（Case study）、経済記事の解説	教科書のCase studyを学び、関連する経済記事を読みます。
第10回	教科書（Principle 7）、経済記事の解説	教科書のPrinciple 7を学び、関連する経済記事を読みます。
第11回	教科書（Principle 8）、経済記事の解説	教科書のPrinciple 8を学び、関連する経済記事を読みます。
第12回	教科書（Principle 9）、経済記事の解説	教科書のPrinciple 9を学び、関連する経済記事を読みます。
第13回	教科書（Principle 10）、経済記事の解説	教科書のPrinciple 10を学び、関連する経済記事を読みます。
第14回	教科書（Chapter 2-1）、経済記事の解説	教科書のChapter 2-1を学び、関連する経済記事を読みます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。予習として、教科書の該当箇所を一読し、分からない単語は辞書を引いて調べるとともに、内容がつかめない部分をあらかじめ特定しておくことが求められます。

【テキスト（教科書）】
テキストとして、N. Gregory Mankiw, “Principles of Macroeconomics” の１章と２章を用います（図書館でコピー可能です）。授業で読む記事については、別途、授業中に配布します。

【参考書】
参考文献は特に指定しませんが、新聞やインターネットなどで、自主的に関連する英語の記事や書物を読むよう心掛けてください。

【成績評価の方法と基準】
複数回（3回程度）記事に関するレポートを提出して貰うほか、授業中での発言で評価します。毎回出席をとります。欠席回数が1回以下の学生は、期末試験を免除し、レポートのみで評価します。それ以外の学生は、期末試験とレポートの両方（50％ずつ）で評価します。詳細は、秋学期が始まったところで、Hoppiiでアナウンスします。

【学生の意見等からの気づき】
（1）少人数制講義であるにもかかわらず発言の機会が少ない、という意見がありましたので、一方的にこちらが解説するのではなく、できるだけ各授業で一人一回は発言してもらうほか、グループでのディスカッション・発表の機会を設けます。（2）記事の内容について、ビジネスモデルなど経営に関するテーマが役に立ったというアンケート結果に基づき、経営に関する記事をより重点的に選ぶようにする予定です。

【学生が準備すべき機器他】
英語の辞書を準備してください。紙の辞書でも構いませんが、持ち運びが大変ですので、電子辞書の活用をお勧めします。スマートフォンを持っている方は「英辞郎 on the WEB」の無料版アプリで十分です。

【その他の重要事項】
日本銀行や国際通貨基金（IMF）において、金融の実務に15年程度かかわりました。そうした経験から、いかに経済理論を実務的な問題解決に役立てるかをグローバルな観点から伝えられればと思います。

【関連科目】
内容は「経済学入門」と関連しますが、履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】
Since business or economic articles exist only in English in many cases, the ability to learn in English greatly expands your world. In this class, students study fundamental macroeconomics in English and get used to basic English words and expressions used often in economics or business. Then, students learn about economics or business issues in newspapers such as Financial Times and Wall Street Journal. The goal of this class is to be able to read English articles about the economy and business by yourself. Before the class, students are expected to read a textbook in advance and specify which part is difficult to understand. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. Students will be asked to submit reports on articles multiple times (about 3 times) and will be evaluated based on their comments in class. Attendance will be taken in each class. Students who are absent less than once will be exempted from the final exam and will be evaluated only on their reports. All other students will be evaluated based on both the final exam and the report (50%each).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

鴨志田　晃

グローバル・ビジネス/GBP科目　1～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では英語教材を用いて経営学の基本トピック、とりわけ起業とビジネス育成、マーケティング理論について学びます。毎回の授業では、テキストのなかの担当トピックの内容について学生が発表し、全体討議、総括を行って、経営学の専門用語を学び、経営学の理解を深めます。授業では、適宜、参考文献、記事等を取り上げ、ビジネスの最新トピックスへの関心と理解を深めます。

【到達目標】
本授業は、経営学における著名なテキストを用いて英語文献を読む語学力を身につけ、英語文献から得た経営学の知識を応用する力をつけることを目標とします。具体的には、経営学領域を網羅したテキストである"The Business Book: Big Ideas Simply Explained"を用いて、基礎知識をつけ、専門書を読解する力、英語で専門講義を受けるための基礎力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
受講者には（何組かのグループを設定し）、担当部分の発表をしてもらいます。毎回の授業の流れは、担当グループが発表、各グループによる質問、報告に対する教員からのコメントおよび解説、ディスカッション、総括の順番で進めます。授業の後半ではビジネスに関わる原書や記事を読んで発表と議論を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の概要、進め方の説明
第2回	Start Small, Think Big①/Starting and Growing the Business	起業の歴史、思想、プロセス論の概説、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第3回	Start Small, Think Big②/Starting and Growing the Business	起業の成功戦略、リスク管理、起業家論の概説、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第4回	Start Small, Think Big③/Starting and Growing the Business	起業の成長曲線、グレイナー曲線、起業の労働論の概説、学生による質疑応答、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第5回	Lighting The Fire①/Leadership and Human Resources	リーダーシップ論、チーム力、創造と革新の概説、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第6回	Lighting The Fire②/Leadership and Human Resources	組織文化論、ミンツバーグのマネジメント論、企業統治論の概説、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第7回	Making Money Work①/Managing Finances	法令・規則の遵守、利益主義、投資と配当の概説、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第8回	Making Money Work②/Managing Finances	キャッシュフロー管理、活動基準原価計算の概説、学生からの質疑応答、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第9回	Working With a Vision①/Strategy and Operations	失敗論、ポーターの戦略、MABAマトリックスの概説、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第10回	Working With a Vision②/Strategy and Operations	ポーターの５F、バリューチェーン、企業文化の倫理の概説、質疑応答、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第11回	Successful Selling①/Marketing Management	４P MIX、AIDAモデル、製品ポートフォリオの概説、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第12回	Successful Selling②/Marketing Management	ブランド構築、インセンティブ論の概説、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第13回	Successful Selling③/Marketing Management	グリーンウォッシュ、売上予測の概説、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第14回	総括	本授業で学習したトピックを総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回、テキストの指定箇所について精読し、予習を行う。
・担当個所の概要をまとめスライドにて発表する。
・最終レポートを作成する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・Atkinson, S., O'Hara, S., &Sturgeon, A. (Eds.). (2014). The Business Book: Big Ideas Simply Explained. Dorling Kindersley Ltd.

【参考書】
・「実践ＭＢＡ式経営学の教科書」鴨志田晃著,ぱる出版,2016年,￥1,400
上記のほか、授業にて適宜、参考文献や記事を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（グループワーク・発表を含む）60点
・期末レポート　40点
成績評価は、授業での発表および参加、ならびにレポート（宿題）の成績によって総合的に評価します。毎回出欠を確認し、5回以上欠席した学生は単位を認められません。

【学生の意見等からの気づき】
・英語力の違いがあっても学習成果が出るように指導します。
・授業時はもちろん、授業外でも質問は遠慮なく行ってください。

【学生が準備すべき機器他】
・毎回の講義にテキストと辞書、PCを必ず持参してください。
英語の文献を読むのは大変ですので、毎回講義に出席し、4時間程度の予復習を欠かさずに行うようにしてください。
・カメラ・マイク付きPC（オンラインの場合）
・ある程度の速度が確保されたネット環境（オンラインの場合）

【その他の重要事項】
エントリー期間にWeb選考を行う。詳細は、経営学部Web掲示板に掲載されている案内を確認し、エントリーすること。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The aim of this course is to help students acuire basic knowledge of business administration,especially start Up and business development, and marketing theory using English teaching materials.
（Learning Objectives）
By the end of this course, students should be able to do the followings:
・Acquire the ability to express own opinion to others by reading English books on business management.
・Acquire the basic knowledge about business management theory and understand tools for business analysis
・Arouse students' awareness and interest in business management theory and business topics.
(Learning activities outside of classroom）
Students will be expected to have read and completed the required assigned part of the text and prepare the slides for it. (Presentation slides would be prepared by each group.)
Your study time will be more than 4 hours for a class
（Grading Criteria/Policy）
Grading will be decided based upon "Groupwork/presentation and in-class contribution"(60%), "final report and other homework "(40%). Students who are absent more than 5 times will be fail after checking attendance every time.

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

鴨志田　晃

グローバル・ビジネス/GBP科目　1～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では英語教材を用いて経営学の基本トピック、とりわけ起業とビジネス育成、マーケティング理論について学びます。毎回の授業では、テキストのなかの担当トピックの内容について学生が発表し、全体討議、総括を行って、経営学の専門用語を学び、経営学の理解を深めます。授業では、適宜、参考文献、記事等を取り上げ、ビジネスの最新トピックスへの関心と理解を深めます。

【到達目標】
本授業は、経営学における著名なテキストを用いて英語文献を読む語学力を身につけ、英語文献から得た経営学の知識を応用する力をつけることを目標とします。具体的には、経営学領域を網羅したテキストである"The Business Book: Big Ideas Simply Explained"を用いて、基礎知識をつけ、専門書を読解する力、英語で専門講義を受けるための基礎力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
受講者には（何組かのグループを設定し）、担当部分の発表をしてもらいます。毎回の授業の流れは、担当グループが発表、各グループによる質問、報告に対する教員からのコメントおよび解説、ディスカッション、総括の順番で進めます。授業の後半ではビジネスに関わる原書や記事を読んで発表と議論を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の概要、進め方の説明
第2回	Start Small, Think Big①/Starting and Growing the Business	起業の歴史、思想、プロセス論の概説、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第3回	Start Small, Think Big②/Starting and Growing the Business	起業の成功戦略、リスク管理、起業家論の概説、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第4回	Start Small, Think Big③/Starting and Growing the Business	起業の成長曲線、グレイナー曲線、起業の労働論の概説、学生による質疑応答、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第5回	Lighting The Fire①/Leadership and Human Resources	リーダーシップ論、チーム力、創造と革新の概説、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第6回	Lighting The Fire②/Leadership and Human Resources	組織文化論、ミンツバーグのマネジメント論、企業統治論の概説、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第7回	Making Money Work①/Managing Finances	法令・規則の遵守、利益主義、投資と配当の概説、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第8回	Making Money Work②/Managing Finances	キャッシュフロー管理、活動基準原価計算の概説、学生からの質疑応答、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第9回	Working With a Vision①/Strategy and Operations	失敗論、ポーターの戦略、MABAマトリックスの概説、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第10回	Working With a Vision②/Strategy and Operations	ポーターの５F、バリューチェーン、企業文化の倫理の概説、質疑応答、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第11回	Successful Selling①/Marketing Management	４P MIX、AIDAモデル、製品ポートフォリオの概説、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第12回	Successful Selling②/Marketing Management	ブランド構築、インセンティブ論の概説、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第13回	Successful Selling③/Marketing Management	グリーンウォッシュ、売上予測の概説、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第14回	総括	本授業で学習したトピックを総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回、テキストの指定箇所について精読し、予習を行う。
・担当個所の概要をまとめスライドにて発表する。
・最終レポートを作成する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・Atkinson, S., O'Hara, S., &Sturgeon, A. (Eds.). (2014). The Business Book: Big Ideas Simply Explained. Dorling Kindersley Ltd.

【参考書】
・「実践ＭＢＡ式経営学の教科書」鴨志田晃著,ぱる出版,2016年,￥1,400
上記のほか、授業にて適宜、参考文献や記事を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（グループワーク・発表を含む）60点
・期末レポート　40点
成績評価は、授業での発表および参加、ならびにレポート（宿題）の成績によって総合的に評価します。毎回出欠を確認し、5回以上欠席した学生は単位を認められません。

【学生の意見等からの気づき】
・英語力の違いがあっても学習成果が出るように指導します。
・授業時はもちろん、授業外でも質問は遠慮なく行ってください。

【学生が準備すべき機器他】
・毎回の講義にテキストと辞書、PCを必ず持参してください。
英語の文献を読むのは大変ですので、毎回講義に出席し、4時間程度の予復習を欠かさずに行うようにしてください。
・カメラ・マイク付きPC（オンラインの場合）
・ある程度の速度が確保されたネット環境（オンラインの場合）

【その他の重要事項】
エントリー期間にWeb選考を行う。詳細は、経営学部Web掲示板に掲載されている案内を確認し、エントリーすること。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The aim of this course is to help students acuire basic knowledge of business administration,especially start Up and business development, and marketing theory using English teaching materials.
（Learning Objectives）
By the end of this course, students should be able to do the followings:
・Acquire the ability to express own opinion to others by reading English books on business management.
・Acquire the basic knowledge about business management theory and understand tools for business analysis
・Arouse students' awareness and interest in business management theory and business topics.
(Learning activities outside of classroom）
Students will be expected to have read and completed the required assigned part of the text and prepare the slides for it. (Presentation slides would be prepared by each group.)
Your study time will be more than 4 hours for a class
（Grading Criteria/Policy）
Grading will be decided based upon "Groupwork/presentation and in-class contribution"(60%), "final report and other homework "(40%). Students who are absent more than 5 times will be fail after checking attendance every time.

MAN105FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学（2019年度以降入学者）

岡本　慶子

グローバル・ビジネス/GBP科目　1～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語からだけでなく、英語からも情報を集められるようにし、集めた情報をもとに、理解を深め、さらに考え、自分の考えを理論的に述べることを学ぶ。そして、それを英語で話す、書くために、日本語と英語の違いを知って、考えることを繰り返し実践する。

【到達目標】
違う文化背景を持つ人たちとのコミュニケーションを取れるようになることを目標とする。そのために、日本語と英語の違いをまず理解して、英語で伝わるように考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
毎回、リーディング、リスニング等の宿題があります。宿題に基づいて、授業を進めますので、内容の理解、又は不明点を明確にして授業に出席してください。授業では宿題の内容を元に、自分の考えをまとめたり、グループでディスカッションします（日本語）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction 対面	Course overview Self Introduction
第2回	AI Generated Art 1	He used AI to win a fine-arts competition.
第3回	AI Generated Art 1	He used AI to win a fine-arts competition.
第4回	Market Segmentation, Targeting, and Positioning 1	PepsiCo Brands Target Different Markets
第5回	Market Segmentation, Targeting, and Positioning 2	PepsiCo Brands Target Different Markets
第6回	Global Marketing 1	Walmart Extends Its Global Reach
第7回	Global Marketing 2	Walmart Extends Its Global Reach
第8回	Global Marketing Strategy 1	Walmart Annual Report Analysis
第9回	Group Project Walmart Strategies 1	Walmart Growth Strategies (video recording)
第10回	Group Project Walmart Strategies 2	Walmart 小レポート プレゼンビデオ
第11回	Strategic Management 1	Does Kellogg Have the Tiger by the Tail?
第12回	Strategic Management 2	Does Kellogg Have the Tiger by the Tail? Kellogg's Sprit into Two Companies
第13回	Group Work 1 Kellogg	Kellogg Group Work
第14回	Final exam	wrap up Final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前々日の23:59までに授業支援システムで提出
宿題1．課題の予習、復習、グループワークの準備
宿題2．単語帳、質問
宿題3．数学の問題
宿題の詳細は、授業中に逐次説明します。
本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。（合計2時間）

【テキスト（教科書）】
特にありません。課題、ワークシート、参考ウェブリンク等はHoppiで配布します。

【参考書】
Kurtz, David L. 2016. Contemporary Marketing. Boston. Cengage Learning.
Hitt, Michael A., Ireland R. Duane, and Hoskisson, Robert E. 2017. Strategic Management: Competitiveness &Globalization. Boston, Cengage Learning.
2冊とも図書館蔵書

【成績評価の方法と基準】
授業への出席とリアペ評価　40％
宿題の提出と宿題の評価（個人、グループワーク含む）、期末レポート、プレゼンなど　40％
期末テスト　20%
評価、宿題、課題については初回授業で説明します。
*欠席、宿題の未提出はその分、点数が下がりますのでご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】
＊宿題の予習、復習をしておかないと、授業のグループワークが大変になる
＊リスニングは、回が進むごとに聞き取れるようになる実感があった
＊課題文を学習した後、戦略を考えたりまとめたりする課題が良かった
＊AIは今後も、利用方法を決めて、利用可とするのが良いと思う
以上は継続予定
＊毎回、学生の気づき（英語に関する）の発表の場があると良い（今は無い）どの様に取り入れるか考慮中
＊単語帳の作成については賛否両論あり
授業で相談予定

【学生が準備すべき機器他】
お知らせ、課題、宿題、資料配布等はHoppiを利用します。
授業履修を考えている人は初回授業までにHoppiに仮登録してください。
Hoppiで配布したもの、及び自分の宿題、予習、単語帳は授業中に参照できるようにご用意ください。
辞書または電子辞書は毎回授業に持参してください。
Googleの辞書機能はお勧めしません。

【その他の重要事項】
対面授業です。欠席や宿題の提出が無いと評価に影響します。
前年度は定員に余裕がありましたので、本年度は初回授業から対面で行う予定です。変更がある場合は、初回授業の1週間前までにHoppiにてお知らせします。
Hoppiのお知らせメールを受け取れるよう設定してください。
授業の課題、内容、テストの期日等は、授業の進捗によって変更になる場合があります。

【関連科目】
なし

【実務経験のある教員による授業】
アメリカ留学中にボランティアやNPOでの活動経験があり、国内外のファッション業界で勤務経験を持つ教員の授業です。
英語が上手でも言いたいことが相手に通じるとは限りません。AI翻訳機を使っても、頭の中が整理されていなければ、伝わる英語になりません。伝えるために、どうするか、それをどうやって身につけるか。いろいろ実践してみる授業を行います。

【Outline (in English)】
[Course outline] This class is designed for Japanese students to learn English as a second language. Students will learn English through marketing &strategic management materials and middle school mathematics.
[Learning objectives] The goal of this class is to learn how to think logically for English speaking and writing.
[Learning activities outside of class room] Students are required to study at home about two hours every week.
[Grading Criteria/Policy]
Class participation &Reaction paper - 40%
Homework, Group &Individual works (including essay &presentation) - 40%
Final exam - 20%

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学Ⅰ（2018年度以前入学者）

吉村　喜予子

選択_外国語経営学科目　1～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］
※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「外国語経営管理入門」では、ビジネス環境におけるさまざまなトピックを14週間にわたって学びます。
この講義では、テーマに関する講義と英語資料（記事、ニュース、文献）を読みながら、グローバルビジネスについて理解を深めます。
学生は毎週、課題として英語の資料を事前に読むことが必須になります。
講義を通じて，学生がビジネスで使用される英語に慣れることで，将来，グローバル環境で，自分で考えて，情報を組織に発信する」という基礎となることをを期待します。

【到達目標】
この講義では、テーマに関する講義と英語資料（記事、ニュース、文献）を読みながら、グローバルビジネスについて理解を深めます。
講義の到達目標としては以下のとおり。
- 経営学の各テーマに関連する情報や用語を理解する。
- ビジネスで使われる英語単語に慣れること。
- グローバル環境の中で，言語を超えて参加意識を持つ準備が整うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
対面（#1セッションを除く）
本講義は，英語を活用する企業を想定して，少しずつビジネスで使われる英語に慣れてもらうことを想定しています.
講義は日本語で行いますが,「入門外国語経営学」の講義として，提示するスライド等の多くは英語で作成されていることは，前提として理解してください.
各週（各回）のテーマについて講義と課題として出された英語の資料（記事，ニュース，論文等）を読んだことを前提としたディスカッション（日本語）を行います.
ビジネスアイデアの実現を想定したシミュレーションを予定しています。学生にシミュレーションを体験してもらい，ビジネス上の課題発見や学びを想定しています.
特に，講義のなかでは，ディスカッションで交わされた内容が「正しい」か「間違っている」かは重要ではなく，将来企業で働く際に，「自分で考えて，情報を組織に発信する」という基礎作りを念頭に置いています。
したがって、学生はディスカッション スキルの構築に参加することが期待されます。 課題のフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション Introduction	コース概要 ビジネス環境を理解する
第2回	ビジネス環境を理解する。 Understanding the business environment	ビジネスの外部環境と内部環境
第3回	企業の倫理と社会的責任 Corporate ethics and social responsibility	企業倫理 業務における倫理 社会的責任
第4回	起業家精神とビジネスオーナーシップ I Entrepreneurship, and Business Ownership I	起業とは 起業の環境
第5回	起業家精神とビジネスオーナーシップ II Entrepreneurship, and Business Ownership II	起業を考える（シュミレーション） レポート提出あり
第6回	経営管理 Managing the business enterprise	マネージャーの役割 組織管理
第7回	組織管理 Organizing the business enterprise	組織とは何か 組織における判断要件
第8回	オペレーションズ・マネジメントと品質管理 Operations management and Quality	オペレーション・マネジメントとは何か？ 品質管理の重要性
第9回	組織とモチベーション Motivating and leading employee	組織を作る 従業員の役割
第10回	リーダーシップと意思決定 Leadership and decision making	リーダーシップの重要性ケース毎のリーダーシップの必要性
第11回	人財資源管理 Human Resource Management	人財とは 人財管理とはなにか
第12回	マーケティングプロセスと消費者行動 Marketing process and Consumer behavior	マーケティングとは 消費者行動とは
第13回	企業におけるITの役割 Information Technology	ITとはなにか ITの役割
第14回	企業のリスク管理 Corporate Risk managemement	企業リスクとはなにか 対応策とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各週（各回）のテーマについて講義と課題として出された英語の資料（記事，ニュース，論文等）を読むこと。(2時間)
各週（各回）のテーマについて授業資料を復習すること。(2時間)

【テキスト（教科書）】
特に定めない。講義資料はHoppiに掲示する。

【参考書】
特に定めない。各回，講義にて指示する。

【成績評価の方法と基準】
各回小テスト（QUIZという）の累計：50％
中間Quiz: 10％
シュミレーションレポート：20％
最終クイズ：20％　（14週の授業中に行います）
Total:100％
全体のトータルスコアに対して，％形式でグレーディングします。

【学生の意見等からの気づき】
QUIZの際に，「わからなかったこと(もう少し説明してほしかったこと)」「講義へのFeedback]を記載してもらい，次週の講義の冒頭に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】
PC等，講義の資料を読み，質問に回答できる機器。

【その他の重要事項】
教員は，実務経験のある教員である。

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline (in English)】
（Course Outline）
In "Introductory Foreign Language Business Administration Management," you will learn about various topics in the business environment over 14 weeks.
In this lecture, students will deepen their understanding of global business by reading lectures and English materials (articles, news, literature) regarding the theme.

Students must prepare for each week's assignment by reading English materials in advance. Through the course, the expectation is that students will become accustomed to the English used in business, enabling them to think independently and effectively communicate information within a global context in the future."
（Learning Objective）
In this lecture, students will deepen their understanding of global business through lectures on various themes and by reading English materials (articles, news, literature). The learning objectives of the course are as follows:
- To understand information and terminology related to various topics in business management.
- To become familiar with English vocabulary used in business.
- To be prepared to engage in a global environment, with an awareness of participation beyond language barriers.
（Learning activities outside of classroom）
The students are expected to read the uploaded materials (course materials and cases) for each class beforehand and prepare for discussions during the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
（Grading Criteria/Policy）
In-class-Quiz: 50%
Mid-term Quiz: 10%
Report　（Based on the simulation work): 20%
Final Quiz (in-class): 20%
Total: 100 %

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学Ⅰ（2018年度以前入学者）

依田　光広

選択_外国語経営学科目　1～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］
※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、世界の中核産業であり近年変革が著しい自動車（モビリティ=移動）産業とその中の注目企業を対象に、日本語での教師作成の講義教材（英語の資料・動画を含む）や英語での課題を通じ、CASE戦略（つながるクルマConnected、自動運転Autonomous、シェアリング・サービスShared & Services、電動車Electric）の先端動向を学びます。同時に基礎レベルながら、実際にビジネスの現場や海外生活でも役立つ英語のリーディング、ヒアリング、スピーキング、そして日本語でのディスカッション能力の向上をはかります。こうした勉強を通じて、就活の際や社会人・教師になってからも役立つ知見やものの見方を習得することを目指します。
準備学習は、課題が出された時の英語のビジネス資料や動画の日本語訳（要旨）が中心となります。復習は、講義資料と課題のレビューです。
評価は、平常点、課題、講義での発表・質問により総合的に評価します。

【到達目標】
理解力：教師による日本語でのCASE戦略の講義を一定程度理解する。
読む力：課題の英語ビジネス文書を理解し、要旨を日本語で整理する能力を身につける。
聞く力：英語のニュース動画を大まかに把握し、日本語で整理することを目指す。
書く力：授業で学習した内容をもとに日本語・英語のビジネス文書を作成することを目指す。
話す力：初級レベルのビジネス英会話を学習し、講義で実践する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
講義の前半は教師が主に日本語でのＣＡＳＥ戦略（英語の資料・動画を含む）関する講義を実施します。後半は関連するビジネス英文の説明を行い、指名された数名の生徒は英語で発表を行います。課題（英語）が与えられた時は「課題」フォルダーへの提出が必要となります。優秀な提出結果については講義の最初でコメントします。なお講義資料や動画はAutomotive News 、教師執筆のレポート、専門研究者・アナリストの論文、日本経済新聞、日経XTech、マークラインズ社のデータベースなどから引用します。
第一回講義で、授業の進め方と評価などについてオリエンテーションを行いますので、受講希望者は必ず出席（Online）してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction & Lecture	授業の概要と進め方の説明（Outline and Objectives）、グローバル自動車市場（Global Automotive Market）
第2回	Electric (1)	電動車（EV等）のTrend & Background
第3回	Electric (2)	対象企業：日Nissan, Toyota
第4回	Electric (3)	対象企業：米Tesla
第5回	Connected (1)	つながるクルマのTrend & Background
第6回	Connected (2)	対象企業：独Daimler etc.
第7回	Autonomous (1)	自動運転のTrend & Background
第8回	Autonomous (2)	対象企業：米Waymo(Google)
第9回	Autonomous (3)	対象企業：日Tier Ⅳ
第10回	Field Work	訪問先：自動車企業の施設（Automotive Company Facilities）
第11回	Shared &Service (1)	シェアリング/サービス（MaaS）のTrend & Background
第12回	Shared &Service (2)	対象企業：米Uber
第13回	Shared &Service (3)	対象企業：日Toyota etc.
第14回	Conclusion, Discussion	総括講義Lecture、グループ討議Group Discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は、課題が出された時の英語のビジネス資料や動画の日本語訳（要旨）や英語での要旨の作成です。復習は、講義資料と課題のレビューです。準備学習と復習の時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義資料は、教師がビジネスでの経験と調査研究を通じ独自に作成したものを使用します。

【参考書】
木村将之Masayuki Kimura他2名『モビリティ X』（2022）日経BP社 →購入は任意
中西孝樹Takaki Nakanishi『CASE革命』（2018）日本経済新聞出版社 →購入は任意
NEC『CASEとは？ 自動車業界で期待される技術革新とその影響』
https://www.nec-solutioninnovators.co.jp/ss/mobility/column/15/index.html

【成績評価の方法と基準】
評価は、平常点（40%）、適宜指定する課題（40%）、講義での発表と質疑（20%）などにより総合的に評価します。期末試験は実施しません。なお講義中の私語や内職は慎んでください。

【学生の意見等からの気づき】
CASE戦略の動向、特に先端技術の説明は画像や動画などを使用し分かりやすく説明し、同時にフィールドワークでそれらを補完します。一方で、履修する学生の意見や希望を考慮したいと思いますので、学期内のいつでも積極的なフィードバックもお願いします。

【学生が準備すべき機器他】
PC、Tablet、Smart Phoneのいずれかを用意しておいてください。授業への持ち込みは自由です。

【その他の重要事項】
担当教師はトヨタ自動車Toyota Motor Corp.（海外営業部門）ならびにトヨタ自動車子会社の国際経済研究所（Instituted for International Economic Studies）での勤務経験を有します。研究所での専門分野は、Global経営戦略、CASE戦略、自動車産業・企業の分析、IoT戦略（Internet of Things）、コーポレートガバナンスなどです。現在はYoda Group Limitedでの調査研究を中心に、医療系サービス会社Nihon Visca Co., Ltd.の相談役、自動車問題研究会の幹事、RRI（Robot Revolution &Industrial IoT Initiative、産官学団体）の委員などを兼務しており、自らのビジネス経験や調査研究の成果を活かした授業を心がけます。
生成AIについては、講義の復習に使用することは推奨します。留意点としては、結果が完全に正しいわけではないことがありますので必ずチェックをしてください。なお課題の作成にあたっての使用は自身の学力の向上につながらないので禁止とします。課題での使用禁止は厳守してください。

【関連科目】
特になし

【Outline (in English)】
This class is aimed at studying the automobile (or mobility) industry, which is one of the world's core industries of the world and has been rapidly evolving recently, and its notable companies, using Japanese lecture materials(including English materials and videos) and English homework. You can learn the advanced trends of CASE strategy (Connected, Autonomous, Shared &Services, Electric) and improve English reading, listening and speaking skills in English, and discussion skills in Japanese. Getting in touch with the latest technologies and services of the automobile industry and English skills, you can deepen knowledge and thinking that will be useful during job seeking and after getting a job at a company or a teacher. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2hours to understand the content of the lecture. Comprehensive evaluation will be made based on in class contribution(40%), homework(40%), and presentation(20%).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学Ⅰ（2018年度以前入学者）

依田　光広

選択_外国語経営学科目　1～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］
※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、世界の中核産業であり近年変革が著しい自動車（モビリティ=移動）産業とその中の注目企業を対象に、日本語での教師による講義資料、英語での宿題を使用し、最近の潮流となっているCASE戦略（つながるクルマConnected、自動運転Autonomous、シェアリング・サービスShared &Services、電動車Electric）の先端動向を学びます。同時に基礎レベルながら、実際にビジネスの現場や海外生活でも役立つ英語のリーディング、ヒアリング、スピーキング、そして日本語でのディスカッション能力の向上をはかります。こうした勉強を通じて、就活の際や社会人・教師になってからも役立つ知見やものの見方を習得することを目指します。
準備学習は、宿題が出された時の英語のビジネス資料や動画の日本語訳（要旨）です。復習は、講義資料と宿題のレビューです。
評価は、平常点、宿題、講義での発表・質問により総合的に行います。

【到達目標】
理解力：教師による日本語でのCASE戦略の講義を一定程度理解する。
読む力：日本語のビジネス文書・図表（教師作成のテキスト）を読む。宿題の英語ビジネス文書を理解し、要旨を日本語で整理する能力を身につける。
聞く力：英語のニュース動画を大まかに把握し、日本語で整理することを目指す。
書く力：授業で学習した内容をもとに日本語・英語のビジネス文書を作成することを目指す。
話す力：初級レベルのビジネス英会話を学習し、講義で実践する。
Comprehension ability: Students will understand to some extent the teacher's lecture on CASE strategy in Japanese.
Reading ability: You aim to understand Japanese business documents and business English correctly, and summarize the points in Japanese.
Listening ability: Students will acquire the ability to roughly grasp the explanation of English news videos and summarize the points in Japanese.
Writing ability: You aim to write Japanese and English business documents based on what you learn in the class.
Speaking ability: Students will acquire the skills of introductory English conversation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
授業時間は100分で、間に休憩を5～10分とります。前半は教師が日本語でのＣＡＳＥ戦略に関する講義（技術戦略も含む）を実施します。後半はビジネス英文の事例の説明を行い、宿題が与えられた時は（講義前までに「課題」フォルダーに提出）、指名された数名が英語で発表をします。
講義資料や動画はAutomotive News 、教師執筆のレポート、専門研究者・アナリストの論文、日本経済新聞・日経XTech、マークラインズ社のデータベースなどから引用します。
第一回講義で、授業の進め方と評価などについてオリエンテーションを行いますので、受講希望者は必ず出席してください。
In the class, the teacher gives lecture about "CASE" including technical strategy in Japanese. When homework is given, students have to upload it to an assignment folder and several students should present it in English in the class.
Materials and videos are quoted from Automotive News, reports written by the teacher or other researchers, Nikkei Newspaper, database of Marklines Co., Ltd, Nikkei XTech, etc.
In the first lecture, students will be given an orientation on the class, so please be sure to attend if you wish to take the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction & Lecture	授業の概要と進め方の説明（Outline and objectives）、グローバル自動車市場（Global Automotive Market）← 任意
第2回	Electric (1)	電動車（BEV等）のTrend & Background
第3回	Electric (2)	対象企業：日Nissan, 日Toyota
第4回	Electric (3)	対象企業：米Tesla
第5回	Connected (1)	つながるクルマのTrend & Background
第6回	Connected (2)	対象企業：独Daimler etc.
第7回	Autonomous (1)	自動運転のTrend & Background
第8回	Autonomous (2)	対象企業：米Waymo(Google)
第9回	Autonomous (3)	対象企業：日Tier Ⅳ
第10回	Field Work	訪問先：自動車会社の施設（Facility of Car Company）
第11回	Shared &Service (1)	シェアリング/サービス（MaaS）のTrend & Background
第12回	Shared &Service (2)	対象企業：米Uber
第13回	Shared &Service (3)	対象企業：日Toyota etc.
第14回	Conclusion, Discussion	総括講義(Lecture)、グループ討議(Group Discussion)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習は、宿題が出された時の英語のビジネス資料や動画の日本語訳（要旨）です。復習は、講義資料と宿題のレビューです。準備学習と復習の時間は各2時間を標準とします。
Preparatory study is a Japanese translation (summary) of pre-distributed English papers and videos. You should review the teacher's lecture materials and homework. The standard time for preparatory study and review is two hours each.

【テキスト（教科書）】
講義資料は、教師がビジネスでの経験と調査研究を通じ独自に作成したものを使用します。
Lecture materials used in the class are written by the teacher.

【参考書】
木村将之Masayuki Kimura他2名『モビリティ X』（2022）日経BP社 ←購入は任意
中西孝樹Takaki Nakanishi『CASE革命』（2018）日本経済新聞出版社 ←購入は任意

【成績評価の方法と基準】
評価は、平常点（50%）、宿題の内容（40%）、講義での発表と質疑（10%）などにより総合的に評価します。期末試験はしません。なお講義中の私語や内職は慎んでください。
Comprehensive evaluation will be made based on contributions in class(50%), homework(40%) and presentation/Q&As(10%), etc.

【学生の意見等からの気づき】
最先端のCASE戦略の動向を解説し、フィールドワークも実施します。学生の意見や希望を考慮したいと思いますので、学期内のいつでも積極的なフィードバックをお願いします。
I will explain trends in cutting-edge CASE strategies and enhance the fieldwork. You should not talk privately or do any side work during the lecture. I would like to consider opinions and wishes of all students, so give me your positive feedback anytime.

【学生が準備すべき機器他】
PC、Tablet、Smart Phoneのいずれかを用意しておいてください。授業への持ち込みは自由です。
Get your PC, Tablet, or Smart Phone ready. Feel free to bring them to a class.

【その他の重要事項】
担当教師はトヨタ自動車Toyota Motor Corp.（海外営業部門）ならびにトヨタ自動車子会社の国際経済研究所（Instituted for International Economic Studies）での勤務経験を有します。研究所での専門分野は、Global経営戦略、CASE戦略、自動車産業・企業分析、IoT戦略（Internet of Things）、コーポレートガバナンスなどです。現在はYoda Group Limitedでの調査研究を中心に、医療系サービス会社Nihon Visca Co., Ltd.の相談役、自動車問題研究会の幹事、RRI（Robot Revolution &Industrial IoT Initiative、産官学団体）の委員などを兼務しており、自らのビジネス経験や調査研究の成果を活かした授業を心がけます。

【関連科目】
None.

【Outline (in English)】
This class is aimed at studying the automobile (or mobility) industry, which is the core industry of the world and has been rapidly evolving recently, and its notable companies, using Japanese lecture materials and English homework. You can learn the advanced trends of CASE strategy (Connected, Autonomous, Shared &Services, Electric) and improve reading, listening and speaking skills in English, and discussion skills in Japanese. Getting in touch with the latest technologies and services of the automobile industry and English skills, you can deepen knowledge and thinking that will be useful during job seeking and after getting a job at a company or a teacher.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2hours to understand the content of the lecture. Comprehensive evaluation will be made based on in class contribution(40%), homework(40%), and presentation(20%).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学Ⅰ（2018年度以前入学者）

秋友　一広

選択_外国語経営学科目　1～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］
※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は米国の経営学専攻の学部学生が、入学初年度に履修する基礎的かつ網羅的な教科書を活用し、企業経営の全体像ならびに経営に影響を与える外部環境を学習することを目的とする。企業経営における専門用語は米国由来が大半を占める為、英語で経営学の基礎を習得することは、グローバル化した企業活動の現場で実際に活用でき、非常に有用な知識となりうる。学生諸君にチームを組んでもらい、テキストの章毎に毎週チームでの内容発表を英語で行い、他チームからの活発な質問と議論により、現代のグローバル企業経営に必須の専門用語の意味を体得してもらう。また、このコースでは、ロジックと内容がしっかりしたプレゼンテーションの作成方法と英語で効果的に発表を行う訓練も行い、将来グローバルに活躍できるビジネスパーソンの育成も目的とする。

【到達目標】
本授業終了後は下記の能力が備わる:
1. 辞書無しで大量の英文を読み、ポイントとなる内容を理解する為の方法を習得
2. プレゼンテーションの資料を作成する過程で、パラフレージングの方法を習得
3. 聞き手を納得させ、聞き手が共感する説得性を持ったロジカルなプレゼン力を習得
4. プレゼンテーションの間のつなぎ言葉を自然に活用できる為の方法を習得
5. 経営学で頻出する単語の意味、定義を体得する（中間、期末試験で理解度を確認）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
履修登録完了日以降の授業は、履修登録者を何組かのグループに分け、各グループに割当てられた各章の要約と関連分野の課題に関する発表を英語で行ってもらう。　第一回目の授業で、"Your Career in Business"（教科書第１７章P655 – P684）、ならびに企業経営に不可欠な職能別組織の説明を講師が行う（例：経営企画、財務・経理、人事、調達、営業企画・マーケティング（含むグローバル展開）、物流、IT　他を含む）ので、各自卒業後の進路を念頭に置き、興味のある分野を選択しておくこと。グループ編成は、可能な限り同じ分野に興味を持つ者同士で組むこととし、プレゼンテーションの割当ては、そのチームが興味を持つ分野を説明した章を可能な限り割当てる。第三回目からの授業は、割当てられた章のチームがその章の要約、その章での現代社会における課題とその解決策等を発表し、他チームからの質問と議論、講師による解説と総括を行う流れとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	＊本授業の概要、進め方 ＊講師による教科書の第１７章 Your Career in Businessの説明 ＊一般企業の職能別組織説明
第2回	第１章 Understanding Economic Systems & Business 第４章 Forms of Business Ownership	＊講師による第１章と第４章の説明、Q＆A, Discussion ＊チーム編成
第3回	第14章 Using Financial Information &Accounting 第16章 Understanding Financial Management and Securities Market	＊チームによる第１４章、第１６章の説明、Q＆A、Discussion ＊講師総括
第4回	第6章 Management and Leadership in Today's Organizations 第2章 Making Ethical Decisions and Managing a Socially Responsible Business	＊チームによる第６章、第２章の説明、Q＆A、Discussion ＊講師総括
第5回	第7章 Designing Organizational Structures 第8章 Managing Human Resources and Labor Relations 第9章 Motivating Employees	＊チームによる第７章、第８章、第９章の説明、Q＆A、Discussion ＊講師総括
第6回	第7章 Designing Organizational Structures 第8章 Managing Human Resources and Labor Relations 第9章 Motivating Employees	＊第５回からの継続：チームによる第７章、第８章、第９章の説明、Q＆A、Discussion ＊講師総括
第7回	第11章 Creating Products and Pricing Strategies to Meet Customers' Needs 第12章 Distributing and Promoting Products and Services	＊チームによる第１１章、第１２章の説明、Q＆A、Discussion ＊講師総括
第8回	中間テスト /Mid-term exam	＊テスト時間は1時間 ＊残りの時間はデイスカッション
第9回	第３章 Competing in the Global Marketplace 第５章 Entrepreneurship	＊チームによる第３章、第５章の説明、Q＆A、Discussion ＊講師総括
第10回	第１０章 Achieving World-Class Operations Management	＊チームによる第１０章の説明、Q＆A、Discussion、 ＊講師総括 ＊効果的なプレゼンテーションの方法について
第11回	第１３章 Using Technology to Manage Information	＊チームによる第１３章の説明、Q＆A、Discussion ＊講師総括 ＊英語でのプレゼンテーションに使われる繋ぎの言い回し、表現について。
第12回	第１５章 Understanding Money and Financial Institutions Appendix: Understanding the Legal and Tax Environment	＊チームによる第１５章、Appendixの説明、Q＆A、Discussion ＊講師総括 ＊効果的なプレゼンテーション資料作成方法
第13回	MBA 授業の英語で書かれたケース・スタディーに挑戦してみよう	＊実際のMBA授業で使われるケース・スタディーを使って議論してみる ＊講師はファシリテータとして学生諸君の議論を深め、最後に総括を行う
第14回	期末テスト /Final Exam	＊テスト時間は1時間 ＊コース全体の振り返りとQ＆A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 毎回シラバスで指定されている章を精読のうえ、質問を英語で準備のこと
2. 発表チームは内容をMSパワーポイントに英語でまとめ、英語で発表する
3. 発表チームは担当の章に関連する現代の企業経営における課題一つを探し、その解決策も含めて必ず発表に入れること
4. 各自その章に出てくる主要な経営学関連用語の単語帳を作成し英語で定義を書くこと
5. 本授業の準備学習時間・復習時間は、それぞれ２時間とする
6. 辞書は予習、復習の際にどうしてもわからない頻出単語のみ引くこと、速読を重視

【テキスト（教科書）】
Introduction to Business, OpenStax, Rice University.

【参考書】
Principles of Management、 OpenStax, Rice University.
Entrepreneurship, ibid.

【成績評価の方法と基準】
平常点（グループワーク・プレゼンテーション含む）20%– 遅刻は減点、また毎回出席を確認する。体調不良等やむを得ない理由で授業を欠席する場合は、欠席とその正当な理由を必ずメールで授業開始前までに講師へ連絡のこと。　2回以上の無断欠席や正当な理由無き欠席者は単位取得不可
中間テストの点数: 40%
期末テストの点数: 40%

【学生の意見等からの気づき】
授業の第一回目に、先期履修の学生からのフィードバックを紹介し、講師が今期どのような改善や工夫を授業に加えるかを説明する。

【学生が準備すべき機器他】
教科書も参考書もダウンロード版があるので、毎回ダウンロードしたPCを持参のこと
カメラ・マイク付きPCとハイスピードインターネット（オンラインの場合）
MS Word, PPT, エクセル搭載のPC。

【その他の重要事項】
1. 履修希望者は必ず事前にHoppiiに掲載されているStudent Biodata Memoへ必要事項を記入すること。
2. 履修希望者が多い場合は、エントリー期間中にweb抽選を行う。
3. 早い段階でTOEICを受験し各自の英語のレベルを把握しておくこと。
実務経験のある講師による授業。講師は日本の製造業者（海外ビジネス売上比率60％）に42年勤務。米国にて自社製品の市場や顧客開拓で通算11年間駐在しただけでなく、同社の欧州地域統括会社社長として6年間ドイツに駐在した。2018年からは、同社の内部監査部門にて、主に同社の海外子会社の内部監査時の監査長として勤務した。

【関連科目】
無し。

【Outline (in English)】
This course is designed to provide undergraduate freshmen majoring in business administration with an opportunity to learn the essentials of corporate management and the external environment that influences it. It uses a basic and comprehensive textbook commonly assigned to U.S. college freshmen with business majors. Most of the terminology used in business management originates from the U.S., making learning the basics of business administration in English a highly useful endeavor that can be applied to globalized business activities.
Students will be asked to form teams and present the contents of each chapter of the textbook weekly in English. Through active questioning and discussion with other teams and seasoned guidance from the instructor's years of global business experience, students will learn the meaning and real-world application of technical terms essential for modern global business management.
In addition to its other objectives, this program seeks to nurture future Japanese businesspersons equipped with logic and substance who can effectively deliver presentations in English.
Grading and Attendance policy:
Regular Coursework (including group work and presentations): 20%
Points will be deducted for tardiness. Attendance is mandatory and will be checked at each class. In case of unavoidable absences, such as illness, notify the instructor via email before the class begins. Students absent more than twice without authorization or a valid reason will not be eligible for course credits.
Mid-term Exam: 40%
Final Exam: 40%
【Learning activities outside of the classroom】
1. Before each class, carefully read the chapter specified in the syllabus and prepare your questions in English.
2. The presentation team must summarize the content in English using MS PowerPoint and deliver their presentation in English.
3. The presentation team must identify a modern corporate management issue related to their assigned chapter and propose a solution in their presentation.
4. Each student must create a vocabulary notebook for key business-related terms from the chapter and write their definitions in English.
5. Students should spend approximately two hours each on preparing for and reviewing each class.
6. When preparing for or reviewing a class, do not look up an English-to-Japanese dictionary whenever you encounter unknown English words. To focus on speed reading, use the dictionary only when the unknown words are critical to understanding the context of a whole sentence.

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学Ⅰ（2018年度以前入学者）

秋友　一広

選択_外国語経営学科目　1～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］
※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は米国の経営学専攻の学部学生が、入学初年度に履修する基礎的かつ網羅的な教科書を活用し、企業経営の全体像ならびに経営に影響を与える外部環境を学習することを目的とする。企業経営における専門用語は米国由来が大半を占める為、英語で経営学の基礎を習得することは、グローバル化した企業活動の現場で実際に活用でき、非常に有用な知識となりうる。学生諸君にチームを組んでもらい、テキストの章毎に毎週チームでの内容発表を英語で行い、他チームからの活発な質問と議論により、現代のグローバル企業経営に必須の専門用語の意味を体得してもらう。また、このコースでは、ロジックと内容がしっかりしたプレゼンテーションの作成方法と英語で効果的に発表を行う訓練も行い、将来グローバルに活躍できるビジネスパーソンの育成も目的とする。

【到達目標】
本授業終了後は下記の能力が備わる:
1. 辞書無しで大量の英文を読み、ポイントとなる内容を理解する為の方法を習得
2. プレゼンテーションの資料を作成する過程で、パラフレージングの方法を習得
3. 聞き手を納得させ、聞き手が共感する説得性を持ったロジカルなプレゼン力を習得
4. プレゼンテーションの間のつなぎ言葉を自然に活用できる為の方法を習得
5. 経営学で頻出する単語の意味、定義を体得する（中間、期末試験で理解度を確認）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
履修登録完了日以降の授業は、履修登録者を何組かのグループに分け、各グループに割当てられた各章の要約と関連分野の課題に関する発表を英語で行ってもらう。　第一回目の授業で、“Your Career in Business”（教科書第１７章P655 – P684）、ならびに企業経営に不可欠な職能別組織の説明を講師が行う（例：経営企画、財務・経理、人事、調達、営業企画・マーケティング（含むグローバル展開）、物流、IT　他を含む）ので、各自卒業後の進路を念頭に置き、興味のある分野を選択しておくこと。グループ編成は、可能な限り同じ分野に興味を持つ者同士で組むこととし、プレゼンテーションの割当ては、そのチームが興味を持つ分野を説明した章を可能な限り割当てる。第三回目からの授業は、割当てられた章のチームがその章の要約、その章での現代社会における課題とその解決策等を発表し、他チームからの質問と議論、講師による解説と総括を行う流れとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	＊本授業の概要、進め方 ＊講師による教科書の第１７章 Your Career in Businessの説明 ＊一般企業の職能別組織説明
第2回	第１章 Understanding Economic Systems & Business 第４章 Forms of Business Ownership	＊講師による第１章と第４章の説明、Q＆A, Discussion ＊チーム編成
第3回	第14章 Using Financial Information &Accounting 第16章 Understanding Financial Management and Securities Market	＊チームによる第１４章、第１６章の説明、Q＆A、Discussion ＊講師総括
第4回	第6章 Management and Leadership in Today‘s Organizations 第2章 Making Ethical Decisions and Managing a Socially Responsible Business	＊チームによる第６章、第２章の説明、Q＆A、Discussion ＊講師総括
第5回	第7章 Designing Organizational Structures 第8章 Managing Human Resources and Labor Relations 第9章 Motivating Employees	＊チームによる第７章、第８章、第９章の説明、Q＆A、Discussion ＊講師総括
第6回	第7章 Designing Organizational Structures 第8章 Managing Human Resources and Labor Relations 第9章 Motivating Employees	＊第５回からの継続：チームによる第７章、第８章、第９章の説明、Q＆A、Discussion ＊講師総括
第7回	第11章 Creating Products and Pricing Strategies to Meet Customers‘ Needs 第12章 Distributing and Promoting Products and Services	＊チームによる第１１章、第１２章の説明、Q＆A、Discussion ＊講師総括
第8回	中間テスト /Mid-term exam	＊テスト時間は1時間 ＊残りの時間はデイスカッション
第9回	第３章 Competing in the Global Marketplace 第５章 Entrepreneurship	＊チームによる第３章、第５章の説明、Q＆A、Discussion ＊講師総括
第10回	第１０章 Achieving World-Class Operations Management	＊チームによる第１０章の説明、Q＆A、Discussion、 ＊講師総括 ＊効果的なプレゼンテーションの方法について
第11回	第１３章 Using Technology to Manage Information	＊チームによる第１３章の説明、Q＆A、Discussion ＊講師総括 ＊英語でのプレゼンテーションに使われる繋ぎの言い回し、表現について。
第12回	第１５章 Understanding Money and Financial Institutions Appendix: Understanding the Legal and Tax Environment	＊チームによる第１５章、Appendixの説明、Q＆A、Discussion ＊講師総括 ＊効果的なプレゼンテーション資料作成方法
第13回	MBA 授業の英語で書かれたケース・スタディーに挑戦してみよう	＊実際のMBA授業で使われるケース・スタディーを使って議論してみる ＊講師はファシリテータとして学生諸君の議論を深め、最後に総括を行う
第14回	期末テスト /Final Exam	＊テスト時間は1時間 ＊コース全体の振り返りとQ＆A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 毎回シラバスで指定されている章を精読のうえ、質問を英語で準備のこと
2. 発表チームは内容をMSパワーポイントに英語でまとめ、英語で発表する
3. 発表チームは担当の章に関連する現代の企業経営における課題一つを探し、その解決策も含めて必ず発表に入れること
4. 各自その章に出てくる主要な経営学関連用語の単語帳を作成し英語で定義を書くこと
5. 本授業の準備学習時間・復習時間は、それぞれ２時間とする
6. 辞書は予習、復習の際にどうしてもわからない頻出単語のみ引くこと、速読を重視

【テキスト（教科書）】
Introduction to Business, OpenStax, Rice University.

【参考書】
Principles of Management、 OpenStax, Rice University.
Entrepreneurship, ibid.

【成績評価の方法と基準】
平常点（グループワーク・プレゼンテーション含む）20%– 遅刻は減点、また毎回出席を確認する。体調不良等やむを得ない理由で授業を欠席する場合は、欠席とその正当な理由を必ずメールで授業開始前までに講師へ連絡のこと。　2回以上の無断欠席や正当な理由無き欠席者は単位取得不可
中間テストの点数: 40%
期末テストの点数: 40%

【学生の意見等からの気づき】
授業の第一回目に、先期履修の学生からのフィードバックを紹介し、講師が今期どのような改善や工夫を授業に加えるかを説明する。

【学生が準備すべき機器他】
教科書も参考書もダウンロード版があるので、毎回ダウンロードしたPCを持参のこと
カメラ・マイク付きPCとハイスピードインターネット（オンラインの場合）
MS Word, PPT, エクセル搭載のPC。

【その他の重要事項】
1. 履修希望者は必ず事前にHoppiiに掲載されているStudent Biodata Memoへ必要事項を記入すること。
2. 履修希望者が多い場合は、エントリー期間中にweb抽選を行う。
3. 早い段階でTOEICを受験し各自の英語のレベルを把握しておくこと。
実務経験のある講師による授業。講師は日本の製造業者（海外ビジネス売上比率60％）に42年勤務。米国にて自社製品の市場や顧客開拓で通算11年間駐在しただけでなく、同社の欧州地域統括会社社長として6年間ドイツに駐在した。2018年からは、同社の内部監査部門にて、主に同社の海外子会社の内部監査時の監査長として勤務した。

【関連科目】
無し。

【Outline (in English)】
This course is designed to provide undergraduate freshmen majoring in business administration with an opportunity to learn the essentials of corporate management and the external environment that influences it. It uses a basic and comprehensive textbook commonly assigned to U.S. college freshmen with business majors. Most of the terminology used in business management originates from the U.S., making learning the basics of business administration in English a highly useful endeavor that can be applied to globalized business activities.
Students will be asked to form teams and present the contents of each chapter of the textbook weekly in English. Through active questioning and discussion with other teams and seasoned guidance from the instructor's years of global business experience, students will learn the meaning and real-world application of technical terms essential for modern global business management.
In addition to its other objectives, this program seeks to nurture future Japanese businesspersons equipped with logic and substance who can effectively deliver presentations in English.
Grading and Attendance policy:
Regular Coursework (including group work and presentations): 20%
Points will be deducted for tardiness. Attendance is mandatory and will be checked at each class. In case of unavoidable absences, such as illness, notify the instructor via email before the class begins. Students absent more than twice without authorization or a valid reason will not be eligible for course credits.
Mid-term Exam: 40%
Final Exam: 40%
【Learning activities outside of the classroom】
1. Before each class, carefully read the chapter specified in the syllabus and prepare your questions in English.
2. The presentation team must summarize the content in English using MS PowerPoint and deliver their presentation in English.
3. The presentation team must identify a modern corporate management issue related to their assigned chapter and propose a solution in their presentation.
4. Each student must create a vocabulary notebook for key business-related terms from the chapter and write their definitions in English.
5. Students should spend approximately two hours each on preparing for and reviewing each class.
6. When preparing for or reviewing a class, do not look up an English-to-Japanese dictionary whenever you encounter unknown English words. To focus on speed reading, use the dictionary only when the unknown words are critical to understanding the context of a whole sentence.

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学Ⅰ（2018年度以前入学者）

岡本　慶子

選択_外国語経営学科目　1～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］
※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語からだけでなく、英語からも情報を集められるようにし、集めた情報をもとに、理解を深め、さらに考え、自分の考えを理論的に述べることを学ぶ。そして、それを英語で話す、書くために、日本語と英語の違いを知って、考えることを繰り返し実践する。

【到達目標】
違う文化背景を持つ人たちとのコミュニケーションを取れるようになることを目標とする。そのために、日本語と英語の違いをまず理解して、英語で伝わるように考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
毎回、リーディング、リスニング等の宿題があります。宿題に基づいて、授業を進めますので、内容の理解、又は不明点を明確にして授業に出席してください。授業では宿題の内容を元に、自分の考えをまとめたり、グループでディスカッションします（日本語）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction 対面	Course overview Self Introduction
第2回	AI Generated Art 1	He used AI to win a fine-arts competition.
第3回	AI Generated Art 1	He used AI to win a fine-arts competition.
第4回	Market Segmentation, Targeting, and Positioning 1	PepsiCo Brands Target Different Markets
第5回	Market Segmentation, Targeting, and Positioning 2	PepsiCo Brands Target Different Markets
第6回	Global Marketing 1	Walmart Extends Its Global Reach
第7回	Global Marketing 2	Walmart Extends Its Global Reach
第8回	Global Marketing Strategy 1	Walmart Annual Report Analysis
第9回	Group Project Walmart Strategies 1	Walmart Growth Strategies (video recording)
第10回	Group Project Walmart Strategies 2	Walmart 小レポート プレゼンビデオ
第11回	Strategic Management 1	Does Kellogg Have the Tiger by the Tail?
第12回	Strategic Management 2	Does Kellogg Have the Tiger by the Tail? Kellogg's Sprit into Two Companies
第13回	Group Work 1 Kellogg	Kellogg Group Work
第14回	Final exam	wrap up Final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前々日の23:59までに授業支援システムで提出
宿題1．課題の予習、復習、グループワークの準備
宿題2．単語帳、質問
宿題3．数学の問題
宿題の詳細は、授業中に逐次説明します。
本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。（合計2時間）

【テキスト（教科書）】
特にありません。課題、ワークシート、参考ウェブリンク等はHoppiで配布します。

【参考書】
Kurtz, David L. 2016. Contemporary Marketing. Boston. Cengage Learning.
Hitt, Michael A., Ireland R. Duane, and Hoskisson, Robert E. 2017. Strategic Management: Competitiveness &Globalization. Boston, Cengage Learning.
2冊とも図書館蔵書

【成績評価の方法と基準】
授業への出席とリアペ評価　40％
宿題の提出と宿題の評価（個人、グループワーク含む）、期末レポート、プレゼンなど　40％
期末テスト　20%
評価、宿題、課題については初回授業で説明します。
*欠席、宿題の未提出はその分、点数が下がりますのでご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】
＊宿題の予習、復習をしておかないと、授業のグループワークが大変になる
＊リスニングは、回が進むごとに聞き取れるようになる実感があった
＊課題文を学習した後、戦略を考えたりまとめたりする課題が良かった
＊AIは今後も、利用方法を決めて、利用可とするのが良いと思う
以上は継続予定
＊毎回、学生の気づき（英語に関する）の発表の場があると良い（今は無い）どの様に取り入れるか考慮中
＊単語帳の作成については賛否両論あり
授業で相談予定

【学生が準備すべき機器他】
お知らせ、課題、宿題、資料配布等はHoppiを利用します。
授業履修を考えている人は初回授業までにHoppiに仮登録してください。
Hoppiで配布したもの、及び自分の宿題、予習、単語帳は授業中に参照できるようにご用意ください。
辞書または電子辞書は毎回授業に持参してください。
Googleの辞書機能はお勧めしません。

【その他の重要事項】
対面授業です。欠席や宿題の提出が無いと評価に影響します。
前年度は定員に余裕がありましたので、本年度は初回授業から対面で行う予定です。変更がある場合は、初回授業の1週間前までにHoppiにてお知らせします。
Hoppiのお知らせメールを受け取れるよう設定してください。
授業の課題、内容、テストの期日等は、授業の進捗によって変更になる場合があります。

【関連科目】
なし

【実務経験のある教員による授業】
アメリカ留学中にボランティアやNPOでの活動経験があり、国内外のファッション業界で勤務経験を持つ教員の授業です。
英語が上手でも言いたいことが相手に通じるとは限りません。AI翻訳機を使っても、頭の中が整理されていなければ、伝わる英語になりません。伝えるために、どうするか、それをどうやって身につけるか。いろいろ実践してみる授業を行います。

【Outline (in English)】
[Course outline] This class is designed for Japanese students to learn English as a second language. Students will learn English through marketing &strategic management materials and middle school mathematics.
[Learning objectives] The goal of this class is to learn how to think logically for English speaking and writing.
[Learning activities outside of class room] Students are required to study at home about two hours every week.
[Grading Criteria/Policy]
Class participation &Reaction paper - 40%
Homework, Group &Individual works (including essay &presentation) - 40%
Final exam - 20%

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学Ⅰ（2018年度以前入学者）

鴨志田　晃

選択_外国語経営学科目　1～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］
※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では英語教材を用いて経営学の基本トピック、とりわけ起業とビジネス育成、マーケティング理論について学びます。毎回の授業では、テキストのなかの担当トピックの内容について学生が発表し、全体討議、総括を行って、経営学の専門用語を学び、経営学の理解を深めます。授業では、適宜、参考文献、記事等を取り上げ、ビジネスの最新トピックスへの関心と理解を深めます。

【到達目標】
本授業は、経営学における著名なテキストを用いて英語文献を読む語学力を身につけ、英語文献から得た経営学の知識を応用する力をつけることを目標とします。具体的には、経営学領域を網羅したテキストである"The Business Book: Big Ideas Simply Explained"を用いて、基礎知識をつけ、専門書を読解する力、英語で専門講義を受けるための基礎力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
受講者には（何組かのグループを設定し）、担当部分の発表をしてもらいます。毎回の授業の流れは、担当グループが発表、各グループによる質問、報告に対する教員からのコメントおよび解説、ディスカッション、総括の順番で進めます。授業の後半ではビジネスに関わる原書や記事を読んで発表と議論を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の概要、進め方の説明
第2回	Start Small, Think Big①/Starting and Growing the Business	起業の歴史、思想、プロセス論の概説、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第3回	Start Small, Think Big②/Starting and Growing the Business	起業の成功戦略、リスク管理、起業家論の概説、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第4回	Start Small, Think Big③/Starting and Growing the Business	起業の成長曲線、グレイナー曲線、起業の労働論の概説、学生による質疑応答、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第5回	Lighting The Fire①/Leadership and Human Resources	リーダーシップ論、チーム力、創造と革新の概説、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第6回	Lighting The Fire②/Leadership and Human Resources	組織文化論、ミンツバーグのマネジメント論、企業統治論の概説、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第7回	Making Money Work①/Managing Finances	法令・規則の遵守、利益主義、投資と配当の概説、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第8回	Making Money Work②/Managing Finances	キャッシュフロー管理、活動基準原価計算の概説、学生からの質疑応答、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第9回	Working With a Vision①/Strategy and Operations	失敗論、ポーターの戦略、MABAマトリックスの概説、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第10回	Working With a Vision②/Strategy and Operations	ポーターの５F、バリューチェーン、企業文化の倫理の概説、質疑応答、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第11回	Successful Selling①/Marketing Management	４P MIX、AIDAモデル、製品ポートフォリオの概説、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第12回	Successful Selling②/Marketing Management	ブランド構築、インセンティブ論の概説、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第13回	Successful Selling③/Marketing Management	グリーンウォッシュ、売上予測の概説、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第14回	総括	本授業で学習したトピックを総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回、テキストの指定箇所について精読し、予習を行う。
・担当個所の概要をまとめスライドにて発表する。
・最終レポートを作成する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・Atkinson, S., O'Hara, S., &Sturgeon, A. (Eds.). (2014). The Business Book: Big Ideas Simply Explained. Dorling Kindersley Ltd.

【参考書】
・「実践ＭＢＡ式経営学の教科書」鴨志田晃著,ぱる出版,2016年,￥1,400
上記のほか、授業にて適宜、参考文献や記事を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（グループワーク・発表を含む）60点
・期末レポート　40点
成績評価は、授業での発表および参加、ならびにレポート（宿題）の成績によって総合的に評価します。毎回出欠を確認し、5回以上欠席した学生は単位を認められません。

【学生の意見等からの気づき】
・英語力の違いがあっても学習成果が出るように指導します。
・授業時はもちろん、授業外でも質問は遠慮なく行ってください。

【学生が準備すべき機器他】
・毎回の講義にテキストと辞書、PCを必ず持参してください。
英語の文献を読むのは大変ですので、毎回講義に出席し、2時間程度の予復習を欠かさずに行うようにしてください。
・カメラ・マイク付きPC（オンラインの場合）
・ある程度の速度が確保されたネット環境（オンラインの場合）

【その他の重要事項】
エントリー期間にWeb選考を行う。詳細は、経営学部Web掲示板に掲載されている案内を確認し、エントリーすること。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The aim of this course is to help students acuire basic knowledge of business administration,especially start Up and business development, and marketing theory using English teaching materials.
（Learning Objectives）
By the end of this course, students should be able to do the followings:
・Acquire the ability to express own opinion to others by reading English books on business management.
・Acquire the basic knowledge about business management theory and understand tools for business analysis
・Arouse students' awareness and interest in business management theory and business topics.
(Learning activities outside of classroom）
Students will be expected to have read and completed the required assigned part of the text and prepare the slides for it. (Presentation slides would be prepared by each group.)
Your study time will be more than 4 hours for a class
（Grading Criteria/Policy）
Grading will be decided based upon "Groupwork/presentation and in-class contribution"(60%), "final report and other homework "(40%). Students who are absent more than 5 times will be fail after checking attendance every time.

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学Ⅰ（2018年度以前入学者）

鴨志田　晃

選択_外国語経営学科目　1～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］
※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では英語教材を用いて経営学の基本トピック、とりわけ起業とビジネス育成、マーケティング理論について学びます。毎回の授業では、テキストのなかの担当トピックの内容について学生が発表し、全体討議、総括を行って、経営学の専門用語を学び、経営学の理解を深めます。授業では、適宜、参考文献、記事等を取り上げ、ビジネスの最新トピックスへの関心と理解を深めます。

【到達目標】
本授業は、経営学における著名なテキストを用いて英語文献を読む語学力を身につけ、英語文献から得た経営学の知識を応用する力をつけることを目標とします。具体的には、経営学領域を網羅したテキストである"The Business Book: Big Ideas Simply Explained"を用いて、基礎知識をつけ、専門書を読解する力、英語で専門講義を受けるための基礎力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
受講者には（何組かのグループを設定し）、担当部分の発表をしてもらいます。毎回の授業の流れは、担当グループが発表、各グループによる質問、報告に対する教員からのコメントおよび解説、ディスカッション、総括の順番で進めます。授業の後半ではビジネスに関わる原書や記事を読んで発表と議論を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の概要、進め方の説明
第2回	Start Small, Think Big①/Starting and Growing the Business	起業の歴史、思想、プロセス論の概説、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第3回	Start Small, Think Big②/Starting and Growing the Business	起業の成功戦略、リスク管理、起業家論の概説、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第4回	Start Small, Think Big③/Starting and Growing the Business	起業の成長曲線、グレイナー曲線、起業の労働論の概説、学生による質疑応答、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第5回	Lighting The Fire①/Leadership and Human Resources	リーダーシップ論、チーム力、創造と革新の概説、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第6回	Lighting The Fire②/Leadership and Human Resources	組織文化論、ミンツバーグのマネジメント論、企業統治論の概説、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第7回	Making Money Work①/Managing Finances	法令・規則の遵守、利益主義、投資と配当の概説、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第8回	Making Money Work②/Managing Finances	キャッシュフロー管理、活動基準原価計算の概説、学生からの質疑応答、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第9回	Working With a Vision①/Strategy and Operations	失敗論、ポーターの戦略、MABAマトリックスの概説、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第10回	Working With a Vision②/Strategy and Operations	ポーターの５F、バリューチェーン、企業文化の倫理の概説、質疑応答、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第11回	Successful Selling①/Marketing Management	４P MIX、AIDAモデル、製品ポートフォリオの概説、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第12回	Successful Selling②/Marketing Management	ブランド構築、インセンティブ論の概説、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第13回	Successful Selling③/Marketing Management	グリーンウォッシュ、売上予測の概説、学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評,講義）
第14回	総括	本授業で学習したトピックを総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回、テキストの指定箇所について精読し、予習を行う。
・担当個所の概要をまとめスライドにて発表する。
・最終レポートを作成する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・Atkinson, S., O'Hara, S., &Sturgeon, A. (Eds.). (2014). The Business Book: Big Ideas Simply Explained. Dorling Kindersley Ltd.

【参考書】
・「実践ＭＢＡ式経営学の教科書」鴨志田晃著,ぱる出版,2016年,￥1,400
上記のほか、授業にて適宜、参考文献や記事を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（グループワーク・発表を含む）60点
・期末レポート　40点
成績評価は、授業での発表および参加、ならびにレポート（宿題）の成績によって総合的に評価します。毎回出欠を確認し、5回以上欠席した学生は単位を認められません。

【学生の意見等からの気づき】
・英語力の違いがあっても学習成果が出るように指導します。
・授業時はもちろん、授業外でも質問は遠慮なく行ってください。

【学生が準備すべき機器他】
・毎回の講義にテキストと辞書、PCを必ず持参してください。
英語の文献を読むのは大変ですので、毎回講義に出席し、2時間程度の予復習を欠かさずに行うようにしてください。
・カメラ・マイク付きPC（オンラインの場合）
・ある程度の速度が確保されたネット環境（オンラインの場合）

【その他の重要事項】
エントリー期間にWeb選考を行う。詳細は、経営学部Web掲示板に掲載されている案内を確認し、エントリーすること。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The aim of this course is to help students acuire basic knowledge of business administration,especially start Up and business development, and marketing theory using English teaching materials.
（Learning Objectives）
By the end of this course, students should be able to do the followings:
・Acquire the ability to express own opinion to others by reading English books on business management.
・Acquire the basic knowledge about business management theory and understand tools for business analysis
・Arouse students' awareness and interest in business management theory and business topics.
(Learning activities outside of classroom）
Students will be expected to have read and completed the required assigned part of the text and prepare the slides for it. (Presentation slides would be prepared by each group.)
Your study time will be more than 4 hours for a class
（Grading Criteria/Policy）
Grading will be decided based upon "Groupwork/presentation and in-class contribution"(60%), "final report and other homework "(40%). Students who are absent more than 5 times will be fail after checking attendance every time.

MAN105FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学Ⅰ（2018年度以前入学者）

岡本　慶子

選択_外国語経営学科目　1～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］
※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語からだけでなく、英語からも情報を集められるようにし、集めた情報をもとに、理解を深め、さらに考え、自分の考えを理論的に述べることを学ぶ。そして、それを英語で話す、書くために、日本語と英語の違いを知って、考えることを繰り返し実践する。

【到達目標】
違う文化背景を持つ人たちとのコミュニケーションを取れるようになることを目標とする。そのために、日本語と英語の違いをまず理解して、英語で伝わるように考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
毎回、リーディング、リスニング等の宿題があります。宿題に基づいて、授業を進めますので、内容の理解、又は不明点を明確にして授業に出席してください。授業では宿題の内容を元に、自分の考えをまとめたり、グループでディスカッションします（日本語）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction 対面	Course overview Self Introduction
第2回	AI Generated Art 1	He used AI to win a fine-arts competition.
第3回	AI Generated Art 1	He used AI to win a fine-arts competition.
第4回	Market Segmentation, Targeting, and Positioning 1	PepsiCo Brands Target Different Markets
第5回	Market Segmentation, Targeting, and Positioning 2	PepsiCo Brands Target Different Markets
第6回	Global Marketing 1	Walmart Extends Its Global Reach
第7回	Global Marketing 2	Walmart Extends Its Global Reach
第8回	Global Marketing Strategy 1	Walmart Annual Report Analysis
第9回	Group Project Walmart Strategies 1	Walmart Growth Strategies (video recording)
第10回	Group Project Walmart Strategies 2	Walmart 小レポート プレゼンビデオ
第11回	Strategic Management 1	Does Kellogg Have the Tiger by the Tail?
第12回	Strategic Management 2	Does Kellogg Have the Tiger by the Tail? Kellogg's Sprit into Two Companies
第13回	Group Work 1 Kellogg	Kellogg Group Work
第14回	Final exam	wrap up Final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前々日の23:59までに授業支援システムで提出
宿題1．課題の予習、復習、グループワークの準備
宿題2．単語帳、質問
宿題3．数学の問題
宿題の詳細は、授業中に逐次説明します。
本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。（合計2時間）

【テキスト（教科書）】
特にありません。課題、ワークシート、参考ウェブリンク等はHoppiで配布します。

【参考書】
Kurtz, David L. 2016. Contemporary Marketing. Boston. Cengage Learning.
Hitt, Michael A., Ireland R. Duane, and Hoskisson, Robert E. 2017. Strategic Management: Competitiveness &Globalization. Boston, Cengage Learning.
2冊とも図書館蔵書

【成績評価の方法と基準】
授業への出席とリアペ評価　40％
宿題の提出と宿題の評価（個人、グループワーク含む）、期末レポート、プレゼンなど　40％
期末テスト　20%
評価、宿題、課題については初回授業で説明します。
*欠席、宿題の未提出はその分、点数が下がりますのでご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】
＊宿題の予習、復習をしておかないと、授業のグループワークが大変になる
＊リスニングは、回が進むごとに聞き取れるようになる実感があった
＊課題文を学習した後、戦略を考えたりまとめたりする課題が良かった
＊AIは今後も、利用方法を決めて、利用可とするのが良いと思う
以上は継続予定
＊毎回、学生の気づき（英語に関する）の発表の場があると良い（今は無い）どの様に取り入れるか考慮中
＊単語帳の作成については賛否両論あり
授業で相談予定

【学生が準備すべき機器他】
お知らせ、課題、宿題、資料配布等はHoppiを利用します。
授業履修を考えている人は初回授業までにHoppiに仮登録してください。
Hoppiで配布したもの、及び自分の宿題、予習、単語帳は授業中に参照できるようにご用意ください。
辞書または電子辞書は毎回授業に持参してください。
Googleの辞書機能はお勧めしません。

【その他の重要事項】
対面授業です。欠席や宿題の提出が無いと評価に影響します。
前年度は定員に余裕がありましたので、本年度は初回授業から対面で行う予定です。変更がある場合は、初回授業の1週間前までにHoppiにてお知らせします。
Hoppiのお知らせメールを受け取れるよう設定してください。
授業の課題、内容、テストの期日等は、授業の進捗によって変更になる場合があります。

【関連科目】
なし

【実務経験のある教員による授業】
アメリカ留学中にボランティアやNPOでの活動経験があり、国内外のファッション業界で勤務経験を持つ教員の授業です。
英語が上手でも言いたいことが相手に通じるとは限りません。AI翻訳機を使っても、頭の中が整理されていなければ、伝わる英語になりません。伝えるために、どうするか、それをどうやって身につけるか。いろいろ実践してみる授業を行います。

【Outline (in English)】
[Course outline] This class is designed for Japanese students to learn English as a second language. Students will learn English through marketing &strategic management materials and middle school mathematics.
[Learning objectives] The goal of this class is to learn how to think logically for English speaking and writing.
[Learning activities outside of class room] Students are required to study at home about two hours every week.
[Grading Criteria/Policy]
Class participation &Reaction paper - 40%
Homework, Group &Individual works (including essay &presentation) - 40%
Final exam - 20%

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門外国語経営学Ⅰ（2018年度以前入学者）

片桐　満

選択_外国語経営学科目　1～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］
※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済やビジネスに関する書物や記事は英語でしか存在しないことも多く、英語で学習したり情報収集したりできれば、見える世界が大きく広がります。このコースでは、経済学の初歩的な英語の教科書を用いて、経済学の基本的な考え方について英語で学び、経済やビジネスでよく用いられる英語の用語に慣れてもらいます。そのうえで、Financial TimesやWall Street Journalなどの新聞記事を題材として、経済やビジネスに関する時事問題を英語で学びます。

【到達目標】
経済やビジネスに関する英語の記事や書物を独力で読み、理解できるようになることが到達目標です。Financial Timesなどのビジネス系の英字新聞は難しいように感じるかもしれませんが、用いられている用語や言い回しは意外に限られているほか、小説のように比喩的な表現が少ないため、努力して慣れれば理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
毎回、前半の40分は入門経済学の教科書に関する講義を行い、残りの60分は経済記事を題材として時事問題について英語で学びます。経済記事は、教科書でカバーした内容と関連ある記事のコピーを授業中に配布し、その場で参加者に読んでもらったのち、その内容や背景とともに重要な英語の用語や言い回しを解説します。例えば、生産性の概念について教科書で学んだのち、人工知能（AI）が生産性に与える影響に関するFinancial Timesの記事を読んでもらうなど、教科書で学んだ概念が、現実のビジネスでどの様に役立つのかという実務的な観点を重視します。何度かオンデマンド方式のオンライン授業を入れる予定ですが、どの回がオンラインになるのかについては、授業の進み具合をみて決める予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと経済記事の解説（オンデマンド方式）	初回は、授業の進め方を含むガイダンスをした後、経済記事を読みます。
第2回	教科書（Principle 1）、経済記事の解説	教科書のPrinciple 1を学び、関連する経済記事を読みます。
第3回	教科書（Principle 2）、経済記事の解説	教科書のPrinciple 2を学び、関連する経済記事を読みます。
第4回	教科書（Principle 3）、経済記事の解説	教科書のPrinciple 3を学び、関連する経済記事を読みます。
第5回	教科書（Principle 4）、経済記事の解説	教科書のPrinciple 4を学び、関連する経済記事を読みます。
第6回	教科書（Principle 5）、経済記事の解説	教科書のPrinciple 5を学び、関連する経済記事を読みます。
第7回	経済記事の解説（中間レポートの提出）	時事問題に関する記事を解説し、それに関する中間レポートを提出してもらいます。
第8回	教科書（Principle 6）、経済記事の解説	教科書のPrinciple 6を学び、関連する経済記事を読みます。
第9回	教科書（Case study）、経済記事の解説	教科書のCase studyを学び、関連する経済記事を読みます。
第10回	教科書（Principle 7）、経済記事の解説	教科書のPrinciple 7を学び、関連する経済記事を読みます。
第11回	教科書（Principle 8）、経済記事の解説	教科書のPrinciple 8を学び、関連する経済記事を読みます。
第12回	教科書（Principle 9）、経済記事の解説	教科書のPrinciple 9を学び、関連する経済記事を読みます。
第13回	教科書（Principle 10）、経済記事の解説	教科書のPrinciple 10を学び、関連する経済記事を読みます。
第14回	教科書（Chapter 2-1）、経済記事の解説	教科書のChapter 2-1を学び、関連する経済記事を読みます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。予習として、教科書の該当箇所を一読し、分からない単語は辞書を引いて調べるとともに、内容がつかめない部分をあらかじめ特定しておくことが求められます。

【テキスト（教科書）】
テキストとして、N. Gregory Mankiw, “Principles of Macroeconomics” の１章と２章を用います（図書館でコピー可能です）。授業で読む記事については、別途、授業中に配布します。

【参考書】
参考文献は特に指定しませんが、新聞やインターネットなどで、自主的に関連する英語の記事や書物を読むよう心掛けてください。

【成績評価の方法と基準】
複数回（3回程度）記事に関するレポートを提出して貰うほか、授業中での発言で評価します。毎回出席をとります。欠席回数が1回以下の学生は、期末試験を免除し、レポートのみで評価します。それ以外の学生は、期末試験とレポートの両方（50％ずつ）で評価します。詳細は、秋学期が始まったところで、Hoppiiでアナウンスします。

【学生の意見等からの気づき】
（1）少人数制講義であるにもかかわらず発言の機会が少ない、という意見がありましたので、一方的にこちらが解説するのではなく、できるだけ各授業で一人一回は発言してもらうほか、グループでのディスカッション・発表の機会を設けます。（2）記事の内容について、ビジネスモデルなど経営に関するテーマが役に立ったというアンケート結果に基づき、経営に関する記事をより重点的に選ぶようにする予定です。

【学生が準備すべき機器他】
英語の辞書を準備してください。紙の辞書でも構いませんが、持ち運びが大変ですので、電子辞書の活用をお勧めします。スマートフォンを持っている方は「英辞郎 on the WEB」の無料版アプリで十分です。

【その他の重要事項】
日本銀行や国際通貨基金（IMF）において、金融の実務に15年程度かかわりました。そうした経験から、いかに経済理論を実務的な問題解決に役立てるかをグローバルな観点から伝えられればと思います。

【関連科目】
内容は「経済学入門」と関連しますが、履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】
Since business or economic articles exist only in English in many cases, the ability to learn in English greatly expands your world. In this class, students study fundamental macroeconomics in English and get used to basic English words and expressions used often in economics or business. Then, students learn about economics or business issues in newspapers such as Financial Times and Wall Street Journal. The goal of this class is to be able to read English articles about the economy and business by yourself. Before the class, students are expected to read a textbook in advance and specify which part is difficult to understand. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. Students will be asked to submit reports on articles multiple times (about 3 times) and will be evaluated based on their comments in class. Attendance will be taken in each class. Students who are absent less than once will be exempted from the final exam and will be evaluated only on their reports. All other students will be evaluated based on both the final exam and the report (50%each).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

検定会計Ⅰ（2018年度以前入学者）

近藤　大輔

選択_キャリアプログラム科目　2～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ビジネスの言語と言われている「簿記」の基本的事項を学ぶ。簿記の学習は、将来、会計の分野を学習するときの基礎となるもので、経営学部の学生は早い段階でマスターすべき内容である。簿記の2級の試験を目指して学習することも1つのやり方です。

【到達目標】
検定会計Ⅰ・Ⅱの授業内容を理解することによって、日商簿記検定2級の出題範囲の内容が理解できるようになります。到達目標はその検定試験に合格できる力，会計および関連するビジネスに関する論点を議論する力を身に着けることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
対面とオンデマンドの併用で行うことを予定しています。まずオンデマンド授業で説明を行い、例題等の問題も解いてもらいます。さらに簿記および会計に関する論点を共有し，課題を対面講義までに検討してきてもらいます。対面講義ではグループごとに課題を検討し，課題を提出してもらいます。そして，最も優秀な課題答案を表彰し，成績評価で加点します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験その資格案内、会計情報が読めるメリット
第2回	【講義】 簿記一巡，財務諸表 現金・預金	貸借対照表・損益計算書 銀行勘定調整表など
第3回	【議論・発表・表彰】 簿記一巡，財務諸表 現金・預金	貸借対照表・損益計算書 銀行勘定調整表など
第4回	【講義】 債権・債務 有価証券	クレジット売掛金など 有価証券の範囲，分類など
第5回	【議論・発表・表彰】 債権・債務 有価証券	クレジット売掛金など 有価証券の範囲，分類など
第6回	【講義】 有形固定資産Ⅰ 有形固定資産Ⅱ	有形固定資産の購入，売却など 割賦購入など
第7回	【議論・発表・表彰】 有形固定資産Ⅰ 有形固定資産Ⅱ	有形固定資産の購入，売却など 割賦購入など
第8回	【講義】 リース取引 無形固定資産と研究開発費，引当金	リース取引の分類と処理 無形固定資産と研究開発費，引当金
第9回	【議論・発表・表彰】 リース取引 無形固定資産と研究開発費，引当金	リース取引の分類と処理 無形固定資産と研究開発費，引当金
第10回	【講義】 外貨換算会計と税金 課税所得の算定と税効果会計	為替換算など 税効果会計の会計処理など
第11回	【議論・発表・表彰】 外貨換算会計と税金 課税所得の算定と税効果会計	為替換算など 税効果会計の会計処理など
第12回	【講義】 株式の発行と剰余金の配当と処分 決算手続きと収益認識基準	株式申込証拠金など 契約資産と債券など
第13回	【議論・発表・表彰】 株式の発行と剰余金の配当と処分 決算手続きと収益認識基準	株式申込証拠金など 契約資産と債券など
第14回	ゲストスピーカー講演	ビジネスパーソンの講演，質疑応答，議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習としては、その回の授業で何を学ぶかをあらかじめ確認しておき、授業を聞いた後は関連するワークブックの問題を解くことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
TAC出版『合格テキスト日商簿記２級（商業簿記）－ver17.0』2024年

【参考書】
TAC出版『合格トレーニング日商簿記２級（商業簿記）－ver17.0』2024年

【成績評価の方法と基準】
①対面授業時の課題提出・発表・表彰（30％）
②対面授業の平常点（10％）
③対面授業時の質問・発言（10％）
④ゲストスピーカーへの事前質問・当日質問・感想（10％）
⑤確認テスト（10％）
⑥定期試験（30％）

【学生の意見等からの気づき】
グループごとに学生間で教え合い，議論するエッセンスを対面講義で実施することで，簿記・会計に関する理解を深めるだけでなく，ビジネスで不可欠であるコミュニケーション能力を身に着けて欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
対面授業の際は電卓を持参すること。

【その他の重要事項】
この科目は、経営学部の科目の中でも重要な科目であり、すべての学生に身に着けて欲しい内容です。また2年次に学ぶ「会計学入門」や「財務会計論」「国際会計論」、「管理会計論」等のすべての会計専門科目を学ぶ上での基礎となる部分です。簿記の基礎をマスターすることによって、2年次、3年次以降の各会計科目がより学びやすくなります。

【Outline (in English)】
Bookkeeping is the process of recording daily transactions.The objective of this class is to understand fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2hours to understand the course content. Grading will be decided based on ① Assignment submission/presentation/awards during face-to-face classes (30%),②Attitude score for face-to-face classes (10%),③Questions and comments during face-to-face classes (10%), ④ Questions to guest speakers, questions on the day, and impressions (10%), ⑤ Confirmation test (10%), ⑥ Regular exam (30%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

検定会計Ⅱ（2018年度以前入学者）

近藤　大輔

選択_キャリアプログラム科目　2～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ビジネスの言語と言われている「簿記」の基本的事項を学ぶ。簿記の学習は、将来、会計の分野を学習するときの基礎となるもので、経営学部の学生は早い段階でマスターすべき内容である。簿記の2級の試験を目指して学習することも1つのやり方です。

【到達目標】
検定会計Ⅰ・Ⅱの授業内容を理解することによって、日商簿記検定2級の出題範囲の内容が理解できるようになります。到達目標はその検定試験に合格できる力，会計および関連するビジネスに関する論点を議論する力を身に着けることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
対面とオンデマンドの併用で行うことを予定しています。まずオンデマンド授業で説明を行い、例題等の問題も解いてもらいます。さらに簿記および会計に関する論点を共有し，課題を対面講義までに検討してきてもらいます。対面講義ではグループごとに課題を検討し，課題を提出してもらいます。そして，最も優秀な課題答案を表彰し，成績評価で加点します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験その資格案内、会計情報が読めるメリット
第2回	【講義】 個別原価計算Ⅰ 個別原価計算Ⅱ	原価計算表の作成 仕訳と勘定記入①
第3回	【議論・発表・表彰】 個別原価計算Ⅰ 個別原価計算Ⅱ	原価計算表の作成 仕訳と勘定記入①
第4回	【講義】 部門別個別原価計算Ⅰ 部門別個別原価計算Ⅱ	仕訳と勘定記入② 部門費の集計 補助部門費の配賦
第5回	【議論・発表・表彰】 部門別個別原価計算Ⅰ 部門別個別原価計算Ⅱ	仕訳と勘定記入② 部門費の集計 補助部門費の配賦
第6回	【講義】 部門別個別原価計算Ⅲ 総合原価計算Ⅰ	製造部門から製品への配賦 月初がない場合
第7回	【議論・発表・表彰】 部門別個別原価計算Ⅲ 総合原価計算Ⅰ	製造部門から製品への配賦 月初がない場合
第8回	【講義】 総合原価計算Ⅱ 総合原価計算Ⅲ	月初がある場合・先入先出法 月初がある場合・平均法
第9回	【議論・発表・表彰】 総合原価計算Ⅱ 総合原価計算Ⅲ	月初がある場合・先入先出法 月初がある場合・平均法
第10回	【講義】 標準原価計算Ⅰ 標準原価計算Ⅱ	直接費の分析 間接費の分析
第11回	【議論・発表・表彰】 標準原価計算Ⅰ 標準原価計算Ⅱ	直接費の分析 間接費の分析
第12回	【講義】 CVP分析Ⅰ CVP分析Ⅱ	基本公式 感度分析
第13回	【議論・発表・表彰】 CVP分析Ⅰ CVP分析Ⅱ	基本公式 感度分析
第14回	ゲストスピーカー講演	ビジネスパーソンの講演，質疑応答，議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習としては、その回の授業で何を学ぶかをあらかじめ確認しておき、授業を聞いた後は関連するワークブックの問題を解くことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
近藤大輔『ビギナー原価計算』中央経済社，2020年

【参考書】
TAC出版『合格トレーニング日商簿記2級（工業簿記）－ver10.0』2024年
岡本清・廣本敏郎編著『検定簿記講義－2級工業簿記2024年度版』中央経済社
岡本清・廣本敏郎編著『検定簿記ワークブック－2級工業簿記2024年度版』中央経済社

【成績評価の方法と基準】
①対面授業時の課題提出・発表・表彰（30％）
②対面授業の平常点（10％）
③対面授業時の質問・発言（10％）
④ゲストスピーカーへの事前質問・当日質問・感想（10％）
⑤確認テスト（10％）
⑥定期試験（30％）

【学生の意見等からの気づき】
グループごとに学生間で教え合い，議論するエッセンスを対面講義で実施することで，簿記・会計に関する理解を深めるだけでなく，ビジネスで不可欠であるコミュニケーション能力を身に着けて欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
対面授業の際は電卓を持参すること。

【その他の重要事項】
この科目は、経営学部の科目の中でも重要な科目であり、すべての学生に身に着けて欲しい内容です。また2年次に学ぶ「会計学入門」や「財務会計論」「国際会計論」、「管理会計論」等のすべての会計専門科目を学ぶ上での基礎となる部分です。簿記の基礎をマスターすることによって、2年次、3年次以降の各会計科目がより学びやすくなります。

【Outline (in English)】
Bookkeeping is the process of recording daily transactions.The objective of this class is to understand fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate finance.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2hours to understand the course content. Grading will be decided based on ① Assignment submission/presentation/awards during face-to-face classes (30%),②Attitude score for face-to-face classes (10%),③Questions and comments during face-to-face classes (10%), ④ Questions to guest speakers, questions on the day, and impressions (10%), ⑤ Confirmation test (10%), ⑥ Regular exam (30%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

キャリア・マネジメントⅠ（2018年度以前入学者）

小川　憲彦

選択_キャリアプログラム科目　2～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリア論の基本について学習します。その中で、キャリアを歩んでいく上での考え方、就職活動のことに加えて、会社のこと、会社組織を取り巻く社会環境についてもお話したいと考えています。自分の考えと照らし合わせながら参加できるよう、適宜ディスカッション等を行います。
The purpose of this class is to learn fundamental career theories including basic minds for career development, processes of job-hunting and recruiting, the ways that companies work, and social environments surrounding your career and organizations at which you may work.

【到達目標】
①キャリアの基本理論の概要やこれに関わる術語を知っていること
②就職活動、および就職以降も続く各自のキャリア形成について、暫定的でも自分なりの考え方を持って臨めるようになること
Students who complete the course will be expected to:
(1) understand the basic terms and concepts of the career development theories,
(2) begin preparations for job-hunting　according to your own ideas, even if tentative. It will be the first step for lifelong career development /management.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・初回はZoomを用いたオンライン、以降は原則的に対面での講義を実施します。対面の場合の参加ルールは以下です。詳細は授業で伝えます。
①他人の迷惑になる行為を行わないこと
②授業に関係のないことをしないこと
③その他については、教員の指示に従うこと
・Zoomの場合の参加は以下が加わります。詳細は授業で伝えます。
①音声は指示がない場合は原則としてオフ
②動画カメラは原則オン
（ただし電波状況が悪い場合は、氏名と学籍番号をチャットで伝えたうえでオフを許可します）
③表示する氏名は漢字
（仮名表記の名前の方はそれで結構です。外国人の方はアルファベット可）
・適宜リアクションペーパーを課します。
・質問があれば授業内もしくは教材でフィードバックします。
・グループ・ディスカッションを行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明
第2回	キャリアとは	経営学におけるキャリア論の位置づけやキャリアという概念の理解
第3回	キャリアを取り巻く環境の変化	これからの世の中で、どのような変化が生じうるのか、その上でどのようなキャリアが求められるのか
第4回	企業の新卒採用活動（1）	採用側の理論について
第5回	企業の新卒採用活動（2）	採用研究について紹介します
第6回	企業の新卒採用活動（3）	面接研究について紹介します
第7回	企業の採用活動事例の紹介（1）	過去は、金融、メーカー、マスコミ、小売、サービスなどの各種業界の採用活動の実際を紹介しました（業界や会社は皆さんの要望を踏まえ変わることがあります）
第8回	企業の採用活動事例の紹介（2）	過去は、金融、メーカー、マスコミ、小売、サービスなどの各種業界の採用活動の実際を紹介しました（業界や会社は皆さんの要望を踏まえ変わることがあります）
第9回	職場適応の理論（1）	入社した後の会社への適応について（概要）
第10回	職場適応の理論（2）	入社した後の会社への適応について（人間関係）
第11回	キャリア発達の理論（1）	長期にわたるキャリアの見通しについて
第12回	キャリア発達の理論（2）	長期にわたるキャリアの見通しについて
第13回	キャリア・トランジション論	転職など、キャリアの移行期について
第14回	近年のキャリア論	偶発性アプローチの紹介など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
任意の宿題（レポート等）を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業は配布資料を基に進めますので、必ずしも購入する必要はありません。参考書も同様です。
鈴木竜太・西尾久美子・谷口智彦編著（2023）『1からのキャリア・マネジメント』碩学舎。

【参考書】
金井壽宏（2002）『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所。
大久保幸夫（2006）『キャリアデザイン入門〈1〉基礎力編』・『キャリアデザイン入門〈2〉専門力編』日経文庫。
エドガー・H・シャイン (著)・金井壽宏（訳）（2003）『キャリア・アンカー　―自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル―職務と役割の戦略的プラニング』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】
・期末試験ないしレポート（80％）、平常点（20％：参加態度、リアクションペーパー、課題等含む）

【学生の意見等からの気づき】
平日の時間帯なので難しいかもしれませんが、可能であればキャリア・マネジメントⅡのようにゲストを招く回を設けたいと思っています。

【その他の重要事項】
Ⅰは理論編、Ⅱは事例偏です。前者は講義が中心ですが、後者では社会人ゲストを呼んで業界のことや仕事、キャリアについて具体的に話してもらいます。Ⅱは現役社会人ゲストを呼ぶので土曜日開講ですが、1回1回の授業がOBOG訪問のような場になりますので、2，3年生の早いうちから受講することを勧めます。どのようなゲストかはⅡのシラバスを見てください（過年度のゲストなので同じ方々ではありませんが、多様な業界業種の方をお呼びしています。）

【Outline (in English)】
Outline
The purpose of this class is to learn fundamental career theories including basic minds for career development, processes of job-hunting and recruiting, the ways that companies work, and social environments surrounding your career and organizations at which you may work.
Learning objectives
Students who complete the course will be expected to:
(1) understand the basic terms and concepts of career development theories,
(2) begin preparations for job-hunting　according to your own ideas, even if tentative. It will be the first step for lifelong career development /management.
Learning activities outside of the class
Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) will might be given at the instructor's discretion.
Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.
Grading criteria/policy
Grading will be decided based on the mid-term or term-end examination (80%) and in-class attitudes and regular assignments (20%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

キャリア・マネジメントⅡ（2018年度以前入学者）

小川　憲彦

選択_キャリアプログラム科目　2～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアマネジメントⅠの知識を前提に、やや応用的な内容について扱います。また、この授業では各界の老若男女様々な社会人ゲストをお呼びして、業界や仕事の紹介、ご自身のキャリアについて話をしてもらいながら、質疑応答を行います。様々な働き方・考え方に触れることで視野を広げながら、自分自身のキャリアについて考える契機として下さい。
The purpose of this class is to learn advanced career theories and to think about your career development through interactions with guest-speakers who have diverse backgrounds: career, jobs, positions, occupations, and industries. They will talk about not only their careers but the lives overall. You will be able to learn a lot from them.

【到達目標】
①就職活動、および就職以降も続く各自のキャリア形成について暫定的でも自分なりの考え方を持って臨めること
②社会人との交流が適切に行えること
Students who complete the course will be expected to:
(1) begin preparation for job-hunting (including visiting OBs &OGs and participation in internships) initiatively as the first step for lifelong career development/management,
(2) be able to communicate and exchange views with working people (guests) in an adequate manner.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・ゲストを招くことで社会人とのコミュニケーションの場を設けます。仕事世界やキャリアに関する知見・視野を広げてほしいと思います。また、キャリア形成に関する理論、研究、事例等の紹介等も行います。
・質問があれば授業内もしくは教材でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明、キャリア・マネジメント論Ⅰの振り返り
第2回	就職活動について	学生の就職活動報告を共有し気付きを共有します
第3回	企業の採用活動	就職活動を企業の側から、すなわち採用活動について具体的な選抜方法やその視点について紹介します
第4回	ゲスト（キャリアセンター職員）	キャリア・センターの活用と３０代の女性職員の方のキャリア
第5回	ゲスト（菓子メーカー）	40代人事部長（1社内でのタテ型のキャリア）
第6回	ゲスト（リクルート）	リクリート社5年目の若手OB
第7回	ゲスト（鉄道会社）	大手私鉄入社20年近いOB
第8回	ゲスト（サービス・販売）	入社30年近い段階での管理職者の転職
第9回	ゲスト（三菱電機）	入社4年目の若手OB
第10回	ゲスト（アクセンチュア）	コンサル会社入社1年目の新人OB
第11回	ゲスト（中国でのキャリア）	外国籍の女性による中国でのキャリア（日本でのコンサル会社勤務などを経て現在は帰国し教員）
第12回	近年のキャリア論①	プロティアン・キャリア
第13回	近年のキャリア論②	バウンダリレス・キャリア（転職等の効果について）
第14回	まとめ or 出世について	伝統的キャリアと近年のキャリア観、あるいは大企業での出世や昇進のメカニズムについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
任意の宿題（レポートや課題図書）を適宜出します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) will be given at the instructor's discretion.
Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.

【テキスト（教科書）】
授業は配布資料を基に進めますので、必ずしも購入する必要はありません。参考書も同様です。
鈴木竜太・西尾久美子・谷口智彦編著（2023）『1からのキャリア・マネジメント』碩学舎。

【参考書】
金井壽宏（2002）『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所。
大久保幸夫（2006）『キャリアデザイン入門〈1〉基礎力編』・『キャリアデザイン入門〈2〉専門力編』日経文庫。
エドガー・H・シャイン (著)・金井壽宏（訳）（2003）『キャリア・アンカー　―自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル―職務と役割の戦略的プラニング』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％(リアクションペーパーや小レポート等含む)
・出席は取りませんが適宜課題を出すことがあります。
・高い評価を目指す方や単位が心配な方向けに任意のレポートを設けます。
　ただし内容が不十分であれば加点にはなりません。
　（質の低さ、コピペ、読めないものなど）
・参加しないで出されたリアクションペーパーは不正とみなします。
・詳細は授業で指示します。
Grading will be decided based on your in-class attitudes and regular assignments (100%).

【学生の意見等からの気づき】
出来るだけ男女バランスよくゲストをお呼びしたいと思います。

【その他の重要事項】
各回の内容は過年度のものです。ゲストは毎年変更しています。
参加上の注意点は以下です。常識的に参加すれば問題ありません。
①初回講義で具体的な注意など示します。以後は1度は注意をしますが、2回目以降は②のような対応をします。なお、スマホ（携帯電話）で写真や動画をとったりUPしたりしない、関係のないおしゃべりをしない、帽子やサングラスをしない等は基本です。
②程度によっては、減点や単位不認定もあります。なお、仮に1度目であっても、度を越えた不適切な参加態度であると私がみなした場合は退出等を命じることがあります。
関連科目：キャリア・マネジメントⅠ

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to learn advanced career theories and to think about your career development through interactions with guest-speakers who have diverse backgrounds: career, jobs, positions, occupations, and industries. They will talk about not only their careers but the lives overall. You will be able to learn a lot from them.
Learning objectives
Students who complete the course will be expected to:
(1) begin preparation for job-hunting (including visiting OBs &OGs and participation in internships) initiatively as the first step for lifelong career development/management,
(2) be able to communicate and exchange opinions with working people (guests) in an adequate manner.
Learning activities outside of the class
Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) might be given at the instructor's discretion.
Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.
Grading criteria/policy
Grading will be decided based on in-class attitudes and regular assignments (100%).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

入門演習（2019年度以降入学者）

山嵜　輝

演習　1年次／2単位　［春学期授業/Spring］

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、「大学での学び」に必要な基本的なスキルを身につけることを目的としています。大学では、「必要な情報を自ら収集し、それを基に論理的に筋道を立てて考える」能力や、「自分の考えを正確に自分の言葉や文章で相手に伝える」能力が求められます。本演習では、少人数で行うアクティブラーニング型の授業を通じて、これらのスキルを習得する機会を提供します。具体的には、『人工知能（AI）時代の社会や暮らし』に関する教材を用い、プレゼンテーション資料を活用した口頭発表を行います。また、文章によるコミュニケーション能力を高めるためにレポート作成にも取り組みます。

【到達目標】

本演習では、次の3つを到達目標に掲げます。

1. 必要な情報を自ら収集し、それを整理・再構成できる。
2. 論理的な考え方を用いて、自分で筋道を立てて考えることができる。
3. 自分の考えを適切な言葉や文章で、明確かつ効果的に相手に伝えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

履修希望者は初回授業までに学習支援システムで授業の仮登録をしてください。本演習に関する連絡は学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。

本演習では、次の3つの課題に取り組みます。まず1つ目は、「大学での学び」に関する基本的な作法を習得することです。具体的には、大学の教科書やテキストの効果的な読み方、レポートの適切な書き方、プレゼンテーション資料の作成方法、そして口頭発表の手順やルールを学びます。2つ目は、口頭発表に取り組むことです。基本的な作法に基づき、テキストを読み解き、個人で発表資料を作成し、その内容を口頭で発表します。3つ目は、レポート作成です。基本的な作法を踏まえて、与えられた課題に対する個人の考えを整理し、レポートとしてまとめます。口頭発表やレポート作成では『人工知能（AI）時代の社会や暮らし』に関する教材を用います。授業中には、口頭発表やレポートの内容に関して個別にフィードバックを行い、スキルの向上を支援します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習の進め方、到達目標、成績評価などを説明します。
第2回	自己紹介	自己紹介によって自分自身のプレゼンテーションをします。
第3回	テキストの読み方	大学の教科書やテキストをどのようにして読むのかを学びます。
第4回	レポートの書き方	レポート作成の作法（引用と剽窃の違い、参考文献リストの作成方法など）を学びます。
第5回	発表資料の作り方	効果的なプレゼンテーション資料の作成方法を学びます。
第6回	口頭発表のやり方	聞き手にわかりやすい口頭発表の方法を学びます。
第7回	プレゼンテーション資料の作成（前半）	与えらえた課題に対して、口頭発表するためのプレゼンテーション資料を作成します。前半は情報収集および情報の整理が主となります。
第8回	プレゼンテーション資料の作成（後半）	与えらえた課題に対して、口頭発表するためのプレゼンテーション資料を作成します。後半はスライド資料の作成が主となります。
第9回	口頭発表の実施（前半）	作成したプレゼンテーション資料に基づき、個人による口頭発表をします。前半グループに割り当てられた学生がプレゼンテーションを行います。
第10回	口頭発表の実施（後半）	作成したプレゼンテーション資料に基づき、個人による口頭発表をします。後半グループに割り当てられた学生がプレゼンテーションを行います。
第11回	レポートの作成（前半）	与えらえた課題に対して、レポートを作成します。前半は情報収集および情報の整理が主となります。
第12回	レポートの作成（後半）	与えらえた課題に対して、レポートを作成します。後半はレポートの執筆が主となります。
第13回	レポートの講評（前半）	提出されたレポートの講評を行います。前半では、好事例となるレポートを紹介します。
第14回	レポートの講評（後半）	提出されたレポートの講評を行います。後半では、レポートの改善点や注意点を指摘します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外でのプレゼンテーション資料の作成、レポートの作成、口頭発表の準備などが必要になります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

①法政大学編、『学習支援ハンドブック』、2025年、法政大学
②ニュートン編、『よくわかる人工知能のすべて』、2024年、ニュートンプレス

【参考書】

①世界思想社編、『大学生 学びのハンドブック〔改訂版〕』、2011年、世界思想社
②佐藤智明他、『大学 学びのことはじめ　初年次セミナーワークブック』、2014年、ナカニシヤ出版
③石井一成、『ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方』、2011年、ナツメ社

【成績評価の方法と基準】

口頭発表（30％）、レポート（30％）、平常点（40％）
口頭発表とレポートの提出は必須で単位修得の必要条件となります。発表やレポートの内容はもちろんのこと、資料やレポートの体裁、プレゼンテーション技術、文章の正確性、積極的な授業姿勢なども評価の対象になります。

【学生の意見等からの気づき】

「大学の学び」において便利なツールやアプリなどを紹介します。ITの活用やDX化によって快適な学習環境を整えましょう。

【学生が準備すべき機器他】
プレゼンテーション資料やレポートはPC（PowerPoint、Wordなど）を利用して作成して下さい。

【その他の重要事項】
履修希望者は初回授業までに学習支援システムで授業の仮登録をしてください。本演習に関する連絡は学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に送信します。
本授業の履修人数は教室定員（24名）が上限となります。履修希望者が教室定員を上回った場合には選別を行いますので、予めご了承ください。

【関連科目】
すべての科目に関連する授業となります。

【Outline (in English)】
[Course Outline] This course is designed to familiarize students with the fundamental academic skills necessary for successful study at Hosei University. Students will learn the academic etiquette involved in reading textbooks, writing reports, as well as engaging in presentations and group discussions. [Learning Objectives] The aim of this course is for students to cultivate the academic skills outlined above within an interactive learning environment. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours preparing for the course. [Grading Criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Presentation: 30%, report: 30% , in class contribution: 40%.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習1

中西　善信

演習選択_演習　2年次／2単位　［春学期授業/Spring］
この演習は１時限のみです。２時限連続では開講しません。
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織や集団の中で他のメンバーと良好な関係を築き，円滑なコミュニケーションを通じて相互に理解しあうことは，社会生活を豊かにする上で非常に重要である。
本ゼミは，これまでに「組織・集団内でのコミュニケーション」及び「人間関係を豊かにするスキル」を応用し，組織内での人間の行動についてさらに学びを深める。このため，関連テキストの内容に基づくプレゼンテーションとディスカッションを行う。加えて，自らの考えを論理的に表現するためのライティング技法を学ぶ。
このため1年目は基礎スキルの習得をめざす。2年目は，各スキルの背景となる理論の理解に加え，下級生の指導を通じて，コミュニケーション研修計画・実施ノウハウの習得をめざす。

【到達目標】
１．組織内での問題解決に必要な視点を持つことができる。
２．組織内での問題解決に向け，働きかけることができる。
３．アイスブレーク，傾聴，アサーション，ファシリテーション，プレゼンテーション，ライティングの各技法について，基本的な指導を行うことができる（組織において，これらに関する後輩の指導・研修を企画・実施することができる）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
基本的に，参加者のプレゼンテーションとその内容に基づくワークによる。ワークでは，様々なグループディスカッションの形式を適用する（各形態を，各人が自ら主導できることを目指す）。ワークでは，ディスカッションのほか，ペアワークを含む様々なロールプレイを行うこともある。
そして，これらワークのテーマや工程の立案，当日の進行も，ゼミ生（通常，2，3名程度のグループ）が主体的に行う。
内容については，授業計画を基本としつつ，参加者の希望や関心・進度に合わせて柔軟に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習の進め方とアイスブレーク
第2回	アイスブレークのスキル	様々な自己紹介その他のメソッド
第3回	傾聴①	傾聴の基本的スキル
第4回	傾聴②	傾聴の理論
第5回	アサーション①	アサーションの理論
第6回	アサーション②	アサーションのスキル
第7回	ファシリテーション①	ファシリテーションの理論
第8回	ファシリテーション②	ファシリテーションのスキル
第9回	組織における問題の視点①	組織事故の事例
第10回	組織における問題の視点②	行動分析学の理論
第11回	組織における問題の視点③	行動分析学の応用
第12回	組織における問題の視点④	心理的安全性
第13回	組織における問題の視点⑤	『わかりあえなさから始める組織論』
第14回	まとめ	振り返りのプレゼンテーションと共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は，各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
ゼミ生の希望も踏まえ，別途指定する。

【参考書】
別途紹介する。

【成績評価の方法と基準】
予習の程度（30%）
ゼミへの参加の程度（55%）
まとめのプレゼンテーションの内容（15%）

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用した資料配布や課題提出およびプレゼンテーションのため，パソコンが必要。

【関連科目】
経営管理論I/II，経営組織論，組織行動論等

【Outline (in English)】
[Course outline] In this course, we will learn communication skills and background theories applicable in workplace.
[Learning objectives] Students can employ various communication skills, such as ice break, listening, assertion, facilitation, presentation, and writing.
[Learning activities outside of classroom] The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
Degree of preparation (30%)
Extent of participation (55%)
Contents of summary presentation (15%)

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

中西　善信

演習選択_演習　2年次／2単位　［秋学期授業/Fall］
この演習は１時限のみです。２時限連続では開講しません。
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織や集団の中で他のメンバーと良好な関係を築き，円滑なコミュニケーションを通じて相互に理解しあうことは，社会生活を豊かにする上で非常に重要である。
本ゼミは，これまでに「組織・集団内でのコミュニケーション」及び「人間関係を豊かにするスキル」を応用し，組織内での人間の行動についてさらに学びを深める。このため，関連テキストの内容に基づくプレゼンテーションとディスカッションを行う。加えて，自らの考えを論理的に表現するためのライティング技法を学ぶ。
このため1年目は基礎スキルの習得をめざす。2年目は，各スキルの背景となる理論の理解に加え，下級生の指導を通じて，コミュニケーション研修計画・実施ノウハウの習得をめざす。

【到達目標】
１．組織内での問題解決に必要な視点を持つことができる。
２．組織内での問題解決に向け，働きかけることができる。
３．アイスブレーク，傾聴，アサーション，ファシリテーション，プレゼンテーション，ライティングの各技法について，基本的な指導を行うことができる（組織において，これらに関する後輩の指導・研修を企画・実施することができる）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
基本的に，参加者のプレゼンテーションとその内容に基づくワークによる。ワークでは，様々なグループディスカッションの形式を適用する（各形態を，各人が自ら主導できることを目指す）。ワークでは，ディスカッションのほか，ペアワークを含む様々なロールプレイを行うこともある。
そして，これらワークのテーマや工程の立案，当日の進行も，ゼミ生（通常，2，3名程度のグループ）が主体的に行う。
内容については，授業計画を基本としつつ，参加者の希望や関心・進度に合わせて柔軟に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習の進め方とアイスブレーク
第2回	アイスブレークのスキル	様々な自己紹介その他のメソッド
第3回	傾聴①	傾聴の基本的スキル
第4回	傾聴②	傾聴の理論
第5回	アサーション①	アサーションの理論
第6回	アサーション②	アサーションのスキル
第7回	ファシリテーション①	ファシリテーションの理論
第8回	ファシリテーション②	ファシリテーションのスキル
第9回	組織における問題の視点①	組織事故の事例
第10回	組織における問題の視点②	行動分析学の理論
第11回	組織における問題の視点③	行動分析学の応用
第12回	組織における問題の視点④	心理的安全性
第13回	組織における問題の視点⑤	『わかりあえなさから始める組織論』
第14回	まとめ	振り返りのプレゼンテーションと共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は，各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
ゼミ生の希望も踏まえ，別途指定する。

【参考書】
別途紹介する。

【成績評価の方法と基準】
予習の程度（30%）
ゼミへの参加の程度（55%）
まとめのプレゼンテーションの内容（15%）

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用した資料配布や課題提出およびプレゼンテーションのため，パソコンが必要。

【関連科目】
経営管理論I/II，経営組織論，組織行動論等

【Outline (in English)】
[Course outline] In this course, we will learn communication skills and background theories applicable in workplace.
[Learning objectives] Students can employ various communication skills, such as ice break, listening, assertion, facilitation, presentation, and writing.
[Learning activities outside of classroom] The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
Degree of preparation (30%)
Extent of participation (55%)
Contents of summary presentation (15%)

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習3

中西　善信

演習選択_演習　3年次／2単位　［春学期授業/Spring］
この演習は１時限のみです。２時限連続では開講しません。
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織や集団の中で他のメンバーと良好な関係を築き，円滑なコミュニケーションを通じて相互に理解しあうことは，社会生活を豊かにする上で非常に重要である。
本ゼミは，これまでに「組織・集団内でのコミュニケーション」及び「人間関係を豊かにするスキル」を応用し，組織内での人間の行動についてさらに学びを深める。このため，関連テキストの内容に基づくプレゼンテーションとディスカッションを行う。加えて，自らの考えを論理的に表現するためのライティング技法を学ぶ。
このため1年目は基礎スキルの習得をめざす。2年目は，各スキルの背景となる理論の理解に加え，下級生の指導を通じて，コミュニケーション研修計画・実施ノウハウの習得をめざす。

【到達目標】
１．組織内での問題解決に必要な視点を持つことができる。
２．組織内での問題解決に向け，働きかけることができる。
３．アイスブレーク，傾聴，アサーション，ファシリテーション，プレゼンテーション，ライティングの各技法について，基本的な指導を行うことができる（組織において，これらに関する後輩の指導・研修を企画・実施することができる）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
基本的に，参加者のプレゼンテーションとその内容に基づくワークによる。ワークでは，様々なグループディスカッションの形式を適用する（各形態を，各人が自ら主導できることを目指す）。ワークでは，ディスカッションのほか，ペアワークを含む様々なロールプレイを行うこともある。
そして，これらワークのテーマや工程の立案，当日の進行も，ゼミ生（通常，2，3名程度のグループ）が主体的に行う。
内容については，授業計画を基本としつつ，参加者の希望や関心・進度に合わせて柔軟に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習の進め方とアイスブレーク
第2回	アイスブレークのスキル	様々な自己紹介その他のメソッド
第3回	傾聴①	傾聴の基本的スキル
第4回	傾聴②	傾聴の理論
第5回	アサーション①	アサーションの理論
第6回	アサーション②	アサーションのスキル
第7回	ファシリテーション①	ファシリテーションの理論
第8回	ファシリテーション②	ファシリテーションのスキル
第9回	組織における問題の視点①	組織事故の事例
第10回	組織における問題の視点②	行動分析学の理論
第11回	組織における問題の視点③	行動分析学の応用
第12回	組織における問題の視点④	心理的安全性
第13回	組織における問題の視点⑤	『わかりあえなさから始める組織論』
第14回	まとめ	振り返りのプレゼンテーションと共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は，各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
ゼミ生の希望も踏まえ，別途指定する。

【参考書】
別途紹介する。

【成績評価の方法と基準】
予習の程度（30%）
ゼミへの参加の程度（55%）
まとめのプレゼンテーションの内容（15%）

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用した資料配布や課題提出およびプレゼンテーションのため，パソコンが必要。

【関連科目】
経営管理論I/II，経営組織論，組織行動論等

【Outline (in English)】
[Course outline] In this course, we will learn communication skills and background theories applicable in workplace.
[Learning objectives] Students can employ various communication skills, such as ice break, listening, assertion, facilitation, presentation, and writing.
[Learning activities outside of classroom] The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
Degree of preparation (30%)
Extent of participation (55%)
Contents of summary presentation (15%)

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習４

中西　善信

演習選択_演習　3年次／2単位　［秋学期授業/Fall］
この演習は１時限のみです。２時限連続では開講しません。
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織や集団の中で他のメンバーと良好な関係を築き，円滑なコミュニケーションを通じて相互に理解しあうことは，社会生活を豊かにする上で非常に重要である。
本ゼミは，これまでに「組織・集団内でのコミュニケーション」及び「人間関係を豊かにするスキル」を応用し，組織内での人間の行動についてさらに学びを深める。このため，関連テキストの内容に基づくプレゼンテーションとディスカッションを行う。加えて，自らの考えを論理的に表現するためのライティング技法を学ぶ。
このため1年目は基礎スキルの習得をめざす。2年目は，各スキルの背景となる理論の理解に加え，下級生の指導を通じて，コミュニケーション研修計画・実施ノウハウの習得をめざす。

【到達目標】
１．組織内での問題解決に必要な視点を持つことができる。
２．組織内での問題解決に向け，働きかけることができる。
３．アイスブレーク，傾聴，アサーション，ファシリテーション，プレゼンテーション，ライティングの各技法について，基本的な指導を行うことができる（組織において，これらに関する後輩の指導・研修を企画・実施することができる）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
基本的に，参加者のプレゼンテーションとその内容に基づくワークによる。ワークでは，様々なグループディスカッションの形式を適用する（各形態を，各人が自ら主導できることを目指す）。ワークでは，ディスカッションのほか，ペアワークを含む様々なロールプレイを行うこともある。
そして，これらワークのテーマや工程の立案，当日の進行も，ゼミ生（通常，2，3名程度のグループ）が主体的に行う。
内容については，授業計画を基本としつつ，参加者の希望や関心・進度に合わせて柔軟に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習の進め方とアイスブレーク
第2回	アイスブレークのスキル	様々な自己紹介その他のメソッド
第3回	傾聴①	傾聴の基本的スキル
第4回	傾聴②	傾聴の理論
第5回	アサーション①	アサーションの理論
第6回	アサーション②	アサーションのスキル
第7回	ファシリテーション①	ファシリテーションの理論
第8回	ファシリテーション②	ファシリテーションのスキル
第9回	組織における問題の視点①	組織事故の事例
第10回	組織における問題の視点②	行動分析学の理論
第11回	組織における問題の視点③	行動分析学の応用
第12回	組織における問題の視点④	心理的安全性
第13回	組織における問題の視点⑤	『わかりあえなさから始める組織論』
第14回	まとめ	振り返りのプレゼンテーションと共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は，各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
ゼミ生の希望も踏まえ，別途指定する。

【参考書】
別途紹介する。

【成績評価の方法と基準】
予習の程度（30%）
ゼミへの参加の程度（55%）
まとめのプレゼンテーションの内容（15%）

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用した資料配布や課題提出およびプレゼンテーションのため，パソコンが必要。

【関連科目】
経営管理論I/II，経営組織論，組織行動論等

【Outline (in English)】
[Course outline] In this course, we will learn communication skills and background theories applicable in workplace.
[Learning objectives] Students can employ various communication skills, such as ice break, listening, assertion, facilitation, presentation, and writing.
[Learning activities outside of classroom] The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
Degree of preparation (30%)
Extent of participation (55%)
Contents of summary presentation (15%)

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習5

中西　善信

演習選択_演習　4年次／2単位　［春学期授業/Spring］
この演習は１時限のみです。２時限連続では開講しません。
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織や集団の中で他のメンバーと良好な関係を築き，円滑なコミュニケーションを通じて相互に理解しあうことは，社会生活を豊かにする上で非常に重要である。
本ゼミは，これまでに「組織・集団内でのコミュニケーション」及び「人間関係を豊かにするスキル」を応用し，組織内での人間の行動についてさらに学びを深める。このため，関連テキストの内容に基づくプレゼンテーションとディスカッションを行う。加えて，自らの考えを論理的に表現するためのライティング技法を学ぶ。
このため1年目は基礎スキルの習得をめざす。2年目は，各スキルの背景となる理論の理解に加え，下級生の指導を通じて，コミュニケーション研修計画・実施ノウハウの習得をめざす。

【到達目標】
１．組織内での問題解決に必要な視点を持つことができる。
２．組織内での問題解決に向け，働きかけることができる。
３．アイスブレーク，傾聴，アサーション，ファシリテーション，プレゼンテーション，ライティングの各技法について，基本的な指導を行うことができる（組織において，これらに関する後輩の指導・研修を企画・実施することができる）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
基本的に，参加者のプレゼンテーションとその内容に基づくワークによる。ワークでは，様々なグループディスカッションの形式を適用する（各形態を，各人が自ら主導できることを目指す）。ワークでは，ディスカッションのほか，ペアワークを含む様々なロールプレイを行うこともある。
そして，これらワークのテーマや工程の立案，当日の進行も，ゼミ生（通常，2，3名程度のグループ）が主体的に行う。
内容については，授業計画を基本としつつ，参加者の希望や関心・進度に合わせて柔軟に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習の進め方とアイスブレーク
第2回	アイスブレークのスキル	様々な自己紹介その他のメソッド
第3回	傾聴①	傾聴の基本的スキル
第4回	傾聴②	傾聴の理論
第5回	アサーション①	アサーションの理論
第6回	アサーション②	アサーションのスキル
第7回	ファシリテーション①	ファシリテーションの理論
第8回	ファシリテーション②	ファシリテーションのスキル
第9回	組織における問題の視点①	組織事故の事例
第10回	組織における問題の視点②	行動分析学の理論
第11回	組織における問題の視点③	行動分析学の応用
第12回	組織における問題の視点④	心理的安全性
第13回	組織における問題の視点⑤	『わかりあえなさから始める組織論』
第14回	まとめ	振り返りのプレゼンテーションと共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は，各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
ゼミ生の希望も踏まえ，別途指定する。

【参考書】
別途紹介する。

【成績評価の方法と基準】
予習の程度（30%）
ゼミへの参加の程度（55%）
まとめのプレゼンテーションの内容（15%）

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用した資料配布や課題提出およびプレゼンテーションのため，パソコンが必要。

【関連科目】
経営管理論I/II，経営組織論，組織行動論等

【Outline (in English)】
[Course outline] In this course, we will learn communication skills and background theories applicable in workplace.
[Learning objectives] Students can employ various communication skills, such as ice break, listening, assertion, facilitation, presentation, and writing.
[Learning activities outside of classroom] The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
Degree of preparation (30%)
Extent of participation (55%)
Contents of summary presentation (15%)

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

中西　善信

演習選択_演習　4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］
この演習は１時限のみです。２時限連続では開講しません。
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織や集団の中で他のメンバーと良好な関係を築き，円滑なコミュニケーションを通じて相互に理解しあうことは，社会生活を豊かにする上で非常に重要である。
本ゼミは，これまでに「組織・集団内でのコミュニケーション」及び「人間関係を豊かにするスキル」を応用し，組織内での人間の行動についてさらに学びを深める。このため，関連テキストの内容に基づくプレゼンテーションとディスカッションを行う。加えて，自らの考えを論理的に表現するためのライティング技法を学ぶ。
このため1年目は基礎スキルの習得をめざす。2年目は，各スキルの背景となる理論の理解に加え，下級生の指導を通じて，コミュニケーション研修計画・実施ノウハウの習得をめざす。

【到達目標】
１．組織内での問題解決に必要な視点を持つことができる。
２．組織内での問題解決に向け，働きかけることができる。
３．アイスブレーク，傾聴，アサーション，ファシリテーション，プレゼンテーション，ライティングの各技法について，基本的な指導を行うことができる（組織において，これらに関する後輩の指導・研修を企画・実施することができる）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
基本的に，参加者のプレゼンテーションとその内容に基づくワークによる。ワークでは，様々なグループディスカッションの形式を適用する（各形態を，各人が自ら主導できることを目指す）。ワークでは，ディスカッションのほか，ペアワークを含む様々なロールプレイを行うこともある。
そして，これらワークのテーマや工程の立案，当日の進行も，ゼミ生（通常，2，3名程度のグループ）が主体的に行う。
内容については，授業計画を基本としつつ，参加者の希望や関心・進度に合わせて柔軟に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習の進め方とアイスブレーク
第2回	アイスブレークのスキル	様々な自己紹介その他のメソッド
第3回	傾聴①	傾聴の基本的スキル
第4回	傾聴②	傾聴の理論
第5回	アサーション①	アサーションの理論
第6回	アサーション②	アサーションのスキル
第7回	ファシリテーション①	ファシリテーションの理論
第8回	ファシリテーション②	ファシリテーションのスキル
第9回	組織における問題の視点①	組織事故の事例
第10回	組織における問題の視点②	行動分析学の理論
第11回	組織における問題の視点③	行動分析学の応用
第12回	組織における問題の視点④	心理的安全性
第13回	組織における問題の視点⑤	『わかりあえなさから始める組織論』
第14回	まとめ	振り返りのプレゼンテーションと共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は，各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
ゼミ生の希望も踏まえ，別途指定する。

【参考書】
別途紹介する。

【成績評価の方法と基準】
予習の程度（30%）
ゼミへの参加の程度（55%）
まとめのプレゼンテーションの内容（15%）

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用した資料配布や課題提出およびプレゼンテーションのため，パソコンが必要。

【関連科目】
経営管理論I/II，経営組織論，組織行動論等

【Outline (in English)】
[Course outline] In this course, we will learn communication skills and background theories applicable in workplace.
[Learning objectives] Students can employ various communication skills, such as ice break, listening, assertion, facilitation, presentation, and writing.
[Learning activities outside of classroom] The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
Degree of preparation (30%)
Extent of participation (55%)
Contents of summary presentation (15%)

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習1

小川　憲彦

演習選択_演習　2年次／3単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織行動論（ミクロ組織論あるいは組織心理学）のゼミナールです。ゼミという場は皆さんが学問研究を実際に行う場、そのための訓練の場というのが本来的な意味であると考えています。この考えを原則に運営しており、具体的には卒業研究論文の完成を最終的なアウトプットとみなしています。したがって卒論を書きたくないという方は応募・履修をしないで下さい。
This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.
Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).
Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

【到達目標】
初年度の目標は三つあります。第一の学習目標は、研究の基礎を学ぶことです。他大学との合同ゼミでの研究発表と学内懸賞論文の提出に向けたグループ研究を進めることを通じて研究のイロハを学びます。
第二の目標は、発表準備、レポート作成、議論等を通じて、調べた結果や自分の考えを伝えること、つまり基本的なコミュニケーションの力を養うことです。
第三の目標は、公式・非公式な場を問わず、集団での取り組みを通じて目標を達成できる協働関係を形成すること、そのための基本的姿勢や集団スキルを養うことです。
次年度は、卒業研究の実施と卒業論文の執筆を行います。初年度の学習内容を踏まえながら、より深く各自のテーマを追求し自分の研究に取り組み、その進捗の報告を行います。身に付けた知識を踏まえて、自分で取り組む課題を設定し、実際に調べ、他人に伝える能力を身に付け、それを示すこと、その集大成が卒業論文です。
また先輩や後輩としての役割もしっかりと担ってもらいたいと思います。
Juniors who complete the course will be expected to:
(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, reserach methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.
(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations pursueing common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master human skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.
Seniors who complete the course will be expected to:
(1) write up a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your own subjects more initiatively and independently.
(2) be a role model for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in this/seminar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
3年生はグループごとにテーマを定め、先行研究や調査内容について発表し、それに関連する議論を行います。また、ゼミ生の選抜その他もゼミ活動の一環として行ってもらいます。各自が研究チームや小委員会に所属し、相応の役割を担ってもらう予定です。
4年生は後輩指導と支援、および卒業研究の進捗報告が中心となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（シラバスの配布、各種委員の紹介など）	グループ等の決定
第2回	目標設定と活動案のためのディスカッション	グループや役割ごとの目標設定
第3回	MBO発表とフィードバック	個人別および委員会別で実施
第4回	共同研究計画の発表と卒業研究進捗報告	3年生はグループごと、4年生は数人程度で進捗報告を行う
第5回	Kotter(1982)の発表と卒業研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第6回	Schein(1990)の発表と研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第7回	研究とは何か	研究活動の説明
第8回	研究計画書	書くべき項目と書き方の説明
第9回	研究テーマについて	良い研究テーマとは何か
第10回	先行研究の渉猟方法	図書館などの使い方
第11回	先行研究の読み方（量的実証研究）	具体の研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第12回	先行研究の読み方（質的経験的研究）	具体の研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第13回	360度フィードバック	評価と振り返り
第14回	MBO中間報告と夏休みの抱負、合宿について	全員、全班が実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・研究テーマを決定したら、それについて各個人・グループが
自主的に、文献を探し、まとめ、発表準備等をする必要があります。
・必要に応じてサブゼミ等を行う必要があります。
・本授業の準備学習・復習時間は各回につき2-4時間程度を標準とします。
At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning your study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in adequate ways, and the results should be presented.
Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指示します。

【参考書】
Robbins, S P. &Judge, T. A. (2008). Essentials of Organizational Behavior 9th. NJ: Pearson Prentice Hall.

【成績評価の方法と基準】
・初年度は、平常点5割（社会的常識、発表や準備のレベル、議論やその他ゼミ関連活動への参加度等）とレポートなどの提出物5割で総合的に評価します。
・次年度の評価は、上記(3割)に加え、卒論の評価が大きなウェイト（7割）を占めます。
・参加する際の注意事項が守られない場合、単位を認定しないことがあります（その他参照）。
Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of classroom (50%).
Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research or alternatives (70%).
The details of grading will be gives in class.

【学生の意見等からの気づき】
出来るだけ授業時間内での終了を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
・ディスカッションなどしやすい形式への机の移動、PC、スクリーン等の事前セッティング
・個人やグループごとの提出資料は共有サイトへ事前アップロード、教員へのハードコピーでの提出
・2回ほど、他大学との合同ゼミで地方へ宿泊を伴う移動があるので、そのための旅費を確保しておいてください（北海道、九州、関西など年度により異なります）。当然自費です。

【その他の重要事項】
①2年間の登録を基本単位と考えてください。
②私が担当するキャリア・マネジメントⅠ/Ⅱの履修が前提です。未履修の場合は即座に履修しA以上の成績で単位修得してください。
③多くの注意事項がありますので、登録後、別途シラバスをお渡しします。そのシラバスは必ず毎回持ってきてください。
④年間のうち個人的事情による欠席2回でゼミを除籍としD評価とします。
⑤不適切な参加態度であると私がみなした場合、1度は注意を行いますが、以降は退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定、ゼミの除籍を言い渡すことがあります。

⑥スケジュール等はあくまで暫定のものです。
⑦このシラバスとゼミで配布するシラバスの内容に食い違いがある場合は、ゼミでの配布シラバスの記述が優先されます。
　履修者は以上を了解したうえで参加しているとみなします。

【Outline (in English)】
This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.
Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).
Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.
Learning objectives
Juniors who complete the course will be expected to:
(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, research methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.
(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations pursueing common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to develop human skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.
Seniors who complete the course will be expected to:
(1) write up a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently,
(2) be a role model for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.
Learning activities outside of the class
At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in adequate ways, and the results should be presented.
Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.
Grading criteria/policy
Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of classroom (50%).
Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research or alternatives (70%).
The details of grading will be gives in class.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

小川　憲彦

演習選択_演習　2年次／3単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織行動論（ミクロ組織論あるいは組織心理学）のゼミナールです。ゼミという場は皆さんが学問研究を実際に行う（＝演習の）場、そのための訓練の場というのが本来的な意味であると考えています。この考えを原則に運営しており、具体的には卒業研究論文の完成を最終的なアウトプットとみなしています。（したがって卒論を書きたくないという方は原則として応募・履修をしないで下さい。）
This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.
Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).
Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

【到達目標】
初年度の目標は三つあります。第一の学習目標は、研究の基礎を学ぶことです。他大学との合同ゼミでの研究発表と学内懸賞論文の提出に向けたグループ研究を進めることを通じて研究のイロハを学びます。
第二の目標は、発表準備、レポート作成、議論等を通じて、調べた結果や自分の考えを伝えること、つまり基本的なコミュニケーションの力を養うことです。
第三の目標は、公式・非公式な場を問わず、集団での取り組みを通じて目標を達成できる協働関係を形成すること、そのための基本的姿勢や集団スキルを養うことです。
次年度は、卒業研究の実施と卒業論文の執筆を行います。初年度の学習内容を踏まえながら、より深く各自のテーマを追求し自分の研究に取り組み、その進捗の報告を行います。身に付けた知識を踏まえて、自分で取り組む課題を設定し、実際に調べ、他人に伝える能力を身に付け、それを示すこと、その集大成が卒業論文です。
また先輩や後輩としての役割もしっかりと担ってもらいたいと思います。
Juniors who complete the course will be expected to:
(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.
(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.
Seniors who complete the course will be expected to:
(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently.
(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
3年生はグループごとにテーマを定め、先行研究や調査内容について発表し、それに関連する議論を行います。また、ゼミ生の選抜その他もゼミ活動の一環として行ってもらいます。各自が研究チームや小委員会に所属し、相応の役割を担ってもらう予定です。
4年生は後輩指導と支援、および卒業研究の進捗報告が中心となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（シラバスの配布、各種委員の紹介など）	グループ等の決定
第2回	目標設定と活動案のためのディスカッション	グループや役割ごとの目標設定
第3回	MBO発表とフィードバック	個人別および委員会別で実施
第4回	共同研究計画の発表と卒業研究進捗報告	3年生はグループごと、4年生は数人程度で進捗報告を行う
第5回	Kotter(1982)の発表と卒業研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第6回	Schein(1990)の発表と研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第7回	研究とは何か	研究活動の説明
第8回	研究計画書	書くべき項目と書き方の説明
第9回	研究テーマについて	良い研究テーマとは何か
第10回	先行研究の渉猟方法	図書館などの使い方
第11回	先行研究の読み方（量的実証研究）	具体の研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第12回	先行研究の読み方（質的経験的研究）	具体の研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第13回	360度フィードバック	評価と振り返り
第14回	MBO中間報告と夏休みの抱負、合宿について	全員、全班が実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・研究テーマを決定したら、それについて各個人・グループが自主的に、文献を探し、まとめ、発表準備等をする必要があります。
・必要に応じてサブゼミ等を行う必要があります。
・本授業の準備学習・復習時間は各回につき2-4時間程度を標準とします。
At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.
Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指示します。

【参考書】
Robbins, S P. &Judge, T. A. (2008). Essentials of Organizational Behavior 9th. NJ: Pearson Prentice Hall.

【成績評価の方法と基準】
・初年度は、平常点5割（社会的常識、発表や準備のレベル、議論やその他ゼミ関連活動への参加度等）とレポートなどの提出物5割で総合的に評価します。
・次年度の評価は、上記に加え、卒論の評価が大きなウエイトを占めます。
・参加する際の注意事項が守られない場合、単位を認定しないことがあります（その他参照）。
Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).
Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).
The details of grading will be gives in class.

【学生の意見等からの気づき】
出来るだけ授業時間内での終了を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
・ディスカッションなどしやすい形式への机の移動、PC、スクリーン等の事前セッティング
・個人やグループごとの提出資料は共有サイトへ事前アップロード、教員へのハードコピーでの提出
・3年生は年間2回ほど、他大学との合同ゼミのため宿泊を伴う移動が生じることがあります。そのための旅費は各自で確保・準備しておくこと（当然自費です）。

【その他の重要事項】
①2年間の登録を基本単位と考えてください。
②私が担当するキャリア・マネジメントⅠ/Ⅱの履修が前提です。未履修の場合は即座に履修しA-以上の成績で単位修得してください。
③多くの注意事項がありますので、登録後、別途シラバスをお渡しします。そのシラバスは必ず毎回持ってきてください。
④年間のうち個人的事情による欠席2回でゼミを除籍としD評価とします。

⑤不適切な参加態度であると私がみなした場合、退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定、ゼミの除籍を言い渡すことがあります。
⑥スケジュール等はあくまで暫定のものです。
⑦このシラバスとゼミで配布するシラバスの内容に食い違いがある場合は、ゼミでの配布シラバスの記述が優先されます。
　履修者は以上を了解したうえで参加しているとみなします。

【Outline (in English)】
This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.
Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).
Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.
Learning objectives
Juniors who complete the course will be expected to:
(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.
(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.
Seniors who complete the course will be expected to:
(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently.
(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.
Learning activities outside of classroom
At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.
Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.
Grading criteria/policy
Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).
Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).
The details of grading will be gives in class.

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習3

小川　憲彦

演習選択_演習　3年次／3単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織行動論（ミクロ組織論あるいは組織心理学）のゼミナールです。ゼミという場は皆さんが学問研究を実際に行う場、そのための訓練の場というのが本来的な意味であると考えています。この考えを原則に運営しており、具体的には卒業研究論文の完成を最終的なアウトプットとみなしています。したがって卒論を書きたくないという方は応募・履修をしないで下さい。
This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.
Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).
Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

【到達目標】
初年度の目標は三つあります。第一の学習目標は、研究の基礎を学ぶことです。他大学との合同ゼミでの研究発表と学内懸賞論文の提出に向けたグループ研究を進めることを通じて研究のイロハを学びます。
第二の目標は、発表準備、レポート作成、議論等を通じて、調べた結果や自分の考えを伝えること、つまり基本的なコミュニケーションの力を養うことです。
第三の目標は、公式・非公式な場を問わず、集団での取り組みを通じて目標を達成できる協働関係を形成すること、そのための基本的姿勢や集団スキルを養うことです。
次年度は、卒業研究の実施と卒業論文の執筆を行います。初年度の学習内容を踏まえながら、より深く各自のテーマを追求し自分の研究に取り組み、その進捗の報告を行います。身に付けた知識を踏まえて、自分で取り組む課題を設定し、実際に調べ、他人に伝える能力を身に付け、それを示すこと、その集大成が卒業論文です。
また先輩や後輩としての役割もしっかりと担ってもらいたいと思います。
Juniors who complete the course will be expected to:
(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, reserach methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.
(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations pursueing common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master human skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.
Seniors who complete the course will be expected to:
(1) write up a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your own subjects more initiatively and independently.
(2) be a role model for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in this/seminar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
3年生はグループごとにテーマを定め、先行研究や調査内容について発表し、それに関連する議論を行います。また、ゼミ生の選抜その他もゼミ活動の一環として行ってもらいます。各自が研究チームや小委員会に所属し、相応の役割を担ってもらう予定です。
4年生は後輩指導と支援、および卒業研究の進捗報告が中心となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（シラバスの配布、各種委員の紹介など）	グループ等の決定
第2回	目標設定と活動案のためのディスカッション	グループや役割ごとの目標設定
第3回	MBO発表とフィードバック	個人別および委員会別で実施
第4回	共同研究計画の発表と卒業研究進捗報告	3年生はグループごと、4年生は数人程度で進捗報告を行う
第5回	Kotter(1982)の発表と卒業研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第6回	Schein(1990)の発表と研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第7回	研究とは何か	研究活動の説明
第8回	研究計画書	書くべき項目と書き方の説明
第9回	研究テーマについて	良い研究テーマとは何か
第10回	先行研究の渉猟方法	図書館などの使い方
第11回	先行研究の読み方（量的実証研究）	具体の研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第12回	先行研究の読み方（質的経験的研究）	具体の研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第13回	360度フィードバック	評価と振り返り
第14回	MBO中間報告と夏休みの抱負、合宿について	全員、全班が実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・研究テーマを決定したら、それについて各個人・グループが自主的に、文献を探し、まとめ、発表準備等をする必要があります。
・必要に応じてサブゼミ等を行う必要があります。
・本授業の準備学習・復習時間は各回につき2-4時間程度を標準とします。
At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning your study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in adequate ways, and the results should be presented.
Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指示します。

【参考書】
Robbins, S P. &Judge, T. A. (2008). Essentials of Organizational Behavior 9th. NJ: Pearson Prentice Hall.

【成績評価の方法と基準】
・初年度は、平常点5割（社会的常識、発表や準備のレベル、議論やその他ゼミ関連活動への参加度等）とレポートなどの提出物5割で総合的に評価します。
・次年度の評価は、上記(3割)に加え、卒論の評価が大きなウェイト（7割）を占めます。
・参加する際の注意事項が守られない場合、単位を認定しないことがあります（その他参照）。
Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of classroom (50%).
Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research or alternatives (70%).
The details of grading will be gives in class.

【学生の意見等からの気づき】
出来るだけ授業時間内での終了を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
・ディスカッションなどしやすい形式への机の移動、PC、スクリーン等の事前セッティング
・個人やグループごとの提出資料は共有サイトへ事前アップロード、教員へのハードコピーでの提出
・2回ほど、他大学との合同ゼミで地方へ宿泊を伴う移動があるので、そのための旅費を確保しておいてください（北海道、九州、関西など年度により異なります）。当然自費です。

【その他の重要事項】
①2年間の登録を基本単位と考えてください。
②私が担当するキャリア・マネジメントⅠ/Ⅱの履修が前提です。未履修の場合は即座に履修しA-以上の成績で単位修得してください。
③多くの注意事項がありますので、登録後、別途シラバスをお渡しします。そのシラバスは必ず毎回持ってきてください。
④年間のうち個人的事情による欠席2回でゼミを除籍としD評価とします。
⑤不適切な参加態度であると私がみなした場合、1度は注意を行いますが、以降は退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定、ゼミの除籍を言い渡すことがあります。

⑥スケジュール等はあくまで暫定のものです。
⑦このシラバスとゼミで配布するシラバスの内容に食い違いがある場合は、ゼミでの配布シラバスの記述が優先されます。
　履修者は以上を了解したうえで参加しているとみなします。

【Outline (in English)】
This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.
Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).
Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.
Learning objectives
Juniors who complete the course will be expected to:
(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, research methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.
(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations pursueing common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to develop human skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.
Seniors who complete the course will be expected to:
(1) write up a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently,
(2) be a role model for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.
Learning activities outside of the class
At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in adequate ways, and the results should be presented.
Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.
Grading criteria/policy
Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of classroom (50%).
Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research or alternatives (70%).
The details of grading will be gives in class.

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習４

小川　憲彦

演習選択_演習　3年次／3単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織行動論（ミクロ組織論あるいは組織心理学）のゼミナールです。ゼミという場は皆さんが学問研究を実際に行う（＝演習の）場、そのための訓練の場というのが本来的な意味であると考えています。この考えを原則に運営しており、具体的には卒業研究論文の完成を最終的なアウトプットとみなしています。（したがって卒論を書きたくないという方は原則として応募・履修をしないで下さい。）
This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.
Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).
Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

【到達目標】
初年度の目標は三つあります。第一の学習目標は、研究の基礎を学ぶことです。他大学との合同ゼミでの研究発表と学内懸賞論文の提出に向けたグループ研究を進めることを通じて研究のイロハを学びます。
第二の目標は、発表準備、レポート作成、議論等を通じて、調べた結果や自分の考えを伝えること、つまり基本的なコミュニケーションの力を養うことです。
第三の目標は、公式・非公式な場を問わず、集団での取り組みを通じて目標を達成できる協働関係を形成すること、そのための基本的姿勢や集団スキルを養うことです。
次年度は、卒業研究の実施と卒業論文の執筆を行います。初年度の学習内容を踏まえながら、より深く各自のテーマを追求し自分の研究に取り組み、その進捗の報告を行います。身に付けた知識を踏まえて、自分で取り組む課題を設定し、実際に調べ、他人に伝える能力を身に付け、それを示すこと、その集大成が卒業論文です。
また先輩や後輩としての役割もしっかりと担ってもらいたいと思います。
Juniors who complete the course will be expected to:
(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.
(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.
Seniors who complete the course will be expected to:
(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently.
(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
3年生はグループごとにテーマを定め、先行研究や調査内容について発表し、それに関連する議論を行います。また、ゼミ生の選抜その他もゼミ活動の一環として行ってもらいます。各自が研究チームや小委員会に所属し、相応の役割を担ってもらう予定です。
4年生は後輩指導と支援、および卒業研究の進捗報告が中心となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（シラバスの配布、各種委員の紹介など）	グループ等の決定
第2回	目標設定と活動案のためのディスカッション	グループや役割ごとの目標設定
第3回	MBO発表とフィードバック	個人別および委員会別で実施
第4回	共同研究計画の発表と卒業研究進捗報告	3年生はグループごと、4年生は数人程度で進捗報告を行う
第5回	Kotter(1982)の発表と卒業研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第6回	Schein(1990)の発表と研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第7回	研究とは何か	研究活動の説明
第8回	研究計画書	書くべき項目と書き方の説明
第9回	研究テーマについて	良い研究テーマとは何か
第10回	先行研究の渉猟方法	図書館などの使い方
第11回	先行研究の読み方（量的実証研究）	具体の研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第12回	先行研究の読み方（質的経験的研究）	具体の研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第13回	360度フィードバック	評価と振り返り
第14回	MBO中間報告と夏休みの抱負、合宿について	全員、全班が実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・研究テーマを決定したら、それについて各個人・グループが自主的に、文献を探し、まとめ、発表準備等をする必要があります。
・必要に応じてサブゼミ等を行う必要があります。
・本授業の準備学習・復習時間は各回につき2-4時間程度を標準とします。
At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.
Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指示します。

【参考書】
Robbins, S P. &Judge, T. A. (2008). Essentials of Organizational Behavior 9th. NJ: Pearson Prentice Hall.

【成績評価の方法と基準】
・初年度は、平常点5割（社会的常識、発表や準備のレベル、議論やその他ゼミ関連活動への参加度等）とレポートなどの提出物5割で総合的に評価します。
・次年度の評価は、上記に加え、卒論の評価が大きなウエイトを占めます。
・参加する際の注意事項が守られない場合、単位を認定しないことがあります（その他参照）。
Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).
Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).
The details of grading will be gives in class.

【学生の意見等からの気づき】
出来るだけ授業時間内での終了を目指しますが、必要に応じて、やるときはやる、という姿勢を貫徹します。

【学生が準備すべき機器他】
・ディスカッションなどしやすい形式への机の移動、PC、スクリーン等の事前セッティング
・個人やグループごとの提出資料は共有サイトへ事前アップロード、教員へのハードコピーでの提出
・3年生は年間2回ほど、他大学との合同ゼミのため宿泊を伴う移動が生じることがあります。そのための旅費は各自で確保・準備しておくこと（当然自費です）。

【その他の重要事項】
①2年間の登録を基本単位と考えてください。
②私が担当するキャリア・マネジメントⅠ/Ⅱの履修が前提です。未履修の場合は即座に履修しA-以上の成績で単位修得してください。
③多くの注意事項がありますので、登録後、別途シラバスをお渡しします。そのシラバスは必ず毎回持ってきてください。
④年間のうち個人的事情による欠席2回でゼミを除籍としD評価とします。

⑤不適切な参加態度であると私がみなした場合、退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定、ゼミの除籍を言い渡すことがあります。
⑥スケジュール等はあくまで暫定のものです。
⑦このシラバスとゼミで配布するシラバスの内容に食い違いがある場合は、ゼミでの配布シラバスの記述が優先されます。
　履修者は以上を了解したうえで参加しているとみなします。

【Outline (in English)】
This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.
Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).
Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.
Learning objectives
Juniors who complete the course will be expected to:
(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.
(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.
Seniors who complete the course will be expected to:
(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently.
(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.
Learning activities outside of classroom
At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.
Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.
Grading criteria/policy
Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).
Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).
The details of grading will be gives in class.

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習5

小川　憲彦

演習選択_演習　4年次／3単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織行動論（ミクロ組織論あるいは組織心理学）のゼミナールです。ゼミという場は皆さんが学問研究を実際に行う場、そのための訓練の場というのが本来的な意味であると考えています。この考えを原則に運営しており、具体的には卒業研究論文の完成を最終的なアウトプットとみなしています。したがって卒論を書きたくないという方は応募・履修をしないで下さい。
This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.
Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).
Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

【到達目標】
初年度の目標は三つあります。第一の学習目標は、研究の基礎を学ぶことです。他大学との合同ゼミでの研究発表と学内懸賞論文の提出に向けたグループ研究を進めることを通じて研究のイロハを学びます。
第二の目標は、発表準備、レポート作成、議論等を通じて、調べた結果や自分の考えを伝えること、つまり基本的なコミュニケーションの力を養うことです。
第三の目標は、公式・非公式な場を問わず、集団での取り組みを通じて目標を達成できる協働関係を形成すること、そのための基本的姿勢や集団スキルを養うことです。
次年度は、卒業研究の実施と卒業論文の執筆を行います。初年度の学習内容を踏まえながら、より深く各自のテーマを追求し自分の研究に取り組み、その進捗の報告を行います。身に付けた知識を踏まえて、自分で取り組む課題を設定し、実際に調べ、他人に伝える能力を身に付け、それを示すこと、その集大成が卒業論文です。
また先輩や後輩としての役割もしっかりと担ってもらいたいと思います。
Juniors who complete the course will be expected to:
(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, reserach methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.
(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations pursueing common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master human skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.
Seniors who complete the course will be expected to:
(1) write up a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your own subjects more initiatively and independently.
(2) be a role model for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in this/seminar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
3年生はグループごとにテーマを定め、先行研究や調査内容について発表し、それに関連する議論を行います。また、ゼミ生の選抜その他もゼミ活動の一環として行ってもらいます。各自が研究チームや小委員会に所属し、相応の役割を担ってもらう予定です。
4年生は後輩指導と支援、および卒業研究の進捗報告が中心となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（シラバスの配布、各種委員の紹介など）	グループ等の決定
第2回	目標設定と活動案のためのディスカッション	グループや役割ごとの目標設定
第3回	MBO発表とフィードバック	個人別および委員会別で実施
第4回	共同研究計画の発表と卒業研究進捗報告	3年生はグループごと、4年生は数人程度で進捗報告を行う
第5回	Kotter(1982)の発表と卒業研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第6回	Schein(1990)の発表と研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第7回	研究とは何か	研究活動の説明
第8回	研究計画書	書くべき項目と書き方の説明
第9回	研究テーマについて	良い研究テーマとは何か
第10回	先行研究の渉猟方法	図書館などの使い方
第11回	先行研究の読み方（量的実証研究）	具体の研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第12回	先行研究の読み方（質的経験的研究）	具体の研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第13回	360度フィードバック	評価と振り返り
第14回	MBO中間報告と夏休みの抱負、合宿について	全員、全班が実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・研究テーマを決定したら、それについて各個人・グループが
自主的に、文献を探し、まとめ、発表準備等をする必要があります。
・必要に応じてサブゼミ等を行う必要があります。
・本授業の準備学習・復習時間は各回につき2-4時間程度を標準とします。
At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning your study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in adequate ways, and the results should be presented.
Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指示します。

【参考書】
Robbins, S P. &Judge, T. A. (2008). Essentials of Organizational Behavior 9th. NJ: Pearson Prentice Hall.

【成績評価の方法と基準】
・初年度は、平常点5割（社会的常識、発表や準備のレベル、議論やその他ゼミ関連活動への参加度等）とレポートなどの提出物5割で総合的に評価します。
・次年度の評価は、上記(3割)に加え、卒論の評価が大きなウェイト（7割）を占めます。
・参加する際の注意事項が守られない場合、単位を認定しないことがあります（その他参照）。
Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of classroom (50%).
Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research or alternatives (70%).
The details of grading will be gives in class.

【学生の意見等からの気づき】
出来るだけ授業時間内での終了を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
・ディスカッションなどしやすい形式への机の移動、PC、スクリーン等の事前セッティング
・個人やグループごとの提出資料は共有サイトへ事前アップロード、教員へのハードコピーでの提出
・2回ほど、他大学との合同ゼミで地方へ宿泊を伴う移動があるので、そのための旅費を確保しておいてください（北海道、九州、関西など年度により異なります）。当然自費です。

【その他の重要事項】
①2年間の登録を基本単位と考えてください。
②私が担当するキャリア・マネジメントⅠ/Ⅱの履修が前提です。未履修の場合は即座に履修しA-以上の成績で単位修得してください。
③多くの注意事項がありますので、登録後、別途シラバスをお渡しします。そのシラバスは必ず毎回持ってきてください。
④年間のうち個人的事情による欠席2回でゼミを除籍としD評価とします。
⑤不適切な参加態度であると私がみなした場合、1度は注意を行いますが、以降は退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定、ゼミの除籍を言い渡すことがあります。

⑥スケジュール等はあくまで暫定のものです。
⑦このシラバスとゼミで配布するシラバスの内容に食い違いがある場合は、ゼミでの配布シラバスの記述が優先されます。
　履修者は以上を了解したうえで参加しているとみなします。

【Outline (in English)】
This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.
Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).
Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.
Learning objectives
Juniors who complete the course will be expected to:
(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, research methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.
(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations pursueing common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to develop human skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.
Seniors who complete the course will be expected to:
(1) write up a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently,
(2) be a role model for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.
Learning activities outside of the class
At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in adequate ways, and the results should be presented.
Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.
Grading criteria/policy
Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of classroom (50%).
Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research or alternatives (70%).
The details of grading will be gives in class.

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

小川　憲彦

演習選択_演習　4年次／3単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織行動論（ミクロ組織論あるいは組織心理学）のゼミナールです。ゼミという場は皆さんが学問研究を実際に行う（＝演習の）場、そのための訓練の場というのが本来的な意味であると考えています。この考えを原則に運営しており、具体的には卒業研究論文の完成を最終的なアウトプットとみなしています。（したがって卒論を書きたくないという方は原則として応募・履修をしないで下さい。）
This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.
Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).
Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

【到達目標】
初年度の目標は三つあります。第一の学習目標は、研究の基礎を学ぶことです。他大学との合同ゼミでの研究発表と学内懸賞論文の提出に向けたグループ研究を進めることを通じて研究のイロハを学びます。
第二の目標は、発表準備、レポート作成、議論等を通じて、調べた結果や自分の考えを伝えること、つまり基本的なコミュニケーションの力を養うことです。
第三の目標は、公式・非公式な場を問わず、集団での取り組みを通じて目標を達成できる協働関係を形成すること、そのための基本的姿勢や集団スキルを養うことです。
次年度は、卒業研究の実施と卒業論文の執筆を行います。初年度の学習内容を踏まえながら、より深く各自のテーマを追求し自分の研究に取り組み、その進捗の報告を行います。身に付けた知識を踏まえて、自分で取り組む課題を設定し、実際に調べ、他人に伝える能力を身に付け、それを示すこと、その集大成が卒業論文です。
また先輩や後輩としての役割もしっかりと担ってもらいたいと思います。
Juniors who complete the course will be expected to:
(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.
(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.
Seniors who complete the course will be expected to:
(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently.
(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
3年生はグループごとにテーマを定め、先行研究や調査内容について発表し、それに関連する議論を行います。また、ゼミ生の選抜その他もゼミ活動の一環として行ってもらいます。各自が研究チームや小委員会に所属し、相応の役割を担ってもらう予定です。
4年生は後輩指導と支援、および卒業研究の進捗報告が中心となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（シラバスの配布、各種委員の紹介など）	グループ等の決定
第2回	目標設定と活動案のためのディスカッション	グループや役割ごとの目標設定
第3回	MBO発表とフィードバック	個人別および委員会別で実施
第4回	共同研究計画の発表と卒業研究進捗報告	3年生はグループごと、4年生は数人程度で進捗報告を行う
第5回	Kotter(1982)の発表と卒業研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第6回	Schein(1990)の発表と研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第7回	研究とは何か	研究活動の説明
第8回	研究計画書	書くべき項目と書き方の説明
第9回	研究テーマについて	良い研究テーマとは何か
第10回	先行研究の渉猟方法	図書館などの使い方
第11回	先行研究の読み方（量的実証研究）	具体の研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第12回	先行研究の読み方（質的経験的研究）	具体の研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第13回	360度フィードバック	評価と振り返り
第14回	MBO中間報告と夏休みの抱負、合宿について	全員、全班が実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・研究テーマを決定したら、それについて各個人・グループが自主的に、文献を探し、まとめ、発表準備等をする必要があります。
・必要に応じてサブゼミ等を行う必要があります。
・本授業の準備学習・復習時間は各回につき2-4時間程度を標準とします。
At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.
Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指示します。

【参考書】
Robbins, S P. &Judge, T. A. (2008). Essentials of Organizational Behavior 9th. NJ: Pearson Prentice Hall.

【成績評価の方法と基準】
・初年度は、平常点5割（社会的常識、発表や準備のレベル、議論やその他ゼミ関連活動への参加度等）とレポートなどの提出物5割で総合的に評価します。
・次年度の評価は、上記に加え、卒論の評価が大きなウエイトを占めます。
・参加する際の注意事項が守られない場合、単位を認定しないことがあります（その他参照）。
Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).
Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).
The details of grading will be gives in class.

【学生の意見等からの気づき】
出来るだけ授業時間内での終了を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
・ディスカッションなどしやすい形式への机の移動、PC、スクリーン等の事前セッティング
・個人やグループごとの提出資料は共有サイトへ事前アップロード、教員へのハードコピーでの提出
・3年生は年間2回ほど、他大学との合同ゼミのため宿泊を伴う移動が生じることがあります。そのための旅費は各自で確保・準備しておくこと（当然自費です）。

【その他の重要事項】
①2年間の登録を基本単位と考えてください。
②私が担当するキャリア・マネジメントⅠ/Ⅱの履修が前提です。未履修の場合は即座に履修しA以上の成績で単位修得してください。
③多くの注意事項がありますので、登録後、別途シラバスをお渡しします。そのシラバスは必ず毎回持ってきてください。
④年間のうち個人的事情による欠席2回でゼミを除籍としD評価とします。

⑤不適切な参加態度であると私がみなした場合、退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定、ゼミの除籍を言い渡すことがあります。
⑥スケジュール等はあくまで暫定のものです。
⑦このシラバスとゼミで配布するシラバスの内容に食い違いがある場合は、ゼミでの配布シラバスの記述が優先されます。
　履修者は以上を了解したうえで参加しているとみなします。

【Outline (in English)】
This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.
Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).
Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.
Learning objectives
Juniors who complete the course will be expected to:
(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.
(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.
Seniors who complete the course will be expected to:
(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently.
(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.
Learning activities outside of classroom
At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.
Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.
Grading criteria/policy
Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).
Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).
The details of grading will be gives in class.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習1

奥西　好夫

演習選択_演習　2年次／3単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろ学生がプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力点を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

【到達目標】
①学生は、自ら適切な課題を見つけることができる。
②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
③学生は、②の結論を他人に伝えるとともに、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・2・3年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として2人1組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
・4年生は、それに加えゼミ卒論（またはレポート）を作成する。
・その他の内容は、その都度決める。
・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿または半日のオリエンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・ゼミの概要、年間計画、進め方等の確認
第2回	発表・議論の仕方、説得の手法	・映画「12人の怒れる男」 ・スティーブ・ジョブズのプレゼンなど
第3回	英文ケースの報告と議論（1）	・Nkomo et al.(2011)のCase 1
第4回	英文ケースの報告と議論（2）	・同Case 2 ・同Case 8 ・同Case 11
第5回	英文ケースの報告と議論（3）	・同Case 12 ・同Case 13
第6回	英文ケースの報告と議論（4）	・同Case 14 ・同Case 15
第7回	英文ケースの報告と議論（5）	・同Case 25 ・同Case 26
第8回	英文ケースの報告と議論（6）	・同Case 27 ・同Case 34
第9回	英文ケースの報告と議論（7）	・同Case 35 ・同Case 36
第10回	英文ケースの報告と議論（8）	・同Case 37 ・同Case 38
第11回	英文ケースの報告と議論（9）	・同Case 39 ・同Case 51
第12回	英文ケースの報告と議論（10）	・同Case 52 ・同Case 53
第13回	英文ケースの報告と議論（11）	・同Case 54 ・同Case 59
第14回	英文ケースの報告と議論（12）	・同Case 60 ・同Case 65

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。
・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう十分意識するとともに、それを共有、伝承する仕組みを工夫すること。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする（ただし、司会者の準備時間はこの数倍以上）。

【テキスト（教科書）】
・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011)を使う。

【参考書】
・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『人事管理入門（新装版）』（日本経済新聞出版、2022）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることがある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。
・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010）を薦める。

【成績評価の方法と基準】
・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは100%）。
・なお、4年生の場合は、ゼミ卒論（レポート）の内容、質も重視する（平常点が70%、卒論が30%）。ゼミ卒論（レポート）が未提出の場合は、平常点に関わらずE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
・学生主導のゼミ運営、議論中心のスタイルは評価が高いようなので継続する。ただ、時にマンネリ化の傾向も見られるので、必要に応じ工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
・ゼミの報告や議論でオンライン接続が可能なPC（ないしタブレット）を使う場合があることからその準備が必要。

【その他の重要事項】
・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手が容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。
・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。
・担当教員は、1980～89年、（旧）労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】
・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学、人的資源管理など。

【Outline (in English)】
・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.
・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.
・All participants should read the cases before the class. Presenters also need to prepare relevant handouts and to think about the design of discussion.
・The grade is based on the participation and quality of discussion among others. The 4th year students also need to submit the final reports.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

奥西　好夫

演習選択_演習　2年次／3単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろ学生がプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力点を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

【到達目標】
①学生は、自ら適切な課題を見つけることができる。
②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
③学生は、②の結論を他人に伝えるとともに、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・2・3年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として2人1組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
・4年生は、それに加えゼミ卒論（またはレポート）を作成する。
・その他の内容は、その都度決める。
・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿または半日のオリエンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	4年生卒業ゼミ論文計画報告	・テーマ、研究計画の報告
第2回	英文ケースの報告と議論（1）	・Nkomo et al.(2011)のCase 66 ・同Case 67
第3回	英文ケースの報告と議論（2）	・同Case 76 ・同Case 77
第4回	英文ケースの報告と議論（3）	・同Case 78 ・同Case 85
第5回	入ゼミ関係（1）	・入ゼミ選考準備
第6回	入ゼミ関係（2）	・入ゼミ面接、選考
第7回	英文ケースの報告と議論（4）	・同Case 88 ・同Case 89
第8回	英文ケースの報告と議論（5）	・同Case 90 ・同Case 98
第9回	英文ケースの報告と議論（6）	・同Case 99 ・同Case 103
第10回	英文ケースの報告と議論（7）	・同Case 104 ・同Case 105
第11回	英文ケースの報告と議論（8）	・同Case 106
第12回	4年生卒業ゼミ論文中間報告（1）	・研究経過報告（グループ1）
第13回	4年生卒業ゼミ論文中間報告（2）	・研究経過報告（グループ2）
第14回	ゼミのまとめ	・時事的テーマの講義、議論など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。
・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう十分意識するとともに、それを共有、伝承する仕組みを工夫すること。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする（ただし、司会者の準備時間はこの数倍以上）。

【テキスト（教科書）】
・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011)を使う予定。その他、参考文献は適宜指示する。

【参考書】
・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『人事管理入門（新装版）』（日本経済新聞社、2022）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることがある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。
・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010）を薦める。

【成績評価の方法と基準】
・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは100%）。
・なお、4年生の場合は、ゼミ卒論（レポート）の内容、質も重視する（平常点が70%、卒論が30%）。ゼミ卒論（レポート）が未提出の場合は、平常点に関わらずE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
・学生主導のゼミ運営、議論中心のスタイルは評価が高いようなので継続する。ただ、時にマンネリ化の傾向も見られるので、必要に応じ工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
・ゼミの報告や議論でオンライン接続が可能なPC（ないしタブレット）を使う場合があることからその準備が必要。

【その他の重要事項】
・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手が容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。
・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。
・担当教員は、1980～89年、（旧）労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

【【関連科目】】
・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学、人的資源管理など。

【Outline (in English)】
・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.
・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.
・All participants should read the cases before the class. Presenters also need to prepare relevant handouts and to think about the design of discussion.
・The grade is based on the participation and quality of discussion among others. The 4th year students also need to submit the final reports.

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習3

奥西　好夫

演習選択_演習　3年次／3単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろ学生がプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力点を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

【到達目標】
①学生は、自ら適切な課題を見つけることができる。
②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
③学生は、②の結論を他人に伝えるとともに、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・2・3年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として2人1組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
・4年生は、それに加えゼミ卒論（またはレポート）を作成する。
・その他の内容は、その都度決める。
・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿または半日のオリエンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・ゼミの概要、年間計画、進め方等の確認
第2回	発表・議論の仕方、説得の手法	・映画「12人の怒れる男」 ・スティーブ・ジョブズのプレゼンなど
第3回	英文ケースの報告と議論（1）	・Nkomo et al.(2011)のCase 1
		・同Case 2
第4回	英文ケースの報告と議論（2）	・同Case 8
		・同Case 11
第5回	英文ケースの報告と議論（3）	・同Case 12
		・同Case 13
第6回	英文ケースの報告と議論（4）	・同Case 14
		・同Case 15
第7回	英文ケースの報告と議論（5）	・同Case 25
		・同Case 26
第8回	英文ケースの報告と議論（6）	・同Case 27
		・同Case 34
第9回	英文ケースの報告と議論（7）	・同Case 35
		・同Case 36
第10回	英文ケースの報告と議論（8）	・同Case 37
		・同Case 38
第11回	英文ケースの報告と議論（9）	・同Case 39
		・同Case 51
第12回	英文ケースの報告と議論（10）	・同Case 52
		・同Case 53
第13回	英文ケースの報告と議論（11）	・同Case 54
		・同Case 59
第14回	英文ケースの報告と議論（12）	・同Case 60
		・同Case 65

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。
・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう十分意識するとともに、それを共有、伝承する仕組みを工夫すること。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする（ただし、司会者の準備時間はこの数倍以上）。

【テキスト（教科書）】
・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011)を使う。

【参考書】
・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『人事管理入門（新装版）』（日本経済新聞出版、2022）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることがある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。
・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010）を薦める。

【成績評価の方法と基準】
・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは100%）。
・なお、4年生の場合は、ゼミ卒論（レポート）の内容、質も重視する（平常点が70%、卒論が30%）。ゼミ卒論（レポート）が未提出の場合は、平常点に関わらずE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
・学生主導のゼミ運営、議論中心のスタイルは評価が高いようなので継続する。ただ、時にマンネリ化の傾向も見られるので、必要に応じ工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
・ゼミの報告や議論でオンライン接続が可能なPC（ないしタブレット）を使う場合があることからその準備が必要。

【その他の重要事項】
・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手が容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。
・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。
・担当教員は、1980～89年、（旧）労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】
・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学、人的資源管理など。

【Outline (in English)】
・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.
・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.
・All participants should read the cases before the class. Presenters also need to prepare relevant handouts and to think about the design of discussion.
・The grade is based on the participation and quality of discussion among others. The 4th year students also need to submit the final reports.

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習4

奥西　好夫

演習選択_演習　3年次／3単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろ学生がプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力点を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

【到達目標】
①学生は、自ら適切な課題を見つけることができる。
②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
③学生は、②の結論を他人に伝えるとともに、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・2・3年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として2人1組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
・4年生は、それに加えゼミ卒論（またはレポート）を作成する。
・その他の内容は、その都度決める。
・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿または半日のオリエンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	4年生卒業ゼミ論文計画報告	・テーマ、研究計画の報告
第2回	英文ケースの報告と議論（1）	・Nkomo et al.(2011)のCase 66 ・同Case 67
第3回	英文ケースの報告と議論（2）	・同Case 76 ・同Case 77
第4回	英文ケースの報告と議論（3）	・同Case 78 ・同Case 85
第5回	入ゼミ関係（1）	・入ゼミ選考準備
第6回	入ゼミ関係（2）	・入ゼミ面接、選考
第7回	英文ケースの報告と議論（4）	・同Case 88 ・同Case 89
第8回	英文ケースの報告と議論（5）	・同Case 90 ・同Case 98
第9回	英文ケースの報告と議論（6）	・同Case 99 ・同Case 103
第10回	英文ケースの報告と議論（7）	・同Case 104 ・同Case 105
第11回	英文ケースの報告と議論（8）	・同Case 106
第12回	4年生卒業ゼミ論文中間報告（1）	・研究経過報告（グループ1）
第13回	4年生卒業ゼミ論文中間報告（2）	・研究経過報告（グループ2）
第14回	ゼミのまとめ	・時事的テーマの講義、議論など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。
・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう十分意識するとともに、それを共有、伝承する仕組みを工夫すること。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする（ただし、司会者の準備時間はこの数倍以上）。

【テキスト（教科書）】
・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011)を使う予定。その他、参考文献は適宜指示する。

【参考書】
・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『人事管理入門（新装版）』（日本経済新聞社、2022）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることがある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。
・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010）を薦める。

【成績評価の方法と基準】
・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは100%）。
・なお、4年生の場合は、ゼミ卒論（レポート）の内容、質も重視する（平常点が70%、卒論が30%）。ゼミ卒論（レポート）が未提出の場合は、平常点に関わらずE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
・学生主導のゼミ運営、議論中心のスタイルは評価が高いようなので継続する。ただ、時にマンネリ化の傾向も見られるので、必要に応じ工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
・ゼミの報告や議論でオンライン接続が可能なPC（ないしタブレット）を使う場合があることからその準備が必要。

【その他の重要事項】
・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手が容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。
・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。
・担当教員は、1980～89年、（旧）労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

【【関連科目】】
・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学、人的資源管理など。

【Outline (in English)】
・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.
・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.
・All participants should read the cases before the class. Presenters also need to prepare relevant handouts and to think about the design of discussion.
・The grade is based on the participation and quality of discussion among others. The 4th year students also need to submit the final reports.

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習5

奥西　好夫

演習選択_演習　4年次／3単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろ学生がプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力点を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

【到達目標】
①学生は、自ら適切な課題を見つけることができる。
②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
③学生は、②の結論を他人に伝えるとともに、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・2・3年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として2人1組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
・4年生は、それに加えゼミ卒論（またはレポート）を作成する。
・その他の内容は、その都度決める。
・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿または半日のオリエンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・ゼミの概要、年間計画、進め方等の確認
第2回	発表・議論の仕方、説得の手法	・映画「12人の怒れる男」 ・スティーブ・ジョブズのプレゼンなど
第3回	英文ケースの報告と議論（1）	・Nkomo et al.(2011)のCase 1
		・同Case 2
第4回	英文ケースの報告と議論（2）	・同Case 8
		・同Case 11
第5回	英文ケースの報告と議論（3）	・同Case 12
		・同Case 13
第6回	英文ケースの報告と議論（4）	・同Case 14
		・同Case 15
第7回	英文ケースの報告と議論（5）	・同Case 25
		・同Case 26
第8回	英文ケースの報告と議論（6）	・同Case 27
		・同Case 34
第9回	英文ケースの報告と議論（7）	・同Case 35
		・同Case 36
第10回	英文ケースの報告と議論（8）	・同Case 37
		・同Case 38
第11回	英文ケースの報告と議論（9）	・同Case 39
		・同Case 51
第12回	英文ケースの報告と議論（10）	・同Case 52
		・同Case 53
第13回	英文ケースの報告と議論（11）	・同Case 54
		・同Case 59
第14回	英文ケースの報告と議論（12）	・同Case 60
		・同Case 65

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。
・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう十分意識するとともに、それを共有、伝承する仕組みを工夫すること。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする（ただし、司会者の準備時間はこの数倍以上）。

【テキスト（教科書）】
・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011)を使う。

【参考書】
・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『人事管理入門（新装版）』（日本経済新聞出版、2022）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることがある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。
・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010）を薦める。

【成績評価の方法と基準】
・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは100%）。
・なお、4年生の場合は、ゼミ卒論（レポート）の内容、質も重視する（平常点が70%、卒論が30%）。ゼミ卒論（レポート）が未提出の場合は、平常点に関わらずE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
・学生主導のゼミ運営、議論中心のスタイルは評価が高いようなので継続する。ただ、時にマンネリ化の傾向も見られるので、必要に応じ工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
・ゼミの報告や議論でオンライン接続が可能なPC（ないしタブレット）を使う場合があることからその準備が必要。

【その他の重要事項】
・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手が容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。
・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。
・担当教員は、1980～89年、（旧）労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】
・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学、人的資源管理など。

【Outline (in English)】
・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.
・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.
・All participants should read the cases before the class. Presenters also need to prepare relevant handouts and to think about the design of discussion.
・The grade is based on the participation and quality of discussion among others. The 4th year students also need to submit the final reports.

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

奥西　好夫

演習選択_演習　4年次／3単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろ学生がプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力点を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

【到達目標】
①学生は、自ら適切な課題を見つけることができる。
②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
③学生は、②の結論を他人に伝えるとともに、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・2・3年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として2人1組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
・4年生は、それに加えゼミ卒論（またはレポート）を作成する。
・その他の内容は、その都度決める。
・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿または半日のオリエンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	4年生卒業ゼミ論文計画報告	・テーマ、研究計画の報告
第2回	英文ケースの報告と議論（1）	・Nkomo et al.(2011)のCase 66 ・同Case 67
第3回	英文ケースの報告と議論（2）	・同Case 76 ・同Case 77
第4回	英文ケースの報告と議論（3）	・同Case 78 ・同Case 85
第5回	入ゼミ関係（1）	・入ゼミ選考準備
第6回	入ゼミ関係（2）	・入ゼミ面接、選考
第7回	英文ケースの報告と議論（4）	・同Case 88 ・同Case 89
第8回	英文ケースの報告と議論（5）	・同Case 90 ・同Case 98
第9回	英文ケースの報告と議論（6）	・同Case 99 ・同Case 103
第10回	英文ケースの報告と議論（7）	・同Case 104 ・同Case 105
第11回	英文ケースの報告と議論（8）	・同Case 106
第12回	4年生卒業ゼミ論文中間報告（1）	・研究経過報告（グループ1）
第13回	4年生卒業ゼミ論文中間報告（2）	・研究経過報告（グループ2）
第14回	ゼミのまとめ	・時事的テーマの講義、議論など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。
・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう十分意識するとともに、それを共有、伝承する仕組みを工夫すること。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする（ただし、司会者の準備時間はこの数倍以上）。

【テキスト（教科書）】
・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011)を使う予定。その他、参考文献は適宜指示する。

【参考書】
・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『人事管理入門（新装版）』（日本経済新聞社、2022）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることがある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。
・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010）を薦める。

【成績評価の方法と基準】
・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは100%）。
・なお、4年生の場合は、ゼミ卒論（レポート）の内容、質も重視する（平常点が70%、卒論が30%）。ゼミ卒論（レポート）が未提出の場合は、平常点に関わらずE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
・学生主導のゼミ運営、議論中心のスタイルは評価が高いようなので継続する。ただ、時にマンネリ化の傾向も見られるので、必要に応じ工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
・ゼミの報告や議論でオンライン接続が可能なPC（ないしタブレット）を使う場合があることからその準備が必要。

【その他の重要事項】
・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手が容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。
・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。
・担当教員は、1980～89年、（旧）労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

【【関連科目】】
・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学、人的資源管理など。

【Outline (in English)】
・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.
・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.
・All participants should read the cases before the class. Presenters also need to prepare relevant handouts and to think about the design of discussion.
・The grade is based on the participation and quality of discussion among others. The 4th year students also need to submit the final reports.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習1

岡田　庄生

演習選択_演習　2年次／2単位　［春学期授業/Spring］
この演習は1時限のみです。2時限連続では開講しません。
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本ゼミでは、ブランディングと広告コミュニケーションをテーマに、理論と実践を融合させた学びを目指します。グループワークを通じて課題に取り組み、企画提案やプレゼンテーションを行います。具体的には、企業課題に基づく実践的な演習や、学会の学生参加部門での研究発表に挑戦することを想定しています。
ブランディングや広告の理論をもとに、実践を通じてその効果を検証し、知識を「使える武器」として活用できる力を養います。また、課題解決を通じて自分の強みを発見し、クリエイティビティやリーダーシップを磨き、社会で価値を発揮できるスキルを身につけることを目指します。

【到達目標】
①マーケティングやブランディング、広告コミュニケーションに関する理論を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
②実践的な課題に取り組み、分析や企画立案のスキルを習得する。
③グループワークを通じて、自分の強みを発見し、社会で活躍する基礎力を養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
主に2つのプロジェクトにグループで取り組んでいただきます。
①特定の企業に課題を提示してもらい、企画の作成とプレゼンテーションを実施。優れた企画の実現まで目指す。
②学会等での発表（学生部門）をめざし、グループで研究を行う。
上記の他に、プロジェクトの成功させるために必要な理論の学習や、ゲスト講師による講演も予定しています。
全てのプロジェクトにおいて、学年関係なく議論や発表を行います。
課題への取り組みはもちろん、ゼミ運営にも貢献し、他のメンバーに良い影響を与えることを期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・授業概要の説明 ・年間計画の検討
第2回	プロジェクト:企業課題Ⅰ①	オリエンテーション：課題の説明
第3回	プロジェクト:企業課題Ⅰ②	グループディスカッション
第4回	プロジェクト:企業課題Ⅰ③	グループディスカッション
第5回	プロジェクト:企業課題Ⅰ④	グループディスカッション
第6回	プロジェクト:企業課題Ⅰ⑤	中間報告
第7回	プロジェクト:企業課題Ⅰ⑥	グループディスカッション
第8回	プロジェクト:企業課題Ⅰ⑦	グループディスカッション
第9回	プロジェクト:企業課題Ⅰ⑧	グループディスカッション
第10回	プロジェクト:企業課題Ⅰ⑨	最終プレゼンテーション
第11回	プロジェクト：学会発表①	グループディスカッション
第12回	プロジェクト：学会発表②	グループディスカッション
第13回	プロジェクト：学会発表③	グループディスカッション
第14回	春学期の振り返り	・春学期の振り返り ・秋学期に向けた進め方の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自またはグループの企画課題と研究は、基本的に授業外にも行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。必要に応じて講師から資料を配布します。

【参考書】
山口 義宏『デジタル時代の基礎知識「ブランディング」』翔泳社、2018年

【成績評価の方法と基準】
個人・グループ発表：50%
演習活動への貢献：50%

【学生の意見等からの気づき】
本年度開講のゼミのため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
課題に対応するため、スマートフォンではなくノートPCを持参してください。

【その他の重要事項】
授業計画は、履修者やゲストスピーカーの状況に応じて、事前に説明の上、変更する場合があります。
本演習は、広告会社およびコンサルティング会社で20年間ブランディングに携わった実務経験を持つ教員が担当します。教員の企業ネットワークを活用し、最前線で活躍するプロフェッショナルの話を直接聞く機会や、実際の課題に取り組む場を提供します。また、講師が理事を務める学会での研究発表を通じて、理論と実践のバランスを重視した学びを得ることができます。さらに、講師の新人教育や採用活動の経験を活かし、社会で活躍するために必要なスキルを育む指導を行います。

【関連科目】
マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論である。

【Outline (in English)】
Course outline
This seminar focuses on branding and advertising communication, aiming to integrate theory and practice into the learning experience. Students will engage in group work to tackle challenges, develop proposals, and deliver presentations. Specifically, the seminar envisions practical exercises based on corporate assignments and participation in student research presentations at academic conferences.
Building on the theoretical foundations of branding and advertising, students will validate these concepts through practical applications, turning knowledge into a "usable tool." The seminar aims to develop individuals who can identify their strengths, enhance creativity and leadership skills, and contribute to society through effective problem-solving.
Learning Objectives
1.Understand and articulate theories related to marketing, branding, and advertising communication in clear and precise terms.
2.Develop skills in analysis and proposal creation by tackling real-world challenges.
3.Discover your strengths and build foundational skills for success in society through group work.
Grading Criteria
1.Individual and group presentations: 50%
2.Contribution to exercises and activities: 50%

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

岡田　庄生

演習選択_演習　2年次／2単位　［秋学期授業/Fall］
この演習は１時限のみです。２時限連続では開講しません。
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本ゼミでは、ブランディングと広告コミュニケーションをテーマに、理論と実践を融合させた学びを目指します。グループワークを通じて課題に取り組み、企画提案やプレゼンテーションを行います。具体的には、企業課題に基づく実践的な演習や、学会の学生参加部門での研究発表に挑戦することを想定しています。
ブランディングや広告の理論をもとに、実践を通じてその効果を検証し、知識を「使える武器」として活用できる力を養います。また、課題解決を通じて自分の強みを発見し、クリエイティビティやリーダーシップを磨き、社会で価値を発揮できるスキルを身につけることを目指します。

【到達目標】
①マーケティングやブランディング、広告コミュニケーションに関する理論を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
②実践的な課題に取り組み、分析や企画立案のスキルを習得する。
③グループワークを通じて、自分の強みを発見し、社会で活躍する基礎力を養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
主に2つのプロジェクトにグループで取り組んでいただきます。
①特定の企業に課題を提示してもらい、企画の作成とプレゼンテーションを実施。優れた企画の実現まで目指す。
②学会等での発表（学生部門）をめざし、グループで研究を行う。
上記の他に、プロジェクトの成功させるために必要な理論の学習や、ゲスト講師による講演も予定しています。
全てのプロジェクトにおいて、学年関係なく議論や発表を行います。
課題への取り組みはもちろん、ゼミ運営にも貢献し、他のメンバーに良い影響を与えることを期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期ガイダンス	・授業概要の説明 ・秋学期の計画の検討
第2回	プロジェクト：学会発表④	中間報告
第3回	プロジェクト：学会発表⑤	グループディスカッション
第4回	プロジェクト：学会発表⑥	最終報告
第5回	プロジェクト：学会発表⑦	学会発表ふりかえり
第6回	プロジェクト:企業課題Ⅱ①	オリエンテーション
第7回	プロジェクト:企業課題Ⅱ①	グループディスカッション
第8回	プロジェクト:企業課題Ⅱ②	グループディスカッション
第9回	プロジェクト:企業課題Ⅱ③	グループディスカッション
第10回	プロジェクト:企業課題Ⅱ④	中間報告
第11回	プロジェクト:企業課題Ⅱ⑤	グループディスカッション
第12回	プロジェクト:企業課題Ⅱ⑥	グループディスカッション
第13回	プロジェクト:企業課題Ⅱ⑦	最終プレゼンテーション
第14回	年間の振り返り	・秋学期の振り返り ・次年度に向けた進め方の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自またはグループの企画課題と研究は、基本的に授業外にも行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。必要に応じて講師から資料を配布します。

【参考書】
山口 義宏『デジタル時代の基礎知識「ブランディング」』翔泳社、2018年

【成績評価の方法と基準】
個人・グループ発表：50%
演習活動への貢献：50%

【学生の意見等からの気づき】
本年度開講のゼミのため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
課題に対応するため、スマートフォンではなくノートPCを持参してください。

【その他の重要事項】
授業計画は、履修者やゲストスピーカーの状況に応じて、事前に説明の上、変更する場合があります。
本演習は、広告会社およびコンサルティング会社で20年間ブランディングに携わった実務経験を持つ教員が担当します。教員の企業ネットワークを活用し、最前線で活躍するプロフェッショナルの話を直接聞く機会や、実際の課題に取り組む場を提供します。また、講師が理事を務める学会での研究発表を通じて、理論と実践のバランスを重視した学びを得ることができます。さらに、講師の新人教育や採用活動の経験を活かし、社会で活躍するために必要なスキルを育む指導を行います。

【関連科目】
マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論である。

【Outline (in English)】
Course outline
This seminar focuses on branding and advertising communication, aiming to integrate theory and practice into the learning experience. Students will engage in group work to tackle challenges, develop proposals, and deliver presentations. Specifically, the seminar envisions practical exercises based on corporate assignments and participation in student research presentations at academic conferences.
Building on the theoretical foundations of branding and advertising, students will validate these concepts through practical applications, turning knowledge into a "usable tool." The seminar aims to develop individuals who can identify their strengths, enhance creativity and leadership skills, and contribute to society through effective problem-solving.
Learning Objectives
1.Understand and articulate theories related to marketing, branding, and advertising communication in clear and precise terms.
2.Develop skills in analysis and proposal creation by tackling real-world challenges.
3.Discover your strengths and build foundational skills for success in society through group work.
Grading Criteria
1.Individual and group presentations: 50%
2.Contribution to exercises and activities: 50%

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習3

岡田　庄生

演習選択_演習　3年次／2単位　［春学期授業/Spring］
この演習は１時限のみです。２時限連続では開講しません。
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本ゼミでは、ブランディングと広告コミュニケーションをテーマに、理論と実践を融合させた学びを目指します。グループワークを通じて課題に取り組み、企画提案やプレゼンテーションを行います。具体的には、企業課題に基づく実践的な演習や、学会の学生参加部門での研究発表に挑戦することを想定しています。
ブランディングや広告の理論をもとに、実践を通じてその効果を検証し、知識を「使える武器」として活用できる力を養います。また、課題解決を通じて自分の強みを発見し、クリエイティビティやリーダーシップを磨き、社会で価値を発揮できるスキルを身につけることを目指します。

【到達目標】
①マーケティングやブランディング、広告コミュニケーションに関する理論を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
②実践的な課題に取り組み、分析や企画立案のスキルを習得する。
③グループワークを通じて、自分の強みを発見し、社会で活躍する基礎力を養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
主に2つのプロジェクトにグループで取り組んでいただきます。
①特定の企業に課題を提示してもらい、企画の作成とプレゼンテーションを実施。優れた企画の実現まで目指す。
②学会等での発表（学生部門）をめざし、グループで研究を行う。
上記の他に、プロジェクトの成功させるために必要な理論の学習や、ゲスト講師による講演も予定しています。
全てのプロジェクトにおいて、学年関係なく議論や発表を行います。
課題への取り組みはもちろん、ゼミ運営にも貢献し、他のメンバーに良い影響を与えることを期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・授業概要の説明 ・年間計画の検討
第2回	プロジェクト:企業課題Ⅰ①	オリエンテーション：課題の説明
第3回	プロジェクト:企業課題Ⅰ②	グループディスカッション
第4回	プロジェクト:企業課題Ⅰ③	グループディスカッション
第5回	プロジェクト:企業課題Ⅰ④	グループディスカッション
第6回	プロジェクト:企業課題Ⅰ⑤	中間報告
第7回	プロジェクト:企業課題Ⅰ⑥	グループディスカッション
第8回	プロジェクト:企業課題Ⅰ⑦	グループディスカッション
第9回	プロジェクト:企業課題Ⅰ⑧	グループディスカッション
第10回	プロジェクト:企業課題Ⅰ⑨	最終プレゼンテーション
第11回	プロジェクト：学会発表①	グループディスカッション
第12回	プロジェクト：学会発表②	グループディスカッション
第13回	プロジェクト：学会発表③	グループディスカッション
第14回	春学期の振り返り	・春学期の振り返り ・秋学期に向けた進め方の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自またはグループの企画課題と研究は、基本的に授業外にも行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。必要に応じて講師から資料を配布します。

【参考書】
山口 義宏『デジタル時代の基礎知識「ブランディング」』翔泳社、2018年

【成績評価の方法と基準】
個人・グループ発表：50%
演習活動への貢献：50%

【学生の意見等からの気づき】
本年度開講のゼミのため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
課題に対応するため、スマートフォンではなくノートPCを持参してください。

【その他の重要事項】
授業計画は、履修者やゲストスピーカーの状況に応じて、事前に説明の上、変更する場合があります。
本演習は、広告会社およびコンサルティング会社で20年間ブランディングに携わった実務経験を持つ教員が担当します。教員の企業ネットワークを活用し、最前線で活躍するプロフェッショナルの話を直接聞く機会や、実際の課題に取り組む場を提供します。また、講師が理事を務める学会での研究発表を通じて、理論と実践のバランスを重視した学びを得ることができます。さらに、講師の新人教育や採用活動の経験を活かし、社会で活躍するために必要なスキルを育む指導を行います。

【関連科目】
マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論である。

【Outline (in English)】
Course outline
This seminar focuses on branding and advertising communication, aiming to integrate theory and practice into the learning experience. Students will engage in group work to tackle challenges, develop proposals, and deliver presentations. Specifically, the seminar envisions practical exercises based on corporate assignments and participation in student research presentations at academic conferences.
Building on the theoretical foundations of branding and advertising, students will validate these concepts through practical applications, turning knowledge into a "usable tool." The seminar aims to develop individuals who can identify their strengths, enhance creativity and leadership skills, and contribute to society through effective problem-solving.
Learning Objectives
1.Understand and articulate theories related to marketing, branding, and advertising communication in clear and precise terms.
2.Develop skills in analysis and proposal creation by tackling real-world challenges.
3.Discover your strengths and build foundational skills for success in society through group work.
Grading Criteria
1.Individual and group presentations: 50%
2.Contribution to exercises and activities: 50%

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習４

岡田　庄生

演習選択_演習　3年次／2単位　［秋学期授業/Fall］
この演習は１時限のみです。２時限連続では開講しません。
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本ゼミでは、ブランディングと広告コミュニケーションをテーマに、理論と実践を融合させた学びを目指します。グループワークを通じて課題に取り組み、企画提案やプレゼンテーションを行います。具体的には、企業課題に基づく実践的な演習や、学会の学生参加部門での研究発表に挑戦することを想定しています。
ブランディングや広告の理論をもとに、実践を通じてその効果を検証し、知識を「使える武器」として活用できる力を養います。また、課題解決を通じて自分の強みを発見し、クリエイティビティやリーダーシップを磨き、社会で価値を発揮できるスキルを身につけることを目指します。

【到達目標】
①マーケティングやブランディング、広告コミュニケーションに関する理論を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
②実践的な課題に取り組み、分析や企画立案のスキルを習得する。
③グループワークを通じて、自分の強みを発見し、社会で活躍する基礎力を養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
主に2つのプロジェクトにグループで取り組んでいただきます。
①特定の企業に課題を提示してもらい、企画の作成とプレゼンテーションを実施。優れた企画の実現まで目指す。
②学会等での発表（学生部門）をめざし、グループで研究を行う。
上記の他に、プロジェクトの成功させるために必要な理論の学習や、ゲスト講師による講演も予定しています。
全てのプロジェクトにおいて、学年関係なく議論や発表を行います。
課題への取り組みはもちろん、ゼミ運営にも貢献し、他のメンバーに良い影響を与えることを期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期ガイダンス	・授業概要の説明 ・秋学期の計画の検討
第2回	プロジェクト：学会発表④	中間報告
第3回	プロジェクト：学会発表⑤	グループディスカッション
第4回	プロジェクト：学会発表⑥	最終報告
第5回	プロジェクト：学会発表⑦	学会発表ふりかえり
第6回	プロジェクト:企業課題Ⅱ①	オリエンテーション
第7回	プロジェクト:企業課題Ⅱ①	グループディスカッション
第8回	プロジェクト:企業課題Ⅱ②	グループディスカッション
第9回	プロジェクト:企業課題Ⅱ③	グループディスカッション
第10回	プロジェクト:企業課題Ⅱ④	中間報告
第11回	プロジェクト:企業課題Ⅱ⑤	グループディスカッション
第12回	プロジェクト:企業課題Ⅱ⑥	グループディスカッション
第13回	プロジェクト:企業課題Ⅱ⑦	最終プレゼンテーション
第14回	年間の振り返り	・秋学期の振り返り ・次年度に向けた進め方の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自またはグループの企画課題と研究は、基本的に授業外にも行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。必要に応じて講師から資料を配布します。

【参考書】
山口 義宏『デジタル時代の基礎知識「ブランディング」』翔泳社、2018年

【成績評価の方法と基準】
個人・グループ発表：50%
演習活動への貢献：50%

【学生の意見等からの気づき】
本年度開講のゼミのため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
課題に対応するため、スマートフォンではなくノートPCを持参してください。

【その他の重要事項】
授業計画は、履修者やゲストスピーカーの状況に応じて、事前に説明の上、変更する場合があります。
本演習は、広告会社およびコンサルティング会社で20年間ブランディングに携わった実務経験を持つ教員が担当します。教員の企業ネットワークを活用し、最前線で活躍するプロフェッショナルの話を直接聞く機会や、実際の課題に取り組む場を提供します。また、講師が理事を務める学会での研究発表を通じて、理論と実践のバランスを重視した学びを得ることができます。さらに、講師の新人教育や採用活動の経験を活かし、社会で活躍するために必要なスキルを育む指導を行います。

【関連科目】
マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論である。

【Outline (in English)】
Course outline
This seminar focuses on branding and advertising communication, aiming to integrate theory and practice into the learning experience. Students will engage in group work to tackle challenges, develop proposals, and deliver presentations. Specifically, the seminar envisions practical exercises based on corporate assignments and participation in student research presentations at academic conferences.
Building on the theoretical foundations of branding and advertising, students will validate these concepts through practical applications, turning knowledge into a "usable tool." The seminar aims to develop individuals who can identify their strengths, enhance creativity and leadership skills, and contribute to society through effective problem-solving.
Learning Objectives
1.Understand and articulate theories related to marketing, branding, and advertising communication in clear and precise terms.
2.Develop skills in analysis and proposal creation by tackling real-world challenges.
3.Discover your strengths and build foundational skills for success in society through group work.
Grading Criteria
1.Individual and group presentations: 50%
2.Contribution to exercises and activities: 50%

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習5

岡田　庄生

演習選択_演習　4年次／2単位　［春学期授業/Spring］
この演習は１時限のみです。２時限連続では開講しません。
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本ゼミでは、ブランディングと広告コミュニケーションをテーマに、理論と実践を融合させた学びを目指します。グループワークを通じて課題に取り組み、企画提案やプレゼンテーションを行います。具体的には、企業課題に基づく実践的な演習や、学会の学生参加部門での研究発表に挑戦することを想定しています。
ブランディングや広告の理論をもとに、実践を通じてその効果を検証し、知識を「使える武器」として活用できる力を養います。また、課題解決を通じて自分の強みを発見し、クリエイティビティやリーダーシップを磨き、社会で価値を発揮できるスキルを身につけることを目指します。

【到達目標】
①マーケティングやブランディング、広告コミュニケーションに関する理論を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
②実践的な課題に取り組み、分析や企画立案のスキルを習得する。
③グループワークを通じて、自分の強みを発見し、社会で活躍する基礎力を養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
主に2つのプロジェクトにグループで取り組んでいただきます。
①特定の企業に課題を提示してもらい、企画の作成とプレゼンテーションを実施。優れた企画の実現まで目指す。
②学会等での発表（学生部門）をめざし、グループで研究を行う。
上記の他に、プロジェクトの成功させるために必要な理論の学習や、ゲスト講師による講演も予定しています。
全てのプロジェクトにおいて、学年関係なく議論や発表を行います。
課題への取り組みはもちろん、ゼミ運営にも貢献し、他のメンバーに良い影響を与えることを期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・授業概要の説明 ・年間計画の検討
第2回	プロジェクト:企業課題Ⅰ①	オリエンテーション：課題の説明
第3回	プロジェクト:企業課題Ⅰ②	グループディスカッション
第4回	プロジェクト:企業課題Ⅰ③	グループディスカッション
第5回	プロジェクト:企業課題Ⅰ④	グループディスカッション
第6回	プロジェクト:企業課題Ⅰ⑤	中間報告
第7回	プロジェクト:企業課題Ⅰ⑥	グループディスカッション
第8回	プロジェクト:企業課題Ⅰ⑦	グループディスカッション
第9回	プロジェクト:企業課題Ⅰ⑧	グループディスカッション
第10回	プロジェクト:企業課題Ⅰ⑨	最終プレゼンテーション
第11回	プロジェクト：学会発表①	グループディスカッション
第12回	プロジェクト：学会発表②	グループディスカッション
第13回	プロジェクト：学会発表③	グループディスカッション
第14回	春学期の振り返り	・春学期の振り返り ・秋学期に向けた進め方の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自またはグループの企画課題と研究は、基本的に授業外にも行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。必要に応じて講師から資料を配布します。

【参考書】
山口 義宏『デジタル時代の基礎知識「ブランディング」』翔泳社、2018年

【成績評価の方法と基準】
個人・グループ発表：50%
演習活動への貢献：50%

【学生の意見等からの気づき】
本年度開講のゼミのため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
課題に対応するため、スマートフォンではなくノートPCを持参してください。

【その他の重要事項】
授業計画は、履修者やゲストスピーカーの状況に応じて、事前に説明の上、変更する場合があります。
本演習は、広告会社およびコンサルティング会社で20年間ブランディングに携わった実務経験を持つ教員が担当します。教員の企業ネットワークを活用し、最前線で活躍するプロフェッショナルの話を直接聞く機会や、実際の課題に取り組む場を提供します。また、講師が理事を務める学会での研究発表を通じて、理論と実践のバランスを重視した学びを得ることができます。さらに、講師の新人教育や採用活動の経験を活かし、社会で活躍するために必要なスキルを育む指導を行います。

【関連科目】
マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論である。

【Outline (in English)】
Course outline
This seminar focuses on branding and advertising communication, aiming to integrate theory and practice into the learning experience. Students will engage in group work to tackle challenges, develop proposals, and deliver presentations. Specifically, the seminar envisions practical exercises based on corporate assignments and participation in student research presentations at academic conferences.
Building on the theoretical foundations of branding and advertising, students will validate these concepts through practical applications, turning knowledge into a "usable tool." The seminar aims to develop individuals who can identify their strengths, enhance creativity and leadership skills, and contribute to society through effective problem-solving.
Learning Objectives
1.Understand and articulate theories related to marketing, branding, and advertising communication in clear and precise terms.
2.Develop skills in analysis and proposal creation by tackling real-world challenges.
3.Discover your strengths and build foundational skills for success in society through group work.
Grading Criteria
1.Individual and group presentations: 50%
2.Contribution to exercises and activities: 50%

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

岡田　庄生

演習選択_演習　4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］
この演習は１時限のみです。２時限連続では開講しません。
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本ゼミでは、ブランディングと広告コミュニケーションをテーマに、理論と実践を融合させた学びを目指します。グループワークを通じて課題に取り組み、企画提案やプレゼンテーションを行います。具体的には、企業課題に基づく実践的な演習や、学会の学生参加部門での研究発表に挑戦することを想定しています。
ブランディングや広告の理論をもとに、実践を通じてその効果を検証し、知識を「使える武器」として活用できる力を養います。また、課題解決を通じて自分の強みを発見し、クリエイティビティやリーダーシップを磨き、社会で価値を発揮できるスキルを身につけることを目指します。

【到達目標】
①マーケティングやブランディング、広告コミュニケーションに関する理論を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
②実践的な課題に取り組み、分析や企画立案のスキルを習得する。
③グループワークを通じて、自分の強みを発見し、社会で活躍する基礎力を養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
主に2つのプロジェクトにグループで取り組んでいただきます。
①特定の企業に課題を提示してもらい、企画の作成とプレゼンテーションを実施。優れた企画の実現まで目指す。
②学会等での発表（学生部門）をめざし、グループで研究を行う。
上記の他に、プロジェクトの成功させるために必要な理論の学習や、ゲスト講師による講演も予定しています。
全てのプロジェクトにおいて、学年関係なく議論や発表を行います。
課題への取り組みはもちろん、ゼミ運営にも貢献し、他のメンバーに良い影響を与えることを期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期ガイダンス	・授業概要の説明 ・秋学期の計画の検討
第2回	プロジェクト：学会発表④	中間報告
第3回	プロジェクト：学会発表⑤	グループディスカッション
第4回	プロジェクト：学会発表⑥	最終報告
第5回	プロジェクト：学会発表⑦	学会発表ふりかえり
第6回	プロジェクト:企業課題Ⅱ①	オリエンテーション
第7回	プロジェクト:企業課題Ⅱ①	グループディスカッション
第8回	プロジェクト:企業課題Ⅱ②	グループディスカッション
第9回	プロジェクト:企業課題Ⅱ③	グループディスカッション
第10回	プロジェクト:企業課題Ⅱ④	中間報告
第11回	プロジェクト:企業課題Ⅱ⑤	グループディスカッション
第12回	プロジェクト:企業課題Ⅱ⑥	グループディスカッション
第13回	プロジェクト:企業課題Ⅱ⑦	最終プレゼンテーション
第14回	年間の振り返り	・秋学期の振り返り ・次年度に向けた進め方の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自またはグループの企画課題と研究は、基本的に授業外にも行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。必要に応じて講師から資料を配布します。

【参考書】
山口 義宏『デジタル時代の基礎知識「ブランディング」』翔泳社、2018年

【成績評価の方法と基準】
個人・グループ発表：50%
演習活動への貢献：50%

【学生の意見等からの気づき】
本年度開講のゼミのため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
課題に対応するため、スマートフォンではなくノートPCを持参してください。

【その他の重要事項】
授業計画は、履修者やゲストスピーカーの状況に応じて、事前に説明の上、変更する場合があります。
本演習は、広告会社およびコンサルティング会社で20年間ブランディングに携わった実務経験を持つ教員が担当します。教員の企業ネットワークを活用し、最前線で活躍するプロフェッショナルの話を直接聞く機会や、実際の課題に取り組む場を提供します。また、講師が理事を務める学会での研究発表を通じて、理論と実践のバランスを重視した学びを得ることができます。さらに、講師の新人教育や採用活動の経験を活かし、社会で活躍するために必要なスキルを育む指導を行います。

【関連科目】
マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論である。

【Outline (in English)】
Course outline
This seminar focuses on branding and advertising communication, aiming to integrate theory and practice into the learning experience. Students will engage in group work to tackle challenges, develop proposals, and deliver presentations. Specifically, the seminar envisions practical exercises based on corporate assignments and participation in student research presentations at academic conferences.
Building on the theoretical foundations of branding and advertising, students will validate these concepts through practical applications, turning knowledge into a "usable tool." The seminar aims to develop individuals who can identify their strengths, enhance creativity and leadership skills, and contribute to society through effective problem-solving.
Learning Objectives
1.Understand and articulate theories related to marketing, branding, and advertising communication in clear and precise terms.
2.Develop skills in analysis and proposal creation by tackling real-world challenges.
3.Discover your strengths and build foundational skills for success in society through group work.
Grading Criteria
1.Individual and group presentations: 50%
2.Contribution to exercises and activities: 50%

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習1

平田　英明

演習選択_演習　2年次／3単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論理的に考え、現実がどの程度論理的に考えた帰結と整合的／非整合的かということをしっかり説明できるように、つまりものごとをしっかりと「つかむ（把握する）」能力を身につけることです。
経営や経済といった分野では、データで客観的な状況を捉えることが非常に多く、これらのデータを正確に理解し、データを的確に用いて様々な分析をできることが肝要です。テクニックとしてコンピューターによるデータ処理方法を学ぶことは当然ですが、それ以上に大事なのが分析の目的に照らし合わせて適切な分析方法を考えていくことです。様々な事例を学び、実際にそれを使ってみることをクラスの中で繰り返し行っていきます。

【到達目標】
経済学の理論と実証の基礎を学び、経済分析の仕方を身につけることを学習目標とします。具体的には、経営や経済の基本的なテキストから基本的な事実を学び、それに関連する派生的な具体例について学びます。同時に、統計分析の基本をPC演習を通じて学んでいきます。実際の経済事象やビジネス動向について、仮説を立て、理論的な考察を試み、それをデータを用いて検証できるようになることが最終的な目的です。
そして、学生の関心のある事象に関する実証研究を夏休みにグループ単位で行って貰います。これを学内懸賞論文や日銀の懸賞論文等に応募し、毎年各種の賞の受賞を果たしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
３－４つのグループで輪読を行ってもらいます。日本経済がなぜこれほどにpoor performingなのかを理解していく上で、基礎的な理解となる生産性に関する書籍をじっくり読み進めていきます。同時に実証分析のツールを学ぶために、直観的な理解のしやすい計量分析の教科書も輪読します。なお、他大学とのインゼミを行う予定です。
学生へのフィードバックはプレゼンテーション、発言に対してその都度きめ細かく行います。
対面／オンラインについては、柔軟に運用していく予定ですが、さしあたりは、対面を基本としておきます。
なお、テキストについては別途、ゼミ生専用のLineにて指示をする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミの進め方	ゼミ運営について話します
	テキスト2	1章＋補論の輪読
第2回	テキスト2	2章と3章の輪読
第3回	テキスト1	1章の輪読
	テキスト2	4章の輪読
第4回	テキスト1	2章の輪読
	テキスト2	5章の輪読
第5回	テキスト1	3章の輪読
	テキスト3	1章の輪読
第6回	テキスト3	コンピュータ演習1
	懸賞論文	キックオフ会議
第7回	テキスト1	4章の輪読
	テキスト3	2章の輪読
第8回	テキスト1	5章の輪読
	テキスト3	3章の輪読
第9回	懸賞論文	懸賞論文のテーマ・プレゼン
第10回	テキスト1	6章の輪読
	テキスト3	4章の輪読
第11回	テキスト1	コンピュータ演習2
第12回	懸賞論文	懸賞論文に関する進捗状況の報告
第13回	テキスト1	コンピュータ演習3
	テキスト3	5章の輪読
第14回	懸賞論文	懸賞論文のテーマ確定＋準備作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の範囲だけでなく、幅広い資料に触れ、自発的に授業に向けた準備をしてくることが大前提です。受け身では、何も身につきません。主体性を持って学習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
1．伊藤萬里・田中鮎夢(2022)『現実から学ぶ国際経済学』(有斐閣)
2．江崎貴裕(2020)『分析者のためのデータ解釈学入門』（ソシム）
3．山本勲(2015)『実証分析のための計量経済学』（中央経済社）

【参考書】
1．伊藤元重『ゼミナール　国際経済学入門』（日本経済新聞出版）
2．福田 慎一・照山 博司 『マクロ経済学・入門 』(有斐閣)
3．蓑谷千凰彦『計量経済学』（東洋経済）

【成績評価の方法と基準】
ゼミでの報告（75%）、日頃の学習態度(25%)で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
懸賞論文は希望者のみが取り組むこととします。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（カメラ、マイク等のインフラも含む）

【その他の重要事項】
ゼミの場は、「知的議論を行う真剣勝負の場」であると考え、毎週のゼミに向けた準備をしっかりと行う意志のある学生を歓迎します。２－３年生に関しては、各学期で合計で３回以上、通年で４回以上、合理的な理由無く欠席した場合、特別な理由を除き、自動的にD評価となります。
ゼミへの出席は不可欠であり、ゼミ中の私語・携帯電話はご遠慮頂きます。
ゼミ生は、日本経済論、国際金融論、国際経済論、産業組織論、統計関連科目の履修を原則とします。
担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline (in English)】
The objective of this course is to think about every business and economic phenomenon analytically and logically. In so doing, class participation and presentation are required.
In fields such as business and economics, data is often used to grasp objective situations, and it is essential to understand these data correctly and to be able to analyze the data accurately. It is natural to learn how to process data by computer as a technique, but what is more important is to consider the appropriate method of analysis in light of the purpose of the analysis. Students will learn a variety of examples and try to examine case studies repeatedly in class.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

平田　英明

演習選択_演習　2年次／3単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論理的に考え、現実がどの程度論理的に考えた帰結と整合的／非整合的かということをしっかり説明できるように、つまりものごとをしっかりと「つかむ（把握する）」能力を身につけることです。
経営や経済といった分野では、データで客観的な状況を捉えることが非常に多く、これらのデータを正確に理解し、データを的確に用いて様々な分析をできることが肝要です。テクニックとしてコンピューターによるデータ処理方法を学ぶことは当然ですが、それ以上に大事なのが分析の目的に照らし合わせて適切な分析方法を考えていくことです。様々な事例を学び、実際にそれを使ってみることをクラスの中で繰り返し行っていきます。

【到達目標】
経済学の理論と実証の基礎を学び、経済分析の仕方を身につけることを学習目標とします。具体的には、経営や経済の基本的なテキストから基本的な事実を学び、それに関連する派生的な具体例について学びます。同時に、統計分析の基本を PC 演習を通じて学んでいきます。実際の経済事象やビジネス動向について、仮説を立て、理論的な考察を試み、それをデータを用いて検証できるようになることが最終的な目的です。
そして、学生の関心のある事象に関する実証研究を夏休みにグループ単位で行って貰います。これを学内懸賞論文や日銀の懸賞論文等に応募し、毎年各種の賞の受賞を果たしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
３－４つのグループで輪読を行ってもらいます。日本経済がなぜこれほどに poor performing なのかを理解していく上で、基礎的な理解となる金融に関する書籍をじっくり読み進めていきます。同時に実証分析のツールを学ぶために、直観的な理解のしやすい計量分析の教科書も輪読します。なお、他大学とのインゼミを行う予定です。
学生へのフィードバックはプレゼンテーション、発言に対してその都度きめ細かく行います。
対面／オンラインについては、柔軟に運用していく予定ですが、さしあたりは、対面を基本としておきます。
なお、テキストについては別途、ゼミ生専用のLineにて指示をする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	懸賞論文１	懸賞論文の修正作業をします。
第2回	懸賞論文２	懸賞論文の仕上げ作業をします。
第3回	テキスト１	１章の輪読
	テキスト２	
第4回	テキスト１	２章の輪読
	テキスト２	
第5回	テキスト１	３章の輪読
	テキスト２	
第6回	コンピュータ演習１	コンピュータ演習
第7回	テキスト１	４章の輪読
	テキスト２	
第8回	テキスト１	５章の輪読
	テキスト２	
第9回	インゼミ１	明治大学とのインゼミ
第10回	インゼミ２	慶應大学とのインゼミ
第11回	インゼミ３	神奈川大学とのインゼミ
第12回	コンピュータ演習２	コンピュータ演習
第13回	テキスト１	６章の輪読
	テキスト２	
第14回	テキスト１	７章の輪読
	テキスト２	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の範囲だけでなく、幅広い資料に触れ、自発的に授業に向けた準備をしてくることが大前提です。受け身では、何も身につきません。主体性を持って学習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
１．未定（春学期からの輪読状況を踏まえて決める）

【参考書】
１．伊藤元重『ゼミナール　国際経済学入門』（日本経済新聞出版）
２．福田 慎一・照山 博司 『マクロ経済学・入門 』(有斐閣)
３．蓑谷千凰彦『計量経済学』（東洋経済）

【成績評価の方法と基準】
ゼミでの報告（75%）、日頃の学習態度(25%)で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
懸賞論文は希望者のみが取り組むこととします。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（カメラ、マイク等のインフラも含む）

【その他の重要事項】
ゼミの場は、「知的議論を行う真剣勝負の場」であると考え、毎週のゼミに向けた準備をしっかりと行う意志のある学生を歓迎します。２－３年生に関しては、各学期で合計で３回以上、通年で４回以上、合理的な理由無く欠席した場合、特別な理由を除き、自動的にD評価となります。
ゼミへの出席は不可欠であり、ゼミ中の私語・携帯電話はご遠慮頂きます。
ゼミ生は、日本経済論、国際金融論、国際経済論、産業組織論、統計関連科目の履修を原則とします。
担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline (in English)】
The objective of this course is to think about every business and economic phenomenon analytically and logically. In so doing, class participation and presentation are required.
In fields such as business and economics, data is often used to grasp objective situations, and it is essential to understand these data correctly and to be able to analyze the data accurately. It is natural to learn how to process data by computer as a technique, but what is more important is to consider the appropriate method of analysis in light of the purpose of the analysis. Students will learn a variety of examples and try to examine case studies repeatedly in class.

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習3

平田　英明

演習選択_演習　3年次／3単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論理的に考え、現実がどの程度論理的に考えた帰結と整合的／非整合的かということをしっかり説明できるように、つまりものごとをしっかりと「つかむ（把握する）」能力を身につけることです。
経営や経済といった分野では、データで客観的な状況を捉えることが非常に多く、これらのデータを正確に理解し、データを的確に用いて様々な分析をできることが肝要です。テクニックとしてコンピューターによるデータ処理方法を学ぶことは当然ですが、それ以上に大事なのが分析の目的に照らし合わせて適切な分析方法を考えていくことです。様々な事例を学び、実際にそれを使ってみることをクラスの中で繰り返し行っていきます。

【到達目標】
経済学の理論と実証の基礎を学び、経済分析の仕方を身につけることを学習目標とします。具体的には、経営や経済の基本的なテキストから基本的な事実を学び、それに関連する派生的な具体例について学びます。同時に、統計分析の基本をPC演習を通じて学んでいきます。実際の経済事象やビジネス動向について、仮説を立て、理論的な考察を試み、それをデータを用いて検証できるようになることが最終的な目的です。
そして、学生の関心のある事象に関する実証研究を夏休みにグループ単位で行って貰います。これを学内懸賞論文や日銀の懸賞論文等に応募し、毎年各種の賞の受賞を果たしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
３－４つのグループで輪読を行ってもらいます。日本経済がなぜこれほどにpoor performingなのかを理解していく上で、基礎的な理解となる生産性に関する書籍をじっくり読み進めていきます。同時に実証分析のツールを学ぶために、直観的な理解のしやすい計量分析の教科書も輪読します。なお、他大学とのインゼミを行う予定です。
学生へのフィードバックはプレゼンテーション、発言に対してその都度きめ細かく行います。
対面／オンラインについては、柔軟に運用していく予定ですが、さしあたりは、対面を基本としておきます。
なお、テキストについては別途、ゼミ生専用のLineにて指示をする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミの進め方	ゼミ運営について話します
	テキスト2	1章＋補論の輪読
第2回	テキスト2	2章と3章の輪読
第3回	テキスト1	1章の輪読
	テキスト2	4章の輪読
第4回	テキスト1	2章の輪読
	テキスト2	5章の輪読
第5回	テキスト1	3章の輪読
	テキスト3	1章の輪読
第6回	テキスト3	コンピュータ演習1
	懸賞論文	キックオフ会議
第7回	テキスト1	4章の輪読
	テキスト3	2章の輪読
第8回	テキスト1	5章の輪読
	テキスト3	3章の輪読
第9回	懸賞論文	懸賞論文のテーマ・プレゼン
第10回	テキスト1	6章の輪読
	テキスト3	4章の輪読
第11回	テキスト1	コンピュータ演習2
第12回	懸賞論文	懸賞論文に関する進捗状況の報告
第13回	テキスト1	コンピュータ演習3
	テキスト3	5章の輪読
第14回	懸賞論文	懸賞論文のテーマ確定＋準備作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の範囲だけでなく、幅広い資料に触れ、自発的に授業に向けた準備をしてくることが大前提です。受け身では、何も身につきません。主体性を持って学習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
1．伊藤萬里・田中鮎夢(2022)『現実から学ぶ国際経済学』(有斐閣)
2．江崎貴裕(2020)『分析者のためのデータ解釈学入門』（ソシム）
3．山本勲(2015)『実証分析のための計量経済学』（中央経済社）

【参考書】
1．伊藤元重『ゼミナール　国際経済学入門』（日本経済新聞出版）
2．福田 慎一・照山 博司 『マクロ経済学・入門 』(有斐閣)
3．蓑谷千凰彦『計量経済学』（東洋経済）

【成績評価の方法と基準】
ゼミでの報告（75%）、日頃の学習態度(25%)で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
懸賞論文は希望者のみが取り組むこととします。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（カメラ、マイク等のインフラも含む）

【その他の重要事項】
ゼミの場は、「知的議論を行う真剣勝負の場」であると考え、毎週のゼミに向けた準備をしっかりと行う意志のある学生を歓迎します。２－３年生に関しては、各学期で合計で３回以上、通年で４回以上、合理的な理由無く欠席した場合、特別な理由を除き、自動的にD評価となります。
ゼミへの出席は不可欠であり、ゼミ中の私語・携帯電話はご遠慮頂きます。
ゼミ生は、日本経済論、国際金融論、国際経済論、産業組織論、統計関連科目の履修を原則とします。
担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline (in English)】
The objective of this course is to think about every business and economic phenomenon analytically and logically. In so doing, class participation and presentation are required.
In fields such as business and economics, data is often used to grasp objective situations, and it is essential to understand these data correctly and to be able to analyze the data accurately. It is natural to learn how to process data by computer as a technique, but what is more important is to consider the appropriate method of analysis in light of the purpose of the analysis. Students will learn a variety of examples and try to examine case studies repeatedly in class.

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習４

平田　英明

演習選択_演習　3年次／3単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論理的に考え、現実がどの程度論理的に考えた帰結と整合的／非整合的かということをしっかり説明できるように、つまりものごとをしっかりと「つかむ（把握する）」能力を身につけることです。
経営や経済といった分野では、データで客観的な状況を捉えることが非常に多く、これらのデータを正確に理解し、データを的確に用いて様々な分析をできることが肝要です。テクニックとしてコンピューターによるデータ処理方法を学ぶことは当然ですが、それ以上に大事なのが分析の目的に照らし合わせて適切な分析方法を考えていくことです。様々な事例を学び、実際にそれを使ってみることをクラスの中で繰り返し行っていきます。

【到達目標】
経済学の理論と実証の基礎を学び、経済分析の仕方を身につけることを学習目標とします。具体的には、経営や経済の基本的なテキストから基本的な事実を学び、それに関連する派生的な具体例について学びます。同時に、統計分析の基本を PC 演習を通じて学んでいきます。実際の経済事象やビジネス動向について、仮説を立て、理論的な考察を試み、それをデータを用いて検証できるようになることが最終的な目的です。
そして、学生の関心のある事象に関する実証研究を夏休みにグループ単位で行って貰います。これを学内懸賞論文や日銀の懸賞論文等に応募し、毎年各種の賞の受賞を果たしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
３－４つのグループで輪読を行ってもらいます。日本経済がなぜこれほどに poor performing なのかを理解していく上で、基礎的な理解となる金融に関する書籍をじっくり読み進めていきます。同時に実証分析のツールを学ぶために、直観的な理解のしやすい計量分析の教科書も輪読します。なお、他大学とのインゼミを行う予定です。
学生へのフィードバックはプレゼンテーション、発言に対してその都度きめ細かく行います。
対面／オンラインについては、柔軟に運用していく予定ですが、さしあたりは、対面を基本としておきます。
なお、テキストについては別途、ゼミ生専用のLineにて指示をする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	懸賞論文１	懸賞論文の修正作業をします。
第2回	懸賞論文２	懸賞論文の仕上げ作業をします。
第3回	テキスト１	１章の輪読
	テキスト２	
第4回	テキスト１	２章の輪読
	テキスト２	
第5回	テキスト１	３章の輪読
	テキスト２	
第6回	コンピュータ演習１	コンピュータ演習
第7回	テキスト１	４章の輪読
	テキスト２	
第8回	テキスト１	５章の輪読
	テキスト２	
第9回	インゼミ１	明治大学とのインゼミ
第10回	インゼミ２	慶應大学とのインゼミ
第11回	インゼミ３	神奈川大学とのインゼミ
第12回	コンピュータ演習２	コンピュータ演習
第13回	テキスト１	６章の輪読
	テキスト２	
第14回	テキスト１	７章の輪読
	テキスト２	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の範囲だけでなく、幅広い資料に触れ、自発的に授業に向けた準備をしてくることが大前提です。受け身では、何も身につきません。主体性を持って学習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
１．未定（春学期からの輪読状況を踏まえて決める）

【参考書】
１．伊藤元重『ゼミナール　国際経済学入門』（日本経済新聞出版）
２．福田 慎一・照山 博司 『マクロ経済学・入門 』(有斐閣)
３．蓑谷千凰彦『計量経済学』（東洋経済）

【成績評価の方法と基準】
ゼミでの報告（75%）、日頃の学習態度(25%)で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
懸賞論文は希望者のみが取り組むこととします。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（カメラ、マイク等のインフラも含む）

【その他の重要事項】
ゼミの場は、「知的議論を行う真剣勝負の場」であると考え、毎週のゼミに向けた準備をしっかりと行う意志のある学生を歓迎します。２－３年生に関しては、各学期で合計で３回以上、通年で４回以上、合理的な理由無く欠席した場合、特別な理由を除き、自動的にD評価となります。
ゼミへの出席は不可欠であり、ゼミ中の私語・携帯電話はご遠慮頂きます。
ゼミ生は、日本経済論、国際金融論、国際経済論、産業組織論、統計関連科目の履修を原則とします。
担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline (in English)】
The objective of this course is to think about every business and economic phenomenon analytically and logically. In so doing, class participation and presentation are required.
In fields such as business and economics, data is often used to grasp objective situations, and it is essential to understand these data correctly and to be able to analyze the data accurately. It is natural to learn how to process data by computer as a technique, but what is more important is to consider the appropriate method of analysis in light of the purpose of the analysis. Students will learn a variety of examples and try to examine case studies repeatedly in class.

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習5

平田　英明

演習選択_演習　4年次／3単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論理的に考え、現実がどの程度論理的に考えた帰結と整合的／非整合的かということをしっかり説明できるように、つまりものごとをしっかりと「つかむ（把握する）」能力を身につけることです。
経営や経済といった分野では、データで客観的な状況を捉えることが非常に多く、これらのデータを正確に理解し、データを的確に用いて様々な分析をできることが肝要です。テクニックとしてコンピューターによるデータ処理方法を学ぶことは当然ですが、それ以上に大事なのが分析の目的に照らし合わせて適切な分析方法を考えていくことです。様々な事例を学び、実際にそれを使ってみることをクラスの中で繰り返し行っていきます。

【到達目標】
経済学の理論と実証の基礎を学び、経済分析の仕方を身につけることを学習目標とします。具体的には、経営や経済の基本的なテキストから基本的な事実を学び、それに関連する派生的な具体例について学びます。同時に、統計分析の基本をPC演習を通じて学んでいきます。実際の経済事象やビジネス動向について、仮説を立て、理論的な考察を試み、それをデータを用いて検証できるようになることが最終的な目的です。
そして、学生の関心のある事象に関する実証研究を夏休みにグループ単位で行って貰います。これを学内懸賞論文や日銀の懸賞論文等に応募し、毎年各種の賞の受賞を果たしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
３－４つのグループで輪読を行ってもらいます。日本経済がなぜこれほどにpoor performingなのかを理解していく上で、基礎的な理解となる生産性に関する書籍をじっくり読み進めていきます。同時に実証分析のツールを学ぶために、直観的な理解のしやすい計量分析の教科書も輪読します。なお、他大学とのインゼミを行う予定です。
学生へのフィードバックはプレゼンテーション、発言に対してその都度きめ細かく行います。
対面／オンラインについては、柔軟に運用していく予定ですが、さしあたりは、対面を基本としておきます。
なお、テキストについては別途、ゼミ生専用のLineにて指示をする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミの進め方	ゼミ運営について話します
	テキスト2	1章＋補論の輪読
第2回	テキスト2	2章と3章の輪読
第3回	テキスト1	1章の輪読
	テキスト2	4章の輪読
第4回	テキスト1	2章の輪読
	テキスト2	5章の輪読
第5回	テキスト1	3章の輪読
	テキスト3	1章の輪読
第6回	テキスト3	コンピュータ演習1
	懸賞論文	キックオフ会議
第7回	テキスト1	4章の輪読
	テキスト3	2章の輪読
第8回	テキスト1	5章の輪読
	テキスト3	3章の輪読
第9回	懸賞論文	懸賞論文のテーマ・プレゼン
第10回	テキスト1	6章の輪読
	テキスト3	4章の輪読
第11回	テキスト1	コンピュータ演習2
第12回	懸賞論文	懸賞論文に関する進捗状況の報告
第13回	テキスト1	コンピュータ演習3
	テキスト3	5章の輪読
第14回	懸賞論文	懸賞論文のテーマ確定＋準備作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の範囲だけでなく、幅広い資料に触れ、自発的に授業に向けた準備をしてくることが大前提です。受け身では、何も身につきません。主体性を持って学習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
1．伊藤萬里・田中鮎夢(2022)『現実から学ぶ国際経済学』(有斐閣)
2．江崎貴裕(2020)『分析者のためのデータ解釈学入門』（ソシム）
3．山本勲(2015)『実証分析のための計量経済学』（中央経済社）

【参考書】
1．伊藤元重『ゼミナール　国際経済学入門』（日本経済新聞出版）
2．福田 慎一・照山 博司 『マクロ経済学・入門 』(有斐閣)
3．蓑谷千凰彦『計量経済学』（東洋経済）

【成績評価の方法と基準】
ゼミでの報告（75%）、日頃の学習態度(25%)で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
懸賞論文は希望者のみが取り組むこととします。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（カメラ、マイク等のインフラも含む）

【その他の重要事項】
ゼミの場は、「知的議論を行う真剣勝負の場」であると考え、毎週のゼミに向けた準備をしっかりと行う意志のある学生を歓迎します。２－３年生に関しては、各学期で合計で３回以上、通年で４回以上、合理的な理由無く欠席した場合、特別な理由を除き、自動的にD評価となります。
ゼミへの出席は不可欠であり、ゼミ中の私語・携帯電話はご遠慮頂きます。
ゼミ生は、日本経済論、国際金融論、国際経済論、産業組織論、統計関連科目の履修を原則とします。
担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline (in English)】
The objective of this course is to think about every business and economic phenomenon analytically and logically. In so doing, class participation and presentation are required.
In fields such as business and economics, data is often used to grasp objective situations, and it is essential to understand these data correctly and to be able to analyze the data accurately. It is natural to learn how to process data by computer as a technique, but what is more important is to consider the appropriate method of analysis in light of the purpose of the analysis. Students will learn a variety of examples and try to examine case studies repeatedly in class.

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

平田　英明

演習選択_演習　4年次／3単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論理的に考え、現実がどの程度論理的に考えた帰結と整合的／非整合的かということをしっかり説明できるように、つまりものごとをしっかりと「つかむ（把握する）」能力を身につけることです。
経営や経済といった分野では、データで客観的な状況を捉えることが非常に多く、これらのデータを正確に理解し、データを的確に用いて様々な分析をできることが肝要です。テクニックとしてコンピューターによるデータ処理方法を学ぶことは当然ですが、それ以上に大事なのが分析の目的に照らし合わせて適切な分析方法を考えていくことです。様々な事例を学び、実際にそれを使ってみることをクラスの中で繰り返し行っていきます。

【到達目標】
経済学の理論と実証の基礎を学び、経済分析の仕方を身につけることを学習目標とします。具体的には、経営や経済の基本的なテキストから基本的な事実を学び、それに関連する派生的な具体例について学びます。同時に、統計分析の基本を PC 演習を通じて学んでいきます。実際の経済事象やビジネス動向について、仮説を立て、理論的な考察を試み、それをデータを用いて検証できるようになることが最終的な目的です。
そして、学生の関心のある事象に関する実証研究を夏休みにグループ単位で行って貰います。これを学内懸賞論文や日銀の懸賞論文等に応募し、毎年各種の賞の受賞を果たしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
３－４つのグループで輪読を行ってもらいます。日本経済がなぜこれほどに poor performing なのかを理解していく上で、基礎的な理解となる金融に関する書籍をじっくり読み進めていきます。同時に実証分析のツールを学ぶために、直観的な理解のしやすい計量分析の教科書も輪読します。なお、他大学とのインゼミを行う予定です。
学生へのフィードバックはプレゼンテーション、発言に対してその都度きめ細かく行います。
対面／オンラインについては、柔軟に運用していく予定ですが、さしあたりは、対面を基本としておきます。
なお、テキストについては別途、ゼミ生専用のLineにて指示をする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	懸賞論文１	懸賞論文の修正作業をします。
第2回	懸賞論文２	懸賞論文の仕上げ作業をします。
第3回	テキスト１	１章の輪読
	テキスト２	
第4回	テキスト１	２章の輪読
	テキスト２	
第5回	テキスト１	３章の輪読
	テキスト２	
第6回	コンピュータ演習１	コンピュータ演習
第7回	テキスト１	４章の輪読
	テキスト２	
第8回	テキスト１	５章の輪読
	テキスト２	
第9回	インゼミ１	明治大学とのインゼミ
第10回	インゼミ２	慶應大学とのインゼミ
第11回	インゼミ３	神奈川大学とのインゼミ
第12回	コンピュータ演習２	コンピュータ演習
第13回	テキスト１	６章の輪読
	テキスト２	
第14回	テキスト１	７章の輪読
	テキスト２	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の範囲だけでなく、幅広い資料に触れ、自発的に授業に向けた準備をしてくることが大前提です。受け身では、何も身につきません。主体性を持って学習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
１．未定（春学期からの輪読状況を踏まえて決める）

【参考書】
１．伊藤元重『ゼミナール　国際経済学入門』（日本経済新聞出版）
２．福田 慎一・照山 博司 『マクロ経済学・入門 』(有斐閣)
３．蓑谷千凰彦『計量経済学』（東洋経済）

【成績評価の方法と基準】
ゼミでの報告（75%）、日頃の学習態度(25%)で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
懸賞論文は希望者のみが取り組むこととします。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（カメラ、マイク等のインフラも含む）

【その他の重要事項】
ゼミの場は、「知的議論を行う真剣勝負の場」であると考え、毎週のゼミに向けた準備をしっかりと行う意志のある学生を歓迎します。２－３年生に関しては、各学期で合計で３回以上、通年で４回以上、合理的な理由無く欠席した場合、特別な理由を除き、自動的にD評価となります。
ゼミへの出席は不可欠であり、ゼミ中の私語・携帯電話はご遠慮頂きます。
ゼミ生は、日本経済論、国際金融論、国際経済論、産業組織論、統計関連科目の履修を原則とします。
担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline (in English)】
The objective of this course is to think about every business and economic phenomenon analytically and logically. In so doing, class participation and presentation are required.
In fields such as business and economics, data is often used to grasp objective situations, and it is essential to understand these data correctly and to be able to analyze the data accurately. It is natural to learn how to process data by computer as a technique, but what is more important is to consider the appropriate method of analysis in light of the purpose of the analysis. Students will learn a variety of examples and try to examine case studies repeatedly in class.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習1

洞口　治夫

演習選択_演習　2年次／3単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この国際経営のゼミでは、企業戦略と組織能力に焦点を当てながら、国際ビジネスの基本的な考え方を理解するように準備されています。 中心となるスキルには、英語と日本語のプレゼンテーション能力、中小企業の経営戦略に関する調査、多国籍企業がグローバル経済における競争力と業績を向上させる方法を理解することが含まれます。本年度は、国際経営に関する英文テキストを輪読し、グローバル市場、生産拠点選択ための立地競争、国境を越えた意思決定のプロセスなどに焦点を当てながら、英会話能力を高めていきます。

【到達目標】
このゼミナールでは英文のテキストを読み、国際経営の専門用語を含んだ英語で討論できる実力を養成します。基本的な英語の発音練習、英文法の復習を行い、英文を日本文に訳す力を養成します。このゼミナールでは専門用語を含んだリスニングや英会話を楽しむことができるようになることを到達目標とします。経営学に関する専門的知識の獲得、英会話能力、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語文章力、コミュニケーション能力を磨きます。コーチのもとで毎日の訓練に自発的に取り組むことの重要性は、ゼミ活動においても共通します。スポーツや音楽（楽器演奏）などに打ち込んだ経験がある学生諸君の参加を歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
授業では、英文のテキストを輪読します。英文テキストの内容について日本語ないし英語で議論して理解を深めます。3年生は慶應義塾大学とのインターゼミナールでの発表とグループでの論文作成、4年生は卒業論文作成のための構想発表、また、卒業論文の中間報告会を行う予定です。インターゼミでは、他大学の学生と交流することで法政大学で学ぶ意義を知るとともに、パワー・ポイントを使ったプレゼンテーション技法を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方についての説明。年間予定の確認。	年間活動計画の確認。慶應義塾大学とのインターゼミについての報告とグループ分け。テキスト翻訳ページの確認。
第2回	テキスト音読、発音矯正。	テキストの音読と発音チェック。テキストの例文作成。ゼミでの担当役職決定。
第3回	テキスト輪読。ＯＢ・ＯＧ会の企画立案。	テキストの英語理解。テキスト内の重要例文摘出。
第4回	夏合宿の企画立案。	春合宿の総括と夏合宿の企画。英語プレゼンテーションの練習。
第5回	中小企業研究の動向。	慶応とのインターゼミ準備、研究構想報告。日本語プレゼンテーションの英語化。
第6回	国際経営論入門。	テキストの英語理解。英語ディスカッション。
第7回	テキスト購読と発音矯正。	テキストの英語理解。英文からの質問作成。その回答作成。
第8回	夏合宿の企画立案。3年生インターゼミの準備作業。	夏合宿企画、アポイントメントの進捗報告。インターゼミの準備進捗報告。
第9回	リスニングとテキスト輪読。3年生インターゼミの準備作業。	テキストの英語理解。テキストからの質問作成。その回答作成。
第10回	テキスト内容についての英語ディスカッション。	テキスト英語理解。ディスカッションの決まり文句学習。
第11回	テキスト関連企業の調査。3年生インターゼミの準備作業。	テキストの英語理解。人事部の活動とマーケティング活動。
第12回	インターゼミの準備プレゼン。	三年生の研究プレゼンテーション。
第13回	英語の発音矯正とリスニング。	三年生の研究プレゼンテーション。テキストの英語理解復習。四年生の研究中間報告。
第14回	グループ研究の中間報告、「試験・まとめと解説」	インターゼミ準備報告。四年生の研究中間報告。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
合宿やインターセミナーなど授業時間外の活動に参加する必要があります。過去には、春合宿・夏合宿で日本国内あるいは海外の工場を見学しました。海外では、韓国、中国、タイ、台湾、ベトナムの工場を見学しました。2025年度も参加ゼミ生諸君の意見を尊重して活動計画を立てます。三年生は実用英語検定、ＴＯＥＦＬないしＴＯＥＩＣの受験結果を提出します。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。新ゼミ生歓迎会やOB・OG会等も行い優れた社会人との「話し方」や「接し方」を学びます。それを学生諸君の就職選択にも役立てます。

【テキスト（教科書）】
白木三秀、ブライアン・シャーマン著『英語ｄｅ人事－日英対訳による実践的人事－』文眞堂、2020年、定価2600円＋税。この本は教科書として利用しますので、購入が必要です。
Daniels, J.D., Radebaugh, L.H., Sullivan, D.P. (2019) International Business: Environments and Operations, Pearson, 16th edition.(Global Edition).
この本のなかから、2025 年度は、Chapter 19. Global Accounting and Financial Management を読む予定です。昨年度からゼミ参加をしてきた四年生の学生諸君の関心と進捗度に応じてその他の章を読み進めます。この本を購入する必要はありません。

【参考書】
①川崎芳人・久保田廣美、他著『総合英語エバーグリーン Evergreen』いいずな書店、初版、2017年、第7刷、2021年.
＜英文和訳がわからなくなる場合がありますが、そのような場合には、文法事項にさかのぼって説明します。＞
②洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメント－ゼミナール編－』白桃書房、2008年.＜ゼミナールでの活動の様子や先輩の作成した卒業論文、グループで作成した論文などが収められています。＞
③洞口治夫(2018)『ＭＢＡのナレッジ・マネジメント－集合知創造の現場としての社会人大学院－』文眞堂.＜大学院進学希望者のためのテキストです。＞

【成績評価の方法と基準】
授業の参加態度（欠席、遅刻、早退、積極的発言、質問）（28％）
慶応とのインターゼミへの参加（12％）
合宿やフィールドワークなどの企画と参加（12％）
ゼミ活動への積極的参加（ゼミ長・副ゼミ長・会計・書記・総務・企画）（8％）
期末試験（40％）（2年次・進級レポート作成中間報告)、(3年次・グループでの進級論文作成報告と卒業論文構想報告)、(4年次・卒業論文中間報告)
無断欠席をした場合、減点幅が大きくなります。

【学生の意見等からの気づき】
「洞口ゼミナールの学生は英語の発音がきれいだ」と外部の教授に言われたことを、ゼミ学生諸君が報告してくれたときは嬉しく思いました。ネイティブに近い発音をするコツは授業で教えます。一年間ゼミに参加し続けた学生諸君の達成感は高いように思います。大学という場を通じて先輩・後輩・同期とのつながりができることを喜ぶ声があります。ゼミ生諸君は、多数の会社から内定をもらい、有名・優良企業に就職を決めています。また、そうした企業に就職した先輩たちが就職の相談に乗ってくれます。2024年度は中小企業懸賞論文で準賞を獲得しました。2003年度から商工総合研究所主催の中小企業懸賞論文に応募するゼミ学生を指導しており、グループで調査・研究を行うよう指導してきました。2024年度までにゼミ学生が通算10回の入賞を果たしました。本賞4作品、準賞6作品の受賞です。

【学生が準備すべき機器他】
音声発音つき電子辞書、パソコン、スマホが必要です。イーメールでファイルを送ることのできるアドレスを確保し、スマホないしパソコンで毎日チェックして下さい。授業連絡用のメールアドレスは、漢字で氏名を記載したものを利用して下さい。教授から学生への連絡はメールで行い、学生諸君はグループラインで情報交換をしています。

【その他の重要事項】
①ゼミの学生諸君には「国際経営論Ⅰ/Ⅱ」の履修を強く勧めます。
②ゼミからは過去21名の法政大学派遣留学生を輩出しており、3年に2名程度の比率になります。過去の派遣先はアメリカ、イギリス、ドイツ、台湾、韓国、中国、ロシア、オーストラリアであり、留学経験者がＯＢ・ＯＧとなっています。
③ＳＡプログラム経験者、私費留学経験者、海外在住のＯＢ・ＯＧも多数います。留学についてゼミの先輩からもアドバイスを受けることができます。
④TOEFLやTOEICなどの英語の基準に到達したら、GBP科目のInternational Businessを履修しましょう。
⑤商工総合研究所主催の中小企業懸賞論文でも、本賞、準賞を受賞した学生諸君がいました。彼ら・彼女らは金融機関をはじめ有名企業で活躍しています。
⑥洞口は法政大学経営学部経営戦略学科の教授です。また、東証プライム市場に上場する企業の社外取締役を務めており、日本企業の経営実務にも参加しています。放送大学客員教授としてラジオ講座も担当しています。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This international business seminar is designed to understand the basic concepts of international business. The course focuses on the corporate strategy and the organizational capability of the firm. The core skills gained after the course are presentation skills in Japanese and in English.
By reading a textbook, students will be able to understand internationalization strategies. The students will learn how to conduct field research on small- and medium-sized corporations in Japan. This seminar focuses on multinational corporations confronting an array of choices regarding global markets, locations for production, public relations, and cross-border decision-making processes.
【Learning Objectives】
In this seminar, students will read English texts and develop the ability to discuss in English using technical terms of international management. Students will practice basic English pronunciation, review English grammar, and develop the ability to translate English into Japanese. The goal of this seminar is for students to be able to enjoy listening to and speaking English that includes technical terms. Students will acquire specialized knowledge in business administration, and improve their English conversation skills as well as presentation techniques, logical thinking, and Japanese writing skills.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to participate in activities outside of class hours, such as spring and summer camps and inter-seminars. In the past, we visited factories in Japan and overseas during spring and summer camps. Overseas, we have visited factories in Korea, China, Thailand, Taiwan, and Vietnam.
Third-year students are required to submit the results of TOEFL or TOEIC. The standard preparation and review time for this class is 4 hours. We also have a welcome party for new seminar students and an alumni meeting to learn how to talk to and interact with outstanding members of society. This will also help students in their choice of employment.
【Grading Criteria/Policy）】
Class participation (28%)
Participation in inter-seminars with Keio (12%)
Participation in training camps, etc. (12%)
Active participation in seminar activities (8%)
Final exam (40%):2nd year, mid-term report on the preparation of the report for advancement. 3rd year, group report on the preparation of the thesis for advancement and a report on the planning of graduation thesis. 4th year students will be required to submit a mid-term report and the graduation thesis.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

洞口　治夫

演習選択_演習　2年次／3単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この国際経営のゼミでは、企業戦略と組織能力に焦点を当てながら、国際ビジネスの基本的な考え方を理解するように準備されています。 中心となるスキルには、英語と日本語のプレゼンテーション能力、中小企業の経営戦略に関する調査、多国籍企業がグローバル経済における競争力と業績を向上させる方法を理解することが含まれます。本年度は、国際経営に関するトピックスのなかから、多国籍企業の財務報告と経営戦略に関する英文テキストを輪読し、会社の広報活動とグローバル市場、生産拠点選択ための立地競争、国境を越えた意思決定のプロセスなどに焦点を当てていきます。

【到達目標】
ゼミナールでは英文のテキストを輪読し、国際経営の専門用語を含んだ英語でプレゼンテーションを行い、討論できる実力を養成します。基本的な英語の発音練習、英文を日本文に訳す力の養成、英文法の復習を行うとともに、専門用語を含んだリスニングや英会話を楽しむことができるようになることを到達目標とします。経営学に関する専門的知識の獲得、英会話能力、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語文章力、コミュニケーション能力を磨きます。他大学とのインターゼミと卒業論文の作成を通じて論理的思考力を高めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
英文テキストの内容について日本語ないし英語で議論して理解を深めます。2年生は進級レポート、3年生はグループでの論文作成、4年生は卒業論文の提出が必要です。活動の成果を慶應義塾大学など他大学とのインターゼミナールで発表し、パワー・ポイントを使ったプレゼンテーション技法を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方についての説明。年間予定の確認。	他大学とのインターゼミの研究計画。教科書進度の確認。テキストの復習。
第2回	国際経営研究の方法。	フィールド調査、アンケート調査、データ分析。
第3回	テキスト輪読。ＯＢ会の企画立案。	テキストの英語理解。
第4回	他大学とのインターゼミの企画立案。	研究計画とデータ収集。
第5回	テキスト学習と英文和訳。	テキストの英語理解とそれを題材とした会話。
第6回	国際経営論の学問体系。	テキストの英語理解。英語ディスカッション。
第7回	テキスト購読と発音矯正。	テキストの英語理解。
第8回	インターゼミ、春合宿の企画立案。	合宿企画、アポイントメントの進捗報告。インターゼミの準備進捗報告。
第9回	リスニングとテキスト輪読。	テキストの英語理解。他大学インターゼミの発表練習。
第10回	テキスト内容についての英語ディスカッション。	テキストの英語理解。
第11回	テキスト関連企業の調査。	テキストの英語理解と事例紹介。
第12回	インターゼミの準備プレゼン。	四年生の研究プレゼンテーション。
第13回	英語プレゼンテーション	二年生、三年生の研究報告プレゼンテーション。
第14回	授業内期末試験。テキストの総括。	進級論文、卒業論文の提出。テキストの復習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
合宿やインターセミナーなど授業時間外の活動に参加する必要があります。過去には、春合宿・夏合宿で日本国内あるいは海外の工場を見学しました。海外では、韓国、中国、タイ、台湾、ベトナムの工場を見学しました。2024年度は参加学生諸君と相談のうえ決定します。新ゼミ生歓迎会やOB・OG会等も行い優れた社会人との「話し方」や「接し方」を学びます。それが学生諸君の就職選択にも役立ちます。三年生はＴＯＥＦＬないしＴＯＥＩＣの受験結果を提出します。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
白木三秀、ブライアン・シャーマン著『英語ｄｅ人事－日英対訳による実践的人事－』文眞堂、2020年、定価2600円＋税。この本は教科書として利用しますので、購入が必要です。
Daniels, J.D., Radebaugh, L.H., Sullivan, D.P. (2019) International Business: Environments and Operations, Pearson, 16th edition.(Global Edition).
この本のなかから、2025 年度は、Chapter 19. Global Accounting and Financial Management を読む予定です。昨年度からゼミ参加をしてきた四年生の学生諸君の関心と進捗度に応じてその他の章を読み進めます。この本を購入する必要はありません。学生諸君の関心と進捗度に応じてその他の章ないしケーススタディを読み進めます。

【参考書】
①石黒昭博監修『総合英語Forest』桐原書店、第７版.
＜英文和訳がわからなくなる場合がありますが、そのような場合には、文法事項にさかのぼって説明します。＞
②洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメント－ゼミナール編－』白桃書房、2008年. ＜ゼミナールでの活動の様子や先輩の作成した卒業論文、グループで作成した論文などが収められています。＞
③洞口治夫(2018)『ＭＢＡのナレッジ・マネジメント－集合知創造の現場としての社会人大学院－』文眞堂. ＜大学院進学希望者のためのテキストです。＞

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業の参加態度、授業の予習・復習、授業の理解度、過去の授業の記憶力とノートテイキングなど)（28％）
他大学とのインターゼミへの参加（12％）
合宿などへの参加（12％）
ゼミ活動への貢献的参加（8％）
期末試験（40％）（進級レポート作成中間報告(2年次)、グループでの進級論文作成報告と卒業論文構想報告(3年次)、卒業論文中間報告(4年次))
無断欠席をした場合には減点の幅が大きくなります。

【学生の意見等からの気づき】
「洞口ゼミナールの学生は英語の発音がきれいだ」と外部の教授に言われたことを、ゼミ学生諸君が報告してくれたときは嬉しく思いました。発音のコツは授業で教えます。一年間ゼミに参加し続けた学生諸君の達成感は高いように思います。大学という場を通じて先輩・後輩・同期とのつながりができることを喜ぶ声があります。ゼミ生諸君は、多数の会社から内定をもらい、有名・優良企業に就職を決めています。また、そうした企業に就職した先輩たちが就職の相談に乗ってくれます。

【学生が準備すべき機器他】
音声発音つき電子辞書ないしスマホが必要です。イーメールでファイルを送ることのできるアドレスを確保し、パソコンで毎日チェックして下さい。授業連絡用のメールアドレスは、漢字で氏名を記載したものを利用して下さい。教授から学生への連絡はメールで行い、学生諸君はラインで情報交換をしています。

【その他の重要事項】
①ゼミの学生諸君には専門科目である「国際経営論Ⅰ/Ⅱ」の履修を強く勧めます。
②ゼミからは過去21名の法政大学派遣留学生を輩出しており、3年に2名程度の割合になります。過去の派遣先はアメリカ、イギリス、ドイツ、台湾、韓国、中国、ロシア、オーストラリアであり、留学経験者がＯＢ・ＯＧとなっています。この成果はゼミでの学習と無縁ではないでしょう。
③ＳＡプログラム経験者、私費留学経験者も多数います。留学についてゼミの先輩からもアドバイスを受けることができます。
④英語の基準点に到達したら、GBP科目のInternational Businessを履修しましょう。
⑤商工総合研究所主催の中小企業懸賞論文でも、過去に本賞、準賞を受賞した学年がいました。2024年度には準賞を受賞したチームがありました。
⑥洞口は法政大学経営学部経営戦略学科の教授です。また、東証プライム市場に上場する企業の社外取締役を務めており、日本企業の経営実務にも接しています。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This international business seminar is designed to understand the basic concepts of international business. The course focuses on the corporate strategy and the organizational capability of the firm. The core skills gained after the course are presentation skills in Japanese and in English.
By reading a textbook, students will be able to understand internationalization strategies. The students will learn how to conduct field research on small- and medium-sized corporations in Japan. This seminar focuses on multinational corporations confronting an array of choices regarding global markets, locations for production, public relations, and cross-border decision-making processes.

【Learning Objectives】
In this seminar, students will read English texts and develop the ability to discuss in English using technical terms of international management. Students will practice basic English pronunciation, review English grammar, and develop the ability to translate English into Japanese. The goal of this seminar is for students to be able to enjoy listening to and speaking English that includes technical terms. Students will acquire specialized knowledge in business administration, and improve their English conversation skills as well as presentation techniques, logical thinking, and Japanese writing skills.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to participate in activities outside of class hours, such as spring and summer camps and inter-seminars. In the past, we visited factories in Japan and overseas during spring and summer camps. Overseas, we have visited factories in Korea, China, Thailand, Taiwan, and Vietnam.
Third-year students are required to submit the results of TOEFL or TOEIC. The standard preparation and review time for this class is 4 hours. We also have a welcome party for new seminar students and an alumni meeting to learn how to talk to and interact with outstanding members of society. This will also help students in their choice of employment.
【Grading Criteria/Policy）】
Class participation (28%)
Participation in inter-seminars with Keio (12%)
Participation in training camps, etc. (12%)
Active participation in seminar activities (8%)
Final exam (40%):2nd year, mid-term report on the preparation of the report for advancement. 3rd year, group report on the preparation of the thesis for advancement and a report on the planning of graduation thesis. 4th year students will be required to submit a mid-term report and the graduation thesis.

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習3

洞口　治夫

演習選択_演習　3年次／3単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この国際経営のゼミでは、企業戦略と組織能力に焦点を当てながら、国際ビジネスの基本的な考え方を理解するように準備されています。 中心となるスキルには、英語と日本語のプレゼンテーション能力、中小企業の経営戦略に関する調査、多国籍企業がグローバル経済における競争力と業績を向上させる方法を理解することが含まれます。本年度は、国際経営に関する英文テキストのなかの一つないしは二つの章を輪読し、グローバル市場、生産拠点選択ための立地競争、国境を越えた意思決定のプロセスなどに焦点を当てていきます。

【到達目標】
このゼミナールでは英文のテキストを読み、国際経営の専門用語を含んだ英語で討論できる実力を養成します。基本的な英語の発音練習、英文法の復習を行い、英文を日本文に訳す力を養成します。このゼミナールでは専門用語を含んだリスニングや英会話を楽しむことができるようになることを到達目標とします。経営学に関する専門的知識の獲得、英会話能力、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語文章力、コミュニケーション能力を磨きます。コーチのもとで毎日の訓練に自発的に取り組むことの重要性は、ゼミ活動においても共通します。スポーツや音楽（楽器演奏）などに打ち込んだ経験がある学生諸君の参加を歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
授業では、英文のテキストを輪読します。英文テキストの内容について日本語ないし英語で議論して理解を深めます。3年生は慶應義塾大学とのインターゼミナールでの発表とグループでの論文作成、4年生は上智大学とのインターゼミナールでの発表、また、卒業論文の中間報告会を行う予定です。インターゼミでは、他大学の学生と交流することで法政大学で学ぶ意義を知るとともに、パワー・ポイントを使ったプレゼンテーション技法を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方についての説明。年間予定の確認。	年間活動計画の確認。慶應義塾大学とのインターゼミについての報告とグループ分け。テキスト翻訳ページの確認。
第2回	テキスト音読、発音矯正。	テキストの音読と発音チェック。テキストの例文作成。ゼミでの担当役職決定。
第3回	テキスト輪読。ＯＢ・ＯＧ会の企画立案。	テキストの英語理解。テキスト内の重要例文摘出。
第4回	夏合宿の企画立案。	春合宿の総括と夏合宿の企画。英語プレゼンテーションの練習。
第5回	中小企業研究の動向。	インターゼミ準備、研究構想報告。日本語プレゼンテーションの英語化。
第6回	国際経営論入門。	テキストの英語理解。英語ディスカッション。
第7回	テキスト購読と発音矯正。	テキストの英語理解。英文からの質問作成。その回答作成。
第8回	夏合宿の企画立案。3年生インターゼミの準備作業。	夏合宿企画、アポイントメントの進捗報告。インターゼミの準備進捗報告。
第9回	リスニングとテキスト輪読。3年生インターゼミの準備作業。	テキストの英語理解。テキストからの質問作成。その回答作成。
第10回	テキスト内容についての英語ディスカッション。	テキスト英語理解。ディスカッションの決まり文句学習。
第11回	テキスト関連企業の調査。3年生インターゼミの準備作業。	テキストの英語理解。テキスト批判入門。
第12回	インターゼミの準備プレゼン。	三年生の研究プレゼンテーション。
第13回	英語の発音矯正とリスニング。	三年生の研究プレゼンテーション。テキストの英語理解復習。四年生の研究中間報告。
第14回	グループ研究の中間報告、「試験・まとめと解説」	インターゼミ準備報告。四年生の研究中間報告。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
合宿やインターセミナーなど授業時間外の活動に参加する必要があります。過去には、春合宿・夏合宿で日本国内あるいは海外の工場を見学しました。海外では、韓国、中国、タイ、台湾、ベトナムの工場を見学しました。2025年度は参加ゼミ生諸君の意見を尊重して活動計画を立てます。三年生はＴＯＥＦＬないしＴＯＥＩＣの受験結果を提出します。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。新ゼミ生歓迎会やOB・OG会等も行い優れた社会人との「話し方」や「接し方」を学びます。それが学生諸君の就職選択にも役立ちます。

【テキスト（教科書）】
白木三秀、ブライアン・シャーマン著『英語ｄｅ人事－日英対訳による実践的人事－』文眞堂、2020年、定価2600円＋税。この本は教科書として利用しますので、購入が必要です。
Daniels, J.D., Radebaugh, L.H., Sullivan, D.P. (2019) International Business: Environments and Operations, Pearson, 16th edition.(Global Edition).
この本のなかから、2025 年度は、Chapter 19. Global Accounting and Financial Management を読む予定です。昨年度からゼミ参加をしてきた四年生の学生諸君の関心と進捗度に応じてその他の章を読み進めます。この本を購入する必要はありません。

【参考書】
①川崎芳人・久保田廣美、他著『総合英語エバーグリーン Evergreen』いいずな書店、初版、第7刷.
＜英文和訳がわからなくなる場合がありますが、そのような場合には、文法事項にさかのぼって説明します。＞
②洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメント－ゼミナール編－』白桃書房、2008年. ＜ゼミナールでの活動の様子や先輩の作成した卒業論文、グループで作成した論文などが収められています。＞
③洞口治夫(2018)『ＭＢＡのナレッジ・マネジメント－集合知創造の現場としての社会人大学院－』文眞堂. ＜大学院進学希望者のためのテキストです。＞

【成績評価の方法と基準】
授業の参加態度（欠席、遅刻、早退、積極的発言、質問）（28％）
慶応とのインターゼミへの参加（12％）
合宿やフィールドワークなどの企画と参加（12％）
ゼミ活動への積極的参加（ゼミ長・副ゼミ長・会計・書記・総務・企画）（8％）
期末試験（40％）（2年次・進級レポート作成中間報告)、(3年次・グループでの進級論文作成報告と卒業論文構想報告)、(4年次・卒業論文中間報告)
無断欠席をした場合には減点幅が大きくなります。

【学生の意見等からの気づき】
「洞口ゼミナールの学生は英語の発音がきれいだ」と外部の教授に言われたことを、ゼミ学生諸君が報告してくれたときは嬉しく思いました。ネイティブに近い発音をするコツは授業で教えます。一年間ゼミに参加し続けた学生諸君の達成感は高いように思います。大学という場を通じて先輩・後輩・同期とのつながりができることを喜ぶ声があります。ゼミ生諸君は、多数の会社から内定をもらい、有名・優良企業に就職を決めています。また、そうした企業に就職した先輩たちが就職の相談に乗ってくれます。

【学生が準備すべき機器他】
音声発音つき電子辞書、パソコン、スマホが必要です。イーメールでファイルを送ることのできるアドレスを確保し、スマホないしパソコンで毎日チェックして下さい。授業連絡用のメールアドレスは、漢字で氏名を記載したものを利用して下さい。教授から学生への連絡はメールで行い、学生諸君はグループラインで情報交換をしています。

【その他の重要事項】
①ゼミの学生諸君には「国際経営論Ⅰ/Ⅱ」の履修を強く勧めます。
②ゼミからは過去21名の法政大学派遣留学生を輩出しており、3年に2名程度の比率になります。過去の派遣先はアメリカ、イギリス、ドイツ、台湾、韓国、中国、ロシア、オーストラリアであり、留学経験者がＯＢ・ＯＧとなっています。
③ＳＡプログラム経験者、私費留学経験者、海外在住のＯＢ・ＯＧも多数います。留学についてゼミの先輩からもアドバイスを受けることができます。
④TOEFLやTOEICなどの英語の基準に到達したら、GBP科目のInternational Businessを履修しましょう。
⑤商工総合研究所主催の中小企業懸賞論文でも、本賞、準賞を受賞した学生諸君がいました。彼ら・彼女らは優良企業で活躍しています。
⑥洞口は法政大学経営学部経営戦略学科の教授です。また、東証プライム市場に上場する企業の社外取締役を務めており、日本企業の経営実務にも参加しています。放送大学客員教授としてラジオ講座も担当しています。

【Outline (in English)】
【Course outline】

This international business seminar is designed to understand the basic concepts of international business. The course focuses on the corporate strategy and the organizational capability of the firm. The core skills gained after the course are presentation skills in Japanese and in English.
By reading a textbook, students will be able to understand internationalization strategies. The students will learn how to conduct field research on small- and medium-sized corporations in Japan. This seminar focuses on multinational corporations confronting an array of choices regarding global markets, locations for production, public relations, and cross-border decision-making processes.
【Learning Objectives】
In this seminar, students will read English texts and develop the ability to discuss in English using technical terms of international management. Students will practice basic English pronunciation, review English grammar, and develop the ability to translate English into Japanese. The goal of this seminar is for students to be able to enjoy listening to and speaking English that includes technical terms. Students will acquire specialized knowledge in business administration, and improve their English conversation skills as well as presentation techniques, logical thinking, and Japanese writing skills.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to participate in activities outside of class hours, such as spring and summer camps and inter-seminars. In the past, we visited factories in Japan and overseas during spring and summer camps. Overseas, we have visited factories in Korea, China, Thailand, Taiwan, and Vietnam.
Third-year students are required to submit the results of TOEFL or TOEIC. The standard preparation and review time for this class is 4 hours. We also have a welcome party for new seminar students and an alumni meeting to learn how to talk to and interact with outstanding members of society. This will also help students in their choice of employment.
【Grading Criteria/Policy）】
Class participation (28%)
Participation in inter-seminars with Keio (12%)
Participation in training camps, etc. (12%)
Active participation in seminar activities (8%)
Final exam (40%):2nd year, mid-term report on the preparation of the report for advancement. 3rd year, group report on the preparation of the thesis for advancement and a report on the planning of graduation thesis. 4th year students will be required to submit a mid-term report and the graduation thesis.

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習４

洞口　治夫

演習選択_演習　3年次／3単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この国際経営のゼミでは、企業戦略と組織能力に焦点を当てながら、国際ビジネスの基本的な考え方を理解するように準備されています。 中心となるスキルには、英語と日本語のプレゼンテーション能力、中小企業の経営戦略に関する調査、多国籍企業がグローバル経済における競争力と業績を向上させる方法を理解することが含まれます。本年度は、国際経営に関するトピックスのなかから、多国籍企業の財務報告と経営戦略に関する英文テキストを輪読し、会社の広報活動とグローバル市場、生産拠点選択ための立地競争、国境を越えた意思決定のプロセスなどに焦点を当てていきます。

【到達目標】
ゼミナールでは英文のテキストを輪読し、国際経営の専門用語を含んだ英語でプレゼンテーションを行い、討論できる実力を養成します。基本的な英語の発音練習、英文を日本文に訳す力の養成、英文法の復習を行うとともに、専門用語を含んだリスニングや英会話を楽しむことができるようになることを到達目標とします。経営学に関する専門的知識の獲得、英会話能力、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語文章力、コミュニケーション能力を磨きます。他大学とのインターゼミと卒業論文の作成を通じて論理的思考力を高めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
英文テキストの内容について日本語ないし英語で議論して理解を深めます。2年生は進級レポート、3年生はグループでの論文作成、4年生は卒業論文の提出が必要です。活動の成果を慶應義塾大学など他大学とのインターゼミナールで発表し、パワー・ポイントを使ったプレゼンテーション技法を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方についての説明。年間予定の確認。	他大学とのインターゼミの研究計画。教科書進度の確認。テキストの復習。
第2回	国際経営研究の方法。	フィールド調査、アンケート調査、データ分析。
第3回	テキスト輪読。ＯＢ会の企画立案。	テキストの英語理解。
第4回	他大学とのインターゼミの企画立案。	研究計画とデータ収集。
第5回	テキスト学習と英文和訳。	テキストの英語理解とそれを題材とした会話。
第6回	国際経営論の学問体系。	テキストの英語理解。英語ディスカッション。
第7回	テキスト購読と発音矯正。	テキストの英語理解。
第8回	インターゼミ、春合宿の企画立案。	合宿企画、アポイントメントの進捗報告。インターゼミの準備進捗報告。
第9回	リスニングとテキスト輪読。	テキストの英語理解。上智大学インターゼミの発表練習。
第10回	テキスト内容についての英語ディスカッション。	テキストの英語理解。
第11回	テキスト関連企業の調査。	テキストの英語理解と事例紹介。
第12回	インターゼミの準備プレゼン。	四年生の研究プレゼンテーション。
第13回	英語プレゼンテーション	二年生、三年生の研究報告プレゼンテーション。
第14回	授業内期末試験。テキストの総括。	進級論文、卒業論文の提出。テキストの復習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
合宿やインターセミナーなど授業時間外の活動に参加する必要があります。過去には、春合宿・夏合宿で日本国内あるいは海外の工場を見学しました。海外では、韓国、中国、タイ、台湾、ベトナムの工場を見学しました。2024年度は参加学生諸君と相談のうえ決定します。新ゼミ生歓迎会やOB・OG会等も行い優れた社会人との「話し方」や「接し方」を学びます。それが学生諸君の就職選択にも役立ちます。三年生はＴＯＥＦＬないしＴＯＥＩＣの受験結果を提出します。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Daniels, J.D., Radebaugh, L.H., Sullivan, D.P. (2019) International Business: Environments and Operations, Pearson, 16th edition.(Global Edition).
この本のなかから、2024 年度は、Chapter 19. Global Accounting and Financial Management を読む予定です。学生諸君の関心と進捗度に応じてその他の章を読み進めます。

【参考書】
①石黒昭博監修『総合英語Forest』桐原書店、第７版.
＜英文和訳がわからなくなる場合がありますが、そのような場合には、文法事項にさかのぼって説明します。＞
②洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメント－ゼミナール編－』白桃書房、2008年. ＜ゼミナールでの活動の様子や先輩の作成した卒業論文、グループで作成した論文などが収められています。＞
③洞口治夫(2018)『ＭＢＡのナレッジ・マネジメント－集合知創造の現場としての社会人大学院－』文眞堂. ＜大学院進学希望者のためのテキストです。＞

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業の参加態度、授業の予習・復習、授業の理解度、過去の授業の記憶力とノートテイキングなど）（28％）
他大学とのインターゼミへの参加（12％）
合宿などへの参加（12％）
ゼミ活動への貢献的参加（8％）
期末試験（40％）（進級レポート作成中間報告(2年次)、グループでの進級論文作成報告と卒業論文構想報告(3年次)、卒業論文中間報告(4年次)）
無断欠席をした場合には減点幅が大きくなります。

【学生の意見等からの気づき】
「洞口ゼミナールの学生は英語の発音がきれいだ」と外部の教授に言われたことを、ゼミ学生諸君が報告してくれたときは嬉しく思いました。発音のコツは授業で教えます。一年間ゼミに参加し続けた学生諸君の達成感は高いように思います。大学という場を通じて先輩・後輩・同期とのつながりができることを喜ぶ声があります。ゼミ生諸君は、多数の会社から内定をもらい、有名・優良企業に就職を決めています。また、そうした企業に就職した先輩たちが就職の相談に乗ってくれます。

【学生が準備すべき機器他】
音声発音つき電子辞書ないしスマホが必要です。イーメールでファイルを送ることのできるアドレスを確保し、パソコンで毎日チェックして下さい。授業連絡用のメールアドレスは、漢字で氏名を記載したものを利用して下さい。教授から学生への連絡はメールで行い、学生諸君はラインで情報交換をしています。

【その他の重要事項】
①ゼミの学生諸君には専門科目である「国際経営論Ⅰ/Ⅱ」の履修を強く勧めます。
②ゼミからは過去21名の法政大学派遣留学生を輩出しており、3年に2名程度の割合になります。過去の派遣先はアメリカ、イギリス、ドイツ、台湾、韓国、中国、ロシア、オーストラリアであり、留学経験者がＯＢ・ＯＧとなっています。この成果はゼミでの学習と無縁ではないでしょう。
③ＳＡプログラム経験者、私費留学経験者も多数います。留学についてゼミの先輩からもアドバイスを受けることができます。
④英語の基準点に到達したら、GBP科目のInternational Businessを履修しましょう。
⑤商工総合研究所主催の中小企業懸賞論文でも、本賞、準賞を受賞した学年がいました。
⑥洞口は法政大学経営学部経営戦略学科の教授です。また、東証プライム市場に上場する企業の社外取締役を務めており、日本企業の経営実務にも接しています。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This international business seminar is designed to understand the basic concepts of international business. The course focuses on the corporate strategy and the organizational capability of the firm. The core skills gained after the course are presentation skills in Japanese and in English.
By reading a textbook, students will be able to understand internationalization strategies. The students will learn how to conduct field research on small- and medium-sized corporations in Japan. This seminar focuses on multinational corporations confronting an array of choices regarding global markets, locations for production, public relations, and cross-border decision-making processes.
【Learning Objectives】

In this seminar, students will read English texts and develop the ability to discuss in English using technical terms of international management. Students will practice basic English pronunciation, review English grammar, and develop the ability to translate English into Japanese. The goal of this seminar is for students to be able to enjoy listening to and speaking English that includes technical terms. Students will acquire specialized knowledge in business administration, and improve their English conversation skills as well as presentation techniques, logical thinking, and Japanese writing skills.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to participate in activities outside of class hours, such as spring and summer camps and inter-seminars. In the past, we visited factories in Japan and overseas during spring and summer camps. Overseas, we have visited factories in Korea, China, Thailand, Taiwan, and Vietnam.
Third-year students are required to submit the results of TOEFL or TOEIC. The standard preparation and review time for this class is 4 hours. We also have a welcome party for new seminar students and an alumni meeting to learn how to talk to and interact with outstanding members of society. This will also help students in their choice of employment.
【Grading Criteria/Policy〉】
Class participation (28%)
Participation in inter-seminars with Keio (12%)
Participation in training camps, etc. (12%)
Active participation in seminar activities (8%)
Final exam (40%):2nd year, mid-term report on the preparation of the report for advancement. 3rd year, group report on the preparation of the thesis for advancement and a report on the planning of graduation thesis. 4th year students will be required to submit a mid-term report and the graduation thesis.

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習5

洞口　治夫

演習選択_演習　4年次／3単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この国際経営のゼミでは、企業戦略と組織能力に焦点を当てながら、国際ビジネスの基本的な考え方を理解するように準備されています。 中心となるスキルには、英語と日本語のプレゼンテーション能力、中小企業の経営戦略に関する調査、多国籍企業がグローバル経済における競争力と業績を向上させる方法を理解することが含まれます。本年度は、国際経営に関する英文テキストのなかの一つないしは二つの章を輪読し、グローバル市場、生産拠点選択ための立地競争、国境を越えた意思決定のプロセスなどに焦点を当てていきます。

【到達目標】
このゼミナールでは英文のテキストを読み、国際経営の専門用語を含んだ英語で討論できる実力を養成します。基本的な英語の発音練習、英文法の復習を行い、英文を日本文に訳す力を養成します。このゼミナールでは専門用語を含んだリスニングや英会話を楽しむことができるようになることを到達目標とします。経営学に関する専門的知識の獲得、英会話能力、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語文章力、コミュニケーション能力を磨きます。コーチのもとで毎日の訓練に自発的に取り組むことの重要性は、ゼミ活動においても共通します。スポーツや音楽（楽器演奏）などに打ち込んだ経験がある学生諸君の参加を歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
授業では、英文のテキストを輪読します。英文テキストの内容について日本語ないし英語で議論して理解を深めます。3年生は慶應義塾大学とのインターゼミナールでの発表とグループでの論文作成、4年生は他大学とのインターゼミナールでの発表、また、卒業論文の中間報告会を行う予定です。インターゼミでは、他大学の学生と交流することで法政大学で学ぶ意義を知るとともに、パワー・ポイントを使ったプレゼンテーション技法を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方についての説明。年間予定の確認。	年間活動計画の確認。慶應義塾大学とのインターゼミについての報告とグループ分け。テキスト翻訳ページの確認。
第2回	テキスト音読、発音矯正。	テキストの音読と発音チェック。テキストの例文作成。ゼミでの担当役職決定。
第3回	テキスト輪読。ＯＢ・ＯＧ会の企画立案。	テキストの英語理解。テキスト内の重要例文摘出。
第4回	夏合宿の企画立案。	春合宿の総括と夏合宿の企画。英語プレゼンテーションの練習。
第5回	中小企業研究の動向。	インターゼミ準備、研究構想報告。日本語プレゼンテーションの英語化。
第6回	国際経営論入門。	テキストの英語理解。英語ディスカッション。
第7回	テキスト購読と発音矯正。	テキストの英語理解。英文からの質問作成。その回答作成。
第8回	夏合宿の企画立案。3年生インターゼミの準備作業。	夏合宿企画、アポイントメントの進捗報告。インターゼミの準備進捗報告。
第9回	リスニングとテキスト輪読。3年生インターゼミの準備作業。	テキストの英語理解。テキストからの質問作成。その回答作成。
第10回	テキスト内容についての英語ディスカッション。	テキスト英語理解。ディスカッションの決まり文句学習。
第11回	テキスト関連企業の調査。3年生インターゼミの準備作業。	テキストの英語理解。テキスト批判入門。
第12回	インターゼミの準備プレゼン。	三年生の研究プレゼンテーション。
第13回	英語の発音矯正とリスニング。	三年生の研究プレゼンテーション。テキストの英語理解復習。四年生の研究中間報告。
第14回	グループ研究の中間報告、「試験・まとめと解説」	インターゼミ準備報告。四年生の研究中間報告。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
合宿やインターセミナーなど授業時間外の活動に参加する必要があります。過去には、春合宿・夏合宿で日本国内あるいは海外の工場を見学しました。海外では、韓国、中国、タイ、台湾、ベトナムの工場を見学しました。2024年度は参加ゼミ生諸君の意見を尊重して活動計画を立てます。三年生はＴＯＥＦＬないしＴＯＥＩＣの受験結果を提出します。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。新ゼミ生歓迎会やOB・OG会等も行い優れた社会人との「話し方」や「接し方」を学びます。それが学生諸君の就職選択にも役立ちます。

【テキスト（教科書）】
白木三秀、ブライアン・シャーマン著『英語ｄｅ人事－日英対訳による実践的人事－』文眞堂、2020年、定価2600円＋税。この本は教科書として利用しますので、購入が必要です。
Daniels, J.D., Radebaugh, L.H., Sullivan, D.P. (2019) International Business: Environments and Operations, Pearson, 16th edition.(Global Edition).
この本のなかから、2025年度は、Chapter 19. Global Accounting and Financial Management を読む予定です。昨年度からゼミ参加をしてきた四年生の学生諸君の関心と進捗度に応じてその他の章を読み進めます。この本を購入する必要はありません。

【参考書】
①川崎芳人・久保田廣美、他著『総合英語エバーグリーン Evergreen』いいずな書店、初版、第7刷.
＜英文和訳がわからなくなる場合がありますが、そのような場合には、文法事項にさかのぼって説明します。＞
②洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメント－ゼミナール編－』白桃書房、2008年. ＜ゼミナールでの活動の様子や先輩の作成した卒業論文、グループで作成した論文などが収められています。＞
③洞口治夫(2018)『ＭＢＡのナレッジ・マネジメント－集合知創造の現場としての社会人大学院－』文眞堂. ＜大学院進学希望者のためのテキストです。＞

【成績評価の方法と基準】
授業の参加態度（欠席、遅刻、早退、積極的発言、質問）（28％）
慶応とのインターゼミへの参加（12％）
合宿やフィールドワークなどの企画と参加（12％）
ゼミ活動への積極的参加（ゼミ長・副ゼミ長・会計・書記・総務・企画）（8％）
期末試験（40％）（2年次・進級レポート作成中間報告)、(3年次・グループでの進級論文作成報告と卒業論文構想報告)、(4年次・卒業論文中間報告)
無断欠席をした場合には減点幅が大きくなります。

【学生の意見等からの気づき】
「洞口ゼミナールの学生は英語の発音がきれいだ」と外部の教授に言われたことを、ゼミ学生諸君が報告してくれたときは嬉しく思いました。ネイティブに近い発音をするコツは授業で教えます。一年間ゼミに参加し続けた学生諸君の達成感は高いように思います。大学という場を通じて先輩・後輩・同期とのつながりができることを喜ぶ声があります。ゼミ生諸君は、多数の会社から内定をもらい、有名・優良企業に就職を決めています。また、そうした企業に就職した先輩たちが就職の相談に乗ってくれます。

【学生が準備すべき機器他】
音声発音つき電子辞書、パソコン、スマホが必要です。イーメールでファイルを送ることのできるアドレスを確保し、スマホないしパソコンで毎日チェックして下さい。授業連絡用のメールアドレスは、漢字で氏名を記載したものを利用して下さい。教授から学生への連絡はメールで行い、学生諸君はグループラインで情報交換をしています。

【その他の重要事項】
①ゼミの学生諸君には「国際経営論Ⅰ/Ⅱ」の履修を強く勧めます。
②ゼミからは過去21名の法政大学派遣留学生を輩出しており、3年に2名程度の比率になります。過去の派遣先はアメリカ、イギリス、ドイツ、台湾、韓国、中国、ロシア、オーストラリアであり、留学経験者がＯＢ・ＯＧとなっています。
③ＳＡプログラム経験者、私費留学経験者、海外在住のＯＢ・ＯＧも多数います。留学についてゼミの先輩からもアドバイスを受けることができます。
④TOEFLやTOEICなどの英語の基準に到達したら、GBP科目のInternational Businessを履修しましょう。
⑤商工総合研究所主催の中小企業懸賞論文でも、本賞、準賞を受賞した学生諸君がいました。彼ら・彼女らは金融機関をはじめ有名企業で活躍しています。
⑥洞口は法政大学経営学部経営戦略学科の教授です。また、東証プライム市場に上場する企業の社外取締役を務めており、日本企業の経営実務にも参加しています。放送大学客員教授としてラジオ講座も担当しています。

【Outline (in English)】
【Course outline】

This international business seminar is designed to understand the basic concepts of international business. The course focuses on the corporate strategy and the organizational capability of the firm. The core skills gained after the course are presentation skills in Japanese and in English.
By reading a textbook, students will be able to understand internationalization strategies. The students will learn how to conduct field research on small- and medium-sized corporations in Japan. This seminar focuses on multinational corporations confronting an array of choices regarding global markets, locations for production, public relations, and cross-border decision-making processes.
【Learning Objectives】
In this seminar, students will read English texts and develop the ability to discuss in English using technical terms of international management. Students will practice basic English pronunciation, review English grammar, and develop the ability to translate English into Japanese. The goal of this seminar is for students to be able to enjoy listening to and speaking English that includes technical terms. Students will acquire specialized knowledge in business administration, and improve their English conversation skills as well as presentation techniques, logical thinking, and Japanese writing skills.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to participate in activities outside of class hours, such as spring and summer camps and inter-seminars. In the past, we visited factories in Japan and overseas during spring and summer camps. Overseas, we have visited factories in Korea, China, Thailand, Taiwan, and Vietnam.
Third-year students are required to submit the results of TOEFL or TOEIC. The standard preparation and review time for this class is 4 hours. We also have a welcome party for new seminar students and an alumni meeting to learn how to talk to and interact with outstanding members of society. This will also help students in their choice of employment.
【Grading Criteria/Policy）】
Class participation (28%)
Participation in inter-seminars with Keio (12%)
Participation in training camps, etc. (12%)
Active participation in seminar activities (8%)
Final exam (40%):2nd year, mid-term report on the preparation of the report for advancement. 3rd year, group report on the preparation of the thesis for advancement and a report on the planning of graduation thesis. 4th year students will be required to submit a mid-term report and the graduation thesis.

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

洞口　治夫

演習選択_演習　4年次／3単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この国際経営のゼミでは、企業戦略と組織能力に焦点を当てながら、国際ビジネスの基本的な考え方を理解するように準備されています。 中心となるスキルには、英語と日本語のプレゼンテーション能力、中小企業の経営戦略に関する調査、多国籍企業がグローバル経済における競争力と業績を向上させる方法を理解することが含まれます。本年度は、国際経営に関するトピックスのなかから、多国籍企業の財務報告と経営戦略に関する英文テキストを輪読し、会社の広報活動とグローバル市場、生産拠点選択ための立地競争、国境を越えた意思決定のプロセスなどに焦点を当てていきます。

【到達目標】
ゼミナールでは英文のテキストを輪読し、国際経営の専門用語を含んだ英語でプレゼンテーションを行い、討論できる実力を養成します。基本的な英語の発音練習、英文を日本文に訳す力の養成、英文法の復習を行うとともに、専門用語を含んだリスニングや英会話を楽しむことができるようになることを到達目標とします。経営学に関する専門的知識の獲得、英会話能力、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語文章力、コミュニケーション能力を磨きます。他大学とのインターゼミと卒業論文の作成を通じて論理的思考力を高めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
英文テキストの内容について日本語ないし英語で議論して理解を深めます。2年生は進級レポート、3年生はグループでの論文作成、4年生は卒業論文の提出が必要です。活動の成果を慶應義塾大学など他大学とのインターゼミナールで発表し、パワー・ポイントを使ったプレゼンテーション技法を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方についての説明。年間予定の確認。	他大学とのインターゼミの研究計画。教科書進度の確認。テキストの復習。
第2回	国際経営研究の方法。	フィールド調査、アンケート調査、データ分析。
第3回	テキスト輪読。ＯＢ会の企画立案。	テキストの英語理解。
第4回	他大学とのインターゼミの企画立案。	研究計画とデータ収集。
第5回	テキスト学習と英文和訳。	テキストの英語理解とそれを題材とした会話。
第6回	国際経営論の学問体系。	テキストの英語理解。英語ディスカッション。
第7回	テキスト購読と発音矯正。	テキストの英語理解。
第8回	インターゼミ、春合宿の企画立案。	合宿企画、アポイントメントの進捗報告。インターゼミの準備進捗報告。
第9回	リスニングとテキスト輪読。	テキストの英語理解。他大学とのインターゼミの発表練習。
第10回	テキスト内容についての英語ディスカッション。	テキストの英語理解。
第11回	テキスト関連企業の調査。	テキストの英語理解と事例紹介。
第12回	インターゼミの準備プレゼン。	四年生の研究プレゼンテーション。
第13回	英語プレゼンテーション	二年生、三年生の研究報告プレゼンテーション。
第14回	授業内期末試験。テキストの総括。	進級論文、卒業論文の提出。テキストの復習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
合宿やインターセミナーなど授業時間外の活動に参加する必要があります。過去には、春合宿・夏合宿で日本国内あるいは海外の工場を見学しました。海外では、韓国、中国、タイ、台湾、ベトナムの工場を見学しました。2024年度は参加学生諸君と相談のうえ決定します。新ゼミ生歓迎会やOB・OG会等も行い優れた社会人との「話し方」や「接し方」を学びます。それが学生諸君の就職選択にも役立ちます。三年生はＴＯＥＦＬないしＴＯＥＩＣの受験結果を提出します。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
白木三秀、ブライアン・シャーマン著『英語ｄｅ人事－日英対訳による実践的人事－』文眞堂、2020年、定価2600円＋税。この本は教科書として利用しますので、購入が必要です。
Daniels, J.D., Radebaugh, L.H., Sullivan, D.P. (2019) International Business: Environments and Operations, Pearson, 16th edition.(Global Edition).
この本のなかから、2024 年度は、Chapter 19. Global Accounting and Financial Management を読む予定です。昨年度からゼミ参加をしてきた四年生の学生諸君の関心と進捗度に応じてその他の章を読み進めます。この本を購入する必要はありません。

【参考書】
①石黒昭博監修『総合英語Forest』桐原書店、第７版.
＜英文和訳がわからなくなる場合がありますが、そのような場合には、文法事項にさかのぼって説明します。＞
②洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメント－ゼミナール編－』白桃書房、2008年. ＜ゼミナールでの活動の様子や先輩の作成した卒業論文、グループで作成した論文などが収められています。＞
③洞口治夫(2018)『ＭＢＡのナレッジ・マネジメント－集合知創造の現場としての社会人大学院－』文眞堂. ＜大学院進学希望者のためのテキストです。＞

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業の参加態度、授業の予習・復習、授業の理解度、過去の授業の記憶力とノートテイキングなど）（28％）
他大学とのインターゼミへの参加（12％）
合宿などへの参加（12％）
ゼミ活動への貢献的参加（8％）
期末試験（40％）（進級レポート作成中間報告(2年次)、グループでの進級論文作成報告と卒業論文構想報告(3年次)、卒業論文中間報告(4年次)）
無断欠席をした場合、減点幅が大きくなります。

【学生の意見等からの気づき】
「洞口ゼミナールの学生は英語の発音がきれいだ」と外部の教授に言われたことを、ゼミ学生諸君が報告してくれたときは嬉しく思いました。発音のコツは授業で教えます。一年間ゼミに参加し続けた学生諸君の達成感は高いように思います。大学という場を通じて先輩・後輩・同期とのつながりができることを喜ぶ声があります。ゼミ生諸君は、多数の会社から内定をもらい、有名・優良企業に就職を決めています。また、そうした企業に就職した先輩たちが就職の相談に乗ってくれます。

【学生が準備すべき機器他】
音声発音つき電子辞書ないしスマホが必要です。イーメールでファイルを送ることのできるアドレスを確保し、パソコンで毎日チェックして下さい。授業連絡用のメールアドレスは、漢字で氏名を記載したものを利用して下さい。教授から学生への連絡はメールで行い、学生諸君はラインで情報交換をしています。

【その他の重要事項】
①ゼミの学生諸君には専門科目である「国際経営論Ⅰ/Ⅱ」の履修を強く勧めます。
②ゼミからは過去21名の法政大学派遣留学生を輩出しており、3年に2名程度の割合になります。過去の派遣先はアメリカ、イギリス、ドイツ、台湾、韓国、中国、ロシア、オーストラリアであり、留学経験者がＯＢ・ＯＧとなっています。この成果はゼミでの学習と無縁ではないでしょう。
③ＳＡプログラム経験者、私費留学経験者も多数います。留学についてゼミの先輩からもアドバイスを受けることができます。
④英語の基準点に到達したら、GBP科目のInternational Businessを履修しましょう。
⑤商工総合研究所主催の中小企業懸賞論文でも、本賞、準賞を受賞した学年がいました。
⑥洞口は法政大学経営学部経営戦略学科の教授です。また、東証プライム市場に上場する企業の社外取締役を務めており、日本企業の経営実務にも接しています。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This international business seminar is designed to understand the basic concepts of international business. The course focuses on the corporate strategy and the organizational capability of the firm. The core skills gained after the course are presentation skills in Japanese and in English.
By reading a textbook, students will be able to understand internationalization strategies. The students will learn how to conduct field research on small- and medium-sized corporations in Japan. This seminar focuses on multinational corporations confronting an array of choices regarding global markets, locations for production, public relations, and cross-border decision-making processes.
【Learning Objectives】

In this seminar, students will read English texts and develop the ability to discuss in English using technical terms of international management. Students will practice basic English pronunciation, review English grammar, and develop the ability to translate English into Japanese. The goal of this seminar is for students to be able to enjoy listening to and speaking English that includes technical terms. Students will acquire specialized knowledge in business administration, and improve their English conversation skills as well as presentation techniques, logical thinking, and Japanese writing skills.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to participate in activities outside of class hours, such as spring and summer camps and inter-seminars. In the past, we visited factories in Japan and overseas during spring and summer camps. Overseas, we have visited factories in Korea, China, Thailand, Taiwan, and Vietnam.
Third-year students are required to submit the results of TOEFL or TOEIC. The standard preparation and review time for this class is 4 hours. We also have a welcome party for new seminar students and an alumni meeting to learn how to talk to and interact with outstanding members of society. This will also help students in their choice of employment.
【Grading Criteria/Policy〉】
Class participation (28%)
Participation in inter-seminars with Keio (12%)
Participation in training camps, etc. (12%)
Active participation in seminar activities (8%)
Final exam (40%):2nd year, mid-term report on the preparation of the report for advancement. 3rd year, group report on the preparation of the thesis for advancement and a report on the planning of graduation thesis. 4th year students will be required to submit a mid-term report and the graduation thesis.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習1

山嵜　輝

演習選択_演習　2年次／3単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、ファイナンスに関する輪読、討論、実証分析などを通じて、金融実務で通用するファイナンスのスキルを習得することを目指します。ファイナンス理論は目覚ましい進歩を遂げ、その広範な研究成果は経済学や経営学の学術界にとどまらず、金融ビジネスをはじめとする実社会にも多大な影響を与えています。高度に発展したファイナンス理論には難解な部分もありますが、本演習では、理論の本質的なメッセージをできるだけシンプルかつ正確に理解することを重視します。
将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるよう、理論面だけでなく、私自身の金融実務経験を踏まえて様々なサポートを行います。さらに、Microsoft社のExcelを活用し、ファイナンスに関連する実践的な計量分析や数値実験（シミュレーション）を行います。実際の金融データを取得し、それを活用する方法も学びます。

【到達目標】
以下の3つを到達目標に掲げます。
（1）ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
（2）自分自身の分析結果や考察に基づいて、論理的かつ整合的な説明（プレゼンテーション、レポート作成）ができる。
（3）表計算ソフトを利用してファイナンスに関する実践的な計量分析や数値実験（シミュレーション）ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
この演習は教室での対面形式の授業となります。本演習は3つの課題に取り組みます。1つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタルズ分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向に関する報告を行います。2つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3つ目は問題演習です。輪読と並行して「証券アナリスト第1・2次レベル試験」の問題をたくさん解くことで、ファイナンスの知識や理解を確固たるものにします。さらには、PC（Excel）を用いて金融市場の実証分析を行います。毎回の授業で宿題等のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習の進め方、到達目標、成績評価基準などの説明
第2回	テキストの輪読（債券投資分析）	債券の種類とそのキャッシュフロー、債券評価の基本、債券価格と最終利回り
第3回	テキストの輪読（債券投資分析）	様々な利回り尺度、デュレーション
第4回	テキストの輪読（債券投資分析）	コンベキシティ、利回り曲線と金利の期間構造
第5回	テキストの輪読（債券投資分析）	利回り曲線の変動要因、様々な利回り曲線
第6回	テキストの輪読（債券投資分析）	金利期間構造の理論、信用リスクと格付け、信用リスクと利回り格差
第7回	テキストの輪読（債券投資分析）	信用リスクの推定、社債評価と投資戦略、コーラブル債とプッタブル債
第8回	テキストの輪読（債券投資分析）	変動利付債、インフレ連動債、モーゲージ・バックト証券（MBS）
第9回	テキストの輪読（債券投資分析）	投資目的とベンチマーク、債券ポートフォリオのリスク、パッシブ戦略、アクティブ戦略
第10回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場の効率性に対する考え方、小型株効果、割安株効果
第11回	テキストの輪読（株式投資分析）	リターン・リバーサルとモーメンタム、それ以外の市場アノマリー
第12回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表1
第13回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表2
第14回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらにExcel演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
（1）伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務篇』、2009年、日本経済新聞出版社
（2）小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論Ⅰ 理論篇』、2009年、日本経済新聞出版社

【参考書】
（1）佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
（2）佐野三郎、『2022年版 パーフェクト証券アナリスト第2次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
（3）ジョン・ハル、『フィナンシャルエンジニアリング　第9版』、2016年、金融財政事情研究会
（4）木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012年、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】
発表（50％）、Excel演習・宿題（30％）、平常点（20％）に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4年生は卒業レポートもしくは卒業論文の研究計画の発表が必須です。

【学生の意見等からの気づき】
学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。また、Excel演習の時間が十分にとれるように配慮します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】
Excel演習や宿題では、Microsoft社のExcelを使います。発表用のプレゼン資料はPowerPoint、卒業レポートや卒業論文はWordを利用して作成してください。

【関連科目】
ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【前提知識】
関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説します。

【Outline (in English)】
[Course outline] This course provides students with a wide range of knowledge to understand financial markets and modern finance business. [Learning objective] The three major objectives of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) understanding principles of modern finance theory; and (3) using Microsoft Excel for introductory quantitative analysis of asset pricing and investment decisions. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Presentation: 50%, exercises: 30%, in class contribution: 20%.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

演習2

山嵜　輝

演習選択_演習　2年次／3単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、ファイナンスに関する輪読、討論、実証分析などを通じて、金融実務に役立つファイナンスのスキルを習得することを目指します。ファイナンス理論は急速な進展を遂げ、その広範な研究成果は経済学や経営学の学術界のみならず、金融ビジネスをはじめとする実社会にも大きな影響を与えています。高度に発展したファイナンス理論には難解な部分もありますが、本演習では、理論が持つ本質的なメッセージを可能な限りシンプルかつ正確に理解することを重視します。
将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるように、理論面だけでなく、私自身の金融実務経験を基に、さまざまなサポートを行っていきます。さらに、年に1～2回、金融ビジネスの世界で活躍する現役のプロフェッショナルを招き、実務家講演会を開催します。これまでには、メガバンク、大手証券会社、大手アセットマネジメント、外資系金融機関などのファンドマネージャーやアナリスト、トレーダー、投資コンサルタントが講演を行っています。

【到達目標】
以下の3つを到達目標に掲げます。
（1）ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
（2）自分自身の分析結果や考察に基づいて、論理的かつ整合的な説明（プレゼンテーション、レポート作成）ができる。
（3）金融実務の専門家と金融の様々な話題について対話できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
この演習は教室での対面形式の授業となります。本演習は3つの課題に取り組みます。1つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタルズ分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向に関する報告を行います。2つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3つ目は実務家講演会の開催です。金融ビジネスの第一線で活躍する社会人を招聘して講演会を開催し、ゼミ生と活発なディスカッションを行います。毎回の授業で宿題等のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場アノマリーの原因、市場の効率性と株式投資、企業・株式価値評価モデルの分類
第2回	テキストの輪読（株式投資分析）	配当割引モデル
第3回	テキストの輪読（株式投資分析）	残余利益モデル、割引キャッシュフロー法（DCF）、企業価値の残余利益モデル（EVA）
第4回	テキストの輪読（株式投資分析）	資本コスト
第5回	テキストの輪読（株式投資分析）	株式評価尺度、株式収益率（PER）、配当利回り
第6回	テキストの輪読（株式投資分析）	株価純資産倍率（PBR）EV/EBITDA、株価キャッシュフロー倍率（PCFR）、株価売上高倍率（PSR）、相対価値評価の注意点
第7回	テキストの輪読（株式投資分析）	インデックス運用
第8回	テキストの輪読（株式投資分析）	アクティブ運用、アクティブ運用の基本法則、アクティブ運用の種類
第9回	テキストの輪読（国際証券投資）	国際証券投資の意義
第10回	テキストの輪読（国際証券投資）	国際パリティ関係、購買力平価、国際フィッシャー関係、フォワード・パリティ
第11回	テキストの輪読（国際証券投資）	カバー付き金利パリティ、カバーなし金利パリティ、国際パリティ関係の現実
第12回	実務家講演会	現役の金融ビジネスパーソンによる実務家講演会の開催
第13回	卒業レポートおよび卒業論文の報告会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会1
第14回	卒業レポートおよび卒業論文の報告会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらにExcel演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
（1）伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務篇』、2009年、日本経済新聞出版社
（2）小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論Ⅰ 理論篇』、2009年、日本経済新聞出版社

【参考書】
（1）佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
（2）佐野三郎、『2022年版 パーフェクト証券アナリスト第2次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
（3）ジョン・ハル、『フィナンシャルエンジニアリング　第9版』、2016年、金融財政事情研究会
（4）木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012年、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】
発表（50％）、Excel演習・宿題（30％）、平常点（20％）に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4年生は卒業レポートもしくは卒業論文の提出及び発表が必須です。

【学生の意見等からの気づき】
学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。実務家講演会の講演者の選定はゼミ生の要望がかなうように尽力します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】
Excel演習や宿題では、Microsoft社のExcelを使います。発表用のプレゼン資料はPowerPoint、卒業レポートや卒業論文はWordを利用して作成してください。

【関連科目】
ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【前提知識】
関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説します。

【Outline (in English)】
[Course outline] This course provides students with a wide range of knowledge to understand financial markets and modern finance business. [Learning objective] The three major objectives of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) understanding principles of modern finance theory; and (3) understanding advanced topics lectured by an invited business person. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Presentation: 50%, exercises: 30%, in class contribution: 20%.

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習3

山嵜　輝

演習選択_演習　3年次／3単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、ファイナンスに関する輪読、討論、実証分析などを通じて、金融実務で通用するファイナンスのスキルを習得することを目指します。ファイナンス理論は目覚ましい進歩を遂げ、その広範な研究成果は経済学や経営学の学術界にとどまらず、金融ビジネスをはじめとする実社会にも多大な影響を与えています。高度に発展したファイナンス理論には難解な部分もありますが、本演習では、理論の本質的なメッセージをできるだけシンプルかつ正確に理解することを重視します。
将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるよう、理論面だけでなく、私自身の金融実務経験を踏まえて様々なサポートを行います。さらに、Microsoft社のExcelを活用し、ファイナンスに関連する実践的な計量分析や数値実験（シミュレーション）を行います。実際の金融データを取得し、それを活用する方法も学びます。

【到達目標】
以下の3つを到達目標に掲げます。
（1）ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
（2）自分自身の分析結果や考察に基づいて、論理的かつ整合的な説明（プレゼンテーション、レポート作成）ができる。
（3）表計算ソフトを利用してファイナンスに関する実践的な計量分析や数値実験（シミュレーション）ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
この演習は教室での対面形式の授業となります。本演習は3つの課題に取り組みます。1つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタルズ分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向に関する報告を行います。2つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3つ目は問題演習です。輪読と並行して「証券アナリスト第1・2次レベル試験」の問題をたくさん解くことで、ファイナンスの知識や理解を確固たるものにします。さらには、PC（Excel）を用いて金融市場の実証分析を行います。毎回の授業で宿題等のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習の進め方、到達目標、成績評価基準などの説明
第2回	テキストの輪読（債券投資分析）	債券の種類とそのキャッシュフロー、債券評価の基本、債券価格と最終利回り
第3回	テキストの輪読（債券投資分析）	様々な利回り尺度、デュレーション
第4回	テキストの輪読（債券投資分析）	コンベキシティ、利回り曲線と金利の期間構造
第5回	テキストの輪読（債券投資分析）	利回り曲線の変動要因、様々な利回り曲線
第6回	テキストの輪読（債券投資分析）	金利期間構造の理論、信用リスクと格付け、信用リスクと利回り格差
第7回	テキストの輪読（債券投資分析）	信用リスクの推定、社債評価と投資戦略、コーラブル債とプッタブル債
第8回	テキストの輪読（債券投資分析）	変動利付債、インフレ連動債、モーゲージ・バックト証券（MBS）
第9回	テキストの輪読（債券投資分析）	投資目的とベンチマーク、債券ポートフォリオのリスク、パッシブ戦略、アクティブ戦略
第10回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場の効率性に対する考え方、小型株効果、割安株効果
第11回	テキストの輪読（株式投資分析）	リターン・リバーサルとモーメンタム、それ以外の市場アノマリー
第12回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表1
第13回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表2
第14回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらにExcel演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
（1）伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務篇』、2009年、日本経済新聞出版社
（2）小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論Ⅰ 理論篇』、2009年、日本経済新聞出版社

【参考書】
（1）佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
（2）佐野三郎、『2022年版 パーフェクト証券アナリスト第2次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
（3）ジョン・ハル、『フィナンシャルエンジニアリング　第9版』、2016年、金融財政事情研究会
（4）木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012年、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】
発表（50％）、Excel演習・宿題（30％）、平常点（20％）に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4年生は卒業レポートもしくは卒業論文の研究計画の発表が必須です。

【学生の意見等からの気づき】
学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。また、Excel演習の時間が十分にとれるように配慮します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】
Excel演習や宿題では、Microsoft社のExcelを使います。発表用のプレゼン資料はPowerPoint、卒業レポートや卒業論文はWordを利用して作成してください。

【関連科目】
ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【前提知識】
関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説します。

【Outline (in English)】
[Course outline] This course provides students with a wide range of knowledge to understand financial markets and modern finance business. [Learning objective] The three major objectives of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) understanding principles of modern finance theory; and (3) using Microsoft Excel for introductory quantitative analysis of asset pricing and investment decisions. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Presentation: 50%, exercises: 30%, in class contribution: 20%.

MAN300FA（経営学 / Management 300）

演習4

山嵜　輝

演習選択_演習　3年次／3単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、ファイナンスに関する輪読、討論、実証分析などを通じて、金融実務に役立つファイナンスのスキルを習得することを目指します。ファイナンス理論は急速な進展を遂げ、その広範な研究成果は経済学や経営学の学術界のみならず、金融ビジネスをはじめとする実社会にも大きな影響を与えています。高度に発展したファイナンス理論には難解な部分もありますが、本演習では、理論が持つ本質的なメッセージを可能な限りシンプルかつ正確に理解することを重視します。
将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるように、理論面だけでなく、私自身の金融実務経験を基に、さまざまなサポートを行っていきます。さらに、年に1～2回、金融ビジネスの世界で活躍する現役のプロフェッショナルを招き、実務家講演会を開催します。これまでには、メガバンク、大手証券会社、大手アセットマネジメント、外資系金融機関などのファンドマネージャーやアナリスト、トレーダー、投資コンサルタントが講演を行っています。

【到達目標】
以下の3つを到達目標に掲げます。
（1）ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
（2）自分自身の分析結果や考察に基づいて、論理的かつ整合的な説明（プレゼンテーション、レポート作成）ができる。
（3）金融実務の専門家と金融の様々な話題について対話できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
この演習は教室での対面形式の授業となります。本演習は3つの課題に取り組みます。1つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタルズ分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向に関する報告を行います。2つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3つ目は実務家講演会の開催です。金融ビジネスの第一線で活躍する社会人を招聘して講演会を開催し、ゼミ生と活発なディスカッションを行います。毎回の授業で宿題等のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場アノマリーの原因、市場の効率性と株式投資、企業・株式価値評価モデルの分類
第2回	テキストの輪読（株式投資分析）	配当割引モデル
第3回	テキストの輪読（株式投資分析）	残余利益モデル、割引キャッシュフロー法（DCF）、企業価値の残余利益モデル（EVA）
第4回	テキストの輪読（株式投資分析）	資本コスト
第5回	テキストの輪読（株式投資分析）	株式評価尺度、株式収益率（PER）、配当利回り
第6回	テキストの輪読（株式投資分析）	株価純資産倍率（PBR）EV/EBITDA、株価キャッシュフロー倍率（PCFR）、株価売上高倍率（PSR）、相対価値評価の注意点
第7回	テキストの輪読（株式投資分析）	インデックス運用
第8回	テキストの輪読（株式投資分析）	アクティブ運用、アクティブ運用の基本法則、アクティブ運用の種類
第9回	テキストの輪読（国際証券投資）	国際証券投資の意義
第10回	テキストの輪読（国際証券投資）	国際パリティ関係、購買力平価、国際フィッシャー関係、フォワード・パリティ
第11回	テキストの輪読（国際証券投資）	カバー付き金利パリティ、カバーなし金利パリティ、国際パリティ関係の現実
第12回	実務家講演会	現役の金融ビジネスパーソンによる実務家講演会の開催
第13回	卒業レポートおよび卒業論文の報告会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会1
第14回	卒業レポートおよび卒業論文の報告会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらにExcel演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
（1）伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務篇』、2009年、日本経済新聞出版社
（2）小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論Ⅰ 理論篇』、2009年、日本経済新聞出版社

【参考書】
（1）佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
（2）佐野三郎、『2022年版 パーフェクト証券アナリスト第2次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
（3）ジョン・ハル、『フィナンシャルエンジニアリング　第9版』、2016年、金融財政事情研究会
（4）木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012年、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】
発表（50％）、Excel演習・宿題（30％）、平常点（20％）に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4年生は卒業レポートもしくは卒業論文の提出及び発表が必須です。

【学生の意見等からの気づき】
学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。実務家講演会の講演者の選定はゼミ生の要望がかなうように尽力します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】
Excel演習や宿題では、Microsoft社のExcelを使います。発表用のプレゼン資料はPowerPoint、卒業レポートや卒業論文はWordを利用して作成してください。

【関連科目】
ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【前提知識】
関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説します。

【Outline (in English)】
[Course outline] This course provides students with a wide range of knowledge to understand financial markets and modern finance business. [Learning objective] The three major objectives of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) understanding principles of modern finance theory; and (3) understanding advanced topics lectured by an invited business person. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Presentation: 50%, exercises: 30%, in class contribution: 20%.

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習5

山嵜　輝

演習選択_演習　4年次／3単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、ファイナンスに関する輪読、討論、実証分析などを通じて、金融実務で通用するファイナンスのスキルを習得することを目指します。ファイナンス理論は目覚ましい進歩を遂げ、その広範な研究成果は経済学や経営学の学術界にとどまらず、金融ビジネスをはじめとする実社会にも多大な影響を与えています。高度に発展したファイナンス理論には難解な部分もありますが、本演習では、理論の本質的なメッセージをできるだけシンプルかつ正確に理解することを重視します。
将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるよう、理論面だけでなく、私自身の金融実務経験を踏まえて様々なサポートを行います。さらに、Microsoft社のExcelを活用し、ファイナンスに関連する実践的な計量分析や数値実験（シミュレーション）を行います。実際の金融データを取得し、それを活用する方法も学びます。

【到達目標】
以下の3つを到達目標に掲げます。
（1）ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
（2）自分自身の分析結果や考察に基づいて、論理的かつ整合的な説明（プレゼンテーション、レポート作成）ができる。
（3）表計算ソフトを利用してファイナンスに関する実践的な計量分析や数値実験（シミュレーション）ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
この演習は教室での対面形式の授業となります。本演習は3つの課題に取り組みます。1つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタルズ分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向に関する報告を行います。2つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3つ目は問題演習です。輪読と並行して「証券アナリスト第1・2次レベル試験」の問題をたくさん解くことで、ファイナンスの知識や理解を確固たるものにします。さらには、PC（Excel）を用いて金融市場の実証分析を行います。毎回の授業で宿題等のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習の進め方、到達目標、成績評価基準などの説明
第2回	テキストの輪読（債券投資分析）	債券の種類とそのキャッシュフロー、債券評価の基本、債券価格と最終利回り
第3回	テキストの輪読（債券投資分析）	様々な利回り尺度、デュレーション
第4回	テキストの輪読（債券投資分析）	コンベキシティ、利回り曲線と金利の期間構造
第5回	テキストの輪読（債券投資分析）	利回り曲線の変動要因、様々な利回り曲線
第6回	テキストの輪読（債券投資分析）	金利期間構造の理論、信用リスクと格付け、信用リスクと利回り格差
第7回	テキストの輪読（債券投資分析）	信用リスクの推定、社債評価と投資戦略、コーラブル債とプッタブル債
第8回	テキストの輪読（債券投資分析）	変動利付債、インフレ連動債、モーゲージ・バックト証券（MBS）
第9回	テキストの輪読（債券投資分析）	投資目的とベンチマーク、債券ポートフォリオのリスク、パッシブ戦略、アクティブ戦略
第10回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場の効率性に対する考え方、小型株効果、割安株効果
第11回	テキストの輪読（株式投資分析）	リターン・リバーサルとモーメンタム、それ以外の市場アノマリー
第12回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表1
第13回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表2
第14回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらにExcel演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
（1）伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務篇』、2009年、日本経済新聞出版社
（2）小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論Ⅰ 理論篇』、2009年、日本経済新聞出版社

【参考書】
（1）佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
（2）佐野三郎、『2022年版 パーフェクト証券アナリスト第2次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
（3）ジョン・ハル、『フィナンシャルエンジニアリング　第9版』、2016年、金融財政事情研究会
（4）木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012年、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】
発表（50％）、Excel演習・宿題（30％）、平常点（20％）に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4年生は卒業レポートもしくは卒業論文の研究計画の発表が必須です。

【学生の意見等からの気づき】
学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。また、Excel演習の時間が十分にとれるように配慮します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】
Excel演習や宿題では、Microsoft社のExcelを使います。発表用のプレゼン資料はPowerPoint、卒業レポートや卒業論文はWordを利用して作成してください。

【関連科目】
ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【前提知識】
関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説します。

【Outline (in English)】
[Course outline] This course provides students with a wide range of knowledge to understand financial markets and modern finance business. [Learning objective] The three major objectives of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) understanding principles of modern finance theory; and (3) using Microsoft Excel for introductory quantitative analysis of asset pricing and investment decisions. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Presentation: 50%, exercises: 30%, in class contribution: 20%.

MAN400FA（経営学 / Management 400）

演習6

山嵜　輝

演習選択_演習　4年次／3単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、ファイナンスに関する輪読、討論、実証分析などを通じて、金融実務に役立つファイナンスのスキルを習得することを目指します。ファイナンス理論は急速な進展を遂げ、その広範な研究成果は経済学や経営学の学術界のみならず、金融ビジネスをはじめとする実社会にも大きな影響を与えています。高度に発展したファイナンス理論には難解な部分もありますが、本演習では、理論が持つ本質的なメッセージを可能な限りシンプルかつ正確に理解することを重視します。
将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるように、理論面だけでなく、私自身の金融実務経験を基に、さまざまなサポートを行っていきます。さらに、年に1～2回、金融ビジネスの世界で活躍する現役のプロフェッショナルを招き、実務家講演会を開催します。これまでには、メガバンク、大手証券会社、大手アセットマネジメント、外資系金融機関などのファンドマネージャーやアナリスト、トレーダー、投資コンサルタントが講演を行っています。

【到達目標】
以下の3つを到達目標に掲げます。
（1）ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
（2）自分自身の分析結果や考察に基づいて、論理的かつ整合的な説明（プレゼンテーション、レポート作成）ができる。
（3）金融実務の専門家と金融の様々な話題について対話できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
この演習は教室での対面形式の授業となります。本演習は3つの課題に取り組みます。1つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタルズ分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向に関する報告を行います。2つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3つ目は実務家講演会の開催です。金融ビジネスの第一線で活躍する社会人を招聘して講演会を開催し、ゼミ生と活発なディスカッションを行います。毎回の授業で宿題等のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場アノマリーの原因、市場の効率性と株式投資、企業・株式価値評価モデルの分類
第2回	テキストの輪読（株式投資分析）	配当割引モデル
第3回	テキストの輪読（株式投資分析）	残余利益モデル、割引キャッシュフロー法（DCF）、企業価値の残余利益モデル（EVA）
第4回	テキストの輪読（株式投資分析）	資本コスト
第5回	テキストの輪読（株式投資分析）	株式評価尺度、株式収益率（PER）、配当利回り
第6回	テキストの輪読（株式投資分析）	株価純資産倍率（PBR）EV/EBITDA、株価キャッシュフロー倍率（PCFR）、株価売上高倍率（PSR）、相対価値評価の注意点
第7回	テキストの輪読（株式投資分析）	インデックス運用
第8回	テキストの輪読（株式投資分析）	アクティブ運用、アクティブ運用の基本法則、アクティブ運用の種類
第9回	テキストの輪読（国際証券投資）	国際証券投資の意義
第10回	テキストの輪読（国際証券投資）	国際パリティ関係、購買力平価、国際フィッシャー関係、フォワード・パリティ
第11回	テキストの輪読（国際証券投資）	カバー付き金利パリティ、カバーなし金利パリティ、国際パリティ関係の現実
第12回	実務家講演会	現役の金融ビジネスパーソンによる実務家講演会の開催
第13回	卒業レポートおよび卒業論文の報告会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会1
第14回	卒業レポートおよび卒業論文の報告会	4年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらにExcel演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
（1）伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務篇』、2009年、日本経済新聞出版社
（2）小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論Ⅰ 理論篇』、2009年、日本経済新聞出版社

【参考書】
（1）佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
（2）佐野三郎、『2022年版 パーフェクト証券アナリスト第2次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
（3）ジョン・ハル、『フィナンシャルエンジニアリング　第9版』、2016年、金融財政事情研究会
（4）木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012年、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】
発表（50％）、Excel演習・宿題（30％）、平常点（20％）に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4年生は卒業レポートもしくは卒業論文の提出及び発表が必須です。

【学生の意見等からの気づき】
学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。実務家講演会の講演者の選定はゼミ生の要望がかなうように尽力します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】
Excel演習や宿題では、Microsoft社のExcelを使います。発表用のプレゼン資料はPowerPoint、卒業レポートや卒業論文はWordを利用して作成してください。

【関連科目】
ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【前提知識】
関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説します。

【Outline (in English)】
[Course outline] This course provides students with a wide range of knowledge to understand financial markets and modern finance business. [Learning objective] The three major objectives of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) understanding principles of modern finance theory; and (3) understanding advanced topics lectured by an invited business person. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Presentation: 50%, exercises: 30%, in class contribution: 20%.

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

プログラミング言語Ⅰ（JAVA）（2019年度以降入学者）

飯塚　康至

情報関係科目　1～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

＜授業概要＞

本授業では主要なオブジェクト指向言語であるJavaを学びます。春学期では可視化のライブラリを利用しながら、図形描画やアニメーションなどを利用しプログラミングを可視化しながらJavaの基本文法を学んでいきます。

＜授業の目的・意義＞

ICTやデジタルは日常生活の基盤として欠かせないものとなっています。これらを作り出すプログラムの重要度は近年増すばかりで、プログラミングスキルは社会人の基礎スキルとして必須となりつつあります。またプログラミングやアルゴリズムを学ぶことで、問題解決思考であるプログラミング的思考を身につけることができ、問題解決のさまざまな場面で活用することができるようになります。社会人になった後も有意義なスキルであり、プログラミングスキルを身につけることは大きな意義があるものと考えます。本授業ではJavaを利用しプログラミングを行いプログラミング的思考を身につけることを目的としています。

[到達目標]

・学生はJavaで基礎的なプログラミングを行うことができるようになる

・学生はオブジェクト指向を理解し説明できるようになる

・学生はプログラミング的思考を身につけ問題解決に活かすことができるようになる

【到達目標】

本講座の到達目標は次の通りです

(1)基本的なJava言語の機能と文法を理解し説明できる。

(2)クラスを定義し利用できる。

(3)オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。

(4)自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システムHoppiiで行います。

授業は，実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際にPCを使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。この学習によってJavaの基礎を身につけていきます。

実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。

なお、受講にあたってはプログラミングに関しての予備知識は必要としませんが、一般的なPCのスキルは必要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Javaの基礎知識	Javaやプロググラミングの基本的な考え方を学びます。
2	実行環境の基礎知識	Javaを実行する環境の構築方法や利用方法について学びます。
3	図形を表示する	Javaを使って四角形や楕円を表示する方法を学びます。
4	繰り返し（while）	while文を使って図形を繰り返し表示する方法について学びます。
5	繰り返し（for）	for文を使って図形を繰り返し表示する方法について学びます。
6	条件分岐	if文を利用して一部だけ異なる処理を行う方法を学びます。
7	アニメーション（基本）	アニメーションの基本について学びます。
8	アニメーション（応用）	図形をさまざまな方向に動かす方法について学びます。
9	クラス・オブジェクト（図形描画）	顔の図形を描いてクラスについて理解します。
10	クラス・オブジェクト（クラス化）	クラスを利用し簡単に図形を描く方法を学びます。
11	配列・Vector	たくさんの図形を効率よく動かす方法について学びます。
12	継承	異なる図形を効率よく作成する方法について学びます。
13	イベント	キーボードの入力に反応して図形を動かす方法について学びます。
14	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常的にパソコンを触る時間を作りましょう。分からない部分は生成AIに質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初級Java―やさしいJava, 長 慎也 (著), 飯塚 康至 (著), 実教出版 (2012/10/1),4407325860

【参考書】

授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、平常点50点、授業内課題50点にて決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

1年生やPC初心者の方の受講が目立ちましたので、少し基礎的な内容を厚くするようにシラバスを修正しました。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニタを利用します。課題のやりとり等はGoogleクラスルームを利用します。

【その他の重要事項】

関連資格：OCJP:Oracle Certified Java Programmer（オラクル認定Javaプログラマー）

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

【関連科目】

データ処理論Ⅰ（コンピューターグラフィックス）

【実務経験のある教員による授業】

鉄道および製造業の大規模Javaシステムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

＜ Class Outline＞

In this class, students will learn Java, a major object-oriented language. In the spring semester, students will learn the basic syntax of Java by using visualization libraries and visualizing programming using graphic drawing and animation.

＜ Purpose and Significance of the Class＞

ICT and digital technologies have become an indispensable part of our daily lives. The importance of the programs that create them has only increased in recent years, and programming skills are becoming indispensable as a basic skill for working adults. Learning programming and algorithms helps students acquire a programming mindset, which is a problem-solving mindset that can be used in a variety of problem-solving situations. We believe that acquiring programming skills is very significant because it is a skill that will be useful even after one enters the workforce. The objective of this class is to acquire programming skills through programming using Java.

[Objectives]

Students will be able to perform basic programming in Java.

Students will be able to understand and explain object-oriented programming.

Students will be able to think programmatically and apply it to problem solving.

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

プログラミング言語Ⅱ（JAVA）（2019年度以降入学者）

飯塚　康至

情報関係科目　1～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

＜授業概要＞

本授業では主要なオブジェクト指向言語であるJavaを学びます。秋学期では春学期に学んだJavaの基本的な文法をもとにシューティングゲームを作成し、その過程でJavaによるプログラミングの理解を深めていきます。

＜授業の目的・意義＞

ICTやデジタルは日常生活の基盤として欠かせないものとなっています。これらを作り出すプログラムの重要度は近年増すばかりで、プログラミングスキルは社会人の基礎スキルとして必須となりつつあります。またプログラミングやアルゴリズムを学ぶことで、問題解決思考であるプログラミング的思考を身につけることができ、問題解決のさまざまな場面で活用することができるようになります。社会人になった後も有意義なスキルであり、プログラミングスキルを身につけることは大きな意義があるものと考えます。本授業ではJavaを利用しプログラミングを行いプログラミング的思考を身につけることを目的としています。

[到達目標]

・学生はJavaで基礎的なプログラミングを行うことができるようになる

・学生はオブジェクト指向を理解し説明できるようになる

・学生はプログラミング的思考を身につけ問題解決に活かすことができるようになる

【到達目標】

本講座の到達目標は次の通りです

(1)基本的なJava言語の機能と文法を理解し説明できる。

(2)クラスを定義し利用できる。

(3)オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。

(4)自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システムHoppiiで行います。

授業は，実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際にPCを使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。この学習によってJavaの基礎を身につけていきます。

実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。

なお、受講にあたってはプログラミングに関しての予備知識は必要としませんが、一般的なPCのスキルは必要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Javaの基本知識	オブジェクト指向言語Javaとはどのようなものか理解します。
2	実行環境の構築と理解	Javaを実行する環境の構築方法と利用方法について学びます。
3	ゲームの雛形の作成	シューティングゲームの雛形を作成し実行までの手続きを理解します。
4	プレイヤーを表示する	画面上に自機（プレイヤー）を表示する方法について学びます。
5	プレイヤーを動かす	プレイヤーをアニメーションさせる方法について学びます。
6	敵を表示し動かす	敵を表示しアニメーションさせる方法について学びます。
7	キャラクターに抽象化する	プレイヤーや敵をキャラクターという概念にまとめる方法について学びます。
8	キーボードでプレイヤーを動かす	キーボードの入力でプレイヤーを動かす方法について学びます。
9	弾を撃てるようにする	プレイヤーから弾を発射できるようにする方法について学びます。
10	敵を出現させる	敵の母艦を作成して敵母艦から敵を出現させる方法について学びます。
11	プレイヤーと敵の当たり判定	プレイヤーと敵が当たった場合の処理（当たり判定）の実装方法を学びます。
12	弾と敵の当たり判定	弾と敵の当たり判定の実装方法を学びます。
13	進行管理	「クリア」や「ゲームオーバー」などの進行管理の実装方法について学びます。
14	秋期復習	秋学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常的にパソコンを触る時間を作りましょう。分からない部分は生成AIに質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初級Java―やさしいJava, 長 慎也 (著), 飯塚 康至 (著), 実教出版 (2012/10/1),4407325860

【参考書】

授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、平常点50点、授業内課題50点にて決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

春学期からの継続受講を推奨する科目ですが、後期からの受講者や1年生、PCの初心者の受講者が見受けられましたので、全体的に基礎的な内容を厚くしながらゲームの完成を目指す形にシラバスを修正しました。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

課題等のやりとり等はGoogleクラスルームを利用します。

【その他の重要事項】

関連資格：OCJP:Oracle Certified Java Programmer（オラクル認定Javaプログラマー）

【関連科目】

データ処理論Ⅰ（データ可視化）

【実務経験のある教員による授業】

鉄道および製造業の大規模Javaシステムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

＜ Class Outline＞

In this class, students will learn Java, a major object-oriented language. In the fall semester, students will create a shooting game based on the basic Java syntax learned in the spring semester, deepening their understanding of Java programming in the process.

＜ Purpose and Significance of the Class＞

ICT and digital technologies have become an indispensable part of our daily lives. The importance of the programs that create them has only increased in recent years, and programming skills are becoming indispensable as a basic skill for working adults. Learning programming and algorithms helps students acquire a programming mindset, which is a problem-solving mindset that can be used in a variety of problem-solving situations. We believe that acquiring programming skills is very significant because it is a skill that will be useful even after one enters the workforce. The objective of this class is to acquire programming thinking through programming using Java.

[Objectives]

Students will be able to perform basic programming in Java.

Students will be able to understand and explain object-oriented programming.

Students will be able to think programmatically and apply it to problem solving.

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

プログラミング言語Ⅰ（JAVA）（2019年度以降入学者）

飯塚　康至

情報関係科目　1～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

＜授業概要＞

本授業では主要なオブジェクト指向言語であるJavaを学びます。春学期では可視化のライブラリを利用しながら、図形描画やアニメーションなどを利用しプログラミングを可視化しながらJavaの基本文法を学んでいきます。

＜授業の目的・意義＞

ICTやデジタルは日常生活の基盤として欠かせないものとなっています。これらを作り出すプログラムの重要度は近年増すばかりで、プログラミングスキルは社会人の基礎スキルとして必須となりつつあります。またプログラミングやアルゴリズムを学ぶことで、問題解決思考であるプログラミング的思考を身につけることができ、問題解決のさまざまな場面で活用することができるようになります。社会人になった後も有意義なスキルであり、プログラミングスキルを身につけることは大きな意義があるものと考えます。本授業ではJavaを利用しプログラミングを行いプログラミング的思考を身につけることを目的としています。

[到達目標]

・学生はJavaで基礎的なプログラミングを行うことができるようになる

・学生はオブジェクト指向を理解し説明できるようになる

・学生はプログラミング的思考を身につけ問題解決に活かすことができるようになる

【到達目標】

本講座の到達目標は次の通りです

(1)基本的なJava言語の機能と文法を理解し説明できる。

(2)クラスを定義し利用できる。

(3)オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。

(4)自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システムHoppiiで行います。

授業は，実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際にPCを使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。この学習によってJavaの基礎を身につけていきます。

実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。

なお、受講にあたってはプログラミングに関しての予備知識は必要としませんが、一般的なPCのスキルは必要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Javaの基礎知識	Javaやプロググラミングの基本的な考え方を学びます。
2	実行環境の基礎知識	Javaを実行する環境の構築方法や利用方法について学びます。
3	図形を表示する	Javaを使って四角形や楕円を表示する方法を学びます。
4	繰り返し（while）	while文を使って図形を繰り返し表示する方法について学びます。
5	繰り返し（for）	for文を使って図形を繰り返し表示する方法について学びます。
6	条件分岐	if文を利用して一部だけ異なる処理を行う方法を学びます。
7	アニメーション（基本）	アニメーションの基本について学びます。
8	アニメーション（応用）	図形をさまざまな方向に動かす方法について学びます。
9	クラス・オブジェクト（図形描画）	顔の図形を描いてクラスについて理解します。
10	クラス・オブジェクト（クラス化）	クラスを利用し簡単に図形を描く方法を学びます。
11	配列・Vector	たくさんの図形を効率よく動かす方法について学びます。
12	継承	異なる図形を効率よく作成する方法について学びます。
13	イベント	キーボードの入力に反応して図形を動かす方法について学びます。
14	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常的にパソコンを触る時間を作りましょう。分からない部分は生成AIに質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初級Java―やさしいJava, 長 慎也 (著), 飯塚 康至 (著), 実教出版 (2012/10/1),4407325860

【参考書】

授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、平常点50点、授業内課題50点にて決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

1年生やPC初心者の方の受講が目立ちましたので、少し基礎的な内容を厚くするようにシラバスを修正しました。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニタを利用します。課題のやりとり等はGoogleクラスルームを利用します。

【その他の重要事項】

関連資格：OCJP:Oracle Certified Java Programmer（オラクル認定Javaプログラマー）

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

【関連科目】

データ処理論Ⅰ（コンピューターグラフィックス）

【実務経験のある教員による授業】

鉄道および製造業の大規模Javaシステムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

＜ Class Outline＞

In this class, students will learn Java, a major object-oriented language. In the spring semester, students will learn the basic syntax of Java by using visualization libraries and visualizing programming using graphic drawing and animation.

＜ Purpose and Significance of the Class＞

ICT and digital technologies have become an indispensable part of our daily lives. The importance of the programs that create them has only increased in recent years, and programming skills are becoming indispensable as a basic skill for working adults. Learning programming and algorithms helps students acquire a programming mindset, which is a problem-solving mindset that can be used in a variety of problem-solving situations. We believe that acquiring programming skills is very significant because it is a skill that will be useful even after one enters the workforce. The objective of this class is to acquire programming skills through programming using Java.

[Objectives]

Students will be able to perform basic programming in Java.

Students will be able to understand and explain object-oriented programming.

Students will be able to think programmatically and apply it to problem solving.

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

プログラミング言語Ⅱ（JAVA）（2019年度以降入学者）

飯塚　康至

情報関係科目　1～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

＜授業概要＞

本授業では主要なオブジェクト指向言語であるJavaを学びます。秋学期では春学期に学んだJavaの基本的な文法をもとにシューティングゲームを作成し、その過程でJavaによるプログラミングの理解を深めていきます。

＜授業の目的・意義＞

ICTやデジタルは日常生活の基盤として欠かせないものとなっています。これらを作り出すプログラムの重要度は近年増すばかりで、プログラミングスキルは社会人の基礎スキルとして必須となりつつあります。またプログラミングやアルゴリズムを学ぶことで、問題解決思考であるプログラミング的思考を身につけることができ、問題解決のさまざまな場面で活用することができるようになります。社会人になった後も有意義なスキルであり、プログラミングスキルを身につけることは大きな意義があるものと考えます。本授業ではJavaを利用しプログラミングを行いプログラミング的思考を身につけることを目的としています。

[到達目標]

・学生はJavaで基礎的なプログラミングを行うことができるようになる

・学生はオブジェクト指向を理解し説明できるようになる

・学生はプログラミング的思考を身につけ問題解決に活かすことができるようになる

【到達目標】

本講座の到達目標は次の通りです

(1)基本的なJava言語の機能と文法を理解し説明できる。

(2)クラスを定義し利用できる。

(3)オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。

(4)自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システムHoppiiで行います。

授業は，実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際にPCを使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。この学習によってJavaの基礎を身につけていきます。

実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。

なお、受講にあたってはプログラミングに関しての予備知識は必要としませんが、一般的なPCのスキルは必要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Javaの基本知識	オブジェクト指向言語Javaとはどのようなものか理解します。
2	実行環境の構築と理解	Javaを実行する環境の構築方法と利用方法について学びます。
3	ゲームの雛形の作成	シューティングゲームの雛形を作成し実行までの手続きを理解します。
4	プレイヤーを表示する	画面上に自機（プレイヤー）を表示する方法について学びます。
5	プレイヤーを動かす	プレイヤーをアニメーションさせる方法について学びます。
6	敵を表示し動かす	敵を表示しアニメーションさせる方法について学びます。
7	キャラクターに抽象化する	プレイヤーや敵をキャラクターという概念にまとめる方法について学びます。
8	キーボードでプレイヤーを動かす	キーボードの入力でプレイヤーを動かす方法について学びます。
9	弾を撃てるようにする	プレイヤーから弾を発射できるようにする方法について学びます。
10	敵を出現させる	敵の母艦を作成して敵母艦から敵を出現させる方法について学びます。
11	プレイヤーと敵の当たり判定	プレイヤーと敵が当たった場合の処理（当たり判定）の実装方法を学びます。
12	弾と敵の当たり判定	弾と敵の当たり判定の実装方法を学びます。
13	進行管理	「クリア」や「ゲームオーバー」などの進行管理の実装方法について学びます。
14	秋期復習	秋学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常的にパソコンを触る時間を作りましょう。分からない部分は生成AIに質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初級Java―やさしいJava, 長 慎也 (著), 飯塚 康至 (著), 実教出版 (2012/10/1),4407325860

【参考書】

授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、平常点50点、授業内課題50点にて決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

春学期からの継続受講を推奨する科目ですが、後期からの受講者や1年生、PCの初心者の受講者が見受けられましたので、全体的に基礎的な内容を厚くしながらゲームの完成を目指す形にシラバスを修正しました。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

課題等のやりとり等はGoogleクラスルームを利用します。

【その他の重要事項】

関連資格：OCJP:Oracle Certified Java Programmer（オラクル認定Javaプログラマー）

【関連科目】

データ処理論Ⅰ（データ可視化）

【実務経験のある教員による授業】

鉄道および製造業の大規模Javaシステムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

＜ Class Outline＞

In this class, students will learn Java, a major object-oriented language. In the fall semester, students will create a shooting game based on the basic Java syntax learned in the spring semester, deepening their understanding of Java programming in the process.

＜ Purpose and Significance of the Class＞

ICT and digital technologies have become an indispensable part of our daily lives. The importance of the programs that create them has only increased in recent years, and programming skills are becoming indispensable as a basic skill for working adults. Learning programming and algorithms helps students acquire a programming mindset, which is a problem-solving mindset that can be used in a variety of problem-solving situations. We believe that acquiring programming skills is very significant because it is a skill that will be useful even after one enters the workforce. The objective of this class is to acquire programming thinking through programming using Java.

[Objectives]

Students will be able to perform basic programming in Java.

Students will be able to understand and explain object-oriented programming.

Students will be able to think programmatically and apply it to problem solving.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学応用Ⅰ（データベース）（2019年度以降入学者）

木村　昌史

情報関係科目　2～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では情報学の応用として、以下の内容を学ぶことを目的としている。
(1)現代社会や研究活動に必須となっているデータベースの考え方と技術を学ぶ。
(2)実際にデータの収集から構成、そしてデータベース構築までを自らできるようにする。
(3)併せて大学のネットワーク環境でのデータベースに関連した方法を学び、それらを今後の学業にも活用できるようになることを目標とする。

【到達目標】
データベースの考え方、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
PC、ネットワーク、Excel、Access、SQliteなどの活用法を学びながら、次の4つの技術を実習を通じて修得する。
1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法
授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。
課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上でレポートを作成するものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論と情報通信技術 本授業の目標の理解	ネットワーク社会における情報通信技術およびデータベースの重要性について
第2回	ネットワークの仕組み	ネットワークの仕組みと各種Webサービスについて
第3回	情報の検索・収集方法	情報検索の方法と情報検索サービスの例について
第4回	情報の蓄積と管理	ファイルやフォルダ、Googleサービスの利用について
第5回	表計算ソフトとは	ワークシートの編集・加工について
第6回	表計算ソフトの活用	Excelの基本関数やグラフの活用などについて
第7回	データベースの基本概念	データベースの基本的な仕組みとExcelとの関係について
第8回	Excelによるデータベース的処理(1)	検索や並べ替え、フィルタによるデータの抽出について
第9回	Excelによるデータベース的処理(2)	データベース関数の活用と条件設定について
第10回	Excelによるデータベース的処理(3)	クロス集計とピボットテーブルの活用について
第11回	Excelによるデータ分析	Excelの分析ツールの活用とマクロとの連携によるデータ分析への応用
第12回	データベースソフトとは	SQLiteの起動・データ読み込みとテーブルの作成・Excelファイルのインポート/エクスポート
第13回	データベースの基本操作	データの検索方法と検索条件の指定
第14回	春学期のまとめ	各種ソフトウェア活用法のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 学内PC環境、自宅のネットワーク環境の確認（予習）
2. ネットワークの仕組みについて調べる（予習）
3. 検索エンジン、Webサービス活用の練習（予習と復習）
4.～14. 配布資料や配布データの予習、配布資料の復習
15.～28. 配布資料の予習・復習　データ検索の復習
予習と復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。
各回教材資料やデータについてはなるべく事前に配布する。

【参考書】
参考書やオンライン資料については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート60％、各回授業での演習課題40％として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】
毎回PCを利用する。学内PCでの自習と自宅でのPCとOfficeの利用にも期待する。
実習室においてPCに向かいながら学習する。学習管理システムClassroomも利用し効率的な授業を行う。
自宅PCなどで法政大学IDからのクラウド環境を整備することを推奨する。

【その他の重要事項】
問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、広くすべての学部生に勧めるコースである。
〔関連科目〕
情報学の入門を中心とした情報関係科目全般

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。
また授業時間外ではネットを利用して質問を受け付ける予定である。

【実務経験のある教員による授業】
実際にデータベースに関連する業務にあった経験のある教員が講義を行う。さらにビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】
Mastering of database technology including data processing and data analysis required for researches in university and for business in society. This course introduces Applied Infomatics to students taking this course.As an introduction to Applied Informatics we first learn methods of data processing and data analysis. Next in this course we learn the concept of database and ways of database's operation using some database management systems.
The goal of this course are to understand advanced concepts of database crucial to the basis of modern network.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process term-end report: 60%and in class contribution: 40%.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学応用Ⅱ（データベース）（2019年度以降入学者）

木村　昌史

情報関係科目　2～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では情報学の応用として、以下の内容を学ぶことを目的としている。
(1)現代社会や研究活動に必須となっているデータベースの考え方と技術を学ぶ。
(2)実際にデータの収集から構成、そしてデータベース構築までを自らできるようにする。
(3)併せて大学のネットワーク環境でのデータベースに関連した方法を学び、それらを今後の学業にも活用できるようになることを目標とする。

【到達目標】
データベースの考え方、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
PC、ネットワーク、Excel、Access、SQLiteの活用法を学びながら、次の4つの技術を実習を通じて修得する。
1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法
授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。
課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上でレポートを作成するものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リレーショナルデータベースとは	データベースのしくみとデータベース管理システムについて
第2回	データベースの操作言語とは	データベースの基本操作の射影、選択、結合とSQLについて
第3回	データベースのスキーマ	データベースの基本設計とSQLiteのテーブル作成と編集
第4回	SQLiteによるデータ編集	レコードとフィールドの追加、型の変更について
第5回	SQLiteテーブルの操作(1)	SQLによる既存テーブルのデータ検索について
第6回	SQLiteテーブルの操作(2)	SQLによる新規テーブル作成と変更操作について
第7回	データベースの設計(1)	データベースの設計とデータの正規化について
第8回	データベースの設計(2)	テーブルの結合と高度なクエリの活用について
第9回	ネットワークとデータベース(1)	Google Colab環境でのSQLiteデータベースの利用
第10回	ネットワークとデータベース(2)	Google Colab環境でのSQLiteデータベースの様々な活用
第11回	外部クラウドとデータベース	ネットワーク環境におけるデータベースの活用
第12回	NoSQLデータベース	新しいタイプのネットワーク上のデータベースの紹介と活用
第13回	総合演習(1) データベースの設計	基礎的なデータベースの独自の構築
第14回	総合演習(2) データベースの応用	実用的なデータベースの独自の構築

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の配布資料の予習・復習　データ検索の復習
予習と復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。
各回教材資料やデータについてはなるべく事前に配布する。

【参考書】
参考書やオンライン資料については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート60％、各回授業での演習課題40％として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】
毎回PCを利用する。学内PCでの自習と自宅でのPCとOfficeの利用にも期待する。
実習室においてPCに向かいながら学習する。学習管理システムClassroomも利用し効率的な授業を行う。
自宅PCなどで法政大学IDからのクラウド環境を整備することを推奨する。

【その他の重要事項】
問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、広くすべての学部生に勧めるコースである。
〔関連科目〕
情報学の入門を中心とした情報関係科目全般

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。
また授業時間外ではネットを利用して質問を受け付ける予定である。

【実務経験のある教員による授業】
実際にデータベースに関連する業務にあった経験のある教員が講義を行う。さらにビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】
Mastering of database technology including data processing and data analysis required for researches in university and for business in society. This course introduces Applied Infomatics to students taking this course.As an introduction to Applied Informatics we first learn methods of data processing and data analysis. Next in this course we learn the concept of database and ways of database's operation using some database management systems.
The goal of this course are to understand advanced concepts of database crucial to the basis of modern network.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process term-end report: 60%and in class contribution: 40%.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学応用Ⅰ（データベース）（2019年度以降入学者）

木村　昌史

情報関係科目　2～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］
※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では情報学の応用として、以下の内容を学ぶことを目的としている。
(1)現代社会や研究活動に必須となっているデータベースの考え方と技術を学ぶ。
(2)実際にデータの収集から構成、そしてデータベース構築までを自らできるようにする。
(3)併せて大学のネットワーク環境でのデータベースに関連した方法を学び、それらを今後の学業にも活用できるようになることを目標とする。

【到達目標】
データベースの考え方、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
PC、ネットワーク、Excel、Access、SQliteなどの活用法を学びながら、次の4つの技術を実習を通じて修得する。
1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法
授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。
課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上でレポートを作成するものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論と情報通信技術 本授業の目標の理解	ネットワーク社会における情報通信技術およびデータベースの重要性について
第2回	ネットワークの仕組み	ネットワークの仕組みと各種Webサービスについて
第3回	情報の検索・収集方法	情報検索の方法と情報検索サービスの例について
第4回	情報の蓄積と管理	ファイルやフォルダ、Googleサービスの利用について
第5回	表計算ソフトとは	ワークシートの編集・加工について
第6回	表計算ソフトの活用	Excelの基本関数やグラフの活用などについて
第7回	データベースの基本概念	データベースの基本的な仕組みとExcelとの関係について
第8回	Excelによるデータベース的処理(1)	検索や並べ替え、フィルタによるデータの抽出について
第9回	Excelによるデータベース的処理(2)	データベース関数の活用と条件設定について
第10回	Excelによるデータベース的処理(3)	クロス集計とピボットテーブルの活用について
第11回	Excelによるデータ分析	Excelの分析ツールの活用とマクロとの連携によるデータ分析への応用
第12回	データベースソフトとは	SQLiteの起動・データ読み込みとテーブルの作成・Excelファイルのインポート/エクスポート
第13回	データベースの基本操作	データの検索方法と検索条件の指定
第14回	春学期のまとめ	各種ソフトウェア活用法のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 学内PC環境、自宅のネットワーク環境の確認（予習）
2. ネットワークの仕組みについて調べる（予習）
3. 検索エンジン、Webサービス活用の練習（予習と復習）
4.～14. 配布資料や配布データの予習、配布資料の復習
15.～28. 配布資料の予習・復習　データ検索の復習
予習と復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。
各回教材資料やデータについてはなるべく事前に配布する。

【参考書】
参考書やオンライン資料については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート60％、各回授業での演習課題40％として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】
毎回PCを利用する。学内PCでの自習と自宅でのPCとOfficeの利用にも期待する。
実習室においてPCに向かいながら学習する。学習管理システムClassroomも利用し効率的な授業を行う。
自宅PCなどで法政大学IDからのクラウド環境を整備することを推奨する。

【その他の重要事項】
問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、広くすべての学部生に勧めるコースである。
〔関連科目〕
情報学の入門を中心とした情報関係科目全般

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。
また授業時間外ではネットを利用して質問を受け付ける予定である。

【実務経験のある教員による授業】
実際にデータベースに関連する業務にあった経験のある教員が講義を行う。さらにビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】
Mastering of database technology including data processing and data analysis required for researches in university and for business in society. This course introduces Applied Infomatics to students taking this course.As an introduction to Applied Informatics we first learn methods of data processing and data analysis. Next in this course we learn the concept of database and ways of database's operation using some database management systems.
The goal of this course are to understand advanced concepts of database crucial to the basis of modern network.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process term-end report: 60%and in class contribution: 40%.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学応用Ⅱ（データベース）（2019年度以降入学者）

木村　昌史

情報関係科目　2～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では情報学の応用として、以下の内容を学ぶことを目的としている。
(1)現代社会や研究活動に必須となっているデータベースの考え方と技術を学ぶ。
(2)実際にデータの収集から構成、そしてデータベース構築までを自らできるようにする。
(3)併せて大学のネットワーク環境でのデータベースに関連した方法を学び、それらを今後の学業にも活用できるようになることを目標とする。

【到達目標】
データベースの考え方、仕組み、活用法についての知識を修得するとともに、基礎的な情報通信技術を習得できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
PC、ネットワーク、Excel、Access、SQLiteの活用法を学びながら、次の4つの技術を実習を通じて修得する。
1. データを収集・整理する方法
2. データを分析する方法
3. データを設計する方法
4. データを検索する方法
授業中に課題を与えるので、その課題に各人が取り込む過程で上記の技術が身に付くように授業を進める。
課題レポートでは自らがテーマを設定し必要なデータを検索し収集、加工、分析し、かつデータを設計をした上でレポートを作成するものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リレーショナルデータベースとは	データベースのしくみとデータベース管理システムについて
第2回	データベースの操作言語とは	データベースの基本操作の射影、選択、結合とSQLについて
第3回	データベースのスキーマ	データベースの基本設計とSQLiteのテーブル作成と編集
第4回	SQLiteによるデータ編集	レコードとフィールドの追加、型の変更について
第5回	SQLiteテーブルの操作(1)	SQLによる既存テーブルのデータ検索について
第6回	SQLiteテーブルの操作(2)	SQLによる新規テーブル作成と変更操作について
第7回	データベースの設計(1)	データベースの設計とデータの正規化について
第8回	データベースの設計(2)	テーブルの結合と高度なクエリの活用について
第9回	ネットワークとデータベース(1)	Google Colab環境でのSQLiteデータベースの利用
第10回	ネットワークとデータベース(2)	Google Colab環境でのSQLiteデータベースの様々な活用
第11回	外部クラウドとデータベース	ネットワーク環境におけるデータベースの活用
第12回	NoSQLデータベース	新しいタイプのネットワーク上のデータベースの紹介と活用
第13回	総合演習(1) データベースの設計	基礎的なデータベースの独自の構築
第14回	総合演習(2) データベースの応用	実用的なデータベースの独自の構築

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の配布資料の予習・復習　データ検索の復習
予習と復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。
各回教材資料やデータについてはなるべく事前に配布する。

【参考書】
参考書やオンライン資料については授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート60％、各回授業での演習課題40％として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の演習内容の理解とそのフィードバックを通じて授業レベルの向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】
毎回PCを利用する。学内PCでの自習と自宅でのPCとOfficeの利用にも期待する。
実習室においてPCに向かいながら学習する。学習管理システムClassroomも利用し効率的な授業を行う。
自宅PCなどで法政大学IDからのクラウド環境を整備することを推奨する。

【その他の重要事項】
問題解決のための情報活用能力およびデータベース処理能力を養うので、広くすべての学部生に勧めるコースである。
〔関連科目〕
情報学の入門を中心とした情報関係科目全般

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。
また授業時間外ではネットを利用して質問を受け付ける予定である。

【実務経験のある教員による授業】
実際にデータベースに関連する業務にあった経験のある教員が講義を行う。さらにビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】
Mastering of database technology including data processing and data analysis required for researches in university and for business in society. This course introduces Applied Infomatics to students taking this course.As an introduction to Applied Informatics we first learn methods of data processing and data analysis. Next in this course we learn the concept of database and ways of database's operation using some database management systems.
The goal of this course are to understand advanced concepts of database crucial to the basis of modern network.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process term-end report: 60%and in class contribution: 40%.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学応用Ⅰ（データ可視化）（2019年度以降入学者）

田中　元一朗

情報関係科目　2～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
- 本講義では、複雑なデータを分析・整理して視覚的に理解しやすい形で可視化するデータビジュアライゼーションについてさまざまな技法を演習形式で学びます。
- ビジュアルプログラミングを通してプログラミングの基礎を学び、データビジュアライゼーションに活用する方法を身につけます。
- データの可視化や情報の表現方法について理解することで、目的に応じて適切な表現や情報の発信方法をはじめ、複雑な情報をどのように整理して理解や相手に伝えていくことができるようになることが目標です。

【到達目標】
- 自分が発信したい内容に合わせて情報の視覚表現ができるようになる
- 表計算ソフトを用いてデータをさまざまな形で可視化することができる。
- Processing(p5.js)を用いたビジュアルプログラミングで可視化の表現やデータの表現ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
- 初回の授業にアクセスするための情報は学習支援システムHoppiiに掲載します。
- 授業は演習形式で説明と実習を交えながら進めていきます。授業の詳細は開講時に学習支援システムHoppiiにて公開します。
- 前半は様々なソフトを用いて、データに応じたグラフや図表の作成および情報の整理や表現手法について学びます。
- 後半はprocessingを用いてビジュアルプログラミングの基礎を学び、プログラミングを通してデータ可視化の基本を学びます。
- 演習や課題のフィードバックは授業の開始時、もしくは学習支援システム上で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	データビジュアライゼーションの概要	- データビジュアライゼーションとは何か、様々な事例を通して概要を理解する
第2回	情報のリサーチと整理の手法	- インターネット上から必要な情報をリサーチ、収集する方法について学ぶ - 収集した情報を整理する手法(ロジックツリー、KJ法、マインドマップなど)について学ぶ
第3回	プレゼンソフトを使った図表の作成(1)	- 代表的な図表(フローチャート、ピラミッド図、概念図など)の作成方法、使い方について学ぶ
第4回	表計算ソフトを使ったグラフの作成(1)	- 円グラフや棒グラフ、積算グラフなど目的に応じたグラフやチャートの作成方法、読み取り方を学ぶ
第5回	表計算ソフトを使ったグラフの作成(2)	- 複合グラフや散布図の作成方法について学ぶ
第6回	プレゼンソフトを使った図表の作成(2)	- 表計算ソフトで作成したデータをプレゼンソフトなどと連携させる方法を学ぶ - オフィスソフト間でのデータの連携について学ぶ
第7回	Processingを用いたビジュアルプログラミング(1)	- Processingの概要と環境構築、簡単な図形の描画を行う
第8回	Processingを用いたビジュアルプログラミング(2)	- 変数やデータの型の定義、変数を用いて基本的な命令を実行できるようになる - 条件分岐や繰り返しなどプログラムの制御構造について学ぶ
第9回	Processingを用いたビジュアルプログラミング(3)	- 簡単なアニメーションをプログラミングできるようになる - 自作の関数を作成して、プログラムに利用する方法を学ぶ
第10回	Processingを用いたビジュアルプログラミング(4)	- キーボード操作など外部入力によって変化するビジュアル作成を行う - 配列やその他の必要な文法について学ぶ
第11回	Processingを用いたビジュアルプログラミング(5)	- 外部データを読み込み、そのデータを元に可視化する方法を学ぶ
第12回	Processingを用いたビジュアルプログラミング(6)	- 外部ライブラリや入力を用いて、可視化表現の幅を広げる方法を学ぶ - インターネットからデータを取得してプログラムに取り込む方法について学ぶ
第13回	Processingを用いたビジュアルプログラミング(7)	- ここまで学んだプログラミング手法を用いて複雑なビジュアル表現を制作
第14回	春学期のまとめ	- 半年間のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義前半ではオフィス系ソフトを用いるため、PCの操作(ファイル・フォルダ作成・データ保存)およびキーボードの操作、基本的な使い方はできる前提で進めていきます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
授業時に随時紹介

【成績評価の方法と基準】
成績評価は100点満点とし、平常点50点、授業内・期末課題50点の課題で決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
可視化をキーワードにさまざまなことを学びます。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】
大学内のコンピューターおよび中間モニタを利用します。課題のやりとり等はGoogleクラスルームを利用します。 また学生が所有するノートPCでも構いません。

【その他の重要事項】
- 本講義は可視化がテーマの授業なので、PCやソフトウェアの操作、プログラミングの文法などの詳細について細かく説明しない事があります。必要に応じて各自で練習や書籍などで補完しながら授業に臨んでください。
- 演習形式の授業なので、遅刻をしないようにお願いします。

【関連科目】
情報学に関連する科目

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける

【Outline (in English)】
In this lecture, students will learn various data visualization methods for analyzing, organizing, and visualizing complex data in a visually understandable form.
Learning Objectives:
- How to visualize and organize complex information using office software.
- Basic visual programming with Processing(p5.js).
Learning activities outside of classroom:
- Students will need to understanding PC operation.
- Coursework and self practice.
Grading Criteria /Policy:
Attendance and Coursework:50%/Final Assignment:50%

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学応用Ⅱ（データ可視化）（2019年度以降入学者）

田中　元一朗

情報関係科目　2～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
- 本講義では、複雑なデータを分析・整理して視覚的に理解しやすい形で可視化するデータビジュアライゼーションについてさまざまな技法を演習形式で学びます。
- 秋学期は、より高度な表計算ソフトの使いこなしを通して、データ分析を行いグラフ化や図表の作成を行う方法を学びます。後半はpythonを用いて数式の可視化、機械学習、AIのモデル作成を行い、可視化に関する機械学習技術について学びます。

【到達目標】
- 表計算ソフトを用いてデータをさまざまな形で可視化することができる。
- Pythonとライブラリを用いて、機械学習のモデルの作成と実行ができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
- 初回の授業にアクセスするための情報は学習支援システムHoppiiに掲載します。
- 授業は演習形式で説明と実習を交えながら進めていきます。授業の詳細は開講時に学習支援システムHoppiiにて公開します。
- 前半は複雑な分析を可視化する方法について表計算ソフトを用いて演習を行います。
- 後半はpythonを用いて数式の可視化や機械学習のためのモデル作成を行い、データ可視化の手法について演習を行います。
- 演習や課題のフィードバックは授業の開始時、もしくは学習支援システム上で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ビジネスデータ分析の概要	- ビジネスデータ分析の概要について学ぶ
第2回	表計算ソフトを使った高度な分析	- ピボットテーブルの使った集計と可視化の方法について紹介 - 相関関係についての分析と可視化の方法について紹介
第3回	ビジネスデータ分析の方法(1)	- PPM分析を行い製品や自社の立ち位置について分析する方法について紹介 - ファンチャートの作成を通して基準点からの変化の可視化について学ぶ
第4回	ビジネスデータ分析の方法(2)	- 重点分析について理解できるようになる - 構成比やパレート図を作成できるようになる
第5回	Pythonの文法(1)	- Pythonの概要について理解する - 変数や値、関数の実行などができるようになる - 条件分岐や繰り返しなど制御構造について理解する
第6回	Pythonの文法(2)	- 配列など高度なデータ構造について理解する - クイックソートアルゴリズムについて学ぶ - 外部ライブラリのインストール、読み込みができるようになる
第7回	Matplotlabを利用してグラフを作成する (1)	- Pythonのライブラリである Matplotlibを利用し数式等を可視化する方法について学ぶ。
第8回	Matplotlabを利用してグラフを作成する (2)	- Pythonのライブラリである Matplotlibを利用し数式等を可視化する方法について学ぶ。
第9回	Pythonと人工知能	- 機械学習やAIに使われている技術や仕組み、アルゴリズムについて理解する - Genereteive AIの可能性と限界について理解する
第10回	機械学習 (1)	- scikit-learnを利用し画像データの分類方法と可視化について学ぶ。
第11回	機械学習 (2)	- scikit-learnを利用し画像データの分類方法と可視化について学ぶ。 - インターネット上のデータをスクレイピングする方法について学ぶ
第12回	ディープラーニング (1)	- Kerasを利用し画像判定するモデルを作成する方法について学ぶ。
第13回	ディープラーニング (2)	- Kerasを利用し画像判定するモデルを作成する方法について学ぶ。
第14回	秋学期のまとめ	- 半年間のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
- 本講義はPCの操作(ファイル・フォルダ作成・データ保存)およびキーボードの操作、OSやアプリの基本的な使い方、関連ソフトのインストール作業等は自力でできる前提で進めていきます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。
- データ分析やAIは身近な領域になりつつあります。就職活動や自身の活動と結びつけて考えるようにしてみてください。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
授業時に随時紹介

【成績評価の方法と基準】
成績評価は 100 点満点とし、平常点 50 点、授業内・期末課題 50 点の課題で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
可視化をキーワードにさまざまなことを学びます。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】
大学内のコンピューターおよび中間モニタを利用します。課題のやりとり等はGoogleクラスルームを利用します。 また自分が所有するノートPCでも構いません。

【その他の重要事項】
- 本講義は可視化がテーマの授業なので、PCやソフトウェアの操作、プログラミングの文法などの詳細について細かく説明しない事があります。必要に応じて各自で練習や書籍などで補完しながら授業に臨んでください。
- 演習形式の授業なので、遅刻をしないようにお願いします。

【関連科目】
情報学に関連する科目

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける

【Outline (in English)】
In this course, students will learn various data visualization methods for analyzing, organizing, and visualizing complex data in a visually understandable form.
Learning Objectives:
- The fall semester, students will learn about visualizing and analyzing data using spreadsheet software in the first part of this course.
- In the second part, students will learn visualization of a mathematical formula using matplotlib, studying about Machine Learning and AI technology.
Learning activities outside of classroom:
- Students will need to understanding PC operation.
- Coursework and self practice.
Grading Criteria /Policy:
Attendance:50%and Coursework /Final Assignment:50%

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学応用Ⅰ（データ可視化）（2019年度以降入学者）

飯塚　康至

情報関係科目　2～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

＜本授概要＞

本授業は可視化をテーマにした授業です。春学期はC言語を利用しプログラミングの可視化に挑戦します。具体的にはオンラインプログラミング環境であるBitArrowを利用し、C言語の基本的な文法を学んだ後に、図形描画やアニメーションを行いプログラミングを可視化していきます。

＜授業の目的・意義＞

プログラムは実行の流れが見えにくいので、初めてプログラミングを行う人にとってはハードルの高いものになっています。可視化を行いながらプログラムを学ぶことで理解が進むものと考えています。このような可視化の手法はあらゆる場面で役に立つもので大きな意義があるものと考えています。C言語の可視化を通じて可視化の手法や考え方、問題解決の考え方であるプログラミング的思考を身につけることを目的としています。

[到達目標]

・学生はC言語を利用しプログラムを可視化できるようになる

・学生は可視化を通じてプログラミング的思考を身につけ問題解決に活かすことができるようになる

【到達目標】

本授業の到達目標は次の通りです。

1. C言語を利用し簡単な基本的なプログラミングを行うことができるようになる
2. C言語を利用して簡単なアニメーションを作成することができるようになる
3. C言語を利用して簡易なシューティングゲームを作成できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システムHoppiiで行います。

授業は、実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際にPCを使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。

実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。

なお、受講にあたってはプログラミングに関しての予備知識は必要としませんが、一般的なPCのスキルは必要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	プログラミングと可視化	C言語を中心にプログラム言語とはどのようなものかを学びます。
(2)	C言語の基本的な記述方法	C言語の基本的な記述方法や実行方法について学びます。
(3)	さまざまな計算や出力	C言語を利用してさまざまな計算をする方法やキーボードからの入力方法など学びます。
(4)	図形描画	四角形などの図形を描画する方法を学びます。
(5)	たくさんの図形の描画	繰り返し文を利用してたくさんの図形を描画する方法を学びます。
(6)	一部だけ違う図形	条件分岐を利用して一部だけ違う図形を描画する方法を学びます。
(7)	独自の図形描画	関数を利用して独自の図形を描画する方法について学びます。
(8)	ランダムな表示	ランダムな関数を利用したくさんの図形をランダムな位置に描画する方法についた学びます。
(9)	アニメーション	図形をアニメーションさせる方法について学びます。
(10)	効率よく動かす	図形を効率よくアニメーションさせる方法について学びます。
(11)	たくさんの図形を動かす	配列を利用したくさんの図形を動かす方法について学びます。
(12)	シューティングゲーム（自機を動かす）	自機を作成しキーボードから動かす方法について学びます。
(13)	シューティングゲーム（弾と敵を出す）	敵と弾を出現させる方法について学びます。
(14)	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

キー入力や基本的なPCの操作はできる前提で授業が進みます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

前期テキスト：楽しく学ぶC言語, 飯塚 康至、 長 慎也, 技術評論社 (2020/1/18), 4297110571

【参考書】

後期参考書は開講時にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は 100 点満点とし、平常点 50 点、授業内課題 50 点の課題で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

可視化をキーワードに春学期はプログラムの可視化を試みます。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニタを利用します。課題のやりとり等は Google クラスルームを利用します。

【その他の重要事項】

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

【関連科目】

プログラミング言語Ⅰ／Ⅱ [Java コース]

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

< Outline of this class>

This class focuses on visualization. In the spring semester, students will try their hand at programming visualization using the C programming language. Specifically, we will use BitArrow, an online programming environment, to learn basic C syntax, and then visualize programming by drawing and animating figures.

< Purpose and Significance of the Class>

Programming is a hurdle for first-time programmers because it is difficult to see the flow of execution. We believe that learning programs while visualizing them will help students to understand them better. We believe that such visualization techniques are useful in all situations and have great significance, and we aim to help students acquire programming thinking, which is a way of thinking about visualization and problem solving, through visualization in the C programming language.

[Objectives]

Students will be able to visualize programs using C language.

Students will be able to acquire a programming mindset through visualization and apply it to problem solving.

[Grading Criteria /Policy]

Grading is based on a 100-point scale, with 50 points for regular work and 50 points for in-class assignments. 60 points or higher is considered a passing grade.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学応用Ⅱ（データ可視化）（2019年度以降入学者）

飯塚　康至

情報関係科目　2～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

＜授業概要＞

本授業は可視化をテーマにした授業です。秋学期は表計算ソフトを利用してデータの可視化に挑戦します。またAIなどに利用される機械学習がどのようなものか理解し、AIなどのアルゴリズムがどのように判断を行っているか可視化していきます。

＜授業の目的・意義＞

数値などのデータだけを見ていてはわからないことも、データ分析やグラフ化などの可視化を行って初めて分かることもあります。客観的な可視化の手法を使うことで他の人との議論もしやすくなります。データの可視化の手法は研究発表やプレゼンテーションなどさまざまなところで役に立つスキルで、身につける意義があると考えます。また近年特に発展してきているAI（人工知能）がどのようにデータを判断するかを可視化し知ることも、今後、人工知能を使う側として大事なスキルであると考えます。本授業では可視化を通じデジタルな時代に生き抜く必須スキルを身につけることを目的としています。

[到達目標]

・学生は表計算ソフトを利用したデータ可視化・分析を行うことができるようになる

・学生はAI（人工知能）の一種である機械学習・深層学習の仕組みを理解しどのように判断しているか理解し説明できるようになる

【到達目標】

本授業の到達目標は次の通りです。

1. エクセルを利用しデータを可視化し分析できるようになる
2. Pythonを利用し数式等を可視化できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システムHoppiiで行います。

エクセルを利用しデータをグラフ化し分析する手法とAIや機械学習で利用されることが多いPythonを利用し、数式の可視化や機械学習のためのモデルの作成を行い、データを可視化する手法について学びます。

演習形式で授業を行なっていきます。説明から演習の繰り返しで授業を進めていきます。

実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。

なお、受講にあたってはプログラミングに関しての予備知識は必要としませんが、一般的なPCのスキルは必要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ビジネスデータ分析とは	ビジネスデータ分析とはエクセルを利用したビジネスデータ分析の概要について学びます。
第2回	表の使いこなしとピボットテーブル	表を使いデータを可視化する手法と集計の手法を学びます。
第3回	PPM分析	エクセルでPPM分析を行い製品や会社の立ち位置を可視化する方法について学びます。
第4回	ファンチャート	エクセルでファンチャートを作成し基準点からの変化の具合を可視化する方法について学びます。
第5回	相関関係	2つの独立した値の関係の強さを示す相関関係を可視化する方法について学びます。
第6回	ABC分析	構成の偏りをABC分析を利用し可視化する方法について学びます。
第7回	Pythonでできること	AIや機械学習で利用されるPythonの概要について学びます。
第8回	Matpliotlibを利用したグラフの作成（1）	Pythonのライブラリである Matpliotlibを利用し数式等を可視化する方法について学びます。
第9回	Matpliotlibを利用したグラフの作成（2	Matpliotlibを利用しデータを可視化する方法について学びます。
第10回	機械学習(概要)	機械学習の概要について学びます。
第11回	機械学習(K近傍法)	K近傍法を利用した分類手法について学びます。
第12回	深層学習(ライブラリの利用)	画像認識ライブラリの利用方法について学びます。
第13回	深層学習(ライブラリの応用)	画像認識ライブラリに学習を行い独自のAIを作る方法について学びます。
第14回	秋学期復習	秋学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

キー入力や基本的なPCの操作はできる前提で授業が進みます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。データ分析やAIは身近な領域になりつつあります。就職活動や自身の活動と結びつけて考えるようにしてみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

後期は独自の資料にて授業を行います。

【参考書】

後期参考書は開講時にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに100点満点とし振り返りシートの記述内容50点、授業内課題50点で決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

可視化をキーワードにさまざまなことを学びます。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】

課題等のやりとり等はGoogleクラスルームを利用します。

【その他の重要事項】

演習系の授業になるので、遅刻しないようにお願いします。

【関連科目】

プログラミング言語Ⅰ／Ⅱ[Javaコース]

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

＜ class outline＞

This class is about visualization. In the fall semester, students will try to visualize data using spreadsheet software. Students will also understand what machine learning used in AI and other applications is and visualize how algorithms such as AI make decisions.

＜ Purpose and Significance of the Class＞

There are things that cannot be understood by looking at data such as numerical values alone, but can only be understood through visualization such as data analysis and graphing. By using objective visualization techniques, it will be easier to discuss with others. Data visualization is a skill that is useful in a variety of areas, including research presentations and presentations, and we believe that it is significant to acquire this skill. Also, we believe that visualizing and understanding how AI (Artificial Intelligence), which has been especially developed in recent years, judges data is an important skill for those who will be using AI in the future. The purpose of this class is to acquire essential skills to survive in the digital age through visualization.

[Objectives]

Students will be able to visualize and analyze data using spreadsheet software.

Students will be able to understand the mechanism of machine learning and deep learning, a type of AI (Artificial Intelligence), and be able to understand and explain how they make decisions.

[Grading Criteria /Policy]

Grading is based on a 100-point scale, with 50 points for regular work and 50 points for in-class assignments. 60 points or higher is considered a passing grade.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学応用Ⅰ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）

上野　京子

情報関係科目　2～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］
※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
パソコンを活用したプレゼンテーション能力（表現力）を向上させる科目である。
スライドを作成することだけでなく、相手に何を伝えるかを意識する。
スライドをベースに、実際に発表する（話す）内容を作成する。
聴衆の理解を深めるために、適切なグラフや図を描画できる。
人間力、特にコミュニケーション能力や問題解決能力を高める。
自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【到達目標】
聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する
・実践的なプレゼンテーションを行える
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
■春学期
(1)表現能力を高めるため、Wordでの文書作成の機能を学ぶ
(2)資料に必要なコンテンツ作成のための技術を習得するためにExcelの機能を学ぶ
(3)プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PCを利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。
(4)A4文書で自己紹介、動画で自己紹介など表現方法を学ぶ
(5)ストーリーを伝える表現、連続性のあるストーリーをどう表現するか理解し、相互評価する
■秋学期
(1)比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
(2)聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
(3)わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
(4)印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
(5)プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポート提出
第2回	Word復習	Word機能の復習 （文字列段落の修飾、ワードアート、2段組、ルビ、脚注、図形描画、その他）
第3回	Excel復習1回目	計算式、関数の利用 連続データの入力 効率的な操作法
第4回	Excel復習2回目	簡単な統計 IF関数の応用 相対参照、絶対参照、複合参照
第5回	Excel復習3回目	目的に合わせたグラフ作成
第6回	Excel復習4回目	集計、分類、抽出 ウィンドウ枠の設定など
第7回	PowerPoint復習	動画や音声、アニメーション効果の利用方法など
第8回	図形描画前編	デザイン性の高い スライド作成のための演習1
第9回	図形描画後編	デザイン性の高い スライド作成のための演習1
第10回	自己PR	Wordの機能を駆使して、 自己PR文書の作成
第11回	プレゼン発表企画書作成	何をどんなふうに 何を目的に プレゼンするかを企画する
第12回	プレゼン資料作成	プレゼンテーションソフトの概要、基本操作
第13回	プレゼン発表	各自、 制限時間内で発表
第14回	相互評価 レポート作成	相互評価の結果を受けて 最終レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Office系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身についていることが前提である。
資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】
「心をつかみ人を動かす　説明の技術」　木田知廣（日本実業出版）
「伝え方が9割」佐々木圭一（ダイアモンド社）
「分かりやすい説明」の技術　最強のプレゼンテーション１５のルール　藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】
平常点50%、授業の中で行う演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
PCを使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】
演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】
特になし。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).
Learning Objectives
· You Can give a logical presentation that understands the situation.
· You can Create accurate content and create clear materials.
· You can give a practical presentation.
Learning activities outside of classroom
· It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).
· If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.
Grading Criteria /Policy
Basically, 50%of normal points and 50%of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学応用Ⅱ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）

上野　京子

情報関係科目　2～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
パソコンを活用したプレゼンテーション能力（表現力）を向上させる科目である。
スライドを作成することだけでなく、相手に何を伝えるかを意識する。
スライドをベースに、実際に発表する（話す）内容を作成する。
聴衆の理解を深めるために、適切なグラフや図を描画できる。
人間力、特にコミュニケーション能力や問題解決能力を高める。
自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【到達目標】
聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する
・実践的なプレゼンテーションを行える
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
■秋学期
(1)比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
(2)聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
(3)わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
(4)印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
(5)プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポートの提出
第2回	コミュニケーションの科学	コミュニケーション能力を高めるスキルの学習 レポート提出
第3回	伝える技術	説得力を高める 効果的な伝え方の学習 レポート提出
第4回	PowerPoint でフライヤー作成	デザインをどう作成するか？ 図形を組み合わせて、イラストを作成 図形のコピー、グループ化、整列など
第5回	フライヤー自由作成	各自まったく同じテキストを使用して、フライヤーを自由にデザインして作成
第6回	Excel を使用した問題解決	ゴールシーク ソルバー クロス集計表作成
第7回	Excel を使用した財務分析の基礎	財務関数の問題演習
第8回	データ分析(1)	データマイニング 基本統計 パレート分析
第9回	データ分析(2)	相関と散布図 相関行列の作成とデータマイニング
第10回	プレゼンテーション作成(1)	企画書の提出と 各ページのデザイン、アウトラインの決定
第11回	プレゼンテーション作成(2)	プレゼンテーション作成、提出
第12回	Aグループ（1/2の受講生）の発表	Aグループ、各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価する
第13回	Bグループ（1/2の受講生）の発表	Bグループ、各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価する
第14回	評価表提出とレポート作成	自身の評価を確認して、レポートを作成、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Office系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身についていることが前提である。
資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】
「心をつかみ人を動かす　説明の技術」　木田知廣（日本実業出版）
「伝え方が９割」佐々木圭一（ダイアモンド社）
「分かりやすい説明」の技術　最強のプレゼンテーション１５のルール　藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】
平常点50%、授業の中で行う演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
PCを使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】
演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】
特になし。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).
Learning Objectives
・ You can clearly grasp the situation of the presentation.
・ You can give a logical presentation that understands the situation.
・ You create accurate content and create clear materials.
・ You can give a practical presentation.
Learning activities outside of classroom
It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).
If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.
Grading Criteria /Policy
Basically, 50%of normal points and 50%of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学応用Ⅰ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）

上野　京子

情報関係科目　2～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］
※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
パソコンを活用したプレゼンテーション能力（表現力）を向上させる科目である。
スライドを作成することだけでなく、相手に何を伝えるかを意識する。
スライドをベースに、実際に発表する（話す）内容を作成する。
聴衆の理解を深めるために、適切なグラフや図を描画できる。
人間力、特にコミュニケーション能力や問題解決能力を高める。
自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【到達目標】
聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する
・実践的なプレゼンテーションを行える
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
■春学期
(1)表現能力を高めるため、Wordでの文書作成の機能を学ぶ
(2)資料に必要なコンテンツ作成のための技術を習得するためにExcelの機能を学ぶ
(3)プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PCを利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。
(4)A4文書で自己紹介、動画で自己紹介など表現方法を学ぶ
(5)ストーリーを伝える表現、連続性のあるストーリーをどう表現するか理解し、相互評価する
■秋学期
(1)比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
(2)聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
(3)わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
(4)印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
(5)プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポート提出
第2回	Word復習	Word機能の復習 （文字列段落の修飾、ワードアート、2段組、ルビ、脚注、図形描画、その他）
第3回	Excel復習1回目	計算式、関数の利用 連続データの入力 効率的な操作法
第4回	Excel復習2回目	簡単な統計 IF関数の応用 相対参照、絶対参照、複合参照
第5回	Excel復習3回目	目的に合わせたグラフ作成
第6回	Excel復習4回目	集計、分類、抽出 ウィンドウ枠の設定など
第7回	PowerPoint復習	動画や音声、アニメーション効果の利用方法など
第8回	図形描画前編	デザイン性の高い スライド作成のための演習1
第9回	図形描画後編	デザイン性の高い スライド作成のための演習1
第10回	自己PR	Wordの機能を駆使して、 自己PR文書の作成
第11回	プレゼン発表企画書作成	何をどんなふうに 何を目的に プレゼンするかを企画する
第12回	プレゼン資料作成	プレゼンテーションソフトの概要、基本操作
第13回	プレゼン発表	各自、 制限時間内で発表
第14回	相互評価 レポート作成	相互評価の結果を受けて 最終レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Office系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身についていることが前提である。
資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】
「心をつかみ人を動かす　説明の技術」　木田知廣（日本実業出版）
「伝え方が9割」佐々木圭一（ダイアモンド社）
「分かりやすい説明」の技術　最強のプレゼンテーション１５のルール　藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】
平常点50%、授業の中で行う演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
PCを使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】
演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】
特になし。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).
Learning Objectives
· You Can give a logical presentation that understands the situation.
· You can Create accurate content and create clear materials.
· You can give a practical presentation.
Learning activities outside of classroom
· It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).
· If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.
Grading Criteria /Policy
Basically, 50%of normal points and 50%of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学応用Ⅱ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）

上野　京子

情報関係科目　2～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
パソコンを活用したプレゼンテーション能力（表現力）を向上させる科目である。
スライドを作成することだけでなく、相手に何を伝えるかを意識する。
スライドをベースに、実際に発表する（話す）内容を作成する。
聴衆の理解を深めるために、適切なグラフや図を描画できる。
人間力、特にコミュニケーション能力や問題解決能力を高める。
自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【到達目標】
聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する
・実践的なプレゼンテーションを行える
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
■秋学期
(1)比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
(2)聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
(3)わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
(4)印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
(5)プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポートの提出
第2回	コミュニケーションの科学	コミュニケーション能力を高めるスキルの学習 レポート提出
第3回	伝える技術	説得力を高める 効果的な伝え方の学習 レポート提出
第4回	PowerPoint でフライヤー作成	デザインをどう作成するか？ 図形を組み合わせて、イラストを作成 図形のコピー、グループ化、整列など
第5回	フライヤー自由作成	各自まったく同じテキストを使用して、フライヤーを自由にデザインして作成
第6回	Excel を使用した問題解決	ゴールシーク ソルバー クロス集計表作成
第7回	Excel を使用した財務分析の基礎	財務関数の問題演習
第8回	データ分析(1)	データマイニング 基本統計 パレート分析
第9回	データ分析(2)	相関と散布図 相関行列の作成とデータマイニング
第10回	プレゼンテーション作成(1)	企画書の提出と 各ページのデザイン、アウトラインの決定
第11回	プレゼンテーション作成(2)	プレゼンテーション作成、提出
第12回	Aグループ（1/2の受講生）の発表	Aグループ、各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価する
第13回	Bグループ（1/2の受講生）の発表	Bグループ、各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価する
第14回	評価表提出とレポート作成	自身の評価を確認して、レポートを作成、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Office系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身についていることが前提である。
資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】
「心をつかみ人を動かす　説明の技術」　木田知廣（日本実業出版）
「伝え方が９割」佐々木圭一（ダイアモンド社）
「分かりやすい説明」の技術　最強のプレゼンテーション１５のルール　藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】
平常点50%、授業の中で行う演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
PCを使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】
演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】
特になし。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).
Learning Objectives
・ You can clearly grasp the situation of the presentation.
・ You can give a logical presentation that understands the situation.
・ You create accurate content and create clear materials.
・ You can give a practical presentation.
Learning activities outside of classroom
It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).
If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.
Grading Criteria /Policy
Basically, 50%of normal points and 50%of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学応用Ⅰ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）

上野　京子

情報関係科目　2～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］
※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
パソコンを活用したプレゼンテーション能力（表現力）を向上させる科目である。
スライドを作成することだけでなく、相手に何を伝えるかを意識する。
スライドをベースに、実際に発表する（話す）内容を作成する。
聴衆の理解を深めるために、適切なグラフや図を描画できる。
人間力、特にコミュニケーション能力や問題解決能力を高める。
自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【到達目標】
聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する
・実践的なプレゼンテーションを行える
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
■春学期
(1)表現能力を高めるため、Wordでの文書作成の機能を学ぶ
(2)資料に必要なコンテンツ作成のための技術を習得するためにExcelの機能を学ぶ
(3)プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PCを利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。
(4)A4文書で自己紹介、動画で自己紹介など表現方法を学ぶ
(5)ストーリーを伝える表現、連続性のあるストーリーをどう表現するか理解し、相互評価する
■秋学期
(1)比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
(2)聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
(3)わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
(4)印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
(5)プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポート提出
第2回	Word復習	Word機能の復習 （文字列段落の修飾、ワードアート、2段組、ルビ、脚注、図形描画、その他）
第3回	Excel復習1回目	計算式、関数の利用 連続データの入力 効率的な操作法
第4回	Excel復習2回目	簡単な統計 IF関数の応用 相対参照、絶対参照、複合参照
第5回	Excel復習3回目	目的に合わせたグラフ作成
第6回	Excel復習4回目	集計、分類、抽出 ウィンドウ枠の設定など
第7回	PowerPoint復習	動画や音声、アニメーション効果の利用方法など
第8回	図形描画前編	デザイン性の高い スライド作成のための演習1
第9回	図形描画後編	デザイン性の高い スライド作成のための演習1
第10回	自己PR	Wordの機能を駆使して、 自己PR文書の作成
第11回	プレゼン発表企画書作成	何をどんなふうに 何を目的に プレゼンするかを企画する
第12回	プレゼン資料作成	プレゼンテーションソフトの概要、基本操作
第13回	プレゼン発表	各自、 制限時間内で発表
第14回	相互評価 レポート作成	相互評価の結果を受けて 最終レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Office系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身についていることが前提である。
資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】
「心をつかみ人を動かす　説明の技術」　木田知廣（日本実業出版）
「伝え方が9割」佐々木圭一（ダイアモンド社）
「分かりやすい説明」の技術　最強のプレゼンテーション１５のルール　藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】
平常点50%、授業の中で行う演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
PCを使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】
演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】
特になし。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).
Learning Objectives
· You Can give a logical presentation that understands the situation.
· You can Create accurate content and create clear materials.
· You can give a practical presentation.
Learning activities outside of classroom
· It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).
· If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.
Grading Criteria /Policy
Basically, 50%of normal points and 50%of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学応用Ⅱ（プレゼンテーション）（2019年度以降入学者）

上野　京子

情報関係科目　2～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
パソコンを活用したプレゼンテーション能力（表現力）を向上させる科目である。
スライドを作成することだけでなく、相手に何を伝えるかを意識する。
スライドをベースに、実際に発表する（話す）内容を作成する。
聴衆の理解を深めるために、適切なグラフや図を描画できる。
人間力、特にコミュニケーション能力や問題解決能力を高める。
自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【到達目標】
聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する
・実践的なプレゼンテーションを行える
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
■秋学期
(1)比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
(2)聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
(3)わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
(4)印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
(5)プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポートの提出
第2回	コミュニケーションの科学	コミュニケーション能力を高めるスキルの学習 レポート提出
第3回	伝える技術	説得力を高める 効果的な伝え方の学習 レポート提出
第4回	PowerPoint でフライヤー作成	デザインをどう作成するか？ 図形を組み合わせて、イラストを作成 図形のコピー、グループ化、整列など
第5回	フライヤー自由作成	各自まったく同じテキストを使用して、フライヤーを自由にデザインして作成
第6回	Excel を使用した問題解決	ゴールシーク ソルバー クロス集計表作成
第7回	Excel を使用した財務分析の基礎	財務関数の問題演習
第8回	データ分析(1)	データマイニング 基本統計 パレート分析
第9回	データ分析(2)	相関と散布図 相関行列の作成とデータマイニング
第10回	プレゼンテーション作成(1)	企画書の提出と 各ページのデザイン、アウトラインの決定
第11回	プレゼンテーション作成(2)	プレゼンテーション作成、提出
第12回	Aグループ（1/2の受講生）の発表	Aグループ、各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価する
第13回	Bグループ（1/2の受講生）の発表	Bグループ、各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価する
第14回	評価表提出とレポート作成	自身の評価を確認して、レポートを作成、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Office系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身についていることが前提である。
資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】
「心をつかみ人を動かす　説明の技術」　木田知廣（日本実業出版）
「伝え方が９割」佐々木圭一（ダイアモンド社）
「分かりやすい説明」の技術　最強のプレゼンテーション１５のルール　藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】
平常点50%、授業の中で行う演習50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
PCを使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】
演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】
特になし。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).
Learning Objectives
・ You can clearly grasp the situation of the presentation.
・ You can give a logical presentation that understands the situation.
・ You create accurate content and create clear materials.
・ You can give a practical presentation.
Learning activities outside of classroom
It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).
If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.
Grading Criteria /Policy
Basically, 50%of normal points and 50%of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学応用Ⅰ（空間情報）（2019年度以降入学者）

沼尻　治樹

情報関係科目　2～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では，G空間と呼ばれるような空間情報の基礎的な知識と空間情報の処理法およびその分析法を習得することを目的とする。

空間情報システムの発達とともに，商圏分析や立地分析，災害情報管理や自然環境分析などで空間情報の高度利用が行われてきただけでなく，地図アプリケーションなどもwebを通して日常生活に普及してきた。一方，地理空間情報活用推進基本法の制定により，行政機関などによる空間情報の整備が進められることになった。それに伴って，空間情報に関わる知識を備えた人材の育成がさらに望まれるようになってきている。また，東日本大震災後，行政機関だけでなく一般市民も自ら集めた情報を空間情報として集成し利用していることから，「既存の空間情報を利用する」から「空間情報を自作する」ことが一般的になり始めている。

【到達目標】

社会的・学術的な課題に対して空間情報を選択・利用，また空間情報を自作し問題解決に向けた基礎的な空間情報の処理ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本授業は，基本的に対面で実施する。学習支援システムを通して，資料の配付，課題の提出，質疑の受け付けを行う。実習は，配付資料と解説で進める。また，適宜動画資料も利用する。

授業では，初めて空間情報システムに触れる受講生に合わせ，まず空間情報システムの構造や考え方，空間情報（デジタルデータ）の説明を行った上で実習を進める。さらに習得した技術を用いたレポートの作成を行う。無料のアプリケーション，データを使用して授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	空間情報システムとは何か？	空間情報システムについて具体的な事例を交えながら紹介する
第2回	空間情報システムの歴史と応用事例	空間情報システムの歴史を簡単に述べ事例とともに解説する
第3回	空間情報（デジタルデータ）について	空間情報システムで取り扱うデジタルデータについて解説する
第4回	空間情報のマッピングの基礎	国土数値情報を利用しながらアプリケーションの操作を学ぶ
第5回	空間情報のマッピングの編集	基盤地図情報を利用しながらアプリケーションでのレイアウトを変更・編集する
第6回	空間情報と統計データの表示	統計データに合致したレイアウトの考え方を学ぶ
第7回	空間情報と統計データによる主題図の作成	レイアウトの応用と主題図作成を学ぶ
第8回	空間情報の統計演算【属性情報の追加】	統計データの新規追加を学ぶ
第9回	空間情報の統計演算【属性情報のフィールド演算】	統計データの変換を学ぶ
第10回	空間情報の統計演算【フィールド演算の応用】	統計データの演算を学ぶ
第11回	空間情報の保存・変換	空間情報の保存と投影（座標系）変換
第12回	ジオプロセシングと空間解析	簡単な空間解析法（バッファリング・空間結合・属性結合・距離と面積の測定）を学ぶ
第13回	空間情報の分析と考察【課題に対する適切な情報選択】	課題に対して空間情報を選択する
第14回	空間情報の分析と考察【課題に対する適切な情報処理】	空間情報の処理を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は空間情報の取得などの宿題を行う。また，使用するアプリケーションソフトウェアはオープンソースであることから，受講生は自宅での復習・自習を必要に応じて行う。本授業の準備学習・復習時間は，各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

自作テキストを利用する。

【参考書】

「地理情報学入門」（野上道男ほか，東京大学出版会，2001年）

「国土を測る技術の基礎　―地理空間情報技術者を目指す人のために―」（高木方隆，（公社）日本測量協会，2014年）

その他，適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

本授業は実習科目であることから，平常点を重視する。その他，学期末に実施するレポートによって成績評価を行う。レポート課題においてテーマに対して適切に空間情報を処理しているか評価する。

成績評価の配分は，平常点を60％，レポート課題を40％とする。

【学生の意見等からの気づき】

質問しやすい環境作りを心がけている。また空間情報システムの知識と処理法を同時に身につけることを目指している。さらに，空間情報システムの実社会での最新の動向を紹介し，授業と社会の乖離が起こらないようにしている。

【学生が準備すべき機器他】

本授業では，学習支援システムを積極的に使用する。主に資料配布，課題提出，受講生向けの連絡，掲示板での質問対応である。また，PCを使って実習を行う。私物のポータブルPCを利用してもよい。Windows環境での実習を想定しているが，Linux環境等のPCでの実習も認める。ただし，十分なサポートが受けられない可能性もあるので注意が必要である。

課題やデータの保存にUSBメモリ等の外部記憶装置があるとよい。

【その他の重要事項】

本授業では，講義・実習を通して空間情報の理解を深めつつ，コンピュータの扱いとデジタルデータを活用する実践的な知識を学ぶ。無料のアプリケーションソフトウェア，無料のデジタルデータを使用するので自習も可能である。

なお本授業は応用科目であるから，Windowsの基本操作については解説しない。充分にWindowsの操作を理解している必要がある。

【オフィス・アワー】

授業時に質問を受け付ける。また，学習支援システムの掲示板にて随時受け付ける。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目

情報学応用Ⅱ（空間情報）

【Outline (in English)】

[Course outline]

The purpose of this lesson is to understand the spatial information system and to learn the spatial analysis method. We use the space information system for site analysis and natural environment analysis. Spatial information systems are becoming part of our daily life.

[Learning objectives]

Students will be able to select, use, and create their own spatial information for social and academic issues. Students will be able to use them to perform basic information processing for problem solving.

[Learning activities outside of classroom]

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least two hour for each class meeting.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 40%、in class contribution: 60%

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学応用Ⅱ（空間情報）（2019年度以降入学者）

沼尻　治樹

情報関係科目　2～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では，G空間と呼ばれるような空間情報の基礎的な知識と空間情報の処理法およびその分析法を習得することを目的とする。

空間情報システムの発達とともに，商圏分析や立地分析，災害情報管理や自然環境分析などで空間情報の高度利用が行われてきただけでなく，地図アプリケーションなどもwebを通して日常生活に普及してきた。一方，地理空間情報活用推進基本法の制定により，行政機関などによる空間情報の整備が進められることになった。それに伴って，空間情報に関わる知識を備えた人材の育成がさらに望まれるようになってきている。また，東日本大震災後，行政機関だけでなく一般市民も自ら集めた情報を空間情報として集成し利用していることから，「既存の空間情報を利用する」から「空間情報を自作する」ことが一般的になり始めている。

本科目では，公開されているデータを使うだけではなく，「データがなければ自分で作る」ための基礎的な方法を学ぶ。空間情報を自作することをとおして，空間情報についてさらに理解を深め，空間情報の処理についてアルゴリズムを意識できるようになることを目指す。

【到達目標】

社会的・学術的な課題に対して空間情報を選択・利用，また空間情報を自作し問題解決に向けた基礎的な空間情報の処理ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本授業は，基本的に対面で実施する。学習支援システムを通して，資料の配付，課題の提出，質疑の受け付けを行う。実習は，操作資料と解説で進める。また，適宜動画資料も利用する。

授業では，初めて空間情報システムに触れる受講生に合わせ，まず空間情報システムの構造や考え方，空間情報（デジタルデータ）の説明を行った上で実習を進める。さらに習得した技術を用いたレポートの作成を行う。無料のアプリケーション，データを使用して授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	アドレスマッチングの利用	ジオコーディングを学びポイントデータを自作する
第2回	GNSS（GPS）を用いた位置情報の取得と表示	GNSSで取得した座標からポイントデータを自作する
第3回	ラスタデータの利用とベクトルデータ（線）の作成	オルソ化空中写真の表示を学びラインデータを自作する
第4回	ラスタデータの利用とベクトルデータ（面）の作成	ポリゴンデータを自作しさらにラインデータおよびポリゴンデータの形状を編集する
第5回	ラスタデータの利用とベクトルデータの作成およびデータ変換	地理院地図を使いながらベクトルデータを作成しラスタデータへ変換する
第6回	ジオリファレンス（幾何補正）の実施	位置情報を持たない画像データに位置情報を与え空間情報を取得する
第7回	数値標高モデル（DEM）による地形解析【基礎】	DEMについて解説し簡単な地形解析を行う
第8回	数値標高モデル（DEM）による地形解析【応用】	地形解析を行い空間情報を取得する
第9回	空間解析の実践【空間内挿とデータの抽出】	空間補間（空間内挿）を行い空間情報の推定を行う
第10回	空間解析の実践【リモートセンシング】	リモートセンシングデータを利用する
第11回	空間情報プログラミング超入門	Python3 (PyQGIS)を使った空間情報処理の基礎
第12回	空間情報の作成・分析と考察【適切な自作データ作成】	課題とデータ処理の方法を設定する
第13回	空間情報の作成・分析と考察【適切なデータ処理】	課題に対してデータ処理を実践する
第14回	空間情報の作成・分析と考察【適切なデータ分析】	データ処理の結果を分析する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は空間情報の取得などの宿題を行う。また，使用するアプリケーションソフトウェアはオープンソースであることから，受講生は自宅での復習・自習を必要に応じて行う。本授業の準備学習・復習時間は，各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

自作テキストを利用する。

【参考書】

「地理情報学入門」（野上道男ほか，東京大学出版会，2001年）

「国土を測る技術の基礎　―地理空間情報技術者を目指す人のために―」（高木方隆，（公社）日本測量協会，2014年）

その他，適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

本授業は実習科目であることから，平常点を重視する。その他，学期末に実施するレポートによって成績評価を行う。レポート課題においてテーマに対して適切に空間情報を処理しているか評価する。

成績評価の配分は，平常点を60％，レポート課題を40％とする。

【学生の意見等からの気づき】

質問しやすい環境作りを心がけている。また空間情報システムの知識と処理法を同時に身につけることを目指している。さらに，空間情報システムの実社会での最新の動向を紹介し，授業と社会の乖離が起こらないようにしている。

【学生が準備すべき機器他】

本授業では，学習支援システムを積極的に使用する。主に資料配布，課題提出，受講生向けの連絡，掲示板での質問対応である。また，PCを使って実習を行う。私物のポータブルPCを利用してもよい。Windows環境での実習を想定しているが，Linux環境等のPCでの実習も認める。ただし，十分なサポートが受けられない可能性もあるので注意が必要である。

課題やデータの保存にUSBメモリ等の外部記憶装置があるとよい。

【その他の重要事項】

本授業では，講義・実習を通して空間情報の理解を深めつつ，コンピュータの扱いとデジタルデータを活用する実践的な知識を学ぶ。無料のアプリケーションソフトウェア，無料のデジタルデータを使用するので自習も可能である。

なお本授業は応用科目であるから，Windowsの基本操作については解説しない。充分にWindowsの操作を理解している必要がある。

【オフィス・アワー】

授業時に質問を受け付ける。また，学習支援システムの掲示板にて随時受け付ける。

【関連科目】

コンピュータ・リテラシーに関連する科目

情報学応用Ⅰ（空間情報）

【Outline (in English)】

[Course outline]

The purpose of this lesson is to understand the spatial information system and to learn the spatial analysis method. We use the space information system for site analysis and natural environment analysis. Spatial information systems are becoming part of our daily life.

[Learning objectives]

Students will be able to select, use, and create their own spatial information for social and academic issues. Students will be able to use them to perform basic information processing for problem solving.

[Learning activities outside of classroom]

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least two hour for each class meeting.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end report: 40%、in class contribution: 60%

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学発展Ⅰ（情報通信ネットワーク）（2019年度以降入学者）

飯塚　康至

情報関係科目　2～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

＜授業概要＞

インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みとその周辺技術を学びます。春学期はインターネットが繋がる仕組みTCP/IPの技術を中心に学び、その上で動くホームページを作成する技術であるHTMLとCSSを学びます。

＜授業の目的・意義＞

インターネットを中心に実現するICTは日々の生活に不可欠なものになっています。本授業ではインターネットがなぜ繋がるのかといった基本的なところから学んでいきます。普段何気なく使っているインターネットの仕組みを知ることでセキュリティ面や活用度を上げることができ、意義があるものと考えます。また普段よく接するホームページがどのように作られているか知り、自分で構築してみることにより、どのくらいの手間がかかるものか知ることは意義のあることだと考えます。インターネットの仕組みやホームページの仕組みを知ることでデジタル時代に生き抜くスキルを身につけることを目的としています。

[到達目標]

・学生はインターネットがなぜ繋がり通信を行うことができるのか理解し説明できるようになる

・学生はHTMLとCSSを利用し簡単なホームページを作成し公開できるようになる

【到達目標】

本授業の到達目標は次の通りです。

1. インターネットの仕組みを理解する。
2. インターネットを支える主要技術を理解する。
3. 情報セキュリティについて理解する。
4. 現在の最新ICT技術について理解する。
5. 基本的なWeb技術について理解する。
6. クライアント側の動的な技術について理解する。
7. サーバー側の動的な技術について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システムHoppiiで行います。

授業は，実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際にPCを使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。

実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。

なお、受講にあたってはプログラミングに関しての予備知識は必要としませんが、一般的なPCのスキルは必要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	通信技術の発展と現在	情報通信技術の変遷と現在の姿について理解します。
第2回	コンピューターの構成	ネットワークの理解に入る前にネットワークに利用するコンピューターの構成について理解します。
第3回	IPネットワークの理解	インターネットを支えるインターネットプロトコルについて理解します。
第4回	LANの仕組みと構成	LANの仕組みと構成を理解します。
第5回	ドメインの理解	名前解決であるドメインの仕組みについて理解します。
第6回	TCPとパケットの理解	インターネット上のサービスを実現するためのTCPとパケットについて理解します。
第7回	インターネットサービスとアプリケーション	主要なインターネットのサービスとアプリケーションについて理解します。
第8回	情報セキュリティ（基礎）	インターネットを利用した情報セキュリティの基礎について学びます。
第9回	情報セキュリティ（応用）	インターネットを利用した情報セキュリティの応用について学びます。
第10回	HTMLの基礎知識	Webページを作成するためのHTMLの歴史や現在の基礎知識について理解します。
第11回	HTMLの基本文法	HTMLの基本的な文法について理解します。
第12回	ホームページ作成の基礎（入門）	見出を作成したり文字装飾を行う方法を理解します。
第13回	ホームページ作成の基礎（応用）	リスト、テーブル、リンク等を作成する方法を理解します。
第14回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現在の個人活動や企業活動ではコンピューターネットワークの利用は欠かせません。実際に就職した後に自分が担当者になった場合をイメージしながら授業に望んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

PowerPoint等で資料を作成しながら授業を行います。特にテキストを購入しなくても済むように進めます。

【参考書】

授業中に適時お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに100点満点とし振り返りシートの記述内容50点、授業内課題50点で決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

極力演習を行い実際に動かしてみるを重視していきたいと思います。座学であるインプットと演習であるアウトプットをバランスよく講義を組み立てていきます。

【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピューターおよび中間モニタを利用します。課題のやりとり等はGoogleクラスルームを利用します。

【その他の重要事項】

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

授業終了前に振り返りシートを作成します。

【関連科目】

情報科学実習Ⅰ／Ⅱ（fコース）

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

< Class Outline >

Students learn the structure of computer networks centered on the Internet and its peripheral technologies. In the spring semester, students will focus on TCP/IP technology, which is the mechanism for connecting to the Internet, and HTML and CSS, which are the technologies for creating websites that run on top of TCP/IP.

< Purpose and Significance of the Class >

ICT, which is realized mainly through the Internet, has become an indispensable part of our daily lives. In this class, students will learn the basics of why the Internet is connected. We believe that knowing how the Internet works, which we usually use without thinking about it, is significant for improving security and utilization of the Internet. It is also meaningful to know how homepages are made and how much time and effort it takes to build them. The purpose of this course is to acquire the skills to survive in the digital age by learning how the Internet works and how homepages are made.

[Goals]

Students will be able to understand and explain why the Internet is able to connect and communicate.

Students will be able to create and publish a simple website using HTML and CSS.

[Grading Criteria /Policy]

Grading is based on a 100-point scale, with 50 points for regular work and 50 points for in-class assignments. 60 points or higher is considered a passing grade.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学発展Ⅱ（情報通信ネットワーク）（2019年度以降入学者）

飯塚　康至

情報関係科目　2～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

＜授業概要＞

インターネットを中心に実現するICTは日々の生活に不可欠なものになっています。秋学期は春学期のインターネットの繋がる仕組みやホームページの作製技術であるHTML、CSSの応用としてサーバーサイドプログラム（PHP）に挑戦し、メール送信や画像アップロードの機能を作成していきます。

＜授業の目的・意義＞

HTMLやCSSは比較的シンプルな技術ですが、これらを組み合わせて実現するサーバーサイドのプログラムは障害が起きたときの切り分けが難しいものです。本授業を通じてどこで問題が発生しているか障害を切り分けるスキルを身につけていきます。このスキルは実社会で発生する問題の解決にも役に立つものであり意義があると考えます。単純な技術の習得ではなく、自分で考え、問題を切り分けるスキルを身につけることを目的としています。

[到達目標]

・学生は簡単なサーバーサイドプログラムを利用し動的なページを作成することができる

・インターネットの仕組みを理解し、障害が発生したときにどこに問題があるか特定できるようになる

【到達目標】

本授業の到達目標は次の通りです。

1. インターネットの仕組みを理解する。
2. インターネットを支える主要技術を理解する。
3. 情報セキュリティについて理解する。
4. 現在の最新ICT技術について理解する。
5. 基本的なWeb技術について理解する。
6. クライアント側の動的な技術について理解する。
7. サーバー側の動的な技術について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

初回授業の連絡は学習支援システムHoppiiで行います。

授業は，実習室において講義と実習の形式で行います。講義にて、例題や基本的なプログラムを理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際にPCを使用してプログラミングを行い、動作を確認していきます。

実習室での授業の様子はオンライン及びオンデマンドで提供します。

なお、受講にあたってはプログラミングに関しての予備知識は必要としませんが、一般的なPCのスキルは必要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	フォームと画像の貼付け	フォームや画像を扱う方法について理解します。
第2回	CSSとデザイン	CSSを利用したデザインについて学びます。
第3回	サーバーサイド技術の概念	サーバーサイド技術であるPHPを利用しサーバーサイド技術の概念を学びます。
第4回	PHPの基本文法（変数、関数）	PHPの基本的な文法について学びます。
第5回	PHPの基本文法（条件分岐、繰り返し）	PHPの基本的な文法について学びます。
第6回	練習用フォームの作成	練習用フォームを作成しPOSTやGETデータを送信します。
第7回	メールフォームの作成	メールフォームを作成しSessionでデータを保持します。
第8回	メールフォームからのメールの送信	メールフォームからメールを送信する方法について学びます。
第9回	画像アップローダーの作成（アップロード）	画像をサーバーにアップロードするフォームを作成します。
第10回	画像アップローダーの作成（表示）	画像をサーバーにアップロードした画像を表示します。
第11回	画像アップローダーの作成（一覧表示）	アップロードした画像を一覧表示します。
第12回	スマートフォンアプリの作成（入門）	Monacaを利用してスマートフォンアプリケーションの開発手法を学びます。
第13回	スマートフォンアプリの作成（アプリ作成）	Monacaを利用して簡単なアプリケーションを作成します。
第14回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現在の個人活動や企業活動ではコンピューターネットワークの利用は欠かせません。実際に就職した後に自分が担当者になった場合をイメージしながら授業に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

PowerPoint等で資料を作成しながら授業を行います。特にテキストを購入しなくても済むように進めます。

【参考書】

授業中に適時お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに100点満点とし振り返りシートの記述内容50点、授業内課題50点で決定します。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

極力演習を行い実際に動かしてみるを重視していきたいと思います。座学であるインプットと演習であるアウトプットをバランスよく講義を組み立てていきます。

【学生が準備すべき機器他】

課題等のやりとり等はGoogle クラスルームを利用します。

【その他の重要事項】

演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

授業終了前に振り返りシートを作成します。

【関連科目】

情報科学実習Ⅰ／Ⅱ（fコース）

【オフィス・アワー】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

[Class Outline]

ICT, realized mainly through the Internet, has become an integral part of our daily lives. In the fall semester, students will try their hand at server-side programming (PHP) as an application of HTML and CSS, the Internet connection mechanism and website creation techniques of the spring semester, and create functions for sending e-mail and uploading images.

[Purpose and Significance]

HTML and CSS are relatively simple technologies, but server-side programs that combine these technologies are difficult to isolate when a problem occurs. Through this class, students will acquire the skills to isolate where problems occur. We believe that this skill is useful and meaningful for solving problems that occur in the real world. The objective of this course is not to simply learn techniques, but to acquire the skills to think for oneself and isolate problems.

[Objectives]

Students will be able to create dynamic pages using simple server-side programs.

Students will be able to understand how the Internet works and be able to identify problems when they occur.

[Learning activities outside of classroom]

The use of computer networks is indispensable in today's personal and corporate activities. Students are encouraged to attend this class while imagining that they will be the person in charge after they actually find a job. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each

[Grading Criteria /Policy]

Grading will be based on the assignments and reflection sheets for each class, with a maximum score of 100 points, 50 points for each reflection sheet and 50 points for each in-class assignment.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学発展Ⅰ（ホームページ）（2019年度以降入学者）

上野　京子

情報関係科目　2～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしてのWebサイト作成に関する知識や技能を習得する。
Webページを作成することは、技術の向上だけでなく、人間力を伸ばすことができる。
美術や音楽、ファッションやマーケティングなどの知識も必要になるので、より広い視野を身に着けることができ、併せてそれらの能力を伸ばすことができる。

【到達目標】
インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単なWebシステムの作成ができることを目標とする。
HTML言語、ハイパーテキストがどのようにWebページで表示されるかを理解する。
テキストデータの編集方法を理解する
画像データをWebページ上で適切に表示する方法を理解する。
ハイパーリンクをテキストやコンテンツからできるようにする。
地図や動画、音楽をWebページに埋め込み、適切に表示する。
自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web関連では、ホームページ・Webシステムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。
授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Webシステムを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポートの提出
第2回	1章 基本のテキスト要素	HTMLの基本構造を覚え、HTMLタグを用いてマークアップする 作成したHTMLファイルをブラウザで表示する
第3回	2章 段落、改行、文字修飾、画像挿入	文章の編集（段落と改行） 文字の修飾（太字、下線、ルビ） 画像ファイルの取り扱い（別フォルダーの作成と画像の挿入）
第4回	3章 背景の色、文字の色、リンク	CSSファイルで修飾する 別のページにリンクする（別のページに移動する）
第5回	4章 リンク	自分が作成したページ同士をリンクする（ハイパーリンク）
第6回	５章 ページ内リンクと外部サイトへのリンク	縦長のページを作成し、ページ内で別の個所へリンクする 外部のサイト、WikipediaやGoogleマップへリンクする
第7回	6章 ページにファイルを埋め込む	図形ファイルや動画、音声ファイルを埋め込んで表示する Googleマップや YouTubeの動画を埋め込んで表示する
第8回	到達度確認試験	1章から6章までの到達度確認試験
第9回	HTML前期課題(1) 企画書の作成	企画書作成 どんな内容の Web ページを作成するか
第10回	HTML前期課題(2) Webページの構造、必要なファイルの確定	各自Web ページ作成 作成するWebページの構造と実現するためのファイルを確認する
第11回	HTML前期課題(3) 必要なコンテンツの収集と編集	各自Web ページ作成 必要なコンテンツを用意し、編集する
第12回	Webページ相互評価 Aグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Aグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する
第13回	Webページ相互評価 Bグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Bグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する 評価表の提出
第14回	レポート提出	自身の評価を受けて、 また、ほかの学生のWebページを閲覧して、 最終レポートを作成し、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。
また、理解できなかった点はあいまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に示す。

【参考書】
必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点を40％、授業中の課題の結果を60％として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TAの力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】
Webシステムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】
「情報学入門Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.
A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.
Learning Objectives
The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.
Learning activities outside of classroom
The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.
Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.
Grading Criteria /Policy
Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40%and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学発展Ⅱ（ホームページ）（2019年度以降入学者）

上野　京子

情報関係科目　2～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしてのWebサイト作成に関する知識や技能を習得する。
Webページを作成することは、技術の向上だけでなく、人間力を伸ばすことができるようになる。
美術や音楽、ファッションやマーケティングなどの知識も必要になるので、より広い視野を身に着けることができ、併せてそれらの能力を伸ばすことができる。

【到達目標】
Webページ上に箇条書きやリストを作成することできる。
Webページ上にテーブルを作成することができる。
フルスクリーンのWebページが作成できる。
2カラムのWebページを作成することができる。
タイル型のWebページを作成することができる。
自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web関連では、ホームページ・Webシステムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。
授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Webシステムを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポート提出
第2回	7章 リストを作る	箇条書きリスト 順番のついたリスト
第3回	8章 テーブルを作成する	テーブル（表）を作成するための基本要素の理解 表のヘッダーとフッター、列のグループ化を理解
第4回	9 章 定義リスト	定義・説明リストの作成
第5回	到達度確認試験	7章から 9章までの到達度確認試験
第6回	10章　Webページのレイアウト1	フルスクリーンのページを作成する
第7回	11章　Webページのレイアウト2	2カラムのレイアウトを作成する
第8回	12章　Webページのレイアウト3	タイル型のレイアウト
第9回	13章　Webページのレイアウト4	お問い合わせページを作成して、すべてのページを完成させて、遷移させる
第10回	HTML前期課題(1) 企画書の作成 Webページの構造、必要なファイルの確定	どんな内容の Web ページ作成する Webページの構造と実現するためのファイルを確認すを作成するか
第11回	HTML前期課題(3) 必要なコンテンツの収集と編集→完成→提出	必要なコンテンツを用意し、編集するすべてのリンクができていること確認し、提出
第12回	Webページ相互評価 Aグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Aグループ、各人のWebページをを様々な観点から評価する
第13回	Webページ相互評価 Bグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Bグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する 評価表の提出
第14回	レポート作成	自身の評価を受けて、 また、ほかの学生の Web ページを閲覧して、最終レポートを作成し、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。
また、理解できなかった点はあいまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に示す。

【参考書】
必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点を40％、授業中の課題の結果を60％として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TAの力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】
Webシステムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】
「情報学入門Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.
A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.
Learning Objectives
The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.
Learning activities outside of classroom
The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.
Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.
Grading Criteria /Policy
Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40%and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学発展Ⅰ（ホームページ）（2019年度以降入学者）

上野　京子

情報関係科目　2～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしてのWebサイト作成に関する知識や技能を習得する。
Webページを作成することは、技術の向上だけでなく、人間力を伸ばすことができる。
美術や音楽、ファッションやマーケティングなどの知識も必要になるので、より広い視野を身に着けることができ、併せてそれらの能力を伸ばすことができる。

【到達目標】
インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単なWebシステムの作成ができることを目標とする。
HTML言語、ハイパーテキストがどのようにWebページで表示されるかを理解する。
テキストデータの編集方法を理解する
画像データをWebページ上で適切に表示する方法を理解する。
ハイパーリンクをテキストやコンテンツからできるようにする。
地図や動画、音楽をWebページに埋め込み、適切に表示する。
自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web関連では、ホームページ・Webシステムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。
授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Webシステムを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポートの提出
第2回	1章 基本のテキスト要素	HTMLの基本構造を覚え、HTMLタグを用いてマークアップする 作成したHTMLファイルをブラウザで表示する
第3回	2章 段落、改行、文字修飾、画像挿入	文章の編集（段落と改行） 文字の修飾（太字、下線、ルビ） 画像ファイルの取り扱い（別フォルダーの作成と画像の挿入）
第4回	3章 背景の色、文字の色、リンク	CSSファイルで修飾する 別のページにリンクする（別のページに移動する）
第5回	4章 リンク	自分が作成したページ同士をリンクする（ハイパーリンク）
第6回	５章 ページ内リンクと外部サイトへのリンク	縦長のページを作成し、ページ内で別の個所へリンクする 外部のサイト、WikipediaやGoogleマップへリンクする
第7回	6章 ページにファイルを埋め込む	図形ファイルや動画、音声ファイルを埋め込んで表示する Googleマップや YouTubeの動画を埋め込んで表示する
第8回	到達度確認試験	1章から6章までの到達度確認試験
第9回	HTML前期課題(1) 企画書の作成	企画書作成 どんな内容のWebページを作成するか
第10回	HTML前期課題(2) Webページの構造、必要なファイルの確定	各自Webページ作成 作成するWebページの構造と実現するためのファイルを確認する
第11回	HTML前期課題(3) 必要なコンテンツの収集と編集	各自Webページ作成 必要なコンテンツを用意し、編集する
第12回	Webページ相互評価 Aグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Aグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する
第13回	Webページ相互評価 Bグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Bグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する 評価表の提出
第14回	レポート提出	自身の評価を受けて、 また、ほかの学生のWebページを閲覧して、 最終レポートを作成し、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。
また、理解できなかった点はあいまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に示す。

【参考書】
必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点を40％、授業中の課題の結果を60％として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TAの力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】
Webシステムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】
「情報学入門Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.
A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.
Learning Objectives
The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.
Learning activities outside of classroom
The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.
Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.
Grading Criteria /Policy
Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40%and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学発展Ⅱ（ホームページ）（2019年度以降入学者）

上野　京子

情報関係科目　2～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしてのWebサイト作成に関する知識や技能を習得する。
Webページを作成することは、技術の向上だけでなく、人間力を伸ばすことができるようになる。
美術や音楽、ファッションやマーケティングなどの知識も必要になるので、より広い視野を身に着けることができ、併せてそれらの能力を伸ばすことができる。

【到達目標】
Webページ上に箇条書きやリストを作成することできる。
Webページ上にテーブルを作成することができる。
フルスクリーンのWebページが作成できる。
2カラムのWebページを作成することができる。
タイル型のWebページを作成することができる。
自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web関連では、ホームページ・Webシステムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。
授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Webシステムを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポート提出
第2回	7章 リストを作る	箇条書きリスト 順番のついたリスト
第3回	8章 テーブルを作成する	テーブル（表）を作成するための基本要素の理解 表のヘッダーとフッター、列のグループ化を理解
第4回	9 章 定義リスト	定義・説明リストの作成
第5回	到達度確認試験	7章から 9章までの到達度確認試験
第6回	10章　Webページのレイアウト1	フルスクリーンのページを作成する
第7回	11章　Webページのレイアウト2	2カラムのレイアウトを作成する
第8回	12章　Webページのレイアウト3	タイル型のレイアウト
第9回	13章　Webページのレイアウト4	お問い合わせページを作成して、すべてのページを完成させて、遷移させる
第10回	HTML前期課題(1) 企画書の作成 Webページの構造、必要なファイルの確定	どんな内容の Web ページ作成する Webページの構造と実現するためのファイルを確認すを作成するか
第11回	HTML前期課題(3) 必要なコンテンツの収集と編集→完成→提出	必要なコンテンツを用意し、編集するすべてのリンクができていること確認し、提出
第12回	Webページ相互評価 Aグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Aグループ、各人のWebページをを様々な観点から評価する
第13回	Webページ相互評価 Bグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Bグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する 評価表の提出
第14回	レポート作成	自身の評価を受けて、 また、ほかの学生の Web ページを閲覧して、最終レポートを作成し、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。
また、理解できなかった点はあいまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に示す。

【参考書】
必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点を40％、授業中の課題の結果を60％として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TAの力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】
Webシステムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】
「情報学入門Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.
A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.
Learning Objectives
The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.
Learning activities outside of classroom
The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.
Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.
Grading Criteria /Policy
Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40%and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学発展Ⅰ（ホームページ）（2019年度以降入学者）

上野　京子

情報関係科目　2～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしてのWebサイト作成に関する知識や技能を習得する。
Webページを作成することは、技術の向上だけでなく、人間力を伸ばすことができる。
美術や音楽、ファッションやマーケティングなどの知識も必要になるので、より広い視野を身に着けることができ、併せてそれらの能力を伸ばすことができる。

【到達目標】
インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単なWebシステムの作成ができることを目標とする。
HTML言語、ハイパーテキストがどのようにWebページで表示されるかを理解する。
テキストデータの編集方法を理解する
画像データをWebページ上で適切に表示する方法を理解する。
ハイパーリンクをテキストやコンテンツからできるようにする。
地図や動画、音楽をWebページに埋め込み、適切に表示する。
自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web関連では、ホームページ・Webシステムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。
授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Webシステムを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポートの提出
第2回	1章 基本のテキスト要素	HTMLの基本構造を覚え、HTMLタグを用いてマークアップする 作成したHTMLファイルをブラウザで表示する
第3回	2章 段落、改行、文字修飾、画像挿入	文章の編集（段落と改行） 文字の修飾（太字、下線、ルビ） 画像ファイルの取り扱い（別フォルダーの作成と画像の挿入）
第4回	3章 背景の色、文字の色、リンク	CSSファイルで修飾する 別のページにリンクする（別のページに移動する）
第5回	4章 リンク	自分が作成したページ同士をリンクする（ハイパーリンク）
第6回	５章 ページ内リンクと外部サイトへのリンク	縦長のページを作成し、ページ内で別の個所へリンクする 外部のサイト、Wikipediaや Googleマップへリンクする
第7回	6章 ページにファイルを埋め込む	図形ファイルや動画、音声ファイルを埋め込んで表示する Googleマップや YouTubeの動画を埋め込んで表示する
第8回	到達度確認試験	1章から6章までの到達度確認試験
第9回	HTML前期課題(1) 企画書の作成	企画書作成 どんな内容の Web ページを作成するか
第10回	HTML前期課題(2) Webページの構造、必要なファイルの確定	各自Web ページ作成 作成するWebページの構造と実現するためのファイルを確認する
第11回	HTML前期課題(3) 必要なコンテンツの収集と編集	各自Web ページ作成 必要なコンテンツを用意し、編集する
第12回	Webページ相互評価 Aグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Aグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する
第13回	Webページ相互評価 Bグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Bグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する 評価表の提出
第14回	レポート提出	自身の評価を受けて、 また、ほかの学生のWebページを閲覧して、 最終レポートを作成し、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。
また、理解できなかった点はあいまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に示す。

【参考書】
必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点を40％、授業中の課題の結果を60％として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TAの力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】
Webシステムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】
「情報学入門Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.
A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.
Learning Objectives
The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.
Learning activities outside of classroom
The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.
Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.
Grading Criteria /Policy
Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40%and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報学発展Ⅱ（ホームページ）（2019年度以降入学者）

上野　京子

情報関係科目　2～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

※　2018年度以前入学者で履修希望の方は、学部窓口に申し出てください。

※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしてのWebサイト作成に関する知識や技能を習得する。
Webページを作成することは、技術の向上だけでなく、人間力を伸ばすことができるようになる。
美術や音楽、ファッションやマーケティングなどの知識も必要になるので、より広い視野を身に着けることができ、併せてそれらの能力を伸ばすことができる。

【到達目標】
Webページ上に箇条書きやリストを作成することできる。
Webページ上にテーブルを作成することができる。
フルスクリーンのWebページが作成できる。
2カラムのWebページを作成することができる。
タイル型のWebページを作成することができる。
自分以外の学生が作成したスライドや発表を聴いて、適切な評価ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web関連では、ホームページ・Webシステムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。
授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Webシステムを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポート提出
第2回	7章 リストを作る	箇条書きリスト 順番のついたリスト
第3回	8章 テーブルを作成する	テーブル（表）を作成するための基本要素の理解 表のヘッダーとフッター、列のグループ化を理解
第4回	9 章 定義リスト	定義・説明リストの作成
第5回	到達度確認試験	7章から 9章までの到達度確認試験
第6回	10章　Webページのレイアウト1	フルスクリーンのページを作成する
第7回	11章　Webページのレイアウト2	2カラムのレイアウトを作成する
第8回	12章　Webページのレイアウト3	タイル型のレイアウト
第9回	13章　Webページのレイアウト4	お問い合わせページを作成して、すべてのページを完成させて、遷移させる
第10回	HTML前期課題(1) 企画書の作成 Webページの構造、必要なファイルの確定	どんな内容の Web ページ作成する Webページの構造と実現するためのファイルを確認すを作成するか
第11回	HTML前期課題(3) 必要なコンテンツの収集と編集→完成→提出	必要なコンテンツを用意し、編集するすべてのリンクができていること確認し、提出
第12回	Webページ相互評価 Aグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Aグループ、各人のWebページをを様々な観点から評価する
第13回	Webページ相互評価 Bグループ発表者は、作成したWebページの構造の解説と目的を説明する	Webページの発表 Bグループ、各人のWebページを様々な観点から評価する 評価表の提出
第14回	レポート作成	自身の評価を受けて、 また、ほかの学生の Web ページを閲覧して、最終レポートを作成し、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。
また、理解できなかった点はあいまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に示す。

【参考書】
必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点を40％、授業中の課題の結果を60％として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TAの力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】
Webシステムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】
「情報学入門Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.
A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.
Learning Objectives
The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.
Learning activities outside of classroom
The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.
Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.
Grading Criteria /Policy
Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40%and the results of assignments during class as 60%.

LAW200FA（法学 / law 200）

民法

松田　佳久

連環科目連環科目_法律関係　2～4年次／4単位　［年間授業/Yearly］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
民法は市民生活に関連する法律の中で最も基本的かつ重要な法律である。民法は取引を中心とする財産法と家族の生活を中心とする家族法に大別されるが、本講義は経営学部の学生を対象とすることから、前者の財産法を中心に扱うことにしたい。
具体的には、私たちの生活に直接に関係してくる事項（売買契約などの契約関係や所有権などの物権関係）について勉強をする。

【到達目標】
取引を中心とする生活関係についての基本的な法制度を十分に理解し、経営学部の専門的知識がより一層効果を発揮するような背景を築くことである。
具体的には、①契約の有効な成立のための要件、②契約によって成立する債権の内容、③債権の効力、④物権変動と対抗要件、⑤債権担保の手段、とりわけ抵当権と保証債務について十分な法的知識を修得することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」、「DP5」、「法律」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
２０２５年度はオンデマンドでの開講となります。
学習支援システムの「教材」に各回の参考図、判例等をＵＰしておきます。それを印刷して、学習支援システムの「オンデマンド」から該当の録画を見付、視聴してください。各自で計２８回の視聴時間を確保し視聴してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義を始めるに際しての諸注意
	民法典とその構成	民法典
		民法典の構成
		物権と債権
第2回	売買契約の有効な成立１	契約の成立要件
第3回	売買契約の有効な成立２	契約の有効要件
第4回	売買契約の有効な成立３	無効原因
		取消しと無効
第5回	売買契約の有効な成立４	代理
第6回	売買契約の有効な成立５	無権代理
		条件と期限
第7回	売主の義務と買主の義務１	物の引渡し
第8回	売主の義務と買主の義務２	代金の支払い
第9回	売主の義務と買主の義務３	購入資金の借入れ
第10回	売主の義務と買主の義務４	債権関係の終了
第11回	売主の義務と買主の義務５	現実的履行の強制
第12回	売主の義務と買主の義務６	損害賠償請求
		契約の解除
第13回	売買契約による所有権の移転１	物権変動の基本原則
第14回	売買契約による所有権の移転２	動産取引における公示の原則と公信の原則
第15回	所有権と占有権１	物権の客体
		物権の本質
		物権の効力
		所有権の性質と効力
第16回	所有権と占有権２	相隣関係
		所有権の特別な取得原因
		所有権の成立と態様
		占有権の効力
第17回	債権の回収と債権の担保１	債権回収の基本原則、責任財産の保全（債権者代位権）
第18回	債権の回収と債権の担保２	詐害行為取消権
第19回	責任財産の拡大による債権の担保	連帯債務
		保証債務
第20回	優先弁済権による債権の担保１	担保物権の基本原則
		抵当権
第21回	優先弁済権による債権の担保２	非典型担保
		総説
	物の貸借契約１	賃貸借契約（基本的な法律関係）
第22回	物の貸借契約２	賃貸借関係（賃貸借の効力、第三者との関係、当事者の変更、賃借権の譲渡・転貸、賃貸借契約の終了）
第23回	物の貸借契約３	借地借家法（借地関係、借家関係）
第24回	他人の労務を目的とする契約１	総説、
		雇用契約
		請負契約
第25回	他人の労務を目的とする契約２	委任契約
		総説
	法律の規定に基づいて生ずる債権１	事務管理
第26回	法律の規定に基づいて生ずる債権２	不当利得
第27回	法律の規定に基づいて生ずる債権３	一般的不法行為
第28回	法律の規定に基づいて生ずる債権４	特殊的不法行為

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
○教科書に事前に目を通してから授業を視聴すること
○視聴後に各自で内容を復習すること
○学習した内容を踏まえて社会を法的な視点から眺めてみること。
○本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
わからないところがあったら担当教員の大学メールアドレス（yoshihisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp）に質問などをして、疑問を残さないようにしてください。

【テキスト（教科書）】
宮本健蔵編著『ワンステップ民法』2023年9月、第２版、嵯峨野書院

【参考書】
１．潮見佳男＝道垣内弘人編『民法判例百選Ⅰ総則・物権』（有斐閣、第９版、２０２３年）
２．窪田充見＝森田宏樹編『民法判例百選Ⅱ債権』(有斐閣、第９版、２０２３年)

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、中間試験（５０点満点）と期末試験（５０点満点）の合計により行います。
中間試験を受験しない人がいますが、受験しないとこの講座の単位取得はできません。
2025年度は、中間試験・期末試験は教室では実施しません。
学習支援システムの「レポート」に試験の問題を掲載しますので、試験の所定の期間内に添付の解答用紙に解答し、受業支援システムの「レポート」に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
基本的には、計２８回の講義をしっかりと視聴することが必要になります。
わからないところがありましたら、いつでもメールで質問をしてください（担当教員のメルアド：yoshihisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp)。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムの「教材」に参考図、判例等をＵＰしておきますので、教材を印刷し、学習支援システムの「オンデマンド」に合録画を視聴できるパソコン等が必要になります。

【その他の重要事項】
〔関連科目〕
特になし。

【オフィス・アワー】
常時、メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
【Outline】
Civil law is the most fundamental and important law in civil life. Civil law is broadly divided into property law, which centers on transactions, and family law, which centers on family life.Since this lecture is aimed at students in the business administration department, I will focus on the former property law.
Specifically, we will study matters that are directly related to our lives (contractual relationships such as sales contracts and property rights such as ownership).
【Goal】

It is necessary to fully understand the basic legal system related to living relations centered on transactions, and to build a background in which the specialized knowledge of the Faculty of Business Administration is even more effective.
Specifically, it is necessary to acquire sufficient legal knowledge about the following. (1) Requirements for effective conclusion of contract, (2) Contents of claims established by contract, (3) Effectiveness of claims, (4) Changes in property rights and perfection requirements, (5) Means of collateral for claims, especially mortgages and guarantee obligations.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading criteria】
Grades will be evaluated based on the total of the mid-term exam (out of 50 points) and the final exam (out of 50 points).
Some people do not take the mid-term exam. If you do not take the exam, you will not be able to earn credits for this course.
In 2022, mid-term and final exams will not be held in the classroom.
The exam questions will be posted in the "Report" of the learning support system. Please answer the attached answer sheet within the specified period of the exam and submit it to the "Report" of the employment support system.
The Civil Code was significantly revised in April 2020. Along with this, the textbook was also revised and updated (Kenzo Miyamoto, "New Conduct Civil Code", May 2020, Sagano Shoin).
Even if you use an old version of the textbook, you will not be able to understand the content of the lecture, and you will not be able to handle the mid-term and final exams, so please prepare the above textbook.

MAN100FA（経営学 / Management 100）

広告論（2018年度以前入学者）

宮井　弘之

特殊講義選択_特殊講義　3～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「広告」は、「マーケティング」の中でも実際に顧客との接点をつくる活動となるため、企業の成長に決定的な役割を演じることがあり、大変重要な活動である。本講義では、「広告」に関する基本的な概念や理論を解説した上で、近年中心となっているデジタル広告などの最新の動向も解説する。また、実際に広告業に従事する様々な社会人の方に来ていただき、講義をしてもらう。以上を通じて広告に関する理論と実践論を網羅的に把握してもらうことを目的とする。

【到達目標】
広告とはどういった活動で、経営のなかでどのように役立っているかを理解し、説明できる。
学術的な広告論における基本的な概念について理解し、説明できる。
広告戦略や広告の計画、実施の手順について理解し、説明できる。
広告ビジネスに関わる会社の業種や働くひとの職種について理解し、説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
教室による対面での授業を前提とする。ただし、ゲストスピーカーをお呼びする場合はキャンパスまで来ていただくのが難しいことがある。その場合ZOOMとなる可能性が高い。
数回グループワークを行う。授業ごとにリアクションペーパーを書いてもらう。
広告業界に従事する主要な業種から実務家を招き、講話をいただく。
また、実務家からいただいた講話に関して質問を行ってもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	教員自己紹介 授業の進め方と評価方法 広告とはなにか
第2回	マーケティング計画と広告	マーケティングの中の広告 マーケティング・コミュニケーションとは
第3回	広告業界に関わる様々な業種	広告会社とは 広告主とは 【講話】大手広告代理店　　営業部長
第4回	広告計画の流れ	広告業務の流れ 広告のための様々な調査 広告以外の手法との統合
第5回	広告戦略の立案	広告戦略とは 広告目標の設定 セグメンテーションとターゲット設定
第6回	広告予算の決定方法	世界や日本の広告費の規模 広告予算の設定方法 【講話】広告制作会社　　プランナー
第7回	広告と心理学	広告コミュニケーション過程とは 広告効果測定方法
第8回	広告表現計画	広告表現の意味 広告表現制作プロセス 【講話】大手広告代理店　クリエイティブ・ディレクター（録画を利用）
第9回	媒体計画	広告媒体の種類と特徴 媒体計画立案過程 【講話】大手メディアレップ　テレビ担当（録画を利用）
第10回	インターネット広告（1）	インターネット広告とは インターネット広告の種類 【講話】若手デジタルマーケティングプランナー（録画を利用）
第11回	インターネット広告（2）	インターネット広告の実例紹介
第12回	ブランド広告	ブランド構築における広告の役割 企業広告の実例
第13回	広告効果測定と法務	広告測定の様々な手法 グローバル広告の可能性と実例 広告規制と法務
第14回	これまでの総まとめ	これまでの総まとめ（授業内試験を予定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適宜、具体的な広告事例を収集してもらう準備学習を課す。また、復習においては習得した知識や理論で現実の広告活動を分析するよう促す。予習復習の時間は毎授業あたり1-2時間を想定する。

【テキスト（教科書）】
「現代広告論 第３版」岸志津恵/田中洋/嶋村和恵、有斐閣、2017

【参考書】
適宜指示する

【成績評価の方法と基準】
期末試験は行わない
１）授業毎のグループワーク等を通じた、リアクションペーパーの内容（60%）
２）最終回におけるレポート課題　（40%）
授業中は私語は一切禁止するので、静かに聴講できない生徒は受講しないこと。特に入学以来オンライン講義が多い世代はグループディスカッションの経験が少ないため、授業内にグループワークを取り込む。グループワークに参加できないものには単位を与えないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
就職活動など将来の進路に悩む学生も多く、実務家の講話が極めて有効であることがわかったため、本年も実務家の講話は継続する

【学生が準備すべき機器他】
実務家の講話は、ZOOMで実施になるので、視聴できる機器等を準備すること。

【その他の重要事項】
現役の実務家として博報堂で働いている経験は必要に応じて伝えていく。また広告業界の仕事は多岐にわたり様々な職種があるため、そのような実務家をなるべく多く授業に招いて講話をしてもらう予定である。広告業界に対する正しい理解を基に、興味をもった生徒は就職活動でぜひ広告業界を対象にしてほしい。

【関連科目】
マーケティング論

【Outline (in English)】
【Outline】In this lecture, we will explain the basic concepts and theories of "advertising" and the latest trends in digital advertising. In addition, we will have various working people who are actually engaged in the advertising industry come and give lectures. Through the above, the course aims to provide students with a comprehensive understanding of the theory and practice of advertising.
【Goal】
1. understand and explain what advertising is and how it is useful in management.
2. understand and explain basic concepts in academic advertising theory.
3. understand and explain advertising strategies and procedures for planning and implementing advertising
4. understand and explain the types of companies involved in the advertising business and the types of people who work there.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
As a preparatory study, students will be asked to collect specific advertising case studies. Students are expected to analyze real-life advertising activities based on the knowledge and theories they have acquired. Students are expected to spend 1-2 hours per class for preparation and review.
【Grading criteria】
No final exam will be given.
1. reaction paper through group work in each class (60%)
2.final report assignment (40%)
No private conversation is allowed during class, so students who cannot listen quietly should not take this course.
Group work will be incorporated into the class. No credit will be given to students who cannot participate in group work.

MAN100FA（経営学 / Management 100）

寄附講座・日本の物流と企業経営

李　瑞雪

特殊講義選択_特殊講義　1～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業経営にとって、大きな関心事となっている「物流・ロジスティクス」を基礎から学習します。物流サービスや技術に関して先進的な取り組みを行っている企業から講師を招き、その企業の実例を紹介しながら講義を行うことにより、普段は見ることがない「物流・ロジスティクス」の世界を理解する力を育てます。また本授業は日本マテリアル・ハンドリング（MH）協会との連携講座です。

【到達目標】
物流・ロジスティクスに関する基礎知識を身に付けることにより、注目を集めつつあり、企業も力を入れている「物流・ロジスティクス」についての理解を深め、視野を拡げることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
「物流・ロジスティクス」に関して先進的な取り組みをしている企業より専門家を派遣してもらい、オムニバス講義形式で行います。講義中でのインタラクティブな質疑応答と終了時にはリアクションペーパーで各講義の理解度を確認し、最終回には参加企業の最新事例などを紹介してもらいます。併せて定期試験の期間にテストを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション・物流業・MH業の産業概論	本講座の意義・目的を紹介後、物流産業の歴史的な意義及び現在までの進化について紹介します。
第2回	物流の概念と物流管理	物流・ロジスティクスの概念とより具体的な物流管理全般に関する知識を紹介する。3回以降に繋がる内容。
第3回	電子電器業界の物流管理	最も身近な存在である、電器産業に関して物流面での様々な取り組みを紹介します。
第4回	住設業界の物流管理	住宅設備は近年物流に関しての様々な課題がある、それらを歴史的な背景から現在の取り組みを紹介し、今後将来に向けた展望も考えます。
第5回	建材業界の物流管理	建設材料はその大きさ故、非常に困難になりがちです。現場の人手不足への対応も含めた取り組みを紹介します。
第6回	自動車業界の物流管理	最も物量の多い自動車産業の例を用い、効率的な生産管理・物流管理について解説し、併せて今後の方向性についても紹介します。
第7回	物流オペレーション管理	物流の実際の運用を支える現場管理に関して、IE（Industrial Engineering）の視点から紹介します。
第8回	物流業界を支えるMH機器	ネット通販の物流を支える仕組み（フルフィルメントセンター）を中心に、アマゾンの実例で講義します。
第9回	ECビジネスの物流管理	大手国際フォワーダー企業の上級マネジャーによる講演。国際物流の仕組み、特徴、現状、将来展望などについて解説。
第10回	小売業界の物流管理	小売業界の物流の中心となる、物流センターの企画・設計を題材にして現在の課題と取り組む内容を紹介します。
第11回	輸送・配送システム	日本の輸送・配送システムに関する内容と今後の課題などについて専門家から紹介します。
第12回	物流のグローバル化と国際輸送	グローバル化している物流産業の実態と国際物流を企画・実行するうえで、必要となる基礎知識を解説します。
第13回	企業の最新の共同物流事例	現時点で共同物流に関連する企業の最新の事例などを紹介し、2024問題と称される課題の解決方法について考えます。
第14回	物流イノベーション	日本物流における技術開発とビジネスモデル開発について、専門家の講演とパネルディスカッションを通して学習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の該当内容および学習支援システムにアップロードされた講義資料を事前に予習しておきます。
物流・ロジスティクスに関連する新聞記事に留意し、授業で学んだ知識と結びつけながら、記事の内容を理解し思考します。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『業界別 物流管理とSCMの実践』李瑞雪・安藤康行編著、ミネルヴァ書房、2022年

【参考書】
『ロジスティクス管理３級』中央職業能力開発協会編、社会保険研究所、2017年
『ロジスティクス・オペレーション３級』中央職業能力開発協会編、社会保険研究所、2007年

【成績評価の方法と基準】
授業参加（Q&Aなど）（10％）、期末試験（40％）、リアクションペーパー（50％）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
質疑応答など講師との交流時間が作れるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムでの配布資料は必ず各自印刷して授業に持参すること。

【関連科目】
『経営戦略論』、『日本経済論』、『中小企業論』、『流通論』

【Outline (in English)】
This course is a basic lecture on the logistics industry and logistics management sponsored by Japan Material Handing Scoiety. The main objectives include understanding the importance, structure, functions, and basic activities of the logistics management and supply chain management. Senior managers coming from more than ten big companies will serve as lecturers, delivering basic and practical knowledge related to logistics management and supply chain management. Students will be expected to have completed the required assignments and feedback after each class meeting. Questions and active participation in the class will be welcomed. Your overall grade in the class will be determined based on the following: Term-end examination (40%), reaction papers (50%), Class contribution (10%).

MAN100FB-A5506（経営学 / Management 100）

Introduction to Operations Management

Kiyoko YOSHIMURA

Term：春学期授業/Spring ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：金3/Fri.3 ｜ Campus：市ヶ谷 /Ichigaya ｜ Grade：1〜4
Notes：

その他属性：〈グ〉〈実〉

【Outline and objectives】
This course introduces the concepts, principles, problems, and practices of Operations Management. Emphasis is placed on managerial processes for effective operations in both goods-producing and service-rendering organizations. Topics include operations strategy, process design, capacity planning, facilities location and design, forecasting, production scheduling, inventory control, quality assurance, and project management. These topics are integrated using a systems model of organizational operations.

【Goal】
This course aims to improve students' understanding of the concepts, principles, problems, and practices of operations management. By the end of this course, students should be able to:
- Develop an understanding of and appreciation for the production and operations management function within any organization.
- Understand the importance of productivity and competitiveness for both organizations and nations.
- Recognize the significance of an effective production and operations strategy for organizational success.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the "DP1-1", "DP2-1", "DP4" and "DP5" diploma policies.

【Method(s)】
Face to Face (except #1 session)
Since this course serves as an introduction to Operations Management, it will primarily be delivered through lectures to provide students with foundational knowledge in this field. Additionally, we will engage in several case discussions where the emphasis is less on 'right' or 'wrong' answers. Instead, students are encouraged to actively participate and develop their discussion skills. Assignment feedback will be provided during class sessions.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	INTRODUCTION	- Course Introduction - What is Operations Management?
2	COMPETITIVENESS and PRODUCTIVITY	- Production Planning - Competitive Priorities
3	FORECASTING	- Demand Characteristics - Forecasting and Operations Management
4	PRODUCT /SERVICE DESIGN	- Product or Service Design Considerations - Reliability in Design
5	CAPACITY PLANNING	- Capacity Planning for Goods and Services - Decision Theory in Capacity Planning
6	PROCESS /FACILITY /LAYOUT DESIGN	- Types of Processing - Need for Layout Planning - Facilities Layout
7	MASTER PRODUCTION SCHEDULING	- Master Production Scheduling
8	WORK DESIGN AND MEASUREMENT	- Job Design - Quality of Work Life - Measurement in Operations
9	QUALITY MANAGEMENT	- Understanding Quality - Quality as a Competitive Advantage
10	KAIZEN SIMULATION	- Conducting Simulations in Class - Group Discussions
11	SUPPLY CHAIN	-Supply chain management -Global Supply
12	PROJECT SCHEDULING AND CONTROL	-Managing Project -Network Modeling with PERT/CPM
13	JIT AND LEAN OPERATIONS	- Just-in-Time (JIT) Operations - Lean Operations
14	OPERATION AS A COMPETITIVE WEAPON	-Wrap up (Review the entire course)

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
The students are expected to read the uploaded materials (course materials and cases) for each class beforehand and prepare for discussions during the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
No textbook is required for this course.
I will supply course material (PowerPoint/pdf) in the class.

【References】
Course References/Books will be noted on the bulletin board separately. Reading should be completed before class.

【Grading criteria】
In-class-Quiz: 50%
Mid-term Quiz: 10%
Case report(simulation): 20%
Final Quiz (in-class): 20%
Total:100%

【Changes following student comments】
Feedback will be collected from students after every class.

【Equipment student needs to prepare】
None. The instruction will be given at the course if any.

【Others】
Please note that if the number of students attending the first class significantly exceeds expectations, in order for the instructor to effectively manage the class, the number of students who are allowed to register for the course may be limited.

ECN100FB-A5507（経済学 / Economics 100）

Introduction to Japanese Economy

Hideaki HIRATA

Term：春学期授業/Spring ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：水3/Wed.3 ｜ Campus：市ヶ谷 /Ichigaya ｜ Grade：1〜4
Notes：

その他属性：〈グ〉〈実〉

【Outline and objectives】
This course provides an introduction to (1) the Japan's macroeconomic characteristics, (2) the Japan's current economic issues, and (3) the basic economic principles and methods.
After learning a brief history of the Japanese economy and the basic analytical tools of economics, we focus on Japan's labor markets, financial markets, corporate finance and capital investments, international transactions, and economic policies from the 1980s onward. Comparison with the other economies is frequently done.
By the end of the semester, you are expected to be able to utilize the theoretical and empirical tools practiced in this class to generate practical policy recommendations for Japan's major economic problems.

【Goal】
This course is designed to provide students with opportunities to gain a basic understanding of the Japanese economy. The particular goals can be summarized as follows:
1. To learn the brief history of the Japanese economy after WWII
2. To learn the basic features of Japanese households, firms, and the government and to apply conventional economic theory to understand their behaviors
3. To strengthen analytical skills by discussing the strengths and limitations of Japan's corporate system, labor markets, economic policy, and so forth

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the "DP1-3", "DP2-1", "DP2-2", "DP3" and "DP4" diploma policies and fairly related to the "DP1-1", "DP1-2", "DP1-4" and "DP5" policies.

【Method(s)】
This course mainly comprises lectures, slideshows, in-class activities, and discussions. All class materials are distributed through the LMS. Note that the order of the lectures might be changed from the below suggested schedule but what we will cover would not change very much. Regarding lecture style (in-person and/or online), I am flexible so that the suggested in-person and/or online style is just tentative and is subject to change.
I will give feedback on class assignments during the lecture and/or through Hoppii (i.e., LMS).

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Syllabus guidelines; an overview of the Japanese economy's postwar macroeconomic performance.
2	Japanese economy and the World economy	The Japanese economy's postwar macroeconomic performance; basic economic statistics, such as GDP and its components.
3	Principles of Markets 1	Understanding what demand and supply are. Use various cases to theoretically see what happens in the market.
4	Principles of Markets 2	Understanding what would shift (=make changes in) demand and supply. Studying cases of what happened in the actual markets.
5	Principles of Markets 3	Understanding the concept of equilibrium and the drivers that change the equilibrium.
6	Money and Finance 1	The role of money &banking in the Japanese economy. The role of money circulating in the economy.
7	Money and Finance 2	Fundraising of firms and investors in the financial markets.
Week8	Money and Finance 3 Labor 1	Financial conditions of economic agents and their roles in the Japanese economy. Understanding the basic characteristics of Japanese labor markets.
Week9	Labor 2	Understanding the structural problems of Japanese labor markets.
10	Firms 1	The characteristics of Japanese firms and their corporate governance.
11	Firms 2	Agency problem and its importance in Japan.
12	International Trade 1	Basic characteristics of exports and import between Japan and the rest of the world. Understanding the changing nature of global production network.
13	International Trade 2 International Finance	Understanding the determinants of Japan's exports and imports. Understanding the role of cross-border financial transactions with the rest of the world.
14	Review	Q &A sessions and extra issues to strengthen students' understandings of lectures 1-13.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are expected to read the assigned materials and contribute to class discussions. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
Daron Acemoglu, David Laibson, John List (2021) Macroeconomics, Global Edition, Pearson.
This book is called "ALL" based on the authors' names. You SHOULD NOT buy this textbook before the first class meeting since a special instruction will be provided for the students of this class.

【References】
1. Papers and newspaper articles will be assigned throughout the semester.
2. Greg Mankiw (2020) Principles of Economics, Cengage.
3. Ito and Hoshi (2020) The Japanese Economy, MIT Press.

【Grading criteria】
Final exam: 100%. (1) Solving and submitting non-mandatory problem sets and (2) class participation (including non-mandatory problem sets) will give you extra points.
Final exam will be offered in-person. You might need PC (no smartphone or tablet) to take the exam properly.
The fail rate was less than 5%for the last 5 years.

【Changes following student comments】
I tried to design this course to motivate students to be interested in learning economic ideas and to understand why those ideas are powerful.

【Equipment student needs to prepare】
You need a computer/tablet. Most of the materials would be distributed electrically.

【Others】
This course has no prerequisites. I strongly encourage students to take Principles of Macroeconomics, Principles of Microeconomics, Business Management in Japan, Japanese Innovation Management, Human Resource Management Ⅰ/Ⅱ, and Corporate Finance AFTER taking this course.
Please note that if the number of students attending the first class significantly exceeds expectations, in order for the instructor to effectively manage the class, the number of students who are allowed to register for the course may be limited.
Please note that if the number of students attending the first class significantly exceeds expectations, in order for the instructor to effectively manage the class, the number of students who are allowed to register for the course may be limited.

【Prerequisites】
None

【Upon threat level change】
Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, this course will be held on campus, though at level 2, it will be held online.

MAN300FB-A5511（経営学 / Management 300）

Organizational Management Ⅰ

Akira KAMOSHIDA

Term：秋学期授業/Fall ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：月2/Mon.2 ｜ Campus：市ヶ谷 /Ichigaya ｜ Grade：2〜4
Notes：

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This lecture focuses on the theory of organizational management, which forms the core of business administration, and covers the process of changes in management organization and the basic concept of the creation and operation of management organization in the modern age where information and communication technology has advanced and spread.
This lecture is offered as Organizational Management I, but by taking it in conjunction with Organizational Management II, you will be able to comprehensively learn about the basics and applications of management organization theory, as well as new research results and frameworks related to recent management organization theory.
Management organization theory has been developed in close relation with business administration theory and management strategy theory. In addition, with the socio-economic changes surrounding management, the rapid development and spread of information and communication technology, and the remarkable progress of service economy, it is necessary to constantly update the latest theories and cases with interest.
Therefore, in this lecture, we will introduce the latest topics and theories while updating the latest management trends at any time.
Especially in the second half of the lecture, a case discussion will be provided. I strongly hope that you will deepen your understanding of this and cultivate new knowledge and perspectives.

【Goal】
· Understand the main basic theory of organizational management.
· To foster awareness of issues regarding organizational management.
· To be able to analyze cases of Japanese and overseas companies from the perspective oforganizational managemen.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the "DP1-1", "DP2-1" ,"DP2-2", "DP4", "DP5" diploma policies and fairly related to the "DP3" policies.

【Method(s)】
The entire course will be delivered in an interactive manner, facilitating you to get involved in the class actively. You will have to work with your team members on discussions and tasks. You will have a comment report to submit at some classes and several team-presentations during the course. After the course ends, you will have to submit an essay.
I will give you my oral and/or written feedback on your assignments in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation / Organizational Management Ⅰ, what to learn	Lecture method, explanation of grade evaluation, etc./What is Organizational Management?
2	The existence of a company, the birth of a company /Forms of Management Organizations and Their Transitions	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
3	Birth of management /Scientific Management and Traditional Organizational Theory	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
4	The concept of organizational management /Bernard's Organizational Theory	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
5	Organizational structure management /Diversification and development of organizational structure	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
6	Organizational structure management /Diversification and development of organizational structure	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
7	Management organization and management strategy /Chandler and Ansoff	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
8	Motivation and Leadership in Organizations (1) / Motivation Theory	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
9	Motivation and Leadership in Organizations (2) / Leadership Theory	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
10	Organizational culture and organizational change (1) /Definition and typification of organizational culture	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
11	Organizational culture and organizational change (2) /Management of organizational change	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
12	Case discussion I	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
13	Case discussion Ⅱ	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
14	Group Presentation / Wrap Up	Group Presentation Class Discussion Wrap Up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Homework: preparations &reviews. Readings, Summarizing, Internet searching. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
Several students will make presentation on the topic assigned previous week.

【Textbooks】
· Atkinson, S., O'Hara, S., &Sturgeon, A. (Eds.). (2014). The Business Book: Big Ideas Simply Explained. Dorling Kindersley Ltd.

【References】
We will use supplementary materials from time-to-time, which will be made available as hand－ outs and/or put on reserve at the university library.

【Grading criteria】
Students will be graded based on the following criterions.
40%Class Contribution (Frequency and quality of remarks ,Participation in the class discussion, Presentation, etc.)
30%Homework Assignment
30%Final Report
Late submission of assignments will result in a lowering of a student's grade.

【Changes following student comments】
After explaining the theory, set aside time for questions and answers to deepen students' understanding.

【Equipment student needs to prepare】
PowerPoint may be used for the class presentation.

【Others】
The instructor worked as one of the management teams at a consulting fi rm and an IT company in the United States.

【Upon threat level change】
Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, this course will be held on campus, though at level 2, it will be held online.

MAN300FB-A5515（経営学 / Management 300）

Human Resource Management Ⅰ

Yoshio OKUNISHI

Term：秋学期授業/Fall ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：火2/Tue.2 ｜ Campus：市ヶ谷 /Ichigaya ｜ Grade：2〜4
Notes：

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course is intended to introduce students to the field of human resource management (HRM). Students learn theories and applications involved in effectively managing people in organizations.
Unlike many other fields in business and economics, practices of HRM are influenced greatly by country-specific factors such as labor law, social customs, economic development stage and workforce structure. So, I will spend most time in explaining practices among Japanese firms. But some common theories and international comparative perspectives are introduced as well.
More specifically, HRM I covers such topics as overview and methodology of HRM, environments of Japanese HRM, recruitment, training, promotion, performance evaluation, pay and benefits.

【Goal】
Successful students will acquire basic knowledge of HRM in Japanese firms, as well as problem-solving and critical-thinking skills in the field of human resources and organizations, both of which are applicable to all types of organizations and jobs in which students will eventually work.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the "DP2-2", "DP3" and "DP4" diploma policies and fairly related to the "DP1-1" and "DP1-3" policies.

【Method(s)】
This is a small-size lecture, and face-to-face. I use Univerity's learning system for distributing course materials and making announcements. For each lecture time, I explain the basic knowledge of a theme, including legal framework, statistical facts, theory and arguments. Then I encourage students to express their own ideas and discuss them. The feedback of the assignments will be given in class and in person.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to HRM	Scope and methodology of HRM
2	Basic Principles of Human Behavior	Economic rationality and irrationality
3	Criteria to Evaluate Transactional or Organizational Performance	Efficiency and justice
4	Outline of Japanese Workforce	Demographic and workforce trends
5	Outline of Japanese Economy	Economic growth, prices and wages, and employment types
6	Staffing and Recruitment	Theory and practices, job market of new graduates in Japan
7	Human Capital Theory and Training	General and specific training, OJT and Off-JT
8	Promotion and Career Concerns	Patterns of career development and roles of promotion
9	Performance Evaluation（1）	Theory of performance evaluation
10	Performance Evaluation（2）	Practices of performance evaluation
11	Wages (1)	Typology and theory of wages
12	Wages (2)	Practices in Japan and historical changes
13	Fringe Benefits and Social Security	Theory and practices
14	Wrap-up session	Summary of HRM I

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
I urge students to attend every class and to understand the contents well enough within class. To that end, it is essential to review the lecture at home, and to ask questions at the beginning of the next class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
I do not use any textbooks which students need to purchase. Instead, I will use my own handouts and data sets. But just for your reference, many of my course materials are based on the followings.

【References】
· Baron, James N. and David M. Kreps (1999) Strategic Human Resources. John Wiley &Sons, Inc. This is an MBA level excellent textbook of HRM, whose methodology is blend of economics and organizational behavior.
· Lazear, Edward P. and Michael Gibbs (2015) Personnel Economics in Practice (3rd edition). Wiley. This is a readable textbook of "personnel economics" by its pioneers.
· Although contents written in English are limited, you could find useful information in the following site of the Japan Institute for Labor Policy and Training:
http://www.jil.go.jp/index.html
· Some important Japanese laws are translated into English. See the following site:
http://www.japaneselawtranslation.go.jp/

【Grading criteria】
I will not conduct in-class exams separately. Instead, I ask you to submit 2 or 3 assignments during the semester. The final grade is mainly based on the sum of those assignments (80%). The extent of class participation is also counted (20%).

【Changes following student comments】
I want students to ask any questions they may have. Please do not hesitate. I also want to keep more time for discussions, if time and the number of students allow.

【Equipment student needs to prepare】
Since I use Univerity's learning system regularly, a PC and internet accessibility will be required.

【Others】
HRM I (Fall) and II (Spring) are taught in a sequential manner. So, it is recommended to take both courses in this order if that is possible. Some basic knowledge of economics and organizational behavior is preferred, but not required.

【Prerequisites】
Among GBP subjects, the followings are closely related to this subject although they are not prerequisites: Introduction to Organizational Management, Introduction to Japanese Economy, Organizational Management I/II and Organizational Behavior I/II.

MAN300FB-A5516（経営学 / Management 300）

Human Resource Management Ⅱ

Yoshio OKUNISHI

Term：春学期授業/Spring ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：火2/Tue.2 ｜ Campus：市ヶ谷 /Ichigaya ｜ Grade：2〜4
Notes：

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course is intended to introduce students to the field of human resource management (HRM). Students learn theories and applications involved in effectively managing people in organizations.
Unlike many other fields in business and economics, policies and practices of HRM are influenced greatly by country-specific factors such as labor law, social customs, economic development stage and workforce structure of a country. So, I will spend most time in explaining Japanese cases. But some common theories and international comparative perspectives are explained as well.
More specifically, students learn such topics as dismissal, job design, and labor-management relations. Furthermore, they learn some current topics such as effects of aging and diminishing workforce, non-regular workers, diversity management, work/life balance and globalization as well.

【Goal】
Successful students will acquire basic knowledge of HRM in Japanese firms, as well as problem-solving and critical-thinking skills in the field of human resources and organizations, both of which are applicable to all types of organizations and jobs in which students will eventually work.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the "DP2-2", "DP3" and "DP4" diploma policies and fairly related to the "DP1-1" and "DP1-3" policies.

【Method(s)】
My lecture and the discussion among students in a real classroom will be the main method. I count on "Hoppii" to distribute course materials and occasionally ask students to submit written assignments. Students will have feedback individually and in class for the written assignments.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Review of HRM I and Introduction to HRM II	Review of HRM I and the overview of HRM II
2	Separation (1)	Economic and legal perspectives
3	Separation (2)	More practical aspects
4	Separation (3)	Mandatory retirement in Japan
5	External Workforce	Outsourcing and temp agency workers in Japan
6	Job Design	Theory and practices
7	Tips for Case Studies in HRM	Useful knowledge to discuss cases in HRM
8	Discussion on a Case Study	A case on work-life balance
9	Diversity Management	Theory and empirical evidence in Japan
10	Working Hours	Situations in Japan and its regulations
11	Industrial Relations (1)	Union activities in Japan
12	Industrial Relations (2)	Labor disputes and the resolution systems in Japan
13	Consistency of HRM System	Various concepts of consistency, and the application to Japan
14	Wrap-up Session	The wrap-up of the course and future directions of HRM in Japan

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. Before each class, read through course materials and find places where you have questions. During and after the class, you should clarify all the questions, and submit assignments diligently.

【Textbooks】
I do not use any textbooks which students need to purchase. Instead, I will use my own handouts and data sets. But just for your reference, many of my course materials are based on the followings.

【References】
· Baron, James N. and David M. Kreps (1999) Strategic Human Resources. John Wiley &Sons, Inc. This is an excellent MBA-level textbook of HRM, whose methodology is blend of economics and organizational behavior.
· Lazear, Edward P. (1998) Personnel Economics for Managers. John Wiley &Sons, Inc.
· Lazear, Edward P. and Michael Gibbs (2015) Personnel Economics in Practice (3rd edition). Wiley. These two are readable textbooks of “personnel economics” by its pioneers.
· Although contents written in English are limited, you could find useful information in the following site of the Japan Institute for Labor Policy and Training:
http://www.jil.go.jp/index.html
· Some important Japanese laws are translated into English. See the following site:
http://www.japaneselawtranslation.go.jp/

【Grading criteria】
The final grade will be based on writing assignments (probably twice) during the semester (80%). The participation in the class is counted as well (20%), so active and thoughtful voices and questions are encouraged. I will not conduct an in-class final exam separately.

【Changes following student comments】
I will encourage students to participate more actively in class.

【Equipment student needs to prepare】
I regularly use Hoppii to upload course materials and to direct course assignments.

【Others】
HRM I (Fall) and II (Spring) are taught in a sequential manner. So, it is recommended to take both courses in this order if that is possible. Some basic knowledge of economics and organizational behavior is preferred, but not required.

【Prerequisites】
Among GBP subjects, the followings are closely related to this subject although they are not prerequisites: Introduction to Organizational Management, Introduction to Japanese Economy, Organizational Management I/II and Organizational Behavior I/II.

【Upon threat level change】
Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, this course will be held on campus, though at level 2, it will be held online.

MAN300FB-A5518（経営学 / Management 300）

International Business Ⅰ

Haruo HORAGUCHI

Term：秋学期授業/Fall ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：水2/Wed.2 ｜ Campus：市ヶ谷 /Ichigaya ｜ Grade：2〜4
Notes：

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
Toyota Motor Corporation, Tokyo Disneyland (TDL), and All Nippon Airways (ANA) have one thing in common — what is it? They excel at creating outstanding products and services, making them leaders in international business.
This course is designed to provide students with a comprehensive understanding of the fundamental concepts of international business. It emphasizes corporate strategy and the organizational capabilities of companies, aiming to equip students with the skills necessary to join such global enterprises.
A core focus is on understanding how internationalization strategies can enhance the competitiveness and performance of multinational corporations (MNCs) in the global economy. The course will examine key challenges faced by MNCs, including global marketing practices, production location decisions, and cross-border management processes.

【Goal】
In this course, students will learn data, concepts, and models for understanding corporate performance in global business. By the end of the course, students will understand corporate strategies designed to improve the efficiency of societies and the wealth of nations. Management of International Business includes establishing international strategies for ownership, marketing, product development, and operations management. Upon completion of this course, students will be able to critically evaluate emerging practices in the internationalization of companies. They will also be able to discuss the internationalization of innovative activities such as research and development (R&D).

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the "DP1-1", "DP2-1", "DP2-2", "DP3", "DP4" and "DP5" diploma policies.

【Method(s)】
Classes consist of lectures and group discussions. A significant portion of class time is dedicated to reviewing readings, newspaper articles, websites, financial statements, and video materials. Each class introduces students to key theories of international business, enabling them to apply these concepts in real-world scenarios after graduation. Feedback on assignments will be provided orally during class sessions.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course introduction	Course outline and introduction. Concept and historical overview of foreign direct investment and multinational corporations. Textbook(2) Chap. 1.
2	Module 1: Basic Entry Strategies	The topics on the entry strategy. Basic categories of foreign entry. Duty, foreign exchange rate, labor costs, transportation costs. Textbook(2) Chaps. 1 and 15. NYK and Mitsubishi-Tokyo-UFJ Bank.
3	Export and Import	4Ps in Marketing. Sending a letter of credit. Opportunism and transaction costs. Traders, carriers, and logistics companies. Amazon and VISA. Textbook(2) Chaps. 15 and 5.
4	Foreign Direct Investment (FDI)	Definition of FDI and portfolio investment. Income gain and capital gain. Tangible assets and intangible assets. Operations management and JIT production system. HRM for foreign expatriates. Toyota and VW. Textbook(2) Chap. 15. Mergers and acquisitions (M&A), due diligence. How to manage a merged organization. Opportunism in organizations. Daiichi and Lambuksy. Textbook(2) Chap. 13.
5	Licensing	Franchise business and loyalty fees. Pricing of intangible assets. Interest rates and discount rates. NPV and IRR. Yoshinoya and Hilton. Textbook(2) Chap. 15.
6	Module 2: B2B Strategies: Original Equipment Manufacturing (OEM)	Overseas contract of manufacturing operations. International subcontracting and global factories. Uniquro and Nike. Textbook(2) Chaps. 12, 15 and 18.
7	Joint Venture (JV)	Regulations for ownership. Risk aversion in corporate governance. Equity and stock holders' assembly and corporate governance. Renault-Nissan. Textbook(2) Chap. 15.
8	Plant Export/Turnkey Operations	Long-range planning. Assessment of country risk and political regime. Nikki and Chiyoda. Textbook(2) Chap. 15.
9	Strategic Alliances and SCM	Logic of creating collaboration. Customer retention. Economies of networking. Star Alliance and One World. Textbook(2) Chaps. 18, 12, and 15.
10	Module 3. Organizational Culture	Four dimensions in management style. American management thinkers and management by objectives (MBO). Hitachi. Textbook Chap.2.
11	Power, Distance and Collectivism. Motivation, Leadership, and Trust.	Public goods, responsibility, and discretion. Small-group activities to overcome the Taylor system, total quality control, and cross-functional teams. Uncertainty avoidance, masculinity and femininity. Group dynamics in teams. Discussing Hofstede's four dimensions. Bank tellers, cabin attendants, and pharmacists. Textbook Chap.2.
12	Module 4. Evaluation on international business (1)	Presentations by students on Multinational Enterprises (MNEs).
13	Evaluation on international business (2)	Presentations by students on MNEs.
14	Corporate Social Responsibility (CSR). Final Exam.	Functions of CSR. Bottom of the pyramid (BOP) and international business. Yakult and Gramin bank. Textbook Chap. 11.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Reading assignments should be read through prior to class discussion. Chapters 15 and 12 of Text (2) are the core reading material for this course. Students can find the textbook in the library. Standard preparation and review time for this class is at least 4 hours per lecture.

【Textbooks】
(1)Some reading materials will be distributed in class and made available on the course website through the Hoppii class support system.
(2)John D. Daniels, Lee H. Radebaugh, and Daniel P. Sullivan, International Business: Environments and Operations, Sixteenth Edition, 2019, Pearson Education Ltd.
(3)Christopher A. Bartrett and Arar Han. "Levendary Café: The China Challenge" Product number 4357. In order to buy this case from Harvard Business School Press, you need to access http://hbr.org/store and search for the title. You can download the PDF file and buy it using a credit card. Alternatively, you can access the following site;
https://cb.hbsp.harvard.edu/cbmp/pages/content/cases
In order to register, please access; http://cb.hbsp.harvard.edu/cb/register

【References】
"Language and Globalization: "Englishnization"at Rakuten (A)"
This is a case published by Harvard Business School in April 2013. The author is Tsedal Neeley, and the product number is 9-412-002. In order to buy this case, you need to access http://hbr.org/store and search for the title. You can download the PDF file and buy it using a credit card.

【Grading criteria】
30%Active class participation and homework.
30%Mid-term report and/or presentation.
40%Final exam.

【Changes following student comments】
This course focuses on collaborative learning and the students evaluated it highly last year. Students from Thailand, the Philippines, the Netherlands, Germany, the United States, the United Kingdom, Italy, Korea, China, Taiwan, Switzerland, and other countries participated in this class.

【Equipment student needs to prepare】
Smartphone, PC, Electronic dictionary.

【Others】
Professor Horaguchi is a full professor in the School of Business Administration at Hosei University. In the early 1980s, he studied at the University of Sheffield in the UK as an exchange student sponsored by Hosei University. In the mid-1990s, he was a visiting scholar at Harvard University in the United States as a Fulbright Scholar. You can see the titles of his academic research papers and books by searching for Haruo Horaguchi on Google Scholar. He currently serves as an outside director for a company listed on the prime market of the Tokyo Stock Exchange and is in contact with corporate practitioners.

【Prerequisites】
None

MAN300FB-A5533（経営学 / Management 300）

Operations Management Ⅰ

Kiyoko YOSHIMURA

Term：秋学期授業/Fall ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：金2/Fri.2 ｜ Campus：市ヶ谷 /Ichigaya ｜ Grade：2〜4
Notes：

その他属性：〈グ〉〈実〉

【Outline and objectives】
Operations Management I reviews the Operations Management in terms of the decisions corporates face in aligning operations with their competitive strategy. Topics include examining the activities and responsibilities of positioning and design decisions.

【Goal】
This course aims to improve students' understanding of operations management's concepts, principles, problems, and practices. After completing this course, students should be able to:
-Develop an understanding of how corporate strategy defines a company's missions.
-To understand the trade-offs companies face in choosing between critical aspects of process design and operating decisions.
-To understand how product planning encompasses all the activities leading up to introducing, revising, or dropping the products.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the"DP1-1", "DP2-1", "DP2-2", "DP3", "DP4" and "DP5" diploma policies.

【Method(s)】
Face to Face (except #1 session)
The course will be delivered mainly through lectures with case discussions on real-world industries. In addition, some simulation works are planned. Thus, the students can have a better understanding of Operations Management basics.
There will be no "right" or "wrong" answers for the case discussion. Therefore, Students' contribution is expected to move the class discussion in a new direction. Assignment feedback will be made in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Getting started Course Introduction Overall Operations Management
2	Product Planning and competitive priorities	Product planning Competitive priority
3	Service Operations Management	What are service operations? Key challenges
4	Customer relationship	Understanding your customer in service industry
5	Designing Customer Experience	What is customer experience? Why is service process design important?
6	Quality Management	Quality as a competitive advantage
7	Process Design	What is process design? Facets of process design Process analysis
8	Operations management topics	Outside speaker talking about one of topics of Operations Management
9	Capacity and Maintenance	Capacity Planning Maintenance
10	Location	Trends Factors affecting location decisions
11	Layout	Layout planning Strategic Issues Process layout
12	Simulation	How to organize your team Team building
13	Case discussion	Factors affecting Operations Management
14	Wrap-up Final Quiz	Wrap-up Final Quiz

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
The students are expected to read the uploaded materials (course materials and cases) for each class beforehand and prepare for discussions during the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
There is no textbook required for this course.
Will supply course material (PowerPoint) in the class.

【References】
Will notice Course References/Books on the bulletin board separately.
Reading should be completed before class.

【Grading criteria】
In-class-Quiz: 50%
Mid-term Quiz: 10%
Case report(simulation): 20%
Final Quiz (in-class): 20%
Total : 100 %

【Changes following student comments】
Will conduct feedback survey questions for student feedback.

【Equipment student needs to prepare】
None. The instruction will be given at the course if any.

【Others】
Please note that if the number of students attending the first class significantly exceeds expectations, in order for the instructor to effectively manage the class, the number of students who are allowed to register for the course may be limited.

MAN300FB-A5534（経営学 / Management 300）

Operations Management Ⅱ

Kiyoko YOSHIMURA

Term：春学期授業/Spring ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：金2/Fri.2 ｜ Campus：市ヶ谷 /Ichigaya ｜ Grade：2〜4
Notes：

その他属性：〈グ〉〈実〉

【Outline and objectives】
Operations Management II reviews the management of operations in terms of operating decisions. Topics include a review of the activities and responsibilities of operations management, the tools and techniques available to assist in running the operation, and the factors considered in the system's design.

【Goal】
This course aims to improve students' understanding of operations management's concepts, principles, problems, and practices. After completing this course, students should be able to:
- Develop an understanding of forecasting and materials management, functions tied to most operation decisions.
- Look at approaches to production/staffing plans and master production schedules.
- Necessary inputs to the workforce, operations, and project schedules.
- To understand the importance of project management.
- To understand what is happening in the organizations and the importance of an effective "way of working."

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the"DP1-1", "DP2-1", "DP2-2", "DP3", "DP4" and "DP5" diploma policies.

【Method(s)】
Face to Face (except #1 session)
This course follows Operations Management I. However, students can take this course separately. The course will be delivered mainly through lectures with case discussions on real-world industries. In addition, some simulation works are planned. Thus, the students can have a better understanding of Operations Management basics. There will be no "right" or "wrong" answers for the case discussion. Therefore, students' contribution is expected to move the class discussion in a new direction. Assignment feedback will be made in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	INTRODUCTION TO OPERATIONS MANAGEMENT II	- Overview of Operations Management - Importance of Operations Management
2	MATERIAL MANAGEMENT	- Importance of Materials Management - Function of Materials Management - Purchasing and Distributions
3	INVENTORY MANAGEMENT	- Importance of Inventory - Economic Order Quantity (EOQ) - Periodic Review System
4	PRODUCTION AND STAFFING PLAN	- Production Planning - Staffing Plans and their Managerial Importance
5	SUPPLY CHAIN MANAGEMENT	- Supply Chain Management Principles - Global Supply Chain Considerations
6	QUEUE MANAGEMENT	- Waiting Lines Management
7	MOTIVATING AND LEADING EMPLOYEE	- Importance of Psychological Contracts in the Workplace - Employee Morale and Job Satisfaction
8	KAIZEN SIMULATION 1	- Conduct simulations in class with various settings - Group Discussions and Analysis of Results
9	KAIZEN SIMULATION 2	- Conduct simulations in class with various settings - Group Discussions and Analysis of Results
10	DRIVING CONTINUOUS IMPROVMENET	Main approaches to continuous improvement Sustain continuous improvement
11	LEARNING FROM PROBLEMS	Why problem occur? Dealing with issues Organizational culture
12	PROJECT MANAGEMENT I	- Introduction to Project Management - Project Management Methodologies:
13	PROJECT MANAGEMENT II	- Agile (AJAIL/SCRUM) - Lean Operations in Project Management
14	COURSE REVIEW (WRAP-UP)	- Review of Course Content and Concepts - Recap of Key Learnings - Final Thoughts and Feedback

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
The students are expected to read the uploaded materials (course materials and cases) for each class beforehand and prepare for discussions during the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
No textbook is required for this course.
I will supply course material (PowerPoint/pdf) in the class.

【References】
Course References/Books will be noted on the bulletin board separately. Reading should be completed before class.

【Grading criteria】
In-class-Quiz: 50%
Mid-term Quiz: 10%
Case report(simulation): 20%
Final Quiz (in-class): 20%
Total: 100 %

【Changes following student comments】
I will conduct feedback survey questions for student feedback.

【Equipment student needs to prepare】
None. The instruction will be given at the course if any.

【Others】
Please note that if the number of students attending the first class significantly exceeds expectations, the number of students allowed to register for the course may be limited in order for the instructor to manage the class effectively.

MAN300FB-A5538（経営学 / Management 300）

Entrepreneurship

Noriko TAJI

Term：春学期授業/Spring ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：水4/Wed.4 ｜ Campus：市ヶ谷 /Ichigaya ｜ Grade：2〜4
Notes：

その他属性：〈グ〉〈実〉

【Outline and objectives】
The class aims to learn how to found a startup and expand its business. The operation is conducted on the basis of interactive discussions with classmates, a teacher, and guests.
This lecture covers the following:
1. To learn the basic theory of entrepreneurship known globally
2. To experience the method of idea generation and business planning
3. To learn resource assembly, organizational design and strategy from business cases and a guest speaker

【Goal】
Students will understand the process of entrepreneurship from opportunity recognition to execution.
Students will learn the method of idea generation.
Students will practice business planning.
Students will confirm the theory and knowhow of entrepreneurship by reading business cases.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the "DP1-1", "DP2-2", "DP4" and "DP5" diploma policies and fairly related to the "DP1-2", "DP2-1" and "DP3" policies.

【Method(s)】
This class is a mix of lecture and action learning.
Students make presentations of business ideas and discuss them with each other.
Students cultivate their business plans for several weeks and hand in final presentations.
Beside final presentation, students have to submit small assignments every two weeks. During the class, they get feedback from the teacher and classmates.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction of entrepreneurship	Entrepreneur's voice video
2	Entrepreneur's impact on the economy and society	Introducing favorite entrepreneur
3	Lean Startup1	Idea generation &Minimum Viable Product
4	Lean Startup2	One minute idea pitch & Understanding business model canvas
5	Lean Startup3	Using business model canvas
6	Notion of Entrepreneur and Startup	Definitions by Schumpeter, Kirzner, etc.
7	Real entrepreneurship 1	Guest speaker talk
8	Entrepreneruial process	Opportunity Recognition & Exploitation, Execution
9	Entrepreneurial ecosystem	Understanding Silicon Valley
10	Management team	LinkedIn case 1 & Using business model canvas
11	Venture finance	LinkedIn case 2
12	Effectuation	LinkedIn case 3
13	Real entrepreneurship	Guest speaker talk
14	TBD	Final presentation of business model, etc.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
1) Considering a business idea and making a business plan
2) Reading business cases
Regarding the above, preparatory study and review time will be 2 hours each.
Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
No specified textbooks

【References】
A General Theory of Entrepreneurship,Scott Shane,Edgar Elgar,2003.
Entrepreneurship, William Bygrave and Andrew Zacharakis, John Woley &Sons,2008.

【Grading criteria】
assignments (50%), class participation (20%) and final report (30%)

【Changes following student comments】
Students can get a lot of essence and tips from talks of entrepreneurs or investors while improving their own idea.

【Equipment student needs to prepare】
PC

【Others】
Please note that if the number of students attending the first class significantly exceeds expectations, in order for the instructor to effectively manage the class, the number of students who are allowed to register for the course may be limited.

【Recommended Classes】
Introduction to Strategic Management, Introduction to Marketing, Strategic Management, International Business, Principles of Marketing

【Career background of the lecturer】
Industrial experience working for a large company and startup, and experiencing external directors of public companies in Japan.

【interest】
Innovation Management
High-tech startups
Entrepreneurship

【Representative English papers】
“Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies" Noriko Taji,*Technology,Innovation,Entrepreneurship and Competitive Strategy*, Emerald Publishing Group,Vol.14,pp.263-287,2014
“Guesss Country Report, Japan,” Noriko Taj,et.al.,Global University Entrepreneurial Spirit Students' Survey, University of St.Gallen,2012,2014,2016.
“Psychological Predictors of Entrepreneurial Interest in Japan," Noriko Taji &Yu Niiya, *Innovation management*,Hosei University,No.9,pp.61-72,2012

MAN300FB-A5540（経営学 / Management 300）

Special Topics in Management B

Akira KAMOSHIDA

Term：春学期授業/Spring ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：火3/Tue.3 ｜ Campus：市ヶ谷 /Ichigaya ｜ Grade：2〜4
Notes：

その他属性：〈グ〉〈実〉

【Outline and objectives】
This course is aimed to learning Strategic Marketing, Consumer Behavior theory and its framework that is mainly focused both domestic and global business, and understanding strategic marketing and consumer behavior principles and way of thinking through case study and discussions.
This course focuses on lectures and case discussions on strategic marketing and consumer behavior.
The course will be conducted with lectures and discussions from various perspectives on marketing and consumer behavior theory. Students are expected to actively participate in the class.

【Goal】
· Understand the main basic theories of strategic marketing, consumer behavior.
· To foster awareness of issues regarding strategic marketing, consumer behavior.
· To be able to analyze cases of Japanese and overseas companies from the perspective of management science.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the "DP1-1", "DP2-1","DP2-2", "DP4" and "DP5" diploma policies and fairly related to the "DP3" policy.

【Method(s)】
The entire course will be delivered in an interactive manner, facilitating you to get involved in the class actively. You will have to work with your team members on discussions and tasks. You will have a comment report to submit at some classes and several team-presentations during the course. After the course ends, you will have to submit an essay.
I will give you my oral and/or written feedback on your assignments in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation / Marketing and consumer behavior theory, what to learn	Lecture method, explanation of grade evaluation, etc./What is Marketing?
2	Successful Selling ① /Marketing Management	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
3	Successful Selling ② /Marketing Management	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
4	Successful Selling ③ /Marketing Management	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
5	Marketing Case study /Group work	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
6	Marketing Case study /Group work	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
7	Customer Strategy/ Customer satisfaction theory, Customer Loyalty	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
8	Customer Strategy/ Customer Value analysis	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
9	Customer Strategy/ premium price theory, WTP, CLTV analysis	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
10	Luxury strategy/ luxury brand management theory	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
11	Luxury strategy/ Group work	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
12	Luxury strategy/ Group work/case study	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
13	Luxury strategy/ Group work/case study	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
14	Group Presentation / Wrap Up	Group Presentation Class Discussion Wrap Up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Homework: preparations &reviews. Readings, Summarizing, Internet searching. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
Several students will make presentation on the topic assigned previous week.

【Textbooks】
· Atkinson, S., O'Hara, S., &Sturgeon, A. (Eds.). (2014). The Business Book: Big Ideas Simply Explained. Dorling Kindersley Ltd.

【References】
We will use supplementary materials from time-to-time, which will be made available as hand－ outs and/or put on reserve at the university library.

【Grading criteria】
Students will be graded based on the following criterions.
50%Class Contribution (Frequency and quality of remarks ,Participation in the class discussion, Presentation, etc.)
50%Homework Assignment and Final Report
Late submission of assignments will result in a lowering of a student's grade.

【Changes following student comments】
N/A

【Equipment student needs to prepare】
PowerPoint may be used for the class presentation.

【Others】
The instructor worked as one of the management teams at a consulting fi rm and an IT company in the United States.
Please note that if the number of students attending the first class significantly exceeds expectations, in order for the instructor to effectively manage the class, the number of students who are allowed to register for the course may be limited.

【Upon threat level change】
Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, this course will be held on campus, though at level 2, it will be held online.

MAN100FB-A5542（経営学 / Management 100）

Workshop Ⅰ

Akira KAMOSHIDA

Term：秋学期授業/Fall ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：木3/Thu.3 ｜ Campus：市ヶ谷 /Ichigaya ｜ Grade：2〜4
Notes：

その他属性：〈グ〉〈実〉

【Outline and objectives】
The aim is to focus on social innovation to achieve the Sustainable Development Goals (SDGs), which have received a lot of attention in recent years, and to learn about social business for this purpose. What is Social Business? Based on a systematic understanding of management theory, participants will learn about social innovation to achieve the goals of the SDGs and the social business that makes it possible.
During the workshop, guest speakers from fields related to the 17 SDGs goals will be invited to give lectures and lead discussions, followed by group exercises and presentation discussions by the students to deepen their understanding in a more practical way.

【Goal】
· Understand the purpose and content of the SDGs
· Understand the definition and characteristics of social enterprise.
· Understand the purpose and different methods of social innovation, and ·understand social enterprises to achieve SDGs from different angles.
· Develop a background for understanding and discussing topics related to the SDGs in English.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the "DP2-1", "DP2-2" and "DP3" diploma policies and fairly related to the "DP1-1", "DP4" and "DP5" policies.

【Method(s)】
The entire course is delivered in an interactive manner, allowing you to actively participate in the class. You will be required to participate in discussions and assignments with your team members. You will have to submit a commentary report for some classes and several team presentations during the course. At the end of the course you will have to submit an essay.
I will give you my oral and/or written feedback on your assignments in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation /Guidance of Workshop	Explain the purpose and method of the workshop, how to proceed / Explain group exercises, grade evaluation, etc./Overview the SDGs and social business
2	SDGs and Social Business ① / Sustainable Development Goals What are SDGs?	What are the SDGs adopted at the United Nations Summit in September 2015? Explain the social issues facing the world and Japan and their efforts.
3	SDGs and Social Business ② /Role of Social Business in SDGs	An overview of the efforts of the Japanese government and local governments in the SDGs. Discuss the role how social business can play.
4	SDGs and social business ③/ Case study of global collaboration in SDGs	Group exercises: Case study of global collaboration (industry-government-academia-civil)and social business in the SDGs
5	Guest talk and discussion①	Guest speaker talks about the relevant topics/Discussion(Q&A include)/Comment report
6	Guest talk and discussion②	Guest speaker talks about the relevant topics/Discussion(Q&A include)/Comment report
7	Guest talk and discussion③	Guest speaker talks about the relevant topics/Discussion(Q&A include)/Comment report
8	Guest talk and discussion④	Guest speaker talks about the relevant topics/Discussion(Q&A include)/Comment report
9	Guest talk and discussion⑤	Guest speaker talks about the relevant topics/Discussion(Q&A include)/Comment report
10	Guest talk and discussion⑥	Guest speaker talks about the relevant topics/Discussion(Q&A include)/Comment report
11	Group Work① /Case studies of social business to solve various issues in SDGs and social innovation	Group Work①Group discussion / Class discussion
12	Group Work② /Case studies of social business to solve various issues in SDGs and social innovation	Group Work② Group discussion / Class discussion
13	Group Work③ /Case studies of social business to solve various issues in SDGs and social innovation	Group Work③ Group discussion / Class discussion
14	Wrap Up /Group Presentation	Group Presentation/Class Discussion/Wrap Up/

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Read the text in advance, do the assignments given in class, and submit via Hoppii by the specified deadline
The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

【Textbooks】
No specific textbook is used.

【References】
Introduce as appropriate during class.

【Grading criteria】
Students will be graded based on the following criterions.
60%Class Contribution (Frequency and quality of remarks ,Participation in the class discussion, etc.)
40%Comment report, Presentation and Final Report（individual essay)
Late submission of assignments will result in a lowering of a student's grade.

【Changes following student comments】
After explaining the theory, set aside time for questions and answers to deepen students' understanding.

【Equipment student needs to prepare】
PowerPoint may be used for the class presentation.

【Others】
The instructor worked as one of the management teams at a consulting firm and an IT company in the United States.

【Upon threat level change】
Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, this course will be held on campus, though at level 2, it will be held online.

MAN100FB-A5546（経営学 / Management 100）

Special Topics in Global Business C

Kazuhiro AKITOMO

Term：秋学期授業/Fall ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：金5/Fri.5 ｜ Campus：市ヶ谷 /Ichigaya ｜ Grade：1〜4
Notes：

その他属性：〈グ〉〈実〉

【Outline and objectives】
The course is built around basic Global Business Expansion Strategies and is designed to enable students to familiarize themselves with all the critical variables which business leaders must consider in making global business management decisions.
The emphasis is on practical approaches so that after entering the corporate world, students will be ready to be global business specialists in corporate enterprises or consulting firms.

【Goal】
Students will be prepared to create business case proposals centered on entering new geographical markets, with compelling reasons for a firm to expand its businesses.
1. Understanding critical variables to be considered for a firm to go global
2. Acquiring knowledge of entry strategies and methodologies for location choice
3. Learning tasks and challenges which modern global companies are facing

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the"DP1-1" and "DP2-2" diploma policies and fairly related to the "DP3" and "DP4" policies.

【Method(s)】
For the first half of the semester, 50%lectures and 50%active learning. Active learning requires the students to take the lead in the learning process with the instructor acting as a facilitator. This will particularly be the case in the second half of the semester. Some examples of active learning are group work, case studies with discussions and debates, team presentations, etc. This course provides students with a series of live presentations including Q&A sessions on specific topics related to global business expansion from experienced, globally active business leaders. The presentations by guest speakers are online. Before each presentation, the instructor will give necessary frameworks to facilitate understanding of the subject. Students are expected to prepare questions in advance so that the Q &A sessions will be fruitful for the students. After the presentation, any remaining time will be devoted to discussions among students and the instructor.
The plan is to conduct this course in a classroom. However, depending on the pandemic situation, the course may be held remotely via Zoom or equivalent software.
Instructor will give students his oral and written feedback on their assignments in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
Week 1	Introduction to the course	*Ice-breaking session *Students feedback of the instructor's previous course and changes following the feedback
Week 2	Understanding Economic Systems and Business	*What is management study? *GDP vs GNP/Per capita GDP *International vs Global *Development of Emerging Economies *Japan's challenge
Week 3	Why do firms go abroad?	*Reasons for going abroad *Pros and Cons for Business Globalization *Risks associated with Global Businesses *Refutation to Cons for Business Globalization
Week 4	Entry Modes and Stages of Globalization	*Seven Approaches to Foreign Markets *Frameworks vs Theory *The PEST/The CAGE/The AAA *Stages of Transnational Development of a Firm *Born-Global &BAG firms *Cross-border investment & Transaction Types
Week 5	Modes of Entry-1	*Indirect Exporting/Importing *Types of Channels *Consignment production/OEM/ODM *Licensing/Franchising *FDI (Foreign Direct Investment) *Risks &Rewards
Week 6	Modes of Entry-2	*Green Field Operations *M&A, and JV *Risks and Rewards *Why do firms choose FDI? *OLI-Paradigm
Week 7	Modes of Entry-3 Cultural aspects and MNCs	*OLI Paradigm vs Dynamic OLI-Paradigm *What is a Strategic Alliance? *What is an International JV? *Fabless, OEM revisited *Geert HOFSTEDE, Erin MEYER
Week 8	Globalization and CSR/Challenges for Japan's Multinational Corporations	*SDGs *ESG *CSV *HR management in MNCs
Week 9	Mid-term examination: 60 minutes Explanation of the Team Presentations	The exam.: closed books written test.
Week 10	Review of the Mid-term exam. Preparation for online guest speaker	*Instructor explanation on the correct answers for the mid-term exam. *Students preparation for Q&As for the upcoming guest speaker session.
Week 11	Online guest speaker Q &A	Challenges Facing Japanese Companies in the Global Era (Tentative)
Week 12	Team presentations-1	Each student has to be a presenter by taking turns. After each team presentation, Q& A session will be conducted.
Week 13	Team presentations-2	Each student has to be a presenter by taking turns. After each team presentation, Q& A session will be conducted
Week 14	Course wrap-up	Instructor will give either new topics for class discussions or revisit topics that the course covered.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
· Students are requested to complete reading assignments prior to class.
· Students are required to spend 4 hours of study time each week to prepare for class activities.
· Students are expected to allot time outside of class to meet with their team members for discussion and preparation of team presentations.

【Textbooks】
· Slides and additional reading materials will be provided via Hoppii (Hosei portal site).

【References】
· Cornelis A. de Kluyver and John A. Pearce II Global Business Strategy. New York Business Expert Press, LLC 2021
· Howard Thomas, Richard R. Smooth, Fermin Diez Human Capital and Global Business Strategy. Cambridge UK, Cambridge University Press, 2013
· Lawrence J. Gitman, Carl McDaniel, Amit Shah and et.al Introduction to Business. Houston, Texas OpenStax Rice University,

【Grading criteria】
Student grades will be based on the following:
50%Mid-term test score
20%In-class Participation
30%Team Presentation

【Changes following student comments】
Students feedback of the instructor‘s previous course and changes following the feedback will be presented at the first class.

【Equipment student needs to prepare】
A personal computer with MS PPT, Excel, and Word software
High speed internet connection

【Others】
Please note that if the number of students attending the first class significantly exceeds expectations, the number of students allowed to register for the course may be limited for the instructor to manage the class effectively.
Attendance is checked every class. If you cannot attend class due to illness or other unavoidable reasons, please notify the instructor via email about your absence and its legitimate reason before the start of the class. Students with more than two unexcused absences or absences without a valid reason will not be eligible to earn credits for this course.
The instructor had worked for a Japanese manufacturing company for 42 years. He worked in the U.S. to develop markets for the company‘s products and customers for nearly 11 years. He worked in Germany for six years as President of the European Regional Headquarters of the company.

【Prerequisite】
Students should at least be knowledgeable of basic business terminologies; therefore, being sophomores or juniors with a business major or equivalent is advisable.

CAR300FB-A5548（キャリア教育 / Career education 300）

Internship

Akira KAMOSHIDA

Term：秋学期授業/Fall ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：集中・その他/intensive・other courses ｜ Campus：市ヶ谷 /Ichigaya ｜ Grade：1〜4
Notes：Not Available for ESOP Students.

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course offers intensive well-mentored educational internships complementary to classroom education at companies who understand that students registered are capable of making a real contribution to their companies. It allows students to experience a real-world industry project while simultaneously working towards the completion of 2 academic credits.

【Goal】
Students will learn through hands-on activities how a manager starts and carries out a new business project. In the fall semester after the internship, students will make a presentation to introduce the company and explain how the organization worked effectively based on their experiences and observations.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the"DP1-1", "DP2-1", "DP2-2", "DP4" and "DP5" diploma policies and fairly related to the "DP3" policy.

【Method(s)】
The class registration will open in the 2024 spring semester (in May). Those who are interested in this program will have to participate in the introduction and preparation meetings which will be held during the 2024 Spring semester. The cooperating managers might need to select the interns from the applicants if they have more number of applicants than they can accept.
The (selected) interns will commute to the company on fixed dates during the summer 2024 and learn through hands-on activities. In the 2024 Fall semester, the interns will make a presentation on what they learned from their internship experience.
Feedback on class assignments will be given through the Hosei University Course Management Support System (Hoppii).

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
あり /Yes

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction meeting	· What is the purpose of internship? · What will you do as an intern? · Introduction of Internship Company
2	Preparation meeting	· Tips to succeed as an intern · How to keep a meaningful journal
3	Internship 1	· Work with your mentor · Observe and learn how to carry out a business project
4	Internship 2	· Work with your mentor · Observe and learn how to carry out a business project
5	Internship 3	· Work with your mentor · Observe and learn how to carry out a business project
6	Internship 4	· Work with your mentor · Observe and learn how to carry out a business project
7	Internship 5	· Work with your mentor · Observe and learn how to carry out a business project
8	Internship 6	· Work with your mentor · Observe and learn how to carry out a business project
9	Internship 7	· Work with your mentor · Observe and learn how to carry out a business project
10	Internship 8	· Work with your mentor · Observe and learn how to carry out a business project
11	Internship 9	· Work with your mentor · Observe and learn how to carry out a business project
12	Internship 10	· Work with your mentor · Observe and learn how to carry out a business project
13	Review and presentation preparation	· Read your own journal · Reflect the lessons you obtained through the internship · Prepare for your presentation
14	Program-ending Presentation	· Individual presentation · Program Review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Interns will write a journal during the internship (and submit it to the instructor after the internship experience). Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
Not applicable.

【References】
Not applicable.

【Grading criteria】
Participation in Introduction/Preparation meetings: 20%
Mentor's Evaluation: 30%
Internship Journal: 20%
Program-ending Presentation: 30%

【Changes following student comments】
During the students' internship, the instructor will communicate with the students as appropriate and address any concerns together.

【Equipment student needs to prepare】
Please follow the mentor's direction.

【Prerequisite】
None

【Upon threat level change】
Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, this course will be held on campus, though at level 2, it will be held online.

MAN300FB-A5554（経営学 / Management 300）

Seminar

Kiyoko YOSHIMURA

Term：秋学期授業/Fall ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：水4/Wed.4 ｜ Campus：市ヶ谷 /Ichigaya ｜ Grade：2〜4
Notes：Not Available for ESOP Students.

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
The objective of this course is to explore business concepts in a seminar format through the examination of real-world business cases and tools. Students are encouraged to actively participate in discussions, incorporating aspects of their home-country background into their ideas. This approach allows other students to gain insights into how various countries operate and what topics interest them on a global scale.

【Goal】
The objective of this course is to learn about business in a seminar format by studying real-world business cases and tools. Many topics will be discussed from the perspective of "Operations Management," which is crucial for running actual businesses. Through discussions, the course aims to enhance students' understanding of the concepts, principles, problems, and practices related to the operations of business.
Upon completing this course, students should have a better understanding of societal events, especially from the standpoint of operating businesses, and be able to discern what is happening in the business world.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the"DP1-1", "DP2-1", "DP2-2", "DP4" and "DP5" diploma policies and fairly related to the "DP3" policy.

【Method(s)】
Face to Face (except #1 session)
Each seminar session consists of discussions following the lectures with the case, process, and/or tool introduction of real-world industries. In addition, some simulation works are planned. Thus, the students can have a better understanding of how Operations Management works or contributes to the real world. Assignment feedback will be made in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction of Seminar Objective and course
2	Understanding the Environments of Business	Understanding the Environments of Business
3	Designing your own plan	Designing your own plan
4	Employee Behavior and Motivation	Forms of employee behavior
5	Case assessment of own case 1	Success factor and pit falls
6	Case assessment of own case 2	Success factor and pit falls
7	Customer experience1	Understanding the customer experience
8	Customer experience2	Understanding the customer experience
9	Global Environment and Talent Management	How to Retain and Develop Talent
10	Business Ethics and Social Responsibility	Ethics in the workplace Social responsibility
11	Global Business Case	Learning from a global business case
12	Global Business Case by Guest Speaker	Learning from guest speaker in the global environment
13	Case assessment of own case 1	Presentations
14	Wrap-up /Case assessment of own case 2	Presentations Review the entire course

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
The students are expected to read the uploaded materials (course materials and cases) for each class beforehand and prepare for discussions during the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
There is no textbook required for this course.
Course material (PowerPoint) will be supplied in the class.

【References】
Will notice Course References/Books on the bulletin board separately.
Reading should be completed before class.

【Grading criteria】
weekly class discussion participation and mural inputs: 50%
Report 1 : 20%
Report2 + Presentation:30%
Total: 100 %
In each course, students may be required to engage in group work. The outcomes of the group work should be presented in class.

【Changes following student comments】
Will conduct feedback survey questions for student feedback.

【Equipment student needs to prepare】
None. The instruction will be given at the course if any.

MAN300FB-A5552（経営学 / Management 300）

Seminar

Kiyoko YOSHIMURA

Term：春学期授業/Spring ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：水4/Wed.4 ｜ Campus：市ヶ谷 /Ichigaya ｜ Grade：2〜4
Notes：Not Available for ESOP Students.

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
The objective of this course is to explore business concepts in a seminar format through the examination of real-world business cases and tools. Students are encouraged to actively participate in discussions, integrating aspects of their home-country backgrounds into their ideas. This approach enables other students to gain insights into how various countries operate and which global-scale topics interest them.

【Goal】
The goal of this course is to explore real-world business cases and tools, focusing on various topics through the lens of Operations Management, essential for effective business operations. Through active discussions, the course aims to deepen students' comprehension of the fundamental concepts, principles, challenges, and methodologies pertinent to business operations.
By the end of the course, students are expected to gain a heightened awareness of business acumen, entrepreneurship, and how to effectively create a business plan within the business landscape.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the"DP1-1", "DP2-1", "DP2-2", "DP4" and "DP5" diploma policies and fairly related to the "DP3" policy.

【Method(s)】
Face to Face (except #1 session)
Each seminar session consists of discussions following the lectures with the case, process, and/or tool introduction of real-world industries. In addition, some simulation works are planned. Thus, the students can have a better understanding of how Operations Management works or contributes to the real world. Assignment feedback will be made in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	- Seminar Objective and Course Introduction
2	Business Environment	- Understanding the Business Environment
3	Design thinking and Critical thinking	- Design Thinking - Critical Thinking - Project Charter
4	Operation Plan Development (1)	- Project Charter - Idea Sharing
5	Operation Plan Development (2)	- Workshop - Leadership and Team Building
6	Operation Plan Development (3)	- Leadership and Decision Making
7	Customer experience	- Simulation - Understanding the customer experience
8	Operation Management in corporation (1)	- Understanding the service management - Service Blueprint
9	Operation Management in corporation (2)	- Efficiency and Productivity - Automation: Success Factors and Considerations - What Does DX Mean?
10	Business Plan (1)	- Expansion Strategies for Your Business
11	Business Plan (2)	- How to Inform Customers About Your Business (Advertising and Promotions)
12	Business Ethics	- Ethics in the Workplace - Social Responsibility
13	Final Presentation (1)	- Final Presentations
14	Final Presentations (2) Wrap-up	- Final Presentations - Review the entire course

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
The students are expected to read the uploaded materials (course materials and cases) for each class beforehand and prepare for discussions during the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
There is no textbook required for this course.
Course material (PowerPoint) will be supplied in the class.

【References】
Will notice Course References/Books on the bulletin board separately.
Reading should be completed before class.

【Grading criteria】
In-class Quiz: 50%
Report 1: 20%
Report2 + Presentation:30%
Total: 100 %
In each course, students may be required to engage in group work. The outcomes of the group work should be presented in class.

【Changes following student comments】
Will conduct feedback survey questions for student feedback.

【Equipment student needs to prepare】
None. The instruction will be given at the course if any.

MAN300FB-A5551（経営学 / Management 300）

Seminar

Akira KAMOSHIDA

Term：秋学期授業/Fall ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：木2/Thu.2 ｜ Campus：市ヶ谷 /Ichigaya ｜ Grade：2〜4
Notes：Not Available for ESOP Students.

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course is designed so that students who often come into contact with familiar business topics on a daily basis can learn with interest the basics of business theory. All the students are expected to learn about strategic management theory, marketing theory etc.with interest by linking it with concrete examples. In the class, students will hold group exercises and discussions with the aim of deepening their understanding in a more practical manner.

【Goal】
· Understand the main basic theories of management science.
· To foster awareness of issues regarding management science.
· To be able to analyze cases of Japanese and overseas companies from the perspective of management science.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the"DP1-1", "DP2-1", "DP2-2", "DP4" and "DP5" diploma policies and fairly related to the "DP3" policy.

【Method(s)】
The entire course will be delivered in an interactive manner, facilitating you to get involved in the class actively. You will have to work with your team members on discussions and tasks. You will have a comment report to submit at some classes and several team-presentations during the course. After the course ends, you will have to submit an essay.
I will give you my oral and/or written feedback on your assignments in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation / Management science and what to learn	Lecture method, explanation of grade evaluation, etc./What is management science?
2	Start Small, Think Big ① /Starting and Growing the Business	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
3	Start Small, Think Big ② /Starting and Growing the Business	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
4	Start Small, Think Big ③ /Starting and Growing the Business	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
5	Lighting The Fire ① /Leadership and Human Resources	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
6	Lighting The Fire ② /Leadership and Human Resources	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
7	Making Money Work ① /Managing Finances	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
8	Making Money Work ② /Managing Finances	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
9	Working With a Vision ①/Strategy and Operations	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
10	Working With a Vision ②/Strategy and Operations	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
11	Successful Selling ① /Marketing Management	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
12	Successful Selling ② /Marketing Management	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
13	Successful Selling ③ /Marketing Management	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
14	Group Presentation / Wrap Up	Group Presentation Class Discussion Wrap Up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Homework: preparations &reviews. Readings, Summarizing, Internet searching. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
Several students will make presentation on the topic assigned previous week.

【Textbooks】
· Atkinson, S., O'Hara, S., &Sturgeon, A. (Eds.). (2014). The Business Book: Big Ideas Simply Explained. Dorling Kindersley Ltd.

【References】
· Strategic Management in 100 Minutes: In sprint with fun to the point for all, Marc Opresnik, Svend Hollensen, Opresnik Management Guides Book 36,2021
· James Teboul,Service is Front Stage,INSEAD Business Press,2006 (ISBN 978-0-230-00660-7)
· Joe Tidd and Frank M Hull,Service Innovation, Imperial College Press,2003
(ISBN-13 978-1-86094-367-6).
We will use supplementary materials from time-to-time, which will be made available as hand－ outs and/or put on reserve at the university library.

【Grading criteria】
Students will be graded based on the following criterions.
60%Class Contribution (Frequency and quality of remarks ,Participation in the class discussion, etc.)
40%Comment report, Presentation and Final Report（individual essay)
Late submission of assignments will result in a lowering of a student's grade.

【Changes following student comments】
Please feel free to request additional explanations and ask questions as necessary.

【Equipment student needs to prepare】
PowerPoint may be used for the class presentation.

【Others】
The instructor worked as one of the management teams at a consulting fi rm and an IT company in the United States.

【Upon threat level change】
Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, this course will be held on campus, though at level 2, it will be held online.

MAN300FB-A5553（経営学 / Management 300）

Seminar

Akira KAMOSHIDA

Term：春学期授業/Spring ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：火4/Tue.4 ｜ Campus：市ヶ谷 /Ichigaya ｜ Grade：2〜4
Notes：Not Available for ESOP Students.

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course is designed so that students who often come into contact with familiar business topics on a daily basis can learn with interest the basics of business theory. All the students are expected to learn about strategic management theory, marketing theory etc. with interest by linking it with concrete examples. In the class, students will hold group exercises and discussions with the aim of deepening their understanding in a more practical manner.

【Goal】
· Understand the main basic theories of management science.
· To foster awareness of issues regarding management science.
· To be able to analyze cases of Japanese and overseas companies from the perspective of management science.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the"DP1-1", "DP2-1", "DP2-2", "DP4" and "DP5" diploma policies and fairly related to the "DP3" policy.

【Method(s)】
The entire course will be delivered in an interactive manner, facilitating you to get involved in the class actively. You will have to work with your team members on discussions and tasks. You will have a comment report to submit at some classes and several team-presentations during the course. After the course ends, you will have to submit an essay.
I will give you my oral and/or written feedback on your assignments in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation / Management science and what to learn	Lecture method, explanation of grade evaluation, etc./What is management science?
2	Start Small, Think Big ① /Starting and Growing the Business	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
3	Start Small, Think Big ② /Starting and Growing the Business	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
4	Start Small, Think Big ③ /Starting and Growing the Business	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
5	Lighting The Fire ① /Leadership and Human Resources	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
6	Lighting The Fire ② /Leadership and Human Resources	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
7	Making Money Work ① /Managing Finances	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
8	Making Money Work ② /Managing Finances	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
9	Working With a Vision ①/Strategy and Operations	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
10	Working With a Vision ②/Strategy and Operations	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
11	Successful Selling ① /Marketing Management	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
12	Successful Selling ② /Marketing Management	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
13	Successful Selling ③ /Marketing Management	Student presentation, class discussion, lecture &Wrap up
14	Group Presentation / Wrap Up	Group Presentation Class Discussion Wrap Up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Homework: preparations &reviews. Readings, Summarizing, Internet searching. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
Several students will make presentation on the topic assigned previous week.

【Textbooks】
· Atkinson, S., O'Hara, S., &Sturgeon, A. (Eds.). (2014). The Business Book: Big Ideas Simply Explained. Dorling Kindersley Ltd.

【References】
· Strategic Management in 100 Minutes: In sprint with fun to the point for all, Marc Opresnik, Svend Hollensen, Opresnik Management Guides Book 36,2021
· James Teboul,Service is Front Stage,INSEAD Business Press,2006 (ISBN 978-0-230-00660-7)
· Joe Tidd and Frank M Hull,Service Innovation, Imperial College Press,2003
(ISBN-13 978-1-86094-367-6).
We will use supplementary materials from time-to-time, which will be made available as hand－ outs and/or put on reserve at the university library.

【Grading criteria】
Students will be graded based on the following criterions.
50%Class Contribution (Frequency and quality of remarks, Participation in the class discussion, Presentation, etc.)
50%Homework Assignment and Final Report
Late submission of assignments will result in a lowering of a student's grade.

【Changes following student comments】
N/A

【Equipment student needs to prepare】
PowerPoint may be used for the class presentation.

【Others】
The instructor worked as one of the management teams at a consulting fi rm and an IT company in the United States.

【Upon threat level change】
Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, this course will be held on campus, though at level 2, it will be held online.

MAN100ZA（経営学 / Management 100）

Leadership and Career Development

Takamasa Fukuoka

Credit(s)：2 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4
Day/Period：月5/Mon.5
Notes：Not Available for ESOP Students.
その他属性：〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】
The primary objective of this course is to provide students with a deep understanding of entrepreneurship, and careers in both Japanese global companies and foreign affiliated companies. The knowledge and insights based on the real-life experiences of GGLI Fellows will assist students in learning the necessary skills, strategies, and thought processes for success in today's business environment. This course covers everything from the fundamentals of starting a business to actual business case studies, with the aim of integrating theory with practice. Furthermore, the global perspectives offered by GGLI Fellows, who come from diverse cultural backgrounds, will deepen students' understanding of how to thrive in international markets. Through this course, students will learn about adapting business models in different markets, the importance of intercultural communication, and ways to demonstrate leadership in various business environments. Additionally, for students aspiring to pursue entrepreneurship or careers in the global arena, this course will also provide opportunities for contemplation on career paths through these experiences.

【Goal】
The key learning objectives to be achieved through this course are as follows:
1. Understanding Entrepreneurship: Students will understand the skills, strategies, and mindset required to be a successful entrepreneur and learn how to actualize their own ideas.
2. Adaptability in a Global Business Environment: Students will grasp the complexities of conducting business across cultures and acquire the knowledge and skills necessary for adapting business models in international markets.
3. Leadership and Problem-Solving Skills: Students will learn how to exhibit leadership and propose innovative solutions to complex problems in real business scenarios.
4. Discovering and Planning One's Career Path: Based on their strengths and interests, students will learn how to plan their career path as entrepreneurs or in Japanese global corporations and multinational companies, and take the first steps toward it.
5. Adapting to Real Business Environments: Students will learn how to respond to challenges in real business environments through actual business case studies.
Upon completing this course, students will have established a foundation for thriving in the modern business environment and will be able to take practical steps toward shaping their future careers.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】
The teaching method of this course emphasizes a practical and interactive approach. GGLI Fellows will bridge the gap between theory and practice by sharing their own experiences and expertise. Through lectures and interactive discussions, students will have opportunities to analyze real business scenarios and develop problem-solving skills.
This course encourages active participation and self-expression from students, and has the aim of deepening their thinking and enhance their skills. Each week, following the lecture by a Fellow, the instructor will facilitate interaction between the Fellow and the students. By the end of the course, students will have acquired practical knowledge and confidence for success in a global business environment.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Introduction	Course Introduction
2	Entrepreneurship and Foreign Affiliated Company	Exploring entrepreneurship through the perspective of managing and collaborating with foreign-affiliated companies in a global setting.
3	Government Organizations and International Business	Examining how government organizations facilitate the overseas expansion of Japanese companies and support foreign companies entering Japan.
4	The Impact of Market Changes on Human Resources Management	Analyzing market shifts and their impact on human resource strategies, recruitment practices, and workforce planning.
5	Cloud Services and Business	Examining how cloud services reshape business models, enhance operational efficiency, and drive global digital innovation.
6	Financial Markets and the Financial Industry	Examining Japan's financial markets and industry while exploring key institutions, regulatory frameworks, and market dynamics.
7	STEM Education and Future Prospects	Exploring the significance of STEM education and examining its impact on career opportunities and the evolving role of science, technology, engineering, and mathematics in society.
8	The Consulting Industry and Career Paths	Exploring the fundamentals of consulting while examining essential skills, job responsibilities, and career paths within the industry.
9	Entrepreneurship and Social Contribution	Examining the role of entrepreneurship in addressing and solving social issues.
10	Overcoming Cultural Challenges: Global Management at Overseas Office 1	Exploring strategies for global managers to navigate and overcome cultural differences in international workplaces.
11	Overcoming Cultural Challenges: Global Management at Overseas Office 2	Exploring strategies for global managers to navigate and overcome cultural differences in international workplaces.
12	Understanding the IT Industry and Careers	Exploring the IT industry while examining essential skills, job roles, and career opportunities for professionals in the field.
13	Platform Strategy and Business	Exploring future business strategies while examining the impact of platform businesses, their market influence, and key success factors.
14	Review and Final Exam	Review and Final Exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Each week, students are required to review the lecture materials and prepare for the upcoming week's lecture. Preparatory study and review time for this class are expected to be 2 hours for each.

【Textbooks】
No textbook will be used. Handouts will be provided by the instructor.

【References】
References will be provided by the instructor.

【Grading criteria】
Evaluation will be based on a reaction paper submitted after the lectures (70%) and an essay in the final exam (30%). Grades will not be assigned from A to E, but will be determined as pass or fail. The passing criteria is set at a score of 70%or above.

【Changes following student comments】
Not applicable

【Equipment student needs to prepare】
None

【Others】
This course is available to GIS sophomores, juniors, seniors, and others (GIS freshmen and students from other faculty /departments) and accepts more students than the standard number of students at GIS. However, the priority for enrollment will be in the following order: GIS juniors, seniors, sophomores, freshmen, and then students from other departments if the number exceeds the limit. We may impose enrollment restrictions by grade level.

【Prerequisite】
None.

TRS100ZA（観光学 / Tourism Studies 100）

Introduction to Tourism Studies

John Melvin

Credit(s)：2 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4
Day/Period：火2/Tue.2
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to provide students with an introduction to the field of tourism. You will gain an overview of the scale, scope and organization of the tourism sector and consider both the positive and negative impacts of tourism on destinations. Through a range of international case studies, we will learn about the development of destinations' natural, built and cultural resources and how these can be managed and enjoyed sustainably. Students will engage in additional learning opportunities such as in-class discussions and a group project, focusing on tourism-related issues at a particular destination. This includes consideration of how tourism is recovering from the coronavirus pandemic in 2025 and beyond. As an introductory 100-level class, students will encounter some of the fundamental issues and theories relating to the study of tourism.

【Goal】
At the completion of this course, students should be able to:
1. Describe the structure and organisation of the tourism sector and the interrelationships between the various stakeholders (governments, local communities, companies, NGOs, etc.)
2. Identify processes to enable the sustainable development of a destination's natural, built and cultural resources
3. Identify factors facilitating the growth of travel and tourism at the global, national and local level
4. Discuss consumer behavior trends and the implications for tourism managers
5. Describe the impact of technology, particularly social media, on both tourism organizations and tourists

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】
The course is designed to facilitate a free exchange of ideas and information. Lectures will take place in an interactive environment, with students contributing through discussions and a group presentation. These are important elements of the course and will aid in your learning. The group project on a given case study will provide you with in-depth understanding of the unique challenges facing your group's destination. You will be required to analyze this and present your solutions and recommendations via a report and presentation.
Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course Content and Class Format	Introduction to the course content, the class format and the field of tourism
2	The Structure and Organization of the Tourism Sector I	Investigating the concept of carrying capacity and the implications for destination management
3	The Structure and Organization of the Tourism Sector II	Exploring the structure and organization of the tourism sector at the local, national & international level
4	Tourists: Who, What, Where, Why, How	Exploring different typologies of tourists &evolutions in tourists' motivations, decision-making and behaviors
5	Tourism Impacts in Developed and Developing Countries	Investigating how tourism can impact positively and negatively on host communities, economies and environments
6	Tourism: Sustainable Development	Examining the emergence of sustainability within tourism management &approaches on how to manage tourism more sustainably
7	Issues in Destination Management I	Analyzing destination management from a case study on Venice, Italy
8	Selling Dreams and Experiences: Tourism Marketing	Examining evolving theories of marketing, and the particular challenges of marketing services such as tourism
9	Tourism and Technology	Considering how technology has facilitated the management & organization of tourism. Also, analyze the impact of social media on tourism marketing.
10	Tourism Crisis and Disaster Management	Analyzing the vulnerability of tourism and how destinations can respond to disasters, including COVID-19
11	Event Tourism	Analyzing the role of events in destination development and marketing
12	Group Presentations	Student group project presentations (case studies will be assigned earlier in the semester)
13	Issues in Destination Management II	Considering a case study on the challenge of overtourism
14	Tourism in Japan & Examination Submission	Examining the current state of tourism in Japan. Submission of examination.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be assigned individual and group reading as preparation for classes. Students are expected to download and preview the lecture slides before each class. More details on evaluation criteria and assignments will be given in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
There is no set textbook. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

【References】
Cooper, C., Fletcher, J., Fyall, A., Gilbert, D. and Wanhill, S. (2013 5th edition) *Tourism: Principles and Practice*. Harlow: Pearson Education
Cooper, C. and Hall, C. M. (2018) *Contemporary Tourism: An International Approach*. London: Goodfellow
The reference books are available in the university library and in the GIS Reference Room.

【Grading criteria】
Evaluation will be based on
1. Class participation &homework assignments (30%)
2. Group presentation and report (30%)
3. Exam (40%)
Students are expected to complete all the assigned reading and homework to enable them to get the most benefit from the lectures.
To help develop students' group-working skills and to encourage and reward cooperation and hard work, *the group project is assessed on an individual basis through peer assessment*.

【Changes following student comments】
Following reflection, there will be a case study on overtourism, given its growing prevalence in popular destinations around the world. The lecture on technology will have a greater focus on the influence of social media.

【Others】
I can draw from my experience as marketing director of a tourism business and as an event organizer in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

【Prerequisite】
None.

TRS100ZA（観光学 / Tourism Studies 100）

Introduction to Tourism Studies

John Melvin

Credit(s)：2 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：火1/Tue.1

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to provide students with an introduction to the field of tourism. You will gain an overview of the scale, scope and organization of the tourism sector and consider both the positive and negative impacts of tourism on destinations. Through a range of international case studies, we will learn about the development of destinations' natural, built and cultural resources and how these can be managed and enjoyed sustainably. Students will engage in additional learning opportunities such as in-class discussions and a group project, focusing on tourism-related issues at a particular destination. This includes consideration of how tourism is recovering from the coronavirus pandemic in 2025 and beyond. As an introductory 100-level class, students will encounter some of the fundamental issues and theories relating to the study of tourism.

【Goal】
At the completion of this course, students should be able to:
1. Describe the structure and organisation of the tourism sector and the interrelationships between the various stakeholders (governments, local communities, companies, NGOs, etc.)
2. Identify processes to enable the sustainable development of a destination's natural, built and cultural resources
3. Identify factors facilitating the growth of travel and tourism at the global, national and local level
4. Discuss consumer behavior trends and the implications for tourism managers
5. Describe the impact of technology, particularly social media, on both tourism organizations and tourists

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】
The course is designed to facilitate a free exchange of ideas and information. Lectures will take place in an interactive environment, with students contributing through discussions and a group presentation. These are important elements of the course and will aid in your learning. The group project on a given case study will provide you with in-depth understanding of the unique challenges facing your group's destination. You will be required to analyze this and present your solutions and recommendations via a report and presentation.
Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course Content and Class Format	Introduction to the course content, the class format and the field of tourism
2	The Structure and Organization of the Tourism Sector I	Investigating the concept of carrying capacity and the implications for destination management
3	The Structure and Organization of the Tourism Sector II	Exploring the structure and organization of the tourism sector at the local, national & international level
4	Tourists: Who, What, Where, Why, How	Exploring different typologies of tourists &evolutions in tourists' motivations, decision-making and behaviors
5	Tourism Impacts in Developed and Developing Countries	Investigating how tourism can impact positively and negatively on host communities, economies and environments
6	Tourism: Sustainable Development	Examining the emergence of sustainability within tourism management &approaches on how to manage tourism more sustainably
7	Issues in Destination Management I	Analyzing destination management from a case study on Venice, Italy
8	Selling Dreams and Experiences: Tourism Marketing	Examining evolving theories of marketing, and the particular challenges of marketing services such as tourism
9	Tourism and Technology	Considering how technology has facilitated the management & organization of tourism. Also, analyze the impact of social media on tourism marketing.
10	Tourism Crisis and Disaster Management	Analyzing the vulnerability of tourism and how destinations can respond to disasters, including COVID-19
11	Event Tourism	Analyzing the role of events in destination development and marketing
12	Group Presentations	Student group project presentations (case studies will be assigned earlier in the semester)
13	Issues in Destination Management II	Considering a case study on the challenge of overtourism
14	Tourism in Japan & Examination Submission	Examining the current state of tourism in Japan. Submission of examination.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be assigned individual and group reading as preparation for classes. Students are expected to download and preview the lecture slides before each class. More details on evaluation criteria and assignments will be given in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
There is no set textbook. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

【References】
Cooper, C., Fletcher, J., Fyall, A., Gilbert, D. and Wanhill, S. (2013 5th edition) *Tourism: Principles and Practice*. Harlow: Pearson Education
Cooper, C. and Hall, C. M. (2018) *Contemporary Tourism: An International Approach*. London: Goodfellow
The reference books are available in the university library and in the GIS Reference Room.

【Grading criteria】
Evaluation will be based on
1. Class participation &homework assignments (30%)
2. Group presentation and report (30%)
3. Exam (40%)
Students are expected to complete all the assigned reading and homework to enable them to get the most benefit from the lectures.
To help develop students' group-working skills and to encourage and reward cooperation and hard work, *the group project is assessed on an individual basis through peer assessment*.

【Changes following student comments】
Following reflection, there will be a case study on overtourism, given its growing prevalence in popular destinations around the world. The lecture on technology will have a greater focus on the influence of social media.

【Others】
I can draw from my experience as marketing director of a tourism business and as an event organizer in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

【Prerequisite】
None.

MAN200ZA（経営学 / Management 200）

Brand Management

Takamasa Fukuoka

Credit(s)：2 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：2〜4

Day/Period：月3/Mon.3

Notes：TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module)band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈グ〉〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】
To explore effective management for building a strong corporate / regional brand. Brand strategy has been receiving attention since the 1980s, after the innovative concept of brand equity became an important part of marketing strategy, helping companies and local governments to survive a competitive marketplace. In this course, students will examine some significant theories by Aaker and Keller, who are eminent researchers in this field. Basic /advanced theories by other researchers will also be explored.

【Goal】
The purpose of this course is to develop an understanding of branding and branding strategy. Students will learn effective ways to build a strong brand.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】
In this course, students will read theories, discuss and analyze some case studies to find out the most suitable processes for building a strong brand, which will be helpful in increasing domestic and overseas sales. Moreover, as a wrap-up, we will also discuss the future outlook of brand management from a strategic viewpoint.
Feedback can be given verbally, non-verbally or in written form.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Introduction	Course Introduction
2	What is a Brand?	Learn how the definition of "brand".
3	Brand Equity	Learn how new brand equity is a set of assets.
4	Brand Loyalty	Learn new brand loyalty is one of the brand assets, and key considerations when placing a value on a brand that is to be bought or sold.
5	Brand Awareness	Learn new brand awareness and the strength of a brand’s presence in the consumer’s mind.
6	Perceived Quality	Learn about how new perceived quality is a brand association that is elevated to the status of a brand asset.
7	Brand Associations	Learn how new brand equity is supported in great part by associations that consumers make with a brand.
8	Name, Symbol and Slogan	Learn how the new name, symbol and slogan are the basic core indicators of a brand.
9	Brand Extension	Learn about line extensions, brand stretching, brand extensions, and co-branding.
10	Brand Identity	Learn the definition of brand identity and related concepts.
11	Brand Personality	Learn how new brand personality is a set of human characteristics associated with a given brand.
12	Brand Strategies over Time	Learn the reason why consistency is good.
13	Managing Brand Systems	Learn how to manage brands in a complex environment.
14	Review and Final Exam	Review of what students have learned from this course and final exam.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
As instructed, students will have to read chapters of the coursebook and also other materials for each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
No textbook will be used. Handouts will be provided by the instructor.

【References】
Aaker, D.A (1991) *Managing Brand Equity: Capitalizing on the Value of Brand Name*, Free press.
Aaker, D.A (1996) *Building Strong Brand*, Free press.
Keller, K.L (1998) *Strategic Brand Management: Building, Measuring, and Managing Brand Equity*, Prentice-Hall, Pearson Education.

【Grading criteria】
Class participation（20%）
Assignment（20%）
Final exam（60%）(Midterm reviews will cover some questions in the final exam)

【Changes following student comments】
The course structure and content was favorably evaluated.

【Others】
This course is conducted based on academic knowledge and the lecturer’s global business experience.

【Prerequisite】
None

MAN200ZA（経営学 / Management 200）

Business Negotiation

Takamasa Fukuoka

Credit(s)：2 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：2〜4
Day/Period：月3/Mon.3

その他属性：〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】
Negotiation is an interdisciplinary study (psychology, business management, economics, politics, law, etc.) which has been developed since the 1970s, when Harvard University started researching negotiation in a systematic manner. The study of this has become increasingly significant to global society. This course introduces students to the basic negotiation theories and techniques.

【Goal】
The purpose of this course is to learn basic negotiation theories and techniques, and utilize them in both business negotiations and daily life.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3” and “DP 4”.

【Method(s)】
In this course, students will learn basic negotiation theories, read and discuss case studies, and study consensus building so as to be able to interact with different societies. Feedback can be given verbally in class, non-verbally or in written form.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Introduction	Course Introduction
2	What is Negotiation?	Learn the definition of negotiation.
3	Negotiation and Conflict	Learn how negotiation is a method to resolve conflicts.
4	Win-Lose Negotiation (distributive bargaining)	Learn Win-Lose negotiation (theory and techniques).
5	Case Study (1)	Read and discuss case studies of Win-Lose negotiation.
6	Win-Win Negotiation (integrative bargaining)	Learn Win-Win negotiation (theory and techniques).
7	Case Study (2)	Read and discuss case studies of Win-Win negotiation.
8	Pareto-Optimal Solution	Learn how to search for Pareto-Optimal solutions in negotiation.
9	Negotiation Strategy and BATNA	Learn why BATNA is important in negotiation.
10	Case Study (3)	Read and discuss BATNA case studies.
11	Case Study (4)	Read and discuss BATNA case studies.
12	Consensus Building	Learn how to build consensus while negotiating complex issues.
13	Intercultural Negotiation	Learn cultural differences and effective intercultural negotiation methods.
14	Review and Final Exam	Review and final exam.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
As instructed, students will have to read chapters of the coursebook and also other materials for each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
No textbook will be used. Handouts will be provided by the instructor.

【References】
Fisher, Roger and William Ury. *Getting to Yes: Negotiating Agreement Without Giving In* New York: Penguin Books, 1983.
Wheeler, Michael. *The Art of Negotiation: How to improvise Agreement in a Chaotic World* New York: Simon and Schster, 2013.
Bazerman, Max and Margaret Neale. *Negotiating Rationally* Free Press, 1994.

【Grading criteria】
Evaluation will be based on class participation (20%), a writing assignment (20%), and the final exam (60%)(Midterm reviews will cover some questions in the final exam)

【Changes following student comments】
The lecturer will provide more business negotiation tips.

【Prerequisite】
None.

TRS200ZA（観光学 / Tourism Studies 200）

Event Management

John Melvin

Credit(s)：2 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：2〜4
Day/Period：月1/Mon.1
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
For millennia, humans have found ways to mark important events in their lives: the changing of the seasons, the phases of the moon and the renewal of life each spring. Today, events are playing an increasing role in people's lives and culture. More leisure time and better standards of living have led to a proliferation of public and private events. More recently, governments and businesses have recognised the incredible power of events to help with economic development and destination marketing. The wide array of events, from community to international level, makes event management a hugely exciting field of study.

【Goal】
The purpose of this course is to acquire an in-depth knowledge about the field of event management. Students will learn both important theoretical considerations as well as applied knowledge relating to the successful planning, promotion, implementation and evaluation of events within different contexts.
Upon completion of this course, you should be able to:
1) Understand the range of factors behind the successful conceptualization and design of events
2) Understand the range of socio-cultural, economical &environmental impacts events can have on host destinations &inhabitants
3) Understand different sources of event funding and support and apply appropriate risk management practices
4) Understand the role and management of event volunteers
5) Appreciate the varied aims and objectives of different events and consider strategies to achieve a positive longer-term legacy

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】
The course is lecture-based, though you will have a number of opportunities to discuss issues in small groups. A range of international case studies can help you consolidate your learning by illustrating the lecture content with real examples.
Also, in groups, students will design a unique event, which will provide an opportunity to apply the theories and concepts from the lectures.
Assignments will be submitted and returned, with feedback, via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course Content and Class Format	Introduction to the course content, the class format and the field of event management
2	Event Conceptualization	Analyzing the event impacts & legacy. Also, the various influences on developing an event concept and the issues to be included in the planning process.
3	The Event Environment	Examining the unique context and stakeholder networks that events must negotiate and how this influences the event design and management process
4	Designing the Event Experience	Designing and developing the attendee experience (theme, program, venue, etc.) to best achieve an event's particular objectives
5	Event Funding & Support	Analyzing how events can utilize various forms of support (e.g. grants and sponsorship) to more effectively realize aims and objectives
6	In-depth Event Focus I	Case studies analyzing the social, cultural &economic impacts of a local-level event &assessing its success in achieving its objectives
7	Event Marketing and Promotion	Analyzing the 10Ps and contemporary approaches to event marketing as well as the challenges of marketing an intangible experience
8	Human Resource/ Volunteer Management	Managing human resources for the event including volunteer recruitment, motivation and retainment
9	Financial Management and Budgeting	Financial management processes including sourcing funding, managing cashflow, monitoring and evaluation
10	Risk Management, Licensing and Health and Safety	Planning and preparing for negative incidents to ensure the safe and smooth delivery of the event
11	Group Presentations	Groups will give a presentation on their original event
12	Group Presentations	Groups will give a presentation on their original event
13	In-depth Event Focus II	Case studies analyzing the range of impacts of local festivals on residents &attendees
14	Mega-Event Legacy & Wrap-up	Analyzing the impact of large-scale events such as the Olympics; focus on the 2022 World Cup in Qatar Considering the potential for meaningful change to socio-cultural attitudes: focus on the Paralympics

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be assigned individual and group reading as preparation for classes. Students are expected to download the lecture slides to preview before class.
Groups will be assigned selected case studies and tasked with developing discussion questions and leading group &class discussions.
Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
There is no set text for this course. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

【References】
The reference books are available in the university library.
Allen, J, O'Toole, W, McDonnell, I. and Harris, R. (2011) *Festival and Special Event Management.* (5th edition) Brisbane: Wiley
Bowdin, G., McDonnell, I., Allen, J. and O'Toole, W. (2001) *Events Management.* Oxford: Butterworth-Heinemann
Brittain, I., Bocarro, J., Byers, T. and Swart, K. (eds) (2017) Legacies and Mega Events: Fact or Fairy Tales? London: Routledge

【Grading criteria】
Evaluation will be based on:
1. Class participation &homework assignments (30%)
2. Group presentation and report (30%)
3. Term paper (40%)
Students are expected to complete all the assigned reading and homework to enable them to get the most benefit from the lectures.
To improve students' group-working skills and encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.

【Changes following student comments】
To enhance students' group working and analytical skills, groups will be given more responsibility for leading discussions on assigned case studies.

【Equipment student needs to prepare】
N/A

【Others】
There are no prerequisites, though students are recommended to have taken, or concurrently take, the 100-level Introduction to Tourism Studies course.
I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

【Prerequisite】
None.

TRS200ZA（観光学 / Tourism Studies 200）

Tourism Development in Japan

John Melvin

Credit(s)：2 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：2〜4

Day/Period：火1/Tue.1

その他属性：〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】
The post-coronavirus recovery of inbound tourism to Japan has surpassed expectations and 2024 was a record-breaking year for visitor numbers and spending.
After a consideration of historical tourism development, this course will examine a range of topical issues, including relations with South Korea, the Tokyo Olympics in 2021 and the impact of UNESCO World Heritage Site designation of Mt. Fuji. We will analyze different management and marketing approaches of tourism in different prefectures. We will consider the factors behind the remarkable recovery of inbound tourism after the 2011 Great East Japan Earthquake and how Japanese tourism may develop in 2025 and beyond.

【Goal】
Upon completion of this course students should be able to:
1) Understand how tourism in Japan has developed into its present form
2) Understand some of the key stakeholders involved in planning tourism in Japan
3) Consider destination management and how to harness the social and economic potential of tourism for revitalizing Japan at local level
4) Critically analyze prefectural and national government tourism management and marketing initiatives
5) Critically analyze sustainable tourism development in different prefectures

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】
The course is primarily lecture-based, though students will have a number of opportunities to have group and class discussions. A range of case studies can help students consolidate their learning by illustrating the lecture content with real examples.
In groups, students will conduct an in-depth analysis of tourism in a particular prefecture, which will provide an opportunity to apply the theories and concepts from the lectures and enhance understanding of key issues.
Assignments will be submitted and returned, with feedback, via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course Content and Class Format	Introduction to the course content and class format and a consideration of contemporary tourism in Japan
2	The Roots of Japanese Travel Culture and Tourism Development	Exploring the historical development and evolution of the tourism sector in Japan, and the emergence of the 'leisure concept' in Japan in the 1970s
3	Destination Management and Marketing	Analysis of destination competitiveness, and an introduction to some of the key organizations involved in tourism management and planning in Japan
4	Rural Japan: Tourism as an Economic and Social Lifeline	Exploring destination management and tourism sustainability. Also the economic potential of niche tourism for local and regional development 'off the beaten track' to tackle serious demographic problems.
5	Tourism Marketing I	Considering marketing strategy and different approaches to tourism marketing
6	Tourism Marketing II: Prefectural Campaigns	Analyzing examples of prefectural marketing campaigns
7	Japan and Asia. Case Study: Japan and South Korea	Examining the current & historical connections with some of Japan's close neighbors, with a particular focus on South Korea
8	Tourism Resources: Events	Analyzing how Japan's rich event calendar provides competitive advantage at local and international levels
9	Tourism Resources: Natural, Built and Cultural	Analyzing the tangible and intangible resources in Japan, with a particular focus on World Heritage Sites. We will consider Mt Fuji from a sustainable tourism management perspective.
10	Tourism Focus: Niche Tourism &A Cross-Disciplinary Activity (Literary Tourism)	Considering different forms of tourism including ecotourism, gastronomical tourism and cultural tourism related to anime, manga, movies and TV shows. Guest lecture from Professor Khezrnejat on literary tourism.
11	Group Presentations	Presentations on tourism in selected prefectures
12	Group Presentations	Presentations on tourism in selected prefectures
13	Disaster Management and Recovery	Analyzing how destinations can manage disasters. The response to the Great East Japan earthquake in 2011 will be considered, as will the rapid recovery from the coronavirus pandemic.
14	Contemporary Tourism Focus and Submission of Examination	Submission of examination and consideration of Airbnb in Japan

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be assigned reading as preparation for classes. Students are expected to download the lecture slides to preview before class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
There is no set textbook. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

【References】
Various reference books are available in the library and in the GIS Reference Room, including:
Funck, C. and Cooper, M. (2013) *Japanese Tourism: Spaces, Places and Structures.* Berghahn: New York
Sharpley, R. and Kato, K. (2020) *Tourism Development in Japan: Themes, Issues and Challenges (Contemporary Geographies of Leisure, Tourism and Mobility).* Routledge: London

【Grading criteria】
1. Class participation &homework assignments (30%)
2. Group project (30%)
3. Exam (40%)
Students are expected to complete all the assigned reading and homework assignments to enable them to get the most benefit from the lectures. *To improve students' group-working skills and encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.*

【Changes following student comments】
In light of the rapid growth of inbound tourism, the course will have a greater focus on sustainable tourism management and overtourism.

【Equipment student needs to prepare】
N/A

【Others】
I can draw from my experience as marketing director of a tourism business and event organizer in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.
Although not essential, students are encouraged to have taken (or concurrently take) the 100-level 'Introduction to Tourism Studies' course.

【Prerequisite】
None.

MAN300ZA（経営学 / Management 300）

Services Marketing

John Melvin

Credit(s)：2 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：3〜4

Day/Period：月1/Mon.1

その他属性：〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】
What are services? The service sector, which includes finance, education and tourism, now accounts for around 80%of developed countries' economies and today's graduates are highly likely to be employed in such organizations. The purpose of this course is to provide students with an in-depth understanding of the theoretical and practical processes of marketing services, with a particular focus on tourism. Driven particularly by more demanding customers and advances in technology, organizations are pursuing closer and more interactive relationships with their customers, with important consequences for marketing. It is essential for companies and destinations to understand the impact of these changes in order to maintain and develop competitive advantage.
This course will consider strategic issues in services marketing; we will also consider micro-marketing issues relating to service design, the service experience, tourist behavior and the challenges and opportunities for managers presented by recent technological developments.
Students will engage in additional learning opportunities such as group discussions and presentations. We will analyze a number of tourism-related case studies in addition to other service sectors.

【Goal】
This course aims to give students insights into the particular characteristics of marketing services such as tourism. After exploring current marketing theory on destination marketing, consumer value creation and the consumer experience, the course will apply these to the management and marketing of services.
From the consumer perspective, students will learn about consumer behavior, the impact of the service environment and forming relationships with service providers. From an organizational perspective, we will consider managing the service environment, innovation and developing service brands in order to facilitate consumer value creation and provide more memorable and rewarding experiences.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】
Classes will take place in an interactive environment, with students contributing through group discussions and a presentation in addition to lectures. In group projects, students will gain an in-depth understanding of a particular organization/destination and must then present the results of their analysis.
Assignments will be submitted and returned, with feedback, via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course Content and Class Format	Introduction to the course content, the class format and the field of services marketing
2	Marketing Intangible Experiences	Considering the challenges of marketing intangible experiences and utilizing the 7Ps
3	Consumer Value Creation	Considering the concept of value, and analyzing theories relating to the new marketing paradigm of value co-creation
4	The Experience Economy	Analyzing this seminal text and considering the implications for service providers as economies evolve beyond goods and services
5	The Service Experience and the Servicescape	Exploring the design of the service environment and the impact on service consumption & customer satisfaction. In addition, considering the various stages of service delivery.
6	Case Study I	An in-depth analysis of service marketing &management: examining the role of employees in facilitating consumer value creation, including intercultural sensitivity
7	Consumer Decision Making	Examining the influences on consumer decision-making and how organizations can manage these
8	Service Quality and Service Delivery	Examining consumer perceptions of quality and organizational strategy
9	Case Study II	An in-depth analysis of contemporary service marketing &management: The Kiwi Experience
10	Innovation and New Service Development	Considering the challenges and opportunities for organizations in developing new services: focus on Airbnb
11	Developing Service Brands	Investigating branding and differentiation from a tourist destination perspective
12	Group Presentations I	Student group presentations
13	Group Presentations II	Student group presentations
14	Marketing, Sustainability, Corporate Social Responsibility (CSR) &Submission of Examination	Analyzing organizational approaches towards sustainability and how organizations are adopting more responsible business approaches. Also submit examination.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be assigned both individual and group reading as preparation for classes. Students are expected to download and preview the lecture slides before each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
There is no set textbook. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

【References】
McCabe, S. (2014) *The Routledge Handbook of Tourism Marketing.* London: Routledge
Palmer, A. (2014) (7th Edition) *Services Marketing.* London: McGraw Hill
Pine, J. and Gilmore, J. (2011) (Updated Edition). *The Experience Economy.* Harvard: Harvard University Press

【Grading criteria】
Evaluation will be based on
1. Class participation &homework assignments (30%)
2. Group presentation and report (30%- individually assessed)
3. Exam (40%)
Students are expected to complete all the assigned reading and homework to enable them to get the most benefit from the lectures.
To improve students' group-working skills and encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.

【Changes following student comments】
Some of the case studies have been updated to reflect the growing interest in sustainability and its importance on services marketing.

【Equipment student needs to prepare】
N/A

【Others】
Students are strongly encouraged to have taken/concurrently take **at least one** other tourism-related courses, such as the 100-level 'Introduction to Tourism Studies', the 200-level 'Event Management' and 'Tourism Development in Japan' courses or the 300-level 'Cultural Tourism' course.
I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

【Prerequisite】
None.

TRS300ZA（観光学 / Tourism Studies 300）

Cultural Tourism

John Melvin

Credit(s)：2 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：3〜4
Day/Period：火2/Tue.2

その他属性：〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】
Cultural tourism is defined as "*A form of tourism that relies on a destination's cultural heritage assets and transforms them into products that can be consumed by tourists.*" (du Cros &McKercher, 2015: p.6). Regarded as one of the oldest forms of tourism, it exists in many forms. This course will cover the 4 elements within the definition: (i) Cultural tourism within the broader field of tourism, (ii) Utilization of destinations' Cultural Assets, (iii) Consumption of Cultural Tourism Experiences, and (iv) Tourists and the Host Community.
We will consider the importance of cultural assets: as a way to define and understand nations, as a manifestation of people's ethnicities and identities as well as a vital driver of tourism. To do so, we will analyze the role played by various stakeholders, such as governments, businesses, the media, NGOs and conservation organizations such as UNESCO &ICOMOS.

【Goal】
Upon completion of this course students should be able to:
1) Understand the various forms of cultural tourism
2) Understand the key organizations involved in providing and conserving cultural tourism at local, national and international level
3) Understand the role of cultural tourism in destination branding and marketing
4) Understand the role of cultural resources in forming people's national and local identity, and how these are preserved and managed
5) Understand the complexities of stakeholder relations in the management of cultural tourism resources

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】
The course is primarily lecture-based, though students will have a number of opportunities to discuss issues in small groups. A broad range of case studies can help students consolidate their learning.
In groups, students will conduct an in-depth analysis of tourism in a selected destination through a case study, which will provide an opportunity to apply the theories and concepts from the lectures and enhance understanding of key issues.
Assignments will be submitted and returned with feedback via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to Cultural Tourism and the Class Format	Introduction to the course content, the class format and the field of cultural tourism (CT)
2	Stakeholder Management &Social Values	Considering the principles of stakeholder management & different stakeholders' axiological perspectives
3	Cultural Tourists & Host Communities	Analyzing tourist demand for CT and the role of CT in destination management &development. Also, considering the important socio-cultural role of CT from the host community's perspective.
4	Cultural Tourism and Authenticity	What is an 'authentic' experience? Considering the authenticity of tangible and intangible resources, and the importance of authenticity for visitors &local communities.
5	Impacts of Cultural Tourism	Considering the economic and socio-cultural impacts of CT on host communities
6	Culture &Nation Branding	Considering the strategic role of culture for developed &developing countries' destination brands and tourism 'portfolios'
7	Politics of Cultural Tourism &Dark Heritage Sites	Considering the role of socio-political attitudes in influencing how culture is interpreted and the subjectivity of history: whose version of history prevails and from what perspective(s) is it presented?
8	World Heritage Sites 1	Considering concepts and definitions of heritage tourism, and the management of built and natural heritage resources
9	World Heritage Sites 2	Considering the value of heritage resources for host communities, and the management and preservation of heritage sites
10	Cultural Visitor Attractions	Considering the educational and conservational role of cultural visitor attractions. Also the range of management issues, including developing an engaging visitor experience and designing effective interpretation.
11	Group Presentations	Presentations on group case study destinations
12	The Marketing of Cultural Tourism	Considering the challenges & issues relating to the marketing of CT
13	Case Study	Analyzing the management and marketing issues for Kakadu National Park, a mixed WHS in Australia
14	Gastrotourism &The Future of Cultural Tourism	Considering the role of food & drink as cultural resources. Also possible ways cultural tourism may develop in the future.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be assigned reading individually and in groups as preparation for classes. Students are expected to download the lecture slides to preview before class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. *Please note, as a 300-level class the reading load is heavy*.

【Textbooks】
There is no set textbook. The course will refer frequently to the textbook by Park (2014; see below), which can be bought or rented through the publisher's website, or accessed via the Hosei library. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

【References】
du Cros, H. and McKercher, B. (2015). *Cultural Tourism* (2nd Edition). London: Routledge
Jimura, T. (2019). *World Heritage Sites: Tourism, Local Communities and Conservation Activities*. London: CABI
Park, H. (2014). *Heritage Tourism*. London: Routledge

【Grading criteria】
1. Class participation &assignments (30%)
2. Group project (40%)
3. Term paper (30%)
Students are expected to complete all the assigned reading and homework assignments to enable them to get the most benefit from the lectures. Students are expected to complete a lot of reading for this course!
To improve students' group-working skills and to encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.

【Changes following student comments】
N/A

【Equipment student needs to prepare】
N/A

【Others】
Although not essential, this course will be more accessible for students who have taken other tourism-related courses. As such, students are strongly recommended to have taken one or more of the following: 100-level Introduction to Tourism Studies or the 200-level Event Management or Tourism Development in Japan courses.
I can draw from my experience in organizing events and as the marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

【Prerequisite】
None

TRS400ZA（観光学 / Tourism Studies 400）

Seminar: Tourism Management I

John Melvin

Credit(s)：2 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：3〜4
Day/Period：月3/Mon.3
Notes：Not Available for ESOP Students.
その他属性：〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】
While governments are quick to laud the economic benefits that tourists can bring, there are growing concerns about the impact of relentless growth of global tourism on the environment as well as the socio-cultural wellbeing of host communities. Driven largely by deregulation, globalisation and technological developments, the overarching focus on growth that has driven post-WW2 development is being increasingly challenged and questioned. The post-coronavirus recovery process offered a rare chance for the tourism industry to consider revising hitherto unsustainable business practices, but it seems that many destinations are returning to 'business as usual'.
Adopting a lens of sustainability, this semester considers the management and marketing of tourism. Combining analysis of seminal research with illustrative and up-to-date case studies from a range of domestic and international destinations, students will gain insights into the factors driving tourism development. Students will also be introduced to different research methods, and will acquire the tools to critically investigate tourism in a context of their choice. This will form the basis of an extended research paper that will be the completed during the second year of the seminar.

【Goal】
The goal of this seminar is to provide students with academic and practical knowledge relating to management and marketing that can facilitate their progression into the world of work. This will include multiple aspects of tourism management including stakeholder management, tourism impacts, Airbnb, overtourism and niche tourism development.
Upon completion of this course, students will have acquired enhanced valuable research and analytical skills that will be of great use in their future. They will develop their ability to design, organise and manage an original tourism-related research project. Additionally, through in-class discussions and presentations, students will gain valuable experience in persuasively expressing and defending their opinions on a range of issues relating to business management and marketing.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】
The seminar consists of in-depth analysis of various issues related to sustainable tourism management. In the spring semester, students are introduced to some core texts and research and are encouraged to start to consider which areas they intend to focus on. In the fall semester, students will begin to refine their topic and develope a firm research proposal.
In the second year of the seminar, students will research and write their extended research paper.
While seminars will be partly instructor-led, students will play an increasing role in giving presentations &leading discussions on the Core Readings. As students' own research develops, they will give presentations on their research, and share their growing expertise on their subject areas and research methods with the other students.
Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
あり /Yes

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Seminar Reading 1	Case study 1: tourism & stakeholder management
3	Seminar Reading 2	Case study 2: branding &an introduction to a sustainable tourism framework
4	Seminar Reading 3	Case study 3: sustainability & marketing.
5	Research Methods	Tourism entrepreneurs: stakeholder management
6	Seminar Reading 4	Introduction to research methods: the literature review
7	Seminar Reading 5	Case study 4: destination management Research methods: netnography
8	Research Project	Case study 5: anime tourism pilgrimages in Japan
9	Seminar Reading 6	Case study 6: authenticity - indigenous tourism in Canada
10	Seminar Reading 7	Research methods: surveys
11	Research Workshop and Consultation	Case study 7: ecotourism &gender
12	Presentations on Student Research Proposal 1	Case study 8: destination marketing &Instagram
13	Presentations on Student Research Proposal 2	Presentations workshop
14	Final Discussion	Group presentations &discussion on first-semester progress and expectations for the second semester

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students must complete the assigned Core Reading(s) as preparation for classes. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】
Richards, G. (2018) *Small Cities with Big Dreams.* London: Routledge.
Pike, S. (2018) *Tourism Marketing for Small Businesses.* London: Goodfellow Publishers
In alternate years we will use one of the above textbooks so you will need to have both. More details will be provided in class.
Also weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available on Hoppii.

【References】
Brotherton, B. (2015 2nd Edition) *Researching Hospitality and Tourism.* London: SAGE
McCabe, S. (2014) *The Routledge Handbook of Tourism Marketing.* London: Routledge

【Grading criteria】
Third year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Research Proposal (40%).
Fourth year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Research Update (40%).
Students must submit weekly reports on the reading and self-assess their seminar performance.

【Changes following student comments】
Case studies will vary year to year depending on students' interests. We will hope to take both a summer trip and undertake field work during the semesters.

【Equipment student needs to prepare】
Students should bring a laptop or tablet PC to class.

【Others】
I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.
Seminar students **must** concurrently enroll in Services Marketing and/or Cultural Tourism (300-level courses).
Students are expected to study in the seminar for two years. Special arrangements will be made for students who study abroad for one or two semesters.

【Prerequisite】
Seminar students should have taken at least two of the following courses: Cultural Studies; Event Management; Hospitality Management in Japan; Introduction to Business; Introduction to Tourism Studies; Marketing in Japan; Marketing Management; Marketing Research; Principles of Marketing; Tourism Development in Japan.

TRS400ZA（観光学 / Tourism Studies 400）

Seminar: Tourism Management I

John Melvin

Credit(s)：2 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：3〜4
Day/Period：月4/Mon.4
Notes：Not Available for ESOP Students.
その他属性：〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】
While governments are quick to laud the economic benefits that tourists can bring, there are growing concerns about the impact of relentless growth of global tourism on the environment as well as the socio-cultural wellbeing of host communities. Driven largely by deregulation, globalisation and technological developments, the overarching focus on growth that has driven post-WW2 development is being increasingly challenged and questioned. The post-coronavirus recovery process offered a rare chance for the tourism industry to consider revising hitherto unsustainable business practices, but it seems that many destinations are returning to 'business as usual'.
Adopting a lens of sustainability, this semester considers the management and marketing of tourism. Combining analysis of seminal research with illustrative and up-to-date case studies from a range of domestic and international destinations, students will gain insights into the factors driving tourism development. Students will also be introduced to different research methods, and will acquire the tools to critically investigate tourism in a context of their choice. This will form the basis of an extended research paper that will be the completed during the second year of the seminar.

【Goal】
The goal of this seminar is to provide students with academic and practical knowledge relating to management and marketing that can facilitate their progression into the world of work. This will include multiple aspects of tourism management including stakeholder management, tourism impacts, Airbnb, overtourism and niche tourism development.
Upon completion of this course, students will have acquired enhanced valuable research and analytical skills that will be of great use in their future. They will develop their ability to design, organise and manage an original tourism-related research project. Additionally, through in-class discussions and presentations, students will gain valuable experience in persuasively expressing and defending their opinions on a range of issues relating to business management and marketing.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】
The seminar consists of in-depth analysis of various issues related to sustainable tourism management. In the spring semester, students are introduced to some core texts and research and are encouraged to start to consider which areas they intend to focus on. In the fall semester, students will begin to refine their topic and develope a firm research proposal.
In the second year of the seminar, students will research and write their extended research paper.
While seminars will be partly instructor-led, students will play an increasing role in giving presentations &leading discussions on the Core Readings. As students' own research develops, they will give presentations on their research, and share their growing expertise on their subject areas and research methods with the other students.
Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
あり /Yes

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Seminar Reading 1	Case study 1: tourism & stakeholder management
3	Seminar Reading 2	Case study 2: branding &an introduction to a sustainable tourism framework
4	Seminar Reading 3	Case study 3: sustainability & marketing.
5	Research Methods	Tourism entrepreneurs: stakeholder management
6	Seminar Reading 4	Introduction to research methods: the literature review
7	Seminar Reading 5	Case study 4: destination management Research methods: netnography
8	Research Project	Case study 5: anime tourism pilgrimages in Japan
9	Seminar Reading 6	Case study 6: authenticity - indigenous tourism in Canada
10	Seminar Reading 7	Research methods: surveys
11	Research Workshop and Consultation	Case study 7: ecotourism &gender
12	Presentations on Student Research Proposal 1	Case study 8: destination marketing &Instagram
13	Presentations on Student Research Proposal 2	Presentations workshop
14	Final Discussion	Group presentations &discussion on first-semester progress and expectations for the second semester

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students must complete the assigned Core Reading(s) as preparation for classes. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】
Richards, G. (2018) *Small Cities with Big Dreams.* London: Routledge.
Pike, S. (2018) *Tourism Marketing for Small Businesses.* London: Goodfellow Publishers
In alternate years we will use one of the above textbooks so you will need to have both. More details will be provided in class.
Also weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available on Hoppii.

【References】
Brotherton, B. (2015 2nd Edition) *Researching Hospitality and Tourism.* London: SAGE
McCabe, S. (2014) *The Routledge Handbook of Tourism Marketing.* London: Routledge

【Grading criteria】
Third year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Research Proposal (40%).
Fourth year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Research Update (40%).
Students must submit weekly reports on the reading and self-assess their seminar performance.

【Changes following student comments】
Case studies will vary year to year depending on students' interests. We will hope to take both a summer trip and undertake field work during the semesters.

【Equipment student needs to prepare】
Students should bring a laptop or tablet PC to class.

【Others】
I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.
Seminar students **must** concurrently enroll in Services Marketing and/or Cultural Tourism (300-level courses).
Students are expected to study in the seminar for two years. Special arrangements will be made for students who study abroad for one or two semesters.

【Prerequisite】
Seminar students should have taken at least two of the following courses: Cultural Studies; Event Management; Hospitality Management in Japan; Introduction to Business; Introduction to Tourism Studies; Marketing in Japan; Marketing Management; Marketing Research; Principles of Marketing; Tourism Development in Japan.

TRS400ZA（観光学 / Tourism Studies 400）

Seminar: Tourism Management II

John Melvin

Credit(s)：2 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：3〜4
Day/Period：月3/Mon.3
Notes：Not Available for ESOP Students.
その他属性：〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】
This seminar continues from the Tourism Management I seminar, though with a greater focus on students' independent research projects. In addition to a field trip, students are expected to conduct investigative research that will form the basis of an extended research paper to be the completed during the second year of the seminar.
Building on knowledge acquired in the Spring semester on the management and marketing of tourism, the class content will continue to blend analysis of seminal research with illustrative and up-to-date case studies from a range of domestic and international destinations on tourism management. These will vary from year to year based on students' research interests and current affairs.

【Goal】
The goal of this seminar is to provide students with academic and practical knowledge relating to management and marketing that can facilitate their progression into the world of work or graduate school.
Upon completion of this course, students will have acquired enhanced research and analytical skills. They will develop their ability to design, organise and manage an original tourism-related research project. Additionally, through in-class discussions and presentations, students will gain valuable experience in persuasively expressing and defending their opinions on a range of issues relating to business management and marketing.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】
Following on from the Spring semester, the seminar will continue to feature in-depth analysis of various issues related to sustainable tourism management in the form of discussion, presentation and writing. In the Fall semester, junior students will begin to refine their topic and develop a firm research proposal.
In the second year of the seminar, senior students will research and write their 5000-word extended research paper.
In order to get the most from each seminar, students must commit to undertake the reading assignments. Students will play an increasing role in leading discussions.
Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
あり /Yes

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction &Update	Based on the research conducted in the Spring semester and over the summer break, students will present their research proposals (3rd year students) or research plans (4th year students) for this semester Case study 1: virtual reality & tourism
2	Seminar Reading	Case study 2: the visitor experience
3	Seminar Reading	Case study 3: creativity & branding
4	Seminar Reading	Case study 4: tourism management &local stakeholders (NIMBY)
5	Marketing Task Field Study Preparation	Marketing Plan analysis & preparation for the field study
6	Field Study (off-campus)	Conducting the field study at a tourism-related site
7	Field Study Feedback	Review of the field study
8	Seminar Reading	Case study 5: niche tourism (destinations &LGBTQ+ tourist segments)
9	Seminar Reading	Case study 6: niche tourism (tourism routes)
10	Seminar Reading	Case study 7: tourism development in Japan
11	Seminar Reading	Case study 8: niche tourism (gastrotourism)
12	Group Presentations &Discussions on Students' Research Projects	Presentations on niche tourism & discussions on students' individual research projects
13	Seminar Reading	Case study 9: disaster preparedness
14	Presentations on Students' Research Projects 2 &Final Discussion	Presentations on students' individual research projects and wrapping up the year

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students must complete the assigned Core Reading as preparation for classes. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】
Richards, G. (2018) *Small Cities with Big Dreams.* London: Routledge.
Pike, S. (2018) *Tourism Marketing for Small Businesses.* London: Goodfellow Publishers
In alternate years we will use one of the above textbooks so you will need to have both. More details will be provided in class.
Also, weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available on the course website.

【References】
Brotherton, B. (2015 2nd Edition) *Researching Hospitality and Tourism.* London: SAGE
McCabe, S. (2014) *The Routledge Handbook of Tourism Marketing.* London: Routledge

【Grading criteria】
Third year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Research Proposal (40%).
Fourth year students: Class Participation (20%), Assignments and Presentation (30%) and 5000-word Final Paper (50%).
Students must submit weekly reports on the reading and self-assess their seminar performance.

【Changes following student comments】
Case studies will vary year to year depending on students' interests. We will hope to undertake both a summer trip and undertake field work during the semesters.

【Equipment student needs to prepare】
Students should bring a laptop or tablet PC to class.

【Others】
I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help pro- vide students with examples and to illustrate issues.
Students are expected to study in the seminar for two years. Special arrangements will be made for students who study abroad for one or two semesters.

【Prerequisite】
Seminar students should have passed Seminar: Tourism Management I.

TRS400ZA（観光学 / Tourism Studies 400）

Seminar: Tourism Management II

John Melvin

Credit(s)：2 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：3〜4
Day/Period：月4/Mon.4
Notes：Not Available for ESOP Students.
その他属性：〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】
This seminar continues from the Tourism Management I seminar, though with a greater focus on students' independent research projects. In addition to a field trip, students are expected to conduct investigative research that will form the basis of an extended research paper to be the completed during the second year of the seminar.
Building on knowledge acquired in the Spring semester on the management and marketing of tourism, the class content will continue to blend analysis of seminal research with illustrative and up-to-date case studies from a range of domestic and international destinations on tourism management. These will vary from year to year based on students' research interests and current affairs.

【Goal】
The goal of this seminar is to provide students with academic and practical knowledge relating to management and marketing that can facilitate their progression into the world of work or graduate school.
Upon completion of this course, students will have acquired enhanced research and analytical skills. They will develop their ability to design, organise and manage an original tourism-related research project. Additionally, through in-class discussions and presentations, students will gain valuable experience in persuasively expressing and defending their opinions on a range of issues relating to business management and marketing.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】
Following on from the Spring semester, the seminar will continue to feature in-depth analysis of various issues related to sustainable tourism management in the form of discussion, presentation and writing. In the Fall semester, junior students will begin to refine their topic and develop a firm research proposal.
In the second year of the seminar, senior students will research and write their 5000-word extended research paper.
In order to get the most from each seminar, students must commit to undertake the reading assignments. Students will play an increasing role in leading discussions.
Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
あり /Yes

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction &Update	Based on the research conducted in the Spring semester and over the summer break, students will present their research proposals (3rd year students) or research plans (4th year students) for this semester Case study 1: virtual reality & tourism
2	Seminar Reading	Case study 2: the visitor experience
3	Seminar Reading	Case study 3: creativity & branding
4	Seminar Reading	Case study 4: tourism management &local stakeholders (NIMBY)
5	Marketing Task Field Study Preparation	Marketing Plan analysis & preparation for the field study
6	Field Study (off-campus)	Conducting the field study at a tourism-related site
7	Field Study Feedback	Review of the field study
8	Seminar Reading	Case study 5: niche tourism (destinations &LGBTQ+ tourist segments)
9	Seminar Reading	Case study 6: niche tourism (tourism routes)
10	Seminar Reading	Case study 7: tourism development in Japan
11	Seminar Reading	Case study 8: niche tourism (gastrotourism)
12	Group Presentations &Discussions on Students' Research Projects	Presentations on niche tourism & discussions on students' individual research projects
13	Seminar Reading	Case study 9: disaster preparedness
14	Presentations on Students' Research Projects 2 &Final Discussion	Presentations on students' individual research projects and wrapping up the year

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students must complete the assigned Core Reading as preparation for classes. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】
Richards, G. (2018) *Small Cities with Big Dreams.* London: Routledge.
Pike, S. (2018) *Tourism Marketing for Small Businesses.* London: Goodfellow Publishers
In alternate years we will use one of the above textbooks so you will need to have both. More details will be provided in class.
Also, weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available on the course website.

【References】
Brotherton, B. (2015 2nd Edition) *Researching Hospitality and Tourism.* London: SAGE
McCabe, S. (2014) *The Routledge Handbook of Tourism Marketing.* London: Routledge

【Grading criteria】
Third year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Research Proposal (40%).
Fourth year students: Class Participation (20%), Assignments and Presentation (30%) and 5000-word Final Paper (50%).
Students must submit weekly reports on the reading and self-assess their seminar performance.

【Changes following student comments】
Case studies will vary year to year depending on students' interests. We will hope to undertake both a summer trip and undertake field work during the semesters.

【Equipment student needs to prepare】
Students should bring a laptop or tablet PC to class.

【Others】
I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help pro- vide students with examples and to illustrate issues.
Students are expected to study in the seminar for two years. Special arrangements will be made for students who study abroad for one or two semesters.

【Prerequisite】
Seminar students should have passed Seminar: Tourism Management I.

MAN400ZA（経営学 / Management 400）

Seminar: Global Strategic Management I

Takamasa Fukuoka

Credit(s)：2 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：3〜4
Day/Period：金3/Fri.3
Notes：Not Available for ESOP Students.
その他属性：〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】
This seminar is designed for students who are interested in international business. As described in the seminar title, students will mainly learn Global Strategic Management. Global Strategic Management includes many different academic aspects. In this seminar, we would like to focus on “Global Marketing Strategy”, including the following fields: Intercultural Communication, Negotiation, Brand Management, Advertisement, PR, Decision Making, and Organization.

【Goal】
By the end of the seminar, students will: (a) gain academic knowledge of international /global business (b) learn "practical wisdom" by pursuing the reality (c) learn the ability to see the entire picture and a wide variety of perspectives with strategic thinking (d) learn logical /critical thinking and effective presentation skills (e) develop and enhance strategic business planning skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】
To achieve the goal, this seminar is mainly conducted through: (a) learning theoretical studies and case studies, (b) visiting companies and local areas, (c) doing joint research and collaboration with companies and local governments (product development, focus group, etc.), (d) conducting on-site survey (questionnaire, interview, etc.), (e) approaching from manager’s perspective, (f) making presentations and discussion based on “facts and data” and “experience”, (g) participating in business contests.
In addition, we sometimes use case methods being currently used by the MBA program in western countries. Feedback can be given verbally, non-verbally or in written form.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
あり /Yes

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview	Overview
2	Research Methods	Understanding of the Qualitative and Quantitive approach with various samples
3	Analysis of Management Strategy (1)	Understanding of the analysis methods for management strategy
4	Analysis of Management Strategy (2)	Understanding of the analysis methods for management strategy
5	Case Study (1)	Discussion on the case study from the strategic view point
6	Case Study (2)	Discussion on the case study from the strategic view point
7	Case Study (3)	Discussion on the case study from the strategic view point
8	Library Tour	Learning how to use the library database
9	Prior Research (1)	Presentation and discussion on the prior research
10	Prior Research (2)	Presentation and discussion on the prior research
11	Prior Research (3)	Presentation and discussion on the prior research
12	Presentation for Research Proposal (1)	Presentations and discussion on the individual research proposal
13	Presentation for Research Proposal (2)	Presentations and discussion on the individual research proposal
14	Wrap-up	Wrap-up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
· Students are expected to engage in sub-seminar to deepen understanding of the management strategy, analysis methods, business model, etc.
· Students need to make good preparations for individual /group study.
· Students are encouraged to join the summer training camp.
· Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】
No textbook will be used in this class. Handouts (journal articles) will be provided by the instructor.

【References】
Harvard business school case studies (details will be provided by the instructor)

【Grading criteria】
Participation (presentation /discussion etc.)（40%）
Assignment（20%）
Individual Report (3rd year students)（40%）
Final Report (4th year students)（40%）

【Changes following student comments】
N/A

【Equipment student needs to prepare】
N/A

【Others】
This course is conducted based on academic knowledge and the lecturer’s global business experience.

【Prerequisite】
None.

MAN400ZA（経営学 / Management 400）

Seminar: Global Strategic Management I

Takamasa Fukuoka

Credit(s)：2 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：3〜4
Day/Period：金4/Fri.4/Fri.4
Notes：Not Available for ESOP Students.

その他属性：〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】
This seminar is designed for students who are interested in international business. As described in the seminar title, students will mainly learn Global Strategic Management. Global Strategic Management includes many different academic aspects. In this seminar, we would like to focus on “Global Marketing Strategy”, including the following fields: Intercultural Communication, Negotiation, Brand Management, Advertisement, PR, Decision Making, and Organization.

【Goal】
By the end of the seminar, students will: (a) gain academic knowledge of international /global business (b) learn "practical wisdom" by pursuing the reality (c) learn the ability to see the entire picture and a wide variety of perspectives with strategic thinking (d) learn logical /critical thinking and effective presentation skills (e) develop and enhance strategic business planning skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】
To achieve the goal, this seminar is mainly conducted through: (a) learning theoretical studies and case studies, (b) visiting companies and local areas, (c) doing joint research and collaboration with companies and local governments (product development, focus group, etc.), (d) conducting on-site survey (questionnaire, interview, etc.), (e) approaching from manager’s perspective, (f) making presentations and discussion based on “facts and data” and “experience”, (g) participating in business contests.
In addition, we sometimes use case methods being currently used by the MBA program in western countries. Feedback can be given verbally, non-verbally or in written form.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
あり /Yes

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview	Overview
2	Research Methods	Understanding of the Qualitative and Quantitive approach with various samples
3	Analysis of Management Strategy (1)	Understanding of the analysis methods for management strategy
4	Analysis of Management Strategy (2)	Understanding of the analysis methods for management strategy
5	Case Study (1)	Discussion on the case study from the strategic view point
6	Case Study (2)	Discussion on the case study from the strategic view point
7	Case Study (3)	Discussion on the case study from the strategic view point
8	Library Tour	Learning how to use the library database
9	Prior Research (1)	Presentation and discussion on the prior research
10	Prior Research (2)	Presentation and discussion on the prior research
11	Prior Research (3)	Presentation and discussion on the prior research
12	Presentation for Research Proposal (1)	Presentations and discussion on the individual research proposal
13	Presentation for Research Proposal (2)	Presentations and discussion on the individual research proposal
14	Wrap-up	Wrap-up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
· Students are expected to engage in sub-seminar to deepen understanding of the management strategy, analysis methods, business model, etc.
· Students need to make good preparations for individual /group study.
· Students are encouraged to join the summer training camp.
· Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】
No textbook will be used in this class. Handouts (journal articles) will be provided by the instructor.

【References】
Harvard business school case studies (details will be provided by the instructor)

【Grading criteria】
Participation (presentation /discussion etc.)（40%）
Assignment（20%）
Individual Report (3rd year students)（40%）
Final Report (4th year students)（40%）

【Changes following student comments】
N/A

【Equipment student needs to prepare】
N/A

【Others】
This course is conducted based on academic knowledge and the lecturer’s global business experience.

【Prerequisite】
None.

MAN400ZA（経営学 / Management 400）

Seminar: Global Strategic Management II

Takamasa Fukuoka

Credit(s)：2 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：3〜4
Day/Period：金3/Fri.3
Notes：Not Available for ESOP Students.

その他属性：〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】
Following Global Strategic Management I, Global Strategic Management II is designed for more group discussion and puts emphasis on planning and conducting independent research based on what students learn in the spring semester. Students are expected to participate in a business contest in this course, work with companies /local governments, and conduct a field study.
This seminar is designed for students who are interested in international business. As described in the seminar title, students will mainly learn Global Strategic Management. Global Strategic Management includes many different academic aspects. In this seminar, we would like to focus on Global Marketing Strategy, Cross-Culture Management, Intercultural Communication, Brand Management, Global Advertisement, Decision Making, and CSR Strategy.

【Goal】
By the end of the seminar, students will gain (1)academic knowledge about international /global business, (2) practical wisdom by pursuing the reality in business activities, (3) the ability to see the entire picture and a wide variety of perspectives with strategic thinking,(4) logical / critical thinking ability and effective presentation skills, (5) the ability to develop and enhance strategic business planning skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】
To achieve the goal, this seminar is mainly conducted through (1) learning theoretical studies and case studies, (2) visiting companies and local areas, (3) doing joint research and collaboration with companies and local governments (product development, focus group, etc.), (4) conducting on-site survey (questionnaire, interview, etc.), (5) approaching from manager’s perspective, (6) making presentations and discussions based on “facts and data” and “experience”, (7) participating business contests. Necessary feedback will be givien for the diversified academic activities at the class meetings.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
あり /Yes

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation and Introduction	Orientation and introduction
2	Preparation for the Field Study	Preparation for the field study based on students’ interest
3	Field Study (Outside the Campus)	Conduct of field study based on students’ interest
4	Presentation and Discussion	Presentation and Discussion based on the findings in the field study
5	Presentation of your field study	Findings and Management Issues for your field study
6	Preparation of Business Plan Competition (1) —Marketing Analysis	Marketing analysis (analysis of the status quo)
7	Preparation of Business Plan Competition (2)— Planning	Planning from a strategic view point
8	Preparation of Business Plan Competition (3)— Presentation and Discussion	Presentation and discussion
9	Preparation of Business Plan Competition (4)— Final Presentation and Discussion	Revised presentation and discussion
10	Case Study (1)	Discussion on the case study from the strategic viewpoint
11	Case Study (2)	Discussion on the case study from the strategic view point
12	Oral Presentation for Individual Research (1)	Presentation and discussion on the research conducted by each member of the seminar
13	Oral Presentation for Individual Research (2)	Presentation and discussion on the research conducted by each member of the seminar
14	Review for this course	Student will be asked to present on what they have learned in this course

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
· Students are expected to engage in this course to deepen their understanding about global management strategy, analysis methods, business model, etc.
· Students need to prepare for individual /group study and presentations.
· Students are encouraged to join the summer training camp.
· Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】
No textbook will be used in this class. Handouts (journal articles) will be provided by the instructor if necessary.

【References】
Harvard business school case studies (details will be provided by the instructor)

【Grading criteria】
Participation (presentation /discussion etc.)—40%
Assignment—20%
Interim Report (3rd year students)—40%
Final Report (4th year students)—40%

【Changes following student comments】
N/A

【Equipment student needs to prepare】
N/A

【Prerequisite】
Global Strategic Management I

MAN400ZA（経営学 / Management 400）

Seminar: Global Strategic Management II

Takamasa Fukuoka

Credit(s)：2 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：3〜4
Day/Period：金4/Fri.4/Fri.4
Notes：Not Available for ESOP Students.

その他属性：〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】
Following Global Strategic Management I, Global Strategic Management II is designed for more group discussion and puts emphasis on planning and conducting independent research based on what students learn in the spring semester. Students are expected to participate in a business contest in this course, work with companies /local governments, and conduct a field study.
This seminar is designed for students who are interested in international business. As described in the seminar title, students will mainly learn Global Strategic Management. Global Strategic Management includes many different academic aspects. In this seminar, we would like to focus on Global Marketing Strategy, Cross-Culture Management, Intercultural Communication, Brand Management, Global Advertisement, Decision Making, and CSR Strategy.

【Goal】
By the end of the seminar, students will gain (1)academic knowledge about international /global business, (2) practical wisdom by pursuing the reality in business activities, (3) the ability to see the entire picture and a wide variety of perspectives with strategic thinking,(4) logical / critical thinking ability and effective presentation skills, (5) the ability to develop and enhance strategic business planning skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】
To achieve the goal, this seminar is mainly conducted through (1) learning theoretical studies and case studies, (2) visiting companies and local areas, (3) doing joint research and collaboration with companies and local governments (product development, focus group, etc.), (4) conducting on-site survey (questionnaire, interview, etc.), (5) approaching from manager’s perspective, (6) making presentations and discussions based on “facts and data” and “experience”, (7) participating business contests. Necessary feedback will be givien for the diversified academic activities at the class meetings.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
あり /Yes

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation and Introduction	Orientation and introduction
2	Preparation for the Field Study	Preparation for the field study based on students’ interest
3	Field Study (Outside the Campus)	Conduct of field study based on students’ interest
4	Presentation and Discussion	Presentation and Discussion based on the findings in the field study
5	Presentation of your field study	Findings and Management Issues for your field study
6	Preparation of Business Plan Competition (1) —Marketing Analysis	Marketing analysis (analysis of the status quo)
7	Preparation of Business Plan Competition (2)— Planning	Planning from a strategic view point
8	Preparation of Business Plan Competition (3)— Presentation and Discussion	Presentation and discussion
9	Preparation of Business Plan Competition (4)— Final Presentation and Discussion	Revised presentation and discussion
10	Case Study (1)	Discussion on the case study from the strategic viewpoint
11	Case Study (2)	Discussion on the case study from the strategic view point
12	Oral Presentation for Individual Research (1)	Presentation and discussion on the research conducted by each member of the seminar
13	Oral Presentation for Individual Research (2)	Presentation and discussion on the research conducted by each member of the seminar
14	Review for this course	Student will be asked to present on what they have learned in this course

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
· Students are expected to engage in this course to deepen their understanding about global management strategy, analysis methods, business model, etc.
· Students need to prepare for individual /group study and presentations.
· Students are encouraged to join the summer training camp.
· Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】
No textbook will be used in this class. Handouts (journal articles) will be provided by the instructor if necessary.

【References】
Harvard business school case studies (details will be provided by the instructor)

【Grading criteria】
Participation (presentation /discussion etc.)—40%
Assignment—20%
Interim Report (3rd year students)—40%
Final Report (4th year students)—40%

【Changes following student comments】
N/A

【Equipment student needs to prepare】
N/A

【Prerequisite】
Global Strategic Management I

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I

Sandor Dome

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：月2/Mon.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest-level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in pairs, groups and individually
· build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
· engage in and lead simple discussions on a range of topics
· improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
· express opinions supported by simple reasoning
· work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 1: People	People; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "People"
3	Unit 1: People	People; parts c-e Discussion HW: Unit 1 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 2: Possessions; parts a-b HW : Prepare a short speech on "Possessions"
5	Unit 2: Possessions	Possessions; parts c-e Discussion HW: Unit 2 review
6	Unit 3: Places	Places; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Places"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 3: Places; parts c-e HW: Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 - 10% Unit 4: Free Time; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Free Time"
9	Discussion 2	Discussion 2 – 10% Unit 4: Free Time; parts c-e HW: Unit 4 review
10	Unit 5: Food	Food; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Food"
11	Discussion 3	Discussion 3 – 10% Food; parts c-e HW: Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 6: Past Lives; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Past Lives; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW: Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Gabor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining current job, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Gabor aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I

Joe Trujillo

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：月4/Mon.4

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest-level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in pairs, groups and individually
· build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
· engage in and lead simple discussions on a range of topics
· improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
· express opinions supported by simple reasoning
· work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 1: People	People; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "People"
3	Unit 1: People	People; parts c-e Discussion HW: Unit 1 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 2: Possessions; parts a-b HW : Prepare a short speech on "Possessions"
5	Unit 2: Possessions	Possessions; parts c-e Discussion HW: Unit 2 review
6	Unit 3: Places	Places; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Places"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 3: Places; parts c-e HW: Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 - 10% Unit 4: Free Time; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Free Time"
9	Discussion 2	Discussion 2 – 10% Unit 4: Free Time; parts c-e HW: Unit 4 review
10	Unit 5: Food	Food; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Food"
11	Discussion 3	Discussion 3 – 10% Food; parts c-e HW: Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 6: Past Lives; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Past Lives; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW: Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Joe Trujillo is from California, USA and majored in Creative Writing at the University of California. He has been teaching English in Japan for over 10 years in both university and corporate settings. Before teaching he gained experience working at Apple and as part of the Story Team for Final Fantasy XV. Joe creates an engaging lesson environment where he encourages students to communicate effectively. He sees every lesson as a chance for students to develop their own voice and to practice practical English they will use on a day-to-day basis.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I

Matt McCabe

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：木2/Thu.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest-level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in pairs, groups and individually
· build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
· engage in and lead simple discussions on a range of topics
· improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
· express opinions supported by simple reasoning
· work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 1: People	People; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "People"
3	Unit 1: People	People; parts c-e Discussion HW: Unit 1 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 2: Possessions; parts a-b HW : Prepare a short speech on "Possessions"
5	Unit 2: Possessions	Possessions; parts c-e Discussion HW: Unit 2 review
6	Unit 3: Places	Places; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Places"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 3: Places; parts c-e HW: Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 - 10% Unit 4: Free Time; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Free Time"
9	Discussion 2	Discussion 2 – 10% Unit 4: Free Time; parts c-e HW: Unit 4 review
10	Unit 5: Food	Food; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Food"
11	Discussion 3	Discussion 3 – 10% Food; parts c-e HW: Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 6: Past Lives; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Past Lives; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW: Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Matt McCabe is originally from England, but he moved to Japan in 2010 where he has worked as an English Instructor. Matt has experience teaching a range of age groups and levels to Japanese students and in his lessons, he always aims to provide practical and engaging English instruction to his students. As Matt is fluent in both Japanese and German, he is able to understand the difficulty his students may have in learning a second language and be able to advise them accordingly to help them improve.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE1 (Ichigaya): Writing &Discussion: Intermediate I

Steven Braunbach

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：火3/Tue.3

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest-level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
· write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
· build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
· improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
· engage in and lead simple discussions on a range of topics
· manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
· confidently express opinions supported by simple reasoning
· work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first…second…" etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Chapter 1: Describing People	Describing People Discussion CEFR Self-Evaluation (Initial) HW: Prepare a discussion topic based on Chapter 1
3	Chapter 1: Describing People	Describing People Discussion HW: Writing 1 Draft
4	Chapter 1: Describing People	Describing People Writing 1 Draft pair review HW: Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE	Writing 1 Final DUE – 10% Discussion 1 – 10% Chapter 1: Describing People HW: Review Chapter 1
6	Writing 1 Final feedback	Writing 1 Final feedback Chapter 2: Listing-Order Paragraphs HW: Prepare a discussion topic based on Chapter 2
7	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs	Listing-Order Paragraphs Discussion HW: Writing 2 Draft
8	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs	Listing-Order Paragraphs Writing 2 Draft pair review HW: Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE	Writing 2 Final DUE – 10% Discussion 2 – 10% Chapter 2: Listing-Order Paragraphs HW: Review Chapter 2
10	Writing 2 Final feedback	Writing 2 Final feedback Chapter 3: Giving Instructions HW: Prepare a discussion topic based on Chapter 3
11	Chapter 3: Giving Instructions	Giving Instructions Discussion HW: Writing 3 Draft
12	Chapter 3: Giving Instructions	Giving Instructions Writing 3 Draft pair review HW: Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE	Writing 3 Final DUE – 10% Discussion 3 – 10% Chapter 3: Giving Instructions CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys HW: Review Chapter 3 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback	Writing 3 Final feedback Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Longman Academic Writing Series (Level 2); Paragraphs SB w/App, Online Practice &Digital Resources,
3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0136769996)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30%(Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Originally from America, Steven started teaching English in Japan 5 years ago. Since the he has taught students of varying ages and English levels. No matter what age or level the student, Steven always aims to create an environment where each student is able to learn to their ability. By doing this he has been able to motivate students to promote their own selfimprovement. Punctual, patient and positive by nature, he believes teaching is a challenging and rewarding profession.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE1 (Ichigaya): Writing &Discussion: Intermediate I

Sandor Dome

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：金2/Fri.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest-level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
· write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
· build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
· improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
· engage in and lead simple discussions on a range of topics
· manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
· confidently express opinions supported by simple reasoning
· work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first…second…" etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Chapter 1: Describing People	Describing People Discussion CEFR Self-Evaluation (Initial) HW: Prepare a discussion topic based on Chapter 1
3	Chapter 1: Describing People	Describing People Discussion HW: Writing 1 Draft
4	Chapter 1: Describing People	Describing People Writing 1 Draft pair review HW: Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE	Writing 1 Final DUE – 10% Discussion 1 – 10% Chapter 1: Describing People HW: Review Chapter 1
6	Writing 1 Final feedback	Writing 1 Final feedback Chapter 2: Listing-Order Paragraphs HW: Prepare a discussion topic based on Chapter 2
7	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs	Listing-Order Paragraphs Discussion HW: Writing 2 Draft
8	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs	Listing-Order Paragraphs Writing 2 Draft pair review HW: Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE	Writing 2 Final DUE – 10% Discussion 2 – 10% Chapter 2: Listing-Order Paragraphs HW: Review Chapter 2
10	Writing 2 Final feedback	Writing 2 Final feedback Chapter 3: Giving Instructions HW: Prepare a discussion topic based on Chapter 3
11	Chapter 3: Giving Instructions	Giving Instructions Discussion HW: Writing 3 Draft
12	Chapter 3: Giving Instructions	Giving Instructions Writing 3 Draft pair review HW: Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE	Writing 3 Final DUE – 10% Discussion 3 – 10% Chapter 3: Giving Instructions CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys HW: Review Chapter 3 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback	Writing 3 Final feedback Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Longman Academic Writing Series (Level 2); Paragraphs SB w/App, Online Practice &Digital Resources,
3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0136769996)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30%(Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Gabor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining current job, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Gabor aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I

Jason Burnett

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4
Day/Period：月4/Mon.4
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make presentations in English (with PowerPoint, etc.) on academic and other topics, in pairs, groups and individually
· expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
· engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
· build analysis and decision-making skills through group discussion activities
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 1: Lifestyle	Lifestyle; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "Lifestyle"
3	Unit 1: Lifestyle	Lifestyle; parts c-e Discussion HW: Unit 1 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 2: Competitions; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Competitions"
5	Unit 2: Competitions	Competitions; parts c-e Discussion HW: Unit 2 review
6	Unit 3: Transportation	Transportation; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Transportation"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 3: Transportation; parts c-e HW: Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 – 10% Unit 4: Challenges; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Challenges"
9	Discussion 2	Discussion 2 – 10% Unit 4: Challenges; parts c-e HW: Unit 4 review
10	Unit 5: The Environment	The Environment; parts a-b HW: Prepare a short speech on "The Environment"
11	Discussion 3	Discussion 3 – 10% Unit 5: The Environment; parts c-e HW: Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 6: Stages of Life; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Stages of Life; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW: Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Jason Burnett was originally from England eut has eeen teaching in Japan for the last 12 years. He has many years of experience teaching English at University and College estaelishments in Tokyo as well as some corporate classes. He prides himself on eeing professional at all times in the workplace. His lessons plans are always well prepared, and he is aele to create classes that keep his students engaged whilst always delivering the targeted lesson material of the class. His students always appreciate his friendly and easy to approach nature. He enjoys working with students, sharing his English communication expertise as well as euilding students' confidence and determination to achieve the most demanding goals.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I

Steven Braunbach

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4
Day/Period：火2/Tue.2
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make presentations in English (with PowerPoint, etc.) on academic and other topics, in pairs, groups and individually
· expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
· engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
· build analysis and decision-making skills through group discussion activities
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 1: Lifestyle	Lifestyle; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "Lifestyle"
3	Unit 1: Lifestyle	Lifestyle; parts c-e Discussion HW: Unit 1 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 2: Competitions; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Competitions"
5	Unit 2: Competitions	Competitions; parts c-e Discussion HW: Unit 2 review
6	Unit 3: Transportation	Transportation; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Transportation"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 3: Transportation; parts c-e HW: Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 – 10% Unit 4: Challenges; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Challenges"
9	Discussion 2	Discussion 2 – 10% Unit 4: Challenges; parts c-e HW: Unit 4 review
10	Unit 5: The Environment	The Environment; parts a-b HW: Prepare a short speech on "The Environment"
11	Discussion 3	Discussion 3 – 10% Unit 5: The Environment; parts c-e HW: Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 6: Stages of Life; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Stages of Life; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW: Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Originally from America, Steven started teaching English in Japan 5 years ago. Since the he has taught students of varying ages and English levels. No matter what age or level the student, Steven always aims to create an environment where each student is able to learn to their ability. By doing this he has been able to motivate students to promote their own selfimprovement. Punctual, patient and positive by nature, he believes teaching is a challenging and rewarding profession.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I

Samuel Harper

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4
Day/Period：金5/Fri.5
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make presentations in English (with PowerPoint, etc.) on academic and other topics, in pairs, groups and individually
· expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
· engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
· build analysis and decision-making skills through group discussion activities
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 1: Lifestyle	Lifestyle; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "Lifestyle"
3	Unit 1: Lifestyle	Lifestyle; parts c-e Discussion HW: Unit 1 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 2: Competitions; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Competitions"
5	Unit 2: Competitions	Competitions; parts c-e Discussion HW: Unit 2 review
6	Unit 3: Transportation	Transportation; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Transportation"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 3: Transportation; parts c-e HW: Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 – 10% Unit 4: Challenges; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Challenges"
9	Discussion 2	Discussion 2 – 10% Unit 4: Challenges; parts c-e HW: Unit 4 review
10	Unit 5: The Environment	The Environment; parts a-b HW: Prepare a short speech on "The Environment"
11	Discussion 3	Discussion 3 – 10% Unit 5: The Environment; parts c-e HW: Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 6: Stages of Life; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Stages of Life; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW: Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Sam Harper is from the south of England and has a background in science, centering around the biological sciences, medicine and pharmacology. He graduated in Medical Biochemistry. Following this, he obtained a Cambridge CELTA teaching qualification. His teaching experience includes both academic and corporate classes. He has taught business classes focusing on Presentations, Meetings, Negotiations and general Business Communication. In addition to these courses, Sam has facilitated discussion and writing courses at a prominent medical university in Tokyo. He also has over 2 years' experience teaching both IELTS and TOEIC examination courses. Sam's background in science and his teaching experience helps learners improve and develop their logical thinking skills during discussions and debates during lessons.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

【Outline (in English)】
This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations.

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE2 (Ichigaya): Writing &Discussion: Higher-Intermediate I

Matt McCabe

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：木4/Thu.4

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
· write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
· expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
· build understanding of the difference between spoken and written English
· improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
· engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the first three chapters of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure and to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter nine of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Chapter 1: Academic Paragraphs	Academic Paragraphs Discussion CEFR Self-Evaluation (Initial) HW: Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Academic Paragraphs	Academic Paragraphs Writing Practice Draft pair review HW: Writing Practice Final
4	Chapter 1: Academic Paragraphs	Academic Paragraphs Writing Practice Final group review HW: Review Chapter 1
5	Chapter 2: Narrative Paragraphs	Narrative Paragraphs Discussion HW: Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Narrative Paragraphs	Narrative Paragraphs Writing 1 Draft pair review HW: Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE	Writing 1 Final DUE – 10% Discussion 1 – 10% Chapter 2: Narrative Paragraphs HW: Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Basic Paragraph Structure HW: Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Basic Paragraph Structure	Basic Paragraph Structure Writing 2 Draft pair review HW: Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE	Writing 2 Final DUE – 10% Discussion 2 – 10% Chapter 3: Basic Paragraph Structure HW: Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback	Writing 2 Final feedback Chapter 9: Essay Organization Discussion HW: Writing 3 Draft
12	Chapter 9: Essay Organization	Essay Organization Writing 3 Draft pair review HW: Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE	Writing 3 Final DUE – 10% Discussion 3 – 10% Chapter 9: Essay Organization CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys HW: Review Chapter 9 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback	Writing 3 Final feedback Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Longman Academic Writing Series (Level 3); Paragraphs to Essays SB w/App, Online Practice &Digital Resources,
4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838531)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30%(Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Matt McCabe is originally from England, but he moved to Japan in 2010 where he has worked as an English Instructor. Matt has experience teaching a range of age groups and levels to Japanese students and in his lessons, he always aims to provide practical and engaging English instruction to his students. As Matt is fluent in both Japanese and German, he is able to understand the difficulty his students may have in learning a second language and be able to advise them accordingly to help them improve.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE2 (Ichigaya): Writing &Discussion: Higher-Intermediate I

Sandor Dome

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：金3/Fri.3

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
· write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
· expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
· build understanding of the difference between spoken and written English
· improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
· engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the first three chapters of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure and to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter nine of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Chapter 1: Academic Paragraphs	Academic Paragraphs Discussion CEFR Self-Evaluation (Initial) HW: Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Academic Paragraphs	Academic Paragraphs Writing Practice Draft pair review HW: Writing Practice Final
4	Chapter 1: Academic Paragraphs	Academic Paragraphs Writing Practice Final group review HW: Review Chapter 1
5	Chapter 2: Narrative Paragraphs	Narrative Paragraphs Discussion HW: Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Narrative Paragraphs	Narrative Paragraphs Writing 1 Draft pair review HW: Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE	Writing 1 Final DUE – 10% Discussion 1 – 10% Chapter 2: Narrative Paragraphs HW: Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Basic Paragraph Structure HW: Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Basic Paragraph Structure	Basic Paragraph Structure Writing 2 Draft pair review HW: Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE	Writing 2 Final DUE – 10% Discussion 2 – 10% Chapter 3: Basic Paragraph Structure HW: Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback	Writing 2 Final feedback Chapter 9: Essay Organization Discussion HW: Writing 3 Draft
12	Chapter 9: Essay Organization	Essay Organization Writing 3 Draft pair review HW: Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE	Writing 3 Final DUE – 10% Discussion 3 – 10% Chapter 9: Essay Organization CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys HW: Review Chapter 9 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback	Writing 3 Final feedback Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Longman Academic Writing Series (Level 3); Paragraphs to Essays SB w/App, Online Practice &Digital Resources,
4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838531)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30%(Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Gabor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining current job, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Gabor aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Advanced I

Steven Braunbach

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：月2/Mon.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make academic presentations (with PowerPoint, etc.) in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
· expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
· engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
· expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 1: Culture and Identity	Culture and Identity; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "Culture and Identity"
3	Unit 1: Culture and Identity	Culture and Identity; parts c-e Discussion HW: Unit 1 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 2: Performing; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Performing"
5	Unit 2: Performing	Performing; parts c-e Discussion HW: Unit 2 review
6	Unit 3: Water	Water; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Water"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 3: Water; parts c-e HW: Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 – 10% Unit 4: Opportunities; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Opportunities"
9	Discussion 2	Discussion 2 – 10% Unit 4: Opportunities; parts c-e HW: Unit 4 review
10	Unit 5: Well-being	Well-being; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Well-being"
11	Discussion 3	Discussion 3 – 10% Unit 5: Well-being; parts c-e HW: Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 6: Mysteries; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Mysteries; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW:Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Originally from America, Steven started teaching English in Japan 5 years ago. Since the he has taught students of varying ages and English levels. No matter what age or level the student, Steven always aims to create an environment where each student is able to learn to their ability. By doing this he has been able to motivate students to promote their own selfimprovement. Punctual, patient and positive by nature, he believes teaching is a challenging and rewarding profession.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

【Outline (in English)】
This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations.

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Advanced I

Samuel Harper

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：金3/Fri.3

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make academic presentations (with PowerPoint, etc.) in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
· expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
· engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
· expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 1: Culture and Identity	Culture and Identity; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "Culture and Identity"
3	Unit 1: Culture and Identity	Culture and Identity; parts c-e Discussion HW: Unit 1 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 2: Performing; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Performing"
5	Unit 2: Performing	Performing; parts c-e Discussion HW: Unit 2 review
6	Unit 3: Water	Water; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Water"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 3: Water; parts c-e HW: Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 – 10% Unit 4: Opportunities; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Opportunities"
9	Discussion 2	Discussion 2 – 10% Unit 4: Opportunities; parts c-e HW: Unit 4 review
10	Unit 5: Well-being	Well-being; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Well-being"
11	Discussion 3	Discussion 3 – 10% Unit 5: Well-being; parts c-e HW: Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 6: Mysteries; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Mysteries; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW:Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Sam Harper is from the south of England and has a background in science, centering around the biological sciences, medicine and pharmacology. He graduated in Medical Biochemistry. Following this, he obtained a Cambridge CELTA teaching qualification. His teaching experience includes both academic and corporate classes. He has taught business classes focusing on Presentations, Meetings, Negotiations and general Business Communication. In addition to these courses, Sam has facilitated discussion and writing courses at a prominent medical university in Tokyo. He also has over 2 years' experience teaching both IELTS and TOEIC examination courses. Sam's background in science and his teaching experience helps learners improve and develop their logical thinking skills during discussions and debates during lessons.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Advanced I

Matt McCabe

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：木3/Thu.3

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make academic presentations (with PowerPoint, etc.) in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
· expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
· engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
· expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 1: Culture and Identity	Culture and Identity; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "Culture and Identity"
3	Unit 1: Culture and Identity	Culture and Identity; parts c-e Discussion HW: Unit 1 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 2: Performing; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Performing"
5	Unit 2: Performing	Performing; parts c-e Discussion HW: Unit 2 review
6	Unit 3: Water	Water; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Water"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 3: Water; parts c-e HW: Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 – 10% Unit 4: Opportunities; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Opportunities"
9	Discussion 2	Discussion 2 – 10% Unit 4: Opportunities; parts c-e HW: Unit 4 review
10	Unit 5: Well-being	Well-being; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Well-being"
11	Discussion 3	Discussion 3 – 10% Unit 5: Well-being; parts c-e HW: Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 6: Mysteries; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Mysteries; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW:Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Matt McCabe is originally from England, but he moved to Japan in 2010 where he has worked as an English Instructor. Matt has experience teaching a range of age groups and levels to Japanese students and in his lessons, he always aims to provide practical and engaging English instruction to his students. As Matt is fluent in both Japanese and German, he is able to understand the difficulty his students may have in learning a second language and be able to advise them accordingly to help them improve.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Advanced I

Jason Burnett

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4
Day/Period：火5/Tue.5
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make academic presentations (with PowerPoint, etc.) in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
· expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
· engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
· expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 1: Culture and Identity	Culture and Identity; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "Culture and Identity"
3	Unit 1: Culture and Identity	Culture and Identity; parts c-e Discussion HW: Unit 1 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 2: Performing; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Performing"
5	Unit 2: Performing	Performing; parts c-e Discussion HW: Unit 2 review
6	Unit 3: Water	Water; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Water"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 3: Water; parts c-e HW: Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 – 10% Unit 4: Opportunities; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Opportunities"
9	Discussion 2	Discussion 2 – 10% Unit 4: Opportunities; parts c-e HW: Unit 4 review
10	Unit 5: Well-being	Well-being; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Well-being"
11	Discussion 3	Discussion 3 – 10% Unit 5: Well-being; parts c-e HW: Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 6: Mysteries; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Mysteries; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW:Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Jason Burnett was originally from England eut has eeen teaching in Japan for the last 12 years. He has many years of experience teaching English at University and College estaelishments in Tokyo as well as some corporate classes. He prides himself on eeing professional at all times in the workplace. His lessons plans are always well prepared, and he is aele to create classes that keep his students engaged whilst always delivering the targeted lesson material of the class. His students always appreciate his friendly and easy to approach nature. He enjoys working with students, sharing his English communication expertise as well as euilding students' confidence and determination to achieve the most demanding goals.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE3 (Ichigaya): Writing &Discussion: Advanced I

Sandor Dome

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：月3/Mon.3

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
· be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
· learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
· deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading /research
· develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
· engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Chapter 1: Paragraph Structure	Paragraph Structure Discussion CEFR Self-Evaluation (Initial) HW: Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Paragraph Structure	Paragraph Structure Writing Practice Draft pair review HW: Writing Practice Final
4	Chapter 1: Paragraph Structure	Paragraph Structure Writing Practice Final group review HW: Review Chapter 1
5	Chapter 2: Unity and Coherence	Unity and Coherence Discussion HW: Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Unity and Coherence	Unity and Coherence Writing 1 Draft pair review HW: Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE	Writing 1 Final DUE – 10% Discussion 1 – 10% Chapter 2: Unit and Coherence HW: Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Using Outside Sources Discussion HW: Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Using Outside Sources	Using Outside Sources Writing 2 Draft pair review HW: Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE	Writing 2 Final DUE – 10% Discussion 2 – 10% Chapter 3: Using Outside Sources HW: Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback	Writing 2 Final feedback Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion HW: Writing 3 Draft
12	Chapter 4: From Paragraph to Essay	From Paragraph to Essay Writing 3 Draft pair review HW: Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE	Writing 3 Final DUE – 10% Discussion 3 – 10% Chapter 4: From Paragraph to Essay CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys HW: Review Chapter 4 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback	Writing 3 Final feedback Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice &Digital Resources,
5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30%(Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Gabor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining current job, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Gabor aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE3 (Ichigaya): Writing &Discussion: Advanced I

Andrew Finegan

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：月5/Mon.5

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
· be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
· learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
· deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading /research
· develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
· engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Chapter 1: Paragraph Structure	Paragraph Structure Discussion CEFR Self-Evaluation (Initial) HW: Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Paragraph Structure	Paragraph Structure Writing Practice Draft pair review HW: Writing Practice Final
4	Chapter 1: Paragraph Structure	Paragraph Structure Writing Practice Final group review HW: Review Chapter 1
5	Chapter 2: Unity and Coherence	Unity and Coherence Discussion HW: Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Unity and Coherence	Unity and Coherence Writing 1 Draft pair review HW: Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE	Writing 1 Final DUE – 10% Discussion 1 – 10% Chapter 2: Unit and Coherence HW: Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Using Outside Sources Discussion HW: Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Using Outside Sources	Using Outside Sources Writing 2 Draft pair review HW: Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE	Writing 2 Final DUE – 10% Discussion 2 – 10% Chapter 3: Using Outside Sources HW: Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback	Writing 2 Final feedback Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion HW: Writing 3 Draft
12	Chapter 4: From Paragraph to Essay	From Paragraph to Essay Writing 3 Draft pair review HW: Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE	Writing 3 Final DUE – 10% Discussion 3 – 10% Chapter 4: From Paragraph to Essay CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys HW: Review Chapter 4 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback	Writing 3 Final feedback Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice &Digital Resources,
5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30%(Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Andrew Finegan is from Brisbane, Australia. He received a Bachelor of Arts, majoring in Japanese Language and Culture, from the University of Queensland, and a Graduate Diploma in Tax, from the University of New South Wales, Australia. He worked for the Australian Tax Office while in Australia. His experience in Japan includes English Instruction as well as legal interpretation, which allows him to effectively provide communication and business skills courses from beginner to advanced levels. He is particularly skilled at assisting students in expressing themselves clearly in a variety of situations.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE3 (Ichigaya): Writing &Discussion: Advanced I

Steven Braunbach

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：木5/Thu.5

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
· be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
· learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
· deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading /research
· develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
· engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Chapter 1: Paragraph Structure	Paragraph Structure Discussion CEFR Self-Evaluation (Initial) HW: Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Paragraph Structure	Paragraph Structure Writing Practice Draft pair review HW: Writing Practice Final
4	Chapter 1: Paragraph Structure	Paragraph Structure Writing Practice Final group review HW: Review Chapter 1
5	Chapter 2: Unity and Coherence	Unity and Coherence Discussion HW: Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Unity and Coherence	Unity and Coherence Writing 1 Draft pair review HW: Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE	Writing 1 Final DUE – 10% Discussion 1 – 10% Chapter 2: Unit and Coherence HW: Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Using Outside Sources Discussion HW: Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Using Outside Sources	Using Outside Sources Writing 2 Draft pair review HW: Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE	Writing 2 Final DUE – 10% Discussion 2 – 10% Chapter 3: Using Outside Sources HW: Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback	Writing 2 Final feedback Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion HW: Writing 3 Draft
12	Chapter 4: From Paragraph to Essay	From Paragraph to Essay Writing 3 Draft pair review HW: Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE	Writing 3 Final DUE – 10% Discussion 3 – 10% Chapter 4: From Paragraph to Essay CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys HW: Review Chapter 4 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback	Writing 3 Final feedback Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice &Digital Resources,
5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30%(Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Originally from America, Steven started teaching English in Japan 5 years ago. Since the he has taught students of varying ages and English levels. No matter what age or level the student, Steven always aims to create an environment where each student is able to learn to their ability. By doing this he has been able to motivate students to promote their own selfimprovement. Punctual, patient and positive by nature, he believes teaching is a challenging and rewarding profession.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE3 (Ichigaya): Writing &Discussion: Advanced I

Samuel Harper

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：金2/Fri.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
· be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
· learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
· deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading /research
· develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
· engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Chapter 1: Paragraph Structure	Paragraph Structure Discussion CEFR Self-Evaluation (Initial) HW: Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Paragraph Structure	Paragraph Structure Writing Practice Draft pair review HW: Writing Practice Final
4	Chapter 1: Paragraph Structure	Paragraph Structure Writing Practice Final group review HW: Review Chapter 1
5	Chapter 2: Unity and Coherence	Unity and Coherence Discussion HW: Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Unity and Coherence	Unity and Coherence Writing 1 Draft pair review HW: Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE	Writing 1 Final DUE – 10% Discussion 1 – 10% Chapter 2: Unit and Coherence HW: Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Using Outside Sources Discussion HW: Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Using Outside Sources	Using Outside Sources Writing 2 Draft pair review HW: Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE	Writing 2 Final DUE – 10% Discussion 2 – 10% Chapter 3: Using Outside Sources HW: Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback	Writing 2 Final feedback Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion HW: Writing 3 Draft
12	Chapter 4: From Paragraph to Essay	From Paragraph to Essay Writing 3 Draft pair review HW: Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE	Writing 3 Final DUE – 10% Discussion 3 – 10% Chapter 4: From Paragraph to Essay CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys HW: Review Chapter 4 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback	Writing 3 Final feedback Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice &Digital Resources,
5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30%(Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Sam Harper is from the south of England and has a background in science, centering around the biological sciences, medicine and pharmacology. He graduated in Medical Biochemistry. Following this, he obtained a Cambridge CELTA teaching qualification. His teaching experience includes both academic and corporate classes. He has taught business classes focusing on Presentations, Meetings, Negotiations and general Business Communication. In addition to these courses, Sam has facilitated discussion and writing courses at a prominent medical university in Tokyo. He also has over 2 years' experience teaching both IELTS and TOEIC examination courses. Sam's background in science and his teaching experience helps learners improve and develop their logical thinking skills during discussions and debates during lessons.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Advanced I

Sandor Dome

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：金4/Fri.4

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make academic presentations (with PowerPoint, etc.) in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
· expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
· engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
· expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 1: Culture and Identity	Culture and Identity; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "Culture and Identity"
3	Unit 1: Culture and Identity	Culture and Identity; parts c-e Discussion HW: Unit 1 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 2: Performing; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Performing"
5	Unit 2: Performing	Performing; parts c-e Discussion HW: Unit 2 review
6	Unit 3: Water	Water; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Water"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 3: Water; parts c-e HW: Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 – 10% Unit 4: Opportunities; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Opportunities"
9	Discussion 2	Discussion 2 – 10% Unit 4: Opportunities; parts c-e HW: Unit 4 review
10	Unit 5: Well-being	Well-being; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Well-being"
11	Discussion 3	Discussion 3 – 10% Unit 5: Well-being; parts c-e HW: Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 6: Mysteries; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Mysteries; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW:Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Gabor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining current job, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Gabor aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE1 (Ichigaya): Intensive English 1

ERP講師

Credit(s)：1 ｜ Semester：サマーセッション/Summer Session ｜ Year：1〜4
Day/Period：集中・その他/intensive・other courses
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This 6-day 4-skills communication course aims to support and strengthen students' existing speaking, writing, reading and listening skills by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow effective communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in groups and individually
· improve writing skills by practicing the 5C's of effective writing and including supporting details
· engage in and lead discussions and debates on a range of topics
· improve reading skills such as skimming and scanning and summarising
· develop listening and note taking skills
· communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
· express opinions supported by simple reasoning
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation, CEFR, Pre-task, Reading, Writing	Orientation, CEFR Self-evaluation, Pre-task Presentations Reading Skill: Skimming / Scanning Read and Discuss Article 1: The Dream of Flight Writing Skills: The Five Cs of Good Writing, Paragraphs Brainstorm ideas for writing homework HW: Write 250 words about Article 1
2	Writing, Discussion, Listening, Presentation Skills	Share Writing and Discuss Listening Skill: Note-taking Listen and Discuss Article 2: The Story of the Chili Presentation Skills: Structure Brainstorm ideas for speech HW: Prepare a 3-min Speech on Article 2
3	Speech, Discussion, Reading, Debate Skills	Short Speeches and Discussion Reading Skill: Summarizing Read and Discuss Article 3: Mission to Mars Debate Skills: ORE Debate Skills: Strong Reasons HW: Prepare for an evaluated Debate on Article 3
4	Debate, Listening, Writing, Discussion, Reading&Listening Test	Evaluated Debate and Feedback Listening Skill: Listening for Details Listen and Discuss Article 4: Fantastic Festivals Writing Skills: Linking Ideas Reading &Listening Test HW: Write 250 words about Article 4
5	Writing, Discussion, Reading, Presentation Skills	Share Writing and Discuss Reading Skill: Building Vocabulary Read and Discuss Article 5: Mood Music Presentation Skills: Language Presentation Skills: Delivery HW: Practice Final Presentation
6	Final Presentations, CEFR, Course Review	Final Presentation Preparation and Practice Evaluated Final Presentations & Feedback CEFR Self-evaluation and action planning Course Review and Wrap up
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a day completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing writing assignments).

【Textbooks】
· Four Skills English (ALC EDUCATION)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Four or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Debate 20% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 20%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort); Reading Test 10%; Listening Test 10%

【Changes following student comments】
Not applicable

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+, English Placement Test α 640-689 or Students who has achieved a grade of A or above in the first year of required English (undergraduate students: sophomore or above).

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE2 (Ichigaya): Intensive English 2

ERP講師

Credit(s)：1 ｜ Semester：サマーセッション/Summer Session ｜ Year：1〜4
Day/Period：集中・その他/intensive・other courses
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This 6-day 4-skills communication course aims to support and strengthen students' existing speaking, writing, reading and listening skills by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow effective communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in groups and individually
· improve writing skills by practicing the 5C's of effective writing and including supporting details
· engage in and lead discussions and debates on a range of topics
· improve reading skills such as skimming and scanning and summarising
· develop listening and note taking skills
· communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
· express opinions supported by simple reasoning
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation, CEFR, Pre-task, Reading, Writing	Orientation, CEFR Self-evaluation, Pre-task Presentations Reading Skill: Skimming / Scanning Read and Discuss Article 1: The Dream of Flight Writing Skills: The Five Cs of Good Writing, Paragraphs Brainstorm ideas for writing homework HW: Write 250 words about Article 1
2	Writing, Discussion, Listening, Presentation Skills	Share Writing and Discuss Listening Skill: Note-taking Listen and Discuss Article 2: The Story of the Chili Presentation Skills: Structure Brainstorm ideas for speech HW: Prepare a 3-min Speech on Article 2
3	Speech, Discussion, Reading, Debate Skills	Short Speeches and Discussion Reading Skill: Summarizing Read and Discuss Article 3: Mission to Mars Debate Skills: ORE Debate Skills: Strong Reasons HW: Prepare for an evaluated Debate on Article 3
4	Debate, Listening, Writing, Discussion, Reading&Listening Test	Evaluated Debate and Feedback Listening Skill: Listening for Details Listen and Discuss Article 4: Fantastic Festivals Writing Skills: Linking Ideas Reading &Listening Test HW: Write 250 words about Article 4
5	Writing, Discussion, Reading, Presentation Skills	Share Writing and Discuss Reading Skill: Building Vocabulary Read and Discuss Article 5: Mood Music Presentation Skills: Language Presentation Skills: Delivery HW: Practice Final Presentation
6	Final Presentations, CEFR, Course Review	Final Presentation Preparation and Practice Evaluated Final Presentations & Feedback CEFR Self-evaluation and action planning Course Review and Wrap up
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a day completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing writing assignments).

【Textbooks】
· Four Skills English (ALC EDUCATION)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Four or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Debate 20% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 20%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort); Reading Test 10%; Listening Test 10%

【Changes following student comments】
Not applicable

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 52+, TOEFL® ITP 470+, TOEIC® 550+, IELTS 5.5+ or EIKEN® CSE2.0 2304+ or English Placement Test α 690+

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE1 (Ichigaya): Intensive English 1

ERP講師

Credit(s)：1 ｜ Semester：サマーセッション/Summer Session ｜ Year：1〜4
Day/Period：集中・その他/intensive・other courses
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This 6-day 4-skills communication course aims to support and strengthen students' existing speaking, writing, reading and listening skills by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow effective communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in groups and individually
· improve writing skills by practicing the 5C's of effective writing and including supporting details
· engage in and lead discussions and debates on a range of topics
· improve reading skills such as skimming and scanning and summarising
· develop listening and note taking skills
· communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
· express opinions supported by simple reasoning
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation, CEFR, Pre-task, Reading, Writing	Orientation, CEFR Self-evaluation, Pre-task Presentations Reading Skill: Skimming / Scanning Read and Discuss Article 1: The Dream of Flight Writing Skills: The Five Cs of Good Writing, Paragraphs Brainstorm ideas for writing homework HW: Write 250 words about Article 1
2	Writing, Discussion, Listening, Presentation Skills	Share Writing and Discuss Listening Skill: Note-taking Listen and Discuss Article 2: The Story of the Chili Presentation Skills: Structure Brainstorm ideas for speech HW: Prepare a 3-min Speech on Article 2
3	Speech, Discussion, Reading, Debate Skills	Short Speeches and Discussion Reading Skill: Summarizing Read and Discuss Article 3: Mission to Mars Debate Skills: ORE Debate Skills: Strong Reasons HW: Prepare for an evaluated Debate on Article 3
4	Debate, Listening, Writing, Discussion, Reading&Listening Test	Evaluated Debate and Feedback Listening Skill: Listening for Details Listen and Discuss Article 4: Fantastic Festivals Writing Skills: Linking Ideas Reading &Listening Test HW: Write 250 words about Article 4
5	Writing, Discussion, Reading, Presentation Skills	Share Writing and Discuss Reading Skill: Building Vocabulary Read and Discuss Article 5: Mood Music Presentation Skills: Language Presentation Skills: Delivery HW: Practice Final Presentation
6	Final Presentations, CEFR, Course Review	Final Presentation Preparation and Practice Evaluated Final Presentations & Feedback CEFR Self-evaluation and action planning Course Review and Wrap up
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a day completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing writing assignments).

【Textbooks】
· Four Skills English (ALC EDUCATION)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Four or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Debate 20% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 20%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort); Reading Test 10%; Listening Test 10%

【Changes following student comments】
Not applicable

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+, English Placement Test α 640-689 or Students who has achieved a grade of A or above in the first year of required English (undergraduate students: sophomore or above).

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE2 (Ichigaya): Intensive English 2

ERP講師

Credit(s)：1 ｜ Semester：サマーセッション/Summer Session ｜ Year：1〜4
Day/Period：集中・その他/intensive・other courses
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This 6-day 4-skills communication course aims to support and strengthen students' existing speaking, writing, reading and listening skills by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow effective communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in groups and individually
· improve writing skills by practicing the 5C's of effective writing and including supporting details
· engage in and lead discussions and debates on a range of topics
· improve reading skills such as skimming and scanning and summarising
· develop listening and note taking skills
· communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
· express opinions supported by simple reasoning
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation, CEFR, Pre-task, Reading, Writing	Orientation, CEFR Self-evaluation, Pre-task Presentations Reading Skill: Skimming / Scanning Read and Discuss Article 1: The Dream of Flight Writing Skills: The Five Cs of Good Writing, Paragraphs Brainstorm ideas for writing homework HW: Write 250 words about Article 1
2	Writing, Discussion, Listening, Presentation Skills	Share Writing and Discuss Listening Skill: Note-taking Listen and Discuss Article 2: The Story of the Chili Presentation Skills: Structure Brainstorm ideas for speech HW: Prepare a 3-min Speech on Article 2
3	Speech, Discussion, Reading, Debate Skills	Short Speeches and Discussion Reading Skill: Summarizing Read and Discuss Article 3: Mission to Mars Debate Skills: ORE Debate Skills: Strong Reasons HW: Prepare for an evaluated Debate on Article 3
4	Debate, Listening, Writing, Discussion, Reading&Listening Test	Evaluated Debate and Feedback Listening Skill: Listening for Details Listen and Discuss Article 4: Fantastic Festivals Writing Skills: Linking Ideas Reading &Listening Test HW: Write 250 words about Article 4
5	Writing, Discussion, Reading, Presentation Skills	Share Writing and Discuss Reading Skill: Building Vocabulary Read and Discuss Article 5: Mood Music Presentation Skills: Language Presentation Skills: Delivery HW: Practice Final Presentation
6	Final Presentations, CEFR, Course Review	Final Presentation Preparation and Practice Evaluated Final Presentations & Feedback CEFR Self-evaluation and action planning Course Review and Wrap up
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a day completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing writing assignments).

【Textbooks】
· Four Skills English (ALC EDUCATION)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Four or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Debate 20% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 20%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort); Reading Test 10%; Listening Test 10%

【Changes following student comments】
Not applicable

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 52+, TOEFL® ITP 470+, TOEIC® 550+, IELTS 5.5+ or EIKEN® CSE2.0 2304+ or English Placement Test α 690+

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate II

Matt McCabe

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：木5/Thu.5

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make basic presentations in English, in pairs, groups and individually
· build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
· engage in and lead simple discussions on a range of topics
· improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
· express opinions supported by simple reasoning
· work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 7: Journeys	Journeys; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "Journeys"
3	Unit 7: Journeys	Journeys; parts c-e Discussion HW: Unit 7 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 8: Appearance; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Appearance"
5	Unit 8: Appearance	Appearance; parts c-e Discussion HW: Unit 8 review
6	Unit 9: Entertainment	Entertainment; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Entertainment"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 9: Entertainment; parts c-e HW: Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 – 10% Unit 10: Learning; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Learning"
9	Discussion 2	Discussion 2 – 10% Unit 10: Learning; parts c-e HW: Unit 10 review
10	Unit 11: Tourism	Tourism; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Tourism"
11	Discussion 3	Discussion 3 – 10% Unit 11: Tourism; parts c-e HW: Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 12: The Earth; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued	Presentation 3 continued – 10% Unit 12: The Earth; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW:Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Matt McCabe is originally from England, but he moved to Japan in 2010 where he has worked as an English Instructor. Matt has experience teaching a range of age groups and levels to Japanese students and in his lessons, he always aims to provide practical and engaging English instruction to his students. As Matt is fluent in both Japanese and German, he is able to understand the difficulty his students may have in learning a second language and be able to advise them accordingly to help them improve.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate II

Sandor Dome

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：金4/Fri.4

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make basic presentations in English, in pairs, groups and individually
· build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
· engage in and lead simple discussions on a range of topics
· improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
· express opinions supported by simple reasoning
· work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 7: Journeys	Journeys; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "Journeys"
3	Unit 7: Journeys	Journeys; parts c-e Discussion HW: Unit 7 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 8: Appearance; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Appearance"
5	Unit 8: Appearance	Appearance; parts c-e Discussion HW: Unit 8 review
6	Unit 9: Entertainment	Entertainment; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Entertainment"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 9: Entertainment; parts c-e HW: Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 – 10% Unit 10: Learning; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Learning"
9	Discussion 2	Discussion 2 – 10% Unit 10: Learning; parts c-e HW: Unit 10 review
10	Unit 11: Tourism	Tourism; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Tourism"
11	Discussion 3	Discussion 3 – 10% Unit 11: Tourism; parts c-e HW: Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 12: The Earth; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued	Presentation 3 continued – 10% Unit 12: The Earth; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW:Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Gabor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining current job, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Gabor aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE1 (Ichigaya): Writing &Discussion: Intermediate II

Sandor Dome

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：月3/Mon.3

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
· write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
· build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
· improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
· engage in and lead simple discussions on a range of topics
· manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
· confidently express opinions supported by simple reasoning
· work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the final three chapters in the textbook firstly to analyze and practice space-order ("on the left…behind that") descriptive paragraphs, secondly to recognize and practice writing well-reasoned paragraphs supported by examples, and thirdly to build students' ability to write simple logical opinions in longer paragraphs. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Chapter 4: Describing with Space Order	Describing with Space Order CEFR Self-Evaluation (Initial) HW: Prepare a discussion topic based on Chapter 4
3	Chapter 4: Describing with Space Order	Describing with Space Order Discussion HW: Writing 1 Draft
4	Chapter 4: Describing with Space Order	Describing with Space Order Writing 1 Draft pair review HW: Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE	Writing 1 Final DUE – 10% Discussion 1 – 10% Chapter 4: Describing with Space Order HW: Review Chapter 4
6	Writing 1 Final feedback	Writing 1 Final feedback Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples HW: Prepare a discussion topic based on Chapter 5
7	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples	Stating Reasons and Using Examples Discussion HW: Writing 2 Draft
8	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples	Stating Reasons and Using Examples Writing 2 Draft pair review HW: Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE	Writing 2 Final DUE – 10% Discussion 2 – 10% Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples HW: Review Chapter 5
10	Writing 2 Final feedback	Writing 2 Final feedback Chapter 6: Expressing Your Opinion HW: Prepare a discussion topic based on Chapter 6
11	Chapter 6: Expressing Your Opinion	Expressing Your Opinion Discussion HW: Writing 3 Draft
12	Chapter 6: Expressing Your Opinion	Expressing Your Opinion Writing 3 Draft pair review HW: Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE	Writing 3 Final DUE – 10% Discussion 3 – 10% Chapter 6: Expressing Your Opinion CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys HW: Review Chapter 6 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback	Writing 3 Final feedback Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (paragraphs). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Longman Academic Writing Series (Level 2); Paragraphs SB w/App, Online Practice &Digital Resources,
3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0136769996)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30%(Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Gabor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining current job, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Gabor aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE1 (Ichigaya): Writing &Discussion: Intermediate II

Matt McCabe

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：木3/Thu.3

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
· write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
· build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
· improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
· engage in and lead simple discussions on a range of topics
· manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
· confidently express opinions supported by simple reasoning
· work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the final three chapters in the textbook firstly to analyze and practice space-order ("on the left…behind that") descriptive paragraphs, secondly to recognize and practice writing well-reasoned paragraphs supported by examples, and thirdly to build students' ability to write simple logical opinions in longer paragraphs. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Chapter 4: Describing with Space Order	Describing with Space Order CEFR Self-Evaluation (Initial) HW: Prepare a discussion topic based on Chapter 4
3	Chapter 4: Describing with Space Order	Describing with Space Order Discussion HW: Writing 1 Draft
4	Chapter 4: Describing with Space Order	Describing with Space Order Writing 1 Draft pair review HW: Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE	Writing 1 Final DUE – 10% Discussion 1 – 10% Chapter 4: Describing with Space Order HW: Review Chapter 4
6	Writing 1 Final feedback	Writing 1 Final feedback Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples HW: Prepare a discussion topic based on Chapter 5
7	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples	Stating Reasons and Using Examples Discussion HW: Writing 2 Draft
8	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples	Stating Reasons and Using Examples Writing 2 Draft pair review HW: Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE	Writing 2 Final DUE – 10% Discussion 2 – 10% Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples HW: Review Chapter 5
10	Writing 2 Final feedback	Writing 2 Final feedback Chapter 6: Expressing Your Opinion HW: Prepare a discussion topic based on Chapter 6
11	Chapter 6: Expressing Your Opinion	Expressing Your Opinion Discussion HW: Writing 3 Draft
12	Chapter 6: Expressing Your Opinion	Expressing Your Opinion Writing 3 Draft pair review HW: Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE	Writing 3 Final DUE – 10% Discussion 3 – 10% Chapter 6: Expressing Your Opinion CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys HW: Review Chapter 6 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback	Writing 3 Final feedback Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (paragraphs). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Longman Academic Writing Series (Level 2); Paragraphs SB w/App, Online Practice &Digital Resources,
3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0136769996)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30%(Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Matt McCabe is originally from England, but he moved to Japan in 2010 where he has worked as an English Instructor. Matt has experience teaching a range of age groups and levels to Japanese students and in his lessons, he always aims to provide practical and engaging English instruction to his students. As Matt is fluent in both Japanese and German, he is able to understand the difficulty his students may have in learning a second language and be able to advise them accordingly to help them improve.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate II

Sandor Dome

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：月2/Mon.2
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make effective presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
· expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
· engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
· improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native and non-native speakers
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
· build analysis and decision-making skills through group discussion activities
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 7: Work	Work; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "Work"
3	Unit 7: Work	Work; parts c-e Discussion HW: Unit 7 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 8: Technology; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Technology"
5	Unit 8: Technology	Technology; parts c-e Discussion HW: Unit 8 review
6	Unit 9: Vacations	Vacations; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Vacations"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 9: Vacations; parts c-e HW: Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 – 10% Unit 10: Products; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Products"
9	Discussion 2	Discussion 2 – 10% Unit 10: Products; parts c-e HW: Unit 10 review
10	Unit 11: History	History; parts a-b HW: Prepare a short speech on "History"
11	Discussion 3	Discussion 3 – 10% Unit 11: History; parts c-e HW: Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 12: Nature; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued	Presentation 3 continued – 10% Unit 12: Nature; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW: Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Gabor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining current job, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Gabor aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate II

Andrew Finegan

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：火5/Tue.5

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make effective presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
· expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
· engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
· improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native and non-native speakers
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
· build analysis and decision-making skills through group discussion activities
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 7: Work	Work; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "Work"
3	Unit 7: Work	Work; parts c-e Discussion HW: Unit 7 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 8: Technology; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Technology"
5	Unit 8: Technology	Technology; parts c-e Discussion HW: Unit 8 review
6	Unit 9: Vacations	Vacations; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Vacations"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 9: Vacations; parts c-e HW: Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 – 10% Unit 10: Products; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Products"
9	Discussion 2	Discussion 2 – 10% Unit 10: Products; parts c-e HW: Unit 10 review
10	Unit 11: History	History; parts a-b HW: Prepare a short speech on "History"
11	Discussion 3	Discussion 3 – 10% Unit 11: History; parts c-e HW: Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 12: Nature; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued	Presentation 3 continued – 10% Unit 12: Nature; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW: Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Andrew Finegan is from Brisbane, Australia. He received a Bachelor of Arts, majoring in Japanese Language and Culture, from the University of Queensland, and a Graduate Diploma in Tax, from the University of New South Wales, Australia. He worked for the Australian Tax Office while in Australia. His experience in Japan includes English Instruction as well as legal interpretation, which allows him to effectively provide communication and business skills courses from beginner to advanced levels. He is particularly skilled at assisting students in expressing themselves clearly in a variety of situations.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE2 (Ichigaya): Writing &Discussion: Higher-Intermediate II

Samuel Harper

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：木4/Thu.4

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
· write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
· expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
· build understanding of the difference between spoken and written English
· improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
· engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses chapters five, six and seven of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure, to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter ten of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Chapter 5: Process Paragraphs	Process Paragraphs Discussion CEFR Self-Evaluation (Initial) HW: Writing Practice Draft
3	Chapter 5: Process Paragraphs	Process Paragraphs Writing Practice Draft pair review HW: Writing Practice Final
4	Chapter 5: Process Paragraphs	Process Paragraphs Writing Practice Final group review HW: Review Chapter 5
5	Chapter 6: Definition Paragraphs	Definition Paragraphs Discussion HW: Writing 1 Draft
6	Chapter 6: Definition Paragraphs	Definition Paragraphs Writing 1 Draft pair review HW: Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE	Writing 1 Final DUE – 10% Discussion 1 – 10% Chapter 6: Definition Paragraphs HW: Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Cause /Effect Paragraphs Discussion HW: Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs	Cause /Effect Paragraphs Writing 2 Draft pair review HW: Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE	Writing 2 Final DUE – 10% Discussion 2 – 10% Chapter 7: Cause /Effect Paragraphs HW: Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback	Writing 2 Final feedback Chapter 10: Opinion Essays Discussion HW: Writing 3 Draft
12	Chapter 10: Opinion Essays	Opinion Essays Writing 3 Draft pair review HW: Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE	Writing 3 Final DUE – 10% Discussion 3 – 10% Chapter 10: Opinion Essays CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys HW: Review Chapter 10 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback	Writing 3 Final feedback Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (paragraphs and essays). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Longman Academic Writing Series (Level 3); Paragraphs to Essays SB w/App, Online Practice &Digital Resources,
4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838531)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30%(Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Sam Harper is from the south of England and has a background in science, centering around the biological sciences, medicine and pharmacology. He graduated in Medical Biochemistry. Following this, he obtained a Cambridge CELTA teaching qualification. His teaching experience includes both academic and corporate classes. He has taught business classes focusing on Presentations, Meetings, Negotiations and general Business Communication. In addition to these courses, Sam has facilitated discussion and writing courses at a prominent medical university in Tokyo. He also has over 2 years' experience teaching both IELTS and TOEIC examination courses. Sam's background in science and his teaching experience helps learners improve and develop their logical thinking skills during discussions and debates during lessons.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE2 (Ichigaya): Writing &Discussion: Higher-Intermediate II

Sandor Dome

Credit(s)：1　|　Semester：秋学期授業/Fall　|　Year：1〜4
Day/Period：金2/Fri.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
· write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
· expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
· build understanding of the difference between spoken and written English
· improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
· engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses chapters five, six and seven of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure, to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter ten of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Chapter 5: Process Paragraphs	Process Paragraphs Discussion CEFR Self-Evaluation (Initial) HW: Writing Practice Draft
3	Chapter 5: Process Paragraphs	Process Paragraphs Writing Practice Draft pair review HW: Writing Practice Final
4	Chapter 5: Process Paragraphs	Process Paragraphs Writing Practice Final group review HW: Review Chapter 5
5	Chapter 6: Definition Paragraphs	Definition Paragraphs Discussion HW: Writing 1 Draft
6	Chapter 6: Definition Paragraphs	Definition Paragraphs Writing 1 Draft pair review HW: Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE	Writing 1 Final DUE – 10% Discussion 1 – 10% Chapter 6: Definition Paragraphs HW: Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Cause /Effect Paragraphs Discussion HW: Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs	Cause /Effect Paragraphs Writing 2 Draft pair review HW: Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE	Writing 2 Final DUE – 10% Discussion 2 – 10% Chapter 7: Cause /Effect Paragraphs HW: Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback	Writing 2 Final feedback Chapter 10: Opinion Essays Discussion HW: Writing 3 Draft
12	Chapter 10: Opinion Essays	Opinion Essays Writing 3 Draft pair review HW: Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE	Writing 3 Final DUE – 10% Discussion 3 – 10% Chapter 10: Opinion Essays CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys HW: Review Chapter 10 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback	Writing 3 Final feedback Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (paragraphs and essays). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Longman Academic Writing Series (Level 3); Paragraphs to Essays SB w/App, Online Practice &Digital Resources,
4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838531)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30%(Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Gabor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining current job, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Gabor aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Advanced II

Jason Burnett

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：月5/Mon.5

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make sophisticated academic presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
· expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
· engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
· expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
· work together with other students in collaborative project

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 7: Living space	Living space; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "Living space"
3	Unit 7: Living space	Living space; parts c-e Discussion HW: Unit 7 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 8: Travel; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Travel"
5	Unit 8: Trave	Travel; parts c-e Discussion HW: Unit 8 review
6	Unit 9: Shopping	Shopping; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Shopping"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 9: Shopping; parts c-e HW: Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 – 10% Unit 10: No limits; parts a-b HW: Prepare a short speech on "No limits"
9	Discussion 2	Discussion 2 -10% Unit 10: No limits; parts c-e HW: Unit 10 review
10	Unit 11: Connections	Connections; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Connections"
11	Discussion 3	Discussion 3 -10% Unit 11: Connections; parts c-e HW: Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 12: Experts; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3	Presentation 3 continued – 10% Unit 12: Experts; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW: Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Jason Burnett was originally from England eut has eeen teaching in Japan for the last 12 years. He has many years of experience teaching English at University and College estaelishments in Tokyo as well as some corporate classes. He prides himself on eeing professional at all times in the workplace. His lessons plans are always well prepared, and he is aele to create classes that keep his students engaged whilst always delivering the targeted lesson material of the class. His students always appreciate his friendly and easy to approach nature. He enjoys working with students, sharing his English communication expertise as well as euilding students' confidence and determination to achieve the most demanding goals.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Advanced II

Steven Braunbach

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：火4/Tue.4

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make sophisticated academic presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
· expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
· engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
· expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
· work together with other students in collaborative project

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 7: Living space	Living space; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "Living space"
3	Unit 7: Living space	Living space; parts c-e Discussion HW: Unit 7 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 8: Travel; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Travel"
5	Unit 8: Trave	Travel; parts c-e Discussion HW: Unit 8 review
6	Unit 9: Shopping	Shopping; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Shopping"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 9: Shopping; parts c-e HW: Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 – 10% Unit 10: No limits; parts a-b HW: Prepare a short speech on "No limits"
9	Discussion 2	Discussion 2 -10% Unit 10: No limits; parts c-e HW: Unit 10 review
10	Unit 11: Connections	Connections; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Connections"
11	Discussion 3	Discussion 3 -10% Unit 11: Connections; parts c-e HW: Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 12: Experts; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3	Presentation 3 continued – 10% Unit 12: Experts; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW: Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Originally from America, Steven started teaching English in Japan 5 years ago. Since the he has taught students of varying ages and English levels. No matter what age or level the student, Steven always aims to create an environment where each student is able to learn to their ability. By doing this he has been able to motivate students to promote their own selfimprovement. Punctual, patient and positive by nature, he believes teaching is a challenging and rewarding profession.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE3 (Ichigaya): Writing &Discussion: Advanced II

Steven Braunbach

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：火2/Tue.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
· be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
· learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
· deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading /research
· develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
· engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the second four chapters of the textbook to analyze and practice writing four different essay types: Process Essays, Cause /Effect Essays, Comparison /Contrast Essays, and finally Argumentative Essays. Through these units various writing skills are explored including organization, thesis statements, collocations, antonyms, summarizing, and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Chapter 5: Process Essays	Process Essays Discussion CEFR Self-Evaluation (Initial) HW: Writing Practice Draft
3	Chapter 5: Process Essays	Process Essays Writing Practice Draft pair review HW: Writing Practice Final
4	Chapter 5: Process Essays	Process Essays Writing Practice Final group review HW: Review Chapter 5
5	Chapter 6: Cause / Effect Essays	Cause /Effect Essays Discussion HW: Writing 1 Draft
6	Chapter 6: Cause / Effect Essays	Cause /Effect Essays Writing 1 Draft pair review HW: Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE	Writing 1 Final DUE – 10% Discussion 1 – 10% Chapter 6: Cause /Effect Essays HW: Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Comparison /Contrast Essays Discussion HW: Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Comparison /Contrast Essays	Comparison /Contrast Essays Writing 2 Draft pair review HW: Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE	Writing 2 Final DUE – 10% Discussion 2 – 10% Chapter 7: Comparison /Contrast Essays HW: Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback	Writing 2 Final feedback Chapter 8: Argumentative Essays Discussion HW: Writing 3 Draft
12	Chapter 8: Argumentative Essays	Argumentative Essays Writing 3 Draft pair review HW: Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE	Writing 3 Final DUE – 10% Discussion 3 – 10% Chapter 8: Argumentative Essays CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys HW: Review Chapter 8 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback	Writing 3 Final feedback Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (essays). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice &Digital Resources,
5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30%(Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Originally from America, Steven started teaching English in Japan 5 years ago. Since the he has taught students of varying ages and English levels. No matter what age or level the student, Steven always aims to create an environment where each student is able to learn to their ability. By doing this he has been able to motivate students to promote their own selfimprovement. Punctual, patient and positive by nature, he believes teaching is a challenging and rewarding profession.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

【Outline (in English)】
This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure.

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE3 (Ichigaya): Writing &Discussion: Advanced II

Ryan Olimer

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：金5/Fri.5

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
· be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
· learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
· deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading /research
· develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
· engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the second four chapters of the textbook to analyze and practice writing four different essay types: Process Essays, Cause /Effect Essays, Comparison /Contrast Essays, and finally Argumentative Essays. Through these units various writing skills are explored including organization, thesis statements, collocations, antonyms, summarizing, and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Chapter 5: Process Essays	Process Essays Discussion CEFR Self-Evaluation (Initial) HW: Writing Practice Draft
3	Chapter 5: Process Essays	Process Essays Writing Practice Draft pair review HW: Writing Practice Final
4	Chapter 5: Process Essays	Process Essays Writing Practice Final group review HW: Review Chapter 5
5	Chapter 6: Cause / Effect Essays	Cause /Effect Essays Discussion HW: Writing 1 Draft
6	Chapter 6: Cause / Effect Essays	Cause /Effect Essays Writing 1 Draft pair review HW: Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE	Writing 1 Final DUE – 10% Discussion 1 – 10% Chapter 6: Cause /Effect Essays HW: Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Comparison /Contrast Essays Discussion HW: Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Comparison /Contrast Essays	Comparison /Contrast Essays Writing 2 Draft pair review HW: Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE	Writing 2 Final DUE – 10% Discussion 2 – 10% Chapter 7: Comparison /Contrast Essays HW: Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback	Writing 2 Final feedback Chapter 8: Argumentative Essays Discussion HW: Writing 3 Draft
12	Chapter 8: Argumentative Essays	Argumentative Essays Writing 3 Draft pair review HW: Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE	Writing 3 Final DUE – 10% Discussion 3 – 10% Chapter 8: Argumentative Essays CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys HW: Review Chapter 8 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback	Writing 3 Final feedback Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (essays). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice &Digital Resources,
5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30%(Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Ryan Olimer is originally from Toronto, Canada. He studied Psychology at university as well as TESOL/TESL before coming to Japan. While in Japan, Ryan has worked as an English Instructor for more than 20 years teaching students of all ages, from children all the way up to university and businesspeople. In his lessons he aims to be creative, flexible and to always to provide enjoyable atmosphere where the students can learn.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

【Outline (in English)】
This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure.

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Advanced II

Matt McCabe

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：木2/Thu.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make sophisticated academic presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
· expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
· engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
· expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
· work together with other students in collaborative project

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 7: Living space	Living space; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "Living space"
3	Unit 7: Living space	Living space; parts c-e Discussion HW: Unit 7 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 8: Travel; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Travel"
5	Unit 8: Trave	Travel; parts c-e Discussion HW: Unit 8 review
6	Unit 9: Shopping	Shopping; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Shopping"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 9: Shopping; parts c-e HW: Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 – 10% Unit 10: No limits; parts a-b HW: Prepare a short speech on "No limits"
9	Discussion 2	Discussion 2 -10% Unit 10: No limits; parts c-e HW: Unit 10 review
10	Unit 11: Connections	Connections; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Connections"
11	Discussion 3	Discussion 3 -10% Unit 11: Connections; parts c-e HW: Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 12: Experts; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3	Presentation 3 continued – 10% Unit 12: Experts; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW: Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Matt McCabe is originally from England, but he moved to Japan in 2010 where he has worked as an English Instructor. Matt has experience teaching a range of age groups and levels to Japanese students and in his lessons, he always aims to provide practical and engaging English instruction to his students. As Matt is fluent in both Japanese and German, he is able to understand the difficulty his students may have in learning a second language and be able to advise them accordingly to help them improve.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE3 (Ichigaya): Writing &Discussion: Advanced II

Samuel Harper

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：金3/Fri.3

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
· be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
· learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
· deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading /research
· develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
· engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the second four chapters of the textbook to analyze and practice writing four different essay types: Process Essays, Cause /Effect Essays, Comparison /Contrast Essays, and finally Argumentative Essays. Through these units various writing skills are explored including organization, thesis statements, collocations, antonyms, summarizing, and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Chapter 5: Process Essays	Process Essays Discussion CEFR Self-Evaluation (Initial) HW: Writing Practice Draft
3	Chapter 5: Process Essays	Process Essays Writing Practice Draft pair review HW: Writing Practice Final
4	Chapter 5: Process Essays	Process Essays Writing Practice Final group review HW: Review Chapter 5
5	Chapter 6: Cause / Effect Essays	Cause /Effect Essays Discussion HW: Writing 1 Draft
6	Chapter 6: Cause / Effect Essays	Cause /Effect Essays Writing 1 Draft pair review HW: Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE	Writing 1 Final DUE – 10% Discussion 1 – 10% Chapter 6: Cause /Effect Essays HW: Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Comparison /Contrast Essays Discussion HW: Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Comparison /Contrast Essays	Comparison /Contrast Essays Writing 2 Draft pair review HW: Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE	Writing 2 Final DUE – 10% Discussion 2 – 10% Chapter 7: Comparison /Contrast Essays HW: Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback	Writing 2 Final feedback Chapter 8: Argumentative Essays Discussion HW: Writing 3 Draft
12	Chapter 8: Argumentative Essays	Argumentative Essays Writing 3 Draft pair review HW: Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE	Writing 3 Final DUE – 10% Discussion 3 – 10% Chapter 8: Argumentative Essays CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys HW: Review Chapter 8 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback	Writing 3 Final feedback Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (essays). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice &Digital Resources,
5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30%(Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Sam Harper is from the south of England and has a background in science, centering around the biological sciences, medicine and pharmacology. He graduated in Medical Biochemistry. Following this, he obtained a Cambridge CELTA teaching qualification. His teaching experience includes both academic and corporate classes. He has taught business classes focusing on Presentations, Meetings, Negotiations and general Business Communication. In addition to these courses, Sam has facilitated discussion and writing courses at a prominent medical university in Tokyo. He also has over 2 years' experience teaching both IELTS and TOEIC examination courses. Sam's background in science and his teaching experience helps learners improve and develop their logical thinking skills during discussions and debates during lessons.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE1 (Ichigaya): Intensive English 1

ERP講師

Credit(s)：1 ｜ Semester：スプリングセッション/Spring Session ｜ Year：1〜4
Day/Period：集中・その他/intensive・other courses
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This 6-day 4-skills communication course aims to support and strengthen students' existing speaking, writing, reading and listening skills by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow effective communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in groups and individually
· improve writing skills by practicing the 5C's of effective writing and including supporting details
· engage in and lead discussions and debates on a range of topics
· improve reading skills such as skimming and scanning and summarising
· develop listening and note taking skills
· communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
· express opinions supported by simple reasoning
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation, CEFR, Pre-task, Reading, Writing	Orientation, CEFR Self-evaluation, Pre-task Presentations Reading Skill: Skimming / Scanning Read and Discuss Article 1: The Dream of Flight Writing Skills: The Five Cs of Good Writing, Paragraphs Brainstorm ideas for writing homework HW: Write 250 words about Article 1
2	Writing, Discussion, Listening, Presentation Skills	Share Writing and Discuss Listening Skill: Note-taking Listen and Discuss Article 2: The Story of the Chili Presentation Skills: Structure Brainstorm ideas for speech HW: Prepare a 3-min Speech on Article 2
3	Speech, Discussion, Reading, Debate Skills	Short Speeches and Discussion Reading Skill: Summarizing Read and Discuss Article 3: Mission to Mars Debate Skills: ORE Debate Skills: Strong Reasons HW: Prepare for an evaluated Debate on Article 3
4	Debate, Listening, Writing, Discussion, Reading&Listening Test	Evaluated Debate and Feedback Listening Skill: Listening for Details Listen and Discuss Article 4: Fantastic Festivals Writing Skills: Linking Ideas Reading &Listening Test HW: Write 250 words about Article 4
5	Writing, Discussion, Reading, Presentation Skills	Share Writing and Discuss Reading Skill: Building Vocabulary Read and Discuss Article 5: Mood Music Presentation Skills: Language Presentation Skills: Delivery HW: Practice Final Presentation
6	Final Presentations, CEFR, Course Review	Final Presentation Preparation and Practice Evaluated Final Presentations & Feedback CEFR Self-evaluation and action planning Course Review and Wrap up
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a day completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing writing assignments).

【Textbooks】
· Four Skills English (ALC EDUCATION)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Four or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Debate 20% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 20%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort); Reading Test 10%; Listening Test 10%

【Changes following student comments】
Not applicable

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+, English Placement Test α 640-689 or Students who has achieved a grade of A or above in the first year of required English (undergraduate students: sophomore or above).

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE2 (Ichigaya): Intensive English 2

ERP講師

Credit(s)：1 ｜ Semester：スプリングセッション/Spring Session ｜ Year：1〜4
Day/Period：集中・その他/intensive・other courses
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This 6-day 4-skills communication course aims to support and strengthen students' existing speaking, writing, reading and listening skills by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow effective communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in groups and individually
· improve writing skills by practicing the 5C's of effective writing and including supporting details
· engage in and lead discussions and debates on a range of topics
· improve reading skills such as skimming and scanning and summarising
· develop listening and note taking skills
· communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
· express opinions supported by simple reasoning
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation, CEFR, Pre-task, Reading, Writing	Orientation, CEFR Self-evaluation, Pre-task Presentations Reading Skill: Skimming / Scanning Read and Discuss Article 1: The Dream of Flight Writing Skills: The Five Cs of Good Writing, Paragraphs Brainstorm ideas for writing homework HW: Write 250 words about Article 1
2	Writing, Discussion, Listening, Presentation Skills	Share Writing and Discuss Listening Skill: Note-taking Listen and Discuss Article 2: The Story of the Chili Presentation Skills: Structure Brainstorm ideas for speech HW: Prepare a 3-min Speech on Article 2
3	Speech, Discussion, Reading, Debate Skills	Short Speeches and Discussion Reading Skill: Summarizing Read and Discuss Article 3: Mission to Mars Debate Skills: ORE Debate Skills: Strong Reasons HW: Prepare for an evaluated Debate on Article 3
4	Debate, Listening, Writing, Discussion, Reading&Listening Test	Evaluated Debate and Feedback Listening Skill: Listening for Details Listen and Discuss Article 4: Fantastic Festivals Writing Skills: Linking Ideas Reading &Listening Test HW: Write 250 words about Article 4
5	Writing, Discussion, Reading, Presentation Skills	Share Writing and Discuss Reading Skill: Building Vocabulary Read and Discuss Article 5: Mood Music Presentation Skills: Language Presentation Skills: Delivery HW: Practice Final Presentation
6	Final Presentations, CEFR, Course Review	Final Presentation Preparation and Practice Evaluated Final Presentations & Feedback CEFR Self-evaluation and action planning Course Review and Wrap up
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a day completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing writing assignments).

【Textbooks】
· Four Skills English (ALC EDUCATION)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Four or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Debate 20% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 20%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort); Reading Test 10%; Listening Test 10%

【Changes following student comments】
Not applicable

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 52+, TOEFL® ITP 470+, TOEIC® 550+, IELTS 5.5+ or EIKEN® CSE2.0 2304+ or English Placement Test α 690+

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE1 (Ichigaya): Intensive English 1

ERP講師

Credit(s)：1 ｜ Semester：スプリングセッション/Spring Session ｜ Year：1〜4
Day/Period：集中・その他/intensive・other courses
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This 6-day 4-skills communication course aims to support and strengthen students' existing speaking, writing, reading and listening skills by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow effective communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in groups and individually
· improve writing skills by practicing the 5C's of effective writing and including supporting details
· engage in and lead discussions and debates on a range of topics
· improve reading skills such as skimming and scanning and summarising
· develop listening and note taking skills
· communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
· express opinions supported by simple reasoning
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation, CEFR, Pre-task, Reading, Writing	Orientation, CEFR Self-evaluation, Pre-task Presentations Reading Skill: Skimming / Scanning Read and Discuss Article 1: The Dream of Flight Writing Skills: The Five Cs of Good Writing, Paragraphs Brainstorm ideas for writing homework HW: Write 250 words about Article 1
2	Writing, Discussion, Listening, Presentation Skills	Share Writing and Discuss Listening Skill: Note-taking Listen and Discuss Article 2: The Story of the Chili Presentation Skills: Structure Brainstorm ideas for speech HW: Prepare a 3-min Speech on Article 2
3	Speech, Discussion, Reading, Debate Skills	Short Speeches and Discussion Reading Skill: Summarizing Read and Discuss Article 3: Mission to Mars Debate Skills: ORE Debate Skills: Strong Reasons HW: Prepare for an evaluated Debate on Article 3
4	Debate, Listening, Writing, Discussion, Reading&Listening Test	Evaluated Debate and Feedback Listening Skill: Listening for Details Listen and Discuss Article 4: Fantastic Festivals Writing Skills: Linking Ideas Reading &Listening Test HW: Write 250 words about Article 4
5	Writing, Discussion, Reading, Presentation Skills	Share Writing and Discuss Reading Skill: Building Vocabulary Read and Discuss Article 5: Mood Music Presentation Skills: Language Presentation Skills: Delivery HW: Practice Final Presentation
6	Final Presentations, CEFR, Course Review	Final Presentation Preparation and Practice Evaluated Final Presentations & Feedback CEFR Self-evaluation and action planning Course Review and Wrap up
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a day completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing writing assignments).

【Textbooks】
· Four Skills English (ALC EDUCATION)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Four or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Debate 20% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 20%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort); Reading Test 10%; Listening Test 10%

【Changes following student comments】
Not applicable

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+, English Placement Test α 640-689 or Students who has achieved a grade of A or above in the first year of required English (undergraduate students: sophomore or above).

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE2 (Ichigaya): Intensive English 2

ERP講師

Credit(s)：1 ｜ Semester：スプリングセッション/Spring Session ｜ Year：1〜4
Day/Period：集中・その他/intensive・other courses
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This 6-day 4-skills communication course aims to support and strengthen students' existing speaking, writing, reading and listening skills by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow effective communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in groups and individually
· improve writing skills by practicing the 5C's of effective writing and including supporting details
· engage in and lead discussions and debates on a range of topics
· improve reading skills such as skimming and scanning and summarising
· develop listening and note taking skills
· communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
· express opinions supported by simple reasoning
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation, CEFR, Pre-task, Reading, Writing	Orientation, CEFR Self-evaluation, Pre-task Presentations Reading Skill: Skimming / Scanning Read and Discuss Article 1: The Dream of Flight Writing Skills: The Five Cs of Good Writing, Paragraphs Brainstorm ideas for writing homework HW: Write 250 words about Article 1
2	Writing, Discussion, Listening, Presentation Skills	Share Writing and Discuss Listening Skill: Note-taking Listen and Discuss Article 2: The Story of the Chili Presentation Skills: Structure Brainstorm ideas for speech HW: Prepare a 3-min Speech on Article 2
3	Speech, Discussion, Reading, Debate Skills	Short Speeches and Discussion Reading Skill: Summarizing Read and Discuss Article 3: Mission to Mars Debate Skills: ORE Debate Skills: Strong Reasons HW: Prepare for an evaluated Debate on Article 3
4	Debate, Listening, Writing, Discussion, Reading&Listening Test	Evaluated Debate and Feedback Listening Skill: Listening for Details Listen and Discuss Article 4: Fantastic Festivals Writing Skills: Linking Ideas Reading &Listening Test HW: Write 250 words about Article 4
5	Writing, Discussion, Reading, Presentation Skills	Share Writing and Discuss Reading Skill: Building Vocabulary Read and Discuss Article 5: Mood Music Presentation Skills: Language Presentation Skills: Delivery HW: Practice Final Presentation
6	Final Presentations, CEFR, Course Review	Final Presentation Preparation and Practice Evaluated Final Presentations & Feedback CEFR Self-evaluation and action planning Course Review and Wrap up
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a day completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing writing assignments).

【Textbooks】
· Four Skills English (ALC EDUCATION)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Four or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Debate 20% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 20%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort); Reading Test 10%; Listening Test 10%

【Changes following student comments】
Not applicable

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 52+, TOEFL® ITP 470+, TOEIC® 550+, IELTS 5.5+ or EIKEN® CSE2.0 2304+ or English Placement Test α 690+

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE1 (Tama): Oral Presentation &Discussion: Intermediate I

Matt Fuller

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：月2/Mon.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest-level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in pairs, groups and individually
· build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
· engage in and lead simple discussions on a range of topics
· improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
· express opinions supported by simple reasoning
· work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 1: People	People; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "People"
3	Unit 1: People	People; parts c-e Discussion HW: Unit 1 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 2: Possessions; parts a-b HW : Prepare a short speech on "Possessions"
5	Unit 2: Possessions	Possessions; parts c-e Discussion HW: Unit 2 review
6	Unit 3: Places	Places; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Places"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 3: Places; parts c-e HW: Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 - 10% Unit 4: Free Time; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Free Time"
9	Discussion 2	Discussion 2 – 10% Unit 4: Free Time; parts c-e HW: Unit 4 review
10	Unit 5: Food	Food; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Food"
11	Discussion 3	Discussion 3 – 10% Food; parts c-e HW: Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 6: Past Lives; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Past Lives; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW: Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Matt Fuller is from the World Heritage City of Bath, England. He joined publisher in 2008 as a Corporate Consultant and specializes in English Speaking Proficiency courses. Mr. Fuller is a qualified Standard Speaking Test Rater. Whilst at publisher, he has worked in an International Trading Company since 2008, where he led creative English-speaking classes, presentations and business meeting courses from beginner to advanced levels. From 2017 to 2021, he worked in a university in Tokyo as an Academic Advisor for both professors and students. He has a Certificate in English Language Teaching to Adults (CELTA) as well as a TESOL Certificate.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE1 (Tama): Oral Presentation &Discussion: Intermediate I

Matt Fuller

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：金2/Fri.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest-level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in pairs, groups and individually
· build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
· engage in and lead simple discussions on a range of topics
· improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
· express opinions supported by simple reasoning
· work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 1: People	People; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "People"
3	Unit 1: People	People; parts c-e Discussion HW: Unit 1 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 2: Possessions; parts a-b HW : Prepare a short speech on "Possessions"
5	Unit 2: Possessions	Possessions; parts c-e Discussion HW: Unit 2 review
6	Unit 3: Places	Places; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Places"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 3: Places; parts c-e HW: Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 - 10% Unit 4: Free Time; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Free Time"
9	Discussion 2	Discussion 2 – 10% Unit 4: Free Time; parts c-e HW: Unit 4 review
10	Unit 5: Food	Food; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Food"
11	Discussion 3	Discussion 3 – 10% Food; parts c-e HW: Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 6: Past Lives; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Past Lives; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW: Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Matt Fuller is from the World Heritage City of Bath, England. He joined publisher in 2008 as a Corporate Consultant and specializes in English Speaking Proficiency courses. Mr. Fuller is a qualified Standard Speaking Test Rater. Whilst at publisher, he has worked in an International Trading Company since 2008, where he led creative English-speaking classes, presentations and business meeting courses from beginner to advanced levels. From 2017 to 2021, he worked in a university in Tokyo as an Academic Advisor for both professors and students. He has a Certificate in English Language Teaching to Adults (CELTA) as well as a TESOL Certificate.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE1 (Tama): Writing &Discussion: Intermediate I

Matt McCabe

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：火2/Tue.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest-level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
· write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
· build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
· improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
· engage in and lead simple discussions on a range of topics
· manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
· confidently express opinions supported by simple reasoning
· work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first…second…" etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Chapter 1: Describing People	Describing People Discussion CEFR Self-Evaluation (Initial) HW: Prepare a discussion topic based on Chapter 1
3	Chapter 1: Describing People	Describing People Discussion HW: Writing 1 Draft
4	Chapter 1: Describing People	Describing People Writing 1 Draft pair review HW: Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE	Writing 1 Final DUE – 10% Discussion 1 – 10% Chapter 1: Describing People HW: Review Chapter 1
6	Writing 1 Final feedback	Writing 1 Final feedback Chapter 2: Listing-Order Paragraphs HW: Prepare a discussion topic based on Chapter 2
7	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs	Listing-Order Paragraphs Discussion HW: Writing 2 Draft
8	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs	Listing-Order Paragraphs Writing 2 Draft pair review HW: Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE	Writing 2 Final DUE – 10% Discussion 2 – 10% Chapter 2: Listing-Order Paragraphs HW: Review Chapter 2
10	Writing 2 Final feedback	Writing 2 Final feedback Chapter 3: Giving Instructions HW: Prepare a discussion topic based on Chapter 3
11	Chapter 3: Giving Instructions	Giving Instructions Discussion HW: Writing 3 Draft
12	Chapter 3: Giving Instructions	Giving Instructions Writing 3 Draft pair review HW: Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE	Writing 3 Final DUE – 10% Discussion 3 – 10% Chapter 3: Giving Instructions CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys HW: Review Chapter 3 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback	Writing 3 Final feedback Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Longman Academic Writing Series (Level 2); Paragraphs SB w/App, Online Practice &Digital Resources,
3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0136769996)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30%(Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Matt McCabe is originally from England, but he moved to Japan in 2010 where he has worked as an English Instructor. Matt has experience teaching a range of age groups and levels to Japanese students and in his lessons, he always aims to provide practical and engaging English instruction to his students. As Matt is fluent in both Japanese and German, he is able to understand the difficulty his students may have in learning a second language and be able to advise them accordingly to help them improve.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE1 (Tama): Writing &Discussion: Intermediate I

Joe Trujillo

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：木2/Thu.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest-level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
· write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
· build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
· improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
· engage in and lead simple discussions on a range of topics
· manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
· confidently express opinions supported by simple reasoning
· work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first…second…" etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Chapter 1: Describing People	Describing People Discussion CEFR Self-Evaluation (Initial) HW: Prepare a discussion topic based on Chapter 1
3	Chapter 1: Describing People	Describing People Discussion HW: Writing 1 Draft
4	Chapter 1: Describing People	Describing People Writing 1 Draft pair review HW: Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE	Writing 1 Final DUE – 10% Discussion 1 – 10% Chapter 1: Describing People HW: Review Chapter 1
6	Writing 1 Final feedback	Writing 1 Final feedback Chapter 2: Listing-Order Paragraphs HW: Prepare a discussion topic based on Chapter 2
7	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs	Listing-Order Paragraphs Discussion HW: Writing 2 Draft
8	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs	Listing-Order Paragraphs Writing 2 Draft pair review HW: Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE	Writing 2 Final DUE – 10% Discussion 2 – 10% Chapter 2: Listing-Order Paragraphs HW: Review Chapter 2
10	Writing 2 Final feedback	Writing 2 Final feedback Chapter 3: Giving Instructions HW: Prepare a discussion topic based on Chapter 3
11	Chapter 3: Giving Instructions	Giving Instructions Discussion HW: Writing 3 Draft
12	Chapter 3: Giving Instructions	Giving Instructions Writing 3 Draft pair review HW: Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE	Writing 3 Final DUE – 10% Discussion 3 – 10% Chapter 3: Giving Instructions CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys HW: Review Chapter 3 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback	Writing 3 Final feedback Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Longman Academic Writing Series (Level 2); Paragraphs SB w/App, Online Practice &Digital Resources,
3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0136769996)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30%(Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Joe Trujillo is from California, USA and majored in Creative Writing at the University of California. He has been teaching English in Japan for over 10 years in both university and corporate settings. Before teaching he gained experience working at Apple and as part of the Story Team for Final Fantasy XV. Joe creates an engaging lesson environment where he encourages students to communicate effectively. He sees every lesson as a chance for students to develop their own voice and to practice practical English they will use on a day-to-day basis.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE2 (Tama): Oral Presentation &Discussion: Higher-Intermediate I

Joe Trujillo

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4
Day/Period：木3/Thu.3
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make presentations in English (with PowerPoint, etc.) on academic and other topics, in pairs, groups and individually
· expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
· engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
· build analysis and decision-making skills through group discussion activities
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 1: Lifestyle	Lifestyle; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "Lifestyle"
3	Unit 1: Lifestyle	Lifestyle; parts c-e Discussion HW: Unit 1 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 2: Competitions; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Competitions"
5	Unit 2: Competitions	Competitions; parts c-e Discussion HW: Unit 2 review
6	Unit 3: Transportation	Transportation; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Transportation"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 3: Transportation; parts c-e HW: Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 – 10% Unit 4: Challenges; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Challenges"
9	Discussion 2	Discussion 2 – 10% Unit 4: Challenges; parts c-e HW: Unit 4 review
10	Unit 5: The Environment	The Environment; parts a-b HW: Prepare a short speech on "The Environment"
11	Discussion 3	Discussion 3 – 10% Unit 5: The Environment; parts c-e HW: Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 6: Stages of Life; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Stages of Life; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW: Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Joe Trujillo is from California, USA and majored in Creative Writing at the University of California. He has been teaching English in Japan for over 10 years in both university and corporate settings. Before teaching he gained experience working at Apple and as part of the Story Team for Final Fantasy XV. Joe creates an engaging lesson environment where he encourages students to communicate effectively. He sees every lesson as a chance for students to develop their own voice and to practice practical English they will use on a day-to-day basis.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE2 (Tama): Oral Presentation &Discussion: Higher-Intermediate I

Takao Kasumi

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4
Day/Period：金3/Fri.3
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make presentations in English (with PowerPoint, etc.) on academic and other topics, in pairs, groups and individually
· expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
· engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
· build analysis and decision-making skills through group discussion activities
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 1: Lifestyle	Lifestyle; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "Lifestyle"
3	Unit 1: Lifestyle	Lifestyle; parts c-e Discussion HW: Unit 1 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 2: Competitions; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Competitions"
5	Unit 2: Competitions	Competitions; parts c-e Discussion HW: Unit 2 review
6	Unit 3: Transportation	Transportation; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Transportation"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 3: Transportation; parts c-e HW: Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 – 10% Unit 4: Challenges; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Challenges"
9	Discussion 2	Discussion 2 – 10% Unit 4: Challenges; parts c-e HW: Unit 4 review
10	Unit 5: The Environment	The Environment; parts a-b HW: Prepare a short speech on "The Environment"
11	Discussion 3	Discussion 3 – 10% Unit 5: The Environment; parts c-e HW: Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 6: Stages of Life; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Stages of Life; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW: Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Takao "Tak" Kasumi is a U.S. licensed Attorney who has been teaching English business communication skills, including presentations, negotiations and meeting facilitation, for over nine years. He was raised and educated in the United States and has a background in finance as well as law. He is certified to teach English to Japanese students and is fluent in Japanese as he passed the highest level JLPT examination ten years ago. His goal is to help internationalize Japan by personally assisting business people communicate more effectively in international settings. His experience, passion and dedication to teaching is effective in assisting employees succeed globally.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE2 (Tama): Writing &Discussion: Higher-Intermediate I

Sandor Dome

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：火3/Tue.3

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
· write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
· expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
· build understanding of the difference between spoken and written English
· improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
· engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the first three chapters of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure and to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter nine of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Chapter 1: Academic Paragraphs	Academic Paragraphs Discussion CEFR Self-Evaluation (Initial) HW: Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Academic Paragraphs	Academic Paragraphs Writing Practice Draft pair review HW: Writing Practice Final
4	Chapter 1: Academic Paragraphs	Academic Paragraphs Writing Practice Final group review HW: Review Chapter 1
5	Chapter 2: Narrative Paragraphs	Narrative Paragraphs Discussion HW: Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Narrative Paragraphs	Narrative Paragraphs Writing 1 Draft pair review HW: Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE	Writing 1 Final DUE – 10% Discussion 1 – 10% Chapter 2: Narrative Paragraphs HW: Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Basic Paragraph Structure HW: Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Basic Paragraph Structure	Basic Paragraph Structure Writing 2 Draft pair review HW: Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE	Writing 2 Final DUE – 10% Discussion 2 – 10% Chapter 3: Basic Paragraph Structure HW: Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback	Writing 2 Final feedback Chapter 9: Essay Organization Discussion HW: Writing 3 Draft
12	Chapter 9: Essay Organization	Essay Organization Writing 3 Draft pair review HW: Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE	Writing 3 Final DUE – 10% Discussion 3 – 10% Chapter 9: Essay Organization CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys HW: Review Chapter 9 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback	Writing 3 Final feedback Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Longman Academic Writing Series (Level 3); Paragraphs to Essays SB w/App, Online Practice &Digital Resources,
4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838531)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30%(Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Gabor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining current job, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Gabor aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

【Outline (in English)】
This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure.

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE2 (Tama): Writing &Discussion: Higher-Intermediate I

Ryan Olimer

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：木2/Thu.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
· write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
· expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
· build understanding of the difference between spoken and written English
· improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
· engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the first three chapters of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure and to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter nine of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Chapter 1: Academic Paragraphs	Academic Paragraphs Discussion CEFR Self-Evaluation (Initial) HW: Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Academic Paragraphs	Academic Paragraphs Writing Practice Draft pair review HW: Writing Practice Final
4	Chapter 1: Academic Paragraphs	Academic Paragraphs Writing Practice Final group review HW: Review Chapter 1
5	Chapter 2: Narrative Paragraphs	Narrative Paragraphs Discussion HW: Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Narrative Paragraphs	Narrative Paragraphs Writing 1 Draft pair review HW: Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE	Writing 1 Final DUE – 10% Discussion 1 – 10% Chapter 2: Narrative Paragraphs HW: Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Basic Paragraph Structure HW: Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Basic Paragraph Structure	Basic Paragraph Structure Writing 2 Draft pair review HW: Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE	Writing 2 Final DUE – 10% Discussion 2 – 10% Chapter 3: Basic Paragraph Structure HW: Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback	Writing 2 Final feedback Chapter 9: Essay Organization Discussion HW: Writing 3 Draft
12	Chapter 9: Essay Organization	Essay Organization Writing 3 Draft pair review HW: Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE	Writing 3 Final DUE – 10% Discussion 3 – 10% Chapter 9: Essay Organization CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys HW: Review Chapter 9 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback	Writing 3 Final feedback Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Longman Academic Writing Series (Level 3); Paragraphs to Essays SB w/App, Online Practice &Digital Resources,
4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838531)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30%(Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Ryan Olimer is originally from Toronto, Canada. He studied Psychology at university as well as TESOL/TESL before coming to Japan. While in Japan, Ryan has worked as an English Instructor for more than 20 years teaching students of all ages, from children all the way up to university and businesspeople. In his lessons he aims to be creative, flexible and to always to provide enjoyable atmosphere where the students can learn.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE3 (Tama): Oral Presentation &Discussion: Advanced I

Ron Reid

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4
Day/Period：月2/Mon.2
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make academic presentations (with PowerPoint, etc.) in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
· expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
· engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
· expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 1: Culture and Identity	Culture and Identity; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "Culture and Identity"
3	Unit 1: Culture and Identity	Culture and Identity; parts c-e Discussion HW: Unit 1 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 2: Performing; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Performing"
5	Unit 2: Performing	Performing; parts c-e Discussion HW: Unit 2 review
6	Unit 3: Water	Water; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Water"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 3: Water; parts c-e HW: Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 – 10% Unit 4: Opportunities; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Opportunities"
9	Discussion 2	Discussion 2 – 10% Unit 4: Opportunities; parts c-e HW: Unit 4 review
10	Unit 5: Well-being	Well-being; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Well-being"
11	Discussion 3	Discussion 3 – 10% Unit 5: Well-being; parts c-e HW: Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 6: Mysteries; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Mysteries; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW:Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Ron Reid was originally from Canada. During his extensive career he has been invited to teach as a guest lecturer at Osaka University, as well as taught students from Kyoto, Nagoya and Chiba university. Some of his students have even been accepted to Harvard and
London School of Business. He believes that a fresh perspectives and trying new techniques help students evolve and integrate their individual potential. Through this methos he has helped students develop strong abilities in critical thinking, communication and leadership skills. He has been happy to lend his experience in living and visiting various countries to help students who were applying for student abroad programs with fun and interactive.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE3 (Tama): Oral Presentation &Discussion: Advanced I

Matt McCabe

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4
Day/Period：火3/Tue.3
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make academic presentations (with PowerPoint, etc.) in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
· expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
· engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
· expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 1: Culture and Identity	Culture and Identity; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "Culture and Identity"
3	Unit 1: Culture and Identity	Culture and Identity; parts c-e Discussion HW: Unit 1 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 2: Performing; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Performing"
5	Unit 2: Performing	Performing; parts c-e Discussion HW: Unit 2 review
6	Unit 3: Water	Water; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Water"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 3: Water; parts c-e HW: Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 – 10% Unit 4: Opportunities; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Opportunities"
9	Discussion 2	Discussion 2 – 10% Unit 4: Opportunities; parts c-e HW: Unit 4 review
10	Unit 5: Well-being	Well-being; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Well-being"
11	Discussion 3	Discussion 3 – 10% Unit 5: Well-being; parts c-e HW: Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 6: Mysteries; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Mysteries; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW:Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Matt McCabe is originally from England, but he moved to Japan in 2010 where he has worked as an English Instructor. Matt has experience teaching a range of age groups and levels to Japanese students and in his lessons, he always aims to provide practical and engaging English instruction to his students. As Matt is fluent in both Japanese and German, he is able to understand the difficulty his students may have in learning a second language and be able to advise them accordingly to help them improve.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE3 (Tama): Oral Presentation &Discussion: Advanced I

Ryan Olimer

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4
Day/Period：木3/Thu.3
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make academic presentations (with PowerPoint, etc.) in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
· expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
· engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
· expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 1: Culture and Identity	Culture and Identity; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "Culture and Identity"
3	Unit 1: Culture and Identity	Culture and Identity; parts c-e Discussion HW: Unit 1 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 2: Performing; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Performing"
5	Unit 2: Performing	Performing; parts c-e Discussion HW: Unit 2 review
6	Unit 3: Water	Water; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Water"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 3: Water; parts c-e HW: Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 – 10% Unit 4: Opportunities; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Opportunities"
9	Discussion 2	Discussion 2 – 10% Unit 4: Opportunities; parts c-e HW: Unit 4 review
10	Unit 5: Well-being	Well-being; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Well-being"
11	Discussion 3	Discussion 3 – 10% Unit 5: Well-being; parts c-e HW: Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 6: Mysteries; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Mysteries; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW:Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Ryan Olimer is originally from Toronto, Canada. He studied Psychology at university as well as TESOL/TESL before coming to Japan. While in Japan, Ryan has worked as an English Instructor for more than 20 years teaching students of all ages, from children all the way up to university and businesspeople. In his lessons he aims to be creative, flexible and to always to provide enjoyable atmosphere where the students can learn.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE3 (Tama): Writing &Discussion: Advanced I

Matt Fuller

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4
Day/Period：月3/Mon.3
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
· be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
· learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
· deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading /research
· develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
· engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Chapter 1: Paragraph Structure	Paragraph Structure Discussion CEFR Self-Evaluation (Initial) HW: Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Paragraph Structure	Paragraph Structure Writing Practice Draft pair review HW: Writing Practice Final
4	Chapter 1: Paragraph Structure	Paragraph Structure Writing Practice Final group review HW: Review Chapter 1
5	Chapter 2: Unity and Coherence	Unity and Coherence Discussion HW: Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Unity and Coherence	Unity and Coherence Writing 1 Draft pair review HW: Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE	Writing 1 Final DUE – 10% Discussion 1 – 10% Chapter 2: Unit and Coherence HW: Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Using Outside Sources Discussion HW: Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Using Outside Sources	Using Outside Sources Writing 2 Draft pair review HW: Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE	Writing 2 Final DUE – 10% Discussion 2 – 10% Chapter 3: Using Outside Sources HW: Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback	Writing 2 Final feedback Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion HW: Writing 3 Draft
12	Chapter 4: From Paragraph to Essay	From Paragraph to Essay Writing 3 Draft pair review HW: Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE	Writing 3 Final DUE – 10% Discussion 3 – 10% Chapter 4: From Paragraph to Essay CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys HW: Review Chapter 4 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback	Writing 3 Final feedback Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice &Digital Resources,
5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30%(Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Matt Fuller is from the World Heritage City of Bath, England. He joined publisher in 2008 as a Corporate Consultant and specializes in English Speaking Proficiency courses. Mr. Fuller is a qualified Standard Speaking Test Rater. Whilst at publisher, he has worked in an International Trading Company since 2008, where he led creative English-speaking classes, presentations and business meeting courses from beginner to advanced levels. From 2017 to 2021, he worked in a university in Tokyo as an Academic Advisor for both professors and students. He has a Certificate in English Language Teaching to Adults (CELTA) as well as a TESOL Certificate.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE3 (Tama): Writing &Discussion: Advanced I

Takao Kasumi

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4
Day/Period：金2/Fri.2
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
· be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
· learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
· deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading /research
· develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
· engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Chapter 1: Paragraph Structure	Paragraph Structure Discussion CEFR Self-Evaluation (Initial) HW: Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Paragraph Structure	Paragraph Structure Writing Practice Draft pair review HW: Writing Practice Final
4	Chapter 1: Paragraph Structure	Paragraph Structure Writing Practice Final group review HW: Review Chapter 1
5	Chapter 2: Unity and Coherence	Unity and Coherence Discussion HW: Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Unity and Coherence	Unity and Coherence Writing 1 Draft pair review HW: Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE	Writing 1 Final DUE – 10% Discussion 1 – 10% Chapter 2: Unit and Coherence HW: Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Using Outside Sources Discussion HW: Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Using Outside Sources	Using Outside Sources Writing 2 Draft pair review HW: Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE	Writing 2 Final DUE – 10% Discussion 2 – 10% Chapter 3: Using Outside Sources HW: Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback	Writing 2 Final feedback Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion HW: Writing 3 Draft
12	Chapter 4: From Paragraph to Essay	From Paragraph to Essay Writing 3 Draft pair review HW: Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE	Writing 3 Final DUE – 10% Discussion 3 – 10% Chapter 4: From Paragraph to Essay CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys HW: Review Chapter 4 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback	Writing 3 Final feedback Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice &Digital Resources,
5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30%(Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Takao "Tak" Kasumi is a U.S. licensed Attorney who has been teaching English business communication skills, including presentations, negotiations and meeting facilitation, for over nine years. He was raised and educated in the United States and has a background in finance as well as law. He is certified to teach English to Japanese students and is fluent in Japanese as he passed the highest level JLPT examination ten years ago. His goal is to help internationalize Japan by personally assisting business people communicate more effectively in international settings. His experience, passion and dedication to teaching is effective in assisting employees succeed globally.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE3 (Tama): Writing &Discussion: Advanced I

Matt Fuller

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4
Day/Period：金3/Fri.3
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
· be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
· learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
· deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading /research
· develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
· engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Chapter 1: Paragraph Structure	Paragraph Structure Discussion CEFR Self-Evaluation (Initial) HW: Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Paragraph Structure	Paragraph Structure Writing Practice Draft pair review HW: Writing Practice Final
4	Chapter 1: Paragraph Structure	Paragraph Structure Writing Practice Final group review HW: Review Chapter 1
5	Chapter 2: Unity and Coherence	Unity and Coherence Discussion HW: Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Unity and Coherence	Unity and Coherence Writing 1 Draft pair review HW: Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE	Writing 1 Final DUE – 10% Discussion 1 – 10% Chapter 2: Unit and Coherence HW: Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Using Outside Sources Discussion HW: Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Using Outside Sources	Using Outside Sources Writing 2 Draft pair review HW: Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE	Writing 2 Final DUE – 10% Discussion 2 – 10% Chapter 3: Using Outside Sources HW: Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback	Writing 2 Final feedback Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion HW: Writing 3 Draft
12	Chapter 4: From Paragraph to Essay	From Paragraph to Essay Writing 3 Draft pair review HW: Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE	Writing 3 Final DUE – 10% Discussion 3 – 10% Chapter 4: From Paragraph to Essay CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys HW: Review Chapter 4 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback	Writing 3 Final feedback Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice &Digital Resources,
5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30%(Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Matt Fuller is from the World Heritage City of Bath, England. He joined publisher in 2008 as a Corporate Consultant and specializes in English Speaking Proficiency courses. Mr. Fuller is a qualified Standard Speaking Test Rater. Whilst at publisher, he has worked in an International Trading Company since 2008, where he led creative English-speaking classes, presentations and business meeting courses from beginner to advanced levels. From 2017 to 2021, he worked in a university in Tokyo as an Academic Advisor for both professors and students. He has a Certificate in English Language Teaching to Adults (CELTA) as well as a TESOL Certificate.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE1 (Tama): Oral Presentation &Discussion: Intermediate II

Stephen O' Leary

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：火3/Tue.3

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make basic presentations in English, in pairs, groups and individually
· build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
· engage in and lead simple discussions on a range of topics
· improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
· express opinions supported by simple reasoning
· work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 7: Journeys	Journeys; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "Journeys"
3	Unit 7: Journeys	Journeys; parts c-e Discussion HW: Unit 7 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 8: Appearance; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Appearance"
5	Unit 8: Appearance	Appearance; parts c-e Discussion HW: Unit 8 review
6	Unit 9: Entertainment	Entertainment; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Entertainment"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 9: Entertainment; parts c-e HW: Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 – 10% Unit 10: Learning; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Learning"
9	Discussion 2	Discussion 2 – 10% Unit 10: Learning; parts c-e HW: Unit 10 review
10	Unit 11: Tourism	Tourism; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Tourism"
11	Discussion 3	Discussion 3 – 10% Unit 11: Tourism; parts c-e HW: Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 12: The Earth; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued	Presentation 3 continued – 10% Unit 12: The Earth; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW:Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Stephen O'Leary came to Japan from England in 2019. As he has a BA (honors) Degree in English, as well as TEFL and IELTS qualifications he is able to provide an authentic, engaging, and customized language experience to best fit the classroom and the goals of all students, whilst simultaneously meeting curriculum expectations. Students and clients enjoy his studentcentered lessons; where they have opportunities to share their knowledge and language with ample encouragement and clear guidance. Stephen's students have praised him for his professional manner and his excellent knowledge of the subjects he is teaching.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE1 (Tama): Oral Presentation &Discussion: Intermediate II

Ryan Olimer

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：木2/Thu.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make basic presentations in English, in pairs, groups and individually
· build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
· engage in and lead simple discussions on a range of topics
· improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
· express opinions supported by simple reasoning
· work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 7: Journeys	Journeys; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "Journeys"
3	Unit 7: Journeys	Journeys; parts c-e Discussion HW: Unit 7 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 8: Appearance; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Appearance"
5	Unit 8: Appearance	Appearance; parts c-e Discussion HW: Unit 8 review
6	Unit 9: Entertainment	Entertainment; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Entertainment"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 9: Entertainment; parts c-e HW: Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 – 10% Unit 10: Learning; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Learning"
9	Discussion 2	Discussion 2 – 10% Unit 10: Learning; parts c-e HW: Unit 10 review
10	Unit 11: Tourism	Tourism; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Tourism"
11	Discussion 3	Discussion 3 – 10% Unit 11: Tourism; parts c-e HW: Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 12: The Earth; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued	Presentation 3 continued – 10% Unit 12: The Earth; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW:Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Ryan Olimer is originally from Toronto, Canada. He studied Psychology at university as well as TESOL/TESL before coming to Japan. While in Japan, Ryan has worked as an English Instructor for more than 20 years teaching students of all ages, from children all the way up to university and businesspeople. In his lessons he aims to be creative, flexible and to always to provide enjoyable atmosphere where the students can learn.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE1 (Tama): Writing &Discussion: Intermediate II

Ryan Olimer

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：月2/Mon.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
· write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
· build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
· improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
· engage in and lead simple discussions on a range of topics
· manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
· confidently express opinions supported by simple reasoning
· work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the final three chapters in the textbook firstly to analyze and practice space-order ("on the left…behind that") descriptive paragraphs, secondly to recognize and practice writing well-reasoned paragraphs supported by examples, and thirdly to build students' ability to write simple logical opinions in longer paragraphs. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Chapter 4: Describing with Space Order	Describing with Space Order CEFR Self-Evaluation (Initial) HW: Prepare a discussion topic based on Chapter 4
3	Chapter 4: Describing with Space Order	Describing with Space Order Discussion HW: Writing 1 Draft
4	Chapter 4: Describing with Space Order	Describing with Space Order Writing 1 Draft pair review HW: Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE	Writing 1 Final DUE – 10% Discussion 1 – 10% Chapter 4: Describing with Space Order HW: Review Chapter 4
6	Writing 1 Final feedback	Writing 1 Final feedback Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples HW: Prepare a discussion topic based on Chapter 5
7	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples	Stating Reasons and Using Examples Discussion HW: Writing 2 Draft
8	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples	Stating Reasons and Using Examples Writing 2 Draft pair review HW: Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE	Writing 2 Final DUE – 10% Discussion 2 – 10% Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples HW: Review Chapter 5
10	Writing 2 Final feedback	Writing 2 Final feedback Chapter 6: Expressing Your Opinion HW: Prepare a discussion topic based on Chapter 6
11	Chapter 6: Expressing Your Opinion	Expressing Your Opinion Discussion HW: Writing 3 Draft
12	Chapter 6: Expressing Your Opinion	Expressing Your Opinion Writing 3 Draft pair review HW: Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE	Writing 3 Final DUE – 10% Discussion 3 – 10% Chapter 6: Expressing Your Opinion CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys HW: Review Chapter 6 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback	Writing 3 Final feedback Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (paragraphs). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Longman Academic Writing Series (Level 2); Paragraphs SB w/App, Online Practice &Digital Resources,
3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0136769996)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30%(Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Ryan Olimer is originally from Toronto, Canada. He studied Psychology at university as well as TESOL/TESL before coming to Japan. While in Japan, Ryan has worked as an English Instructor for more than 20 years teaching students of all ages, from children all the way up to university and businesspeople. In his lessons he aims to be creative, flexible and to always to provide enjoyable atmosphere where the students can learn.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE2 (Tama): Oral Presentation &Discussion: Higher-Intermediate II

Jason Burnett

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：月2/Mon.2
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make effective presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
· expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
· engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
· improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native and non-native speakers
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
· build analysis and decision-making skills through group discussion activities
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 7: Work	Work; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "Work"
3	Unit 7: Work	Work; parts c-e Discussion HW: Unit 7 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 8: Technology; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Technology"
5	Unit 8: Technology	Technology; parts c-e Discussion HW: Unit 8 review
6	Unit 9: Vacations	Vacations; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Vacations"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 9: Vacations; parts c-e HW: Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 – 10% Unit 10: Products; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Products"
9	Discussion 2	Discussion 2 – 10% Unit 10: Products; parts c-e HW: Unit 10 review
10	Unit 11: History	History; parts a-b HW: Prepare a short speech on "History"
11	Discussion 3	Discussion 3 – 10% Unit 11: History; parts c-e HW: Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 12: Nature; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued	Presentation 3 continued – 10% Unit 12: Nature; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW: Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Jason Burnett was originally from England eut has eeen teaching in Japan for the last 12 years. He has many years of experience teaching English at University and College estaelishments in Tokyo as well as some corporate classes. He prides himself on eeing professional at all times in the workplace. His lessons plans are always well prepared, and he is aele to create classes that keep his students engaged whilst always delivering the targeted lesson material of the class. His students always appreciate his friendly and easy to approach nature. He enjoys working with students, sharing his English communication expertise as well as euilding students' confidence and determination to achieve the most demanding goals.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE2 (Tama): Oral Presentation &Discussion: Higher-Intermediate II

Matt Fuller

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：金2/Fri.2
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make effective presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
· expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
· engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
· improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native and non-native speakers
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
· build analysis and decision-making skills through group discussion activities
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 7: Work	Work; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "Work"
3	Unit 7: Work	Work; parts c-e Discussion HW: Unit 7 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 8: Technology; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Technology"
5	Unit 8: Technology	Technology; parts c-e Discussion HW: Unit 8 review
6	Unit 9: Vacations	Vacations; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Vacations"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 9: Vacations; parts c-e HW: Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 – 10% Unit 10: Products; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Products"
9	Discussion 2	Discussion 2 – 10% Unit 10: Products; parts c-e HW: Unit 10 review
10	Unit 11: History	History; parts a-b HW: Prepare a short speech on "History"
11	Discussion 3	Discussion 3 – 10% Unit 11: History; parts c-e HW: Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 12: Nature; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued	Presentation 3 continued – 10% Unit 12: Nature; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW: Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Matt Fuller is from the World Heritage City of Bath, England. He joined publisher in 2008 as a Corporate Consultant and specializes in English Speaking Proficiency courses. Mr. Fuller is a qualified Standard Speaking Test Rater. Whilst at publisher, he has worked in an International Trading Company since 2008, where he led creative English-speaking classes, presentations and business meeting courses from beginner to advanced levels. From 2017 to 2021, he worked in a university in Tokyo as an Academic Advisor for both professors and students. He has a Certificate in English Language Teaching to Adults (CELTA) as well as a TESOL Certificate.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE2 (Tama): Writing &Discussion: Higher-Intermediate II

Stephen O' Leary

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：火2/Tue.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
· write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
· expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
· build understanding of the difference between spoken and written English
· improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
· engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses chapters five, six and seven of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure, to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter ten of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Chapter 5: Process Paragraphs	Process Paragraphs Discussion CEFR Self-Evaluation (Initial) HW: Writing Practice Draft
3	Chapter 5: Process Paragraphs	Process Paragraphs Writing Practice Draft pair review HW: Writing Practice Final
4	Chapter 5: Process Paragraphs	Process Paragraphs Writing Practice Final group review HW: Review Chapter 5
5	Chapter 6: Definition Paragraphs	Definition Paragraphs Discussion HW: Writing 1 Draft
6	Chapter 6: Definition Paragraphs	Definition Paragraphs Writing 1 Draft pair review HW: Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE	Writing 1 Final DUE – 10% Discussion 1 – 10% Chapter 6: Definition Paragraphs HW: Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Cause /Effect Paragraphs Discussion HW: Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs	Cause /Effect Paragraphs Writing 2 Draft pair review HW: Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE	Writing 2 Final DUE – 10% Discussion 2 – 10% Chapter 7: Cause /Effect Paragraphs HW: Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback	Writing 2 Final feedback Chapter 10: Opinion Essays Discussion HW: Writing 3 Draft
12	Chapter 10: Opinion Essays	Opinion Essays Writing 3 Draft pair review HW: Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE	Writing 3 Final DUE – 10% Discussion 3 – 10% Chapter 10: Opinion Essays CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys HW: Review Chapter 10 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback	Writing 3 Final feedback Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (paragraphs and essays). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Longman Academic Writing Series (Level 3); Paragraphs to Essays SB w/App, Online Practice &Digital Resources,
4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838531)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30%(Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Stephen O'Leary came to Japan from England in 2019. As he has a BA (honors) Degree in English, as well as TEFL and IELTS qualifications he is able to provide an authentic, engaging, and customized language experience to best fit the classroom and the goals of all students, whilst simultaneously meeting curriculum expectations. Students and clients enjoy his studentcentered lessons; where they have opportunities to share their knowledge and language with ample encouragement and clear guidance. Stephen's students have praised him for his professional manner and his excellent knowledge of the subjects he is teaching.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE2 (Tama): Writing &Discussion: Higher-Intermediate II

Ryan Olimer

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：木3/Thu.3

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
· write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
· expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
· build understanding of the difference between spoken and written English
· improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
· engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses chapters five, six and seven of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure, to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter ten of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Chapter 5: Process Paragraphs	Process Paragraphs Discussion CEFR Self-Evaluation (Initial) HW: Writing Practice Draft
3	Chapter 5: Process Paragraphs	Process Paragraphs Writing Practice Draft pair review HW: Writing Practice Final
4	Chapter 5: Process Paragraphs	Process Paragraphs Writing Practice Final group review HW: Review Chapter 5
5	Chapter 6: Definition Paragraphs	Definition Paragraphs Discussion HW: Writing 1 Draft
6	Chapter 6: Definition Paragraphs	Definition Paragraphs Writing 1 Draft pair review HW: Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE	Writing 1 Final DUE – 10% Discussion 1 – 10% Chapter 6: Definition Paragraphs HW: Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Cause /Effect Paragraphs Discussion HW: Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs	Cause /Effect Paragraphs Writing 2 Draft pair review HW: Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE	Writing 2 Final DUE – 10% Discussion 2 – 10% Chapter 7: Cause /Effect Paragraphs HW: Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback	Writing 2 Final feedback Chapter 10: Opinion Essays Discussion HW: Writing 3 Draft
12	Chapter 10: Opinion Essays	Opinion Essays Writing 3 Draft pair review HW: Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE	Writing 3 Final DUE – 10% Discussion 3 – 10% Chapter 10: Opinion Essays CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys HW: Review Chapter 10 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback	Writing 3 Final feedback Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (paragraphs and essays). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Longman Academic Writing Series (Level 3); Paragraphs to Essays SB w/App, Online Practice &Digital Resources,
4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838531)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30%(Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Ryan Olimer is originally from Toronto, Canada. He studied Psychology at university as well as TESOL/TESL before coming to Japan. While in Japan, Ryan has worked as an English Instructor for more than 20 years teaching students of all ages, from children all the way up to university and businesspeople. In his lessons he aims to be creative, flexible and to always to provide enjoyable atmosphere where the students can learn.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE3 (Tama): Oral Presentation &Discussion: Advanced II

Takao Kasumi

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：火3/Tue.3

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make sophisticated academic presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
· expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
· engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
· expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
· work together with other students in collaborative project

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 7: Living space	Living space; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "Living space"
3	Unit 7: Living space	Living space; parts c-e Discussion HW: Unit 7 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 8: Travel; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Travel"
5	Unit 8: Trave	Travel; parts c-e Discussion HW: Unit 8 review
6	Unit 9: Shopping	Shopping; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Shopping"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 9: Shopping; parts c-e HW: Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 – 10% Unit 10: No limits; parts a-b HW: Prepare a short speech on "No limits"
9	Discussion 2	Discussion 2 -10% Unit 10: No limits; parts c-e HW: Unit 10 review
10	Unit 11: Connections	Connections; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Connections"
11	Discussion 3	Discussion 3 -10% Unit 11: Connections; parts c-e HW: Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 12: Experts; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3	Presentation 3 continued – 10% Unit 12: Experts; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW: Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Takao "Tak" Kasumi is a U.S. licensed Attorney who has been teaching English business communication skills, including presentations, negotiations and meeting facilitation, for over nine years. He was raised and educated in the United States and has a background in finance as well as law. He is certified to teach English to Japanese students and is fluent in Japanese as he passed the highest level JLPT examination ten years ago. His goal is to help internationalize Japan by personally assisting business people communicate more effectively in international settings. His experience, passion and dedication to teaching is effective in assisting employees succeed globally.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE3 (Tama): Oral Presentation &Discussion: Advanced II

Joe Trujillo

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：木3/Thu.3

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make sophisticated academic presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
· expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
· engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
· expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
· work together with other students in collaborative project

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 7: Living space	Living space; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "Living space"
3	Unit 7: Living space	Living space; parts c-e Discussion HW: Unit 7 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 8: Travel; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Travel"
5	Unit 8: Trave	Travel; parts c-e Discussion HW: Unit 8 review
6	Unit 9: Shopping	Shopping; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Shopping"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 9: Shopping; parts c-e HW: Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 – 10% Unit 10: No limits; parts a-b HW: Prepare a short speech on "No limits"
9	Discussion 2	Discussion 2 -10% Unit 10: No limits; parts c-e HW: Unit 10 review
10	Unit 11: Connections	Connections; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Connections"
11	Discussion 3	Discussion 3 -10% Unit 11: Connections; parts c-e HW: Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 12: Experts; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3	Presentation 3 continued – 10% Unit 12: Experts; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW: Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Joe Trujillo is from California, USA and majored in Creative Writing at the University of California. He has been teaching English in Japan for over 10 years in both university and corporate settings. Before teaching he gained experience working at Apple and as part of the Story Team for Final Fantasy XV. Joe creates an engaging lesson environment where he encourages students to communicate effectively. He sees every lesson as a chance for students to develop their own voice and to practice practical English they will use on a day-to-day basis.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE3 (Tama): Writing &Discussion: Advanced II

Ryan Olimer

Credit(s)：1　|　Semester：秋学期授業/Fall　|　Year：1〜4
Day/Period：月3/Mon.3

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
· be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
· learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
· deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading /research
· develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
· engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the second four chapters of the textbook to analyze and practice writing four different essay types: Process Essays, Cause /Effect Essays, Comparison /Contrast Essays, and finally Argumentative Essays. Through these units various writing skills are explored including organization, thesis statements, collocations, antonyms, summarizing, and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Chapter 5: Process Essays	Process Essays Discussion CEFR Self-Evaluation (Initial) HW: Writing Practice Draft
3	Chapter 5: Process Essays	Process Essays Writing Practice Draft pair review HW: Writing Practice Final
4	Chapter 5: Process Essays	Process Essays Writing Practice Final group review HW: Review Chapter 5
5	Chapter 6: Cause / Effect Essays	Cause /Effect Essays Discussion HW: Writing 1 Draft
6	Chapter 6: Cause / Effect Essays	Cause /Effect Essays Writing 1 Draft pair review HW: Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE	Writing 1 Final DUE – 10% Discussion 1 – 10% Chapter 6: Cause /Effect Essays HW: Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Comparison /Contrast Essays Discussion HW: Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Comparison /Contrast Essays	Comparison /Contrast Essays Writing 2 Draft pair review HW: Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE	Writing 2 Final DUE – 10% Discussion 2 – 10% Chapter 7: Comparison /Contrast Essays HW: Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback	Writing 2 Final feedback Chapter 8: Argumentative Essays Discussion HW: Writing 3 Draft
12	Chapter 8: Argumentative Essays	Argumentative Essays Writing 3 Draft pair review HW: Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE	Writing 3 Final DUE – 10% Discussion 3 – 10% Chapter 8: Argumentative Essays CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys HW: Review Chapter 8 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback	Writing 3 Final feedback Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (essays). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice &Digital Resources,
5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30%(Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Ryan Olimer is originally from Toronto, Canada. He studied Psychology at university as well as TESOL/TESL before coming to Japan. While in Japan, Ryan has worked as an English Instructor for more than 20 years teaching students of all ages, from children all the way up to university and businesspeople. In his lessons he aims to be creative, flexible and to always to provide enjoyable atmosphere where the students can learn.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE3 (Tama): Writing &Discussion: Advanced II

Matt Fuller

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：金3/Fri.3

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
· be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
· learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
· deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading /research
· develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
· engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the second four chapters of the textbook to analyze and practice writing four different essay types: Process Essays, Cause /Effect Essays, Comparison /Contrast Essays, and finally Argumentative Essays. Through these units various writing skills are explored including organization, thesis statements, collocations, antonyms, summarizing, and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Chapter 5: Process Essays	Process Essays Discussion CEFR Self-Evaluation (Initial) HW: Writing Practice Draft
3	Chapter 5: Process Essays	Process Essays Writing Practice Draft pair review HW: Writing Practice Final
4	Chapter 5: Process Essays	Process Essays Writing Practice Final group review HW: Review Chapter 5
5	Chapter 6: Cause / Effect Essays	Cause /Effect Essays Discussion HW: Writing 1 Draft
6	Chapter 6: Cause / Effect Essays	Cause /Effect Essays Writing 1 Draft pair review HW: Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE	Writing 1 Final DUE – 10% Discussion 1 – 10% Chapter 6: Cause /Effect Essays HW: Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Comparison /Contrast Essays Discussion HW: Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Comparison /Contrast Essays	Comparison /Contrast Essays Writing 2 Draft pair review HW: Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE	Writing 2 Final DUE – 10% Discussion 2 – 10% Chapter 7: Comparison /Contrast Essays HW: Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback	Writing 2 Final feedback Chapter 8: Argumentative Essays Discussion HW: Writing 3 Draft
12	Chapter 8: Argumentative Essays	Argumentative Essays Writing 3 Draft pair review HW: Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE	Writing 3 Final DUE – 10% Discussion 3 – 10% Chapter 8: Argumentative Essays CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys HW: Review Chapter 8 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback	Writing 3 Final feedback Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (essays). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice &Digital Resources,
5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30%(Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Matt Fuller is from the World Heritage City of Bath, England. He joined publisher in 2008 as a Corporate Consultant and specializes in English Speaking Proficiency courses. Mr. Fuller is a qualified Standard Speaking Test Rater. Whilst at publisher, he has worked in an International Trading Company since 2008, where he led creative English-speaking classes, presentations and business meeting courses from beginner to advanced levels. From 2017 to 2021, he worked in a university in Tokyo as an Academic Advisor for both professors and students. He has a Certificate in English Language Teaching to Adults (CELTA) as well as a TESOL Certificate.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE3 (Tama): Oral Presentation &Discussion: Advanced II

Takao Kasumi

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：金2/Fri.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make sophisticated academic presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
· expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
· engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
· expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
· work together with other students in collaborative project

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 7: Living space	Living space; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "Living space"
3	Unit 7: Living space	Living space; parts c-e Discussion HW: Unit 7 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 8: Travel; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Travel"
5	Unit 8: Trave	Travel; parts c-e Discussion HW: Unit 8 review
6	Unit 9: Shopping	Shopping; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Shopping"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 9: Shopping; parts c-e HW: Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 – 10% Unit 10: No limits; parts a-b HW: Prepare a short speech on "No limits"
9	Discussion 2	Discussion 2 -10% Unit 10: No limits; parts c-e HW: Unit 10 review
10	Unit 11: Connections	Connections; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Connections"
11	Discussion 3	Discussion 3 -10% Unit 11: Connections; parts c-e HW: Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 12: Experts; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3	Presentation 3 continued – 10% Unit 12: Experts; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW: Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Takao "Tak" Kasumi is a U.S. licensed Attorney who has been teaching English business communication skills, including presentations, negotiations and meeting facilitation, for over nine years. He was raised and educated in the United States and has a background in finance as well as law. He is certified to teach English to Japanese students and is fluent in Japanese as he passed the highest level JLPT examination ten years ago. His goal is to help internationalize Japan by personally assisting business people communicate more effectively in international settings. His experience, passion and dedication to teaching is effective in assisting employees succeed globally.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE1 (Koganei): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I

Ron Reid

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：火2/Tue.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest-level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in pairs, groups and individually
· build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
· engage in and lead simple discussions on a range of topics
· improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
· express opinions supported by simple reasoning
· work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 1: People	People; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "People"
3	Unit 1: People	People; parts c-e Discussion HW: Unit 1 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 2: Possessions; parts a-b HW : Prepare a short speech on "Possessions"
5	Unit 2: Possessions	Possessions; parts c-e Discussion HW: Unit 2 review
6	Unit 3: Places	Places; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Places"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 3: Places; parts c-e HW: Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 - 10% Unit 4: Free Time; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Free Time"
9	Discussion 2	Discussion 2 – 10% Unit 4: Free Time; parts c-e HW: Unit 4 review
10	Unit 5: Food	Food; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Food"
11	Discussion 3	Discussion 3 – 10% Food; parts c-e HW: Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 6: Past Lives; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Past Lives; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW: Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Ron Reid was originally from Canada. During his extensive career he has been invited to teach as a guest lecturer at Osaka University, as well as taught students from Kyoto, Nagoya and Chiba university. Some of his students have even been accepted to Harvard and
London School of Business. He believes that a fresh perspectives and trying new techniques help students evolve and integrate their individual potential. Through this methos he has helped students develop strong abilities in critical thinking, communication and leadership skills. He has been happy to lend his experience in living and visiting various countries to help students who were applying for student abroad programs with fun and interactive.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE1 (Koganei): Writing &Discussion: Intermediate I

Steven Braunbach

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：金2/Fri.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest-level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
· write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
· build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
· improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
· engage in and lead simple discussions on a range of topics
· manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
· confidently express opinions supported by simple reasoning
· work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first…second…" etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Chapter 1: Describing People	Describing People Discussion CEFR Self-Evaluation (Initial) HW: Prepare a discussion topic based on Chapter 1
3	Chapter 1: Describing People	Describing People Discussion HW: Writing 1 Draft
4	Chapter 1: Describing People	Describing People Writing 1 Draft pair review HW: Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE	Writing 1 Final DUE – 10% Discussion 1 – 10% Chapter 1: Describing People HW: Review Chapter 1
6	Writing 1 Final feedback	Writing 1 Final feedback Chapter 2: Listing-Order Paragraphs HW: Prepare a discussion topic based on Chapter 2
7	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs	Listing-Order Paragraphs Discussion HW: Writing 2 Draft
8	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs	Listing-Order Paragraphs Writing 2 Draft pair review HW: Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE	Writing 2 Final DUE – 10% Discussion 2 – 10% Chapter 2: Listing-Order Paragraphs HW: Review Chapter 2
10	Writing 2 Final feedback	Writing 2 Final feedback Chapter 3: Giving Instructions HW: Prepare a discussion topic based on Chapter 3
11	Chapter 3: Giving Instructions	Giving Instructions Discussion HW: Writing 3 Draft
12	Chapter 3: Giving Instructions	Giving Instructions Writing 3 Draft pair review HW: Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE	Writing 3 Final DUE – 10% Discussion 3 – 10% Chapter 3: Giving Instructions CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys HW: Review Chapter 3 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback	Writing 3 Final feedback Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Longman Academic Writing Series (Level 2); Paragraphs SB w/App, Online Practice &Digital Resources,
3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0136769996)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30%(Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Originally from America, Steven started teaching English in Japan 5 years ago. Since the he has taught students of varying ages and English levels. No matter what age or level the student, Steven always aims to create an environment where each student is able to learn to their ability. By doing this he has been able to motivate students to promote their own selfimprovement. Punctual, patient and positive by nature, he believes teaching is a challenging and rewarding profession.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE2 (Koganei): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I

Samuel Harper

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4
Day/Period：月2/Mon.2
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make presentations in English (with PowerPoint, etc.) on academic and other topics, in pairs, groups and individually
· expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
· engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
· build analysis and decision-making skills through group discussion activities
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 1: Lifestyle	Lifestyle; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "Lifestyle"
3	Unit 1: Lifestyle	Lifestyle; parts c-e Discussion HW: Unit 1 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 2: Competitions; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Competitions"
5	Unit 2: Competitions	Competitions; parts c-e Discussion HW: Unit 2 review
6	Unit 3: Transportation	Transportation; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Transportation"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 3: Transportation; parts c-e HW: Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 – 10% Unit 4: Challenges; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Challenges"
9	Discussion 2	Discussion 2 – 10% Unit 4: Challenges; parts c-e HW: Unit 4 review
10	Unit 5: The Environment	The Environment; parts a-b HW: Prepare a short speech on "The Environment"
11	Discussion 3	Discussion 3 – 10% Unit 5: The Environment; parts c-e HW: Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 6: Stages of Life; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Stages of Life; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW: Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Sam Harper is from the south of England and has a background in science, centering around the biological sciences, medicine and pharmacology. He graduated in Medical Biochemistry. Following this, he obtained a Cambridge CELTA teaching qualification. His teaching experience includes both academic and corporate classes. He has taught business classes focusing on Presentations, Meetings, Negotiations and general Business Communication. In addition to these courses, Sam has facilitated discussion and writing courses at a prominent medical university in Tokyo. He also has over 2 years' experience teaching both IELTS and TOEIC examination courses. Sam's background in science and his teaching experience helps learners improve and develop their logical thinking skills during discussions and debates during lessons.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE2 (Koganei): Writing &Discussion: Higher-Intermediate I

Steven Braunbach

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：金4/Fri.4

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
· write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
· expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
· build understanding of the difference between spoken and written English
· improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
· engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the first three chapters of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure and to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter nine of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Chapter 1: Academic Paragraphs	Academic Paragraphs Discussion CEFR Self-Evaluation (Initial) HW: Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Academic Paragraphs	Academic Paragraphs Writing Practice Draft pair review HW: Writing Practice Final
4	Chapter 1: Academic Paragraphs	Academic Paragraphs Writing Practice Final group review HW: Review Chapter 1
5	Chapter 2: Narrative Paragraphs	Narrative Paragraphs Discussion HW: Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Narrative Paragraphs	Narrative Paragraphs Writing 1 Draft pair review HW: Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE	Writing 1 Final DUE – 10% Discussion 1 – 10% Chapter 2: Narrative Paragraphs HW: Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Basic Paragraph Structure HW: Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Basic Paragraph Structure	Basic Paragraph Structure Writing 2 Draft pair review HW: Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE	Writing 2 Final DUE – 10% Discussion 2 – 10% Chapter 3: Basic Paragraph Structure HW: Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback	Writing 2 Final feedback Chapter 9: Essay Organization Discussion HW: Writing 3 Draft
12	Chapter 9: Essay Organization	Essay Organization Writing 3 Draft pair review HW: Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE	Writing 3 Final DUE – 10% Discussion 3 – 10% Chapter 9: Essay Organization CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys HW: Review Chapter 9 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback	Writing 3 Final feedback Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Longman Academic Writing Series (Level 3); Paragraphs to Essays SB w/App, Online Practice &Digital Resources,
4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838531)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30%(Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Originally from America, Steven started teaching English in Japan 5 years ago. Since the he has taught students of varying ages and English levels. No matter what age or level the student, Steven always aims to create an environment where each student is able to learn to their ability. By doing this he has been able to motivate students to promote their own selfimprovement. Punctual, patient and positive by nature, he believes teaching is a challenging and rewarding profession.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE3 (Koganei): Oral Presentation & Discussion: Advanced I

Ron Reid

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：木2/Thu.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make academic presentations (with PowerPoint, etc.) in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
· expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
· engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
· expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 1: Culture and Identity	Culture and Identity; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "Culture and Identity"
3	Unit 1: Culture and Identity	Culture and Identity; parts c-e Discussion HW: Unit 1 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 2: Performing; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Performing"
5	Unit 2: Performing	Performing; parts c-e Discussion HW: Unit 2 review
6	Unit 3: Water	Water; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Water"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 3: Water; parts c-e HW: Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 – 10% Unit 4: Opportunities; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Opportunities"
9	Discussion 2	Discussion 2 – 10% Unit 4: Opportunities; parts c-e HW: Unit 4 review
10	Unit 5: Well-being	Well-being; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Well-being"
11	Discussion 3	Discussion 3 – 10% Unit 5: Well-being; parts c-e HW: Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 6: Mysteries; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Mysteries; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW:Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Ron Reid was originally from Canada. During his extensive career he has been invited to teach as a guest lecturer at Osaka University, as well as taught students from Kyoto, Nagoya and Chiba university. Some of his students have even been accepted to Harvard and
London School of Business. He believes that a fresh perspectives and trying new techniques help students evolve and integrate their individual potential. Through this methos he has helped students develop strong abilities in critical thinking, communication and leadership skills. He has been happy to lend his experience in living and visiting various countries to help students who were applying for student abroad programs with fun and interactive.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE3 (Koganei): Writing &Discussion: Advanced I

Ron Reid

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：火4/Tue.4

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
· be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
· learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
· deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading /research
· develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
· engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Chapter 1: Paragraph Structure	Paragraph Structure Discussion CEFR Self-Evaluation (Initial) HW: Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Paragraph Structure	Paragraph Structure Writing Practice Draft pair review HW: Writing Practice Final
4	Chapter 1: Paragraph Structure	Paragraph Structure Writing Practice Final group review HW: Review Chapter 1
5	Chapter 2: Unity and Coherence	Unity and Coherence Discussion HW: Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Unity and Coherence	Unity and Coherence Writing 1 Draft pair review HW: Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE	Writing 1 Final DUE – 10% Discussion 1 – 10% Chapter 2: Unit and Coherence HW: Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Using Outside Sources Discussion HW: Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Using Outside Sources	Using Outside Sources Writing 2 Draft pair review HW: Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE	Writing 2 Final DUE – 10% Discussion 2 – 10% Chapter 3: Using Outside Sources HW: Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback	Writing 2 Final feedback Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion HW: Writing 3 Draft
12	Chapter 4: From Paragraph to Essay	From Paragraph to Essay Writing 3 Draft pair review HW: Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE	Writing 3 Final DUE – 10% Discussion 3 – 10% Chapter 4: From Paragraph to Essay CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys HW: Review Chapter 4 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback	Writing 3 Final feedback Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice &Digital Resources,
5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30%(Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Ron Reid was originally from Canada. During his extensive career he has been invited to teach as a guest lecturer at Osaka University, as well as taught students from Kyoto, Nagoya and Chiba university. Some of his students have even been accepted to Harvard and
London School of Business. He believes that a fresh perspectives and trying new techniques help students evolve and integrate their individual potential. Through this methos he has helped students develop strong abilities in critical thinking, communication and leadership skills. He has been happy to lend his experience in living and visiting various countries to help students who were applying for student abroad programs with fun and interactive.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE1 (Koganei): Oral Presentation & Discussion: Intermediate II

Ron Reid

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：火2/Tue.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make basic presentations in English, in pairs, groups and individually
· build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
· engage in and lead simple discussions on a range of topics
· improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
· express opinions supported by simple reasoning
· work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 7: Journeys	Journeys; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "Journeys"
3	Unit 7: Journeys	Journeys; parts c-e Discussion HW: Unit 7 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 8: Appearance; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Appearance"
5	Unit 8: Appearance	Appearance; parts c-e Discussion HW: Unit 8 review
6	Unit 9: Entertainment	Entertainment; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Entertainment"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 9: Entertainment; parts c-e HW: Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 – 10% Unit 10: Learning; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Learning"
9	Discussion 2	Discussion 2 – 10% Unit 10: Learning; parts c-e HW: Unit 10 review
10	Unit 11: Tourism	Tourism; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Tourism"
11	Discussion 3	Discussion 3 – 10% Unit 11: Tourism; parts c-e HW: Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 12: The Earth; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued	Presentation 3 continued – 10% Unit 12: The Earth; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW:Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Ron Reid was originally from Canada. During his extensive career he has been invited to teach as a guest lecturer at Osaka University, as well as taught students from Kyoto, Nagoya and Chiba university. Some of his students have even been accepted to Harvard and
London School of Business. He believes that a fresh perspectives and trying new techniques help students evolve and integrate their individual potential. Through this methos he has helped students develop strong abilities in critical thinking, communication and leadership skills. He has been happy to lend his experience in living and visiting various countries to help students who were applying for student abroad programs with fun and interactive.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE1 (Koganei): Writing &Discussion: Intermediate II

Steven Braunbach

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：金2/Fri.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
· write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
· build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
· improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
· engage in and lead simple discussions on a range of topics
· manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
· confidently express opinions supported by simple reasoning
· work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the final three chapters in the textbook firstly to analyze and practice space-order ("on the left…behind that") descriptive paragraphs, secondly to recognize and practice writing well-reasoned paragraphs supported by examples, and thirdly to build students' ability to write simple logical opinions in longer paragraphs. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Chapter 4: Describing with Space Order	Describing with Space Order CEFR Self-Evaluation (Initial) HW: Prepare a discussion topic based on Chapter 4
3	Chapter 4: Describing with Space Order	Describing with Space Order Discussion HW: Writing 1 Draft
4	Chapter 4: Describing with Space Order	Describing with Space Order Writing 1 Draft pair review HW: Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE	Writing 1 Final DUE – 10% Discussion 1 – 10% Chapter 4: Describing with Space Order HW: Review Chapter 4
6	Writing 1 Final feedback	Writing 1 Final feedback Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples HW: Prepare a discussion topic based on Chapter 5
7	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples	Stating Reasons and Using Examples Discussion HW: Writing 2 Draft
8	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples	Stating Reasons and Using Examples Writing 2 Draft pair review HW: Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE	Writing 2 Final DUE – 10% Discussion 2 – 10% Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples HW: Review Chapter 5
10	Writing 2 Final feedback	Writing 2 Final feedback Chapter 6: Expressing Your Opinion HW: Prepare a discussion topic based on Chapter 6
11	Chapter 6: Expressing Your Opinion	Expressing Your Opinion Discussion HW: Writing 3 Draft
12	Chapter 6: Expressing Your Opinion	Expressing Your Opinion Writing 3 Draft pair review HW: Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE	Writing 3 Final DUE – 10% Discussion 3 – 10% Chapter 6: Expressing Your Opinion CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys HW: Review Chapter 6 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback	Writing 3 Final feedback Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (paragraphs). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Longman Academic Writing Series (Level 2); Paragraphs SB w/App, Online Practice &Digital Resources,
3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0136769996)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30%(Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Originally from America, Steven started teaching English in Japan 5 years ago. Since the he has taught students of varying ages and English levels. No matter what age or level the student, Steven always aims to create an environment where each student is able to learn to their ability. By doing this he has been able to motivate students to promote their own selfimprovement. Punctual, patient and positive by nature, he believes teaching is a challenging and rewarding profession.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE2 (Koganei): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate II

Samuel Harper

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：月2/Mon.2
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make effective presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
· expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
· engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
· improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native and non-native speakers
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
· build analysis and decision-making skills through group discussion activities
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 7: Work	Work; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "Work"
3	Unit 7: Work	Work; parts c-e Discussion HW: Unit 7 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 8: Technology; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Technology"
5	Unit 8: Technology	Technology; parts c-e Discussion HW: Unit 8 review
6	Unit 9: Vacations	Vacations; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Vacations"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 9: Vacations; parts c-e HW: Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 – 10% Unit 10: Products; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Products"
9	Discussion 2	Discussion 2 – 10% Unit 10: Products; parts c-e HW: Unit 10 review
10	Unit 11: History	History; parts a-b HW: Prepare a short speech on "History"
11	Discussion 3	Discussion 3 – 10% Unit 11: History; parts c-e HW: Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 12: Nature; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued	Presentation 3 continued – 10% Unit 12: Nature; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW: Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Sam Harper is from the south of England and has a background in science, centering around the biological sciences, medicine and pharmacology. He graduated in Medical Biochemistry. Following this, he obtained a Cambridge CELTA teaching qualification. His teaching experience includes both academic and corporate classes. He has taught business classes focusing on Presentations, Meetings, Negotiations and general Business Communication. In addition to these courses, Sam has facilitated discussion and writing courses at a prominent medical university in Tokyo. He also has over 2 years' experience teaching both IELTS and TOEIC examination courses. Sam's background in science and his teaching experience helps learners improve and develop their logical thinking skills during discussions and debates during lessons.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE2 (Koganei): Writing &Discussion: Higher-Intermediate II

Steven Braunbach

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：金4/Fri.4

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
· write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
· expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
· build understanding of the difference between spoken and written English
· improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
· engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses chapters five, six and seven of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure, to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter ten of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Chapter 5: Process Paragraphs	Process Paragraphs Discussion CEFR Self-Evaluation (Initial) HW: Writing Practice Draft
3	Chapter 5: Process Paragraphs	Process Paragraphs Writing Practice Draft pair review HW: Writing Practice Final
4	Chapter 5: Process Paragraphs	Process Paragraphs Writing Practice Final group review HW: Review Chapter 5
5	Chapter 6: Definition Paragraphs	Definition Paragraphs Discussion HW: Writing 1 Draft
6	Chapter 6: Definition Paragraphs	Definition Paragraphs Writing 1 Draft pair review HW: Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE	Writing 1 Final DUE – 10% Discussion 1 – 10% Chapter 6: Definition Paragraphs HW: Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Cause /Effect Paragraphs Discussion HW: Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs	Cause /Effect Paragraphs Writing 2 Draft pair review HW: Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE	Writing 2 Final DUE – 10% Discussion 2 – 10% Chapter 7: Cause /Effect Paragraphs HW: Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback	Writing 2 Final feedback Chapter 10: Opinion Essays Discussion HW: Writing 3 Draft
12	Chapter 10: Opinion Essays	Opinion Essays Writing 3 Draft pair review HW: Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE	Writing 3 Final DUE – 10% Discussion 3 – 10% Chapter 10: Opinion Essays CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys HW: Review Chapter 10 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback	Writing 3 Final feedback Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (paragraphs and essays). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Longman Academic Writing Series (Level 3); Paragraphs to Essays SB w/App, Online Practice &Digital Resources,
4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838531)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30%(Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Originally from America, Steven started teaching English in Japan 5 years ago. Since the he has taught students of varying ages and English levels. No matter what age or level the student, Steven always aims to create an environment where each student is able to learn to their ability. By doing this he has been able to motivate students to promote their own selfimprovement. Punctual, patient and positive by nature, he believes teaching is a challenging and rewarding profession.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE3 (Koganei): Oral Presentation & Discussion: Advanced II

Ron Reid

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：木2/Thu.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· make sophisticated academic presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
· expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
· engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
· manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
· expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
· work together with other students in collaborative project

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Unit 7: Living space	Living space; parts a-b CEFR self-evaluation (Initial) HW: Prepare a short speech on "Living space"
3	Unit 7: Living space	Living space; parts c-e Discussion HW: Unit 7 review Prepare &practice Presentation 1
4	Presentation 1	Presentation 1 – 10% Unit 8: Travel; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Travel"
5	Unit 8: Trave	Travel; parts c-e Discussion HW: Unit 8 review
6	Unit 9: Shopping	Shopping; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Shopping"
7	Discussion 1	Discussion 1 – 10% Unit 9: Shopping; parts c-e HW: Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2	Presentation 2 – 10% Unit 10: No limits; parts a-b HW: Prepare a short speech on "No limits"
9	Discussion 2	Discussion 2 -10% Unit 10: No limits; parts c-e HW: Unit 10 review
10	Unit 11: Connections	Connections; parts a-b HW: Prepare a short speech on "Connections"
11	Discussion 3	Discussion 3 -10% Unit 11: Connections; parts c-e HW: Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3	Presentation 3 – 10% Unit 12: Experts; parts a-b HW: Review /Prepare Presentation 3
13	Presentation 3	Presentation 3 continued – 10% Unit 12: Experts; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys HW: Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review /Study planning	Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning /National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30%(Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Ron Reid was originally from Canada. During his extensive career he has been invited to teach as a guest lecturer at Osaka University, as well as taught students from Kyoto, Nagoya and Chiba university. Some of his students have even been accepted to Harvard and
London School of Business. He believes that a fresh perspectives and trying new techniques help students evolve and integrate their individual potential. Through this methos he has helped students develop strong abilities in critical thinking, communication and leadership skills. He has been happy to lend his experience in living and visiting various countries to help students who were applying for student abroad programs with fun and interactive.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD（英語 / English language education 100）

ERP CE3 (Koganei): Writing &Discussion: Advanced II

Ron Reid

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：火4/Tue.4

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
· write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
· be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
· learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
· deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading /research
· develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
· engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
· communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
· confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
· work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In this course, the instructor uses the second four chapters of the textbook to analyze and practice writing four different essay types: Process Essays, Cause /Effect Essays, Comparison /Contrast Essays, and finally Argumentative Essays. Through these units various writing skills are explored including organization, thesis statements, collocations, antonyms, summarizing, and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions	Course preview Study planning HW: Write down three SMART learning goals for this course
2	Chapter 5: Process Essays	Process Essays Discussion CEFR Self-Evaluation (Initial) HW: Writing Practice Draft
3	Chapter 5: Process Essays	Process Essays Writing Practice Draft pair review HW: Writing Practice Final
4	Chapter 5: Process Essays	Process Essays Writing Practice Final group review HW: Review Chapter 5
5	Chapter 6: Cause / Effect Essays	Cause /Effect Essays Discussion HW: Writing 1 Draft
6	Chapter 6: Cause / Effect Essays	Cause /Effect Essays Writing 1 Draft pair review HW: Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE	Writing 1 Final DUE – 10% Discussion 1 – 10% Chapter 6: Cause /Effect Essays HW: Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Comparison /Contrast Essays Discussion HW: Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Comparison /Contrast Essays	Comparison /Contrast Essays Writing 2 Draft pair review HW: Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE	Writing 2 Final DUE – 10% Discussion 2 – 10% Chapter 7: Comparison /Contrast Essays HW: Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback	Writing 2 Final feedback Chapter 8: Argumentative Essays Discussion HW: Writing 3 Draft
12	Chapter 8: Argumentative Essays	Argumentative Essays Writing 3 Draft pair review HW: Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE	Writing 3 Final DUE – 10% Discussion 3 – 10% Chapter 8: Argumentative Essays CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys HW: Review Chapter 8 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback	Writing 3 Final feedback Course review /Study planning

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (essays). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
· Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice &Digital Resources,
5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630)

【References】
· Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40%(Involvement &Improvement, Homework Completion); Discussion 30%(Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30%(Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】
Not applicable

【Others】
Ron Reid was originally from Canada. During his extensive career he has been invited to teach as a guest lecturer at Osaka University, as well as taught students from Kyoto, Nagoya and Chiba university. Some of his students have even been accepted to Harvard and
London School of Business. He believes that a fresh perspectives and trying new techniques help students evolve and integrate their individual potential. Through this methos he has helped students develop strong abilities in critical thinking, communication and leadership skills. He has been happy to lend his experience in living and visiting various countries to help students who were applying for student abroad programs with fun and interactive.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL® iBT 61+, TOEFL® ITP 500+, TOEIC® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LAW100NA（法学 / law 100）

知的財産権

加納　昌彦

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、知的財産権の基礎について学ぶ入門編です。近年の急速な技術革新により、私たちは人間の知的活動による豊富な成果物を容易に享受する恩恵を受けています。これにより、かつては一部の専門家やプロの道具だった知的財産に関する知識について、一般の市民や学生も正確に理解することが求められています。また、こうした知的活動による成果物は無断で利用されやすいという性質があり、法律により適切に保護することが必要です。授業では、私たちの身近にあるコンテンツ（著作権）から、パテント（特許）、デザイン（意匠）、ブランド（商標）に至る知的財産権の全体像を概観・検討し、目標とする「総合的デザイン」と将来のモノ作り・創作活動のための基盤を作ります。知的活動に関心のある方、現在デザイン・建築・美術・音楽・文学など創作活動に関わっている方、将来これらの分野に就職を希望している方に受講をおすすめします。

【到達目標】
・知的財産権を構成する基本的な内容を理解すること。
・知的財産権をめぐる発生している問題を正しく理解し、検討し、解決するための基盤を作ること。
・知的財産権に関する基本的な文献の読解力を涵養すること。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	20%
（B）技術者倫理	10%
（C）工学基礎学力	5%
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	5%
（F）総合デザイン能力	10%
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	10%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業の進め方と方法】
・この授業はzoomを用いたオンライン形式で開講します。
・毎回レジメを事前配布する講義形式を基本として、課題や復習の小テストも行います。また、zoomの双方向性機能（チャットなど）を活用して受講者全員参加によるリアルタイムでの演習も随時実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・導入	知的財産法の全体像の概説、アンケート
2	法律文の読み方	大学図書館利用規程を事例に法律文を読解する
3	著作権法(1)	著作物とは何か：著作権法の基本概念の「著作物」を理解する
4	著作権法(2)	著作者：著作物の創作者について理解する
5	著作権法(3)	著作権：著作者等に与えられる権利の種類・構成・内容を理解する
6	著作権法(4)	権利の例外・制限：「例外的な無断利用」を理解する
7	著作権法(5)	保護期間：権利の保護期間について理解する
8	著作権法(6)	著作物の利用：著作物等を正しく利用する方法について理解する
9	中間まとめ	授業前半（著作権法）のまとめ
10	特許	特許制度（パテント）の概要を理解する（演習を含む）
11	意匠	意匠制度（デザイン）の概要を理解する
12	商標	商標制度（ブランド）の概要を理解する（演習を含む）
13	不正競争防止法	行為規制型の法制度を理解する
14	まとめ	授業後半・全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・以下に掲げるテキスト（教科書）と参考書のほか、授業で使用する文献資料等は都度指示します。事前に十分に読解しておくこと。
・本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・池村聡『はじめての著作権法』（日本経済新聞出版社、2018年）、990円（税込）

【参考書】
関係機関によりウェブサイト上で公開されている資料・ウェブサイト（PDFファイルは各自PCにダウンロードしていつでも参照できるように準備しておくこと。文化庁と特許庁発行の資料は毎年夏頃までに更新されます。最新版は授業にて改めてお知らせします）。
著作権テキスト～初めて学ぶ人のために（令和6年度）（文化庁著作権課、2024年）
https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/textbook/pdf/94141901_01.pdf
はじめての著作権講座―著作権って何？（著作権情報センター、2024年）
https://www.cric.or.jp/publication/pamphlet/doc/hajimete1.pdf
2024年度知的財産権制度入門テキスト（特許庁、2024年）
https://www.jpo.go.jp/news/shinchaku/event/seminer/text/document/2024_nyumon/all.pdf
特許情報プラットフォーム(J-PlatPat)
https://www.j-platpat.inpit.go.jp/

【成績評価の方法と基準】
・平常点、授業中随時実施する課題・小テスト等（40％）、および期末に提出するレポート（60%）を考慮して総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
・授業で検討する事項について、積極的な質問・コメントを歓迎します。
・授業中に自ら記したノートやメモは最も身近な、かつ、唯一の知的財産です。授業中に記したご自身の記録を有力な手がかりとして予習・復習に役立ててください。

【学生が準備すべき機器他】
・授業の進展に応じて必要な場合、都度指示します。

【その他の重要事項】
・授業計画の内容は、初回に実施するアンケート結果や授業の進捗に応じて変更する場合があります。
・授業内容に関する質問・コメントは随時、電子メールにて受け付けます（メールアドレスは毎回配布するレジメの表紙に記載しています）。
・教員は、電気通信事業者にて、研究所、知的財産、通信サービス開発部門などの部署に勤務しました。授業では、学術的観点を中心としつつ、実務的な視点も含めた検討を行いたく予定しています。

【Outline (in English)】
This course is designed to provide students with the basic principles of intellectual property rights, including copyright, patents, industrial designs and trademarks as well as the protection of information. It is recommended for those with a keen interest in human intellectual activities ranging from architecture and product design to art, literature, music, dance and film.
Students are required to spend two hours for a class and are expected to complete assignments (short reports) after each class. The final mark will be based on the term-end report (60%) and the short reports/class contribution (40%).

LAW100NA（法学 / law 100）

知的財産権

加納　昌彦

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、知的財産権の基礎について学ぶ入門編です。近年の急速な技術革新により、私たちは人間の知的活動による豊富な成果物を容易に享受する恩恵を受けています。これにより、かつては一部の専門家やプロの道具だった知的財産に関する知識について、一般の市民や学生も正確に理解することが求められています。また、こうした知的活動による成果物は無断で利用されやすいという性質があり、法律により適切に保護することが必要です。授業では、私たちの身近にあるコンテンツ（著作権）から、パテント（特許）、デザイン（意匠）、ブランド（商標）に至る知的財産権の全体像を概観・検討し、目標とする「総合的デザイン」と将来のモノ作り・創作活動のための基盤を作ります。知的活動に関心のある方、現在デザイン・建築・美術・音楽・文学など創作活動に関わっている方、将来これらの分野に就職を希望している方に受講をおすすめします。

【到達目標】
・知的財産権を構成する基本的な内容を理解すること。
・知的財産権をめぐる発生している問題を正しく理解し、検討し、解決するための基盤を作ること。
・知的財産権に関する基本的な文献の読解力を涵養すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業の進め方と方法】
・この授業はzoomを用いたオンライン形式で開講します。
・毎回レジメを事前配布する講義形式を基本として、課題や復習の小テストも行います。また、zoomの双方向性機能（チャットなど）を活用して受講者全員参加によるリアルタイムでの演習も随時実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・導入	知的財産法の全体像の概説、アンケート
2	法律文の読み方	大学図書館利用規程を事例に法律文を読解する
3	著作権法(1)	著作物とは何か：著作権法の基本概念の「著作物」を理解する
4	著作権法(2)	著作者：著作物の創作者について理解する
5	著作権法(3)	著作権：著作者等に与えられる権利の種類・構成・内容を理解する
6	著作権法(4)	権利の例外・制限：「例外的な無断利用」を理解する
7	著作権法(5)	保護期間：権利の保護期間について理解する
8	著作権法(6)	著作物の利用：著作物等を正しく利用する方法について理解する
9	中間まとめ	授業前半（著作権法）のまとめ
10	特許	特許制度（パテント）の概要を理解する（演習を含む）
11	意匠	意匠制度（デザイン）の概要を理解する
12	商標	商標制度（ブランド）の概要を理解する（演習を含む）
13	不正競争防止法	行為規制型の法制度を理解する
14	まとめ	授業後半・全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・以下に掲げるテキスト（教科書）と参考書のほか、授業で使用する文献資料等は都度指示します。事前に十分に読解しておくこと。
・本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・池村聡『はじめての著作権法』（日本経済新聞出版社、2018年）、990円（税込）

【参考書】
関係機関によりウェブサイト上で公開されている資料・ウェブサイト（PDFファイルは各自PCにダウンロードしていつでも参照できるように準備しておくこと。文化庁と特許庁発行の資料は毎年夏頃までに更新されます。最新版は授業にて改めてお知らせします）。
著作権テキスト～初めて学ぶ人のために（令和6年度）（文化庁著作権課、2024年）
https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/textbook/pdf/94141901_01.pdf
はじめての著作権講座―著作権って何？（著作権情報センター、2024年）
https://www.cric.or.jp/publication/pamphlet/doc/hajimete1.pdf
2024年度知的財産権制度入門テキスト（特許庁、2024年）
https://www.jpo.go.jp/news/shinchaku/event/seminer/text/document/2024_nyumon/all.pdf
特許情報プラットフォーム(J-PlatPat)
https://www.j-platpat.inpit.go.jp/

【成績評価の方法と基準】
・平常点、授業中随時実施する課題・小テスト等（40％）、および期末に提出するレポート（60%）を考慮して総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
・授業で検討する事項について、積極的な質問・コメントを歓迎します。
・授業中に自ら記したノートやメモは最も身近な、かつ、唯一の知的財産です。授業中に記したご自身の記録を有力な手がかりとして予習・復習に役立ててください。

【学生が準備すべき機器他】
・授業の進展に応じて必要な場合、都度指示します。

【その他の重要事項】
・授業計画の内容は、初回に実施するアンケート結果や授業の進捗に応じて変更する場合があります。
・授業内容に関する質問・コメントは随時、電子メールにて受け付けます（メールアドレスは毎回配布するレジメの表紙に記載しています）。
・教員は、電気通信事業者にて、研究所、知的財産、通信サービス開発部門などの部署に勤務しました。授業では、学術的観点を中心としつつ、実務的な視点も含めた検討を行いたく予定しています。

【Outline (in English)】
This course is designed to provide students with the basic principles of intellectual property rights, including copyright, patents, industrial designs and trademarks as well as the protection of information. It is recommended for those with a keen interest in human intellectual activities ranging from architecture and product design to art, literature, music, dance and film.
Students are required to spend two hours for a class and are expected to complete assignments (short reports) after each class. The final mark will be based on the term-end report (60%) and the short reports/class contribution (40%).

LAW100NA（法学 / law 100）

知的財産権

加納　昌彦

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、知的財産権の基礎について学ぶ入門編です。近年の急速な技術革新により、私たちは人間の知的活動による豊富な成果物を容易に享受する恩恵を受けています。これにより、かつては一部の専門家やプロの道具だった知的財産に関する知識について、一般の市民や学生も正確に理解することが求められています。また、こうした知的活動による成果物は無断で利用されやすいという性質があり、法律により適切に保護することが必要です。授業では、私たちの身近にあるコンテンツ（著作権）から、パテント（特許）、デザイン（意匠）、ブランド（商標）に至る知的財産権の全体像を概観・検討し、目標とする「総合的デザイン」と将来のモノ作り・創作活動のための基盤を作ります。知的活動に関心のある方、現在デザイン・建築・美術・音楽・文学など創作活動に関わっている方、将来これらの分野に就職を希望している方に受講をおすすめします。

【到達目標】
・知的財産権を構成する基本的な内容を理解すること。
・知的財産権をめぐる発生している問題を正しく理解し、検討し、解決するための基盤を作ること。
・知的財産権に関する基本的な文献の読解力を涵養すること。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
					◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業の進め方と方法】
・この授業はzoomを用いたオンライン形式で開講します。
・毎回レジメを事前配布する講義形式を基本として、課題や復習の小テストも行います。また、zoomの双方向性機能（チャットなど）を活用して受講者全員参加によるリアルタイムでの演習も随時実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・導入	知的財産法の全体像の概説、アンケート
2	法律文の読み方	大学図書館利用規程を事例に法律文を読解する
3	著作権法(1)	著作物とは何か：著作権法の基本概念の「著作物」を理解する
4	著作権法(2)	著作者：著作物の創作者について理解する
5	著作権法(3)	著作権：著作者等に与えられる権利の種類・構成・内容を理解する
6	著作権法(4)	権利の例外・制限：「例外的な無断利用」を理解する
7	著作権法(5)	保護期間：権利の保護期間について理解する
8	著作権法(6)	著作物の利用：著作物等を正しく利用する方法について理解する
9	中間まとめ	授業前半（著作権法）のまとめ
10	特許	特許制度（パテント）の概要を理解する（演習を含む）
11	意匠	意匠制度（デザイン）の概要を理解する
12	商標	商標制度（ブランド）の概要を理解する（演習を含む）
13	不正競争防止法	行為規制型の法制度を理解する
14	まとめ	授業後半・全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・以下に掲げるテキスト（教科書）と参考書のほか、授業で使用する文献資料等は都度指示します。事前に十分に読解しておくこと。
・本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・池村聡『はじめての著作権法』（日本経済新聞出版社、2018年）、990円（税込）

【参考書】
関係機関によりウェブサイト上で公開されている資料・ウェブサイト（PDFファイルは各自PCにダウンロードしていつでも参照できるように準備しておくこと。文化庁と特許庁発行の資料は毎年夏頃までに更新されます。最新版は授業にて改めてお知らせします）。
著作権テキスト～初めて学ぶ人のために（令和6年度）（文化庁著作権課、2024年）
https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/textbook/pdf/94141901_01.pdf
はじめての著作権講座―著作権って何？（著作権情報センター、2024年）
https://www.cric.or.jp/publication/pamphlet/doc/hajimete1.pdf
2024年度知的財産権制度入門テキスト（特許庁、2024年）
https://www.jpo.go.jp/news/shinchaku/event/seminer/text/document/2024_nyumon/all.pdf
特許情報プラットフォーム(J-PlatPat)
https://www.j-platpat.inpit.go.jp/

【成績評価の方法と基準】
・平常点、授業中随時実施する課題・小テスト等（40％）、および期末に提出するレポート（60%）を考慮して総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
・授業で検討する事項について、積極的な質問・コメントを歓迎します。
・授業中に自ら記したノートやメモは最も身近な、かつ、唯一の知的財産です。授業中に記したご自身の記録を有力な手がかりとして予習・復習に役立ててください。

【学生が準備すべき機器他】
・授業の進展に応じて必要な場合、都度指示します。

【その他の重要事項】
・授業計画の内容は、初回に実施するアンケート結果や授業の進捗に応じて変更する場合があります。
・授業内容に関する質問・コメントは随時、電子メールにて受け付けます（メールアドレスは毎回配布するレジメの表紙に記載しています）。
・教員は、電気通信事業者にて、研究所、知的財産、通信サービス開発部門などの部署に勤務しました。授業では、学術的観点を中心としつつ、実務的な視点も含めた検討を行いたく予定しています。

【Outline (in English)】
This course is designed to provide students with the basic principles of intellectual property rights, including copyright, patents, industrial designs and trademarks as well as the protection of information. It is recommended for those with a keen interest in human intellectual activities ranging from architecture and product design to art, literature, music, dance and film.
Students are required to spend two hours for a class and are expected to complete assignments (short reports) after each class. The final mark will be based on the term-end report (60%) and the short reports/class contribution (40%).

POL100NA（政治学 / Politics 100）

開発と国際協力

浅川　英理子、小野澤　雅人、宮川　聖史

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
我が国が開発途上国に対して実施している国際協力の現状と課題について、制度・実例・生活体験・活動体験を紹介する。公的な国際協力（ODA)を中心として解説する。また、グループで国際協力機構(JICA)が作成した報告書を調査し、その調査結果を発表することにより、社会人基礎力を身に着けながら、グローバルな視点を涵養する。

【到達目標】
1.開発途上国の現状と我国の政府開発援助(ODA)の実施機関である国際協力機構(JICA)の活動を理解すると共に、将来海外で仕事を行う場合のキャリア形成について学ぶ。
2.海外留学の実態について理解する。
3.6～8人でグループを組み、JICA報告書を皆で調査してその内容及び内容に対する意見を発表する。このグループワークを通じて、社会人の基礎力である3つの力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を養うとともに、ODAについて理解を深めると共に、報告書作成能力・パワーポイント作成能力・発表能力の向上を図る。
4.グループワーク後、国際協力に関する自らの考えを課題レポートにまとめることにより、卒業後、広く海外にも目を向け、グローバルな視点に立って学習の成果を活かせる能力を醸成する。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	45%
（B）技術者倫理	30%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	25%
（G）コミュニケーション能力	
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
主な授業内容は、開発途上国の現状と課題、JICAの活動、国際協力の事例、MDGs、SDGs、海外での留学生活体験である。さらに、JICAの活動事例を調査・討議し、各学生の国際協力のあり方に対する意見を発表する。
授業の実施方法は、後半でグループによりJICAの活動事例を調査し、その内容・結果を取りまとめるので、早い時期からグループ分けを行い、グループ毎に着席し、意思疎通を図り、討論しやすい体制にする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンスと我が国の国際協力（1）	ガイダンスの他、世界と我が国の国際協力について、現状・制度、課題・問題点の概要を説明。また、発表事業におけるグルー分けを行う。
第二回	我が国の国際協力	世界と我が国の国際協力の現状・制度・課題の詳細を、ＭＤＧｓを参考にしながら解説する。さらに、開発途上国の現状と課題について考える。
第三回	事例による説明（1）	国際協力の実際のプロジェクトの事例について解説し、現状・制度・課題についての理解を深める。
第四回	事例による説明（2）	ギリシャ・イギリスでの留学・生活体験を説明。海外生活体験の意義を考える。
第五回	事例による説明（3）	ギリシャの文化遺産保護活動について説明。文化遺産保護のあり方について考える。
第六回	国際協力の世界における課題	国際的に課題として認識されている持続的開発と持続的開発目標（SDGs)について解説し、我が国の取り組みも紹介する。
第七回	JICA報告書の事例研究と発表資料の作成	グループ毎にJICA報告書の事例を調査し、その結果をもとに、発表用パワーポイントを作成する。
第八回	事例による説明（4）	国際協力の主要な担い手である、開発コンサルタントの役割について、技術協力・開発調査等の実例を通じて説明。
第九回	事例による説明（5）	第八回の説明をもとに、近年重要度を増している参加型開発やキャパシティ・デベロップメントについて考える
第十回	JICA報告書の事例研究と発表資料の作成	グループ毎に作成したパワーポイントドラフトについて、講師がコメントし修正する。
第十一回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十二回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十三回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十四回	授業のまとめと講評	各講師による授業のまとめと講評を行うとともに、今後の国際協力分野への参加や就職についても考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
JICA報告書の調査とパワーポイント・レポートの作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する。

【参考書】
授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点：20％。課題パワーポイント作成と発表課題50％、課題レポート：30％。
欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D).

【学生の意見等からの気づき】
報告書の読み方、パワーポイントを使用した発表資料の書き方、発表の仕方に関する指導を強化する。

【学生が準備すべき機器他】
授業にはPowerpointを使用する。

【その他の重要事項】
講師は、海外における実際の国際協力プロジェクトの実施経験者と海外留学経験者で構成し、理論より国際協力の実態についてより詳細に解説する。世界の潮流である持続的開発と持続的開発目標（SDGs)についても、実務経験からの解説とSDGs設定の背景の解説を主として行う。
随時、電子メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
This series of lectures presents the current state of Japan's involvement in international cooperation with developing countries. It introduces the framework of international cooperation, examples and life experiences by examining cultural differences. The focus is on official development assistance (ODA) carried out by the Japanese government. A group project that reviews and presents a professional report prepared by the Japan International Cooperation Agency (JICA) of their choice is required in addition to regular attendance. Through this group preparation, students will attain the basic skills, knowledge, and approach necessary for a professional career while strengthening his/her global perspective.
1. Understand the current situation of developing countries and the activities of the Japan International Cooperation Agency (JICA), which is the implementing agency for Japan's Official Development Assistance (ODA), and learn about career development in the case of working overseas in the future.
2. Understand the reality of studying abroad.
3. Form groups of 6 to 8 students to investigate the JICA report and present its contents and opinions. Through this group work, students will improve three basic abilities of working adults (the ability to step forward, to think things through, and to work in a team), as well as deepen our understanding of ODA, improve the ability to write reports, create power points, and make presentations.

4. After group work, by summarising their thoughts on international cooperation in the assigned report, students will develop the ability to look abroad broadly and utilize the results of their studies from a global perspective after graduation.
Investigation of JICA reports and preparation of PowerPoint and reports.
The standard time for preparation and review for this class is two hours each.
In class performance: 20%. The assignment PowerPoint and presentation are 50%, and the assignment report is 30%.
Students absent four or more times will not be allowed to earn credits (rating D).

POL100NA（政治学 / Politics 100）

開発と国際協力

浅川　英理子、小野澤　雅人、宮川　聖史

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
我が国が開発途上国に対して実施している国際協力の現状と課題について、制度・実例・生活体験・活動体験を紹介する。公的な国際協力（ODA)を中心として解説する。また、グループで国際協力機構(JICA)が作成した報告書を調査し、その調査結果を発表することにより、社会人基礎力を身に着けながら、グローバルな視点を涵養する。

【到達目標】
1.開発途上国の現状と我国の政府開発援助(ODA)の実施機関である国際協力機構(JICA)の活動を理解すると共に、将来海外で仕事を行う場合のキャリア形成について学ぶ。
2.海外留学の実態について理解する。
3.6～8人でグループを組み、JICA報告書を皆で調査してその内容及び内容に対する意見を発表する。このグループワークを通じて、社会人の基礎力である3つの力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を養うとともに、ODAについて理解を深めると共に、報告書作成能力・パワーポイント作成能力・発表能力の向上を図る。
4.グループワーク後、国際協力に関する自らの考えを課題レポートにまとめることにより、卒業後、広く海外にも目を向け、グローバルな視点に立って学習の成果を活かせる能力を醸成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
主な授業内容は、開発途上国の現状と課題、JICAの活動、国際協力の事例、MDGs、SDGs、海外での留学生活体験である。さらに、JICAの活動事例を調査・討議し、各学生の国際協力のあり方に対する意見を発表する。
授業の実施方法は、後半でグループによりJICAの活動事例を調査し、その内容・結果を取りまとめるので、早い時期からグループ分けを行い、グループ毎に着席し、意思疎通を図り、討論しやすい体制にする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンスと我が国の国際協力（1）	ガイダンスの他、世界と我が国の国際協力について、現状・制度、課題・問題点の概要を説明。また、発表事業におけるグルー分けを行う。
第二回	我が国の国際協力	世界と我が国の国際協力の現状・制度・課題の詳細を、ＭＤＧｓを参考にしながら解説する。さらに、開発途上国の現状と課題について考える。
第三回	事例による説明（1）	国際協力の実際のプロジェクトの事例について解説し、現状・制度・課題についての理解を深める。
第四回	事例による説明（2）	ギリシャ・イギリスでの留学・生活体験を説明。海外生活体験の意義を考える。
第五回	事例による説明（3）	ギリシャの文化遺産保護活動について説明。文化遺産保護のあり方について考える。
第六回	国際協力の世界における課題	国際的に課題として認識されている持続的開発と持続的開発目標（SDGs)について解説し、我が国の取り組みも紹介する。
第七回	JICA報告書の事例研究と発表資料の作成	グループ毎にJICA報告書の事例を調査し、その結果をもとに、発表用パワーポイントを作成する。
第八回	事例による説明（4）	国際協力の主要な担い手である、開発コンサルタントの役割について、技術協力・開発調査等の実例を通じて説明。
第九回	事例による説明（5）	第八回の説明をもとに、近年重要度を増している参加型開発やキャパシティ・デベロップメントについて考える
第十回	JICA報告書の事例研究と発表資料の作成	グループ毎に作成したパワーポイントドラフトについて、講師がコメントし修正する。
第十一回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十二回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十三回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十四回	授業のまとめと講評	各講師による授業のまとめと講評を行うとともに、今後の国際協力分野への参加や就職についても考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
JICA報告書の調査とパワーポイント・レポートの作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する。

【参考書】
授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点：20％。課題パワーポイント作成と発表課題50％、課題レポート：30％。
欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D).

【学生の意見等からの気づき】
報告書の読み方、パワーポイントを使用した発表資料の書き方、発表の仕方に関する指導を強化する。

【学生が準備すべき機器他】
授業にはPowerpointを使用する。

【その他の重要事項】
講師は、海外における実際の国際協力プロジェクトの実施経験者と海外留学経験者で構成し、理論より国際協力の実態についてより詳細に解説する。世界の潮流である持続的開発と持続的開発目標（SDGs)についても、実務経験からの解説とSDGs設定の背景の解説を主として行う。
随時、電子メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
This series of lectures presents the current state of Japan's involvement in international cooperation with developing countries. It introduces the framework of international cooperation, examples and life experiences by examining cultural differences. The focus is on official development assistance (ODA) carried out by the Japanese government. A group project that reviews and presents a professional report prepared by the Japan International Cooperation Agency (JICA) of their choice is required in addition to regular attendance. Through this group preparation, students will attain the basic skills, knowledge, and approach necessary for a professional career while strengthening his/her global perspective.
1. Understand the current situation of developing countries and the activities of the Japan International Cooperation Agency (JICA), which is the implementing agency for Japan's Official Development Assistance (ODA), and learn about career development in the case of working overseas in the future.
2. Understand the reality of studying abroad.
3. Form groups of 6 to 8 students to investigate the JICA report and present its contents and opinions. Through this group work, students will improve three basic abilities of working adults (the ability to step forward, to think things through, and to work in a team), as well as deepen our understanding of ODA, improve the ability to write reports, create power points, and make presentations.
4. After group work, by summarising their thoughts on international cooperation in the assigned report, students will develop the ability to look abroad broadly and utilize the results of their studies from a global perspective after graduation.
Investigation of JICA reports and preparation of PowerPoint and reports.
The standard time for preparation and review for this class is two hours each.
In class performance: 20%. The assignment PowerPoint and presentation are 50%, and the assignment report is 30%.
Students absent four or more times will not be allowed to earn credits (rating D).

SES100NA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 100）

環境とエネルギー

下田　昭郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球が新たな地質学的時代に向かっていることを意味するために「人新世」という言葉が提案されている。人間が「地球規模での変化」のおおきな駆動力の一つであるとの認識に由来する。産業革命に始まる人間活動(人口を含む、経済、資源利用、輸送、情報通信などの活動)は、特に20世紀後半以降、急速に増加・進展し、この現象は21世紀にはいっても継続している。人間活動を特徴づけるエネルギー・物質フローはグローバルに増加し続け、その環境への影響(大気環境変化、気候変化、生物多様性の変化など)は地球規模で顕現し、人類の持続可能性に問題を提起しています。
この授業では、エネルギー・環境に関する基礎的知識を学び、資源・エネルギー利用を核とする人間活動と環境との関わりの歴史的経緯を展望し、人間活動の環境インパクトを技術・豊かさ・文化の視点から分析し、エネルギー・環境問題を考える枠組み習得することを目的とします。

【到達目標】
人間活動とエネルギー・環境とに関わる問題に、自ら気づき、その背景/本質を理解し、解決策を考えるスキームを学ぶことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
○原則対面授業。ただし、必要に応じてリモート授業も実施。
○資料の提供は、時間割表に沿った授業予定日（火曜日）の前日までに学習支援システムにアップロードを予定
○授業に関する最新の情報は学習支援システムに提示

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事業方法等やスケジュールの説明
2	環境問題の変遷	地域環境問題から地球環境問題へ変遷の解説
3	地球温暖化の科学	温暖化の仕組み等についての解説
4	地球温暖化への国内外の対応	気候変動枠組み条約等の説明
5	世界のエネルギー事情	化石燃料への依存状態の説明
6	国内のエネルギー事情	東日本大震災以降の化石燃料への依存度増加等の説明
7	原子力の科学	原子力の長所、短所、将来的な見通し等の解説
8	温暖化防止のための技術開発	二酸化炭素の排出削減を目指す革新的技術等の紹介
9	温暖化防止のための政策	炭素税などの解説
10	温暖化防止のための企業の取り組み	SDGsなどの解説
11	エネルギー、環境問題と社会的受容性	リスクマネジメント等の重要性について
12	温暖化以外の地球環境問題	水問題など
13	予備日	進捗状況に対応
14	総合確認、小論文	講義全体を通してこの先我々が目指すべき方向性等を提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
国内外のエネルギー情勢及び環境変化の事象に興味を持つことを奨めます。例として、NASA（米国航空宇宙局）、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）及びIEA(国際エネルギー機構)のWEBサイトでは、それぞれ最新の地球環境の現状に関するビジュアルデータ、重要な地球環境問題の取組み、及び世界エネルギー情勢に関する情報が提供されています。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回分の資料を提供します。

【参考書】
特にありません。授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業内容全般の総合的確認（８０％）及びテーマ/内容ごとの受講状況（２０％）により評価します。
欠席４回以上は単位取得を認めない(評価D).

【学生の意見等からの気づき】
授業では毎回、主要点をまとめることで、授業内容を理解しやすくわかりやすいものとします。

【その他の重要事項】
授業終了後に教室で質問を受け付ける。また随時、電子メールでも質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
(Course outline)
In this class, students will learn about global warming and other global environmental issues from the perspective of human energy use.
Specifically, we will discuss the scientific background, countermeasure technologies, policies, and other aspects of global environmental problems.
(Learning Objectives)
The objective of this course is for students to become aware of problems related to human activities, energy, and the environment, to understand the background of these problems, and to learn schemes to think about solutions.
(Learning activities outside of classroom)
None.
(Grading Criteria/Policy)
Attitude toward the class(80%) and class attendance(20%).More than 4 absences are not acceptable.

SES100NA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 100）

環境とエネルギー

下田　昭郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球が新たな地質学的時代に向かっていることを意味するために「人新世」という言葉が提案されている。人間が「地球規模での変化」のおおきな駆動力の一つであるとの認識に由来する。産業革命に始まる人間活動(人口を含む、経済、資源利用、輸送、情報通信などの活動)は、特に20世紀後半以降、急速に増加・進展し、この現象は21世紀にはいっても継続している。人間活動を特徴づけるエネルギー・物質フローはグローバルに増加し続け、その環境への影響(大気環境変化、気候変化、生物多様性の変化など)は地球規模で顕現し、人類の持続可能性に問題を提起しています。
この授業では、エネルギー・環境に関する基礎的知識を学び、資源・エネルギー利用を核とする人間活動と環境との関わりの歴史的経緯を展望し、人間活動の環境インパクトを技術・豊かさ・文化の視点から分析し、エネルギー・環境問題を考える枠組み習得することを目的とします。

【到達目標】
人間活動とエネルギー・環境とに関わる問題に、自ら気づき、その背景/本質を理解し、解決策を考えるスキームを学ぶことを目指します。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
					◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
○原則対面授業。ただし、必要に応じてリモート授業も実施。
○資料の提供は、時間割表に沿った授業予定日（火曜日）の前日までに学習支援システムにアップロードを予定
○授業に関する最新の情報は学習支援システムに提示

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事業方法等やスケジュールの説明
2	環境問題の変遷	地域環境問題から地球環境問題へ変遷の解説
3	地球温暖化の科学	温暖化の仕組み等についての解説
4	地球温暖化への国内外の対応	気候変動枠組み条約等の説明
5	世界のエネルギー事情	化石燃料への依存状態の説明
6	国内のエネルギー事情	東日本大震災以降の化石燃料への依存度増加等の説明
7	原子力の科学	原子力の長所、短所、将来的な見通し等の解説
8	温暖化防止のための技術開発	二酸化炭素の排出削減を目指す革新的技術等の紹介
9	温暖化防止のための政策	炭素税などの解説
10	温暖化防止のための企業の取り組み	SDGsなどの解説
11	エネルギー、環境問題と社会的受容性	リスクマネジメント等の重要性について
12	温暖化以外の地球環境問題	水問題など
13	予備日	進捗状況に対応
14	総合確認、小論文	講義全体を通してこの先我々が目指すべき方向性等を提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
国内外のエネルギー情勢及び環境変化の事象に興味を持つことを奨めます。例として、NASA（米国航空宇宙局）、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）及びIEA(国際エネルギー機構)のWEBサイトでは、それぞれ最新の地球環境の現状に関するビジュアルデータ、重要な地球環境問題の取組み、及び世界エネルギー情勢に関する情報が提供されています。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回分の資料を提供します。

【参考書】
特にありません。授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業内容全般の総合的確認（８０％）及びテーマ/内容ごとの受講状況（２０％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業では毎回、主要点をまとめることで、授業内容を理解しやすくわかりやすいものとします。

【その他の重要事項】
授業終了後に教室で質問を受け付ける。また随時、電子メールでも質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
(Course outline)
In this class, students will learn about global warming and other global environmental issues from the perspective of human energy use.
Specifically, we will discuss the scientific background, countermeasure technologies, policies, and other aspects of global environmental problems.
(Learning Objectives)
The objective of this course is for students to become aware of problems related to human activities, energy, and the environment, to understand the background of these problems, and to learn schemes to think about solutions.
(Learning activities outside of classroom)
None.
(Grading Criteria/Policy)
Attitude toward the class(80%) and class attendance(20%).More than 4 absences are not acceptable.

SES100NA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 100）

環境とエネルギー

下田　昭郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球が新たな地質学的時代に向かっていることを意味するために「人新世」という言葉が提案されている。人間が「地球規模での変化」のおおきな駆動力の一つであるとの認識に由来する。産業革命に始まる人間活動(人口を含む、経済、資源利用、輸送、情報通信などの活動)は、特に20世紀後半以降、急速に増加・進展し、この現象は21世紀にはいっても継続している。人間活動を特徴づけるエネルギー・物質フローはグローバルに増加し続け、その環境への影響(大気環境変化、気候変化、生物多様性の変化など)は地球規模で顕現し、人類の持続可能性に問題を提起しています。
この授業では、エネルギー・環境に関する基礎的知識を学び、資源・エネルギー利用を核とする人間活動と環境との関わりの歴史的経緯を展望し、人間活動の環境インパクトを技術・豊かさ・文化の視点から分析し、エネルギー・環境問題を考える枠組み習得することを目的とします。

【到達目標】
人間活動とエネルギー・環境とに関わる問題に、自ら気づき、その背景/本質を理解し、解決策を考えるスキームを学ぶことを目指します。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	45%
（B）技術者倫理	30%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	25%
（G）コミュニケーション能力	
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
○原則対面授業。ただし、必要に応じてリモート授業も実施。
○資料の提供は、時間割表に沿った授業予定日（火曜日）の前日までに学習支援システムにアップロードを予定
○授業に関する最新の情報は学習支援システムに提示

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事業方法等やスケジュールの説明
2	環境問題の変遷	地域環境問題から地球環境問題へ変遷の解説
3	地球温暖化の科学	温暖化の仕組み等についての解説
4	地球温暖化への国内外の対応	気候変動枠組み条約等の説明
5	世界のエネルギー事情	化石燃料への依存状態の説明
6	国内のエネルギー事情	東日本大震災以降の化石燃料への依存度増加等の説明
7	原子力の科学	原子力の長所、短所、将来的な見通し等の解説
8	温暖化防止のための技術開発	二酸化炭素の排出削減を目指す革新的技術等の紹介
9	温暖化防止のための政策	炭素税などの解説
10	温暖化防止のための企業の取り組み	SDGsなどの解説
11	エネルギー、環境問題と社会的受容性	リスクマネジメント等の重要性について
12	温暖化以外の地球環境問題	水問題など
13	予備日	進捗状況に対応
14	総合確認、小論文	講義全体を通してこの先我々が目指すべき方向性等を提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
国内外のエネルギー情勢及び環境変化の事象に興味を持つことを奨めます。例として、NASA（米国航空宇宙局）、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）及びIEA(国際エネルギー機構)のWEBサイトでは、それぞれ最新の地球環境の現状に関するビジュアルデータ、重要な地球環境問題の取組み、及び世界エネルギー情勢に関する情報が提供されています。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回分の資料を提供します。

【参考書】
特にありません。授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業内容全般の総合的確認（８０％）及びテーマ/内容ごとの受講状況（２０％）により評価します。
欠席４回以上は単位取得を認めない(評価D).

【学生の意見等からの気づき】
授業では毎回、主要点をまとめることで、授業内容を理解しやすくわかりやすいものとします。

【その他の重要事項】
授業終了後に教室で質問を受け付ける。また随時、電子メールでも質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
(Course outline)
In this class, students will learn about global warming and other global environmental issues from the perspective of human energy use. Specifically, we will discuss the scientific background, countermeasure technologies, policies, and other aspects of global environmental problems.
(Learning Objectives)
The objective of this course is for students to become aware of problems related to human activities, energy, and the environment, to understand the background of these problems, and to learn schemes to think about solutions.
(Learning activities outside of classroom)
None.
(Grading Criteria/Policy)
Attitude toward the class(80%) and class attendance(20%).More than 4 absences are not acceptable.

MAN100NA（経営学 / Management 100）

マーケティング

林　奈生子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈実〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
優れた技術や新規のアイディアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイディアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻繁に用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでどこでも誰とでも議論が可能になります。
授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

【到達目標】
本授業では次の２つの到達目標を設定します。
１．企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語　②企業活動　③企業から発信される情報－を理解することに重点を置きます。２．マーケティングの実践力の習得。そのために、研究課題やケーススタディを実施し、自身の考えを　①まとめる力　②表現する力　③伝える力－の養成を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業目標を達成するために、講義、ケーススタディ、事例紹介、研究課題や意見発表により進めます。
＊次のような授業運営にかかわる情報は学習支援システムにて告知します。
・zoomのURL・ID・パスコード
・授業で使用する教材
・授業計画の回、日程、内容の変更
・休講や自習の連絡　など
＊授業での資料閲覧、プレゼンテーションにはzoomの共有画面を使用します。
＊授業に関する質問は講義中・講義終了後の教室、または学習支援システムで行ってください。
＊なお、質問の際には　①シラバス　②学習支援システム　③学校が発信する通知－などを確認し、それらと重複しないよう注意してください。
＊本授業では出欠はとりません。遅刻・欠席の連絡は不要です。
＊課題研究やプレゼンテーションで作成・使用した資料などの提出は求めません。
＊本授業では講師のメールアドレスに直接メールすることを禁じます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。
2	マーケティングの歴史	マーケティングの歴史を概観する。あわせて、顧客志向の萌芽を説明する。
3	マーケティングと企業	企業活動におけるマーケティングの重要性を事例から学ぶ。
4	マーケティング・ツール	マーケティングの４Ｐ（製品、価格、流通、販売促進）を学ぶ。
5	研究課題①　新製品・サービスの発案	研究課題の取り組み方、発表について説明する。新製品・サービスのアイディアを出し概略を考える。
6	研究課題②　新製品・サービスのアイディアを深める	前回考えたアイディアを深め、わかりやすい形にする。
7	研究課題③　新製品・サービスの具体化	新製品・サービスのアイディアを具体化する。また、プレゼンテーションの準備を行う。
8	新製品・サービスの発表①	新製品・サービスのプレゼンテーションを行い意見交換をする。
9	新製品・サービスの発表②	引き続き新製品・サービスのプレゼンテーションを行う。前回と今回の意見交換を参考に改めて自身のアイディアを深める機会とする。
10	マーケティング・ミックスと情報	マーケティング・ツールとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性と収集・分析の留意事項について知る。（プレゼンテーションが終わらない場合は本回にもその場を設けます）
11	市場の細分化	ＳＴＰ（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の基本知識と事例を学ぶ。
12	消費者購買プロセス	消費者の購買行動と企業のマーケティング戦略の関係性を考える。
13	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。
14	企業の社会的責任とマーケティング	企業の社会的責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。あわせて、レポート提出について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自身の得た情報をマーケティングの観点で考え、分析する努力をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要な場合は授業で紹介します。

【参考書】
石井淳蔵　廣田章光編著『１からのマーケティング』中央経済社
フィリップ・コトラー　ケビン・レーン・ケラー著『コトラー＆ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション
Ｐ.Ｆ．ドラッガー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社
そのほか、随時、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価はレポート課題提出：90%、平常点：10％とします。
＜レポート提出＞
１．レポートのテーマ：学習支援システムWebClassにて告知します。
２．言語：日本語
３．提出する際のファイルの種類：PDF
４．字数、フォント、ポイント：400字以上600字以内、フォント指定なし、ポイント10.5
５．提出期間：第14回授業日の午前10時30分から翌週水曜日の午前10時30分まで。なお、変更がある場合は学習支援システムにて告知します。
６．提出方法：学習支援システムWebClassに掲示される添付ファイルのフォーマットを用いて、学習支援システムWebClassを通して提出。
７．留意事項
（１）レポート提出は、学習支援システムWebClassを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。
（２）学習支援システムの【感染症に係る授業欠席等配慮願　提出箱】を用いてのレポート提出はレポート提出とはみなしません。
（３）レポートを講師や講師室へ持参もしくは手渡しは受理しません。
（４）講師のメールアドレスや学習支援システムのメッセージを使用し提出されたレポートは受理しません。
（５）レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。
（６）なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので充分に注意してください。
（７）テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。
（８）レポート提出期限後の誤記などによる修正・訂正の申し出は受け付けません。レポート提出は十分に見直したうえで行ってください。
（９）大学では、①成績に関する嘆願の連絡　②提出期日を過ぎた課題の受理依頼－を禁止しています。成績評価について疑義がある場合は「成績調査制度」を利用してください。
＜平常点＞
意見発表やプレゼンテーションなどを積極的に行った学生に配点します。

【学生の意見等からの気づき】
研究課題において受講生から「価値観が違う人の意見を聞くことで新たなアイディアが生まれた」「1つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「最初は不安だったが勇気を出して発表していろんな意見を聞けたことがよかった」などの感想が寄せられた。研究課題が受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後もより効果的に研究課題を授業に組み入れたい。

【学生が準備すべき機器他】
zoom を使用できる機器を用意してください。

【その他の重要事項】
＜講師について＞
修士（経営学）、博士（公共政策学）
金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。
＜授業に関する質問について＞
授業中・終了後の教室および学習支援システムを通して質問を受けつけます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This is an introductory lecture on marketing. Learn the theory of traditional marketing and consider what good design is in marketing through some examples of modern business units. This lecture focuses on understanding marketing concepts and meanings of basic terms, business activities, and information transmitted from companies. This course promotes student learning through lectures, group discussions and presentations, and writing reports.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to understand the basic concepts of marketing.
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria/policy】
90%for report submission, 10%for normal scores (participation, opinion presentation, etc.).

MAN100NA（経営学 / Management 100）

マーケティング

林　奈生子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
優れた技術や新規のアイディアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイディアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻繁に用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでどこでも誰とでも議論が可能になります。
授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

【到達目標】
本授業では次の２つの到達目標を設定します。
１．企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語　②企業活動　③企業から発信される情報－を理解することに重点を置きます。２．マーケティングの実践力の習得。そのために、研究課題やケーススタディを実施し、自身の考えを　①まとめる力　②表現する力　③伝える力－の養成を目指します。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
					◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業目標を達成するために、講義、ケーススタディ、事例紹介、研究課題や意見発表により進めます。
＊次のような授業運営にかかわる情報は学習支援システムにて告知します。
・zoomのURL・ID・パスコード
・授業で使用する教材
・授業計画の回、日程、内容の変更
・休講や自習の連絡　など
＊授業での資料閲覧、プレゼンテーションにはzoomの共有画面を使用します。
＊授業に関する質問は講義中・講義終了後の教室、または学習支援システムで行ってください。
＊なお、質問の際には　①シラバス　②学習支援システム　③学校が発信する通知－などを確認し、それらと重複しないよう注意してください。
＊本授業では出欠はとりません。遅刻・欠席の連絡は不要です。
＊課題研究やプレゼンテーションで作成・使用した資料などの提出は求めません。
＊本授業では講師のメールアドレスに直接メールすることを禁じます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。
2	マーケティングの歴史	マーケティングの歴史を概観する。あわせて、顧客志向の萌芽を説明する。
3	マーケティングと企業	企業活動におけるマーケティングの重要性を事例から学ぶ。
4	マーケティング・ツール	マーケティングの４Ｐ（製品、価格、流通、販売促進）を学ぶ。
5	研究課題①　新製品・サービスの発案	研究課題の取り組み方、発表について説明する。新製品・サービスのアイディアを出し概略を考える。
6	研究課題②　新製品・サービスのアイディアを深める	前回考えたアイディアを深め、わかりやすい形にする。
7	研究課題③　新製品・サービスの具体化	新製品・サービスのアイディアを具体化する。また、プレゼンテーションの準備を行う。
8	新製品・サービスの発表①	新製品・サービスのプレゼンテーションを行い意見交換をする。
9	新製品・サービスの発表②	引き続き新製品・サービスのプレゼンテーションを行う。前回と今回の意見交換を参考に改めて自身のアイディアを深める機会とする。
10	マーケティング・ミックスと情報	マーケティング・ツールとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性と収集・分析の留意事項について知る。（プレゼンテーションが終わらない場合は本回にもその場を設けます）
11	市場の細分化	ＳＴＰ（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の基本知識と事例を学ぶ。
12	消費者購買プロセス	消費者の購買行動と企業のマーケティング戦略の関係性を考える。
13	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。
14	企業の社会的責任とマーケティング	企業の社会的責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。あわせて、レポート提出について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自身の得た情報をマーケティングの観点で考え、分析する努力をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要な場合は授業で紹介します。

【参考書】
石井淳蔵　廣田章光編著『１からのマーケティング』中央経済社
フィリップ・コトラー　ケビン・レーン・ケラー著『コトラー＆ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション
Ｐ.Ｆ．ドラッガー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社
そのほか、随時、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価はレポート課題提出：90%、平常点：10％とします。
＜レポート提出＞
１．レポートのテーマ：学習支援システムWebClassにて告知します。
２．言語：日本語
３．提出する際のファイルの種類：PDF
４．字数、フォント、ポイント：400字以上600字以内、フォント指定なし、ポイント10.5
５．提出期間：第14回授業日の午前10時30分から翌週水曜日の午前10時30分まで。なお、変更がある場合は学習支援システムにて告知します。
６．提出方法：学習支援システムWebClassに掲示される添付ファイルのフォーマットを用いて、学習支援システムWebClassを通して提出。
７．留意事項
（１）レポート提出は、学習支援システムWebClassを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。
（２）学習支援システムの【感染症に係る授業欠席等配慮願　提出箱】を用いてのレポート提出はレポート提出とはみなしません。
（３）レポートを講師や講師室へ持参もしくは手渡しは受理しません。
（４）講師のメールアドレスや学習支援システムのメッセージを使用し提出されたレポートは受理しません。
（５）レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。
（６）なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので充分に注意してください。
（７）テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。
（８）レポート提出期限後の誤記などによる修正・訂正の申し出は受け付けません。レポート提出は十分に見直したうえで行ってください。
（９）大学では、①成績に関する嘆願の連絡　②提出期日を過ぎた課題の受理依頼－を禁止しています。成績評価について疑義がある場合は「成績調査制度」を利用してください。
＜平常点＞
意見発表やプレゼンテーションなどを積極的に行った学生に配点します。

【学生の意見等からの気づき】
研究課題において受講生から「価値観が違う人の意見を聞くことで新たなアイディアが生まれた」「1つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「最初は不安だったが勇気を出して発表していろんな意見を聞けたことがよかった」などの感想が寄せられた。研究課題が受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後もより効果的に研究課題を授業に組み入れたい。

【学生が準備すべき機器他】
zoom を使用できる機器を用意してください。

【その他の重要事項】
＜講師について＞
修士（経営学）、博士（公共政策学）
金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。
＜授業に関する質問について＞
授業中・終了後の教室および学習支援システムを通して質問を受けつけます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This is an introductory lecture on marketing. Learn the theory of traditional marketing and consider what good design is in marketing through some examples of modern business units. This lecture focuses on understanding marketing concepts and meanings of basic terms, business activities, and information transmitted from companies. This course promotes student learning through lectures, group discussions and presentations, and writing reports.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to understand the basic concepts of marketing.
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria/policy】
90%for report submission, 10%for normal scores (participation, opinion presentation, etc.).

MAN100NA（経営学 / Management 100）

マーケティング

林　奈生子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
優れた技術や新規のアイディアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイディアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻繁に用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでどこでも誰とでも議論が可能になります。
授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

【到達目標】
本授業では次の２つの到達目標を設定します。
１．企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語　②企業活動　③企業から発信される情報－を理解することに重点を置きます。２．マーケティングの実践力の習得。そのために、研究課題やケーススタディを実施し、自身の考えを　①まとめる力　②表現する力　③伝える力－の養成を目指します。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力
（E）専門知識の活用・応用能力
（F）総合デザイン能力　25%
（G）コミュニケーション能力　25%
（H）継続的学習能力　25%
（I）業務遂行能力　25%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業目標を達成するために、講義、ケーススタディ、事例紹介、研究課題や意見発表により進めます。
＊次のような授業運営にかかわる情報は学習支援システムにて告知します。
・zoomのURL・ID・パスコード
・授業で使用する教材
・授業計画の回、日程、内容の変更
・休講や自習の連絡　など
＊授業での資料閲覧、プレゼンテーションにはzoomの共有画面を使用します。
＊授業に関する質問は講義中・講義終了後の教室、または学習支援システムで行ってください。
＊なお、質問の際には　①シラバス　②学習支援システム　③学校が発信する通知－などを確認し、それらと重複しないよう注意してください。
＊本授業では出欠はとりません。遅刻・欠席の連絡は不要です。
＊課題研究やプレゼンテーションで作成・使用した資料などの提出は求めません。
＊本授業では講師のメールアドレスに直接メールすることを禁じます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。
2	マーケティングの歴史	マーケティングの歴史を概観する。あわせて、顧客志向の萌芽を説明する。
3	マーケティングと企業	企業活動におけるマーケティングの重要性を事例から学ぶ。
4	マーケティング・ツール	マーケティングの４Ｐ（製品、価格、流通、販売促進）を学ぶ。
5	研究課題①　新製品・サービスの発案	研究課題の取り組み方、発表について説明する。新製品・サービスのアイディアを出し概略を考える。
6	研究課題②　新製品・サービスのアイディアを深める	前回考えたアイディアを深め、わかりやすい形にする。
7	研究課題③　新製品・サービスの具体化	新製品・サービスのアイディアを具体化する。また、プレゼンテーションの準備を行う。
8	新製品・サービスの発表①	新製品・サービスのプレゼンテーションを行い意見交換をする。
9	新製品・サービスの発表②	引き続き新製品・サービスのプレゼンテーションを行う。前回と今回の意見交換を参考に改めて自身のアイディアを深める機会とする。
10	マーケティング・ミックスと情報	マーケティング・ツールとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性と収集・分析の留意事項について知る。（プレゼンテーションが終わらない場合は本回にもその場を設けます）
11	市場の細分化	ＳＴＰ（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の基本知識と事例を学ぶ。
12	消費者購買プロセス	消費者の購買行動と企業のマーケティング戦略の関係性を考える。
13	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。
14	企業の社会的責任とマーケティング	企業の社会的責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。あわせて、レポート提出について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自身の得た情報をマーケティングの観点で考え、分析する努力をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要な場合は授業で紹介します。

【参考書】
石井淳蔵　廣田章光編著『1からのマーケティング』中央経済社
フィリップ・コトラー　ケビン・レーン・ケラー著『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション
P.F．ドラッガー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社
そのほか、随時、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価はレポート課題提出：90%、平常点：10％とします。
＜レポート提出＞
1．レポートのテーマ：学習支援システムWebClassにて告知します。
2．言語：日本語
3．提出する際のファイルの種類：PDF
4．字数、フォント、ポイント：400字以上600字以内、フォント指定なし、ポイント10.5
5．提出期間：第14回授業日の午前10時30分から翌週水曜日の午前10時30分まで。なお、変更がある場合は学習支援システムにて告知します。
6．提出方法：学習支援システムWebClassに掲示される添付ファイルのフォーマットを用いて、学習支援システムWebClassを通して提出。
7．留意事項
（1）レポート提出は、学習支援システムWebClassを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。
（2）学習支援システムの【感染症に係る授業欠席等配慮願　提出箱】を用いてのレポート提出はレポート提出とはみなしません。
（3）レポートを講師や講師室へ持参もしくは手渡しは受理しません。
（4）講師のメールアドレスや学習支援システムのメッセージを使用し提出されたレポートは受理しません。
（5）レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。
（6）なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので充分に注意してください。
（7）テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。
（8）レポート提出期限後の誤記などによる修正・訂正の申し出は受け付けません。レポート提出は十分に見直したうえで行ってください。
（9）大学では、①成績に関する嘆願の連絡　②提出期日を過ぎた課題の受理依頼－を禁止しています。成績評価について疑義がある場合は「成績調査制度」を利用してください。
＜平常点＞
意見発表やプレゼンテーションなどを積極的に行った学生に配点します。

【学生の意見等からの気づき】
研究課題において受講生から「価値観が違う人の意見を聞くことで新たなアイディアが生まれた」「1つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「最初は不安だったが勇気を出して発表していろんな意見を聞けたことがよかった」などの感想が寄せられた。研究課題が受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後もより効果的に研究課題を授業に組み入れたい。

【学生が準備すべき機器他】
zoomを使用できる機器を用意してください。

【その他の重要事項】
＜講師について＞
修士（経営学）、博士（公共政策学）
金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。
＜授業に関する質問について＞
授業中・終了後の教室および学習支援システムを通して質問を受けつけます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This is an introductory lecture on marketing.　Learn the theory of traditional marketing and consider what good design is in marketing through some examples of modern business units.　This lecture focuses on understanding marketing concepts and meanings of basic terms, business activities, and information transmitted from companies.　This course promotes student learning through lectures, group discussions and presentations, and writing reports.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to understand the basic concepts of marketing.
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria/policy】
90%for report submission, 10%for normal scores (participation, opinion presentation, etc.).

SOC100NA（社会学 / Sociology 100）

日本文化論

尾形　太郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の名前から、日本文化・社会の概説を期待した人もいるかもしれない。そこで期待されていたのは、ある意味「標準的な」日本（文化ないし社会）の姿や、日本において「普通」とされる考え方や価値観なのかもしれない。だが、本授業が目指すのは、そのような「普通」を問い直し、「普通」と表裏一体である「普通ではない（とされる）もの」に対する構造的な排除や差別（日本社会のあり方や、多くの人が共有する考え方に由来する排除や差別）を検討することである。端的に言えば、日本における「普通」を問うことを通して、「日本の文化と社会」に対する理解を深めることである。
具体的には、本授業は、①安楽死、②障害者差別という2つの観点から「日本の文化と社会」を検討する。
【①安楽死】近年、海外において「安楽死を遂げた日本人」がメディアによりしばしば取り上げられている。現在、日本では安楽死は合法ではないが、メディアによる報道の影響もあり、合法化に賛成する声は小さくない。ところで、通常、「（自分あるいは他者を）死なせる」ことは許されないが、安楽死肯定論は、なぜ安楽死に限り「死なせる」ことが許容されると考えるのだろうか。それは、安楽死を求める人々の状況が「通常」とは異なる（つまり「普通ではない」）と考えられているからだろう（例えば、彼・彼女らは「不治」の病により、「余命」僅かであるにもかかわらず、「無意味な」処置を施され、「耐え難い苦痛」に苦しんでいる、等）。だが、このような見方は非常に一面的である。また、「普通ではない」生であるなら「終わらせてもよい」と見なすことは、多様であるはずの生に序列を持ち込み、「生きる価値のある生」とそのような価値をもたない生との間に線を引くことにならないだろうか。そして、そのことによって、生き続ける可能性を奪われかねない人々がいることを、安楽死肯定論は見過ごしている。また、そのような問題がメディアで取り上げられることは稀である。本授業では安楽死肯定論の主張を検討したうえで、その問題点を指摘する。また、実際に安楽死が合法化されている国の現状も紹介する。
【②障害者差別】「多様性」あるいは「ダイバーシティ」は（いい意味でも悪い意味でも）日本社会においてすっかり定着した言葉となった。加えて、障害者差別解消法の施行・改正などにより、障害者福祉に一定の推進が見られるのは事実であろう。一方で、「障害」とは当事者本人の問題であり、障害者に対する配慮の根本は、健常者から障害者に対する「思いやり」であるとする考え（「「普通」である私たちが、「普通ではない」彼・彼女らを思いやってあげる」と言った考え）が広く共有されているのではないだろうか。そのような考えに潜むいくつもの問題を、障害学や社会学の知見、及び障害当事者の声に基づき、考察する。
授業で扱う問題に関する知識がなくとも授業に参加することは可能である。授業を通して基本的な知識を身に付け、また、問題への関心を深めることが授業の目的の一つである。（扱う問題は、参加者の関心に応じて変更する場合があります。）
また、ディスカッションを通して様々な意見に触れ、視野を広げること、複眼的に問題を考える姿勢を身に付けることもこの授業の目的のひとつである。ただし、ディスカッションと同じぐらい、授業後のコメント（学習支援システム利用）を重視するので、ディスカッションが苦手な人、ディスカッションで言いそびれたことがある人には、授業後に書くコメントを大いに活用していただきたい。コメントは次回の授業で紹介する。

【到達目標】
1．安楽死の分類、歴史的背景について、基本的な知識を得ること。
2．安楽死肯定論が拠って立つ根拠とその問題点について理解すること。
3．日本における「安楽死・尊厳死」に関する議論の経緯と現在の状況について理解することこと。
4．「障害」の個人モデル（医療モデル）と社会モデルについて理解すること。
5．障害者差別解消法と合理的配慮の基本理念について理解すること。
6．マジョリティ／マイノリティの「非対称性」、「みえない特権」概念の基本的な考え方を理解すること。
7．「差別解消」を「思いやり」に求める考え方（「思いやり」モデル）の問題点、及び「人権」モデルの必要性に関する議論ついて理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP4」、システムデザイン研究科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連。

【授業の進め方と方法】
①前回の授業の振り返り（コメントの紹介）
②その日のテーマに関する講義
③②に関するグループ・ディスカッション
授業後に学習支援システムよりコメントを入力する。
各回の課題へのフィードバックは、授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション 安楽死について現段階にどう考えるか意見を共有する	授業の進め方を説明する。安楽死に関するそれぞれの考え方や興味関心を共有する。
②	安楽死の分類、歴史的背景、「安楽死」と「尊厳死」の違い	「安楽死」「尊厳死」についての基本的な知識を学ぶ
③	「安楽死＝よい死」「延命治療→悪い死」というイメージについて	「よい死」「悪い死」とは？「延命治療」は悪いもの？
④	死の自己決定について	死の「自己決定」にもとづく安楽死肯定論について考える
⑤	「権利」としての安楽死（学生による文献紹介を含む）	「権利」概念から安楽死を肯定する議論を検討する
⑥	「尊厳死法案」とその批判	「尊厳死法案」とその批判と批判に対する反論に関する資料を読み、「尊厳死」の法制化の是非について考える
⑦	社会的弱者にとっての安楽死（学生による文献紹介を含む）	安楽死が合法化された国における現状を踏まえ、社会的弱者へのリスクという観点から安楽死の法制化に反対する議論への反論を考える
⑧	ここまでの授業内容の振り返り／障害者差別について事例から考える	障害者に対する「乗車拒否」の事例について考える
⑨	障害の個人モデル（医療モデル）と社会モデル	「障害」とは？　「個人モデル（医療モデル）」と「社会モデル」について考える
⑩	障害者差別解消法と合理的配慮	障害者差別解消法と合理的配慮の基本理念について理解を深める

⑪	みえない特権とは何か（学生の文献紹介を含む）	「健常者」は「特権」を持っている？　「みえない特権」概念に基づき考える
⑫	マジョリティ/マイノリティの非対称性（学生の文献紹介を含む）	マジョリティ/マイノリティとはどのような存在か、「非対称性」概念から考える
⑬	「心のバリアフリー」概念の批判的検討（学生の文献紹介を含む）	「思いやり」による「差別解消」アプローチを批判的に検討する
⑭	自由発表（文献紹介またはレポートの構想発表）	安楽死または障害者差別に関する文献紹介またはレポートの構想を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各回資料を配布する。

【参考書】
授業中に紹介しますが、まずは以下の2点を挙げておきたいと思います。
安藤泰至（2019）『安楽死・尊厳死を語る前に知っておきたいこと』岩波書店
荒井祐樹（2020）『障害者差別を問いなおす』筑摩書房

【成績評価の方法と基準】
各回の課題：30%
発表（文献紹介）：20％
期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】
「今まで考えたこともなかった問題について考えるきっかけを得ることができた」「議論の中で、自分の考えを言語化することで、今までぼんやりと考えていたことが整理できた」といったコメントを読み、とてもうれしく思います。
今後も、この授業から少しでも多くの学生の皆さんが「気づき」「興味」「問題意識」を得る、あるいは深めることができるよう努力したいと思っています。

【その他の重要事項】
この授業は、留学生と日本人学生が議論し、交流を深める貴重な機会となっています。
日本人学生と意見を交換したい留学生のみなさん、普段あまり留学生と話す機会がない日本人学生のみなさん、どちらもぜひこの機会を利用してもらえたらと思います。
※ESOP生（交換留学生）は、日本語能力試験（JLPT）N1レベル以上の学生を対象とします。（希望者が多い場合は選考します。）
※ ESOP Students are required JLPT N1 for registration. (Selection will be made if there are too many applicants.)

【Outline (in English)】
The class will treat some actual problems we are confronting in Japanese society. We will discuss them from different viewpoints; international students' and Japanese students' ones. The class will provide students with opportunities to approach the problems through reading papers, presentations, and discussions with those who have different cultural and social backgrounds.
Goal:(1) Learn basic knowledge about the topics and inquire the issues with deep interest (2)Acquire an attitude to think about issues from different viewpoints by being exposed to different opinions.
Work to be done outside of class (preparation, etc.): Two hours
Grading criteria : Assignments(30%), Presentation(20%), Final report(50%)

SOC100NA（社会学 / Sociology 100）

日本文化論

尾形　太郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の名前から、日本文化・社会の概説を期待した人もいるかもしれない。そこで期待されていたのは、ある意味「標準的な」日本（文化ないし社会）の姿や、日本において「普通」とされる考え方や価値観なのかもしれない。だが、本授業が目指すのは、そのような「普通」を問い直し、「普通」と表裏一体である「普通ではない（とされる）もの」に対する構造的な排除や差別（日本社会のあり方や、多くの人が共有する考え方に由来する排除や差別）を検討することである。端的に言えば、日本における「普通」を問うことを通して、「日本の文化と社会」に対する理解を深めることである。
具体的には、本授業は、①安楽死、②障害者差別という2つの観点から「日本の文化と社会」を検討する。
【①安楽死】近年、海外において「安楽死を遂げた日本人」がメディアによりしばしば取り上げられている。現在、日本では安楽死は合法ではないが、メディアによる報道の影響もあり、合法化に賛成する声は小さくない。ところで、通常、「（自分あるいは他者を）死なせる」ことは許されないが、安楽死肯定論は、なぜ安楽死に限り「死なせる」ことが許容されると考えるのだろうか。それは、安楽死を求める人々の状況が「通常」とは異なる（つまり「普通ではない」）と考えられているからだろう（例えば、彼・彼女らは「不治」の病により、「余命」僅かであるにもかかわらず、「無意味な」処置を施され、「耐え難い苦痛」に苦しんでいる、等）。だが、このような見方は非常に一面的である。また、「普通ではない」生であるなら「終わらせてもよい」と見なすことは、多様であるはずの生に序列を持ち込み、「生きる価値のある生」とそのような価値をもたない生との間に線を引くことにならないだろうか。そして、そのことによって、生き続ける可能性を奪われかねない人々がいることを、安楽死肯定論は見過ごしている。また、そのような問題がメディアで取り上げられることは稀である。本授業では安楽死肯定論の主張を検討したうえで、その問題点を指摘する。また、実際に安楽死が合法化されている国の現状も紹介する。
【②障害者差別】「多様性」あるいは「ダイバーシティ」は（いい意味でも悪い意味でも）日本社会においてすっかり定着した言葉となった。加えて、障害者差別解消法の施行・改正などにより、障害者福祉に一定の推進が見られるのは事実であろう。一方で、「障害」とは当事者本人の問題であり、障害者に対する配慮の根本は、健常者から障害者に対する「思いやり」であるとする考え（「「普通」である私たちが、「普通ではない」彼・彼女らを思いやってあげる」と言った考え）が広く共有されているのではないだろうか。そのような考えに潜むいくつもの問題を、障害学や社会学の知見、及び障害当事者の声に基づき、考察する。
授業で扱う問題に関する知識がなくとも授業に参加することは可能である。授業を通して基本的な知識を身に付け、また、問題への関心を深めることが授業の目的の一つである。（扱う問題は、参加者の関心に応じて変更する場合があります。）
また、ディスカッションを通して様々な意見に触れ、視野を広げること、複眼的に問題を考える姿勢を身に付けることもこの授業の目的のひとつである。ただし、ディスカッションと同じぐらい、授業後のコメント（学習支援システム利用）を重視するので、ディスカッションが苦手な人、ディスカッションで言いそびれたことがある人には、授業後に書くコメントを大いに活用していただきたい。コメントは次回の授業で紹介する。

【到達目標】
1．安楽死の分類、歴史的背景について、基本的な知識を得ること。
2．安楽死肯定論が拠って立つ根拠とその問題点について理解すること。
3．日本における「安楽死・尊厳死」に関する議論の経緯と現在の状況について理解することこと。
4．「障害」の個人モデル（医療モデル）と社会モデルについて理解すること。
5．障害者差別解消法と合理的配慮の基本理念について理解すること。
6．マジョリティ／マイノリティの「非対称性」、「みえない特権」概念の基本的な考え方を理解すること。
7．「差別解消」を「思いやり」に求める考え方（「思いやり」モデル）の問題点、及び「人権」モデルの必要性に関する議論ついて理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP4」、システムデザイン研究科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連。

【授業の進め方と方法】
①前回の授業の振り返り（コメントの紹介）
②その日のテーマに関する講義
③②に関するグループ・ディスカッション
授業後に学習支援システムよりコメントを入力する。
各回の課題へのフィードバックは、授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション 安楽死について現段階にどう考えるか意見を共有する	授業の進め方を説明する。安楽死に関するそれぞれの考え方や興味関心を共有する。
②	安楽死の分類、歴史的背景、「安楽死」と「尊厳死」の違い	「安楽死」「尊厳死」についての基本的な知識を学ぶ
③	「安楽死＝よい死」「延命治療→悪い死」というイメージについて	「よい死」「悪い死」とは？「延命治療」は悪いもの？
④	死の自己決定について	死の「自己決定」にもとづく安楽死肯定論について考える
⑤	「権利」としての安楽死（学生による文献紹介を含む）	「権利」概念から安楽死を肯定する議論を検討する
⑥	「尊厳死法案」とその批判	「尊厳死法案」とその批判と批判に対する反論に関する資料を読み、「尊厳死」の法制化の是非について考える
⑦	社会的弱者にとっての安楽死（学生による文献紹介を含む）	安楽死が合法化された国における現状を踏まえ、社会的弱者へのリスクという観点から安楽死の法制化に反対する議論への反論を考える
⑧	ここまでの授業内容の振り返り／障害者差別について事例から考える	障害者に対する「乗車拒否」の事例について考える
⑨	障害の個人モデル（医療モデル）と社会モデル	「障害」とは？　「個人モデル（医療モデル）」と「社会モデル」について考える
⑩	障害者差別解消法と合理的配慮	障害者差別解消法と合理的配慮の基本理念について理解を深める

⑪	みえない特権とは何か（学生の文献紹介を含む）	「健常者」は「特権」を持っている？　「みえない特権」概念に基づき考える
⑫	マジョリティ/マイノリティの非対称性（学生の文献紹介を含む）	マジョリティ/マイノリティとはどのような存在か、「非対称性」概念から考える
⑬	「心のバリアフリー」概念の批判的検討（学生の文献紹介を含む）	「思いやり」による「差別解消」アプローチを批判的に検討する
⑭	自由発表（文献紹介またはレポートの構想発表）	安楽死または障害者差別に関する文献紹介またはレポートの構想を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各回資料を配布する。

【参考書】
授業中に紹介しますが、まずは以下の２点を挙げておきたいと思います。
安藤泰至（2019）『安楽死・尊厳死を語る前に知っておきたいこと』岩波書店
荒井祐樹（2020）『障害者差別を問いなおす』筑摩書房

【成績評価の方法と基準】
各回の課題：30%
発表（文献紹介）：20％
期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】
「今まで考えたこともなかった問題について考えるきっかけを得ることができた」「議論の中で、自分の考えを言語化することで、今までぼんやりと考えていたことが整理できた」といったコメントを読み、とてもうれしく思います。
今後も、この授業から少しでも多くの学生の皆さんが「気づき」「興味」「問題意識」を得る、あるいは深めることができるよう努力したいと思っています。

【その他の重要事項】
この授業は、留学生と日本人学生が議論し、交流を深める貴重な機会となっています。
日本人学生と意見を交換したい留学生のみなさん、普段あまり留学生と話す機会がない日本人学生のみなさん、どちらもぜひこの機会を利用してもらえたらと思います。
※ESOP生（交換留学生）は、日本語能力試験（JLPT）N1レベル以上の学生を対象とします。（希望者が多い場合は選考します。）
※ ESOP Students are required JLPT N1 for registration. (Selection will be made if there are too many applicants.)

【Outline (in English)】
The class will treat some actual problems we are confronting in Japanese society. We will discuss them from different viewpoints; international students' and Japanese students' ones. The class will provide students with opportunities to approach the problems through reading papers, presentations, and discussions with those who have different cultural and social backgrounds.
Goal:(1) Learn basic knowledge about the topics and inquire the issues with deep interest (2)Acquire an attitude to think about issues from different viewpoints by being exposed to different opinions.
Work to be done outside of class (preparation, etc.): Two hours
Grading criteria : Assignments(30%), Presentation(20%), Final report(50%)

SOC100NA（社会学 / Sociology 100）

日本文化論

尾形　太郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の名前から、日本文化・社会の概説を期待した人もいるかもしれない。そこで期待されていたのは、ある意味「標準的な」日本（文化ないし社会）の姿や、日本において「普通」とされる考え方や価値観なのかもしれない。だが、本授業が目指すのは、そのような「普通」を問い直し、「普通」と表裏一体である「普通ではない（とされる）もの」に対する構造的な排除や差別（日本社会のあり方や、多くの人が共有する考え方に由来する排除や差別）を検討することである。端的に言えば、日本における「普通」を問うことを通して、「日本の文化と社会」に対する理解を深めることである。
具体的には、本授業は、①安楽死、②障害者差別という2つの観点から「日本の文化と社会」を検討する。
【①安楽死】近年、海外において「安楽死を遂げた日本人」がメディアによりしばしば取り上げられている。現在、日本では安楽死は合法ではないが、メディアによる報道の影響もあり、合法化に賛成する声は小さくない。ところで、通常、「（自分あるいは他者を）死なせる」ことは許されないが、安楽死肯定論は、なぜ安楽死に限り「死なせる」ことが許容されると考えるのだろうか。それは、安楽死を求める人々の状況が「通常」とは異なる（つまり「普通ではない」）と考えられているからだろう（例えば、彼・彼女らは「不治」の病により、「余命」僅かであるにもかかわらず、「無意味な」処置を施され、「耐え難い苦痛」に苦しんでいる、等）。だが、このような見方は非常に一面的である。また、「普通ではない」生であるなら「終わらせてもよい」と見なすことは、多様であるはずの生に序列を持ち込み、「生きる価値のある生」とそのような価値をもたない生との間に線を引くことにならないだろうか。そして、そのことによって、生き続ける可能性を奪われかねない人々がいることを、安楽死肯定論は見過ごしている。また、そのような問題がメディアで取り上げられることは稀である。本授業では安楽死肯定論の主張を検討したうえで、その問題点を指摘する。また、実際に安楽死が合法化されている国の現状も紹介する。
【②障害者差別】「多様性」あるいは「ダイバーシティ」は（いい意味でも悪い意味でも）日本社会においてすっかり定着した言葉となった。加えて、障害者差別解消法の施行・改正などにより、障害者福祉に一定の推進が見られるのは事実であろう。一方で、「障害」とは当事者本人の問題であり、障害者に対する配慮の根本は、健常者から障害者に対する「思いやり」であるとする考え（「「普通」である私たちが、「普通ではない」彼・彼女らを思いやってあげる」と言った考え）が広く共有されているのではないだろうか。そのような考えに潜むいくつもの問題を、障害学や社会学の知見、及び障害当事者の声に基づき、考察する。
授業で扱う問題に関する知識がなくとも授業に参加することは可能である。授業を通して基本的な知識を身に付け、また、問題への関心を深めることが授業の目的の一つである。（扱う問題は、参加者の関心に応じて変更する場合があります。）
また、ディスカッションを通して様々な意見に触れ、視野を広げること、複眼的に問題を考える姿勢を身に付けることもこの授業の目的のひとつである。ただし、ディスカッションと同じぐらい、授業後のコメント（学習支援システム利用）を重視するので、ディスカッションが苦手な人、ディスカッションで言いそびれたことがある人には、授業後に書くコメントを大いに活用していただきたい。コメントは次回の授業で紹介する。

【到達目標】
1．安楽死の分類、歴史的背景について、基本的な知識を得ること。
2．安楽死肯定論が拠って立つ根拠とその問題点について理解すること。
3．日本における「安楽死・尊厳死」に関する議論の経緯と現在の状況について理解することこと。
4．「障害」の個人モデル（医療モデル）と社会モデルについて理解すること。
5．障害者差別解消法と合理的配慮の基本理念について理解すること。
6．マジョリティ／マイノリティの「非対称性」、「みえない特権」概念の基本的な考え方を理解すること。
7．「差別解消」を「思いやり」に求める考え方（「思いやり」モデル）の問題点、及び「人権」モデルの必要性に関する議論ついて理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP4」、システムデザイン研究科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連。

【授業の進め方と方法】
①前回の授業の振り返り（コメントの紹介）
②その日のテーマに関する講義
③②に関するグループ・ディスカッション
授業後に学習支援システムよりコメントを入力する。
各回の課題へのフィードバックは、授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション 安楽死について現段階にどう考えるか意見を共有する	授業の進め方を説明する。安楽死に関するそれぞれの考え方や興味関心を共有する。
②	安楽死の分類、歴史的背景、「安楽死」と「尊厳死」の違い	「安楽死」「尊厳死」についての基本的な知識を学ぶ
③	「安楽死＝よい死」「延命治療→悪い死」というイメージについて	「よい死」「悪い死」とは？「延命治療」は悪いもの？
④	死の自己決定について	死の「自己決定」にもとづく安楽死肯定論について考える
⑤	「権利」としての安楽死（学生による文献紹介を含む）	「権利」概念から安楽死を肯定する議論を検討する
⑥	「尊厳死法案」とその批判	「尊厳死法案」とその批判と批判に対する反論に関する資料を読み、「尊厳死」の法制化の是非について考える
⑦	社会的弱者にとっての安楽死（学生による文献紹介を含む）	安楽死が合法化された国における現状を踏まえ、社会的弱者へのリスクという観点から安楽死の法制化に反対する議論への反論を考える
⑧	ここまでの授業内容の振り返り／障害者差別について事例から考える	障害者に対する「乗車拒否」の事例について考える
⑨	障害の個人モデル（医療モデル）と社会モデル	「障害」とは？　「個人モデル（医療モデル）」と「社会モデル」について考える
⑩	障害者差別解消法と合理的配慮	障害者差別解消法と合理的配慮の基本理念について理解を深める

⑪	みえない特権とは何か（学生の文献紹介を含む）	「健常者」は「特権」を持っている？　「みえない特権」概念に基づき考える
⑫	マジョリティ/マイノリティの非対称性（学生の文献紹介を含む）	マジョリティ/マイノリティとはどのような存在か、「非対称性」概念から考える
⑬	「心のバリアフリー」概念の批判的検討（学生の文献紹介を含む）	「思いやり」による「差別解消」アプローチを批判的に検討する
⑭	自由発表（文献紹介またはレポートの構想発表）	安楽死または障害者差別に関する文献紹介またはレポートの構想を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各回資料を配布する。

【参考書】
授業中に紹介しますが、まずは以下の2点を挙げておきたいと思います。
安藤泰至（2019）『安楽死・尊厳死を語る前に知っておきたいこと』岩波書店
荒井祐樹（2020）『障害者差別を問いなおす』筑摩書房

【成績評価の方法と基準】
各回の課題：30%
発表（文献紹介）：20％
期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】
「今まで考えたこともなかった問題について考えるきっかけを得ることができた」「議論の中で、自分の考えを言語化することで、今までぼんやりと考えていたことが整理できた」といったコメントを読み、とてもうれしく思います。
今後も、この授業から少しでも多くの学生の皆さんが「気づき」「興味」「問題意識」を得る、あるいは深めることができるよう努力したいと思っています。

【その他の重要事項】
この授業は、留学生と日本人学生が議論し、交流を深める貴重な機会となっています。
日本人学生と意見を交換したい留学生のみなさん、普段あまり留学生と話す機会がない日本人学生のみなさん、どちらもぜひこの機会を利用してもらえたらと思います。
※ESOP生（交換留学生）は、日本語能力試験（JLPT）N1レベル以上の学生を対象とします。（希望者が多い場合は選考します。）
※ ESOP Students are required JLPT N1 for registration. (Selection will be made if there are too many applicants.)

【Outline (in English)】
The class will treat some actual problems we are confronting in Japanese society. We will discuss them from different viewpoints; international students' and Japanese students' ones. The class will provide students with opportunities to approach the problems through reading papers, presentations, and discussions with those who have different cultural and social backgrounds.
Goal:(1) Learn basic knowledge about the topics and inquire the issues with deep interest (2)Acquire an attitude to think about issues from different viewpoints by being exposed to different opinions.
Work to be done outside of class (preparation, etc.): Two hours
Grading criteria : Assignments(30%), Presentation(20%), Final report(50%)

MAT100NB（数学 / Mathematics 100）

数学 1

浜田　英明

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
工学の様々な問題を考える上で登場する微分法および積分法について学び，技術者としてそれらを応用できるだけの教養を身につけることを目的とする。

【到達目標】
初等関数の導関数や不定積分を理解した上で，関数の展開法，微分方程式の意味と解法，2変数関数についての微分と積分の概念について把握することを目標とする。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
			◎		◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では微積分に関する非常に幅広い内容を扱っており，高校数学の微積分の知識は必須である。そのため，まずは高校数学の内容を簡単に復習しながら，次第に大学で扱うより高度な微積分につなげていく。
積み上げ式の授業であり，常に授業内容を復習してもらうため，毎回演習課題が課される。基本的な1回の授業は，前回演習課題の解説→講義→小テスト→演習課題発表→自宅での演習→次回授業での演習課題提出という流れである。小テストの解答では，数名をその場で指名し解答を板書してもらう。授業進度はかなり速いが，予習復習をして，しっかりついてきてもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	関数 高校学校の関数の復習	基本的な関数 三角関数、指数関数、対数関数、逆関数
2	微分法 高等学校の微分の復讐	基本的な微分
3	微分法 微分係数と導関数 導関数の性質 関数の導関数	微分係数と導関数、積と商の導関数、 三角関数・逆三角関数・指数関数・ 対数関数の導関数、高次導関数
4	微分法 平均値の定理 微分法の応用	平均値の定理、ロピタルの定理、極大・極小
5	積分法 高校学校の積分の復習	不定積分、不定積分の公式、定積分と不定積分の関係
6	積分法 置換積分法 部分積分法	置換積分法、部分積分法
7	積分法 いろいろな不定積分積分法の応用	有利関数、無理関数、三角関数の不定積分、面積・体積・曲線の長さ・面積分
8	関数の展開	１次近似式、高次の近似式、テイラー展開、マクローリン展開、テイラーの定理
9	微分方程式-1階微分方程式	微分方程式と解、変数分離形、同次形、１階線形
10	微分方程式-2階微分方程式	２階線形、斉次２階線形、非斉次２階線形
11	偏微分	２変数関数と偏導関数、全微分と合成関数の微分、高次導関数
12	偏微分 偏微分の応用	極大・極小、条件付き極値問題
13	重積分	２重積分の定義、２重積分の計算、 ２重積分と累次積分
14	重積分 ２重積分の応用	極座標と２重積分、積分変数の変換、 ２重積分の広義積分と応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各授業内容に応じて作成された演習問題に解答し提出する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
理科系の基礎　微分積分（高遠節夫・石村隆一他共著、培風館）

【参考書】
やさしく学べる微分積分（石村園子著、共立出版）

【成績評価の方法と基準】
評価項目：配分（評価基準等）
演習課題：50％（各100点満点）
定期試験：50％（試験の際，各自A4用紙1枚にまとめた直筆メモの持ち込みを許可する）
ただし，定期試験で85点以上の者は，演習30%試験70%での評価とも比較して，よい方を評価素点とする。
評価素点100点満点中60点以上を合格とする。
また，連続3回欠席，通算で5回以上欠席したものは成績評価しない。

【学生の意見等からの気づき】
授業内で扱えない定理やその証明等はあとで確認できるように，プリントを配布する。

【学生が準備すべき機器他】
特に必要としない

【その他の重要事項】
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計実務経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
Learn about differential and integral calculus, which appear in the consideration of various engineering problems, and acquire the education necessary to apply them as engineers.
Learning Objectives:
The goal of this course is to grasp the derivatives and indefinite integrals of elementary functions, the expansion method of functions, the meaning and solution method of differential equations, and the concepts of differentiation and integration for two-variable functions.
Learning activities outside of classroom:
Students will answer and submit the exercises prepared for each class content.The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the results of exercises and periodic examinations. Students who are absent three times in a row or five times or more in total will not be graded.

PHY100NC（物理学 / Physics 100）

物理２

工藤　聡、池田　弘一

開講時期：**秋学期前半**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では「物理１」に引き続き、力学、電磁気・波動・熱など物理量の基本について、講義、実験・計測、演習を通して学ぶ。

【到達目標】
科学技術に支えられている現代社会を理解する上で不可欠な物理学の基礎を学習し、専門科目のための基礎知識の習得・体験を目標とする。具体的には以下に示す通り。
１．物理量測定データの取り扱いを理解する。
２．質量・長さ・時間について、振り子の実験および物体の密度の測定を通して理解する。
３．オームの法則、フレミングの法則などを講義と実験を通して理解する。
４．波、光および地震の特性を理解する。
５．温度と熱、ゼーベック効果および整流などを実験を通して理解する。

【修得できる能力】
（Ａ）歴史・文化・自然の理解・尊重
（Ｂ）技術者倫理
（Ｃ）工学基礎学力　60%
（Ｄ）専門基礎学力　40%
（Ｅ）専門知識の活用・応用能力
（Ｆ）総合デザイン能力
（Ｇ）コミュニケーション能力
（Ｈ）継続的学習能力
（Ｉ）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
上記の到達目標を達成するため、重要事項などの資料配布とそれらの関連事項の説明を加える。講義・演習内容について実験で体験し、これを実験レポートとして纏めることにより知識を定着させる。毎回の出席と、予習・復習を重視し、理解し易いように課題を用意する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス　測定データの取扱い	1)物理２の学習範囲、講義の進め方、2)質量、長さおよび時間、3)物理量の基本とデータの取扱い、について
2	質量・長さ・時間の測定(1)（物理量の測定方法、実験とレポートの作成方法の理解)	1)力学的エネルギー保存の法則、2)測定方法とそれに伴う誤差、3)実験機材の取扱い実習、4)レポート執筆の目的と書き方、について
3	質量・長さ・時間の測定(2)　実験(振り子による重力加速度の測定)	振り子を用いて重力加速度を測定する。(測定器の扱い方、データの取得、まとめ、結果の図表化の実習)
4	質量・長さ・時間の測定(3)　実験(物体の密度の測定)	物体の密度を２種類の方法で測定する。(測定器の扱い方、データの取得、まとめ、結果の図表化の実習)
5	電磁気（1）（直流に関して理解する。）	直流の基礎（オームの法則、電流・電圧・電力の計算等）
6	電磁気（2）（交流に関して理解する。）	交流の基礎（原理、電流・電力の計算、単相と三相等）
7	電磁気（3）（電気と磁気の関係を理解する。）	電流と磁気（フレミングの法則、発電機とモーターの原理等）
8	電磁気（4）（整流に関して理解する。）	ダイオードと整流等
9	電磁気（5）（電気に関する実験とレポートの作成を通して電気回路と電磁気に関して理解する。）	電気回路に関する実験
10	電磁気（6）（磁気に関する実験とレポートの作成を通して電気回路と電磁気に関して理解する。）	電磁気に関する実験
11	振動、波動、光(振動・波動、光、地震の基礎に関して理解する。)	振動、波、光の一般的性質
12	温度と熱(工学における熱問題とその活用を理解する。)	温度、熱、熱膨張について(簡単な熱エネルギー計算を行う)
13	波形観測、温度計測	オシロスコープの理解（交流電圧・整流波形)、温度計測・誤差の体験とまとめ、授業改善アンケートの記入
14	全体の復習	１－１３講で得た知識を確認する問題を制限時間内に解く

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 本日の復習と次回の予習(以後、毎時間)
2. 測定機器の扱い方
3. 測定データのまとめ、図表化、レポート執筆と、次回の予習
4. 同上
5. 電磁気に関する予習と復習
6. 同上
7. 同上
8. 整流に関する予習と復習
9. データのまとめ、図表化、レポート執筆
10. 同上
11. 振動、波動、光に関する予習と復習
12. 熱問題の演習
13. オシロスコープの操作、熱電対についての予習と復習
14. 全体の復習
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義中に資料を配布しないが講義前に学習支援システムに講義資料を掲載する。ただし、記録用としてノート（パソコンでも可）を持参のこと。

【参考書】
特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】
課題（50％）、レポート:実験の回の出席者が提出できる（50 ％）
5回以上欠席した場合はD評価とする。（つまり、1日に2回分の講義であるので、2回分を3日以上休むとD評価となる）

【学生の意見等からの気づき】
学生が授業の内容をよく理解できる様にパワーポイント、テキストなどの資料を改善し、分かり易い授業をするように努める。実験は、講義の内容を理解する上で極めて有効であるので、要点を絞った緊密なものとする。

【学生が準備すべき機器他】
講義にパワーポイントを使用する。学習支援システム掲載内容を見るためのパソコン、および、関数電卓の持参。

【その他の重要事項】
研究機関での研究開発・設備管理の勤務経験がある教員が、基礎物理の講義および実験の意義・やり方を指導する。質問は授業の前後に教室で、または随時電子メールで受け付ける。

【Outline (in English)】
Students will learn through lectures, experiments, measurements, and practice about the basics of physical quantities including electromagnetism, waves, heat and dynamics etc., following "Physics 1". At the end of the course, students are expected to understanding basis of fundamental physics and carrying out physical experiments. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.Grading will be based on attendance,lab reports(50%),and term-end examination(50%).

CST100NC（土木工学 / Civil engineering 100）

工業力学及演習 X

網谷　岳夫

開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実際に模型を作成することにより力学的センスを養うとともに、断面2次モーメントなどの断面諸量と材料力学の基礎を学ぶことにより、主として工学基礎学力と専門基礎学力を養う。

【到達目標】
力の流れ、断面諸量、応力ひずみ関係、力と変形の基礎について、基本的な問題を解ける、またその内容を説明できる。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	
（B）技術者倫理	
（C）工学基礎学力	50%
（D）専門基礎学力	30%
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
構造物のデザインや建設を担うため、構造物の強度や作用する力を求める必要がある。工業力学及演習では2年次以降の本格的なデザインや建設の科目を履修するために基礎となる断面の性質や材料の力学の基礎について学習する．第1回～第5回の授業は構造模型の製作と載荷試験の実施を通じて力学的センスを身に付ける．第6回以降の授業は教科書、配布資料、PPTを用い、講義の前半にその回の授業内容を説明する。後半には、授業内容に関係する演習課題を課し、解答作業を通じて各自の理解を促す。演習課題のフィードバックは必要に応じて次の回の冒頭に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	材料の変形について理解する 学習内容と学習上の注意および形状の異なる棒部材を用いて曲げ荷重を作用させ形状と曲がりやすさの関係を実感する。橋の模型製作、耐荷力試験のガイダンス
2	グループ毎の模型設計製作についての検討と製作	構造模型の設計・製作・試験の実施、結果の取りまとめ力学的センスを身に付ける
3	模型の製作（1）	構造模型の設計・製作・試験の実施、結果の取りまとめ力学的センスを身に付ける
4	模型の製作（2）	構造模型の設計・製作・試験の実施、結果の取りまとめ力学的センスを身に付ける
5	構造の載荷試験	耐荷力試験の実施、結果のとりまとめ、所定の期日までにレポートとしてまとめる。
6	断面諸量（1） 断面1次モーメント、図心	断面諸量とは何か、2次元物体の重心、断面と線分の図心、断面1次モーメント、合成断面や不等式で表される領域の図心についての講義と演習
7	断面諸量（2） 断面2次モーメント、断面2次極モーメント、断面2次半径	断面2次モーメント、断面2次極モーメント、断面2次半径の求め方の講義と演習
8	断面諸量（3） 断面2次モーメント、断面係数	平行軸の定理を用いた合成断面の断面2次モーメントの求め方と断面係数に関する講義と演習
9	弾性体の変形（1） 材料力学の基礎	構造物を構成する部材に作用する力、応力、ひずみ、フックの法則、棒部材の荷重と変形の関係についての講義と演習
10	弾性体の変形（2） 材料力学の基礎	変断面棒部材の変形、温度応力についての講義と演習
11	弾性体の変形（3） 材料力学の基礎	組み合わせ部材の荷重と変形の関係についての講義と演習
12	弾性体の変形（4） 材料力学の基礎	はりに生じる曲げ応力とたわみについての講義と演習
13	弾性体の変形（5） 材料力学の基礎	せん断応力，ねじり，継手についての講義と演習
14	弾性体の変形（6） 材料力学の基礎	傾いた面に作用する応力，一般的な応力とひずみの関係についての講義と演習，

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1～5回：設計製作についての予習とその復習
6～14回：教科書を用いた予習と演習問題を用いた復習
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
基礎から学べる材料力学（伊藤勝悦著・森北出版）

【参考書】
プリントを配布する

【成績評価の方法と基準】
模型製作（20％）、毎回の演習問題（10％）、期末試験（70％）による。欠席4回以上は単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
特にない

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓を持参すること．
レポート作成時には貸与PCを使用してもよい．

【その他の重要事項】
Xクラスは鉄道事業者として鋼橋の設計，研究開発に携わっている教員が，断面諸量や材料特性について実構造の設計との関連性なども絡めて解説します．
Yクラスは重工メーカーで鋼橋の設計，研究開発の経験のある教員が，断面諸量や材料特性について実構造の設計との関連性なども絡めて解説します．
・オフィスアワーについて
Xクラス担当の網谷先生は講義時間外の質問・問い合わせにはメールで対応します．
Yクラス担当の内田先生のオフィスアワーの日程・時間については，履修の手引きをご確認ください．

【Outline (in English)】
This course is intended to introduce basic engineering and principal mechanics. Basic property of structural members such as moment of inertia and stress-strain relation are presented. Students can learn basic idea of structure design through making bridge model and testing its load carrying capacity.
・Learning Objectives
To be able to solve and explain basic problems related to members that receive external force.
・Learning activities outside of classroom
1st to 5th classes： Preparation and review of model design and production
6th to 14th classes： Prepare with a textbook and review lessons.
Standard study time is two hours for each class meeting.
・Grading Criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 70%, Model making practice：20%, Each class exercises :10%

CST100NC（土木工学 / Civil engineering 100）

工業力学及演習 Y

内田　大介

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実際に模型を作成することにより力学的センスを養うとともに、断面2次モーメントなどの断面諸量と材料力学の基礎を学ぶことにより、主として工学基礎学力と専門基礎学力を養う。

【到達目標】
力の流れ、断面諸量、応力ひずみ関係、力と変形の基礎について、基本的な問題を解ける、またその内容を説明できる。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	
（B）技術者倫理	
（C）工学基礎学力	50%
（D）専門基礎学力	30%
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
構造物のデザインや建設を担うため、構造物の強度や作用する力を求める必要がある。工業力学及演習では2年次以降の本格的なデザインや建設の科目を履修するために基礎となる断面の性質や材料の力学の基礎について学習する．第1回～第5回の授業は構造模型の製作と載荷試験の実施を通じて力学的センスを身に付ける．第6回以降の授業は教科書、配布資料、PPTを用い、講義の前半にその回の授業内容を説明する。後半には、授業内容に関係する演習課題を課し、解答作業を通じて各自の理解を促す。演習課題のフィードバックは必要に応じて次の回の冒頭に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	材料の変形について理解する 学習内容と学習上の注意および形状の異なる棒部材を用いて曲げ荷重を作用させ形状と曲がりやすさの関係を実感する。橋の模型製作、耐荷力試験のガイダンス
2	グループ毎の模型設計製作についての検討と製作	構造模型の設計・製作・試験の実施、結果の取りまとめ力学的センスを身に付ける
3	模型の製作（1）	構造模型の設計・製作・試験の実施、結果の取りまとめ力学的センスを身に付ける
4	模型の製作（2）	構造模型の設計・製作・試験の実施、結果の取りまとめ力学的センスを身に付ける
5	構造の載荷試験	耐荷力試験の実施、結果のとりまとめ、所定の期日までにレポートとしてまとめる。
6	断面諸量（1） 断面1次モーメント、図心	断面諸量とは何か、2次元物体の重心、断面と線分の図心、断面1次モーメント、合成断面や不等式で表される領域の図心についての講義と演習
7	断面諸量（2） 断面2次モーメント、断面2次極モーメント、断面2次半径	断面2次モーメント、断面2次極モーメント、断面2次半径の求め方の講義と演習
8	断面諸量（3） 断面2次モーメント、断面係数	平行軸の定理を用いた合成断面の断面2次モーメントの求め方と断面係数に関する講義と演習
9	弾性体の変形（1） 材料力学の基礎	構造物を構成する部材に作用する力、応力、ひずみ、フックの法則、棒部材の荷重と変形の関係についての講義と演習
10	弾性体の変形（2） 材料力学の基礎	変断面棒部材の変形、温度応力についての講義と演習
11	弾性体の変形（3） 材料力学の基礎	組み合わせ部材の荷重と変形の関係についての講義と演習
12	弾性体の変形（4） 材料力学の基礎	はりに生じる曲げ応力とたわみについての講義と演習
13	弾性体の変形（5） 材料力学の基礎	せん断応力，ねじり，継手についての講義と演習
14	弾性体の変形（6） 材料力学の基礎	傾いた面に作用する応力，一般的な応力とひずみの関係についての講義と演習，

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1～5回：設計製作についての予習とその復習
6～14回：教科書を用いた予習と演習問題を用いた復習
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
基礎から学べる材料力学（伊藤勝悦著・森北出版）

【参考書】
プリントを配布する

【成績評価の方法と基準】
模型製作（20％）、毎回の演習問題（10％）、期末試験（70％）による。欠席4回以上は単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
特にない

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓を持参すること．
レポート作成時には貸与PCを使用してもよい．

【その他の重要事項】
Xクラスは鉄道事業者として鋼橋の設計，研究開発に携わっている教員が，断面諸量や材料特性について実構造の設計との関連性なども絡めて解説します．
Yクラスは重工メーカーで鋼橋の設計，研究開発の経験のある教員が，断面諸量や材料特性について実構造の設計との関連性なども絡めて解説します．
・オフィスアワーについて
Xクラス担当の網谷先生は講義時間外の質問・問い合わせにはメールで対応します．
Yクラス担当の内田先生のオフィスアワーの日程・時間については，履修の手引きをご確認ください．

【Outline (in English)】
This course is intended to introduce basic engineering and principal mechanics. Basic property of structural members such as moment of inertia and stress-strain relation are presented. Students can learn basic idea of structure design through making bridge model and testing its load carrying capacity.
・Learning Objectives
To be able to solve and explain basic problems related to members that receive external force.
・Learning activities outside of classroom
1st to 5th classes： Preparation and review of model design and production
6th to 14th classes： Prepare with a textbook and review lessons.
Standard study time is two hours for each class meeting.
・Grading Criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 70%, Model making practice：20%, Each class exercises :10%

CST100NC（土木工学 / Civil engineering 100）

図学及演習

山田　裕貴、福井　恒明、今井　裕久

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前半は、物体や空間を表現する手段としての図学の基礎的知識を都市環境デザインにおける具体的な活用法を踏まえて学習する。また、図的表現の基礎的手法について学び、課題の作図によって作図技術を習得する。後半は、コンピュータを用いたＣＡＤやドローイングソフトによるさまざまな図面の作成について学ぶ。

【到達目標】
[前半]図的表現の基礎的手法について学び、課題の作図によって作図技術を習得する。
[後半]CADソフトの習得。ドローイングソフトの習得。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力　60%
（D）専門基礎学力　40%
（E）専門知識の活用・応用能力
（F）総合デザイン能力
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
前半は手書きによる作図を基本として、図法の説明とその作図課題により授業を進める。後半は、パソコンを活用した作図システムについて操作の基本を習得するとともに、情報の共有化、送受信など、電子化された図面の新たな機能・効果についても学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	技術者の言語としての図面 都市環境デザイン分野の図面 作図用具とその使用法
2	作図法の基礎 正投影法	図面表現の基本 平面図・立面図の表現と作図
3	読図の基礎 透視図法(1)	図面情報の読み取り 投影図・透視図の体系
4	透視図法(2)	透視図作図の原理 1点透視図の表現と作図
5	透視図法(3)	2点透視図の表現と作図 点景の表現
6	前半まとめ(1)	1点透視図による空間イメージの表現
7	前半まとめ(2)	1点透視図作品の相互講評と評価
8	描画ソフト利用ガイダンス	システムの起動・操作・入力・出力・データ保管・終了
9	CADソフト(1)	基本機能/支援機能の活用
10	CADソフト（2）	作図/出力の基礎
11	CADソフト（3）	作図/出力の習得
12	ドローイングソフト(1)	基本機能/支援機能の活用 土地利用現況図のトレース
13	ドローイングソフト(2)	地区開発イメージ図の制作
14	ドローイングソフト(3)	地域の略図の制作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて指示する
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
必要に応じて紹介する

【成績評価の方法と基準】
各回の作図課題により評価する（100％）。なお、4回以上の欠席，または1つ以上の未提出課題ある者は単位取得を認めない(D判定)。

【学生の意見等からの気づき】
指示事項を一度で理解しにくい学生のために，動画による説明を作成し，必要に応じて複数回視聴できるようにした.

【学生が準備すべき機器他】
［前半］作図のための製図用具が必要となる。最小限必要な用具セットは年度始めに案内する。
［後半］ドローイングソフトの演習には貸与パソコンを使用する。CADソフトの演習には情報教室を使用する。

【その他の重要事項】
都市環境デザイン分野における実務経験を持つ教員がその経験を活かして、設計における作図技術につながる内容を指導する。
オフィスアワーについて，専任教員（福井）については『履修の手引き』を参照すること。その他の担当教員（兼任講師）は授業終了直後に対応する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to learn the fundamental knowledge and skills of drawing for expressing objects and spaces in the field of civil and environmental engineering design. Students will learn basic methods of graphical representation and plotting skills through several exercises in handwriting and CAD.
【Learning Objectives】
[First half] Learn the basic techniques of graphic expression. Learn drawing techniques with drawing challenges.
[Second half] Learn how to use CAD software and drafting software.
【Learning activities outside the classroom】
Instruct if necessary. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policies】
The final grade will be each submission and task as a grade (100%). If you are absent 4 or more times or do not submit your assignments, you will not be granted credit (D grade).

CST100NC（土木工学 / Civil engineering 100）

ジオロジカルエンジニアリング

中谷　匡志

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ジオロジカルエンジニアリングは、地質学と工学の境界領域の学問と位置づけられる。本講座では、主として土木構造物に分類されるダムやトンネル・橋梁などの建設といった、とくに社会基盤事業にかかわる技術者に必要な地盤工学（あるいは地質工学）の基礎と、それを応用する知識を養うことを目的としている。

【到達目標】
1.土木構造物の基礎となる地盤について、その見方・考え方を習得する。
2.調査・設計・施工の各プロセスにおける地盤評価の重要性とその方法・内容を理解する。
3.地盤に起因するトラブルについて、評論家の立場ではなく、一技術者として倫理感や問題意識を持てるような思考力を培う。
4.基礎岩盤の支持力や斜面の安定対策の見識を深め、簡易な安定計算ができるようにする。
5.講義中に行う演習などによって、技術者としての文章表現力の基礎を習得する。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力　60%
（D）専門基礎学力　40%
（E）専門知識の活用・応用能力
（F）総合デザイン能力
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
地質情報概論（0.5回）は、学問領域における位置づけと、社会基盤事業とのかかわりを考える。
地質の基礎知識（1.5回）は、岩盤の種類と成因、地質年代と特徴、岩種からの問題点のイメージを通じて、地質に対する理解を深める。
特別講義（2回）では、「地球の動き／地震」「原子力発電所の地震・津波対策」を通じて、ジオロジカルエンジニアリングの最近の動向・トピックを紹介する。
地質調査・試験（1回）では、ボーリング、弾性波探査、原位置岩盤試験、地盤の分類（1回）では岩盤の工学的分類法について理解を深める。
ダムと地質情報（2回）、トンネルと地質情報（2回）、構造物基礎と地質情報（1回）では、重要な社会基盤事業であるダム、トンネル、橋梁の種類や施工方法、地質情報との関係を講義するとともに、貴重な実際の建設記録をＤＶＤなどで紹介し、理解を深める。
のり面と地質情報（2回）では、のり面の基本、設計方法、安定対策について理解を深めるとともに、実際に安定計算を試行する。
地すべりと地質情報（1回）では、近年、ゲリラ豪雨や台風などによる災害が多発している地すべり地形の特徴と見方について理解を深めるとともに、実際に安定計算を試行する。
最終の講義では、上記14回の講義内容、演習、小論文に対する講評、解説も行う。
授業形態は、原則スライドショーで行い、毎回演習を実施する。なお、演習解答の提出を出欠の確認とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	地質情報概論、地質の基礎知識(1) 社会基盤事業とジオロジカルエンジニアリングとの関わりの理解と地質の基礎知識を習得する。	ジオロジカルエンジニアリングの講義内容、社会基盤事業とジオロジカルエンジニアリングとの関係。岩盤の種類と成因、年代と特徴、岩種からの問題点のイメージ。
2	地質の基礎知識(2) 地質の基礎知識を習得する。	岩盤の風化・変質、地質構造。
3	特別講義(1) 「地球の動き／地震」の解釈の歴史的変遷、現状を理解する。	地震・活断層、津波、プレートテクニクス、地震予知。
4	地質調査・試験 代表的な地質調査・試験方法について知識を深める。	ボーリング、弾性波探査、原位置岩盤試験。
5	地盤の分類（岩盤分類） 岩盤を定量的に区分する方法について理解する。	岩盤分類法、海外の岩盤分類。
6	ダムと地質情報(1) ダムの設計と施工方法を理解する。	ダムの種類、ダムの基礎処理。日本で最も大きい黒部ダム施工事例。
7	ダムと地質情報(2) ダムの設計と施工方法を理解する。	ダムの歴史的発展、ダムの安定計算方法。
8	特別講義(2) 「原子力発電所の地震・津波対策について」最新の現状を理解する。	原子力発電所の地震対策、津波対策、再稼働方法。
9	トンネルと地質情報(1) トンネル・地下空洞の種類と施工方法を理解する。	トンネル・地下空洞の種類、施工方法、切羽前方探査。
10	トンネルと地質情報(2) トンネル・地下空洞の種類と施工方法を理解する。	日本で最も長い青函トンネルと大規模地下空洞である小丸川地下発電所の施工事例。
11	構造物基礎と地質情報 橋梁の歴史的変遷と橋梁基礎の安定性に関する考え方を理解する。	橋梁の種類と発展、橋梁基礎の安定性に関わる施工事例。
12	のり面と地質情報(1) 掘削のり面の基本と岩盤の異方性を通じて安定性を理解する。	掘削のり面の基本、岩盤の異方性とのり面の安定性との関係。
13	のり面と地質情報(2) のり面の安定対策方法と設計方法を習得する。	掘削のり面の安定対策、直線すべりの安定計算。
14	地すべりと地質情報 地すべり地形の見方と安定計算方法を習得する。講義全般をまとめる。	地すべり地形の特徴と見方、円弧すべりの安定計算。講義全般のキーワードの確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 教科書全体の通読、教科書1章地盤の地質の予習・復習
2. 教科書1章地盤の地質の予習・復習
3. 新聞や関連雑誌・ホームページなどの情報収集
4. 教科書2章地盤の調査と試験・分類の予習・復習
5. 教科書2章地盤の調査と試験・分類の予習・復習
6. 教科書3章ダムと地質調査の予習・復習
7. 教科書3章ダムと地質調査の予習・復習
8. 新聞や関連雑誌・ホームページなどの情報収集
9. 教科書4章トンネル・地下空洞と地盤地質の予習・復習
10. 教科書4章トンネル・地下空洞と地盤地質の予習・復習
11. 教科書6章基礎と地盤地質の予習・復習
12. 教科書7章法面と地盤地質の予習・復習
13. 教科書7章法面と地盤地質の予習・復習
14. 教科書7章法面と地盤地質の予習・復習
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
改訂新版「建設工事と地盤地質」著者：古部 浩・武藤　光・山本浩之・宇津木慎司、発行所：古今書院 を使用する。

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の講義で実施する演習問題(記述・作図・計算など)の提出により習得度を評価し、その合計から評価点(100点満点)を算出する。
合否の基準は、100-90点をS、89-87点をA+、86-83点をA、82-80点をA-、79-77点をB+、76-73点をB、72-70点をB-、69-67点をC+、66-63点をC、62-60点をC-とし合格とする。59-0点または欠席4回以上をD、未受講、採点不能をEとし不合格とする。
期末試験は実施しないが、演習の習得度によりレポート提出を求める場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
演習については、十分な時間を確保する。

【学生が準備すべき機器他】
三角関数付き電卓、目盛り付き三角定規、分度器を必携とする。

【その他の重要事項】
現役の建設会社に勤務する博士（学術）、技術士（応用理学）の資格を有する教員が、その経験と知識に則した地形・地質の観点から建設工事の着目点を講義する。なお、質問がある場合は、随時電子メールで受け付ける。

【Outline (in English)】
Geological engineering is a discipline combining geology and civil engineering. In this course, we will introduce the basic of geotechnics (or geotechnical engineering) necessary for engineers involved in projects of social infrastructure, such as construction of dams, tunnels and bridges, which are mainly classified as civil engineering structures, and the knowledge to apply them.
At the end of the course, students are expected that understand the importance of ground evaluation in each process of survey, design and construction, and its method and contents.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on evaluating by submitting exercises to be conducted in each lecture. No final exam will be held.

SEE100ND（科学教育・（教育工学） / Science education/ Educational technology 100）

技術者倫理

北原　義典

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
デザイン工学技術者は、個人としての倫理こそ身につけているはずであるが、専門家としての倫理も身につけることが求められる。本講義は、科学技術に関わる倫理問題にはどんなものがあるか、また、技術者がもつべき倫理についてケーススタディを交えながら体系的に学ぶことを目的とする。特に、自分のデザインや技術が将来、社会や環境に及ぼす影響を推察することの重要性を認識する。

【到達目標】
（1）デザイン工学の技術者がもつべき倫理の概念と重要事項を体系的に理解する
（2）過去に起こった実事例から、内在する倫理問題を摘出する能力を身につける
（3）技術者倫理に基づき情報デザイン、システムデザイン、環境デザイン、安全建築設計等各分野の研究開発を推進できる技術を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
デザイン工学系技術者がもつべき倫理事項を、文化や歴史、政治や経済、科学技術、自然環境など多角的な観点から、様々なケーススタディを織り込みながら、学習していく。倫理に関する意識づけのみならず、安全に関する具体的なスキルも併せて習得する。教科書を軸に、質問を投げかけながら答えてもらう問答法的なアプローチで講義を進める。また、各回事前課題を課し、授業の初めに、課題に対する解答例を示しフィードバックを行う。また、良い回答やコメントは授業内で紹介する。本年度については、対面講義を基本とするが、大学の通達に従う。対面講義の場合は感染防止対策を施した教室で、オンライン講義の場合はZoomにより行う。詳細は学習支援システムにアクセスし確認のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究者・技術者の社会的責任と倫理	研究者・技術者にとっての倫理とは何かについて、どういう歴史的経緯があるのか、技術者の行動規範などについて学ぶ。さらに、倫理と法の関係についても考える。
2	リスクマネジメント	リスクとは何か、その大きさはどうやって測るのか、スクマネジメントはどう進めたらいいのかなどについて学ぶ。
3	ヒューマンエラー	ヒューマンエラーを知覚、認知、社会行動等、ユーザ側要因の観点から学び、精神論ではなく、工学的・科学的観点に基づくヒューマンエラーの予防的・対処的対策について考える。
4	説明責任・製造物責任	社会に対して技術者の果たすべき説明責任について考える。また、製品を開発する側に生じる製造物責任の特徴や使う側との関係などについて考える。
5	技術情報と知的財産の保護	まず、技術情報とは何かを知る。創出したアイデアや技術、デザインを守る知財権保護制度について学ぶ。さらに、特許の対象についても学習する。
6	化学倫理	化学物質、化学技術、ナノテクノロジーへの期待とリスク、およびその倫理について考える。さらに、放射性物質のリスクと取り扱いについても学ぶ。
7	生命倫理	ゲノム解析・遺伝子操作、クローン技術等における倫理を通し、生命や生死に対しどう関わるべきかについて考える。
8	ユニバーサルデザイン	バリアフリーからユニバーサルデザインへの流れについて知る。さらに、ユーザエクスペリエンス設計について学ぶ。
9	情報ネットワーク社会と倫理	個人情報漏えい、ネットワーク犯罪、ソーシャルメディアでのトラブル等、情報化社会における様々な倫理問題について学ぶ。
10	AIと倫理	AI等情報新技術に関わる倫理について考える。
11	環境保全と倫理	環境・資源問題、エネルギー問題、さらに、環境保全に対する技術者取り組みについて考える。
12	デザイン工学における倫理	デザイン工学専攻学生が就き得る職業とその倫理について考える。
13	多様性社会と技術者倫理	科学技術の進展によりクローズアップされてきた人権問題、社会のグローバル化、科学的と見せかけて実は科学論理的根拠がないいわゆる疑似科学等について、倫理の側面から考える。
14	技術者倫理の諸課題	ユニバーサルデザインにおいて生じるコンフリクトなど倫理に関して残されている諸課題について考える。また、各人の理解度測定も行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容を事前に確認し、教科者掲載ケーススタディを読んでおくこと。毎回の講義についての予習・復習時間は4時間ずつを標準とする。
Review the syllabus contents and read the case studies published by the subject in advance. The standard preparation and review time for each lecture is 4 hours each.

【テキスト（教科書）】
北原義典「はじめての技術者倫理」講談社　を使用。その章立てにしたがって進めるので、毎回持参のこと。その他、学習支援システムにアップされた資料を書き込み用に持参してもらう、もしくは、pdf参照してもらう場合もある。

【参考書】
中村昌允「技術者倫理とリスクマネジメント」　オーム社

林真理、宮澤健二、小野幸子「技術者の倫理」　コロナ社　　など

【成績評価の方法と基準】
技術者倫理の習得度に関する期末試験点数（80点）と平常の講義取り組み姿勢（20点）の合計をもって評価点とする。授業の取り組み姿勢とは、主に授業中の発言の活発さを指す。合計評価点60点以上を合格とする。ただし、出席率が70％以上であることを評価前提条件とする。
The evaluation points will be the sum of the final exam score (80 points) on the mastery level of ethics for engineers and the usual attitude toward the lecture (20 points). Attitude toward the class mainly refers to the degree to which students are active in speaking up during class. A total of 60 points or more is required to pass the course. Attendance rate of 70%or more is a prerequisite for evaluation.

【学生の意見等からの気づき】
ケーススタディについては、「具体的な事例を知ることができてよい」「非常に考えさせられる」など好評であり、今後も、引き続き、各回ケーススタディを採り上げつつ講義を進める。

【学生が準備すべき機器他】
本年度、基本は対面授業ですが、全学的にオンライン講義実施との通達があった場合には、Zoomを利用するため、PCもしくはスマートフォンを準備し、開講日時にアクセス、入室してください。また、連絡事項や資料は学習支援システムにアクセスし確認のこと。

【その他の重要事項】
討論を重視するため、必ず出席し、積極的発言をすることが大切。なお、本講義の担当教員は、33年にわたる企業での実務経験をもち、その経験からの倫理問題も紹介する。学生からの質問については、授業終了後に教室にて、もしくは、随時、電子メールで受け付ける。

【Outline (in English)】
Every design engineer must acquire ethics that reflects not only their position as an individual but also as an expert in the field. In this course, we study ethical issues concerning technology with case studies, understanding ethical attitudes that engineers should come to systematically incorporate in their workflow.

DES100ND（デザイン学 / Design science 100）

色彩論

大高　知子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人が受け取る情報の８割以上が五感の「視覚」に頼っている。人が１日に触れる色の数は１０００万色とも言われる。
光・場所・メディア・材質など、様々な要因で変化する「モノや色が見えるしくみ」から、色がもたらす意味・効果・色彩情報・色彩計画表現に不可欠な「色彩の基礎」を学ぶ。

【到達目標】
講義から多角的な視点で色彩の概念・本質・知識を理解する。
講義をもとに課題制作を通して、微妙な色の識別判断や色の認知、色彩表現技術を体験し、習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
色彩の知識があることと色彩が使えることは異なるため、段階的に幅広く両者を習得できる手法で進める。
・各回のテーマに沿った講義形式を軸にした授業を行う。
・微妙な色彩の識別判断や色彩表現を学習しながら手作業による課題制作を実施する。
・各回のテーマにかかわる様々な色彩の現物サンプルを提示する。
・提出された課題の中からいくつかを取り上げ、全体に対して講評する。
・提出された発想練習、リアクションペーパー、アンケート等を集計し、全体に対してフィードバックする。
・随時、発想練習、リアクションペーパー、アンケート等を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、進め方と方法についての説明と確認
2	色彩の始まりと色彩学の基本	自然から学ぶ色彩と古代の色彩 光の干渉・回析などの光学研究の分野を切り開いたニュートンの光学 色彩感情・心理を最初に論したゲーテの色彩論
3	色の成り立ちとHVC表現	光と色の三原色 色の三属性HVC（色相・明度・彩度） 色相環
4	色彩の尺度	様々なカラーオーダーシステムと様々な業界のカラーチャートによる色の数値化表現
5	色の見え・1	色の認知と行動 色覚説モデル 様々な順応・対比 補色・残像 明るさ・色の対比
6	色の見え・2	光源による色の見え 色覚特性 安全と色彩
7	色彩文化・1	西洋文化におけるカラーコミュニケーションの歴史
8	色彩文化・2	日本文化におけるカラーコニュニケーションの歴史
9	情報と色彩	色彩心理 色彩戦略
10	風土と都市と色彩	環境色彩 スーパーグラフィック 景観法の色彩
11	モノとコトと色彩	流行色 イロモノ家電 色の常識 色の可能性
12	イメージの色彩・1	イメージからの色彩配色コンポジション・1
13	イメージの色彩・2	イメージからの色彩配色コンポジション・2
14	今期まとめ	全講義内容、課題の再確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・身の周りの色彩観察
・各回ごとの授業の復習
・手作業による課題制作
・発想練習、リアクションペーパー、アンケート等の作成
本授業の復習、課題制作時間、発想練習等の作成は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。
講義時に必要に応じて別途指示を行う。

【参考書】
特になし。
講義時に必要に応じて別途指示を行う。

【成績評価の方法と基準】
積極的な授業参加と取り組みによる平常点（40％）、および各課題の完成度（60％）を考慮し総合的に評価する。
課題の内容、数に応じて配分を割り振る。
※未提出物がある学生、4回以上欠席した学生は評価の対象としない（D評価）。遅刻・早退は2回で欠席1回と換算する。（ただし正当な理由がある場合は遅刻・早退、欠席ともその限りではない）

【学生の意見等からの気づき】
講義では色彩の基礎のほか、学生に身近な話題についても多角的な視点から毎年豊富に導入・改善を試みている。
課題を通して色彩認識が深まるため、学生が興味を持ち達成感を得られる内容としている。

【学生が準備すべき機器他】
・課題制作は手作業のためハサミやカッター、定規、ノリなど紙を切り貼りするための道具を使用。
・提出物は学習支援システムを利用する。
・提出物の内容によりスキャンすることがある。

【その他の重要事項】
・授業終了後に教室で質問を受け付ける。
・初回ガイダンスで発想練習、アンケートを実施する。
・授業の進捗、学生の理解度に応じて、授業計画の内容や順序を変更することがある。
・プロダクトデザイナーとしてのメーカー勤務経験、デザインディレクターとしての現在の経験を活かし、多角的に幅広く色彩に関する講義を行う。

【Outline (in English)】
Over 80 percent of the information which humans receive rely on the perception known as "sight". It is said that everyday we encounter 10 million different colors.

From the sources of changing light and objects such as light, places, media and materials, students will learn the fundamental principles indispensible for describing the implications, effect, information and design of color.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than 1 hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
assignment :60%、in class contribution: 40%

PHL100NA（哲学 / Philosophy 100）

哲学

大西　悟、横山　奈那

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
工学を学ぶ上で，環境をどのようにとらえ，どのように向き合うかを哲学的に思索することは，とても重要である．本授業では，そのための素養を習得することを目指す．また，後半7回では，デザイン，環境，戦後社会のかかわりを考えるための具体的事例として，1960年代以降の「環境芸術」を取りあげる．

【到達目標】
1) 人間と環境の関係および工学の影響について，自分の言葉で思索し，言語化できること．
2) 環境哲学に関する用語を正しく理解できること．
3) 環境芸術と呼ばれる作品群について，自ら考えることで論理的に思考する力を養うこと．
4) 環境芸術に関する基礎知識を習得すること．

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
					◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
前半7回は，授業時間（100分）を2,3のテーマに分けて，講義し，それを受けて授業中に小レポートを作成してもらう．加えて，最後に，レポートを課す．後半7回は，講義形式ではあるが，毎回小課題を通じて，意見を募る．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	環境を哲学する意義	ガイダンスとして，パリ協定やサステイナビリティなどの環境に関する時流の解説を行いながら，環境を哲学する意義を問いかける。
第02回	工学と環境	工学は，環境から便宜を得るための学問である。人間は，工学を活用することで豊かさを享受できるが，同時に負の影響ももたらす。公害から気候変動，生物多様性の喪失などの事例から，工学が環境に及ぼす影響を問いかける。
第03回	西洋の倫理と東洋の知恵	人間がもたらす環境への負の影響に対し，先人たちがどのように対峙したのかを講義する。西洋（特に北米）で発展した環境倫理と足るを知るやもったいないといった東洋の知恵を対比的に提示し，環境について自身の立ち位置を問いかける。
第04回	循環と共生という戦略 (1)	工学を基盤とした都市と産業は，環境への悪影響を最小限にしながら，人間の豊かさを確保していく必要がある。そのための戦略として循環と共生を基盤とした考え方，取り組みを解説し，自身が大学生活で身に着けておきたいスキルを問いかける。
第05回	循環と共生という戦略 (2)	工学を基盤とした都市と産業は，環境への悪影響を最小限にしながら，人間の豊かさを確保していく必要がある。そのための戦略として循環と共生を基盤とした考え方，取り組みを解説し，自身が大学生活で身に着けておきたいスキルを問いかける。
第06回	地域が主体	気候変動，生物多様性喪失などグローバルな課題に対して，地域が主体となり，環境との関係性を再構築しようとする取り組みを解説する。自身が地域の環境を改善するために何ができるかを問いかける。
第07回	実践知としての環境哲学	工学的な視点から離れ，生活者の視点で暮らしから見直すことから，より複層的なものの見方を学習する。そのうえで，最終的な問い（レポート）を課題として提示する。
第08回	哲学から環境芸術へ	環境芸術は「自然」と関連する「芸術」のように思われるが，果たしてそうなのかを，自然や芸術という概念を哲学的に概観したうえで，考察する．
第09回	環境芸術の動向とその射程	「環境芸術」と呼ばれる芸術にはどのようなものがあるのか．具体例に即しながら，その射程を学ぶ．
第10回	アメリカの環境芸術	アメリカで展開された初期の環境芸術を取り上げ，重機を使用した大掛かりな作品が果たしてエコなのかを考える．
第11回	ヨーロッパの環境芸術	ヨーロッパの環境芸術を取り上げ，芸術の創作活動と自然環境を保つことが共存可能かを考える．
第12回	日本の美意識と環境芸術	日本には多様な美意識があるが，それらを踏まえたうえで，日本における環境と芸術の関連について，具体例を参照しつつ考える．
第13回	大阪万博から考える環境と芸術	大阪万博（1970）では当時の最先端のテクノロジーを取り入れた芸術が紹介されている．そこで，大阪万博を取り上げ，「技術」，「開発」，「環境」，「芸術」のかかわりについて考える．
第14回	試験及び総括	試験および総括を行う．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に紹介した参考図書等を通じて復習を行う．復習として毎回の授業を見直し，参考文献を読むこと。レポートを課すことがある．
本授業の準備学習・復習時間は，各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
なし．

【参考書】
適宜指示する．

【成績評価の方法と基準】
授業中の小レポートと随時出される授業時間外のレポート（50％）と毎回の小課題と試験（50％）により評価する．
欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D).

【学生の意見等からの気づき】
（環境哲学）小レポートの出し方を工夫し，より言語化しやすくするように工夫しようと思います．
（環境芸術）伝統的な哲学の概念などをより詳しく紹介しつつ，論理的に思考する方法を提示していきます．

【その他の重要事項】
NPO，国立研究所で環境・サステイナビリティ教育に従事した経験を活かし，多文化的な視点で環境哲学をともに考えていきます．
授業終了後に教室で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
[Course outline]
Philosophical thinking can be particularly significant for engineers when grasping and facing various “environments”. This lecture provides participants with knowledge and opportunities to consider “environments” deeply. Topics include: 1) Meaning of environmental philosophy, 2) Engineering and environment, 3) Western ethics and Oriental wisdom, 4) Power of locality, 5) Circulation and symbiosis part 1, 6) Circulation and symbiosis part 2, 7) Practical application of environmental philosophy.
The latter seven lectures (No.8～14) will focus on "environmental art" since the 1960s to consider the relationship between design, environment, and postwar society.
[Learning Objectives]
The goals of this course are to develop philosophical thinking skills, and to learn fundamentals of environmental philosophy and environmental art.
[Learning activities outside of classroom]
Before/after each Class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policies]

(No.1～7) Two or three small reports during each lecture and a final report will be submitted. (50 %)
(No.8～14) Final grade will be calculated according to following process Reaction paper 20 %, Term-end examination 30 %, and in-class contribution.

PHL100NA（哲学 / Philosophy 100）

哲学

大西　悟、横山　奈那

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
工学を学ぶ上で，環境をどのようにとらえ，どのように向き合うかを哲学的に思索することは，とても重要である．本授業では，そのための素養を習得することを目指す．また，後半7回では，デザイン，環境，戦後社会のかかわりを考えるための具体的事例として，1960年代以降の「環境芸術」を取りあげる．

【到達目標】
1) 人間と環境の関係および工学の影響について，自分の言葉で思索し，言語化できること．
2) 環境哲学に関する用語を正しく理解できること．
3) 環境芸術と呼ばれる作品群について，自ら考えることで論理的に思考する力を養うこと．
4) 環境芸術に関する基礎知識を習得すること．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
前半7回は，授業時間（100分）を2,3のテーマに分けて，講義し，それを受けて授業中に小レポートを作成してもらう．加えて，最後に，レポートを課す．後半7回は，講義形式ではあるが，毎回小課題を通じて，意見を募る．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	環境を哲学する意義	ガイダンスとして，パリ協定やサステイナビリティなどの環境に関する時流の解説を行いながら，環境を哲学する意義を問いかける。
第02回	工学と環境	工学は，環境から便宜を得るための学問である。人間は，工学を活用することで豊かさを享受できるが，同時に負の影響ももたらす。公害から気候変動，生物多様性の喪失などの事例から，工学が環境に及ぼす影響を問いかける。
第03回	西洋の倫理と東洋の知恵	人間がもたらす環境への負の影響に対し，先人たちがどのように対峙したのかを講義する。西洋（特に北米）で発展した環境倫理と足るを知るやもったいないといった東洋の知恵を対比的に提示し，環境について自身の立ち位置を問いかける。
第04回	循環と共生という戦略 (1)	工学を基盤とした都市と産業は，環境への悪影響を最小限にしながら，人間の豊かさを確保していく必要がある。そのための戦略として循環と共生を基盤とした考え方，取り組みを解説し，自身が大学生活で身に着けておきたいスキルを問いかける。
第05回	循環と共生という戦略 (2)	工学を基盤とした都市と産業は，環境への悪影響を最小限にしながら，人間の豊かさを確保していく必要がある。そのための戦略として循環と共生を基盤とした考え方，取り組みを解説し，自身が大学生活で身に着けておきたいスキルを問いかける。
第06回	地域が主体	気候変動，生物多様性喪失などグローバルな課題に対して，地域が主体となり，環境との関係性を再構築しようとする取り組みを解説する。自身が地域の環境を改善するために何ができるかを問いかける。
第07回	実践知としての環境哲学	工学的な視点から離れ，生活者の視点で暮らしから見直すことから，より複層的なものの見方を学習する。そのうえで，最終的な問い（レポート）を課題として提示する。
第08回	哲学から環境芸術へ	環境芸術は「自然」と関連する「芸術」のように思われるが，果たしてそうなのかを，自然や芸術という概念を哲学的に概観したうえで，考察する．
第09回	環境芸術の動向とその射程	「環境芸術」と呼ばれる芸術にはどのようなものがあるのか．具体例に即しながら，その射程を学ぶ．
第10回	アメリカの環境芸術	アメリカで展開された初期の環境芸術を取り上げ，重機を使用した大掛かりな作品が果たしてエコなのかを考える．
第11回	ヨーロッパの環境芸術	ヨーロッパの環境芸術を取り上げ，芸術の創作活動と自然環境を保つことが共存可能かを考える．
第12回	日本の美意識と環境芸術	日本には多様な美意識があるが，それらを踏まえたうえで，日本における環境と芸術の関連について，具体例を参照しつつ考える．
第13回	大阪万博から考える環境と芸術	大阪万博（1970）では当時の最先端のテクノロジーを取り入れた芸術が紹介されている．そこで，大阪万博を取り上げ，「技術」，「開発」，「環境」，「芸術」のかかわりについて考える．
第14回	試験及び総括	試験および総括を行う．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に紹介した参考図書等を通じて復習を行う．復習として毎回の授業を見直し，参考文献を読むこと。レポートを課すことがある．
本授業の準備学習・復習時間は，各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
なし．

【参考書】
適宜指示する．

【成績評価の方法と基準】
授業中の小レポートと随時出される授業時間外のレポート（50％）と毎回の小課題と試験（50％）により評価する．
欠席４回以上は単位取得を認めない(評価D).

【学生の意見等からの気づき】
（環境哲学）小レポートの出し方を工夫し，より言語化しやすくするように工夫しようと思います．
（環境芸術）伝統的な哲学の概念などをより詳しく紹介しつつ，論理的に思考する方法を提示していきます．

【その他の重要事項】
NPO，国立研究所で環境・サステイナビリティ教育に従事した経験を活かし，多文化的な視点で環境哲学をともに考えていきます．
授業終了後に教室で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
[Course outline]
Philosophical thinking can be particularly significant for engineers when grasping and facing various “environments”. This lecture provides participants with knowledge and opportunities to consider “environments” deeply. Topics include: 1) Meaning of environmental philosophy, 2) Engineering and environment, 3) Western ethics and Oriental wisdom, 4) Power of locality, 5) Circulation and symbiosis part 1, 6) Circulation and symbiosis part 2, 7) Practical application of environmental philosophy.
The latter seven lectures (No.8～14) will focus on "environmental art" since the 1960s to consider the relationship between design, environment, and postwar society.
[Learning Objectives]
The goals of this course are to develop philosophical thinking skills, and to learn fundamentals of environmental philosophy and environmental art.
[Learning activities outside of classroom]
Before/after each Class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policies]
(No.1～7) Two or three small reports during each lecture and a final report will be submitted. (50 %)
(No.8～14) Final grade will be calculated according to following process Reaction paper 20 %, Term-end examination 30 %, and in-class contribution.

PHL100NA（哲学 / Philosophy 100）

哲学

大西　悟、横山　奈那

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
工学を学ぶ上で，環境をどのようにとらえ，どのように向き合うかを哲学的に思索することは，とても重要である．本授業では，そのための素養を習得することを目指す．また，後半7回では，デザイン，環境，戦後社会のかかわりを考えるための具体的事例として，1960年代以降の「環境芸術」を取りあげる．

【到達目標】
1) 人間と環境の関係および工学の影響について，自分の言葉で思索し，言語化できること．
2) 環境哲学に関する用語を正しく理解できること．
3) 環境芸術と呼ばれる作品群について，自ら考えることで論理的に思考する力を養うこと．
4) 環境芸術に関する基礎知識を習得すること．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	45%
（B）技術者倫理	30%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	25%
（G）コミュニケーション能力	
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
前半7回は，授業時間（100分）を2,3のテーマに分けて，講義し，それを受けて授業中に小レポートを作成してもらう．加えて，最後に，レポートを課す．後半7回は，講義形式ではあるが，毎回小課題を通じて，意見を募る．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	環境を哲学する意義	ガイダンスとして，パリ協定やサステイナビリティなどの環境に関する時流の解説を行いながら，環境を哲学する意義を問いかける。
第02回	工学と環境	工学は，環境から便宜を得るための学問である。人間は，工学を活用することで豊かさを享受できるが，同時に負の影響ももたらす。公害から気候変動，生物多様性の喪失などの事例から，工学が環境に及ぼす影響を問いかける。
第03回	西洋の倫理と東洋の知恵	人間がもたらす環境への負の影響に対し，先人たちがどのように対峙したのかを講義する。西洋（特に北米）で発展した環境倫理と足るを知るやもったいないといった東洋の知恵を対比的に提示し，環境について自身の立ち位置を問いかける。
第04回	循環と共生という戦略 (1)	工学を基盤とした都市と産業は，環境への悪影響を最小限にしながら，人間の豊かさを確保していく必要がある。そのための戦略として循環と共生を基盤とした考え方，取り組みを解説し，自身が大学生活で身に着けておきたいスキルを問いかける。
第05回	循環と共生という戦略 (2)	工学を基盤とした都市と産業は，環境への悪影響を最小限にしながら，人間の豊かさを確保していく必要がある。そのための戦略として循環と共生を基盤とした考え方，取り組みを解説し，自身が大学生活で身に着けておきたいスキルを問いかける。
第06回	地域が主体	気候変動，生物多様性喪失などグローバルな課題に対して，地域が主体となり，環境との関係性を再構築しようとする取り組みを解説する。自身が地域の環境を改善するために何ができるかを問いかける。
第07回	実践知としての環境哲学	工学的な視点から離れ，生活者の視点で暮らしから見直すことから，より複層的なものの見方を学習する。そのうえで，最終的な問い（レポート）を課題として提示する。
第08回	哲学から環境芸術へ	環境芸術は「自然」と関連する「芸術」のように思われるが，果たしてそうなのかを，自然や芸術という概念を哲学的に概観したうえで，考察する．
第09回	環境芸術の動向とその射程	「環境芸術」と呼ばれる芸術にはどのようなものがあるのか．具体例に即しながら，その射程を学ぶ．
第10回	アメリカの環境芸術	アメリカで展開された初期の環境芸術を取り上げ，重機を使用した大掛かりな作品が果たしてエコなのかを考える．
第11回	ヨーロッパの環境芸術	ヨーロッパの環境芸術を取り上げ，芸術の創作活動と自然環境を保つことが共存可能かを考える．
第12回	日本の美意識と環境芸術	日本には多様な美意識があるが，それらを踏まえたうえで，日本における環境と芸術の関連について，具体例を参照しつつ考える．
第13回	大阪万博から考える環境と芸術	大阪万博（1970）では当時の最先端のテクノロジーを取り入れた芸術が紹介されている．そこで，大阪万博を取り上げ，「技術」，「開発」，「環境」，「芸術」のかかわりについて考える．
第14回	試験及び総括	試験および総括を行う．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に紹介した参考図書等を通じて復習を行う．復習として毎回の授業を見直し，参考文献を読むこと。レポートを課すことがある．
本授業の準備学習・復習時間は，各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
なし．

【参考書】
適宜指示する．

【成績評価の方法と基準】
授業中の小レポートと随時出される授業時間外のレポート（50％）と毎回の小課題と試験（50％）により評価する．
欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D).

【学生の意見等からの気づき】
（環境哲学）小レポートの出し方を工夫し，より言語化しやすくするように工夫しようと思います．
（環境芸術）伝統的な哲学の概念などをより詳しく紹介しつつ，論理的に思考する方法を提示していきます．

【その他の重要事項】
NPO，国立研究所で環境・サステイナビリティ教育に従事した経験を活かし，多文化的な視点で環境哲学をともに考えていきます．
授業終了後に教室で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
[Course outline]
Philosophical thinking can be particularly significant for engineers when grasping and facing various “environments”. This lecture provides participants with knowledge and opportunities to consider “environments” deeply. Topics include: 1) Meaning of environmental philosophy, 2) Engineering and environment, 3) Western ethics and Oriental wisdom, 4) Power of locality, 5) Circulation and symbiosis part 1, 6) Circulation and symbiosis part 2, 7) Practical application of environmental philosophy.
The latter seven lectures (No.8～14) will focus on "environmental art" since the 1960s to consider the relationship between design, environment, and postwar society.
[Learning Objectives]

The goals of this course are to develop philosophical thinking skills, and to learn fundamentals of environmental philosophy and environmental art.
[Learning activities outside of classroom]
Before/after each Class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policies]
(No.1～7) Two or three small reports during each lecture and a final report will be submitted. (50 %)
(No.8～14) Final grade will be calculated according to following process Reaction paper 20 %, Term-end examination 30 %, and in-class contribution.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

都市デザイン

高見　公雄

開講時期：**春学期前半/Spring(1st half)** ｜ 選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。都心居住への回帰、中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割は多様化している。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。人々の生き甲斐の充実、多様な魅力享受への欲求等に応え、魅力的な都市を造っていくための都市機能、都市基盤の適正なあり方、また気候風土や地勢を活かした快適空間の拡大や良好な都市景観形成など、都市のあるべき姿を探り、それをデザインし、実現していくための方法の総体を都市デザイン（アーバンデザイン）と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】
都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解する。
都市デザインの歴史の概略を知る。
テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
第1回から第6回は都市デザインの切り口ごとに状況や考え方を講義し、各回ミニテストにより理解度を確認する。第7回以降は前半の講義を受け、都市デザインのテーマに沿った演習形式とし作図作業を行う。最終的にはスケッチのデジタル化としてドローソフトの使い方を学ぶ。第10回以降に1回程度の現地見学を折り込む。
作図作業に際しては、色鉛筆・マーカー・直定規・三角定規・コンパス・各種テンプレートなどを持参すること。第11回、第12回には貸与PCを持参すること。他学部の学生についてはPCを貸し出す予定としている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/都市デザインの仕事場	街づくり課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	都市デザインの課題	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での課題について、対象を類型化しつつ、事例を交えて紹介する。
3	代表的事例と着目点・その1/創造型都市デザイン	これまでの都市デザインの取り組みを見ていく。一つ目は国内で進められた創造型ともいうべき類型について、方法と成果を紹介する。
4	代表的事例と着目点・その2/誘導型都市デザイン	同様に既存の環境の保全、活用などを基軸にした取り組みについて、方向と成果を紹介する。
5	代表的事例と着目点・その3/歴史、常識集	都市デザインの系譜と常識的に知っておくべき事柄、事例等を整理分類して紹介する。
6	代表的事例と着目点・その4/実行のための事業手法	都市デザインの実行に決定的な意味を持つ事業手法の観点から、手法説明と都市デザインとの相関について講義する。
7	都市デザインの演習・その1/都市または都市圏の概念図	都市や都市圏の構造や将来像の考え方について考え、課題に応じてそれを図化する技術を習得する。
8	都市デザインの演習・その2/空間、景観の解析	主として景観計画などで用いられる計画技法を学ぶとともに、景観誘導の内容とその図示の技術を習得する。
9	都市デザインの演習・その3/中心市街地のデザイン	全国的な課題である中心市街地における都市デザインの可能性や役割を考え、課題に応じてその展開方向を図化する技術を習得する。
10	フィールドワーク/都市再生の都市デザイン	都市デザインに関する留意点を現実の空間で確認するため、街に出る。
11	都市デザインの演習・その4/都市拠点の小空間	都市の枢要な地区において進められる拠点整備における都市デザインについて、課題に応じて図をもって提案する技術を習得する
12	スケッチのデジタル化	演習その1～4で描いたスケッチのいずれかをPCを用いてデジタル化する。イラストレーターの使い方を学ぶ。
13	スケッチのデジタル化、完成	ドロー系ソフトを用いてスケッチをデジタル化するとともに、PC上で一層の書き込みを行いフィニッシュさせる。
14	都市デザインの作法	都市デザインの作法として、都市デザインの歴史、課題、状況そして今後の展望について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の投影資料は、学習支援システム（当シラバス作成時は名称未定）にアップされる。前回分を学習支援システム（同）よりダウンロードし、確認して次回に望むことで理解が深まる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
学芸出版社「日本の都市を美しくする」土田旭＋都市景観研究会編著
鹿島出版会「北のセントラルステーション-アーバンデザインの四半世紀」加藤源＋高見公雄＋篠原修編著

【成績評価の方法と基準】
各回のミニテスト(50％)並びに作図課題(50％)による。欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
第7回以降の作図課題について、定規や色鉛筆といった製図用器材が必要となる。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員であることから、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。

【Outline (in English)】
This course consists of two components. Lectures will be given on examples of urban design of Japan, accompanied by a test on students' understanding. In addition, training will be held on regarding illustrations of urban problems.
[learning goal]
Understand what urban design is, its targets, and how it is judged.
Get an overview of the history of urban design.
Organize the perspective of urban design according to the theme and express it in a form.
[Learning activities outside the classroom]
Lecture projection materials will be uploaded to Hoppii. You can deepen your understanding by downloading the previous version from Hoppii, checking it, and asking for it next time.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
[Evaluation Criteria/Policy]
Based on the mini-test (50%) and drawing task (50%) each time. Students who are absent 4 or more times will not receive credits (grade D).

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

都市デザイン

高見　公雄

開講時期：**春学期前半/Spring(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。都心居住への回帰、中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割は多様化している。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。人々の生き甲斐の充実、多様な魅力享受への欲求等に応え、魅力的な都市を造っていくための都市機能、都市基盤の適正なあり方、また気候風土や地勢を活かした快適空間の拡大や良好な都市景観形成など、都市のあるべき姿を探り、それをデザインし、実現していくための方法の総体を都市デザイン（アーバンデザイン）と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】
都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解する。
都市デザインの歴史の概略を知る。
テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力　40%
（D）専門基礎学力　40%
（E）専門知識の活用・応用能力　20%
（F）総合デザイン能力
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
第1回から第6回は都市デザインの切り口ごとに状況や考え方を講義し、各回ミニテストにより理解度を確認する。第7回以降は前半の講義を受け、都市デザインのテーマに沿った演習形式とし作図作業を行う。最終的にはスケッチのデジタル化としてドローソフトの使い方を学ぶ。第10回以降に1回程度の現地見学を折り込む。
作図作業に際しては、色鉛筆・マーカー・直定規・三角定規・コンパス・各種テンプレートなどを持参すること。第11回、第12回には貸与PCを持参すること。他学部の学生についてはPCを貸し出す予定としている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/都市デザインの仕事場	街づくり課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	都市デザインの課題	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での課題について、対象を類型化しつつ、事例を交えて紹介する。
3	代表的事例と着目点・その1/創造型都市デザイン	これまでの都市デザインの取り組みを見ていく。一つ目は国内で進められた創造型ともいうべき類型について、方法と成果を紹介する。
4	代表的事例と着目点・その2/誘導型都市デザイン	同様に既存の環境の保全、活用などを基軸にした取り組みについて、方向と成果を紹介する。
5	代表的事例と着目点・その3/歴史、常識集	都市デザインの系譜と常識的に知っておくべき事柄、事例等を整理分類して紹介する。
6	代表的事例と着目点・その4/実行のための事業手法	都市デザインの実行に決定的な意味を持つ事業手法の観点から、手法説明と都市デザインとの相関について講義する。
7	都市デザインの演習・その1/都市または都市圏の概念図	都市や都市圏の構造や将来像の考え方について考え、課題に応じてそれを図化する技術を習得する。
8	都市デザインの演習・その2/空間、景観の解析	主として景観計画などで用いられる計画技法を学ぶとともに、景観誘導の内容とその図示の技術を習得する。
9	都市デザインの演習・その3/中心市街地のデザイン	全国的な課題である中心市街地における都市デザインの可能性や役割を考え、課題に応じてその展開方向を図化する技術を習得する。
10	フィールドワーク/都市再生の都市デザイン	都市デザインに関する留意点を現実の空間で確認するため、街に出る。
11	都市デザインの演習・その4/都市拠点の小空間	都市の枢要な地区において進められる拠点整備における都市デザインについて、課題に応じて図をもって提案する技術を習得する
12	スケッチのデジタル化	演習その1～4で描いたスケッチのいずれかをPCを用いてデジタル化する。イラストレーターの使い方を学ぶ。
13	スケッチのデジタル化、完成	ドロー系ソフトを用いてスケッチをデジタル化するとともに、PC上で一層の書き込みを行いフィニッシュさせる。
14	都市デザインの作法	都市デザインの作法として、都市デザインの歴史、課題、状況そして今後の展望について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の投影資料は、学習支援システム（当シラバス作成時は名称未定）にアップされる。前回分を学習支援システム（同）よりダウンロードし、確認して次回に望むことで理解が深まる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
学芸出版社「日本の都市を美しくする」土田旭＋都市景観研究会編著
鹿島出版会「北のセントラルステーション-アーバンデザインの四半世紀」加藤源＋高見公雄＋篠原修編著

【成績評価の方法と基準】
各回のミニテスト(50％)並びに作図課題(50％)による。欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
第7回以降の作図課題について、定規や色鉛筆といった製図用器材が必要となる。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員であることから、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。

【Outline (in English)】
This course consists of two components. Lectures will be given on examples of urban design of Japan, accompanied by a test on students' understanding. In addition, training will be held on regarding illustrations of urban problems.
[learning goal]
Understand what urban design is, its targets, and how it is judged.
Get an overview of the history of urban design.
Organize the perspective of urban design according to the theme and express it in a form.
[Learning activities outside the classroom]
Lecture projection materials will be uploaded to Hoppii. You can deepen your understanding by downloading the previous version from Hoppii, checking it, and asking for it next time.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
[Evaluation Criteria/Policy]
Based on the mini-test (50%) and drawing task (50%) each time. Students who are absent 4 or more times will not receive credits (grade D).

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

都市デザイン

高見　公雄

開講時期：**春学期前半/Spring(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。都心居住への回帰、中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割は多様化している。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。人々の生き甲斐の充実、多様な魅力享受への欲求等に応え、魅力的な都市を造っていくための都市機能、都市基盤の適正なあり方、また気候風土や地勢を活かした快適空間の拡大や良好な都市景観形成など、都市のあるべき姿を探り、それをデザインし、実現していくための方法の総体を都市デザイン（アーバンデザイン）と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】
都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解する。
都市デザインの歴史の概略を知る。
テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
○	◎					

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
第1回から第6回は都市デザインの切り口ごとに状況や考え方を講義し、各回ミニテストにより理解度を確認する。第7回以降は前半の講義を受け、都市デザインのテーマに沿った演習形式とし作図作業を行う。最終的にはスケッチのデジタル化としてドローソフトの使い方を学ぶ。第10回以降に1回程度の現地見学を折り込む。
作図作業に際しては、色鉛筆・マーカー・直定規・三角定規・コンパス・各種テンプレートなどを持参すること。第11回、第12回には貸与PCを持参すること。他学部の学生についてはPCを貸し出す予定としている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/都市デザインの仕事場	街づくり課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	都市デザインの課題	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での課題について、対象を類型化しつつ、事例を交えて紹介する。
3	代表的事例と着目点・その1/創造型都市デザイン	これまでの都市デザインの取り組みを見ていく。一つ目は国内で進められた創造型ともいうべき類型について、方法と成果を紹介する。
4	代表的事例と着目点・その2/誘導型都市デザイン	同様に既存の環境の保全、活用などを基軸にした取り組みについて、方向と成果を紹介する。
5	代表的事例と着目点・その3/歴史、常識集	都市デザインの系譜と常識的に知っておくべき事柄、事例等を整理分類して紹介する。
6	代表的事例と着目点・その4/実行のための事業手法	都市デザインの実行に決定的な意味を持つ事業手法の観点から、手法説明と都市デザインとの相関について講義する。
7	都市デザインの演習・その1/都市または都市圏の概念図	都市や都市圏の構造や将来像の考え方について考え、課題に応じてそれを図化する技術を習得する。
8	都市デザインの演習・その2/空間、景観の解析	主として景観計画などで用いられる計画技法を学ぶとともに、景観誘導の内容とその図示の技術を習得する。
9	都市デザインの演習・その3/中心市街地のデザイン	全国的な課題である中心市街地における都市デザインの可能性や役割を考え、課題に応じてその展開方向を図化する技術を習得する。
10	フィールドワーク/都市再生の都市デザイン	都市デザインに関する留意点を現実の空間で確認するため、街に出る。
11	都市デザインの演習・その4/都市拠点の小空間	都市の枢要な地区において進められる拠点整備における都市デザインについて、課題に応じて図をもって提案する技術を習得する
12	スケッチのデジタル化	演習その1～4で描いたスケッチのいずれかをPCを用いてデジタル化する。イラストレーターの使い方を学ぶ。
13	スケッチのデジタル化、完成	ドロー系ソフトを用いてスケッチをデジタル化するとともに、PC上で一層の書き込みを行いフィニッシュさせる。
14	都市デザインの作法	都市デザインの作法として、都市デザインの歴史、課題、状況そして今後の展望について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の投影資料は、学習支援システム（当シラバス作成時は名称未定）にアップされる。前回分を学習支援システム（同）よりダウンロードし、確認して次回に望むことで理解が深まる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
学芸出版社「日本の都市を美しくする」土田旭＋都市景観研究会編著
鹿島出版会「北のセントラルステーション-アーバンデザインの四半世紀」加藤源＋高見公雄＋篠原修編著

【成績評価の方法と基準】
各回のミニテスト(50％)並びに作図課題(50％)による。欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
第7回以降の作図課題について、定規や色鉛筆といった製図用器材が必要となる。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員であることから、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。

【Outline (in English)】
This course consists of two components. Lectures will be given on examples of urban design of Japan, accompanied by a test on students' understanding. In addition, training will be held on regarding illustrations of urban problems.
[learning goal]
Understand what urban design is, its targets, and how it is judged.
Get an overview of the history of urban design.
Organize the perspective of urban design according to the theme and express it in a form.
[Learning activities outside the classroom]
Lecture projection materials will be uploaded to Hoppii. You can deepen your understanding by downloading the previous version from Hoppii, checking it, and asking for it next time.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
[Evaluation Criteria/Policy]
Based on the mini-test (50%) and drawing task (50%) each time. Students who are absent 4 or more times will not receive credits (grade D).

CST200NA（土木工学 / Civil engineering 200）

都市・地域政策

土屋　愛自

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は持続可能な都市を構築するための政策の有効性について学ぶことをねらいとする。そのために、都市を取り巻く社会状況の変化、全国で展開している様々なまちづくりの施策（諸外国の施策の比較を含む）について理解を深めつつその課題や評価手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。詳しくは授業計画参照。

【到達目標】
政策の評価をどのように行うのか学ぶことは、社会人になってからも有用であると考える。本講義の到達目標は知識の習得はもちろんであるが、政策課題に対する関心を深め、政策判断の思考力・企画力を養うことである。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
		◎			○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
本講義は基本的に講義方式で行う。また、段階的な３つの課題に取り組む中で都市政策手法の基礎的な内容と流れについて学ぶ。実社会では、プレゼン力、説得力が強く求められているため、各３回の課題については、個別にプレゼンを実施し、コメントする。なお、課題の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、都市を取り巻く環境の変化等	授業計画、授業の進め方、課題レポートの説明、成績評価、少子高齢化、インフラの老朽化により何が問題となるか
2	国と地方の関係（地方分権の視点）	国と地方の関係（政令市、特別区、中核市）：地方分権の到達点と課題、平成の市町村合併の課題と評価
3	求められる都市の構造（コンパクトシティ政策）	コンパクトシティ政策とその具体的な内容・都市再生特別措置法の改正（立地適正化計画の概要）
4	中心市街地の再生方策（中心市街地活性化法）（１）	中心市街地活性化にかかる法律の変遷と施策の評価（静岡市、富山市他）
5	演習課題（１）検討地区の設定	検討地区の設定と理由、地区の現況分析
6	中心市街地の再生方策（構造改革特区制度等）（２）	構造改革特区、地域活性化総合特区の具体的な取り組み（柏市、神戸市、船橋市、さいたま市他）
7	中心市街地の再生方策（エリアマネジメント）（３）	エリアマネジメントの必要性と先進事例の評価（大阪市、鎌ヶ谷市、高松市、飯田市他）
8	地方中心都市の再生方策	新潟県長岡市の取り組みと評価
9	まちづくりの新たな潮流（健康・医療・福祉のまちづくり）	高齢化社会に向けた健康・医療・福祉に配慮したまちづくりの必要性と具体的な取り組み（岩手県紫波町の事例）
10	演習課題（２）	演習（１）で設定した地区の定量的な分析
11	都市計画制度の変遷	我が国の都市計画制度の変遷と課題解決の方法（長期未着手の基盤整備、都市施設等）
12	演習課題（２）についての中間発表	課題解決地区の定量評価についての発表
13	諸外国の都市政策（欧米・アジア）	諸外国の都市計画制度の特徴と具体事例（ﾆｭｰﾖｰｸ､ﾎﾞｽﾄﾝ）、ドイツ、中国、韓国の都市計画制度の特徴
14	演習課題（３）持続可能な都市づくりに向けての課題レポート	持続可能の都市づくりにおける政策提言レポートの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修登録前にシラバスの確認をすること。授業内で示される課題については、発表するためプレゼンの準備をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
コンパクトシティ実現のための都市計画制度～平成２６年改正都市再生法・都市計画法の解説～（ぎょうせい）都市計画法制度研究会編集、まちづくり三法の見直し～改正都市計画法・中心市街地活性化法等の解説Ｑ＆Ａ(ぎょうせい)都市計画・中心市街地活性化法制研究会編集、都市のクオリティ・ストック～土地利用・緑地・交通の総合戦略～（鹿島出版会）林良嗣・土井健司・加藤博和

【成績評価の方法と基準】
成績評価方法は、下記のとおりとする。
①課題レポート（１）：調査地区の設定と現状分析：３０％
②課題レポート（２）：調査地区の定量評価：　３０％
③課題レポート（３）：調査地区での政策提案：　３０％
④授業内演習　１０％
欠席４回以上は単位取得を認めない(評価Ｄ).

【学生の意見等からの気づき】
出来るだけ受講生の発言の機会をもつ。

【学生が準備すべき機器他】
成果物についての提出は、学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】
現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から地方自治体の抱えるまちづくりの課題等について講義する。
なお、質問等については、随時、メールで受け付ける。

【Outline (in English)】
【Course outline】 The aim of this course is to study the effectiveness of policy for the creation of sustainable cities. This course deals with basic concepts of change in social conditions surrounding the city, a concern and evaluation problem for domestic town planning policy (a comparative study on oversea cases will be made). It also aims to enhance existing methods of policy making. Please refer to the schedule for detailed information.
【Leaning Objectives】
The goal of this class is not only knowledge acquisition,
but also cultivating policy issues and feeding logical thinking
and planning ability for policy judgment.
【Learning activities outside of classroom】
Confirm a syllabus before an entry of this class.
Presentation of the result of exercises need in this class.
This class needs 4hours of preparation and reviewing for each content.
【Grading Criteria/Policy】
To be evaluated as below;
report01 ; Setting model area and analyzing. 30%
report02 ; Quantitative evaluation of model area. 30%
report03 ; Policy proposal for model area. 40%

CST200NA（土木工学 / Civil engineering 200）

都市・地域政策

土屋　愛自

開講時期：**春学期前半/Spring(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は持続可能な都市を構築するための政策の有効性について学ぶことをねらいとする。そのために、都市を取り巻く社会状況の変化、全国で展開している様々なまちづくりの施策（諸外国の施策の比較を含む）について理解を深めつつその課題や評価手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。詳しくは授業計画参照。

【到達目標】
政策の評価をどのように行うのか学ぶことは、社会人になってからも有用であると考える。本講義の到達目標は知識の習得はもちろんであるが、政策課題に対する関心を深め、政策判断の思考力・企画力を養うことである。

【修得できる能力】
（Ａ）歴史・文化・自然の理解・尊重
（Ｂ）技術者倫理
（Ｃ）工学基礎学力　40%
（Ｄ）専門基礎学力　40%
（Ｅ）専門知識の活用・応用能力　20%
（Ｆ）総合デザイン能力
（Ｇ）コミュニケーション能力
（Ｈ）継続的学習能力
（Ｉ）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
本講義は基本的に講義方式で行う。また、段階的な３つの課題に取り組む中で都市政策手法の基礎的な内容と流れについて学ぶ。実社会では、プレゼン力、説得力が強く求められているため、各３回の課題については、個別にプレゼンを実施し、コメントする。なお、課題の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、都市を取り巻く環境の変化等	授業計画、授業の進め方、課題レポートの説明、成績評価、少子高齢化、インフラの老朽化により何が問題となるか
2	国と地方の関係（地方分権の視点）	国と地方の関係（政令市、特別区、中核市）：地方分権の到達点と課題、平成の市町村合併の課題と評価
3	求められる都市の構造（コンパクトシティ政策）	コンパクトシティ政策とその具体的な内容・都市再生特別措置法の改正（立地適正化計画の概要）
4	中心市街地の再生方策（中心市街地活性化法）（１）	中心市街地活性化にかかる法律の変遷と施策の評価（静岡市、富山市他）
5	演習課題（１）検討地区の設定	検討地区の設定と理由、地区の現況分析
6	中心市街地の再生方策（構造改革特区制度等）（２）	構造改革特区、地域活性化総合特区の具体的な取り組み（柏市、神戸市、船橋市、さいたま市他）
7	中心市街地の再生方策（エリアマネジメント）（３）	エリアマネジメントの必要性と先進事例の評価（大阪市、鎌ヶ谷市、高松市、飯田市他）
8	地方中心都市の再生方策	新潟県長岡市の取り組みと評価
9	まちづくりの新たな潮流（健康・医療・福祉のまちづくり）	高齢化社会に向けた健康・医療・福祉に配慮したまちづくりの必要性と具体的な取り組み（岩手県紫波町の事例）
10	演習課題（２）	演習（１）で設定した地区の定量的な分析
11	都市計画制度の変遷	我が国の都市計画制度の変遷と課題解決の方法（長期未着手の基盤整備、都市施設等）
12	演習課題（２）についての中間発表	課題解決地区の定量評価についての発表
13	諸外国の都市政策（欧米・アジア）	諸外国の都市計画制度の特徴と具体事例（ﾆｭｰﾖｰｸ､ﾎﾞｽﾄﾝ）、ドイツ、中国、韓国の都市計画制度の特徴
14	演習課題（３）持続可能な都市づくりに向けての課題レポート	持続可能の都市づくりにおける政策提言レポートの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修登録前にシラバスの確認をすること。授業内で示される課題については、発表するためプレゼンの準備をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
コンパクトシティ実現のための都市計画制度～平成２６年改正都市再生法・都市計画法の解説～（ぎょうせい）都市計画法制度研究会編集、まちづくり三法の見直し～改正都市計画法・中心市街地活性化法等の解説Ｑ＆Ａ(ぎょうせい)都市計画・中心市街地活性化法制研究会編集、都市のクオリティ・ストック～土地利用・緑地・交通の総合戦略～（鹿島出版会）林良嗣・土井健司・加藤博和

【成績評価の方法と基準】
成績評価方法は、下記のとおりとする。
①課題レポート（１）：調査地区の設定と現状分析：３０％
②課題レポート（２）：調査地区の定量評価：　３０％
③課題レポート（３）：調査地区での政策提案：　３０％
④授業内演習　１０％
欠席４回以上は単位取得を認めない(評価Ｄ).

【学生の意見等からの気づき】
出来るだけ受講生の発言の機会をもつ。

【学生が準備すべき機器他】
成果物についての提出は、学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】
現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から地方自治体の抱えるまちづくりの課題等について講義する。
なお、質問等については、随時、メールで受け付ける。

【Outline (in English)】
【Course outline】 The aim of this course is to study the effectiveness of policy for the creation of sustainable cities. This course deals with basic concepts of change in social conditions surrounding the city, a concern and evaluation problem for domestic town planning policy (a comparative study on oversea cases will be made). It also aims to enhance existing methods of policy making. Please refer to the schedule for detailed information.
【Leaning Objectives】
The goal of this class is not only knowledge acquisition,
but also cultivating policy issues and feeding logical thinking
and planning ability for policy judgment.
【Learning activities outside of classroom】
Confirm a syllabus before an entry of this class.
Presentation of the result of exercises need in this class.
This class needs 4hours of preparation and reviewing for each content.
【Grading Criteria/Policy】
To be evaluated as below;
report01 ; Setting model area and analyzing. 30%
report02 ; Quantitative evaluation of model area. 30%
report03 ; Policy proposal for model area. 40%

CST200NA（土木工学 / Civil engineering 200）

都市・地域政策

土屋　愛自

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は持続可能な都市を構築するための政策の有効性について学ぶことをねらいとする。そのために、都市を取り巻く社会状況の変化、全国で展開している様々なまちづくりの施策（諸外国の施策の比較を含む）について理解を深めつつその課題や評価手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。詳しくは授業計画参照。

【到達目標】
政策の評価をどのように行うのか学ぶことは、社会人になってからも有用であると考える。本講義の到達目標は知識の習得はもちろんであるが、政策課題に対する関心を深め、政策判断の思考力・企画力を養うことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
本講義は基本的に講義方式で行う。また、段階的な３つの課題に取り組む中で都市政策手法の基礎的な内容と流れについて学ぶ。実社会では、プレゼン力、説得力が強く求められているため、各３回の課題については、個別にプレゼンを実施し、コメントする。なお、課題の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、都市を取り巻く環境の変化等	授業計画、授業の進め方、課題レポートの説明、成績評価、少子高齢化、インフラの老朽化により何が問題となるか
2	国と地方の関係（地方分権の視点）	国と地方の関係（政令市、特別区、中核市）：地方分権の到達点と課題、平成の市町村合併の課題と評価
3	求められる都市の構造（コンパクトシティ政策）	コンパクトシティ政策とその具体的な内容・都市再生特別措置法の改正（立地適正化計画の概要）
4	中心市街地の再生方策（中心市街地活性化法）（１）	中心市街地活性化にかかる法律の変遷と施策の評価（静岡市、富山市他）
5	演習課題（１）検討地区の設定	検討地区の設定と理由、地区の現況分析
6	中心市街地の再生方策（構造改革特区制度等）（２）	構造改革特区、地域活性化総合特区の具体的な取り組み（柏市、神戸市、船橋市、さいたま市他）
7	中心市街地の再生方策（エリアマネジメント）（３）	エリアマネジメントの必要性と先進事例の評価（大阪市、鎌ヶ谷市、高松市、飯田市他）
8	地方中心都市の再生方策	新潟県長岡市の取り組みと評価
9	まちづくりの新たな潮流（健康・医療・福祉のまちづくり）	高齢化社会に向けた健康・医療・福祉に配慮したまちづくりの必要性と具体的な取り組み（岩手県紫波町の事例）
10	演習課題（２）	演習（１）で設定した地区の定量的な分析
11	都市計画制度の変遷	我が国の都市計画制度の変遷と課題解決の方法（長期未着手の基盤整備、都市施設等）
12	演習課題（２）についての中間発表	課題解決地区の定量評価についての発表
13	諸外国の都市政策（欧米・アジア）	諸外国の都市計画制度の特徴と具体事例（ﾆｭｰﾖｰｸ､ﾎﾞｽﾄﾝ）、ドイツ、中国、韓国の都市計画制度の特徴
14	演習課題（３）持続可能な都市づくりに向けての課題レポート	持続可能の都市づくりにおける政策提言レポートの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修登録前にシラバスの確認をすること。授業内で示される課題については、発表するためプレゼンの準備をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
コンパクトシティ実現のための都市計画制度～平成２６年改正都市再生法・都市計画法の解説～（ぎょうせい）都市計画法制度研究会編集、まちづくり三法の見直し～改正都市計画法・中心市街地活性化法等の解説Ｑ＆Ａ(ぎょうせい)都市計画・中心市街地活性化法制研究会編集、都市のクオリティ・ストック～土地利用・緑地・交通の総合戦略～（鹿島出版会）林良嗣・土井健司・加藤博和

【成績評価の方法と基準】
成績評価方法は、下記のとおりとする。
①課題レポート（１）：調査地区の設定と現状分析：３０％
②課題レポート（２）：調査地区の定量評価：　３０％
③課題レポート（３）：調査地区での政策提案：　３０％
④授業内演習　１０％
欠席４回以上は単位取得を認めない(評価Ｄ).

【学生の意見等からの気づき】
出来るだけ受講生の発言の機会をもつ。

【学生が準備すべき機器他】
成果物についての提出は、学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】
現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から地方自治体の抱えるまちづくりの課題等について講義する。
なお、質問等については、随時、メールで受け付ける。

【Outline (in English)】
【Course outline】 The aim of this course is to study the effectiveness of policy for the creation of sustainable cities. This course deals with basic concepts of change in social conditions surrounding the city, a concern and evaluation problem for domestic town planning policy (a comparative study on oversea cases will be made). It also aims to enhance existing methods of policy making. Please refer to the schedule for detailed information.
【Leaning Objectives】
The goal of this class is not only knowledge acquisition,
but also cultivating policy issues and feeding logical thinking
and planning ability for policy judgment.
【Learning activities outside of classroom】
Confirm a syllabus before an entry of this class.
Presentation of the result of exercises need in this class.
This class needs 4hours of preparation and reviewing for each content.
【Grading Criteria/Policy】
To be evaluated as below;
report01 ; Setting model area and analyzing. 30%
report02 ; Quantitative evaluation of model area. 30%
report03 ; Policy proposal for model area. 40%

CST300NA（土木工学 / Civil engineering 300）

公共空間デザイン及演習

竹内　豪、下吹越　武人、高見　公雄、杉浦　榮、伊藤　登、大西　景太

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
３学科共通の学部科目であり、３学科の学生が協力して都市空間の計画・設計を行う。都市はその広域的位置づけやその場の特性に応じて、都市基盤施設、建築物、様々な機器により構成されている。この科目ではこれらを総合的に計画、設計するための考え方と技法を学ぶ。

【到達目標】
与えられた場所の特性を読み、科学的、社会的背景に応じた街づくりの解答を得る。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎			◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
教員は基盤施設計画・土木デザイン、環境設計・ランドスケープデザイン、都市設計・まちづくり、建築設計、プロダクトデザインと多様な構成としており、都市空間の大から小までを対象に、計画設計を学ぶ。実践的経験を積むことを狙いとして、公益財団法人等が実施する計画コンペを題材に、参加登録し当授業の成果を当該コンペに提出する予定としている。
新型感染症対策を講じつつ、必要な範囲で対面型授業として実施予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、小課題	授業内容、進め方の説明。希望者多数で選抜が必要な場合小課題を課し、その結果をもって受講継続の可否を判断する。
2	第一課題の説明、検討の視点、事例等の説明	第一課題は、公共空間単体かつその内部空間の計画・設計とし、各自で行う。これに向けた視点等を教員より説明する。
3	第一課題エスキス	第一課題のエスキスを基に、計画・設計の考え方について検討、議論する。
4	第一課題仕上げ	第一課題を仕上げ、提出直前の段階まで進める。
5	第一課題提出、講評	第一課題の提出を受け、優秀作について発表、講評を行う。
6	第二課題説明、グループ編成	第二課題は地区レベルの空間を扱うものとし、地区再編の考え方整理から具体的な小空間の設計までを行う。
7	グループ検討	方針検討、計画の全体企画、各者の役割などを検討する。
8	方針に関するエスキス	対象地区の再編方針についてのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
9	グループ作業	次の段階の作業を行う。
10	計画レベルのエスキス	計画レベルのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
11	各者作業	仕上げに向けた作業を行う。
12	仕上げレベルのエスキス	最終形が見えるレベルの図面により指導を受ける。
13	作品の仕上げ作業	仕上げ作業を行う。
14	発表、講評	完成品を持って発表を行い、講評を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
まちを歩きながら、対象となる公共空間を観察する。まちに興味を持つ。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要な資料を配布する。

【参考書】
建築資料研究社『日本の都市環境デザイン1・2・3』都市環境デザイン会議著
日本の都市環境デザイン 85-95、日本の美しい町並み事例（都市づくりパブリックデザインセンター）など

【成績評価の方法と基準】
中間提出物、エスキス対応（30％）、最終成果物（70％）。欠席４回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
図面の仕上げにおいて、貸与ＰＣを用いてＣＡＤまたはドロー系ソフトにより作図する必要がある。三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員については、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。兼任の教員については、Ｅメールで対応する。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn the concepts and techniques for comprehensive planning and designing of cities.
Intermediate deliverables, Esquisse correspondence (30%), Final deliverables (70%). Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (grade D).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST300NA（土木工学 / Civil engineering 300）

公共空間デザイン及演習

竹内　豪、下吹越　武人、高見　公雄、杉浦　榮、伊藤　登、大西　景太

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
３学科共通の学部科目であり、３学科の学生が協力して都市空間の計画・設計を行う。都市はその広域的位置づけやその場の特性に応じて、都市基盤施設、建築物、様々な機器により構成されている。この科目ではこれらを総合的に計画、設計するための考え方と技法を学ぶ。

【到達目標】
与えられた場所の特性を読み、科学的、社会的背景に応じた街づくりの解答を得る。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
（B）技術者倫理	30%
（C）工学基礎学力	20%
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
教員は基盤施設計画・土木デザイン、環境設計・ランドスケープデザイン、都市設計・まちづくり、建築設計、プロダクトデザインと多様な構成としており、都市空間の大から小までを対象に、計画設計を学ぶ。実践的経験を積むことを狙いとして、公益財団法人等が実施する計画コンペを題材に、参加登録し当授業の成果を当該コンペに提出する予定としている。
新型感染症対策を講じつつ、必要な範囲で対面型授業として実施予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、小課題	授業内容、進め方の説明。希望者多数で選抜が必要な場合小課題を課し、その結果をもって受講継続の可否を判断する。
2	第一課題の説明、検討の視点、事例等の説明	第一課題は、公共空間単体かつその内部空間の計画・設計とし、各自で行う。これに向けた視点等を教員より説明する。
3	第一課題エスキス	第一課題のエスキスを基に、計画・設計の考え方について検討、議論する。
4	第一課題仕上げ	第一課題を仕上げ、提出直前の段階まで進める。
5	第一課題提出、講評	第一課題の提出を受け、優秀作について発表、講評を行う。
6	第二課題説明、グループ編成	第二課題は地区レベルの空間を扱うものとし、地区再編の考え方整理から具体的な小空間の設計までを行う。
7	グループ検討	方針検討、計画の全体企画、各者の役割などを検討する。
8	方針に関するエスキス	対象地区の再編方針についてのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
9	グループ作業	次の段階の作業を行う。
10	計画レベルのエスキス	計画レベルのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
11	各者作業	仕上げに向けた作業を行う。
12	仕上げレベルのエスキス	最終形が見えるレベルの図面により指導を受ける。
13	作品の仕上げ作業	仕上げ作業を行う。
14	発表、講評	完成品を持って発表を行い、講評を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
まちを歩きながら、対象となる公共空間を観察する。まちに興味を持つ。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要な資料を配布する。

【参考書】
建築資料研究社『日本の都市環境デザイン1・2・3』都市環境デザイン会議著
日本の都市環境デザイン 85-95、日本の美しい町並み事例（都市づくりパブリックデザインセンター）など

【成績評価の方法と基準】
中間提出物、エスキス対応（30％）、最終成果物（70％）。欠席４回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
図面の仕上げにおいて、貸与ＰＣを用いてＣＡＤまたはドロー系ソフトにより作図する必要がある。三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員については、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。兼任の教員については、Ｅメールで対応する。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn the concepts and techniques for comprehensive planning and designing of cities.
Intermediate deliverables, Esquisse correspondence (30%), Final deliverables (70%). Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (grade D).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST300NA（土木工学 / Civil engineering 300）

公共空間デザイン及演習

竹内　豪、下吹越　武人、高見　公雄、杉浦　榮、伊藤　登、大西　景太

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
３学科共通の学部科目であり、３学科の学生が協力して都市空間の計画・設計を行う。都市はその広域的位置づけやその場の特性に応じて、都市基盤施設、建築物、様々な機器により構成されている。この科目ではこれらを総合的に計画、設計するための考え方と技法を学ぶ。

【到達目標】
与えられた場所の特性を読み、科学的、社会的背景に応じた街づくりの解答を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
教員は基盤施設計画・土木デザイン、環境設計・ランドスケープデザイン、都市設計・まちづくり、建築設計、プロダクトデザインと多様な構成としており、都市空間の大から小までを対象に、計画設計を学ぶ。実践的経験を積むことを狙いとして、公益財団法人等が実施する計画コンペを題材に、参加登録し当授業の成果を当該コンペに提出する予定としている。
新型感染症対策を講じつつ、必要な範囲で対面型授業として実施予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、小課題	授業内容、進め方の説明。希望者多数で選抜が必要な場合小課題を課し、その結果をもって受講継続の可否を判断する。
2	第一課題の説明、検討の視点、事例等の説明	第一課題は、公共空間単体かつその内部空間の計画・設計とし、各自で行う。これに向けた視点等を教員より説明する。
3	第一課題エスキス	第一課題のエスキスを基に、計画・設計の考え方について検討、議論する。
4	第一課題仕上げ	第一課題を仕上げ、提出直前の段階まで進める。
5	第一課題提出、講評	第一課題の提出を受け、優秀作について発表、講評を行う。
6	第二課題説明、グループ編成	第二課題は地区レベルの空間を扱うものとし、地区再編の考え方整理から具体的な小空間の設計までを行う。
7	グループ検討	方針検討、計画の全体企画、各者の役割などを検討する。
8	方針に関するエスキス	対象地区の再編方針についてのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
9	グループ作業	次の段階の作業を行う。
10	計画レベルのエスキス	計画レベルのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
11	各者作業	仕上げに向けた作業を行う。
12	仕上げレベルのエスキス	最終形が見えるレベルの図面により指導を受ける。
13	作品の仕上げ作業	仕上げ作業を行う。
14	発表、講評	完成品を持って発表を行い、講評を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
まちを歩きながら、対象となる公共空間を観察する。まちに興味を持つ。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要な資料を配布する。

【参考書】
建築資料研究社『日本の都市環境デザイン１・２・３』都市環境デザイン会議著
日本の都市環境デザイン 85-95、日本の美しい町並み事例（都市づくりパブリックデザインセンター）など

【成績評価の方法と基準】
中間提出物、エスキス対応（30％）、最終成果物（70％）。欠席４回以上は単位取得を認めない(評価Ｄ)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
図面の仕上げにおいて、貸与ＰＣを用いてＣＡＤまたはドロー系ソフトにより作図する必要がある。三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員については、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。兼任の教員については、Ｅメールで対応する。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn the concepts and techniques for comprehensive planning and designing of cities.
Intermediate deliverables, Esquisse correspondence (30%), Final deliverables (70%). Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (grade D).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ADE100NB（建築学 / Architecture and building engineering 100）

デザインスタジオ２（建築）W

小堀　哲夫

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分が構想する空間を模型やドローイングを通してプレゼンテーションし、人に伝える方法を学びます。

【到達目標】
・模型などを用いて立体と平面を行き来しながらデザインする
・空間に対する分析力・考察力を養う
・日常や社会活動を捉え直す視点を養う
・各種構造の特性を理解する
・行動場面をイメージしながら設計する技術を身につける
・周辺環境との関係を理解し，敷地の特徴を活かす技術を身につける
●AB期の「デザインスタジオ1」を発展させる。
[建築研究]自分が選んだ建築空間や環境を調べた後、実際に空間を訪れ体験し、レポートにまとめることで空間の分析力、考察力を養う。（事前研究レポートと、空間体験レポートの2部構成での提出とする）
[ウォッチャー]普段目にしている風景や街中にある事物を、あるテーマを通してとらえなおし1枚の写真に表現することで、日常に対する新たな視点を持つ力を養う。
[光の箱]建築空間にとって最も基本的であると同時に重要な要素である『光』をテーマにした課題を通して、空間に於ける光の扱い方を習得する。
[一辺5m立方の空間の設計]一辺5mキューブの空間を設計する。ここでは、三次元で考え、それを図面化することによって立体と図面との関係を理解する。また図面の理解のみでなく、「空間への夢」を形態としてデザインする。デザインスタジオ3、4へのステップとして特に重要である。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎			◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
目標を達成するために、まず建物研究を行う。どのような建物や環境に興味をもったのか、そしてその建物を研究したあと、実際に空間を体験することで、図面や写真の分析から読み取れることと、体験しなければわからないことを考察する。また、この研究では、建築作品が気候・風土、風俗・習慣、技術、経済性など、多くの条件の結果として優れた空間がつくりだされていることを学ぶ。そして、『ウォッチャー』では、一つのテーマに沿った写真を撮り提出する。全員の写真を並べてみることで同じテーマでも多様な視点があることを学ぶ。
建築を取り巻く背景に触れた後に、初学年ではじめて設計を行う。夢をかたちにするとはどのようなことか。建築空間を考えるとはどのようなことか。そして、建築を構成する材料とはどのようなものか。条件に従ったうえでの個性とは。そして美とは何か。などさまざまな問いかけを、手を動かしてスケッチし、模型を作り、エスキースを繰り替えすことから形を見出し、空間を作り出し、表現する方法を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・建築研究 『光の箱』 『ウォッチャー』の説明	○魅了される建築を研究と見学の両方を通して体験しレポートにまとめる。 ○課題の説明。
2	建築研究　発表 『光の箱』 『ウォッチャー』	○建築研究レポート 発表 ○光の箱　エスキース1 開口と光の関係を探る ○ウォッチャー　発表と講評
3	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱　エスキース2 壁や開口部の素材、反射による光の効果を探る。 ○ウォッチャー　発表と講評
4	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱　エスキース3 さまざまなスタディによってどんな光の状態ができるのかを把握する。 ○ウォッチャー　発表と講評
5	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱　エスキース4 写真やドローイングも含めたプレゼンテーションの方法を学ぶ。 ○ウォッチャー　発表と講評
6	『光の箱』 ●講評会 『ウォッチャー』	○光の箱　プレゼンテーション：作品のコンセプト、図面、模型を提出し、講評会を行う。 ○ウォッチャー　発表と講評 ○『5m立法の空間』 ガイダンス：一辺5m立方の空間のなかに自分のための空間（自室）を設計する。他者を招くことも条件とする
7	『5m立法の空間』	○自分自身が人を招く空間としてどのような空間を作りたいかをイメージする。 ○5m立法の空間の大きさを把握する。
8	『5m立法の空間』	○模型やスケッチをつくることで具体的な空間を思考する。平面図に空間を落とし込む。
9	『5m立法の空間』	○平面図と模型を提出。クラス別に中間講評会を行う。
10	『5m立法の空間』	○中間講評で指摘された事柄を反映しスタディを深める。
11	『5m立法の空間』	○敷地や家具類を含めた模型を製作する。
12	『5m立法の空間』	○最終プレゼンテーション用の図面と模型の製作を行う。
13	『5m立法の空間』 ●スタジオ講評会	○模型の撮影法、プレゼンテーション（人に意図を伝える）方法について学ぶ。 ◇プレゼンテーションパネルは模型写真・説明図・一般図面等を含んで構成する。 プレゼンテーション：作品のコンセプト・図面を提示、 ●発表および講評会を各スタジオで行う。
14	『5m立法の空間』 ●合同講評会	全スタジオ合同講評会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
良い空間を体験することは、建築学習にとって何よりも学ぶことが多い。実際に足を運び、優れた建築空間を体験する習慣をつけることが望ましい。そして、その空間がなぜ優れているのかを観察することが設計への第一歩となる。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『空間練習帳』小嶋一浩, 小池ひろの, 高安重一, 伊藤香織（建築文化シナジー）

【参考書】
『住まいの空間　独立住居』武者英二・宮宇地一彦・永瀬克己著、日本建築学会編（彰国社）
『建築設計演習基礎編』武者英二・永瀬克己著（彰国社）
『建築のしくみ』安藤直見・柴田晃宏・比護結子著（丸善）

【成績評価の方法と基準】
課題ごとに採点し、全作品により評価する。
〈建築研究〉興味ある建築物の研究を行い、事前研究レポート、空間体験レポートの2部構成で提出する。
○事前研究レポート：まず図面や写真、建築家の記述などから周辺環境との関係や建築の空間分析を行う。
○空間体験レポート：実際にその建築空間を体験し、事前研究で行った分析との比較、体験したからこそ得られた空間の印象などの考察を記述する。どのような対象を取り上げるのか。建築家の思想、思考をどのように読み取とったのか。実空間体験によりどのような考察を行ったのか。自分自身の思考と言葉による分析などを評価する。
〈ウォッチャー〉週ごとに設定されるテーマに沿った1枚の写真を提出。テーマのとらえ方、写真の表現力、構図・構成力、新しい視点の提示など総合的に評価する。
〈光の箱〉一つの箱に対して、穴のあけ方、素材の選び方、使い方などから光をどのように取り込み、空間化したか。授業におけるエスキースの取り組みと、模型及び図面の表現力。プレゼンテーションパネルの構成力などにより総合的に評価する。
〈5m立法の空間〉自分の夢をどのように空間化できたか。模型による表現。図面や写真による平面構成、プレゼンテーションによって評価する。授業におけるエスキースの取り組み、および提出した課題作品により評価する。

（評価配分：建築研究15％、ウォッチャー5%、光の箱30%、5m立法の空間50%）
（ただし、1つでも未提出課題がある場合は単位取得できない可能性があります）

【学生の意見等からの気づき】
授業時間における作業だけでなく、日常的にスケッチを書いたり、スタディ模型を作製したり、エスキースで指摘されたことをきちんと見直すなど、授業以外の時間をいかに使うか。課題の最終成果物へ向けた作業予定を立て、計画的に進めていくことが重要である。

【学生が準備すべき機器他】
製図用具：製図に必要な各種道具（各自）、模型用材・用具（各自）、カッターマット（各自）、平行定規（各スタジオ）。

【その他の重要事項】
初めての設計では、既成概念に縛られがちである。「夢」が図面作成や模型制作を元気づける。
現在も活躍している建築士が、自身の経験を活かし建築設計に関する実習を指導する。

【Outline (in English)】
[Outline]
In this course students will learn how to create models and drawings from planned designs for use in presentations in order to further their communication communication skills.
[Learning Objectives]
Students will learn how to create models and drawings from planned designs for use in presentations in order to further their communication skills.
Cultivate the ability to analyze and think about space.
Cultivate the ability to rethink everyday life and social activities.
To understand the characteristics of various structures.
Acquire skills to design while imagining the scene of action.
To understand the relationship with the surrounding environment and acquire techniques to make the most of the characteristics of the site
To develop "Design Studio 1" in AB.
[Architectural Research] After researching the architectural space and environment of their choice, students will visit the space, experience it, and summarize their findings in a report, thereby developing their ability to analyze and consider the space. (The report will consist of two parts: a preliminary research report and a report on the experience of the space.)
[Watcher: Students will develop the ability to gain a new perspective on everyday life by reexamining the scenery and things they see in the city through a certain theme and expressing it in a single photograph.
[Light Box] Through assignments on the theme of "light," the most basic and important element of architectural space, students will learn how to handle light in a space.
[Design of a 5m cubic space] Design a 5m cubic space. Here, students will think in three dimensions and draw them to understand the relationship between three-dimensional objects and drawings. In addition to understanding the drawings, students will also design their "dream for space" as a form. This is especially important as a step toward Design Studio 3 and 4.
[Learning activities outside of classroom]
Experiencing a good space is the best way to learn about architecture. It is desirable to develop the habit of actually visiting and experiencing excellent architectural spaces. And observing why a space is excellent is the first step to designing it.
The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
Grades will be given for each assignment, and all works will be evaluated.
The students are required to research architectural structures of interest and submit a two-part report: a preliminary research report and a report on their experience in the space.
Preliminary research report: First, students will analyze the architectural space and its relationship to the surrounding environment based on drawings, photographs, architects' descriptions, etc.
The report will include a comparison with the analysis conducted in the pre-research and a discussion of the impressions gained from the experience of the space.
What kind of subject will be taken up? How did you read and understand the architect's thoughts and ideas? What considerations did you make based on your experience of the actual space? How did you analyze the architect's ideas and thoughts through the experience of the actual space?
Watcher〉 Submit a photograph in line with a theme set each week. Comprehensive evaluation will be made on how the theme is perceived, the expression of the photograph, composition and organization, and the presentation of a new point of view.
(1) "Box of Light": How did the photographer capture and spatialize light by making holes in a single box, selecting materials, and using them in different ways? (2) The student's work on his/her esquisse in class and his/her ability to express himself/herself in the model and drawings. Comprehensive evaluation will be made based on the students' skills in composing presentation panels and other factors.
How did you spatialize your dream? Expression by model. Evaluation will be based on the plan composition using drawings and photographs, and the presentation. Evaluation will be based on the work of the student's esquisse in class and the work submitted for the assignment.
(Assessment distribution: 15%architectural research, 5%watcher, 30% light box, 50%space of 5m cubic feet)
(However, students who have not submitted even one assignment may not receive credit.)

BSP100NC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

導入ゼミナール（都市）

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明、尾関　智子、原田　大輔

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学科課程を円滑に開始できるように，基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする．具体的には，学科課程の学修から資格取得，さらにキャリアアップへ向かうために，都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション，コンピュータリテラシー，図書館利用ガイダンス，技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより，専門課程への効果的な導入を図る．

【到達目標】
在学期間の受講計画を策定し，自らの技術者としてのキャリアパスを設計する．授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ，都市環境デザイン工学への理解を深める．自らが課題を設定し，かつ解決する能力を開発する．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
（B）技術者倫理	30%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業で目指す目標に到達するために，座学，討議，現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する．大学での学習生活が円滑に開始し，キャリア形成への第1歩を順調に踏み出すためにも，授業への出席は不可欠である．
授業は学年暦通り実施する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教員紹介＋系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容，研究室で進める活動，就職等を紹介する
2	コンピュータリテラシー～学内システム等～	インターネット・メール使用上の注意，学習支援システム（当シラバス作成時は名称未定）の適正な使用方法
3	コンピュータリテラシー～ソフトウェア～	授業で使用する基本アプリケーションの理解
4	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	基本アプリケーションを使用した課題作成と演習
5	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	レポート作成，プレゼンテーションの基本
6	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解
7	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論
8	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論を受けた討議と発表
9	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論
10	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論を受けた討議と発表
11	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論
12	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論を受けた討議と発表
13	見学会（3～4時限連続）	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する
14	見学会（3～4時限連続）	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバスの事前確認と学習準備，配布教材の講読・理解．
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
ようこそドボク学科へ，佐々木葉編，学芸出版社，2015.

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される．欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
時間割上は，3時限と4時限であるが，見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため，該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと．コンピュータリテラシーの回はノートPCを必ず持参すること．

【その他の重要事項】
土木構造物の計画，設計，製作現場に勤務した経験を有する教員が，学科の基礎について解説する．
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに,専任教員であることから,履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する．

【Outline (in English)】
（Course outline）
The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.
（Learning Objectives）
Objective of the class is to develop a course plan for students' studies and design their career path as an engineer. Additionally, students should aim to deepen their understanding of urban environmental design engineering by exchanging opinions with students and faculty using class content as material.
（Learning activities outside of classroom）
Students should check the syllabus in advance, prepare for study, and read and understand the distributed teaching materials. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.
（Grading Criteria /Policy）
Grading will be decided based on reports (100%).

BSP100NC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

導入ゼミナール（都市）

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明、尾関　智子、原田　大輔

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学科課程を円滑に開始できるように，基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする．具体的には，学科課程の学修から資格取得，さらにキャリアアップへ向かうために，都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション，コンピュータリテラシー，図書館利用ガイダンス，技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより，専門課程への効果的な導入を図る．

【到達目標】
在学期間の受講計画を策定し，自らの技術者としてのキャリアパスを設計する．授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ，都市環境デザイン工学への理解を深める．自らが課題を設定し，かつ解決する能力を開発する．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
（B）技術者倫理	30%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業で目指す目標に到達するために，座学，討議，現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する．大学での学習生活が円滑に開始し，キャリア形成への第1歩を順調に踏み出すためにも，授業への出席は不可欠である．
授業は学年暦通り実施する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教員紹介＋系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容，研究室で進める活動，就職等を紹介する
2	コンピュータリテラシー～学内システム等～	インターネット・メール使用上の注意，学習支援システム（当シラバス作成時は名称未定）の適正な使用方法
3	コンピュータリテラシー～ソフトウェア～	授業で使用する基本アプリケーションの理解
4	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	基本アプリケーションを使用した課題作成と演習
5	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	レポート作成，プレゼンテーションの基本
6	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解
7	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論
8	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論を受けた討議と発表
9	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論
10	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論を受けた討議と発表
11	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論
12	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論を受けた討議と発表
13	見学会（3～4時限連続）	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する
14	見学会（3～4時限連続）	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバスの事前確認と学習準備，配布教材の講読・理解．
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
ようこそドボク学科へ，佐々木葉編，学芸出版社，2015.

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される．欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
時間割上は，3時限と4時限であるが，見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため，該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと．コンピュータリテラシーの回はノートPCを必ず持参すること．

【その他の重要事項】
土木構造物の計画，設計，製作現場に勤務した経験を有する教員が，学科の基礎について解説する．
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに,専任教員であることから,履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する．

【Outline (in English)】
（Course outline）
The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.
（Learning Objectives）
Objective of the class is to develop a course plan for students' studies and design their career path as an engineer. Additionally, students should aim to deepen their understanding of urban environmental design engineering by exchanging opinions with students and faculty using class content as material.
（Learning activities outside of classroom）
Students should check the syllabus in advance, prepare for study, and read and understand the distributed teaching materials. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.
（Grading Criteria /Policy）
Grading will be decided based on reports (100%).

BSP100NC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

導入ゼミナール（都市）

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明、尾関　智子、原田　大輔

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学科課程を円滑に開始できるように，基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする．具体的には，学科課程の学修から資格取得，さらにキャリアアップへ向かうために，都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション，コンピュータリテラシー，図書館利用ガイダンス，技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより，専門課程への効果的な導入を図る．

【到達目標】
在学期間の受講計画を策定し，自らの技術者としてのキャリアパスを設計する．授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ，都市環境デザイン工学への理解を深める．自らが課題を設定し，かつ解決する能力を開発する．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
（B）技術者倫理	30%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業で目指す目標に到達するために，座学，討議，現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する．大学での学習生活が円滑に開始し，キャリア形成への第1歩を順調に踏み出すためにも，授業への出席は不可欠である．
授業は学年暦通り実施する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教員紹介＋系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容，研究室で進める活動，就職等を紹介する
2	コンピュータリテラシー～学内システム等～	インターネット・メール使用上の注意，学習支援システム（当シラバス作成時は名称未定）の適正な使用方法
3	コンピュータリテラシー～ソフトウェア～	授業で使用する基本アプリケーションの理解
4	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	基本アプリケーションを使用した課題作成と演習
5	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	レポート作成，プレゼンテーションの基本
6	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解
7	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論
8	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論を受けた討議と発表
9	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論
10	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論を受けた討議と発表
11	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論
12	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論を受けた討議と発表
13	見学会（3～4時限連続）	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する
14	見学会（3～4時限連続）	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバスの事前確認と学習準備，配布教材の講読・理解．
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
ようこそドボク学科へ，佐々木葉編，学芸出版社，2015.

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される．欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
時間割上は，3時限と4時限であるが，見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため，該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと．コンピュータリテラシーの回はノートPCを必ず持参すること．

【その他の重要事項】
土木構造物の計画，設計，製作現場に勤務した経験を有する教員が，学科の基礎について解説する．
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに,専任教員であることから,履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する．

【Outline (in English)】
（Course outline）
The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.
（Learning Objectives）
Objective of the class is to develop a course plan for students' studies and design their career path as an engineer. Additionally, students should aim to deepen their understanding of urban environmental design engineering by exchanging opinions with students and faculty using class content as material.
（Learning activities outside of classroom）
Students should check the syllabus in advance, prepare for study, and read and understand the distributed teaching materials. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.
（Grading Criteria /Policy）
Grading will be decided based on reports (100%).

BSP100NC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

導入ゼミナール（都市）

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明、尾関　智子、原田　大輔

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学科課程を円滑に開始できるように，基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする．具体的には，学科課程の学修から資格取得，さらにキャリアアップへ向かうために，都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション，コンピュータリテラシー，図書館利用ガイダンス，技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより，専門課程への効果的な導入を図る．

【到達目標】
在学期間の受講計画を策定し，自らの技術者としてのキャリアパスを設計する．授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ，都市環境デザイン工学への理解を深める．自らが課題を設定し，かつ解決する能力を開発する．

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重　50%
（B）技術者倫理　30%
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力
（E）専門知識の活用・応用能力
（F）総合デザイン能力
（G）コミュニケーション能力　20%
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業で目指す目標に到達するために，座学，討議，現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する．大学での学習生活が円滑に開始し，キャリア形成への第1歩を順調に踏み出すためにも，授業への出席は不可欠である．
授業は学年暦通り実施する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教員紹介＋系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容，研究室で進める活動，就職等を紹介する
2	コンピュータリテラシー～学内システム等～	インターネット・メール使用上の注意，学習支援システム（当シラバス作成時は名称未定）の適正な使用方法
3	コンピュータリテラシー～ソフトウェア～	授業で使用する基本アプリケーションの理解
4	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	基本アプリケーションを使用した課題作成と演習
5	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	レポート作成，プレゼンテーションの基本
6	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解
7	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論
8	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論を受けた討議と発表
9	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論
10	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論を受けた討議と発表
11	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論
12	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論を受けた討議と発表
13	見学会（3～4時限連続）	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する
14	見学会（3～4時限連続）	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバスの事前確認と学習準備，配布教材の講読・理解．
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
ようこそドボク学科へ，佐々木葉編，学芸出版社，2015.

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される．欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
時間割上は，3時限と4時限であるが，見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため，該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと．コンピュータリテラシーの回はノートPCを必ず持参すること．

【その他の重要事項】
土木構造物の計画，設計，製作現場に勤務した経験を有する教員が，学科の基礎について解説する．
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに,専任教員であることから,履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する．

【Outline (in English)】
（Course outline）
The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.
（Learning Objectives）
Objective of the class is to develop a course plan for students' studies and design their career path as an engineer. Additionally, students should aim to deepen their understanding of urban environmental design engineering by exchanging opinions with students and faculty using class content as material.
（Learning activities outside of classroom）
Students should check the syllabus in advance, prepare for study, and read and understand the distributed teaching materials. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.
（Grading Criteria /Policy）
Grading will be decided based on reports (100%).

BSP100NC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

導入ゼミナール（都市）

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明、尾関　智子、原田　大輔

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学科課程を円滑に開始できるように，基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする．具体的には，学科課程の学修から資格取得，さらにキャリアアップへ向かうために，都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション，コンピュータリテラシー，図書館利用ガイダンス，技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより，専門課程への効果的な導入を図る．

【到達目標】
在学期間の受講計画を策定し，自らの技術者としてのキャリアパスを設計する．授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ，都市環境デザイン工学への理解を深める．自らが課題を設定し，かつ解決する能力を開発する．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
（B）技術者倫理	30%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業で目指す目標に到達するために，座学，討議，現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する．大学での学習生活が円滑に開始し，キャリア形成への第1歩を順調に踏み出すためにも，授業への出席は不可欠である．
授業は学年暦通り実施する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教員紹介＋系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容，研究室で進める活動，就職等を紹介する
2	コンピュータリテラシー～学内システム等～	インターネット・メール使用上の注意，学習支援システム（当シラバス作成時は名称未定）の適正な使用方法
3	コンピュータリテラシー～ソフトウェア～	授業で使用する基本アプリケーションの理解
4	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	基本アプリケーションを使用した課題作成と演習
5	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	レポート作成，プレゼンテーションの基本
6	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解
7	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論
8	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論を受けた討議と発表
9	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論
10	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論を受けた討議と発表
11	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論
12	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論を受けた討議と発表
13	見学会（3～4時限連続）	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する
14	見学会（3～4時限連続）	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバスの事前確認と学習準備，配布教材の講読・理解．
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
ようこそドボク学科へ，佐々木葉編，学芸出版社，2015.

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される．欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
時間割上は，3時限と4時限であるが，見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため，該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと．コンピュータリテラシーの回はノートPCを必ず持参すること．

【その他の重要事項】
土木構造物の計画，設計，製作現場に勤務した経験を有する教員が，学科の基礎について解説する．
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに,専任教員であることから,履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する．

【Outline (in English)】
（Course outline）
The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.
（Learning Objectives）
Objective of the class is to develop a course plan for students' studies and design their career path as an engineer. Additionally, students should aim to deepen their understanding of urban environmental design engineering by exchanging opinions with students and faculty using class content as material.
（Learning activities outside of classroom）
Students should check the syllabus in advance, prepare for study, and read and understand the distributed teaching materials. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.
（Grading Criteria /Policy）
Grading will be decided based on reports (100%).

BSP100NC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

導入ゼミナール（都市）

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明、尾関　智子、原田　大輔

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学科課程を円滑に開始できるように，基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする．具体的には，学科課程の学修から資格取得，さらにキャリアアップへ向かうために，都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション，コンピュータリテラシー，図書館利用ガイダンス，技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより，専門課程への効果的な導入を図る．

【到達目標】
在学期間の受講計画を策定し，自らの技術者としてのキャリアパスを設計する．授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ，都市環境デザイン工学への理解を深める．自らが課題を設定し，かつ解決する能力を開発する．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
（B）技術者倫理	30%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業で目指す目標に到達するために，座学，討議，現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する．大学での学習生活が円滑に開始し，キャリア形成への第1歩を順調に踏み出すためにも，授業への出席は不可欠である．
授業は学年暦通り実施する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教員紹介＋系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容，研究室で進める活動，就職等を紹介する
2	コンピュータリテラシー～学内システム等～	インターネット・メール使用上の注意，学習支援システム（当シラバス作成時は名称未定）の適正な使用方法
3	コンピュータリテラシー～ソフトウェア～	授業で使用する基本アプリケーションの理解
4	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	基本アプリケーションを使用した課題作成と演習
5	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	レポート作成，プレゼンテーションの基本
6	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解
7	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論
8	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論を受けた討議と発表
9	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論
10	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論を受けた討議と発表
11	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論
12	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論を受けた討議と発表
13	見学会（3～4時限連続）	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する
14	見学会（3～4時限連続）	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバスの事前確認と学習準備，配布教材の講読・理解．
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
ようこそドボク学科へ，佐々木葉編，学芸出版社，2015.

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される．欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
時間割上は，3時限と4時限であるが，見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため，該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと．コンピュータリテラシーの回はノートPCを必ず持参すること．

【その他の重要事項】
土木構造物の計画，設計，製作現場に勤務した経験を有する教員が，学科の基礎について解説する．
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに,専任教員であることから,履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する．

【Outline (in English)】
（Course outline）
The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.
（Learning Objectives）
Objective of the class is to develop a course plan for students' studies and design their career path as an engineer. Additionally, students should aim to deepen their understanding of urban environmental design engineering by exchanging opinions with students and faculty using class content as material.
（Learning activities outside of classroom）
Students should check the syllabus in advance, prepare for study, and read and understand the distributed teaching materials. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.
（Grading Criteria /Policy）
Grading will be decided based on reports (100%).

BSP100NC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

導入ゼミナール（都市）

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明、尾関　智子、原田　大輔

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学科課程を円滑に開始できるように，基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする．具体的には，学科課程の学修から資格取得，さらにキャリアアップへ向かうために，都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション，コンピュータリテラシー，図書館利用ガイダンス，技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより，専門課程への効果的な導入を図る．

【到達目標】
在学期間の受講計画を策定し，自らの技術者としてのキャリアパスを設計する．授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ，都市環境デザイン工学への理解を深める．自らが課題を設定し，かつ解決する能力を開発する．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
（B）技術者倫理	30%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業で目指す目標に到達するために，座学，討議，現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する．大学での学習生活が円滑に開始し，キャリア形成への第1歩を順調に踏み出すためにも，授業への出席は不可欠である．
授業は学年暦通り実施する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教員紹介＋系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容，研究室で進める活動，就職等を紹介する
2	コンピュータリテラシー～学内システム等～	インターネット・メール使用上の注意，学習支援システム（当シラバス作成時は名称未定）の適正な使用方法
3	コンピュータリテラシー～ソフトウェア～	授業で使用する基本アプリケーションの理解
4	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	基本アプリケーションを使用した課題作成と演習
5	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	レポート作成，プレゼンテーションの基本
6	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解
7	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論
8	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論を受けた討議と発表
9	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論
10	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論を受けた討議と発表
11	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論
12	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論を受けた討議と発表
13	見学会（3～4時限連続）	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する
14	見学会（3～4時限連続）	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバスの事前確認と学習準備，配布教材の講読・理解．
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
ようこそドボク学科へ，佐々木葉編，学芸出版社，2015.

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される．欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
時間割上は，3時限と4時限であるが，見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため，該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと．コンピュータリテラシーの回はノートPCを必ず持参すること．

【その他の重要事項】
土木構造物の計画，設計，製作現場に勤務した経験を有する教員が，学科の基礎について解説する．
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに,専任教員であることから,履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する．

【Outline (in English)】
（Course outline）
The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.
（Learning Objectives）
Objective of the class is to develop a course plan for students' studies and design their career path as an engineer. Additionally, students should aim to deepen their understanding of urban environmental design engineering by exchanging opinions with students and faculty using class content as material.
（Learning activities outside of classroom）
Students should check the syllabus in advance, prepare for study, and read and understand the distributed teaching materials. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.
（Grading Criteria /Policy）
Grading will be decided based on reports (100%).

BSP100NC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

導入ゼミナール（都市）

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明、尾関　智子、原田　大輔

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学科課程を円滑に開始できるように，基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする．具体的には，学科課程の学修から資格取得，さらにキャリアアップへ向かうために，都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション，コンピュータリテラシー，図書館利用ガイダンス，技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより，専門課程への効果的な導入を図る．

【到達目標】
在学期間の受講計画を策定し，自らの技術者としてのキャリアパスを設計する．授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ，都市環境デザイン工学への理解を深める．自らが課題を設定し，かつ解決する能力を開発する．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
（B）技術者倫理	30%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業で目指す目標に到達するために，座学，討議，現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する．大学での学習生活が円滑に開始し，キャリア形成への第1歩を順調に踏み出すためにも，授業への出席は不可欠である．
授業は学年暦通り実施する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教員紹介＋系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容，研究室で進める活動，就職等を紹介する
2	コンピュータリテラシー～学内システム等～	インターネット・メール使用上の注意，学習支援システム（当シラバス作成時は名称未定）の適正な使用方法
3	コンピュータリテラシー～ソフトウェア～	授業で使用する基本アプリケーションの理解
4	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	基本アプリケーションを使用した課題作成と演習
5	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	レポート作成，プレゼンテーションの基本
6	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解
7	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論
8	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論を受けた討議と発表
9	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論
10	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論を受けた討議と発表
11	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論
12	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論を受けた討議と発表
13	見学会（3～4時限連続）	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する
14	見学会（3～4時限連続）	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバスの事前確認と学習準備，配布教材の講読・理解．
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
ようこそドボク学科へ，佐々木葉編，学芸出版社，2015.

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される．欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
時間割上は，3時限と4時限であるが，見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため，該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと．コンピュータリテラシーの回はノートPCを必ず持参すること．

【その他の重要事項】
土木構造物の計画，設計，製作現場に勤務した経験を有する教員が，学科の基礎について解説する．
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに,専任教員であることから,履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する．

【Outline (in English)】
（Course outline）
The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.
（Learning Objectives）
Objective of the class is to develop a course plan for students' studies and design their career path as an engineer. Additionally, students should aim to deepen their understanding of urban environmental design engineering by exchanging opinions with students and faculty using class content as material.
（Learning activities outside of classroom）
Students should check the syllabus in advance, prepare for study, and read and understand the distributed teaching materials. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.
（Grading Criteria /Policy）
Grading will be decided based on reports (100%).

BSP100NC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

導入ゼミナール（都市）

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明、尾関　智子、原田　大輔

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学科課程を円滑に開始できるように，基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする．具体的には，学科課程の学修から資格取得，さらにキャリアアップへ向かうために，都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション，コンピュータリテラシー，図書館利用ガイダンス，技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより，専門課程への効果的な導入を図る．

【到達目標】
在学期間の受講計画を策定し，自らの技術者としてのキャリアパスを設計する．授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ，都市環境デザイン工学への理解を深める．自らが課題を設定し，かつ解決する能力を開発する．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
（B）技術者倫理	30%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業で目指す目標に到達するために，座学，討議，現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する．大学での学習生活が円滑に開始し，キャリア形成への第1歩を順調に踏み出すためにも，授業への出席は不可欠である．
授業は学年暦通り実施する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教員紹介＋系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容，研究室で進める活動，就職等を紹介する
2	コンピュータリテラシー～学内システム等～	インターネット・メール使用上の注意，学習支援システム（当シラバス作成時は名称未定）の適正な使用方法
3	コンピュータリテラシー～ソフトウェア～	授業で使用する基本アプリケーションの理解
4	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	基本アプリケーションを使用した課題作成と演習
5	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	レポート作成，プレゼンテーションの基本
6	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解
7	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論
8	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論を受けた討議と発表
9	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論
10	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論を受けた討議と発表
11	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論
12	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論を受けた討議と発表
13	見学会（3～4時限連続）	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する
14	見学会（3～4時限連続）	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバスの事前確認と学習準備，配布教材の講読・理解．
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
ようこそドボク学科へ，佐々木葉編，学芸出版社，2015.

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される．欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
時間割上は，3時限と4時限であるが，見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため，該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと．コンピュータリテラシーの回はノートPCを必ず持参すること．

【その他の重要事項】
土木構造物の計画，設計，製作現場に勤務した経験を有する教員が，学科の基礎について解説する．
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに,専任教員であることから,履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する．

【Outline (in English)】
（Course outline）
The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.
（Learning Objectives）
Objective of the class is to develop a course plan for students' studies and design their career path as an engineer. Additionally, students should aim to deepen their understanding of urban environmental design engineering by exchanging opinions with students and faculty using class content as material.
（Learning activities outside of classroom）
Students should check the syllabus in advance, prepare for study, and read and understand the distributed teaching materials. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.
（Grading Criteria /Policy）
Grading will be decided based on reports (100%).

CST100NC（土木工学 / Civil engineering 100）

国土・地域概論

高見　公雄、堀川　洋子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工学科の学生が学ぶべき国土・地域・都市に係わる事項は多い。当科目は1年生の必修科目として、国土から都市に係わる基本的な事柄、技術の入口を学ぶ。

【到達目標】
わが国の国土が形成されてきた経緯とその概要を理解する。
国土・地域・都市に係わる常識、並びに関連する基礎知識を習得する。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力　20%
（D）専門基礎学力　50%
（E）専門知識の活用・応用能力　30%
（F）総合デザイン能力
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
国土・地域・都市に係わる基礎を学ぶ前半部(1〜7回)と、国土形成の歴史を学ぶ後半部(8〜14回)から構成される。
新型感染症の状況を踏まえつつ対面方式を基本に実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、国土と都市・地域の概々論	国土・地域・都市にまつわる多様な視点と話題の提示。ディスカッション。
2	国土計画・地域計画総論	わが国の現行の国土計画から都市計画、身近な環境づくりに関わる諸制度のアウトライン。
3	計画立案のための統計情報と演習	様々な計画作業の基本となる指定統計を中心とした統計データの所在、背景と、代表的指標を使った演習。
4	現下の課題	震災復興など現在問題となっている国土形成、都市整備に関わる諸課題整理とこれに対する所見。
5	道路構造基準と演習	市街地の根幹をなす都市施設である道路の構造基準解説と構造基準に準拠した道路の設計演習 。
6	地域計画の視点、地域資源	国土から地域レベルの計画を行う上で知っておくべき関連する基礎知識の学習。
7	国土・地域概論の確認	前半に学んだことの確認。
8	ガイダンス	社会的共有財（公共性）としての社会基盤工学と開発・整備の意義。国土整備・都市建設の特徴。国土・地域・都市の地理・気候・風土的特性に対する理解。
9	古代〜中世日本の社会基盤	様々な土木遺構などを通じて古代〜中世〜戦国時代までの国土整備の実態と地域社会発展の足跡を学ぶ。
10	近世日本の社会基盤	様々な土木遺構などを通じて近世の国土、藩領と城下町の実態と地域社会発展の足跡を学ぶ。
11	近代西欧の社会基盤	明治期の社会基盤工学
12	大正・昭和期〜第二次世界大戦後の社会基盤形成と国土形成	日本の近代化の中で自立する社会基盤の構築技術と国土整備事業を学ぶ。戦後復興期の国土整備事業、エネルギーと水資源の確保。
13	高度経済成長期の国土開発から持続可能な発展／開発と保全の並立	高度経済成長期以降の全国総合開発計画と交通網・都市基盤の整備を学ぶ。リオの環境宣言（1992）〜京都議定書（1997）〜IPCC（2021気候変動に関する政府間パネル）に至る経緯と持続的な発展。
14	まとめ	リポートの提出、発表と質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認
配布資料の復習
レポートの作成
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて配布する。

【参考書】
共著、「都市および地方計画」、海山堂、高橋裕著、「現代日本土木史」、彰国社、松浦茂樹、「明治の国土開発史」、鹿島出版会ほか多数

【成績評価の方法と基準】
1〜7回は演習課題(10％)、期末試験または期末レポート(40％)で評価。8〜14回は各回のレポート課題で評価(50％)。また4回以上の欠席、演習課題の未提出者はD判定とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
統計の演習時にはノートパソコンが必須となる。道路構造令の演習では製図器具が必要となる。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、国土・地域に関する実務の現場状況を含めて講義し、指導を行う。学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員については、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。兼任の教員については、Eメールで対応する。

【Outline (in English)】
This course consists of three sections. The first includes lectures about engineering practices in Japan's modern history. The second is an introduction of land planning policy. The last includes lectures about fundamental issues which are essential for students of the Department of Civil and Environmental Engineering.
Term end examination: 50％, Short reports: 50%
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST200NC（土木工学 / Civil engineering 200）

都市計画法と政策

福井　恒明

開講時期：**秋学期前半/Fall(1st half)**　｜　選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市のありようや都市計画・設計の系譜を踏まえ、現代都市の諸課題とその要因を理解し、対処の考え方や手段としての都市計画政策について学習する。

【到達目標】
都市計画における主要課題とその構造について理解する。都市計画制度の系譜や考え方，具体的な手法について理解する。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	20%
（B）技術者倫理	
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	60%
（E）専門知識の活用・応用能力	20%
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
アクティブラーニング手法により授業を進める．授業時間（100 分）ごとにテーマを定め，内容について実務上の実践内容を含めながら概論を解説する（プロジェクター使用）．基本的に写したものは全て配布する．従って原則としてノートは不要．解説後，ワークを出題する．ワークは教科書を参照しながら，学生間の協力（数名のグループ）で解く．授業の最後には，リアクションペーパーを記入して提出する．リアクションペーパーに記載の質問については次の週の冒頭に補足説明・解説を行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・都市の歴史と都市計画	近代都市計画への影響が大きい西欧都市の歴史について確認した上で，その系譜上にある現在の都市計画の位置づけを学ぶ．
2	日本の都市計画制度の概要（1）	日本の都市計画制度について，明治維新以降の沿革を確認するとともに，都市計画制度を取り巻く法体系について学ぶ．
3	日本の都市計画制度の概要（2）	現代の都市計画の具体的な内容や都市計画の手続きについて学ぶ．
4	土地利用の計画（1）	土地利用の計画の目的と方法，都市計画区域や区域区分について学ぶ．
5	土地利用の計画（2）	市街化区域の土地利用の計画や，立地適正化計画について学ぶ．
6	都市施設の計画（1）	都市計画法における都市施設の概要を確認し，都市交通施設や道路の計画について学ぶ．
7	都市施設の計画（2）	都市施設のうち，都市結節点・公園緑地・供給処理施設等の計画について学ぶ．
8	市街地整備の計画（1）	市街地整備事業の系譜を確認した上で，土地区画整理事業の概要について学ぶ．
9	市街地整備の計画（2）	市街地再開発事業の概要や，近年の市街地整備の状況について学ぶ．
10	地方・住民・民間による都市計画	都市計画の地方分権や住民参加の仕組みや手法について学ぶ．
11	持続可能なまちづくりの計画（1）	超高齢社会のまちづくりや低炭素・環境共生のまちづくりについて学ぶ．
12	持続可能なまちづくりの計画（2）	景観・地域資源を活かしたまちづくりや災害に強いまちづくりについて学ぶ．
13	都市計画プロジェクト紹介	実務者を招いた講演により，具体的な都市計画プロジェクトの実際を学ぶ．
14	まとめ	授業全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1-12 回：授業後、配布資料にもとづく復習
13回：レポートの作成
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
都市計画総論，磯部・松山・服部・岡本，鹿島出版会，2014，2800円+税
教科書は授業中の課題提出および試験（持込可）に必須であるため，初回から持参すること．

【参考書】
東京大学cSUR-SSD研究会「世界のSSD100―都市持続再生のツボ」（世界の都市の持続再生の試みを100事例紹介）

【成績評価の方法と基準】
各回の提出物（36%），レポートの内容（10%），授業内試験（54%）によって評価する．
レポートを提出していない者，授業内試験を受けなかったもの，及び欠席4回以上の者は単位取得を認めない(評価D)．

【学生の意見等からの気づき】
グループワーク（アクティブラーニング）については，あらかじめ時間配分を明示することで作業時間を計画的に使えるように留意する．

【その他の重要事項】
第13回に記載している都市計画プロジェクトの紹介については，講師との日程調整により授業期間内のいずれかの回で実施する．具体的な日程については授業初回に説明する．
具体的な都市プランニングに携わった実務経験を持つ教員が、その経験を活かして都市プロジェクトや法制度の考え方について講義する。
オフィスアワーについては『履修の手引き』を参照すること。

【Outline (in English)】
Course Outline:
The aim of this course is to understand the problems and factors of modern cities and to learn how urban planning policies deal with them.
Learning Objectives:
At the end of the course, students are expected to learn concepts and approaches to grasp the actual conditions of cities, understand the history of urban planning and design, and learn about various urban planning policies.
Learning activities outside the classroom:
Students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be more than two hours for a class.
Grading Criteria /Policies:
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports for every class: 36%
Assignment for guest lecture: 10%
Final Examination: 54%

CST200NC（土木工学 / Civil engineering 200）

地盤力学及演習X

酒井　久和

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然環境や生活環境に配慮した安全で快適な施設を計画・設計・施工する上で不可欠となる地盤の力学的考え方の基礎事項を理解する．

【到達目標】
土の物理量，地下水流動，圧密，土の強度，土圧について講義と演習を通じて学び，実務に応用できる基礎力を身に着ける．

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力　20%
（D）専門基礎学力　50%
（E）専門知識の活用・応用能力　30%
（F）総合デザイン能力
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
人間の生活や経済活動の基盤となるインフラ施設はいずれも地盤によって支えられている．授業では，まず始めにこれら施設の基礎となる地盤を力学的に理解した上で実務に活用できる能力の必要性を説く．ついで，地盤の大半を占める土を工学材料として扱うための共通の尺度としての幾つかの物理量とその測定法を学ぶ．以後は，地盤と地下水の力学的・流体力学的関係，地盤の破壊と作用力の関係等に関する基礎事項を講義する．さらに，講義で学んだ内容を具体的な力学問題にどのようにして応用して行くかを，多くの例題を用いて解説した後，学生自身が演習問題に取り組むことによって実践力を養う．授業は学年暦通り実施する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	建設と地盤 建設的観点からの地盤	地盤の理解の重要性，構造物の安定，建設に関する諸問題
2	土の基本物理量とSI単位 土の3相構成の理解と単位の重要性	土の相構成と基本物理量の定義，各物理量間の実用的関係式，SI単位の基本事項と重要性，例題解説と演習
3	土の分類と工学的性質 土の分類と工学的性質の理解	混合体としての地盤，粗粒土と細粒土，土の構成成分と工学的性質の関係，コンシステンシー，例題解説と演習
4	土の透水性とその試験法 水頭の定義とダルシー則の理解	水頭・動水勾配の定義，Darcy則と透水係数の定義，透水試験と透水係数の評価，例題解説と演習
5	地下水の流れ 理論と簡易法の理解	等ポテンシャル関数と流れ関数，フローネットによる流量と間隙水圧分布，例題解説と演習
6	有効応力と土被り圧 全応力と有効応力の関係，土被り圧の理解	有効応力と全応力，間隙水圧の関係，土被り圧の計算法，例題解説と演習
7	中間試験 1～6回までの理解度確認と総復習	1～6回の授業内容全般に及ぶ理解度の確認試験，模範解答による解説と総合的復習
8	圧密現象 圧密沈下と即時沈下，圧密沈下による社会問題，一次元圧密理論の理解	圧密現象と力学モデル，先行圧密荷重と正規圧密及び過圧密，圧縮指数と圧密沈下量，例題解説と演習
9	圧密沈下量と時間 実用的な圧密計算の手順を整理・理解	圧密沈下量と時間の計算，実際問題への適用，例題解説と演習
10	土のせん断と破壊基準 土の破壊と構造物の安定の関係を理解	Mohr-Coulombの破壊規準，例題解説と演習
11	土の力学試験と物性値 土質試験結果の適用方法の理解	各種試験とMohr-Coulombの破壊規準，一軸圧縮試験の応力状態，３軸圧縮試験の種類と適応性，例題解説と演習
12	地盤内応力 地中部の応力状態と簡易的算定法	地盤内応力の簡易計算法，Boussinesqの式，長方形分割法，影響円法，Osterberg法，圧力球根，例題解説と演習
13	土圧論 壁体に作用する土の圧力と計算法を理解	土圧と土圧係数の定義，主働状態と受働状態，CoulombとRankineの土圧論，地下水面の存在と土圧，例題解説と演習
14	総復習	8回～13回の範囲の演習，解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 復習をかねた演習問題への取り組み
2. 同　上
3. 同　上
4. 同　上
5. 同　上
6. 同　上
7. 中間試験問題に沿って総復習
8. 復習をかねた演習問題への取り組み
9. 同　上
10. 同　上
11. 同　上
12. 同　上
13. 同　上
14. 期末試験問題に沿って総復習

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
石原研而：土質力学，丸善

【参考書】
地盤工学会：土質試験－基本と手引き－

【成績評価の方法と基準】
定期試験70％＋レポート30％＝100％
欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D).

【学生の意見等からの気づき】
理解状況を確認しながら講義を進め，そのことに対する肯定的な意見が複数あった一方，難しすぎるとの意見もあった．
自己学習時間が少ないために理解が進んでいない学生も散見されることから，100分授業で講義中に演習問題を複数解かせるとともに課題としての演習を課したい．

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓またはPC

【その他の重要事項】
元建設会社の設計部で実務を担当した教員が設計経験を活かして講義を行う．

【Outline (in English)】
The main objectives of the Geomechanics and Exercise Program are to acquire fundamental knowledge on geomechanics, which is crucial for the 'planning, designing and constructing of safe and comfortable infrastructure aimed at natural and social environments.
This class's standard preparation and review time is about 2 hours, respectively.
Grade evaluation: Periodic examination 70%+ Report 30%= 100%, provided that no credit will be given for more than four absences; grade D.

CST200NC（土木工学 / Civil engineering 200）

地盤力学及演習Y

澤田　俊一（ Shunichi SAWADA ）

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然環境や生活環境に配慮した安全で快適な施設を計画・設計・施工する上で不可欠となる地盤の力学的考え方の基礎事項を理解する．

【到達目標】
土の物理量，地下水流動，圧密，土の強度，土圧について講義と演習を通じて学び，実務に応用できる基礎力を身に着ける．

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力　20%
（D）専門基礎学力　50%
（E）専門知識の活用・応用能力　30%
（F）総合デザイン能力
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
人間の生活や経済活動の基盤となるインフラ施設はいずれも地盤によって支えられている．授業では，まず始めにこれら施設の基礎となる地盤を力学的に理解した上で実務に活用できる能力の必要性を説く．ついで，地盤の大半を占める土を工学材料として扱うための共通の尺度としての幾つかの物理量とその測定法を学ぶ．以後は，地盤と地下水の力学的・流体力学的関係，地盤の破壊と作用力の関係等に関する基礎事項を講義する．さらに，講義で学んだ内容を具体的な力学問題にどのようにして応用して行くかを，多くの例題を用いて解説した後，学生自身が演習問題に取り組むことによって実践力を養う．授業は学年暦通り実施する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	建設と地盤 建設的観点からの地盤	地盤の理解の重要性，構造物の安定，建設に関する諸問題
2	土の基本物理量とSI単位 土の3相構成の理解と単位の重要性	土の相構成と基本物理量の定義，各物理量間の実用的関係式，SI単位の基本事項と重要性，例題解説と演習
3	土の分類と工学的性質 土の分類と工学的性質の理解	混合体としての地盤，粗粒土と細粒土，土の構成成分と工学的性質の関係，コンシステンシー，例題解説と演習
4	土の透水性とその試験法 水頭の定義とダルシー則の理解	水頭・動水勾配の定義，Darcy則と透水係数の定義，透水試験と透水係数の評価，例題解説と演習
5	地下水の流れ 理論と簡易法の理解	等ポテンシャル関数と流れ関数，フローネットによる流量と間隙水圧分布，例題解説と演習
6	有効応力と土被り圧 全応力と有効応力の関係，土被り圧の理解	有効応力と全応力，間隙水圧の関係，土被り圧の計算法，例題解説と演習
7	中間試験 1～6回までの理解度確認と総復習	1～6回の授業内容全般に及ぶ理解度の確認試験，模範解答による解説と総合的復習
8	圧密現象 圧密沈下と即時沈下，圧密沈下による社会問題，一次元圧密理論の理解	圧密現象と力学モデル，先行圧密荷重と正規圧密及び過圧密，圧縮指数と圧密沈下量，例題解説と演習
9	圧密沈下量と時間 実用的な圧密計算の手順を整理・理解	圧密沈下量と時間の計算，実際問題への適用，例題解説と演習
10	土のせん断と破壊基準 土の破壊と構造物の安定の関係を理解	Mohr-Coulombの破壊規準，例題解説と演習
11	土の力学試験と物性値 土質試験結果の適用方法の理解	各種試験とMohr-Coulombの破壊規準，一軸圧縮試験の応力状態，３軸圧縮試験の種類と適応性，例題解説と演習
12	地盤内応力 地中部の応力状態と簡易的算定法	地盤内応力の簡易計算法，Boussinesqの式，長方形分割法，影響円法，Osterberg法，圧力球根，例題解説と演習
13	土圧論 壁体に作用する土の圧力と計算法を理解	土圧と土圧係数の定義，主働状態と受働状態，CoulombとRankineの土圧論，地下水面の存在と土圧，例題解説と演習
14	総復習	8回～13回の範囲の演習，解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 復習をかねた演習問題への取り組み
2. 同　上
3. 同　上
4. 同　上
5. 同　上
6. 同　上
7. 中間試験問題に沿って総復習
8. 復習をかねた演習問題への取り組み
9. 同　上
10. 同　上
11. 同　上
12. 同　上
13. 同　上
14. 期末試験問題に沿って総復習

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
石原研而：土質力学，丸善

【参考書】
地盤工学会：土質試験－基本と手引き－

【成績評価の方法と基準】
定期試験70％＋レポート30％＝100％
欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D).

【学生の意見等からの気づき】
理解状況を確認しながら講義を進め，そのことに対する肯定的な意見が複数あった一方，難しすぎるとの意見もあった．
自己学習時間が少ないために理解が進んでいない学生も散見されることから，100分授業で講義中に演習問題を複数解かせるとともに課題としての演習を課したい．

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓またはPC

【その他の重要事項】
建設コンサルタントで実務を行っている教員が経験を活かした講義を行う．
兼任教員のオフィスアワーとして、授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】
The main objectives of the Geomechanics and Exercise Program are to acquire fundamental knowledge on geomechanics, which is crucial for the 'planning, designing and constructing of safe and comfortable infrastructure aimed at natural and social environments.
This class's standard preparation and review time is about 2 hours, respectively.
Grade evaluation: Periodic examination 70%+ Report 30%= 100%, provided that no credit will be given for more than four absences; grade D.

LANe200NC（英語 / English language education 200）

工業英語X

大友　敬三

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では，英語による取扱説明書，実験・生産工程の指示文・注意文等の，技術に関する基本的な英文を読むことができ，かつ，英語で簡単な説明文・操作指示文等が書ける能力を修得する．本科目の修得を基に，技術英検２級試験合格を目指す．

【到達目標】
①技術系の専門用語を理解（和→英，英→和）できる．
②技術英語に適する英文構文を理解できる．
③技術に関する長文を読解できる．
④専門用語や技術英語構文を使って簡単な英文を作成できる．

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力　10%
（D）専門基礎学力
（E）専門知識の活用・応用能力
（F）総合デザイン能力
（G）コミュニケーション能力　90%
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP４」、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
・技術英検２級検定試験用のテキスト「工業英検３級対策」に沿って解説する．
・テキスト解説については，パワーポイントスライドを使用する．
・課題文および演習問題について学生を指名し，音読・翻訳および回答を求める．
・テキストに記載されていない事項については，随時補足する．
・毎回の授業では，技術英語に関する理解度の定着を図るための小テスト（技術用語，英文構文，和訳・英訳等）を課す．
・小テストについては，lms2025;WebClassのテスト機能または課題機能を使う予定とする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	・シラバスに基づき，授業計画，授業運営方法，評価方法等を把握する． ・技術英検の過去問題における技術英文の専門用語や構文の実際を理解する． ・実例演習（小テスト）
2	Chapter-1　技術英語の実践文法（その１）～動詞と文型，現在分詞	・技術英語構文としてよく用いられる動詞と文型，現在分詞を学習する． ・実例演習（小テスト）
3	Chapter-1　技術英語の実践文法（その２）～現在分詞，過去分詞	・技術英語構文としてよく用いられる現在分詞と過去分詞を学習する． ・実例演習（小テスト）
4	Chapter-2　技術英語の語法と文体（その１）～専門用語の理解と運用	・技術英語に特有の専門用語・品詞の転換形，接頭辞，接尾辞，類似語について学習する． ・実例演習（小テスト）
5	Chapter-2　技術英語の語法と文体（その１）～無生物主語の英文	・技術英語に特有の無生物主語を用いた構文，その一般的表現方法の基本ルールを学習する． ・実例演習（小テスト）
6	Chapter-3　試験問題の検討	・技術英検問題の英文構文に慣れるため，英文和訳，和文英訳の基本ルールを学習する． ・実例演習（小テスト）
7	中間試験	・技術英検過去問の出題形式に沿った中間試験により，第６回授業までに学習した内容の理解度を確認する．
8	中間試験の解答解説	・中間試験問題の解答解説を踏まえ，各自で間違った問題を中心に見直して理解度を確実にする．
9	Chapter-4　問題演習（その１）～英文和訳，選択肢問題	・技術英検問題の英文構文に慣れるため，過去問における英文和訳，選択肢問題について学習する． ・実例演習（小テスト）
10	Chapter-4　問題演習（その２）～完成問題，和文英訳	・技術英検問題の英文構文に慣れるため，過去問における完成問題，和文英訳問題について学習する． ・実例演習（小テスト）
11	Chapter-6　技術分野の語彙（その１）～数式，図形等	・技術英検問題の英文によく使われる技術用語のうち，数式，図形等に関連する用語を学習する． ・実例演習（小テスト）
12	Chapter-6　技術分野の語彙（その２）～建設，エネルギー，コンピュータ等	・技術英検問題の英文によく使われる技術用語のうち，建設，エネルギー，コンピュータ等に関連する用語を学習する． ・実例演習（小テスト）
13	技術英検過去問題による模擬試験と解答解説	・技術英検の過去問題について制限時間内で回答し，解答解説を踏まえ，各自で間違った問題を中心に見直して理解度を確実にする．
14	まとめ	・期末試験により，技術英語に関する理解度の定着を確認する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第2回～第13回授業に共通して，以下の（準備学習），（復習）が必要となります．
（準備学習）
・各回授業に対応する教科書の説明を読んで各回で学ぶ技術英語のポイントを把握しておきましょう．
・教科書で取り上げている例文に使われている単語の意味を確認しましょう．
（復習）
・各回の授業の実例演習（小テスト）で誤った点を教科書等で確認しましょう．
・各回で使われている技術分野の単語についてテキストの巻末リスト等を参考にして暗記しましょう．
・教科書で取り上げている例文について，教科書を見ないで自分で和文英訳，英文和訳してみましょう．
（学習時間）
・毎回の授業に関する（準備学習）と（復習）に要する学習時間は，それぞれ２時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
・公益社団法人日本工業英語協会 (著)：「工業英検３級対策」，1994年1月1日初版，日本能率協会マネジメントセンター，定価1,760円＋税

【参考書】
随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・本授業における到達目標に対し，以下のように平常点と試験（中間試験，期末試験）により到達度を測定（点数化）し，100点満点として総合的に成績評価する（60点以上が合格）．平常点と期末試験の配分は，それぞれ40点，60点とする．
（到達目標と評価の対応）
①技術系の専門用語を理解できる．（和→英，英→和）できる．→平常点10点＋期末試験16点＝小計26点
②技術英語に適する英文構文を理解できる．→平常点14点＋期末試験20点＝小計34点
③技術に関する長文を読解できる．→平常点6点＋期末試験10点＝小計16点
④専門用語や技術英語構文を使って簡単な英文を作成できる．→平常点10点＋期末試験14点＝小計24点
・平常点には，小テスト，中間試験，技術英検の模擬試験，質疑応答・発表等が含まれる．
・中間試験ならびに期末試験とは，辞書やノートなどを参照しない筆記試験を指す．
・４回以上欠席した場合は，単位取得不可（評価：D）とする．

【学生の意見等からの気づき】
・小テストや質疑応答など，学生の興味を引く内容を工夫し，授業時にできるだけ飽きさせず，学習効果を高める工夫をしていきたい．
・小テスト等の解答解説を提出直後に実施する等して履修学生の学習に役立てたい．そのためには，lms2025;WebClass によるテスト機能を使う予定なので協力してもらいたい．

・授業改善アンケート調査結果より，授業理解度や感想については，大半から肯定的な回答が得られた．また，その自由回答記述からは，より専門的な単語や英文法について学ぶことができた，毎回の授業では文法から確認するスタイルだったため、英語が苦手な自分にとっては分かりやすく勉強になった，単語の解説がためになった，通常の英単語帳では覚えられない工業英語を知れた，などの意見が出された．これらを踏まえ，2025年度授業では，引き続き，学生がより一層技術英語について興味・関心を持てるような授業運営を心がけていきたい．

【学生が準備すべき機器他】
・教材配布や小テスト等については，lms2025;WebClass を使うので同システムの操作に充分慣れておくこと．
・授業中に WebClass を使うこともあるので，PC，タブレット，スマートフォン等の機器を携行することが望ましい．
・その他，授業に関わる連絡は WebClass を利用する．

【その他の重要事項】
・Xクラス（B2240）を担当する教員（大友）は実務経験教員である．所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた．研究成果を国際会議で口頭発表，あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた．このような経験を講義に反映し，履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい．
・英文法の基礎事項（少なくとも，動詞の単・複数形変化，時制変化）について復習しておくことが望ましい．
・オフィスアワーに関して，質問等については，授業終了後に教室で，あるいは電子メイルで受付ける．担当教員のメイルアドレス：keizo.ohtomo.td@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to improve technical communication skills in English for basic technical documents: manuals, instructions and notices for experiments or industrial productions. Students will also be required to develop simple technical compositions. Students to achieve this class are encouraged to apply the Second Grade Technical English Proficiency, thereby making them to pass the examination.
【Learning activities outside of classroom】
You are required to tackle the following preparations and reviews through the second to the thirteenth classes in the schedule.
< Preparation >
1) You should read specified area in the textbook according to the class schedule to identify crucial issues for technical English.
2) You should examine unknown words used in example sentences.
< Review >
1) You should review your mistakes in the small test with reference to the textbook.
2) You should memorize technical terms involved in example sentences using word lists in the textbook.
3) You should practice English composition and Japanese translation for example sentences.
< Learning Hours >
1) You should consume generally about two hours for both preparations and reviews.
【Grading Criteria /Policy】
The supervisor will evaluate your achievement for learning objectives based on your mark in class participations (allocation: 40%) and scores in midterm and final examinations (allocation: 60%), completing your final scores in the full score of 100%. You will earn the credit if you score equal to or more than the score of 60%.
< Learning objectives and corresponding evaluations >
1) Acquisition of technical terms in Japanese as well as English: class participation 10%+final examination 16%= total 26%
2) Analysis of sentence structure for technical English: class participation 14%+final examination 20%=total 34%
3) Evaluation of English sentences with technical expression: class participation 6%+final examination 10%=total 16%
4) Organization of a short English sentence with technical terms and /or sentence structure for technical English: class participation 10%+final examination 14%=total 24%
A mark in class participation includes small tests.
Midterm and final examination will be conducted without any references and/or notes.
You will fail to earn the credit if you miss the class more than three times, your final evaluation being applied Grade D.

ADE100NB（建築学 / Architecture and building engineering 100）

デザインスタジオ２（建築）X

板坂　留五

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分が構想する空間を模型やドローイングを通してプレゼンテーションし、人に伝える方法を学びます。

【到達目標】
・模型などを用いて立体と平面を行き来しながらデザインする
・空間に対する分析力・考察力を養う
・日常や社会活動を捉え直す視点を養う
・各種構造の特性を理解する
・行動場面をイメージしながら設計する技術を身につける
・周辺環境との関係を理解し，敷地の特徴を活かす技術を身につける
●AB期の「デザインスタジオ1」を発展させる。
[建築研究]自分が選んだ建築空間や環境を調べた後、実際に空間を訪れ体験し、レポートにまとめることで空間の分析力、考察力を養う。（事前研究レポートと、空間体験レポートの2部構成での提出とする）
[ウォッチャー]普段目にしている風景や街中にある事物を、あるテーマを通してとらえなおし1枚の写真に表現することで、日常に対する新たな視点を持つ力を養う。
[光の箱]建築空間にとって最も基本的であると同時に重要な要素である『光』をテーマにした課題を通して、空間に於ける光の扱い方を習得する。
[一辺5m立方の空間の設計]一辺5mキューブの空間を設計する。ここでは、三次元で考え、それを図面化することによって立体と図面との関係を理解する。また図面の理解のみでなく、「空間への夢」を形態としてデザインする。デザインスタジオ3、4へのステップとして特に重要である。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎			◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
目標を達成するために、まず建物研究を行う。どのような建物や環境に興味をもったのか、そしてその建物を研究したあと、実際に空間を体験することで、図面や写真の分析から読み取れることと、体験しなければわからないことを考察する。また、この研究では、建築作品が気候・風土、風俗・習慣、技術、経済性など、多くの条件の結果として優れた空間がつくりだされていることを学ぶ。そして、『ウォッチャー』では、一つのテーマに沿った写真を撮り提出する。全員の写真を並べてみることで同じテーマでも多様な視点があることを学ぶ。
建築を取り巻く背景に触れた後に、初学年ではじめて設計を行う。夢をかたちにするとはどのようなことか。建築空間を考えるとはどのようなことか。そして、建築を構成する材料とはどのようなものか。条件に従ったうえでの個性とは。そして美とは何か。などさまざまな問いかけを、手を動かしてスケッチし、模型を作り、エスキースを繰り替えすことから形を見出し、空間を作り出し、表現する方法を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・建築研究 『光の箱』 『ウォッチャー』の説明	○魅了される建築を研究と見学の両方を通して体験しレポートにまとめる。 ○課題の説明。
2	建築研究　発表 『光の箱』 『ウォッチャー』	○建築研究レポート 発表 ○光の箱　エスキース1 開口と光の関係を探る ○ウォッチャー　発表と講評
3	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱　エスキース2 壁や開口部の素材、反射による光の効果を探る。 ○ウォッチャー　発表と講評
4	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱　エスキース3 さまざまなスタディによってどんな光の状態ができるのかを把握する。 ○ウォッチャー　発表と講評
5	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱　エスキース4 写真やドローイングも含めたプレゼンテーションの方法を学ぶ。 ○ウォッチャー　発表と講評
6	『光の箱』 ●講評会 『ウォッチャー』	○光の箱　プレゼンテーション：作品のコンセプト、図面、模型を提出し、講評会を行う。 ○ウォッチャー　発表と講評 ○『5m立法の空間』 ガイダンス：一辺5m立方の空間のなかに自分のための空間（自室）を設計する。他者を招くことも条件とする
7	『5m立法の空間』	○自分自身が人を招く空間としてどのような空間を作りたいかをイメージする。 ○5m立法の空間の大きさを把握する。
8	『5m立法の空間』	○模型やスケッチをつくることで具体的な空間を思考する。平面図に空間を落とし込む。
9	『5m立法の空間』	○平面図と模型を提出。クラス別に中間講評会を行う。
10	『5m立法の空間』	○中間講評で指摘された事柄を反映しスタディを深める。
11	『5m立法の空間』	○敷地や家具類を含めた模型を製作する。
12	『5m立法の空間』	○最終プレゼンテーション用の図面と模型の製作を行う。
13	『5m立法の空間』 ●スタジオ講評会	○模型の撮影法、プレゼンテーション（人に意図を伝える）方法について学ぶ。 ◇プレゼンテーションパネルは模型写真・説明図・一般図面等を含んで構成する。 プレゼンテーション：作品のコンセプト・図面を提示、 ●発表および講評会を各スタジオで行う。
14	『5m立法の空間』 ●合同講評会	全スタジオ合同講評会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
良い空間を体験することは、建築学習にとって何よりも学ぶことが多い。実際に足を運び、優れた建築空間を体験する習慣をつけることが望ましい。そして、その空間がなぜ優れているのかを観察することが設計への第一歩となる。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『空間練習帳』小嶋一浩, 小池ひろの, 高安重一, 伊藤香織（建築文化シナジー）

【参考書】
『住まいの空間　独立住居』武者英二・宮宇地一彦・永瀬克己著、日本建築学会編（彰国社）
『建築設計演習基礎編』武者英二・永瀬克己著（彰国社）
『建築のしくみ』安藤直見・柴田晃宏・比護結子著（丸善）

【成績評価の方法と基準】
課題ごとに採点し、全作品により評価する。
〈建築研究〉興味ある建築物の研究を行い、事前研究レポート、空間体験レポートの2部構成で提出する。
○事前研究レポート：まず図面や写真、建築家の記述などから周辺環境との関係や建築の空間分析を行う。
○空間体験レポート：実際にその建築空間を体験し、事前研究で行った分析との比較、体験したからこそ得られた空間の印象などの考察を記述する。どのような対象を取り上げるのか。建築家の思想、思考をどのように読み取とったのか。実空間体験によりどのような考察を行ったのか。自分自身の思考と言葉による分析などを評価する。
〈ウォッチャー〉週ごとに設定されるテーマに沿った1枚の写真を提出。テーマのとらえ方、写真の表現力、構図・構成力、新しい視点の提示など総合的に評価する。
〈光の箱〉一つの箱に対して、穴のあけ方、素材の選び方、使い方などから光をどのように取り込み、空間化したか。授業におけるエスキースの取り組みと、模型及び図面の表現力。プレゼンテーションパネルの構成力などにより総合的に評価する。
〈5m立法の空間〉自分の夢をどのように空間化できたか。模型による表現。図面や写真による平面構成、プレゼンテーションによって評価する。授業におけるエスキースの取り組み、および提出した課題作品により評価する。

（評価配分：建築研究15％、ウォッチャー5%、光の箱30%、5m立法の空間50%）
（ただし、1つでも未提出課題がある場合は単位取得できない可能性があります）

【学生の意見等からの気づき】
授業時間における作業だけでなく、日常的にスケッチを書いたり、スタディ模型を作製したり、エスキースで指摘されたことをきちんと見直すなど、授業以外の時間をいかに使うか。課題の最終成果物へ向けた作業予定を立て、計画的に進めていくことが重要である。

【学生が準備すべき機器他】
製図用具：製図に必要な各種道具（各自）、模型用材・用具（各自）、カッターマット（各自）、平行定規（各スタジオ）。

【その他の重要事項】
初めての設計では、既成概念に縛られがちである。「夢」が図面作成や模型制作を元気づける。
現在も活躍している建築士が、自身の経験を活かし建築設計に関する実習を指導する。

【Outline (in English)】
[Outline]
In this course students will learn how to create models and drawings from planned designs for use in presentations in order to further their communication communication skills.
[Learning Objectives]
Students will learn how to create models and drawings from planned designs for use in presentations in order to further their communication skills.
Cultivate the ability to analyze and think about space.
Cultivate the ability to rethink everyday life and social activities.
To understand the characteristics of various structures.
Acquire skills to design while imagining the scene of action.
To understand the relationship with the surrounding environment and acquire techniques to make the most of the characteristics of the site
To develop "Design Studio 1" in AB.
[Architectural Research] After researching the architectural space and environment of their choice, students will visit the space, experience it, and summarize their findings in a report, thereby developing their ability to analyze and consider the space. (The report will consist of two parts: a preliminary research report and a report on the experience of the space.)
[Watcher: Students will develop the ability to gain a new perspective on everyday life by reexamining the scenery and things they see in the city through a certain theme and expressing it in a single photograph.
[Light Box] Through assignments on the theme of "light," the most basic and important element of architectural space, students will learn how to handle light in a space.
[Design of a 5m cubic space] Design a 5m cubic space. Here, students will think in three dimensions and draw them to understand the relationship between three-dimensional objects and drawings. In addition to understanding the drawings, students will also design their "dream for space" as a form. This is especially important as a step toward Design Studio 3 and 4.
[Learning activities outside of classroom]
Experiencing a good space is the best way to learn about architecture. It is desirable to develop the habit of actually visiting and experiencing excellent architectural spaces. And observing why a space is excellent is the first step to designing it.
The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
Grades will be given for each assignment, and all works will be evaluated.
The students are required to research architectural structures of interest and submit a two-part report: a preliminary research report and a report on their experience in the space.
Preliminary research report: First, students will analyze the architectural space and its relationship to the surrounding environment based on drawings, photographs, architects' descriptions, etc.
The report will include a comparison with the analysis conducted in the pre-research and a discussion of the impressions gained from the experience of the space.
What kind of subject will be taken up? How did you read and understand the architect's thoughts and ideas? What considerations did you make based on your experience of the actual space? How did you analyze the architect's ideas and thoughts through the experience of the actual space?
Watcher〉 Submit a photograph in line with a theme set each week. Comprehensive evaluation will be made on how the theme is perceived, the expression of the photograph, composition and organization, and the presentation of a new point of view.
(1) "Box of Light": How did the photographer capture and spatialize light by making holes in a single box, selecting materials, and using them in different ways? (2) The student's work on his/her esquisse in class and his/her ability to express himself/herself in the model and drawings. Comprehensive evaluation will be made based on the students' skills in composing presentation panels and other factors.
How did you spatialize your dream? Expression by model. Evaluation will be based on the plan composition using drawings and photographs, and the presentation. Evaluation will be based on the work of the student's esquisse in class and the work submitted for the assignment.
(Assessment distribution: 15%architectural research, 5%watcher, 30% light box, 50%space of 5m cubic feet)
(However, students who have not submitted even one assignment may not receive credit.)

OTR100ND（その他 / Others 100）

デザインスタジオ２（SD)

安積　伸、片山　典子、田中　聡一郎、山田　泰之、西岡　靖之

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「デザインスタジオ２」は、【マネジメント系】【クリエーション系：対面】【テクノロジー系」の三つの系を各4回づつ、３クラスに分けて授業をうける事ができる。自分のクラスを間違わないように授業を受ること。クラス分けは、A,B,Cクラスに最初のガイダンスで行う。
デザイン工学では、製品を製作するときのあらゆる場面で自分の制作しようとしている不可視な状態（想像されている状態）の人工物を第三者に的確かつスピーディーに可視化しその情報を視覚伝達技術の基礎が学べる。
マネジメント系では、身の回りにあるさまざまな“問題”とどう関わるかについて、まず、問題解決のための基本構造を学び理解する基礎が学べる。
クリエーション系では、手書きによるスケッチ技術の習得を基本としながら、発案から実作まで活用可能な絵の描き方を学ぶ。またアイデアスケッチから実制作を行い、手書きスケッチと立体造形の関係を実践的に学ぶ。
テクノロジー系講義では3次元物体や現象のコンピュータによる正確な表現方法，「かたち」や「しくみ」に取り入れられている力学的な関係と，工学的見地からデザインをとらえる基礎知識を身につけることが出来る。

【到達目標】
【マネジメント系】
身の回りにあるさまざまな“問題”の解決のための基本構造を学ぶ。意識して行っていなかった“発想”および“問題発見”の方法を学び実践できるようにします。問題解決のためのステップや、複数のメンバーによるプロジェクトの設定方法と実施方法の基礎を習得する事を目標とする。
【クリエーション系】対面演習授業です。
手書きによるアイデアスケッチの基礎を学び、発案から実作までのプロセスで活用できる絵の描き方を学ぶ。また後半ではアイデアスケッチを基に実作を行い、絵と立体の差異を理解する。
【テクノロジー系】
3次元物体や現象のコンピュータによる正確な表現，物体の変形，流体の流れの関係，あるいは「ちから」と「かたち」や「しくみ」の基本的な関係を習得する事を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
【マネジメント系】
マネジメント系では、身の回りにあるさまざまな“問題”とどう関わるかについて、まず、問題解決のための基本構造を理解できる。これまではおそらく意識して行っていなかった“発想”および“問題発見”の方法を学び実践できる。そして、さらに、問題解決のためのステップや、複数のメンバーによるプロジェクトの設定方法と実施方法を学ぶ事が出来る。演習は、４～５名からなるグループワークで実施できる。
【クリエーション系】対面演習授業です。
この授業は、AB期でのデザインスタジオ１の継続に位置すると考えてください。
手書きによるアイデアスケッチの基礎を学び、発案から実作までのプロセスで活用できる絵の描き方を学びます。
前半ではアイデアスケッチの基礎的なトレーニングを行い、発案を素早く他者と共有するするための絵の描き方を学びます。
後半ではテーマに沿い、実寸スケッチによる発案から、3面レンダリングを経て、実物の制作を行います。また実物と絵を比較しその差異を理解します。
ここで得られる技術は各自の固有の技術となりますので予習、復習をしっかり行ってください。また専門技術の基礎となりますので真剣に取り組む必要があります。
【テクノロジー系】
2次元、3次元のモノの構造とそれらのつくり方を学ぶ。図学、構造力学、材料力学、材料工学等の基礎を実習課題を通して学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	デザインスタジオ２総合ガイダンス及びクリエーション系、テクノロジー系、マネジメント系、各系の対面、またはオンライン授業、対面の場合のコロナ対策等の説明を含む。	「デザインスタジオ２」授業概要の説明。この授業で得られる知識について。 クラス別の説明、クラス別日程説明。 対面、またはオンライン授業の説明。 対面使用教室説明及びコロナ対策説明。
2	クラス別①マネジメント系ガイダンス 問題解決の基本形 発散的な思考法	授業概要、目標の説明 ブレーンストーミングを行う KJ法により問題を深化させる
3	クラス別②問題解決の基本形	ブレーンストーミングを行う 連関図法、系統図法による問題の整理
4	クラス別③ 問題分析と構造化 問題解決の手段と実施	連関図法、系統図法による問題の整理
5	クラス別④ マネジメント系まとめ	グループ別プレゼンテーション
6	クラス別①クリエーション系 ガイダンス アイデアスケッチの作成	授業概要、目標の説明 アイデアスケッチの基礎的手法を学ぶ。発案したアイデアを絵と文字で説明する。
7	クラス別②クリエーション系 アイデアスケッチから三面レンダリングへの展開	アイデアスケッチを経て、原寸で3面レンダリングを描く。製品制作のためのアイデアを実寸で検討する。
8	クラス別③クリエーション系 原寸で検討したアイデアスケッチを基に、実素材で製品を制作する。	原寸三面レンダリングをもとに木材を切削して、プロダクトを制作する。
9	クラス別④クリエーション系 具現化した形状と、事前に制作した原寸図を比較し、差異を理解する。	木切削によるプロダクトを完成させる。完成品をもとに３面レンダリングを修正する。
10	クラス別①テクノロジー系 ガイダンス 図学 ものづくり実習	授業概要、目標の説明。ものづくりに欠かせない図学の基礎を学ぶ。簡単な立体構造の立体図面と展開図面を作成する。 これらの図面をもとに、1つだけ作る場合と、同じモノを複数個つくる場合を対比したものづくり実習を実施する。設計から大量生産を模擬的に体験することで理解を深める。
11	クラス別②テクノロジー系 材料力学入門	材料力学の基礎を学ぶ。応力ひずみ曲線，断面二次モーメント等、材料力学の基礎知識を学ぶ。 切り欠き効果や、両端支持梁の比較実験を実施する。これらの実習を通して材料力学への理解を深める。
12	クラス別③テクノロジー系 構造力学入門	構造力学の基礎を学ぶ。部の拘束条件、自由体図、ラーメン構造、トラス構造等、構造力学の基礎知識を学ぶ。 トラス構造を用いた大小の橋を制作する実習を実施する。これらの実習を通して構造力学への理解を深める。
13	クラス別④テクノロジー系 材料工学入門	金属材料について鉄系材料，非鉄系材料を学ぶ。非金属材料では例えば熱可塑性樹脂や熱硬化性樹脂などテクノロジにかかわる様々な材料を実物を見ながら学ぶ。 これらの体験を通して材料工学への理解を深める
14	デザインスタジオ２総合評価	各系からの総合評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習、復習
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
クリエーション系は毎回宿題を課します。最終課題は完成に向けてかなりの制作時間が必要となりますので、計画的に進めてください。

【テキスト（教科書）】
使用しない.

【参考書】
【マネジメント、クリエーション、テクノロジー系】
学習支援システム「教材」にアップロード。
必要に応じてプリントを配布する.

【成績評価の方法と基準】
積極的な授業参加と授業態度を評価対象とします。
■成績は，マネジメント系100点，クリエーション系100点、テクノロジ系100点とし，合計平均で評価する.

【学生の意見等からの気づき】
各系の基礎となる授業です．毎回必ず授業に出席する事。
うるさく制作に没頭できないという苦情が出ています。
クリエーション系制作実習中の私語は慎んでください。
教室が汚いという苦情が出ています。
授業終了時は必ず自席のテーブル、椅子、床周辺を掃除をしたのち退席してください。
この演習授業終了後、他の演習が始まります。お互いに整理整頓された教室で演習できるよう努めましょう。

【学生が準備すべき機器他】
【クリエーション系】
デザインスタジオ１で使用したスケッチ道具セットを一式持参してください。
PMパッドを使い果たした人は各自で補充し準備してください。
（マーカーインクは授業内で補充が可能です。）
【テクノロジー系】
ノートPCを持参すること。

【その他の重要事項】
【クリエーション系】
日本で第一線で活躍するプロダクトデザイナー、実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザインの基礎知識・デザイン手法の基礎を演習を通して指導が受けられる。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course comprises three different subjects in management, creation, and technology, each held 4 times and divided into three classes.
【Learning Objectives】
The goals of each subject are the following:
- Management
Learn the basic structures for solving various "problems" that exist in the world around us.
- Creation:
Learn the basics of hand-drawn idea sketching and the way to create actual works based on the sketches.
- Technology:
Master the basic relationship between power, form, and structure.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Homework will be assigned for each Creation Class.
【Grading Criteria /Policy】
Grades will be assessed based on a total average of 100 points in Management, 100 points in Creation, and 100 points in Technology.
Also, the attitudes of the participants in the classes are subject to evaluation.

DES100ND（デザイン学 / Design science 100）

デザイン理論（SD）

秋元　淳

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は「デザインの現在地を知る基礎講座」です。デザインが対象とする領域の幅、デザインの目的の幅、それぞれが拡がっている現在におけるデザインの理論＝考え方を理解します。一つは「デザインという営みの基礎を成す普遍としての理論」であり、もう一つは「様々なデザインのそれぞれを成り立たせている個別解としての理論」です。今日のデザインはそれらの理論＝考え方の上に立ち、さまざまな手法を通じてさまざまな成果をもたらしていると捉えられます。
人間が誰もがより良く希望をもって生きられる社会であるためにデザインは必要とされていて、そのために「デザインをする」人が社会に求められています。この授業では、受講者の皆さんが「ものごとをデザインする」という姿勢のもと、これからデザインと主体的に関わっていけるように後押しができれば、と考えています。

【到達目標】
今日の社会におけるデザインの位置づけと、デザインが社会でどのように機能しているかを一人ひとりが理解して、今後自らがデザインと関わっていくうえでの視野を養い、実践へ向けた素地をつくることがこの授業における目的です。
そのために、時代・社会の変化とデザインの変化との相関を知ることで、社会におけるデザインの役割を認識します。さらに各分野における具体的なデザインの実践内容を知ることで、いかに多様なデザインの担い手がそれぞれの目的性を持ってデザインに臨んでいるかを理解し、デザインが持つ可能性への開眼につなげます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
前半では社会とデザインの関係を理解するための基礎的な講義を実施します。時代と社会の変化と歩調を合わせてきたデザインの変化を、1950年代以降のグッドデザイン賞デザインを題材に解説します。これによりいまデザインが何を担っているかについて基礎的な理解をもたらします。
後半ではさまざまな分野のグッドデザイン賞の受賞事例を題材にしながら、そこから読み取れる目的性、特色、可能性などについて掘り下げていきます。授業で取り上げるデザインの事例やテーマは、なるべくその時々の社会の状況に則した旬なものを選択していきます。これら授業の進行過程で、不定期的にリアクションペーパーによる受講者の見識のキャッチアップを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／グッドデザイン賞の紹介	・講師自己紹介 ・本授業の内容展開のベースとなる「グッドデザイン賞」の説明
2	社会の変化とデザインの変化1	社会の変化とデザインの対象及び目的の拡張
3	社会の変化とデザインの変化2	いまデザインは何をデザインしているか
4	デザインの本質1	人間中心という考え方
5	デザインの本質2	可視化という考え方
6	デザインの本質3	デザインに期待されること
7	中間まとめ	最新のグッドデザイン賞受賞作などを題材に、今日におけるデザインの意義を確認
8	事例：社会課題とデザイン1	今日の社会における顕著なテーマに向き合うデザイン事例の紹介
9	事例：社会課題とデザイン2	今日の社会における顕著なテーマに向き合うデザイン事例の紹介
10	事例：社会課題とデザイン3	今日の社会における顕著なテーマに向き合うデザイン事例の紹介
11	事例：社会課題とデザイン4	今日の社会における顕著なテーマに向き合うデザイン事例の紹介
12	事例：社会課題とデザイン5	今日の社会における顕著なテーマに向き合うデザイン事例の紹介
13	デザインにおける普遍	テクノロジーとデザインの関係
14	最終まとめ	人間中心というデザインにおける本質をめぐる考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
つねに社会の動向と人々の関心・行動を意識して、デザインがそれらとどのように関わっているかに目を向けるようにしてください。「デザインは社会の変化と相関する」「誰に対しても・どのようなことに対してもデザインは関わる」という認識のもと、自らが関心のある事象に対して「デザインの対象として捉えてみる／そこにデザインがどのように関われるか考えてみる」という視点を持ち続けてください。そうした関心に応えられる授業内容を目指したいと思います。
授業内で紹介したデザインの事例について、積極的に追加情報を得て自らの関心事となるように心がけてください。
2025年11月に東京都内で開催予定の、最新グッドデザイン賞受賞作の紹介イベントを視察することを勧めます。デザインの最新の実践例に触れることができます。

【テキスト（教科書）】
特になし（授業時間内で指示することがあります）

【参考書】
特になし（授業時間内で指示することがあります）

【成績評価の方法と基準】
授業の期間中を通じて1回課すレポートの成果を主体に、授業への参加度も加えて総合的に判断して評定を実施します。レポートで課すテーマは、授業への参加度合いが著しく低い場合には対応が難しい内容を想定しています。なおテストは行わない予定です。
出席数が多くてもレポートの提出が行われない場合、合格評価はしません。さらに授業内容の理解度・解釈度が著しく希薄なレポート内容であるとみなされる場合（授業内容を踏まえなくても書けるような内容に終始している場合など）も合格評価をしないことがあります。
評価の内訳：レポート提出（100％）

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに務めています。

【その他の重要事項】
担当講師がグッドデザイン賞の運営に携わっているため、本授業で扱う内容は基本的にグッドデザイン賞を通じたことがベースになる点を、前提として承知しておいてください。なお、グッドデザイン賞はデザインの価値を定める絶対的な正解や正論ではありませんから、この授業で受講者の皆さんへ「正しいデザインを教える」といった意図はありません。あくまでも皆さんのデザインの見方や考え方のサポートとなるべく、グッドデザイン賞というフィルターを通じたケーススタディを提示していると理解して、授業に臨んでもらえるのがよいでしょう。
グッドデザイン賞に対する根本的な疑問や不信感を持っているような人だと、授業内容への関心が持てないことが予想されるため履修は薦めません。
なお、この授業では実技習得目的での、描写や造形や編集行為などに関する演習・ワークショップ・グループワークは実施しません。各回とも座学での実施です。
レポートを課す際は、提出締め切り日の一ヶ月前には予告を行います。またレポートは原則として授業支援システムを介してのデータでの提出・受取とします。
質問は授業終了後に教室で受け付けます。
当シラバスで記した「授業計画」（スケジュール）に関して、取り上げる事例のテーマや順番は、その時々の社会情勢や講師の都合などを反映して、この想定から変更することがあります。

【Outline (in English)】
This class is a “basic course to understand where design is today. This course is designed to help students understand the current theories of design, which are expanding in terms of the range of areas covered by design and the range of purposes for which design is used. One is “the theory as a universal that forms the basis of the activity of design,” and the other is “the theory as an individual solution that makes each of various designs possible. Today’s design is based on these theories, or ways of thinking, and is considered to bring about results through a variety of methods.
Design is needed for a society in which everyone can live better and with hope, and people who “do design” are needed by society for this purpose. In this class, I hope to encourage the students to become proactively involved with design from now on, based on the attitude of “designing things”.

DES100ND（デザイン学 / Design science 100）

図形科学基礎演習Ｘ

梶本　博司、石橋　忠人

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ものづくりの過程において重要な製図の基礎を学ぶことが出来ます。3次元形状を的確に把握する能力はデザインの開発過程で必要不可欠です。
その能力開発の基礎として、3次元人工物を正確に客観的、計量的に表示し第三者に図示する方法として2次元での図学を習得する必要があります。プロダクトデザインにおける「設計図面」は自己の発案した形状を製造者に数的に伝達をするものです。
また「設計図面」は世界共通の図情報として扱われており、ＩＳＯ規格、国内でのＪＩＳ規格に則って作図する必要があります。本授業では「三角法」と呼ばれる作図技法をベースに製図を学びます。
また、図面はCAD（ Computer Aided Design）と呼ぶコンピュータ上での設計が主流であり、CADでの作図技術基礎も演習を通して学ぶ事が出来ます。
ものづくりの基本となる立体と2次元図形との関係性を把握し、プロダクトデザインや製品シミュレーションに必要な製図を学びます。

【到達目標】
立体と図面を往来する能力を高め、社会で通用する「三角法」の基本を習得すること。
CADシステムによる基礎的な作図が出来ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義と演習を並行して進め、徐々に難易度が上がります。また、その都度課題が与えられ、提出→採点の流れが続きます。最後は各自が主体性のある設計製図を行い授業内で発表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、本授業の演習目的、演習概要、演習採点等内容。演習道具の説明。	プロダクトデザインにおける図面の役割、図面の必要性と図面の基礎概念等
2	図学設計基礎	平面から立体、立体から平面の往来図形を通して立体を第三者に伝達する
3	三角法の基礎-1：基礎概念、三角法の作図法	手描きによる幾何形体－演習1 三角法の作図法、基礎概念の理解。
4	三角法の基礎-2：三角法の作図法 線種と図面記号、図面の配置計画、投影図	手描きによる幾何形体－演習2： 線の種類、基本的な図面記号、図面様式の理解。図面の整合性、中心線の定義、図面配置計画の理解。
5	三角法の基礎-3：三角法の作図法 寸法記入、断面図	手描きによる幾何形体－ 演習3 寸法記入法、断面図
6	CADによる三角法作図の基礎演習-1	CADによる作図のメリット、留意点の理解。アプリケーションの起動及びファイルの保存、図形描画ツールの理解1。
7	CADによる三角法作図の基礎演習-2	CADによる作図のメリット、留意点の理解。アプリケーションの起動及びファイルの保存、図形描画ツールの理解2。
8	CADによる三角法作図の基礎演習-3	CADによる作図。図形描画ツールの理解3。
9	CADによる三角法作図の基礎演習-4	図形描画ツールの理解、数値入力基本操作、演習課題1：三角法による幾何形体の作図。
10	CADによる三角法作図の基礎演習-5	図形描画ツールの理解、数値入力基本操作、演習課題2：三角法による幾何形体の作図。
11	CADによる三角法作図の応用演習-1	身近な立体物を計測し、三角法で作図。
12	CADによる三角法作図の応用演習-2	身近な立体物を計測し、三角法で作図。
13	CADによる三角法作図の応用演習-3	テーマに則ったオリジナルデザインから三角法で作図。（断面図、寸法記入、（定義づけ）整合性の検証）
14	CADによる三角法作図の応用演習-4	テーマに則ったオリジナルデザインから三角法で作図。（完成、及び講師による講評）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習は必須。
CADの基本操作を自主的に学習する事。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内容は画像で表示し、学生各自が演習し、必要に応じて筆記する。
教科書は使用しません。

【参考書】
「図面ってどない描くねん」
発行：日刊工業新聞、著者　山田　学
「JISにもとづく標準製図法」
発行：オーム社

【成績評価の方法と基準】
出席（減点法）
積極的な授業参加と授業態度を評価対象とします。
課題の提出（100％）

【学生の意見等からの気づき】
2次元と3次元を往来することの演習機会を増やします。
基礎の習得を徹底します。

【学生が準備すべき機器他】
第１回授業で指示します。

【その他の重要事項】
授業終了後に教室で質問を受け付ける。または随時，電子メールでも質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
In this course, you can understand the relationship between solids and figures, which are the basis of manufacturing, and learn the drafting for product design and product simulation. You can also learn the basics of digitization in drafting.
（Learning activities outside of classroom）
Be sure to review your lessons.
Self-directed learning of basic CAD operations.
The standard time for preparation and review for this class is two hours each.
(Grading Criteria /Policy)
Attendance (deduction method)
Active class participation and class attitude will be evaluated.
Assignment submission (100%)

DES100ND（デザイン学 / Design science 100）

図形科学基礎演習Ｙ

梶本　博司、石橋　忠人

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ものづくりの過程において重要な製図の基礎を学ぶことが出来ます。3次元形状を的確に把握する能力はデザインの開発過程で必要不可欠です。
その能力開発の基礎として、3次元人工物を正確に客観的、計量的に表示し第三者に図示する方法として2次元での図学を習得する必要があります。プロダクトデザインにおける「設計図面」は自己の発案した形状を製造者に数的に伝達をするものです。
また「設計図面」は世界共通の図情報として扱われており、ＩＳＯ規格、国内でのＪＩＳ規格に則って作図する必要があります。本授業では「三角法」と呼ばれる作図技法をベースに製図を学びます。
また、図面はCAD（ Computer Aided Design）と呼ぶコンピュータ上での設計が主流であり、CADでの作図技術基礎も演習を通して学ぶ事が出来ます。
ものづくりの基本となる立体と2次元図形との関係性を把握し、プロダクトデザインや製品シミュレーションに必要な製図を学びます。

【到達目標】
立体と図面を往来する能力を高め、社会で通用する「三角法」の基本を習得すること。
CADシステムによる基礎的な作図が出来ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義と演習を並行して進め、徐々に難易度が上がります。また、その都度課題が与えられ、提出→採点の流れが続きます。最後は各自が主体性のある設計製図を行い授業内で発表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、本授業の演習目的、演習概要、演習採点等内容。演習道具の説明。	プロダクトデザインにおける図面の役割、図面の必要性と図面の基礎概念等
2	図学設計基礎	平面から立体、立体から平面の往来図形を通して立体を第三者に伝達する
3	三角法の基礎-1：基礎概念、三角法の作図法	手描きによる幾何形体－演習1 三角法の作図法、基礎概念の理解。
4	三角法の基礎-2：三角法の作図法 線種と図面記号、図面の配置計画、投影図	手描きによる幾何形体－演習2： 線の種類、基本的な図面記号、図面様式の理解。図面の整合性、中心線の定義、図面配置計画の理解。
5	三角法の基礎-3：三角法の作図法 寸法記入、断面図	手描きによる幾何形体－ 演習3 寸法記入法、断面図
6	CADによる三角法作図の基礎演習-1	CADによる作図のメリット、留意点の理解。アプリケーションの起動及びファイルの保存、図形描画ツールの理解1。
7	CADによる三角法作図の基礎演習-2	CADによる作図のメリット、留意点の理解。アプリケーションの起動及びファイルの保存、図形描画ツールの理解2。
8	CADによる三角法作図の基礎演習-3	CADによる作図。図形描画ツールの理解3。
9	CADによる三角法作図の基礎演習-4	図形描画ツールの理解、数値入力基本操作、演習課題1：三角法による幾何形体の作図。
10	CADによる三角法作図の基礎演習-5	図形描画ツールの理解、数値入力基本操作、演習課題2：三角法による幾何形体の作図。
11	CADによる三角法作図の応用演習-1	身近な立体物を計測し、三角法で作図。
12	CADによる三角法作図の応用演習-2	身近な立体物を計測し、三角法で作図。
13	CADによる三角法作図の応用演習-3	テーマに則ったオリジナルデザインから三角法で作図。（断面図、寸法記入、（定義づけ）整合性の検証）
14	CADによる三角法作図の応用演習-4	テーマに則ったオリジナルデザインから三角法で作図。（完成、及び講師による講評）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習は必須。
CADの基本操作を自主的に学習する事。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内容は画像で表示し、学生各自が演習し、必要に応じて筆記する。
教科書は使用しません。

【参考書】
「図面ってどない描くねん」
発行：日刊工業新聞、著者　山田　学
「JISにもとづく標準製図法」
発行：オーム社

【成績評価の方法と基準】
出席（減点法）
積極的な授業参加と授業態度を評価対象とします。
課題の提出（100％）

【学生の意見等からの気づき】
2次元と3次元を往来することの演習機会を増やします。
基礎の習得を徹底します。

【学生が準備すべき機器他】
第１回授業で指示します。

【その他の重要事項】
活授業終了後に教室で質問を受け付ける。または随時，電子メールでも質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
In this course, you can understand the relationship between solids and figures, which are the basis of manufacturing, and learn the drafting for product design and product simulation. You can also learn the basics of digitization in drafting.
（Learning activities outside of classroom）
Be sure to review your lessons.
Self-directed learning of basic CAD operations.
The standard time for preparation and review for this class is two hours each.
(Grading Criteria /Policy)
Attendance (deduction method)
Active class participation and class attitude will be evaluated.
Assignment submission (100%)

DES200ND（デザイン学 / Design science 200）

クリエーション基礎論

土屋　雅人、大西　景太

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
クリエーション基礎論は、講義形式の授業となります。
前半、後半各７回ずつで担当教員が変わります。
本授業では、海外の文化を柔軟に取り入れながら発展してきた日本の美の要素に関る知識と、現代のものやサービスのデザインに必要な普遍的な美の表現形式に関する知識を習得します。

【到達目標】
日本の美とものやサービスのデザインに必要な美的表現に関する基礎知識が習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は対面を基本に行います。
講義全体は二部構成となり、第一部は１回目より７回目までを大西教授、第二部は８回目から１４回目までを土屋教授の講義となります。１回目はガイダンスが含まれます。
それぞれの講義概要は次の通りです。
第１部は、日本美術史にみる古典表現と現代美術・デザインの関りについて
第２部は、視覚情報伝達と情報価値、認知工学について

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス、および日本美術のクリエーション１	本講義の概要、注意点、および縄文・弥生・古墳／飛鳥・奈良時代の美について解説します。
2	日本美術のクリエーション２	平安時代の美について解説します。
3	日本美術のクリエーション３	鎌倉・南北朝／室町時代の美について解説します。
4	日本美術のクリエーション４	桃山・江戸時代①の美について解説します。
5	日本美術のクリエーション５	江戸②／明治時代の美について解説します。
6	日本美術のクリエーション６	大正・戦前戦後の美について解説します。
7	日本美術のクリエーション７、授業内試験	現代の美について解説します。授業内試験を行います。
8	ビジュアルシンキング	思考のための視覚表現を学びます。
9	グラフィックデザイン	印刷媒体とグラフィックデザインの働きを学びます。
10	情報伝達と認知	情報の分類と理解の仕組みを学びます。
11	ピクトグラムデザイン	情報の記号化とピクトグラムの役割を学びます。
12	サイン計画	情報伝達とサイン計画を学びます。
13	ダイアグラムデザイン	メディアの変遷とダイアグラムの機能を学びます。
14	情報価値の創造	情報の構造化とメディア、情報価値の創造を学びます。 授業内試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本の美や美の表現形式に関する多くの知識を学ぶので、講義ノートをしっかりと取ることが重要です。
予習復習を行い、授業内容の理解を促すための課題は指示通りに提出してください。
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて・授業内で配布
学習支援システムの教材にテキストを掲示

【参考書】
「増補新装 カラー版日本美術史」、辻 惟雄(監修)、美術出版社
「日本美術史 JAPANESE ART HISTORY」、山下裕二(監修)、美術出版
「グラフィックデザイン基礎講座」、大里浩二 (監修)、美術出版
「情報デザインのワークショップ」、山崎 和彦他 (著)、丸善出版

【成績評価の方法と基準】
課題、試験の他、学習態度を平常点として評価します。
各課題合計（30％）、試験（40％）、平常点（30％）
２名の教員の成績の平均より評価判定します。

【学生の意見等からの気づき】
授業評価アンケートの結果を反映する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
In this class, we will study about the elements of Japanese beauty which have been evolved while incorporating foreign cultures, and knowledge about the beauty of expression necessary for the design.
After each class, students will be expected to spend two hours to understand the course content and to write reports.
Your overall grade in the class will be decided based on the following,
Quality of objects:30%, Term-end examination:40%, In class contribution:30%.

OTR200ND（その他 / Others 200）

プレゼンテーション技術X

豊島　純子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニケーション能力は、日本だけでなく欧米、アジア諸国でも、技術者教育において育成すべき重要な能力に位置づけられています。とりわけ学会や専門的な会合で自分のアイディアを発表する機会の多い理工系学生は、高いプレゼンテーション能力が要求されます。

この授業の目的は「自分が伝えたいことを聴衆に正しく理解してもらい、共感してもらえるようになる」ための効果的なスキルやテクニックを学び、「自分らしくのびやかに自己表現できるようになること」です。授業では受講者同士が相互に助け合い、プレゼンテーションの上達をめざす協働学習を行います。

【到達目標】

この授業の到達目標は、"Audience First"を常に意識しながら聴衆の心に響くプレゼンテーションを実演できるようになることです。具体的に言えば「どのように自己表現すれば聴衆に理解され、共感してもらえるか?」を聴衆の立場にたって考え、自分らしく、楽しみながら、自信をもってプレゼンテーションができるようになることです。

第一回日本語プレゼンテーションは「自分の情報や意図を聴衆にわかりやすく伝えられること」、第二回日本語プレゼンテーションは「身近な問題を発見し、解決策を提示して検証し、その解決策が有効なことを説得力をもって示せること」、英語プレゼンテーションは「シンプルな英語で正しく情報伝達できるようになること」を目標に練習していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義とプレゼンテーション実習（B2357、B2358は同一内容)からなり、対面とオンラインで行います。対面プレゼンテーションとオンライン・プレゼンテーションを効果的に行うためのテクニックやスキルを学び、練習します。オンライン授業のURLは学習支援システム(WebClass)を通じて9月半ば以降に周知しますので必ず確認ください。

授業では構造的なストーリー、明快なビジュアル、効果的なフィジカルメッセージについて学習後、三種類のプレゼンテーション（日本語二回、英語一回）に取り組んでいただきます。プレゼンテーション実習ではビデオ撮影とGoogle Formsによる相互評価を行います。各発表者は、教員、TA、ほかの受講者からのフィードバック（以降FB）を読み、自らのプレゼンテーション録画を自己点検し、プレゼンテーション技術の改善をはかります。

第一回日本語プレゼンテーションは自分の情報を聴衆にわかりやすく伝える「情報伝達型プレゼンテーション」、第二回日本語プレゼンテーションは研究発表へとつながる「問題解決型プレゼンテーション」を行います。英語発表実習では、英語プレゼンテーションの基本であるTell Them Three Times Approachを使って原稿を作成する方法を学び、発音とイントーネーションを練習後に実演します。また学会発表等に備え、発表後に質疑応答の練習やディスカッションも行います。

協働学習の一環として相互評価を行い、その際発表者以外の受講者はPCやスマホを使って発表者にFBします。発表者のプレゼンテーションをよく観察し、的確なアドバイスや建設的なコメントができるように練習してください。さらに自分を客観視できるようにプレゼンテーションのビデオ撮影を行います。発表者は自分のプレゼン録画を自己点検し、講義で学習した内容、教員、TA、クラスメートからのFBを参考に自らのプレゼンテーションを振り返って自己省察レポートを書きます。そして、そこから得た学びを次回のプレゼンテーションで活用し、改善させていきます。

また、受講者は実演するだけでなく、クラスメートのプレゼンテーションを観察し自らと比較することで、自分の「強み」と「課題」を客観視する訓練を積みます。ありのままの自分を直視することは苦しくも楽しい作業で、そのチャレンジを乗り越えると飛躍的に進歩します。半期の授業を受講後、受講者は自分の「強み」と「課題」を十分理解し、より高度なプレゼンテーションを行うべく次のステージに進んでいきます。一人では難しい省察も、共に学ぶ仲間がいれば実現しやすくなります。

この授業は受講者同士が助け合いながら、それぞれの課題を乗り越えていきますので、自分だけでなく、仲間のプレゼンテーションの上達をサポートできるように積極的かつ真摯に授業に取り組んでください。

尚、詳しい授業計画は初回授業で説明します。授業の進捗具合、受講者数によって日程、内容を変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業方針と進め方を説明し、プレゼンテーション概説を学びます。
2	プレゼンテーション概説とプレゼンテーションの三要素（Story Message）についての講義	明快なストーリーを組立てる際に有効なTell Them Three Times Approachを学びます。
3	プレゼンテーションの三要素(Visual & Physical Messages)についての講義	PPTスライド等視覚的資料の作り方、印象的なプレゼンテーションを実演するために有効なフィジカルメッセージを学びます。
4	第一回日本語プレゼンテーション実習（1）	テーマにそって第一回日本語プレゼンテーションを行います。発表はビデオ撮影します。発表者以外は発表の相互評価をします。発表後、発表者はビデオ録画と相互評価結果を参考に省察レポートを書きます。
5	第一回日本語プレゼンテーション実習（2）	第一回日本語プレゼンテーションの初日の方針に従って二日目を実施します。
6	第一回日本語プレゼンテーション実習（3）	第一回日本語プレゼンテーションの初日の方針に従って三日目を実施します。
7	・第一回日本語プレゼンテーションの振り返りと総括 ・第二回日本語プレゼンテーションの説明 ・英語プレゼンテーションの準備(1)	授業の前半は第一回日本語プレゼンテーションの講評を行います。次に第二回日本語プレゼンテーション(問題解決型プレゼンテーシ）の趣旨と取り組み方を学習します。 後半はわかりやすい英語プレゼンテーション原稿の作り方（Informative Speech）を学びます。
8	・第二回日本語プレゼンテーションの準備（テーマ検討） ・英語プレゼンテーションの準備(2)	授業の前半は各自が考えてきた第二回日本語プレゼンテーションのテーマを検討しあいます。 後半は各自作成してきた英語原稿をpeer reviewしあい、その後英語口頭発表時の発音やイントネーションの練習を行って英語プレゼンテーションに備えます。
9	英語プレゼンテーション実習(1)	オンライン・英語プレゼンテーションの初日です。発表者以外は相互評価を行います。発表者はプレゼンテーションの録画ビデオを視聴し、相互評価結果を参考に省察レポートを書きます。
10	英語プレゼンテーション実習(2)	オンライン・英語プレゼンテーションの初日の方針に従って二日目を実施します。

11	第二回日本語プレゼンテーション実習(1)	第二回日本語プレゼンテーションの初日です。プレゼンテーションはビデオ撮影します。発表者以外は発表の相互評価をします。発表者はビデオ録画と相互評価結果を参考に省察レポートを書きます
12	第二回日本語プレゼンテーション実習(2)	第二回日本語プレゼンテーションの初日の方針に従って二日目を実施します。
13	第二回日本語プレゼンテーション実習(3)	第二回日本語プレゼンテーションの初日の方針に従って三日目を実施します。
14	まとめ	よりよいプレゼンテーションをめざし半期にわたって学んできたプレゼンテーション技術のまとめを行います。授業後半は今学期の自分の学びを振り返り、最終レポート（Final Reflection)を授業内で書きます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】

受講者は各自授業時間外にプレゼンテーションの準備を行い、三種類のプレゼンテーション（日本語プレゼンテーション二回、英語プレゼンテーション一回）を授業で実演します。そして発表終了後に、自分のプレゼンテーション録画と相互評価結果を点検し、自己省察のレポートを授業時間外に書きます。また模範的な英語プレゼンテーションを視聴して分析する等、プレゼンテーション・スキルの向上に役立つ課題を授業外に学習します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書)】

教材は教員が準備し配布します。

【参考書】

・Garr Reynolds「プレゼンテーションZEN - プレゼンのデザインと伝え方に関するシンプルなアイデア」株式会社ピアソン・エデュケーション
・Harrington,D.,&LeBeau,D.(2009). Speaking of Speech -Basic Presentation Skills for Beginners (New Edition) , Tokyo: MacMillan Languagehouse
・Jonathan Schwabish著、高橋佑磨・片山なつ監訳、小川浩一約、「できる研究者のプレゼン術」(2020)、講談社

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション　50%、課題　40%、授業への取り組み（出席含む）10%
・3種類のプレゼンテーションすべてを実演することが単位取得の要件です。
・不可抗力によるプレゼンテーション欠席の際は事由を速やかに報告してください。欠席理由の説明がない場合は放棄とみなします。
・3分の1を超える授業を欠席の場合、単位は不可とします。
・課題レポート（主にプレゼンテーション録画とクラスメートによる相互評価結果を参考に発表終了後に書く自己省察レポート）を重視します。プレゼンテーション実習を消化するだけではなく「そこから何を学び、どのように修正し、次のプレゼンテーションにつなげていくか？」という前向きな姿勢が重要です。
・プレゼンテーション実習をすべて完了しても省察レポート等の課題が未提出の場合、単位取得が難しくなる場合があります。課題は〆切を守って期限内に提出するようにしてください。
・発表者に対して的確なFBができているかを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

「大変有意義な授業だと思います。SD学科は発表が多いですが、FBを得る機会があまりないです。自分の長所と課題が明確になり、上達できた」、「Tell Them Three Times Approachを実践したら、自分でもプレゼンが組み立てやすく、聴いていてもわかりやすいプレゼンができるようになった」、「FBを読んでビデオで自己点検するのは効果があると思った」、「プレゼンにおける声の抑揚やアイコンタクトの重要性がよくわかった」、「他の人の発表を見ることで勉強になった。また、クラスメートのコメントを読んで、自分では気づいていなかった長所がわかって嬉しかったし自信になった」等のコメントをいただきました。また、発表回数を増やす提案、質疑応答のやり方、発表順に関する要望なども頂きましたので検討します。
受講者の皆さんがしっかり自分と向き合って、プレゼンテーション技術だけでなく人間としても大きく成長されているのがわかり、大変頼もしく感じました。相互評価とビデオ録画の有用性に関するコメントをたくさんいただいたので、今後も大いに活用してアクティブな授業を行っていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に対応できるデバイスを用意してください。

【その他の重要事項】

外資系保険業界で様々なプレゼンテーションを実践後、ニューヨーク州立大学（ＵＢ）で理工系学生（STEAM）向けのテクニカル・コミュニケーションを修了した教員が、相互評価とビデオによる自己点検を組み合わせた協働学修を通して、効果的なプレゼンテーションを行うためのスキルとテクニックを指導します。
授業終了後に教室で質問を受け付けます。または随時，電子メールで質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

Communication skill is vital to thrive in the global community. Above all, presentation skill is one of the greatest career boosters for engineers. This presentation course offers students opportunities to improve their presentation skills and techniques by integrating video self-reflection and peer evaluation. The 14-week course consists of the instructor's lectures and the students' presentation sessions. The students deliver their speeches in Japanese and English after learning to structure presentations using compelling visuals and powerful body language. Their presentations will be video-recorded, and they will receive constructive feedback from the instructor, teaching assistants, and classmates. After checking the peer evaluation results and the recorded video, the students will reflect on their performances and write a self-reflection report for each presentation, which enhances their presentation skills.

OTR200ND（その他 / Others 200）

プレゼンテーション技術Y

豊島　純子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニケーション能力は、日本だけでなく欧米、アジア諸国でも、技術者教育において育成すべき重要な能力に位置づけられています。とりわけ学会や専門的な会合で自分のアイディアを発表する機会の多い理工系学生は、高いプレゼンテーション能力が要求されます。

この授業の目的は「自分が伝えたいことを聴衆に正しく理解してもらい、共感してもらえるようになる」ための効果的なスキルやテクニックを学び、「自分らしくのびやかに自己表現できるようになること」です。授業では受講者同士が相互に助け合い、プレゼンテーションの上達をめざす協働学習を行います。

【到達目標】

この授業の到達目標は、"Audience First"を常に意識しながら聴衆の心に響くプレゼンテーションを実演できるようになることです。具体的に言えば「どのように自己表現すれば聴衆に理解され、共感してもらえるか?」を聴衆の立場にたって考え、自分らしく、楽しみながら、自信をもってプレゼンテーションができるようになることです。

第一回日本語プレゼンテーションは「自分の情報や意図を聴衆にわかりやすく伝えられること」、第二回日本語プレゼンテーションは「身近な問題を発見し、解決策を提示して検証し、その解決策が有効なことを説得力をもって示せること」、英語プレゼンテーションは「シンプルな英語で正しく情報伝達できるようになること」を目標に練習していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義とプレゼンテーション実習（B2357、B2358は同一内容)からなり、対面とオンラインで行います。対面プレゼンテーションとオンライン・プレゼンテーションを効果的に行うためのテクニックやスキルを学び、練習します。オンライン授業のURLは学習支援システム(WebClass)を通じて9月半ば以降に周知しますので必ず確認ください。

授業では構造的なストーリー、明快なビジュアル、効果的なフィジカルメッセージについて学習後、三種類のプレゼンテーション（日本語二回、英語一回）に取り組んでいただきます。プレゼンテーション実習ではビデオ撮影とGoogle Formsによる相互評価を行います。各発表者は、教員、TA、ほかの受講者からのフィードバック（以降FB）を読み、自らのプレゼンテーション録画を自己点検し、プレゼンテーション技術の改善をはかります。

第一回日本語プレゼンテーションは自分の情報を聴衆にわかりやすく伝える「情報伝達型プレゼンテーション」、第二回日本語プレゼンテーションは研究発表へとつながる「問題解決型プレゼンテーション」を行います。英語発表実習では、英語プレゼンテーションの基本であるTell Them Three Times Approachを使って原稿を作成する方法を学び、発音とイントーネーションを練習後に実演します。また学会発表等に備え、発表後に質疑応答の練習やディスカッションも行います。

協働学習の一環として相互評価を行い、その際発表者以外の受講者はPCやスマホを使って発表者にFBします。発表者のプレゼンテーションをよく観察し、的確なアドバイスや建設的なコメントができるように練習してください。さらに自分を客観視できるようにプレゼンテーションのビデオ撮影を行います。発表者は自分のプレゼン録画を自己点検し、講義で学習した内容、教員、TA、クラスメートからのFBを参考に自らのプレゼンテーションを振り返って自己省察レポートを書きます。そして、そこから得た学びを次回のプレゼンテーションで活用し、改善させていきます。

また、受講者は実演するだけでなく、クラスメートのプレゼンテーションを観察し自らと比較することで、自分の「強み」と「課題」を客観視する訓練を積みます。ありのままの自分を直視することは苦しくも楽しい作業で、そのチャレンジを乗り越えると飛躍的に進歩します。半期の授業を受講後、受講者は自分の「強み」と「課題」を十分理解し、より高度なプレゼンテーションを行うべく次のステージに進んでいきます。一人では難しい省察も、共に学ぶ仲間がいれば実現しやすくなります。

この授業は受講者同士が助け合いながら、それぞれの課題を乗り越えていきますので、自分だけでなく、仲間のプレゼンテーションの上達をサポートできるように積極的かつ真摯に授業に取り組んでください。

尚、詳しい授業計画は初回授業で説明します。授業の進捗具合、受講者数によって日程、内容を変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業方針と進め方を説明し、プレゼンテーション概説を学びます。
2	プレゼンテーション概説とプレゼンテーションの三要素（Story Message）についての講義	明快なストーリーを組立てる際に有効なTell Them Three Times Approachを学びます。
3	プレゼンテーションの三要素(Visual & Physical Messages)についての講義	PPTスライド等視覚的資料の作り方、印象的なプレゼンテーションを実演するために有効なフィジカルメッセージを学びます。
4	第一回日本語プレゼンテーション実習（1）	テーマにそって第一回日本語プレゼンテーションを行います。発表はビデオ撮影します。発表者以外は発表の相互評価をします。発表後、発表者はビデオ録画と相互評価結果を参考に省察レポートを書きます。
5	第一回日本語プレゼンテーション実習（2）	第一回日本語プレゼンテーションの初日の方針に従って二日目を実施します。
6	第一回日本語プレゼンテーション実習（3）	第一回日本語プレゼンテーションの初日の方針に従って三日目を実施します。
7	・第一回日本語プレゼンテーションの振り返りと総括 ・第二回日本語プレゼンテーションの説明 ・英語プレゼンテーションの準備(1)	授業の前半は第一回日本語プレゼンテーションの講評を行います。次に第二回日本語プレゼンテーション(問題解決型プレゼンテーシ）の趣旨と取り組み方を学習します。 後半はわかりやすい英語プレゼンテーション原稿の作り方（Informative Speech）を学びます。
8	・第二回日本語プレゼンテーションの準備（テーマ検討） ・英語プレゼンテーションの準備(2)	授業の前半は各自が考えてきた第二回日本語プレゼンテーションのテーマを検討しあいます。 後半は各自作成してきた英語原稿をpeer reviewしあい、その後英語口頭発表時の発音やイントネーションの練習を行って英語プレゼンテーションに備えます。
9	英語プレゼンテーション実習(1)	オンライン・英語プレゼンテーションの初日です。発表者以外は相互評価を行います。発表者はプレゼンテーションの録画ビデオを視聴し、相互評価結果を参考に省察レポートを書きます。
10	英語プレゼンテーション実習(2)	オンライン・英語プレゼンテーションの初日の方針に従って二日目を実施します。

11	第二回日本語プレゼンテーション実習(1)	第二回日本語プレゼンテーションの初日です。プレゼンテーションはビデオ撮影します。発表者以外は発表の相互評価をします。発表者はビデオ録画と相互評価結果を参考に省察レポートを書きます
12	第二回日本語プレゼンテーション実習(2)	第二回日本語プレゼンテーションの初日の方針に従って二日目を実施します。
13	第二回日本語プレゼンテーション実習(3)	第二回日本語プレゼンテーションの初日の方針に従って三日目を実施します。
14	まとめ	よりよいプレゼンテーションをめざし半期にわたって学んできたプレゼンテーション技術のまとめを行います。授業後半は今学期の自分の学びを振り返り、最終レポート（Final Reflection)を授業内で書きます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】

受講者は各自授業時間外にプレゼンテーションの準備を行い、三種類のプレゼンテーション（日本語プレゼンテーション二回、英語プレゼンテーション一回）を授業で実演します。そして発表終了後に、自分のプレゼンテーション録画と相互評価結果を点検し、自己省察のレポートを授業時間外に書きます。また模範的な英語プレゼンテーションを視聴して分析する等、プレゼンテーション・スキルの向上に役立つ課題を授業外に学習します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書)】

教材は教員が準備し配布します。

【参考書】

・Garr Reynolds「プレゼンテーションZEN - プレゼンのデザインと伝え方に関するシンプルなアイデア」株式会社ピアソン・エデュケーション
・Harrington,D.,&LeBeau,D.(2009). Speaking of Speech -Basic Presentation Skills for Beginners (New Edition) , Tokyo: MacMillan Languagehouse
・Jonathan Schwabish著、高橋佑磨・片山なつ監訳、小川浩一約、「できる研究者のプレゼン術」(2020)、講談社

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション　50%、課題　40%、授業への取り組み（出席含む）10%
・3種類のプレゼンテーションすべてを実演することが単位取得の要件です。
・不可抗力によるプレゼンテーション欠席の際は事由を速やかに報告してください。欠席理由の説明がない場合は放棄とみなします。
・3分の1を超える授業を欠席の場合、単位は不可とします。
・課題レポート（主にプレゼンテーション録画とクラスメートによる相互評価結果を参考に発表終了後に書く自己省察レポート）を重視します。プレゼンテーション実習を消化するだけではなく「そこから何を学び、どのように修正し、次のプレゼンテーションにつなげていくか？」という前向きな姿勢が重要です。
・プレゼンテーション実習をすべて完了しても省察レポート等の課題が未提出の場合、単位取得が難しくなる場合があります。課題は〆切を守って期限内に提出するようにしてください。
・発表者に対して的確なFBができているかを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

「大変有意義な授業だと思います。SD学科は発表が多いですが、FBを得る機会があまりないです。自分の長所と課題が明確になり、上達できた」、「Tell Them Three Times Approachを実践したら、自分でもプレゼンが組み立てやすく、聴いていてもわかりやすいプレゼンができるようになった」、「FBを読んでビデオで自己点検するのは効果があると思った」、「プレゼンにおける声の抑揚やアイコンタクトの重要性がよくわかった」、「他の人の発表を見ることで勉強になった。また、クラスメートのコメントを読んで、自分では気づいていなかった長所がわかって嬉しかったし自信になった」等のコメントをいただきました。また、発表回数を増やす提案、質疑応答のやり方、発表順に関する要望なども頂きましたので検討します。
受講者の皆さんがしっかり自分と向き合って、プレゼンテーション技術だけでなく人間としても大きく成長されているのがわかり、大変頼もしく感じました。相互評価とビデオ録画の有用性に関するコメントをたくさんいただいたので、今後も大いに活用してアクティブな授業を行っていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に対応できるデバイスを用意してください。

【その他の重要事項】

外資系保険業界で様々なプレゼンテーションを実践後、ニューヨーク州立大学（ＵＢ）で理工系学生（STEAM）向けのテクニカル・コミュニケーションを修了した教員が、相互評価とビデオによる自己点検を組み合わせた協働学修を通して、効果的なプレゼンテーションを行うためのスキルとテクニックを指導します。
授業終了後に教室で質問を受け付けます。または随時，電子メールで質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

Communication skill is vital to thrive in the global community. Above all, presentation skill is one of the greatest career boosters for engineers. This presentation course offers students opportunities to improve their presentation skills and techniques by integrating video self-reflection and peer evaluation. The 14-week course consists of the instructor's lectures and the students' presentation sessions. The students deliver their speeches in Japanese and English after learning to structure presentations using compelling visuals and powerful body language. Their presentations will be video-recorded, and they will receive constructive feedback from the instructor, teaching assistants, and classmates. After checking the peer evaluation results and the recorded video, the students will reflect on their performances and write a self-reflection report for each presentation, which enhances their presentation skills.

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

材料の力学

浜田　英明

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
建築材料の物理的性質と建築の基本部材である梁の力学的基礎

【到達目標】
材料の基礎的な力学理論からいかにして簡潔で美しい線材理論が導かれるかを学ぶ。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
			◎			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
人類は，生活圏内で手に入れることのできる材料を用いて，雨風を凌ぐための建築空間を作ってきた。遺構を含め今日までの建築空間はそれぞれ用いた材料の性質に制約を受けながらも，その可能性を最大限に引き出したものと言える。そこには材料に対するあまたの経験と理解に基づく人類の創意工夫がある。これを物理学の視点から整理統合し，予測可能な技術として発展させた設計のための経験科学が材料の力学である。本講では建築空間を構成する基本的な構造部材である梁や柱などの1次元部材を対象に材料の力学を論じる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	垂直応力度と垂直ひずみ度	力のつり合いと応力 応力度と強度 ひずみ度 構成方程式
2	せん断応力度とせん断ひずみ度	構成方程式 ポアソン比 せん断ひずみ度 せん断弾性係数
3	はりの曲げ応力度	曲げを受けるはり はりの曲げ応力 中立軸 断面係数
4	はりのせん断応力度	曲げモーメントとせん断力の関係 せん断応力度の分布 せん断流理論 せん断中心とねじり
5	軸力と曲げモーメントの組み合わせ	軸力と曲げの連成 重ね合わせの原理 偏心軸力 断面の核
6	総合演習（1）：応力度とひずみ度	授業内演習
7	はりの基本式	はりの基本式の導出 はりの基本式の応用
8	断面の性質	断面1次モーメントと図心 断面2次モーメントと断面係数 断面相乗モーメントと断面の主軸
9	はりの変形 はりの基本式	はりの基本式の導出 はりの変形の求め方
10	モールの定理	モールの定理の導出と応用
11	総合演習（2）：はり理論	授業内演習
12	座屈（1）	オイラー座屈 座屈応力度，許容圧縮応力度 初期たわみ
13	座屈（2）	有効座屈長さ ラーメンの座屈
14	総合演習（3）：座屈	授業内演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回までの講義板書内容を復習，実施された演習プリントの反復。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内に印刷物を適宜配布する。

【参考書】
Stephen P. Timoshenko: History of Strength of Materials, Dover, 1983, Paperback.

【成績評価の方法と基準】
評価項目：配分（評価基準等）
演習課題：50％（各100点満点）
定期試験：50％（試験の際，各自A4用紙1枚にまとめた直筆メモの持ち込みを許可する）
ただし，定期試験で85点以上の者は，演習30%試験70%での評価とも比較して，よい方を評価素点とする。
評価素点100点満点中60点以上を合格とする。
また，連続3回欠席，通算で5回以上欠席したものは成績評価しない。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓

【その他の重要事項】
この授業と，春学期に同時開講される「部材の力学」で学んだ知識をもとに，秋学期必修科目として開講される「骨組の力学」は展開されるため，非常に重要である。
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計実務経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
Learn about the physical properties of building materials and the basic mechanical theory of beams, which are the basic members of architecture.
Learning Objectives:
Learn how a concise and beautiful wire theory can be derived from the fundamental mechanical theory of materials.
Learning activities outside of classroom:
Review of previous lecture board content and repetition of exercises printed in the conducted exercises.The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the results of exercises and periodic examinations. Students who are absent three times in a row or five times or more in total will not be graded.

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

骨組の力学

浜田　英明

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物理学の基本原理であるエネルギー原理を用いて，様々な構造物の応力状態や変形状態を求める手法について学ぶ。

【到達目標】
様々な静定構造物の変形および不静定構造物の応力を求める解法の修得と基本的な構造形式の力学性状の把握を目標とする。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
			◎		◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
「部材の力学」では，力のつりあいについて学習し，静定構造物の応力を求めた。また，「材料の力学」では，構造部材に働く応力度とひずみ度の関係，断面の性質について学習した。
この授業では，物理学の基本原理であるエネルギー原理を用いて，様々な構造物の応力状態や変形状態を求める手法を主に学習する。
理論や解析手法を修得するだけではなく，基本的な構造形式が持つ力学的特性についても把握するため，数多くの演習問題に挑戦してもらう。
基本的な1回の授業は，前回演習課題の解説 → 講義 → 演習課題発表 → 自宅での演習 → 次回授業での演習課題提出という流れである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概説	授業概要
		構造物の安定・不安定
2	静定構造物の応力（復習）	片持ち梁
		単純梁
		静定ラーメン
		静定トラス
3	直線部材の変形（復習）	はりの基本式（弾性曲線方程式）
		モールの定理
4	総合演習（1）	授業内試験
5	エネルギー原理	仕事とエネルギー
		熱力学の基本法則
		ひずみエネルギー
		仕事の原理
6	仮想仕事の原理	仮想仕事の原理
		重ね合わせの原理
		相反定理
		単位仮想荷重法
7	静定トラスの変位	軸力部材の変位
	静定はりの変位	静定トラスの変位
		強制変形による変位
		はり部材の変位
		片持梁の変位
		単純梁の変位
		変断面梁の変位
8	静定ラーメンの変位	ラーメン構造の変位
		片持梁型ラーメンの変位
		単純梁型ラーメンの変位
		3ヒンジラーメンの変位
9	Castiglianoの定理	Castiglianoの定理の導出
		Castiglianoの第2定理の応用
		最小仕事の定理の応用
10	総合演習（2）	授業内試験
11	不静定構造物の応力	不静定構造物の解法
		不静定構造物の例題1
		不静定構造物の例題2
12	たわみ角法（1）	たわみ角法とは
		たわみ角法の基本式
		不静定ラーメンの解法
13	たわみ角法（2）	剛度と剛比
		層方程式
14	総合演習（3）	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書等による予習と授業後の復習，宿題の演習課題，これらに積極的に取り組むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内に印刷物を適宜配布する。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
評価項目：配分（評価基準等）
演習課題：50％（A～Dの4段階評価で，未提出はD評価）
期末試験：50％（試験の際，各自A4用紙1枚にまとめた直筆メモの持ち込みを許可する）
ただし，定期試験で85点以上の者は，演習30%試験70%での評価とも比較して，よい方を評価素点とする。
なお，演習課題の提出率が80％未満のものは成績評価しない
評価素点100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度に応じて，授業進度を調整することに心がける。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
「材料の力学」および「部材の力学」で学んだ知識を用いるため，これらの授業の復習は必ず行っておくこと。
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
Learn how to determine the stress and deformation states of various structures using the energy principle, a fundamental principle of physics.
Learning Objectives:
The goal is to master solution methods for determining deformation of various static structures and stresses in non-stationary structures, and to understand the mechanical properties of basic structural forms.
Learning activities outside of classroom:
Students are expected to prepare for the class by using reference books, review after class, and actively work on homework exercises and assignments.The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the results of exercises and periodic examinations. Students who are absent three times in a row or five times or more in total will not be graded.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

Design Basics in English

ディン　ボリバン

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**
都市：建築士

その他属性：〈グ〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The class will cover several fields of architecture, such as the reading and description of spaces, architectural representation tools, and analysis and conception. Students can explore the field of architecture from multiple perspectives, case studies, and discussions. They can also learn vocabulary from different domains of architecture.
学生は建築の分野について、多角的に学ぶことができる。また英語を聞き、話す機会を増やすことで実践的な英語能力を身につけることができる。建築分野の語彙の習得ができる。

【到達目標】
The goals of the class are to:
1.Improve students conversational abilities.
2.Provide students with vocabulary in various domains of architecture.
3.Provide students with the skills needed to make clear and effective project presentations.
クラスの目標は以下の通りです：
1.学生の会話能力向上
2.様々な建築領域の語彙提供
3.学生に明確で効果的なプロジェクトプレゼンテーションを行うためのスキルを提供します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP5」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
For each of the 14 classes, the professor will introduce a subject related to architecture or design. Students will gather in groups of 3 or 4 and discuss/debate the current subject based on visual documents provided by the professor. The professor will join each group to facilitate discussion and monitor the progress of the students. During the semester, students will be required to prepare visual materials for 4 presentations and discussions with the class. All conversations must be conducted in English, and all presentation materials must be submitted in the form of a PPT or PDF binder.
14回のクラスごとに、講師は建築やデザインに関連するテーマを紹介します。学生は3～4人のグループで集まり、講師が提供したビジュアルドキュメントを基に、現在のテーマについて議論やディベートを行います。講師は各グループに加わり、議論を促進し、学生の進捗状況を確認します。学期中、学生はクラスとの4つのプレゼンテーションと議論のためにビジュアル資料を準備する必要があります。すべての会話は英語で行われ、すべてのプレゼンテーション資料はPPTまたはPDFバインダーの形式で提出する必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Place-site-origin	Students will introduce themselves to their group, give a presentation of their hometown and neighborhood. They will give their impressions on a remarkable building or space they remember.
Class 2	Graphic Representations; Tools of the Architect	Learn about the different graphic representations used by architects. The professor will present the different drawings and graphics which are commonly used by architects. Students will review in the group the different visuals provided by the professor. These visuals include sketches, diagrams, axonometric views, perspectives, site plans, floor plans, sections, and details.
Class 3	Architectural Movement through 20th and 21st centuries.	The professor will introduce the different main movements in architecture throughout the 20th and 21st centuries, and the students will discuss in groups based on visuals provided by the professor, analyzing the characteristics of each movement, and discussing their influence on contemporary architecture.
Class 4	Contemporary Architecture; Art facility	The professor will present some examples of remarkable architecture related to Art facility (Museums, Art pavilions, etc.). Students will discuss in groups the different projects, analyzing design features and exploring architectural elements.
Class 5	Contemporary Architecture; Art facility; Presentation	Following the previous class, students will give a presentation of one building of their choice. This presentation to be submitted by PDF to the professor, prior to the class.
Class 6	Contemporary Architecture; Transportation, sport facilities, large scale buildings	The professor will present some examples of remarkable architecture related to transportation, sport facilities, and large-scale buildings. Students will discuss in groups the different projects, analyzing design principles and identifying innovative features.
Class 7	Urban Design; City planning, city scape	The professor will present different examples of city planning related to urban design. Students will discuss in groups the different plans, analyzing the layout and examining how they influence the physical form of the city.
Class 8	Micro Architecture	The professor will present a series of very small buildings related to different cities. Students will review and discuss in groups the examples given by the professor.
Class 9	Micro Architecture; Presentation	The students will be asked to find a micro building that has been created in a leftover space within the city. They will give a presentation to the class, focusing on the design process and any challenges faced during its construction. This presentation is to be submitted as a PDF to the professor prior to the class.
Class 10	Contemporary Architecture; Habitat (Human living spaces)	The professor will introduce several case studies related to habitat, and the students will explore in groups the different forms the habitat can take.
Class 11	Contemporary Architecture; Habitat; Presentation	Students will look for examples of housing that challenge traditional ideas about houses. They need to pick one housing project (either individual or collective) and explain how and why it rethinks the idea of a home. Focus on architectural features, sustainability, and social impact. Submit your presentation as a PDF to the professor before the class.

Class 12	Architecture in Literature and popular culture	The professor will give examples of architecture models present in art production such as novels, movies, and paintings. The students will discuss in groups these examples.
Class 13	Contemporary Architecture; Remodeling, rehabilitation	Students will review and discuss a series of projects related to remodeling and rehabilitation, analyzing design transformations, evaluating sustainability aspects, and discussing the preservation of cultural heritage.
Class 14	Contemporary Architecture; Remodeling, rehabilitation; Presentation	Students will present one example related to remodeling and rehabilitation, collecting the different graphic representations introduced in class 2, such as sketches, diagrams, and renderings. This presentation is to be submitted as a PDF to the professor prior to the class.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
There is no preparation needed for most classes except for classes 5, 9, 11, and 14. For these classes, students will have to prepare visuals and materials to present and discuss with the class. Therefore, it is necessary to submit a PPT/PDF prior to the class. The presentation should be within 5 to 10 minutes.
クラス5、9、11、14回を除いて、ほとんどのクラスでは準備は必要ありません。5、9、11、14回のクラスでは、学生はプレゼンテーションおよび議論をするための視覚資料等を準備する必要があります。そのため、クラス前にPPT/PDFを提出する必要があります。プレゼンテーションは約5～10分以内を目安に行います。

【テキスト（教科書）】
No specific textbook is necessary.

【参考書】
None.

【成績評価の方法と基準】
50%: Participation in group discussion
50%: Preparation of presentation materials
50%：グループディスカッションへの参加
50%：プレゼンテーション資料の準備

【学生の意見等からの気づき】
During the last semester, students were divided into small discussion groups, which provided a more comfortable and less intimidating setting than formal presentations in front of the class. This group discussion format proved successful, fostering better collaborative learning and increasing student engagement. Nevertheless, a few presentations will be included to recap the skills learned.
前学期には、学生を小さなディスカッショングループに分けました。これにより、クラス全体の前で行う正式なプレゼンテーションよりも、リラックスできて話しやすい環境が生まれました。このグループディスカッション形式は成功し、協働学習を促進し、学生の参加意欲を高める効果がありました。それでも、習得したスキルを振り返るために、いくつかのプレゼンテーションを実施する予定です。

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
The teacher is working in an international architectural practice.
国際的な建築設計事務所に携わる教員が、英語で建築分野を多角的に講義する。また、ディスカッションを通し、生徒が英語を話す機会を増やす。

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【none】
none

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

Design Basics in English

ディン　ボリバン

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**
都市：建築士

その他属性：〈グ〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The class will cover several fields of architecture, such as the reading and description of spaces, architectural representation tools, and analysis and conception. Students can explore the field of architecture from multiple perspectives, case studies, and discussions. They can also learn vocabulary from different domains of architecture.
学生は建築の分野について、多角的に学ぶことができる。また英語を聞き、話す機会を増やすことで実践的な英語能力を身につけることができる。建築分野の語彙の習得ができる。

【到達目標】
The goals of the class are to:
1.Improve students conversational abilities.
2.Provide students with vocabulary in various domains of architecture.
3.Provide students with the skills needed to make clear and effective project presentations.
クラスの目標は以下の通りです：
1.学生の会話能力向上
2.様々な建築領域の語彙提供
3.学生に明確で効果的なプロジェクトプレゼンテーションを行うためのスキルを提供します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP5」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
For each of the 14 classes, the professor will introduce a subject related to architecture or design. Students will gather in groups of 3 or 4 and discuss/debate the current subject based on visual documents provided by the professor. The professor will join each group to facilitate discussion and monitor the progress of the students. During the semester, students will be required to prepare visual materials for 4 presentations and discussions with the class. All conversations must be conducted in English, and all presentation materials must be submitted in the form of a PPT or PDF binder.
14回のクラスごとに、講師は建築やデザインに関連するテーマを紹介します。学生は3～4人のグループで集まり、講師が提供したビジュアルドキュメントを基に、現在のテーマについて議論やディベートを行います。講師は各グループに加わり、議論を促進し、学生の進捗状況を確認します。学期中、学生はクラスとの4つのプレゼンテーションと議論のためにビジュアル資料を準備する必要があります。すべての会話は英語で行われ、すべてのプレゼンテーション資料はPPTまたはPDFバインダーの形式で提出する必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Place-site-origin	Students will introduce themselves to their group, give a presentation of their hometown and neighborhood. They will give their impressions on a remarkable building or space they remember.
Class 2	Graphic Representations; Tools of the Architect	Learn about the different graphic representations used by architects. The professor will present the different drawings and graphics which are commonly used by architects. Students will review in the group the different visuals provided by the professor. These visuals include sketches, diagrams, axonometric views, perspectives, site plans, floor plans, sections, and details.
Class 3	Architectural Movement through 20th and 21st centuries.	The professor will introduce the different main movements in architecture throughout the 20th and 21st centuries, and the students will discuss in groups based on visuals provided by the professor, analyzing the characteristics of each movement, and discussing their influence on contemporary architecture.
Class 4	Contemporary Architecture; Art facility	The professor will present some examples of remarkable architecture related to Art facility (Museums, Art pavilions, etc.). Students will discuss in groups the different projects, analyzing design features and exploring architectural elements.
Class 5	Contemporary Architecture; Art facility; Presentation	Following the previous class, students will give a presentation of one building of their choice. This presentation to be submitted by PDF to the professor, prior to the class.
Class 6	Contemporary Architecture; Transportation, sport facilities, large scale buildings	The professor will present some examples of remarkable architecture related to transportation, sport facilities, and large-scale buildings. Students will discuss in groups the different projects, analyzing design principles and identifying innovative features.
Class 7	Urban Design; City planning, city scape	The professor will present different examples of city planning related to urban design. Students will discuss in groups the different plans, analyzing the layout and examining how they influence the physical form of the city.
Class 8	Micro Architecture	The professor will present a series of very small buildings related to different cities. Students will review and discuss in groups the examples given by the professor.
Class 9	Micro Architecture; Presentation	The students will be asked to find a micro building that has been created in a leftover space within the city. They will give a presentation to the class, focusing on the design process and any challenges faced during its construction. This presentation is to be submitted as a PDF to the professor prior to the class.
Class 10	Contemporary Architecture; Habitat (Human living spaces)	The professor will introduce several case studies related to habitat, and the students will explore in groups the different forms the habitat can take.
Class 11	Contemporary Architecture; Habitat; Presentation	Students will look for examples of housing that challenge traditional ideas about houses. They need to pick one housing project (either individual or collective) and explain how and why it rethinks the idea of a home. Focus on architectural features, sustainability, and social impact. Submit your presentation as a PDF to the professor before the class.

Class 12	Architecture in Literature and popular culture	The professor will give examples of architecture models present in art production such as novels, movies, and paintings. The students will discuss in groups these examples.
Class 13	Contemporary Architecture; Remodeling, rehabilitation	Students will review and discuss a series of projects related to remodeling and rehabilitation, analyzing design transformations, evaluating sustainability aspects, and discussing the preservation of cultural heritage.
Class 14	Contemporary Architecture; Remodeling, rehabilitation; Presentation	Students will present one example related to remodeling and rehabilitation, collecting the different graphic representations introduced in class 2, such as sketches, diagrams, and renderings. This presentation is to be submitted as a PDF to the professor prior to the class.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
There is no preparation needed for most classes except for classes 5, 9, 11, and 14. For these classes, students will have to prepare visuals and materials to present and discuss with the class. Therefore, it is necessary to submit a PPT/PDF prior to the class. The presentation should be within 5 to 10 minutes.
クラス5、9、11、14回を除いて、ほとんどのクラスでは準備は必要ありません。5、9、11、14回のクラスでは、学生はプレゼンテーションおよび議論をするための視覚資料等を準備する必要があります。そのため、クラス前にPPT/PDFを提出する必要があります。プレゼンテーションは約5～10分以内を目安に行います。

【テキスト（教科書）】
No specific textbook is necessary.

【参考書】
None.

【成績評価の方法と基準】
50%: Participation in group discussion
50%: Preparation of presentation materials
50%：グループディスカッションへの参加
50%：プレゼンテーション資料の準備

【学生の意見等からの気づき】
During the last semester, students were divided into small discussion groups, which provided a more comfortable and less intimidating setting than formal presentations in front of the class. This group discussion format proved successful, fostering better collaborative learning and increasing student engagement. Nevertheless, a few presentations will be included to recap the skills learned.
前学期には、学生を小さなディスカッショングループに分けました。これにより、クラス全体の前で行う正式なプレゼンテーションよりも、リラックスできて話しやすい環境が生まれました。このグループディスカッション形式は成功し、協働学習を促進し、学生の参加意欲を高める効果がありました。それでも、習得したスキルを振り返るために、いくつかのプレゼンテーションを実施する予定です。

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
The teacher is working in an international architectural practice.
国際的な建築設計事務所に携わる教員が、英語で建築分野を多角的に講義する。また、ディスカッションを通し、生徒が英語を話す機会を増やす。

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【none】
none

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

Design Basics in English

ディン　ボリバン

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**
都市：建築士

その他属性：〈グ〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The class will cover several fields of architecture, such as the reading and description of spaces, architectural representation tools, and analysis and conception. Students can explore the field of architecture from multiple perspectives, case studies, and discussions. They can also learn vocabulary from different domains of architecture.
学生は建築の分野について、多角的に学ぶことができる。また英語を聞き、話す機会を増やすことで実践的な英語能力を身につけることができる。建築分野の語彙の習得ができる。

【到達目標】
The goals of the class are to:
1.Improve students conversational abilities.
2.Provide students with vocabulary in various domains of architecture.
3.Provide students with the skills needed to make clear and effective project presentations.
クラスの目標は以下の通りです：
1.学生の会話能力向上
2.様々な建築領域の語彙提供
3.学生に明確で効果的なプロジェクトプレゼンテーションを行うためのスキルを提供します。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
						○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP5」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
For each of the 14 classes, the professor will introduce a subject related to architecture or design. Students will gather in groups of 3 or 4 and discuss/debate the current subject based on visual documents provided by the professor. The professor will join each group to facilitate discussion and monitor the progress of the students. During the semester, students will be required to prepare visual materials for 4 presentations and discussions with the class. All conversations must be conducted in English, and all presentation materials must be submitted in the form of a PPT or PDF binder.
14回のクラスごとに、講師は建築やデザインに関連するテーマを紹介します。学生は3～4人のグループで集まり、講師が提供したビジュアルドキュメントを基に、現在のテーマについて議論やディベートを行います。講師は各グループに加わり、議論を促進し、学生の進捗状況を確認します。学期中、学生はクラスとの4つのプレゼンテーションと議論のためにビジュアル資料を準備する必要があります。すべての会話は英語で行われ、すべてのプレゼンテーション資料はPPTまたはPDFバインダーの形式で提出する必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Place-site-origin	Students will introduce themselves to their group, give a presentation of their hometown and neighborhood. They will give their impressions on a remarkable building or space they remember.
Class 2	Graphic Representations; Tools of the Architect	Learn about the different graphic representations used by architects. The professor will present the different drawings and graphics which are commonly used by architects. Students will review in the group the different visuals provided by the professor. These visuals include sketches, diagrams, axonometric views, perspectives, site plans, floor plans, sections, and details.
Class 3	Architectural Movement through 20th and 21st centuries.	The professor will introduce the different main movements in architecture throughout the 20th and 21st centuries, and the students will discuss in groups based on visuals provided by the professor, analyzing the characteristics of each movement, and discussing their influence on contemporary architecture.
Class 4	Contemporary Architecture; Art facility	The professor will present some examples of remarkable architecture related to Art facility (Museums, Art pavilions, etc.). Students will discuss in groups the different projects, analyzing design features and exploring architectural elements.
Class 5	Contemporary Architecture; Art facility; Presentation	Following the previous class, students will give a presentation of one building of their choice. This presentation to be submitted by PDF to the professor, prior to the class.
Class 6	Contemporary Architecture; Transportation, sport facilities, large scale buildings	The professor will present some examples of remarkable architecture related to transportation, sport facilities, and large-scale buildings. Students will discuss in groups the different projects, analyzing design principles and identifying innovative features.
Class 7	Urban Design; City planning, city scape	The professor will present different examples of city planning related to urban design. Students will discuss in groups the different plans, analyzing the layout and examining how they influence the physical form of the city.
Class 8	Micro Architecture	The professor will present a series of very small buildings related to different cities. Students will review and discuss in groups the examples given by the professor.
Class 9	Micro Architecture; Presentation	The students will be asked to find a micro building that has been created in a leftover space within the city. They will give a presentation to the class, focusing on the design process and any challenges faced during its construction. This presentation is to be submitted as a PDF to the professor prior to the class.
Class 10	Contemporary Architecture; Habitat (Human living spaces)	The professor will introduce several case studies related to habitat, and the students will explore in groups the different forms the habitat can take.

Class 11	Contemporary Architecture; Habitat; Presentation	Students will look for examples of housing that challenge traditional ideas about houses. They need to pick one housing project (either individual or collective) and explain how and why it rethinks the idea of a home. Focus on architectural features, sustainability, and social impact. Submit your presentation as a PDF to the professor before the class.
Class 12	Architecture in Literature and popular culture	The professor will give examples of architecture models present in art production such as novels, movies, and paintings. The students will discuss in groups these examples.
Class 13	Contemporary Architecture; Remodeling, rehabilitation	Students will review and discuss a series of projects related to remodeling and rehabilitation, analyzing design transformations, evaluating sustainability aspects, and discussing the preservation of cultural heritage.
Class 14	Contemporary Architecture; Remodeling, rehabilitation; Presentation	Students will present one example related to remodeling and rehabilitation, collecting the different graphic representations introduced in class 2, such as sketches, diagrams, and renderings. This presentation is to be submitted as a PDF to the professor prior to the class.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
There is no preparation needed for most classes except for classes 5, 9, 11, and 14. For these classes, students will have to prepare visuals and materials to present and discuss with the class. Therefore, it is necessary to submit a PPT/PDF prior to the class. The presentation should be within 5 to 10 minutes.
クラス5、9、11、14回を除いて、ほとんどのクラスでは準備は必要ありません。5、9、11、14回のクラスでは、学生はプレゼンテーションおよび議論をするための視覚資料等を準備する必要があります。そのため、クラス前にPPT/PDFを提出する必要があります。プレゼンテーションは約5～10分以内を目安に行います。

【テキスト（教科書）】
No specific textbook is necessary.

【参考書】
None.

【成績評価の方法と基準】
50%: Participation in group discussion
50%: Preparation of presentation materials
50%：グループディスカッションへの参加
50%：プレゼンテーション資料の準備

【学生の意見等からの気づき】
During the last semester, students were divided into small discussion groups, which provided a more comfortable and less intimidating setting than formal presentations in front of the class. This group discussion format proved successful, fostering better collaborative learning and increasing student engagement. Nevertheless, a few presentations will be included to recap the skills learned.
前学期には、学生を小さなディスカッショングループに分けました。これにより、クラス全体の前で行う正式なプレゼンテーションよりも、リラックスできて話しやすい環境が生まれました。このグループディスカッション形式は成功し、協働学習を促進し、学生の参加意欲を高める効果がありました。それでも、習得したスキルを振り返るために、いくつかのプレゼンテーションを実施する予定です。

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
The teacher is working in an international architectural practice.
国際的な建築設計事務所に携わる教員が、英語で建築分野を多角的に講義する。また、ディスカッションを通し、生徒が英語を話す機会を増やす。

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【none】
none

ADE100NB（建築学 / Architecture and building engineering 100）

デザインスタジオ２（建築）Y

山道　拓人

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分が構想する空間を模型やドローイングを通してプレゼンテーションし、人に伝える方法を学びます。

【到達目標】
・模型などを用いて立体と平面を行き来しながらデザインする
・空間に対する分析力・考察力を養う
・日常や社会活動を捉え直す視点を養う
・各種構造の特性を理解する
・行動場面をイメージしながら設計する技術を身につける
・周辺環境との関係を理解し，敷地の特徴を活かす技術を身につける
●AB期の「デザインスタジオ1」を発展させる。
[建築研究]自分が選んだ建築空間や環境を調べた後、実際に空間を訪れ体験し、レポートにまとめることで空間の分析力、考察力を養う。（事前研究レポートと、空間体験レポートの2部構成での提出とする）
[ウォッチャー]普段目にしている風景や街中にある事物を、あるテーマを通してとらえなおし1枚の写真に表現することで、日常に対する新たな視点を持つ力を養う。
[光の箱]建築空間にとって最も基本的であると同時に重要な要素である『光』をテーマにした課題を通して、空間に於ける光の扱い方を習得する。
[一辺5m立方の空間の設計]一辺5mキューブの空間を設計する。ここでは、三次元で考え、それを図面化することによって立体と図面との関係を理解する。また図面の理解のみでなく、「空間への夢」を形態としてデザインする。デザインスタジオ3、4へのステップとして特に重要である。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎			◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
目標を達成するために、まず建物研究を行う。どのような建物や環境に興味をもったのか、そしてその建物を研究したあと、実際に空間を体験することで、図面や写真の分析から読み取れることと、体験しなければわからないことを考察する。また、この研究では、建築作品が気候・風土、風俗・習慣、技術、経済性など、多くの条件の結果として優れた空間がつくりだされていることを学ぶ。そして、『ウォッチャー』では、一つのテーマに沿った写真を撮り提出する。全員の写真を並べてみることで同じテーマでも多様な視点があることを学ぶ。
建築を取り巻く背景に触れた後に、初学年ではじめて設計を行う。夢をかたちにするとはどのようなことか。建築空間を考えるとはどのようなことか。そして、建築を構成する材料とはどのようなものか。条件に従ったうえでの個性とは。そして美とは何か。などさまざまな問いかけを、手を動かしてスケッチし、模型を作り、エスキースを繰り替えすことから形を見出し、空間を作り出し、表現する方法を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・建築研究 『光の箱』 『ウォッチャー』の説明	○魅了される建築を研究と見学の両方を通して体験しレポートにまとめる。 ○課題の説明。
2	建築研究　発表 『光の箱』 『ウォッチャー』	○建築研究レポート 発表 ○光の箱　エスキース1 開口と光の関係を探る ○ウォッチャー　発表と講評
3	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱　エスキース2 壁や開口部の素材、反射による光の効果を探る。 ○ウォッチャー　発表と講評
4	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱　エスキース3 さまざまなスタディによってどんな光の状態ができるのかを把握する。 ○ウォッチャー　発表と講評
5	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱　エスキース4 写真やドローイングも含めたプレゼンテーションの方法を学ぶ。 ○ウォッチャー　発表と講評
6	『光の箱』 ●講評会 『ウォッチャー』	○光の箱　プレゼンテーション：作品のコンセプト、図面、模型を提出し、講評会を行う。 ○ウォッチャー　発表と講評 ○『5m立法の空間』 ガイダンス：一辺5m立方の空間のなかに自分のための空間（自室）を設計する。他者を招くことも条件とする
7	『5m立法の空間』	○自分自身が人を招く空間としてどのような空間を作りたいかをイメージする。 ○5m立法の空間の大きさを把握する。
8	『5m立法の空間』	○模型やスケッチをつくることで具体的な空間を思考する。平面図に空間を落とし込む。
9	『5m立法の空間』	○平面図と模型を提出。クラス別に中間講評会を行う。
10	『5m立法の空間』	○中間講評で指摘された事柄を反映しスタディを深める。
11	『5m立法の空間』	○敷地や家具類を含めた模型を製作する。
12	『5m立法の空間』	○最終プレゼンテーション用の図面と模型の製作を行う。
13	『5m立法の空間』 ●スタジオ講評会	○模型の撮影法、プレゼンテーション（人に意図を伝える）方法について学ぶ。 ◇プレゼンテーションパネルは模型写真・説明図・一般図面等を含んで構成する。 プレゼンテーション：作品のコンセプト・図面を提示、 ●発表および講評会を各スタジオで行う。
14	『5m立法の空間』 ●合同講評会	全スタジオ合同講評会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
良い空間を体験することは、建築学習にとって何よりも学ぶことが多い。実際に足を運び、優れた建築空間を体験する習慣をつけることが望ましい。そして、その空間がなぜ優れているのかを観察することが設計への第一歩となる。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『空間練習帳』小嶋一浩, 小池ひろの, 高安重一, 伊藤香織（建築文化シナジー）

【参考書】
『住まいの空間　独立住居』武者英二・宮宇地一彦・永瀬克己著、日本建築学会編（彰国社）
『建築設計演習基礎編』武者英二・永瀬克己著（彰国社）
『建築のしくみ』安藤直見・柴田晃宏・比護結子著（丸善）

【成績評価の方法と基準】
課題ごとに採点し、全作品により評価する。
〈建築研究〉興味ある建築物の研究を行い、事前研究レポート、空間体験レポートの2部構成で提出する。
○事前研究レポート：まず図面や写真、建築家の記述などから周辺環境との関係や建築の空間分析を行う。
○空間体験レポート：実際にその建築空間を体験し、事前研究で行った分析との比較、体験したからこそ得られた空間の印象などの考察を記述する。どのような対象を取り上げるのか。建築家の思想、思考をどのように読み取とったのか。実空間体験によりどのような考察を行ったのか。自分自身の思考と言葉による分析などを評価する。
〈ウォッチャー〉週ごとに設定されるテーマに沿った1枚の写真を提出。テーマのとらえ方、写真の表現力、構図・構成力、新しい視点の提示など総合的に評価する。
〈光の箱〉一つの箱に対して、穴のあけ方、素材の選び方、使い方などから光をどのように取り込み、空間化したか。授業におけるエスキースの取り組みと、模型及び図面の表現力。プレゼンテーションパネルの構成力などにより総合的に評価する。
〈5m立法の空間〉自分の夢をどのように空間化できたか。模型による表現。図面や写真による平面構成、プレゼンテーションによって評価する。授業におけるエスキースの取り組み、および提出した課題作品により評価する。

（ただし、1つでも未提出課題がある場合は単位取得できない可能性があります）
総合点60点以上を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
授業時間における作業だけでなく、日常的にスケッチを書いたり、スタディ模型を作製したり、エスキースで指摘されたことをきちんと見直すなど、授業以外の時間をいかに使うか。課題の最終成果物へ向けた作業予定を立て、計画的に進めていくことが重要である。

【学生が準備すべき機器他】
製図用具：製図に必要な各種道具（各自）、模型用材・用具（各自）、カッターマット（各自）、平行定規（各スタジオ）。

【その他の重要事項】
初めての設計では、既成概念に縛られがちである。「夢」が図面作成や模型制作を元気づける。
現在も活躍している建築士が、自身の経験を活かし建築設計に関する実習を指導する。

【Outline (in English)】
[Outline]
In this course students will learn how to create models and drawings from planned designs for use in presentations in order to further their communication communication skills.
[Learning Objectives]
Students will learn how to create models and drawings from planned designs for use in presentations in order to further their communication skills.
Cultivate the ability to analyze and think about space.
Cultivate the ability to rethink everyday life and social activities.
To understand the characteristics of various structures.
Acquire skills to design while imagining the scene of action.
To understand the relationship with the surrounding environment and acquire techniques to make the most of the characteristics of the site
To develop "Design Studio 1" in AB.
[Architectural Research] After researching the architectural space and environment of their choice, students will visit the space, experience it, and summarize their findings in a report, thereby developing their ability to analyze and consider the space. (The report will consist of two parts: a preliminary research report and a report on the experience of the space.)
[Watcher: Students will develop the ability to gain a new perspective on everyday life by reexamining the scenery and things they see in the city through a certain theme and expressing it in a single photograph.
[Light Box] Through assignments on the theme of "light," the most basic and important element of architectural space, students will learn how to handle light in a space.
[Design of a 5m cubic space] Design a 5m cubic space. Here, students will think in three dimensions and draw them to understand the relationship between three-dimensional objects and drawings. In addition to understanding the drawings, students will also design their "dream for space" as a form. This is especially important as a step toward Design Studio 3 and 4.
[Learning activities outside of classroom]
Experiencing a good space is the best way to learn about architecture. It is desirable to develop the habit of actually visiting and experiencing excellent architectural spaces. And observing why a space is excellent is the first step to designing it.
The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
Grades will be given for each assignment, and all works will be evaluated.
The students are required to research architectural structures of interest and submit a two-part report: a preliminary research report and a report on their experience in the space.
Preliminary research report: First, students will analyze the architectural space and its relationship to the surrounding environment based on drawings, photographs, architects' descriptions, etc.
The report will include a comparison with the analysis conducted in the pre-research and a discussion of the impressions gained from the experience of the space.
What kind of subject will be taken up? How did you read and understand the architect's thoughts and ideas? What considerations did you make based on your experience of the actual space? How did you analyze the architect's ideas and thoughts through the experience of the actual space?
Watcher〉Submit a photograph in line with a theme set each week. Comprehensive evaluation will be made on how the theme is perceived, the expression of the photograph, composition and organization, and the presentation of a new point of view.
(1) "Box of Light": How did the photographer capture and spatialize light by making holes in a single box, selecting materials, and using them in different ways? (2) The student's work on his/her esquisse in class and his/her ability to express himself/herself in the model and drawings. Comprehensive evaluation will be made based on the students' skills in composing presentation panels and other factors.
How did you spatialize your dream? Expression by model. Evaluation will be based on the plan composition using drawings and photographs, and the presentation. Evaluation will be based on the work of the student's esquisse in class and the work submitted for the assignment.
(Assessment distribution: 15%architectural research, 5%watcher, 30% light box, 50%space of 5m cubic feet)
(However, students who have not submitted even one assignment may not receive credit.)

CST300NC（土木工学 / Civil engineering 300）

交通計画

今井　龍一

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
交通計画の役割とその領域，関連分野を認識しつつ，人・物の動きとその特性および各種交通手段の特性を把握する。また，それらの特性把握のためパーソントリップ調査等による交通需要予測を通じ，各種交通手段と交通施設の相互関係を把握（土地利用形態，密度と交通ネットワーク，交通結節施設）するとともに，交通施設の構造基準，交通流特性，交通容量等について解説し，交通網計画および交通管理計画の策定手法習得を目標とする。

【到達目標】
・交通の意義、交通の発展の歴史を理解する
・交通政策の変遷を理解する
・交通の性質、運用技術の基礎を理解する
・都市交通問題解決のための考え方を身につける
・交通量調査、交通実態調査および交通需要推計（段階推計法）を理解する

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	
（B）技術者倫理	
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	20%
（E）専門知識の活用・応用能力	60%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的な交通計画の概念を把握するとともに、ネットワーク計画や解析、簡単な交通需要予測計算が算定できるような能力を身につける。また、モビリティマネージメントなどの新たな交通計画の概念を理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	交通計画の概論	交通の定義、日本の道路交通政策の推移
2	交通調査（車両）	全般、交通・輸送調査
3	交通調査（PT）	パーソントリップ調査
4	自動車交通流（QKV）	交通量、速度、密度
5	自動車交通流（容量等）	交通容量、サービス水準
6	自動車交通流（渋滞）	渋滞
7	理解度の確認	第1回～第6回の総括
8	都市交通計画（政策）	計画策定方法、都市経営方法
9	都市交通計画（需要）	交通需要予測の役割と手法の種類
10	都市交通計画（推計法）	四段階推計手法
11	都市交通計画の評価	ITSの役割、サービス内容
12	高度道路交通システム	分布交通量・機関分担交通量の算定
13	将来の都市交通計画	最新の都市交通分野の動向
14	総括と理解度の確認	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
随時プリントをwebにより配付する。

【参考書】
・交通工学研究会：交通工学ハンドブック，丸善出版，2014年
・交通工学研究会：道路交通技術必携2013，丸善出版，2018年
・久保田尚，大口敬，高橋勝美：読んで学ぶ交通工学・交通計画，理工図書，2010年

【成績評価の方法と基準】
欠席4回以上の物には単位の取得を認めない（評価D）。期末試験の成績50％、レポート・授業時の課題発表50％。

【学生の意見等からの気づき】
基礎的な統計解析は習得しておくこと。
交通インフラは社会の要望および時機の政策に大きく影響される「社会工学」である。「工学」としての普遍的な基本を習得するとともに、発展する社会の発するサインに敏感になることにも意識すること。

【学生が準備すべき機器他】
貸与ノートパソコンを持参すること。

【その他の重要事項】
同分野での豊富な実務経験を有する教員が講義する。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。
オフィスアワー：水曜　12:20～13:00

【Outline (in English)】
This course allows students to learn the aims, roles, and formulation methods of transportation plans. For this purpose, students will understand motion characteristics of persons and objects, characteristics of different means of transportation, transportation demand forecasting using person trip surveys, structure standards of transportation facilities, characteristics of traffic flow, and traffic capacity.
Understand the significance of transportation and the history of transportation development
To understand the transition of transportation policy.
Understand the nature of transportation and the basics of operational technology
To understand the nature of transportation and the basics of its operation technology ・To learn how to solve urban transportation problems
To understand the traffic volume survey, actual traffic condition survey and traffic demand estimation (stepwise estimation method)
Understand the significance of transportation and the history of transportation development
To understand the transition of transportation policy.
Understand the nature of transportation and the basics of operational technology
To understand the nature of transportation and the basics of its operation technology ・To learn how to solve urban transportation problems
Term end examination : 60％, Short reports : 40%
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ADE300NC（建築学 / Architecture and building engineering 300）

建築設計基礎

瀬戸　健似、今井　裕久

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目は建築物等の建築工事を実施するために必要となる図面等の作成を行うことができるようにするため、建築物等の形態、建築材料及び構造等を決め、それを図面に表示する技術を講義及び演習を通して、修得することを目標とする。建築士を目指す学生は必ず受講すること。

【到達目標】
二級建築士試験に出題される木造建物の製図技術の獲得を目標に、最新の建築物等の動向や特徴を紹介しながら、建築物がどのように計画され、どのように図面化されていくのかを、実際の演習を通して学習する。また一部図面はＣＡＤでの図面化も行い、手書きの図面とCADによる図面の誇張と省略などについても理解を深める。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	
（B）技術者倫理	
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	20%
（E）専門知識の活用・応用能力	60%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
実際の建築士試験と同様に与えられた敷地条件や建築条件を満足する建築構造物の設計・製図を行い、中間発表、最終評価を通じて他の受講生の評価・講評を実施する。
毎回の講義を通じて設計・製図を実施することから、進捗に応じて時間外での作業が発生する可能性があるので、継続的・積極的に出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	イントロダクション 建築物等の現在 製図の準備・基礎	設計製図の目的、講義スケジュール、建築士の概要、建築士試験の概要 今日の建築物等の動向、特徴的・代表的な建築物の分類 用具の確認、用具の使い方、線の練習・その他ユニットの練習
2回	建築物等の形態 建築材料・構造・設備 木造建築物の製図基礎（1）	建築の形態、条件の把握、行為の分類、空間イメージ、スケール感 敷地条件・方位と建築、調査・法規・計画の事例紹介 建築材料と構造種別（木造、Ｓ造、ＳＲＣ造、ＲＣ造）、建築設備と役割 図面の表現（配置兼1階平面図と２階平面図）その１
3回	木造建築物の製図基礎（2）	図面の表現（配置兼1階平面図と２階平面図）その２
4回	建築構造物の設計（1） 木造建築物の製図基礎（3）	図面作成上のポイント（図面の構成と関係性） 課題設計スケジュールの作成、条件整理とエスキス 図面の表現（立面図、伏図、矩計図）
5回	建築構造物の設計（2）	設計コンセプト、エスキス（平面図） 現地調査とまとめ
6回	建築構造物の設計（3）	設計コンセプト、エスキス（平面図・断面図）
7回	建築構造物の設計（4）	設計コンセプト、エスキス（平面図・断面図・立面図）
8回	中間発表	エスキスの確認
9回	建築構造物の製図（1）	製図（配置図兼１階平面図、２階平面図）
10回	建築構造物の製図（2）	製図（断面図・立面図）
11回	建築構造物の製図（3）	製図（その他）
12回	CAD製図（1）	配置図兼1階平面図及びプレゼーテーションその１
13回	CAD製図（2）	配置図兼1階平面図及びプレゼーテーションその２
14回	最終講評	優秀作品の選出と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義において実施される演習は期限内に必ず仕上げて提出すること。特に、講義後半に実施する課題分による作図演習については、講義時間内でのエスキス作成ができない場合は、時間を確保し中間審査を経てから作図作業に入る必要がある。
またCAD製図についても同様に、手書きによる平面図作成が終了している必要がある。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
建築デザインの製図法から簡単な設計まで―建築設計演習基礎編,武者 英二他(著),彰国社

【参考書】
必要に応じて紹介します

【成績評価の方法と基準】
課題提出６０％、授業への参加４０％、欠席４回以上はD評価
演習が主体の授業であり、授業参加が単位取得の前提となります。授業時間内での課題提出は必須となります。

【学生の意見等からの気づき】
同時期に演習が重なることもあるため、課題の提出期限などは柔軟に対応し、総合的に評価を行うこととする。

【学生が準備すべき機器他】
Ａ２製図板以外の基本的な製図用具は各自で準備する必要がある。基本的には１年生の図学及演習で購入した製図用具セットで対応が可能である。初回講義で必要なものを提示するので各自で準備すること。

【その他の重要事項】
一級建築士の資格を有し、建築設計事務所にて木造住宅から公共施設等、様々な建築設計の経験を持つ教員が、実際の資格試験の概要、設計実務を踏まえた製図知識、実際の設計作業を通じたプレゼンテーション、CADを用いた図面によるプレゼンテーションなどを指導する。
オフィスアワー：授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】
【Course outline】 Students will learn skills for the drawing of building construction plans through lectures and exercises. Students will determine the type, structure and material of buildings, and learn how to indicate them in drawings. 【Learning Objectives】 Students aspiring to become architects should attend this class. 【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after every lecture. Your study time will be more than two hours for a lecture. 【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following Short reports or Exercise drawings: 60%、in class contribution: 40%(Grade D for 4 or more absences)

CST300NC（土木工学 / Civil engineering 300）

鋼構造デザイン実習

鈴木　泰之

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
鋼構造の設計方法について、実習を通して習得する。本実習では、まず、鋼構造設計の基礎を、講義ならびに演習を通して習得した後、これらの知識を活用して鋼構造のデザイン実習を行う。デザイン実習は、鋼歩道橋を対象として個別に与えられた設計条件に基づき、設計計算、作図および数量算出を行う。講義は、実際の橋梁設計の手順に沿って実習形式で進められる。これにより学生は、構造力学の基礎と鋼構造設計との関連について習得することができ、かつ、実社会で行われている「設計」という行為の手順やポイントを身に着けることができる。
また、同時期に開講される「橋のデザイン」との連携を図っている。「鋼構造デザイン」と「橋のデザイン」を合わせて受講するすることにより、橋のデザイナー・設計者として素養を効率よく習得することが可能となっている。

【到達目標】
鋼構造の主材料である鋼の性質や鋼構造の設計方法を演習問題を通して習得する。次にこれらの知識を活用して鋼歩道橋の設計計算を行い、その結果に基づき施工性を考慮した図面を作成することにより、鋼橋の設計計算法や図面の読み方を取得する。
この講義の受講後、学生は「設計という行為がどのようなものであるか」について、および、「１、２年次で学んだ構造力学が、実務の鋼構造設計において、どのように使われているのか」について、理解することを目標とする。さらに、鋼橋の設計をひととおり手順を追って学習していることから、学生が実社会においても抵抗なく鋼橋の設計に対応できる能力を身に着けていることを到達目標とする。各講義で出題される演習問題の提出、設計計算書、設計図面、数量計算書を提出することにより、単位が与えられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」、「DP4」、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
与えられた課題に対して各々が問題に対する解答の作成、与えられた設計条件に対する設計計算書の作成、製図、数量の算出を行う。製図は手書き・CADいずれでもよい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	鋼構造概論	鋼構造の特徴について、鋼橋を例に取り説明する。 鋼橋の構成要素と要素の役割および鋼橋設計に必要な基本事項について説明する。
2	鋼構造演習（構造力学の設計への応用　荷重）	既習得の構造力学の知識の鋼構造設計への応用について、演習を通して学習する。荷重と荷重強度に関する演習課題を行う。代表的な構造部材である梁とトラス部材について学習する。
3	鋼構造演習（構造力学の設計への応用　荷重強度（梁・トラス部材））	既習得の構造力学の知識の鋼構造設計への応用について、演習を通して学習する。荷重と荷重強度に関する演習課題を行う。代表的な構造部材である梁とトラス部材について学習する。
4	鋼構造演習（作用・断面力の算出（梁・トラス部材）	既習得の構造力学の知識の鋼構造設計への応用について、演習を通して学習する。作用（断面力）の算出に関する演習課題を行う。代表的な構造部材である梁とトラス部材について学習する。
5	鋼構造演習（断面諸元・抵抗（梁・トラス部材）	既習得の構造力学の知識の鋼構造設計への応用について、演習を通して学習する。断面諸元および抵抗の算出に関する演習を行う。代表的な構造部材である梁とトラス部材について学習する。
6	鋼構造演習（添接・補剛設計（梁・トラス部材））	既習得の構造力学の知識の鋼構造設計への応用について、演習を通して学習する。添接の考え方、部材の補剛方法、補剛材の設計方法について演習を行う。代表的な構造部材である梁とトラス部材について学習する。
7	鋼橋設計計算書の作成（設計条件・荷重・荷重強度）	鋼単純桁（歩道橋他）を例に取り、設計計算書を作成する。この実習では、荷重・荷重強度を取り纏める
8	鋼橋設計計算書の作成（断面力・断面決定・添接）	鋼単純桁（歩道橋他）を例に取り、設計計算書を作成する。この実習では、断面力算出・断面計算・添接計算を扱う
9	鋼橋設計計算書の作成（補剛設計・横桁・支点上補剛材）	鋼単純桁（歩道橋他）を例に取り、設計計算書を作成する。この実習では、補剛設計・横桁・支点上補剛材を扱う。
10	鋼橋の製図（構造一般図）	設計計算書を基にした製作図面の作成方法の説明を行う。設計計算書が完成した学生は教員による確認を受けた後、製図作業に着手する。製図は手書き・ＣＡＤいずれでも可とする。この実習では、構造一般図の作図を行う。
11	鋼橋の製図（主桁）	作成された設計計算結果を基に、鋼歩道橋の製作図面を作成する。製図は手書き・ＣＡＤいずれでも可とする。この実習では、主桁の作図を行う
12	鋼橋の製図（構造詳細図）	作成された設計計算結果を基に、鋼歩道橋の製作図面を作成する。製図は手書き・ＣＡＤいずれでも可とする。この実習では、構造詳細図の作図を行う。
13	材料の算出	作成された製作図面を基に、鋼橋製作に必要な材料を算出する。 算出結果は、数量計算書として取りまとめる。
14	成果品（設計計算補・図面・数量計算書）の提出・講評	成果品（設計計算書・図面・数量計算書）の講評を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１～６　　構造力学の復習
７～１３　進捗が遅い学生は、授業時間外で成果の作成進捗を補うこと。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布

【参考書】
道路橋示方書・同解説　（公）日本道路協会　平成29年11月
合成桁の設計例と解説　（一）日本橋梁建設協会　平成30年2月
大倉一郎：鋼構造設計学の基礎、（株）東洋書籍
中井・北田・山口・事口・平城：例題で学ぶ橋梁工学、共立出版（株）
田島富男、徳山昭：絵とき鋼構造の設計、（株）オーム社
中井博、北田俊行：新編　橋梁工学、共立出版(株)

【成績評価の方法と基準】

演習問題の提出および採点結果	４０点
鋼歩道橋他の設計計算	４０点
鋼歩道橋他の製図	１５点
鋼歩道橋他の数量計算	５点

【学生の意見等からの気づき】
教える側が「当然理解しているであろう、あるいは、理解したであろう」と考えている事項を質問にくる学生が多い。教える側にとって、当然であることも、実は、学生にとって、理解されていないことが多いことに、改めて気づく。懇切丁寧に分かり易い説明に心がける。また、学生の理解を深めるために、基礎演習に力を入れる。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン、定規

【その他の重要事項】
同分野での実務経験を有する教員が担当する。担当教員は、橋梁設計の経験が豊富であり、実務経験から得られた知見を交えて教育を行うことが可能である。
製図は、ＣＡＤ・手書き、何れも可とする。
授業終了後に教室で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
Learn how to design steel structures through practical training. In this training, the basis of steel structure design will be studied through lectures and exercises, after which students will perform designs of practical steel structures utilizing this knowledge. In the design training, design calculation, drawing and quantity calculation for steel pedestrian bridges are carried out based on individually assigned design conditions.

CST300NC（土木工学 / Civil engineering 300）

工学実験２

酒井　久和、鈴木　善晴、原田　大輔、鈴木　弘明、池田　勇司

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境システム系の実験（水圏環境実験および土質環境実験）を実施して計測技術を習得する．実験データを的確に図表化・分析し，実験値と理論値との整合性や違いの原因を考察する．以上の実験結果を反映したレポートをわかりやすく作成することにより，これまでの学習内容を実証的に理解するとともに実験で得た新たな発見を通して水圏・土質環境に発現する実現象への理解を深めることを目的とする．

【到達目標】

実験の目的と方法を正しく理解した上で，グループのメンバーと協力しながら自ら実験作業に従事して業務遂行能力の向上を図る（G, I），実験結果をレポートとしてわかりやすく明快にまとめる力を養うとともに，これまでに習得した専門知識と関連づけながら実験結果を適切に考察できるように応用力や科学的思考力を身につける（E, H），などが本授業の主な学習到達目標である．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	
（B）技術者倫理	
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	40%
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	30%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」
に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は，水圏環境実験および土質環境実験の２つからなる．いずれにおいても自ら実験に参加して，実験データを取得して分析・整理し，実験結果に対する深い考察を反映したレポートを作成・提出することが不可欠である．

水圏環境実験では，水理現象の観察・測定，実験と理論との比較・検証を通して，水理特性を理解することを目的とする．また，土質環境実験では，ふるい分けなどの実験を通して土と接することにより，その物理的・力学的性質を体感し土質特性を理解すること，および水質に関する浄化・分析の手法を理解することを目的とする．

各実験はいずれもグループに分かれて実施するが，水圏環境実験は，グループによって実験AとBの実施日が異なる．また，土質環境実験は，午前と午後で実験AとBのグループを入れ替えて実施する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	実験概要・実験方法およびレポートの作成・提出方法の説明
②	水圏環境実験A-1	変水位透水試験に関する講義および演習：ダルシーの法則，変水位透水試験と定水位透水試験の理論
③	水圏環境実験B-1	浮体の安定実験に関する講義および演習：静水圧解析の復習，アルキメデスの原理，浮体の重心・浮心，浮体の安定条件の基礎理論
④	水圏環境実験A-2	変水位透水試験の実施：土壌試料三種類を鉛直カラムに充填して水位低下量を計測，変水位透水試験の理論式より飽和透水係数を算出
⑤	水圏環境実験A-3	変水位透水試験に関するデータ整理とレポート作成
⑥	水圏環境実験B-2	浮体の安定実験の実施：浮体模型の重量・重心・断面２次モーメントを変化させながら浮体の安定性を観察・考察，アルキメデスの原理の確認
⑦	水圏環境実験B-3	浮体の安定実験に関するデータ整理とレポート作成
⑧	土質環境実験A-1	土の含水比試験と粒度分析の実施：湿潤状態と乾燥状態の土の質量から含水比を算出し，ふるい分け試験により土の粒度分布を把握
⑨	土質環境実験A-2	一軸圧縮試験の実施：土の円柱供試体に対して鉛直力のみを載荷し，ひずみと荷重との関係から土の一軸圧縮強度，変形係数，鋭敏比等を算出
⑩	土質環境実験B-1	排水の浄化実験の実施：簡易廃液処理装置を用いた，六価クロムを含む原水の水処理
⑪	土質環境実験A-3	土の最大密度・最小密度試験の実施：乾燥砂に対して最も密な状態としての最大密度と最も疎な状態の最小密度を測定し，土の相対密度を算出
⑫	土質環境実験B-2	原水・浄化水や環境水等の水質分析の実施：簡易水質分析キットや分光光度計を用いた水素イオン濃度指数，電気伝導率，化学的酸素要求量，六価クロム等の測定
⑬	土質環境実験A-5	地盤環境実験Aに関する質疑応答，レポート作成
⑭	土質環境実験B-3	水質分析に関するデータ解析，解析結果の口頭発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験データの取りまとめやレポートの作成に取り組み，指定された期限までにレポートを提出する．原則として期限後のレポート提出は認めない．本授業の準備学習・復習時間は合わせて１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業の際にプリントを配付する．

【参考書】

必要に応じて授業の際に参考文献を紹介する．

【成績評価の方法と基準】

水圏環境実験および土質環境実験をそれぞれ50点満点，合計100点満点とし，各実験に対する取り組み状況，提出されたレポートの内容等により評価を行う．60点以上を合格とする．ただし，提出すべきレポートのいずれか1件でも未提出の場合（あるいは0点の場合）には不合格とする．また，全28コマの講義のうち欠席回数が6コマを超えた場合にも不合格（評価D）とする．

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

実験結果の取りまとめやレポートの作成を行う際に「貸与ノートPC」を使用することがあるので，教員からの指示があった場合は忘れずに持参すること．また，実験データの整理等を行う際に「関数電卓」が必要となる場合があるので各自で持参すること．

【その他の重要事項】

○建設コンサルタントや土質試験所において水質試験・土質試験を行った経験を有する兼任教員が本授業における指導を行う．
○兼任教員のオフィスアワー：授業終了後に対面で，あるいはメールなどで随時質問を受けつける（専任教員についてはその他に履修の手引きを参照のこと）．

【Outline (in English)】

(Course outline)

The objective of this course is to learn measurement techniques that are necessary in hydrospheric- and geo-environmental engineering. By graphically displaying and analyzing experimental data based on theoretical background, students will understand theories and mechanisms involved in the phenomena. The results should be briefly and properly reported in a paper so that students enrich their understanding of environmental systems in the hydrosphere and geosphere.

（Learning Objectives）

Having a correct understanding of the purpose and methods of experiments, students extend and develop their ability to work on experiments in cooperation with group members (Goals G and I). Students also develop the ability to apply scientific thinking and knowledge in properly summarizing the experimental results in reports by appropriately relating the results to specialized knowledge that they have acquired so far (Goals E and H).

（Learning activities outside of classroom）

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

（Grading Criteria /Policy）

Grading will be decided based on the students' performance of experiments and the quality of students' reports in hydrospheric field (50%) and geo-environmental field (50%).

CST300NC（土木工学 / Civil engineering 300）

メンテナンス工学

溝渕　利明、臼井　則生

開講時期：**秋学期前半/Fall(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
重要な社会資本である構造物（鋼構造、コンクリート構造）を適切に維持管理して長期間安全に使用するための方策・技術についての基礎知識を身につける。

【到達目標】
コンクリート構造物および鋼構造物の維持管理方法に関する基礎知識を身につけることを本授業の到達目標とする。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力
（E）専門知識の活用・応用能力　80%
（F）総合デザイン能力　20%
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
21世紀の建設業界は，新設の時代から維持管理の時代へと移行していくこととなる。特に高度成長期に整備された社会資本は建設後50年近く経過しており，その多くが老朽化してきており，早急に調査・点検を行っていく必要がある。
本講義では，社会資本の一つであるコンクリート構造物及び鋼構造物を中心に発注者，コンサルタント，メーカの各立場から維持管理の基本的な考え方，手法などについて概説していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	メンテナンスとは何か 維持管理の原則とメンテナンスの重要性について理解する	維持管理の原則とメンテナンスの重要性について概説
2	高速道路のコンクリート橋における維持管理 （我が国の高速道路のコンクリート橋についての変遷を学びながら維持管理を理解する）	国内のインフラ維持管理の現状を踏まえた道路橋の施策やNEXCOの高速道路の老朽化の現状と課題について解説を行いながら、橋梁保全技術を紹介する。
3	高速道路橋のコンクリート床版の維持管理と長寿命化技術について （道路橋コンクリート床版としての技術変遷を学び、その重要性と長寿命化技術について理解する）	コンクリート床版の技術変遷や劣化の特徴を述べ、コンクリート床版の維持管理のPDCAサイクルの課題や、コンクリート床版に対する長寿命化技術を紹介する。
4	コンサルタントとしてのインフラメンテナンス	建設プロセスにおけるコンサルタントの役割とコンサルタントが関わる国内インフラメンテナンス業務について紹介
5	海外におけるインフラメンテナンスプロジェクト	途上国におけるインフラメンテナンスの課題と海外でのインフラメンテナンス技術支援プロジェクトについて紹介
6	電磁波レーダ法の概要について	NDISで規定されている電磁波レーダ法の概要と、この方法がどのような場合に使われるのか、何が分かるかについて解説を行う
7	電磁波とレーダー法の原理	電磁波の原理とレーダー法の原理を解説し、なぜ、このような事が分かるかを論理的に解説する。実際に測定したデータを用いての測定法を学ぶ。
8	鋼構造物の特徴とメンテナンス メンテナンスを行う上での鋼構造物の特徴とメンテナンスの基本的な考え方を理解する.	鋼構造物の特徴とメンテナンスの基本
9	鋼構造物の疲労損傷と対策技術 鋼道路橋に発生する疲労のメカニズムと対策技術を理解する.	疲労の要因とメカニズム 疲労損傷の事例と対策 疲労部材の評価
10	鋼構造物の腐食損傷と対策技術 鋼構造物に発生する腐食のメカニズムと対策技術を理解する.	腐食の要因とメカニズム 腐食損傷の事例と対策 腐食部材の評価
11	鋼構造物の点検と診断技術 鋼構造物の点検・調査方法と診断技術を理解する.	点検と診断の目的と実際 健全度評価，劣化予測手法
12	鋼構造物の補修・補強技術 鋼構造物の補修・補強の考え方および補修・補強技術を理解する.	補修・補強方法の基本的な考え方 補修・補強技術 補修・補強の実例
13	鋼構造物のメンテナンスマネジメント 鋼構造物メンテナンスマネジメント手法を理解する.	マネジメント導入の背景・効果・課題 マネジメントの事例，予防保全・事後保全とライフサイクルコストの関係
14	過去から学ぶメンテナンス技術 鋼構造物に関する過去の重大事故からメンテナンスの重要性とメンテナンスエンジニアのあり方について学ぶ.	過去の重大事故におけるメンテナンス上の問題 これからのメンテナンスエンジニア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容の復習
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて講義資料を配信する

【参考書】
社会基盤メインテナンス工学；東京大学出版会
コンクリート標準示方書(維持管理編)；土木学会
必要に応じて講義中に配付する.
コンクリート崩壊：PHP新書
よくわかるコンクリート構造物のメンテナンス：日刊工業新聞社
朽ちるインフラ：日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】
レポートによる。指定した回数以上の欠席者については期末試験の受験資格がないものとする。
レポート課題100％

【学生の意見等からの気づき】
なし

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
高速道路会社で長くメンテナンス部門に勤務した教員が、鋼構造物のメンテナンスについて指導する。
コンクリート構造物についても，発注者（40年以上高速道路会社に勤務），コンサルタント（維持管理関係の部門に20年以上担当），メーカ（非破壊検査機器を販売している会社）の教員が担当いたします。
オフィスアワー：講義の前後で実施します。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to acquire basic knowledge on measures and techniques for long-term safe use of structures (steel, concrete structures) and their appropriate maintenance and management vital for social capital.
Learning Objectives
The goal of this class is to acquire basic knowledge about bridge maintenance methods.

Learning activities outside of classroom
Review of lecture content
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy
Report assignment 100%

ADE100NB（建築学 / Architecture and building engineering 100）

デザインスタジオ２（建築）Z

塩田　能也

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分が構想する空間を模型やドローイングを通してプレゼンテーションし、人に伝える方法を学びます。

【到達目標】
・模型などを用いて立体と平面を行き来しながらデザインする
・空間に対する分析力・考察力を養う
・日常や社会活動を捉え直す視点を養う
・各種構造の特性を理解する
・行動場面をイメージしながら設計する技術を身につける
・周辺環境との関係を理解し，敷地の特徴を活かす技術を身につける
●AB期の「デザインスタジオ1」を発展させる。
[建築研究]自分が選んだ建築空間や環境を調べた後、実際に空間を訪れ体験し、レポートにまとめることで空間の分析力、考察力を養う。（事前研究レポートと、空間体験レポートの2部構成での提出とする）
[ウォッチャー]普段目にしている風景や街中にある事物を、あるテーマを通してとらえなおし1枚の写真に表現することで、日常に対する新たな視点を持つ力を養う。
[光の箱]建築空間にとって最も基本的であると同時に重要な要素である『光』をテーマにした課題を通して、空間に於ける光の扱い方を習得する。
[一辺5m立方の空間の設計]一辺5mキューブの空間を設計する。ここでは、三次元で考え、それを図面化することによって立体と図面との関係を理解する。また図面の理解のみでなく、「空間への夢」を形態としてデザインする。デザインスタジオ3、4へのステップとして特に重要である。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎			◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
目標を達成するために、まず建物研究を行う。どのような建物や環境に興味をもったのか、そしてその建物を研究したあと、実際に空間を体験することで、図面や写真の分析から読み取れることと、体験しなければわからないことを考察する。また、この研究では、建築作品が気候・風土、風俗・習慣、技術、経済性など、多くの条件の結果として優れた空間がつくりだされていることを学ぶ。そして、『ウォッチャー』では、一つのテーマに沿った写真を撮り提出する。全員の写真を並べてみることで同じテーマでも多様な視点があることを学ぶ。
建築を取り巻く背景に触れた後に、初学年ではじめて設計を行う。夢をかたちにするとはどのようなことか。建築空間を考えるとはどのようなことか。そして、建築を構成する材料とはどのようなものか。条件に従ったうえでの個性とは。そして美とは何か。などさまざまな問いかけを、手を動かしてスケッチし、模型を作り、エスキースを繰り替えすことから形を見出し、空間を作り出し、表現する方法を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・建築研究 『光の箱』 『ウォッチャー』の説明	○魅了される建築を研究と見学の両方を通して体験しレポートにまとめる。 ○課題の説明。
2	建築研究　発表 『光の箱』 『ウォッチャー』	○建築研究レポート 発表 ○光の箱　エスキース1 開口と光の関係を探る ○ウォッチャー　発表と講評
3	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱　エスキース2 壁や開口部の素材、反射による光の効果を探る。 ○ウォッチャー　発表と講評
4	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱　エスキース3 さまざまなスタディによってどんな光の状態ができるのかを把握する。 ○ウォッチャー　発表と講評
5	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱　エスキース4 写真やドローイングも含めたプレゼンテーションの方法を学ぶ。 ○ウォッチャー　発表と講評
6	『光の箱』 ●講評会 『ウォッチャー』	○光の箱　プレゼンテーション：作品のコンセプト、図面、模型を提出し、講評会を行う。 ○ウォッチャー　発表と講評 ○『5m立法の空間』 ガイダンス：一辺5m立方の空間のなかに自分のための空間（自室）を設計する。他者を招くことも条件とする
7	『5m立法の空間』	○自分自身が人を招く空間としてどのような空間を作りたいかをイメージする。 ○5m立法の空間の大きさを把握する。
8	『5m立法の空間』	○模型やスケッチをつくることで具体的な空間を思考する。平面図に空間を落とし込む。
9	『5m立法の空間』	○平面図と模型を提出。クラス別に中間講評会を行う。
10	『5m立法の空間』	○中間講評で指摘された事柄を反映しスタディを深める。
11	『5m立法の空間』	○敷地や家具類を含めた模型を製作する。
12	『5m立法の空間』	○最終プレゼンテーション用の図面と模型の製作を行う。
13	『5m立法の空間』 ●スタジオ講評会	○模型の撮影法、プレゼンテーション（人に意図を伝える）方法について学ぶ。 ◇プレゼンテーションパネルは模型写真・説明図・一般図面等を含んで構成する。 プレゼンテーション：作品のコンセプト・図面を提示、 ●発表および講評会を各スタジオで行う。
14	『5m立法の空間』 ●合同講評会	全スタジオ合同講評会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
良い空間を体験することは、建築学習にとって何よりも学ぶことが多い。実際に足を運び、優れた建築空間を体験する習慣をつけることが望ましい。そして、その空間がなぜ優れているのかを観察することが設計への第一歩となる。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『空間練習帳』小嶋一浩, 小池ひろの, 高安重一, 伊藤香織（建築文化シナジー）

【参考書】
『住まいの空間　独立住居』武者英二・宮宇地一彦・永瀬克己著、日本建築学会編（彰国社）
『建築設計演習基礎編』武者英二・永瀬克己著（彰国社）
『建築のしくみ』安藤直見・柴田晃宏・比護結子著（丸善）

【成績評価の方法と基準】
課題ごとに採点し、全作品により評価する。
〈建築研究〉興味ある建築物の研究を行い、事前研究レポート、空間体験レポートの2部構成で提出する。
○事前研究レポート：まず図面や写真、建築家の記述などから周辺環境との関係や建築の空間分析を行う。
○空間体験レポート：実際にその建築空間を体験し、事前研究で行った分析との比較、体験したからこそ得られた空間の印象などの考察を記述する。どのような対象を取り上げるのか。建築家の思想、思考をどのように読み取とったのか。実空間体験によりどのような考察を行ったのか。自分自身の思考と言葉による分析などを評価する。
〈ウォッチャー〉週ごとに設定されるテーマに沿った1枚の写真を提出。テーマのとらえ方、写真の表現力、構図・構成力、新しい視点の提示など総合的に評価する。
〈光の箱〉一つの箱に対して、穴のあけ方、素材の選び方、使い方などから光をどのように取り込み、空間化したか。授業におけるエスキースの取り組みと、模型及び図面の表現力。プレゼンテーションパネルの構成力などにより総合的に評価する。
〈5m立法の空間〉自分の夢をどのように空間化できたか。模型による表現。図面や写真による平面構成、プレゼンテーションによって評価する。授業におけるエスキースの取り組み、および提出した課題作品により評価する。

（評価配分：建築研究15％、ウォッチャー5%、光の箱30%、5m立法の空間50%）
（ただし、1つでも未提出課題がある場合は単位取得できない可能性があります）

【学生の意見等からの気づき】
授業時間における作業だけでなく、日常的にスケッチを書いたり、スタディ模型を作製したり、エスキースで指摘されたことをきちんと見直すなど、授業以外の時間をいかに使うか。課題の最終成果物へ向けた作業予定を立て、計画的に進めていくことが重要である。

【学生が準備すべき機器他】
製図用具：製図に必要な各種道具（各自）、模型用材・用具（各自）、カッターマット（各自）、平行定規（各スタジオ）。

【その他の重要事項】
初めての設計では、既成概念に縛られがちである。「夢」が図面作成や模型制作を元気づける。
現在も活躍している建築士が、自身の経験を活かし建築設計に関する実習を指導する。

【Outline (in English)】
[Outline]
In this course students will learn how to create models and drawings from planned designs for use in presentations in order to further their communication communication skills.
[Learning Objectives]
Students will learn how to create models and drawings from planned designs for use in presentations in order to further their communication skills.
Cultivate the ability to analyze and think about space.
Cultivate the ability to rethink everyday life and social activities.
To understand the characteristics of various structures.
Acquire skills to design while imagining the scene of action.
To understand the relationship with the surrounding environment and acquire techniques to make the most of the characteristics of the site
To develop "Design Studio 1" in AB.
[Architectural Research] After researching the architectural space and environment of their choice, students will visit the space, experience it, and summarize their findings in a report, thereby developing their ability to analyze and consider the space. (The report will consist of two parts: a preliminary research report and a report on the experience of the space.)
[Watcher: Students will develop the ability to gain a new perspective on everyday life by reexamining the scenery and things they see in the city through a certain theme and expressing it in a single photograph.
[Light Box] Through assignments on the theme of "light," the most basic and important element of architectural space, students will learn how to handle light in a space.
[Design of a 5m cubic space] Design a 5m cubic space. Here, students will think in three dimensions and draw them to understand the relationship between three-dimensional objects and drawings. In addition to understanding the drawings, students will also design their "dream for space" as a form. This is especially important as a step toward Design Studio 3 and 4.
[Learning activities outside of classroom]
Experiencing a good space is the best way to learn about architecture. It is desirable to develop the habit of actually visiting and experiencing excellent architectural spaces. And observing why a space is excellent is the first step to designing it.
The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
Grades will be given for each assignment, and all works will be evaluated.
The students are required to research architectural structures of interest and submit a two-part report: a preliminary research report and a report on their experience in the space.
Preliminary research report: First, students will analyze the architectural space and its relationship to the surrounding environment based on drawings, photographs, architects' descriptions, etc.
The report will include a comparison with the analysis conducted in the pre-research and a discussion of the impressions gained from the experience of the space.
What kind of subject will be taken up? How did you read and understand the architect's thoughts and ideas? What considerations did you make based on your experience of the actual space? How did you analyze the architect's ideas and thoughts through the experience of the actual space?
Watcher〉 Submit a photograph in line with a theme set each week. Comprehensive evaluation will be made on how the theme is perceived, the expression of the photograph, composition and organization, and the presentation of a new point of view.
(1) "Box of Light": How did the photographer capture and spatialize light by making holes in a single box, selecting materials, and using them in different ways? (2) The student's work on his/her esquisse in class and his/her ability to express himself/herself in the model and drawings. Comprehensive evaluation will be made based on the students' skills in composing presentation panels and other factors.
How did you spatialize your dream? Expression by model. Evaluation will be based on the plan composition using drawings and photographs, and the presentation. Evaluation will be based on the work of the student's esquisse in class and the work submitted for the assignment.
(Assessment distribution: 15%architectural research, 5%watcher, 30% light box, 50%space of 5m cubic feet)
(However, students who have not submitted even one assignment may not receive credit.)

DES300ND（デザイン学 / Design science 300）

プロダクトデザイン理論

安積　伸

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、プロダクトデザイン（以下PD）の創造性にとって重点な基礎知識・理論を学ぶ。
人間の創造行為としてのPDの歴史認識、社会的意義、デザインと機能の関係、PDと人間工学、PDに多く使用される素材と製造技術などを学習し、デザインと工学の関連性を理解する。

【到達目標】
インダストリアルデザインの近代～今日までの文化的文脈を理解する。
プロダクトデザイン開発プロセス概要の理解。PD企画の理解。PDの形状・造形の理解。PDと素材、素材表面処理の理解。PDの量産、小ロット生産技術概要の理解を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
AB期１４回（金曜日5限）
講義ノートを必ずとる事。
プロダクトデザインと基礎技術：
PD設計に必要な製品製造工法、素材、素材表面処理技術に関して学ぶ事が出来ます。
プロダクトデザインの基礎歴史的文脈：
現代のプロダクデザインが成立するまでの様々な取り組み事例や思想、近代デザインの歴史的文脈を学ぶことが出来ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス プロダクトデザインの原点 プロダクトデザインの対象	デザインの黎明から現在までを俯瞰し、プロダクトデザインという概念について紹介する。
2	プロダクトデザインの目的	事例を通してプロダクトデザイン目的、価値を考察する。
3	Thonet と 大量生産のデザイン	Thonet の開発した大量生産技術により開かれた、デザインの可能性について解説する。
4	W.Morris　と アーツアンドクラフツ運動	アーツアンドクラフツ運動の背景・思想・作品をW.Morris の生涯と共に紹介する。
5	モダンデザインへの展開	モダニズムへの過渡期に興った様々な思想と取り組みを紹介する。
6	ドイツ工作連盟	ドイツ工作連盟の思想・取り組み・後年への影響などを取り上げる。
7	バウハウス	バウハウスによって確立され、世界に多大な影響を及ぼしたデザインと思想について紹介する。
8	アメリカデザインの黎明	米国から生まれたデザインの思想と事例を紹介する。
9	縄文時代のものづくり	縄文時代のものづくり、加工法などを紹介する
10	民芸運動	民芸運動を近代日本のプロダクトデザインの潮流のひとつと捉え、紹介する
11	現代におけるプロダクトデザイン事例　①	現在進行形で現在進められているプロダクトデザインについて紹介する。
12	家具デザインと工法	家具デザインを通し、様々な工業生産技術を紹介する。
13	現代の展開と課題	プロダクトデザインにおける現在の取り組みと課題について紹介する。
14	現代におけるプロダクトデザイン事例　②	現在進行形で現在進められているプロダクトデザインについて紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義ノートを取り、内容について復習する
2週に1回、課題レポートの提出を求める
課題に要する時間は2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義進捗に合わせ適宜授業参考資料を配布する。

【参考書】
「もの」はどのようにつくられているのか？、Chris Lefteri 著、オライリージャパン
心を動かすデザインの秘密、荷方邦夫著、実務教育出版
プロダクトデザイン 101のアイデア、スン・ジャン　マシュー・フレデリック著、フィルムアート社
世界デザイン史、安倍公正監修、美術出版社
他

【成績評価の方法と基準】
講義全体で4回以上の欠席および連続3回欠席の受講生は成績評価対象外となります。
遅刻は2回で1回の欠席扱いとなります。欠席一回につき－4点、遅刻-2点（ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。）
評価：　出席（40%）レポート課題（60%)

【学生の意見等からの気づき】
説明をよりゆっくりと進める

【その他の重要事項】
英国、日本でプロダクトデザイン実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の文化的文脈基礎知識及び製造の基本技術を講義する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, students will learn the basic theory behind fundamental requirements in Product Design and creativity.
【Learning Objectives】
The aims of this course are the following:
- Understanding the cultural context of industrial design from modern times to today.
- Understanding the overview of the product design development process.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be required to submit an assignment report every two weeks. The standard time required for the homework is approximately two hours.
【Grading Criteria /Policy】
Grading Evaluation: Attendance (40%), Report assignment (60%)

DES200ND（デザイン学 / Design science 200）

プロダクトデザイン１（２０１９～２０２２年度入学生用）

安積　伸、秋山　かおり、林　登志也

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈実〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
演習を通してプロダクトデザインの基礎となる考え方を学び、新鮮な視点をもった企画の提案力、オリジナリティの高いデザインの創造力を養う。
クリエイティブ・プロセスにおける試作と検証の重要性を学び、実践方法・技術を習得する。

【到達目標】
ものづくり、デザインに関わる基礎的かつ根本的な実践力、創造力を身につけることを目標とする。
社会・文化のあらゆる側面に目を向け、理解し、真に快適なデザインとは何かを考察しながら、独創性の高いデザインを追求する方法を学ぶ。
造形・色彩・機能・人間工学・認知心理、といったプロダクトデザインに必要な要素を実習を通して理解する。
観察・実験・データ収集・分析、といった方法を通し、社会的視点をもったデザインの提案方法を学ぶ。
様々な素材・加工法での試作実験・検証を通し、根源的レベルからのデザイン提案力、開発力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は対面形式の実習です。
「プロダクトデザイン１」の履修者は必ず「プロダクトデザイン２」も履修しなければなりません。どちらか片方だけの履修はできません。
「プロダクトデザイン１、２」の授業では、３～４人からなるグループワークと、個人制作の両方を行い、大きく５つの課題に取り組みます。それぞれに課題説明、初期案発表、開発中間報告、チュートリアル、最終発表、というステージで行います。
また本授業では特に、アイデアを試作し、検証・発展させるプロセスが重視されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1週	ガイダンス 色彩と木工①	全プロセスの俯瞰と把握　課題説明
2週	色彩と木工② 蝋燭と鋳造と香り①	最終発表 課題説明
3週	蝋燭と鋳造と香り② 金属とアップサイクリング①	最終発表 課題説明
4週	金属とアップサイクリング② メッシュを用いたデザイン①	最終発表 課題説明
5週	メッシュを用いたデザイン② 食とデザインとブランディング①	最終発表 課題説明
6週	食とデザインとブランディング②	ワークショップ チュートリアル
7週	食とデザインとブランディング① 無意識の行動①	最終発表 課題説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題制作は宿題として授業時間外で行います。
各課題の最終プレゼンテーション以外にも、毎回授業のはじめに進捗状況をまとめた発表をします。
本授業の準備(制作)時間は、約３時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示。

【参考書】
「誰のためのデザイン？」増補・改訂版　D. A. ノーマン (著)　新曜社
「考えなしの行動?」ジェーン・フルトン・スーリ (著)　太田出版
「心を動かすデザインの秘密」荷方 邦夫 (著)　実務教育出版
「プロダクトデザイン 101のアイデア」　スン・ジャン 他(著)　フィルムアート社

【成績評価の方法と基準】
授業回数の1/3　(5コマ) 欠席および連続3日欠席の受講生は成績評価対象外となります。15分以上の遅刻は2回で1回の欠席扱いとなります。(ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。)
制作成果（70%）提出書類（15%）出席（15%）
総合点が９０点以上をＳとし、
89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-
79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-
69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-
60点未満をDとする。
積極的な授業参加と授業態度も評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
各課題の狙い、各プロセスで重要視する事柄を理解しやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】
PC　必要なソフトウェアー（プレゼンテーション・CAD・グラフィック 等）を習熟しておいてください。

【その他の重要事項】
欧州・日本でプロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。
履修生には、日常を細かく観察し、問題点、改善可能な点などを常に考察することを期待する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Students learn the basic concepts of product design through exercises and develop the ability to propose fresh ideas and create original designs.
Students learn the importance of prototyping and verification in the creative process and acquire practical methods and techniques.
【Learning Objectives】
The aim is to acquire basic practical and creative skills in manufacturing and design.
Students learn how to pursue highly original design by looking at and understanding all aspects of society and culture and considering what truly comfortable design is.
Students gain an understanding of the elements necessary for product design, such as form, color, function, ergonomics, and cognitive psychology, through practical training.
Learn how to propose designs from a social perspective through methods such as observation, experimentation, data collection, and analysis.
Cultivate the ability to propose and develop designs from a fundamental level through experiments and verification of prototypes using various materials and processing methods.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to develop their work as homework outside of class time.
The standard preparation time for this class is approximately 3 hours, however it is depended on the commitment.
【Grading Criteria /Policy】
Presented Work (70%), Documents submitted (15%), attendance (15%)

DES200ND（デザイン学 / Design science 200）

プロダクトデザイン２（２０１９～２０２２年度入学生用）

安積　伸、秋山　かおり、林　登志也

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈実〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
演習を通してプロダクトデザインの基礎となる考え方を学び、新鮮な視点をもった企画の提案力、オリジナリティの高いデザインの創造力を養う。
クリエイティブ・プロセスにおける試作と検証の重要性を学び、実践方法・技術を習得する。

【到達目標】
ものづくり、デザインに関わる基礎的かつ根本的な実践力、創造力を身につけることを目標とする。
社会・文化のあらゆる側面に目を向け、理解し、真に快適なデザインとは何かを考察しながら、独創性の高いデザインを追求する方法を学ぶ。
造形・色彩・機能・人間工学・認知心理、といったプロダクトデザインに必要な要素を実習を通して理解する。
観察・実験・データ収集・分析、といった方法を通し、社会的視点をもったデザインの提案方法を学ぶ。
様々な素材・加工法での試作実験・検証を通し、根源的レベルからのデザイン提案力、開発力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は対面形式の実習です。
「プロダクトデザイン１」の履修者は必ず「プロダクトデザイン２」も履修しなければなりません。どちらか片方だけの履修はできません。
「プロダクトデザイン１、２」の授業では、３～４人からなるグループワークと、個人制作の両方を行い、大きく５つの課題に取り組みます。それぞれに課題説明、初期案発表、開発中間報告、チュートリアル、最終発表、というステージで行います。
また本授業では特に、アイデアを試作し、検証・発展させるプロセスが重視されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1週	ガイダンス 色彩と木工①	全プロセスの俯瞰と把握　課題説明
2週	色彩と木工② 蝋燭と鋳造と香り①	最終発表 課題説明
3週	蝋燭と鋳造と香り② 金属とアップサイクリング①	最終発表 課題説明
4週	金属とアップサイクリング② メッシュを用いたデザイン①	最終発表 課題説明
5週	メッシュを用いたデザイン② 食とデザインとブランディング①	最終発表 課題説明
6週	食とデザインとブランディング②	ワークショップ チュートリアル
7週	食とデザインとブランディング① 無意識の行動①	最終発表 課題説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題制作は宿題として授業時間外で行います。
各課題の最終プレゼンテーション以外にも、毎回授業のはじめに進捗状況をまとめた発表をします。
本授業の準備(制作)時間は、約３時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示。

【参考書】
「誰のためのデザイン？」増補・改訂版　D. A. ノーマン (著)　新曜社
「考えなしの行動?」ジェーン・フルトン・スーリ (著)　太田出版
「心を動かすデザインの秘密」荷方 邦夫 (著)　実務教育出版
「プロダクトデザイン 101のアイデア」　スン・ジャン 他(著)　フィルムアート社

【成績評価の方法と基準】
授業回数の1/3　(5コマ) 欠席および連続3日欠席の受講生は成績評価対象外となります。15分以上の遅刻は2回で1回の欠席扱いとなります。(ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。)
制作成果（70%）提出書類（15%）出席（15%）
総合点が９０点以上をＳとし、
89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-
79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-
69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-
60点未満をDとする。
積極的な授業参加と授業態度も評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
各課題の狙い、各プロセスで重要視する事柄を理解しやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】
PC　必要なソフトウェアー（プレゼンテーション・CAD・グラフィック 等）を習熟しておいてください。

【その他の重要事項】
欧州・日本でプロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。
履修生には、日常を細かく観察し、問題点、改善可能な点などを常に考察することを期待する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Students learn the basic concepts of product design through exercises and develop the ability to propose fresh ideas and create original designs.
Students learn the importance of prototyping and verification in the creative process and acquire practical methods and techniques.
【Learning Objectives】
The aim is to acquire basic practical and creative skills in manufacturing and design.
Students learn how to pursue highly original design by looking at and understanding all aspects of society and culture and considering what truly comfortable design is.
Students gain an understanding of the elements necessary for product design, such as form, color, function, ergonomics, and cognitive psychology, through practical training.
Learn how to propose designs from a social perspective through methods such as observation, experimentation, data collection, and analysis.
Cultivate the ability to propose and develop designs from a fundamental level through experiments and verification of prototypes using various materials and processing methods.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to develop their work as homework outside of class time.
The standard preparation time for this class is approximately 3 hours, however it is depended on the commitment.
【Grading Criteria /Policy】
Presented Work (70%), Documents submitted (15%), attendance (15%)

DES200ND（デザイン学 / Design science 200）

プロダクトデザイン３（２０１９～２０２２年度入学生用）

梶本　博司、宮沢　哲、谷口　武司、安積　伸

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インダストリアルデザイン(工業製品デザイン)の開発を実務に沿ったプロセスで体験します。
課題となる開発対象物がどの様に製造されているかを理解し、アイデアを反映したデザインの考案とプロトタイプ制作を行います。
プロトタイプによる使用性や価値の検証、製品としての完成度を上げる方法を学びます。

【到達目標】
インダストリアルデザインの実戦的な手法と知識を学びます。
コンセプトの立案やアイデアの展開方法、プロトタイプ制作を基にした価値の検証方法を学びます。
また、工業的な製造プロセスを理解しながら、製品アイデアへと反映する方法を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、インダストリアルデザイン (工業製品デザイン)開発プロセスの実践的実習を通して学習します。
開発対象物がどの様に製造されているかを理解しその特徴や制限を理解する事、また現在の製品にはどのような工夫がありどの様なユーザーが使用しているか、等のデザインが反映するべき現実的な側面を反映したアイデアの考案を行います。
またアイデアを展開しながら試作を繰り返す事で提案を強化し、最終的には製品に近いプロトタイプへとブラッシュアップしていきます。
最終試作では使用性や器物としての価値を検証し、評価を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	１演習教室、教室分け、座席確認、主担当教員	この演習授業概要説明 課題説明 この授業での制作プロセスをよく 理解し積極的にデザインする準備 を行います。
2	ガイダンス PD3第１課題 課題１「テープカッターデザイン」説明 構造体の調査方法 制作プロセス概要	演習授業概要説明 課題１説明 この授業での制作プロセスの説明。 テープカッター基本構造体の調査方法がわかる。
3	「テープカッターデザイン」基本構造体調査まとめ	基本構造体調査をスッケチで表現できるようになる。
4	モックアップ（模型）制作材料スチレンボードについて　モックアップ（模型）制作道具の使い方	スチレンボードモックアップ制作事例でスチレンボードの使い方がわかるようになる。 スチレンボードで構造制作、カット方法説明。基本デザインアイディアスケッチについてわかるようになる。必要な道具の使い方がわか流ようになる。
5	機構モデル制作（スチレンボード）	機構モデルの制作
6	機構モデル制作 各自制作物評価	スチレンボードで制作したテープカッターの基本構造体を説明し評価をもらい指摘されたところを直し完成度を高めることができます。
7	課題１提出、プレゼン、評価	課題１提出、デザインプレゼンの仕方がわかるようになる。評価基準がわかるようになる。
8	課題１プレゼン、評価 課題２：制作材料２、スタイロモックアップ説明	評価の後の課題２の説明。 課題2：フィレット、カット面による造形変化：ジグの使用方法、基本制作造形の説明
9	課題２用材料の準備（スタイロの切り出：各自で行う）	ヒートカッターの使用方法がわかるようになる。
10	モデル制作治具についてフィレットC面での造形制作	ジグの説明。 ジグを使った制作デモ、フィレットC面取り方デモを見ることで制作方法がわかる。
11	課題２提出	プロトタイプ２の制作進捗を見ながら随時個別に具体的な製作手法を学ぶことができる。
12	課題３：テープカッターデザイン２	スチレンボードとスタイロとで「テープカッター」プロトタイプの制作　アイデアスケッチから始める。
13	課題３デザインモックアップ制作 プレゼンテーション	デザインモックアップ制作 プレゼンテーション
14	課題３ プレゼンテーション,講評	プレゼンテーション,講評からプロトタイプ（モックアップ）の制作までの考え方がわかるようよになる。評価基準よりモックアップの完成度で重要なことがわかる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題制作は宿題として授業時間外で行う事を基本とします。
本授業の準備(制作)時間は、約３時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業支援システム「教材」にアップロードします。

【参考書】
「ものはどのようにつくられているのか？」
Chris Lefteri(著)　オライリージャパン
「プロダクトデザインのスタイリング入門」
ピーター・ダブズ(著)　ビー・エヌ・エヌ

【成績評価の方法と基準】
授業回数の1/3　(5コマ) 欠席および連続3日欠席の受講生は成績評価対象外となります。15分以上の遅刻は2回で1回の欠席扱いとなります。(ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。)
制作成果（70%）提出書類（15%）出席（15%）
総合点が９０点以上をSとし、
89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-
79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-
69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-
60点未満をDとする。
積極的な授業参加と授業態度も評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
制作プロセスの説明強化。制作プロセスチャート作成の方法論指導 強化します。
洞察、観察レベルの指導強化。

【その他の重要事項】
欧州、日本でプロダクトデザイン実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の基礎知識・手法を指導する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Students will experience the way to develop industrial design through a process that is consistent with actual practice.
Students understand how industrial product is manufactured, and think an original design idea and create a prototype. Students will learn how to evaluate usability and value of the design through prototypes and improve the level of perfection as a product.
【Learning Objectives】
Through the experience of the course, students will learn the practical skill and knowledge of industrial design stated as followings:
- The practical methods, skill and knowledge of industrial design.
- The way to develop from concepts ideas to prototyping, and evaluate value with prototype.
- The knowledge of industrial manufacturing process and the way to translate to product ideas.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to develop their work as homework outside of class time.
The standard preparation time for this class is approximately three hours, however it is depended on the commitment.
【Grading Criteria /Policy】
Presented Work (70%), Documents submitted (15%), attendance (15%)

DES200ND（デザイン学 / Design science 200）

プロダクトデザイン４（２０１９～２０２２年度入学生用）

梶本　博司、安積　伸、宮沢　哲、谷口　武司

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インダストリアルデザイン(工業製品デザイン)の開発を実務に沿ったプロセスで体験します。
課題となる開発対象物がどの様に製造されているかを理解し、アイデアを反映したデザインの考案とプロトタイプ制作を行います。
プロトタイプによる使用性や価値の検証、製品としての完成度を上げる方法を学びます。

【到達目標】
インダストリアルデザインの実戦的な手法と知識を学びます。
コンセプトの立案やアイデアの展開方法、プロトタイプ制作を基にした価値の検証方法を学びます。
また、工業的な製造プロセスを理解しながら、製品アイデアへと反映する方法を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、インダストリアルデザイン (工業製品デザイン)開発プロセスの実践的実習を通して学習します。
開発対象物がどの様に製造されているかを理解しその特徴や制限を理解する事、また現在の製品にはどのような工夫がありどの様なユーザーが使用しているか、等のデザインが反映するべき現実的な側面を反映したアイデアの考案を行います。
またアイデアを展開しながら試作を繰り返す事で提案を強化し、最終的には製品に近いプロトタイプへとブラッシュアップしていきます。
最終試作では使用性や器物としての価値を検証し、評価を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	１演習教室、教室分け、座席確認、主担当教員	この演習授業概要説明 課題説明 この授業での制作プロセスをよく 理解し積極的にデザインする準備 を行います。
2	ガイダンス PD3第１課題 課題１「テープカッターデザイン」説明 構造体の調査方法 制作プロセス概要	演習授業概要説明 課題１説明 この授業での制作プロセスの説明。 テープカッター基本構造体の調査方法がわかる。
3	「テープカッターデザイン」基本構造体調査まとめ	基本構造体調査をスッケチで表現できるようになる。
4	モックアップ（模型）制作材料スチレンボードについて　モックアップ（模型）制作道具の使い方	スチレンボードモックアップ制作事例でスチレンボードの使い方がわかるようになる。 スチレンボードで構造制作、カット方法説明。基本デザインアイディアスケッチについてわかるようになる。必要な道具の使い方がわか流ようになる。
5	機構モデル制作（スチレンボード）	機構モデルの制作
6	機構モデル制作 各自制作物評価	スチレンボードで制作したテープカッターの基本構造体を説明し評価をもらい指摘されたところを直し完成度を高めることができます。
7	課題１提出、プレゼン、評価	課題１提出、デザインプレゼンの仕方がわかるようになる。評価基準がわかるようになる。
8	課題１プレゼン、評価 課題２：制作材料２、スタイロモックアップ説明	評価の後の課題２の説明。 課題2：フィレット、カット面による造形変化：ジグの使用方法、基本制作造形の説明
9	課題２用材料の準備（スタイロの切り出：各自で行う）	ヒートカッターの使用方法がわかるようになる。
10	モデル制作治具についてフィレットC面での造形制作	ジグの説明。 ジグを使った制作デモ、フィレットC面取り方デモを見ることで制作方法がわかる。
11	課題２提出	プロトタイプ２の制作進捗を見ながら随時個別に具体的な製作手法を学ぶことができる。
12	課題３：テープカッターデザイン２	スチレンボードとスタイロとで「テープカッター」プロトタイプの制作　アイデアスケッチから始める。
13	課題３デザインモックアップ制作 プレゼンテーション	デザインモックアップ制作 プレゼンテーション
14	課題３ プレゼンテーション,講評	プレゼンテーション,講評からプロトタイプ（モックアップ）の制作までの考え方がわかるようよになる。評価基準よりモックアップの完成度で重要なことがわかる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題制作は宿題として授業時間外で行う事を基本とします。
本授業の準備(制作)時間は、約３時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業支援システム「教材」にアップロードします。

【参考書】
「ものはどのようにつくられているのか？」
Chris Lefteri(著)　オライリージャパン
「プロダクトデザインのスタイリング入門」
ピーター・ダブズ(著)　ビー・エヌ・エヌ

【成績評価の方法と基準】
授業回数の1/3　(5コマ) 欠席および連続3日欠席の受講生は成績評価対象外となります。15分以上の遅刻は2回で1回の欠席扱いとなります。(ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。)
制作成果（70%）提出書類（15%）出席（15%）
総合点が９０点以上をSとし、
89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-
79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-
69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-
60点未満をDとする。
積極的な授業参加と授業態度も評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
制作プロセスの説明強化。制作プロセスチャート作成の方法論指導 強化します。
洞察、観察レベルの指導強化。

【その他の重要事項】
欧州、日本でプロダクトデザイン実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の基礎知識・手法を指導する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Students will experience the way to develop industrial design through a process that is consistent with actual practice.
Students understand how industrial product is manufactured, and think an original design idea and create a prototype. Students will learn how to evaluate usability and value of the design through prototypes and improve the level of perfection as a product.
【Learning Objectives】
Through the experience of the course, students will learn the practical skill and knowledge of industrial design stated as followings:
- The practical methods, skill and knowledge of industrial design.
- The way to develop from concepts ideas to prototyping, and evaluate value with prototype.
- The knowledge of industrial manufacturing process and the way to translate to product ideas.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to develop their work as homework outside of class time.
The standard preparation time for this class is approximately three hours, however it is depended on the commitment.
【Grading Criteria /Policy】
Presented Work (70%), Documents submitted (15%), attendance (15%)

DES200ND（デザイン学 / Design science 200）

３DCADデザインX

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1年次グラフィックデザイン演習で得たスキルを基に、時間軸を有するメディア（本、WEBページ、映像）のデザインを複数の演習を通して学ぶ。

【到達目標】
エディトリアルデザイン、モーショングラフィック、データビジュアライゼーション、Webページなど異なるメディア形式に対応したデザインスキルを得る。
さまざまなリサーチ手法を活用して伝えるべき価値を探求する。
ブラッシュアップを繰り返し、完成度の高い作品を制作する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業前半では、アナログメディアである冊子をデザインする。時間軸とページのフローを考慮し、情報を効果的に伝える演習を行う。企画、取材、編集、レイアウトの力を養う。
授業後半では、プログラミング、モーショングラフィック、データビジュアライゼーションの手法を学習した上でWEBページをデザインする。インタラクションのあるデジタルメディアにおけるデザイン力を養う。
スキル学習、制作は自宅で行い、授業は講義、ディスカッション、講評を中心に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	演習内容ガイダンス 冊子-1	授業の進め方、授業課題、履修上の注意点、成績評価等のガイダンスを行う。 教員のデザイン活動を事例を通して解説する。
2	冊子-2	エディトリアルデザインの解説を行う
3	冊子-3	エディトリアルデザインの制作を行う。
4	冊子-4	エディトリアルデザインの制作を行う。
5	冊子-5	エディトリアルデザインの制作を行う。
6	冊子-6	エディトリアルデザインの制作を行う。
7	冊子-7 発表、講評	エディトリアルデザイン課題の発表と講評を行う
8	Web-1	Web課題について解説する
9	Web-2 イラスト・アニメーション	イラストにモーションをつける制作を行う
10	Web-3 スクロール	JavaScriptを用いてスクロールに追従する動きを学ぶ
11	Web-4	Web課題の制作 個別相談会
12	Web-5	Web課題の制作を行う
13	Web-6	Web課題の制作を行う 個別相談会
14	Web-7 発表、講評	Web課題の発表と講評を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
夏季休暇中に事前課題を課します。
また、スキル学習、制作は自宅で行ってもらいます。時間を確保してください。
Adobe Indesign、After Effectsなどのソフトを使用するため、
「Adobe CC学生ライセンスパック」の継続利用を推奨します。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜プリントを配布する。

【参考書】
特に指定しない。授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
課題提出作品評価（80 %）
制作プロセス評価（20 %）
課題を提出しても基準に満たな場合D評価、
課題未提出はE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
PC
USB メモリ
配布資料用クリアーファイル

【その他の重要事項】
エディトリアル、モーション、Webなどにおけるデザイン実務経験のある教員が、その経験を生かして基礎知識・手法を指導する。

【Outline (in English)】
Based on the skills acquired in the first-year graphic design exercise, students will learn to design media with a time axis (books, web pages, videos) through multiple exercises.

DES200ND（デザイン学 / Design science 200）

３DCADデザインＹ

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1年次グラフィックデザイン演習で得たスキルを基に、時間軸を有するメディア（本、WEBページ、映像）のデザインを複数の演習を通して学ぶ。

【到達目標】
エディトリアルデザイン、モーショングラフィック、データビジュアライゼーション、Webページなど異なるメディア形式に対応したデザインスキルを得る。
さまざまなリサーチ手法を活用して伝えるべき価値を探求する。
ブラッシュアップを繰り返し、完成度の高い作品を制作する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業前半では、アナログメディアである冊子をデザインする。時間軸とページのフローを考慮し、情報を効果的に伝える演習を行う。企画、取材、編集、レイアウトの力を養う。
授業後半では、プログラミング、モーショングラフィック、データビジュアライゼーションの手法を学習した上でWEBページをデザインする。インタラクションのあるデジタルメディアにおけるデザイン力を養う。
スキル学習、制作は自宅で行い、授業は講義、ディスカッション、講評を中心に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	演習内容ガイダンス 冊子-1	授業の進め方、授業課題、履修上の注意点、成績評価等のガイダンスを行う。 教員のデザイン活動を事例を通して解説する。
2	冊子-2	エディトリアルデザインの解説を行う
3	冊子-3	エディトリアルデザインの制作を行う。
4	冊子-4	エディトリアルデザインの制作を行う。
5	冊子-5	エディトリアルデザインの制作を行う。
6	冊子-6	エディトリアルデザインの制作を行う。
7	冊子-7 発表、講評	エディトリアルデザイン課題の発表と講評を行う
8	Web-1	Web課題について解説する
9	Web-2 イラスト・アニメーション	イラストにモーションをつける制作を行う
10	Web-3 スクロール	JavaScriptを用いてスクロールに追従する動きを学ぶ
11	Web-4	Web課題の制作 個別相談会
12	Web-5	Web課題の制作を行う
13	Web-6	Web課題の制作を行う 個別相談会
14	Web-7 発表、講評	Web課題の発表と講評を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
夏季休暇中に事前課題を課します。
また、スキル学習、制作は自宅で行ってもらいます。時間を確保してください。
Adobe Indesign、After Effectsなどのソフトを使用するため、
「Adobe CC学生ライセンスパック」の継続利用を推奨します。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜プリントを配布する。

【参考書】
特に指定しない。授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
課題提出作品評価（80 %）
制作プロセス評価（20 %）
課題を提出しても基準に満たな場合D評価、
課題未提出はE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
PC
USB メモリ
配布資料用クリアーファイル

【その他の重要事項】
エディトリアル、モーション、Webなどにおけるデザイン実務経験のある教員が、その経験を生かして基礎知識・手法を指導する。

【Outline (in English)】
Based on the skills acquired in the first-year graphic design exercise, students will learn to design media with a time axis (books, web pages, videos) through multiple exercises.

DES200ND（デザイン学 / Design science 200）

デザインシンキング

吉見　奈々、金田　遼平

開講時期：**秋学期前半/Fall(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ブランディングデザインに必要な様々な要素をグループワーク演習によって実践的に学びます。
提供するモノ、サービスの価値を的確に捉え深く掘り下げる力、想定するユーザーや顧客を理解する力、得られた情報から伝えるべき内容を精査する力、新たな魅力を構築し最も効果的な方法で提示する力、そして総合的に人の心を動かすデザインを創出する力を養います。

【到達目標】
ブランドプロデュースのための一連のプロセスを通じ、ブランディングデザインの能力獲得を目指します。
また構築的なクリエイティブ・プロセスを通じ、意匠を作る力だけでなく、アイデアの出し方・プロセス・思考法、コンセプト設計力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
デザインシンキングのプロセスを基本としながら、少人数のチームによるワークショップ形式で進めます。
参加学生には、積極的なディスカッションやプレゼンテーションへの参加が求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 講義	・全体概要の説明 ・講義(ブランドディングとは、関連する事例)
2	第１課題 Research	・課題説明 ・グループ分け ・事例リサーチ、分析
3	第1課題 プレゼンテーション	・発表、講評
4	第2課題 Planning + Doing	・講義、課題説明 ・テーマの設定 ・分析、要素の解体・抽出、アイデア展開
5	第2課題 プレゼンテーション	・発表、講評
6	第3課題 Research + Planning + Doing	・課題説明 ・ワークショップ
7	第3課題 作業/チュートリアル	・ディスカッション ・リサーチ ・企画テーマ方向性検討
8	第3課題 作業/チュートリアル	・ディスカッション ・テーマ設定、アイデア展開、プロトタイプ検討
9	第3課題 作業/チュートリアル	・進捗共有とディスカッション ・アイデア展開、プロトタイプ検討
10	第3課題 中間プレゼンテーション	・発表、講評
11	第3課題 作業/チュートリアル	・進捗共有とディスカッション 提案内容、試作やプロトの確認
12	第3課題 作業/チュートリアル	・進捗共有とディスカッション 提案内容、試作やプロトの確認
13	第3課題 最終プレゼンテーション(前半)	・最終発表(前半)
14	第3課題 最終プレゼンテーション(後半) 総評	・最終発表(後半) ・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間内にまとまりきらない作業は、時間外で自主的に行ってもらいます。
各課題の終了後は、企画提案書を美しくまとめ、レポートとして提出してもらいます。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で必要に応じ適宜指示します。

【参考書】
授業内で必要に応じ適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
課題のプレゼンテーション内容９０点、提出レポートを１０点とする。
総合点が90点以上をSとし、
89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-
79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-
69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-
60点未満をDとする。
ただし、１点でも提出レポートが欠けている者はDとする。
１コマ欠席− 10点、遅刻− 5点。ただし、５コマ以上欠席した者はDとする。
病欠、忌引き、SSI大会、公式練習等は欠席対象から除外するが、当該証明書を提出する事。

【学生の意見等からの気づき】
進行・制作に関する要求があれば、随時考慮してゆきます。

【学生が準備すべき機器他】
提案作成及びプレゼンテーションに必要なソフトウエアを各自のPCに入れておく。

【その他の重要事項】
ブランディングデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。
授業終了後に教室で質問を受け付ける，または随時，電子メールで質問を受け付ける．

【Outline (in English)】
Students learn the various methods required for branding design in a practical way through group work workshop.
The course cultivates the ability to“ability to create designs” and more importantly, “how to generate ideas, processes, and ways of thinking” and “the importance of concepts.
・Grading criteria
the content of presentation is 90 points, and the report is 10 points.
If the total score is 90 points or more, it will be graded S.
A+ for 89-87 points, A for 86-83 points, A- for 82-80 points.
B+ for 79-77 points, B for 76-73 points, B- for 72-70 points
C+ for 69-67 points, C for 66-63 points, C- for 62-60 points.
A score of less than 60 points is considered D.
10 points for being absent for 1 period, 5 points for being late. However, those who are absent for 5 or more periods will be graded D.
Sick leave, bereavement, SSI tournaments, official practice, etc. are excluded from absence, but proof of the same must be submitted.
If the work cannot be completed during class hours, students will be asked to do it independently outside of class hours.
After completing each assignment, students will be asked to compile a project proposal and submit it as a report.
Your study time for preparation and review will be more than 2hours for a class.

DES300ND（デザイン学 / Design science 300）

インクルーシブデザイン

安積　伸、三浦　秀彦

開講時期：**秋学期前半/Fall(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈実〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、インクルーシブデザインの考え方と手法について実践演習を通して学びます。
世の中に流通する量産品は、健常者青年男女といった、最大ボリュームゾーンのユーザーをターゲットとすることが多く、それ以外は少数ユーザーあるいは極端なユーザーとして量産品のターゲットから排除される傾向がありました。しかし、排除されるユーザーの中には、障がいを持つ人、高齢者、外国人、妊婦、乳幼児とその親なども含まれ、そういった人々の抱える生きづらさは、人生の上で誰の身にも起こりえる普遍的な問題といえるでしょう。
これまで極端なユーザーとして切り離されていた人々をリード・ユーザーとしてプロジェクトに招き、エスノグラフィカルな手法で生活で直面する不具合を観察し、考察、提案、試作、改良、の全プロセスに協力を得ながら、そのユーザーにとって最適な道具を開発します。
インクルーシブなデザイン・プロセスを実践的に経験し、デザインによって人々の生活をより快適にすることを目指します。

【到達目標】
本授業では、日常生活に何らかの支障を抱える人をパートナーに招き、インクルーシブなデザインプロセスを行いながら、その人に最適化された日常生活を支える機器を開発する。
また、開発プロセスをビデオ撮影し、プロジェクトの始動から完成までのドキュメント映像作品を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
この授業は、３～４人のグループワークで行う。
各班、デザインを行う対象として具体的な人物を一名、プロジェクトのパートナー（リードユーザー）として招待し、そのパートナーの抱える日常的な問題を観察・調査の中から精査し、問題解決を図るためのデザイン提案を試作、パートナーにフィードバックをもらいながら改良を重ね、最終的なプロダクトを制作する。
また一方で、この一連のプロセスをビデオに収め、調査 - 問題定義 - 解決方の考案 - 試作 - フィードバック - 改良 - 完成、という流れをもったビデオ作品として仕上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	課題説明 チーム分け パートナー検討
2	パートナー調査報告発表1	生活観察・インタビュー等
3	パートナー調査報告発表2	生活観察・インタビュー等
4	問題抽出	アイデア検討 チュートリアル
5	問題定義1	初期アイデア発表 ビデオレポート アイデア・コンセプトスケッチ制作 チュートリアル
6	問題定義2	初期アイデア発表 ビデオレポート アイデア・コンセプトスケッチ制作 チュートリアル
7	第一試作テスト結果発表	第一試作　テスト・ビデオレポート発表
8	問題定義の強化 改良案検討	改良案検討 チュートリアル
9	第二試作テスト結果発表	第二試作　テスト・ビデオレポート発表
10	改良案検討	最終試作検討・制作 チュートリアル
11	最終試作テスト結果発表	最終試作　テスト・フィードバック ビデオレポート　発表
12	改良案検討	最終発表のための映像検討 チュートリアル
13	最終作品発表1	前半チームのビデオ上映とデモンストレーション
14	最終作品発表2	後半チームのビデオ上映とデモンストレーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修生には、時間外での積極的な制作を期待します。
授業時間外に調査・試作・検証等を行い、翌週その様子を映像で発表してもらいます。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「インクルーシブデザイン」という発想　ジュリア・カセム (著), 平井康之 (監修) ホートン・秋穂 (翻訳) フィルムアート社

【参考書】
授業内で適宜指示。

【成績評価の方法と基準】
課題提出作品70点、制作プロセスの評価を20点、出席を10点とします。
ただし、全体で4コマ以上の欠席および連続3コマ欠席の受講生は成績評価対象外とし、遅刻は2回で1回の欠席扱いとします。欠席一回につき－4点、遅刻-2点（ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。）加えて、最終作品が未提出な者も評価対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】
進行・制作に関する要求があれば、随時考慮してゆきます。

【学生が準備すべき機器他】
履修学生は、パワーポイントやビデオ編集ソフトなど、事前に必要なソフトを各自のPCに入れ、習熟しておくこと。
また、ビデオ映像を撮りためておく大容量のデータストレージを準備する事が望ましい。

【その他の重要事項】
この授業は主に対面形式で行う。
プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。

【Outline (in English)】
This project-based learning program focuses on the theme of Inclusive Design.　Most mass-produced products are designed to focus on non-handicapped adults to maximize economic efficiency, however the experience of other users such as the older generation, young children and people with disabilities are often not considered enough.　In this project, actual users of these categories are invited to help us find the difficulties they face, and students will develop problem-solving concepts through an ethnographic approach and design actual products for optimal results.

DES300ND（デザイン学 / Design science 300）

デザイン・バックキャスティング

松山　祥樹

開講時期：**秋学期後半/Fall(2nd half)**　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
問題解決や価値創造といった社会に対するデザインの役割は近年さらなる拡大を見せ、取り扱われるテーマや求められるアプローチも、その複雑性を増しています。
本授業では、日常生活での課題や環境問題などに加え、ジェンダーや人種に関する人権問題や、貧困や教育における社会格差など様々な事例を取り扱いながら、より良い未来に向けた問題解決のためのデザインの在り方を学びます。
一律に何が正しいと定義できない複雑なテーマに対し、あらゆる人々や物事に与える影響を考慮・検討しながら価値創出を模索する過程を通し、多角的な視点から物事の本質を見極め、解決に導く力を養います。

【到達目標】
本授業では、グループワークを通し、リサーチ、問題定義、解決提案とその具体化までを行う。
それぞれの提案は、プロセスからアプトプットまでを１冊の本の形式に美しくまとめることで、自身の考えや提案を正しく魅力的に伝え、共感を導くツールにまで仕上げることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
第一課題では、共通のテーマに対しグループワークでの提案を行います。第二課題ではそれぞれのグループごとに課題選定を行い、その解決提案を行います。
各課題のプレゼンテーションの後、講義時間内にて講評によるフィードバックを行います。またディスカッションの時間を設けることで、設定したテーマや提案に対しての考察を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス 講義(導入) 課題グループ分け	全体概要の説明 講義(本講義の目的と狙い) 課題に取り組むチーム分けの実施
2	導入ディスカッション 課題リサーチ	エクササイズとしてのディスカッションワーク 各チームごとに社会課題のリサーチを開始
3	リサーチの共有 講義(関連デザイン事例)	各自のリサーチ結果の共有 関連するデザイン事例の講義
4	フォーカステーマの選定	各チーム、フォーカスするテーマをディスカッションし選定する
5	中間プレゼンテーション テーマの共有	選定したテーマとその背景をポスター形式にまとめ、各チームごとに簡易なプレゼンテーションを行う
6	テーマの深掘り リサーチ計画の立案	各チーム選定したテーマに対し、課題を深ぼるためのリサーチワークを行う インタビューや実験の計画を検討する
7	リサーチ結果の共有	インタビューや実験、デスクリサーチの結果を共有し、アイデアの方向性を定める
8	ソリューションアイデア検討	着目した課題を解決するためのアイデア検討ワークを行う
9	ソリューションアイデアの共有	検討したアイデアを共有し、改善点を検討する 適宜、プロトタイプなどを制作して検証を行う
10	プロトタイプの確認 講義(ブックデザイン事例)	制作したプロトタイプや検証結果を確認する 最終的にまとめるブックのデザイン事例の講義
11	アウトプットの進捗確認	最終提案に向けたアウトプット全体の進捗状況を確認し、完成に向けた作業を実施する
12	講義(アウトプットの作り込み)	アウトプットの完成度を高めるためのデザイン事例に関する講義
13	最終プレゼンテーション前半	各チームごとに、最終提案の発表を行う
14	最終プレゼンテーション後半 全体講評・総括	各チームごとに、最終提案の発表を行う 全体の総括として、講評を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間内にまとまりきらない作業は、時間外で自主的に行ってもらいます。
日常生活を注意深く観察し、暮らしの不便や困りごとを見出すことに加え、自身とは違う環境や価値観の人々、世界で起きている出来事やニュースについても積極的に情報収集し、見識や考察を深めて下さい。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「Design as an Attitude -姿勢としてのデザイン-」　アリス・ローソーン (著), 石原薫 (翻訳) フィルムアート社

【参考書】
授業内で必要に応じ適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度の平常点評価を30点、課題プレゼンテーション内容を40点、最終成果物を30点とした計100点満点で評価する。
総合点が９０点以上をA+、９０点未満８０点以上をA、８０点未満７０点以上をB、７０点未満６０点以上をC、６０点未満をDとする。
ただし、１点でも提出レポートが欠けている者はDとする。
１コマ欠席− 10点、遅刻− 5点。ただし、５コマ以上欠席した者はDとする。
（なお、病欠、忌引き、SSI大会、公式練習等は欠席対象から除外、ただし当該証明書を提出する事。）

【学生の意見等からの気づき】
進行・制作に関する要求があれば、随時考慮してゆきます。

【学生が準備すべき機器他】
提案作成及びプレゼンテーションに必要なソフトウエアを各自のPCに入れておく。

【その他の重要事項】
プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。
授業終了後に教室で質問を受け付ける，または随時，電子メールで質問を受け付ける

【Outline (in English)】
【Course outline and Learning Objectives】

The role of design in society has been expanding further in recent years, and the problems and approaches which designers deal with have become complex.This course teaches how design can be used to solve problems for a better future. Various themes are used in this course that cannot be defined as being right : daily-life problems, discrimination and human rights related to gender and race, and social disparities in poverty and education.
In Design Backcasting, you develop your ability of identifying complex problems by design considering the impact on people and societies from multiple perspectives.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be asked to work independently outside of class time on tasks that cannot be completed within the class time. The standard preparation time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
The evaluation is based on a total of 100 points, consisting of 30 points for the normal assessment of class participation, 40 points for the content of the assignment presentation and 30 points for the final product.
A+ for a total score of 90 or more points, A for 80 or more points below 90, B for 70 or more points below 80, C for 60 or more points below 70 and D for 60 or more points below 60.
Absence from one class - 10 points, tardiness - 5 points. However, a D is given to students who are absent for more than five sessions.
(Sickness, bereavement, SSI competitions, official practices, etc. are excluded from absences, but the relevant certificate must be submitted.)

DES300ND（デザイン学 / Design science 300）

サービスＵＸデザイン

平田　昌大

開講時期：**春学期後半/Spring(2nd half)**　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈実〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人々の価値観の多様化、技術の発展などを背景に、製品・サービスに求められる価値はより複雑多様化している。「サービスデザイン」とは、そういった製品・サービス (または取り組み)を開発するために、テクノロジー・クリエイティブ・ビジネスを包含した総合的な視点でアプローチするデザイン領域である。本授業では、顧客体験(UX)を重点とした新規サービスの企画を行い、調査からアイデア発想、プロトタイプ、プレゼンテーションまでの一連の過程のなかで、サービスデザインの基本的な視座を獲得する。
今年度は「Intrinsic Motivation(内発的動機)」をテーマに、自身の興味関心のある領域を基軸としたサービスを企画し、投資家へのプレゼンテーションを想定した演習課題を行う。

【到達目標】
- テーマ課題を通して、基本的なサービスデザインプロセスを学び、考案したサービスを第三者へ魅力的に伝えることを目標とする。
- 成果物として、考案したサービスのプレゼンテーション及びプロトタイプの制作を行う。なお、UI(アプリケーションやウェブサイトなど)は必須ではないが、授業内でUIデザインの基礎について触れる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
原則としてチーム制作（受講人数により1チーム3～5名程度）とする。課題制作とその指導を行う演習を中心とし、必要に応じて関連する知識や方法を伝えるための講義を行う。課題制作の進捗に合わせて、プレゼンテーションや内容に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	全体説明	・全体概要の説明(本授業の目的・意義・スコープ) ・講義(「サービスデザイン・UXデザイン」とは) ・アイスブレイク(既存サービスのリバースエンジニアリング) ・好き語りによるチームビルディング
2	テーマ探索 リサーチ計画・実施	・講義(リサーチの目的・手法・プロセスについて) ・個人/グループワーク(テーマの探索・仮説立案) ・グループワーク(リサーチ計画・リサーチ)
3	リサーチ結果の共有・分析	・講義(リサーチ分析・インサイト発掘・アイディエーション) ・個人/グループワーク(リサーチ結果共有・分析・インサイト発掘)
4	アイディエーション）	・個人/グループワーク(アイディエーション) 解説：ペルソナ、ジャーニーマップづくりの紹介と実践
5	アイデア中間発表	・アイデア全体発表(リサーチ結果にもとづくアイデアの発表) ・講義(UX検討・ビジネスモデリング・フィジビリティ検証)
6	UX検討 ビジネスモデリング フィジビリティ検証	・個人/グループワーク(アイデアブラッシュアップ・コンセプトアップ)
7	プロトタイピング ユーザーテスト(UX課題点の抽出)	・講義(プロトタイピング・ユーザーテスト) ・個人/グループワーク(プロトタイピング・ユーザーテスト)
8	サービスアイデアのブラッシュアップ	・グループワーク(アイデアブラッシュアップ・ユーザーテスト)
9	UIデザイン ユーザーテスト(UI課題点の抽出)	・講義(UIデザイン・ユーザーテスト) ・個人/グループワーク(UIデザイン・ユーザーテスト)
10	サービス詳細化	・グループワーク(UIデザイン・サービス詳細化)
11	プレゼンテーション作成	・講義(サービス提案のプレゼンテーション) ・個人/グループワーク(最終提案骨子制作)
12	提案のブラッシュアップ	・グループワーク(最終提案資料作成)
13	最終プレゼンテーション	・最終プレゼンテーション
14	最終プレゼンテーション 総評	・最終プレゼンテーション ・総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、1回につき各2時間を標準とする。日常生活で感じる課題や不満を内省的に観察すると共に、身辺の製品・サービスの意図や構造を考察すること。

【テキスト（教科書）】
特になし。適宜、授業内で参考資料、文献、サイト等を紹介する。

【参考書】
1.「This is Service Design Thinking 日本語版」マーク・スティックドーンほか編著/ビー・エヌ・エヌ新社
2.「This is Service Design Doing サービスデザインの実践」マーク・スティックドーンほか 編, ビー・エヌ・エヌ新社
3.「デザインリサーチの教科書」木浦幹雄 著,ビー・エヌ・エヌ新社
4.「リーン・スタートアップ」伊藤穣一ほか著,日経BP
5.「起業の科学 スタートアップサイエンス」田所雅之著,日経BP
6.「ビジネスモデル図鑑2.0」近藤哲郎著, KADOKAWA

【成績評価の方法と基準】
出席・授業態度（40点）
提出物（20点）
プレゼンテーション内容（40点）
総合点が90点以上をSとし、
89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-
79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-
69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-
60点未満をDとする。
5コマ欠席および連続3日欠席の受講生は成績評価対象外とする。なお15分以上の遅刻は2回で1回の欠席扱いとなる。(ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。)

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】
PC（プレゼン資料作成）、必要に応じてプロトタイピングツール（AdobeXD など）や、オンラインホワイトボードツール（Miro など）、授業内で紹介する無料のアプリなど。必要に応じてプロトタイプ制作用の素材（紙や画材など）や加工道具が必要となる。

【その他の重要事項】
サービスデザイナー/UIUXデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。
授業終了後に教室で質問を受け付ける，または随時，電子メールで質問を受け付ける．

【Outline (in English)】
【Course outline】
Service design is a design field that approaches the development of complex products and services from a holistic perspective that encompasses technology, creativity, and business. In this class, we will plan a new service with an emphasis on user experience , and acquire a basic perspective on service design through a series of processes from research to idea generation, prototyping, and presentation.
This year's theme is "Intrinsic motivation," and the students will plan a service based on their own area of interest, and conduct an exercise in preparation for a presentation to investors.
【Learning Objectives】
The goal is to learn the basic service design process through thematic assignments and to communicate the devised service in an attractive manner.
Students will be required to make a presentation and a prototype of their service. In addition, UI (applications, websites, etc.) is not required, but the basics of UI design will be covered in class.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is two hours each.
Students should observe the frustrations they feel in their daily lives and consider the intentions and structures of the products and services around them.
【Grading Criteria /Policy）】
Attendance and class attitude (40 points)
Submission of work (20 points)
Presentation content (40 points)
A total score of 90 or higher is considered an S.
A+ for 89-87, A for 86-83, A- for 82-80
A+ for 89-87, A for 86-83, A- for 82-80, B+ for 79-77, B for 76-73, B- for 72-70, C+ for 69-67, and C- for 69-67.
A score of 69 to 67 is C+, 66 to 63 is C, 62 to 60 is C-.
A score of less than 60 is considered a D.
Students who are absent for 5 classes or 3 consecutive days will not be graded. Students who are tardy for more than 15 minutes will be counted as one absence. (However, if there is a valid reason, both absences and tardies will not be counted as one absence.)

DES300ND（デザイン学 / Design science 300）

映像制作演習

北村　拓司

開講時期：**秋学期前半/Fall(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、プロモーション映像の制作を通し、プロダクトの“魅力の伝え方”を学びます。
消費者が製品を知るきっかけは「映像（ビジュアル）」です。そのためビジネス/産業界では映像の重要性が高まり、質の高い映像による情報提供が喫緊の課題のひとつとなっています。
本演習では、製品のプロモーション映像を制作します。ストーリー構築・撮影・編集を各自で行い、1本の映像作品を完成させます。 映像のクオリティを高め、人に伝わる映像の完成を目指します。
最も大切なコアコンセプトを抽出し、言語化し、ストーリーに組み立てます。ストーリーが完成した後は、それを元に映像化を行います。また、撮影のクオリティを高めるための方法に関しても演習を行います。映像クオリティの大切さを理解し、視覚のデザインに対する意識を高めます。
※題材となるのは、各自が授業で創作した「目覚まし時計」のプロモーション映像となります。

【到達目標】
質の高いプロモーション映像を制作するために必要な、以下の力を身につける事を目標とする。
①製品を魅力的に伝える映像制作技術を習得する。
②製品に込めた“想い”や“機能”を伝えるストーリーテリングの能力を身につける。
③映像に関する知見を深め、映像のクオリティに対する意識を向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
各自がこれまで制作した「目覚まし時計」を題材に、プロモーション映像を制作します。
ムービーは各自で制作を行い、授業ではアイデアを開発し発表し、そのレビューを行います。
授業は、生徒間で討議しながら進めるワークショップ形式で進行していきます。
「キャッチコピー開発」「ストーリー開発」「撮影」「編集」と、本講義は４つのステージに区分されます。
最終制作物として１本のプロモーション映像作品を完成させ、講評会を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	プロモーション映像とは キャッチコピーの作り方	プロモーション映像の役割について学び、キャッチコピーを開発する。
2	ステートメント開発 コンセプトをストーリー化する	自身のプロダクトのコアコンセプトを言語化する。 発表→講評→修正を行う。
3	企画コンテ（ストーリー）について ストーリーを可視化する	ストーリーの構造解説（課題～解決）。 プロモーション映像事例を見ながら学ぶ。
4	企画コンテ開発	プロダクトのストーリーを、4コマの絵コンテに描く。それを８コマに増やし、発表、講評、修正の工程で構築する。
5	演出コンテとは ストーリーを表現に落とし込む	演出コンテに関する解説。表現に関して学ぶ。ストーリーを最適な“表現”に落とし込んだ絵コンテ（16コマ）を作成する。
6	演出コンテ実習 16コマのストーリー作成	演出コンテを発表。講評、修正を行いながら構築する。
7	撮影に関して 撮影に関する講義	撮影がどの様に行われるかを解説。 感情を表現する撮影を実施で体験する。
8	プロダクトの撮影について	撮影の方法論（静物描写） プロダクトの表現方法、撮影技術を学ぶ。
9	編集実習１	ナレーションを考案し、自身のPCで編集を行う。
10	編集実習２	ナレーションを考案し、自身のPCで編集を行う。
11	中間発表	自身で撮影した素材をもとに各自で編集し、授業で発表を行う。
12	中間発表	自身で撮影した素材をもとに各自で編集し、授業で発表を行う。
13	作品発表	最終作品の発表を行い、講評を行う。
14	最終講評	最終作品に関する講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
授業回数の1/3（5回）欠席および連続3回欠席の受講生は成績対象外となります。10分以上の遅刻は2回で1回の欠席扱いとなります。（ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない）
積極的な授業参加と授業態度も評価対象とします。
授業参加・態度（35%）企画開発段階での評価（30%）映像作品の評価（35%）

【学生の意見等からの気づき】
進行・制作に関する要求があれば、随時考慮してゆきます。

【学生が準備すべき機器他】
カメラ（自前のモノを使用/一眼でも携帯でも可）/PC（学校orPC自身のPCを使用）。
自身のPCで編集を行う場合、事前に編集ソフト（各自が使いやすい動画編集ソフトを使用して下さい。インストールしていない人は、無料動画編集ソフト『iMovie』などをPCに入れて使用できる状態にしておいて下さい）。
授業では、『Adobeプレミア』を使用して編集を行います。

【その他の重要事項】
CMディレクターとして豊かな経験を持つ教員が、実務で必要な知識・経験・考え方に関する指導を行います。
授業終了後に教室で質問を受け付ける，または随時，電子メールで質問を受け付ける．

【Outline (in English)】
In this course, students will learn how to communicate and appeal the character of product and the design through the practical exercise of the making promotional video.
“Visual Image” is always the catalyst for consumers to know about products.
Today, it is extremely important to communicate with high quality visual message in business /industry, and it is a big issue to improve it.
The story of the promotional video of each students’ will be based on the concept of their own products. We extract the core of the concept, and translate it into language and build it into a story. The students will make their own video works based on the story.
In this course, every student will produce their own promotional video for their product. They will be responsible for the planning, shooting and editing their storyline. Improving the quality of the video works, student will produce a film that can communicate with wide range of audience.
The course is also including the exercise of shooting photograph /cinematograph. The exercise will cultivate the mindset to create high standard visual image and to improve the awareness of the quality standard of visual design.

DES200NA（デザイン学 / Design science 200）

ランドスケープデザイン

大木　一、保　清人

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ランドスケープデザインの基礎知識や実例の見学を通じて設計手法を理解する。さらに具体的な敷地における設計課題に取り組み、ランドスケープデザインの検討プロセスを体験する。

【到達目標】
ランドスケープデザインが取り扱う領域の内容や計画手法の概要を理解する。また、具体的な敷地におけるランドスケープデザインの検討プロセスを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
本授業は講義，見学会，設計演習によって構成される。はじめにランドスケープデザインの概要についての講義を実施する。その後グループにより設計演習課題に取り組む。演習課題は毎回のエスキス（設計案を持参し講師の指導を受ける）によってブラッシュアップさせる。そのため授業時間外に設計案の検討を行う必要がある。また、演習課題の進捗に応じ，見学会を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス・ランドスケープ概論1	ランドスケープの領域性や計画概論を学ぶ
(2)	ランドスケープ概論2/敷地調査	実例を交えての設計手法等を学ぶ
(3)	設計演習/現地調査・結果のまとめ	現地を歩き、土地の文脈等を調べて必要な機能を検討する
(4)	見学会またはゲストレクチャー	ランドスケープデザインの実例見学会またはゲスト講師を招いてのレクチャーを行う
(5)	設計演習/敷地分析・コンセプト	現地調査を基に敷地のポテンシャルを読み解く
(6)	設計演習/配置計画・ゾーニング	配置計画や動線を地形を操作しながら検討する
(7)	設計演習/中間発表・エスキス	課題の作業状況について中間発表を行う
(8)	設計演習/配置計画・空間デザイン	具体的な仕上げや植栽も含めた空間デザインを検討する
(9)	見学会またはゲストレクチャー	ランドスケープデザインの実例見学会またはゲスト講師を招いてのレクチャーを行う
(10)	設計演習/空間デザイン	具体的な仕上げや植栽を含めた空間デザインの内容を深化させる
(11)	設計演習/中間発表2	プレゼンボードに提案内容をまとめて発表する
(12)	ランドスケープ概論3	課題の進捗に合わせてランドスケープデザインの具体的な技法について学ぶ
(13)	設計演習/ブラッシュアップ	提案内容・プレゼンのブラッシュアップを進める
(14)	設計演習/講評会	提案に関する最終講評を行い、講師のフィードバックを受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
2　課題対象地の敷地分析
3・4　設計コンセプト案の検討
5　ゾーニング・配置計画の検討
6　中間発表準備
7・8　配置計画・空間デザインの検討
9　空間デザインの検討
10　中間発表準備
11・12　提案内容のブラッシュアップ
13　講評会準備
14　最終提出物の作成
本授業の準備・復習時間は，各回2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。資料は授業中に適宜配布する。

【参考書】
忽那裕樹他：図解パブリックスペースのつくりかた（学芸出版社）
長谷川浩己：風景にさわる（丸善出版）
小野寺康：広場のデザイン（彰国社）
武田史朗編著：テキスト ランドスケープデザインの歴史（学芸出版社）
JLAU：ランドスケープアーキテクトになる本I，II（マルモ出版）

【成績評価の方法と基準】
中間発表（2回）の内容（30%），最終講評および成果品の内容（70%）による。
発表時やエスキス時の積極性や良好なデザインには個人に対して加点を行う。
中間発表・最終講評の欠席者には単位取得を認めない（評価D）。
欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】
今年度から講師が交代するため該当なし。

【学生が準備すべき機器他】
設計案検討のため、製図用具・模型製作用具が必要となる。模型材料はグループ内で費用負担して購入する。
検討や成果品作成のため、貸与パソコン等のノートPCを用いた作業が必要となる。

【その他の重要事項】
実際のランドスケープデザインに携わる実務者が、デザインの考え方や設計手法を踏まえて授業を行う。
オフィスアワーについて，質問等は授業終了直後に対応する。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The course will provide students with basic knowledge of landscape design and actual examples of landscape design, as well as an understanding of design techniques through observation of actual examples of landscape design. In addition, students will experience the process of landscape design by working on a design project on a specific site. Understand design techniques through observation of actual examples of landscape design. In addition, students will experience the process of landscape design by working on a design project on a specific site.
(Learning Objectives)
The goal of this course is to provide an overview of the content and planning methods of the areas addressed by landscape design. It also helps to understand the process of landscape design study on a specific site.
(Learning activities outside of classroom)
2 Site analysis of the subject site
3 &4 Examination of proposed design concept
5 Examination of zoning and layout plan
6 Preparation for interim presentation
7 &8 Study of layout plan and spatial design
9 Examination of space design
10 Preparation for mid-term presentation
11 &12 Brush up on proposals
13 Preparation for critique session

14 Preparation for final submission
The standard preparation and review time for this class is 2 hours for each session.
（Grading Criteria /Policy）
The content of the midterm presentations (twice) (30%) and the final critique and deliverables (70%) will be considered.
Individual points will be given for positive attitude and good design during presentations and essays.
Students absent from the mid-term presentation and final review will not receive credit (grade D).
No credit for more than four absences (grade D) will be given.

DES200NA（デザイン学 / Design science 200）

ランドスケープデザイン

大木　一、保　清人

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ランドスケープデザインの基礎知識や実例の見学を通じて設計手法を理解する。さらに具体的な敷地における設計課題に取り組み、ランドスケープデザインの検討プロセスを体験する。

【到達目標】
ランドスケープデザインが取り扱う領域の内容や計画手法の概要を理解する。また、具体的な敷地におけるランドスケープデザインの検討プロセスを理解する。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	◎			○		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
本授業は講義，見学会，設計演習によって構成される。はじめにランドスケープデザインの概要についての講義を実施する。その後グループにより設計演習課題に取り組む。演習課題は毎回のエスキス（設計案を持参し講師の指導を受ける）によってブラッシュアップさせる。そのため授業時間外に設計案の検討を行う必要がある。また、演習課題の進捗に応じ，見学会を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス・ランドスケープ概論1	ランドスケープの領域性や計画概論を学ぶ
(2)	ランドスケープ概論2/敷地調査	実例を交えての設計手法等を学ぶ
(3)	設計演習/現地調査・結果のまとめ	現地を歩き、土地の文脈等を調べて必要な機能を検討する
(4)	見学会またはゲストレクチャー	ランドスケープデザインの実例見学会またはゲスト講師を招いてのレクチャーを行う
(5)	設計演習/敷地分析・コンセプト	現地調査を基に敷地のポテンシャルを読み解く
(6)	設計演習/配置計画・ゾーニング	配置計画や動線を地形を操作しながら検討する
(7)	設計演習/中間発表・エスキス	課題の作業状況について中間発表を行う
(8)	設計演習/配置計画・空間デザイン	具体的な仕上げや植栽も含めた空間デザインを検討する
(9)	見学会またはゲストレクチャー	ランドスケープデザインの実例見学会またはゲスト講師を招いてのレクチャーを行う
(10)	設計演習/空間デザイン	具体的な仕上げや植栽を含めた空間デザインの内容を深化させる
(11)	設計演習/中間発表2	プレゼンボードに提案内容をまとめて発表する
(12)	ランドスケープ概論3	課題の進捗に合わせてランドスケープデザインの具体的な技法について学ぶ
(13)	設計演習/ブラッシュアップ	提案内容・プレゼンのブラッシュアップを進める
(14)	設計演習/講評会	提案に関する最終講評を行い、講師のフィードバックを受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
2　課題対象地の敷地分析
3・4　設計コンセプト案の検討
5　ゾーニング・配置計画の検討
6　中間発表準備
7・8　配置計画・空間デザインの検討
9　空間デザインの検討
10　中間発表準備
11・12　提案内容のブラッシュアップ
13　講評会準備
14　最終提出物の作成
本授業の準備・復習時間は，各回2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。資料は授業中に適宜配布する。

【参考書】
忽那裕樹他：図解パブリックスペースのつくりかた（学芸出版社）
長谷川浩己：風景にさわる（丸善出版）
小野寺康：広場のデザイン（彰国社）
武田史朗編著：テキスト ランドスケープデザインの歴史（学芸出版社）
JLAU：ランドスケープアーキテクトになる本I，II（マルモ出版）

【成績評価の方法と基準】
中間発表（2回）の内容（30%），最終講評および成果品の内容（70%）による。
発表時やエスキス時の積極性や良好なデザインには個人に対して加点を行う。
中間発表・最終講評の欠席者には単位取得を認めない（評価D）。
欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】
今年度から講師が交代するため該当なし。

【学生が準備すべき機器他】
設計案検討のため、製図用具・模型製作用具が必要となる。模型材料はグループ内で費用負担して購入する。
検討や成果品作成のため、貸与パソコン等のノートPCを用いた作業が必要となる。

【その他の重要事項】
実際のランドスケープデザインに携わる実務者が、デザインの考え方や設計手法を踏まえて授業を行う。
オフィスアワーについて，質問等は授業終了直後に対応する。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course will provide students with basic knowledge of landscape design and actual examples of landscape design, as well as an understanding of design techniques through observation of actual examples of landscape design. In addition, students will experience the process of landscape design by working on a design project on a specific site. Understand design techniques through observation of actual examples of landscape design. In addition, students will experience the process of landscape design by working on a design project on a specific site.
（Learning Objectives）
The goal of this course is to provide an overview of the content and planning methods of the areas addressed by landscape design. It also helps to understand the process of landscape design study on a specific site.
（Learning activities outside of classroom）
2 Site analysis of the subject site
3 &4 Examination of proposed design concept
5 Examination of zoning and layout plan
6 Preparation for interim presentation

7 &8 Study of layout plan and spatial design
9 Examination of space design
10 Preparation for mid-term presentation
11 &12 Brush up on proposals
13 Preparation for critique session
14 Preparation for final submission
The standard preparation and review time for this class is 2 hours for each session.
（Grading Criteria /Policy）
The content of the midterm presentations (twice) (30%) and the final critique and deliverables (70%) will be considered.
Individual points will be given for positive attitude and good design during presentations and essays.
Students absent from the mid-term presentation and final review will not receive credit (grade D).
No credit for more than four absences (grade D) will be given.

DES200NA（デザイン学 / Design science 200）

ランドスケープデザイン

大木　一、保　清人

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ランドスケープデザインの基礎知識や実例の見学を通じて設計手法を理解する。さらに具体的な敷地における設計課題に取り組み、ランドスケープデザインの検討プロセスを体験する。

【到達目標】
ランドスケープデザインが取り扱う領域の内容や計画手法の概要を理解する。また、具体的な敷地におけるランドスケープデザインの検討プロセスを理解する。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
（B）技術者倫理	30%
（C）工学基礎学力	20%
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
本授業は講義，見学会，設計演習によって構成される。はじめにランドスケープデザインの概要についての講義を実施する。その後グループにより設計演習課題に取り組む。演習課題は毎回のエスキス（設計案を持参し講師の指導を受ける）によってブラッシュアップさせる。そのため授業時間外に設計案の検討を行う必要がある。また、演習課題の進捗に応じ，見学会を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス・ランドスケープ概論1	ランドスケープの領域性や計画概論を学ぶ
(2)	ランドスケープ概論2/敷地調査	実例を交えての設計手法等を学ぶ
(3)	設計演習/現地調査・結果のまとめ	現地を歩き、土地の文脈等を調べて必要な機能を検討する
(4)	見学会またはゲストレクチャー	ランドスケープデザインの実例見学会またはゲスト講師を招いてのレクチャーを行う
(5)	設計演習/敷地分析・コンセプト	現地調査を基に敷地のポテンシャルを読み解く
(6)	設計演習/配置計画・ゾーニング	配置計画や動線を地形を操作しながら検討する
(7)	設計演習/中間発表・エスキス	課題の作業状況について中間発表を行う
(8)	設計演習/配置計画・空間デザイン	具体的な仕上げや植栽も含めた空間デザインを検討する
(9)	見学会またはゲストレクチャー	ランドスケープデザインの実例見学会またはゲスト講師を招いてのレクチャーを行う
(10)	設計演習/空間デザイン	具体的な仕上げや植栽を含めた空間デザインの内容を深化させる
(11)	設計演習/中間発表2	プレゼンボードに提案内容をまとめて発表する
(12)	ランドスケープ概論3	課題の進捗に合わせてランドスケープデザインの具体的な技法について学ぶ
(13)	設計演習/ブラッシュアップ	提案内容・プレゼンのブラッシュアップを進める
(14)	設計演習/講評会	提案に関する最終講評を行い、講師のフィードバックを受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
2　課題対象地の敷地分析
3・4　設計コンセプト案の検討
5　ゾーニング・配置計画の検討
6　中間発表準備
7・8　配置計画・空間デザインの検討
9　空間デザインの検討
10　中間発表準備
11・12　提案内容のブラッシュアップ
13　講評会準備
14　最終提出物の作成
本授業の準備・復習時間は，各回2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。資料は授業中に適宜配布する。

【参考書】
忽那裕樹他：図解パブリックスペースのつくりかた（学芸出版社）
長谷川浩己：風景にさわる（丸善出版）
小野寺康：広場のデザイン（彰国社）
武田史朗編著：テキスト ランドスケープデザインの歴史（学芸出版社）
JLAU：ランドスケープアーキテクトになる本I，II（マルモ出版）

【成績評価の方法と基準】
中間発表（2回）の内容（30%），最終講評および成果品の内容（70%）による。
発表時やエスキス時の積極性や良好なデザインには個人に対して加点を行う。
中間発表・最終講評の欠席者には単位取得を認めない（評価D）。
欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】
今年度から講師が交代するため該当なし。

【学生が準備すべき機器他】
設計案検討のため、製図用具・模型製作用具が必要となる。模型材料はグループ内で費用負担して購入する。
検討や成果品作成のため、貸与パソコン等のノートPCを用いた作業が必要となる。

【その他の重要事項】
実際のランドスケープデザインに携わる実務者が、デザインの考え方や設計手法を踏まえて授業を行う。
オフィスアワーについて，質問等は授業終了直後に対応する。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course will provide students with basic knowledge of landscape design and actual examples of landscape design, as well as an understanding of design techniques through observation of actual examples of landscape design. In addition, students will experience the process of landscape design by working on a design project on a specific site. Understand design techniques through observation of actual examples of landscape design. In addition, students will experience the process of landscape design by working on a design project on a specific site.
（Learning Objectives）
The goal of this course is to provide an overview of the content and planning methods of the areas addressed by landscape design. It also helps to understand the process of landscape design study on a specific site.

（Learning activities outside of classroom）
2 Site analysis of the subject site
3 &4 Examination of proposed design concept
5 Examination of zoning and layout plan
6 Preparation for interim presentation
7 &8 Study of layout plan and spatial design
9 Examination of space design
10 Preparation for mid-term presentation
11 &12 Brush up on proposals
13 Preparation for critique session
14 Preparation for final submission
The standard preparation and review time for this class is 2 hours for each session.
（Grading Criteria /Policy）
The content of the midterm presentations (twice) (30%) and the final critique and deliverables (70%) will be considered.
Individual points will be given for positive attitude and good design during presentations and essays.
Students absent from the mid-term presentation and final review will not receive credit (grade D).
No credit for more than four absences (grade D) will be given.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

建築フォーラム

下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、渡邉　竜一、山道　拓人

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部3学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。
デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？
ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？
建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？
建築でも土木でもない新しい分野とは？
アーバンデザインとは具体的にどういうものなのか？
今日コミュニティはどのような意味をもっているか？
こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】
以下の能力を習得する。
1)さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
2)講演についての感想文、批評をレポートに書く。
3)講演についてその場で質問やコメントを行なう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回性の講演の繰り返しが特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多次元的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を7回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で7回となっているのは、各講演の時間が2時限分に当たることと、講演の翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム１	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成(1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム２	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成(2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム３	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成(3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム４	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成(4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)
10	フォーラム５	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成(5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム６	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成(6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示。

【参考書】
講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
講演メモとレポート内容による。
フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。
授業への取り組み（20%)と7回のレポート（講演メモ+講演レポート、80%）によって評価を行なうが、質問タイムへの参加はTAが記録し、授業参加評価に加点される。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】
聴講しながらその要旨をノートＰＣにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】
実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って7名の講師を選定し招聘している。2021年度よりデザイン工学部3学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】
In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:
What is the act of design? What is the relationship between design and society?
What kind of accumulation of effort is there to complete one design?
Is there a boundary between the realms of architecture and product design?
Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?
What exactly is urban design?
What are the implications for today's community?
Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.
[Learning Objectives]
Acquire the ability to
1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.
2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.
3) Questions and comments about the lecture on the spot
[Learning activities outside of classroom]

In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following six reports: 90%、in class contribution: 10%

LANe200NA（英語 / English language education 200）

テクニカルライティング X

大友　敬三

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル化の進展に伴い，日本人にとっても英語による国際社会に向けた情報発信スキル，特に「書く英語」の重要性が増している．本科目では，技術系業務で必要となる技術英文作成技術（テクニカルライティング）修得に役立つよう，技術英語の決まりごとや文法事項の分析，英作文演習を通じて，正確・簡潔・明解な英文を書く基礎力を身につける．

【到達目標】
①技術英語に必須な単語を理解（和→英，英→和）できる．
②主語，動詞，必要な要素で構成する英文を組み立てできる．
③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる．
④複数文を適切に組み立てできる．

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
					○	◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
・指定教科書に基づく解説については，パワーポイントスライドを使用する．
・指定教科書を使い，Stage 1（基本的な英文の組み立て）⇒Stage 2（英文表現の幅の広げ方）⇒Stage 3（長文・複数文の組み立て）の順で，正確，簡潔，明確に英作するためのポイントを例文を交えて解説する．
・英作練習のため，授業中には学生に簡単な口頭発表を求める．
・毎回の授業では，技術英語の単語や英作に関する理解度の定着を図るための小テストを課す．
・小テストについては，lms2025;WebClass のテスト機能または課題機能を使う予定とする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・シラバスに基づき，授業計画，授業運営方法，評価方法等を把握する．また，技術英文作成に必要となる３C（Correct：正確に書く，Clear：明確に書く，Concise：簡潔に書く）を理解する． ・実例演習（小テスト）
第2回	ＳＶＯ	・主語が動作や無生物の場合のＳＶＯ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第3回	ＳＶとＳＶＣ	・主語と動詞だけで構成されるＳＶ文ならびにbe動詞を使うＳＶＣ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第4回	remain 等のＳＶＣと万能動詞	・簡潔で明確な動詞を使うＳＶＣ文ならびに簡潔で便利な動詞を使うＳＶＯ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第5回	効果的・具体的な他動詞，便利な他動詞	・ＳＶＯ文を作る上で効果的な動詞ならびに「～を可能にする」「～を許可する」「～を引き起こす」等の便利な動詞を使うＳＶＯ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第6回	時制と受け身	・英語の時制を明確に表す動詞変化ならびに受け身文（受働態）の効果的な使い方を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第7回	数・冠詞と助動詞	・英語の細かいニュアンスを表す前置詞ならびに助動詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第8回	命令形と前置詞	・具体的な動作を表す動詞を使う命令形ならびに複数の語を関係づける前置詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第9回	分詞と関係代名詞	・形容詞の役割，文全体に説明を加える分詞・分詞構文，ならびに２つの文の共通部分を関係づける関係代名詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第10回	to 不定詞と副詞	・未来志向の to 不定詞ならびに動詞や文全体にニュアンスを加える副詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第11回	比較と略語・句読点	・形容詞や副詞の比較級を使う英文表現ならびに英文を読みやすくする略語・句読点の使い方を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第12回	複文構造と文の接続	・接続詞（等位接続詞，従属接続詞）を使う複文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第13回	技術英文作成のポイント	・これまでに学んだ技術英語作成におけるポイントを振り返る． ・実例演習（小テスト）
第14回	まとめ	・期末試験により，技術英文の組み立てや表現等に関する理解度の定着を確認する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第2回～第13回授業に共通して，以下の（準備学習），（復習）が必要となります．
（準備学習）
・各回授業に対応する教科書のStageごとの「習得項目」の説明を読んで各回で学ぶ英作のポイントを把握しておきましょう．
・各回授業に対応する教科書のStage ごとの「例文」を自分で英作してみましょう．
・「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語の意味を確認しましょう．
（復習）
・各回の授業の実例演習（小テスト）で誤った点を教科書等で確認しましょう．
・各回の「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語暗記しましょう．
・授業で取り上げなかった「例文」について，自分で英作しましょう．
・例文について音声がダウンロードできる．これにより音声を再生して視聴したり，あるいは口に出して練習して例文を覚えましょう．ダウンロードのサイトは．研究社ホームページ（http://www.kenkyusha.co.jp/）の「音声・各種資料ダウンロード」のサイトから音声データがダウンロードできます．
（学習時間）
・毎回の授業に関する（準備学習）と（復習）に要する学習時間は，それぞれ２時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
・中山裕木子著「技術英文の基本を学ぶ例文300」，2020年10月30日初版，研究社，定価1,800円＋税

【参考書】
・参考書は特に指定しません．
・研究社ホームページ（http://www.kenkyusha.co.jp/）の「音声・各種資料ダウンロード」にアクセスして指定教科書の300例文の音声をダウンロードして，音声を聞いて口に出して発音する練習が英文作成技術の修得に効果的です．

【成績評価の方法と基準】
・本授業における到達目標に対し，以下のように平常点と期末試験により到達度を測定（点数化）し，100点満点として総合的に成績評価する（60点以上が合格）．平常点と期末試験の配分は，それぞれ40点，60点とする．
（到達目標と評価の対応）
①技術英語に必須な単語を理解（和→英，英→和）できる．　→　平常点5点＋期末試験10点＝小計15点
②主語，動詞，必要な要素で構成する英文を組み立てできる．　→　平常点15点＋期末試験20点＝小計35点
③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる．　→　平常点15点＋期末試験20点＝小計35点
④複数文を適切に組み立てできる．→平常点5点＋期末試験10点＝小計15点
・平常点には，小テストと発表等が含まれる．
・期末試験とは，テキストやノートを参照しない筆記試験を指す．
・４回以上欠席した場合は，単位取得不可（評価：D）とする．

【学生の意見等からの気づき】
・英作については，基本となる文法事項の役割や英文組立てのプロセス等に重点を置いた説明を子心がける．英作の練習について，学生から解答案を発表してもらう等，学生同士や学生と教員との間でコミュニケーションを図る．
・2024年度授業評価アンケート結果の記述回答からは，英語をしっかりと学べた，学生の私語を注意してくれた，毎回の確認テストで授業内容を復習できてよかった，マイクを回して生徒に回答させることでより理解が深まった，など本授業の運営方法についいて肯定的な意見が出された．特に，マイクによる学生回答については，2025年度授業において充実させていきたい．

【学生が準備すべき機器他】
・教材配布や小テスト等については，lms2025;WebClassを使うので同システムの操作に充分に慣れておくこと．
・授業中に学習支援システムを使うこともあるので，PC，タブレット，スマートフォン等の機器を携行することが望ましい．
・その他，授業に関わる連絡はlms2025;WebClassを利用する．

【その他の重要事項】
・Xクラス（B3014）を担当する教員（大友）は実務経験教員である．所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた．研究成果を国際会議で口頭発表，あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた．このような経験を講義に反映し，履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい．
・英文法の基礎事項（少なくとも，動詞の単・複数形変化、時制変化）について復習しておくことが望ましい．
・質問等については，授業終了後に教室で，あるいは電子メイルで受付ける．担当教員のメイルアドレス：keizo.ohtomo.td@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【Course outline】
With growing globalization, worldwide communication skills in English have become more important for most Japanese. This subject will cultivate elementary skills for developing concise, clear and correct English through analysis and exercises on practical technical English. As a result, registered students will acquire the ability to handle writing in English which may be required in their careers.
1) You will acquire technical terms in Japanese as well as English.
2) You will develop an English sentence including a subject, a verve, and other terms.
3) You will digest crucial grammars to improve your technical expression in English.
4) You will organize multiple English sentences with technical terms and/or sentence structure for technical English.
【Learning activities outside of classroom】
You are required to tackle the following preparations and reviews through the second to the thirteenth classes in the schedule.
< Preparation >
1) You should examine specified learning items in the textbook according to the class schedule to identify crucial issues for technical English.
2) You should independently attempt to develop English sentences listed as example sentences.
3) You should analyze technical terms specified in the learning items and the example sentences.
< Review >
1) You should review your mistakes in the small test with reference to the textbook.
2) You should memorize technical terms involved in example sentences using word lists in the textbook.
3) You should independently practice English composition for untouched example sentences in the class.
4) You can download audio files for example sentences employed in the textbook from http://www.kenkyusha.co.jp/. This will help you to practice phonetical reading and acquire the example sentences.
< Learning Hours >
1) You should consume generally about two hours for both preparations and reviews.
【Grading Criteria /Policy】
The supervisor will evaluate your achievement for learning objectives based on your mark in class participations (allocation: 40%) and scores in final examination (allocation: 60%), completing your final scores in the full score of 100%. You will earn the credit if you score equal to or more than the score of 60%.
< Learning objectives and corresponding evaluations >
1) Acquisition of technical terms in Japanese as well as English: class participation 5%+final examination 10%= total 15%
2) Development of an English sentence: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
3) Improvement of technical expression in English: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
4) Organization of multiple English sentence: class participation 5% +final examination 10%=total 15%
A mark in class participation includes small tests, responses, and others.
Final examination will be conducted without any references notes.
You will fail to earn the credit if you miss the class more than three times, your final evaluation being applied Grade D.

LANe200NA（英語 / English language education 200）

テクニカルライティング X

大友　敬三

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル化の進展に伴い，日本人にとっても英語による国際社会に向けた情報発信スキル，特に「書く英語」の重要性が増している．本科目では，技術系業務で必要となる技術英文作成技術（テクニカルライティング）修得に役立つよう，技術英語の決まりごとや文法事項の分析，英作文演習を通じて，正確・簡潔・明解な英文を書く基礎力を身につける．

【到達目標】
①技術英語に必須な単語を理解（和→英，英→和）できる．
②主語，動詞，必要な要素で構成する英文を組み立てできる．
③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる．
④複数文を適切に組み立てできる．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	
（B）技術者倫理	
（C）工学基礎学力	10%
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	90%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
・指定教科書に基づく解説については，パワーポイントスライドを使用する．
・指定教科書を使い，Stage 1（基本的な英文の組み立て）⇒Stage 2（英文表現の幅の広げ方）⇒Stage 3（長文・複数文の組み立て）の順で，正確，簡潔，明確に英作するためのポイントを例文を交えて解説する．
・英作練習のため，授業中には学生に簡単な口頭発表を求める．
・毎回の授業では，技術英語の単語や英作に関する理解度の定着を図るための小テストを課す．
・小テストについては，lms2025;WebClassのテスト機能または課題機能を使う予定とする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・シラバスに基づき，授業計画，授業運営方法，評価方法等を把握する．また，技術英文作成に必要となる3C（Correct：正確に書く，Clear：明確に書く，Concise：簡潔に書く）を理解する． ・実例演習（小テスト）
第2回	ＳＶＯ	・主語が動作や無生物の場合のＳＶＯ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第3回	ＳＶとＳＶＣ	・主語と動詞だけで構成されるＳＶ文ならびにbe動詞を使うＳＶＣ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第4回	remain 等のＳＶＣと万能動詞	・簡潔で明確な動詞を使うＳＶＣ文ならびに簡潔で便利な動詞を使うＳＶＯ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第5回	効果的・具体的な他動詞，便利な他動詞	・ＳＶＯ文を作る上で効果的な動詞ならびに「～を可能にする」「～を許可する」「～を引き起こす」等の便利な動詞を使うＳＶＯ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第6回	時制と受け身	・英語の時制を明確に表す動詞変化ならびに受け身文（受働態）の効果的な使い方を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第7回	数・冠詞と助動詞	・英語の細かいニュアンスを表す前置詞ならびに助動詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第8回	命令形と前置詞	・具体的な動作を表す動詞を使う命令形ならびに複数の語を関係づける前置詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第9回	分詞と関係代名詞	・形容詞の役割，文全体に説明を加える分詞・分詞構文，ならびに2つの文の共通部分を関係づける関係代名詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第10回	to 不定詞と副詞	・未来志向の to 不定詞ならびに動詞や文全体にニュアンスを加える副詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第11回	比較と略語・句読点	・形容詞や副詞の比較級を使う英文表現ならびに英文を読みやすくする略語・句読点の使い方を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第12回	複文構造と文の接続	・接続詞（等位接続詞，従属接続詞）を使う複文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第13回	技術英文作成のポイント	・これまでに学んだ技術英語作成におけるポイントを振り返る． ・実例演習（小テスト）
第14回	まとめ	・期末試験により，技術英文の組み立てや表現等に関する理解度の定着を確認する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第2回～第13回授業に共通して，以下の（準備学習），（復習）が必要となります．
（準備学習）
・各回授業に対応する教科書のStageごとの「習得項目」の説明を読んで各回で学ぶ英作のポイントを把握しておきましょう．
・各回授業に対応する教科書のStage ごとの「例文」を自分で英作してみましょう．
・「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語の意味を確認しましょう．
（復習）
・各回の授業の実例演習（小テスト）で誤った点を教科書等で確認しましょう．
・各回の「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語暗記しましょう．
・授業で取り上げなかった「例文」について，自分で英作しましょう．
・例文について音声がダウンロードできる．これにより音声を再生して視聴したり，あるいは口に出して練習して例文を覚えましょう．ダウンロードのサイトは．研究社ホームページ（http://www.kenkyusha.co.jp/）の「音声・各種資料ダウンロード」のサイトから音声データがダウンロードできます．
（学習時間）
・毎回の授業に関する（準備学習）と（復習）に要する学習時間は，それぞれ２時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
・中山裕木子著「技術英文の基本を学ぶ例文300」，2020年10月30日初版，研究社，定価1,800円＋税

【参考書】
・参考書は特に指定しません．
・研究社ホームページ（http://www.kenkyusha.co.jp/）の「音声・各種資料ダウンロード」にアクセスして指定教科書の300例文の音声をダウンロードして，音声を聞いて口に出して発音する練習が英文作成技術の修得に効果的です．

【成績評価の方法と基準】
・本授業における到達目標に対し，以下のように平常点と期末試験により到達度を測定（点数化）し，100点満点として総合的に成績評価する（60点以上が合格）．平常点と期末試験の配分は，それぞれ40点，60点とする．
（到達目標と評価の対応）
①技術英語に必須な単語を理解（和→英，英→和）できる．　→　平常点5点＋期末試験10点＝小計15点
②主語，動詞，必要な要素で構成する英文を組み立てできる．　→　平常点15点＋期末試験20点＝小計35点
③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる．　→　平常点15点＋期末試験20点＝小計35点
④複数文を適切に組み立てできる．→平常点5点＋期末試験10点＝小計15点
・平常点には，小テストと発表等が含まれる．
・期末試験とは，テキストやノートを参照しない筆記試験を指す．

・４回以上欠席した場合は，単位取得不可（評価：D）とする．

【学生の意見等からの気づき】
・英作については，基本となる文法事項の役割や英文組立てのプロセス等に重点を置いた説明を子心がける．英作の練習について，学生から解答案を発表してもらう等，学生同士や学生と教員との間でコミュニケーションを図る．
・2024年度授業評価アンケート結果の記述回答からは，英語をしっかりと学べた，学生の私語を注意してくれた，毎回の確認テストで授業内容を復習できてよかった，マイクを回して生徒に回答させることでより理解が深まった，など本授業の運営方法についいて肯定的な意見が出された．特に，マイクによる学生回答については，2025年度授業において充実させていきたい．

【学生が準備すべき機器他】
・教材配布や小テスト等については，lms2025;WebClassを使うので同システムの操作に充分に慣れておくこと．
・授業中に学習支援システムを使うこともあるので，PC，タブレット，スマートフォン等の機器を携行することが望ましい．
・その他，授業に関わる連絡はlms2025;WebClassを利用する．

【その他の重要事項】
・Xクラス（B3014）を担当する教員（大友）は実務経験教員である．所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた．研究成果を国際会議で口頭発表，あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた．このような経験を講義に反映し，履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい．
・英文法の基礎事項（少なくとも，動詞の単・複数形変化、時制変化）について復習しておくことが望ましい．
・質問等については，授業終了後に教室で，あるいは電子メイルで受付ける．担当教員のメイルアドレス：keizo.ohtomo.td@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【Course outline】
With growing globalization, worldwide communication skills in English have become more important for most Japanese. This subject will cultivate elementary skills for developing concise, clear and correct English through analysis and exercises on practical technical English. As a result, registered students will acquire the ability to handle writing in English which may be required in their careers.
1) You will acquire technical terms in Japanese as well as English.
2) You will develop an English sentence including a subject, a verve, and other terms.
3) You will digest crucial grammars to improve your technical expression in English.
4) You will organize multiple English sentences with technical terms and/or sentence structure for technical English.
【Learning activities outside of classroom】
You are required to tackle the following preparations and reviews through the second to the thirteenth classes in the schedule.
< Preparation >
1) You should examine specified learning items in the textbook according to the class schedule to identify crucial issues for technical English.
2) You should independently attempt to develop English sentences listed as example sentences.
3) You should analyze technical terms specified in the learning items and the example sentences.
< Review >
1) You should review your mistakes in the small test with reference to the textbook.
2) You should memorize technical terms involved in example sentences using word lists in the textbook.
3) You should independently practice English composition for untouched example sentences in the class.
4) You can download audio files for example sentences employed in the textbook from http://www.kenkyusha.co.jp/. This will help you to practice phonetical reading and acquire the example sentences.
< Learning Hours >
1) You should consume generally about two hours for both preparations and reviews.
【Grading Criteria /Policy】
The supervisor will evaluate your achievement for learning objectives based on your mark in class participations (allocation: 40%) and scores in final examination (allocation: 60%), completing your final scores in the full score of 100%. You will earn the credit if you score equal to or more than the score of 60%.
< Learning objectives and corresponding evaluations >
1) Acquisition of technical terms in Japanese as well as English: class participation 5%+final examination 10%= total 15%
2) Development of an English sentence: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
3) Improvement of technical expression in English: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
4) Organization of multiple English sentence: class participation 5% +final examination 10%=total 15%
A mark in class participation includes small tests, responses, and others.
Final examination will be conducted without any references notes.
You will fail to earn the credit if you miss the class more than three times, your final evaluation being applied Grade D.

LANe200NA（英語 / English language education 200）

テクニカルライティング X

大友　敬三

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル化の進展に伴い，日本人にとっても英語による国際社会に向けた情報発信スキル，特に「書く英語」の重要性が増している．本科目では，技術系業務で必要となる技術英文作成技術（テクニカルライティング）修得に役立つよう，技術英語の決まりごとや文法事項の分析，英作文演習を通じて，正確・簡潔・明解な英文を書く基礎力を身につける．

【到達目標】
①技術英語に必須な単語を理解（和→英，英→和）できる．
②主語，動詞，必要な要素で構成する英文を組み立てできる．
③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる．
④複数文を適切に組み立てできる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
・指定教科書に基づく解説については，パワーポイントスライドを使用する．
・指定教科書を使い，Stage 1（基本的な英文の組み立て）⇒Stage 2（英文表現の幅の広げ方）⇒Stage 3（長文・複数文の組み立て）の順で，正確，簡潔，明確に英作するためのポイントを例文を交えて解説する．
・英作練習のため，授業中には学生に簡単な口頭発表を求める．
・毎回の授業では，技術英語の単語や英作に関する理解度の定着を図るための小テストを課す．
・小テストについては，lms2025;WebClassのテスト機能または課題機能を使う予定とする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・シラバスに基づき，授業計画，授業運営方法，評価方法等を把握する．また，技術英文作成に必要となる３C（Correct：正確に書く，Clear：明確に書く，Concise：簡潔に書く）を理解する． ・実例演習（小テスト）
第2回	ＳＶＯ	・主語が動作や無生物の場合のＳＶＯ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第3回	ＳＶとＳＶＣ	・主語と動詞だけで構成されるＳＶ文ならびにbe動詞を使うＳＶＣ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第4回	remain 等のＳＶＣと万能動詞	・簡潔で明確な動詞を使うＳＶＣ文ならびに簡潔で便利な動詞を使うＳＶＯ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第5回	効果的・具体的な他動詞，便利な他動詞	・ＳＶＯ文を作る上で効果的な動詞ならびに「～を可能にする」「～を許可する」「～を引き起こす」等の便利な動詞を使うＳＶＯ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第6回	時制と受け身	・英語の時制を明確に表す動詞変化ならびに受け身文（受働態）の効果的な使い方を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第7回	数・冠詞と助動詞	・英語の細かいニュアンスを表す前置詞ならびに助動詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第8回	命令形と前置詞	・具体的な動作を表す動詞を使う命令形ならびに複数の語を関係づける前置詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第9回	分詞と関係代名詞	・形容詞の役割，文全体に説明を加える分詞・分詞構文，ならびに２つの文の共通部分を関係づける関係代名詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第10回	to 不定詞と副詞	・未来志向の to 不定詞ならびに動詞や文全体にニュアンスを加える副詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第11回	比較と略語・句読点	・形容詞や副詞の比較級を使う英文表現ならびに英文を読みやすくする略語・句読点の使い方を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第12回	複文構造と文の接続	・接続詞（等位接続詞，従属接続詞）を使う複文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第13回	技術英文作成のポイント	・これまでに学んだ技術英語作成におけるポイントを振り返る． ・実例演習（小テスト）
第14回	まとめ	・期末試験により，技術英文の組み立てや表現等に関する理解度の定着を確認する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第2回～第13回授業に共通して，以下の（準備学習），（復習）が必要となります．
（準備学習）
・各回授業に対応する教科書のStageごとの「習得項目」の説明を読んで各回で学ぶ英作のポイントを把握しておきましょう．
・各回授業に対応する教科書のStage ごとの「例文」を自分で英作してみましょう．
・「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語の意味を確認しましょう．
（復習）
・各回の授業の実例演習（小テスト）で誤った点を教科書等で確認しましょう．
・各回の「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語暗記しましょう．
・授業で取り上げなかった「例文」について，自分で英作しましょう．
・例文について音声がダウンロードできる．これにより音声を再生して視聴したり，あるいは口に出して練習して例文を覚えましょう．ダウンロードのサイトは．研究社ホームページ（http://www.kenkyusha.co.jp/）の「音声・各種資料ダウンロード」のサイトから音声データがダウンロードできます．
（学習時間）
・毎回の授業に関する（準備学習）と（復習）に要する学習時間は，それぞれ２時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
・中山裕木子著「技術英文の基本を学ぶ例文300」，2020年10月30日初版，研究社，定価1,800円＋税

【参考書】
・参考書は特に指定しません．
・研究社ホームページ（http://www.kenkyusha.co.jp/）の「音声・各種資料ダウンロード」にアクセスして指定教科書の300例文の音声をダウンロードして，音声を聞いて口に出して発音する練習が英文作成技術の修得に効果的です．

【成績評価の方法と基準】
・本授業における到達目標に対し，以下のように平常点と期末試験により到達度を測定（点数化）し，100点満点として総合的に成績評価する（60点以上が合格）．平常点と期末試験の配分は，それぞれ40点，60点とする．
（到達目標と評価の対応）
①技術英語に必須な単語を理解（和→英，英→和）できる．　→　平常点5点＋期末試験10点＝小計15点
②主語，動詞，必要な要素で構成する英文を組み立てできる．　→　平常点15点＋期末試験20点＝小計35点
③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる．　→　平常点15点＋期末試験20点＝小計35点
④複数文を適切に組み立てできる．→平常点5点＋期末試験10点＝小計15点
・平常点には，小テストと発表等が含まれる．
・期末試験とは，テキストやノートを参照しない筆記試験を指す．
・４回以上欠席した場合は，単位取得不可（評価：D）とする．

【学生の意見等からの気づき】
・英作については，基本となる文法事項の役割や英文組立てのプロセス等に重点を置いた説明を子心がける．英作の練習について，学生から解答案を発表してもらう等，学生同士や学生と教員との間でコミュニケーションを図る．
・2024年度授業評価アンケート結果の記述回答からは，英語をしっかりと学べた，学生の私語を注意してくれた，毎回の確認テストで授業内容を復習できてよかった，マイクを回して生徒に回答させることでより理解が深まった，など本授業の運営方法についいて肯定的な意見が出された．特に，マイクによる学生回答については，2025年度授業において充実させていきたい．

【学生が準備すべき機器他】
・教材配布や小テスト等については，lms2025;WebClassを使うので同システムの操作に充分に慣れておくこと．
・授業中に学習支援システムを使うこともあるので，PC，タブレット，スマートフォン等の機器を携行することが望ましい．
・その他，授業に関わる連絡はlms2025;WebClassを利用する．

【その他の重要事項】
・Xクラス（B3014）を担当する教員（大友）は実務経験教員である．所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた．研究成果を国際会議で口頭発表，あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた．このような経験を講義に反映し，履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい．
・英文法の基礎事項（少なくとも，動詞の単・複数形変化、時制変化）について復習しておくことが望ましい．
・質問等については，授業終了後に教室で，あるいは電子メイルで受付ける．担当教員のメイルアドレス：keizo.ohtomo.td@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【Course outline】
With growing globalization, worldwide communication skills in English have become more important for most Japanese. This subject will cultivate elementary skills for developing concise, clear and correct English through analysis and exercises on practical technical English. As a result, registered students will acquire the ability to handle writing in English which may be required in their careers.
1) You will acquire technical terms in Japanese as well as English.
2) You will develop an English sentence including a subject, a verve, and other terms.
3) You will digest crucial grammars to improve your technical expression in English.
4) You will organize multiple English sentences with technical terms and/or sentence structure for technical English.
【Learning activities outside of classroom】
You are required to tackle the following preparations and reviews through the second to the thirteenth classes in the schedule.
< Preparation >
1) You should examine specified learning items in the textbook according to the class schedule to identify crucial issues for technical English.
2) You should independently attempt to develop English sentences listed as example sentences.
3) You should analyze technical terms specified in the learning items and the example sentences.
< Review >
1) You should review your mistakes in the small test with reference to the textbook.
2) You should memorize technical terms involved in example sentences using word lists in the textbook.
3) You should independently practice English composition for untouched example sentences in the class.
4) You can download audio files for example sentences employed in the textbook from http://www.kenkyusha.co.jp/. This will help you to practice phonetical reading and acquire the example sentences.
< Learning Hours >
1) You should consume generally about two hours for both preparations and reviews.
【Grading Criteria /Policy】
The supervisor will evaluate your achievement for learning objectives based on your mark in class participations (allocation: 40%) and scores in final examination (allocation: 60%), completing your final scores in the full score of 100%. You will earn the credit if you score equal to or more than the score of 60%.
< Learning objectives and corresponding evaluations >
1) Acquisition of technical terms in Japanese as well as English: class participation 5%+final examination 10%= total 15%
2) Development of an English sentence: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
3) Improvement of technical expression in English: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
4) Organization of multiple English sentence: class participation 5% +final examination 10%=total 15%
A mark in class participation includes small tests, responses, and others.
Final examination will be conducted without any references notes.
You will fail to earn the credit if you miss the class more than three times, your final evaluation being applied Grade D.

LANe200NA（英語 / English language education 200）

テクニカルライティング Y

浅川　英理子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル化の進展に伴い，日本人にとっても英語による国際社会に向けた情報発信スキル，特に「書く英語」の重要性が増している．本科目では，技術系業務で必要となる技術英文作成技術（テクニカルライティング）修得に役立つよう，技術英語の決まりごとや文法事項の分析，英作文演習を通じて，正確・簡潔・明解な英文を書く基礎力を身につける．

【到達目標】
①技術英語に必須な単語を理解（和→英，英→和）できる．
②主語，動詞，必要な要素で構成する英文を組み立てできる．
③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる．
④複数文を適切に組み立てできる．

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
					○	◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
・指定教科書に基づく解説については，パワーポイントスライドを使用する．
・指定教科書を使い，Stage 1（基本的な英文の組み立て）⇒Stage 2（英文表現の幅の広げ方）⇒Stage 3（長文・複数文の組み立て）の順で，正確，簡潔，明確に英作するためのポイントを例文を交えて解説する．
・英作練習のため，授業中には学生に簡単な口頭発表を求める．
・毎回の授業では，技術英語の単語や英作に関する理解度の定着を図るための小テストを課す．
・小テストについては，学習支援システムのテスト機能または課題機能を使う予定とする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・シラバスに基づき，授業計画，授業運営方法，評価方法等を把握する．また，技術英文作成に必要となる３Ｃ（Correct：正確に書く，Clear：明確に書く，Concise：簡潔に書く）を理解する． ・実例演習（小テスト）
第2回	ＳＶＯ	・主語が動作や無生物の場合のＳＶＯ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第3回	ＳＶとＳＶＣ	・主語と動詞だけで構成されるＳＶ文ならびにbe動詞を使うＳＶＣ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第4回	remain 等のＳＶＣと万能動詞	・簡潔で明確な動詞を使うＳＶＣ文ならびに簡潔で便利な動詞を使うＳＶＯ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第5回	効果的・具体的な他動詞，便利な他動詞	・ＳＶＯ文を作る上で効果的な動詞ならびに「～を可能にする」「～を許可する」「～を引き起こす」等の便利な動詞を使うＳＶＯ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第6回	時制と受け身	・英語の時制を明確に表す動詞変化ならびに受け身文（受働態）の効果的な使い方を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第7回	数・冠詞と助動詞	・英語の細かいニュアンスを表す前置詞ならびに助動詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第8回	命令形と前置詞	・具体的な動作を表す動詞を使う命令形ならびに複数の語を関係づける前置詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第9回	分詞と関係代名詞	・形容詞の役割，文全体に説明を加える分詞・分詞構文，ならびに２つの文の共通部分を関係づける関係代名詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第10回	to 不定詞と副詞	・未来志向の to 不定詞ならびに動詞や文全体にニュアンスを加える副詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第11回	比較と略語・句読点	・形容詞や副詞の比較級を使う英文表現ならびに英文を読みやすくする略語・句読点の使い方を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第12回	複文構造と文の接続	・接続詞（等位接続詞，従属接続詞）を使う複文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第13回	技術英文作成のポイント	・これまでに学んだ技術英語作成におけるポイントを振り返る． ・実例演習（小テスト）
第14回	まとめ	・期末試験により，技術英文の組み立てや表現等に関する理解度の定着を確認する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第2回～第13回授業に共通して，以下の（準備学習），（復習）が必要となります．
（準備学習）
・各回授業に対応する教科書のStageごとの「習得項目」の説明を読んで各回で学ぶ英作のポイントを把握しておきましょう．
・各回授業に対応する教科書のStage ごとの「例文」を自分で英作してみましょう．
・「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語の意味を確認しましょう．
（復習）
・各回の授業の実例演習（小テスト）で誤った点を教科書等で確認しましょう．
・各回の「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語暗記しましょう．
・授業で取り上げなかった「例文」について，自分で英作しましょう．
・例文について音声がダウンロードできる．これにより音声を再生して視聴したり，あるいは口に出して練習して例文を覚えましょう．ダウンロードのサイトは．研究社ホームページ（http://www.kenkyusha.co.jp/）の「音声・各種資料ダウンロード」のサイトから音声データがダウンロードできます．
（学習時間）
・毎回の授業に関する（準備学習）と（復習）に要する学習時間は，それぞれ２時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
・中山裕木子著「技術英文の基本を学ぶ例文300」，2020年10月30日初版，研究社，定価1,800円＋税

【参考書】
・参考書は特に指定しません．
・研究社ホームページ（http://www.kenkyusha.co.jp/）の「音声・各種資料ダウンロード」にアクセスして指定教科書の300例文の音声をダウンロードして，音声を聞いて口に出して発音する練習が英文作成技術の修得に効果的です．

【成績評価の方法と基準】
・本授業における到達目標に対し，以下のように平常点と期末試験により到達度を測定（点数化）し，100点満点として総合的に成績評価する（60点以上が合格）．平常点と期末試験の配分は，それぞれ40点，60点とする．
（到達目標と評価の対応）
①技術英語に必須な単語を理解（和→英，英→和）できる．　→　平常点5点＋期末試験10点＝小計15点
②主語，動詞，必要な要素で構成する英文を組み立てできる．　→　平常点15点＋期末試験20点＝小計35点
③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる．　→　平常点15点＋期末試験20点＝小計35点
④複数文を適切に組み立てできる．→平常点5点＋期末試験10点＝小計15点
・平常点には，小テストと発表等が含まれる．
・期末試験とは，テキストやノートを参照しない筆記試験を指す．
・４回以上欠席した場合は，単位取得不可（評価：D）とする．

【学生の意見等からの気づき】
・英作については，基本となる文法事項の役割や英文組立てのプロセス等に重点を置いた説明を心がける．英作の練習について，学生から解答案を発表してもらう等，学生同士や学生と教員との間でコミュニケーションを図る．

【学生が準備すべき機器他】
・教材配布や小テスト等については，学習支援システムを使うので同システムの操作に充分に慣れておくこと．
・授業中に学習支援システムを使うこともあるので，PC，タブレット，スマートフォン等の機器を携行することが望ましい．
・その他，授業に関わる連絡は学習支援システムを利用する．

【その他の重要事項】
・英文法の基礎事項（少なくとも，動詞の単・複数形変化、時制変化）について復習しておくことが望ましい．
・質問等については，授業終了後に教室で，あるいは電子メイルで受付ける．

【Outline (in English)】
【Course outline】
With growing globalization, worldwide communication skills in English have become more important for most Japanese. This subject will cultivate elementary skills for developing concise, clear and correct English through analysis and exercises on practical technical English. As a result, registered students will acquire the ability to handle writing in English which may be required in their careers.
1) You will acquire technical terms in Japanese as well as English.
2) You will develop an English sentence including a subject, a verve, and other terms.
3) You will digest crucial grammars to improve your technical expression in English.
4) You will organize multiple English sentences with technical terms and/or sentence structure for technical English.
【Learning activities outside of classroom】
You are required to tackle the following preparations and reviews through the second to the thirteenth classes in the schedule.
< Preparation >
1) You should examine specified learning items in the textbook according to the class schedule to identify crucial issues for technical English.
2) You should independently attempt to develop English sentences listed as example sentences.
3) You should analyze technical terms specified in the learning items and the example sentences.
< Review >
1) You should review your mistakes in the small test with reference to the textbook.
2) You should memorize technical terms involved in example sentences using word lists in the textbook.
3) You should independently practice English composition for untouched example sentences in the class.
4) You can download audio files for example sentences employed in the textbook from http://www.kenkyusha.co.jp/. This will help you to practice phonetical reading and acquire the example sentences.
< Learning Hours >
1) You should consume generally about two hours for both preparations and reviews.
【Grading Criteria /Policy】
The supervisor will evaluate your achievement for learning objectives based on your mark in class participations (allocation: 40%) and scores in final examination (allocation: 60%), completing your final scores in the full score of 100%. You will earn the credit if you score equal to or more than the score of 60%.
< Learning objectives and corresponding evaluations >
1) Acquisition of technical terms in Japanese as well as English: class participation 5%+final examination 10%= total 15%
2) Development of an English sentence: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
3) Improvement of technical expression in English: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
4) Organization of multiple English sentence: class participation 5% +final examination 10%=total 15%
A mark in class participation includes small tests, responses, and others.
Final examination will be conducted without any references notes.
You will fail to earn the credit if you miss the class more than three times, your final evaluation being applied Grade D.

LANe200NA（英語 / English language education 200）

テクニカルライティング Y

浅川　英理子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル化の進展に伴い，日本人にとっても英語による国際社会に向けた情報発信スキル，特に「書く英語」の重要性が増している．本科目では，技術系業務で必要となる技術英文作成技術（テクニカルライティング）修得に役立つよう，技術英語の決まりごとや文法事項の分析，英作文演習を通じて，正確・簡潔・明解な英文を書く基礎力を身につける．

【到達目標】
①技術英語に必須な単語を理解（和→英，英→和）できる．
②主語，動詞，必要な要素で構成する英文を組み立てできる．
③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる．
④複数文を適切に組み立てできる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
・指定教科書に基づく解説については，パワーポイントスライドを使用する．
・指定教科書を使い，Stage 1（基本的な英文の組み立て）⇒Stage 2（英文表現の幅の広げ方）⇒Stage 3（長文・複数文の組み立て）の順で，正確，簡潔，明確に英作するためのポイントを例文を交えて解説する．
・英作練習のため，授業中には学生に簡単な口頭発表を求める．
・毎回の授業では，技術英語の単語や英作に関する理解度の定着を図るための小テストを課す．
・小テストについては，学習支援システムのテスト機能または課題機能を使う予定とする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・シラバスに基づき，授業計画，授業運営方法，評価方法等を把握する．また，技術英文作成に必要となる3C（Correct：正確に書く，Clear：明確に書く，Concise：簡潔に書く）を理解する． ・実例演習（小テスト）
第2回	ＳＶＯ	・主語が動作や無生物の場合のＳＶＯ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第3回	ＳＶとＳＶＣ	・主語と動詞だけで構成されるＳＶ文ならびにbe動詞を使うＳＶＣ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第4回	remain 等のＳＶＣと万能動詞	・簡潔で明確な動詞を使うＳＶＣ文ならびに簡潔で便利な動詞を使うＳＶＯ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第5回	効果的・具体的な他動詞，便利な他動詞	・ＳＶＯ文を作る上で効果的な動詞ならびに「～を可能にする」「～を許可する」「～を引き起こす」等の便利な動詞を使うＳＶＯ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第6回	時制と受け身	・英語の時制を明確に表す動詞変化ならびに受け身文（受働態）の効果的な使い方を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第7回	数・冠詞と助動詞	・英語の細かいニュアンスを表す前置詞ならびに助動詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第8回	命令形と前置詞	・具体的な動作を表す動詞を使う命令形ならびに複数の語を関係づける前置詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第9回	分詞と関係代名詞	・形容詞の役割，文全体に説明を加える分詞・分詞構文，ならびに2つの文の共通部分を関係づける関係代名詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第10回	to 不定詞と副詞	・未来志向の to 不定詞ならびに動詞や文全体にニュアンスを加える副詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第11回	比較と略語・句読点	・形容詞や副詞の比較級を使う英文表現ならびに英文を読みやすくする略語・句読点の使い方を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第12回	複文構造と文の接続	・接続詞（等位接続詞，従属接続詞）を使う複文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第13回	技術英文作成のポイント	・これまでに学んだ技術英語作成におけるポイントを振り返る． ・実例演習（小テスト）
第14回	まとめ	・期末試験により，技術英文の組み立てや表現等に関する理解度の定着を確認する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第2回～第13回授業に共通して，以下の（準備学習），（復習）が必要となります．
（準備学習）
・各回授業に対応する教科書のStageごとの「習得項目」の説明を読んで各回で学ぶ英作のポイントを把握しておきましょう．
・各回授業に対応する教科書のStage ごとの「例文」を自分で英作してみましょう．
・「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語の意味を確認しましょう．
（復習）
・各回の授業の実例演習（小テスト）で誤った点を教科書等で確認しましょう．
・各回の「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語暗記しましょう．
・授業で取り上げなかった「例文」について，自分で英作しましょう．
・例文について音声がダウンロードできる．これにより音声を再生して視聴したり，あるいは口に出して練習して例文を覚えましょう．ダウンロードのサイトは．研究社ホームページ（http://www.kenkyusha.co.jp/）の「音声・各種資料ダウンロード」のサイトから音声データがダウンロードできます．
（学習時間）
・毎回の授業に関する（準備学習）と（復習）に要する学習時間は，それぞれ2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
・中山裕木子著「技術英文の基本を学ぶ例文300」，2020年10月30日初版，研究社，定価1,800円＋税

【参考書】
・参考書は特に指定しません．
・研究社ホームページ（http://www.kenkyusha.co.jp/）の「音声・各種資料ダウンロード」にアクセスして指定教科書の300例文の音声をダウンロードして，音声を聞いて口に出して発音する練習が英文作成技術の修得に効果的です．

【成績評価の方法と基準】
・本授業における到達目標に対し，以下のように平常点と期末試験により到達度を測定（点数化）し，100点満点として総合的に成績評価する（60点以上が合格）．平常点と期末試験の配分は，それぞれ40点，60点とする．
（到達目標と評価の対応）
①技術英語に必須な単語を理解（和→英，英→和）できる．　→　平常点5点＋期末試験10点＝小計15点
②主語，動詞，必要な要素で構成する英文を組み立てできる．　→　平常点15点＋期末試験20点＝小計35点
③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる．　→　平常点15点＋期末試験20点＝小計35点
④複数文を適切に組み立てできる．→平常点5点＋期末試験10点＝小計15点
・平常点には，小テストと発表等が含まれる．
・期末試験とは，テキストやノートを参照しない筆記試験を指す．
・４回以上欠席した場合は，単位取得不可（評価：D）とする．

【学生の意見等からの気づき】
・英作については，基本となる文法事項の役割や英文組立てのプロセス等に重点を置いた説明を心がける．英作の練習について，学生から解答案を発表してもらう等，学生同士や学生と教員との間でコミュニケーションを図る．

【学生が準備すべき機器他】
・教材配布や小テスト等については，学習支援システムを使うので同システムの操作に充分に慣れておくこと．
・授業中に学習支援システムを使うこともあるので，PC，タブレット，スマートフォン等の機器を携行することが望ましい．
・その他，授業に関わる連絡は学習支援システムを利用する．

【その他の重要事項】
・Xクラス（B3014）を担当する教員（大友）は実務経験教員である．所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた．研究成果を国際会議で口頭発表，あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた．このような経験を講義に反映し，履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい．
・英文法の基礎事項（少なくとも，動詞の単・複数形変化、時制変化）について復習しておくことが望ましい．
・質問等については，授業終了後に教室で，あるいは電子メイルで受付ける．担当教員のメイルアドレス：keizo.ohtomo.td@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【Course outline】
With growing globalization, worldwide communication skills in English have become more important for most Japanese. This subject will cultivate elementary skills for developing concise, clear and correct English through analysis and exercises on practical technical English. As a result, registered students will acquire the ability to handle writing in English which may be required in their careers.
1) You will acquire technical terms in Japanese as well as English.
2) You will develop an English sentence including a subject, a verve, and other terms.
3) You will digest crucial grammars to improve your technical expression in English.
4) You will organize multiple English sentences with technical terms and/or sentence structure for technical English.
【Learning activities outside of classroom】
You are required to tackle the following preparations and reviews through the second to the thirteenth classes in the schedule.
< Preparation >
1) You should examine specified learning items in the textbook according to the class schedule to identify crucial issues for technical English.
2) You should independently attempt to develop English sentences listed as example sentences.
3) You should analyze technical terms specified in the learning items and the example sentences.
< Review >
1) You should review your mistakes in the small test with reference to the textbook.
2) You should memorize technical terms involved in example sentences using word lists in the textbook.
3) You should independently practice English composition for untouched example sentences in the class.
4) You can download audio files for example sentences employed in the textbook from http://www.kenkyusha.co.jp/. This will help you to practice phonetical reading and acquire the example sentences.
< Learning Hours >
1) You should consume generally about two hours for both preparations and reviews.
【Grading Criteria /Policy】
The supervisor will evaluate your achievement for learning objectives based on your mark in class participations (allocation: 40%) and scores in final examination (allocation: 60%), completing your final scores in the full score of 100%. You will earn the credit if you score equal to or more than the score of 60%.
< Learning objectives and corresponding evaluations >
1) Acquisition of technical terms in Japanese as well as English: class participation 5%+final examination 10%= total 15%
2) Development of an English sentence: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
3) Improvement of technical expression in English: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
4) Organization of multiple English sentence: class participation 5% +final examination 10%=total 15%
A mark in class participation includes small tests, responses, and others.
Final examination will be conducted without any references notes.
You will fail to earn the credit if you miss the class more than three times, your final evaluation being applied Grade D.

LANe200NA（英語 / English language education 200）

テクニカルライティング Y

浅川　英理子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル化の進展に伴い，日本人にとっても英語による国際社会に向けた情報発信スキル，特に「書く英語」の重要性が増している．本科目では，技術系業務で必要となる技術英文作成技術（テクニカルライティング）修得に役立つよう，技術英語の決まりごとや文法事項の分析，英作文演習を通じて，正確・簡潔・明解な英文を書く基礎力を身につける．

【到達目標】
①技術英語に必須な単語を理解（和→英，英→和）できる．
②主語，動詞，必要な要素で構成する英文を組み立てできる．
③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる．
④複数文を適切に組み立てできる．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	
（B）技術者倫理	
（C）工学基礎学力	10%
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	90%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
・指定教科書に基づく解説については，パワーポイントスライドを使用する．
・指定教科書を使い，Stage 1（基本的な英文の組み立て）⇒Stage 2（英文表現の幅の広げ方）⇒Stage 3（長文・複数文の組み立て）の順で，正確，簡潔，明確に英作するためのポイントを例文を交えて解説する．
・英作練習のため，授業中には学生に簡単な口頭発表を求める．
・毎回の授業では，技術英語の単語や英作に関する理解度の定着を図るための小テストを課す．
・小テストについては，学習支援システムのテスト機能または課題機能を使う予定とする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・シラバスに基づき，授業計画，授業運営方法，評価方法等を把握する．また，技術英文作成に必要となる3C（Correct：正確に書く，Clear：明確に書く，Concise：簡潔に書く）を理解する． ・実例演習（小テスト）
第2回	ＳＶＯ	・主語が動作や無生物の場合のＳＶＯ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第3回	ＳＶとＳＶＣ	・主語と動詞だけで構成されるＳＶ文ならびにbe動詞を使うＳＶＣ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第4回	remain 等のＳＶＣと万能動詞	・簡潔で明確な動詞を使うＳＶＣ文ならびに簡潔で便利な動詞を使うＳＶＯ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第5回	効果的・具体的な他動詞，便利な他動詞	・ＳＶＯ文を作る上で効果的な動詞ならびに「～を可能にする」「～を許可する」「～を引き起こす」等の便利な動詞を使うＳＶＯ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第6回	時制と受け身	・英語の時制を明確に表す動詞変化ならびに受け身文（受働態）の効果的な使い方を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第7回	数・冠詞と助動詞	・英語の細かいニュアンスを表す前置詞ならびに助動詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第8回	命令形と前置詞	・具体的な動作を表す動詞を使う命令形ならびに複数の語を関係づける前置詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第9回	分詞と関係代名詞	・形容詞の役割，文全体に説明を加える分詞・分詞構文，ならびに2つの文の共通部分を関係づける関係代名詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第10回	to 不定詞と副詞	・未来志向の to 不定詞ならびに動詞や文全体にニュアンスを加える副詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第11回	比較と略語・句読点	・形容詞や副詞の比較級を使う英文表現ならびに英文を読みやすくする略語・句読点の使い方を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第12回	複文構造と文の接続	・接続詞（等位接続詞，従属接続詞）を使う複文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第13回	技術英文作成のポイント	・これまでに学んだ技術英語作成におけるポイントを振り返る． ・実例演習（小テスト）
第14回	まとめ	・期末試験により，技術英文の組み立てや表現等に関する理解度の定着を確認する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第2回～第13回授業に共通して，以下の（準備学習），（復習）が必要となります．
（準備学習）
・各回授業に対応する教科書のStageごとの「習得項目」の説明を読んで各回で学ぶ英作のポイントを把握しておきましょう．
・各回授業に対応する教科書のStage ごとの「例文」を自分で英作してみましょう．
・「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語の意味を確認しましょう．
（復習）
・各回の授業の実例演習（小テスト）で誤った点を教科書等で確認しましょう．
・各回の「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語暗記しましょう．
・授業で取り上げなかった「例文」について，自分で英作しましょう．
・例文について音声がダウンロードできる．これにより音声を再生して視聴したり，あるいは口に出して練習して例文を覚えましょう．ダウンロードのサイトは．研究社ホームページ（http://www.kenkyusha.co.jp/）の「音声・各種資料ダウンロード」のサイトから音声データがダウンロードできます．
（学習時間）
・毎回の授業に関する（準備学習）と（復習）に要する学習時間は，それぞれ2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
・中山裕木子著「技術英文の基本を学ぶ例文300」，2020年10月30日初版，研究社，定価1,800円＋税

【参考書】
・参考書は特に指定しません．
・研究社ホームページ（http://www.kenkyusha.co.jp/）の「音声・各種資料ダウンロード」にアクセスして指定教科書の300例文の音声をダウンロードして，音声を聞いて口に出して発音する練習が英文作成技術の修得に効果的です．

【成績評価の方法と基準】
・本授業における到達目標に対し，以下のように平常点と期末試験により到達度を測定（点数化）し，100点満点として総合的に成績評価する（60点以上が合格）．平常点と期末試験の配分は，それぞれ40点，60点とする．
（到達目標と評価の対応）
①技術英語に必須な単語を理解（和→英，英→和）できる．　→　平常点5点＋期末試験10点＝小計15点
②主語，動詞，必要な要素で構成する英文を組み立てできる．　→　平常点15点＋期末試験20点＝小計35点
③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる．　→　平常点15点＋期末試験20点＝小計35点
④複数文を適切に組み立てできる．→平常点5点＋期末試験10点＝小計15点
・平常点には，小テストと発表等が含まれる．
・期末試験とは，テキストやノートを参照しない筆記試験を指す．

・４回以上欠席した場合は，単位取得不可（評価：D）とする．

【学生の意見等からの気づき】
・英作については，基本となる文法事項の役割や英文組立てのプロセス等に重点を置いた説明を心がける．英作の練習について，学生から解答案を発表してもらう等，学生同士や学生と教員との間でコミュニケーションを図る．

【学生が準備すべき機器他】
・教材配布や小テスト等については，学習支援システムを使うので同システムの操作に充分に慣れておくこと．
・授業中に学習支援システムを使うこともあるので，PC，タブレット，スマートフォン等の機器を携行することが望ましい．
・その他，授業に関わる連絡は学習支援システムを利用する．

【その他の重要事項】
・英文法の基礎事項（少なくとも，動詞の単・複数形変化、時制変化）について復習しておくことが望ましい．
・質問等については，授業終了後に教室で，あるいは電子メイルで受付ける．

【Outline (in English)】
【Course outline】
With growing globalization, worldwide communication skills in English have become more important for most Japanese. This subject will cultivate elementary skills for developing concise, clear and correct English through analysis and exercises on practical technical English. As a result, registered students will acquire the ability to handle writing in English which may be required in their careers.
1) You will acquire technical terms in Japanese as well as English.
2) You will develop an English sentence including a subject, a verve, and other terms.
3) You will digest crucial grammars to improve your technical expression in English.
4) You will organize multiple English sentences with technical terms and/or sentence structure for technical English.
【Learning activities outside of classroom】
You are required to tackle the following preparations and reviews through the second to the thirteenth classes in the schedule.
< Preparation >
1) You should examine specified learning items in the textbook according to the class schedule to identify crucial issues for technical English.
2) You should independently attempt to develop English sentences listed as example sentences.
3) You should analyze technical terms specified in the learning items and the example sentences.
< Review >
1) You should review your mistakes in the small test with reference to the textbook.
2) You should memorize technical terms involved in example sentences using word lists in the textbook.
3) You should independently practice English composition for untouched example sentences in the class.
4) You can download audio files for example sentences employed in the textbook from http://www.kenkyusha.co.jp/. This will help you to practice phonetical reading and acquire the example sentences.
< Learning Hours >
1) You should consume generally about two hours for both preparations and reviews.
【Grading Criteria /Policy】
The supervisor will evaluate your achievement for learning objectives based on your mark in class participations (allocation: 40%) and scores in final examination (allocation: 60%), completing your final scores in the full score of 100%. You will earn the credit if you score equal to or more than the score of 60%.
< Learning objectives and corresponding evaluations >
1) Acquisition of technical terms in Japanese as well as English: class participation 5%+final examination 10%= total 15%
2) Development of an English sentence: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
3) Improvement of technical expression in English: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
4) Organization of multiple English sentence: class participation 5% +final examination 10%=total 15%
A mark in class participation includes small tests, responses, and others.
Final examination will be conducted without any references notes.
You will fail to earn the credit if you miss the class more than three times, your final evaluation being applied Grade D.

PRI200NA（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

数理統計学

牧野　倫子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
不確実性を有する現象を分析するのに必要な統計学の基礎を学習し，データ解析を行うことによって，現状の把握，推測，そして意思決定ができることを目的とする。

【到達目標】
・統計学の基本を習得でき，主な確率分布およびその統計量の求め方を理解できる。
・標本データの分析手法を習得し，実際に主な統計量を求め，分析をすることによって状況把握をすることができる。
・中心極限定理の内容を理解する。
・標本データの統計分析結果より母集団で想定される確率分布のパラメータの推定手法（点推定、区間推定、仮説検定）を習得し，実際のデータに対して分析を行うことによって意思決定を行うことができる。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
					◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と学習支援システムの併用で行う。
※事前にオンデマンド教材と資料で予習を行う。
※授業中は学習内容のポイントの説明と演習を行う。
※授業中と学習支援システム上で諸連絡，講義教材掲示，課題提出等を行う。
※授業中およびメールや✓シートの提出によって質問等を行う。
配布資料の内容について演習を交えながら解説し，課題を通じて内容を具体的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概論 データ分析（1）	・母集団と標本の関係やこれから学習する内容の全体の位置を理解・する。 ・データの種類とデータに対する統計量の意味と求め方を理解する。
2	データ分析（2）	実際のデータに対して分析演習を行い，理解する。
3	確率	集合と事象，確率と確率空間，確率の基本性質，加法定理など，もとになる確率の基本を復習確認し，事象の独立性及び従属性，ベイズの定理について学習し，演習を行うことによって理解を深める。
4	確率変数と確率分布（1）	離散確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布，二項分布，ポアソン分布）について理解する。
5	確率変数と確率分布（2）	連続確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布，指数分布，正規分布）について理解する。
6	確率変数と確率分布（3）	２変数確率変数について理解する。
7	テスト１，まとめと解説	第１～６回の講義内容に関するテストを実施する。
8	中心極限定理	多次元正規分布について学習し，中心極限定理の内容を理解する。
9	点推定	確率分布のパラメータの点推定法であるモーメント法と最尤法について学習し，データに対して適切な推定量を求めることができる。
10	統計解析に必要な確率分布	正規分布より誘導される分布（カイ2乗分布，ｔ分布，F分布）について理解する。
11	区間推定	確率分布のパラメータの信頼区間の構成方法を理解する。
12	仮説検定	統計的仮説検定の考え方を理解する。また、いくつかの有名な母数の検定方法について学ぶ。
13	統計数値実験	中心極限定理の内容をExcelで乱数を発生させる数値実験を行うことによって本講義の学習内容を確認する。
14	テスト２，まとめと解説	第８～１３回の講義内容に関するテストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
★事前に公開した講義教材を読んで予習する。
★講義中に講義内容と確認演習を確認し，課題を行う。
★課題の解答を確認し，質問等があったら講義中あるいは✓シートにて連絡する。
★実際のデータに対してエクセルを用いて解析をし，考察の仕方を学習する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
※学習支援システムに公開する教材を利用する。

【参考書】
・授業の内容を復習するのに使用するといいでしょう。お勧めの本は以下の通りです。
★統計学入門（東京大学教養学部統計学教室編　東京大学出版会　2004年）
★統計学演習（村上正康，安田正實　共著　培風館　2010年）
★統計学基礎（統計検定３級・２級対応）　日本統計学会
★統計学の基礎　（栗栖　忠　他　裳華房　2017年）

【成績評価の方法と基準】
テスト１：４０パーセント
テスト２：４０パーセント。
課題・レポート課題：２０パーセント。

【学生の意見等からの気づき】
モチベーション維持に留意する。基礎事項をしっかりと習得し理解した上で，具体的な例での対応方法を身につける。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンにてエクセルの関数計算ができ，統計解析（基本統計量）が使用できる状態にしておくのが望ましい。
講義連絡および資料配布・課題提出・質問等のやり取りに学習支援システムを利用する予定。オンデマンド教材の配布は，学習支援システムとGoogleドライブを使用する予定。

【その他の重要事項】
今まで学習した確率統計および，微分積分の教科書等の復習をしておくことが望ましい。電力会社などと合同研究を行って，実際のデータ処理分析を行った経験がある教員が，その経験を活かし必要な基礎事項を講義する。
授業終了後に教室で質問を受け付ける。また、各回のチェックシートおよび電子メールで質問を随時受け付ける。

【Outline (in English)】
In this course we will learn the basics of statistics in order to analyze uncertain phenomena. The objectives are to be able to understand and hypothesize about the present condition and perform decision-making.

PRI200NA（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

数理統計学

牧野　倫子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
不確実性を有する現象を分析するのに必要な統計学の基礎を学習し，データ解析を行うことによって，現状の把握，推測，そして意思決定ができることを目的とする。

【到達目標】
・統計学の基本を習得でき，主な確率分布およびその統計量の求め方を理解できる。
・標本データの分析手法を習得し，実際に主な統計量を求め，分析をすることによって状況把握をすることができる。
・中心極限定理の内容を理解する。
・標本データの統計分析結果より母集団で想定される確率分布のパラメータの推定手法（点推定、区間推定、仮説検定）を習得し，実際のデータに対して分析を行うことによって意思決定を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と学習支援システムの併用で行う。
※事前にオンデマンド教材と資料で予習を行う。
※授業中は学習内容のポイントの説明と演習を行う。
※授業中と学習支援システム上で諸連絡，講義教材掲示，課題提出等を行う。
※授業中およびメールや✓シートの提出によって質問等を行う。
配布資料の内容について演習を交えながら解説し，課題を通じて内容を具体的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概論 データ分析（１）	・母集団と標本の関係やこれから学習する内容の全体の位置を理解・する。 ・データの種類とデータに対する統計量の意味と求め方を理解する。
2	データ分析（２）	実際のデータに対して分析演習を行い，理解する。
3	確率	集合と事象，確率と確率空間，確率の基本性質，加法定理など，もとになる確率の基本を復習確認し，事象の独立性及び従属性，ベイズの定理について学習し，演習を行うことによって理解を深める。
4	確率変数と確率分布（１）	離散確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布，二項分布，ポアソン分布）について理解する。
5	確率変数と確率分布（２）	連続確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布，指数分布，正規分布）について理解する。
6	確率変数と確率分布（３）	２変数確率変数について理解する。
7	テスト１，まとめと解説	第１～６回の講義内容に関するテストを実施する。
8	中心極限定理	多次元正規分布について学習し，中心極限定理の内容を理解する。
9	点推定	確率分布のパラメータの点推定法であるモーメント法と最尤法について学習し，データに対して適切な推定量を求めることができる。
10	統計解析に必要な確率分布	正規分布より誘導される分布（カイ2乗分布，ｔ分布，F分布）について理解する。
11	区間推定	確率分布のパラメータの信頼区間の構成方法を理解する。
12	仮説検定	統計的仮説検定の考え方を理解する。また、いくつかの有名な母数の検定方法について学ぶ。
13	統計数値実験	中心極限定理の内容をExcelで乱数を発生させる数値実験を行うことによって本講義の学習内容を確認する。
14	テスト２，まとめと解説	第８～１３回の講義内容に関するテストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
★事前に公開した講義教材を読んで予習する。
★講義中に講義内容と確認演習を確認し，課題を行う。
★課題の解答を確認し，質問等があったら講義中あるいは✓シートにて連絡する。
★実際のデータに対してエクセルを用いて解析をし，考察の仕方を学習する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
※学習支援システムに公開する教材を利用する。

【参考書】
・授業の内容を復習するのに使用するといいでしょう。お勧めの本は以下の通りです。
★統計学入門（東京大学教養学部統計学教室編　東京大学出版会　2004年）
★統計学演習（村上正康，安田正實　共著　培風館　2010年）
★統計学基礎（統計検定３級・２級対応）　日本統計学会
★統計学の基礎　（栗栖　忠　他　裳華房　2017年）

【成績評価の方法と基準】
テスト１：４０パーセント
テスト２：４０パーセント。
課題・レポート課題：２０パーセント。

【学生の意見等からの気づき】
モチベーション維持に留意する。基礎事項をしっかりと習得し理解した上で，具体的な例での対応方法を身につける。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンにてエクセルの関数計算ができ，統計解析（基本統計量）が使用できる状態にしておくのが望ましい。
講義連絡および資料配布・課題提出・質問等のやり取りに学習支援システムを利用する予定。オンデマンド教材の配布は，学習支援システムとGoogleドライブを使用する予定。

【その他の重要事項】
今まで学習した確率統計および，微分積分の教科書等の復習をしておくことが望ましい。電力会社などと合同研究を行って，実際のデータ処理分析を行った経験がある教員が，その経験を活かし必要な基礎事項を講義する。
授業終了後に教室で質問を受け付ける。また、各回のチェックシートおよび電子メールで質問を随時受け付ける。

【Outline (in English)】
In this course we will learn the basics of statistics in order to analyze uncertain phenomena. The objectives are to be able to understand and hypothesize about the present condition and perform decision-making.

DES300NA（デザイン学 / Design science 300）

タウンマネジメント

藤澤　浩子、土屋　愛自

開講時期：**秋学期前半/Fall(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は持続可能な都市を構築するための政策の１つであるタウンマネジメントについて学ぶことをねらいとする。そのために、タウンマネジメントを担うステークホルダー(NPO等)、全国で展開している様々なタウンマネジメントの事例について理解を深めつつその課題やまちづくり手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。

【到達目標】
市民参加のまちづくりを実践するためのマネージメント手法を習得する。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
（B）技術者倫理	30%
（C）工学基礎学力	20%
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は実社会で活躍されている２名の講師を加えて進める．住民参加，NPO活動及び行政の視点からのタウンマネージメントの手法や問題点を明らかにし，住民参加によるまち育ての方向性を講義する。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス タウンマネージメントについての概略	タウンマネージメントの概念と必要性について理解する。
2	まちの価値を高めるタウンマネジメントについて	タウンマネジメントの発展経緯と基本的な考え方や仕組みについて理解する。
3	タウンマネジメントの新たな潮流について	法的位置づけ（都市再生特別措置法）、P-PFI等によるマネジメント制度を理解する。
4	タウンマネジメントの演習	タウンマネジメントについて、3つのケーススタディに取り組む。
5	タウンマネジメントの管理形態について	指定管理者制度の変遷と課題等について理解する。
6	NPO法人によるタウンマネジメント総括	NPO法人の活動のバリエーション、最新動向及び諸課題、今後の展望
7	自治体の視点からのタウンマネジメントの概要について	都市の魅力アップと都市マネジメントについての解説
8	自治体の視点からのマネジメント事例について	都市施設のマネジメント、都市インフラのマネジメント事例
9	タウンマネジメントの先進的な取り組み	日本版BIDの概要、都市まるごとマネジメント事例（富山市）
10	タウンマネジメントの先進的な取り組みと課題について	インフラとセットのマネジメント事例（神戸市、船橋市、長岡市）の事例
11	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（拠点開発型）	タウンマネージメントを補完する国の制度，拠点開発型タウンマネージメントの事例
12	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（官民連携型）	タウンマネージメントの官民連携事例（横浜市・さいたま市）
13	提出課題の発表	発表の進め方 提出課題の発表
14	タウンマネジメント講義の総括	タウンマネジメント講義の総括 提出課題の発表 課題の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 復習
2. まち育てについて事例を把握しレポート作成
3. HPなどで事例検索
4. 演習課題をまとめる
本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ごとに資料を配布する

【参考書】
・「まちの価値を高めるエリアマネジメント」小林重敬＋一般財団法人森記念財団（学芸出版社）
・「都市づくり戦略とプロジェクトマネジメント」岸田比呂志・卯月盛夫（学芸出版社）
・「縮小まちづくりー成功と失敗の分かれ目」米山秀隆（時事通信出版局）
・「エリアマネジメント・ケースメソッド」(官民連携による地域経営の教科書）学芸出版社

【成績評価の方法と基準】
２つのテーマに関する提出レポート・発表により評価する．演習課題未提出者は評価対象外となるので要注意
レポート 85％
演習課題　15％
欠席４回以上は単位取得を認めない(評価D).

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から自治体の取り組むまちづくりについて実践的な講義を行う。（土屋）
NPO法成立以前から主にNPO支援分野で活動を続け、現在も複数のNPOで役員を務めている経験を活かし、実践知と最新動向を踏まえた講義を行う。（藤澤）
なお、質問等については、随時、メールで受け付ける。

【Outline (in English)】
【Course outline】 The aim of this course is to study on the town management, which is one of the policy for the creation of a sustainable city. This course deals with basic concepts of various domestic town management cases (including Nonprofit Organization as leaders), a problem and town planning method. It also enhances actual way of policy making through the course. Please refer to the schedule for detailed information.
【Leaning Objectives】
To acquire management method of citizen participation for urban development.
【Learning activities outside of classroom】
1. Review what was learned in the class.
2. Learning example of urban growing, and preparing report.
3. Browsing web page for further learning.
4. Complete exercises.
This class needs 4hours of preparation and reviewing for each content.
【Grading Criteria/Policy】
To be evaluated by a report and 3 exercises.
Report 85%
Exercises 15%

DES300NA（デザイン学 / Design science 300）

タウンマネジメント

藤澤　浩子、土屋　愛自

開講時期：**秋学期前半/Fall(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は持続可能な都市を構築するための政策の１つであるタウンマネジメントについて学ぶことをねらいとする。そのために、タウンマネジメントを担うステークホルダー(NPO等)、全国で展開している様々なタウンマネジメントの事例について理解を深めつつその課題やまちづくり手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。

【到達目標】
市民参加のまちづくりを実践するためのマネージメント手法を習得する。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
		◎				

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は実社会で活躍されている２名の講師を加えて進める．住民参加，NPO活動及び行政の視点からのタウンマネージメントの手法や問題点を明らかにし，住民参加によるまち育ての方向性を講義する。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス タウンマネージメントについての概略	タウンマネージメントの概念と必要性について理解する。
2	まちの価値を高めるタウンマネジメントについて	タウンマネジメントの発展経緯と基本的な考え方や仕組みについて理解する。
3	タウンマネジメントの新たな潮流について	法的位置づけ（都市再生特別措置法）、P-PFI等によるマネジメント制度を理解する。
4	タウンマネジメントの演習	タウンマネジメントについて、3つのケーススタディに取り組む。
5	タウンマネジメントの管理形態について	指定管理者制度の変遷と課題等について理解する。
6	NPO法人によるタウンマネジメント総括	NPO法人の活動のバリエーション、最新動向及び諸課題、今後の展望
7	自治体の視点からのタウンマネジメントの概要について	都市の魅力アップと都市マネジメントについての解説
8	自治体の視点からのマネジメント事例について	都市施設のマネジメント、都市インフラのマネジメント事例
9	タウンマネジメントの先進的な取り組み	日本版BIDの概要、都市まるごとマネジメント事例（富山市）
10	タウンマネジメントの先進的な取り組みと課題について	インフラとセットのマネジメント事例（神戸市、船橋市、長岡市）の事例
11	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（拠点開発型）	タウンマネージメントを補完する国の制度，拠点開発型タウンマネージメントの事例
12	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（官民連携型）	タウンマネージメントの官民連携事例（横浜市・さいたま市）
13	提出課題の発表	発表の進め方 提出課題の発表
14	タウンマネジメント講義の総括	タウンマネジメント講義の総括 提出課題の発表 課題の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 復習
2. まち育てについて事例を把握しレポート作成
3. HPなどで事例検索
4. 演習課題をまとめる

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ごとに資料を配布する

【参考書】
・「まちの価値を高めるエリアマネジメント」小林重敬＋一般財団法人森記念財団（学芸出版社）
・「都市づくり戦略とプロジェクトマネジメント」岸田比呂志・卯月盛夫（学芸出版社）
・「縮小まちづくり－成功と失敗の分かれ目」米山秀隆（時事通信出版局）
・「エリアマネジメント・ケースメソッド」(官民連携による地域経営の教科書）学芸出版社

【成績評価の方法と基準】
２つのテーマに関する提出レポート・発表により評価する．演習課題未提出者は評価対象外となるので要注意
レポート 85％
演習課題　15％
欠席４回以上は単位取得を認めない(評価Ｄ).

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から自治体の取り組むまちづくりについて実践的な講義を行う。（土屋）
NPO法成立以前から主にNPO支援分野で活動を続け、現在も複数のNPOで役員を務めている経験を活かし、実践知と最新動向を踏まえた講義を行う。（藤澤）
なお、質問等については、随時、メールで受け付ける。

【Outline (in English)】
【Course outline】 The aim of this course is to study on the town management, which is one of the policy for the creation of a sustainable city. This course deals with basic concepts of various domestic town management cases (including Nonprofit Organization as leaders), a problem and town planning method. It also enhances actual way of policy making through the course. Please refer to the schedule for detailed information.
【Leaning Objectives】
To acquire management method of citizen participation for urban development.
【Learning activities outside of classroom】
1. Review what was learned in the class.
2. Learning example of urban growing, and preparing report.
3. Browsing web page for further learning.
4. Complete exercises.
This class needs 4hours of preparation and reviewing for each content.
【Grading Criteria/Policy】
To be evaluated by a report and 3 exercises.
Report 85%
Exercises 15%

DES300NA（デザイン学 / Design science 300）

タウンマネジメント

藤澤　浩子、土屋　愛自

開講時期：**秋学期前半/Fall(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は持続可能な都市を構築するための政策の１つであるタウンマネジメントについて学ぶことをねらいとする。そのために、タウンマネジメントを担うステークホルダー(NPO等)、全国で展開している様々なタウンマネジメントの事例について理解を深めつつその課題やまちづくり手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。

【到達目標】
市民参加のまちづくりを実践するためのマネージメント手法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は実社会で活躍されている２名の講師を加えて進める．住民参加，NPO活動及び行政の視点からのタウンマネージメントの手法や問題点を明らかにし，住民参加によるまち育ての方向性を講義する。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス タウンマネージメントについての概略	タウンマネージメントの概念と必要性について理解する。
2	まちの価値を高めるタウンマネジメントについて	タウンマネジメントの発展経緯と基本的な考え方や仕組みについて理解する。
3	タウンマネジメントの新たな潮流について	法的位置づけ（都市再生特別措置法）、P-PFI等によるマネジメント制度を理解する。
4	タウンマネジメントの演習	タウンマネジメントについて、3つのケーススタディに取り組む。
5	タウンマネジメントの管理形態について	指定管理者制度の変遷と課題等について理解する。
6	NPO法人によるタウンマネジメント総括	NPO法人の活動のバリエーション、最新動向及び諸課題、今後の展望
7	自治体の視点からのタウンマネジメントの概要について	都市の魅力アップと都市マネジメントについての解説
8	自治体の視点からのマネジメント事例について	都市施設のマネジメント、都市インフラのマネジメント事例
9	タウンマネジメントの先進的な取り組み	日本版BIDの概要、都市まるごとマネジメント事例（富山市）
10	タウンマネジメントの先進的な取り組みと課題について	インフラとセットのマネジメント事例（神戸市、船橋市、長岡市）の事例
11	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（拠点開発型）	タウンマネージメントを補完する国の制度，拠点開発型タウンマネージメントの事例
12	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（官民連携型）	タウンマネージメントの官民連携事例（横浜市・さいたま市）
13	提出課題の発表	発表の進め方 提出課題の発表
14	タウンマネジメント講義の総括	タウンマネジメント講義の総括 提出課題の発表 課題の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 復習
2. まち育てについて事例を把握しレポート作成
3. HPなどで事例検索
4. 演習課題をまとめる
本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ごとに資料を配布する

【参考書】
・「まちの価値を高めるエリアマネジメント」小林重敬＋一般財団法人森記念財団（学芸出版社）
・「都市づくり戦略とプロジェクトマネジメント」岸田比呂志・卯月盛夫（学芸出版社）
・「縮小まちづくりー成功と失敗の分かれ目」米山秀隆（時事通信出版局）
・「エリアマネジメント・ケースメソッド」(官民連携による地域経営の教科書）学芸出版社

【成績評価の方法と基準】
２つのテーマに関する提出レポート・発表により評価する．演習課題未提出者は評価対象外となるので要注意
レポート 85％
演習課題　15％
欠席４回以上は単位取得を認めない(評価Ｄ).

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から自治体の取り組むまちづくりについて実践的な講義を行う。（土屋）
NPO法成立以前から主にNPO支援分野で活動を続け、現在も複数のNPOで役員を務めている経験を活かし、実践知と最新動向を踏まえた講義を行う。（藤澤）
なお、質問等については、随時、メールで受け付ける。

【Outline (in English)】
【Course outline】 The aim of this course is to study on the town management, which is one of the policy for the creation of a sustainable city. This course deals with basic concepts of various domestic town management cases (including Nonprofit Organization as leaders), a problem and town planning method. It also enhances actual way of policy making through the course. Please refer to the schedule for detailed information.
【Leaning Objectives】
To acquire management method of citizen participation for urban development.
【Learning activities outside of classroom】
1. Review what was learned in the class.
2. Learning example of urban growing, and preparing report.
3. Browsing web page for further learning.
4. Complete exercises.
This class needs 4hours of preparation and reviewing for each content.
【Grading Criteria/Policy】
To be evaluated by a report and 3 exercises.
Report 85%
Exercises 15%

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

デザインスタジオ４

下吹越　武人、福留　愛、池田　賢、青木　弘司、野藤　優、津川　恵理

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、図面・模型の製作を通じて、具体的な課題に取り組み、設計のプロセスを体験的に学んでいく。また、グループ課題を通して、チームワークにおけるコミュニケーション能力を培う。

【到達目標】
・抽象的な概念を空間化する能力を養う
・想定される行動場面に対して適正な空間を作り出す技術を身につける
・空間的アイデアを構法計画に還元して検討する
・環境負荷低減の観点から建築を検討する
・空間の特徴を定性的・定量的に評価する技術を身につける
・敷地周辺地域の特徴を抽出しレイヤー的に理解する
・グループワークを効果的・効率的に行う方法を身につける
・空間を表現・伝達する技術を身につける

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎			◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
デザインスタジオ3に引続き、2つの設計課題を通じて、図面と模型による建築設計を学ぶ。第1課題はグループリサーチと設計を行い、第2課題は個人課題とする。毎週のエスキスから得られるフィードバックを積み重ねながら案を発展させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	・ガイダンス ・第1課題出題「現代建築ビジターセンター」 ・第2課題出題「都市の文化拠点」	・全体ガイダンス ・各課題説明、第1課題グループディスカッション
2	リサーチ中間報告	・各グループの進捗状況を発表 ・グループ間でリサーチ内容の共有化を図る
3	リサーチ発表	・リサーチ結果の報告および空間デザインの構想を発表
4	エスキース1	・模型、図面によるスタディチェック ・空間構想、イメージをスケッチや模型にまとめる コンセプトスタディ 配置・平面、断面検討
5	エスキース2	・デザインデベロップメント ・エスキースを図面にまとめる ・プレゼンテーション検討
6	合同講評会	・選抜者が自案の発表を行い、これを題材に共通の問題点などの講評を行う
7	企画のプレゼンテーション	・現地視察報告と提案及び企画シート作成
8	エスキース1	・構想案をつくる ・模型、スケッチによるスタディチェック
9	エスキース2	・エスキースを図面にまとめる ・平面、断面、スタディ模型
10	第2課題中間提出	・クラス発表および講評
11	エスキース3	・中間発表の講評をフィードバックし、案の更なる発展を試みる ・プレゼンテーションの検討
12	クラス内レビュー	・クラス内で発表を行い、設計内容やプレゼンテーションに対する最終チェックを行う
13	ファイナルレビュー	・第2課題の選抜作品の発表、講評 ・各スタジオの代表作品を持寄り、講評会を公開で行う
14	アフターレビュー	・クラス毎に作品のレビューを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・敷地に立ち、調査し考えを深める。
・スケールを与えてエスキースを重ね、思考の連続性にこだわる。―建築をまとめ上げる試行錯誤の繰り返し―
・適切な視覚的表現方法を探る。
・チーム内や友人とのディスカッションを重ね、提案の強度を高める。
・本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示する。

【参考書】
建築設計資料集成（丸善），建築製図(朝倉書店)，各種建築専門雑誌。

【成績評価の方法と基準】
エスキース・中間発表を踏まえた最終発表の成果作品を総合的に評価する。エスキースによる案の深化、発展度合いは重要な評価対象となる。
配分：第1課題30％、第2課題70％。合計100点満点中60点以上を合格とする。
4回以上の無断欠席は成績評価対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】
なし

【その他の重要事項】
現在活躍している一級建築士が、自身の経験を活かし建築設計に関する実習指導を行う。

【Outline (in English)】
In this course students will experience the process of design while developing their field of study, through the creation of diagrams and models. In addition, during group classes students will gain communication skills through teamwork.
[Learning Objectives]
By the end of the course, students should be able to do the followings:
・Cultivate the ability to spatialize abstract concepts
・Acquire techniques to create appropriate spaces for expected behavioral situations
・Think about space ideas by going back to architectural plans
・Consider architecture from the perspective of reducing environmental impact
・Learn how to qualitatively and quantitatively evaluate the characteristics of space
・Extract the characteristics of the area around the site and understand it hierarchically
・Learn how to do group work effectively and efficiently
・ Acquiring the ability to express and convey space
[Learning activities outside of classroom]
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than eight hours for a class.
[Grading Criteria /Policy]
Comprehensive evaluation of final presentation work based on esquisse and interim presentations. The degree of development of the design by Esquisse are important evaluation targets.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
First assignment: 30%、Second assignment : 70%
Four or more unexcused absences will not be considered for grade.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

デザインスタジオ５

下吹越　武人、山道　拓人、御手洗　龍、アリソン　理恵

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
3年AB期のデザインスタジオではA期とB期に分けて2つの課題に取り組む。A期は集住について、B期は次世代型図書館に関連したテーマを元に4ユニットからそれぞれ課題が出題され、スタジオワークにより少人数教育を行う（原則として各ユニット15人以下）。計画系分野のゼミナールを希望する学生は、履修しておかねばならない科目である。

【到達目標】
・コンセプチュアルに考える方法を身につける
・都市の成り立ちからコンテクストを読み取る技術を身につける
・都市の一部として建築を構想する
・社会的問題群を認識し，建築的回答を構想する
・デジタルツールの基本操作を身につける
・空間の特性をエンジニアリング的着想から創造する

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎			◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポロシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の概要＜1）デザインスタジオ5＋6の位置付け：「ポートフォリオの充実・卒業設計に連なるもの」デザインスタジオ5＋6はデザインスタジオ1から4で培われてきた建築設計の基本的な素養をさらに発展させるための科目である。したがって、将来建築設計の分野をめざす学生諸君はもとより他分野を志望する人も是非履修してほしい。（就職のための）ポートフォリオにいれることができるのは学部卒の場合3年生の作品までなので,今年度のきみの努力は（就職試験の選考過程で）君が社会からどう評価されるかにも決定的な意味をもつだろう。4年生には卒業設計という大きな関門が控えているが、大学3年でこの科目を履修せずに1年間のブランクをもつことは卒業設計という必修科目の履修には好ましくないのはいうまでもないことである。
2）これまでのデザインスタジオの評価が芳しくないという君へ：これまでのデザインスタジオで良い評価を受けていないからと言ってあきらめるのはまだ早い。たった2年間の試みで建築設計への自分の能力を判定してしまうのは早計である。異なった教師からは異なった評価を受ける場合もあるのだから、ここでもう一度「設計」に挑戦してみることで将来への展望が開けるかもしれない。ただし、自分の手を徹底的に動かさなくては優れた作品は生まれてこないという設計の永遠の真理は常に存在する。怠け者は上達しない。ちょっとセンスがいいだけでは直ぐ行き詰まる。毎週のエスキスの積み重ねが案を飛躍させる最良の策であることは言うまでもない。努力を惜しまない者しか残れないというのもまた確かである。
3）それぞれのユニット・インスタラクターによって敷地や課題の詳細は異なるから、自分が興味あるインストラクターについて自分の興味のある課題にチャレンジする機会が与えられる（ユニット選択は抽選になる）。各インスタラクターがそれぞれの課題の趣旨を説明するガイダンスには必ず出席すること。4人の建築家が掲げるテーマは建築界の今日的課題でもあるのだ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、第1課題出題、ユニット分け	・第１課題は「居住」をテーマとした複数課題から選択して取り組む。 ・事前調査のポイントやコンセプトの作り方などについて指導する。
2	第1課題：エスキース１	・事例研究、敷地調査についての発表と討議。敷地模型をグループで制作する。 ・各自がコンセプト、設計イメージを発表し、指導を受ける。設計イメージはビジュアルな表現で製作する。
3	第1課題：エスキース２	・イメージ模型を作成。敷地との関係性を検討すると同時に、プログラムの合理性についても確認する。 ・建物規模、ゾーニング、断面構成、動線計画の検討。
4	中間講評会	・平面図、断面図、立面図という基本図面を描いてみることで、コンセプトやイメージを具体化する。
5	第1課題：エスキース３	・中間講評会の指摘を踏まえたデザインの展開とその確認。 ・設計図面の正確な描き方を学ぶ
6	クラス内講評会	・クラス内で発表を行い、設計内容やプレゼンテーションに対する最終チェックを行う。
7	・全体講評会 ・第2課題出題、ユニット分け	・優秀作品の発表を通じてこれを題材に共通の問題点などの講評を受ける。
8	・関連特別講義 ・第2課題エスキース１	・事例研究、敷地調査についての発表と討議。敷地模型をグループで制作する。 ・各自がコンセプト、設計イメージを発表し、指導を受ける。
9	第2課題エスキース２	・イメージ模型を作成。敷地との関係性を検討すると同時に、プログラムの合理性についても確認する。 ・建物規模、ゾーニング、断面構成、動線計画、構造計画の検討。
10	・Pinboard Review ・中間講評会	・Pinboardを用いて、学生主体の第1課題講評会を行う。 ・図面と模型を用いて設計中の建物を説明することで、自分の設計アイデアに客観性をあたえる。
11	第2課題エスキース３	・中間講評時の講評を踏まえたデザインの展開とその確認。 ・詳細図と基本図の違いなどを学ぶ。
12	クラス内講評会	・クラス内で発表を行い、設計内容やプレゼンテーションに対する最終チェックを行う。
13	最終講評会	・優秀作品の発表を通じて、これを題材に共通の問題点などの講評を受ける。他学年の設計担当教員からも講評を受ける。
14	アフターレビュー	ユニット内で個別の作品に対する講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本学では大学院スタジオ以外は個人専用のデスクのある「スタジオ」型ではなく授業時に製図室で作業を行なう方式をとっているので、自宅での図面制作や模型制作は必須となる。
本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示。

【参考書】
建築設計資料集成（丸善），建築計画教科書、都市計画教科書（彰国社）。

【成績評価の方法と基準】
エスキース・中間発表を踏まえた最終発表の成果作品を総合的に評価する。毎週それぞれのスタジオインストラクターのもとでどのように作品制作に取り組んだかが評価の対象となる。
配分：第1課題50％、第2課題50％。合計100点満点中60点以上を合格とする。
4回以上の無断欠席は成績評価対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
3年生からは図面のCAD提出も認められるので、CADやCGの自己学習が求められる。

【その他の重要事項】
現在活躍している一級建築士が、自身の経験を活かし建築設計に関する実習指導を行う。

【Outline (in English)】
The 3rd year A/B semester Design Studio course is separated into A and B semesters. The theme of the A semester is “Collective housing + α”, while B is a centered around the theme “libraries of the future”, following the subjects introduced in Unit 4. Studio work classes will have a limited number of participants (as a rule no more than 15 per unit). Students who wish to attend seminars for project-based subjects must enroll in this course.
[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the followings:
・Learning how to think conceptually
・ Acquire the skill to read the context from the origin of the city
・Conceive architecture as part of the city
・Recognize social problems and conceive architectural solutions
・ Acquire basic operation of digital tools
・Creating spatial characteristics from engineering ideas
[Learning activities outside of classroom]
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than eight hours for a class.
[Grading Criteria /Policy]
Comprehensive evaluation of final presentation work based on esquisse and interim presentations. Each week, students will be evaluated on how they worked on their work under the discussion with each studio instructor.
Final grade will be calculated according to the following process First assignment (50%), Second assignment (50%).
Four or more unexcused absences will not be considered for grade.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

デザインスタジオ６

赤松　佳珠子、渡邉　健介、藤井　由理、平井　政俊

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
3年CD期のデザインスタジオはデザインスタジオの最終段階と位置づけられる。そのため建築だけでなく建築と既存の都市、建築とランドスケープなどのように建築と他分野との接点をもつような課題設定も含まれている。大きく前半と後半に分けているが、１学期間を通じてひとつの設計テーマを継続的に追求する。今年度は学校が周囲の地域の核となることを意図して、地域の拠点としての学校をテーマとする。ただしこの課題では自己の母校をテーマにするので個人ごとの問題解決が求められる。この学期ではスタディ模型やスケッチ作成によりザイン・コンセプトを短時間で作り出す能力を育成するだけでなく、正確な図面を描く方法や詳細図についても学ぶ。学生は自分の興味や関心に合ったクラスを希望選択することができる。クラス分けのあとではスタジオワークにより少人数教育を行う（各クラス15人以下）。計画分野のゼミナールを希望する学生は、履修しておかねばならない科目である。

【到達目標】
・社会的問題群を認識し，建築的回答を構想する
・地域の物理的・社会的資源を理解する.
・既存建築の機能を変更しプログラムを再編する技術を身につける
・環境の質を定量化し形態にフィードバックする
・配置やファサードデザインで環境負荷を低減する技術を身につける
・設計意図を的確に表現する技術を身につける
・短期間でアイデアを形にまとめる技術を身につける

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎			◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
●デザインスタジオ５＋６の位置付け：「ポートフォリオの充実・卒業設計に連なるもの」デザインスタジオ５＋６はデザインスタジオ１から４で培われてきた建築設計の基本的な素養をさらに発展させるための科目である。したがって、将来建築設計の分野をめざす学生諸君はもとより他分野を志望する人も是非履修してほしい。（就職のための）ポートフォリオにいれることができるのは学部卒の場合３年生の作品までなので,今年度のきみの努力は（就職試験の選考過程で）君が社会からどう評価されるかにも決定的な意味をもつだろう。４年生では卒業設計という大きな関門が控えているが、大学３年でこの科目を履修せずに１年間のブランクをもつことは卒業設計という必修科目の履修には好ましくないのはいうまでもないことである.
●これまでのデザインスタジオの評価が芳しくないという君へ：これまでのデザインスタジオで良い評価を受けていないからと言ってあきらめるのはまだ早い。たった２年間の試みで建築設計への自分の能力を判定してしまうのは早計である。異なった教師からは異なった評価を受ける場合もあるのだから、ここでもう一度「設計」に挑戦してみることで将来への展望が開けるかもしれない。ただし、自分の手を徹底的に動かさなくては優れた作品は生まれてこないという設計の永遠の真理は常に存在する。怠け者は上達しない。ちょっとセンスがいいだけでは直ぐ行き詰まる。努力を惜しまない者しか残れないというのもまた確かである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、課題説明、ミニレクチャー	・ガイダンス ・ミニレクチャー ・前半クラス分け
2	エスキス１	・学校事例研究１ ・敷地リサーチ及び分析
3	エスキス２	・学校事例研究２ ・敷地リサーチ及び分析
4	エスキス３	地域施設機能と学校の規模について
5	エスキス４	・全体の配置計画 ・新しい学校空間の可能性について
6	中間講評	・中間講評 ・後半スタジオクラス分け
7	エスキス５	・中間講評からの気づき、フィードバック ・設計スタディ１ ＝設計内容を俯瞰する
8	エスキス６	・設計スタディ２ ＝設計内容をより詳細に検証
9	エスキス７	・設計スタディ３ ＝設計内容をより詳細に検証
10	エスキス８	・設計スタディ４ ・設計内容の確定
11	・プレゼンテーションについてのレクチャー ・エスキス９	プレゼンテーションにあたってのコンセプトの表現法の研究。
12	スタジオ講評会	スタジオ内課題提出、発表、討論を行なう。全員発表し講評を受ける。
13	最終講評会	クラスの代表者が自案の発表を行ない、これを題材に共通の問題点などの講評を受ける。他学年の設計担当教員からも講評を受ける。なお、１月後半には４年生の卒業設計に関与する卒業設計演習を行なう。
14	ポストレビュー	再提出者及びヒハインド提出者の検収・指導を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本学では大学院スタジオ以外は個人専用のデスクのある「スタジオ」型ではなく授業時に製図室で作業を行なう方式をとっているので、自宅での図面制作や模型制作は必須となる。
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示。

【参考書】
建築設計資料集成（丸善），建築計画教科書、都市計画教科書（彰国社）など。

【成績評価の方法と基準】
エスキース・中間発表を踏まえた最終発表の成果作品を総合的に評価する。毎週それぞれのスタジオインストラクターのもとでどのように作品制作に取り組んだかは重要な評価対象となる。
４回以上の無断欠席は成績評価対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】
課題の前半と後半でスタジオ・インストラクターがチェンジすることで２名の教員の異なる視点と異なる教員から共通の評価があることを体験的に学んでほしい。主観的評価と客観的評価が同居するのが建築デザインの特徴なのである。

【学生が準備すべき機器他】
３年生からは図面のCAD提出も認められるので、CADやCGの自己学習が求められる。

【その他の重要事項】
DS6の作品は自分のポートフォリオにぜひ入れておきたい。卒業設計の前哨戦として重要なステップである。
実務経験との関係：担当教員は現役の建築家であり、一級建築士でもあるので、デザイン力の鍛錬だけでなく、建築士としての視点からも指導を受けることができる。

【Outline (in English)】
【Course outline】The design studio in the 3-year CD term is positioned as the final stage of the design studio. Therefore, it includes not only architecture, but also tasks that bring architecture into contact with other fields, such as architecture and existing cities, architecture and landscape, and so on. The course is divided into two parts, the first half and the second half, and students continuously pursue a single design theme throughout the semester.
This year's theme is the school as a hub of the community, with the intention of the school becoming the nucleus of the surrounding community. However, since the theme of this project is our own alma mater, we are required to solve problems on an individual basis. In this semester, students will not only develop the ability to quickly create a design concept by making study models and sketches, but will also learn how to draw accurate plans and details. Students can choose the class that best suits their interests. After class placement, students are taught in small groups through studio work (no more than 15 students per class). Students who wish to take a seminar in the planning field must take this course.
【Learning Objectives】
・Recognize social problems and envision architectural answers.

· Understand the physical and social resources of the community.
· To understand the physical and social resources of the community.
· Quantify the quality of the environment and provide feedback on form.
· To acquire skills to reduce environmental impact through layout and façade design.
· To acquire skills to accurately express the design intent.
· Acquire skills to put ideas into shape in a short period of time
【Learning activities outside of classroom】
The University uses a "studio" system where students work in the drafting room during class, rather than in a "studio" style with individual desks, except for the graduate studio, so students are required to make drawings and models at home.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
The final presentation of the work will be evaluated comprehensively, based on the esquisse and midterm presentations. How students work with their studio instructor each week is an important part of the evaluation.
More than 4 unexcused absences will not be graded.

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

建築材料

網野　禎昭

開講時期：**春学期前半/Spring(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基本的な建築材料の工学的特質はもとより、様々な建築材料が開発されるに至った歴史・社会的な背景、とくに各時代の資源事情などもあわせて解説する。また、この授業では、構法スタジオ１の演習課題を進める上で理解すべきコンクリート基礎や木造軸組構造、仕上工法についても講義する。

【到達目標】
建築材料に技術者として接するだけではなく、これまで諸文明が限りある資源をもとに建設され、数多の問題を乗り越えた結果として現代があるという事実を、現代文明の住人として捉える。実際の建物において建築材料がどのように使われているのか具体的に理解する。
Understanding the application of materials to buildings. Discussing the historical natural resource depletions to understand the importance of symbiosis between our civilization and natural resource application.

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
		○	◎		○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
主要建築材料の開発背景、加工製造方法、特性、そして、各材が応用された代表的な建築物を紹介する。また、現代で多用される材料については、建築物への応用上の留意点について重点的に解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コンクリート１	水硬性セメント・鉄筋コンクリートの発明、コンクリートの種類と基本特性
2	コンクリート２	鉄筋コンクリートの施工と管理、基礎工法
3	木材１	森林と林産業、木材の基本特性
4	木材２	木造軸組、木質材料、接合具
5	鋼・非鉄金属	製鉄のしくみ、鋼の基本特性、鋼の加工、鋼の腐食、鋼の生産、非鉄金属
6	断熱	断熱の原理、気体・固体・液体の熱伝導、各種断熱材、ガラスの断熱性
7	防水	防水材料、防水・防湿工法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で説明のあった建築材料の使われ方を、実際の建築物の観察により確認しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
Observe real buildings to review the application of building materials presented in the lecture.　Preparation for the lecture and the review requires two hours respectively.

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
「ぜんぶ絵でわかる１木造住宅」飯塚豊（エクスナレッジ）
「350万円で自分の家をつくる[改訂カラー版]」畠山サトル（エクスナレッジ）

【成績評価の方法と基準】
期末試験の結果（100%）
Evaluate the final exam result.
期末試験の得点60%以上を合格とします。
A passing score of the final exam is 60%or more.

【学生の意見等からの気づき】
実際の材料サンプルの活用。

【学生が準備すべき機器他】
特に使用しない。

【その他の重要事項】
建築設計に携わる教員が実務経験から得た最新の知見を織り交ぜた授業を行う

【Outline (in English)】
Starting with studies of fundamental engineering characteristics of architectural materials, students will understand the history/social background of various developed materials, particularly looking at information on resources in each period.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

施工管理

三上　孝明

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
施工管理とは、「工程管理」「安全管理」「品質管理」「原価管理」などの行為（四大任務）の総称である。将来どのポジションでキャリアを積むかに関わらず、建築業界に身を置く者にとって知っておくべき各種工事とその流れに沿って、材料、構造等にも触れながら「施工管理」と「建築施工」のポイントを解説する。
施工管理業務従事者（主に現場監督）が建築生産の中でどのように位置付けられ、その役割はどのようなものであるか概観することが出来る。また協業による「ものつくり」の視点を持つための知識の習得を目的とする。また、一級建築士試験に対応できる知識習得の目的も有する。

【到達目標】
大きく二つの目標を持つ。
① 施工管理の四大任務を理解し、管理におけるPDCAサイクルが概観出来る。
② 施工の流れを知り、各種工事の管理に必要な材料および構造知識を持った施工管理知識を得ることが出来る。
なお、建築物をつくるという目的は一つだが、「建築生産」における上流工程である「設計」と、下流工程となる「施工」では役割が異なる。この異なる役割から手戻り等、非効率的な現場運営となることが問題視さることがしばしばある。こうしたことの回避の為に、施工図の重要性に触れて建築生産システムにおいて何が必要であるか考察するきっかけを得ることが出来るようにする。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
		○	◎			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
対面授業の他、オンライン授業を第6講に行う。なお、全14回の講義とは別に建設現場調査リポート課題を設けている。講義中盤に設定しているが、学外調査となるため諸注意、調査方法等については調査事例を示したうえで別途指示する。
進め方の詳細は初回授業開始までにHoppiiの施工管理「お知らせ」「授業内掲示板」でも説明する。
授業資料は事前、事後に配布する。テキストと授業シートに必ず目を通して受講すること。
①事前配布資料
・テキスト　　：その日の講義テーマごとに公開（配布）する
・サブテキスト：基本的には講義毎に必要な場合の配布とするが固定的なものではない。テーマを超えてコマに関係なく配布する場合もある
＊授業シート　：その日の講義のアジェンダ/レジュメ
②授業時間内、もしくは授業日配布資料
＊カルテ（確認テスト）講義終了後に提出
③授業終了後配布資料
＊回答解説　講義終了後公開する・復習に利用する
1回の講義の流れは以下となる。
授業前【テキスト、授業シートの受理、予習】⇒　授業[pptによる授業]　⇒　授業後【カルテへの解答と提出】【解答解説の受理、復習】
■注意：Hoppiiへの公開資料、課題は公開期限を定めているため、締め切り後は開けなくなるので注意すること。なお、カルテ（確認テスト）（「教材」にも置くが、「課題」にて示し、そこで解答して提出となる）はその講義の終了10分前に公開してその日の23時50分に非公開とするため注意をすること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	施工計画・管理概説	日本の建設産業の概要と現状と今後について解説する。また、施工管理の四大任務である「工程管理」「安全管理」「品質管理」「原価管理」のアウトラインを知り、「請負」、「現場代理人」など施工管理に関わる基本用語の意味を理解する。なお「建築生産」における生産設計（施工図）についても触れる。 確認テスト１
2	品質管理（Q）	施工管理の四大任務（QCDS）の一つである品質管理とは何かを解説する。また、QC活動、ISO9000に触れながら、施工の品質管理の考え方とそのプロセス管理を理解する。 確認テスト２
3	原価管理（C）	施工管理に必要な経営の知識、原価管理の考えか方と手順並びに施工とVE（Value Engineering）の基礎知識を解説する。また、施工管理にける見積り、発注、請求、稟議、決裁などの用語を知り、原価管理のPDCAサイクルの大枠の流れと実行予算を中心とした管理の概要を理解する。 確認テスト３
4	安全管理（S）	施工管理の四大任務（QCDS）の一つである安全管理と、労務管理の概要を解説する。また、管理における新しい課題である環境問題についても解説する。 確認テスト４
5	工程管理（D）	工程管理とは何か、ネットワーク工程表等の工程表種類と基本的な用語を解説し、実務における工程管理の考え方を理解し、特に工事遅延が他の管理項目に及ぼす影響について実例を挙げて解説する。 確認テスト５
6	ネットワーク工程表と施工管理の四大任務のまとめ 中間試験	第5講で行ったネットワーク工程表作成演習の解説を行う。また、全5回の講義内容の理解度を確認するため、オンラインで中間試験を行う。

7	施工管理と施工計画 建築現場調査課題提示	着工前に必要な確認事項、準備工事の内容について解説し、工事期間、予算、安全等施工管理全般に大きく影響する「施工計画」の実例をもとに解説する。 確認テスト６ 建築現場調査課題提示（本回～次回にて）
8	仮設工事	施工効率、建物品質、安全などに影響する仮設工事について、たわみや座屈などの構造力学知識の必要性に触れ、仮設工事の概要を解説する。 確認テスト７
9	基礎・地下工事	杭、地盤改良などの地業工事、地下躯体工事のための土工事、山留工事など基礎工事および地下工事について解説する。 確認テスト８
10	鉄筋工事・型枠工事	鉄筋コンクリート構造の躯体工事における鉄筋工事について、鉄筋種類、発注方法、製品検査等、および組み方を実際の工事の模様を動画で示し、解説する。 鉄筋コンクリート構造の躯体工事における型枠工事について、一般的な型枠材料である型枠合板の組み方とその手順、および組み立てに必要な補助材料の種類と取り扱いと施工上の注意点を動画を交えて解説する。 確認テスト９
11	コンクリート工事の概要、材料と品質および品質管理	鉄筋コンクリート工事におけるコンクリート工事について概要とコンクリート材料の特徴と品質について、またその品質管理の方法を解説する。 確認テスト１０
12	コンクリート工事 打設	鉄筋が組まれ、型枠が組み上げられたのち、品質管理されたコンクリートを打ち込むが、打設の仕方の不備による不具合が生じる場合がある。不具合を起こさない打設方法について解説する。 確認テスト１１
13	鉄骨工事　鉄骨造の生産システムの特徴と鋼材種類とその特徴及び部材の接合	鉄骨造の施工の特徴は部材を組み上げる前の段階において建設現場以外で各部材を制作して現場に搬入される点にある。 ファブリケーターと呼ぶ生産業者への発注方法と制作における原寸チェック等その特徴を解説する。また、ファブリケーターによって制作された各部材の代表的接合方法を解説する。 確認テスト１２
14	その他の工事の紹介 施工管理について考える	施工管理における他の工事についてその種別を示す。 後半授業の重要ポイントについて見直しを行う。 確認テスト１３－１・１３－２（受講確認シート）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習は、授業開始前に配布する資料、特に授業シートにて講義を概観すること。
・授業は事前配布資料を投影して解説していくので予習を活かすこと。
・カルテの問題は授業の重要ポイントを示してあり、各自が授業時間外の復習に活用してもらうことを目的としている。各自の理解不足を発見して、配布された資料を再度見直すことで復習になる。授業毎に配布するので、その日のうちに再読して学習すること。
なお、カルテ（確認テスト）の提出は成績における平常点として扱う。
本授業の準備学習・復習時間は、各１時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
市販の教科書は使用しない。以下の４点を配布する。
① その日の授業シート
② オリジナルテキスト（A4版Wordテキストもしくは PPT プリントテキスト）
③ 確認テスト（指定時間内提出）
④ 確認テストの解答解説

【参考書】
以下資料を各自が適宜参考にすること。
① 国土交通省「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和４年版」WEB公開資料
https://www.mlit.go.jp/gobuild/kenchiku_hyoushi.html
② 構造用教材（日本建築学会）

【成績評価の方法と基準】
大きく二つの到達目標があるが、それぞれ独立したものではない。煩雑さを避けるため目標を区分している。それぞれの理解度を試験にて判断する。なお、履修判定にはカルテ（確認テスト）の点数は直接はカウントしない。しかし、平常点として配点する。
① 中間試験　施工管理の四大任務の理解
② 期末試験　各種工事と施工プロセスの理解
③ 平常点　　授業参加度と理解度
試験成績　70％　(中間試験＋期末試験)／２
平常点　　30％（出席率、カルテ提出率、建設現場調査課題提出、受講姿勢等）
＜成績評価＞
□不合格
　未受験・採点不可＝E　0～59点＝D
□合格
　60点～62点＝C-　63点～66点＝C　67点～69点＝C+
　70点～72点＝B-　73点～76点＝B　77点～79点＝B+
　80点～82点＝A-　83点～86点＝A　87点～89点＝A+
　90点～100点＝S

【学生の意見等からの気づき】
・履修判定基準に対する平常点の重要性の解説並びに中間・期末試験との関連を授業毎に注意喚起して目標達成の一助とする。
・講義中の学生への質問（指名想定として）は（事前整理）精査して行い、100分を有効に使うように過度の時間配分とならない様に注意する。（効果的な質問の精査と整理を行う）
・受講姿勢（態度）についての注意は過分にならないように適宜行い、スムーズな授業運営を心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】
・PC等端末機器
講義資料は授業支援システム（Hoppii）にて公開する。各自情報端末にて確認すること。

【その他の重要事項】
設計事務所経営経験を有する一級建築士が、設計監理の経験から建設業者との施工管理実務を通じて得た施工管理に必要な基本姿勢と、現在所属する「生産設計企業」での社員教育、また施工会社における安全大会等での講義経験を活かして「管理」のポイントを講義する。また、建築士受験関連参考図書の執筆経験から建築士試験受験要件を満たす最低限必要な知識を概説する。
・オフィス・アワーは、授業の前後に教室で質問を受け付けることを基本とするが、e-mailでも随時質問を受け付ける。
本科目は建築士試験受験認定に必要な「指定科目（建築生産カテゴリ）」の一つである。カテゴリ内での選択が可能な科目ではあるが受講可能な全学生が科目登録して全員が履修し単位を取得することが望ましい。充分な復習を行って中間テスト、期末テストに臨んでいただきたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】

Construction management is a general term for actions (four major tasks) such as "process control," "safety control," "quality control," and "cost control." Regardless of the position in which you will pursue your career in the future, those working in the construction industry will need to know about "construction management" and "architectural construction" by covering the various types of construction work and its flow, touching on materials, structures, etc. Explain the main points.
It is possible to get an overview of how construction management workers (mainly site supervisors) are positioned in construction production and what their roles are. The aim is also to acquire knowledge to gain a perspective on "manufacturing" through collaboration. It also has the purpose of acquiring knowledge to prepare for the Class 1 Architect Examination.
【Learning activities outside of classroom】
Have two major goals.
① To understand the four major duties of implementation management and to have an overview of the PDCA cycle in management.
② Be able to know the construction flow and acquire construction management knowledge with materials and structural knowledge necessary for the management of various construction works.
[Learning outside class hours]
The standard time for preparation and review is one hour each.
· For preparatory study, review the materials distributed before the start of class, especially class sheets.
· For review, find your lack of understanding in the confirmation test and review the distributed materials again.
【Grading Criteria /Policy】
There are two major goals, but they are not independent of each other. The goals are segmented to avoid clutter. Each level of understanding will be judged by examination. Please note that confirmation test scores are not directly counted in course registration. However, points will be allocated as normal points.
① Intermediate exam Understand the four major duties of construction management
② Final exam Understanding of various construction and construction processes
③ Normal score Class participation and understanding
Examination score： 70%(mid-term exam + final exam) /2
Normal score ：30%

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

木造建築の構法

網野　禎昭

開講時期：**秋学期前半/Fall(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、多数の伝統建築や現代の先端事例を多角的に分析し、木造建築の設計や開発に必要な知識を得ることを目的とする。

【到達目標】
日本、欧州の伝統構法のしくみを理解する。さらに、これら伝統構法の発展形としての現代の諸構法や、さまざまな工業化木質材料を活用した構法についても理解する。
Understanding traditional wooden building constructions in Japan and in Europe.　Understanding the evolution of constructions and contemporary varieties including industrialized building systems.

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	◎	○		◎		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
各回、実際の木造建築事例をとりあげ、これらを建築設計、構造設計、物理設計、生産施工計画等の諸側面から総合的に分析する。標準的な構法よりも、よりイノベイティヴな実例の解説に重きをおき、学生諸氏の創造力を刺激する考えである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	民家１	地域性と木造民家の形- 日本
2	民家２	地域性と木造民家の形- 欧州
3	民家３	地域性と木造民家の形- 欧州
4	歴史的木橋１	グルーベンマン、パラーディオの橋他、産業革命以前の木橋
5	歴史的木橋２	グルーベンマン、パラーディオの橋他、産業革命以前の木橋
6	現代の木橋１	木造エンジニアによる木橋
7	現代の木橋２	木造エンジニアによる木橋
8	現代の木橋３	木造エンジニアによる木橋
9	塔	Gliwice, Pyramidenkogel, Sauvabelin, Korkeasaariの各塔他
10	大型スパン建築１	梁架構、方杖架構、アーチ、トラス、張弦梁等、様々なフレーム・システム
11	大型スパン建築２	折板、吊屋根、シェル等、様々な面構造システム
12	非戸建木造１	木造集合住宅
13	非戸建木造２	木造によるオフィス、学校建築などの最新実例
14	木造研究	低質木材の活用 木質コンポジット材 非木材林産資源による建築

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
木造建築の挙動を実感するために、「壁－１グランプリ」の見学あるいは参加を勧める。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
Observing “Kabe-1 grand prix” is recommended to understand the behavior of wooden structures.　Preparation for the lecture and the review requires two hours respectively.

【テキスト（教科書）】
特に使用しない

【参考書】
Timber Construction Manual

【成績評価の方法と基準】
期末試験結果（100％）による
Evaluate the final exam result.
期末試験の得点60%以上を合格とします。
A passing score of the final exam is 60%or more.

【学生の意見等からの気づき】
写真や図版などの映像資料の質の充実
教員による実作の詳細解説

【学生が準備すべき機器他】
特に使用しない

【その他の重要事項】
建築設計に携わる教員が実務経験から得た最新の知見を織り交ぜた授業を行う

【Outline (in English)】
This course aims to provide the knowledge required for the designing of wooden structures, analyzing a range of diverse traditional and cutting-edge modern construction examples.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

空間の構造デザイン

浜田　英明

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
構造は建築に力学的安全性を与えると同時に、建築の造形とも大きく関わっている。また、建築構造を理解するには、解析・計算によるアプローチの他に、構造を概念として把握する必要がある。この授業では、様々な構造システムの発想と歴史的変遷、力学的メカニズム、造形上の問題、具体的実現例などを解説し、建築空間における構造デザインの意味についての理解を促す。

【到達目標】
建築物の基本骨格となる様々な構造要素および構造システムの概念をスケッチや図式等を用いて具体的に記述・表現できる程度の、建築家としての基礎的な素養を身につけることを目標とする。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎		○		○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
テキスト「建築構造のしくみ」に従い、基本的には数式を一切使用することなく、さまざまな建築構造要素・システムについての基本概念を段階的に述べ、それらを応用した構造デザイン例を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	梁と柱（1）	梁の発生、梁のメカニズム、梁の種類と諸形式
2	梁と柱（2）	梁と柱の構造、マグサ構造、ラーメン構造
3	トラス（1）概説	トラスの原始的発想と現代的発想、迫り持ちトラスと梁トラス
4	トラス（2）メカニズム	迫り持ちトラスのメカニズム、梁トラスのメカニズム、ヒンジ、2次応力、不静定トラス
5	トラス（3）諸形式	平行弦トラスと小屋組トラス、ハウ、プラット、ワーレン、タウン、キングポスト、橋梁トラス
6	アーチ（1）概説	アーチの出現、組積アーチ、ヴォールト、スラスト
7	アーチ（2）メカニズム、諸形式	荷重支持のメカニズム、アーチの形状と荷重、静定・不静定アーチ、アーチの安定
8	ドーム（1）概説	アーチとドーム、パンテオン、組積ドームの発展
9	ドーム（2）メカニズム	球殻、経線応力、緯線応力、古代ドームと近代ドーム、テンショングリング
10	シェル構造	曲面の分類、EPシェル、HPシェル、シェルのメカニズム、膜応力、応力撹乱
11	スペースフレーム	スペースフレームの定義、大量生産、骨組パターンの構成、ジオデシックドーム、B.フラー、均質立体骨組、ジョイント
12	ケーブル構造	ケーブル構造の原理、1方向、2方向、放射方向、吊りケーブル、押えケーブル、コンプレッショングリング
13	膜構造	膜構造、空気膜構造の原理、エアドームとエアアーチ、サスペンション膜、骨組膜
14	タワーと超高層建築 耐震・免震・制振	タワーの変遷と構造システム，超高層建築の変遷と構造システム、耐震、免震、制振

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で紹介された模範的構造デザイン例の見学あるいは建築雑誌等からの資料収集を行う。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
川口衞 他：建築構造のしくみ　力の流れとかたち　第2版（建築の絵本），彰国社

【参考書】
授業内で適宜指示をする。

【成績評価の方法と基準】
評価項目：配分（評価基準等）
演習課題：40％（A～Dの4段階評価で,未提出はD評価）
定期試験：60％（試験の際，各自A4用紙1枚にまとめた直筆メモの持ち込みを許可する）
なお，５回以上欠席したものは成績評価しない
評価素点100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
模型を使用した説明の割合を増やす。

【その他の重要事項】
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
At the same time as lending mechanical stability, structure is strongly related to a building's form.　In order to understand building structure, in addition to approaches through analysis and calculation, comprehending structure as a concept is important.　This course will develop understanding of the meaning of structural design in construction space through elucidating the concepts and historical transitions of various structural systems, mechanisms, problems related to form and solutions of real world problems.
Learning Objectives:
The goal of this course is to provide students with the basic architectural knowledge to the extent that they can describe and express the various structural elements and structural system concepts that form the basic framework of buildings using sketches, diagrams, etc.
Learning activities outside of classroom:
Students will observe exemplary structural design examples introduced in class or collect materials from architectural journals.
Standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the results of exercises and periodic examinations.　Students who are absent three times in a row or five times or more in total will not be graded.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

鉄筋コンクリートのデザイン

浜田　英明

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
鉄筋コンクリート構造に関して，その特性および基本理論，構造設計手法，最新の技術動向について学ぶ。

【到達目標】
基本的な専門用語，コンクリートおよび鉄筋の性質を整理した上で，鉄筋コンクリート構造を含む各種コンクリート系構造の原理を理解すること，鉄筋コンクリート部材の曲げおよびせん断挙動を把握すること，鉄筋コンクリート部材の構造設計の基本的な考え方を修得すること，この3点を目標とする。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
○			○		○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
鉄筋コンクリートは，現在極めて広範囲に使用されている建築主要材料であり，圧縮には強いが引張に弱いコンクリートを，引張に強い鉄筋で補強した複合材料である。
この授業では，まず，鉄筋コンクリートの主要材料たりうる長所と注意すべき短所について整理する。その後，複合材料としての基本的な力学理論および設計手法について解説していく。
理解の定着を図るために，演習課題や演習・復習授業を適宜実施する。
また，鉄筋コンクリート構造以外の各種コンクリート系構造についても解説し，最新の技術動向について触れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	鉄筋コンクリート概論	授業ガイダンス 鉄筋コンクリートの原理と特徴 コンクリート系構造の基礎知識
2	コンクリートの性質	コンクリートの種類， 応力－ひずみ曲線， 強度，その他の性質
3	鉄筋の性質 鉄筋とコンクリートの付着	鉄筋の種類，強度， 応力－ひずみ曲線 鉄筋とコンクリートの付着のしくみ
4	鉄筋コンクリートの力学の基本概念	曲率と平面保持仮定 中心軸圧縮柱の応力計算 付着・定着と配筋の原則
5	梁部材の曲げ設計1 （ひび割れモーメント，許容曲げモーメント）	無筋梁の曲げ挙動 単筋梁の曲げ挙動 複筋梁の曲げ挙動 釣合鉄筋比
6	梁部材の曲げ設計2 （終局曲げモーメント，曲げ変形能力）	単筋梁，複筋梁の終局曲げモーメント モーメント－曲率曲線
7	柱部材の曲げ設計1 （ひび割れモーメント，許容曲げモーメント）	無筋柱の曲げ挙動 鉄筋コンクリート柱の設計基本式 N-M相関曲線
8	柱部材の曲げ設計2 （終局曲げモーメント，曲げ変形能力）	終局曲げモーメント Nu-Mu相関曲線 柱の変形能力に関わる要因
9	演習および復習	梁・柱部材の曲げ設計演習 専門用語の整理 ひび割れと配筋方法
10	鉄筋コンクリート部材のせん断挙動	せん断破壊形式 せん断力の伝達メカニズム せん断補強筋の役割
11	梁・柱部材のせん断設計	せん断補強設計の要点 梁・柱の許容せん断耐力 設計用せん断力
12	柱梁接合部のせん断設計	柱梁接合部の種類 接合部まわりの応力状態 柱梁仕口部の設計
13	スラブの設計 壁部材の設計	スラブの種類と力学 スラブの応力計算 たわみと振動障害 耐震壁の役割と力学 許容応力度設計 終局強度
14	各種コンクリート系構造と最新の技術動向	コンクリート系構造の種類 プレストレストコンクリートの特徴と原理 最新の技術動向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書等による予習と授業後の復習，宿題の演習課題，これらに積極的に取り組むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で印刷物を適宜配布するが，下記参考書のうち，自分に合ったものを一冊購入することを勧める。

【参考書】
谷川恭雄 他：鉄筋コンクリート構造　理論と設計，森北出版
市之瀬敏勝：鉄筋コンクリート構造，共立出版
福島正人 他：鉄筋コンクリート構造，森北出版
西谷章：鉄筋コンクリート構造入門，鹿島出版会
日本建築学会：鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説2010，丸善

【成績評価の方法と基準】
評価項目：配分（評価基準等）
演習課題：40%（A～Dの4段階評価で，未提出はD評価）
定期試験：60%（試験の際，各自A4用紙1枚にまとめた直筆メモの持ち込みを許可する）
なお，5回以上欠席したものは成績評価しない。
評価素点100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
板書を消すまでの時間をもう少し長くするとともに，学生が説明を十分聞けるように時間配分を調節する。

【その他の重要事項】
この授業とともに「材料のデザイン」「構造計算プログラミング」「エンジニアリングスタジオ」を履修することでさらに理解が深まるので，その履修を強く勧める。
また，建築士資格の取得を目指す学生は受講することを勧める。
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
In this course students will learn about reinforced concrete structure, including their characteristics and fundamental theory, structural planning process and recent technological developments.
Learning Objectives:
The objectives of this course are threefold: to understand the principles of various concrete structures including reinforced concrete structures, to grasp the flexural and shear behavior of reinforced concrete members, and to master the basic concepts of structural design of reinforced concrete members, after organizing basic terminology and the properties of concrete and steel bars.
Learning activities outside of classroom:
Students are expected to prepare for the class by using reference books, review after class, and actively work on homework exercises and assignments.The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the results of exercises and periodic examinations. Students who are absent three times in a row or five times or more in total will not be graded.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

構造計算プログラミング

浜田　英明

開講時期：**秋学期前半/Fall(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
表計算アプリケーションソフトを用いてプログラミングを行い，構造計算方法およびプログラミング技術の修得を授業テーマとする。

【到達目標】
表計算アプリケーションソフトでのプログラミング演習を通して，1)鉄筋コンクリート（RC）造の柱・梁部材の断面検定方法を理解すること，2)基本的なプログラミング技術を修得すること，3)表計算アプリケーションソフトの扱いに慣れ，論文作成等での応用力をつけること，これら3点を目標とする。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
			○		○	○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
これまでの授業で鉄骨造や鉄筋コンクリート造の構造計算について一通り学習してきたことを，今度はコンピュータにプログラミングという形で学習させて，構造計算させる方法について学ぶ。
コンピュータは大量のデータを瞬時に正確に処理してくれるが，正確にプログラムを記述しなければ，正解を導いてはくれない。
「コンピュータに学習させる」ことを通して，鉄骨造や鉄筋コンクリート造の構造計算に対する自分自身の理解の深化と復習を図る。
また，表計算アプリケーションソフトの扱いについて慣れ，論文作成等に応用できるようになることも目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Excelマクロ(VBA)の基本的な使い方	コンピュータ言語 アルゴリズム，プログラミング Subプロシージャ，Functionプロシージャ For Next文，If文
2	演習課題1	Subプロシージャ，Functionプロシージャを用いた例題の演習
3	ユーザーフォームの利用と鋼材断面性能の算出	ユーザーフォーム 鋼材断面性能
4	演習課題2	ユーザーフォームを用いた鋼材断面性能算出アプリケーションの作成演習
5	RC梁の断面検定方法の復習 （曲げに対する断面検定）	鉄筋，コンクリートの許容応力度 曲げに対する断面検定の復習
6	Excelによるグラフの作図 演習課題3	グラフ作図演習 RC長方形梁の許容曲げモーメント算出プログラムの作成
7	RC梁の断面検定方法の復習 （せん断に対する断面検定）	せん断に対する断面検定の復習
8	演習課題4	RC長方形梁の許容せん断力算出プログラムの作成 長方形梁の断面検定シートの作成
9	RC柱の断面検定方法の復習 （軸力と曲げ，せん断に対する断面検定）	軸力と曲げに対する断面検定の復習 せん断に対する断面検定の復習
10	演習課題5	RC長方形柱の許容曲げモーメント算出プログラムの作成 RC長方形柱の許容せん断力算出プログラムの作成 長方形柱の断面検定シートの作成
11	人工知能による構造設計	最適化アルゴリズムによる構造設計
12	演習課題6	トラス断面の最適化 人間による構造設計 最適化アルゴリズムによる構造設計
13	コンピュータの発展と人類	建築構造設計におけるコンピュータの利活用とその弊害 今後に向けて まとめ，総括
14	小レポート	総括レポートを各自作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書やノート等による予・復習や宿題の演習課題，これらに積極的に取り組むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で印刷物を適宜配布するが，Excel VBAに関する書物のうち自分に合ったものを一冊購入することを勧める。

【参考書】
日本建築学会：鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説2010，日本建築学会（丸善）
日本建築学会：鋼構造設計規準－許容応力度設計法－，日本建築学会（丸善）
その他，「鋼のデザイン」および「鉄筋コンクリートのデザイン」の授業で使用したテキストやノート

【成績評価の方法と基準】
評価項目：配分（評価基準等）
演習課題：100%（授業内で指示された演習課題に対する作成状況）
なお，5回以上欠席したものは評価しない。
評価素点100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
情報教室の機器

【その他の重要事項】
この授業は「鉄筋コンクリートのデザイン」と密接な関係があるため，先にその履修をしておくことを勧める。
また，「鋼のデザイン」とも関係が深いため，同時に履修することを勧める。
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
This course provides students with skills in structural calculations and programming via an introduction to programming using spreadsheet software.
Learning Objectives:
Through programming exercises using spreadsheet application software, the objectives of this course are: 1) to understand the cross-sectional verification method of reinforced concrete (RC) column and beam members, 2) to master basic programming techniques, and 3) to become familiar with the use of spreadsheet application software and to develop application skills for writing papers, etc.
Learning activities outside of classroom:
Students are expected to prepare for and review the course using reference books and notebooks, and to actively engage in the homework exercises and assignments.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the results of exercises.

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

設備入門

石川　裕司

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
建築設備は、生活に不可欠な「水・空気・電気」を自然環境と人工環境を加減・融合し、適切な室内環境を創ることである。それと同時に居住性の良し悪しから建物の評価を大きく左右する要素でもある。太古の昔から人は水辺に居を構え集落を造り、時の経過、更に時代の変遷と共に、利便性・快適性を追求し、人為的に室内環境の創造と調整を行ってきた。将来も技術の進歩につれてこれが継承されて行かなくてはならない。これらのことを、建築設備の学習テーマとし授業を進める。

【到達目標】
＜授業の到達目標＞
建築設備の学習項目である、「①空気調和・換気設備、②給排水・衛生設備、③電力・通信情報設備」のうち、適切な室内環境を創る「①空調・換気」と生命の根源である「②の水（給排水）」と利便性の代表である「③の電気（あかりと動力及び通信情報）」について学習する。将来を担う建築技術者としての基礎知識を身につける。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
			○	◎		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
「本授業は、対面授業を基本として、実施を予定しています。」
変更等があった場合には、履修本登録期間までにデザイン工学部事務より、Web掲示板でお知らせいたします。Web掲示板を随時ご確認ください」
＜授業の概要＞
授業は、前述の「授業の到達目標及びテーマ」と後述の「授業計画」の表に沿って実施するものとする。但し授業の内容は、時代のニーズ並びに、技術の進歩により変更する場合もある。
＜授業の方法＞
授業でデータ等を確認する必要上、テキストを使用するが、進め方として画像や映像（PPT又はDVD等）を主に使用し、目からの情報を重視した方法をとる。一方、授業の要所要所で、学生のレベル向上と、学生・教員相互による授業内容理解度効果確認のための、時間内演習テストを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	建築設備ガイダンス	（建物に絶対必要） ・身近な物から考える建築設備 ・水・排水 ・電気 ・空調・換気
2	建築設備 給水設備	（設備て何） ・設備の歴史（必要から生まれた人工的環境の創造。現在に受け継がれる古人知恵） （安全な水） ・水の基礎的知識 ・生活と水 ・給水・給湯計画法 ・給水方式と系統 ・水系汚染防止等
3	給湯設備 ガス設備	（安全で便利な湯・ガス） ・湯・ガスの基礎知識 ・生活と湯・ガス ・給湯方式と系統 ・安全対策等
4	排水設備 衛生器具設備	（どこに流れる） ・排水、通気方式と系統 ・排水トラップ ・雨水 （きれいな排水） ・汚水処理 （安全・きれいな） ・衛生器具の発展
5	電気設備	（ビルの電気） ・電気の基礎知識
6	照明設備	（いろんな灯り） ・照明の基礎 ・照明計画法 ・ＬＥＤ、Ｈｆ蛍光灯 ・明視照明と雰囲気照明 ・システム天井照明 ・照度計算
7	防災設備・消火設備	（火事だ） ・自動火災報知と避難（火の消し方） ・消火の原理 ・消火方式・基礎
8	監視・制御	（室温一定） ・制御機器の種類 ・中央監視設備の概要 ・ＢＥＭＳについて
9	空気調和設備	（快適・不快） ・室内環境維持 ・空気の性質 ・空気の状態変化
10	熱負荷の種類	（室温と外気温） ・室内外条件 ・負荷の種類 ・熱負荷計算
11	空調方式・熱源方式	（室を冷やす、暖める） ・空調機器 （冷水・温水を作る） ・ビル用一般冷温熱源
12	空気搬送設備・水搬送設備	（空気で快適） ・ダクト設備 （冷水・温水で快適） ・配管設備
13	換気・機械排煙と防煙	（空気は汚れる） ・空気清浄度保持のための換気計算法 （火災と避難） ・排煙方式と目的
14	エネルギー消費	（省エネ） ・省エネルギーと設備 ・ビル消費エネルギーと地球温暖化 ・省エネルギー計算法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習
１．既存の身近な建物の環境・設備をよく観察することから始まる。
２．家族を含めた学生諸氏の生活状態を自己観察する。
例えば、水の使用状況や使用する時間帯、照明の点灯・冷暖房の使用状態の把握…。
３．学内や、常に利用したり、又は利用した学外諸施設（駅・ホテル・劇場・店舗・病院…）の環境・設備関連項目の観察と、利用しているヒトの行動や観察。
４．上記の気付き項目を、ランダムでも良いから、図や寸法を交え忘れずにメモにしておく。

【テキスト（教科書）】
最新　建築設備工学　改訂２版（井上書院）　監修：田中俊六・著者：宇田川光弘他4名。3520円
必要に応じプリントを配布。

【参考書】
『図説　やさしい建築設備』著者：伏見建、朴賛弼、2800円
『最新　建築環境工学』（井上書院）　監修：田中俊六・著者：田尻他5名。3000円

【成績評価の方法と基準】
成績評価に関して、
定期試験成績を最重点基準事項とする。
評価基準は、小テスト・レポートの出題回数により変動するが、、以下の各項についてポイントの加減を行う。
①期末試験（60％）小テスト・レポート（30％）平常点（10％）により評価する。
②平常点評価（授業態度・遅刻・早退）特別の事情がない限り、これは大きな減点対象となる。
③時間内テストなどで不正行為があると認めた場合には、当然単位は与えない。定期試験同等と心得られたい。
④学生諸氏が、TAを含む教員との間に万一不信行為があった場合は、各種不正行為を含め単位は与えない。

【学生の意見等からの気づき】
授業中の、小テストやレポート課題を取り入れて、計算関係の理解度を深める。その他は、前年同様の授業の進め方、評価等の方法を踏襲する。但し、授業内容は、システムでは省エネの重要性、機器類では、CGS(Co-Generation System)、Hf蛍光灯、LED燈等、時代の流れ並びに、技術の進歩に沿って前年とは大きく異なることもある。

【学生が準備すべき機器他】
テキスト（教科書）は、授業中は持参すること。又、必要に応じて計算問題を行うに当たって電卓・定規・色鉛筆（ボールペン）等を持参すること。

【その他の重要事項】
建築技術者としての基礎知識を身につけるため履修の推奨する。又、建築設備の科目の対象とするものは、建築設計・工事監理等の業務に関する知識、能力の養成に資するものである。
現役の建築設備設計者としての経験を持つ教員が、その経験を活かして講義する。
また、授業の前後あるいはe-mailで随時質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
Course outline
In this course, students will be introduced to "water, air, and electricity," which are essential to life.
The goal of this course is to acquire the basic knowledge as a building facility engineer.
It begins with a careful observation of the environment and facilities of the existing building.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%、Short reports : 30%、in class contribution: 10%

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

建築デザイン論 1

下吹越　武人、今村　創平

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近現代建築のデザイン潮流を建築家の思想や作品、近代都市計画や現代都市理論を通して学びます。代表的な建築家や作品、論考を学ぶことに加えて、その社会的背景、それらを支える都市理論について考察します。

【到達目標】
近代および現代はどのような時代であり、そこにいる私たちはどのような存在であるのか。建築家は何を生み出し、私たちはどのようにして都市に住むのか。
近現代の建築の多様な表現と思想を学び、現代都市の状況と課題を理解し、それを自らの創作や思考の糧とすることを目標とします。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	◎			◎		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は毎回主題を掲げて講義を行います。前半は建築デザインとその理論について、後半は都市理論が主題となります。レポート課題について授業内で適宜指示があり、授業内でフィードバックも行います。また、授業のなかで参考図書を紹介しますので、興味のある学生は購入して学習することを勧めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 法政建築について	授業内容の説明 大江宏の作品と「アーキテクト・マインドとは何か？」の読解を試みる
第2回	抽象と日常	篠原一男と坂本一成の作品と著作を中心に住宅から建築を思考することの意義と可能性を探る
第3回	建築の公共性	山本理顕、伊東豊雄、槇文彦の作品と著作から建築と社会の関係性について思考する
第4回	建築の自律性 ［研究発表１］	磯崎新による実践を通して建築による自律的、批評的な試みを横断する
第5回	風土の継承、場所性の回復 ［研究発表２］	批判的地域主義を学び、アルヴァ・アアルトとアルヴァロ・シザの作品を読み解く
第6回	［研究発表３］	レポート発表をベースに現代建築の展望をディスカッションする。
第7回	［研究発表４］	レポート発表をベースに現代建築の今日的課題をディスカッションする。
第8回	近代都市への変貌、近代都市計画	近代初頭の都市改造： ロンドン、交通の拡張、都市の膨張、田園都市 パリ（オスマン）、バルセロナ（セルダ）　など
第9回	近代都市計画とその限界	ジードルング（ドイツ） ル・コルビュジエ：輝く都市 CIAM 近代都市計画 TEAM Xの批判、ポストモダニズムによる批判
第10回	丹下健三とメタボリズム	東京の変遷 廃墟と瓦礫 明治の東京計画、関東大震災復興計画、同潤会 丹下健三　広島、東京計画1960 メタボリズム
第11回	前衛的都市ヴィジョン、都市の理論	アーキグラム、アーキズーム、シチュアシオノニスト アレグザンダー「都市はツリーではない」 コーリン・ロウ「コラージュシティ」
第12回	都市と文脈	アルド・ロッシ「都市の建築」 陣内秀信「東京の空間人類学」、イタリア都市研究 ヴェンチューリ＆スコットブラウン「ラスベガス」
第13回	レム・コールハースと現代都市	「デリリアス・ニューヨーク」/ニューヨークの歴史 レム・コールハウスの現代都市批判 グローバルシティ
第14回	今日の都市空間の課題	都市空間におけるパブリック/コモン 商業空間と現代都市 情報都市

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業のなかで参考図書の紹介を行うので、あなたが関心を持った本を熟読することを勧めます。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『現代都市理論講義』今村創平　オーム社

【参考書】
『住宅の空間原論』遠藤政樹＋小泉雅生＋佐藤光彦＋下吹越武人　彰国社
『住宅論』篠原一男　SD選書
『住宅に内在する言葉』坂本一成
『『権力の空間／空間の権力』山本理顕　講談社
『風の変様体』伊藤豊雄　青土社
『漂うモダニズム』槇文彦　左右社
『建築の解体』磯崎新　鹿島出版会
『現代建築史』ケネス・フランプトン　TOTO出版
『錯乱のニューヨーク』レム・コールハース　筑摩書房
『都市のエージェントはだれなのか』北山恒　TOTO出版
『東京の空間人類学』陣内秀信 ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】
前半部（1－7回）は2回のレポート(37.5%)と研究発表(12.5%)により評価、後半部（8－14回）は毎回のミニレポートにより評価(50％）を行う。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
デザインスタジオのエスキスに関連付けられるように、問題意識を持って受講すること。

【学生が準備すべき機器他】
研究発表の際はPCを持参すること。

【その他の重要事項】
一級建築士として豊富な実務経験を有する教員が、知識・理論と実践の橋渡しをする授業を行う。

【Outline (in English)】
This course will deal with subjects on representative modern and contemporary architectures and architects, and modern urban planning and contemporary urban theories.
[Learning Objectives]
What kind of era is the modern and the present age, and what kind of existence are we in it? What do architects create and how do we live in cities?
The goal is to learn the diverse expressions and ideas of modern architecture, understand the situation and issues of modern cities, and use them for your own creation and thinking.
[Learning activities outside of classroom]
Reference books will be introduced in class, so we recommend that you carefully read the books that interest you.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following,
the first half (1-7 times); two reports(20%) and reserch puresentation (30%)
the second half (8-14 times); short reports by each times (50%)

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

建築デザイン論２

赤松　佳珠子、山道　拓人

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
建築デザイン論1で修得した近現代建築や近代都市計画、現代都市理論をベースに、より具体的な事例を通して知識を深めます。授業を担当する教員が実務を通して得た知見から、より実践的なアプローチ・思考能力を養う方法論を学びます。

【到達目標】
少子高齢化、情報化社会に加えて新たな感染症が一瞬にして世界的流行となるなど、現代社会はめまぐるしい速度で変化しています。都市や地方に於けるコミュニティの在り方や日常生活、働き方、学校に於ける学びなど多くの価値観の変容が迫られている中、実践的な取り組みを学ぶことで、自らの設計手法の幅を広げると共に、デザインに対する思考を深めることを目標とします。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	◎			◎		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は毎回主題を掲げて講義を行います。前半は都市、地域と公共建築の実践について、後半は市民活動や民間の実践が主題となります。レポート課題や簡単な復習小試験など授業内で適宜指示があります。また、授業の中で参考図書の紹介を行いますので、興味のある学生は購入して学習することを勧めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／設計とは	授業の紹介／ 社会に於いて設計者が果たすべき役割と建築の構想・企画から竣工するまでの流れに於ける設計者の位置づけ
2	地域と学校1	地域における学校の役割、地域に開かれた学校について
3	地域と学校2	地域施設と複合化された、地域の拠点となる学校建築について
4	コミュニティと公共空間	地域のコミュニティと公共空間を考える
5	建築設計のプロセス	建築設計のプロセス
6	行政と公共建築	自治体に於ける公共建築の議論について
7	都市と建築	都市のコンテクストと建築の関係性を考える
8	セルフビルド	「セルフビルド」を介した社会構築や公共性について
9	パブリック	公共的空間」を支える建築と福祉に繋がる実践について
10	ケア	「福祉」の系譜と、地域に開く福祉的実践について
11	シェア	建築を地域に開く「シェアスペース」と活動について
12	マネジメント	活動が持続するための「マネジメント」について
13	ハウスメーカー	「商品化住宅」の歴史と建築家とのコラボレーションについて
14	コラボレーション	設計者との「コラボレーション」や、ソーシャル・テクトニクス・デザインについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業のなかで参考図書の紹介を行う。興味のある学生は購入して学習することを勧めます。
本授業の準備学習・復習時間は2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書の指定は特になし

【参考書】
『PUBLIC PRODUCE 「公共的空間」をつくる7つの事例』
西田司、山道拓人他 ユウブックス
『シェア空間の設計手法』猪熊 純, 成瀬 友梨, 山道拓人他　学芸出版
『クロノデザイン-空間価値から時間価値へ-』内藤廣編／彰国社
『学校建築ルネサンス』上野淳　鹿島出版会
『SHIBUYA』ハーバード大学院生が10年後の渋谷を考える
ハーバード大学デザイン大学院／太田佳代子　　CCCメディアハウス
『楽しい公共空間を作るレシピ』プロジェクトを成功に導く66の手法
平賀達也・山崎亮・泉山塁威・樋口トモユキ・西田司　編著　ユウブックス
『都市理解のワークショップ－商店街から都市を読む－』
九州大学大学院アーバンデザイン学コース編　　九州大学出版会

【成績評価の方法と基準】
レポート60%、授業の取り組み40％として採点する。
なお、はなはだしく類似した内容のレポート，授業に欠席したのに提出されたレポート（授業欠席に関しては、病気などやむを得ない事情によるものと教員が認めた場合のみ、別テーマのレポート提出で代替する場合もある。その場合は診断書の提出などを求める場合がある）は単位取得不可となる.

【学生の意見等からの気づき】
デザインスタジオのエスキスに関連付けられるように、問題意識を持って受講すること。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用するため、情報機器を持参すること。

【その他の重要事項】
一級建築士として実務経験を有する教員が、知識・理論と実践の橋渡しをする授業を行う。

【IAEサーバー／Hoppiiの活用】
課題の提出はＩＡＥサーバーもしくはHoppiiのいずれか（教員からの指示）により行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Students will deepen the perspective thorough the examples and case studies based on the knowledge of modern architecture, city planning and modern city theory in Architecture Design Theory-Ⅰ. From the professor's view which got various experiences, students can learn how to develop the more practical approach and thinking ability.
【Learning Objectives】
Modern society is changing at a dizzying pace, with a declining birthrate, an aging population, an information-oriented society, and new infectious diseases becoming global pandemics in an instant. As we are forced to change many values, such as the nature of communities in urban and rural areas, daily life, work styles, and learning in schools, our goal is to broaden our own design methods and deepen our thinking about design by learning about practical approaches.
【Learning activities outside of classroom】
Reference books will be introduced in class. Interested students are encouraged to purchase and study the books.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be 60%for the report and 40%for class work.

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

構法スタジオ１

永野　尚吾、溝部　公寛、飯塚　豊、鍋野　友哉、鈴木　理考、河野　泰治

開講時期：**春学期前半/Spring(1st half)**　｜　選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
構法スタジオ１、構法スタジオ２では、設計演習を通して架構や各部位の仕組みを実践的に理解し、詳細に図面化する能力を身につけることを目標とする。

【到達目標】
木造軸組構造による小型の建築物を設計課題として、構法スタジオ１では、空間計画と架構計画について習得する。エスキスでは描画力を養うために図面は手描きとし、図面の内容を立体的に理解するために軸組模型の作成も行う。
By designing a small sized wooden building, the students learn the living space planning and the structural planning in parallel. To acquire the drawing skills, all plans and sketches must be drawn by hand. Model construction is also required for the three-dimensional understanding of construction.

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎			◎			◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
各週ごとにテーマとして設定された設計上の問題に取り組み、これを図化あるいは模型化し、そのチェックを受けることで設計を進める。最終的に、基本図・骨組模型・構造図・詳細図などの提出を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題説明	設計課題の解説
	基本構想１	基本的な空間構想に着手する
2	基本構想２	基本的な空間構想を固める
3	架構設計１	柱位置・主梁方向の検討
4	架構設計２	屋根・床など平面架構の検討
5	架構設計３	耐震壁・ブレースの検討
6	図面のまとめ	図面の最終チェックを受ける
7	最終講評	課題を提し講評を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各週チェック時の指摘事項に対しては、参考文献調査や自主的な実地見学などを通し、これを十分理解し、課題の最終提出に備えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
Reference research and site visits are helpful to find the solution for matters in question and complete the plans. Preparation for the lecture and the review requires two hours respectively.

【テキスト（教科書）】
必要に応じ資料を配布。

【参考書】
「ぜんぶ絵でわかる1木造住宅」飯塚豊（エクスナレッジ）
「350万円で自分の家をつくる[改訂カラー版]」畠山サトル（エクスナレッジ）

【成績評価の方法と基準】
最終提出物の評価（100％）による。正当な理由なく授業を4回以上欠席すると単位認定の対象外となるので注意。
Evaluate the final submission. Unjustifiable absence more than four times results in evaluation "E (failure)".
総合得点60%以上を合格とします。
A passing total score is 60%or more.

【学生の意見等からの気づき】
木材や接合部の実物サンプルを提示する。

【その他の重要事項】
建築設計に携わる教員が実務経験から得た最新の知見を織り交ぜた授業を行う

【Outline (in English)】
This studio program on construction methods aims to provide students with a practical understanding of types of methods through planning exercises and the ability to create detailed blueprints.

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

構法スタジオ２

永野　尚吾、溝部　公寛、飯塚　豊、鍋野　友哉、鈴木　理考、河野　泰治

開講時期：**秋学期前半/Fall(1st half)**　｜　選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉〈Ｓ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
構法スタジオ１、構法スタジオ２では、設計演習を通して架構や各部位の仕組みを実践的に理解し、詳細に図面化する能力を身につけることを目標とする。

【到達目標】
構法スタジオ１で設計した軸組構造に対して、構法スタジオ２では、断熱や防水、通気、仕上げを設計し、建築物として完成させる。構法スタジオ１と同様に、描画力を養うために手描き図面によりエスキスを進めるが、提出図面に関してはＣＡＤソフトを利用し、実務に即した作図方法を習得する。
Following Building Construction Studio 1, Building Construction Studio 2 requires the students to design the heat isolation, water proof, ventilation and finishing to complete the building design. As with BCS1, hand drawings are recommended.

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎			◎			◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
各週ごとにテーマとして設定された設計上の問題に取り組み、これを図化し、そのチェックを受けることで設計を進める。最終的に、各種詳細図の提出を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	屋根・壁・床の断面設計１	屋根・壁の一般断面の検討／内・外装の検討
2	屋根・壁・床の断面設計２	床の一般断面の検討／床・天井仕上の検討
3	開口部の断面設計	開口部と外壁の取り合い
4	屋根・壁・床の取り合い設計１	基礎・床・外壁の取り合い
5	屋根・壁・床の取り合い設計２	屋根・外壁・庇の取り合い
6	図面のまとめ	図面の最終チェックを受ける
7	最終講評	課題を提し講評を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各週チェック時の指摘事項に対しては、参考文献調査や実地見学などを通し、これを十分理解し、課題の最終提出に備えること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
Reference research and site visits are helpful to find the solution for matters in question and complete the plans. Preparation for the lecture and the review requires two hours respectively.

【テキスト（教科書）】
必要に応じ資料を配布。

【参考書】
「ぜんぶ絵でわかる1木造住宅」飯塚豊（エクスナレッジ）
「350万円で自分の家をつくる[改訂カラー版]」畠山サトル（エクスナレッジ）

【成績評価の方法と基準】
最終提出物の評価（100％）による。正当な理由なく授業を4回以上欠席すると単位認定の対象外となるので注意。
Evaluate the final submission.　Unjustifiable absence more than four times results in evaluation "E (failure)".
総合得点60%以上を合格とします。
A passing total score is 60%or more.

【学生の意見等からの気づき】
可能な限り、実際の施工現場の見学や、縮尺の大きな部分模型製作を取り入れる。

【その他の重要事項】
建築設計に携わる教員が実務経験から得た最新の知見を織り交ぜた授業を行う

【Outline (in English)】
This studio program on construction methods aims to provide students with a practical understanding of types of methods through planning exercises and the ability to create detailed blueprints.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

ビルディングワークショップ

浜田　英明

開講時期：**年間授業/Yearly**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
構造力学等の講義で修得した理論や知識の復習とそれらの実感を伴った理解のための構造実験を行い，「形と力」の関係について学ぶ。また，技術者（Professional Engineer）としての，エンジニアリングデザイン能力およびチームワーク能力，プレゼンテーション能力の向上を目指す。

【到達目標】
実験を通して，1)構造物に生じる応力や変形を捉える能力，2)チーム内で協調して作業する能力，3)レポート等による論理的なプレゼンテーション能力，これら3点を修得することを目標とする。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎			○		○	○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
与えられた実験課題に対して，5～6人で構成されるチーム単位で構造模型を作成し，その構造性能を競い合うコンテスト形式で授業を行う。実験課題は第1・第2ラウンドの2つあり，それぞれのラウンドごとで順位に応じた点数を付与し，最終的にその合計点で総合順位を決める。また，ラウンドごとに，設計理念の説明や構造性能に関するレポート作成等によるプレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	エンジニアリングデザインとは チーム分け
2	第1実験課題 （課題説明，設計製作作業）	課題説明 構造模型設計 構造模型製作
3	第1実験課題 （製作作業，レポート作成）	プレゼンテーション準備 レポート準備
4	第1実験課題 （プレゼンテーション，載荷実験，議論）	設計理念説明 載荷実験の実施 実験結果について議論 レポート作成
5	第2実験課題 （課題説明）	課題説明
6	第2実験課題 （設計作業）	構造作品の設計
7	第2実験課題 （製作作業）	試作作品の製作
8	第2実験課題 （試作作品実験）	試作作品の実験と考察
9	第2実験課題 （改良案の提示と議論）	改善案の検討と議論
10	第2実験課題 （改良案の設計作業）	改良作品の設計
11	第2実験課題 （改良案の製作作業）	改良作品の製作
12	第2実験課題 （製作作業，レポート作成）	プレゼンテーションの準備 レポート準備
13	第2実験課題 （プレゼンテーション，載荷実験）	設計理念説明 載荷実験の実施
14	第2実験課題 （講評，レポート作成）	講評 議論 レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 構造力学の復習
2.3.4. 断面の性質・曲げ座屈・局部座屈の復習，レポート整理
5.6.7.8. 断面の性質・横座屈・局部座屈の復習，レポート整理
9.10.11.12.13. トラスの力学の復習，レポート整理
14. レポート整理
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内に印刷物を適宜配布する。

【参考書】
日本建築学会：構造入門教材　ちからとかたち，日本建築学会（丸善）

【成績評価の方法と基準】
評価項目：配分（評価基準等）
実験演習結果：40%（実験の総合順位を加味する）
実験レポートの提出：60%（未提出のものは成績評価しない）
出席：5回以上欠席した者は成績評価しない
評価素点100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません

【学生が準備すべき機器他】
配布ノートパソコン

【その他の重要事項】
この授業はサマーセッションおよびオータムセッション期間中に集中講義として行われる。
また，使用する教室の都合により，受講者数の制限を行う場合もある。
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
In this course students will review theory and concepts gained from lectures in structural dynamics etc. and consolidate their practical understanding through structural experiments, learning about the relation between form and strength. In addition they will aim to improve skills in engineering design, teamwork and presentations as appropriate to beginning a path towards becoming professional engineers.
Learning Objectives:
Through the experiments, students will acquire the following three skills: 1) the ability to understand stress and deformation in structures, 2) the ability to work cooperatively in a team, and 3) the ability to make logical presentations through reports and other means.
Learning activities outside of classroom:
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the results of laboratory exercises and laboratory reports.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

ビルディングワークショップ

宮田　雄二郎

開講時期：**年間授業/Yearly**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
構造力学等の講義で修得した理論や知識の復習とそれらの実感を伴った理解のための構造実験を行い，「形と力」の関係について学ぶ。また，技術者（Professional Engineer）としての，エンジニアリングデザイン能力およびチームワーク能力，プレゼンテーション能力の向上を目指す。

【到達目標】
実験を通して，1)構造物に生じる応力や変形を捉える能力，2)チーム内で協調して作業する能力，3)レポート等による論理的なプレゼンテーション能力，これら3点を修得することを目標とする。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎			○		○	○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
与えられた実験課題に対して，5～6人で構成されるチーム単位で構造模型を作成し，その構造性能を競い合うコンテスト形式で授業を行う。実験課題は第1・第2ラウンドの2つあり，それぞれのラウンドごとで順位に応じた点数を付与し，最終的にその合計点で総合順位を決める。また，ラウンドごとに，設計理念の説明や構造性能に関するレポート作成等によるプレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	エンジニアリングデザインとは チーム分け
2	第1実験課題 （課題説明，設計製作作業）	課題説明 構造模型設計 構造模型製作
3	第1実験課題 （製作作業，レポート作成）	プレゼンテーション準備 レポート準備
4	第1実験課題 （プレゼンテーション，載荷実験，議論）	設計理念説明 載荷実験の実施 実験結果について議論 レポート作成
5	第2実験課題 （課題説明）	課題説明
6	第2実験課題 （設計作業）	構造作品の設計
7	第2実験課題 （製作作業）	試作作品の製作
8	第2実験課題 （試作作品実験）	試作作品の実験と考察
9	第2実験課題 （改良案の提示と議論）	改善案の検討と議論
10	第2実験課題 （改良案の設計作業）	改良作品の設計
11	第2実験課題 （改良案の製作作業）	改良作品の製作
12	第2実験課題 （製作作業，レポート作成）	プレゼンテーションの準備 レポート準備
13	第2実験課題 （プレゼンテーション，載荷実験）	設計理念説明 載荷実験の実施
14	第2実験課題 （講評，レポート作成）	講評 議論 レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 構造力学の復習
2.3.4. 断面の性質・曲げ座屈・局部座屈の復習，レポート整理
5.6.7.8. 断面の性質・横座屈・局部座屈の復習，レポート整理
9.10.11.12.13. トラスの力学の復習，レポート整理
14. レポート整理
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内に印刷物を適宜配布する。

【参考書】
日本建築学会：構造入門教材　ちからとかたち，日本建築学会（丸善）

【成績評価の方法と基準】
評価項目：配分（評価基準等）
実験演習結果：40%（実験の総合順位を加味する）
実験レポートの提出：60%（未提出のものは成績評価しない）
出席：5回以上欠席した者は成績評価しない
評価素点100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません

【学生が準備すべき機器他】
配布ノートパソコン

【その他の重要事項】
この授業はサマーセッションおよびオータムセッション期間中に集中講義として行われる。
また，使用する教室の都合により，受講者数の制限を行う場合もある。
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
In this course students will review theory and concepts gained from lectures in structural dynamics etc. and consolidate their practical understanding through structural experiments, learning about the relation between form and strength. In addition they will aim to improve skills in engineering design, teamwork and presentations as appropriate to beginning a path towards becoming professional engineers.
Learning Objectives:
Through the experiments, students will acquire the following three skills: 1) the ability to understand stress and deformation in structures, 2) the ability to work cooperatively in a team, and 3) the ability to make logical presentations through reports and other means.
Learning activities outside of classroom:
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the results of laboratory exercises and laboratory reports.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

ビルディングワークショップ

中山　翔太

開講時期：**年間授業/Yearly**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
構造力学等の講義で修得した理論や知識の復習とそれらの実感を伴った理解のための構造実験を行い，「形と力」の関係について学ぶ。また，技術者（Professional Engineer）としての，エンジニアリングデザイン能力およびチームワーク能力，プレゼンテーション能力の向上を目指す。

【到達目標】
実験を通して，1)構造物に生じる応力や変形を捉える能力，2)チーム内で協調して作業する能力，3)レポート等による論理的なプレゼンテーション能力，これら3点を修得することを目標とする。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎			○		○	○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
与えられた実験課題に対して，5～6人で構成されるチーム単位で構造模型を作成し，その構造性能を競い合うコンテスト形式で授業を行う。実験課題は第1・第2ラウンドの2つあり，それぞれのラウンドごとで順位に応じた点数を付与し，最終的にその合計点で総合順位を決める。また，ラウンドごとに，設計理念の説明や構造性能に関するレポート作成等によるプレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	エンジニアリングデザインとは チーム分け
2	第1実験課題 （課題説明，設計製作作業）	課題説明 構造模型設計 構造模型製作
3	第1実験課題 （製作作業，レポート作成）	プレゼンテーション準備 レポート準備
4	第1実験課題 （プレゼンテーション，載荷実験，議論）	設計理念説明 載荷実験の実施 実験結果について議論 レポート作成
5	第2実験課題 （課題説明）	課題説明
6	第2実験課題 （設計作業）	構造作品の設計
7	第2実験課題 （製作作業）	試作作品の製作
8	第2実験課題 （試作作品実験）	試作作品の実験と考察
9	第2実験課題 （改良案の提示と議論）	改善案の検討と議論
10	第2実験課題 （改良案の設計作業）	改良作品の設計
11	第2実験課題 （改良案の製作作業）	改良作品の製作
12	第2実験課題 （製作作業，レポート作成）	プレゼンテーションの準備 レポート準備
13	第2実験課題 （プレゼンテーション，載荷実験）	設計理念説明 載荷実験の実施
14	第2実験課題 （講評，レポート作成）	講評 議論 レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 構造力学の復習
2.3.4. 断面の性質・曲げ座屈・局部座屈の復習，レポート整理
5.6.7.8. 断面の性質・横座屈・局部座屈の復習，レポート整理
9.10.11.12.13. トラスの力学の復習，レポート整理
14. レポート整理
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内に印刷物を適宜配布する。

【参考書】
日本建築学会：構造入門教材　ちからとかたち，日本建築学会（丸善）

【成績評価の方法と基準】
評価項目：配分（評価基準等）
実験演習結果：40%（実験の総合順位を加味する）
実験レポートの提出：60%（未提出のものは成績評価しない）
出席：5回以上欠席した者は成績評価しない
評価素点100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません

【学生が準備すべき機器他】
配布ノートパソコン

【その他の重要事項】
この授業はサマーセッションおよびオータムセッション期間中に集中講義として行われる。
また，使用する教室の都合により，受講者数の制限を行う場合もある。
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
In this course students will review theory and concepts gained from lectures in structural dynamics etc. and consolidate their practical understanding through structural experiments, learning about the relation between form and strength. In addition they will aim to improve skills in engineering design, teamwork and presentations as appropriate to beginning a path towards becoming professional engineers.
Learning Objectives:
Through the experiments, students will acquire the following three skills: 1) the ability to understand stress and deformation in structures, 2) the ability to work cooperatively in a team, and 3) the ability to make logical presentations through reports and other means.
Learning activities outside of classroom:
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the results of laboratory exercises and laboratory reports.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

エンジニアリングスタジオX

浜田　英明、富岡　庸平

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
要求される構造性能を満足する建築物を構想し，その性能を工学的に検証する方法を学ぶ。

【到達目標】
構造計画立案のための基本的な工学原理を理解し応用するための能力の涵養をめざすとともに，卒業研究および卒業制作に取り組むための下地を形成することを目標とする。また，その過程で構造デザインの真髄の一端に触れることも目標とする。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎		○	○	○		○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
はじめに，設計事例を調査し，その拠り所となっている工学原理を整理・研究し，簡単なモデル化によって性能検証する方法を学ぶ。その後，実際に自らが演習を通して要求性能を満足する建築物を構想，検証し，プレゼンテーションする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 現代の設計環境	構造デザイン 有限要素法
第2回	構造解析の方法（1）	構造解析モデリング 境界条件および荷重条件の設定
第3回	構造解析の方法（2）	構造解析と構造設計
第4回	構造解析の方法（3）	時刻歴応答解析
第5回	見学会	実建築物の見学
第6回	事例研究（1）	著名建築物の構造システムの把握
第7回	事例研究（2）	著名建築物の構造システムの検証
第8回	事例研究（3）	発表会
第9回	構造計画演習（1）	基本構想立案 エスキス
第10回	構造計画演習（2）	構造計画立案 仮定断面
第11回	構造計画演習（3）	性能検証 改善策の検討
第12回	構造計画演習（4）	さらなる改善策の検討
第13回	構造計画演習（5）	プレゼンテーションの準備
第14回	最終講評会	プレゼンテーション 講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査やモデル作成，発表会のための資料作成など授業時間外の自主学習が非常に重要である。授業時間内では，これまでの作業進捗状況の説明と疑問点の確認が主体である。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示する。

【参考書】
授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業内発表（30%），期末レポート（設計図書）（40%），最終プレゼンテーション（30%），評価素点100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
現在のところなし。

【その他の重要事項】
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Learning Objectives: Students will learn how to conceptualize a building that satisfies the required structural performance and how to evaluate its performance using engineering methods.
Learning Objectives: The course aims to cultivate the ability to understand and apply basic engineering principles for structural planning, and to form the basis for students to engage in graduation research and graduation projects. The course also aims to expose students to the essence of structural design in the process.
Learning activities outside of classroom: Independent study outside of class time, such as research, modeling, and preparation of materials for presentations, is very important. In class time, the main focus is on explaining the progress of the work to date and confirming any questions.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy: Grading will be based on in-class presentations, final reports (design documents) and final presentations.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

エンジニアリングスタジオY

中野　淳太、加用　現空

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
建築環境工学の基礎的知識を既に身に着けていることを前提としつつ、その知識を活かしながらサステナブル建築の構築方法に関する方法論を実践形式で学ぶ。

【到達目標】
室内環境シミュレーション、屋外環境シミュレーション、エネルギーシミュレーション、ライフサイクルアセスメントなどを実行できるような応用力を身に着ける。最終的に、シミュレーションの結果を踏まえて初期設計案を改良しつつ、よりサステナブルな建物を提案できるような技能を身に着ける。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎		○	○	○		○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
実習（各種シミュレーションの実行）を通じた、実践形式の講義を展開する。一人一人異なる課題に取り組むことになるため、環境工学の基礎知識を十分に身に着けた状態で履修すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要説明
第2回	環境工学の復習	温熱環境、空気環境、光環境、音環境など
第3回	中間課題発表	敷地選定、解析条件の提示など
第4回	室内環境シミュレーションの基礎	室内の数値流体解析（CFD）
第5回	室外環境シミュレーションの基礎	室外の数値流体解析（CFD）
第6回	エネルギーシミュレーション	ESツール、エネルギー消費量、省エネ、創エネ
第7回	ライフサイクルアセスメント	ライフサイクル思考、建築物のLCA指針
第8回	最終課題発表	敷地選定、解析条件の提示など
第9回	フィールドワーク	現地調査、ローカル環境の測定
第10回	環境シミュレーション（1）	モデル作成
第11回	環境シミュレーション（2）	条件設定
第12回	環境シミュレーション（3）	解析実行、ポスト処理
第13回	総合性能評価	建築環境総合性能評価システム（CASBEE）
第14回	ファイナルレビュー	プレゼンテーション、講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。講義内にシミュレーションが終わらない場合は、授業時間外に解析を回して最終発表に間に合わせること。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。講義中に適宜参考情報を提示する。

【参考書】
特に指定しない。講義中に適宜参考情報を提示する。

【成績評価の方法と基準】
レポート（100%）によって評価する。なお、課題未提出の者の成績評価は実
施しない。

【学生の意見等からの気づき】
シミュレーションを回すための時間が足りない様子だったので、今年度は課題提示を早期化する予定。

【Outline (in English)】
Course outline: Students will learn methodologies on how to design sustainable buildings in a practical format, while assuming that they already have a basic knowledge of architectural environmental engineering.
Learning Objectives: Students will acquire the applied skills to perform indoor environmental simulations, outdoor environmental simulations, energy simulations, and life cycle assessments. Finally, the students will acquire the skills to propose a more sustainable building while improving the initial design proposal based on the simulation results.
Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. If the simulation cannot be completed during the lecture, the analysis should be conducted outside of class time to make it in time for the final presentation.
Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on the report (100%). No grade will be given to students who have not submitted their assignments.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

エンジニアリングスタジオZ

宮田　雄二郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
要求される構造性能を満足する建築物を構想し，その性能を工学的に検証する方法を学ぶ。

【到達目標】
構造計画立案のための基本的な工学原理を理解し応用するための能力の涵養をめざすとともに，卒業研究および卒業制作に取り組むための下地を形成することを目標とする。また，その過程で構造デザインの真髄の一端に触れることも目標とする。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎		○	○	○		○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
・構造設計および研究に取り組むためには，構造物に生じる応力と変形を計算する能力が必要である。そこで，マトリクス解析法の基礎を学び，解析プログラムを作成してフレームの応力変形解析を行う．
・構造設計する際，解析能力に加えて建築と構造の関係をよく理解して，最適な構造システムを提案する能力が重要である．そこで構造設計事例調査してプレゼンテーションすることでその理解を深める
・自ら建築物を構想し，そのデザインを実現するための構造計画を行う．架構計画を行って，適切な構造モデルを作成して応力変形解析を行う．設計条件を満足する断面を選定し，その過程と結果をプレゼンテーションする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 変位法によるマトリクス解析 (1)	要素剛性マトリクスの作成
第2回	変位法によるマトリクス解析（2）	構成方程式，釣合条件，適合条件
第3回	変位法によるマトリクス解析（3）	座標変換，全体剛性マトリクスの作成
第4回	変位法によるマトリクス解析（4）	連立一次方程式の解法
第5回	変位法によるマトリクス解析（5）	プログラミング演習
第6回	変位法によるマトリクス解析（6）	フレーム解析演習
第7回	事例研究（1）	構造材料と構造デザイン
第8回	事例研究（2）	耐震設計と構造デザイン
第9回	建物見学	構造デザインを現地で確認する
第10回	構造設計演習（1）	構造計画
第11回	構造設計演習（2）	仮定断面，荷重条件
第12回	構造設計演習（3）	応力変形解析
第13回	構造設計演習（4）	断面計算
第14回	構造設計演習（5）	プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査やモデル作成，発表会のための資料作成など授業時間外の自主学習が非常に重要である。授業時間内では，これまでの作業進捗状況の説明と疑問点の確認が主体である。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示する。

【参考書】
授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業内発表（30%），期末レポート（設計図書）（40%），最終プレゼンテーション（30%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Learning Objectives: Students will learn how to conceptualize a building that satisfies the required structural performance and how to evaluate its performance using engineering methods.
Learning Objectives: The course aims to cultivate the ability to understand and apply basic engineering principles for structural planning, and to form the basis for students to engage in graduation research and graduation projects. The course also aims to expose students to the essence of structural design in the process.
Learning activities outside of classroom: Independent study outside of class time, such as research, modeling, and preparation of materials for presentations, is very important. In class time, the main focus is on explaining the progress of the work to date and confirming any questions.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy: Grading will be based on in-class presentations, final reports (design documents) and final presentations.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業制作２

藤本　貴子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業制作をまとめあげ、提出し、合格することが到達目標となる。各自のテーマは、指導教員との討議のうえで設定する。

【到達目標】
テーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき提案を構想し、制作を行う。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	計画案の経過報告	夏休み中に進めたスタディの発表をし、ディスカッションを行う
2	計画案の決定事項のまとめ	この時点で決定しているコンセプト・ダイアグラム・選定敷地等についてのプレゼンテーションをまとめ、指導を行う
3	計画案の発展(１)	計画案をさらに発展させるためのスタディを行い、構造と意匠の整合を図るよう指導する
4	計画案の発展(２)	部分計画に関わる検討を行い指導する
5	計画案の発展(３)	詳細表現に関わる検討を行い指導する
6	中間発表に向けて（１）	中間発表に必要な素材を検討する
7	中間発表に向けて（２）	各図面、模型について指導する
8	中間発表に向けて（３）	中間発表に向けてプレゼンテーションの練習を行う
9	中間発表をうけて	発表時に指摘された箇所のブラッシュアップを検討し指導する
10	図面指導（１）	卒業設計完成に向けて指導を行う
11	図面指導（２）	必要図面の確認を行い、指導する
12	図面指導（３）	各図面、模型の表現方法について指導を行う
13	プレゼンテーションチェック	提出図面のプレゼンテーションに対して指導を行う
14	総括	ポストレビューを行い、各作品の長所や問題点などについて講評する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
以下に卒業制作として設計を行うことをイメージした場合の学習の進め方を示す。なお、設計以外の制作を行う場合は各指導教員と卒業制作の進め方に関してディスカッションを十分に行うこと。
1. 提出までのスケジュールを検討する
2. ディスカッションの準備
3. プレゼンテーションの資料つくり
4. 計画案の構造と意匠の面からアプローチを考える
5. 図面・模型等の準備
6. 図面・模型等の準備
7. 図面・模型等の準備
8. 図面・模型等の準備
9. プレゼンテーションの準備
10. 図面や模型の作成
11. 提出予定の図面や模型の製作を進める
12. 提出予定の図面や模型の製作を進める
13. 提出予定の図面や模型の製作を進める
14. 提出予定の図面や模型の製作を進める
15. 作品のブラッシュアップやプレゼンテーションの練習をしておく
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【参考書】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
以下の条件を満たしていること。
（A）定められた期限内に提出されたものであること。
（B）定められた図書形式に従っていること。（用紙サイズ：A1）
（C）建築設計の場合は，設計図（設計要旨、平面図、立面図、断面図、透視図または模型写真など）の形式を有すること。その他の場合も，設計図に準じた形式を有すること。
（D）卒業制作相当の努力を認めえるものであること。
（E）指導教員の指導を受けたものであること。
但し、あらかじめ指導教授が特別の判断を行った場合は上記（B）、（C）の条件を変更できる。
以上の条件を満たしているものについて、以下の視点から、総合的に評価する。
（1）独創性、問題意識、計画能力
（2）分析力、総合力、造形及び表現能力
（3）構造、環境面の把握
（4）努力の集積度
総合点60点以上を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【その他の重要事項】
ゼミ内およびゼミ終了後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
Course outline: The goal is to compile a graduation project as the culmination of the four years of study, with instructions from the supervisor. Each student's theme is set after discussion with their supervisor.
Learning Objectives: Create original productions while carrying out independent research, experimentation, analysis and study in accordance with the theme. Develop the ability to understand problems from a wide range of perspectives and to find solutions independently and continuously.

Learning activities outside of classroom: Proceed in consultation with the supervisors in charge of each seminar. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy: Grade evaluation is performed comprehensively on the content of the submitted graduation project.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業制作２

宮田　雄二郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業制作をまとめあげ、提出し、合格することが到達目標となる。各自のテーマは、指導教員との討議のうえで設定する。

【到達目標】
テーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき提案を構想し、制作を行う。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	計画案の経過報告	夏休み中に進めたスタディの発表をし、ディスカッションを行う
2	計画案の決定事項のまとめ	この時点で決定しているコンセプト・ダイアグラム・選定敷地等についてのプレゼンテーションをまとめ、指導を行う
3	計画案の発展(１)	計画案をさらに発展させるためのスタディを行い、構造と意匠の整合を図るよう指導する
4	計画案の発展(２)	部分計画に関わる検討を行い指導する
5	計画案の発展(３)	詳細表現に関わる検討を行い指導する
6	中間発表に向けて（１）	中間発表に必要な素材を検討する
7	中間発表に向けて（２）	各図面、模型について指導する
8	中間発表に向けて（３）	中間発表に向けてプレゼンテーションの練習を行う
9	中間発表をうけて	発表時に指摘された箇所のブラッシュアップを検討し指導する
10	図面指導（１）	卒業設計完成に向けて指導を行う
11	図面指導（２）	必要図面の確認を行い、指導する
12	図面指導（３）	各図面、模型の表現方法について指導を行う
13	プレゼンテーションチェック	提出図面のプレゼンテーションに対して指導を行う
14	総括	ポストレビューを行い、各作品の長所や問題点などについて講評する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
以下に卒業制作として設計を行うことをイメージした場合の学習の進め方を示す。なお、設計以外の制作を行う場合は各指導教員と卒業制作の進め方に関してディスカッションを十分に行うこと。
1. 提出までのスケジュールを検討する
2. ディスカッションの準備
3. プレゼンテーションの資料つくり
4. 計画案の構造と意匠の面からアプローチを考える
5. 図面・模型等の準備
6. 図面・模型等の準備
7. 図面・模型等の準備
8. 図面・模型等の準備
9. プレゼンテーションの準備
10. 図面や模型の作成
11. 提出予定の図面や模型の製作を進める
12. 提出予定の図面や模型の製作を進める
13. 提出予定の図面や模型の製作を進める
14. 提出予定の図面や模型の製作を進める
15. 作品のブラッシュアップやプレゼンテーションの練習をしておく
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【参考書】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
以下の条件を満たしていること。
（A）定められた期限内に提出されたものであること。
（B）定められた図書形式に従っていること。（用紙サイズ：A1）
（C）建築設計の場合は，設計図（設計要旨、平面図、立面図、断面図、透視図または模型写真など）の形式を有すること。その他の場合も，設計図に準じた形式を有すること。
（D）卒業制作相当の努力を認めえるものであること。
（E）指導教員の指導を受けたものであること。
但し、あらかじめ指導教授が特別の判断を行った場合は上記（B）、（C）の条件を変更できる。
以上の条件を満たしているものについて、以下の視点から、総合的に評価する。
（1）独創性、問題意識、計画能力
（2）分析力、総合力、造形及び表現能力
（3）構造、環境面の把握
（4）努力の集積度
総合点60点以上を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【その他の重要事項】
ゼミ内およびゼミ終了後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
Course outline: The goal is to compile a graduation project as the culmination of the four years of study, with instructions from the supervisor. Each student's theme is set after discussion with their supervisor.
Learning Objectives: Create original productions while carrying out independent research, experimentation, analysis and study in accordance with the theme. Develop the ability to understand problems from a wide range of perspectives and to find solutions independently and continuously.

Learning activities outside of classroom: Proceed in consultation with the supervisors in charge of each seminar. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy: Grade evaluation is performed comprehensively on the content of the submitted graduation project.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業制作２

山道　拓人

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業制作をまとめあげ、提出し、合格することが到達目標となる。各自のテーマは、指導教員との討議のうえで設定する。

【到達目標】
テーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき提案を構想し、制作を行う。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	計画案の経過報告	夏休み中に進めたスタディの発表をし、ディスカッションを行う
2	計画案の決定事項のまとめ	この時点で決定しているコンセプト・ダイアグラム・選定敷地等についてのプレゼンテーションをまとめ、指導を行う
3	計画案の発展(１)	計画案をさらに発展させるためのスタディを行い、構造と意匠の整合を図るよう指導する
4	計画案の発展(２)	部分計画に関わる検討を行い指導する
5	計画案の発展(３)	詳細表現に関わる検討を行い指導する
6	中間発表に向けて（１）	中間発表に必要な素材を検討する
7	中間発表に向けて（２）	各図面、模型について指導する
8	中間発表に向けて（３）	中間発表に向けてプレゼンテーションの練習を行う
9	中間発表をうけて	発表時に指摘された箇所のブラッシュアップを検討し指導する
10	図面指導（１）	卒業設計完成に向けて指導を行う
11	図面指導（２）	必要図面の確認を行い、指導する
12	図面指導（３）	各図面、模型の表現方法について指導を行う
13	プレゼンテーションチェック	提出図面のプレゼンテーションに対して指導を行う
14	総括	ポストレビューを行い、各作品の長所や問題点などについて講評する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
以下に卒業制作として設計を行うことをイメージした場合の学習の進め方を示す。なお、設計以外の制作を行う場合は各指導教員と卒業制作の進め方に関してディスカッションを十分に行うこと。
1. 提出までのスケジュールを検討する
2. ディスカッションの準備
3. プレゼンテーションの資料つくり
4. 計画案の構造と意匠の面からアプローチを考える
5. 図面・模型等の準備
6. 図面・模型等の準備
7. 図面・模型等の準備
8. 図面・模型等の準備
9. プレゼンテーションの準備
10. 図面や模型の作成
11. 提出予定の図面や模型の製作を進める
12. 提出予定の図面や模型の製作を進める
13. 提出予定の図面や模型の製作を進める
14. 提出予定の図面や模型の製作を進める
15. 作品のブラッシュアップやプレゼンテーションの練習をしておく
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【参考書】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
以下の条件を満たしていること。
（A）定められた期限内に提出されたものであること。
（B）定められた図書形式に従っていること。（用紙サイズ：A1）
（C）建築設計の場合は，設計図（設計要旨、平面図、立面図、断面図、透視図または模型写真など）の形式を有すること。その他の場合も，設計図に準じた形式を有すること。
（D）卒業制作相当の努力を認めえるものであること。
（E）指導教員の指導を受けたものであること。
但し、あらかじめ指導教授が特別の判断を行った場合は上記（B）、（C）の条件を変更できる。
以上の条件を満たしているものについて、以下の視点から、総合的に評価する。
（1）独創性、問題意識、計画能力
（2）分析力、総合力、造形及び表現能力
（3）構造、環境面の把握
（4）努力の集積度
総合点60点以上を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【その他の重要事項】
ゼミ内およびゼミ終了後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
Course outline: The goal is to compile a graduation project as the culmination of the four years of study, with instructions from the supervisor. Each student's theme is set after discussion with their supervisor.
Learning Objectives: Create original productions while carrying out independent research, experimentation, analysis and study in accordance with the theme. Develop the ability to understand problems from a wide range of perspectives and to find solutions independently and continuously.

Learning activities outside of classroom: Proceed in consultation with the supervisors in charge of each seminar. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy: Grade evaluation is performed comprehensively on the content of the submitted graduation project.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業制作２

安藤　直見

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業制作をまとめあげ、提出し、合格することが到達目標となる。各自のテーマは、指導教員との討議のうえで設定する。

【到達目標】
テーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき提案を構想し、制作を行う。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	計画案の経過報告	夏休み中に進めたスタディの発表をし、ディスカッションを行う
2	計画案の決定事項のまとめ	この時点で決定しているコンセプト・ダイアグラム・選定敷地等についてのプレゼンテーションをまとめ、指導を行う
3	計画案の発展(１)	計画案をさらに発展させるためのスタディを行い、構造と意匠の整合を図るよう指導する
4	計画案の発展(２)	部分計画に関わる検討を行い指導する
5	計画案の発展(３)	詳細表現に関わる検討を行い指導する
6	中間発表に向けて（１）	中間発表に必要な素材を検討する
7	中間発表に向けて（２）	各図面、模型について指導する
8	中間発表に向けて（３）	中間発表に向けてプレゼンテーションの練習を行う
9	中間発表をうけて	発表時に指摘された箇所のブラッシュアップを検討し指導する
10	図面指導（１）	卒業設計完成に向けて指導を行う
11	図面指導（２）	必要図面の確認を行い、指導する
12	図面指導（３）	各図面、模型の表現方法について指導を行う
13	プレゼンテーションチェック	提出図面のプレゼンテーションに対して指導を行う
14	総括	ポストレビューを行い、各作品の長所や問題点などについて講評する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
以下に卒業制作として設計を行うことをイメージした場合の学習の進め方を示す。なお、設計以外の制作を行う場合は各指導教員と卒業制作の進め方に関してディスカッションを十分に行うこと。
1. 提出までのスケジュールを検討する
2. ディスカッションの準備
3. プレゼンテーションの資料つくり
4. 計画案の構造と意匠の面からアプローチを考える
5. 図面・模型等の準備
6. 図面・模型等の準備
7. 図面・模型等の準備
8. 図面・模型等の準備
9. プレゼンテーションの準備
10. 図面や模型の作成
11. 提出予定の図面や模型の製作を進める
12. 提出予定の図面や模型の製作を進める
13. 提出予定の図面や模型の製作を進める
14. 提出予定の図面や模型の製作を進める
15. 作品のブラッシュアップやプレゼンテーションの練習をしておく
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【参考書】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
以下の条件を満たしていること。
（A）定められた期限内に提出されたものであること。
（B）定められた図書形式に従っていること。（用紙サイズ：A1）
（C）建築設計の場合は，設計図（設計要旨、平面図、立面図、断面図、透視図または模型写真など）の形式を有すること。その他の場合も，設計図に準じた形式を有すること。
（D）卒業制作相当の努力を認めえるものであること。
（E）指導教員の指導を受けたものであること。
但し、あらかじめ指導教授が特別の判断を行った場合は上記（B）、（C）の条件を変更できる。
以上の条件を満たしているものについて、以下の視点から、総合的に評価する。
（1）独創性、問題意識、計画能力
（2）分析力、総合力、造形及び表現能力
（3）構造、環境面の把握
（4）努力の集積度
総合点60点以上を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【その他の重要事項】
ゼミ内およびゼミ終了後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
Course outline: The goal is to compile a graduation project as the culmination of the four years of study, with instructions from the supervisor. Each student's theme is set after discussion with their supervisor.
Learning Objectives: Create original productions while carrying out independent research, experimentation, analysis and study in accordance with the theme. Develop the ability to understand problems from a wide range of perspectives and to find solutions independently and continuously.

Learning activities outside of classroom: Proceed in consultation with the supervisors in charge of each seminar. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy: Grade evaluation is performed comprehensively on the content of the submitted graduation project.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業制作２

下吹越　武人

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業制作をまとめあげ、提出し、合格することが到達目標となる。各自のテーマは、指導教員との討議のうえで設定する。

【到達目標】
テーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき提案を構想し、制作を行う。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	計画案の経過報告	夏休み中に進めたスタディの発表をし、ディスカッションを行う
2	計画案の決定事項のまとめ	この時点で決定しているコンセプト・ダイアグラム・選定敷地等についてのプレゼンテーションをまとめ、指導を行う
3	計画案の発展(１)	計画案をさらに発展させるためのスタディを行い、構造と意匠の整合を図るよう指導する
4	計画案の発展(２)	部分計画に関わる検討を行い指導する
5	計画案の発展(３)	詳細表現に関わる検討を行い指導する
6	中間発表に向けて（１）	中間発表に必要な素材を検討する
7	中間発表に向けて（２）	各図面、模型について指導する
8	中間発表に向けて（３）	中間発表に向けてプレゼンテーションの練習を行う
9	中間発表をうけて	発表時に指摘された箇所のブラッシュアップを検討し指導する
10	図面指導（１）	卒業設計完成に向けて指導を行う
11	図面指導（２）	必要図面の確認を行い、指導する
12	図面指導（３）	各図面、模型の表現方法について指導を行う
13	プレゼンテーションチェック	提出図面のプレゼンテーションに対して指導を行う
14	総括	ポストレビューを行い、各作品の長所や問題点などについて講評する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
以下に卒業制作として設計を行うことをイメージした場合の学習の進め方を示す。なお、設計以外の制作を行う場合は各指導教員と卒業制作の進め方に関してディスカッションを十分に行うこと。
1. 提出までのスケジュールを検討する
2. ディスカッションの準備
3. プレゼンテーションの資料つくり
4. 計画案の構造と意匠の面からアプローチを考える
5. 図面・模型等の準備
6. 図面・模型等の準備
7. 図面・模型等の準備
8. 図面・模型等の準備
9. プレゼンテーションの準備
10. 図面や模型の作成
11. 提出予定の図面や模型の製作を進める
12. 提出予定の図面や模型の製作を進める
13. 提出予定の図面や模型の製作を進める
14. 提出予定の図面や模型の製作を進める
15. 作品のブラッシュアップやプレゼンテーションの練習をしておく
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【参考書】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
以下の条件を満たしていること。
（A）定められた期限内に提出されたものであること。
（B）定められた図書形式に従っていること。（用紙サイズ：A1）
（C）建築設計の場合は，設計図（設計要旨、平面図、立面図、断面図、透視図または模型写真など）の形式を有すること。その他の場合も，設計図に準じた形式を有すること。
（D）卒業制作相当の努力を認めえるものであること。
（E）指導教員の指導を受けたものであること。
但し、あらかじめ指導教授が特別の判断を行った場合は上記（B）、（C）の条件を変更できる。
以上の条件を満たしているものについて、以下の視点から、総合的に評価する。
（1）独創性、問題意識、計画能力
（2）分析力、総合力、造形及び表現能力
（3）構造、環境面の把握
（4）努力の集積度
総合点60点以上を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【その他の重要事項】
ゼミ内およびゼミ終了後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
Course outline: The goal is to compile a graduation project as the culmination of the four years of study, with instructions from the supervisor. Each student's theme is set after discussion with their supervisor.
Learning Objectives: Create original productions while carrying out independent research, experimentation, analysis and study in accordance with the theme. Develop the ability to understand problems from a wide range of perspectives and to find solutions independently and continuously.

Learning activities outside of classroom: Proceed in consultation with the supervisors in charge of each seminar. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy: Grade evaluation is performed comprehensively on the content of the submitted graduation project.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業制作２

網野　禎昭

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業制作をまとめあげ、提出し、合格することが到達目標となる。各自のテーマは、指導教員との討議のうえで設定する。

【到達目標】
テーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき提案を構想し、制作を行う。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	計画案の経過報告	夏休み中に進めたスタディの発表をし、ディスカッションを行う
2	計画案の決定事項のまとめ	この時点で決定しているコンセプト・ダイアグラム・選定敷地等についてのプレゼンテーションをまとめ、指導を行う
3	計画案の発展(１)	計画案をさらに発展させるためのスタディを行い、構造と意匠の整合を図るよう指導する
4	計画案の発展(２)	部分計画に関わる検討を行い指導する
5	計画案の発展(３)	詳細表現に関わる検討を行い指導する
6	中間発表に向けて（１）	中間発表に必要な素材を検討する
7	中間発表に向けて（２）	各図面、模型について指導する
8	中間発表に向けて（３）	中間発表に向けてプレゼンテーションの練習を行う
9	中間発表をうけて	発表時に指摘された箇所のブラッシュアップを検討し指導する
10	図面指導（１）	卒業設計完成に向けて指導を行う
11	図面指導（２）	必要図面の確認を行い、指導する
12	図面指導（３）	各図面、模型の表現方法について指導を行う
13	プレゼンテーションチェック	提出図面のプレゼンテーションに対して指導を行う
14	総括	ポストレビューを行い、各作品の長所や問題点などについて講評する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
以下に卒業制作として設計を行うことをイメージした場合の学習の進め方を示す。なお、設計以外の制作を行う場合は各指導教員と卒業制作の進め方に関してディスカッションを十分に行うこと。
1. 提出までのスケジュールを検討する
2. ディスカッションの準備
3. プレゼンテーションの資料つくり
4. 計画案の構造と意匠の面からアプローチを考える
5. 図面・模型等の準備
6. 図面・模型等の準備
7. 図面・模型等の準備
8. 図面・模型等の準備
9. プレゼンテーションの準備
10. 図面や模型の作成
11. 提出予定の図面や模型の製作を進める
12. 提出予定の図面や模型の製作を進める
13. 提出予定の図面や模型の製作を進める
14. 提出予定の図面や模型の製作を進める
15. 作品のブラッシュアップやプレゼンテーションの練習をしておく
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【参考書】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
以下の条件を満たしていること。
（A）定められた期限内に提出されたものであること。
（B）定められた図書形式に従っていること。（用紙サイズ：A1）
（C）建築設計の場合は，設計図（設計要旨、平面図、立面図、断面図、透視図または模型写真など）の形式を有すること。その他の場合も，設計図に準じた形式を有すること。
（D）卒業制作相当の努力を認めえるものであること。
（E）指導教員の指導を受けたものであること。
但し、あらかじめ指導教授が特別の判断を行った場合は上記（B）、（C）の条件を変更できる。
以上の条件を満たしているものについて、以下の視点から、総合的に評価する。
（1）独創性、問題意識、計画能力
（2）分析力、総合力、造形及び表現能力
（3）構造、環境面の把握
（4）努力の集積度
総合点60点以上を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【その他の重要事項】
ゼミ内およびゼミ終了後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
Course outline: The goal is to compile a graduation project as the culmination of the four years of study, with instructions from the supervisor. Each student's theme is set after discussion with their supervisor.
Learning Objectives: Create original productions while carrying out independent research, experimentation, analysis and study in accordance with the theme. Develop the ability to understand problems from a wide range of perspectives and to find solutions independently and continuously.

Learning activities outside of classroom: Proceed in consultation with the supervisors in charge of each seminar. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy: Grade evaluation is performed comprehensively on the content of the submitted graduation project.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業制作２

赤松　佳珠子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業制作をまとめあげ、提出し、合格することが到達目標となる。各自のテーマは、指導教員との討議のうえで設定する。

【到達目標】
テーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき提案を構想し、制作を行う。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	計画案の経過報告	夏休み中に進めたスタディの発表をし、ディスカッションを行う
2	計画案の決定事項のまとめ	この時点で決定しているコンセプト・ダイアグラム・選定敷地等についてのプレゼンテーションをまとめ、指導を行う
3	計画案の発展(１)	計画案をさらに発展させるためのスタディを行い、構造と意匠の整合を図るよう指導する
4	計画案の発展(２)	部分計画に関わる検討を行い指導する
5	計画案の発展(３)	詳細表現に関わる検討を行い指導する
6	中間発表に向けて（１）	中間発表に必要な素材を検討する
7	中間発表に向けて（２）	各図面、模型について指導する
8	中間発表に向けて（３）	中間発表に向けてプレゼンテーションの練習を行う
9	中間発表をうけて	発表時に指摘された箇所のブラッシュアップを検討し指導する
10	図面指導（１）	卒業設計完成に向けて指導を行う
11	図面指導（２）	必要図面の確認を行い、指導する
12	図面指導（３）	各図面、模型の表現方法について指導を行う
13	プレゼンテーションチェック	提出図面のプレゼンテーションに対して指導を行う
14	総括	ポストレビューを行い、各作品の長所や問題点などについて講評する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
以下に卒業制作として設計を行うことをイメージした場合の学習の進め方を示す。なお、設計以外の制作を行う場合は各指導教員と卒業制作の進め方に関してディスカッションを十分に行うこと。
1. 提出までのスケジュールを検討する
2. ディスカッションの準備
3. プレゼンテーションの資料つくり
4. 計画案の構造と意匠の面からアプローチを考える
5. 図面・模型等の準備
6. 図面・模型等の準備
7. 図面・模型等の準備
8. 図面・模型等の準備
9. プレゼンテーションの準備
10. 図面や模型の作成
11. 提出予定の図面や模型の製作を進める
12. 提出予定の図面や模型の製作を進める
13. 提出予定の図面や模型の製作を進める
14. 提出予定の図面や模型の製作を進める
15. 作品のブラッシュアップやプレゼンテーションの練習をしておく
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【参考書】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
以下の条件を満たしていること。
（A）定められた期限内に提出されたものであること。
（B）定められた図書形式に従っていること。（用紙サイズ：A1）
（C）建築設計の場合は，設計図（設計要旨、平面図、立面図、断面図、透視図または模型写真など）の形式を有すること。その他の場合も，設計図に準じた形式を有すること。
（D）卒業制作相当の努力を認めえるものであること。
（E）指導教員の指導を受けたものであること。
但し、あらかじめ指導教授が特別の判断を行った場合は上記（B）、（C）の条件を変更できる。
以上の条件を満たしているものについて、以下の視点から、総合的に評価する。
（1）独創性、問題意識、計画能力
（2）分析力、総合力、造形及び表現能力
（3）構造、環境面の把握
（4）努力の集積度
総合点60点以上を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【その他の重要事項】
ゼミ内およびゼミ終了後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
Course outline: The goal is to compile a graduation project as the culmination of the four years of study, with instructions from the supervisor. Each student's theme is set after discussion with their supervisor.
Learning Objectives: Create original productions while carrying out independent research, experimentation, analysis and study in accordance with the theme. Develop the ability to understand problems from a wide range of perspectives and to find solutions independently and continuously.

Learning activities outside of classroom: Proceed in consultation with the supervisors in charge of each seminar. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy: Grade evaluation is performed comprehensively on the content of the submitted graduation project.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業制作２

浜田　英明

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業制作をまとめあげ、提出し、合格することが到達目標となる。各自のテーマは、指導教員との討議のうえで設定する。

【到達目標】
テーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき提案を構想し、制作を行う。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	計画案の経過報告	夏休み中に進めたスタディの発表をし、ディスカッションを行う
2	計画案の決定事項のまとめ	この時点で決定しているコンセプト・ダイアグラム・選定敷地等についてのプレゼンテーションをまとめ、指導を行う
3	計画案の発展(１)	計画案をさらに発展させるためのスタディを行い、構造と意匠の整合を図るよう指導する
4	計画案の発展(２)	部分計画に関わる検討を行い指導する
5	計画案の発展(３)	詳細表現に関わる検討を行い指導する
6	中間発表に向けて（１）	中間発表に必要な素材を検討する
7	中間発表に向けて（２）	各図面、模型について指導する
8	中間発表に向けて（３）	中間発表に向けてプレゼンテーションの練習を行う
9	中間発表をうけて	発表時に指摘された箇所のブラッシュアップを検討し指導する
10	図面指導（１）	卒業設計完成に向けて指導を行う
11	図面指導（２）	必要図面の確認を行い、指導する
12	図面指導（３）	各図面、模型の表現方法について指導を行う
13	プレゼンテーションチェック	提出図面のプレゼンテーションに対して指導を行う
14	総括	ポストレビューを行い、各作品の長所や問題点などについて講評する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
以下に卒業制作として設計を行うことをイメージした場合の学習の進め方を示す。なお、設計以外の制作を行う場合は各指導教員と卒業制作の進め方に関してディスカッションを十分に行うこと。
1. 提出までのスケジュールを検討する
2. ディスカッションの準備
3. プレゼンテーションの資料つくり
4. 計画案の構造と意匠の面からアプローチを考える
5. 図面・模型等の準備
6. 図面・模型等の準備
7. 図面・模型等の準備
8. 図面・模型等の準備
9. プレゼンテーションの準備
10. 図面や模型の作成
11. 提出予定の図面や模型の製作を進める
12. 提出予定の図面や模型の製作を進める
13. 提出予定の図面や模型の製作を進める
14. 提出予定の図面や模型の製作を進める
15. 作品のブラッシュアップやプレゼンテーションの練習をしておく
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【参考書】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
以下の条件を満たしていること。
（A）定められた期限内に提出されたものであること。
（B）定められた図書形式に従っていること。（用紙サイズ：A1）
（C）建築設計の場合は，設計図（設計要旨、平面図、立面図、断面図、透視図または模型写真など）の形式を有すること。その他の場合も，設計図に準じた形式を有すること。
（D）卒業制作相当の努力を認めえるものであること。
（E）指導教員の指導を受けたものであること。
但し、あらかじめ指導教授が特別の判断を行った場合は上記（B）、（C）の条件を変更できる。
以上の条件を満たしているものについて、以下の視点から、総合的に評価する。
（1）独創性、問題意識、計画能力
（2）分析力、総合力、造形及び表現能力
（3）構造、環境面の把握
（4）努力の集積度
総合点60点以上を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【その他の重要事項】
ゼミ内およびゼミ終了後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
Course outline: The goal is to compile a graduation project as the culmination of the four years of study, with instructions from the supervisor. Each student's theme is set after discussion with their supervisor.
Learning Objectives: Create original productions while carrying out independent research, experimentation, analysis and study in accordance with the theme. Develop the ability to understand problems from a wide range of perspectives and to find solutions independently and continuously.

Learning activities outside of classroom: Proceed in consultation with the supervisors in charge of each seminar. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy: Grade evaluation is performed comprehensively on the content of the submitted graduation project.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業制作２

高村　雅彦

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業制作をまとめあげ、提出し、合格することが到達目標となる。各自のテーマは、指導教員との討議のうえで設定する。

【到達目標】
テーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき提案を構想し、制作を行う。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	計画案の経過報告	夏休み中に進めたスタディの発表をし、ディスカッションを行う
2	計画案の決定事項のまとめ	この時点で決定しているコンセプト・ダイアグラム・選定敷地等についてのプレゼンテーションをまとめ、指導を行う
3	計画案の発展(１)	計画案をさらに発展させるためのスタディを行い、構造と意匠の整合を図るよう指導する
4	計画案の発展(２)	部分計画に関わる検討を行い指導する
5	計画案の発展(３)	詳細表現に関わる検討を行い指導する
6	中間発表に向けて（１）	中間発表に必要な素材を検討する
7	中間発表に向けて（２）	各図面、模型について指導する
8	中間発表に向けて（３）	中間発表に向けてプレゼンテーションの練習を行う
9	中間発表をうけて	発表時に指摘された箇所のブラッシュアップを検討し指導する
10	図面指導（１）	卒業設計完成に向けて指導を行う
11	図面指導（２）	必要図面の確認を行い、指導する
12	図面指導（３）	各図面、模型の表現方法について指導を行う
13	プレゼンテーションチェック	提出図面のプレゼンテーションに対して指導を行う
14	総括	ポストレビューを行い、各作品の長所や問題点などについて講評する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
以下に卒業制作として設計を行うことをイメージした場合の学習の進め方を示す。なお、設計以外の制作を行う場合は各指導教員と卒業制作の進め方に関してディスカッションを十分に行うこと。
1. 提出までのスケジュールを検討する
2. ディスカッションの準備
3. プレゼンテーションの資料つくり
4. 計画案の構造と意匠の面からアプローチを考える
5. 図面・模型等の準備
6. 図面・模型等の準備
7. 図面・模型等の準備
8. 図面・模型等の準備
9. プレゼンテーションの準備
10. 図面や模型の作成
11. 提出予定の図面や模型の製作を進める
12. 提出予定の図面や模型の製作を進める
13. 提出予定の図面や模型の製作を進める
14. 提出予定の図面や模型の製作を進める
15. 作品のブラッシュアップやプレゼンテーションの練習をしておく
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【参考書】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
以下の条件を満たしていること。
（A）定められた期限内に提出されたものであること。
（B）定められた図書形式に従っていること。（用紙サイズ：A1）
（C）建築設計の場合は，設計図（設計要旨、平面図、立面図、断面図、透視図または模型写真など）の形式を有すること。その他の場合も，設計図に準じた形式を有すること。
（D）卒業制作相当の努力を認めえるものであること。
（E）指導教員の指導を受けたものであること。
但し、あらかじめ指導教授が特別の判断を行った場合は上記（B）、（C）の条件を変更できる。
以上の条件を満たしているものについて、以下の視点から、総合的に評価する。
（1）独創性、問題意識、計画能力
（2）分析力、総合力、造形及び表現能力
（3）構造、環境面の把握
（4）努力の集積度
総合点60点以上を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【その他の重要事項】
ゼミ内およびゼミ終了後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
Course outline: The goal is to compile a graduation project as the culmination of the four years of study, with instructions from the supervisor. Each student's theme is set after discussion with their supervisor.
Learning Objectives: Create original productions while carrying out independent research, experimentation, analysis and study in accordance with the theme. Develop the ability to understand problems from a wide range of perspectives and to find solutions independently and continuously.

Learning activities outside of classroom: Proceed in consultation with the supervisors in charge of each seminar. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy: Grade evaluation is performed comprehensively on the content of the submitted graduation project.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業制作２

岩佐　明彦

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業制作をまとめあげ、提出し、合格することが到達目標となる。各自のテーマは、指導教員との討議のうえで設定する。

【到達目標】
テーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき提案を構想し、制作を行う。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	計画案の経過報告	夏休み中に進めたスタディの発表をし、ディスカッションを行う
2	計画案の決定事項のまとめ	この時点で決定しているコンセプト・ダイアグラム・選定敷地等についてのプレゼンテーションをまとめ、指導を行う
3	計画案の発展(１)	計画案をさらに発展させるためのスタディを行い、構造と意匠の整合を図るよう指導する
4	計画案の発展(２)	部分計画に関わる検討を行い指導する
5	計画案の発展(３)	詳細表現に関わる検討を行い指導する
6	中間発表に向けて（１）	中間発表に必要な素材を検討する
7	中間発表に向けて（２）	各図面、模型について指導する
8	中間発表に向けて（３）	中間発表に向けてプレゼンテーションの練習を行う
9	中間発表をうけて	発表時に指摘された箇所のブラッシュアップを検討し指導する
10	図面指導（１）	卒業設計完成に向けて指導を行う
11	図面指導（２）	必要図面の確認を行い、指導する
12	図面指導（３）	各図面、模型の表現方法について指導を行う
13	プレゼンテーションチェック	提出図面のプレゼンテーションに対して指導を行う
14	総括	ポストレビューを行い、各作品の長所や問題点などについて講評する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
以下に卒業制作として設計を行うことをイメージした場合の学習の進め方を示す。なお、設計以外の制作を行う場合は各指導教員と卒業制作の進め方に関してディスカッションを十分に行うこと。
1. 提出までのスケジュールを検討する
2. ディスカッションの準備
3. プレゼンテーションの資料つくり
4. 計画案の構造と意匠の面からアプローチを考える
5. 図面・模型等の準備
6. 図面・模型等の準備
7. 図面・模型等の準備
8. 図面・模型等の準備
9. プレゼンテーションの準備
10. 図面や模型の作成
11. 提出予定の図面や模型の製作を進める
12. 提出予定の図面や模型の製作を進める
13. 提出予定の図面や模型の製作を進める
14. 提出予定の図面や模型の製作を進める
15. 作品のブラッシュアップやプレゼンテーションの練習をしておく
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【参考書】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
以下の条件を満たしていること。
（A）定められた期限内に提出されたものであること。
（B）定められた図書形式に従っていること。（用紙サイズ：A1）
（C）建築設計の場合は，設計図（設計要旨、平面図、立面図、断面図、透視図または模型写真など）の形式を有すること。その他の場合も，設計図に準じた形式を有すること。
（D）卒業制作相当の努力を認めえるものであること。
（E）指導教員の指導を受けたものであること。
但し、あらかじめ指導教授が特別の判断を行った場合は上記（B）、（C）の条件を変更できる。
以上の条件を満たしているものについて、以下の視点から、総合的に評価する。
（1）独創性、問題意識、計画能力
（2）分析力、総合力、造形及び表現能力
（3）構造、環境面の把握
（4）努力の集積度
総合点60点以上を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【その他の重要事項】
ゼミ内およびゼミ終了後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
Course outline: The goal is to compile a graduation project as the culmination of the four years of study, with instructions from the supervisor. Each student's theme is set after discussion with their supervisor.
Learning Objectives: Create original productions while carrying out independent research, experimentation, analysis and study in accordance with the theme. Develop the ability to understand problems from a wide range of perspectives and to find solutions independently and continuously.

Learning activities outside of classroom: Proceed in consultation with the supervisors in charge of each seminar. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy: Grade evaluation is performed comprehensively on the content of the submitted graduation project.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業制作２

小堀　哲夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業制作をまとめあげ、提出し、合格することが到達目標となる。各自のテーマは、指導教員との討議のうえで設定する。

【到達目標】
テーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき提案を構想し、制作を行う。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	計画案の経過報告	夏休み中に進めたスタディの発表をし、ディスカッションを行う
2	計画案の決定事項のまとめ	この時点で決定しているコンセプト・ダイアグラム・選定敷地等についてのプレゼンテーションをまとめ、指導を行う
3	計画案の発展(１)	計画案をさらに発展させるためのスタディを行い、構造と意匠の整合を図るよう指導する
4	計画案の発展(２)	部分計画に関わる検討を行い指導する
5	計画案の発展(３)	詳細表現に関わる検討を行い指導する
6	中間発表に向けて（１）	中間発表に必要な素材を検討する
7	中間発表に向けて（２）	各図面、模型について指導する
8	中間発表に向けて（３）	中間発表に向けてプレゼンテーションの練習を行う
9	中間発表をうけて	発表時に指摘された箇所のブラッシュアップを検討し指導する
10	図面指導（１）	卒業設計完成に向けて指導を行う
11	図面指導（２）	必要図面の確認を行い、指導する
12	図面指導（３）	各図面、模型の表現方法について指導を行う
13	プレゼンテーションチェック	提出図面のプレゼンテーションに対して指導を行う
14	総括	ポストレビューを行い、各作品の長所や問題点などについて講評する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
以下に卒業制作として設計を行うことをイメージした場合の学習の進め方を示す。なお、設計以外の制作を行う場合は各指導教員と卒業制作の進め方に関してディスカッションを十分に行うこと。
1. 提出までのスケジュールを検討する
2. ディスカッションの準備
3. プレゼンテーションの資料つくり
4. 計画案の構造と意匠の面からアプローチを考える
5. 図面・模型等の準備
6. 図面・模型等の準備
7. 図面・模型等の準備
8. 図面・模型等の準備
9. プレゼンテーションの準備
10. 図面や模型の作成
11. 提出予定の図面や模型の製作を進める
12. 提出予定の図面や模型の製作を進める
13. 提出予定の図面や模型の製作を進める
14. 提出予定の図面や模型の製作を進める
15. 作品のブラッシュアップやプレゼンテーションの練習をしておく
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【参考書】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
以下の条件を満たしていること。
（A）定められた期限内に提出されたものであること。
（B）定められた図書形式に従っていること。（用紙サイズ：A1）
（C）建築設計の場合は，設計図（設計要旨、平面図、立面図、断面図、透視図または模型写真など）の形式を有すること。その他の場合も，設計図に準じた形式を有すること。
（D）卒業制作相当の努力を認めえるものであること。
（E）指導教員の指導を受けたものであること。
但し、あらかじめ指導教授が特別の判断を行った場合は上記（B）、（C）の条件を変更できる。
以上の条件を満たしているものについて、以下の視点から、総合的に評価する。
（1）独創性、問題意識、計画能力
（2）分析力、総合力、造形及び表現能力
（3）構造、環境面の把握
（4）努力の集積度
総合点60点以上を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【その他の重要事項】
ゼミ内およびゼミ終了後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
Course outline: The goal is to compile a graduation project as the culmination of the four years of study, with instructions from the supervisor. Each student's theme is set after discussion with their supervisor.
Learning Objectives: Create original productions while carrying out independent research, experimentation, analysis and study in accordance with the theme. Develop the ability to understand problems from a wide range of perspectives and to find solutions independently and continuously.

Learning activities outside of classroom: Proceed in consultation with the supervisors in charge of each seminar. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy: Grade evaluation is performed comprehensively on the content of the submitted graduation project.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業制作２

加用　現空

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業制作をまとめあげ、提出し、合格することが到達目標となる。各自のテーマは、指導教員との討議のうえで設定する。

【到達目標】
テーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき提案を構想し、制作を行う。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	計画案の経過報告	夏休み中に進めたスタディの発表をし、ディスカッションを行う
2	計画案の決定事項のまとめ	この時点で決定しているコンセプト・ダイアグラム・選定敷地等についてのプレゼンテーションをまとめ、指導を行う
3	計画案の発展(１)	計画案をさらに発展させるためのスタディを行い、構造と意匠の整合を図るよう指導する
4	計画案の発展(２)	部分計画に関わる検討を行い指導する
5	計画案の発展(３)	詳細表現に関わる検討を行い指導する
6	中間発表に向けて（１）	中間発表に必要な素材を検討する
7	中間発表に向けて（２）	各図面、模型について指導する
8	中間発表に向けて（３）	中間発表に向けてプレゼンテーションの練習を行う
9	中間発表をうけて	発表時に指摘された箇所のブラッシュアップを検討し指導する
10	図面指導（１）	卒業設計完成に向けて指導を行う
11	図面指導（２）	必要図面の確認を行い、指導する
12	図面指導（３）	各図面、模型の表現方法について指導を行う
13	プレゼンテーションチェック	提出図面のプレゼンテーションに対して指導を行う
14	総括	ポストレビューを行い、各作品の長所や問題点などについて講評する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
以下に卒業制作として設計を行うことをイメージした場合の学習の進め方を示す。なお、設計以外の制作を行う場合は各指導教員と卒業制作の進め方に関してディスカッションを十分に行うこと。
1. 提出までのスケジュールを検討する
2. ディスカッションの準備
3. プレゼンテーションの資料つくり
4. 計画案の構造と意匠の面からアプローチを考える
5. 図面・模型等の準備
6. 図面・模型等の準備
7. 図面・模型等の準備
8. 図面・模型等の準備
9. プレゼンテーションの準備
10. 図面や模型の作成
11. 提出予定の図面や模型の製作を進める
12. 提出予定の図面や模型の製作を進める
13. 提出予定の図面や模型の製作を進める
14. 提出予定の図面や模型の製作を進める
15. 作品のブラッシュアップやプレゼンテーションの練習をしておく
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【参考書】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
以下の条件を満たしていること。
（A）定められた期限内に提出されたものであること。
（B）定められた図書形式に従っていること。（用紙サイズ：A1）
（C）建築設計の場合は，設計図（設計要旨、平面図、立面図、断面図、透視図または模型写真など）の形式を有すること。その他の場合も，設計図に準じた形式を有すること。
（D）卒業制作相当の努力を認めえるものであること。
（E）指導教員の指導を受けたものであること。
但し、あらかじめ指導教授が特別の判断を行った場合は上記（B）、（C）の条件を変更できる。
以上の条件を満たしているものについて、以下の視点から、総合的に評価する。
（1）独創性、問題意識、計画能力
（2）分析力、総合力、造形及び表現能力
（3）構造、環境面の把握
（4）努力の集積度
総合点60点以上を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【その他の重要事項】
ゼミ内およびゼミ終了後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
Course outline: The goal is to compile a graduation project as the culmination of the four years of study, with instructions from the supervisor. Each student's theme is set after discussion with their supervisor.
Learning Objectives: Create original productions while carrying out independent research, experimentation, analysis and study in accordance with the theme. Develop the ability to understand problems from a wide range of perspectives and to find solutions independently and continuously.

Learning activities outside of classroom: Proceed in consultation with the supervisors in charge of each seminar. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy: Grade evaluation is performed comprehensively on the content of the submitted graduation project.

ADE300NA（建築学 / Architecture and building engineering 300）

デザインフォーラム

下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、渡邉　竜一、山道　拓人

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部3学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。
デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？
ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？
建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？
建築でも土木でもない新しい分野とは？
アーバンデザインとは具体的にどういうものなのか？
今日コミュニティはどのような意味をもっているか？
こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】
以下の能力を習得する。
1)さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
2)講演についての感想文、批評をレポートに書く。
3)講演についてその場で質問やコメントを行なう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、
学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回性の講演の繰り返しが特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多次元的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を6-7回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で6-7回となっているのは、フォーラムの翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム１	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成(1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム２	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成(2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム３	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成(3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム４	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成(4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)
10	フォーラム５	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成(5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム６	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成(6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示。

【参考書】
講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
講演メモとレポート内容による。
フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。
６－７回のレポート（講演メモ＋講演レポート）を担当教員が読み評価を行なうが、これが基本的な評価（90％）となる。質問タイムへの参加はTAが記録し、授業参加評価（10％）として加点される。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】
聴講しながらその要旨をノートＰＣにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】
実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って6-7名の講師を選定し招聘している。2021年度よりデザイン工学部3学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】
In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:
What is the act of design? What is the relationship between design and society?
What kind of accumulation of effort is there to complete one design?
Is there a boundary between the realms of architecture and product design?
Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?
What exactly is urban design?
What are the implications for today's community?
Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.
[Learning Objectives]
Acquire the ability to
1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.
2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.
3) Questions and comments about the lecture on the spot
[Learning activities outside of classroom]

In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following six reports: 90%、in class contribution: 10%

ADE300NA（建築学 / Architecture and building engineering 300）

デザインフォーラム

下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、渡邉　竜一、山道　拓人

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部3学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。
デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？
ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？
建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？
建築でも土木でもない新しい分野とは？
アーバンデザインとは具体的にどういうものなのか？
今日コミュニティはどのような意味をもっているか？
こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】
以下の能力を習得する。
1)さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
2)講演についての感想文、批評をレポートに書く。
3)講演についてその場で質問やコメントを行なう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回性の講演の繰り返しが特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多次元的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を7回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で7回となっているのは、各講演の時間が2時限分に当たることと、講演の翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム１	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成(1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム２	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成(2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム３	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成(3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム４	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成(4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)
10	フォーラム５	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成(5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム６	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成(6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示。

【参考書】
講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
講演メモとレポート内容による。
フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。
授業への取り組み（20%)と7回のレポート（講演メモ+講演レポート、80%）によって評価を行なうが、質問タイムへの参加はTAが記録し、授業参加評価に加点される。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】
聴講しながらその要旨をノートＰＣにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】
実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って7名の講師を選定し招聘している。2021年度よりデザイン工学部3学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】
In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:
What is the act of design? What is the relationship between design and society?
What kind of accumulation of effort is there to complete one design?
Is there a boundary between the realms of architecture and product design?
Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?
What exactly is urban design?
What are the implications for today's community?
Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.
[Learning Objectives]
Acquire the ability to
1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.
2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.
3) Questions and comments about the lecture on the spot
[Learning activities outside of classroom]

In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following six reports: 90%、in class contribution: 10%

ADE300NA（建築学 / Architecture and building engineering 300）

デザインフォーラム

下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、渡邉　竜一、山道　拓人

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部3学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。
デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？
ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？
建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？
建築でも土木でもない新しい分野とは？
アーバンデザインとは具体的にどういうものなのか？
今日コミュニティはどのような意味をもっているか？
こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】
以下の能力を習得する。
1)さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
2)講演についての感想文、批評をレポートに書く。
3)講演についてその場で質問やコメントを行なう

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	◎				○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回性の講演の繰り返しが特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多次元的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を7回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で7回となっているのは、各講演の時間が2時限分に当たることと、講演の翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム１	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成(1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム２	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成(2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム３	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成(3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム４	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成(4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)
10	フォーラム５	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成(5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム６	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成(6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示。

【参考書】
講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
講演メモとレポート内容による。
フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。
授業への取り組み（20%)と7回のレポート（講演メモ+講演レポート、80%）によって評価を行なうが、質問タイムへの参加はTAが記録し、授業参加評価に加点される。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】
聴講しながらその要旨をノートＰＣにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】
実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って7名の講師を選定し招聘している。2021年度よりデザイン工学部3学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】
In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:
What is the act of design? What is the relationship between design and society?
What kind of accumulation of effort is there to complete one design?
Is there a boundary between the realms of architecture and product design?
Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?
What exactly is urban design?
What are the implications for today's community?
Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.
[Learning Objectives]
Acquire the ability to
1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.

2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.
3) Questions and comments about the lecture on the spot
[Learning activities outside of classroom]
In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following six reports: 90%、in class contribution: 10%

DES100ND（デザイン学 / Design science 100）

デザイン思考基礎演習

安積　伸、三浦　秀彦、相川　真実、石橋　忠人

開講時期：**春学期後半**/Spring(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
デザインというキーワードをここでは広義に「問題解決・新たな価値の創造」と捉えます。
デザインとは、外観を設計する事だけではなく、社会や人間の問題を解決し、魅力的な価値を創造するということであり、「デザイン思考（デザインシンキング）」とは問題解決・価値創造のための基礎的な思考法・手法といえます。
デザイン思考のプロセスをワークショップ形式で追いながら、問題解決や価値創造の手法を実践的に学ぶことを目的とします。

【到達目標】
「デザイン思考（デザインシンキング）」は、製品やサービスの開発手法として今日では多くの企業・開発者に影響を与えています。
デザイン思考に含まれる多くの重要なプロセスを理解し、説得力があり新鮮かつ魅力的な提案をする力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
デザイン思考のプロセスを追いながら、少人数のチームによるワークショップ形式で進めます。
参加学生には、積極的なディスカッションやプレゼンテーションへの参加が求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題説明 グループ分け 分析・情報整理ワークショップ	全体概要説明 アイスブレイク 分析 要素の解体・抽出 インサイトの共有
2	テーマ考案ワークショップ	アイデア・テーマ考案 グループ再編 アイデア展開
3	フィールドワーク予備調査ワークショップ	観察対象の抽出・選択 場所と企画の設定
4	フィールドワーク 現地調査 インタビュー	現地調査観察（ 情報共有・考察 インタビュー フィールドワークの調査結果・考察プレゼンテーション準備
5	フィールドワーク調査発表 アイデア考案・プロトタイピング・ワークショップ	フィールドワーク調査結果考察プレゼンテーション タッチポイント整理 提案における重点事項の明確化とアイデア発散 プロトタイプの設計と制作
6	プロトタイプ・レビュー プレゼンテーション準備	プロトタイプ進捗確認 プレゼンテーションの概要と準備内容の確認
7	最終プレゼンテーション 総評	最終案発表会 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間内にまとまりきらない作業は、時間外で自主的に行ってもらいます。
各課題の終了後は、企画提案書を美しくまとめ、レポートとして提出してもらいます。
自らの生活を注意深く観察すること。
日常の中で感じる不便な要素を常に記憶し、改善方法を考察する事。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
デザイン思考が世界を変える〔アップデート版〕(ティム ブラウン : 早川書房)

【参考書】
心を動かすデザインの秘密(荷方邦夫 : 実務教育出版)
サービスデザインの教科書 (武山政直 : NTT出版)

【成績評価の方法と基準】
授業参加度の平常点評価を４０点、最終プレゼンテーション内容を５０点、提出レポートを１０点、とする。
総合点が９０点以上をSとし、
89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-
79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-
69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-
60点未満をDとする。
１コマ欠席− 10点、遅刻− 5点。ただし、５コマ以上欠席した者はDとする。
病欠、忌引き、SSI大会、公式練習等は欠席対象から除外するが、当該証明書を提出する事。

【学生の意見等からの気づき】
進行・制作に関する要求があれば、随時考慮してゆきます。

【学生が準備すべき機器他】
ラップトップPCを持参。
授業に必要なソフトウエアを各自のPCに入れておく。

【その他の重要事項】
プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course provides a practical introduction to the fundamentals of problem-solving and creation methods, following the process of Design Thinking in the workshop.
【Learning Objectives】
The aim is to understand the many important processes involved in Design Thinking and to acquire the ability to make persuasive, fresh, and attractive proposals.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be asked to work independently outside of class time on tasks that cannot be completed within class time.
After completing each assignment, you will be asked to submit a beautifully written proposal as a report.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Evaluation of class participation (40%), final presentation (40%), submitted report (10%).

DES100ND（デザイン学 / Design science 100）

図学設計基礎演習Ｘ

梶本　博司、石橋　忠人

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈実〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ものづくりの過程において重要な製図の基礎を学ぶことが出来ます。3次元形状を的確に把握する能力はデザインの開発過程で必要不可欠です。
その能力開発の基礎として、3次元人工物を正確に客観的、計量的に表示し第三者に図示する方法として2次元での図学を習得する必要があります。プロダクトデザインにおける「設計図面」は自己の発案した形状を製造者に数的に伝達をするものです。
また「設計図面」は世界共通の図情報として扱われており、ＩＳＯ規格、国内でのＪＩＳ規格に則って作図する必要があります。本授業では「三角法」と呼ばれる作図技法をベースに製図を学びます。
また、図面はCAD（ Computer Aided Design）と呼ぶコンピュータ上での設計が主流であり、CADでの作図技術基礎も演習を通して学ぶ事が出来ます。
ものづくりの基本となる立体と2次元図形との関係性を把握し、プロダクトデザインや製品シミュレーションに必要な製図を学びます。

【到達目標】
立体と図面を往来する能力を高め、社会で通用する「三角法」の基本を習得すること。
CADシステムによる基礎的な作図が出来ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義と演習を並行して進め、徐々に難易度が上がります。また、その都度課題が与えられ、提出→採点の流れが続きます。最後は各自が主体性のある設計製図を行い授業内で発表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、本授業の演習目的、演習概要、演習採点等内容。演習道具の説明。	プロダクトデザインにおける図面の役割、図面の必要性と図面の基礎概念等
2	図学設計基礎	平面から立体、立体から平面の往来図形を通して立体を第三者に伝達する
3	三角法の基礎-1：基礎概念、三角法の作図法	手描きによる幾何形体－演習1 三角法の作図法、基礎概念の理解。
4	三角法の基礎-2：三角法の作図法 線種と図面記号、図面の配置計画、投影図	手描きによる幾何形体－演習2： 線の種類、基本的な図面記号、図面様式の理解。図面の整合性、中心線の定義、図面配置計画の理解。
5	三角法の基礎-3：三角法の作図法 寸法記入、断面図	手描きによる幾何形体－ 演習3 寸法記入法、断面図
6	CADによる三角法作図の基礎演習-1	CADによる作図のメリット、留意点の理解。アプリケーションの起動及びファイルの保存、図形描画ツールの理解1。
7	CADによる三角法作図の基礎演習-2	CADによる作図のメリット、留意点の理解。アプリケーションの起動及びファイルの保存、図形描画ツールの理解2。
8	CADによる三角法作図の基礎演習-3	CADによる作図。図形描画ツールの理解3。
9	CADによる三角法作図の基礎演習-4	図形描画ツールの理解、数値入力基本操作、演習課題1：三角法による幾何形体の作図。
10	CADによる三角法作図の基礎演習-5	図形描画ツールの理解、数値入力基本操作、演習課題2：三角法による幾何形体の作図。
11	CADによる三角法作図の応用演習-1	身近な立体物を計測し、三角法で作図。
12	CADによる三角法作図の応用演習-2	身近な立体物を計測し、三角法で作図。
13	CADによる三角法作図の応用演習-3	テーマに則ったオリジナルデザインから三角法で作図。（断面図、寸法記入、（定義づけ）整合性の検証）
14	CADによる三角法作図の応用演習-4	テーマに則ったオリジナルデザインから三角法で作図。（完成、及び講師による講評）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習は必須。
CADの基本操作を自主的に学習する事。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内容は画像で表示し、学生各自が演習し、必要に応じて筆記する。
教科書は使用しません。

【参考書】
「図面ってどない描くねん」
発行：日刊工業新聞、著者　山田　学
「JISにもとづく標準製図法」
発行：オーム社

【成績評価の方法と基準】
出席（減点法）
積極的な授業参加と授業態度を評価対象とします。
課題の提出（100％）

【学生の意見等からの気づき】
2次元と3次元を往来することの演習機会を増やします。
基礎の習得を徹底します。

【学生が準備すべき機器他】
第１回授業で指示します。

【その他の重要事項】
授業終了後に教室で質問を受け付ける。または随時，電子メールでも質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
In this course, you can understand the relationship between solids and figures, which are the basis of manufacturing, and learn the drafting for product design and product simulation. You can also learn the basics of digitization in drafting.
（Learning activities outside of classroom）
Be sure to review your lessons.
Self-directed learning of basic CAD operations.
The standard time for preparation and review for this class is two hours each.
(Grading Criteria /Policy)
Attendance (deduction method)
Active class participation and class attitude will be evaluated.
Assignment submission (100%)

DES100ND（デザイン学 / Design science 100）

図学設計基礎演習Ｙ

梶本　博司、石橋　忠人

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈実〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ものづくりの過程において重要な製図の基礎を学ぶことが出来ます。3次元形状を的確に把握する能力はデザインの開発過程で必要不可欠です。
その能力開発の基礎として、3次元人工物を正確に客観的、計量的に表示し第三者に図示する方法として2次元での図学を習得する必要があります。プロダクトデザインにおける「設計図面」は自己の発案した形状を製造者に数的に伝達をするものです。
また「設計図面」は世界共通の図情報として扱われており、ＩＳＯ規格、国内でのＪＩＳ規格に則って作図する必要があります。本授業では「三角法」と呼ばれる作図技法をベースに製図を学びます。
また、図面はCAD（ Computer Aided Design）と呼ぶコンピュータ上での設計が主流であり、CADでの作図技術基礎も演習を通して学ぶ事が出来ます。
ものづくりの基本となる立体と2次元図形との関係性を把握し、プロダクトデザインや製品シミュレーションに必要な製図を学びます。

【到達目標】
立体と図面を往来する能力を高め、社会で通用する「三角法」の基本を習得すること。
CADシステムによる基礎的な作図が出来ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義と演習を並行して進め、徐々に難易度が上がります。また、その都度課題が与えられ、提出→採点の流れが続きます。最後は各自が主体性のある設計製図を行い授業内で発表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、本授業の演習目的、演習概要、演習採点等内容。演習道具の説明。	プロダクトデザインにおける図面の役割、図面の必要性と図面の基礎概念等
2	図学設計基礎	平面から立体、立体から平面の往来図形を通して立体を第三者に伝達する
3	三角法の基礎-1：基礎概念、三角法の作図法	手描きによる幾何形体－演習1 三角法の作図法、基礎概念の理解。
4	三角法の基礎-2：三角法の作図法 線種と図面記号、図面の配置計画、投影図	手描きによる幾何形体－演習2： 線の種類、基本的な図面記号、図面様式の理解。図面の整合性、中心線の定義、図面配置計画の理解。
5	三角法の基礎-3：三角法の作図法 寸法記入、断面図	手描きによる幾何形体－ 演習3 寸法記入法、断面図
6	CADによる三角法作図の基礎演習-1	CADによる作図のメリット、留意点の理解。アプリケーションの起動及びファイルの保存、図形描画ツールの理解1。
7	CADによる三角法作図の基礎演習-2	CADによる作図のメリット、留意点の理解。アプリケーションの起動及びファイルの保存、図形描画ツールの理解2。
8	CADによる三角法作図の基礎演習-3	CADによる作図。図形描画ツールの理解3。
9	CADによる三角法作図の基礎演習-4	図形描画ツールの理解、数値入力基本操作、演習課題1：三角法による幾何形体の作図。
10	CADによる三角法作図の基礎演習-5	図形描画ツールの理解、数値入力基本操作、演習課題2：三角法による幾何形体の作図。
11	CADによる三角法作図の応用演習-1	身近な立体物を計測し、三角法で作図。
12	CADによる三角法作図の応用演習-2	身近な立体物を計測し、三角法で作図。
13	CADによる三角法作図の応用演習-3	テーマに則ったオリジナルデザインから三角法で作図。（断面図、寸法記入、（定義づけ）整合性の検証）
14	CADによる三角法作図の応用演習-4	テーマに則ったオリジナルデザインから三角法で作図。（完成、及び講師による講評）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習は必須。
CADの基本操作を自主的に学習する事。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内容は画像で表示し、学生各自が演習し、必要に応じて筆記する。
教科書は使用しません。

【参考書】
「図面ってどない描くねん」
発行：日刊工業新聞、著者　山田　学
「JISにもとづく標準製図法」
発行：オーム社

【成績評価の方法と基準】
出席（減点法）
積極的な授業参加と授業態度を評価対象とします。
課題の提出（100％）

【学生の意見等からの気づき】
2次元と3次元を往来することの演習機会を増やします。
基礎の習得を徹底します。

【学生が準備すべき機器他】
第１回授業で指示します。

【その他の重要事項】
活授業終了後に教室で質問を受け付ける。または随時，電子メールでも質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
In this course, you can understand the relationship between solids and figures, which are the basis of manufacturing, and learn the drafting for product design and product simulation. You can also learn the basics of digitization in drafting.
（Learning activities outside of classroom）
Be sure to review your lessons.
Self-directed learning of basic CAD operations.
The standard time for preparation and review for this class is two hours each.
(Grading Criteria /Policy)
Attendance (deduction method)
Active class participation and class attitude will be evaluated.
Assignment submission (100%)

DES200ND（デザイン学 / Design science 200）

プロダクトデザイン演習

安積　伸、秋山　かおり、林　登志也

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
演習を通してプロダクトデザインの基礎となる考え方を学び、新鮮な視点をもった企画の提案力、オリジナリティの高いデザインの創造力を養う。
クリエイティブ・プロセスにおける試作と検証の重要性を学び、実践方法・技術を習得する。

【到達目標】
ものづくり、デザインに関わる基礎的かつ根本的な実践力、創造力を身につけることを目標とする。
社会・文化のあらゆる側面に目を向け、理解し、真に快適なデザインとは何かを考察しながら、独創性の高いデザインを追求する方法を学ぶ。
造形・色彩・機能・人間工学・認知心理、といったプロダクトデザインに必要な要素を実習を通して理解する。
観察・実験・データ収集・分析、といった方法を通し、社会的視点をもったデザインの提案方法を学ぶ。
様々な素材・加工法での試作実験・検証を通し、根源的レベルからのデザイン提案力、開発力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は対面形式の実習です。
「プロダクトデザイン1」の履修者は必ず「プロダクトデザイン2」も履修しなければなりません。どちらか片方だけの履修はできません。
「プロダクトデザイン1、2」の授業では、3～4人からなるグループワークと、個人制作の両方を行い、大きく5つの課題に取り組みます。それぞれに課題説明、初期案発表、開発中間報告、チュートリアル、最終発表、というステージで行います。
また本授業では特に、アイデアを試作し、検証・発展させるプロセスが重視されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1週	ガイダンス 色彩と木工①	全プロセスの俯瞰と把握　課題説明
2週	色彩と木工② 蝋燭と鋳造と香り①	最終発表 課題説明
3週	蝋燭と鋳造と香り② 金属とアップサイクリング①	最終発表 課題説明
4週	金属とアップサイクリング② メッシュを用いたデザイン①	最終発表 課題説明
5週	メッシュを用いたデザイン② 食とデザインとブランディング①	最終発表 課題説明
6週	食とデザインとブランディング②	ワークショップ チュートリアル
7週	食とデザインとブランディング① 無意識の行動①	最終発表 課題説明
8週	無意識の行動② 社会実装実験①	調査考察課題の発表 プレゼンテーションを行う 課題説明 人間の無意識の行動に着目し、様々な日常の問題を解決する。
9週	社会実装実験②	経過発表 チュートリアル 試作用いて発案の有効性を検証する。
10週	社会実装実験③ 空間のデザインと人間工学①	課題発表会 課題説明 家具を用いて新たな学習環境・教育環境の提案を行う。
11週	空間のデザインと人間工学②	見学会 学習環境・教育環境を形作る家具の最新事例の見学を行う
12週	空間のデザインと人間工学③	課題制作 チュートリアル 発案を具現化し、試作を用いた検証を行う。
13週	空間のデザインと人間工学④	経過発表 チュートリアル 課題制作 制作物の中間報告会を行う。検証と結果、今後の課題を精査する。
14週	空間のデザインと人間工学⑤	最終発表会 最終制作物の発表と講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題制作は宿題として授業時間外で行います。
各課題の最終プレゼンテーション以外にも、毎回授業のはじめに進捗状況をまとめた発表をします。
本授業の準備(制作)時間は、約3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示。

【参考書】
「誰のためのデザイン？」増補・改訂版　D. A. ノーマン (著)　新曜社
「考えなしの行動?」ジェーン・フルトン・スーリ (著)　太田出版
「心を動かすデザインの秘密」荷方 邦夫 (著)　実務教育出版
「プロダクトデザイン 101のアイデア」　スン・ジャン 他(著)　フィルムアート社

【成績評価の方法と基準】
授業回数の1/3　(5コマ) 欠席および連続3日欠席の受講生は成績評価対象外となります。15分以上の遅刻は2回で1回の欠席扱いとなります。(ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。)
制作成果（70%）提出書類（15%）出席（15%）
総合点が90点以上をSとし、
89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-
79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-
69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-
60点未満をDとする。
積極的な授業参加と授業態度も評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
各課題の狙い、各プロセスで重要視する事柄を理解しやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】
PC　必要なソフトウェアー（プレゼンテーション・CAD・グラフィック 等）を習熟しておいてください。

【その他の重要事項】
欧州・日本でプロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。
履修生には、日常を細かく観察し、問題点、改善可能な点などを常に考察することを期待する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Students learn the basic concepts of product design through exercises and develop the ability to propose fresh ideas and create original designs.
Students learn the importance of prototyping and verification in the creative process and acquire practical methods and techniques.
【Learning Objectives】
The aim is to acquire basic practical and creative skills in manufacturing and design.
Students learn how to pursue highly original design by looking at and understanding all aspects of society and culture and considering what truly comfortable design is.
Students gain an understanding of the elements necessary for product design, such as form, color, function, ergonomics, and cognitive psychology, through practical training.
Learn how to propose designs from a social perspective through methods such as observation, experimentation, data collection, and analysis.
Cultivate the ability to propose and develop designs from a fundamental level through experiments and verification of prototypes using various materials and processing methods.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to develop their work as homework outside of class time.
The standard preparation time for this class is approximately 3 hours, however it is depended on the commitment.
【Grading Criteria /Policy】

Presented Work (70%), Documents submitted (15%), attendance (15%)

DES200ND（デザイン学 / Design science 200）

インダストリアルデザイン実習

梶本　博司、宮沢　哲、谷口　武司、安積　伸

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インダストリアルデザイン(工業製品デザイン)の開発を実務に沿ったプロセスで体験します。
課題となる開発対象物がどの様に製造されているかを理解し、アイデアを反映したデザインの考案とプロトタイプ制作を行います。
プロトタイプによる使用性や価値の検証、製品としての完成度を上げる方法を学びます。

【到達目標】
インダストリアルデザインの実戦的な手法と知識を学びます。
コンセプトの立案やアイデアの展開方法、プロトタイプ制作を基にした価値の検証方法を学びます。
また、工業的な製造プロセスを理解しながら、製品アイデアへと反映する方法を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、インダストリアルデザイン (工業製品デザイン)開発プロセスの実践的実習を通して学習します。
開発対象物がどの様に製造されているかを理解しその特徴や制限を理解する事、また現在の製品にはどのような工夫がありどの様なユーザーが使用しているか、等のデザインが反映するべき現実的な側面を反映したアイデアの考案を行います。
またアイデアを展開しながら試作を繰り返す事で提案を強化し、最終的には製品に近いプロトタイプへとブラッシュアップしていきます。
最終試作では使用性や器物としての価値を検証し、評価を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	１演習教室、教室分け、座席確認、主担当教員	この演習授業概要説明 課題説明 この授業での制作プロセスをよく 理解し積極的にデザインする準備 を行います。
2	ガイダンス PD3第1課題 課題1「テープカッターデザイン」説明 構造体の調査方法 制作プロセス概要	演習授業概要説明 課題１説明 この授業での制作プロセスの説明。 テープカッター基本構造体の調査方法がわかる。
3	「テープカッターデザイン」基本構造体調査まとめ	基本構造体調査をスッケチで表現できるようになる。
4	モックアップ（模型）制作材料スチレンボードについて　モックアップ（模型）制作道具の使い方	スチレンボードモックアップ制作事例でスチレンボードの使い方がわかるようになる。 スチレンボードで構造制作、カット方法説明。基本デザインアイディアスケッチについてわかるようになる。必要な道具の使い方がわか流ようになる。
5	機構モデル制作（スチレンボード）	機構モデルの制作
6	機構モデル制作 各自制作物評価	スチレンボードで制作したテープカッターの基本構造体を説明し評価をもらい指摘されたところを直し完成度を高めることができます。
7	課題１提出、プレゼン、評価	課題１提出、デザインプレゼンの仕方がわかるようになる。評価基準がわかるようになる。
8	課題１プレゼン、評価 課題２：制作材料２、スタイロモックアップ説明	評価の後の課題２の説明。 課題2：フィレット、カット面による造形変化：ジグの使用方法、基本制作造形の説明
9	課題２用材料の準備（スタイロの切り出：各自で行う）	ヒートカッターの使用方法がわかるようになる。
10	モデル制作治具についてフィレットC面での造形制作	ジグの説明。 ジグを使った制作デモ、フィレットC面取り方デモを見ることで制作方法がわかる。
11	課題２提出	プロトタイプ２の制作進捗を見ながら随時個別に具体的な製作手法を学ぶことができる。
12	課題３：テープカッターデザイン2	スチレンボードとスタイロとで「テープカッター」プロトタイプの制作　アイデアスケッチから始める。
13	課題３デザインモックアップ制作 プレゼンテーション	デザインモックアップ制作 プレゼンテーション
14	課題３ プレゼンテーション,講評	プレゼンテーション,講評からプロトタイプ（モックアップ）の制作までの考え方がわかるようよになる。評価基準よりモックアップの完成度で重要なことがわかる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題制作は宿題として授業時間外で行う事を基本とします。
本授業の準備(制作)時間は、約３時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業支援システム「教材」にアップロードします。

【参考書】
「ものはどのようにつくられているのか？」
Chris Lefteri(著)　オライリージャパン
「プロダクトデザインのスタイリング入門」
ピーター・ダブズ(著)　ビー・エヌ・エヌ

【成績評価の方法と基準】
授業回数の1/3　(5コマ) 欠席および連続3日欠席の受講生は成績評価対象外となります。15分以上の遅刻は2回で1回の欠席扱いとなります。(ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。)
制作成果（70%）提出書類（15%）出席（15%）
総合点が９０点以上をSとし、
89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-
79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-
69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-
60点未満をDとする。
積極的な授業参加と授業態度も評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
制作プロセスの説明強化。制作プロセスチャート作成の方法論指導 強化します。
洞察、観察レベルの指導強化。

【その他の重要事項】
欧州、日本でプロダクトデザイン実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の基礎知識・手法を指導する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Students will experience the way to develop industrial design through a process that is consistent with actual practice.
Students understand how industrial product is manufactured, and think an original design idea and create a prototype. Students will learn how to evaluate usability and value of the design through prototypes and improve the level of perfection as a product.
【Learning Objectives】
Through the experience of the course, students will learn the practical skill and knowledge of industrial design stated as followings:
- The practical methods, skill and knowledge of industrial design.
- The way to develop from concepts ideas to prototyping, and evaluate value with prototype.
- The knowledge of industrial manufacturing process and the way to translate to product ideas.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to develop their work as homework outside of class time.
The standard preparation time for this class is approximately three hours, however it is depended on the commitment.
【Grading Criteria /Policy】
Presented Work (70%), Documents submitted (15%), attendance (15%)

DES200ND（デザイン学 / Design science 200）

メディアデザイン演習

大西　景太、大庭　広明、舟山　貴士

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1年次グラフィックデザイン演習で得たスキルを基に、時間軸を有するメディア（本、WEBページ、映像）のデザインを複数の演習を通して学ぶ。

【到達目標】
エディトリアルデザイン、モーショングラフィック、データビジュアライゼーション、Webページなど異なるメディア形式に対応したデザインスキルを得る。
さまざまなリサーチ手法を活用して伝えるべき価値を探求する。
ブラッシュアップを繰り返し、完成度の高い作品を制作する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業前半では、アナログメディアである冊子をデザインする。時間軸とページのフローを考慮し、情報を効果的に伝える演習を行う。企画、取材、編集、レイアウトの力を養う。
授業後半では、プログラミング、モーショングラフィック、データビジュアライゼーションの手法を学習した上でWEBページをデザインする。インタラクションのあるデジタルメディアにおけるデザイン力を養う。
スキル学習、制作は自宅で行い、授業は講義、ディスカッション、講評を中心に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	演習内容ガイダンス 冊子-1	授業の進め方、授業課題、履修上の注意点、成績評価等のガイダンスを行う。 教員のデザイン活動を事例を通して解説する。
2	冊子-2	エディトリアルデザインの解説を行う
3	冊子-3	エディトリアルデザインの制作を行う。
4	冊子-4	エディトリアルデザインの制作を行う。
5	冊子-5	エディトリアルデザインの制作を行う。
6	冊子-6	エディトリアルデザインの制作を行う。
7	冊子-7 発表、講評	エディトリアルデザイン課題の発表と講評を行う
8	Web-1	Web課題について解説する
9	Web-2 イラスト・アニメーション	イラストにモーションをつける制作を行う
10	Web-3 スクロール	JavaScriptを用いてスクロールに追従する動きを学ぶ
11	Web-4	Web課題の制作 個別相談会
12	Web-5	Web課題の制作を行う
13	Web-6	Web課題の制作を行う 個別相談会
14	Web-7 発表、講評	Web課題の発表と講評を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
夏季休暇中に事前課題を課します。
また、スキル学習、制作は自宅で行ってもらいます。時間を確保してください。
Adobe Indesign、After Effectsなどのソフトを使用するため、
「Adobe CC学生ライセンスパック」の継続利用を推奨します。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜プリントを配布する。

【参考書】
特に指定しない。授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
課題提出作品評価（80 %）
制作プロセス評価（20 %）
課題を提出しても基準に満たな場合D評価、
課題未提出はE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
PC
USB メモリ
配布資料用クリアーファイル

【その他の重要事項】
エディトリアル、モーション、Webなどにおけるデザイン実務経験のある教員が、その経験を生かして基礎知識・手法を指導する。

【Outline (in English)】
Based on the skills acquired in the first-year graphic design exercise, students will learn to design media with a time axis (books, web pages, videos) through multiple exercises.

CST200NC（土木工学 / Civil engineering 200）

測量実習X

今井　龍一

開講時期：**春学期後半**/Spring(2nd half)　｜　選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
土木に於ける測量は、建設・施工面で重要視されている。その技術は、基本として地図を作成する過程を習得することにある。そのため本実習では地図を作る工程の基本につき講義・実習を行う。

【到達目標】
距離、角度、高低差を計測する技術を習得し、さらに、平板測量の仕方を身に着ける

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力　30%
（D）専門基礎学力　30%
（E）専門知識の活用・応用能力　20%
（F）総合デザイン能力　20%
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
実際の測量機器を用いて計測方法を習得する．また，得られたデータによる精度検証を行い，実務に利用できる能力を身につける．なお，測量は班別に計測するため協力して成果を得られるチームワークを身につける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 測量の精度と工程を把握し，選点図を作成することにより測量の概要を理解する	ガイダンス（測量の目的、方法、工程、器機等について）現地踏査、選点、埋設、点の記、選点図の作成
2	計画・準備 測量範囲、方法、精度、工程の検討	多角点の設置
3	測角（1） トランシットの使い方をマスターする	経緯儀の構造、角測定の方法
4	測角（2） 実際に選点した閉トラバースの内角の測定	角度の測定、計算
5	測角（3） 実際に選点した閉トラバースの内角の測定	角度の測定、計算、精度の検証
6	距離測量 距離測定の方法と誤差配分を理解する	スチールテープの特性、直接測距の方法、距離の測定、誤差の配分
7	水準測量 レベルの使い方をマスターする	水準測量の方法、縦横断測量 水準測量の計算、誤差配分
8	多角測量 測角を行い，多角測量の計算手法を理解する	方位角の取付け 多角測量の計算、制限、誤差配分 再測、展開、まとめ
9	平板測量（1） 平板測量の仕方を理解する	器機の説明、取り扱い、方法 細部測量（平面・等高線、標高点）
10	平板測量（2）	校舎周辺の平板測量
11	レーザ測量（固定型）	器機の説明、取扱い、測量、計算
12	レーザ測量（可搬型）	器機の説明、取扱い、測量、計算
13	レーザ測量（合成）	複数機器による測量と計算
14	まとめ	不足している測量項目がないか検証してある場合は補足の測量を実施 成果の取りまとめと発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
小田部和司著「測量学」、技報堂出版

【参考書】
講義の中で紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点，取組姿勢及び個人レポート及び班別成果により評価する。
取組姿勢・平常点（60％），個人実習（20％），班別成果（20％）
授業を4回以上欠席した場合は、単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】
初めて機器に触れるため、丁重な説明を実施する。

【学生が準備すべき機器他】
計算には関数付電卓かPCを持参すること。
野外実習に適した服装をすること。

【その他の重要事項】
測量士資格を有し、本務地において現地測量の実務経験を有する教員が、測量実習において、実務に即した計画段取りや、実作業として効率的な手順や精度管理方法について、実演も含めて講義する。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」、NEDO「3次元空間情報基盤に関する研究開発」およびNEDO「空間ID・3次元空間情報基盤の活用人材育成に係る特別講座」で作成した教材を活用する。
オフィスアワー：木曜　12:20～13:00

【Outline (in English)】
Surveying in civil engineering is regarded as an important process for construction. The basic technique involves mastering the process of creating maps. Therefore, in this course, lectures and practice will be given on the basics maps making process.
The goal is to learn techniques to measure distances, angles, and elevation differences, and learn how to do flat-plate surveying.
Evaluation will be made on the basis of normal points, attitude and individual reports, and group achievements.
Attitude and normal score (60%), individual practice (20%), group achievement (20%)
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

CST200NC（土木工学 / Civil engineering 200）

測量実習Y

大山　容一、渡辺　一博

開講時期：**春学期後半**/Spring(2nd half)　｜　選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
土木に於ける測量は、建設・施工面で重要視されている。その技術は、基本として地図を作成する過程を習得することにある。そのため本実習では地図を作る工程の基本につき講義・実習を行う。

【到達目標】
距離、角度、高低差を計測する技術を習得し、さらに、平板測量の仕方を身に着ける

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力　30%
（D）専門基礎学力　30%
（E）専門知識の活用・応用能力　20%
（F）総合デザイン能力　20%
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
実際の測量機器を用いて計測方法を習得する．また，得られたデータによる精度検証を行い，実務に利用できる能力を身につける．なお，測量は班別に計測するため協力して成果を得られるチームワークを身につける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 測量の精度と工程を把握し，選点図を作成することにより測量の概要を理解する	ガイダンス（測量の目的、方法、工程、器機等について）現地踏査、選点、埋設、点の記、選点図の作成
2	計画・準備 測量範囲、方法、精度、工程の検討	多角点の設置
3	測角（1） トランシットの使い方をマスターする	経緯儀の構造、角測定の方法
4	測角（2） 実際に選点した閉トラバースの内角の測定	角度の測定、計算
5	測角（3） 実際に選点した閉トラバースの内角の測定	角度の測定、計算、精度の検証
6	距離測量 距離測定の方法と誤差配分を理解する	スチールテープの特性、直接測距の方法、距離の測定、誤差の配分
7	水準測量 レベルの使い方をマスターする	水準測量の方法、縦横断測量 水準測量の計算、誤差配分
8	多角測量 測角を行い，多角測量の計算手法を理解する	方位角の取付け 多角測量の計算、制限、誤差配分 再測、展開、まとめ
9	平板測量（1） 平板測量の仕方を理解する	器機の説明、取り扱い、方法 細部測量（平面・等高線、標高点）
10	平板測量（2）	校舎周辺の平板測量
11	レーザ測量（固定型）	器機の説明、取扱い、測量、計算
12	レーザ測量（可搬型）	器機の説明、取扱い、測量、計算
13	レーザ測量（合成）	複数機器による測量と計算
14	まとめ	不足している測量項目がないか検証してある場合は補足の測量を実施 成果の取りまとめと発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
小田部和司著「測量学」、技報堂出版

【参考書】
講義の中で紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点，取組姿勢及び個人レポート及び班別成果により評価する。
取組姿勢・平常点（60％），個人実習（20％），班別成果（20％）
授業を4回以上欠席した場合は、単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】
初めて機器に触れるため、丁重な説明を実施する。

【学生が準備すべき機器他】
計算には関数付電卓かPCを持参すること。
野外実習に適した服装をすること。

【その他の重要事項】
測量士資格を有し、本務地において現地測量の実務経験を有する教員が、測量実習において、実務に即した計画段取りや、実作業として効率的な手順や精度管理方法について、実演も含めて講義する。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」、NEDO「3次元空間情報基盤に関する研究開発」およびNEDO「空間ID・3次元空間情報基盤の活用人材育成に係る特別講座」で作成した教材を活用する。
オフィスアワー：水曜　12:20～13:00

【Outline (in English)】
Surveying in civil engineering is regarded as an important process for construction. The basic technique involves mastering the process of creating maps. Therefore, in this course, lectures and practice will be given on the basics maps making process.
The goal is to learn techniques to measure distances, angles, and elevation differences, and learn how to do flat-plate surveying.
Evaluation will be made on the basis of normal points, attitude and individual reports, and group achievements.
Attitude and normal score (60%), individual practice (20%), group achievement (20%)
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

CST300NC（土木工学 / Civil engineering 300）

都市調査解析

今井　龍一

開講時期：**春学期後半**/Spring(2nd half)　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
少子高齢化の先進諸国における都市空間の計画・設計・開発・経営に対するニーズはますます多様化、複雑化している。一方、都市空間そのものに加えて、ヒト・モノ・コトの活動の実態を網羅的に常時観測できる技術も日進月歩である。
本講義では、都市空間の計画・設計・開発・経営に必要な地図や統計データの特性および分析手法を習得する。

【到達目標】
土木計画学に必要な各種統計データを分析する能力を習得する

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力　30%
（E）専門知識の活用・応用能力　50%
（F）総合デザイン能力　20%
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
都市空間や都市活動（ヒトモノコトの交通・流通）の統計データや分析に利用する地図の特徴を理解し、それらを使った分析手法を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市調査解析の概論	講義計画、概論
2	解析に利用する地図（基本）	ICTを活用した国土管理、地図の基礎
3	解析に利用する地図（種類）	地図の種類
4	解析に利用する地図（ジオメトリ）	ジオメトリ
5	解析に利用する地図（NW）	ネットワーク
6	解析に利用する地図（トポロジ）	トポロジ
7	統計（基本）	統計データの種類と所在
8	統計（応用）	統計データの活用
9	ビッグデータ（基本）	ビッグデータの種類と所在
10	ビッグデータ（応用）	ビッグデータの活用
11	解析手法（モデリング基礎）	モデリングの基礎
12	解析手法（モデリング応用）	モデリングの応用
13	解析手法（応用）	統計処理、人工知能等
14	総括と理解度の確認	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて講義資料を配信する

【参考書】
新田保次監修「図説わかる土木計画学」学芸出版，吉川和広編著「土木計画学演習」森北出版，日本建築学会編「建築・都市計画のための調査・分析方法」

【成績評価の方法と基準】
演習課題・レポート・発表により評価する。ただし，授業を4回以上欠席した場合は、単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】
・基礎的な統計解析は習得しておくこと。
・GISやMicrosoft Excelの基礎は学んでおくこと。

【学生が準備すべき機器他】
貸与ノートパソコンを持参すること。

【その他の重要事項】
同分野での豊富な実務経験を有する教員が講義する。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」、NEDO「3次元空間情報基盤に関する研究開発」およびNEDO「空間ID・3次元空間情報基盤の活用人材育成に係る特別講座」で作成した教材を活用する。
オフィスアワー：木曜　12:20～13:00

【Outline (in English)】
This course allows students to learn theories for research, analysis, planning, and evaluation related to urban and transportation planning, as well as methods for implementing plans. Students will also learn about existing maps and statistics, as well as analysis methods using diverse urban data.
The goal is to acquire the ability to analyze various statistical data necessary for civil engineering planning studies.
Assessments will be based on each report and the final report.
Students who are absent four or more times will not be allowed to receive credit (grade D).
Term end examination :70%, Short reports : 30%
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST200NC（土木工学 / Civil engineering 200）

構造力学２

小笠原　照夫

開講時期：**秋学期前半/Fall(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は，構造力学1及演習を引き継ぐ科目である．構造計算に必要な基本的項目を理解し，実際の問題を解ける能力を身に付けることを目的とする．

【到達目標】
不静定構造の断面力図が思い浮かぶようになる．剛性マトリクス法による構造解析の基本的な考え方が理解できる．

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力　70%
（E）専門知識の活用・応用能力　30%
（F）総合デザイン能力
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
主な学習内容は，「連行荷重による断面力，応力とひずみの関係，仮想仕事の原理とエネルギー法による弾性体の解析手法，マトリクス構造解析の考え方」の４項目である．授業はプロジェクタを使用して行うことを基本とし，資料配布も行う．また，理解を高めるために，授業のはじめに前回演習問題の解説を，授業の途中では例題の解説を，授業のおわりに演習を行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	連行荷重 連行荷重による断面力が求められること．	構造力学（1）の復習，はりの影響線の応用，連行荷重による断面力の求め方・利用法
2	仮想仕事の原理（１） 仮想仕事の基本的な考え方を理解すること．	剛体の仮想仕事の原理
3	仮想仕事の原理（２） 仮想仕事の原理を用い，弾性体の変形量を算出できること．	弾性体の仮想仕事の原理
4	仮想仕事の原理（３） 仮想仕事の原理を用い，弾性体の変形量を算出できること．	仮想仕事の原理を用いたはりとトラスの変形の算出
5	相反定理（１） 仮想仕事の原理を用い，はりの影響線を描画できること．	相反作用の定理，Bettiの法則，Maxwellの法則
6	相反定理（２） 仮想仕事の原理を用い，はりの影響線を描画できること．	Müller-Breslauの原理
7	エネルギー法（１） ひずみエネルギーの考え方を理解すること．	ひずみエネルギーを用いた解法，Castiglianoの第２定理
8	エネルギー法（２） ひずみエネルギーを用いた弾性体の解法を理解すること．	最小仕事の定理，Castiglianoの第１定理
9	余力法（１） 不静定はりの断面力図を描画できること．	不静定構造，連続はり，静定分解法
10	余力法（２） 不静定はりの断面力図を描画できること．	不静定構造，連続はり，余力法
11	剛性マトリクス（１） 剛性マトリクス法による構造解析の考え方とトラスの解法を理解すること．	剛性マトリクス，行列，軸方向力部材の剛性マトリクス
12	剛性マトリクス（２） 剛性マトリクス法による構造解析の考え方とトラスの解法を理解すること．	コンピュータに適した剛性マトリクス，不静定トラスを解く
13	剛性マトリクス（３） 剛性マトリクス法によるラーメンの解法を理解すること．	有限要素法，軸方向力と曲げを受ける棒要素の剛性マトリクス
14	応力とひずみ 構造材料の力学的性質と2次元応力状態の主応力について理解すること．主応力とMohrの応力円の関係を理解すること．	構造力学（1）の復習，弾性・塑性，等方性・異方性、応力とひずみの関係，Mohrの応力円と最大・最小主応力

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 構造力学（1）の復習，テキスト[上]4,9章の復習，連行荷重の予習
2. テキスト[下]1章の予習
3. テキスト[下]2.1-2の予習
4. テキスト[下]2.3-4の予習
5. テキスト[下]3.1-3の予習
6. テキスト[下]3.4-5の予習
7. テキスト[下]4.1-3の予習
8. テキスト[下]4.4-6の予習
9. テキスト[下]5.1-3の予習
10. テキスト[下]5.4-5の予習
11. テキスト[下]6.1-5の予習
12. テキスト[下]6.6-7の予習
13. テキスト[下]7章の予習
14. テキスト[上]7.7と付録（もっと立ち入った応力の話）の予習
本授業の準備学習・復習時間は，各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
崎元達郎：構造力学 第2版（上）静定編
　　構造力学 第2版（下）不静定編　(第2刷以降)
　　（森北出版）

【参考書】
必要に応じて紹介する．

【成績評価の方法と基準】
レポート（配点30点）と期末試験（配点70点）による．欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D).

【学生の意見等からの気づき】
講義内容を整理して，例題・演習の時間を増やす．
講義の順番，時間配分を見直す．

【その他の重要事項】
橋梁構造等に関する設計・施工の実務経験から，「理論と計算」を考慮した構造力学を講義する．
オフィスアワー：授業終了後に対面で，あるいはメールなどで随時質問を受けつける．

【Outline (in English)】
The content of this course takes over from Structural Mechanics 1 and Practice.
It aims to understand the basic aspects necessary for structural calculation and to acquire the ability to solve actual problems.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
－You will be able to imagine the sectional force diagram of the statically indeterminate structure.
－ Understand the basic concept of structural analysis by the stiffness matrix method.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 70%、Short reports : 30%

CST300NC（土木工学 / Civil engineering 300）

ゼミナール

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする．卒業研究の実施状況や現場を視察し，研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに，レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する．

【到達目標】
調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	
（B）技術者倫理	10%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	10%
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員別ゼミナールについては，学生の希望を考慮したグループ分けを行い，少人数で行う．この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない．この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け，授業のガイダンス，資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール(1)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(3)	教員別ゼミナール(2)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(4)	教員別ゼミナール(3)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(5)	教員別ゼミナール(4)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(6)	教員別ゼミナール(5)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(7)	教員別ゼミナール(6)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(8)	教員別ゼミナール(7)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(9)	教員別ゼミナール(8)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(10)	教員別ゼミナール(9)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(11)	教員別ゼミナール(10)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(12)	教員別ゼミナール(11)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(13)	教員別ゼミナール(12)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し，発表と審査を傍聴する．数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認．配布資料の復習．レポートの作成.
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
参照すべき書籍などを講義中に随時，紹介する．

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートによる．欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）.
なお，１年生春学期から３年生春学期までの達成度自己評価システム（全５回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
インターネットへの接続が必要な場合には貸与ノートPCを持参する．

【その他の重要事項】
土木構造物の計画，設計，建設（施工），調査・研究に携わった経験のある教員が，専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う．
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。
研究指導は少人数、対面で行われ学生は随時質問などが可能である。また面談時以外については、Eメールにより対応する。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.
The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.
Grades will be based on reports on the theme.
Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).
Submission of the self-evaluation system for achievement (for all five sessions) is a condition for credit approval.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST300NC（土木工学 / Civil engineering 300）

ゼミナール

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする．卒業研究の実施状況や現場を視察し，研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに，レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する．

【到達目標】
調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	
（B）技術者倫理	10%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	10%
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員別ゼミナールについては，学生の希望を考慮したグループ分けを行い，少人数で行う．この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない．この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け，授業のガイダンス，資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール(1)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(3)	教員別ゼミナール(2)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(4)	教員別ゼミナール(3)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(5)	教員別ゼミナール(4)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(6)	教員別ゼミナール(5)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(7)	教員別ゼミナール(6)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(8)	教員別ゼミナール(7)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(9)	教員別ゼミナール(8)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(10)	教員別ゼミナール(9)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(11)	教員別ゼミナール(10)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(12)	教員別ゼミナール(11)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(13)	教員別ゼミナール(12)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し，発表と審査を傍聴する．数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認．配布資料の復習．レポートの作成.
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
参照すべき書籍などを講義中に随時，紹介する．

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートによる．欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）.
なお，１年生春学期から３年生春学期までの達成度自己評価システム（全５回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
インターネットへの接続が必要な場合には貸与ノートPCを持参する．

【その他の重要事項】
土木構造物の計画，設計，建設（施工），調査・研究に携わった経験のある教員が，専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う．
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。
研究指導は少人数、対面で行われ学生は随時質問などが可能である。また面談時以外については、Eメールにより対応する。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.
The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.
Grades will be based on reports on the theme.
Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).
Submission of the self-evaluation system for achievement (for all five sessions) is a condition for credit approval.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST300NC（土木工学 / Civil engineering 300）

ゼミナール

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする．卒業研究の実施状況や現場を視察し，研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに，レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する．

【到達目標】
調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	
（B）技術者倫理	10%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	10%
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員別ゼミナールについては，学生の希望を考慮したグループ分けを行い，少人数で行う．この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない．この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け，授業のガイダンス，資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール(1)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(3)	教員別ゼミナール(2)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(4)	教員別ゼミナール(3)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(5)	教員別ゼミナール(4)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(6)	教員別ゼミナール(5)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(7)	教員別ゼミナール(6)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(8)	教員別ゼミナール(7)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(9)	教員別ゼミナール(8)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(10)	教員別ゼミナール(9)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(11)	教員別ゼミナール(10)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(12)	教員別ゼミナール(11)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(13)	教員別ゼミナール(12)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し，発表と審査を傍聴する．数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認．配布資料の復習．レポートの作成.
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
参照すべき書籍などを講義中に随時，紹介する．

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートによる．欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）.
なお，１年生春学期から３年生春学期までの達成度自己評価システム（全５回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
インターネットへの接続が必要な場合には貸与ノートPCを持参する．

【その他の重要事項】
土木構造物の計画，設計，建設（施工），調査・研究に携わった経験のある教員が，専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う．
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。
研究指導は少人数、対面で行われ学生は随時質問などが可能である。また面談時以外については、Eメールにより対応する。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.
The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.
Grades will be based on reports on the theme.
Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).
Submission of the self-evaluation system for achievement (for all five sessions) is a condition for credit approval.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST300NC（土木工学 / Civil engineering 300）

ゼミナール

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする．卒業研究の実施状況や現場を視察し，研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに，レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する．

【到達目標】
調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	
（B）技術者倫理	10%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	10%
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員別ゼミナールについては，学生の希望を考慮したグループ分けを行い，少人数で行う．この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない．この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け，授業のガイダンス，資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール(1)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(3)	教員別ゼミナール(2)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(4)	教員別ゼミナール(3)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(5)	教員別ゼミナール(4)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(6)	教員別ゼミナール(5)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(7)	教員別ゼミナール(6)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(8)	教員別ゼミナール(7)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(9)	教員別ゼミナール(8)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(10)	教員別ゼミナール(9)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(11)	教員別ゼミナール(10)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(12)	教員別ゼミナール(11)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(13)	教員別ゼミナール(12)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し，発表と審査を傍聴する．数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認．配布資料の復習．レポートの作成.
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
参照すべき書籍などを講義中に随時，紹介する．

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートによる．欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）.
なお，１年生春学期から３年生春学期までの達成度自己評価システム（全５回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
インターネットへの接続が必要な場合には貸与ノートPCを持参する．

【その他の重要事項】
土木構造物の計画，設計，建設（施工），調査・研究に携わった経験のある教員が，専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う．
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。
研究指導は少人数、対面で行われ学生は随時質問などが可能である。また面談時以外については、Eメールにより対応する。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.
The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.
Grades will be based on reports on the theme.
Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).
Submission of the self-evaluation system for achievement (for all five sessions) is a condition for credit approval.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST300NC（土木工学 / Civil engineering 300）

ゼミナール

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする．卒業研究の実施状況や現場を視察し，研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに，レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する．

【到達目標】
調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	
（B）技術者倫理	10%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	10%
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員別ゼミナールについては，学生の希望を考慮したグループ分けを行い，少人数で行う．この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない．この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け，授業のガイダンス，資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール(1)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(3)	教員別ゼミナール(2)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(4)	教員別ゼミナール(3)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(5)	教員別ゼミナール(4)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(6)	教員別ゼミナール(5)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(7)	教員別ゼミナール(6)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(8)	教員別ゼミナール(7)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(9)	教員別ゼミナール(8)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(10)	教員別ゼミナール(9)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(11)	教員別ゼミナール(10)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(12)	教員別ゼミナール(11)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(13)	教員別ゼミナール(12)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し，発表と審査を傍聴する．数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認．配布資料の復習．レポートの作成.
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
参照すべき書籍などを講義中に随時，紹介する．

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートによる．欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）.
なお，１年生春学期から３年生春学期までの達成度自己評価システム（全５回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
インターネットへの接続が必要な場合には貸与ノートPCを持参する．

【その他の重要事項】
土木構造物の計画，設計，建設（施工），調査・研究に携わった経験のある教員が，専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う．
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。
研究指導は少人数、対面で行われ学生は随時質問などが可能である。また面談時以外については、Eメールにより対応する。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.
The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.
Grades will be based on reports on the theme.
Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).
Submission of the self-evaluation system for achievement (for all five sessions) is a condition for credit approval.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST300NC（土木工学 / Civil engineering 300）

ゼミナール

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする．卒業研究の実施状況や現場を視察し，研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに，レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する．

【到達目標】
調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	
（B）技術者倫理	10%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	10%
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員別ゼミナールについては，学生の希望を考慮したグループ分けを行い，少人数で行う．この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない．この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け，授業のガイダンス，資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール(1)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(3)	教員別ゼミナール(2)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(4)	教員別ゼミナール(3)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(5)	教員別ゼミナール(4)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(6)	教員別ゼミナール(5)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(7)	教員別ゼミナール(6)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(8)	教員別ゼミナール(7)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(9)	教員別ゼミナール(8)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(10)	教員別ゼミナール(9)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(11)	教員別ゼミナール(10)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(12)	教員別ゼミナール(11)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(13)	教員別ゼミナール(12)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し，発表と審査を傍聴する．数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認．配布資料の復習．レポートの作成.
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
参照すべき書籍などを講義中に随時，紹介する．

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートによる．欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）.
なお，１年生春学期から３年生春学期までの達成度自己評価システム（全５回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
インターネットへの接続が必要な場合には貸与ノートPCを持参する．

【その他の重要事項】
土木構造物の計画，設計，建設（施工），調査・研究に携わった経験のある教員が，専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う．
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。
研究指導は少人数、対面で行われ学生は随時質問などが可能である。また面談時以外については、Eメールにより対応する。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.
The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.
Grades will be based on reports on the theme.
Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).
Submission of the self-evaluation system for achievement (for all five sessions) is a condition for credit approval.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST300NC（土木工学 / Civil engineering 300）

ゼミナール

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明、尾関　智子、原田　大輔

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする．卒業研究の実施状況や現場を視察し，研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに，レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する．

【到達目標】
調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	
（B）技術者倫理	10%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	10%
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員別ゼミナールについては，学生の希望を考慮したグループ分けを行い，少人数で行う．この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない．この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け，授業のガイダンス，資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール(1)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(3)	教員別ゼミナール(2)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(4)	教員別ゼミナール(3)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(5)	教員別ゼミナール(4)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(6)	教員別ゼミナール(5)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(7)	教員別ゼミナール(6)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(8)	教員別ゼミナール(7)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(9)	教員別ゼミナール(8)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(10)	教員別ゼミナール(9)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(11)	教員別ゼミナール(10)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(12)	教員別ゼミナール(11)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(13)	教員別ゼミナール(12)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し，発表と審査を傍聴する．数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認．配布資料の復習．レポートの作成.
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
参照すべき書籍などを講義中に随時，紹介する．

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートによる．欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）.
なお，１年生春学期から３年生春学期までの達成度自己評価システム（全５回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
インターネットへの接続が必要な場合には貸与ノートPCを持参する．

【その他の重要事項】
土木構造物の計画，設計，建設（施工），調査・研究に携わった経験のある教員が，専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う．
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。
研究指導は少人数、対面で行われ学生は随時質問などが可能である。また面談時以外については、Eメールにより対応する。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.
The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.
Grades will be based on reports on the theme.
Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).
Submission of the self-evaluation system for achievement (for all five sessions) is a condition for credit approval.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST300NC（土木工学 / Civil engineering 300）

ゼミナール

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする．卒業研究の実施状況や現場を視察し，研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに，レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する．

【到達目標】
調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	
（B）技術者倫理	10%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	10%
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員別ゼミナールについては，学生の希望を考慮したグループ分けを行い，少人数で行う．この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない．この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け，授業のガイダンス，資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール(1)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(3)	教員別ゼミナール(2)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(4)	教員別ゼミナール(3)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(5)	教員別ゼミナール(4)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(6)	教員別ゼミナール(5)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(7)	教員別ゼミナール(6)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(8)	教員別ゼミナール(7)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(9)	教員別ゼミナール(8)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(10)	教員別ゼミナール(9)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(11)	教員別ゼミナール(10)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(12)	教員別ゼミナール(11)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(13)	教員別ゼミナール(12)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し，発表と審査を傍聴する．数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認．配布資料の復習．レポートの作成.
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
参照すべき書籍などを講義中に随時，紹介する．

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートによる．欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）.
なお，１年生春学期から３年生春学期までの達成度自己評価システム（全５回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
インターネットへの接続が必要な場合には貸与ノートPCを持参する．

【その他の重要事項】
土木構造物の計画，設計，建設（施工），調査・研究に携わった経験のある教員が，専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う．
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。
研究指導は少人数、対面で行われ学生は随時質問などが可能である。また面談時以外については、Eメールにより対応する。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.
The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.
Grades will be based on reports on the theme.
Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).
Submission of the self-evaluation system for achievement (for all five sessions) is a condition for credit approval.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST300NC（土木工学 / Civil engineering 300）

ゼミナール

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする．卒業研究の実施状況や現場を視察し，研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに，レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する．

【到達目標】
調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	
（B）技術者倫理	10%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	10%
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員別ゼミナールについては，学生の希望を考慮したグループ分けを行い，少人数で行う．この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない．この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け，授業のガイダンス，資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール(1)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(3)	教員別ゼミナール(2)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(4)	教員別ゼミナール(3)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(5)	教員別ゼミナール(4)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(6)	教員別ゼミナール(5)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(7)	教員別ゼミナール(6)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(8)	教員別ゼミナール(7)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(9)	教員別ゼミナール(8)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(10)	教員別ゼミナール(9)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(11)	教員別ゼミナール(10)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(12)	教員別ゼミナール(11)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(13)	教員別ゼミナール(12)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し，発表と審査を傍聴する．数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認．配布資料の復習．レポートの作成.
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
参照すべき書籍などを講義中に随時，紹介する．

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートによる．欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）.
なお，１年生春学期から３年生春学期までの達成度自己評価システム（全５回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
インターネットへの接続が必要な場合には貸与ノートPCを持参する．

【その他の重要事項】
土木構造物の計画，設計，建設（施工），調査・研究に携わった経験のある教員が，専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う．
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。
研究指導は少人数、対面で行われ学生は随時質問などが可能である。また面談時以外については、Eメールにより対応する。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.
The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.
Grades will be based on reports on the theme.
Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).
Submission of the self-evaluation system for achievement (for all five sessions) is a condition for credit approval.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST300NC（土木工学 / Civil engineering 300）

上下水道システム

鈴木　善晴

開講時期：**秋学期前半/Fall(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

水の循環は，自然系の水循環と社会活動に必要不可欠な上下水道システムによる人工系の水循環が混在している．本授業では，都市の上下水道による水循環に焦点を当て，社会基盤を支えるインフラの一つとして，上下水道システムにおける発展の歴史や求められる役割，システムの構成と機能，設計や施工方法及びシステムの運営・管理など，日本の実社会での取組み事例をベースに学習する．

また，持続可能な社会構築にむけてインフラの共通課題である，施設の老朽化や耐震化問題を始めとした上下水道分野における課題と対応策についても学ぶ．上下水道システムの全体像や構成技術，現在の課題及び対応策について理解を深めることにより，卒業後に上下水道分野の職場を希望する学生のみならず，街づくりに携わる分野を希望する学生にとっても必要な基礎的能力の向上を目的とする．

【到達目標】

上下水道システムの，①役割（社会生活の維持，水環境の保全，持続的社会にむけて），②仕組み（上水道システム，下水道システム，運営・維持管理），③課題（地球温暖化による影響，施設の老朽化，大規模災害リスクの増大，人口減少の影響等），④対応策（雨水流出制御（貯留，浸透），官民連携，新技術の開発，街づくりとの一体整備等）について学ぶ．特に上下水道技術分野における課題や今後の方向性，市民としての「自助」活動のあり方を理解するとともに，工学エンジニアとしての社会における技術的貢献を目指して，上下水道技術分野の基本的な知識習得を本授業の目標とする．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	
（B）技術者倫理	
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	20%
（E）専門知識の活用・応用能力	60%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では「学習支援システム」による資料配信・課題提出，および「貸与ノートPC」（あるいはそれに代わる機材）で資料を参照しながらの受講を基本とする．また，各回の授業内容に関する理解度を確認するためのミニテスト（確認テスト）を実施する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	授業全体概要の紹介と世界・日本の水事情	この授業で何を学ぶのか，水が持つ機能とは，人体と水・世界と日本での水を取り巻く環境・都市の水循環とは
②	上水道の発展の歴史と求められる役割	文明を支えた技術，国内外の事例，水道普及の要因と現状，水道の役割と法律
③	水道水ができるまで	水道の水源から蛇口まで，日本の浄水処理，美味しい水とは
④	日本で水道水を直接飲むことができるのは	水道の水質基準とは，水質検査と安全管理の実態
⑤	将来も今のように水道を利用することはできるのか？	水道事業とは，全国の水道料金は同じなのか，水道事業の現状と課題，水道事業民営化とは
⑥	地球温暖化による水道への影響と離島での水道事情	温暖化による今後の予測，節水対策，雨水利用の現状と動向，離島における水道の現状
⑦	下水道の発展の歴史と求められる役割	文明を支えた技術，国内外の事例，下水道の役割とその変遷
⑧	下水道の水質基準と普及状況を示す指標	BODとCODとは，基準の使われ方，下水道の普及状況は，下水道類似施設とは
⑨	下水道施設の計画から施工まで	下水道の収集方法（分流・合流），様々な下水管きょの種類，マンホールの役割，下水道の施工方法
⑩	下水道の課題とは	河川や海の水質保全，下水道の老朽化問題，下水道の地震対策
⑪	都市型水害とは	急増する集中豪雨の現状と対策，都市化と都市の地理的特性，下水道でのハード対策とソフト対策
⑫	雨水の流出をコントロールする「貯留と浸透」とは	貯留・浸透工法の仕組みと効果，街づくりと一体となった取組み
⑬	下水はどのように浄化されるのか	浄化技術の変遷，重要な微生物の働き，標準活性汚泥法，高度処理とは
⑭	試験・まとめ	第1回から第13回授業での重要なポイントの理解度を確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

市民生活を支える「上水道」「下水道」について自分の身近な水を学習することから始める．例えば「水道料金はいくら払っているのか？」「自宅の水道水はどこの浄水場から給水されているのか？ そもそもその水源はどこなのか？」「使用した水はどのように処理されているのか？ 下水処理場の場所や処理水の放流先は？」「自宅の屋根や敷地に降った雨水はどのように処理されているのか？」など各自の生活の周りにある「水」を理解しておく．本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業の際にプリントを配付する．

【参考書】

必要に応じて授業の際に参考文献を紹介する．

【成績評価の方法と基準】

確認テスト40％，期末試験60％として，その合計点により評価を行う．合計点が60点以上70点未満はC（C-，C+を含む），70点以上80点未満はB（B-，B+を含む），80点以上90点未満はA（A-，A+を含む），90点以上はSとして評価する．

ただし，全14コマの講義のうち欠席回数が4コマを超えた場合，あるいは期末試験を欠席した場合は単位取得を認めない（評価DまたはEとする）．また，遅刻2回ごとに欠席1コマの扱いとする．

【学生の意見等からの気づき】

各テーマへの関心と理解を深めるため，具体的な事例の説明や映像素材による解説を取り入れるなど，本授業の内容が学生自らの日常生活にも密接に係るものであることを十分認識できる授業を目指す．

【学生が準備すべき機器他】

配布資料（PDFファイル）をPC等で参照しながら受講する必要があるため「貸与ノートPC」（あるいはそれに代わる機材）を必ず持参すること．また，確認テストや期末試験の際に「関数電卓」が必要となる場合があるので各自で持参すること（持参し忘れた場合も貸与はしない）．

【その他の重要事項】

交通機関の遅延による遅刻，学生証の持参忘れやタッチ忘れについては，それぞれ原則1回のみ配慮する（2回目以降の申し出は特別な事情がない限り無効とし，遅刻または欠席扱い）．

【Outline (in English)】

（Course outline）

In this course, you will learn the history and role of the development of water supplies and sewer systems, in addition to their composition, function, design, construction, operation and management.

（Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to get an overview of the water and sewer system, current issues and countermeasures.

（Learning activities outside of classroom）

Before each class meeting, students will be expected to understand the things related to the water and sewer system that is close to you. your required study time is at least four hour each class meeting.

（Grading Criteria /Policy）

Final grade will be calculated according to the short report in each meeting (40%) and term-end examination (60%).

CST200NC（土木工学 / Civil engineering 200）

PC構造デザイン

山野辺　慎一

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
プレストレストコンクリート(PC)構造は，引張に弱いコンクリートにあらかじめ圧縮力を加えることで，構造としてのコンクリート部材の性能を飛躍的に向上させます．社会インフラとして重要な橋梁には，PC構造が広く採用されています．PC構造の企画，設計，施工，維持管理には幅広い知識が必要です．本講義は，PCの研究，開発，設計，施工の実務経験を持つ講師が担当します．本講座の目標は，PC構造に関する基礎的かつ実践的な内容の授業を通じて，企業者，コンサルタント，建設会社など，どのキャリアパスでも応用できる知識とスキルを学生に提供することです．

【到達目標】
「PC 構造デザイン」では，PC の原理，力学的特性，設計法，使用材料，維持管理法，施工法について，基礎的な内容やその適用事例などを幅広く学習する．到達目標は，構造力学の復習も含め，学生諸君が社会においてPC 技術に携わる際，躊躇無く取組めるよう，基礎的見識の習得及びPC 構造の設計の基礎習得を目指す．

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力　70%
（E）専門知識の活用・応用能力　30%
（F）総合デザイン能力
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義はパワーポイントと板書・ペンタブレットを用いて説明し，毎回の講義最後での小テストで理解度を確認しながら進める．教科書は指定せず，講義の進捗に合わせ，テキストを配布する．計算を伴う講義では，ノートパソコンのエクセルを用いて，具体的な計算演習を行う．パワーポイントなどの教材の配布や小テストの提出は授業支援システムで行うので，講義はノートパソコンを持参するのが望ましい．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	PCの概要と基本理論	講義の目的や進め方について説明します．PC 構造の原理や種類，鉄筋コンクリートとの違い，歴史，インフラとしての活用例を通して，PC 構造の特徴を理解します．
2	設計法(限界状態設計法)	RC構造デザインの復習も含め，PC橋を例として，限界状態設計法の説明を通して，PC構造のデザインの基礎を理解します．
3	PCに用いられる材料	PC 構造に用いられる材料(PC鋼材，コンクリート，グラウト)の種類や特徴を理解します．土木材料としてのコンクリート・鉄筋については，他の講義で学んだと思いますが，新たにPC鋼材をはじめとする種類や特性について学びます．
4	PCの応力計算(1/3)：曲げ応力度計算の基本	PC単純ばりを対象とし，荷重とプレストレスによる曲げ応力度の計算方法の説明を通して，PC構造設計の基本を理解するとともに，応力度の照査について理解します．
5	PCの応力計算(2/3)：曲げ応力度の計算演習	第4回の応用として，応力度の制限を満足させるための設計条件と設計解の求め方について理解し，エクセルを用いた計算演習を通して，PC構造デザインの具体例を体験します．
6	断面設計(曲げ耐力)	PCはりの曲げ耐力の算定の基礎について，鉄筋コンクリートとの違いも含めて理解します．
7	PCの応力計算(3/3)：せん断応力度，断面設計(せん断耐力)	構造力学の復習も含め，PC単純ばりを対象とした荷重とプレストレスによるせん断力応力度の算定方法と照査について理解します．また，PC梁のせん断耐力の算定の基礎について，鉄筋コンクリートとの違いも含めて理解します．
8	講義前半の理解度確認	第1回～第 7 回の復習を行って、PC構造のデザイン方法の理解を深めます．
9	プレストレス力の減少(1/2)：導入時	第9回・第10回では，プレストレスを導入する時の挙動と，その後の時間経過に伴うプレストレスの変化について学びます．第9回では，導入時の減少のメカニズムと減少量の計算方法について，計算演習を通して，理解します．
10	プレストレス力の減少(2/2)：時間経過	コンクリートに関する他の講義では，クリープと収縮について学んだと思います．PC部材では，コンクリートに持続的な圧縮応力が作用しているために，クリープによって部材が短縮してしまいます．また，乾燥その他の要因により経時的に収縮することは鉄筋コンクリートと同様ですが，PCではその影響が大きいため，設計においてはこうした知識が必要となります．
11	プレストレスによる局部応力と対処	第11回では，プレストレスによる局部応力と対処について学びます．ここでは，材料力学の知識から出発して，PCとしての具体的な対処方法を見ていきます．PCでは，コンクリートに圧縮力を導入すると，内部は複雑な応力分布となり，引張に対しては補強が必要となります．そのため，応力分布の形状や大きさ，特に引張応力度についての知識が必要になります．
12	PC橋の施工とPCの新技術	PC橋の形式や架設工法について理解します．コンクリート構造物は，材料入手が容易で，任意の形状を形成できるという利点を有していますが，重い，施工管理が煩雑，仮設材が多く必要，人力に頼る部分が多い，さらに現場での作業時間が長いなどの欠点があります．第12回では，PC橋の施工について，発注者，設計者，施工者が最低限知っておくべき基本事項について理解します．工法の名称やその概要を断片的な知識として覚えるのではなく，橋の構造という面からの理解と現場条件との関係について理解することを学習目標としています．また，PCにおける新材料や新工法などの新技術について学びます．
13	PCの変形とPC構造物の維持管理	橋における主桁のたわみは，乗り心地，走行安全性などの使用性からの設計検討が必要です．また，PC橋においては，完成後の荷重とそのクリープによる変形が美観の観点からも有害とならないようにする必要があります．第13回ではPC 桁のたわみについて理解します．また，PC橋を代表例として，PC構造物の維持管理における計画の策定，診断，対策の基礎を理解します．
14	講義後半の理解度確認	講義後半の復習を行って，PC 構造のデザインの理解を深めます．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義の内容は，構造力学，RC構造学及演習との関連が深いため，履修に当たっては，これらの講義内容を再確認したうえで，授業に臨むのが望ましい．
講義の中でレポートを 1 回提出する．
本講義の予習・復習時間は，各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
講師が執筆したテキストを配布します．より深く学ぼうとしたり，今後，コンクリート関係の研究室への進学や，コンクリート構造物の設計・施工関連の業界への就職を考えている方などのために，参考図書を挙げておきます．

【参考書】
・土木学会：2022年制定　コンクリート標準示方書設計編，2023年．
・吉川弘道：第2版　鉄筋コンクリートの解析と設計，丸善出版，2004年．
・吉川弘道，富山潤：第２版 鉄筋コンクリートの設計，丸善出版，2024年．
・プレストレストコンクリート構造物の設計 (考え方がよくわかる設計実務6)，大成建設株式会社土木本部土木設計部編，インデックス出版，2010年．
・小林和夫，井上晋：プレストレストコンクリート工学，国民科学社，2006年

【成績評価の方法と基準】
筆記試験の成績を重視(70％)するが，小テストとレポート提出も考慮(30%)する．
欠席４回以上は単位取得を認めない(評価Ｄ)．

【学生の意見等からの気づき】
図や写真・動画をなるべく多く活用し，わかりやすい授業内容とします．

【学生が準備すべき機器他】
指定した回の講義には，WindowsノートPCを持参すること．(エクセルを使用しますが，iPadでは動作が保証されていません)
毎回の小テストの提出は，レポート用紙に回答してpdfで提出するので，A４判のレポート用紙（またはノート）を用意するのがよい．
試験には，関数電卓を持参すること．

【その他の重要事項】
質問等は講義後の休み時間に教室で受け付ける．
または，随時，メールでも受け付ける．

【Outline (in English)】
【Course outline】
Prestressed concrete (PC) structures consist of concrete applied with compressive force, which dramatically improves the performance of reinforced concrete by applying compressive force in advance to concrete that is weak in tension. PC structures are widely used in bridges that are important for social infrastructure. Planning, design, construction, and maintenance of PC structures require extensive knowledge. This lecture is given by an instructor who has practical experience in the research, development, design, and construction of PC. The goal of this course is to provide students with knowledge and skills that can be applied to any career path as civil engineers, such as civil officer, consultants, and construction companies, through classes based on basic and practical contents related to PC structures.
【Learning Objectives】
In this course, students will learn the principles, mechanical properties, design methods, materials used, maintenance methods, and construction methods of PC, including the fundamentals of PC and its applications. The objective of the course is to provide students with basic knowledge of PC technology and the fundamentals of PC structural design, including a review of structural mechanics, so that they will be able to work with PC technology in the society without hesitation.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 70%、Short reports : 30%

ADE300NC（建築学 / Architecture and building engineering 300）

建築法規（都市）

田中　美都

開講時期：**春学期前半/Spring(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では建築基準法や建築関連法規の理解を目的に、建築物の単体規定及び集団規定、これらに関連するバリアフリー、省エネ等について学ぶ。

【到達目標】
1．建築関連法令の読み方と解釈力を習得できる
2．建築関連法令の内容と趣旨を説明できる力を習得できる
3．建築士試験受験の基礎を習得できる

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力　20%
（E）専門知識の活用・応用能力　60%
（F）総合デザイン能力　20%
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
建築基準法に定める単体規定及び集団規定等について、要点、背景そして目的を、テキスト（教科書）を中心に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／建築基準法の基礎知識（1）	授業全体の構成とねらい／法令の構成と読み方／建築基準法の基本定義
2	建築基準法の基礎知識（2）	建築基準法に関わる手続き／敷地・面積・高さ／演習
3	室内環境と安全	採光と換気／構造と設備／演習
4	都市計画区域等による建築物等の形態制限（1）	都市計画区域等／道路の定義／用途地域による建築制限
5	都市計画区域等による建築物等の形態制限（2）	面積の制限／高さの制限／演習
6	都市計画区域等による建築物等の形態制限（3）	防火地域・準防火地域の建築制限／法２２条区域／その他地域地区の事例紹介とレポート出題
7	防火制限と内装制限（1）	用語の説明／構造基準の種類／耐火建築物と準耐火建築物
8	防火制限と内装制限（2）	特殊建築物と大規模建築物等／防火区画等／内装制限
9	避難施設	避難経路／非常用の避難施設／避難安全検証法
10	構造強度（1）	構造計算の基準／許容応力度計算／災害による基準法の変遷
11	構造強度（2）	構造規定／壁量計算／演習
12	基準法のその他の規定とその他の法律	一団地認定と連担認定／建築協定／その他の法律
13	フィードバック	レポート発表
14	まとめ【対面実施】	授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習ではテキスト（教科書）の該当する文章や図表を一読する。復習では該当する条文をインターネットや法令集で再確認する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
今村仁美・田中美都：第３版図説やさしい建築法規、学芸出版社（3200円＋税）

【参考書】
建築基準法、建築基準法施行令などは、法令集のほか、法令データ提供システムeGovから確認する。
都道府県や市区町村の定める建築基準条例、建築基準条例施行規則などはその都道府県や市区町村のウェブサイトの例規集を参照する。都市計画については都市計画情報システム等から参照する。

【成績評価の方法と基準】
レポート（50%）と期末試験（50%）
欠席４回以上は単位取得を認めない(評価D).

【学生の意見等からの気づき】
今年度より担当のため該当なし

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業のため、学内外から参加するためのPCやタブレットが必要である。なお発言を求める場合があるため、発話できる環境から参加すること。

【その他の重要事項】
建築設計事務所にて設計実務に携わる教員が、建築法規の意義や設計における遵守の考え方について、実例を踏まえて授業を実施する。
オフィスアワーについて、オンライン授業のため質問等は授業終了直後に対応する。

【Outline (in English)】
1. Course outline
In this course, students will learn about the Building Standards Act in Japan and building-related regulations, including individual and collective regulations for buildings, as well as barrier-free and energy-saving regulations related to these regulations.
2. Learning objectives
The goals of this course are to A, B and C for students' career development;
-A: to acquire the ability to interpret the related development/building codes;
-B: to acquire the ability to explain the content and purpose of the related development/building codes;
-C: to acquire the basics of taking the Kenchikushi-Exams.
3. Learning activities outside of the classroom
In preparation, students will read the relevant sentences and figures in the textbook. Students will recheck the relevant articles online or in law books for review.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
4. Grading Criteria
Grading will be done with the report (50%) and the final examination (50%)
No credit will be given for more than four absences (grade D).

CST300NC（土木工学 / Civil engineering 300）

海洋環境工学

東　博紀、越川　海

開講時期：**秋学期後半**/Fall(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
海洋に関する基礎的な知識から最新の科学的知見まで幅広に学習するとともに、工学・環境学の技術者に必要な基礎理論と数理モデルを習得する。

【到達目標】
①沿岸・内湾～全球スケールにおける海の流動や循環、海洋の生態系など、海岸工学・海洋学に関する基礎知識を幅広く習得する。
②津波・高潮、富栄養化、気候変動など、海にまつわる災害・環境問題を理解する。
③海洋環境の保全・改善に向けた日本と世界の取組みを理解する。
④波の基礎理論および赤潮・貧酸素水塊の数理モデルを習得する。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力　20%
（E）専門知識の活用・応用能力　60%
（F）総合デザイン能力　20%
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
配付資料を用いた講義・問題演習を行う。第1～10回および第13・14回では、奇数回目において海洋学の基礎や海の災害・環境問題について総合的理解を深め、偶数回目で前講義内容に関わる基礎理論の解説・問題演習を行う。第11・12回では、海の環境保全・改善に関する日本と世界の取組みについて学習する。リアクションペーパーの配布・提出を毎回行い、次の授業のはじめに寄せられたコメント・質問を取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、海の構造と観測	海の深さ・海底地形、海の色、水温・塩分・海水密度の鉛直構造、海の流れと種類、潮汐の発生メカニズム、海洋観測
2	波の基礎理論1(演習)	長波と深水波、微小振幅波理論の解説と問題演習
3	海にまつわる災害～津波と高潮～	津波・高潮の発生メカニズム、災害事例、災害に伴って発生する環境問題
4	波の基礎理論2(演習)	微小振幅波理論(第2回の続き)、分散関係式、津波の伝播速度・到達時間の解説と問題演習
5	沿岸・内湾の富栄養化問題1	海洋生態系の基礎、生命の起源、水生生物の種類と食物網、海洋の一次生産、赤潮の発生メカニズム
6	生態系の数理解析1(演習)	Excelを用いた赤潮・貧酸素水塊の予測モデルの構築(その1)
7	沿岸・内湾の富栄養化問題2	干潟の種類、底生生物の種類、二枚貝(アサリ)の生活史、貧酸素水塊の発生メカニズム、底生生物の水質浄化作用
8	生態系の数理解析2(演習)	Excelを用いた赤潮・貧酸素水塊の予測モデルの構築(その2)
9	わが国の沿岸環境の現状と保全	環境基本法、水質汚濁防止法、排水基準、環境基準、総量規制制度、生活排水対策
10	生態系の数理解析3(演習)	Excelを用いた赤潮・貧酸素水塊の予測モデルの構築(その3)
11	海洋環境保全のための国際的取組み	海洋汚染防止に関する国際条約とわが国の取り組み
12	海洋資源開発と環境保全	海底鉱物資源の基礎知識、海底鉱物資源開発の現状、海底鉱物資源開発による環境影響
13	地球規模の大気・海洋循環と温暖化の影響	水の状態変化、地球の水・熱循環、地球規模の大気循環、海洋の風成循環と熱塩循環、気候変動・地球温暖化の影響
14	海洋循環の基礎理論(演習)	コリオリ力、地衡流の解説・問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で使用したスライド資料、配布資料、問題演習(全てエチュードにアップする)を復習する。第2・4・14回の問題演習では水理学が、第6・8・10回ではExcelの表計算が基礎になるため、関連科目を復習してから授業に臨む。第6・8・10回で構築した赤潮・貧酸素水塊予測モデルを用いたレポート課題に取組む。本授業の準備・復習時間は2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業の際に資料や演習ファイルを配付する。

【参考書】
海洋学(Paul R. Pinet著、東京大学大気海洋研究所監訳、東海大学出版会)、海岸工学(木村、森北出版)、沿岸の海洋物理学(宇野木、東海大学出版会)

【成績評価の方法と基準】
波(第1～4回)と海洋循環(第13・14回)の基礎理論に関する単元課題30％、授業(第5～10回)で作成する赤潮・貧酸素水塊のExcelモデルを用いたレポート70％を標準的な配点として、その合計点で評価する。なお、4回を超える欠席は単位取得を認めない(評価DまたはE)。

【学生の意見等からの気づき】
前年度の授業では、毎回出席票(リアクションペーパー)を配付・回収し、授業で分からなかったところや授業の改善要望などを自由形式で記述してもらい、学生の理解度の把握や意見の収集に努めた。寄せられた質問については次回の講義で補足説明を行うなど、授業にフィードバックさせた。引き続き、今年度も可能な限り学生からの質問や要望を集め、分かりやすい授業に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】
● 毎回ノートパソコンを持参すること（特に、第6・8・10回は演習でExcelを使用するため必須）。忘れても貸し出しはしない。
● レポート課題の提出には学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
現役の研究者が、海洋学と環境保全に関する基礎理論から最新の科学的知見までを幅広に紹介・解説するとともに、人間活動が海域環境に及ぼす影響を予測する数値シミュレーションモデルについて指導する。
オフィスアワー：授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】
This course deals with the oceanography for civil and environmental engineering. The goals of this course are to understand basic knowledge of oceanography, especially mathematical physical theories, numerical modelling for coastal biogeochemical cycles, and national/international environmental management. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on term-end report (70%) and short reports (30%).

CST400NC（土木工学 / Civil engineering 400）

卒業研究１（都市）

溝渕　利明

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は，3年次までに得られた専門知識を基礎とし，技術者・研究者としての資質の向上,問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり，各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し，審査を受けることになる。その過程で，論文をまとめ，かつ発表する能力を培う。

【到達目標】
卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。
課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
（B）技術者倫理	5%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	15%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。
定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める。
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る。
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる。
14	研究の実施	研究成果をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究室にて、卒業研究を進める。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて紹介する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
研究への取り組み状況，卒業研究１報告書により総合的に評価する．
卒業研究1実施記録：80％，卒業研究1報告書：20％
ただし，研究従事時間が90 時間未満の場合には不合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
なし

【その他の重要事項】
豊富な実務経験を有する専任教員が，専門内容の研究指導を行う．

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to improve the qualifications as an engineer /researcher and to improve the ability to organize and solve problems based on the specialized knowledge acquired by the third year. The course format is different from other subjects, and each student conducts research on issues according to the specialized field of the academic advisor. The results will be submitted as a graduation thesis and will be examined. In the process, cultivate the ability to compile and publish treatises.
Learning Objectives
The Learning Objectives is to acquire the ability to identify problems, the ability to solve problems, and the ability to communicate through the execution of graduation research and to understand the issues, clarify the background, support the issues with indicators, predict the future of the problems and issues, etc., using objective explanatory materials, and have the ability to explain them at a level that anyone can easily understand.
Learning activities outside of classroom
It is to proceed with graduation research in the laboratory.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy
Comprehensive evaluation will be made based on the status of research efforts and Graduation Research 1 Report.
Graduation research 1 implementation record: 80%Graduation research 1 report: 20%

CST400NC（土木工学 / Civil engineering 400）

卒業研究１（都市）

今井　龍一

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は，3年次までに得られた専門知識を基礎とし，技術者・研究者としての資質の向上,問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり，各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し，審査を受けることになる。その過程で，論文をまとめ，かつ発表する能力を培う。

【到達目標】
卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。
課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
（B）技術者倫理	5%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	15%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。
定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める。
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る。
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる。
14	研究の実施	研究成果をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究室にて、卒業研究を進める。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて紹介する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
研究への取り組み状況，卒業研究１報告書により総合的に評価する．
卒業研究1 実施記録： 80 %，卒業研究1 報告書： 20 %
ただし，研究従事時間が90 時間未満の場合には不合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
なし

【その他の重要事項】
同分野での豊富な実務経験を有する教員が講義する。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」、NEDO「3次元空間情報基盤に関する研究開発」およびNEDO「空間ID・3次元空間情報基盤の活用人材育成に係る特別講座」で作成した教材を活用する。
オフィスアワー：A期　水曜　12:20～13:00、B期　木曜　12:20～13:00

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to improve the qualifications as an engineer /researcher and to improve the ability to organize and solve problems based on the specialized knowledge acquired by the third year. The course format is different from other subjects, and each student conducts research on issues according to the specialized field of the academic advisor. The results will be submitted as a graduation thesis and will be examined. In the process, cultivate the ability to compile and publish treatises.
・Learning Objectives
Acquire the ability to find, solve, and communicate problems through the performance of graduation research.
・Learning activities outside of classroom
Conduct graduation research in the laboratory. Standard study time is 2 hours for each class meeting.
・Grading Criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Attitude to study on a daily basis:80%, Graduation Research 1 Report:20%

CST400NC（土木工学 / Civil engineering 400）

卒業研究１（都市）

内田　大介

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は，3年次までに得られた専門知識を基礎とし，技術者・研究者としての資質の向上,問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり，各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し，審査を受けることになる。その過程で，論文をまとめ，かつ発表する能力を培う。

【到達目標】
卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。
課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
（B）技術者倫理	5%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	15%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。
定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める。
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る。
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる。
14	研究の実施	研究成果をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究室にて、卒業研究を進める。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて紹介する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
研究への取り組み状況，卒業研究１報告書により総合的に評価する．
卒業研究1 実施記録： 80 %，卒業研究1 報告書： 20 %
ただし，研究従事時間が90 時間未満の場合には不合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
なし

【その他の重要事項】
豊富な実務経験を有する専任教員が，専門内容の研究指導を行う．

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to improve the qualifications as an engineer /researcher and to improve the ability to organize and solve problems based on the specialized knowledge acquired by the third year. The course format is different from other subjects, and each student conducts research on issues according to the specialized field of the academic advisor. The results will be submitted as a graduation thesis and will be examined. In the process, cultivate the ability to compile and publish treatises.
· Learning Objectives
Acquire the ability to find, solve, and communicate problems through the performance of graduation research.
· Learning activities outside of classroom
Conduct graduation research in the laboratory. Standard study time is 2 hours for each class meeting.
· Grading Criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Attitude to study on a daily basis:80%, Graduation Research 1 Report:20%,

CST400NC（土木工学 / Civil engineering 400）

卒業研究１（都市）

尾関　智子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は，3年次までに得られた専門知識を基礎とし，技術者・研究者としての資質の向上,問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり，各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し，審査を受けることになる。その過程で，論文をまとめ，かつ発表する能力を培う。

【到達目標】
卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。
課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
（B）技術者倫理	5%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	15%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。
定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める。
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る。
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる。
14	研究の実施	研究成果をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究室にて、卒業研究を進める.
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする.

【テキスト（教科書）】
必要に応じて紹介する.

【参考書】
必要に応じて紹介する.

【成績評価の方法と基準】
研究への取り組み状況，卒業研究１報告書により総合的に評価する.
卒業研究1実施記録：80％，卒業研究1報告書：20％
ただし，研究従事時間が90 時間未満の場合には不合格とする.

【学生の意見等からの気づき】
なし

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to improve the qualifications as an engineer /researcher and to improve the ability to organize and solve problems based on the specialized knowledge acquired by the third year. The course format is different from other subjects, and each student conducts research on issues according to the specialized field of the academic advisor. The results will be submitted as a graduation thesis and will be examined. In the process, cultivate the ability to compile and publish treatises.
Learning Objectives
The Learning Objectives is to acquire the ability to identify problems, the ability to solve problems, and the ability to communicate through the execution of graduation research and to understand the issues, clarify the background, support the issues with indicators, predict the future of the problems and issues, etc., using objective explanatory materials, and have the ability to explain them at a level that anyone can easily understand.
Learning activities outside of classroom
It is to proceed with graduation research in the laboratory.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy
Comprehensive evaluation will be made based on the status of research efforts and Graduation Research 1 Report.
Graduation research 1 implementation record: 80%Graduation research 1 report: 20%

CST400NC（土木工学 / Civil engineering 400）

卒業研究１（都市）

高見　公雄

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は，3年次までに得られた専門知識を基礎とし，技術者・研究者としての資質の向上,問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり，各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し，審査を受けることになる。その過程で，論文をまとめ，かつ発表する能力を培う。

【到達目標】
卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。
課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
（B）技術者倫理	5%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	15%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。
定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める。
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る。
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる。
14	研究の実施	研究成果をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
時間調整上必要な場合にリモート方式を採り入れる場合がある。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて紹介する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
研究への取り組み状況，卒業研究１報告書により総合的に評価する．
卒業研究1 実施記録： 80 %，卒業研究1 報告書： 20 %
ただし，研究従事時間が90 時間未満の場合には不合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
なし

【その他の重要事項】
豊富な実務経験を有する専任教員が、専門内容の研究指導を行う。
研究指導は少人数、対面で行われ学生は随時質問などが可能である。また面談時以外については、Eメールにより対応する。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to improve the qualifications as an engineer /researcher and to improve the ability to organize and solve problems based on the specialized knowledge acquired by the third year. The course format is different from other subjects, and each student conducts research on issues according to the specialized field of the academic advisor. The results will be submitted as a graduation thesis and will be examined. In the process, cultivate the ability to compile and publish treatises.
· Learning Objectives
Acquire the ability to find, solve, and communicate problems through the performance of graduation research.
· Learning activities outside of classroom
Conduct graduation research in the laboratory. Standard study time is 2 hours for each class meeting.
· Grading Criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Attitude to study on a daily basis:80%, Graduation Research 1 Report:20%

CST400NC（土木工学 / Civil engineering 400）

卒業研究１（都市）

福井　恒明、荻原　知子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は，3年次までに得られた専門知識を基礎とし，技術者・研究者としての資質の向上,問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり，各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し，審査を受けることになる。その過程で，論文をまとめ，かつ発表する能力を培う。

【到達目標】
卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。
課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
（B）技術者倫理	5%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	15%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。
定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める。
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る。
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる。
14	研究の実施	研究成果をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究室での作業やフィールドにおける調査等によって、卒業研究を進める。
本授業の準備学習・復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて紹介する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
研究への取り組み状況，卒業研究１報告書により総合的に評価する．
卒業研究1 実施記録： 80 %，卒業研究1 報告書： 20 %
ただし，研究従事時間が90 時間未満の場合には不合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
なし

【その他の重要事項】
豊富な実務経験を有する専任教員が，専門内容の研究指導を行う．
専任教員のオフィスアワーについては『履修の手引き』を参照すること．
兼任教員のオフィスアワーについては授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】
Outline: The purpose of this course is to improve the qualifications as an engineer/researcher and to improve the ability to organize and solve problems based on the specialized knowledge acquired by the third year. The course format is different from other subjects, and each student conducts research on issues according to the specialized field of the academic advisor. The results will be submitted as a graduation thesis and will be examined. In the process, cultivate the ability to compile and publish treatises.
Objectives: To acquire the ability to find, solve, and communicate problems through the execution of graduation research.
To understand the issues, clarify the background, corroborate with indicators, and predict the future of the issues through logical explanations using objective materials.
Learning activities outside of classroom: Research will be conducted through work in the laboratory and surveys in the field.
The standard preparation and review time for this class is 4 hours.
Grading Criteria /Policy: The students will be evaluated comprehensively on the basis of their research efforts and graduation research report.
Graduation Research Record: 80%, Graduation Research Report: 20%.
However, students who have spent less than 90 hours on research will fail.

CST400NC（土木工学 / Civil engineering 400）

卒業研究１（都市）

山本　佳士

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は，3年次までに得られた専門知識を基礎とし，技術者・研究者としての資質の向上,問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり，各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し，審査を受けることになる。その過程で，論文をまとめ，かつ発表する能力を培う。

【到達目標】
卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。
課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
（B）技術者倫理	5%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	15%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。
定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める。
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る。
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる。
14	研究の実施	研究成果をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究室にて、卒業研究を進める。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて紹介する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
研究への取り組み状況，卒業研究１報告書により総合的に評価する．
卒業研究1実施記録：80％，卒業研究1報告書：20％
ただし，研究従事時間が90 時間未満の場合には不合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
なし

【その他の重要事項】
豊富な実務経験を有する専任教員が，専門内容の研究指導を行う．
オフィスアワー
火 12:30～13:30

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to improve the qualifications as an engineer /researcher and to improve the ability to organize and solve problems based on the specialized knowledge acquired by the third year. The course format is different from other subjects, and each student conducts research on issues according to the specialized field of the academic advisor. The results will be submitted as a graduation thesis and will be examined. In the process, cultivate the ability to compile and publish treatises.
Learning Objectives
The Learning Objectives is to acquire the ability to identify problems, the ability to solve problems, and the ability to communicate through the execution of graduation research and to understand the issues, clarify the background, support the issues with indicators, predict the future of the problems and issues, etc., using objective explanatory materials, and have the ability to explain them at a level that anyone can easily understand. Learning activities outside of classroom It is to proceed with graduation research in the laboratory.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy
Comprehensive evaluation will be made based on the status of research efforts and Graduation Research 1 Report. Graduation research 1 implementation record: 80%Graduation research 1 report: 20%

CST400NC（土木工学 / Civil engineering 400）

卒業研究１（都市）

酒井　久和

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は，3年次までに得られた専門知識を基礎とし，技術者・研究者としての資質の向上,問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり，各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し，審査を受けることになる。その過程で，論文をまとめ，かつ発表する能力を培う。

【到達目標】
卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。
課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
（B）技術者倫理	5%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	15%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。
定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる
14	研究の実施	研究成果をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究室にて、卒業研究を進める。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて紹介する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
研究への取り組み状況，卒業研究１報告書により総合的に評価する．
卒業研究1 実施記録： 80 %，卒業研究1 報告書： 20 %
ただし，研究従事時間が90 時間未満の場合には不合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
なし

【その他の重要事項】
豊富な実務経験を有する専任教員が，専門内容の研究指導を行う．

【Outline (in English)】
The goal of this course is to prepare students for engineering or science careers. Problem-solving skills will be developed using the technical knowledge obtained in their three years of university study. The form of classes differs from other subjects. Students will conduct research on each subject related to their supervisor's field of study. The results of this study will be completed and defended in their senior thesis. Students will cultivate their writing and presentation skills through work in this course.
This class's standard preparation and review time is about 2 hours, respectively.
The students will be evaluated comprehensively on the basis of their research efforts and the Graduation Research 1 Report as follows;
Graduate Research 1 Implementation Record: 80%, Graduate Research 1 Report: 20%, provided that students who have spent less than 90 hours on research will fail.

CST400NC（土木工学 / Civil engineering 400）

卒業研究１（都市）

原田　大輔

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は，3年次までに得られた専門知識を基礎とし，技術者・研究者としての資質の向上,問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり，各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し，審査を受けることになる。その過程で，論文をまとめ，かつ発表する能力を培う。

【到達目標】
卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。
課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
（B）技術者倫理	5%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	15%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
対面形式を基本として，状況に応じてオンラインを含めながら授業を実施する．授業計画の変更がある場合にはその都度，関係学生に周知する．
各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。
定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める。
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る。
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる。
14	研究の実施	研究成果をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究室にて、卒業研究を進める。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて紹介する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
下記の評価基準を基本としながら成績評価の方法と基準を随時調整する．具体的には研究室ゼミなどを通して別途示す．
研究への取り組み状況，卒業研究１報告書により総合的に評価する．
卒業研究1実施記録：80％，卒業研究1報告書：20％
ただし，研究従事時間が90 時間未満の場合には不合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
なし

【その他の重要事項】
豊富な教育研究指導経験を有する専任教員が，専門内容の研究指導を行う．

【Outline (English)】
(Course outline)
The purpose of this course is to improve the qualifications as an engineer /researcher and to improve the ability to organize and solve problems based on the specialized knowledge acquired by the third year. The course format is different from other subjects, and each student conducts research on issues according to the specialized field of the academic advisor. The results will be submitted as a graduation thesis and will be examined. In the process, cultivate the ability to compile and publish treatises.
(Learning Objectives)
Acquire the ability to identify problems, the ability to solve problems, and the ability to communicate through the performance of graduation research. Understand engineering issues and background, predict the problems and issues in future, etc..
(Learning activities outside of classroom)
Carry out graduation research in the laboratory and at home. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria /Policy)
Based on the following evaluation criteria, the method and criteria for grade evaluation will be adjusted as needed. Specifics will be shown separately through laboratory seminars. Comprehensive evaluation will be made based on the status of research efforts and graduation research 1 report. Graduation Research 1 implementation record: 80% , Graduation Research 1 report: 20%. However, applicants who have engaged in research for less than 90 hours will be disqualified.

CST400NC（土木工学 / Civil engineering 400）

卒業研究２（都市）

溝渕　利明

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や，コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに，各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで，卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す．

【到達目標】
各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する．また，演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する．さらには，各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め，卒業論文の執筆へ向けた研究計画を自ら立案・実行することができるように各自のレベルアップ（問題解決能力の向上）を図ることが本授業における学習目標となる．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
（B）技術者倫理	5%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	15%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む．既往研究のレビューや数値モデルの理解，各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに，指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め，学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得(1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
②	基礎知識の習得(2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
③	基礎知識の習得(3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
④	基礎知識の習得(4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得(5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得(1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得(2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑧	基本スキルの習得(3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑨	基本スキルの習得(4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得(5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み(1)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み(2)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み(3)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み(4)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究テーマに関するの基礎的な知識の習得，コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得，および具体的な研究課題への取り組みなど，授業時間外における幅広い継続学習が必要である．
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【参考書】
研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【成績評価の方法と基準】
中間発表，卒業研究2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して，研究への取り組み状況，最終審査（卒業研究論文，研究概要，研究発表）により評価する．評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文50%，研究概要25%，研究発表25%の重み付けとする．ただし，研究従事時間が180 時間未満の場合には不合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
土木分野に関する計画，設計，製作，施工に関わる豊富な業務経験を有する専任教員が，研究指導を行う．

【Outline (in English)】
By acquiring basic knowledge about the research theme selected from the specialized field and basic skills related to computers, programming, etc., and by tackling specific issues related to each research theme, the student improves the level of knowledge and skills necessary for writing graduation thesis.
The Learning Objectives is to acquire basic knowledge, including related fields, by carefully reading reference materials such as books and academic papers related to individual research themes. And, students acquire basic skills related to computers and programming through working on exercises. In addition, students will deepen their awareness and understanding of specific problems and issues in their research themes and improve their level (problem-solving ability) so that they can formulate and implement their own research plan for writing their graduation thesis.
Learning activities outside of classroom
A wide range of continuous learning outside of class is required, such as acquiring basic knowledge related to individual research themes, acquiring basic skills related to computers and programming, and working on specific research issues.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy
Intermediate Presentation, Graduation Research 2 Applicants who pass the Intermediate review of the Intermediate report will be evaluated based on their research efforts and final review (graduation thesis, research summary, research presentation).

The evaluation will be based on the status of research efforts, graduation thesis (50%), research summary (25%), and research presentation (25%).

CST400NC（土木工学 / Civil engineering 400）

卒業研究２（都市）

今井　龍一

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や，コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに，各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで，卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す．

【到達目標】
各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する．また，演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する．さらには，各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め，卒業論文の執筆へ向けた研究計画を自ら立案・実行することができるように各自のレベルアップ（問題解決能力の向上）を図ることが本授業における学習目標となる．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
（B）技術者倫理	5%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	15%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む．既往研究のレビューや数値モデルの理解，各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに，指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め，学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得(1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
②	基礎知識の習得(2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
③	基礎知識の習得(3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
④	基礎知識の習得(4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得(5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得(1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得(2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑧	基本スキルの習得(3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑨	基本スキルの習得(4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得(5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み(1)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み(2)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み(3)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み(4)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究テーマに関するの基礎的な知識の習得，コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得，および具体的な研究課題への取り組みなど，授業時間外における幅広い継続学習が必要である．
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【参考書】
研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【成績評価の方法と基準】
中間発表，卒業研究2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して，研究への取り組み状況，最終審査（卒業研究論文，研究概要，研究発表）により評価する．評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文50%，研究概要25%，研究発表25%の重み付けとする．ただし，研究従事時間が180 時間未満の場合には不合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
土木分野に関する計画，設計，製作，施工に関わる豊富な業務経験を有する専任教員が，研究指導を行う．
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」、NEDO「3次元空間情報基盤に関する研究開発」およびNEDO「空間ID・3次元空間情報基盤の活用人材育成に係る特別講座」で作成した教材を活用する。
オフィスアワー：金曜　12:20～13:00

【Outline (in English)】
By acquiring basic knowledge about the research theme selected from the specialized field and basic skills related to computers, programming, etc., and by tackling specific issues related to each research theme, the student improves the level of knowledge and skills necessary for writing graduation thesis.
Students who have passed the mid-term examination of the mid-term report will be evaluated on the basis of their commitment to the research and the final examination (graduation thesis, research outline, and research presentation).
The evaluation will be based on the status of research efforts and a weighting of 50%for the graduation research paper, 25%for the research outline, and 25%for the research presentation.
Students who work less than 180 hours on research will fail the examination.

CST400NC（土木工学 / Civil engineering 400）

卒業研究２（都市）

内田　大介

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や，コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに，各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで，卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す．

【到達目標】
各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する．また，演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する．さらには，各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め，卒業論文の執筆へ向けた研究計画を自ら立案・実行することができるように各自のレベルアップ（問題解決能力の向上）を図ることが本授業における学習目標となる．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
（B）技術者倫理	5%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	15%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む．既往研究のレビューや数値モデルの理解，各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに，指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め，学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得(1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
②	基礎知識の習得(2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
③	基礎知識の習得(3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
④	基礎知識の習得(4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得(5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得(1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得(2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑧	基本スキルの習得(3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑨	基本スキルの習得(4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得(5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み(1)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み(2)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み(3)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み(4)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究テーマに関するの基礎的な知識の習得，コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得，および具体的な研究課題への取り組みなど，授業時間外における幅広い継続学習が必要である．
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【参考書】
研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【成績評価の方法と基準】
中間発表，卒業研究2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して，研究への取り組み状況，最終審査（卒業研究論文，研究概要，研究発表）により評価する．評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文50%，研究概要25%，研究発表25%の重み付けとする．ただし，研究従事時間が180 時間未満の場合には不合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
土木分野に関する計画，設計，製作，施工に関わる豊富な業務経験を有する専任教員が，研究指導を行う．

【Outline (in English)】
By acquiring basic knowledge about the research theme selected from the specialized field and basic skills related to computers, programming, etc., and by tackling specific issues related to each research theme, the student improves the level of knowledge and skills necessary for writing graduation thesis.
・Learning Objectives
Acquire the ability to find, solve, and communicate problems through the performance of graduation research.
・Learning activities outside of classroom
Conduct graduation research in the laboratory. Standard study time is 2 hours for each class meeting.
・Grading Criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Graduation thesis and Attitude to study on a daily basis:50%, Summary of research:25%, research presentation:25%

CST400NC（土木工学 / Civil engineering 400）

卒業研究２（都市）

高見　公雄

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は，4年前期までに得られた専門知識を基礎とし，技術者・研究者としての資質の向上,問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり，各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し，審査を受けることになる。その過程で，論文をまとめ，かつ発表する能力を培う。

【到達目標】
卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。
課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
（B）技術者倫理	5%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	15%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む．既往研究のレビューや数値モデルの理解，各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに，指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め，学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	研究テーマの理解と多面的検証	AB期までに確定した研究テーマについて，中間まとめを踏まえ一層多角的観点からの確認を行う
②	論文の構成展望	様々に収集した研究テーマに即した情報を整理し，論文構成にどのように活用していくかの展望を整理する
③	研究の実施、深度化(1)	とりまとめに向け，深度化を図る項目を抽出し，一層の情報収集または分析を進める
④	研究の実施、深度化(2)	とりまとめに向け，深度化を図る項目を抽出し，一層の情報収集または分析を進める
⑤	研究の実施、深度化(3)	とりまとめに向け，深度化を図る項目を抽出し，一層の情報収集または分析を進める
⑥	研究の実施、深度化(4)	とりまとめに向け，深度化を図る項目を抽出し，一層の情報収集または分析を進める
⑦	研究の実施、深度化(5)	とりまとめに向け，深度化を図る項目を抽出し，一層の情報収集または分析を進める
⑧	研究の実施、深度化(6)	とりまとめに向け，深度化を図る項目を抽出し，一層の情報収集または分析を進める
⑨	論文構成の再点検(1)	これまでの情報収集，分析を踏まえ想定していた論文の構成を再点検し，必要な修正を行う
⑩	論文構成の再点検(2)	これまでの情報収集，分析を踏まえ想定していた論文の構成を再点検し，必要な修正を行う
⑪	取りまとめへの取り組み(1)	取りまとめへの取り組み着手，指導教員とのディスカッション
⑫	取りまとめへの取り組み(2)	取りまとめの深度化，指導教員とのディスカッション
⑬	取りまとめへの取り組み(3)	取りまとめの深度化，指導教員とのディスカッション
⑭	取りまとめへの取り組み(4)	取りまとめの深度化，指導教員とのディスカッション．プレゼンテーションの観点からの点検と修正

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
最低限の学習時間は規定されているものの，効率的により深く意義ある成果を得ることを目標に，授業時間という概念よりも，研究に向かう時間管理が重要となる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【参考書】
研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【成績評価の方法と基準】
中間発表，卒業研究2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して，研究への取り組み状況，最終審査（卒業研究論文，研究概要，研究発表）により評価する．評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文50%，研究概要25%，研究発表25%の重み付けとする．ただし，研究従事時間が180 時間未満の場合には不合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
豊富な実務経験を有する専任教員が、専門内容の研究指導を行う。
研究指導は少人数、対面で行われ学生は随時質問などが可能である。また面談時以外については、Eメールにより対応する。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to improve the qualifications as an engineer /researcher and to improve the ability to organize and solve problems based on the specialized knowledge acquired by the previous term. The course format is different from other subjects, and each student conducts research on issues according to the specialized field of the academic advisor. The results will be submitted as a graduation thesis and will be examined. In the process, cultivate the ability to compile and publish treatises.
Students who have passed the mid-term examination of the mid-term report will be evaluated on the basis of their commitment to the research and the final examination (graduation thesis, research outline, and research presentation).
The evaluation will be based on the status of research efforts and a weighting of 50%for the graduation research paper, 25%for the research outline, and 25%for the research presentation.
Students who work less than 180 hours on research will fail the examination.

CST400NC（土木工学 / Civil engineering 400）

卒業研究２（都市）

福井　恒明、荻原　知子

開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や，コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに，各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで，卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す．

【到達目標】
各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する．また，演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する．さらには，各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め，卒業論文の執筆へ向けた研究計画を自ら立案・実行することができるように各自のレベルアップ（問題解決能力の向上）を図ることが本授業における学習目標となる．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
（B）技術者倫理	5%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	15%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む．既往研究のレビューや数値モデルの理解，各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに，指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め，学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得(1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
②	基礎知識の習得(2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
③	基礎知識の習得(3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
④	基礎知識の習得(4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得(5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得(1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得(2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑧	基本スキルの習得(3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑨	基本スキルの習得(4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得(5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み(1)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み(2)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み(3)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み(4)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究テーマに関するの基礎的な知識の習得，コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得，および具体的な研究課題への取り組みなど，授業時間外における幅広い継続学習が必要である．
本授業の準備学習・復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【参考書】
研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【成績評価の方法と基準】
中間発表，卒業研究2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して，研究への取り組み状況，最終審査（卒業研究論文，研究概要，研究発表）により評価する．評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文50%，研究概要25%，研究発表25%の重み付けとする．ただし，研究従事時間が180 時間未満の場合には不合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
土木分野に関する計画，設計，製作，施工に関わる豊富な業務経験を有する専任教員が，研究指導を行う．
専任教員のオフィスアワーについては『履修の手引き』を参照すること．
兼任教員のオフィスアワーについては授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】
Outline:
By acquiring basic knowledge about the research theme selected from the specialized field and basic skills related to computers, programming, etc., and by tackling specific issues related to each research theme, the student improves the level of knowledge and skills necessary for writing graduation thesis.
Objectives:
To acquire basic knowledge of related fields by reading books, academic papers, and other reference materials related to their own research themes. In addition, students will acquire basic skills related to computers and programming by working on exercises. Furthermore, the learning goal of this class is to deepen students' understanding of specific problems and issues in their research themes and to improve their problem-solving skills so that they can formulate and implement their own research plans for writing their graduation theses.
Learning activities outside of classroom:
A wide range of continuous learning outside of class time is required, including acquisition of basic knowledge of each student's research theme, acquisition of basic skills related to computers and programming, etc., and work on specific research problems.
The standard preparation and review time for this class is 4 hours.
Grading Criteria /Policy:

Students who have passed the interim review of their interim presentation and interim graduation research report will be evaluated based on their research efforts and the final review (graduation research paper, research outline, and research presentation). The evaluation will be based on the weighting of the student's research efforts, graduation research thesis (50%), research outline (25%), and research presentation (25%). However, students who have spent less than 180 hours on research will fail the examination.

CST400NC（土木工学 / Civil engineering 400）

卒業研究２（都市）

山本　佳士

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や，コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに，各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで，卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す．

【到達目標】
各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する．また，演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する．さらには，各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め，卒業論文の執筆へ向けた研究計画を自ら立案・実行することができるように各自のレベルアップ（問題解決能力の向上）を図ることが本授業における学習目標となる．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
（B）技術者倫理	5%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	15%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む．既往研究のレビューや数値モデルの理解，各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに，指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め，学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得(1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
②	基礎知識の習得(2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
③	基礎知識の習得(3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
④	基礎知識の習得(4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得(5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得(1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得(2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑧	基本スキルの習得(3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑨	基本スキルの習得(4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得(5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み(1)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み(2)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み(3)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み(4)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究テーマに関するの基礎的な知識の習得，コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得，および具体的な研究課題への取り組みなど，授業時間外における幅広い継続学習が必要である．
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【参考書】
研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【成績評価の方法と基準】
中間発表，卒業研究2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して，研究への取り組み状況，最終審査（卒業研究論文，研究概要，研究発表）により評価する．評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文50%，研究概要25%，研究発表25%の重み付けとする．ただし，研究従事時間が180 時間未満の場合には不合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
土木分野に関する計画，設計，製作，施工に関わる豊富な業務経験を有する専任教員が，研究指導を行う．
オフィスアワー
火 12:30～13:30

【Outline (in English)】
By acquiring basic knowledge about the research theme selected from the specialized field and basic skills related to computers, programming, etc., and by tackling specific issues related to each research theme, the student improves the level of knowledge and skills necessary for writing graduation thesis.
The Learning Objectives is to acquire basic knowledge, including related fields, by carefully reading reference materials such as books and academic papers related to individual research themes. And, students acquire basic skills related to computers and programming through working on exercises. In addition, students will deepen their awareness and understanding of specific problems and issues in their research themes and improve their level (problem-solving ability) so that they can formulate and implement their own research plan for writing their graduation thesis.
Learning activities outside of classroom
A wide range of continuous learning outside of class is required, such as acquiring basic knowledge related to individual research themes, acquiring basic skills related to computers and programming, and working on specific research issues.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy

Intermediate Presentation, Graduation Research 2 Applicants who pass the Intermediate review of the Intermediate report will be evaluated based on their research efforts and final review (graduation thesis, research summary, research presentation).

CST400NC（土木工学 / Civil engineering 400）

卒業研究２（都市）

酒井　久和

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や，コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに，各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで，卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す．

【到達目標】
各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する．また，演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する．さらには，各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め，卒業論文の執筆へ向けた研究計画を自ら立案・実行することができるように各自のレベルアップ（問題解決能力の向上）を図ることが本授業における学習目標となる．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
（B）技術者倫理	5%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	15%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む．既往研究のレビューや数値モデルの理解，各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに，指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め，学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得(1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
②	基礎知識の習得(2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
③	基礎知識の習得(3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
④	基礎知識の習得(4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得(5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得(1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得(2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑧	基本スキルの習得(3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑨	基本スキルの習得(4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得(5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み(1)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み(2)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み(3)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み(4)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究テーマに関するの基礎的な知識の習得，コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得，および具体的な研究課題への取り組みなど，授業時間外における幅広い継続学習が必要である．
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【参考書】
研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【成績評価の方法と基準】
中間発表，卒業研究2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して，研究への取り組み状況，最終審査（卒業研究論文，研究概要，研究発表）により評価する．評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文50%，研究概要25%，研究発表25%の重み付けとする．ただし，研究従事時間が180 時間未満の場合には不合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
土木分野に関する計画，設計，製作，施工に関わる豊富な業務経験を有する専任教員が，研究指導を行う．

【Outline (in English)】
In this course, students will acquire basic knowledge about the topic of their thesis as well as basic computer and programming skills. Tasked with concrete topics, students will obtain the higher-level skills and knowledge necessary for writing their thesis.
The students will be evaluated comprehensively as follows;
Presentation: 25%, Abstract: 25%, Thesis: 50%, provided that students who have spent less than 180 hours on research will fail.

CST400NC（土木工学 / Civil engineering 400）

卒業研究２（都市）

原田　大輔

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や，コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに，各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで，卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す．

【到達目標】
各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する．また，演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する．さらには，各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め，卒業論文の執筆へ向けた研究計画を自ら立案・実行することができるように各自のレベルアップ（問題解決能力の向上）を図ることが本授業における学習目標となる．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
（B）技術者倫理	5%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	15%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む．既往研究のレビューや数値モデルの理解，各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに，指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め，学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得(1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
②	基礎知識の習得(2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
③	基礎知識の習得(3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
④	基礎知識の習得(4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得(5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得(1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得(2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑧	基本スキルの習得(3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑨	基本スキルの習得(4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得(5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み(1)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み(2)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み(3)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み(4)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究テーマに関するの基礎的な知識の習得，コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得，および具体的な研究課題への取り組みなど，授業時間外における幅広い継続学習が必要である．
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【参考書】
研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【成績評価の方法と基準】
中間発表，卒業研究2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して，研究への取り組み状況，最終審査（卒業研究論文，研究概要，研究発表）により評価する．評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文50%，研究概要25%，研究発表25%の重み付けとする．ただし，研究従事時間が180 時間未満の場合には不合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
土木分野に関する豊富な教育研究指導経験を有する専任教員が，研究指導を行う．

【Outline (in English)】
(Course outline)
By acquiring basic knowledge about the research theme selected from the specialized field and basic skills related to computers, programming, etc., and by tackling specific issues related to each research theme, the student improves the level of knowledge and skills necessary for writing graduation thesis.
（Learning Objectives）
Acquire basic knowledge in the assigned theme by reading literatures related to individual research themes. Students develop basic skills related to computers and programming through working on exercises. In addition, students deepen their understanding of specific issues in their research themes, and improve their problem-solving ability so that they can formulate and implement their own research plan for writing their graduation thesis.
（Learning activities outside of classroom）
A wide range of continuous learning outside of class is required, such as acquiring basic knowledge related to individual research themes, acquiring basic skills related to computers and programming, and working on specific research issues. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
（Grading Criteria /Policy）

Interim Presentation, Graduation Research 2 Applicants who pass the interim review of the interim report will be evaluated based on their research efforts and final review (graduation thesis, research summary, research presentation). The evaluation will be based on the status of research efforts, graduation thesis (50%), research summary (25%), and research presentation (25%). However, applicants who have engaged in research for less than 180 hours will be disqualified.

CST400NC（土木工学 / Civil engineering 400）

卒業研究２（都市）

090175

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は，4年前期までに得られた専門知識を基礎とし，技術者・研究者としての資質の向上,問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり，各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し，審査を受けることになる。その過程で，論文をまとめ，かつ発表する能力を培う。

【到達目標】
卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。
課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
（B）技術者倫理	5%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	15%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む．既往研究のレビューや数値モデルの理解，各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに，指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め，学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	研究テーマの理解と多面的検証	AB期までに確定した研究テーマについて，中間まとめを踏まえ一層多角的観点からの確認を行う
②	論文の構成展望	様々に収集した研究テーマに即した情報を整理し，論文構成にどのように活用していくかの展望を整理する
③	研究の実施、深度化(1)	とりまとめに向け，深度化を図る項目を抽出し，一層の情報収集または分析を進める
④	研究の実施、深度化(2)	とりまとめに向け，深度化を図る項目を抽出し，一層の情報収集または分析を進める
⑤	研究の実施、深度化(3)	とりまとめに向け，深度化を図る項目を抽出し，一層の情報収集または分析を進める
⑥	研究の実施、深度化(4)	とりまとめに向け，深度化を図る項目を抽出し，一層の情報収集または分析を進める
⑦	研究の実施、深度化(5)	とりまとめに向け，深度化を図る項目を抽出し，一層の情報収集または分析を進める
⑧	研究の実施、深度化(6)	とりまとめに向け，深度化を図る項目を抽出し，一層の情報収集または分析を進める
⑨	論文構成の再点検(1)	これまでの情報収集，分析を踏まえ想定していた論文の構成を再点検し，必要な修正を行う
⑩	論文構成の再点検(2)	これまでの情報収集，分析を踏まえ想定していた論文の構成を再点検し，必要な修正を行う
⑪	取りまとめへの取り組み(1)	取りまとめへの取り組み着手，指導教員とのディスカッション
⑫	取りまとめへの取り組み(2)	取りまとめの深度化，指導教員とのディスカッション
⑬	取りまとめへの取り組み(3)	取りまとめの深度化，指導教員とのディスカッション
⑭	取りまとめへの取り組み(4)	取りまとめの深度化，指導教員とのディスカッション．プレゼンテーションの観点からの点検と修正

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
最低限の学習時間は規定されているものの，効率的により深く意義ある成果を得ることを目標に，授業時間という概念よりも，研究に向かう時間管理が重要となる．
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】
研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【参考書】
研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【成績評価の方法と基準】
中間発表，卒業研究2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して，研究への取り組み状況，最終審査（卒業研究論文，研究概要，研究発表）により評価する．評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文50%，研究概要25%，研究発表25%の重み付けとする．ただし，研究従事時間が180 時間未満の場合には不合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to improve the qualifications as an engineer /researcher and to improve the ability to organize and solve problems based on the specialized knowledge acquired by the previous term. The course format is different from other subjects, and each student conducts research on issues according to the specialized field of the academic advisor. The results will be submitted as a graduation thesis and will be examined. In the process, cultivate the ability to compile and publish treatises.
Students who have passed the mid-term examination of the mid-term report will be evaluated on the basis of their commitment to the research and the final examination (graduation thesis, research outline, and research presentation).
The evaluation will be based on the status of research efforts and a weighting of 50%for the graduation research paper, 25%for the research outline, and 25%for the research presentation.
Students who work less than 180 hours on research will fail the examination.

CAR200NC（キャリア教育 / Career education 200）

基礎ゼミナール

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明、尾関　智子、原田　大輔

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに専門科目着手への準備をする．学習の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに，レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する．キャリアデザインセミナーによる技術者の役割を学びキャリアパスを考える．卒業生など社会で活躍する技術者や建設業界職員から提供される体験談や建設業界の情報に基づいて自らの進路を考える．

【到達目標】
専門科目と土木技術の関係を学ぶとともに，種々のキャリアパスの想定を通じて，自らの進路を考えるきっかけを掴む．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
（B）技術者倫理	20%
（C）工学基礎学力	10%
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員別ゼミナールについては，学生の希望を考慮したグループ分けを行い，3回の講義で都市プランニング系，施設デザイン系，環境システム系を体験する．キャリアデザインについては全体で行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス 研究室紹介（都市プランニング系）	教員別ゼミナールのための班分け，授業のガイダンス，教員ごとの当授業の進め方の説明 都市プランニング系の研究室の取り組み説明
(2)	研究室紹介（施設デザイン系）	施設デザイン系の研究室の取り組み説明
(3)	研究室紹介（環境システム系）	環境システム系の研究室の取り組み説明
(4)	キャリアデザインセミナー(国家公務員)	国土交通省の支援を得て国家公務員の詳細な内容を説明する。
(5)	キャリアデザインセミナー(地方公務員)	地方公共団体の支援を得て地方公務員の詳細な内容を説明する。
(6)	キャリアデザインセミナー(技術士)	技術士会等の支援を得て技術士の詳細な内容を説明する。
(7)	キャリアデザインセミナー(建設コンサルタント)	建設コンサルタンツ協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(8)	キャリアデザインセミナー(ゼネコン、橋梁メーカ)	日本建設業連合会や日本橋梁建設協会の支援を得てゼネコンや橋梁メーカの詳細な内容を説明する。
(9)	キャリアデザインセミナー(測量調査)	日本測量調査技術協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(10)	キャリアデザインセミナー(土木デザイン)	エンジニアアーキテクト協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(11)	キャリアデザインセミナー(大学院)	大学院生の支援を得て大学院生活の詳細な内容を説明する。
(12)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(13)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(14)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認．配布資料の復習．レポートの作成．
本授業の準備学習・復習時間は，各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
参照すべき書籍などを講義中に随時，紹介する．

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートによる．欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
貸与ノートPCを持参する．

【その他の重要事項】
土木分野における計画，設計，製作，施工等に係る実務経験を有する専任教員が，専門知識について解説する．各教員のオフィスアワーは履修の手引きを確認すること．
また，現役技術者を招いた講演会を複数回開催し，最新の技術動向を解説いただく．
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である．

【Outline (in English)】
In this seminar, students will learn the technical knowledge of their field, and prepare for working on their graduation theses. Specifically, students observe a state of implementation of measures to write thesis and join a tour of construction site in order to learn how to proceed with their studies, how to use practical technique. In addition, students will train their composition ability by writing reports. From a seminar of career design, students will study the role of engineer and then consider their career paths. Students will consider their course to take the career to pursue after graduation by using the experience stories instructed by the graduate, engineer, or staff in civil engineering industry who plays an active part in society.
· Learning Objectives
Learn about the relationship between specialized subjects and civil engineering technology. In addition, by considering various career paths, students will have the opportunity to think about their own future.
· Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

・Grading Criteria
Grades will be based on reports on the theme.
Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

CAR200NC（キャリア教育 / Career education 200）

基礎ゼミナール

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに専門科目着手への準備をする．学習の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに，レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する．キャリアデザインセミナーによる技術者の役割を学びキャリアパスを考える．卒業生など社会で活躍する技術者や建設業界職員から提供される体験談や建設業界の情報に基づいて自らの進路を考える．

【到達目標】
専門科目と土木技術の関係を学ぶとともに，種々のキャリアパスの想定を通じて，自らの進路を考えるきっかけを掴む．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
（B）技術者倫理	20%
（C）工学基礎学力	10%
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員別ゼミナールについては，学生の希望を考慮したグループ分けを行い，3回の講義で都市プランニング系，施設デザイン系，環境システム系を体験する．キャリアデザインについては全体で行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス 研究室紹介（都市プランニング系）	教員別ゼミナールのための班分け，授業のガイダンス，教員ごとの当授業の進め方の説明 都市プランニング系の研究室の取り組み説明
(2)	研究室紹介（施設デザイン系）	施設デザイン系の研究室の取り組み説明
(3)	研究室紹介（環境システム系）	環境システム系の研究室の取り組み説明
(4)	キャリアデザインセミナー(国家公務員)	国土交通省の支援を得て国家公務員の詳細な内容を説明する。
(5)	キャリアデザインセミナー(地方公務員)	地方公共団体の支援を得て地方公務員の詳細な内容を説明する。
(6)	キャリアデザインセミナー(技術士)	技術士会等の支援を得て技術士の詳細な内容を説明する。
(7)	キャリアデザインセミナー(建設コンサルタント)	建設コンサルタンツ協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(8)	キャリアデザインセミナー(ゼネコン、橋梁メーカ)	日本建設業連合会や日本橋梁建設協会の支援を得てゼネコンや橋梁メーカの詳細な内容を説明する。
(9)	キャリアデザインセミナー(測量調査)	日本測量調査技術協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(10)	キャリアデザインセミナー(土木デザイン)	エンジニアアーキテクト協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(11)	キャリアデザインセミナー(大学院)	大学院生の支援を得て大学院生活の詳細な内容を説明する。
(12)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(13)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(14)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認．配布資料の復習．レポートの作成．
本授業の準備学習・復習時間は，各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
参照すべき書籍などを講義中に随時，紹介する．

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートによる．欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
貸与ノートPCを持参する．

【その他の重要事項】
土木分野における計画，設計，製作，施工等に係る実務経験を有する専任教員が，専門知識について解説する．各教員のオフィスアワーは履修の手引きを確認すること．
また，現役技術者を招いた講演会を複数回開催し，最新の技術動向を解説いただく．
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である．

【Outline (in English)】
In this seminar, students will learn the technical knowledge of their field, and prepare for working on their graduation theses. Specifically, students observe a state of implementation of measures to write thesis and join a tour of construction site in order to learn how to proceed with their studies, how to use practical technique. In addition, students will train their composition ability by writing reports. From a seminar of career design, students will study the role of engineer and then consider their career paths. Students will consider their course to take the career to pursue after graduation by using the experience stories instructed by the graduate, engineer, or staff in civil engineering industry who plays an active part in society.
· Learning Objectives
Learn about the relationship between specialized subjects and civil engineering technology. In addition, by considering various career paths, students will have the opportunity to think about their own future.
· Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

・Grading Criteria
Grades will be based on reports on the theme.
Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

CAR200NC（キャリア教育 / Career education 200）

基礎ゼミナール

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに専門科目着手への準備をする．学習の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに，レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する．キャリアデザインセミナーによる技術者の役割を学びキャリアパスを考える．卒業生など社会で活躍する技術者や建設業界職員から提供される体験談や建設業界の情報に基づいて自らの進路を考える．

【到達目標】
専門科目と土木技術の関係を学ぶとともに，種々のキャリアパスの想定を通じて，自らの進路を考えるきっかけを掴む．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
（B）技術者倫理	20%
（C）工学基礎学力	10%
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員別ゼミナールについては，学生の希望を考慮したグループ分けを行い，3回の講義で都市プランニング系，施設デザイン系，環境システム系を体験する．キャリアデザインについては全体で行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス 研究室紹介（都市プランニング系）	教員別ゼミナールのための班分け，授業のガイダンス，教員ごとの当授業の進め方の説明 都市プランニング系の研究室の取り組み説明
(2)	研究室紹介（施設デザイン系）	施設デザイン系の研究室の取り組み説明
(3)	研究室紹介（環境システム系）	環境システム系の研究室の取り組み説明
(4)	キャリアデザインセミナー(国家公務員)	国土交通省の支援を得て国家公務員の詳細な内容を説明する。
(5)	キャリアデザインセミナー(地方公務員)	地方公共団体の支援を得て地方公務員の詳細な内容を説明する。
(6)	キャリアデザインセミナー(技術士)	技術士会等の支援を得て技術士の詳細な内容を説明する。
(7)	キャリアデザインセミナー(建設コンサルタント)	建設コンサルタンツ協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(8)	キャリアデザインセミナー(ゼネコン、橋梁メーカ)	日本建設業連合会や日本橋梁建設協会の支援を得てゼネコンや橋梁メーカの詳細な内容を説明する。
(9)	キャリアデザインセミナー(測量調査)	日本測量調査技術協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(10)	キャリアデザインセミナー(土木デザイン)	エンジニアアーキテクト協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(11)	キャリアデザインセミナー(大学院)	大学院生の支援を得て大学院生活の詳細な内容を説明する。
(12)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(13)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(14)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認．配布資料の復習．レポートの作成．
本授業の準備学習・復習時間は，各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
参照すべき書籍などを講義中に随時，紹介する．

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートによる．欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
貸与ノートPCを持参する．

【その他の重要事項】
土木分野における計画，設計，製作，施工等に係る実務経験を有する専任教員が，専門知識について解説する．各教員のオフィスアワーは履修の手引きを確認すること．
また，現役技術者を招いた講演会を複数回開催し，最新の技術動向を解説いただく．
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である．

【Outline (in English)】
In this seminar, students will learn the technical knowledge of their field, and prepare for working on their graduation theses. Specifically, students observe a state of implementation of measures to write thesis and join a tour of construction site in order to learn how to proceed with their studies, how to use practical technique. In addition, students will train their composition ability by writing reports. From a seminar of career design, students will study the role of engineer and then consider their career paths. Students will consider their course to take the career to pursue after graduation by using the experience stories instructed by the graduate, engineer, or staff in civil engineering industry who plays an active part in society.
· Learning Objectives
Learn about the relationship between specialized subjects and civil engineering technology. In addition, by considering various career paths, students will have the opportunity to think about their own future.
· Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

・Grading Criteria
Grades will be based on reports on the theme.
Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

CAR200NC（キャリア教育 / Career education 200）

基礎ゼミナール

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに専門科目着手への準備をする．学習の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに，レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する．キャリアデザインセミナーによる技術者の役割を学びキャリアパスを考える．卒業生など社会で活躍する技術者や建設業界職員から提供される体験談や建設業界の情報に基づいて自らの進路を考える．

【到達目標】
専門科目と土木技術の関係を学ぶとともに，種々のキャリアパスの想定を通じて，自らの進路を考えるきっかけを掴む．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
（B）技術者倫理	20%
（C）工学基礎学力	10%
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員別ゼミナールについては，学生の希望を考慮したグループ分けを行い，3回の講義で都市プランニング系，施設デザイン系，環境システム系を体験する．キャリアデザインについては全体で行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス 研究室紹介（都市プランニング系）	教員別ゼミナールのための班分け，授業のガイダンス，教員ごとの当授業の進め方の説明 都市プランニング系の研究室の取り組み説明
(2)	研究室紹介（施設デザイン系）	施設デザイン系の研究室の取り組み説明
(3)	研究室紹介（環境システム系）	環境システム系の研究室の取り組み説明
(4)	キャリアデザインセミナー(国家公務員)	国土交通省の支援を得て国家公務員の詳細な内容を説明する。
(5)	キャリアデザインセミナー(地方公務員)	地方公共団体の支援を得て地方公務員の詳細な内容を説明する。
(6)	キャリアデザインセミナー(技術士)	技術士会等の支援を得て技術士の詳細な内容を説明する。
(7)	キャリアデザインセミナー(建設コンサルタント)	建設コンサルタンツ協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(8)	キャリアデザインセミナー(ゼネコン、橋梁メーカ)	日本建設業連合会や日本橋梁建設協会の支援を得てゼネコンや橋梁メーカの詳細な内容を説明する。
(9)	キャリアデザインセミナー(測量調査)	日本測量調査技術協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(10)	キャリアデザインセミナー(土木デザイン)	エンジニアアーキテクト協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(11)	キャリアデザインセミナー(大学院)	大学院生の支援を得て大学院生活の詳細な内容を説明する。
(12)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(13)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(14)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認．配布資料の復習．レポートの作成．
本授業の準備学習・復習時間は，各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
参照すべき書籍などを講義中に随時，紹介する．

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートによる．欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
貸与ノートPCを持参する．

【その他の重要事項】
土木分野における計画，設計，製作，施工等に係る実務経験を有する専任教員が，専門知識について解説する．各教員のオフィスアワーは履修の手引きを確認すること．
また，現役技術者を招いた講演会を複数回開催し，最新の技術動向を解説いただく．
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である．

【Outline (in English)】
In this seminar, students will learn the technical knowledge of their field, and prepare for working on their graduation theses. Specifically, students observe a state of implementation of measures to write thesis and join a tour of construction site in order to learn how to proceed with their studies, how to use practical technique. In addition, students will train their composition ability by writing reports. From a seminar of career design, students will study the role of engineer and then consider their career paths. Students will consider their course to take the career to pursue after graduation by using the experience stories instructed by the graduate, engineer, or staff in civil engineering industry who plays an active part in society.
· Learning Objectives
Learn about the relationship between specialized subjects and civil engineering technology. In addition, by considering various career paths, students will have the opportunity to think about their own future.
· Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

・Grading Criteria
Grades will be based on reports on the theme.
Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

CAR200NC（キャリア教育 / Career education 200）

基礎ゼミナール

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに専門科目着手への準備をする．学習の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに，レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する．キャリアデザインセミナーによる技術者の役割を学びキャリアパスを考える．卒業生など社会で活躍する技術者や建設業界職員から提供される体験談や建設業界の情報に基づいて自らの進路を考える．

【到達目標】
専門科目と土木技術の関係を学ぶとともに，種々のキャリアパスの想定を通じて，自らの進路を考えるきっかけを掴む．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
（B）技術者倫理	20%
（C）工学基礎学力	10%
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
教員別ゼミナールについては，学生の希望を考慮したグループ分けを行い，3回の講義で都市プランニング系，施設デザイン系，環境システム系を体験する．キャリアデザインについては全体で行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス 研究室紹介（都市プランニング系）	教員別ゼミナールのための班分け，授業のガイダンス，教員ごとの当授業の進め方の説明 都市プランニング系の研究室の取り組み説明
(2)	研究室紹介（施設デザイン系）	施設デザイン系の研究室の取り組み説明
(3)	研究室紹介（環境システム系）	環境システム系の研究室の取り組み説明
(4)	キャリアデザインセミナー(国家公務員)	国土交通省の支援を得て国家公務員の詳細な内容を説明する。
(5)	キャリアデザインセミナー(地方公務員)	地方公共団体の支援を得て地方公務員の詳細な内容を説明する。
(6)	キャリアデザインセミナー(技術士)	技術士会等の支援を得て技術士の詳細な内容を説明する。
(7)	キャリアデザインセミナー(建設コンサルタント)	建設コンサルタンツ協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(8)	キャリアデザインセミナー(ゼネコン、橋梁メーカ)	日本建設業連合会や日本橋梁建設協会の支援を得てゼネコンや橋梁メーカの詳細な内容を説明する。
(9)	キャリアデザインセミナー(測量調査)	日本測量調査技術協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(10)	キャリアデザインセミナー(土木デザイン)	エンジニアアーキテクト協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(11)	キャリアデザインセミナー(大学院)	大学院生の支援を得て大学院生活の詳細な内容を説明する。
(12)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(13)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(14)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認．配布資料の復習．レポートの作成．
本授業の準備学習・復習時間は，各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
参照すべき書籍などを講義中に随時，紹介する．

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートによる．欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
貸与ノートPCを持参する．

【その他の重要事項】
土木分野における計画，設計，製作，施工等に係る実務経験を有する専任教員が，専門知識について解説する．各教員のオフィスアワーは履修の手引きを確認すること．
また，現役技術者を招いた講演会を複数回開催し，最新の技術動向を解説いただく．
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である．

【Outline (in English)】
In this seminar, students will learn the technical knowledge of their field, and prepare for working on their graduation theses. Specifically, students observe a state of implementation of measures to write thesis and join a tour of construction site in order to learn how to proceed with their studies, how to use practical technique. In addition, students will train their composition ability by writing reports. From a seminar of career design, students will study the role of engineer and then consider their career paths. Students will consider their course to take the career to pursue after graduation by using the experience stories instructed by the graduate, engineer, or staff in civil engineering industry who plays an active part in society.
· Learning Objectives
Learn about the relationship between specialized subjects and civil engineering technology. In addition, by considering various career paths, students will have the opportunity to think about their own future.
· Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

・Grading Criteria
Grades will be based on reports on the theme.
Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

CAR200NC（キャリア教育 / Career education 200）

基礎ゼミナール

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに専門科目着手への準備をする．学習の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに，レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する．キャリアデザインセミナーによる技術者の役割を学びキャリアパスを考える．卒業生など社会で活躍する技術者や建設業界職員から提供される体験談や建設業界の情報に基づいて自らの進路を考える．

【到達目標】
専門科目と土木技術の関係を学ぶとともに，種々のキャリアパスの想定を通じて，自らの進路を考えるきっかけを掴む．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
（B）技術者倫理	20%
（C）工学基礎学力	10%
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員別ゼミナールについては，学生の希望を考慮したグループ分けを行い，3回の講義で都市プランニング系，施設デザイン系，環境システム系を体験する．キャリアデザインについては全体で行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス 研究室紹介（都市プランニング系）	教員別ゼミナールのための班分け，授業のガイダンス，教員ごとの当授業の進め方の説明 都市プランニング系の研究室の取り組み説明
(2)	研究室紹介（施設デザイン系）	施設デザイン系の研究室の取り組み説明
(3)	研究室紹介（環境システム系）	環境システム系の研究室の取り組み説明
(4)	キャリアデザインセミナー(国家公務員)	国土交通省の支援を得て国家公務員の詳細な内容を説明する。
(5)	キャリアデザインセミナー(地方公務員)	地方公共団体の支援を得て地方公務員の詳細な内容を説明する。
(6)	キャリアデザインセミナー(技術士)	技術士会等の支援を得て技術士の詳細な内容を説明する。
(7)	キャリアデザインセミナー(建設コンサルタント)	建設コンサルタンツ協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(8)	キャリアデザインセミナー(ゼネコン、橋梁メーカ)	日本建設業連合会や日本橋梁建設協会の支援を得てゼネコンや橋梁メーカの詳細な内容を説明する。
(9)	キャリアデザインセミナー(測量調査)	日本測量調査技術協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(10)	キャリアデザインセミナー(土木デザイン)	エンジニアアーキテクト協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(11)	キャリアデザインセミナー(大学院)	大学院生の支援を得て大学院生活の詳細な内容を説明する。
(12)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(13)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(14)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認．配布資料の復習．レポートの作成．
本授業の準備学習・復習時間は，各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
参照すべき書籍などを講義中に随時，紹介する．

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートによる．欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
貸与ノートPCを持参する．

【その他の重要事項】
土木分野における計画，設計，製作，施工等に係る実務経験を有する専任教員が，専門知識について解説する．各教員のオフィスアワーは履修の手引きを確認すること．
また，現役技術者を招いた講演会を複数回開催し，最新の技術動向を解説いただく．
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である．

【Outline (in English)】
In this seminar, students will learn the technical knowledge of their field, and prepare for working on their graduation theses. Specifically, students observe a state of implementation of measures to write thesis and join a tour of construction site in order to learn how to proceed with their studies, how to use practical technique. In addition, students will train their composition ability by writing reports. From a seminar of career design, students will study the role of engineer and then consider their career paths. Students will consider their course to take the career to pursue after graduation by using the experience stories instructed by the graduate, engineer, or staff in civil engineering industry who plays an active part in society.
· Learning Objectives
Learn about the relationship between specialized subjects and civil engineering technology. In addition, by considering various career paths, students will have the opportunity to think about their own future.
· Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

・Grading Criteria
Grades will be based on reports on the theme.
Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

CAR200NC（キャリア教育 / Career education 200）

基礎ゼミナール

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに専門科目着手への準備をする．学習の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに，レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する．キャリアデザインセミナーによる技術者の役割を学びキャリアパスを考える．卒業生など社会で活躍する技術者や建設業界職員から提供される体験談や建設業界の情報に基づいて自らの進路を考える．

【到達目標】
専門科目と土木技術の関係を学ぶとともに，種々のキャリアパスの想定を通じて，自らの進路を考えるきっかけを掴む．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
（B）技術者倫理	20%
（C）工学基礎学力	10%
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員別ゼミナールについては，学生の希望を考慮したグループ分けを行い，3回の講義で都市プランニング系，施設デザイン系，環境システム系を体験する．キャリアデザインについては全体で行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス 研究室紹介（都市プランニング系）	教員別ゼミナールのための班分け，授業のガイダンス，教員ごとの当授業の進め方の説明 都市プランニング系の研究室の取り組み説明
(2)	研究室紹介（施設デザイン系）	施設デザイン系の研究室の取り組み説明
(3)	研究室紹介（環境システム系）	環境システム系の研究室の取り組み説明
(4)	キャリアデザインセミナー(国家公務員)	国土交通省の支援を得て国家公務員の詳細な内容を説明する。
(5)	キャリアデザインセミナー(地方公務員)	地方公共団体の支援を得て地方公務員の詳細な内容を説明する。
(6)	キャリアデザインセミナー(技術士)	技術士会等の支援を得て技術士の詳細な内容を説明する。
(7)	キャリアデザインセミナー(建設コンサルタント)	建設コンサルタンツ協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(8)	キャリアデザインセミナー(ゼネコン、橋梁メーカ)	日本建設業連合会や日本橋梁建設協会の支援を得てゼネコンや橋梁メーカの詳細な内容を説明する。
(9)	キャリアデザインセミナー(測量調査)	日本測量調査技術協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(10)	キャリアデザインセミナー(土木デザイン)	エンジニアアーキテクト協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(11)	キャリアデザインセミナー(大学院)	大学院生の支援を得て大学院生活の詳細な内容を説明する。
(12)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(13)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(14)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認．配布資料の復習．レポートの作成．
本授業の準備学習・復習時間は，各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
参照すべき書籍などを講義中に随時，紹介する．

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートによる．欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
貸与ノートPCを持参する．

【その他の重要事項】
土木分野における計画，設計，製作，施工等に係る実務経験を有する専任教員が，専門知識について解説する．各教員のオフィスアワーは履修の手引きを確認すること．
また，現役技術者を招いた講演会を複数回開催し，最新の技術動向を解説いただく．
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である．

【Outline (in English)】
In this seminar, students will learn the technical knowledge of their field, and prepare for working on their graduation theses. Specifically, students observe a state of implementation of measures to write thesis and join a tour of construction site in order to learn how to proceed with their studies, how to use practical technique. In addition, students will train their composition ability by writing reports. From a seminar of career design, students will study the role of engineer and then consider their career paths. Students will consider their course to take the career to pursue after graduation by using the experience stories instructed by the graduate, engineer, or staff in civil engineering industry who plays an active part in society.
・Learning Objectives
Learn about the relationship between specialized subjects and civil engineering technology. In addition, by considering various career paths, students will have the opportunity to think about their own future.
・Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

・Grading Criteria
Grades will be based on reports on the theme.
Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

CAR200NC（キャリア教育 / Career education 200）

基礎ゼミナール

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに専門科目着手への準備をする．学習の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに，レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する．キャリアデザインセミナーによる技術者の役割を学びキャリアパスを考える．卒業生など社会で活躍する技術者や建設業界職員から提供される体験談や建設業界の情報に基づいて自らの進路を考える．

【到達目標】
専門科目と土木技術の関係を学ぶとともに，種々のキャリアパスの想定を通じて，自らの進路を考えるきっかけを掴む．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
（B）技術者倫理	20%
（C）工学基礎学力	10%
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員別ゼミナールについては，学生の希望を考慮したグループ分けを行い，3回の講義で都市プランニング系，施設デザイン系，環境システム系を体験する．キャリアデザインについては全体で行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス 研究室紹介（都市プランニング系）	教員別ゼミナールのための班分け，授業のガイダンス，教員ごとの当授業の進め方の説明 都市プランニング系の研究室の取り組み説明
(2)	研究室紹介（施設デザイン系）	施設デザイン系の研究室の取り組み説明
(3)	研究室紹介（環境システム系）	環境システム系の研究室の取り組み説明
(4)	キャリアデザインセミナー(国家公務員)	国土交通省の支援を得て国家公務員の詳細な内容を説明する。
(5)	キャリアデザインセミナー(地方公務員)	地方公共団体の支援を得て地方公務員の詳細な内容を説明する。
(6)	キャリアデザインセミナー(技術士)	技術士会等の支援を得て技術士の詳細な内容を説明する。
(7)	キャリアデザインセミナー(建設コンサルタント)	建設コンサルタンツ協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(8)	キャリアデザインセミナー(ゼネコン、橋梁メーカ)	日本建設業連合会や日本橋梁建設協会の支援を得てゼネコンや橋梁メーカの詳細な内容を説明する。
(9)	キャリアデザインセミナー(測量調査)	日本測量調査技術協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(10)	キャリアデザインセミナー(土木デザイン)	エンジニアアーキテクト協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(11)	キャリアデザインセミナー(大学院)	大学院生の支援を得て大学院生活の詳細な内容を説明する。
(12)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(13)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(14)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認．配布資料の復習．レポートの作成．
本授業の準備学習・復習時間は，各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
参照すべき書籍などを講義中に随時，紹介する．

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートによる．欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
貸与ノートPCを持参する．

【その他の重要事項】
土木分野における計画，設計，製作，施工等に係る実務経験を有する専任教員が，専門知識について解説する．各教員のオフィスアワーは履修の手引きを確認すること．
また，現役技術者を招いた講演会を複数回開催し，最新の技術動向を解説いただく．
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である．

【Outline (in English)】
In this seminar, students will learn the technical knowledge of their field, and prepare for working on their graduation theses. Specifically, students observe a state of implementation of measures to write thesis and join a tour of construction site in order to learn how to proceed with their studies, how to use practical technique. In addition, students will train their composition ability by writing reports. From a seminar of career design, students will study the role of engineer and then consider their career paths. Students will consider their course to take the career to pursue after graduation by using the experience stories instructed by the graduate, engineer, or staff in civil engineering industry who plays an active part in society.
· Learning Objectives
Learn about the relationship between specialized subjects and civil engineering technology. In addition, by considering various career paths, students will have the opportunity to think about their own future.
· Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

・Grading Criteria
Grades will be based on reports on the theme.
Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

CAR200NC（キャリア教育 / Career education 200）

基礎ゼミナール

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介、福井　恒明

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに専門科目着手への準備をする．学習の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに，レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する．キャリアデザインセミナーによる技術者の役割を学びキャリアパスを考える．卒業生など社会で活躍する技術者や建設業界職員から提供される体験談や建設業界の情報に基づいて自らの進路を考える．

【到達目標】
専門科目と土木技術の関係を学ぶとともに，種々のキャリアパスの想定を通じて，自らの進路を考えるきっかけを掴む．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
（B）技術者倫理	20%
（C）工学基礎学力	10%
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員別ゼミナールについては，学生の希望を考慮したグループ分けを行い，3回の講義で都市プランニング系，施設デザイン系，環境システム系を体験する．キャリアデザインについては全体で行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス 研究室紹介（都市プランニング系）	教員別ゼミナールのための班分け，授業のガイダンス，教員ごとの当授業の進め方の説明 都市プランニング系の研究室の取り組み説明
(2)	研究室紹介（施設デザイン系）	施設デザイン系の研究室の取り組み説明
(3)	研究室紹介（環境システム系）	環境システム系の研究室の取り組み説明
(4)	キャリアデザインセミナー(国家公務員)	国土交通省の支援を得て国家公務員の詳細な内容を説明する。
(5)	キャリアデザインセミナー(地方公務員)	地方公共団体の支援を得て地方公務員の詳細な内容を説明する。
(6)	キャリアデザインセミナー(技術士)	技術士会等の支援を得て技術士の詳細な内容を説明する。
(7)	キャリアデザインセミナー(建設コンサルタント)	建設コンサルタンツ協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(8)	キャリアデザインセミナー(ゼネコン、橋梁メーカ)	日本建設業連合会や日本橋梁建設協会の支援を得てゼネコンや橋梁メーカの詳細な内容を説明する。
(9)	キャリアデザインセミナー(測量調査)	日本測量調査技術協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(10)	キャリアデザインセミナー(土木デザイン)	エンジニアアーキテクト協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(11)	キャリアデザインセミナー(大学院)	大学院生の支援を得て大学院生活の詳細な内容を説明する。
(12)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(13)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(14)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認．配布資料の復習．レポートの作成．
本授業の準備学習・復習時間は，各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
参照すべき書籍などを講義中に随時，紹介する．

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートによる．欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
貸与ノートPCを持参する．

【その他の重要事項】
土木分野における計画，設計，製作，施工等に係る実務経験を有する専任教員が，専門知識について解説する．各教員のオフィスアワーは履修の手引きを確認すること．
また，現役技術者を招いた講演会を複数回開催し，最新の技術動向を解説いただく．
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である．

【Outline (in English)】
In this seminar, students will learn the technical knowledge of their field, and prepare for working on their graduation theses. Specifically, students observe a state of implementation of measures to write thesis and join a tour of construction site in order to learn how to proceed with their studies, how to use practical technique. In addition, students will train their composition ability by writing reports. From a seminar of career design, students will study the role of engineer and then consider their career paths. Students will consider their course to take the career to pursue after graduation by using the experience stories instructed by the graduate, engineer, or staff in civil engineering industry who plays an active part in society.
· Learning Objectives
Learn about the relationship between specialized subjects and civil engineering technology. In addition, by considering various career paths, students will have the opportunity to think about their own future.
· Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

・Grading Criteria
Grades will be based on reports on the theme.
Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

CST200NC（土木工学 / Civil engineering 200）

鋼構造学及演習 X

内田　大介

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
橋梁を例として鋼構造の設計法の基本を学ぶことにより、主として専門知識の活用・応用能力を身に付ける。

【到達目標】
鋼材の性質、破壊、接合方法、接合部の強度の基礎的事項を説明できる。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力　70%
（E）専門知識の活用・応用能力　30%
（F）総合デザイン能力
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
橋梁などの鋼構造物を設計する際に必要となる鋼材およびその接合部の破壊形式と強度についての知識を身に付ける。本科目を履修する前に構造力学及演習Ⅰを履修しておくことが望ましい。実際の設計については3年次配当科目の「鋼構造デザイン実習」において学ぶ。
　授業は教科書、配布資料、PPTを用いて行う。授業の基本的な順序としてまず、前半にその回の授業内容を説明し、後半には、その授業内容に関係する演習課題を課し、解答作業を通じての各自の理解を促す。演習課題のフィードバックは必要に応じて次の回の冒頭に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	鋼構造概論	鋼材の製造法，冶金的性質，機械的性質 鋼材の破壊形式(延性破壊，脆性破壊，疲労破壊) 鋼橋の腐食と防食方法 鋼橋の概要
2	合成桁の応力度	設計の基本的な考え方 合成桁，合成桁の応力度の算出
3	引張を受ける部材の力学 圧縮を受ける部材の力学（1）	引張部材の設計，応力集中 長柱のオイラー座屈 不完全さのある柱の座屈(偏心荷重，元たわみ)
4	圧縮を受ける部材の力学（2）	非弾性座屈，溶接組立柱の座屈，平板の座屈
5	曲げを受ける部材の力学（1）	全塑性モーメント，横ねじれ座屈
6	曲げを受ける部材の力学（2）	曲げに伴う梁のせん断応力 薄肉構造のせん断応力(せん断流理論) せん断耐力，ウェブの座屈，ウェブの設計，せん断遅れ
7	中間実力確認 鋼橋の点検と維持管理	中間実力確認 実橋の点検，腐食部材の耐力
8	鋼橋の製作	橋ができるまで（鋼橋製作工場の見学）
9	溶接継手とその設計（1）	溶接の種類，溶接継手の種類，溶接入熱，溶接変形，溶接残留応力，溶接きず，非破壊検査
10	溶接継手とその設計（2）	溶接継手の強度，溶接記号
11	溶接継手とその設計（3）	疲労とは，疲労強度に影響を与える因子，鋼橋の疲労設計
12	高力ボルト接合とその設計（1）	高力ボルトの種類 高力ボルト摩擦接合継手のメカニズム すべり耐力 ボルトの締め付け方法
13	高力ボルト接合とその設計（2）	高力ボルト摩擦接合継手の設計 支圧接合継手，引張接合継手
14	総合実力確認	総合実力確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1～14回：講義の復讐
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
舘石和雄 著：鋼構造学，コロナ社

【参考書】
必要に応じて、講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
配点は各回の演習問題を30点、中間実力確認と総合実力確認の合計を70点とする。4回以上欠席した場合にはD評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
総合実力確認の範囲が多すぎるようなので，中間実力確認を復活させる．

【学生が準備すべき機器他】
授業にはPPTを使用する。関数電卓使用。他の機器等は必要に応じて指示。

【その他の重要事項】
教材,例題と演習問題の解答は学習支援システムに掲載します．
Xクラスは重工メーカーで鋼構造物の設計，研究開発の経験のある教員が担当します．
Yクラスは高速道路会社をサポートする会社で鋼道路橋の点検，維持管理に関する技術開発に携わっている教員が担当します．
・オフィスアワーについて
Xクラス担当の内田先生のオフィスアワーの日程・時間については，履修の手引きをご確認ください．
Yクラス担当の平山先生は講義時間外の質問・問い合わせにはメールで対応します．

【Outline (in English)】
Using the case of steel bridges as an example, students will acquire basic knowledge of steel structure design methods.
・Learning Objectives
Explain the basics of steel properties, fracture, joining method, and strength of joints.
・Learning activities outside of classroom
Review lessons.　Standard study time is two hours for each class meeting.
・Grading Criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Total of Midterm and Term-end examination: 70%，Each class exercises :30%

CST200NC（土木工学 / Civil engineering 200）

鋼構造学及演習 Y

平山　繁幸

開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
橋梁を例として鋼構造の設計法の基本を学ぶことにより、主として専門知識の活用・応用能力を身に付ける。

【到達目標】
鋼材の性質、破壊、接合方法、接合部の強度の基礎的事項を説明できる。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力　70%
（E）専門知識の活用・応用能力　30%
（F）総合デザイン能力
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
橋梁などの鋼構造物を設計する際に必要となる鋼材およびその接合部の破壊形式と強度についての知識を身に付ける。本科目を履修する前に構造力学及演習Ⅰを履修しておくことが望ましい。実際の設計については3年次配当科目の「鋼構造デザイン実習」において学ぶ。
　授業は教科書、配布資料、PPTを用いて行う。授業の基本的な順序としてまず、前半にその回の授業内容を説明し、後半には、その授業内容に関係する演習課題を課し、解答作業を通じての各自の理解を促す。演習課題のフィードバックは必要に応じて次の回の冒頭に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	鋼構造概論	鋼材の製造法，冶金的性質，機械的性質 鋼材の破壊形式(延性破壊，脆性破壊，疲労破壊) 鋼橋の腐食と防食方法 鋼橋の概要
2	合成桁の応力度	設計の基本的な考え方 合成桁，合成桁の応力度の算出
3	引張を受ける部材の力学 圧縮を受ける部材の力学（1）	引張部材の設計，応力集中 長柱のオイラー座屈 不完全さのある柱の座屈(偏心荷重，元たわみ)
4	圧縮を受ける部材の力学（2）	非弾性座屈，溶接組立柱の座屈，平板の座屈
5	曲げを受ける部材の力学（1）	全塑性モーメント，横ねじれ座屈
6	曲げを受ける部材の力学（2）	曲げに伴う梁のせん断応力 薄肉構造のせん断応力(せん断流理論) せん断耐力，ウェブの座屈，ウェブの設計，せん断遅れ
7	中間実力確認 鋼橋の点検と維持管理	中間実力確認 実橋の点検，腐食部材の耐力
8	鋼橋の製作	橋ができるまで（鋼橋製作工場の見学）
9	溶接継手とその設計（1）	溶接の種類，溶接継手の種類，溶接入熱，溶接変形，溶接残留応力，溶接きず，非破壊検査
10	溶接継手とその設計（2）	溶接継手の強度，溶接記号
11	溶接継手とその設計（3）	疲労とは，疲労強度に影響を与える因子，鋼橋の疲労設計
12	高力ボルト接合とその設計（1）	高力ボルトの種類 高力ボルト摩擦接合継手のメカニズム すべり耐力 ボルトの締め付け方法
13	高力ボルト接合とその設計（2）	高力ボルト摩擦接合継手の設計 支圧接合継手，引張接合継手
14	総合実力確認	総合実力確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1～14回：講義の復讐
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
舘石和雄 著：鋼構造学，コロナ社

【参考書】
必要に応じて、講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
配点は各回の演習問題を30点、中間実力確認と総合実力確認の合計を70点とする。4回以上欠席した場合にはD評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
総合実力確認の範囲が多すぎるようなので，中間実力確認を復活させる．

【学生が準備すべき機器他】
授業にはPPTを使用する。関数電卓使用。他の機器等は必要に応じて指示。

【その他の重要事項】
教材,例題と演習問題の解答は学習支援システムに掲載します．
Xクラスは重工メーカーで鋼構造物の設計，研究開発の経験のある教員が担当します．
Yクラスは高速道路会社をサポートする会社で鋼道路橋の点検，維持管理に関する技術開発に携わっている教員が担当します．
・オフィスアワーについて
Xクラス担当の内田先生のオフィスアワーの日程・時間については，履修の手引きをご確認ください．
Yクラス担当の平山先生は講義時間外の質問・問い合わせにはメールで対応します．

【Outline (in English)】
Using the case of steel bridges as an example, students will acquire basic knowledge of steel structure design methods.
・Learning Objectives
Explain the basics of steel properties, fracture, joining method, and strength of joints.
・Learning activities outside of classroom
Review lessons.　Standard study time is two hours for each class meeting.
・Grading Criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Total of Midterm and Term-end examination: 70%，Each class exercises :30%

DES100NC（デザイン学 / Design science 100）

デザインスタジオ

高見　公雄、袴田　喜夫、金城　正紀、佐多　祐一、福井　恒明

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
デザインスタジオは都市環境デザイン工学科における実技系の基礎的授業として重要な位置を占める。当授業は複数の課題から構成され、基礎造形に係る演習、図面制作技術の習得、そして模型製作の技法、これらを統合した造形表現など。これらにより、都市環境デザイン工学に係る計画づくりの初歩を学ぶ。

【到達目標】
基礎造形に関しては、紙、布などの加工を通じて、重力が働く世界における材料の特性を学ぶ。図面を用いた作業により作図検討の基礎を学ぶ。後半では都市、建築模型製作の基礎的な技術、観点を学ぶ。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力　70%
（E）専門知識の活用・応用能力　30%
（F）総合デザイン能力
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
第一課題は紙の造形であり、個人課題として重力に耐えうる紙の構築物を制作する。第二課題は土木構築物が備えるべき美しさを念頭に素材特性と重力それぞれに向かい合い、造形物を制作する。第三・第四課題は個人課題として、手書き図面による図面作成技術、小空間設計を学ぶ。第五課題、第六課題は模型製作の基礎を学ぶ。
新型感染症対策を講じつつ、必要な範囲で対面型授業を実施予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、基礎造形課題	全体の進め方や狙いを説明する。造形物の美しさ、合理性、工夫などを狙いとして、紙を使った構築物を制作する。 課題説明、グループ分け。
2	立体造形(基礎検討)	グループごとに設定したテーマの立体造形物への展開について検討し、エスキスを受ける。
3	立体造形(試作)	立体造形物の制作。試行錯誤をへて、意図した造形物の姿を捉えていく。
4	立体造形発表、講評	立体造形物を完成させ、発表し、講評を受ける。
5	住宅のトレース	高名な住宅の平面、立面、断面図を手書きによりトレースする。
6	人の入る空間	人の入る小空間を設計する。 その基本的な構想をたてスタディする。
7	人の入る空間、講評	スタディした内容に則した成果図面を制作し、講評を受ける。
8	模型製作の基礎	模型製作の材料や用具の使い方について学ぶ
9	広場空間の模型製作（1）	実在の広場空間模型を作成する。図面や写真で空間の把握を行う。
10	広場空間の模型製作（2）	実在の広場空間模型を作成する。空間を表現し添景の作成を行う。
11	広場空間の模型製作（3）	作成した模型について講評をうける。 模型の写真を撮影し、提出シートを作成する。
12	街路空間の観察と模型製作（1）	現地調査に基づき、ベースとなる地形部分を作成する。
13	街路空間の観察と模型（2）	現地調査に基づき、街路沿いの建物を作成する。
14	街路空間の観察と模型製作（3）	模型の写真を撮影し、提出シート作成する。模型の講評を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認
配布資料の復習
レポートの作成
演習課題の制作
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて配布する。

【参考書】
講義において適宜指示するともに補充資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】
各演習課題により評価する。4回以上の欠席または演習課題の未提出はD評価となる。

【学生の意見等からの気づき】
なし

【学生が準備すべき機器他】
前半は直定規、三角定規、三角スケール、製図用筆記具、色鉛筆など製図器具、カッターなどが必要となる。学科で紹介する製図用品セットを購入すれば、秋学期の図学及演習を含め対応可能である。後半は模型制作のための工作用器具が必要であるが、これも製図用品セットで概ね対応可能である。その他、模型制作のための材料が必要になる場合がある。

【その他の重要事項】
計画・設計演習の基礎演習は順を追って構成されているため、授業を休むとそれを取り返すのが難しい。極力出席すること。
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員、また現在実務家として最前線で活動している教員が、現場状況を含めて講義し、指導を行う。
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員については、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。兼任の教員については、Eメールで対応する。

【Outline (in English)】
This is the first practical subject in the Department of Civil and Environmental Engineering program to study skills.
Each exercise will be evaluated.　Four or more absences or non-submission of exercises will result in a D grade.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST200NC（土木工学 / Civil engineering 200）

プロジェクトスタジオ（都市）

高見　公雄、袴田　喜夫、椿　真吾、福井　恒明

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市プランニング系の演習科目で唯一の必修科目である。都市整備に係わる法令や基礎知識を活かし、エンジニアリング・デザインの観点から具体的な地区を捉え、条件に応じた課題に応えていくことで都市プランニングの考え方と技法を学ぶ。

【到達目標】
与えられた場所の特性を現地調査や各種計画や地図等、また歴史的経緯から読みとくことができるようになる。その場において解決すべき課題を自ら設定することができ、これについて合理的な解決案の提案とその表現ができる。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力　30%
（E）専門知識の活用・応用能力　50%
（F）総合デザイン能力　20%
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は図面上での作業、図面・模型の制作、それらのプレゼンテーションからなる。エスキスは手書きを主に教員と議論を行い、個人課題の成果品フィニッシュは模型並びにデジタルツールを用いた図と説明からなるプレゼンテーション・シートとする。図面と模型の制作に関しては、その作業量から授業時間外での対応が必要になる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概要説明、第１課題出題、模型と設計の基礎知識	第１課題の趣旨と条件を説明する。この課題を考える上で留意すべき点を説明する。
2	第１課題エスキス（１）	現地調査に基づく設計の基本方針を検討する。
3	第１課題エスキス（２）	設計方針を具体化する。
4	第１課題エスキス（３）	発表に向けて図面や模型の製作方針を検討する。
5	第１課題講評、第２課題出題	第１課題について図面と模型で発表する。第２課題の趣旨と条件を説明する。
6	第２課題現地分析発表	第２課題の対象地について文献調査や現地調査の結果を発表する。
7	第２課題参考事例発表	第２課題の検討にあたり参考となる国内外の事例を調査し、発表する。
8	都市開発事業と建築設計に関する知識、第２課題エスキス（１）	都市開発事業や建築設計の実例を理解し、自らの設計に活かす。設計対象とする敷地と設計テーマを選定する。
9	第２課題エスキス（２）	選定した敷地の設計方針を検討する。
10	第２課題エスキス（３）	設計方針に基づいて具体的な計画を検討する。
11	第２課題エスキス（４）	設計方針に基づき、計画内容の改善について指導を受ける。
12	第２課題エスキス（５）	発表に向けて図面や模型の製作方針について指導を受ける。
13	個人課題提出、講評会	個人課題である図面、模型を完成させ提出する。講評を始める。
14	講評会・その２	講評をつづけ、総評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
私たちが暮らす都市空間がどのようにできているか興味を持ち、町を見る。道路の幅員、橋の高さ、建物の大きさなどを寸法として考えてみる。好きな場所、嫌いな場所の要因を考える。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要な資料を配布する。

【参考書】
アーバンデザインの現代的展望（渡辺定夫、鹿島出版会）
日本の都市環境デザイン85-95、日本の美しいまちなみ事例（都市づくりパブリックデザインセンター）
コンパクト建築設計資料集成[都市再生]（日本建築学会編、丸善）
世界のSSD100-都市持続再生のツボ（東京大学cSUR-SSD研究会、彰国社）
など

【成績評価の方法と基準】
中間提出物、エスキス対応（30％）、最終成果物（70％）
欠席４回以上は単位取得を認めない(評価D)

【学生の意見等からの気づき】
最終提出物のイメージを意識して作業するよう指導する。

【学生が準備すべき機器他】
図面の仕上げにおいて、貸与ＰＣを用いてＣＡＤまたはドロー系ソフトにより作図する必要がある。
三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる（１年次のデザインスタジオ用に購入したものがあれば可。）模型制作にあたっては、カッターなどの道具の他、模型材料を自ら調達する必要がある。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた専任教員、またわが国の第一線で建築、都市整備の実務に就いている兼任教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員については、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。兼任の教員については、Ｅメールで対応する。

【Outline (in English)】
As the only compulsory course in this program, students will locate problems in their target field and make suggestions for improvements using plan views, sectional views and models.
Each exercise will be evaluated.　Four or more absences or non-submission of exercises will result in a D grade.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

CST300NC（土木工学 / Civil engineering 300）

景観とデザイン

福井　恒明

開講時期：**春学期後半**/Spring(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代のシビルエンジニアには，どのような専門分野であっても，技術によって創出される構造物や空間，風景の質に対する知識と責任が求められる．本授業では，これに対応できる素養を修得するために景観工学の基礎知識，景観デザインに関する事例や考え方を学ぶ．

【到達目標】
1）景観に関する基礎的知識を修得し，計画・設計の前提となる基本的考察ができるようになる．
2）1）をもとに景観に関する調査を行い，その結果について他者と共有できる論理構成と表現ができるようになる．

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力　20%
（E）専門知識の活用・応用能力　60%
（F）総合デザイン能力　20%
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式を中心に授業を進める．一部にグループワークによる実習的作業を含む．
グループワークに基づく授業内発表を行う（13,14回目）．その結果についてレポート提出を求める．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・景観の捉え方	（グループワーク）景観に関する言葉を使った例文作成と用法の確認
2	景観の捉え方	景観工学の誕生／ルーツと展開／景観とは
3	大学周辺のまちあるき	まちなみの成り立ちや景観としての見方を理解する
4	大学周辺のまちあるき	まちなみの成り立ちや景観としての見方を理解する
5	視覚的アプローチ（1）／景観把握モデル	景観把握モデル／（グループワーク）風景写真の景観把握モデルによる説明・
6	視覚的アプローチ（2）／人間の視知覚特性	人間の視知覚特性と「よい眺め」／（グループワーク）よい眺望景観の景観ディスプレイ論的分析
7	視覚的アプローチ（3）／色彩	色彩の基礎
8	身体感覚的アプローチ（1）／ヒューマンスケール	ヒューマンスケール（グループワーク）ヒューマンスケールの実測，歩幅の確認と歩測
9	身体感覚的アプローチ（2）／仮想行動，アフォーダンス	仮想行動／「閉じる・開く」と「見る・見られる」／シークエンス
10	意味的アプローチ（1）／イメージマップ	イメージと景観，イメージマップ／（グループワーク）イメージマップによる地域分析
11	意味的アプローチ（2）／名付け，原風景，生活景	名付けと描写／伝統的景観／原風景と生活景
12	意味的アプローチ（3）／伝統的景観と現代	（グループワーク）歴史的景観とテーマパークの違い
13	まとめ（1）／社会基盤施設デザインのプロセス	景観デザインを踏まえた社会基盤施設のプロセスについてディスカッションする
14	まとめ（2）／グループディスカッションの発表と講評	グループディスカッションの結果についての発表とそれに対する講評を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本的にテキスト（教科書）に沿って授業を進めるため，該当箇所について予習・復習を行う．授業後半にグループディスカッションを行うため，これに関する事前準備や事後のレポート作成（個人）がある．
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
景観とデザイン（改訂２版），内山久雄監修・佐々木葉著，オーム社，2015，2700円＋税

【参考書】
「景観用語事典 増補改訂第二版」篠原修編，彰国社，2021，3600円＋税
その他必要に応じて紹介する

【成績評価の方法と基準】
各回の提出物50%，最終グループワークのレポート50%とする。
欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】
プロジェクトの実態や詳細の紹介に対する評価が高かったので，今後も事例の紹介を適宜行っていく．

【学生が準備すべき機器他】
貸与パソコン等によりインターネットに接続して作業できる環境が必要である．

【その他の重要事項】
景観計画・景観デザインについての実務経験を持つ教員が、その経験を活かして、都市環境デザインにおける景観の考え方を実際のプロジェクトにおける適用を踏まえて講義する。
オフィスアワーについては『履修の手引き』を参照すること。

【Outline (in English)】
Course outline
This lecture introduces a framework of knowledge about the quality of landscapes created by civil engineering technologies and presents specific examples.
Learning objectives:
At the end of the course, students are expected to acquire basic knowledge of landscape engineering and examples and ideas on landscape.
Learning activities outside classroom:
Students will be expected to read the relevant chapter from the text to prepare for a group discussion. Your study time will be more than two hours for a class.
Grading criteria/policies:
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Results of each group work 50%, Term-end report: 50%

CST300NC（土木工学 / Civil engineering 300）

ジオテクニカルデザイン

酒井　久和

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地盤調査，地盤災害，基礎，地盤改良，地盤掘削について学習するとともに，様々な構造物の設計演習を通じて総合的デザイン能力を高め，設計の考え方を習得する．

【到達目標】
①インフラ建設時の調査法，設計法，地盤災害について理解する．
②建設工事に必要な地盤調査法や建設時の地盤災害を理解し，ボーリング柱状図から事前に問題点を抽出する力を養成する．
③浅い基礎，深い基礎の設計方法と構造物の支持力機構を理解する．
④地盤改良や掘削の方法について理解する．

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力　20%
（E）専門知識の活用・応用能力　60%
（F）総合デザイン能力　20%
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
「地盤環境工学」の発展として，インフラ建設時の調査法，設計法，地盤災害について講義を行う．前半では，建設時の地盤災害，浅い基礎の設計方法，液状化のメカニズムについて学び，後半は，深い基礎の設計方法，地盤改良や掘削の方法について学習する．構造物設計上の要点を把握した状態でボーリング柱状図を読むことで事前に問題点を抽出する力を養成する．
授業は学年暦通り実施する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス，地盤調査法	サウンディング，サンプリングによる地盤構造の把握
2	建設時の地盤災害	ボイリングの現象，検討方法，対策法
3	建設時の地盤災害	ヒービング，盤膨れの現象，検討方法，対策法
4	浅い基礎の概説	浅い基礎の種類と施工法
5	浅い基礎の設計法	浅い基礎の支持力の考え方
6	浅い基礎の設計演習	浅い基礎の設計演習と解説
7	液状化現象	メカニズム，液状化対策と液状化判定
8	深い基礎の概説	支持力機構，基礎に要求される性能，杭の工法，材質，形状による分類
9	深い基礎の概説	工法の特徴と施工法の概要
10	深い基礎の検討	検討方法，鉛直支持力の計算法の概説
11	深い基礎の設計法	鉛直支持力，負の摩擦力の計算演習
12	地盤改良・掘削方法	地盤改良工法の概説，適用例．各種掘削工法の概説，特徴．
13	地盤特性値の解釈調査と留意点	設計地盤定数の求め方と留意点，ボーリング柱状図の読み方
14	期末まとめ	第1回～13回の理解の確認と質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 今回授業内容の復習
2. 同　上
3. 同　上
4. 同　上
5. 同　上
6. 同　上
7. 同　上
8. 同　上
9. 同　上
10. 同　上
11. 同　上
12. 同　上
13. 同　上
14. 同　上

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし．
プリントを適宜配布する

【参考書】
地盤工学会：地盤調査法
日本道路協会：杭基礎設計便覧（平成18年度）
吉見吉昭，福武毅芳：地盤液状化の物理と評価・対策技術，技報堂出版
日本道路協会：道路土工構造物技術基準・同解説

【成績評価の方法と基準】
定期試験70％，レポート30％
欠席４回以上は単位取得を認めない(評価D).

【学生の意見等からの気づき】
初回講義の際にこれまでの成績評価状況を説明し，受講意欲のない学生に対しては，早めに履修を諦めさることができたところ，学生の授業評価が低いものがなくなり，興味のある学生の受講環境を高めることができた．引き続き学生に考えさせ，総合デザイン力の向上を目指したい．

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓,PC

【その他の重要事項】
建設会社の設計部で実務を担当した教員が設計経験を活かして講義を行う．

【Outline (in English)】
The main objectives of the Geological Environmental Engineering 2 Program are the following:
1) Graduates will acquire fundamental knowledge on geotechnology: ground survey, ground disaster, foundation, ground improvement and excavation methods.
2) Graduates will enhance their ability of general design by design practices of several types of infrastructure.
This class's standard preparation and review time is about 2 hours, respectively.
Grade evaluation: Periodic examination 70%+ Report 30%= 100%, provided that no credit will be given for more than four absences; grade D.

CST300NC（土木工学 / Civil engineering 300）

環境マネジメント

弘末　文紀

開講時期：**秋学期後半/Fall(2nd half)**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
２０世紀以降の科学技術の飛躍的な発展は、地球環境の破壊と人口爆発を生じさせ、もはや人類はもちろん様々な生物の生存にとって危機的状態をもたらしている。地球環境の改善と保全は、今世紀に人類が解決しなければならない緊急で最優先の課題である。我が国においても特定の産業活動が環境汚染を引き起こした過去の公害問題とは異なり、通常の事業および生活活動に起因する環境への負荷が増大しているため、自主的な環境への負荷の低減が求められている。
本授業では，上記課題を解決するための一手段として「環境マネジメント」に着目し、企業および市民が遵守すべき環境法規、さらに社会的な責任を意識して自主的、能動的に環境保全のための行動を計画・実行・評価する手順（環境マネジメントシステム）およびその行動に必要な技術を学ぶ。本授業の内容は、社会人（民間企業、公務員ほか）の基礎知識として是非とも覚えておくべきこと、そしてシビルエンジニアの基盤技術として知っておくべきことであり、将来の業務の様々な局面で役立つものである。

【到達目標】
環境マネジメントの活動は、環境基本法の基本理念のもとに成り立つものであることから、我が国における環境にかかわる近代から現代の出来事と関連する法規制の歴史を概観することで環境基本法の成立に至る過程とその理念を理解する。そして、環境マネジメントの活動手順である「環境マネジメントシステム」の構成を理解するともに、個別の環境（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、廃棄物処理等）関連法の概要および規制基準等について学ぶとともに、建設産業において規制基準を満足するための対処技術を事例に基づき習得する。さらに、企業活動を行うために必須の倫理観と企業責任（コンプライアンス，インテグリティ，CSR，SDGｓ，ESG）など、今、世の中で求められている環境経営の考え方についても概説するのでこれらを理解する。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力　20%
（E）専門知識の活用・応用能力　60%
（F）総合デザイン能力　20%
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業はオリジナルのパワーポイントを用いて講義形式で実施する。
資料は講義当日までに授業支援システムにアップロードされるので、ここから各自ダウンロード出来る。
講義（1回～12回）の終了前に小課題を出すので、基本的に講義終了までに提出する（受け付けは当日いっぱいまで。解答は次回講義開始時に確認する）。13回目目は小課題なし。14回目は把握度確認となるため解答合わせは行わない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	環境マネジメントと環境基本法	環境マネジメントの対象である環境問題の歴史と環境政策の推移及び基本理念の誕生 小課題①
2	環境マネジメントシステム	システムの概要とその効果 小課題②
3	水質環境の保全（その１）	水質汚濁と公害，有害化学物質による生物への影響，発生源と環境基準 小課題③
4	水質環境の保全（その２）	水質汚濁の事例と対策および効果 小課題④
5	大気環境の保全（その１）	大気汚染物質の法的規制と技術的対応 小課題⑤
6	大気環境の保全（その２）	今日的な大気汚染問題（ヒートアイランド，温室効果ガスなど） 小課題⑥
7	土壌環境の保全（その１）	土壌汚染物質と土壌汚染対策法 小課題⑦
8	土壌環境の保全（その２）	汚染土壌の浄化技術とその実例 小課題⑧
9	廃棄物とリサイクル（その１）	廃棄物処理法とリサイクル法 小課題⑨
10	廃棄物とリサイクル（その２）	一般廃棄物と産業廃棄物の現況と処理・処分および不法投棄問題 小課題⑩
11	環境経営 SDGｓおよびESG投資と建設業界	CSRと持続的成長および環境活動 小課題⑪
12	騒音および振動の規制と対策 悪臭とその対応 地盤沈下の影響と対策	騒音,振動,悪臭および地盤沈下の規制と防止対策 小課題⑫
13	最新の環境関連政策の動向 低炭素・脱炭素コンクリート技術 豊洲新市場土壌汚染問題とその対策から考えること	CN,CE,NPの取り組み と最新の脱炭素コンクリート技術の現状および豊洲市場土壌汚染問題とその対策
14	2025年度講義の把握度確認	１～１３回の講義内容における重要事項の把握度を記述式にて確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前配信するテキスト（パワーポイント）等と参考書による予習および講義の復習をし、特に重要な事項については講義時に指摘するので、これらについて把握する。
小課題は当日の講義内容から出題するので講義資料および関連情報を検索することで基本的に時間内に回答することが可能と考える。さらに、最終講義の把握度確認の課題は、各講義にて特に重要と指摘した項目から出題するので復習していれば十分対応可能。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
独自のパワーポイント資料を使用（同pdfファイルを授業支援システムにて配信する）。

【参考書】
事前予習のための参考書は特に必要としないが、より深い理解を得たい場合、環境マネジメントシステムに関する資料は、
「図解即戦力 ISO 14001の規格と審査がこれ1冊でしっかりわかる教科書」福西義晴，技術評論社，2019.11.20
「一番やさしい・一番くわしい 最新版 図解でわかる ISO14001のすべて」大浜庄司，日本実業出版社，2017.8.31
などがある。
環境法および建設関連法規に関する資料は、
「図解 環境ISO対応 まるごとわかる環境法」見目善弘，産業環境管理協会，2017.12.1
「建設工事の環境法令集」（社）日本建設業団体連合会監修，（株）富士グローバルネットワーク発行（なお、最新版は2025年6月頃発行予定）
などがある。

【成績評価の方法と基準】
評価点は100点満点で評価し，90点以上S，87点以上A+，83点以上A，80点以上A-，77点以上B+，73点以上B，70点以上B-，67点以上C+，63点以上C，60点以上C-，59点以下または欠席４回以上Dとする．
評価点＝把握度確認の成績64%＋小課題12回分の成績36%
各小課題は、期限内提出して正解であれば3点、不正解は2点。期限遅れで提出した場合は正解で2点、不正解は1点。よって、全小課題を期限内提出して全問正解であれば36点の持ち点となる。
把握度確認は100点満点で採点し、その成績の0.64掛けが持ち点となり、上記の小課題持ち点と合わせて評価点とする。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度も全講義を対面にて実施した。小課題および課題確認の結果で判断すると学生諸君の理解は十分なされていたと思う。
ちなみに、３年前の講義からレポート課題を無くしているが、小課題において様々な考え方を提示した回答を得ているので今年度もユニークな回答を期待する。

【学生が準備すべき機器他】
講義は教室のプロジェクターを使用するため情報機器を持参する必要はありません。ただし、講義内容をより具体に把握するため、特にシステム・法規・基準などをPCでリアルタイムに検索することは有効であるのでPCの持込を推奨します。

【その他の重要事項】
ゼネコンの技術研究開発部門で、技術者として地下水解析からはじまり土壌汚染、水質汚濁、廃棄物処理、災害瓦礫、除染などを対象とした環境関連技術の開発と実施に３０年以上携わるとともに、管理者として品質管理および環境管理を推進した者が、その経験を活かして環境関連の法規と技術、さらには環境を考慮した企業経営の在り方を総括した環境マネジメントについて講義する。講義内容に関する質問は、授業終了後に教室で受け付けるとともに随時、電子メールでも受け付ける。

【Outline (in English)】
The rapid development of science and technology since the 20th century has resulted in the destruction of the global environment and a population explosion, and has brought about a state of crisis for the survival of various living organisms, not to mention the human race. The improvement and conservation of the global environment is an urgent and top-priority issue that mankind must resolve in this century. In Japan, unlike past pollution problems in which specific industrial activities caused environmental pollution, the burden on the environment caused by ordinary business and daily life activities is increasing, and voluntary reduction of the burden on the environment is required.
In this course, we focus on "environmental management" as a means to solve the above issues, and learn about environmental laws and regulations that companies and citizens should comply with, as well as procedures (environmental management systems) and technologies necessary for voluntary and active planning, execution, and evaluation of actions for environmental conservation with an awareness of social responsibility. The contents of this course are things that working people (private companies, civil servants, etc.) should learn as basic knowledge, and things that civil engineers should know as fundamental technologies, which will be useful in various aspects of their work in the future.
Since environmental management activities are based on the basic principles of the Basic Environmental Law, this course provides an overview of the history of modern and contemporary environmental events and related laws and regulations in Japan in order to understand the process leading to the enactment of the Basic Environmental Law and its principles. The course will also provide an overview of the individual environmental laws (air pollution, water pollution, soil contamination, noise, vibration, waste disposal, etc.), their regulatory standards, and techniques to meet the regulatory standards in the construction industry based on case studies. In addition, students will learn techniques to meet the regulatory standards in the construction industry based on case studies. In addition, students will also learn about the concept of environmental management, such as ethics and corporate responsibility (compliance, integrity, CSR, SDGs, and ESG), which are essential for conducting corporate activities and are now in demand in the world.
Students are expected to prepare for and review the lecture using the textbook (PowerPoint presentation) and reference books provided in advance, and to grasp particularly important issues as they will be pointed out during the lecture.
The quiz will be based on the content of the day's lecture, so students should be able to answer the quiz in time by searching for lecture materials and related information. In addition, the final assignment to check the level of understanding is based on the items pointed out as particularly important in each lecture, so it can be answered if the student has reviewed the material.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading is based on a 100-point scale: 90 or higher S, 87 or higher A+, 83 or higher A, 80 or higher A-, 77 or higher B+, 73 or higher B, 70 or higher B-, 67 or higher C+, 63 or higher C, 60 or higher C-, 59 or lower or 4-times or more absences D.
Evaluation points = 64%of the grade for checking the grasp level + 36% of the grade for the 12 quizzes
Each quiz is worth 3 points if it is submitted on time and correct, and 2 points for incorrect. If submitted late, 2 points will be given for a correct answer and 1 point for an incorrect answer. Therefore, if all the quizzes are submitted on time and all the questions are answered correctly, 36 points will be carried.

MEC200ND（機械工学 / Mechanical engineering 200）

メカトロニクス

伊藤　文臣

開講時期：**秋学期前半/Fall(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メカトロニクスとは，機械工学(メカニズム)と電気電子工学(エレクトロニクス)の合成語であり，これらの学問の融合により，高い柔軟性と信頼性を有する機器を作る技術やその技術により作製された機器を指す．メカトロニクスを修学するにあたり，機械工学，電気電子工学に加え，ソフトウェアによる制御やシステム全体の設計，運用などの幅広い知識が要求される．そこで，本授業では，メカトロニクスの各位要素技術に関する概念を理解し，学問分野全体の基礎的な知識を身に着けることを目的とする．

【到達目標】
授業終了時点において，以下に列挙する事項に関する理解を目標とする．
1）メカトロニクスシステムの構成と各要素．
2）アクチュエータとセンサの原理，種類，用途．
3）機械要素の原理，種類，用途．
4）電気電子回路部品の原理，種類，用途．
5）コンピュータ上での信号処理と計算．
6）制御工学の基礎．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は，対面式・オンラインのどちらかで実施する．
【対面式の場合】授業はスライドを使ったプレゼンテーション，板書および口述によって進められる．授業の内容が理解できているかを確認するため，各回で小テストの実施もしくは課題の出題がある．
【オンラインの場合】授業はオンラインツールを用いてプレゼンテーション（スライド）によって進められる．授業内容の理解度の確認のため，各回で課題が出される．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	メカトロニクスの概要	メカトロニクスの基本概念とその意義を，実例を交えながら解説し，メカトロニクスを支える基本技術とその体系について説明する．
第2回	メカトロニクスで必要となる数学・物理	メカトロニクスにおける各要素の理解に必要となる数学や物理（力学・電磁気学）について説明する．
第3回	アクチュエータの概要	メカトロニクスシステムにおけるアクチュエータの概要と分類を説明する．
第4回	アクチュエータの原理	電磁アクチュエータ，空気圧アクチュエータを代表として，これらアクチュエータの基本的な動作原理について説明する．
第5回	センサの概要	メカトロニクスシステムにおけるセンサの概要と分類を説明する．
第6回	センサの原理	複数の代表的なセンサについて，基本的な計測原理を説明する．
第7回	アナログ電子回路―受動素子	アナログ電子回路を設計する上で必要となる知識・技術を説明する．主に受動素子を用いた直流および交流回路を対象とする．
第8回	アナログ電子回路―能動素子	能動素子を用いた，特定の機能を持った回路について解説する．各種能動素子がどのような原理で機能を発現しているかを含めて説明する．
第9回	デジタル回路とコンピュータ	デジタル回路とコンピュータの基本的な構成と仕組みについて解説する．また，デジタル信号の通信方法を説明する．
第10回	アナログ信号とデジタル信号の相互変換	センサ・アクチュエータで使われるアナログ信号と，コンピュータが扱うデジタル信号がどのように変換されるかについて説明する．
第11回	機構の基礎	機構を構成する機械部品について，その種類と仕組み，用途について説明する．
第12回	機械の設計	機械部品の組み合わせにより，機械的なシステムを構築する手法について説明する．
第13回	制御工学の基礎	制御の基本概念，フィードバック制御の意味，古典制御理論と現代制御理論の違いと特徴を説明する．
第14回	システム設計と開発の事例 まとめ	各種メカトロニクスシステムの応用事例・最先端の研究例などを紹介する．また総まとめとして，学習範囲の要点を再確認する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
高校レベルの物理学（特に，力学，電磁気学分野）を復習して初回授業に臨むとより深い理解が可能となる．
本授業では，予習・復習にそれぞれ2時間が必要である．

【テキスト（教科書）】
使用しない．

【参考書】
・渋谷恒司「メカトロニクスの基礎」森北出版
・初澤毅「メカトロニクス入門」培風館
・見崎正行／小峯龍男「よくわかるメカトロニクス」東京電機大学出版局
・百目鬼英雄, 坪井和男「小形モータ入門」オーム社

【成績評価の方法と基準】
平常点および授業中の小テストもしくは課題の評価を４０％，期末試験もしくは最終課題の評価を６０％として総合評価点を算出して評価する．総合評価点を１００点満点とし，６０点以上を合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
講義の進行（板書等）が早いために理解が追いつけなくなることが無いよう，説明などの時間を多く取るとともに，講義外の時間でも質問を受け付けることができるようにする．

【学生が準備すべき機器他】
筆記具とノート
パソコン

【その他の重要事項】
メカトロニクスに関する研究に従事している教員が，実際にメカトロニクスシステムを構築するために必要な技術を紹介しながら講義を進める．
オフィスアワーとして，授業終了後に教室で質問を受け付ける，または随時，電子メールで質問を受け付ける．

【Outline (in English)】
【Course outline】

Mechatronics, a term synthesized from mechanics and electronics, signifies the technology employed in the creation of devices distinguished by their exceptional flexibility and reliability, realized through the integration of these fields. It requires expertise in both the techniques for producing such devices and the resulting products. Proficiency in mechatronics demands a comprehensive knowledge spectrum, encompassing mechanics, electronics, and an in-depth understanding of software-oriented control, comprehensive system design, and functional principles. As a result, this course is structured to enhance understanding of the basic concepts that underpin each component technology within mechatronics and to nurture an elementary comprehension of the wider academic discipline.
【Learning Objectives】
By the end of the class, students should understand the following topics:
A) The components and elements of mechatronic systems.
B) Principles, types, and applications of actuators and sensors.
C) Principles, types, and applications of mechanical elements.
D) Principles, types, and applications of electrical and electronic circuit components.
E) Signal processing and computation on computers.
F) Fundamentals of control engineering.
【Learning activities outside of classroom】
Students are encouraged to review high school level physics, particularly in mechanics and electromagnetism, before the first class to facilitate a deeper understanding. It is necessary to dedicate 2 hours for both preparation and review per class.
【Grading Criteria /Policy】
The overall evaluation will be calculated as follows: 40%for regular assessment points and short exams or assignments during the class, and 60%for the final exam or the last assignment. The total evaluation score will be out of 100 points, with a passing grade set at 60 points or above.

ELC300ND（電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 300）

システム工学

森　健一郎

開講時期：**春学期後半**/Spring(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

システム工学は、システムを成功裏に実現するための複数の分野にまたがるアプローチおよび手段である。1つのシステムは様々な要素と要素間の関係によって構成され、異なる工学分野の集合体といえる。現代では、情報通信、生産、流通、電力、ガス、水道、航空、宇宙、鉄道、金融、会社組織などの大規模システムなしでは、私達は到底生きていくことができない。

これらのシステムを実際に設計・構築するためには、要求定義に始まり、ハードウエア設計、ソフトウエア設計、構築、検証などのステップを踏んでいき、ようやくシステム運用の段階となる。いくつものステップをシステマチックに進めていくためには、そのシステムのモデルを作成し、科学的手法を活用できる高度な能力が求められる。学術・産業界の両方で求められているのは、日本のSociety5.0, ドイツのIndustrie4.0, Digital Transformation, Digital Twins, Cyber Physical Systemsなどの System of Systemsを、一から設計し構築できる柔軟な能力である。これからの社会的要求に応え、それらの課題の解決のために、システム工学の習得は必須のアイテムと言えよう。

本授業では、システムを設計構築するための手順を理解し、いくつかの手法を体験することで、実社会においてシステム工学を活用するための基本を習得することを目的とする。

【到達目標】

A. システムを設計、構築、実施・検証するための基礎的な手法を理解している。
B. ダイナミックシステムや確率システムの数理モデルが説明できる。
C. 図やモデリングの手法を使って、システムの構造、機能、性能などを把握できる。
D. 実社会で使われるシステム構築のための基本的な考え方ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

主に講義形式で実施するが、授業時間内に演習も行う。システム工学の理論は、数学や物理学を応用・展開することが多い。そこで、理解を深めるため、できるだけ具体的なシステム事例を紹介する。基礎的な手法については、演習課題を与え、簡易な実際のモデル化を体験する。演習課題を通じて、理論と実際の両面からシステムの本質をつかみ、システムを考える力を養うことができる。

システム工学では、問題を発見し、課題を設定し解決するスキルが重要である。しかし、問題に対する「正解」がないこともある。具体的な境界条件や制約条件を明らかにして、代替案を考え出し「最適解」を求めていくような基本的な演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	**システム工学とは何か**	複雑な人工システムを最適に設計し、構築するためには、問題を発見、課題を設定し、解決するプロセスが必要となる。それらのプロセスは、イノベーションの基本となる。なぜ、システムの視点や考え方が重要なのかを理解しよう。
2	**システムの計画と評価**	システム設計・構築を行うための手順、ライフサイクルマネジメントについて概要を理解する。プロジェクト計画とシステムの評価の各手法について学ぶ。 < 課題演習(1)>
3	**システムの要求定義**	利害関係者の要求からシステム要求を作成し、システムの機能を分析する。システム要求では、システムが提供すべき機能と、システムが備えるべき性能、コストなどを定めることを事例で理解する。
4	**システムアーキテクチャの構築**	システムの機能・構造の考え方を学ぶ。目的に応じて、システムの図的な表現によってモデルを作成する。挙動については、状態遷移図を作成することにより理解を深める。 < 課題演習(2)>
5	**システムの安定性**	システムを安定にする制御の基本となる考え方がフィードバック制御である。システム制御を表現するためにブロック線図とシステムの伝達関数を導入し、フィードバック制御によるシステムの安定性を解析する。
6	**システム制御のモデリング**	フィードバック制御器の1つとしてPIDコントローラのモデルを学ぶ。実際の倒立振子装置のシステム制御をモデリングしてみる。 < 課題演習(3)>
7	**システムの安全性**	システムの安全性の概念の１つであるフェールセーフについて理解し、これを論理的・物理的なシーケンス制御システムとして設計・実装する。
8	**システムの最適化**	システム設計・構築において、プロジェクトリーダーは、常に問題解決を迫られる。その合理的な意思決定を支援するのが数理最適化である。その手法として連続最適化と離散最適化の計算モデルの初歩を学ぶ。 < 課題演習(4)>
9	**確率システム**	様々な事象に対して、確率的なルールを定義することでモデリングする手法を学ぶ。正規分布、ポアソン分布、指数分布など各種分布の特徴や確率過程の基本について理解する。
10	**統計的データ解析**	Internet of Thingsによるデータ解析では、統計解析モデルが使われる。相関関係と因果関係の違いなどの基本的な考え方を学ぶ。機械学習による異常検知のモデルを事例で理解する。 < 課題演習(5)>

11	**システムの信頼性**	信頼度や故障率を確率モデルで表現し、評価することを学ぶ。部品やサブシステムの構成により、信頼性を向上させる方法を理解する。
12	**信頼性解析**	システムの故障の原因やその影響を、システマチックに追及する方法として、**FMEA**、**FTA**、およびリスク分析の手法を理解する。 ＜課題演習(6)＞
13	**ネットワークの性質**	ネットワークとは、ノードとリンクによって構成されるシステムのモデルである。大規模なネットワークの特徴量を抽出することで、システム全体に現れる性質が把握できる。
14	**ネットワークの構造**	ネットワークの局所的な性質に着目し、構造がどのように構成されているかを学ぶ。ネットワークの様々なモデルについて概観し、実社会のネットワークがどのような特徴を持つかについて理解する。 ＜課題演習(7)＞

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中でいくつかの課題演習が出されるので、自分の手で書き、自分の頭で考えることで、簡単なモデルを設計したり計算してみること。授業時間内では完成しないので、提出期日までの宿題とする。（次週の授業開始時に提出。期日厳守。）

将来、皆さんが社会人となったときに、手と頭を使って考えたことは、簡単に思い出すことができるので、とても役立つ。提出された課題レポートは講師が採点評価し、フィードバックを行うことで学習をさらに深めることができる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使わない。授業に必要な資料は配布する。

【参考書】

木村英紀著「現代システム科学概論」(2021年) 東京大学出版会
橋本、石井、小林、大山共著「Scilabで学ぶシステム制御の基礎」(2007年）オーム社
室津、大場、米澤、藤井、小木曽共著「システム工学　第２版」(2006年）森北出版
大橋、鳥海、白山共著「システム理論Ⅱ」(2016年）丸善出版

【成績評価の方法と基準】

１．授業に対する意欲・態度などの平常点を重視する。平常点は、授業への取組み姿勢や質問票の提出を反映する。
２．どのくらい理解できたのか、課題演習の得点を総合評価する。（期末試験は無し）
３．課題は授業で配布する用紙に記入し、決められた提出日に必ず提出すること。
４．成績評価は100点満点とし、平常点と課題演習の得点は各50％の配点とする。

【学生の意見等からの気づき】

モデリングのために数式を使うこともあるが、丁寧に、かつ、できるだけ学生にとってわかりやすいように講義をすすめていく。

【学生が準備すべき機器他】

１．パソコンでExcelやシミュレーションソフトを使うので、授業に持参すること。
２．講義に使用するプレゼンテーション資料は、授業支援システムからダウンロードすること。

【その他の重要事項】

メーカーの研究開発・商品開発部門に、39年を超える勤務経験のある教員が、多数のシステム設計およびプロジェクトリーダーの経験に基づき講義を行う。オフィス・アワーについては、この授業の期間のみ、電子メールによる質問を受付ける。

【Outline (in English)】

Systems engineering is a multi-disciplinary approach towards the successful creation of systems. A system consists of various related elements and combines different engineering fields. In modern society, we cannot survive without large-scale systems such as information communication, production, distribution, electricity, gas, water supply, aviation, space, railroad, finance, corporate organization, etc.
In order to actually design and construct these systems, we start with the requirement definition and follow the stages of hardware design, software design, construction, verification, etc. before finally arriving at system operation. In order to systematically advance through multiple stages, it is necessary to have advanced abilities at developing a model of the system and utilizing scientific methods. Both academia and industry need flexible capabilities to design and build a system of systems such as Society5.0 in Japan, Industrie4.0 in Germany, Digital Transformation, Digital Twins and Cyber Physical Systems from scratch. Now, it can be said that the acquisition of system engineering is an indispensable item in order to meet the social demands of the future and solve those problems.
In this course, we aim to understand the procedure for designing and constructing the systems, and learn basic techniques to utilize systems engineering in the real world by practicing various methods.
The goals of this course are to A,B,C and D:
- A. Students understand the basic methods for designing, building, implementing and validating systems.
- B. Students can explain mathematical models of dynamic systems and stochastic systems.
- C. Students can use diagrams and modeling techniques to understand the structure, function and performance of the system.
- D. Students will be able to develop basic ideas for building systems used in the real world.
Final grade will be calculated according to the following process: Assignments or short reports (50%) and in class contribution (50%).

MTL300ND（材料工学 / Material engineering 300）

素材と機能

堀井　辰衛

開講時期：**春学期後半**/Spring(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常生活において視界に入るモノ、実際に身体に触れあうモノを構成する材料として高分子材料は多くの割合を占め、我々の生活と切り離せない素材の一つです。広い視点で見れば私たちの身体を構成するタンパク質や、植物を構成する多糖類も高分子ですし、繊維や飲料水ボトルに使われるポリエチレンテレフタレート（PET）や蓋などのパッキンに使われるゴムも高分子です。たんぱく質や多糖から成る高分子は天然高分子の一種であり、PETやゴム（天然ゴムを除く）は合成高分子の一種です。このように、一口に「高分子」と言っても様々な種類があり、それぞれに個性があります。
本講義では、高分子材料の分類と基礎的な物性について概説します。次に、様々な高分子材料（主に合成高分子）の、「実際に身の回りに使われている（実用例）」側面と、「工夫次第で使えるかもしれない（研究例）」側面について解説する予定です。

【到達目標】
素材を活用するための基礎となる工学的な知識を身につけます。どのような高分子材料が存在し、どのような物性を持ち、どのように利用されているのかを理解できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に座学で高分子材料に関する知識を深める。さらにR7年度より、学生同士のグループディスカッションを含むアクティブラーニングも取り入れることで、学生の自発的な高分子材料の特徴とその利用についての理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	高分子と社会との繋がり・高分子の分類と構造	高分子の簡単な歴史をひも解き、高分子の基本的な分類や構造について解説します。
2	どんな高分子があるか？	身の回りで頻繁に用いられている「汎用プラスチック，エンジニアリングプラスチック」について紹介し、それぞれの特徴について解説します。
3	高分子ってどんなもの？	熱的、力学的、光学的な性質、またどのように作られているかについて解説します。
4	高分子ってどんなもの？	熱的、力学的、光学的な性質、またどのように作られているかについて解説します。
5	機能性高分子～電気を流す高分子～	機能性高分子の一種である導電性高分子、半導体高分子について解説します。
6	機能性高分子～電気を流す高分子～	導電性高分子、半導体高分子がどのように使われるか、使われようとしているかについて解説します。
7	機能性高分子～刺激に反応する高分子～	光や熱、pHなどに反応して形を変える高分子について解説します。
8	高分子ゲル	高分子ゲルの特徴と、その実応用例、研究例について解説します。
9	生化学・医療へ貢献する高分子	生体適合性を有する高分子材料について、実応用例や研究例と共に解説します。
10	環境にやさしい高分子・関連技術	生分解性高分子など、環境保全に貢献しうる高分子やそれらにかかわる技術について解説します。
11	フレキシブルエレクトロニクス、関連技術、研究に関する文献調査の仕方等	本授業で紹介してきた高分子材料を用いた次世代のエレクトロニクスや関連技術に関して、主に最近の研究例について解説します。 また、このような研究を調査するための方法について少し解説します。12回以降の授業にてグループごとにスライドを用いて発表をしていただく予定ですが、スライドの基本的な作り方（ストーリー、引用の仕方など）について簡単に解説します。
12	グループワーク～テーマ策定、グループ内討論～	履修者全員を10グループに分けて各グループ内にて討議していただきます。（実際の履修者数を鑑みて人数を割り当てます。） 本授業で得た知見を活かして、各グループには高分子材料の特徴を生かした自由なテーマ設定を自発的に行ってもらい、グループ内で討論していただきます。
13	グループワーク発表会（前半）	12回目の授業で各グループで討論していただいた内容についてスライドにまとめていただき、各グループそれぞれ10分程度の発表、5分程度の質疑応答をしていただきます。（グループ１～４）
14	グループワーク発表会（後半）	12回目の授業で各グループで討論していただいた内容についてスライドにまとめていただき、各グループそれぞれ10分程度の発表、5分程度の質疑応答をしていただきます。（グループ５～７）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の課題や12～14回目授業のグループワークに向けた復習が必須。

【テキスト（教科書）】
教科書は基本的には授業用のスライドを用います。また、グループワークでは履修者各自でJ-Stageや査読付き科学雑誌を調査してもらうことも考えています。

【参考書】
松浦和夫，尾崎邦弘，「高分子材料が一番わかる」，技術評論社，２０１１．
井上和人，清水秀信，岡部勝，「基礎からわかる高分子材料」，森北出版株式会社，2015.
東信行，松本章一，西野孝，「高分子科学 合成から物性まで」，講談社，2016.

【成績評価の方法と基準】
1.グループ討議・発表　50％
１３，１４回目授業でグループワークの内容の発表を各グループに行ってもらいます。（発表10分、質疑応答5分）
発表の内容、ロジックについて評価する予定です。また、他グループの発表への質問の内容と積極性についても考慮する予定です。

2.各講義での課題　20%
本授業は毎週２回の授業を行います。毎週課題を出しますので翌週の授業日（水曜日）までにPDF形式ファイルにて提出していただきます。（合計７課題）
3.授業参加への貢献度　30%

【学生の意見等からの気づき】
有機化学や物理学の履修経験がなくても理解できるように、有機高分子の基礎や実応用例について取り上げる。自発的に高分子材料を理解できるように心がける。

【学生が準備すべき機器他】
現在のところ予定していません。

【その他の重要事項】
授業終了後に教室で質問を受け付ける，または随時，電子メールで質問を受け付ける．
また、担当講師は、導電性高分子インクの合成と高導電化に関する内容で学位を取得後、電気化学、人工筋肉（ポリマーアクチュエータ、アシストウェア開発）、フレキシブルセンサなどの分野で研究を進めてまいりました。そのため、高分子材料の基礎に偏った内容となります。

【Outline (in English)】
Among the materials used in various ways when handling products and services, we will learn about smart materials, which change their properties in response to external physical stimuli. Students will also learn how to use the physical properties of materials in combination with microcomputers and how to design interactions using these materials.
Students will acquire the basics to present products and services attractively using materials as a designer through practical training.
The goals of this course are to acquire basic engineering knowledge for utilizing materials, learn tools for understanding the functions of materials, learn the basics of interaction using physical properties, and learn the basics of prototyping and presentation skill.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course contents.
Final grade will be calculated according to the following process, Mid-term reports (20%), term-end report (80%).

MEC300NA（機械工学 / Mechanical engineering 300）

品質マネジメント

池庄司　雅臣

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
科学は自然界の現象を解釈し、物理法則として定式化することを目指している。一方、技術は、自然界にないもの、人間が欲するものを設計し、作り出すことを目指す。技術においては、科学の成果を利用するが、必ずしも理想的には実現できないのが現実である。技術にとっての品質はどれだけ理想に近いかを表現し、その完成度を表す。この授業の中では、品質評価をベースに理想に近いものを実現する方法論を、共通技術として学ぶ。この共通技術は、世界的にはTaguchi Methodsとして知られており、国内では「品質工学」と呼ばれている。
一般に、品質は技術品質と商品品質に分けられる。商品品質には、機能そのもの、製品の色、形状、デザインなどがある。これらは、使用者の用途・嗜好に左右されることが多く、その良否に客観的に評価することは難しい。一方、技術品質とは、「システムが、技術的に望ましくない項目によって社会に与える損失」で表現される。損失の中には、機能のばらつき（機能性）による損失や弊害項目による損失が含まれるが、技術品質の評価には客観性があり、技術の対象とすることができる。技術品質を評価する場合、理想からのばらつき及び使用状況の中での製品の機能のばらつきとしてSN比で評価することができる。SN比を手がかりに、製品を設計し、生産するプロセスを最適化する方法が品質工学の方法である。これを正しく理解することにより、最適なシステムを設計し、運用していく共通技術を獲得することができる。

【到達目標】
技術の基本である機能と機能性の考え方を知り、自分自身の技術に関しての適用を考えられるようにする。
特に、製品の使用者のいろいろな条件の中で、製品がきちんと機能することを定量化したロバストネスの指標であるSN比の考え方と計算方法、効率的な実験の進め方を習得し、製品や技術を設計するに当たって検討すべき事項を学ぶ。
本講義は「品質工学」をベースとしているが、異なるスタンスである「品質管理」についても触れることで、品質マネジメントの総合的な理解を得ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
品質工学の考え方と方法を、講義、事例研究、演習を通して学ぶ。
品質工学を進めるのに必要な、実験計画法、分散分析の計算法など簡単な統計計算法を織り込みながら、授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の流れ、品質工学の考え方を紹介する。
2	品質とは：機能と機能性	品質の考え方、設計においてロバストネス評価が重要であることを述べる。
3	分散分析入門	SN比の前段として分散分析について述べる。
4	SN比の導入：理想関数からのばらつき	ロバストネスの評価方法について述べる。
5	直交表入門	多くの因子を取り上げた効率的な実験の方法を述べる。
6	損失関数	社会的損失を定量化し、使いやすくする損失関数の考え方を知る。
7	オンライン品質工学：プロセスの運用	損失関数を用いた、システムの運用方法を考える。
8	計測技術におけるSN比と評価	実験で重要な測定の信頼性をSN比で評価する。
9	実験による設計技術の開発（1）	いろいろな分野の評価の事例を学ぶ。
10	実験による設計技術の開発（2）	応用事例を知る。
11	許容差設計	ばらつきの低減化の成果をもとに、コストと品質のバランスを取る。
12	品質管理の考え方（1）	品質管理の考え方や、QC 7つ道具に代表される手法について説明する。
13	品質管理の考え方（2）	管理図やその背景にある統計的な考え方について説明する。
14	本講義のまとめ	まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習、計算、レポートなどの宿題あり。
課題については次回講義のレジュメで詳細な解説を付けるので、その内容については十分に復習されたい。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。
（毎回配布するレジュメに基づいて授業を進める）

【参考書】
1）矢野宏：品質工学概論、日本規格協会、2009
2）田口玄一、横山巽子：ベーシック品質工学へのとびら、日本規格協会、2007
3）田口伸：タグチメソッド入門、日本規格協会、2016
4）矢野耕也、水谷淳之介、山本桂一郎：初学者のための品質工学、コロナ社、2013

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組みや理解度、および演習レポートをもとに評価する。
（平常点：40%、演習レポート：60%）

【学生の意見等からの気づき】
なるべく平易な解説を心がけます。解らない事は適宜質問して下さい。

【その他の重要事項】
・データ分析の豊富な業務経験を持つ教員が、品質マネジメントで必要となるデータの扱い方や分析手法、統計的な考え方について講義する。
・随時、電子メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
The goal of science is to interpret natural phenomena, representing physical principles via formulae. On the other hand, the goal of technology is to design things which don't exist in the natural world that are desirable to humans and produce them. While technology uses the results of science, in the real world it is not always possible to succeed in creating ideal applications for them. Quality is an expression of how close technology comes to the ideal, and representing its scale of completion. In this course we will learn common methods for determining how technologies can be produced at close to ideal levels through the use of quality indicators as a base. These methods are known throughout the world as the Taguchi Methods, and in Japan as "quality engineering".
In general, quality can be divided into technological quality and product quality. Product quality includes function, color, shape, design etc. On the other hand, technological quality is a representation of the negative effects of undesirable technological flaws of a system on society. While the negative effects include those from overfunctionality, abusive practice etc., objective aspects of quality evaluation also exist, linking it the application of technology. When measuring technological quality, the signal to noise ratio of how it diverges from the ideal in both principle and practice can be calculated. Using this hint is one of the methods of quality engineering to design products and optimize the processes of production. By properly understanding these principles, it is possible to form common technologies for optimal system design and management.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be approximately two hours per class. Please refer to the course materials for information on assignment contents and how to solve them.
【Grading Criteria /Policy】
The final grade will be determined by the degree of commitment to the class (40%) and the assignment report (60%).

MEC300NA（機械工学 / Mechanical engineering 300）

品質マネジメント

池庄司　雅臣

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
科学は自然界の現象を解釈し、物理法則として定式化することを目指している。一方、技術は、自然界にないもの、人間が欲するものを設計し、作り出すことを目指す。技術においては、科学の成果を利用するが、必ずしも理想的には実現できないのが現実である。技術にとっての品質はどれだけ理想に近いかを表現し、その完成度を表す。この授業の中では、品質評価をベースに理想に近いものを実現する方法論を、共通技術として学ぶ。この共通技術は、世界的にはTaguchi Methodsとして知られており、国内では「品質工学」と呼ばれている。
一般に、品質は技術品質と商品品質に分けられる。商品品質には、機能そのもの、製品の色、形状、デザインなどがある。これらは、使用者の用途・嗜好に左右されることが多く、その良否に客観的に評価することは難しい。一方、技術品質とは、「システムが、技術的に望ましくない項目によって社会に与える損失」で表現される。損失の中には、機能のばらつき（機能性）による損失や弊害項目による損失が含まれるが、技術品質の評価には客観性があり、技術の対象とすることができる。技術品質を評価する場合、理想からのばらつき及び使用状況の中での製品の機能のばらつきとしてSN比で評価することができる。SN比を手がかりに、製品を設計し、生産するプロセスを最適化する方法が品質工学の方法である。これを正しく理解することにより、最適なシステムを設計し、運用していく共通技術を獲得することができる。

【到達目標】
技術の基本である機能と機能性の考え方を知り、自分自身の技術に関しての適用を考えられるようにする。
特に、製品の使用者のいろいろな条件の中で、製品がきちんと機能することを定量化したロバストネスの指標であるSN比の考え方と計算方法、効率的な実験の進め方を習得し、製品や技術を設計するに当たって検討すべき事項を学ぶ。
本講義は「品質工学」をベースとしているが、異なるスタンスである「品質管理」についても触れることで、品質マネジメントの総合的な理解を得ることを目標とする。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
		○			◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
品質工学の考え方と方法を、講義、事例研究、演習を通して学ぶ。
品質工学を進めるのに必要な、実験計画法、分散分析の計算法など簡単な統計計算法を織り込みながら、授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の流れ、品質工学の考え方を紹介する。
2	品質とは：機能と機能性	品質の考え方、設計においてロバストネス評価が重要であることを述べる。
3	分散分析入門	SN比の前段として分散分析について述べる。
4	SN比の導入：理想関数からのばらつき	ロバストネスの評価方法について述べる。
5	直交表入門	多くの因子を取り上げた効率的な実験の方法を述べる。
6	損失関数	社会的損失を定量化し、使いやすくする損失関数の考え方を知る。
7	オンライン品質工学：プロセスの運用	損失関数を用いた、システムの運用方法を考える。
8	計測技術におけるSN比と評価	実験で重要な測定の信頼性をSN比で評価する。
9	実験による設計技術の開発（1）	いろいろな分野の評価の事例を学ぶ。
10	実験による設計技術の開発（2）	応用事例を知る。
11	許容差設計	ばらつきの低減化の成果をもとに、コストと品質のバランスを取る。
12	品質管理の考え方（1）	品質管理の考え方や、QC 7つ道具に代表される手法について説明する。
13	品質管理の考え方（2）	管理図やその背景にある統計的な考え方について説明する。
14	本講義のまとめ	まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習、計算、レポートなどの宿題あり。
課題については次回講義のレジュメで詳細な解説を付けるので、その内容については十分に復習されたい。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。
（毎回配布するレジュメに基づいて授業を進める）

【参考書】
1）矢野宏：品質工学概論、日本規格協会、2009
2）田口玄一、横山巽子：ベーシック品質工学へのとびら、日本規格協会、2007
3）田口伸：タグチメソッド入門、日本規格協会、2016
4）矢野耕也、水谷淳之介、山本桂一郎：初学者のための品質工学、コロナ社、2013

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組みや理解度、および演習レポートをもとに評価する。
（平常点：40%、演習レポート：60%）

【学生の意見等からの気づき】
なるべく平易な解説を心がけます。解らない事は適宜質問して下さい。

【その他の重要事項】
・データ分析の豊富な業務経験を持つ教員が、品質マネジメントで必要となるデータの扱い方や分析手法、統計的な考え方について講義する。
・随時、電子メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
The goal of science is to interpret natural phenomena, representing physical principles via formulae. On the other hand, the goal of technology is to design things which don't exist in the natural world that are desirable to humans and produce them. While technology uses the results of science, in the real world it is not always possible to succeed in creating ideal applications for them. Quality is an expression of how close technology comes to the ideal, and representing its scale of completion. In this course we will learn common methods for determining how technologies can be produced at close to ideal levels through the use of quality indicators as a base. These methods are known throughout the world as the Taguchi Methods, and in Japan as "quality engineering".
In general, quality can be divided into technological quality and product quality. Product quality includes function, color, shape, design etc. On the other hand, technological quality is a representation of the negative effects of undesirable technological flaws of a system on society. While the negative effects include those from overfunctionality, abusive practice etc., objective aspects of quality evaluation also exist, linking it the application of technology. When measuring technological quality, the signal to noise ratio of how it diverges from the ideal in both principle and practice can be calculated. Using this hint is one of the methods of quality engineering to design products and optimize the processes of production. By properly understanding these principles, it is possible to form common technologies for optimal system design and management.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be approximately two hours per class. Please refer to the course materials for information on assignment contents and how to solve them.
【Grading Criteria /Policy】
The final grade will be determined by the degree of commitment to the class (40%) and the assignment report (60%).

MEC300NA（機械工学 / Mechanical engineering 300）

品質マネジメント

池庄司　雅臣

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
科学は自然界の現象を解釈し、物理法則として定式化することを目指している。一方、技術は、自然界にないもの、人間が欲するものを設計し、作り出すことを目指す。技術においては、科学の成果を利用するが、必ずしも理想的には実現できないのが現実である。技術にとっての品質はどれだけ理想に近いかを表現し、その完成度を表す。この授業の中では、品質評価をベースに理想に近いものを実現する方法論を、共通技術として学ぶ。この共通技術は、世界的にはTaguchi Methodsとして知られており、国内では「品質工学」と呼ばれている。
一般に、品質は技術品質と商品品質に分けられる。商品品質には、機能そのもの、製品の色、形状、デザインなどがある。これらは、使用者の用途・嗜好に左右されることが多く、その良否に客観的に評価することは難しい。一方、技術品質とは、「システムが、技術的に望ましくない項目によって社会に与える損失」で表現される。損失の中には、機能のばらつき（機能性）による損失や弊害項目による損失が含まれるが、技術品質の評価には客観性があり、技術の対象とすることができる。技術品質を評価する場合、理想からのばらつき及び使用状況の中での製品の機能のばらつきとしてSN比で評価することができる。SN比を手がかりに、製品を設計し、生産するプロセスを最適化する方法が品質工学の方法である。これを正しく理解することにより、最適なシステムを設計し、運用していく共通技術を獲得することができる。

【到達目標】
技術の基本である機能と機能性の考え方を知り、自分自身の技術に関しての適用を考えられるようにする。
特に、製品の使用者のいろいろな条件の中で、製品がきちんと機能することを定量化したロバストネスの指標であるSN比の考え方と計算方法、効率的な実験の進め方を習得し、製品や技術を設計するに当たって検討すべき事項を学ぶ。
本講義は「品質工学」をベースとしているが、異なるスタンスである「品質管理」についても触れることで、品質マネジメントの総合的な理解を得ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
品質工学の考え方と方法を、講義、事例研究、演習を通して学ぶ。
品質工学を進めるのに必要な、実験計画法、分散分析の計算法など簡単な統計計算法を織り込みながら、授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の流れ、品質工学の考え方を紹介する。
2	品質とは：機能と機能性	品質の考え方、設計においてロバストネス評価が重要であることを述べる。
3	分散分析入門	SN比の前段として分散分析について述べる。
4	SN比の導入：理想関数からのばらつき	ロバストネスの評価方法について述べる。
5	直交表入門	多くの因子を取り上げた効率的な実験の方法を述べる。
6	損失関数	社会的損失を定量化し、使いやすくする損失関数の考え方を知る。
7	オンライン品質工学：プロセスの運用	損失関数を用いた、システムの運用方法を考える。
8	計測技術におけるSN比と評価	実験で重要な測定の信頼性をSN比で評価する。
9	実験による設計技術の開発（1）	いろいろな分野の評価の事例を学ぶ。
10	実験による設計技術の開発（2）	応用事例を知る。
11	許容差設計	ばらつきの低減化の成果をもとに、コストと品質のバランスを取る。
12	品質管理の考え方（1）	品質管理の考え方や、QC 7つ道具に代表される手法について説明する。
13	品質管理の考え方（2）	管理図やその背景にある統計的な考え方について説明する。
14	本講義のまとめ	まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習、計算、レポートなどの宿題あり。
課題については次回講義のレジュメで詳細な解説を付けるので、その内容については十分に復習されたい。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。
（毎回配布するレジュメに基づいて授業を進める）

【参考書】
1）矢野宏：品質工学概論、日本規格協会、2009
2）田口玄一、横山巽子：ベーシック品質工学へのとびら、日本規格協会、2007
3）田口伸：タグチメソッド入門、日本規格協会、2016
4）矢野耕也、水谷淳之介、山本桂一郎：初学者のための品質工学、コロナ社、2013

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組みや理解度、および演習レポートをもとに評価する。
（平常点：40%、演習レポート：60%）

【学生の意見等からの気づき】
なるべく平易な解説を心がけます。解らない事は適宜質問して下さい。

【その他の重要事項】
・データ分析の豊富な業務経験を持つ教員が、品質マネジメントで必要となるデータの扱い方や分析手法、統計的な考え方について講義する。
・随時、電子メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
The goal of science is to interpret natural phenomena, representing physical principles via formulae. On the other hand, the goal of technology is to design things which don't exist in the natural world that are desirable to humans and produce them. While technology uses the results of science, in the real world it is not always possible to succeed in creating ideal applications for them. Quality is an expression of how close technology comes to the ideal, and representing its scale of completion. In this course we will learn common methods for determining how technologies can be produced at close to ideal levels through the use of quality indicators as a base. These methods are known throughout the world as the Taguchi Methods, and in Japan as "quality engineering".
In general, quality can be divided into technological quality and product quality. Product quality includes function, color, shape, design etc. On the other hand, technological quality is a representation of the negative effects of undesirable technological flaws of a system on society. While the negative effects include those from overfunctionality, abusive practice etc., objective aspects of quality evaluation also exist, linking it the application of technology. When measuring technological quality, the signal to noise ratio of how it diverges from the ideal in both principle and practice can be calculated. Using this hint is one of the methods of quality engineering to design products and optimize the processes of production. By properly understanding these principles, it is possible to form common technologies for optimal system design and management.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be approximately two hours per class. Please refer to the course materials for information on assignment contents and how to solve them.
【Grading Criteria /Policy】
The final grade will be determined by the degree of commitment to the class (40%) and the assignment report (60%).

SSS300ND（社会・安全システム科学 / Social/Safety system science 300）

プロジェクトマネジメント（ＳＤ）

川村　武也

開講時期：**秋学期前半/Fall(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
簡易な機械電気システムをチームで作り上げていく過程を想定して、演習も行うことにより、学生がプロジェクトマネジメントおよびシステム工学の大まかな枠組みと主要な技法とを理解し、大学院進学後の研究開発活動や就職後の実務でも役立てられるようになることを目指す。

【到達目標】
学生が、デザイン工学におけるプロジェクトマネジメントの必要性とプロジェクトマネジメントの枠組みとを理解できるようになり、大学での学びや就職後の実務においてプロジェクトに積極的に参画あるいはリードしていけるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
この講座は2コマ/回 x7回=計14コマで構成します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	システム工学とプロジェクトマネジメントとの関係	ある目的を達するために必要な人員、物資、資金などをかき集め、一定の期間内に成果や価値を生み出していくことが、プロジェクトマネジメントです。また、集めたヒト、モノ、カネの流れなどをモデル化してコンピューター分析やシミュレーション等を行うことをシステム工学と言います。　初回は、こうしたプロジェクトマネジメントとシステム工学との密接な関係を解説します。
2	システム工学とプロジェクトマネジメントとの関係	第1回の後半
3	ワークブレークダウンストラクチャー(WBS)	プロジェクトマネジメントとシステム工学とをつなぐ基本的なツールと技法として、ワークブレークダウンストラクチャー（WBS：作業分解構成）があります。第2回では、身近な機械電気製品を一から作るというケースを想定しながら、WBSを構築していく考え方、手順および検討課題を解説します。
4	ワークブレークダウンストラクチャー(WBS)	第2回の後半
5	プロジェクトの立上げと要求事項収集	プロジェクトを始める第一歩は目的意識を共有するメンバーを募ってチームを編成することです。第3回では、プロジェクト立ち上げの際に不可欠な「プロジェクトチャーター」とチャーターの中に盛り込むべき要求事項の収集方法などについて解説します。
6	プロジェクトの立上げと要求事項収集	第3回の後半
7	プロジェクトの進捗管理とコミュニケーション管理	プロジェクトがいったん始まったら、各メンバーが極力自由に活動を進められるようにしつつ、チーム全体としての進捗を管理し、日々更新される情報を共有することが重要です。第4回は、第2回で解説したWBSを進捗管理にどう活用していくか、クラウドサービスなどを情報共有にどう活用していくかを簡単な演習も交えて解説します。
8	プロジェクトの進捗管理とコミュニケーション管理	第4回の後半
9	プロジェクトのリスク管理	始めた時に予測しない不具合などが頻繁に起こるのもプロジェクトの特徴です。第5回は第2回で解説したWBSおよび第3回で解説したプロジェクトチャーターとをリスク管理にどう活用していくかを簡単な演習も交えて解説します。
10	プロジェクトのリスク管理	第5回の後半
11	グループ演習	身近な機械電気製品を一から作るというプロジェクトを立ち上げて、実行し、成果発表するまでを3ないし5名程度のグループに分かれて演習して頂きます。
12	グループ演習	第6回の後半
13	グループ演習発表	第6回で演習した結果をグループごとに発表し、他のグループからの講評を聴いて頂きます
14	グループ演習発表	第7回の後半

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの該当章を事前に通読して、講義中にわからない点を質問できるようにして下さい。

【テキスト（教科書）】
プロジェクトの概念 第2版、日本プロジェクトマネジメント協会編　神沼靖子監修、2018年、近代科学社 (税込み2,750円)
講義資料はPDFで授業支援システムに事前にアップします。

【参考書】
1)　世界を動かすプロジェクトマネジメントの教科書、佐藤知一著、2015年、技術評論社（税込み1,958円）
2)　NASAを築いた人と技術、佐藤靖著、2007年、東京大学出版会(税込み4,620円)
3)　PMI Lexicon of Project Management Terms（英語29ページ）　https://www.pmi.org/standards/lexicon　よりダウンロード

【成績評価の方法と基準】
1.　授業課題の学習と理解（60%）
各授業での積極的な参加を成績評価の対象とします。
2.　グループ演習の発表(40%)
　グループ演習の積極的な推進、貢献および発表内容を成績評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
講義への積極的な参加と講義内容への質問・意見により、理解を深め、「考える力」を成長させることを目標にしています。授業内容をきっかけに、自分の意見を持つようにしてください。
授業の初めに、前回の授業で受講生から提出されたリアクションペーパーの質問や意見を取り上げ、フィードバックします。

【学生が準備すべき機器他】
WBSの演習ではエクセルファイルの使用を、進捗管理の演習ではクラウドサービスの利用を行います。これらが操作できるノートパソコンあるいはタブレット端末を各自準備して下さい。

【その他の重要事項】
種々の機械システム開発を経験したエンジニアが、基本知識の説明と自身の経験に基づいた解説や演習を行います。
授業終了後に教室で質問を受け付けます。随時、電子メールで質問も受け付けます。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire the general understanding of the framework, fundamental tool and techniques of the Project Management in relationship with the System Engineering which are useful for future career as a researcher and/or a practitioner.

DES200ND（デザイン学 / Design science 200）

ブランディングデザイン

金田　遼平、吉見　奈々

開講時期：**秋学期前半/Fall(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ブランディングデザインに必要な様々な要素をグループワーク演習によって実践的に学びます。
提供するモノ、サービスの価値を的確に捉え深く掘り下げる力、想定するユーザーや顧客を理解する力、得られた情報から伝えるべき内容を精査する力、新たな魅力を構築し最も効果的な方法で提示する力、そして総合的に人の心を動かすデザインを創出する力を養います。

【到達目標】
ブランドプロデュースのための一連のプロセスを通じ、ブランディングデザインの能力獲得を目指します。
また構築的なクリエイティブ・プロセスを通じ、意匠を作る力だけでなく、アイデアの出し方・プロセス・思考法、コンセプト設計力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
デザインシンキングのプロセスを基本としながら、少人数のチームによるワークショップ形式で進めます。
参加学生には、積極的なディスカッションやプレゼンテーションへの参加が求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 講義	・全体概要の説明 ・講義(ブランドディングとは、関連する事例)
2	第１課題 Research	・課題説明 ・グループ分け ・事例リサーチ、分析
3	第1課題 プレゼンテーション	・発表、講評
4	第2課題 Planning + Doing	・講義、課題説明 ・テーマの設定 ・分析、要素の解体・抽出、アイデア展開
5	第2課題 プレゼンテーション	・発表、講評
6	第3課題 Research + Planning + Doing	・課題説明 ・ワークショップ
7	第3課題 作業/チュートリアル	・ディスカッション ・リサーチ ・企画テーマ方向性検討
8	第3課題 作業/チュートリアル	・ディスカッション ・テーマ設定、アイデア展開、プロトタイプ検討
9	第3課題 作業/チュートリアル	・進捗共有とディスカッション ・アイデア展開、プロトタイプ検討
10	第3課題 中間プレゼンテーション	・発表、講評
11	第3課題 作業/チュートリアル	・進捗共有とディスカッション 提案内容、試作やプロトの確認
12	第3課題 作業/チュートリアル	・進捗共有とディスカッション 提案内容、試作やプロトの確認
13	第3課題 最終プレゼンテーション(前半)	・最終発表(前半)
14	第3課題 最終プレゼンテーション(後半) 総評	・最終発表(後半) ・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間内にまとまりきらない作業は、時間外で自主的に行ってもらいます。
各課題の終了後は、企画提案書を美しくまとめ、レポートとして提出してもらいます。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で必要に応じ適宜指示します。

【参考書】
授業内で必要に応じ適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
課題のプレゼンテーション内容９０点、提出レポートを１０点とする。
総合点が90点以上をSとし、
89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-
79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-
69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-
60点未満をDとする。
ただし、１点でも提出レポートが欠けている者はDとする。
１コマ欠席− 10点、遅刻− 5点。ただし、５コマ以上欠席した者はDとする。
病欠、忌引き、SSI大会、公式練習等は欠席対象から除外するが、当該証明書を提出する事。

【学生の意見等からの気づき】
進行・制作に関する要求があれば、随時考慮してゆきます。

【学生が準備すべき機器他】
提案作成及びプレゼンテーションに必要なソフトウエアを各自のPCに入れておく。

【その他の重要事項】
ブランディングデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。
授業終了後に教室で質問を受け付ける，または随時，電子メールで質問を受け付ける．

【Outline (in English)】
Students learn the various methods required for branding design in a practical way through group work workshop.
The course cultivates the ability to“ability to create designs” and more importantly, “how to generate ideas, processes, and ways of thinking” and “the importance of concepts.
・Grading criteria
the content of presentation is 90 points, and the report is 10 points.
If the total score is 90 points or more, it will be graded S.
A+ for 89-87 points, A for 86-83 points, A- for 82-80 points.
B+ for 79-77 points, B for 76-73 points, B- for 72-70 points
C+ for 69-67 points, C for 66-63 points, C- for 62-60 points.
A score of less than 60 points is considered D.
10 points for being absent for 1 period, 5 points for being late. However, those who are absent for 5 or more periods will be graded D.
Sick leave, bereavement, SSI tournaments, official practice, etc. are excluded from absence, but proof of the same must be submitted.
If the work cannot be completed during class hours, students will be asked to do it independently outside of class hours.
After completing each assignment, students will be asked to compile a project proposal and submit it as a report.
Your study time for preparation and review will be more than 2hours for a class.

MTL200NA（材料工学 / Material engineering 200）

マテリアルサイエンス概論

伊崎　健晴

開講時期：**秋学期前半/Fall(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業活動や日常生活において、私たちは多くの素材に囲まれている。この100年で工業材料は長足の進歩を遂げてきている。何千年もの歴史のある銅や鉄も、要求事項に合わせて常に進化し続けている一方、それらと比較して歴史の浅いチタンやプラスチックも、社会の要求や地球環境への配慮から、あらたな挑戦が必要になってきている。プロジェクトに使用する材料や、今後の社会活動に必要と考えられる基礎的な材料について、歴史や、原料調達、リサイクルを含めて解説する。3学科共通であることと、学生間の科学教育経験の差異が大きいので、広く浅く概観して、興味を持つことを主眼とする。

【到達目標】
身近にある製品に使用されている材料を広く紹介してその特徴を学ぶ。
適材適所（right Material for the right place.）の材料選定、設計（強度・デザイン）が出来るようになるための材料の基礎知識を幅広く学び、情報を調査する力を身に着け、ものつくりを考えるスタート地点に立てるようにする。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
		○	◎			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
身近にある製品に使用される一般的な材料をその物性、特徴や加工方法、原産地、リサイクルを含めて個々に述べていく。
　企業における研究開発はどのようなものか、書籍の教科書ではなく、主に学会誌や雑誌の文献を使用して、幅広い分野の材料や先端材料を自分で興味を持って調べてゆくにはどのようにすればよいかを体感する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マテリアルサイエンスとは？	金属・非金属材料の材料科学から材料デザインまで、複数の分野を橋渡しする学際的科学 授業の進め方、グループワークの方法を説明
2	工業材料の基礎	材料力学や分析・評価技術、加工技術など、興味あることを自分で調べて視野を広げよう。
3	鋼・鋳鉄、合金	金属材料の強み、弱み、状態図と変態
4	金属材料の製造と加工、防食	製造方法と加工方法、防食に関して学ぶ
5	軽金属とその合金類、貴金属類	アルミニウム、マグネシウム、チタン、銅などについて学ぶ
6	セメント・コンクリート	歴史的背景から材料構成、硬化のメカニズム
7	木材	木材の組織構造から力学特性、居住特性
8	高分子材料（汎用高分子、汎用エンプラ、生分解性プラスチック）	今、環境問題とも言われるプラスチックだが、有用な特性がたくさんある。
9	高分子材料（ゴム）	ゴム・エラストマーなど柔らかいもの
10	高分子成形加工法	押出成形、射出成成形から３Ｄプリンターまで
11	複合材料	ガラス繊維や炭素繊維で強化された複合材料、その用途と成形加工法
12	モビリティーに使われるマテリアル	二輪車を題材に完成車・エンジンに使用されている材料とその製造方法の事例をゲストスピーカーより説明を受ける。
13	グループワーク発表会（前半）	1グループあたり６～７名で１０グループに分けてグループ討議、討議結果の発表（前半）
14	グループワーク発表会（後半）	後半のグループ発表 最終レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業前にWEBを確認すること。授業後にノートを作成してテーマごとに加筆していく。最新の情報、参考図書の概要など自分の言葉でまとめて今後の社会活動に生かしていく。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキスト
J-Stageに掲載されている雑誌（金属表面技術、コンクリート工学、日本ゴム協会誌、材料、プラスチック成形加工学会誌、日本複合材料学会誌など）の文献を講義に使用する。第１回目の講義にて講義に使用する資料のリンクを掲載するので、各自ダウンロードして準備してください。

【参考書】
WEB掲載資料内に記入。

【成績評価の方法と基準】
第1回目の講義で課題の内容を説明します。
１．プレゼンテーション（発表）
１３，１４回目の授業でグループワークの内容の発表を行います。全員に発表する機会があります。発表の内容、表現力を評価します。　　50％
２．レポート　　50％
　グループワークの課題で、個人で調べた内容、調査結果をレポートにまとめ、第14回目の講義終了までに提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
専門や学年の相違による基礎知識の差異や、化学や物理の基礎がないと理解しづらいとのアンケート回答あり。材料を広く概観することが目的の授業なので、多くの学生に基礎知識の理解が可能となることを念頭に授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【その他の重要事項】
担当講師は化学メーカーに在籍中。高分子材料、複合材料の評価、材料開発、成形加工プロセス開発の経験を活かし、材料科学全般について講義をする。
企業の最前線で製品開発を行ってきたエンジニアをゲストスピーカーとしてお招きして、「モビリティーに使われるマテリアル」の講演を聞く。
講義内容で不明な点は、授業終了後に教室で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
Industrial materials have made great strides in the last 100 years. The demand to the function of the product has been developed in a long time, and becomes complicated. This course will introduce basic examples and we discuss issues in this field.
(Learning activities outside of classroom) The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria /Policy)
1. Presentation 50%
Group work presentation will be held in the 13th and 14th classes, Everyone will have the opportunity to make a presentation. The content of the presentation and the ability to express oneself will be evaluated.
2. Report 50%

MTL200NA（材料工学 / Material engineering 200）

マテリアルサイエンス

伊崎　健晴

開講時期：**秋学期前半/Fall(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業活動や日常生活において、私たちは多くの素材に囲まれている。この100年で工業材料は長足の進歩を遂げてきている。何千年もの歴史のある銅や鉄も、要求事項に合わせて常に進化し続けている一方、それらと比較して歴史の浅いチタンやプラスチックも、社会の要求や地球環境への配慮から、あらたな挑戦が必要になってきている。プロジェクトに使用する材料や、今後の社会活動に必要と考えられる基礎的な材料について、歴史や、原料調達、リサイクルを含めて解説する。3学科共通であることと、学生間の科学教育経験の差異が大きいので、広く浅く概観して、興味を持つことを主眼とする。

【到達目標】
身近にある製品に使用されている材料を広く紹介してその特徴を学ぶ。
適材適所（right Material for the right place.）の材料選定、設計（強度・デザイン）が出来るようになるための材料の基礎知識を幅広く学び、情報を調査する力を身に着け、ものつくりを考えるスタート地点に立てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
身近にある製品に使用される一般的な材料をその物性、特徴や加工方法、原産地、リサイクルを含めて個々に述べていく。
　企業における研究開発はどのようなものか、書籍の教科書ではなく、主に学会誌や雑誌の文献を使用して、幅広い分野の材料や先端材料を自分で興味を持って調べてゆくにはどのようにすればよいかを体感する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マテリアルサイエンスとは？	金属・非金属材料の材料科学から材料デザインまで、複数の分野を橋渡しする学際的科学 授業の進め方、グループワークの方法を説明
2	工業材料の基礎	材料力学や分析・評価技術、加工技術など、興味あることを自分で調べて視野を広げよう。
3	鋼・鋳鉄、合金	金属材料の強み、弱み、状態図と変態
4	金属材料の製造と加工、防食	製造方法と加工方法、防食に関して学ぶ
5	軽金属とその合金類、貴金属類	アルミニウム、マグネシウム、チタン、銅などについて学ぶ
6	セメント・コンクリート	歴史的背景から材料構成、硬化のメカニズム
7	木材	木材の組織構造から力学特性、居住特性
8	高分子材料（汎用高分子、汎用エンプラ、生分解性プラスチック）	今、環境問題とも言われるプラスチックだが、有用な特性がたくさんある。
9	高分子材料（ゴム）	ゴム・エラストマーなど柔らかいもの
10	高分子成形加工法	押出成形、射出成成形から３Ｄプリンターまで
11	複合材料	ガラス繊維や炭素繊維で強化された複合材料、その用途と成形加工法
12	モビリティーに使われるマテリアル	二輪車を題材に完成車・エンジンに使用されている材料とその製造方法の事例をゲストスピーカーより説明を受ける。
13	グループワーク発表会（前半）	1グループあたり６～７名で１０グループに分けてグループ討議、討議結果の発表（前半）
14	グループワーク発表会（後半）	後半のグループ発表 最終レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業前に学習支援システムの授業のページを確認すること。授業後にノートを作成してテーマごとに加筆していく。最新の情報、参考図書の概要など自分の言葉でまとめて今後の社会活動に生かしていく。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキスト
J-Stageに掲載されている雑誌（金属表面技術、コンクリート工学、日本ゴム協会誌、材料、プラスチック成形加工学会誌、日本複合材料学会誌など）の文献を講義に使用する。第１回目の講義にて講義に使用する資料のリンクを掲載するので、各自ダウンロードして準備してください。

【参考書】
学習支援システムの授業のページ掲載資料内に記入。

【成績評価の方法と基準】
第1回目の講義で課題の内容を説明します。
１．プレゼンテーション（発表）
１３，１４回目の授業でグループワークの内容の発表を行います。全員に発表する機会があります。発表の内容、表現力を評価します。　　50％
２．レポート　　50％
　グループワークの課題で、個人で調べた内容、調査結果をレポートにまとめ、第14回目の講義終了までに提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
専門や学年の相違による基礎知識の差異や、化学や物理の基礎がないと理解しづらいとのアンケート回答あり。材料を広く概観することが目的の授業なので、多くの学生に基礎知識の理解が可能となることを念頭に授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【その他の重要事項】
担当講師は化学メーカーに在籍中。高分子材料、複合材料の評価、材料開発、成形加工プロセス開発の経験を活かし、材料科学全般について講義をする。
企業の最前線で製品開発を行ってきたエンジニアをゲストスピーカーとしてお招きして、「モビリティーに使われるマテリアル」の講演を聞く。
講義内容で不明な点は、授業終了後に教室で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
Industrial materials have made great strides in the last 100 years. The demand to the function of the product has been developed in a long time, and becomes complicated. This course will introduce basic examples and we discuss issues in this field.
(Learning activities outside of classroom) The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria /Policy)
1. Presentation 50%
Group work presentation will be held in the 13th and 14th classes, Everyone will have the opportunity to make a presentation. The content of the presentation and the ability to express oneself will be evaluated.
2. Report 50%

MTL200NA（材料工学 / Material engineering 200）

マテリアルサイエンス概論

伊崎　健晴

開講時期：**秋学期前半/Fall(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業活動や日常生活において、私たちは多くの素材に囲まれている。この100年で工業材料は長足の進歩を遂げてきている。何千年もの歴史のある銅や鉄も、要求事項に合わせて常に進化し続けている一方、それらと比較して歴史の浅いチタンやプラスチックも、社会の要求や地球環境への配慮から、あらたな挑戦が必要になってきている。プロジェクトに使用する材料や、今後の社会活動に必要と考えられる基礎的な材料について、歴史や、原料調達、リサイクルを含めて解説する。3学科共通であることと、学生間の科学教育経験の差異が大きいので、広く浅く概観して、興味を持つことを主眼とする。

【到達目標】
身近にある製品に使用されている材料を広く紹介してその特徴を学ぶ。
適材適所（right Material for the right place.）の材料選定、設計（強度・デザイン）が出来るようになるための材料の基礎知識を幅広く学び、情報を調査する力を身に着け、ものつくりを考えるスタート地点に立てるようにする。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
（B）技術者倫理	5%
（C）工学基礎学力	30%
（D）専門基礎学力	5%
（E）専門知識の活用・応用能力	25%
（F）総合デザイン能力	10%
（G）コミュニケーション能力	10%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
身近にある製品に使用される一般的な材料をその物性、特徴や加工方法、原産地、リサイクルを含めて個々に述べていく。
　企業における研究開発はどのようなものか、書籍の教科書ではなく、主に学会誌や雑誌の文献を使用して、幅広い分野の材料や先端材料を自分で興味を持って調べてゆくにはどのようにすればよいかを体感する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マテリアルサイエンスとは？	金属・非金属材料の材料科学から材料デザインまで、複数の分野を橋渡しする学際的科学 授業の進め方、グループワークの方法を説明
2	工業材料の基礎	材料力学や分析・評価技術、加工技術など、興味あることを自分で調べて視野を広げよう。
3	鋼・鋳鉄、合金	金属材料の強み、弱み、状態図と変態
4	金属材料の製造と加工、防食	製造方法と加工方法、防食に関して学ぶ
5	軽金属とその合金類、貴金属類	アルミニウム、マグネシウム、チタン、銅などについて学ぶ
6	セメント・コンクリート	歴史的背景から材料構成、硬化のメカニズム
7	木材	木材の組織構造から力学特性、居住特性
8	高分子材料（汎用高分子、汎用エンプラ、生分解性プラスチック）	今、環境問題とも言われるプラスチックだが、有用な特性がたくさんある。
9	高分子材料（ゴム）	ゴム・エラストマーなど柔らかいもの
10	高分子成形加工法	押出成形、射出成成形から３Ｄプリンターまで
11	複合材料	ガラス繊維や炭素繊維で強化された複合材料、その用途と成形加工法
12	モビリティーに使われるマテリアル	二輪車を題材に完成車・エンジンに使用されている材料とその製造方法の事例をゲストスピーカーより説明を受ける。
13	グループワーク発表会（前半）	1グループあたり６～７名で１０グループに分けてグループ討議、討議結果の発表（前半）
14	グループワーク発表会（後半）	後半のグループ発表 最終レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業前にWEBを確認すること。授業後にノートを作成してテーマごとに加筆していく。最新の情報、参考図書の概要など自分の言葉でまとめて今後の社会活動に生かしていく。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキスト
J-Stageに掲載されている雑誌（金属表面技術、コンクリート工学、日本ゴム協会誌、材料、プラスチック成形加工学会誌、日本複合材料学会誌など）の文献を講義に使用する。第１回目の講義にて講義に使用する資料のリンクを掲載するので、各自ダウンロードして準備してください。

【参考書】
WEB掲載資料内に記入。

【成績評価の方法と基準】
第1回目の講義で課題の内容を説明します。
１．プレゼンテーション（発表）
１３，１４回目の授業でグループワークの内容の発表を行います。全員に発表する機会があります。発表の内容、表現力を評価します。　50％
２．レポート　50％
　グループワークの課題で、個人で調べた内容、調査結果をレポートにまとめ、第14回目の講義終了までに提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
専門や学年の相違による基礎知識の差異や、化学や物理の基礎がないと理解しづらいとのアンケート回答あり。材料を広く概観することが目的の授業なので、多くの学生に基礎知識の理解が可能となることを念頭に授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【その他の重要事項】
担当講師は化学メーカーに在籍中。高分子材料、複合材料の評価、材料開発、成形加工プロセス開発の経験を活かし、材料科学全般について講義をする。
企業の最前線で製品開発を行ってきたエンジニアをゲストスピーカーとしてお招きして、「モビリティーに使われるマテリアル」の講演を聞く。
講義内容で不明な点は、授業終了後に教室で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
Industrial materials have made great strides in the last 100 years. The demand to the function of the product has been developed in a long time, and becomes complicated. This course will introduce basic examples and we discuss issues in this field.
(Learning activities outside of classroom) The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria /Policy)
1. Presentation 50%
Group work presentation will be held in the 13th and 14th classes, Everyone will have the opportunity to make a presentation. The content of the presentation and the ability to express oneself will be evaluated.
2. Report 50%

MTL200NA（材料工学 / Material engineering 200）

マテリアルサイエンス

伊崎　健晴

開講時期：**秋学期前半/Fall(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業活動や日常生活において、私たちは多くの素材に囲まれている。この100年で工業材料は長足の進歩を遂げてきている。何千年もの歴史のある銅や鉄も、要求事項に合わせて常に進化し続けている一方、それらと比較して歴史の浅いチタンやプラスチックも、社会の要求や地球環境への配慮から、あらたな挑戦が必要になってきている。プロジェクトに使用する材料や、今後の社会活動に必要と考えられる基礎的な材料について、歴史や、原料調達、リサイクルを含めて解説する。3学科共通であることと、学生間の科学教育経験の差異が大きいので、広く浅く概観して、興味を持つことを主眼とする。

【到達目標】
身近にある製品に使用されている材料を広く紹介してその特徴を学ぶ。
適材適所（right Material for the right place.）の材料選定、設計（強度・デザイン）が出来るようになるための材料の基礎知識を幅広く学び、情報を調査する力を身に着け、ものつくりを考えるスタート地点に立てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
身近にある製品に使用される一般的な材料をその物性、特徴や加工方法、原産地、リサイクルを含めて個々に述べていく。
　企業における研究開発はどのようなものか、書籍の教科書ではなく、主に学会誌や雑誌の文献を使用して、幅広い分野の材料や先端材料を自分で興味を持って調べてゆくにはどのようにすればよいかを体感する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マテリアルサイエンスとは？	金属・非金属材料の材料科学から材料デザインまで、複数の分野を橋渡しする学際的科学 授業の進め方、グループワークの方法を説明
2	工業材料の基礎	材料力学や分析・評価技術、加工技術など、興味あることを自分で調べて視野を広げよう。
3	鋼・鋳鉄、合金	金属材料の強み、弱み、状態図と変態
4	金属材料の製造と加工、防食	製造方法と加工方法、防食に関して学ぶ
5	軽金属とその合金類、貴金属類	アルミニウム、マグネシウム、チタン、銅などについて学ぶ
6	セメント・コンクリート	歴史的背景から材料構成、硬化のメカニズム
7	木材	木材の組織構造から力学特性、居住特性
8	高分子材料（汎用高分子、汎用エンプラ、生分解性プラスチック）	今、環境問題とも言われるプラスチックだが、有用な特性がたくさんある。
9	高分子材料（ゴム）	ゴム・エラストマーなど柔らかいもの
10	高分子成形加工法	押出成形、射出成成形から３Ｄプリンターまで
11	複合材料	ガラス繊維や炭素繊維で強化された複合材料、その用途と成形加工法
12	モビリティーに使われるマテリアル	二輪車を題材に完成車・エンジンに使用されている材料とその製造方法の事例をゲストスピーカーより説明を受ける。
13	グループワーク発表会（前半）	1グループあたり６～７名で１０グループに分けてグループ討議、討議結果の発表（前半）
14	グループワーク発表会（後半）	後半のグループ発表 最終レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業前に学習支援システムの授業のページを確認すること。授業後にノートを作成してテーマごとに加筆していく。最新の情報、参考図書の概要など自分の言葉でまとめて今後の社会活動に生かしていく。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキスト
J-Stageに掲載されている雑誌（金属表面技術、コンクリート工学、日本ゴム協会誌、材料、プラスチック成形加工学会誌、日本複合材料学会誌など）の文献を講義に使用する。第１回目の講義にて講義に使用する資料のリンクを掲載するので、各自ダウンロードして準備してください。

【参考書】
学習支援システムの授業のページ掲載資料内に記入。

【成績評価の方法と基準】
第1回目の講義で課題の内容を説明します。
１．プレゼンテーション（発表）
１３，１４回目の授業でグループワークの内容の発表を行います。全員に発表する機会があります。発表の内容、表現力を評価します。　　50％
２．レポート　　50％
　グループワークの課題で、個人で調べた内容、調査結果をレポートにまとめ、第14回目の講義終了までに提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
専門や学年の相違による基礎知識の差異や、化学や物理の基礎がないと理解しづらいとのアンケート回答あり。材料を広く概観することが目的の授業なので、多くの学生に基礎知識の理解が可能となることを念頭に授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【その他の重要事項】
担当講師は化学メーカーに在籍中。高分子材料、複合材料の評価、材料開発、成形加工プロセス開発の経験を活かし、材料科学全般について講義をする。
企業の最前線で製品開発を行ってきたエンジニアをゲストスピーカーとしてお招きして、「モビリティーに使われるマテリアル」の講演を聞く。
講義内容で不明な点は、授業終了後に教室で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
Industrial materials have made great strides in the last 100 years. The demand to the function of the product has been developed in a long time, and becomes complicated. This course will introduce basic examples and we discuss issues in this field.
(Learning activities outside of classroom) The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria /Policy)
1. Presentation 50%
Group work presentation will be held in the 13th and 14th classes, Everyone will have the opportunity to make a presentation. The content of the presentation and the ability to express oneself will be evaluated.
2. Report 50%

MTL200NA（材料工学 / Material engineering 200）

マテリアルサイエンス概論

伊崎　健晴

開講時期：**秋学期前半/Fall(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業活動や日常生活において、私たちは多くの素材に囲まれている。この100年で工業材料は長足の進歩を遂げてきている。何千年もの歴史のある銅や鉄も、要求事項に合わせて常に進化し続けている一方、それらと比較して歴史の浅いチタンやプラスチックも、社会の要求や地球環境への配慮から、あらたな挑戦が必要になってきている。プロジェクトに使用する材料や、今後の社会活動に必要と考えられる基礎的な材料について、歴史や、原料調達、リサイクルを含めて解説する。3学科共通であることと、学生間の科学教育経験の差異が大きいので、広く浅く概観して、興味を持つことを主眼とする。

【到達目標】
身近にある製品に使用されている材料を広く紹介してその特徴を学ぶ。
適材適所（right Material for the right place.）の材料選定、設計（強度・デザイン）が出来るようになるための材料の基礎知識を幅広く学び、情報を調査する力を身に着け、ものつくりを考えるスタート地点に立てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
身近にある製品に使用される一般的な材料をその物性、特徴や加工方法、原産地、リサイクルを含めて個々に述べていく。
　企業における研究開発はどのようなものか、書籍の教科書ではなく、主に学会誌や雑誌の文献を使用して、幅広い分野の材料や先端材料を自分で興味を持って調べてゆくにはどのようにすればよいかを体感する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マテリアルサイエンスとは？	金属・非金属材料の材料科学から材料デザインまで、複数の分野を橋渡しする学際的科学 授業の進め方、グループワークの方法を説明
2	工業材料の基礎	材料力学や分析・評価技術、加工技術など、興味あることを自分で調べて視野を広げよう。
3	鋼・鋳鉄、合金	金属材料の強み、弱み、状態図と変態
4	金属材料の製造と加工、防食	製造方法と加工方法、防食に関して学ぶ
5	軽金属とその合金類、貴金属類	アルミニウム、マグネシウム、チタン、銅などについて学ぶ
6	セメント・コンクリート	歴史的背景から材料構成、硬化のメカニズム
7	木材	木材の組織構造から力学特性、居住特性
8	高分子材料（汎用高分子、汎用エンプラ、生分解性プラスチック）	今、環境問題とも言われるプラスチックだが、有用な特性がたくさんある。
9	高分子材料（ゴム）	ゴム・エラストマーなど柔らかいもの
10	高分子成形加工法	押出成形、射出成成形から３Ｄプリンターまで
11	複合材料	ガラス繊維や炭素繊維で強化された複合材料、その用途と成形加工法
12	モビリティーに使われるマテリアル	二輪車を題材に完成車・エンジンに使用されている材料とその製造方法の事例をゲストスピーカーより説明を受ける。
13	グループワーク発表会（前半）	1グループあたり６～７名で１０グループに分けてグループ討議、討議結果の発表（前半）
14	グループワーク発表会（後半）	後半のグループ発表 最終レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業前にWEBを確認すること。授業後にノートを作成してテーマごとに加筆していく。最新の情報、参考図書の概要など自分の言葉でまとめて今後の社会活動に生かしていく。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキスト
J-Stageに掲載されている雑誌（金属表面技術、コンクリート工学、日本ゴム協会誌、材料、プラスチック成形加工学会誌、日本複合材料学会誌など）の文献を講義に使用する。第１回目の講義にて講義に使用する資料のリンクを掲載するので、各自ダウンロードして準備してください。

【参考書】
WEB掲載資料内に記入。

【成績評価の方法と基準】
第1回目の講義で課題の内容を説明します。
１．プレゼンテーション（発表）
１３，１４回目の授業でグループワークの内容の発表を行います。全員に発表する機会があります。発表の内容、表現力を評価します。　　50％
２．レポート　　50％
　グループワークの課題で、個人で調べた内容、調査結果をレポートにまとめ、第14回目の講義終了までに提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
専門や学年の相違による基礎知識の差異や、化学や物理の基礎がないと理解しづらいとのアンケート回答あり。材料を広く概観することが目的の授業なので、多くの学生に基礎知識の理解が可能となることを念頭に授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【その他の重要事項】
担当講師は化学メーカーに在籍中。高分子材料、複合材料の評価、材料開発、成形加工プロセス開発の経験を活かし、材料科学全般について講義をする。
企業の最前線で製品開発を行ってきたエンジニアをゲストスピーカーとしてお招きして、「モビリティーに使われるマテリアル」の講演を聞く。
講義内容で不明な点は、授業終了後に教室で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
Industrial materials have made great strides in the last 100 years. The demand to the function of the product has been developed in a long time, and becomes complicated. This course will introduce basic examples and we discuss issues in this field.
(Learning activities outside of classroom) The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria /Policy)
1. Presentation 50%
Group work presentation will be held in the 13th and 14th classes, Everyone will have the opportunity to make a presentation. The content of the presentation and the ability to express oneself will be evaluated.
2. Report 50%

MTL200NA（材料工学 / Material engineering 200）

マテリアルサイエンス

伊崎　健晴

開講時期：**秋学期前半/Fall(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業活動や日常生活において、私たちは多くの素材に囲まれている。この100年で工業材料は長足の進歩を遂げてきている。何千年もの歴史のある銅や鉄も、要求事項に合わせて常に進化し続けている一方、それらと比較して歴史の浅いチタンやプラスチックも、社会の要求や地球環境への配慮から、あらたな挑戦が必要になってきている。プロジェクトに使用する材料や、今後の社会活動に必要と考えられる基礎的な材料について、歴史や、原料調達、リサイクルを含めて解説する。3学科共通であることと、学生間の科学教育経験の差異が大きいので、広く浅く概観して、興味を持つことを主眼とする。

【到達目標】
身近にある製品に使用されている材料を広く紹介してその特徴を学ぶ。
適材適所（right Material for the right place.）の材料選定、設計（強度・デザイン）が出来るようになるための材料の基礎知識を幅広く学び、情報を調査する力を身に着け、ものつくりを考えるスタート地点に立てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
身近にある製品に使用される一般的な材料をその物性、特徴や加工方法、原産地、リサイクルを含めて個々に述べていく。
　企業における研究開発はどのようなものか、書籍の教科書ではなく、主に学会誌や雑誌の文献を使用して、幅広い分野の材料や先端材料を自分で興味を持って調べてゆくにはどのようにすればよいかを体感する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マテリアルサイエンスとは？	金属・非金属材料の材料科学から材料デザインまで、複数の分野を橋渡しする学際的科学 授業の進め方、グループワークの方法を説明
2	工業材料の基礎	材料力学や分析・評価技術、加工技術など、興味あることを自分で調べて視野を広げよう。
3	鋼・鋳鉄、合金	金属材料の強み、弱み、状態図と変態
4	金属材料の製造と加工、防食	製造方法と加工方法、防食に関して学ぶ
5	軽金属とその合金類、貴金属類	アルミニウム、マグネシウム、チタン、銅などについて学ぶ
6	セメント・コンクリート	歴史的背景から材料構成、硬化のメカニズム
7	木材	木材の組織構造から力学特性、居住特性
8	高分子材料（汎用高分子、汎用エンプラ、生分解性プラスチック）	今、環境問題とも言われるプラスチックだが、有用な特性がたくさんある。
9	高分子材料（ゴム）	ゴム・エラストマーなど柔らかいもの
10	高分子成形加工法	押出成形、射出成成形から３Ｄプリンターまで
11	複合材料	ガラス繊維や炭素繊維で強化された複合材料、その用途と成形加工法
12	モビリティーに使われるマテリアル	二輪車を題材に完成車・エンジンに使用されている材料とその製造方法の事例をゲストスピーカーより説明を受ける。
13	グループワーク発表会（前半）	1グループあたり６～７名で１０グループに分けてグループ討議、討議結果の発表（前半）
14	グループワーク発表会（後半）	後半のグループ発表 最終レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業前に学習支援システムの授業のページを確認すること。授業後にノートを作成してテーマごとに加筆していく。最新の情報、参考図書の概要など自分の言葉でまとめて今後の社会活動に生かしていく。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキスト
J-Stageに掲載されている雑誌（金属表面技術、コンクリート工学、日本ゴム協会誌、材料、プラスチック成形加工学会誌、日本複合材料学会誌など）の文献を講義に使用する。第１回目の講義にて講義に使用する資料のリンクを掲載するので、各自ダウンロードして準備してください。

【参考書】
学習支援システムの授業のページ掲載資料内に記入。

【成績評価の方法と基準】
第1回目の講義で課題の内容を説明します。
１．プレゼンテーション（発表）
１３，１４回目の授業でグループワークの内容の発表を行います。全員に発表する機会があります。発表の内容、表現力を評価します。　　50％
２．レポート　　50％
　グループワークの課題で、個人で調べた内容、調査結果をレポートにまとめ、第14回目の講義終了までに提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
専門や学年の相違による基礎知識の差異や、化学や物理の基礎がないと理解しづらいとのアンケート回答あり。材料を広く概観することが目的の授業なので、多くの学生に基礎知識の理解が可能となることを念頭に授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【その他の重要事項】
担当講師は化学メーカーに在籍中。高分子材料、複合材料の評価、材料開発、成形加工プロセス開発の経験を活かし、材料科学全般について講義をする。
企業の最前線で製品開発を行ってきたエンジニアをゲストスピーカーとしてお招きして、「モビリティーに使われるマテリアル」の講演を聞く。
講義内容で不明な点は、授業終了後に教室で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
Industrial materials have made great strides in the last 100 years. The demand to the function of the product has been developed in a long time, and becomes complicated. This course will introduce basic examples and we discuss issues in this field.
(Learning activities outside of classroom) The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria /Policy)
1. Presentation 50%
Group work presentation will be held in the 13th and 14th classes, Everyone will have the opportunity to make a presentation. The content of the presentation and the ability to express oneself will be evaluated.
2. Report 50%

DES300ND（デザイン学 / Design science 300）

プロモーション映像制作

北村　拓司

開講時期：**秋学期前半/Fall(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、プロモーション映像の制作を通し、プロダクトの“魅力の伝え方”を学びます。
消費者が製品を知るきっかけは「映像（ビジュアル）」です。そのためビジネス/産業界では映像の重要性が高まり、質の高い映像による情報提供が喫緊の課題のひとつとなっています。
本演習では、製品のプロモーション映像を制作します。ストーリー構築・撮影・編集を各自で行い、1本の映像作品を完成させます。 映像のクオリティを高め、人に伝わる映像の完成を目指します。
最も大切なコアコンセプトを抽出し、言語化し、ストーリーに組み立てます。ストーリーが完成した後は、それを元に映像化を行います。また、撮影のクオリティを高めるための方法に関しても演習を行います。映像クオリティの大切さを理解し、視覚のデザインに対する意識を高めます。
※題材となるのは、各自が授業で創作した「目覚まし時計」のプロモーション映像となります。

【到達目標】
質の高いプロモーション映像を制作するために必要な、以下の力を身につける事を目標とする。
①製品を魅力的に伝える映像制作技術を習得する。
②製品に込めた“想い”や“機能”を伝えるストーリーテリングの能力を身につける。
③映像に関する知見を深め、映像のクオリティに対する意識を向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
各自がこれまで制作した「目覚まし時計」を題材に、プロモーション映像を制作します。
ムービーは各自で制作を行い、授業ではアイデアを開発し発表し、そのレビューを行います。
授業は、生徒間で討議しながら進めるワークショップ形式で進行していきます。
「キャッチコピー開発」「ストーリー開発」「撮影」「編集」と、本講義は４つのステージに区分されます。
最終制作物として１本のプロモーション映像作品を完成させ、講評会を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	プロモーション映像とは キャッチコピーの作り方	プロモーション映像の役割について学び、キャッチコピーを開発する。
2	ステートメント開発 コンセプトをストーリー化する	自身のプロダクトのコアコンセプトを言語化する。 発表→講評→修正を行う。
3	企画コンテ（ストーリー）について ストーリーを可視化する	ストーリーの構造解説（課題～解決）。 プロモーション映像事例を見ながら学ぶ。
4	企画コンテ開発	プロダクトのストーリーを、4コマの絵コンテに描く。それを８コマに増やし、発表、講評、修正の工程で構築する。
5	演出コンテとは ストーリーを表現に落とし込む	演出コンテに関する解説。表現に関して学ぶ。ストーリーを最適な“表現”に落とし込んだ絵コンテ（16コマ）を作成する。
6	演出コンテ実習 16コマのストーリー作成	演出コンテを発表。講評、修正を行いながら構築する。
7	撮影に関して 撮影に関する講義	撮影がどの様に行われるかを解説。 感情を表現する撮影を実施で体験する。
8	プロダクトの撮影について	撮影の方法論（静物描写） プロダクトの表現方法、撮影技術を学ぶ。
9	編集実習１	ナレーションを考案し、自身のPCで編集を行う。
10	編集実習２	ナレーションを考案し、自身のPCで編集を行う。
11	中間発表	自身で撮影した素材をもとに各自で編集し、授業で発表を行う。
12	中間発表	自身で撮影した素材をもとに各自で編集し、授業で発表を行う。
13	作品発表	最終作品の発表を行い、講評を行う。
14	最終講評	最終作品に関する講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
授業回数の1/3（5回）欠席および連続3回欠席の受講生は成績対象外となります。10分以上の遅刻は2回で1回の欠席扱いとなります。（ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない）
積極的な授業参加と授業態度も評価対象とします。
授業参加・態度（35%）企画開発段階での評価（30%）映像作品の評価（35%）

【学生の意見等からの気づき】
進行・制作に関する要求があれば、随時考慮してゆきます。

【学生が準備すべき機器他】
カメラ（自前のモノを使用/一眼でも携帯でも可）/PC（学校orPC自身のPCを使用）。
自身のPCで編集を行う場合、事前に編集ソフト（各自が使いやすい動画編集ソフトを使用して下さい。インストールしていない人は、無料動画編集ソフト『iMovie』などをPCに入れて使用できる状態にしておいて下さい）。
授業では、『Adobeプレミア』を使用して編集を行います。

【その他の重要事項】
CMディレクターとして豊かな経験を持つ教員が、実務で必要な知識・経験・考え方に関する指導を行います。
授業終了後に教室で質問を受け付ける，または随時，電子メールで質問を受け付ける．

【Outline (in English)】
In this course, students will learn how to communicate and appeal the character of product and the design through the practical exercise of the making promotional video.
“Visual Image” is always the catalyst for consumers to know about products.
Today, it is extremely important to communicate with high quality visual message in business /industry, and it is a big issue to improve it.
The story of the promotional video of each students’ will be based on the concept of their own products. We extract the core of the concept, and translate it into language and build it into a story. The students will make their own video works based on the story.
In this course, every student will produce their own promotional video for their product. They will be responsible for the planning, shooting and editing their storyline. Improving the quality of the video works, student will produce a film that can communicate with wide range of audience.
The course is also including the exercise of shooting photograph /cinematograph. The exercise will cultivate the mindset to create high standard visual image and to improve the awareness of the quality standard of visual design.

MTL300ND（材料工学 / Material engineering 300）

素材と機能のデザイン

堀井　辰衛

開講時期：**春学期後半**/Spring(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常生活において視界に入るモノ、実際に身体に触れあうモノを構成する材料として高分子材料は多くの割合を占め、我々の生活と切り離せない素材の一つです。広い視点で見れば私たちの身体を構成するタンパク質や、植物を構成する多糖類も高分子ですし、繊維や飲料水ボトルに使われるポリエチレンテレフタレート（PET）や蓋などのパッキンに使われるゴムも高分子です。たんぱく質や多糖から成る高分子は天然高分子の一種であり、PETやゴム（天然ゴムを除く）は合成高分子の一種です。このように、一口に「高分子」と言っても様々な種類があり、それぞれに個性があります。
本講義では、高分子材料の分類と基礎的な物性について概説します。次に、様々な高分子材料（主に合成高分子）の、「実際に身の回りに使われている（実用例）」側面と、「工夫次第で使えるかもしれない（研究例）」側面について解説する予定です。

【到達目標】
素材を活用するための基礎となる工学的な知識を身につけます。どのような高分子材料が存在し、どのような物性を持ち、どのように利用されているのかを理解できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に座学で高分子材料に関する知識を深める。さらにR7年度より、学生同士のグループディスカッションを含むアクティブラーニングも取り入れることで、学生の自発的な高分子材料の特徴とその利用についての理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	高分子と社会との繋がり・高分子の分類と構造	高分子の簡単な歴史をひも解き、高分子の基本的な分類や構造について解説します。
2	どんな高分子があるか？	身の回りで頻繁に用いられている「汎用プラスチック，エンジニアリングプラスチック」について紹介し、それぞれの特徴について解説します。
3	高分子ってどんなもの？	熱的、力学的、光学的な性質、またどのように作られているかについて解説します。
4	高分子ってどんなもの？	熱的、力学的、光学的な性質、またどのように作られているかについて解説します。
5	機能性高分子～電気を流す高分子～	機能性高分子の一種である導電性高分子、半導体高分子について解説します。
6	機能性高分子～電気を流す高分子～	導電性高分子、半導体高分子がどのように使われるか、使われようとしているかについて解説します。
7	機能性高分子～刺激に反応する高分子～	光や熱、pHなどに反応して形を変える高分子について解説します。
8	高分子ゲル	高分子ゲルの特徴と、その実応用例、研究例について解説します。
9	生化学・医療へ貢献する高分子	生体適合性を有する高分子材料について、実応用例や研究例と共に解説します。
10	環境にやさしい高分子・関連技術	生分解性高分子など、環境保全に貢献しうる高分子やそれらにかかわる技術について解説します。
11	フレキシブルエレクトロニクス、関連技術、研究に関する文献調査の仕方等	本授業で紹介してきた高分子材料を用いた次世代のエレクトロニクスや関連技術に関して、主に最近の研究例について解説します。 また、このような研究を調査するための方法について少し解説します。12回以降の授業にてグループごとにスライドを用いて発表をしていただく予定ですが、スライドの基本的な作り方（ストーリー、引用の仕方など）について簡単に解説します。
12	グループワーク～テーマ策定、グループ内討論～	履修者全員を10グループに分けて各グループ内にて討議していただきます。（実際の履修者数を鑑みて人数を割り当てます。） 本授業で得た知見を活かして、各グループには高分子材料の特徴を生かした自由なテーマ設定を自発的に行ってもらい、グループ内で討論していただきます。
13	グループワーク発表会（前半）	12回目の授業で各グループで討論していただいた内容についてスライドにまとめていただき、各グループそれぞれ10分程度の発表、5分程度の質疑応答をしていただきます。（グループ１～４）
14	グループワーク発表会（後半）	12回目の授業で各グループで討論していただいた内容についてスライドにまとめていただき、各グループそれぞれ10分程度の発表、5分程度の質疑応答をしていただきます。（グループ５～７）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の課題や12～14回目授業のグループワークに向けた復習が必須。

【テキスト（教科書）】
教科書は基本的には授業用のスライドを用います。また、グループワークでは履修者各自でJ-Stageや査読付き科学雑誌を調査してもらうことも考えています。

【参考書】
松浦和夫，尾崎邦弘，「高分子材料が一番わかる」，技術評論社，２０１１．
井上和人，清水秀信，岡部勝，「基礎からわかる高分子材料」，森北出版株式会社，2015.
東信行，松本章一，西野孝，「高分子科学 合成から物性まで」，講談社，2016.

【成績評価の方法と基準】
1.グループ討議・発表　50％
１３，１４回目授業でグループワークの内容の発表を各グループに行ってもらいます。（発表10分、質疑応答5分）
発表の内容、ロジックについて評価する予定です。また、他グループの発表への質問の内容と積極性についても考慮する予定です。

2.各講義での課題　20%
本授業は毎週２回の授業を行います。毎週課題を出しますので翌週の授業日（水曜日）までにPDF形式ファイルにて提出していただきます。（合計７課題）
3.授業参加への貢献度　30%

【学生の意見等からの気づき】
有機化学や物理学の履修経験がなくても理解できるように、有機高分子の基礎や実応用例について取り上げる。自発的に高分子材料を理解できるように心がける。

【学生が準備すべき機器他】
現在のところ予定していません。

【その他の重要事項】
授業終了後に教室で質問を受け付ける，または随時，電子メールで質問を受け付ける．
また、担当講師は、導電性高分子インクの合成と高導電化に関する内容で学位を取得後、電気化学、人工筋肉（ポリマーアクチュエータ、アシストウェア開発）、フレキシブルセンサなどの分野で研究を進めてまいりました。そのため、高分子材料の基礎に偏った内容となります。

【Outline (in English)】
Among the materials used in various ways when handling products and services, we will learn about smart materials, which change their properties in response to external physical stimuli. Students will also learn how to use the physical properties of materials in combination with microcomputers and how to design interactions using these materials.
Students will acquire the basics to present products and services attractively using materials as a designer through practical training.
The goals of this course are to acquire basic engineering knowledge for utilizing materials, learn tools for understanding the functions of materials, learn the basics of interaction using physical properties, and learn the basics of prototyping and presentation skill.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course contents.
Final grade will be calculated according to the following process, Mid-term reports (20%), term-end report (80%).

DES300ND（デザイン学 / Design science 300）

インクルーシブデザイン

安積　伸、三浦　秀彦

開講時期：**秋学期前半/Fall(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈実〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、インクルーシブデザインの考え方と手法について実践演習を通して学びます。
世の中に流通する量産品は、健常者青年男女といった、最大ボリュームゾーンのユーザーをターゲットとすることが多く、それ以外は少数ユーザーあるいは極端なユーザーとして量産品のターゲットから排除される傾向がありました。しかし、排除されるユーザーの中には、障がいを持つ人、高齢者、外国人、妊婦、乳幼児とその親なども含まれ、そういった人々の抱える生きづらさは、人生の上で誰の身にも起こりえる普遍的な問題といえるでしょう。
これまで極端なユーザーとして切り離されていた人々をリード・ユーザーとしてプロジェクトに招き、エスノグラフィカルな手法で生活で直面する不具合を観察し、考察、提案、試作、改良、の全プロセスに協力を得ながら、そのユーザーにとって最適な道具を開発します。
インクルーシブなデザイン・プロセスを実践的に経験し、デザインによって人々の生活をより快適にすることを目指します。

【到達目標】
本授業では、日常生活に何らかの支障を抱える人をパートナーに招き、インクルーシブなデザインプロセスを行いながら、その人に最適化された日常生活を支える機器を開発する。
また、開発プロセスをビデオ撮影し、プロジェクトの始動から完成までのドキュメント映像作品を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
この授業は、３～４人のグループワークで行う。
各班、デザインを行う対象として具体的な人物を一名、プロジェクトのパートナー（リードユーザー）として招待し、そのパートナーの抱える日常的な問題を観察・調査の中から精査し、問題解決を図るためのデザイン提案を試作、パートナーにフィードバックをもらいながら改良を重ね、最終的なプロダクトを制作する。
また一方で、この一連のプロセスをビデオに収め、調査 - 問題定義 - 解決方の考案 - 試作 - フィードバック - 改良 - 完成、という流れをもったビデオ作品として仕上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	課題説明 チーム分け パートナー検討
2	パートナー調査報告発表1	生活観察・インタビュー等
3	パートナー調査報告発表2	生活観察・インタビュー等
4	問題抽出	アイデア検討 チュートリアル
5	問題定義1	初期アイデア発表 ビデオレポート アイデア・コンセプトスケッチ制作 チュートリアル
6	問題定義2	初期アイデア発表 ビデオレポート アイデア・コンセプトスケッチ制作 チュートリアル
7	第一試作テスト結果発表	第一試作　テスト・ビデオレポート発表
8	問題定義の強化 改良案検討	改良案検討 チュートリアル
9	第二試作テスト結果発表	第二試作　テスト・ビデオレポート発表
10	改良案検討	最終試作検討・制作 チュートリアル
11	最終試作テスト結果発表	最終試作　テスト・フィードバック ビデオレポート　発表
12	改良案検討	最終発表のための映像検討 チュートリアル
13	最終作品発表1	前半チームのビデオ上映とデモンストレーション
14	最終作品発表2	後半チームのビデオ上映とデモンストレーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修生には、時間外での積極的な制作を期待します。
授業時間外に調査・試作・検証等を行い、翌週その様子を映像で発表してもらいます。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「インクルーシブデザイン」という発想　ジュリア・カセム (著), 平井康之 (監修) ホートン・秋穂 (翻訳) フィルムアート社

【参考書】
授業内で適宜指示。

【成績評価の方法と基準】
課題提出作品70点、制作プロセスの評価を20点、出席を10点とします。
ただし、全体で4コマ以上の欠席および連続3コマ欠席の受講生は成績評価対象外とし、遅刻は2回で1回の欠席扱いとします。欠席一回につき－4点、遅刻-2点（ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。）加えて、最終作品が未提出な者も評価対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】
進行・制作に関する要求があれば、随時考慮してゆきます。

【学生が準備すべき機器他】
履修学生は、パワーポイントやビデオ編集ソフトなど、事前に必要なソフトを各自のPCに入れ、習熟しておくこと。
また、ビデオ映像を撮りためておく大容量のデータストレージを準備する事が望ましい。

【その他の重要事項】
この授業は主に対面形式で行う。
プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。

【Outline (in English)】
This project-based learning program focuses on the theme of Inclusive Design.　Most mass-produced products are designed to focus on non-handicapped adults to maximize economic efficiency, however the experience of other users such as the older generation, young children and people with disabilities are often not considered enough.　In this project, actual users of these categories are invited to help us find the difficulties they face, and students will develop problem-solving concepts through an ethnographic approach and design actual products for optimal results.

PRI200NA（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

数理統計学

牧野　倫子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
不確実性を有する現象を分析するのに必要な統計学の基礎を学習し，データ解析を行うことによって，現状の把握，推測，そして意思決定ができることを目的とする。

【到達目標】
・統計学の基本を習得でき，主な確率分布およびその統計量の求め方を理解できる。
・標本データの分析手法を習得し，実際に主な統計量を求め，分析をすることによって状況把握をすることができる。
・中心極限定理の内容を理解する。
・標本データの統計分析結果より母集団で想定される確率分布のパラメータの推定手法（点推定、区間推定、仮説検定）を習得し，実際のデータに対して分析を行うことによって意思決定を行うことができる。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力　40%
（D）専門基礎学力　40%
（E）専門知識の活用・応用能力　20%
（F）総合デザイン能力
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と学習支援システムの併用で行う。
※事前にオンデマンド教材と資料で予習を行う。
※授業中は学習内容のポイントの説明と演習を行う。
※授業中と学習支援システム上で諸連絡，講義教材掲示，課題提出等を行う。
※授業中およびメールや✓シートの提出によって質問等を行う。
配布資料の内容について演習を交えながら解説し，課題を通じて内容を具体的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概論 データ分析（1）	・母集団と標本の関係やこれから学習する内容の全体の位置を理解する。 ・データの種類とデータに対する統計量の意味と求め方を理解する。
2	データ分析（2）	実際のデータに対して分析演習を行い，理解する。
3	確率	集合と事象，確率と確率空間，確率の基本性質，加法定理など，もとになる確率の基本を復習確認し，事象の独立性及び従属性，ベイズの定理について学習し，演習を行うことによって理解を深める。
4	確率変数と確率分布（1）	離散確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布，二項分布，ポアソン分布）について理解する。
5	確率変数と確率分布（2）	連続確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布，指数分布，正規分布）について理解する。
6	確率変数と確率分布（3）	２変数確率変数について理解する。
7	テスト１，まとめと解説	第１～６回の講義内容に関するテストを実施する。
8	中心極限定理	多次元正規分布について学習し，中心極限定理の内容を理解する。
9	点推定	確率分布のパラメータの点推定法であるモーメント法と最尤法について学習し，データに対して適切な推定量を求めることができる。
10	統計解析に必要な確率分布	正規分布より誘導される分布（カイ2乗分布，ｔ分布，F分布）について理解する。
11	区間推定	確率分布のパラメータの信頼区間の構成方法を理解する。
12	仮説検定	統計的仮説検定の考え方を理解する。また、いくつかの有名な母数の検定方法について学ぶ。
13	統計数値実験	中心極限定理の内容をExcelで乱数を発生させる数値実験を行うことによって本講義の学習内容を確認する。
14	テスト２，まとめと解説	第８～１３回の講義内容に関するテストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
★事前に公開した講義教材を読んで予習する。
★講義中に講義内容と確認演習を確認し，課題を行う。
★課題の解答を確認し，質問等があったら講義中あるいは✓シートにて連絡する。
★実際のデータに対してエクセルを用いて解析をし，考察の仕方を学習する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
※学習支援システムに公開する教材を利用する。

【参考書】
・授業の内容を復習するのに使用するといいでしょう。お勧めの本は以下の通りです。
★統計学入門（東京大学教養学部統計学教室編　東京大学出版会　2004年）
★統計学演習（村上正康，安田正實　共著　培風館　2010年）
★統計学基礎（統計検定３級・２級対応）　日本統計学会
★統計学の基礎　（栗栖　忠　他　裳華房　2017年）

【成績評価の方法と基準】
テスト１：４０パーセント
テスト２：４０パーセント。
課題・レポート課題：２０パーセント。
欠席４回以上は単位取得を認めない(評価D).

【学生の意見等からの気づき】
モチベーション維持に留意する。基礎事項をしっかりと習得し理解した上で，具体的な例での対応方法を身につける。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンにてエクセルの関数計算ができ，統計解析（基本統計量）が使用できる状態にしておくのが望ましい。
講義連絡および資料配布・課題提出・質問等のやり取りに学習支援システムを利用する予定。オンデマンド教材の配布は，学習支援システムとGoogleドライブを使用する予定。

【その他の重要事項】
今まで学習した確率統計および，微分積分の教科書等の復習をしておくことが望ましい。電力会社などと合同研究を行って，実際のデータ処理分析を行った経験がある教員が，その経験を活かし必要な基礎事項を講義する。
授業終了後に教室で質問を受け付ける。また、各回のチェックシートおよび電子メールで質問を随時受け付ける。

【Outline (in English)】
Course outline:
In this course we will learn the basics of statistics in order to analyze uncertain phenomena. The objectives are to be able to understand and hypothesize about the present condition and perform decision-making.
Learning Objectives:
At the end of the course, students are expected to A and B.
Learning activities outside of classroom:
Before and after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Mid-term examination:40%、Term-end examination: 40%、Short reports and in class contribution: 20%.

MAN100NA（経営学 / Management 100）

公共経営戦略

平石　和昭、由利　昌平、竹末　直樹、白戸　智、松永　久

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会インフラに関する様々な政策やその進め方を実例を踏まえながら学習し、公共経営戦略の目的やねらいを理解する。

【到達目標】
社会インフラの政策と進め方に関する基礎的事項を理解し、その内容を外部に向けて自身の言葉で説明することができる。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重　45%
（B）技術者倫理　30%
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力
（E）専門知識の活用・応用能力
（F）総合デザイン能力　25%
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義、グループ学習、レポートの作成を通じて、理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・公共政策とは？ ・講師陣の自己紹介・経験談 ・生徒との意見交換
第2回	インフラストラクチャー計画全般 （新幹線を例にとってインフラ計画全般を解説します）	・インフラストラクチャー計画のアウトライン ・社会課題特定とインフラストラクチャー整備 ・需要予測・経済評価・財務評価 ・事業スキーム・財源の調達 （講義＆グループディスカッション）
第3回	インフラストラクチャー事業の構想 （どうやってインフラの構想はうまれるのか、一番大事なところです）	・インフラストラクチャー構想の動機 ・構想実現の推進 ・構想の挫折 （講義＆グループディスカッション）
第4回	インフラストラクチャー事業の管理運営と活用 （これからはインフラの運営・維持管理の時代です）	・インフラストラクチャー施設の維持管理 ・維持更新投資 ・インフラストラクチャー事業の運営 ・更新と除却 （講義＆グループディスカッション）
第5回	インフラストラクチャー事業の海外展開 （インフラによる海外への貢献について解説します）	・途上国への開発援助 ・海外インフラストラクチャービジネス ・課題解決先進国・日本としての貢献 （講義＆グループディスカッション）
第6回	公共事業評価	・公共事業評価の現状 ・費用便益分析の基礎
第7回	海外プロジェクト	・海外プロジェクトの種類 ・事例紹介
第8回	集客事業	・集客事業における行政の関わり方 ・具体的な事例（遊園地・テーマパーク、動物園・水族館、スキー場等） ・集客事業の来場者予測、経済波及効果算出（簡易な方法）
第9回	国土計画の形成	・国土計画とは？ ・国土計画の歴史と変遷 ・現代の国土計画
第10回	スマートシティ	・スマートシティの考え方 ・スマートシティの事例 ・スマートシティの実装
第11回	公共施設マネジメント	・公共施設のマネジメント計画 ・公共施設の統合・再配置計画
第12回	ライフサイクルコスト算定	・ライフサイクルコスト算定目的 ・ライフサイクルコストの算定方法 （グループ学習①）
第13回	ライフサイクルコスト算定	・ライフサイクルコスト算定目的 ・ライフサイクルコストの算定方法 （グループ学習②）
第14回	i-Construction、インフラDX、アセットマネジメント	・建設分野へのICT、DX導入政策 ・インフラ老朽化対策、国際規格 （講義＆事例紹介） ・国際規格への対応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
最終レポートの作成、講義への出席・発言など積極的な参加を求める。

【テキスト（教科書）】
無し

【参考書】
無し

【成績評価の方法と基準】
最終レポート：80％、講義への積極的参加度：20％
※最終レポートは、設定した課題から2題を選択し、A4版1枚程度の資料作成を求める。
欠席４回以上は単位取得を認めない(評価D).

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし。講義にPPTを使用。適宜資料を配布する。

【その他の重要事項】
社会インフラの政策と実務に経験豊富な講師陣が担当。双方向のコミュニケーションを重視した講義を行う。
オフィスアワー：授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】
This course introduces various policies related to social infrastructure development and management to understand objectives and aims of public management strategies.
Grade evaluation: Reports 80%+ Activities 20%= 100%.
Active participation is required, including preparation of a final report and attendance and speaking at lectures.

MAN100NA（経営学 / Management 100）

公共経営戦略

平石　和昭、由利　昌平、竹末　直樹、白戸　智、松永　久

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会インフラに関する様々な政策やその進め方を実例を踏まえながら学習し、公共経営戦略の目的やねらいを理解する。

【到達目標】
社会インフラの政策と進め方に関する基礎的事項を理解し、その内容を外部に向けて自身の言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義、グループ学習、レポートの作成を通じて、理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・公共政策とは？ ・講師陣の自己紹介・経験談 ・生徒との意見交換
第2回	インフラストラクチャー計画全般（新幹線を例にとってインフラ計画全般を解説します）	・インフラストラクチャー計画のアウトライン ・社会課題特定とインフラストラクチャー整備 ・需要予測・経済評価・財務評価 ・事業スキーム・財源の調達 （講義＆グループディスカッション）
第3回	インフラストラクチャー事業の構想（どうやってインフラの構想はうまれるのか、一番大事なところです）	・インフラストラクチャー構想の動機 ・構想実現の推進 ・構想の挫折 （講義＆グループディスカッション）
第4回	インフラストラクチャー事業の管理運営と活用（これからはインフラの運営・維持管理の時代です）	・インフラストラクチャー施設の維持管理 ・維持更新投資 ・インフラストラクチャー事業の運営 ・更新と除却 （講義＆グループディスカッション）
第5回	インフラストラクチャー事業の海外展開（インフラによる海外への貢献について解説します）	・途上国への開発援助 ・海外インフラストラクチャービジネス ・課題解決先進国・日本としての貢献 （講義＆グループディスカッション）
第6回	公共事業評価	・公共事業評価の現状 ・費用便益分析の基礎
第7回	海外プロジェクト	・海外プロジェクトの種類 ・事例紹介
第8回	集客事業	・集客事業における行政の関わり方 ・具体的な事例（遊園地・テーマパーク、動物園・水族館、スキー場等） ・集客事業の来場者予測、経済波及効果算出（簡易な方法）
第9回	国土計画の形成	・国土計画とは？ ・国土計画の歴史と変遷 ・現代の国土計画
第10回	スマートシティ	・スマートシティの考え方 ・スマートシティの事例 ・スマートシティの実装
第11回	公共施設マネジメント	・公共施設のマネジメント計画 ・公共施設の統合・再配置計画
第12回	ライフサイクルコスト算定	・ライフサイクルコスト算定目的 ・ライフサイクルコストの算定方法 （グループ学習①）
第13回	ライフサイクルコスト算定	・ライフサイクルコスト算定目的 ・ライフサイクルコストの算定方法 （グループ学習②）
第14回	i-Construction、インフラDX、アセットマネジメント	・建設分野へのICT、DX導入政策 ・インフラ老朽化対策、国際規格（講義＆事例紹介） ・国際規格への対応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
最終レポートの作成、講義への出席・発言など積極的な参加を求める。

【テキスト（教科書）】
無し

【参考書】
無し

【成績評価の方法と基準】
最終レポート：80％、講義への積極的参加度：20％
※最終レポートは、設定した課題から2題を選択し、A4版1枚程度の資料作成を求める。
欠席４回以上は単位取得を認めない(評価D).

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし。講義にPPTを使用。適宜資料を配布する。

【その他の重要事項】
社会インフラの政策と実務に経験豊富な講師陣が担当。双方向のコミュニケーションを重視した講義を行う。
オフィスアワー：授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】
This course introduces various policies related to social infrastructure development and management to understand objectives and aims of public management strategies.
Grade evaluation: Reports 80%+ Activities 20%= 100%.
Active participation is required, including preparation of a final report and attendance and speaking at lectures.

MAN100NA（経営学 / Management 100）

公共経営戦略

平石　和昭、由利　昌平、竹末　直樹、白戸　智、松永　久

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会インフラに関する様々な政策やその進め方を実例を踏まえながら学習し、公共経営戦略の目的やねらいを理解する。

【到達目標】
社会インフラの政策と進め方に関する基礎的事項を理解し、その内容を外部に向けて自身の言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義、グループ学習、レポートの作成を通じて、理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・公共政策とは？ ・講師陣の自己紹介・経験談 ・生徒との意見交換
第2回	インフラストラクチャー計画全般 （新幹線を例にとってインフラ計画全般を解説します）	・インフラストラクチャー計画のアウトライン ・社会課題特定とインフラストラクチャー整備 ・需要予測・経済評価・財務評価 ・事業スキーム・財源の調達 （講義＆グループディスカッション）
第3回	インフラストラクチャー事業の構想 （どうやってインフラの構想はうまれるのか、一番大事なところです）	・インフラストラクチャー構想の動機 ・構想実現の推進 ・構想の挫折 （講義＆グループディスカッション）
第4回	インフラストラクチャー事業の管理運営と活用 （これからはインフラの運営・維持管理の時代です）	・インフラストラクチャー施設の維持管理 ・維持更新投資 ・インフラストラクチャー事業の運営 ・更新と除却 （講義＆グループディスカッション）
第5回	インフラストラクチャー事業の海外展開 （インフラによる海外への貢献について解説します）	・途上国への開発援助 ・海外インフラストラクチャービジネス ・課題解決先進国・日本としての貢献 （講義＆グループディスカッション）
第6回	公共事業評価	・公共事業評価の現状 ・費用便益分析の基礎
第7回	海外プロジェクト	・海外プロジェクトの種類 ・事例紹介
第8回	集客事業	・集客事業における行政の関わり方 ・具体的な事例（遊園地・テーマパーク、動物園・水族館、スキー場等） ・集客事業の来場者予測、経済波及効果算出（簡易な方法）
第9回	国土計画の形成	・国土計画とは？ ・国土計画の歴史と変遷 ・現代の国土計画
第10回	スマートシティ	・スマートシティの考え方 ・スマートシティの事例 ・スマートシティの実装
第11回	公共施設マネジメント	・公共施設のマネジメント計画 ・公共施設の統合・再配置計画
第12回	ライフサイクルコスト算定	・ライフサイクルコスト算定目的 ・ライフサイクルコストの算定方法 （グループ学習①）
第13回	ライフサイクルコスト算定	・ライフサイクルコスト算定目的 ・ライフサイクルコストの算定方法 （グループ学習②）
第14回	i-Construction、インフラDX、アセットマネジメント	・建設分野へのICT、DX導入政策 ・インフラ老朽化対策、国際規格 （講義＆事例紹介） ・国際規格への対応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
最終レポートの作成、講義への出席・発言など積極的な参加を求める。

【テキスト（教科書）】
無し

【参考書】
無し

【成績評価の方法と基準】
最終レポート：80％、講義への積極的参加度：20％
※最終レポートは、設定した課題から2題を選択し、A4版1枚程度の資料作成を求める。
欠席４回以上は単位取得を認めない(評価D).

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし。講義にPPTを使用。適宜資料を配布する。

【その他の重要事項】
社会インフラの政策と実務に経験豊富な講師陣が担当。双方向のコミュニケーションを重視した講義を行う。
オフィスアワー：授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】
This course introduces various policies related to social infrastructure development and management to understand objectives and aims of public management strategies.
Grade evaluation: Reports 80%+ Activities 20%= 100%.
Active participation is required, including preparation of a final report and attendance and speaking at lectures.

CST300NC（土木工学 / Civil engineering 300）

鋼構造デザイン

鈴木　泰之、小林　佑輔

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**2018年度以前入学者は選択必修科目**
都市：建築士

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
鋼構造の設計方法について、実習を通して習得する。本実習では、まず、鋼構造設計の基礎を、講義ならびに演習を通して習得した後、これらの知識を活用して鋼構造のデザイン実習を行う。デザイン実習は、鋼歩道橋を対象として個別に与えられた設計条件に基づき、設計計算、作図および数量算出を行う。講義は、実際の橋梁設計の手順に沿って実習形式で進められる。これにより学生は、構造力学の基礎と鋼構造設計との関連について習得することができ、かつ、実社会で行われている「設計」という行為の手順やポイントを身に着けることができる。
また、同時期に開講される「橋のデザイン」との連携を図っている。「鋼構造デザイン」と「橋のデザイン」を合わせて受講するすることにより、橋のデザイナー・設計者として素養を効率よく習得することが可能となっている。

【到達目標】
鋼構造の主材料である鋼の性質や鋼構造の設計方法を演習問題を通して習得する。次にこれらの知識を活用して鋼歩道橋の設計計算を行い、その結果に基づき施工性を考慮した図面を作成することにより、鋼橋の設計計算法や図面の読み方を取得する。
この講義の受講後、学生は「設計という行為がどのようなものであるか」について、および、「１、２年次で学んだ構造力学が、実務の鋼構造設計において、どのように使われているのか」について、理解することを目標とする。さらに、鋼橋の設計をひととおり手順を追って学習していることから、学生が実社会においても抵抗なく鋼橋の設計に対応できる能力を身に着けていることを到達目標とする。各講義で出題される演習問題の提出、設計計算書、設計図面、数量計算書を提出することにより、単位が与えられる。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力
（E）専門知識の活用・応用能力　10%
（F）総合デザイン能力　40%
（G）コミュニケーション能力　20%
（H）継続的学習能力　10%
（I）業務遂行能力　20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」、「DP4」、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
与えられた課題に対して各々が問題に対する解答の作成、与えられた設計条件に対する設計計算書の作成、製図、数量の算出を行う。製図は手書き・CADいずれでもよい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	鋼構造概論	鋼構造の特徴について、鋼橋を例に取り説明する。 鋼橋の構成要素と要素の役割および鋼橋設計に必要な基本事項について説明する。
2	鋼構造演習（構造力学の設計への応用　荷重）	既習得の構造力学の知識の鋼構造設計への応用について、演習を通して学習する。荷重と荷重強度に関する演習課題を行う。代表的な構造部材である梁とトラス部材について学習する。
3	鋼構造演習（構造力学の設計への応用　荷重強度（梁・トラス部材））	既習得の構造力学の知識の鋼構造設計への応用について、演習を通して学習する。荷重と荷重強度に関する演習課題を行う。代表的な構造部材である梁とトラス部材について学習する。
4	鋼構造演習（作用・断面力の算出（梁・トラス部材）	既習得の構造力学の知識の鋼構造設計への応用について、演習を通して学習する。作用（断面力）の算出に関する演習課題を行う。代表的な構造部材である梁とトラス部材について学習する。
5	鋼構造演習（断面諸元・抵抗（梁・トラス部材）	既習得の構造力学の知識の鋼構造設計への応用について、演習を通して学習する。断面諸元および抵抗の算出に関する演習を行う。代表的な構造部材である梁とトラス部材について学習する。
6	鋼構造演習（添接・補剛設計（梁・トラス部材））	既習得の構造力学の知識の鋼構造設計への応用について、演習を通して学習する。添接の考え方、部材の補剛方法、補剛材の設計方法について演習を行う。代表的な構造部材である梁とトラス部材について学習する。
7	鋼橋設計計算書の作成（設計条件・荷重・荷重強度）	鋼単純桁（歩道橋他）を例に取り、設計計算書を作成する。この実習では、荷重・荷重強度を取り纏める
8	鋼橋設計計算書の作成（断面力・断面決定・添接）	鋼単純桁（歩道橋他）を例に取り、設計計算書を作成する。この実習では、断面力算出・断面計算・添接計算を扱う
9	鋼橋設計計算書の作成（補剛設計・横桁・支点上補剛材）	鋼単純桁（歩道橋他）を例に取り、設計計算書を作成する。この実習では、補剛設計・横桁・支点上補剛材を扱う。
10	鋼橋の製図（構造一般図）	設計計算書を基にした製作図面の作成方法の説明を行う。設計計算書が完成した学生は教員による確認を受けた後、製図作業に着手する。製図は手書き・ＣＡＤいずれでも可とする。この実習では、構造一般図の作図を行う。
11	鋼橋の製図（主桁）	作成された設計計算結果を基に、鋼歩道橋の製作図面を作成する。製図は手書き・ＣＡＤいずれでも可とする。この実習では、主桁の作図を行う
12	鋼橋の製図（構造詳細図）	作成された設計計算結果を基に、鋼歩道橋の製作図面を作成する。製図は手書き・ＣＡＤいずれでも可とする。この実習では、構造詳細図の作図を行う。
13	材料の算出	作成された製作図面を基に、鋼橋製作に必要な材料を算出する。 算出結果は、数量計算書として取りまとめる。
14	成果品（設計計算補・図面・数量計算書）の提出・講評	成果品（設計計算書・図面・数量計算書）の講評を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１～６　構造力学の復習
７～１３　進捗が遅い学生は、授業時間外で成果の作成進捗を補うこと。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布

【参考書】
道路橋示方書・同解説　（公）日本道路協会　平成29年11月
合成桁の設計例と解説　（一）日本橋梁建設協会　平成30年2月
大倉一郎：鋼構造設計学の基礎、（株）東洋書籍
中井・北田・山口・事口・平城：例題で学ぶ橋梁工学、共立出版（株）
田島富男、徳山昭：絵とき鋼構造の設計、（株）オーム社
中井博、北田俊行：新編　橋梁工学、共立出版(株)

【成績評価の方法と基準】
演習問題の提出および採点結果　４０点
鋼歩道橋他の設計計算　４０点
鋼歩道橋他の製図　１５点
鋼歩道橋他の数量計算　５点

【学生の意見等からの気づき】
教える側が「当然理解しているであろう、あるいは、理解したであろう」と考えている事項を質問にくる学生が多い。教える側にとって、当然であることも、実は、学生にとって、理解されていないことが多いことに、改めて気づく。懇切丁寧に分かり易い説明に心がける。また、学生の理解を深めるために、基礎演習に力を入れる。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン、定規

【その他の重要事項】
同分野での実務経験を有する教員が担当する。担当教員は、橋梁設計の経験が豊富であり、実務経験から得られた知見を交えて教育を行うことが可能である。
製図は、ＣＡＤ・手書き、何れも可とする。
授業終了後に教室で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
Learn how to design steel structures through practical training. In this training, the basis of steel structure design will be studied through lectures and exercises, after which students will perform designs of practical steel structures utilizing this knowledge. In the design training, design calculation, drawing and quantity calculation for steel pedestrian bridges are carried out based on individually assigned design conditions.

PRI200GA（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

統計処理法

吉田　一星

配当年次／単位：**1〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
みなさんは、新聞、テレビ、インターネットなどを通してデータに日々接しています。これらの、大量で多様なデータの中から、必要なものを情報として抽出し、適切な解釈を与えることはけっして容易なことではありません。統計学はデータを数値化し、客観的に分析・評価することで、本質を捉えようとするための方法論です。この科目ではそのような統計学の基本的な考え方について学んでいきます。
また、自然言語処理技術の研究開発の実務に携わっている講師が、現在ブームとなっている生成AIに使われている確率統計の考え方を紹介したいと思います。
例えば、ChatGPT などのように人間と自然な対話ができるシステムの背後には、大規模言語モデル（Large Language Model; LLM）と呼ばれる機械学習の仕組みが動いており、LLM を理解するためには確率統計の知識が必須です。本授業では、LLM の中で使われている確率統計の考え方を学び、LLM にできることとそうでないことを理解します。

【到達目標】
・データの可視化（グラフ化）の方法を身につける
・データを解釈する方法を身につける
・基本統計量（平均、分散、相関等）の算出方法を理解する
・確率の計算方法を理解し、具体的な計算を実施できる
・確率分布の概念と、その実世界への応用の方法を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
　授業では、統計学の基本的な考え方を学んでいきます。統計を直感でなくデータに基づいて議論するための、最低限必要な確率の定義やその使い方を丁寧に解説します。その確率の言葉を使って、観測したい現象を数値データとして表現し分析するための統計的な道具を、多くの具体例に適用します。
　数学に興味がある人はもちろん、そうではない人でも、統計的な考え方が楽しめるようにしたいと思いますので、履修される方には授業への積極的な参加を期待します。
　授業は講義と演習から成ります。学んだ内容を具体的な問題に適用して解く計算の時間が、ほぼ毎回あります。授業の終わりには、その回の授業内容の理解を確認するための宿題を出します。宿題は成績評価の対象ではありませんが、次の回以降の授業は宿題の理解を前提として進めますので、次の回までに必ず自分で解いてみて下さい。
中間試験・期末試験とその他の課題のフィードバックは、主に学習支援システムを通して行います。また、みなさんからの質問・コメントに対する解説・補足を授業内で随時行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとデータの理解方法1	授業の進め方についての説明・数値データの可視化・度数分布表とヒストグラム
第2回	データの理解方法2	データの代表値とその性質
第3回	データの理解方法3	散布図と相関係数
第4回	データの理解方法4	回帰分析
第5回	確率1	確率の定義
第6回	確率2	確率の様々な計算方法
第7回	中間試験	中間試験
	確率3	条件つき確率
第8回	確率4	条件つき確率 ベイズの定理
第9回	確率分布1	確率変数と確率分布
第10回	確率分布2	期待値と分散
第11回	確率分布3	二項分布
第12回	確率分布4	連続型確率変数と正規分布
第13回	確率分布5	確率分布の応用
第14回	期末試験	期末試験
	AIへの確率分布の応用	大規模言語モデルの紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。毎回の授業の終わりに、その回の授業内容の理解を確認するための宿題を出します。宿題は成績評価には使用しませんが、本授業のそれぞれの回は前回までの宿題の内容の理解を前提として進めますので、自分の理解度に応じて必ず自習して下さい。また、わからない点をそのままにせず、自分で調べても不明な場合は教員に積極的に質問して下さい。

【テキスト（教科書）】
教科書を使用しません。講師が作成した資料を使って授業を行います。

【参考書】
以下の参考書をお勧めします。
"経営・商学のための統計学入門　直感的な例題で学ぶ", 竹内広宜著, 講談社, 2021.

この他に参考となる資料は、授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業中に行う中間試験と期末試験の結果を元に総合的に評価します。配点の目安としては、中間試験30%、期末試験70%となります。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
その授業で学んだ内容に関連する現実世界のトピックを紹介する「コラム」が毎回好評ですので、到達目標のための学習時間を確保しながらできるだけコラムを継続したいと思います。
また、授業で扱う数式の練習量が従来の宿題では足りないというアンケートの声を受けて、今年は宿題の練習問題の量を増やします。ただし宿題は成績評価には使用しませんので、自分の理解度に応じて必要なものに取り組んで下さい。

【学生が準備すべき機器他】
講義時間で演習を行います。電卓がないと計算できないような問題は演習内では扱いませんが、授業に電卓などの情報機器を持ち込んでも構いません。ただし試験（中間試験・期末試験）での情報機器の持ち込みは不可です。

【その他の重要事項】
担当教員は、情報科学技術、とくに人工知能（Artificial Intelligence; AI）の研究開発を行う企業に所属しており、自然言語処理・機械学習分野に関して新技術の開発や製品化の実務経験を有しています。
例えば、ChatGPT などのように人間と自然な対話ができるシステムの背後には、大規模言語モデル（Large Language Model; LLM）と呼ばれる機械学習の仕組みが動いており、LLM を理解するためには確率統計の知識が必須です。本授業では、LLM の中で使われている確率統計の考え方を学び、LLM にできることとそうでないことを理解します。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
In our daily life, we find a large amount of data available through the internet and social media. It is often difficult to extract only necessary information from the various kind of massive data and interpret the information. Statistics is a methodology for quantifying and objectively analyzing data.
[Learning Objectives]
Students should be able to do the followings at the end of this course:
- Master basics of data visualization (graphs)
- Understand some ways of interpreting results of data analytics
- Understand basic statistical values (mean, variance, correlation coefficient, etc.)
- Understand basic knowledge of combinatorics and probability, and apply it to concrete calculation
- Understand the notion of probability distribution and its application to real world problems
The lecturer has practical experience in research and development of generative AI, especially large language models (LLMs). He will introduce how probability and statistics are used in LLMs to generate natural language responses to queries by a human user.
[Learning activities outside of classroom]
Students will be expected to complete homework after each class meeting. A typical time for the homework and to understand the course content after a class meeting is two hours.
[Grading Criteria/Policies]
Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (30%) and Term-end examination (70%).

HUM200GA（その他の人文学 / humanities 200）

国際文化協力

松本　悟

配当年次／単位：1～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：100名前後が望ましい

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では国際文化論の観点から国際協力の基礎を学ぶものである。具体的には国際協力の歴史や仕組み、国際協力が文化に及ぼす影響、文化面の国際協力のあり方について知識を習得するとともに、それらを用いて論理的に考える力を養うことを目的とする。基幹科目なので、１、２年生には、専攻科目や演習で更に深めたい学問領域やテーマを見つける機会にして欲しい。

【到達目標】
（1）国際文化論および国際協力についての基礎的な知識を身につける。
（2）国際協力と文化を結びつけて論理的に事象を分析できる。
（3）「技術と文化」「開発コミュニケーション」「文化遺産保護」「難民」「パブリックディプロマシー」などに授業で扱うテーマついて説明できる。
（4）基幹科目としてアカデミックスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
■基本方針：対面で実施するが、学内業務の関係でオンデマンドを使用することもある。
■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。
■授業後課題：2回に1回程度課す。基幹科目なのでアカデミックスキルを高めることを目的とし、200字～800字程度で書いてもらう。提出期限は授業日から3日以内。授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション―国際文化協力とは―	この授業の狙い、進め方、国際文化協力の概論。リアルタイムオンライン授業で行い、履修希望者数を確認する。
2	技術と文化	川の水を煮沸せずに飲む行為を通して技術と文化について考える
3	普及とコミュニケーション	受け入れ「させる」ことをどう考えるか
4	協力される側だった日本	明治時代のお雇い外国人と「抵抗」を考える
5	日本への技術移転	贈与・交換・支配・互酬と国際協力
6	文化の受容と抵抗	文化接触（アカルチュレーション）から文化の受容を考える
7	文化財を守るとは	明治時代の日本で文化財をなぜ守るようになったのかを考える
8	国際的な文化財保護までの道のり	戦利品としての略奪と返還運動から文化財の国際的な捉え方の変化を考える
9	人類の遺産	世界遺産という発想はどこからきたのかを考える
10	政府開発援助（ODA）と文化協力	パブリックディプロマシーやソフトパワーについて考える
11	国際協力と想像力―期末レポートに向けて	期末レポートの課題文献とこの授業の繋がりを講義する
12	国際人権	文化要素としての人権について難民を例に「民権」との違いから考える
13	市民としての国際文化協力	日本の地域での難民受け入れを通して同化と社会的統合について考える
14	私と国際文化協力	担当教員の実務経験を踏まえて国際文化協力の授業での学びを再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業後課題は、法政大学の図書館HPのデーターベース等から文献を検索して論じるなど、大学生に必要な調査と思考を促すものである。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
以下の本は、複数回の授業の参考文献であるとともに、期末レポートの課題文献となる。到達目標４に関係している。各自入手すること。
松本悟・佐藤仁編著（2021）『国際協力と想像力―イメージと「現場」のせめぎ合い』日本評論社。

【参考書】
毎回の講義に関連する参考文献はその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・授業後課題への回答などの平常点50%、期末レポート50%
・授業後課題は設問に200字～800字程度で答えるもので、カッコ内の場合は減点となる（例：設問や指示に的確に答えていない、極端に短い、文章として辻褄が合わない）
・期末レポートは、授業で学んだ内容を踏まえて、課題文献を分析するもので、知識を問うものではない
・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする

【学生の意見等からの気づき】
・短い文章や期末レポートの書き方の説明が役に立ったという声が多いので継続する。
・学生から提出された授業後課題の答案に対して、個々人へのフィードバックを求める声があるが、履修者が多いためそれは不可能。また、労力の割に、それを活かそうと考えている学生が多いわけではない。したがって、提出された答案をもとに次の授業の冒頭でフィードバックし、それを各自が自分の答案に当てはめて自己分析してもらっている。自己採点能力も重要な力である。
・学習支援システムの「掲示板」を使って常時質問を受け付けている。
・授業後課題はコロナ禍では毎回出していたが、負担の大きさに鑑みて、現在では学期中に5～6回にしている。受講者からは、大学でのレポートの書き方やデータベースの使い方が身についたと好評である。
・毎回グループ討議と発表を取り入れ、教員がフィードバックをする。学生から学びが大きいと好評。

【学生が準備すべき機器他】
・教科書は春学期の前半（5月末頃）までには入手しておくこと

【その他の重要事項】
NHK記者や、開発協力分野のNGOとして実務に関わってきた教員が、その経験を事例として取り上げながら講義やコメントをする。

【Outline (in English)】
【Course outline】
What is international cooperation from the perspectives of intercultural studies? It should covers impacts of inter-national cooperation on cultures, inter-cultural cooperation or inter-national cooperation in cultural fields. By the end of this course, students will understand those aspects of cooperation beyond the national borders and will be able to analyze them logically.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students are expected to;
1) acquire the basic knowledge on intercultural studies and international cooperation.
2) be able to analyze the issues in associating international cooperation and culture.
3) understand the key concepts of "technology and culture", "development communication", "protection of cultural heritage", "refugees" or "public diplomacy".
4) acquire and be able to apply the academic skills to write a short or term paper.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

POL200GA（政治学 / Politics 200）

平和学

松本　悟

配当年次／単位：1〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では主に国際機構に着目して平和学を学ぶ。歴史、思想、組織、制度、文化などを通して平和や暴力について考え、国際社会コースの基幹科目として、各自がより深めたい専門領域を見つけるきっかけとなることを目指す。

【到達目標】
（1）消極的平和、積極的平和、文化的平和の概念を使って実例を説明できる。
（2）国際機構の特徴と平和との関係を具体的に説明できる。
（3）基本的なアカデミックスキルと平和学で取り上げられる方法を理解し、実例に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
■基本方針：対面で実施する。学内業務などでやむを得ない場合はオンデマンド授業を行う場合もある。
■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。
■授業後課題：：2回に1回程度課す。基幹科目なのでアカデミックスキルを高
めることを目的とし、200字〜800字程度で書いてもらう。提出期限は授業日から3日以内。授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「平和」「平和学」とは何か	「平和」の概念や「平和学」の発展について考える。
2	国際機構誕生前の平和と暴力	17c以降の平和思想をふまえ、「力」による平和の賛否について考える
3	国際連盟の意義と限界	戦争を違法化し制裁によって守らせようとすることについて考える
4	国連憲章と自衛の武力	非暴力で戦争のない消極的平和を築くことができないのかを考える
5	２つの平和主義	「正しい戦争」という考え方の変遷と妥当性について考える
6	人道的介入の是非	暴力を止めるために暴力を使うことの是非について考える
7	紛争研究	解決した紛争に着目する
8	紛争解決学	紛争解決に関する学問的蓄積から平和学を学ぶ方法論を習得する。
9	積極的平和と国際開発機構（ユニセフ）	井戸掘りという「平和」的手段が暴力になる構造を考える。
10	積極的平和と国際開発機構（世界銀行）	開発協力が暴力になる構造を考える。
11	異議申し立てとオンブズマン	平和的手段が暴力にならないための仕組みについて考える。
12	文化と平和	「文化的平和」という概念を手がかりに、文化と平和（暴力）のつながりについて考える。
13	紛争と文化外交・平和教育	「何を」から「どのように」への転換と「平和」のつながりについて考える。
14	まとめ（権力と暴力）	「権力」という切り口から13回の授業を振り返り、授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後課題は、法政大学の図書館HPのデーターベース等から文献を検索して論じるなど、大学生に必要な調査と思考を促すものである。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
関連する文献を毎回の授業で示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業内討論への参加度、授業後課題）50%、期末レポート50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
・学生から提出された授業後課題の答案に対して、個々人へのフィードバックを求める声があるが、履修者が多いためそれは不可能。また、労力の割に、それを活かそうと考えている学生が多いわけではない。したがって、提出された答案をもとに次の授業の冒頭でフィードバックし、それを各自が自分の答案に当てはめて自己分析してもらっている。自己採点能力も重要な力である。
・学習支援システムの「掲示板」を使って常時質問を受け付けているが、ほとんど質問はない。
・授業後課題はコロナ禍では毎回出していたが、負担の大きさに鑑みて、現在では学期中に5〜6回にしている。受講者からは、大学でのレポートの書き方やデータベースの使い方が身についたと好評である。
・学生から学びが大きいというフィードバックが多いので、毎回グループ討議と発表、それに対する教員のコメントを引き続き行う。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
・国際開発協力ＮＧＯやＮＨＫ記者としての実務経験を有する教員が、直接関わった開発事例や取材経験を挙げながら講義する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course focuses on international organizations to explore "positive", "negative" and "cultural" peace in the Galtung's terms. It enables students to apply the Galtung's terms for explaining the conflicts and to analyze the functions of international organizations in "peace".
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) explaining the issues or events by using the concept of "positive", "negative", "cultural" peace.
2) explaining the functions of international organizations in avoiding certain type of the violence.
3) applying the basic academic skills and the analytical methods the peace studies use for actual cases of violence.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

COT100GA（計算基盤 / Computing technologies 100）

メディア情報基礎

大嶋　良明

配当年次／単位：**1〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**抽選**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
マルチメディア作品をPhotoshopとPremierで作ろう。
メディアとしてのコンピュータに着目し、文化情報の発信・加工・編集のための基本技法の習得に力点を置いて学ぶ。デジタルとは何かを読み解くことから始めながら、メディア情報の文化史、メディア情報をデジタルに扱うためのしくみと基本技法、ディジタルカメラ、スキャナ、ビデオなどメディア機器の活用法、PCを用いた簡単なマルチメディア・コンテンツの制作、HTMLとスタイルシートによるWebコンテンツの構造化とデザイン要素の取り扱いなどを学び、マルチメディアを活用した文化情報の発信・加工・編集のための基礎事項を習得するとともに、コンピュータを用いた作品実習を通じてメディアとしてのコンピュータを駆使するための実践的なスキルを修得する。

【到達目標】
PCマルチメディアの基礎知識の習得から始め、画像処理、映像制作の代表的なソフトを備えた実習設備を十分に活用しながら作品制作を行う。これにより、インターネット環境において文化情報を発信できる能力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
●講義と実習（マルチメディア対応の情報実習室）
・PhotoshopやPremiereなどのソフトに親しみ、デジカメ写真や動画などを、Webサイトやレポート、作品作りなどに活用するテクニックを身につける。
・デザインの考え方を学び自分自身の表現に活かす練習をする。
・パソコンやデジカメなどで、モノのカタチや色をデータとして扱う方法を学ぶ。
●ePortfolioによる学習成果の公開
総合的な情報公開の場として活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	メディアとは何か。メディア情報とそれを支える情報技術の文化史を学ぶ。
2	メディア情報の基礎	デジタルであるということ、メディア情報の基礎知識を学ぶ。
3	メディア情報の基礎：Web	オンラインメディアとしてのWebの特性とHTML5によるWebページの制作法を学ぶ。
4	メディア情報の基礎：静止画像	デジタル画像（静止画像）の仕組みとその特性を学ぶ。
5	制作実習Ａ：実習とWeb化の手引き	PC・周辺機器ハードウェアとメディア機器の活用方法を学ぶ。Web化のためのHTML関連事項を学習する。
6	制作実習Ａ：静止画像の作品制作	Photoshopを用いたディジタル画像の制作の基本を学ぶ。
7	制作実習Ａ：静止画像の作品制作	レイヤーを操作単位とする描画、編集、調整の技法を学ぶ。
8	メディア情報の基礎：動画像	デジタル動画像の特性と情報圧縮の仕組み、MPEG4など代表的な動画形式の特性を学ぶ。
9	制作実習Ｂ：実習とWeb化の手引き	静止画像・動画像・音楽を用いた簡単なマルチメディア・コンテンツ制作の手順と基礎知識を学ぶ。Web化のためのHTML関連事項を学習する。
10	制作実習Ｂ：映像作品の制作	Premiere(またはAviUtil, DaVinci Resolveなど)を用いたムービー制作の基礎を学ぶ。素材画像の取り込みから基本的な編集操作を実習する。
11	制作実習Ｂ：映像作品の制作	Premiere(またはAviUtil, DaVinci Resolveなど)を用いたムービー制作を実践する。エフェクトを含む映像素材の効果的な編集やテキスト、音声を配置して作品としてまとめる方法を実習する。
12	Webの表現手法	HTML5によるWebページの制作法。スタイルシート利用のメリットと実例。基礎知識と制作手順を学ぶ。
13	制作実習Ｃ：スタイルシート	HTMLとスタイルシートを用いたWebコンテンツの構造化、CSSによるWebコンテンツの制作を学び、実習する。
14	まとめ	学習内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義の復習。実習課題作品を制作し、提出する。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義初回に提示する。

【参考書】
講義において適宜提示する。マルチメディア検定ベーシック対応の参考書として、CG-ARTS協会、「入門マルチメディア[改訂新版]」、ISBN 978-4-903474-60-1を挙げる。

【成績評価の方法と基準】
期末試験(40%)、平常点(授業の参画度を含む, 30%)、授業内の課題や小テスト（実技を含む, 30%）を総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
欠席が3回を超えると期末試験を受験できないので注意しよう。期期末試験は授業内容理解の確認でもあるので未受験者には単位認定できない。なお、やむを得ない事情で未受験となった場合、代替措置の可否は担当教員ではなく必ず学部窓口にて相談ください。

【学生の意見等からの気づき】
共通シラバスに基づく共同担当科目として、各教員はそれまでのアンケート内容による気づきを共有し授業改善に役立てる。
2022年度はPC実習において処理落ちが頻発した。実習機の設定変更により問題解消に努めている。2023年度においても引き続き実習時の問題解消に努め履修者アンケートに基づきAdobe系アプリの使用感の向上に努めている。

【学生が準備すべき機器他】
画像処理、映像制作の代表的なソフトでの実習が可能な、情報実習室において授業を行う。課題提出等には学内Web環境ならびにePortfolioを活用する。

【その他の重要事項】
本科目は、例年 抽選科目となる。抽選の期間や方法など学部事務からの案内などを確認すること。
学生へのメッセージ：　マルチメディアデータを自由に編集できるようになると、コンピュータの多彩な機能の一つひとつが面白くなってくる。コンピュータが本当にパーソナルなツールとして身近に感じられる、そういう段階です。思い切りコンピュータを楽しんで欲しい。
本科目では、マルチメディアの活用実習、ならびに発見型学習を通じて**学生の就業力育成を支援する。**
実務経験のある教員による授業：
コンピューター関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターを使用したメディア発信に関する実習を行う。

【前提科目】
「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」

【Outline (in English)】
This course provides students with basic knowledge and techniques in computer multimedia and web design at the entry level. It also deals with the concept of information design. The students will work on projects on Adobe Photoshop and Adobe Premier, AviUtl and on a simple case of HTML authoring. The objective of this course is to enable students to acquire fundamental understanding in digital multimedia and information design with elementary techniques in related authoring tools.
Grading policy is as follows:
In-class contribution: 30%
Homework and in-class assignment: 30%
Final exam: 40%
Your must achieve at least 60%in the overall grade to pass for academic credit.
The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

COT100GA（計算基盤 / Computing technologies 100）

メディア情報基礎

大嶋　良明

配当年次／単位：**1〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：**抽選**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
マルチメディア作品をPhotoshopとPremierで作ろう。
メディアとしてのコンピュータに着目し、文化情報の発信・加工・編集のための基本技法の習得に力点を置いて学ぶ。デジタルとは何かを読み解くことから始めながら、メディア情報の文化史、メディア情報をデジタルに扱うためのしくみと基本技法、ディジタルカメラ、スキャナ、ビデオなどメディア機器の活用法、PCを用いた簡単なマルチメディア・コンテンツの制作、HTMLとスタイルシートによるWebコンテンツの構造化とデザイン要素の取り扱いなどを学び、マルチメディアを活用した文化情報の発信・加工・編集のための基礎事項を習得するとともに、コンピュータを用いた作品実習を通じてメディアとしてのコンピュータを駆使するための実践的なスキルを修得する。

【到達目標】
PCマルチメディアの基礎知識の習得から始め、画像処理、映像制作の代表的なソフトを備えた実習設備を十分に活用しながら作品制作を行う。これにより、インターネット環境において文化情報を発信できる能力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
●講義と実習（マルチメディア対応の情報実習室）
・PhotoshopやPremiereなどのソフトに親しみ、デジカメ写真や動画などを、Webサイトやレポート、作品作りなどに活用するテクニックを身につける。
・デザインの考え方を学び自分自身の表現に活かす練習をする。
・パソコンやデジカメなどで、モノのカタチや色をデータとして扱う方法を学ぶ。
●ePortfolioによる学習成果の公開
総合的な情報公開の場として活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	メディアとは何か。メディア情報とそれを支える情報技術の文化史を学ぶ。
2	メディア情報の基礎	デジタルであるということ、メディア情報の基礎知識を学ぶ。
3	メディア情報の基礎：Web	オンラインメディアとしてのWebの特性とHTML5によるWebページの制作法を学ぶ。
4	メディア情報の基礎：静止画像	デジタル画像（静止画像）の仕組みとその特性を学ぶ。
5	制作実習Ａ：実習とWeb化の手引き	PC・周辺機器ハードウェアとメディア機器の活用方法を学ぶ。Web化のためのHTML関連事項を学習する。
6	制作実習Ａ：静止画像の作品制作	Photoshopを用いたディジタル画像の制作の基本を学ぶ。
7	制作実習Ａ：静止画像の作品制作	レイヤーを操作単位とする描画、編集、調整の技法を学ぶ。
8	メディア情報の基礎：動画像	デジタル動画像の特性と情報圧縮の仕組み、MPEG4など代表的な動画形式の特性を学ぶ。
9	制作実習Ｂ：実習とWeb化の手引き	静止画像・動画像・音楽を用いた簡単なマルチメディア・コンテンツ制作の手順と基礎知識を学ぶ。Web化のためのHTML関連事項を学習する。
10	制作実習Ｂ：映像作品の制作	Premiere(またはAviUtil, DaVinci Resolveなど) を用いたムービー制作の基礎を学ぶ。素材画像の取り込みから基本的な編集操作を実習する。
11	制作実習Ｂ：映像作品の制作	Premiere(またはAviUtil, DaVinci Resolveなど)を用いたムービー制作を実践する。エフェクトを含む映像素材の効果的な編集やテキスト、音声を配置して作品としてまとめる方法を実習する。
12	Webの表現手法	HTML5によるWebページの制作法。スタイルシート利用のメリットと実例。基礎知識と制作手順を学ぶ。
13	制作実習Ｃ：スタイルシート	HTMLとスタイルシートを用いたWebコンテンツの構造化、CSSによるWebコンテンツの制作を学び、実習する。
14	まとめ	学習内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義の復習。実習課題作品を制作し、提出する。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義初回に提示する。

【参考書】
講義において適宜提示する。マルチメディア検定ベーシック対応の参考書として、CG-ARTS協会、「入門マルチメディア[改訂新版]」、ISBN 978-4-903474-60-1を挙げる。

【成績評価の方法と基準】
期末試験(40%)、平常点(授業の参画度を含む, 30%)、授業内の課題や小テスト（実技を含む, 30%）を総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。
欠席が 3 回を超えると期末試験を受験できないので注意しよう。期期末試験は授業内容理解の確認でもあるので未受験者には単位認定できない。なお、やむを得ない事情で未受験となった場合、代替措置の可否は担当教員ではなく必ず学部窓口にて相談ください。

【学生の意見等からの気づき】
共通シラバスに基づく共同担当科目として、各教員はそれまでのアンケート内容による気づきを共有し授業改善に役立てる。
2022年度はPC実習において処理落ちが頻発した。実習機の設定変更により問題解消に努めている。2023年度においても引き続き実習時の問題解消に努め履修者アンケートに基づきAdobe系アプリの使用感の向上に努めている。

【学生が準備すべき機器他】
画像処理、映像制作の代表的なソフトでの実習が可能な、情報実習室において授業を行う。課題提出等には学内Web環境ならびにePortfolioを活用する。

【その他の重要事項】
本科目は、例年 抽選科目となる。抽選の期間や方法など学部事務からの案内などを確認すること。
学生へのメッセージ：　マルチメディアデータを自由に編集できるようになると、コンピュータの多彩な機能の一つひとつが面白くなってくる。コンピュータが本当にパーソナルなツールとして身近に感じられる、そういう段階です。思い切りコンピュータを楽しんで欲しい。
本科目では、マルチメディアの活用実習、ならびに発見型学習を通じて**学生の就業力育成を支援する。**
実務経験のある教員による授業：
コンピューター関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターを使用したメディア発信に関する実習を行う。

【前提科目】
「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」

【Outline (in English)】
This course provides students with basic knowledge and techniques in computer multimedia and web design at the entry level. It also deals with the concept of information design. The students will work on projects on Adobe Photoshop and Adobe Premier, AviUtl and on a simple case of HTML authoring. The objective of this course is to enable students to acquire fundamental understanding in digital multimedia and information design with elementary techniques in related authoring tools.
Grading policy is as follows:
In-class contribution: 30%
Homework and in-class assignment: 30%
Final exam: 40%
Your must achieve at least 60%in the overall grade to pass for academic credit.
The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

COT100GA（計算基盤 / Computing technologies 100）

メディア情報基礎

菊池　司

配当年次／単位：**1〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**抽選**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
マルチメディア作品をPhotoshopとPremierで作ろう。
メディアとしてのコンピュータに着目し、文化情報の発信・加工・編集のための基本技法の習得に力点を置いて学ぶ。デジタルとは何かを読み解くことから始めながら、メディア情報の文化史、メディア情報をデジタルに扱うためのしくみと基本技法、ディジタルカメラ、スキャナ、ビデオなどメディア機器の活用法、PCを用いた簡単なマルチメディア・コンテンツの制作、HTMLとスタイルシートによるWebコンテンツの構造化とデザイン要素の取り扱いなどを学び、マルチメディアを活用した文化情報の発信・加工・編集のための基礎事項を習得するとともに、コンピュータを用いた作品実習を通じてメディアとしてのコンピュータを駆使するための実践的なスキルを修得する。

【到達目標】
PCマルチメディアの基礎知識の習得から始め、画像処理、映像制作の代表的なソフトを備えた実習設備を十分に活用しながら作品制作を行う。これにより、インターネット環境において文化情報を発信できる能力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
●講義と実習（マルチメディア対応の情報実習室）
・PhotoshopやPremiereなどのソフトに親しみ、デジカメ写真や動画などを、Webサイトやレポート、作品作りなどに活用するテクニックを身につける。
・デザインの考え方を学び自分自身の表現に活かす練習をする。
・パソコンやデジカメなどで、モノのカタチや色をデータとして扱う方法を学ぶ。
●ePortfolioによる学習成果の公開
総合的な情報公開の場として活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	メディアとは何か。メディア情報とそれを支える情報技術の文化史を学ぶ。
2	メディア情報の基礎	デジタルであるということ、メディア情報の基礎知識を学ぶ。
3	メディア情報の基礎：Web	オンラインメディアとしてのWebの特性とHTML5によるWebページの制作法を学ぶ。
4	メディア情報の基礎：静止画像	デジタル画像（静止画像）の仕組みとその特性を学ぶ。
5	制作実習Ａ：実習とWeb化の手引き	PC・周辺機器ハードウェアとメディア機器の活用方法を学ぶ。Web化のためのHTML関連事項を学習する。
6	制作実習Ａ：静止画像の作品制作	Photoshopを用いたディジタル画像の制作の基本を学ぶ。
7	制作実習Ａ：静止画像の作品制作	レイヤーを操作単位とする描画、編集、調整の技法を学ぶ。
8	メディア情報の基礎：動画像	デジタル動画像の特性と情報圧縮の仕組み、MPEG4など代表的な動画形式の特性を学ぶ。
9	制作実習Ｂ：実習とWeb化の手引き	静止画像・動画像・音楽を用いた簡単なマルチメディア・コンテンツ制作の手順と基礎知識を学ぶ。Web化のためのHTML関連事項を学習する。
10	制作実習Ｂ：映像作品の制作	Premiere(またはAviUtil, DaVinci Resolveなど)を用いたムービー制作の基礎を学ぶ。素材画像の取り込みから基本的な編集操作を実習する。
11	制作実習Ｂ：映像作品の制作	Premiere(またはAviUtil, DaVinci Resolveなど)を用いたムービー制作を実践する。エフェクトを含む映像素材の効果的な編集やテキスト、音声を配置して作品としてまとめる方法を実習する。
12	Webの表現手法	HTML5によるWebページの制作法。スタイルシート利用のメリットと実例。基礎知識と制作手順を学ぶ。
13	制作実習Ｃ：スタイルシート	HTMLとスタイルシートを用いたWebコンテンツの構造化、CSSによるWebコンテンツの制作を学び、実習する。
14	まとめ	学習内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義の復習。実習課題作品を制作し、提出する。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義初回に提示する。

【参考書】
講義において適宜提示する。マルチメディア検定ベーシック対応の参考書として、CG-ARTS協会、「入門マルチメディア[改訂新版]」、ISBN 978-4-903474-60-1を挙げる。

【成績評価の方法と基準】
期末試験(40%)、平常点(授業の参画度を含む, 30%)、授業内の課題や小テスト（実技を含む, 30%）を総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。
欠席が 3 回を超えると期末試験を受験できないので注意しよう。期期末試験は授業内容理解の確認でもあるので未受験者には単位認定できない。なお、やむを得ない事情で未受験となった場合、代替措置の可否は担当教員ではなく必ず学部窓口にて相談ください。

【学生の意見等からの気づき】
共通シラバスに基づく共同担当科目として、各教員はそれまでのアンケート内容による気づきを共有し授業改善に役立てる。
2022年度はPC実習において処理落ちが頻発した。実習機の設定変更により問題解消に努めている。2023年度においても引き続き実習時の問題解消に努め履修者アンケートに基づきAdobe系アプリの使用感の向上に努めている。

【学生が準備すべき機器他】
画像処理、映像制作の代表的なソフトでの実習が可能な、情報実習室において授業を行う。課題提出等には学内Web環境ならびにePortfolioを活用する。

【その他の重要事項】
本科目は、例年 抽選科目となる。抽選の期間や方法など学部事務からの案内などを確認すること。
学生へのメッセージ：　マルチメディアデータを自由に編集できるようになると、コンピュータの多彩な機能の一つひとつが面白くなってくる。コンピュータが本当にパーソナルなツールとして身近に感じられる、そういう段階です。思い切りコンピュータを楽しんで欲しい。
本科目では、マルチメディアの活用実習、ならびに発見型学習を通じて**学生の就業力育成を支援する。**
実務経験のある教員による授業：
コンピューター関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターを使用したメディア発信に関する実習を行う。

【前提科目】
「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」

【Outline (in English)】
This course provides students with basic knowledge and techniques in computer multimedia and web design at the entry level. It also deals with the concept of information design. The students will work on projects on Adobe Photoshop and Adobe Premier, AviUtl and on a simple case of HTML authoring. The objective of this course is to enable students to acquire fundamental understanding in digital multimedia and information design with elementary techniques in related authoring tools.
Grading policy is as follows:
In-class contribution: 30%
Homework and in-class assignment: 30%
Final exam: 40%
Your must achieve at least 60%in the overall grade to pass for academic credit.
The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

COT100GA（計算基盤 / Computing technologies 100）

メディア情報基礎

米倉　明男

配当年次／単位：**1〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**抽選**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
マルチメディア作品をPhotoshopとPremierで作ろう。
メディアとしてのコンピュータに着目し、文化情報の発信・加工・編集のための基本技法の習得に力点を置いて学ぶ。デジタルとは何かを読み解くことから始めながら、メディア情報の文化史、メディア情報をデジタルに扱うためのしくみと基本技法、ディジタルカメラ、スキャナ、ビデオなどメディア機器の活用法、PCを用いた簡単なマルチメディア・コンテンツの制作、HTMLとスタイルシートによるWebコンテンツの構造化とデザイン要素の取り扱いなどを学び、マルチメディアを活用した文化情報の発信・加工・編集のための基礎事項を習得するとともに、コンピュータを用いた作品実習を通じてメディアとしてのコンピュータを駆使するための実践的なスキルを修得する。

【到達目標】
PCマルチメディアの基礎知識の習得から始め、画像処理、映像制作の代表的なソフトを備えた実習設備を十分に活用しながら作品制作を行う。これにより、インターネット環境において文化情報を発信できる能力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
●講義と実習（マルチメディア対応の情報実習室）
・PhotoshopやPremiereなどのソフトに親しみ、デジカメ写真や動画などを、Webサイトやレポート、作品作りなどに活用するテクニックを身につける。
・デザインの考え方を学び自分自身の表現に活かす練習をする。
・パソコンやデジカメなどで、モノのカタチや色をデータとして扱う方法を学ぶ。
●ePortfolioによる学習成果の公開
総合的な情報公開の場として活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	メディアとは何か。メディア情報とそれを支える情報技術の文化史を学ぶ。
2	メディア情報の基礎	デジタルであるということ、メディア情報の基礎知識を学ぶ。
3	メディア情報の基礎：Web	オンラインメディアとしてのWebの特性とHTML5によるWebページの制作法を学ぶ。
4	メディア情報の基礎：静止画像	デジタル画像（静止画像）の仕組みとその特性を学ぶ。
5	制作実習Ａ：実習とWeb化の手引き	PC・周辺機器ハードウェアとメディア機器の活用方法を学ぶ。Web化のためのHTML関連事項を学習する。
6	制作実習Ａ：静止画像の作品制作	Photoshopを用いたディジタル画像の制作の基本を学ぶ。
7	制作実習Ａ：静止画像の作品制作	レイヤーを操作単位とする描画、編集、調整の技法を学ぶ。
8	メディア情報の基礎：動画像	デジタル動画像の特性と情報圧縮の仕組み、MPEG4など代表的な動画形式の特性を学ぶ。
9	制作実習Ｂ：実習とWeb化の手引き	静止画像・動画像・音楽を用いた簡単なマルチメディア・コンテンツ制作の手順と基礎知識を学ぶ。Web化のためのHTML関連事項を学習する。
10	制作実習Ｂ：映像作品の制作	Premiere(またはAviUtil, DaVinci Resolveなど)を用いたムービー制作の基礎を学ぶ。素材画像の取り込みから基本的な編集操作を実習する。
11	制作実習Ｂ：映像作品の制作	Premiere(またはAviUtil, DaVinci Resolveなど)を用いたムービー制作を実践する。エフェクトを含む映像素材の効果的な編集やテキスト、音声を配置して作品としてまとめる方法を実習する。
12	Webの表現手法	HTML5によるWebページの制作法。スタイルシート利用のメリットと実例。基礎知識と制作手順を学ぶ。
13	制作実習Ｃ：スタイルシート	HTMLとスタイルシートを用いたWebコンテンツの構造化、CSSによるWebコンテンツの制作を学び、実習する。
14	まとめ	学習内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義の復習。実習課題作品を制作し、提出する。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義初回に提示する。

【参考書】
講義において適宜提示する。マルチメディア検定ベーシック対応の参考書として、CG-ARTS協会、「入門マルチメディア[改訂新版]」、ISBN 978-4-903474-60-1を挙げる。

【成績評価の方法と基準】
期末試験(40%)、平常点(授業の参画度を含む, 30%)、授業内の課題や小テスト（実技を含む, 30%）を総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
欠席が3回を超えると期末試験を受験できないので注意しよう。期期末試験は授業内容理解の確認でもあるので未受験者には単位認定できない。なお、やむを得ない事情で未受験となった場合、代替措置の可否は担当教員ではなく必ず学部窓口にて相談ください。

【学生の意見等からの気づき】
共通シラバスに基づく共同担当科目として、各教員はそれまでのアンケート内容による気づきを共有し授業改善に役立てる。
2022年度はPC実習において処理落ちが頻発した。実習機の設定変更により問題解消に努めている。2023年度においても引き続き実習時の問題解消に努め履修者アンケートに基づきAdobe系アプリの使用感の向上に努めている。

【学生が準備すべき機器他】
画像処理、映像制作の代表的なソフトでの実習が可能な、情報実習室において授業を行う。課題提出等には学内Web環境ならびにePortfolioを活用する。

【その他の重要事項】
本科目は、例年 抽選科目となる。抽選の期間や方法など学部事務からの案内などを確認すること。
学生へのメッセージ：　マルチメディアデータを自由に編集できるようになると、コンピュータの多彩な機能の一つひとつが面白くなってくる。コンピュータが本当にパーソナルなツールとして身近に感じられる、そういう段階です。思い切りコンピュータを楽しんで欲しい。
本科目では、マルチメディアの活用実習、ならびに発見型学習を通じて**学生の就業力育成を支援する。**
実務経験のある教員による授業：
コンピューター関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターを使用したメディア発信に関する実習を行う。

【前提科目】
「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」

【Outline (in English)】
This course provides students with basic knowledge and techniques in computer multimedia and web design at the entry level. It also deals with the concept of information design. The students will work on projects on Adobe Photoshop and Adobe Premier, AviUtl and on a simple case of HTML authoring. The objective of this course is to enable students to acquire fundamental understanding in digital multimedia and information design with elementary techniques in related authoring tools.
Grading policy is as follows:
In-class contribution: 30%
Homework and in-class assignment: 30%
Final exam: 40%
Your must achieve at least 60%in the overall grade to pass for academic credit.
The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

COT100GA（計算基盤 / Computing technologies 100）

メディア情報基礎

菊池　司

配当年次／単位：**1〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**抽選**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
マルチメディア作品をPhotoshopとPremierで作ろう。
メディアとしてのコンピュータに着目し、文化情報の発信・加工・編集のための基本技法の習得に力点を置いて学ぶ。デジタルとは何かを読み解くことから始めながら、メディア情報の文化史、メディア情報をデジタルに扱うためのしくみと基本技法、ディジタルカメラ、スキャナ、ビデオなどメディア機器の活用法、PCを用いた簡単なマルチメディア・コンテンツの制作、HTMLとスタイルシートによるWebコンテンツの構造化とデザイン要素の取り扱いなどを学び、マルチメディアを活用した文化情報の発信・加工・編集のための基礎事項を習得するとともに、コンピュータを用いた作品実習を通じてメディアとしてのコンピュータを駆使するための実践的なスキルを修得する。

【到達目標】
PCマルチメディアの基礎知識の習得から始め、画像処理、映像制作の代表的なソフトを備えた実習設備を十分に活用しながら作品制作を行う。これにより、インターネット環境において文化情報を発信できる能力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
●講義と実習（マルチメディア対応の情報実習室）
・PhotoshopやPremiereなどのソフトに親しみ、デジカメ写真や動画などを、Webサイトやレポート、作品作りなどに活用するテクニックを身につける。
・デザインの考え方を学び自分自身の表現に活かす練習をする。
・パソコンやデジカメなどで、モノのカタチや色をデータとして扱う方法を学ぶ。
●ePortfolioによる学習成果の公開
総合的な情報公開の場として活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	メディアとは何か。メディア情報とそれを支える情報技術の文化史を学ぶ。
2	メディア情報の基礎	デジタルであるということ、メディア情報の基礎知識を学ぶ。
3	メディア情報の基礎：Web	オンラインメディアとしてのWebの特性とHTML5によるWebページの制作法を学ぶ。
4	メディア情報の基礎：静止画像	デジタル画像（静止画像）の仕組みとその特性を学ぶ。
5	制作実習Ａ：実習とWeb化の手引き	PC・周辺機器ハードウェアとメディア機器の活用方法を学ぶ。Web化のためのHTML関連事項を学習する。
6	制作実習Ａ：静止画像の作品制作	Photoshopを用いたディジタル画像の制作の基本を学ぶ。
7	制作実習Ａ：静止画像の作品制作	レイヤーを操作単位とする描画、編集、調整の技法を学ぶ。
8	メディア情報の基礎：動画像	デジタル動画像の特性と情報圧縮の仕組み、MPEG4など代表的な動画形式の特性を学ぶ。
9	制作実習Ｂ：実習とWeb化の手引き	静止画像・動画像・音楽を用いた簡単なマルチメディア・コンテンツ制作の手順と基礎知識を学ぶ。Web化のためのHTML関連事項を学習する。
10	制作実習Ｂ：映像作品の制作	Premiere(またはAviUtil, DaVinci Resolveなど)を用いたムービー制作の基礎を学ぶ。素材画像の取り込みから基本的な編集操作を実習する。
11	制作実習Ｂ：映像作品の制作	Premiere(またはAviUtil, DaVinci Resolveなど)を用いたムービー制作を実践する。エフェクトを含む映像素材の効果的な編集やテキスト、音声を配置して作品としてまとめる方法を実習する。
12	Webの表現手法	HTML5によるWebページの制作法。スタイルシート利用のメリットと実例。基礎知識と制作手順を学ぶ。
13	制作実習Ｃ：スタイルシート	HTMLとスタイルシートを用いたWebコンテンツの構造化、CSSによるWebコンテンツの制作を学び、実習する。
14	まとめ	学習内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義の復習。実習課題作品を制作し、提出する。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義初回に提示する。

【参考書】
講義において適宜提示する。マルチメディア検定ベーシック対応の参考書として、CG-ARTS協会、「入門マルチメディア[改訂新版]」、ISBN 978-4-903474-60-1を挙げる。

【成績評価の方法と基準】
期末試験(40%)、平常点(授業の参画度を含む, 30%)、授業内の課題や小テスト（実技を含む, 30%）を総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
欠席が3回を超えると期末試験を受験できないので注意しよう。期期末試験は授業内容理解の確認でもあるので未受験者には単位認定できない。なお、やむを得ない事情で未受験となった場合、代替措置の可否は担当教員ではなく必ず学部窓口にて相談ください。

【学生の意見等からの気づき】
共通シラバスに基づく共同担当科目として、各教員はそれまでのアンケート内容による気づきを共有し授業改善に役立てる。
2022年度はPC実習において処理落ちが頻発した。実習機の設定変更により問題解消に努めている。2023年度においても引き続き実習時の問題解消に努め履修者アンケートに基づきAdobe系アプリの使用感の向上に努めている。

【学生が準備すべき機器他】
画像処理、映像制作の代表的なソフトでの実習が可能な、情報実習室において授業を行う。課題提出等には学内Web環境ならびにePortfolioを活用する。

【その他の重要事項】
本科目は、例年 抽選科目となる。抽選の期間や方法など学部事務からの案内などを確認すること。
学生へのメッセージ：　マルチメディアデータを自由に編集できるようになると、コンピュータの多彩な機能の一つひとつが面白くなってくる。コンピュータが本当にパーソナルなツールとして身近に感じられる、そういう段階です。思い切りコンピュータを楽しんで欲しい。
本科目では、マルチメディアの活用実習、ならびに発見型学習を通じて**学生の就業力育成を支援する。**
実務経験のある教員による授業：
コンピューター関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターを使用したメディア発信に関する実習を行う。

【前提科目】
「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」

【Outline (in English)】
This course provides students with basic knowledge and techniques in computer multimedia and web design at the entry level. It also deals with the concept of information design. The students will work on projects on Adobe Photoshop and Adobe Premier, AviUtl and on a simple case of HTML authoring. The objective of this course is to enable students to acquire fundamental understanding in digital multimedia and information design with elementary techniques in related authoring tools.
Grading policy is as follows:
In-class contribution: 30%
Homework and in-class assignment: 30%
Final exam: 40%
Your must achieve at least 60%in the overall grade to pass for academic credit.
The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

COT100GA（計算基盤 / Computing technologies 100）

メディア情報基礎

菊池　司

配当年次／単位：**1〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**抽選**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
マルチメディア作品をPhotoshopとPremierで作ろう。
メディアとしてのコンピュータに着目し、文化情報の発信・加工・編集のための基本技法の習得に力点を置いて学ぶ。デジタルとは何かを読み解くことから始めながら、メディア情報の文化史、メディア情報をデジタルに扱うためのしくみと基本技法、ディジタルカメラ、スキャナ、ビデオなどメディア機器の活用法、PCを用いた簡単なマルチメディア・コンテンツの制作、HTMLとスタイルシートによるWebコンテンツの構造化とデザイン要素の取り扱いなどを学び、マルチメディアを活用した文化情報の発信・加工・編集のための基礎事項を習得するとともに、コンピュータを用いた作品実習を通じてメディアとしてのコンピュータを駆使するための実践的なスキルを修得する。

【到達目標】
PCマルチメディアの基礎知識の習得から始め、画像処理、映像制作の代表的なソフトを備えた実習設備を十分に活用しながら作品制作を行う。これにより、インターネット環境において文化情報を発信できる能力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
●講義と実習（マルチメディア対応の情報実習室）
・PhotoshopやPremiereなどのソフトに親しみ、デジカメ写真や動画などを、Webサイトやレポート、作品作りなどに活用するテクニックを身につける。
・デザインの考え方を学び自分自身の表現に活かす練習をする。
・パソコンやデジカメなどで、モノのカタチや色をデータとして扱う方法を学ぶ。
●ePortfolioによる学習成果の公開
総合的な情報公開の場として活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	メディアとは何か。メディア情報とそれを支える情報技術の文化史を学ぶ。
2	メディア情報の基礎	デジタルであるということ、メディア情報の基礎知識を学ぶ。
3	メディア情報の基礎：Web	オンラインメディアとしてのWebの特性とHTML5によるWebページの制作法を学ぶ。
4	メディア情報の基礎：静止画像	デジタル画像（静止画像）の仕組みとその特性を学ぶ。
5	制作実習Ａ：実習とWeb化の手引き	PC・周辺機器ハードウェアとメディア機器の活用方法を学ぶ。Web化のためのHTML関連事項を学習する。
6	制作実習Ａ：静止画像の作品制作	Photoshopを用いたディジタル画像の制作の基本を学ぶ。
7	制作実習Ａ：静止画像の作品制作	レイヤーを操作単位とする描画、編集、調整の技法を学ぶ。
8	メディア情報の基礎：動画像	デジタル動画像の特性と情報圧縮の仕組み、MPEG4など代表的な動画形式の特性を学ぶ。
9	制作実習Ｂ：実習とWeb化の手引き	静止画像・動画像・音楽を用いた簡単なマルチメディア・コンテンツ制作の手順と基礎知識を学ぶ。Web化のためのHTML関連事項を学習する。
10	制作実習Ｂ：映像作品の制作	Premiere(またはAviUtil, DaVinci Resolveなど)を用いたムービー制作の基礎を学ぶ。素材画像の取り込みから基本的な編集操作を実習する。
11	制作実習Ｂ：映像作品の制作	Premiere(またはAviUtil, DaVinci Resolveなど)を用いたムービー制作を実践する。エフェクトを含む映像素材の効果的な編集やテキスト、音声を配置して作品としてまとめる方法を実習する。
12	Webの表現手法	HTML5によるWebページの制作法。スタイルシート利用のメリットと実例。基礎知識と制作手順を学ぶ。
13	制作実習Ｃ：スタイルシート	HTMLとスタイルシートを用いたWebコンテンツの構造化、CSSによるWebコンテンツの制作を学び、実習する。
14	まとめ	学習内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義の復習。実習課題作品を制作し、提出する。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義初回に提示する。

【参考書】
講義において適宜提示する。マルチメディア検定ベーシック対応の参考書として、CG-ARTS協会、「入門マルチメディア[改訂新版]」、ISBN 978-4-903474-60-1を挙げる。

【成績評価の方法と基準】
期末試験(40%)、平常点(授業の参画度を含む, 30%)、授業内の課題や小テスト（実技を含む, 30%）を総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。
欠席が 3 回を超えると期末試験を受験できないので注意しよう。期期末試験は授業内容理解の確認でもあるので未受験者には単位認定できない。なお、やむを得ない事情で未受験となった場合、代替措置の可否は担当教員ではなく必ず学部窓口にて相談ください。

【学生の意見等からの気づき】
共通シラバスに基づく共同担当科目として、各教員はそれまでのアンケート内容による気づきを共有し授業改善に役立てる。
2022年度はPC実習において処理落ちが頻発した。実習機の設定変更により問題解消に努めている。2023年度においても引き続き実習時の問題解消に努め履修者アンケートに基づきAdobe系アプリの使用感の向上に努めている。

【学生が準備すべき機器他】
画像処理、映像制作の代表的なソフトでの実習が可能な、情報実習室において授業を行う。課題提出等には学内Web環境ならびにePortfolioを活用する。

【その他の重要事項】
本科目は、例年 抽選科目となる。抽選の期間や方法など学部事務からの案内などを確認すること。
学生へのメッセージ：　マルチメディアデータを自由に編集できるようになると、コンピュータの多彩な機能の一つひとつが面白くなってくる。コンピュータが本当にパーソナルなツールとして身近に感じられる、そういう段階です。思い切りコンピュータを楽しんで欲しい。
本科目では、マルチメディアの活用実習、ならびに発見型学習を通じて**学生の就業力育成を支援する。**
実務経験のある教員による授業：
コンピューター関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターを使用したメディア発信に関する実習を行う。

【前提科目】
「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」

【Outline (in English)】
This course provides students with basic knowledge and techniques in computer multimedia and web design at the entry level. It also deals with the concept of information design. The students will work on projects on Adobe Photoshop and Adobe Premier, AviUtl and on a simple case of HTML authoring. The objective of this course is to enable students to acquire fundamental understanding in digital multimedia and information design with elementary techniques in related authoring tools.
Grading policy is as follows:
In-class contribution: 30%
Homework and in-class assignment: 30%
Final exam: 40%
Your must achieve at least 60%in the overall grade to pass for academic credit.
The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

COT200GA（計算基盤 / Computing technologies 200）

ネットワーク基礎

大嶋　良明

配当年次／単位：2〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**抽選**
備考（履修条件等）：

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界中どこでもInternetで安全確実にコミュニケーションできるようになろう
コンピュータとネットワークをコミュニケーションの基盤ととらえ、ネットワークとコンピュータを用いた共同作業やインターネットにおける情報交換・情報共有の仕組みを、WWW、メール、ビデオ会議、グループウェアなど先端的コミュニケーションツールの基本概念とその実現例を通して学ぶ。世界中どこに行っても安全確実にコミュニケーションできる知識とスキルを修得する。

【到達目標】
インターネットの通信とサービスの仕組みの基礎知識を習得しビデオ会議やソーシャルメディアなどインターネット環境での情報サービスの活用法を学び、同時に正しい使いこなしのためのセキュリティ知識を身に着ける。海外でのインターネットの利用とePortfolio活用のスキルを身につけ、学外での学習記録や在外帰国報告のための活用法と有効性を理解する。本科目の履修とリテラシ関連科目での既習知識を総合することで、ITパスポート等にむけての知識習得を目指し、さらに関連の上位科目に結びつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
情報実習室にて講義および実習を行う。
履修予定者は、必ず初回授業日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加、または初回授業資料を当日確認すること。
課題等の提出・フィードバックは、基本的には学習支援システム(hoppii)を通じて行うが、補助的にGoogle Classroom等も用いる場合もある。
授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。
●講義と実習（マルチメディア対応の情報実習室）
インターネットをいつでもどこでも（学外やSAなどで）安全確実に使いこなすために、ビデオ会議、動画配信、ソーシャルWebなど最新のサービス、アプリケーションを実習し、同時にセキュリティやネットワークの仕組みを学ぶ。
●ePortfolioによる学習成果の公開
総合的な情報公開の場として活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コンピュータ、ネットワーク、コミュニケーション	ネットワークの基礎概念と、相互接続することの利点を学ぶ。
2	インターネットの設計思想	ネットワークの接続形態、サーバ・クライアントモデル、LAN、WAN、伝送制御などを理解する。
3	インターネットの構成要素：名前、アドレス、経路制御とDNS	インターネットの構成要素であるドメイン名、IPアドレス、ルーティングを理解する。通信データのパケット化とアドレスの仕組みと経路制御の概念、ドメインの階層化による名前管理の方法、経路制御、DNSによる名前解決の概念を学ぶ。
4	インターネットの実習：ネットワークコマンド、無線LAN	ネットワークコマンド(ping, ipconfig, traceroute, nslookupなど)を活用する。無線LANでのネットワーク接続を実習する。
5	インターネットの仕組み（1）：通信プロトコル、TCP/IP	通信プロトコルの基礎概念と実装の階層化を理解しTCP/IPおよびUDP/IPの概念と設計思想を学ぶ。
6	インターネットの仕組み（2）：ネットワークの設計原理	プロトコル階層化について、さらに深く学ぶ。OSIの参照モデルとTCP/IPの各層との関係を理解する。パケットの送受信とサービスポートの関係について理解する。
7	電子メール（1）：電子メールの仕組み、メールサーバ、ドメイン、プロトコル	電子メールの概念とサービスの仕組みを学ぶ。メールアカウントとドメインの関係を学ぶ。メールサーバとメール送信、転送、受信の仕組みを理解する。
8	電子メール（2）：メールデータの構造	電子メールについてヘッダとメッセージデータの構造を理解する。ヘッダの各項目の機能を理解する。メッセージの文字コードと多言語の扱いを学ぶ。添付ファイルの構造とマルチメディアデータのMIME符号化を学ぶ。
9	Webサービス（1）：HTML文書の交換とWebサーバ	HTML文書の設計とその構成法を理解する。Webサーバの基本動作を理解する。HTTPプロトコルの主な特徴を学ぶ。
10	Webサービス（2）：ハイパーテキストデータ	Webコンテンツ(HTTPデータ)についてヘッダとデータの構造を理解する。ヘッダの各項目の機能を理解する。コンテンツの文字コードと多言語の扱いを学ぶ。MIMEデータとプラグイン、ヘルパーアプリケーションの仕組みを理解する。
11	ファイル転送・共有（FTP、SCP）	ファイルサーバの動作を理解する。サービスとしてのFTPとSCPを理解する。アップロード、ダウンロード、ファイル共有とフォルダの関係を理解する。
12	動画・音声の配信：ビデオ会議とストリーミング	TCPとUDPの違いを理解する。ダウンロード配信とオンデマンド配信の違いを理解する。リアルタイムマルチメディアを実習する。
13	データ保護、認証、暗号化	SSL暗号化の概念を学ぶ。HTTPSやWinSCPなどセキュアなプロトコルを用いたサービス利用を理解する。
14	ネットワーク利用のセキュリティ	ネチケット、パスワード管理、ウィルス対策を理解しセキュリティ意識を身に着ける。ネットワーク犯罪の深刻さを理解する。SPAM、 ボット、フィッシングについて学ぶ。機密保持、プライバシー保護、著作権尊重の重要性を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本科目の学習内容、特にネットワーク接続や各種オンライン情報サービスの実習は現実のオンライン社会での応用力養成が何よりも大事である。学内ネットワークでの実習だけでなく、学外のインターネット環境でも検証を行い、SAなど在外環境でもネットワークが適切に活用できるよう十分に課外実習することにより学習効果が上がる。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
有賀妙子,大谷俊郎,吉田智子(著)『改訂新版 インターネット講座: ネットワークリテラシーを身につける』、北大路書房（2014）、ISBN:978-4-7628-2830-0

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験(40%)、平常点(授業の参画度を含む, 30%)、授業内の課題や小テスト（実技を含む, 30%）を総合的に評価する。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
欠席が3回を超えると期末試験を受験できないので注意しよう。期末試験は授業内容理解の確認でもあるので未受験者には単位認定できない。なお、やむを得ない事情で未受験となった場合、代替措置の可否は担当教員ではなく必ず学部窓口にて相談ください。

【学生の意見等からの気づき】
共通シラバスによる共同担当科目として、各教員はそれぞれのアンケートよりの気づきをお互いに共有し、よりよい授業運営に努める。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室にて授業を行う。特にSAなどキャンパス外でのネットワーク接続とさまざまな活用方法についても実際の利用シナリオを意識した実習をおこなう。実習においては情報実習室に固定設置したPCのみならず、学生個人が利用するノートPCや携帯端末、情報センターの貸出ノートPCなどさまざまなICT機器を活用する。
オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的にはWindowsでもmacOSでも構わないが、 CUIコマンドによる基本的なファイル操作ができる環境（コマンドプロンプト、ターミナルなどの各種shellが利用できる環境）を前提としている。
授業の解説や補足にはZoomあるいはWebexを用いる場合がある。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。
授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】
本科目は、例年 抽選科目となる。抽選の期間や方法など学部事務からの案内などを確認すること。
本科目では、Webを基盤とするICTの実習、ならびに発見型学習を通じて**学生の就業力育成を支援する。**

【資格を目指す人のために】本科目の学習内容は、職業人に共通に求められる知識を問うITパスポート試験（スキルレベル１）のテクノロジ系に密接に関連する。
実務経験のある教員による授業：
コンピューター関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターやネットワークに関する実習を行う。

【前提科目】
前提科目：　「情報リテラシーⅠ」「情報リテラシーⅡ」
関連科目：　基幹科目「システム論」、「ディジタル情報学概論」

【Outline (in English)】
This course deals with the concept of inter-networking, network computing, and fundamentals in hierarchical design and operating principles of the Internet and its TCP/IP protocol. It provides with user level knowledge for well-known information services including email, web, and other services such as streaming, video chat and ePortfolio. It also covers contemporary issues on network security and WiFi. The objective of this course is to enable all students to fully use network computing in a comfortable and safe manner in studying abroad environment.
Grading policy is as follows:
In-class contribution: 30%
Homework and in-class assignment: 30%
Final exam: 40%
Your must achieve at least 60%in the overall grade to pass for academic credit.
The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

COT200GA（計算基盤 / Computing technologies 200）

ネットワーク基礎

大嶋　良明

配当年次／単位：2〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**抽選**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界中どこでもInternetで安全確実にコミュニケーションできるようになろう
コンピュータとネットワークをコミュニケーションの基盤ととらえ、ネットワークとコンピュータを用いた共同作業やインターネットにおける情報交換・情報共有の仕組みを、WWW、メール、ビデオ会議、グループウェアなど先端的コミュニケーションツールの基本概念とその実現例を通して学ぶ。世界中どこに行っても安全確実にコミュニケーションできる知識とスキルを修得する。

【到達目標】
インターネットの通信とサービスの仕組みの基礎知識を習得しビデオ会議やソーシャルメディアなどインターネット環境での情報サービスの活用法を学び、同時に正しい使いこなしのためのセキュリティ知識を身に着ける。海外でのインターネットの利用とePortfolio活用のスキルを身につけ、学外での学習記録や在外帰国報告のための活用法と有効性を理解する。本科目の履修とリテラシ関連科目での既習知識を総合することで、ITパスポート等にむけての知識習得を目指し、さらに関連の上位科目に結びつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
情報実習室にて講義および実習を行う。
履修予定者は、必ず初回授業日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加、または初回授業資料を当日確認すること。
課題等の提出・フィードバックは、基本的には学習支援システム(hoppii)を通じて行うが、補助的にGoogle Classroom等も用いる場合もある。
授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。
●講義と実習（マルチメディア対応の情報実習室）
インターネットをいつでもどこでも（学外やSAなどで）安全確実に使いこなすために、ビデオ会議、動画配信、ソーシャルWebなど最新のサービス、アプリケーションを実習し、同時にセキュリティやネットワークの仕組みを学ぶ。
●ePortfolioによる学習成果の公開
総合的な情報公開の場として活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コンピュータ、ネットワーク、コミュニケーション	ネットワークの基礎概念と、相互接続することの利点を学ぶ。
2	インターネットの設計思想	ネットワークの接続形態、サーバ・クライアントモデル、LAN、WAN、伝送制御などを理解する。
3	インターネットの構成要素：名前、アドレス、経路制御とDNS	インターネットの構成要素であるドメイン名、IPアドレス、ルーティングを理解する。通信データのパケット化とアドレスの仕組みと経路制御の概念、ドメインの階層化による名前管理の方法、経路制御、DNSによる名前解決の概念を学ぶ。
4	インターネットの実習：ネットワークコマンド、無線LAN	ネットワークコマンド(ping, ipconfig, traceroute, nslookupなど)を活用する。無線LANでのネットワーク接続を実習する。
5	インターネットの仕組み（1）：通信プロトコル、TCP/IP	通信プロトコルの基礎概念と実装の階層化を理解しTCP/IPおよびUDP/IPの概念と設計思想を学ぶ。
6	インターネットの仕組み（2）：ネットワークの設計原理	プロトコル階層化について、さらに深く学ぶ。OSIの参照モデルとTCP/IPの各層との関係を理解する。パケットの送受信とサービスポートの関係について理解する。
7	電子メール（1）：電子メールの仕組み、メールサーバ、ドメイン、プロトコル	電子メールの概念とサービスの仕組みを学ぶ。メールアカウントとドメインの関係を学ぶ。メールサーバとメール送信、転送、受信の仕組みを理解する。
8	電子メール（2）：メールデータの構造	電子メールについてヘッダとメッセージデータの構造を理解する。ヘッダの各項目の機能を理解する。メッセージの文字コードと多言語の扱いを学ぶ。添付ファイルの構造とマルチメディアデータのMIME符号化を学ぶ。
9	Webサービス（1）：HTML文書の交換とWebサーバ	HTML文書の設計とその構成法を理解する。Webサーバの基本動作を理解する。HTTPプロトコルの主な特徴を学ぶ。
10	Webサービス（2）：ハイパーテキストデータ	Webコンテンツ(HTTPデータ)についてヘッダとデータの構造を理解する。ヘッダの各項目の機能を理解する。コンテンツの文字コードと多言語の扱いを学ぶ。MIMEデータとプラグイン、ヘルパーアプリケーションの仕組みを理解する。
11	ファイル転送・共有（FTP、SCP）	ファイルサーバの動作を理解する。サービスとしてのFTPとSCPを理解する。アップロード、ダウンロード、ファイル共有とフォルダの関係を理解する。
12	動画・音声の配信：ビデオ会議とストリーミング	TCPとUDPの違いを理解する。ダウンロード配信とオンデマンド配信の違いを理解する。リアルタイムマルチメディアを実習する。
13	データ保護、認証、暗号化	SSL暗号化の概念を学ぶ。HTTPSやWinSCPなどセキュアなプロトコルを用いたサービス利用を理解する。
14	ネットワーク利用のセキュリティ	ネチケット、パスワード管理、ウィルス対策を理解しセキュリティ意識を身に着ける。ネットワーク犯罪の深刻さを理解する。SPAM、ボット、フィッシングについて学ぶ。機密保持、プライバシー保護、著作権尊重の重要性を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本科目の学習内容、特にネットワーク接続や各種オンライン情報サービスの実習は現実のオンライン社会での応用力養成が何よりも大事である。学内ネットワークでの実習だけでなく、学外のインターネット環境でも検証を行い、SAなど在外環境でもネットワークが適切に活用できるよう十分に課外実習することにより学習効果が上がる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
有賀妙子,大谷俊郎,吉田智子(著)『改訂新版 インターネット講座: ネットワークリテラシーを身につける』、北大路書房（2014）、ISBN:978-4-7628-2830-0

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験(40%)、平常点(授業の参画度を含む, 30%)、授業内の課題や小テスト（実技を含む, 30%）を総合的に評価する。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
欠席が3回を超えると期末試験を受験できないので注意しよう。期末試験は授業内容理解の確認でもあるので未受験者には単位認定できない。なお、やむを得ない事情で未受験となった場合、代替措置の可否は担当教員ではなく必ず学部窓口にて相談ください。

【学生の意見等からの気づき】
共通シラバスによる共同担当科目として、各教員はそれぞれのアンケートよりの気づきをお互いに共有し、よりよい授業運営に努める。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室にて授業を行う。特にSAなどキャンパス外でのネットワーク接続とさまざまな活用方法についても実際の利用シナリオを意識した実習をおこなう。実習においては情報実習室に固定設置したPCのみならず、学生個人が利用するノートPCや携帯端末、情報センターの貸出ノートPCなどさまざまなICT機器を活用する。
オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的にはWindowsでもmacOSでも構わないが、CUIコマンドによる基本的なファイル操作ができる環境（コマンドプロンプト、ターミナルなどの各種shellが利用できる環境）を前提としている。
授業の解説や補足にはZoomあるいはWebexを用いる場合がある。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。
授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】
本科目は、例年 抽選科目となる。抽選の期間や方法など学部事務からの案内などを確認すること。
本科目では、Webを基盤とするICTの実習、ならびに発見型学習を通じて**学生の就業力育成を支援する。**

【資格を目指す人のために】本科目の学習内容は、職業人に共通に求められる知識を問うITパスポート試験（スキルレベル１）のテクノロジ系に密接に関連する。
実務経験のある教員による授業：
コンピューター関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターやネットワークに関する実習を行う。

【前提科目】
前提科目：　「情報リテラシーⅠ」「情報リテラシーⅡ」
関連科目：　基幹科目「システム論」、「ディジタル情報学概論」

【Outline (in English)】
This course deals with the concept of inter-networking, network computing, and fundamentals in hierarchical design and operating principles of the Internet and its TCP/IP protocol. It provides with user level knowledge for well-known information services including email, web, and other services such as streaming, video chat and ePortfolio. It also covers contemporary issues on network security and WiFi. The objective of this course is to enable all students to fully use network computing in a comfortable and safe manner in studying abroad environment.
Grading policy is as follows:
In-class contribution: 30%
Homework and in-class assignment: 30%
Final exam: 40%
Your must achieve at least 60%in the overall grade to pass for academic credit.
The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

COT200GA（計算基盤 / Computing technologies 200）

ネットワーク基礎

和泉　順子

配当年次／単位：**2〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**抽選**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界中どこでもInternetで安全確実にコミュニケーションできるようになろう
コンピュータとネットワークをコミュニケーションの基盤ととらえ、ネットワークとコンピュータを用いた共同作業やインターネットにおける情報交換・情報共有の仕組みを、WWW、メール、ビデオ会議、グループウェアなど先端的コミュニケーションツールの基本概念とその実現例を通して学ぶ。世界中どこに行っても安全確実にコミュニケーションできる知識とスキルを修得する。

【到達目標】
インターネットの通信とサービスの仕組みの基礎知識を習得しビデオ会議やソーシャルメディアなどインターネット環境での情報サービスの活用法を学び、同時に正しい使いこなしのためのセキュリティ知識を身に着ける。海外でのインターネットの利用とePortfolio活用のスキルを身につけ、学外での学習記録や在外帰国報告のための活用法と有効性を理解する。本科目の履修とリテラシ関連科目での既習知識を総合することで、ITパスポート等にむけての知識習得を目指し、さらに関連の上位科目に結びつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
情報実習室にて講義および実習を行う。
履修予定者は、必ず初回授業日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加、または初回授業資料を当日確認すること。
課題等の提出・フィードバックは、基本的には学習支援システム(hoppii)を通じて行うが、補助的にGoogle Classroom等も用いる場合もある。
授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。
●講義と実習（マルチメディア対応の情報実習室）
インターネットをいつでもどこでも（学外やSAなどで）安全確実に使いこなすために、ビデオ会議、動画配信、ソーシャルWebなど最新のサービス、アプリケーションを実習し、同時にセキュリティやネットワークの仕組みを学ぶ。
●ePortfolioによる学習成果の公開
総合的な情報公開の場として活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コンピュータ、ネットワーク、コミュニケーション	ネットワークの基礎概念と、相互接続することの利点を学ぶ。
2	インターネットの設計思想	ネットワークの接続形態、サーバ・クライアントモデル、LAN、WAN、伝送制御などを理解する。
3	インターネットの構成要素：名前、アドレス、経路制御とDNS	インターネットの構成要素であるドメイン名、IPアドレス、ルーティングを理解する。通信データのパケット化とアドレスの仕組みと経路制御の概念、ドメインの階層化による名前管理の方法、経路制御、DNSによる名前解決の概念を学ぶ。
4	インターネットの実習：ネットワークコマンド、無線LAN	ネットワークコマンド(ping, ipconfig, traceroute, nslookupなど)を活用する。無線LANでのネットワーク接続を実習する。
5	インターネットの仕組み（1）：通信プロトコル、TCP/IP	通信プロトコルの基礎概念と実装の階層化を理解しTCP/IPおよびUDP/IPの概念と設計思想を学ぶ。
6	インターネットの仕組み（2）：ネットワークの設計原理	プロトコル階層化について、さらに深く学ぶ。OSIの参照モデルとTCP/IPの各層との関係を理解する。パケットの送受信とサービスポートの関係について理解する。
7	電子メール（1）：電子メールの仕組み、メールサーバ、ドメイン、プロトコル	電子メールの概念とサービスの仕組みを学ぶ。メールアカウントとドメインの関係を学ぶ。メールサーバとメール送信、転送、受信の仕組みを理解する。
8	電子メール（2）：メールデータの構造	電子メールについてヘッダとメッセージデータの構造を理解する。ヘッダの各項目の機能を理解する。メッセージの文字コードと多言語の扱いを学ぶ。添付ファイルの構造とマルチメディアデータのMIME符号化を学ぶ。
9	Webサービス（1）：HTML文書の交換とWebサーバ	HTML文書の設計とその構成法を理解する。Webサーバの基本動作を理解する。HTTPプロトコルの主な特徴を学ぶ。
10	Webサービス（2）：ハイパーテキストデータ	Webコンテンツ(HTTPデータ)についてヘッダとデータの構造を理解する。ヘッダの各項目の機能を理解する。コンテンツの文字コードと多言語の扱いを学ぶ。MIMEデータとプラグイン、ヘルパーアプリケーションの仕組みを理解する。
11	ファイル転送・共有（FTP、SCP）	ファイルサーバの動作を理解する。サービスとしてのFTPとSCPを理解する。アップロード、ダウンロード、ファイル共有とフォルダの関係を理解する。
12	動画・音声の配信：ビデオ会議とストリーミング	TCPとUDPの違いを理解する。ダウンロード配信とオンデマンド配信の違いを理解する。リアルタイムマルチメディアを実習する。
13	データ保護、認証、暗号化	SSL暗号化の概念を学ぶ。HTTPSやWinSCPなどセキュアなプロトコルを用いたサービス利用を理解する。
14	ネットワーク利用のセキュリティ	ネチケット、パスワード管理、ウィルス対策を理解しセキュリティ意識を身に着ける。ネットワーク犯罪の深刻さを理解する。SPAM、ボット、フィッシングについて学ぶ。機密保持、プライバシー保護、著作権尊重の重要性を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本科目の学習内容、特にネットワーク接続や各種オンライン情報サービスの実習は現実のオンライン社会での応用力養成が何よりも大事である。学内ネットワークでの実習だけでなく、学外のインターネット環境でも検証を行い、SAなど在外環境でもネットワークが適切に活用できるよう十分に課外実習することにより学習効果が上がる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
有賀妙子,大谷俊郎,吉田智子(著)『改訂新版 インターネット講座: ネットワークリテラシーを身につける』、北大路書房（2014）、ISBN:978-4-7628-2830-0

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験(40%)、平常点(授業の参画度を含む, 30%)、授業内の課題や小テスト（実技を含む, 30%）を総合的に評価する。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
欠席が3回を超えると期末試験を受験できないので注意しよう。期末試験は授業内容理解の確認でもあるので未受験者には単位認定できない。なお、やむを得ない事情で未受験となった場合、代替措置の可否は担当教員ではなく必ず学部窓口にて相談ください。

【学生の意見等からの気づき】
共通シラバスによる共同担当科目として、各教員はそれぞれのアンケートよりの気づきをお互いに共有し、よりよい授業運営に努める。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室にて授業を行う。特にSAなどキャンパス外でのネットワーク接続とさまざまな活用方法についても実際の利用シナリオを意識した実習をおこなう。実習においては情報実習室に固定設置したPCのみならず、学生個人が利用するノートPCや携帯端末、情報センターの貸出ノートPCなどさまざまなICT機器を活用する。
オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的にはWindowsでもmacOSでも構わないが、CUIコマンドによる基本的なファイル操作ができる環境（コマンドプロンプト、ターミナルなどの各種shellが利用できる環境）を前提としている。
授業の解説や補足にはZoomあるいはWebexを用いる場合がある。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。
授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】
本科目は、例年 抽選科目となる。抽選の期間や方法など学部事務からの案内などを確認すること。
本科目では、Webを基盤とするICTの実習、ならびに発見型学習を通じて**学生の就業力育成を支援する。**

【資格を目指す人のために】本科目の学習内容は、職業人に共通に求められる知識を問うITパスポート試験（スキルレベル１）のテクノロジ系に密接に関連する。
実務経験のある教員による授業：
コンピューター関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターやネットワークに関する実習を行う。

【前提科目】
前提科目：　「情報リテラシーⅠ」「情報リテラシーⅡ」
関連科目：　基幹科目「システム論」、「ディジタル情報学概論」

【Outline (in English)】
This course deals with the concept of inter-networking, network computing, and fundamentals in hierarchical design and operating principles of the Internet and its TCP/IP protocol. It provides with user level knowledge for well-known information services including email, web, and other services such as streaming, video chat and ePortfolio. It also covers contemporary issues on network security and WiFi. The objective of this course is to enable all students to fully use network computing in a comfortable and safe manner in studying abroad environment.
Grading policy is as follows:
In-class contribution: 30%
Homework and in-class assignment: 30%
Final exam: 40%
Your must achieve at least 60%in the overall grade to pass for academic credit.
The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

COT200GA（計算基盤 / Computing technologies 200）

ネットワーク基礎

金　勇

配当年次／単位：2〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**抽選**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界中どこでもInternetで安全確実にコミュニケーションできるようになろう
コンピュータとネットワークをコミュニケーションの基盤ととらえ、ネットワークとコンピュータを用いた共同作業やインターネットにおける情報交換・情報共有の仕組みを、WWW、メール、ビデオ会議、グループウェアなど先端的コミュニケーションツールの基本概念とその実現例を通して学ぶ。世界中どこに行っても安全確実にコミュニケーションできる知識とスキルを修得する。

【到達目標】
インターネットの通信とサービスの仕組みの基礎知識を習得しビデオ会議やソーシャルメディアなどインターネット環境での情報サービスの活用法を学び、同時に正しい使いこなしのためのセキュリティ知識を身に着ける。海外でのインターネットの利用とePortfolio活用のスキルを身につけ、学外での学習記録や在外帰国報告のための活用法と有効性を理解する。本科目の履修とリテラシ関連科目での既習知識を総合することで、ITパスポート等にむけての知識習得を目指し、さらに関連の上位科目に結びつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
情報実習室にて講義および実習を行う。
履修予定者は、必ず初回授業日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加、または初回授業資料を当日確認すること。
課題等の提出・フィードバックは、基本的には学習支援システム(hoppii)を通じて行うが、補助的にGoogle Classroom等も用いる場合もある。
授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。
●講義と実習（マルチメディア対応の情報実習室）
インターネットをいつでもどこでも（学外やSAなどで）安全確実に使いこなすために、ビデオ会議、動画配信、ソーシャルWebなど最新のサービス、アプリケーションを実習し、同時にセキュリティやネットワークの仕組みを学ぶ。
●ePortfolioによる学習成果の公開
総合的な情報公開の場として活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コンピュータ、ネットワーク、コミュニケーション	ネットワークの基礎概念と、相互接続することの利点を学ぶ。
2	インターネットの設計思想	ネットワークの接続形態、サーバ・クライアントモデル、LAN、WAN、伝送制御などを理解する。
3	インターネットの構成要素：名前、アドレス、経路制御とDNS	インターネットの構成要素であるドメイン名、IPアドレス、ルーティングを理解する。通信データのパケット化とアドレスの仕組みと経路制御の概念、ドメインの階層化による名前管理の方法、経路制御、DNSによる名前解決の概念を学ぶ。
4	インターネットの実習：ネットワークコマンド、無線LAN	ネットワークコマンド(ping, ipconfig, traceroute, nslookupなど)を活用する。無線LANでのネットワーク接続を実習する。
5	インターネットの仕組み（1）：通信プロトコル、TCP/IP	通信プロトコルの基礎概念と実装の階層化を理解しTCP/IPおよびUDP/IPの概念と設計思想を学ぶ。
6	インターネットの仕組み（2）：ネットワークの設計原理	プロトコル階層化について、さらに深く学ぶ。OSIの参照モデルとTCP/IPの各層との関係を理解する。パケットの送受信とサービスポートの関係について理解する。
7	電子メール（1）：電子メールの仕組み、メールサーバ、ドメイン、プロトコル	電子メールの概念とサービスの仕組みを学ぶ。メールアカウントとドメインの関係を学ぶ。メールサーバとメール送信、転送、受信の仕組みを理解する。
8	電子メール（2）：メールデータの構造	電子メールについてヘッダとメッセージデータの構造を理解する。ヘッダの各項目の機能を理解する。メッセージの文字コードと多言語の扱いを学ぶ。添付ファイルの構造とマルチメディアデータのMIME符号化を学ぶ。
9	Webサービス（1）：HTML文書の交換とWebサーバ	HTML文書の設計とその構成法を理解する。Webサーバの基本動作を理解する。HTTPプロトコルの主な特徴を学ぶ。
10	Webサービス（2）：ハイパーテキストデータ	Webコンテンツ(HTTPデータ)についてヘッダとデータの構造を理解する。ヘッダの各項目の機能を理解する。コンテンツの文字コードと多言語の扱いを学ぶ。MIMEデータとプラグイン、ヘルパーアプリケーションの仕組みを理解する。
11	ファイル転送・共有（FTP、SCP）	ファイルサーバの動作を理解する。サービスとしてのFTPとSCPを理解する。アップロード、ダウンロード、ファイル共有とフォルダの関係を理解する。
12	動画・音声の配信：ビデオ会議とストリーミング	TCPとUDPの違いを理解する。ダウンロード配信とオンデマンド配信の違いを理解する。リアルタイムマルチメディアを実習する。
13	データ保護、認証、暗号化	SSL暗号化の概念を学ぶ。HTTPSやWinSCPなどセキュアなプロトコルを用いたサービス利用を理解する。
14	ネットワーク利用のセキュリティ	ネチケット、パスワード管理、ウィルス対策を理解しセキュリティ意識を身に着ける。ネットワーク犯罪の深刻さを理解する。SPAM、ボット、フィッシングについて学ぶ。機密保持、プライバシー保護、著作権尊重の重要性を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本科目の学習内容、特にネットワーク接続や各種オンライン情報サービスの実習は現実のオンライン社会での応用力養成が何よりも大事である。学内ネットワークでの実習だけでなく、学外のインターネット環境でも検証を行い、SAなど在外環境でもネットワークが適切に活用できるよう十分に課外実習することにより学習効果が上がる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
有賀妙子,大谷俊郎,吉田智子(著)『改訂新版 インターネット講座: ネットワークリテラシーを身につける』、北大路書房（2014）、ISBN:978-4-7628-2830-0

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験(40%)、平常点(授業の参画度を含む, 30%)、授業内の課題や小テスト（実技を含む, 30%）を総合的に評価する。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
欠席が3回を超えると期末試験を受験できないので注意しよう。期末試験は授業内容理解の確認でもあるので未受験者には単位認定できない。なお、やむを得ない事情で未受験となった場合、代替措置の可否は担当教員ではなく必ず学部窓口にて相談ください。

【学生の意見等からの気づき】
共通シラバスによる共同担当科目として、各教員はそれぞれのアンケートよりの気づきをお互いに共有し、よりよい授業運営に努める。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室にて授業を行う。特にSAなどキャンパス外でのネットワーク接続とさまざまな活用方法についても実際の利用シナリオを意識した実習をおこなう。実習においては情報実習室に固定設置したPCのみならず、学生個人が利用するノートPCや携帯端末、情報センターの貸出ノートPCなどさまざまなICT機器を活用する。
オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的にはWindowsでもmacOSでも構わないが、CUIコマンドによる基本的なファイル操作ができる環境（コマンドプロンプト、ターミナルなどの各種shellが利用できる環境）を前提としている。
授業の解説や補足にはZoomあるいはWebexを用いる場合がある。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。
授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】
本科目は、例年 抽選科目となる。抽選の期間や方法など学部事務からの案内などを確認すること。
本科目では、Webを基盤とするICTの実習、ならびに発見型学習を通じて**学生の就業力育成を支援する。**

【資格を目指す人のために】本科目の学習内容は、職業人に共通に求められる知識を問うITパスポート試験（スキルレベル１）のテクノロジ系に密接に関連する。
実務経験のある教員による授業：
コンピューター関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターやネットワークに関する実習を行う。

【前提科目】
前提科目：　「情報リテラシーⅠ」「情報リテラシーⅡ」
関連科目：　基幹科目「システム論」、「ディジタル情報学概論」

【Outline (in English)】
This course deals with the concept of inter-networking, network computing, and fundamentals in hierarchical design and operating principles of the Internet and its TCP/IP protocol. It provides with user level knowledge for well-known information services including email, web, and other services such as streaming, video chat and ePortfolio. It also covers contemporary issues on network security and WiFi. The objective of this course is to enable all students to fully use network computing in a comfortable and safe manner in studying abroad environment.
Grading policy is as follows:
In-class contribution: 30%
Homework and in-class assignment: 30%
Final exam: 40%
Your must achieve at least 60%in the overall grade to pass for academic credit.
The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

COT200GA（計算基盤 / Computing technologies 200）

ネットワーク基礎

金　勇

配当年次／単位：**2〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**抽選**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界中どこでもInternetで安全確実にコミュニケーションできるようになろう
コンピュータとネットワークをコミュニケーションの基盤ととらえ、ネットワークとコンピュータを用いた共同作業やインターネットにおける情報交換・情報共有の仕組みを、WWW、メール、ビデオ会議、グループウェアなど先端的コミュニケーションツールの基本概念とその実現例を通して学ぶ。世界中どこに行っても安全確実にコミュニケーションできる知識とスキルを修得する。

【到達目標】
インターネットの通信とサービスの仕組みの基礎知識を習得しビデオ会議やソーシャルメディアなどインターネット環境での情報サービスの活用法を学び、同時に正しい使いこなしのためのセキュリティ知識を身に着ける。海外でのインターネットの利用とePortfolio活用のスキルを身につけ、学外での学習記録や在外帰国報告のための活用法と有効性を理解する。本科目の履修とリテラシ関連科目での既習知識を総合することで、ITパスポート等にむけての知識習得を目指し、さらに関連の上位科目に結びつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
情報実習室にて講義および実習を行う。
履修予定者は、必ず初回授業日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加、または初回授業資料を当日確認すること。
課題等の提出・フィードバックは、基本的には学習支援システム(hoppii)を通じて行うが、補助的にGoogle Classroom等も用いる場合もある。
授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。
●講義と実習（マルチメディア対応の情報実習室）
インターネットをいつでもどこでも（学外やSAなどで）安全確実に使いこなすために、ビデオ会議、動画配信、ソーシャルWebなど最新のサービス、アプリケーションを実習し、同時にセキュリティやネットワークの仕組みを学ぶ。
●ePortfolioによる学習成果の公開
総合的な情報公開の場として活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コンピュータ、ネットワーク、コミュニケーション	ネットワークの基礎概念と、相互接続することの利点を学ぶ。
2	インターネットの設計思想	ネットワークの接続形態、サーバ・クライアントモデル、LAN、WAN、伝送制御などを理解する。
3	インターネットの構成要素：名前、アドレス、経路制御とDNS	インターネットの構成要素であるドメイン名、IPアドレス、ルーティングを理解する。通信データのパケット化とアドレスの仕組みと経路制御の概念、ドメインの階層化による名前管理の方法、経路制御、DNSによる名前解決の概念を学ぶ。
4	インターネットの実習：ネットワークコマンド、無線LAN	ネットワークコマンド(ping, ipconfig, traceroute, nslookupなど)を活用する。無線LANでのネットワーク接続を実習する。
5	インターネットの仕組み（1）：通信プロトコル、TCP/IP	通信プロトコルの基礎概念と実装の階層化を理解しTCP/IPおよびUDP/IPの概念と設計思想を学ぶ。
6	インターネットの仕組み（2）：ネットワークの設計原理	プロトコル階層化について、さらに深く学ぶ。OSIの参照モデルとTCP/IPの各層との関係を理解する。パケットの送受信とサービスポートの関係について理解する。
7	電子メール（1）：電子メールの仕組み、メールサーバ、ドメイン、プロトコル	電子メールの概念とサービスの仕組みを学ぶ。メールアカウントとドメインの関係を学ぶ。メールサーバとメール送信、転送、受信の仕組みを理解する。
8	電子メール（2）：メールデータの構造	電子メールについてヘッダとメッセージデータの構造を理解する。ヘッダの各項目の機能を理解する。メッセージの文字コードと多言語の扱いを学ぶ。添付ファイルの構造とマルチメディアデータのMIME符号化を学ぶ。
9	Webサービス（1）：HTML文書の交換とWebサーバ	HTML文書の設計とその構成法を理解する。Webサーバの基本動作を理解する。HTTPプロトコルの主な特徴を学ぶ。
10	Webサービス（2）：ハイパーテキストデータ	Webコンテンツ(HTTPデータ)についてヘッダとデータの構造を理解する。ヘッダの各項目の機能を理解する。コンテンツの文字コードと多言語の扱いを学ぶ。MIMEデータとプラグイン、ヘルパーアプリケーションの仕組みを理解する。
11	ファイル転送・共有（FTP、SCP）	ファイルサーバの動作を理解する。サービスとしてのFTPとSCPを理解する。アップロード、ダウンロード、ファイル共有とフォルダの関係を理解する。
12	動画・音声の配信：ビデオ会議とストリーミング	TCPとUDPの違いを理解する。ダウンロード配信とオンデマンド配信の違いを理解する。リアルタイムマルチメディアを実習する。
13	データ保護、認証、暗号化	SSL暗号化の概念を学ぶ。HTTPSやWinSCPなどセキュアなプロトコルを用いたサービス利用を理解する。
14	ネットワーク利用のセキュリティ	ネチケット、パスワード管理、ウィルス対策を理解しセキュリティ意識を身に着ける。ネットワーク犯罪の深刻さを理解する。SPAM、ボット、フィッシングについて学ぶ。機密保持、プライバシー保護、著作権尊重の重要性を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本科目の学習内容、特にネットワーク接続や各種オンライン情報サービスの実習は現実のオンライン社会での応用力養成が何よりも大事である。学内ネットワークでの実習だけでなく、学外のインターネット環境でも検証を行い、SAなど在外環境でもネットワークが適切に活用できるよう十分に課外実習することにより学習効果が上がる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
有賀妙子,大谷俊郎,吉田智子(著)『改訂新版 インターネット講座: ネットワークリテラシーを身につける』、北大路書房（2014）、ISBN:978-4-7628-2830-0

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験(40%)、平常点(授業の参画度を含む, 30%)、授業内の課題や小テスト（実技を含む, 30%）を総合的に評価する。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
欠席が3回を超えると期末試験を受験できないので注意しよう。期末試験は授業内容理解の確認でもあるので未受験者には単位認定できない。なお、やむを得ない事情で未受験となった場合、代替措置の可否は担当教員ではなく必ず学部窓口にて相談ください。

【学生の意見等からの気づき】
共通シラバスによる共同担当科目として、各教員はそれぞれのアンケートよりの気づきをお互いに共有し、よりよい授業運営に努める。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室にて授業を行う。特にSAなどキャンパス外でのネットワーク接続とさまざまな活用方法についても実際の利用シナリオを意識した実習をおこなう。実習においては情報実習室に固定設置したPCのみならず、学生個人が利用するノートPCや携帯端末、情報センターの貸出ノートPCなどさまざまなICT機器を活用する。
オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的にはWindowsでもmacOSでも構わないが、CUIコマンドによる基本的なファイル操作ができる環境（コマンドプロンプト、ターミナルなどの各種shellが利用できる環境）を前提としている。
授業の解説や補足にはZoomあるいはWebexを用いる場合がある。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。
授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】
本科目は、例年 抽選科目となる。抽選の期間や方法など学部事務からの案内などを確認すること。
本科目では、Webを基盤とするICTの実習、ならびに発見型学習を通じて**学生の就業力育成を支援する。**

【資格を目指す人のために】本科目の学習内容は、職業人に共通に求められる知識を問うITパスポート試験（スキルレベル１）のテクノロジ系に密接に関連する。
実務経験のある教員による授業：
コンピューター関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターやネットワークに関する実習を行う。

【前提科目】
前提科目：　「情報リテラシーⅠ」「情報リテラシーⅡ」
関連科目：　基幹科目「システム論」、「ディジタル情報学概論」

【Outline (in English)】
This course deals with the concept of inter-networking, network computing, and fundamentals in hierarchical design and operating principles of the Internet and its TCP/IP protocol. It provides with user level knowledge for well-known information services including email, web, and other services such as streaming, video chat and ePortfolio. It also covers contemporary issues on network security and WiFi. The objective of this course is to enable all students to fully use network computing in a comfortable and safe manner in studying abroad environment.
Grading policy is as follows:
In-class contribution: 30%
Homework and in-class assignment: 30%
Final exam: 40%
Your must achieve at least 60%in the overall grade to pass for academic credit.
The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

COT200GA（計算基盤 / Computing technologies 200）

メディア表現法

大嶋　良明

配当年次／単位：2〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**特になし、希望者多数の場合のみ選抜にします。初回の授業に出席すること。**
備考（履修条件等）：**情報関連科目を履修済みであることが望ましい**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Photoshopの応用テクニックをいろいろ学ぼう
PCを使ってのマルチメディア制作とデザインの基礎を講義と実習を交えて学習する。とくにコンピュータ上でのメディアデータの特性とコンピュータによる画像処理、図形処理について表現・変換などの知識を身につける。Photoshopを基本ツールとして画像レタッチの諸技法を学ぶ。自ら写真を撮影し、いくつもの課題制作に取り組む。見やすい作品つくりを目指して、配置、コントラスト、整列などデザインの基礎知識を習得し、実習作品の表現に応用する。これらを通じて情報メディアの活用とメディアデータの処理技法を学習し、Webやパッケージメディアの視覚面をどのように活かすことができるかも学ぶ。セメスタ中の課題をクラス全体で合評することでお互いの作品の良いところを学び、質の高い制作を目指す。

【到達目標】
Photoshopの応用技法を習得し、デザイン、配色の基礎を修得し、PC上の画像処理とデジカメ、プリンタ等の周辺機器との関係を理解することで、ディジタルマルチメディアの特性を活かした**中級以上の作品制作**ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
情報実習室において講義と実習を行う。
●作品制作の理論と技法(講義と実習)
・デザインの基礎とPhotoshopの応用技法
- 画像のメリハリ、色のバランス、カラーチャンネル活用
- レイヤー、マスク、フィルタの技法
- コラージュ、モンタージュの技法：遠近感、光の表現、Photo-realisticな作品作りに必要な写真理論
- DTPに向けてのスキャナ、プリンタの利用法
●クリティーク（合評）と制作メモの提出
各自の作品を全員が批評し、作品表現の精神と批評の言語を学ぶ。
●ePortfolioによる学習成果の公開
総合的な情報公開の場として活用する。
●課題
・デジタル写真のリタッチ
・ポスター作り（Photoshop＋大判プリンタ・Web）
・写真表現の作品化（アルバム・Web）
・自由なテーマによる最終課題（Photoshop＋大判プリンタ・Web）
●大事にしたいこと
・誰もが自分だけのsomethingを持っている。みんなで学ぼう。
・マルチメディアデータとリアルなモノの関係性を常に考えよう。
・「コンピュータに簡単に取り込めない世界」を大事にしよう。
・感性だけでは作品は作れない。知識、技法、批評精神を持とう。
なお、毎回の授業で小テストを実施し、質問を受け付ける。次回授業の初めに前回の小テストの答え合わせと質問に関する回答の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	メディアデータと情報活用	メディアデータの特性（音声、音響、文書・画像・映像）、コミュニケーションのデザイン、制作環境について学ぶ。
2	デザインの基本原則	CRAPの原理(近接、反復、整列、コントラスト)を学ぶ。
3	デザインの基本原則の応用	前２回の講義内容と既存のPhotoshopの基礎知識を活用して、自由課題で制作したポスター作品を持ち寄り、クリティーク（合評）をおこなう。
4	タイポグラフィの原理	欧文・和文フォントの特性を歴史的変遷を通じて学びレイアウトの基礎を理解する。
5	メディア処理ソフトウェアの実際－画像レタッチソフト（Adobe Photoshop CC）	サービスプリントをスキャンしたイメージデータを素材に基本的なレタッチ技法と必要なツールを復習する。
6	Webのためのディジタルイメージ、写真帳制作の課題と合評	ヒストグラムデータの活用法に慣れる。Webアルバム制作に必要な知識と技法を作品制作に活かす。
7	イメージの取り込みと調整	デジカメ写真、スキャン画像、フレームキャプチャ、PC画面コピーなど元画像の特性の違いに応じたイメージ素材の取り扱いを学ぶ。
8	レイヤーの技法	レイヤーを多用した作品実習を通じて素材どうしのなじませ方、立体感、奥行き感の作り込みを学ぶ。
9	画質の調整、シェーディングとブレンディング（前編）	写真の断片と描画の組み合わせによるコラージュ作品の制作実習を通じて、選択範囲のさまざまな調整、コントラスト、焼き込みとレイヤーの技法を学ぶ。
10	画質の調整、シェーディングとブレンディング（後編）	第9回に引き続き、制作実習の後半。
11	コラージュ、モンタージュのための技法	さまざまな遠近法、解像度と粒状性、輪郭や色味の変化、光の方向性などコラージュ、モンタージュ作品のための技法を学ぶ。
12	色の扱い：カラー、モノクロ、DuoTone	RGB、HSB, CMYKなどカラー表色系の関係、セピア系、シアン系などのモノクローム調色、スポットカラー、DuoToneなどの表現技法を学ぶ。
13	色の扱い：制作編	モノクロ基調のポスターに少ない色数でアクセントをつける制作課題と画面、印刷出力の品質の比較。
14	最終課題とまとめ	自由課題による最終課題を制作しクラス全員による合評。全作品、制作メモ、クラス全員による作品合評をまとめたポートフォリオの作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業の中で習得した制作知識と実習課題を各自の作品制作に活かすためには十分な練習が必要となる。カフェテリアでのマルチメディアPCを活用してテクニックを「手に覚えさせる」時間外の予習復習を励行します。
自由課題による制作には、オリジナルの写真を含めることを求めるのでディジタルカメラやスマートフォンを携行し、作品作りのアイデアとなる素材さがしを常日頃から心がけましょう。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
制作テキスト（必要部分の和訳プリント配布）：Adobe Photoshop5.5 and Illustrator8.0 Classroom Book, Adobe Press(2000), ISBN 0-201-65900-X
制作テキスト（必要部分のみをプリント配布）：Gregory Haun, "Photoshop Collage Techniques", Hayden(1997), ISBN 978-1568303499
制作テキスト(CMYK変換、色域外警告について参照)：Adobe Photoshop Classroom in a Book (2022 release): ISBN-13: 978-0137621101
デザイン論テキスト（初版を参照するため、必要部分のみをプリント配布）：R・ウィリアムズ「ノンデザイナーズ・デザインブック」、毎日コミュニケーションズ（1998）、
ISBN 4895630072

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介する。ほかにマルチメディア検定ベーシック対応の参考書として、CG-ARTS協会、「第三版 入門マルチメディア　ITで変わるライフスタイル」、ISBN 978-4-903474-45-8を挙げておく。撮影技法については、キット　タケナガ（著）東京写真学園（監修）、「デジタル 写真の学校」、雷鳥社(2005)、ISBN 978-4-8441-3434-3 が理解に役立つ。

【成績評価の方法と基準】
平常点(授業参加の積極性,30%)、クリティーク(課題作品の相互批評,15%)、課題ならびにマルチメディア作品制作(35%)、ePortfolio(個人の作品集づくり,20%)を総合的に評価する。平常点の評価ポイントは、積極的な授業参加。すなわち表現意欲をコンピュータ上で形にする「やる気と努力」、作品作りの背後にある仕組みへの技術的関心度、作品に添付する制作メモ、合評に参加しお互いの作品から学び一人ひとりが自らを高めようとする向上心などが、授業参加の平常点として参入される。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
実習課題の内容とバラエティを検討し、中級テクニックの訓練単元を増やした。作品集は個人ポートフォリオだけではなく、クラス全体のギャラリーとしても公開を目指す。作品作りのテクニックだけではなく作品性の追求や作品批評を言語化することの重要性をさらに意識できるような授業運営を心がける。2023年度は印刷出力に関し色域外警告の取り扱いとCMYKへの変換について説明内容を増補充実させた。また2022年度より継続的にPC実習機の問題解消に努めている。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室にて授業を行う。
素材撮影のためにデジタルカメラが必要、光学性能では遜色ないスマートフォンの使用も認めるが、できれば絞り、シャッター速度、露出補正など撮影条件を細かく設定できるディジタルカメラによる撮影を心掛けて欲しい。

制作のためのフォトプリント用紙など課題に応じて若干のメディアが必要。ポスター印刷出力の校正と確認のためにプリンタを使用する。
提出作品はePortfolioにて保存公開する。

【その他の重要事項】
受講希望者は初回授業に出席すること。受講希望者が教室定員を超える場合には抽選を実施することがある。
情報系教員によるクラス授業とマルチメディア制作実習を通じて本科目では学生の就業力育成を支援する。
【資格を目指す人のために】本講義の参考書はマルチメディア検定ベーシック対応の標準テキストであり、すぐれた独習書である。

【前提科目】
前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」、情報系基礎科目（「情報システム概論」、「メディア情報基礎」、「ネットワーク基礎」）。未修者の履修希望については担当教員の判断による。
写真の技法については「マルチメディア表現法」の履修をお薦めする。Photoshopの応用技法については本科目にて扱う。
関連科目：基幹科目「ディジタル情報学概論」など。

【実務経験のある教員による授業】
担当教員はIT企業での研究所勤務において15年間のディジタル信号処理、マルチメディア処理分野の研究とシステム開発の経験がある。

【Outline (in English)】
This is an intermediate level workshop on Adobe Photoshop retouch and creative techniques for any students who has acquired basic knowledge and techniques in Photoshop. The course is organized of class workshops, weekly or biweekly assignments, and mutual critique.
Grading policy is as follows:
In-class contribution: 30%
Critique and review: 15%
Homework and in-class assignment: 35%
Individual e-Portfolio: 20%
You must achieve at least 60%in the overall grade to pass for academic credit.
The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

COT200GA（計算基盤 / Computing technologies 200）

メディアアートの世界

大嶋　良明

配当年次／単位：2〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディアアートの作品世界を知り、自作のプログラムでメディアアートの作品制作を体験しよう
本講義では芸術表現のためのプログラミング言語Processingのプログラム（スケッチ）基礎を学ぶ。またメディアアート作品の芸術論集を手がかりに、様々な作品例とそれらの構成手法を並行して学ぶことにより、メディアアートのためのビジュアルな表現手法を習得する。また現代的な潮流となりつつあるp5.js環境でのProessing流プログラムのWeb環境での実装についても学ぶ。

【到達目標】
メディアアート作品の鑑賞のための技術的な枠組みと批評言語を理解できる。Processingの制作環境での描画や対話機能を身に着け、メディアアートのための表現手法の基礎を習得する。
IoTやMakerムーブメントなどWebと現実世界が交差する今日的な環境、身の回りにある生活の道具がネットにつながるこれからの生活環境について理解し視野を拡げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
情報実習室において講義と実習を行う。
●講義と実習（マルチメディア対応の情報実習室）
Processingプログラミング環境を活用して、入門書の単元に沿った実習課題に取り組む。習得知識をすぐに応用して理解度確認のための作品作りに取り組む。成果物を自分のスマートフォンなどでも動かしてみる。
●ePortfolioによる学習成果の公開
総合的な情報公開の場として活用する。
なお，毎回の授業で小テストを実施し，質問を受け付ける．次回授業の初めに前回の小テストの答え合わせと質問に関する回答の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：Processing入門	Processingとは何か、その開発の経緯と現在の動向を学ぶ。
2	Processingの基礎（１）：簡単な実例	基本図形の描画など単純な例題からProcessingプログラミングの基礎を習得する。
3	Processingの基礎（２）：基本描画	描画順序を理解する。描画スタイルを学ぶ。
4	Processingの基礎（３）：変数と制御構造	変数の概念を理解し、繰り返し演算などスケッチの制御構造と使用方法を学ぶ。
5	ユーザーインターフェース【制作課題１】	マウス追従、キーボード入力などユーザのGUI操作をスケッチに利用する技法を学ぶ。【課題１】習得した技法を総合して写真コンテンツのWebを制作する。
6	描画の操作：移動、回転、拡大縮小	移動、回転、拡大縮小など描画内容の操作方法、およびそれらの操作を部品化してまとめる技法を習得する。
7	メディアデータの扱い	イメージやムービーなど外部メディアデータの読み込みとスケッチでの利用法を学ぶ。
8	アニメーション：動きの演出【制作課題2：学習成果のまとめとWeb化の検討】	動画のトゥイーン技法、ランダム化、時間構造の処理、周期的運動など動画演出の技法を学ぶ。【課題】学習成果を活用してProcessing作品を制作する。p5.jsによるWeb化を試みる。
9	関数	関数の仕組みを理解し、各種描画処理や再利用される機能の部品化を学ぶ。
10	オブジェクト【学期末課題の構想】	オブジェクトの概念を理解し、スケッチ内容の概念的な構造化の考え方を学ぶ。【課題】学期末の制作物について構想を開始する。
11	配列	配列の概念を理解し、オブジェクトへの適用などスケッチでの使用を学ぶ。
12	外部データ、ビッグデータ	表データ、JSON形式の外部データ、API経由でのインターネットの各種サービスデータの利用技法を学ぶ。【課題】制作物の実装方法の構想発表。
13	リアルタイムデータ、デバイス連携	マイク音声などリアルタイムデータの取り込み、Arduinoマイコンとの連携方法、物理世界との接続を学ぶ。
14	まとめ：最終課題の発表と相互批評	学習内容をまとめ、可能な限り網羅的に盛り込んだ作品を制作し、授業内で発表、相互批評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
メディアアートの制作には多くの技術的なポイントがある。これらの問題を乗り越えて作品の構成技法を習得するには場数を踏むことが重要です。また授業内で単元として学習する各種の技法を実際のコンテンツ制作に応用する場面ではさまざまな可能性があるので、受講生はかならず授業時間外に自らのアイデアをProessing作品に応用する練習を行って欲しい。同時に学習成果の表示環境として各自の端末を積極的に検証に活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Casey Reas (著)、Ben Fry (著)、船田 巧 (翻訳)、「Processing をはじめよう 第2版 (Make: PROJECTS)」、オライリージャパン (2016)、ISBN-13: 978-4873117737

【参考書】
【Processing】
Daniel Shiffman (著), 尼岡 利崇 (翻訳)、「初めてのProcessing」、オライリージャパン (2018)、ISBN-13： 978-4873118611
【p5.jsプログラミング】
Benedikt Gross (著)、Hartmut Bohnacker (著)、Julia Laub (著)、深津貴之 (監修)「Generative Design with p5.js—ウェブでのクリエイティブ・コーディング」、ビー・エヌ・エヌ新社(2018)、ISBN-13: 978-4802510974
【メディアアートのためのプログラミング】
Hartmut Bohnacker (著)、Benedikt Gross (著)、Julia Laub (著) 他、「Generative Design ― Processing で切り拓く、デザインの新たな地平」、ビー・エヌ・エヌ新社(2016)、ISBN:978-4802510134
【ジェネラティブ・アート】
マット・ピアソン (著)、Matt Pearson (著)、久保田 晃弘 (監修), 沖 啓介 (翻訳)、「[普及版]ジェネラティブ・アート—Processingによる実践ガイド」、ビー・エヌ・エヌ新社(2014)、ISBN-13: 978-4861009631

【成績評価の方法と基準】
平常点(授業参加の積極性,20%)、中間課題(30%)、最終課題(40%)、相互批評（10%）を目安にすべてを総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
プログラミング初心者にも活用できるよう演習課題を設定しProcessingの可能性を理解してもらえるよう優れた作品の紹介に努める。身近に利用できるPCとWeb環境で、学習成果の理解に役立つような授業を目指したい。メディアアートの動向にも触れる機会としたい。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室において授業を行う。各自のPCや携帯端末を実習の検証に活用する。
ePortfolio(HOPS)に学習成果を蓄積する。

【その他の重要事項】
自分でさまざまな工夫をこらして動きのあるメディア作品を制作するのは楽しいものです。コンピュータとインターネットを自己表現の仕掛けとして使いこなそう。
情報系教員によるクラス授業であり、Web を基盤とするICT の活用実習、ならびに発見型学習を通じて**本科目では学生の就業力育成を支援する。**

【前提科目】
前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」を履修していることを前提とする。
関連科目：「ディジタル情報学概論」、「プログラミング言語基礎」

【実務経験のある教員による授業】
担当教員はIT企業での研究所勤務において15年間のディジタル信号処理、マルチメディア処理分野での研究とシステム開発の経験がある。

【Outline (in English)】
This course deals with introduction to creative coding with Processing programming language. In addition, p5.js is practiced to extend presentation and interaction in
contemporary web-based context. Students will learn media art in contemporary environment and learn art of programming for creativity as well as creativity through programming.
Grading policy is as follows:
In-class contribution: 20%
Homework and in-class assignment: 30%
Final assignment: 40%
Critique: 10%

Your must achieve at least 60%in the overall grade to pass for academic credit.
The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

HUI200GA（人間情報学 / Human informatics 200）

道具のデザイン学

甲　洋介

サブタイトル：**魅力的な体験をデザインする、という考え方**
配当年次／単位：**2〜4年／2単位**
旧科目名：**ヒューマンインターフェイス論**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
備考（履修条件等）：**情報関連科目を履修済みであることが望ましい< br /> 旧：ヒューマンイタンーフェイス論の修得者は履修不可**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
●　デザイナーだけではない。利用者の視点がデザインに役立つ！
日常生活はたくさんの道具やサービスであふれている。日常生活で出会う道具にはコンタクトレンズのような小さなモノから建築物やアミューズメントパークのような大きなモノまである。それらの道具が魅力的で使いやすいと日常生活も豊かで楽しくなる。
　利用者としてのあなたの体験に目を向けよう。お気に入りの道具を楽しむこともあれば、面倒な操作で不快になった体験もあるだろう。
●　デザインすると、暮らしはもっと快適になる
暮らしの道具やサービスを使いやすく魅力的にデザインすることは、その道具の利用者の生活をもっと豊かで快適なものにすることに直結している。道具のデザインは重要である。そのデザインに、ユーザからの視点が非常に役立つことが分かってきた。
●　ユーザの体験（エクスペリエンス）をデザインする、という考え方
ではどうデザインするか。本講義では、利用者にとって使いやすく、魅力的なものをデザインすることを目指す方法論「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の基本から、デザイン手順までを実践的に学べる。それは、デザインする際の主役である「ユーザ」について深く理解し、特性を分析する作業から始まる。
「モノづくり」、特に道具・家具・文具のデザインに興味のある皆さんの参画を期待する。
　文化や特性が異なるために摩擦が生じるのは人種や民族間だけではない。ロボットを始め、人が造った人工物と人間も、材質や見かけだけでなく、知的能力、言語コミュニケーション能力、感覚、情動などさまざまな側面において異なっている。このため、人工物と人間の間でも様々な摩擦が生じる。このことを学ぶことは、これからの社会に重要な、人と人工物が共生する社会について考える際の基礎となる。

【到達目標】
UXデザインの基礎が身につく
・使いやすく魅力的な道具やサービスをデザインするための方法論、「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の基本的な考え方を説明できるようになる。
・デザインの基本原則から、ユーザ特性の分析方法、デザイン手順まで、実践的に説明できるようになる。
・最終課題に取り組むことで、道具・商品・サービスのデザイン案を、利用者のエクスペリエンス(experience=体験)の観点からデザインし、企画を提案できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
日常生活を豊かで暮らしやすくする「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」を、基本から実践までを体系的に学ぶことができる。
●各回において受講生のコメントシートを踏まえながら前回のおさらいと解説をし、理解の深化を促す。受講生どうしの討議・意見交換の機会を適宜促すとともに解説を行う。改良アイディアがさらに得られるように工夫する。
●「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の手法を学び、実践する
特に後半では、具体的なデザイン方法論の基本から実践手順までを学ぶ。講義での説明に基づいて、各自が練習課題に取り組む。その成果を蓄積していくとレポートが仕上がるように工夫されている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	『暮らし』をシナリオに書いてみよう	日常生活の道具に着目し、「暮らしのシナリオ」を描く
2	なぜ使いにくいモノが暮らしにあふれるのか	デザイナーだって、利用者に喜んでほしい
3	使いやすい道具は生活を快適にする	決め手は、ヒトと道具のコミュニケーションのデザインだ
4	ユーザの心理学	ユーザの認知過程: 道具の「使いにくさ」を科学的に解析する
5	ヒューマンエラー	ヒトは間違えやすく、思い込みが強く、新しい事をなかなか覚えない動物である
6	道具の使いやすさ	「使いやすさ」を定義する。ユーザビリティの国際規格
7	「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」① *User Experience (UX) Design*	ユーザの特性を理解し、体験*(experience)*をデザインする、という考え方
8	「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」②理論	*UX Design*の考え方の基礎と基本原則を学ぶ
9	「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」③手順	デザインの流れと、具体的な手順
10	道具のデザイン実習① 商品の企画	魅力ある商品の企画書を作るために
11	道具のデザイン実習② ユーザー分析	ユーザ・ニーズとシナリオに基づくデザイン
12	道具のデザイン実習③ デザインプロセス	ユーザの快適な体験*(experience)*をデザインする
13	道具のデザイン実習④ 評価技法の例	道具の使いやすさの評価技法
14	デザイン案の発表会	受講生によるデザイン案の発表、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習を兼ねて、課題練習を少しづつ積み重ねる。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・「誰のためのデザイン」（D.A.ノーマン、新曜社）2015
・「人間計測ハンドブック」（甲ほか、朝川書店）2013
他については適宜指示する。

【参考書】
・「ユーザーインタビューをはじめよう」（ポーチガル著、ビー・エヌ・エヌ新社）2017
・「ユーザビリティエンジニアリング」（樽本徹也、オーム社)2014
・「UXデザインの教科書」（安藤昌也著、丸善出版）2016
・NPO人間中心設計推進機構：　http://www.hcdnet.org/

【成績評価の方法と基準】
・レスポンスシート、授業・討議における積極性な貢献度合い(50％)
・発表とレポート(50％)
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講生による互いのデザイン企画案の発表会が、大いに刺激になる、との感想が寄せられる。私もそれを楽しみにしている。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布、レスポンスシート・課題提出等に学習支援システム等を利用する。授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】
いわゆるコンピュータの授業ではないので、注意のこと。

【履修条件】
・国際文化学部生は「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を単位取得済みであること。
・他学部生（国際文化学部生以外）は初回の授業に出席し必ず先生に履修の許可について相談すること。

【関連科目】
・姉妹科目の「文化情報のデザインワークショップ」は、ユーザーエクスペリエンス・デザイン手法の実践ワークショップになっている。これと併行履修することで知識と実践の相乗効果が得られる。
・「こころの科学」「道具による感覚・体験のデザイン」「システム論」と組み合わせて受講すると、知識が関連し合って面白くなる仕組みになっている。
・本科目の主題は、「文化情報空間論」においてさらに発展される。

【情報機器・視聴覚設備の活用】
ＰＣ、プロジェクター等の視聴覚設備を活用する。

【Outline (in English)】
This class allows you to learn the "User Experience (UX) Design". By the end of the course, student understands the basic principles of the "UX Design" and should be able to understand how to apply some basic methods.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be decided based on (1) final report/exam (50%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (50%).

COT300GA（計算基盤 / Computing technologies 300）

コンピュータ音楽と音声情報処理

大嶋　良明

配当年次／単位：2〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：
備考（履修条件等）：**情報関連科目を履修済みであることが望ましい**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
PCでシンセサイザやエフェクタを自作する。音楽や音声を扱うプログラムを作る。 本講義では、音を扱うためのビジュアルプログラミング言語であるPure Data(Pd)を使って、さまざまな音の表現方法を学び作品を制作する。人間の表現行為を工学的に扱うことで、人間と機械のよりよい協調をマルチメディア、特に音楽や音声などオーディオメディアにより実現したい。同時にMIDIやOSCによる他の機器との連携、ネットワーク環境での利用、IoTなど現代的な利用のあり方を学ぶ。

【到達目標】
コンピュータ上で、音を生成する方法や、音の大きさ、長さ、音色、発音タイミングなどを制御する方法を習得し、サウンドプログラミングの基礎が理解できるようになる。Pure Data(Pd)に習熟しビジュアルプログラミングの考え方とコンピュータ音楽への応用が身につく。オープンソースソフトウェアとしてのPdの利点を認識し、Windows、 MacなどOSや機器の違いに影響されない作品作り、電子楽器とコンピュータとの連携を構想できるようになる。音響モデリングの実現例が切り開く先端的な音響処理の分野を理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
ビジュアルプログラミング言語Pdを使用して、情報教室でデモと実習を中心に学習を進め、音楽や電子楽器の自作を目指す。学期末を含めてセメスタ内に数回の課題を課す。講義・実習と平行して、Pdによる音響モデリングの先端的な実現例をAndy Farnellのサンプルプログラムから学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよびPureData(Pd)の概要	【講義と実習】PureData(Pd)とは何かを知り、基本的な操作方法を学ぶ。 【音響モデリング】DTMFトーン（プッシュホン）や家電話の呼出し音のモデル化を学ぶ。
2	Pdの基礎	【講義と実習】パッチ（Pdのプログラム）を作成する方法を学び、簡単な例題演習でパッチ作成の基本を習得する。 【音響モデリング】ボールが地面で跳ね返る音のモデル化を学ぶ。
3	音を出す	【講義と実習】音とは何か、コンピュータでの音響現象の扱いを理解し、音を出すパッチを作成する。 【音響モデリング】雷鳴の轟きのモデル化を学ぶ。
4	メトロノームを作る	【講義と実習】音出しのタイミング制御、音の繰り返し、テンポ設定の方法を学び、メトロノーム機能を実現する。パッチのテスト方法について学ぶ。 【音響モデリング】時を刻む柱時計のモデル化を学ぶ。
5	サンプラー機能を作る	【講義と実習】 オーディオサンプルの再生や録音した音をPdで使う方法を学ぶ。 【音響モデリングの世界】 ジェット・エンジン音のモデル化を学ぶ。
6	リズムマシン (1)	【講義と実習】サンプラーで録音した音をさまざまなリズムで演奏するリズムマシンの基本形を作成する。 【音響モデリング】ヘリコプター飛行音のモデル化を学ぶ。
7	リズムマシン (2)	【講義と実習】リズムマシン基本形を発展させ、各ドラムパート音源を増やしモジュール化することで自動演奏楽器として完成させる。 【音響モデリング】人間の歌声のモデル化を学。
8	シンセサイザーとMIDI(1)	【講義と実習】波形合成によるシンセサイザーを作成する。MIDIによる電子楽器の制御方法を理解する。 【音響モデリング】ロボット（スターウォーズR2D2）の応答のモデル化を学ぶ。
9	シンセサイザーとMIDI(2)	【講義と実習】シンセサイザーの出力音にポルタメントやビブラートなどの効果を加える方法について学ぶ。MIDI信号による制御を付加する。
10	音響効果の実装：リバーブ、ディレイ、フランジャー	【講義と実習】ディレイ音と直接音からなる音声再生と聴感上の効果の関係理解し、空間系エフェクトの実装に組み込む。 【課題制作】課題のガイダンス。最終課題を構想する。
11	インタラクティブ・アート：音と映像の連携	【講義と実習】 音に映像を連携させる手法を学ぶ。Webカメラから信号をPdで加工する方法やPdで映像を制御する方法を学ぶ。 【課題制作】進捗状況と問題点の共有。技法面での個々の問題点をクラス内で共有し、有効な解決を図る。
12	ネットワーク環境への拡張	【講義と実習】OSCプロトコルを理解し、ネットワーク環境下で複数のPdパッチや外部制御を連動させる方法を学ぶ。 【課題制作】進捗状況と問題点の共有。技法面での個々の問題点をクラス内で共有し、有効な解決を図る。
13	フィジカル・コンピューティングとの連携	【講義と実習】Arduino、Raspberry Pi、Kinect、Leap Motionなどフィジカル・コンピューティングと関連デバイスを学ぶ。PduinoによるPdとArduinoの連携方法を学ぶ。
14	まとめ	学習成果の総まとめを行う。課題作品の発表と相互批評、講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
情報リテラシー、メディア情報基礎、ディジタル情報学概論等の関連科目を前提知識として挙げておく。Pdはオープンソースのソフトウェアであり Windows でも Mac でもフリーで配布されており、情報カフェテリアの PC にもインストールされている。スマホ用にもPdの実行環境は提供されている。授業時間外でのPdの実行環境を自分用に整備し、学習内容を十分に予習復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
実習内容を記したプリントを配布する。

【参考書】
参考書・参考資料等
【Pure Data】
美山千香士、『Pure Data チュートリアル＆リファレンス』、ワークスコーポレーション (2013) ISBN: 978-4862671424
松村 誠一郎、『Pd Recipe Book -Pure Dataではじめるサウンドプログラミング』、ビー・エヌ・エヌ新社(2012) ISBN: 978-4861007804
中村隆之、『「PureData」ではじめるサウンド・プログラミング―「音」「映像」のための「ビジュアル・プログラミング」言語』、工学社 (2015) ISBN: 978-4777518821
【音響モデリング】
Andy Farnell, "Designing Sound," MIT Press(2010), ISBN:978-0262014410

【成績評価の方法と基準】
平常点（30％）、課題（30％）、最終課題の評点（40％）で成績を評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
講義だけではなく、実習を通して技術を体験できる授業にする。しかし、サウンドプログラミングの習得には毎回の授業だけではなく、課題の発展的応用を通じてコンピュータ音楽や音響現象への理解を深めることが同時に役に立つ。ぜひ情報実習室や個人のPCを利用して、授業時間以外にもプログラミングの復習時間を確保してほしい。またWeb公開されているさまざまな音響イベントやメディアアートの記録も積極的に参考にして欲しい。楽器屋で電子楽器に触れてみるのも良い体験となる。専門的な音楽の知識は必要としないが、音楽や音響への興味を大事にして授業に取り組んでほしい。
期中アンケートにおいて音楽知識に関する意見を貰ったので改めて明記するが、普通科での音楽の知識や簡単なポピュラー音楽用語のみで受講には十分であり、高度な楽典知識は前提としていない。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室のデスクトップPCを使用する。Pdはフリーにダウンロードできるので個人PC（Mac版、Linux版もある）にインストールすれば教室と同じ環境で作業できる。実習機器は担当教員が用意するので、受講のために購入する必要はない。

【その他の重要事項】
受講希望者は初回授業に出席すること。受講希望者が教室定員を超える場合には抽選を実施することがある。
実務経験のある教員による授業：
担当教員はIT企業での研究所勤務において15年間のディジタル信号処理（特にディジタル音響、音声合成、統計モデルによる音声認識）、マルチメディア処理（音楽音響、電子透かし）分野の経験がある。

【Outline (in English)】
This course deals with electronic music and audio design and implementation by use of Pure Data, a visual programming language in a workshop-type classroom environment. The typical in-semester projects include drum machines, sequencers, studio audio effects, and music synthesizers. Advanced learners are encouraged to pursue MIDI /OSC enabled applications in collaborative environments, integration with sensor-enabled control interface, and small Arduino projects for interactivity.
Grading policy is as follows:
In-class contribution: 30%
Homework and in-class assignment: 30%
Final assignment: 40%
Your must achieve at least 60%in the overall grade to pass for academic credit.
The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

ART300GA（芸術学 / Art studies 300）

マルチメディア表現法

大嶋　良明

配当年次／単位：2〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**人数制限あり（15名）。希望者多数の場合は選抜します。初回授業に出席すること。**
備考（履修条件等）：**情報関連科目を履修済みであることが望ましい**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は、**少人数ワークショップによるマルチメディア作品制作の実習**です。
わかりやすく統合的に提示する手法を少人数ワークショップで学習する。画像、映像、音声など個々の編集技法の基本は既習のものとし、ここでの講義ではそれらの統合をコミュニケーションデザインの観点から学び、アイデアや表現意欲をコンテンツ制作に活かす効果的なオーサリングの戦略について学ぶ。またワークショップにおいては学習成果の体得をさらに確実にするために、ビデオ、Webマルチメディア、DTPなどの領域から練習課題を適宜設定する。受講者には各人の嗜好にもとづき映像作品、音楽作品やDTP作品などの個人プロジェクトを提案してもらい、セメスタを通じて制作する。

【到達目標】
写真表現、ポスター作り、DTP、レーザー加工、映像制作などのマルチメディア実習を通じて、自らの発想を人に伝わるマルチメディア作品の形にすること、同じ課題で制作したお互いの作品を相互批評してセンスを磨くこと、作品をプレゼンテーションすること、これら課題制作の訓練を通じて作品作りの一貫したプロセスを身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
少人数での演習設備を備えた教室においてワークショップ形式で講義と実習を行う。
●作品制作の理論と技法(講義と実習)
・デザインの基礎
・ポスター作り（Photoshop・Web）
・多様な出力形態（大判ポスター、アクリル板彫刻）
・写真技法：ライティング、構図、光の読み方
・写真表現の作品化（アルバム・Web・アクリルパネル）
・映像制作技法：Jingle、絵コンテ、ショートフィルム
●クリティーク
各自の作品を全員が批評することで、作品表現の精神と批評の言語を学ぶ。
●ePortfolioによる学習成果の公開
総合的な情報公開の場として活用する。
●課題
・ポスター作り（Photoshop＋大判プリンタ・Web）
・レーザーカッターによるアクリル板彫刻
・写真表現の作品化（アルバム・Web）
・Jingle (短い15秒程度のCM的映像)
・最終課題はショートムービー完成を標準メニューとするが、独自のチャレンジを大歓迎する。電子出版、メディアアート、デザイン、ゲーム、音楽制作などでも良い。
●大事にしたいこと
・コンピュータ上でのメディアデータの特性とtangibleなモノの世界でのパッケージの関係性をいつも考えよう。
・デジタル機器をとことん使ってみて初めて「コンピュータに簡単に取り込めない世界」があることがわかる。
・ノンデザイナーである我々だって、いい作品作りが可能だ。こわがらずにどんどん挑戦しよう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コミュニケーションのデザイン	コミュニケーションのデザインについて学ぶ。CRAPの原則を学ぶ。【写真課題：line、pattern、texture】
2	メディアコンテンツのデザイン	マルチメディアデータの性質を理解する。クリティーク：line、pattern、texture　各自の写真作品を合評する。【写真課題：モノクロ、ライティング】
3	コミュニケーションデザインの手法－視覚・サウンド　実習：期末課題の提案	コミュニケーションデザインの手法を学ぶ。クリティーク：モノクロ、ライティング【写真課題：人物ポートレート、ライティング】
4	コミュニケーションデザインの手法－Web	Webの特性とデザインについて理解する。【写真課題（承前）：人物ポートレート、ライティング】
5	情報デザインとコンテンツ制作－パッケージメディア	パッケージメディア（CD, DVDなど）の構成法を理解する。クリティーク：人物ポートレート、ライティング　実習：Premiereによる短いビデオ【課題：Premiereオンライン教材の学習】【学期末課題：ショートムービー】
6	情報デザインとコンテンツ制作－サイバースペース	情報デザインの基本原則を理解する。クリティーク：人物ポートレート、ライティング　実習：Preziによるオンライン・プレゼンテーション【課題：Web写真アルバム】
7	タイポグラフィの基礎	タイポグラフィの基礎を学ぶ。クリティーク：各自のWebポートフォリオを相互観賞し、お互いの技法と作品性を合評する。【課題：紙の写真アルバム】
8	メディア環境とデザイン	メディア環境とデザインを学ぶ。クリティーク：Webアルバム【課題：ポスターのデザイン】【学期末課題：企画書・絵コンテ提出】
9	多様な出力形態(1): DTP	印刷についての知識を学、DTP作業のワークフローを理解する。クリティーク：ポスター【課題：広告のデザイン】
10	モノづくりとマルチメディア	Makerムーブメントを題材とするモノづくりとマルチメディアの関係を学ぶ。クリティーク：広告【学期末課題：予告編ジングル仮提出】
11	多様な出力形態(2): レーザー加工	レーザー加工機による【実習】簡単な版下の作成とレーザーカッターによるアクリル板加工【課題】アクリル板切り出しと表面彫刻のためのレーザーカッター版下の作成
12	コンテンツプラットフォームとしてのインターネット環境	インターネットにおけるマルチメディアコンテンツの配信を学ぶ。【実習】各自デザインによるアクリル板のレーザー加工
13	コンテンツの流通、管理、知的所有権とメディア表現	コンテンツの流通、管理の仕組みとクリエイティブ・コモンズの考え方を学び、オンラインメディアの知的所有権の扱いを理解する。
14	まとめ：学期末課題のクリティーク	学習内容を総括する。各自の映像作品を相互観賞し、お互いの技法と作品性を合評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週のように課題が出るので作品制作には十分に計画的に取り組むこと。また課題の多くは印刷出力やWeb上での公開を求めており、単に作品を完成させるだけではなく観賞可能な形式で相互批評に堪えるレベルものを準備するにはDTPやWeb制作の基礎知識と最低限の経験が求められる。これらについては授業内では特に触れないので各自が時間外に必要な知識を得ること。**長尺プリンタを用いて制作物を大型の判型で出力し、セメスタ後半に制作展の開催を目指す。**本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて紹介する。

【参考書】
【マルチメディア全般】
参考書（1）CG-ARTS協会、「第三版 入門マルチメディア ITで変わるライフスタイル」、ISBN 978-4-903474-45-8
参考書（2）CG-ARTS協会、「実践マルチメディア」、ISBN 978-4-903474-44-1

※上記2冊は資格取得を目指す人にも最適の参考書である。

【デザイン技法】
Robin Williams (著), 吉川 典秀 (翻訳)、「ノンデザイナーズ・デザインブック」、毎日コミュニケーションズ (1998)、ISBN-13: 978-4895630078
【写真技法】
キット　タケナガ（著）　東京写真学園（監修）、「デジタル 写真の学校」、雷鳥社(2005)、ISBN 978-4-8441-3434-3
【ショートムービー制作】

ヒルマン・カーティス、「ウェブ時代のショート・ムービー」、フィルムアート社 (2006)、ISBN:978-4845906956
【DTP、印刷】
松田 哲夫 (著), 内澤 旬子 (イラスト)、「印刷に恋して」、晶文社 (2002)、ISBN: 978-4794965011
【オンライン・プレゼンテーション】
吉藤 智広 (著)、「あなたのプレゼンが劇的に変わる！ Preziデザインブック」、日経BP (2018)、ISBN-13: 978-4822254520

【成績評価の方法と基準】
平常点(授業参加の積極性を含む、30%)、クリティークなど授業参加による平常点(20%)、中間課題(30%)ならびに最終課題(20%)を総合的に評価する。平常点の評価ポイントは積極的な授業参加、すなわち映像や音響作品への表現意欲をコンピュータ上で形にする「やる気と努力」、作品作りの背後にある仕組みへの技術的関心度、制作メモの提出、合評形式の相互批評への参加など。これらすべてが、お互いの作品から学び一人ひとりが自らを高めようとする向上心として評価される。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
2011年度までは3〜4年次の科目だったが、受講希望者、履修者の要望を採り入れ、また教学上の配慮も含め、2012年度より2年次より履修可能とした。2017年度は他学部生が参加したことで作品制作も合評もこれまで以上に刺激的な学びとなった。作品制作のテクニックの重要性のみならず作品性の追求や批評のための言語化の作業の重要性を気づいてもらえるよう努める。作品集は個人ポートフォリオだけではなく、クラス全体のギャラリーとしても公開を目指す。

【学生が準備すべき機器他】
本科目は国際文化学部・情報セミナー室（BT#0704）にて授業を行う。制作にはデジカメ、ハンディカム、PCを必要とする。
長尺プリンタを用いて制作物を大型の判型で出力し、セメスタ後半に制作展を開催する。Web、メディア媒体ならびにePortfolioに提出作品を保存公開する。

【その他の重要事項】
学生へのメッセージ：Premiere、Photoshopなどを駆使して制作とデザインに関するかなりの課題をこなしてもらいます。PCやソフトの操作を教える授業ではないので、作品作りを通じて自ら習得することを目指します。演習設備に限りがあるため20名程度の定員を設けており、受講者多数の場合には選抜することがあります。**作品作りが好きでたまらない人、とにかく何か作ってみたい人を歓迎します。**
情報系教員によるワークショップ形式の授業、マルチメディア実習、
高度なICTの活用実習、ならびに作品制作を通じて**本科目では学生の就業力育成を支援します。**
受講希望者は初回授業に出席すること。少人数ワークショップなので受講希望者が受入可能な上限人数を超える場合には抽選を実施することがある。

【前提科目】
前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」、情報系基礎科目（「情報システム概論」、「メディア情報基礎」、「ネットワーク基礎」）
Photoshopの応用技法については「メディア表現法」の履修をお薦めする。写真の技法については、本科目にて扱う。
関連科目：基幹科目「ディジタル情報学概論」、情報科目「仮想世界研究」など。

【教員の実務経験】
担当教員はIT企業での研究所勤務において15年間のディジタル信号処理、マルチメディア処理分野での研究とシステム開発の経験がある。

【Outline (in English)】
This course is a multimedia workshop for any advanced students with creative minds. The class is typically organized for 10-15 students so that everyone can work comfortably on weekly or biweekly assignments as well as on mutual critique starting from fundamentals in photography, large-format poster design, advertisement flyer design, laser engraving, web portfolio, to short film movie. All the creative efforts should eventually take the forms of individual artist portfolios to be presented at the public end-of-semester exhibition on campus.
Grading policy is as follows:
In-class contribution: 30%
Critique: 20%
Homework and in-class assignment: 30%
Final assignment: 20%
You must achieve at least 60%in the overall grade to pass for academic credit.
The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

ART300GA（芸術学 / Art studies 300）

五感共生論

川村　たつる

配当年次／単位：2〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**定員35名　定員を超えた場合は選抜を行います。詳細は学習支援システムで通知します。**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚という人間の五感の機能と役割を見ていきながら、それらが相互にどのように関係をしているのかを考察し、人は世界をどのように認識しているのかを学んでいきます。

【到達目標】
受講者それぞれが、講義と課題制作を通して、自身の感覚を再認識できることを目指している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
■人数制限・選抜
本授業は、受講者により提出された課題の発表を授業内で行う関係上、定員を35名とします。
※定員を超えた場合は選抜を行いますので、受講を希望される方は、必ず初回授業に出席してください。

■授業の進め方
①授業は、対面の講義形式で行います。
②課題は、「視覚」「聴覚」「触覚」を中心に、それぞれの感覚にかかわる講義や簡単な実験等を通して、受講生各自がその感覚の再確認を行い、用意されたテーマで課題制作を行い、発表をするという流れで行います。
※課題は、身近な材料を使った簡単な工作のようなものをイメージしてください。
※課題制作に関しては、表現技術の出来・不出来を評価するものではなく、設定されたテーマをどのように理解し、考え、表現しようとしたのかに重点を置いて評価します。
③授業ごとに授業内容に関する授業リアクションの提出を必須とします。
※提出されたリアクションは、全員分の内容を提出者の名前を外して配布し、受講者全員で共有できるようにします。
※オンライン受講、オンデマンド受講について
本授業は対面を基本としていますが、特別な事情で対面で授業が受けられない場合は、オンライン受講、もしくは授業録画を視聴するオンデマンド受講が可能です。
オンライン受講、オンデマンド受講を希望される場合は、必ず事務に相談の上、必要書類を提出してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	感覚の特性
第2回	視覚１	視覚とは？
第3回	視覚２	視覚に関する事例から考察する
第4回	視覚３	「みる・みえる」を考える
第5回	作品発表会１	課題１で提出された作品の発表と意見交換
第6回	聴覚１	聴覚とは？
第7回	聴覚２	聴覚に関する事例から考察する
第8回	聴覚３	「きく・きこえる」を考える
第9回	作品発表会２	課題２で提出された作品の発表と意見交換
第10回	触覚１	触覚に関する事例から考察する
第11回	触覚２	「さわる・ふれる・ふれている」を考える
第12回	作品発表会３	課題３で提出された作品の発表と意見交換
第13回	嗅覚	嗅覚に関する事例から考察する
第14回	味覚	味覚に関する事例から考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
●授業リアクションの提出は、授業内容を振り返り、授業後に授業支援システムで提出を行うこととします。
●課題は、各自が授業外で行うこととします。
●本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。
※上記以外に準備学習や復習が必要なことは、随時授業内で設定します。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。

【参考書】
『錯覚の世界』ジャック・ニニオ著（新曜社/2004年）、『顔を科学する』山口直美・柿木隆介編（東京大学出版会/2013年）、『聴覚心理学概論』B.C.J.ムーア著（誠信書房/1994年）、『触覚の世界: 実験現象学の地平』ダーヴィット・カッツ著（新曜社/2003年）、『神経心理学コレクション：タッチ』岩村吉晃著（医学書院/2001年）、『体と手がつくる知覚世界』東山篤規著（勁草書房/2012年）、『味臭覚の科学』斉藤幸子・小早川達著（朝倉書店/2018年）、『「おいしさ」の錯覚』チャールズ・スペンス著（角川亜書店/2018年）等

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、出席率と各授業毎に提出される「授業内容に対するリアクション」から、授業の理解度を平常点として評価（70%）。
また、課題に対して受講者自身がどのようなにアプローチができたかを評価（30%）。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

※成績評価を行うためには、すべての課題提出を必須とします。

【学生の意見等からの気づき】
新たな知識を得たことで満足するのではなく、受講生各自がそれらを自身で再考察できるように授業の進め方、振り返り方法を受講生の反応に応じて考えていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
視覚障害者が関わるNPO法人で実務経験のある教員が、その経験から感覚について講義を行う。

【Outline (in English)】
The course will consider how people perceive things/things by examining the interrelationships among the five senses.
The goal of the class is to enable each participant to reacquaint himself/herself with his/her own senses.
As learning outside of class hours, reactions to the class content will be submitted online after class.
Each student is expected to watch the video materials and complete assignments outside of class.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on 70%regular marks and 30%assignments.

ART300GA（芸術学 / Art studies 300）

空間デザイン論

前田　尚武

配当年次／単位：2〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**選抜　定員 20 名**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「空間」は、都市、建築、アート、グラフィック、映像などさまざまなデザイン手法が駆使されたメディアである。各々の領域で論じられている「空間」を講義と体験を通して多角的に理解し、空間デザインを表現・伝達する理論的かつ実践的な方法論を学ぶ。

【到達目標】
本講座は、デザインの制作技術を習得するのではなく、空間デザインを操るリテラシーを高めるとともに、空間が背負う社会的・文化的背景や文脈を理解する力を養うことが目標である。講義を通して理論を学び、フィールドワークでは講師とともに建築を巡り、空間を読み解き、その魅力を感じ取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
本講座は、一級建築士であり学芸員である講師がこれまで企画、設計、デザインを手がけた都市開発、建築、展覧会等を主たる題材に、舞台裏での経験と実例を基に空間デザインの理論と実務を講義する。また、講義に連動してフィールドワークを積極的に実施。訪問先との調整を行った上で下記各講座を再編し、日時、場所を決定し事前に周知する。講義の進行状況、登録人数等により、講義内容、フィールドワーク先、日程等は変更になる可能性があり、オンラインで実施することもある。授業の初めに、前回授業で提出されたリアクションペーパーからのコメントを紹介し、受講者に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	講義 ガイダンス	講義全体のガイダンス。テーマ、目標、スケジュールなど。
第2回	講義 アートと空間：美術館・博物館空間論	いま、美術館に求められる空間とは何か。企画、展示、運営など多角的な視点から美術館・博物館を考察するとともに、現代美術における空間表現：インスタレーション作品の制作過程から様々な展覧会での空間構成や照明デザインまで舞台裏を解説。
第3回	フィールドワーク アート・都市・空間：六本木ヒルズのパブリックアートと森美術館	講師が設計を担当した六本木ヒルズを巡り、都市の成り立ちや空間構成、都市とアートの関係を学ぶ。
第4回	フィールドワーク アート・都市・空間：六本木ヒルズのパブリックアートと森美術館	第２回で学んだ美術館の展示空間を美術館で観察し、現代美術の展示手法、展示空間のデザインなどの理解を深める。
第5回	講義 都市と空間：都市デザインの萌芽から未来へ	戦後復興都市計画から、建築運動メタボリズム、70 年大阪万博、六本木ヒルズなど現代日本の都市デザインの実験的試みを俯瞰し、都市空間の将来像を考える。
第6回	講義 アートと空間：エリアマネジメントとアート	近現代における環境芸術としてのアートが都市において果たしてきた役割といま求められているものは何かを解説。
第7回	講義&フィールドワーク アートと空間：京都市京セラ美術館	国内最古の美術館建築で、2020 年にリニューアル開館した京都市京セラ美術館。改修から現在まで携わっている講師が対面とオンラインのハイブリッドでその革新的なリノベーションについて解説。
第8回	講義&フィールドワーク アートと空間：京都市京セラ美術館	京都市京セラ美術館の空間を対面とオンラインのハイブリッドでツアーを実施し、第２回で学んだ理論を実践しているアートのための空間を観察する。
第9回	フィールドワーク 建築鑑賞：上野公園	重要文化財や世界遺産など明治から現代に至る数多くの大規模建築が集積する上野公園を講師の解説で巡り、日本の近現代建築史を実空間で体感し、理解を深める。
第10回	フィールドワーク 建築鑑賞：新橋・銀座	戦前のモダン建築からメタボリズム建築、ハイブランドの現代建築まで世界的建築家が競演する新橋・銀座エリアの建築を講師の解説で巡り、日本の近現代建築史を実空間で体感し、理解を深める。
第11回	講義 伝統と空間：日本建築の発見	日本建築の魅力を再発見し、国際的に伝えようとした明治の建築家・建築史家の軌跡を紹介し、伝統継承の問題を考える。
第12回	講義 伝統と空間：日本建築のグローバリズムと多様性	日本建築の影響がみられる国内外の近現代の建築作品の数々を読み解き、木組の構成美、民家、茶室まで多様な日本建築の特質を継承している現代建築を紹介し、空間デザインの未来を考える。
第13回	フィールドワーク 建築鑑賞：江戸東京たてもの園	講義で学んだ建築の理論を実空間を通して体験し理解を深める。
第14回	フィールドワーク 建築鑑賞：江戸東京たてもの園	講義で学んだ建築の理論を実空間を通して体験し理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習としてフィールドワークの訪問先について、事前に公式HP等で十分に理解しておくこと。また、復習として各回コメントシートを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
・『モダン建築の京都 100』石田潤一郎・前田尚武編著　発行：Echelle-1　2021年
・その他必要に応じて授業時に随時紹介。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加、コメント・シートの記述内容）と、レポートの合計。講義期間中の講義およびフィールドワークを通してテーマを設定し、レポートを提出する。評価基準は平常点50 %、レポート50 %とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
フィールドワーク先の美術館、博物館等の入館料が必要。

【その他の重要事項】
◉講義日程
土曜日３-４限2コマ連続開講（原則隔週）を予定。詳細日程は、2025年夏に、学習支援システムで周知する。
◉講師略歴
前田尚武（まえだ なおたけ）
一級建築士／学芸員。１９９４年、早稲田大学大学院修了。２００３年から１５年間、森美術館に在籍し、「メタボリズムの未来年展」（２０１１年）、「建築の日本展」（２０１８年）など建築展を企画。現在、京都市京セラ美術館企画推進ディレクター、「モダン建築の京都」（２０２１年）を企画。国内外の美術館・博物館の建築設計、展示企画やデザインに携わっている。一連の建築展企画で２０１９年度日本建築学会文化賞ほか受賞多数。２０２２年より建築公開イベント「京都モダン建築祭」実行委員を務める。

【Outline (in English)】
【Course outline】
“Space” is a media in which various design methods such as city, architecture, art, graphic, image etc. are utilized.
Understand the meaning of “Space” discussed diversely in each area through lectures and experiences and learn the theoretical and practical methodology of how to present and transmit space design.
【Learning Objectives】
The goal of this course is not to master design production techniques, but to enhance literacy in manipulating spatial design and to develop the ability to understand the social and cultural background and context that a space bears. Students will learn theory through lectures, and in fieldwork, they will tour architecture with the instructor to acquire the ability to read spaces and sense their appeal.
【Learning activities outside of classroom】

As preparatory study, students are required to fully understand the fieldwork destinations in advance through official websites, etc. In addition, students are required to submit a comment sheet for each session as a review. The standard preparation and review time for this class is about 1 hour each.
【Grading Criteria /Policy】
The sum of regular marks (active participation in class, written comments and sheets) and reports. Students will be required to submit a report on a theme developed through lectures and fieldwork during the lecture period. Evaluation will be based on 50%of regular points and 50%of reports. Based on this grading system, students who have achieved at least 60%of the achievement objectives of this class will be considered to have passed the course.

POL200GA（政治学 / Politics 200）

国際関係研究Ⅰ

松本　悟

配当年次／単位：1～4年／2単位
旧科目名：国際関係研究Ⅰ（アクターに着目した理論の捉え方）
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業ではアクター（行為の主体）に着目して「国際関係」を学ぶ。「国際関係」を国家の関係のみで語ることは困難であり、特にＮＧＯや企業などの民間アクターの存在は重要である。本授業ではそのために必要な理論を習得するとともに、それを通して国際社会の諸問題を多角的に分析する力を養う。

【到達目標】
（1）授業で扱う非国家アクターが「国際関係」にどのような影響を及ぼしているかを説明できる。
（2）「国際関係」に関わる事件や問題が生じたとき、理論的に現象を説明することができる。
（3）関連する文献の趣旨を正しく読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
■基本方針：対面で実施する。学内業務の関係で、オンデマンドを使用することもある。
■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。
■授業内討論：毎回グループ討議・発表を行い、教員がフィードバックする。また、数回は演習型の授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際関係研究の概要及び本授業の狙いと全体像を講義する。
2	理論とは何か	国際問題を考える際に無意識に使っている「理論」を自覚する。
3	リアリズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイムであるリアリズムを理解する。
4	リベラリズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイムであるリベラリズムを理解する。
5	コンストラクティヴィズムとマルキシズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイム（アプローチ）であるコンストラクティヴィズムとマルキシズムを理解する。
6	演習	ここまで学んだ4つのパラダイムを使って、国際社会の具体的な問題を複数の角度から分析する演習を行う。
7	ＮＧＯとは何か	ＮＧＯの定義、歴史、特徴などについて学ぶ。
8	規範起業家としてのＮＧＯ	国際社会におけるＮＧＯの役割として重視されている規範起業家について具体的な事例に基づいて考える。
9	国家補完と脱国家	ＮＧＯは国家を補完しているのか、国家を「脱している」（trans）のか、国際人道支援を通して考える。
10	ガバメンタリティ	国家に操られずにＮＧＯが国家に影響を与えることは可能なのか、具体例を通して考える。
11	民間助成団体	世界中のＮＧＯ活動に資金を提供する民間の助成団体の機能を国際関係学の枠組みで考えてみる。
12	民間企業と国際関係	民間企業が国際社会に及ぼしている影響について具体例を通じて考える。
13	ビジネスと人権	私的企業は何をしてもいいのか、「国連ビジネスと人権に関する指導原則」を例に考える。
14	まとめ（プライベートレジーム）	「非国家アクターが作る国際関係と責任の所在」という視点から授業全体を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
【期末レポートの課題として使う】松本悟・大芝亮編（2013）『NGOから見た世界銀行―市民社会と国際機構のはざま―』ミネルヴァ書房。

【参考書】
毛利聡子（2011）『NGOから見る国際関係：グローバル市民社会への視座』法律文化社。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業内討論への参加度、授業後課題）50%、期末レポート50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
・特になし。なお、2021～22年度は学部長職にあったため兼任講師に代講をお願いしていたので、その頃に履修した先輩の助言はあまり参考にならないので注意して欲しい。

【その他の重要事項】
・長年ＮＧＯとして国際開発の分野に携わってきた教員が、経験に基づくＮＧＯの現状を交えて講義する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course focuses on "actors" in global society, which are not only nation-states but also NGOs and private companies. It enables students to analyze the global issues from various perspectives and to recognize the significance of "actor-oriented" and theoretical approach in international studies.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) explaining the influences exerted by non-state actors in "international relations".
2) explaining the incidents or problems relevant to "international relations" from theoretical viewpoints.
3) being able to read the relevant literatures critically and analytically.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

ARSf200GA（地域研究（東南アジア） / Area studies(Southeast Asia) 200）

国際関係研究Ⅱ

松本　悟

配当年次／単位：**1〜4年／2単位**
旧科目名：**国際関係研究Ⅱ（メコン流域国の開発と環境（社会と自然））**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では東南アジア半島部のメコン地域／メコン河流域国／大メコン圏という「地域」に着目して「国際関係」を学ぶ。「開発」をテーマにし、特にその社会的・環境的側面を多角的に見る視点を養う。

【到達目標】
（1）「地域研究」の視点からメコン河流域の自然環境やそれに依拠する社会について学び、日本とは異なる生活様式や社会への理解を深める。
（2）メコン河流域の環境・社会問題と日本との関係について学ぶ。
（3）演習型（ゼミ形式）の反転学習を通して、「地域」を分析するための多角的な視点を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
■基本方針：対面で実施する。学内業務の関係でオンデマンドを使用することもある。
■発表とグループ討議：演習スタイルで授業を運営する。履修者は必ず1回発表を担当する。第3回授業以降は、課題文献を読んできていることを前提にした発表とグループ討議及び教員の補足授業という構成で行う。分析的な文献講読、討議、発表といったアカデミックスキルを高めることを目的としている。詳細は第1回授業で説明する。
■発表担当者：履修人数にもよるが1人もしくは複数の履修者で毎回担当する。事前にレジュメを準備し共同で発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の狙い、進め方を説明する。グループと発表者を決める。
2	「地域」とは何か（メコン全体）	メコン地域、メコン河流域国、大メコン圏などの用語をもとに、国際文化学部で学ぶ「地域」の射程について考える。
3	越境環境問題（中国、ラオス、タイ）	国を越える環境問題をどう考えるのか、因果関係やレジューム論などを参照軸に議論する。
4	小さな村から見えるもの（ラオス、タイ）	ラオスの小さな村の30年間の歩みから「開発と環境」を捉えるマクロな視点とミクロな視点について議論する。
5	森林「減少」と森林「破壊」（メコン全体）	環境問題が抱える広義の政治性について、ポリティカルエコロジーの視点を参照軸に議論する。
6	影響予測の人文学（タイ、ラオス）	開発の社会・環境影響を調査すればいいという問題解決策について、国際文化や地域研究の視点から議論する。
7	資金から見た人権・環境問題（ミャンマー）	環境破壊や人権侵害につながりやすい開発を進める資金源について議論する。
8	財と資源（カンボジア）	カンボジアのトンレサップ湖の漁業を事例に、財として見た魚について議論する。
9	洪水と水害（カンボジア、ベトナム）	メコンデルタの洪水を事例に、「水が溢れる」という現象について、国際文化の視点から議論する。
10	人身取引（タイ、ミャンマー）	不法滞在者への人権侵害を通じて、法律では解決できない問題を国際文化の視点から議論する。
11	境界（メコン全体）	メコン地域の呼び方は、政治的な背景によって異なる。何かに境界線を引くことの意味と危うさを議論する。
12	重複の機能（メコン全体）	メコン地域を含む国際協力の枠組みは複数存在し、一見すると重複している。そこから重複することの働きについて国際文化の視点から議論する。
13	歴史から考えるメコン開発（メコン全体）	ここまで取り上げた事例を解釈学、系譜学、考古学の視点から振り返り、歴史「から」ではなく歴史「を」学ぶ意義について議論する。
14	開発と責任（メコン全体）	開発が環境破壊や人権侵害に繋がる時、その「責任」を問いたくなるが、責任とは何だろうか。この授業全体を「責任」から問い直し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表担当にあたっていない場合でも、必ず事前課題を行ってくること。反転学習なのでそうでないと授業についていけない。本授業の準備学習・復習時間は各1-2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点20%、発表20%、グループ討議への貢献度20%、期末レポート40%。期末レポートでは、授業で取り上げた概念、理論、事象を繋げて論理的な文章を書くことを求める。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。なお、2021〜22年度は学部長職に就いていたため、兼任講師に代講を依頼していたので、その頃に受講した先輩の助言は参考にならない点を注意して欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
課題文献や授業後課題があるので、授業コードを使って必ず学習支援システム（Hoppii）に自己登録すること。

【その他の重要事項】
■第1回授業授業後に発表担当者とグループを決めるので、履修を検討している学生は必ず第1回授業に出席すること。どうしても出席できない場合は、事前に履修の意思を担当教員にメールで連絡すること（smatsumoto[アットマーク]hosei.ac.jp）。
■学部や学年を超えて演習スタイルの授業を行うので、通常の授業だけでなく、演習（ゼミ）とも異なる学びがある。
■メコン河流域国で30年以上にわたってNGO活動に従事してきた実務家教員が、その活動経験を事例に組み込みながら授業を運営する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course focuses on "Mekong region" or "Mekong basin countries" or "Greater Mekong Subregion" of the mainland Southeast Asia and covers "development," in particular its social and environmental aspects in order to learn the multidisciplinary approach.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) taking reflective views of area studies, in particular implications of society-natural environment nexus in the Mekong region.
2) explaining the relations between the social environmental issues in the Mekong region and Japan.
3) understanding multi-disciplinary approach for analyzing "area" through flipped classroom method.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentation: 10%, group discussion: 20%, in-class contribution: 30%, term-end report : 40%.

SOS200GA（その他の社会科学 / Social science 200）

実践国際協力

松本　悟

配当年次／単位：**1〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学教育で「実践」から学ぶことには2つの意義があると考える。1つは体系立った学習の応用として、もう1つは新たに学習すべき領域を見つけるためである。この授業では後者を主たる目的とする。テーマは「国際開発協力」を中心的に取り上げる。国際開発協力の実践例を通して、国際社会の理解につながる思いもよらぬ学問分野の大切さを発見し、更なる学習と探究の端緒となるようにする。

【到達目標】
（1）国際開発協力の理解に必要な概念や用語を理解し説明できるようになる。
（2）国際開発協力の実践課題を抽象化し他に応用できるようになる。
（3）実践的な学習におけるグループ討議の意義を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
■基本方針：対面で実施する。学内業務の関係でオンデマンドを使用することもある。
■フィードバック：毎回の発表に対しては授業内にコメントする。また授業への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。
■授業の方法：具体的な国際開発協力のケース（事例）をもとにグループ討議を行う「ケースメソッド」を準用する。ケース文書は毎回事前課題の宿題として課す。①受講者をグループに分けての討議、②グループ発表を含む全クラス討議、③担当教員によるコメント・補足講義、の3つの要素を組み入れる。なお、本授業のケースメソッドはビジネススクールなどで使われる問題解決の手法としてではなく、視点の抽出方法として活用する。
■授業後課題：毎回の課題文献と授業をもとに短く書く。授業後3日以内に学習支援システムに投稿。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらい、ケースメソッド、各ケースの特徴、グループ分け。履修者人数の確認。
2	国際開発協力概論	国際開発協力がどのような組織によって、いかなる分野で行われているかを概観する。
3	ケース1　保健衛生プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
4	ケース1を受けたグループ発表・討議	ケース1に関するグループ発表、その後全体討議。
5	ケース2　少数民族プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
6	ケース2を受けたグループ発表・討議	ケース2に関するグループ発表、その後全体討議。
7	ケース3　参加型開発プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
8	ケース3を受けたグループ発表・討議	ケース3に関するグループ討議、その後全体討議。
9	ケース4　緊急援助プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
10	ケース4を受けたグループ発表・討議	ケース4に関するグループ発表、その後全体討議。
11	事前事業評価表を読み解く	開発援助事業の事前事業評価をその場で読んで疑問点をあげ、その妥当性をグループで討議する。
12	事前調査報告書を読み解く	開発援助事業の事前調査報告書を事前に読み、そこから導かれる実務的に重要な点をグループで討議する。
13	実際のケースから	担当教員もしくは外部のゲストの実体験をもとに、実践上の課題を議論する。
14	授業内試験	13回の授業をもとにした授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
全員、授業前にケース（事例）文章を必ず「精読」して来なければならない。「精読」とは、わからない用語を自分で調べ、事実関係を理解できるように読むことを指す。通学電車の中でざっと目を通すような読み方では授業に参加できないと考えて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
山口しのぶ・毛利勝彦編（2011）『ケースで学ぶ国際開発』東信堂。

【参考書】
W.エレット（2010）『入門ケース・メソッド学習法』ダイヤモンド社。
その他、授業の中で示す。必要に応じてコピーを配布する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業後課題20%、事前課題文献に基づいたグループ討議への参加度40%、授業内試験40%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。なお、授業内試験は紙媒体のものは全て持ち込み可。

【学生の意見等からの気づき】
■100分では討議と発表が終わらないという声が多いので、初めのうちは、1つのケースに授業2回分を充てる。

【学生が準備すべき機器他】
授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。課題文献の提示や課題の提出に学習支援システム（Hoppii）を使う。

【その他の重要事項】
■国際開発協力NGOでの実務経験を有する教員が、自らが関わった具体的な開発事例を議論のためのケースとして取り上げる。
■グループ討議を軸とする授業であり、遅刻や欠席はグループ討議を困難にするため、必ず出席すること。
■グループは第3回授業から事前に固定して作る。グループ替えは3回行う。第1回授業に出席できないものの履修を希望する学生は、必ず第2回授業日前日までに履修の意思を担当教員までメールで連絡すること（smatsumoto[アットマーク]hosei.ac.jp）。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to motivate students to find out specific topics or fields which they want to study more to understand international development cooperation. The Case Method is applied for this course.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Understanding the key concepts and the technical terms relevant to international development cooperation.
2) Turning abstract the lessons learned from the case method discussion and applying it for other cases.
3) Understanding benefits and usefulness of the group discussion in practical learning.
【Learning activities outside of classroom】
-Students will be expected to have read and analyze the assigned case documents based on the instruction before each class meeting.
-Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.
-Totally, your study time will be at least four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 40%, assignments after a class meeting: 20%, in-class contribution: 40%.

ECN300GA（経済学 / Economics 300）

途上国経済論

武貞　稔彦

配当年次／単位：1〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。またそれらの基礎的な知識は、持続可能な開発目標（SDGs）に掲げられた各種課題／目標の理解の基礎となるものでもある。

【到達目標】

本講義においては、ア）途上国経済の分析枠組み、特徴、イ）主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、ウ）日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し、エ）将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

途上国経済論Ⅰにおいては、途上国の社会と経済を見る際に使われる分析枠組み、主要地域ごとの歴史と社会の概要、日本と特に関係が深いアジア諸国の経済と社会を中心に学ぶ。

学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。

また学習支援システムを通じたコメント／質問の提出も可能とする。フィードバックは学習支援システムを通じて個別に行うが、必要に応じて授業内でも内容を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：開発途上国とは。途上国経済を見る目	開発途上国とよばれる国や地域はどのようなところか、概念を整理する。同時に、途上国を見る際に頻繁に使われる分析枠組み（評価軸）を再考する。
第2回	経済成長の理論と途上国経済の位置づけ	経済学の世界では経済成長はどのようなものだと考えられているかを紹介し、途上国経済を扱う「開発経済学」の発展を概観する。
第3回	日本は途上国だったのか？ ：戦後日本の経済成長と現在の開発途上国経済	戦後日本は急速な経済成長をとげたが、現在の開発途上国にとって日本はどのような点で手本足り得るかを考える。
第4回	途上国社会・経済の概況（1）：アジア地域	アジア地域の「途上国」と呼ばれる国や地域が「キャッチアップ」を果たす過程で、政府・国家がどのような役割を果たしたのか、東アジアと南アジアをとりあげ、歴史的な視点から概観する。特に、分析の視点として「植民地」について考える。
第5回	途上国社会・経済の概況（2）：ラテンアメリカ地域	アジアと異なる「植民地」経験を持つラテンアメリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第6回	途上国社会・経済の概況（3）：アフリカ	アジアと異なる「植民地」経験を持つアフリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第7回	途上国社会・経済の概況（4）：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第8回	主要国／地域の社会と経済（1）：韓国－危機とその克服	韓国は、目覚しい経済成長を遂げたNIESの代表である。一旦は先進国の仲間入りを果たした韓国の歩んだ道筋と1997年のIMF危機以降の経済・社会の状況について理解する。
第9回	主要国／地域の社会と経済（2）：台湾－その生い立ちと国際社会における立場	台湾も、韓国とならび目覚しい経済成長を遂げたNIESの一つである。現在の台湾の国際社会・国際経済における地位はその特殊な生い立ちに影響されていることを理解する。
第10回	主要国／地域の社会と経済（3）：香港およびシンガポール－小さな街の大きな経済	アジアNIESの一つである香港とシンガポールをとりあげ、資源のない国（都市）の経済成長について考える。
第11回	主要国／地域の社会と経済（4）：インドネシア－多様性の中の権威主義的開発体制	アセアン（Association of South East Asian Nations）の一員としてNIESに続き経済成長を遂げたインドネシアをとりあげ、政治体制と経済成長（経済発展）の関係について考える。
第12回	主要国／地域の社会と経済（5）：マレーシア－カリスマと経済成長	強力なリーダーによる経済成長戦略を通じて発展したマレーシア経済・社会を概観する。
第13回	民主主義と経済成長	アジア的価値がアジア諸国の経済成長をもたらしたのか。民主主義と経済成長の関係を、アジア諸国を例に考える。
第14回	経済成長、進歩、貧困	先進国、途上国いずれもが経済成長を通じた社会の進歩、貧困の克服を目指してきた。現代の途上国は経済成長によって貧困をなくすことができるのか、という問いを概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

グラボウスキー他（2008年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）
渡辺利夫編（2007年）『アジア経済読本（第4版）』（東洋経済新報社）

大塚啓二郎（2020年）『なぜ貧しい国はなくならないのか（第２版）正しい開発戦略を考える』 (日本経済新聞出版)

【成績評価の方法と基準】
成績評価は中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート20%、期末試験
80%を予定する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内で学生の発言を促す工夫を行う。

【学生が準備すべき機器他】
講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、学習支援システム上に掲示する。

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This is a first part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings. Those basic knowledge are also the basis for understanding the various issues/goals set forth in the Sustainable Development Goals (SDGs).
[Learning Objectives]
The objectives of this lecture are to a) learn about the analytical framework and characteristics of developing economies, b) learn about the characteristics of the economies and societies of major regions and major countries, c) better understand the position of Japanese society and economy in the world, and d) be able to communicate meaningfully with people in other countries based on basic knowledge in the future.
[Learning Activities outside of classroom]
Students are required to prepare for and review the materials introduced in each lecture.
It is necessary to refer to the relevant parts of the reference literature and reference books specified for each lecture before and after the lecture to deepen understanding of the lecture contents. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
Grading will be based on mid-term report and final exam. Grading will be based on mid-term report 20%, final exam 80%
.

OTR200GA（その他 / Others 200）

インターンシップ事前学習

岩下　弘史

配当年次／単位：2〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、学生が「国際文化学部に親和性のある企業・団体の第一人者によるプロフェッショナルな仕事」を理解し、今後の就職活動などに活かすことにあります。複数の外部講師が登壇する「オムニバス授業」です。

本学部学生の中は、卒業後どのような仕事に就くのか、就けるのかという点について不安に思っている学生もいるかもしれません。本授業を通じて、学生はいくつかの業界は国際文化学部との親和性が大きいものであることを理解するでしょう。

またそうした業界の第一線で働く経験豊富な講師による授業を見聞きすることで、学生はそれぞれの業界・企業・団体の仕事の内容と将来の展望を知ることができます。

【到達目標】

1）国際文化学部に関連する企業・団体の第一線で活躍される外部講師らによる講義を通じて、学生は各職種の特徴・問題などを学ぶことができる。
2）実社会で生きるとはどういうことかを、最新のデータや体験談を交えて学ぶことができる。
3）国際文化学部と親和性の高い企業・機関に関する生の情報を収集することで、「インターンシップ」という就業体験や就職活動などの準備にも活かすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

・本授業は、初回を除いて外部講師によるオムニバス授業となります。各回ではパワーポイントなどを用いながら、各企業・機関・団体の活動やインターンシップ制度などについて講演して頂きます。毎回、授業時間内にコメントシートに記載してもらいます。
・各授業の最後に質疑応答時間を設け、履修者からの質問を受け付けます。その場で外部講師の方にフィードバックをして頂きます。
・もし質疑応答時間後に質問が生じた場合（あるいは時間の都合で質疑応答時間中に質問できなかった場合）は本授業担当教員までメールで連絡ください。できる限り外部講師の方にご回答いただき、履修者にフィードバックするようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・本授業の目的・方法の説明 ・成績評価の詳細
第2回	榎本裕洋氏（株式会社丸紅経済研究所、研究主幹）	総合総社とはなにか
第3回	山崎はずむ氏（株式会社Poetics 、代表取締役）	スタートアップという選択肢：生成AIと音声解析AIによるPoeticsの挑戦
第4回	ひきたよしあき氏（株式会社SmileWords、代表取締役）	広告を学んで、言葉の力を強くする
第5回	松江陽一郎氏（株式会社テレビ朝日、お客様フロント部、部長）	テレビは、オールドメディアか？
第6回	武田伸也氏（アムネスティ・インターナショナル日本、キャンペーン部門マネージャー）	ストリートバスケから国際人権NGOに――シビックスペースを守る活動
第7回	藤下超氏（NHK、メディア総局、特別主幹、解説委員）	テレビ報道の未来
第8回	市川明代氏（毎日新聞社、人事本部、採用研修担当部長）	SNS時代のメディア
第9回	畑中晴雄氏（花王株式会社、ESG部門ESG戦略部 ESG戦略スペシャリスト）	花王のESG戦略と具体的な取組
第10回	水野義弘氏（ANA総合研究所、産学連携部、主席研究員）	新しいエアラインビジネス
第11回	松山匡延氏（M-wing合同会社、代表）	国際協力：教育分野での活動
第12回	梅野太輝氏（株式会社朝日広告社 、マーケティングプロデュース部）	広告について
第13回	深澤孝之氏（株式会社明石書店、編集部長）	ナラティブから読み解く出版ビジネス入門
第14回	片貝悠氏（株式会社インターネットイニシアティブ、IT サービスインテグレーション本部 兼 広報部 リードエンジニア）	ネット社会を支えるネットワークエンジニアのお話

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎回の配布資料については、しっかりと再読すること。
・興味のある講師のテーマや職種については、図書館などで関連する文献を調べ、できるだけ視野を広げること。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・教科書はとくにありません。授業内において関連資料を配布します。

【参考書】

・随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・「平常点（出席＆コメントシート）60％」と「期末レポート40％」による総合評価。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
・第14回目授業後に期末レポートの提出。締切期日・分量・提出方法など詳細については初回授業時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

・例年、各授業の最後には質疑応答の時間をとっている。しかし、必ずしも毎回意見や質問が出るわけではない。そのため、もしも質問が出ない場合には、改めて補足説明をお願いしたり、適宜学生に当てたりするなど、今後も授業運営を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出・質疑応答等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

・「インターンシップ事前学習」という授業名称ではありますが、本授業は各業界におけるインターンシップに直結したものではありません。
・本授業は「実務経験のある教員による授業」となります。企業・団体で勤務実績があり、第一線で活躍されている外部講師らが業界分析・企業研究などを行います。

【Outline (in English)】
This course aims to introduce professional works which have affinity with educations and researches in the Faculty of Intercultural Communication. In this course, each lecture will be given in omnibus format, mainly by lecturers who work in some Japanese company or international organization. The goals of this course are to understand the difference of activities in each company or international organization. In doing so, they will know what and how to prepare for participating to internship programs or job hunting in the future. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report (40%) and in class contribution (60%).

LAW300HA（法学 / law 300）

労働環境法

櫻井　洋介

配当年次／単位：2〜4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
備考（履修条件等）：環コア：経

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、労働者として自律的なキャリアを形成していく上で必要な労働法の基礎知識の習得を目指します。労働法の役割は、使用者と比べて相対的に立場の弱い労働者を保護し、労使対等の理念を実現することであり、全ての労働者が知っておくべき法律であるといえます。社会に出る前に労働法の基礎知識を習得しておくことは、将来的に自身の身を守ることにもつながります。

【到達目標】
労働法の基礎知識の習得を通じて、身近な労働に関する諸問題について、法的に説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は基本的に講義形式となります。授業ごとに小テストを課すことを予定しています。小テストの内容は、講義の中で解説をします。また、最終講義では論述試験を行います。
授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	労働環境法の全体像	労働関連法令の構成や全体像、役割等について学ぶ
第2回	労働者、使用者の概念と労働条件の決定	労働法のアクターである労働者や使用者の概念を学ぶとともに、労働条件の決定に関するプロセスを理解する。
第3回	募集・採用と様々な雇用形態	募集・採用時のルールや、採用内定および試用期間の法的性格、有期労働契約の特徴等について学ぶ。
第4回	賃金と労働時間・休憩・休日（1）	労働時間・休日・休憩に関する基本的な法的ルールを学ぶ。
第5回	賃金と労働時間・休憩・休日（2）	賃金の支払いに関する規制や割増賃金の考え方等を学ぶ。
第6回	様々な働き方と労働時間制度	フレックスタイム制や裁量労働制等といった労働時間管理の諸制度の構造について学ぶ。
第7回	配置転換・労働条件の変更	配置転換や出向・転籍等の命令権に関する法律上の考え方を理解するとともに、労働条件を変更する際の手続について学ぶ。
第8回	安全衛生と労災補償	使用者の安全配慮義務や労災補償制度の概要を学ぶ。
第9回	労働組合の役割	労働組合の加入や脱退、権利の概要を学ぶとともに、団体交渉の意義や労働協約の法的効力等について学ぶ。
第10回	労働契約の終了：解雇規制と定年退職	解雇に関する法的な規制や定年退職および定年後の再雇用等に関するルールについて学ぶ。
第11回	労働者の人権保障とハラスメント規制	労働者の人権や労働契約上の権利義務、ハラスメントに関する法的規制の現況等について学ぶ。
第12回	平等原則と差別の禁止（女性、障害者、年齢、国籍等）	男女雇用機会均等法および障害者雇用促進法の制定や改正を中心として、労働法上の平等原則や均等待遇、差別禁止に関連する法令の全体像や概要を学ぶ。
第13回	新しい働き方と労働法の現代的課題	非典型雇用の他、フリーランス、ギグワーカー等といった新しい働き方を取り巻く労働環境や法の適用状況等について学ぶ。
第14回	期末テスト	授業内でテストを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義の終わりに、次回講義に向けた予習内容を指示しますので、指示に従って該当箇所を熟読してから講義に臨むようにしてください。予習内容は、次週の講義内で紹介する判例を読み込んでもらうことを予定しています。また、復習を行う場合は、レジュメや教科書に目を通すだけでなく、講義内で紹介した判例の内容をしっかりと理解するようにしてください。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中窪裕也・野田進『労働法の世界（第13版）』（有斐閣, 2019年）

【参考書】
初学者向けの参考書として、①浜村彰・唐津博・青野覚・奥田香子『ベーシック労働法第9版』（有斐閣アルマ，2023年）、判例を確認する際の参考書として、②『労働判例百選（第10版）』（有斐閣，2022年）を挙げておきます。

【成績評価の方法と基準】
授業ごとに行われる小テスト（基本的な法規制や重要判例についての理解を確認するための選択・穴埋め式問題）を50%、期末試験を50%とします。

【学生の意見等からの気づき】
本講義では、法律科目の初学者向けに、必要に応じて期末テスト前に法律科目の試験答案の書き方等に関する説明を行う予定です。

【その他の重要事項】
本講義は、労働環境論Ⅰ、Ⅱと関係しています。本講義は主に「法律」に焦点を当てますが、労働環境論Ⅰ、Ⅱの講義を通じて、法律の背景にある労働環境の現状や変遷について学んでおくと、より理解が深まると思います。
また、本講義の担当教員は実務家教員であり、これまで金融機関や政府関連機関、コンサルティングファーム等、様々な組織での勤務経験を有しているため、企業の実務や実態に即した講義を実施させていただきます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to provide students with the basic knowledge of labor law necessary to develop an autonomous career. The role of labor law is to protect workers who are in a relatively weaker position compared to employers and to realize the principle of equality between workers and employers, and it is a law that all workers should know. It is important for all workers to have a basic knowledge of labor law before starting their careers, so that they can protect themselves.
【Learning Objectives】
Students will be able to legally explain various labor-related issues in their daily lives through acquiring a basic knowledge of labor law.
【Learning activities outside of classroom】
At the end of each lecture, students will be given instructions on how to prepare for the next lecture (e.g., the relevant pages in the textbook). Please follow the instructions and read the relevant sections carefully before attending the lecture.
When students review the lectures, they should not only read through the resumes and textbooks, but also make sure that they fully understand the content of the precedents introduced in the lectures.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
The quiz given in each class (multiple choice/fill-in-the-blank type questions to check understanding of basic laws and regulations and important judicial precedents) will be 50%, and the final exam will be 50%.

MAN200HA（経営学 / Management 200）

現代企業論

長谷川　直哉

配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
備考（履修条件等）：環ｺｱ：経

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SDGsやパリ協定の登場によって、化石燃料依存型経済から脱炭素経済への移行が求められています。企業はSDGsを達成する上で重要なパートナーと位置づけられており、企業が果すべき役割はこれまで以上に拡がりをみせています。この授業では、大量生産・大量消費時代の終焉、地球温暖化問題の深刻化、企業の社会的責任に対する関心の高まり、サステナビリティ社会への移行という外部環境の変化を踏まえ、企業を取り巻く様々な現代的課題を取り上げつつ、企業経営のあり方を概観します。

【到達目標】
ヒト・モノ・カネ・情報等の各要素を効率的に機能させる株式会社に関する基礎的な知識を習得します。さらに、SDGsやカーボンニュートラルという事業環境の変化に立ち向かう企業の経営戦略を理解し、持続可能な社会における企業の役割に対する理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
株式会社の基本機能（経営管理、マーケティング、ファイナンス、人的資源管理）、株式会社の組織と戦略（経営組織、経営戦略、製品開発等）、現代企業が直面する諸課題（気候変動、SDGs、脱炭素等）に関する基本理論の説明と様々な業種の企業事例をケーススタディとして取り上げます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 企業経営は何か	講義の目的・進め方 株式会社の基本機能
第2回	製品・サービスの提供 ケーススタディ①サントリー	市場における優位性の獲得 ケーススタディ：スポーツドリンクの開発
第3回	株式会社の仕組みと課題 ケーススタディ②本田技研工業]	株式会社は誰のものか ケーススタディ：ステーションワゴンの開発
第4回	大企業の機能と専門経営者の誕生 ケーススタディ③キヤノン	所有と経営の分離 ケーススタディ：デジタルカメラの開発
第5回	企業規模の拡大と組織 ケーススタディ④スズキ	規模の利益と経営の効率化 ケーススタディ：原付自転車の開発
第6回	日本的経営の構造 ケーススタディ⑤黒川温泉（熊本県）	日本的経営の成果と課題 ケーススタディ：温泉リゾートの再生
第7回	経営戦略の基本 ケーススタディ⑥ミツカン	長期的な企業価値向上戦略とは ケーススタディ：納豆食品のマーケティング
第8回	企業による特別講義	企業担当者による講義（詳細内容が確定次第、学習支援システムに掲載します）
第9回	デジタル・トランスフォーメーション（DX）と企業経営 ケーススタディ⑦日清食品	AI・IoTの活用と経営変革 ケーススタディ：カップ麺の開発
第10回	競争戦略とマネジメント ケーススタディ⑧ユニクロ	市場競争力の本質 ケーススタディ：ファストファッションの成功要因
第11回	株式市場と企業価値 ケーススタディ⑨ジブリ	企業価値の源泉とは何かケーススタディ ケーススタディ：創造力の源泉とは
第12回	製品開発戦略 ケーススタディ⑩ビール業界の企業間競争	製品開発のコンセプトとプロセス：アサヒが業界トップになった要因
第13回	シェアリングエコノミー	消費志向の変化「所有から使用へ」
第14回	SDGsと企業経営 日経ストックリーグへの挑戦	学生が選ぶサステナビリティ企業とは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料や参考書を使用して必ず復習をして下さい。新聞等で報道される経済問題や企業動向のトピックを継続的にウォッチし、現代企業が生き残りをかけて、どのような戦略的行動をとろうとしているのか考えてみましょう。この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回、レジュメを配布します。

【参考書】
長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと経営構造改革』文眞堂，2023年
長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会，2023年
Naoya.HASEGAWA （2020）“Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan
長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文眞堂，2021年
長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶESG経営』文眞堂，2019年
長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文眞堂，2018年
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文眞堂，2017年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステイナブル経営史』文眞堂，2016年

【成績評価の方法と基準】
期末レポート　　：70％
特別講義レポート：10％
平常点　　：20％（リアクションペーパー）
期末レポートは講義内容に関する理解度と課題に対して自己の見解を論理的に展開しているかを評価します。特別講義レポートは講義内容の理解度を確認します。授業終了時にリアクションペーパーの提出を求めます。

【学生の意見等からの気づき】
経営学の初学者を対象にケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】
特に準備する必要はありません。

【担当教員の専門領域】
＜専門領域＞
サステナブル経営・企業倫理・ESG投資・ビジネスヒストリー

＜研究テーマ＞
取締役会の実効性分析
企業価値の向上に資する非財務情報の開示

【最近の主要業績】
「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」（2021年9月28日）』2021年
「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学（2020年3月2日～12日）』2020年
「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319』2021年

【実務経験のある教員による授業】
損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証上場企業の社外取締役・顧問として企業経営に参画しています。
【関連資格】
日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】
With the advent of the SDGs and the Paris Agreement, there is a need to transition from an economy dependent on fossil fuels to a decarbonized economy.
Corporations have been positioned as important partners in achieving the SDGs, and the role they should play is expanding more than ever.
In this lecture, I will explain how corporate management should be in the 21st century, taking into account the changes in the external environment: the end of the era of mass production and mass consumption, the worsening of climate change, and the shift to a sustainable society.
This class aims to provide students with basic knowledge of international policy trends in sustainability and the ability to understand sustainability management in Japanese companies.
Students are required to learn about corporate efforts toward the SDGs and the Paris Agreement on their own by referring to integrated reports and sustainability reports issued by companies.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on the special lecture report (15%) and the final report (85%).

MAN200HA（経営学 / Management 200）

ビジネスヒストリー

長谷川　直哉

配当年次／単位：**1〜4年／2単位**
開講セメスター：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**火2/Tue.2**
備考（履修条件等）：**環ｺｱ：経**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
戦前・戦後の日本経済の発展をリードした代表的な企業家の活動について説明します。過去から現在に至る企業および企業家活動の展開を振り返ることで、企業と社会の関係やSDGs（持続可能な開発目標）とビジネスの関係について学びます。併せて、就職活動などで必要とされる企業研究のポイントついて説明します。

【到達目標】
日本企業の成長プロセスを振り返り、①企業のパーパス（存在意義）、②事業活動を通じて長年培ってきた「知の蓄積」の実像、③SDGsを先取りしたビジネスを理解し、現代社会で問われている企業活動の社会的意義や企業価値を的確に評価する知識を身につけます。併せて、就職活動で必須となる企業研究の方法論を身に着けることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、わが国の代表的な企業や企業家のケースを取り上げて解説します。講義にはパワーポイントを使用し、必要に応じてDVD等を視聴します。現代企業に求められているE（環境）、S（社会）、G（ガバナンス）が、実際の企業活動の中でどのように実践されているのかを説明します。対面授業を基本としつつ、状況に応じてオンデマンド授業を交えながら講義を行います。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ビジネスヒストリーを学ぶ意義
	伊庭貞剛［住友財閥］	「自利利他公私一如」の事業精神
第2回	鈴木馬左也［住友財閥］	「以徳招利」の経営
第3回	岡田良一郎［大日本報徳社］	経済と道徳の両立を目指した社会企業家
第4回	金原明善［金原治山治水財団］	日本版ソーシャルビジネスの先駆者
第5回	ウィリアム・メレル・ヴォーリズ［近江兄弟社］	「スチュワードシップ」に基づく経営の実践
第6回	高峰譲吉［三共商店・現第一三共］	研究とビジネスを両立させたバイオベンチャーの先駆者
第7回	豊田佐吉［豊田式織機・現トヨタグループ］	ニンベンのついた自働化を目指したイノベーション
第8回	鈴木道雄［鈴木式織機・現スズキ］	社会の変化からオポチュニティを掴む経営構想力
第9回	大原孫三郎［倉敷紡績・クラレ］	「労働理想主義」の実践
第10回	波多野鶴吉［郡是製糸・現グンゼ］	「人財マネジメント」を通じた価値創造
第11回	矢野恒太［第一生命］	相互主義による生命保険事業の確立
第12回	各務鎌吉［東京海上］	リスクマネジメント通じた社会課題の解決
第13回	島津源蔵［島津製作所］	科学技術は社会の未来を創る
第14回	伊藤忠兵衛［伊藤忠商事］	「三方よし」の経営

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料と教科書を使用して必ず復習して下さい。企業のホームページに掲載されている「企業の歴史」などを参照して、各企業が生き残りをかけてどのような取り組みを行ってきたのかを考えてみましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
長谷川直哉『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命－』文眞堂,2021年
毎回、レジュメを配布します。

【参考書】
長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと経営構造改革』文眞堂，2023年
長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会，2023年
Naoya.HASEGAWA （2020）“Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan
長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶESG経営』文眞堂，2019年
長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文眞堂，2018年
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文眞堂，2017年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステイナブル経営史』文眞堂，2016年
長谷川直哉編著『企業家に学ぶESG経営』文眞堂，2019年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステイナブル経営史: CSR経営の先駆者に学ぶ』文眞堂，2016年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどる日本の金融事業史』文眞堂，2013年
長谷川直哉著『スズキを創った男－鈴木道雄』三重大学出版会、2005年

【成績評価の方法と基準】
期末試験：80％
平常点　：20％（リアクションペーパーの提出）

期末試験は教科書に掲載した企業家に関する問題を出題します。講義で取り上げた内容に関する理解度と、設問に対して自己の見解を論理的に展開しているかを評価します。授業終了時にリアクションペーパーの提出を求めます。

【学生の意見等からの気づき】
ケーススタディを中心に、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】
特に準備する必要はありません。

【担当教員の専門領域】
＜専門領域＞
サステナブル経営・企業倫理・ESG投資・ビジネスヒストリー
＜研究テーマ＞
取締役会の実効性分析
企業価値の向上に資する非財務情報の開示

【最近の主要業績】
「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」（2021年9月28日）』2021年
「SDGsと企業責任①〜⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学（20203月2日〜12日）』2020年
「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319』2021年

【実務経験のある教員による授業】
損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証上場企業の社外取締役・顧問として企業経営に参画しています。
【関連資格】
日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】
With the advent of the SDGs and the Paris Agreement, there is a need to transition from an economy dependent on fossil fuels to a decarbonized economy.
Corporations have been positioned as important partners in achieving the SDGs, and the role they should play is expanding more than ever.
In this class, I will explain how corporate management in the 21st century should be based on changes in the external environment, such as the end of the era of mass production and mass consumption, the worsening of climate change, and the transition to a sustainable society.
This class aims to equip students with the knowledge to accurately evaluate the social significance of corporate activities and corporate value, which are being questioned in today's society.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on mid-term report (50%) and final report (50%).

MAN200HA（経営学 / Management 200）

中小企業論

松本　敦則

配当年次／単位：1〜4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火5/Tue.5
備考（履修条件等）：環コア：経,ロ,グ

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中小企業は日本の全企業数の99.7％を占めており、日本経済の成長の源泉である。また、多くの中小企業は多様性、発展性、可能性を秘めている。しかしながら、現在グローバル化や情報化等により中小企業を取り巻く環境は大きく変化している。本授業では中小企業に関する歴史的経緯を踏まえ、存在意義、現状を理解し、今後の可能性を検討することが目的である。

【到達目標】
学生は中小企業や中小企業政策に関する歴史的経緯と現状、今後の可能性を理解できる。これらを踏まえ、ベンチャー企業や産業集積、商店街、公的な中小企業支援機関や金融機関の役割、ファミリー企業、事業承継、行政の補助金等についても取り上げ、中小企業の多様性、可能性を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式で授業を行うが、授業内でのグループワークや中小企業の経営者、中小企業を支援している政策担当者などゲストスピーカーとのディスカッションなども行う。
毎回、テーマに応じた簡単な小レポートを提出してもらう。次回の授業で提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス。中小企業・ベンチャ企業を取り巻く現状分析 1	ガイダンスと日本における中小企業の現状と問題点を考察する。
2	中小企業・ベンチャー企業を取り巻く現状分析 2	日本における中小企業の現状と分析を行う。
3	中小企業政策 1	中小企業基本法を理解する。
4	中小企業政策 2	中小企業政策の変遷を理解する。
5	産業集積 1	産業集積の理論的検討を行う。
6	産業集積 2	日本や海外における産業集積の事例研究を行う。
7	中小企業金融 1	中小企業やベンチャー企業を取りまく金融機関の役割と現状を理解する。
8	中小企業金融 2	信用保証協会や公的金融機関等の役割と現状を理解する。
9	中小企業支援機関の役割 1	地域中小企業支援センターの役割を理解する。
10	中小企業支援機関の役割　2	商工会議所、商工会の役割やインキュベーション・マネージャーの役割を理解する。
11	イタリアの中小企業	イタリアの中小企業の事例研究
12	商店街	商店街の発生から現在の状況、課題を学ぶ。
13	老舗企業・ファミリー企業	老舗企業やファミリー企業の事例研究を行う。
14	中小企業と事業承継	中小企業の社長の高齢化に伴い、事業承継の必要性が問われている。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業において配布された資料や紹介された文献を読み復習を行う。また毎回の授業の終了時に次回の授業内容を提示するのでその予習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
清成忠男　(1996)『ベンチャー・中小企業優位の時代』東洋経済新報社
清成忠男（2009）『日本中小企業政策史』有斐閣
植田浩史、桑原武志、本多哲夫、義水忠一（2006）『中小企業・ベンチャー企業論』有斐閣コンパクト
渡辺幸男、小川正博、黒瀬直宏、向山雅夫（2022）『21世紀中小企業論（第４版）』有斐閣

【成績評価の方法と基準】
期末試験（50％）、小レポート課題（30％）、平常点（20％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度から新規開講のため無し。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当。
大学卒業後、銀行にて中小企業への融資、営業、支援等の業務を行ったため、それらの経験も授業で取り上げる。

【Outline (in English)】
（Course outline）
Small and medium-sized enterprises account for 99.7%of all companies in Japan and are the source of growth for the Japanese economy. Many small and medium-sized enterprises also have diversity, potential, and hidden possibilities. However, the environment surrounding small and medium-sized enterprises is currently undergoing major changes due to globalization and information technology. The purpose of this class is to understand the historical background of small and medium-sized enterprises, their raison d'être, their current situation, and to consider their future potential.
（Learning Objectives）
Students will understand the historical background, current situation, and future possibilities of small and medium-sized enterprises and small and medium-sized enterprise policies. Based on this, students will also learn about venture companies, industrial districts, shopping districts, the role of public small and medium-sized enterprise support organizations and financial institutions, family businesses, business succession, government subsidies, etc., and will understand the diversity and potential of small and medium-sized enterprises.
（Learning activities outside of classroom）
Students will read and review the materials distributed and literature introduced in class. In addition, the content of the next class will be presented at the end of each class, so students will prepare for it. The standard preparation and review time for this class is two hours each.
（Grading Criteria /Policy）
Final exam (50%), short report assignment (30%), regular grades (20%)

MAN300HA（経営学 / Management 300）

CSR論Ⅰ

長谷川　直哉

配当年次／単位：2〜4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
備考（履修条件等）：環ｺｱ：経, グサ

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は現代社会において企業が直面する社会課題を取り上げます。企業の社会的責任（CSR）やサステナビリティ（SDGs）を巡る国際的な動向を整理し、企業と社会の関係性が時代とともにどのように変遷してきたのかを説明します。授業を通じて学生がサステナビリティ社会における企業の社会的責任を正しく理解する能力を涵養し、将来の職業選択にも役立つ知識を提供します。

【到達目標】
SDGs（持続可能な開発目標）、CSR（企業の社会的責任）、パリ協定（脱炭素）、責任投資原則、ESG投資など、気候変動を巡る世界的な政策動向と日本企業の対応について理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
SDGsの登場によってサステナビリティがグローバル社会のキーワードとなった今、社会課題の解決に向けて、企業には幅広い責任を果たしていくことが求められています。本講義では、SDGsやCSRに関する理論やケースを取り上げ、企業経営におけるサステナビリティの意義やビジネスがどのように変わっていくのかを解説します。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 企業の本質とは何か	講義の全体像と進め方 企業と社会の関係の変遷
第2回	グローバル経済の進展とその影響	SDGsとパリ協定の登場によって社会経済システムはどのように変化するか
第3回	SDGs（持続可能な開発目標性）と企業経営	SDGsが求める企業像とは何か 企業と社会の関係はどのように変化していくのか
第4回	カーボンニュートラル（パリ協定）の意義	パリ協定を基軸とする脱炭素革命は経営構造をどのように変えていくのか
第5回	欧州のサステナビリティ戦略①	欧州におけるサステナビリティ戦略の変遷とケーススタディ
第6回	欧州のサステナビリティ戦略②	EUグリーンディールの内容と日本企業への影響
第7回	外部講師による特別講義①	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します）
第8回	責任投資原則と企業評価	投資家による非財務情報の評価が投資行動と企業経営に及ぼす影響
第9回	サステナブルマネーの動向	サステナビリティを推進する諸原則（責任投資原則、責任銀行原則、持続可能な保険原則）について
第10回	人権・人的資本経営	企業価値を高める人権政策と人財育成のあり方
第11回	外部講師による特別講義②	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します）
第12回	サステナビリティを巡る政策動向	企業経営を取り巻く国内外のサステナビリティ政策の動向
第13回	企業不祥事はなぜ起こるのか	企業不祥事に関するケーススタディ
第14回	社会から選ばれるサステナブルストーリー	ビリーブドリブン消費者の台頭によってブランド戦略はどう変わるか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
国内では1,000社程度の企業がサステナビリティ報告書を発行しています。この授業で習得した知識を活かして、興味のある企業のサステナビリティ報告書を読んでみましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回、レジュメを配布します。

【参考書】
長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと経営構造改革』文眞堂，2023年
長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会，2023年
Naoya.HASEGAWA （2020）“Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan
長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文眞堂，2021年
長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶESG経営』文眞堂，2019年
長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文眞堂，2018年
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文眞堂，2017年

【成績評価の方法と基準】
期末レポート　：　60％
特別講義レポート：　20％（2社分）
平常点　：　20％（リアクションペーパー）
期末レポートは講義内容の理解度と課題に対して自己の見解を論理的に展開しているかを評価します。特別講義レポートは講義内容の理解度を確認します。授業終了時にリアクションペーパーの提出を求めます。

【学生の意見等からの気づき】
ケーススタディと企業の実務担当者の講義を織り交ぜて、理論と実務の関係を分かりやすく説明します。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【担当教員の専門領域】
＜専門領域＞
サステナブル経営・企業倫理・ESG投資・ビジネスヒストリー
＜研究テーマ＞
取締役会の実効性分析
企業価値の向上に資する非財務情報の開示

【最近の主要業績】
「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」（2021年9月28日）』2021年
「SDGsと企業責任①〜⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学（2020年3月2日〜12日）』2020年
「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319』2021年

【実務経験のある教員による授業】
損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証上場企業の社外取締役・顧問として企業経営に参画しています。
【関連資格】
日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】
In this lecture, we will learn about the social issues that companies face in today's society. the growing interest in SDGs (Sustainable Development Goals) and CSR (Corporate Social Responsibility) is due to the fact that people feel that society is not moving in the right direction.
This class aims to deepen students' understanding of the relationship between society and corporations from the perspective of sustainability. Students will also gain knowledge that will be useful in their future corporate choices.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on the reports of the two special lectures (30%) and the final report (70%).

MAN300HA（経営学 / Management 300）

CSR論Ⅱ

長谷川　直哉

配当年次／単位：2〜4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
備考（履修条件等）：環ｺｱ：経, グサ

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
CSR論Ⅰで習得した知識を基に、SDGs（持続可能な開発目標）やBusiness Ethics（企業倫理）が時代と共にどのように変遷してきたのかを辿ります。持続可能な社会において求められる企業の役割、企業のパーパス（存在意義）や経営思想について理解を深めることめざします。

【到達目標】
SDGsが求める課題は、企業だけでは解決できません。多様な主体とのパートナーシップを通じた課題解決が求められる現代社会では、多面的な物の見方や解決策の策定が欠かせません。企業と社会の関係を巡る国内外の経済思想や企業倫理の変遷を学ぶことで、現代社会が直面している課題の解決に必要な基礎知識の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では、経営学・経済学・法政策等の視点から欧米諸国と日本のSDGs/CSRおよびBusiness Ethicsに関する基本理論や背景となる思想を解説します。また、具体的事例や実践的課題を取り上げ、現代社会において進行している現象を通じて、企業と社会の相互関係や経営者に求められる倫理観の形成について検討します。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 社会構造の変化と企業が直面する課題	講義の進め方 現代企業が直面する事業環境の変化について
第2回	近代産業の勃興と経済倫理〔1〕「経済活動の自由と自律」	アダム・スミス『道徳感情論』にみる経済と倫理の関係性について
第3回	近代産業の勃興と経済倫理〔2〕「最大多数の最大幸福をどう生み出すか」	J.ベンサム・J.ミル「功利主義思想」とM.ウェーバー「資本主義の精神と倫理」について
第4回	企業社会の変容とCSR・SDGsの登場	ポスト資本主義社会における企業の役割とは何か
第5回	日本社会の企業倫理と責任経営〔1〕	報徳思想を背景とする企業倫理の醸成
第6回	日本社会の企業倫理と責任経営〔2〕	戦後日本における企業責任の生成と展開
第7回	外部講師による特別講義〔1〕	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します）
第8回	新自由主義から第三の道へ	新自由主義への反動と第三の道（新しい公共）の生成
第9回	ESG経営の最新動向「環境編」	カーボンニュートラル政策の動向と日本企業の対応
第10回	ESG経営の最新動向「社会編」	企業価値を高める人権・人的資本経営とは何か
第11回	ESG経営の最新動向「ガバナンス編」	経営者による企業統治および情報開示の現状
第12回	外部講師による特別講義〔2〕	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します）
第13回	企業不祥事の実態	企業不祥事の発生メカニズムと対策
第14回	ネイチャポジティブ経営	自然資本と生物多様性を尊重した経営のあり方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関心のある企業のホームページや文献で創業の理念や創業から現代に至るビジネスモデルの変遷を調べてください。企業がどのような価値観を背景にSDGsに取り組んでいるか考えてみましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回、レジュメを配布します。

【参考書】
長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと経営構造改革』文眞堂，2023年
長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会，2023年
Naoya.HASEGAWA （2020）“Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan
長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文眞堂，2021年
長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶESG経営』文眞堂，2019年
長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文眞堂，2018年
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文眞堂，2017年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステイナブル経営史』文眞堂，2016年

【成績評価の方法と基準】
期末レポート　　：60％
特別講義レポート：20％（2社分）
平常点　　：20％（リアクションペーパー）
期末レポートは講義内容の理解度と課題に対して自己の見解を論理的に展開しているかを評価します。特別講義レポートは講義内容の理解度を確認します。授業終了時にリアクションペーパーの提出を求めます。

【学生の意見等からの気づき】
ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【担当教員の専門領域】
＜専門領域＞
サステナブル経営・企業倫理・ESG投資・ビジネスヒストリー
＜研究テーマ＞
取締役会の実効性分析
企業価値の向上に資する非財務情報の開示

【最近の主要業績】
「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」（2021年9月28日）』2021年
「SDGsと企業責任①〜⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学（2020年3月2日〜12日）』2020年
「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319』2021年

【実務経験のある教員による授業】
損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証上場企業の社外取締役・顧問として企業経営に参画しています。
【関連資格】
日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】
In this lecture, we will examine the aims of sustainability policy and changes in business strategy. We will consider what the role of corporations in a sustainable society is and what elements are necessary to sustainably increase corporate value.
This class aims to deepen students' understanding of SDGs and carbon neutrality in corporate management. Students will be able to gain a deeper knowledge of the future of Japanese companies.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on the reports of the two special lectures (30%) and the final report (70%).

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

途上国経済論Ⅰ

武貞　稔彦

配当年次／単位：**1〜4年／2単位**
開講セメスター：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金**4/Fri.4
備考（履修条件等）：**環コア：経, グ**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。またそれらの基礎的な知識は、持続可能な開発目標（SDGs）に掲げられた各種課題／目標の理解の基礎となるものでもある。

【到達目標】
本講義においては、ア）途上国経済の分析枠組み、特徴、イ）主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、ウ）日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し、エ）将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
途上国経済論Ⅰにおいては、途上国の社会と経済を見る際に使われる分析枠組み、主要地域ごとの歴史と社会の概要、日本と特に関係が深いアジア諸国の経済と社会を中心に学ぶ。
学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。
また学習支援システムを通じたコメント／質問の提出も可能とする。フィードバックは学習支援システムを通じて個別に行うが、必要に応じて授業内でも内容を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：開発途上国とは。途上国経済を見る目	開発途上国とよばれる国や地域はどのようなところか、概念を整理する。同時に、途上国を見る際に頻繁に使われる分析枠組み（評価軸）を再考する。
第2回	経済成長の理論と途上国経済の位置づけ	経済学の世界では経済成長はどのようなものだと考えられているかを紹介し、途上国経済を扱う「開発経済学」の発展を概観する。
第3回	日本は途上国だったのか？ ：戦後日本の経済成長と現在の開発途上国経済	戦後日本は急速な経済成長をとげたが、現在の開発途上国にとって日本はどのような点で手本足り得るかを考える。
第4回	途上国社会・経済の概況（1）：アジア地域	アジア地域の「途上国」と呼ばれる国や地域が「キャッチアップ」を果たす過程で、政府・国家がどのような役割を果たしたのか、東アジアと南アジアをとりあげ、歴史的な視点から概観する。特に、分析の視点として「植民地」について考える。
第5回	途上国社会・経済の概況（2）：ラテンアメリカ地域	アジアと異なる「植民地」経験を持つラテンアメリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第6回	途上国社会・経済の概況（3）：アフリカ	アジアと異なる「植民地」経験を持つアフリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第7回	途上国社会・経済の概況（4）：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第8回	主要国／地域の社会と経済（1）：韓国－危機とその克服	韓国は、目覚しい経済成長を遂げたNIESの代表である。一旦は先進国の仲間入りを果たした韓国の歩んだ道筋と1997年のIMF危機以降の経済・社会の状況について理解する。
第9回	主要国／地域の社会と経済（2）：台湾－その生い立ちと国際社会における立場	台湾も、韓国とならび目覚しい経済成長を遂げたNIESの一つである。現在の台湾の国際社会・国際経済における地位はその特殊な生い立ちに影響されていることを理解する。
第10回	主要国／地域の社会と経済（3）：香港およびシンガポール－小さな街の大きな経済	アジアNIESの一つである香港とシンガポールをとりあげ、資源のない国（都市）の経済成長について考える。
第11回	主要国／地域の社会と経済（4）：インドネシア－多様性の中の権威主義的開発体制	アセアン（Association of South East Asian Nations）の一員としてNIESに続き経済成長を遂げたインドネシアをとりあげ、政治体制と経済成長（経済発展）の関係について考える。
第12回	主要国／地域の社会と経済（5）：マレーシア－カリスマと経済成長	強力なリーダーによる経済成長戦略を通じて発展したマレーシア経済・社会を概観する。
第13回	民主主義と経済成長	アジア的価値がアジア諸国の経済成長をもたらしたのか。民主主義と経済成長の関係を、アジア諸国を例に考える。
第14回	経済成長、進歩、貧困	先進国、途上国いずれもが経済成長を通じた社会の進歩、貧困の克服を目指してきた。現代の途上国は経済成長によって貧困をなくすことができるのか、という問いを概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】
グラボウスキー他（2008年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）
渡辺利夫編（2007年）『アジア経済読本（第4版）』（東洋経済新報社）
大塚啓二郎（2020年）『なぜ貧しい国はなくならないのか（第２版）正しい開発戦略を考える』(日本経済新聞出版)

【成績評価の方法と基準】
成績評価は中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート20%、期末試験
80%を予定する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内で学生の発言を促す工夫を行う。

【学生が準備すべき機器他】
講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、学習支援システム上に掲示する。

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This is a first part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings. Those basic knowledge are also the basis for understanding the various issues/goals set forth in the Sustainable Development Goals (SDGs).
[Learning Objectives]
The objectives of this lecture are to a) learn about the analytical framework and characteristics of developing economies, b) learn about the characteristics of the economies and societies of major regions and major countries, c) better understand the position of Japanese society and economy in the world, and d) be able to communicate meaningfully with people in other countries based on basic knowledge in the future.
[Learning Activities outside of classroom]
Students are required to prepare for and review the materials introduced in each lecture.
It is necessary to refer to the relevant parts of the reference literature and reference books specified for each lecture before and after the lecture to deepen understanding of the lecture contents. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
Grading will be based on mid-term report and final exam. Grading will be based on mid-term report 20%, final exam 80%
.

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

途上国経済論Ⅱ

武貞　稔彦

配当年次／単位：1〜4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
備考（履修条件等）：環ｺｱ：経, グ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。それらの基礎的な知識は、持続可能な開発目標（SDGs）に掲げられた課題／目標の理解の基礎となるものでもある。

【到達目標】
本講義においては、途上国経済論Ⅰに引き続き、ア）主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、イ）日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し　ウ）南北問題や世界貿易など、個々の国や地域が置かれている「構造」への理解を深めることで、エ）将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
途上国経済論Ⅱにおいては、新興国と呼ばれる経済成長著しい国、今後の経済発展が見込まれる国などの歴史と社会の概要、国際経済の成り立ちなどを講義形式で学ぶ。
学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。
また学習支援システムを通じたコメント／質問の提出も可能とする。フィードバックは学習支援システムを通じて個別に行うが、必要に応じて授業内でも内容を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：途上国経済を見る目	途上国経済論Ⅰの概要の復習とⅡの主題についての概観。
第2回	世界経済の歴史	「経済」と呼ばれるものの誕生も含め,「世界経済」の成り立ち、発展について概観する。
第3回	世界貿易の構造をめぐる議論	国際経済の主要な活動である貿易について、その理論、構造、課題を概観する。
第4回	途上国社会・経済の概況（1）：中国（1）社会主義と資本主義	中国は世界有数の大国であり、計画経済から市場経済へと緩やかに転換しつつ経済成長を続けている。議論の前提として社会主義／共産主義の考え方についての理解を深める。
第5回	途上国社会・経済の概況（2）：中国（2）持続的経済成長と大国としての復活	世界経済にインパクトを与える存在となった中国の社会と経済について概観する。
第6回	途上国社会・経済の概況（3）：インド－目覚めた大国	インドは、近年、経済成長著しいBRICsの一つ。イギリス植民地から独立した後のインドの長い経済停滞、1990年代以降の目覚しい経済発展という大きな流れを理解する。
第7回	途上国社会・経済の概況（4）：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第8回	主要国／地域の社会と経済（5）：タイ－東南アジアの「先進国」	東南アジア諸国のなかでもNIESに続く目覚ましい経済発展を遂げたタイ。アジア通貨危機の発端となるなど途上国の中の「先進国」の経済社会を概観する。
第9回	主要国／地域の社会と経済（6）：ベトナム－戦場から市場へ	1960年代にベトナム戦争で大きな傷を受けたベトナムが新興経済国の一角として名乗りを挙げる過程を概観する。
第10回	主要国／地域の社会と経済（7）：ブラジル－南米の大国	ブラジルはインドや中国とならび21世紀に入って新興国として台頭著しい。豊かな自然を抱える大国の姿を概観する。
第11回	主要国／地域の社会と経済（8）：南アフリカ－アパルトヘイト	アパルトヘイトという大きな問題を克服して以降の南アフリカ経済の新興国としての経済成長を概観する。
第12回	主要国／地域の社会と経済（9）：ボツワナ－資源の呪いを越えて	アフリカ大陸にありながら世界でも有数の高経済成長を続けたボツワナの経済社会を概観する。
第13回	国際経済の中の域内協力	ASEAN（東南アジア諸国連合）を例に、グローバル化がすすむ国際社会における域内協力の重要性を概観する。
第14回	まとめ：途上国経済および世界経済の未来	講義全般の復習を行うとともに、今後の世界経済、途上国経済の姿について想像する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】
グラボウスキー他（2008年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）
渡辺利夫編（2007年）『アジア経済読本（第4版）』（東洋経済新報社）
大塚啓二郎（2020年）『なぜ貧しい国はなくならないのか（第２版）正しい開発戦略を考える』(日本経済新聞出版)

【成績評価の方法と基準】
成績評価は中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート20%、期末試験
80%を予定する。

【学生の意見等からの気づき】
学生が記入したリアクションペーパーに対する、教員からのコメントなどを充実することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】
講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、学習支援システム上に掲示する。

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】
[Course Outline]

This is a second part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings. Those basic knowledge are also the basis for understanding the various issues/goals set forth in the Sustainable Development Goals (SDGs).
[Learning Objectives]
The objectives of this lecture are to a) learn about the analytical framework and characteristics of developing economies, b) learn about the characteristics of the economies and societies of major regions and major countries, c) better understand the position of Japanese society and economy in the world, and d) be able to communicate meaningfully with people in other countries based on basic knowledge in the future.
[Learning Activities outside of classroom]
Students are required to prepare for and review the materials introduced in each lecture.
It is necessary to refer to the relevant parts of the reference literature and reference books specified for each lecture before and after the lecture to deepen understanding of the lecture contents. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
Grading will be based on mid-term report and final exam. Grading will be based on mid-term report 20%, final exam 80%
.

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

国際経済協力論Ⅰ

武貞　稔彦

配当年次／単位：1〜4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火5/Tue.5
備考（履修条件等）：環ｺｱ：経, グ

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバリゼーションが進展する世界において、国と国の間に所得だけではなく様々な格差が広がっている。そして貧困や格差の解消は、持続可能な開発目標（SDGs）の第一の目標とされている。経済協力は、そういった貧困や格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。人々がより善く生きることができる社会の構築に受講生が関わるために、この講義では国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

【到達目標】
本講義を通じて学生は、1）国際協力に関する基礎的な知識を獲得することができる。それら基礎的な知識は、具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取組みを含む。2）これら基礎的知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりがなし得ることについて、各自が自分なりの意見や考えを持ち、人に伝えられるようになることが期待される。3）加えて「持続可能な開発目標（SDGs）」におけるパートナーシップの意義についても説明できるようになることが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
国際経済協力論Ⅰにおいては、講師の経済協力の実務経験の紹介も交えながら、日本の取り組みを中心に、経済協力の歴史や背景、その仕組みについての理解を深めるための講義を進める。必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：国際経済協力（開発協力）とは？	国際経済協力（開発協力）とはどのような取り組みか、またなぜそのような取り組みが必要とされているのかについて理解する。
第2回	開発途上国とは？	開発途上国と呼ばれる国や地域はどのようにところで、どのように生まれたのかを理解し、われわれが途上国をみる際の視点を再考する。
第3回	国際社会と開発協力の歴史（1）（1945年〜1960年代）：戦後世界と南北問題	第二次世界大戦後の国際秩序形成の過程と南北問題の登場、初期の開発協力の取り組みについて概観する。
第4回	国際社会と開発協力の歴史（2）（1970年〜1980年代）：経済協力への失望と変化の兆し	開発協力の初期の取り組みへの反省と幻滅、その後の変化につながる新たな考え方の登場を概観する。
第5回	国際社会と開発協力の歴史（3）（1990年代〜現在）：冷戦後の世界とグローバリゼーション	冷戦終結後の国際秩序と、グローバリゼーション下における開発協力の位置づけを概観する。
第6回	日本の開発協力の歩み（1）：被援助国から援助国へ	第二次世界大戦後の日本は援助を受ける国であったこと、その経験がその後の日本の開発協力に与えた影響について理解する。
第7回	日本の開発協力の歩み（2）：援助国としてのスタート	日本の援助国としての取り組みについて、1950年代〜1970年代までの社会経済の変化とあわせ概観する。
第8回	日本の開発協力の歩み（3）：援助大国と日本の責任	日本の援助国としての取り組みについて1980年代〜2000年以降の社会経済の変化とあわせ概観する。
第9回	開発協力の仕組みと方法	日本の開発協力の仕組みと現状（特徴）につき、統計資料などをもとに理解する。
第10回	開発協力の現場に関わる人々：政府、援助機関、企業、NGO(NPO)	日本の開発協力はどのような人々に担われているのかを理解する。特に政府（「官」）ではなく、「民」の果たしている役割の大きさについて理解する。
第11回	開発協力をめぐる議論の大きな流れ（1）：経済成長と人間開発	開発協力の基本的な目標の変遷について大きな流れとして理解する。「経済」重視から「人間」重視に移り変わる様を、具体的な戦略（アプローチ）の変遷およびSDGsのような国際目標を通じて理解する。
第12回	開発協力をめぐる議論の大きな流れ（2）：持続可能な開発と環境	開発協力の分野で環境をめぐる問題がとりあげられてきた経緯を知り、時代ごとに異なる環境問題の様相について理解する。
第13回	開発協力の評価と効果をめぐる議論	これまでの開発協力には効果はあったのか、という問いに対する答えを概観する。そのうえでこれからの経済協力について考えるための材料を得る。
第14回	日本が開発協力を行う理由	日本は途上国への開発協力を続けるべきか、そうだとすればその理由は何か、日本国民がそれらの問いをどう考えているかを知る。そのうえで自分なりの答えを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
受講生は各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を、講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は利用せず、担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】
松本勝男著（2023年）『日本型開発協力　途上国支援はなぜ必要なのか』（ちくま新書）
牧田東一編著（2013年）『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力論入門』（学陽書房）
勝間靖編著（2012年）『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）
斎藤文彦（2005年）『国際開発論』（日本評論社）
外務省（毎年発行）『日本の開発協力』（ODA白書）

【成績評価の方法と基準】
中間レポート（20%）と期末試験（80%）による。

【学生の意見等からの気づき】
提供される情報が多いため、理解しやすい形でメリハリをつけることが求められているところ授業運営に引き続き留意したい。

【学生が準備すべき機器他】
講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

【実務経験のある教員による授業】
担当者は、途上国への経済協力に携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This is the first part of a series of lectures on international economic cooperation, with emphasis on Japan's Official Development Assistance. In an increasingly globalized world, disparities are growing not only in income but also in other aspects between countries. Eliminating poverty and disparity is the first goal of the Sustainable Development Goals (SDGs). Economic cooperation is one of the ways to reduce poverty and disparity and to build new countries, societies, and the world together. This lecture aims to provide students with a basic knowledge of international economic cooperation in order for them to be involved in building a society in which people can live better lives.
[Learning Objectives]
Through this course, students will 1) acquire basic knowledge of international cooperation. This basic knowledge includes the history and structure of economic cooperation, the theory behind it, the results and impact of economic cooperation to date, and new challenges and initiatives in recent years. 2) Based on this basic knowledge, students are expected to be able to formulate their own opinions and ideas about Japan's role in the international community, and to be able to communicate them to others. 3) In addition, students are expected to be able to explain the significance of partnership in the Sustainable Development Goals (SDGs).
[Learning Activities outside of classroom]
Students are required to prepare for and review the materials introduced in each lecture.
It is necessary to refer to the relevant parts of the reference literature and reference books specified for each lecture before and after the lecture to deepen understanding of the lecture contents. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
Grading will be based on mid-term report and final exam. Grading will be based on mid-term report 20%, final exam 80%
.

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

国際経済協力論Ⅱ

武貞　稔彦

配当年次／単位：1〜4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火5/Tue.5
備考（履修条件等）：環ｺｱ：経, グ

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバリゼーションが進展する世界において、国と国の間に所得だけではなく様々な格差が広がっている。そして貧困や格差の解消は、持続可能な開発目標（SDGs）の第一の目標とされている。経済協力は、そういった貧困や格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。人々がより善く生きることができる社会の構築に受講生が関わるために、この講義では国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

【到達目標】
本講義を通じて獲得する基礎的な知識は、具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取組みを含む。これら基礎的知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりがなし得ることについて，受講生は自分なりの意見や考えを持てるようになることが期待される。加えて「持続可能な開発目標（SDGs）」におけるパートナーシップの意義についても説明できるようになることが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
国際経済協力論Ⅱにおいては、国際経済協力の取り組みにおいて近年注目を浴びているテーマについてより深く解説する。特に、誰が、なぜ経済協力を行うのか、経済協力の目的とされている「開発」とは一体何を意味するのか、という点を中心に各テーマにアプローチする。
必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：国際経済協力論Ⅰの復習と国際経済協力をめぐる課題の俯瞰	春学期講義の簡単な概括とあわせ、秋学期にとりあげるテーマについて「持続可能な開発目標（SDGs）」とあわせて全体像を紹介する。
第2回	開発と文化：経済協力の目的を問い直す視点	開発の目標がいかに歴史的に形作られてきたかを知り、多様な文化／社会と開発の関係を概観する。
第3回	新たな主体による開発協力（1）NGO(NPO)と市民社会	近年、開発協力において主たるアクターとなっているNGO(NPO)の活動について概観する。
第4回	新たな主体による開発協力（2）企業	一般に営利を追求すると思われている民間企業が、開発協力の分野で行っている活動を紹介し、その背景を概観する。
第5回	開発とジェンダー／マイクロクレジットという試み	ノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行（バングラデシュ）を事例に、開発とジェンダーの関係について概観する。
第6回	人間の安全保障と開発協力	近年注目される「人間の安全保障」という考え方を知り、国際社会による「人間の安全保障」実現に向けた行動を概観する。
第7回	紛争と平和構築：テロとの戦いと脆弱国家の復興支援	開発協力と紛争／平和の関係について、近年の新たな取り組みをもとに考える。
第8回	アフリカ（1）：アフリカの苦悩　激しい貧困と機能しない国家	アフリカ諸国とそこに暮らす人々がおかれている厳しい状況について概観する。
第9回	アフリカ（2）：アフリカに対して何ができるのか	これまでのアフリカ支援の評価と今後の課題について概観する。
第10回	フェア・トレード（1）：なぜ今、フェア・トレードが重要か？	フェア・トレードとよばれる取り組みがなぜ必要とされているのかについて理解する。
第11回	フェア・トレード（2）：フェア・トレードの試みとその評価	具体的なフェア・トレードの取り組みを紹介し、その課題や現状について概観する。
第12回	国際経済協力や開発による自然・社会環境への影響	開発による環境への影響はどのようなものか概観し、環境への影響を回避／最小限にするためにとられる対策について理解する。
第13回	地球環境問題と経済協力：気候変動（地球温暖化）を中心に	気候変動（地球温暖化）を事例に、国際社会における環境と開発のバランスの議論を概観する。
第14回	まとめ：持続可能な開発目標（SDGs）と支援、パートナーシップ	さまざまな国際協力の課題や現状を踏まえて、これからの支援やパートナーシップのあり方について概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
受講生は各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を、講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は利用せず、担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】
松本勝男著（2023年）『日本型開発協力　途上国支援はなぜ必要なのか』（ちくま新書）
牧田東一編著（2013年）『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力論入門』（学陽書房）
勝間靖編著（2012年）『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）
斎藤文彦（2005年）『国際開発論』（日本評論社）
外務省（毎年発行）『日本の開発協力』（ODA白書）

【成績評価の方法と基準】
中間レポート（20%）と期末試験（80%）による。

【学生の意見等からの気づき】
提供される情報が多いため、理解しやすい形でメリハリをつけることが求められているところ授業運営に引き続き留意したい。

【学生が準備すべき機器他】
講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

【実務経験のある教員による授業】
担当者は、途上国への経済協力に携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】
[Course Outline]

This is the second part of a series of lectures on international economic cooperation, with emphasis on Japan's Official Development Assistance. In an increasingly globalized world, disparities are growing not only in income but also in other aspects between countries. Eliminating poverty and disparity is the first goal of the Sustainable Development Goals (SDGs). Economic cooperation is one of the ways to reduce poverty and disparity and to build new countries, societies, and the world together. This lecture aims to provide students with a basic knowledge of international economic cooperation in order for them to be involved in building a society in which people can live better lives.
[Learning Objectives]
Through this course, students will 1) acquire basic knowledge of international cooperation. This basic knowledge includes the history and structure of economic cooperation, the theory behind it, the results and impact of economic cooperation to date, and new challenges and initiatives in recent years. 2) Based on this basic knowledge, students are expected to be able to formulate their own opinions and ideas about Japan's role in the international community, and to be able to communicate them to others. 3) In addition, students are expected to be able to explain the significance of partnership in the Sustainable Development Goals (SDGs).
[Learning Activities outside of classroom]
Students are required to prepare for and review the materials introduced in each lecture.
It is necessary to refer to the relevant parts of the reference literature and reference books specified for each lecture before and after the lecture to deepen understanding of the lecture contents. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
Grading will be based on mid-term report and final exam. Grading will be based on mid-term report 20%, final exam 80%
.

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

労働経済論Ⅰ

山田　久

配当年次／単位：**1〜4年／2単位**
開講セメスター：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水**1/Wed.1
備考（履修条件等）：**環コア：経,ロ**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代の人間生活の基盤は経済的にも社会的にも労働にあり、産業が高度化し複雑化した今日、労働は通常、企業をはじめとした組織体において行われます。本講義では、労働が行われる「場」である企業に焦点を当てつつ、雇用・労働の仕組みや現在ある様々な問題を学びます。労働経済学や人的資源論の基本を踏まえ、雇用・労働にまつわる基礎的なテーマを取り上げ、多角的な観点から解説していきます。

【到達目標】
雇用・労働問題に関する幅広い知識・見解を習得すると同時に、社会に出てから、能力を伸ばしながら組織で活躍していくのに有益な、考え方や視野を身に着けることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義形式とします。講義では、労働経済学や人的資源論の基本を学んだうえで、労働・雇用にまつわる基本的なテーマについて考えます。歴史的視点と国際比較の視点を交えながら、バランスが求められる労働問題に関する見方を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	労働経済論概要	本講義の概要と目的（何を学ぶのか、何故学ぶのか）について考える。
2	労働経済学基礎	労働経済学の基本的な考え方を経済学の基本を踏まえて学ぶ。
3	人的資源管理総論	人的資源管理の基本的な考え方を、採用・育成・評価・配置の流れに沿って概観する。
4	若年雇用と採用・就職	若年雇用の現状と課題、企業の採用に関する最近のスタンスを知り、最近の就職事情について学ぶ。
5	インターンシップ、離職・転職	インターンシップの状況、離職や転職の現状について学ぶ。
6	人材育成・能力開発	企業の人材育成の状況や職業能力とは何かを学ぶ。
7	キャリア形成	キャリアについての考え方や海外との違いを学ぶ。
8	労働移動	労働移動の現状と課題について国際比較の観点から学ぶ
9	雇用調整	雇用調整にはどのような種類があるのか。人員削減が企業にとってどのような結果をもたらすのかを学ぶ。
10	評価制度	評価にはどういったバイアスが生じやすいのか、公平な評価にはどのようなことが求められるのかを学ぶ。
11	昇進制度	日本企業の昇進制度の特徴と管理職の役割について学ぶ。
12	賃金制度	日本の賃金制度の変遷を学び、年功賃金の意義と限界を理解する。
13	賃上げと労働組合	賃上げがなぜ必要なのかを多角的な観点から考え、春闘・労働組合の意義を学ぶ。
14	試験とまとめ	解説と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回講義までに予習として目を通しておいていただきたい資料等は、講義の中で都度紹介します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に教科書は指定しません。配布資料等をもとに講義を進めます。

【参考書】
①宮本弘暁『労働経済学』（新世社，2018年）、②守島基博『人材マネジメント入門』(日本経済新聞出版，2022) を挙げておきます。各テーマごとの参考文献や参考図書は、個別に講義の中でお知らせします。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（60%）に加え、リアクションペーパー（30%）、授業中の参加の程度・貢献度（10%）を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】
【Cource outline】In the modern world, work forms the economic and social foundation, and it is predominantly conducted within organizations, including corporations. The lecture emphasizes corporations as the workplaces, where students can learn about employment mechanisms and labor dynamics based on labor economics and Human Resource Management. Additionally, the addresses various topics related to labor issues.
【Learning Objectives】 Students will acquire knowledge and perspectives on labor economics and Human Resource Management. They are expected to develop views and ways of thinking that will help them broaden their opportunities in the business world.
【Learning Activities Outside the Classroom】 Students should be prepared to read papers recommended in advance. Regarding reports, students are encouraged to choose their own themes based on their interests. Typically, 2 hours of self-study are required before and after each seminar.
【Grading Criteria/Policy】 Students will be evaluated based on the final test (60%), reaction papers (30%), and their contributions to the class (10%).

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

労働経済論Ⅱ

山田　久

配当年次／単位：**1〜4年／2単位**
開講セメスター：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**水1/Wed.1**
備考（履修条件等）：**環コア：経,ロ**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代の人間生活の基盤は経済的にも社会的にも労働にあり、労働は通常、企業をはじめとした組織体において行われます。ＶＵＣＡといわれる時代の到来で、企業や雇用のあり方が変革を求められるなか、労働の姿も変容しつつあります。本講義では、労働経済学や人的資源論の考え方を融合しつつ、応用編として、①ダイバーシティー経営、②経済社会の構造変化と雇用、③あるべき労働政策、の3つの大テーマに焦点を当て、多角的な観点から解説していきます。

【到達目標】
雇用・労働問題に関する幅広い視野を身に着けると同時に、社会に出てから、リーダーシップを発揮していくのに役立つ、広い視野や物の見方・考え方を習得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義形式とします。講義では、労働経済学や人的資源論の基本を踏まえたうえで、労働・雇用にまつわる様々なテーマを考えます。歴史的視点と国際比較の視点を交えながら、バランスが求められる労働問題に関する見方を、具体的なテーマによって学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	多様な雇用形態	非正規雇用にはどのようなタイプがあるか。正社員とは何か。
2	フリーランスと労働者性	フリーランスという働き方の実情と労働者性を理解する。
3	女性活躍とダイバーシティー経営	男女賃金格差の原因とＤＩ＆Ｅの意味を考える。
4	高齢者雇用と障がい者雇用	長く働き続けることの意義は何か
5	労働時間とフレクシブルワーキング	働き方改革の現状とテレワークの功罪
6	外国人労働者	外国人が活躍できる組織・職場の特徴は。
7	グローバル化と雇用	経済グローバル化は雇用・賃金にどう影響するか
8	デジタル技術と雇用	新技術の導入は労働者に幸福をもたらすか。
9	人口減少と労働市場	人口減少が労働市場に及ぼす影響、雇用が少子化にどう影響しているか
10	コーポレートガバナンスと雇用	企業統治の在り方は雇用の在り方にどう影響するか。
11	雇用政策と失業保険制度	離職者・失業者を政策的にどう救済できるか。
12	最低賃金制度	最低賃金引き上げは本当に労働者にプラスか。
13	積極的労働市場政策	就業能力開発という最強のセーフティネット、北欧に学ぶ
14	試験とまとめ	解説と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業は、労働経済論Ⅰを受講済であることを前提に進めます。毎回、取り扱うテーマが異なるので、次回講義までに予習として目を通しておいていただきたい資料等は、講義の中で都度ご紹介します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に教科書は指定しません。配布資料等をもとに講義を進めます。

【参考書】
労働経済論Ⅰで紹介した参考書の他、①ダロン・アセモグル＆サイモン・ジョンソン『技術革新と不平等の1000年史（上）（下）』（鬼澤忍・塩原通緒訳、早川書房，2023年）、②山田久『賃上げ立国論』(日本経済新聞出版，2022年) を挙げておきます。各テーマごとの参考文献や参考図書は、個別に講義の中でお知らせします。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（60%）に加え、リアクションペーパー（30%）、授業中の参加の程度・貢献度（10%）を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【Outline (in English)】
【Course outline】In the modern world, work constitutes economic and social foundation, predominantly carried out within organizations, including corporations. The lecture highlights corporations as workplaces. Students can learn about employment mechanisms and labor dynamics based on labor and Human Resource Management. Additionally, it on diversity, the impact of structural changes, and labor market policies.
【Learning Objectives】Students will acquire knowledge and perspectives on labor economics and human resource management. Students are expected to develop views and way of thinking which help them widen their opportunities in the business world.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to have taken Economic Analysis of Labor Market Systems I. Students should be prepared to read papers recommended in advance. Typically, 2 hours of self-study are required before and after each seminar.
【Grading Criteria /Policy】Students will be evaluated based on the final test(60%),reaction papers(30%) and their contributions to the class(10%)
.

SOC200HA（社会学 / Sociology 200）

ファシリテーション論

徳田　太郎

配当年次／単位：1〜4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
備考（履修条件等）：定員制RSP履修不可

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
持続可能な社会の担い手に求められるスキルとマインドの一つとして「ファシリテーション」を挙げることができる。ファシリテーションとは、参加型の場をつくることで、多様な人々による共創や協働を支援・促進する働きかけである。本授業においては、現代社会の課題解決におけるファシリテーションの意義、効果的なファシリテーションを行うための基礎的な知識や技術、およびファシリテーターとして行動するための心構えを、講義と演習を通じて理解・習得する。

【到達目標】
・参加者主体の話しあいや課題解決の方法論と、そのような場におけるファシリテーションの意義や役割を説明することができるようになる。
・社会における連携や協働の実現の鍵となる「当事者としての主体性」や「相互作用による創造性」を育むための働きかけができるようになる。
・演習での体験を通じ、メンバーの個性を活かし、ともに協力しあうチームを育んでいくためのリーダーシップを発揮できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・第1回：オリエンテーションとして、授業の内容と進め方を確認する。
・第2回〜第4回：講義と質疑応答を中心に、ファシリテーションに関する基本的な考え方を学習する。
・第5回〜第12回：話しあいにおけるファシリテーションの技術を、各回それぞれ異なる技術に焦点を当てつつ、演習と解説を中心に習得する。
・第13回：それまでに学んだスキルとこころを活かして、実際に参加型の場を企画・運営し、相互にフィードバックを行う。
・第14回：まとめの講義と、授業内試験（レポート）を行う。
＊第1回〜第13回は、各授業時間の最後の10分程度を「振り返りシート」の作成に充てる（毎回提出のこと）。振り返りシートについては、次の回にいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。また演習におけるファシリテーターとしての（また参加者としての）言動については、その都度フィードバックを行う。
＊大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容と進め方を確認する（講義）
2	ファシリテーションとは何か	ファシリテーションの全体像を学ぶ（講義・演習）
3	ワークショップとは何か	ワークショップの全体像を学ぶ（講義・演習）
4	話しあいとは何か	話しあいにはモードがあることを学ぶ（講義・演習）
5	話しあいの場をつくる技術①空間のデザイン	物理的な「場」の影響を学ぶ（講義・演習）
6	話しあいの場をつくる技術②オリエンテーション	「方向づけ」の方法を学ぶ（講義・演習）
7	話しあいの場をつくる技術③チェックイン	「雰囲気づくり」を学ぶ（講義・演習）
8	話しあいの場をホールドする技術①発問	話しあいの「活性化」を学ぶ（講義・演習）
9	話しあいの場をホールドする技術②可視化	話しあいの「構造化」を学ぶ（講義・演習）
10	話しあいの場をホールドする技術③アイデアの発散〜集約	アイデアの発散〜集約の技術を学ぶ（講義・演習）
11	話しあいの場をホールドする技術④意見の吟味	対立解消・合意形成の技術を学ぶ（講義・演習）
12	プログラムを組み立てる技術	参加型の場を企画する方法を学ぶ（講義・演習）
13	ファシリテーション実践	参加型の場（ワークショップ）の運営を体験する（演習）
14	まとめ	まとめ（講義）および授業内試験（レポート）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
・第2回〜第4回：予習として、テキストをよく読み、疑問点・質問事項を明確にすること。復習として、テキストやノートを読み返し、学んだことを整理すること。（予習・復習各120分程度）
・第5回〜第12回：予習として、各回の授業で指示するテーマにつき、テキストをもとに、「どのようなときに」「どのような働きかけを」「どのような点に留意して」行うと効果的かを説明できるよう準備すること。復習として、学んだことをどのように実践・活用・応用できるかを考え、ノートにまとめること。（予習・復習各120分程度）
・第13回：予習として、講義内容全体を振り返り、しっかりと準備をして演習に臨むこと。復習として、演習を通して学んだことや不十分なところを整理し理解しておくこと。（予習・復習各120分程度）

【テキスト（教科書）】
徳田太郎・鈴木まり子『ソーシャル・ファシリテーション：「ともに社会をつくる関係」を育む技法（改訂版）』（2024年4月、北樹出版、ISBN：978-4-7793-0747-8）。授業は、テキストを予習していることを前提に進める。

【参考書】
・中野民夫・森雅浩・鈴木まり子・冨岡武・大枝奈美『ファシリテーション：実践から学ぶスキルとこころ』（岩波書店、2009年）
・堀公俊 『ファシリテーション・ベーシックス：組織のパワーを引き出す技法』（日本経済新聞出版社、2016年）

【成績評価の方法と基準】
到達目標に記した3点について、小課題（各回の振り返りシート）の質と量（約60%）、レポート課題（授業内試験）（約20%）、発言や質問・演習など授業への参加度（約20%）から、総合的に評価する。期末の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
「振り返りシートをもとにした講義展開」が好評であったため、引き続き各回の授業は「約3分の1が前回学習内容の深耕、約3分の2が新規学習内容の解説・体験」という漸進的な進め方を採用する。また、毎回くじ引きでグループを構成し、異なるメンバーで話しあいを行う方法も好評であったため、今年度も同様のグループ構成を採用する。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布や課題提出に、学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】
◎グループでの話しあいを中心にした体験型の授業です。履修希望者が多い場合は、受講者数を限定する可能性があります。その際、第1回授業の出席者を優先しますので、履修希望者は、必ず第1回授業に出席してください（第1回授業はオンラインで実施します）。
◎RSP生は、本科目は履修不可です。春学期火曜2限（C2240・RSP生優先）または春学期火曜4限（C2243）のファシリテーション論を受講してください。

【実務経験のある教員による授業】
2003年にファシリテーターとして独立、以降、市民活動や地域づくり、医療・福祉、教育・文化などの領域を中心に、全国各地で会議やワークショップ等のファシリテーターとして実務経験を積む。それに関連して、実際の現場での事例をもとに、具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

【Outline (in English)】
（Course outline）
Facilitation is one of the skills and mindsets required of the leaders of a sustainable society. It is an approach that supports and promotes co-creation and collaboration among diverse people by creating a participatory space. In this course, you will understand and acquire the significance of facilitation in solving the problems of modern society, the basic knowledge and skills for effective facilitation, and the mindset for acting as a facilitator through lectures and exercises.
（Learning Objectives）
1. You will be able to explain the methodology of participant-centered discussion and problem solving, and the significance and role of facilitation in such settings.
2. You will be able to work toward fostering "subjectivity as a party" and "creativity through interaction," which are the keys to the realization of cooperation and collaboration in society.
3. Through the experience of the exercises, you will be able to demonstrate leadership in fostering a team that utilizes the individuality of its members and cooperates together.
（Learning activities outside of classroom）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policies）
Your overall grade in the class will be decided based on the following;
short reports: 60%, term-end report: 20%, in class contribution: 20%.

SOC300HA（社会学 / Sociology 300）

労働環境論Ⅰ

櫻井　洋介

配当年次／単位：2〜4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、雇用や労働に関する基本的な知識の習得を目指します。企業等に就職した後、昇進や転職等を通じてキャリアを形成し、退職や定年等でキャリアを終えるまでのライフステージの変遷に沿って、時事的事象も紹介しながら、現代における雇用現場の変化や課題を学んでいきます。

【到達目標】
労働者・職業人として自らの意思でキャリアを形成していくための基本的な知識を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義形式とします。講義では、採用から労働条件決定における基本的なルール、多様な働き方に関する制度や雇用・労働分野の現代的課題等、労働環境に関する様々なトピックを取り上げます。基礎的な法律や制度の解説のみならず、ニュース記事や時事的なトピックを取り上げることで、現代の労働環境において実際に起きている諸課題への理解を深めていきます。
授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	労働環境論概要	本講義の概要と目的（何を学ぶのか、何故学ぶのか）について考える。
第2回	企業の募集・採用と就職活動	募集や採用に関する諸制度について概観するとともに、現代社会における学生の就職活動に関する問題について考える。
第3回	賃金に関する諸課題	賃金に関する日本の諸制度の概要と諸外国の賃金システムとの異同、近年の動向や変化等を学ぶ。
第4回	労働時間管理とワークライフバランス	労働時間管理の基礎を学ぶとともに、労働時間に関する諸外国との比較や日本の特色、近年の動向や変化等を学ぶ。
第5回	多様な働き方とキャリア形成①	諸外国との比較を踏まえた日本における多様な働き方に関する基本的な制度と、それらが企業においてどのように活用されているかを学ぶ。
第6回	多様な働き方とキャリア形成②	多様な働き方に関する現代のトレンドやキャリア観の変遷等について考える。
第7回	ジェンダー平等	女性活躍推進法やLGBTQ等、ジェンダーダイバーシティの基礎について学ぶ。
第8回	雇用における平等原則（年齢・国籍・障害等）	雇用における平等原則や雇用差別の禁止、各種の法令（障害者雇用促進法等）について学ぶ。
第9回	非典型雇用（派遣・パート・ギグワーカー等）	非典型雇用の現状や制度的な変遷等をたどり、問題点等を考える。
第10回	労働安全衛生とメンタルヘルス・ハラスメント	労働安全衛生の基礎知識を学ぶとともに、職場のメンタルヘルスやハラスメント等の問題を取り上げる。
第11回	労働組合の役割と意義	労働組合の役割や意義について学ぶ。
第12回	労働契約の終了（解雇・定年・再就職）	解雇規制や定年制、退職後再雇用等について、人口動態やキャリア観の変化に伴う課題を考える。
第13回	労働環境における現代的課題（DX・AI・人的資本投資等）	DX・AI・人的資本投資等といった、現代社会の労働環境における諸課題を考える。
第14回	まとめ：日本における労働環境の現在と未来	これまでの講義で取り扱ってきた日本の現代的な雇用システムを総括しつつ、今後の展望等を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①講義で学習したテーマや論点に関して、日頃から参考書や新聞記事等を読んで理解を深めること。②インターンシップやアルバイトなど、仕事や企業と接する機会を通じて、講義で学習した議論や理論をもとに、仕事と雇用をめぐる実態や課題を考え、授業での学習内容について理解を深めること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に教科書は指定しません。配布資料等をもとに講義を進めます。

【参考書】
自主学習用の教材として、①浜村彰・唐津博・青野覚・奥田香子『ベーシック労働法第９版』（有斐閣アルマ，2023年）、②小川慎一・山田信行・今野美奈子・山下充『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』（有斐閣アルマ，2015)を挙げておきます。①は労働法の学習用に、②は日本の労働環境における諸課題の学習用に使用して下さい。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（80%）により、講義内で学習した論点等についての理解度や問題認識の深さ等を評価するとともに、平常点（20%、出席を含む）を加味して総合的に評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
本講義では、講義形式の授業を中心としますが、必要に応じて動画視聴等の機会を設けるとともに、ゲストスピーカーの招聘等も検討します。

【その他の重要事項】
本講義の担当教員は実務家教員であり、これまで金融機関や政府関連機関、コンサルティングファーム等、様々な組織での勤務経験を有しているだけでなく、キャリアの過程で留学や社会人大学院の入学等も経験しています。講義では、教員自身のこれまでの経験も還元させていただくとともに、企業の実務や実態に即した講義を実施させていただきます。
また、担当教員は現役のサステナビリティコンサルタントであり、「ビジネスと人権」や「労働CSR」、「サプライチェーン上の労働問題」等を専門としています。それらの経験を踏まえて、「サステナビリティ×労働」の視点から、具体的な企業事例を交えながら講義を行います。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This lecture aims to acquire basic knowledge of employment and labor laws. The lecture will introduce the latest issues and changes in the employment field in the modern society, following the transition of life stages from entering a company and developing your career through promotions and job changes, to ending your career.
【Learning Objectives】
Students will acquire the basic knowledge for developing their own careers independently.
【Learning activities outside of classroom】

(1) Deepen students' understanding of the themes and issues studied in lectures by reading reference books, newspaper articles, etc. on a daily basis. (2) Deepen students' understanding of the contents studied in lectures by considering the actual conditions and issues surrounding work and employment through internships, part-time jobs, and other opportunities.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
The final report (80%) will be used to evaluate the level of understanding and depth of awareness of the issues studied in the lecture, as well as the overall evaluation by taking into account the usual performance score (20%, including attendance).

SOC300HA（社会学 / Sociology 300）

労働環境論Ⅱ

櫻井　洋介

配当年次／単位：**2〜4年／2単位**
開講セメスター：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**火2/Tue.2**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
労働環境論Ⅰで学んだ内容をベースとしつつ、特に、現代社会において企業に求められるサステナビリティ経営の観点から、雇用や労働に関する諸課題を深堀します。企業経営における「人的資本投資」や「人権尊重」の重要性、「労働CSR」の意義・役割等について学ぶとともに、企業の実践事例を通じてその理解を深め、サステナビリティの視点から労働環境の今日的課題をとらえるための知識の習得を目指します。

【到達目標】
サステナビリティ経営の観点から、現代の企業に求められる雇用や労働に関する取り組みの全体像を知識として習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義形式とします。講義では、日本の雇用慣行やキャリア観の変遷、それに伴い企業に対して求められる取り組み等について取り上げていきます。必要に応じて、企業関係者等をゲストスピーカーとして招聘することも検討します。ゲストスピーカーが講演した回は、リアクションペーパーの提出を求めます。
授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	労働環境論の概要	労働環境論Ⅰの内容を概括するとともに、本講義の目的やゴールを共有する。
第2回	日本の雇用慣行の特色と変化	職務非限定型の雇用（いわゆるメンバーシップ型雇用）や年功序列型賃金制度といった日本の雇用慣行が、現代社会においてどのように変化しつつあるかを学ぶ。
第3回	キャリア観の変遷と求められる人材像の変化	学生の就職観やキャリア観の変遷に伴い、労働市場がどのように変わってきたか、当該変化に対して企業がどのように対応してきたかについて学ぶ。
第4回	ポストコロナ時代の働き方	コロナ禍において、テレワークの導入等、ニューノーマルの働き方が浸透した一方で、一部には揺り戻しの動きもある中、コロナ前後で働き方がどのように変わったのかを学ぶ。
第5回	労働時間に関する現代的課題	長時間労働の規制強化の流れや柔軟な勤務制度の導入等、現代における労働時間の諸課題を学ぶ。
第6回	ＤＥ＆Ｉ（ダイバーシティ・エクイティ＆インクルージョン）経営	企業に求められるＤＥ＆Ｉとは何か、それぞれの定義やメリット、取組事例等を学ぶとともに、ジェンダー平等や性的マイノリティの問題について考える。
第7回	日本における障害者雇用制度と障害を持つ労働者の権利	障害者差別解消法や障害者雇用促進法において、企業に求められる合理的配慮等について学ぶ。
第8回	外国人労働者に関する問題	現在、見直しが進んでいる技能実習制度や特定技能制度等、外国人労働者の受入に伴う諸課題を学ぶ。
第9回	「ビジネスと人権」－企業に要請される人権尊重の経営	サステナビリティ経営の観点から企業に求められる人権尊重の責任について学ぶ。
第10回	グローバルサプライチェーン上の労働課題	サプライチェーン上に存在する人権・労働問題に対して、企業がどのように取り組みを進めているかを具体例を通じて学ぶ。
第11回	健康経営とウェルビーイング	健康経営の重要性やメリット等について具体例を交えて理解を深めるとともに、近年注目されているウェルビーイングの概念について学ぶ。
第12回	無形資産としての「人財」の重要性と人的資本経営	人材版伊藤レポートや人的資本可視化方針等の策定により人材価値の重要性が見直される中で、企業に問われる人材戦略や情報開示について学ぶ。
第13回	新しい技術の発展と労働環境への影響	AIによって奪われる仕事があると言われる一方で、DXの推進は少子高齢化へのソリューションとなり得るとされている等、新しい技術の導入が労働環境に与える影響や功罪について考える。
第14回	まとめ：サステナビリティ経営からみた労働環境	これまでの講義内容を概観し、今後の労働環境について学生とともに考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業は、労働環境論Ⅰを受講済であることを前提に進めます。毎回、取り扱うテーマが異なるので、次回講義までに予習として目を通しておいていただきたい資料等は、講義の中で都度ご紹介します。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に教科書は指定しません。配布資料等をもとに講義を進めます。

【参考書】
労働環境論Ⅰで紹介した参考書の他、①濱口桂一郎『ジョブ型雇用社会とは何か: 正社員体制の矛盾と転機』（岩波書店，2021）、②櫻井洋介『人権尊重の経営　SDGｓ時代の新たなリスクへの対応』(日本経済新聞出版，2022) を挙げておきます。各テーマごとの参考文献や参考図書は、個別に講義の中でお知らせします。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（80%）により、講義内で学習した論点等についての理解度や問題認識の深さ等を評価するとともに、平常点（20%、出席を含む）を加味して総合的に評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
本講義では、講義形式の授業を中心としますが、必要に応じて動画視聴等の機会を設けるとともに、ゲストスピーカーの招聘等も検討します。

【その他の重要事項】
本講義の担当教員は実務家教員であり、これまで金融機関や政府関連機関、コンサルティングファーム等、様々な組織での勤務経験を有しているだけでなく、キャリアの過程で留学や社会人大学院の入学等も経験しています。講義では、教員自身のこれまでの経験も還元させていただくとともに、企業の実務や実態に即した講義を実施させていただきます。
また、担当教員は現役のサステナビリティコンサルタントであり、「ビジネスと人権」や「労働CSR」、「サプライチェーン上の労働問題」等を専門としています。それらの経験を踏まえて、「サステナビリティ×労働」の視点から、具体的な企業事例を交えながら講義を行います。

【Outline (in English)】
【Course outline】

Based on the content learned in Working Conditions I, the program aims to deepen various issues related to employment, especially from the perspective of sustainable management required of companies in modern society. Students learn about the importance of "human capital investment" and "respect for human rights" for corporate management and labor issues in CSR and deepen their understanding of these issues through practical examples from companies, aiming to acquire knowledge to understand today's labor environment issues from the perspective of sustainability.
【Learning Objectives】
To acquire knowledge of the overall employment and labor initiatives required of modern companies from the perspective of sustainability management.
【Learning activities outside of classroom】
The lecture will proceed on the assumption that students have already taken "Working Conditions I," so preparation and review for the lecture will be required. Since the topics covered in each class are different, materials that you should read through in preparation for the next class will be introduced in each class.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
The final report (80%) will be used to evaluate the level of understanding and depth of awareness of the issues studied in the lecture, as well as the overall evaluation by taking into account the usual performance score (20%, including attendance).

SOS300HA（その他の社会科学 / Social science 300）

ローカルスタディーズⅡ

坂本　昭夫

配当年次／単位：2〜4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火5/Tue.5
備考（履修条件等）：環ｺｱ：ロ

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
悪化する海洋環境、地球環境。その原因を一つづつ解析し、現状の問題点を洗い出し、未来へきれいで豊かな地球、海洋を残すためのアイデアを引き出したいと思います。海洋漂着ゴミ、プラスチック、マイクロプラスチック、干潟や海藻の役目、農薬問題、日常の生活に潜む環境汚染等　そして人体への影響等を解析。

【到達目標】
海洋に漂う無数のマイクロプラ。そのプラが生物に対してどのように影響しているのか、またどのように我々に影響するのか。そしてその結果　現在どうなっているのかを探り出します。海洋、ゴミ、プラスチック、可塑剤（添加剤）、農薬等の問題点を探り、これからの時代、自分の未来環境をどう思慮するかを勉強しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
主にPPTを使用し　DVD視聴等で進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。また　動画配信にリアルタイムのディスカッションなどを組み合わせる予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	海洋環境概論	現状の海の状態を把握
2	東京湾における生物体系を知る	生物の状態、そして問題点を探ります。
3	海洋ゴミ問題①	現状に海洋ゴミに関し探ります。『概要』
4	海洋ゴミ問題②	講義３に続き、海洋ゴミ問題に関しますが、深く掘り下げデータ共有いたします。
5	震災ゴミ	2011年東北震災における漂着ゴミに関し探ります。
6	プラスチック	プラスチックとは？ を探ります。
7	マイクロプラスチック	５ｍｍ以下に小さくなったプラスチックの現状を探ります。
8	海洋温暖化に伴う赤潮、青潮発生メカニズム	赤潮、青潮発生に関するメカニズムを探ります。
9	海草　アマモ	海草の役目と海洋環境改善策を探ります。
10	海洋ゴミ	海洋ゴミ問題を外部ゲストを交え探ります（コロナ対策の場合には『ゴミ特番』を視聴します。
11	河川ゴミ	河川ゴミ問題を外部ゲストを交え探ります（コロナ対策の場合には市民団体の１年の活動を振り返ります。
12	海藻　ワカメ	海藻　その役目と海洋環境改善策を探ります。
13	農薬	農薬がどのように地球環境、生物環境を破壊しているかを探ります。
14	総括	１〜１３までの総括を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
『授業前・授業後に各2時間ずつ』復習に関しては、講義内で使用したPPT等を参考の上、改めて見直しする必要があり、最後のレポート提出には、各講義における見直しは不可欠と判断いたします。ただし講義毎に講義テーマが変わり、多岐にわたる内容から講義一つ一つをすべて完全理解することはかなり難しいと判断しております。

【テキスト（教科書）】
ありません。

【参考書】
ありません。

【成績評価の方法と基準】
13回目の講義において、レポート課題を発表し、最終講義（第14回）にレポートを回収し評価といたします。　成績評価はこのレポートのみ。レポートで100%評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
ありません。

【その他の重要事項】
ありません。

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は、海洋環境改善活動を40年以上行ってきた経験があり、他校においても講師の経験を保有している。
平成24年（2012年）長年にわたり社会に奉仕する活動に授与される緑綬褒章を受章している。
平成20年（2008年）〜平成23年（2011年）　横浜国立大学教育学部付属横浜小学校「海洋環境教育」臨時講師
平成25年（2014年）〜平成26年（2015年）＆平成28年（2017年）横浜国立大学教育人間科学部「理科教育講座」兼任講師

【Outline (in English)】
Deteriorating marine environment, global environment.　I would like to analyze the causes one by one, identify the current problems, and draw out ideas for leaving a clean and affluent earth and ocean for the future.　Analyzes marine debris, plastics, microplastics, the role of tidal flats and seaweed, pesticide problems, environmental pollution hidden in daily life, and the effects on the human body.（Learning Objectives）Countless micro plastics floating in the ocean.
How the plastic affects living things
How will it affect us?
And as a result, we will find out what is happening now.　Explore the problems of marine debris, garbage, plastics, plasticizers (additives), pesticides, etc., and learn how to think about your future environment in the future.（Learning activities outside of classroom）Regarding the review of "2 hours each before and after class", it is necessary to review it again with reference to the PPT etc.　used in the lecture, and it was judged that the review in each lecture is indispensable for the final report submission.　increase.　However, the theme of the lecture changes from lecture to lecture, and we judge that it is quite difficult to fully understand each lecture from a wide variety of contents.（Grading Criteria /Policy）In the 13th lecture, the report assignment will be announced, and the report will be collected and evaluated in the final lecture (14th).　Grade evaluation is only for this report.　100%rated in the report

SSS300HA（社会・安全システム科学 / Social/Safety system science 300）

災害政策論

中川　和之

配当年次／単位：**2〜4年／2単位**
開講セメスター：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木**5/Thu.5
備考（履修条件等）：**環ｺｱ：ロ**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史時代から現代まで繰り返されてきた災害から多くの経験を学び、人々の悔しさに共感したうえで、法制度以前の自然環境を利用するための約束事や、災害経験に基づいて作られて来た災害政策を学び、その狙いと達成度を理解する。
そして、多くの学生たちが直面することになる南海トラフや首都直下の地震、スーパー台風の被災を最小限に留め、この日本で幸せに暮らすために必要な災害政策のあり方を共に考え、これから行政職員や教育者、企業人、社会人となるものとして、なすべきことを深く考える。

【到達目標】
①災害とは何かを、実例から学んで理解する。②現状の政策の背景と発展の経緯、残る課題を理解する。③非日常を前提には生きていない人々の暮らしと、今後の国・自治体の災害政策のあるべき姿を考える。④災害大国日本における当事者として、自らの専門性にどう生かすかを見出し、今後の社会での実践につなげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は豊富な映像記録などを使って、過去から現代までの災害の実像を紹介。災害対応と経験を踏まえて作られて来た災害政策・制度を、講師の実体験やインタビュー結果から深く学び、これまで得てきた常識を疑うことができる知識を身につけられるように進める。これらの学びを、毎回短いレポートとしてWebClassで提出する。次の授業の冒頭にレポート内容を振り返り、問題意識を共有して進める。1回目の授業では、災害対策の悩ましさを理解するためのゲームを行い、その後も自ら考えるワークシートやグループディスカッションなども行って学びを深める。課題提出後の授業、またはWebClassで提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション。講師の自己紹介、この講義の狙い・概要の説明	災害とは何か？　災害から守るべきこととは何か、なぜ災害政策が求められるのか、歴史も踏まえて概説。なぜ失敗が繰り返され、「想定外」という言葉で語られてしまうのか。講師からの問題意識を投げかけるとともに、最後に災害時に向き合うジレンマを実感する行政職員の実体験を元にしたゲーム「クロスロード」も体験し、社会での役割りに応じて災害に備えておくことの意義を考える。
第2回	自然現象と災害＝社会的な制度を考える前提としての理科１	地球の46億年の歴史の中では新参者である日本列島。肥沃な大地と風光明媚な景観は、すべて過去の自然現象＝人がいたら災害と言われる現象によって形づくられている。私たちが、なぜ災害で被災をしてしまうのかを考える上で、災害をもたらす大地の働きのメカニズムが、どこまで分かって、何が分かっていないのかのベースを、具体的な地震の事例などを元に押さえる。授業中に、学生の出身地や身近な場所についての簡単なワークシートに記入する。
第3回	身近な景観と災害＝理科２	前回の授業課題で作成したワークシートを元に、学生同士で相互プレゼンを行い、グループで語りあうことから始める。授業では、さまざまなWebGISの地図から、どのようなことが読み解けるかを知る。ＧＷ期間中に取り組む、地元の土地の成り立ちを知るレポートの課題についての説明も行う。この課題は、最後のレポートにも必須となる。
第4回	３つの大震災と伊勢湾台風＝阪神大震災前まで	歴史時代以前からの人類と災害の付き合いから、江戸時代、明治時代、大正昭和と日本列島の災害史とともに、対策について振り返る。そして、その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。その後、教訓で作られた災害の政策が、どのぐらい浸透しているのかを確認し、なぜ、教訓が活かされていないかを考える。まず、関東大震災、伊勢湾台風と1995年の阪神大震災の直前までを取り上げる。
第5回	３つの大震災と伊勢湾台風＝阪神大震災とその後	日本の災害対策を大きく変えた阪神大震災とはどんな災害だったのか。改めて当時の映像などを紹介し、起きたことを振り返る。その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。を考える。その後、東日本大震災直前まで積み重ねられてきた災害対策について確認する。
第6回	３つの大震災と伊勢湾台風＝東日本大震災	東北地方太平洋沖地震は、どうして東日本大震災という大災害になってしまったのか。すべてが「想定外」だったのか、どういう備えが足りずに被害が拡大したのかなどを振り返る。また、当時の自らの体験・行動を振り返り、共有をする時間も持つ。
第7回	東日本大震災後の災害政策の今＝これからの備え＝「己」がどこまで分かった政策なのかを考える	南海トラフの地震や想定首都直下地震、巨大化する台風など、今後経験させられる可能性がある自然災害が、政府や専門家がどう想定しているかを知る。東日本大震災後になって、基本法に不可欠な理念が加わった災害対策基本法の大改正など、災害の政策が、どのぐらい浸透しているのかを確認し、まだ整理されていない課題は何か、災害を想定した私権制限はどこまで許容されるのかなどを考える。

第8回	近年の火山噴火災害から、課題を考える	登山シーズンの日中という最悪のタイミングで極小規模な水蒸気噴火をした御嶽山、警戒していた地点と異なる場所から噴火して犠牲者を出した草津・本白根の噴火、観測史上初めての小規模な噴火が起きた箱根山、危険な火砕流が発生しながら避難しきった口之永良部島、噴火現象は起きなかったが大量のマグマが地表付近まで貫入した桜島。ここ数年の噴火災害に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。
第9回	近年の地震災害から、課題を考える	2024年能登半島地震、令和4年福島県沖の地震、2019年山形県沖地震、2018年北海道胆振東部地震、大阪北部地震、2016年熊本地震など、近年の地震災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、2度の震度7に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に具体的に考える。
第10回	近年の風水害から、課題を考える	地震の後の豪雨という複合災害となった奥能登、令和4年台風第8号、令和2年7月豪雨、2020年7月豪雨や台風10号、2019年台風15号や19号(東日本台風)、2018年西日本豪雨や台風21号、2017年九州北部豪雨や2016年台風10号、2015年9月関東・東北豪雨などの豪雨災害・台風災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、洪水に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。
第11回	災害報道・災害情報	かつて、災害情報と言えば、行政や専門機関が警報や避難情報を出し、それが人々に届きさえすれば良いと考えられていた。しかし、人々が適切な行動を取るためには、日ごろから情報の意味の理解が必要である。災害報道が、大ネタとしてのニュースを伝えるだけの役割からどう脱却するのか。SNSなどの身近なメディアをどう活かすか自分事として考える。政府の災害被害を軽減する国民運動の一環として取り組まれている「TEAM防災ジャパン」のサイトや、中央省庁や自治体がいざというときに情報を共有する新しいシステムの現状などについても学ぶ。最終講義での試験に必要な「地域防災計画の課題発見」レポートについても説明を行う。
第12回	市民防災・ボランティア	この国で避けられない自然災害を前に、市民やボランティアの役割とは何か。地域のコーディネーターであるべき自治体の役割とは何か。自主防災組織の過去の経緯や現状を知り、ご近所の自治会町内会、マンション管理組合などの地縁組織の役割とは何をすべきか。自らの弱点を知り、助けを受け入れる受援力を鍵に、ボランティアについての歴史的経緯と現代、これからの役割もともに考える。
第13回	災害と恵み・防災教育・ジオパーク	自然には恩恵と災害の二面性がある。恐怖の訴求だけでは、継続して災害への備えを続ける意欲を持ち続けるのは難しい。大地の変動を地域の人たちが語り継ぐ「ジオパーク」の活動が日本でも始まった。自分の地域が嫌いになったり考えたくなくなる脅しの防災の限界を見据え、防災教育やジオパークなどの活動の現状を知ることで、危険性だけを強調するのではなく、この国の災害文化を背景にした、防災文化・減災文化の展望を考える。
第14回	試験レポート	「地域防災計画の課題発見」のレポートを元に、授業時間中に試験（レポート）を書いてもらう。これまでの授業資料やワークシートの持ち込みや、その場でスマホやPC、何でも持ち込んでもＯＫ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習をし、次週のテーマを元に、関連する情報をインターネットや関連資料などを基に予習をすること。この授業を受ける以上、日ごろから災害に関連する情報やニュースに関心を持っておいて欲しい。期間中にあった災害についても授業内で取り上げていく。授業時間以外で、自らの出身地などの災害に関連したワークシートやレポートを、WebClassも活用して提出が求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。課題レポートでは学生自身でのフィールドワークも推奨される。

【テキスト（教科書）】
授業で使うプレゼン資料は、毎回の授業前、WebClassに掲載する。

【参考書】
授業の中でも課題とするが、自らが住んでいる自治体や出身地の自治体の地域防災計画（その地域で地区防災計画があればそれも）は必須。内閣府の防災情報のページや被災自治体のホームページから学ぶものは多い。

【成績評価の方法と基準】
平常評価（WebClassでのテスト・アンケートを使った小レポートで授業内容の理解を評価）40％、授業中の課題ワークシート・レポート評価20％、期末試験（試験レポート）評価40％。

【学生の意見等からの気づき】
災害時のジレンマを実感するゲーム「クロスロード」を実施するほか、学生同士でのディスカッションの時間を持ちたい。また毎回のリアクションペーパーを活用し、問題意識が共有できないまま進まないようにしたい。できるだけ、映像資料を豊富に使い、具体的に災害をイメージしてもらうことを意識する。

【学生が準備すべき機器他】
WebClassの利用は必須。講義室でPCやスマホを使って、その場でWebClassからの小リポートの提出を求める。試験課題などもWebClassを利用する。

【その他の重要事項】
試験レポートの作成時には、時間内であればどういう資料を参考に書いても良い。

【実務経験のある教員による授業】
通信社記者として、1984年の長野県西部地震や1995年の阪神大震災などを取材。2005年から2011年まで主に自治体の防災施策を支援するメディアの「防災リスクマネジメントWeb」編集長。取材していた災害救助法の制度見直しに、厚生省の関係委員会の委員として関与した以降、政府や自治体で災害法制度を見直すための委員会委員などを務め、災害対応に当たった市町村長らの悩みを聞き取って共有するお手伝いをするなど、災害政策の現場における課題解決に取り組む。現在は内閣府の「TEAM防災ジャパン」のアドバイザー。子どもたちと地震や火山を学ぶワークキャンプを、地震学会として20世紀から実践。災害をもたらす大地の営みの恩恵も理解するプログラムのジオパークの審査員を10年以上担当。これらの経験を踏まえ、現実としての災害政策のあるべき姿を、受講者の学生と共に考えていきたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
1.To learn about the major disaster of Japan,and sympathize with a victim of disaster.
2.To learn the disaster prevention and mitigation policy that was made based on past disaster experience from the past to the present,and understand its aim and achievement degree.
3.Many students will face the Nankai Trough Earthquake,and inland earthquakes such as the Tokyo metropolitan earthquake, and the super typhoons. College students, who will be government officials, teachers, business people, and households, will consider what disaster policies are needed to minimize the damage of future disasters.
【Learning Objectives】
1. Understand what a disaster is by learning from actual examples.
2. Understand the background and development of current policies and the remaining issues.
To think about the ideal form of national and local disaster policies in the future.
4. To discover how to apply their own expertise as a party in Japan, a disaster-prone country, and put it into practice in society in the future.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to review the materials introduced in each lecture and prepare for the next week's topic using the Internet and related materials. As you take this class, I would like you to be interested in information and news related to disasters on a daily basis. Disasters that occurred during this period will also be discussed in class. Outside of class time, students will be asked to submit worksheets and reports related to disasters in their respective regions using the learning support system. The estimated time for preparation and review for this class is 2 hours each. In addition, it is recommended that students conduct their own fieldwork for the assigned reports.
【Grading Criteria /Policy】
Normal evaluation (evaluation of understanding of class content through tests and reaction papers on the learning support system): 40%, worksheets and reports for in-class assignments: 20%, final exam (exam report): 40%.

SOC200HA（社会学 / Sociology 200）

ファシリテーション論

徳田　太郎

配当年次／単位：1〜4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
備考（履修条件等）：定員制RSP優先

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
持続可能な社会の担い手に求められるスキルとマインドの一つとして「ファシリテーション」を挙げることができる。ファシリテーションとは、参加型の場をつくることで、多様な人々による共創や協働を支援・促進する働きかけである。本授業においては、現代社会の課題解決におけるファシリテーションの意義、効果的なファシリテーションを行うための基礎的な知識や技術、およびファシリテーターとして行動するための心構えを、講義と演習を通じて理解・習得する。

【到達目標】
・参加者主体の話しあいや課題解決の方法論と、そのような場におけるファシリテーションの意義や役割を説明することができるようになる。
・社会における連携や協働の実現の鍵となる「当事者としての主体性」や「相互作用による創造性」を育むための働きかけができるようになる。
・演習での体験を通じ、メンバーの個性を活かし、ともに協力しあうチームを育んでいくためのリーダーシップを発揮できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・第1回：オリエンテーションとして、授業の内容と進め方を確認する。
・第2回〜第4回：講義と質疑応答を中心に、ファシリテーションに関する基本的な考え方を学習する。
・第5回〜第12回：話しあいにおけるファシリテーションの技術を、各回それぞれ異なる技術に焦点を当てつつ、演習と解説を中心に習得する。
・第13回：それまでに学んだスキルとこころを活かして、実際に参加型の場を企画・運営し、相互にフィードバックを行う。
・第14回：まとめの講義と、授業内試験（レポート）を行う。
＊第1回〜第13回は、各授業時間の最後の10分程度を「振り返りシート」の作成に充てる（毎回提出のこと）。振り返りシートについては、次の回にいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。また演習におけるファシリテーターとしての（また参加者としての）言動については、その都度フィードバックを行う。
＊大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容と進め方を確認する（講義）
2	ファシリテーションとは何か	ファシリテーションの全体像を学ぶ（講義・演習）
3	ワークショップとは何か	ワークショップの全体像を学ぶ（講義・演習）
4	話しあいとは何か	話しあいにはモードがあることを学ぶ（講義・演習）
5	話しあいの場をつくる技術①空間のデザイン	物理的な「場」の影響を学ぶ（講義・演習）
6	話しあいの場をつくる技術②オリエンテーション	「方向づけ」の方法を学ぶ（講義・演習）
7	話しあいの場をつくる技術③チェックイン	「雰囲気づくり」を学ぶ（講義・演習）
8	話しあいの場をホールドする技術①発問	話しあいの「活性化」を学ぶ（講義・演習）
9	話しあいの場をホールドする技術②可視化	話しあいの「構造化」を学ぶ（講義・演習）
10	話しあいの場をホールドする技術③アイデアの発散〜集約	アイデアの発散〜集約の技術を学ぶ（講義・演習）
11	話しあいの場をホールドする技術④意見の吟味	対立解消・合意形成の技術を学ぶ（講義・演習）
12	プログラムを組み立てる技術	参加型の場を企画する方法を学ぶ（講義・演習）
13	ファシリテーション実践	参加型の場（ワークショップ）の運営を体験する（演習）
14	まとめ	まとめ（講義）および授業内試験（レポート）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
・第2回〜第4回：予習として、テキストをよく読み、疑問点・質問事項を明確にすること。復習として、テキストやノートを読み返し、学んだことを整理すること。（予習・復習各120分程度）
・第5回〜第12回：予習として、各回の授業で指示するテーマにつき、テキストをもとに、「どのようなときに」「どのような働きかけを」「どのような点に留意して」行うと効果的かを説明できるよう準備すること。復習として、学んだことをどのように実践・活用・応用できるかを考え、ノートにまとめること。（予習・復習各120分程度）
・第13回：予習として、講義内容全体を振り返り、しっかりと準備をして演習に臨むこと。復習として、演習を通して学んだことや不十分なところを整理し理解しておくこと。（予習・復習各120分程度）

【テキスト（教科書）】
徳田太郎・鈴木まり子『ソーシャル・ファシリテーション：「ともに社会をつくる関係」を育む技法（改訂版）』（2024年4月、北樹出版、ISBN：978-4-7793-0747-8）。授業は、テキストを予習していることを前提に進める。

【参考書】
・中野民夫・森雅浩・鈴木まり子・冨岡武・大枝奈美『ファシリテーション：実践から学ぶスキルとこころ』（岩波書店、2009年）
・堀公俊『ファシリテーション・ベーシックス：組織のパワーを引き出す技法』（日本経済新聞出版社、2016年）

【成績評価の方法と基準】
到達目標に記した3点について、小課題（各回の振り返りシート）の質と量（約60%）、レポート課題（授業内試験）（約20%）、発言や質問・演習など授業への参加度（約20%）から、総合的に評価する。期末の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
「振り返りシートをもとにした講義展開」が好評であったため、引き続き各回の授業は「約3分の1が前回学習内容の深耕、約3分の2が新規学習内容の解説・体験」という漸進的な進め方を採用する。また、毎回くじ引きでグループを構成し、異なるメンバーで話しあいを行う方法も好評であったため、今年度も同様のグループ構成を採用する。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布や課題提出に、学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】
◎グループでの話しあいを中心にした体験型の授業です。履修希望者が多い場合は、受講者数を限定する可能性があります。その際、第1回授業の出席者を優先しますので、履修希望者は、必ず第1回授業に出席してください（第1回授業はオンラインで実施します）。
◎上記の通り受講者数を限定する際には、社会人学生（含むRSP生）を優先的に受け入れます。

【実務経験のある教員による授業】
2003年にファシリテーターとして独立、以降、市民活動や地域づくり、医療・福祉、教育・文化などの領域を中心に、全国各地で会議やワークショップ等のファシリテーターとして実務経験を積む。それに関連して、実際の現場での事例をもとに、具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

【Outline (in English)】
（Course outline）
Facilitation is one of the skills and mindsets required of the leaders of a sustainable society. It is an approach that supports and promotes co-creation and collaboration among diverse people by creating a participatory space. In this course, you will understand and acquire the significance of facilitation in solving the problems of modern society, the basic knowledge and skills for effective facilitation, and the mindset for acting as a facilitator through lectures and exercises.
（Learning Objectives）
1. You will be able to explain the methodology of participant-centered discussion and problem solving, and the significance and role of facilitation in such settings.
2. You will be able to work toward fostering "subjectivity as a party" and "creativity through interaction," which are the keys to the realization of cooperation and collaboration in society.
3. Through the experience of the exercises, you will be able to demonstrate leadership in fostering a team that utilizes the individuality of its members and cooperates together.
（Learning activities outside of classroom）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policies）
Your overall grade in the class will be decided based on the following;
short reports: 60%, term-end report: 20%, in class contribution: 20%.

SOC200HA（社会学 / Sociology 200）

ファシリテーション論

徳田　太郎

配当年次／単位：**1〜4年／2単位**
開講セメスター：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火**4/Tue.4
備考（履修条件等）：**定員制**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
持続可能な社会の担い手に求められるスキルとマインドの一つとして「ファシリテーション」を挙げることができる。ファシリテーションとは、参加型の場をつくることで、多様な人々による共創や協働を支援・促進する働きかけである。本授業においては、現代社会の課題解決におけるファシリテーションの意義、効果的なファシリテーションを行うための基礎的な知識や技術、およびファシリテーターとして行動するための心構えを、講義と演習を通じて理解・習得する。

【到達目標】
・参加者主体の話しあいや課題解決の方法論と、そのような場におけるファシリテーションの意義や役割を説明することができるようになる。
・社会における連携や協働の実現の鍵となる「当事者としての主体性」や「相互作用による創造性」を育むための働きかけができるようになる。
・演習での体験を通じ、メンバーの個性を活かし、ともに協力しあうチームを育んでいくためのリーダーシップを発揮できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・第1回：オリエンテーションとして、授業の内容と進め方を確認する。
・第2回〜第4回：講義と質疑応答を中心に、ファシリテーションに関する基本的な考え方を学習する。
・第5回〜第12回：話しあいにおけるファシリテーションの技術を、各回それぞれ異なる技術に焦点を当てつつ、演習と解説を中心に習得する。
・第13回：それまでに学んだスキルとこころを活かして、実際に参加型の場を企画・運営し、相互にフィードバックを行う。
・第14回：まとめの講義と、授業内試験（レポート）を行う。
＊第1回〜第13回は、各授業時間の最後の10分程度を「振り返りシート」の作成に充てる（毎回提出のこと）。振り返りシートについては、次の回にいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。また演習におけるファシリテーターとしての（また参加者としての）言動については、その都度フィードバックを行う。
＊大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容と進め方を確認する（講義）
2	ファシリテーションとは何か	ファシリテーションの全体像を学ぶ（講義・演習）
3	ワークショップとは何か	ワークショップの全体像を学ぶ（講義・演習）
4	話しあいとは何か	話しあいにはモードがあることを学ぶ（講義・演習）
5	話しあいの場をつくる技術①空間のデザイン	物理的な「場」の影響を学ぶ（講義・演習）
6	話しあいの場をつくる技術②オリエンテーション	「方向づけ」の方法を学ぶ（講義・演習）
7	話しあいの場をつくる技術③チェックイン	「雰囲気づくり」を学ぶ（講義・演習）
8	話しあいの場をホールドする技術①発問	話しあいの「活性化」を学ぶ（講義・演習）
9	話しあいの場をホールドする技術②可視化	話しあいの「構造化」を学ぶ（講義・演習）
10	話しあいの場をホールドする技術③アイデアの発散〜集約	アイデアの発散〜集約の技術を学ぶ（講義・演習）
11	話しあいの場をホールドする技術④意見の吟味	対立解消・合意形成の技術を学ぶ（講義・演習）
12	プログラムを組み立てる技術	参加型の場を企画する方法を学ぶ（講義・演習）
13	ファシリテーション実践	参加型の場（ワークショップ）の運営を体験する（演習）
14	まとめ	まとめ（講義）および授業内試験（レポート）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
・第2回〜第4回：予習として、テキストをよく読み、疑問点・質問事項を明確にすること。復習として、テキストやノートを読み返し、学んだことを整理すること。（予習・復習各120分程度）
・第5回〜第12回：予習として、各回の授業で指示するテーマにつき、テキストをもとに、「どのようなときに」「どのような働きかけを」「どのような点に留意して」行うと効果的かを説明できるよう準備すること。復習として、学んだことをどのように実践・活用・応用できるかを考え、ノートにまとめること。（予習・復習各120分程度）
・第13回：予習として、講義内容全体を振り返り、しっかりと準備をして演習に臨むこと。復習として、演習を通して学んだことや不十分なところを整理し理解しておくこと。（予習・復習各120分程度）

【テキスト（教科書）】
徳田太郎・鈴木まり子『ソーシャル・ファシリテーション：「ともに社会をつくる関係」を育む技法（改訂版）』（2024年4月、北樹出版、ISBN：978-4-7793-0747-8）。授業は、テキストを予習していることを前提に進める。

【参考書】
・中野民夫・森雅浩・鈴木まり子・冨岡武・大枝奈美『ファシリテーション：実践から学ぶスキルとこころ』（岩波書店、2009年）
・堀公俊『ファシリテーション・ベーシックス：組織のパワーを引き出す技法』（日本経済新聞出版社、2016年）

【成績評価の方法と基準】
到達目標に記した3点について、小課題（各回の振り返りシート）の質と量（約60%）、レポート課題（授業内試験）（約20%）、発言や質問・演習など授業への参加度（約20%）から、総合的に評価する。期末の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
「振り返りシートをもとにした講義展開」が好評であったため、引き続き各回の授業は「約3分の1が前回学習内容の深耕、約3分の2が新規学習内容の解説・体験」という漸進的な進め方を採用する。また、毎回くじ引きでグループを構成し、異なるメンバーで話しあいを行う方法も好評であったため、今年度も同様のグループ構成を採用する。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布や課題提出に、学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】
グループでの話しあいを中心にした体験型の授業です。履修希望者が多い場合は、受講者数を限定する可能性があります。その際、第1回授業の出席者を優先しますので、履修希望者は、必ず第1回授業に出席してください（第1回授業はオンラインで実施します）。

【実務経験のある教員による授業】
2003年にファシリテーターとして独立、以降、市民活動や地域づくり、医療・福祉、教育・文化などの領域を中心に、全国各地で会議やワークショップ等のファシリテーターとして実務経験を積む。それに関連して、実際の現場での事例をもとに、具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

【Outline (in English)】
（Course outline）
Facilitation is one of the skills and mindsets required of the leaders of a sustainable society. It is an approach that supports and promotes co-creation and collaboration among diverse people by creating a participatory space. In this course, you will understand and acquire the significance of facilitation in solving the problems of modern society, the basic knowledge and skills for effective facilitation, and the mindset for acting as a facilitator through lectures and exercises.
（Learning Objectives）
1. You will be able to explain the methodology of participant-centered discussion and problem solving, and the significance and role of facilitation in such settings.
2. You will be able to work toward fostering "subjectivity as a party" and "creativity through interaction," which are the keys to the realization of cooperation and collaboration in society.
3. Through the experience of the exercises, you will be able to demonstrate leadership in fostering a team that utilizes the individuality of its members and cooperates together.
（Learning activities outside of classroom）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policies）
Your overall grade in the class will be decided based on the following;
short reports: 60%, term-end report: 20%, in class contribution: 20%.

BAB200HA（基礎生物学 / Basic biology 200）

サイエンスカフェⅢ

高田　雅之

配当年次／単位：1〜4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：木3/Thu.3
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生態学とは、生物の暮らし方や、生物と環境との関係、さらには人間との関わりを含めて理解する学問です。生態学の基礎をわかりやすく学ぶことで、人間の生存基盤である自然環境との向き合い方を考え、ひいては持続的な社会を築く方策を探る能力を養うことにつながっていきます。本講義では、主に日本における生き物を中心とした自然の仕組みと、地球における生物の進化と適応、生物多様性について、基本的な知識と俯瞰的な視点を身に付けます。

【到達目標】
以下の3点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。
①野生生物の生活と生存戦略
②生物の進化と適応
③生物多様性の意義

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
「動植物の生態」、「生物と環境との相互作用」、「進化と適応」、「動物の行動生態」、「生物多様性」について学びます。国内外の研究実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、生態学と生物多様性に関する基礎的な知識と理解を積み重ねていきます。
また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、生態学とは何か、地球の視点から捉える
第2回	鳥類の生態1	鳥類の生態と特徴、身近な鳥たち、環境との関係、取り巻く問題
第3回	鳥類の生態2	渡り鳥、日本の鳥類相、特徴的な鳥の紹介
第4回	植物の生存戦略	種子の散布、身近な植物、環境に対する生存戦略
第5回	昆虫の世界	昆虫の特徴、素数ゼミ、水生昆虫、社会性昆虫
第6回	日本の哺乳類	シカとカモシカ、クマとブナ、イノシシと人の関係
第7回	生物の進化1	古生代までの生物進化の歴史、大絶滅と大進化
第8回	生物の進化2	恐竜の誕生と絶滅、哺乳類と人間の登場、大進化はなぜ起こるか
第9回	自然選択と適応	適応とは、自然選択とは、適応のための様々な生存戦略
第10回	動物の行動生態	なわばり行動、社会行動、個体数の変動、群集生態
第11回	海洋と沿岸の生物1	クジラとイルカの生態
第12回	海洋と沿岸の生物2	海から陸への物質輸送、海鳥、サケと海洋環境、サンゴ礁
第13回	生物多様性1	3つの生物多様性、レジリエンスとは
第14回	生物多様性2	日本が世界の生物多様性ホットスポットとなっている理由

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】
講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）により評価します。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】
知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】
人間との関わりや保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を受講することを勧めます。さらに理解を深めたい場合は自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。「自然環境科学の基礎（生態学）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】
履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】
In this lecture, students will explore the sustainable relationship between humans and nature through learning the basic ecology such as wildlife and ecosystems in Japan, biological evolution, biodiversity.
The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.
Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

DES300HA（デザイン学 / Design science 300）

自然環境政策論Ⅰ

高田　雅之

配当年次／単位：2〜4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
備考（履修条件等）：環ｺｱ：ロ, サ

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅰ（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論Ⅱ（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究します。

【到達目標】
以下の2点について知識と理解を深め、その要点を説明できる力を身に付けます。
①保全対象となる自然環境の特性と、人間活動によって引き起こされた問題の現状と課題
②人間による影響を減らすために取り組まれている主な自然環境保全対策

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
「保全の対象となる生態系の特徴」、「人間活動によって引き起こされる諸問題」、「外来種や種の絶滅という難題」、「日本における主な自然環境保全制度」、「新たな課題である里山・生物多様性・自然再生」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と問題意識を積み重ね到達目標に向かいます。また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、環境問題の難しさ、自然環境の保全とは
第2回	森林をめぐる諸課題	森林の構造と機能、森林の管理、森林保護をめぐる事例
第3回	草原をめぐる諸課題	半自然草原・高山草原・海岸草原の特徴と取り巻く課題
第4回	湿地をめぐる諸課題	湿原・水田・干潟の特徴と取り巻く課題
第5回	島嶼をめぐる諸課題	海洋島と大陸島、固有の生物相、ガラパゴスや小笠原諸島などの事例
第6回	自然環境をめぐる難題：貴重種1	レッドリストによるリスク評価、希少動物・希少植物の取り組み事例
第7回	自然環境をめぐる難題：貴重種2	種の保存法に関する事例、種の再導入など
第8回	自然環境をめぐる難題：外来種1	様々な導入経路と影響、外来生物対策、国内外の事例
第9回	自然環境をめぐる難題：外来種2	最近の動向、根絶事例、淡水における外来種問題など
第10回	日本の自然環境保全政策1	ワイルドライフマネジメント
第11回	日本の自然環境保全政策2	自然公園、自然環境保全地域など
第12回	自然の再生	自然再生とは、近自然河川工法、自然再生事業など
第13回	里山	里山の特徴と変貌
第14回	生物多様性	生物多様性とは、生態系サービス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】
講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）により評価します。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】
知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】
自然環境政策論Ⅰ（春期）とⅡ（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしていますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）と自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。
旧科目名称「自然環境政策論」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】
履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】
In this lecture, students will understand the current conditions of the natural environment and learn issues of biodiversity such as endangered species and alien species, and basic nature conservation policy in Japan.
The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.
Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境科学Ⅰ

藤倉　良

配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：木5/Thu.5
備考（履修条件等）：環ｺｱ：サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには，科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】
以下に示した環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。
・大気汚染（ばいじん、硫黄酸化物、窒素酸化物、アスベスト）
・上下水道の構造と処理のプロセス
・水質汚濁（富栄養化のメカニズム、工場排水の処理）
・土壌汚染（原因、対策技術）
・廃棄物（法律上の定義と現状）
・リサイクル（意義と現状）
・基準の決め方（リスク論と基準の決定方法）
・環境アセスメント（法制度、具体例）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。
講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。
毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（序章）	環境問題とはどのようなものか、どうすればよいか、環境科学の役割
第2回	大気汚染・その１（第1章）	大気汚染の歴史、ばいじん、硫黄酸化物
第3回	大気汚染・その２（第1章）	窒素酸化物、自動車排ガス、アスベスト
第4回	上水道（第2章）	浄水場のしくみ、水質の維持と費用
第5回	下水道と浄化槽（第2章）	下水道の構造、下水処理場のしくみ、浄化槽
第6回	水質汚濁（第3章）	水質の指標、有機汚濁、富栄養化
第7回	工場排水と土壌汚染（第3章）	工場排水の処理、土壌汚染の特徴と対策、地下水汚染
第8回	悪臭（第4章）	感覚公害、悪臭の測定法、悪臭対策技術
第9回	騒音（第4章）	音とは、騒音の測定法、騒音対策
第10回	廃棄物・その１（第5章）	廃棄物の定義、一般廃棄物
第11回	廃棄物・その２（第5章）	産業廃棄物
第12回	リサイクル・（第5章）	リサイクルの種類、リサイクル関連法
第13回	有害物質とリスク、基準の決め方（第6章）	有害の意味、リスクの意味と大小、基準値の決め方
第14回	環境アセスメント（第12章）	法制度、手続き、事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習してください。
授業計画のテーマ欄にカッコ内でテキストの該当する章を示しました。この部分をあらかじめ読んでから受講してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
藤倉良・藤倉まなみ　『文系のための環境科学入門』　有斐閣コンパクト

【参考書】
藤倉良（2015）環境学は総合格闘技？　人間環境論集，第１６巻，第１号，pp.71-85

【成績評価の方法と基準】
毎回の小テストの提出をもって出席とします。評価は小テスト30％、授業の最終回に行う期末試験70％です。

【学生の意見等からの気づき】
中学卒業程度の理科の知識を前提として講義しますが、高校程度の化学の知識が必要な場合もあります。

【学生が準備すべき機器他】
とくにありません。

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は環境庁（現環境省）で土壌汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきました。その当時の経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline (in English)】
Environmental problems are physical, chemical, and biological effects and reactions on natural ecosystems caused by human activities. To understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is essential. In this lecture, students will acquire the basic engineering knowledge of mechanisms and countermeasures of local environmental problems such as air pollution, water pollution, waste, soil contamination, noise, odor, harmful substances (this is learning objectives). Your study time will be more than four hours for one class. A simple quiz will be given each time, and attendance will be taken upon submission of the quiz. Grading will be based on a quiz (30%) and a final exam (70%).

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境科学Ⅱ

藤倉　良

配当年次／単位：2〜4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：土1/Sat.1
備考（履修条件等）：環ｺｱ：サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには，科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】
以下の環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。
・人口増加のパターンと要因
・オゾンホールが南極上空にできるメカニズム
・気候変動のメカニズムと緩和策、適応策
・気候変動をめぐる社会と政策
・プラスチックごみ対策
・環境国際協力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。
講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。
毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	国際環境政策の難しさ、条約と議定書
第2回	人口	人口増加のメカニズム、都市人口
第3回	オゾン層・1（第7章）	紫外線、フロンガス
第4回	オゾン層・2（第7章）	オゾン層破壊のメカニズム、オゾン層保護対策
第5回	気候変動・1（第8章）	ＩＰＣＣ、気候変動の科学
第6回	気候変動・2（第8章）	二酸化炭素の循環、気候予測、温暖化の影響
第7回	気候変動・3（第8章）	国際交渉の歴史、パリ協定
第8回	気候変動・4（第8章）	エネルギー資源
第9回	気候変動・5（第8章）	緩和策
第10回	気候変動・6（第8章）	適応策
第11回	気候変動・7（第8章）	気候安全保障
第12回	プラスチックごみ問題	プラスチックの性質、日本の政策
第13回	環境国際協力	開発途上国の現状、環境プロジェクトとセーフガード・ポリシー
第14回	まとめ	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習してください。
授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
藤倉良・藤倉まなみ　『文系のための環境科学入門』　有斐閣コンパクト

【参考書】
講義中に指定します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は授業後の小テストによる出席(30%)と授業内に実施する期末試験（70%)で行います。

【学生の意見等からの気づき】
中学卒業程度の理科の知識を前提に講義しますが、高校卒業以上の物理の知識が必要となる講義もあります。その場合にも、極力、平易な解説を試みます。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は環境庁（現環境省）で土壌汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきました。その当時の経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline (in English)】
Environmental problems are physical, chemical, and biological effects and reactions on natural ecosystems caused by human activities. To understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is essential. In this course, students will learn the basic science behind the mechanisms and countermeasures of environmental problems such as climate change, ozone depletion, and acid rain. Your study time will be more than four hours for one class. A simple quiz will be given each time and attendance will be taken after the quiz is submitted. Grading will be based on a quiz (30%) and a final exam (70%).

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境科学Ⅲ

藤倉　良

配当年次／単位：2〜4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：土1/Sat.1
備考（履修条件等）：環ｺｱ：サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには，科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】
資源の歴史的意味に始まり、以下に示すさまざまな資源の性質や利用などについて学習することで、資源の科学的性質や利用の見通しについての基礎知識を習得します。
・資源の意味
・淡水
・エネルギー
・土壌とリン、窒素
・遺伝資源
・金属資源

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。
講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。
毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	資源論の社会科学	資源とは何か、「資源」の概念の歴史、資源の呪い
第2回	淡水（1）	水の循環、淡水資源
第3回	淡水（2）	ダム開発、国際河川
第4回	エネルギー（1）	エネルギーとは何か、様々なエネルギー
第5回	エネルギー（2）	埋蔵量、石油と天然ガス
第6回	エネルギー（3）	石炭、水力
第7回	エネルギー（4）	原子力、新エネルギー
第8回	土壌（1）	土壌の構造、土壌の機能
第9回	土壌（2）	世界銀行の対日援助：日本の農業開発事例
第10回	リンと窒素	循環、機能、存在
第11回	生物多様性	生物多様性保全の意義、名古屋議定書
第12回	遺伝資源	食料、医薬品
第13回	金属資源	銅、鉄、アルミニウム、鉛、レアメタル
第14回	まとめ	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回Hoppiiで配布するレジュメを使って復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
藤倉良 (2015) 増大するアジア地域の電力、水の需要と大型ダムプロジェクト、人間環境論集、第15巻第2号、pp.157-170

【成績評価の方法と基準】
毎回の小テストの提出をもって出席とします。評価は小テスト30％、授業内に実施する期末試験70％です。

【学生の意見等からの気づき】
図を多く使用して、わかりやすい講義を行うこととします。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は環境庁（現環境省）在職時に生物多様性条約の策定過程に関わりました。その経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline (in English)】
This course includes an explanation of the importance of resources, freshwater, energy, soil, phosphorus, nitrogen, genetic resources, base metals and rare earths. Students will acquire basic knowledge about the importance of resources, the scientific nature of resources, and the prospects for their use. Major topics include freshwater, energy, soil, phosphorus, nitrogen, genetic resources, and minerals. Your study time will be more than four hours for a class. A simple quiz will be given each time, and attendance will be taken when the quiz is submitted. Grading will be based on a quiz (30%) and a final exam (70%).

SOM300HA（社会医学 / Society medicine 300）

衛生・公衆衛生学Ⅲ

宮川　路子

配当年次／単位：2〜4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：木4/Thu.4
備考（履修条件等）：環ｺｱ：文, サ

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
衛生・公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育をとげさせて肉体的、精神的能力を完全に発揮させることである。公衆衛生の実践活動のためには、人間の教育および社会の努力が必要である。
現在、我が国においては、年間の自殺者数が1998年から14年間連続して3万人を超えていた。その後減少傾向となりり、2019年には2万人を切ったが、2020年には再び上昇した。いまだ若者の自殺は横ばい傾向となっており、対策が求められている。また、精神的な問題を抱える人の数は大幅に増加しているといわれている。しかし、これらの人が適切に精神科を受診できていないことが問題視されている。
　本講座では産業保健の現場におけるメンタルヘルス事例および心療内科のクリニックでの症例について紹介しながら講義を行う。学生は精神疾患について学び、自分のメンタルヘルスケアを適切に行えるようになることを目的とする。

【到達目標】
精神疾患についての知識を身につけることにより、学生が自分自身の精神的な安定を保ち、また自分自身のみならず、家族や同僚、友人など、周りの人の状態にも敏感に気づくことができるようにする。ものの考え方を変えることによって、精神を健康に保つ方法を身につける。
栄養療法によって精神疾患を防ぎ、改善する知識を身につける。
精神疾患の予防（予防、早期発見・早期治療、社会復帰）を目指し、日本社会にはびこっている偏見を取り除くことも目的としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
対面講義とオンライン、オンデマンドによる講義を行う。必要な資料は学習支援システムにアップする。課題を課した場合には、講義の中でコメントをするなどのフィードバックを行う。なお、各回の講義形態については変更の可能性があるため、適宜Hoppiで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	衛生公衆衛生学概論	ガイダンス
第2回	精神保健 メンタルヘルスケア①	生涯にわたる精神保健の必要性について 精神保健福祉とその対策 自殺について
第3回	メンタルヘルスケア②	産業保健におけるメンタルヘルスケア 職場におけるメンタルヘルス事例について紹介。過重労働、過労自殺、過労死
第4回	メンタルヘルスケア③	ストレスについて 快適職場について 実際の就労現場の取り組みと課題について
第5回	精神障害①	睡眠障害 よい睡眠をとるために大切なこと
第6回	精神障害②	気分障害について うつ病、双極性障害
第7回	精神障害③	新型うつ病について 職域において増加している回避性うつについて学ぶ
第8回	精神障害④	摂食障害について
第9回	精神障害⑤	不安障害
第10回	精神障害⑥	統合失調症
第11回	精神障害⑦	発達障害と就労問題
第12回	精神障害の栄養療法①	精神障害に対する栄養療法の実際について（有効な疾患）
第13回	精神障害の栄養療法②	精神障害に対する栄養療法の実際について（サプリメント）
第14回	まとめ、レポート提出	講義のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義後に復習をする。関連の話題について、常に意識をして新聞を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
こころの「超」整理法　宮川路子　中央経済社　2012年
参考資料を適宜配布する。

【参考書】
適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
評価は期末に提出するレポートまたは授業内試験で行う（100％）。

【学生の意見等からの気づき】
多人数の講義の場合には、騒がしいことがあったが、適宜注意を促し、静粛な環境で講義を進めるよう努力する（対面の場合）。
オンデマンドの講義の場合には、学生が理解しやすいような動画及び資料の作成を心がける。

【実務経験のある教員による授業】
産業医として就労者の健康管理、特にメンタルヘルスケアに力を入れて職場の環境管理に携わる一方、クリニックで栄養療法を中心とした統合医療の診療を行っている。

【Outline (in English)】
The purpose of public health is to protect people from disease, to preserve and promote health, and to enable people to develop fully and to reach their full physical and mental health status. In this course, students will learn about mental illness and be able to take appropriate care of their own mental health.
Learning Objectives: Students will learn about mental illnesses so that they can maintain their own mental stability and be sensitive to the condition of not only themselves but also those around them, such as family, colleagues, and friends.
Through learning about the symptoms, students will be able to recognize mental illnesses at an early stage.
Students will learn how to change their mindset in order to maintain mental health.
Students will gain knowledge on how to prevent and improve mental illness through nutritional therapy.
Through the lectures, students will aim to prevent mental illness (prevention, early detection and treatment, and reintegration into society), as well as to remove prejudices prevalent in Japanese society.
Learning activities outside of classroom: Review after the lecture. Students are expected to read newspapers with an awareness of related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Policy: Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the term (100%).

DES300HA（デザイン学 / Design science 300）

自然環境論Ⅳ

佐々木　美貴

配当年次／単位：1〜4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：木3/Thu.3
備考（履修条件等）：環ｺｱ：グサ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然環境と人間活動との持続的な調和を探求するためには、地球規模から私たちの身近なところまでズームの効いた視点で自然環境を理解することが欠かせません。本講義では、私たちの身近な自然環境である「湿地（Wetlands）」とそこに生息・生育する動植物への理解、ラムサール条約や生物多様性条約などで議論されている世界的な動き、生態系サービスと湿地とのかかわり、湿地と人間活動との共生の可能性について学び、今後の人と自然との望ましい関係を考究することを目的とします。

【到達目標】
以下の4点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。
①世界及び日本の湿地タイプ別の生態系と野生生物の特徴
②世界的な湿地の現況と課題
③生態系サービスと湿地
④湿地と人間活動との共生の可能性

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス、序論	授業の内容､ねらい、進め方､成績評価基準など､湿地の概要
第2回	湿地タイプ別の生態系及び野生生物の特徴①	世界の湿地及び野生生物の特徴
第3回	湿地タイプ別の生態系及び野生生物の特徴②	日本の湿地及び野生生物の特徴
第4回	ラムサール条約と生物多様性条約	ラムサール条約と生物多様性条約の特徴と自然環境
第5回	世界的な湿地の現状と課題①	世界的な湿地の現状と傾向
第6回	世界的な湿地の現状と課題②	湿地の変化の要因
第7回	世界的な湿地の現状と課題③	湿地の変化への対応策と課題
第8回	生態系サービスと湿地①	湿地にかかわる供給サービス及び調整サービスと人間活動
第9回	生態系サービスと湿地②	湿地にかかわる文化的サービス、基盤サービスと人間活動
第10回	湿地と人間活動との共生の可能性（保全・再生）	湿地と人間活動との共生について、保全・再生の視点から考える
第11回	湿地と人間活動との共生の可能性（ワイズユース1）	湿地と人間活動との共生について、農業・漁業の視点から考える
第12回	湿地と人間活動との共生の可能性（ワイズユース2）	湿地と人間活動との共生について、観光業の視点から考える
第13回	湿地と人間活動との共生の可能性（CEPA）	湿地と人間活動との共生について、CEPA（交流・力量形成・教育・参加・気づき）の視点から考える
第14回	まとめ	今後の人と自然との望ましい関係について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】
講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）により評価します。詳しくは授業内か学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーでの質問などについて、次回以降の授業等で伝えるようします。具体的な事例や映像を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【実務経験のある教員による授業】
担当する講師は、湿地の調査や保全にかかわるNPO法人に勤務しています。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In order to seek a sustainable harmony between the natural environment and human activities, it is essential to understand the natural environment from a wide-ranging perspective, from the global scale to our immediate surroundings. In this course, you will learn about wetlands, a natural environment that is close to us, and the flora and fauna that live there, the global trends being discussed in the Ramsar Convention and the Convention on Biological Diversity, the relationship between ecosystem services and wetlands, and the possibility of coexistence between wetlands and human activities.
【Learning Objectives】
The goal is to deepen knowledge and understanding of the following four points and be able to explain the key points.
1. Characteristics of ecosystems and wildlife by wetland type in the world and Japan
2. Current status and issues of wetlands worldwide
3. Ecosystem services and wetlands
4. Possibility of coexistence between wetlands and human activities
【Learning activities outside of classroom】
Students will be required to prepare and review the materials introduced in each lecture. Students will prepare for each lecture by studying basic knowledge related to the theme of each lecture, and will resolve any questions they may have during the lecture through self-study after each lecture. Students will also strive to pay attention to topics related to the natural environment in the media they come into contact with on a daily basis, and to the creatures they see around them. The standard preparation and review time for this class is two hours each.
【Grading Criteria /Policy】
The evaluation will be based on the reaction paper (50%) and the final exam (50%) that you will submit every time. Details will be provided in class or on the learning support system.

CAR200HA（キャリア教育 / Career education 200）

キャリア入門

櫻井　洋介

配当年次／単位：1〜4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火4/Tue.4
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、これから社会に出て自身のキャリアを形成していく学生が、自らの意思で自律的なキャリアを構築できるように、キャリアに関する必要な理論や基礎知識の習得を目指します。また、講義の後半には、自分自身のキャリアを考えてもらう機会を提供します。

【到達目標】
自らの意思で自律的にキャリアを形成していくため、キャリア論や労働環境に関する基礎知識を習得すること。自身のキャリア展望について、理論をもとに考察できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
前半は講義形式で進めます。受講人数にもよりますが、後半は個人ワークやグループワーク等を通じて、自身のキャリアについて考えていただき、個人発表またはグループ発表を行ってもらいます。
授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の進め方等に関して説明を行う。
第2回	キャリアとは何か	キャリア概念の定義や特徴、キャリア研究のアプローチ方法等について学ぶ。
第3回	ライフサイクルと組織内キャリア形成	ライフサイクルの進展に合わせたキャリアの発達について学ぶ。
第4回	就職活動とインターンシップ	近年の就職活動の動向や求職市場にインターンシップ制度の役割等について学ぶ。
第5回	日本の雇用慣行と組織制度	日本の雇用慣行や変遷、組織制度について学ぶ。
第6回	伝統的キャリアから現代的キャリアへ	バウンダレス・キャリア、プロティアン・キャリアといったような現代的なキャリア観を学ぶ。
第7回	ワークライフバランスとメンタルヘルス	ワークライフバランスに関する近年の動向や労働者の価値観、企業の取り組み等について学ぶとともに、メンタルヘルスの重要性についても取り上げる。
第8回	キャリアの発達と自己実現	自身のキャリア発達が成功であると感じる要素は何か、先行研究等をもとに考える。
第9回	労働関連法規と労働者の権利	自律的にキャリアを構築していく上でおさえておくべき労働関連法規の基礎や、労働者としての権利（キャリア権等）について学ぶ。
第10回	持続可能なキャリア（サステナブルキャリア）とは	近年、注目を集めるサステナブルキャリアの概念について考える。
第11回	人と組織に関する現代的課題	人的資本経営の推進や最新技術の導入による働き方の変化、それによる労働者への影響等、人と組織を取り巻く現代的課題について考える。
第12回	自身のキャリアについて考える①（個人ワーク、グループディスカッション）	これまで学んできたことをもとに、自己理解のための個人ワークやグループディスカッションを通じて、自身のキャリアを考える。
第13回	自身のキャリアについて考える②（個人発表またはグループ発表）	個人あるいはグループで発表を行い、ディスカッションを実施する。
第14回	自身のキャリアについて考える③（個人発表またはグループ発表）	自身のキャリアについて考える③（個人発表またはグループ発表）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料や参考書等をもとに予習・復習をお願いします。毎回の講義の後に、予習箇所は指示します。また、個人発表やグループ発表に向けて、授業時間外にも準備をしていただくことになります。講義の最後に、ワークや発表の成果をレポートの形でまとめてもらいます。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に教科書は指定しません。配布資料等をもとに講義を進めます。

【参考書】
柏木仁『キャリア論研究 補訂版』（文眞堂, 2020）

【成績評価の方法と基準】
平常点（講義やディスカッションへの参加、貢献）を20%、個人ワークやグループワーク等の成果発表を30%、レポート課題を50%とします（レポートは、個人ワークやグループワークの成果発表の内容をまとめて頂くことを想定しています）。

【学生の意見等からの気づき】
必要に応じて、プレゼンテーション発表の前に「プレゼンテーションの方法」に関する解説講義を行うこととします。

【その他の重要事項】
本講義の担当教員は実務家教員であり、これまで金融機関や政府関連機関、コンサルファーム等、様々な組織での勤務経験を有しているだけでなく、キャリアの過程で留学や社会人大学院の入学等も経験しています。講義では、教員自身のこれまでの経験も還元させていただくとともに、企業の実務や実態に即した講義を実施させていただきます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This lecture aims to provide students who are going to develop their own careers with the necessary theories and basic knowledge so that they can build autonomous careers on their own initiative. The lectures also provide students with an opportunity to consider their own careers.
【Learning Objectives】
To acquire basic knowledge of career theory and the working conditions in order to develop their own career autonomously on their own initiative.
To be able to consider their own career prospects based on the theory.
【Learning activities outside of classroom】
Please prepare and review based on the handouts and reference books. Preparation materials will be given after each lecture. In addition, students are expected to prepare for individual and group presentations outside of class time. At the end of the lecture, students will be required to write a report on the results of their work and presentations.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】

20%will be given for usual performance score (participation and contribution to lectures and discussions), 30%for presentation of individual and group work, and 50%for reports (the summary of the results of individual and group work).

ARSa300HA・ECN300HA

人間環境特論（ヨーロッパ地域研究）

松本　敦則

配当年次／単位：2〜4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火5/Tue.5
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ヨーロッパ地域は広い。欧州連合（EU）加盟国だけでも27か国、人口も約4億4800万人ほどいる。そのため本授業では多くを取り扱うことはできない。そこで「人間環境特論」という授業の特性を生かし、経済や社会など個別具体的なトピックスを取り上げていく。この授業の目的はヨーロッパ地域の経済を中心に歴史的経緯、基礎的知識、現在の状況を学ぶことである。

【到達目標】
歴史的経緯を踏まえ、現在のヨーロッパの地域に関するトピックス、特に産業や経済の観点から学ぶことにより、ヨーロッパ地域全体の大枠での現状を認識し、分析できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式で授業を行うが、授業内でのグループワークやヨーロッパに駐在経験がある方や専門家などゲストスピーカーとのディスカッションなども行う。
毎回、テーマに応じた簡単な小レポートを提出してもらう。次回の授業で提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス ヨーロッパ地域を取りまく環境と現状分析。	ガイダンス。 ＥＵ統合の歴史的経緯と現状について分析する
2	イタリアの地域と社会　1	イタリアの地域、経済、社会の観点からイタリアを理解する。
3	イタリアの地域と社会　2	イタリアの地域、経済、社会の観点からイタリアを理解する。イタリアの中小企業の事例研究も行う。
4	イギリスの地域と社会	イギリスの地域、経済、社会の観点からイギリスを理解する。EUからの離脱問題も取り扱う。
5	フランスの地域と社会	フランスの地域、経済、社会の観点からフランスを理解する。
6	スイスの地域と社会	スイスの地域、経済、社会の観点からスイスを理解する。スイスの時計産業の事例も取り扱う。
7	ドイツの地域と社会	ドイツの地域、経済、社会の観点からドイツを理解する。ドイツの自動車産業の事例も取り扱う。
8	ヨーロッパの創造都市	イタリアのボローニャの事例を取り上げ、創造都市の定義や現状を学ぶ。
9	ヨーロッパの移民問題	ヨーロッパにはアフリカや中東地域から多くの移民が流入しており、社会問題化している。その現状を学ぶ。
10	ヨーロッパのエネルギー事情	ヨーロッパにはドイツやイタリアなど多くのエネルギーを他国に頼っている国がある。その現状を学ぶ。
11	ヨーロッパの観光とオーバーツーリズム	イタリアのローマ、ヴェネチアを始めフランスのパリやスペインでもオーバーツーリズムの問題が表面化している。その現状を学ぶ。
12	ヨーロッパ地域に関するゲストスピーカーの講義	ゲストスピーカーをお呼びして講義、ディスカッションを行う。
13	ヨーロッパの気候変動政策・環境問題	ヨーロッパの気候変動政策・環境問題について産業の観点から学ぶ。
14	ヨーロッパ地域に関するまとめ	これまでの授業のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業において配布された資料や紹介された文献を読み復習を行う。また毎回の授業の終了時に次回の授業内容を提示するのでその予習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
田中素香・長部重康・久保広正・岩田健治（2023）
『現代ヨーロッパ経済（第6版）』有斐閣アルマ
森井裕一（編）（2022）『ヨーロッパの政治経済・入門 新版』有斐閣ブックス
本田雅子・山本いづみ（編）（2024）『EU経済入門（第2版）』文眞堂

【成績評価の方法と基準】
期末試験（50％）、小レポート課題（30％）、平常点（20％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度から新規開講のためなし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当。
イタリアにある日本の外務省の在外公館で専門調査員（経済担当）としてイタリアの経済や政治、社会の調査・研究や日系進出企業のサポート業務を行った。
また、2003年12月にイタリアのミラノで開催された「国連気候変動枠組条約第９回締約国会議（COP９）」にロジスティクス（後方支援業務）要員として参加した。
これらの経験を踏まえ授業を行う。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The European region is large. There are 27 member states of the European Union (EU) alone, with a population of approximately 448 million. As a result, it is not possible to cover much of it in this class. Therefore, taking advantage of the characteristics of the "Special Study of the Human Environment" class, we will take up specific topics such as economy and society. The purpose of this class is to learn about the historical background, basic knowledge, and current situation of the European region, with a focus on the economy.
（Learning Objectives）
By studying current topics related to Europe, especially from the perspective of industry and the economy, based on historical background, students will be able to recognize and analyze the current situation in the European region as a whole.
（Learning activities outside of classroom）
Students will read and review the materials distributed and literature introduced in class. In addition, the content of the next class will be presented at the end of each class, so students will prepare for it. The standard preparation and review time for this class is two hours each.
（Grading Criteria /Policy）

Final exam (50%), short report assignment (30%), regular grades (20%)

ECN400HA（経済学 / Economics 400）

研究会A

武貞　稔彦

配当年次／単位：2〜4年／4単位
開講セメスター：年間授業/Yearly　｜　曜日・時限：金5/Fri.5
備考（履修条件等）：定員制

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2025年度は、「貧困」がテーマです。途上国のみならず、日本でも近年課題となっている「貧困」について、多面的な理解と今後の解決への展望を考えます。特に先進国である日本でも経済の不振、自然災害等、「貧困」という問題がこれまで以上に身近に生じる可能性があります。「貧困」をより現実のものとして捉え、その対応について考えておくことが非常に重要だという観点から議論を深めます。
本セミナーは持続可能な開発目標（SDGs）全体に関わりますが、とりわけゴール1,2,10と深い関係にあります。

【到達目標】
本研究会では、（ア）開発と環境保全、貧困をめぐる議論を広い視野から捉え、（イ）自らの意見を持ちそれを人に伝え、（ウ）将来の持続可能な社会の姿を想像・構想できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
演習の方法等は、受講者の積極的な提案に基づき、随時見直しを行います。主に　a)基礎文献の精読、b)与えられた課題に関するグループ調査とディスカッション、c)参加者の意見表明の機会、からなります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	メンバー間の自己紹介、研究会の進め方（予定）について概説する。
第2回	基礎文献の輪読（1）	「貧困」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第3回	基礎文献の輪読（2）	「貧困」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第4回	基礎文献の輪読（3）	「貧困／格差」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第5回	基礎文献の輪読（4）	「貧困／格差」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第6回	基礎文献の輪読（5）	「不平等」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第7回	基礎文献の輪読（6）	「不平等」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第8回	グループディスカッション　課題1-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第9回	グループディスカッション　課題1-2	グループ発表および全体ディスカッション
第10回	グループディスカッション　課題2-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第11回	グループディスカッション　課題2-2	グループ発表および全体ディスカッション
第12回	グループディスカッション　課題3-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第13回	グループディスカッション　課題3-2	グループ発表および全体ディスカッション
第14回	春学期のまとめ	春学期全体のまとめ、フィードバック。
第15回	春学期まとめと秋学期オリエンエテーション	春学期の復習と秋学期のとり進め方について意見交換を行う。
第16回	グループディスカッション　課題4-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第17回	グループディスカッション　課題4-2	グループ発表および全体ディスカッション
第18回	グループディスカッション　課題5-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第19回	グループディスカッション　課題5-2	グループ発表および全体ディスカッション
第20回	グループディスカッション　課題6-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第21回	グループディスカッション　課題6-2	グループ発表および全体ディスカッション
第22回	グループディスカッション　課題7-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第23回	グループディスカッション　課題7-2	グループ発表および全体ディスカッション
第24回	グループディスカッション　課題8-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第25回	グループディスカッション　課題8-2	グループ発表および全体ディスカッション
第26回	グループディスカッション　課題9-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第27回	グループディスカッション　課題9-2	グループ発表および全体ディスカッション
第28回	まとめ	年間の議論を総括するとともにこれまでの活動に関するフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。基礎文献、与えられた課題（英文含む）は必ず熟読して演習に臨むこと。関連して紹介された参考書も出来る限り目を通すこと。グループで積極的に集まり課題について議論する機会を設けること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定のテキストはありません。

【参考書】
研究会において紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（議論への積極的参加や貢献など）（70%）、期末レポート（30%）に基づいて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
ゼミ生同士のコミュニケーションのバリエーションを増やすことに留意する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、調査、発表用のパソコン／タブレットなどを持参すること。

【関連の深いコース】
ローカル・サステイナビリティコース、グローバル・サステイナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】
担当者は、途上国への経済協力の実務に携わった経験がある。本研究会においては、経済協力の実務を通じて得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】
[Course Outline]

The theme for FY2025 is "Poverty". Students are expected to take part in group talk and various communications vigorously. Students will be able to understand basic idea/ concept on "poverty", "multidimensional poverty",and "social inclusion" and to nurture their values and attitudes towards an effective measure to reduce/alleviate poverty both in developing countries and developed countries.

This seminar is concerned with the Sustainable Development Goals (SDGs) as a whole, but especially with Goals 1, 2, and 10.

[Learning Objectives]

The goal of this seminar is to enable students to (a) gain basic understanding on the concept of poverty, (b) view the debate on poverty from a broad perspective, (b) formulate their own opinions and communicate them to others, and (c) imagine and envision a sustainable society without poverty for the future.

[Learning Activities outside of classroom]

Students are required to prepare for and review the lectures using the materials introduced in each lecture.

Students are required to read carefully the basic literature and the given assignments (including English texts) before attending the exercises. Read through as much as possible of the reference books introduced in the lectures. Students should have opportunities to actively gather in groups to discuss issues. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on performance in the regular session (active participation and contribution to discussions, etc.) (70%) and the final report (30%).

SOC400HA（社会学 / Sociology 400）

研究会A

櫻井　洋介

配当年次／単位：**2〜4年／4単位**
開講セメスター：**年間授業/Yearly**　｜　曜日・時限：**木4/Thu.4**
備考（履修条件等）：**定員制**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「人権尊重の経営と労働CSR」
本ゼミでは、近年、企業の社会的責任（ＣＳＲ）やサステナビリティ経営の文脈で注目を集めている「ビジネスと人権」をテーマに扱います。サプライチェーン上の児童労働などの社会的な問題や、ダイバーシティ経営、働きやすい人間らしい仕事（ディーセントワーク）の実現といった企業経営上の課題など、「人」に関連する様々な切り口から、責任ある企業経営の在り方を学んでいきます。
グループワーク等を通じて自身の関心領域や問題意識を設定していき、最終的にはゼミ研究論文を執筆することを目指します。

【到達目標】
「ビジネスと人権」や「労働CSR」に関する知見を深め、責任ある企業行動の観点から「企業」と「人」との関係性を考察する力を身に付ける。
また、グループワークや個人発表、論文の執筆を通じて、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、課題設定能力や論理的思考力等を鍛え、アカデミックスキルの基礎を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストの講読を行い、その内容をもとにディスカッション形式で進行することを基本とします。また、春学期はグループ発表、秋学期は個人発表を実施してもらうことを想定しています。スケジュールやゼミ生の関心領域等に応じて、ゲストスピーカーの招聘や校外学習（企業見学や他組織との交流、イベントへの参加、ゼミ合宿等）も実施する可能性があります。校外学習は、Bゼミと合同で行う可能性もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ゼミ生同士の自己紹介を行い、合わせて今後のゼミの進め方や年間スケジュールについて確認を行う。
第2回	サステナビリティ経営とは①	予め指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第3回	サステナビリティ経営とは②	予め指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第4回	企業の社会的責任と「ビジネスと人権」論の概要（企業の人権尊重責任と人権デューディリジェンス）	予め指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第5回	サプライチェーン上の人権・労働問題	予め指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第6回	発表スケジュールと主要論点の紹介、テーマの決定	今後の発表のスケジュールを決定する。
第7回	個人・グループ発表①	予め発表者が指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第8回	個人・グループ発表②	予め発表者が指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第9回	個人・グループ発表③	予め発表者が指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第10回	個人・グループ発表④	予め発表者が指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第11回	個人・グループ発表⑤	予め発表者が指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第12回	個人・グループ発表⑥	予め発表者が指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第13回	個人・グループ発表⑦	予め発表者が指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第14回	個人・グループ発表⑧	予め発表者が指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第15回	イントロダクション	秋学期の進め方の確認を行う。
第16回	特定テーマや企業事例を通じて「責任ある企業行動」を考える①	開示情報の閲覧や文献・資料等の講読を通して、特定のテーマや具体的な企業の取組内容についてディスカッションを行う（ゲストスピーカー講演等を行う可能性もある）
第17回	特定テーマや企業事例を通じて「責任ある企業行動」を考える②	開示情報の閲覧や文献・資料等の講読を通して、特定のテーマや具体的な企業の取組内容についてディスカッションを行う（ゲストスピーカー講演等を行う可能性もある）
第18回	特定テーマや企業事例を通じて「責任ある企業行動」を考える③	開示情報の閲覧や文献・資料等の講読等を通して、特定のテーマや具体的な企業の取組内容についてディスカッションを行う（ゲストスピーカー講演等を行う可能性もある）
第19回	特定テーマや企業事例を通じて「責任ある企業行動」を考える④	開示情報の閲覧や文献・資料等の講読等を通して、特定のテーマや具体的な企業の取組内容についてディスカッションを行う（ゲストスピーカー講演等を行う可能性もある）
第20回	特定テーマや企業事例を通じて「責任ある企業行動」を考える⑤	開示情報の閲覧や文献・資料等の講読等を通して、特定のテーマや具体的な企業の取組内容についてディスカッションを行う（ゲストスピーカー講演等を行う可能性もある）
第21回	特定テーマや企業事例を通じて「責任ある企業行動」を考える⑥	開示情報の閲覧や文献・資料等の講読等を通して、特定のテーマや具体的な企業の取組内容についてディスカッションを行う（ゲストスピーカー講演等を行う可能性もある）
第22回	特定テーマや企業事例を通じて「責任ある企業行動」を考える⑦	開示情報の閲覧や文献・資料等の講読等を通して、特定のテーマや具体的な企業の取組内容についてディスカッションを行う（ゲストスピーカー講演等を行う可能性もある）

第23回	特定テーマや企業事例を通じて「責任ある企業行動」を考える⑧	開示情報の閲覧や文献・資料等の講読等を通して、特定のテーマや具体的な企業の取組内容についてディスカッションを行う（ゲストスピーカー講演等を行う可能性もある）
第24回	特定テーマや企業事例を通じて「責任ある企業行動」を考える⑨	開示情報の閲覧や文献・資料等の講読等を通して、特定のテーマや具体的な企業の取組内容についてディスカッションを行う（ゲストスピーカー講演等を行う可能性もある）
第25回	特定テーマや企業事例を通じて「責任ある企業行動」を考える⑩	開示情報の閲覧や文献・資料等の講読等を通して、特定のテーマや具体的な企業の取組内容についてディスカッションを行う（ゲストスピーカー講演等を行う可能性もある）
第26回	特定テーマや企業事例を通じて「責任ある企業行動」を考える⑪	開示情報の閲覧や文献・資料等の講読等を通して、特定のテーマや具体的な企業の取組内容についてディスカッションを行う（ゲストスピーカー講演等を行う可能性もある）
第27回	特定テーマや企業事例を通じて「責任ある企業行動」を考える⑫	開示情報の閲覧や文献・資料等の講読等を通して、特定のテーマや具体的な企業の取組内容についてディスカッションを行う（ゲストスピーカー講演等を行う可能性もある）
第28回	１年間のまとめ	１年間の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミ内で取り上げるテーマについて事前にリサーチを行い、ディスカッションの中で自分の意見を述べられるように準備をお願いします。また、グループ発表や個人発表の準備等は授業外において実施していただくことになります。グループ発表および個人発表時は、必ずレジュメや資料等を用意するようにして下さい。
ゼミ生には、自身の関心のある分野を定め、自主的にリサーチを進めることを期待します。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
櫻井洋介『人権尊重の経営　SDGｓ時代の新たなリスクへの対応』(日本経済新聞出版，2022)

【参考書】
ゼミ生の研究テーマに合わせて適宜、参考書をご紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100%）：ディスカッションへの参加、グループワークやゼミ活動への貢献、グループ発表や個人発表の内容等を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本ゼミでは、「ビジネスと人権」や「労働CSR」をテーマとしていますが、これらサステナビリティ経営における個別課題を深く考察していくためには、サステナビリティ経営全般に関する理解が必要不可欠です。従って、本ゼミではまず、サステナビリティ経営の基礎知識を学んだうえで、「人権」や「労働」といったテーマを研究していくことを想定しています。
また、本ゼミでは知識の習得のみならず、「論文・レポートの書き方」や「英語資料の読み方」、「プレゼンテーションの実施方法」等、アカデミックスキルの習得にも重きを置いています。必要に応じて、これらをゼミ内で取り上げる機会を設けていきます。

【その他の重要事項】
本講義の担当教員は実務家教員であり、これまで金融機関や政府関連機関、コンサルティングファーム等、様々な組織での勤務経験を有しているだけでなく、キャリアの過程で留学や社会人大学院の入学等も経験しています。講義では、教員自身のこれまでの経験も還元させていただくとともに、企業の実務や実態に即した講義を実施させていただきます。
また、担当教員は現役のサステナビリティコンサルタントであり、「ビジネスと人権」や「労働CSR」、「サプライチェーン上の労働問題」等を専門にコンサルティング業務に従事しています。これらの経験を踏まえて学生へのフィードバックを行うとともに、企業実務とのつながりを意識した研究を行っていきます。そのため、本ゼミでは、ゲストスピーカーの招聘や校外学習等を積極的に企画していく予定です。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース、グローバルサステイナビリティコース

【Outline (in English)】
【Course outline】
This seminar will focus on the theme of "Business and Human Rights," which has been attracting attention in the context of corporate social responsibility (CSR) and sustainability management in recent years. We will learn about responsible corporate management from a variety of perspectives related to "people," including social issues such as child labor in the supply chain, and corporate management issues such as diversity management and the realization of decent work.
【Learning Objectives】
Students will deepen their knowledge of "Business and Human Rights" and "Labor CSR" and acquire the ability to consider the relationship between " business" and "people" from the perspective of Responsible Business Conduct.
In addition, through group work, individual presentations, and the writing of a thesis, students will develop communication and presentation skills, problem-solving skills, and logical thinking skills, and acquire a foundation of academic skills.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to research the topics to be discussed in the seminar in advance and prepare to express their own opinions during the discussion.
In addition, students are required to prepare for group and individual presentations outside of class. Make sure to prepare resumes and other materials for your group and individual presentations.
Students are expected to decide on their own areas of interest and conduct research independently.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Usual performance score (100%): Participation in discussions, contribution to group work and seminar activities, and the content of group and individual presentations will be comprehensively evaluated.

MAN400HA（経営学 / Management 400）

研究会A

長谷川　直哉

配当年次／単位：**2〜4年／4単位**
開講セメスター：**年間授業**/Yearly　｜　曜日・時限：**火**4/Tue.4
備考（履修条件等）：**定員制**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代企業論、ビジネスヒストリー、CSR論Ⅰ・Ⅱで習得した知識をベースに、「良い企業、良い社会、良い働き方」とは何かという問いに対する答えを見出すため、持続可能な社会で求められる企業とは何かについて考えます。SDGs（持続可能な開発目標）、パリ協定（脱炭素）、CSR（企業の社会的責任）、Business Ethics（企業倫理）等のテーマを中心に、サステナブル社会で人々から共感される理想の企業像とは何かを学びます。

【到達目標】
SDGsやESG投資の視点から、社会変革をリードし持続可能な社会の構築に貢献できる企業について実証的アプローチによる研究を行い、４年生は研究会修了論文、２・３年生は日経STOCKリーグのレポートを作成します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期は、SDGsおよびESG投資に関する文献や論文を輪読し、論文作成に必要な知識を習得を図りディベート能力も涵養します。秋学期は複数のチームを編成し、日本経済新聞社が主催するストックリーグに参加します。日経ストックリーグではSDGsへの取り組み、財務データの分析や企業訪問によるヒアリング調査を行い、オリジナルのESG投資ファンドを組成しバーチャルトレードを行います。さらに、その成果をレポートにまとめてコンテストにチャレンジします。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 日経STOCKリーグ 研究会修了論文	ゼミの進め方 日経STOCKリーグの説明 卒業論文の執筆スケジュール
第2回	企業と社会に関する文献講読①	担当者による報告と討議
第3回	企業と社会に関する文献講読②	担当者による報告と討議
第4回	企業と社会に関する文献講読③	担当者による報告と討議
第5回	企業と社会に関する文献講読④	担当者による報告と討議
第6回	日経STOCKリーグ第1回テーマ報告	テーマの方向性についての報告と討議
第7回	ESG投資に関する文献購読①	日経STOCKリーグ優秀論文のレビュー 担当者による報告と討議
第8回	ESG投資に関する文献購読②	日経STOCKリーグ優秀論文のレビュー 担当者による報告と討議
第9回	コーポレートガバナンスに関する文献購読①	コーポレートガバナンスに関する主要論点のレビュー 担当者による報告と討議
第10回	コーポレートガバナンスに関する文献購読②	コーポレートガバナンスに関する主要論点のレビュー 担当者による報告と討議
第11回	日経STOCKリーグ第2回テーマ報告	問題認識と分析手法の報告と討議
第12回	証券投資・財務分析に関する基礎的文献の購読①	証券投資・財務分析に関する基本知識の習得 担当者による報告と討議
第13回	証券投資・財務分析に関する基礎的文献の購読②	証券投資・財務分析に関する基本知識の習得 担当者による報告と討議
第14回	日経STOCKリーグ第3回テーマ報告	ファンドテーマの決定 企業調査の方法・スケジュールの報告
第15回	日経STOCKリーググループ中間報告①	これまでの分析結果の報告と課題の整理
第16回	日経STOCKリーググループ中間報告②	これまでの分析結果の報告と課題の整理
第17回	研究会修了論文中間報告①	論文テーマ・論文構成の報告と討議
第18回	日経STOCKリーグ（企業評価）	チーム毎に分析結果の報告
第19回	日経STOCKリーグ（企業評価）	チーム毎に分析結果の報告
第20回	日経STOCKリーグ（企業評価）	チーム毎に分析結果の報告
第21回	日経STOCKリーググループ中間報告③	ポートフォリオ企業の選定状況報告
第22回	日経STOCK（企業訪問①）	企業を訪問しヒアリング調査を実施
第23回	日経STOCK（企業訪問②）	企業を訪問しヒアリング調査を実施
第24回	日経STOCK（企業訪問③）	企業を訪問しヒアリング調査を実施
第25回	日経STOCKリーググループ中間報告④	ポートフォリオの完成 レポート内容の報告
第26回	研究会修了論文中間報告②	論文構成および内容の報告と討議
第27回	日経STOCKリーグ提出用レポートの検討	レポート執筆状況の報告
第28回	日経STOCKリーグ提出用レポートの検討	レポート完成稿の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミの発表資料や適宜紹介される文献・資料等を使用して必ず予習・復習をして下さい。企業のSDGs活動、財務分析、企業に対するヒアリング調査を行うため、サブゼミや企業訪問を研究会の時間外に実施することが多くなります。また、夏季休暇中にゼミ合宿を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと事業構造改革』文眞堂,2023年
長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会，2023年
長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文眞堂，2021年
Naoya.HASEGAWA（2020）“Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan
長谷川直哉編著『企業家に学ぶESG経営』文眞堂，2019年
長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文眞堂，2018年
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文眞堂，2017年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステイナブル経営史』文眞堂，2016年
日経エコロジー編『ESG経営ケーススタディ20』日経BP社，2017年

【参考書】
必要に応じて随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点：30%
日経ストックリーグレポート：70%
平常点はゼミにおける報告内容および討議への貢献度、企業など外部機関に対するヒアリング調査の実施状況を評価します。
日経ストックリーグレポートについては、テーマ選定、評価基準の設定、財務分析、証券分析等の正確性とオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】
参加者の自主的な取り組みを中心にゼミを行います。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてパソコンを使用します。

【担当教員の専門領域】
＜専門領域＞
サステナブル経営・企業倫理・ESG投資・ビジネスヒストリー
＜研究テーマ＞
取締役会の実効性分析
企業価値の向上に資する非財務情報の開示

【最近の主要業績】
「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」（2021年9月28日）』2021年
「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学（2020年3月2日～12日）』2020年
「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319』2021年

【実務経験のある教員による授業】
損害保険会社の資産運用部門において、約15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証上場企業の社外取締役・顧問として企業経営に参画しています。
【関連資格】
日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【関連の深いコース】
サステイナブル経済･経営コース、ローカル･サステナビリティコース

【Outline (in English)】
Based on the knowledge acquired in Contemporary Corporate Theory, Business History, and CSR I and II, students will discuss the ideal company in a sustainable society.
Students will build a portfolio and prepare a stock league report on themes such as SDGs (Sustainable Development Goals), Paris Agreement(Decarbonization), CSR (Corporate Social Responsibility), and Business Ethics.
Students are required to learn about corporate efforts toward the SDGs and the Paris Agreement on their own by referring to integrated reports and sustainability reports issued by companies.
Students will be able to gain a deeper knowledge of the future of Japanese companies.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on the final report (70%) and presentation (30%).

ENV400HA（環境保全学 / Environmental conservation 400）

研究会A

高田　雅之

配当年次／単位：**2〜4年／4単位**
開講セメスター：**年間授業/Yearly**　｜　曜日・時限：**金3/Fri.3**
備考（履修条件等）：**定員制**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然のもつ奥深い魅力を探求するとともに、生態系や野生生物の理解に基づいて、自然環境を取り巻く諸課題に対し望ましい在り方を考究することをテーマとします。その際、地域の社会や経済との関わりの視点を中心に、国際的視点や他の諸問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな発想力を養います。研究会を通して多様な知識による基盤を作り、その上に各自の問題意識を組立て、修了論文を目指します。

【到達目標】
以下の4点を身に付けます。
①自然環境に関する幅広い知識・見識と柔軟な考え方
②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力（プレゼンテーション／レポート能力）
③他者との議論を通して、異なる観点の意見を受け入れ合意を形成する能力（コミュニケーション能力）
④自ら課題を設定し、関連する情報を収集・分析し、体系的にまとめて考察する能力（論理的思考）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
生物多様性保全、生態系・野生生物と人間の社会経済との関係などをテーマに以下のことを実施します。
①グループワークをとおして、設定課題について調査・考究し、成果を取りまとめます
②個人学習によって、設定課題について情報整理・企画立案し、成果を発表します
③野外学習／ゼミ合宿とサブゼミ学習を通じて、市民活動／企業とのコラボやフィールドに学び、企画力・実践力・分析力を養います
④自らの研究テーマを設定し、情報収集と調査、分析と考察を重ね、最終的な修了論文作成につなげます
なお、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究会の進め方
第2回	テーマ1：グループ研究1	事前学習
第3回	テーマ1：グループ研究2	グループ討議
第4回	テーマ1：グループ研究3	グループ討議と中間発表
第5回	テーマ1：グループ研究4	グループ討議
第6回	テーマ1：グループ研究5	グループ討議とまとめ
第7回	テーマ1：グループ研究6	発表と総括講義
第8回	テーマ2：グループ研究1	事前学習
第9回	テーマ2：グループ研究2	グループ討議
第10回	テーマ2：グループ研究3	グループ討議と中間発表
第11回	テーマ2：グループ研究4	グループ討議
第12回	テーマ2：グループ研究5	グループ討議とまとめ
第13回	テーマ2：グループ研究6	発表と総括講義
第14回	春学期まとめ	総括講義と意見交換
第15回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第16回	テーマ3：ディベート1	事前学習
第17回	テーマ3：ディベート2	グループ討議
第18回	テーマ3：ディベート3	ディベート第1回
第19回	テーマ3：ディベート4	グループ討議
第20回	テーマ3：ディベート5	ディベート第2回
第21回	テーマ3：ディベート6	発表とまとめ
第22回	テーマ4：個人・グループ研究1	事前学習
第23回	テーマ4：個人・グループ研究2	グループ内プレゼン
第24回	テーマ4：個人・グループ研究3	グループ討議
第25回	テーマ4：個人・グループ研究4	グループ討議と中間発表
第26回	テーマ4：個人・グループ研究5	グループ討議
第27回	テーマ4：個人・グループ研究6	発表と総括講義
第28回	年間まとめ	総括講義と意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。設定課題に対して、事前調査、資料作成、発表準備などを行ってもらいます。また週末等に行う野外学習とサブゼミ活動に積極的に参加してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】
講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100%）：課題の提出、議論への参加、学習意欲、グループワークやゼミ活動への貢献、野外学習やサブゼミ活動、自主的な取り組みなどを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、自主活動のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

【その他の重要事項】
「自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）」が未履修の学生は、当該科目を必ず履修してください。また、より理解を深めるため、「サイエンスカフェⅢ（生態学）」（春期）と「自然環境論Ⅳ」（秋期）の履修を推奨します。

【関連の深いコース】
ローカル・サステイナビリティコース、環境サイエンスコース

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。

本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn the richness and diversity of nature and ecosystem services, and will explore ways to solve various problems between the humans and nature mainly from local perspectives, based on the understanding of ecosystems and wildlife.
The goals of this class are to acquire wide and deep knowledge of the above-mentioned matters, and enhance abilities for information analysis, discussions and presentations.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.
Grading will be decided based on comprehensive evaluations including qualities of presentations, participation in discussions, motivation for learning, contribution to seminar activities(100%).

ECN400HA（経済学 / Economics 400）

研究会B

武貞　稔彦、竹本　研史

配当年次／単位：2〜4年／4単位
開講セメスター：年間授業/Yearly　｜　曜日・時限：木5/Thu.5
備考（履修条件等）：定員制

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2025年度は、2024年度からの継続テーマとして「多様性」と「寛容」について考えます。現代社会では、多様な他者との共生が必要です。特に日本では、少子高齢化を背景として、労働力確保のために外国人労働者の増加が期待されています。しかし一方で、移民には消極的な政策を実施しています。そのような背景の中、実際にどうすれば多様性に富む寛容な持続可能な社会が可能になるのか、外国とつながりのある人々との共生を中心に考えていきます。持続可能な開発目標（SDGs）のGoal 17 パートナーシップに直接関わる内容となります。

【到達目標】

本研究会では、（ア）開発と環境保全をめぐる議論を広い視野から捉え、（イ）自らの意見を持ちそれを人に伝え、（ウ）途上国、先進国を問わず、将来の持続可能な社会の姿を自らの価値観に基づき想像／構想できるようになることを目標とします。

特に今年度のテーマに関しては、①「多様性」、「寛容」、「多文化共生」といった概念とその来歴について理解する、②現実の生活における「共生」と個々人の関わり（関わる出来事）を抽出し再考する、③よりよい未来のために必要な「多様性ある社会の実現」と個人の関係のあり方について何らかの考えや価値観を持つ、ということに重点を置きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の方法等は、受講者の積極的な提案に基づき随時見直しを行います。主に　a)基礎文献の精読、b)与えられた課題に関する個人またはグループによる調査とグループディスカッション、c)参加者の意見表明やプレゼンテーションの機会、からなります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	メンバー間の自己紹介、研究会の進め方（予定）について概説する。
第2回	何が「問題」か？	「多様性／寛容／多文化共生」に関する基礎文献を読み、何が「問題」なのかについて意見交換する。
第3回	誰にとって「問題」か？	「多様性／寛容／多文化共生」に関する基礎文献を読み、誰にとって「問題」なのかについて意見交換する。
第4回	グループディスカッション課題1（「多様性／寛容／多文化共生」と「個人」との関係総論）(1)	「多様性／寛容／多文化共生」に関する基礎文献を読み、これらと個人の関係について意見交換する。(1)
第5回	グループディスカッション課題1（「多様性／寛容／多文化共生」と「個人」との関係総論）(2)	「多様性／寛容／多文化共生」に関する基礎文献を読み、これらと個人の関係について意見交換する。(2)
第6回	グループディスカッション課題1（「多様性／寛容／多文化共生」と「個人」との関係総論）(3)	「多様性／寛容／多文化共生」に関する基礎文献を読み、これらと個人の関係について意見交換する。(3)
第7回	グループディスカッション課題2（日本における「多様性／寛容／多文化共生」と「個人」との関係）(1)	「多様性／寛容／多文化共生」に関する基礎文献を読み、日本における問題について意見交換する。(1)
第8回	グループディスカッション課題2（日本における「多様性／寛容／多文化共生」と「個人」との関係）(2)	「多様性／寛容／多文化共生」に関する基礎文献を読み、日本における問題について意見交換する。(2)
第9回	グループディスカッション課題3（先進国における「多様性／寛容／多文化共生」と「個人」との関係）(1)	「多様性／寛容／多文化共生」に関する基礎文献を読み、日本以外の先進国における問題について意見交換する。(3)
第10回	グループディスカッション課題3（先進国における「多様性／寛容／多文化共生」と「個人」との関係）(2)	「多様性／寛容／多文化共生」に関する基礎文献を読み、日本以外の先進国における問題について意見交換する。(4)
第11回	グループディスカッション課題4（途上国における「多様性／寛容／多文化共生」と「個人」との関係）(1)	「多様性／寛容／多文化共生」に関する関する基礎文献を読み、途上国における問題について意見交換する。(1)
第12回	グループディスカッション課題4（途上国における「多様性／寛容／多文化共生」と「個人」との関係）(2)	「多様性／寛容／多文化共生」に関する関する基礎文献を読み、途上国における問題について意見交換する。(2)
第13回	グループディスカッション課題4（途上国における「多様性／寛容／多文化共生」と「個人」との関係）(3)	「多様性／寛容／多文化共生」に関する関する基礎文献を読み、途上国における問題について意見交換する。(3)
第14回	「多様性／寛容／多文化共生」とは？	春学期の学びの総括を行う。
第15回	秋学期オリエンテーション	春学期の復習と秋学期のとり進め方について意見交換を行う。
第16回	「問題」を「解決する」とは？ (1)	「多様性／寛容／多文化共生」に関する基礎文献を読み、「問題」を「解決する」とはどういうことかについて意見交換する。(1)
第17回	「問題」を「解決する」とは？ (2)	「多様性／寛容／多文化共生」に関する基礎文献を読み、「問題」を「解決する」とはどういうことかについて意見交換する。(2)
第18回	「問題」の捉え方を学ぶ	「多様性／寛容／多文化共生」に関する基礎文献を読み、「問題」の捉え方ーフレーミングについて学ぶ。

第19回	グループディスカッション課題５（過去における「多様性／寛容／多文化共生」）(1)	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第20回	グループディスカッション課題５（過去における「多様性／寛容／多文化共生」）(2)	グループ発表および全体ディスカッション。
第21回	グループディスカッション課題６（現代における「多様性／寛容／多文化共生」）(1)	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第22回	グループディスカッション課題６（現代における「多様性／寛容／多文化共生」）(2)	グループ発表および全体ディスカッション。
第23回	グループディスカッション課題７（途上国における「多様性／寛容／多文化共生」）(1)	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第24回	グループディスカッション課題７（途上国における「多様性／寛容／多文化共生」）(2)	グループ発表および全体ディスカッション。
第25回	グループディスカッション課題８（途上国における「多様性／寛容／多文化共生」）(1)	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第26回	グループディスカッション課題８（途上国における「多様性／寛容／多文化共生」）(2)	グループ発表および全体ディスカッション。(1)
第27回	グループディスカッション課題８（途上国における「多様性／寛容／多文化共生」）(3)	グループ発表および全体ディスカッション。フィードバックを含む。(2)
第28回	年間の学びの総括	「多様性／寛容／多文化共生」について理解できた点、できなかった点を整理し、今後の学びや行動の計画を考案する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
基礎文献、与えられた課題は必ず熟読して演習に臨むこと。関連して紹介された参考書も出来る限り目を通すこと。グループで積極的に集まり課題について議論する機会を設けること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定のテキストはありません。

【参考書】

研究会において紹介します。

【成績評価の方法と基準】

研究会での議論への貢献（70％）、期末レポート（30％）にて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ生同士のコミュニケーションのバリエーションを確保することと、個々人の成長の確認方法について工夫を加えたい。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、調査、発表用のパソコン／タブレットなどを持参すること。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース、人間文化コース

【実務経験のある教員による授業】

担当者のうち1名は、途上国への経済協力の実務に携わり、多様性に富む社会（たとえばインド、インドネシア、トルコ、アメリカ、ドイツ）での居住／勤務経験がある。本研究会においては、それらの経験で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】

[Seminar Outline]
In 2025, we will consider "diversity" and "tolerance". In modern society, we need to coexist with diverse others. Particularly in Japan, against the backdrop of a declining birthrate and an aging population, policies are being implemented to increase the number of foreign workers in order to secure a workforce, but with a reluctance toward immigration. Against this backdrop, we will consider how we can actually create a diverse, tolerant and sustainable society, focusing on coexistence with people who have ties to foreign countries.The content will be directly related to the Goal 17 partnership of the Sustainable Development Goals (SDGs).
[Learning Objectives]
Students are expected to take part in group talk and various communications vigorously. Students will be able to understand basic idea/concept "diversity", "tolerance", and "multiculturalism" and to nurture their values and attitudes towards an effective measure to construct a sustainable society.
[Learning Activities outside of classroom]
Students are required to prepare for and review the lectures using the materials introduced in each lecture.
Students are required to read carefully the basic literature and the given assignments (including English texts) before attending the exercises. Read through as much as possible of the reference books introduced in the lectures. Students should have opportunities to actively gather in groups to discuss issues. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
Grading will be based on performance in the regular session (active participation and contribution to discussions, etc.) (70%) and the final report (30%).

SOC400HA（社会学 / Sociology 400）

研究会B

櫻井　洋介

配当年次／単位：**2〜4年／4単位**
開講セメスター：**年間授業**/Yearly　｜　曜日・時限：**木**3/Thu.3
備考（履修条件等）：**定員制**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「サステナブルキャリアを考える」
「人生100年」と言われる時代において、年功序列型の賃金や終身雇用といった旧来の日本的な働き方が見直され、一人ひとりが主体的・自律的に働き方を選択していく社会に変化しつつあります。本ゼミでは、社会環境の変化を踏まえて「サステナブル（持続可能な）キャリア」を実現するために何が必要か、現代社会における働き方の特徴や諸問題について学んでいきます。

【到達目標】
「サステナブルキャリア」を実現するために必要な基礎知識や理論を学び、自らの意思でキャリアを構築、選択できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストの講読を行い、その内容をもとにディスカッション形式で進行することを基本とします。また、スケジュール次第では、ゲストスピーカーの招聘や校外学習も積極的に実施をしていきます。校外学習は、Aゼミと合同で行う可能性もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ゼミ生同士の自己紹介を行い、合わせて今後のゼミの進め方や年間スケジュールについて確認を行う。
第2回	サステナブルキャリアとは	サステナブルキャリアを構築するための諸要素や、キャリア論の基礎を概説する。
第3回	日本的雇用慣行の特徴と課題	予め指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第4回	発表スケジュールとテーマの決定	今後の発表のスケジュールを決定する。
第5回	個人発表①	予め発表者が指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第6回	個人発表②	予め発表者が指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第7回	個人発表③	予め発表者が指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第8回	個人発表④	予め発表者が指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第9回	個人発表⑤	予め発表者が指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第10回	個人発表⑥	予め発表者が指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第11回	個人発表⑦	予め発表者が指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第12回	個人発表⑧	予め発表者が指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第13回	個人発表⑨	予め発表者が指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第14回	個人発表⑩	予め発表者が指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第15回	イントロダクション	秋学期の進め方の確認を行う。
第16回	発表スケジュールとテーマの決定	発表のスケジュールと内容を決定する。
第17回	特定テーマや事例を通じて「キャリア」を考える①	文献・資料等の講読を通して、特定のテーマや具体的事例についてディスカッションを行う。
第18回	特定テーマや事例を通じて「キャリア」を考える②	文献・資料等の講読を通して、特定のテーマや具体的事例についてディスカッションを行う。
第19回	特定テーマや事例を通じて「キャリア」を考える③	文献・資料等の講読を通して、特定のテーマや具体的事例についてディスカッションを行う。
第20回	特定テーマや事例を通じて「キャリア」を考える④	文献・資料等の講読を通して、特定のテーマや具体的事例についてディスカッションを行う。
第21回	特定テーマや事例を通じて「キャリア」を考える⑤	文献・資料等の講読を通して、特定のテーマや具体的事例についてディスカッションを行う。
第22回	特定テーマや事例を通じて「キャリア」を考える⑥	文献・資料等の講読を通して、特定のテーマや具体的事例についてディスカッションを行う。
第23回	特定テーマや事例を通じて「キャリア」を考える⑦	文献・資料等の講読を通して、特定のテーマや具体的事例についてディスカッションを行う。
第24回	特定テーマや事例を通じて「キャリア」を考える⑧	文献・資料等の講読を通して、特定のテーマや具体的事例についてディスカッションを行う。
第25回	特定テーマや事例を通じて「キャリア」を考える⑨	文献・資料等の講読を通して、特定のテーマや具体的事例についてディスカッションを行う。
第26回	特定テーマや事例を通じて「キャリア」を考える⑩	文献・資料等の講読を通して、特定のテーマや具体的事例についてディスカッションを行う。
第27回	特定テーマや事例を通じて「キャリア」を考える⑪	文献・資料等の講読を通して、特定のテーマや具体的事例についてディスカッションを行う。
第28回	1年間のまとめ	1年間の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
取り上げるテーマについて事前にリサーチを行い、ディスカッションの中で自分の意見を述べられるように準備をお願いします。また、グループ発表や個人発表の準備等は授業外において実施していただくことになります。グループ発表および個人発表時は、必ずレジュメや資料等を用意するようにして下さい。
ゼミ生には、自身の関心のある分野を定め、自主的にリサーチを進めることを期待します。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
ゼミ生の関心テーマ等に基づいて、適宜、授業の中でご紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100%）：ディスカッションへの参加、グループワークやゼミ活動への貢献、グループ発表や個人発表の内容等を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本ゼミでは、自身の「キャリア」を考えるにあたって、積極的に企業の方や社会人の方との交流の機会を設けていくことを想定しています。
また、本ゼミでは知識の習得のみならず、「論文・レポートの書き方」、「プレゼンテーションの実施方法」等、アカデミックスキルの習得にも重きを置いています。必要に応じて、これらをゼミ内で取り上げる機会を設けていきます。

【その他の重要事項】
本講義の担当教員は実務家教員であり、これまで金融機関や政府関連機関、コンサルファーム等、様々な組織での勤務経験を有しているだけでなく、キャリアの過程で留学や社会人大学院の入学等も経験しています。講義では、教員自身のこれまでの経験も還元させていただくとともに、企業の実務や実態に即した講義を実施させていただきます。

【関連の深いコース】
すべてのコース

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this era of "100-year life", the old Japanese working style, such as seniority-based wages and lifetime employment, is being reconsidered, and there is a transition to a society in which each person independently and autonomously chooses his or her own way of working.
In this seminar, students will learn about the characteristics and various issues of working styles in modern society and what is needed to realize a "sustainable career" in light of social changes.
【Learning Objectives】
Students will learn the basic knowledge and theories necessary to realize a "sustainable career" and to be able to develop and select a career independently.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to conduct research on the topics to be discussed in advance and be prepared to express their own opinions in the discussions.
In addition, students are required to prepare for group and individual presentations outside of class. Make sure to prepare resumes and other materials for your group and individual presentations.
Students are expected to decide on their own areas of interest and conduct research independently.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Usual performance score (100%): Participation in discussions, contribution to group work and seminar activities, and the content of group and individual presentations will be comprehensively evaluated.

MAN400HA（経営学 / Management 400）

研究会B

長谷川　直哉

配当年次／単位：2〜4年／4単位
開講セメスター：年間授業/Yearly　｜　曜日・時限：火5/Tue.5
備考（履修条件等）：定員制

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、SDGs（持続可能な開発目標）、CSR（企業の社会的責任）、スチュワードシップコード、コーポレートガバナンスコード、ESG投資（サステナブル投資）など企業活動の非財務情報の重要性に着目して、サステナブル社会で求められる企業像や企業価値の構成要素について学びます。

【到達目標】
証券投資理論、ESG投資の基本的知識を習得します。特定のテーマに沿って財務情報と非財務情報を使用した企業価値分析の実証的な取り組みを行ない、企業評価の基本知識とスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期は、CSRおよびBusiness Ethics（企業倫理）に関する文献の輪読を行いストックリーグに必要な知識を習得し、学外の懸賞論文に応募します。秋学期はCSR構想インターゼミナール、日経ストックリーグに参加します。ESG情報・財務データの分析や企業訪問によるヒアリング調査を行い、オリジナルデータに基づく論文執筆やファンドの組成を行います。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス ゼミスケジュール	ゼミの進め方 日経STOCKリーグーの取組方針と学外の懸賞論文への応募方針の確認
第2回	サステナビリティ経営に関する文献講読①	担当者による報告と討議
第3回	サステナビリティ経営に関する文献講読②	担当者による報告と討議
第4回	サステナビリティ経営に関する文献講読③	担当者による報告と討議
第5回	サステナビリティ経営に関する文献講読④	担当者による報告と討議
第6回	外部に投降した懸賞論文の中間報告①	論文内容についての報告と討議
第7回	コーポレートガバナンスに関する基本文献の講読	担当者による報告と討議
第8回	デジタルトランスフォーメーションに関する基本文献の講読	担当者による報告と討議
第9回	経営戦略論に関する基本文献の購読	担当者による報告と討議
第10回	懸賞論文の中間報告②	論文の進捗状況報告と討議
第11回	証券投資論に関する基本文献の購読①	担当者による報告と討議
第12回	証券投資論に関する基本文献の購読②	担当者による報告と討議
第13回	財務分析に関する基本文献の購読	担当者による報告と全体討議
第14回	懸賞論文の中間報告③	論文の進捗状況報告と討議
第15回	懸賞論文の最終報告	完成論文の発表と討議
第16回	日経ストックリーグ中間報告①	レポートテーマ選定に至る問題意識の報告と討議
第17回	日経ストックリーグ中間報告②	レポートテーマの確定とスクリーニングプロセスの検討
第18回	企業ヒアリング準備	ヒアリング調査項目の内容検討
第19回	日経ストックリーグ中間報告③	スクリーニング結果の報告と討議
第20回	企業ヒアリング報告①	ヒアリング結果の報告と討議
第21回	日経ストックリーグ中間報告④	ヒアリング結果を踏まえた企業評価の検討
第22回	企業ヒアリング報告②	ヒアリング結果の報告と討議
第23回	日経ストックリーグ中間報告⑤	スクリーニングプロセスと企業評価の検討
第24回	企業ヒアリング報告③	ヒアリング結果の報告と討議
第25回	日経ストックリーグ中間報告⑥	ポートフォリオ企業の決定と組入比率の検討
第26回	他大学とのインターゼミの発表準備①	発表内容の報告と討議
第27回	他大学とのインターゼミの発表準備②	発表内容の報告と討議
第28回	懸賞論文／CSRインゼミ／日経ストックリーグの結果報告	1年間のゼミ活動の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回のゼミで紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をして下さい。統合報告書やサステナビル報告書を読み、企業のSDGs活動等に関する基礎知識を習得して下さい。企業に対するヒアリング調査を行うため、サブゼミや企業訪問を研究会の時間外に実施することが多くなります。また、夏季休暇中にゼミ合宿を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと事業構造改革』文眞堂,2023年
長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会，2023年
長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文眞堂，2021年
Naoya.HASEGAWA （2020）“Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan
長谷川直哉編著『企業家に学ぶESG経営』文眞堂，2019年
長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文眞堂，2018年
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文眞堂，2017年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステイナブル経営史』文眞堂，2016年
日経エコロジー編『ESG経営ケーススタディ20』日経BP社，2017年

【参考書】
必要に応じて随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点：30%
学外懸賞論文への投稿：70%

平常点はゼミにおける報告内容および討議への貢献度、企業など外部機関に対するヒアリング調査の実施状況を評価します。
学外懸賞論文への投稿については、テーマ選定、研究方法・分析プロセス、データ解析等の正確性とオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】
参加者の自主的な取り組みを中心にゼミを行います。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてパソコンを使用します。

【担当教員の専門領域】
＜専門領域＞
サステナブル経営・企業倫理・ESG投資・ビジネスヒストリー
＜研究テーマ＞
取締役会の実効性分析
企業価値の向上に資する非財務情報の開示

【最近の主要業績】
「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」（2021年9月28日）』2021年
「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学（2020年3月2日～12日）』2020年
「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319』2021年

【実務経験のある教員による授業】
損害保険会社の資産運用部門において、約15年投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証上場企業の社外取締役・顧問として企業経営に参画しています。
【関連資格】
日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【関連の深いコース】
サステイナブル経済･経営コース、ローカル･サステナビリティコース

【Outline (in English)】
This seminar focuses on the importance of non-financial information on corporate activities, such as SDGs (Sustainable Development Goals), CSR (Corporate Social Responsibility), stewardship code, corporate governance code, and ESG investment (sustainable investment), to learn about the corporate image required in a sustainable society and the components of corporate value.
Students are required to learn about corporate efforts toward the SDGs and the Paris Agreement on their own by referring to integrated reports and sustainability reports issued by companies.
Students will be able to gain a deeper knowledge of the future of Japanese companies.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on the final report (70%) and presentation (30%).

ENV400HA（環境保全学 / Environmental conservation 400）

研究会A

高田　雅之

配当年次／単位：2〜4年／4単位
開講セメスター：年間授業/Yearly　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
備考（履修条件等）：定員制

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然のもつ奥深い魅力を探求するとともに、生態系や野生生物の理解に基づいて、自然環境を取り巻く諸課題に対し望ましい在り方を考究することをテーマとします。その際、国際的視点や海外事例を中心に、加えて地域の社会経済や他の諸問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな発想力を養います。研究会を通して多様な知識による基盤を作り、その上に各自の問題意識を組立て、修了論文を目指します。

【到達目標】
以下の4点を身に付けます。
①自然環境に関する幅広い知識・見識と柔軟な考え方
②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力（プレゼンテーション／レポート能力）
③他者との議論を通して、異なる観点の意見を受け入れ合意を形成する能力（コミュニケーション能力）
④自ら課題を設定し、関連する情報を収集・分析し、体系的にまとめて考察する能力（論理的思考）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
生物多様性保全、生態系・野生生物と人間の社会経済との関係などをテーマに以下のことを実施します。
①グループワークをとおして、設定課題について調査・考究し、成果を取りまとめます
②個人学習によって、設定課題について情報整理・企画立案し、成果を発表します
③野外学習／ゼミ合宿とサブゼミ学習を通じて、市民活動／企業とのコラボやフィールドに学び、企画力・実践力・分析力を養います
④自らの研究テーマを設定し、情報収集と調査、分析と考察を重ね、最終的な修了論文作成につなげます
また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究会の進め方
第2回	テーマ1：グループ研究1	事前学習
第3回	テーマ1：グループ研究2	グループ討議
第4回	テーマ1：グループ研究3	グループ討議と中間発表
第5回	テーマ1：グループ研究4	グループ討議
第6回	テーマ1：グループ研究5	グループ討議とまとめ
第7回	テーマ1：グループ研究6	発表と総括講義
第8回	テーマ2：グループ研究1	事前学習
第9回	テーマ2：グループ研究2	グループ討議
第10回	テーマ2：グループ研究3	グループ討議と中間発表
第11回	テーマ2：グループ研究4	グループ討議
第12回	テーマ2：グループ研究5	グループ討議とまとめ
第13回	テーマ2：グループ研究6	発表と総括講義
第14回	春学期まとめ	総括講義と意見交換
第15回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第16回	テーマ3：ディベート1	事前学習
第17回	テーマ3：ディベート2	グループ討議
第18回	テーマ3：ディベート3	ディベート第1回
第19回	テーマ3：ディベート4	グループ討議
第20回	テーマ3：ディベート5	ディベート第2回
第21回	テーマ3：ディベート6	発表とまとめ
第22回	テーマ4：個人・グループ研究1	事前学習
第23回	テーマ4：個人・グループ研究2	グループ内プレゼン
第24回	テーマ4：個人・グループ研究3	グループ討議
第25回	テーマ4：個人・グループ研究4	グループ討議と中間発表
第26回	テーマ4：個人・グループ研究5	グループ討議
第27回	テーマ4：個人・グループ研究6	発表と総括講義
第28回	年間まとめ	総括講義と意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。設定課題に対して、事前調査、資料作成、発表準備などを行ってもらいます。
また週末等に行う野外学習とサブゼミ活動に積極的に参加してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】
講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100%）：課題の提出、議論への参加、学習意欲、グループワークやゼミ活動への貢献、野外学習やサブゼミ活動、自主的な取り組みなどを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、講義形式学習のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

【その他の重要事項】
「自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）」が未履修の学生は、当該科目を必ず履修してください。また、より理解を深めるため、「サイエンスカフェⅢ（生態学）」（春期）と「自然環境論Ⅳ」（秋期）の履修を推奨します。

【関連の深いコース】
グローバル・サステイナビリティコース、環境サイエンスコース

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。

本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn the richness and diversity of nature and ecosystem services, and will explore ways to solve various problems between the humans and nature mainly from global perspectives, based on the understanding of ecosystems and wildlife.
The goals of this class are to acquire wide and deep knowledge of the above-mentioned matters, and enhance abilities for information analysis, discussions and presentations.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.
Grading will be decided based on comprehensive evaluations including qualities of presentations, participation in discussions, motivation for learning, contribution to seminar activities(100%).

MAN400HA（経営学 / Management 400）

研究会B

永野　秀雄

配当年次／単位：2〜4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
備考（履修条件等）：定員制

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本研究会では、英語で書かれた基本的な契約書（英米法に基づくもの）を読むための勉強をします。英文契約書の英語は、特殊なものです。そのための基本的な用語や文例を学んでいきます。

【到達目標】
受講者の皆さんが、社会に出て国際的に活躍されるときに遭遇する英文契約を読む基礎力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
担当教員が、初歩的な教科書をもとに、英文契約の基本を解説していきます。授業の途中で何回か、教科書にでてくる用語や文例を覚えて頂き、確認する小テストを行います。教科書を終えたのち、現実に用いられている英文契約書（プリント）を用いて、皆さんに読んで頂きます。受講生何名かで構成される班による発表形式を取りたいと思います。難しい個所は、担当教員が解説いたします。
なお、この授業は、対面授業として実施される予定です。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	英文契約書の背景（1）	国際契約書と英語等
第2回	英文契約書の背景（2）	仲裁、準拠法、国際裁判管轄等
第3回	契約書の英語（1）	接続詞、助動詞等
第4回	契約書の英語（2）	特殊な用語法（1）、小テスト
第5回	契約書の英語（3）	特殊な用語法（2）、小テスト
第6回	契約書の英語（4）	特殊な用語法（3）、小テスト
第7回	契約書の英語（5）	特殊な用語法（4）、小テスト
第8回	契約書の英語（6）	売買契約書（1）、小テスト
第9回	契約書の英語（7）	売買契約書（2）、小テスト
第10回	契約書の英語（8）	売買契約書（3）、小テスト
第11回	英文契約の読解（1）	実際の英文契約読解（班による発表）
第12回	英文契約の読解（2）	実際の英文契約読解（班による発表）
第13回	英文契約の読解（3）	実際の英文契約読解（班による発表）
第14回	英文契約の読解（4）	実際の英文契約読解（班による発表）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習･復習をすること。教科書で指定された小テストの個所（一定の長さの条文や単語）を覚えて来て下さい。また、実際の英文契約書の訳を班ごとに発表するときに和訳や説明をしたレジュメの準備をお願いします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
本郷貴裕『はじめてでも読みこなせる英文契約書』　（明日香出版社、(2018）2，640円。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
成績は、小テストの合計点（70％）と班による発表評価（30％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
これからも、丁寧に英文契約の読み方を解説していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【関連の深いコース】
グローバル・サステイナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】
大学教員になる以前、企業の国際法務部で、英文契約及び関係する文書を英語で大量に起案してきたことから、読解の対象となる英文契約を説明するときに、なぜそのような表現になるのか、あるいは、自分であればもっと詳細に必要となる事項を書き込むといった説明を行うことができる。

【Outline (in English)】
< Course Outline >
In this seminar, we will study for reading basic contracts written in English (based on Anglo-American law). English style and terms written in contracts are very unique. Students will learn basic contract terms and examples.
＜Learning Objectives＞
This course aims to equip students with the basic skills to read English contracts. This ability will be required for students to play an active role internationally in the future.
< Learning Activities outside of Classroom>
Be sure to prepare and review using the materials introduced in each lecture. Students should remember the quiz points (some legal words and sentences) specified in the textbook before attending each class. Each student group should prepare for a report of the translation of the actual English contract. Your required preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
＜Grading Criteria/Policy＞
Your overall grade in this course will be decided based on your in-class quiz points (70%) and your group report (30%).

MAN400HA（経営学 / Management 400）

研究会A

松本　敦則

配当年次／単位：2〜4年／4単位
開講セメスター：年間授業/Yearly　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
備考（履修条件等）：定員制

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本研究会のテーマは「地域産業における国際比較」である。主に産業集積（Industrial districts）という観点から日本とヨーロッパの比較検討を行う。産業集積は言い換えると地場産地と呼ぶこともできる。日本には様々な産地があり、繊維、家具、焼き物、皮革、伝統工芸なども含む。その他、関連する地域の中小企業、地域金融、地域産業政策、観光分野も扱っていきたい。

【到達目標】
まず、地域産業における基本的な理論を学ぶ。その上で地域を分析した報告書を作成できるようにする。そのため、基本的な文献の輪読、発表、議論、レポート作成を通じて地域産業に関する現状分析や課題の発見、解決手法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式だけでなく、毎回担当者を決めて、基本文献の輪読、発表、ディスカッションを行う。また地域のフィールドスタディも検討している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	今後のゼミの進め方について検討する。
2	産業集積に関する理論研究とテーマ設定①	基本文献の輪読と発表、ディスカッションを行う。
3	産業集積に関する理論研究とテーマ設定②	基本文献の輪読と発表、ディスカッションを行う。
4	産業集積に関する理論研究とテーマ設定③	基本文献の輪読と発表、ディスカッションを行う。
5	産業集積に関する理論研究とテーマ設定④	基本文献の輪読と発表、ディスカッションを行う。
6	産業集積に関する国内の事例研究①	事例研究についての発表とディスカッション行う。
7	産業集積に関する国内の事例研究②	事例研究についての発表とディスカッション行う。
8	産業集積に関する国内の事例研究③	事例研究についての発表とディスカッション行う。
9	産業集積に関する国内の事例研究④	事例研究についての発表とディスカッション行う。
10	産業集積に関するヨーロッパの事例研究①	事例研究についての発表とディスカッション行う。
11	産業集積に関するヨーロッパの事例研究②	事例研究についての発表とディスカッション行う。
12	産業集積に関するヨーロッパの事例研究③	事例研究についての発表とディスカッション行う。
13	産業集積に関するヨーロッパの事例研究④	事例研究についての発表とディスカッション行う。
14	ゲストスピーカーによる講義	ゲストスピーカーによる講義とディスカッションを行う。
15	秋学期のガイダンス	今後のゼミの進め方について検討する。
16	産業集積や地域産業に関する文献の輪読①	文献の輪読と発表、ディスカッションを行う。
17	産業集積や地域産業に関する文献の輪読②	文献の輪読と発表、ディスカッションを行う。
18	産業集積や地域産業に関する文献の輪読③	文献の輪読と発表、ディスカッションを行う。
19	産業集積や地域産業に関する文献の輪読④	文献の輪読と発表、ディスカッションを行う。
20	産業集積や地域産業に関する文献の輪読⑤	文献の輪読と発表、ディスカッションを行う。
21	産業集積や地域産業に関する文献の輪読⑥	文献の輪読と発表、ディスカッションを行う。
22	産業集積や地域産業に関する文献の輪読⑦	文献の輪読と発表、ディスカッションを行う。
23	産業集積や地域産業に関する文献の輪読⑧	文献の輪読と発表、ディスカッションを行う。
24	個人の研究テーマの報告①	個人の研究テーマの報告とディスカッションを行う。
25	個人の研究テーマの報告②	個人の研究テーマの報告とディスカッションを行う。
26	個人の研究テーマの報告③	個人の研究テーマの報告とディスカッションを行う。
27	個人の研究テーマの報告④	個人の研究テーマの報告とディスカッションを行う。
28	ゲストスピーカーによる講義	ゲストスピーカーによる講義とディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
随時指定します。

【参考書】
随時指定します。

【成績評価の方法と基準】
定常点（100％）。研究会への貢献度やレポート、発表などから総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
新規開講のため特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
社会人向けの経営大学院（イノベーション・マネジメント研究科）のゼミを18年間担当してきている。2024年度のゼミ合宿では富山県高岡市の銅器・すず産地に行き、商工会議所や地元の企業を訪問し人材育成、商品開発、海外進出、産業観光の観点から議論を行った。本研究会でも合宿やイベントを検討していきたいと思う。また、時々社会人との交流も図っていきたい。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース、グローバルサステイナビリティコース

【Outline (in English)】
（Course outline）
The theme of this study group is "Industrial　districts". We will compare Japan and Europe mainly from the perspective of industrial agglomeration. In other words, Industrial districts can be called local production areas. Japan has a variety of production areas, including textiles, furniture, pottery, leather, and traditional crafts. We also hope to cover small and medium-sized enterprises in related regions, regional finance, regional industrial policy, and tourism.
（Learning Objectives）
First, students will learn the basic theories of regional industries. Then, they will be able to write reports that analyze the region. To achieve this, students will learn current situation analysis, problem identification, and solution methods for regional industries through reading basic literature, presentations, discussions, and report writing.
（Learning activities outside of classroom）
The standard preparation and review time for this class is two hours each.
（Grading Criteria /Policy）
Regular score (100%). Students will be evaluated comprehensively based on their contribution to the study group, reports, presentations, etc.

ECN400HA（経済学 / Economics 400）

研究会A

山田　久

配当年次／単位：2〜4年／4単位
開講セメスター：年間授業/Yearly　｜　曜日・時限：木5/Thu.5
備考（履修条件等）：定員制

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人口減少が進み、企業や組織の人材不足は深刻になっています。一方で、世界情勢の複雑化や様々な社会課題・経営課題に対処するため、個々人の能力向上が求められる時代が到来しています。本ゼミでは、基礎文献の輪読やレポート作成を通じ、多様な人々が能力を伸ばして活き活き働ける経済・社会や組織の在り方を学びます。同時に、各人が個性を活かしながら組織で活躍していくのに有益な、考え方や視野を身に着けることを目指します。

【到達目標】
労働経済や人的資源管理に関する知見を深め、経済と労働、人と組織の関係を考察する力を身に付けます。個人発表やディスカッション、論文・レポートの執筆を通じて、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、課題設定能力や論理的思考力等を鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
書籍・テキストの講読を行い、その内容をもとにディスカッション形式で進行することを基本とします。春学期は労働経済や人的資源に関わる教科書的な文献や今日的な問題を扱った良書を輪読し、基礎的な知識・思考法を身につけます。秋学期はゼミ生それぞれがテーマを設定し、事例・文献の探索の仕方、データの取り扱い方などを学びながら、レポート作成を行います。年に数回社会人や社会人学生のゲストを呼び、働くことの実際の理解を深める機会を設ける予定です。以下の記載の具体的な学習内容はあくまで予定で、必要に応じて柔軟に見直します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	学習の心構え、メンバー自己紹介、輪読するテキストの確認，輪読担当部分の取り決め
2	担当部分の発表・質疑応答	1番目の担当者による発表と質疑応答・ディスカッション
3	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	2番目の担当者による発表と質疑応答・ディスカッション
4	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	3番目の担当者による発表と質疑応答・ディスカッション
5	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	4番目の担当者による発表と質疑応答・ディスカッション
6	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	5番目の担当者による発表と質疑応答・ディスカッション
7	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	6番目の担当者による発表と質疑応答・ディスカッション
8	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	7番目の担当者による発表と質疑応答・ディスカッション
9	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	8番目の担当者による発表と質疑応答・ディスカッション
10	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	9番目の担当者による発表と質疑応答・ディスカッション
11	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	10番目の担当者による発表と質疑応答・ディスカッション
12	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	11番目の担当者による発表と質疑応答・ディスカッション
13	前回の復習，担当部分の発表・質疑応答	12番目の担当者による発表と質疑応答・ディスカッション
14	前半の振り返りと取りまとめ、後半への準備	開始から前回までの取りまとめ
15	各人による発表と討議（1）	各自の選んだ本に関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
16	各人による発表と討議（2）	各自の選んだ本に関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
17	各人による発表と討議（3）	各自の選んだ本に関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
18	レポートテーマの設定	各自によるレポートテーマ案の発表と決定
19	社会人ゲストとの対話（1）	社会人ゲストの仕事内容・キャリアを話してもらい、「働く」ことの実際を理解を深める
20	社会人ゲストとの対話（2）	社会人ゲストの仕事内容・キャリアを話してもらい、「働く」ことの実際を理解を深める
21	企業人事アワード授賞式見学	企業人事のベストプラクティスを見聞する。
22	レポート作成の進捗報告（1）	各自による調査・情報収集と分析の作業状況の発表
23	レポート作成の進捗報告（2）	各自による調査・情報収集と分析の作業状況の発表
24	レポート作成の進捗報告（3）	各自による調査・情報収集と分析の作業状況の発表
25	レポート報告（1）	各自によるレポートの発表と討議
26	レポート報告（2）	各自によるレポートの発表と討議
27	レポート報告（3）	各自によるレポートの発表と討議
28	1年間のまとめ	振り返りと来年度への準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された文献を精読したり、与えられたテーマについて下調べをするなどして、ディスカッションで自分の考えを述べる準備をしておいてください。また、秋学期のレポート作成については、自らの問題意識にもとづいて主体的なテーマ設定を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
随時指定します。

【参考書】
必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点100%とし、研究会への貢献度や発表・レポートの内容から総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース、グローバルサステイナビリティコース

【Outline (in English)】
【Course outline】We live in a world where each person is required to enhance their capabilities to adapt to various challenges caused by population decline, changes in the world order, and other factors.
In this seminar, students are expected to acquire self-enforcement skills and perspectives for maximizing their abilities in real society.

【Learning Objectives】Students will acquire knowledge and perspectives on labor economics and human resource management. Through discussions and report writing, students are expected to develop communication skills, task-setting abilities, and logical thinking.
【Learning activities outside of classroom】Students should be prepared for discussions by reading the recommended books. Regarding reports, students are encouraged to choose their own themes based on their interests. By standard, 2 hours of self-study are required respectively before and after each seminar.
【Grading Criteria /Policy】Students will be evaluated based on their contributions to the seminar, presentations, reports, and other related activities.

ENV400HA（環境保全学 / Environmental conservation 400）

研究会B

高田　雅之

配当年次／単位：2〜4年／4単位
開講セメスター：年間授業/Yearly　｜　曜日・時限：木2/Thu.2
備考（履修条件等）：定員制CESゼミ

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
千代田区を学びの対象のひとつとしながら、都市全体を視野に入れ、以下のテーマに取り組みます。
①緑・水・多様な生物など都市の自然を構成している個々の要素について理解と知識を深めます。
②街路樹・公園・都市農業・河川や海岸など都市を構成する自然的空間の果たす役割と機能を考えます。
③環境教育・コミュニティ・企業活動・市民活動・景観・維持管理など人間の果たす役割について探求します。
④認証制度・都市計画・グリーンインフラなどこれらを関連づける仕組みやシステムから持続的な都市を提案します。

【到達目標】
本ゼミでは「緑・水・生物」の視点から人と自然にとって持続可能な都市を探求します。防災・造園・生物多様性・計画・教育など様々な分野からのアプローチを試み、多面的知識と俯瞰的な視点から都市環境を考え、その実現をイメージできる実践的な思考力（コンサルタント力・デザイン力）を高めます。
併せて、千代田区が取り組んでいる環境マネジメントシステムであるCES（千代田エコシステム）への貢献も目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①グループ研究…半期に2〜3テーマ程度を設定し、グループで調査・討論・取りまとめ・プレゼンテーションを行い、「課題設定→情報収集→分析評価→伝達・発信」を通して課題への知識と理解を高めます。
②個人研究1…共通テーマを設定し、日替わり交代で短い発表を行い、それらを統合し俯瞰することでテーマの様相や課題を考えます。
③個人研究2…個々人の関心に応じた研究テーマを自由に設定して調査と意見交換を行い、到達目標に掲げた能力を高めていきます。
④フィールド研究…半期に数回程度、様々な取り組みの実際を学ぶ、グループで観察記録して評価する、環境教育に関わるイベントに参加する等の活動を行います。
⑤実践提案まとめ…これらを積み重ね、組み合わせて持続可能な都市に向けた提言を取りまとめることを通して、俯瞰力・構想力・実践的思考力を高めていきます。
また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究会の進め方
第2回	基礎学習1（テーマ1）	テーマ1に関する基礎知識の習得
第3回	基礎学習2（テーマ1）	テーマ1に関する基礎知識の習得
第4回	基礎学習3（テーマ2）	テーマ2に関する基礎知識の習得
第5回	基礎学習4（テーマ2）	テーマ2に関する基礎知識の習得
第6回	フィールド学習1	現地調査1
第7回	グループ研究1	緑地に関するグループ討議
第8回	グループ研究2	緑地に関するグループ討議・発表
第9回	グループ研究3	水辺に関するグループ討議
第10回	グループ研究4	水辺に関するグループ討議・発表
第11回	フィールド学習2	現地調査2
第12回	グループ研究5	生物に関するグループ討議
第13回	グループ研究6	生物に関するグループ討議・発表
第14回	春学期まとめ	総括講義と意見交換
第15回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第16回	グループ研究7	認証と評価に関するグループ討議
第17回	グループ研究8	認証と評価に関するグループ討議・発表
第18回	グループ研究9	計画とデザインに関するグループ討議
第19回	グループ研究10	計画とデザインに関するグループ討議・発表
第20回	フィールド学習3	現地調査3
第21回	個人研究1	テーマ検討と意見交換
第22回	個人研究2	研究構成の検討と意見交換
第23回	個人研究3	研究のブラッシュアップ
第24回	実践提案の検討	持続可能に都市に向けた提案の検討
第25回	実践提案のまとめ	持続可能に都市に向けた提案のまとめ
第26回	個人研究成果の発表1	研究結果の発表と討論1
第27回	個人研究成果の発表2	研究結果の発表と討論2
第28回	年間まとめ	総括講義と意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をします。
各自の研究に係る文献・資料収集、実地調査のほか、共同の活動としてゼミ時間以外に、各種イベントの準備と実施、施設見学や現地調査等を実施します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】
講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100%）：活動参加、学習意欲、受講態度、グループワークや学内外のイベント活動への貢献、ゼミ運営への率先と貢献、提出物の内容と期日遵守等を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、自主活動のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

【その他の重要事項】
「自然環境政策論Ⅰ・Ⅱ」「サイエンスカフェⅢ」「自然環境論Ⅳ」などの関連する講義科目の履修を推奨します。

【関連の深いコース】
すべてのコース

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn practically the following themes mainly for Chiyoda Ward as one of the study field with a view to the entire urban area.
① The factors that compose urban nature, such as greenery, waterfront, and wildlife.

② The role and function of natural spaces that make up urban areas, such as street trees, parks, urban agriculture, rivers and coasts.
③ The role of human beings to urban nature, such as environmental education, activities at community, corporate activities, citizen activity, landscape creation and maintenance activities.
④ The mechanisms and systems that link urban nature, such as evaluation systems, urban planning and green infrastructure.
The goals of this class are to acquire wide/deep knowledge and practical thinking ability of the above-mentioned matters.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.
Grading will be decided based on comprehensive evaluations including qualities of presentations, participation in discussions, motivation for learning, contribution to seminar activities(100%).

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

Japan's International Development Cooperation and Sustainable Society

武貞　稔彦

Term：春学期授業/Spring ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：金3/Fri.3 ｜ Campus：市ヶ谷 /Ichigaya ｜ Grade：2〜4
Notes：
その他属性：〈グ〉〈実〉

【Outline and objectives】
This is a course on "International Development" and "Development Assistance". Development is one of the global issues in the current world as shown in the Sustainable Development Goals (SDGs). International Development Assistance has been perceived not only as an efficient tool for development of many societies and/or economies but also as a way to strengthen world peace. This class focuses on the history and the objectives of international development efforts and relationship between rich countries and poor countries putting special emphasis on Japan's role in the international society.

【Goal】
Completing the course, students are expected;
1) to better understand poverty and inequality in the current globalized world,
2) to acquire basic knowledge on international development efforts,
3) to understand each actor's role and responsibility in development efforts, and 4) to have an idea for more equal world structure.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Among diploma policies,"DP3" is related

【Method(s)】
Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System. Classes consist of lectures and discussion. Students presentation based on assigned reading will be included. As the class will be held in seminar style, active contribution from students are expected.
Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at regarding the COVID-19. The details will be announced through the Learning Management System.Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
Week 1	Introduction	Course introduction - What is poverty? What is inequality? Why do poverty and inequality matter?
Week 2	History and Background of International Development 1	Industrial Revolution, Great Diversion and Modernization
Week 3	History and Background of International Development 2	International development efforts after the World War II
Week 4	History and Background of International Development 3	International development efforts in the 21st century and the Sustainable Development Goals (SDGs)
Week 5	Development Assistance	What is development assistance? Who is responsible for it?
Week 6	Japan's Development Assistance	Very short history of Japanese economic development and Japan's contribution to international development efforts
Week 7	New actors in development efforts	NGOs and business community in development
Week 8	Global trend in international development 1	Economic development and human development
Week 9	Global trend in international development 2	Environment, Sustainability and Development
Week 10	Thematic issue 1	Gender, Micro-finance and Grameen Bank
Week 11	Thematic issue 2	Fair Trade
Week 12	Thematic issue 3	COVID-19 and development
Week 13	The effect and impact of development efforts	Does international development assistance really work?
Week 14	Summary of the Course	Why do we aid?

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.
Students are required to complete reading assignments before the class and to submit short writing assignments provided in the worksheet. Occasional reflection sheets should be also submitted in the class.
Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
Particular textbook is not assigned. Materials prepared by the lecturer will be distributed in the class.

【References】
David Alexander Clark (ed.) "The Elgar Companion to Development Studies" (2007) Edward Elgar Publishing,
Michael P. Todaro and Stephen C. Smith "Economic Development"(12th Edition) (The Pearson Series in Economics)(2014) Pearson
Websites of following organizations
- The World Bank
- The United Nations Development Programme
- The Ministry of Foreign Affairs, Japan

【Grading criteria】
In class contribution 20%
Reading and Writing assignments 30%
Term paper 50%
(In case if the class will be delivered on-line basis, the grading criteria may be adjusted. Details will be notified in the Hoppii, at the beginning of the spring semester if necessary.)

【Changes following student comments】
The lecturer will make further efforts to accommodate discussion and make necessary feedback to students.

【Others】
Please note that if the number of students attending the first class significantly exceeds expectations, in order for the instructor to effectively manage the class, the number of students who are allowed to register for the course may be limited.

【Career background of the lecturer】
The lecturer has working experience in the field of economic cooperation for developing countries. The contents of this course have direct relationship with lecturer's experience and knowledge.

SOC200HA（社会学 / Sociology 200）

Global Human Resources Management

櫻井　洋介

Term：**秋学期授業**/Fall ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：**火**4/Tue.4 ｜ Campus：**市ヶ谷** /Ichigaya ｜ Grade：1〜4
Notes：

その他属性：〈グ〉〈実〉

【Outline and objectives】
This course provides an overview of Global Human Resource Management. In recent corporate management, the importance of human resources as a source of long-term value creation has significantly increased.
Students will learn about the role of human resources in global management and the necessity of human capital. This course will focus on human resource management at Japanese companies, so students will acquire the basic knowledge regarding Japanese employment practices and labor-related legal systems,

【Goal】
To enable students to consider their own careers from a global perspective through the acquisition of basic knowledge of human resource management theories and understanding of Japanese employment practices and labor-related legal systems,

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Among diploma policies,"DP2"is related

【Method(s)】
The first half of this course will be run in the form of lecture with active participation of students in the discussion. At the end of this course, students will provide group or individual presentations (depending on the number of participants).

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
Week 1	Introduction	Introduce the course outline and explain the overview of Global Human Resource Management.
Week 2	Global Human Resource Management and Labor Market	Learn about economic globalization, trends in corporate management, and changes in the labor market.
Week 3	Features of Japanese Employment Practices	Understand the characteristics of Japanese-style employment.
Week 4	New Graduate Recruitment and Internship Program in Japan	Consider trends in Japan's new graduate recruitment system and student internships.
Week 5	Various Types of Employment	Learn about various forms of workers, such as temporary workers, contract workers, and self-employed workers.
Week 6	Careers within the organization - evaluation and reassignment	Understand personnel evaluation and reassignment in building a career within an organization.
Week 7	Retirement and Career Change	Learn about recent trends in retirement and career transition.
Week 8	Wages and Working Hours	Learn about the wage system and working hour management in Japan and other countries.
Week 9	International Comparison of Human Resource Management	Learn about international comparisons of HR systems and the importance of human resources in global management.
Week 10	Integration and Responsiveness	Learn about the concept of Global Integration and Local Responsiveness in international management.
Week 11	Presentation (1)	Group or individual presentations by students about their career plans.
Week 12	Presentation (2)	Group or individual presentations by students about their career plans.
Week 13	Presentation (3)	Group or individual presentations by students about their career plans.
Week 14	Presentation (4)	Group or individual presentations by students about their career plans.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students should read in advance handouts and other reading materials provided in class and should be ready to make comments.
Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
No specific textbook is used. Various handouts and reading materials will be provided in class.

【References】
Some reference books will be introduced in the course.

【Grading criteria】
Evaluation will be based on active participation and contribution to the course (20%), presentation at the end of the course (30%), and a final report (50%).

【Changes following student comments】
Before students give presentations, if necessary, opportunities will be provided in class to explain how to give presentations.

ENV200HA（環境保全学 / Environmental conservation 200）

Environmental Science

藤倉　良

Term：秋学期授業/Fall ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：木5/Thu.5 ｜ Campus：市ヶ谷 /Ichigaya ｜ Grade：1〜4
Notes：

その他属性：〈グ〉〈実〉

【Outline and objectives】
Environmental problems are the complex interactions of physical, chemical, and biological factors that result from human activities on natural ecosystems. Scientific knowledge is imperative for comprehending the current state of affairs and formulating effective solutions. This class will introduce the basic science of global environmental and resource issues in this course.

【Goal】
Students will acquire the basic knowledge of the environment and resource problems.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Among diploma policies,"DP3"is related

【Method(s)】
The class will be conducted using PPT. A copy of the PPT will be uploaded to Hoppii in PDF format before the class. A short quiz will be given at the end of each class. Feedback on the quiz will be given in the next class. Details will be announced in Hoppii.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
なし /No

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
Week 1	Introduction	Contents of the course.
Week 2	Climate science (1)	The Earth has been warmed. Greenhouse gases lead the warming. Humans are increasing atmospheric greenhouse gases.
Week 3	Climate science (2)	Global warming since the late 20th century is not natural but due to anthropogenic. Impact of climate change.
Week 4	Climate policy	International policy and Japanese policy.
Week 5	Mitigation	Economic instrument, alternative energy, energy saving, and other measures.
Week 6	Adaptation	Various measures.
Week 7	International Agreements.	UNFCCC and Paris Agreement.
Week 8	Energy resources	Fossil fuels, hydro, nuclear, and alternative energy.
Week 9	Climate Security	The impact of climate change on international security.
Week 10	Water resource	Availability and demend of water in the world.
Week 11	Water resource	International waters.
Week 12	Plastic waste	Definition, Use and Waste Management
Week 13	International environmental cooperation	Contribution of international organizations and the Japanese government to developing countries.
Week 14	Wrap up	How should we address environmental and resource issues?

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students need to prepare for and review each session by using material provided through the Hoppii.
Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
No specific textbooks are assigned.

【References】
A copy of assigned paper will be distributed in class.

【Grading criteria】
Grades will be based on the result of the weekly quiz and (30%) and final exams (70%).

【Changes following student comments】
Be aware that the lecturer is not a native English speaker. If you do not understand what the teacher says well, simply make a question.

【Equipment student needs to prepare】
None

【Prerequisite】
None

【Selected lecturer's publications (books and special issues)】
1. Ryo Fujikura and Mikiyasu Nakayama (Editor) (2015) Resettlement Policy in Large Development Projects, Routledge, Oxford
2. Ryo Fujikura and Tomoyo Toyota (Editor) (2012) Climate Change Mitigation and International Development Cooperation, (p.264) Earthscan, London
3. Ryo Fujikura (Guest Editor) (2011) Environmental Policy in Japan: From Pollution Control to Sustainable Environmental Management, Special Issue, Environmental Policy and Governance, Vol. 21, No.5
4. Ryo Fujikura and Masato Kawanishi (Editor) (2010) Climate Change Adaptation and International Development – Making Development Cooperation More Effective, Earthscan, London

【Career background of the lecturer】
The lecturer has working experience at Japanese Environment Agency (currently Minister of the Environment) as a national officer. He also participated in Japanese official development assistance and formulation of Convention on Biodiversity Conservation. He will give lectures with the experience.

MAN100MA（経営学 / Management 100）

ビジネスキャリア入門A【2025年度以降入学生用】

酒井　理

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木3/Thu.3　｜　配当年次：1〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5020
科目名：ビジネスキャリア入門A
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C7061
科目名：ビジネスキャリア入門D
※入学年度により授業コード・科目名が異なります

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業が継続的に生存して活動を続けていくためには、市場で様々な競争にさらされ、生き残っていくあるいは成長していく必要があります。企業がどのように考え、どのように行動するかを理解することは、私たちが社会に出て、さらに企業のなかで働いていくうえで大変重要なことです。
本講義では、ビジネス社会での働き方、生き方を考えるために必要となる、企業戦略やその活動を理解するための知識を学びます。ビジネスを理解することによって自らが生きていく社会を理解していく重要な視点を獲得します。

【到達目標】
本講義は、経営（特に経営戦略）を理解する上で必要となる基礎的知識を獲得することを目的とします。
①経営戦略に関連する多くのフレームワークを理解して、企業の様々な行動を分析できる視点を持つこと
②ビジネスがどのような仕組みで成立しているのかを理解すること
③ビジネスを自分なりに理解して自分のアイデアをビジネスとして考えることができること以上、3点を到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
14回の授業を通して自分が考えたビジネスのプランを作成する課題に取り組みます。大きく３つのパートに分かれます。①こんなサービスがあったらいいなから、ビジネスアイデアにしていくアイデア発想のパート(1-1～1-4)、②ビジネスアイデアをビジネスとしてどのように競争に勝って収益をあげていくか戦略を考えるパート(2-1～2-4)、③継続的にビジネスとして成立しそうか収支を考えるパート(3-1～3-4)、です。
受講者には経営（とくに経営戦略）の知識がないことを前提としていますので、配布資料を学習することによって、ビジネスアイデアの発想の方法、経営戦略の立て方、ビジネスモデルや収益モデルの作り方が理解できるように進めます。それをベースにビジネスを学んだことのない初心者でもスムースに課題に取り組めるように配慮します。また、わからないことなどを相談する機会を設けて、みなさんと伴走しながら進めていきますし、学生同士でも意見を交わせる機会を設けていきますので安心してください。
課題については、授業のなかで相談の回、講評の回を設けていますので、その際にみなさんの課題の進捗をききつつアドバイスや相談を行います。講評時に優秀な課題に関するコメントをすることでフィードバックをします。
楽しみながら（わくわくしながら）ワークに取り組めるような仕掛けをしていきたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	キャリアデザイン学部においてビジネスを学ぶ意味を考えます。キャリアにおいて、なぜ経済・経営を理解する必要があるのについて話します。学びに先行して、まず体験からはじめる意義について説明します。
2	(1-1)ビジネスアイデアの創出	やりたいことはあるか、何をしたいのか、やりたいビジネスはあるか、組織に属さない生き方、やりたいことを仕事にするキャリアデザインなどをベースにして、自分がやりたいことをビジネスにすることを考えます。
3	(1-2)ビジネスアイデアのブラッシュアップ	学生がお互いに協力して自分のアイデアをブラッシュアップしていきます。グループディスカッションで学生相互で意見を交えます。
4	(1-3)ビジネスの顧客価値を考える	共感マップとバリュープロポジションマップで顧客という視点からビジネスを捉える力を磨きます。
5	(2-1)ビジネスキャリアを考える	ゲストを招いて、これからのビジネス社会におけるキャリアデザインについて考えを深めます。
6	(2-2)ビジネスモデルを考える	ビジネスを展開していくうえで重要なビジネスモデルを解説して、パート１で考えた自分のアイデアをビジネスとして形にしていきます。
7	(2-2)経営環境分析を学ぶ	ビジネスを取り巻く経営環境を理解します。
8	(2-3)ビジネスモデルと戦略を考える	競争や市場を考慮しつつ、ビジネスを展開していく戦略を考えます。
9	(2-4)マーケティング戦略を考える	セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、４Ｐといったマーケティングの基本を考えます。
10	(3-1)ビジネスプランの考え方を知る	ビジネスアイデアからビジネスの仕組み（ビジネスモデル）を考えて、展開する戦略を練った次のステップとして、アイデアがちゃんとビジネスとして成立するかどうかを考えていきます。
11	(3-2)ビジネスプランを作る	市場予測、収支計画をどのようにつくっていくかを考えます。
12	(3-3)ビジネスプランのブラッシュアップ	学生がお互いに協力しながら自分のビジネスモデルをブラッシュアップするとともに、各々の課題を改善してより良いビジネスプランになるようにアドバイスします。グループディスカッションで学生相互で意見を交えます。
13	ビジネスプランの講評	パート１のアイデア創出、パート２のビジネスモデル、パート３のプランと進めてきた課題を最終的にビジネスプランにしたものの講評をおこないます。提出された最終課題の評価できる点、改善点などの解説を行います。
14	web試験・まとめと解説	ここまでの総括としてweb試験を行います。選択式で知識を問う内容の試験を予定しています。まとめと解説をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から新聞に目を通して、日々の社会の動きに注意を払ってください。企業がどのような活動をしているのか、企業が競争をするとはどういうことなのか？ 新しい製品はどのような意図をもって発売されているのか？ など、身近なところから、物事を深く考える練習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指示はしません。

【参考書】
特に必要とはしませんが、授業の中で参考資料として示すものを適宜参照してもらうといいと思います。
フィリップ・コトラー他『マーケティング原理』2014、丸善出版株式会社。(『Principles of Marketing 14th edition』)
和田充夫他『マーケティング戦略 第４版 (有斐閣アルマ)』2012、有斐閣。
石井淳蔵他『１からのマーケティング（第4版)』2019、碩学舎。
スタンフォード大学ハッソ・プラットナー・デザイン研究所『スタンフォード流デザイン思考を実践する人の38の技法』2018、アイリーニマネジメントスクール。
デービッド・アーカー『戦略立案ハンドブック』東洋経済,
沼上幹『新版わかりやすいマーケテイング戦略』有斐閣，2000年。
伊丹敬之『経営戦略の論理3版』日本経済新聞社，2003年。
エーベル『事業の定義』千倉書房，1992年。
H.ミンツバーグ『戦略計画　創造的破壊の時代』産業能率大学出版部，1997年。
梶井厚志『戦略的思考の技術　ゲーム理論を実践する』中公新書,2002年。
森岡毅，今西聖貴『確率思考の戦略論』KADOKAWA,2016年。

【成績評価の方法と基準】
①経営戦略に関連する多くのフレームワークを理解して、企業の様々な行動を分析できる視点が備わったか
②ビジネスがどのような仕組みで成立しているのかを理解できたか
③ビジネスを自分なりに理解して自分のアイデアをビジネスとして考えることができたか
以上3点について、Web試験とビジネスプラン課題によって評価します。
web定期試験40%、ビジネスプラン課題60%の割合で評価します。
成績評価は合計で100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度を勘案しながら対話の機会を積極的に用意します。

【学生が準備すべき機器他】
資料のアップロード、毎回の質問への回答などに学習支援システム（Hoppii)、googleclasroomなどを使用します。
クリッカー、webでの小テストを行いますのでスマートフォン、タブレット、ＰＣなどインターネットにアクセスできる環境を各自で確保してください。

【その他の重要事項】
実務経験のある教員による授業です。
実社会を随所に感じられるような授業にするつもりです。

【Outline (in English)】
[Course outline]
Companies face various competition in the market. And in the competition companies are required to survive and grow. Therefore, understanding how companies think and how to behave is very important for us to go into society and work in companies.
In this lecture, you will learn the elementary knowledge to understand the company's strategy or activity, which is necessary to think about how to work in the business society and how to live.
[Learning Objectives]
The objective of the class is to acquire the basic knowledge necessary to understand management. Specifically, the following three goals will be pursued
(1) To understand the many frameworks related to management strategy and to acquire a perspective that enables us to analyze the various actions of a company
(2) Understanding business systems
(3) To be able to apply original ideas to business
Throughout the course of the class, students will work on an assignment to create a plan for their own business. The 14 lessons will be divided into three parts.
(1) Idea generation part
(2) Strategy building part
(3) Business plan preparation part
[Learning activities outside of classroom]
Think about how companies operate, what it means for a company to compete, and with what intentions new products are launched. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
The following three points will be evaluated through a web-based examination and business plan assignment.
(1)Understanding of frameworks related to business strategy
(2)Understanding of business systems
(3)To turn your idea into a business.
The evaluation ratio is 40%for the web-based periodic exam and 60%for the business plan assignment. The total score is 100 points, and a score of 60 points or higher is required to pass the course.

PSY200MA（心理学 / Psychology 200）

教育心理学

展開科目

輕部　雄輝

単位数：**2単位**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
曜日・時限：**木2**/Thu.2　｜　配当年次：**2〜4年**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では，子どもの健全な成長と発達，および人格形成を援助する教育場面に関わる心理学的理論と方法について学ぶ。具体的には，下記に関するトピックについて扱う。
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価のあり方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式で行い、講義内容に合わせて対面授業とオンライン授業を組み合わせて実施する。対面授業回では、適宜グループディスカッションも取り入れる。
毎回の授業の最後にミニレポート課題を提示する。当該課題はgoogle form等を用いて、授業後すぐに（対面授業回では教場で）回答することを求める。
オンライン授業回では、オンデマンド形式を採用する。出席は、期日までの動画の視聴と提示された課題への回答（google form等を採用する予定）をもってカウントする。対面授業回では、点呼による出席確認を併せて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容、到達目標、授業形式などを紹介する。
第2回	教育心理学の研究法	教育心理学の分野で頻繁に用いられる研究の手法について、理解する。
第3回	発達の過程	乳幼児期から青年期における様々な発達について理解する。
第4回	学習のメカニズム	様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解する。
第5回	記憶の種類と方略	記憶の構造や種類を説明し、認知の特徴と関連づけて理解する。
第6回	問題解決の理論と方法	問題解決についての様々な理論や方法を理解する。
第7回	知能の発達ととらえ方	知的活動を支える知能の発達ととらえ方について理解する。
第8回	動機づけ	主体的学習を支える動機づけを紹介し、やる気のメカニズムについて理解する。
第9回	自己と対人関係	自己の発達とそれに伴う対人関係の展開について、理解する。
第10回	学級集団の特徴と機能	学級集団の特徴と教師が与える影響について、理解する。
第11回	学校不適応の理解	ストレスのメカニズムと学校不適応の状態像について、理解する。
第12回	発達障害の理解	発達障害の定義や種類を理解し、特性を踏まえた学習支援や生活指導についての基礎的な考え方を理解する。
第13回	学習指導と教育評価	学習指導のあり方と教育評価の方法について、理解する。
第14回	まとめ・到達度の確認	これまでの内容のまとめと到達度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、授業で学んだ内容に関するショートレポートが課される。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教員が適宜指定する。

【参考書】
櫻井茂男（監修）黒田祐二（編著）　2012　『実践につながる教育心理学』　北樹出版
櫻井茂男（編）　2017　『改訂版たのしく学べる最新教育学―教職に関わるすべての人に―心理学』　図書文化
吉川成司・関田和彦・鈎治雄（編著）　2010　『はじめて学ぶ教育心理学』　ミネルヴァ書房
子安増生ら 2015『教育心理学 第3版 (ベーシック現代心理学6)』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】
定期試験（60％）、授業への積極的参加（40％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
対面授業回では、授業内でのグループディスカッションや体験学習等を取り入れ、受講生間の意見交換や実践的な疑似演習の機会を設ける予定です。

【学生が準備すべき機器他】
対面授業回では、プロジェクターを利用し、教員はパワーポイントを用いて説明する。授業の最後に提示する課題は、web媒体を通じての回答を求めるため、PC等の電子端末を持参してください。

【その他の重要事項】
担当者は，適応指導教室でのスクールカウンセラーの実務経歴を有する。関連して、本授業では理論のみならず、可能な限り具体的な実践場面への応用についても受講生とともに検討する。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.
The goal of this course is to understand the motivation and cognitive process in learning for children and to study how to integrate this knowledge into teaching practices.
It is also our aim to understand how teacher-student relationships and each child's disposition and developmental rate can affect their learning process and their ability to adapt to their learning environments.
We will also discuss educational psychology for learners with developmental disabilities.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

MAN200MA（経営学 / Management 200）

サービスビジネス論

村田　茂

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木5/Thu.5　｜　配当年次：2～4年
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットの急速な普及により、世界のビジネスは大きなパラダイムシフトを迎えることになりましたが、今も日々激しく変容を遂げています。このインターネットを軸としたデジタルシフト（DX化）の影響で、新しく生まれた産業もあれば、滅びゆく産業もあります。本講義では、デジタルシフトの影響を受けたサービス産業の中で、メディア産業と流通産業を重点的に取り上げ、変遷の経緯を学び、これからのビジネスを考察していきます。

【到達目標】
本講の目的は、「ビジネスの過去と現在を本質的に理解することで、未来を予見する力を養うこと」です。そのために必要な基礎的な戦略と様々なアイデア（ビジネスモデル）の事例を学び、ビジネス感覚を高めることを到達目標とします。
①サービスビジネスに関する一般的知識、基本的用語を説明できるか

②サービスビジネスの仕組みを理解し、説明できるか
③サービスビジネスの課題を解決するクリエイティブな発想を持つことができているか

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
教員が展開する講義資料に基づき授業を実施します。毎回ではありませんが、リアクションペーパー、アンケートを実施します。実施方法は基本的にはネット、システムを活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	サービスビジネス研究の進め方	流通・サービスビジネスについて、研究課題の進め方を解説します。①情報収集・整理力　②本質を見抜く力　③問題意識を持つ力　④未来を予想する力
第2回	サービスビジネス業界研究①	第1回目は、出版業界（雑誌、コミック、電子書籍）
第3回	サービスビジネス業界研究②	第2回目は、新聞業界。
第4回	サービスビジネス業界研究③	第3回目は、放送業界（テレビ、ラジオ）。
第5回	web1.0、web2.0、web3.0の理解	サービスビジネスを大きく変容させている最大要因であるインターネットの普及について理解を深めます。そのはじまりからNFT、メタバースなど次世代ビジネスの可能性まで。
第6回	クリエイターエコノミー＝個人発信（SNS）	SNSの普及による個人発信の時代が到来。UGCサイトの隆盛、クリエイターの誕生、推し活などを解説。
第7回	サービスビジネス業界研究④	第4回目は、eコマース業界。
第8回	サービスビジネス業界研究⑤	第5回目は、インターネット広告業界。
第9回	新しいビジネスモデルの発明（ゲストスピーカー）	ZOZO、メルカリなど成功の秘密は？　ゲストスピーカーとともに、サービス企業のビジネスモデルについて探求します。
第10回	デジタルマーケティング	デジタル技術が発展していく中で、新しい機能や仕組みが生まれます。ビジネスのトレンドを「ビジネス用語」を使って、理解していきます。その中で、すべてのデジタルビジネスに不可欠なデジタルマーケティングの理解を深めます。
第11回	業界研究のまとめ	これまでの学習について総括します。
第12回	知の探究①…ビジネス環境変化、ビジネストレンド	グローバルで激変するビジネス環境、AIなどのトレンドを理解し、俯瞰で考える力を学修します。
第13回	知の探究②…ビジネス論、ビジネス用語	ビジネス論（古典から現代まで）の基礎と、重要なビジネス用語（定番からトレンドまで）から、ビジネス構造を理解する力を学修します。
第14回	試験・課題レポート	試験と課題レポートを実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から情報メディア（ビジネスニュースサイトや新聞、雑誌）に目を通して、日々の社会の動きに注意を払ってください。そして、問題意識を持ってください。サービスビジネスの多くは身近に利用しているものばかりです。自分はなぜ、このアプリを活用しているのか？　このビジネスはどのように成り立っているのか？　を考えてみてください。特に、新しいネットサービスなどは実際に試してみるのが良いでしょう。準備時間、復習時間ともに2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。
毎回、参考資料を用意します。

【参考書】
毎回、参考資料を用意します。
さらに探求したい場合の参考書は授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、以下の3点を評価します。
①サービスビジネスに関する一般的知識、基本的用語を説明できるか

②サービスビジネスの仕組みを理解し、説明できるか
③サービスビジネスの課題を解決するクリエイティブな発想を持つことができているか
授業でおこなう小課題　30%
授業でおこなう中課題　20%
課題（レポート）　50%
成績評価は100点満点とし60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
学生が明確に興味を持っている事象については、重点的に解説すべく授業内容をアップデートしています。また、ゲスト会については、事前に「興味のある業界」「就職先候補の業界」についてアンケートを取り、招聘。授業内容と連動するかたちでリアルな現場の声を聞きます。

【学生が準備すべき機器他】
主に対面の授業になりますが、リモート授業も開催します。
資料のアップロード、質問への回答などに学習支援システムを使用します。スマートフォン、タブレット、ＰＣなどインターネットにアクセスできる環境を各自で確保してください。

【その他の重要事項】
＜実務経験のある教員による授業＞

出版・放送メディアや出版・音楽・映像制作などのエンタテインメントビジネスと、eコマース、UGC、アプリシステム開発などのデジタルビジネスに関して、現場からマネジメントまで、また、大企業とベンチャー企業の両方を経験してきた現役のビジネスマンによる授業になります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The rapid spread of the Internet has brought about a major paradigm shift in business around the world, and even today, the world is undergoing dramatic changes every day. Due to the influence of this digital shift (DX) centered on the Internet, there are new industries that have been born, and there are industries that will perish. In this lecture, among the industries affected by the digital shift, through the media industry and the distribution industry, we will learn the background of the transition and consider the future business.
【Learning Objectives】
The purpose of this course is to develop the ability to foresee the future by fundamentally understanding the past and present of business. The goal is to improve business sense by learning the basic strategies and examples of various ideas (business models) necessary for that purpose.
① Can you explain general knowledge and basic terms related to the distribution and service business
② Can you understand and explain the structure of the distribution/service business?
③ Do you have creative ideas to solve the problems of the distribution and service business?
【Learning activities outside of classroom】
Please read the information media (business news sites, newspapers, magazines) on a daily basis and pay attention to daily social movements. And be aware of the issues. Many of the distribution and service businesses are all about familiar things. Why am I using this app? "How does this business work?" "Please think about it." In particular, it is a good idea to actually try new Internet services. Standard time for both preparation and review is 2 hours.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be based on the following three points.
① Can you explain general knowledge and basic terms related to the service business
② Can you understand and explain the structure of the service business?
③ Do you have creative ideas to solve the problems of the service business?
Small assignments in class 10%
Test 40%
Issue 50%
The grade evaluation is based on 100 points, and 60 points or more is considered passing.

PSY300MA（心理学 / Psychology 300）
キャリアカウンセリングⅡ（ケーススタディ）【2025年度以降入学者用】

宮脇　優子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：金3/Fri.3　｜　配当年次：3〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5105
科目名：キャリアカウンセリングⅡ（ケーススタディ）
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C7160
科目名：キャリアカウンセリングⅢ（ケーススタディ）
※入学年度により授業コード・科目名が異なります
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアカウンセリングの様々な事例（ケース）を学習することによってキャリアカウンセリングの実践について学び、キャリアカウンセリングの意義や方法について理解することを目的とする。
まずは、キャリアカウンセリングの基礎的な事項－その独自性や起源・発展の経緯、社会においてキャリアカウンセリングが求められてきた背景、また現在のニーズを学ぶ。次に、キャリアカウンセラーに必要とされる能力（技能）や要件、キャリアカウンセリングの具体的な進め方、心理アセスメントや心理学理論の応用を学ぶ。それらを踏まえた上で、様々なケースについて考察・学習し、実践への理解を深めることとする。

【到達目標】
・キャリアカウンセリングの基礎的事項（その独自性、起源と発展の経緯、社会から求められる理由）について理解できている。
・キャリアカウンセリングのケーススタディを通して
①現代の産業組織において働く人々が抱える心理的問題、キャリアカウンセリングへのニーズを理解できている。
②キャリアカウンセリングのケースの見立て方、援助のあり方・援助方法への理解ができている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
・前半（第1回〜第5回）のキャリアカウンセリングの基礎的事項については講義を中心として進める。第6回以降のケーススタディ（事例検討）は、講義に加え、個人ワークとグループでの意見交換及びグループ発表をおり交ぜて行う。
・授業終了後にリアクション・ペーパーの提出を求め、次週の授業の中で前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、全体共有・質問に対するフィードバックを行う。
・第10回の講義内容（心理アセスメント）に関連して、アセスメントツール（キャリア・インサイト）をキャリア情報ルームにて体験していただく（希望者）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、キャリアカウンセリングとは何か	授業の目的と進め方、成績評価について説明。 カウンセリング、キャリアカウンセリングの定義と独自性（特徴）について学ぶ。
第2回	カウンセリングの起源と発展	アメリカにおけるカウンセリング誕生の背景、発展の経緯、日米の産業組織におけるカウンセリングの発達史を学ぶ。
第3回	働く人を取り巻く社会経済・雇用環境の変化とキャリアカウンセリングの役割①	社会経済・雇用環境の変化、現在に至る経緯を知り、産業組織におけるキャリアカウンセリングの果たせる役割を理解する。
第4回	働く人のメンタルヘルスの現状とキャリアカウンセリングの役割②	働く人のメンタルヘルスの現状を理解し、産業組織におけるキャリアカウンセリングの果たせる役割を理解する。
第5回	キャリアカウンセラーに必要とされる能力	キャリアカウンセラーに必要とされる能力（技能）、要件を学ぶ。
第6回	キャリアカウンセリングの具体的展開とケーススタディ①	キャリアカウンセリングの具体的な進め方（ﾌﾟﾛｾｽ）を学ぶ。 ケースを読み、ケースの読み取り方・見立て方を学ぶ。
第7回	キャリアカウンセリングのケーススタディ②	C.R.ロジャーズの理論を学ぶ。 若者への就職支援のケースを検討する。
第8回	キャリアカウンセリングのケーススタディ③	転職に纏わる支援のケース、職場の人間関係問題への支援のケースを検討。心理学理論を応用したアプローチを学ぶ。
第9回	子育てしながら働く女性へのキャリア支援④	子育てしながら働く女性のキャリアの現状及びキャリア支援のあり方について学ぶ。
第10回	キャリアカウンセリングにおける心理アセスメント/ケーススタディ⑤	キャリアカウンセリングにおける心理アセスメントの意義、心理検査の活用方法、職業選択理論を学ぶ。心理検査を用いたケースを検討し、キャリアカウンセリングにおける効果的な心理検査の活用を学ぶ。
第11回	キャリアカウンセリングのケーススタディ⑥	職業性ストレスモデルを学び、職場不適応のケースを検討する。
第12回	キャリアカウンセリングのケーススタディ⑦	ストレス、ストレス・コーピングについて学び、職場不適応のケース（管理職編）を検討する。
第13回	キャリアカウンセリングのケーススタディ⑧	職場のメンタルヘルス問題への対応、キャリアカウンセリングの組織開発への活用について、ケースを通して学ぶ。
第14回	まとめと振り返り	これまでの授業の振り返りと総括のフィードバックを行う。 また、期末レポート作成にあたっての復習ポイントを解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回講義資料の復習、各回の講義に該当するテキスト部分の予習・復習等、本授業の準備・復習時間は、各回計4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「働く人へのキャリア支援－働く人の悩みに応える２７のヒント」
宮脇優子編著　金剛出版　2015

【参考書】
「入門キャリアカウンセリングとメンタルヘルス－基礎知識と実践」
宮脇優子・廣　尚典著　金子書房　2021

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業へ参加度及び取り組み姿勢)５０％
期末レポート課題　５０％

【学生の意見等からの気づき】
産業組織、心理学領域における専門用語については理解度を確認しながら進め、ケーススタディはグループワークでの意見交換・発表も取り入れ、授業内容へのより深い理解を目指した授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】
第1回の授業はオンデマンド授業となります。オリエンテーション・講義資料（パワーポイントPDF）は学習支援システムへの掲載となるため、資料の読み取りのためのデバイス（パソコン、スマートフォン等）が必要になります。

【その他の重要事項】
担当教員は、人材採用広報・人事コンサルティング関連を生業とする民間企業での勤務を経て、民間企業、公的機関において働く人を支援するカウンセラーとして活動をしている。キャリアカウンセラーとしての２３年の経験で支援してきた人は5,000人を超える。
上記の実務経験をふまえて、今、現実社会で発生している働く人々の様々な心理的問題に焦点を当て、それらに対するキャリアカウンセラー（キャリアコンサルタント）の援助の実際について授業の中で紹介しながら進めていきます。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students learn about career counseling practices and understand the significance and methods of career counseling by studying various cases of career counseling.
The first phase is to understand the basics of career counseling. The second phase will focus on the requirements for being a career counselor and the counseling procedures as well as the psychological assessment and the application of psychological theories in this field. Lastly, you will examine its practical usage by looking into various cases.
By the end of the course, students should be able to do followings:
− Understand the basics of career counseling, i.e.its origin, development history, uniqueness of career counseling and the reason why career counseling is required in today's society.
− Through case studies of career counseling,
① Understand aspects of modern industrial organizations , especially the psychological problems of working people and the social needs for career counselling.
②Understand and learn how to examine of career counseling cases and help working people.
Students will be expected to have completed the required assignments before/after each class meeting, Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Learning state in class and in-class contribution:50%,Term-end examination:50%

MAN200MA（経営学 / Management 200）

キャリア研究調査実習D（仕事とビジネスの質的研究）

展開科目

岸田　泰則

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月1/Mon.1　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：**この授業は、受講者の抽選や選抜を実施する可能性があります。詳細は、学習支援システムにてご確認ください。**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、仕事とビジネスの現場を調査することを通して、質的調査のプロセスを体感してもらいます。事前の十分な準備や適切な調査の実施、そして結果の丁寧な分析を行うことで、産業や労働におけるリアリティに迫ることができます。

【到達目標】
①インタビュー調査を実際に行うことで、質的調査の一連のプロセスを学びます
②産業・労働研究における質的調査の活かし方を学びます
③ゼミ論・卒論で質的調査を行うための実践的な能力を身に着けます

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
実習を中心に、講義を交えながら授業を行います。講義で質的調査の基礎を学んだうえで、インタビュー調査の実習に活かしていきます。調査の事前準備に始まり、調査の実施、調査結果の分析取りまとめといった一連のプロセスを実行していきます。調査テーマは、受講者の問題関心を参考のうえ設定します。課題等に対するフィードバックは、授業内で適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的・到達目標などの説明、インタビュー法の概説（講義）
第2回	質的調査の概説（1）	調査テーマについての概説（講義と若干の実習）
第3回	質的調査の概説（2）	インタビューの準備の概説（講義と若干の実習）
第4回	質的調査の概説（3）	インタビューの実施手法の概説（講義）
第5回	質的調査の概説（4）	インタビュー・データの分析にあたっての概説（講義と若干の実習）
第6回	質的調査の概説（5）	論文の執筆についての概説（講義）
第7回	質的調査の活かし方	質的調査を用いた産業・労働研究の紹介（講義）
第8回	質的調査の実践（1）	調査対象の産業・企業の実状を把握するための予備調査（実習）
第9回	質的調査の実践（2）	仕事の現場を学ぶためのインタビュー調査（実習）
第10回	質的調査の実践（3）	仕事の現場を学ぶためのインタビュー調査（実習）
第11回	質的調査の実践（4）	調査から得た情報をもとに、記録文書の作成（実習）
第12回	質的調査の実践（5）	作成した記録文書の報告、共有（実習）
第13回	質的調査のまとめ（1）	インタビュー調査の結果報告（発表）
第14回	質的調査のまとめ（2）	インタビュー調査の結果報告（発表）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査の準備（調査対象の産業や企業に関する下調べ）と調査の記録文書の作成、調査の取りまとめを行います。
準備学習・復習・宿題等の授業時間外の学習は、各回4時間が標準となります。

【テキスト（教科書）】
各回の授業において、事前に授業資料を提示します。

【参考書】
山口富子編、2023、『インタビュー調査法入門―質的調査実習の工夫と実践』ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業中の発言など）40％、提出課題（「授業時間外の学習」の成果）60％。

【学生の意見等からの気づき】
学生のテーマに応じて必要な調査協力者を選定します。

【学生が準備すべき機器他】
授業資料（パワーポイントのスライド）のアップロードなどで、学習支援システムHoppiiを使用します。

【その他の重要事項】
製造業で30年以上にわたる実務経験のある教員による授業です。
実社会を随所に感じられるような授業にします。

【Outline (in English)】
In this class, students will experience the qualitative research process through interviews with working individuals and companies.
Through adequate preparation, proper implementation of the survey, and careful analysis of the results, students will gain insight into the realities of industry and labor.
The grading method and criteria will be 40%for the normal score (e.g., class remarks) and 60%for the submitted assignments (results of "learning outside of class time").
Students will be required to prepare for the survey (preliminary research on the industries and companies to be surveyed), prepare a written record of the survey, and summarize the survey as learning outside of class time.
The standard amount of study outside of class time for preparation, review, homework, etc. is 4 hours for each session.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

演習（ビジネス）【2年生用】

酒井　理

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水5/Wed.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業では、実践的にマーケティングを学びます。少人数でマーケティングに関わるプロジェクトを自分たちで企画して、実際に運営します。プロジェクトベーストラーニングを通して、企画力、構想力、実行力を身につけます。

【到達目標】
秋学期を通じてマーケティングに関する専門的知識を獲得することを目標とします。またグループワークによって協調性を養いつつ、他者とのディスカッションを通して理解をさらに深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミはグループワークを中心に進めます。何事もゼミ生相互に協働しながら活動を行います。プロジェクトを実施します。また3年と合同でビジネスプランコンテストに参加します。
毎週の活動や課題に関しては、毎回の授業時にフィードバックします。プロジェクトの進捗に応じて、個別にアイデアの壁打ちなど柔軟に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	秋学期のゼミの運営方法について意見を交換します。
2	ゼミ計画とチームビルディング	秋学期の２年生プロジェクトの計画を立てるとともに，チームを形成してプロジェクトに臨む準備をします
3	マーケティングコンテストプラン作成1	マーケティングコンテストに参加するための準備をします。
4	マーケティングコンテストプラン作成2	マーケティングコンテストに参加するための準備をします。
5	マーケティングコンテストプラン中間発表	コンテストに提出するプランの途中経過を発表します.
6	マーケティングコンテストプラン作成3	マーケティングコンテストに参加するための準備をします。
7	マーケティングコンテスト提出プランの発表	ブラッシュアップした最終提案を発表します
8	マーケティングコンテストの振り返り	PDCAのチェックを行います. 実践をゼミ全体で振り返ります.
9	プロジェクトの準備	プロジェクトのテーマを決定して，計画を立てます
10	プロジェクトパートナーとの打合せ	ともにプロジェクトを進める外部機関との調整を行います
11	プロジェクトの実施1	提案に基づいて実践を行います。
12	プロジェクトの実施2	実践しながら計画や運用を修正して実践内容を改善します。
13	プロジェクトの振り返り	プロジェクト実施までのプロセスを振り返ります。
14	まとめ	プロジェクトを報告書にまとめるための活動総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プロジェクトを成功させるために、日常生活のなかで、さまざまな経験を積む事を心がけてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業開始後に決定します。

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミへの貢献度４０％，プロジェクトへの取り組み姿勢４０％，プロジェクトの成果２０％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士、学生と教員のディスカッションが活発になるように工夫をします。

【その他の重要事項】
ゼミを運営するにあたって、学生の専門的知識の獲得の他、行動力、判断力、創造力、コミュニケーション能力、主体性を涵養あるいは向上させることを意識しています。これらは社会に出たときに重要と思われる資質・能力だと考えます。

【Outline (in English)】
[Course outline]
In class, we will learn marketing practically. We plan and manage the projects involved in marketing by a small group and actually manage it. Through project-based learning, we will acquire creativity, structure-building ability, and execution skill.
[Learning Objectives]
The goal is to acquire specialized knowledge of marketing throughout the fall semester. Students will also deepen their understanding through discussions with others while developing cooperative skills through group work.
[Method]
The seminar will focus on group work. All activities are conducted in collaboration with each other. Projects will be implemented. We also participate in business plan contests. Feedback on weekly activities and assignments will be provided in each class.
[Learning activities outside of classroom]
To ensure the success of projects, be sure to gain a variety of experiences on a regular basis. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
The evaluation will be based on 40%contribution to the seminar, 40%attitude toward the project, and 20%results of the project.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

演習（ビジネス）【3・4年生用】

酒井　理

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水5/Wed.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業では、実践的にマーケティングを学びます。少人数でマーケティングに関わるプロジェクトを自分たちで企画して、実際に運営します。プロジェクトベーストラーニングを通して、創造力、構想力、実行力を身につけます。

【到達目標】
春学期を通じてマーケティングに関する専門的知識を獲得することを目標とします。協調性を養いつつ、他者とのディスカッションを通して理解をさらに深めます。春学期では文献資料を集める経験を経ることで情報収集の技術を獲得することも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミはPBL（プロジェクトベーストラーニング）によって進めます。ある課題に対してそれを解決するためのプロセスを通してさまざまなことを学んでいこうとする方法です。実際の行動をともないますので、「協調性」「責任感」「リーダーシップ」「実行力」がすべてのゼミ生に求められます。
ゼミの取り組みは大きく２つあります。①プロジェクトの企画と運営、②新たなビジネスプランの考案です。プロジェクトは現実に何かを動かす経験をすることになります。ビジネスプランの考案は、ビジネスプランコンテストに参加して外部の評価を受けます。
毎週の活動や課題に関しては、毎回の授業時にフィードバックします。プロジェクトの進捗に合わせた個別の壁打ち相談やフィードバックは柔軟に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの運営方法について意見を交換します。学生主体で運営していけるような形を話合いで決めていきます。
2	プロジェクトビルディング(コンセプトの構築)	プロジェクトを作り上げるためにアイディア発想、プロジェクトコンセプトの構築をグループワークをしながら進めます。
3	プロジェクトビルディング（計画策定）	プロジェクト実践を想定した計画を策定するためのグループワークをおこないます。
4	ビジネスプラン（アイディア発想ワーク）	ビジネスプランコンテストに向けてアイディア出しを行います。グループワークでアイディアを洗練させます。
5	ビジネスプラン（プランの作成）	ビジネスプランコンテストのテーマに合わせた内容をかためます。
6	ビジネスプラン（プレゼンテーション）	ゼミ内でプレゼンテーションを行ってプランのブラッシュアップを行います。
7	プロジェクト実施に向けたリサーチ準備	プロジェクトを実際にローンチする前に、事前のマーケティングリサーチを計画します。
8	リサーチの実行	プロジェクトを行うにあたって必要なマーケティングリサーチを実施します。
9	リサーチデータの収集と分析	マーケティングリサーチを行って集めたデータを分析します。
10	プロジェクトビルディング（実装準備）	プロジェクトを実際にローンチするための最終的な調整を行います。
11	プロジェクトのローンチ	プロジェクト実際に立ち上げて実行していきます。
12	プロジェクトのモニタリング	プロジェクトのを実行し、その経過をモニタリングして、分析します。
13	プロジェクトの修正	プロジェクトの問題点を抽出して分析します。
14	春学期まとめ	夏期休暇中のゼミの活動計画と秋学期の準備をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会の出来事はすべて現場で起きています。とにかく何ごとも実践です。現場で体験する、実際にアクションを起こして経験していくことが大事です。机に向かって勉強するよりは、外に出かけてさまざまな事象に向き合うようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指示しません。

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミへの貢献度５０％，プロジェクトへの取り組み姿勢５０％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士、学生と教員のディスカッションを活発にする工夫をしていきます。

【その他の重要事項】
ゼミを運営するにあたって、学生の専門的知識の獲得の他、行動力、判断力、創造力、コミュニケーション能力、主体性を涵養あるいは向上させることを意識しています。これらは社会に出たときに重要と思われる資質・能力だと考えます。

【Outline (in English)】
[Course outline]
In class, we will learn marketing practically. We plan and manage the projects involved in marketing by a small group and actually manage it. Through project-based learning, we will acquire creativity, structure-building ability, and execution skill.
[Learning Objectives]
The goal is to acquire specialized knowledge of marketing throughout the spring and fall semesters. Students will further deepen their understanding through discussions with others while developing cooperative skills. In the spring semester, students will also acquire information-gathering skills through experience in gathering literature.
[earning activities outside of classroom]
All social events are happening on the ground. Anyway, everything is a practice. Experience in the field, take action, and experience.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
Evaluation will be based on 50%contribution to the seminar and 50%commitment to the project.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

演習（ビジネス）【3・4年生用】

酒井　理

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水6/Wed.6　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマは『マーケティング実践』です。世の中に役立つ、人々にとって価値のあるものを創造して相手に提供していくことがマーケティングの役割ですから、それに関することであればよしとして、研究課題は幅広く受け入れたいと思います。

【到達目標】
秋学期を通じてマーケティングに関する専門的知識を獲得することを目標とします。またグループワークによって協調性を養いつつ、他者とのディスカッションを通して理解をさらに深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミはグループワークを中心に進めます。何事もゼミ生相互に協働しながら活動を行います。秋学期は、春学期と同様にプロジェクトを実施します。また、半期に１度のビジネスプランコンテストに参加します。3年生は卒業論文のベースとなるようにプロジェクトの内容を深く掘り下げてまとめる作業を行います。
毎週の活動や課題に関しては、毎回の授業時にフィードバックします。プロジェクトの進捗に合わせた個別の壁打ち相談やフィードバックは柔軟に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	秋学期のゼミの運営方法について意見を交換します。
2	マーケティング研究論文のレビュー１（サービスマーケティング）	プロジェクトに関わるマーケティングの研究論文を渉猟して整理して要約する作業を行います。テーマはサービス・マーケティング。
3	マーケティング研究論文のレビュー２（サービタイゼーション）	プロジェクトに関わるマーケティングの研究論文を渉猟して整理して要約する作業を行います。テーマはサービタイゼーション。
4	マーケティング研究論文のレビュー３（AIとIoT）	プロジェクトに関わるマーケティングの研究論文を渉猟して整理して要約する作業を行います。テーマはAIとIoT。
5	ゲスト講師とのディスカッション（マーケティング）	マーケターをゲストに、実際に行われているマーケティングを題材にディスカッションを行います。
6	ゲスト講師とのディスカッション（スタートアップ）	起業のノウハウ、マインドセットなどをテーマにディスカッションを行います。
7	バーチャルビジネスゲームの実施	インターネット広告企業の人事部を招いてビジネスゲームを行います。ビジネスセンス修得のヒントを得ます。
8	プロジェクトのロジック構築	研究的視点からプロジェクトのロジックを組み立てます。
9	プロジェクトのコンセプト再考	研究の視点からプロジェクトを捉え直してコンセプトを再考する作業を行います。
10	プロジェクト計画のリファイン	プロジェクトを走らせながら新たなロジックとコンセプトで計画をリファインします。
11	プロジェクトの実施	プロジェクトを運営して、マーケティングの実際、プロジェクトマネジメントの実際を学びます
12	検証データの収集と分析	プロジェクトを通して、仮説の検証を行います。得られたデータを分析して結論を導き出します。
13	プロジェクトの振り返り	プロジェクトをクロージングして、ここまでのプロセスの振り返りを行います。
14	まとめ	プロジェクトを報告書にまとめるための活動総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プロジェクトを成功させるために、日常生活のなかで、さまざまな経験を積む事を心がけてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業開始後に決定します。

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミへの貢献度５０％，取り組み姿勢５０％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士、学生と教員のディスカッションが活発になるように工夫をします。

【学生が準備すべき機器他】
ゼミで配布する資料はすべてデジタルドキュメントです。PC、タブレット、スマートフォンなどコミュニケーションサービスの"Slack"にアクセスできる環境が必要です。

【その他の重要事項】
ゼミを運営するにあたって、学生の専門的知識の獲得の他、行動力、判断力、創造力、コミュニケーション能力、主体性を涵養あるいは向上させることを意識しています。これらは社会に出たときに重要と思われる資質・能力だと考えます。

【Outline (in English)】
[Course outline]
The theme of the class is practical marketing. The role of marketing is to create something that is useful to the world and valuable to people and provide it to others. The seminar accepts a wide range of research projects.
[Learning Objectives]
The goal is to acquire specialized knowledge of marketing through the spring and fall semesters. Students will also deepen their understanding through discussions with others while developing cooperative skills through group work.
[Method]
The seminar will focus on group work. All activities are conducted in collaboration with each other. In the fall semester, projects are conducted in the same manner as in the spring semester. Third-year students will work in-depth to summarize the contents of their projects as the basis for their graduation thesis.
[Learning activities outside of classroom]
Be sure to gain a variety of experiences to ensure the success of your project. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
Evaluation will be based on 50%contribution to the seminar and 50%attitude toward the seminar.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

演習（ビジネス）【2年生用】

松浦　民恵

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水5/Wed.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
３・４年次の演習に向けて、２年次の授業においては、必要な情報の収集、論理的な思考と説明を行うための基礎を身につけることを目的とします。

【到達目標】
①働き方に関する基礎的な知識を身につける
②特定のテーマに関連する基礎的な情報を収集し、他者にわかりやすく伝えることができる
③定説を鵜呑みにせず、複眼的な視点で考察することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミには毎回出席。個人での発表やグループワークについても主体的、積極的な参加が必須条件です。
まずは基礎知識をつけることを目的として、課題図書を使って議論を行っていただきます（アクティブブックダイアローグ：Active Book Dialogueを参考に）。
３年生の共同研究、４年生の卒論発表会などについては２年生にもご参加いただき、ロジをご担当いただきます。５限のみならず６限も使って３年生や４年生と合同でゼミ活動を実施することもございますので、水曜５・６限は他の予定を入れないようにしてください。
学期全体のスケジュール（予定）は最初の授業で配布します。
ゼミは原則として対面で実施しますが、外部有識者の招聘や個別指導の回な
どについては、事前連絡の上オンラインやハイブリッドで実施する場合があります。
また、受講の状況や別の企画の提案等によって、授業計画の一部を変更する
可能性がありますので、予めご了承ください。
なお、フィードバックは演習の時間内にその都度行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ＜２・３・４年生合同＞	①自己紹介、ゼミの進め方に関する説明と意見交換 ②3年生共同研究、4年生卒論の進捗共有
第2回	課題図書とアクティブブックダイアローグの説明とグループ分け	①課題図書とアクティブブックダイアローグの説明 ②グループ分け
第3回	校外学習(予定)	校外学習（予定）
第4回	校外学習の振り返り	校外学習の振り返りと議論
第5回	課題図書（１）	課題図書（１）に関するアクティブブックダイアローグ
第6回	課題図書（２）	課題図書（２）に関するアクティブブックダイアローグ
第7回	課題図書（３）	課題図書（３）に関するアクティブブックダイアローグ
第8回	３年共同研究＜中間＞発表 ＜２・３・４年生合同＞	①３共同研究＜中間＞発表 ②発表に関する質疑・意見交換
第9回	問いの設定に関する概説	①問いの設定に関する概説とグループワーク ②３年共同研究＜最終＞発表の進め方相談
第10回	調査方法に関する概説	①調査方法に関する概説 ②３年共同研究＜最終＞発表の当日運営の確認
第11回	３年共同研究＜最終＞発表 ＜２・３年生・社会人合同＞	①３年共同研究＜最終＞発表 ②発表に関する質疑・意見交換
第12回	発表の振り返りと今後の進め方	①共同研究発表の振り返り（ロジと内容） ②共同研究の準備に向けた説明 ③ゼミ活動に関する意見交換
第13回	４年生卒論発表（１） ＜２・３・４年生・社会人合同＞	①卒論の発表（前半） ②質疑と社会人・教員コメント
第14回	４年生卒論発表（２） ＜２・３・４年生・社会人合同＞	①卒論の発表（後半） ②質疑と社会人・教員コメント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題図書のアクティブブックダイアローグの準備、研究テーマ案の作成とそのための先行研究サーベイ等が必要になります。ゼミの時間の大部分は発表・コメントや意見交換の場となりますので、準備はゼミの時間外に実施頂くことが多くなります。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
課題図書については授業で候補を提示します。

【参考書】
必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミの議論や研究に関する取り組み姿勢・内容（70％）、ゼミの運営・活動への貢献（30％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
アクティブ・ブック・ダイアローグと校外学習を継続したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン等の情報機器。オンライン接続環境。

【その他の重要事項】
基礎知識を身につけるために、「職業キャリア論」を積極的に受講してください。他のビジネスキャリア領域における働き方に関連する授業も、極力受講頂くことが望ましいです。
2017年度からスタートした発展途上のゼミを、皆さんと一緒に面白くしていきたいと思っています。そのために必要なアイディアをどんどん出して、責任をもって改善を進めていける「自走集団」を目指していますので、よろしくお願いします。
不定期で３・４年生との合同ゼミがあり、その場合原則として５・６限またがって実施することになりますので、ゼミの日は５・６限とも他の予定を入れないようにしてください。
教員の、民間企業の営業現場や人事部門等での実務経験を生かして、具体的なケースなどを紹介しながら、授業を行いたいと考えております。

【Outline (in English)】
＜Course outline＞
This course is designed for students to obtain basic knowledge about work styles and also the fundamental skills of collection and presentation of information.
＜ Learning Objectives＞
1.Obtain basic knowledge on work styles
2.Compile a broad range of information about a given topic and deliver it with clarity
3.Consider a variety of perspectives without believing accepted opinions
＜Learning activities outside of classroom＞
The standard time for preparatory study and review for this class is 2 hours each.
＜Grading Criteria /Policy＞

Grading will be decided based on in-class contributions(70%) and contributions to seminar activities and management(30%).

MAN200MA（経営学 / Management 200）

演習（ビジネス）【3・4年生用】

松浦　民恵

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水5/Wed.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論文執筆に不可欠な「思い」や「問い」を持てるように、共同研究や卒業研究の実践を通じて、知識の醸成、論理的な思考の訓練を行います。また、調査の企画・実施を通じて、調査の基礎的なスキルを醸成します。

【到達目標】
①研究対象とするテーマについて、学術的な文献や論文をサーベイできるようになること
②研究対象とするテーマについて、十分な理解のもとで独創性のある問いを設定し、説得的な論旨を展開できるようになること
③調査を企画・実施することを通じて、調査の基礎的なスキルを身につけること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミには毎回出席。個人での発表やグループワークについても主体的、積極的な参加が必須条件です。３年生は共同研究、４年生は卒論に関する構想発表の機会を設け、教員のフィードバックに加えて、社会人（研究者・実務家）からもコメントを頂きます。
ゼミは原則として対面で実施しますが、社会人の招聘や個別指導の回などについては、事前連絡の上オンラインやハイブリッドで実施する場合があります。
また、受講の状況や別の企画の提案等によって、授業計画の一部を変更する可能性がありますので、予めご了承ください。
なお、フィードバックは演習の時間内にその都度行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションと卒論研究計画案の発表（３・４年生合同）	①オリエンテーション ②４年生による卒業研究の研究計画案の発表 ③質疑と教員コメント
第2回	３年生の研究テーマ案の発表	①３年生による研究テーマ案の発表 ②質疑と３・４年生による議論
第3回	３年生共同研究のテーマ案に関する先行研究サーベイと議論	①３年生の共同研究テーマに関する先行研究 ②共同研究テーマ庵に関する議論
第4回	３年生共同研究のテーマ案の仮決定	①３年生による研究テーマ改訂案の発表 ②質疑と教員コメント ③テーマ案の決定とグループ分け
第5回	３年生共同研究の構想の検討	①先行研究サーベイの共有 ②先行研究サーベイを踏まえた共同研究の問いや切り口の検討
第6回	３年生共同研究の構想の再検討	①問いや切り口の再検討 ②調査方法の検討 ③中間発表資料の作成
第7回	３年生共同研究構想中間発表	①共同研究の構想に関する中間発表 ②質疑と教員コメント
第8回	構想発表会の準備	①中間発表のコメントを踏まえた共同研究の練り直し ②構想発表会の資料の作成と発表準備
第9回	構想発表会１回目＜３・４年生・社会人合同＞	①構想発表会１回目（３年生共同研究等） ②質疑と社会人・教員コメント
第10回	構想発表会２回目＜３・４年生・社会人合同＞	①３年生共同研究進捗確認 ②論構想発表会２回目（４年生卒論・前半） ③質疑と社会人・教員コメント
第11回	構想発表会３回目＜３・４年生・社会人合同＞	①３年生共同研究進捗確認 ②論構想発表会２回目（４年生卒論・後半） ③質疑と社会人・教員コメント
第12回	３年生共同研究　調査設計	①調査方法の確定 ②依頼状や調査票の案の作成
第13回	３年生共同研究　調査実施	①依頼状や調査票の確定 ②調査の実施
第14回	ゼミ活動の振り返り・諸連絡と今後に関する意見交換＜３・４年生合同＞	①ゼミ活動の振り返り ②諸連絡 ③今後に関する意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミの時間の大部分は発表の場となりますので、発表準備（研究のための文献サーベイや調査の実施、結果のとりまとめ、発表資料の作成等）はゼミの時間外に実施頂くことが多くなります。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【参考書】
必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミの議論や研究に関する取り組み姿勢・内容（70％）、ゼミの運営・活動 への貢献（30％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
構想発表会・発表会などにおける、社会人との交流を継続・発展させていきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン等の情報機器、参考文献。オンライン接続環境。

【その他の重要事項】
ゼミのゴールは「思いを実現できる実務家」を社会に送り出すことです。ゼミ活動を「仕事」のように進められればと思っております。また、発展途上のゼミを、皆さんと一緒に面白くしていきたいので、ゼミ生の皆さんも当事者として、必要なアイディアをどんどん出して改善を進めていただきますよう、よろしくお願いします。
５・６時にわたって、ゼミを実施したり共同研究の作業が必要になったりしますので、ゼミの日は５・６限とも他の予定を入れないようにしてください。

【Outline (in English)】
＜Course outline＞
Students will be trained to hone their own knowledge and logical thinking in this course and to develop their passion for the issues that are important for the thesis.
＜Learning Objectives＞
1.To be able to survey academic literature and articles on the subject of research
2.Ability to set original questions and develop persuasive arguments with a full understanding of the subject under study
3.Developing basic research skills through the planning and implementation of surveys
＜Learning activities outside of classroom＞
The standard time for preparatory study and review for this class is 2 hours each.
＜Grading Criteria /Policy＞
Grading will be decided based on in-class contributions(70%) and contributions to seminar activities and management(30%).

MAN200MA（経営学 / Management 200）

演習（ビジネス）【3・4年生用】

松浦　民恵

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水6/Wed.6　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
３年生は、共同研究のなかで、調査結果の分析・解釈の訓練を行い、結論や示唆について考察を深めます。また、卒業論文の執筆に向けた準備に入ります。４年生は卒業論文を完成させます。

【到達目標】
①調査結果の分析・解釈ができるようになること
②論理的・説得的な資料や論文を執筆できるようになること
③わかりやすく発表し、質問やコメントに対して論理的に回答ができるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミには毎回出席。個人での発表やグループワークについても主体的、積極的な参加が必須条件です。共同研究の分析や発表を行います。３年生は共同研究、４年生は卒論に関する成果発表の機会を設け、教員のフィードバックに加えて、社会人（研究者・実務家）からもコメントを頂きます。
ゼミは原則として対面で実施しますが、社会人の招聘や個別指導の回などについては、事前連絡の上オンラインやハイブリッドで実施する場合があります。
また、受講の状況や別の企画の提案等によって、授業計画の一部を変更する可能性がありますので、予めご了承ください。
なお、フィードバックは演習の時間内にその都度行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション<２・３・４年生合同>	①自己紹介、ゼミの進め方に関する説明と意見交換 ②3年生共同研究、4年生卒論の進捗共有
2	３年生共同研究進捗確認・共有	①３年生共同研究の進捗の確認と共有 ②質疑と教員コメント
3	３年生共同研究　分析方法の検討	共同研究の分析方法の検討・役割分担の確認等
4	データ分析の解説	データ分析の解説とHADによる実践
5	３年生共同研究・中間発表資料の作成（１）	①発表資料の作成 ②意見交換と教員コメント
6	３年生共同研究・中間発表資料の作成（２）	①教員コメントを踏まえた発表資料の改訂 ②意見交換と教員コメント
7	３年生共同研究・中間発表資料の作成（３）	①教員コメントを踏まえた共同研究の発表資料の再改訂 ②意見交換と教員コメント
8	３年生共同研究中間発表<２・３・４年生合同>	①中間発表 ②意見交換と教員コメント
9	３年生共同研究・<最終> 発表資料の作成（１）	①中間発表を踏まえた共同研究の発表資料の改訂 ②意見交換と教員コメント
10	３年生共同研究・<最終> 発表資料の作成（２）	①教員コメントを踏まえた共同研究の発表資料の改訂と発表準備 ②意見交換と教員コメント
11	３年生共同研究<最終>発表<２・３年生・社会人合同>	①３年生共同研究<最終>発表 ②発表に関する質疑・意見交換
12	発表の振り返りと今後の進め方	①３年生共同研究発表の振り返り ②卒業論文の研究計画案作成に向けた説明 ③ゼミ活動に関する意見交換
13	４年生卒論発表（１）<２・３・４年生・社会人合同>	①卒論の発表（前半） ②質疑と社会人・教員コメント
14	４年生卒論発表（２）<２・３・４年生・社会人合同>	①卒論の発表（後半） ②質疑と社会人・教員コメント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミの時間の大部分は発表・コメントや意見交換の場となりますので、発表準備（研究のための文献サーベイや調査の実施、結果のとりまとめ、発表資料の作成等）はゼミの時間外に実施頂くことが多くなります。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【参考書】
必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミの議論や研究に関する取り組み姿勢・内容（70％）、ゼミの運営・活動への貢献（30％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
研究のより効率的な進め方を、ゼミ生と相談しながら模索していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン等の情報機器、参考文献等。オンライン接続環境。

【その他の重要事項】
ゼミのゴールは「思いを実現できる実務家」を社会に送り出すことです。ゼミ活動を「仕事」のように進められればと思っております。また、発展途上のゼミを、皆さんと一緒に面白くしていきたいので、ゼミ生の皆さんも当事者として、必要なアイディアをどんどん出して改善を進めていただきますよう、よろしくお願いします。
５・６時にわたって、ゼミを実施したり共同研究の作業が必要になったりしますので、ゼミの日は５・６限とも他の予定を入れないようにしてください。

【Outline (in English)】
＜Course outline＞
Students will be trained to hone their own knowledge and logical thinking in this course and to develop their passion for the issues that are important for the thesis.
＜Learning Objectives＞
1.To be able to analyze and interpret survey results
2.To be able to write logical and persuasive materials and papers
3.Ability to present clearly and respond logically to questions and comments
＜Learning activities outside of classroom＞
The standard time for preparatory study and review for this class is 2 hours each.
＜Grading Criteria /Policy＞
Grading will be decided based on in-class contributions(70%) and contributions to seminar activities and management(30%).

MAN400MA（経営学 / Management 400）

卒業論文（ビジネス）

酒井　理

単位数：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses　｜　配当年次：4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業では、自分たちが手がけたマーケティングに関わるプロジェクトを論文にします。
現状を把握するための分析、実際の問題を解決するための実践のプロセスを通して、仮説設定と検証実験による学術的なアプローチを学びます。

【到達目標】
卒業論文の完成が最終目標です。アンケート調査、インタビュー調査などで集めたデータを使用した実証的な研究方法によって論文を完成させます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
必ず実証データを使用して研究を進めてもらいます。アンケートでデータを集めても結構ですし、消費者へのインタビューや街頭観察でデータを収集することでも結構です。さらに企業訪問してインタビューを行うのも推奨します。とにかく、実際に現場に出向いて自分でデータを集めて現象について考察することを求めます。自分の足で現場に出向いてデータを直接集めます。
学生の提出された課題のフィードバックは、毎回、授業時の指導としておこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	卒業論文研究の進め方について説明します。
2	テーマ・仮説の設定1	研究テーマを発表して、ゼミ内で意見を交換します。
3	テーマ・仮説の設定2	研究テーマを発表して、ゼミ内で意見を交換します。
4	テーマ・仮説の設定3	研究テーマを発表して、ゼミ内で意見を交換します。
5	文献サーベイ1	実際に現場に出てリサーチした結果（集めたデータの分析結果）を報告します。
6	文献サーベイ2	実際に現場に出てリサーチした結果（集めたデータの分析結果）を報告します
7	文献サーベイ3	実際に現場に出てリサーチした結果（集めたデータの分析結果）を報告します
8	リサーチデザイン1	自分で考えたリサーチの進め方を報告します。
9	リサーチデザイン2	自分で考えたリサーチの進め方を報告します。
10	リサーチデザイン3	自分で考えたリサーチの進め方を報告します。
11	リサーチ結果報告1	実際に現場に出てリサーチした結果（集めたデータの分析結果）を報告します。
12	リサーチ結果報告2	実際に現場に出てリサーチした結果（集めたデータの分析結果）を報告します。
13	リサーチ方法の改善1	本格的なリサーチの実施に向けて、テストリサーチの反省を踏まえた改善を考えて報告します。
14	リサーチ方法の改善2	本格的なリサーチの実施に向けて、テストリサーチの反省を踏まえた改善を考えて報告します。
15	オリエンテーション	秋学期の進め方について意見交換を行います。
16	論文執筆作法	論文の執筆ルールについて説明します。
17	論文執筆作法	論文の執筆ルールについて説明します。
18	個別指導1	各自執筆と個別指導を行います。
19	個別指導2	論文執筆の途中経過の報告を行います。
20	個別指導3	各自執筆と個別指導を行います。
21	中間発表1	論文執筆の途中経過の報告を行います。
22	中間発表2	論文執筆の途中経過の報告を行います。
23	個別指導1	論文執筆の途中経過の報告を行います。
24	個別指導2	論文執筆の途中経過の報告を行います。
25	個別指導3	論文執筆の途中経過の報告を行います。
26	研究成果の発表1	最終的に完成した論文の内容を発表します。
27	研究成果の発表2	最終的に完成した論文の内容を発表します。
28	研究成果の発表3	最終的に完成した論文の内容を発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会の出来事はすべて現場で起きています。フィールド（現場）に出向いて研究を進めることを強く推奨します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
各自の研究成果である卒業論文の評価が１００％です。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外科目のため非実施

【その他の重要事項】
学生の専門的知識の獲得の他、行動力、判断力、創造力、コミュニケーション能力、主体性を涵養あるいは向上させることを意識しています。これらは社会に出たときに重要と思われる資質・能力だと考えます。

【Outline (in English)】
[Course outline]
In this lesson, we will make a paper on marketing projects which we have conducted.
We will learn academic approaches based on hypothesis setting and verification experiments on analysis to understand the current situation and practice process to solve problems in a "real" world.
[Learning Objectives]
The final goal is to complete a graduation thesis. The thesis will be completed through empirical research methods using data collected through questionnaires, interviews, and other surveys.
[Method]

Students are encouraged to use empirical data, whether quantitative or qualitative, to guide their research. Empirical data can be surveys, log data, consumer interviews, or street observations. Visits to companies to conduct interviews are also encouraged. Students are asked to actually go to the field and collect their own data to discuss the phenomenon. Please visit the field with your own feet and collect data directly. Feedback on student's submitted assignments will be given as guidance in each class.
[Learning activities outside of classroom]
All social events are happening on the ground. Students are strongly encouraged to go into the field to conduct research. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
The evaluation of the graduation thesis is 100%.
Logic, contribution to society, and empirical research are the evaluation criteria.

MAN400MA（経営学 / Management 400）

卒業論文（ビジネス）

松浦　民恵

単位数：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses　｜　配当年次：4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまでの大学生活における学びの集大成として、自らの興味関心に基づいて問いを立て、調査の実施、調査結果の分析・検討を通じて、卒業論文を執筆し、完成させる。

【到達目標】
①論文の問いが設定できるようになること
②調査を企画・設計し、実施できるようになること
③調査結果の分析・解釈ができるようになること
③分析結果を踏まえて、説得力のある論理的な文章を書けるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期は研究計画書や調査に関する相談、秋学期は分析や執筆に関する相談を行う。
授業計画はアンケート調査を実施する場合を想定して記述しているが、テーマや調査方法に応じて進め方は変更する。
受講生と相談のうえ、卒論指導の方法を一部オンラインに変更する可能性がある。
なお、フィードバックは卒論指導や発表の都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションと卒業論文の研究計画案の発表＜3・4年生合同＞	①オリエンテーション ②4年生による卒業論文の研究計画案の発表 ③質疑と教員コメント
第2回	論文執筆に向けた解説	卒業論文の構成、執筆上の留意点についての解説
第3回	問いの検討（1）	①先行研究と問いの案との提示 ②論文になり得るかについての検討 （第1グループ）
第4回	問いの検討（2）	①先行研究と問いの案の提示 ②論文になり得るかについての検討 （第2グループ）
第5回	問いの検討（3）	①先行研究と問いの案の提示 ②論文になり得るかについての検討 （第3グループ）
第6回	問いの再検討	①先行研究の追加サーベイ ②コメントを踏まえた問いの再検討
第7回	問いの確定	問いや仮説の仮決定
第8回	資料作成	構想発表会資料の準備
第9回	構想発表会（1）＜3・4年生・社会人合同＞	研究計画の提示と検討（第1グループ）
第10回	構想発表会（2）＜3・4年生・社会人合同＞	研究計画の提示と検討（第2グループ）
第11回	構想発表会（3）＜3・4年生・社会人合同＞	研究計画の提示と検討（第3グループ）
第12回	研究計画再考	議論を踏まえた練り直し
第13回	調査方法の策定	問いに答えられる、仮説を検証できる調査方法の検討・策定
第14回	調査項目・調査票の作成	調査方法に応じて調査項目や調査票を作成
第15回	オリエンテーション	①オリエンテーション ②研究の進捗共有と意見交換
第16回	分析の相談（1）	調査の分析方法に関する相談（第1グループ）
第17回	分析の相談（2）	調査の分析方法に関する相談（第2グループ）
第18回	データ分析の解説	データ分析の解説とHADによる実践
第19回	分析の相談（3）	調査の分析方法に関する相談（第3グループ）
第20回	分析	各自分析を進める
第21回	執筆の相談（1）	分析結果を踏まえて論文骨子を作成し、論文を執筆する（第1グループ）
第22回	執筆の相談（2）	分析結果を踏まえて論文骨子を作成し、論文を執筆する（第2グループ）
第23回	執筆の相談（3）	分析結果を踏まえて論文骨子を作成し、論文を執筆する（第3グループ）
第24回	論文の推敲（1）	論文をお互いに推敲する
第25回	論文の推敲（2）	論文をお互いに推敲する（続き）
第26回	論文発表の準備	発表用資料を作成する
第27回	論文発表（1）＜2・3・4年生・社会人合同＞	論文の発表と質疑（第1グループ）
第28回	論文発表（2）＜2・3・4年生・社会人合同＞	論文の発表と質疑（第2グループ）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文の執筆、執筆に伴う先行研究サーベイや調査の実施の大部分は、授業時間外に、各自主体的に実施いただくことになります（授業は進捗確認と必要に応じたアドバイス中心）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【参考書】
必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
取り組みの進め方（30％）、卒業論文の内容（40％）、口述試験等の発表・質疑（30％）によって評価します。
卒業論文の内容は、以下の観点から評価します。
①問いの立て方（自己の関心が絞られているか、独創性があるか等）
②先行研究レビュー（十分にサーベイがなされているか等）
③調査の企画・設計・実施・分析（適切な手順、方法か等）
④文章の展開（論理的な説得力があるか等）

【学生の意見等からの気づき】
スケジュールをできるだけ前倒しにしていきたいと考えております。また、完成してからでなく、研究フレームワークがある程度見えてきた段階で、ビジネスパーソン等との対話の機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン等の情報機器、参考文献等。

【その他の重要事項】
演習（ビジネス）3・4年生（春5限・秋6限）とは別に卒論指導を行うことがありますが、演習（ビジネス）3・4年生（春・秋）にも出席してください。秋学期の2年生との合同ゼミは5限スタートになります。
演習の時限が内容によって変則的になりますので、オリエンテーション時に連絡するスケジュールをよく確認してください。

【Outline (in English)】
＜Course outline＞
Through this course, students will develop skills to write graduation thesis and write out graduation thesis.
＜Learning Objectives＞
· Ability to set appropriate questions
· To be able to plan, design and conduct surveys
· To be able to analyze and interpret survey results
· To be able to write persuasive and logical sentences based on the results of analysis
＜Learning activities outside of classroom＞
The standard time for preparatory study and review for this class is 2 hours each.
＜Grading Criteria /Policy＞
Grading will be decided based on how to proceed with the graduation thesis (30%), the content of the graduation thesis (40%), and the presentation of graduation thesis (30%).

CAR300MA（キャリア教育 / Career education 300）

就業応用力養成Ⅰ

鈴木　美伸

単位数：**2単位**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
曜日・時限：**水3/Wed.3**　｜　配当年次：**3～4年**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学後期は社会へのトランジション（移行）期であり、大学で修得すべき必須の知見（アカデミックスキル）を確認し、社会への応用力に発展させる時期です。
この授業では、様々な産業の企業事例のビデオ教材、社会人ゲストの講話、ビジネス事例・統計等を題材に、社会課題の発見とそれに取り組むための実践知の理解・修得・発揮を目指します。
企業や社会人から持ち込まれたキャリアではなく、どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、それが『大学生のキャリア』であり、それこそが社会でも立派に通用する、就業応用力の養成です。
＊「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。
つまり、就職力は就業応用力の一部(発揮）ともいえます。

【到達目標】
修得すべき７つのチカラ
１．社会常識・ビジネスマナー・コンプライアンス
　⇒組織を効率よく運営参画するスキル
　⇒社会規範となる倫理観
２．他者を説得できるロジカルシンキング
　⇒データの収集（質問票調査）を行う定量調査スキル
　⇒フィールドワークによる定性調査スキル
　⇒定量・定性データの分析技術による論理的な提案作成力
３．他者を動かすコミュニケーション力
　⇒共感・質問・提言する個別対人スキル
　⇒カウンセリング・コーチング・コンサルティング
４．組織を動かすコミュニケーション力
　⇒社会人（企業）に対して説得的な提言（プレゼンテーション力）
　⇒チームビルディングとイノベーション（ファシリテーション力）
５．組織を活性化するリーダーシップ
　⇒モチベーション・マネジメント
　⇒４つの状況対応型リーダーシップ
６．社会で未知の道を拓くチカラ
　⇒キャリアモデルの発見（文献調査、フィールドワーク等）
　⇒自分自身の２０代のキャリアプランの作成
７．社会を生き抜くための実践知
　⇒暗黙知（体験）を形式知（言語）化するメタ認知能力
　⇒メタ認知を社会の中で発揮するベタ認知能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。
ＰＢＬ（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。
履修人数によりますが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言（レポート＆プレゼンテーション）を行います。
公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。
授業では毎回提出のリアクションペーパーを、次回授業でフィードバックします。
＊受講者の学習進捗状況とゲスト講師の都合で、授業順が変更になることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	大学とは何か 大学で学ぶべきアカデミックスキルの理解 大学を使い倒す	大学の歴史と構造 ・各学部のアイデンティティ ・就業力とは ・学生と企業の認識差 ・社会で求められる力
2	大学と企業のミスマッチ研究 社会の求める人材とは メタ認知とパラ認知の理解	グループディスカッション ・データの見方 ・討議の手法 ・ブレーンストーミング
3	ロジカルシンキング・ライティング・プレゼンテーション 企業採用選考を論理的に解析し、対処するためには	論理的な文章 ・作文と論文の違い ・ビジネス文書作成 ・エントリーシート解析
4	旅行業界事例研究 新入社員の課題と魅力 上司を動かす力とは	・ビジネスマナー ・報連相の重要点 ・トラブル対処力 ・顧客満足向上とは
5	ビジネス事例研究－１ 半導体業界 世界を制した経営者	起業家精神 ・ベンチャー企業経営 ・株主重視経営 ・資金調達力
6	ビジネス事例研究－２ 化学製品業界 世界企業と渡り合うには	大企業経営 ・グローバル企業経営 ・提案力の構造 ・世界で通用する力
7	社会人ケーススタディ－１ 就社・就職・就場の時代 ホテル、出版業界 全ての経験をキャリアにするには	働き方の進化 ・大学と仕事の関係 ・企業と個人の関係 ・コンサルティング
8	食品関連業界事例研究 世界に通用するBtoB技術 知られざる世界一の優良企業	企業進化論 ・百年企業 ・最先端技術力 ・ビジネスプレゼンテーション
9	文房具旅行用品業界事例研究 モノゾクリの魅力 企業提案ワークショップ	中小企業経営 ・大企業との差別化 ・商品企画力 ・プレゼンテーション
10	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－１ 企業からの課題提示	・市場調査 ・新商品開発（マーケティング） ・チーム別ワークショップ
11	社会人ケーススタディ－２ 20代のキャリア形成 副業・兼業・越境学習 コンサルティング業界とは	新しい就労形態 ・パラレルキャリア ・進路の意志決定 ・大学生活とビジネスの接続
12	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－２ 課題討議	授業協力企業からの課題 ・ビジネスマナー ・ヒアリングスキル ・課題発見力

13	金融業界事例研究 地方創生事業の実際 六次産業への挑戦	金融機関の底力 ・起業家行動の支援 ・全国ネットワークの活用 ・中小企業診断士の力
14	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－３ 課題発表	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。
・統計学や社会調査の素養があると有効です。
＊事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。
但、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】
授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績配点
・受講態度（発言数・発言内容）　⇒３０点
・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー）⇒３０点
・授業期間中レポート　⇒２０点
・期末レポート　⇒２０点
総合評点が６０点以上を合格とします。
（欠席が３回以上の者は成績評価対象外）
＊遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】
他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、グループワークを重視します。
特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート＆プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートの書き方にも役立ったとのことです。

【学生が準備すべき機器他】
特にありませんが、学習支援システムを活用します。
レポート＆プレゼンがあるので、ワードとパワーポイントは必須スキルです。
ＰＣは大学貸出のもので大丈夫です。

【その他の重要事項】
法政大学のテーマである「実践知育成授業」を目指します。
＊ゲスト招聘者・企業は、先方の都合により変更になる場合があります。
＊全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。
　楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。
▼実務経験のある教員による授業
担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline (in English)】
The university latter period is a transition (shift) period to society and is the time to recognize the indispensable knowledge which should be acquired at a university (academic skills) and make application ability to society develop.
I aim at learning and a show of video teaching materials of various industrial enterprise cases, a talk of a member of society guest and practical wisdom to work on discovery and that of a social problem by using a business case and the statistics, etc. as a base material at this session.
・ There are activities outside the class for each group. Quantitative surveys (questionnaire surveys) and qualitative surveys (company visit surveys) require a considerable amount of work.
・ It is effective if you have a background in statistics and social research.
* Even if you do not have prior knowledge, if you are willing to challenge high goals, we will do our best to guide you.
However, a strong will to collaborate with others and give consideration to classmates (contribution to teamwork) is essential. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
Grade score
・ Attendance attitude (number of remarks /content of remarks /contribution in group work) ⇒ 30 points
・ Every small report (reaction paper) ⇒ 30 points
・ Report during class period ⇒20 points
・ Term-end report ⇒ 20 points
A passing score of 60 or higher is considered as a pass.
(People who are absent 3 times or more are not eligible for grade evaluation)
* Strictly forbidden to be late, private language, and dozing will order you to leave.

CAR300MA（キャリア教育 / Career education 300）

就業応用力養成Ⅱ

鈴木　美伸

単位数：**2単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
曜日・時限：**水3/Wed.3**　｜　配当年次：**3〜4年**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学での学びの集大成として「自由を生き抜く実践知」の発揮に取り組みます。
未知の社会課題を理解・分析し、提言する力を身につけます。
同時にこれからの社会に必要な新しい働き方とライフスタイルを学びます。
アカデミックスキルの実践として、社会課題（特に人口少子化社会における社会変動への対処、大学が求められる変革能力）を抽出して具体的な提言を行います。
＊「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。
つまり、就職力は就業応用力の一部もしくは発揮といえます。

【到達目標】
どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、を就業応用力として考え、具体的に以下の８つの力を修得します。
１．事実をベースに語る提言力　（事実と意見を峻別する）
２．３つの分析手法力　（時間・空間・実験分析）
３．知恵の生成プロセスを経た改革力（データから情報へ）
４．問題解決の視点力　（What? Why? How?）
５．構造分析の要素考察力
６．マクロとミクロの視点を統合力　（定量と定性調査力）
７．一次情報に触れる取材力　（但、百聞一見を盲信しない）
８．上記のスキルを統合・応用する力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。
ＰＢＬ（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。
履修人数によりますが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言（プレゼンテーション＆レポート）を行います。
公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。
授業では毎回提出のリアクションペーパーを、次回授業でフィードバックします。
＊受講者の学習進捗状況とゲスト講師の都合で、授業順が変更になることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アカデミックスキル 大学生で学ぶべきチカラ 大学を使い倒すために	８つのアカデミックスキルの具体例と演習 ・大学生の就職活動をアカデミックスキルで分析する
2	社会で通用する高度なコミュニケーションスキル 共感・質問・提案	応談スキル ・カウンセリング ・コーチング ・コンサルティング
3	法政大学と実践知 自由を生き抜くとはどういう意味か？ 組織を動かすには （ビデオ教材使用）	実践知の学問別理解 ・哲学的理解 ・心理学的理解 ・経営学的理解
4	ライフスタイル研究－１ 就社・就職・就場の時代 企業特殊能力から起業家へ ２１世紀の生き方へ	社会人講話と質疑応答 ・20代、30代、40代のキャリア形成 ・質問力 ・ファシリテーション力
5	ライフスタイル研究－２ パラレルキャリア 社会人の能力開発力 社会を楽しく生き抜くために	副業・兼業の現在 ・ワークライフバランス ・フリーランスの生き方 ・大学生の兼業とは
6	情報分析力グループワーク マスコミ情報の分析理解 ロジカルシンキング 情報に惑わされないために	新聞記事の分析 ・防衛費の分析 ・交通事故判例 ・サンクコストの理解
7	課題レポート＆プレゼンテーション－１ 学部固有の知見とは 法政と各学部のアイデンティティ	構造化レポートの書き方 ・因果律型エッセイ ・プレゼンテーションの構造 ・質疑応答手法
8	ライフスタイル研究－３ 社会課題解決のキャリアモデル 夢を形にして社会課題に取り組んだ人々	実践知偉人伝 ・官僚のケース ・社会企業家のケース ・世界に誇れる日本人
9	マーケティングスキルによる構造分析 グローバルビジネス企画 語学力と提案力 （ビデオ教材）	市場調査と企画力 ・定量定性調査の注意点 ・ブランド商品の販売例 ・卒論への応用
10	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－１ 広告代理店の事例 大学をプロデュースするには	社会人講話 ・広告業界の現状 ・傾聴スキル ・課題発見力
11	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－２ 学生目線が採用担当者を変える	社会人講話 ・企業人事部の課題 ・採用市場と戦略の分析 ・学生視点の問題提起
12	人生の３つのカーブ 文献・統計・フィールドワークのデータ	世代別の課題 ・Ｊ字カーブ（20代） ・M字カーブ（30代） ・X字カーブ（40代）
13	課題レポート＆プレゼンテーション－２ 法政大学の実践知とは	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評
14	授業総括 課題発表ふりかえり	アカデミックスキル確認 ・受講生講評・プレゼンテーション力 ・課題確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。
・統計学や社会調査の素養があると有効です。
＊春学期「就業応用力養成Ｉ」の履修が望ましいですが、

事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。
但し、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】
授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績配点
・受講態度（発言数・発言内容）　⇒３０点
・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー）⇒３０点
・グループワークでの貢献度　⇒２０点
・期末レポート　⇒２０点
総合評点が６０点以上を合格とします。
（欠席が３回以上の者は成績評価対象外）
＊遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】
他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、グループワークを重視します。
特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート＆プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートの書き方にも役立ったとのことです。

【学生が準備すべき機器他】
特にありませんが、学習支援システムを活用します。
レポート＆プレゼンがあるので、ワード、パワーポイントは必須スキルです。
大学用意のＰＣを理由すれば結構です。

【その他の重要事項】
法政大学のテーマである「実践知育成授業」を目指します。
＊ゲスト招聘者・企業は、先方の都合により変更になる場合があります。
＊全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。
楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。
▼実務経験のある教員による授業
担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline (in English)】
"Practical Wisdom for Freedom" Hosei University advocates which survives freedom is mastered at this session.
Everyone understands a social problem and learns new how to work and lifestyle necessary to future society through the practice which is analyzed and proposed.
I pick a social problem (the transformation ability from which handle to social change and a university in population low birthrate society are asked in particular) out and propose specifically as practice of an academic skills.
・ There are activities outside the class for each group. Quantitative surveys (questionnaire surveys) and qualitative surveys (company visit surveys) require a considerable amount of work.
・ It is effective if you have a background in statistics and social research.
* Even if you do not have prior knowledge, if you are willing to challenge high goals, we will do our best to guide you.
However, a strong will to collaborate with others and give consideration to classmates (contribution to teamwork) is essential. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
Grade score
・Attendance attitude (number of remarks /content of remarks) ⇒ 30 points
・ Every small report (reaction paper) ⇒ 30 points
・ Contribution in group work ⇒ 20 points
・ Term-end report ⇒ 20 points
A passing score of 60 or higher is considered as a pass.
(People who are absent 3 times or more are not eligible for grade evaluation)
* Strictly forbidden to be late, private language, and dozing will order you to leave.

図書館情報学概論Ⅱ

竹之内　明子

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：2024年度以前キャリアデザイン学部入学生はC7183を受講してください。配当年次が異なります。（2年次から受講可）
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目では、貴重な情報資源を長期間保存し多くの人がインターネットを通じて利用できるようにしたデジタルアーカイブをはじめとして、図書館が機能的に情報提供サービスを行うための仕組みについて学習します。現在、インターネットを通じて様々な情報資源が活用できるようになっています。司書はその利用法を熟知していなくてはなりません。授業では、コンピュータを利用して、OPAC、データベース、デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源を実際に比較検討して理解を深めていきます。授業内では司書としての情報リテラシーの涵養、すなわち、自ら調べまとめる力の育成を重視して、PCを利用して調べたことをまとめる演習を行います。

【到達目標】
この授業では、終了時に学生が以下の能力を身につけていることを目標とします。
1) 図書館に関わる各種の情報技術とその背景にある思想を理解する
2) 図書館業務に関わる情報検索、情報発信、情報管理の技術を身につける
3) 情報技術のこれまでの歴史や思想をふまえて、今後の図書館や図書館員のあるべき姿について論じることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
ネットワーク情報資源の種類や成り立ちなどを概観した後、コンピュータを利用して、OPAC、データベース、デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源を実際に比較検討して理解を深めていきます。授業では司書としての情報リテラシーの涵養、すなわち、自ら調べまとめる力の育成を重視して、PCを利用して調べたことを小レポートにまとめる形式で進めます。Hoppiで毎週、教材と課題をアップロードするので、期日までに取り組んで提出してください。課題のフィードバックは、授業資料及び授業内でのコメントを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	国立国会図書館「レファレンス協同データベース」（レファ協）の解説と事例のまとめ
第2回	検索検定	情報科学技術協会（INFOSTA）検索技術者検定の過去問に見る情報技術の論点
第3回	国際子ども図書館デジタルアーカイブ(1)	絵本ギャラリーの解説と事例のまとめ
第4回	国際子ども図書館デジタルアーカイブ(2)	電子展示会ほか
第5回	国立国会図書館デジタルアーカイブ(1)	国立国会図書館デジタルコレクション
第6回	国立国会図書館デジタルアーカイブ(2)	歴史的音源、WARPほか
第7回	公共図書館のデジタルアーカイブ	都道府県立・市町村立図書館が提供する地域資料のデジタルアーカイブ
第8回	海外のデジタルアーカイブ	Europeanaほか
第9回	OPACの比較	大学図書館と公共図書館
第10回	情報検索の基礎知識	論理演算と検索の評価指標
第11回	オンラインデータベースの種類と概要	地域資料の組織化 絵本の組織化 学校図書館における組織化
第12回	情報ユニバーサルデザイン(1)	Webアクセシビリティ
第13回	情報ユニバーサルデザイン(2)	カラーユニバーサルデザイン
第14回	情報ユニバーサルデザイン(3)	マルチメディアDAISY図書

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Hoppiで、毎週、教材と課題をアップロードするので、期日までに取り組んで提出してください。
本授業のための予習・復習の時間は各回2時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
評価の方法：毎回のまとめ課題70％（1回5点×14回），学期末レポート30%
評価の基準：
1) デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源の特徴を説明できるか
2) 特別な配慮が必要な利用者を想定した情報技術について説明できるか
3) レポート作成に必要な情報機器の操作スキルが身についているか

【学生の意見等からの気づき】
調査とまとめの作業を通じて知識形成を図ります。

【学生が準備すべき機器他】
PC教室で実施します。オンライン授業の回はPCを使用できる環境で取り組んでください。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当します。
中央大学図書館，東京大学駒場図書館，東海大学付属図書館での勤務経験から，図書館において必要とされる情報技術の知見を教授します。
本科目は対面授業を基本としながら、オンライン授業も取り入れるハイブリッド形式で実施予定です。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, students will learn about the mechanisms for the functional provision of information services by libraries, such as digital archives, which preserve valuable information resources for a long period of time and make them available to many people through the Internet.
【Learning Objectives】
In this course, students are expected to use computers to actually compare and examine network information resources such as OPACs, databases, and digital archives to deepen their understanding.
At the end of the course,students expected to acquire the information literacy as a librarian.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to spend
at least two hours for each class meeting.Everyweek on the Hoppi,students are required to complete weekly assignments.
【Grading Criteria】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
1) Weekly short reports:70％
2) Term-end report:30%

Grades will be decided based on the contents of weekly assignments.
3)Evaluation criteria
· Ability to explain the characteristics of network information resources such as digital archives.
·Ability to explain information technology assuming users with special needs.
· Ability to operate information devices in order to create reports.

図書館情報学概論Ⅱ

竹之内　明子

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：2024年度以前キャリアデザイン学部入学生はC7186を受講してください。配当年次が異なります。（2年次から受講可）

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目では、貴重な情報資源を長期間保存し多くの人がインターネットを通じて利用できるようにしたデジタルアーカイブをはじめとして、図書館が機能的に情報提供サービスを行うための仕組みについて学習します。現在、インターネットを通じて様々な情報資源が活用できるようになっています。司書はその利用法を熟知していなくてはなりません。授業では、コンピュータを利用して、OPAC、データベース、デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源を実際に比較検討して理解を深めていきます。授業内では司書としての情報リテラシーの涵養、すなわち、自ら調べまとめる力の育成を重視して、PCを利用して調べたことをまとめる演習を行います。

【到達目標】
この授業では、終了時に学生が以下の能力を身につけていることを目標とします。
1) 図書館に関わる各種の情報技術とその背景にある思想を理解する
2) 図書館業務に関わる情報検索、情報発信、情報管理の技術を身につける
3) 情報技術のこれまでの歴史や思想をふまえて、今後の図書館や図書館員のあるべき姿について論じることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
ネットワーク情報資源の種類や成り立ちなどを概観した後、コンピュータを利用して、OPAC、データベース、デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源を実際に比較検討して理解を深めていきます。授業では司書としての情報リテラシーの涵養、すなわち、自ら調べまとめる力の育成を重視して、PCを利用して調べたことを小レポートにまとめる形式で進めます。Hoppiで毎週、教材と課題をアップロードするので、期日までに取り組んで提出してください。課題のフィードバックは、授業資料及び授業内でのコメントを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	国立国会図書館「レファレンス協同データベース」（レファ協）の解説と事例のまとめ
第2回	検索検定	情報科学技術協会（INFOSTA）検索技術者検定の過去問に見る情報技術の論点
第3回	国際子ども図書館デジタルアーカイブ(1)	絵本ギャラリーの解説と事例のまとめ
第4回	国際子ども図書館デジタルアーカイブ(2)	電子展示会ほか
第5回	国立国会図書館デジタルアーカイブ(1)	国立国会図書館デジタルコレクション
第6回	国立国会図書館デジタルアーカイブ(2)	歴史的音源、WARPほか
第7回	公共図書館のデジタルアーカイブ	都道府県立・市町村立図書館が提供する地域資料のデジタルアーカイブ
第8回	海外のデジタルアーカイブ	Europeanaほか
第9回	OPACの比較	大学図書館と公共図書館
第10回	情報検索の基礎知識	論理演算と検索の評価指標
第11回	オンラインデータベースの種類と概要	地域資料の組織化 絵本の組織化 学校図書館における組織化
第12回	情報ユニバーサルデザイン(1)	Webアクセシビリティ
第13回	情報ユニバーサルデザイン(2)	カラーユニバーサルデザイン
第14回	情報ユニバーサルデザイン(3)	マルチメディアDAISY図書

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Hoppiで、毎週、教材と課題をアップロードするので、期日までに取り組んで提出してください。
本授業のための予習・復習の時間は各回2時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
評価の方法：毎回のまとめ課題70％（1回5点×14回），学期末レポート30%
評価の基準：
1) デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源の特徴を説明できるか
2) 特別な配慮が必要な利用者を想定した情報技術について説明できるか
3) レポート作成に必要な情報機器の操作スキルが身についているか

【学生の意見等からの気づき】
調査とまとめの作業を通じて知識形成を図ります。

【学生が準備すべき機器他】
PC教室で実施します。オンライン授業の回はPCを使用できる環境で取り組んでください。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当します。
中央大学図書館，東京大学駒場図書館，東海大学付属図書館での勤務経験から，図書館において必要とされる情報技術の知見を教授します。
本科目は対面授業を基本としながら、オンライン授業も取り入れるハイブリッド形式で実施予定です。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, students will learn about the mechanisms for the functional provision of information services by libraries, such as digital archives, which preserve valuable information resources for a long period of time and make them available to many people through the Internet.
【Learning Objectives】
In this course, students are expected to use computers to actually compare and examine network information resources such as OPACs, databases, and digital archives to deepen their understanding.
At the end of the course,students expected to acquire the information literacy as a librarian.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to spend
at least two hours for each class meeting.Everyweek on the Hoppi,students are required to complete weekly assignments.
【Grading Criteria】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
1) Weekly short reports:70％
2) Term-end report:30%

Grades will be decided based on the contents of weekly assignments.
3)Evaluation criteria
· Ability to explain the characteristics of network information resources such as digital archives.
·Ability to explain information technology assuming users with special needs.
· Ability to operate information devices in order to create reports.

図書館制度・経営論

竹之内　明子

単位：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館の法令と関連法規について解説して、主に公立図書館の基本設計から管理運営までの過程（プロセス）を、経営という観点から考察して解説します。多様なニーズに応え、それぞれのセクターにとって望ましいサービスを達成するには、図書館を開設する前の基本設計の時点から綿密に計画する必要があります。サービス対象となる利用者の特性を考えて、地域や母体組織（学校、大学、企業など）に相応した図書館像を考えます。図書館の財務管理や人事管理などをめぐる諸問題についても触れ、PFI、指定管理者制度、民間活力導入の問題が、今後の図書館経営に与える影響についても考察します。

【到達目標】
1)公立図書館の運営について説明ができる。
2)公立図書館に関する法令と関連動向について説明ができる。
3)PFI、指定管理者制度などの新たな公共機関の運営方法について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本とし、教科書と配布したレジュメに沿って授業を行います。課題の提出、フィードバックはHoppiiを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	図書館法の成り立ち(1)	図書館法の位置づけ
第2回	図書館法の成り立ち(2)	図書館法逐条解説、条例等その他の法規
第3回	図書館経営の意義と基本的な考え方(1)	組織の経営と経営原理、経営組織
第4回	図書館経営の意義と基本的な考え方(2)	経営資源の構成要素、業務プロセスと経営資源、経営のサイクル
第5回	人的資源と組織編成	図書館の人的資源、知識専門職としての司書、図書館の組織
第6回	物品の調達・管理	図書館に必要なモノ、物品の調達、物品の管理
第7回	図書館財務	図書館にとっての財務、図書館財務の実際と限界、新しい図書館財務の考え方
第8回	公共空間としての図書館	施設を活かす管理・運用、サービス空間の設計、書庫管理
第9回	ＰＲとマーケティング	ＰＲとは何か、マーケティングの必要性、図書館のマーケティング
第10回	経営戦略策定のための調査・分析と評価	戦略計画をつくる、戦略を支える調査と研究、経営評価
第11回	経営形態の選択と外部連携	図書館の経営環境の変化、公共図書館の経営形態、外部との連携
第12回	図書館情報政策の意義	図書館情報政策の位置づけ、地方自治体内の一組織としての図書館
第13回	各種図書館の役割と根拠法	国立国会図書館、大学図書館、学校図書館、専門図書館、関連する諸法律
第14回	まとめと確認	まとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【予習】各回の授業内容に対応するテキストの該当箇所を事前に通読しておくこと。
【復習】各回の授業内容を見直し、要点をまとめること。
本授業のための予習・復習の時間は各回2時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
柳与志夫著.『図書館制度・経営論』第3版（ライブラリー図書館情報学４）　学文社，2024

【参考書】
今まど子、小山憲司編著『図書館情報学基礎資料』第3版　樹村房，2020
その他授業内で適宜指示する

【成績評価の方法と基準】
評価の方法：毎回の授業への参加と口頭発表（50％）、提出課題（50％）
評価の基準：授業への2/3以上の出席を前提として、以下の観点から総合的に評価します。
1) 毎回の授業課題に積極的に取り組んだか
2) 公立図書館の運営について説明できるか
3) PFI、指定管理者制度などの新たな公共機関の運営方法について説明できるか

【学生の意見等からの気づき】
図書館に関する制度の活用と経営の工夫について具体的事例を多く紹介します。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当します。
中央大学図書館，東京大学駒場図書館，東海大学付属図書館での勤務経験から，情報資源組織法の知見を教授します。
本科目は対面授業を基本としながら、オンライン授業も取り入れるハイブリッド形式で実施予定です。詳細な日程については、開講時にあらためて説明します。

【Outline (in English)】
This course mainly introduces the process from the basic strategy of public libraries to their management and operation from the perspective of management with explanation of library laws and related laws.In order to respond the diverse needs of people, it is necessary to plan from the point of the basic strategy of the library before opening.We derive indices of library services from library statistics, consider the features of the users, and consider the image of libraries that are appropriate for the region and the parent organization (schools, universities, companies, etc.). We will also touch on various issues related to library financial management, personnel management, etc., and consider the impact of PFI, the designated manager system, and the introduction of private-sector vitality on library management in the future.

情報資源組織論

竹之内　明子

単位：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館の利用者が求める情報資源を的確に提供するには、情報資源の組織化（整理）が欠かせません。情報資源の組織化は、情報資源に関するデータを一定の方法に従って記述するための記述目録法（狭義の目録法）と、情報資源の内容（主題）を分析、表現するための主題目録法（分類法および件名法）に大別できます。この授業では、情報資源組織化の意義とその理論的背景に加え、目録法、分類法、件名法の基礎的事項、新しい目録法の動向までを学びます。

【到達目標】
この授業では、終了時に以下の能力を身につけていることを目標とします。
1) 情報資源組織化の意義と方法を理解する
2) 情報資源組織化のためのツール（種類と特徴）を理解する
3) 目録法、分類法、件名法の概略を理解する
4) 新しい目録法の動向を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
情報資源組織化に関する基礎知識として、『日本十進分類法』（NDC）を使用した分類法、『基本件名標目表』（BSH）を使用した件名法、『日本目録規則』（NCR）を使用した目録法の概略を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報資源組織化の目的	情報資源の組織化とは 情報資源組織化の意義
第2回	主題による組織化	主題とは何か，主題を明らかにする方法，知の分類と情報資源の分類
第3回	分類法	代表的な分類法 日本十進分類法（NDC）
第4回	件名法	シソーラスと件名標目表 基本件名標目表（BSH）
第5回	目録法	書誌記述 アクセスポイント 目録作業の実際
第6回	日本目録規則（NCR）	書誌階層 目録記入 目録作業の実際
第7回	新しい目録規則とその動向	FRBR NCR2018
第8回	書誌コントロール	国際的な書誌コントロールの展開，国立図書館と全国書誌
第9回	書誌情報の流通	集中目録作業 共同目録作業
第10回	装備と配架（排架）	登録、装備、配架
第11回	多様な情報資源の組織化	地域資料の組織化 絵本の組織化 学校図書館における組織化
第12回	Web OPAC	設計、リプレイス、バージョンアップ
第13回	ネットワーク情報資源の組織化	電子ジャーナル 機関リポジトリ メタデータ Webの組織化
第14回	まとめ	情報資源組織法の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Hoppiで、毎週、教材と課題をアップロードするので、期日までに取り組んで提出してください。
本授業のための予習・復習の時間は各回2時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
竹之内禎, 山口洋, 西田洋平編著『情報資源組織論』，東海大学出版部, 2020

【参考書】
竹之内禎ほか編著『情報資源組織演習：情報メディアへのアクセスの仕組みをつくる』，ミネルヴァ書房，2016

【成績評価の方法と基準】
評価の方法：毎回の授業への参加と提出課題（100％）
評価の基準：
1) 課題に積極的に取り組み、理解を深めているか
2) 情報資源組織化の意義と方法を説明できるか
3) 情報資源組織化のために使用されるツールについて説明できるか
4) 目録法、分類法、件名法の概略を説明できるか
5) 新しい目録法の動向について説明できるか

【学生の意見等からの気づき】
新しい専門用語の意味を覚え、図書を中心とした図書館の情報資源を管理するツールについて、演習につながる理解が得られるように解説していきます。前の回の知識が後の回の前提となり、演習科目の土台ともなるので、毎回の内容をしっかり覚えてください。わからない点は遠慮なく問い合わせてください。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当します。
中央大学図書館，東京大学駒場図書館，東海大学付属図書館での勤務経験から，情報資源組織法の知見を教授します。
本科目は対面授業を基本としながら、オンライン授業も取り入れるハイブリッド形式で実施予定です。

【Outline (in English)】
Organization of information resources is essential to accurately provide the information resources requested by library users. The organization of information resources can be roughly divided into descriptive cataloging methods for describing data related to information resources according to a fixed method, and taxonomy and subject matter methods for analyzing and expressing the contents of information resources. In this class, students will learn the usefulness of information resource organization and its theoretical background, as well as the basics of cataloging, taxonomy, subject matter, and trends in new cataloging methods.

情報資源組織演習

竹之内　明子

単位：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館が扱う図書を中心とした膨大な情報資源の中から目的にかなうものを素早く見つけ出し入手する仕組みを作ることを「情報資源の組織化」と言います。本演習では，『日本十進分類法』（NDC），『基本件名標目表』（BSH）、『日本目録規則』（NCR）という３つのルールブックを使用した情報資源組織化の方法を習得することを目指し，図書館の実際の資料を対象に，情報資源の主題分析と記号化，統制語彙の適用，目録データベースを作成するための書誌情報の記録方法等の演習を行います。

【到達目標】
1)『日本十進分類法』（NDC）を使用して，基本的な分類記号を与えることができる
2)『基本件名標目表』（BSH）を使用して，基本的な件名標目を与えることができる
3)『日本目録規則』（NCR）の概要を理解して，図書館が扱う情報資源に関する適切な目録データを作成することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
前期は『日本十進分類法』（NDC）、『基本件名標目表』（BSH）という二つのルールブックを使用して、図書資料に分類記号と件名標目を与える演習を行います。後期はこれに加えて『日本目録規則』（NCR）に基づき、図書を中心とした図書館情報資源に関する目録データの作成演習を行います。毎回、図書館の蔵書を探す課題を出す予定です。演習科目ですので、授業への参加と課題の提出を重視します。授業では、受講生が選んだ本の著者や内容もをシェアしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報資源組織化の全体像	分類法、件名法、目録法の概要 『日本十進分類法』（NDC）による分類法の基礎
第2回	『日本十進分類法』（NDC）の構成、NDC相関索引の使用法	第1分冊：本表・補助表編 第2分冊：相関索引・使用法編 相関索引と分類記号の対応、指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第3回	本表の省略記号、NDC1類（哲学・心理学・宗教）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第4回	地理区分（１）、NDC3類（社会科学）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第5回	地理区分（２）、NDC4類（自然科学・医学・薬学）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第6回	形式区分、NDC5類（技術・工学・生活科学）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第7回	海洋区分、NDC2類（歴史・伝記・地理）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第8回	地理区分（３）、NDC6類（農林水産業・商業・交通・観光・通信）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第9回	言語区分、NDC7類（芸術・スポーツ）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第10回	分類規程、NDC8類（言語）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第11回	図書記号、NDC9類（文学）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第12回	NDC0類（知識・情報・図書館・出版・博物館・ジャーナリズム）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第13回	『基本件名標目表』（BSH）の構成	BSHによる件名付与の方法、指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第14回	『基本件名標目表』（BSH）の使用法	BSHによる件名付与の方法、指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第15回	目録法の概要 分類法、件名法の復習	『日本目録規則』(NCR)による目録作成の基礎 『基本件名標目表』(BSH)による件名付与の復習 『日本十進分類法』(NDC)による分類記号付与の復習
第16回	書誌記述（１）	目録記入の基本型 タイトルと責任表示の記述 教科書演習問題の解説
第17回	書誌記述（２）	版表示、出版地、出版者、出版年の記述 教科書演習問題の解説
第18回	書誌記述（３）	形態に関する事項の記述 教科書演習問題の解説
第19回	書誌記述（４）	さまざまなケースの記述 教科書演習問題の解説
第20回	資料紹介と目録記入の作成（NDC0類・1類）	NDC0類・1類関連の資料紹介と目録記入の確認
第21回	資料紹介と目録記入の作成（NDC2類・3類）	NDC2類・3類関連の資料紹介と目録記入の確認
第22回	書誌記述（５）	ISBN 教科書演習問題の解説
第23回	資料紹介と目録記入の作成（NDC4類・5類）	NDC4類・5類関連の資料紹介と目録記入の確認
第24回	書誌記述（６）	注記の記述 教科書演習問題の解説
第25回	資料紹介と目録記入の作成（NDC6類・7類）	NDC6類・7類関連の資料紹介と目録記入の確認
第26回	資料紹介と目録記入の作成（NDC8類・9類類）	NDC8類・9類関連の資料紹介と目録記入の確認
第27回	資料紹介と目録記入の作成（指定テーマ）（１）	設定したテーマに関連する資料紹介と目録記入の確認
第28回	資料紹介と目録記入の作成（指定テーマ）（２）	設定したテーマに関連する資料紹介と目録記入の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【予習】各回の授業内容に対応するテキストの該当箇所を事前に通読しておくこと。宿題として指定されたテーマの図書を探し，書誌情報，著者・出版者情報，分類記号等を調べること。加えて，後期の授業では目録記入を作成すること。
【復習】各回の授業内容を見直し，要点をまとめること。授業でシェアした図書資料の情報を確認すること。
本授業のための予習・復習の時間は各回2時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
山本順一監修, 竹之内禎ほか編著,『情報資源組織演習:情報メディアへのアクセスの仕組みをつくる 第2版』, 講座・図書館情報学, ミネルヴァ書房, 2025

【参考書】
竹之内禎ほか編著,『情報資源組織論』, 東海大学出版部, 2020
本体価格2800円＋税
https://www.press.tokai.ac.jp/bookdetail.jsp?isbn_code=ISBN978-4-486-02188-9

【成績評価の方法と基準】
評価の方法：
　毎回の授業への参加と口頭発表（50％）、提出課題（50％）
評価の基準：
授業への2/3以上の出席を前提として、以下の観点から総合的に評価します。
1) 毎回の授業課題に積極的に取り組んだか
2) 分類法，件名法のスキルを習得したか
3) 図書館情報資源の目録データの作成スキルを修得したか

【学生の意見等からの気づき】
同じテーマで同じ図書館を探しても、受講生それぞれに選書の観点が異なり、新たな資料との出会いを楽しみながら学んでいます。

【学生が準備すべき機器他】
ボアソナードタワー１４階の工作室で授業を行います。教室内の棚にNDC、BSH、NCRがありますので、毎回の授業の始めに各自で借り受けて、授業終了時に返却するようにしてください。場所等は初回に指示します。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当します。
中央大学図書館，東京大学駒場図書館，東海大学付属図書館での勤務経験から，情報資源組織法の知見を教授します。
本科目は対面授業を基本としながら、オンライン授業も取り入れるハイブリッド形式で実施予定です。詳細な日程については、開講時にあらためて説明します。
「情報資源組織論」を履修済みであるか、同時履修していることが望ましいです。

【Outline (in English)】
Based on the theory and knowledge learned in information resource organization theory (document organization theory), students will actually create bibliographic data, subject analysis, and classification work.

情報資源組織演習

竹之内　明子

単位：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館が扱う図書を中心とした膨大な情報資源の中から目的にかなうものを素早く見つけ出し入手する仕組みを作ることを「情報資源の組織化」と言います。本演習では，『日本十進分類法』（NDC），『基本件名標目表』（BSH）、『日本目録規則』（NCR）という３つのルールブックを使用した情報資源組織化の方法を習得することを目指し，図書館の実際の資料を対象に，情報資源の主題分析と記号化，統制語彙の適用，目録データベースを作成するための書誌情報の記録方法等の演習を行います。

【到達目標】
1)『日本十進分類法』（NDC）を使用して，基本的な分類記号を与えることができる
2)『基本件名標目表』（BSH）を使用して，基本的な件名標目を与えることができる
3)『日本目録規則』（NCR）の概要を理解して，図書館が扱う情報資源に関する適切な目録データを作成することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
前期は『日本十進分類法』（NDC）、『基本件名標目表』（BSH）という二つのルールブックを使用して、図書資料に分類記号と件名標目を与える演習を行います。後期はこれに加えて『日本目録規則』（NCR）に基づき、図書を中心とした図書館情報資源に関する目録データの作成演習を行います。毎回、図書館の蔵書を探す課題を出す予定です。演習科目ですので、授業への参加と課題の提出を重視します。授業では、受講生が選んだ本の著者や内容もをシェアしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報資源組織化の全体像	分類法、件名法、目録法の概要 『日本十進分類法』（NDC）による分類法の基礎
第2回	『日本十進分類法』（NDC）の構成、NDC相関索引の使用法	第1分冊：本表・補助表編 第2分冊：相関索引・使用法編 相関索引と分類記号の対応、指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第3回	本表の省略記号、NDC1類（哲学・心理学・宗教）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第4回	地理区分（１）、NDC3類（社会科学）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第5回	地理区分（２）、NDC4類（自然科学・医学・薬学）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第6回	形式区分、NDC5類（技術・工学・生活科学）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第7回	海洋区分、NDC2類（歴史・伝記・地理）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第8回	地理区分（３）、NDC6類（農林水産業・商業・交通・観光・通信）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第9回	言語区分、NDC7類（芸術・スポーツ）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第10回	分類規程、NDC8類（言語）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第11回	図書記号、NDC9類（文学）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第12回	NDC0類（知識・情報・図書館・出版・博物館・ジャーナリズム）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第13回	『基本件名標目表』（BSH）の構成	BSHによる件名付与の方法、指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第14回	『基本件名標目表』（BSH）の使用法	BSHによる件名付与の方法、指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第15回	目録法の概要 分類法、件名法の復習	『日本目録規則』(NCR)による目録作成の基礎 『基本件名標目表』(BSH)による件名付与の復習 『日本十進分類法』(NDC)による分類記号付与の復習
第16回	書誌記述（１）	目録記入の基本型 タイトルと責任表示の記述 教科書演習問題の解説
第17回	書誌記述（２）	版表示、出版地、出版者、出版年の記述 教科書演習問題の解説
第18回	書誌記述（３）	形態に関する事項の記述 教科書演習問題の解説
第19回	書誌記述（４）	さまざまなケースの記述 教科書演習問題の解説
第20回	資料紹介と目録記入の作成（NDC0類・1類）	NDC0類・1類関連の資料紹介と目録記入の確認
第21回	資料紹介と目録記入の作成（NDC2類・3類）	NDC2類・3類関連の資料紹介と目録記入の確認
第22回	書誌記述（５）	ISBN 教科書演習問題の解説
第23回	資料紹介と目録記入の作成（NDC4類・5類）	NDC4類・5類関連の資料紹介と目録記入の確認
第24回	書誌記述（６）	注記の記述 教科書演習問題の解説
第25回	資料紹介と目録記入の作成（NDC6類・7類）	NDC6類・7類関連の資料紹介と目録記入の確認
第26回	資料紹介と目録記入の作成（NDC8類・9類類）	NDC8類・9類関連の資料紹介と目録記入の確認
第27回	資料紹介と目録記入の作成（指定テーマ）（１）	設定したテーマに関連する資料紹介と目録記入の確認
第28回	資料紹介と目録記入の作成（指定テーマ）（２）	設定したテーマに関連する資料紹介と目録記入の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【予習】各回の授業内容に対応するテキストの該当箇所を事前に通読しておくこと。宿題として指定されたテーマの図書を探し，書誌情報，著者・出版者情報，分類記号等を調べること。加えて，後期の授業では目録記入を作成すること。
【復習】各回の授業内容を見直し，要点をまとめること。授業でシェアした図書資料の情報を確認すること。
本授業のための予習・復習の時間は各回2時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
山本順一監修, 竹之内禎ほか編著,『情報資源組織演習:情報メディアへのアクセスの仕組みをつくる 第2版』, 講座・図書館情報学, ミネルヴァ書房, 2025

【参考書】
竹之内禎ほか編著,『情報資源組織論』, 東海大学出版部, 2020
本体価格2800円＋税
https://www.press.tokai.ac.jp/bookdetail.jsp?isbn_code=ISBN978-4-486-02188-9

【成績評価の方法と基準】
評価の方法：
　毎回の授業への参加と口頭発表（50％）、提出課題（50％）
評価の基準：
授業への2/3以上の出席を前提として、以下の観点から総合的に評価します。
1) 毎回の授業課題に積極的に取り組んだか
2) 分類法，件名法のスキルを習得したか
3) 図書館情報資源の目録データの作成スキルを修得したか

【学生の意見等からの気づき】
同じテーマで同じ図書館を探しても、受講生それぞれに選書の観点が異なり、新たな資料との出会いを楽しみながら学んでいます。

【学生が準備すべき機器他】
ボアソナードタワー１４階の工作室で授業を行います。教室内の棚にNDC、BSH、NCRがありますので、毎回の授業の始めに各自で借り受けて、授業終了時に返却するようにしてください。場所等は初回に指示します。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当します。
中央大学図書館，東京大学駒場図書館，東海大学付属図書館での勤務経験から，情報資源組織法の知見を教授します。
本科目は対面授業を基本としながら、オンライン授業も取り入れるハイブリッド形式で実施予定です。詳細な日程については、開講時にあらためて説明します。
「情報資源組織論」を履修済みであるか、同時履修していることが望ましいです。

【Outline (in English)】
Based on the theory and knowledge learned in information resource organization theory (document organization theory), students will actually create bibliographic data, subject analysis, and classification work.

情報資源組織演習

竹之内　明子

単位：4単位　｜　開講セメスター：年間授業/Yearly

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館が扱う図書を中心とした膨大な情報資源の中から目的にかなうものを素早く見つけ出し入手する仕組みを作ることを「情報資源の組織化」と言います。本演習では，『日本十進分類法』（NDC），『基本件名標目表』（BSH）、『日本目録規則』（NCR）という３つのルールブックを使用した情報資源組織化の方法を習得することを目指し，図書館の実際の資料を対象に，情報資源の主題分析と記号化，統制語彙の適用，目録データベースを作成するための書誌情報の記録方法等の演習を行います。

【到達目標】
1)『日本十進分類法』（NDC）を使用して，基本的な分類記号を与えることができる
2)『基本件名標目表』（BSH）を使用して，基本的な件名標目を与えることができる
3)『日本目録規則』（NCR）の概要を理解して，図書館が扱う情報資源に関する適切な目録データを作成することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
前期は『日本十進分類法』（NDC）、『基本件名標目表』（BSH）という二つのルールブックを使用して、図書資料に分類記号と件名標目を与える演習を行います。後期はこれに加えて『日本目録規則』（NCR）に基づき、図書を中心とした図書館情報資源に関する目録データの作成演習を行います。毎回、図書館の蔵書を探す課題を出す予定です。演習科目ですので、授業への参加と課題の提出を重視します。授業では、受講生が選んだ本の著者や内容もをシェアしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報資源組織化の全体像	分類法、件名法、目録法の概要 『日本十進分類法』（NDC）による分類法の基礎
第2回	『日本十進分類法』（NDC）の構成、NDC相関索引の使用法	第1分冊：本表・補助表編 第2分冊：相関索引・使用法編 相関索引と分類記号の対応、指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第3回	本表の省略記号、NDC1類（哲学・心理学・宗教）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第4回	地理区分（１）、NDC3類（社会科学）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第5回	地理区分（２）、NDC4類（自然科学・医学・薬学）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第6回	形式区分、NDC5類（技術・工学・生活科学）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第7回	海洋区分、NDC2類（歴史・伝記・地理）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第8回	地理区分（３）、NDC6類（農林水産業・商業・交通・観光・通信）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第9回	言語区分、NDC7類（芸術・スポーツ）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第10回	分類規程、NDC8類（言語）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第11回	図書記号、NDC9類（文学）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第12回	NDC0類（知識・情報・図書館・出版・博物館・ジャーナリズム）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第13回	『基本件名標目表』（BSH）の構成	BSHによる件名付与の方法、指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第14回	『基本件名標目表』（BSH）の使用法	BSHによる件名付与の方法、指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第15回	目録法の概要 分類法、件名法の復習	『日本目録規則』(NCR)による目録作成の基礎 『基本件名標目表』(BSH)による件名付与の復習 『日本十進分類法』(NDC)による分類記号付与の復習
第16回	書誌記述（１）	目録記入の基本型 タイトルと責任表示の記述 教科書演習問題の解説
第17回	書誌記述（２）	版表示、出版地、出版者、出版年の記述 教科書演習問題の解説
第18回	書誌記述（３）	形態に関する事項の記述 教科書演習問題の解説
第19回	書誌記述（４）	さまざまなケースの記述 教科書演習問題の解説
第20回	資料紹介と目録記入の作成（NDC0類・1類）	NDC0類・1類関連の資料紹介と目録記入の確認
第21回	資料紹介と目録記入の作成（NDC2類・3類）	NDC2類・3類関連の資料紹介と目録記入の確認
第22回	書誌記述（５）	ISBN 教科書演習問題の解説
第23回	資料紹介と目録記入の作成（NDC4類・5類）	NDC4類・5類関連の資料紹介と目録記入の確認
第24回	書誌記述（６）	注記の記述 教科書演習問題の解説
第25回	資料紹介と目録記入の作成（NDC6類・7類）	NDC6類・7類関連の資料紹介と目録記入の確認
第26回	資料紹介と目録記入の作成（NDC8類・9類類）	NDC8類・9類関連の資料紹介と目録記入の確認
第27回	資料紹介と目録記入の作成（指定テーマ）（１）	設定したテーマに関連する資料紹介と目録記入の確認
第28回	資料紹介と目録記入の作成（指定テーマ）（２）	設定したテーマに関連する資料紹介と目録記入の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【予習】各回の授業内容に対応するテキストの該当箇所を事前に通読しておくこと。宿題として指定されたテーマの図書を探し，書誌情報，著者・出版者情報，分類記号等を調べること。加えて，後期の授業では目録記入を作成すること。
【復習】各回の授業内容を見直し，要点をまとめること。授業でシェアした図書資料の情報を確認すること。
本授業のための予習・復習の時間は各回2時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
山本順一監修, 竹之内禎ほか編著,『情報資源組織演習:情報メディアへのアクセスの仕組みをつくる 第2版』, 講座・図書館情報学, ミネルヴァ書房, 2025

【参考書】
竹之内禎ほか編著,『情報資源組織論』, 東海大学出版部, 2020
本体価格2800円＋税
https://www.press.tokai.ac.jp/bookdetail.jsp?isbn_code=ISBN978-4-486-02188-9

【成績評価の方法と基準】
評価の方法：
　毎回の授業への参加と口頭発表（50％）、提出課題（50％）
評価の基準：
授業への2/3以上の出席を前提として、以下の観点から総合的に評価します。
1) 毎回の授業課題に積極的に取り組んだか
2) 分類法，件名法のスキルを習得したか
3) 図書館情報資源の目録データの作成スキルを修得したか

【学生の意見等からの気づき】
同じテーマで同じ図書館を探しても、受講生それぞれに選書の観点が異なり、新たな資料との出会いを楽しみながら学んでいます。

【学生が準備すべき機器他】
ボアソナードタワー１４階の工作室で授業を行います。教室内の棚にNDC、BSH、NCRがありますので、毎回の授業の始めに各自で借り受けて、授業終了時に返却するようにしてください。場所等は初回に指示します。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当します。
中央大学図書館，東京大学駒場図書館，東海大学付属図書館での勤務経験から，情報資源組織法の知見を教授します。
本科目は対面授業を基本としながら、オンライン授業も取り入れるハイブリッド形式で実施予定です。詳細な日程については、開講時にあらためて説明します。
「情報資源組織論」を履修済みであるか、同時履修していることが望ましいです。

【Outline (in English)】
Based on the theory and knowledge learned in information resource organization theory (document organization theory), students will actually create bibliographic data, subject analysis, and classification work.

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

キャリア体験事前指導（インターン）

展開科目

酒井　理

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水4/Wed.4　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリア体験事前指導は、キャリア体験（インターンシップ）の学習効果を高めるために行います。授業は、働くことに対する意識や考え方を深めることを目的としています。
具体的には、他の学生の考え方を知る、自分を知ることを狙いにディスカッション、グループワークをおこないます。また、職業、働くことを深く考えることにより、働くことに対する意識を高めます。また、普段あまり考えたことがない「働く」ということについて、様々な意見のなかで、今の自分の考えをまとめます。
さらに、就業体験に臨み、必要となる基礎知識や考え方を提供します。

【到達目標】
（実習準備期間）以下３つの項目を目標とします。
1.キャリアをデザインするという意味を学習しキャリア体験学習の意義を自覚すること。
2.実習先の概要を理解し、働く場である組織について自分なりの考え方を持つこと。
3.学生モードから社会人モードへの切り替えを図ること。
（実習中）以下３つの項目を目標とします。
1.自ら動くことの重要性を実感し実践すること。
2.実習先の人たちとの人間関係を構築すること。
3.新しい事象に対する感性を磨き、現場の状況の把握力を高め、同時に現場での問題発見能力とそれを解決する能力の重要性を実感すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
(授業の形態)
1.この授業は原則、夏休みに行う体験実習の事前準備を行うためのものです。体験実習が要件であり、秋学期の「キャリア体験学習」の単位取得をもって選択必修科目である体験型科目が修了となります。
2.インターン先は、教員がアドバイスを行いつつ自ら開拓します。
3.希望者の数が多い場合には選抜します。
4.実習先は多様です。実習期間についても開始・終了時期が異なります。通常6、7月に実習先にコンタクトし、原則実習は夏休みに行いますが、例外も多々ありますのであらかじめ了解しておいてください。
5.実習先の決定及び実習後の報告は個別の面談などでおこなっていきます。
（授業の進め方）
グループディスカッションを複数テーマで行います。テーマは授業計画に示してあります。クラスの人数によりますが、3-4名あるいは5-6名のグループに分かれてテーマについてディスカッションを行い、それをまとめて発表するというプロセスを繰り返しおこなっていきます。グループは頻繁に組み替えます。
グループディスカションを効果的に実施するために事前の準備としての課題、ディスカッション後の感想コメントを求めることがあります。書き方や内容に関するアドバイスについては、授業はじめあるいは終わりに全体に対してフィードバックを行います。
面談前の課題については、課題内容に基づいて個別の面談をおこなうことでフィードバックします。
内容によりオンライン、オンデマンドによる授業を適宜実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、実習先の概要	目的、キャリアデザインと体験学習、受講の心構え、社会人モード、実習先の概要、評価の仕方などの説明
第2回	グループワークⅠ（ディスカッション）	「インターンシップに取り組む問題意識（どこで働きたいか、どういう仕事をしたいか、なぜそう考えるのか）」をテーマにグループ討議
第3回	グループワークⅡ-0（課題）	グループワーク前の準備として「あなたは何のために働くのか？」について各自の考え方を整理してレポートとしてまとめる。
第4回	グループワークⅡ-1（ディスカッション）	「あなたは何のために働くのか？」をテーマにディスカッション
第5回	グループワークⅡ-2（プレゼンテーション）	「何のために働くのか？」をテーマについてプレゼンテーション
第6回	グループワークⅢ-0（課題）	グループワーク前の準備として「組織とは何のためにあるのか？組織で働くとき働く人に求められるものは何か？　」について各自の考え方を整理してレポートとしてまとめる。
第7回	グループワークⅢ-1（グループワーク：シェア）	個別面談でインターン開拓状況の把握と開拓方法のアドバイス ・「組織とは何のためにあるのか？ 組織で働くとき働く人に求められるものは何か？　」について個々の課題をグループでシェア ・ディスカッション
第8回	グループワークⅢ-2（グループワーク：ディスカッション）	・「組織とは何のためにあるのか？ 組織で働くとき働く人に求められるものは何か？　」についてディスカッション ・プレゼンテーションの準備
第9回	グループワークⅢ-3（プレゼンテーション）	「組織とは何のためにあるのか？組織で働くとき働く人に求められるものは何か？　」についてプレゼンテーション
第10回	社会人からみたキャリアデザイン	社会人ゲストを招いて、インターンの意味を中心に、キャリアデザイン、就職活動など幅広く話をお聞きします（リクルートキャリアあるいはマイナビからゲストに来ていただく予定）
第11回	業界・企業研究課題（事前調査）	関心のある業界を定めて情報を集めます
第12回	業界・企業研究課題シェア	調査研究した業界と企業研究をグループでシェアします。
第13回	インターン開拓状況のシェアとアドバイス	先行してインターンを開拓できている人からのアドバイスを全体でシェアします。 全体でシェアしてインターン開拓へのマインドセットを形成します
第14回	まとめ（全体シェア）	春学期事前指導の授業とおして学んだこと考えたことについて、各自振り返り全体でシェアします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習先の情報収集や実習先へのコンタクトをおこなってもらいます。先方に出向いて面接を受ける場合もあります。「組織とは何か」あるいは「実習先の業界」について調査研究を行ってもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに指定しません。

【参考書】
『ワークシフト』リンダ・グラットン、プレジデント社。
『ライフシフト』リンダ・グラットン、プレジデント社。
『何のために働くのか』北尾吉孝、致知出版社。
『仕事の報酬とは何か』田坂広志、PHP文庫。
『働くということ』ロナルドドーア、中公新書。
『働く意味とキャリア形成』谷内篤博、勁草書房。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業課題60%、業界・研究課題40%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
「事前指導」→「体験」→「体験学習」といった通年で授業の一貫性を持たせる流れを意識して授業を構成しています。

【その他の重要事項】
この授業は自主性・主体性を実社会で試し磨くためのものです。すべて自ら行動しないと始まらないような設計になっています。自分で電話をして受入先担当者とコンタクトをします。受入先では自分から行動しないと仕事は始まりません。現場ではさまざまな問題が発生する。それを直に肌で感じて反応する感性やそれらに適切に対処する力を身につけてほしいと思います。まわりのできごとに気がつき、気をくばり、気がきく人材をめざして欲しいと思います。実習でセンスを磨いてください。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜で履修を許可される必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline (in English)】
< Outline and objectives >
This is a lecture to enhance the learning effect of employment experience. The purpose is to deepen your awareness and thinking about work by discussing with others. Group work is done with the aim of knowing the way of thinking and values of others and getting used to collaborative work.
Through this lesson, you will increase your awareness of working by deeply thinking about your occupation and working. By knowing various opinions, you will be able to put together your ideas.
< Goal >
(Preparation period for practical training)
1. To learn the meaning of designing one's career and to be aware of the significance of career experience learning.
2. To understand the outline of the training site and to have one's own ideas about the organization where one will work.
3. To switch from student mode to working mode.
(During the practical training)
1. To realize and practice the importance of self-motivation.
2. To build human relations with the people at the training site.
3. To hone one's sensitivity to new phenomena, to improve one's grasp of the situation in the field, to realize the importance of the ability to identify and solve problems in the field.
< Work to be done outside of class >
The intern will be responsible for gathering information and contacting the client for practical training. In some cases, you may be asked to go to the client for an interview. Students will conduct research on "what is an organization" or "the industry in which the internship takes place". The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
< Grading criteria >
Each class report 60%
Company research report 40%

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

キャリア体験事前指導（インターン）

展開科目

松浦　民恵

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木3/Thu.3　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、企業や団体におけるキャリア体験（インターンシップ（ここでは５日間以上の就業体験を指します））に向けた受講生の皆さんの自主的な取り組みを支援することを通じて、キャリア体験の学習効果を高めることです。授業の内容は、インターンシップの意義や目的の理解、インターンシップ先の開拓・選定に向けた情報の共有、インターンシップに向けた事前準備から構成されます。

【到達目標】
（インターンシップ準備期間）
①インターンシップの意義や目的の理解
②インターンシップ先の開拓、選定に向けた実践的な情報の共有
③インターンシップのための事前準備
（インターンシップ中）
①インターンシップ先で好感を持って受け入れられること
②働くことを通じて、何らかの気付きを得ること（働く人の仕事に対する思い、働く上での自分の得手不得手や好き嫌い等）
③経験を振り返り、教訓にすること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、教員の指導のもとで、インターンシップ先を原則として自分自身で開拓します。インターンシップは５日以上、原則として夏休み期間中に体験して頂きます。
開拓に向けた支援（ヒントとなる情報の提供や選考に向けたアドバイス等）は惜しみませんので、この機会に是非、自分自身で未知の世界に踏み込み、新しい出会いや経験を獲得する醍醐味を味わってみてください。なお、応募人数等によっては選考する場合がありますので、予めご了承ください。
グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、ロールプレイング等を織り交ぜた実践的な参加型授業です。主体的、積極的な参加が必須条件だとお考え下さい。
受講の状況、ゲストのスケジュールに応じて、授業計画の一部を変更することがありますので、予めご了承ください。
課題発表の回それぞれに、良かった点、改善点などをフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	①授業の目的と概要、インターンシップとは ②自己紹介
第2回	インターンシップ先開拓経路に関する情報共有とグループワーク	①インターンサイト等に関する情報の共有と交換 ②インターンシップサイトのグループワーク発表
第3回	自己分析ワーク	①自己分析の実践 ②インターンシップ先開拓に向けたESの書き方
第4回	先輩の事例発表	先輩のインターンシップ開拓事例の紹介
第5回	開拓に向けたグループワーク①意見交換と資料作成	①インターンシップの目的、開拓の手段についての意見交換 ②自身の方針の決定 ③プレゼン資料の作成
第6回	開拓に向けたグループワーク②発表	①グループメンバーそれぞれの方針と、グループワークでの気付きや考察に関する発表 ②意見交換
第7回	新卒求人広告に関するグループワーク①説明とグループ分け	①グループワークの目的・概要の説明とグループ分け ②採用や求人広告に関する基礎知識の共有 ③開拓の進捗確認
第8回	新卒求人広告に関するグループワーク②東京都の中小企業の現状と課題	①新卒求人広告に関するグループワークの導入として、東京都の中小企業の現状と課題に関する情報を共有 ②東京都中小企業振興公社との意見交換
第9回	新卒求人広告に関するグループワーク③招聘企業１社目のリサーチ	①招聘企業１社目の求人広告に関するリサーチ ②気づきに関する資料の作成
第10回	新卒求人広告に関するグループワーク④招聘企業１社目とのディスカッション	①学生からの気づきの表明 ②招聘企業１社目による現状・課題の説明 ③今後の新卒求人広告に向けた意見交換
第11回	新卒求人広告に関するグループワーク⑤招聘企業２社目のリサーチ	①招聘企業２社目の求人広告に関するリサーチ ②気づきに関する資料の作成
第12回	新卒求人広告に関するグループワーク⑥招聘企業２社目とのディスカッション	①学生からの気づきの表明 ②招聘企業２社目による現状・課題の説明 ③今後の新卒求人広告に向けた意見交換
第13回	新卒求人広告に関するグループワークの振り返りとインターンシップに向けた留意点の共有	①グループワークの振り返り ②インターンシップに向けた留意点
第14回	インターンシップに向けた進捗確認と所信表明	①開拓の進捗確認 ②インターンシップに向けた所信表明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
インターンシップの候補となる企業・団体の情報収集や、企業・団体へのコンタクト・やりとりは受講生自身がそれぞれに行います。選考方法は、書類やエントリーシートのみの場合、面接が求められる場合など、企業・団体によってさまざまです。
加えて、授業におけるグループワークやディスカッション・発表のための準備が必要になります。特に新卒求人広告に関するグループワークは、招聘企業に関するリサーチや資料作成など、授業時間外でも準備が必要となります。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。授業の資料は当日投影しますが、基本的には紙での配布は行いません（手元でご覧になりたい方はノートパソコンなどで見られるようにご準備をお願いいたします）。資料ファイルは必要に応じて、学習支援システムにアップします。

【参考書】
授業のなかで必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業内での発言やリアクションペーパー、提出物の期限内提出、インターンシップ先の開拓の進め方等）、グループワークの発表（発表内容だけでなく、発表準備への関与の程度や内容を含む）により評価します。
平常点が50％、グループワークの発表が50％です。

【学生の意見等からの気づき】
参加型のスタイルは好評でしたので、今年度も続けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォン、パソコン等の情報機器。
原則として対面で実施しますが、ゲストの都合でオンライン対応が必要になる場合などについては、ご相談の上、オンラインで実施する場合があります。
発表等に必要な準備については、事前の指示に従って行ってください。

【その他の重要事項】
この授業は、キャリア体験（インターンシップ）の事前指導として位置づけられ、夏休み中のキャリア体験（インターンシップ）を受講条件として行う秋学期の「キャリア体験学習」の単位取得とセットで、選択必修科目である体験型科目の履修を完了したこととなります。
この授業では、インターンシップ先を自分自身で開拓することを前提に指導を行います。必要な情報やアドバイスの提供は教員が行い、困った時にも教員が相談に乗りますが、インターンシップ先の開拓や選定、最初のコンタクトからインターンシップ終了後のフォローまで、企業・団体とのやりとりは全てご自身で行って頂きます。インターンシップ終了後には、完了確認の書類をインターンシップ先から回収・提出いただきます。
相手の企業・団体等の事情によって、想定通りに物事が進まないケース、原則通りにいかないケースもあり得ますので、予めご了承ください。
企業・団体とのやりとりは、自分だけの問題ではなく、法政大学の学生としての信用・評価に影響することに留意してください。
教員の、民間企業の営業現場や人事部門等での実務経験を生かして、具体的なケースなどを紹介しながら、授業を行いたいと考えております。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜（原則として書類審査、必要な場合は面接）に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline (in English)】
＜Course outline＞
This course will support students'active preparation for their career experience (internship) and aid them to obtain better learning outcomes from the internship.
＜Learning Objectives＞
1.Learn the significance and purpose of internship
2.Gain practical knowledge about choosing companies to apply for internship
3.Preparation for internship
＜Learning activities outside of classroom＞
The standard time for preparatory study and review for this class is 2 hours each.
＜Grading Criteria /Policy＞
Grading will be decided based on in-class contribution(50%), and the group work presentation(50%).

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

キャリア体験学習（インターン）　展開科目

酒井　理

単位数：**2単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
曜日・時限：**水4/Wed.4**　｜　配当年次：**2〜4年**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、「学び」と「働く場での実践」をPDCAのサイクルを実践することで、自分だけの学びの方法の構築、自分だけの学びの体系を獲得することを目的とします。
授業の中では、就業体験を振り返ることで、自分自身を深く分析し、自らの仕事に対する考え方を身につけます。未来志向の考えを学び、キャリアをデザインする力を身につけます。

【到達目標】
インターン経験Doを振り返り、その経験を整理しながら改めて、Check:仕事とは何なのか、働くとはどういうことかについて、自分なりに整理することを目的にして、授業を進めます。CheckおよびActを一通り経験することで、実践を通した学びの方法をラフではありますが獲得してもらいたいと思います。またPDCAサイクルのうちに「学び」を取り入れていくことも重要です。経験を軸にした「学び」を行っていくことで、自分という人間を豊かにしていく方法論を身につけていくことが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
①グループで実践経験の振り返りを行います（レポートを書くための準備を行います）
②職場体験の振り返りを生かしつつ、PBL（Project Based learning）で外部の機関（企業や自治体）と連携して新たな実践課題に取り組みます
③レポートの執筆：インターンシップを通して何を学んだのか、どのような経験をしたのか、自分の成長、自分の課題をテーマに執筆する。
エッセイ課題に関しては、第一次提出されたものに書き直しや修正を指示しますので、何回かのやりとりのあと最終提出となります。
グループ課題に関しては、プレゼンテーション時にそれぞれの課題に対する講評フィードバックを授業時に行います。必要に応じて授業時に個別、チームごとにフィードバックをします。
エッセイについては、フィードバックを個別に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	実習の報告とオリエンテーション	①夏休みの実習の振り返り（ショートスピーチ） ②秋学期授業の進め方の説明
第2回	グループワークⅠ-1（インターンシップ振り返り）	グループでのキャリア体験の共有（各自から報告、他人の体験をノート）
第3回	グループワークⅠ-2（インターンシップ振り返り）	I-1のグループとは異なるメンバーでもう一度グループワークを行います。できるだけ多くの経験をきくことで多面的な視点を身につけます。
第4回	秋学期の課題説明とグループワーク	①新たなグループ分け ②プロジェクトの進め方について説明 ③グループで打ち合わせ
第5回	課題の提示	外部機関からの課題提示と概要説明
第6回	プロジェクト（現状分析）	課題を取り巻く現状を理解する
第7回	リサーチ実践（1）	各チームで必要な情報を集める
第8回	プロジェクト（問題探索）	現状把握から問題を探索して原因を特定する
第9回	プロジェクト（課題の設定）	特定された問題に対する課題を設定する
第10回	リサーチ実践（2）	プロジェクト先へのインタビュー、補足調査などでエビデンスを集める
第11回	プロジェクト（解決策の考案）	発表資料の作成、最終調整を行う。
第12回	プレ発表	最終発表前に事前にプレゼンテーションを行い改善フィードバックを行います。
第13回	最終発表	グループで取り組んだ課題のプレゼンテーションを行います。
第14回	1年間の自分のインターンシップ経験の振り返り	事前指導からインターンシップ、秋学期授業までのすべてのプロセスについて振り返りを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①授業時間外にインタビューや課題に時間をとられることがあります
②この機会にキャリアデザインとは何かをじっくり考える時間をもってください
③働く場として関心ある業界、企業についての情報を種々のメディアによりフォローしてください
④実習先とのコンタクトが継続される場合があります
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
『ワークシフト』リンダ・グラットン、プレジデント社。
『ライフシフト』リンダ・グラットン、プレジデント社。
『何のために働くのか』北尾吉孝、致知出版社。
『仕事の報酬とは何か』田坂広志、PHP文庫。
『働くということ』ロナルドドーア、中公新書。
『働く意味とキャリア形成』谷内篤博、勁草書房

【成績評価の方法と基準】
実習実績、実習関連書類の整備、平常点、報告書（エッセイ）、プロジェクト成果発表（チーム評価）により評価します。
実習実績（インターンの経験）は成績評価の前提条件です。実習関連書類の提出をもって実習をおこなったものと認めます。
そのうえで平常点、毎回の授業課題、報告書（レポート）、プロジェクト成果発表（チーム評価）により評価します。
平常点60%、プロジェクト成果発表（チーム評価）30%、報告書（エッセイ）10%です。
成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
インターンシップ経験をしっかりと振り返ることのできる授業構成にしました。

【その他の重要事項】
この授業は自主性・主体性を実社会で試し磨くためのものです。すべて自ら行動しないと始まらないような設計になっています。自分で電話をして受入先担当者とコンタクトをします。受入先では自分から行動しないと仕事は始まりません。現場ではさまざまな問題が発生する。それを直に肌で感じて反応する感性やそれらに適切に対処する力を身につけてほしいと思います。気がつき、気をくばり、気がきく人材、実習ではセンスを磨いて欲しいと思います。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は「キャリア体験事前指導」を習得（S〜C-)した場合のみ履修可能です。

【Outline (in English)】
[Course outline]
This lesson is aimed at building your own way of learning and acquiring your own learning system by practicing the PDCA cycle by "learning" and "practicing in the workplace".

In class, by reviewing the employment experience, you deeply analyze yourselves and learn how to think about your future work.
And you will learn future-oriented ideas and acquire the ability to design careers.
[Learning Objectives]
Reflecting on the internship experience, students will consider the meaning of work.
The goal of the class is to learn how to learn through practice by going through a series of experiences and reflections. The goal is for students to be able to control their own PDCA cycle of experiencing, reflecting, and improving their actions.
[Learning activities outside of classroom]
This class is likely to take up a lot of time outside of class time. You will need time to work on interviews and assignments. In addition to this, please allow time to think carefully about what career design is. Be sure to gather information about industries and companies on a regular basis. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
Evaluation will be based on practical training results, submission of practical training-related documents, level of class participation, and written reports. Practical experience is a prerequisite for evaluation. Submission of practical training-related documents is considered to be the completion of the practical training. 60%for class participation, 30%for class assignments, and 10%for written reports. Grading is based on a 100-point scale, with a score of 60 or higher being considered passing.

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

キャリア体験学習（インターン）　展開科目

松浦　民恵

単位数：**2単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
曜日・時限：**木3/Thu.3**　｜　配当年次：**2〜4年**
その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、夏休み中のキャリア体験（インターンシップ（ここでは、５日間以上の就業体験を指します））を振り返って教訓を整理し、これからのキャリアにつなげることです。授業の中での、振り返りのための個人発表やグループワーク、具体的な業界研究を通じて、これからのキャリアについて考えていただきます。

【到達目標】
以下を到達目標とします。
①キャリア体験を通じた気付きの分析
②キャリア体験から得られた教訓の整理
③キャリア体験を踏まえてこれからのキャリアについて考える

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、春学期の「キャリア体験事前指導」の修得と所定のインターンシップ体験が受講の条件となります。
前半はキャリア体験の振り返りを共有します。後半には、業界研究の一環として、ゲストの招聘（業界は仮のものです）を予定しています。
ゲストのスケジュールや受講の状況に応じて、授業計画の一部（対面からオンラインへの変更等）を変更することがありますので、予めご了承ください。
課題発表の回それぞれに、良かった点、改善点などをフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	①授業の進め方の説明 ②社会人基礎力調査 ③グループワークにおけるコンテンツの決定とグループ分け
第2回	グループワーク①〜コンテンツのフレームワーク決定	①グループワーク（フレームワークの決定と協力依頼事項の決定） ②協力依頼
第3回	キャリア体験の報告（IT業界等）	クラス全体に対する個人の報告と質疑〜IT業界等を中心に
第4回	キャリア体験の報告（金融・製造業等）	クラス全体に対する個人の報告と質疑〜金融・製造業等を中心に
第5回	キャリア体験の報告（サービス業等）	クラス全体に対する個人の報告と質疑〜サービス業等を中心に
第6回	キャリア体験の報告（社会貢献・福祉等）	クラス全体に対する個人の報告と質疑〜社会貢献・福祉業界等を中心に
第7回	グループワーク②〜コンテンツの作成	調査結果の分析と発表資料の作成
第8回	グループワーク③〜コンテンツの発表	各グループのコンテンツ発表と意見交換
第9回	業界研究のイントロダクション	①グループワークの振り返り ②業界研究の目的、方法、スケジュール等に関する解説 ③社会人基礎力のフィードバック
第10回	業界研究〜ショッピングセンター	企業の実務家の講話と質疑〜ショッピングセンターに関わるさまざまな業界
第11回	業界研究〜製造業（仮）	企業の実務家の講話と質疑〜製造業の現状と、自分自身のキャリア
第12回	課題発表	業界研究トライアルの発表〜サービス業
第13回	課題発表	業界研究トライアルの発表〜製造業その他
第14回	エッセイと社会人基礎力のフィードバック	①エッセイのフィードバック ②インターンシップ前後の社会人基礎力の変化に関するフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
インターンシップに関する個人報告、グループワークでのコンテンツ発表、業界研究トライアルの発表、エッセイの執筆等、複数の課題への対応が必要になります。
インターンシップ終了後も、インターンシップ先とのやりとりが継続する場合もあります。
本授業の準備・復習時間は、各２時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。授業の資料は必要に応じて学習支援システムにアップします。それ以外に参考資料がある場合は、適宜授業で配布します。

【参考書】
授業のなかで必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業内での発言やリアクションペーパー、提出物の期限内提出等）、発表（個人報告、グループワークでのコンテンツ発表、業界研究トライアルの発表）、エッセイにより評価します。
発表については、発表者や発表内容だけでなく、発表準備への関与の程度・内容も評価します。
平常点が20％、発表が50％、エッセイが30％です。

【学生の意見等からの気づき】
課題は大変だったけれど有益だったというご意見が多かったので、続けていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォン、パソコン等の情報機器。
原則として対面で実施しますが、ゲストの都合でオンライン対応が必要になる場合などについては、ご相談の上、オンラインで実施する場合があります。
発表等に必要な準備については、事前の指示に従って行ってください。

【その他の重要事項】
春学期のキャリア体験事前指導を修得し、所定のインターンシップを完了したことが本授業の受講条件となります（やむを得ない事情により完了の時期が若干ずれ込む場合は個別にご相談ください）。
授業におけるグループワークや発表には、主体的、積極的に参加してください。
キャリア体験中にトラブルや先方への迷惑行為等があった場合は、極力早く個別に報告してください。相談のうえ、必要な対応を行って頂きます。
インターンシップ関連の書類（先方の確認印が必要なものを含む）の提出をもってインターンシップの実施を確認しますので、必ず提出してください。

【キャリアデザイン学部より】
本科目は「キャリア体験事前指導」を修得(S〜C-)した場合のみ、履修可能です。

【Outline (in English)】
＜Course outline＞
In the class, students are asked to think about their future careers through individual presentations, group work, and specific industry research.

＜Learning Objectives＞
The purpose of this class is to review the career experiences (internships) during the summer vacation, organize the lessons, and lead to future careers.
＜Learning activities outside of classroom＞
The standard time for preparatory study and review for this class is 2 hours each.
＜Grading Criteria /Policy＞
Grading will be decided based on in-class contributions (20%), short reports (30%), and the group work presentations (50%).

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

職業能力ベーシックスキルⅠ【2022～2024年度入学者用】

展開科目

島村　泰子

単位数：**2単位**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
曜日・時限：**月3**/Mon.3　｜　配当年次：**2～4年**
備考（履修条件等）：**入学年度によって科目の認定区分が異なります。**

2022～2024年度入学者→選択必修科目（体験型）
2021年度以前入学者→展開科目（総合）

詳細は履修の手引きをご確認ください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
職業人・社会人としての基本となる力を習得します。ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナーを中心に、異なる年齢の方とのコミュニケーションスキルや社会に出るまでに身につけておくとよい基本的な行動・考え方など、今からすぐに役立つ知識やスキルの習得を目指します。
基本的なスキルとして、①ビジネスコミュニケーション（話す、聴く、文章で伝える、メールの基本）、②ビジネスマナー（挨拶、敬語、礼儀）、③人間関係の築き方（報連相、多様性を受け入れる、コンセンサス）、④プレゼンテーション等（個人の発表及びチーム発表）をとりあげます。
学生の理解力を向上させるためにも、意欲をもって参加して下さい。

【到達目標】
本授業の目標です。
①職業人・社会人のコミュニケーション、マナーなどビジネススキルの基本を理解し、実践できるようになる。
②主体性を持ち、自分で考え、伝え、行動すること、チームワークの重要性を習得し、行動できる。
③インターンシップ活動、就職活動に役立てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は、講義と実習（各自の確認、ペア・レビュー、チーム・レビュー）形式で進めます。実習やディスカッションを多く取り入れ、「わかる」だけでなく「できる」を目指します。
初対面の人とのコミュニケーションに慣れ、緊張感をもって実習に取り組めるように、演習単位にチーム編成をします。
フィードバック方法は、授業単位にリアクションペーパーや宿題を提出してもらい、よい内容やコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
演習実施では、チームでの発表や受講者間のコメントによる双方向評価を行い、受講者間での気づきや成長に繋げます。
全体発表の場では、授業内でフィードバックを行います。
実施方法は、原則「対面」で実施します。（状況に応じて月曜日３限目にZoomで「リアルタイム型・オンライン授業 」で行います。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 授業概要と受講上の注意受講動機の確認	受講概要（ビジネスコミュニケーションとマナー）と目標、授業の進め方、注意事項の説明。 受講動機の確認。
第2回	就活の実態の理解／社会人と学生の違い	就活関係のデータから現実を把握する。社会人と学生の違いを考える。さらに働く意義を考える。 ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナーが必要な理由について考えて理解を深める。
第3回	意思を伝える話し方／ビジネスで必要な敬語	話す目的を明確にし、相手の立場にたって伝わるように話すポイントを学ぶ。 言葉遣い・社会人として必要な敬語・間違いやすい敬語等を学ぶ。
第4回	社会人の基礎力／状況にあわせたききかた	「社会人基礎力」を使い現在の基礎力を測る。 ３つの「きく」。状況にあわせた使い方、聞き上手になるためのポイント、人間関係を築くききかたを学ぶ。
第5回	スピーチ実習	スピーチのポイントを学ぶ。 第2回～第4回の成果として1分間スピーチを実施する。
第6回	情報伝達と「報・連・相」	「報・連・相」の重要性を学ぶ。指示の受け方とメモの取り方。 情報の収集方法。事実と自分の考えを切り分けることの重要性を学ぶ。事例検討から中間報告の重要性を学ぶ。
第7回	読み手に伝わる文章／文章作成のポイント	わかりやすい文章の書き方について学ぶ。よくある間違いやビジネス文書とビジネスメールの書き方を学ぶ。 限られた時間で文章作成をして自分の特性を把握する。
第8回	挨拶と身だしなみと態度／訪問・電話のマナー	第一印象の重要性、挨拶のしかた、敬語の使い方など基本動作とＴＰＯに合わせた身だしなみについて学ぶ。 訪問時や電話のマナーのポイントを学び、体験する。
第9回	面接のマナー／面接実習入門	インターンシップや就職活動を意識して、面接のマナーを理解する。訪問時のマナー、挨拶の仕方、面接での対応を体験する。 自分の面接態度を動画撮影し、自分の特性を知る。
第10回	人間関係のマナー／アサーション	目上の人への対応、失敗したときの対応など、人間関係を築くためのマナーを学ぶ。また、事例を通して議論を行う。
第11回	コンセンサスとプレゼンテーション① テーマの理解	【グループワーク】 コンセンサスの重要性を理解する。テーマについて理解し、話し合いをする。コンセンサスを得る体験学習で理解を深める。
第12回	コンセンサスとプレゼンテーション② 資料作成・プレゼンテーションの準備	【グループワーク】 資料作成と発表の準備を行う。構成・話し方などポイントを理解して、話し合った結果をプレゼンテーションするための資料作成・発表の準備を行う。
第13回	コンセンサスとプレゼンテーション③ 全体発表	発表資料を元に、グループ別に発表する。 他のグループの結果から、コンセンサスのプロセスを理解する。プレゼンテーションをおこない、プレゼンテーション力を身につける。
第14回	試験・まとめと解説	授業全体のまとめと理解度を試験で確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要な資料をその都度配布します。

【参考書】
授業中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
単位取得に必要な出席回数は必ず出席してください。
①「出席票」での確認及びコメントを提出してもらいます。コメントの内容や習得度合30％
②受講態度（積極的に参加しているか・宿題の提示・発表内容等）50％、
③最終回に実施する理解度テスト20％
（注意事項）
授業に主体的に参加してください。個人のワークおよびチーム演習もありますので、
周囲に迷惑をかけないように積極的に取り組んでください。
苦手な内容がある場合にも自分で意識することで習得することができますので、諦めずに参加してください。
オンライン授業の取り組むマナーや通常の授業中もマナーについて注意しますので、遵守してください。
資料や連絡事項は、事前に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
企業のインターンシップ、人事・採用担当情報などを取り入れます。演習時間を増やし、受講者同士の相互理解も深めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインで実施する時には、情報機器（パソコン・ネットワーク環境）を整備してください。授業時間は演習が多いので、静かな場所で受講し、発言できる環境にしてください。オンラインで参加するマナー等についても説明しますので、遵守してください。

【その他の重要事項】
本授業は実務経験のある教員が担当します。情報通信企業でシステムエンジニア、人事・採用・教育の実務経験者であり、キャリアコンサルタントとして、放送業界、広告代理店、銀行、製造業、IT企業等に携わっています。それに伴い、業界の特徴や企業側に立った視点を含めて情報提供を行います。
本授業は、2022年度以降入学生（体験型科目として履修）・2021年度以前入学生（展開科目・総合として履修）ともに、授業に参加するには春学期授業開始前に申込みが必要です（選抜・抽選を行います）。必ず学部掲示板の案内を確認し、指示に従って下さい。

【Outline (in English)】
Basic career skills Ⅰ
【Course outline】
The purpose of this course is to acquire basic skills as a business person or a member of society. You can learn immediately useful knowledge and skills like basic manner and way of thinking you should get before you enter the world of work. Lesson contents are 1)Business Communication - speaking, listening, writing, and so on, 2)Business Manner, 3)Developing Personal Relationships, 4)Presentation Skills ,etc.
Students who want to take this course should take the first lesson.
【Learning Objectives】
The goal of this course are to be able to understand and practice the basic business skills of communication manner and so on, to understand the importance of teamwork and act accordingly, and to put this course to use in activities of internships and job search.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 20%、Short reports : 30%、in class contribution: 50%

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

職業能力ベーシックスキルⅡ【2022～2024年度入学者用】

展開科目

島村　泰子

単位数：**2単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
曜日・時限：**月3/Mon.3**　｜　配当年次：**2～4年**
備考（履修条件等）：**入学年度によって科目の認定区分が異なります。**

2022～2024年度入学者→選択必修科目（体験型）
2021年度以前入学者→展開科目（総合）

詳細は履修の手引きをご確認ください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、就職活動やインターンシップ活動に必要な実践的な職業能力を育むことです。【自己理解】【仕事理解】【OB・OG・社会人の講話】を通して、自分の社会人・職業人生をイメージし、インターンシップや就職活動に結びつけます。
【自己理解】では、職業興味検査や、自己の棚卸（強み・弱み）、アピールポイントを見出します。【仕事理解】では、興味がある業界や企業の実態を知り、インターンシップ活動や就職活動に役立てるための調査のポイントを学びます。【OB・OG・社会人の講話】では、就活方法や働く意義、女性の働き方など企業の実態を知り、社会人との交流を行います。
２年次から本格化するインターンシップや就職活動を「シミュレーション」として先取ることで、その経験に基づいて多様な人たちのキャリア形成を理解することも狙いです。

【到達目標】
本授業の目標です。
①業界・職種・企業の調査方法を習得できる。
②自己分析や職業興味検査を通して、自己理解を深めることができる。
③社会人の講話を通して、質問の仕方の習得と社会人の職業意識やキャリアの考え方を学ぶことができる。
④プレゼンテーション力や文章力を身につける。
⑤チームで協力する重要性や、主体的に行動できる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では、講義（情報提供）と実習形式で実施します。
【仕事理解】実習では、グループに分かれて、「就職希望先」を仮定し業界・企業についてキャリア・センターなどを利用し調査した結果を発表します。自分が興味がある業界や企業の理解が深まります。また聴講する学生は、他の業界理解を拡げることができます。
【自己理解】の実習は、キャリア・プランシート（自分の幼少期～大学生活、強み・弱み）を丁寧に作成することで、自己の能力や特徴を知る機会になります。
上記の実習を元に、企業に対する「志望動機」「履歴書・自己紹介書」の作成を行い、第13回の模擬面談を臨場感をもって体験できます。学生同士、学生と講師のコミュニケーションを密にするため少人数制の授業となります。
フィードバック方法は、宿題や授業中の発表や生産物に対してコメントを行います。全体発表の場では、授業内でフィードバックを行います。
実施方法は、原則「対面」で実施します。（状況に応じて月曜日３限目にZoomで「リアルタイム型・オンライン授業 」で行います。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 受講動機の確認	自己紹介・授業内容、身につけておくとよいスキルについて理解する。 就職活動までのキャリア・デザインの流れを理解する。
第2回	【仕事理解】 「業界・職種・企業」の情報収集方法 各業界の内容と求められる職業能力について	業界・職種・企業情報の集め方・調べ方を理解する。文系・理系に関わらずの活躍する職場や、多様な採用経路とその後のキャリア形成についても理解する。
第3回	【仕事理解】 希望の「業界・職種・企業」の検討	第2回の講義から、希望する業界を決めてグループに分かれる。研究する業界・企業の絞込みと計画を立てる。業界の企業間競争、人員構成や雇用区分について検討する。
第4回	自己理解と職業興味	職業興味検査を通して、自分の興味がある職業を確認する。職業の興味から業界を拡げて考えてみる。
第5回	【仕事理解】 キャリアセンター活用スキル	【グループワーク】 第3回に検討した企業の調査を開始する。キャリアセンター訪問して、キャリアセンターの利用方法を学ぶ。 また、個別に企業の情報を調べ分析する。
第6回	【仕事理解】 業界・企業の研究調査	【グループワーク】 「業界・職種・企業」の発表資料作成、プレゼン準備を行う
第7回	【仕事理解】 資料作成および発表準備	【グループワーク】継続 「業界・職種・企業」の発表資料作成、プレゼン準備を行う
第8回	「業界・職種・企業」研究の発表　NO1	役割分担を決めてプレゼンテーションを実施する。他グループの発表も参考にし、他業界に興味を拡げることや調査の視点を学ぶ。
第9回	「業界・職種・企業」研究の発表　NO2	役割分担を決めてプレゼンテーションを実施する。他グループの発表も参考にし、他業界に興味を拡げることや調査の視点を学ぶ。
第10回	【OB・OG・社会人の講話】	社会人から、企業ににおけるキャリアデザインの考え方を学び、自己の棚卸に活用する。
第11回	【自己理解】 キャリア・プランシートの完成と履歴書作成	【個人実習】 キャリアプランシートを元に自己理解を深める。模擬面談の準備を行う。 「履歴書・自己紹介書」を作成する。
第12回	志望動機作成 エントリーシート作成	「履歴書・自己紹介書」「志望動機」を用いて、模擬面接を体験する。面接する側、される側を体験することで、面接のポイントや書類の書き方の重要性を理解する。
第13回	模擬面接	「履歴書・自己紹介書」「志望動機」を用いて、模擬面接を体験する。面接する側、される側を体験することで、面接のポイントや書類の書き方の重要性を理解する。
第14回	試験・まとめ	社会人に必要な権利と義務の理解。授業全体のまとめと確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
自分が興味を持っているインターンシップ先や業界・企業の研究を行うので、授業外でも調査、話し合いの時間を取ってもらいます。
自己理解においては、内省することや文章化、模擬面談の準備の時間は各自必要になります。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要な資料をその都度配布します。

【参考書】
『就職四季報』（東洋経済新聞社）授業内で使用します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度とレポート40％、「業界・職種・企業」研究の発表および模擬面接40%、最後の確認試験20％を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
インターンシップや就職活動に活用できる情報の提供（社会人の講話）を行います。自己理解の時間を増やし、就職活動やインターンシップに必要な職業能力の実践を多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】
業界研究をする場合は各自PCの持参、またはキャリアセンターを利用してください。
グループに分かれて調査研究も実施しますので、Zoom等を活用できるようにしておいてください。

【その他の重要事項】
本授業は実務経験がある教員が担当します。情報通信企業でシステムエンジニア、人事・採用・教育の実務経験者であり、キャリアコンサルタルタントとして、放送業界、広告代理店、銀行、製造業、ＩＴ企業等に携わっています。業界の特徴や企業側の視点を含めて情報提供を行います。
また、本授業は受講生に主体的に行動してもらう授業です。
本授業は、2022年度以降入学生（体験型科目として履修）・2021年度以前入学生（展開科目・総合として履修）ともに、授業に参加するには春学期授業開始前に申込みが必要です（選抜・抽選を行います）。必ず学部掲示板の案内を確認し、指示に従って下さい。
2021年度以前入学生に限り「職業能力ベーシックスキルⅡ」からの受講も可能ですが、申込みは春学期授業開始前に行う必要がありますので、留意して下さい（秋学期になってからの申込みはできません）。

【Outline (in English)】
Basic career skills Ⅱ
【Course outline】
The purpose of this course is to develop practical career skills which are necessary for job-hunting and internship activity. Through activities like Self-understanding, Job-understanding, Lecture given by old boy, old girl and working person, you can get the images of your working-life or occupational life and link these images to job-hunting.
Self-understanding : vocational interest test, self-inventory(strong-point, weak-point), presentation of yourself.
Job-understanding : knowing actual condition of industry segments or businesses in which you are interested
Lecture given by old boy, old girl and working person : way of job-hunting, meaning of work, having a true figure of business like way of work of woman, having an interaction with working person
【Learning Objectives】
The goal of this course are to learn method of investigating business field, type of business and enterprises, to deepen self-understanding through self-analysis and vocational interest test, to learn line of questioning, vocational consciousness and philosophy of career, to get the ability of presentation and writing, and to be able to work together as a team and be proactive in doing.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports : 40%、Class attendance and attitude in class:40%、Term-end examination: 20%

COT100XE（計算基盤 / Computing technologies 100）

プログラミング言語C＋＋

彌冨　仁

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
C言語既修者を対象に、オブジェクト指向の要素を取り入れたC++言語の基礎を学び、与えられた問題を論理的な構造の中で捉え、プログラムを作成することで解決できるような素養を身につける。

【到達目標】
C言語からC++言語への重要な差分である、オブジェクト指向（カプセル化、ポリモーフィズム、継承）について理解する。またC言語と異なるプログラム作成方針、書式について理解し、それらを用いたC++プログラム作成能力を養成することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
C言語既修者を対象に、オブジェクト指向の概念の理解およびその他C言語との違いに絞った講義を行う。C言語そのものの内容は授業内では扱わないので必要に応じて各自復習すること。講義では、解説に引き続き演習時間を設けることでC++言語を体得できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	・講義概要 ・プログラム開発環境の整備 ・C++の概要　－オブジェクト指向プログラミングとは
第2回	クラスの概要	・クラスとは ・コンストラクタとデストラクタ ・クラス、構造体、共用体との関連 ・インライン関数
第3回	クラスの詳細	・オブジェクトの代入 ・関数とオブジェクト ・フレンド関数
第4回	配列・ポインタ	・オブジェクトの配列とポインタ ・thisポインタ ・newとdelete
第5回	参照	・参照（導入のメリット、ポインタとの違い他）
第6回	関数オーバーロード	・コンストラクタのオーバーロード ・コピーコンストラクタ ・デフォルト引数
第7回	演算子オーバーロード	・演算子オーバーロードの概要 ・2項演算子、関係演算子など各種演算子のオーバーロード
第8回	継承	・基本クラスのアクセス制御 ・被保護メンバ(protected)の使用 ・コンストラクタ、デストラクタ、継承 ・多重継承 ・仮想基本クラス
第9回	テンプレートと例外処理	・汎用関数と汎用クラス ・例外処理 ・new演算子の例外処理
第10回	標準テンプレートライブラリ (STL)	・標準テンプレートライブラリの概要 ・コンテナクラス ・vector, ,map, STLアルゴリズム、 ・stringクラス
第11回	仮想関数 (virtual function)	・派生クラスへのポインタ ・仮想関数の概要と詳細 ・ポリモーフィズム (polymorphism)の応用
第12回	実行型情報とキャスト演算子、名前空間、変換関数、その他の機能	・実行時型情報 ・各種キャスト ・名前空間 ・変換関数の作成 ・staticクラス、constメンバ関数
第13回	・初期化子リスト (C++11) ・オブジェクト指向プログラミングの例	・初期化子リストによるコンストラクタの書き方 ・オブジェクト指向のメリットを生かした実例
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】教科書および配られた配付資料を熟読し，次の授業で行う内容を確認すること。またC言語の範囲は授業で扱わないが、理解しているとみなして授業を進めるので必要に応じて復習を行うこと。また、演習問題なども自分で解いてみて、不明な箇所を明確にしておく。毎回出されたプログラムの課題を復習して、前回の授業内容を完全に理解すること

【テキスト（教科書）】
・「独習Ｃ＋＋　第4版」　ハーバート・シルト著　神林靖監修　翔泳社
（新版ではありません。注意してください。第4版を購入してください）
・授業時に配布される資料

【参考書】
・「ストラウストラップのプログラミング入門　－　C++によるプログラミングの原則と実践」Bjarne

【成績評価の方法と基準】
・毎回の課題 (40%)
・期末試験 (60%)

【学生の意見等からの気づき】
オブジェクト指向について理解を深められるよう努力する。
実践的な課題を行う
教科書の重要な部分を絞る他、教科書にない部分についても重要箇所は導入する。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン

【その他の重要事項】
国内外での企業実務経験、医学部や海外大学での研究経験を持つ教員が、その経験を活かし、研究や実務面での応用を踏まえた上で講義を行う。

【Outline (in English)】
【outline and objectives】
The prerequisite subject of this course is C language.
In this course, you will learn the basics of C++ language incorporating object-oriented programming. You will grasp the given problem in the logical structure and will acquire the ability to solve those problems.

【method】
For those who have already mastered C, this lecture will focus on understanding the concept of object-oriented programming and the differences between C++ and C. The lecture will include explanations followed by exercises.
Classes could be online. Changes in the lecture plan due to this shift will be announced on the learning support system.
【goal】
To understand object-oriented programming (encapsulation, polymorphism, inheritance), which is an important difference from C to C++. In addition, students will gain an understanding of program creation policies and formats that differ from the C language, and develop the ability to create C++ programs using these policies and formats.
【learning outside the classroom】
Complete the homework assigned almost every class. Read the textbook and handouts carefully to confirm what will be covered in the next class. Although the scope of the C language is not covered in the class, it is assumed that the students have a good understanding of it, so review the material as necessary.
【grading criteria】
Each assignment (40%)
Final exam (60%)

MEC100XB（機械工学 / Mechanical engineering 100）

機械要素

御法川　学

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、安全性、信頼性、経済性、作業効率などに優れた機械を設計できる能力を養うため、機械要素に関する、材料、設計原理、設計法、規則を網羅的に学び、ものづくりのスペシャリストを目指す機械系学生が、工業製品に対してどのような視点で取り組むべきかを習得する重要な基礎科目である。

【到達目標】
1. 基本的な機械要素の名称と機能を覚える
2. 設計計算の基本的な流れを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の進め方は対面授業を基本とし、必要な場合はオンライン授業も行う。
ねじ、リベット、溶接といった締結部品、軸、キー、軸受、軸継手、歯車、ベルトといった動力伝達部品、標準部品や工具など、機械要素に関する基本的知識、強度計算、用途などを、演習を多く取り入れて履修する。
提出された課題に対して適宜フィードバックを行うとともに、その後の講義内容に対して反映する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１章①	イントロダクション 機械設計エンジニアとしての心得	授業の進め方について 機械設計とは 機械工学との関係 機械設計の要点など 規格など
第2章	機械は何からできているか	材料の選択、材料の種類と名称、材料試験など
第３章①	壊れない機械を作る	応力とひずみ、弾性係数、曲げモーメント、トルク、断面係数など
第３章②	壊れない機械を作る	許容応力、安全率、寿命など
第4章	機械を組み立てる・仕上げる	寸法公差、はめ合い、幾何公差、表面粗さなど
第5章	部品をつなぐ	ねじ、ボルト、ナット、座金、ねじ工具、ねじの強度計算など
第6章	動力を伝達する（軸とトルク）	軸とトルク、ねじり（トルク）による軸径の計算など
第６章②	動力を伝達する（軸の曲げ、たわみ）	荷重による曲げモーメント、たわみによる軸径の計算、振れ回りによる危険速度など
第7章	動力を伝達する（歯車の種類と加工）	歯車の種類、モジュール、歯車の加工、かみ合い、歯車伝動装置の種類など
第７章②	動力を伝達する（歯車の強度）	歯車の強度、歯車伝動装置の設計演習など
第8章	動力を伝達する（クラッチ・ブレーキ）	クラッチの種類、ブレーキの種類、設計など
第9章	動力を伝達する（ベルト・チェーン伝動）	ベルト伝動の種類と設計、チェーン伝動の設計など
第10章	部品を滑らかに動かす	軸受の種類、軸受の選定、寿命計算、シールの種類など
第11章	力を受け止める、伝える	ばね、カム、リンク機構など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
毎回の授業を復習すること。
履修内容を実際の工業製品、機械部品に当てはめてみること。

【テキスト（教科書）】
講義資料を配布

【参考書】
吉沢武男著　「機械要素設計」裳華房

【成績評価の方法と基準】
評価方法：演習で20％、期末試験で80％
評価基準：達成目標を60％以上達成した学生を合格とする

【学生の意見等からの気づき】
資料の内容改善、課題の解答配布など改善する
Improving the content of materials and distributing answers to assignments will be done.

【学生が準備すべき機器他】
機械要素の構造の理解を深めるため、必要に応じてプロジェクターを用いる

【その他の重要事項】
国内外での企業実務経験、海外大学での研究経験を持つ教員が、その経験を活かし、研究や実務面での応用を踏まえた上で講義を行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This lecture is basic course for beginners in mechanical engineering to learn basic function and specification of machine elements that consist industrial machine with safety, reliability, economy, work efficiency and so on.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to achieve the following skills.
1. learn the names and functions of basic machine elements
2. understand the basic flow of design calculation.
【Learning activities outside of classroom】
The standard study time for this class is 4 hours, including preparation and review. Review of each lesson.
Review each lesson. Apply the course contents to actual industrial products and machine parts.
【Grading Criteria /Policy】
Evaluation method: 20%for exercises, 80%for final exam.
Evaluation criteria: Students who achieve 60%or more of the achievement target will pass.

MEC100XB（機械工学 / Mechanical engineering 100）

ＣＡＤ入門

御法川　学

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ものづくり現場においては機械製図の素養が必須であり、そのツールとして広く利用されている3次元CADの基本操作を学ぶことで、物体の形状把握や表現法を習得する。

【到達目標】
1. 機械系3次元CADの概念と基本操作を理解する。
2. 機械製図の基本的なルールを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は対面授業を基本とし、オンライン授業を併用する。
JIS機械製図の手法を説明しながら、簡単な機械要素の製図を通じて、物体表現の方法と3次元CADの特徴および基本的な操作法を実習によって習得する。提出された課題に対して適宜フィードバックを行うとともに、その後の授業内容に対してそれを反映する。
Classes will be based on face-to-face instruction, with online instruction.
While explaining the JIS mechanical drafting methods, students will learn how to represent objects, the features of 3D CAD, and basic operation methods through practical training by drafting simple machine elements. Feedback will be given on the submitted assignments as appropriate, and the feedback will be reflected in the content of subsequent classes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・JISによる機械製図法とCAD概説	ガイダンス 機械製図を行うための決まりごとであるJISの製図法・CADの種類・CADによる製図の考え方・ものづくりにおけるCADなどを概説する
第2回	CADの基本操作	CADソフトの起動終了、ファイル作成保存、基本的なコマンドなど
第3回	簡単な機械要素のCAD演習(1)パーツのモデリング	簡単な部品の作成
第4回	簡単な機械要素のCAD演習(2)アセンブリ	簡単な組立部品の作成
第5回	簡単な機械要素のCAD演習(2)アセンブリ	演習
第6回	簡単な機械要素のCAD演習(3)ドローイング	簡単な図面の作成
第7回	簡単な機械要素のCAD演習(3)ドローイング	演習
第8回	簡単な機械システムのCAD演習(1)回転フィーチャー・ロフト・スイープなど	CADの各種描画機能を学び、やや複雑な形状のモデリングを行う
第9回	簡単な機械システムのCAD演習(1)回転フィーチャー・ロフト・スイープなど	演習
第10回	簡単な機械システムのCAD演習(3)質量特性・設計テーブル	CADによる質量特性の計測や、バリエーションに対応したモデリングを行う
第11回	簡単な機械システムのCAD演習(3)質量特性・設計テーブル	演習
第12回	総合演習	修得したコマンドを活用した自由課題による作図
第13回	総合演習	演習
第14回	実力確認試験	修得したコマンドを用いて、与えられた部品を正しく作図できるか確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
課題として与えられた演習問題を自宅などで実施して提出する。

【テキスト（教科書）】
授業にて配布します。
Course materials will be distributed in class.

【参考書】
特に指定しません。
Not specified.

【成績評価の方法と基準】
評価方法：　以下の各項目を総合的に評価する。
１）各回に与えられた課題に対するモデリングの結果（60%）
２）自由課題（20%）
３）総合演習（20%）
とし、合計100%のうち60%以上を合格とする。
ただし、出席日数が60％に満たない学生は評価の対象外（E）とする。
評価基準：履修の手引きに記載されているS～Eまでの12段階評価に基づく。
Evaluation method: Students will be evaluated comprehensively based on their submission of CAD exercises and their performance in the comprehensive exercises.
Evaluation criteria: Students who achieve a total of 60%or more will pass the course.

【学生の意見等からの気づき】
演習などに対する指摘を適宜フィードバックします。
Feedback will be given as needed to point out problems with exercises, etc.

【学生が準備すべき機器他】
CADソフト「SolidWorks」（貸与PCにインストール済み）を使用します。
貸与ノートPC上で動作することを確認のこと。

【その他の重要事項】
国内外での企業実務経験、海外大学での研究経験を持つ教員が、その経験を活かし、研究や実務面での応用を踏まえた上で講義を行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course is to learn the basic operation of 3D CAD which is widely used at industrial field. Through the operation, recognition and expression of 3D shape of machine parts and assembly are acquired.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to achieve the following skills.

1. To understand the concept and basic operation of mechanical 3D CAD.
2. To understand the basic rules of mechanical drafting.
【Learning activities outside of classroom】
The standard study time for this class is 4 hours, including preparation and review. Students are expected to complete and submit the exercises given as assignments at home.
【Grading Criteria /Policy】
Evaluation method: Students will be evaluated comprehensively based on their submission of CAD exercises and their performance in the comprehensive exercises.
Evaluation criteria: Students who achieve a total of 60%or more will pass the course.

MEC200XB（機械工学 / Mechanical engineering 200）

機械プラクティス

御法川　学、加藤　友規

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1. 機械工具，用具の名称，正しい使用法を踏まえて，それらを使った機械作業を体験する．
2. 最新の工作機械による加工を経験し，現代の製造技術の先端に触れる．
いわゆる座学に対して，実際に体を動かして体験・経験する実学である．

【到達目標】
１．自分で行って，体験する実学の大切さ・面白さを経験する．
２．安全に機械を操作できる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の概要
　いくつかの機械装置について、設計、加工、組み立て、運転、分解に関する実習を行うことにより、理論と実際を体現したバランスのとれた機械技術者を育成する。適時，提出された課題に対してフィードバックを行う． 適時，実施内容に対してフィードバックを行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	総合演習	安全に関する導入教育
2	試験片の加工工作	旋盤による加工
3	試験片の加工工作	旋盤による加工
4	ステッピングモーターの基礎	モーターの原理と仕様
5	ステッピングモーターの基礎	モーターの運転と制御
6	小型エンジンの分解・組立	工具の使い方、小型エンジンの分解、ピストンなど部品の検査、課題の提示
7	小型エンジンの分解・組立	課題の提出、エンジンの組立、試運転
8	CAD/CAMツールを用いたNC加工	3D CADによるモデリング、Gコードの作成
9	CAD/CAMツールを用いたNC加工	NC加工機（Gコード）による切削
10	溶接	アーク溶接の原理，器具の使い方，安全教育
11	溶接	アーク溶接の実習
12	メカトロシステムの組立	3Dプリンタ等の組立
13	メカトロシステムの組立	3Dプリンタ等のプログラミング
14	総合演習	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
実習した内容で理解できなかったことは，インターネットなどで調査すること．

【テキスト（教科書）】
ガイダンスおよび各授業で配布する．

【参考書】
図書館などで調べること．

【成績評価の方法と基準】
評価方法：試験は行わない．平常点、作業態度、製品精度、作図の良否などにより各テーマ10点満点で評価、計40点満点（100%）。24点以上が合格である．
評価基準：60％以上が合格．

【学生の意見等からの気づき】
安全教育を行う．

【その他の重要事項】
国内外での企業実務経験、海外大学での研究経験を持つ教員が、その経験を活かし、研究や実務面での応用を踏まえた上で講義を行う．

【Outline (in English)】
This is a practical course focused on the followings,
1. Experience operation of fundamental machines and machine tools.
2. Experience industrial manufacturing by using process machine.
【Course outline】 This course provides a basic knowledge of machining. Students will be motivated by understanding the background of the machining. 【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to achieve the objectives of the class and to acquire preliminary understanding and knowledge for machining. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 The total score of 60 or more out of 100 is considered acceptable.

MEC200XB（機械工学 / Mechanical engineering 200）

機械製図

五嶋　裕之

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は，必修科目であり，実験科目に匹敵する重要な実験・実習科目です。

また，製造業に就職した場合は，他の科目を超える重要・必須の知識となります。

1. 与えられた機械要素の構成・機能やJIS規格を理解し，設計仕様に適した正しい形状および寸法を選ぶ。
2. 部品図，組立図の目的を理解し，関連する規格を詳しく調べ製図に反映する。
3. JIS機械製図規格に適合した製図法により製図する。
4. 図面がなぜ必要なのか，生産の現場や研究・開発の場面でどのように必要になるのか，なども学ぶ。
5. 機械製図では，手描きによって製図を行う。『今時，手描きなんて』と思うかも知れないが，手描きによる製図は，以下のような非常に重要な要素を含んでいる。

①手描きによる機械製図は，機械要素や部品の理解に役立つ。
②手描きによる製図はアイディアスケッチの能力を向上させ，新しいアイディアの創発に役立つ。（創造力が鍛えられる、脳トレ）
③2D CADや3D CADは非常に便利であるが，あくまでも道具・ツールである。
④2D CAD，3D CADソフトウェアは，定期的に使用方法が変更されたり，CADソフト自体が消滅することがあるが，手描きによる機械製図の技能は身に付ければ一生ものであり廃れない。
⑤企業に就職後に開発部隊や設計部隊に配属された場合，手描きによるスケッチは，開発アイディアや設計アイディアの創発に役立つ。
⑥企業に就職後，技術営業や営業に配属された場合，顧客との設計打ち合わせや顧客のニーズ抽出の場では手書き・手描きがメインとなり，CADソフトを使用した打ち合わせは困難。手描きスケッチが基本となり，手描きによってスピーディな打ち合わせが可能である。
⑦企業に就職後，技術営業や営業に配属された場合，⑥の内容を開発部隊や設計部隊へ報告する際に，手描きスケッチを交えた打ち合わせが行われることが多い。（CADよりも手描きの方がスピーディ，かつ，意図も伝わりやすい）
⑧出張などで新幹線や飛行機，自動車に乗車中にアイディアを思いついた時，手描きスケッチの方が素早く，アイディアを忘れないうちに記録できる。（『PC開いて →CADソフトを立ち上げ →マウスで描画』の流れではアイディアを忘れてしまう）
⑨絵を描くことや字を書くことが苦手な人でも，機械製図による演習で格段に上達する。（他の授業のレポート作成や日常生活でも役立つ）
⑩人によっては字も上手くなる。（就職活動の手書きの履歴書・志望動機などで，丁寧な字で書けるようなる）
⑪早稲田大学においても手描きの機械製図の重要性が再認識され，手描きによる機械製図の授業が重要視されている。千葉工業大学と芝浦工業大学では，4年間で6コマの機械製図を行なっている。明治大学に至っては，4年間で12コマもの手描きの機械製図を行っている。このことからも手描きによる製図の講義の重要性が分かる。
⑫設計，開発，研究，アイディアは，イメージ力である。
⑬イメージ力を鍛える最善の方法は，脳と身体と五感を連動させフルに働かせるのが良い。人間も動物である。脳と身体と五感は一体であり，連動している。
⑭マウスをクリックしながらCADモデリングする時代は終わりかけている。タッチパネルやタブレットPCの画面を，タッチペンや指先でデザインする時代に来ている。⇒もはや手描き。
⑮上記の⑭から更に進んだ近未来では，頭でイメージしたものがCADデータ化される時代が近付いている。⇒CADの操作スキルは不要になり，イメージ力が求められる。⇒手描きによるイメージ力の強化が重要。

【到達目標】

機械設計・製図に必要なJISの製図規則を中心に，機械設計の基礎および基本的な機械要素とその図面の表し方などを講義および実技を通じて習得する。さらに，複数の部品で構成された機械の製図に必要な部品図および組立図の役割を理解し，機械部品の製作・組立に関する製図法を習得し，機械設計に必要な基礎知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各授業の前半では機械設計・製図に必要なJISの製図規則および基本的な機械要素部品とその図面の表し方について講義を行う。後半では講義に関連する内容の理解を深めるために手描きによる製図を行う。理解度を上げるため，理解の状況や進捗に合わせて授業計画の順序や内容を柔軟に変更する。適時，課題の解説などや質疑応答などを通じてフィードバックを行なう。本授業の最終段階においては，複数の部品から構成された機械を題材として，各部品の規格を調べ，またそれを反映させた部品図および組立図の製図を行い，機械設計関連科目や企業における機械設計業務への展開へつなげる。

中間・期末テストは，授業内容の理解の状況や進捗に合わせ，適時実施する。

新型コロナウイルス等の感染症の状況や政府からの非常事態宣言および東京都からの緊急事態措置等が発出される状況となった場合は，春学期中，必要に応じてオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業内容や計画の変更，成績評価の方法などの変更等については，学習支援システムでその都度提示する。また，本授業の開始日も必要に応じて学習支援システム：Hoppii等から通知する。本シラバスに記載の全事項は新型コロナ禍前や非常事態宣言時以外を想定して作成されているため，オンライン式，対面式を含め具体的な授業の進め方などは，学習支援システム：Hoppii等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス，製図入門	本授業の実施方法の説明および資料の配布，製図入門
2	図形の表わし方1	投影図の表し方の講義および線の種類および用途についての実技
3	図形の表わし方2	断面図の表わし方の講義およびVブロックと部分投影図の作図
4	図形の表わし方3	図形の省略および特殊な図示法の講義および回転投影図と補助投影図に関する作図
5	寸法の記入法1	寸法記入の基本に関する講義およびプレート図面とパッキン押さえの製図
6	寸法の記入法2	穴やキー溝の寸法記入方法に関する講義およびコンロッドの製図
7	ねじの製図法	ねじに関する製図についての講義およびボルト，ナットの製図
8	サイズ公差（旧・寸法公差）およびはめあい1	サイズ公差（旧・寸法公差）に関する講義および回転軸の設計製図

9	サイズ公差（旧・寸法公差）およびはめあい2	サイズ公差（旧・寸法公差）とはめあいに関する講義および回転軸の設計製図
10	幾何公差および表面の粗さ	幾何公差と表面の粗さに関する講義および回転軸の設計製図
11	フランジ形固定軸継ぎ手1	材料記号に関する講義およびフランジ形固定軸継ぎ手の設計製図
12	フランジ形固定軸継ぎ手2	講義内容に関する中間テストおよびフランジ形固定軸継ぎ手の設計製図
13	フランジ形固定軸継ぎ手3	総合講義およびフランジ形固定軸継ぎ手の設計製図
14	総合課題の設計製図	講義内容に関する総合試験およびフランジ形固定軸継ぎ手の設計製図

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、6時間を標準とする】

各授業テーマに関する資料の予習・復習および課題図面の製図。

文科省の省令で定められている時間外の学習時間は，1単位あたり約22.5時間以上です。

つまり，学生は，1単位につき１週間あたり約1.6時間以上の授業時間外の学習をすることが義務付けられています。

【テキスト（教科書）】

教科書については，初回のガイダンスで説明する。

1. JISにもとづく 標準製図法(第15全訂版)，大西 清，オーム社，2019年初版，2,200円（税込）.
2. これだけは知っておきたい!機械設計製図の基本，米田完，太田祐介，青木岳史，講談社，2016年初版，2,420円（税込）.
3. 初心者のための機械製図 (第5版)，藤本元，御牧拓郎，植松育三，高谷芳明，松村恵理子，森北出版，2020年初版，2,750円（税込）.
4. 配布資料.

【参考書】

1. JISの各種規格とそれらの表.
2. 新・演習機械製図―グローバル化に対処する製図リテラシー，塚田忠夫，金田徹，数理工学社，2015年初版，2,200円（税込）.

【成績評価の方法と基準】

成績評価は，授業中の課題：80％，定期試験：20%の配分とする（ただし，中間・期末試験を実施しない場合は，課題・レポート：100％となる。中間・期末試験を実施しない場合は，実施の２週間前までにアナウンスする）。

1. 評価方法：各課題の図面の提出とその評価，および，中間テスト・期末テストの結果を総合的に判断し成績評価する。
2. 各課題の図面：全ての課題の提出が必須である。
3. 各課題の図面：課題の提出期限は厳守すること。
4. 実習科目である機械製図では，中間・期末テストの受験は必須である。
5. 評価基準：本科目において設定した達成目標の 60％未満は不合格となる。
6. 文部科学省の大学設置基準や大学からの通達から，欠席数４回以上は対象外：E評価となる。

本授業は，必修科目であり，実験科目に匹敵する重要な実験・実習科目です。

また，製造業に就職した場合は，他の科目を超える重要・必須の知識となります。

【学生の意見等からの気づき】

1. 理解の状況などに合わせて授業計画の順序や内容を柔軟に変更する。
2. 配布資料などの改善を行う。
3. 本授業では，機械製図の実習において学生同士の意見交換・教え合い，学生自らの主体的な学びを奨励する。

【学生が準備すべき機器他】

1. 機械製図用品セット　購入必須（法政大学理工学部機械工学科専用 製図セット：法政大学生協で販売）
2. ケント紙（授業の製図において必須であるため，必ず購入しておくこと。法政大学生協や画材店などで販売）

【その他の重要事項】

本授業は，「実務経験のある教員による授業」である。授業担当者の五嶋は，電機・機械メーカで計約８年間，ソフトウエアおよびハードウエアの開発・設計の実務経験がある。また，研究機関（機械振興協会技術研究所）において、27年間、国内・海外外企業との共同研究、技術指導、産学連携支援業務等を行ってきた。学生時代に手描き製図・設計と2D-CAD、その後3D-CAD/CAM/CAEに触れ，研究開発業務においても実際に使用してきた。

現在企業のグローバル化が急速に進展しており、日本語を母国語としないスタッフとの業務では、不慣れな外国語による認識の相違を防ぐため、機械製図による世界共通語である機械図面をベースとしたコミュニケーションが必須である。機械工学を学ぶ学生は、外国語（特に英語）とともに、機械製図のスキルをぜひとも身につけなければならない。

その他、授業にあたっての注意事項は下記である。

1. 各授業テーマに関する資料の予習・復習は必須である。また，課題図面の製図も必ず必要である。
2. 各課題の図面については，全ての課題提出を基本とする。
3. 大学は，社会に出て就職する前の最後の準備期間（学習期間）である。社会に飛び立つと，学生時代のような手厚い教育を受ける機会は激減する。そのため，ぜひ社会に出るまでに，自力で学習できる技術と能力，精神，考えを身に付けられると良いと考える。この能力は一生ものであり，社会に出た後，どの分野に進んだとしても必ず役に立つ。

【Outline (in English)】

【Course outline】

1. The students understand the composition /function of the given machine element and the JIS standard, and acquires the ability to select the correct shape and dimension suitable for the design specification.
2. The students should understand the purpose of the parts diagram and assembly drawing, and reflect the related standards in detail to reflect on the drawing.
3. The students draw on drawing methods complying with JIS mechanical drawing standards.
4. The students learn why the drawing is necessary, how the drawings are needed at production fields, R&D fields, and so on.
5. In this course, students draw the mechanical drawing by hand-drawing. Some students may think that "In nowadays, the hand-drawing is nonsense," however the hand-drawn mechanical drawings include many very important elements for all students.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to learn the mechanical drawing and to acquire a hand drawn mechanical drawing.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

1. Drawings for each assignment: Students are required to submit all assignments.
2. Submission of each assignment: Students are required to adhere to the deadline for submitting assignments.
3. Mid-term and final exams: Students are required to take the mid-term and final exams.
4. Attendance: Absences of 4 times or more are the failing grade.
5. The total score score of 60 or more out of 100 is considered acceptable, provided that above 1 to 4 are adhered to.

MEC200XB（機械工学 / Mechanical engineering 200）

機械製図

吉田　一朗

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は，必修科目であり，実験科目に匹敵する重要な実験・実習科目です。

また，製造業に就職した場合は，他の科目を超える重要・必須の知識となります。

1. 与えられた機械要素の構成・機能やJIS規格を理解し，設計仕様に適した正しい形状および寸法を選ぶ。
2. 部品図，組立図の目的を理解し，関連する規格を詳しく調べ製図に反映する。
3. JIS機械製図規格に適合した製図法により製図する。
4. 図面がなぜ必要なのか，生産の現場や研究・開発の場面でどのように必要になるのか，なども学ぶ。
5. 機械製図では，手描きによって製図を行う。『今時，手描きなんて』と思うかも知れないが，手描きによる製図は，以下のような非常に重要な要素を含んでいる。

①手描きによる機械製図は，機械要素や部品の理解に役立つ。
②手描きによる製図はアイディアスケッチの能力を向上させ，新しいアイディアの創発に役立つ。（創造力が鍛えられる、脳トレ）
③2D CADや3D CADは非常に便利であるが，あくまでも道具・ツールである。
④2D CAD，3D CADソフトウェアは，定期的に使用方法が変更されたり，CADソフト自体が消滅することがあるが，手描きによる機械製図の技能は身に付ければ一生ものであり廃れない。
⑤企業に就職後に開発部隊や設計部隊に配属された場合，手描きによるスケッチは，開発アイディアや設計アイディアの創発に役立つ。
⑥企業に就職後，技術営業や営業に配属された場合，顧客との設計打ち合わせや顧客のニーズ抽出の場では手書き・手描きがメインとなり，CADソフトを使用した打ち合わせは困難。手描きスケッチが基本となり，手描きによってスピーディな打ち合わせが可能である。
⑦企業に就職後，技術営業や営業に配属された場合，⑥の内容を開発部隊や設計部隊へ報告する際に，手描きスケッチを交えた打ち合わせが行われることが多い。（CADよりも手描きの方がスピーディ，かつ，意図も伝わりやすい）
⑧出張などで新幹線や飛行機，自動車に乗車中にアイディアを思いついた時，手描きスケッチの方が素早く，アイディアを忘れないうちに記録できる。（『PC開いて →CADソフトを立ち上げ →マウスで描画』の流れではアイディアを忘れてしまう）
⑨絵を描くことや字を書くことが苦手な人でも，機械製図による演習で格段に上達する。（他の授業のレポート作成や日常生活でも役立つ）
⑩人によっては字も上手くなる。（就職活動の手書きの履歴書・志望動機などで，丁寧な字で書けるようなる）
⑪早稲田大学においても手描きの機械製図の重要性が再認識され，手描きによる機械製図の授業が重要視されている。千葉工業大学と芝浦工業大学では，4年間で6コマの機械製図を行なっている。明治大学に至っては，4年間で12コマもの手描きの機械製図を行っている。このことからも手描きによる製図の講義の重要性が分かる。
⑫設計，開発，研究，アイディアは，イメージ力である。
⑬イメージ力を鍛える最善の方法は，脳と身体と五感を連動させフルに働かせるのが良い。人間も動物である。脳と身体と五感は一体であり，連動している。
⑭マウスをクリックしながらCADモデリングする時代は終わりかけている。タッチパネルやタブレットPCの画面を，タッチペンや指先でデザインする時代に来ている。⇒もはや手描き。
⑮上記の⑭から更に進んだ近未来では，頭でイメージしたものがCADデータ化される時代が近付いている。⇒ CADの操作スキルは不要になり，イメージ力が求められる。⇒手描きによるイメージ力の強化が重要。

【到達目標】

履修学生は，機械設計・製図に必要なJISの製図規則を中心に，機械設計の基礎および基本的な機械要素とその図面の表し方などを講義および実技を通じて習得することが到達目標である。さらに，複数の部品で構成された機械の製図に必要な部品図および組立図の役割を理解し，機械部品の製作・組立に関する製図法を習得し，機械設計に必要な基礎知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各授業の前半では機械設計・製図に必要なJISの製図規則および基本的な機械要素部品とその図面の表し方について講義を行う。後半では講義に関連する内容の理解を深めるために手描きによる製図を行う。理解度を上げるため，理解の状況や進捗に合わせて授業計画の順序や内容を柔軟に変更する。適時，課題の解説などや質疑応答などを通じてフィードバックを行なう。本授業の最終段階においては，複数の部品から構成された機械を題材として，各部品の規格を調べ，またそれを反映させた部品図および組立図の製図を行い，機械設計関連科目や企業における機械設計業務への展開へつなげる。

中間・期末テストは，授業内容の理解の状況や進捗に合わせ，適時実施する。

新型コロナウイルス等の感染症の状況や政府からの非常事態宣言および東京都からの緊急事態措置等が発出される状況となった場合は，春学期中，必要に応じてオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業内容や計画の変更，成績評価の方法などの変更等については，学習支援システムでその都度提示する。また，本授業の開始日も必要に応じて学習支援システム：Hoppii等から通知する。本シラバスに記載の全事項は新型コロナ禍前や非常事態宣言時以外を想定して作成されているため，オンライン式，対面式を含め具体的な授業の進め方などは，学習支援システム：Hoppii等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス，製図入門	本授業の実施方法の説明および資料の配布，製図入門
2	図形の表わし方1	投影図の表し方の講義および線の種類および用途についての実技
3	図形の表わし方2	断面図の表わし方の講義およびVブロックと部分投影図の作図
4	図形の表わし方3	図形の省略および特殊な図示法の講義および回転投影図と補助投影図に関する作図
5	寸法の記入法1	寸法記入の基本に関する講義およびプレート図面とパッキン押さえの製図
6	寸法の記入法2	穴やキー溝の寸法記入方法に関する講義およびコンロッドの製図
7	ねじの製図法	ねじに関する製図についての講義およびボルト，ナットの製図
8	サイズ公差（旧・寸法公差）およびはめあい1	サイズ公差（旧・寸法公差）に関する講義および回転軸の設計製図

9	サイズ公差（旧・寸法公差）およびはめあい2	サイズ公差（旧・寸法公差）とはめあいに関する講義および回転軸の設計製図
10	幾何公差および表面の粗さ	幾何公差と表面の粗さに関する講義および回転軸の設計製図
11	フランジ形固定軸継ぎ手1	材料記号に関する講義およびフランジ形固定軸継ぎ手の設計製図
12	フランジ形固定軸継ぎ手2	講義内容に関する中間テストおよびフランジ形固定軸継ぎ手の設計製図
13	フランジ形固定軸継ぎ手3	総合講義およびフランジ形固定軸継ぎ手の設計製図
14	総合課題の設計製図	講義内容に関する総合試験およびフランジ形固定軸継ぎ手の設計製図

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、6時間を標準とする】

各授業テーマに関する資料の予習・復習および課題図面の製図。

文科省の省令で定められている時間外の学習時間は，1単位あたり約22.5時間以上です。

つまり，学生は，1単位につき１週間あたり約1.6時間以上の授業時間外の学習をすることが義務付けられています。

【テキスト（教科書）】

教科書については，初回のガイダンスで説明する。

1. JISにもとづく 標準製図法(第15全訂版)，大西 清，オーム社，2019年初版，2,200円（税込）.
2. これだけは知っておきたい!機械設計製図の基本，米田完，太田祐介，青木岳史，講談社，2016年初版，2,420円（税込）.
3. 初心者のための機械製図 (第5版)，藤本元，御牧拓郎，植松育三，高谷芳明，松村恵理子，森北出版，2020年初版，2,750円（税込）.
4. 配布資料.

【参考書】

1. JISの各種規格とそれらの表.
2. 新・演習機械製図―グローバル化に対処する製図リテラシー，塚田忠夫，金田徹，数理工学社，2015年初版，2,200円（税込）.

【成績評価の方法と基準】

成績評価は，授業中の課題：80％，定期試験：20%の配分とする（ただし，中間・期末試験を実施しない場合は，課題・レポート：100％となる。中間・期末試験を実施しない場合は，実施の２週間前までにアナウンスする）。

1. 評価方法：各課題の図面の提出とその評価，および，中間テスト・期末テストの結果を総合的に判断し成績評価する。
2. 各課題の図面：全ての課題の提出が必須である。
3. 各課題の図面：課題の提出期限は厳守すること。
4. 実習科目である機械製図では，中間・期末テストの受験は必須である。
5. 評価基準：本科目において設定した達成目標の 60％未満は不合格となる。
6. 文部科学省の大学設置基準や大学からの通達から，欠席数４回以上は対象外：E評価となる。

本授業は，必修科目であり，実験科目に匹敵する重要な実験・実習科目です。

また，製造業に就職した場合は，他の科目を超える重要・必須の知識となります。

【学生の意見等からの気づき】

1. 理解の状況などに合わせて授業計画の順序や内容を柔軟に変更する。
2. 配布資料などの改善を行う。
3. 本授業では，機械製図の実習において学生同士の意見交換・教え合い，学生自らの主体的な学びを奨励する。

【学生が準備すべき機器他】

1. 機械製図用品セット　購入必須（法政大学理工学部機械工学科専用 製図セット：法政大学生協で販売）
2. ケント紙（授業の製図において必須であるため，必ず購入しておくこと。法政大学生協や画材店などで販売）

【その他の重要事項】

本授業は，「実務経験のある教員による授業」である。授業担当者の吉田一朗は，精密機器メーカで約８年間，実際に販売する製品の設計・製図および研究開発における超精密機器の設計・製図の実務経験がある。また，大学においては1990年代後半から手描き製図・設計とCAD/CAM/CAEに触れ，研究開発業務においても実際に使用してきた。

これらの経験を評価され，前職の精密機器メーカにおいて，設計・製図・CAD/CAM/CAEに関する社内教育訓練の企画・運営にも携わっていた経験がある。CAD/CAM/CAEのソフトウェアに関しては，CADSuperFX，AutoCAD，ANSYS，ANSYS DesignSpace，SolidEdge，NX，Unigraphics，Jw Cad，Pro/ENGINEER，ME10，SolidWorksなど横断的に多くの経験を有する。本シラバスに記載の内容および本講義で説明する内容は，これらの設計・製図・CAD/CAM/CAEの経験と考察に基づいたものである。

1. 各授業テーマに関する資料の予習・復習は必須である。また，課題図面の製図も必ず必要である。

2. 各課題の図面については，全ての課題提出を基本とする。

3. 大学は，社会に出て就職する前の最後の準備期間（学習期間）である。社会に飛び立つと，学生時代のような手厚い教育を受ける機会は激減する。そのため，ぜひ社会に出るまでに，自力で学習できる技術と能力，精神，考えを身に付けられると良いと考える。この能力は一生ものであり，社会に出た後，どの分野に進んだとしても必ず役に立つ。

【Outline (in English)】

【Course outline】

1. The students understand the composition /function of the given machine element and the JIS standard, and acquires the ability to select the correct shape and dimension suitable for the design specification.
2. The students should understand the purpose of the parts diagram and assembly drawing, and reflect the related standards in detail to reflect on the drawing.
3. The students draw on drawing methods complying with JIS mechanical drawing standards.
4. The students learn why the drawing is necessary, how the drawings are needed at production fields, R&D fields, and so on.
5. In this course, students draw the mechanical drawing by hand-drawing. Some students may think that "In nowadays, the hand-drawing is nonsense," but the hand-drawn mechanical drawings include many very important elements.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to learn the mechanical drawing and to acquire a hand drawn mechanical drawing.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

1. Drawings for each assignment: Students are required to submit all assignments.
2. Submission of each assignment: Students are required to adhere to the deadline for submitting assignments.
3. Mid-term and final exams: Students are required to take the mid-term and final exams.
4. Attendance: Absences of 4 times or more are the failing grade.
5. The total score score of 60 or more out of 100 is considered acceptable, provided that above 1 to 4 are adhered to.

MEC200XB（機械工学 / Mechanical engineering 200）

ＣＧと形状モデリング

御法川　学

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、3D CADによる機械製品のモデリングに関して、中級程度の操作を習得することにより、機械部品の形状や構造に関しての実践的な理解を深めることを目的とする。

【到達目標】
3D CAD（SolidWorks）の機能の大半を理解し、機械設計に対して十分に活用できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
3D CADを用いた演習、課題提出、デザインスタディなど。
提出された課題に対して適宜フィードバックを行うとともに、その後の授業内容に対してそれを反映する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	ガイダンス
2	2Dスケッチの応用 1	スケッチによる機構確認
3	2Dスケッチの応用 2	スケッチブロック リンク機構のモデリング
4	3Dスケッチ2	サーフェスの基本 自由課題①
5	3Dスケッチ 1	3Dスケッチの活用
6	3Dスケッチ 2	溶接コマンドなど
7	サーフェスの基本 1	サーフェスの各種コマンドの活用
8	サーフェスの基本 2	自転車のモデリング
9	2Dから3Dへ 1	2D CADの図面ファイルから3Dモデルを作成する
10	2Dから3Dへ 2	画像の三面図から3Dモデルを作成する
11	設計データの利用 1	歯車のモデリング
12	設計データの利用 2	風車のモデリング
13	プロジェクト演習 1	これまでの習得内容を元に、与えられた条件下でのモデリングを行う
14	プロジェクト演習 2	3Dモデルを実際の形にして、構造や強度などを検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
必要に応じて自習を行う。

【テキスト（教科書）】
授業にてリンク先など指示する。

【参考書】
授業にてリンク先など指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業の取り組み（30%）に加え、課題提出（40%）、プロジェクト(30%)で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
国内外での企業実務経験、海外大学での研究経験を持つ教員が、その経験を活かし、研究や実務面での応用を踏まえた上で講義を行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class aims to deepen the practical understanding of the shape and structure of mechanical parts by acquiring intermediate level operation regarding modeling of mechanical products by 3D CAD experience.
【Learning Objectives】
Understand most of the functions of 3D CAD (SolidWorks) and be able to fully utilize them for mechanical design.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to study for 4 hours outside of class time, including preparation and review for this class.
【Grading Criteria /Policy】
The overall evaluation will be based on class efforts (30%), assignment submission (40%), and project (30%).

MEC200XB（機械工学 / Mechanical engineering 200）

ＣＧと形状モデリング

高橋　玄行

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、3D CADによる機械製品のモデリングに関して、中級程度の操作を習得することにより、機械部品の形状や構造に関しての実践的な理解を深めることを目的とする。

【到達目標】
3D CAD（SolidWorks）の機能の大半を理解し、機械設計に対して十分に活用できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
3D CADを用いた演習、課題提出、デザインスタディなど。
提出された課題に対して適宜フィードバックを行うとともに、その後の授業内容に対してそれを反映する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	ガイダンス
2	2Dスケッチの応用 1	スケッチによる機構確認
3	2Dスケッチの応用 2	スケッチブロック リンク機構のモデリング
4	3Dスケッチ2	サーフェスの基本 自由課題①
5	3Dスケッチ 1	3Dスケッチの活用
6	3Dスケッチ 2	溶接コマンドなど
7	サーフェスの基本 1	サーフェスの各種コマンドの活用
8	サーフェスの基本 2	自転車のモデリング
9	2Dから3Dへ 1	2D CADの図面ファイルから3Dモデルを作成する
10	2Dから3Dへ 2	画像の三面図から3Dモデルを作成する
11	設計データの利用 1	歯車のモデリング
12	設計データの利用 2	風車のモデリング
13	プロジェクト演習 1	これまでの習得内容を元に、与えられた条件下でのモデリングを行う
14	プロジェクト演習 2	3Dモデルを実際の形にして、構造や強度などを検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
必要に応じて自習を行う。

【テキスト（教科書）】
授業にてリンク先など指示する。

【参考書】
授業にてリンク先など指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業の取り組み（30%）に加え、課題提出（40%）、プロジェクト(30%)で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
国内外での企業実務経験、海外大学での研究経験を持つ教員が、その経験を活かし、研究や実務面での応用を踏まえた上で講義を行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class aims to deepen the practical understanding of the shape and structure of mechanical parts by acquiring intermediate level operation regarding modeling of mechanical products by 3D CAD experience.
【Learning Objectives】
Understand most of the functions of 3D CAD (SolidWorks) and be able to fully utilize them for mechanical design.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to study for 4 hours outside of class time, including preparation and review for this class.
【Grading Criteria /Policy】
The overall evaluation will be based on class efforts (30%), assignment submission (40%), and project (30%).

MEC200XB（機械工学 / Mechanical engineering 200）

設計工学

吉田　一朗

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

設計・デザインは，機械工学の知識を活用して新しい製品を創りだす重要な活動であり，設計業務だけでなく研究部門や開発部門でも必須の内容である。また，設計工学の知識や考え方は，さらに進んだ高度な機械工学の知識を学ぶための方向付けやモチベーションとしても重要である。

設計工学は，機械系出身の技術者として企業に就職した際に必須となる内容でるため，早稲田大学においてはデザインエンジニアリングとして2コマ，明治大学は設計工学系として3コマ，芝浦工業大学に至っては設計工学系として6.5コマもの時間を割いている。これらの事実からも，設計工学の重要性が分かる。

このように重要な設計工学を1コマの時間で十分に学べるよう，多くの課題と効率的な学習効果を意図した授業方法で講義を実施する。

本科目では，履修学生は，基礎的な工学的知識を統合・総合して新しい製品を創造する設計活動の概要を理解する。加えて，様々な事例に基づいて機械設計の基本的な考え方と設計方法を理解することを目指す。

上記のような素養が身につけられれば，機械工学の王道系企業に限らず，電機メーカや食品メーカ，医薬品メーカ，建設業界などの企業への就職を目指しても魅力的な人材として高い評価を受けるだろう。

【到達目標】

履修学生は，設計／デザイン一般や機械設計／メカニカルデザインについての基礎的な知識を身につけることが到達目標である。

機械設計において考慮すべき各種事項（安全率，はめあい，表面粗さなど）の考え方も理解し，各種機械要素の設計計算法などについての実践力も身につけることを目指す。

現代の製品の設計に関する複雑な課題を理解するとともに，機械工学科で学ぶ様々な科目の重要性と必要性を理解することも必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

機械要素，力学をはじめとする機械工学科の各科目の知識は，設計工学を理解する上で非常に重要であり，また，設計を実際に行う上で不可欠である。

まず，基本的な機械の構造とその構成要素について学び，標準的な機械設計の手順を理解する。また，機械設計のプロセスや設計プロセスに対する工学的アプローチなどを学ぶことで，概念設計，詳細設計，生産設計，設計評価などの設計の各段階における基本的概念を理解する。加えて，基本事例により設計の手順を具体的に学び，設計工学の必要性を理解する。

理解の状況などに合わせて授業計画の順序や内容を柔軟に変更する。適時，課題の解説や質疑応答などを通じてフィードバックを行なう。また，授業の順序は指定した教科書のページ構成と異なるが，これは効率的な理解を図るため意図されたものである。

新型コロナウイルス等の感染症の状況や政府からの非常事態宣言および東京都からの緊急事態措置等が発出される状況となった場合は，秋学期中，必要に応じてオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業内容や計画の変更，成績評価の方法などの変更等については，学習支援システムでその都度提示する。また，本授業の開始日も必要に応じて学習支援システム：Hoppii等から通知する。本シラバスに記載の全事項は新型コロナ禍前や非常事態宣言時以外を想定して作成されているため，オンライン式，対面式を含め具体的な授業の進め方などは，学習支援システム：Hoppii等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	設計とは：機械設計のプロセス	機械設計のプロセスと設計の考え方について学ぶ。 また，他の科目も含めた授業の内容が，機械工学科卒業の機械系技術者として社会に出た際に，如何に重要で必要になるかも学ぶ。
2	材料：その種類と選択法	材料について，その種類と選択の考え方について学ぶ。
3	強度と剛性	強度と剛性について，および，その計算法について学ぶ。
4	軸の設計：機構と機能設計	軸の機構と機能設計について学ぶ。
5	軸の設計：機械要素	軸の機械要素について学ぶ。
6	軸受：種類，寿命設計	軸受の種類と寿命設計，寿命計算について学ぶ。
7	軸受：選定と活用の方法	軸受の選定方法と活用手法について学ぶ。
8	歯車：機構，機能設計	歯車の機構設計と機能設計について学ぶ。
9	歯車：強度設計	歯車の強度設計について学ぶ。
10	歯車：精度設計	歯車の精度設計について学ぶ。
11	復習および中間テスト	ここまでの復習および中間テスト。
12	慣性設計：駆動系	駆動系の慣性設計について学ぶ。
13	ねじ：種類，強度設計，および，幾何特性仕様：公差，はめあい	１．ねじの種類と強度設計について学ぶ。２．幾何特性仕様の一つである，公差とはめあいについて学ぶ。
14	幾何特性仕様：公差，はめあい，および，まとめと評価	１．幾何特性仕様の一つである，公差とはめあいについて学ぶ。 ２．まとめと評価，試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、3時間を標準とする】

機械要素，力学基礎，材料，機械製図，CAD入門などの機械工学に関する基礎科目を十分に復習し，身につけておくことが重要である。4年間で1コマという少ないコマ数でも確実に身につけるために，レポート課題を確実に行ってくることと，予習復習，受け身ではない自発的な学習意欲が必要である。

また，身近にある機械を観察し，その本質的機能は何か，なぜそのような構造になっているのか，もっと良い構造は考えられないか，などを考え，問題意識を持って授業に臨むことが期待される。

文科省の省令で定められている時間外の学習時間は，1単位あたり約22.5時間以上です。

つまり，学生は，1単位につき１週間あたり約1.6時間以上の授業時間外の学習をすることが義務付けられています。

【テキスト（教科書）】

機械工学入門シリーズ「機械設計入門（第4版）」，大西清，オーム社，2015年，2,530円（税込）.

※ この教科書は，研究活動や企業へ就職後に配属されるであろう設計・開発部署の業務においても非常に有効に使える書籍である。

また，授業の理解を支援する資料を，授業支援システムにアップロードして配布する。ただし，本資料は授業の理解を支援するだけの資料であって，教科書は必ず購入し予習・復習すること。試験では，この教科書に記載された内容を活用する問題も出題される。

【参考書】

機械設計に関する書籍はかなり多くあるが，下記は良書である。

1. 機械設計工学，村上 存，柳澤秀吉，コロナ社（2020），2,420円（税込）.

2. 機械設計：機械の要素とシステムの設計（第2版），吉本成香，下田博一，野口昭治，岩附信行，清水茂夫，オーム社（2017），3,740円（税込）.
3. 機械設計法，塚田忠夫，吉村靖夫，黒崎茂，柳下福蔵，森北出版（2015年），2,860円（税込）.
4. 機械設計・製図の基礎 [第2版]，塚田忠夫，数理工学社（2010年），2,156円（税込）.

【成績評価の方法と基準】

成績評価は，授業中の課題：50％，定期試験：50%の配分とする（ただし，中間テスト・期末試験を実施しない場合は，課題・レポート：100％となる。中間テスト・期末試験を実施しない場合は，実施の２週間前までにアナウンスする）。
1. 講義中に設定された課題の提出，中間テストおよび期末試験などを総合して成績をつける。
評価基準は，６０％以上が合格。

2. 課題の提出は必須である。また，課題の提出期限は厳守のこと。

3. 中間テストおよび期末試験の受験は必須であり，未受験者は評価対象外：Eとなる。

【学生の意見等からの気づき】

1. 設計の手法について説明を聞くだけでは，身について実践できる力は養えない。授業中の課題などを参考にして、身近な機械を設計する練習を行うことが有効である。

2. 学生からの意見の反映：『設計工学』は，社会に出てからも必ず使用し，また，難易度の高い授業科目である。このような科目であるが，ほぼ毎回のレポート課題を設定することで，非常に少ないコマ数でも効率的に学ぶことを可能にした。

3. 授業の理解を支援する資料を授業支援システムにアップロードすることで，いつでもどこでも設計工学を学ぶことを可能とした。

【学生が準備すべき機器他】

1. 必要に応じて貸与ノートPCや関数電卓が必要になる。
2. レポート・課題の提出用紙は，Ａ４もしくはＡ３のみを受け付ける。提出用紙サイズは，授業中に指示するので厳守のこと。

【その他の重要事項】

本授業は，「実務経験のある教員による授業」である。授業担当者の吉田一朗は，精密機器メーカで約８年間，実際に販売する製品の設計・見積り，および，研究開発における超精密機器の設計の実務経験がある。また，大学においては1990年代後半から設計とCAD/CAM/CAEを用いた力学解析に触れ，研究開発業務において実際に使用してきた。

これらの経験を評価され，前職の精密機器メーカにおいて，設計・CAD/CAM/CAE に関する社内教育の企画・運営にも携わっていた経験がある。CAD/CAM/CAE のソフトウェアに関しては，CADSuperFX，AutoCAD，ANSYS，ANSYS DesignSpace，SolidEdge，NX，Unigraphics，Jw Cad，Pro/ENGINEER，ME10，SolidWorks など横断的に多くの経験を有する。本シラバスに記載の内容および本講義で説明する内容は，これらの設計・CAD/CAM/CAE解析の経験と考察に基づいたものである。

1. 授業支援システムにアップロードした資料は，授業開始前までに必ず予習すること。この資料は，授業前までに印刷しておくことを強く推奨する。
2. レポート課題は，授業開始前までに必ず終わらせていること。
3. 上記の2点は厳守のこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lecture, the professor will make students understand the outline and activity of design engineering that integrate basic design engineering knowledge to create new products. In addition, the lecturer aim to let understand students basic concept and methodology of mechanical design by exercises based on various case examples.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand and acquire the basic concept and methodology of mechanical design.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

The total score of the two instructors is calculated, and a score of 60 or more out of 100 is considered acceptable. At least 2/3 attendance is required.

MEC300XB（機械工学 / Mechanical engineering 300）

機械設計製図

御法川　学

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1．簡単な機械装置の仕様を決定し、機械装置の製作や操業が可能な図面を作成できる能力を養う。
2．機械設計に関する技術、作業、品質、安全、コスト等の情報をまとめて設計に反映できる能力を養う。
3．3次元CADを用いて上記を満たすモデリング作業ができる能力を養う。

【到達目標】
上記の課題を通じて、授業等で習得した機械設計の応用的技術を体得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
簡単な機械装置に関する設計製図において、各自が異なる仕様の下での設計計算、作図を行う。計算、作図においてはExcelやSolidWorksを用い、PCベースの設計製図ツールを積極的に利用する。
提出された課題に対して適宜フィードバックを行うとともに、その後の授業内容に対してそれを反映する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方について説明し、対象とする機械装置について概説する。各自が設計する仕様（要目表）および関連資料を配布する。
第2回	簡単な機械装置の構想と計画	動力を持たない簡単な機械装置（豆ジャッキなど）について、ポンチ絵、構想図により設計構想を立て、仕様を決定する。
第3回	簡単な機械装置の設計計算	機械装置の仕様を満たす主要寸法を計算し、構想図に反映する。これらの結果を計算書としてまとめる。
第4回	簡単な機械装置の設計製図（3Dモデリング）	構想図をもとに、詳細な寸法を決め、3DCADによるモデリング（パーツ、アセンブリ）を行う。
第5回	簡単な機械装置の設計製図（2D図面作成）	3DCADモデルから、JIS機械製図に則った2D図面を作成し、部品図、組立図を完成させる。
第6回	やや複雑な機械装置の構想	動力を持つやや複雑な機械装置（渦巻ポンプなど）について、ポンチ絵、構想図により設計構想を立て、仕様を決定する。
第7回	やや複雑な機械装置の設計計算（軸系の強度計算）	機械装置の仕様を満たす動力伝達部分（軸系）の主要寸法を計算し、構想図に反映する。これらの結果を計算書としてまとめる。
第8回	やや複雑な機械装置の設計計算（性能を満たす要素形状、寸法の決定）	機械装置の仕様を満たす機能要素部分（羽根車、渦巻ケーシングなど）の主要寸法を計算し、構想図に反映する。これらの結果を計算書としてまとめる。
第9回	やや複雑な機械装置の設計製図（軸系の3Dモデリングと2D作図）	構想図および計算書をもとに軸系の3Dモデリングを行い、JIS機械製図に則った2D図面を作成する。
第10回	やや複雑な機械装置の設計製図（要素形状の3Dモデリング1/2）	構想図および計算書をもとに機能要素部品（羽根車など）の3Dモデリングを行う。
第11回	やや複雑な機械装置の設計製図（要素形状の3Dモデリング2/2）	構想図および計算書をもとに機能要素部品（ケーシングなど）の3Dモデリングを行う。
第12回	やや複雑な機械装置の設計製図（要素形状の2D作図）	3Dモデルをもとに、JIS機械製図に則った2D図面を作成する。
第13回	やや複雑な機械装置の設計製図（アセンブリと周辺部品構成）	軸系要素、機能要素の3Dモデルをアセンブリして組立図を完成させる。同時に詳細寸法の決定、関係部品の選定と作図を行う。
第14回	最終報告	組立図のチェック、計画、計算書、部品図の提出、プレゼンテーションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
貸与PC上で、Excel、SolidWorksが動作することを確認のこと。

【テキスト（教科書）】
授業で配布します。

【参考書】
平野重雄・関口相三, モノ創り＆ものづくり アイデアから具現化まで, コロナ社
JISハンドブック 機械要素
など

【成績評価の方法と基準】
評価方法：毎回の進捗確認（提出物）、中間報告、最終報告の内容によって総合的に評価する。
評価基準：上記の評価で60%以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
配布資料の修正・改善

【学生が準備すべき機器他】
貸与ノートPC、関数電卓など

【その他の重要事項】
国内外での企業実務経験、海外大学での研究経験を持つ教員が、その経験を活かし、研究や実務面での応用を踏まえた上で講義を行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course is aimed to acquire the following abilities,
1. To determine the specifications of simple mechanical devices and to create drawings that can produce and operate mechanical devices.
2. To reflect the information on technology related to machine design, work, quality, safety, cost etc together in design.
3. To perform modeling work using 3D CAD.
【Learning Objectives】

Through the above assignments, students will learn the applied techniques of machine design acquired in the class.
【Learning activities outside of classroom】
The standard study time for this class is 4 hours, including preparation and review. Students are required to confirm that Excel and SolidWorks can be used on the lending PC.
【Grading Criteria /Policy】
Evaluation method: Students will be evaluated comprehensively based on the content of each progress check (submissions), interim report, and final report.
Evaluation criteria: Students who have achieved 60%or more in the above evaluation will pass the course.

MEC300XB（機械工学 / Mechanical engineering 300）

音響工学

御法川　学

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
機械から発生する騒音を抑制し、快適な音環境を創出するには、音響に関する基礎の習得が必要である。本講義では、波動現象としての騒音の取扱い、聴覚の特性、騒音の発生、伝搬メカニズム、消音法、測定・評価手法などを概説する。また、騒音防止に関する公的資格試験を見据えた演習を取り入れて実践的理解を深める。

【到達目標】
基本的な騒音の諸量、発生メカニズム、低減法などを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では、機械力学、流体力学など基礎力学の工学的応用の一つとして、騒音防止を位置付けている。また、環境問題を解決する実践的な技術を習得することを目的とする。実務的な内容を多く含むので、演習問題を解くことによって理解を深めていく。継続的かつ積極的に授業に参加されたい。
提出された課題に対して適宜フィードバックを行うとともに、その後の授業内容に対してそれを反映する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	音響、騒音とは	物理現象としての音波の基礎量、聴覚を前提とした騒音の基礎量について学ぶ。音波は空気の振動であり、時間的に変化しているが、工学上は平均値を用いるのが都合がよく、振動波形の平均化と実効値について学ぶ。
第2回	騒音の基礎的な計算	騒音の大きさを示す基本的な量である、音のパワー、音の強さ、音圧およびそれらの表記法であるレベル（デシベルによる表記）について学び、簡単なデシベルの計算を演習する。
第3回	聴覚と騒音	騒音は物理現象である音波を聴覚の特性を含めた量で表現する。聴覚の特性（音の大きさや周波数の特性）を考慮した騒音レベル、マスキング効果などについて学ぶ。
第4回	騒音の諸量	環境騒音の大きさは時間的に一定ではないことが多いため、変動する騒音の時間平均の方法と評価量である時間率騒音レベル、透過騒音レベルなどについて学び、計算方法を理解する。
第5回	波動現象としての騒音(1)	騒音は工学上は平均値で表すことが多いが、騒音のシミュレーションを精密に行うためには、時間・空間上の音波の表記が必要である。音響伝搬の基礎式である波動方程式の導出を通じて、音圧、粒子速度、音速、インピーダンスといった音響伝搬における基礎量を理解する。
第6回	波動現象としての騒音(2)	1次元の波動方程式の導出を行った後、簡単な条件である1次元ダクト（平面音波）内を伝搬する波動方程式を理論的に解き、境界条件とともに波動の振る舞いを理解する。また、境界条件によって生じる定在波の様子、音波の反射率、透過率について理解する。
第7回	騒音の測定と分析(1)	実用上必須となる騒音レベルの測定および測定器について学ぶ。騒音計の規格、構造と機能について学ぶ。また、騒音測定に使用されるマイクロホンの種類と原理についても学ぶ。
第8回	総合演習	第1回から第7回の内容を演習によって確認する。音圧レベル、騒音レベルの計算、時間率騒音レベル・透過騒音レベルの算出等について、演習により理解を深める。
第9回	騒音の測定と分析(2)	騒音の原因特定や静音化対策において必須である周波数分析法について学ぶ。代表的な分析法であるFFT分析およびオクターブ分析について、原理と特徴について理解する。また、これらの周波数分析器の原理と特性について学ぶ。
第10回	具体的な騒音対策(1)	最も一般的な騒音の伝搬系対策としての吸音、遮音による方法を学ぶ。防音塀による遮音、室内吸音による防音、壁における透過損失について、原理と計算方法を学ぶ。
第11回	具体的な騒音対策(2)	産業機器やプラント機器におけるダクト内を伝搬する騒音の対策法として、消音器による騒音低減法について学ぶ。吸音型、共鳴型、膨張型、アクティブ型などの各種消音法について紹介し、簡単な消音器の設計を通じて理解を深める。
第12回	具体的な騒音対策(3)	ファンやタービンといった流体機械や、自動車や新幹線、航空機といった交通機械から発生する空力騒音（風切り音）について学ぶ。Lighthillの空力音響理論、発生音の特性などについて、簡単な計算を通じて見積もりを行う。また、空力騒音の静音化手法についても触れる。

第13回	快適な音環境を目指して	騒音は聴覚の主観量であり、心理的に適切な評価および対策が有効である。規格化されている騒音の音質評価量であるラウドネスおよびこれをベースにした各種の音質評価指標について触れ、音質向上設計の実例を紹介しながら、これからの騒音対策について展望する。
第14回	総合演習	第9回から第13回の内容について、演習問題により理解を深める。総合透過損失の計算、吸音型消音器の設計、空力騒音の卓越周波数の計算などを行う。また、定期試験に向けた総合的な復習を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
音の計算には対数を多用しますので、対数計算を復習のこと。

【テキスト（教科書）】
鈴木昭次ほか著：「機械音響工学」、コロナ社

【参考書】
特にありません

【成績評価の方法と基準】
評価方法：　各演習の回答内容（50％）、期末試験（50％）で評価する。
評価基準：　本科目において設定した達成目標を60％以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
演習を踏まえ、より実践的な理解を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】
国内外での企業実務経験、海外大学での研究経験を持つ教員が、その経験を活かし、研究や実務面での応用を踏まえた上で講義を行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In order to suppress the noise generated from the machine and to create a comfortable sound environment, it is necessary to master the fundamentals related to sound. In this lecture, we will outline the handling of noise as a wave phenomenon, characteristics of auditory sense, occurrence of noise, propagation mechanism, silencing method, measurement and evaluation method. In addition, practical understanding will be deepened by incorporating exercises aiming at public qualification examination on noise prevention.
【Learning Objectives】
Understand basic noise quantities, generation mechanisms, and reduction methods.
【Learning activities outside of classroom】
The standard study time for this class is 4 hours, including preparation and review. Review of logarithmic calculations, as logarithms are often used in sound calculations.
【Grading Criteria /Policy】
Evaluation method: Each exercise will be evaluated based on the answers (50%) and the final exam (50%).
Evaluation criteria: Students who have achieved 60%or more of the objectives set for this course will pass the course.

MEC300XB（機械工学 / Mechanical engineering 300）

宇宙工学

矢野　創

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国境を越えて地球環境と直接繋がった現代社会は、宇宙技術の恩恵なしに一日も営むことができません。今世紀の成長産業の一つとして、いまや国内外で、スタートアップを含む多彩な企業・団体が、宇宙に新規参入しています。また宇宙そのものや生命の起源や原理など、今世紀最大の謎を探求する舞台も、宇宙空間に広がっています。本科目ではこうした世界的潮流を背景に、宇宙の基礎概念および現代社会における宇宙工学の役割を学ぶとともに、宇宙工学全体を俯瞰した基礎知識を理解し、実際の宇宙プロジェクトを立案・実施するうえで必要な基本的技能を身に着けることを目的とします。

【到達目標】
（1）宇宙の基礎概念および現代社会における宇宙工学の役割について理解します。
（2）宇宙工学全般に関する基礎知識を習得します。
（3） 宇宙輸送系、人工衛星、宇宙探査機の基本原理およびシステム構成を理解し、実際の宇宙プロジェクトを立案・実施するうえで必要な基本的技能を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業の概要】
本科目では、「新時代の教養」として宇宙の基礎概念および現代社会における宇宙工学の役割を学ぶとともに、学術と実学の両面から宇宙を目指す学生諸君には入門編となる「宇宙工学全体を俯瞰した基礎知識」と、他業務にも応用可能な実践知としての「宇宙プロジェクトの立案・運用に必要な基本的技能」について習得します。
【授業の進め方】
対面授業を前提にしているものの、新型コロナウィルス再流行等の非常事態時にも対応するために、全１４回の授業をオンラインのみでも受講可能なようにシラバスを設計しています。そのため、対面授業、オンラインのみのいずれの場合でも、授業支援システムを毎回活用できることを前提とします。
【授業方法】
＞講義：　基本的に対面授業を想定します。ただし感染症対策等で自宅待機が必要な学生が大学当局経由で事前に申告された場合は、Zoomによる同時双方向通信を行えるように準備します。なお諸般の事情により受講方式が対面からオンラインに変更される場合や、補講日が追加で設定される場合は、授業支援システムの「お知らせ」欄にて告知しますので、各自で必ずご確認ください。
＞　初回アンケート：　初回には受講者全体の宇宙工学の基礎知識に関する理解度を確認する「アンケート」を、必ずお答えください。これは今後の授業レベルを適切に計ることを目的とし、各人の成績には反映しません。
＞　クイズ：　第二回以降の講義では毎回授業支援システムを使って「クイズ」を一問、「テスト/アンケート」ページにて実施しますので、必ず答えてください。クイズとは、主に前回授業の内容の振り返りを目的とした、選択肢形式の短い質問のことです。
＞課題や考課等については、「授業時間外の学習」と「その他の重要事項」にてご確認ください。また上記の授業の進め方は、今後変更される可能性がありますので、授業時や「お知らせ」欄の告知にご注意ください。
＞ なお提出された課題、学習等の実施内容、 質疑応答によって出された受講生の疑問については、適宜フィードバックを行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概論 (2025/09/18)	（1）本授業の構成・オンライン授業の進め方・成績考課、 （2）基礎知識調査、 （3）宇宙とは何か、 （4）宇宙開発史、 （5）宇宙業界における世界のステークホルダー [参考図書：　宇宙工学概論]
2	宇宙工学と現代社会 (2025/09/25)	（1）現代の宇宙産業、 （2）日常生活を支える宇宙技術、 （3）社会の問題解決に貢献する宇宙技術 [参考図書：　宇宙工学概論、エンジニアリングの神髄、宇宙探査機はるかなる旅路へ、宇宙工学入門II]
3	宇宙工学と宇宙科学・探査 (2025/10/02)	（1）宇宙探査の世界潮流、 （2）現代宇宙科学の最先端、 （3）宇宙科学・探査を実現するための宇宙工学の挑戦 [参考図書：　星のかけらを採りにいく、宇宙探査機はるかなる旅路へ、宇宙工学入門II]
4	システム工学(2025/10/09)	（1）システムの概念と特性、 （2）システム工学の目的とアプローチ、 （3）モデリングと解析、 （4）部分最適と全体最適、 （5）システム思考の応用 [参考図書：　基礎システム工学]
5	軌道力学 (2025/10/16)	（1）三次元空間での軌道要素とケプラー方程式、 （2）二体問題・制限三体問題・摂動・軌道遷移、 （3）人工衛星の運動、 （4）惑星間航行の軌道計画、 （5）軌道決定 [参考図書：　天体と軌道の力学、人工衛星と宇宙探査機、宇宙工学入門II]
6	宇宙輸送システム (2025/10/23)	（1）ロケット推進原理、 （2）ロケットエンジンの種類・機構・特性、 （3）航法系、 （4）誘導制御系、 （5）世界のロケット [参考図書：　宇宙工学概論、宇宙工学入門]
7	人工衛星システム (2025/11/06)	（1）衛星システム構成・コンフィギュレーション・運用、 （2）重力安定化衛星、 （3）スピン衛星、 （4）姿勢決定・姿勢制御、 （5）超小型衛星とコンステレーション [参考図書：　衛星設計入門、人工衛星と宇宙探査機、宇宙工学入門]

8	宇宙探査機システム (2025/11/13)	（1）探査天体と探査手法、（2）探査機システム構成・コンフィギュレーション・運用、（3）着陸機・ローバ・カプセル、（4）惑星間航行の軌道計画・決定 [参考図書：　人工衛星と宇宙探査機、宇宙工学入門II、宇宙探査機はるかなる旅路へ、小惑星探査機「はやぶさ」の超技術、はやぶさ2 最強ミッションの真実]
9	衛星・探査機サブシステム（A） (2025/11/20)	（1）構造系、（2）熱制御系、（3）電源系 [参考図書：　宇宙工学概論、衛星設計入門、人工衛星と宇宙探査機、宇宙工学入門、宇宙探査機はるかなる旅路へ]
10	衛星・探査機サブシステム（B） (2025/11/27)	（4）通信系・地上系、（5）データ処理系、（6）姿勢・軌道制御系 [参考図書：　宇宙工学概論、衛星設計入門、人工衛星と宇宙探査機、宇宙工学入門、宇宙探査機はるかなる旅路へ]
11	衛星・探査機サブシステム（C) (2025/12/04)	（7）推進系（化学・非化学)、（8）ミッション系（地球周回・片道探査・往復探査） [参考図書：　宇宙工学概論、衛星設計入門、人工衛星と宇宙探査機、宇宙工学入門、宇宙探査機はるかなる旅路へ、小惑星探査機「はやぶさ」の超技術]
12	プロジェクトマネジメント (2025/12/11)	（1）プロジェクトの特徴、（2）PMBOKの基礎、（3）WBS・スケジュール、（4）QCDトライアングル、（5）S&MA管理、（6）プログラムマネジメント [参考図書：　よりよくわかるプロジェクトマネジメント、エンジニアリングの神髄]
13	宇宙プロジェクト実践(2025/12/18)	（1）ミッション目標と成功基準、（2）全体スケジュール、（3）選抜～基本設計～詳細設計、（4）開発・検証、（5）打上げ・運用・成果創出、（6）解散・延長 [参考図書：　宇宙プロジェクト実践、小惑星探査機「はやぶさ」の超技術、星のかけらを採りにいく]
14	仮想宇宙探査プロジェクト報告 (2026/01/08)	（1）仮想宇宙探査プロジェクト最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習】

仮想宇宙探査プロジェクト検討のグループワークも含めて、一回の講義につき4時間を標準とします。

【復習教材】

毎回、講義で使用したパワーポイント等の資料を用いて復習することを推奨します。資料は、授業後に授業支援システムの「宇宙工学　教材」フォルダからダウンロード可能にします。

【課題】

本科目では、各学生が主体的に調査・分析を行う課題レポートを、10月、11月それぞれ一本ずつ提出していただきます。各回のテーマは各月最初の授業で発表し、締切りは各月末日までとします。提出方法は授業支援システムによるアップロードを標準としますが、情報インフラ等の事情により難しい場合は、講師まで事前に個別相談してください。

【アクティブラーニング（掲示板ディスカッション)】

本科目では9月 1月までの４カ月の参加期間を設けて、授業時間内外のアクティブラーニングとして、クラスを２つ程度のチームに分けた「仮想宇宙探査プロジェクトの構築」を行います。具体的には、全学生がプロジェクト検討の一部を分担しつつ、「掲示板上」と授業内両方でのグループディスカッションを行って、プロジェクト案をまとめます。そして授業の最終回には、各チームのプロジェクト検討に関する最終報告をプレゼンテーションして頂きます。

【テキスト（教科書)】

必須テキストは設けませんが、参考書リストを参照のうえ、各講義に関連する項目の予習を推奨します。

【参考書】

矢野創著：　星のかけらを採りにいく-宇宙塵と小惑星探査-、岩波書店
川口淳一郎監修：　小惑星探査機「はやぶさ」の超技術、講談社
浅居喜代治著：　基礎システム工学、オーム社
木田隆、小松敬治、川口淳一郎著：　人工衛星と宇宙探査機、コロナ社
木下宙著：　天体と軌道の力学、東京大学出版会
栗木恭一著：　宇宙プロジェクト実践、日本ロケット協会
小林繁夫著：宇宙工学概論　丸善株式会社
茂原正道著：宇宙工学入門、培風館
茂原正道、木田隆著：宇宙工学入門II、培風館
津田雄一著：　はやぶさ2 最強ミッションの真実　NHK出版
日本プロジェクトマネジメント協会編：　よりよくわかるプロジェクトマネジメント、オーム社
ヘンリー・ペトロスキー著、安原和見訳：　エンジニアリングの真髄、筑摩書房
室津義定編著: 航空宇宙工学入門、森北出版
山川宏著：　宇宙探査機はるかなる旅路へ、化学同人

【成績評価の方法と基準】

全14回の授業について、以下の配分と評価基準に即して成績考課を行う予定です。ただしコロナ再流行等の理由により、当初の受講方法が変更される場合は、授業方法とともに考課についても見直す場合がございますので、ご注意ください。

＞　初回アンケート（1回）　0%
(提出必須・開始時点の理解度の把握)
＞　クイズ　（12回）　18%
(各授業のポイントの理解)
＞　課題レポート（2本）　22%
(宇宙工学の役割の理解、宇宙輸送系・人工衛星・宇宙機の基本の習得)
＞　仮想プロジェクト計画貢献(1回) 10%
(宇宙プロジェクト基本技能の習得)
＞期末試験（1回）　50%
(宇宙の概念、宇宙工学の役割、宇宙工学全般の基礎知識、宇宙プロジェクト基本技能の習得)

上記の合計を100%としたとき、本科目が設定した到達目標を60％以上達成している履修登録学生を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

本授業シラバスは現講師によって2020年度より全面的に刷新されて以来、6年度目になります。特に2023年度の受講学生を対象に行ったアンケート結果によると、本講義は「受講開始前に期待していた学習内容を教授できていた」とする評価が9割以上を超え、約8割が「宇宙工学への関心がさらに高まった」と答えています。また毎授業のクイズ、レポート提出、仮想宇宙探査プロジェクト検討、期末考査はすべて、授業支援システムの各種機能を最大限活用することで、パンデミックや自然災害などの非常事態の影響を最小化しつつ、より深い学びを持続可能なものとしてきました。なお、授業レベルについては、必ずしも宇宙工学を専門としない理工学系学部生の受講に配慮しつつも、宇宙理工学の研究を志す学部生や一部大学院生に必須となる学識もカバーします。

【学生が準備すべき機器他】
資料閲覧、課題提出、ディスカッション参加等のため、授業支援システムを積極的に活用します。

【その他の重要事項】
【この科目を要件とする履修科目】
ありません。ただし高校卒業程度の物理及び数学を学習していることを想定します。
【期末試験】
授業補講期間内に対面方式で、授業支援システムを活用して実施する予定です。万一オンラインにて実施する場合の要項は、後日周知します。
【オフィスアワー】
原則として、授業終了直後に最大30分間、講師室にてオフィスアワーを設けます。また、学習支援システムを経由したテキストによる質問も受け付けます。
【参考文献、生成AI等の利用】
課題レポート執筆や仮想プロジェクト検討において利用した参考文献は、必ず明記してください。また生成AI等の文書作成補助ツールを活用することは禁止しませんが、利用したツールと使用目的を、毎回必ず明記してください。なおクイズ・期末考査では、いずれの利用もできません。
【実務経験のある教員による授業】
講師は過去四半世紀以上にわたって、日欧米で１ダース以上の宇宙実験および宇宙探査プロジェクトを実践してきた経験を有しており、現在も太陽系探査科学の学術研究および大学院教育に従事しています。本科目では、そうしたバックグランドを生かして、学術的な基礎知識と、宇宙プロジェクトの実践知の初歩の両方を、意欲ある学生諸君にお伝えしたいと思います。なお法政大学大学院理工学研究科では、JAXAとの連携協定に基づく連携准教授として、大学院生の研究指導にも当たっています。

【Outline (in English)】
【Course Outline】 Modern society is directly connected with the global environment beyond national borders; thus, our everyday life heavily depends upon benefits from space technology. The most challenging quests in science of this century such as the origins and principles of life and the Universe itself also require deep exploration of space. This class aims for students to learn fundamental concepts of space and the role of space engineering in our modern society, to understand introductory knowledge in the whole disciplines of space engineering, and to acquire basic skills for planning and executing actual space projects, which will apply to many other disciplines.
【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to achieve the following three objectives:
1. To understand the fundamental concept of the Universe and the role of space engineering in modern society
2. To master the basic knowledge of major disciplines within space engineering
3. To understand principals and system structure of space transportation, artificial satellites, and spacecraft in order to master basic skill sets necessary for mission planning and execution of an actual space project
【Learning Activities outside of Classroom】 Before/after each class meeting, students are expected to generally spend 4 hours outside the class to master the course content.
【Grading Criteria /Policy】 Students will pass this course when he/she achieves the learning objectives defined above more than 60 %out of 100 %in total, based on the following criteria.
> Initial questionnaire (x1) 0 %(Required)
> Quiz (x12) 18 %
> Study Reports (x2) 22 %
> Virtual Project Planning Contribution (x1) 10 %
> Final Exam (x1) 50 %

MEC300XB（機械工学 / Mechanical engineering 300）

製品開発工学

吉田　一朗

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

製品開発は，多様な組織が密接に協調しながら，製品を企画し指定された期間内に要求される品質の製品を生産するまでの複雑で組織的な活動です。本講義は，機械工学科の各科目の知識を基礎に，企業や研究機関における製品開発や研究活動のプロセスを学びます。加えて，「データサイエンス」や「品質管理」に必須となる「統計学」について，その基礎を学びます。

また，社会での実践経験（実戦経験）の豊富な方々を招き，開発事例や経験を講義して頂きます。これらを通し，製品企画や仕様決定，製品アーキテクチャ，製品プロトタイピング，製品開発管理などの基礎手法を学んでください。また，産業界の事例により製品開発や研究活動の流れを具体的に把握していきます。

以上の内容を通し，自発的に学ぶ意識や問題を発見できる意識を自ら養い，製品開発，研究活動や問題設定を具体的に進められる基本的な能力をつけて下さい。（この能力や意識は，3年後期のPBLや4年の卒業研究，博士前期課程（修士）での研究活動に役立ちます）

上記のような素養が身につけられれば，機械工学の王道系企業に限らず，ＩＴ企業や電機メーカ，医療機器メーカ，食品業界，建設業界などの企業への就職を目指しても魅力的な人材として高い評価を受けることに繋がります。

授業担当者は，本講義を通して企業人の視点を学び・感じ取ってもらい，履修学生のみんなが今後の進路や就職活動に役立ててもらいたいと思っています。

【到達目標】

履修学生は，複雑な実務活動である製品開発の基本的考え方を学び，事例を通じて現代の製品開発の様相を理解する。機械工学の他の関連科目の役割りや重要性を理解し，製品開発や研究の流れを理解することが到達目標です。

以上の理解によって，自ら進んで自発的に学ぶ意識や自ら問題を発見できる意識を養い，製品開発や研究活動，課題設定を具体的に進められる基本的な能力を養うことも履修学生の到達目標になります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

製品開発工学に関連する機械工学の科目は多い。また，必要な基礎知識を復習しながら，製品開発工学に必要となる手法を学んでもらいたい。授業計画では大きく分けて，製品開発工学の概要，企業の製品開発で必ず必要となる特許，最新の製品開発事例，研究や製品開発での実験，検証おいて重要な計測学の基礎，研究，製品開発において多用される手法などについて学ぶ。理解度を上げるため，理解の状況や進捗に合わせて授業計画の順序などを柔軟に変更する。また，ほぼ毎回レポート課題を課す。適時，課題の解説などや質疑応答などを通じてフィードバックを行なう。

本授業では，海老裕介氏（伊藤・海老国際特許事務所，代表弁理士），梶原優介氏（東京大学，教授），上久保 尚氏（武蔵エンジニアリング㈱マーケティング戦略本部 統括課長），後藤智徳氏（㈱ミツトヨ，執行役員，Ph.D.），田中秀岳氏（上智大学，准教授），圓谷寛夫氏（現 精密工学会・事務局長，元 ㈱ニコン・ゼネラルマネージャ），中谷尊一氏（シチズンマシナリー㈱，現 シニアアドバイザー/元 開発企画部 部長），西村公男氏（日産自動車㈱パワートレイン生産技術本部パワートレイン技術企画部，エキスパートリーダー），橋本信幸氏（現 日本女子大学，元 シチズン時計㈱研究開発センター上席研究員，Ph.D.），藤井章弘氏（現 ㈱エビデント（旧 オリンパス㈱イノベーション推進部フェロー），Ph.D.），藤嶋 誠氏（DMG森精機㈱・取締役副社長，博士（工学）），宗像令夫氏（㈱ＰＱＭ総合研究所代表取締役社長，元 リコー），山本和久氏（マツダ株式会社，元 人事室，現 商品戦略本部），湯島 彰（㈱東芝，元 東芝デザインセンター長）（五十音順）ら，研究・開発経験の豊かな方々をお招きし，企業・大学での開発現場における実践的な事例を学ぶ。

以上の方々と授業担当者の講義を通し，研究開発に加え人々の役に立つことや社会貢献の精神・考えを学び，将来の就職活動や自己実現にも役立ててもらいたいと考える。

新型コロナウイルス等の感染症の状況や政府からの非常事態宣言および東京都からの緊急事態措置等が発出される状況となった場合は，春学期中，必要に応じてオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業内容や計画の変更，成績評価の方法などの変更等については，学習支援システムでその都度提示する。また，本授業の開始日も必要に応じて学習支援システム：Hoppii等から通知する。本シラバスに記載の全事項は新型コロナ禍前や非常事態宣言時以外を想定して作成されているため，オンライン式，対面式を含め具体的な授業の進め方などは，学習支援システム：Hoppii等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	製品開発プロセス，研究，開発について	製品開発とそのプロセスの全貌，研究・開発について講義する。
2	特許入門（１）	弁理士の方を招いて特許の基礎から出願の仕方，特許につながるアイディアの出し方まで講義いただく。
3	特許入門（２）	担当教員の2016年3月迄の企業経験や企業での特許実績を踏まえた特許の基礎や事例，コツについて講義する。

4	企業における製品開発事例（1）	大手自動車メーカの方を招いて，企業における製品開発の事例や製品開発における大事なポイントや求められる人材について講義いただく。 大学における学び方や姿勢は，高校までとは全く異なること，また，就職活動を有利にするためにも，学生時代に意識改革をしておくことが良いことなどを講義いただく。 また，所属される企業の求める人材などについても紹介いただく。
5	企業における製品開発事例（2）	大手光学機器メーカの方を招いて，企業における製品開発の事例や製品開発における姿勢について講義いただく。 また，所属される企業の求める人材などについても紹介いただく。
6	企業における製品開発事例（3）	大手光学機器メーカの方を招いて，企業における製品開発の事例について講義いただく。また，企業における製品開発や設計業務において，大学の講義内容がいかに重要であるかを講義いただく。 また，所属される企業の求める人材などについても紹介いただく。
7	企業における製品開発事例（4）	大手計測機器メーカの方を招いて，企業における製品開発の事例や製品開発における姿勢について講義いただく。 また，所属される企業の求める人材などについても紹介いただく。
8	企業における製品開発事例（5）	担当教員の2016年3月迄の約8年間の企業における研究・製品開発経験を交えた製品開発の考え方や製品開発事例，大学との共同研究などについて講義する。
9	大学における研究・開発の事例（1）	東京大学 生産技術研究所の教員の方を招いて，大学における研究・開発の事例や企業との共同研究などについて講義いただく。
10	大学における研究・開発の事例（2）	他大学の教員の方を招いて，大学における研究・開発の事例や企業との共同研究などについて講義いただく。
11	統計学の基礎（1）	製品開発には計測が必要不可欠であるが，測定データは必ず統計学の演算を行う。統計の計算を誤れば，間違った分析をしてしまい，製品開発も研究も暗礁に乗り上げる。それほど統計学とその計算は重要である。加えて，統計学は「データサイエンス」や「ＡＩ」を学ぶ際に必須の知識であるため非常に重要である。 統計学の基礎中の基礎から，表，グラフによるデータ処理，度数分布表やヒストグラムの作成方法，企業の現場で使用する統計学などについて講義する。 ３回の講義で統計学の概要がつかめるように，毎回のレポート課題とその答え合わせを実施する。
12	統計学の基礎（2）	製品開発には計測が必要不可欠であるが，測定データは必ず統計学の演算を行う。統計の計算を誤れば，間違った分析をしてしまい，製品開発も研究も暗礁に乗り上げる。それほど統計学とその計算は重要である。加えて，統計学は「データサイエンス」や「ＡＩ」を学ぶ際に必須の知識であるため非常に重要である。 統計学の基礎として，ヒストグラムの分析の仕方，累積度数分布の作成方法，数値による統計処理の種類・計算方法などについて講義する。 ３回の講義で統計学の概要がつかめるように，毎回のレポート課題とその答え合わせを実施する。
13	統計学の基礎（3）	製品開発には計測が必要不可欠であるが，測定データは必ず統計学の演算を行う。統計の計算を誤れば，間違った分析をしてしまい，製品開発も研究も暗礁に乗り上げる。それほど統計学とその計算は重要である。加えて，統計学は「データサイエンス」や「ＡＩ」を学ぶ際に必須の知識であるため非常に重要である。 統計学の基礎として，数値による統計処理の種類・計算方法などについて講義する。 ３回の講義で統計学の概要がつかめるように，毎回のレポート課題とその答え合わせを実施する。
14	計測学の基礎	製品開発には計測が必要不可欠である。その絶対不可欠な計測について講義する。 計測における考え方や必要性，事例，測定機の種類などを講義する。 計測分野は，機械工学系出身の者にとって，もっともノーベル賞に近い分野の一つであるほど重要である。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、3時間を標準とする】

１．身近にある機械を観察し，その本質的機能は何か，なぜそのような構造になっているのか，もっと良い構造は考えられないか，などを考え，問題意識を持って授業に臨むことが期待されます。

２．大学は，社会に出て就職する前の最後の準備期間（学習期間）です。社会に飛び立つと，学生時代のような手厚い教育を受ける機会は激減します。そのため，ぜひ社会に出るまでに，自力で学習できる技術と能力，精神，考えを身に付けられると良いと考えます。この能力は一生ものであり，社会に出た後，どの分野に進んだとしても必ず役に立ちます。

３．機械工学に関する基礎的な科目および設計工学について，よく復習し身につけておくことが重要です。製品開発のための実用的な設計手法は多いが，授業で学んだだけでは真の理解には至りません。自ら課題を設定し，自発的に学ぶ学習態度が望まれます。

【テキスト（教科書）】

教科書については，初回のガイダンスで説明します。

１．必要に応じて授業資料を配布する。

２．トリーズ(TRIZ)の発明原理40あらゆる問題解決に使える[科学的]思考支援ツール，高木芳徳，ディスカヴァー・トゥエンティワン社（2014年），2,640円（税込）.

【参考書】

１．『101デザインメソッド―革新的な製品・サービスを生む「アイデアの道具箱」』，ヴィジェイ・クーマー，Vijay Kumar，渡部典子（翻訳），英治出版（2015年），2,750円（税込）.

【成績評価の方法と基準】

成績評価は，授業中の課題：80％，期末試験：20%の配分とします（ただし，期末試験を実施しない場合は，課題・レポート：100％となる。期末試験を実施しない場合は，実施の２週間前までにアナウンスする）。

講義中に設定される課題についてのレポート提出状況，レポートの内容および期末試験の結果を総合して成績評価します。

評価基準は，６０％以上が合格になります。

【学生の意見等からの気づき】

① 授業を聞くだけでなく，自ら具体的な製品開発の課題を想定し，授業で学ぶ考え方や手法を積極的に実践し深く理解していくことが望まれます。

② 大学の授業は高校までの授業と異なり，授業の内容を勉強するだけでなく，教師がいなくても自分で学ぶことのできる能力：勉強の仕方を身につける場です。この能力を身に付けて，養えている学生は，卒業研究を含む３・４年生科目で能力を発揮し，更に，企業に勤めてからも活躍しています。

③ 授業の理解を支援する資料を授業支援システムにアップロードすることで学びの自由度を向上させ，授業内容の理解を深めることを可能としています。

【学生が準備すべき機器他】

１．必要に応じて貸与ノートPCや関数電卓が必要。

２．レポート・課題の提出用紙は，Ａ４もしくはＡ３のみを受け付ける。提出用紙サイズは，授業中に指示するので厳守。

【その他の重要事項】

本授業は，「実務経験のある教員による授業」である。授業担当者の吉田は，精密機器メーカで約８年間，実際に販売する製品の開発および最先端の超精密機器の研究開発の実務経験がある。また，特許・知財管理業務の実務経験，および，研究開発者として特許出願経験や登録特許も保有する。

加えて，企業人として大学・研究機関への共同研究の依頼・契約締結の経験，および，逆に大学人として企業・研究機関への共同研究の依頼・受託・契約締結の業務経験を有する。

フィールドワークについては，課題を課す。具体的には，学生本人が興味のある製品や商品，サービスについて市場で流通しているものと比較して考察・発案する課題を課す。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The product development is a complex and organizational activity, and various organizations should cooperate closely to plan products and produce products of required quality within a specified period. In order to understand such product development, in this lecture, students understand the whole product development process based on the knowledges of each lecture of Mechanical Engineering Department.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand the processes and concepts of product development.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

The total score score of 60 or more out of 100 is considered acceptable.

MEC300XB（機械工学 / Mechanical engineering 300）

ＣＡＤ／ＣＡＭ／ＣＡＥ

吉田　一朗、加藤　友規

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CAD(Computer Aided Design)/CAM(Computer Aided Manufacturing)/CAE(Computer Aided Engineering)の概要を理解し，製品のモデリングやエンジニアリングシミュレーションなどの基礎的手法を学ぶ。

【到達目標】

汎用のCAD/CAM/CAE 統合ソフトウエアを使用して，基礎的な課題を実習により解決し，まとまった設計解析事例を経験することにより，実務的な能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では，CAD ソフト「Solid Works」およびCAM ソフトウェアを利用した実習をとおして以下の技術を学ぶ.

（1）ＣＡＤ：３Ｄモデリング，３D-ＣＡＤ設計

（2）ＣＡＭ：３Ｄプリンタ，産業用ロボット，工作機械の制御プログラムコードの自動生成，機械加工シミュレーション

（3）ＣＡＥ：計算機シミュレーション，シミュレーション解析

（1）（2）は吉田が担当し，（3）は加藤が担当する。実習は２クラスに分けて行う。学生は，下記の計画に従って，吉田の実習を７回，加藤の実習を７回受講する。前半に吉田の授業を受けたクラスの学生は，後半に加藤の授業を受ける。前半に加藤の授業を受けたクラスの学生は，その逆となる。適時，課題の解説などや質疑応答やアクティブラーニングなどを通じてフィードバックを行なう。

新型コロナウイルス等の感染症の状況や政府からの非常事態宣言および東京都からの緊急事態措置等が発出される状況となった場合は，秋学期中，必要に応じてオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業内容や計画の変更，成績評価の方法などの変更等については，学習支援システムでその都度提示する。また，本授業の開始日も必要に応じて学習支援システム：Hoppii等から通知する。本シラバスに記載の全事項は新型コロナ禍前や非常事態宣言時以外を想定して作成されているため，オンライン式，対面式を含め具体的な授業の進め方などは，学習支援システム：Hoppii等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1（合同）	CAD/CAM/CAE 概論	「ものづくり」と CAD/CAM/CAE，事例紹介
1（吉田）	２次元スケッチ	①SolidWorksの基本機能の理解と実習 ②２次元スケッチ機能の理解と実習 課題１：２次元スケッチにおける拘束条件の活用
2（吉田）	３次元モデリング	①３次元モデリング基本機能の理解と実習 ②ToolBox等を利用した複雑形状のモデリング実習 ③３次元複雑形状のモデリング
3（吉田）	アセンブリモデリング	①アセンブリモデリング基本機能の理解と実習 ②複雑なアセンブリモデリングの実習 ③リンク機構のモデリング
4（吉田）	モーションシミュレーション	①モーションシミュレーション基本機能の理解と実習 ②様々な拘束条件や運動条件の与え方の実習 ③リンク機構の様々な運動状態の解析
5（吉田）	CAMの基礎（１）	①機械加工・工作機械・CAMの基本知識の学習 ②CAMソフトウェアのインストールと基本機能の理解 ③3D CAD自由課題プレゼンテーション
6（吉田）	CAMの基礎（２）	①CAMソフトウェアによる加工情報生成実習 ②CAMソフトウェアによる工作機械の加工パスシミュレーション ③3D CAD自由課題プレゼンテーション
1（加藤）	1.SolidWorks基本操作	(1)SolidWorks Simulation解析手順 (2)SolidWorks Simulation の操作 (3)解析結果の評価（球の運動） (4)課題1 ベルト伝達装置
2（加藤）	2.弾性接触と摩擦の解析	(1) 単ブレーキの理論 (2)SolidWorks Simulation による解析と評価 (3)課題２ 砂時計
3（加藤）	3.スロットレーシングのシミュレーション	(1)ボディと車輪のモデル (2)周回走路と走行条件 (3)SolidWorks Simulation による解析と評価 (4)課題3 スロットレーシング
4（加藤）	4.機構解析	(1)スライダークランク機構の理論 (2)連成解析（機構の動作と応力分布） (3)SolidWorks Simulation による解析と評価 (4)課題4 スライダ-クランク機構
5（加藤）	5.流体解析（内部流れ）	(1)SolidWorks Simulationによる流体解析の手順 (2)基礎方程式とモデル (3)課題5 ベンチュリ管の内部流れ解析
6（加藤）	6.流体解析（外部流れ）	(1)抗力係数とレイノルズ数・ストローハル数 (2)ストローハル数とカルマン渦・固有振動数 (3)シミュレーション結果の評価 (4)課題6 円柱まわりの流れ
7（加藤）	７．流体解析（圧縮性流体）	(1)非圧縮性流体と圧縮整流 (2)非圧縮性流体の流れを表す基礎式 (3)課題7 楔のまわりの高速流れの理論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、6時間を標準とする】

１．配付資料を，授業支援システムにアップするので，各自，事前にダウンロードし持参すること。事前に実習内容を確認し，教科書や配付資料に記載されている操作方法に目をとしておくこと。

２．各授業テーマに関する資料の予習・復習。

３．あらゆる科目で共通であるが，授業で学んだだけでは真の理解に至らない。自発的に学ぶ学習態度が望まれる。

文科省の省令で定められている時間外の学習時間は，1単位あたり約22.5時間以上です。

つまり，学生は，1単位につき１週間あたり約1.6時間以上の授業時間外の学習をすることが義務付けられています。

【テキスト（教科書）】

【吉田担当分：CAD/CAMについての教科書】

教科書については，初回のガイダンスで説明する。

１．門脇 重道，藤本 浩，高瀬 善康，黒田 浩晟： SolidWorksによる３次元CAD，実教出版（2012），2,310円（税込）.

２．アドライズ：よくわかる 3次元 CADシステム SOLIDWORKS入門― 2017/2018/2019 対応，日刊工業新聞社（2019），3,520円（税込）.

【加藤担当分：CAD/CAEについての教科書】

篠原主勲： SOLIDWORKSによる CAE教室-機構解析／流体解析-, コロナ社（2020），　4,070円（税込）

【参考書】

【CAEについての参考書】

１．竹内・樫山・寺田：計算力学，森北出版

【CAD/CAMについての参考書】

２．水越紀弥：やさしく学ぶ SOLIDWORKS (特別付録 DVD-ROM 手順動画+練習用ファイル)，エクスナレッジ（2017），3,520円（税込）.

３．浅川直紀，他：３次元 CAD・CAE・CAMを活用した創造的な機械設計，日刊工業新聞社（2009），3,300円（税込）.

４．コンピュータ教育振興協会：2023年度版CAD利用技術者試験3次元公式ガイドブック，日経BP社（2023），4,073円（税込）.

【成績評価の方法と基準】

成績は，加藤50点，吉田50点の合計100点で評価する．配点は以下のとおり．

課題提出状況（30%），モデリングやシミュレーションの実行に必要な基礎的な知識を評価する課題（70%）与えられた課題に対するモデリングやシミュレーション能力を評価する

ただし，加藤・吉田とも60%以上取得しなければならない。どちらかが60%未満の場合，不合格となる。

出席状況については，文部科学省の大学設置基準や大学からの通達から，原則として出席日数が全体の２／３以上の学生について成績評価の対象とします。つまり，２／３未満は評価の対象外：Ｅ評価となる（「CAD/CAM」と「CAE」のそれぞれの単元において，２回を超える欠席は対象外：Ｅ評価）。また，１時限目に３０分以上遅れて入室した学生に関しては，特別な理由が無い限り，２時限目を含めてその日は欠席扱いとなる。

【学生の意見等からの気づき】

授業支援システムを活用して実習が進められるので，SolidWorksの操作に習熟しておくこと．

【学生が準備すべき機器他】

大学の情報処理教室に設置されたPCとインストールされたソフトウェア（SolidWorks）を使用する。CAMソフトウェアについては，各自の貸与ノートPCにインストールする。

【その他の重要事項】

本授業は，「実務経験のある教員による授業」である。授業担当者の吉田は，精密機器メーカで約８年間，実際に販売する製品の設計・製図および研究開発における超精密機器の設計・製図の実務経験がある。また，大学においては1990年代後半から手書き製図・設計とCAD/CAM/CAEに触れ，研究開発業務においても実際に使用してきた。

これらの経験を評価され，前職の精密機器メーカにおいて，設計・製図・CAD/CAM/CAEに関する社内教育訓練の企画・運営にも携わっていた経験がある。CAD/CAM/CAEのソフトウェアに関しては，CADSuperFX，AutoCAD，ANSYS，ANSYS DesignSpace，SolidEdge，NX，Unigraphics，Jw Cad，Pro/ENGINEER，ME10，SolidWorksなど横断的に多くの経験を有する。本シラバスに記載の内容および本講義で説明する内容は，これらの設計・製図・CAD/CAM/CAEの経験と考察に基づいたものである。

大学生活は，社会に出て就職する前の最後の準備期間(学習期間)である。社会人となると，学生時代のような手厚い教育を受ける機会は激減する。そのため，社会に出るまでに，独力で学習できる技術・能力・心構えを身に付けられると良い。この能力と技能は生涯に渡って必要なものであり，社会に出た後，どの分野に進んだとしても必ず役に立つ。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The objectives of this class are to learn how to use the fundamental methods of CAD (Computer Aided Design), CAM (Computer Aided Manufacturing), and CAE (Computer Aided Engineering) application programs supplied by widely-used SolidWorks, and to acquire skills for developing product modeling and finite element methods through making use of the application functions.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand and acquire the product modelings and finite element methods using CAD, CAM, and CAE.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

The total score score of 60 or more out of 100 is considered acceptable. At least 2/3 attendance is required.

MEC300XB（機械工学 / Mechanical engineering 300）

機械設計製図

御法川　学

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1．簡単な機械装置の仕様を決定し、機械装置の製作や操業が可能な図面を作成できる能力を養う。
2．機械設計に関する技術、作業、品質、安全、コスト等の情報をまとめて設計に反映できる能力を養う。
3．3次元CADを用いて上記を満たすモデリング作業ができる能力を養う。

【到達目標】
上記の課題を通じて、授業等で習得した機械設計の応用的技術を体得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
簡単な機械装置に関する設計製図において、各自が異なる仕様の下での設計計算、作図を行う。計算、作図においてはExcelやSolidWorksを用い、PCベースの設計製図ツールを積極的に利用する。
提出された課題に対して適宜フィードバックを行うとともに、その後の授業内容に対してそれを反映する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方について説明し、対象とする機械装置について概説する。各自が設計する仕様（要目表）および関連資料を配布する。
第2回	簡単な機械装置の構想と計画	動力を持たない簡単な機械装置（豆ジャッキなど）について、ポンチ絵、構想図により設計構想を立て、仕様を決定する。
第3回	簡単な機械装置の設計計算	機械装置の仕様を満たす主要寸法を計算し、構想図に反映する。これらの結果を計算書としてまとめる。
第4回	簡単な機械装置の設計製図（3Dモデリング）	構想図をもとに、詳細な寸法を決め、3DCADによるモデリング（パーツ、アセンブリ）を行う。
第5回	簡単な機械装置の設計製図（2D図面作成）	3DCADモデルから、JIS機械製図に則った2D図面を作成し、部品図、組立図を完成させる。
第6回	やや複雑な機械装置の構想	動力を持つやや複雑な機械装置（渦巻ポンプなど）について、ポンチ絵、構想図により設計構想を立て、仕様を決定する。
第7回	やや複雑な機械装置の設計計算（軸系の強度計算）	機械装置の仕様を満たす動力伝達部分（軸系）の主要寸法を計算し、構想図に反映する。これらの結果を計算書としてまとめる。
第8回	やや複雑な機械装置の設計計算（性能を満たす要素形状、寸法の決定）	機械装置の仕様を満たす機能要素部分（羽根車、渦巻ケーシングなど）の主要寸法を計算し、構想図に反映する。これらの結果を計算書としてまとめる。
第9回	やや複雑な機械装置の設計製図（軸系の3Dモデリングと2D作図）	構想図および計算書をもとに軸系の3Dモデリングを行い、JIS機械製図に則った2D図面を作成する。
第10回	やや複雑な機械装置の設計製図（要素形状の3Dモデリング1/2）	構想図および計算書をもとに機能要素部品（羽根車など）の3Dモデリングを行う。
第11回	やや複雑な機械装置の設計製図（要素形状の3Dモデリング2/2）	構想図および計算書をもとに機能要素部品（ケーシングなど）の3Dモデリングを行う。
第12回	やや複雑な機械装置の設計製図（要素形状の2D作図）	3Dモデルをもとに、JIS機械製図に則った2D図面を作成する。
第13回	やや複雑な機械装置の設計製図（アセンブリと周辺部品構成）	軸系要素、機能要素の3Dモデルをアセンブリして組立図を完成させる。同時に詳細寸法の決定、関係部品の選定と作図を行う。
第14回	最終報告	組立図のチェック、計画、計算書、部品図の提出、プレゼンテーションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
貸与PC上で、Excel、SolidWorksが動作することを確認のこと。

【テキスト（教科書）】
授業で配布します。

【参考書】
平野重雄・関口相三, モノ創り＆ものづくり アイデアから具現化まで, コロナ社
JISハンドブック 機械要素
など

【成績評価の方法と基準】
評価方法：毎回の進捗確認（提出物）、中間報告、最終報告の内容によって総合的に評価する。
評価基準：上記の評価で60%以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
配布資料の修正・改善

【学生が準備すべき機器他】
貸与ノートPC、関数電卓など

【その他の重要事項】
国内外での企業実務経験、海外大学での研究経験を持つ教員が、その経験を活かし、研究や実務面での応用を踏まえた上で講義を行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course is aimed to acquire the following abilities,
1. To determine the specifications of simple mechanical devices and to create drawings that can produce and operate mechanical devices.
2. To reflect the information on technology related to machine design, work, quality, safety, cost etc together in design.
3. To perform modeling work using 3D CAD.
【Learning Objectives】

Through the above assignments, students will learn the applied techniques of machine design acquired in the class.
【Learning activities outside of classroom】
The standard study time for this class is 4 hours, including preparation and review. Students are required to confirm that Excel and SolidWorks can be used on the lending PC.
【Grading Criteria /Policy】
Evaluation method: Students will be evaluated comprehensively based on the content of each progress check (submissions), interim report, and final report.
Evaluation criteria: Students who have achieved 60%or more in the above evaluation will pass the course.

OTR400XB（その他 / Others 400）

卒業研究

吉田　一朗

開講時期：**年間授業**/Yearly

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1.自主的に実験・解析・設計・試作等を計画し、継続して研究に取り組み、得られた成果に工学的考察を加えること.
２．成果を論理的に卒業研究論文にまとめ、期限内に提出すること.
３．研究成果を口頭で発表し、討議できること.

【到達目標】
【授業のテーマ】を達成することを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員の指導の下機械工学分野の研究課題について１年間にわたり研究を行い、専門知識の進化と総合化を図る．また、課題解決を通して論理的で実践的な能力と創造性を育成する．適時，実施内容に対してフィードバックを行う.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1、2回	課題の調査及び研究計画の検討	研究課題の調査及び研究計画の検討について指導する.
第3回	研究計画の詳細決定	研究計画の詳細を決定
第 4～13回	研究実施	研究実施、進捗に応じて指導
第14回	中間進捗報告	ゼミ内において中間進捗報告を行う.
第 15～22回	研究実施	研究継続、進捗に応じて指導
第 23～25回	卒業研究論文作成	卒業研究論文執筆を指導
第26、27回	卒業研究論文作成及び卒業論文発表会資料作成	卒業研究論文執筆及び発表会用資料の作成を指導
第28回	卒業論文発表	卒業論文発表会において成果を発表するとともに他の学生の発表を聴講し、討議に参加する.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の指示に依存するのではなく、自ら積極的に調査、実験、解析等を進めること.

【テキスト（教科書）】
使用する場合は指導教員が指示あるいは配布する.

【参考書】
指導教員が適宜、論文等や専門書等の参考文献を指示する．また、自分で図書館やインタネット等を利用し、読むことが望まれる.

【成績評価の方法と基準】
本科目において設定した到達目標の６０％以上に到達した学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【学生が準備すべき機器他】
貸与PCや遠隔で卒業研究を実施するにあたり必要になるカメラや音声機器，および，卒業研究を推進するにあたり必要になる機器類。他に必要なものが出た場合は，状況に応じて指導教員から指示する。

【その他の重要事項】
上記の実施計画は、モデルケースであり、研究の内容によって多少の違いはある.
必修科目であるため，必ず履修登録をすること。

本科目は，「実務経験のある教員による授業」である。授業担当者の吉田は，精密機器メーカで約８年間，実際に販売する製品の研究・開発および最先端の超精密機器の研究・開発の実務経験がある。また，特許・知財管理業務の実務経験，および，研究開発者として特許出願経験や登録特許も保有する。

加えて，企業人として大学・研究機関への共同研究の依頼・契約締結の経験，および，逆に大学人として企業・研究機関への共同研究の依頼・受託・契約締結の業務経験を有する。

科目内での助言や指導は，以上の研究・開発の経験，および，企業内・学術界・社会での経験にもとづいたものである。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of his course is to develop ability to plan and conduct original research. Based on the obtained results, engineering examinations will be made, which is integrated into graduation theses and presented orally in the appropriate meeting.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to acquire the research abilities, engineering experiment skills, presentation skill, and self managed PDCA ability.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
The total score of 60 or more out of 100 is considered acceptable.

MEC100XB（機械工学 / Mechanical engineering 100）

工業数学基礎演習

加藤　友規、吉田　一朗

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は，機械工学の四力学だけでなく，「人工知能（AI）」や「データサイエンス」を学ぶ上での基礎であり理解の支援となる。

また，本講義は，機械工学科において上記の基礎を学べる数少ない授業と言える。

具体的には，工学分野の数学の基礎となる「微分積分」、「線形代数(ベクトル・行列)」、「確率統計」について、解析的に数式を解くこととMATLAB等での数値解析プログラミングを通して理解を深める。

【到達目標】

学生自身の到達目標は，下記になります。
（1）「微分積分」，「線形代数(ベクトル・行列)」，「確率統計」における演習問題を手計算で計算できるようになること（解析的に数式を解けるようになること）。
（2）「微分積分」，「線形代数(ベクトル・行列)」，「確率統計」における演習問題をソフトウェアを用いて計算できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

数値計算ソフトウェアであるMATLAB，Mathematica,Excelなどのソフトウェアを使用して，「微分積分」，「線形代数(ベクトル・行列)」，「確率統計」についての演習を行う。
なお，「微分積分」，「線形代数(ベクトル・行列)」，「確率統計」の講義の順序は、年度により前後することがある。
また，適時，課題の解説などや質疑応答などを通じてフィードバックを行なう。

新型コロナウイルス等の感染症の状況や政府からの非常事態宣言および東京都からの緊急事態措置等が発出される状況となった場合は，秋学期中，必要に応じてオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業内容や計画の変更，成績評価の方法などの変更等については，学習支援システムでその都度提示する。また，本授業の開始日も必要に応じて学習支援システム：Hoppii等から通知する。本シラバスに記載の全事項は新型コロナ禍前や非常事態宣言時以外を想定して作成されているため，オンライン式，対面式を含め具体的な授業の進め方などは，学習支援システム：Hoppii等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	微分積分（1）	MATLAB 入門：数と式の操作 （担当:吉田一朗）
第2回	微分積分（2）	数式とグラフ（担当:吉田一朗）
第3回	微分積分（3）	微分と積分（担当:吉田一朗）
第4回	微分積分（4）	代数方程式（担当:吉田一朗）
第5回	微分積分（5）	微分方程式（担当:吉田一朗）
第6回	確率統計(1)	確率統計(1) Excelによる確率統計計算の基礎（担当:加藤友規）
第7回	確率統計(2)	確率統計(2) 確率の基本：確率密度と正規分布 （担当:加藤友規）
第8回	確率統計(3)	確率統計(3) 正規分布・標準正規分布 （担当:加藤友規）
第9回	確率統計(4)	確率統計(4) 正規分布の活用 （担当:加藤友規）
第10回	確率統計(5)	確率統計のまとめ（単元小テスト） （担当:加藤友規）
第11回	線形代数(1)	線形代数(1) MATLABを用いた線形代数の基礎: 行列の操作 （担当:加藤友規）
第12回	線形代数(2)	線形代数(2) 逆行列計算と連立方程式の解法 （担当:加藤友規）
第13回	線形代数(3)	線形代数(3) 線形変換 1 線形性の証明と線形写像 （担当:加藤友規）
第14回	線形代数(4)	線形代数のまとめ（単元小テスト） （担当：加藤友規）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、3時間を標準とする】
文科省の省令で定められている時間外の学習時間は，1単位あたり約22.5時間以上です。
つまり，学生は，1単位につき1週間あたり約1.6時間以上の授業時間外の学習をすることが義務付けられています。

講義開始までに、数学の基礎（微分積分、ベクトル、行列、確率統計）を復習しておくこと。また、毎回授業で行った内容の復習を行うこと。
あらゆる科目で共通であるが，授業で学んだだけでは真の理解に至らないです。真の理解に至れば他の科目の単位取得も容易になるため，皆さん自身のためにも自発的に学ぶ学習態度が推奨されます。

【テキスト（教科書）】

授業時に指示する．
【吉田担当分について】
詳細は授業時に説明する。
1. MATLABではじめるプログラミング教室，奥野貴俊，中島弘史，コロナ社， 2017年， 2,860円（税込）．
2. はじめてのMATLABプログラミング，大川善邦，工学社，2016年，2,090円（税込）．

【加藤友規担当分】
詳細は授業時に説明する。
1. Excelで学ぶ
統計解析入門　Excel 2019/2016対応版，菅 民郎，オーム社，3,190（税込）．

【参考書】

授業時に指示する．
【吉田担当分について】
詳細は授業時に説明する。
下記は，機械工学科での数学や物理の計算の基礎学習に有用な良書である。
1．ポイントを学ぶ工業力学，真鍋健一，鈴木浩平，丸善出版，2009年，3,190円（税込）．
2．大学新入生のための微分積分入門，石村園子，共立出版，2004年，2,200円（税込）．
3．大学新入生のための物理入門 第2版，廣岡秀明，共立出版，2012年，2,310円（税込）．

【加藤友規担当分】

詳細は授業時に説明する。

【成績評価の方法と基準】

２名の教員の採点を合計し，１００点満点に換算し成績評価します。

ただし，加藤・吉田が担当する３つの単元のそれぞれで６０点以上を取得しなければならない。各単元のどれかが６０点未満の場合，不合格（ＤもしくはＥ評価）となる。

文部科学省の大学設置基準や大学からの通達から，原則として出席日数が全体の２／３以上の学生について成績評価の対象とします（２／３未満は，評価の対象外：Ｅ評価となる）。また，３０分以上遅れて入室・出席した学生に関しては，特別な理由が無い限り欠席扱いとなってしまいます。

成績評価の配分は，課題・レポート：６０％，各単元末のテスト：４０％（ただし，各単元末のテストを実施しない場合は，課題・レポート：１００％となる。各単元末のテストを実施しない場合は，各単元の第2回目の講義までにアナウンスします）。

【学生の意見等からの気づき】

PC操作に不慣れな1年生学生も多く，TAの協力を得て，丁寧に指導する．

大学は，社会に出て就職する前の最後の準備期間（学習期間）です。社会に飛び立つと，学生時代のような手厚い教育を受ける機会は激減します。

そのため，ぜひ社会に出るまでに，自力で学習できる技術と能力，精神，考えを身に付けられると良いと考えます。この能力は一生ものであり，社会に出た後，どの分野に進んだとしても必ず役に立ちます。

【学生が準備すべき機器他】

MATLAB，Excel，Mathematica等のソフトウェアを使用するため，ＰＣ教室ではない通常の教室で講義が行われる場合には，毎回の授業にノートPCを持参すること。

【その他の重要事項】

本授業は，「実務経験のある教員による授業」である。授業担当者の吉田一朗は，精密計測機器メーカでの約８年間の業務経験の間に，データサイエンスと最適化アルゴリズムを応用したソフトウェアの研究開発と実装，製品化に携わった業務経験がある。博士後期課程において研究開発した最適化アルゴリズムを当該企業内で商品企画・提案し，その最適化アルゴリズを応用したソフトウェアの製品化と販売促進に携わり，大手自動車メーカなどへの販売実績もある。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lecture, students will deepen their understanding of the calculus, vector, matrix, and probability statistics, which is the basis of industrial mathematics by jointly using softwares.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand the calculus, vector, matrix, and probability statistics by jointly using softwares.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

The total score of the two instructors is calculated, and a score of 60 or more out of 100 is considered acceptable. At least 2/3 attendance is required.

MEC100XB（機械工学 / Mechanical engineering 100）

図形科学

吉田　一朗

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文科省の省令で定められている時間外の学習時間は，1単位あたり約22.5時間以上です。

つまり，学生は，1単位につき１週間あたり約1.6時間以上の授業時間外の学習をすることが義務付けられています。

本科目では，図形科学を通してイメージ能力を養うことができます。イメージ能力は，機械の開発・設計だけでなく，人工知能（AI）のプログラミングで重要なアルゴリズム開発力も養うことができます。

授業では，図面を作図し，図面を読み理解する図形科学の課題を着実かつ丁寧に解くことにより，研究技術者・教育者が備えるべき豊かな空間認識力・空間想像力を修得し，緻密な作業をやり遂げる実行力を身に付けることができます。

図形の作図の課題では，3次元物体を2次元図形に焼き直して描画する技法と，点・直線・平面などの図形要素について，たとえば，直線間の平行・垂直などの相互関係を作図によって解き明かす「図法幾何学」を学ぶ。授業では三角定規やコンパスなどの製図用具を実習で用いるので，製図用具を用意することが必須となります。

【到達目標】

図形を読み描きできる能力は，これから研究者・技術者・教育者となる者が備えるべき能力です。

履修学生は，本授業の図形科学の学びを通して，幾何学の原理にしたがって平面図形・立体図形を正確に平面上（紙面）に表現できるようになることが到達目標です。また逆に，紙面上に表現された図形から物体の形状を正しく読み解く力を身につけることも到達目標です。

本授業を履修する学生は，次の３項目が到達目標となります。

(1) 3次元物体を2次元の平面図形を用いて表現できること。

(2) 平面図形から3次元物体の情報を読み解き空間認識力を養うこと。

(3) 図形・図面の作図法を学び，ＩＳＯ国際規格に準拠した第三角法による製図の作図技法の基礎を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

3次元の物体の2次元平面上への図形の描画方法と図形要素の相互関係を，具体的に作図実習を行うことで理解する。毎回作図実習を行うが，実習時に，三角定規とコンパスを使用する。必要な道具については，講義中に説明するので必ず準備しておくこと。学生の理解度を確認するために，期末試験に加え理解度確認試験や模擬試験などの各種試験を実施する。理解度確認試験では，これまで学んできた作図法の理解度を実際に作図に関する問題を用いて確認する。適時，課題の解説などや質疑応答などを通じてフィードバックを行なう。学生の理解度を上げるために，理解の状況や進捗に合わせて授業計画の順序や内容を柔軟に変更する。

新型コロナウイルス等の感染症の状況や政府からの非常事態宣言および東京都からの緊急事態措置等が発出される状況となった場合は，春学期中，必要に応じてオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業内容や計画の変更，成績評価の方法などの変更等については，学習支援システムでその都度提示する。また，本授業の開始日も必要に応じて学習支援システム：Hoppii等から通知する。本シラバスに記載の全事項は新型コロナ禍前や非常事態宣言時以外を想定して作成されているため，オンライン式，対面式を含め具体的な授業の進め方などは，学習支援システム：Hoppii等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	図形科学の基礎	①製図用具の使い方，②図面の描き方
第2回	基礎作図(1)	①直線・正多角形の作図，②円錐曲線の作図
第3回	基礎作図(2)	①サイクロイド，②インボリュート曲線
第4回	立体の投影法(1)	①投影法の原理，②主投影図，③三面図
第5回	立体の投影法(2)	①副投影法の原理，②副立面図・副平面図，③2次副投影法
第6回	直線と平面(1)	①副投影法による実長線視図と点視図，②直線間の相互関係
第7回	直線と平面(2)	①直線と平面の交点，②直線と平面の交角
第8回	理解度確認試験，まとめ	①主投影図，②副立面図・副平面図，③2次副投影法，④直線間の相互関係，⑤直線と平面の交点・交角
第9回	直線と平面(3)	①平面と平面の交線，②平面と平面の交角
第10回	直線と平面(4)	①点から直線への垂線，②直線間の距離，③実形図
第11回	立体図形の相互関係(1)	①断面の作図，②相貫
第12回	立体模型の作成	①三面図から，展開の技法により紙の立体模型を工作する。
第13回	立体図形の相互関係(2)	①貫通点，②多面体・曲面体の相貫
第14回	総合課題	①主投影法，②副投影法，③直線・平面間の相互関係，④実形図

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、3時間を標準とする】

文科省の省令で定められている時間外の学習時間は，1単位あたり約22.5時間以上です。

つまり，学生は，1単位につき１週間あたり約1.6時間以上の授業時間外の学習をすることが義務付けられています。

(1)本授業は，テキストを基本として，作図演習を授業中に実施して行う。

(2)各授業テーマに関する資料の予習・復習および演習課題の図形の作図。

(3)あらゆる科目で共通であるが，授業で学んだだけでは真の理解に至らない。自発的に学ぶ学習態度が望まれる。

【テキスト（教科書）】

１．磯田 浩，鈴木賢次郎：「工学基礎　図学と製図 [第３版]」，サイエンス社，2018年，1,738円（税込）.

２．平野元久，吉田一朗：「わかる図形科学」，コロナ社，2022年，2,750円（税込）.

３．適時，授業支援システムに資料をアップロードする。

【参考書】
磯田 浩，鈴木賢次郎：「工学基礎　演習 図学と製図 [第２版]」，サイエンス社，2019年，1,045円（税込）.

【成績評価の方法と基準】
成績評価の配分は，課題・レポート：６０％，期末試験：４０％（ただし，期末試験を実施しない場合は，課題・レポート：１００％となる。期末試験を実施しない場合は，第10回の講義までにアナウンスします）。
また，評価基準は，６０％以上が合格（学業の成績は、S、A＋、A、A－、B＋、B、B－、C＋、C、C－、Dの11段階で評価）。

文部科学省の大学設置基準や大学からの通達から，原則として出席日数が全体の２／３以上の学生について成績評価の対象とします（２／３未満は，評価の対象外：E評価となる）。また，３０分以上遅れて入室・出席した学生に関しては，特別な理由が無い限り欠席扱いとなってしまいます。

【学生の意見等からの気づき】
1. 作図は一見難しいようでも，全てが同じ手順の繰り返しであるため，前期授業期間中のどこかで理解できると全てが分かります。このためには演習が必要であるが，授業時間内にできる演習の量は限定されているため，演習書を利用して類似の演習を自習すると理解が早まります。

2. 本授業で身に付けた基礎力は，2年生前期の機械製図では必須であり，3年生後期のPBL授業や4年生の卒業研究でも役立ちます。また，企業への就職後，設計部署や研究開発部署での設計・研究・開発でも役に立つ重要な内容です。

3. 学生の理解度を確認するため，期末試験に加え理解度確認試験，模擬試験などの各種試験を実施する予定です。理解度確認試験では，これまで学んできた作図法の理解度を実際に作図に関する問題を用いて確認します。

4. 理解度を上げるため，理解の状況や進捗に合わせて授業計画の順序や内容を柔軟に変更します。

5. 本授業では，図形等の作図実習において学生同士の意見交換・教え合い，学生自らの主体的な学びを奨励します。

【学生が準備すべき機器他】
指定された製図用具を必ず毎回持参すること。指定された製図用具は，法政大学理工学部機械工学科専用製図セットとして，法政大学生協で販売される。

【その他の重要事項】
本授業は，「実務経験のある教員による授業」です。
授業担当者の吉田一朗は，精密機械メーカで約８年間，実際に販売する製品の設計・製図および研究開発における超精密機器の設計・製図の実務経験があります。また，大学においては，1990年代後半から手書き製図・設計とCAD/CAM/CAEに触れ，研究開発業務においても実際に使用してきました。

これらの経験を評価され，前職の精密機器メーカにおいて，設計・製図・CAD/CAM/CAEに関する社内教育訓練の企画・運営にも携わっていました。CAD/CAM/CAEのソフトウェアに関しては，CADSuperFX，AutoCAD，ANSYS，ANSYS DesignSpace，SolidEdge，NX，Unigraphics，Jw Cad，Pro/ENGINEER，ME10，SolidWorksなど横断的に多くの経験を有します。本シラバスに記載の内容および本講義で説明する内容は，これらの設計・製図・CAD/CAM/CAEの経験と考察に基づいたものです。

大学は，社会に出て就職する前の最後の準備期間（学習期間）である。社会に飛び立つと，学生時代のような手厚い教育を受ける機会は激減する。そのため，ぜひ社会に出るまでに，自力で学習できる技術と能力，精神，考えを身に付けられると良いと考える。この能力は一生ものであり，社会に出た後，どの分野に進んだとしても必ず役に立つ。

（本科目は，教職課程「数学」の教科に関する専門科目の幾何学の分野の科目である）

【Outline (in English)】
【Course outline】
Students will be able to acquire a superior spatial awareness and spatial imagination that mechanical researchers and engineers should have by drafting the drawings and reliably and carefully solving the tasks of graphic science to understand the drawings. This lesson uses drafting tools such as triangle rulers and compass for practical training, therefore students should prepare the HOSEI University's drafting tools.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to understand and acquire the descriptive geometry and the graphic science.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
The total score score of 60 or more out of 100 is considered acceptable. At least 2/3 attendance is required.

MEC100XB（機械工学 / Mechanical engineering 100）

機械力学入門

相原　建人

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
機械の運動を表す力学の基礎科目である．また2年次から学ぶ機械力学系の科目へとつなぐ上での重要な入門科目であり，十分な勉学による根本的な理解が必要である．

【到達目標】
1. 質点の運動について適切に運動方程式を立て解くことができること．
2. 仕事とエネルギについて理解すること．
3. 剛体並進・回転運動について適切に運動方程式を立て解くことができること．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
質点系の力学，剛体の力学について，運動方程式の導出，その解法，エネルギーの概念について学習する．板書を中心に授業を進めるが課題による演習も交えて理解を深める． 適時，学習等の実施内容に対してフィードバックを行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	機械力学入門の位置づけと学ぶための予備知識を学ぶ．
第2回	並進座標系	質点の変位・速度・加速度について学ぶ．
第3回	回転運動の表現	角速度ベクトル・外積について学ぶ．
第4回	回転座標系	極座標系での変位・速度・加速度について学ぶ．
第5回	並進・回転座標系1	質点系の運動方程式について例題および演習問題を解く．
第6回	並進・回転座標系2	複数の質点から成る系の運動方程式について例題および演習問題を解く．
第7回	リンク機構の運動解析	ロボットアームの例題について解く．
第8回	剛体の平面運動	剛体の平面運動の解析について例題および演習問題を解く．
第9回	剛体の回転運動1	剛体の回転運動の解析について例題および演習問題を解く．
第10回	剛体の回転運動2	平行軸の定理について学ぶ．
第11回	仕事とエネルギー1	質点の運動における仕事とエネルギーについて学ぶ．
第12回	仕事とエネルギー2	質点系と剛体の運動における力学的エネルギーについて学ぶ．
第13回	運動量と力積	運動量の法則と力積について学ぶ．
第14回	角運動量	角運動量の法則とその保存則について学ぶ．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
すべての機械分野の基礎となる機械工学の根幹科目であり，次年度からの機械力学系科目の入門であるからしっかり学習することが必要である．特に復習は必須である．

【テキスト（教科書）】
指定しない

【参考書】
久曽神・矢鍋・金子・田辺・阿部著　「機械系のための力学」　朝倉書店

【成績評価の方法と基準】
評価方法：レポート（40%）期末試験（60％）で評価する。
評価基準：60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
板書において，丁寧かつ詳細な理論の説明と解説を行い，さらに例題を演習として解くことから，比較的学びやすい授業であることが見て取れる．しかし，授業内演習を真剣にやっていない者にとっては及第点が取れないであろうことが推察される．

【その他の重要事項】
企業研究所にて自動車駆動系の研究開発経験を持つ教員が、その経験を活かし、研究や実務面での応用を踏まえた上で講義を行う。

【Outline (in English)】
It is a basic subject of dynamics to represent the motion of a machine. In addition, it is an important introduction subject to connect with subjects of mechanical dynamics system learned from the second year.
【Course outline】 This course provides a basic knowledge of mechanical dynamics. Students will be motivated by understanding the background of the mechanical dynamics. 【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to achieve the objectives of the class and to acquire preliminary understanding and knowledge for mechanical dynamics. 【Learning activities outside of classroom】 Before /after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content. 【Grading Criteria / Policy】 The total score of 60 or more out of 100 is considered acceptable.

MEC200XB（機械工学 / Mechanical engineering 200）

機械力学Ⅰ

相原　建人

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
質点，質点系，剛体の運動の動力学的解析法
剛体の並進運動と回転運動
仕事とエネルギー
運動量，角運動量と衝突問題

【到達目標】
1. 機械工学を学ぶための基本的な数学と物理学を理解すること。
2. 質点と剛体に働く静的な力と動的な力を理解すること。
3. 質点と剛体に作用する力とそれにより生じる運動の関係を理解すること。
4. 力学的エネルギーと仕事の概念を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
質点の力学，質点系の力学，剛体の力学について，運動方程式の導出，その解法，エネルギーの概念，衝突現象，剛体の運動学と動力学について学習する．
使用する教科書は，例題が豊富で，かつ章末問題の解答も充実しているのでそれらを十分に活用しながら，演習を交えて授業を進めていく．　適時，学習等の実施内容に対してフィードバックを行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	機械力学とは	機械力学の位置づけと学ぶための予備知識を学ぶ.
第2回	力と運動（変位・速度・加速度）の合成と分解	力と運動をベクトルとして扱い、合成・分解について例題および演習問題を解く.
第3回	質点の運動1：ニュートンの法則と運動方程式	ニュートンの3法則と運動方程式の立て方について例題および演習問題を解く.
第4回	質点の運動2：質点のさまざまな運動	斜面拘束・ばね支持・振り子による運動について例題および演習問題を解く.
第5回	質点系の運動	質点系の運動方程式について例題および演習問題を解く.
第6回	剛体の運動1：並進と回転	剛体の並進運動と回転運動の運動方程式について例題および演習問題を解く.
第7回	剛体の運動2：慣性モーメント	慣性モーメントの概念と導出方法について例題および演習問題を解く.
第8回	剛体の運動3：剛体の平面運動	剛体の平面運動の解析について例題および演習問題を解く.
第9回	仕事とエネルギー1：質点の運動	質点の運動における仕事とエネルギーについて例題および演習問題を解く.
第10回	仕事とエネルギー2：力学的エネルギー保存則	ポテンシャル場と力学的エネルギー保存の法則について例題および演習問題を解く.
第11回	仕事とエネルギー3：質点系と剛体の運動	質点系と剛体の運動における力学的エネルギーについて例題および演習問題を解く.
第12回	運動量と力積1：運動量保存則	運動量の法則とその保存則について例題および演習問題を解く.
第13回	運動量と力積2：衝突	質点の衝突の解析について例題および演習問題を解く.
第14回	角運動量および総合演習	角運動量の法則とその保存則について例題および演習問題を解く.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】すべての機械分野の基礎となる機械工学の根幹科目であるから，しっかり学習することが必要である．特に復習は必須である．
力・運動・エネルギーの基本は，系統的に学習する必要があるため，欠席した場合は，必ず，次回までに内容を補っておくこと．

【テキスト（教科書）】
久曽神・矢鍋・金子・田辺・阿部著　「機械系のための力学」　朝倉書店

【参考書】
指定なし

【成績評価の方法と基準】
評価方法　：　レポート（20%）期末試験（80％）で評価する。
評価基準　：　本科目において設定した達成目標を60％以上達成している学生を合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
教科書には，理論の簡潔な説明と，詳細な解説を含む例題を持ち，章末の問題にも詳細な解答がついていることから，比較的学びやすい授業であることが見て取れる．しかし，授業内演習を真剣にやっていない者にとっては及第点が取れないであろうことが推察される．

【学生が準備すべき機器他】
すべて板書により教科書，参考書，資料，演習問題の解答などを提示し，学生自らノートに取ることで自分だけのオリジナル参考書を完成させ，深い理解につながる方法をとる．

【その他の重要事項】
基礎となる講義としては，機械力学入門，力学基礎演習などがある．なお本科目は企業研究所にて自動車駆動系の研究開発経験を持つ教員が，その経験を活かし，研究や実務面での応用を踏まえた上で講義を行う．

【Outline (in English)】
Learn about derivation of equation of motion, solution method, energy, collision phenomenon, kinematics and dynamics of rigid bodies.
【Course outline】 This course provides a basic knowledge of mechanical dynamics. Students will be motivated by understanding the background of the mechanical dynamics systems. 【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to achieve the objectives of the class and to acquire preliminary understanding and knowledge for mechanical dynamics systems. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 The total score of 60 or more out of 100 is considered acceptable.

MEC200XB（機械工学 / Mechanical engineering 200）

流体力学 I

平野　利幸

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、流体力学の基礎に関する重要な項目を扱う。質量保存則の連続の式およびエネルギー保存則のベルヌーイの定理について理解し、それを基にして流速と流量の測定方法の基礎を身につける。また、運動量の理論および角運動量の理論を理解し、流体との間でエネルギーの授受を行う流体機械の基本原理を習得する。さらに、粘性の影響により生じる流体摩擦に起因する管路内の内部流れの損失の評価方法について習得する。

【到達目標】
1. ベルヌーイの定理の流量測定への応用を習得する。
2. 運動量の定理および角運動量の定理を理解し、流体機械への応用を習得する。
3. 層流と乱流の概念について理解する。
4. 管路内の摩擦損失の計算方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は対面で行います。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。
課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。
動水力学の基本となる粘性の無い理想流体の運動について、エネルギー、質量、運動量の保存則を中心に講義を行う。また、それらを応用した流速や流量の測定方法の原理および流体機械の作動原理について説明する。さらに、粘性に起因する流体摩擦による損失の評価方法についても講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オイラーの運動方程式とベルヌーイの定理	非粘性流体の運動とエネルギー保存則について
第2回	動圧とピトー管	ベルヌーイの定理を応用した流速測定の原理について
第3回	ベンチュリ管、オリフィス、ノズル	ベルヌーイの定理を応用した流量測定の原理について
第4回	演習　第4章演習問題と解説	教科書第4章の演習問題の中から選択した問題を演習として取り上げる
第5回	運動量の定理	流体の運動量の変化と流体が受ける外力の関係について
第6回	運動量の定理の応用	運動量の定理の流体機械への適用例について
第7回	角運動量の定理	流体の角運動量の変化と流体が受けるトルクの関係について
第8回	角運動量の定理の流体機械への応用	角運動量の定理の回転系のの流体機械への適用例について
第9回	演習　第5章演習問題と解説	教科書第5章の演習問題の中から選択した問題を演習として取り上げる
第10回	円管内の摩擦損失(層流)	円管内の層流の摩擦損失を評価する関係式の理論的誘導について
第11回	円管内の摩擦損失(乱流)	円管内の乱流の摩擦損失を評価する方法について
第12回	演習　第6章演習問題と解説	教科書第6章の演習問題の中から選択した問題を演習として取り上げる
第13回	管路系の損失	管路、ベンド、エルボ、弁などを組み合わせた管路系における各部の損失評価方法について
第14回	演習　第7章演習問題と解説	教科書第7章の演習問題の中から選択した問題を演習として取り上げる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
各授業テーマの予習・復習および課題レポートの作成

【テキスト（教科書）】
笠原英司編著「現代水力学」、オーム社
主に第4章から第7章

【参考書】
宮田昌彦編著「よくわかる水力学」、オーム社、
日本機械学会編「流体力学」、丸善

【成績評価の方法と基準】
評価方法：期末試験（80％）およびレポート（20％）の結果による。
評価基準：本科目において設定した達成目標の60％以上を達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
演習問題を解く時間を増やす。

【その他の重要事項】
ポイントとなる事項については演習問題の資料を配布します。問題の解け具合により理解度を把握し、必要に応じて積極的に質問すること。授業前に教科書に目を通し、授業後は講義ノートの内容の確認などの予習復習は最低限行うこと。1年次秋学期科目の「流れの力学」を履修しておくこと。
なお、国内の企業実務経験を持つ教員が、その経験を生かし、流体力学および流体機械の基本原理および評価方法について講義する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course provides important topics concerning fundamentals of fluid dynamics. Students will gain an understanding of the continuity equation of the law of conservation of mass and Bernoulli's theorem of the law of conservation of energy. Students will learn the basics of measuring flow velocity and flow rate based on the theorem. Students will also comprehend the theory of momentum and angular momentum, while learning the basic principles of fluid machinery that transfers energy to and from fluids. In addition, students will learn how to evaluate the internal flow loss in a pipe due to fluid friction caused by viscosity.
【Learning Objectives】
After completing this course, students should be able to:
- Learn the application of Bernoulli's theorem to flow measurement.
- Understand the momentum theorem and angular momentum theorem and apply them to fluid machinery.
- Understand the concepts of laminar and turbulent flows.
- Calculate friction loss in a pipe.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】

Students who achieve a total of 60%or more will pass the course.

MEC200XB（機械工学 / Mechanical engineering 200）

機械力学Ⅱ

相原　建人

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
機械の宿命であり，その故障や不具合の過半数の原因になる振動を扱う．機械振動の実例の紹介及び振動低減対策法にも言及し．機械振動技術者の仕事の本質を理解する．

【到達目標】
1. 1自由度系の自由振動と強制振動の理論を理解し，運動方程式を立てて解くことができる．
2. 多自由系の自由振動と強制振動の理論を理解し，運動方程式を立てて解くことができる．
3. 連続体の自由振動と強制振動の理論を理解し，運動方程式を立てて解くことができる．
4. 実際の機械に生じる振動現象を理論と結び付けて考えることができる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
機械力学で学習した1自由度系の振動に関する基礎知識をさらに深めると共に，多自由度系，連続体の振動へと拡張する．実際の機械に発生する振動の理解に必要な知識を勉強することにより，機械技術者としての応用力を身につける．　適時，学習等の実施内容に対してフィードバックを行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	機械振動学とは	機械振動学の位置づけと学ぶための予備知識を学ぶ.
2	初等数学	振動現象を表現するのに必要な初等数学について確認する.
3	自由振動	固有角振動数，周期について学ぶ.
4	1自由度系無減衰自由振動	1自由度系の無減衰自由振動について運動方程式を立て，その特性を理解する.
5	強制振動	振動的外力である励振力の種類や特徴について学ぶ.
6	1自由度系無減衰強制振動	1自由度系の無減衰強制振動について運動方程式を立て，その特性を理解する.
7	減衰自由振動	減衰要素について学ぶ.
8	1自由度系減衰自由振動	1自由度系の減衰自由振動について運動方程式を立て，その特性を理解する.
9	1自由度系減衰強制振動①：運動方程式と解	1自由度系の減衰強制振動について運動方程式を立て，解を導出する.
10	1自由度系減衰強制振動②：共振曲線と位相角曲線	解を基に共振曲線と位相角曲線を作図し，共振現象について理解する.
11	演習	1自由度系の振動に対する演習を行う.
12	2自由度系無減衰自由振動①：運動方程式と解	2自由度系の減無減衰自由振動について運動方程式を立て，解を導出する.
13	2自由度系無減衰自由振動②：振動モード	2自由度系の減無減衰自由振動を対象とし，振動モードについて理解する.
14	2自由度系無減衰強制振動	2自由度系の減無減衰強制振動について運動方程式を立て，その特性を理解する.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
機械力学で学習した運動方程式の立て方を復習しておくこと．また，微分方程式（同次方程式，非同次方程式）を取り扱うのでこれらの解法についても復習しておくこと．

【テキスト（教科書）】
配布プリント．教科書は使用しない．

【参考書】
吉川考雄，松井剛一，石井徳章，「機械の力学」，コロナ社

【成績評価の方法と基準】
評価方法：レポート（40%）期末試験（60％）で評価する。
評価基準：60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
板書において，丁寧かつ詳細な理論の説明と解説を行い，さらに例題を演習として解くことから，比較的学びやすい授業であることが見て取れる．しかし，授業内演習を真剣にやっていない者にとっては及第点が取れないであろうことが推察される．

【学生が準備すべき機器他】
資料配布のため授業支援システムを利用する．
演習の際，貸与パソコンを使用するため指示があった際，持参すること．

【その他の重要事項】
機械力学入門と機械力学Ⅰの両科目において履修した基礎知識を，実際の機械の振動と関連付けて，さらに深く広く理解する．また機械工学演習で学ぶプログラミングを用いての演習も行うため，機械工学演習の履修が望ましい．
なお本科目は企業研究所にて自動車駆動系の研究開発経験を持つ教員が，その経験を活かし，研究や実務面での応用を踏まえた上で講義を行う．

【連絡事項・注意事項】
振動は、機械の設計開発に不可欠の知識であるから、本科目を受講すれば、機械技術者として必要な多くの知識が得られる。

【Outline (in English)】
Understanding example of mechanical vibrations and the vibration reduction method.
【Course outline】 This course provides a basic knowledge of mechanical dynamics. Students will be motivated by understanding the background of the mechanical vibration systems. 【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to achieve the objectives of the class and to acquire preliminary understanding and knowledge for mechanical vibration systems. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 The total score of 60 or more out of 100 is considered acceptable.

MEC300XB（機械工学 / Mechanical engineering 300）

自動車工学

相原　建人

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自動車を介して工学的・社会的両面の視点からその位置づけと役割を理解する．

【到達目標】
自動車を通して，工学における「機械要素，機械力学，熱力学，等」の基本の復習とその応用例および応用の方法を学ぶ．また，人の移動体(乗用車)として，また物流の担い手(トラック)としての自動車を理解する．さらに，より良い社会の実現への一環としてITS(高度道路交通システム)，自動運転，エンジンの高効率化技術を知る．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業の概要】
自動車の構造，機能，性能，燃費などの基礎知識を身につける．また，社会のニーズに対応した将来方向について考える力を持つ．
【授業方法】
講師自作の資料をパワーポイントと板書や動画で説明をしながら講義をおこなう．知識の吸収はもとより，失敗の実例や問題解決の技術を学び，自分で考えて解決するという手法を積極的に導入する．適時，学習等の実施内容に対してフィードバックを行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方についての説明.
2	自動車について①：歴史	自動車の歴史について学ぶ
3	自動車について②：メーカー	国内外の自動車メーカーと現在の市販車について学ぶ
4	パワートレーン①：構造	コンベンショナルなパワートレーンについてその構造と特徴について学ぶ
5	パワートレーン②：エンジン	エンジンの種類やその特性，技術について学ぶ
6	パワートレーン③：トランスミッション	トランスミッションの種類やその構造について学ぶ
7	パワートレーン④：ハイブリット技術	ハイブリット車の仕組みついて学ぶ
8	パワートレーン⑤：EV	電気自動車について学ぶ
9	演習	これまでに学習したパワートレーンに関して演習を行う
10	ボディ構造	ボディ構造の種類とその特性について学ぶ
11	制動装置	ブレーキ，エネルギ回生技術について学ぶ
12	安全性	最先端の安全技術や各国の衝突安全規制について学ぶ
13	運動性能	タイヤおよびサスペンションについて学ぶ
14	ITSと自動運転	高度道路交通システムの紹介と自動運転技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
これまでに学んだ機械力学、材料力学、熱力学，流体力学の知識が必要となるので，復習しておく．

【テキスト（教科書）】
配布プリントを用いる．教科書は使用しない．

【参考書】
指定しない．

【成績評価の方法と基準】
評価方法：授業内に行う演習40%,期末試験60%として評価する．
評価基準：上記の評価方法において60点以上の得点に得た学生は，達成目標に達したとみなして合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
授業毎に配布する資料をベースとして授業が進められ，その資料に学生がメモしていくことで学生オリジナルの教材が完成する．授業で使用するスライドは学生がメモしやすいように構成されている．

【学生が準備すべき機器他】
貸与パソコン

【その他の重要事項】
なお本科目は企業研究所にて自動車駆動系の研究開発経験を持つ教員が、その経験を活かし、研究や実務面での応用を踏まえた上で講義を行う。

【Outline (in English)】
Learn the basic technology and latest technology of automobiles.
【Course outline】 This course provides a basic knowledge of mechanical dynamics. Students will be motivated by understanding the background of the automotive engineering. 【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to achieve the objectives of the class and to acquire preliminary understanding and knowledge for automotive engineering. 【Learning activities outside of classroom】 Before /after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content. 【Grading Criteria / Policy】 The total score of 60 or more out of 100 is considered acceptable.

MEC100XB（機械工学 / Mechanical engineering 100）

流れの力学

平野　利幸

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
流体の運動に影響を与える物性である圧縮性や粘性、圧力や浮力などの静水力学の基礎、および連続の式、非粘性流体の運動方程式、エネルギー保存の式（ベルヌーイの定理）などの動水力学の基礎について学ぶ．また、ベルヌーイの定理を応用したトリチェリの定理、および流体機械を含む管路系におけるエネルギー保存について学ぶ．

【到達目標】
1.流体の粘性、圧縮性について理解し、それらの物性が無視できる流れと、無視できない流れの違いを説明できる。
2.静止流体に作用する圧力と、それによる面に作用する力の関係について理解する。
3.流体運動の基礎となる連続の式、オイラーの運動方程式およびベルヌーイの定理を理解し、さらにそれらを応用した工学的問題を解くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は対面での開講予定です。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	この授業で学ぶ範囲（引き続き開講される流体力学関係の授業内容との関連）、進め方、評価、流体分野の最新の話題の紹介
第2回	流体の物性Ⅰ	・単位の話 ・密度と比重、圧縮性、粘性
第3回	流体の物性Ⅱ	飽和蒸気圧、表面張力
第4回	演習　第1章演習問題と解説	教科書第１章の演習問題の中から選択した問題を演習として取り上げる．
第5回	圧力とその測定	圧力の定義、圧力と力、圧力の測定方法について学ぶ．
第6回	重力場の圧力と面に対する作用	重力場における水や空気の圧力と面に作用する力、それによるモーメントについて学ぶ．
第7回	浮揚体、相対的静止	浮揚体に作用する力とそれによるモーメント、及び安定性について学ぶ．
第8回	演習　第2章演習問題と解説	教科書第２章の演習問題の中から選択した問題を演習として取り上げる．
第9回	流体運動の表し方	定常・非定常の流れの区別、流線・流跡線・流脈の違い、流管の概念、流れを記述する方法について理解する．
第10回	連続の式、Eulerの運動方程式	流体運動に対する質量保存則と運動量保存側を理解する．
第11回	ベルヌーイの定理	非粘性定常流れに対するエネルギー保存則であるベルヌーイの定理を理解する．
第12回	ベルヌーイの定理の応用1	トリチェリの定理について理解する．
第13回	ベルヌーイの定理の応用２	流体機械を含む管路系におけるエネルギー保存の考え方について理解する。
第14回	演習　第3章演習問題と解説	教科書第３章の演習問題の中から選択した問題を演習として取り上げる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】・ポイントとなる事項については演習問題のプリントを配布する。問題の解け具合により理解度を把握し、必要に応じて積極的に質問すること。授業前に教科書に目を通し、授業後は講義ノートの内容の確認などの予習復習は最低限行うこと。
・章末の演習問題については、授業の進捗に合わせて復習の際に解いておくことが望ましい．

【テキスト（教科書）】
笠原英司編著「現代水力学」、オーム社
主に第1章から第3章
高学年配当の関連科目の授業でもテキストとして使用する。

【参考書】
「流体力学」　専門基礎ライブラリー、金原黎　編、実教出版：わかりやすく書かれている。　演習書としても薦める。
「流体力学序説」内田茂男　著（森北出版）：流体力学の基礎法則等を覚えるのではなく、理解できるように記述されているレベルが高く、内容の範囲も広い教科書．自主的に学ぼうという学生や、考える力をつけたい学生に薦める．

【成績評価の方法と基準】
評価方法：　期末試験（80％）およびレポート（20％）の結果による。
評価基準：　合計で60％以上を達成した者を合格とする

【学生の意見等からの気づき】
演習問題を解く時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
[重要]本科目は選択科目であるが、高学年配当の関連必修科目の基礎であるので、特別な事情がない限り履修すること。なお、国内の企業実務経験を持つ教員が、その経験を生かし、流体力学の基本的な考え方について講義する。
・理解度を確認しながら授業を進めるので、部分的にはシラバスに記載の進度と乖離する場合がある。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course provides important topics concerning fundamentals of fluid mechanics. The topics covered in this course are divided into three parts, characteristics of fluids such as viscosity and compressibility which strongly influence motions of fluids, fundamentals of fluid statics including concept of pressure, pressure variation in static fluid and buoyancy, and fundamentals of fluid dynamics. In the third part, students will work to formulate mass conservation (Continuity equation) and momentum conservation (Euler's equation of motion) which is the application of Newton's second low to moving fluids without viscosity, and the well-known Bernoulli equation which explains energy conservation.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:

- To understand viscosity and compressibility of fluids, and to be able to explain the difference between flows in which these properties can be ignored and in which they cannot.
- To understand the relationship between the pressure acting on a stationary fluid and the force acting on the surface due to the pressure.
- To understand the continuity equation, Euler's equation of motion, and Bernoulli's theorem, which are the basis of fluid motion, and to be able to solve engineering problems by applying them.

【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】
Students who achieve a total of 60%or more will pass the course.

MEC200XB（機械工学 / Mechanical engineering 200）

データサイエンス・計測工学

吉田　一朗

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では，データサインティストにとって必須となるデータサイエンスの基本的知識・技術を学ぶことができる。

また，データサイエンスは，人工知能（AI）とも非常に深い関係があるため，AIを学ぶ上での基礎となる（場合によっては「必須」となる）。

本授業では，学生が学びやすい授業にするため，少しゆっくりとした授業進捗としている。また，少ない授業回数でもデータサイエンスの真髄・核心を学べるようにするため，理論の簡潔な説明，分かりやすい演習問題で構成している。

データサイエンスとは，計測で得られた膨大なデータをプログラミングのスキルおよび数学，統計学の知識を組み合わせて解析し，有意義な知見や最適解を得ようとする行為および研究分野のことである。

近年，機械製品やそのシステムはますます複雑になり，機能や経済性，あるいは環境負荷低減の観点から，計測で得られたデータを処理し，合理的に最適解を得ることが望まれている。

計測および最適化は，機械工学系，理工系の基礎として大変に重要である。そのため，計測における重要な考え方と数理的な基礎理論の手法を学ぶ。基礎的手法として，最小二乗法やニュートン・ラフソン法などの理論を学ぶ。

本講義では手計算によって数式を解く演習を併用する方法を行なうため，学生はMatlabやC言語などのプログラミング言語のコーディング技術を効率的に習得できる。また，本講義では，Excelのコマンドや四則演算の機能を併用することで，C言語やMatlabにおける for 文などのプログラム言語コーディングで必要となる技法の理解を促進する。

【到達目標】

履修学生は，計測工学的観点から，データサイエンスと計測における考え方とキーポイントを学ぶ必要があります。また，高校数学の線形代数と微分積分の知識を基礎として，最適化の基本的な数学的手法を理論的に理解することも履修学生の到達目標です。

テクニカルコンピューティング言語である Matlabの利用法と C言語のプログラミングを学び，最適化およびデータサイエンスの基礎問題を数値的に解いてみることにより，実践的な問題解決能力を身に付けることが，学生の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

最初に，データサイエンス，最適化および計測の基礎概念を学び，その関係性と有用性を理解する。

次に，データサイエンスと最適化の基礎理論として，主に一次関数の最小二乗法，二次関数の最小二乗法，高次関数の最小二乗法，円の最小二乗法を「偏微分」と「行列演算」の方法で学び，また，ニュートン・ラフソン法などを学ぶ。演習課題を通じて具体的な計算手法を身につける。また，これらと同時に，計測工学における重要な考え方も学ぶ。

上記のデータサイエンス等の具体的な演習には，手計算および Matlab，C 言語，Excel を利用する。授業中に Matlab，C 言語，Excelの基本的な使用法も学ぶ。大まかな流れとしては，①『手計算によって数式を解く・流れを確認する』 ⇒②『Excelによって妥当性を確認する』⇒③『C言語，Matlabでコーディングし，最適化アルゴリズムを実装し理解する』などとなる。理解度を上げるため，理解の状況や進捗に合わせて授業計画の順序などを柔軟に変更する。適時，課題の解説や質疑応答などを通じてフィードバックを行なう。

新型コロナウイルス等の感染症の状況や政府からの非常事態宣言および東京都からの緊急事態措置等が発出される状況となった場合は，春学期中，必要に応じてオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業内容や計画の変更，成績評価の方法などの変更等については，学習支援システムでその都度提示する。また，本授業の開始日も必要に応じて学習支援システム：Hoppii等から通知する。本シラバスに記載の全事項は新型コロナ禍前や非常事態宣言時以外を想定して作成されているため，オンライン式，対面式を含め具体的な授業の進め方などは，学習支援システム：Hoppii等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	データサイエンスおよび計測工学，最適化工学のキーポイント	ガイダンス，最適化・データサイエンスとは何か，計測における考え方。 機械設計問題への最適化の簡単な応用例。
2	Matlab入門，C言語の簡単な復習	Matlabの起動，基本的な操作，電卓としての使い方，簡単なグラフ，Matlabによる行列の入力と演算の仕方，C言語による行列の入力と演算の仕方。
3	MatlabとC言語による行列の計算方法，グラフ描画入門（１）	Matlabによる行列の入力と演算の仕方，C言語による行列の入力と演算の仕方，3Dグラフ描画入門，Matlabコマンド。
4	MatlabとC言語による行列の計算方法，グラフ描画入門（２）	Matlabによる行列の入力と演算の仕方，C言語による行列の入力と演算の仕方，3Dグラフ描画入門，Matlabコマンド。
5	様々なグラフの描画。 「データサイエンス」と「ＡＩ」の入り口：最小二乗法とは	Matlabによる3D描画，Mobiusの輪，Klein管などの描画，最小二乗法の概要。
6	データサイエンスとＡＩの基盤となる計算法：最小二乗法入門(1)	Excelによる最小二乗当てはめ，最小二乗法における関数の最適な選択について。
7	最小二乗法入門(2)	Excelのコマンドによる一次関数の最小二乗法，手描き及び最小二乗法による当てはめの比較。
8	偏微分による最小二乗法（一次関数）	偏微分を用い最小二乗法を手計算で解く，偏微分の復習。
9	行列による最小二乗法 入門	手計算で一次関数の最小二乗法を解く，手計算で得られた結果をExcelに入力し，計算する。

10	行列による最小二乗法：一次関数	手計算で一次関数の最小二乗法を解き，Matlabによるコーディングを行う。
11	行列による最小二乗法：二次関数，高次関数	手計算で二次関数の最小二乗法を解き，Matlabによるコーディングを行う。
12	行列による最小二乗法：円の最小二乗法	手計算で円の最小二乗法を解き，Matlabによるコーディングを行う。
13	ニュートン・ラフソン法	ニュートン・ラフソン法入門と手計算，Excelの規則演算を用いた解の導出。Excel，Matlabによる演習。
14	まとめ・評価	まとめと評価，試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、3時間を標準とする】

履修学生は，教養基礎科目として学習する線形代数学および微分積分学，統計学を十分に復習し身につけておくことが必要である。授業期間中には，Matlab，C言語，Excelを使いこなせるように自主的に学習することが必要である。

文科省の省令で定められている時間外の学習時間は，1単位あたり約22.5時間以上です。

つまり，学生は，1単位につき１週間あたり約1.6時間以上の授業時間外の学習をすることが義務付けられています。

【テキスト（教科書）】

教科書については，初回のガイダンスで説明する。

1. 最適化手法入門：データサイエンス入門シリーズ，寒野善博，駒木文保，講談社， 2019年， 2,860円（税込）.

2.『表面粗さ―その3　教科書に書けないワークのセッティングの裏技と最新のJIS規格―』，吉田一朗，精密工学会，2014年，オープンアクセス.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjspe/80/12/80_1071/_pdf/-char/ja

3. はじめてのMATLABプログラミング（ IOブックス），大川善邦，工学社，2016年，2,052円（税込）.

4. Bilingual edition 精密計測学 Precision Metrology，高 偉，清水裕樹，水谷康弘，道畑正岐，河野大輔，吉田一朗，伊東 聡，清水浩貴，朝倉書店，2024年，3,190円（税込）.

6. 必要に応じて，講義の際に授業支援システムへの資料アップロード，もしくは，プリント配布をする。

【参考書】

データサイエンスの数学的理論の詳細については，数値解析や最適化手法の数学に関する教科書を参照のこと。下記にデータサイエンスと計測工学の良書を示す。

1. これなら分かる最適化数学，金谷健一，共立出版，2005年，3,132円（税込）.

2. ニューメリカルレシピ・イン・シー日本語版― C言語による数値計算のレシピ，William H. Press他，技術評論社， 1993年，5,138円（税込）.

3. 計測システム工学の基礎　第4版，松田康広・西原主計，森北出版，2020年，2,750円（税込）.

4. 工学のための最適化手法入門，天谷賢治，数理工学社， 2008年，1,728円（税込）.

5. MATLABではじめるプログラミング教室，奥野貴俊，中島弘史，コロナ社， 2017年， 2,860円（税込）.

6. 表面性状用ローパスフィルタの数理，近藤雄基，沼田宗敏，吉田一朗，東京図書出版，2023年，2,200円（税込）.

一般的な数学の基礎については、線形代数学および微積分学、統計学の教科書を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】

講義中に設定される課題についてのレポート提出および期末の試験を総合して成績評価する。

成績評価の配分は，課題・レポート：６０％，期末試験：４０％（ただし，期末試験を実施しない場合は，課題・レポート：１００％となる。期末試験を実施しない場合は，第10回の講義までにアナウンスする）。

また，評価基準は，60％以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくりとした授業進捗と理論の簡潔な説明，分かりやすい演習問題で構築しているため，データサイエンスの真髄・核心を押えながら，比較的学びやすい授業としている。

1. 理論的な説明だけでは分かりにくい点については，例題や計算例による説明をもとに，自ら問題を解いて理解していく姿勢が重要である。

2. 理解の状況などに合わせて授業計画の順序や内容を柔軟に変更する。

3. 本授業では，Matlabプログラミングの演習において学生同士の意見交換・教え合い，学生自らの主体的な学びを奨励する。

【学生が準備すべき機器他】

1. 貸与ノートPCを使用する。Matlab，Excelを用いて数値計算（アルゴリズムおよびプログラミング）の練習を行う。
2. レポート・課題の提出用紙は，Ａ４もしくはＡ３のみを受け付ける。提出用紙サイズは，授業中に指示する。

【その他の重要事項】

本授業は，「実務経験のある教員による授業」である。授業担当者の吉田一朗は，精密計測機器メーカでの約８年間の業務経験の間に，データサイエンスと最適化アルゴリズムを応用したソフトウェアの研究開発と実装，製品化に携わった業務経験がある。博士後期課程において研究開発した最適化アルゴリズムを当該企業内で商品企画・提案し，その最適化アルゴリズを応用したソフトウェアの製品化と販売促進に携わり，大手自動車メーカなどへの販売実績もある。

また，授業担当者の吉田は，主担当の課長として表面粗さ計測機器及び真円度計測機器メーカーの中で日本で最初のJCSS取得に貢献した。（JCSSとは，計測機器メーカの計測技術・能力を国家機関が審査する制度）

大学は，社会に出て就職する前の最後の準備期間（学習期間）である。社会に飛び立つと，学生時代のような手厚い教育を受ける機会は激減する。そのため，ぜひ社会に出るまでに，自力で学習できる技術と能力，精神，考えを身に付けられると良いと考える。この能力は一生ものであり，社会に出た後，どの分野に進んだとしても必ず役に立つ。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lecture, students study Metrology, Optimization engineering, and Data Science. In this lecture, by combining exercises to solve mathematical expressions by manual calculation, let students efficiently acquire coding techniques of the programming languages such as Matlab and C languages. In addition, in this lecture, by using Excel command and rule operation function together, the lecturer promote students' understanding of techniques required for program language coding techniques such as "for statement" in C language and Matlab.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand Metrology, Optimization engineering, and Data Science.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

The total score score of 60 or more out of 100 is considered acceptable. At least 2/3 attendance is required.

ELC200XD（電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 200）

基礎電気電子材料工学

笠原　崇史

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
電子デバイスを構成する物質である、導電体、半導体、誘電体、磁性体、有機半導体の電気特性および利用法を理解することを目的とする。また電気電子材料を理解するために必要な固体物性について学ぶ。

【到達目標】
導電体、半導体、誘電体、磁性体、有機半導体の電気特性、利用法について説明できる。また、最先端電子デバイスで用いられる電気電子材料およびデバイスの駆動原理について自ら学ぶ意識をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は板書、配布資料、スライドにより進める。理解を助けるために、演習問題・レポートを課し、講義中に模範解答を解説することでフィードバックする。
社会情勢に伴う各回の授業計画・実施方法の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	総論	授業計画の説明・総論、電気電子材料の分類
第2回	電気電子材料の基礎 (1)	物質の構成、原子・分子・イオン、化学式、物質の量
第3回	電気電子材料の基礎 (2)	水素原子、ボーアの理論、電子の二重性、原子内の電子配置、構成原理
第4回	電気電子材料の基礎 (3)	イオン化エネルギーと電子親和力、化学結合、結晶構造、7種類の結晶系
第5回	電気電子材料の基礎 (4)	ミラー指数、エネルギーバンド図の基礎
第6回	導電材料 (1)	金属の導電現象、オームの法則、電子の散乱と抵抗
第7回	導電材料 (2)	フェルミ・ディラックの統計、抵抗・配線材料
第8回	半導体材料 (1)	半導体の性質、シリコン原子と真性半導体、ダイヤモンド構造
第9回	半導体材料 (2)	不純物元素とP型・N型半導体、不純物準位、フェルミ準位
第10回	半導体材料 (3)	PN接合の基礎、半導体製造プロセス、MEMS
第11回	誘電体材料 (1)	誘電体の電気的性質、誘電分極、誘電分散
第12回	誘電体材料 (2)	強誘電体のヒステリシス曲線・自発分極の温度変化、圧電体・焦電体を用いたデバイス
第13回	磁性材料	磁性、磁気モーメント、フントの法則、各種磁性材料、磁区と磁壁
第14回	有機半導体材料	有機化合物の性質、有機半導体材料を用いたデバイス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
1.講義ノート、配布資料を復習する
2.講義内容について、理解を深めるため、参考書・インターネット等で調べる。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
松本智『基礎から学ぶ電子物性』(電気学会)、伊藤國雄『電気電子材料』(電気書院)、中澤達夫『電気・電子材料』(コロナ社)、湯本雅恵『基本からわかる電気電子材料』(オーム社)など。

【成績評価の方法と基準】
[評価方法]　試験(70%)、講義時に実施する演習(30%)による
[評価基準]　本科目において設定した目標を60％以上達成している学生を合格とする

【学生の意見等からの気づき】
理解を助けるために、資料を充実させる。

【学生が準備すべき機器他】
貸与パソコン

【その他の重要事項】
民間企業の研究開発に携わってきた教員が、本講義に関連する最先端のマイクロデバイスや電気電子材料について講義する。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course introduces the basic properties of conductor, semiconductor, dielectric, magnetic, and organic semiconductor materials to understand the characteristics of electronic devices.
(Learning Objectives)
At the end of this course, you will be able to discuss the crystal structures, the energy band structures, the piezoelectric effect, and the basic operation of PN junction diode, MEMS devices, and OLEDs.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to spend four hours on preparing and reviewing each class.
(Grading Criteria /Policy)
Grading will be decided based on the term-end examination (70%) and the reports (30%). To pass this course, students must earn at least 60 points out of 100.

ELC300XD（電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 300）

ロボット知能

伊藤　一之

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人工知能の基礎について学習するとともに，進化計算のアルゴリズムを理解し，実装できるようにする

【到達目標】
進化計算のアルゴリズムを理解し，実装できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
前半は，講義を中心として，人工知能の基礎について学習する．
後半は，人工知能の一例として進化計算を取り上げ，実際に，EXCELを用いて進化計算のプログラムを作成する．
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる．それにともなう各回の授業計画の変更については，学習支援システムでその都度提示する．
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「人工知能の基礎」	人工知能とは何か，その歴史を振り返りながら概要を説明する
2	「知能とはなにか」	チューリングテストなどについて解説し，知能とは何かを考える
3	「チューリングマシン」	チューリングマシンについて解説し，古典的な人工知能の実現方法について学習する
4	「古典的人工知能の問題点」	フレーム問題をはじめとする古典的人工知能の問題点について解説する
5	「古典的人工知能から新しい人工知能へ」	古典的人工知能の問題点を解決するための試みについて学ぶ
6	「進化計算」1	進化計算のアルゴリズムの概要を学ぶ
7	「進化計算」2	進化計算のアルゴリズムを手計算で実行し，理解する
8	EXCEL Visual Basic 1 基本演算，分岐，繰り返し計算	進化計算を実装するための準備としてEXCEL Visual Basicの使い方を学ぶ
9	EXCEL Visual Basic 2 ファイル処理，グラフ処理	進化計算を実装するための準備としてEXCEL Visual Basicの使い方を学ぶ
10	「進化計算の実装」1 初期個体の生成	乱数を用いて初期個体を生成するコードを実装する
11	「進化計算の実装」2 交叉	交叉を行うコードを実装する
12	「進化計算の実装」3 突然変異	突然変異を行うコードを実装する
13	「進化計算の実装」4 適応度関数	適応度を求めるコードを実装する
14	「進化計算の実装」5 選択	選択を行うコードを実装する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
前回の講義に用いたプログラムの内容を確認し，正常に動くようにしておくこと

【テキスト（教科書）】
伊藤一之著，ロボットインテリジェンス，オーム社，2007

【参考書】
R. Pfeifer, C. Scheier著，石黒章夫他監訳，　知の創成，共立出版，2001

【成績評価の方法と基準】
平常点（２０％），レポート（３０％），期末試験（５０％）により総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】
プログラム全体の構成を説明する必要から，スライドの文字が小さくなる場合がある．見難い場合には，前方の席に座る，オペラグラスを用意するなど，各自適切に対処をされたい．

【学生が準備すべき機器他】
ノートPCを持参すること(貸与パソコンが望ましいが，EXCELがインストールされていれば，どのようなPCでも可）

【その他の重要事項】
企業での開発経験ならびに，国際レスキューシステム研究機構との共同研究経験を活かし，実際の課題解決への取り組みや，その際の問題点などについても講義する．

【Outline (in English)】
The goals of this course are to
(1)Obtain basic knowledge about Artificial intelligence.
(2)Understand optimization process in Genetic Algorithm.
(3)Write a program of Genetic Algorithm using Visual Basic.
Grading Criteria
Term-end examination : 50%, Report(homework) 30%, In class contributions 20%
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

ELC300XD（電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 300）

知的制御

伊藤　一之

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
強化学習のアルゴリズムを理解し，仮想空間で自律的に振舞うロボットの制御を行う

【到達目標】
強化学習のアルゴリズムを理解し，ロボットの制御に適用できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
前半は講義を中心として強化学習のアルゴリズムを理解し，後半はEXCELのVBAを用いて実際に強化学習を実装する
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「知的制御」	強化学習，サブサンプションアーキテクチャなど，さまざまな知的制御について概要を解説する
2	「強化学習1」	強化学習のアルゴリズムを学ぶ
3	「強化学習2」	強化学習のアルゴリズムを手計算で実行し，理解する．
4	「EXCEL Visual Basic1」 基本演算，分岐，繰り返し計算	EXCEL Visual Basicの使い方を学ぶ
5	「EXCEL Visual Basic2」 ファイル処理，グラフ処理	EXCEL Visual Basicの使い方を学ぶ
6	「強化学習の実装」 環境設定，初期設定	学習環境をコード化する
7	「強化学習の実装」 最大値の取得	最大値を取得するためのコードを実装する
8	「強化学習の実装」 状態認識	状態を認識するためのコードを実装する
9	「強化学習の実装」 行動選択	最適行動を選択するためのコードを実装する
10	「強化学習の実装」 ε-greedy法	Q値の更新を行う学習則のコードを実装する
11	「強化学習の実装」 Q値の更新	ε-greedy法のコードを実装する
12	「強化学習の実装」	全てのコードを結合して強化学習のコードを完成させる
13	「総合演習」 ε-greedy法	ε-greedy法の設定を変更して学習を行い，設定値の違いが学習結果に与える影響を考察する
14	「総合演習」 学習率	学習率の値を変更して学習を行い，学習率の値の違いが学習結果に与える影響を考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
前回の講義内容を復習し，理解しておくこと

【テキスト（教科書）】
伊藤一之著，ロボットインテリジェンス，オーム社，2007

【参考書】
授業中に紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点（２０％），レポート（３０％），期末試験（５０％）により総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】
プログラム全体の構成を説明する必要から，スライドの文字が小さくなる場合がある．見難い場合には，前方の席に座る，オペラグラスを用意するなど，各自適切に対処をされたい．

【学生が準備すべき機器他】
ノートPCを持参すること
(貸与PCが望ましいが，EXCELがインストールされていれば，それ以外のPCでも可)

【その他の重要事項】
企業での開発経験ならびに，国際レスキューシステム研究機構との共同研究経験を活かし，実際の課題解決への取り組みや，その際の問題点などについても講義する．

【Outline (in English)】
The goals of this course are to
(1)Obtain basic knowledge about intelligent robot.
(2)Understand learning process in Reinforcement Learning
(3)Write a program of Reinforcement Learning using Visual Basic.
Grading Criteria
Term-end examination : 50%, Report(homework) 30%, In class contributions 20%
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

ELC300XD（電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 300）

電磁波情報工学

柴山　純

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
マックスウエルの方程式をもとに電磁波情報を数学的に取り扱う。応用として、分散媒質の取扱いを理解する。レーダ方程式、衛星通信装置の基本を理解する。

【到達目標】
到達目標は、計算機による情報処理を視野に入れて、FDTD法の基礎を理解することである。マックスウエルの方程式の6成分を差分表示できるようにし、吸収境界条件を導出、組み込めるようにする。種々の分散媒質の定式化を理解し、FDTDに組み込めるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
対面授業とする。
FDTD法の基礎を理解し、電磁波の取り扱い方を学ぶ。差分について学び、計算プログラム化するための吸収境界条件を学習する。分散媒質を計算する際の電磁波の取り扱いについても学ぶ。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	歴史的背景	電磁波情報工学の発展過程と現状について
第2回	マクスウェルの方程式	電界と磁界につてのカール方程式について
第3回	FDTD法	FDTD法とは何か
第4回	差分法の基礎	微分と差分について。中心差分、前方差分、後方差分について
第5回	Yee格子と離散化	電界・磁界のYee格子への割当
第6回	1,2,3次元問題	1,2,3次元問題でのFDTD法
第7回	吸収境界条件(1)	Mur、Higdonの吸収条件
第8回	吸収境界条件(2)	Perfectly Matched Layer吸収境界条件
第9回	励振方法	総合界・反射界領域の分離
第10回	瞬時値の複素化	定常界での複素振幅の導出
第11回	分散媒質(1)	分散媒質のFDTD法への取り込み
第12回	分散媒質(2)	Drude,Debye,Lorentz分散
第13回	BOR・円筒座標系	BOR・円筒座標系を用いたFDTD法の定式化
第14回	レーダ、衛星通信装置の概要	散乱断面積、送信機と受信機の取り扱い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
(1) 物理学「波動」を復習しておく。
(2) これまでに学習した「電磁波工学」、「電磁気学」、「電磁気学演習」を復習しておく。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない

【参考書】
(1) 何一偉、有馬卓司著、"数値電磁界解析のためのFDTD法"コロナ社
(2) 宇野　亨著、"FDTD法による電磁界及びアンテナ解析"、コロナ社

【成績評価の方法と基準】
【評価方法】　期末試験および課題・レポートによって評価する。
【評価基準】　期末試験（90％）、課題・レポート（10％）の割合で評価。60％以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
板書が多いとの指摘がありましたが、教授する内容が多いためやむを得ません。頑張ってついてきてください。

【その他の重要事項】
国内での企業実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、研究や実務面での応用を踏まえた上で講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline: In this lecture, we study the fundamental of the finite-difference time-domain (FDTD) method. As an application, we also study the treatment of dispersive materials.
Learning Objectives: The goal of this course is to understand the basics of the FDTD method with a view to computer aided information processing. Students need to be able to formulate the six components of Maxwell's equation, and to derive and incorporate the absorbing boundary conditions into the FDTD method. Students are also required to understand the formulation of various dispersive media and to incorporate them into FDTD method.
Learning activities outside of classroom: Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policy: Evaluation will be based on the final exam (90%) and assignments and reports (10%).

ELC300XD（電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 300）

認知ロボティクス

伊藤　一之

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
従来の人工知能の問題点を理解するとともに，新しい枠組みとして期待されている，アフォーダンス，ダイナミクスベースト制御，身体性認知科学などの環境の性質を利用して知的な振る舞いを実現する試みについて学ぶ.

【到達目標】
アフォーダンス，ダイナミクスベースト制御，身体性認知科学の概念を理解し，ロボットの制御に応用できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
前半は講義形式，後半は輪読とする
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる．それにともなう各回の授業計画の変更については，学習支援システムでその都度提示する.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	人工知能の基礎	人工知能とはなにか概要を理解する
2	古典的人工知能 チューリングマシン	古典的人工知能の仕組みおよび問題点理解する．（チューリングマシン，チューリングテスト，フレーム問題など）
3	古典的人工知能 フレーム問題	古典的人工知能の仕組みおよび問題点理解する．（チューリングマシン，チューリングテスト，フレーム問題など）
4	古典的人工知能 チューリングテスト	古典的人工知能の仕組みおよび問題点理解する．（チューリングマシン，チューリングテスト，フレーム問題など）
5	ダイナミクスベースト制御	ダイナミクスベースト制御の枠組みについて学び，従来のモデルベースト制御との違いを理解する.
6	生態心理学	生態心理学の概念、アフォーダンスについて理解する. (ダイナミカルタッチ，衝突までの残り時間 τ，不変項など)
7	知覚と行為の関係性	従来の知覚と行為が切り離されている枠組みの問題点を理解し，知覚と行為の循環性の概念を理解する.
8	論文輪読 ダイナミクスベースト制御	最新の研究論文を理解し，内容を簡潔にまとめるとともに，与えられたテーマに沿って議論する
9	論文輪読 ダイナミクスベースト制御	最新の研究論文を理解し，内容を簡潔にまとめるとともに，与えられたテーマに沿って議論する
10	論文輪読 アフォーダンス	最新の研究論文を理解し，内容を簡潔にまとめるとともに，与えられたテーマに沿って議論する
11	論文輪読 アフォーダンス	最新の研究論文を理解し，内容を簡潔にまとめるとともに，与えられたテーマに沿って議論する
12	論文輪読 身体性認知科学	最新の研究論文を理解し，内容を簡潔にまとめるとともに，与えられたテーマに沿って議論する
13	論文輪読 身体性認知科学	最新の研究論文を理解し，内容を簡潔にまとめるとともに，与えられたテーマに沿って議論する
14	総合討論 それぞれの分野の関連について	与えられたテーマに沿って議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】前回の講義で配布した論文などの資料を良く読み，理解しておくこと

【テキスト（教科書）】
資料を配布する

【参考書】
佐々木　正人著　「アフォーダンス―新しい認知の理論」 岩波書店
三嶋　　博之著　「エコロジカル・マインド」 NHKブックス
佐々木　正人，三嶋　博之　編訳　「アフォーダンスの構想」 東京大学出版

【成績評価の方法と基準】
平常点（２０％），レポート（３０％），期末試験（５０％）により総合的に評価する.

【学生の意見等からの気づき】
全体像を表示する必要から，スライドの文字が小さくなる場合がある．見難い場合には，前方の席に座る，オペラグラスを用意するなど，各自適切に対処をされたい.

【その他の重要事項】
企業での開発経験ならびに，国際レスキューシステム研究機構との共同研究経験を活かし，実際の課題解決への取り組みやその際の問題点などについても講義する.

【Outline (in English)】
The goals of this course are to
(1)Obtain basic knowledge about AI and Intelligent Robotics.
(2)Understand framework of affordance.
(3)Understand framework of dynamics based control.
(4)Understand framework of Embodied cognitive science.
Grading Criteria
Term-end examination : 50%, Report 30%, In class contributions 20%
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

ELC300XD（電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 300）

マイクロ・ナノプロセス工学

笠原　崇史

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
半導体デバイス、MEMSデバイス、有機エレクトロニクスデバイスなどを作製するための、結晶成長方法、微細加工技術、成膜技術、印刷技術を学ぶ。

【到達目標】
微細加工技術を理解し、各種デバイスの作製法を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
配布資料、スライドにより進める。理解を助けるために、演習問題・レポートを課し、講義中に模範解答を解説することでフィードバックする。
社会情勢に伴う各回の授業計画・実施方法の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	総論	授業計画の説明・概論
第2回	半導体デバイス	半導体材料の性質、半導体デバイスの基本構造と動作原理、ムーアの法則
第3回	有機エレクトロニクスデバイス	有機半導体を用いたデバイスの基本構造と動作原理
第4回	結晶成長	半導体シリコンウェハの結晶構造と成長方法、エピタキシャル薄膜成長技術
第5回	半導体製造の前工程(1)	洗浄、フォトリソグラフィ、エッチング、成膜(PVD・CVD)、不純物注入・拡散
第6回	半導体製造の前工程(2)	集積回路の製造工程
第7回	半導体製造の前工程(3)	超微細加工技術
第8回	半導体製造の後工程	ダイシング、ワイヤーボンディング、モールド、フリップチップ実装、三次元実装技術
第9回	MEMSセンサ・アクチュエータ(1)	MEMS/NEMSデバイスの種類と動作原理
第10回	MEMSセンサ・アクチュエータ(2)	MEMS/NEMSデバイスの作製技術
第11回	有機半導体材料の成膜	有機化合物の性質、物理蒸着法と塗布法による有機薄膜の形成
第12回	プリンテッドエレクトロニクス(1)	スクリーン印刷、フレキソ印刷、オフセット印刷、インクジェット
第13回	プリンテッドエレクトロニクス(2)	印刷技術を用いて作製される電子デバイス、伸縮性材料を用いたデバイス、最新の研究事例
第14回	総合演習	各種デバイスの構造から、作製プロセスを考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
1.配布資料を復習する。
2.講義内容について、理解を深めるため、参考書・インターネット等で調べる。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
菅博『増補改訂版 図説電子デバイス』(産業図書)、江刺正喜『はじめてのMEMS』(森北出版)など

【成績評価の方法と基準】
[評価方法]　試験(50%)、演習・課題(50%)による
[評価基準]　本科目において設定した目標を60％以上達成している学生を合格とする

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
民間企業の研究開発に携わってきた教員が、大学における基礎研究の意義や、大学での研究活動が企業で役に立つ事例を紹介する。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course introduces micro- and nanofabrication processes for semiconductor devices, MEMS devices, and organic electronic devices.
(Learning Objectives)
At the end of this course, you will be able to explain a fabrication methodology of functional microdevices.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to spend four hours on preparing and reviewing each class.
(Grading Criteria /Policy)
Grading will be decided based on the term-end examination (50%) and the reports (50%). To pass this course, students must earn at least 60 points out of 100.

ELC400XD（電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 400）

マイクロ・ナノエレクトロニクス

笠原　崇史

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
有機・無機電子材料の基礎物性、電荷輸送機構の理解をもとに、最先端の半導体デバイス、有機デバイスの構造および動作機構を議論できることを目的とする。

【到達目標】
微細加工技術および物質内の電荷輸送機構を理解し、機能的なマイクロデバイスを発案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
演習、討議をまじえながら講義形式で進める。講義は板書、配布資料、スライドにより進める。演習問題は、講義中に模範解答を解説することでフィードバックする。
社会情勢に伴う各回の授業計画・実施方法の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	総論	授業計画の説明
第2回	半導体デバイス(1)	トランジスタの種類と構造、金属と半導体の接触
第3回	半導体デバイス(2)	各種トランジスタの動作機構
第4回	半導体デバイス(3)	最先端の半導体デバイスおよび製造技術についての討論
第5回	半導体デバイス(4)	最先端のN/MEMSデバイスの研究についての討論
第6回	発光性分子の吸収スペクトルと発光スペクトル(1)	炭素の結合、芳香族化合物の性質
第7回	発光性分子の吸収スペクトルと発光スペクトル(2)	励起状態の分子、蛍光・燐光、ヤブロンスキー図、フランク・コンドン原理
第8回	発光性分子の吸収スペクトルと発光スペクトル(3)	励起状態の寿命、エネルギー移動、エキシマ―の形成
第9回	発光性分子の吸収スペクトルと発光スペクトル(4)	吸収および発光スペクトルの調べ方
第10回	有機半導体を用いた電子デバイス(1)	有機ELのエネルギー準位図
第11回	有機半導体を用いた電子デバイス(2)	仕事関数、電極からの有機薄膜への電荷注入
第12回	有機半導体を用いた電子デバイス(3)	最先端の有機ELデバイスの研究についての討議
第13回	有機半導体を用いた電子デバイス(4)	電気化学発光素子、有機トランジスタ
第14回	総合演習	機能的なマイクロデバイスの構造および作製プロセスを検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
1.配布資料を復習する。
2.講義内容について、理解を深めるため、参考書・インターネット等で調べる。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
菅博『増補改訂版 図説電子デバイス』(産業図書)、江刺正喜『はじめてのMEMS』(森北出版)、安達千波矢『有機半導体のデバイス物性』(講談社)、『先端有機半導体デバイス』(オーム社)など

【成績評価の方法と基準】
[評価方法]　試験(40%)、演習・課題(30%)、討議(30%)による
[評価基準]　本科目において設定した目標を60％以上達成している学生を合格とする

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
民間企業の研究開発に携わってきた教員が、大学における基礎研究の意義や、大学での研究活動が企業で役に立つ事例を紹介する。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course introduces the structure and the basic operation principle of the Micro/Nano-Devices, including semiconductor devices, MEMS devices, and organic electronic devices.
(Learning Objectives)
At the end of this course, you will be able to propose a functional microdevice and its fabrication process.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to spend four hours on preparing and reviewing each class.
(Grading Criteria /Policy)
Grading will be decided based on the term-end examination (40%), the reports (30%), and the presentation (30%). To pass this course, students must earn at least 60 points out of 100.

ELC400XD（電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 400）

電気機器設計

近藤　稔

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会では様々な機械が電気機器で動いている。脱炭素を目指す社会の動きの中で、これまで内燃機関で駆動されていたものを電動機駆動に置き換える動きも盛んであり、電気機器に対するニーズは増している。電動機等の電気機器はアプリケーション毎に設計されるが、巻線・鉄心の設計や温度上昇の評価等の技術は普遍的な共通事項であり、この授業ではそれらの共通事項を中心に電気機器設計の考え方を学ぶ。

【到達目標】
電気機器の設計に共通な事項である、巻線や磁気回路の設計、温度上昇の評価を理解すること。また、それらの知識を応用して実際に電動機等の電気機器を設計できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
はじめに、電気機器やその設計の概要について学習する。その後、電気機器設計の基礎となる、巻線や鉄心等の設計、温度上昇等の性能評価等について学習し、実際に電気機器設計の実習を行う。主要な事項に関する講義が終了した後にレポート課題を出題する。レポート課題の出題と提出は学習支援システムにて行う。レポート課題に対するフィードバックは講義において実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	電気機器の概要	電気機器の分類、適用事例、歴史について学習する。
2	電気機器の仕様	使用や定格等の電気機器の仕様の表現方法を、依頼者・設計者双方の立場から考える。
3	電気機器設計の概要	電気機器設計全体の流れについて学習する。
4	巻線の構造と設計	電気機器の主要な部品である巻線の構造について学習し、その設計法について学ぶ。
5	鉄心の構造と設計	電気機器の主要な部品である鉄心の構造と磁気回路の設計について学習する。
6	材料	電線、電磁鋼板、永久磁石等の電気機器特有の材料について学習する。
7	損失と効率	電気機器における損失の分類について学び、効率を向上する方法について考える。
8	温度上昇と冷却	電気機器設計における主要な制約である温度上昇の評価について学習し、冷却方式・保護方式について学ぶ。
9	電気機器の等価回路	電気機器の等価回路表現および設計値と回路定数の関係について学ぶ。
10	試験と特性算出	電気機器の性能試験方法と試験結果から特性を算出する方法について学習する。
11	機械設計の概要	機械的構造の設計や軸受部の設計等の機械設計の概要、電動機の設計とトルク特性の関係について学ぶ。
12	最適設計	電気機器の最適設計の基本的な考え方について学習する。また、様々な最適化手法について学習する。
13	電気機器設計事例	電気機器の例として電動機や変圧器を取り上げ、設計例について解説する。
14	電気機器設計実習	電気機器の例として電動機や変圧器を取り上げ、実際に設計計算を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
エクセルを使用した実習を行うため、貸与パソコンなどを準備しておく。

【テキスト（教科書）】
教科書名：電気学会大学講座　電機設計概論
著者：炭谷英夫
発行所：電気学会
発売元：オーム社
価格：2400円

【参考書】
大学課程　電気設計学、竹内寿太郎、オーム社、2016
交流機設計、T.A.Lipo、電気書院、2007
JIS C 4003 電気絶縁の耐熱クラス及び耐熱性評価
JIS C 2552 無方向性電磁鋼帯
JEC 2100 回転電気機械一般
JEC 2110 誘導機

【成績評価の方法と基準】
テスト（電気機器設計に関する知識）40％
レポート課題（電動機の設計）60％
テストでは教科書に記載されている内容を中心に知識を問う問題を出題する。
レポート課題では提示された仕様に対し、実際に電動機を設計してその結果をまとめたものを提出する。設計計算のプロセスを理解しているかを評価基準とする。
レポート課題は学習支援システムにて行う

【学生の意見等からの気づき】
講義内容の理解を助けるため、早い段階から部分的な実習を取り入れ、理解度を確認しながら進める。

【学生が準備すべき機器他】
貸与パソコン

【その他の重要事項】
鉄道車両駆動用電動機の開発設計実務経験を有する講師が、電動機設計を中心とした電気機器設計の講義を行う。

【Outline (in English)】
In modern society, various machines are driven by electric machines. Those that have been driven by an internal combustion engine are increasingly being replaced with electric motor drives, and the need for electric machines is increasing. Electric machines such as electric motors are designed for each application, but technologies such as winding /iron core design and temperature rise evaluation are common items, and in this class we focus on these common items of electric machine design.

ELC200XD（電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 200）

分布定数回路論

柴山　純

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
波動情報工学を学ぶための基礎としての、高周波における電磁気的および回路的取り扱いを学ぶ。

【到達目標】
波動現象を理解し、波動方程式の解法、波動の等価回路表現、散乱パラメータの使用法に習熟すること。スミス図を理解し、インピーダンス整合を可能にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
対面授業とする。
電圧波、電流波の表現法を学ぶ。その後、反射係数、スミス図を学習する。マイクロ波回路における、電力、インピーダンス、位相などの取扱法についても学習する。学習項目の理解を深めるために、演習を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	歴史的背景	波動情報とは何か。
第2回	同軸伝送線路	同軸線路の取り扱い方、電磁界分布と等価回路についての考え方。
第3回	平行伝送線路	平行2線路の取り扱い方、電磁界分布と等価回路についての考え方。
第4回	電圧伝送線路	2階の微分方程式による電圧の決定。
第5回	伝送線路基礎	2階の微分方程式による電流の決定。
第6回	特性インピーダンス	特性インピーダンス、反射係数の導出と取り扱い方。
第7回	線路整合	定在波、線路整合の考え方。
第8回	スミスチャート	スミスチャートの基礎方程式の導出。
第9回	スミスチャートの理論	正規化インピーダンスの計算法。
第10回	正規化抵抗値	理論に基づく正規化抵抗値の作図法。
第11回	正規化リアクタンス	理論に基づく正規化リアクタンス値の作図法。
第12回	マイクロ波素子	導波管の数学的取り扱い。 基本モードの表現法
第13回	S11	S11散乱定数の数学的取り扱い方と応用。
第14回	S21	S11散乱定数の数学的取り扱い。 授業内容の演習, 発展的問題の提示。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
（1）1年次に学習した電気回路を復習しておく。
（2）1年次に学習した微分方程式を復習しておく。
（3）1年次に学習した物理（波動の取り扱い）を復習しておく。

【テキスト（教科書）】
中司浩生著、"基礎伝送工学"、コロナ社

【参考書】
（1）小柴正則著、"波動解析基礎"、コロナ社
（2）内藤喜之著、"マイクロ波・ミリ波工学"、コロナ社
（3）鈴木茂夫著、"高周波技術実務入門"、日刊工業新聞社

【成績評価の方法と基準】
【評価方法】　期末試験および課題・レポートによって評価する。
【評価基準】　期末試験（90％）、課題・レポート（10％）の割合で評価。60％以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
16年度は教科書を使用していなかったが、教科書があったほうがよいとの意見があり17年度から教科書を使用する。
なお、板書が早くもっとゆっくり進めてほしい、との意見があったが、教授する内容が多いためどうしても授業展開が速くなります。頑張ってついてきてください。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
国内での企業実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、研究や実務面での応用を踏まえた上で講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline: For wave information engineering, we here study electromagnetism and electric circuits in the high frequency range.
Learning Objectives: The goal is to understand wave phenomena and to become proficient in solving the wave equation, equivalent circuit representation of waves, and use of scattering parameters. Students are expected to understand Smith diagrams and be able to perform impedance matching.
Learning activities outside of classroom: Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policy: Evaluation will be based on the final exam (90%) and assignments and reports (10%).

BSP100XD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

自然科学の方法（電気）

柴山　純

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【1年生は全員受講すること】自然科学を学ぶためには数学の知識が必須である。この授業では、電気電子工学、機械工学で使用する大学数学の基礎を講義する。多くの演習も行い、専門科目に取りかかるための基礎力を獲得する。

【到達目標】
授業計画で示すテーマについてその物理的意味を理解し、実問題を解くための基礎となる数学を使いこなせるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
対面授業とする。
授業の8割程度を講義とし、残りの時間を演習に当てる。適宜小テストなども行い、理解度を確認する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ベクトル(1)	ベクトルの和、差、内積
第2回	ベクトル(2)	ベクトルの外積
第3回	ベクトル(3)	線積分、面積分
第4回	ベクトル(4)	勾配、発散、うず
第5回	複素数(1)	複素数の表現方法
第6回	複素数(2)	極形式⇔直交形式変換
第7回	複素数(3)	正弦波交流の複素表示
第8回	複素数(4)	回路素子における微分と積分、それらの複素表示
第9回	複素数(5)	回路の正弦波応答の複素表示解
第10回	ラプラス変換(1)	定義と性質
第11回	ラプラス変換(2)	ラプラス変換対の表作成、微分方程式の解法
第12回	ラプラス変換(3)	回路素子とラプラス変換
第13回	ラプラス変換(4)	回路の過渡応答解析
第14回	フーリエ級数、フーリエ変換	数式表現と、離散スペクトル解析、連続スペクトル解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
授業の最後に次回のテーマについて触れるので、各自図書館などで関連する教科書を見つけ予習をしておくこと。また、演習のプリントにも次回の授業の内容が含まれていることがあるので、予習をしておくこと。言うまでもなく、毎回の授業の復習は必須。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
「確率・統計解析の基礎」　久保木　朝倉書店　など
「微分方程式、フーリエ解析」　近藤他　培風館　など

【成績評価の方法と基準】
【評価方法】期末試験および課題・レポートによって評価する。
【評価基準】期末試験（90％）、課題、小テスト(10％)を総合して評価する。ただし、コロナの状況により期末試験ができない場合は、毎回の課題(90%)と最終回に提示するレポート課題(10%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
11年度までは内容の多くを統計に割いており、微分方程式などもっと多くの内容を講義してほしかった、との要望があった。そこで12年度からは内容を全面的に見直し、専門科目で必要になる数学を広く網羅する授業に変更した。
なお、板書が早くもっとゆっくり進めてほしい、との意見があったが、教授する内容が多いためどうしても授業展開が速くなります。頑張ってついてきてください。

【その他の重要事項】
国内での企業実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、研究や実務面での応用を踏まえた上で講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline: We need the knowledge of mathematics for studying natural science. In this lecture, we study the fundamentals of mathematics in university level. The contents are helpful in studying electromagnetism and electric circuits.
Learning Objectives: The goal is to understand the physical meaning of the topics presented in the lesson plan and to be able to use mathematics as a basis for solving real problems.
Learning activities outside of classroom: Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policy: Evaluation will be based on the final exam (90%) and assignments and reports (10%).

ELC200XD（電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 200）

電気電子工学基礎実験

岡本　吉史、笠原　崇史、中村　壮亮、岩城　敏

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
電気電子工学に関する基礎的な実験を行う．講義で学んだ知識を実験により確認し，理論と実験との結び付きについての認識を深めることがテーマである．

【到達目標】
①実験の原理とその背景にある理論との関係を理解すること．②実験で使用する測定器・装置・器具類の操作，取扱い，および基本回路の製作法に関すること．③実験データを収集し，必要なデータ処理を行い，表や図などにより整理すること．④結果を検討し，考察を加え，自らレポートにまとめること．さらにグループ実験によって協調性を養うことや実験における安全管理を身につけることも目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では，電気電子工学の分野における基礎的な実験を行う。
学習支援システムから，班分け表，実験予定表，教材をダウンロードすること．
実習日には，印刷した教材あるいは教材をダウンロードしたパソコンを持参し,指定された実験テーマに参加すること．実験テーマは授業計画の通りであるが実験は週2コマを1回とする．教員・TAの指導の下、グループ分けしたメンバーと協調し、実験を行うこと．
実験終了後にはレポートが課されるが，指定された期日と方法で提出すること．レポートに対するフィードバックは試問により行う．各テーマで実施方法が異なるので，教員・TAの指示に従うこと．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス	実験の進め方，グループと班分け，実施上の注意
2回	測定器の実習と電気要素の特性(実習1)	デジタルマルチメータ，オシロスコープ，発振器による回路素子の測定
3回	測定器の実習と電気要素の特性(座学1)	RC直列回路の解析
4回	測定器の実習と電気要素の特性(実習2)	RC直列回路の利得および位相差の周波数特性の測定
5回	測定器の実習と電気要素の特性(座学2)	RC直列回路の実測値と理論値の比較および考察
6回	アナログ・ディジタル回路の基礎(座学 1)	アナログ回路の基礎学習，ブレッドボードの使用法，鳳-テブナンの定理，図表の書き方，回路図の作成法
7回	アナログ・ディジタル回路の基礎(実習 1)	アナログ回路の基礎実験，ブリッジ回路，LED，トランジスタ
8回	アナログ・ディジタル回路の基礎(座学 2)	ディジタル回路の基礎学習，ブール代数，真理値表と論理回路の設計
9回	アナログ・ディジタル回路の基礎(実習 2)	ディジタル回路の基礎実験，切替回路，インターロック，自己保持回路，一致検出回路
10回	LCフィルタ	LCによるスピーカーネットワークの設計と作成 スピーカーの周波数特性の測定と試聴
11回	光学実験	光の屈折と反射，光の干渉実験
12回	マイクロマウスを用いたロボット工学実験(1)	センサによる環境認識，モータ速度制御，直進移動のプログラム
13回	マイクロマウスを用いたロボット工学実験(2)	ロボット工学基礎, 迷路探索プログラム
14回	まとめ	総括実験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
実験で使用するテキスト・関連資料を学習支援システムからダウンロードし，毎回必ず予習をして実験に来てください．

【テキスト（教科書）】
学習支援システムにより配布する．

【参考書】
積極的に図書館のサービスを利用し，各実験の理解を促進する専門書を，自ら探してください．

【成績評価の方法と基準】
本実験は全テーマについて出席し，指定されたレポート全てを提出することを大原則とする．1テーマに対する評価は「平常点＋レポート点」である．平常点は実験への取り組み態度や協調性などを含めて判断する．総合評価は，各テーマの評価の平均とする．
[評価基準]　本科目において設定した目標を60％以上達成している学生を合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
担当TAのフォローを当てにせず，自らの力で実験を遂行してください．TAの指導力を評価する以前に，自らの実験能力を見直してください．

【学生が準備すべき機器他】
毎回の実験において，貸与ノートPCを必ず持参してください．ノートPCを忘れた場合，実験進行に甚大な支障をきたします．

【その他の重要事項】
本科目を履修するためには，科学実験Ｉ・ＩＩ・ＩＩＩを修得していることが強く望まれます．また，感染症等，大学が公欠として認める理由により，本講義を欠席した場合，実験担当教員が再実験等の対応を行います．

【Outline (in English)】
The objective is focused on the understanding of fundamental electrical and electronic engineering and the learning of experimental devices.
Before/after each class meeting, students will be expected to check the relevant contents from the text and/or other references.
To pass this course, students must earn at least 60 points out of 100.

ELC200XD（電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 200）

制御工学入門

伊藤　一之

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古典制御を中心にフィードバックシステムの基礎的事項を理解する

【到達目標】
フィードバックシステムの基礎的事項を理解し，簡単な制御系が設計できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式の授業に加え，MATLABを用いた演習を行う
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる．それにともなう各回の授業計画の変更については，学習支援システムでその都度提示する．課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概要	制御工学の分類、歴史、用途について概要を学ぶ。
2	動的システムと微分方程式	動的システムを微分法的式を用いて表現する方法を学ぶ
3	動的システムと伝達関数	動的システムを伝達関数を用いて表現する方法を学ぶ
4	伝達関数とブロック線図	伝達関数をブロック線図を用いて表現する方法を学ぶ
5	MATLAB基礎	四則演算，データ形式など，MATLABの基本的な使い方を学ぶ
6	MATLABによる数値データの可視化	グラフの書き方など，MATLABを用いて数値データを可視化する方法を学ぶ
7	MATLBによる動的システムのシミュレーション	Simulinkを用いて動的システムのシミュレーションを行う方法を学ぶ
8	基本伝達関数	基本伝達関数の応答をMATLABを用いて確認する
9	フィードバック制御系の定常特性解析1	フィードバック制御系の定常特性の計算法とその意味を理解する
10	フィードバック制御系の定常特性解析2	MATLABを用いて定常特性を確認する
11	演習１（P制御，PD制御）	MATLAB　Simulinkを用いてP制御，PD制御の応答を求め，安定性，定常偏差，オーバーシュートなど，制御系の特性を理解する
12	演習２（PID制御）	MATLAB　Simulinkを用いてPID制御の応答を求め，安定性，定常偏差，オーバーシュートなど，制御系の特性を理解する
13	演習３ PIDコントローラのチューニング（ステップ応答法）	ステップ応答法を用いてPIDコントローラのチューニングを行う
14	演習４ PIDコントローラのチューニング（限界感度法）	限界感度法を用いてPIDコントローラのチューニングを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
物理（力学）および数学（微分方程式）を復習しておくこと

【テキスト（教科書）】
「制御工学」（著）渡辺嘉二郎、（出版社）サイエンスハウス

【参考書】
授業中に紹介する

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（７０％），授業内演習（２０％），授業態度（１０％）などを総合的に評価して判断する

【学生の意見等からの気づき】
ブロック線図をプロジェクターで表示する関係上，文字が小さく見難いことがある．前列に座る，オペラグラスを用意するなど各自で対応されたい

【学生が準備すべき機器他】
大学より貸与されているPCを持参すること

【その他の重要事項】
　企業での開発経験ならびに，国際レスキューシステム研究機構との共同研究経験を活かし，実際の課題解決への取り組みやその際の問題点などについても講義する．
　本科目は，電気主任技術者資格の認定に必要とされる科目の一つである．詳しくは，履修の手引きを参照されたい．

【Outline (in English)】
The goals of this course are to
(1)Obtain basic knowledge about control theory.
(2)Understand mechanism of feedback controllers.
(3)Conduct simulations of feedback systems using MATLAB Simulink.
Grading Criteria
Term-end examination : 70%, Report 20%, In class contributions 10%
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

ELC200XD（電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 200）

半導体工学入門

笠原　崇史

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
半導体デバイスの動作原理を理解する上で必要となる、固体物性と半導体材料の電気伝導の基礎を学ぶ。

【到達目標】
半導体内の電気伝導をエネルギーバンド図を用いて、正孔、電子の振舞いで説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は板書、配布資料、スライドにより進める。理解を助けるために、演習問題・レポートを課し、講義中に模範解答を解説することでフィードバックする。
社会情勢に伴う各回の授業計画・実施方法の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	総論、半導体の歴史	授業計画の説明・概論
第2回	半導体材料の特徴	半導体材料の基本的性質、元素半導体と化合物半導体、結晶成長
第3回	半導体結晶と電子の振舞(1)	結晶の分類、結晶系とブラベ格子、ダイヤモンド構造、結晶の不完全性
第4回	半導体結晶と電子の振舞(2)	X線回折、電子の波動性、シュレディンガー方程式
第5回	自由電子モデル	井戸型ポテンシャル、周期的境界条件
第6回	エネルギーバンド図	原子軌道、電子配置、エネルギーバンドの形成、金属・半導体・絶縁体の性質
第7回	半導体のキャリア(1)	状態密度関数の導出、フェルミ・ディラック分布関数、真性キャリア密度の導出
第8回	半導体のキャリア(2)	不純物半導体、電荷中性の条件とフェルミ準位の温度特性、少数キャリア密度
第9回	半導体中の電気伝導(1)	ドリフト電流、平均緩和時間、移動度、キャリア散乱
第10回	半導体中の電気伝導(2)	拡散電流、アインシュタインの関係、キャリアの再結合、電流連続の式
第11回	PN接合(1)	PN接合のエネルギーバンド図、拡散電位
第12回	PN接合(2)	逆方向飽和電流の導出、電流-電圧特性、逆電圧降伏
第13回	金属と半導体の接触	ショットキー接合、真空準位、仕事関数、電子親和力
第14回	バイポーラトランジスタ	電流増幅率、ベース接地、エミッタ接地

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
1.講義ノート、配布資料を復習する。
2.講義内容について、理解を深めるため、参考書・インターネット等で調べる。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
平松和政『半導体工学』(オーム社)、高橋清『半導体工学』(森北出版)、菅博『増補改訂版 図説電子デバイス』(産業図書)など。

【成績評価の方法と基準】
[評価方法]　試験(70%)、講義時に実施する演習(30%)による
[評価基準]　本科目において設定した目標を60％以上達成している学生を合格とする

【学生の意見等からの気づき】
理解を助けるために、資料を充実させる。

【その他の重要事項】
民間企業の研究開発に携わってきた教員が、半導体物性に加え、電子デバイス作製のための半導体微細加工についても紹介する。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course introduces the basic physics of the semiconductor materials to understand the characteristics of semiconductor devices.
(Learning Objectives)
At the end of this course, you will be able to understand the energy band structures, the electrical conduction mechanism (drift and diffusion), and the basic operation of the semiconductor devices (PN junction diode, Schottky diode, and bipolar junction transistor).
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to spend an hour on preparing and reviewing each class.
(Grading Criteria /Policy)
Grading will be decided based on the term-end examination (70%) and the reports (30%). To pass this course, students must earn at least 60 points out of 100.

HUI200XE（人間情報学 / Human informatics 200）

セキュリティ概論

金井　敦

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットが広く普及するにつれて、便利になった反面、セキュリティの問題が顕在化している。　そのため、ネットワーク技術やコンピュータ技術にとってセキュリティの視点からのアプローチが必須となっている。本科目では、インターネット技術を中心に、サイバーセキュリティとはなにかを理解し、サイバーセキュリティ技術とコンピュータ技術やネットワーク技術の基礎技術や技術の関係を学習することにより、さらに高度なサイバーセキュリティ技術を学ぶ基礎とする。

【到達目標】
インターネットが広く普及するにつれて、サイバーセキュリティの問題が顕在化している。このため、ネットワーク技術やコンピュータ技術については、サイバーセキュリティの視点からのアプローチが必須となってきている。本授業では、インターネット技術をベースに、サイバーセキュリティとはなにかを理解し、技術の概要を学ぶとともに、サイバーセキュリティ技術とコンピュータ技術やネットワーク技術との関係を学習する。サイバーセキュリティ技術の基礎を理解することにより、さらに高度なセキュリティ技術を学ぶ基礎技術の習得を目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
サイバーセキュリティについて技術的側面を中心に学ぶ。サイバーセキュリティの意味するところを、実例を交え様々な側面から多角的に学習する。次に、セキュリティの基礎であるインターネットプロトコル、暗号技術や必要なコンピュータ技術の基礎を学習しつつサイバーセキュリティとの関連を学習する。続いて、攻撃技術および防御技術の仕組みを理解し、技術的な側面からマルウェア、DDOS攻撃などの攻撃手法とその防御法について学習する。
・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	サイバーセキュリティについて	身近に起こるセキュリティの事例などを元に，セキュリティの位置づけと重要性を学ぶ。
第2回	サイバーセキュリティとは	サイバーセキュリティの考え方、技術の歴史，講義の内容，進め方などについて説明する。
第3回	暗号の基礎	基礎的な暗号技術についてその構造を学ぶ。
第4回	電子署名、電子認証	電子署名、電子認証の方式について学ぶ。
第5回	安全な通信の構成	安全に通信を行うための基本的な考え方とSSL/TLSなどの方式を学ぶ。
第6回	暗号の応用	従来の暗号に機能を加えた様々な応用や高機能な暗号について学ぶ。
第7回	実装攻撃	実装攻撃の方法とその対策について学ぶ。
第8回	脆弱性と攻撃技術の基本技術	脆弱性とそれに対するバッファーオーバフロー、SQLインジェクションなどの攻撃について学ぶ。
第9回	マルウェア	コンピュータウィルスを含むマルウェアの手口と対策技術を学ぶ。
第10回	DoS攻撃などのネットワークを使用した様々な攻撃	DoS攻撃などの攻撃手法およびその対策についての概要を学ぶ。
第11回	安全なネットワークの構築方法	ファイアーウォールやIPSなど、安全なネットワークを構成するための要素技術について学ぶ。
第12回	セキュリティ対策の考え方	ゼロトラスト、クラウドなどセキュリティ対応組織の構築・運用に関する技術について学ぶ。
第13回	サイバーセキュリティ対策マネジメント	ISMSなどのサイバーセキュリティ対策のマネジメントについて学ぶ。
第14回	総まとめ	学習内容のまとめと整理。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
課外小テスト対応

【テキスト（教科書）】
講義中のスライドと配布資料による

【参考書】
・情報処理技術者試験　情報セキュリティスペシャリスト関連の参考書
・金井他著「基本からわかる情報通信ネットワーク　講義ノート」オーム社
・金井他著、“攻めと守りのシステムセキュリティ、”　電子情報通信学会発行、　コロナ社
・その他、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験結果（70％程度）、授業姿勢、課題および授業時に演習等を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
練習問題をより多くし、理解を深めやすくする。

【学生が準備すべき機器他】
8回目以降の講義において，簡単なプログラミングが可能な情報機器（パソコン）

【その他の重要事項】
担当教員から学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからよく確認するようにすること。
実務経験
　・セキュリティシステムの研究開発
　・システム運用におけるセキュリティマネジメント
授業の実施
　・実際の企業活動への理解を深める。
　・実務経験を交えつつ、実践的な授業を行う。
　・学問的なことだけではなく、企業の最先端の状況を伝え、重要性を理解する。

【Outline (in English)】
Course outline:

As the Internet becomes more widespread, it has become more convenient, but at the same time, security issues have become more apparent. Therefore, an approach from a security perspective is essential for network and computer technologies. In this course, the goal is to understand what cybersecurity is, focusing on Internet technologies, and to learn the relationship between cybersecurity technologies, as well as the foundational technologies of computer and network technologies. This will provide the foundation for learning more advanced cybersecurity technologies.
Learning Objectives:
As the Internet becomes more widespread, cybersecurity issues have become more apparent. As a result, an approach from a cybersecurity perspective has become essential for network and computer technologies. In this course, based on Internet technologies, students will understand what cybersecurity is, learn an overview of the technologies, and study the relationship between cybersecurity technologies and computer and network technologies. By understanding the basics of cybersecurity technologies, the course aims to provide the foundational skills necessary for learning more advanced security technologies.
Learning activities outside of classroom:
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Ploicy:
Evaluation will be based on the regular exam results (approximately 70%), attitude toward the class, assignments, and exercises conducted during class.

ELC100XE（電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 100）

基礎電気回路（情報）

品川　満

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
マークワイザーによって提唱されたユビキタスコンピューティングがIoTとして我々の生活空間に浸透しつつある。IoTは、ソフトウエアとハードウエアが融合された組込システムが利用されている。電気回路はハードウエアの基礎となる科目であり、その知識を身につけることは、とても重要と言える。抵抗、コイル、コンデンサの受動素子の交流のふるまいを複素数を用いて解析する手法を講義する。

【到達目標】
到達目標は、電気回路の交流のふるまいを複素数を用いて解析できるようになることである。電気回路の交流動作解析に必要不可欠な、虚数単位 j と角速度ωの役割を豊富な例題を使って説明する。交流電気回路の基礎を電磁気学との関連させて講義することにより、実際のシステムへの展開がイメージできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義形式を主体とし、適宜小テストや回路シミュレータを用いた演習を行う。リアクションペーパー等におけるコメントは適宜授業内で紹介し、授業内容の理解に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	抵抗と電源	電気回路で学ぶべきことを俯瞰、抵抗からなる回路の基本、小テスト
第2回	各種受動素子とその性質	抵抗、コンデンサ、インダクタを含んだ回路、小テスト
第3回	正弦波	交流の基本となる正弦波の理解と表現方法、小テスト
第4回	正弦波の複素表示	フェーザの考え方、小テスト
第5回	交流応答	受動回路の交流応答、小テスト
第6回	インピーダンス	交流回路におけるインピーダンス、小テスト
第7回	回路シミュレータ実習	回路シミュレータLT-SPICEを使った回路解析、共振現象の理解、レポート
第8回	電力	交流回路における各種電力の考え方、小テスト
第9回	直並列回路	直並列回路の性質、等価回路、アドミッタンス、小テスト
第10回	相互インダクタンス	トランスの性質と適用例、相互インダクタンス、小テスト
第11回	回路に関する諸定理	重ね合わせの理、テブナンの定理、供給電力最大の法則、小テスト
第12回	過渡現象	非正弦波交流と過渡現象、微分方程式、小テスト
第13回	重要事項整理	講義全体を通して重要な項目を整理、小テストの解法と適用領域を解説する
第14回	重要事項の理解度確認	小テストをベースとした応用問題を解くことで重要事項の理解度を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。各回のテーマと内容から、参考書等で関連箇所を事前に学習する。講義資料を参考に、小テストを解きなおす。
The standard time to spend preparing and reviewing this lesson is 4 hours.　Look up related technologies in advance with reference books. Read back the lecture materials from the last time and review them thoroughly.

【テキスト（教科書）】
毎回の講義で使用する資料は、講義前に配布する。そのほか変更がある場合には、講義内でアナウンスする。

【参考書】
大学課程　電気回路（１）　オーム社
絵ときでわかる電気回路　オーム社

【成績評価の方法と基準】
期末試験、小テスト、回路シミュレータ演習を参考にして成績評価を総合的に判断する。期末試験７０％、小テストと回路シミュレータ演習３０％とし、１００点満点で６０点以上を合格とする。なお、成績評価には７０％以上の出席率が必要。

【学生の意見等からの気づき】
研究開発の現場で実際に用いられている回路シミュレータ演習を講義内で実施し、単なる知識の取得だけでなく実践力が身につく講義とする。適宜小テストを実施し、理解を深める。小テスト実施中は教員やTAに対し質問しやすい雰囲気づくりに留意し、学生同士の相談を認め、多くの学生が答えに到達できるように配慮する。

【学生が準備すべき機器他】
フリーソフトのLT-SPICEを各自のノートPCにインストールしておくこと。インストールがうまくいかない場合はTAに聞くこと。

【その他の重要事項】
電気回路の基礎を学ぶだけではなく、企業での研究開発経験を基に、電気回路がどのようにIoTのシステム開発に活用されているのかを講義する。
オンラインでの開講となった場合、オンライン授業の方法や授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。担当教員から学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからよく確認する。なお、オフィスアワーは月曜日の３時限目。

【Outline (in English)】
This course introduces AC behavior of passive elements including resistor, coil, and capacitor to students taking this course.　Various embedded systems are used for Internet of Things (IoT). These systems require not only software but also hardware technology.　Electrical circuit is the basis of developing the hardware.
【Goal】
The goal of the lecture is to express the AC behavior of electric circuits in complex numbers.
【Learning activities outside of classroom】
Based on the technical items of each time, learn related parts in advance with reference books. Resolve the tests with reference to the lecture materials.
【Grading Criteria /Policy】
Grades are evaluated based on final exams, tests, and final reports. 70 points for the final exam or final report assignment, and 30 points for the test and simulator exercises.　Pass 60 points or more. Attendance rate of 70%or higher is required for grade evaluation.

COT100XE（計算基盤 / Computing technologies 100）

組込システムの基礎

足立　正二

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組込システムとは専用のハードウエアにMPUと制御ソフトウエアを組込んだシステムであり、家電や自動車、産業や社会インフラなどにおいて広く使われてる。本授業では、組込システムや組込システムに使われるセンサ、制御、通信ネットワークの基本的かつ体系的な知識を学び、社会や産業における組込システムの役割を理解する。

【到達目標】
組込システムで必要となる用語、基礎的事項（ハードウェア、ソフトウェア）、周辺技術（信号処理技術、センサ、ネットワーク など）、応用に関する知識などを身につけ、日常目にする組込システム（民生品、産業機器）の機能がどのように実現されているかを理解できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
①授業は板書およびプロジェクタを併用して講義および演習を行う。学習内容の定着のために演習を交える。テキストは「学習支援システム」を通じて配布する。
②小テストを「学習支援システム」を通じて課し、質問や回答状況を踏まえたフィードバック（解説など）を授業の中で行う。
③最終授業では、レポート課題に対するフィードバック（講評や解説）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	組込システム入門	組込システムとは、組込システムの基本構成、マイクロプロセッサの役割
第2回	組込システムの事例	計測システム、スマートフォン、車載電子制御システム
第3回	ハードウェア技術（1）	マイクロプロセッサの役割、基本動作、CISCとRISC、システムLSI
第4回	ハードウェア技術（2）	割り込み、DMA、キャッシュメモリ、入出力機能
第5回	ハードウェア技術（3）	マイコンのアーキテクチャとは何か、アーキテクチャが意図する個々の要素
第6回	ソフトウエア技術（1）	リアルタイム処理、開発環境、開発言語
第7回	ソフトウエア技術（2）	リアルタイムカーネル、割り込みとイベント、マルチプログラミング、タスクスケジューリング、システムコールなど
第8回	基本I/O	入出力の仕組みと種類、信号の符号化（A/Dコンバータ）、D/Aコンバータ
第9回	外部周辺機器	基本I/O、センサ（温度、圧力、変位、ひずみ など）、アクチュエータ
第10回	信号処理のための電子回路技術（1）	受動素子、ダイオード、トランジスタ、FET、演算増幅器
第11回	信号処理のための電子回路技術（2）、電子機器のハードウェア/ソフトウェア構成の基本	差動増幅器、積分器、フィルター、A/D変換器、信号処理技術、家電製品（炊飯器、冷蔵庫、洗濯機）のハードウェア/ソフトウェア構成
第12回	組込システムの開発の流れ、レポート課題の説明	組込システムの開発環境、開発の特徴、ソフトウェア開発の流れ、レポート課題の説明
第13回	ネットワークとセキュリティ	通信サービスとネットワーク技術、プロトコル、セキュリティ
第14回	制御技術入門、レポート課題の回答例の説明	制御技術の基礎、シーケンス制御、フィードバック制御、レポート課題の回答例の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各回4時間を必要とする（標準）。各回のテーマと内容に基づき、テキストや参考書で事前に学習しておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特に指定した教科書は使わない。テキストは「学習支援システム」にて配布する。

【参考書】
藤弘哲也「図解入門 よくわかる最新組込みシステムの基本と仕組み」秀和システム
組込システム技術協会・エンベデッド技術者育成委員会「エンベデッド技術」電波新聞社
香取巻男、立田純一「すぐわかる！ 組込み技術教科書」CQ出版社
坂巻佳壽美 「トコトンやさしい 組込みシステムの本」 日刊工業新聞社
渡辺登、牧野進二 「組込みエンジニアの教科書」 C&R研究所

【成績評価の方法と基準】
平常点（小テストを含む）(約30%)、レポート課題(約70%)の結果を総合して評価する。成績評価は100点満点とし、60点以上を合格基準とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容への興味を向上させるために、組込システム産業の時事ニュースや組込システム開発に関するビデオ等の教材を必要に応じ使用する。

【学生が準備すべき機器他】
テキスト配布・課題掲示等のために「学習支援システム」を利用する。

【その他の重要事項】
本授業は「実務経験のある教員による授業」に該当する。実務における組込システム開発事例を紹介し、授業内容の理解の一助とする。

【Outline (in English)】
【Course outline】 Embedded systems are systems in which MPU and control software are embedded in dedicated hardware, and are widely used in home appliances, automobiles, industry, and social infrastructure. In this lecture, students will learn basic and systematic knowledge of embedded systems and sensors, controls, and communication networks used in embedded systems, and understand the role of embedded systems in society and industry.
【Learning Objectives】 The objective of this course is to acquire the terminology, basic items (hardware, software), peripheral technologies (signal processing technology, sensors, etc.), and knowledge of applications required for embedded systems, and to understand how the functions of embedded systems (consumer products, industrial equipment) that we see in our daily lives are realized.

【Learning activities outside of classroom】 Preparation and review time for this class requires 4 hours for each session (standard). It is recommended that students study in advance with textbooks and reference books based on the theme and content of each session.
【Grading Criteria /Policy】 Evaluation will be based on a combination of the results of participation and attitude (about 30%) and report (about 70%).

COT200XE（計算基盤 / Computing technologies 200）

ネットワークプログラミング

下村　道夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ほぼすべてのアプリケーションはインターネットによる通信機能が漏れなく実装されている。サービスやアプリケーションに関する、研究・ＳＥ・開発といった職種で活躍することを目指す学生にとって、通信の仕組みと実装の基礎を理解しておくことは極めて重要である。
本講義では、インターネットでの通信機能の基礎知識とそれに関するプログラミング実装方法を講義と実習を通じて学ぶ。利用する言語はＣ言語である。

【到達目標】
本講義では、コンピュータ通信の仕組みを理解して基礎的なネットワークプロトコルの理解とそのプログラミングができるようになることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義による知識の習得と、プログラミング実習による知識の定着を並行して進める授業形態とする。
TCP/IPを始めとした代表的な通信の仕組みを講義と基礎的な通信プログラミング（ソケットプログラミングと呼ばれる）にて体験し、知識として習ったことを実際にプログラミングして確認する。その上で、アプリケーション層の通信の仕組み（プロトコル）の代表例として、ホームページの閲覧（HTTPというプロトコルを利用）、チャット等が実装できるようになることを目指す。使用するプログラミング言語は「Ｃ言語」である。
講義中にプログラムを組んでもらうため、貸与PCの利用が前提となる。WindowsOS上にUNIX相当の環境を構築できる「cygwin」の利用を前提とする。
前半の何回かは、実習に必要な部分を中心にＣ言語の復習も行う予定であり、現時点でＣ言語に自信のない学生でも履修に挑戦することができる。また、UNIXについても実習に必要な事項は講義の中で説明するため、UNIXを利用したことがない学生でも大丈夫である。どうしても自力で課題を解けない人のために、課題のサンプルプログラムを印刷したものを配布するため、それをもとにしてレポート課題を作成することが可能である。
Ｃ言語のプログラミングやデバッグのノウハウも教えていく。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の概要、実習環境整備
第2回	実習準備１	UNIXコマンド、Ｃ言語復習（文字列操作）
第3回	実習準備２	Ｃ言語復習（ビット操作、コマンド引数　等）
第4回	実習準備３	Ｃ言語復習（ポインタ）、インターネット基礎とIPアドレス
第5回	IPアドレスの10進2進変換	IPアドレスの10進2進変換プログラム作成、サブネットマスクの理解
第6回	インターネット基礎、実習準備４	TCPとUDPの基礎、プロトコルモニタWiresharkの使い方、Ｃ言語の構造体
第7回	ソケット通信の基礎	ソケット通信（クライアント側）。ソケットのクライアント側の基礎を学び、実装する。通信相手となるサーバ側ソフト（先生が作成したものを配布）を用いて動作確認する。
第8回	ソケット通信の基礎	ソケット通信（クライアント側、サーバ側）。ソケットのサーバ側の基礎を学び、実装する。前週に自分で作ったクライアント側ソフトと通信して動作確認する。
第9回	HTTPクライアント	HTTPの基礎概要を学び、HTTPクライアントとして簡易版Webブラウザを実装する。インターネット上の一般のWebサイトにアクセスすることで動作確認する。
第10回	UDP通信の実装	UDPの実装方法を学び、UDPを使ってメッセージのやりとりをするプログラムを実装する。
第11回	チャット（クライアント側）	データ受信とキーボード入力受信の双方に対応する方法を学び、簡易版チャットプログラムを実装する。学生が作成したクライアントソフトと先生が用意するサーバソフトを接続し動作確認する。
第12回	チャット（サーバ側）	チャットのサーバ側ソフトを実装し、学生同士で実際にチャットをすることで動作確認する。
第13回	マルチプロセス	マルチプロセス(fork())の講義と実習。複数ユーザと同時に通信できるようにするための方法を学び、前回学んだサーバ側ソフトを改良することで実装する。
第14回	レポート課題実装	これまでの実習で獲得した知識をもとにレポート課題の実装を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・学習時間は、各4時間を標準とする。】
・ＵＮＩＸ、Ｃ言語の習得
・講義時間内の実習で終了しなかった課題

【テキスト（教科書）】
指定するテキストは特にない。毎回，授業プリントを配布する。

【参考書】
指定する参考書は特にない。
Ｃ言語やUNIXやソケットプログラミングに関する参考情報は、インターネットを検索することで十分に得られる。

【成績評価の方法と基準】
レポート（３件）により評価する（試験は行わない）。
評価の配分は下記の通りである。
１件目レポート：２０％
２件目レポート：３０％
３件目レポート：５０％
※ 評価配分から、３件目レポートが未提出だと確実に不合格になってしまうことに注意のこと

【学生の意見等からの気づき】
ステップバイステップで説明するため、確実に理解・実装して頂くことで比較的簡単にネットワークプログラミングを書けるようになる。しかし、逆に（欠席したり、不明点を放っておいたり、自主宿題をやってこなかったりすることなどにより）一歩一歩確実に理解・実装を進めていかないと、次のステップのハードルが高く感じてしまう。講義資料のアップロード、掲示版やメールでの質疑応答等、可能な限りフォローするが、講義中も含めて質問は随時受け付けるので遠慮なく聞いてほしい。

【学生が準備すべき機器他】
本講義は実習を含むことから貸与ノートPCおよび、貸与ノートPC上のプログラミング環境が必須となる。また、ネットワークプログラミングの動作を確認する必要上、ネットワーク接続も必要である。具体的には以下の通りである。
＜必要機器＞：貸与ノートPC
＜プログラミング環境＞：C言語開発環境（Windowsのcygwin上のgccを想定開発環境とする）
＜ネットワーク接続＞：無線にてネットワーク接続ができること

【その他の重要事項】
・授業時間中に、３名のTA（大学院生）がプログラミング実習のサポートを行う予定であり、先生には聞きづらい事項などはTAに質問／支援依頼することが可能である。
・通信の基礎知識と実装を学びたい学生の果敢なチャレンジを期待する。コツコツと苦労して獲得した多数の知識を駆使して、自分で組み上げたプログラムが実際に通信を行って動いた時の喜びは格別であり、達成感を味わうことができる。
・担当教員は通信サービス系企業に約２０年間勤務し、数々のネットワークサービスに関して、研究から実用化開発、保守運用業務の実務経験を有している。本授業では実用化開発経験に基づいた実装ノウハウなども紹介していく。
・C言語はコンピュータの仕組み（メモリの概念やポインタなど）をある程度把握する必要があるので、コンピュータの基礎を知る上でもマスターしておくことが望ましいプログラミング言語だと言える。「１度は、C 言語プログラマーを経験しておくべき」
http://www.orenoh.com/knowledge/c-programmer.html
オンラインでの開講となった場合、オンライン授業の方法や授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。担当教員から学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからよく確認するようにしてください。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire the basic knowledge of communication functions on the Internet and how to implement programming related to it through lectures and practical training. The programming language used in this lecture is C.
The goal of this lecture is to understand the mechanism of computer communication, basic Internet protocols like TCP and UDP and their programming using programing language C.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following three times repots.
1st report: 20%、2nd report: 30%and 3rd report : 50%

COT300XE（計算基盤 / Computing technologies 300）

情報ネットワーク設計論

金井　敦

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報通信の基本について理解していることを前提に、通信レイヤ２，３，４のプロトコルや仕組みを深く理解した上で、具体的に小規模なLANを設計、構築する基礎的な知識と方法を学ぶ。

【到達目標】
インターネット接続を意識した、レイヤ２～４プロトコルおよびネットワーク制御や利用に必要な一部のサーバについて学ぶ。さらに、小規模なローカルエリアネットワーク(LAN)を具体的に設計できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この講義では、情報ネットワークを構築する方法について、インターネットに接続することを前提としたローカルエリアネットワーク(LAN)の設計を教授する。まず、物理層（レイヤ１）からネットワーク層（レイヤ３）を対象として、Ethernetを中心として有線／無線LANなどのLANの仕組みと構成を理解する。続いて、レイヤ３を中心として、サブネット設計、ルーティング設計を習得する。ネットワーク利用に必要なアプリケーションプロトコルやサーバについて、利用に応じた上位層の各種サーバの構成を学ぶ。
各種連絡、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報ネットワークの歴史と発展	情報ネットワーク（コンピュータネットワーク）におけるネットワーク構成の歴史と発展
第2回	通信方式概観	全体の通信方式を学ぶ。
第3回	ネットワークプロトコル構成	ネットワークプロトコルや通信レイヤーの考え方、構成を学ぶ。
第4回	レイヤ２プロトコル（CSMA/CD）	有線LAN（Eternet）の基本的なプロトコルであるCSMA/CDとVLANを学ぶ
第5回	IPアドレス	IPv4アドレスについてその体系と設計法を学ぶ
第6回	レイヤ3プロトコル	IPv4のルーチン具や仕組みを理解し、さらに、IPv6についてもIPアドレス設計について学ぶ
第7回	アドレス変換とサブネットワーク	アドレス変換、各種ネットワークサーバの種類や仕組みを学ぶ。
第8回	レイヤ４プロトコルおよび通信速度	TCPの動作について理解し、通信速度について理解を深める
第9回	LANの構成法の基本	サブネットワークを含めたネットワークの構成方法について学ぶ。
第10回	セキュリティプロトコル	VPN,TLSなどの通信を安全に保つためのプロトコルの仕組みとその構成法を理解する。
第11回	ネットワーク構成とセキュリティ	ネットワーク構築とセキュリティについて考え方を学ぶ。
第12回	各種サーバ	ネットワーク構成に必要な各種サーバとその設置について学ぶ。
第13回	ネットワーク設計の演習	ネットワーク設計に必要な問題の演習を行う。
第14回	設計、構成例とまとめ	具体例を元に、設計法を学ぶとともに全体をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とします。
・課外レポートの作成。
・理解度チェックテストの実施。
・グループワークの準備（補助教材のダウンロードとインストール）。

【テキスト（教科書）】
授業中のスライドと配布資料による。

【参考書】
・金井他著「基本からわかる情報通信ネットワーク　講義ノート」オーム社
・情報処理技術者試験ネットワークスペシャリスト関連の参考書
・「マスタリングTCP/IP 入門編　第6版」（オーム社）
その他、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・小レポートと試験相当の最終課題(50点満点)で評価する。
・最終課題の提出を必須とし、小レポートと最終課題の合計が60点以上で合格とする。
・授業への取り組み姿勢を平常点として評価の補正をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】
課題に対するフィードバックを迅速に行う。

【学生が準備すべき機器他】
貸与パソコン、学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】
担当教員から学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからよく確認するようにしてください。
実務経験
　・小規模情報システム・ネットワークの管理運用
　・ネットワークトラフィックの計測と分析
　・クラウドシステムの企画と運用
授業の実施
　・実際の企業活動への理解を深める。
　・実務経験を交えつつ、実践的な授業を行う。
　・学問的なことだけではなく、企業の最先端の状況を伝え、重要性を把握させる。

【Outline (in English)】
Course outline:
Based on an understanding of the fundamentals of information and communication, learn the basic knowledge and methods for deeply understanding Layer 2, 3, and 4 protocols and mechanisms, and for concretely designing and building a small-scale LAN.
Learning Objectives:
Learn about Layer 2 to Layer 4 protocols with a focus on Internet connectivity, as well as some servers necessary for network control and usage. Additionally, aim to be able to design a small-scale local area network (LAN) in detail.
Learning activities outside of classroom:
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Ploicy:
Evaluation will be based on small reports and a final assignment equivalent to an exam (scored out of 50 points). Submission of the final assignment is mandatory, and a total score of 60 points or higher, combining the small reports and the final assignment, is required to pass.

Attitude and participation in class will be considered as regular points to adjust the evaluation.

COT400XE（計算基盤 / Computing technologies 400）

セキュアシステム設計

金井　敦

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
セキュアな情報システムとするための原理や手法を、インターネットに接続されたＬＡＮとシステムで構成されるネットワークシステムを基本に学ぶ。また、企業の最先端の情報や実習を交えて、実践的な学習を行う。

【到達目標】
様々な攻撃や内部漏えいを防止するためのネットワークやコンピュータシステムを実現するために、攻撃手法と防御手法を理解し、ネットワークを含めた初歩的なセキュア・システム設計および対策ができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
コンピュータシステム、ネットワークの仕組の概要を学ぶ。次に、セキュアなシステムとはなにかを理解し、基礎となる暗号技術、認証技術を学び、それに基づいたセキュアプロトコルを理解した上で、ネットワークを通じた攻撃技術と防衛技術を理解する。次に、具体的なセキュアネットワークシステムやコンピュータシステムの設計手法を学習する。グループディスカッションを交えて、課題分析力を養う。
外部講師を招きより実践的な学習を行う場合がある。
　講義に対する連絡事項、課題の提出および課題に対するフォードバック、連絡事項は、学習支援システム経由で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよびセキュリティの全体像と最新動向	簡単なオリエンテーションの後、セキュリティとはなにか、セキュアシステムとはなにかについて、世の中の動向も含めて学ぶ。
第2回	ネットワーク攻撃の種類と概要	ネットワーク攻撃の種類と概要、および関連する基礎知識を学ぶ。
第3回	法律とITシステム	セキュリティに関する法律と、ITシステムとの関係を学ぶ。
第4回	企業における情報セキュリティの取り組み事例	実際の企業で実施されている情報セキュリティへの取り組み事例を学習する。
第5回	レイヤ４以上での攻撃（サイバー攻撃対策）	サイバー攻撃とその対策手法について学ぶ。
第6回	レイヤ４以上での攻撃（Ｗｅｂ）	Ｗｅｂに特化してセキュリティ対策を学ぶ。
第7回	レイヤ４以上での攻撃（電子メール）	電子メールに特化してセキュリティ対策を学ぶ。
第8回	LAN上でのセキュリティ（レイヤ１と２）	レイヤ１，２での攻撃手法や防御について学ぶ。
第9回	レイヤ３での攻撃	レイヤ３（IPレイヤ）での攻撃手法や防御について学ぶ。
第10回	セキュリティプロトコル	暗号、署名方式についての簡単な解説と、SSL、IPSecについて学ぶ。
第11回	防御方式とネット構成（セキュアネットワーク）	防御するためのネットワーク構成の基本を学ぶ。
第12回	防御システム構成と各種サーバ構成（クラウドセキュリティ）	セキュアなネットワークとするための構成方法と各種サーバの設置およびIDS（侵入検知システム）、IPS（侵入防止システム）について学ぶ。
第13回	重要なセキュリティ対策技術（解析技術）	マルウェア解析やデジタルフォレンジックについて学ぶ。重要なセキュリティ対策技術（個人データの匿名化手法）
第14回	総まとめ	全体を概観した総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
課外レポート作成。

【テキスト（教科書）】
授業中のスライドと配布資料による。

【参考書】
・金井他著「基本からわかる情報通信ネットワーク　講義ノート」オーム社
・金井他著「攻めと守りのシステムセキュリティ」　電子情報通信学会発行　コロナ社
・情報処理技術者試験　情報セキュリティスペシャリスト関連の参考書
・若林著「よくわかる最新暗号技術の基本と仕組み」　秀和システム
・中島著「サイバー攻撃」　ブルーバックス・講談社
・その他、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・小レポートと試験相当の最終課題(50点満点)で評価する。
・最終課題の提出を必須とし、小レポートと最終課題の合計が60点以上で合格とする。
・授業への取り組み姿勢を平常点として評価の補正をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】
企業等の実際の最新情報をおりこむ。

【その他の重要事項】
実務経験
　・汎用コンピュータの開発環境の開発
　・電話網インテリジェントネットワークの開発
　・セキュリティシステムの研究開発およびマネジメント
授業の実施
　・実務経験を交えつつ、実践的な授業を行う。
　・学問的なことだけではなく、企業の最先端の状況を伝え、重要性を把握させる。

【Outline (in English)】
Course outline:
Learn the principles and methods for creating secure information systems, based on network systems composed of LANs and systems connected to the Internet. Additionally, engage in practical learning by incorporating cutting-edge information and hands-on exercises from companies.
Learning Objectives:
The goal is to understand attack methods and defense techniques in order to realize networks and computer systems that prevent various attacks and internal leaks. This includes being able to design secure systems and implement countermeasures, including basic network security design.
Learning activities outside of classroom:

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Ploicy:
Evaluation will be based on small reports and a final assignment equivalent to an exam (scored out of 50 points).
Submission of the final assignment is mandatory, and a total score of 60 points or higher, combining the small reports and the final assignment, is required to pass.
Attitude and participation in class will be considered as regular points to adjust the evaluation.

COT100XE（計算基盤 / Computing technologies 100）

インターネットプロトコル

金井　敦

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報ネットワークの基本的なプロトコルを学ぶ。インターネットの代表的なプロトコルであるTCP/IPについてその仕組みの学習を通じて、情報ネットワークについて学ぶ。また、アプリケーションレイヤのプロトコルとして電子メールプロトコル等を取り上げ、理解を深める。

【到達目標】
情報ネットワークの通信の仕組みを理解する上で不可欠なプロトコルについて、インターネットで使われている代表的なプロトコルであるTCP/IPを中心に学び、今後のネットワーク技術を学ぶ基礎を養うことを目的とする。
1. 通信一般に必要な通信プロトコルレイヤについて説明できる。
2. TCP/IPの考え方と、具体的な仕組みや機能を説明できる。
3. 電子メールプロトコルの仕組みを理解し、メールヘッダを解読できる。
4. インターネットでデータ通信が行われる仕組みを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式の授業とする。講義では、可能な範囲で演習などを取り入れることで理解度を高めることを目指す。また、学習内容の確認を兼ねた小テストやレポート等の課題を学習支援システムを通じて適宜課し、授業中に解答例を示すことで、前回の講義内容の理解度を深める。受講生から受けた質問やコメントは、適宜授業内で取り上げ講義内容や議論に活かす。
各種連絡、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	インターネットの歴史	インターネットの発祥からその発展の経緯を学ぶ。
第2回	プロトコルのための基礎知識	基礎となる二進法、コード体系などを学ぶ。
第3回	パケット通信の仕組みと通信レイヤ	パケット通信の仕組み、通信レイヤ参照モデルを学ぶ。
第4回	IPアドレス体系	IPv4アドレス、URLの体系を学ぶ。
第5回	IPルーティング	IPv4パケットのルーティング方法、経路選択、制御方式を学ぶ。
第6回	TCP/UDPおよびアドレス変換	TCPに加えUDPを学び、アドレス変換等の仕組みを理解する。
第7回	TCPプロトコルの機能と輻輳制御	TCPプロトコルの機能および動作について学ぶ。
第8回	ドメインとDNS	アプリケーションレイヤのアドレスであるドメインとアドレス解決について学ぶ。
第9回	電子メールの仕組みと動作	電子メールの仕組みおよびプロトコルを学ぶ。
第10回	電子メールのヘッダ	電子メールのヘッダやエンコード方式について学ぶ。
第11回	アプリケーションレイヤのプロトコル	様々なアプリケーションやネットワークが動作する上で必要なサーバ機能について学ぶ。
第12回	ネットワーク構成法セキュリティとプロトコル	インターネットプロトコルとサイバーセキュリティの関係について学ぶ。
第13回	ネットワーク構成法の基礎	基本的なネットワークの構成法について学ぶ。
第14回	全体のまとめ	全体と通じて、ネットワークの通信の仕組みをまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の際には次回の講義内容が予告されるため、前に予習をしたうえで授業にのぞむことが望ましい。
授業後は、適宜課されるレポート等の復習課題に取り組む。課題がない場合でも内容を振り返り、十分な復習をしておくこと。
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に定めない。授業で用いる資料等は学習支援システムにて配付する。

【参考書】
・井上直也，他．マスタリングTCP/IP 入門編．第6版，オーム社，2019．
・アンドリュー・S・タネンバウム，他．コンピュータネットワーク第5版．日経BP，2013．
・情報処理技術者 ネットワークスペシャリスト試験関連の参考書
その他、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験結果（70％程度）、授業姿勢、課題および授業時に演習等を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
意見等で共有すべき内容がある場合は、次回以降で学生に共有し、次年度に反映する。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】
実務経験のある教員による授業です。授業計画通りに行う予定であるが、実施回や内容等が変更される可能性あり。

【Outline (in English)】
Course outline:
Learn the basic protocols of information networks. Study the mechanisms of TCP/IP, a representative protocol of the Internet, to understand information networks. Additionally, deepen understanding by covering application-layer protocols, such as email protocols.
Learning Objectives:
The goal is to build a foundational understanding for learning future network technologies by studying essential protocols for understanding communication in information networks, with a focus on TCP/IP, the representative protocol used on the Internet.
Learning activities outside of classroom:
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Ploicy:
Evaluation will be based on the regular exam results (approximately 70%), along with class participation, assignments, and exercises conducted during class.

ELC200XE（電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 200）

電磁気学基礎

品川　満

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スマートフォン、携帯ゲーム機、テレビ、冷蔵庫など、IoTシステムを構成する情報電子機器は、多種多様な電子デバイスと電気回路によって構成されている。これらの電子デバイスおよび電気回路の動作原理は、すべて電磁気学に立脚している。電磁気学の基礎を学ぶことにより、情報電子機器の動作の理解が深められ、システム開発の実践力が身につく。

【到達目標】
電荷、電流、電界、磁界といった電気の基本概念とこれらに関わる様々な電磁気の法則を一つ一つ理解し、最終的に電磁波のふるまいを表すマックスウエルの方程式にたどり着くことを講義の目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
電磁気学の歴史、電荷と磁荷、電位と電流、電界と磁界など電気と磁気を対比しながら講義を進める。最先端研究の例や情報工学への活用例にも触れ、電磁気学を学ぶ意義を確認する。講義形式を主体とし、適宜小テストや課題提出を行う。リアクションペーパー等におけるコメントは適宜授業内で紹介し、授業内容の理解に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	電磁気学の歴史	電気と磁気の発見とその利用、小テスト
第2回	ガウスの法則と電場	演算子ナブラ∇の理解、∇を使って電場の発散を求める、小テスト
第3回	静電ポテンシャル	電位、スカラーポテンシャルを理解する、小テスト
第4回	静電場のエネルギー	ポアッソン方程式、コンデンサ、エネルギーを学ぶ、小テスト
第5回	定常電流	定常電流と保存則、オームの法則、起電力、小テスト
第6回	静磁場	エルステッドの発見とアンペールの法則、小テスト
第7回	重要事項理解度確認	第１回から第６回の小テストを解くことで、重要事項の理解度を確認する
第8回	電流にはたらく磁場の力	アンペールの力、ローレンツ力、小テスト
第9回	時間的に変動する電磁場	変位電流、ファラデーの電磁誘導を理解する、小テスト
第10回	電磁気学の基本法則	マックスウエルの方程式、電磁波の存在、無線通信の基礎を学ぶ、小テスト
第11回	電磁波	波動方程式、平面波などを用いて電磁波の理解を深める、小テスト
第12回	電磁波のエネルギー	ポインティング・ベクトル、ガウスの定理、小テスト
第13回	重要事項整理	小テストの解法を説明し、重要事項を整理する
第14回	重要事項理解度確認	小テストをベースとした発展問題を解き、重要事項の理解度を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。関連する箇所を参考書で事前に調べる。また、前回講義資料を読み返し、しっかり復習しておくこと。
The standard time to spend preparing and reviewing this lesson is 4 hours.　Look up related technologies in advance with reference books. Read back the lecture materials from the last time and review them thoroughly.

【テキスト（教科書）】
毎回の講義で使用する資料は、講義中に配布する。そのほか変更がある場合には、授業内でアナウンスする。

【参考書】
砂川重信著「電磁気学の考え方」岩波書店
ファインマン著　「ファインマン物理学III」岩波書店

【成績評価の方法と基準】
期末試験７０％、中間試験および小テスト３０％とし、１００点満点で６０点以上を合格とする。なお、成績評価に７０％以上の出席率が必要。
Grades are evaluated based on final exams, tests, and final reports. 70 points for the final exam or final report assignment, and 30 points for the tests. Pass 60 points or more. Attendance rate of 70%or higher is required for grade evaluation.

【学生の意見等からの気づき】
式の導出よりも、電磁場のイメージが伝わるようにわかりやすい講義とする。小テストは講義の内容およびレベルに合わせる。小テスト中は、教員およびTAに対して質問可能とし、さらに学生同士の相談を認めることで、多くの学生が答えにたどり着けるように配慮する。

【学生が準備すべき機器他】
特に使用しない。

【その他の重要事項】
電磁波の基盤となる電磁気学を、企業での研究開発経験を基に、わかりやすく講義する。式変形だけにとどまらず、定性的な意味づけ、実際の通信システムへの実用例についても解説する。授業の方法や授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。担当教員から学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからよく確認する。なお、オフィスアワーは月曜日の３時限目。

【Outline (in English)】
This course deals with the basics of electromagnetism for understanding the hardware of embedded systems. Hardware of embedded systems are composed of electronic devices and electronic circuits. The operating principle of these electronic devices and electric circuits is based on electromagnetism.
【Goal】
Learn the basic concepts of electricity such as electric charge, electric current, electric field, and magnetic field, and various electromagnetic laws related to them. The goal of the lecture is to finally reach Maxwell's equation, which expresses the behavior of electromagnetic waves.
【Learning activities outside of classroom)】
The standard time to spend preparing and reviewing this lesson is 4 hours.　Look up related technologies in advance with reference books. Read back the lecture materials from the last time and review them thoroughly.
【Grading Criteria /Policy】

Grades are evaluated based on final exams, tests, and final reports. 70 points for the final exam or final report assignment, and 30 points for the tests. Pass 60 points or more. Attendance rate of 70%or higher is required for grade evaluation.

COT300XE（計算基盤 / Computing technologies 300）

クラウドコンピューティング

下村　道夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
（本講義は「グリッドコンピューティング」と同一内容である。）
インターネットの進展に伴い、分散コンピューティングが主流になりつつある。その端緒がグリッドコンピューティングであり、そのビジネス発展形がクラウドコンピューティングである。分散コンピューティング環境を「安全で使いやすいもの」にするためには新たな技術が必要となる。
本授業では、グリッド／クラウドコンピューティングを「安全で使いやすいもの」にするための要素技術を解説する。また、これらの技術をベースとするビッグデータについても解説する。

【到達目標】
グリッドコンピューティングやクラウドコンピューティングとは何か、それらに使われている技術はどのようなものか、それらを利用したサービスにはどのようなものがあるのかなどを把握することで、将来、ICT（情報通信技術）に携わる職種（研究開発、SE、プログラマ等）に就く際に必要不可欠な広範囲な基礎知識習得を図ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では、グリッド／クラウドコンピューティングの要素技術であるセキュリティ、ジョブ実行管理、データベース管理、プログラミングモデル等の基礎的な内容に触れるとともに最新の応用事例なども取り入れていく。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	グリッド/クラウドコンピューティングの概要（1）	グリッド/クラウドの概念や要素技術を体系的に学ぶ
2回	グリッド/クラウドコンピューティングの概要（2）	グリッド/クラウドに関連する幅広い基礎知識を学ぶ
3回	セキュリティ（1）	分散されたコンピューティング環境における、安全なサービス実行のためのセキュリティ要件と課題について、認証技術を中心に学ぶ。
4回	セキュリティ（2）	分散されたコンピューティング環境における、安全なサービス実行のためのセキュリティ要件と課題について、ディジタル署名技術を中心に学ぶ。
5回	小テスト1	これまでの内容に関する確認テストとその解説を行い、理解内容を確実なものとする。
6回	セキュリティ（3）	分散されたコンピューティング環境における、安全なサービス実行のためのセキュリティ要件と課題について、認証連携（シングルサインオン）技術を中心に学ぶ。
7回	情報サービス	分散されたコンピューティングリソースを効率的活用をもたらす情報サービス技術を学ぶ。
8回	ジョブ実行管理、スケジューリング	分散されたコンピューティングリソースを用いて効率的にジョブ実行を行うための管理方式やスケジューリング方式について学ぶ。
9回	データベース管理	分散された情報リソースの効率的利用を可能とする分散データベースシステムについて学ぶ。
10回	小テスト2	これまでの内容に関する確認テストとその解説を行い、理解内容を確実なものとする。
11回	プログラミングモデル、クラウドコンピューティングサービスと要素技術1	プログラミングモデル（マスタ・ワーカ方式）、クラウドコンピューティングの定義や形態について学ぶ。
12回	クラウドコンピューティングサービスと要素技術2、ビッグデータ	クラウドコンピューティングの要素技術として、GoogleFileSystem、Bigtable、分散Key-Valueストア等の概要を学ぶ。さらに、クラウド技術が活用されているビッグデータの内容と社会課題を解決する具体的な応用例を学ぶ。
13回	特別講義	外部講師による特別講義を行う。
14回	小テスト3	これまでの内容に関する確認テストとその解説を行い、理解内容を確実なものとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
・予習として、授業計画に示されたキーワードについてインターネット検索などにより調べ、不明点を抽出する。
・復習として、授業内での不明点の調査、関連知識の調査、レポート課題、小テストに向けた復習などを実施する。

【テキスト（教科書）】
指定するテキストは特にない。 毎回、授業プリントを配布する。

【参考書】
指定する参考書は特にない。 毎回、授業プリントを配布する。

【成績評価の方法と基準】
レポート1回(70%)、 小テスト3回(30%) 、平常点等によって決定する。
オンライン授業になった場合も同様とする。

【学生の意見等からの気づき】
グリッド/クラウドコンピューティングに限定せず、それをきっかけに、関連する情報通信技術に関する基礎知識、ビジネス現場での活用例、サービス事例等についても幅広く取り上げる。また、社会事象の捉え方、社会での振る舞い方といった高度情報社会を生きる社会人としての基本思考、基本言動、基本マインドにも言及する。

【その他の重要事項】
担当教員は通信サービス系企業に約２０年間勤務し、数々のネットワークサービスに関して、研究から実用化開発、保守運用業務の実務経験を有してる。本授業ではこれらの業務経験に基づいた情報通信サービスの技術、サービスに関する具体的事例、仕事の進め方なども紹介する。

オンラインでの開講となった場合、オンライン授業の方法や授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。担当教員から学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからよく確認するようにしてください。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire elemental technologies for making cloud computing safe and easy to use and basic knowledge of information communication related services using big data.
By the end of the course, students are expected to acquire extensive basic knowledge of ICT that is essential for future ICT careers as followings:
- What is cloud computing.
- What are the technologies used in cloud computing.
- What are the services by cloud computing.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 70%、Three times mini-examinations : 30%

ELC200XE（電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 200）

電子回路

品川　満

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
IoTシステムは、ソフトウエアとハードウエアの融合によって成り立つ。ハードウエアの要素技術である回路は、抵抗、コイル、コンデンサなどの受動素子と、トランジスタやダイオードなどの能動素子から成り立つ。本講義では、受動素子と能動素子を組み合わせた電子回路の動作を、回路シミュレータソフトで実験しながら理解する。特に電子回路の基本となるオペアンプの基本動作を理解し、オペアンプを用いて微弱信号が検出できるようになる。

【到達目標】
電子回路の動作を解析的に解くことは重要ではあるが、実際に使用することを想定したとき、回路シミュレータの活用が必須となる。回路シミュレータを用いたAC解析や過渡解析手法を理解し、オペアンプを様々なシステムに応用できる技術を習得することを授業の到達目標とする。
The goal of the class is to understand AC analysis and transient analysis methods using circuit simulators, and to acquire techniques that can apply operational amplifiers to various systems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
オペアンプの基本動作、およびオペアンプの応用例について、LT-SPICE回路シミュレータを用いて実際にシミュレーションしながら、電子回路の理解を深める。リアクションペーパー等におけるコメントは適宜授業内で紹介し、授業内容の理解に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	電子回路とは	講義で学ぶことを俯瞰、LT-SPICEインストール
第2回	受動素子と共振現象	抵抗、コンデンサ、コイルの受動素子の基本動作と、受動素子を用いた共振現象
第3回	トランジスタ回路	トランジスタの基本回路であるエミッタ接地、ベース接地、コレクタ接地
第4回	増幅器基礎	小信号特性、周波数特性
第5回	差動増幅器	周波数特性、電圧利得、同相成分抑圧比、小信号特性
第6回	オペアンプ基礎	ボルテージフォロワー、反転増幅器、非反転増幅器
第7回	中間実技試験	LTspice使用方法理解度確認
第8回	オペアンプ応用	加減算、微分、積分
第9回	オペアンプ発展	差動増幅器、バーチャルショート
第10回	フィルタ回路	ローパスフィルタ、ハイパスフィルタ、バンドパスフィルタ
第11回	電源＋バイアス	回路を動作させるための電源の考え方、両電源、単電源の役割
第12回	人体通信	人体通信の等価回路と周波数特性
第13回	まとめ	講義全体を通して重要な項目を整理
第14回	重要事項理解度確認	講義で取り上げた電子回路および電子回路の応用問題の試験により、重要事項の理解度を確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。各回のテーマと内容から、参考書等で関連箇所を事前に学習する。小テストを講義資料を参考に解きなおす。
The standard time to spend preparing and reviewing this lesson is 4 hours.　From the theme and contents of each session, learn related parts in advance with reference books. Resolve the test with reference to the lecture materials.

【テキスト（教科書）】
毎回の講義で使用する資料は、講義中に配布する。そのほか変更がある場合には、講義内でアナウンスする。

【参考書】
LTspiceで学ぶ電子回路　オーム社
定本　オペアンプ回路の設計　CQ出版社
定本　トランジスタ回路の設計　CQ出版社

【成績評価の方法と基準】
期末試験あるいは最終レポート、小テストを参考にして成績評価を総合的に判断する。期末試験あるいは最終レポート課題７０％、小テスト３０％とし、１００点満点で６０点以上を合格とする。なお、成績評価には７０％以上の出席率が必要。
Grades are evaluated based on final exams, tests, and final reports. 70 points for the final exam or final report assignment, and 30 points for the test and simulator exercises.　Pass 60 points or more. Attendance rate of 70%or higher is required for grade evaluation.

【学生の意見等からの気づき】
研究開発の現場で用いられている回路シミュレータの実習を講義内で実施し、単なる知識の取得だけでなく実践力が身につく講義とする。適宜小テストを実施し、理解を深める。小テスト中は、教員およびTAに対して質問可能とし、さらに学生同士の相談を認めることで、多くの学生が答えにたどり着けるように配慮する。

【学生が準備すべき機器他】
フリーソフトのLT-SPICEを各自のノートPCにインストールし持参する。インストールがうまくいかない場合はTAに聞くこと。

【その他の重要事項】
電子回路の基礎を学ぶだけではなく、企業での研究開発経験を基に、電子回路がどのようにIoTのシステム開発に活用されているのかを講義する。授業の方法や授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。担当教員から学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからよく確認する。なお、オフィスアワーは月曜日の３時限目。

【Outline (in English)】
This course introduces the operation of electronic circuits combining passive and active elements using a circuit simulator.　Embedded systems consist of software and hardware. Circuits are an important technology in the hardware. Active elements such as transistors and diodes play an important role in addition to passive elements such as resistors, coils and capacitors.　The basic operation of the operational amplifier, which is the basis of the electronic circuit, will be explained, and various application examples of the operational amplifier will be introduced.
【Goal】

The goal of the class is to understand AC analysis and transient analysis methods using circuit simulators, and to acquire techniques that can apply operational amplifiers to various systems.
【Learning activities outside of classroom）】
The standard time to spend preparing and reviewing this lesson is 4 hours.　From the theme and contents of each session, learn related parts in advance with reference books. Resolve the test with reference to the lecture materials.
【Grading Criteria /Policy】
Grades are evaluated based on final exams, tests, and final reports. 70 points for the final exam or final report assignment, and 30 points for the test and simulator exercises.　Pass 60 points or more. Attendance rate of 70%or higher is required for grade evaluation.

FRI300XE（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 300）

アプリケーション開発演習

荒谷　光

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実務に必要なアプリケーションの設計から開発、運用・保守を行えるようになる。
アプリケーション開発の現場で必須となる自走できる力を身につける。

【到達目標】
Flutterを用いてスマートフォン用アプリケーションの設計、実装、デバッグ、運用、保守ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
開発に最低限必要な基礎知識は講義形式で説明をするが、実際に自分で手を動かして学ぶことを重要視しているため演習を多めに行う。
具体的にはFlutterフレームワークを用いてスマートフォン用アプリケーションを各個人が開発する。
また、最終課題のフィードバックはGitHub等のリモートリポジトリを通じて行う。
本授業は講師の画面を映してライブコーディングの形で授業を行うため、全授業リモートにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	開発環境準備、Git基礎、講義概要説明	・Gitを使ってGitHub等のリモートリポジトリへFlutterのプロジェクトを提出できる準備をする ・Flutterのビルドが行える状態にする
2	Dart基礎1	Dart言語の基礎を学ぶ
3	Dart基礎2	Dart言語の基礎を学ぶ
4	Dart基礎3	Dart言語の基礎を学ぶ
5	Flutterについて1	Flutterについて学ぶ (Flutterとは)
6	Flutterについて2	Flutterについて学ぶ (Widgetとは, Stateful Widget, Stateless Widget)
7	Flutterについて3	Flutterについて学ぶ (Material Components, iOS-Style, Navigatorなど)
8	API通信	外部ライブラリの使い方を学ぶと同時に、アプリケーションとサーバとの通信を行う
9	アプリケーションの設計、 DI(Dependency Injection)について	DIを通して、実務アプリケーションでは必要不可欠な設計の考え方を学ぶ
10	アプリケーションの設計	実務で多く用いられている設計を実装しながら学ぶ
11	Unitテスト、 CI(Continuous Integration)	テストを実際に書くことでテストの重要さを学ぶと同時に、実務では必須知識となってくるCIに触れる
12	デザイン	アプリ開発に必要なデザインの考え方をデザインツールを用いて学ぶ ・Material Design ・Figma
13	・アプリ開発のヒント ・補講	・最終課題に向けてアプリ開発のヒントや作り方を学ぶ ・実際に手を動かしてわからない箇所を質問する時間とする 必要に応じて座学を行う
14	成果物発表会	各自作成したアプリケーションの成果物を発表しあう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各4時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
書籍は古くなるためWEB上のドキュメントを参照する。

【参考書】
https://flutter.dev/
https://dart.dev/
https://material.io/
https://developer.android.com/
https://developer.apple.com/

【成績評価の方法と基準】
Gitリポジトリに提出する個人プロジェクトで開発したFlutterアプリケーションとアプリケーション概要説明(README.mdに記述)、最終発表(作成したアプリの紹介プレゼン)に基づいて評価を行う。
アプリの作成については途中経過も評価対象とするため、Commitログは必ず残すこと。
他人のアプリケーションコードを全てコピーした場合は評価対象外とする。
最終課題は期日までにリモートリポジトリに動作する状態でFlutterアプリケーションの提出をすること。

【学生の意見等からの気づき】
難易度が高い箇所は時間をかけて解説を行う。

【学生が準備すべき機器他】
[必須]
*パソコン
※ WindowsもしくはmacOSの利用を想定して講義を行う。
[可能であれば]
AndroidもしくはiOSを搭載したスマートフォン・タブレットの実機
※ iOSアプリ開発の場合、パソコンはmacOSの利用が必須
Flutter WEBの発展に伴い、ブラウザのみでの開発も可能

【その他の重要事項】
現役のソフトウェアエンジニアである講師が、実務経験で得たアプリ開発の経験を活かし、実務に必要なスキルや知識を身につけられるための実践的なプロダクト開発に焦点をあてて解説を行う。
FlutterアプリまたはAndroid, iOSアプリの開発経験があると望ましい。
また、Flutterの開発言語であるDartのプログラムが書けると望ましい。
Dartを書いたことがなくても、JavaやKotlin, Swift, JavaScript, TypeScriptといった他のプログラミング言語を書いたことがあれば問題ない。
また、Gitの使い方は事前に習得していることを前提に行う。
講義に関しては全授業オンラインで行い、ビデオ会議ツールを利用する。

【Outline (in English)】
Learn the techniques and ways of thinking required for application development.
* Learning Objectives
The goal of this class is to enable students to design, develop, operate and maintain applications. Students will acquire the ability to run on their own, which is essential for application development.
* Learning activities outside of the classroom
The standard amount of study outside of class time for preparation and review for this class is at least 4 hours each.
* Grading Criteria
Evaluation will be based on the Flutter application submitted to the Git repository, a brief description of the application (written in README.md), and a final presentation (an introductory presentation of the created application).

FRI300XE（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 300）

機械学習演習

彌冨　仁

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、爆発的な進歩と普及を遂げている、いわゆる“人工知能（AI）技術”の根幹をなす機械学習技術について重要事項を学び、演習を通じてモデル構築を体験し、実践的な能力を身につける。

【到達目標】
機械学習技術の重要事項を身につけ、目的に応じて、データを収集、モデルを構築、処理し、評価し、結果を導く能力（一定の実装能力を含む）を獲得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
プログラミングにはPythonを用い、環境としてGoogle Colaboratoryを活用する。授業の前半では必要な技術に関する講義を行い、後半では演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	AIの発展の歴史の概観と導入	機械学習の基礎、歴史と現状の外観、環境（Google Colaboratory）の準備
第2回	分類モデル(1)	線形分離可能、単純パーセプトロンとその学習、勾配法を用いたモデルの学習、特徴量のスケーリング　（Pandasデータフレーム）
第3回	分類モデル(2)	（scikit-learnの活用）、学習データと評価データ、ロジスティック回帰とその学習、
第4回	分類モデル(3)	正則化による過学習への対処、support vector machine(SVM)による最大マージン分類、決定木の導入、k-nearest neighbor法
第5回	データの前処理と特徴量の選択	欠損データへの対処、カテゴリデータの処理、特徴量の尺度の統一、特徴量の選択と正則化、Random Forest
第6回	次元削減(1)	主成分分析(PCA), 線形判別分析（LDA)
第7回	次元削減(2)	カーネル法とカーネル主成分分析(Kernel PCA)
第8回	モデルの評価とハイパーパラメータ	（パイプライン）、cross-validation, 学習曲線の評価、ハイパーパラメータの探索、様々な性能指標
第9回	中間演習	これまでのまとめと演習
第10回	多数決（アンサンブル）	多数決による性能向上、Bagging,Boosting
第11回	テキスト処理入門	Bag-of-Wordsモデル、tf-idf,テキストデータのクレンジング、文書の分類、潜在ディリクレ配分によるトピックモデル
第12回	回帰分析	勾配降下法による求解、RANSACによる外れ値除外、正則化、多項式回帰、決定木・RandomForestによる非線形回帰、
第13回	クラスタ分析	K-means法、階層的なクラスタリング、DBSCAN,
第14回	まとめー深層学習へ	Back propagation neural networks (BPNN), Convolutional neural networks (CNN)の基礎と実践

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
課される宿題に取り組むことを通じて、各回の内容をしっかり理解し、実装できるようにするとともに、次の回の内容を予習しておく。

【テキスト（教科書）】
Python機械学習プログラミング　第3版
Sebastian Raschkaら著　福島真太郎　監訳
株式会社　クイープ　（￥4,000)
＜授業はこの本を用いて進めます。必ず購入してください＞
その他、Google Colaboratoryのnotebook資料を授業で配布する。

【参考書】
「scikit-learn, Keras, TensorFlowによる実践機械学習」 O’Reilly
Aurelien Geron著　（長尾高広　訳）

【成績評価の方法と基準】
期末試験もしくはレポート　50％
宿題や授業内のレポート　　50％　（複数回実施予定）
最終課題以外の授業内、あるいはレポート課題については、次回以降の授業内で説明を行い、評価については、授業支援システムなどを通じてフィードバックを行う。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
自身のPC

【その他の重要事項】
情報工学実験Ⅰ（テーマB）で行ったPythonのプログラミングの基礎について、見直しておくこと。
国内外での企業実務経験、医学部や海外大学での研究経験を持つ教員が、その経験を活かし、研究や実務面での応用を踏まえた上で講義を行う。

【Outline (in English)】
【outline and objectives】
In this course, students will learn the important points of machine learning technology, which is the core of the so-called "artificial intelligence (AI) technology". In addition, students will experience model building through exercises to acquire practical skills.
【method】
Python will be used for programming, and Google Colaboratory will be used as the environment. The first half of the class will consist of lectures on the necessary technologies, and the second half will consist of exercises.
【goal】
To acquire the key aspects of machine learning techniques, and to acquire the ability to collect data, build models, process, evaluate, and derive results (including certain implementation skills) according to the objectives.
【learning outside the classroom】

Make sure to understand and implement the contents of each lecture by working on the assigned homework, and also prepare for the contents of the next lecture.
Review the basics of Python programming done in the Information Technology Experiment I (Theme B).
【grading criteria】
Final exam or report 50%.
Homework and in-class reports 50%(to be given multiple times)

HUI200EX（人間情報学 / Human informatics 200）

IoTシステム工学

品川　満

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
我々の身の回りには小型コンピュータがいたるところに存在する。このような環境をユビキタスコンピューティングと呼び、いつでも、どこでも、だれでも、様々な情報通信サービスが利用できる。ユビキタスコンピューティングはIoTという名称に変わり発展し続けている。誰にとっても使いやすいIoTシステムを実現するための様々な要素技術を理解することを目的とする。

【到達目標】
到達目標は、IoTの概念を理解することである。通信技術、センサ技術、ネットワーク技術、ソフトウエア技術などのIoTシステム工学に関わる要素技術を習得し、それぞれの技術を実際のシステムに適用できるようになる。
The goal is to understand IoT system. Learn elemental technologies related to IoT system such as communication technology, sensor technology, network technology, and software technology. These technologies can be applied to actual systems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
半導体デバイス、集積化技術、コンピュータについて、成り立ちから最先端の研究開発まで、具体的な事例を題材に取り上げ、IoTシステムに関わる要素技術を講義する。講義形式を主体とし、適宜小テストや課題提出を行うことで理解を深める。リアクションペーパー等におけるコメントは適宜授業内で紹介し、授業内容の理解に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	計測技術	IoTシステム開発に必要な計測技術、解析技術、小テスト
第2回	バッテリ技術	エネルギーを蓄えるバッテリ技術とIoTシステムとの関係、小テスト
第3回	ＬＳＩ技術	半導体の基礎とＬＳＩ開発・設計・製造、低消費電力、小テスト
第4回	マイコン	IoTシステムに必要とされるマイコンの歴史と構成、小テスト
第5回	電磁波	電磁波とは何か、電磁波の発生と性質、小テスト
第6回	無線通信（一次変調）	正弦波信号の乗算、変調方式、ミキサー、一次変調、小テスト
第7回	ソフトウエア無線実習（１）	GNU RADIOによるAM変調実習、レポート
第8回	無線通信（二次変調）	スペクトラム拡散、小テスト
第9回	デジタル変調	デジタル変調の基礎、小テスト
第10回	ソフトウエア無線実習（２）	GNU RADIOを用いたBPSK変調実習、レポート
第11回	無線LAN	無線LANの歴史と通信方式、小テスト
第12回	光ファイバ通信技術	大容量通信に適した光ファイバ通信技術、多重化方式、小テスト
第13回	重要事項整理	全小テストの解法と具体的な適用領域を示し、重要事項を整理する
第14回	重要事項理解度確認	講義全体の重要事項の理解度を確認するために、小テストをベースとした応用問題を解く

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。日頃から情報通信に関する最新情報をインターネット、新聞、テレビから入手する。小型コンピュータがどこで活用されているか常に意識する。スマートフォン、パソコン、ネットワークなど、日ごろ使っているシステムの仕組みに興味を持つ。
The standard time to spend preparing and reviewing this lesson is 4 hours.Get the latest information on information and communications from the Internet, newspapers and television. Be aware of where small computers such as smartphones, personal computers, and networks are used.

【テキスト（教科書）】
毎回の講義で使用する資料は、講義中に配布する。そのほか講義に関する変更がある場合には、講義内でアナウンスする。

【参考書】
特に参考書を指定しないが、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験７０％、レポートおよび小テスト３０％とし、１００点満点で６０点以上を合格とする。なお、成績評価には７０％以上の出席率が必要。
Grades are evaluated based on final exams, tests, and final reports. 70 points for the final exam or final report assignment, and 30 points for the test. Pass 60 points or more. Attendance rate of 70%or higher is required for grade evaluation.

【学生の意見等からの気づき】
身近なIoTサービスの具体例を増やすとともに、重要な項目を適宜整理することにより理解を深める。小テストについて、基礎と応用を織り交ぜて出題する。解法については講義内でていねいに解説する。小テスト中は教員およびTAに質問可能とするとともに、学生間での相談も認め、多くの学生が答えにたどり着けるように配慮する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
企業での研究開発経験を活かし、IoTに関連する通信技術やデバイス技術を最新技術動向を基に講義する。授業の方法や授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。担当教員から学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからよく確認する。なお、オフィスアワーは月曜日の３時限目。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire understand the background and concept of ubiquitous computing. Ubiquitous computing has been changed into IoT and continues to evolve. I will lecture on various hardware and software element technologies for achieving useful IoT services.
【Goal】
The goal is to understand Mark Weiser's advocacy of ubiquitous computing. Learn elemental technologies related to ubiquitous computing such as communication technology, sensor technology, network technology, and software technology. These technologies can be applied to actual systems.
【Learning activities outside of classroom〉】

The standard time to spend preparing and reviewing this lesson is 4 hours.Get the latest information on information and communications from the Internet, newspapers and television. Be aware of where small computers such as smartphones, personal computers, and networks are used.
【Grading Criteria /Policy】
Grades are evaluated based on final exams, tests, and final reports. 70 points for the final exam or final report assignment, and 30 points for the test. Pass 60 points or more. Attendance rate of 70%or higher is required for grade evaluation.

ECN200XF（経済学 / Economics 200）

産業組織論

髙野　直樹

開講時期：**春学期集中**/Intensive(Spring)

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代における我が国の主要な産業組織(主に企業)の経営課題、経営戦略、企業行動、経営成果等を、標準的な経済学の理論を応用して理解し、かつアクティブ・ラーニングを通じて簡潔に説明できる力を修得する。

【到達目標】
1. 経済学の基本的な理論とその実践例を学び、体系的に経済学の基本事項を理解し、修得する。
2. 経済学の理論を用いて、現実の企業の戦略や行動を分析し、簡潔に説明できるようになる。
3. 自分の学習・研究成果を他者に説明し、議論でわかったことを成果に反映させる能力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
1. 企業の経営戦略や企業行動を理解するための標準的な経済学の理論を概観する。
2. 日本の企業の変遷や経営戦略、企業行動、経営成果等について説明する。
3. 現実の企業の経営戦略や企業行動等についてグループで整理・討論・研究し、その成果をプレゼンテーションする。
【注1】状況により「グループ・ワークと研究発表」を「個人研究」に変更することがある。
【注2】状況により、対面・オンラインの授業形態やその予定回を変更することがある。
【注3】講義資料の共有や、課題・エクササイズの提出・解答等は「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	【オリエンテーション】	講義の目的、主な内容、進め方、評価方法等を説明する。
第2回	【日本経済と産業構造】	戦後復興期までの日本経済、高度成長、石油ショック以降の日本経済と産業構造について講義する。
第3回	【ミクロ経済学①】独占と市場の失敗	完全競争、独占企業の行動、自然独占、市場の失敗、外部性、公共財と最適均衡等について学ぶ。
第4回	【ミクロ経済学②】市場と競争	競争理論、寡占市場、ゲーム理論(ナッシュ均衡、囚人のジレンマ、技術の選択)、ネットワーク効果等について説明する。
第5回	【ミクロ経済学③】モラル・ハザードと逆淘汰	危険分担、隠された行動とモラル・ハザード、隠された情報と逆淘汰、私的情報とシグナリング等について概観する。
第6回	【事例研究①】情報通信(NTT、楽天、Google等)	日本の通信業の発展と独自性、5Gとスマートフォン、プラットフォームとビジネスモデル等について解説する。
第7回	【事例研究②】鉄道(JR東日本、東急電鉄、阪急電鉄等)	日本の運輸における鉄道の地位、国有鉄道とJR、私鉄型ビジネスモデル等について解説する。
第8回	【事例研究③】銀行(三菱UFJ銀行、三井住友銀行、みずほ銀行等)	日本の銀行の現状と課題、規制下での規模拡大競争、金融自由化、新たなビジネスモデル等について解説する。
第9回	【事例研究④】自動車(トヨタ自動車、本田技研工業、日産等)	自動車産業の技術力の伸長、石油危機による転換、バブル崩壊と国内自動車産業、CASE(Connected, Autonomous, Shared, Electric)等について解説する。
第10回	【事例研究⑤】商社(三菱商事、伊藤忠商事、三井物産等)	商社の機能、総合商社、10大商社体制、商社の夏の時代・冬の時代、グループ経営等について解説する。
第11回	【グループ・ワークと研究発表①】または【個人研究①】	①テーマの理解、②資料の分析と整理、③論理構成力、④プレゼンテーション、⑤ディスカッション、⑥コミュニケーション、⑦マネジメント等の多面的な問題解決能力の獲得を目指し、グループ・ワークと研究発表を行う。 【注】状況により「グループ・ワークと研究発表」を「個人研究」に変更することがある。
第12回	【グループ・ワークと研究発表②】または【個人研究②】	グループ・ワークと研究発表の場合は、事例の理解、検討、知識の整理等を行う。繰り返し討論し、課題解決を図る。
第13回	【グループ・ワークと研究発表③】または【個人研究③】	グループ・ワークと研究発表の場合は、パワーポイントを使って説明資料を作成し、リハーサルを行うなど、発表の準備を行う。
第14回	【グループ・ワークと研究発表④】または【個人研究④】	グループ・ワークと研究発表の場合は、成果発表と講評を行う。他の履修学生は発表内容に対する質問等を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。
・授業時間外に研究発表の準備等が必要になる可能性がある。

【テキスト（教科書）】
教科書なし。必要な資料等は学習支援システムで共有するか、講義のときに投影する。

【参考書】
1. 小田切宏之(2019)『産業組織論-理論・戦略・政策を学ぶ』有斐閣
2. 花薗誠(2018)『産業組織とビジネスの経済学』有斐閣
3. ジャン・ティロール(2018)『良き社会のための経済学』日本経済新聞出版社
4. Li Way Lee (2019) "Industrial Organization: Minds, Bodies, and Epidemics" Palgrave Pivot
5. L. Pepall, D. J. Richards, G. Norman (2014) "Industrial Organization: Contemporary Theory and Empirical Applications" Wiley

【成績評価の方法と基準】
・原則として、出席すべき時間数の3分の2以上の出席がある履修学生を対象に、①「グループ・ワークと研究発表」または「個人研究」(50%)、②発言・質問等の授業への参加姿勢や態度、課題やエクササイズの提出、出席などの平常点(50%)から、総合的に評価する。そのため、全ての授業に出席していても、単位の認定が行われないことがある。
・課題やエクササイズ等がある場合は、原則、期限内に解答を教員に提出することをもって出席とする。
・出席すべき時間数の3分の2以上の出席がなければ単位の認定は受けられない。

【学生の意見等からの気づき】
経済学の理論の説明では、パワーポイントの資料や図表を使うなどして、なるべく平易に解説したい。

【学生が準備すべき機器他】
1. 本科目の学習支援システムを利用すること。講義資料の共有や課題・エクササイズ等は学習支援システムで行う。
2. 対面講義の場合は貸与されたWindows PCを持参すること。

【その他の重要事項】
・履修学生には、受動的に授業に出席したり理論を暗記したりするような学習態度ではなく、自ら進んで学び、参加することを期待する。
・履修学生の理解度や興味、関心によってスケジュールや内容を変更することがある。
【教員の実務経験等】
・2024-現在 拓殖大学商学部教授(「国際市場戦略論」「入門エコノミックス」等担当)
・2014-2019年 (株)NTTドコモ(国際事業等)
・1999-2014年 NTTコミュニケーションズ(株)(事業計画、人事等)
【資格等】博士(経済学)横浜国立大学、修士(MBA)フランスHEC Paris経営大学院、TOEIC 965点、フランス語検定2級
【履歴】リサーチマップ https://researchmap.jp/takano.naoki/

【履修学生からの連絡方法】
メールでご連絡ください。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course will focus on managerial issues, corporate strategy, business behavior, and economical performance of modern Japanese industries and/or companies by applying standard economic theory.
(Learning objectives)
1. To understand and acquire basic economics systematically through its theory and practices.
2. To be able to analyze and explain corporate strategy and behavior by applying economic theory.
(Learning activities outside of classroom)
Standard hours for preparation and review of this course are four (4). Possible overtime preparation is expected for groupwork and presentation.
(Grading Criteria /Policies)
As a rule, only for students attended more than required, (1) 50%by a mark given for "Groupwork and presentation" or "Personal study", (2) 50%by a mark given for proper attitudes such as comments and/or questions in a classroom, quiz and /or exercise submission, and class participation. Therefore, even full attends, no credit is possible. If a quiz or an exercise is given, student's attendance is recognized by its submission before deadline in general. Credit will not be given if attendance rate is below required.

ECN300XF（経済学 / Economics 300）

金融政策論

湯山　智教

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
金融政策や金融システムの制度的な側面、機能・役割、社会・経済への影響を中心に講義を展開します。特に、これまでの日本銀行の金融政策や銀行システム危機が及ぼした影響に注目しながら、日本経済との関わりについて触れていきたいと思います。
皆さんが、将来、社会で活躍していくにあたり、金融政策や金融システムがどのように実際の社会や経済とかかわっているかについて基本的な考え方を理解できるような講義を進めたいと思います。

【到達目標】
金融政策や金融システムの制度、機能・役割、社会・経済と金融機関のかかわりについて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
金融政策や金融システムの問題が講義のテーマとなりますが、金融問題にあまり関心のない学生にも理解できるように、配布資料に従って、平易に説明するよう努めたいと思います。また、現実の金融経済の動きにも関心をもってもらうべく、日本経済新聞等の金融記事を毎回取り上げ、現実の金融問題に関心を持ってもらうように進めていきたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：金融政策とは何か	講義概要、マクロ金融政策の目的、景気変動と物価、インフレとデフレ、物価安定の重要性、中央銀行の役割（銀行の銀行、政府の銀行、発券銀行）
第2回	金利とは何か	金利と景気と物価、実質金利と名目金利、金利の期間構造と債券市場
第3回	金融政策のためのマクロ経済学	貨幣数量説、短期効果の分析、金融政策の枠組み
第4回	伝統的金融政策とその限界	マクロ金融政策の基本的政策手段、金融政策の効果
第5回	金融政策運営のための論点	ルールと裁量、インフレターゲット、Fed ViewとBIS View、中央銀行の独立性、為替レートへの対応
第6回	非伝統的金融政策①	ゼロ金利・量的緩和政策、時間軸効果、包括的金融緩和政策、資産買入れの効果
第7回	非伝統的金融政策②	物価安定の目標設定、アベノミクスと量的・質的金融緩和政策（異次元金融緩和）
第8回	非伝統的金融政策③	自然利子率とマイナス金利政策、総括的検証
第9回	非伝統的金融政策④	イールドカーブコントロール政策、緩和出口の議論と課題、多角的レビュー
第10回	金融政策の新たな課題	キャッシュレス進展、中銀デジタル通貨、暗号資産とブロックチェーン、気候変動への対応
第11回	銀行システム危機と不良債権問題	不良債権の発生と経緯、政策対応、産業再生と事業再生
第12回	リーマンショックと欧州債務危機	サブプライムローン問題、政策対応、ユーロの構造問題
第13回	経済復興のための金融政策	東日本大震災、コロナショックのための政策対応
第14回	まとめと理解度の確認	全体の総括と理解の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。
・日本経済新聞やTVなどの経済ニュースを注意してみていると講義に興味が湧くと同時に、理解が深まります(特に テレビ東京のモーニングサテライトやワールドビジネスサテライトがおすすめです)。

【テキスト（教科書）】
テーマ毎にパワーポイントファイルを配布します。

【参考書】
池上彰「改訂新版 日銀を知れば経済がわかる」平凡社新書
渡辺努「世界インフレの謎」講談社現代新書
家森信善「金融論（第４版）」中央経済社
中島真志著／島村高嘉著「金融読本（第32版）」東洋経済新報
藤木裕「入門テキスト 金融の基礎」東洋経済新報社
白塚重典「金融政策：理論と実践」慶應義塾出版会

【成績評価の方法と基準】
・確認テストを行います（70％）。
・読書レポートと平常点（30％）
・授業中の各単元内に行う復習クイズや質疑応答でもって平常点として評価します。また、学期半ばに金融政策の現状や課題を理解するのに役立つと思われる経済書・経済小説をいくつか提示しますので、その中からひとつを選び、読書レポートを課します。読書レポート課題については、希望者は後半授業内で発表してもらい、コメントします。

【学生の意見等からの気づき】
講師は本年度が担当初年度のため、前年度アンケート等は実施されていません。

【その他の重要事項】
・本講義では、配布資料に沿って進めていきます。なお、私語は講義の妨げになりますので、慎むようにしてください。
・基本的に対面で実施しますが、場合によっては数回程度オンライン授業とすることもあります。
・本コースの担当教員は、現在は他大学（専修大学）専任教員をしていますが、過去に実務経験（三菱総研、金融庁、財務省、日本銀行、海外金融当局等）を有しているので、その経験等も生かした講義としたいと思います。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course will focus on the institutional aspects of monetary policy and the financial system, as well as its functions and roles, and its impact on society and the economy. In particular, this course will focus on the Bank of Japan's monetary policy and the impact of the banking system crisis, while also touching on its relationship with the Japanese economy.
As the students all go on to play an active role in society in the future, this course will help the students to understand the basic concepts of how monetary policy and the financial system are related to real society and the economy.
(Learning Objectives)
Students will be able to explain about monetary policy, the financial system, its functions and roles, and the relationship between financial institutions and society and the economy.

（Grading Criteria /Policy）
・A review test will be held (70%).
・Reading reports and class participation (30%).
・Class participation will be assessed through review quizzes and Q&A sessions held during each unit.
・In addition, at the mid-point of the semester, some economic books and novels will be introduced that are thought to be useful for understanding the current situation and issues of monetary policy, and students will be asked to choose one of these and write a reading report.
・For the reading report assignment, those who wish to do so will be asked to present their work in class during the second half of the semester, and comments will be made.

ECN200XF（経済学 / Economics 200）

金融システム

湯山　智教

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
金融の仕組み、金融業務の内容、銀行・証券・保険、金融商品いった現実の金融システムに関する事柄をできる限りわかり易く説明します。皆さんが、将来、社会で活躍していくにあたり、金融システムや金融機関、金融商品がどのようにかかわっているかについて基本的な考え方を理解できるような講義を進めたいと思います。
そのためには金融の基礎知識を学ぶ必要があります。最近の話題として、新NISA、中央銀行の政策金利引き上げ、暗号資産とブロックチェーンなど最新の動向についても説明します。理論のみならず、現実をうまく噛み合わせながら講義を展開していく予定です。

【到達目標】
金融の仕組み、典型的な金融商品の特徴やリスク、金融機関の現状と課題を理解し、金融システムの現状について説明することができる。あわせて日本経済や社会における金融の果たす役割について理解し説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
金融システムの問題が講義のテーマとなりますが、金融問題にあまり関心のない学生にも理解できるように、配布資料に従って、平易に説明するよう努めたいと思います。また、現実の金融経済の動きにも関心をもってもらうべく、日本経済新聞等の金融記事を毎回取り上げ、現実の金融問題に関心を持ってもらうように進めていきたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、金融システムの機能と金融仲介機関の役割	講義の概要、資金の流れからみた日本の金融システムの変化
第2回	日本の銀行システムとその課題	大手銀行、地域金融機関、協同組織金融機関、郵政改革
第3回	間接金融型の金融機関としての保険会社	生命保険、損害保険、第三分野保険
第4回	証券市場で活動する金融機関	証券会社、投資信託、格付機関
第5回	ノンバンク金融機関	消費者金融、フィンテック
第6回	公的金融の仕組み	財政投融資、政策金融機関の役割
第7回	金融システムの安定化のための政策	プルーデンス政策、プルーデンス政策手段、自己資本比率規制
第8回	金融機関破綻への対応策	事後的政策、公的資金注入、証券会社顧客保護、保険会社の顧客保護
第9回	金融市場に関する規制	市場規制、発行体規制、投資家規制、仲介者規制、コーポレートガバナンス
第10回	間接金融型の金融商品	家計の金融商品選択、預金、保険商品、年金
第11回	直接金融型の金融商品	公社債、株式、投資信託、デリバティブ
第12回	ファイナンスの基礎理論	資産選択理論、資産価格の決定理論、企業金融
第13回	生活者にとっての金融	金融リテラシー、社会的課題を解決する金融
第14回	まとめと理解度の確認	全体の総括と理解の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とします。
・日本経済新聞やTVなどの経済ニュースを注意してみていると講義に興味が湧くと同時に、理解が深まります(特に テレビ東京のモーニングサテライトやワールドビジネスサテライトがおすすめです)。

【テキスト（教科書）】
家森信善「金融論（第４版）」中央経済社、2025年（2300円）（特に後半部分）
テーマ毎にパワーポイントファイルをオンラインで配布します。

【参考書】
中島真志著／島村高嘉著「金融読本（第32版）」東洋経済新報
藤木裕「入門テキスト 金融の基礎」東洋経済新報社
植田和男「大学4年間の金融学が10時間でざっと学べる」角川文庫

【成績評価の方法と基準】
・確認テストを行います（70％）。
・読書レポートと平常点（30％）。
授業中の各単元内に行う復習クイズや質疑応答でもって平常点として評価します。また、学期半ばに金融業の現状や課題、仕組みを理解するのに役立つと思われる経済書・経済小説をいくつか提示しますので、その中からひとつを選び、読書レポートを課します。読書レポート課題については、希望者は後半授業内で発表してもらい、コメントします。

【学生の意見等からの気づき】
講師は本年度が担当初年度のため、前年度アンケート等は実施されていません。

【その他の重要事項】
・本講義では、配布資料に沿って進めていきます。なお、私語は講義の妨げになりますので、慎むようにしてください。
・基本的に対面で実施しますが、場合によっては数回程度オンライン授業とすることもあります。
・本コースの担当教員は、現在は他大学（専修大学）専任教員をしていますが、実務経験（三菱総研、金融庁、財務省、日本銀行、海外金融当局等）を有しているので、その経験等も生かした講義としたいと思います。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course explains as clearly as possible the workings of the financial system, the content of financial operations, and matters related to the real financial system, including banks, securities, insurance, and financial products.
The aim of this lecture is to help students understand the basic concepts of how financial systems and institutions are involved in society and how students can play an active role in society in the future.
For this, students need to learn the basics of finance. This course will also cover recent topics such as the new NISA, the central bank's policy interest rate hike, and the latest trends in cryptocurrency and blockchain. The course will not only cover theory, but will also incorporate real-world examples.
（Learning Objectives）

Students will be able to understand the mechanisms of finance, the characteristics and risks of typical financial products, the current situation and issues facing financial institutions, and explain the current state of the financial system. The students will also be able to understand and explain the role of finance in the Japanese economy and society.
（Grading Criteria /Policy）
・A review test will be held (70%).
・Reading reports and class participation (30%).
・Class participation will be assessed through review quizzes and Q&A sessions held during each unit.
・In addition, at the mid-point of the semester, some economic books and novels will be introduced that are thought to be useful for understanding the current situation and issues of monetary policy, and students will be asked to choose one of these and write a reading report.
・For the reading report assignment, those who wish to do so will be asked to present their work in class during the second half of the semester, and comments will be made.

MAC200YC（材料化学 / Materials chemistry 200）

物質構造化学

緒方　啓典

開講時期：**秋学期授業/Fall**
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、物質の様々な性質を理解するうえで必要とされる結晶構造学の基礎を理解し、結晶構造を記述する上で必要な事項について学ぶとともに、X線回折法による結晶構造解析の測定法と原理を理解し、実際の測定・解析方法について学ぶ。

【到達目標】
授業の到達目標
1）結晶構造を理解する上で必要な事項、用語を理解し、それらを用いて結晶構造を記述することができる。
2）結晶中に存在する対称性および対称操作について理解し、３２結晶点群の対称性を分別する。また、空間群を理解し、結晶構造の表記法について学ぶとともに、結晶学パラメータに基づいて回折強度を計算する方法を学ぶ。
3）X線回折法による結晶構造解析の測定法と原理を理解し、実際の測定・解析に応用できる知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
物質の結晶構造は，物質のさまざまな性質と密接に関連している。物質の持つ様々な機能を理解し、新規物質開発等、材料化学の研究を行う際には、自ら合成した物質の結晶構造を解析する能力が必要とされる。本講義では結晶構造の基礎を系統的に学び、X線回折法に代表されるいくつかの構造解析法の基礎理論および応用例について学ぶ。
具体的な授業の実施方法については、学習支援システムを通して適宜提示します。
本講義は環境応用化学科の主要専門科目および「物質創成化学コース」の推奨科目です。（本講義の内容を理解するためには，有機化学，無機化学，物理化学に関する講義を受講しているか、それらの内容を理解していることが必要です。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の概要説明、結晶構造解析の重要性について述べる。
2	結晶学の歴史	結晶学の歴史、有理指数の法則、晶帯則、対称性の発見、X線結晶学の歴史について学ぶ。
3	結晶格子と単位格子	結晶の要素、対称性と対称操作、対称要素、単純格子と複合格子、晶系、ブラベ格子、結晶の面指数および方向指数について学ぶ。
4	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-01	結晶中で許される対称操作と表記方法、非対称単位、対称操作の組み合わせと点群、空間群について学ぶ。
5	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-02	対称操作の組み合わせと点群、結晶系との関係、表記方法、図示の方法について学ぶ。
6	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-03	対称操作の組み合わせと空間群、結晶系との関係、表記方法、図示の方法について学ぶ。
7	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-04	分率座標、占有率、Z値について学び、具体的な物質について結晶構造の表記方法について学ぶ。
8	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-05	International Tables for Crystallographyの見方について学ぶ。
9	回折現象を理解するための数学	ベクトルの内積、外積、三重積、フーリエ級数とフーリエ変換、関数の畳み込み等について学ぶ。
10	X線の散乱と回折-01	原子によるX線の散乱、原子散乱因子、結晶によるX線の回折、結晶構造因子について学ぶ。
11	X線の散乱と回折-02	ブラッグの条件、逆格子の概念とエワルド球の関係について学ぶ。
12	X線回折法による結晶構造解析の原理-01	回折強度と結晶構造因子の関係、消滅則、熱振動の表し方（温度因子）等について学ぶ。
13	X線回折法による結晶構造解析の原理-02	位相問題、フーリエ合成、構造精密化等、実際の結晶構造解析の手順に沿った基礎事項について学ぶ。
14	X線回折法による結晶構造解析の実際	単結晶試料および粉末試料について実際の結晶構造解析の流れの実例を示す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業で使用する資料(ppt)は事前に授業支援システムを通じて受講者に配布を行う。受講者は事前にそのファイルをダウンロードし、目を通すとともに、参考書の関連ページを読んでおくこと。授業には資料をプリントアウトして持参すること。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用せず、項目ごとに資料を配布する。

【参考書】
・「X線構造解析」、早稲田嘉夫・松原英一郎著、内田老鶴圃
・「X線結晶構造解析」大橋裕二著，裳華房
・「結晶化学」基礎から最先端まで　大橋裕二著　裳華房
など

【成績評価の方法と基準】
授業内に対面で実施する小テスト(40%)および期末試験の結果(60%)を元に総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解の度合いを見ながら授業を進める。理解できないことは放置せず、こまめに質問に来ること。

【学生が準備すべき機器他】
授業で用いる資料は事前に授業支援システムを通じて配布する。関数電卓は準備すること。

【その他の重要事項】
講義のキーワード：結晶構造、対称性、単位格子、ブラベー格子、点群、空間群、X線、回折、実格子、逆格子、構造因子、フーリエ変換、電子密度分布
自然科学分野の国立研究機関で勤務経験を持つ教員が、その経験を生かして結晶化学の基礎的知識について講義を行う。

【Outline (in English)】
The objective of this course is to present the basic concepts needed to understand the crystal structure of materials. Fundamental concepts including lattices, symmetries, point groups, and space groups will be discussed and the relationship between crystal symmetries and physical properties will be addressed. The theory of X-ray diffraction by crystalline matter along with the experimental x-ray methods used to determine the crystal structure of materials will be covered.
· Achievement goal of class
1) To be able to understand the matters and terms necessary for understanding the crystal structure and to describe the crystal structure using them.
2) Understand the symmetries and symmetry operations that exist in crystals and discriminate the symmetries of the 32 crystal point group. You will also understand space groups, learn notations for crystal structures, and learn how to calculate diffraction intensities based on crystallographic parameters.
3) Understand the measurement methods and principles of crystal structure analysis by X-ray diffraction, and acquire knowledge that can be applied to actual measurements and analyses.
· Learning outside of class
Materials (ppt) used in class will be distributed to students in advance through the class support system. Participants should download the file in advance, read through it, and read the relevant pages of the reference book. Print out the materials and bring them with you to class.
· Class evaluation methods and standards
Comprehensive judgment will be made based on the results of quizzes and final exams conducted face-to-face in class.

MAC300YC（材料化学 / Materials chemistry 300）

物質機能化学

緒方　啓典

開講時期：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物質の持つ様々な物性や機能は，物質の電子状態、結晶構造、凝集状態等と密接に関連している。物質の持つ様々な機能を理解し、新規物質開発等、材料化学の研究を行う際には、それらの機能がどのようなメカニズムで生じているか基礎的な知識が必要とされる。本講義では物質を構成する原子・分子・電子の状態、エネルギーの観点から物質の持つ様々な機能の発現メカニズムと具体的な機能性物質への応用例について学ぶ。**本講義は環境応用化学科の「物質創成化学コース」の推奨科目です。本講義の内容を理解するためには、物理化学、有機化学、無機化学等、化学の専門科目を受講しているか、それらの内容に関する基礎知識を持っていることが必要です。**

【到達目標】
物質のもつ様々な性質（物性）について理解する。
物質の電子状態について理解する。
物質の構造、電子状態と物性の関係を理解する。
新規機能性物質開発の基礎を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
授業の進め方については、学習支援システムを通して適宜提示します。授業の資料は各自ダウンロードし、印刷したものを見て自習してください。さらに、参考書等を用いて自分で調べたことなど適宜書き込みを行い、自分のノートを作成してください。授業内容について不明な点がありましたら、いつでもメールで質問を受け付けています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス-講義概要	ガイダンスにて講義概要の説明を行う。
2	物質の階層性と機能性-電子-原子-結合- 凝縮状態が生み出す機能性	電子-原子-結合-分子間相互作用の観点から、凝縮状態が生み出す機能性について学ぶ。
3	機能性から見た物質-物質の力学的性質-01-	物質の硬度の起源、力学的性質の表記方法、弾性変形と塑性変形について学ぶ。
4	機能性から見た物質-物質の力学的性質-02-	弾性変形および塑性変形の微視的メカニズム、マルテンサイト変態と超弾性等について学ぶ。
5	機能性から見た物質-物質の熱的性質-01-	ミクロから見た熱と温度、固体の熱的性質を支配する因子、固体の熱容量と熱伝導率の微視的機構について学ぶ。
6	機能性から見た物質-物質の熱的性質-02-	固体の熱膨張と融点の関係、低熱膨張合金等、応用例について学ぶ。
7	機能性から見た物質-物質の電気的性質-01-	物質の電気的性質とバンド構造について学ぶ。
8	機能性から見た物質-物質の電気的性質-02-	金属および超伝導体の性質およびメカニズムについて学ぶ。
9	機能性から見た物質-物質の電気的性質-03-	半導体の電子的性質について学ぶ。
10	機能性から見た物質-物質の電気的性質-04-	半導体の応用例について学ぶ。
11	機能性から見た物質-物質の光学的性質-01-	物質のさまざまな光学的特性の現象論について学ぶ。
12	機能性から見た物質-物質の光学的性質-02-	ミクロな観点から見た光学的特性のメカニズムについて学ぶ。
13	機能性から見た物質-物質の磁気的性質-01-	物質のさまざまな光学的特性の現象論について学ぶ。
14	機能性から見た物質-物質の磁気的性質-02-	前回に引き続き、ミクロな観点から見た磁性のメカニズムと磁気的相互作用について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】事前に学習支援システムを通して配布されるプリントおよび下記参考書等を用いて準備学習および復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用せず、項目ごとに資料を配布する。

【参考書】
「物性化学」：松永義夫著　裳華房
「固体の電子状態と化学」：P.A.COX著（魚崎浩平他訳）　技報堂出版
「分子結晶」：J.D.Wright著　化学同人
「物性論入門」:石井晃著　共立出版
「現代物性化学の基礎 -化学結合論によるアプローチ-」：小島憲道編　講談社
「化学者のための電気伝導入門」：小林浩一著　裳華房
「実験化学講座第5版　27巻　機能性物質」
「固体有機化学」小林啓二、林直人著　化学同人
「基礎量子化学・Hartree-Fock編 」中井浩巳著 丸善出版
「格子振動と構造相転移」石橋善弘著　森北出版

【成績評価の方法と基準】
授業内に対面で実施する小テスト(40%)および期末試験の結果(60%)を元に総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解の度合いを見ながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】
講義に必要な資料は全て学習支援システムを利用して配布を行う。

【その他の重要事項】
本講義は環境応用化学科の「物質創成化学コース」の推奨科目となっています。将来、新物質の開発や材料化学に関する研究開発に興味がある学生は履修することをお勧めします。

【Outline (in English)】
This course is designated in the order of firstly studying important fundamental theories for understanding materials. This course offers a description of how the mechanical, thermal, electronic, optical and magnetic properties of materials originate from their electronic and molecular structure and how these properties can be designed for particular applications.
・Attainment target
1)Understand various properties (physical properties) of materials.
2)Understand the electronic states of materials.
3)Understand the relationship between the structure of materials, electronic state, and physical properties.
4)Understand the basics of developing new functional substances.
・Learning outside of class
Use the handouts distributed in advance through the learning support system and the following reference books to prepare for and review.
・Grading methods and standards
Comprehensive judgment will be made based on the results of quizzes and final exams.

MAC300YC（材料化学 / Materials chemistry 300）

物質循環化学

明石　孝也

開講時期：**秋学期授業**/Fall
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球上においては様々な物質が変質を起こしながら循環をしている。本授業では、主に鉱物資源循環の観点から、物質循環学を学ぶ。本授業で得られる知識が、環境に配慮した循環型社会の理解や構築に役立つことを望む。

【到達目標】
無機工業化学と化学工学を軸に、地球上における鉱物資源の物質循環を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
教科書を中心として、板書とスライドを用いた講義を行う。基本的に毎回の授業中に演習を行い、授業内容の理解度を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序論（地球と人類、経済）、放射性炭素年代測定法	地球と人類との関わりについて講義する。環境経済学に関しても触れる。また、放射性炭素年代測定法を理解する。
2	地球の放射年代測定（アイソクロン法）	地球の年代測定のためのアイソクロン法を学ぶ。
3	固体地球の構成	固体地球の構成とともに、どのようにしてその構成を明らかにしたかを紹介する。
4	鉱物の分類、対称性	鉱物の種類と鉱物結晶の対称性について学ぶ。
5	火成岩	火成岩とその生成機構について学ぶ。
6	変成岩、堆積岩	変成岩と堆積岩とそれらの生成機構について学ぶ。
7	地球の変動(1)	地球の変動、主にプレートテクトニクスについて学ぶ。
8	地球の変動(1)	地球の変動、主にプレートテクトニクスについて学ぶ。
9	地球の誕生と進化	地球の誕生と進化について学ぶ。
10	生命の誕生と進化	生命の誕生と進化および大量絶滅事変について学ぶ。
11	鉱物・エネルギー資源	地球における鉱物・エネルギー資源の生成過程について学ぶ。
12	地球内部での鉱物循環	地球内部での鉱物循環について学ぶ。
13	流体シミュレーション（１次元）の基礎	１次元の流体シミュレーションを行う。
14	流体シミュレーション（２次元）への導入	２次元の流体シミュレーションの導入を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
前回までの講義内容を復習して、理解を深めておくこと。また、授業の進捗状況に合わせて、次回の演習で出題される範囲を予習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
「地球・環境・資源 ―地球と人類の共生をめざして― 第2版」内田 悦生・高木 秀雄編　高木 秀雄・山﨑 淳司・円城寺 守・小笠原 義秀・太田 亨・守屋 和佳・内田 悦生・大河内 博・香村 一夫著、ISBN:978-4-320-04734-1

【参考書】
現代地球科学入門シリーズ9巻「地球のテクトニクスⅠ　堆積学・変動地形学」共立出版
現代地球科学入門シリーズ11巻「結晶学・鉱物学」共立出版
現代地球科学入門シリーズ12巻「地球化学」共立出版
現代地球科学入門シリーズ15巻「地球と生命－地球環境と生物圏進化－」共立出版
現代地球科学入門シリーズ16巻「岩石学」共立出版
「地球46億年 物質大循環　地球は巨大な熱機関である」月村勝広著、ブルーバックス、ISBN:978-4-06-534672-3

【成績評価の方法と基準】
試験(80%)と演習問題(20%)と授業へ取り組み姿勢により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度を把握するために、対面授業と演習を基本的に毎回実施する。
演習課題の解答例は、次々回の授業後にHoppiiにアップロードすることとする。
熱力学と流体力学と物性の話を含めていたが、物質循環化学との関連を伝えることの難しさを感じた。これらの内容を省き、地球内部での鉱物循環の内容を加えることとした。

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓

【その他の重要事項】
無機工業化学と化学工学を軸にした物質循環化学の講義を行っている。また、鉄鋼業界の企業にてプロセス開発研究を行っていた教員が、その経験を活かして、資源や化学工学の観点からの講義も行う。

【Outline (in English)】
(Course outline) During various materials are circulating on the earth, the character of the materials, such as shape, microstructure, phases, and crystal structure, are changing. This class mainly focuses on the circulation of mineral resources on the earth. The knowledge will help us to understand and create recycling-oriented and sustainable society.
(Learning Objectives) Students are expected to understand the chemical reaction and mechanical changes on the earth, and fandamental of introduction of computational fluid dynamics.
(Learning activities outside of classroom) Student must understand the content of the previous class.
(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to quizzes in classes (20%), term-end examination (80%), and in-class contribution.

BLS300YB（生物科学 / Biological science 300）

蛋白工学

常重　アントニオ

開講時期：**秋学期授業**/Fall
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to give students a succinct, yet solid knowledge of protein structure, and the many techniques to produce and alter them. Special emphasis will be given to theoretical basis for the design of protein structures from scratch (de novo). The course will also emphasize on the various techniques applied, ranging from chemical modification in already known proteins to the design and creation of new protein motifs.

【到達目標】
The enrolled student will learn first the basic physico-chemical properties and functions of proteins, starting from those of amino acids and peptides. Later, the student will learn the different goals of protein engineering, more specifically, protein design and its basic techniques and applications, using recent technologies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
Classes will be conducted in the form of presential lectures. Handouts will be available in electronic format through the Hoppii system. The use of a personal computer is greatly advised.
Direct assessment of understanding will be conducted continuously.
As assessment of learning, quizzes and homework will be assigned periodically, and their solutions with commentaries will be explained in following sessions. Most importantly, the active participation by students during class is positively encouranged.
Submission of reports will be requested and used as feedback.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction.	Proteins. Scope of this course.
2	Structure of proteins (I).	From amino acids, to peptides, proteins, and protein macro-complexes. Basic concepts in protein structure.
3	Structure of proteins (II).	Physicochemical properties of proteins. Stabilization forces of protein structures. The hydrophobic collapse.
4	Structural analysis of proteins. Chemical modifications of proteins.	Learning from nature. Use of databases. Visualization of protein structures. Use of chemical labels.
5	Protein purification. Basic techniques.	Qualitative and quantitative techniques employed in protein purification and characterization
6	The core of this course: Protein Design	How to design and create proteins *de novo* (from scratch). Taming the destabilizing forces in protein constructs. Analyzing examples from nature.
7	*De novo* Design of Proteins (I).	The alpha helix. How to use the helical wheel. Alternative devices.
8	*De novo* Design of Proteins (II).	Design of tertiary structures in proteins.
9	*De novo* Design of Proteins (III).	The Merrifield method of protein synthesis. Protein production without the use of organisms.
10	The traditional technique to produce proteins	Cloning of a gene in bacteria. Vectors. Restriction enzymes.
11	Protein Denaturation.	Thermodynamic aspects of protein denaturation. Agglutination and agents to prevent it.
12	Protein Folding.	How the 3D-structure of proteins is determined? Was the protein folding prediction solved?
13	Monoclonal Antibodies.	Basic immunology. How this technique lead to a Nobel Prize.
14	Proteins in Bio-Medicine.	Introduction of engineered proteins with applications in Medicine.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
Prior classes, handouts and references will be distributed through the Hoppii system. The enrolled student is encouraged to read the provided material before classes.
Quizzes and problems to be solved as homework will be distributed periodically, and their responses scored accordingly. Solution to these will be given in following classes.

【テキスト（教科書）】
The textbook shown below can be used as a textbook, although this does not cover all the topics presented in class.
改訂「酵素－科学と工学」虎屋哲夫等，講談社　（2012）

【参考書】
Handouts and references will be available in digital form from the system Hoppii.

【成績評価の方法と基準】
Final exam (or equivalent): 60%; assignments and reports: 20%; active participation in class: 20%.

【学生の意見等からの気づき】
The syllabus for the current year has been updated to focus on selected points that required more emphasis.

【学生が準備すべき機器他】
Personal computer to access the Hoppii systems. All references will be made available in digital format.

【その他の重要事項】
None.

BLS300YB（生物科学 / Biological science 300）

生体超分子

曽和　義幸

開講時期：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
酵素反応・エネルギー変換・情報伝達などの多くの機能を内包する生体分子モーターに着目し，生体内で機能するタンパク質複合体について学ぶ．また，生体分子モーターの研究とともに発展した1分子計測技術の基本を学ぶ．

【到達目標】
細胞内における分子の動きに注目し，その動きを捉えるために必要な知識を得る．近年発展している生物学とナノテクノロジーの融合分野について知識を得る．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
板書とスライドを併用した講義とする．講義内では演習問題を解いてもらうことで，定量的に生命現象を理解することを目指す．レポート・演習のあとの解説でフィードバックをおこなう．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義の概要	講義の進め方を説明する．生体超分子について概説する．
2	生体を構成する分子の特徴とスケール	生物にみられる階層性とそのスケールについて概説する．
3	生体分子モーターの基本	生体分子モーターの種類・エネルギー源・構造などの基本情報を概説する．
4	細胞内における分子のブラウン運動(1)	分子の動きについて流体力学的観点から概説する．
5	細胞内における分子のブラウン運動(2)	分子の動きについて理解するために，1次元ランダムウォークを導入する．
6	細胞内における分子のブラウン運動(3)	演習をおこなう．表計算ソフトを利用して，1次元ランダムウォークを発生させる．その計算結果を検討し，分子運動への理解を深める．
7	細胞内における分子のブラウン運動(4)	細胞内でランダムウォークする分子の具体例をあげて，その動きを計算する．
8	中間試験	講義の前半についての理解度をチェックする．
9	生体分子モーターの計測手法	生体分子モーターの動きを計測する手法について概説する．
10	蛍光観察法	蛍光観察法の利点・生物学への応用例について解説する．
11	分子イメージング	1分子の蛍光分子を見る手法について解説する．超解像顕微鏡について概説する．
12	分子操作・ナノ計測	分子を操作する技術，分子の動きをナノメートルの精度で計測する技術の解説をおこなう．
13	生体分子モーターの研究	生体分子モーターの機能解析の歴史について概説する．
14	総括	講義全体を通じて，理解してもらいたいポイントをまとめた課題を与える．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
本講義では，物理的な視点で生体分子の動きをとらえるために，簡単な計算を演習問題として紹介する．ただし，時間の制約上，計算過程を省かざるをえない場合があるので，各講義の終了後に各自で計算をおこなう．また，各講義で取り扱うトピックに関連して紹介した論文を読む．

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は指定しない．講義では視覚的教材やプリントを利用する．

【参考書】
大沢文夫「講座：生物物理学」丸善
石渡信一編「生体分子モーターの仕組み」共立出版
など

【成績評価の方法と基準】
中間試験(50%)・期末試験(50%)の合計点数によって評価する．ただし，試験を実施できない事情があった場合，適宜課す予定のレポート・演習で評価する（100%）．

【学生の意見等からの気づき】
講義でおこなう演習の例数を増やし，できる限り丁寧に紹介したい．また，PCを使った演習も引き続きおこなう．

【学生が準備すべき機器他】
演習で貸与PCを用いる．

【その他の重要事項】
元学術調査官（文科省）で科研費・新学術領域を担当した経験から，生物学と物理学の異分野融合に重点をおいた講義をおこなう．

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of single molecule biology. After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term examination (50%) and term-end examination (50%).

BLS100YB（生物科学 / Biological science 100）

分子生物学　ＩＩ

木口　悠也

開講時期：**秋学期授業/Fall**
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生物の設計図であるゲノムには生物の機能や表現型の違いを反映する遺伝情報が記述されている。本講義ではこれまでに解き明かされた遺伝情報の構造と機能の根拠となる科学的発見とそれに関連する手法論を紹介する。本講義の履修者はゲノムに関連する分子生物学の基礎知識を学び、最先端のゲノム科学を理解し発展させる素養を身につけることを目的とする。

【到達目標】
メンデル遺伝に端を発する「遺伝子の構造と機能」について、主要な科学的発見の背景と実証、用いられた技術および考察を通して、正確に理解する。これらを踏まえ、生物ゲノムの主な機能「遺伝情報の維持」と「遺伝情報の発現」のしくみを分子レベルで理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
授業の連絡や課題は学習支援システムを介して行う。授業は講義形式で行う。教員がアメリカ在住のため全てzoomによる遠隔授業とする（講義の前日までに講義のzoomリンクを送信する）。特定の教科書は用いない。授業は「学習支援システム」を活用する。各授業は、それぞれで配布する資料（スライド資料）を用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	分子生物学の勃興	分子生物学の歴史
第2回	遺伝子の構造と機能（1）	メンデル遺伝
第3回	遺伝子の構造と機能（2）	染色体説
第4回	遺伝子の構造と機能（3）	二重らせん構造
第5回	遺伝情報の維持（1）	レプリコン説
第6回	遺伝情報の維持（2）	複製フォーク
第7回	遺伝情報の発現（1）	一遺伝子一酵素説
第8回	遺伝情報の発現（2）	ウイルス合成の調節
第9回	遺伝情報の発現（3）	オペロン説と転写反応
第10回	遺伝情報の発現（4）	リボソームとmRNA
第11回	遺伝情報の発現（5）	遺伝暗号とアダプター分子
第12回	遺伝情報の発現（6）	コドン
第13回	まとめ	「遺伝子の構造、機能、維持、発現」のまとめ
第14回	最新研究の紹介	分子生物学に関連する最新の研究事例を紹介する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】各授業で提示する宿題により、それぞれの内容を復習する。また、本科目を受講するには、専門科目「分子生物学Ｉ」を修得し、事前にその内容を十分に理解していることが必要である。また、「生物化学Ｉ」、「細胞生物学Ｉ」、「生物物理学Ｉ」も修得し、本講義と関連する内容を理解していることを想定している。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
「Essential 細胞生物学　原書第4版」（著者：B.アルバート等　監訳：中村桂子・松原謙一　南江堂）
「エッセンシャル　遺伝学」（著者：D.L.ハートル・E.W.ジョーンズ　監訳：布山喜章・石和貞男　培風館）
「第7版 ワトソン遺伝子の分子生物学」（著者：J.W.ワトソン等　監訳：中村桂子　東京電機大学出版局）

【成績評価の方法と基準】
分子生物学に関する重要な発見の内容を理解した上で、「遺伝子の構造と機能」および生物ゲノムの主な機能「遺伝情報の維持」と「遺伝情報の発現」のしくみを正しく捉えることができているかを基準に、授業の取り組みや宿題を「取り組み度」（30％）、「達成度」（30％）、「理解度」（40％）としてまとめ、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学習支援システム活用に関して、「課題」機能は利用せず、「テスト／アンケート」機能のみを利用する。授業のグループワーク活用と宿題のラーニングサポーター活用を推進する。

【その他の重要事項】
最先端のゲノム解析技術(ハイスループットシークエンサー)を活用した細菌叢(マイクロバイオーム)解析を専門とする研究者としての経験と知識に基づき、技術論および最新の研究トピックスにも言及する授業を行う。

【Outline (in English)】
[Course outline] The genome is the blueprint of living organisms and contains genetic information contributing to differences in biological functions and phenotypes.　This course introduces the scientific discoveries related to the basic structure and functions of genetic information and the methodologies associated with these discoveries.
[Learning Objectives] The objective of this course is to learn basic knowledge of molecular biology related to genomics and train to understand not only state-of-the-art genomic science but also develop this field of science.
[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
[Grading criteria] Final grade will be calculated with your work (30%), achievement (30%), and understanding (40%) in class assignments.

BLS100YB（生物科学 / Biological science 100）

生物化学　I

廣野　雅文

開講時期：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主要な生体物質であるタンパク質、糖、低分子有機酸などの構造と、それらの生体内における機能発現のしくみ、エネルギー代謝、物質代謝における役割について理解することを目的とする。エネルギーと物質の代謝については例として呼吸を取り上げ、エネルギー通貨産生のための共役反応、電子伝達系の概念について重点的に解説する。

【到達目標】
主な生体構成物質の構造と機能を学び、それらを基盤として細胞・個体レベルの生命現象が成り立つしくみを化学の視点から理解する。生物化学Ⅰでは特にタンパク質の機能発現、エネルギー代謝と物質代謝の概念を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
対面で講義する。講義の前日までに資料（PDFファイル）を学習支援システムにアップロードするので、受講の際はそれをプリントアウトするかまたはPC等で参照できるようにしておくこと。講義後に、授業内容に関するごく簡単なクイズへの回答と、講義内容への質問を学習支援システムを通して提出する。クイズの回答およびすべての質問に対する回答一覧を学習支援システムに数日以内にアップロードする。授業方法は、大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	生物化学とは．生体物質に見られる主な官能基
第2回	細胞の構造と主な構成物質	細胞説，生体膜，真核細胞の構造
第3回	タンパク質の構造と機能（1）	標準アミノ酸の構造とペプチド結合
第4回	タンパク質の構造と機能（2）	アミノ酸配列とフォールディング
第5回	タンパク質の構造と機能（3）	タンパク質の階層的な立体構造・タンパク質の解析法
第6回	中間試験	中間試験
第7回	酵素（1）	触媒機能の特性と調節
第8回	酵素（2）	反応速度論
第9回	単糖と多糖	単糖の構造と異性体，単糖の反応性，多糖の構造
第10回	呼吸（1）	代謝反応とエネルギー通貨
第11回	呼吸（2）	嫌気条件の糖代謝
第12回	呼吸（3）	好気条件の糖代謝
第13回	呼吸（4）	解糖系と糖新生
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
講義後に資料とノートを読み返し、参考書を読むなどして復習をすること。講義についての質問に対して回答の一覧を学習業支援システムに数日以内にアップロードするので、復習する際には他の受講生が出した質問とその回答もよく読んで理解を深めること。

【テキスト（教科書）】
講義内容に沿った資料を前日までに学習支援システムにアップロードする。

【参考書】
Albert Lehninger：「レーニンジャーの新生化学　第7版」（廣川書店）
成田 央, 山口 雄輝：「基礎からしっかり学ぶ生化学」（羊土社）

【成績評価の方法と基準】
授業ごとに提出する課題10%、中間試験40%、期末試験50%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業後の課題とともに質問を受け付け、数日内にその回答をフィードバックしている。理解の助けになったという声も多いので、今後も継続する。学期の後半に質問数が減少する傾向があるが、ぜひ大いに利用してほしい。
授業で配布する資料が見やすいという評価を得ている。復習がしやすいようにさらに改良した。

【学生が準備すべき機器他】
資料をプリントアウトしたものを持参しない場合は、PDFファイルが見られるPC等を持参すること。

【その他の重要事項】
実務経験：理化学研究所基礎科学特別研究員。このときから行っている先端的研究の成果を授業内で説明している。

【Outline (in English)】
Biochemistry is a study of chemical processes and macromolecules associated with various activities in living organisms. Topics covered in this course include structure and function of proteins, catalytic activity of enzymes, and glucose metabolism as an organized process for energy transduction. Students are expected to spend 4 hours outside of class time for preparation and review. After the lecture, students are expected to review the lecture materials and notes, read reference books, etc. A list of answers to questions about the lecture will be uploaded to Hoppii within a few days. Carefully read the questions and answers given by other students to deepen your understanding. The evaluation will be based on 10%of the assignments submitted for each class, 40%for the mid-term examination, and 50%for the final examination.

BLS200YB（生物科学 / Biological science 200）

蛋白質構造機能学　Ⅰ

廣野　雅文

開講時期：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命現象の担い手であるタンパク質について、構成アミノ酸の性質、タンパク質の立体構造と基本的な構造構築原理、およびタンパク質の機能発現機構について概要を理解する。

【到達目標】
以下の項目について学び、深く理解することを目標とする：アミノ酸の構造と性質、タンパク質の生化学的な解析法、一次構造と機能の相関、三次元構造の階層性、コンフォメーションに寄与する化学結合、二次構造の構造的特徴、繊維状タンパク質と球状タンパク質の三次元構造の特徴、タンパク質のフォールディング、抗体分子の構造と機能、酵素の構造と機能、アクトミオシンの構造と機能。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
対面で講義する。講義の前日までに資料（PDFファイル）を学習支援システムにアップロードするので、受講の際はそれをプリントアウトするかまたはPC等で参照できるようにしておくこと。講義後に、授業内容に関するごく簡単なクイズへの回答を学習支援システムを通して提出する。講義内容への質問があれば同時に提出する。クイズの回答およびすべての質問に対する回答一覧を学習支援システムに数日以内にアップロードする。授業方法は、大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	タンパク質とは，無細胞実験系
第2回	アミノ酸とペプチド	発見と研究の歴史，アミノ酸の化学構造，ペプチド結合，生理活性ペプチド
第3回	タンパク質の生化学的分析法	タンパク質の粗分画法，カラムクロマトグラフィー，電気泳動
第4回	タンパク質の一次構造	タンパク質の機能と一次構造，アミノ酸配列の決定法，細胞内局在と一次構造，系統解析
第5回	タンパク質の立体構造と化学結合	コンフォメーション，水素結合，疎水性相互作用，イオン性相互作用，ファンデルワールス力，ジスルフィド結合
第6回	タンパク質の二次構造-1	αヘリックスの構造的特徴，アミノ酸配列とαヘリックス
第7回	タンパク質の二次構造-2	βシート，βバレル，βターンの構造的特徴
第8回	繊維状タンパク質の三次構造	コイルドコイル，ケラチン，コラーゲン，絹フィブロイン
第9回	球状タンパク質の三次構造	構造モチーフ，ドメイン，構造に基づく球状タンパク質の分類
第10回	タンパク質の四次構造，天然変性タンパク質	サブユニット，天然変性領域
第11回	タンパク質のフォールディングと変性	アンフィンゼンのドグマ，フォールディングの速さと経路，シャペロン，ミスフォールディング
第12回	免疫グロブリン	免疫を担う細胞，免疫に働く分子の多様性，抗原-抗体結合，抗体の利用
第13回	酵素の触媒作用機構	発見と研究の歴史，活性化エネルギーと触媒作用，酵素-基質の結合エネルギー，誘導適合，脱溶媒和
第14回	アクトミオシン	ミオシン，アクチン，アクチンの重合，アクトミオシンの力発生機構，アクチン－ミオシン相互作用の調節

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義後に資料とノートを読み返し、参考書を読むなどして復習をすること。講義についての質問に対して回答の一覧を学習業支援システムに数日以内にアップロードするので、復習する際には他の受講生が出した質問とその回答もよく読んで理解を深めること。

【テキスト（教科書）】
講義内容に沿った資料を前日までに学習支援システムにアップロードする。

【参考書】
「レーニンジャーの新生化学　第5版」（廣川書店）

【成績評価の方法と基準】
授業ごとに提出する課題10%、中間試験40%、期末試験50%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
　授業後の課題とともに質問を受け付け、数日内にその回答をフィードバックしている。理解の助けになったという声も多いので、今後も継続する。学期の後半に質問数が減少する傾向があるが、ぜひ大いに利用してほしい。
　授業で配布する資料が見やすいという評価を得ている。復習がしやすいようにさらに改良した。

【学生が準備すべき機器他】
資料をプリントアウトしたものを持参しない場合は、PDFファイルが見られるPC等を持参すること。

【その他の重要事項】
実務経験：理化学研究所基礎科学特別研究員。このときから行っている先端的研究の成果を授業内で説明している。

【Outline (in English)】
This course provides an introduction to structure and function of proteins.　Topics covered in this course include:　structure and chemical properties of amino acids, relationships between primary structures and functions of proteins, chemical interactions for protein folding, hierarchical structure of proteins, globular proteins and fibrous proteins, structure and catalytic function of enzymes, and structure and function of antibodies. Students are expected to spend 4 hours outside of class time for preparation and review. After the lecture, students are expected to review the lecture materials and notes, read reference books, etc. A list of answers to questions about the lecture will be uploaded to Hoppii within a few days. Carefully read the questions and answers given by other students to deepen your understanding. The evaluation will be based on 10%of the assignments submitted for each class, 40% for the mid-term examination, and 50%for the final examination.

BLS200YB（生物科学 / Biological science 200）

蛋白質構造機能学　ＩＩ

曽和　義幸

開講時期：**秋学期授業**/Fall
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
タンパク質は，生命機能を発現するために必要な構成要素である．個々のタンパク質は独自の立体構造を持ち，機能と密接に関連している．タンパク質の構造と機能の関係を，具体的な例を挙げつつ講義する．

【到達目標】
本講義全体を通して，タンパク質の特徴・構造・機能について学ぶ．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
板書とスライドを併用した講義とする．講義内では演習問題を解いてもらうことで，タンパク質の構造・機能について理解することを目指す．レポート・演習のあとの解説でフィードバックをおこなう．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義の概要	タンパク質が様々な生命現象に関わる重要な生体高分子である事を紹介する．
2	タンパク質の基本	タンパク質を理解するための基本的な情報について概説する．
3	タンパク質の構造	タンパク質構造について概説する．
4	タンパク質構造の決定法	タンパク質構造解析について概説するとともに，構造予測についても触れる．
5	リガンド結合1	タンパク質のリガンド結合について概説する．
6	リガンド結合2	結合サイトが複数あるタンパク質-リガンド結合について概説する．
7	協同性	ヘモグロビンを例にとり，協同性について概説し，協同性のモデルについて議論する．
8	中間試験	講義の前半についての理解度をチェックする．
9	生体エネルギー論	ギブズ自由エネルギーについて概説する．
10	酵素	生化学反応を触媒する酵素について概説する．
11	速度論	化学反応の速度論の基本を概説する．
12	酵素反応	酵素反応速度論について概説する．
13	タンパク質機能の解析法	タンパク質機能を解析する手法について，基本的な原理を概説する．
14	総括	講義全体を通じて，理解してもらいたいポイントをまとめた課題を与える．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
本講義では，講義内容の理解を助けるための簡単な計算を演習問題として紹介する．ただし，時間の制約上，計算過程を省かざるをえない場合があるので，各講義の終了後に各自で計算をおこなう．

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は指定しない．講義では視覚的教材やプリントを利用する．

【参考書】
一般的な生化学の教科書（レーニンジャーの新生化学など）

【成績評価の方法と基準】
中間試験(50%)・期末試験(50%)の合計点数によって評価する．ただし，テストを実施できない場合は，適宜課す予定のレポート・演習で評価する（100%）．

【学生の意見等からの気づき】
演習問題の解説を丁寧におこなう．

【学生が準備すべき機器他】
演習では貸与PCを用いる．

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental relationship between protein structure and function. After each class meeting,students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term examination(50%) and term-end examination(50%).

PPE200YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200）

植物病学概論

濱本　宏

開講時期：**秋学期授業**/Fall
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では主として微生物による植物病について、病原性のメカニズムや伝染様式、さらに、それら病原に対して植物の持つ病害抵抗性の機構等を学ぶ。

【到達目標】
ウイルス、細菌、菌類など植物病原微生物の分類とその特徴、それらが引き起こす病徴について基礎的な知識を得る。また、それら微生物がどのように植物に病気を起こすのか、それに対して植物はどのように抵抗性を示すのかを理解する。さらに、これらの知見を病害の診断や防除にどのように活かすのか考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを用いて解説することを基本とする。トピック的に原著論文を紹介したりTEDなどのビデオをみることで、理解を深めたり最新の知見を得たりする。授業中に教員から質問することで理解度の把握に努め、授業進行に役立てる。授業内の最後に行う「課題」のフィードバックは翌週授業の冒頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	植物病と微生物	植物病を引き起こす微生物と、基本的な用語について
第2回	ウイルス・ウイロイド病（1）	ウイルス・ウイロイドの分類と進化
第3回	ウイルス・ウイロイド病（2）	ウイルス・ウイロイド病の性状・病徴と伝染様式
第4回	細菌・ファイトプラズマ病（1）	植物病原細菌・ファイトプラズマの分類とその性状
第5回	細菌・ファイトプラズマ病（2）	植物細菌病・ファイトプラズマ病の病徴と伝染様式
第6回	菌類病（1）	植物病原菌類の分類・命名とその性状
第7回	菌類病（2）	植物菌類病の病徴と伝染様式
第8回	線虫病と生理病	植物寄生線虫の分類、性状と病徴、植物生理病の種類と病徴
第9回	中間まとめ	植物病を引き起こす病因について振り返り、質疑応答
第10回	植物感染生理（1）：病原性	病原微生物の植物侵入の機構と病原性発現の機構
第11回	植物感染生理（2）：抵抗性	病原微生物に対する宿主の抵抗性の種類とそれらの機構
第12回	植物感染生理（3）：バイオテクノロジー	従来の育種後術とAI育種、遺伝子組み換え技術
第13回	植物病の診断と防除	植物病の診断、防除の技術、総合的病害虫管理（IPM）
第14回	植物病学の最新トピックと総合まとめ	植物病学に関する最新のトピックの紹介・授業をふりかえり総合まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業で強調する専門用語や病名について、他の授業・実習内容の復習や自習によって知識を深めてほしい。

【テキスト（教科書）】
植物医科学（難波成任 監修），養賢堂，2022

【参考書】
植物病理学 第2版（眞山滋志、土佐幸雄 編），文永堂出版, 2020.
植物病理学 第2版（大木理 著），東京科学同人, 2019.
Plant Pathology, 5th edition (G.N. Agrios), Elsevier, 2005.
Essential Plant Pathology (G.L. Schumann, C.J. D'Arcy), APS Press, 2010

【成績評価の方法と基準】
期末試験：80%、平常点20%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特に、配布プリントを見やすくすることと、学習支援システムへのタイミング良いアップを心がける。クイズ形式のアンケートなどをできるだけ取り入れ、授業の進行に役立てる。

【その他の重要事項】
化学業界に勤務経験のある教員が、特に農薬の開発や使用に関して具体的な説明を加える。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, we mainly learn the mechanisms of pathogenicity, the mode of transmission, and the mechanisms of disease resistance of plants against pathogenic diseases of microorganisms.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to obtain basic knowledge of the plant pathogens, how they cause plant disease and how the plants resist to the attack of the pathogens.
【Learning activities outside of classroom】
In this course, to know the scientific terms are important and review the meanings of the terms that you didn't know.
【Grading Criteria /Policy】
Final evaluation will be decided according to; term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

BLS300YB（生物科学 / Biological science 300）

細胞工学

廣野　雅文

開講時期：**秋学期授業**/Fall
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
細胞構成分子の機能を解明する手段として使われる様々な細胞工学的技術について、それらの基盤となる細胞膜と細胞骨格の構造と性質を学び、技術的な原理を理解する。

【到達目標】
細胞膜と細胞骨格の物質的基盤、基本的構造と機能を理解する。その上で、細胞の構成分子の生理的機能を解析する手段として使われてきた、様々な細胞改変技術の具体例とそれらの基本原理について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
対面で講義する。講義後に、授業内容に関するごく簡単なクイズへの回答と、講義内容への質問があれば同時に提出する。すべての質問は一覧にして回答とともに授業支援システムに数日以内にアップロードしてフィードバックする。また、講義内容の資料は、PDFファイルとして学習支援システムにアップロードする。各回の授業方法の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	工学と理学の違い，細胞質工学とは，細胞質工学に用いる技術
第2回	生体膜の重要な性質	選択的透過性，エネルギー変換，情報伝達，電気的興奮
第3回	生体膜の基本的な構造	リン脂質，脂質2分子層構造と解明の歴史，膜の流動性，流動モザイクモデル
第4回	膜の透過性	Fickの式，透過係数
第5回	膜の輸送-1	受動輸送と能動輸送，単純拡散，促進拡散，担体輸送，チャンネル輸送
第6回	膜の輸送-2	一次能動輸送，二次能動輸送，膜動輸送
第7回	膜電位	膜電位の発見，Nernst 電位，静止膜電位，活動電位
第8回	微小管の構造と性質	チューブリンと微小管の構造，チューブリンの重合，微小管の動的不安定性
第9回	細胞内微小管	微小管結合タンパク質による微小管形成の調節，gamma-チューブリン環状複合体
第10回	微小管モータータンパク質	キネシンの分子構造と多様性，キネシンと微小管の相互作用，ダイニンの分子構造，ダイニン-微小管の相互作用
第11回	キネシン、ダイニンが担う細胞運動	色素細胞の色素胞輸送機構，軸索輸送機構，鞭毛内輸送機構
第12回	有糸分裂における微小管の機能	紡錘体，有糸分裂の過程，紡錘体の構造と形成機構，染色体の分離機構
第13回	中心体	中心体・中心子・PCM，中心子と繊毛，中心子の基本構造，中心子の複製と新規形成，複製回数の制御
第14回	繊毛の構造と機能	運動性繊毛と非運動性繊毛，繊毛の機能，繊毛の構造，繊毛の運動機構

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義後にノートとプリントを読み返し、参考書を読むなどして復習をすること。講義内容へのすべての質問に対して回答の一覧を授業支援システムに数日以内にアップロードするので、復習する際には他の受講生が出した質問とその回答もよく読んで理解を深めること。

【テキスト（教科書）】
講義資料（PDF）をHoppiiにアップロードする。

【参考書】
Bruce Alberts：「細胞の分子生物学」第5版，ニュートンプレス
Benjamin Lewin:「細胞生物学」東京化学同人

【成績評価の方法と基準】
授業ごとに提出する課題10%、中間試験40%、期末試験50%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業後の課題とともに質問を受け付け、数日内にその回答をフィードバックしている。理解の助けになったという声も多いので、今後も継続する。学期の後半に質問数が減少する傾向があるが、ぜひ大いに利用してほしい。

【その他の重要事項】
実務経験：理化学研究所基礎科学特別研究員。このときから行っている先端的研究の成果を授業内で説明している。

【Outline (in English)】
This course provides an overview of cell technologies used in the field of cell biology, such as DNA introduction into cells, GFP-tagging of proteins, cell fusion, and cell manipulation. To understand the principles of these technologies, the course will cover topics of structures and functions of biomembrane and cytoskeleton. Students are expected to spend 4 hours outside of class time for preparation and review. After the lecture, students are expected to review the lecture materials and notes, read reference books, etc. A list of answers to questions about the lecture will be uploaded to Hoppii within a few days. Carefully read the questions and answers given by other students to deepen your understanding. The evaluation will be based on 10%of the assignments submitted for each class, 40%for the mid-term examination, and 50%for the final examination.

BLS100YB（生物科学 / Biological science 100）

生物化学　ＩＩ

西川正俊

開講時期：**秋学期授業/Fall**
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命現象の根幹をなす代謝の生物化学的理解を通じて，複雑な生命科学の専門的な内容を理解するための基礎知識を習得する．

【到達目標】
主な生体構成物質の構造と機能を学び，それらを基盤として細胞・個体レベルの生命現象が成り立つしくみを化学の視点から理解する．生物化学IIでは多種の酵素による反応素過程が集積して実現される代謝経路について，制御機構と反応様式を理解することを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
板書を基本とする．講義に必要な図等についてはプロジェクターを用いる．用いたファイルは授業支援システムにアップロードし，履修者が閲覧できるようにする．講義後に出た質問やコメントからいくつか取り上げ，全体に対してフィードバックする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	生物化学における基本概念の確認
2	基本概念1	代謝経路の反応が示す不可逆性と自発性について
3	基本概念2	代謝経路に現れる反応モチーフについて
4	生体のエネルギー変換機構	酸化的リン酸化とエネルギー変換
5	糖代謝1	解糖系について
6	糖代謝2	糖新生について
7	糖代謝3	解糖系と糖新生の制御機構について
8	TCAサイクル	TCAサイクルで生じる反応の不可逆性とその制御
9	まとめと演習	好気呼吸の制御と収支について
10	脂質代謝1	脂肪酸分解
11	脂質代謝2	脂質の合成
12	代謝制御	代謝経路のホルモン制御
13	光合成1	明反応
14	光合成2	暗反応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】ノートや参考書を用いた復習をすること．

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
ストライヤー生化学, J. M. Berg他
レーニンジャーの新生化学，David L. Nelson他

【成績評価の方法と基準】
成績評価法；期末テスト（60%），レポートや中間テスト:（40%）の結果をもとに総合的に評価する．
評価基準；細胞内で起こっている糖，脂質の代謝反応がどのように起こっているかの理解度

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ学生の質問を引き出せるような授業にする．

【その他の重要事項】
実務経験: 理化学研究所　発生・再生総合科学研究センター　研究員．この経験を通じて得た最先端の生化学的知見について紹介する．

【Outline (in English)】
This course is an introduction to biochemistry of metabolism, with the aim of understanding how a cell establishes its living states through chemical reactions mediated by enzymes. Specifically, the goal of the course is to acquire chemical insights on reaction networks and their precise regulations on metabolic pathways. Participants are expected to spend four hours to summarize the contents provided in the classes. Grades will be determined based on the points of two exams (mid-term 40 %, term-end 60 %).

BLS100YB（生物科学 / Biological science 100）

生物物理学　Ⅰ

西川正俊

開講時期：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は生命システムの研究において必要となる物理の基礎を学ぶ．前半で力学について基本から解説し，巨視的なスケールのバイオメカニクスについて学ぶ．後半ではニューロンの生物物理について解説し，活動電位発生の物理を理解する．

【到達目標】
この授業では，さまざまな生命現象を物理学的な視点から理解するために必要な力学を基本から学ぶ．細胞内における分子の動きやエネルギー共役を定量的に議論する基盤を身につけることを到達目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
板書を基本とする．講義に必要な図等についてはプロジェクターを用いる．用いたファイルは授業支援システムにアップロードし，履修者が閲覧できるようにする．講義後に出た質問やコメントからいくつか取り上げ，全体に対してフィードバックする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	生物物理学とは何か？ について解説する．
第2回	運動について	分子・細胞・個体のスケールで見る運動の違いについて解説する．
第3回	力学1	単位系について解説する．
第4回	力学2	運動について解説する．
第5回	力学3	力と運動方程式について解説する．
第6回	力学4	運動量とエネルギーの保存法則について解説する．
第7回	力学5	過減衰系の運動について解説する．
第8回	まとめと演習1	バイオメカニクスについてのまとめと演習テストをおこなう．
第9回	ニューロンの生物物理1	細胞の電気的性質と電子回路の基礎について解説する．
第10回	ニューロンの生物物理2	ネルンストの式を導出する．
第11回	ニューロンの生物物理3	膜電位について解説する．
第12回	ニューロンの生物物理4	イオンチャネルの物理について解説する．
第13回	ニューロンの生物物理5	活動電位について解説する．
第14回	まとめと演習２	ニューロンの生物物理についてのまとめと演習テストをおこなう．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】生物現象に見られる力学についての演習問題を講義の中で取り扱う．ただし，時間の制約上，計算過程を省かざるを得ないので，各自で確認をおこなう．

【テキスト（教科書）】
特になし．

【参考書】
ゼロからの力学Ⅰ，Ⅱ，岩波書店，
Essential細胞生物学 原書第2版，南江堂

【成績評価の方法と基準】
レポートや中間テスト(40 %)と期末試験(60 %)の結果を元に総合的に評価する．

【学生の意見等からの気づき】
演習問題を通じて具体的な理解をめざす．

【その他の重要事項】
実務経験: 理化学研究所　発生・再生総合科学研究センター　研究員．この経験を通じて得た最先端の生化学的知見について紹介する．

【Outline (in English)】
This course is an introduction to the physics of biological systems. We will establish an understanding of the basic concepts of mechanics at macroscopic scale and then will build the understanding of underlying physics of action potential. Specifically, the goal of the course is to acquire physical insights on molecular movement driven by chemical energies inside cell. Participants are expected to spend four hours to summarize the contents provided in the classes. Grades will be determined based on the points of two exams (mid-term 40 %, term-end 60 %).

BLS100YB（生物科学 / Biological science 100）

生物物理学　ＩＩ

曽和義幸

開講時期：**秋学期授業**/Fall
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生物物理学は，物理学的な考え方や手法を用いて生命現象を理解しようとする学問である．講義の前半では，生体分子（主にタンパク質）の立体構造形成や，タンパク質のエネルギー変換機構について概説する．後半では，生体内で起こる数多くの化学反応についてエネルギー共役を中心とした物理学的な視点で理解するために，生体エネルギー論を基本から解説する．

【到達目標】
この授業では，タンパク質の立体構造形成やエネルギー共役について知識を深めること，生体エネルギー論の基本を学び，生体内における化学反応について物理学的な視点から理解することを到達目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
講義の前半では，生体分子（主にタンパク質）の立体構造形成について概説し，生体内で起こるエネルギー変換の例を紹介する．後半では，生体内で起こる数多くの化学反応についてエネルギー共役を中心とした物理学的な視点で理解するために，生体熱力学を基本から解説する．基本的な考え方や手法を解説するとともに，最先端の技術についてもトピックスとして紹介する．講義内では授業内またはレポートとして演習をおこなうが，提出後に解説をおこなってフィードバックをおこなう．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義の概要	講義の進め方を説明する．生体内の化学反応について概説する．
2	タンパク質の構造１	アミノ酸の性質とタンパク質構造の階層性について復習する．
3	タンパク質の構造２	タンパク質の構造についての基礎について復習する．
4	タンパク質の構造３	タンパク質の構造解析について概説する．
5	生体熱力学の基礎１	熱力学の法則について概説する．
6	生体熱力学の基礎２	熱力学第一法則を概説する．
7	まとめと演習１	タンパク質と生体熱力学の基礎のまとめと演習テストをおこなう．
8	生体熱力学の基礎３	熱力学第二法則を概説する．
9	生体熱力学の基礎４	ギブズの自由エネルギーについて概説する．
10	生体熱力学の基礎５	化学ポテンシャルについて概説する．
11	生体熱力学の基礎６	反応ギブズエネルギーについて概説する．
12	細胞内の代謝	細胞内の代謝について熱力学の観点から概説する．
13	細胞のエネルギー通貨	ATPの構造と加水分解エネルギーとほかの過程のエネルギー共役について解説する
14	まとめと演習２	生体熱力学のまとめと演習テストをおこなう．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】生体エネルギーについての演習問題を講義の中で取り扱う．ただし，時間の制約上，計算過程を省かざるを得ないので，各自で確認をおこなう．

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は指定しない．講義では，視覚的教材やプリントを使用する．

【参考書】
Essential細胞生物学 第2版，南江堂
細胞の分子生物学 第5版，ニュートンプレス
物理化学や化学熱力学の一般的な参考書

【成績評価の方法と基準】
中間試験(50%)・期末試験(50%)の合計点数によって評価する．ただし，オンライン授業になった場合は，適宜課す予定のレポート・演習で評価する（100%）．

【学生の意見等からの気づき】
演習問題について，計算を丁寧に解説する．

【学生が準備すべき機器他】
貸与PCを利用することがある．

【Outline (in English)】
The course deals with the basis of biophysics, with fundamental thermodynamics in biology. After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term examination (50%) and term-end examination (50%).

BLS100YB（生物科学 / Biological science 100）

細胞生物学　Ⅰ

金子　智行

開講時期：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
遺伝情報の収納庫としての「核」を中心とした細胞の構造と機能について学ぶ.

【到達目標】
生物の基礎単位である細胞の物質的基盤・分子構成と，細胞としての反応性や細胞単位の生命機能を論理的に理解し，その基盤である生命機能が発現する過程を統合的に理解すること.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
生命体の最小基本単位である細胞を構成する小器官の構造と機能や生体反応の仕組みを学ぶことによって，生命機能発現の仕組みと制御機構の基礎を理解することを目指す．授業中に適宜課題を与えレポート提出を求め，2回の中間試験で理解到達度を測り，理解度を鑑みながら授業を進める．大学の行動方針レベルに応じてオンライン(Zoom)でも開講し，具体的な方法については学習支援システムで提示する.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	細胞の進化	原始地球における生命の誕生から多細胞生物への進化の過程
2	核の構造と機能	核の基本構造と特徴
3	原核生物と真核生物	原核生物と真核生物の違い
4	真核生物の染色体	染色体の構造と機能
5	ミトコンドリア・葉緑体のDNA	細胞内小器官に独自に存在する遺伝情報
6	核輸送、小胞輸送	核膜を通した核輸送やゴルジ・小胞体による輸送
7	細胞表層や核内の受容体	細胞表層や核内にある受容体の構造や機能
8	中間試験-1	ここまでの理解到達度確認と試験の解説および補足
9	細胞周期	細胞周期の分類や制御機構
10	細胞分裂や生殖と減数分裂	有糸分裂の機構や減数分裂の意義や仕組み
11	細胞間コミュニケーション	間接的、直接的な細胞間コミュニケーションの方法
12	細胞から個体へ	多細胞生物の成り立ちと細胞集合と識別
13	中間試験-2	中間試験-1以降の理解到達度確認と試験の解説および補足
14	まとめと解説	全体の理解度確認と解説および補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
1．予習と復習
2．授業中適宜与えられた課題についてのレポート作成

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
石崎・丸山　監訳・翻訳　「アメリカ版　大学生物学の教科書　第1巻　細胞生物学」　講談社
エッセンシャル　細胞生物学　原書第5版　B. Alberts 他著　南江堂
他は授業中に適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
＜評価方法＞期末試験50％・中間試験(1と2)20％・レポート課題15％・平常点15％の成績を総合して評価する.

【学生の意見等からの気づき】
PowerPoint図の印刷体配布要望があったが，授業中に紹介した参考書を紐解けば見つかる図表が大部分であるので，自主的学習能力を亢進させる為には望ましくないと判断しました.

【学生が準備すべき機器他】
レポート課題提出には学習支援システムを使用する.

【その他の重要事項】
授業内での質問を随時受け付ける.
財団法人の研究員の経験を活かし，先端研究の紹介等を含めて授業を行う.

【Outline (in English)】
This course deals with the structure and function of the cell mainly on "the nucleus" as the storage of the genetic information.
The goals of this course are to understand the process of expression of biological functions.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Final grade will be calculated according to the following process Term-end examination (50%), mid-term report (20%), short reports (15%), and in class contribution (15%).

BLS200YB（生物科学 / Biological science 200）

細胞構造機能学　Ⅰ

川岸　郁朗

開講時期：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
細胞は生物の基本単位であり，タンパク質や脂質，糖など様々な物質が複雑に入り混じり維持されている。よって，細胞の構造と機能を学び，生命現象を理解することは生命科学研究に必須である。本講義では，細胞・細胞膜の構造（真核生物，細菌，ウイルス），タンパク質による物質の輸送，タンパク質の選別とその輸送，細胞運動，細胞骨格，それらに関連した疾病・生命現象や生命科学研究の手法について学ぶ。

【到達目標】
生命の基本となる細胞の構造と機能，特に細胞膜と細胞における空間的な自己組織化について，タンパク質の選別と輸送，動態の面から理解する。具体的には下記に記す内容について理解を深める。
1）細胞膜における脂質の性質と境界としての役目
2）タンパク質による物質輸送が担う生体維持の仕組み
3）合成されたタンパク質の適切な輸送と局在，内部構造の配置・再編の仕組み
4）これらに関連した疾病とその機序
5）様々な研究手法がどのように生命科学の発展に寄与したか
また，知識の詰込みのみにならないよう，授業で得た知識を元に様々な視点から科学的に考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
特定の教科書は用いず，毎回配布する資料を元に講義として授業を行う。各講義では理解度確認のために簡単な演習を行い，次回の講義で解説する。
基本的には各回ごとに系統立てて講義を進めるが，完全には分けていない。特に関連疾病や研究手法などはまとめずに各講義回に織り交ぜ解説していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入：細胞の化学	細胞の内部構造と生体物質の化学に関する基礎
2	生体膜と生体エネルギー	細胞膜の構造とエネルギー代謝に関する概説，細胞の物理化学的解釈
3	タンパク質による物質輸送-1	境界としての細胞膜，膜を横断する物質の輸送，一次性・二次性能動輸送
4	タンパク質による物質輸送-2	物質の輸送体としてのタンパク質の役割，ポンプと細菌の薬剤耐性化
5	中間テスト-1	これまでの講義内容の理解度の確認
6	タンパク質の選別とその輸送-1	細胞のコンパートメント，タンパク質の選別シグナルと輸送の仕組み
7	タンパク質の選別とその輸送-2	ウイルスの膜構造，ミトコンドリアのタンパク質輸送と膜への挿入
8	タンパク質の選別とその輸送-3	分子シャペロンと品質管理機構，小胞体におけるタンパク質輸送，エンドサイトーシス
9	タンパク質の選別とその輸送-4	小胞輸送と膜融合，ゴルジ体におけるタンパク質輸送，糖鎖修飾，オートファジー
10	中間テスト-2	これまでの講義内容の理解度の確認
11	真核生物の細胞骨格と運動-1	細胞骨格と運動：アクチンフィラメント，微小管，中間径フィラメント
12	真核生物の細胞骨格と運動-2	分子モーター：ミオシン，キネシン，ダイニン，鞭毛と繊毛
13	タンパク質の動態とヒトの疾病	タンパク質輸送や細胞骨格・運動に関連した疾病とその機序
14	細胞研究手法	細胞生物学的，生物物理学的，生化学的，分子生物学的，疫学的な研究手法・アプローチ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
大学設置基準に鑑みた本授業の準備・復習等の授業時間外学習は，4時間を標準とする。
授業中に指示する内容について，参考書や原著論文等で復習し理解を深める。

【テキスト（教科書）】
教科書使用なし。

【参考書】
・THE CELL 細胞の分子生物学　第６版
・細胞の物理生物学　第３版
・リッピンコット　イラストレイテッド生化学　第７版
・数でとらえる細胞生物学

【成績評価の方法と基準】
＜評価方法＞
中間テスト(45%)，期末テスト(45%)，平常点（10%）を元に総合的に評価する。
＜評価基準＞
到達目標に記載した内容について理解し考えることができるか。また，答えのない科学的疑問について自ら積極的に学び，考察することができるか。

【学生の意見等からの気づき】
適宜資料を配付する。ノートを取る時間に配慮する。

【学生が準備すべき機器他】
授業に関係する連絡などに授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
講義内容に関する質問・感想・要望を随時受け付けるとともに，教員からも質問を投げかけるなどして双方向的な授業を目指す。授業の進め方は，理解度等を元に調整する。
細胞構造機能学Ⅰ，蛋白質構造機能学Ⅰ，ゲノム構造機能学Ⅰで学んだ内容を踏まえ，講義を進行する。
大学，民間企業，国立研究所における研究経験を活かし，身近な生活やキャリアに役立つ講義を行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】

The cell is the basic unit of living organisms and is maintained by a complex mixture of various substances such as proteins, lipids, and sugars. Therefore, learning the structure and function of cells is essential for life science research. In this lecture, students learn about the structure of cells and cell membranes (eukaryotes, bacteria, and viruses), transport of substances by proteins, sorting and transport of proteins, cell motility, cytoskeleton, diseases and life phenomena related to these structures and functions of the cell, and methods of life science research.
【Learning objectives】
The goals of this course is to understand the structure and function of the cell, which is the basis of life, especially the cell membrane and spatial self-organization in the cell, in terms of protein sorting, transport and dynamics. Specifically, students will deepen their understanding of the following topics.
(1) The nature of lipids in cell membranes and their role as boundaries.
(2) The mechanism of biological maintenance by the transport of substances by proteins.
(3) Mechanism of proper transport and localization of synthesized proteins, and arrangement and reorganization of their internal structures.
(4) Diseases related to the above and their mechanisms.
(5) How various research methods have contributed to the development of life sciences.
In addition, students will acquire the ability to think scientifically about things from various perspectives based on the knowledge gained in the class, so that they do not just cram knowledge into their minds.
【Learning activities outside of classroom】
In this course, students are expected to study for 4 hours outside of class time in preparation.
Students are expected to review by lecture materials, reference books, original papers, etc. to deepen their understanding of the contents instructed in the class.
【Grading criteria /Policies】
＜Evaluation method＞
Overall evaluation based on mid-term test (45%), final test (45%), and in-class contribution (10%).
＜Evaluation criteria＞
Students have to understand and think about the contents described in the learning objectives.
In this class, we also emphasize the importance of being able to actively learn and think for oneself about scientific questions that have no answers.

BLS300YB（生物科学 / Biological science 300）

バイオエナジェティクス

常重　アントニオ

開講時期：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course attempts to answer several questions: What is "energy" within a living organism? How is energy conveyed, stored, and transformed within our bodies? Is it all about ATP? These interesting questions and many more will be addressed throughout this course. At the end, the student is expected to master the basic elements of biothermodynamics, and have a clear idea about the process of life.
（本科目は，グローバル対応科目である）。

【到達目標】
The enrolled student should be able to understand how the process of energy capture, transformation, and its storage and conversion into active processes is carried out within living organisms. Basic concepts of thermodynamics will be explained.
This course is also offered to students who want to improve their English at academic level.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
This course is delivered in the form of sequential lectures. Students are encouraged to participate actively in discussion. Inquiries and comments are welcomed at any time when concepts are not clear. Most part of the didactic materials will be made available through the support system Hoppii.
To assess the adequate understanding of classes, reports and responses to quizzes will be requested periodically, and scored appropriately. Solutions to quizzes will be discussed in following classes. Should any topic still remain unclear, appropriate discussions can be scheduled using office hours.
Although this course is offered in English, summary of the content of each session will be given in Japanese, and as often as necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	What is bioenergetics about? A rather new branch of science with concepts not so easy to understand.
2	Basic Thermodynamics (1).	Basic concepts in chemistry. Reaction rates.Systems in equilibrium.Why chemical reactions proceed.
3	Basic Thermodynamics (2).	The concepts of free energy, enthalpy, and entropy. The misconception of entropy.
4	Redox reactions (1)	The simplest case: carbon in all oxidation states. Reduction-oxidation (redox) potential.
5	Redox reactions (3)	Chemical reactions involving reduction and oxidation in biological systems. Spontaneity of chemical reactions. Enzyme reactions.
6	Mid-term recap. Thermodynamics and Spontaneity of Chemical Reactions.	Consolidation of concepts expressed in previous classes.
7	The "mysterious" ATP.	The pending question: Where in ATP is the energy "stored"? And how it is released. Other "energetic" compounds.
8	Bioenergetics (1)	Glycolysis. Why glucose? It is not only glucose.
9	Bioenergetics (2)	Krebs (TCA) cycle. Electron and proton transporters. This is the core of life sustenance at molecular level.
10	Bioenergetics (3)	Inside the mitochondrion. Electron transport chain. ATP production. Chemiosmotic theory.
11	Bioenergetics (4)	Photosynthesis. Similarities and differences with animal metabolism.
12	Bioenergetics (5)	How do we know the electron transport systems work? The use of inhibitors of the electron transport chain. The importance of P/O ratio.
13	Role of ATP. Recap of concepts of Lecture 7	Endergonic and exergonic reactions. Coupled reactions. Typical misconceptions about ATP (revisited).
14	Recapitulation of previous lectures. About spontaneity in bioprocesses	Bioenergetics and the sustenance of life. Closing remarks.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】Periodically, quizzes and homework will be assigned to students, and these will be presented as reports. All will be solved and explained in following classes to consolidate learned concepts.

【テキスト（教科書）】
The textbooks mentioned below can be used partially, although its purchase is not necessary.
"Biological Thermodynamics", Donald T. Haynie, Cambridge, 2001.
「生体とエネルギーの物理－生命力のみなもと」，日本物理学会 集（2000）の一部を利用する。

【参考書】
Prior to classes, appropriate handouts or other materials will be made available electronically through the support system Hoppii.

【成績評価の方法と基準】
In principle, assistance to classes is required. Active participation will be graded accordingly (20%). Grading will be also based on periodic short tests, some of which will take the form of homework (20%). Final test or its equivalent (60%).

【学生の意見等からの気づき】
Quizzes and short test will be assigned and later discussed in class to consolidate learned concepts.
.

【学生が準備すべき機器他】
Laptops or personal computers with audiovisual capabilities and reliable internet connection are required to access the system Hoppii. Also this equipment will be necessary for the submission of electronic reports.

【その他の重要事項】
None.

BME300YB（人間医工学 / Biomedical engineering 300）

医用生体工学

林　真人

開講時期：**秋学期授業/Fall**
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生体分子、細胞、組織の各レベルにおける実験的再構成法の基礎、及び医療応用の先端研究について学ぶ。

【到達目標】
生体分子、細胞、組織に関する生化学、分子細胞生物学、生物物理学の基礎を学ぶ。生体計測・バイオイメージング技術の原理についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
講義はスライド映写を中心に行い、問題提示や対話形式での講義を行う。学生自ら各テーマについて調べ、授業内での発表を行う。大学の行動方針レベルに応じてオンライン(Zoom)でも開講し，具体的な方法については学習支援システムで提示する.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	概要説明・生命の再構成	講義の意義、評価方法について、分子から組織までの階層構造と再構成、生体計測の概論
第2回	顕微鏡と顕微操作	解像度や回折限界、超解像技術、暗視野顕微鏡の原理
第3回	脂質とリポソーム	脂質膜やリポソームの形成法、安定性
第4回	リポソームの応用技術	リポソームを使用した医療技術や最近のトピックス
第5回	細胞の再構築	リポソーム内タンパク質発現や機能性リポソーム
第6回	中間テスト-1	ここまでの理解到達度確認
第7回	中間テストの解説	中間テスト-1の解説と結果に基づいた補足
第8回	微細加工技術	光リソグラフィー、マイクロプリンティング、アガロース微細加工技術
第9回	ES細胞・iPS細胞	ES細胞やiPS細胞をを中心とした幹細胞やMuse細胞などの最新のトピックス
第10回	創薬・薬剤スクリーニング	新薬をつくるプロセス、毒性検査技術
第11回	組織工学	細胞培養、細胞凍結、細胞配置、組織構築
第12回	再生医療	最新の再生医療技術について
第13回	中間テスト-2	中間テスト-1以降の理解到達度確認
第14回	中間テストの解説	中間テスト-2の解説と結果に基づいた補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
講義中の話題に対する予習・復習の必要がある。学生自ら発表する内容について調べパワーポイント等にまとめる必要がある。また、レポート課題に対して数週間以内にまとめて提出する必要がある。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
＜評価方法＞期末試験30％・中間試験(1と2)20％・発表点30％・平常点20％の成績を総合して評価する.

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
授業内での発表があるので、貸与パソコン等のプレゼンテーションが可能な機器。

【その他の重要事項】
学生との双方向的な授業のため、活発な発言や議論を行います。

【Outline (in English)】
This course deals with a basic research of reconstruction of a cell or tissue, and an advanced research of tissue engineering and regenerative medicine.
The goals of this course are to understand the basics of biochemistry, molecular cell biology, and biophysics.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Final grade will be calculated according to the following process Term-end examination (30%), mid-term report (20%), short presentation (30%), and in class contribution (20%).

PPE100YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 100）

植物病防除学

池田　健太郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
植物病を防除することの重要性を認識し、どのような手法で植物病が防除できるのかを知る。また、様々な防除技術の特徴や、植物病の病原菌や害虫の発生生態に基づいた防除対策の策定および社会的ニーズに基づいた防除技術開発とその実例を学ぶ。

【到達目標】
植物病の防除技術の種類と特徴を知り、植物病の発生生態を踏まえて、農業生産者のニーズを満たした防除方法を提案できる。また、植物病の防除技術開発に携わることのできるの基礎的な知識を習得している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
生産現場で実際に発生した植物病の事例を紹介し、防除対策導入のポイントを解説する。その際に、これまでの研究成果などから推察される植物病の発生生態を踏まえ、どのような防除対策が有効かを考察する。授業を復習する課題・レポートの提出は「学習支援システム」を通して行い、質問などの回答やフィードバックは授業内で共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	防除のはじまりと意義・重要性
第2回	防除技術の種類と選択・導入	病原菌の生活環を考慮した防除方法と対策の導入
第3回	化学的防除法1（農薬一般）	農薬の一般知識、防除器具の種類、耐性菌の発生
第4回	化学的防除法2（防除の実例）	化学農薬を使った植物病の防除事例
第5回	耕種的防除法1	圃場衛生と抵抗性品種の活用
第6回	耕種的防除法2	輪作による植物病の防除
第7回	物理的防除法1	熱や光質を活用した植物病の防除
第8回	生物的防除法	微生物を活用した植物病の防除
第9回	持続的な防除技術	総合的病害虫・雑草管理（IPM）と重要性と実例の紹介
第10回	防除のための情報の取得	防除技術を選択・導入する上で必要な情報の取得
第11回	植物病の伝染環と拡大様式	モノサイクリック病害とポリサイクリック病害の防除対策
第12回	防除に関わる最新技術	防除に関わるゲノム編集、バイオスティミュラント、スマート農業について
第13回	防除技術開発の実際	実用化された防除技術開発の経緯と社会への貢献について
第14回	防除技術開発のための研究計画とデータ解析	On-farm researchと防除技術の評価に必要な解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
重要な専門用語について、複数のソース（書籍、事典、website など）を用いて復習する。また、実験実習科目とも関連付けて、本授業内容の理解に努めること。

【テキスト（教科書）】
授業で使用する資料は学習支援システムに掲載する。

【参考書】
米山伸吾・根本久・上田康郎・都築司幸著『図説野菜の病気と害虫　伝染環・生活環と防除法』（農山漁村文化協会）
Gail L. Schumann · Cleora J. D'Arcy『Hungry Planet: Stories of Plant Diseases』 (APS PRESS)
難波成任監修『植物医科学』（養賢堂）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（50％）、課題・レポート（30％）、平常点（20％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
実際の農業生産現場で発生する植物病害を授業の対象として、植物病を防除するために植物医師として必要不可欠な知識や技術を習得できる授業となるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
主にパワーポイント画面で講義を進める。

【その他の重要事項】
国内外の農業生産現場で植物保護の研究・指導に携わった教員が、植物病の診断や防除対策の策定を行う上で、特に重要と考えられる知識・技術を講義する。

【Outline (in English)】
Students will recognize the importance of controlling plant diseases and learn what methods are used to control plant diseases. They will also learn the characteristics of various control techniques and the formulation of control measures based on the life cycle of plant disease pathogens and pests, as well as the development of control technologies for social needs. It is important to know the types and characteristics of plant disease control techniques and to propose control methods that meet the needs of farmers based on the life cycle of plant disease pathogens. In this course, cases of plant diseases that have occurred in agricultural production will be introduced and key points for the introduction of control measures will be explained. Students can learn what kind of control measures are effective, based on the life cycle of plant disease.
Grades will be based on the final exam (50%), assignments and reports (30%), and regular marks (20%).

PPE200YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200）

植物ウイルス学

津田　新哉

開講時期：**秋学期授業/Fall**
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学**
生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、植物病理学・植物医科学分野の中で、農作物の重要病原の一種である植物ウイルス等の歴史、分類、病気の種類、診断法、防除法さらに最新の分子生物学に至るまでの基礎・応用・実用研究の最前線を解説する。さらに、ウイルス等の生物学的特徴を説明するとともに、生命科学をリードするウイルス等研究の役割について講義する。

【到達目標】
植物ウイルス病研究の歴史、現在のウイルス等の分類、分子構造、生物学的特徴、発生生態、媒介様式、さらに防除方法等について理解する。さらに、ウイルス遺伝子とその産物であるタンパク質の機能、それら高分子と植物遺伝子等との相互作用を通じて生命現象の仕組みを学習する。また、ウイルス感染から発病に至るまでの経緯を連続的に捉え、ウイルス病防除の技術的課題の抽出と農作物の安定生産に向けた対策を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
本授業は、パワーポイントによるスライド映写と配布資料を用いて、講義を行う。また、適度にグループディスカッションや小テスト等も交え知識の醸成を図る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	植物ウイルス病とウイルス学の歴史	植物ウイルス病とウイルス等研究の歴史について概説する。
2	植物ウイルスの分類	植物ウイルス等の分類方法の変遷と分類基準についてグループディスカッションで理解を深める。
3	植物ウイルスの構造	ウイルス粒子の形態、ウイルス粒子の化学組成、ウイルスゲノムの遺伝子構造について解説する。
4	植物ウイルスの遺伝と変異	ゲノムの異なるウイルスの遺伝子発現様式、ゲノム上で起こる遺伝子変異について解説する。
5	植物ウイルスの精製と定量	植物ウイルスの精製方法と定量方法について具体的な実験事例を示しながら解説する。
6	植物ウイルスの感染と増殖（1）	植物ウイルス等の植物細胞への感染・増殖・移行過程の現象を生物学的に解説する。
7	植物ウイルスの感染と増殖（2）	引き続き、植物ウイルス等の植物細胞への感染・増殖・移行過程の現象を生物学的に解説する。
8	植物ウイルスの病徴	植物ウイルスが感染することによって表れる様々な病徴を理解し、その病徴発現の仕組みについてグループディスカッションで理解を深める。
9	植物ウイルスの伝染	植物ウイルスの自然界における伝染実態を紹介するとともに、異なる生き物により媒介されるその様式の多様性を説明する。
10	植物ウイルスの干渉	植物ウイルス間で起こる干渉作用を理解する。
11	植物の抵抗性と植物ウイルス病の疫学	植物遺伝子が引き起こす抵抗性反応を解説する。また、植物ウイルスの自然界における生活環と流行、さらに調査方法を解説する。
12	植物ウイルス病の診断と防除	植物ウイルスの病原体としての診断法と、その伝染環に基づく総合防除体系について説明する。
13	植物ウイルスの生物工学	生命科学におけるウイルス学の果たすべき役割と生物工学研究での社会モラルについて解説する。
14	総括	授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
受講生は、特に予習を必要としないが、専門用語などについては、参考書などでしっかり復習する。特に、遺伝子や複製、翻訳などについては、生化学や分子生物学に関する本を読み、基本的知識を理解するように努める。なお、毎回の授業の最後に質問する時間を設けるので、すでに終了した授業の内容も含めて積極的に応答することを期待する。また、授業後に配布する資料で復習すること。

【テキスト（教科書）】
特になし。毎回の授業終了後に時間内で提示した資料を学習支援システムで公開する。各自でダウンロードし復習に役立てる。

【参考書】
関係学術雑誌や専門書、実験技術マニュアルなどを参考にする。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の成績で50%、小テスト・レポートで30%、平常点20%で評価する。期末試験は、毎回の講義の理解度と、総合的な理解度を問う。

【学生の意見等からの気づき】
講義資料の参考資料等については、学習支援システムを活用する。

【学生が準備すべき機器他】
なし。

【その他の重要事項】
民間企業、公設試、国立研究機関における植物ウイルス病の診断・防除に関する研究・技術開発に携わった教員が、生産現場における問題点の抽出、それを解決するための技術体系の構築、開発した技術体系の社会実装に至るまでの経緯を講義する。

【Outline (in English)】
This course will provide a comparative overview of plant virus life cycles and strategies viruses use to infect and replicate in host plants. We will discuss virus structure and classification and the molecular basis of viral reproduction, evolution, assembly, virus-host interactions, epidemiology and protection of viral diseases. The standard study time for this class is 4 hours, including preparation and review. Students do not need to prepare for the lecture, but they should review technical terms in reference books. In particular, students are expected to read books on biochemistry and molecular biology to gain a basic understanding of genes, replication, and translation. There will be time for questions at the end of each class, and students are expected to respond positively, including to questions from classes that have already been completed. Evaluation will be based on 50%on the final exam, 30%on quizzes and reports, and 20%on attendance. The final exam will test your comprehension of each lecture and your overall understanding of the course.

PPE300YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 300）

媒介システム学

津田　新哉

開講時期：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、植物病原微生物が植物から植物へと自然界において媒介される実態を解説する。特に、植物病の主たる媒介者である昆虫の分類を事例として、媒介生物と植物病原微生物、さらに植物との三者間の伝染環に基づく相互作用を説明し、植物を病気から保護する技術的対策について論説する。

【到達目標】
植物病の主たる媒介生物である昆虫とそれに媒介される病原微生物の自然界における相互作用を理解し、それらの媒介に関連する生体高分子間の反応の実態を学習する。また、植物、病原微生物、媒介生物の三者間の連鎖により成立する伝染環を把握し、媒介様式に着目した病害制御対策を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
本授業は、パワーポイントによるスライド映写と配布資料を用いて、講義を行う。また、適度にグループディスカッションや小テスト等も交え知識の醸成を図る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	植物病害における伝染環研究の歴史	植物病害伝染環の研究史と病原微生物の伝播の基礎知識を概説する。
2	植物病原微生物の伝染様式	植物病原微生物の自然界における伝染様式についてグループディスカッションで理解を深める。
3	植物病原微生物の媒介様式	植物病原微生物の媒介生物による伝染経路を説明する。
4	植物病原微生物の媒介生物（１）	植物病原微生物を媒介する昆虫などについて具体的事例を説明する。
5	植物病原微生物の媒介生物（２）	引き続き、植物病原微生物を媒介する昆虫などについて具体的事例を説明する。
6	昆虫などによる植物病原微生物の媒介様式（１）	媒介昆虫などの体内における植物病原微生物の動態について具体的事例を説明する。
7	昆虫などによる植物病原微生物の媒介様式（２）	引き続き、媒介昆虫などの体内における植物病原微生物の動態について具体的事例を説明する。
8	昆虫などによる植物病原微生物の媒介様式（３）	引き続き、媒介昆虫などの体内における植物病原微生物の動態について具体的事例を説明する。
9	生物によるウイルス媒介の分子機構	媒介生物体内におけるウイルス等の局在、増殖、移動などについての分子機構を説明する。
10	植物病原体の種子伝染機構	植物種子により伝染する病害を解説するとともに、ウイルス等を事例にした種子伝染の分子機構を説明する。
11	媒介昆虫の生態と植物病害発生との相互関係	媒介昆虫の生活環の変転に伴う植物病害の発生の変化についてグループディスカッションで理解を深める。
12	植物病原体-媒介生物-宿主植物の相互作用の解析	三者間の相互作用により発生する植物体の生物反応について解説する。
13	植物病原体の薬剤耐性とその対処法	植物病原微生物の薬剤耐性能の発達とその対処法を説明する。
14	総括	授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
受講生は、特に予習を必要としないが、専門用語などについては、参考書などでしっかり復習する。特に、遺伝子、タンパク質などの生体高分子の機能については、生化学や分子生物学に関する本を読み、基本的知識を理解するように努める。なお、毎回の授業の最後に質問する時間を設けるので、すでに終了した授業の内容も含めて積極的に応答することを期待する。また、授業後に配布する資料で復習すること。

【テキスト（教科書）】
特になし。毎回の授業終了後に時間内で提示した資料を学習支援システムで公開する。各自でダウンロードし復習に役立てる。

【参考書】
関係学術雑誌や専門書、実験技術マニュアルなどを参考にする。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の成績で50%、小テスト・レポートで30%、平常点20%で評価する。期末試験は、毎回の講義の理解度と、総合的な理解度を問う。

【学生の意見等からの気づき】
講義資料の参考資料等については、学習支援システムを活用する。

【学生が準備すべき機器他】
なし。

【その他の重要事項】
民間企業、公設試、国立研究機関において植物病の伝染環制御に関する研究・技術開発に携わった教員が、生産現場における問題点の抽出、それを解決するための技術体系の構築、開発した技術体系の社会実装に至るまでの経緯を講義する。

【Outline (in English)】
The primary objective of this course is to introduce the student to the subject of transmission for plant microorganisms occuring diseases. The course will emphasize an interaction between plant virus and insect vector as they apply to plants and discuss plant protection measures considering their ecological relationships to their physical environment and to other organisms, including other plants, microorganisms. The standard study time for this class is 4 hours, including preparation and review. Students are not required to prepare for the lecture, but are required to review technical terms in reference books. In particular, students are expected to read books on biochemistry and molecular biology to gain a basic understanding of the functions of biological macromolecules such as genes and proteins. There will be time for questions at the end of each class, and students are expected to respond positively, including to questions from classes that have already been completed. Evaluation will be based on 50%on the final exam, 30%on quizzes and reports, and 20% on attendance. The final exam will test your comprehension of each lecture and your overall understanding of the course.

BOA300YD（境界農学 / Boundary agriculture 300）

植物メディカルシステム学

濱本　宏

開講時期：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報通信技術（ICT）の活用は、今後の農業の発展に不可欠である。農林水産省の食料・農業・農村白書にはロボット技術やICTを活用したスマート農業などが紹介されてきた。本授業では、農業の中でも植物医科学分野に関わるICT技術として、フィールドサーバーやドローンなど農業データの取得にかかわるハード面と、データ処理技術、機械学習、人工知能(AI)などデータの利用にかかわるソフト面とについて、これら農業に革命をもたらす技術の基礎を学ぶ。

【到達目標】
農業や植物医科学におけるICTの利用例をもとに実務的な知識を身につける。また、その基盤をなす情報科学の基礎知識を得る。特に、関連する情報の検索とその活用、ゲノム情報の活用、画像解析技術の活用について具体的な例を学びながら最新の知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
情報科学の基礎と、画像解析技術の応用、農業や植物医科学における情報取得とその活用、遺伝子情報の植物医科学への応用などを順次学ぶ。授業の内容によって、コンピュータを持参し実際の作業を行う回も設定する。さらに、情報科学を活用することで、どのようなことが実現可能なのか、何がメリットで何が問題点なのか、今後農業や植物医科学にどのように活用できるのかを考える。また、データ解析の手法について簡単な演習を交えて解説する。区切りごとに課題を設定し提出させ、次の授業冒頭に解説を加えることでフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の進め方、授業概要の解説などガイダンス
第2回	現代社会と情報科学	現代社会・特に農業関係で使われている情報技術・情報通信技術の概説
第3回	情報技術の発達史	コンピュータの歴史やインターネットの普及など情報技術発達の歴史
第4回	農業とICT（1）：農業ICTに必要な情報の取得と利用	フィールドサーバー、ドローン、人工衛星などからデータを取得方法とその利用・生産環境制御
第5回	農業とICT（2）：農業ICTで実際に現場作業する技術	無人トラクター、ドローン、自動収穫機など
第6回	農業とICT（3）：そのほか農業/植物医科学関連ICT利用	経営・生産管理、流通管理（トレーサビリティー）など
第7回	農業とICT（4）：農業ICT/植物医科学で用いるデータベース	病名目録、農薬登録情報、その他オープンデータ紹介
第8回	植物医科学に用いられる遺伝子情報	ゲノム関連データベースの利用、AI育種など
第9回	植物医科学で有用なwebsite等の紹介と活用	今昔の関連website/商品等紹介、簡単な実際の検索/解析演習
第10回	データ解析の手法（1）	データ解析の基礎のこと、平均と標準偏差、共分散と相関、近似
第11回	データ解析の手法（2）	有意差検定、分散分析、多重比較
第12回	データ解析の手法（3）	画像変換、画像解析、用いるソフトウエア
第13回	データ解析の手法（4）	実際にデータ取得して解析を行う。
第14回	植物医科学に関連するネットワーク・総合討論	ICTと植物医科学の接点に位置する最新Topicsの解説と総合討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業中に紹介したデータベースやシステム等を、復習の際に実際に使用し、利用するとともに、他の授業や実習の予習、復習等の際に利活用することを心がける。

【テキスト（教科書）】
資料配布を基本とする。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験とレポート課題：80%、平常点20%で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容の理解を深めるために、実際にPCを利用した実習を活用する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて指示するので、PCを持参する。

【その他の重要事項】
民間企業に勤務した教員が、開発された新技術に関してビジネス的な観点も取り入れいち早く説明する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this class, students study the technologies for data acquisition (field server, multirotor, next-generation sequencer, etc) and data processing (including the utilization of AI).
【Learning Objectives】
To obtain the ICT skills that can be used in the research works of clinical plant science and the clinical applications for the agriculture.
【Learning activities outside of classroom】
Browse the websites introduced in the class, try to find appropriate website for further information, and analyze the data obtained from the database.
【Grading Criteria /Policy】
Final evaluation will be decided according to; term-end examination and reports (80%) and in-class contribution (20%).

PPE300YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 300）

植物臨床医科学

池田　健太郎

開講時期：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
植物病の実践的な診断および防除の事例、最先端の防除技術を学び、植物医師として問題解決に必要不可欠な知識と技術を修得する。

【到達目標】
農業生産の現場で発生する頻度の高い植物病の診断方法、およびその発生生態に関する知識を身につける。また適切な防除対策を策定し、生産者へ提案、実践する技術を修得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
生産現場で実際に発生した植物病の症例を写真で示し、診断のポイントを解説する。加えて、これまでの研究成果などから推察される発生生態を、図やイラストを用いて説明した後に、どのような防除対策が有効かを考察する。授業を復習する課題・レポートの提出は「学習支援システム」を通して行い、質問などの回答やフィードバックは授業内で共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	植物臨床医科学とは？	診断・防除対策の提案に必要な知識と技術
第2回	植物病の診断	圃場診断・植物体診断、問診や情報の活用
第3回	葉に発生する植物病（菌類）	うどんこ病、べと病などの診断、防除対策
第4回	葉に発生する植物病（菌類2）	トマト葉かび病やキュウリ褐斑病などの診断、防除対策
第5回	葉や茎などに発生する植物病（菌類）	子嚢殻、分生子殻を形成する植物病の診断、防除対策
第6回	葉に発生する植物病（細菌）	斑点性の細菌病、黒腐病の診断・防除対策
第7回	葉に発生する植物病（ウイルス）	葉に発生するウイルス病の診断・防除対策
第8回	導管閉塞を伴う植物病（菌類1）	Verticillium属菌による土壌病害の診断・防除対策
第9回	導管閉塞を伴う植物病（菌類2）	Fusarium属菌による土壌病害の診断・防除対策
第10回	導管閉塞を伴う植物病（細菌）	土壌伝染する病原細菌による植物病の診断・防除対策
第11回	菌核で伝染する植物病（菌類）	白絹病、菌核病などの診断・防除対策
第12回	根および地際部の植物病（菌類）	Rhizoctonia属菌などによる植物病の診断、防除対策
第13回	根および地際部の植物病（その他）	Pythium属菌やPhythophthora属菌による植物病の診断、防除対策
第14回	地上部に発生する植物病（生理障害・薬害）	気象要因や施肥に起因する生理障害、薬害の診断・対策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】各講義の重要なポイントをまとめること。関連の課題に関して自己学習を行う。

【テキスト（教科書）】
講義ごとに資料を学習支援システムにアップする。

【参考書】
米山伸吾・根本久・上田康郎・都築司幸著『図説野菜の病気と害虫　伝染環・生活環と防除法』（農山漁村文化協会）
Gail L. Schumann・Cleora J. D'Arcy『Hungry Planet: Stories of Plant Diseases』(APS PRESS)
難波成任監修『植物医科学』（養賢堂）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（50％）、課題・レポート（30％）、平常点（20％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
実際の農業生産現場で発生する植物病を授業の対象として、「植物臨床医科学」が単なる学問に終わらず、社会で役立つ知識や技術を習得できる授業となるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
主にパワーポイント画面で講義を進める。

【その他の重要事項】
国内外の農業生産現場で植物保護の研究・指導に携わった教員が、植物病の診断や防除対策の策定を行う上で、特に重要と考えられる知識・技術を講義する。

【Outline (in English)】
Students will learn practical cases of diagnosis and control of plant diseases, and study skills essential for problem-solving as plant doctors. The goal of this course is to acquire diagnostic methods and knowledge of the life cycle of plant diseases that frequently occur in agricultural production. In addition, the objectives are to gain the ability to choose and determine the best disease control measures based on the life cycle of plant diseases and to acquire the skills to propose and implement such measures to growers.
Grades will be based on the final exam (50%), assignments and reports (30%), and regular marks (20%).

BOA100YD（境界農学 / Boundary agriculture 100）

基礎植物害虫学

大井田　寛

開講時期：**秋学期授業/Fall**
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
農耕地に栽培される農作物や森林、都市空間などに植栽される樹木、草花に被害を引き起こす害虫の分類、生理、生態などについて学習し、植物医科学が目指す植物病の診断と防除に携わる者や、技術士、樹木医、自然再生士に必要とされる、害虫に関する基礎的な知識を習得する。

【到達目標】
植物病の診断と防除に携わる者や、技術士、樹木医、自然再生士としての活動する者に不可欠な、害虫に関する幅広い知識を身につける。診断の基礎となる害虫の形態や分類学的位置を理解できるほか、各種防除技術の根拠となっている害虫や天敵の生理・生態に関する基礎知識を習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
内容を理解しやすいよう、写真や図表を多く提示しながらスライドを用いて解説する。適宜関連資料を配布し、講義終了後も確認できるようにする。課題や質問等へのフィードバックは、主に次回の授業の冒頭に全員が確認・共有できる形で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび植物害虫の概説	科目の内容や進め方を紹介。また、植物害虫全般について概説
第2回	昆虫類の進化と繁栄	昆虫がどのように進化してきたか、今日の繁栄をもたらした原因
第3回	昆虫類の外部形態	分類の基礎となる昆虫の外部形態
第4回	昆虫類の内部形態	昆虫の生理等に関連する内部形態
第5回	昆虫類の分類	有害・有益動物（線虫、ハダニ等も含めた害虫の分類学的位置）
第6回	昆虫類の擬態、昆虫類の発育	昆虫の擬態、昆虫の発育（脱皮、変態）、呼吸、神経
第7回	昆虫類の生殖	昆虫の生殖様式、生殖戦略
第8回	昆虫類の食性	昆虫の植生の多様性、摂食、栄養
第9回	昆虫類の生理	昆虫の感覚、情報伝達物質（ホルモン、フェロモン）
第10回	昆虫類の生理	昆虫の環境適応、休眠
第11回	昆虫類の行動	昆虫の日周性、習性
第12回	昆虫類の個体群動態	昆虫の個体群密度の増殖、変動、密度効果
第13回	昆虫類の相互作用	生態系における昆虫群集、生物間相互作用（寄生、捕食、競争）
第14回	まとめ、試験	全体のまとめ、確認試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
特に予習は必要としないが、専門用語などについては、参考書、配布資料などを用いてしっかり復習する。課題に関しては図書館にある関連図書やwebサイトで調べ、授業中に学んだことを十分理解するように心がける。

【テキスト（教科書）】
最新の知識を伝えるため、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
石川幸男・野村昌史編　応用昆虫学（朝倉書店）
後藤哲雄・上遠野冨士夫編　農学基礎シリーズ　応用昆虫学の基礎（農山漁村文化協会）

【成績評価の方法と基準】
期末試験の成績で50％、レポートなどで40％、平常点10％で評価する。期末試験は、毎回の講義の理解度と、総合的な理解度を問う。

【学生の意見等からの気づき】
写真や図表を取り入れた授業スライドが概ね好評であるため、今年度も同様に実施する。

【その他の重要事項】
植物病の診断に携わる者は病気と害虫についての幅広い知識を習得しておくことが重要であるため、多くの学生が履修することを期待する。また、害虫防除について解説する応用植物害虫学を理解するために、履修することを推奨する。なお、自然再生士補の資格を得たい学生は、できるだけ履修されたい。

【Outline (in English)】
This course deals with classification, physiology and ecology of agricultural pests. It also enhances the development of students' skill in diagnosis of plant damages caused by pests as plant clinical scientists.
The goal of this course is to acquire knowledge about pests, which is essential for those who are involved in the diagnosis and control of plant diseases and those who work as engineers, arborists, and natural regeneration specialists. Through this class, students will understand the morphology and taxonomic position of pests, which are the basis for diagnosis, and acquire basic knowledge of the physiology and ecology of pests and natural enemies, which are the basis for various control techniques.
Students are not required to prepare for the class but are expected to review technical terms using reference books and handouts. For assignments, refer to the relevant books in the library and websites, and try to fully understand what you have learned in the class. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following,
Term-end examination: 50%, Short reports: 40%, in class contribution: 10%

BOA200YD（境界農学 / Boundary agriculture 200）

応用植物害虫学

大井田　寛

開講時期：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
植物医科学として必要なことは、的確な診断と防除である。防除には農薬や天敵など色々な手段が用いられるが、近年は、環境負荷の小さい方法として、複数の手段を合理的に組み合わせた総合的病害虫・雑草管理（IPM）、さらには生物多様性保全を含めた総合的生物多様性管理（IBM)の実践が多くの場面で求められる。本授業では、IPMやIBMを構築する各種の害虫防除法について体系的に学ぶ。

【到達目標】
植物医科学における基幹技術の一つである農林害虫および緑化植物害虫の防除に関する基本事項を習得する。各種防除法を的確に理解することにより、農業生産現場や緑化管理に関係する業務に携わる際に、実践的な指導を行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
DP2

【授業の進め方と方法】
内容を理解しやすいよう、写真や図表を多く取り入れながらスライドを用いて解説する。適宜関連資料を学習支援システム等で配布し、講義終了後も確認できるようにする。課題や質問等へのフィードバックは、主に次回の授業の冒頭に全員が確認・共有できる形で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、害虫とは	授業の主旨、進め方、害虫と益虫、植物保護と日本の環境
第2回	防除の歴史、被害と損害	害虫防除の歴史、被害と損害の関係
第3回	化学的防除1	薬剤の特性、作用機作など
第4回	化学的防除2	薬剤抵抗性、リサージェンス、残留毒性など
第5回	生物的防除1	生物的防除の原理と歴史、伝統的生物的防除
第6回	生物的防除2	放飼増強法（生物農薬的利用）
第7回	生物的防除3	保全的生物的防除（土着天敵の保護・強化）など
第8回	物理的防除1	遮断法、光などの手段による防除
第9回	物理的防除2	熱、音などの手段による防除
第10回	耕種的防除	被害回避、輪作、抵抗性品種の利用など
第11回	総合的病害虫・雑草管理（IPM)と総合的生物多様性管理（IBM)	IPM、IBMの概念と方法
第12回	グループ発表	IPMの実践について
第13回	発生予察	発生予察の方法と利用
第14回	まとめ、試験	授業の理解度をテストする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
本授業の準備・学習時間は、各4時間を標準とする。特に予習は必要としないが、専門用語などについては、参考書、配布資料などを用いてしっかり復習する。課題に関しては図書館にある関連図書やwebサイトで調べ、授業中に学んだことを十分理解するように心がける。

【テキスト（教科書)】
最新の知識を伝えるため、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
石川幸男・野村昌史編　応用昆虫学（朝倉書店）
後藤哲雄・上遠野冨士夫編　農学基礎シリーズ　応用昆虫学の基礎（農山漁村文化協会）
仲井まどか・日本典秀編　バイオロジカル・コントロール 第2版（朝倉書店）

【成績評価の方法と基準】
期末試験の成績で50％、レポートなどで40％、平常点10％で評価する。期末試験は、毎回の講義の理解度と、総合的な理解度を問う。

【学生の意見等からの気づき】
写真や図表を取り入れた授業スライドが概ね好評であるため、今年度も同様に実施する。

【Outline (in English)】
A accurate diagnosis and control of crop pests is important for plant clinic. There are various pest control methods such as using pesticides, using natural enemy and so on. Recently, IPM (Integrated Pest Management) and IBM (Integrated Biodiversity Management) are focused as pest control methods in agriculture of environmental conservation type. The aim of this course is to help students acquire knowledges about various pest control methods consisted for IPM or IBM systematically.
The objective of the class is to acquire basic information on the control of agricultural and forestry pests and greening plant pests, which is one of the core technologies in plant clinical science. Through this course, students are expect to gain understanding of various pest control methods and will be able to provide practical guidance when working in agricultural production and greening management.
Students are not required to prepare for the class but are expected to review technical terms using reference books and handouts. For assignments, refer to the relevant books in the library and websites, and try to fully understand what you have learned in the class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following,
Term-end examination: 50%, Short reports: 40%, in class contribution: 10%

MAC100YC（材料化学 / Materials chemistry 100）

無機化学概論

明石　孝也

開講時期：**秋学期授業/Fall**
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
原子構造，電子配置，二原子分子，イオン性結晶に関する基本的な内容を深くに理解することを到達目標とする。
物質を構成する基本単位である原子の構造を理解し，各原子が持つ性質が原子核を取りまく電子の振る舞いによることを理解すると共に，それらの原子の組み合わせから成る様々な無機化合物の構造および性質について学ぶ。また、多様な化学結合様式（イオン結合，共有結合など）が物質の性質と密接に関係していることを理解する。

【到達目標】
原子構造，電子配置，二原子分子，イオン性結晶に関して基本的なことを十分に理解することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
量子化学を基礎として、原子の構造や電子軌道についての理論的な講義を行う。すなわち、ボーアの原子モデルに基づく電子軌道から、シュレーディンガーの方程式から導かれる電子軌道に発展するまでの過程を，板書とスライドを用いて時系列的に説明する。また、共有結合に関しては、オクテット則に基づく理解から、分子軌道法による解釈へと発展させる。イオン結合に関しては、結晶性固体中におけるイオン結合の理論について講義する。さらに、二原子分子の結合に関しては、分子軌道の模式図とエネルギー準位図に基づいて、定性的な講義を行う。
な

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論、原子（1）	原子の構造、原子核の崩壊
第2回	原子（2）	水素の発光スペクトル
第3回	原子（3）	ボーアの原子モデル
第4回	電子（1）	シュレーディンガーの波動方程式，一次元の箱の中の粒子（1回目）
第5回	電子（2）	一次元の箱の中の粒子（2回目），複素数による波動の理解
第6回	原子軌道（1）	水素原子の中の電子，動径波動関数，球面調和関数
第7回	原子軌道（2）	電子の軌道（s軌道，p軌道、d軌道，f軌道）
第8回	原子軌道（3）	電子スピン，パウリの排他原理，構成原理，フントの規則
第9回	中間テスト	原子と電子と原子軌道に関する理解度を確認する。
第10回	イオン結合（1）	イオン化エネルギー，遮蔽，電子親和力，格子エネルギー
第11回	イオン結合（2）	ボルン- ハーバーサイクル、有効核電荷
第12回	電子配置	電子配置、構成原理
第13回	共有結合（1）	等核二原子分子
第14回	共有結合（2）	異核二原子分子

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
前回までの講義内容を復習し，理解を深めておくこと。特に，講義中で解けなかった演習問題は，ノート・テキスト・参考書を参照して解けるようにしておくこと。

【テキスト（教科書）】
基礎無機化学－構造と結合を理論から学ぶ，山田・秋津著，(株)化学同人，ISBN:9784759815306。

【参考書】
・無機化学－その現代的アプローチ－： 平尾一之，中平敦，田中勝久著，東京化学人。
・アトキンス物理化学第１０版（上）：千原秀昭・中村亘男訳，東京化学同人。
・ヒューイ無機化学（上）：小玉剛二・中沢浩訳。

【成績評価の方法と基準】
中間試験(35%)，期末試験(60%)，演習問題(5%)，授業への取組み姿勢により，総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
基本的に毎回行っている演習課題の解答例を、次々回の授業後にHoppiiにアップロードすることとする。球面調和関数の理解を深めるための実演を継続する（３年目）。

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓使用。

【その他の重要事項】
鉄鋼業界の企業にてプロセス開発研究を行っていた教員が、無機化学の基礎について講義する。

【Outline (in English)】
(Course outline) The objective of this class is to understand the structure of atom, atomic orbitals, orbital interaction for the formation of diatomic molecules, and crystal structure of ionic compounds.
(Learning Objectives) Students are expected to understand atomic structure, electron configuration, diatomic molecules, and ionic crystals.
(Learning activities outside of classroom) Student must understand the content of the previous class.
(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to quizzes in classes (5%),mid-term examination (35%), term-end examination (60%), and in-class contribution.

MAC200YC（材料化学 / Materials chemistry 200）

物理化学　I

緒方　啓典

開講時期：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
原子や分子が関与する物理的/化学的性質および諸現象を理解するために必須の学問である量子物理化学の基本事項について解説する。まず、量子力学の基本原理がどのような考え方に基づいているかを詳述し、波動方程式、波動関数の概念とその使い方を説明する。さらに量子力学を粒子の並進運動、分子の振動および回転運動に適用し、そのエネルギー状態について学ぶ。

【到達目標】
量子論の根幹をなす主要な概念を理解する。
量子力学を粒子の並進運動、分子の振動および回転運動に適用し、その状態を正しく理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
基本的にアトキンスの教科書（物理化学（上）第10版）の内容に沿って行う。授業開始前に必ず教科書を入手しておくこと。1ヵ月に1回程度理解度を確認するための小テストを実施する。実際の授業の進め方については、学習支援システムを通して適宜アナウンスする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	量子論:序論と原理1	古典物理学の復習から入り、古典物理学が破綻する実験事実について講義を行う。
第2回	量子論:序論と原理2	第１回に引き続き、古典物理学の破綻と量子論が生まれる過程について講義を行う。
第3回	量子論:序論と原理3	第2回に引き続き、量子論の必要性，古典論と量子論との定性的，定量的比較を行う。
第4回	量子論：原理1	波動および波動方程式についての復習、量子力学の基本方程式であるSchroedinger方程式の導出を行う。
第5回	量子論：原理2	波動関数の物理的意味、波動関数から具体的な物理量をいかにして導き出すことができるか等に関する講義を行う。
第6回	量子論：原理3	量子力学 の原理（固有値，固有関数，演算子，不確定性原理）などについて講義を行う。
第7回	量子論：手法と応用（1-1）	自由空間および有限の空間に粒子が閉じ込められた際の粒子の並進運動の量子力学的取り扱いについて、Schrodinger方程式を具体的に解くことにより学ぶ。
第8回	量子論：手法と応用（1-2）	粒子の量子力学的トンネル効果について、Schrodinger方程式を具体的に解くことにより学ぶ。
第9回	量子論：手法と応用（1-3）	2次元および3次元空間における粒子の並進運動の問題におけるSchrodinger方程式の解法および縮退について学ぶ。
第10回	量子論：手法と応用（2-1）	粒子の並進運動の問題におけるSchrodinger方程式の解法およびトンネル現象について学ぶ。
第11回	量子論：手法と応用（2-2）	粒振動運動についての古典力学の復習および量子力学による取扱いの基礎について学ぶ。
第12回	量子論：手法と応用（2-3）	粒子の振動運度をSchrodinger方程式に適応し、その解の波動関数、振動エネルギー、振動量子数の導出とその意味について学ぶ。
第13回	まとめおよび復習	これまでの授業での学習内容の復習および総括を行う。
第14回	まとめおよび質疑応答	これまでの授業内容に関する質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】教科書アトキンス「物理化学（上）第10版」の練習問題を用いて各自予習および復習を行うこと。講義に関連した補助プリントを授業支援システムを通じて事前に配布を行うので各自、プリントアウトして事前に目を通し、講義に臨むこと。毎回の講義の最後に講義内容に関連した課題を出すので、提出期限までに学習支援システムを通じて提出すること。

【テキスト（教科書）】
＜教 科 書＞P. W. Atkins著、(千原・中村　訳)「物理化学（上)」　第10版, 東京化学同人.

【参考書】
＜参 考 書＞　原田　義也著、「量子化学」　裳華房

【成績評価の方法と基準】
基本的概念を理解し，それに基づいて問題解決ができるかどうかを小テスト(40%)および期末試験(60%)の結果を元に総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
物理化学Iの内容は、単に授業を受動的な立場で受講しているだけでは理解することは困難です。授業外での予習・復習は必要不可欠です。

【学生が準備すべき機器他】
講義に関連した補助資料を学習支援システムを通じて事前に配布を行う。

【その他の重要事項】
＜具体的教育方法＞毎回の授業の理解度を確認するために課題を出し、理解度を確認しながら授業を進める。
＜継続的改善＞ 質問は随時電子メールで受け付ける。質問受付のメールドレスは第1回目の講義資料に記載します。
物理化学Iの授業内容をよく理解するためには，関連した演習科目「物理化学演習」を履修することを推奨します。

【Outline (in English)】
This course will provide the fundamentals of quantum physics, which is an essential learning to understand the physical and chemical properties and phenomena involving atoms and molecules. First, you will learn in detail what the basic principle of quantum mechanics and the Schrodinger equation, the concept of wave function and its physical meaning. Furthermore, you will learn the application of quantum mechanics to translational motion, molecular vibration and rotational motion and learn about their energy states.
· Attainment target
1)Understand the key concepts underlying quantum theory.
2)Applying quantum mechanics to the translational motion of particles, the
vibrational and rotational motions of molecules, and gaining a proper understanding of their states.
· Learning outside of class
Prepare and review on your own using exercises from the textbook Atkins "Physical Chemistry (Part 1) 10th Edition". Supplementary printouts related to the lecture will be distributed in advance through the class support system. At the end of each lecture, assignments related to the content of the lecture will be given, so please submit them through the learning support system by the submission deadline.
· Grading methods and standards
Comprehensively evaluate whether students can understand the basic concepts and solve problems based on them based on the results of assignments, quizzes, and final exams.

MAC200YC（材料化学 / Materials chemistry 200）

無機化学　I

藤井　孝太郎

開講時期：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物質を構成する多彩な元素の成り立ちや性質を学び，それらがどのように作用し合って様々な無機物質の構造や性質につながるかを学ぶ.

【到達目標】
原子の成り立ち，化学結合，周期表に沿った元素の特性を理解し，溶液化学，酸・塩基，酸化・還元の考え方を習得すると共に，配位化学の基礎的な内容を理解することを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
講義資料を使い教科書の内容に沿って講義を進める．重要な事柄に関して小テストやレポート課題を課す.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論・原子の構造１	無機化学分野と学習範囲の紹介，原子の成り立ち
第2回	原子の構造２	原子軌道，電子配置
第3回	周期律	周期表，原子の基本的性質
第4回	化学結合１	化学結合の種類，分子軌道
第5回	化学結合２	分子の構造，イオン結合と格子エネルギー
第6回	元素の性質と化合物１	原子の電子構造に基づく周期律表および元素特性の理解
第7回	元素の性質と化合物２	原子の電子構造に基づく周期律表および元素特性の理解
第8回	元素の性質と化合物３	原子の電子構造に基づく周期律表および元素特性の理解
第9回	溶液の化学	化学平衡，溶解度，理想溶液，非理想溶液，活量
第10回	酸と塩基	酸・塩基の定義，HSAB則
第11回	酸化・還元	標準電極電位，電池
第12回	配位化学１	配位結合，結晶場理論
第13回	配位化学２	配位子場理論，配位子置換反応
第14回	有機金属化合物	有機金属化合物の種類と機能

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は，4時間を標準とする】
事前に教科書の講義内容に該当する部分を予習し，講義後に復習することで学習内容の理解を深める.

【テキスト（教科書）】
「無機化学 -その現代的アプローチ-」平尾、田中、中平著、東京化学同人
講義資料を配付する

【参考書】
「演習で学ぶ無機化学」伊藤・石垣・佐々木・野田著、三共出版.
「アトキンス・無機化学　第６版(上)・(下)」田中他訳、東京化学同人.
「コットン・ウィルキンソン・ガウス基礎無機化学」中原訳、培風館.

【成績評価の方法と基準】
期末試験（70％），小問と適宜課するレポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし.

【Outline (in English)】
The aim of this course is to learn the characters of each element and how they interact with each other to form the structures of inorganic materials and give them specific properties.

MAC200YC（材料化学 / Materials chemistry 200）

無機化学　ＩＩ

藤井　孝太郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
無機化学Ｉで学んだ「元素の成り立ちと特性」,「原子や分子の相互作用（化学結合）」などの知識を基に，無機固体物質の成り立ちや特性について学ぶ．先進的な材料（特に環境，エネルギーに関連するもの）の具体的な例を示し，学習した内容を無機材料分野で活用する方法を学ぶ．

【到達目標】
無機固体物質の成り立ちや捉え方を理解し，様々な特性が現れる要因を理解する．無機材料化学に関する研究へと展開していくための基礎知識と感覚を習得する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
講義資料を使い教科書の内容に沿って講義を進める．重要な事柄に関して小テストやレポート課題を課す．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論・固体の成り立ち	固体化学分野と学習範囲の紹介，固体における化学結合
第2回	結晶構造	周期的構造，結晶構造の記述方法
第3回	イオン結晶	代表的なイオン結晶の紹介，格子エネルギーとマーデルング定数
第4回	結晶構造の不完全性	格子欠陥，固溶体，転位
第5回	固体物質の分類と一般的性質	結晶性固体と非晶質固体，格子振動と熱的性質
第6回	固体の電子構造と電気伝導１	自由電子，バンド構造
第7回	固体の電子構造と電気伝導２	半導体，イオン伝導体
第8回	誘電的性質と誘電体材料	電気双極子，分極，圧電体，焦電体，強誘電体
第9回	磁気的性質と超伝導	磁性の考え方と分類，磁性材料の紹介，超伝導現象，超伝導体の紹介
第10回	光学的性質と光機能材料	物質と光の相互作用，発光，光学材料
第11回	生体に関連した無機化学	金属タンパク質，金属酵素，光合成
第12回	生体を構成する無機物質	アパタイト系材料，バイオマテリアル
第13回	環境と無機化学	光触媒，太陽電池，環境関連材料
第14回	無機材料の実際	有機無機ハイブリッド材料，ポリ酸，ゼオライト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は，4時間を標準とする】
事前に教科書の講義内容に該当する部分を予習し，講義後に復習することで学習内容の理解を深める．

【テキスト（教科書）】
「無機化学 -その現代的アプローチ-」平尾、田中、中平著、東京化学同人
講義資料を配付する

【参考書】
「演習で学ぶ無機化学」伊藤・石垣・佐々木・野田著、三共出版.
「アトキンス・無機化学　第６版(上)・(下)」田中他訳、東京化学同人.

【成績評価の方法と基準】
期末試験（70％），小問と適宜課するレポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし.

【Outline (in English)】
The aim of this course is to learn about the structure and properties of solid inorganic materials, based on the knowledge learned in Inorganic Chemistry I. Through the examples of advanced materials (especially those related to the environment and energy), the direction to utilize learned contents in the field of inorganic materials will be shown.

MAC300YC（材料化学 / Materials chemistry 300）

触媒化学

藤井　孝太郎

開講時期：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
触媒は，化学反応を効率的に進めるために不可欠であり，物質生産や環境対策など幅広く利用されている．本講義では，触媒の特徴・機能，反応，調製法についての基礎知識を学ぶ．また，実社会で使われている触媒から環境対策などにも用いられる先進的な触媒の実例を紹介し，具体的な触媒の活用方法や研究・開発の方向性について学ぶ．

【到達目標】
触媒の必要性・成り立ち・捉え方を学び，様々な特性が現れる要因を理解する．触媒反応の基礎を習得する．先進的な触媒化学について知る．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
講義資料を使い教科書の内容に沿って講義を進める．重要な事柄に関して小テストやレポート課題を課す．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序論・触媒とはなにか	触媒化学分野と学習範囲の紹介，触媒の重要性
2	触媒の歴史と役割	触媒の化学と技術，その発展の歴史
3	固体触媒の表面	固体触媒の形態，表面の構造
4	固体触媒表面の電子状態	バンド構造，表面におけるバンド構造
5	固体触媒反応の素過程：吸着	固体表面での素過程，吸着とその速度論
6	固体触媒反応の素過程：脱離	脱離とその速度論，吸脱着平衡
7	固体触媒反応の速度論	固体触媒反応における反応速度論，定常近似，律速過程
8	触媒反応機構	素反応の組み立て，反応機構決定法
9	触媒反応機構の実例	アンモニア合成，一酸化炭素の水素化反応，炭化水素の反応
10	触媒反応場の構造と物性	触媒機能を支配する要因，活性点
11	触媒の構造とキャラクタリゼーション	表面積，細孔構造，工業触媒の構造
12	触媒の調製	触媒調製法
13	触媒反応特性の評価	触媒の活性試験，選択性，寿命，試験装置
14	環境・エネルギーと触媒	自動車触媒，排ガス浄化触媒，光触媒，燃料電池，水素製造

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は，4時間を標準とする】
事前に教科書の講義内容に該当する部分を予習し，講義後に復習することで学習内容の理解を深める．

【テキスト（教科書）】
「触媒化学」（応用化学シリーズ６）上松，中村，内藤，三浦，工藤 共著，朝倉書店（2004）

【参考書】
「新版 新しい触媒化学」菊地、射水、瀬川、多田、服部 共著、三共出版.
「触媒・光触媒の科学入門」山下、田中、三宅、西山、古南、窪田、玉置 共著、講談社.
「触媒化学」田中ら 共著、講談社.

【成績評価の方法と基準】
期末試験（70％），小問と適宜課するレポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし．

【Outline (in English)】
Catalysts are essential for efficient chemical reactions and are widely used for material production and environmental protection. In this lecture, students will learn basic knowledge of the characteristics and functions of catalysts, reactions and preparation methods. Examples of practical catalysts and research trends will be introduced, and students will learn how to utilize specific catalysts and the direction of research and development.

MAC300YC（材料化学 / Materials chemistry 300）

環境化学工学応用

山下　明泰

開講時期：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
化学工学の基礎理論は、輸送現象論、反応工学、化学熱力学に集約される。この講義では、輸送現象論のうち特に、流動と伝熱について取り上げ、基礎理論から実装置の設計・解析の手法までを学ぶ。

【到達目標】
管内の流れを運動量輸送の観点で捉え、流れに層流、遷移流、乱流の区別があること、速度分布があること、を知ることを通じて流れの特性について理解する。また、伝熱に関しては、伝導、対流、輻射の３つのメカニズムの数学的な取り扱いを理解し、最終的には熱交換器など、実装置の設計ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
解析に必要な系は、図としてスクリーンに表示することで、まず全体像を明らかにする。板書による講義が主体となるが、数式の導出過程は極力丁寧に示すことで対応する。内容の理解のために、問題演習が大きなウェイトを占める。
本講義は対面式での実施を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	化学工学と輸送現象論 輸送現象論の中の流動および伝熱	化学工学の基礎理論を概説し、その中で輸送現象論が果たす役割について述べる。
第2回	流動（１）：流れの分類、力と運動量	流動は運動量輸送、伝熱はエネルギー輸送として捉える。そのための基本法則について考える。
第3回	流動（２）：平板上の流れ	平板上の流れについて、速度分布を求め、最終的には体積流量を導出する。
第4回	流動（３）：円管内流動	円管内流動について、速度分布を求め、最終的には体積流量（ハーゲン・ポアズイユの法則）を導出する。
第5回	流動（４）：乱流、ベルヌーイの定理	。乱流を含む、やや複雑な流れ系について考える。ベルヌーイの定理を導出する。
第6回	流動（５）：ベルヌーイの定理（続き）	ベルヌーイの定理を用いる例題を解く。さらに、充填層の圧力計算について言及する。
第7回	流動（６）：運動量輸送方程式	運動量輸送方程式の一般形として、Navier-Stokesの方程式について概説する。
第8回	伝熱（１）：伝熱メカニズム	伝熱の３つのメカニズムについて、基本法則を復習する。
第9回	伝熱（２）：伝導伝熱	電流による発熱を伴う伝導伝熱について、温度分布を考える。
第10回	伝熱（３）：伝導伝熱の例題	伝導伝熱に関する複数の例題を学ぶ。
第11回	伝熱（４）：対流伝熱	対流伝熱のメカニズムおよび熱伝達係数の推算について学ぶ。
第12回	伝熱（５）：熱交換器	熱交換器の設計方程式を導出する。
第13回	伝熱（６）：輻射伝熱	輻射伝熱のメカニズムについて考える。対流と輻射の同時進行形について考える。 エネルギー方程式を用いて例題の別解を考える。
第14回	伝熱（７）：対流と輻射による伝熱	複合伝熱および複合伝熱係数について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
内容の理解には、レポート課題の遂行が必須である。したがって、履修者は全員、全課題について、解答の義務を負うものとする。
課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。

【テキスト（教科書）】
藤田重文著：化学工学演習、東京化学同人

【参考書】
Bird, Stewart, Lightfoot: Transport Phenomena 2-nd edition, Wiley
藤田重文著：化学工学Ⅰ　（第2版）、岩波全書(絶版)
相良　紘著：よくわかる　化学工学計算の基礎、日刊工業新聞社(絶版)

【成績評価の方法と基準】
レポート課題　　５０％
定期(期末)試験　５０％

【学生の意見等からの気づき】
科目の性格上、着目している系の数学的取り扱いは避けられないが、無味乾燥な数式の導出にならぬよう、現実に近い系で、得られた数式の有用性を確認できるように配慮する。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンによる着目系の表示と、板書またはパワーポイントによる。

【その他の重要事項】
演習問題を遂行するために、関数電卓の携帯は必須である。
本講義は日米の民間研究所で実務経験を持つ講師が、豊富な実例を交えて講義することで、基礎理論の応用例を身近に実感できるように配慮している。

【Outline (in English)】
1.Course outline
Basic principles in chemical engineering include transport phenomena, chemical reaction engineering, and chemical thermodynamics. This course teaches the fluid flow dynamics and heat transfer usually categorized in transport phenomena. Students will learn basic theories as well as designing and analyzing procedures of real industrial devices used in chemical plants and factories.
2.Learning Objectives
Students understand the behavior of the fluid from the viewpoint of momentum transport and understand also that there is a velocity distribution in the fluid for the first half period. About the energy transport in the second half, students must learn mathematical treatment of three mechanisms of heat transfer in order to design real chemical plat devices, including heat exchangers.
3.Learning activities outside of classroom
Students must solve all the homework problems outside the class and hand in their papers before the due.
4.Grading Criteria /Policy

A grading policy is the followings, i.e.,
Final exam 50%+ Homework 50%

MAC300YC（材料化学 / Materials chemistry 300）

環境化学工学演習

山下　明泰

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では化学工学の分離操作について、省エネルギーの観点を含めた議論を展開する。また、分離技術の精密化とスケールダウンの応用例として、医療における展開についても理解を深める。

【到達目標】
化学工学の分離技術の基本操作を理解し、これらの省エネルギー化について考える。また、分離技術の精密化を図り、これを生体系に応用する高精度な技術についても理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
分離技術およびそれらを統合した化学プロセス全体について、物質および熱収支の観点から最適化の検討方法について講義する。環境に配慮した化学プロセスをスケールダウンすることで、生体系における分離技術の利用についても考える。
本講義は、教室での対面式実施を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	単位操作	分離に関わる各種の単位操作を概観する。
第2回	攪拌槽（1）	攪拌槽と攪拌器の種類について分類する。
第3回	攪拌槽（2）	物質収支式とその解析解の導出法について解説する。
第4回	攪拌槽（3）	反応を伴う系、およびn槽連結された系について考える。
第5回	抽出	液液平衡線図の読み方、てこの原理の説明。
第6回	ミキサー・セトラー抽出装置	最も基礎的な連続装置の原理を説明する。
第7回	並流多段抽出の操作	並流連続装置を三角図上で説明する。
第8回	向流多段抽出の操作（1）	向流連続装置の操作を三角図の上で説明する。
第9回	向流多段抽出の操作（2）	向流装置の例題による計算を行う。
第10回	調湿	調温と調湿の基礎となる水冷操作について解説する。
第11回	篩分け分級・沈降分離	篩分けと分級の違いを定義する。ストークス径、アレン径、ニュートン径の使い分けについて学ぶ。シックナーと回分沈降過程について学ぶ。
第12回	膜分離（1）	分子拡散による分離（透析）と対流による分離（限外濾過）について解説する。
第13回	膜分離（2）	分離膜の製法、材質、物理的・化学的構造について解説する。
第14回	膜分離（3）	医療への展開について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
演習問題を課し、これをレポートとして提出する。

【テキスト（教科書）】
1．藤田重文著：化学工学演習　第二版（東京化学同人）

【参考書】
1．相良　紘著：化学工学計算の基礎、日刊工業新聞社（絶版）
2．マイヤーズ、サイダー著/大竹伝雄著、化学工学の基礎ー化学プロセスとその計算ー（培風館）
3．ヒンメルブラウ著/大竹伝雄訳、化学工学の基礎と計算（培風館）
4．川瀬義矩著、環境問題を解く化学工学（化学工業社）"

【成績評価の方法と基準】
期末試験を行うことを原則とし、その配分は
レポート（５０％）＋期末試験の結果（５０％）
とする。

【学生の意見等からの気づき】
一方的な講義にならないように、小さな演習問題を多数出題し、学生の理解度をチェツクしながら講義を進める。

【学生が準備すべき機器他】
板書だけでなく、パワーポイント（主として、図、表、問題文）を併用して講義を進める。

【その他の重要事項】
演習問題の解答のために、関数電卓の携帯は必須である。
本講義は日米の大学および民間研究所で実務経験を持つ講師が、豊富な実例を交えて講義することで、基礎理論の応用例を身近に実感できるように配慮している。"

【Outline (in English)】
1.Course outline
Various operations for separation in chemical engineering are chosen as teaching materials. Energy conservation technologies are also important parts of this course. Students will learn how to design medical equipment and devices as an example of precision or a scale-down of large chemical engineering processes.
2.Learning Objectives
Students learn basic operations of separation devices in chemical industry and discuss energy conservation technique. Students are able to apply basic separation technology to the bio-systems.
3.Learning activities outside of classroom
Students must solve all the homework problems given in class or through HOPPII system and hand in their papers before due.
4.Grading Criteria /Policy
Grading policy is the following, i.e.,
final exam: Final exam 50%+ Homework 50%

MAC300YC（材料化学 / Materials chemistry 300）

無機素材反応化学

明石　孝也

開講時期：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
無機素材を取り扱う技術者・研究者として必要な状態図と熱力学の基礎を学び、演習により理解を深める。

【到達目標】
状態図を駆使して無機素材のプロセッシングや評価を行える能力を身に付けることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
　擬一元系状態図から擬三元系状態図までの演習を段階的に行い，状態図に関する理解を深める。解説の後に演習を行い，学生の解答状況に合わせて適宜解説を加える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	相律	相の数え方，示強変数と示量変数の違い，Gibbsの相律，Gibbsの相律の使い方を，演習を通して学ぶ。
第2回	擬一元系状態図(1)：作図	ファンデルワールスの状態方程式を用いて，CO_2のp(圧力)-V(体積)図を作成し，擬一元系状態図の読み方を，演習を通して学ぶ。
第3回	擬一元系状態図(2)：図の理解	CO_2のp(圧力)-V(体積)図とCO_2のT(温度)-p(圧力)図の関係を，演習問題を解くことで理解を深める。
第4回	二元系状態図(1)：正則溶液	二元系の正則溶液の混合ギブズエネルギー曲線を作図し，モル分率と温度の状態図を作製する。
第5回	二元系状態図(2)：酸化還元	金属の酸化反応のギブズエネルギー変化の計算し，自発的な反応が進む方向を決定する。
第6回	二元系状態図(3)：エリンガム図	金属と酸化物共存状態における平衡酸素分圧を計算するとともに，エリンガム図の使い方を演習する。
第7回	中間試験（前半のまとめ）	前半の演習の理解度をチェックする。
第8回	二元系状態図(4)：てこの原理	モル分率vs.温度の状態図を読み，温度が変化した際の状態変化を理解する。また、状態図のてこの原理も理解する。
第9回	二元系状態図(5)：昇温および冷却過程における状態の変化	モル分率vs.温度の状態図を読み，温度が変化した際の状態変化を理解する。
第10回	二元系状態図(6)：昇温および冷却過程における状態の変化	モル分率vs.温度の状態図を読み，温度が変化した際の状態変化に関する理解を深める。
第11回	擬三元系状態図：昇温および冷却過程における状態の変化	三角図の読み方を演習を通して学び，酸化物の擬三元系状態図の液相面を解読する。
第12回	熱力学計算の実際(1)：レアメタルの分離・回収	蒸気種の平衡蒸気圧を計算して、気相を介したレアメタルの分離・回収を理解する。
第13回	熱力学計算の実際(2)：酸素濃淡電池 熱力学計算の実際(3)：固体微粒子の熱力学的安定性	水素－水蒸気混合雰囲気における平衡酸素分圧を計算し，酸素濃淡電池の起電力を計算する。 固体微粒子の界面エネルギーを計算し，熱力学的安定性を考察する。
第14回	熱力学計算の実際(4)：非酸化物材料の高温酸化	非酸化物/酸化物界面における蒸気種の平衡蒸気圧を計算して、高温酸化挙動を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
　毎回の授業中に出題する演習問題による評価が大部分を占める。したがって，前回までの講義内容を復習して理解を深めておくこと，講義の進捗状況に合わせて次回に出題される範囲を予習しておくことが重要である。

【テキスト（教科書）】
　特に使用しない。

【参考書】
・アトキンス 物理化学（上）第10版：中野元裕、上田貴洋、奥村光隆、北河康隆 訳、東京化学同人
・見方・考え方 合金状態図：三浦憲司・小野寺秀博・福富 洋志 著、オーム社
・プログラム学習 相平衡状態図の見方・使い方：山口明良 著、講談社サイエンティフィク

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業中に出題する演習問題(10%)，中間試験(40%)，期末試験(50%)，授業への取組み姿勢により，総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度を把握するために、対面授業と演習を基本的に毎回実施する。
演習課題の解答例は、次々回の授業後にHoppiiにアップロードすることとする。

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓。テスト以外ではノートパソコンを持ち込んでも良い。

【その他の重要事項】
鉄鋼業界の企業にてプロセス開発研究を行っていた教員が、その経験を活かして、材料開発のために必要となる状態図の読み方や熱力学の基礎について講義する。

【Outline (in English)】
(Course outline) The objective of this class is to learn thermodynamics and phase diagrams for engineer and researcher to fabricate and handle inorganic materials.　For deep understanding, many exercises will be used.
(Learning Objectives) Students are expected to understand thermodynamics and phase diagrams,
(Learning activities outside of classroom) Student must understand the content of the previous class.
(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to quizzes in classes (10%),mid-term examination (40%), term-end examination (50%), and in-class contribution.

ELC200XG（電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 200）

電子回路・デバイス

大久保　友幸

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在、様々な電子機器は電子回路を用いて設計されているが、ディジタル回路は、電子回路の基本的な構成要素である。本講義は、学生がディジタル回路の解析や設計の能力を身に付けるために、論理回路の基礎的事項を理解すること及び、その構成法および解析法を修得することを目的とし、演習を含めて実施する。

【到達目標】
論理式を基本ゲート回路で表すことができる。ブール代数などの論理代数により、論理式を簡単化できる。組合せ論理回路の設計手順を説明し、設計ができる。ラッチとフリップフロップを理解し、それらの動作を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業では、情報の表現法にはじまり、論理回路とこれに用いる論理素子、ブール代数について解説する。また、これらを基に、組合せ論理回路および順序論理回路の解析／設計手法を解説する。一連の単元を学ぶことで電子回路によるディジタル回路の動作原理を理解できる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、ディジタル回路基礎	アナログとディジタル
第2回	アナログととディジタル	A/D,D/A変換
第3回	情報の表現法	n進数
第4回	基本論理回路	論理値の表現、基本ゲート
第5回	ブール代数(1)	真理値表と論理式
第6回	ブール代数(2)	ド・モルガンの定理
第7回	論理関数	加法標準形、乗法標準形
第8回	組合せ論理回路(1)	エンコーダ、デコーダ
第9回	組合せ論理回路(2)	加算器
第10回	組合せ論理回路(3)	減算器
第11回	順序回路	ラッチ、レジスタ
第12回	同期回路	クロック入力付きラッチ
第13回	フリップフロップ	マスタースレーブ型フリップフロップ、エッジトリガ型フリップフロップ
第14回	試験・まとめと解説	講義内容理解の評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
毎回の授業の前に、テキストの該当する章を読んで準備すること。また、授業後は演習問題をふりかえり、理解を深めること

【テキスト（教科書）】
"基本からわかるディジタル回路講義ノート"、渡部 英二 監修、オーム社(2015年）【ISBN:978-4274217265】

【参考書】
指定しない

【成績評価の方法と基準】
平常点：40％
学修度確認試験：60％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
講義資料は学習支援システムを利用して配布

【その他の重要事項】
担当教員（大久保）は、通信機メーカーや電気部品メーカーにおいて、組込システムを用いた製品開発の実務経験がある。この経験を活かし、学生が電子回路・デバイスでの役割を理解し、興味を持って学べるようにする。

【Outline (in English)】
【course outline】
This course aims to help students develop the ability to analyze and design digital circuits by helping them understand the fundamentals of logic circuits, their structure, and their analysis methods.
【Objective】
By the end of the course, students are expected to master basic gate circuits, Boolean algebra, combinational logic circuits, and flip-flop design methods.
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text.
Your required study time is at least one hour for each class meeting.
【Grading Criteria/Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
In-class exam: 60%, Usual performance Score: 40%.

ELC200XG（電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 200）

創生科学基礎実験III

鈴木　郁、若林　哲

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

創生科学科で扱われる内容は幅広いが，物理学的な素養が求められるケースも多く，そこには多くの学生にとって馴染みが少ない，エレクトロニクスも含まれている．ここでは，創生科学基礎実験IやIIの延長線上で，とりわけエレクトロニクスに焦点をあてた実験を行い，それについて学ぶ．

【到達目標】

限られた回数の実験で，アナログ電子回路やディジタル電子回路全般を扱うことはできないが，それらの基礎を知り，電気回路について復習しつつ電子回路に少しでも慣れることを目標とする．あわせて，実験レポートのまとめ方などについても，さらにブラッシュアップできるはずであり，これも目標の一部である．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ほぼ毎回，実験を行う．実験は２人一組であっても，データ処理からレポートの作成に至るまで，個人毎である．ただし，他の学生とのデータの比較に基づく検討等を，行う可能性がある．ごく一部を除くレポートについて，個々にコメント等を記入して返却することで学生にフィードバックし，コメントに沿って修正した上での再提出を求めている．

万一，感染症蔓延対策などの理由でオンラインでの授業となった場合には，会議システムを介してTAによる実験の実演をリアルタイムで配信し，また同時に質問等もそこで受け付ける形となる．オンラインでの実施など授業の形態，そして各回の授業計画に変更があれば学習支援システムで提示する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	受動素子 ―線形な素子と非線形な素子，発光ダイオードのV-I――	実験全般のガイダンス，装置の使用方法についての復習など．また，赤色発光ダイオードのV-I特性を調べる．
第2回	受動素子 ―線形な素子と非線形な素子，その他ダイオードなどのV-I―	各種のダイオードや抵抗について，V-I特性を調べる．
第3回	能動素子 ―トランジスタの増幅作用（スイッチとしての利用，音声増幅）―	人体を流れる微弱な電流などを入力として，トランジスタの増幅作用を確認する．また，音声信号を入力とした場合の増幅率を調べる．
第4回	能動素子 ―トランジスタの増幅作用（エミッタ接地電流増幅率）―	エミッタを接地した場合における，トランジスタのベース電流とコレクタ電流の関係を調べ，トランジスタが電流増幅素子として機能することを学ぶ．
第5回	ゲインと位相（ゲインと位相の理解）	ヒトを含む系を対象とした実験（トラッキング作業）を行い，ゲインとは何か，位相とは何かを理解する．
第6回	ゲインと位相（RCフィルタなど）	RCフィルタを対象に，ゲイン特性や位相特性を調べ，それらに対する理解を深める．なお，本実験で扱うRCなどのフィルタは，基本的に受動的（パッシブ）フィルタである．
第7回	コイルとコンデンサ	RCフィルタと対照的なLRフィルタを対象に，ゲイン特性や位相特性を調べる．また，L（コイル）とC（コンデンサ）から成る共振回路の特性を調べ，コイルとコンデンサの関係について理解する．
第8回	演算増幅器 ―非反転増幅回路とバッファ―	演算増幅器（オペアンプ）の応用回路例のうち，非反転増幅回路やバッファの特性を調べ，演算増幅器の基本について理解する．
第9回	演算増幅器 ―反転増幅回路―	演算増幅器（オペアンプ）の応用回路例のうち，反転増幅回路の特性を調べる．
第10回	演算増幅器 ―加算回路―	前回の続きとして，加算回路の特性を調べ，反転増幅回路の本質を理解する．
第11回	補充実験１回目	ここまでの実験時間中にこなしきれなかった部分について，補充実験を行う．この，“補充実験”が，何回目となるのかについては，前後する可能性がある．
第12回	微分回路と積分回路	反転増幅回路の応用である微分回路と積分回路について特性を調べ，電気・電子回路における微積分の概念を理解する．
第13回	補充実験２回目	ここまでの実験時間中にこなしきれなかった部分について，補充実験を行う．
第14回	レポート返却と指導	完成度の低いレポートを返却し，書き方や内容についての指導を行う．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、2時間を標準とする】
レポートの仕上げ，修正等，授業時間外に行う必要がある．また，事前に実験の概要について予習をしておくと，実験を円滑に進めることができると同時に，実験で得られるものが多くなる．事前に資料は配布するので，予習を強く勧める．

【テキスト（教科書）】

適宜，プリント等（資料）を配布する．

【参考書】

秋田純一：ゼロから学ぶ電子回路，講談社．（回路素子等が紹介されている．）

岡村定 矩ほか：理系ジェネラリストへの手引き，日本評論社．（レポートの書き方等が紹介されている．）

他には特に指定しないが，適切なものがあれば適宜紹介する．

【成績評価の方法と基準】

平常点（実験などに取り組む姿勢を含む），各題目ごとのレポートなどに基づき，総合的に評価する．実験科目ゆえ，全てに遅刻せずに出席して実験を行い，仮に（万一）オンラインの授業形態となった場合には会議形式での配信全てに遅刻せずに参加し，全てのレポートを遅れずに提出することが前提である．レポートは，多くのレポートについて，コメントを付す等して一旦返却するが，返却されたレポートは加筆修正の上，期限内に必ず再度提出すること．きちんと加筆修正されているか否かも，評価の対象である．レポート提出の方法は，紙媒体での提出を基本とするが，電子媒体での提出，あるいはそれら両方を求める可能性がある．紙媒体での提出に加えて電子媒体での提出も求めた場合，電子媒体での提出物も評価の一部に使用する．（すなわち紙媒体をすべて提出していても，電子媒体で提出していないものがあれば，評価上，好ましくない．） 全体を１００％としたときの評価のおよその内訳は，レポートが９５％，平常点が５％である．ただし，行っていない実験課題がある，提出していないレポートがある，あるいはオンラインでの会議形式の授業となった場合に参加していない回があるなどの場合には，評価対象外となることに注意．

【学生の意見等からの気づき】

実験科目なので，負荷は軽くないかも知れない．しかし，きちんとやり遂げて，大きな果実を得てほしい．また，内容面で難しい部分があるかもしれないが，実験中やその後に質問等することで，理解をすすめてほしい．TAさんによる手ほどきが丁寧でよかったとの声もあることから，TAさんから有効なヒントを引き出してほしい．

過去，関連科目の履修の有無が理解度に影響するとの声があった．この声に応える意味も込めて設けられたのが，「電気電子回路の基礎」という講義科目である．（大学入学以前から物理関連の科目を履修してきた学生でさえ，電気の単元が不得手であることも多いため，この科目が設けられた．）

【学生が準備すべき機器他】

大学貸与のノートパソコンを，毎回必ず各自で持参すること．また，授業支援システムで掲示等を行うので，メール受信（転送）を設定する等して，見落とさないようにすること．

【その他の重要事項】

事実上の前提科目（上述）を履修しておくことを，強く推奨．

履修人数などにより，実験題目の数や内容，そして順序が上記と一部異なったものとなる可能性がある．よっていずれの回についても，実験を行う可能性のあるものとして，出席すること．台風接近に伴う交通機関の混乱といった場合にも，（公式なものではない情報に基づく）休講の自己判断をしないこと．

実験時には，筆記用具の他に直定規も持参すること．

レポート作成時に，参考あるいは引用した文献等については，出典を必ず明記すること．この点ほかグラフの書き方など，配付資料を十分に読むこと．

この科目は，「実務経験のある教員による授業」に該当している．当該教員は，業として回路設計を行った経験がある．その経験に基づき，「読みやすい回路図」を示すなどしている．

全て対面での実施を予定している．

【Outline (in English)】

Course outline:
Perform experiments related to electronics, and write reports.
Learning Objectives:
The primary object of this class is to get familiar with electrical and electronic circuits via experiments. And its secondary object is to brush up on skills to write scientific reports. Students will be expected to do their own research to resolve their unclear points.
Learning activities outside of classroom:
At least 4 hours are required in preparation and report writing.
Grading Criteria /Policy:
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Reports 95%, Usual performance: 5%. (Students must perform all titles of the experiments to write significant reports.)

ELC200XG（電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 200）

創生科学基礎実験III

鈴木　郁、若林　哲

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

創生科学科で扱われる内容は幅広いが，物理学的な素養が求められるケースも多く，そこには多くの学生にとって馴染みが少ない，エレクトロニクスも含まれている．ここでは，創生科学基礎実験IやIIの延長線上で，とりわけエレクトロニクスに焦点をあてた実験を行い，それについて学ぶ．

【到達目標】

限られた回数の実験で，アナログ電子回路やディジタル電子回路全般を扱うことはできないが，それらの基礎を知り，電気回路について復習しつつ電子回路に少しでも慣れることを目標とする．あわせて，実験レポートのまとめ方などについても，さらにブラッシュアップできるはずであり，これも目標の一部である．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ほぼ毎回，実験を行う．実験は２人一組であっても，データ処理からレポートの作成に至るまで，個人毎である．ただし，他の学生とのデータの比較に基づく検討等を，行う可能性がある．ごく一部を除くレポートについて，個々にコメント等を記入して返却することで学生にフィードバックし，コメントに沿って修正した上での再提出を求めている．

万一，感染症蔓延対策などの理由でオンラインでの授業となった場合には，会議システムを介してTAによる実験の実演をリアルタイムで配信し，また同時に質問等もそこで受け付ける形となる．オンラインでの実施など授業の形態，そして各回の授業計画に変更があれば学習支援システムで提示する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	受動素子 ―線形な素子と非線形な素子，発光ダイオードのV-I――	実験全般のガイダンス，装置の使用方法についての復習など．また，赤色発光ダイオードのV-I特性を調べる．
第2回	受動素子 ―線形な素子と非線形な素子，その他ダイオードなどのV-I―	各種のダイオードや抵抗について，V-I特性を調べる．
第3回	能動素子 ―トランジスタの増幅作用（スイッチとしての利用，音声増幅）―	人体を流れる微弱な電流などを入力として，トランジスタの増幅作用を確認する．また，音声信号を入力とした場合の増幅率を調べる．
第4回	能動素子 ―トランジスタの増幅作用（エミッタ接地電流増幅率）―	エミッタを接地した場合における，トランジスタのベース電流とコレクタ電流の関係を調べ，トランジスタが電流増幅素子として機能することを学ぶ．
第5回	ゲインと位相（ゲインと位相の理解）	ヒトを含む系を対象とした実験（トラッキング作業）を行い，ゲインとは何か，位相とは何かを理解する．
第6回	ゲインと位相（RCフィルタなど）	RCフィルタを対象に，ゲイン特性や位相特性を調べ，それらに対する理解を深める．なお，本実験で扱うRCなどのフィルタは，基本的に受動的（パッシブ）フィルタである．
第7回	コイルとコンデンサ	RCフィルタと対照的なLRフィルタを対象に，ゲイン特性や位相特性を調べる．また，L（コイル）とC（コンデンサ）から成る共振回路の特性を調べ，コイルとコンデンサの関係について理解する．
第8回	演算増幅器 ―非反転増幅回路とバッファ―	演算増幅器（オペアンプ）の応用回路例のうち，非反転増幅回路やバッファの特性を調べ，演算増幅器の基本について理解する．
第9回	演算増幅器 ―反転増幅回路―	演算増幅器（オペアンプ）の応用回路例のうち，反転増幅回路の特性を調べる．
第10回	演算増幅器 ―加算回路―	前回の続きとして，加算回路の特性を調べ，反転増幅回路の本質を理解する．
第11回	補充実験１回目	ここまでの実験時間中にこなしきれなかった部分について，補充実験を行う．この，“補充実験”が，何回目となるのかについては，前後する可能性がある．
第12回	微分回路と積分回路	反転増幅回路の応用である微分回路と積分回路について特性を調べ，電気・電子回路における微積分の概念を理解する．
第13回	補充実験２回目	ここまでの実験時間中にこなしきれなかった部分について，補充実験を行う．
第14回	レポート返却と指導	完成度の低いレポートを返却し，書き方や内容についての指導を行う．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、2時間を標準とする】
レポートの仕上げ，修正等，授業時間外に行う必要がある．また，事前に実験の概要について予習をしておくと，実験を円滑に進めることができると同時に，実験で得られるものが多くなる．事前に資料は配布するので，予習を強く勧める．

【テキスト（教科書）】

適宜，プリント等（資料）を配布する．

【参考書】

秋田純一：ゼロから学ぶ電子回路，講談社．（回路素子等が紹介されている．）

岡村定 矩ほか：理系ジェネラリストへの手引き，日本評論社．（レポートの書き方等が紹介されている．）

他には特に指定しないが，適切なものがあれば適宜紹介する．

【成績評価の方法と基準】

平常点（実験などに取り組む姿勢を含む），各題目ごとのレポートなどに基づき，総合的に評価する．実験科目ゆえ，全てに遅刻せずに出席して実験を行い，仮に（万一）オンラインの授業形態となった場合には会議形式での配信全てに遅刻せずに参加し，全てのレポートを遅れずに提出することが前提である．レポートは，多くのレポートについて，コメントを付す等して一旦返却するが，返却されたレポートは加筆修正の上，期限内に必ず再度提出すること．きちんと加筆修正されているか否かも，評価の対象である．レポート提出の方法は，紙媒体での提出を基本とするが，電子媒体での提出，あるいはそれら両方を求める可能性がある．紙媒体での提出に加えて電子媒体での提出も求めた場合，電子媒体での提出物も評価の一部に使用する．（すなわち紙媒体をすべて提出していても，電子媒体で提出していないものがあれば，評価上，好ましくない．） 全体を１００％としたときの評価のおよその内訳は，レポートが９５％，平常点が５％である．ただし，行っていない実験課題がある，提出していないレポートがある，あるいはオンラインでの会議形式の授業となった場合に参加していない回があるなどの場合には，評価対象外となることに注意．

【学生の意見等からの気づき】

実験科目なので，負荷は軽くないかも知れない．しかし，きちんとやり遂げて，大きな果実を得てほしい．また，内容面で難しい部分があるかもしれないが，実験中やその後に質問等することで，理解をすすめてほしい．TAさんによる手ほどきが丁寧でよかったとの声もあることから，TAさんから有効なヒントを引き出してほしい．

過去，関連科目の履修の有無が理解度に影響するとの声があった．この声に応える意味も込めて設けられたのが，「電気電子回路の基礎」という講義科目である．（大学入学以前から物理関連の科目を履修してきた学生でさえ，電気の単元が不得手であることも多いため，この科目が設けられた．）

【学生が準備すべき機器他】

大学貸与のノートパソコンを，毎回必ず各自で持参すること．また，授業支援システムで掲示等を行うので，メール受信（転送）を設定する等して，見落とさないようにすること．

【その他の重要事項】

事実上の前提科目（上述）を履修しておくことを，強く推奨．

履修人数などにより，実験題目の数や内容，そして順序が上記と一部異なったものとなる可能性がある．よっていずれの回についても，実験を行う可能性のあるものとして，出席すること．台風接近に伴う交通機関の混乱といった場合にも，（公式なものではない情報に基づく）休講の自己判断をしないこと．

実験時には，筆記用具の他に直定規も持参すること．

レポート作成時に，参考あるいは引用した文献等については，出典を必ず明記すること．この点ほかグラフの書き方など，配付資料を十分に読むこと．

この科目は，「実務経験のある教員による授業」に該当している．当該教員は，業として回路設計を行った経験がある．その経験に基づき，「読みやすい回路図」を示すなどしている．

全て対面での実施を予定している．

【Outline (in English)】

Course outline:
Perform experiments related to electronics, and write reports.
Learning Objectives:
The primary object of this class is to get familiar with electrical and electronic circuits via experiments. And its secondary object is to brush up on skills to write scientific reports. Students will be expected to do their own research to resolve their unclear points.
Learning activities outside of classroom:
At least 4 hours are required in preparation and report writing.
Grading Criteria /Policy:
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Reports 95%, Usual performance: 5%. (Students must perform all titles of the experiments to write significant reports.)

COS300XG（計算科学 / Computational science 300）

数値計算

田村　祐介

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代は、コンピュータを使って数値データを処理し、実験式や理論式を基に様々な指標やデータのトレンドを得ている。まず、コンピュータの内部表現に関わる数値誤差を理解する。指標を求めるのに標準的な手法（主に最小二乗法）を学び、適用範囲と指標の誤差を評価する方法を理解する。また、理想的な誤差のモデルとして正規分布の生成法を実験する。さらに、数値積分のプログラムを作成後、フーリエ変換に応用し、例えば時系列データでは不明瞭であった特徴を捉える手法を学ぶ。

【到達目標】
数値データの処理法と適用限界を知り、演習を通して身につけ、効果的な表現方法を学ぶことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
プログラムの作成には、特に言語は問わないが、説明の都合上、MSYS2に含まれるGFortranを使用する。レポートのための図・表の作成には、MicroSoftのExcel、Wordを想定している。これらの使い方も習熟することを目的とする。
提出されたレポート結果を見て，適宜解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プログラム作成環境	プログラム作成環境の確認。 MSYS2のインストール作業。 プログラム作成の練習
第2回	コンピュータの内部表現	丸め誤差、情報落ち、桁落ちが起こる理由を確認。変数の型（整数、単精度、倍精度等）の違い
第3回	数値データの指標	平均値、分散などの指標の計算方法とそれらの意味
第4回	最小二乗法（１）方法論	式が線形の場合、２つのパラメータ、分散、共分散、相関係数
第5回	最小二乗法（２）プログラムの作成	プログラムの作成、動作確認。 線形データの指標と信頼性の評価方法を追加
第6回	最小二乗法（３）	非線形式を線形化できる場合の変更を追加 レポート作成の準備
第7回	正規分布（１）	一様乱数から正規分布を生成する方法
第8回	正規分布（２）	正規分布曲線の積分 １σ、２σの計算 レポート作成の準備
第9回	数値積分（１）	既知関数の等間隔点における積分を評価
第10回	数値積分（２）	非等間隔点の場合
第11回	フーリエ級数展開	方法の原理 テーラー展開との関係 展開基底の線形性
第12回	フーリエ変換（１）	sin変換とcos変換、パワースペクトル
第13回	フーリエ変換（２）	高速フーリエ変換
第14回	まとめ	提出レポートの再検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
数値処理を行うためのプログラムを作るので、作成、デバッグはできるように練習しておくこと。支給PCにはFortranがインストールしてあるはずだが、プログラミング言語については特に限定しない。また、レポートを作成するためのツール類、例えば、表・グラフを作成するExcel、文章作成のWordなどの使い方に習熟しておくこと。

【テキスト（教科書）】
使用せず。

【参考書】
(1)川上一郎著、“数値計算（理工系の数学入門コース [新装版]）”、岩波書店

【成績評価の方法と基準】
図・表のルールに従って数値データを正しく表現、強調できているか、レポートがIMRAD形式に則って書けているか、結論に至る議論が的を射ているか等を鑑みて、レポートの評価とする。。
授業出席を前提とし、評価基準は、レポートを100%とする。

【学生の意見等からの気づき】
内容を精選する。

【学生が準備すべき機器他】
支給PC等のプログラミングができる環境、

【その他の重要事項】
実務経験のある教員による授業です。

【Outline (in English)】
(Outline and Objective)
Computers are used to process numerical data, and various indices and data trends are obtained based on empirical/theoretical formulas. First, you understand the numerical errors involved in the internal representation of computers. By learning standard methods for finding the trends (e.g. least-squares methods) and you understand how to address its limit and errors. In addition, you will experiment with a normal distribution generation method as an ideal error model. Furthermore, after making a numerical integration program, you will apply it to the Fourier transform to learn how to capture the features in time-series data, for example.
Programming language is not particularly limited, but Fortran will be used for convenience (should be ready on the supplied PC, or install MSYS2). MicroSoft's Excel and Word are assumed for creating graphs and tables for reports. Another purpose is to master how to utilize them.
（Learning activities outside of classroom）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）
Grading will be decided based on reports.

COS300XG（計算科学 / Computational science 300）

シミュレーション技法

田村　祐介

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
シミュレーションは、観測により得られた数理モデルを基に、実物を使わずに対象の状態を計算したり予測するのに利用されており、理論、実験と並び模擬実験と呼ばれている。
本授業では、ミクロの世界に注目し、分子軌道法シミュレーション・パッケージのGaussianとそのGUIのGaussViewを用いて分子軌道を可視化したり振動状態を計算することで化学結合論や分光学の理解を深めることを目的とする。

【到達目標】
分子軌道計算を行い、結果を整理、検討することで計算の理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
分子シミュレーションの計算を行い、結果を可視化する。条件の異なる計算を比較して何が結論できるか議論し、レポートにまとめる。提出されたレポート結果を見て，適宜解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	計算環境の確認	計算を実施するための環境やGUIの操作法の確認 簡単な計算を行い結果の確認 元素周期表の見方
第2回	入力データの作成方法	入力データ条件、電荷、スピン多重度の計算できる組み合わせを確認 軌道関数を可視化し、s軌道、p軌道などの形状 波動関数の位相について
第3回	水素類似原子の計算（1）	第一周期、第二周期の元素について計算。 原子番号の違いが軌道エネルギーに与える変化を見て、ボーア理論との整合性を確認
第4回	水素類似原子の計算（2）	残存の計算を進め、レポート作成
第5回	化学結合の成り立ち	少数の原子で小さな分子をGUIにより作成 電荷、スピン多重度の組み合わせを確認 σ結合、π結合の成り立ち
第6回	小さな分子の計算（1）	電荷の偏りと官能基 分子の表記方法とIUPAC命名法
第7回	小さな分子の計算（2）	制限と非制限Hartree-Fock法による結合エネルギーの評価 基底状態と励起状態
第8回	振動計算（1）	半経験的分子軌道法や分子力学法 入力のセットアップ 簡単な計算を実施
第9回	振動計算（2）	振動モードの可視化 IR分光とRaman分光のスペクトルの比較
第10回	化学反応（1）	反応エネルギーの見積もり方法 入力データの作り方 反応式の表記
第11回	化学反応（2）	遷移状態を確認する方法 Diels-Alder反応など
第12回	Scan法	内部座標を徐々に変化させ、全エネルギーの変化の理由を検討する
第13回	レポート作成のデータを計算する	Scan法の結果を利用して結合の強さの違いを比較する方法を検討する
第14回	まとめ	残存の計算を進める レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
レポート提出。

【テキスト（教科書）】
使用せず。

【参考書】
(1)　J. B. Foresman and AE Frish著、“Exploring Chemistry with Electronic Structure Mathods”Third Ed.、Gausssian, Inc 日本語翻訳版、川内 進 訳、“電子構造論による化学の探求” 第３版、ガウシアン社

【成績評価の方法と基準】
レポート課題（100%）
ただし、授業出席を前提とする。

【学生の意見等からの気づき】
内容を精選する。

【学生が準備すべき機器他】
使用するソフトウェアは、PC教室の環境を利用する予定なので学生が用意する必要はありませんが、レポートの作成には各自のPCを使うこと。

【その他の重要事項】
実務経験のある教員による授業です。

【Outline (in English)】
（Course outline）
By utilizing a quantum chemical package we 'do' simulations for several molecules.
（Learning Objectives）
Now a days 'Simulation' is a common word for the method to calculate and predict the state of an real object based on a mathematical model obtained by observation without using the real materials.
The purpose of this class is as follows, we will focus on the microscopic world and deepen our understanding of the chemical bond theory and the spectroscopy by visualizing molecular orbitals and calculating vibrational states using the Molecular Orbital simulation package Gaussian and its GUI GaussView.
（Learning activities outside of classroom）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）
Grading will be decided based on reports.

COT300XG（計算基盤 / Computing technologies 300）

メディアインタラクション

鈴木　郁

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

計算機上に表現された知識・知能とユーザとのインタラクションについて学ぶ．具体的には，インタフェースに用いられる技術や，人間－計算機インタラクションの基本となる原理や原則を学ぶとともに，それが人間にどのように認知され，どのように人間が反応するのかについて学ぶ．

【到達目標】

ハードウェアとソフトウェア，そしてそれらを作る人と使う人．このような構図ではなく，常にユーザーの側に立ったインターフェースを作れるようになるための基礎を，修得できるであろう．講義中では認知などにも触れることから，それについて学ぶ機会にもなるであろう．これらを学び習得することが，目標である．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の到達目標及びテーマに沿って，授業計画に示したようにすすめる．講義形式ではあるが，質問には積極的に答えてほしい．（講義中では数多くの写真等を呈示し，それをもとに思考することを促すべく質問をしており，それはある種のアクティブラーニングとなっている．） なお，進捗状況に応じて多少内容が変わる可能性がある．

各回の授業計画に変更があれば，学習支援システムで提示する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人間－機械系としてのコンピューター	多くのコンピューターは，人間－機械系の一種として用いられており，インターフェースを介して人間とインタラクションしている，ということについて．
第2回	人間－機械系におけるインターフェース —基礎—	コンピューターに備えられた人間との間のインターフェースについて述べる前に，一般的な人間－機械系におけるインタフェースの基礎について．
第3回	人間－機械系におけるインタフェース —応用—	一般的な人間－機械系におけるインタフェースの，応用的な例について．
第4回	正しい操作を導くもの	コンピューター関連であるか否かを問わず，正しい操作は何によって導かれるのかについて．
第5回	ステレオタイプ，類似と比喩	ステレオタイプ，類似や比喩の活用について．
第6回	人間－コンピューターインタフェースとメディア— 視覚的に呈示する媒体を中心に—	人間とコンピューターの間のインターフェースにおいて情報呈示に用いられる，映像・音声などのメディアのうち，主に視覚を介するものについて．
第7回	人間－コンピューターインタフェースとメディア —聴覚的に呈示する媒体などを中心に—	人間とコンピューターの間のインターフェースにおいて情報呈示に用いられる，映像・音声などのメディアのうち，聴覚など（視覚以外）を介するものについて．
第8回	人間との間の入出力機器 —分類と用途—	人間とコンピューターの間のインターフェースにおいて用いられる，映像・音声などの入出力機器の分類と，望ましい用途について．
第9回	人間との間の入出力機器 —構造概要—	人間とコンピューターの間のインターフェースにおいて用いられる，映像・音声などの入出力機器の構造概要について．
第10回	人間との間の入出力機器 —音声入出力などを用いた例—	近年増してきた音声入出力についての，実装例など．
第11回	人間の特性 —誤操作への配慮—	誤操作を生まないための配慮，誤操作が生じた場合への配慮について．
第12回	人間の特性 —肉体的・精神的負担への配慮—	人間に過剰な負担を生じさせないための，配慮について．
第13回	操作の手続き —手続きをどう表現し整理するか—	手続きをどう表現し，それを整理してユーザに理解可能とするのかについて．
第14回	自動化と役割分担	どこまでを自動化するのか，人間とコンピューターとの望ましい役割分担について．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

講義中に適宜，次回講義までに自ら調べるように指示することがある．講義の理解を深めるべく，予習あるいは復習のつもりで行ってほしい．

【テキスト（教科書）】

特に指定しない．

【参考書】

講義の中で必要に応じて紹介する．

【成績評価の方法と基準】

主に定期試験の得点によるが，平常点も加える．全体を１００％とした時のおよその内訳は，試験得点が９５％，平常点が５％である．但し上記の平常点の他に，授業中の質疑応答により加点することがある．なお，重要な内容を扱う可能性があるので，履修予定者は初回から出席すること．

補足．万一，感染症蔓延対策などでオンラインでの授業の比重が大きくなった場合には，成績評価の方法と基準も変更する可能性がある．変更となった場合の具体的な方法と基準は，学習支援システムで提示する．

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートにおいては，「理解しやすかった」等の声があったが，予習や復習に費やした時間は短い傾向が見られた．また，講義への積極的参加を促すための問いかけについての，提案もあった．これらを参考にすると同時に，今後も有効なフィードバックについては，適宜反映していきたい．

【その他の重要事項】

この科目は，「実務経験のある教員による授業」に該当している．講義担当者はソフトウェア開発の職に就いていたことがあり，ユーザーインターフェースに該当する部分にも携わっていた．「間違いのない操作を促すインターフェース」など，ソフトウェア開発の経験を活かした講義を行う．

全て対面での実施を予定している．

【Outline (in English)】

Course Outline:

The main content of this class is related to interactions between computers and human. It includes interface technique used for the interactions, basic principles to design the interactions, etc.
Learning objectives:
Students are expected to obtain knowledge to design human-computer interactions.
Learning activities outside of classroom:
Students will be expected to do their own investigation according to instructions given in the class meeting.Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policy:
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 95%, Usual performance: 5%.
Besides the above, some additional points may be added according to in-class contributions.

PHY100XG（物理学 / Physics 100）

科学哲学

大牟田　透

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
科学技術は私たちの世界観を変え、私たちの世界観は科学技術に影響を与えます。本授業では科学ジャーナリストが講師となり、この相互作用を考察します。主なテーマは、科学技術と社会との関係、現代思想としてのエコロジー、持続可能性など。受講生が科学技術に対して、人文・社会科学の視点からも問題意識をもち、理系文系の枠組みを超えた思考の習慣を身につけることを最大の目的とします。

【到達目標】
講師は、具体的な科学技術関連の話題を手がかりに、科学技術の現代史や同時代史と、そこに見てとれる宇宙観、人間観、生命観の変遷を語っていきます。これは、科学技術を人間や社会に結びつけ、さらに自らの人生に即して考えるきっかけとなることをめざすものです。受講生は、事前課題に取り組み、それを踏まえた講義やグループ討論などに主体的に参加することを通じて、こうした思考の基礎を身に付けられます。科学技術を断片的なものではなく、人類の一つの大きな営みとして考えることができるようになり、生涯を通して科学技術とどう向き合い、どう仕事や生活に生かすかを学べます。毎回の課題・リアクションペーパー、グループ討論等によって、科学技術に関して、さらには科学哲学の枠をも超えて自立的で論理的なコミュニケーション能力も獲得することが目標点です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、リアクションペーパーとともに次の授業テーマに即した課題を出し、学習支援システムで期日までの提出を求めます。講師はそのリアクションペーパーと課題回答を踏まえた講義をし、受講生によるグループ討論や発表につなげます。
（できるだけタイムリーな科学技術ニュースをとりあげるため、下記の授業計画には日程や内容の変更がありえます）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション１	講師の自己紹介と、授業の進め方、成績評価などに関する概説。受講生に科学や技術をめぐる関心事を発言してもらう予定。
2	イントロダクション２	新型コロナ、インフルエンザを題材に、科学技術的な知見、情報の集め方、受け止め方、使い方などに関する基本的な注意点や心構えを学ぶ。
3	科学ニュースと私たち	具体的な科学ニュースの例を見ながら、科学報道の変化、科学技術と人類・社会との現代的関係を考える。
4	【特別講】ノーベル賞を読み解く（発表日によっては前後の週と入れかえることがある）	科学技術と社会問題とのつながりを、ノーベル賞理系3賞の発表を受けて具体的に考える。
5	科学とは何か：コミュニケーション作法としての科学	科学を科学たらしめているのは、実は科学の「作法」である。そのことを確認し、科学的態度を身に付ける基礎を築く。
6	私たちの現在位置（１）家族をめぐる科学	人類は多くの病気を克服し、長寿を得てきた。しかし、私たちは万能ではない。家族・生老病死をめぐる科学の現状から、個人と科学技術の関係を考える。
7	私たちの現在位置（２）命を左右する科学	様々な自然災害を始めとするリスクを知り、対処法を考える。
8	私たちの現在位置（３）情報化社会の光と影	情報化は私たちに何をもたらしているのか。ＡＩは万能か。オープンイノベーションなどの可能性も見据えながら、主体的に生きていくことを考える。
9	人類の現在位置（１）ゲノム編集食品が意味すること	ゲノム編集食品が登場した。食の歴史を科学技術の側面から見ると、人類の特異さを象徴的に示している。人類はいま、どんな存在なのかを考える。
10	人類の現在位置（２）地球温暖化と廃棄物問題	地球温暖化とは何か。解決の糸口はどこにあるのか。科学的な説明を超えて、社会に内包されている問題点を考える。
11	人類の現在位置（３）戦争のルール化は幻か	ウクライナや中東で非人道的な軍事行為が横行し、米中など大国間の緊張も高まっている。戦争の歴史を科学技術の側面から概観し、現代の大量破壊兵器、サイバー攻撃、ＡＩ兵器、軍民共用技術、技術者倫理などについて考える。
12	「想定外」はなぜ起きるのか	様々な「想定外」事象の例を挙げ、その正体に迫る。その上で、想定外を減らすためにできること、すべきことを考える。
13	不確実さとどう付き合うか／総括	第1講～第12講を踏まえて、自然や社会に内包されている不確実さとどのように付き合うかを考える。
14	人類と地球の「共進化」	生命と地球は「共進化」してきた。人類の持続可能性のカギは、そのことをどれだけ深く自覚し、対処するかにある。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】各授業の最後に示す課題（リアクションペーパーと次回授業への事前準備）に主体的に取り組み、期日までに提出します。その際は参考文献等を明示することが強く推奨されます。また、日頃からメディアを通じて、科学技術関連を含む様々なニュースに触れ、自分なりの感想や見解をまとめる習慣をつけることが期待されます。本授業の準備・復習時間は、各４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくにありません。
思考の素材、思考のヒントという意味では、日々のニュース（新聞、テレビ、雑誌、ネットメディアの記事や映像など）こそが教材です。

【参考書】
現時点では、とくにありません。
授業のなかで、触れることがあると思います。

【成績評価の方法と基準】
原則として平常点（毎回の課題回答、受講態度、授業中のグループワークへの貢献）４０％、最終課題（レポートを予定）６０％で評価します。出席は絶対ではありませんが、グループワークの過半に参加することを原則とします。各回の課題提出をもって出席に代え、各回の課題提出が５回以上欠落している場合、最終課題は評価せず、単位を認定しませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】
毎回のリアクションペーパーを参考に、改善できるものについては速やかに対応します。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントなどの講義資料は、終了後に学習支援システムにアップします。
課題も学習支援システムに提出してもらいます。

【その他の重要事項】
講師は新聞記者として４０年の実務経験を持ち、科学技術や医療・環境分野を中心に幅広く取材してきました。福島第一原発事故をはじめ、多くの大事件や災害でも様々な経験を重ねています。近年は、有識者へのロングインタビューを多く手がけ、多様な問題をより深く考える貴重な機会に恵まれてきました。そうした果実を、分かりやすく、また身近な課題として受講生に手渡すことをめざしたいと考えています。

【Outline (in English)】
“Science and technology” could change “our views of the world” and the latter could change the former as well. In this course students will study the interaction between them based on the series of lectures led by a science journalist. Major topics referred in the course will be the relationships between science &technology and society, ecology as modern philosophy, bioethics, and sustainability.
The main goal of this course is to acquire the way of thinking about natural science and technology from the viewpoints of human and social sciences.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following;
*Usual performance score (assignments, class attendance, attitude in class, contribution to class): 40%
*Final report: 60%

BSP100XG（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

科学実験リテラシー

田中　幹人

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
科学実験の基礎となっている考え方（統計学）とデータ処理の技法（Excelの使い方）およびレポートの書き方を学ぶ。

【到達目標】
1年生秋学期から始まる創生科学基礎実験I、および2年生の創生科学基礎実験II、IIIで必要となる誤差、有効数字、正規分布などの基礎概念、Excelを使ったグラフの書き方・読み方、データ整約の技法、およびそれらの基礎となっている統計概念を理解する。またレポートの書き方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義内容は事前にYouTubeでオンデマンド配信される。授業時間中では、主に演習、質疑応答そしてフィードバックの時間を設け、確認テストで学習成果をチェックする。なお、貸与PCの使用を前提とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と進め方、学習内容、評価方法、心構えなど。貸与パソコンとExcelの初期設定、Hoppiiに登録
2	初等統計学	Excelを使った基本統計量の計算。母集団と標本、平均と分散と標準偏差、中央値、最頻値、など
3	散布図の描き方	Excelを使った1変量の散布図の描き方。グラフの体裁、線形目盛と対数目盛
4	相関係数	Excelを使った2変量の散布図の描き方、様々な相関係数の算出
5	回帰分析	最小二乗法の原理と計算法、Excelの回帰分析表の見方
6	ヒストグラムと正規分布～前編～	ヒストグラムと分布、極限分布、正規分布（ガウス分布）、Excelを使って、ヒストグラムを描く、Excelを使って、ヒストグラムに正規分布を重ねる
7	実験レポートにおける誤差評価の使い方	測定値の表現（最良推定値と誤差範囲）、有効数字、相対誤差、誤差伝播入門
8	誤差の伝播	和と差、商と積、べき乗、任意の1変数関数、誤差の逐次伝播、誤差伝播の一般式
9	ランダム誤差の統計的取扱い	ランダム誤差、系統誤差、標準誤差
10	ヒストグラムと正規分布～後編～	68%信頼限界としての標準偏差、最良推定値として平均値を選んで良い理由、二乗和を使うことの根拠、平均値の標準偏差、測定値の受容可能性
11	大数の法則と中心極限定理	Excelの乱数を使ったシミュレーションを通じて、大数の法則と中心極限定理を理解する
12	レポートの書き方	Wordの使い方（基本操作と数式の書き方）とレポートの書き方
13	模擬試験1	Excelを使った統計解析、誤差解析、レポートの書き方
14	模擬試験2	Excelを使った統計解析、誤差解析、レポートの書き方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・学習時間は、各4時間を標準とする。講義内容は事前にYouTubeで配信されるので、各自自主的に予習を行ってから授業に参加することが必須である。また、理解できない箇所については授業内外で積極的に教員やTAに質問すること。

【テキスト（教科書）】
·J.R.Taylor(著)、「計測における誤差解析入門」、東京化学同人、2000年

【参考書】
· 東京大学教養学部統計学教室(編)、「統計学入門 (基礎統計学)」、東京大学出版会、1991年
· 岡村・三浦・玉井・伊藤(編)、「理系ジェネラリストへの手引き」、日本評論社、2015年
· Excelの使い方については、インターネットで調べればたくさん出てくるので特に参考書を指定しない。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（80%）、授業内課題と小テスト（20%）

【学生の意見等からの気づき】
創生科学基礎実験I・II・IIIにつながるような授業構成を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
貸与パソコン

【その他の重要事項】
国立大学で天文学の基礎研究に携わってきた教員が、当該分野の基礎概念について講義する。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students practically learn the concepts underlying scientific experiments (statistics) and data processing techniques (how to use Excel) and how to write reports. Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process Final Exam (80%), in-class Assignments and Quizzes (20%).

ELC200XG（電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 200）

電気電子回路の基礎

鈴木　郁

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

創生科学科で扱われる内容は幅広いが，物理学の素養が求められるケースも多く，そこには多くの学生にとって馴染みが少ない，電子回路も含まれている．大学入学以前から物理関連の科目を履修してきた学生にとってさえ，電気回路，特に電子回路は馴染みが薄い場合が多いが，当科目はそれらについての理解を促すことを目的としている．“創生科学基礎実験III”の実験，あるいはレポートの書き方の予習として，活用してほしい．

【到達目標】

電気回路について復習しつつ，主にアナログの電子回路について，その基礎を理解することを目標とする．仮に講義で扱われる全てを理解したならば，例えばトランジスタを用いた簡単な回路であれば設計も可能であろうし，オペアンプを用いた複雑な回路についても，それを理解するための手掛かりを完全にではなくとも自ら見つけ出すことが可能であろう．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の到達目標及びテーマに沿って，授業計画に示したようにすすめる．講義形式ではあるが，講義形式ではあるが，頻繁に質問を投げかけ，また質問を受け付ける形で学生の持つ疑問へのフィードバックを行っている．質問には積極的に答えてほしい．（ある種のアクティブラーニングでもある．） なお，進捗状況に応じて多少内容が変わる可能性がある．

各回の授業計画に変更があれば，学習支援システムで提示する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	線形素子と非線形素子	電圧と電流の関係が非線形な素子の例として，ダイオードとトランジスタを取り上げ，その非線形特性などについて説明する．
2回目	回路図	回路図の読み方や書き方，簡単な回路の配線法を紹介する．
3回目	ダイオードとトランジスタ	ダイオードやトランジスタを含む半導体の，原理や特性について解説する．
4回目	トランジスタを用いた増幅回路	トランジスタを用いて，わずかな電流でLEDをON／OFF（スイッチ）できる回路，ならびにマイクロホンからの微小な音声信号を増幅して十分な音量でイヤホンを駆動するための回路について，解説する．
5回目	音声信号のための増幅回路	トランジスタを用いた音声信号増幅回路は，スイッチング回路よりも考慮すべき点が多く理解が難しい可能性がある．そこで音声増幅回路について説明する．
6回目	増幅回路の特性	増幅回路の，正しく出力可能な電圧の範囲，出力可能な周波数の範囲，といった特性について説明する．とりわけ，周波数特性（ゲイン特性）の考え方について詳説する．
7回目	ゲインと位相	増幅回路などの系の特性は，ボード線図であらわされることが多い．ボード線図はゲインと位相の特性を示したものであるが，難しいと思われる位相（位相差）の概念や測定方法などについて解説する．
8回目	RCフィルタとLRフィルタ	受動（パッシブ）な素子のみを用いたRCフィルタ（抵抗とコンデンサを用いたフィルタ）ならびにLRフィルタ（コイルと抵抗を用いたフィルタ）について，その動作原理や特性を紹介する．あわせて，コイルとコンデンサの組み合わせで構成される共振回路についても，説明する．
9回目	オペアンプ	オペアンプ（演算増幅器）と呼ばれる集積回路を用いると、広い周波数範囲で高い増幅率を持った増幅回路を比較的容易に作成できる．そこでオペアンプを使う上での基礎的概念について，解説する．
10回目	非反転増幅回路	オペアンプの基本的な使い方の一つである非反転増幅回路（バッファを含む）について，説明する．
11回	反転増幅回路と反転加算回路	加算回路，微分回路などの基ともなる，反転増幅回路について説明する．あわせて，反転増幅の応用である反転加算回路についても解説する．
12回	微分回路と積分回路―電気回路における微積分とは―	電気・電子回路における微分や積分とは何であるのか，またオペアンプを用いた反転増幅の応用である微分回路や積分回路について，説明する．
13回	微分回路と積分回路―微分回路の実際―	微分回路について，理想のゲインや位相の特性，実現可能なゲインや位相の特性などを含め，解説する．
14回	微分回路と積分回路―積分回路の実際―	積分回路について，理想のゲインや位相の特性，実現可能なゲインや位相の特性などを含め，解説する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

講義中に適宜，次回講義までに自ら調べるように指示することがある．講義の理解を深めるべく，予習あるいは復習のつもりで行ってほしい．

【テキスト（教科書）】

特に指定しない．

【参考書】

秋田純一：ゼロから学ぶ電子回路，講談社．

他には特に指定しないが，適切なものがあれば適宜紹介する．

【成績評価の方法と基準】

主に定期試験の得点によるが，平常点も加える．全体を１００％とした時のおよその内訳は，試験得点が９５％，平常点が５％である．但し上記の平常点の他に，授業中の質疑応答により加点することがある．

補足．万一，感染症蔓延対策などでオンラインでの授業の比重が大きくなった場合には，成績評価の方法と基準も変更する可能性がある．変更となった場合の具体的な方法と基準は，学習支援システムで提示する．

【学生の意見等からの気づき】

初学者が多いため内容が過多である可能性が以前，示唆された．そこで実験内容との対応は若干薄くなるが，その前年よりも３割程度，内容を削減することとした．そしてさらに今年度，内容を多少削減する予定である．今後も有効なフィードバックについては適宜取り入れていきたい．

【その他の重要事項】

この科目は，“創生科学基礎実験III”の事実上の前提科目（あらかじめ履修しておくべき科目）である．一方でこのことは，当該実験科目の履修者以外による履修を妨げるものではない．なお，履修予定であれば初回から出席すること．

この科目は，「実務経験のある教員による授業」に該当している．講義担当者はマイクロプロセッサーまわりなどの電子回路の設計を伴う仕事をしていた経験があることから，その経験を活かした授業を行っている．

全て対面での実施を予定している．

【Outline (in English)】

Course outline:
The title of this class is "Basics of Electrical and Electronic Circuits." And its objective is to get familiar with those circuits, which include ones made with transistors, operational amplifiers, etc.
Learning objectives:
Students will be expected to do their own research to resolve their unclear points.
Learning activities outside of classroom:
Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policy:
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 95%, Usual performance: 5%.
Besides the above, some additional points may be added according to in-class contributions.

MAT300XG（数学 / Mathematics 300）

確率統計・演習Ⅳ（統計モデリング入門）

田中　幹人

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
天文学から心理学やマーケティングまであらゆる分野において、量的データから現象を解釈するためにしばしば統計モデルが導入される。1,2年次に学習してきた統計分析の手法は、暗黙の了解として正規分布を仮定した分析手法である。ところが、現実世界は正規分布のような綺麗なモデルで表現されないことの方が多い。本講義では、現実世界をより自由に表現できる統計モデリングについて学習し、Pythonを使った統計モデリングの実装について実践的な演習を行う。

【到達目標】
・一般化線形モデルについて理解する。
・ベイズモデルについて理解する。
・Pythonを使って実データに対して統計モデリングを実装できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義内容と課題は事前にYouTubeでオンデマンド配信する。授業時間中はフィードバックを中心とし、質疑応答と課題提出の時間を設け、時間外学習と講義を連動させて進める。ただし必要に応じて、オンライン授業も併用する。
なお、貸与PCの使用を前提とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と進め方、学習内容、評価方法、心構え。 データを理解するために統計モデルを作る。
2	確率分布と統計モデルの最尤推定1	正規分布、ポアソン分布、二項分布などの確率分布。乱数
3	確率分布と統計モデルの最尤推定2	最尤推定の原理と実践
4	一般化線形モデル1	一般化線形モデル（GLM）-ポアソン回帰-
5	一般化線形モデル2	GLMのモデル選択-AICとモデルの予測の良さ-
6	一般化線形モデル3	GLMの尤度比検定と検定の非対称性
7	一般化線形モデル4	GLMの応用範囲をひろげる-ロジスティック回帰など-
8	一般化線形モデル5	GLMの応用範囲をひろげる-ロジスティック回帰など-
9	一般化線形モデル6	一般化線形混合モデル（GLMM）-個体差のモデリング-
10	ベイズモデル1	マルコフ連鎖モンテカルロ（MCMC）法とベイズ統計モデル
11	ベイズモデル2	GLMのベイズモデル化と事後分布の推定
12	ベイズモデル3	階層ベイズモデル-GLMMのベイズモデル化-
13	ベイズモデル4	空間構造のある階層ベイズモデル
14	まとめ	これまでの振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・学習時間は、各4時間を標準とする。教科書・演習問題の予習・復習、授業内で示される課題対応など、各自が自主的に授業の準備・復習を行う必要がある。

【テキスト（教科書）】
・久保拓弥(著)、「データ解析のための統計モデリング入門 (確率と情報の科学)」、岩波書店、2012年

【参考書】
指定しない

【成績評価の方法と基準】
毎週の課題（50%）、期末試験（50%）

【学生の意見等からの気づき】
Pythonの使用が前提となるため、講義で必要となる技術（Markdown、グラフの描画、NumPy、Pandas、制御文など）は副教材を別途用意する。

【学生が準備すべき機器他】
貸与パソコン

【その他の重要事項】
国立大学で天文学の基礎研究に携わってきた教員が、当該分野の基礎概念について講義する。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students practically learn statistical modelings using Python. The goal of this course is to apply statistical modelings such as Generalized linear mixed models and Bayesian hierarchical models to students's own data using Python by oneself. Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (50%) and assignments (50%).

ASR300XG（天文学 / Astronomy 300）

天文学Ⅱ

田中　幹人

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
観測の手段とその成果を概観し、銀河宇宙における様々な現象の規模、メカニズム等について説明する。それらの解釈に最も重要なのは、天体までの距離測定であり、これはまた天文観測そのものでもある。この理解を通して銀河の性質や宇宙の構造にせまる。

【到達目標】
宇宙からは、ガンマ線から電波まであらゆる波長の電磁波が地球に飛来する。それら電磁波が銀河や宇宙全体のどのような情報を運び、それをどう計測し、どう解釈するかを学ぶ。その成果を通して宇宙現象の理解につなげる。本講義の到達目標は、観測事実を通じて、銀河の性質および宇宙の構造について理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業内学習（内容の説明、質疑応答、演習、確認テストとそのフィードバック）と授業外学習（予習・復習）を連動させて授業を進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と進め方、学習内容、評価方法、心構えなど
2	銀河系1	銀河系構造の概観、円盤部の構造、楕円体部の構造
3	銀河系2	銀河系のダークマター、X線による銀河系、電波で見た銀河系中心
4	銀河系3	矮小銀河と銀河形成の描像
5	銀河系4	化学進化の基礎、銀河の化学進化
6	銀河1	銀河とは何か、銀河の力学
7	銀河2	星生成活動と銀河進化モデル、AGN、X線による観測、電波でみた銀河
8	銀河団	多波長で見る銀河団、銀河間ガス、銀河団の質量、重元素汚染、遠方銀河団
9	銀河の観測と宇宙論1	距離はしご、銀河の空間分布
10	銀河の観測と宇宙論2	宇宙論パラメータと銀河の進化、電波で探る銀河形成
11	宇宙論1	ビッグバン宇宙モデルの基本パラメータ
12	宇宙論2	ビッグバン宇宙の進化
13	新しい観測の窓	重力波天文学、ガンマ線天文学
14	まとめ	最新の銀河研究

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・学習時間は、各4時間を標準とする。
各授業前：教科書や資料を使って該当回の内容について予習する（目安2時間）。
各授業後：授業で学習した内容を復習し、確認テストで理解度をチェックする（目安2時間）。

【テキスト（教科書）】
・岡村定矩(編)、「天文学への招待」、朝倉書店、2001年

【参考書】
・岡村定矩(著)、「銀河系と銀河宇宙」、東京大学出版会、1999年
・千葉柾司(著)、「銀河考古学（新天文学ライブラリー第2巻）」、日本評論社、2015年
・家正則他(編)、「宇宙の観測I－光・赤外線天文学（シリーズ現代の天文学15巻）」、日本評論社、2007年

【成績評価の方法と基準】
期末試験（80%）、授業内課題と小テスト（20%）

【学生の意見等からの気づき】
授業内での小テストや課題を増やし、知識の理解や定着を図ることで、期末試験の正答率アップへと繋げる。

【その他の重要事項】
本授業の講義内容は「天文学I」を履修し、すでに恒星について学習済みであることが前提となる。
国立大学で天文学の基礎研究に携わってきた教員が、当該分野の基礎概念について講義する。

【Outline (in English)】
The means of observation and their results will be reviewed, and the scale, mechanisms, etc. of various phenomena in the galactic universe will be explained. The most important factor in their interpretation is the measurement of the distance to the objects, which is also the astronomical observation itself. Through this understanding, the goal of this course is to understand the nature of galaxies and the structure of the universe. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

ASR300XG（天文学 / Astronomy 300）

天文学Ⅲ

田中　幹人

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
天文学は、データのオープン化が進んだ学問である。最先端の望遠鏡で観測された天文アーカイブデータはインターネット上で公開されているので、それらのデータをダウンロードすれば、誰でも最先端の天文学研究を始めることができる。本講義では、Pythonを用いた天文アーカイブデータの実践的なデータ分析を通じて、恒星や銀河の性質および宇宙の構造について理解を深める。

【到達目標】
・天文アーカイブデータの分析を通じて、恒星・銀河の性質および宇宙の構造について理解を深める。
・Pythonを使ってデータ分析の簡易的なコードを書くことができる。
・統計分析と誤差解析の手法を天文観測データに対して適用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義内容と課題は事前にYouTubeでオンデマンド配信する。授業時間中はフィードバックを中心とし、質疑応答と課題提出の時間を設け、時間外学習と講義を連動させて進める。ただし必要に応じて、オンライン授業も併用する。
なお、貸与PCの使用を前提とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と進め方、学習内容、評価方法、心構えなど
2	Python1	Markdown、数学関数、初等統計量、グラフの描画
3	Python2	相関係数、最小二乗法、for文とif文、乱数と二次元ヒストグラム
4	アーカイブ天文学について	アーカイブ天文学の歴史、Pythonの練習
5	スカイサーベイ	SDSS、2MASS、HSCなどの各種スカイサーベイ
6	三色合成	天体写真の色の付け方
7	恒星の色	等級、色、温度、熱的放射曲線、2色図
8	恒星のスペクトル	スペクトル型、吸収線と輝線
9	恒星のHR図1	散開星団のHR図、位置天文衛星、視差角と距離
10	恒星のHR図2	球状星団のHR図
11	ハッブル図	簡単なハッブル図、銀河までの距離を見積もる、赤方偏移、銀河の観測による宇宙膨張
12	銀河1	銀河の形態分類、ハッブルの音叉図
13	銀河2	楕円銀河と渦巻銀河の区別、銀河の進化
14	まとめ	これまでの振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・学習時間は、各4時間を標準とする。講義内容と課題は事前にYouTubeで配信し、授業内ではポイントの解説、課題に関する質疑応答、そして課題の提出を行うので、講義前の予習が必須である。

【テキスト（教科書）】
・SDSS スカイサーバー（http://skyserver.sdss.org/edr/jp/）

【参考書】
・市川隆・田中幹人(著)、「天体画像の誤差と統計解析 (クロスセクショナル統計シリーズ)」、共立出版、2018年
・J.R.Taylor(著)、「計測における誤差解析入門」、東京化学同人、2000年

【成績評価の方法と基準】
毎週の課題（70%）、期末試験（30%）

【学生の意見等からの気づき】
天文学の知識習得とPythonを用いたデータ解析の実習が効果的に連動するような授業構成を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
貸与パソコン

【その他の重要事項】
本授業の講義内容は「天文学I」と「天文学II」を履修し、すでに恒星と銀河について学習済みであることが前提となる。また、天文学研究の実践的な手法を取り扱うことから、今後天文学を専門的に研究していく予定のある者は必ず履修すること。
国立大学で天文学の基礎研究に携わってきた教員が、当該分野の基礎概念について講義する。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students understand fundamental properties of stars and galaxies by analyzing astronomical archival data. The goal of this course is to apply statistical analytics to astronomical archival data using Python by oneself. Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (30%) and assignments (70%).

COT111KA-CS-100（計算基盤 / Computing technologies 100）

情報科学入門

日高　宗一郎

必選区分：　｜　配当年次／単位：1〜4年次／2単位　｜　開講時期：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：ABクラス

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報科学における最も基本的な概念である，アルゴリズム，計算，モデル化について学ぶ．

【到達目標】
情報科学の分野でアルゴリズムおよび計算をどのように取り扱っているかを理解する．また，実世界の様々な問題をコンピュータで扱う上で不可欠となるモデル化の概念と方法論を理解する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」に関連

【授業の進め方と方法】
情報科学の分野において実世界の様々な問題を解くためには，情報科学特有の概念をまず初めに理解する必要がある．本講義は，情報科学の理論に初めて触れる学生を対象とし，今後，情報科学を学んでいくために不可欠となる，プログラミングの基礎であるアルゴリズムの記述法，情報科学における計算の取り扱い方，実世界を対象とした問題を情報科学で扱うためのモデル化の手法を初学者が身に着けられるように講義を進める．また，講義で示した手法を学生が実感できるよう，アルゴリズム，計算，モデル化のそれぞれにおいて演習を行う．授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	情報科学とは	ガイダンス，講義に必要な環境整備を行う．
2	アルゴリズム基礎(1)	アルゴリズムとは何かを理解するとともに，簡単なアルゴリズムの例を学ぶ．
3	アルゴリズム基礎(2)	フローチャートによってアルゴリズムを記述する方法を理解する．
4	Scratchによるアルゴリズム学習	簡単なアルゴリズムをScratchでプログラミングする．
5	計算とは(1)	情報科学分野における計算の概念を学ぶとともにチューリングマシンの定義を学ぶ．
6	計算とは(2)	計算の理解に重要な再帰の概念と，チューリングマシンによる再帰の実現法について学ぶ．
7	チューリングマシンによるアルゴリズム記述の例	幾つかの具体的なアルゴリズムのチューリングマシンによる記述法を理解する．
8	チューリングマシンの記述演習	簡単なアルゴリズムをチューリングマシンで記述することにより，チューリングマシンに関する理解を深める．
9	チューリングマシンの限界の理解	チューリングマシンの停止性判定問題を通して，チューリングマシンの計算可能性の限界を理解する．
10	情報科学における問題の解き方	情報科学分野においてモデル化を行うことの重要性を理解する．
11	情報科学におけるモデル化の実例	物理現象のモデル化など，情報科学分野におけるモデル化の実例を学ぶ．
12	実世界の問題をモデル化する演習	簡単な実世界の現象のモデル化を通して，モデルの概念に関する理解を深める．
13	モデル化に関する演習課題の振り返り	第12回の講義で行った演習課題を振り返る．発表会を行う可能性もある．
14	情報科学分野における計算，アルゴリズム，モデル化に関する現在の課題およびまとめ	情報科学分野における計算，アルゴリズム，モデル化に関する最新のトピックを学ぶ． 本講義で学んだ内容を総括する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の内容を復習する．講義内で出される課題を解き，レポートを作成する．
本授業の準備・学習時間は，各週4時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する．

【参考書】
L.ゴールドシュレーガー, A.リスター(著), 武市正人, 角田博保, 小川貴英(訳), 計算機科学入門，近代科学社, 2000. ISBN 4-7649-0284-2
川合慧(編), 情報, 東京大学出版会, 2006. ISBN 978-4-13-062451-0
山口和紀(編), 情報 第2版, 東京大学出版会, 2016. ISBN 978-4-13-062457-2
和達三樹, 物理のための数学 (物理入門コース 新装版), 岩波書店, 2017. ISBN 978-4000298704
デヴィッド・バージェス モラグ・ボリー (著), 垣田 高夫 (翻訳), 大町 比佐栄 (翻訳), 微分方程式で数学モデルを作ろう, 日本評論社, 1990. ISBN 978-4535781733
阿部 彩芽（著）, 笠井 琢美（著）, チューリングの考えるキカイ, 技術評論社, 2018, ISBN 978-4-7741-9689-3
猪股 俊光（著）, 山田 敬三（著）, 計算モデルとプログラミング, 森北出版, 2019, ISBN 978-4627854710
John MacCormick(著), 松崎 公紀(監修), 長尾高弘(翻訳), 計算できるもの、計算できないもの, オライリージャパン, 2020, ISBN 978-4873119335

【成績評価の方法と基準】
期末試験を90%以上とし，レポート，授業中の参加の度合，貢献度を最大10%考慮して総合的に判断する．

【学生の意見等からの気づき】
高度な内容については適宜補足を加える．
学習支援システム上の課題受付締切設定についての説明を詳しく行う．

【学生が準備すべき機器他】
演習では貸与ノートPCを利用する．

【その他の重要事項】
本講義の内容は、担当教員の一人の大学共同利用機関法人研究所でのプログラミング言語設計に関する研究の経験を反映している。

【Outline (in English)】
In this course the notions of algorithm, computation and modeling that are most fundamental to information sciences are covered.
The goal of this course is to understand
- how the notions of algorithm and computation are treated in the field of information science.

- notion and methodology of modeling that are indispensable to treat real-world problems in computers.
Besides attending the class, students are expected to review the content of the course, complete assignments and submit reports.
Students will be studying four hours for a class.
Final grade will be calculated based on, but not limited to, term-end exam (more than 90%), reports and in class contribution (up to 10%).

COT111KA-CS-102（計算基盤 / Computing technologies 100）

コンピュータシステム入門1

高村　誠之

必選区分：　｜　配当年次／単位：1〜4年次／2単位　｜　開講時期：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：ABクラス

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報科学を学ぶに当たって技術的側面の入門を学ぶ。後続の科目全般の基盤となる最も基礎的な内容として、コンピュータやインターネットといった現在の情報基盤を使いこなす上で必要となる基本的な知識を養う。まず、全ての土台となるコンピュータのハードウェアについて、これまでの発展の歴史とその基本的な仕組みを学ぶ。また、現在の情報処理に欠かせない通信の概念や、コンピュータ上で様々な情報を表現するメディアデータの仕組みと構造を理解する。

【到達目標】
・コンピュータの基本的な仕組みを理解する
・コンピュータで計算ができる仕組みを理解する
・コンピュータにおける通信の基礎を理解する
・コンピュータ上での様々な情報の表現方法について理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を中心として、演習や課題を交えながら進める。課題等の提出・フィードバックはhoppiiおよびその他教員が指定するツールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入：コンピュータと情報処理	コンピュータと情報処理分野の社会における位置づけなど一般的な概念を理解する。
2	コンピュータの歴史	現在に至るまでのコンピュータの歴史を概観し、現在の情報基盤を支えるコンピュータの発展を理解する。
3	コンピュータにおける計算の概念	コンピュータがなぜ計算ができるのかを学ぶ。
4	コンピュータのしくみ	コンピュータの仕組みを中心に、コンピュータの基本を学ぶ。
5	コンピュータの構成要素	コンピュータを構成する個々の装置について、構造や仕組みを学ぶ。
6	デジタル回路	コンピュータを構成する基本要素であるデジタル回路の基礎を概観する。
7	基本演算の仕組み1	コンピューターが行う基本演算とその実現法を学ぶ（加算・減算・2の補数表現）
8	基本演算の仕組み2	コンピューターが行う基本演算とその実現法を学ぶ（乗算・浮動小数点）
9	振り返り（前半）	演習問題を解くなどして本講義前半部分の理解度を確認する。
10	情報の表現：テキスト	文字コードやフォント、符号化等のテキスト処理について学ぶ。
11	情報の表現：音・音声	聴覚や音声処理、音声合成、音声認識といった音に関わるメディア処理について学ぶ。
12	情報の表現：画像・動画	視覚や色に関する基本知識、および、画像・動画のフォーマットについて学ぶ。
13	通信の仕組み	無線LANやEthernetなどの実際のネットワークに接続する際の基礎技術について学ぶ。
14	振り返り（後半）	演習問題を解くなどして本講義後半部分の理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義中に課題が課された場合は、それを解くこと。
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
配付資料による

【参考書】
必要に応じて講義中に紹介

【成績評価の方法と基準】
平常点10％、課題10％、期末試験80％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
貸与Note PCを使用する。

【その他の重要事項】
本講義は担当教員の企業での映像情報処理に関する研究開発に関する知見を元に、実務に必要な情報科学技術に関する講義を行う。

【Outline (in English)】
This course provides an integrated introduction to computer systems. Our goal is for you to learn about the hierarchy of abstractions and implementations that comprise a modern computer system. This will provide a conceptual framework that you can then flesh out with courses such as compiler, operating systems, networks, and others.
Students will be expected to study the topic given in the class around four hours in each week. Your overall grade in the class will be decided based on the following:
In class contribution: 10%, mid-term reporting 10%, term-end examination: 80%.

COT111KA-CS-101b（計算基盤 / Computing technologies 100）

プログラミング入門3

高村　誠之

必選区分：　｜　配当年次／単位：**1〜4年次／2単位**　｜　開講時期：**秋学期授業/Fall**
備考（履修条件等）：**Dクラス**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
プログラミング入門1,2で学んだ項目を基本として、さらに進んだプログラミング機構を学ぶとともに、データサイエンス・AIのための基礎的なプログラミングを体験する。

【到達目標】
・オブジェクト指向機構などの進んだプログラミング言語機構を利用できる。
・データサイエンスで必須となる諸技法の基礎を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】
・プログラミング言語としてPythonを用いて授業を進める。
・前半は、オブジェクト指向機構を中心に最近のプログラミング言語で多く用いられる言語機構を扱う。
・後半は、データサイエンスで必須となる諸技法の基礎を学ぶ。
・授業の各回では、プログラミングの課題が提示されるので、授業時間外に取り組む。
課題等の提出は「CIS moodle」を通じて行う。授業中に課題に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	プログラミング入門1,2の復習を行う。とくに関数、リスト、複合データ構造、再帰呼び出しについて学ぶ
2	オブジェクト指向(1)(モデリング)	クラスを利用してオブジェクトを表現する方法を学ぶ。クラス、インスタンス、メソッドなどのオブジェクト指向機構の基本を学ぶ。
3	オブジェクト指向(2)(オブジェクトコンポジション/ポリモーフィズム)	オブジェクトを組み合わせて複雑なオブジェクトを表現する方法を学ぶ　また、オブジェクトの参照と実体について学ぶ
4	オブジェクト指向(3)（継承)	コード再利用の効果的な手法である継承機構によって、複数の種類のオブジェクトを統一的に表現する手法を学ぶ。
5	ファイル処理と例外機構	ファイル処理の記述法および、実行中に起こる例外を扱う例外機構を学ぶ
6	高度な言語機構	効果的にプログラミングを進めるうえで欠かせない言語機構を紹介する
7	復習(1)	1〜6の内容の復習を行う
8	データサイエンス基礎(1)	データサイエンスに有用なモジュールの紹介と、導入を行う
9	データサイエンス基礎(2)	オープンデータを利用したデータ分析の基礎を扱う
10	データサイエンス基礎(3)	データの可視化手法を学ぶ
11	データサイエンス基礎(4)	代表的な統計量の算出法について学ぶ
12	データサイエンス基礎(5)	基本的な仮説検定を扱う
13	データサイエンス基礎(6)	回帰分析の処理について学ぶ
14	復習(2)	8〜13の内容の復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、前期のプログラミング入門1,2の内容を復習し、十分に理解を深めておくこと。授業後の学習では、各回で出題されるプログラミング問題およびレポート作成に取り組むこと。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
オンライン資料あるいは講義配布資料。

【参考書】
Pythonによるプログラミング、小林 郁夫、 佐々木 晃著、 オーム社、ISBN:9784274223570
たのしいプログラミング Pythonではじめよう!
Jason R.Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)
オーム社、2014

【成績評価の方法と基準】
成績は下記を総合して判断する。
- 試験（中間、期末）60%
- 課題およびレポートの取り組み 40%
ただし、平常時における参加度を一部加味する。

【学生の意見等からの気づき】
演習問題の解説時間をとる。

【学生が準備すべき機器他】
貸与PCを利用する

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
· In this course, students will learn advanced mechanisms in modern programming languages, such as mechanisms for object orientation, and also will experience data science programming.
· At the end of the course, students will understand basic usages for object orientation and other advanced language mechanisms in programing languages and also will experience programming required for data science and AI.
· Before each class meeting, students will be expected to solve exercises assigned as homework. Your required study time is at least four hours for each class meeting.
· Your overall grade will be decided based on the followings.
- mid- and end-term examinations (60%)
- assignments (40%)

PRI210KA-CS-151（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

形式言語とオートマトン

日高　宗一郎

必選区分：　｜　配当年次／単位：2〜4年次／2単位　｜　開講時期：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：CDクラス

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・オートマトンとは何か理解する
・有限オートマトンと正規言語の関係を理解する
・文脈自由言語についてその特徴・性質を理解する
・プッシュダウンオートマトンとは何かを理解する
・チューリングマシンについて理解する

【到達目標】
オートマトン、形式言語の基本的な枠組みについて理解する。具体的には、
1）有限状態オートマトン・プッシュダウンオートマトン・チューリングマシンの時点表示・構成ができること
2）正規言語・文脈自由文法が生成する言語・文法を説明・構成できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】
この講義は情報科学の様々な側面の基礎をなすオートマトンと形式言語について学ぶ。オートマトンはハードウェアからソフトウェアに至るまでの情報科学の全ての側面において、動作のモデルを定義・表現・設計するために使われる非常に重要な概念である。講義の前半では、このオートマトンの理解を目標において講義を進める。講義の後半では、そのオートマトンの入力として与えられる形式言語について学ぶ。形式言語の知識はプログラミング言語やその処理系の理解のために必須のものである。
なお、毎回の講義では、説明のなかで30分程度を小テストに充てる。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	1.オートマトンとは計算機のモデル 2.形式言語は言語のモデル 3.オートマトンと形式言語の関係 4.チョムスキー階層 5.オートマトンの応用
第2回	有限オートマトン(1)	1.オートマトンの状態遷移図表現 2.集合 3.五字組表現
第3回	有限オートマトン(2)	1.有限オートマトンの例 2.様相、受理・拒否
第4回	有限オートマトン(3)	1.有限オートマトン演習
第5回	非決定性有限オートマトン(1)	1.決定性オートマトンと非決定性オートマトン 2.非決定性オートマトンの状態遷移図 3.非決定性オートマトンの五字組表現
第6回	非決定性有限オートマトン(2)	1.空動作を伴うオートマトン 2.空動作を伴うオートマトンの状態遷移図 3.空動作を伴うオートマトンの五字組表現 4.決定性オートマトンと非決定性オートマトンの同等性 5.正規表現から非決定性オートマトンに 6.決定性オートマトンの最簡形
第7回	中間試験	有限オートマトンのまとめ 主にオートマトンの部分について試験を行う
第8回	プッシュダウンオートマトン	1.決定性プッシュダウンオートマトン 2.決定性プッシュダウンオートマトンの七字組表現 3.決定性プッシュダウンオートマトンの動作 4.決定性プッシュダウンオートマトンの状態遷移図 5.非決定性プッシュダウンオートマトン 6.非決定性プッシュダウンオートマトンの七字組表現 7.非決定性プッシュダウンオートマトンの動作 8.非決定性プッシュダウンオートマトンの状態遷移図
第9回	チューリングマシン(1)	1. 決定性チューリングマシン
第10回	チューリングマシン(2)	1.非決定性チューリングマシン
第11回	文法(1)	1.正規文法 2.言語の生成装置としての形式文法 3.オートマトンと文法の対比・階層性 4.文脈自由文法
第12回	文法(2)	1.文法の種類 2.文脈自由文法の例 3.文脈自由文法と木構造 4.2分木からチョムスキー標準形に 5.文脈依存文法
第13回	文法(3)	1.文法演習
第14回	オートマトンと形式言語の関係およびまとめ	正規文法と有限オートマトンの関係 1.正規表現による正規言語の表現 2.有限オートマトンで表現できない文脈自由文法・繰り返し定理 3.閉包性 4.チョムスキー標準形 5.グライバッハ標準形 1－14回の講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の内容をよく読んでおくこと。講義では、正しく理解しているかどうか確認を行うようにする。

本授業の準備・復習時間は、計週4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
米田、広瀬、大里、大川著「オートマトン・言語理論の基礎」近代科学社

【参考書】
J.ホップクロフト他著「オートマトン　言語理論　計算論I」サイエンス社
富田、横森著「オートマトン・言語理論」(第2版・新装版) 森北出版

【成績評価の方法と基準】
授業内諸テスト、課題で40％。期末試験で60%。

【学生の意見等からの気づき】
演習を豊富に実施する

【その他の重要事項】
本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で用意している。また、その内容は担当教員の一人の大学共同利用機関法人研究所でのオートマトンを応用したグラフ変換に関する研究の経験を反映している。

【Outline (in English)】
This course covers fundamental notions in formal language theory, including automata, relationship between finite automata and regular languages, characteristics and properties of context-free languages, pushdown automata and Turing machines.
The goal of this course is to understand fundamental notions in formal language theory. Namely, students will be able to
1. construct and show configurations of finite state automata, pushdown automata and Turing machines
2. explain and construct languages generated by regular and context-free grammars
Before each class, students will be expected to have read relevant chapter(s) from the text. During the class, students are expected to confirm their understandings.
Students will be studying four hours for a class.
Grading will be decided based on term-end exam (60%) and in class tests including mid-term exam (40%).

PRI210KA-CS-207（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

情報基礎学A

尾花　賢

必選区分：　｜　配当年次／単位：2〜4年次／2単位　｜　開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では，情報科学の基礎的な理論を理解するために必須となる計算の複雑さの理論を学ぶ．

【到達目標】
計算の複雑さの理論における基本的な概念である時間計算量，領域計算量，多項式時間帰着などを学ぶとともに，P, NP, PSPACE, EXPなどの重要な計算量のクラスを理解する．また，SATのNP完全性の証明などを通じてP vs NP問題に対する解決のアプローチの歴史を理解する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義を通して，計算の複雑さの理論の基本を理解してもらう．重要なポイントでは演習を行い，講義で学習した内容を実感することで理解を深める．授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この講義で学ぶことがらを説明する
2	計算とは何か	情報科学における計算の理論的扱いについて学び，チューリングマシン，万能チューリングマシンの概念を理解する．
3	計算可能性の理論と対角線論法	チューリングマシンの停止性判定問題を例に計算可能性の理論と対角線論法について学ぶ．
4	計算の複雑さ	計算の複雑さがチューリングマシンの実行ステップ数などによって定義されることを理解する．
5	計算の複雑さ演習	演習を通じて，具体的なアルゴリズムの計算の複雑さを評価する手法を学ぶ．
6	計算にまつわる諸概念	時間計算量，領域計算量など，計算の複雑さを理解する上で重要な概念について学ぶ．
7	階層定理	時間階層定理，領域階層定理の証明とその意味を理解する．
8	時間計算量のクラス，領域計算量のクラス	P, NP, EXP, NEXPなど時間計算量を理解する上で重要となるクラスについて学ぶ．
9	P対NP問題	P対NP問題と，関連の深い概念であるNP完全性，NP困難性について学ぶ．
10	多項式時間帰着	二つの問題を解く困難さを比較する指標となる多項式時間帰着について学ぶ．
11	多項式時間帰着に関する演習	具体的な問題の多項式時間帰着可能性を考えることにより，多項式時間帰着に対する理解を深める．
12	計算の複雑さに関する命題の証明手法	演習問題を例に計算の複雑さに関する命題を証明する手法を学ぶ．
13	Cook-Levinの定理とSATのNP完全性	論理式の充足可能性問題(SAT)がNP完全問題であることを理解する．
14	計算の複雑さと暗号理論	計算の複雑さの理論と公開鍵暗号の関係について学ぶ．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回までの学習内容を完全に把握しておくことは必須．また，講義期間中に複数回出す課題を提出すること．本授業の準備・復習等の授業時間外学習は，各週につき4時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】
学習支援システムから配布する．

【参考書】
Michael Sipper著，太田 和夫，田中 圭介，阿部 正幸 訳，
計算理論の基礎 [原著第2版] 3. 複雑さの理論，共立出版
ISBN 978-4-320-12209-3

【成績評価の方法と基準】
講義への貢献度，レポート20%，定期試験80%により評価する．

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解を深めるため、計算の複雑さの理論における命題の証明法に関する回を追加した．

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用する．また，チューリングマシンの演習等においては貸与PCを利用する．

【その他の重要事項】
本講義は、担当教員の企業での暗号および情報セキュリティの研究開発に関する経験に基づき実施する計算量理論の基礎に関する講義である。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduces basic concept of complexity theory for understanding theoretical computer science.
Learning objectives: Students will learn time complexity, space complexity, complexity classes (such as P, NP, PSPACE, EXPTIME, etc.), polynomial-time reduction, etc.
Learning activities outside of classroom: Students are expected to study more than four hours for a class.
Grading criteria: Short report &Contribution to the class: 20% , Final exam: 80%

PRI210KA-CS-351（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

情報理論

尾花　賢

必選区分：　|　配当年次／単位：**2〜4年次／2単位**　|　開講時期：**秋学期授業/Fall**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報の数学的定義および、エントロピーの概念、情報の圧縮の方法、通信路における誤り訂正の方法等を理解する。

【到達目標】
エントロピーの概念、および、情報理論における基本的な定理である情報源符号化定理、通信路符号化定理を理解するとともに、具体的な情報源符号化法や通信路符号化法(誤り訂正符号)の構成法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】
情報とは何か、情報はどのように数学的に定義されるかを学ぶとともに、情報の符号化、情報通信の基礎理論を理解する。授業の理解を深めるため、講義の後半に適宜課題を解く時間を設ける。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	情報の概念とエントロピー	情報量の定式化、エントロピーの概念を理解する。
2	条件付きエントロピー・相互情報量	確率の基本的な性質の復習を行った後、条件付きエントロピー、相互情報量の概念を理解する。
3	エントロピー，条件付きエントロピー，相互情報量の復習	重要な概念である各種エントロピーに関して，演習問題を通して理解を深める。
4	クラフトの不等式	符号の瞬時復号可能性、一意復号可能性とクラフトの不等式について理解する。
5	情報源符号化定理	情報理論における最も重要な定理のひとつである情報源符号化定理を理解する。
6	情報源符号化法	具体的な情報源符号化法であるシャノン符号、ファノ符号、ハフマン符号を理解する。
7	ハフマン符号のコンパクト性，Elias符号	ハフマン符号のコンパクト性，および算術符号の一種であるElias符号を理解する。
8	符号構成法の復習	演習を通していくつかの重要な情報源符号化法に関する理解を深める。
9	通信路符号化のモデル	通信路符号化のモデルについて理解する。
10	通信路符号化定理	情報理論における最も重要な定理のひとつである通信路符号化定理を理解する。
11	誤り訂正符号の基礎	通信路符号化定理と関連の深い，誤り訂正符号の概念を理解する。
12	謝り訂正符号の例	ハミング符号、拡大ハミング符号の構成法と，その符号化法，復号法を理解する。
13	通信路符号化・誤り訂正符号の復讐	演習を通して，情報源符号化法と誤り訂正符号に関する理解を深める。
14	情報理論と暗号	暗号通信のモデルと、完全秘匿性を有する暗号方式について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回までの学習内容を完全に把握しておくこと。授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Webからの配布による。

【参考書】
情報理論　―基礎から応用まで―、中川聖一著 (近代科学社)

【成績評価の方法と基準】
講義への貢献度，課題の出来20%、定期試験80%によって評価する

【学生の意見等からの気づき】
講義中に演習問題を提示することで理解を高める。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
本講義は、担当教員の企業での暗号および情報セキュリティの研究開発に関する経験に基づき実施する情報の基礎理論に関する講義である。

【Outline (in English)】
Course outline:　This course introduce basic concepts of information theory.
Learning objectives: You will learn mathematical definitions of information, the concept of entropy, methods of data compression, and error correction etc.
Learning activities outside of classroom: Students are expected to study more than four hours for a class.
Grading Criteria: Short report &contribution to the class: 20% , Final exam: 80%

COT211KA-CS-205（計算基盤 / Computing technologies 200）

プログラミング(MATLAB)

伊藤　克亘

必選区分：　｜　配当年次／単位：2〜4年次／4単位　｜　開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ディジタルメディアの代表的データである画像や音声をコンピュータで扱うための基本的な手法を知り、実際に各自が様々な処理をできるようになることを目標とする。これらの手法は、数学的な理論に基づくものが大半である。本講義では、まず、数学的なアルゴリズムをプログラミングすることに慣れてもらうために、数学的な詳細には余り深入りせずに、個々の手法が、音声や画像のどういう特徴に関係するのか、など、具体的な応用を中心に学ぶ。これらの手法の理解は、「パターン認識と機械学習」「ディジタル信号処理」「画像処理」「音声情報処理」などを履修するのに非常に役立つ。

【到達目標】
3 年次や卒業研究で、ディジタル信号処理が必要になったときに MATLAB で問題解決できる基礎を身に付ける。具体的には、MATLAB でデータを表示できる。fft や filter 関数を使って加工できるようになる。
数式やアルゴリズムを示されただけで、どのような結果になるか、想像できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-2」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】
各授業の前半は、処理内容の説明、後半は、課題を解決するためのプログラミングを行う。どちらも必要に応じて受講生による発表を交えながら進める。
課題は、後半の授業で主要なものを発表させ、解説する。
最終課題のテーマに関しては、事前に提出させ、要件を満たさないものに関しては、その旨、授業で告知する。
また、最終課題のレポートに関しては、第1版に関して、書き方に問題がある点を授業で解説する。最終課題に関しては、優秀なものを発表会で発表させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/MATLAB 入門	授業の目的の説明、および MATLAB の紹介
2	簡単な音声処理(音声の時間領域処理)	音声データの入出力、重ね合わせ、連結、再生
3	簡単な画像処理	画像データの入出力と簡単な補正、加工
4	音声のフーリエ変換	FFT の使用方法と音声の周波数処理
5	フィルタ(音声の時間領域処理)	FIR フィルタ、IIR フィルタ
6	画像の周波数領域処理	FFT を用いたフィルタリング
7	画像の空間領域処理	畳み込みを用いたフィルタリング
8	音声データの相関	自己相関と信号の類似性
9	画像データの類似度	空間的な相関とそれを用いた複数画像の対応
10	複素信号	音声信号の複素数表現とそれを用いた周波数変調
11	画像の幾何学的処理	画像を空間的に変形させる手法
12	音声・画像の分類	教師つき分類
13	音声・画像処理の応用	これまで学んだことを応用してできる処理
14	まとめと最終課題の発表会	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき8時間を標準とする。
準備学習として、テキストを読み予習課題に取り組む。演習時間に解けなかった課題をいくつか選び、宿題として完成させる。また、最終課題である自主課題は授業外も含めて取り組みレポートを作成する。

【テキスト（教科書）】
書名: MATLAB で学ぶ実践画像・音声処理入門
著者名: 伊藤克亘、小泉悠馬、花泉弘
出版社: コロナ社
出版年: 2019

【参考書】
書名: ディジタル・サウンド処理入門
著者名: 青木直史
出版社: CQ 出版社
出版年: 2006
書名: Digital Signal Processing First, Global Edition
著者名: James H. McClellan, Ronald W. Schafer, Mark A. Yoder
出版社: Prentice Hall
出版年: 2016
書名: はじめての画像処理技術
著者名: 岡崎
出版社: 工業調査会
出版年: 2000

【成績評価の方法と基準】
定期試験(50%)および最終課題(50%)で評価する。ただし、最大20%程度、予習課題や演習課題の取り組み状況および授業での発表などの平常点を加味する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
予習、宿題、教室での説明部分では、貸与ノート PC を利用することを前提とする。演習は貸与 PC を利用することを想定する。資料配布や課題提出、定期試験に学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
FFT の知識が必要なので「微積分法の応用」を履修していることを前提とする。また本講義で学ぶ技術の応用分野として「統計学2」を並行して履修することを勧める。
また、受講希望者は、第1回の講義の前に、MATLAB をインストールすること。インストール方法は、情報センターの edu のページを参照すること。R2023b (もしくは R2024a) をインストールすること。
http://software.k.hosei.ac.jp/others/
https://software.k.hosei.ac.jp/MATLAB_manual.pdf
この授業で必要な Toolbox は、
Image Processing Toolbox
Signal Processing Toolbox
Statistics and Machine Learning Toolbox
である。
本講義の内容は担当教員の通商産業省工業技術員電子技術総合研究所での音声・知能情報処理に関する研究の経験を反映している。

【Outline (in English)】
In this lecture, you will learn basic techniques for processing images and sounds, which are representative types of digital media. Also, we aim to be able to exercise various processes by ourselves. Most of these methods are based on mathematics. As an introduction, to getting used to programming using mathematical algorithms, this lecture is not too deeply into mathematical details, how individual methods relate to features of sound and images, and so on, focusing on practical exercises. Understanding these methods is useful for taking courses such as pattern recognition and machine learning, digital signal processing, image processing, and speech processing.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend eight hours.
Final grade will be calculated according to the following process final project (50%), term-end examination (50%), and in-class contribution.

PHY100CA（物理学 / Physics 100）

物理学 A

藤田　貢崇

開講時期：**春学期授業/Spring**　　単位：**2単位**

【経済学部：本授業コードは経済学科生用】
社会学部は社会学科生のみ履修可能な授業コード（社会学部生用授業コード：L0091）です。
社会政策科学科・メディア社会学科の学生は、K5355（社会学部生用授業コード：L0093）の物理学Aを確認してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、天体としての銀河や太陽、惑星の構造と、それらを明らかにするための物理学の原理を説明し、日常生活で経験する現象を科学的に説明する力を身につけます。さらに、科学と社会の関わりについても理解を深めます。

【到達目標】
天体としての銀河や太陽、惑星の構造と、それらを明らかにするための物理学の原理を説明できること。また、それらの法則を日常生活でどのように活用されているかを説明できること。
さらに、科学と私たちの社会がどのように結びついているのか、科学をどう活用するべきであるかを具体的に提示できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
・毎回、授業で使用する資料の一部を学習支援システムを利用して配付します。
・各回での質問や意見を求めます。フィードバックは、次回の授業時を目処に取り上げます。
・毎回の授業で、最近の科学ニュースなどを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と物理の学び方についての説明
2	物理学とはどのような学問か	物理学の研究領域について理解する
3	地球物理学（１）	地球内部の構造について理解する
4	地球物理学（２）	地震や津波の原理について理解する
5	大気物理学・気象学（１）	地球大気の構造について理解する
6	大気物理学・気象学（２）	気象現象について理解する
7	太陽物理学（１）	太陽の特性について理解する
8	太陽物理学（２）	太陽が光を生み出すしくみを理解する
9	光物理学	光とはなにか、空の色や海の色が特有の色を示す理由を理解する
10	惑星物理学（１）	私たちの太陽系について理解する
11	惑星物理学（２）	太陽系外に存在する惑星系について理解する
12	宇宙物理学・天文学（１）	ブラックホールなどの高密度天体について理解する
13	宇宙物理学・天文学（２）	銀河について、また宇宙の大規模な構造について理解する
14	科学技術が果たす役割	科学技術は私たちの社会にどのような関わりをもつかを理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。
・本授業の準備学習・復習時間は、各回4時間を標準とする。予習・復習の際には、教科書の該当部分を熟読すること。

【テキスト（教科書）】
『「なぜ・どうして」からはじめる物理学』、藤田貢崇・著、培風館、2024年、￥2,640（税込）

【参考書】
・『ブリタニカ　ビジュアル大図鑑』、NHK出版、2024年
・『最新天文百科―宇宙・惑星・生命をつなぐサイエンス―』、丸善、2010年

【成績評価の方法と基準】
・期末試験による成績で評価を行い（100％）、60％以上の得点率で単位を認定する。

【学生の意見等からの気づき】
・理系科目に馴染みのない受講者でも関心や興味を高めることができるような内容を加えています。

【学生が準備すべき機器他】
・学習支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】
・本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline (in English)】
・This course deals with the fundamental geophysics, planetary physics and astrophysics. It also enhances the development of students' skill in understanding science communications.
・At the end of the course, students are expected to understand the structure of planets, black holes, galaxies and the whole universe.
・Your study time will be more than four hours for a class.
・Final grade will be calculated according to the term-end examination (100%).

PHY100CA（物理学 / Physics 100）

物理学Ｂ

藤田　貢崇

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：２単位

【経済学部：本授業コードは経済学科生用】
社会学部は社会学科生のみ履修可能な授業コード（社会学部生用授業コード：L0092）です。
社会政策科学科・メディア社会学科の学生は、K5356（社会学部生用授業コード：L0094）の物理学Ｂを確認してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、宇宙の歴史や将来について説明し、物質の構造や起源について素粒子の考え方で説明し、日常生活で経験する現象を科学的に説明する力を身につけます。さらに、科学と社会の関わりについても理解を深めます。

【到達目標】
宇宙の歴史や将来や、物質の構造や起源について現代物理学の考え方で説明できること。また、それらの法則を日常生活でどのように活用されているかを説明できること。
さらに、科学と私たちの社会がどのように結びついているのか、科学をどう活用するべきであるかを具体的に提示できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
・毎回、授業で使用する資料の一部を学習支援システムを利用して配付します。
・各回での質問や意見を求めます。フィードバックは、次回の授業時を目処に取り上げます。
・毎回の授業で、最近の科学ニュースなどを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と物理の学び方についての説明
2	宇宙物理学・天文学（１）	宇宙が暗い理由について、宇宙論的な考え方から理解する
3	観測天文学	観測天文学はなにを観測しているか、どのように観測しているかについて理解する
4	宇宙物理学・天文学（２）	宇宙の歴史の概観を理解する
5	宇宙物理学・天文学（３）	宇宙初期の状況について理解する
6	原子核物理学（１）	物質の組成を原子・分子の観点から理解する
7	原子核物理学（２）	原子の構造について理解する
8	素粒子物理学（１）	物質を構成する究極の単位について理解する
9	素粒子物理学（２）	現代の素粒子モデルを理解する
10	素粒子物理学（３）	二重スリット実験など、素粒子について常識では説明し難い事実について理解する
11	宇宙物理学・天文学（４）	現代の宇宙論の重要な要素である暗黒物質・暗黒エネルギーについて理解する
12	宇宙物理学・天文学（５）	現代の宇宙論による、今後の宇宙の状況について理解する
13	宇宙生物物理学	地球の生物誕生と、地球外生命体の存在可能性について理解する
14	科学技術の方向性	福島第一原子力発電所の廃炉の現状についての専門家からの説明を通じて、科学技術の方向性について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。
・本授業の準備学習・復習時間は、各回4時間を標準とする。予習・復習の際には、教科書の該当部分を熟読すること。

【テキスト（教科書）】
『「なぜ・どうして」からはじめる物理学』、藤田貢崇・著、培風館、2024年、￥2,640（税込）

【参考書】
・『ブリタニカ　ビジュアル大図鑑』、NHK出版、2024年
・『最新天文百科―宇宙・惑星・生命をつなぐサイエンス―』、丸善、2010年

【成績評価の方法と基準】
・期末試験による成績で評価を行い（100％）、60％以上の得点率で単位を認定する。

【学生の意見等からの気づき】
・理系科目に馴染みのない受講者でも関心や興味を高めることができるような内容を加えています。

【学生が準備すべき機器他】
・学習支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】
・本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline (in English)】
・This course deals with the fundamental astrophysics, cosmology and quantum physics. It also enhances the development of students' skill in understanding science communications.
・At the end of the course, students are expected to understand the origin of Universe and the structure of atoms.
・Your study time will be more than four hours for a class.
・Final grade will be calculated according to the term-end examination (100%).

PHY100CA（物理学 / Physics 100）

物理学Ａ

藤田　貢崇

開講時期：**春学期授業/Spring**　　単位：**2単位**

【経済学部：本授業コードは国際経済学科生・現代ビジネス学科生用】
社会学部は社会政策科学科・メディア社会学科のみ履修可能な授業コード（社会学部生用授業コード：L0093）です。
社会学科生は、K5353（社会学部生用授業コード： L0091 ）の物理学Ａを確認してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、天体としての銀河や太陽、惑星の構造と、それらを明らかにするための物理学の原理を説明し、日常生活で経験する現象を科学的に説明する力を身につけます。さらに、科学と社会の関わりについても理解を深めます。

【到達目標】
天体としての銀河や太陽、惑星の構造と、それらを明らかにするための物理学の原理を説明できること。また、それらの法則を日常生活でどのように活用されているかを説明できること。
さらに、科学と私たちの社会がどのように結びついているのか、科学をどう活用するべきであるかを具体的に提示できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
・毎回、授業で使用する資料の一部を学習支援システムを利用して配付します。
・各回での質問や意見を求めます。フィードバックは、次回の授業時を目処に取り上げます。
・毎回の授業で、最近の科学ニュースなどを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と物理の学び方についての説明
2	物理学とはどのような学問か	物理学の研究領域について理解する
3	地球物理学（１）	地球内部の構造について理解する
4	地球物理学（２）	地震や津波の原理について理解する
5	大気物理学・気象学（１）	地球大気の構造について理解する
6	大気物理学・気象学（２）	気象現象について理解する
7	太陽物理学（１）	太陽の特性について理解する
8	太陽物理学（２）	太陽が光を生み出すしくみを理解する
9	光物理学	光とはなにか、空の色や海の色が特有の色を示す理由を理解する
10	惑星物理学（１）	私たちの太陽系について理解する
11	惑星物理学（２）	太陽系外に存在する惑星系について理解する
12	宇宙物理学・天文学（１）	ブラックホールなどの高密度天体について理解する
13	宇宙物理学・天文学（２）	銀河について、また宇宙の大規模な構造について理解する
14	科学技術が果たす役割	科学技術は私たちの社会にどのような関わりをもつかを理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。
・本授業の準備学習・復習時間は、各回4時間を標準とする。予習・復習の際には、教科書の該当部分を熟読すること。

【テキスト（教科書）】
『「なぜ・どうして」からはじめる物理学』、藤田貢崇・著、培風館、2024年、￥2,640（税込）

【参考書】
・『ブリタニカ　ビジュアル大図鑑』、NHK出版、2024年
・『最新天文百科―宇宙・惑星・生命をつなぐサイエンス―』、丸善、2010年

【成績評価の方法と基準】
・期末試験による成績で評価を行い（100％）、60％以上の得点率で単位を認定する。

【学生の意見等からの気づき】
・理系科目に馴染みのない受講者でも関心や興味を高めることができるような内容を加えています。

【学生が準備すべき機器他】
・学習支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】
・本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline (in English)】
・This course deals with the fundamental geophysics, planetary physics and astrophysics. It also enhances the development of students' skill in understanding science communications.
・At the end of the course, students are expected to understand the structure of planets, black holes, galaxies and the whole universe.
・Your study time will be more than four hours for a class.
・Final grade will be calculated according to the term-end examination (100%).

PHY100CA（物理学 / Physics 100）

物理学Ｂ

藤田　貢崇

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2単位

【経済学部：本授業コードは国際経済学科生・現代ビジネス学科生用】
社会学部は社会政策科学科・メディア社会学科のみ履修可能な授業コード（社会学部生用授業コード：L0094）です。
社会学科生は、K5354（社会学部生用授業コード：L0092）の物理学Ｂを確認してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、宇宙の歴史や将来について説明し、物質の構造や起源について素粒子の考え方で説明し、日常生活で経験する現象を科学的に説明する力を身につけます。さらに、科学と社会の関わりについても理解を深めます。

【到達目標】
宇宙の歴史や将来や、物質の構造や起源について現代物理学の考え方で説明できること。また、それらの法則を日常生活でどのように活用されているかを説明できること。
さらに、科学と私たちの社会がどのように結びついているのか、科学をどう活用するべきであるかを具体的に提示できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
・毎回、授業で使用する資料の一部を学習支援システムを利用して配付します。
・各回での質問や意見を求めます。フィードバックは、次回の授業時を目処に取り上げます。
・毎回の授業で、最近の科学ニュースなどを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と物理の学び方についての説明
2	宇宙物理学・天文学（1）	宇宙が暗い理由について、宇宙論的な考え方から理解する
3	観測天文学	観測天文学はなにを観測しているか、どのように観測しているかについて理解する
4	宇宙物理学・天文学（2）	宇宙の歴史の概観を理解する
5	宇宙物理学・天文学（3）	宇宙初期の状況について理解する
6	原子核物理学（1）	物質の組成を原子・分子の観点から理解する
7	原子核物理学（2）	原子の構造について理解する
8	素粒子物理学（1）	物質を構成する究極の単位について理解する
9	素粒子物理学（2）	現代の素粒子モデルを理解する
10	素粒子物理学（3）	二重スリット実験など、素粒子について常識では説明し難い事実について理解する
11	宇宙物理学・天文学（4）	現代の宇宙論の重要な要素である暗黒物質・暗黒エネルギーについて理解する
12	宇宙物理学・天文学（5）	現代の宇宙論による、今後の宇宙の状況について理解する
13	宇宙生物物理学	地球の生物誕生と、地球外生命体の存在可能性について理解する
14	科学技術の方向性	福島第一原子力発電所の廃炉の現状についての専門家からの説明を通じて、科学技術の方向性について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。
・本授業の準備学習・復習時間は、各回4時間を標準とする。予習・復習の際には、教科書の該当部分を熟読すること。

【テキスト（教科書）】
『「なぜ・どうして」からはじめる物理学』、藤田貢崇・著、培風館、2024年、￥2,640（税込）

【参考書】
・『ブリタニカ　ビジュアル大図鑑』、NHK出版、2024年
・『最新天文百科―宇宙・惑星・生命をつなぐサイエンス―』、丸善、2010年

【成績評価の方法と基準】
・期末試験による成績で評価を行い（100％）、60％以上の得点率で単位を認定する。

【学生の意見等からの気づき】
・理系科目に馴染みのない受講者でも関心や興味を高めることができるような内容を加えています。

【学生が準備すべき機器他】
・学習支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】
・本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline (in English)】
・This course deals with the fundamental astrophysics, cosmology and quantum physics. It also enhances the development of students' skill in understanding science communications.
・At the end of the course, students are expected to understand the origin of Universe and the structure of atoms.
・Your study time will be more than four hours for a class.
・Final grade will be calculated according to the term-end examination (100%).

BSC100CA（基礎化学 / Basic chemistry 100）

Basic Science for Global Environment A

山﨑　友紀

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**火2**/Tue.2　｜　キャンパス：**多摩** /Tama
毎年・隔年：　｜　科目主催学部：Economics
備考（履修条件等）：

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This class provides a comprehensive overview of environmental science.
Throughout the course, we will examine environmental issues and investigate realistic solutions. By the end of this course, you will have a greater understanding of the relationships between the environmental factors that affect our world.

【到達目標】
When you have finished this course, you will be able to explain the basic science such as chemistry, biology, physics and geology behind environmental issues. You will be able to evaluate information, analyze scientific data/reasons logically. Also you can consider multiple viewpoints on environmental issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
Lecture and discussion;
The class will use PowerPoint files and video to introduce environmental topics. The instructor will give some feedback on assignments during the class or office hours.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
WEEK 1	Course guidance and Introduction to Environmental Science; Ch.1	Complexity of our wonderful planet, How to interpret Scientific Data and Graphs
WEEK 2	Science and Sustainability; Ch.1	The nature of Environmental Science
WEEK 3	Earth's Physical Systems; Ch.2	Matter(Chemistry), Energy, Geology and Ecosystems
WEEK 4	Evolution, Biodiversity and Population Ecology; Ch.3	Levels of Ecological Organization, Conserving Biodiversity
WEEK 5	Species Interactions and Community Ecology; Ch.4	History of Life's Diversification, Earth's Biomes
WEEK 6	Environmental Systems and Ecosystem Ecology; Ch.5	Ecosystems, Biogeochemical Cycles
WEEK 7	Ethics, Economics, and Sustainable Development; Ch.6	Environmental/Ecological Economics, Sustainable Development
WEEK 8	Environmental Policy; Ch.7	Making Decisions and Solving Problems, International Environmental Policy
WEEK 9	Human Population; Ch.8	Demography, Population and Society
WEEK 10	Soil Science and Agriculture; Ch.9	Sustainable Agriculture, Fertilizer, World Climate
WEEK 11	Biotechnology and the Future of Food; Ch.10	Food Science, Genetic Engineering/GMO
WEEK 12	Biodiversity and Conservation Biology, Life's Diversity on the Earth; Ch.11	Extinction and Biodiversity Loss, Benefits of Biodiversity
WEEK 13	Forest Management and Protect Areas; Ch.12	Deforestation, Biological Resources, Resource Management
WEEK 14	Review of this semester	Discussion/Q&A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
The standard preparation and review time for this class is two hours each.

【テキスト（教科書）】
Withgott and Laposata 2017. Environment:The Science behind the Stories, Pearson; 6th ed.
https://www.pearson.com/en-us/subject-catalog/p/environment-the-science-behind-the-stories/P200000007571/9780134873657
"E-textbook" is strongly recommended for this course.
DO NOT use other edition because page numbers and content are different.

【参考書】
1)Berg Raven, Hassenzahl 2012. Environment 9th, ed. John Wiley &Sons
2)『地球環境学入門　第3版』山﨑友紀（講談社サイエンティフィク）
3)David Turner, The Green Marble 2018. Earth System Science and Global Sustainability, ed. Columbia University Press
4)Jay H. Withgott, Matthew Laposata 2018. Essential Environment, ed. Pearson; 6 edition

【成績評価の方法と基準】
Participation(25%), Contribution to Class Discussion/Class Quiz(25%),
Assignments(50%)

【学生の意見等からの気づき】
Prepare the answers and your opinion for "Class Quiz". PLEASE USE the textbook for the Questions.

【その他の重要事項】
To successfully complete this course, you must do the following:
· Attendance and Punctuality are basic requirements
· Read the textbook before the classas much as you can
· Finish weekly questions
· Complete and submit the class project and assignments
Instructor's Office Hours are by appointment.
Write to yyuki@hosei.ac.jp to schedule an appointment.

BSC100CA（基礎化学 / Basic chemistry 100）

Basic Science for Global Environment B

山﨑　友紀

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**火**2/Tue.2　｜　キャンパス：**多摩** /Tama
毎年・隔年：　｜　科目主催学部：Economics
備考（履修条件等）：

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This class provides a comprehensive overview of environmental science.
Throughout the course, we will examine environmental issues and investigate realistic solutions. By the end of this course, you will have a greater understanding of the relationships between the environmental factors that affect our world.

【到達目標】
When you have finished this course, you will be able to explain the basic science such as chemistry, biology, physics and geology behind environmental issues. You will be able to evaluate information, analyze scientific data/reasons logically. Also you can consider multiple viewpoints on environmental issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
Lecture and discussion;
The class will use PowerPoint files and video to introduce environmental topics. The instructor will give some feedback on assignments during the class or office hours.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
WEEK 1	The Urban Environment and Urban Sustainability; Ch.13	Impacts of Urbanizaion, Smart growth and New Urbanism
WEEK 2	Environmental Health and Toxicology; Ch.14	Health Hazard, Effects of Toxic chemicals on Organisms, Risk Assessment/ Management
WEEK 3	Fresh Water Systems and Resources; Ch.15	Global Aquatic system, Water Pollution, Waste Water Treatment
WEEK 4	Marine and Coastal Systems and Resources; Ch.16	Marine Pollution, Marine Biodiversity, Marine Conservation
WEEK 5	The Atmosphere, Air Quality, and Pollution Control; Ch. 17	Large-scale Wind Circulation System, Ozone Depletion, Air Pollution, Acid Rain
WEEK 6	Global Climate Change; Ch.18	Global Warming, Climate Change and Economics, Kyoto Protocol vs. Paris Accord
WEEK 7	Midterm Adjustment, Review	Essay/Report, Q&A
WEEK 8	Fossil Fuels, Their Impacts; Ch.19	Energy Sources, Energy Efficiency, Economic Impacts of Fossil Fuel
WEEK 9	Conventional Energy Alternatives; Ch.20	Nuclear Energy Use, Environmental Impacts of Energy Use, Bioenergy, Hydroelectric Power
WEEK 10	New Renewable Energy Alternatives; Ch.21	Wind Power, Geothermal, Solar, Hydrogen
WEEK 11	Managing Our Waste; Ch.22	Waste Stream, Municipal Solid Waste, Recycling, Managing Hazardous Waste
WEEK 12	Minerals and Mining; Ch.23	Earth's Mineral Resources, Mining Methods and Their Impacts
WEEK 13	Sustainable Solutions; Ch.24	Environmental Protection Can Enhance Economic Opportunity.
WEEK 14	Total Review & Presentation	Presentation and Q&A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
The standard preparation and review time for this class is TWO HOURS each.

【テキスト（教科書）】
Withgott and Laposata 2017. Environment:The Science behind the Stories, Pearson; 6th ed.
https://www.pearson.com/en-us/subject-catalog/p/environment-the-science-behind-the-stories/P200000007571/9780134873657
"E-textbook" is strongly recommended for this course.
DO NOT use other edition because page numbers and content are different.

【参考書】
1)Berg Raven, Hassenzahl 2012. Environment 9th, ed. John Wiley &Sons
2)『地球環境学入門　第２版』山﨑友紀（講談社サイエンティフィク）
3)David Turner, The Green Marble 2018. Earth System Science and Global Sustainability, ed. Columbia University Press
4)Jay H. Withgott, Matthew Laposata 2018. Essential Environment, ed. Pearson; 6 edition

【成績評価の方法と基準】
Participation(25%), Contribution to Class Discussion/Class Quizzes(25%),
Assignments(50%)

【学生の意見等からの気づき】
Prepare the answers and your opinion for "Class Quiz". PLEASE USE the textbook for the Questions.

【その他の重要事項】
To successfully complete this course, you must do the following:
· Attendance and Punctuality are basic requirements
· Read the textbook and review it before the class
· Finish weekly quizzes
· Complete and submit the class project and assignments
Instructor's Office Hours are by appointment.
Write to yyuki@hosei.ac.jp to schedule an appointment.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）

社会保障論 A

小黒　一正

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
少子高齢化が進む中、日本の社会保障は大きな転換点に直面している。社会保障制度の役割を再考しつつ、諸外国の社会保障制度との比較を通じて、日本の社会保障制度の現状や課題を講義する。

【到達目標】
社会保障論を学ぶことで、日本の社会保障を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。社会保障の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。
【留意事項】
なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	人口の分析	人口ピラミッド、人口に関する公的統計、日本の人口の歴史
第3回	日本の社会保障制度と社会保障給付費	定義、GDPと社会保障給付費、財源
第4回	年金制度１	年金制度の仕組み
第5回	年金制度２	年金制度の問題点
第6回	年金制度３	今後の年金制度の方向性と諸外国の年金制度
第7回	医療保険制度１	医療保険制度の仕組み
第8回	医療保険制度２	医療保険制度の問題点と諸外国の医療保険制度
第9回	介護保険制度	介護保険制度の仕組み、問題点と諸外国の介護保険制度
第10回	生活保護制度１	生活保護制度の仕組みと問題点
第11回	生活保護制度２	諸外国の公的扶助制度
第12回	雇用保険制度	雇用保険制度の仕組み
第13回	子育て支援	児童手当・保育サービス、育児休業制度
第14回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
小塩 隆士『社会保障の経済学（第4版）』日本評論社

【参考書】
厚生労働省『厚生労働白書』各年版
鈴木亘『だまされないための年金・医療・介護入門』東洋経済新報社
西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞出版社
西沢和彦『税と社会保障の抜本改革』日本経済新聞出版社
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学15講』新世社
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策: 経済学的アプローチへの招待』日本評論社

【成績評価の方法と基準】
現在のところ、期末試験100%で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
初回授業に必ず出席すること。
なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】
With the declining birthrate and aging population, Japan's social security system is facing a major turning point. Reconsidering the role of the social security system and comparing Japan's system with that of other countries, the goals of this course are to understand the current situation and issues of the Japanese social security system. Your required study time is at least 4 hours for a class. At present, the evaluation for students would be based on the score of the final exam (100%).

ECN300CA（経済学 / Economics 300）

社会保障論Ｂ

小黒　一正

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会保障論A（日本の社会保障制度）の理解を深めるため、社会保障論Bでは、社会保障制度を支える財政制度や、社会保障の経済分析などについて、経済学の視点から講義する。受講者は、ミクロ経済学・公共経済学の基礎を学んでいることが望ましい。

【到達目標】
日本の社会保障の現状と課題を理解し、経済学の視点から社会保障の将来展望について考察するための基礎知識の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。
【留意事項】
なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	財政と社会保障	社会保障制度の現状と財源
第3回	課税の経済分析１	租税の経済への影響
第4回	課税の経済分析２	望ましい租税政策のあり方
第5回	公債発行の経済分析	公債発行による経済への影響
第6回	所得再分配	所得格差の指標
第7回	社会保障の経済分析１	望ましい生活保護制度のあり方
第8回	社会保障の経済分析２	モラルハザード、逆選択
第9回	社会保障の経済分析３	積立方式と賦課方式、マクロ経済への影響
第10回	少子化対策	少子高齢社会における少子化政策
第11回	世代間格差	世代会計
第12回	近年の社会保障改革１	年金改革
第13回	近年の社会保障改革２	医療・介護改革、地域包括ケア
第14回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
小塩隆士『コア・テキスト　財政学』新世社
麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学15講』新世社
林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣

【参考書】
阿部彩・國枝繁樹・鈴木亘・林正義『生活保護の経済分析』東京大学出版会
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
小塩隆士『社会保障の経済学（第4版）』日本評論社
川口洋行『医療の経済学（第2版）』日本評論社
畑農鋭矢・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
『図説　日本の財政』各年度版 東洋経済新報社
『図説　日本の税制』各年度版 財経詳報社

【成績評価の方法と基準】
現在のところ、期末試験100%で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
初回授業に必ず出席すること。
なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】
To deepen the understanding of “social security theory A” (the Japanese social security system), in this course (social security theory B) we will employ economic analysis to study the fiscal system that supports the social security system. The goals of this course are to understand the roles of the social security system from an economics perspective. Students are expected to learn the basics of microeconomics and public economics. Your required study time is at least 4 hours for a class. At present, the evaluation for students would be based on the score of the final exam (100%).

ECN300CA（経済学 / Economics 300）

特別講義 （寄付講座　証券市場論）

大和証券（株）

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は、金融商品一般に関する入門編である。以下の3点を踏まえ、金融商品市場の今後の役割を考察していく。
①金融商品市場の機能と役割を理解する。
②金融商品市場での主な商品（株式・債券・投資信託）を学ぶ。
③M＆Aなど、最近の市場動向や新しい潮流を知る。
講師には実務家を配し、金融市場に対する基本的な理解をベースに、理論に留まらずなるべく現実に直面しているテーマに触れる。

【到達目標】
株式・債券等、有価証券を活用した直接金融の社会的意義を述べることが出来、また、様々な経済環境下において、それら有価証券の値動きの特徴やリスクの所在を説明することが出来る。
At the end of the course, the students are expected to be able to explain the social significance of direct financing using securities such as stocks and bonds, and to explain the characteristics and risks of price movements of these securities under various economic environments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】
進め方としては、資料を熟読し、15～20分程度の小テストをして頂く予定です。ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸについては、小テストの結果概要を次週講義時に公表し、理解度の低いところを認識してもらい再度重点的に勉強してもらえるよう指導いたします。
As a way to proceed, we plan to read the materials carefully and take a small test of about 15 to 20 minutes. As for feedback, we will announce the summary of the quiz results during the next week's lecture, and we will instruct you to recognize the areas where your understanding is low and to focus on studying again.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	なぜ証券市場を学ぶのか
第2回	金融市場の役割	直接金融と間接金融
第3回	経済情報の見方	経済の基礎知識
第4回	資産運用とリスク	資産運用のポイント
第5回	株式市場①	株式の種類
第6回	株式市場②	株価の形成要因
第7回	債券市場①	債券のキーワード
第8回	債券市場②	債券の利回り
第9回	投資信託	投資信託の特徴
第10回	金融商品ポートフォリオ	資産運用の組み合わせ
第11回	ファイナンシャルプランニング	資金キャッシュフロー・マネジメント
第12回	M＆A	最近の事例紹介
第13回	証券関連規制と証券会社 総括	証券関連規制の枠組み
第14回	試験・まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の準備学習については特になし。復習時間として4時間程度。
Nothing in particular about preparatory study. Approximately 4 hours of study time.

【テキスト（教科書）】
各回講義用のレジュメを配布する。
Distribute resumes for each lecture.

【参考書】
必要に応じて参考文献を指示する。
Indicate references where necessary.

【成績評価の方法と基準】
毎回講義終了後に講義内容の理解度をはかる小テストの実施（50%）
期末試験（50%）
Implementation of a quiz after each lecture to measure the degree of understanding of the lecture content (50%)
Final exam (50%)

【学生の意見等からの気づき】
アンケート実施なし

【その他の重要事項】
現役の証券会社員が金融市場の機能と役割、市場動向、金融商品等を解説する。

【Outline (in English)】
This lecture is an introduction to financial instruments in general. We will examine the future role of financial instruments markets based on the following three points.
1) Understand the functions and roles of financial instruments markets.
(2) Learn about the main products in the financial instruments market (stocks, bonds, and investment trusts) (3) Learn about recent market trends and new trends, such as mergers and acquisitions
The lecturers will be practitioners, and based on a basic understanding of financial markets, the course will go beyond theory to touch on topics that are faced in reality.

CAR100EA（キャリア教育 / Career education 100）

職業社会論

依田　素味

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**火4**/Tue.4

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
職業社会を大きな視点からとらえ、職業に就くとはどういうことかについて探ります。入門的な授業として、職業と社会のかかわりについて理解することを目的とし、自分なりの職業観を思考します。

【到達目標】
①職業キャリアを考える入口として、働く社会全体を俯瞰することができる。
②様々な職業キャリアの在り方について概説することができる。
③自分自身の職業社会に対する課題意識を明らかにし、客観的な視点を形成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3 に関連。
DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
前もって、レジュメをWeb上の授業支援システム・資料のところにアップしますので、授業前に予習しておいてください。
レポート課題やリアクションペーパーについては、さらに理解が深まるように授業内で解説を加え、フィードバックします。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	職業社会と自分自身	イントロダクション、職業と仕事
2	職業社会に関する諸定義	ライフキャリアとワークキャリア
3	社会の変遷と職業	AIの普及による職業の変化
4	雇用という職業生活Ⅰ	多様な働き方の概観
5	雇用という職業生活Ⅱ	雇用の歴史的概観
6	雇用という職業生活Ⅲ	正規雇用と非正規雇用
7	新・社会人基礎力	社会人として求められる力
8	公務員という職業生活	国や自治体で働く
9	個人のキャリアデザイン (ゲスト講師)	個人のキャリアを形成するとは (先輩のキャリアを参考に)
10	自営という職業生活	様々な自営業者として働く
11	職業生活と地域社会	地域コミュニティとの関係
12	職業社会の今日的な社会問題	「働き方改革」の背景と今後の課題
13	早期退職と転職について	グループディスカッションで周囲の意見を聞く
14	まとめ・試験	授業内確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
参考書は授業内でその都度紹介します。
レジュメは授業支援システムの教材のところに、事前にアップします。

【成績評価の方法と基準】
①期末試験　60%(最終的な全体理解の確認)
②中間レポート・課題　20%(課題に関する理解度の確認)
③授業内コメント、リアクションペーパー 20%(積極的な授業参加の状況評価)

【学生の意見等からの気づき】
学生のみなさん一人一人と双方向のコミュニケーションが図れるように、個別の質問を受け付ける時間を設定します。

【その他の重要事項】
①1年次から受講できる視野形成科目です。就職活動に関して情報提供は行いますが、そのためのスキルを身につけることを第一の目的とした科目ではありません。
②社会学部を卒業し実際に企業で働く経験を持つ教員が、社会で職業に就くことについて講義します。

【Outline (in English)】
1. Course outline
We will view the occupational society from wide viewpoint, and we will inquire what it means to hold an occupation.
As an introductory lesson, we aim to understand the relationship between occupation and society, and think about our own occupational views.
2. Learning Objectives
① To be able to look at working society as a whole from a bird's eye view as an entry point for thinking about occupational careers.
② To be able to outline various career paths.
③ Clarify one's awareness of one's own issues and form an objective viewpoint using the new basic skills for working adults as a keyword.
3. Learning activities outside of classroom
Students will look at the professional society surrounding them, discover their own issues based on the theme, and submit them as a [report]. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
4. Grading Criteria/Policy
① In-class mini-report 20%(evaluation of active class participation)
② Mid-term report 20%(Confirmation of understanding of the assignment)
③ Final exam 60%(Final confirmation of overall understanding)

PLN100EA（地球惑星科学 / Earth and planetary science 100）

地球と自然Ⅰ

吉岡　美紀

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**木**4/Thu.4

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人類は地球の自然の中で生息しています。地球の自然のうち地学にかかわる基礎的な事象や仕組みについて学び、さらにそれらと人間社会とのよりよいかかわり方について考察できるようになることを目指します。
春学期前半では、学習していくための基礎を確認していきます。

【到達目標】
・科学的根拠に基づいて地球上の事象をとらえる。
・自然の情報を入手して活用できる。
・人間社会と地球科学との関わりついて考察できる基礎力を身につける.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3 に関連。
DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
・1～4年生の履修が可能です。
・主にPCプロジェクタを使用して講義を行ない、課題やリアペの提出があります。
・提出された課題等について、授業中に全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と進め方の説明 /地理院地図の使用方法
第2回	地球科学入門	素朴概念と科学概念
第3回	地球の経度	経度とそれに関わる事象
第4回	地球の緯度	緯度とそれに関わる事象
第5回	地図	地形図、各種地図
第6回	基本単位	地球科学で使用する基本単位
第7回	地磁気とチバニアン	地磁気、地層の基礎
第8回	地球の内部	プレートテクトニクス
第9回	河川	河川と河川管理
第10回	水害と防災	地図で防災情報を入手
第11回	地形	河川地形、寒冷地地形
第12回	北極	北極についての基礎
第13回	北極の自然	北極の自然と変化
第14回	北極をめぐる話題	北極探検時代の話題から、人間社会について考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しません。
「学習支援システム」で授業資料を配付します。

【参考書】
・みわたす・つなげる自然地理学、小野映介/吉田圭一郎編、古今書院
・日本列島 100 万年史、山崎晴雄/久保純子、講談社ブルーバックス
・はじめて学ぶ大学教養地学、杉本憲彦ほか、慶應義塾大学出版会
・フィールドに入る（100万人のフィールドワーカーシリーズ 1）、椎野若菜ほか編、古今書院
・フィールドワークの安全対策（100万人のフィールドワーカーシリーズ 9）、澤柿教伸ほか編、古今書院

【成績評価の方法と基準】
・平常点(小テスト、課題、リアクションペーパー等の内容)による評価が50%
・期末試験による評価が50%

【学生の意見等からの気づき】
全体の中での重要ポイントがわかりにくいとの指摘があったので、対応予定。

【学生が準備すべき機器他】
リアクションペーパーを指定します。事前にキャンパス内に設置されている印刷端末に本人のアカウントでログインしてプリントアウトしてきてください。詳細は学習支援システムで連絡するので確認のこと。

【その他の重要事項】
教員の実務経験の内容は、北極観測・研究の補助、中学高校地学教員、日本語教員、測量会社での地図関連作業で、それらを授業に生かします。

【Outline (in English)】
This course provides students with the opportunity to learn about the structure of the Earth and its environment, together with fundamental scientific concepts and theories required to understand geological processes and the interaction between different spheres and phenomenon.
Grading will be decided based on each task, class contribution (50%), and term-end examination (50%).

PLN200EA（地球惑星科学 / Earth and planetary science 200）

地球と自然Ⅱ

吉岡　美紀

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**木**4/Thu.4

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人類は地球の自然の中で生息しています。地球の自然のうち地学にかかわる基礎的な事象や仕組みについて学び、さらにそれらと人間社会とのよりよいかかわり方について考察できるようになることを目指します。

【到達目標】
・科学的根拠に基づいて地球上の事象をとらえる。
・自然の情報を入手して活用できる。
・人間社会と地球科学との関わりついて考察できる基礎力を身につける.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3 に関連。
DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
・1～4年生の履修が可能です。
・主にPCプロジェクタを使用して講義を行ない、課題、リアペの提出があります。
・提出された課題等について、授業中に全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、進め方の説明 /春学期の復習
第2回	地震	地震発生のメカニズム
第3回	地震と防災	地図で防災情報を入手
第4回	火山とテフラ	火山、火山災害
第5回	科学と人間社会	科学と社会のかかわり
第6回	地形トピックス	多摩キャンパス周辺の地形
第7回	気候等区分	地球上の気候、土壌等の区分
第8回	気象の基礎	気象と観測
第9回	雪と氷	雪、氷河、海氷
第10回	地球の水と海洋	海洋、熱塩循環
第11回	海水準変動と段丘地形	海水準変動とそれによって形成される地形
第12回	気候変動	古気候、氷期・間氷期
第13回	地球温暖化	IPCC評価報告書
第14回	最近のトピックスから	地球科学で話題となっているテーマについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しません。
「学習支援システム」で授業資料を配付します。

【参考書】
・みわたす・つなげる自然地理学、小野映介/吉田圭一郎編、古今書院
・日本列島 100 万年史、山崎晴雄/久保純子、講談社ブルーバックス
・はじめて学ぶ大学教養地学、杉本憲彦ほか、慶應義塾大学出版会
・フィールドに入る（100万人のフィールドワーカーシリーズ 1）、椎野若菜ほか編、古今書院
・フィールドワークの安全対策（100万人のフィールドワーカーシリーズ 9）、澤柿教伸ほか編、古今書院

【成績評価の方法と基準】
・平常点(小テスト、課題、リアクションペーパー等の内容)による評価が50%
・期末試験による評価が50%

【学生の意見等からの気づき】
全体の中での重要ポイントがわかりにくいとの指摘があったので、対応予定。

【学生が準備すべき機器他】
リアクションペーパーを指定します。事前にキャンパス内に設置されている印刷端末に本人のアカウントでログインしてプリントアウトしてきてください。詳細は学習支援システムで連絡するので確認のこと。

【その他の重要事項】
・春学期の「I」を受講済であることが望ましい。
・教員の実務経験の内容は、北極観測・研究の補助、中学高校地学教員、日本語教員、測量会社での地図関連作業で、それらを授業に生かします。

【Outline (in English)】
This course provides students with the opportunity to learn about the structure of the Earth and its environment, together with fundamental scientific concepts and theories required to understand geological processes and the interaction between different spheres and phenomenon.
Grading will be decided based on each task, class contribution (50%), and term-end examination (50%).

PLN200EA（地球惑星科学 / Earth and planetary science 200）

自然科学へのとびら（地学）

吉岡　美紀

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**水**3/Wed.3
備考（履修条件等）：**受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球を知るためには、野外に出かけていって実際に自然の中に身をおきながら、様々な観察・観測・試料採取・計測手法を駆使することが求められます。この授業では、野外で各自が計測してデータ取得したり地図や採取試料から情報を取得し、それを解析、利用することを学びます。

【到達目標】
地学的なフィールドワークの実践方法や考え方を自分の課題にも応用できる素養を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3 に関連。
DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
・この科目は「受講許可科目」なので、そちらの説明も確認すること。申込み締切が早いので注意。
・この授業では、多摩キャンパス内で屋外作業をしたあと室内作業をおこなう回と、室内作業のみの回があります。
・毎回、作業結果(課題)の提出があります。
・前回課題について、授業の始めにフィードバックします。
・授業計画は天候等によって順番が前後することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス /野帳の使い方	授業の概要と進め方の説明 /キャンパス内を歩いて野帳に記入
第2回	自分の身体のものさしを知る	歩測、ハンドレベルの使い方
第3回	等値線の書き方	AR sand boxで見る等高線 /天気図に等圧線を書き入れる
第4回	斜面を測る	ハンドレベルで高低計測、断面図作成
第5回	ネット地図の活用	PCの地図
第6回	地球の大きさを測る /多摩キャンパス周辺の地形	GPS計測 /野外地形観察
第7回	地図で知る防災 /地盤液状化実験	地図で防災情報を入手 /地盤液状化実験ボトル作製
第8回	多摩キャンパスを測る	平面図作成1　簡易測量
第9回	データから平面図作成	平面図作成2　自分で計測入手した数値データから図面を作成
第10回	地図を立体的に見る	アナグリフ(赤青メガネ)による地形実体視
第11回	泥の中から鉱物を取り出す	石の分類 / 鉱物観察1　鉱物の洗い出し
第12回	鉱物標本をつくる	鉱物観察2　実体顕微鏡で鉱物観察
第13回	地形を三次元で再現	簡易地形模型作製
第14回	展望と地図 /まとめ	高所からの展望で地理情報入手 /全体ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しませんが、資料を配付します。また、必要に応じ個別の文献を授業中に提示します。

【参考書】
・ナショナルジオグラフィック（月刊雑誌）
・フィールドに入る（100万人のフィールドワーカーシリーズ1）、椎野若菜ほか編、古今書院
・フィールドワークの安全対策（100万人のフィールドワーカーシリーズ 9）、澤柿教伸ほか編、古今書院

【成績評価の方法と基準】
評価配分は、毎回の提出課題が70%、確認のための小テストが20%、授業への積極的な関与が10%

【学生の意見等からの気づき】
屋外作業を行なう回は時間が不足しがちなので、前の授業回のうちに一部説明をしておく。

【学生が準備すべき機器他】
屋外作業ではキャンパス内の舗装されてない道を歩く場合もあるので、動きやすい靴で参加すること。

【その他の重要事項】
教員の実務経験の内容は、北極観測・研究の補助、中学高校地学教員、日本語教員、測量会社での地図関連作業で、それらを授業に生かします。

【Outline (in English)】
This course focuses on the practical skills required to understand geomorphological nature of the earth. Each student will be expected to participate actively in field exercises (group work) and laboratory analysis. The goal of this course is to know how to obtain and analyze earth science data from your own field work, then acquire the ability to apply practices and ideas to your study. Grading will be decided based on reports, tasks(70%), examination(20%) and class contribution(10%).

PLN200EA（地球惑星科学 / Earth and planetary science 200）

自然科学へのとびら（地学）

吉岡　美紀

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**水**3/Wed.3
備考（履修条件等）：**受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球を知るためには、野外に出かけていって実際に自然の中に身をおきながら、様々な観察・観測・試料採取・計測手法を駆使することが求められます。この授業では、野外で各自が計測してデータ取得したり地図や採取試料から情報を取得し、それを解析、利用することを学びます。

【到達目標】
地学的なフィールドワークの実践方法や考え方を自分の課題にも応用できる素養を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3 に関連。
　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
・この科目は「受講許可科目」なので、そちらの説明も確認すること。申込み締切が早いので注意。
・この授業では、多摩キャンパス内で屋外作業をしたあと室内作業をおこなう回と、室内作業のみの回があります。
・毎回、作業結果(課題)の提出があります。
・前回課題について、授業の始めにフィードバックします。
・授業計画は天候等によって順番が前後することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス /野帳の使い方	授業の概要と進め方の説明 /キャンパス内を歩いて野帳に記入
第2回	自分の身体のものさしを知る	歩測、ハンドレベルの使い方
第3回	等値線の書き方	AR sand boxで見る等高線 /天気図に等圧線を書き入れる
第4回	斜面を測る	ハンドレベルで高低計測、断面図作成
第5回	ネット地図の活用	PCの地図
第6回	地球の大きさを測る /多摩キャンパス周辺の地形	GPS計測 /野外地形観察
第7回	地図で知る防災 /地盤液状化実験	地図で防災情報を入手 /地盤液状化実験ボトル作製
第8回	多摩キャンパスを測る	平面図作成1　簡易測量
第9回	データから平面図作成	平面図作成2　自分で計測入手した数値データから図面を作成
第10回	地図を立体的に見る	アナグリフ(赤青メガネ)による地形実体視
第11回	泥の中から鉱物を取り出す	石の分類 / 鉱物観察1　鉱物の洗い出し
第12回	鉱物標本をつくる	鉱物観察2　実体顕微鏡で鉱物観察
第13回	地形を三次元で再現	簡易地形模型作製
第14回	展望と地図 /まとめ	高所からの展望で地理情報入手 /全体ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しませんが、資料を配付します。また、必要に応じ個別の文献を授業中に提示します。

【参考書】
・ナショナルジオグラフィック（月刊雑誌）
・フィールドに入る（100万人のフィールドワーカーシリーズ1）、椎野若菜ほか編、古今書院
・フィールドワークの安全対策（100万人のフィールドワーカーシリーズ 9）、澤柿教伸ほか編、古今書院

【成績評価の方法と基準】
評価配分は、毎回の提出課題が70%、確認のための小テストが20%、授業への積極的な関与が10%

【学生の意見等からの気づき】
屋外作業を行なう回は時間が不足しがちなので、前の授業回のうちに一部説明をしておく。

【学生が準備すべき機器他】
屋外作業ではキャンパス内の舗装されてない道を歩く場合もあるので、動きやすい靴で参加すること。

【その他の重要事項】
教員の実務経験の内容は、北極観測・研究の補助、中学高校地学教員、日本語教員、測量会社での地図関連作業で、それらを授業に生かします。

【Outline (in English)】
This course focuses on the practical skills required to understand geomorphological nature of the earth.　Each student will be expected to participate actively in field exercises (group work) and laboratory analysis.　The goal of this course is to know how to obtain and analyze earth science data from your own field work, then acquire the ability to apply practices and ideas to your study.　Grading will be decided based on reports, tasks(70%), examination(20%) and class contribution(10%).

PRI100EA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

コンピュータ入門

湯本　正実

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**火5**/Tue.5
備考（履修条件等）：**Web抽選科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実作業上役立つコンピュータについての知識をゼロから体系的に学習する。

【到達目標】
Windows パソコン、Word、Excel、PowerPoint の基本操作を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP2・DP4に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
実操作により基本操作を学習する。課題には指摘事項をフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	Windows 基本１	Windows 基本操作
第2週	Windows 基本２	キーボード、ファイル
第3週	電子メール	送受/転送/返信/CC/BCC
第4週	Word：文書作成ソフト	基本操作
第5週	PowerPoint：発表資料作成ソフト	基本操作
第6週	Excel(1)：計算表ソフト	選択対象は何か
第7週	Excel(2)：詳細操作	書式指定および関数
第8週	Excel(3)：詳細操作	ちょっと複雑な関数
第9週	Webについての基本知識	超入門：HTML(Webページの記述)
第10週	各アプリを組み合わせて文書作成	複数のOfficeアプリの併用
第11週	覚えておくと便利なこと	コンピュータ上の共通操作
第12週	コンピュータの明と暗	学習棄却やリテラシー
第13週	課題の作成	構想を練る＆草稿作成
第14週	課題の完成	最終版作成＋提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定しない。

【参考書】
参考ウェブページも含めて講義時に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点：50%提出課題：50%で評価する。
最終課題提出は必須である。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業で有用な知識を提示する。

【学生が準備すべき機器他】
教室の教材で十分であるが、個人用パソコンの所有者は持参をお勧めする。

【その他の重要事項】
現役のITエンジニアである教員が、実務経験等で得た知識を講義する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Systematic learning of useful computer knowledge through actual work from scratch.
【Learning Objectives】
Understand the basic operation of a Windows PC, Word, Excel, and PowerPoint.
【Learning activities outside of classroom】
The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】
Class performance rating: 30%Submission assignment: 70%.

COT100EA（計算基盤 / Computing technologies 100）

プログラミング入門

湯本　正実

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**火**5/Tue.5
備考（履修条件等）：**Web抽選科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
プログラミングについての基礎知識を包括的に理解する。

【到達目標】
サンプルを見つけて簡単なプログラミングを作成できるレベルを達成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP2・DP4に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
Processingおよび Java言語のプログラミングの初歩を身につける。実習中に指摘事項をフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	導入部	・プログラミング言語の歴史と衰勢 ・サンプル・プログラムの説明
第2週	導入部の続き 描画（グラフィックス）	・コメントは重要 ・数値と文字について
第3週	文書以外の処理および Java言語	・音を出してみる ・Java言語とは？
第4週	演算	定数、変数、算術操作
第5週	数値の表現および文字 コードについて	・10進以外の数値表現 ・文字コードの概念
第6週	条件分岐(1)	・if 文という概念 ・else という英語らしからぬ用語
第7週	条件分岐(2)	switch 文という概念
第8週	繰り返し処理	for, while 文という概念。
第9週	データの扱い	文字＆数値データ
第10週	配列	配列って何？ －具体例と操作方法
第11週	人間との「対話」	キーボード入力を処理に反映させる
第12週	Java と Eclipse	エンジニアの一歩目！
第13週	提出課題の準備	提出課題を検討
第14週	課題提出	課題を仕上げて提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定しない

【参考書】
参考ウェブページも含めて講義時に随時紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点：50%提出課題：50%で評価する。
最終課題提出は必須である

【学生の意見等からの気づき】
途中で「ついて行けない」と悲観しないでください。大づかみで楽観的に。

【学生が準備すべき機器他】
教室の教材で十分であるが、個人用パソコンの所有者は持参をお勧めする。

【その他の重要事項】
現役のITエンジニアである教員が、実務経験で得た知識を講義する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Gain a comprehensive understanding of the fundamentals of programming.
【Learning Objectives】
Enable create simple programs by referring to samples.
【Learning activities outside of classroom】
The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】
Class performance rating: 30%Submission assignment: 70%.

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED（社会学 / Sociology 300 , 社会学 / Sociology 300 , 社会学 / Sociology 300）

演習２

青木　貞茂

開講時期：**年間授業/Yearly**　｜　単位数：**4単位**
曜日・時限：**月4/Mon.4**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ブランド広告の分析および企画の理論と方法を実例により身につけ、効果的なブランド・コミュニケーションのやり方を学ぶ。その上で自分自身のブランディングに応用をしていくことを目指す。

【到達目標】
単なるブランド広告の分析に止まらずブランド・コミュニケーションを効果的に実践するレベルまで到達することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
分析のための理論、手法の基礎を学び、実践していく。同時に広告を中心とした消費情報の読解を通じて自分自身のブランド分析と構築を実現する方法論を身につける。受講者は、広告の収集、分析作業を実施した上で結果発表を行なう。演習内で発表内容へのフィードバックを行なう。本クラスでは、分析まとめ、プレゼンテーション、ディスカッションへの受講者の積極的な参加を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	演習のオリエンテーション	演習のコンセプトと全体の概要、必要な準備、予備知識などについて説明。
第2回	ブランド広告企画に関する基本知識	ブランド広告企画立案に関する基本知識
第3回	ブランド広告企画事例の設定	ブランド広告企画事例を設定する
第4回	ブランド広告事例分析方法の習得(1)	ブランド広告の成功理由を詳細な分析によって解明する方法を学ぶ
第5回	ブランド広告事例分析方法の習得(2)	ブランド広告の成功理由を詳細な分析によって解明する方法を学ぶ
第6回	ブランド広告事例分析方法の習得(3)	ブランド広告の成功理由を詳細な分析によって解明する方法を学ぶ
第7回	具体的なブランド広告企画立案とプレゼンテーション(1)	具体的なブランド広告企画の基本方針を市場環境分析に基づきプレゼンテーションする
第8回	具体的なブランド広告企画立案とプレゼンテーション(2)	具体的なブランド広告企画の基本方針を市場環境分析に基づきプレゼンテーションする
第9回	具体的なブランド広告企画立案とプレゼンテーション(3)	具体的なブランド広告企画の基本方針を市場環境分析に基づきプレゼンテーションする
第10回	具体的な施策案、表現案立案についてのオリエンテーション	自己ブランディング広告企画の立案
第11回	具体的な施策案、表現案立案についてのプレゼンテーション(1)	自己ブランディング広告企画のプレゼンテーション
第12回	具体的な施策案、表現案立案についてのプレゼンテーション(2)	自己ブランディング広告の決定
第13回	具体的な施策案、表現案立案についてのプレゼンテーション(3)	グループ研究のテーマ設定
第14回	ブランド広告企画の選定	複数のアイデアからブランド広告企画を選定する
第15回	後半のオリエンテーションとフィールドワーク（タウンウォッチング）の成果発表	合宿でのフィールドワーク＝タウンウォッチングの成果をプレゼン、新たな研究テーマの設定
第16回	自己ブランディングとは何か	自己ブランディングについてのグループ討議
第17回	自己ブランディング広告企画の基礎知識	自己ブランディング広告企画の基礎知識の習得
第18回	自己ブランディング広告企画の立案(1)	自己ブランディング広告企画の立案
第19回	自己ブランディング広告企画の立案(2)	自己ブランディング広告企画の立案
第20回	自己ブランディング広告企画の立案(3)	自己ブランディング広告企画の立案
第21回	自己ブランディング広告企画のプレゼンテーション(1)	自己ブランディング広告企画完成版、表現案のプレゼンテーション
第22回	自己ブランディング広告企画のプレゼンテーション(2)	自己ブランディング広告企画完成版、表現案のプレゼンテーション
第23回	自己ブランディング広告企画のプレゼンテーション(3)	自己ブランディング広告企画完成版、表現案のプレゼンテーション
第24回	自己ブランディング広告の決定	自己ブランディング広告についての講評
第25回	グループ研究オリエンテーション	グループ研究のテーマ設定
第26回	グループ・プレゼンテーションと評価(1)	研究結果プレゼンとディスカッション
第27回	グループ・プレゼンテーションと評価(2)	研究結果プレゼンとディスカッション
第28回	グループ・プレゼンテーションと評価(3)	研究結果プレゼンとディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ブランド広告に関する知識および事例に関する情報は、事前に予習を行なう。日常生活において広告、映画、TVドラマを積極的に視聴する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。なお、夏休み期間にゼミ合宿として日本国内のタウンウォッチング（フィールドワーク）を実施する。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜資料を配布する。

【参考書】
適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
評価は平常点（50％）と課題作成物（50％）で行う。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークの強化にいっそう取り組む。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

【その他の重要事項】

【受講者への要望】　全ての回に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望する。立案した広告企画は、実施までゼミ員が担当するので、積極的にゼミに参加することを求める。なお個別面談は事前にメールで連絡した上で個別調整する。

教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映して授業をすすめる。

【Outline (in English)】

Here we will first study the theory and method of analyzing and planning brand advertisement for effective brand communication through case studies. Then we will try to apply this to our own branding.

The goal of this course is to go beyond the mere analysis of brand advertisements to the level of effectively implementing brand communication.　They will also actively view advertisements, films, and TV dramas in their everyday lives. The standard preparation and review time for this class is two hours.　In addition, during the summer vacation, we will conduct town watching (fieldwork) in Japan at a seminar camp. Evaluation is based on ordinary points (50%) and written assignments (50%).

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED（社会学 / Sociology 400 , 社会学 / Sociology 400 , 社会学 / Sociology 400）

演習３（卒業論文）

青木　貞茂

開講時期：**年間授業/Yearly**　｜　単位数：**8単位**
曜日・時限：**火2/Tue.2**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文のテーマ設定と論文作成に必要なデータ、文献収集等、分析についての方法を学びつつ、論文作成に必要な全体構成、引用方法等の基本を習得する。研究のための仮説立案力、分析力、思考力と論文作成力を身につけることを目的とする。

【到達目標】
設定した卒業論文のテーマに基づき研究を進め、首尾一貫した仮説を論証するアカデミックな論文作成を行なう。自身の仮説を様々な方法を用いて論証することでテーマを設定して解決に向けた考え抜く力とその内容を的確に伝達する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
広告に関連した卒業論文のテーマとなる問題意識を明確にし、演習受講者の間の積極的・主体的なディスカッションを通じて具体的なテーマと仮説を定める。設定した卒業論文のテーマの論文作成に必要な全体構成、引用方法等の基本を学んだ上で、研究の進捗に沿ってより具体的な論文内容のプレゼンテーションを段階的に行なう。演習内で発表内容へのフィードバックを行なう。最終的な完成論文に対して口頭試問を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	卒業論文とは何か、執筆の進め方
第2回	論文のテーマ設定とは	問題意識に沿った論文テーマの設定の仕方
第3回	問題意識と論文テーマの発表(1)	問題意識と論文テーマの発表にともなうディスカッション
第4回	問題意識と論文テーマの発表(2)	問題意識と論文テーマの発表にともなうディスカッション
第5回	問題意識と論文テーマの発表(3)	問題意識と論文テーマの発表にともなうディスカッション
第6回	問題意識と論文テーマの発表(4)	問題意識と論文テーマの発表にともなうディスカッション
第7回	論文の構成と参考資料の収集、分析の仕方	論文の構成と参考資料の収集、分析の仕方
第8回	仮説と論文構成案、参考資料の発表(1)	仮説と論文構成案、参考資料の発表内容に治するディスカッション
第9回	仮説と論文構成案、参考資料の発表(2)	仮説と論文構成案、参考資料の発表内容に治するディスカッション
第10回	仮説と論文構成案、参考資料の発表(3)	仮説と論文構成案、参考資料の発表内容に治するディスカッション
第11回	仮説と論文構成案、参考資料の発表(4)	仮説と論文構成案、参考資料の発表内容に治するディスカッション
第12回	テーマ、仮説、構成分析内容の基本骨子の発表(1)	テーマ、仮説、構成分析内容の基本骨子に関する発表とディスカッション、概要の決定
第13回	テーマ、仮説、構成分析内容の基本骨子の発表(2)	テーマ、仮説、構成分析内容の基本骨子に関する発表とディスカッション、概要の決定
第14回	テーマ、仮説、構成分析内容の基本骨子の発表(3)	テーマ、仮説、構成分析内容の基本骨子に関する発表とディスカッション、概要の決定
第15回	論文執筆のオリエンテーション	前期に決定した基本概要に沿った論文執筆の方法をガイダンス
第16回	論文発表の方法	前期に執筆した段階での論文発表の方法をガイダンス
第17回	論文内容の中間発表(1)	論文の進捗状況に沿った内容の発表とディスカッション
第18回	論文内容の中間発表(2)	論文の進捗状況に沿った内容の発表とディスカッション
第19回	論文内容の中間発表(3)	論文の進捗状況に沿った内容の発表とディスカッション
第20回	論文内容の中間発表(4)	論文の進捗状況に沿った内容の発表とディスカッション
第21回	論文執筆に関する引用の方法等基本ルールのチェック(1)	論文執筆に関する引用の方法等基本ルールの再確認
第22回	論文執筆に関する引用の方法等基本ルールのチェック(2)	論文執筆に関する引用の方法等基本ルールの再確認
第23回	論文内容の最終発表(1)	研究論文の最終内容に関する発表とディスカッション
第24回	論文内容の最終発表(2)	研究論文の最終内容に関する発表とディスカッション
第25回	論文内容の最終発表(3)	研究論文の最終内容に関する発表とディスカッション
第26回	論文内容の最終発表(4)	研究論文の最終内容に関する発表とディスカッション
第27回	論文内容の最終発表(5)	研究論文の最終内容に関する発表とディスカッション
第28回	論文内容の最終発表(6)	研究論文の最終内容に関する発表とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
資料収集、読み込み、論文執筆は、演習時間外で行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜資料を配布する。

【参考書】
授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
評価は平常点（30％）と論文内容（70％）で行う。

【学生の意見等からの気づき】
論文の全体骨子を早期に組み立てるよう、指導を強化する。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

【その他の重要事項】
全ての回に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望する。論文作成の指導を積極的に受け、自ら主体的に資料、参考文献収集、調査等を実行することを求める。なお、個別面談は事前にメールで調整する。
教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映して広告に関する卒論指導を行なう。

【Outline (in English)】
Students will learn how to gather literature and analyze data necessary for selecting a theme and preparing their graduation thesis. At the same time, students will acquire the basics of citation method and the overall composition required for producing a paper. The class aims to provide hypothesis planning skills, analytical skills, thinking skills and ability to prepare a research paper.
Students will conduct research based on the theme of the graduation thesis they have set and write an academic paper in which they argue a coherent hypothesis. By doing so they will acquire the ability to set a theme, think through the solution, and accurately communicate the contents of their hypothesis using various methods to prove its validity. Gathering and reading materials and writing papers are to be done outside of the exercise time. The standard preparation and review time for this class is two hours. The evaluation is based on ordinary points (30%) and the content of the paper (70%).

ARS300EB, ARS300EC, ARS300ED

演習１・２

岡野内　正

開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　単位数：**4単位**
曜日・時限：**水5**/Wed.5

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
担当教員の学問的業績と向き合って議論することを通じて、現代という時代を生きることと、学問的にものごとを考えることを、受講生ひとりひとりが自分なりに結びつけることができるようにしたい。

【到達目標】
①学術書・論文の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤あらゆることがらについて問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
春学期（4月初めから7月初めまでの3か月間）は、ゼミ時間以外の火曜と金曜の夕方にオンラインあるいは対面で行われる国際系十大学合同セミナーに参加して、国際問題系のテーマに関する合同論文執筆に参加します。学期末に関西の私大との合同ゼミ、11月には学部研究発表会に参加します。秋学期は、各自の自由テーマでゼミ論文を書きます。
ただし、学びの主体は受講生なので、受講生による自治組織をつくって、ゼミ運営を進めます。さしあたりの提案は、以下のとおりです。
担当教員のライフワークの第一弾である『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』を読みながら、著者に対して、徹底的に疑問をぶつけて議論していく。受講生は毎週の読了する部分について、わかったこと、わからなかったこと、調べたこと、議論してみたいことを、学習支援システムの掲示板に書き込んでいく。毎回の授業時間では、ディベート形式の議論や少人数討論などで話し合い、知識を付けるとともに、各自の疑問をより深く発展させていく。フィードバックは、授業時間中および前後での質問時間で、さらにHoppiの掲示板を用いたやりとり、そして、オフィスアワーやメールでの直接連絡を通じて密接に行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり/Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	現代の学問状況と社会問題	授業説明と顔合わせ。ゼミ運営の役割分担。合同ゼミ合宿や学部研究発表会での報告準備などの年間計画、報告の順番などの決定。
2	ユートピアを語ることは無意味か？	テキストの「はじめに」に関する議論およびテーマに関するディベート形式の議論
3	人類は幸せになれるか？	第1章第1節①、テーマに関するディベート形式の議論。
4	一人の力は社会を変えられるか？	第1章第1節②、テーマに関するディベート形式の議論。
5	自分の幸せと人類全体の幸せを同時に追求できるか？	第1章第1節③に関するディベート形式の議論。
6	生活の安定が保障されると人は腐敗するか？	第1章第2節、およびテーマに関するディベート形式の議論。
7	飢えと貧困に直面すると人は勤勉になるか？	第1章第2節、およびテーマに関するディベート形式の議論。
8	人類が全員に衣食住を保障できないほど、地球上の物資は欠乏しているか？	第1章第2節、およびテーマに関するディベート形式の議論。
9	たまたまどんな両親のもとに生まれてくるか生まれてくるかによる環境の日本国内での格差は許せるレベルか？	第1章第2節、およびテーマに関するディベート形式の議論。
10	たまたまどんな両親のもとに生まれてくるかによる環境の格差は、人類全体では許せるレベルか？	第1章第2節、およびテーマに関するディベート形式の議論。
11	日本国内での貧富の格差は、今では正当化できない歴史的な悪事によるものか？	第1章第2節、およびテーマに関するディベート形式の議論。
12	人類社会での貧富の格差は、今では正当化できない歴史的な悪事によるものか？	第1章第2節、およびテーマに関するディベート形式の議論。
13	大企業、多国籍企業はがん細胞と同じか？	第２章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
14	連帯経済による内発的発展は可能か？	第２章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
15	アメリカが変われば世界が変わるか？	第３章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
16	ヨーロッパが変われば世界は変わるか？	第４章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
17	福祉国家は再建できるか？	第５章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
18	人びとはベーシックインカムを求めて立ち上がるか？	第６章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
19	人びとは、国境を越える支配の仕組みを見破ることができるか？	第７章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
20	SDGsは大衆のアヘンか？	第８章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
21	COVID-19は人類社会の終わりの始まりか？	第９章、ディベート形式の議論。
22	SDGsを人類社会の仕組みを変えるチャンスにできるか？	第９章、ディベート形式の議論。
23	学術論文の書き方講座１	全員にゼミ論文のテーマを語ってもらいます。
24	学術論文の書き方講座２	ゼミ論文のテーマに関する参考文献紹介。その１
25	先行研究、研究状況の整理について	ゼミ論文のテーマに関する参考文献紹介。その２
26	学部研究発表会での共同発表の検討会	合同ゼミに向けて改善点を話し合います。
27	ゼミ論文報告会１	報告と討論：ゼミ論文のプレゼンと討論。
28	ゼミ論文報告会２	ゼミ論文のプレゼンと討論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021年、3300円+税。

【参考書】
岡野内正他訳著『グローバル・ベーシック・インカム入門』（明石書店、2016年、定価2000円プラス税）。
ガイ・スタンディング著　岡野内正監訳『プレカリアート』（法律文化社、2016年、3000円プラス税）
ヘレン・カルディコット著　岡野内正他訳『狂気の核武装大国アメリカ』（集英社新書、2008年、定価777円）

【成績評価の方法と基準】
毎回の出席を前提として、掲示板に提出された毎回の書き込み40%、共同研究作業やゼミ討論への貢献について30%、ゼミ論文について30%、合計100％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
春学期の10大セミナーへの参加を必修にし、学習支援システムの掲示板と、ゼミでの共同作業やディベート形式の討論などの組み合わせによって、活気ある議論のできる関係ができるように工夫しました。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当。国際開発・人権NGOでの長年の活動経験と観察を踏まえて、教室での討論を展開します。

【Outline (in English)】
A seminar class on the issues of Globalization. Participants are required to read the textbook on the issues.　Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on the subjects from the sociological perspective.
[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.
[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end research paper: 40%、Short reports: 30%、in class contribution: 30%.

ARS400EB, ARS400EC, ARS400ED

演習３（卒業論文）

岡野内　正

開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　単位数：**8単位**
曜日・時限：**火2**/Tue.2

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまで各自が大学で研究してきたことを卒業論文としてまとめる作業を行い、最後に完成したものを発表する。

【到達目標】
現代社会の問題に関して、自らが設定したテーマについて、先行研究を調べ、研究状況と到達点を明らかにした上で、独自のデータあるいは見解に基づいて考察を行い、今後の研究課題を問題提起するような、２万字程度の卒業論文を、学術論文の形式をふまえて作成する。
フィードバックは、授業時間中および前後での質問時間で、さらにHoppiの掲示板を用いたやりとり、そして、オフィスアワーやメールでの直接連絡を通じて密接に行っていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
受講生は、簡単な卒論の中間報告を毎回行い、より詳細な報告を順番に行う。卒論作成の第一段階として、春学期末には、論文を完成して、大学の懸賞論文に応募できる水準までもってくる。秋学期は、それをもとに毎回の報告で修正しながら、卒論を作成していく。
　フィードバックは、授業中にプレゼンテーションの講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業説明と顔合わせ。ゼミ運営の役割分担。合同ゼミ合宿や学部研究発表会での報告準備などの年間計画、卒論中間報告などの決定
2	卒論構想の検討①受講生からのテーマ報告。	卒論構想の報告と討論(1)
3	卒論構想の検討②参照文献の報告。	報告と討論(2)
4	卒論構想の検討③先行研究の整理について。	報告と討論(3)
5	プレカリアートの時代①階級論。	テキストについての論点提起と議論（１）
6	プレカリアートの時代②新自由主義論。	論点提起と議論（２）
7	プレカリアートの時代③多国籍企業論。	論点提起と議論（３）
8	プレカリアートの時代④権力論。	論点提起と議論（４）
9	グローバル・ベーシック・インカム(GBI)入門①ベーシック・インカム論。	テキストについての論点提起と議論（１）
10	GBI入門②ナミビアの事例。	論点提起と議論（２）
11	GBI入門③ブラジルの事例。	論点提起と議論（３）
12	GBI入門④インドの事例。	論点提起と議論（４）
13	卒論構想の再検討①テーマと章立て。	半期のあいだ進めた作業をもとに、卒論構想の報告と討論（１）
14	卒論構想の再検討②先行研究の整理。	報告と討論（２）
15	ガイダンス	秋学期の計画の詳細を決定
16	卒論の中間報告①テーマと章立て。	夏のあいだに進めた卒論作成の中間報告と討論（１）
17	卒論の中間報告②論理的一貫性。	報告と討論（２）
18	卒論の中間報告③実証性。	報告と討論（3）
19	卒論の中間報告④学術論文という形式。	報告と討論（４）
20	グローバル・ベーシック・インカム構想の射程①	テキストについての論点提起と議論（１）
21	GBI構想の射程②ベーシック・インカム論	論点提起と議論（２）
22	GBI構想の射程③開発戦略論。	論点提起と議論（３）
23	GBI構想の射程④開発援助論。	論点提起と議論（４）
24	GBI構想の射程⑤多国籍企業論。	論点提起と議論（５）
25	卒論草稿の検討①テーマと構成。	卒論草稿の報告と討論（１）
26	卒論草稿の検討②論理性と実証性。	報告と討論（２）
27	卒論草稿の検討③先行研究の整理。	報告と討論（３）
28	卒論草稿の検討④学術論文形式。	報告と討論（４）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岡野内正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円プラス税。
ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年。
岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021年。

【参考書】
ヘレン・カルディコット著　岡野内正他訳『狂気の核武装大国アメリカ』（集英社新書、2008年、定価777円）

【成績評価の方法と基準】
卒論の学術的水準で成績評価します。学術論文の形式（引用や参照にかかわる注があり、先行研究や研究状況の整理があり、適切な参考文献目録がある）と内容（論理的に首尾一貫している）があれば、単位取得が可能な60%とし、着想のユニークさ、先行研究の整理の適切さ、フィールドワークや文献調査などの実証的データの新しさ、今後の研究課題の提起における発想の豊かさなどの点で加点し、100%で採点します。

【学生の意見等からの気づき】
早めに草稿を完成させ、仕上げていけるように工夫しました。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当。長年の国際開発・人権NGOでの活動経験と観察を踏まえて、授業での討論を展開します。

【Outline (in English)】
A seminar class for academic writing. At the end of the course, students are expected to write a graduation thesis of their own. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than 4 hours for each class. Grading will be decided based on the quality of the Thesis (100%; proper form of academic writing 60%, originality 20%, priority 20%).

LAW200EB, LAW200EC, LAW200ED（法学 / law 200 , 法学 / law 200 , 法学 / law 200）

演習 1

長沼　建一郎

開講時期：**年間授業/Yearly**　｜　単位数：**4単位**
曜日・時限：**水4/Wed.4**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会保障への政策対応を主たるテーマとして、大学生としての、さらには社会人としても通用する高度な学問的センス――とくに論理的な思考力・物事を判断する能力――を涵養します。

【到達目標】
学術的な水準を伴う論文の執筆と討議への参画

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
おもに社会保障・福祉、雇用・労働、生命倫理などのなかから、各参加者が興味のあるテーマを取り上げて、報告および討議を中心に進めていきます。
担当教員は、政策論・法的分析を専門としており、また年金や介護関係を中心的な研究領域としていますが、この演習ではそれらに限定せず、幅広いテーマを取り上げ、多様なアプローチを試みたいと思います。
現代社会の諸問題について、自分の頭で考えて、判断を下す能力を養うことが目標です。
とりあえず春学期は、基本的なテキストを会読するとともに、いくつかの具体的な政策問題（基本文献・新聞記事・裁判例等）を中心に運営・討議したいと思っています。
秋学期以降は、参加者の興味・関心によって、各回で扱うテーマを決めていきたいと思います。あわせて学部研究発表会も見据えて、共通テーマを検討する機会も探ります。
レポート等の課題については、ゼミ内で個々にコメントしつつフィードバックします。ゼミ生相互の査読も重視します。
なお定期的に、演習２との合同開催を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期のガイダンス	スケジュールの確認、ゼミで学ぶことの確認
2	ゼミでの学習に向けた基本的な諸項目（1）	文献の読解方法
3	ゼミでの学習に向けた基本的な諸項目（2）	討議への参画方法
4	ゼミでの学習に向けた基本的な諸項目（3）	文献の収集・分析方法
5	ゼミでの学習に向けた基本的な諸項目（4）	統計・資料の収集・分析方法
6	ゼミでの学習に向けた基本的な諸項目（5）	報告資料の作成方法
7	ゼミでの学習に向けた基本的な諸項目（6）	レポート・論文の執筆方法
8	社会問題への政策対応（1）	社会保障全般を中心とした問題群の検討
9	社会問題への政策対応（2）	社会福祉・福祉国家を中心とした問題群の検討
10	社会問題への政策対応（3）	社会保険を中心とした問題群の検討
11	社会問題への政策対応（4）	雇用・労働を中心とした問題群の検討
12	社会問題への政策対応（5）	生命倫理や家族を中心とした問題群の検討
13	社会問題への政策対応（6）	小括、各報告へのフィードバック
14	論文執筆に向けて	論文執筆のテーマ報告と相互討議
15	学部研究発表会準備（1）	発表テーマの検討・選定
16	社会問題の個別問題（1）	第1グループの執筆論文の報告と討議
17	社会問題の個別問題（2）	第2グループの執筆論文の報告と討議
18	社会問題の個別問題（3）	第3グループの執筆論文の報告と討議
19	学部研究発表会準備（2）	発表内容の検討
20	社会問題への具体的政策対応（1）	第1グループの報告と討議
21	社会問題への具体的政策対応（2）	第1グループの報告へのフィードバックとフォローアップ
22	社会問題への具体的政策対応（3）	第2グループの報告と討議
23	学部研究発表会準備（3）	発表内容の決定、リハーサル
24	学部研究発表会準備（4）	発表内容の精査、最終リハーサル
25	社会問題への具体的政策対応（4）	第2グループの報告へのフィードバックとフォローアップ
26	社会問題への具体的政策対応（5）	第3グループの報告と討議
27	社会問題への具体的政策対応（6）	第3グループの最終へのフィードバックとフォローアップ
28	まとめと振り返り	総括、フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
春学期は、基本的なテキストを選定するとともに（『社会政策入門』が一応の候補）、具体的な裁判事例や政策問題に関する資料や文献を配布します。
秋学期は、個々の報告が中心となります。

【参考書】
演習内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（報告、討議参画等）（80%）及びレポート提出（20%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
とくになし。

【その他の重要事項】
担当教員は理論研究・制度研究を主としてやっていますので、このゼミでも、多角的に物事を考えて、判断を下す能力を磨く機会は提供できると思います。また人前で話す力、討議に参画する力やレポート執筆能力も、ゼミで努力すれば、経験的にはかなり上達します。
担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。
なお担当教員は軽度の難聴のため、発言や会話の際は、大きめの声でお願いします。

【Outline (in English)】
This seminar deals with social problems and social policies.
At the end of the course, students are expected to understand and discuss social problems and social policies.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
　in class contribution: 80%、 reports : 20%、

LAW300EB, LAW300EC, LAW300ED（法学 / law 300 , 法学 / law 300 , 法学 / law 300）

演習２

長沼　建一郎

開講時期：**年間授業/Yearly**　｜　単位数：**4単位**
曜日・時限：**水3/Wed.3**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
引き続き、社会問題への政策対応を主たるテーマとして、大学生としての、さらには社会人としても通用する高度な学問的センス――とくに論理的な思考力・物事を判断する能力――を涵養します。

【到達目標】
学術的な水準を伴う論文の執筆と討議への参画

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
社会問題への政策対応領域のなかから、各参加者が興味のあるテーマを取り上げて、報告および討議を中心に進めていきます。
担当教員は、政策論・法的分析を専門としており、また年金や介護関係を中心的な研究領域としていますが、この演習ではそれらに限定せず、幅広いテーマを取り上げ、多様なアプローチを試みたいと思います。現代社会の諸問題について、自分の頭で考えて、判断を下す能力を養うことが目標です。
演習２では個人単位での研究と、ゼミ共通テーマの検討を並行してお願いする予定です。
レポート等の課題については、ゼミ内で個々にコメントしつつフィードバックします。ゼミ生相互の査読も重視します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	演習2のガイダンス（1）	スケジュールの確認、演習2で学ぶことの確認
2	演習2のガイダンス（2）	演習1の提出論文へのフィードバック
3	演習2のガイダンス（3）	政策研究の基礎
4	共通文献の講読（1）	社会保障関係の文献検討
5	共通文献の講読（2）	社会福祉・福祉国家関係の文献検討
6	共通文献の講読（3）	雇用・労働関係の文献検討
7	共通文献の講読（4）	生命倫理・家族関係の文献検討
8	個人研究のガイダンス（1）	研究テーマの設定
9	個人研究のガイダンス（2）	研究方法の選定
10	個人研究のガイダンス（3）	報告資料作成の方法
11	個人研究構想報告（1）	第1グループの構想報告と討議
12	個人研究構想報告（2）	第2グループの構想報告と討議
13	個人研究構想報告（3）	第3グループの構想報告と討議
14	個人研究構想報告（4）	構想報告の総括、フィードバック
15	学部研究発表会準備（1）	発表テーマの検討・選定
16	個人研究中間報告（1）	第1グループの中間報告と討議
17	個人研究中間報告（2）	第1グループの中間報告へのフィードバックとファローアップ
18	個人研究中間報告（3）	第2グループの中間報告と討議
19	学部研究発表会準備（2）	発表内容の検討
20	個人研究中間報告（4）	第2グループの中間報告へのフィードバックとファローアップ
21	個人研究中間報告（5）	第3グループの中間報告と討議
22	個人研究中間報告（6）	第3グループの中間報告へのフィードバックとフォローアップ
23	学部研究発表会準備（3）	発表内容の確定・リハーサル
24	学部研究発表会準備（4）	発表内容の精査・最終リハーサル
25	個人研究最終報告（1）	第1グループの最終報告と討議
26	個人研究最終報告（2）	第2グループの最終報告と討議
27	個人研究最終報告（3）	第3グループの最終報告と討議
28	個人研究のまとめ	自己評価・相互評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに指定しませんが、共通に読むべき文献等については適宜配布します。

【参考書】
演習内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（報告、討議参画等）（80%）及びレポート提出（20%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
とくになし。

【その他の重要事項】
担当教員は理論研究・制度研究を主としてやっていますので、このゼミでも、多角的に物事を考えて、判断を下す能力を磨く機会は提供できると思います。また人前で話す力、討議に参画する力やレポート執筆能力も、ゼミで努力すれば、経験的にはかなり上達します。
担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。
なお担当教員は軽度の難聴のため、発言や会話の際は、大きめの声でお願いします。

【Outline (in English)】
This seminar deals with social problems and social policies.
At the end of the course, students are expected to understand and discuss social problems and social policies.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
　in class contribution: 80%、 reports : 20%、

LAW400EB, LAW400EC, LAW400ED（法学 / law 400 , 法学 / law 400 , 法学 / law 400）

演習３（卒業論文）

長沼　建一郎

開講時期：**年間授業/Yearly**　｜　単位数：**8単位**
曜日・時限：**木2/Thu.2**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文を執筆します。研究計画を立てて、資料を集め、分析と考察を加えて、一編の論文を完成させることで、演習1～3の、また大学生活の総決算として下さい。

【到達目標】
学術的な水準を伴う論文の執筆と討議への参画

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
論文を執筆するための基本的な技法に関する指導を行います。
テーマは各人が一年間かけて追求できるものであれば、どのような領域のものでも構いません。
レポート等の課題については、ゼミ内で個々にコメントしつつフィードバックします。ゼミ生相互の査読も重視します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期のガイダンス	演習3で学ぶことの確認、スケジュールの確認
2	卒論ガイダンス（1）	卒論テーマの選定
3	卒論ガイダンス（2）	研究方法の選定
4	卒論ガイダンス（3）	資料および統計の収集・分析の方法
5	卒論ガイダンス（4）	文献の収集・分析の方法
6	卒論ガイダンス（5）	論文執筆の進め方
7	卒論ガイダンス（6）	論文の細かい執筆技術
8	卒論構想報告（1）	第1グループの執筆者ごとの構想報告
9	卒論構想報告（2）	第1グループの構想報告へのフィードバック・フォローアップ
10	卒論構想報告（3）	第2グループの執筆者ごとの構想報告
11	卒論構想報告（4）	第2グループの構想報告へのフィードバック・フォローアップ
12	卒論構想報告（5）	第3グループの執筆者ごとの構想報告
13	卒論構想報告（6）	第3グループの構想報告へのフィードバック・フォローアップ
14	卒論構想報告（7）	構想報告の総括、フィードバック
15	秋学期のガイダンス	本格的な執筆に向けた留意点、スケジュールの確認
16	卒論中間報告（1）	第1グループの執筆者ごとの中間報告
17	卒論中間報告（2）	第1グループの中間報告へのフィードバック・フォローアップ
18	卒論中間報告（3）	第2グループの執筆者ごとの中間報告
19	卒論中間報告（4）	第2グループの中間報告へのフィードバック・フォローアップ
20	卒論中間報告（5）	第3グループの執筆者ごとの中間報告
21	卒論中間報告（6）	第3グループの中間報告へのフィードバック・フォローアップ
22	卒論最終報告（1）	第1グループの執筆者ごとの最終報告
23	卒論最終報告（2）	第1グループの最終報告へのフィードバック・フォローアップ
24	卒論最終報告（3）	第2グループの執筆者ごとの最終報告
25	卒論最終報告（4）	第2グループの最終報告へのフィードバック・フォローアップ
26	卒論最終報告（5）	第3グループの執筆者ごとの最終報告
27	卒論最終報告（6）	第3グループの最終報告へのフィードバック・フォローアップ
28	卒論報告のまとめ	自己評価・相互評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに指定しませんが、共通に読むべき文献等については適宜配布します。

【参考書】
演習内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の内容（80%）とその他の参画（他の卒論へのアドバイス等）（20%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
とくになし。

【その他の重要事項】
担当教員は理論研究・制度研究を主としてやっていますので、このゼミでも、多角的に物事を考えて、判断を下す能力を磨く機会は提供できると思います。また人前で話す力、討議に参画する力やレポート執筆能力も、ゼミで努力すれば、経験的にはかなり上達します。
担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。
なお担当教員は軽度の難聴のため、発言や会話の際は、大きめの声でお願いします。

【Outline (in English)】
This seminar deals with social problems and social policies.
At the end of the course, students are expected to understand and discuss social problems and social policies.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
reports : 20%、in class contribution: 80%

教育心理学

安齊　順子

配当年次／単位：1～4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。
・本学の理念「自由と進歩」の内容に照らして、大学時代に学んだことを教師となったときに利用できるように、教育心理学的に考える力を付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
テキストとパソコンを利用した講義、資料の配布等で実施する。
基本的には対面で実施するが、授業形態は感染症の流行状態により変化する可能性がある。
方向性は大学に準ずる。変更等は掲示やホッピー等で知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業上の注意を説明する
2	教育における発達理解の意義	心理学における発達概念を学ぶ
3	対人関係の発達	心理学における発達概念、特に対人関係に注目して学ぶ
4	認知の発達	認知心理学、学習心理学の基礎概念を学ぶ
5	アイデンティティ	青年期の心理的問題について学ぶ
6	学習の理論	古典的条件づけなど大切な学習理論を学ぶ
7	学習の指導	学級の心理学、具体的には、いじめなどについて学ぶ
8	動機づけ	動機づけの理論的背景を学ぶ
9	学習の評価	教育評価とはどのようなものか学ぶ
10	記憶の種類	記憶の種類と、記憶のしくみについて学ぶ
11	性格の理解	人格理解とその歴史について学ぶ
12	性格の様々な測定方法	心理検査、知能検査について詳しく学ぶ
13	発達障害の理解	発達障害について学ぶ
14	発達障害の支援・指導	幼児期、児童期の心理的問題とその解決について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の学習　新聞などで子供や学校に関する記事を読むこと。ほかの参考書も用いて学習すること。「教育相談・心理学・臨床心理学・心理学辞典」など他の科目のテキストも参考に学ぶこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「使える」教育心理学　服部環、安齊順子他著　北樹出版

【参考書】
子安増生ら 2015『教育心理学 第3版 (ベーシック現代心理学6)』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）
「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ　鎌原　雅彦他著
「教師のたまごのための教育相談」北樹出版　会沢信彦・安斎順子編著

【成績評価の方法と基準】
定期試験（70％）、授業への積極的参加（30％）で評価

【学生の意見等からの気づき】
毎回プリントを配布して、やりとりのある授業を心掛けている。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
教員はスクールカウンセラーの体験があるためそれについて語る場合がある。

【Outline (in English)】
The　goal of this course is to understand the motivation and cognitive process in learning for children and to study how to integrate this knowledge into teaching practices.
It is also our aim to understand how teacher-student relationships and each child's disposition and developmental rate can affect their learning process and their ability to adapt to their learning environments.
We will also discuss educational psychology for learners with developmental disabilities.
Learning Objectives
The students are supposed to gain familiarity with psychological knowledge and application to education.
Learning activities outside of the classroom
To enhance effective learning, students are encouraged to spend approximately 100 minutes preparing for class and another 100 minutes reviewing class content afterward (including assignments) for each class.
They should do so by referring to textbooks and other course material.
Grading Criteria /Policy
The Final examination counts for 70%. In-class participation accounts for 30%.

教育心理学

安齊　順子

配当年次／単位：1～4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。
・本学の理念である「自由と進歩」の内容に照らし、学生時代に身に着けたことを教師になってから利用できるよう、教育心理学的に考える力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
テキストとパソコンを利用した講義や資料の配布を中心として対面で行う。基本的には対面授業を行うが、授業形態は感染症の流行状態により、変化する可能性がある。方向性は大学の方針に準ずる。変更等は掲示、ホッピー等で知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業上の注意を説明する
2	教育における発達理解の意義	心理学における発達概念を学ぶ
3	対人関係の発達	心理学における発達概念、特に対人関係に注目して学ぶ
4	認知の発達	認知心理学、学習心理学の基礎概念を学ぶ
5	アイデンティティ	青年期の心理的問題について学ぶ
6	学習の理論	古典的条件づけなど大切な学習理論を学ぶ
7	学習の指導	学級の心理学、具体的には、いじめなどについて学ぶ
8	動機づけ	動機づけの理論的背景を学ぶ
9	学習の評価	教育評価とはどのようなものか学ぶ
10	記憶の種類	記憶の種類と、記憶のしくみについて学ぶ
11	性格の理解	人格理解とその歴史について学ぶ
12	性格の様々な測定方法	心理検査、知能検査について詳しく学ぶ
13	発達障害の理解	発達障害について学ぶ
14	発達障害の支援・指導	幼児期、児童期の心理的問題とその解決について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の学習　新聞などで子供や学校に関する記事を読むこと。ほかの参考書も用いて学習すること。「教育相談・心理学・臨床心理学・心理学辞典」など他の科目のテキストも参考に学ぶこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「使える」教育心理学　服部環、安齊順子他著　北樹出版

【参考書】
子安増生ら 2015『教育心理学 第3版 (ベーシック現代心理学6)』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）
「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ　鎌原　雅彦他著
「教師のたまごのための教育相談」北樹出版　会沢信彦・安齊順子編著

【成績評価の方法と基準】
定期試験（70％）、授業への積極的参加（30％）で評価

【学生の意見等からの気づき】
毎回プリントを配布して、授業後の感想をもとにやりとりのある授業を心掛けている。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
教員はスクールカウンセラーの体験があるためそれについて語る場合がある。

【Outline (in English)】
The　goal of this course is to understand the motivation and cognitive process in learning for children and to study how to integrate this knowledge into teaching practices.
It is also our aim to understand how teacher-student relationships and each child's disposition and developmental rate can affect their learning process and their ability to adapt to their learning environments.
We will also discuss educational psychology for learners with developmental disabilities.
Learning Objectives
The students are supposed to gain familiarity with psychological knowledge and application to education.
Learning activities outside of the classroom
To enhance effective learning, students are encouraged to spend approximately 100 minutes preparing for class and another 100 minutes reviewing class content afterward (including assignments) for each class.
They should do so by referring to textbooks and other course material.
Grading Criteria /Policy
The Final examination counts for 70%. In-class participation accounts for 30%.

生涯学習支援論

栗山　究

配当年次／単位：2～4年次／4単位
開講時期：年間授業/Yearly

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちは一人ひとりが自分自身の人生を主体的に生きるために、いつでもどこでも自らの実際生活に即して相互に学びあう営みを続けています。
授業ではそうした学びあいの営みの基本的な特徴を探り、誰もが生きやすい社会をつくろうとしている地域住民の学びあいの実践と関連づけながら、地域の学習活動を支える人びとの基盤となる理論や実践に関する知識や技法を習得し、住民の学びあいを支える人たちの役割を考察します。

【到達目標】
①：私たちが地域で学んでいることの意味を捉えられるようになり、その概要を説明できるようになります。
②：①で捉えられた学習者相互の学びあいを支援する人たちの役割を理解し、そこでのより良い学びあいを促す条件整備のあり方や技法を主体的に考えられるようになります。
②で理解した考えを、これからの多様な実践の場面で活かしていけるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義と演習（グループワーク・ディスカッションなど）を組み合わせて進めていきます。春学期の初頭から演習形式の展開（相互学習）が中心となりますので、自分なりに学習した内容をふりかえり、その内容を探究していこうとする姿勢や行動は積極的に応援していきます。レポート課題も授業内の相互学習を通してフィードバック（共有）していきます。
少人数の受講者で構成される社会教育主事資格課程科目（社会教育士の称号取得含む）であるという例年の特徴を活かし、授業内での相互学習を踏まえ、可能な限り、地域で展開している社会教育実践の現場や社会教育施設等を訪問し、住民・社会教育職員とともに学習を深めていく機会等を用意したいと考えています。従って、下記の「授業計画」は、受講者人数・受講者相互の問題意識や興味関心の程度および現場の条件に応じて柔軟に変更していく可能性があります。
相互学習の結果、学外授業を実施することになった場合の交通費等については、受講者負担となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	社会教育職員のおかれる現在を確認し、昨年までの事例を参考に授業の進め方を話しあいます
2	社会教育・生涯学習に関する講座・事業等の学習プログラム	講義で使用する専門的な基本用語の内容を確認し受講者各位の問題関心の相互共有をおこないます
3	学習論の基礎①　成人の学習	ノールズのアンドラゴジー概念から成人の学習を支える考え方を考察します
4	学習論の基礎②　相互学習・共同学習	受講者相互の話しあいの意味を考え、この授業での学習方法のあり方を検討します
5	生涯学習支援の事例に学ぶ①　例：高齢者世代の学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
6	生涯学習支援の事例に学ぶ②　例：子ども・若者世代の学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
7	生涯学習支援の事例に学ぶ③　例：障害のある人たちとともにある学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
8	生涯学習支援の事例に学ぶ④　例：在住外国人とともにある学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
9	学習講座の企画づくりの基本的視点①　学習テーマの設定	文献輪読を通してその前提条件を確認します
10	学習講座の企画づくりの基本的視点②　企画運営会議と当日運営	文献輪読を通してその具体的ポイントを確認します（講師との関係含む）
11	学習講座の企画づくりの基本的視点③　講座終了後の関わりと評価	文献輪読を通してその具体的ポイントを確認します（広報のあり方含む）
12	生涯学習支援の実際事例の検討①：生涯学習センター職員の仕事	実際の職員になったことを仮定して一日の仕事と来館者との関わりのあり方を考察します
13	生涯学習支援の実際事例の検討②：地域別家庭教育講座づくりを事例に	当該概念を吟味して実際の学習講座づくりのあり方を検討します
14	生涯学習支援の実際事例の検討③：市民創作・企画運営会議型、集会系事業	各種の講座・事業運営と「学びの循環」のあり方を検討します
15	実際の学習講座等の参加・参画・運営体験①　事例のもちより	実際に参加・参画・運営してきた生涯学習支援の現場の実践を報告しあいます
16	実際の学習講座等の参加・参画・運営体験②　内容の検討	生涯学習支援の現場で行われていた実際の学習支援の方法を検討しあいます
17	実際の学習講座等の参加・参画・運営体験③　課題の抽出	生涯学習支援の現場から得られた学習支援上の課題を克服する方途を検討しあいます
18	社会教育施設職員の役割	学習者の学びに寄り添う公務労働者としての役割を検討します
19	学習支援者の力量形成	実際生活や研修等を通して学習支援者はどのような役割を果たしているかを考えます
20	実際の社会教育事業の実践事例分析①　第1回企画運営会議記録の輪読	地域社会における住民の学びの諸相を検討し、学習講座づくりを展望します
21	実際の社会教育事業の実践事例分析②　第2回企画運営会議記録の輪読	NPO、社会教育関係団体との協働のあり方を考えます
22	実際の社会教育事業の実践事例分析③　第3回企画運営会議記録の輪読	講座に参画する学習者の学習課題を検討します
23	実際の社会教育事業の実践事例分析④　第4回企画運営会議記録の輪読	学習者主体の学びの条件整備のあり方を考え、その展開方法を検討します
24	実際の社会教育事業の実践事例分析⑤　第5回企画運営会議記録の輪読	学習支援者が提供する／した学習素材を検討します
25	実際の社会教育事業の実践事例分析⑥　第6回企画運営会議記録の輪読	学習者の学びあいと地域社会での実践の関わりを考えます
26	実際の社会教育事業の実践事例分析⑦　第7回企画運営会議記録の輪読	企画運営会議での学びあいと成立した講座との関係を考えます
27	実際の社会教育事業の実践事例分析⑧　第8回企画運営会議記録の輪読	講座を踏まえた新たな学習課題と地域社会での実践の展開を考えます
28	全体のまとめ　レポート発表会	この授業での学習をどう生かしていくかを考えます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回授業では、受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読し、相互学習のあり方を受講者相互に検討していく予定です。秋学期は、持続可能な地域社会づくりに関する現代的課題の学習を取り扱った実際の社会教育事業の実践記録「3.11以後の社会とエネルギー問題」を事前に配布する予定です。それぞれの文献・実践記録は授業当日までに読んできて、自身の考えを整理してきてください。
回によって、受講者相互でレジメを作成して臨んでいただく場合もあります。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各回テーマに応じて適宜、授業内で指示するほか、担当教員がレジメを作成して配布します。資料の一部は、学習支援システムより配信します。

【参考書】
「月刊社会教育」編集委員会編『月刊社会教育』旬報社（各月発行中）。その他、必要に応じて、各回の授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
（1）授業（相互学習、学外授業の場合は当該授業を含む）への積極的な参加（40％）と、（2）夏休みと学年末のレポート課題（各30％）から総合的に評価します。
（2）の提出は単位修得の必要条件となります。到達目標①②の内容を具体的事例に即して自分なりにさらに一歩深められていることが、評価基準となります。

【学生の意見等からの気づき】
初回の授業で通年授業の大まかな進め方・授業運営方針をガイダンスします。社会教育固有の方法論ともいわれる相互学習を意識しながら授業は展開しますので、受講を希望される学生は、必ず出席するようにしてください。なお、相互学習のもつ意味は、授業内で学習していきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業初回の案内は４月に入りましたら、学習支援システムを通して通知しますので、必ず確認してください。授業では、授業時間内に各自で利用可能な個人用端末を持参ください。

【その他の重要事項】
本科目は、社会教育主事の任用資格ならびに社会教育士の称号を取得するための文部科学省令で定められる「社会教育に関する科目」群の必修専門科目の一つに位置づきます。

本授業では、公立の社会教育施設で事業を担当していた教員の実務経験に基づき、そこでの教育活動（学習支援）の実際について解説する機会を適宜、設けていきます。

【Outline (in English)】

In this class, we will learn the basic characteristics of adult learning and understand that various types of learning are created in our lives in contemporary society, as they relate to themselves and to the educational practices of their respective communities.

Therefore, based on specific examples, we will discuss the following two perspectives. The first is the role and scope of "adult and community education" in confronting the various problems of contemporary society. The second is the role and significance of adult and community education staff and learning facilitators who support residents' interactive learning.

【Learning Objectives】

By the end of the course, you will be able to do the followings:

A. Capture and outline the meaning of what we are learning in our community.

B. Understand the role of those who support mutual learning among learners and be able to proactively consider conditions and methods to promote better learning among learners.

【Learning activities outside of classroom】

During the spring semester, you will read and review literature assigned by the teacher based on your own interests. In the fall semester, we will be analyzing practical records of adult and community education projects that deal with learning about contemporary issues for a sustainable society.

You are encouraged to read them and organize your thoughts before the day of class. In addition, depending on the session, you may be asked to prepare resumes for each other.

Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Overall evaluation will be based on active participation in class (40%) and reports from the summer vacation and the end of the school year (30%each).

特別な教育的ニーズの理解と支援

山下　洋児

配当年次／単位：1〜4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
発達障害や軽度知的障害をはじめとするさまざまな障害、外国籍あるいは家庭養育基盤が弱いことなどにより、特別な支援を必要としている幼児、児童、生徒が、通常の学級に在籍し、授業活動にも参加している実感をもち、また、子どもたちが生きる力を身に付けていくための、現状の把握、支援の方法を学ぶ。

【到達目標】
特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、心身の発達を理解する。特に、様々な障害の学習上および生活上の困難に関する基礎的な知識を身に着け、当該の子どもの心身の発達、心理的特性、学習の過程を理解し、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度の理念や仕組みを理解する。
特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。特に、支援方法の具体例を理解し、通級指導と自立活動のカリキュラム上の位置づけを理解し、個別の指導計画や教育支援計画を作成する意義と方法を理解し、コーディネーターや関係機関、家庭と連携した支援体制の構築の意義を理解している。
障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を理解する。特に、母国語や貧困の問題等により本件に該当する子どもたちの学習上、生活上の困難とその対応方法を理解し、組織的な対応の必要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の生きづらさに気付き、どのような理解、支援を行えばよいのか、考えを深められるよう、具体的な事例も伝え、授業を行う。資料の読み取りが中心となるが、毎回のリアクションペーパーの内容を適宜取り入れ、他の受講生がどのように考えているのかが参考となるようにする。リアクションペーパーは毎時間提出する。必要に応じてグループディスカッションも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本講義の目的、授業の進め方、評価の仕方。受講者自身の「特別な支援を必要とする児童・生徒」に関わる学校体験を振り返る。
第2回	特別支援教育の概要	特別支援教育の概要と、教師として特別な支援を必要とする子どもたちをどのように理解するかということについて学ぶ。
第3回	障害特性とはなにか	発達障害の「障害特性・認知特性」について、事例に沿って学ぶ。
第4回	自閉スペクトラム症(ASD)の子どもの理解とその支援	自閉スペクトラム症について概要と具体例を学ぶ。
第5回	注意欠如多動症(ADHD)の子どもの理解とその支援	注意欠如多動症について概要と具体例を学ぶ。
第6回	学習障害(LD)の子どもの理解とその支援	学習障害について概要と具体例を学ぶ。
第7回	知的障害の子どもの理解とその支援	知的障害について概要と具体例を学ぶ。
第8回	肢体不自由・病弱の子どもの理解とその支援	肢体不自由・病弱教育について概要と具体例を学ぶ。
第9回	家庭基盤の弱い子どもの理解とその支援	不適切な養育状況にある子ども、貧困状況にある子ども等の概要と具体例について学ぶ。
第10回	多様性とインクルーシブ教育	障害だけでなく、特別な支援が必要な子どもについて知り、インクルーシブ教育、合理的配慮について学ぶ。
第11回	個別の指導計画、教育支援計画	個別の指導計画、教育支援計画の意義と作成について学ぶ。
第12回	多様な関係・連携と支援	学校内における連携、学校外の関係諸機関との連携について学ぶ。
第13回	介護等体験の意義と留意点	介護体験の意義と留意点について学び、特別支援学校の教育活動のイメージをもつ。
第14回	まとめ：特別支援教育の今後の展望	特別支援教育の今後の展望について学び、自身が教員になった際のイメージをもつ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業は、1回ずつが単独で終わるのでなく、他の回とも関連し合っているので、授業資料を事前・事後にていねいに読むこと。また、日常的に、特別支援教育に関わるニュースやテレビ番組等に意識を向けておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しない。毎回資料を配布する予定。配布資料は、その回の授業だけでなく、他の回の授業、期末レポート等に必要になるので、整理して保存すること。

【参考書】
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）
・戸田竜也「学級担任・特別支援教育コーディネーターのための『特別な教育的ニーズ』をもつ子どもの支援ガイド」明治図書、2015年
その他、適宜授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（毎時間の理解を示すリアクションペーパー等）70％＋最終レポート30％

【学生の意見等からの気づき】
公立中学校教員として勤務した経験からのエピソード、映像などを使用して行った授業が分かりやすかったという学生からの意見を参考にし、引き続き分かりやすい授業改善に取り組む。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
公立中学校特別支援学級教員の経験を活かし、特別支援教育に関わる今日的な課題についての授業を行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Support and Understand for Special Educational Needs, concretely developmental disorders, mild mental retardation, ethnic minority, poverty, child abuse and so on.
【Learning Objectives】
The goal is to understand (or acquire):
◇ the characteristics of disabilities and mental and physical development of infants, children and students with special needs, in particular, basic knowledge about learning and living difficulties of various disabilities.
◇ the mental and physical development, psychological characteristics, and learning process of such child, and the philosophy and mechanism of system of special support education including inclusive education.
◇ the curriculum and support methods for infants, children and students who require special support through case studies of support methods, the position of class guidance and independence activities in the curriculum,
◇ the significance and methods of creating individual guidance plans and educational support plans.
◇ the significance of building a support system in collaboration with coordinators, related organizations, and families.
◇ infants, children and students who have no disabilities but have special educational needs. In particular, those who fall under this case due to problems such as their mother tongue and poverty, and how to deal with them, and the need for systematic measures.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policies】
Final grade will be calculated according to the following process Term-end report:30%, and in-class contribution(reaction paper):70%.

特別な教育的ニーズの理解と支援

山下　洋児

配当年次／単位：1〜4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
発達障害や軽度知的障害をはじめとするさまざまな障害、外国籍あるいは家庭養育基盤が弱いことなどにより、特別な支援を必要としている幼児、児童、生徒が、通常の学級に在籍し、授業活動にも参加している実感をもち、また、子どもたちが生きる力を身に付けていくための、現状の把握、支援の方法を学ぶ。

【到達目標】
特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、心身の発達を理解する。特に、様々な障害の学習上および生活上の困難に関する基礎的な知識を身に着け、当該の子どもの心身の発達、心理的特性、学習の過程を理解し、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度の理念や仕組みを理解する。
特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。特に、支援方法の具体例を理解し、通級指導と自立活動のカリキュラム上の位置づけを理解し、個別の指導計画や教育支援計画を作成する意義と方法を理解し、コーディネーターや関係機関、家庭と連携した支援体制の構築の意義を理解している。
障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を理解する。特に、母国語や貧困の問題等により本件に該当する子どもたちの学習上、生活上の困難とその対応方法を理解し、組織的な対応の必要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の生きづらさに気付き、どのような理解、支援を行えばよいのか、考えを深められるよう、具体的な事例も伝え、授業を行う。資料の読み取りが中心となるが、毎回のリアクションペーパーの内容を適宜取り入れ、他の受講生がどのように考えているのかが参考となるようにする。リアクションペーパーは毎時間提出する。必要に応じてグループディスカッションも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本講義の目的、授業の進め方、評価の仕方。受講者自身の「特別な支援を必要とする児童・生徒」に関わる学校体験を振り返る。
第2回	特別支援教育の概要	特別支援教育の概要と、教師として特別な支援を必要とする子どもたちをどのように理解するかということについて学ぶ。
第3回	障害特性とはなにか	発達障害の「障害特性・認知特性」について、事例に沿って学ぶ。
第4回	自閉スペクトラム症(ASD)の子どもの理解とその支援	自閉スペクトラム症について概要と具体例を学ぶ。
第5回	注意欠如多動症(ADHD)の子どもの理解とその支援	注意欠如多動症について概要と具体例を学ぶ。
第6回	学習障害(LD)の子どもの理解とその支援	学習障害について概要と具体例を学ぶ。
第7回	知的障害の子どもの理解とその支援	知的障害について概要と具体例を学ぶ。
第8回	肢体不自由・病弱の子どもの理解とその支援	肢体不自由・病弱教育について概要と具体例を学ぶ。
第9回	家庭基盤の弱い子どもの理解とその支援	不適切な養育状況にある子ども、貧困状況にある子ども等の概要と具体例について学ぶ。
第10回	多様性とインクルーシブ教育	障害だけでなく、特別な支援が必要な子どもについて知り、インクルーシブ教育、合理的配慮について学ぶ。
第11回	個別の指導計画、教育支援計画	個別の指導計画、教育支援計画の意義と作成について学ぶ。
第12回	多様な関係・連携と支援	学校内における連携、学校外の関係諸機関との連携について学ぶ。
第13回	介護等体験の意義と留意点	介護体験の意義と留意点について学び、特別支援学校の教育活動のイメージをもつ。
第14回	まとめ：特別支援教育の今後の展望	特別支援教育の今後の展望について学び、自身が教員になった際のイメージをもつ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業は、1回ずつが単独で終わるのでなく、他の回とも関連し合っているので、授業資料を事前・事後にていねいに読むこと。また、日常的に、特別支援教育に関わるニュースやテレビ番組等に意識を向けておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しない。毎回資料を配布する予定。配布資料は、その回の授業だけでなく、他の回の授業、期末レポート等に必要になるので、整理して保存すること。

【参考書】
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）
・戸田竜也「学級担任・特別支援教育コーディネーターのための『特別な教育的ニーズ』をもつ子どもの支援ガイド」明治図書、2015年
その他、適宜授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（毎時間の理解を示すリアクションペーパー等）70％＋最終レポート30％

【学生の意見等からの気づき】
公立中学校教員として勤務した経験からのエピソード、映像などを使用して行った授業が分かりやすかったという学生からの意見を参考にし、引き続き分かりやすい授業改善に取り組む。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
公立中学校特別支援学級教員の経験を活かし、特別支援教育に関わる今日的な課題についての授業を行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Support and Understand for Special Educational Needs, concretely developmental disorders, mild mental retardation, ethnic minority, poverty, child abuse and so on.
【Learning Objectives】
The goal is to understand (or acquire):
◇ the characteristics of disabilities and mental and physical development of infants, children and students with special needs, in particular, basic knowledge about learning and living difficulties of various disabilities.
◇ the mental and physical development, psychological characteristics, and learning process of such child, and the philosophy and mechanism of system of special support education including inclusive education.
◇ the curriculum and support methods for infants, children and students who require special support through case studies of support methods, the position of class guidance and independence activities in the curriculum,
◇ the significance and methods of creating individual guidance plans and educational support plans.
◇ the significance of building a support system in collaboration with coordinators, related organizations, and families.
◇ infants, children and students who have no disabilities but have special educational needs. In particular, those who fall under this case due to problems such as their mother tongue and poverty, and how to deal with them, and the need for systematic measures.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policies】
Final grade will be calculated according to the following process Term-end report:30%, and in-class contribution(reaction paper):70%.

総合的な学習の時間の指導法

篠塚　昭司

配当年次／単位：2～4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
総合的な学習の時間の意義と原理、特に学校ごとに目標や内容を定める際の考え方を理解する。総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方、特に探究的な学習の基礎的な理論や対話を中心とした学習の具体的方法、および他教科との連携の方法を理解し、実際に指導計画が立てられるようになる。総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解できる。

【到達目標】
探究的な見方・考え方をし、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育む総合的な学習の時間の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。特に、教科ごとに育まれる見方・考え方を活用し、広範な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、実社会・実生活の課題を探求する学びを実現する授業づくりに必要な基礎的力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義と演習（グループワーク、ディスカッション、スピーチ等）中心の対面授業を行います。（欠席時のオンライン補講は行いません。）
課題や授業振り返りの提出は、「学習支援システム」を通じて行う予定です。
授業計画は受講人数や学生の興味・関心によって、若干変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（ねらいと目標、進め方）	「総合的な学習の時間」の体験の振り返りと、その学習の意義についての共有化を図る。
第2回	「総合的な学習の時間」の位置づけ（目標、授業時数、他教科との関連）	学習指導要領にみる「総合的な学習の時間」と、戦後初期のコア・カリキュラムとの共通点・相違点を考える。
第3回	カリキュラム上の特徴（問題解決型学習や探究的な学習）	教育課程と指導計画の基本的な考え方を理解する。ＳＤＧｓと関連付けた「総合的な学習の時間」について理解する。
第4回	実社会に活かす学び（学校教育と実社会経験の架橋）	体験活動、シティズンシップ教育、地域との連携等から、社会に開かれた教育課程の在り方について考える。
第5回	アクティヴ・ラーニングの技法	問題解決型学習、課題解決型学習、参加型学習、他者との協同学習等の実際から、生徒の能動的な学習方法についての理解を深める。
第6回	具体的な実践例（社会科系）と評価方法	国際理解、福祉・健康等の領域を中心とした実践について学ぶ。
第7回	具体的な実践例（理科系）と評価方法	環境、情報等の領域を中心とした実践について学ぶ。
第8回	学校ごとの目標の立て方（目標と診断的評価）	「総合的な学習の時間」の目標と、育成を目指す資質・能力について理解し、評価の観点や方法について考える。
第9回	年間計画と指導案作成の理解	クラス、学年、学校、講座等を単位とした、年間指導計画と指導案を構想する。
第10回	指導案作成の実践的学習	探究のプロセスのポイントを理解し、思考ツールの使用した協同学習を実践する。
第11回	指導案改善の観点と方法	課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現の観点と指導方法を改善する。
第12回	指導案改善の実践的学習	生徒同士の学び合いを促すため、学習者視点での指導案改善を実践する。
第13回	指導案の発表と講評（中学校）	中学校における指導案の発表を行い、記録・分析・協議を行う。
第14回	指導案の発表と講評（高校)	高等学校における指導案の発表を行い、記録・分析・協議を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。
＜予習＞次回の授業内容に関する参考文献の該当ページを読む。
＜復習＞授業で提示された課題や授業内容に関する振り返りを行い、学習支援システムで回答する。

【テキスト（教科書）】
特にありません。必要に応じて、適宜プリントを配布します。

【参考書】
文部科学省（2017）『中学校学習指導要領（平成29年告示）』
文部科学省（2017）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　総合的な学習の時間編』
文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』
文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　総合的な探究の時間編』
＊いずれも文部科学省ＨＰで閲覧・ダウンロードが可能です。

【成績評価の方法と基準】
平常点①（各授業内で行う演習への取り組み状況と内容）20％
平常点②（各授業後に行う振り返りの提出状況と内容）　30％
学習指導案以外の課題　20％
最終学習指導案　30％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更により、前年度のフィードバックはできません。
各回の授業後に行う「授業振り返り」を踏まえて、授業を適宜改善していきます。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてＰＣを用意してもらいます。
資料配布・課題提出の際は、学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
東京都公立中学校で３１年間、国立大学附属中学校で７年間、計３８年間勤務した実務経験と知識を活かして実践的な授業を行っていきます。 毎回、グループワークとディスカッションを行いますので、授業には積極的に参加してください。

【Outline (in English)】
Method for the Period for Integrated Studies. The significance of this subject, the flame of purpose and contents in each school, how to make teaching plans, the way of evaluation of students grades.
To acquire knowledge and skills related to the preparation of instructional plans, specific teaching methods, and evaluation of learning activities about "the Period for Integrated Study."
In particular, students will acquire the basic skills necessary to create classes that achieve the following three points. (1) to utilize the perspectives and ideas nurtured in each subject, (2) to view a wide range of events from a variety of angles, and (3) to realize learning that explores issues in real society and real life.
Grading Criteria [14times short report and in-class contribution 50%][Last long report 50%]

総合的な学習の時間の指導法

篠塚　昭司

配当年次／単位：2～4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
総合的な学習の時間の意義と原理、特に学校ごとに目標や内容を定める際の考え方を理解する。総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方、特に探究的な学習の基礎的な理論や対話を中心とした学習の具体的方法、および他教科との連携の方法を理解し、実際に指導計画が立てられるようになる。総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解できる。

【到達目標】
探究的な見方・考え方をし、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育む「総合的な学習の時間」の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。特に、教科ごとに育まれる見方・考え方を活用し、広範な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、実社会・実生活の課題を探求する学びを実現する授業づくりに必要な基礎的力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義と演習（グループワーク、ディスカッション、スピーチ等）中心の対面授業を行います。（欠席時のオンライン補講は行いません。）
課題や授業振り返りの提出は、「学習支援システム」を通じて行う予定です。
授業計画は受講人数や学生の興味・関心によって、若干変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（ねらいと目標、進め方）	「総合的な学習の時間」の体験の振り返りと、その学習の意義についての共有化を図る。
第2回	「総合的な学習の時間」の位置づけ（目標、授業時数、他教科との関連）	学習指導要領にみる「総合的な学習の時間」と、戦後初期のコア・カリキュラムとの共通点・相違点を考える。
第3回	カリキュラム上の特徴（問題解決型学習や探究的な学習）	教育課程と指導計画の基本的な考え方を理解する。ＳＤＧｓと関連付けた「総合的な学習の時間」について理解する。
第4回	実社会に活かす学び（学校教育と実社会経験の架橋）	体験活動、シティズンシップ教育、地域との連携等から、社会に開かれた教育課程の在り方について考える。
第5回	アクティヴ・ラーニングの技法	問題解決型学習、課題解決型学習、参加型学習、他者との協同学習等の実際から、生徒の能動的な学習方法についての理解を深める。
第6回	具体的な実践例（社会科系）と評価方法	国際理解、福祉・健康等の領域を中心とした実践について学ぶ。
第7回	具体的な実践例（理科系）と評価方法	環境、情報等の領域を中心とした実践について学ぶ。
第8回	学校ごとの目標の立て方（目標と診断的評価）	「総合的な学習の時間」の目標と、育成を目指す資質・能力について理解し、評価の観点や方法について考える。
第9回	年間計画と指導案作成の理解	クラス、学年、学校、講座等を単位とした、年間指導計画と指導案を構想する。
第10回	指導案作成の実践的学習	クラス、学年、学校、講座等を単位とした、年間指導計画と指導案を構想する。
第11回	指導案改善の観点と方法	課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現の観点と指導方法を改善する。
第12回	指導案改善の実践的学習	生徒同士の学び合いを促すため、学習者視点での指導案改善を実践する。
第13回	授業指導案の発表と講評（中学校）	中学校における指導案の発表を行い、記録・分析・協議を行う。
第14回	授業指導案の発表と講評（高校)	高等学校における指導案の発表を行い、記録・分析・協議を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。
＜予習＞次回の授業内容に関する参考文献の該当ページを読む。
＜復習＞授業で提示された課題や授業内容に関する振り返りを行い、学習支援システムで回答する。

【テキスト（教科書）】
特にありません。必要に応じて、適宜プリントを配布します。

【参考書】
文部科学省（2017）『中学校学習指導要領（平成29年告示)』
文部科学省（2017）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　総合的な学習の時間編』
文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領（平成30年告示)』
文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　総合的な探究の時間編』
＊いずれも文部科学省ＨＰで閲覧・ダウンロードが可能です。

【成績評価の方法と基準】
平常点①（各授業内で行う演習への取り組み状況と内容）20％
平常点②（各授業後に行う振り返りの提出状況と内容）　30％
学習指導案以外の課題　20％
最終学習指導案　30％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更により、前年度のフィードバックはできません。
各回の授業後に行う「授業振り返り」を踏まえて、授業を適宜改善していきます。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてＰＣを用意してもらいます。
資料配布・課題提出の際は、学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
東京都公立中学校で３１年間、国立大学附属中学校で７年間、計３８年間勤務した実務経験と知識を活かして実践的な授業を行っていきます。 毎回、グループワークとディスカッションを行いますので、授業には積極的に参加してください。

【Outline (in English)】
Method for the Period for Integrated Studies. The significance of this subject, the flame of purpose and contents in each school, how to make teaching plans, and the way of evaluating students' grades.
To acquire knowledge and skills related to the preparation of instructional plans, specific teaching methods, and evaluation of learning activities in relation to "the Period for Integrated Study."
In particular, students will acquire the basic skills necessary to create classes that achieve the following three points. (1) to utilize the perspectives and ideas nurtured in each subject, (2) to view a wide range of events from a variety of angles, and (3) to realize learning that explores issues in real society and real life.
Grading Criteria [14times short report and in-class contribution 50%][Last long report 50%]

BSP100EA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎演習Ⅰ

岡野内　正

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**火1**/Tue.1
備考（履修条件等）：**クラス指定科目。詳細は「ガイダンス配布資料」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員および他の受講生との議論を通じて、現代社会の諸問題と自分の生き方を結び付けて考える。

【到達目標】
①学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤あらゆることがらについて問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP2・DP3・DP4に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
読書会形式でテキストを精読します。受講生は、授業の前に毎回「授業日誌」を作成して、それをもとに少人数グループで共有しながら、全員が発表して議論を進めます。そのあとに、少人数グループの代表が議論の状況を報告し、講師を含む全員で討論していくとともに、わからないことを解決し、調べてきたこと、議論した論点を共有していきます。なお、対面授業の際は、テキストに関連するさまざまなテーマについて、ディベート形式の討論も行います。授業に関するさまざまな質問へのフィードバックは、授業時間に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	現代社会と学問	授業説明、自己紹介（この授業でやりたいこと、学生時代にやりたいこと、一生かけてやりたいことを語ってもらいます。）、ゼミ運営の役割分担など。
2	日本語版序文および第１章プレカリアート	報告と討論。
3	現代社会のリスクと不安問題について	簡単なディベート。
4	第２章プレカリアートが増える理由	報告と討論。
5	現代社会のチャンス問題。	ディベート形式の議論。
6	第３章プレカリアートになるのは誰か？	報告と討論。
7	現代社会の差別問題	ディベート形式の議論。
8	第４章移民は犠牲者か、悪者か、それとも英雄か？	報告と討論。
9	現代社会の戦争問題	ディベート形式の議論。
10	第５章　労働、仕事、時間圧縮前半	報告と討論。
11	現代社会のゆとり問題	ディベート形式の議論。
12	第６章地獄に至る政治、	報告と討論。
13	現代世界の危険性	ディベート形式の議論。
14	第７章極楽に至る政治	報告と討論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ガイ・スタンディング著　岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円+税（英語版原書 Guy Standing,"The Precariat ： The New Dangerous Class", Bloomsbury,2011は、出版社サイト＜https://www.bloomsburycollections.com/book/the-precariat-the-new-dangerous-class/＞で全文無料公開されている）。

【参考書】
岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021年、3300円+税。
岡野内正他訳著『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、定価2000円プラス税。
ヘレン・カルディコット著　岡野内正他訳『狂気の核武装大国アメリカ』集英社新書、2008年、定価777円。

【成績評価の方法と基準】
毎回の出席を前提に、提出された授業日誌について、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみたいこと、の各項目の内容をそれぞれ25%ずつ、合計100％にして、評価します。

【学生の意見等からの気づき】
一回限りの試験やレポートではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応えて、「授業日誌」での評価を導入してみました。また、緊張するけど発表したり議論することでクラスで仲良くなれるとして好評だったディベート形式の議論も入れてみました。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当。国際開発・人権NGOでの長年の活動経験を生かして教室での討論を展開します。

【Outline (in English)】
A seminar class on the issues of Globalization. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on the subjects from the sociological perspective.
[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.
[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end research paper: 40%、Short reports: 30%、in class contribution: 30%.

BSP100EA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎演習Ⅱ

岡野内　正

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**火1**/Tue.1
備考（履修条件等）：**クラス指定科目。詳細は「ガイダンス配布資料」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会の諸問題と自分の生き方とを結び付けて、学問的に考えて、議論しあう。

【到達目標】
①学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤あらゆることがらについて問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
読書会形式でやや短めのテキストを精読します。担当学生が要旨と論点を報告し、講師を含めて議論していきます。受講生は、毎回「授業日誌」を作成し、それをもとに少人数グループと全体とで議論を進めます。最後の2回は、各自が自由論題で学術論文形式で作成してきたゼミ自由論文の報告会をします。授業に関するさまざまな質問などへのフィードバックは、授業時間に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	現代社会の諸問題の学問的解明と私たちの生き方	授業説明と報告者決定、役割分担など。
2	はじめに	報告と討論
3	日本でベーシックインカムは可能か	ディベート形式の議論
4	第2部1，3章ナミビア	報告と討論
5	日本でベーシックインカムを導入すべきか	ディベート形式の議論
6	第2部2章ブラジル、4章インド	報告と討論
7	貧困削減援助として、インフラ援助とベーシックインカム援助のどちらがいいか	ディベート形式の議論
8	第2部5章アラスカ、6章イラン	報告と討論
9	貧困削減援助でベーシックインカムは可能か	ディベート形式の議論
10	第1部神学的まえがき、1章社会実験	報告と討論
11	学術論文の書き方について	各自が考えてみたい問題やテーマに関する参考文献を3点みつけてきて、簡単に報告してもらい、ます。
12	第1部2章影響評価	報告と討論
13	基礎ゼミ論文の中間発表	自分のテーマについてのこれまでの研究状況について、参考文献に基づいて報告してもらいます。
14	第1部第3章全国的実施	報告と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岡野内正他訳著『グローバル・ベーシック・インカム入門』（明石書店、2016年、定価2000円プラス税）。

【参考書】
岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』（法律文化社、2021年）。
ガイ・スタンディング著　岡野内正監訳『プレカリアート』（法律文化社、2016年）。

【成績評価の方法と基準】
最終回に提出された授業日誌およびゼミ自由論文について、50%ずつ100％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
一回限りの試験やレポートではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応えて、「授業日誌」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当。国際開発NGOでの長年の活動経験と観察を生かした教室での討論を展開します。

【Outline (in English)】
A seminar class on the issues of Globalization. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on the subjects from the sociological perspective.
[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.
[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end research paper: 40%、Short reports: 30%、in class contribution: 30%.

BSP100EA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎演習Ⅰ

中村　尚樹

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**火1**/Tue.1
備考（履修条件等）：**クラス指定科目。詳細は「ガイダンス配布資料」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
モビリティに着目しながら、日本社会の将来を展望する文献をテキストに、レジュメ作成と発表、コメントを通して、参加者のまなざしの違いを確認する。そのことにより、問題に対する深い理解を得たうえで、自分の考えをまとめるという主体的かつ論理的な思考力の習得を目的とする。

【到達目標】
1)文献の意図を正確に理解することができる。
2)問題意識をもって「問い」を発し、結論を導くことができる。
3)以上を簡潔にまとめ、発表することができる。
4)比較的短い文章で的確に自分の意見をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP2・DP3・DP4に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
テキストからそれぞれ希望する項目（節）を選び、レジュメを準備したうえで毎回数人ずつ報告する。全員による質疑応答を踏まえ、授業終了後に報告者は概要をまとめたリポートを、他の参加者はミニリポートを提出する。最終授業で、全体のまとめや復習をはじめ、授業で課したレポート等に対する講評や解説も行う。
授業計画は受講生の報告希望内容などにより、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	報告順と内容決定。
第2回	報告の仕方ガイダンス。図書館ガイダンスも。	レジュメ作成と資料収集の方法。
第3回	MaaS＆CASEとは	講師がレジュメ作成、報告の模範例。
第4回	移動弱者対策（仮）	担当者がレジュメを作成し発表する。
第5回	観光型MaaS（仮）	担当者がレジュメを作成し発表する。
第6回	タクシーの進化（仮）	担当者がレジュメを作成し発表する。
第7回	自動運転（仮）	担当者がレジュメを作成し発表する。
第8回	電動キックボード（仮）	担当者がレジュメを作成し発表する。
第9回	駐車場シェアリング（仮）	担当者がレジュメを作成し発表する。
第10回	物流プラットフォーム（仮）	担当者がレジュメを作成し発表する。
第11回	空飛ぶクルマ（仮）	担当班がレジュメを作成し発表する。
第12回	医療型MaaS（仮）	担当者がレジュメを作成し発表する。
第13回	スマートシティ（仮）	担当者がレジュメを作成し発表する。
第14回	春学期のまとめ	全体を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中村尚樹『ストーリーで理解する日本一わかりやすいMaaS &CASE』（2020年、プレジデント社）

【参考書】
適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
【報告回】報告担当者はレジュメ作成・プレゼンテーション20点＋終了後のリポート15点＝35点で評価する。
【ミニリポート】報告者以外は各回提出のミニリポートを5点満点で評価する。
【合計】ミニリポート提出は13回×5点＝65点満点となる。報告回の評価とあわせ、100点満点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
レジュメ作成のポイントを授業冒頭で解説する。

【その他の重要事項】
テレビと雑誌メディアで報道経験のある担当者が、最新のトピックスを題材にしながら、社会分析の方法と、コミュニケーションスキルも学ぶ授業となる。

【Outline (in English)】
Focusing on mobility, students create and present resumes.The aim is to acquire the ability to think independently and logically to organize one's own thoughts after gaining a deep understanding of the problem.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each. Read the text carefully in advance, and the reporter summarizes it in a resume.
The person in charge of reporting will be evaluated on a scale of 20 points for writing resumes and presentations + 15 points for reports after completion = 35 points.
13 mini-report submissions x 5 points = 65 points. Together with the evaluation of the report times, it will be evaluated on a scale of 100 points.

BSP100EA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎演習Ⅱ

中村　尚樹

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**火1**/Tue.1
備考（履修条件等）：**クラス指定科目。詳細は「ガイダンス配布資料」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
参加者は自ら課題を設定し、ひとつのテーマに関する体系的な論文をまとめる。論文作成の作法を学ぶとともに、幅広い知識に裏打ちされた、独創的な思考力を習得する。

【到達目標】
1)適切な論文テーマを設定できる。
2)文献や資料を的確に検索し、利用できる。
3)問題意識を持ち、他者との議論を通じて理解を深めることができる。
4)論理的で独創的な論文をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP2・DP3・DP4に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
春学期で学んだ内容を展開し、各自がそれぞれ独自にテーマを設定する。テーマの内容は基本的に執筆者の意見を尊重する。そのうえでレジュメを作成して論文の構想を発表する。これを踏まえて、暫定的な論文を作成する。質疑応答や講師によるアドバイスを踏まえて、最終論文を作成する。春学期履修が前提となる。
授業では論文作成の作法はもちろん、テーマの決め方や論考の進め方を学ぶ。レジュメ、論文ともメールに添付して提出する。
なお、授業計画は授業の展開や社会情勢の変化によって、若干の変更があり得る。
最終授業で、全体のまとめや復習をはじめ、各受講生に対し、提出してもらった論文に対する講評やアドバイスを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文テーマ設定	テーマ設定、報告順、報告日程決定。
第2回	レジュメ・論文作成の作法。	レジュメ・論文作成の作法や執筆方法、図書館の有効活用について学ぶ。
第3回	論文作成の思考	内容面を中心に論文の書き方。
第4回	論文構想発表①シェアリング（仮）	自ら選んだテーマで、論文作成の方針を報告し、討論する。
第5回	論文構想発表②サブスクリプション（仮）	自ら選んだテーマで、論文作成の方針を報告し、討論する。
第6回	論文構想発表③自動運転（仮）	自ら選んだテーマで、論文作成の方針を報告し、討論する。
第7回	論文構想発表④MaaSアプリ（仮）	自ら選んだテーマで、論文作成の方針を報告し、討論する。
第8回	論文構想発表⑤スマートシティ（仮）	自ら選んだテーマで、論文作成の方針を報告し、討論する。
第9回	暫定論文発表①シェアリング（仮）	論文（暫定版）を報告し、完成に向けて討論する。
第10回	暫定論文発表②サブスクリプション（仮）	論文（暫定版）を報告し、完成に向けて討論する。
第11回	暫定論文発表③自動運転（仮）	論文（暫定版）を報告し、完成に向けて討論する。
第12回	暫定論文発表④MaaSアプリ（仮）	論文（暫定版）を報告し、完成に向けて討論する。
第13回	暫定論文発表⑤スマートシティ（仮）	論文（暫定版）を報告し、完成に向けて討論する。
第14回	確定論文講評 全体まとめ	講評とまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中村尚樹『ストーリーで理解する日本一わかりやすいMaaS &CASE』（2020年、プレジデント社）

【参考書】
適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
論文構想（レジュメ作成）10点、暫定論文10点、確定論文52点、平常点28点

【学生の意見等からの気づき】
作文と論文の違いに戸惑う学生が多いため、論文執筆のスタイルを授業冒頭で明確に提示する。

【その他の重要事項】
テレビと雑誌メディアで報道経験のある担当者が、最新のトピックスを題材にしながら、社会分析の方法と、コミュニケーションスキルも学ぶ授業となる。

【Outline (in English)】
Participants set their own questions and compile a systematic treatise on one theme. While learning how to write a treatise, you will acquire creative thinking skills based on a wide range of knowledge. In addition to the presentation of the resume, the grades will be evaluated comprehensively in the dissertation.
The standard time for both preparation and review for this class is 2 hours each. It is desirable to search and read related books during the summer holidays.
The evaluation method is as follows.
10 points for drafting a thesis (resume creation), 10 points for provisional papers, 52 points for finalized papers, 28 points for attendance.

LAW300EB（法学 / law 300）

政策と制度

長沼　建一郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**火2**/Tue.2

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策は、様々な社会的課題を解決する取り組みですが、その実現には制度を構築し、運用することによって行動を組織する必要があります。
政府・自治体において、また市民社会の中で、それぞれの問題や対象の特質に応じた政策と制度を立案する必要性が高まっています。そのため制度の構築・運用という課題に焦点を当てて、政策実施のための考え方と手法について学びます。
「入門」ではなく「出口」として、この学部で学んださまざまな社会科学を活かして（それらを前提として）、問題を政策的・制度的に解決する（学問を実際に使う）ことを目指します。
学科共通展開科目であり、「上級科目」と理解ください。

【到達目標】
政策を実現するためのツールについて理解し、活用する能力を身に着けること。政策に携わるうえで必要な基礎的能力を形成するとともに、制度のあり方について考察する能力を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP5・DP6 に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
なるべく具体的な事例を素材として、法政策論および「法と経済学」を駆使した検討と解決を試みます。
皆さんからの質問やコメントなどには次の授業で答えます。
講義内で希望する参加者とのやり取りや意見交換も行う予定です。できればそれらに重点を置きたいと思っています。
履修要件とはしませんが、初歩的ないし基礎的な法律学の知識はある程度前提として講義しますので、注意ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方、政策決定と制度運営、政策サイクル、政治学／経済学／法学の思考の違い
第2回	政策の決定方法（1）「全体の福利か、個人の権利か」	社会的意思決定、"fairness vs welfare"、パレートとカルドア・ヒックス基準、多数決／少数意見
第3回	政策の決定方法（2）「公共的討議か、利害の衝突か」	本音と建前、合議と熟議、共和主義と多元主義、代表制／半代表、政党の役割
第4回	政策問題の定位「プライベートか、パブリックか」	公法と私法、私人間効力、公私二分論・リベラリズム、市民社会論・新しい公共論、利己と利他
第5回	政策・制度と市場「公共財か、価値財・負財か」	権限（entitlement）の設定とコースの定理、社会的費用の最小化、最安価費用回避者
第6回	政策要求の宛先「投票箱（国会）か、裁判所か」	原告適格・訴えの利益、紛争志向型訴訟と政策志向型訴訟、クラスアクション、三権分立と正統性
第7回	政策と時間軸（1）「抜本改革か、漸進主義か」	法改正と新法制定、「世直し」と「立て直し」、増分主義、risk approach／population approach
第8回	政策と時間軸（2）「事前（pre）の予防か、事後（post）の救済か」	規制と給付、行政指導・監察、モニタリングコストと裁判コスト、政策評価（output／outcome）
第9回	政策と不確実性「効用最大化か、リスク回避か」	コスト・ベネフィット分析、功利主義、マキシミン戦略、限定合理性、ヒューリスティック
第10回	政策実現の手法（1）「インセンティブか、サンクションか」	民事賠償と刑事罰・行政罰、勧告・公表、補助金、優遇税制、テーパリング、努力義務・不完全義務
第11回	政策実現の手法（2）「ルールか、スタンダードか」	法律と政省令、通達行政、裁量と裁量権の逸脱、最低基準・推奨基準、プリンシパルとエージェント
第12回	政策実現の手法（3）「一律強制か、任意・選択か」	強行規定と任意規定、majority default／penalty default、スタンダードパッケージ、分離均衡
第13回	政策・制度の担い手「専門知か、市民参加か」	公務員・ストリートレベル官僚、審議会・委員会、第三者機関・オンブズマン、行政手続法
第14回	補説・まとめ	講義の補足・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
ただし基礎的な法律学の知識を有しない場合は、並行してそれら学習する必要があるでしょう。

【テキスト（教科書）】
長沼建一郎『法政策論への招待』（信山社、2022年）（2000円+税）をテキストとして指定します。

【参考書】
授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。期末試験（100％）の予定です。
希望する参加者とのやり取り・意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点を勘案します。履修者人数によりますが、むしろそちらに重点を置きたいとは思っています。

【学生の意見等からの気づき】
とくになし。

【その他の重要事項】
中央官庁で政策立案・実施に携わった経験を踏まえて講義します。
授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。
なお担当教員は難聴のため、発言や会話の際は、大きめの声でお願いします。
基礎的な法律学（民法、憲法等）はある程度前提として講義しますのでご注意ください。

【Outline (in English)】
This course deals with policy and institusion.
At the end of the course, students are expected to understand and discuss policy and institusion
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Mid-term examination: 40%,Term-end examination: 60%

SES100EB（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 100）

サステイナビリティ論Ｂ

長沼　建一郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**木**3/Thu.3

その他属性：〈実〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「人間」にかかわる社会問題をとりあげて、サステイナビリティの観点からの政策的な対応を検討します。
コースへの入門講義として、なるべく皆さん（主として１年生）の関心に即したテーマを扱っていきたいと思います。

【到達目標】
いわゆる社会問題と、それへの政策的な対応についての理解を深め、持続可能性の観点から問題解決の道筋を提案できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP6・DP7に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
代表的な社会問題（福祉・社会保障、雇用・労働、家族など）をとりあげて、具体的な事例を素材として、その政策的な対応について紹介・検討します。
皆さんからの質問やコメントなどには次の授業で全体に対して答えます。
講義内で希望する参加者とのやり取りや意見交換も行う予定です。
コース専門科目のA群科目であり、中心的な履修生としては社会政策科学科の１年生を想定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	社会問題と政策、サステイナビリティ
第2回	メンタルの問題	自殺、ストレス、うつ病、依存症
第3回	健康・医療の問題	生活習慣（病）、超高額医療、終末医療
第4回	介護・障害の問題	認知症・介護保険、障害への合理的配慮、出生前診断
第5回	家族の問題	婚姻・親子、同性婚、人工生殖
第6回	子育ての問題	保育所、児童虐待、母子世帯
第7回	補説	前半部分の補足、ライフサイクルとサステイナビリティ
第8回	ジェンダーの問題	男女差別、性同一性障害、マイノリティ
第9回	貧困の問題	生活保護、自立・就労支援、相対的貧困
第10回	年金・老後保障の問題	公的年金、私的年金（iDeCo、NISA等）
第11回	労働市場の問題	賃金労働、就活・転職、失業保険
第12回	労働環境の問題	日本型雇用、賃金、労働法制
第13回	人口減少の問題	将来人口推計、出生率対策、児童手当
第14回	補説、まとめ	後半部分の補足、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
長沼建一郎『ソーシャルプロブレム入門』（信山社、2021年）（2500円+税）を教科書として指定します。

【参考書】
授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。期末試験（70％）、中間試験（30％）の予定です。
希望する参加者とのやり取り、意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点も勘案します。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの使用により、理解しやすいようにします。

【その他の重要事項】
授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。
科目名（サブ）は旧課程の「環境問題Ｂ」を引き継いでいますが、この科目では環境問題は扱わないので、注意してください。
担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。
なお担当教員は難聴のため、発言や会話の際は、大きめの声でお願いします。
おもに社会政策科学科の１年生向けの話（大学生活にかかるガイダンス的な内容）が多く含まれることにつき、あらかじめご了知ください。

【Outline (in English)】
This course deals with social problems and social policies.
At the end of the course, students are expected to understand and discuss social problems and social policies.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Mid-term examination: 40%,Term-end examination: 60%

LAW200EB（法学 / law 200）

社会保障法Ⅰ

長沼　建一郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**水2**/Wed.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。学問性は維持しつつ、知っていると役に立つ（逆に「知らないと損をする」）事柄をなるべく扱いたいと思います。

【到達目標】
自分自身のライフサイクルやライフプランとのかかわりで、基本的な法制度の内容を理解し、活用できるようになること。
さらにその政策的論点について、考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP6・DP7に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
法制度の基本的な仕組みとともに、実際の制度の利用方法について説明するとともに、法政策的な論点や今後のあり方を検討します。
質問やコメントに次の授業で全体に対して答えます。
講義内で希望する参加者とのやり取り、意見交換も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ライフサイクルと社会保障
2	保険とは何か	生命保険と損害保険、金融業界と保険会社
3	社会保険とは何か	社会保険の基本的な仕組み
4	雇用保険①	失業したらどうするか
5	雇用保険②	育児休業や介護休業、再就職のための給付
6	労災保険①	仕事や通勤でケガや病気をしたら
7	労災保険②補説	過労死・過労自殺と労災認定
8	労働保険・補説	前半部分の補説、まとめ
9	医療保険①	病気になったらどうするか
10	医療保険②	保険料と窓口ではいくら払うのか
11	医療保険③	どういう医療を受けられるのか、高齢者医療
12	介護保険①	（親が）寝たきりや認知症になったら
13	介護保険②	どんな介護サービスが利用可能か
14	補説、まとめ	後半部分の補足、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
森戸英幸・長沼建一郎『ややわかりやすい社会保険（法）』（弘文堂）。

【参考書】
椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』（有斐閣）。

【成績評価の方法と基準】
テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。期末試験（100％）の予定です。
希望する参加者とのやり取り、意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点も勘案します。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの使用により、理解しやすいようにします。

【その他の重要事項】
授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。（一部を秋学期の社会保障法Ⅱに回すこともあり得ます。）
担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。
なお担当教員は難聴のため、発言や会話の際は、大きめの声でお願いします。

【Outline (in English)】
This course deals with social security law.
At the end of the course, students are expected to understand and discuss social security law.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Mid-term examination: 40%,Term-end examination: 60%

LAW300EB（法学 / law 300）

社会保障法Ⅱ

長沼　建一郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**水**2/Wed.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。学問性は維持しつつ、知っていると役に立つ（逆に「知らないと損をする」）事柄をなるべく扱いたいと思います。

【到達目標】
自分自身のライフサイクルやライフプランとのかかわりで、基本的な法制度の内容を理解し、活用できるようになること。
さらにその政策的論点について、考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP6・DP7に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
法制度の基本的な仕組みと、実際の制度の利用方法について説明するとともに、法政策的な論点や今後のあり方を検討します。
質問やコメントに次の授業で全体に対して答えます。
講義内で希望する参加者とのやり取り、意見交換も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、公的年金①	年金は何のためにあるのか
2	公的年金②	いくら払って、いくらもらえるのか――全国民共通の基礎年金
3	公的年金③	いくら払って、いくらもらえるのか――サラリーマンの厚生年金
4	公的年金④	女性のライフサイクルと年金、障害年金・遺族年金
5	公的年金⑤	年金財政は大丈夫なのか
6	公的年金⑥補説	年金税制、前半部分の補足
7	私的年金	企業年金・個人年金は頼りになるか（iDeCo等）
8	社会福祉等の体系	各福祉分野と公衆衛生などの位置づけ
9	生活保護①	どういうときに支給されるのか、保護の補足性、稼働能力の要件
10	生活保護②	いくら支給されるのか、基準及び程度の原則
11	障害者福祉	身体障害・知的障害・精神障害
12	児童福祉	保育所・子育て支援
13	社会手当	児童手当、ひとり親家庭への手当
14	補説、まとめ	後半部分の補足、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
森戸英幸・長沼建一郎『ややわかりやすい社会保険（法）』（弘文堂）。

【参考書】
椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』（有斐閣）。

【成績評価の方法と基準】
テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。期末試験（100％）の予定です。
希望する参加者とのやり取り、意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点も勘案します。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの使用により、理解しやすいようにします。

【その他の重要事項】
授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。（春学期の社会保障法Ⅰの内容の一部を扱うこともあり得ます。）
担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。
なお担当教員は難聴のため、発言や会話の際は、大きめの声でお願いします。

【Outline (in English)】
This course deals with social security law.
At the end of the course, students are expected to understand and discuss social security law.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Mid-term examination: 40%,Term-end examination: 60%

SOC100EB（社会学 / Sociology 100）

グローバル市民社会論 A

岡野内　正

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**水4**/Wed.4

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
男女ペアの近代家族に基づく国民経済の自立と国民国家の独立に基づいた諸国家（ネイション）の連合体が、近代化を達成して人類を幸せに導くというのが、20世紀の人類の夢であった。その夢はかなわず、21世紀の人類の大多数は、テロリストを次々に生み出す人格形成の危機、女性への構造的暴力、激しい民族対立、地球規模の環境破壊で苦しんでいる。この人類社会の危機を乗り越える新しい夢として、グローバル市民社会という考え方が提唱されてきた。この授業の目的は、この考え方の概略をつかむことだ。

【到達目標】
人類社会を常に男女ペアの近代家族に基づく国民国家の枠組みから捉えようとするやり方を、近代家族イデオロギーに基づく方法論的ナショナリズム、という。一人当たりの生産物の量が絶えず増加することで人類社会が幸福になれるという考え方を、近代化論という。20世紀に支配的だったこの二つの考え方の意義と限界を明確につかむこと。そのうえで、グローバル市民社会論の意義と限界について議論できるようになることが、この授業の目標だ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
　グローバル市民社会に関する学術書を精読しつつ、今日の学問状況を批判的に検討する。受講生は、毎回の授業までに全員がテキストの該当部文について、次の4点を含む「授業ノート」を作成し、授業支援システムの掲示板に書き込む。①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみたいこと。
　毎回の授業の前半部分では、少人数で全員がそれを共有しつつ報告・議論し、その少人数分科会の座長になった人が、授業後半部分で、自分の分科会の状況を報告し、それをもとに、講師を含む全員で問題を共有して、議論をしながら、わからなかったことを解決して知識を増やすとともに、挙げられてきたさまざまな論点について、より深い問いを共有していく。
フィードバックは、授業時間中および前後での質問時間で、さらにHoppiの掲示板を用いたやりとり、そして、オフィスアワーやメールでの直接連絡を通じて密接に行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	近代家族イデオロギー、方法論的ナショナリズム、近代化論、グローバル市民社会論の概略。授業の進め方についての説明。
2	グローバル化とプレカリアート	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
3	プレカリアートが増える理由	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
4	プレカリアートになるのは誰か	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
5	移民論	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
6	労働、仕事、時間圧縮	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
7	プレカリアート増加の政治的帰結	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
8	ガイ・スタンディングが提起する政策的展望	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
9	グローバル市民社会とベーシック・インカム（序論）	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論。
10	ベーシックインカムのナミビア実験の概要と結果	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論。
11	ナミビア実験後の展望と現状	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論。
12	ブラジルとインドでのベーシックインカム実験について	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論。
13	アラスカとイランについて	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論。
14	ウクライナ、ガザ、…での戦争とグローバル市民社会	分科会と全体討論による、受講生と教員を交えた議論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円＋税。
岡野内正他著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円＋税。

【参考書】
岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021年、3300円+税。
岡野内正研究室のサイト（https://takunseminar.ws.hosei.ac.jp/wp/）にある諸論文。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業参加を前提とする14回分の授業ノートの内容によって100%評価します。

【学生の意見等からの気づき】
一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応えて、「授業ノート」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当。国際開発・人権NGOでの長年の活動経験と観察を踏まえて、授業での討論を展開します。

【Outline (in English)】
A kind of seminar class on the issues of Global Civil Society. Participants are required to read the textbook on the issues.　Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on the subjects from the sociological perspective.
[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.
[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Before-class reports in HOPPI: 40%、After-class reports in HOPPI: 30%、in class contribution: 30%.

SOC200EB, SOC200EC（社会学 / Sociology 200 , 社会学 / Sociology 200）

国際協力論

岡野内　正

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**水4/Wed.4**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際協力とは、南北問題の解決をめざす諸国家と諸国民のさまざまな活動のことだ。南北問題とは、貧しい南の国々と豊かな北の国々との間での、貧富の格差から起こるさまざまの問題のことだ。しかし、20世紀後半以降の国際協力は、南北問題を解決できていない。この失敗の原因を探究するうえで、欠かせない論点の概略をつかむ。

【到達目標】
①国際協力に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤国際協力について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち, DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
国際協力についての担当教員の新著を精読しつつ、今日の学問状況を批判的に検討する。受講生は全員が、毎回の授業前までに、「授業日誌」を作成して、掲示板に書きこんでいく。「授業日誌」は、テキストの該当箇所を読んで、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、、④みんなで話し合ってみたいこと、を含むこと。授業前半ではZOOMのブレークアウトセッションを用いて、少人数分科会で全員が各自の授業日誌を共有しながら議論し、後半では、少人数分科会の座長になった人が分科会の状況を報告し、講師を含む全員で議論することで、どうしてもわからない問題を解決し、調べてきたことを共有し、さらにより深い問いをもてるようにする。
フィードバックは、授業時間中および前後での質問時間で、さらにHoppiの掲示板を用いたやりとり、そして、オフィスアワーやメールでの直接連絡を通じて密接に行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	国際協力をめぐる学問状況	授業説明と受講生による自由討論。
2	批判開発論とグローバル・ベーシック・インカム構想	受講生の報告と教員を交えた議論
3	開発援助から民衆中心開発戦略への転換―コーテン	受講生の報告と教員を交えた議論
4	開発援助への再挑戦―サックス	受講生の報告と教員を交えた議論
5	脱開発の世界秩序再編―ザックス	受講生の報告と教員を交えた議論
6	グローバル企業支配の告発―ジョージ	受講生の報告と教員を交えた議論
7	グローバル帝国転覆の論理―ネグリ	受講生の報告と教員を交えた議論
8	グローバル資本主義学派のグローバル企業権力論	受講生の報告と教員を交えた議論
9	国連SDGsの論理	受講生の報告と教員を交えた議論
10	コロナ・パンデミックと宇宙開発	受講生報告と教員を交えた議論
11	グローバル・ベーシック・インカム構想	受講生報告と教員を交えた議論
12	歴史的不正義に関する正義回復論	受講生報告と教員を交えた議論
13	グローバル企業資本の植民地的起源	受講生報告と教員を交えた議論。授業日誌の提出。
14	真の国際協力とは何か？	受講生報告と教員を交えた議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021年、3300円+税。

【参考書】
阪本公美子・岡野内正・山中達也編著『日本の国際協力　中東・アフリカ編』ミネルヴァ書房、2021年、4000円+税。
ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円＋税。
岡野内正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円＋税。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業参加を前提に、掲示板に書き込まれた授業日誌の各項目について、25%ずつ100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応えて、「授業日誌」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当。教室討論の中で、国際開発・人権NGO活動への長年の参加経験と観察を踏まえた議論を展開します。

【Outline (in English)】
A kind of seminar class on the issues of International Cooperation. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on the subjects from the sociological perspective.
[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.
[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Before-class reports in HOPPI: 40%、After-class reports in HOPPI: 30%、in class contribution: 30%.

ARSh200EB, ARSh200EC

イスラム社会論

岡野内　正

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**水2**/Wed.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イスラーム社会とは、イスラーム教徒住民が多数を占める中近東、北アフリカ、南アジア、東南アジアなどの諸地域の地域社会のこと。イスラーム社会の諸問題を受講生の生き方の問題と結びつけて考えることができるようにしたい。

【到達目標】
①イスラーム社会に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤イスラーム社会の諸問題について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち, DP1･DP3･DP6･DP7･DP8･DP10に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
中東・イスラーム世界研究の著作を受講生全員で検討する。受講生で小グループを作り、授業日誌を報告し合って議論し、その要点を、講師を含む全員で議論する。受講生は、毎回、「授業日誌」（テキストの該当部分について以下の4点を含むこと。①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみたこと。）を作成してくることが必須となる。受講生にとっては、だんだんわからないことが、減ってくるとともに、より深い、学問的な疑問が増えていくことになる。それがこの授業の狙いである。
フィードバックは、授業時間中および前後での質問時間で、さらにHoppiの掲示板を用いたやりとり、そして、オフィスアワーやメールでの直接連絡を通じて密接に行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	中東・イスラーム社会を学ぶということ	授業の全体についての説明。テーマについて知りたいことに関する自由討論。
2	冷戦後の国際政治と中東地域の構造変容	受講生報告と教員を交えた議論
3	21世紀の中東におけるイスラーム主義運動	受講生報告と教員を交えた議論
4	グローバル化する中東とレンティア国家：レンティア国家再考	受講生報告と教員を交えた議論
5	エジプト――民衆は時代の転換に何を望んだか	受講生報告と教員を交えた議論
6	アラブの春とチュニジアの国家＝社会関係：歴史的視点から	受講生報告と教員を交えた議論
7	「パレスチナ問題」をめぐる語りの変容・イスラエルの国家安全保障問題	受講生報告と教員を交えた議論
8	中東地域の女性と難民、およびロジャヴァ革命論	受講生報告と教員を交えた議論
9	トルコ―新自由主義・親イスラーム政党・外交	受講生報告と教員を交えた議論
10	中東地域秩序におけるアラビア半島諸国の台頭を支える安定性の源泉	受講生報告と教員を交えた議論
11	イランのイスラーム統治体制の現状	受講生報告と教員を交えた議論
12	イラク「政治体制を巡る迷路」	受講生報告と教員を交えた議論
13	ヨルダン――紛争との共生	受講生報告と教員を交えた議論
14	中東・イスラーム研究の課題	受講生報告と教員を交えた議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
松尾昌樹・岡野内正・吉川卓郎編『中東の新たな秩序（グローバルサウスはいま第3巻）』ミネルヴァ書房、2016年、3800円+税。
岡野内正「アラブの春は西クルディスタンで花開いたか？ ――シリア内戦におけるロジャヴァ革命研究のために」『アジア・アフリカ研究』61（2）2021年4月に所収。（岡野内正研究室HPの「中東研究」のページからダウンロードできる。）

【参考書】
阪本公美子・岡野内正・山中達也編著『日本の国際協力　中東・アフリカ編』ミネルヴァ書房、2021年、4000円+税。
長沢栄治他編『中東と日本の針路』大月書店、2016年、1800円プラス税。
岡野内　正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円プラス税。
ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円プラス税。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業参加を前提に、毎回の授業日誌の4項目について、25%ずつ、合計100％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応えて、「授業日誌」での評価を導入しました。また、討論型の授業への要望が強いので、継続します。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当。パレスチナ難民支援のNGO活動に参加し、レバノンの難民キャンプなどで活動した経験とその際の観察なども含めて、授業で討論していきます。

【Outline (in English)】
A kind of seminar class on contemporary Muslin society. Participants are required to read the textbook on contemporary Middle East.　Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on contemporary Muslim society from the sociological perspective.
[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.
[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting.　Your study time will be more than four hours for a class.
[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following:　Before-class reports in HOPPI: 40%、After-class reports in HOPPI: 30%、in class contribution: 30%.

SOC300ED（社会学 / Sociology 300）

クリエイティブ・ライティング

梨屋　アリエ

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**月3**/Mon.3
備考（履修条件等）：**受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
エッセイ作品の制作と批評を行い、実践的に表現意識の向上を図るとともに、文章作成、出版の作業に必要な知識を学ぶ。

【到達目標】
文章表現の上達を第一の目的とするが、思考することや自己を表現することを意識的に行う場でもある。提出作品はすべて批評の対象となる。受講学生が作品を読みあい意見交換することで、読者の視点を確認し、より的確に表現するための手がかりを獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP2・DP4 に関連。
DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
対面授業の講義の他、学習支援システムやＺｏｏｍなどを利用し、作品制作に関する実習を行う。
学生は800字～1500字程度のエッセイ作品を制作、推敲、発表する。作品制作のほか批評や課題解決のための話し合いなどを行う。
授業への質問等はリアクションペーパー、メールなどで受け付け、次回以降の授業内にフィードバックを行う。
課題作品については必要に応じて個別にフィードバックをおこない、そのための時間を授業内に設定する。
授業の進度により内容は変更する。
作品の制作や提出は授業時間外に行う。
※実習中心の授業のため、一クラスの受講者は最大で20名まで。
初回授業の課題を期限内に提出した学生のみ、受講を許可する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	クリエイティブライティングとは	授業の説明と初回課題
第2回	基礎課題	文章力、表記のルールの確認
第3回	エッセイ鑑賞	文体や表現に注目する
第4回	疑似批評	作品分析のグループワークと推敲
第5回	エッセイ作品1の提出と講義	主観・客観情報を意識する
第6回	作品1の指導	個別面談
第7回	作品1の改稿と講義	表現方法を工夫する
第8回	作品1の合評	評価のグループワークと質疑応答
第9回	エッセイ作品2の提出と講義	公用文の表記について
第10回	作品２指導	個別面談
第11回	作品2の改稿と講義	著作権について
第12回	作品2の合評	評価のグループワークと質疑応答
第13回	エッセイ作品3の提出と講義	本ができるまで
第14回	作品3の合評	評価のグループワークとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
『モンテーニュ　エセー抄』みずず書房。『とっさの方言』ポプラ文庫。『三時のおやつ』ポプラ文庫。『原稿編集ルールブック』第二版　日本エディタースクール編集。『日本語の正しい表記と用語の辞典』講談社。『きみの存在を意識する』ポプラ社。『翻訳者による海外文学ブックガイドBOOKMARK』ＣＣＣメディアハウス。

【成績評価の方法と基準】
課題作品や提出物40%・平常点60%。
作品評価は、課題の提出ルールや文字数、締め切りを遵守し、誤りのない文と筋の通った内容で作品が書かれていることを合格点とし、文学的な工夫や魅力のあるものに加点する。作品と感想の課題をすべて提出し、授業内のワークに協力的に参加することが単位取得の最低条件となる。平常点としては、各回の課題の他、授業への参加の態度などを合わせて加点する。すべての授業に出席することが前提である。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の話し合いの時間を取り入れているため、「ほかの学生の意見や感想が聴けるので課題制作に張り合いがあった」、「グループで批評をする時間が作品制作以上にとても刺激になった」という感想が多い。

【学生が準備すべき機器他】
Ｚｏｏｍ使用の際は、カメラ、マイク使用可でインターネットに接続できるＰＣを推奨する。Ｚｏｏｍをしながら学習支援システムにアクセスする授業内容があるので、ＰＣ以外で受講する場合は機材の特性を理解しておくこと。
資料配布は学習支援システムを使用する。課題提出はワードかテキストファイルで学習支援システムに提出する。個別の連絡に大学アカウントのＥメールを使用するので、各自対応できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】
児童文学やヤングアダルト小説の作家である教員が、創作活動や出版の経験を活かして、読者に伝わる文章表現やエッセイ作品について実践的に指導する。
エッセイの本を読んだ経験のない学生は、履修登録前に数冊読んでおくこと。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course introduces creative writing to students taking this course.
【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to writing skills and nowledge of composition
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content
【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%).

SOC300ED（社会学 / Sociology 300）

クリエイティブ・ライティング

梨屋　アリエ

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**月**3/Mon.3
備考（履修条件等）：**受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
エッセイ作品の制作と批評を行い、実践的に表現意識の向上を図るとともに、文章作成、出版の作業に必要な知識を学ぶ。

【到達目標】
文章表現の上達を第一の目的とするが、思考することや自己を表現することを意識的に行う場でもある。提出作品はすべて批評の対象となる。受講学生が作品を読みあい意見交換することで、読者の視点を確認し、より的確に表現するための手がかりを獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP2・DP4 に関連。
DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
対面授業の講義の他、学習支援システムやＺｏｏｍなどを利用し、作品制作に関する実習を行う。
学生は800字～1500字程度のエッセイ作品を制作、推敲、発表する。作品制作のほか批評や課題解決のための話し合いなどを行う。
授業への質問等はリアクションペーパー、メールなどで受け付け、次回以降の授業内にフィードバックを行う。
課題作品については必要に応じて個別にフィードバックをおこない、そのための時間を授業内に設定する。
授業の進度により内容は変更する。
作品の制作や提出は授業時間外に行う。
※実習中心の授業のため、一クラスの受講者は最大で20名まで。
初回授業の課題を期限内に提出した学生のみ、受講を許可する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	クリエイティブライティングとは	授業の説明と初回課題
第2回	基礎課題	文章力、表記のルールの確認
第3回	エッセイ鑑賞	文体や表現に注目する
第4回	疑似批評	作品分析のグループワークと推敲
第5回	エッセイ作品1の提出と講義	主観・客観情報を意識する
第6回	作品1の指導	個別面談
第7回	作品1の改稿と講義	表現方法を工夫する
第8回	作品1の合評	評価のグループワークと質疑応答
第9回	エッセイ作品2の提出と講義	公用文の表記について
第10回	作品２指導	個別面談
第11回	作品2の改稿と講義	著作権について
第12回	作品2の合評	評価のグループワークと質疑応答
第13回	エッセイ作品3の提出と講義	本ができるまで
第14回	作品3の合評	評価のグループワークとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
『モンテーニュ　エセー抄』みずず書房。『とっさの方言』ポプラ文庫。『三時のおやつ』ポプラ文庫。『原稿編集ルールブック』第二版　日本エディタースクール編集。『日本語の正しい表記と用語の辞典』講談社。『きみの存在を意識する』ポプラ社。『翻訳者による海外文学ブックガイドBOOKMARK』ＣＣＣメディアハウス。

【成績評価の方法と基準】
課題作品や提出物40%・平常点60%。
作品評価は、課題の提出ルールや文字数、締め切りを遵守し、誤りのない文と筋の通った内容で作品が書かれていることを合格点とし、文学的な工夫や魅力のあるものに加点する。作品と感想の課題をすべて提出し、授業内のワークに協力的に参加することが単位取得の最低条件となる。
平常点としては、各回の課題の他、授業への参加の態度などを合わせて加点する。すべての授業に出席することが前提である。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の話し合いの時間を取り入れているため、「ほかの学生の意見や感想が聴けるので課題制作に張り合いがあった」、「グループで批評をする時間が作品制作以上にとても刺激になった」という感想が多い。

【学生が準備すべき機器他】
Ｚｏｏｍ使用の際は、カメラ、マイク使用可でインターネットに接続できるＰＣを推奨する。Ｚｏｏｍをしながら学習支援システムにアクセスする授業内容があるので、ＰＣ以外で受講する場合は機材の特性を理解しておくこと。
資料配布は学習支援システムを使用する。課題提出はワードかテキストファイルで学習支援システムに提出する。個別の連絡に大学アカウントのＥメールを使用するので、各自対応できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】
児童文学やヤングアダルト小説の作家である教員が、創作活動や出版の経験を活かして、読者に伝わる文章表現やエッセイ作品について実践的に指導する。
エッセイの本を読んだ経験のない学生は、履修登録前に数冊読んでおくこと。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course introduces creative writing to students taking this course.
【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to writing skills and nowledge of composition
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content
【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%).

SOC300ED（社会学 / Sociology 300）

クリエイティブ・ライティング

梨屋　アリエ

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**月4**/Mon.4
備考（履修条件等）：**受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
エッセイ作品の制作と批評を行い、実践的に表現意識の向上を図るとともに、文章作成、出版の作業に必要な知識を学ぶ。

【到達目標】
文章表現の上達を第一の目的とするが、思考することや自己を表現することを意識的に行う場でもある。提出作品はすべて批評の対象となる。受講学生が作品を読みあい意見交換することで、読者の視点を確認し、より的確に表現するための手がかりを獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP2・DP4 に関連。
DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
対面授業の講義の他、学習支援システムやＺｏｏｍなどを利用し、作品制作に関する実習を行う。
学生は800字～1500字程度のエッセイ作品を制作、推敲、発表する。作品制作のほか批評や課題解決のための話し合いなどを行う。
授業への質問等はリアクションペーパー、メールなどで受け付け、次回以降の授業内にフィードバックを行う。
課題作品については必要に応じて個別にフィードバックをおこない、そのための時間を授業内に設定する。
授業の進度により内容は変更する。
作品の制作や提出は授業時間外に行う。
※実習中心の授業のため、一クラスの受講者は最大で20名まで。
初回授業の課題を期限内に提出した学生のみ、受講を許可する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	クリエイティブライティングとは	授業の説明と初回課題
第2回	基礎課題	文章力、表記のルールの確認
第3回	エッセイ鑑賞	文体や表現に注目する
第4回	疑似批評	作品分析のグループワークと推敲
第5回	エッセイ作品1の提出と講義	主観・客観情報を意識する
第6回	作品1の指導	個別面談
第7回	作品1の改稿と講義	表現方法を工夫する
第8回	作品1の合評	評価のグループワークと質疑応答
第9回	エッセイ作品2の提出と講義	公用文の表記について
第10回	作品２指導	個別面談
第11回	作品2の改稿と講義	著作権について
第12回	作品2の合評	評価のグループワークと質疑応答
第13回	エッセイ作品3の提出と講義	本ができるまで
第14回	作品3の合評	評価のグループワークとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
『モンテーニュ　エセー抄』みずず書房。『とっさの方言』ポプラ文庫。『三時のおやつ』ポプラ文庫。『原稿編集ルールブック』第二版　日本エディタースクール編集。『日本語の正しい表記と用語の辞典』講談社。『きみの存在を意識する』ポプラ社。『翻訳者による海外文学ブックガイドBOOKMARK』ＣＣＣメディアハウス。

【成績評価の方法と基準】
課題作品や提出物40%・平常点60%。
作品評価は、課題の提出ルールや文字数、締め切りを遵守し、誤りのない文と筋の通った内容で作品が書かれていることを合格点とし、文学的な工夫や魅力のあるものに加点する。作品と感想の課題をすべて提出し、授業内のワークに協力的に参加することが単位取得の最低条件となる。平常点としては、各回の課題の他、授業への参加の態度などを合わせて加点する。すべての授業に出席することが前提である。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の話し合いの時間を取り入れているため、「ほかの学生の意見や感想が聴けるので課題制作に張り合いがあった」、「グループで批評をする時間が作品制作以上にとても刺激になった」という感想が多い。

【学生が準備すべき機器他】
Ｚｏｏｍ使用の際は、カメラ、マイク使用可でインターネットに接続できるＰＣを推奨する。Ｚｏｏｍをしながら学習支援システムにアクセスする授業内容があるので、ＰＣ以外で受講する場合は機材の特性を理解しておくこと。
資料配布は学習支援システムを使用する。課題提出はワードかテキストファイルで学習支援システムに提出する。個別の連絡に大学アカウントのＥメールを使用するので、各自対応できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】
児童文学やヤングアダルト小説の作家である教員が、創作活動や出版の経験を活かして、読者に伝わる文章表現やエッセイ作品について実践的に指導する。
エッセイの本を読んだ経験のない学生は、履修登録前に数冊読んでおくこと。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course introduces creative writing to students taking this course.
【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to writing skills and nowledge of composition
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content
【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%).

SOC300ED（社会学 / Sociology 300）

クリエイティブ・ライティング

梨屋　アリエ

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**月4**/Mon.4
備考（履修条件等）：**受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
エッセイ作品の制作と批評を行い、実践的に表現意識の向上を図るとともに、文章作成、出版の作業に必要な知識を学ぶ。

【到達目標】
文章表現の上達を第一の目的とするが、思考することや自己を表現することを意識的に行う場でもある。提出作品はすべて批評の対象となる。受講学生が作品を読みあい意見交換することで、読者の視点を確認し、より的確に表現するための手がかりを獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP2・DP4 に関連。
DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
対面授業の講義の他、学習支援システムやＺｏｏｍなどを利用し、作品制作に関する実習を行う。
学生は800字～1500字程度のエッセイ作品を制作、推敲、発表する。作品制作のほか批評や課題解決のための話し合いなどを行う。
授業への質問等はリアクションペーパー、メールなどで受け付け、次回以降の授業内にフィードバックを行う。
課題作品については必要に応じて個別にフィードバックをおこない、そのための時間を授業内に設定する。
授業の進度により内容は変更する。
作品の制作や提出は授業時間外に行う。
※実習中心の授業のため、一クラスの受講者は最大で20名まで。
初回授業の課題を期限内に提出した学生のみ、受講を許可する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	クリエイティブライティングとは	授業の説明と初回課題
第2回	基礎課題	文章力、表記のルールの確認
第3回	エッセイ鑑賞	文体や表現に注目する
第4回	疑似批評	作品分析のグループワークと推敲
第5回	エッセイ作品1の提出と講義	主観・客観情報を意識する
第6回	作品1の指導	個別面談
第7回	作品1の改稿と講義	表現方法を工夫する
第8回	作品1の合評	評価のグループワークと質疑応答
第9回	エッセイ作品2の提出と講義	公用文の表記について
第10回	作品２指導	個別面談
第11回	作品2の改稿と講義	著作権について
第12回	作品2の合評	評価のグループワークと質疑応答
第13回	エッセイ作品3の提出と講義	本ができるまで
第14回	作品3の合評	評価のグループワークとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
『モンテーニュ　エセー抄』みずず書房。『とっさの方言』ポプラ文庫。『三時のおやつ』ポプラ文庫。『原稿編集ルールブック』第二版　日本エディタースクール編集。『日本語の正しい表記と用語の辞典』講談社。『きみの存在を意識する』ポプラ社。『翻訳者による海外文学ブックガイドBOOKMARK』ＣＣＣメディアハウス。

【成績評価の方法と基準】
課題作品や提出物40%・平常点60%。
作品評価は、課題の提出ルールや文字数、締め切りを遵守し、誤りのない文と筋の通った内容で作品が書かれていることを合格点とし、文学的な工夫や魅力のあるものに加点する。作品と感想の課題をすべて提出し、授業内のワークに協力的に参加することが単位取得の最低条件となる。
平常点としては、各回の課題の他、授業への参加の態度などを合わせて加点する。すべての授業に出席することが前提である。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の話し合いの時間を取り入れているため、「ほかの学生の意見や感想が聴けるので課題制作に張り合いがあった」、「グループで批評をする時間が作品制作以上にとても刺激になった」という感想が多い。

【学生が準備すべき機器他】
Ｚｏｏｍ使用の際は、カメラ、マイク使用可でインターネットに接続できるＰＣを推奨する。Ｚｏｏｍをしながら学習支援システムにアクセスする授業内容があるので、ＰＣ以外で受講する場合は機材の特性を理解しておくこと。
資料配布は学習支援システムを使用する。課題提出はワードかテキストファイルで学習支援システムに提出する。個別の連絡に大学アカウントのＥメールを使用するので、各自対応できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】
児童文学やヤングアダルト小説の作家である教員が、創作活動や出版の経験を活かして、読者に伝わる文章表現やエッセイ作品について実践的に指導する。
エッセイの本を読んだ経験のない学生は、履修登録前に数冊読んでおくこと。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course introduces creative writing to students taking this course.
【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to writing skills and nowledge of composition
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content
【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%).

COT300ED（計算基盤 / Computing technologies 300）

プログラミングと論理的思考

湯本　正実

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**火4**/Tue.4
備考（履修条件等）：**受講にはプログラミング入門の修得が必要。受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
プログラミングのみならず、レポート、発表、面接時等での思考手段としても役に立つ論理的思考の説明を行う。
自分の考えを、矛盾や破綻がないように組み立てて、他人に伝えるために、有用な手法を習得してもらう。

【到達目標】
論理的思考のきっかけや参考になるようなエピソードや既存の問題を説明し、それを元に「論理的思考」についての考えを深めて行く。
また、オブジェクト指向についての基礎部分も理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP2・DP4に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
準備した教材やWebページ、書籍等を参考にして、内容を理解し、論理的思考のヒントを見つけ、思考の習慣づけを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講座の狙いおよび進め方の説明 論理的思考とオブジェクト指向について
第2回	メモ書きから	考え事のメモを、フローチャートやプログラム的記述にしてみる。
第3回	論理(ロジック)についての具体例	例)否定疑問文の返事が日本語と英語で逆になる点をロジックで考察する。
第4回	論理(ロジック)についての具体例(続き)	例)Excelのvlookup関数の実装方針
第5回	事後確率：モンティホール問題の解析	ジェンダー問題と確率論に対する論理的な理解の欠落により、社会問題に至ってしまった「モンティホール問題」の紹介。
第6回	モンティホール問題についての考察提出	上記モンティホール問題についての私見、感想等を提出。出席者が小数であれば発表。
第7回	社会的実事例に基づく処理の流れの分析	映画「ラスベガスをぶっつぶせ」等のエピソード
第8回	ブラックボックス付きフローチャート	自分だけでは解決できない箇所がある場合の扱い方。
第9回	アルゴリズム問題の学習	アルゴリズムの典型的な問題の説明(魔方陣等)。
第10回	関連事項：共通テストの「情報Ⅰ」の内容から	共通テストの「情報Ⅰ」の内容から、基礎知識の振り返り。
第11回	頭が先か手が先かのアプローチ	ロジック vs.アジャイル・プログラミングについて
第12回	今までの説明内容の振り返り＋課題作成検討	各自で課題を決めて、フローチャート＋プログラムで最終課題の準備を行う。
第13回	課題作成(続き)	各自で課題を決めて、フローチャート＋プログラムで最終課題の作成を行う。
第14回	最終課題完成＋提出	最終課題完成＋提出(日本語以外も可)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
随時題材にする教材やWebページ、書籍等を準備して共有する。

【参考書】
指定なし。

【成績評価の方法と基準】
平常点：50%質疑内容および提出課題課題：50%で評価する。
最終課題提出は必須である。

【学生の意見等からの気づき】
有効な意見には、都度、フィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】
教室の教材で十分であるが、個人用パソコンの所有者は持参をお勧めする。
Java言語を使うので、その基礎知識があることが望ましい（必須ではない）。

【その他の重要事項】
現役のITエンジニアである教員が、実務経験で得た知識を講義する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Focusing on programming, learn the basics of logical thinking techniques.
【Learning Objectives】
Basic method of logical thinking.
【Learning activities outside of classroom】
The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】
Class performance rating: 30%Submission assignment: 70%.
Presentation of the assignments are mandatory.

COT300ED（計算基盤 / Computing technologies 300）

ウェブ・プログラミングA

湯本　正実

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**火2**/Tue.2
備考（履修条件等）：**受講にはプログラミング入門の修得が必要。受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディアの基幹として、Webページの作成方法を中心に説明する。
(ウェブ・プログラミングAとメディアプログラミング実習は、重複内容が多いので、どちらか一つの受講をお勧めします。)

【到達目標】
Webページの作成方法の基本を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP2・DP4に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
初学者対象で、HTML(HyperText Markup Language) 中心の説明を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Webページの基本	HTMLの基本概念
第2回	HTML タグ	HTML タグの基本
第3回	HTML タグ(続き)	様々なHTML タグについて
第4回	HTML 属性	属性とは？
第5回	リンク/クラス	HTML のリンク、クラスについて
第6回	表(テーブル)	HTML のテーブルについて
第7回	表(テーブル):続き	HTML のテーブルについて(続き)
第8回	箇条書き(リスト)	HTML のリストについて
第9回	レイアウト	HTML レイアウトについて
第10回	クライアントとサーバ	クライアントとサーバの概念
第11回	イベント処理	Javascript でのイベント処理
第12回	より細かい表現のために	詳細な機能の紹介
第13回	最終提出課題作成検討	最終提出課題作成
第14回	最終提出課題完成	最終提出課題完成および提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進める。

【参考書】
指定なし。

【成績評価の方法と基準】
平常点： 50%提出課題： 50%で評価する。
最終課題提出は必須である。

【学生の意見等からの気づき】
有効な意見には、都度、フィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】
教室の教材で十分であるが、個人用パソコンの所有者は持参をお勧めする。

【その他の重要事項】
現役のIT エンジニアである教員が、実務経験で得た知識を講義する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Learn basic knowledge of making Web page.
【Learning Objectives】
Understand the basics of making Web page.
【Learning activities outside of classroom】
The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】
Class performance rating: 30%Submission assignment: 70%.

COT300ED（計算基盤 / Computing technologies 300）

メディアプログラミング実習

湯本　正実

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**火**3/Tue.3
備考（履修条件等）：**受講にはプログラミング入門の修得が必要。受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディアの基幹として、Webページの作成方法を中心に説明する。

【到達目標】
Webページの作成方法を中心に説明する。
(ウェブ・プログラミングAとメディアプログラミング実習は、重複内容が多いので、どちらか一つの受講をお勧めします。)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP2・DP4に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
初学者対象で、HTML(HyperText Markup Language) 中心の説明を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Webページの基本	HTMLの基本概念
第2回	HTMLタグ	HTMLタグの基本
第3回	HTMLタグ(続き)	様々なHTMLタグについて
第4回	HTML属性	属性とは？
第5回	リンク/クラス	HTMLのリンク、クラスについて
第6回	表(テーブル)	HTMLのテーブルについて
第7回	表(テーブル):続き	HTMLのテーブルについて(続き)
第8回	箇条書き(リスト)	HTMLのリストについて
第9回	レイアウト	HTMLレイアウトについて
第10回	クライアントとサーバ	クライアントとサーバの概念
第11回	イベント処理	Javascriptでのイベント処理
第12回	より細かい表現のために	詳細な機能の紹介
第13回	最終提出課題作成検討	最終提出課題作成
第14回	最終提出課題作成および全体的Q&A	最終提出課題完成および提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進める。

【参考書】
指定なし。

【成績評価の方法と基準】
平常点：50%提出課題：50%で評価する。
最終課題提出は必須である。

【学生の意見等からの気づき】
有効な意見には、都度、フィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】
教室の教材で十分であるが、個人用パソコンの所有者は持参をお勧めする。

【その他の重要事項】
現役のITエンジニアである教員が、実務経験で得た知識を講義する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Learn basic knowledge of making Web page.
【Learning Objectives】
Understand the basics of making Web page.
【Learning activities outside of classroom】
The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】
Class performance rating: 30%Submission assignment: 70%.

COT300ED（計算基盤 / Computing technologies 300）

メディアプログラミング実習

湯本　正実

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**火**3/Tue.3
備考（履修条件等）：**受講にはプログラミング入門の修得が必要。受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディアの基幹として、Webページの作成方法を中心に説明する。
(ウェブ・プログラミングAとメディアプログラミング実習は、重複内容が多いので、どちらか一つの受講をお勧めします。)

【到達目標】
Webページの作成方法の基本部分を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP2・DP4に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
初学者対象で、HTML(HyperText Markup Language) 中心の説明を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Webページの基本	HTMLの基本概念
第2回	HTMLタグ	HTMLタグの基本
第3回	HTMLタグ(続き)	様々なHTMLタグについて
第4回	HTML属性	属性とは？
第5回	クラス/リンク	HTMLのクラス、リンクについて
第6回	表(テーブル)	HTMLのテーブルについて
第7回	表(テーブル):続き	HTMLのテーブルについて(続き)
第8回	箇条書き(リスト)	HTMLのリストについて
第9回	レイアウト	HTMLレイアウトについて
第10回	クライアントとサーバ	クライアントとサーバの概念
第11回	イベント処理	Javascriptでのイベント処理
第12回	より細かい表現のために	詳細な機能の紹介
第13回	最終提出課題作成検討	最終提出課題作成
第14回	最終提出課題作成および全体的Q&A	最終提出課題完成および提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進める。

【参考書】
指定なし。

【成績評価の方法と基準】
平常点：50%提出課題：50%で評価する。
最終課題提出は必須である。

【学生の意見等からの気づき】
有効な意見には、都度、フィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】
教室の教材で十分であるが、個人用パソコンの所有者は持参をお勧めする。

【その他の重要事項】
現役のITエンジニアである教員が、実務経験で得た知識を講義する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Learn basic knowledge of making Web page.
【Learning Objectives】
Understand the basics of making Web page.
【Learning activities outside of classroom】
The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】
Class performance rating: 30%Submission assignment: 70%.

SOC300ED（社会学 / Sociology 300）

映像制作技法

小坂　一順

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**木4**/Thu.4
備考（履修条件等）：**受講許可が必要。学科優先科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本実習は、映像制作に興味がある受講者を対象に映像制作における技術を身に付ける授業です。
主にAfterEffectsと3DCGソフトを使用してVFXの技術を習得します。
対象は初心者から上級者まで幅広く対象とします。
撮影、編集、VFXの基本的な知識を身につけます。
実習のほか、講義の時間もあり、日常目にする映像コンテンツにどのようにVFXが使われているかを理解します。
VFXが映像に与える影響力を学びます。
実習では実際に映画制作で使われているVFXの作成方法と技術を学びます。

【到達目標】
AfterEffectsを使い、映像作品を自力で一本制作できるようになります。
3DCGを使い、CG作品を自力で制作できるようになります。
普段目にしている映像にいかにVFXが使われているかを理解します。
VFXだけでなく、実際のプロの映像制作の過程を理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP11 に関連。
　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
半期で後期の映像制作に必要な編集、VFX技術を取得することになります。授業時間中にスクリーンを使いながら技法を説明し、時間中に作業も行なっていただきます。ですが映像の作り込みは宿題という形で授業時間外に制作活動をする必要があります。
VFXが映画やCMなどでどのように使用されているのかを実際の映像を観ながら説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 映像制作のワークフロー VFXとは何か	授業スケジュールの確認と課題 オリエンテーション
2	撮影技法①	参加者自己紹介 ソフトウエアのインストール 映像用語とその意味
3	編集技法①	編集 テロップ
4	編集技法②	アニメーション エフェクト
5	編集技法③	アニメーション エフェクト
6	合成技法①	グリーンバック合成
7	合成技法②	カラーグレーディング
8	合成技法③	総合
9	3DCG技法①	モデリング
10	3DCG技法②	モデリング
11	3DCG技法③	シェーディング
12	3DCG技法④	ライティング
13	3DCG技法⑤	カメラ　レンダリング
14	VFX総合	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
特にありませんが、補助的な教材として参考書の購入やYoutubeなどでTipsを視聴することをおすすめします。
授業内でどの教材やサイト、チャンネルが良い悪いということは申し上げません。

【成績評価の方法と基準】
毎回、授業終わりに出る映像制作課題のクオリティを評価します。
なので、コンスタントに課題を期限内に提出すると自然に点数に結びつけます。
例えば、平均的なクオリティを期間内に提出すると1.0の点数がつき、クオリティの良し悪し、提出日の遅れなどで、加点減点します。
12回の課題を予定しておりますので、
毎回課題を提出すれば、12点になり、評価Aに相当します。
12点=Aを基準に、それより点数が高い方にはAプラスやSを与えそれより点数が低い方にはBやCが与えられます。
ある基準点を満たせない方はDになる可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】
新規カリキュラム科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
撮影機材については101教室のカメラ、もしくはスマートフォンで十分です。
ハードウエアですが、編集やVFX制作についてはラップトップのPCが必要です。
詳しいスペックについては以下を参考にしてください。
https://helpx.adobe.com/jp/after-effects/system-requirements.html
推奨以下でも構いませんが、最低以上は必要です。
ソフトウエアについてはAdobeCC学生版を1年間購入していただきます。春学期終了後途中解約も可能ですが、解約料が発生します。解約料については私は負担できかねるので、ご了承ください。
授業内でインストールガイダンスを行いますので、受講前にインストールしていただく必要はございません。
後半3DCGの学習になりますと、高価なものではないですが、3つボタンのマウスが必要になります。こちらも授業内でアナウンスいたします。

【その他の重要事項】
映像制作の経験がなくても大丈夫ですが、相応の努力で経験者に追いくことが可能です。
努力で十分追いつき追い越せるだけのスキルが身に付きます。
秋学期の「映像制作実習」ではグループでの映像制作を行います。２つセットで受講することをおすすめしますが、必須ではありません。
毎週課題が出るので、授業時間外の学習時間が必要になります。
私は日本の映画業界、VFX業界にて現役で活動している人間なので、現在求められている人材、将来求められている人材をリアルに育てるため、今（将来）本当に必要とされる知識、スキルを身につけるための授業を行います。
授業の進行状況により、シラバスとは授業内容が変更になる場合がございます。
定員48名を超える場合はメールによる選抜を行います。初回授業の感想も含まれますので、第一回の授業は必ず出席していただくよう勧めます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to help students acquire a technique in the movie production who are interested in picture production.
【Learning Objectives】
You learn some technique. Shooting,Editing and VFX. Above all, around 90%of the class becomes the contents of the VFX production as my specialty is VFX.
The object intends from a beginner to a senior widely.
You acquire basic knowledge of shooting, editing, VFX.

You understand how VFX is used for picture contents to see every day.
You learn the influence that VFX gives a picture.
【Learning activities outside of classroom】
Most of the movie production activities are activities out of the school hour.
I assume one hour in total a standard at the preparations for this class learning, review time.
【Grading Criteria /Policy】
I evaluate it by normal point (40%) and production = submission (30+30%) of the problem work.

SOC300ED（社会学 / Sociology 300）

映像制作実習

小坂　一順

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**木4**/Thu.4
備考（履修条件等）：**受講許可が必要。学科優先科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
映像制作に興味がある方を対象に、チームで映像制作を行い、映像制作の方法を学びます。
前期の「映像制作技法」が個人的な技術力や知識を学ぶことが目的だったことに対し、映像制作実習ではチームごとに一つの作品を制作し、チームビルディングや社会性、協調性、マネージメントなど、映像の技術や創作はもちろん、社会に必要なスキルを実践を通して学ぶことが目的です。

【到達目標】
映像制作を通じて作り手側の意図や技法を理解し、映像リテラシーを学ぶ。
チームで映像制作をすることにより、社会性、協調性や自分の意見の通し方を学んだり、チームの中で自分がどのようなポジションに適正があるのかを自覚する。
とにかく映像制作をする上で授業外の時間が必要になります。もちろんある程度の調整は仲間内で可能ですが、「他の授業やゼミ」「アルバイト」「部活」「サークル」「就活」に並ぶイベントになります。苦労もあると思いますが、それ以上に楽しく貴重な経験と仲間ができると思います。
「楽しい思い出」「貴重な経験」「仲間」の獲得が一番の目標だと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP4・DP13に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
前半はチームワークを強化するためのグループワークと映像制作の基盤となる企画について学びます。
中盤はその企画をどう映像にするのか、撮影の準備の仕方や撮影方法について学び、実際に撮影を行っていただきます。
後半は編集、VFXを学び、映像をどう処理するか、処理の方法によって見え方伝わり方にどのような効果があるのかを学びます。
全般を通して映像制作の基本を技術的に学ぶと共に、将来の仕事に役立つチームワークと自分の立ち位置の取り方も学びます。
最後に「自己評価シート」を記入していただき、映像制作実習で自分が何を考え、どう行動し、どう成長したかを言葉にします。それによって自分の個性を知り、社会においてどう活躍できるのか、何を改善すると良いのかを知っていただきたいです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 参加者自己紹介	授業内容の説明 スケジュールの説明
2	チームビルディング① グループ分け 実例紹介 グループワーク	実例紹介 グループワークをしてチーム力と提案力を高めます
3	チームビルディング② グループワーク	実例紹介 グループワークをしてチーム力と提案力を高めます
4	企画① 制作課題発表	実例紹介 企画会議
5	撮影① 企画②	実例紹介 基本的な撮影技法 企画会議
6	撮影②	実例紹介 撮影技法
7	編集①	実例紹介 編集技法
8	VFX①	実例紹介 VFX技法
9	VFX①	実例紹介 VFX技法
10	カラーグレーディング①	実例紹介 カラーグレーディング技法
11	映像制作総合技術	総合的な技法の復習 ルール、レギュレーションの確認 90％を100％にする方法
12	映像制作総合技術	自己評価シートの配布と書き方 プレゼンテーション 発表方法
13	よりよい人生を送るために知っておくこと	就職と入社後の生き方について。
14	課題作品の発表会	課題作品の発表とプレゼン 課題作品の講評 アンケートと感想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
授業内に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
映像制作を行う授業なので、「作品」の良し悪しが点数になります。
作品の良し悪しはグループの評価になるので、
その作品においてどういう役割を担って、どのような活躍をしたか、また、問題点や問題の解決にどう行動をしたかなどの「自己評価シート」
が個人の評価になります。
「作品」と「自己評価シート」を精査して評価します。
出席については特にとりませんが、出席＝制作活動に参加をしないと作品のクオリティや自己評価シートの内容に影響するので、
必然的に出席＝参加＝評価となります。
「作品」70％
「自己評価シート」30％
但し、グループ制作の評価で1位を獲得した方にはA評価以上をつけています。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度の「自己評価シート」の授業の感想を参考にし、今年度の授業の参考にしています。授業内でアンケートを実施して、授業内容を変えるようなことは致しません。
映像制作後に「自己評価シート」を記入していただきます。その中で授業の感想を書いていただきます。これはもし来期以降授業がある場合に参考にいたします。

【学生が準備すべき機器他】
前期の「映像制作技法」を受講している生徒が一定数いるので、必要なPCorMACおよびソフトウエアはあるという前提で授業を行ないます。
なので、本授業のために新しくパソコンやソフトを購入する必要はございません。

【その他の重要事項】
上記の授業のテーマと内容は授業の進行状況と理解度によって変更になる場合があります。
現在も日本映画や配信、テレビドラマのVFXスーパーバイザーとして又、VFX会社の代表取締役として活動している教員が教えます。
授業中に推薦する資料以外での予習は必要ありません。

全くのCG制作映像制作初心者でも問題ございませんが、最低限のコンピューターを操作する知識は必要です。
物理学や美術、プログラミング、CG検定などの知識を得ている必要もありませんし、獲得も目指していません。より実践的な技術と知識の獲得を目指していただきます。

【Outline (in English)】
This course who are interested in video production, we will create a video in a team and learn the method of video production.
In contrast to the video production techniques of the first semester, where the purpose was to learn individual technical skills and knowledge, in the video production practice, you will experience that you can create a larger work by forming a team.
The purpose is to get students interested in the film industry, but we also have a view to be able to think of the film industry as a place of employment with confidence.
Learning Objectives
In the training, the student acquires a making method and a technique of VFX which is actually used by movie production.
Learning activities outside of classroom
Maybe the theme production is not over in the school hour.
So students will perform a continuance by extracurricular activities.
Grading Criteria /Policy
Your overall grade in the class will be decided based on the following
The learning situation by the class(80%)
The theme production(20%)

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED（社会学 / Sociology 200 , 社会学 / Sociology 200 , 社会学 / Sociology 200）

広告・消費文化論

青木　貞茂

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**水**3/Wed.3

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会において広告は、生活者のブランド選択やライフスタイルなどに様々な影響を与えている。またメディアを通じて発信される広義の広告情報は、コンテンツとして消費の対象となっている。この状況をふまえ、広告を幅広く消費文化との関連で捉えてその機能を論じ、高度大衆消費社会で広告が果たす役割を記号論等を用いて明らかにする。私たちの価値観や行動様式がいかに広告環境に組み込まれているかを認識し、自覚的・自律的なメディア情報把握、処理を実践する基礎能力を身につける。

【到達目標】
広告表現、消費文化表象の特徴や構造を学ぶことを通して、コンテンツ・広告分析に必要な知識を獲得し、広告の重層的な意味内容を把握できるようになることを目指す。また、消費文化として広告を捉えることで、広い意味での文化についての教養的な知識を習得することも意図する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10・DP11・DP13に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
音声パワーポイントを使用するオンデマンド授業であるる。広告を中心としながら、コンテンツ、デザイン、商品など関連消費文化の表象も取り上げ、領域横断的に記号表現としての構造的な同一性や変換構造、意味内容などを論じる。広告と消費の相互関係を、具体的な事例を通して説明する。授業に対して提出されたリアクションペーパーを次回の授業でいくつか取り上げて、講評を行なう。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	授業のオリエンテーション	授業のコンセプトと必要な予備知識などについて
第2回	現代社会における広告消費・文化	広告・消費文化は、現代社会の中でどのような役割を果たしているのか
第3回	広告の力とは何か	広告は、現代社会の中でどのような力を持っているのか
第4回	広告消費・文化の理論	米国の大量生産・大量消費を支えた広告とアメリカン・ウェイ・オブ・ライフについて
第5回	＜広告知＞の発展	広告表現開発における＜広告知＞の発展とはどのようなものか
第6回	ブランドと広告(1)	ブランディングに効果的な広告とは
第7回	ブランドと広告(2)	ブランディングに効果的な広告とは
第8回	日本の消費文化と広告の起源	江戸期における消費文化とメディア、広告の発達
第9回	明治から昭和初期の広告と消費文化	日本の近代化に伴う広告と消費文化の転換
第10回	日本おけるアメリカ型広告の浸透	アメリカン・ウェイ・オブ・ライフの影響
第11回	高度成長期・バブル期の広告消費・文化	選択基準としての＜私＞の絶対化と日本的な広告表現の到達点
第12回	現代の日本と世界の広告	現代の広告表現の動向と課題
第13回	文化の力と広告	ソフトパワーの担い手としての広告、およびその文化との関係
第14回	試験・まとめ	講義全体のまとめと論述試験の代替となる特別な課題を出題する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
青木貞茂『文化の力』（NTT出版、2008年）

【参考書】
青木貞茂『キャラクター・パワー』（NHK出版新書、2014年）他適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
評価は平常点（70％）と試験（30％）で行う。授業内で提示された課題を学習支援システムに提出。その提出回数と内容を評価する。また、最終回の課題は論述試験の代替として特別な課題を出題する。両者を合計して最終評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講生が、授業内容に関して学びのポイントを的確につかんでいるかを把握した上で、より学びが深まるようにフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

【その他の重要事項】
全ての回を受講し、課題を提出する意欲を持った学生の受講を希望する。
教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映した講義を行なう。

【Outline (in English)】
Advertisements in modern society influence consumers in many ways including their brand selection and lifestyle. In addition, broad-term advertisement information delivered by the media is a content subject to consumption. Taking this situation into account, we will look at advertising in the broadest sense of the word in relation to consumption culture, discuss its function and clarify the role played by advertisement in our advanced mass consumer society by using semiotics. Students will realize how our values and behavior styles are incorporated in the advertising environment. The class is designed to provide the basic skills to sort out and process subjective and self-directive media information.
Through studying the characteristics and structure of advertising expressions and consumer culture representations, students will be able to grasp the multilayered meanings of advertisements and acquire an educational knowledge of consumer culture in a broad sense.
They will also actively view advertisements, films, and dramas in their daily lives. If there are any preparatory studies or assignments, they will be given in class as appropriate. The standard preparation and review time for this class is two hours. Evaluation is based on ordinary points (70%) and examinations (30%). Assignments presented in class are submitted to the learning support system. The number of submissions and their contents will be evaluated. In addition, a special assignment will be given in the final session as an alternative to the essay exam. The combined score of both assignments will be the final assessment.

SOC200ED（社会学 / Sociology 200）

広告・ＰＲ論

青木　貞茂

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**水**3/Wed.3

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
広告・PRを中心としたメディアが提供するコンテンツを消費文化の重要な表現として捉えて、その現代的な機能・役割を明らかにするとともに、そのことを念頭に置いた広告・PRプランニングの実践に関わる基礎的な知識を修得することを目的とする。また、広告・PR産業についての理解を深めることも意図する。

【到達目標】
広告・PR業界について産業論の視点からその特徴と構造を把握し、その上で基礎的な広告・PRの基本的なプランニングに有用な基礎知識を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP11 に関連。
　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
コンテンツ、商品、デザイン、ファッションなどにも通じる、消費文化を形成するものとしての広告・PRの意味や、その企画立案の方法や要件などについて論じる。広告・PRとメディア産業の相互関係を念頭に、具体的な映像・画像やキャンペーンの事例をもとに説明を行なう。毎回課題を学習支援システムに提出、フィードバックを行なう。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	広告ビジネスの概要	広告・PRとは何か、ビジネスの視点からの講義と全体のオリエンテーション
第2回	広告会社の組織（１）	広告会社の組織の全体像とその内容
第3回	広告会社の組織（２）	広告会社の組織における専門職とその内容
第4回	生活者インサイトの発見（1）	インサイト発見のための調査方法と効果的なインサイト事例についてディベート
第5回	生活者インサイトの発見（2）	インサイト発見のための調査方法とプランニングへの応用
第6回	広告計画の流れとアカウント・プランニング	広告のプランニング手法としてのアカウント・プランニング概説
第7回	生活者インサイト（１）	生活者インサイトとは何か、その理論的解説
第8回	生活者インサイト（２）	生活者インサイトの調査方法と古典的事例のケース詳解
第9回	生活者インサイト（３）	生活者インサイトを活用した広告・PRの事例分析
第10回	ブランド戦略と言語ゲーム（１）	ブランド・コミュニケーション戦略とマネジメントの理論
第11回	ブランド戦略と言語ゲーム（２）	ブランド・コミュニケーション戦略とマネジメントの理論のアメリカの事例詳解
第12回	クロス・メディア（１）	日本のクロス・メディアの優れた事例について
第13回	クロス・メディア（２）	海外のクロス・メディアの優れた事例について
第14回	広告の未来	広告・PRの未来と試験課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
青木貞茂『文化の力』（NTT出版、2008年）

【参考書】
青木貞茂『キャラクター・パワー』（NHK出版、2014年）他適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
評価は平常点（70％）と試験（30％）で行う。最終回は論述試験を出題する。両者を合計して最終評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講生が、与えられた課題の内容、形式両面の指示に関するチェック、確認をおろそかにしている点を改善する。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

【その他の重要事項】
全ての回に出席する意欲を持った学生の受講を希望する。
教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映した講義を行なう。

【Outline (in English)】
Advertisement and PR contents provided by the media are considered as an important expression of consumption culture. The class aims to clarify its contemporary functions and roles, and also provides basic knowledge related with the practice of PR planning. It is also intended to deepen the understanding of the advertising /PR industry.
This course aims to provide students with an understanding of the characteristics and structure of the advertising and PR industry from an industrial theory perspective, enabling them to acquire basic knowledge useful for rudimentary advertising and PR planning. They will also actively view advertisements, films, and dramas in their daily lives. If there are any preparatory studies or assignments, they will be given in class as appropriate. The standard preparation and review time for this class is two hours. Evaluation is based on ordinary points (70%) and examinations (30%).

SOC300ED（社会学 / Sociology 300）

広告制作実習

青木　貞茂

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**月3**/Mon.3
備考（履修条件等）：**受講許可が必要。学科優先科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ビジネスと生活者を結ぶ広告コミュニケーションの情報構造を理解するために、具体的な広告の企画・制作を実習する。マーケティングの意図をどのように策定し、人々にインパクトと共感のある広告表現に転換して伝えるか。メッセージ創造の本質を体験的に学ぶ。

【到達目標】
実習により受講者の広告コミュニケーション能力を育成し、基礎的な表現企画が立案できるレベルに到達する。広告課題に対して資料、データ分析等を駆使して解決策となる具体的な広告表現を開発することができる。また、説得的かつ効果的なプレゼンテーションが可能となることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP4・DP13に関連。DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
本実習では、市場環境分析等を行ない、訴求ターゲットを定め、その上で、ターゲットに対する生活者インサイトによってメッセージを絞り込み、具体的な広告表現を開発する。課題を学習支システムに提出、フィードバックを行なう。表現案を制作・プレゼンテーションするため、受講者の積極的・主体的な参加を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のオリエンテーション	授業のコンセプトと全体の概要、必要な準備、予備知識などについて説明
第2回	広告の企画に関する基本知識	企画立案プロセスと必要な作業
第3回	広告企画の方法	広告表現開発の基本知識、ノウハウ
第4回	事例分析のオリエンテーション	成功理由を詳細な表現分析によって解明
第5回	成功した広告の事例分析	成功理由を詳細な表現分析によって解明
第6回	広告制作テーマの選定	広告表現開発のテーマ決定
第7回	市場環境分析と競合広告表現の分析(1)	広告対象商品の問題点と課題の抽出とターゲットの設定
第8回	市場環境分析と競合広告表現の分析(2)	広告対象商品の問題点と課題の抽出とターゲットの設定
第9回	生活者インサイトの発見(1)	訴求ターゲットに対する定性・定量調査実施、分析(観察調査などのフィールドワーク実施)
第10回	生活者インサイトの発見(2)	訴求ターゲットに対する定性・定量調査実施、分析(観察調査などのフィールドワーク実施)
第11回	広告企画書へのまとめ	ブリーフシートへのまとめと広告表現開発の前提の確認
第12回	キャッチコピー開発	広告のキャッチコピーを作成
第13回	レトリックの技法	表現のテクニックであるレトリックの技法習得
第14回	広告表現案作成	ブリーフシートにもとづいた広告表現開発

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜資料を配布する。

【参考書】
小沢正光『プロフェッショナル・アイディア』（インプレスジャパン、2007年）
小沢正光『プロフェッショナル・プレゼン』（インプレスジャパン、2008年）
適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
評価は、平常点（70％）、最終課題となる広告制作表現（30％）の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生が、与えられた課題の内容、形式両面の指示に関するチェック、確認をおろそかにしている点を改善する。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

【その他の重要事項】
・初回授業に出席して、担当教員の受講許可を得ること。
【受講者への要望】　全ての回に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望する。なおオフィスアワーは、月曜日の昼休み、青木の研究室にて実施。
教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映して授業をすすめる。

【Outline (in English)】
Students will participate in hands-on activities of planning and producing a specific TVCM to understand the information structure of advertisement communication that links business with consumers.　They will learn the essence of message creation, i.e. how to formulate the intention of marketing and convert it to an impactful advertisement expression that would arouse people's sympathy, before delivering it.
Through practical training, students will develop their advertising communication skills and reach a level where they can plan basic communications, so they will be able to use materials and data analysis to develop specific advertising communications that provide solutions to advertising issues. The goal is also for students to be able to make persuasive and effective presentations.
Students will learn basic knowledge about advertising and case studies in advance.　They will also actively view advertisements, films, and TV dramas in their daily lives. The standard preparation and review time for this class is one hour in total. The evaluation will be based on ordinary points (70%) and the final assignment of advertisement production expression (30%).

SOC300ED（社会学 / Sociology 300）

ニュース・ライティング

飯田　裕美子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**月2**/Mon.2
備考（履修条件等）：**受講許可が必要。学科優先科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
６回のインタビューと記事作成を通じ、ニュース記事の作成を実践的に学びます。ニュース記事は、記者が実際に人に会って話を聞き、ポイントを絞って伝わる文章にまとめ、多くの人の判断を経て配信されています。ファクトを平易に、具体的に、偏らない立場で書くことができれば、どんな職業に就くにせよ、社会に出てからもきっと役立ちます。メディアの実情を知ることで、情報を批判的に読み解くメディアリテラシーも磨いてください。

【到達目標】
人に伝わる文章が書けるようになるには、ざっくりした理解で満足せず、鳥の目より虫の目で物を見、もう一歩相手に踏み込んで具体的なディテールを聞き出す「質問力」が何より重要です。取材演習を通じ「この言葉が引き出せたから、記事が成功した」という体験をたくさんしてください。具体的に書く力は、就活のエントリーシートでも成功の鍵になります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP4・DP13に関連。DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
対面授業です。６回の記事作成は①取材・インタビュー②記事を書く③互いに読み合う－の３ステップを繰り返します。授業は主に①と③になります。②は原則として家で作業し、期限までに提出をお願いします。インタビューはオンラインも利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	自己紹介、ニュースってなんだろう
第2回	記事を知る	「まわしよみ新聞」というアクティビティをやります
第3回	インタビュー１	面白いところを掘っていく
第4回	講評と研究	どの記事が印象的か
第5回	インタビュー２	その人からしか聞けないことは？
第6回	講評と研究	ググっても出てこない事実があるか
第7回	インタビュー３	媒体を意識して書く
第8回	講評と研究	バズる文章ってなんだろう？
第9回	インタビュー４	対立する意見を扱う
第10回	講評と研究	読者に考える材料を与えられたか
第11回	インタビュー５	知らない世界を伝える
第12回	講評と研究	どこまで具体的に書けたか
第13回	具体的に書くＥＳ講座	「会いたい」と思ってもらうには
第14回	まとめ	自由課題発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、インタビューのある回は準備学習に１時間、復習に３時間を標準とします。５回の授業内インタビューは、自宅に帰って記事を作成して５日以内にメールで提出します。記事作成は、人によりますが、通常３時間程度かかります。また６回目の自由課題は、冬休みの間に自分でテーマを決め、取材先をさがし、インタビューして記事にまとめます。これにはおよそ１０時間程度が必要です。インタビューのない回は、特に準備・復習は必要ありません。

【テキスト（教科書）】
特に使用しません。読むべき記事などはそのつど紹介します。

【参考書】
記者の仕事を理解するために「映画で学ぶジャーナリズム　社会を支える報道のしくみ」（勁草書房）を読み、紹介されている映画を見ることを推奨します。

【成績評価の方法と基準】
６回の記事作成（９０％）と平常点（１０％）で評価します。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】
より細かい添削を希望する学生には、個別に対応します。課題以外にも、文章の書き方に関する相談はメールで受け付けます。講師は勤務先で採用担当部長の経験があり、就活のエントリーシートに関しても「具体的に書く」力をつけるよう指導します。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
講師は、通信社で記者１７年、デスク・編集委員１０年以上の実務経験があります。実務経験に基づく添削や書き方の提案をフィードバックします。

【Outline (in English)】
This course introduces news writing. The aim is to help students acquire the skill to ask questions and write articles specifically, not theoretically.
Learning Objectives: The goal of this course is to complete 6 articles.
5 interviews will be held in classroom and you write 5 articles at home.
1 article is free. You can choose any theme you like.
Grading Criteria /Policy: Grading will be decided based on 6 articles(90%) and in class contribution(10%).

FRI400ED（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 400）

メディア社会学特講（表現）

青木　貞茂

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**水4**/Wed.4
備考（履修条件等）：**受講許可が必要。学科優先科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディア社会学科の表現コース４年生のために用意された科目で、受講希望者が多い場合は、表現コース生を優先する。現代メディア文化作品を題材にして、そのメッセージや表現技法などの解題を通して、現代メディア文化の動態を解明する。

【到達目標】
映画、ＣＭなどの映像表現作品を受講者の議論を通して分析して、現代メディア文化の構造と意味を解題していく。映像コンテンツの分析を通じてメディア表現がどのような社会的な意識と連関し、時代の潮流を形成していくのかが把握できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP4・DP13に関連。DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
授業内で取り上げる作品について、毎回受講者全員で議論し、理解を深めていく。授業参加者は、常に授業の中で分析をし、分析内容を発表することを求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業のスケジュールと受講者の自己紹介
2	映像表現の記号論的分析の基礎	映像分析に使用する理論のフレームと基礎概念の習得
3	ハリウッド映画の分析	ミニレポートと議論
4	日本映画の分析	ミニレポートと議論
5	ショートフィルムの分析	ミニレポートと議論
6	アニメ映画の分析	ミニレポートと議論
7	テレビCMの分析	ミニレポートと議論
8	ストーリーの基本構造	ミニレポートと議論
9	脚本の構造	ミニレポートと議論
10	映像のレトリック	ミニレポートと議論
11	コンテンツのビジネス的な基盤	ミニレポートと議論
12	プロデュースの役割	ミニレポートと議論
13	社会意識の変容と映像表現ヒットの関係	ミニレポートと議論
14	まとめ	講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業中に適宜指示する。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
課題作品の事前チェック、授業時間内の議論への参加など、広義の「平常点」（50％）と課題提出（50％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
事前に議論する映像作品をリスト化してわたし、予習を義務付けしている。この予習を確実に実行するよう促したい。

【学生が準備すべき機器他】
映像課題については、できるかぎり鑑賞可能な作品にする。

【その他の重要事項】
４年後期ゆえに就活中の学生は受講が難しくなるかもしれないが、毎回の出席が基本となる。

【Outline (in English)】
Special Lecture of Contemporary Media Culture.　We will discuss the expression method and message based on the representative movie works . Students will actively view films in their daily lives.　The standard preparation and review time for this class is two hours in total.　The assignments are evaluated by each person outside the department, and the results are evaluated by the analysis report(50%) and the contribution to the discussion(50%).

SOC300ED（社会学 / Sociology 300）

広告制作実習

青木　貞茂

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**月3**/Mon.3
備考（履修条件等）：**受講許可が必要。学科優先科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ビジネスと生活者を結ぶ広告コミュニケーションの情報構造を理解するために、具体的な広告の企画・制作を実習する。マーケティングの意図をどのように策定し、人々にインパクトと共感のある広告表現に転換して伝えるか。メッセージ創造の本質を体験的に学ぶ。

【到達目標】
実習により受講者の広告コミュニケーション能力を育成し、基礎的な表現企画が立案できるレベルに到達する。広告課題に対して資料、データ分析等を駆使して解決策となる具体的な広告表現を開発することができる。また、説得的かつ効果的なプレゼンテーションが可能となることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP4・DP13に関連。DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
本実習では、市場環境分析等を行ない、訴求ターゲットを定め、その上で、ターゲットに対する生活者インサイトによってメッセージを絞り込み、具体的な広告表現を開発する。課題を学習支システムに提出、フィードバックを行なう。表現案を制作・プレゼンテーションするため、受講者の積極的・主体的な参加を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のオリエンテーション	授業のコンセプトと全体の概要、必要な準備、予備知識などについて説明
第2回	広告の企画に関する基本知識	企画立案プロセスと必要な作業
第3回	広告企画の方法	広告表現開発の基本知識、ノウハウ
第4回	事例分析のオリエンテーション	成功理由を詳細な表現分析によって解明
第5回	成功した広告の事例分析	成功理由を詳細な表現分析によって解明
第6回	広告制作テーマの選定	広告表現開発のテーマ決定
第7回	市場環境分析と競合広告表現の分析(1)	広告対象商品の問題点と課題の抽出とターゲットの設定
第8回	市場環境分析と競合広告表現の分析(2)	広告対象商品の問題点と課題の抽出とターゲットの設定
第9回	生活者インサイトの発見(1)	訴求ターゲットに対する定性・定量調査実施、分析(観察調査などのフィールドワーク実施)
第10回	生活者インサイトの発見(2)	訴求ターゲットに対する定性・定量調査実施、分析(観察調査などのフィールドワーク実施)
第11回	広告企画書へのまとめ	ブリーフシートへのまとめと広告表現開発の前提の確認
第12回	キャッチコピー開発	広告のキャッチコピーを作成
第13回	レトリックの技法	表現のテクニックであるレトリックの技法習得
第14回	広告表現案作成	ブリーフシートにもとづいた広告表現開発

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜資料を配布する。

【参考書】
小沢正光『プロフェッショナル・アイディア』（インプレスジャパン、2007年）
小沢正光『プロフェッショナル・プレゼン』（インプレスジャパン、2008年）
適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
評価は、平常点（70％）、最終課題となる広告制作表現（30％）の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生が、与えられた課題の内容、形式両面の指示に関するチェック、確認をおろそかにしている点を改善する。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

【その他の重要事項】
・初回授業に出席して、担当教員の受講許可を得ること。
【受講者への要望】　全ての回に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望する。なおオフィスアワーは、月曜日の昼休み、青木の研究室にて実施。
教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映して授業をすすめる。

【Outline (in English)】
Students will participate in hands-on activities of planning and producing a specific TVCM to understand the information structure of advertisement communication that links business with consumers.　They will learn the essence of message creation, i.e. how to formulate the intention of marketing and convert it to an impactful advertisement expression that would arouse people's sympathy, before delivering it.
Through practical training, students will develop their advertising communication skills and reach a level where they can plan basic communications, so they will be able to use materials and data analysis to develop specific advertising communications that provide solutions to advertising issues. The goal is also for students to be able to make persuasive and effective presentations.
Students will learn basic knowledge about advertising and case studies in advance.　They will also actively view advertisements, films, and TV dramas in their daily lives. The standard preparation and review time for this class is one hour in total. The evaluation will be based on ordinary points (70%) and the final assignment of advertisement production expression (30%).

COT200EA（計算基盤 / Computing technologies 200）

プログラミング初級

湯本　正実

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**火4**/Tue.4
備考（履修条件等）：**受講にはプログラミング入門の修得が必要。受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
プログラミングの基礎学習。Java + Eclipse、Python の基礎を学ぶ。

【到達目標】
プログラミングの共通の基本部分や概念を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP2・DP4に関連。　DPについてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
初学者を対象とした授業である。主にEclipse(開発用ソフト) を利用し、Java言語を基本から学ぶ。また、Python 言語の基礎部分も学習する。
提出物にはコメントを付けて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	紹介 前編	Java中心のプログラミング用語の概説
第2回	紹介 後編	プログラミングで何が出来るか
第3回	変数	紛らわしい用語だが重要な要素
第4回	構成	プログラムの構成要素
第5回	既存のものの流用の仕方	「修行」は不要
第6回	動かすための書き方	プログラムには「動かない」部分と「動く」部分がある
第7回	読み書き	「ファイル」という概念
第8回	画面プログラム　前編	画面作成の基礎
第9回	画面プログラム　中編	画面作成の続き
第10回	画面プログラム　後編	画面と実動作を結び付ける
第11回	イベントの話	コンピュータの外部からアクションを起こす
第12回	Python　その１	スクリプト言語の紹介
第13回	Python　その２	計算等の機能
第14回	Python　その３	繰り返し等の機能

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進める。

【参考書】
特に指定なし。

【成績評価の方法と基準】
平常点：50%提出課題：50%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
有効な意見は、講義に反映する。

【学生が準備すべき機器他】
教室の教材で十分であるが、個人用パソコンの所有者は持参をお勧めする。

【その他の重要事項】
現役のITエンジニアである教員が、実務経験で得た知識を講義する。

【Outline (in English)】
【Outline (in English)】
Basical study for programming. Study basic part of Java + Eclipse and Python.
【Learning Objectives】
Understand the basics of programming.
【Learning activities outside of classroom】
The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】
Class performance rating: 30%Submission assignment: 70%.

MAN100IA（経営学 / Management 100）

経営学

新海　貴弘

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1〜4年次／2単位**
曜日・時限：**木**1/Thu.1
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営学をはじめて学ぶ学生に経営学の基本的知識を身につけてもらうことを目標としています。経営学の研究対象である企業がどのような活動しているのかなど学生諸君の生活と結びつけながら企業の活動を理解してもらい、今後、学生諸君が就職などにより企業などで活動することを想定して有益となるように企業の活動が経営学の理論とどのように結びつくのか、学生自身の考える力を養います。
本講義の到達目標を達成するために「経営戦略論」および「経営組織論」という分野を中心に学習を進めていきます。この中で基本的用語や基本理論を学習して身につけてもらいます。
また経営学を身近な学問として感じながら、自分自身で考える能力を身につけてもらうために多くの事例を講義の中で取り上げながら学習してもらいます。講義内において各講義終了時に「感想・意見」の提出をしてもらい、個々の意見を簡潔に考えてまとめてもらいます。
「経営戦略論」および「経営組織論」を中心にしながら経営学とは何かということを理解してもらいながら学習を進めていきます。そのためには「経営戦略論」や「経営組織論」だけではなく企業や経営というものがいったいどのようなものかということを基礎的な部分についても事例を取り入れながら説明していきます。また経営学における基本的用語や経営理論は今後社会に出たあとも非常に役立つものと考えます。
講義においてはテキストを中心に進めていきますが、企業の動きは常にめまぐるしく変化し大きなトピックが現れます。そのような企業の動きを実感しながら経営学が非常に身近な学問ということを理解してもらいたいと考えていますので、講義では多くの事例を取り上げていきます。メディアなど含めて身のまわりにおいて経営学に関係する事例が多く見つかりますので意識してみてください。

【到達目標】
経営学は企業活動という特定の領域を対象とした学問です。しかし私たちは企業が提供するモノやサービスを日々使用しており非常に身近な学問とも言えます。学生にはこのような経営学を実際に身近に感じてもらいながら、その基本的知識を理解してもらうことが講義の目標です。
今後、学生諸君は就職などにより企業において実際にモノやサービスを提供する機会が生まれる可能性があります。そのような場面において経営学の知識を有益に活用できるように学生自身で考える能力を養うことも目標としています。
学生には基本理論を習得することで基本的知識を身につけ、さらに企業の事例などを経営学の理論と結びつけ理解する能力を養ってもらいます。また学生には経営学や企業活動に関する基本的用語についても学習し、大学以外での生活において活用ができる知識を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形態にて実施します。講義中には学生の意見を求める質問を投げかけながら、講義内容を理解してもらうことができるように努めます。
各講義終了時にリアクション・ペーパーにて個々の意見や感想を簡潔に考えまとめてもらい提出してもらいます。
各講義の資料を必ず用意しますので、講義前までに用意した資料を精読して参加してください。各講義の内容は資料で紹介されている内容を基礎として進めていきます。
経営学に関連する基礎用語または企業経営に関連する時事用語を調べる課題を出しますので、それぞれ各自で調べて提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および経営学の内容、講義の進め方を説明。
2	経営学・企業経営とは	これから学ぶ経営学はどのような学問か、また企業とは何かということを考える。
3	企業の概要	企業とはどのようなものかその仕組み、法的制度について。
4	企業と従業員の関係	企業における従業員との関係について雇用制度を中心にしながら説明。
5	企業を取り巻く環境	企業を取り巻く環境、ステイクホルダーなどとの関係について。
6	経営戦略(1)：経営戦略とは	企業が環境に対応するために戦略をたてる必要性について。
7	経営戦略(2)：競争戦略の基本	戦略にはいくつかのタイプが存在する。その主要な戦略の概念について。
8	経営戦略(3)：多角化戦略	企業が成長のために選択する多角化戦略の論理と方法について。
9	経営戦略(4)：国際化戦略	国境を越えて企業が活動する理由、そしてそのマネジメントについて。
10	経営組織論(1)：組織とは何か	組織とは何か。組織構造とそれが企業に与える影響について。
11	経営組織論(2)：インセンティブシステム	組織を管理するうえで動機付けの重要性およびその論理と手法を紹介。
12	経営組織論(3)：リーダーシップ	リーダーシップの在り方について。
13	経営学の展開	経営学の企業以外への適用、今後の企業活動について。
14	講義のまとめ	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義前までに、用意した資料を読んでください。各講義の内容は資料で紹介されている内容を基礎として進めていきます。
経営学に関連する基礎用語または企業経営に関連する時事用語を調べる課題を出しますので、それぞれ各自で調べてもらいます。
講義の進行にあわせてレポートの作成をしてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ごとのテキストおよび資料を事前に用意して配布します。講義を受講する前にこれらの資料を確認して講義に参加してください。

【参考書】
講義外の自主学習のために以下の書籍をあげておきます。また講義中に他の参考書も紹介していきます。
・加護野忠雄・吉村典久編『1からの経営学 第3版』碩学舎、2021年3月。
その他参考書については講義内および学習支援システムにおいて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
本講義の成績は次の5点に基づいて評価します。
1. 講義への参加（10％）
積極的な講義への参加が評価対象です。
2. リアクション・ペーパーの提出（10%）
講義終了時に講義内容への感想・意見などリアクション・ペーパーを提出してもらいます。
3. 基礎用語・時事用語回答の提出（20%）
講義ごとに経営学に関連する基礎用語または企業経営に関連する時事用語を調べ提出してもらいます。
4. 課題レポートの提出（30％）
講義の進行にあわせて3回のレポート作成を課題として出します。レポート作成を行い期限までに提出をすること。また講義内容をふまえてレポートが作成されているかを評価の対象とします。
5. 期末レポート（30％）
講義内で学んだことを応用してレポートを作成します。

【学生の意見等からの気づき】
経営学の主体となる企業の活動を自分たちの生活と密接に関わっていると意識してもらえるように、講義内では企業活動の実例をさらに多く紹介して、学生が経営学また企業の活動が生活に関係しているという認識を高めてもらい、経営学に興味をもってもらう工夫をさらに行います。
講義を受講する学生が主体的に考え、意見を述べてもらう機会をこれまで以上に増やしていきたいと考えています。
毎年講義中に提出してもらっているリアクション・ペーパーに書かれている意見や要望などを参考に講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用して独自テキストや配布資料の確認、課題提出を行ってもらいます。

【その他の重要事項】
・企業において株主総会を中心としたIR業務に従事しながら、全社的に横断する業務を担当する。これらの経験をもとに企業の経営全般に関する事項を学生に伝えていきます。
・現在、自身でWEBマーケティング、WEB制作、ECなどを中心とした事業を行っており、それらから得た知識や経験から実際の経営活動を学生に紹介していきます。

【Outline (in English)】
1.Course outline
This business management class is designed for students who study for the first time to understand the basics knowledge of business administration.Students learn how business science theory is applied to the corporation activities, which is very familiar in their daily life.This class is focused on management strategy and organization theory with variety of case studies. Various cases studies are provided to support deep understanding of the corporate activities and their business operations.
2.Learning Objectives
Business Administration can be regarded as the study of a specific area of corporate activity. However, it is very familiar in our private life, because we use goods or services as the products of suppliers' corporate activities. The goal of this lecture is to understand the basics of business administration as familiar matters.

3.Learning activities outside of classroom
・Students are expected to read the materials prior to the lecture. The content of each lecture is based on the material.
・Students are given an assignment to look up basic terms related to business administration or current terms related to corporate management. Students present their research results and findings during the lecture.
・The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.
4.Grading Criteria /Policy
Grades for this course will be based on the following five points.
1)Lecture participation (10%)
Active participation in the lecture will be evaluated.
2)Submission of reaction paper (10%)
Submission of a reaction paper summarizing thoughts and opinions on the lecture content after the lecture.
3)Submission of answers to basic and current terminology (20%)
For each lecture, students are required to research basic terms related to business administration and current terms related to corporate management, and submit the results of their research.
4)Submission of assignment reports (30%)
Students will be asked to prepare three reports as the lecture progresses. Must be submitted by the due date. Reports will be evaluated based on the content of the lecture.
5)Final report (30%)
Prepare and submit a report applying what you have learned in the lecture.

PRI100IA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報リテラシーⅠ

新海　貴弘

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1〜4年次／2単位**
曜日・時限：**木**2/Thu.2
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コンピュータおよびネットワークなど情報処理に関する知識を身につけるとともに、情報化社会とも表現される現代においてその操作が必須となっているコンピュータおよびネットワークの操作を身につけ使いこなすことが出来るようにすることを目的としています。
また多様なメディアを利用して自己の意見の表現ができ、今後の生活の中で活用することができる知識および能力を習得することも目標としています。
コンピュータリテラシーの入門編であり、情報処理技術の基礎的な内容を理解してもらうための講義です。
コンピュータおよびネットワークの仕組みを理解し、パーソナルコンピュータを用いた場合の情報の加工、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、インターネットおよびデータベースなどを利用した検索方法等を理解することを目的としています。講義の前半ではコンピュータの仕組みやネットワークの仕組みなどを基礎として、コンピュータリテラシーを身につける。その後ファイル操作、日本語ワープロソフトによる文章作成および編集能力、ビジネス文書や論文形式の文書作成、インターネットに代表されるネットワーク上において提供されるサービスであるWEBによる検索や電子メールの送受信方法、情報・意見の表現ができるようするためにプレゼンテーションソフトの基本的操作およびそれを活用したプレゼンテーション方法を学習します。

【到達目標】
情報を活用していく基礎的な能力を高めるために、コンピュータおよび情報処理に関する基礎知識を習得してもらいます。
コンピュータをはじめとするデバイスおよびインターネットの仕組みを理解してもらいます。
大学生として一般的なメールの送受信の基本操作を身につけ活用することができるようになります。
ワープロソフトの基本操作を学習しながらレポートや論文などの各種の文書の作成に必要な編集操作を覚え、あわせて文章表現を習得していきます。
プレゼンテーションソフトを使って効果的で説得力のあるプレゼンテーションを実施できる基礎能力を身につけます。
今後もその利用の拡大が広がると予想されるインターネットを利用するうえで必要なセキュリティに対する意識や情報倫理を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。 大学内におけるネットワーク環境などの説明。
2	コンピュータ、ネットワークを構成するハードウエアの歴史、ハードウエア構成法	コンピュータの構成や仕組みなど操作を行う上で必要な知識。
3	基本ソフトウエアの利用法、ファイルの概念とその利用法	利用するOSの基本操作、今後作成していくファイルに関する知識。
4	インターネットの利用/・情報の伝達および発信	インターネットの基本知識とそれを利用する上でのマナーへの理解。 近年のインターネット上にて提供されるアプリケーションやサービスについて。 インターネットなどを介した情報発信方法の確認。 情報発信を行う場合の注意点ならびに受け取った情報に対する判断。
5	電子メールの設定法、メールサーバとメール伝送の仕組み、電子メールの基本操作	電子メールの仕組みの理解、利用するための機能を習得。電子メール送受信に関する基本操作の確認（添付ファイルや署名など）。
6	情報セキュリティへの意識	情報の不正利用を防ぐための知識を習得。
7	データおよびAIの活用	データならびにAIを活用するための知識を習得。
8	文書作成（1）ワープロソフトの基本操作	ワープロソフトの基本操作の習得。
9	文書作成（2）定型文書の作成、表の挿入など	ワープロソフトによる表の作成や定型文書のフォーマット利用など。
10	文書作成（3）画像・図形データの取り扱い	ワープロソフトによる画像や図形の利用方法。
11	プレゼンテーション資料の作成（1） パワーポイントの基本操作。文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現を含んだ資料作成方法を確認する。
12	プレゼンテーション資料の作成（2） プレゼンテーション資料の構成、デザインの要点について。プレゼンテーションの進め方。	資料作成の前提となる構成のまとめ方やデザインに関する基本的な知識を学ぶ。あわせてプレゼンテーションの進め方と活用できるパワーポイントの機能を確認。
13	プレゼンテーション資料の作成（3） パワーポイントの基本操作。用意されたテーマに基づきプレゼンテーション資料を各自で作成。	パワーポイントによるプレゼン資料の作成。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。
講義で確認した操作の理解度を確認するために課題を出します。
講義内では伝えることができない情報を扱う上でのモラル・倫理などの参考資料を提供します。講義以外の時間を利用して確認ください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ごとに資料を用意し配布します。

【参考書】
・森本尚之・奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー　改訂第5版』技術評論社、2023年10月。
・岡嶋裕史・吉田雅裕『はじめてのAIリテラシー 改定新版』技術評論社、2024年9月。
その他参考書などについては講義にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
1.講義への参加（50％）
積極的な講義への参加が評価対象です。前期に5回欠席した場合は成績評価の対象外とします。
2.課題の提出およびその内容（50％）
講義ごとに課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。学習した内容の確認するための課題にも対応してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
受講する学生を取り巻くコンピュータの使用方法やインターネットにて提供されるサービスは常に変化しています。このような状況の中で、その変化にも対応できるように今日的な話題の解説や、今後も利用が予測されるコンピュータなどの活用、さらには様々なデバイスの活用、新たに生み出されているサービスなどについても触れていきます。

【学生が準備すべき機器他】
・講義について「情報実習室」にて実施し、各自デスクトップPCを利用し操作を行ってもらいます。
・学習支援システムを利用して配布資料の確認や課題提出を行ってもらいます。
・オンライン講義になった場合、受講生の環境下にて講義で使用予定のアプリケーションがPCで使用できる必要があります。（オンライン講義が実施される場合は事前に注意事項を説明します。）

【その他の重要事項】
自身でWEBマーケティング、WEB制作、ECなどを中心とした事業を展開していることや、自治体などからのIT講習運営受託、ネットワーク構築や運用のなどの事業の経験から、実際に必要とするスキルや最新傾向などを伝えていきます。

【Outline (in English)】
1.Course outline
This is an introductory computer literacy class and students learn the basics knowledge of information processing technology.This class is aimed at learning information processing such as computer, networks and its operation.Students acquire the knowledge and skills various media, which would benefit them in various occasions.
2.Learning Objectives
To acquire basic knowledge of computers and information processing in order to enhance the basic ability to utilize information. They will understand computers and other devices and how the Internet works.
Acquire and be able to utilize basic operations of sending and receiving e-mail.

While learning the basic operations of word processing software, students will also learn the editing operations necessary for creating various types of documents such as reports and papers, as well as written expression.
Acquire basic skills to make effective and persuasive presentations using presentation software.
This course provides the basic security and information ethics contents, which is essential to utilize the internet safely.
3.Learning activities outside of classroom
· Students are expected to read the materials prior to the lecture. The content of each lecture is based on the material.
· Assignments will be made to confirm understanding of the operations reviewed in the lecture.
· Some topics, like morals and ethics in handling information, are not covered in the classroom, and reference text is provided for them. Please check them and ask any unclear points to utilize these essential items in the course.
· The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.
4.Grading Criteria /Policy
Lecture grades will be based on the following two points.
1)Participation in lectures（50％）
Active participation in lectures is the object of evaluation. Five absences will not be considered for grading.
2)Submission of assignments and its contents（50％）
Students are required to prepare an assignment for each lecture and submit it. The evaluation is also based on whether the work is completed in a way that reflects the content of the instructions given in the lecture. Students will also be asked to respond to assignments to confirm what you have learned.

PRI100IA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報リテラシーⅠ

新海　貴弘

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1〜4年次／2単位**
曜日・時限：**木**3/Thu.3
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コンピュータおよびネットワークなど情報処理に関する知識を身につけるとともに、情報化社会とも表現される現代においてその操作が必須となっているコンピュータおよびネットワークの操作を身につけ使いこなすことが出来るようにすることを目的としています。
また多様なメディアを利用して自己の意見の表現ができ、今後の生活の中で活用することができる知識および能力を習得することも目標としています。
コンピュータリテラシーの入門編であり、情報処理技術の基礎的な内容を理解してもらうための講義です。
コンピュータおよびネットワークの仕組みを理解し、パーソナルコンピュータを用いた場合の情報の加工、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、インターネットおよびデータベースなどを利用した検索方法等を理解することを目的としています。講義の前半ではコンピュータの仕組みやネットワークの仕組みなどを基礎として、コンピュータリテラシーを身につける。その後ファイル操作、日本語ワープロソフトによる文章作成および編集能力、ビジネス文書や論文形式の文書作成、インターネットに代表されるネットワーク上において提供されるサービスであるWEBによる検索や電子メールの送受信方法、情報・意見の表現ができるようするためにプレゼンテーションソフトの基本的操作およびそれを活用したプレゼンテーション方法を学習します。

【到達目標】
情報を活用していく基礎的な能力を高めるために、コンピュータおよび情報処理に関する基礎知識を習得してもらいます。
コンピュータをはじめとするデバイスおよびインターネットの仕組みを理解してもらいます。
大学生として一般的なメールの送受信の基本操作を身につけ活用することができるようになります。
ワープロソフトの基本操作を学習しながらレポートや論文などの各種の文書の作成に必要な編集操作を覚え、あわせて文章表現を習得していきます。
プレゼンテーションソフトを使って効果的で説得力のあるプレゼンテーションを実施できる基礎能力を身につけます。
今後もその利用の拡大が広がると予想されるインターネットを利用するうえで必要なセキュリティに対する意識や情報倫理を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。 大学内におけるネットワーク環境などの説明。
2	コンピュータ、ネットワークを構成するハードウエアの歴史、ハードウエア構成法	コンピュータの構成や仕組みなど操作を行う上で必要な知識。
3	基本ソフトウエアの利用法、ファイルの概念とその利用法	利用するOSの基本操作、今後作成していくファイルに関する知識。
4	インターネットの利用/・情報の伝達および発信	インターネットの基本知識とそれを利用する上でのマナーへの理解。 近年のインターネット上にて提供されるアプリケーションやサービスについて。 インターネットなどを介した情報発信方法の確認。 情報発信を行う場合の注意点ならびに受け取った情報に対する判断。
5	電子メールの設定法、メールサーバとメール伝送の仕組み、電子メールの基本操作	電子メールの仕組みの理解、利用するための機能を習得。電子メール送受信に関する基本操作の確認（添付ファイルや署名など）。
6	情報セキュリティへの意識	情報の不正利用を防ぐための知識を習得。
7	データおよびAIの活用	データならびにAIを活用するための知識を習得。
8	文書作成（1）ワープロソフトの基本操作	ワープロソフトの基本操作の習得。
9	文書作成（2）定型文書の作成、表の挿入など	ワープロソフトによる表の作成や定型文書のフォーマット利用など。
10	文書作成（3）画像・図形データの取り扱い	ワープロソフトによる画像や図形の利用方法。
11	プレゼンテーション資料の作成（1） パワーポイントの基本操作。文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現を含んだ資料作成方法を確認する。
12	プレゼンテーション資料の作成（2） プレゼンテーション資料の構成、デザインの要点について。プレゼンテーションの進め方。	資料作成の前提となる構成のまとめ方やデザインに関する基本的な知識を学ぶ。あわせてプレゼンテーションの進め方と活用できるパワーポイントの機能を確認。
13	プレゼンテーション資料の作成（3） パワーポイントの基本操作。用意されたテーマに基づきプレゼンテーション資料を各自で作成。	パワーポイントによるプレゼン資料の作成。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。
講義で確認した操作の理解度を確認するために課題を出します。
講義内では伝えることができない情報を扱う上でのモラル・倫理などの参考資料を提供します。講義以外の時間を利用して確認ください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ごとに資料を用意し配布します。

【参考書】
・森本尚之・奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー　改訂第5版』技術評論社、2023年10月。
・岡嶋裕史・吉田雅裕『はじめてのAIリテラシー 改定新版』技術評論社、2024年9月。
その他参考書などについては講義にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
1.講義への参加（50％）
積極的な講義への参加が評価対象です。前期に5回欠席した場合は成績評価の対象外とします。
2.課題の提出およびその内容（50％）
講義ごとに課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。学習した内容の確認するための課題にも対応してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
受講する学生を取り巻くコンピュータの使用方法やインターネットにて提供されるサービスは常に変化しています。このような状況の中で、その変化にも対応できるように今日的な話題の解説や、今後も利用が予測されるコンピュータなどの活用、さらには様々なデバイスの活用、新たに生み出されているサービスなどについても触れていきます。

【学生が準備すべき機器他】
・講義について「情報実習室」にて実施し、各自デスクトップPCを利用し操作を行ってもらいます。
・学習支援システムを利用して配布資料の確認や課題提出を行ってもらいます。
・オンライン講義になった場合、受講生の環境下にて講義で使用予定のアプリケーションがPCで使用できる必要があります。（オンライン講義が実施される場合は事前に注意事項を説明します。）

【その他の重要事項】
自身でWEBマーケティング、WEB制作、ECなどを中心とした事業を展開していることや、自治体などからのIT講習運営受託、ネットワーク構築や運用のなどの事業の経験から、実際に必要とするスキルや最新傾向などを伝えていきます。

【Outline (in English)】
1.Course outline
This is an introductory computer literacy class and students learn the basics knowledge of information processing technology.This class is aimed at learning information processing such as computer, networks and its operation.Students acquire the knowledge and skills various media, which would benefit them in various occasions.
2.Learning Objectives
To acquire basic knowledge of computers and information processing in order to enhance the basic ability to utilize information. They will understand computers and other devices and how the Internet works.
Acquire and be able to utilize basic operations of sending and receiving e-mail.

While learning the basic operations of word processing software, students will also learn the editing operations necessary for creating various types of documents such as reports and papers, as well as written expression.
Acquire basic skills to make effective and persuasive presentations using presentation software.
This course provides the basic security and information ethics contents, which is essential to utilize the internet safely.
3.Learning activities outside of classroom
· Students are expected to read the materials prior to the lecture. The content of each lecture is based on the material.
· Assignments will be made to confirm understanding of the operations reviewed in the lecture.
· Some topics, like morals and ethics in handling information, are not covered in the classroom, and reference text is provided for them. Please check them and ask any unclear points to utilize these essential items in the course.
· The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.
4.Grading Criteria /Policy
Lecture grades will be based on the following two points.
1)Participation in lectures（50％）
Active participation in lectures is the object of evaluation. Five absences will not be considered for grading.
2)Submission of assignments and its contents（50％）
Students are required to prepare an assignment for each lecture and submit it. The evaluation is also based on whether the work is completed in a way that reflects the content of the instructions given in the lecture. Students will also be asked to respond to assignments to confirm what you have learned.

PRI100IA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報リテラシーⅠ

新海　貴弘

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1〜4年次／2単位**
曜日・時限：**木**4/Thu.4
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コンピュータおよびネットワークなど情報処理に関する知識を身につけるとともに、情報化社会とも表現される現代においてその操作が必須となっているコンピュータおよびネットワークの操作を身につけ使いこなすことが出来るようにすることを目的としています。
また多様なメディアを利用して自己の意見の表現ができ、今後の生活の中で活用することができる知識および能力を習得することも目標としています。
コンピュータリテラシーの入門編であり、情報処理技術の基礎的な内容を理解してもらうための講義です。
コンピュータおよびネットワークの仕組みを理解し、パーソナルコンピュータを用いた場合の情報の加工、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、インターネットおよびデータベースなどを利用した検索方法等を理解することを目的としています。講義の前半ではコンピュータの仕組みやネットワークの仕組みなどを基礎として、コンピュータリテラシーを身につける。その後ファイル操作、日本語ワープロソフトによる文章作成および編集能力、ビジネス文書や論文形式の文書作成、インターネットに代表されるネットワーク上において提供されるサービスであるWEBによる検索や電子メールの送受信方法、情報・意見の表現ができるようするためにプレゼンテーションソフトの基本的操作およびそれを活用したプレゼンテーション方法を学習します。

【到達目標】
情報を活用していく基礎的な能力を高めるために、コンピュータおよび情報処理に関する基礎知識を習得してもらいます。
コンピュータをはじめとするデバイスおよびインターネットの仕組みを理解してもらいます。
大学生として一般的なメールの送受信の基本操作を身につけ活用することができるようになります。
ワープロソフトの基本操作を学習しながらレポートや論文などの各種の文書の作成に必要な編集操作を覚え、あわせて文章表現を習得していきます。
プレゼンテーションソフトを使って効果的で説得力のあるプレゼンテーションを実施できる基礎能力を身につけます。
今後もその利用の拡大が広がると予想されるインターネットを利用するうえで必要なセキュリティに対する意識や情報倫理を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。 大学内におけるネットワーク環境などの説明。
2	コンピュータ、ネットワークを構成するハードウエアの歴史、ハードウエア構成法	コンピュータの構成や仕組みなど操作を行う上で必要な知識。
3	基本ソフトウエアの利用法、ファイルの概念とその利用法	利用するOSの基本操作、今後作成していくファイルに関する知識。
4	インターネットの利用/・情報の伝達および発信	インターネットの基本知識とそれを利用する上でのマナーへの理解。 近年のインターネット上にて提供されるアプリケーションやサービスについて。 インターネットなどを介した情報発信方法の確認。 情報発信を行う場合の注意点ならびに受け取った情報に対する判断。
5	電子メールの設定法、メールサーバとメール伝送の仕組み、電子メールの基本操作	電子メールの仕組みの理解、利用するための機能を習得。電子メール送受信に関する基本操作の確認（添付ファイルや署名など）。
6	情報セキュリティへの意識	情報の不正利用を防ぐための知識を習得。
7	データおよびAIの活用	データならびにAIを活用するための知識を習得。
8	文書作成（1）ワープロソフトの基本操作	ワープロソフトの基本操作の習得。
9	文書作成（2）定型文書の作成、表の挿入など	ワープロソフトによる表の作成や定型文書のフォーマット利用など。
10	文書作成（3）画像・図形データの取り扱い	ワープロソフトによる画像や図形の利用方法。
11	プレゼンテーション資料の作成（1） パワーポイントの基本操作。文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現を含んだ資料作成方法を確認する。
12	プレゼンテーション資料の作成（2） プレゼンテーション資料の構成、デザインの要点について。プレゼンテーションの進め方。	資料作成の前提となる構成のまとめ方やデザインに関する基本的な知識を学ぶ。あわせてプレゼンテーションの進め方と活用できるパワーポイントの機能を確認。
13	プレゼンテーション資料の作成（3） パワーポイントの基本操作。用意されたテーマに基づきプレゼンテーション資料を各自で作成。	パワーポイントによるプレゼン資料の作成。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。
講義で確認した操作の理解度を確認するために課題を出します。
講義内では伝えることができない情報を扱う上でのモラル・倫理などの参考資料を提供します。講義以外の時間を利用して確認ください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ごとに資料を用意し配布します。

【参考書】
・森本尚之・奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー　改訂第5版』技術評論社、2023年10月。
・岡嶋裕史・吉田雅裕『はじめてのAIリテラシー 改定新版』技術評論社、2024年9月。
その他参考書などについては講義にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
1.講義への参加（50％）
積極的な講義への参加が評価対象です。前期に5回欠席した場合は成績評価の対象外とします。
2.課題の提出およびその内容（50％）
講義ごとに課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。学習した内容の確認するための課題にも対応してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
受講する学生を取り巻くコンピュータの使用方法やインターネットにて提供されるサービスは常に変化しています。このような状況の中で、その変化にも対応できるように今日的な話題の解説や、今後も利用が予測されるコンピュータなどの活用、さらには様々なデバイスの活用、新たに生み出されているサービスなどについても触れていきます。

【学生が準備すべき機器他】
・講義について「情報実習室」にて実施し、各自デスクトップPCを利用し操作を行ってもらいます。
・学習支援システムを利用して配布資料の確認や課題提出を行ってもらいます。
・オンライン講義になった場合、受講生の環境下にて講義で使用予定のアプリケーションがPCで使用できる必要があります。（オンライン講義が実施される場合は事前に注意事項を説明します。）

【その他の重要事項】
自身でWEBマーケティング、WEB制作、ECなどを中心とした事業を展開していることや、自治体などからのIT講習運営受託、ネットワーク構築や運用のなどの事業の経験から、実際に必要とするスキルや最新傾向などを伝えていきます。

【Outline (in English)】
1.Course outline
This is an introductory computer literacy class and students learn the basics knowledge of information processing technology.This class is aimed at learning information processing such as computer, networks and its operation.Students acquire the knowledge and skills various media, which would benefit them in various occasions.
2.Learning Objectives
To acquire basic knowledge of computers and information processing in order to enhance the basic ability to utilize information. They will understand computers and other devices and how the Internet works. Acquire and be able to utilize basic operations of sending and receiving e-mail.

While learning the basic operations of word processing software, students will also learn the editing operations necessary for creating various types of documents such as reports and papers, as well as written expression.
Acquire basic skills to make effective and persuasive presentations using presentation software.
This course provides the basic security and information ethics contents, which is essential to utilize the internet safely.
3.Learning activities outside of classroom
· Students are expected to read the materials prior to the lecture. The content of each lecture is based on the material.
· Assignments will be made to confirm understanding of the operations reviewed in the lecture.
· Some topics, like morals and ethics in handling information, are not covered in the classroom, and reference text is provided for them. Please check them and ask any unclear points to utilize these essential items in the course.
· The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.
4.Grading Criteria /Policy
Lecture grades will be based on the following two points.
1)Participation in lectures（50％）
Active participation in lectures is the object of evaluation. Five absences will not be considered for grading.
2)Submission of assignments and its contents（50％）
Students are required to prepare an assignment for each lecture and submit it. The evaluation is also based on whether the work is completed in a way that reflects the content of the instructions given in the lecture. Students will also be asked to respond to assignments to confirm what you have learned.

PRI100IA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報リテラシーⅡ

新海　貴弘

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**1〜4年次／2単位**
曜日・時限：**木2/Thu.2**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報リテラシーⅠの応用編となる講義です。情報リテラシーⅠにおいて習得目標とした課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを基礎として、論文やレポート作成に必要なデータの処理、統計分析をコンピュータにて実行する手法および得た結果を発信する手法を習得してもらうことをテーマとしています。また大学以外の場においても活用できるスキルを身につけてもらいます。
表計算ソフトの操作を中心に学習しその基本的な操作をできるようにしていきます。さらに表計算ソフトの応用的な使用方法として、回帰分析など分析機能の利用、マクロを用いたプログラミングの基本などを学習していきます。そしてデータ処理を行った結果を発信する方法などについても学習します。
データの加工および分析などに活用する表計算ソフトの利用方法を学習します。講義の前半では表計算ソフトの基本的使用方法を学習し、今後表計算ソフトを使用するうえでの基礎部分を身につけてもらうと同時に表計算ソフトの機能を理解していきます。
講義の後半では表計算ソフトを利用して問題分析を行うための手法を学習します。例えばデータの集計や基本統計量、また回帰分析など分析の基礎を学習します。またマクロを利用した簡易プログラムの作成などを行っていきます。
講義では今後の大学における研究にも活用できるスポーツおよび健康に関するデータを可能な限り利用して、表計算ソフトによる分析の事例として学習していきます。

【到達目標】
学生が今後必要とされるコンピュータを用いた問題分析の手法を利用できるようにすること、この講義で利用するアプリケーションがどのように利用することができるのかを理解してもらうことも目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。
2	表計算ソフトの基本操作（ワークシートの編集など）	表計算ソフトの概要、ワークシートの基本操作。
3	表計算ソフトの基本操作（数式・関数の利用など）	表計算ソフトにおける数式の作成、関数の利用方法。
4	表計算ソフトの基本操作（グラフの作成）	グラフウィザードの基本操作の確認し、使用頻度が高いグラフの作成。
5	表計算ソフトの基本操作（データ操作）①	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本を確認。 テキストデータの利用。
6	表計算ソフトの基本操作（データ操作）②	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本を確認。 データの並べ替え、抽出。
7	表計算ソフトの応用操作（条件別の処理とデータの整理回収）	データ入力を行うためのフォームの利用やクロス集計を実行するためのピボットテーブルの利用。
8	表計算ソフトの応用操作（全体像を把握するためのデータ分析）	分析ツールの利用。基本統計量、ヒストグラム。
9	表計算ソフトの応用操作（比較判断するためのデータ分析）	分析ツールの利用。相関。散布図の作成、相関係数の算出。
10	表計算ソフトの応用操作（仮説を検証するためのデータ分析）①	分析ツールの利用。回帰分析。
11	表計算ソフトの応用操作（仮説を検証するためのデータ分析）②	分析ツールの利用。重回帰分析。重回帰分析を利用する上でのリスク回避。質的データを含んだデータに対する重回帰分析。
12	表計算ソフトの応用操作（マクロ作成）	マクロの記録などを含めたマクロプログラムの作成。
13	データ分析とAI技術の活用	データ分析に対しての理解。 AI技術の活用に関する理解。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。
講義で確認した操作の理解度を確認するための課題を課します。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ごとにテキストとなる資料を用意し講義実施前に公開しますので、資料を確認して講義に参加してください。

【参考書】
・森本尚之・奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー　改訂第５版』技術評論社、2023年10月。
・岡嶋裕史・吉田雅裕『はじめてのAIリテラシー 改定新版』技術評論社、2024年９月。
・平井明夫『Excel ビジネスデータ分析 徹底活用ガイド』技術評論社、2019年1月。
・出村慎一監修 佐藤進・山次俊介・長澤吉則編『健康・スポーツ科学のためのExcelによる統計解析入門』杏林書院、2009年6月。
その他参考書などについては講義にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
1.講義への参加（50％）
積極的な講義への参加が評価対象です。5回欠席した場合は成績評価の対象外とします。
2.課題の提出およびその内容（50％）
講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。学習した内容の確認するための課題にも対応してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
パソコンおよびアプリケーションなどの操作に不慣れな学生にも興味を持ってもらえるような課題内容やコンピュータに関するトピックスを提供していきます。
講義は実習形式となるため一方的な説明をする時間が多くなるが、学生からの質問などお互いがコミュニケーションを図れるような講義の進め方を準備していきます。

【学生が準備すべき機器他】
・講義について「情報実習室」にて実施し、各自デスクトップPCを利用し操作を行ってもらいます。
・学習支援システムを利用して配布資料の確認や課題提出を行ってもらいます。
・オンライン講義になった場合、受講生の環境下にて講義で使用予定のアプリケーションがPCで使用できる必要があります。（オンライン講義が実施される場合は事前に注意事項を説明します。）

【その他の重要事項】
自身でWEBマーケティング、WEB制作、ECなどを中心とした事業、自治体などからの社会調査受託、データベース作成の経験から、データ解析などのスキルや動向などを伝えていきます。

【Outline (in English)】
1. Course outline
This is an advanced class of Information Literacy I. This class is aimed at learning basic skill of spreadsheet software, analytical functions such as regression analysis and the basics of programming. Students learn some basic analysis method and how to deal the data effectively with the spread-sheet software. In addition, some basic programming is lectured.
2.Learning Objectives
The goal of this course is to provide additional utilization skill of computer, so that the students can process big data, by analyzing or visualizing the factors to reach the conclusion.
3.Learning activities outside of classroom
・Students are expected to read the materials prior to the lecture. The content of each lecture is based on the material.
・Assignments will be made to confirm understanding of the operations reviewed in the lecture.
・The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.
4.Grading Criteria /Policy
Lecture grades will be based on the following two points.
1)Participation in lectures（50％）
Active participation in lectures is the object of evaluation. Five absences will not be considered for grading.
2)Submission of assignments and its contents（50％）
Students are required to prepare an assignment for each lecture and submit it. The evaluation is also based on whether the work is completed in a way that reflects the content of the instructions given in the lecture. Students will also be asked to respond to assignments to confirm what you have learned.

PRI100IA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報リテラシーⅡ

新海　貴弘

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**1〜4年次／2単位**
曜日・時限：**木3/Thu.3**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報リテラシーⅠの応用編となる講義です。情報リテラシーⅠにおいて習得目標とした課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを基礎として、論文やレポート作成に必要なデータの処理、統計分析をコンピュータにて実行する手法および得た結果を発信する手法を習得してもらうことをテーマとしています。また大学以外の場においても活用できるスキルを身につけてもらいます。
表計算ソフトの操作を中心に学習しその基本的な操作をできるようにしていきます。さらに表計算ソフトの応用的な使用方法として、回帰分析など分析機能の利用、マクロを用いたプログラミングの基本などを学習していきます。そしてデータ処理を行った結果を発信する方法などについても学習します。
データの加工および分析などに活用する表計算ソフトの利用方法を学習します。講義の前半では表計算ソフトの基本的使用方法を学習し、今後表計算ソフトを使用するうえでの基礎部分を身につけてもらうと同時に表計算ソフトの機能を理解していきます。
講義の後半では表計算ソフトを利用して問題分析を行うための手法を学習します。例えばデータの集計や基本統計量、また回帰分析など分析の基礎を学習します。またマクロを利用した簡易プログラムの作成などを行っていきます。
講義では今後の大学における研究にも活用できるスポーツおよび健康に関するデータを可能な限り利用して、表計算ソフトによる分析の事例として学習していきます。

【到達目標】
学生が今後必要とされるコンピュータを用いた問題分析の手法を利用できるようにすること、この講義で利用するアプリケーションがどのように利用することができるのかを理解してもらうことも目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。
2	表計算ソフトの基本操作（ワークシートの編集など）	表計算ソフトの概要、ワークシートの基本操作。
3	表計算ソフトの基本操作（数式・関数の利用など）	表計算ソフトにおける数式の作成、関数の利用方法。
4	表計算ソフトの基本操作（グラフの作成）	グラフウィザードの基本操作の確認し、使用頻度が高いグラフの作成。
5	表計算ソフトの基本操作（データ操作）①	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本を確認。 テキストデータの利用。
6	表計算ソフトの基本操作（データ操作）②	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本を確認。 データの並べ替え、抽出。
7	表計算ソフトの応用操作（条件別の処理とデータの整理回収）	データ入力を行うためのフォームの利用やクロス集計を実行するためのピボットテーブルの利用。
8	表計算ソフトの応用操作（全体像を把握するためのデータ分析）	分析ツールの利用。基本統計量、ヒストグラム。
9	表計算ソフトの応用操作（比較判断するためのデータ分析）	分析ツールの利用。相関。散布図の作成、相関係数の算出。
10	表計算ソフトの応用操作（仮説を検証するためのデータ分析）①	分析ツールの利用。回帰分析。
11	表計算ソフトの応用操作（仮説を検証するためのデータ分析）②	分析ツールの利用。重回帰分析。重回帰分析を利用する上でのリスク回避。質的データを含んだデータに対する重回帰分析。
12	表計算ソフトの応用操作（マクロ作成）	マクロの記録などを含めたマクロプログラムの作成。
13	データ分析とAI技術の活用	データ分析に対しての理解。 AI技術の活用に関する理解。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。
講義で確認した操作の理解度を確認するための課題を課します。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ごとにテキストとなる資料を用意し講義実施前に公開しますので、資料を確認して講義に参加してください。

【参考書】
・森本尚之・奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー　改訂第5版』技術評論社、2023年10月。
・岡嶋裕史・吉田雅裕『はじめてのAIリテラシー 改定新版』技術評論社、2024年9月。
・平井明夫『Excel ビジネスデータ分析 徹底活用ガイド』技術評論社、2019年1月。
・出村慎一監修 佐藤進・山次俊介・長澤吉則編『健康・スポーツ科学のためのExcelによる統計解析入門』杏林書院、2009年6月。
その他参考書などについては講義にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
1.講義への参加（50％）
積極的な講義への参加が評価対象です。5回欠席した場合は成績評価の対象外とします。
2.課題の提出およびその内容（50％）
講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。学習した内容の確認するための課題にも対応してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
パソコンおよびアプリケーションなどの操作に不慣れな学生にも興味を持ってもらえるような課題内容やコンピュータに関するトピックスを提供していきます。
講義は実習形式となるため一方的な説明をする時間が多くなるが、学生からの質問などお互いがコミュニケーションを図れるような講義の進め方を準備していきます。

【学生が準備すべき機器他】
・講義について「情報実習室」にて実施し、各自デスクトップPCを利用し操作を行ってもらいます。
・学習支援システムを利用して配布資料の確認や課題提出を行ってもらいます。
・オンライン講義になった場合、受講生の環境下にて講義で使用予定のアプリケーションがPCで使用できる必要があります。（オンライン講義が実施される場合は事前に注意事項を説明します。）

【その他の重要事項】
自身でWEBマーケティング、WEB制作、ECなどを中心とした事業、自治体などからの社会調査受託、データベース作成の経験から、データ解析などのスキルや動向などを伝えていきます。

【Outline (in English)】
1. Course outline
This is an advanced class of Information Literacy I. This class is aimed at learning basic skill of spreadsheet software, analytical functions such as regression analysis and the basics of programming. Students learn some basic analysis method and how to deal the data effectively with the spread-sheet software. In addition, some basic programming is lectured.
2.Learning Objectives
The goal of this course is to provide additional utilization skill of computer, so that the students can process big data, by analyzing or visualizing the factors to reach the conclusion.
3.Learning activities outside of classroom
・Students are expected to read the materials prior to the lecture. The content of each lecture is based on the material.
・Assignments will be made to confirm understanding of the operations reviewed in the lecture.
・The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.
4.Grading Criteria /Policy
Lecture grades will be based on the following two points.
1)Participation in lectures（50％）
Active participation in lectures is the object of evaluation. Five absences will not be considered for grading.
2)Submission of assignments and its contents（50％）
Students are required to prepare an assignment for each lecture and submit it. The evaluation is also based on whether the work is completed in a way that reflects the content of the instructions given in the lecture. Students will also be asked to respond to assignments to confirm what you have learned.

PRI100IA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報リテラシーⅡ

新海　貴弘

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**1～4年次／2単位**
曜日・時限：**木4/Thu.4**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報リテラシーⅠの応用編となる講義です。情報リテラシーⅠにおいて習得目標とした課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを基礎として、論文やレポート作成に必要なデータの処理、統計分析をコンピュータにて実行する手法および得た結果を発信する手法を習得してもらうことをテーマとしています。また大学以外の場においても活用できるスキルを身につけてもらいます。
表計算ソフトの操作を中心に学習しその基本的な操作をできるようにしていきます。さらに表計算ソフトの応用的な使用方法として、回帰分析など分析機能の利用、マクロを用いたプログラミングの基本などを学習していきます。そしてデータ処理を行った結果を発信する方法などについても学習します。
データの加工および分析などに活用する表計算ソフトの利用方法を学習します。講義の前半では表計算ソフトの基本的使用方法を学習し、今後表計算ソフトを使用するうえでの基礎部分を身につけてもらうと同時に表計算ソフトの機能を理解していきます。
講義の後半では表計算ソフトを利用して問題分析を行うための手法を学習します。例えばデータの集計や基本統計量、また回帰分析など分析の基礎を学習します。またマクロを利用した簡易プログラムの作成などを行っていきます。
講義では今後の大学における研究にも活用できるスポーツおよび健康に関するデータを可能な限り利用して、表計算ソフトによる分析の事例として学習していきます。

【到達目標】
学生が今後必要とされるコンピュータを用いた問題分析の手法を利用できるようにすること、この講義で利用するアプリケーションがどのように利用することができるのかを理解してもらうことも目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。
2	表計算ソフトの基本操作（ワークシートの編集など）	表計算ソフトの概要、ワークシートの基本操作。
3	表計算ソフトの基本操作（数式・関数の利用など）	表計算ソフトにおける数式の作成、関数の利用方法。
4	表計算ソフトの基本操作（グラフの作成）	グラフウィザードの基本操作の確認し、使用頻度が高いグラフの作成。
5	表計算ソフトの基本操作（データ操作）①	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本を確認。 テキストデータの利用。
6	表計算ソフトの基本操作（データ操作）②	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本を確認。 データの並べ替え、抽出。
7	表計算ソフトの応用操作（条件別の処理とデータの整理回収）	データ入力を行うためのフォームの利用やクロス集計を実行するためのピボットテーブルの利用。
8	表計算ソフトの応用操作（全体像を把握するためのデータ分析）	分析ツールの利用。基本統計量、ヒストグラム。
9	表計算ソフトの応用操作（比較判断するためのデータ分析）	分析ツールの利用。相関。散布図の作成、相関係数の算出。
10	表計算ソフトの応用操作（仮説を検証するためのデータ分析）①	分析ツールの利用。回帰分析。
11	表計算ソフトの応用操作（仮説を検証するためのデータ分析）②	分析ツールの利用。重回帰分析。重回帰分析を利用する上でのリスク回避。質的データを含んだデータに対する重回帰分析。
12	表計算ソフトの応用操作（マクロ作成）	マクロの記録などを含めたマクロプログラムの作成。
13	データ分析とAI技術の活用	データ分析に対しての理解。 AI技術の活用に関する理解。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。
講義で確認した操作の理解度を確認するための課題を課します。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ごとにテキストとなる資料を用意し講義実施前に公開しますので、資料を確認して講義に参加してください。

【参考書】
・森本尚之・奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー　改訂第５版』技術評論社、2023年10月。
・岡嶋裕史・吉田雅裕『はじめてのAIリテラシー 改定新版』技術評論社、2024年９月。
・平井明夫『Excel ビジネスデータ分析 徹底活用ガイド』技術評論社、2019年1月。
・出村慎一監修 佐藤進・山次俊介・長澤吉則編『健康・スポーツ科学のためのExcelによる統計解析入門』杏林書院、2009年6月。
その他参考書などについては講義にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
1.講義への参加（50％）
積極的な講義への参加が評価対象です。5回欠席した場合は成績評価の対象外とします。
2.課題の提出およびその内容（50％）
講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。学習した内容の確認するための課題にも対応してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
パソコンおよびアプリケーションなどの操作に不慣れな学生にも興味を持ってもらえるような課題内容やコンピュータに関するトピックスを提供していきます。
講義は実習形式となるため一方的な説明をする時間が多くなるが、学生からの質問などお互いがコミュニケーションを図れるような講義の進め方を準備していきます。

【学生が準備すべき機器他】
・講義について「情報実習室」にて実施し、各自デスクトップPCを利用し操作を行ってもらいます。
・学習支援システムを利用して配布資料の確認や課題提出を行ってもらいます。
・オンライン講義になった場合、受講生の環境下にて講義で使用予定のアプリケーションがPCで使用できる必要があります。（オンライン講義が実施される場合は事前に注意事項を説明します。）

【その他の重要事項】
自身でWEBマーケティング、WEB制作、ECなどを中心とした事業、自治体などからの社会調査受託、データベース作成の経験から、データ解析などのスキルや動向などを伝えていきます。

【Outline (in English)】
1. Course outline
This is an advanced class of Information Literacy I. This class is aimed at learning basic skill of spreadsheet software, analytical functions such as regression analysis and the basics of programming. Students learn some basic analysis method and how to deal the data effectively with the spread-sheet software. In addition, some basic programming is lectured.
2.Learning Objectives
The goal of this course is to provide additional utilization skill of computer, so that the students can process big data, by analyzing or visualizing the factors to reach the conclusion.
3.Learning activities outside of classroom
・Students are expected to read the materials prior to the lecture. The content of each lecture is based on the material.
・Assignments will be made to confirm understanding of the operations reviewed in the lecture.
・The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.
4.Grading Criteria /Policy
Lecture grades will be based on the following two points.
1)Participation in lectures（50％）
Active participation in lectures is the object of evaluation. Five absences will not be considered for grading.
2)Submission of assignments and its contents（50％）
Students are required to prepare an assignment for each lecture and submit it. The evaluation is also based on whether the work is completed in a way that reflects the content of the instructions given in the lecture. Students will also be asked to respond to assignments to confirm what you have learned.

PHL100IA（哲学 / Philosophy 100）

哲学

小館　貴幸

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　配当年次／単位：**1〜4年次／2単位**
曜日・時限：**木4/Thu.4**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間は考えることなしに生きることができない。したがって、私たちにとって哲学は本質的なものである。本講義では、いくつかのテーマを設定し、それらのテーマに対する複数の考え方とその枠組みを学んでいく。本講義での目的は、多角的な視野を獲得すると同時に、自らじっくり考える力を養うことである。
本講義では、「哲学とは何か」について説明することができ、諸問題に対して哲学的に考えることを学ぶことができる。

【到達目標】
（1）哲学とは何かを説明することができる。
（2）哲学における諸説について述べることができる。
（3）基本的な概念や語句について述べることができる。
（4）諸問題について自分の考えを述べることができる。
（5）物事を多角的な視点で捉えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は対面講義にて実施する予定である。基本的には講義形式で行っていくが、なるべく対話を重視し、一部グループワークも導入しながら、参加型の講義を志向してしていく。
遠隔授業となった場合には、オンデマンド型（音声データつきのパワーポイント資料）で行い、講義内容確認のためのリアクションペーパーや小テストの機会を設ける。Zoomによる配信は実施しない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	哲学とは何か	①イントロダクション ②哲学の定義 ③哲学の成立ち
2	古代ギリシアの哲学（1）：根源の探求	①哲学の誕生 ②自然学派 ③アルケー
3	古代ギリシアの哲学（2）：ソフィストの登場	①アルケーからアレテーへ ②人間尺度説
4	古代ギリシアの哲学（3）：徳の探求①	①ソクラテスの徳論 ②無知の知
5	古代ギリシアの哲学（4）：徳の探求②	①プラトンの徳論 ②アリストテレスの徳論
6	哲学カフェ：哲学の実践	①身近な疑問についての議論 ②哲学的な議論の仕方
7	認識論（1）：大陸合理論	①デカルトの認識論 ②コギト・エルゴ・スム
8	認識論（2）：イギリス経験論	①ロックの認識論 ②タブラ・ラサ
9	認識論（3）：批判論	①カントの認識論 ②コペルニクス的転回
10	ケア論（1）：ケアする人におけるケア論	①ケアとは何か ②ケア論の特徴 ③メイヤロフのケア論
11	ケア論（2）：ケアされる人におけるケア論	①ノディングスのケア論 ②ケア論の問題点
12	死生論（1）：いつから人になるのか	①線引き問題 ②人工妊娠中絶の是非 ③人格論
13	死生論（2）：生の哲学	①生の哲学とは何か ②力への意志、生の躍動 ③「始まり」の哲学
14	死生論（3）：死の哲学	①死とは何か ②人間と死 ③死の人称論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：前回の授業内容を再確認する。事前課題がある場合には、その課題に取組む。
復習：配布されたプリントを再度見直し、授業内容の振り返りを行う。課題がある場合は、その課題に取組む。
できれば、講義で紹介する哲学の本を、とくに古典や法政大学関係者の著作を一冊でも読んでみる。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。授業内にプリントを配布する。

【参考書】
授業中に適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
小テスト（20%）、学期末レポート（20％）、課題（60％）、による総合評価。
小テストや課題などは基本的に教室内で実施し、学期末レポートはHoppiiを活用する予定である。

【学生の意見等からの気づき】
・「大変理解できた」、「大変よかった」という評価を得たので、良い学びの機会を提供できたのではないかと実感している。これまでの講義を踏襲しつつ、講義に対する工夫は今後も続けていきたい。
・全体へのフィードバックが遅くなってしまったので、改善するようにしたい。
・授業内で皆で議論できる機会や実際にワークしてもらうを増やしていきたい。
・具体例を多めにして、哲学という難しい内容をもう少し分かりやすく説明できるように工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
レポートや課題などはHoppiiを活用する場合もあるので、これを使用できるようにPC環境を整えておくこと。
遠隔授業による講義となった場合には、配付資料や教材を閲覧できるような情報機器を準備し、ネットワーク環境を整備しておくこと。

【その他の重要事項】
受講希望者は、講義についてのイントロダクションを行うので、最初の講義に必ず出席してもらいたい。
哲学は自分が行う行為に他ならない。授業で扱う各テーマに対して、他人事ではなく自分のこととして積極的に参加し、脳に汗をかくほど考えてもらいたい。
担当教員は、介護福祉士の国家資格を持ち、終末期の患者や人工呼吸器をつけた難病患者の在宅介護の仕事に約20年間携わってきた。在宅現場での経験を踏まえて、人間の問題に関して現実に基づいた意見を伝えていく。

【Outline (in English)】
【Course outline】
It is an essential for us in living to study philosophy. Because man cannot live without thinking. In this lecture, students can learn some theories and some key concepts to resolve problems in some themes. The aim of this lecture is that students can gain a multilateral perspective and deepen own thought. And students can explain what is philosophy and learn what kind of thinking philosophically.
【Learning Objectives】
(1) Be able to explain what is philosophy.
(2) Be able to describe various theories in philosophy.
(3) Be able to basic concepts and key words in philosophy.
(4) Be able to express one's own opinion about problems in philosophy.
(5) Be able to grasp things from various perspectives.
【Learning activities outside of classroom】
Preparation: To review the last lecture. To work at the pre-assignments.
Review: To review what you learned and to refer to the handout. To work at the assignments.
To read a philosophy book which is introduced by a lecture.
Preparation and review in this lecture are assumed two hours a standard.
【Grading Criteria /Policy】
Quiz (20%)、Report (20%)、Reaction papers (60%)。

PHL100IA（哲学 / Philosophy 100）

生命倫理

小館　貴幸

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**1〜4年次／2単位**
曜日・時限：**木3/Thu.3**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命倫理とは、文字通り生命についての倫理のことである。生命も倫理も一部の専門家だけの問題ではなく、今を生きているすべての人間の問題である。なぜなら、私たち誰もが生命を有しており、他者との関わりの中で倫理的に生活しているからである。
授業を通して、生命にまつわる諸問題について自分の意見を述べることができ、自分で答えを出せる力を養うことが、本講義の最大の目的である。具体的に本講義では、生命倫理の成立ちや諸原則などを学ぶことができ、私たちが実際に直面しうるであろう生命の始まりや終わりに関する具体的な問題について理解することができる。加えて、いのちについて考え、向き合うことができる。

【到達目標】
（1）「いのち」の尊厳を理解し、尊重することできる。
（2）倫理とは何かを説明することができる。
（3）医の倫理と生命倫理の特徴を理解し、両者の違いを述べることができる。
（4）生命倫理の四原則について説明することができる。
（5）現代社会における具体的問題について説明することができる。
（6）生命の始まりについての諸問題について自分の意見を述べることができる。
（7）生命の終わりについての諸問題について自分の意見を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は対面講義にて実施する予定である。基本的には講義形式で行っていく。
授業内において、現場での具体的状況を把握し、当事者の思いを理解できるように、実際の映像資料なども多く取入れていく。
理解を深めるために、教科書も有効に活用していく。
遠隔授業となった場合には、オンデマンド型（音声データつきのパワーポイント資料）で行い、講義内容の確認のためのリアクションペーパーや小テストの機会を設ける。Zoomによる配信は実施しない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「いのち」について	①イントロダクション ②いのちとは何か ③いのちの尊厳
2	倫理とは何か	①倫理の定義 ②倫理と道徳の違い ③倫理学
3	医の倫理（1）：医の倫理の全体像	①医の倫理とは何か ②『ヒポクラテスの誓い』 ③医の倫理の三原則
4	医の倫理（2）：医の倫理の本質と問題点	①パターナリズム ②守秘義務 ③医の倫理の問題点
5	生命倫理の成立	①医の倫理の限界 ②人体実験 ③権利の確立
6	生命倫理の四原則（1）：自律尊重の原則とインフォームド・コンセント	①自律尊重の原則 ②インフォームド・コンセント ③セカンド・オピニオン
7	生命倫理の四原則（2）：善行・無危害・正義の原則とまとめ	①善行の原則 ②無危害の原則 ③正義の原則
8	前半のまとめ	①「医の倫理」と「生命倫理」の特徴と相違 ②「医者ー患者」関係のあり方
9	現代社会における具体的諸問題（1）：障がい	①福祉の理念 ②障がいとは何か ③ノーマライゼーション
10	現代社会における具体的諸問題（2）：認知症とそのケア	①認知症とは何か ②認知症者へのケア
11	生命の始まりをめぐる諸問題（1）：人工受精	①人工受精 ②体外受精 ③不妊治療
12	生命の始まりをめぐる諸問題（2）：出生前診断	①出生前診断 ②新型出生前診断 ③選択的中絶
13	生命の終わりをめぐる諸問題（1）：安楽死	①安楽死とは何か ②安楽死をめぐる法律 ③安楽死の許容条件
14	生命の終わりをめぐる諸問題（2）：尊厳死	①尊厳死とは何か ②インフォームド・デシジョン ③尊厳死の許容条件

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：テキストの該当箇所を読み、疑問点などを整理しておく。事前課題がある場合には、それに取組む。
復習：テキスト及び授業配布資料に基づいて前回授業の内容を復習する。興味があるテーマに関しては自分で調べる。また、課題がある場合には課題に取組む。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『なぜ生命倫理なのか』、朝倉輝一編、大学教育出版、2024年。2200円＋税。

【参考書】
授業中に適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（60％）、課題等（25％）、中間レポート（15％）、による総合評価。遠隔講義となった場合には、Hoppiiを活用して成績評価ができるように変更する場合もありうる。その際には、受講生に事前に連絡する予定である。

【学生の意見等からの気づき】
・講義での学びを受講生の人生に実際に活かせるような授業を今後も引き続き行っていこうと考えている。
・受講生に生命倫理の諸問題をより身近に感じてもらうために、スポーツの事例などを多く取り入れるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
・お知らせや課題は、Hoppiiを利用するので、パソコンなどのIT環境を整えておくこと。
・遠隔授業による講義となった場合には、配布資料や教材を閲覧できるような情報機器の準備や、ネットワーク環境を整備しておくこと。

【その他の重要事項】
・受講希望者は、講義についてのイントロダクションを行うので、最初の講義に必ず出席してもらいたい。
・中間レポートは、テキストから出題する。必ずテキストの該当箇所を準備すること。
・担当教員は、介護福祉士の国家資格を持ち、終末期の患者や人工呼吸器をつけた難病患者の在宅介護の仕事に約20年間携わってきた。在宅現場での経験を踏まえて、終末期ケアの現状や当事者や家族の生の声を多く紹介していく。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Bioethics means ethics of life. This is the problem that not only some experts but also we should work on. Because we are possessing life, we live in the relation with others ethically.
The aim of this lecture is to cultivate an ability to work out a solution for those problems by oneself. In this lecture, students can learn basic matters of bioethics including four principles and the history of bioethics. And they can understand some problems of the beginning of life and the end of life that we will face on. In addition, students can think about a life.
【Learning Objectives】
(1) Be able to respect for human dignity and sanctity of life, after understanding about these things.
(2) Be able to explain what is ethics.
(3) Be able to describe the difference between medical ethics and bioethics, after understanding each characteristics.
(4) Be able to explain four principles in bioethics.
(5) Be able to explain problems of life and death in the modern society.
(6) Be able to express one's own opinion about problems in the beginning and end of life.
【Learning activities outside of classroom】
Preparation: To read the relevant parts of the textbook and to organize a list of questions.
Review: To review what you learned. To refer to a textbook and the handout. To examine questions for oneself.
Preparation and review in this lecture are two hours a standard.
【Grading Criteria /Policy】
Examination (60%)、Reaction papers (25%)、Report (15%)。

SOC100IA（社会学 / Sociology 100）

障害者福祉論

青木　尚人

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　配当年次／単位：**1〜4年次／2単位**
曜日・時限：**金1/Fri.1**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、様々な障害に着目し、障害者の定義や彼らの生活実態、取り巻く法制度、辿ってきた歴史を学習する。「障害者」とされる人々が現代社会において生活することについて、様々な視点から学ぶ。学生は、障害者について主に社会学や社会福祉学的な視点から障害／障害者について考えることを通して、自らが生活する社会が障害者や健常者にとってどのような社会であるかを学ぶ。

【到達目標】
・障害者についての歴史的な知識を獲得できる。
・障害者の生活実態について知ることができる。
・障害についての理論と実体験を関連させて障害についてとらえることができる。
・障害についての理論を元に、財の分配の方法について体験的に学ぶことができる。
・障害者の生活を支える法制度についての知識を獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式を中心とし、リアクションペーパーを毎回取る。また、授業内に学生自らの考えを披露してもらう場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	障害者福祉の視点	現代において障害者が置かれてきた立場を学ぶ。
2	障害者福祉の歴史	欧米、日本の障害福祉について学ぶ。
3	障害者福祉の基本理念	障害者福祉が追い求めてきた基本理念を学ぶ。
4	障害の概念と障害学	障害とは何かを障害の社会学(障害学)に関連させて学ぶ。
5	障害者福祉の実践	障害者の支援とはどのようなものであるかを学ぶ。
6	障害者の生活とニーズ	障害者の生活がどのようなものであり、彼ら/彼女らが何を必要としているか学ぶ。
7	障害者福祉の法体系と実施機関	障害者福祉に関わる法制度と実施機関を学ぶ。
8	障害福祉のサービス体系	障害者が日常生活で利用するサービスを学ぶ。
9	障害者の社会参加	障害者の社会参加の現状を学ぶ。
10	障害者に対する権利擁護	権利擁護の必要性とどのように行われているかを学ぶ。
11	障害者の生活保障	障害者における就労、教育、所得保障の観点から生活保障を学ぶ。
12	障害者福祉を支える人々	障害者福祉の担い手について学ぶ。
13	障害者に対する虐待	障害者を取り巻く虐待問題と、その対策に関して学ぶ。
14	戦争と障害者	戦争がどのように障害を生み出し、障害者に影響を与えたのかを学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、各回に提示する課題やテーマについて、新聞などの媒体を活用することで、情報を収集し、自ら考える。
また講義中に紹介した文献の講読、参加者同士の積極的な議論及び、社会的事象への応用、自らの生活における実体験と理論との関連を意識する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし。
資料を毎回配布する。

【参考書】
授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
講義への参加 30％：平常点及び授業態度で評価する。平常点についてはリアクションペーパーの記述内容、授業態度については、積極的な発言（思考のアウトプット）を重視する(出席回数が3分の2以下のものは不可とする)。
試験 70％：履修者の考えを問う形式にする。
評価のポイントとなるのは、①授業内で学んだ知識に基づき、②自らの考えを展開していること。ウェブサイトからの購入レポートは不可。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックはしていない。

【学生が準備すべき機器他】
コロナウイルスに関する社会情勢によっては、オンライン（オンデマンド方式）に変更予定。音声等ファイル等の使用や動画は検討していないため、基本的なインターネット環境があれば対応可能。

【その他の重要事項】
元政令指定都市自治体職員(社会福祉職)として生活保護ケースワーカー、重度知的障害者生活支援施設生活支援員、精神保健福祉相談員を計9年経験した。学術的な視点での講義だけではなく、障害者支援や関連領域の現業業務をふまえて得た知識や経験を織り交ぜながら、学生に問題意識を持ってもらえるよう講義を行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course deals with definition of disability,legal system and history from the viewpoint of sociology and social welfare.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
Students can gain historical knowledge about disabilities.
Students can learn about the actual living conditions of people with disabilities.
Students can understand disabilities by relating theories about disabilities and personal experiences.
Based on theories about disabilities, students can learn experientially about methods of distributing goods.
Students can gain knowledge about the legal system that supports the lives of people with disabilities.
【Learning activites outside of classroom】
Students will collect information and think for themselves by utilizing media such as newspapers on the topics and themes presented in each session. They will also read the literature introduced during the lectures, engage in active discussions with fellow participants, apply it to social phenomena, and be aware of the connection between their own life experiences and theory. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Participation in lectures 30%: evaluated based on regular points and class attitude. Regular points are based on the content of reaction papers, and class attitude emphasizes active participation (output of thoughts) (attendance of less than two-thirds is not acceptable). Exam 70%: will take the form of questioning the thoughts of the students. The evaluation points are: 1) based on the knowledge learned in class, and 2) developing one's own thoughts. Purchase reports from websites are not allowed.

PHL100IA（哲学 / Philosophy 100）

スポーツ哲学

小田　佳子

カテゴリ：**専門基礎科目（講義科目）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1年次／2単位**
曜日・時限：**月**2/Mon.2
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では「体育とは何か？」「スポーツとは何か？」を考える上で必要な原理・原則について知識を深める。スポーツそのものが持つ価値や社会で果たす役割等について、自らの言葉で語ることができることを目標とする。
スポーツに携わる者は、今後、自らの言葉でスポーツを語る必要に迫られるであろう。
「人はなぜスポーツに魅せられるのか？」「スポーツの魅力とはいったい何なのか。」
自分にとってのスポーツとはどのようなものであり、その目的に応じて多様な関わり方が可能なスポーツについて、より深く考えることがスポーツ科学の専門家には求められる。

【到達目標】
スポーツとは何であるかを考えるうえで必要な原理・原則についての知識を深めるとともに、スポーツが社会生活に及ぼす影響等について考察する。
「プレイとは」、「オリンピックとオリンピズム」「ドーピングとは」、「部活動改革とは」、「指導者とコーチの違い」、「フェアプレイとは」などスポーツを取りまく諸課題について、科学的な根拠を踏まえた上で自分自身の言葉で語ることのできるスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
　体育・スポーツの概念を明らかにするとともに、身体活動を通して行われる教育としての体育に焦点を当てることはもとより、我が国における体育・スポーツへの取り組みやスポーツが社会に及ぼす影響など、社会生活との関わりの中でスポーツ活動を考えることのできる力を養う。
　テキスト及び必要に応じて配付する資料等をもとに、P.P.を使用したスクール形式の一斉対面授業を行う。
　本授業では体育とスポーツの違いをはじめ、これまで気にとめることの少なかったスポーツに関する様々なことにも焦点を当て、スポーツとはどのようなものであり、どのような価値を内包しているのか等を明らかにする。そしてそれらを今後のスポーツ振興に少しでも役立てることを目指す。
　スポーツの素晴らしさを自らの言葉で説明するためにも各々の学生にスポーツ観を身に付けてもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概要説明 体育・スポーツの抱える今日的課題	授業の内容、進め方、成績評価方法、留意事項の授業ガイダンス及び、体育・スポーツが抱える今日的課題について考える
2	体育・スポーツとは	スポーツとは何か、体育とは何かを考える
3	スポーツ哲学とは	なぜ体育系学部・学科の学生が、スポーツ哲学を学ぶ必要があるのか考える
4	オリンピックとオリンピズム①	近代オリンピックの概要(なぜクーベルタンはオリンピックを復興したのか、その歴史と移り変わりについて考える)
5	オリンピックとオリンピズム②	近代オリンピックが目指したものは何か、TOKYO2020の現状と課題を踏まえて考える
6	運動部活動の意義と課題	運動部活動にはどのような意義や課題があるのか、「部活動改革」のあり方を考える
7	スポーツと勝利至上主義	スポーツにおける「勝利至上主義」という問題性について自己の経験から考える
8	スポーツ・ジャーナリズム（ゲスト講師）	スポーツとメディアの関わり、スポーツ・ジャーナリズムのあり方などについて、その歴史と文化的背景を考える
9	野球コーチングのすすめ（ゲスト講師）	学生野球を通して、その歴史を踏まえつつ新たなコーチングのあり方を考える
10	スポーツとフェアプレイ	スポーツマンシップとはどのようなことを指すのか、フェアプレイとは具体的にはどのような行動のことなのか考える
11	アンチ・ドーピング	ドーピングの歴史とアンチ・ドーピング活動の必要性、現在のスポーツ界を取りまく問題を踏まえ考える
12	スポーツ哲学から学び①（発表・評価）	オンラインを活用して「スポーツ哲学」の学びを発表する
13	スポーツ哲学から学び②（発表評価）	オンラインを活用して「スポーツ哲学」の学びを発表する
14	まとめ	まとめ(ふりかえりとテスト)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
スポーツに関するニュースや新聞記事等を教材として使用するため、各授業のテーマに関する情報収集を心がける。授業では毎回、課題を提示し、哲学的思考と共に記述し、次回の授業では自らの言葉で発表する。
本授業の準備学習・復習時間はそれぞれ2時間程度とします。

【テキスト（教科書）】
「教養としての体育原理（新版）-現代の体育・スポーツを考えるために-」
友添秀則・岡出美則編　大修館書店　新版第1刷(2016年7月)
また、必要に応じて資料を配付する予定。

【参考書】
必要に応じて提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業内での積極的な意見（発言）は、授業への積極的参画として評価する。
授業参加テストおよびレポート等(40%)
定期試験(最終プレゼン20＋試験40＝60%)
上記の項目を総合的に評価する。
なお、授業出席回数が2/3未満の学生は成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】
多人数の大講義であり、各学生がそれぞの課題に真摯に取り組み、アクティブな議論とともに思考が深められるような場の設定と授業環境を整えたい。

【学生が準備すべき機器他】
課題やプレゼンに対応するためのノート型PC。
資料配布・課題提出等に学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】
中・高の学校現場で保健体育・英語の教員として15年勤務し、その内4年間は文部科学省派遣で海外の在外教育施設の小中一貫校で勤務した。
※感染拡大による授業形態等の変更には、柔軟に対応する。

【Outline (in English)】
In this lecture, we discuss Sport and Physical Education. This course is designed to deepen students' knowledge of the principles and basic necessary for considering "What is Physical Education?"and"What is Sport?"
The goal is for students to be able to speak in their own words about the value of sport itself and the role it plays in society.
Those involved in sports will need to talk about sports in their own words in the future.
Why are people attracted to sports? What exactly is the appeal of sports?"
Sport science specialists are expected to think more deeply about what sport means to them and the various ways in which they can be involved in sport, depending on their objectives.
(learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignment after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.
(Grading Criteria/Policies)
・Your overall grade in the class will be decided based on the following term-end examination(70 %),Short reports(20%) and in class contribution(10%)

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

スポーツリスクマネジメント

木下　訓光

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**備考参照年次／2単位**
曜日・時限：**月1**/Mon.1
備考（履修条件等）：**2024年度以降入学者は1年次から履修可能。2023年度以前入学者は2年次から履修可能。**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
競技・レクリエーション・健康管理を目的に行うスポーツ活動・運動中に生じうる身体の異変や重大事故等の実態と、予防のための対処方法がテーマである。「起きてしまった」事故の法的解釈や裁判例の学習ではなく、「いかにして事故を予防するか」について、医学、科学、疫学に基づき述べていく。各回のテーマは「スポーツ医学」などの講義で扱うものと重複する場合があるが、本授業では理論的な基礎について学習するよりも、実際のスポーツ現場で指導者や管理者に必要とされる実践的な知識やスキルの学習に重きを置く。

【到達目標】
学校体育・部活動や競技スポーツ、フィットネスジムなど様々なスポーツ現場で遭遇しうる事故等の危機管理に必要な基礎知識の習得が目標である。これまでスポーツにおけるリスクマネジメントは法学の分野で考察されることが多かったが、本授業ではスポーツの医科学的リスクマネジメントについて扱う。具体的には、スポーツ活動中に遭遇する内因性突然死、重大外傷、熱中症などの予防や対策、対処方法、スポーツイベントの医事運営などについて、最先端のスポーツ医科学の知見を踏まえて学習する。これらの知識をスポーツ現場において自らが危機管理にあたる際、活用できるようにすることが重要な目標である。さらに発展させて、あらゆる危機管理の局面において論理的分析・考察ができる思考力を養成することも念頭に置いている。今年度も引き続き新型コロナウィルス感染症（COVID-19）パンデミックについて、その生物学、医学、公衆衛生学分野の最新のエビデンスを学び、社会的危機に直面した時に、これを科学的・論理的・批判的に分析して対峙する姿勢の習得も目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。
② この分野における日本語の包括的教科書は存在せず、またインターネットや雑誌などのメディアも系統的で正確な情報を提供していない分野であるため、国内外の研究成果や教員自身の経験に基づいた情報やノウハウを基礎にして講義を行う。
③ 実際にスポーツ現場や健康管理関連事業の中で直面する可能性のある状況を念頭に講義する。
④ 可能な限り各回の授業の前週末までにスライドのハンドアウトを授業支援システムにアップロードする。
⑤ 各回の授業ではkeyword, take-home message, summaryを適宜提示する。
⑥ 講義中の質疑応答を奨励する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	パンデミックから学ぶリスクマネジメント	新型コロナウィルスの生物学的・医学的基礎を学び、COVID-19パンデミックにおけるエビデンスを整理して、リスクマネジメントの基礎を学ぶ。
2	「なぜ事故が起きるのか」―スポーツ現場におけるヒューマンエラー	スポーツ現場で起きる事故の機序、危機管理の全体像について講義する。
3	「アスリートが命を落とすとき」―突然死の機序とスポーツ現場における実態―	人が死ぬときに何が起きているのか？ なぜ運動中に命を落とすのか？若年アスリートスポーツ中の内因性突然死、中高年者の運動中の突然死について講義する。
4	心肺蘇生（成人と小児のBLS）―スポーツ現場でHands Only CPR―	成人の一次救命処置（BLS）と小児の救命処置（PBLS）の理論的基礎と適切に行うために必要な技術的ポイントについて学習する。またスポーツ現場におけるHands Only CPRの役割について学ぶ。
5	インフォームドコンセントと誓約書	競技大会やスポーツジムで求められるインフォームドコンセントの意義や指導者、管理者の法的責任などについて講義する。
6	競技参加のためのメディカルチェック	事故防止に必要な競技参加のためのメディカルチェックについて講義する。
7	「なぜスポーツしてはいけないのか？」―競技スポーツ参加の可否判断―	競技スポーツ参加の可否判断の基準（競技スポーツを行ってはいけない条件）、およびスポーツ参加を許可する診断書の意義と解釈について講義する。
8	スポーツにおける重大外傷	スポーツ中に発生する重大外傷（catastorophic injury）、すなわち致死的頭部外傷や脊髄損傷の発生機序や対策について講義する。
9	スポーツと脳振盪	ボクシングやアメリカンフットボール、柔道などで経験する脳振盪について、実態、危険性、対策などを講義する。
10	環境とスポーツ―熱中症と落雷―	スポーツ現場における熱中症対策のピットフォールとその解決方法について講義、実効性のある予防のためには何が必要か学ぶ。またスポーツ現場における落雷対策について学ぶ。
11	スポーツ選手と減量	減量に伴うリスク、すなわち脱水症や摂食障害について、実態や対策などを講義する。
12	スポーツ現場におけるハラスメントとその対策	スポーツ現場におけるセクシャルハラスメントなどについて、実態や対策について講義する。
13	ドーピングとアンチドーピング	ドーピングとアンチドーピングについて講義する。
14	スポーツイベントのリスクマネジメント―EAPとAED―	（mass gatheringとしての）スポーツイベントにおける救急対策について講義する。Emergency Action Plan (EAP) およびAED （自動体外式除細動器）の役割について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
② 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summaryなど、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
③ 各回のテーマに沿った課題を授業内で適宜提示するので、必ず取り組み、理解を深めるための自習に活用すること。
④ 下記【参考書】欄に、各回のテーマに沿って講義内容の習得または習得した知識の発展に役立つと考えられる書籍、文献、資料を掲載するので、予習、復習などに積極的に活用すること。これらのテキストの記載内容は講義の中でも引用することがある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めず

【参考書】
第1回：
『感染症疫学』（ヨハン・ギセック、昭和堂、2020）**※資料室収蔵**
『感染症疫学のためのデータ分析入門』（西浦 博、金芳堂、2021）**※多摩図書館収蔵・電子ブック利用可**
『臨床雑誌 内科：特集：感染症2020：冬のインフルエンザ・夏のオリンピックに備える』（2020年125巻1号）**（医書jpよりアクセスすることで全文ダウンロード可）**
第2回：
『ヒューマンエラーを理解する』（Sidney Dekker、海文堂）.（特に第1章～第6章）
『スポーツのリスクマネジメント』（小笠原 正、他（編）、ぎょうせい、2009）**※資料室収蔵**
『リスクを伝えるハンドブック-災害・トラブルに備えるリスクコミュニケーション』（西澤真理子、エネルギーフォーラム、2018）**※多摩図書館収蔵**
第3回：
『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018年35巻6号）
『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012年29巻2号）
『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』. 2009年26巻11号.（特に「身体活動と突然死の因果関係：誘発要因としての身体活動」のセクション）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第4回：
『BLSプロバイダーマニュアル AHAガイドライン2020準拠』（2022年、シナジー）**※資料室収蔵**
第5回：
『スポーツの法律相談』（望月 浩一郎 監修、青林書院）**※資料室収蔵**
第6回：

『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018年35巻6号、木下訓光：アスリートのためのメディカルチェック－心臓突然死を未然に防ぐために－．pp.570-573）
『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012年29巻2号、木下訓光：アスリートに対するメディカルチェック－その有用性と限界－．pp.153-162.）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第7回：
木下訓光：アスリートのメディカルチェックおよびその結果としての競技参加制限・中止勧告における社会的・法的・倫理的問題．1999年スポーツ医学研究センター紀要 pp 15-23.
（http://sports.hc.keio.ac.jp/ja/current-research-and-activities/assets/files/bulletin/1999kiyo.pdf）
『スポーツの法律相談』（望月 浩一郎 監修、青林書院）**※資料室収蔵**
第8回：
『ラグビー外傷・障害対応マニュアル』（日本ラグビーフットボール協会、2013年改訂版）
『柔道の安全指導』　（全日本柔道連盟、2015年第4版）
いずれも各競技団体のホームページより閲覧可能。
『柔道事故』（内田 良、河出書房新社）**※資料室収蔵**
第9回：
『スポーツ現場での脳振盪』（Julian E.Bailes, et al. ed., ナップ）**※資料室収蔵**
『ほんとうに危ないスポーツ脳振盪』（谷 諭、大修館書店）**※資料室収蔵**
『臨床スポーツ医学：特集：どう対応するか，スポーツ頭部外傷：“頭部外傷10か条の提言”から考える』（2016年33巻7号）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第10回：
『熱中症：日本を襲う熱波の恐怖（日本救急医学会、へるす出版）
『熱中症対策マニュアル』（稲葉 裕 監修、エクスナレッジ）
『熱中症を防ごう：熱中症予防対策の基本』（堀江正知、中央労働災害防止協会）
『熱中症review：Q&Aでわかる熱中症のすべて』（三宅康史、中外医学社）
『熱中症の現状と予防：さまざまな分野から予防対策を見つけ出す』（澤田晋一、杏林書院）
『高温環境とスポーツ・運動：熱中症の発生と予防対策』（中井誠一、篠原出版新社）
※以上、すべて資料室収蔵
『スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック』（日本スポーツ協会）
（https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html より閲覧可能）
『落雷事故対策マニュアル』（埼玉県体育協会、埼玉県スポーツ科学委員会 https://www.sayama-stm.ed.jp/h_tyuou/index/saigai/rakurai.pdf）
『サッカー活動中の落雷事故の防止対策についての指針』（日本サッカー協会 https://www.jfa.jp/about_jfa/report/PDF/h20060413_17_01.pdf）
『落雷事故の防止について』（文部科学省　https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/1375858.htm）
第11回：
木下訓光：スポーツ選手の減量－米国アマチュアレスリングにおける事例－．（1998年スポーツ医学研究センター紀要 pp 17-20. http://sports.hc.keio.ac.jp/ja/current-research-and-activities/assets/files/bulletin/1998kiyo.pdf から参照）
木下訓光：ランニングのスポーツ医学：やせと体組成、月経障害．臨床スポーツ医学．2014;31(9):858-867.
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第12回：
『ハラスメント防止・対策に関するガイドライン』（法政大学．http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/torikumi/harassment/guide.html）
『運動部活動の在り方に関する調査研究報告書』（文科省，2013）（http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1335529.htm）
『スポーツ界における暴力行為根絶宣言』
（https://www.joc.or.jp/news/detail.html?id=2947）
第13回：
日本アンチ・ドーピング機構website（http://www.playtruejapan.org/）．ダウンロードセンターより最新の『世界ドーピング防止規程（日本語版）』が閲覧可能。**同サイトはアンチ・ドーピングの現状を把握・理解する上で重要な情報源である。本授業を受講する学生は必ず参照しておくこと。**
『マンガで学ぶスポーツ倫理』（林 芳紀ほか、化学同人）**※資料室収蔵**
『ランス・アームストロング ツール・ド・フランス7冠の真実』[DVD]。**資料室収蔵（ドーピングの実態をよく伝える作品であり本授業の理解を深めるうえで受講者全員に視聴を求める。大学の規約上資料室には３部しか揃えておけないため、定期試験前や該当授業前後には閲覧機会が得難くなることが予想される。各学生においては早目に視聴しておくこと）**
『アンチ・ドーピング徹底解説! スポーツ医薬: 服薬指導とその根拠』（鈴木秀典ほか編、中山書店、2020年）**※多摩図書館収蔵**
『ドーピングの歴史: なぜ終わらないのか、どうすればなくせるのか』（エイプリル・ヘニングほか、青土社、2023年）**※多摩図書館収蔵**
第14回：
『マラソン・ロードレース 救護・医療体制 整備指針: フルマラソンから小規模レースまで―安全に運営するために』（野口 宏（編）, 山澤文裕（監修）、真興交易医書出版部、2020年）**※多摩図書館収蔵**
『人を助ける心』（高木 修、サイエンス社、1998年）．（特に第1章、第2章、第4章）**※研究室収蔵**
木下訓光（編）『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』．2009年26巻11号（特に「BLSとAED：突然死予防への課題」、「スポーツイベントにおける突然死対策」のセクション）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
その他に下記の書籍などを追加的に参考にするとよい。
· Herb Appenzeller."Risk Management In Sport: Issues And Strategies" (Carolina Academic Press, 2005) **※研究室収蔵**
· 小笠原 正、他（編）『スポーツのリスクマネジメント』（ぎょうせい、2009）**※資料室収蔵**
· 入澤 充.『学校事故：知っておきたい!養護教諭の対応と法的責任』（時潮社、2011）**※資料室収蔵**

【成績評価の方法と基準】
期末試験（原則100%、ただし下記※参照）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。
※授業回の多くで、事前にまたは授業内に小課題などを課す。これらの成果の集積は期末試験の点数と合わせて最終成績を決定する点数算出に用いる場合がある。
【禁止事項】
授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影・録画・録音することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。授業スライドを含め関連する資料を入手したい場合は必ず教員に相談すること。

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
可能な限り各回の授業の前週末までに授業支援システムにPDFハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、若干の変更があり得る。
【実務の経験】
臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】
上記診療経験に基づき、スポーツ現場で発生する様々な障害、外傷について、患者症例を供覧しながら理解し、学生がその発症機序を医学的に理解して対処できるように講義する。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide the basic knowledge of risk management in sports according to the medical and scientific evidences. The lecture provide knowledge and skill how to prevent accidents and injuries related to physical activity, exercise, and sports.
[Learning objectives] The substantial goal of the lecture is to understand what risk is entailed and what accident is incurred in relation to sports activity and to obtain the skill of logical assessment of the sports related risk and that of developing strategy for prevention of accidents on the basis of scientific and medical evidences. In addition, to understand the biological, medical, and epidemiological background of COVID-19 and how to cope with sports activities in the pandemic is another important scope of this lecture.
[Learning activities outside of classroom] Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined by the score of the term-end examination (100%, as a rule but please refer to the following). A quiz (mini test) will be provided in the classroom. The score of the quiz would be considered to determine the final score of the term-end examination. **CAUTION: To take photos of any materials presented in the classroom or to record the lecture is prohibited. Students who violate this rule and take photos or record any materials presented in the classroom without permission are not allowed to take the term-end examination.**

SOM200IA（社会医学 / Society medicine 200）

予防医学概論

瀬戸　宏明

カテゴリ：**専門基幹科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2年次／2単位**
曜日・時限：**木**4/Thu.4

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生体に関する基礎的学問分野の成果を包括的に活用し、予防医学およびスポーツに関わる様々な医学的テーマをの基礎を学ぶ。身体機能に関する基礎的事項を理解したうえで身体活動・運動が健康に及ぼす影響を理解することを目標とする。

【到達目標】
スポーツ医学が扱う広範な分野を把握し、関連する定義、疫学、病態生理を理解する。健康管理や身体トレーニングの実践において必須となる、身体活動、運動の意義・効果について、科学的エビデンスに基づき説明できるようにする。基本的なスポーツ外傷・障害や救急処置を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は、予防医学、健康科学の基礎的事項に加え、内科、整形外科を中心とした臨床分野に応用され、幼児から高齢者、健常者から疾病保有者を幅広く対象とするスポーツ医学の概観を理解することを目的とする。その導入としては身体活動・運動と健康との関わりを理解することから始まる。基本的な身体機能の理解と、様々なスポーツ障害やその予防について学習する。疫学に代表される社会医学分野の事項も扱う。
社会情勢によってはオンライン授業に変更することもありうる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板などで提示する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	スポーツ医学について説明し、健康管理、スポーツ活動などに関連するスポーツ医学分野のトピックスを紹介する。
2	スポーツと健康	運動習慣、スポーツ活動が健康増進に果たす役割を学習し、健康管理有用な運動処方、運動の種類、強度などの指標を理解する。また健康づくり施策や健康運動指導士についても学習する。
3	健康の概念、医事法規	健康とは何かについて、世界保健機構の宣言、オタワ憲章の概念を参照して理解する。健康管理に関連して医療関係法規を学習する。
4	日本における健康施策	健康日本２１に代表される日本の健康に対する施策について紹介する。
5	運動基準・運動指針	身体活動・運動および体力と健康との関係についての概念を確立し、「健康日本21」「健康づくりのための身体活動基準2013」などの内容を紹介する。
6	生活習慣病概論	生活習慣病とは何か、生活習慣病に含まれる疾病を概念的にとらえ、運動習慣等による予防、治療について包括的に学習する。
7	呼吸循環器系の働きとエネルギー供給	呼吸器官、心脈管系の構造と機能について理解し、一過性運動時の換気応答、脈管系の応答について学習する。また、その背景となる運動時の筋活動に対するエネルギー供給機構の基礎を学ぶ。
8	内科的メディカルチェック 内科的障害と予防	スポーツを実践する人の健康管理を理解し、内科的メディカルチェックの項目（問診、理学所見、血液検査、心電図、運動負荷試験など）を学習する。 またスポーツによる内科的な急性・慢性の障害を取り上げ、予防、治療について紹介する。
9	整形外科的メディカルチェック	スポーツ活動時の運動機能の評価とスポーツ障害の管理を目的とした整形外科的メディカルチェックについて学習する。
10	救急処置	スポーツ現場での救急処置について学習するとともに心肺蘇生法の理論と実際を理解する。
11	整形外科的障害	スポーツによる障害発生頻度、原因となるスポーツに関する知見を理解する。
12	整形外科的外傷	外傷の早期発見と予防、原因となるスポーツに関する知見を理解する。
13	運動器退行性疾患	加齢に伴う運動器疾患の病態を理解して適切な身体活動による進行防止や運動指導の意義を理解する。また介護予防についても学習する。
14	総括・単位認定試験	講義内容の総括と単位認定試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回テーマにおけるキーワードについて予備知識をあらかじめ学習すること。例えば、生活習慣病とは何か？ など。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。
各講義の約 1 週間前から授業支援システム上の「教材」に資料を掲載するので、受講者は事前学習をおこない授業やテストにのぞむこと。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
健康運動指導士試験　要点整理と実践問題（文光堂）

【成績評価の方法と基準】
単位認定試験で原則100%
ただし授業内で小テストを課すことがある。
小テストは単位認定試験の点数と合わせて最終成績を決定するための点数算出に用いる場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
適宜、解説用の補助プリントを作成し授業支援システムに掲示する。

【その他の重要事項】
※授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、予防医学およびスポーツに関わる様々な医学的テーマの基礎を講義する。

【Outline (in English)】
【Course out line】
A purpose of this lecture is to learn the following things
1: study basic knowladge about preventive medicine and sports injuries
2: learn the influence that physical activity and exercise give to health
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to understand the followings:
− definitions, epidemiology, and pathophysiology related to sports medicine.
− the significance and effect of physical activity and exercise
− basic sports injuries /disabilities and first aid
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (100%),

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

運動処方・負荷テスト

木下　訓光

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**3〜4年次／2単位**
曜日・時限：**水**3/Wed.3
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は運動負荷テストの目的、適応、禁忌、合併症、各種負荷方法および装置の特性、運動負荷心電図や心肺運動負荷試験の基本となる理論、 目的・対象に応じた各種運動処方など運動負荷テストの原理・方法と、有疾患者に対する運動処方の方法論を学ぶ。

【到達目標】
① 運動負荷テストの目的、適応、禁忌、合併症について理解する。
② 各種負荷方法および装置の特性など秋学期の実習に必要な実践的な知識を習得する。
② 運動負荷心電図や心肺運動負荷試験の基本となる理論を理解する。
④ 目的・対象に応じた各種運動処方を行えることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
① 原則として各回で完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。
② 前半は運動負荷テスト・運動処方の原理・方法論などの基礎を学習する。後半は各種疾患における運動負荷テスト・運動処方の実際について、病態生理、治療や運動のガイドラインに基づいて学習する事で、前半で習得した理論的基礎を応用的に習得する。
③ 講義はすべて医学的内容であるが、健康運動指導士が実践の場で扱う疾患とその理解を念頭に置いて構成され、必要最低限の基礎的理解を知識で習得できるよう配慮される。**学習効果を上げるためには『運動生理学』や『スポーツ医学A』、『生活習慣病と身体活動』をあわせて受講する事が重要であると理解してほしい。**
⑤ **『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましく、しばしば講義はそれを前提に行われるものと理解しておくこと。**

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	運動負荷テストの基礎	運動負荷テストの歴史、目的、方法、適応、設備などについて。
2	運動処方に必要な心電図の基礎	体表面心電図の電気生理学的基礎、12誘導およびモニター心電図の基礎について。
3	運動負荷心電図と判定	運動負荷心電図の原理・方法論、ST変化と不整脈、陽性、陰性、偽陽性、偽陰性、予後判定など。
4	運動負荷テストの適応と禁忌	リスクの層別化の考え方、メディカルチェックとスクリーニング、運動負荷テストの中止基準、インフォームドコンセント、安全対策、など運動負荷テストのリスクマネジメントについての医学的理解。
5	運動負荷テストのプロトコール	最適・最大の心肺応答を得るために必要な運動負荷プロトコールについての理論および代表的運動負荷プロトコールについて。
6	各種運動様式に対する心肺血管系の応答	動的・静的運動、定常・漸増負荷、全身・下肢運動などにおける心拍、血圧などの心肺血管系の応答について。
7	心肺運動負荷試験	心肺運動負荷試験の方法論、測定結果の評価法、最大酸素摂取量、いわゆるVT。
8	運動処方の原理と方法	用語、頻度、強度、期間設定、METS、など運動処方の原理・構造・方法を理解する。自覚的運動強度、心拍数、心肺運動負荷試験に基づく運動処方。
9	運動処方・負荷テスト各論（１）：高血圧	高血圧の病態生理、治療。高血圧患者の運動負荷テスト・処方における留意点。降圧剤服薬者における運動について。
10	運動処方・負荷テスト各論（２）：糖尿病	糖尿病の病態生理、治療。糖尿病患者の運動負荷テスト・処方における留意点。血糖降下剤服薬・インスリン使用者における運動について。
11	運動処方・負荷テスト各論（３）：肥満・メタボリックシンドローム	肥満・メタボリックシンドロームの病態生理、治療。肥満・メタボリックシンドローム患者の運動負荷テスト・処方における留意点。
12	運動処方・負荷テスト各論（４）：ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症	ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症の病態生理、治療。ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症患者の運動負荷テスト・処方における留意点。特にレジスタンストレーニングの処方原理と具体につについて講義する。
13	運動処方・負荷テスト各論（５）：心疾患	心臓病・肺疾患の病態生理、治療。心臓病・肺疾患患者の運動負荷テスト・処方における留意点。心疾患治療薬（βブロッカー、強心薬）服薬者における運動について。
14	運動処方症例検討	生活習慣病各疾患の実際の運動処方例について検討する。各疾患に特有のproblemをどのように評価して安全かつ効果的な運動処方・療法を行うか、また降圧剤、血糖降下剤、インスリン、脂質異常症治療薬（HMG-CoA還元酵素阻害剤）など、生活習慣病患者の多くが服薬・使用している薬が運動処方や運動療法の実践にどのように影響するか、実際の患者の症例を通して学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
② 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summaryなど、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
③ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当する部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・アメリカスポーツ医学会 『運動処方の指針―運動負荷試験と運動プログラム』（南江堂）**※資料室収蔵**
・心肺運動試験に関しては、下記図書が簡潔にまとめて記載している。『A Practical guite to the Interpretation of Cardiopulmonary Exercise Tests』（Oxford University Press）**※資料室収蔵**
同書籍には旧版の翻訳書がある（『運動負荷試験とその解釈の原理』（Japan Heart Club）**※資料室収蔵**）

【参考書】
・David P. Swain, Brian C. Leutholtz. 『運動処方―ケーススタディでみるACSMガイドライン』（ナップ）**※資料室収蔵**
・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト　上・下』**※資料室収蔵**
・Arthur C.Guyton. 『ガイトン生理学』（エルゼビア・ジャパン）**※資料室収蔵**
・Gerard J. Tortora. 『トートラ人体の構造と機能』（丸善出版）**※資料室収蔵**
・小澤瀞司 他. 『標準生理学』（医学書院）**※資料室収蔵**
・岡田隆夫. 『心臓・循環の生理学』（メディカルサイエンスインターナショナル）**※資料室収蔵**
・山地啓司. 『こころとからだを知る心拍数』（杏林書院）**※資料室収蔵**
・池田隆徳. 『マンガで学ぶ心電図&不整脈』（中外医学社）**※資料室収蔵**
・David P. Swain, Brian C. Leutholtz. 『運動処方―ケーススタディでみるACSMガイドライン』（ナップ）**※資料室収蔵**
・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト　上・下』**※資料室収蔵**
・川久保清『運動負荷心電図：その方法と読み方』医学書院**※資料室収蔵**
・上嶋健治『運動負荷試験Q&A119』（南江堂）**※資料室収蔵**
・安達 仁『CPX・運動療法ハンドブック：心臓リハビリテーションのリアルワールド　改訂3版』（中外医学社）**※資料室収蔵**
・心電図に関連した電気生理学（静止膜電位など）について深く学びたい場合は以下の図書が参考になる。
酒井正樹『これでわかるニューロンの電気現象』（共立出版）**※資料室収蔵**
宮川博義、井上雅司『ニューロンの生物物理』（丸善出版）**※資料室収蔵**
・ハーマン・ポンツァー 『運動しても痩せないのはなぜか』（草思社）**※資料室収蔵**

【成績評価の方法と基準】
期末試験（原則100%、ただし下記※参照）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。
※授業回の中には、事前にまたは授業内に小課題を課す場合がある。これらの成果の集積は期末試験の点数と合わせて最終成績を決定する点数算出に用いる場合がある。
【禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
可能な限り各回の授業の前週末までに授業支援システムにPDFハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】
① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
② **『運動生理学』、『スポーツ医学A』、『生活習慣病と身体活動』をあわせて履修する事を強く勧奨する。**
③ **『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましい。**
【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、実際の患者症例を提示しながら運動負荷テストおよび有疾患者に対する運動処方の原理・方法について授業を行う。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide the basic knowledge of exercise test and related cardiovascular physiology.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to master the principle of exercise test, to understand cardiovascular physiology for exercise prescription, and to obtain the basic skill of implementing the prescribed exercise program appropriately for patients.
[Learning activities outside of classroom] Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Students who is willing to become the Health Fitness Programmer certified by the Japan Health Promotion Fitness Foundation are strongly encouraged to study the corresponding topic of each classroom in the textbook assigned by the foundation afterward. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined by the score of the term-end examination (100%). **CAUTION: To take photos of any materials presented in the classroom or to record the lecture is prohibited. Students who violate this rule and take photos or record any materials presented in the classroom without permission are not allowed to take the term-end examination.**

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

生活習慣病と身体活動

木下　訓光

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**3〜4年次／2単位**
曜日・時限：**水**2/Wed.2
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、生活習慣病とは何か、その概念・定義、生活習慣病の疫学、病態生理、生活習慣病を構成する疾患について定義・発症機序、身体活動・運動と生活習慣病の発症の関連について理論的背景と疫学的エビデンス、身体活動の意義・効果などの生活習慣病に関する知識（定義、病態、疫学など）と、生活習慣としての運動・身体活動が疾病の発症と予防にいかに関わるのか、その機序と疫学的エビデンスを学ぶ。

【到達目標】
① 生活習慣病とは何か、その概念・定義を説明できるようにする。
② 生活習慣病の疫学、病態生理を理解する。
③ 生活習慣病を構成する疾患について定義・発症機序を理解する。
④ 身体活動・運動と生活習慣病の発症の関連について理論的背景と疫学的エビデンスを理解する。
⑤ 身体活動の意義・効果について、科学的エビデンスに基づき説明できるようにする。
⑥ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、本講義とともに同資格テキスト該当部分の内容を理解・習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。したがって学修のためには継続的な出席が必須である。
② 可能な限り各回の授業の前週末までにスライドのハンドアウトを授業支援システムにアップロードする。
③ 各回の授業ではkeyword, take-home message, summaryを適宜提示する。
④ **疫学的エビデンスを理解するために、『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましく、しばしば講義はそれを前提に行われるものと理解しておくこと。**

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	なぜ身体活動を研究するのか？	身体活動量研究の歴史、概念・用語の定義、身体活動による健康増進・疾病予防の機序、生活習慣病とは。
2	身体活動量研究の方法論	身体活動量研究の基礎としての疫学的方法を歴史的背景も踏まえて解説、身体活動量の評価方法を学習する。
3	老化、寿命、QOLと身体活動	身体活動量と死亡率、寿命、QOLとの関連について学習する。高齢者医療における課題（介護、認知症、社会保障など）について、予防医学としての運動・身体活動の役割を学習する。**キーワード**：総死亡率、身体活動のリスク、compression of morbidity、dose-response、身体不活動、一次予防
4	身体活動、フィットネスと心血管疾患	生活習慣病としての心血管疾患の医学、身体活動との関連について学習する。**キーワード**：虚血性心疾患、脳血管障害、閉塞性動脈硬化症、冠危険因子、Framingham Heart Study
5	身体活動、フィットネスと高血圧	生活習慣病としての高血圧の病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。**キーワード**：『高血圧治療ガイドライン』（日本高血圧学会）、chronic kidney disease、白衣高血圧
6	身体活動、フィットネスと糖尿病	生活習慣病としての糖尿病の病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。**キーワード**：II型糖尿病、インスリン抵抗性、糖質代謝
7	身体活動、フィットネスと高脂血症・高尿酸血症	生活習慣病としての高脂血症・高尿酸血症の病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。**キーワード**：LDLコレステロール、HDLコレステロール、痛風、『動脈硬化性疾患予防ガイドライン』（日本動脈硬化学会）
8	身体活動、フィットネスと肥満・メタボリックシンドローム	生活習慣病としての肥満、メタボリックシンドロームの病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。**キーワード**：内臓脂肪、過体重、BMI、肥満症、『運動しても痩せないのはなぜか』（ポンツァー、草思社）
9	身体活動、フィットネスと筋骨格系の健康	生活習慣病としての筋骨格系疾患・障害の医学、身体活動との関連について学習する。**キーワード**：骨粗しょう症、変形性関節症, locomotive syndrom
10	喫煙と生活習慣病	生活習慣病の原因としての喫煙とその弊害について学習する。**キーワード**：慢性閉塞性肺疾患、喘息、受動喫煙、『禁煙支援マニュアル』（厚労省）
11	身体活動、フィットネスと免疫・癌	生活習慣病としてエビデンスレベルの高い癌を中心に、病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。**キーワード**：乳癌、大腸癌、前立腺癌
12	身体活動、フィットネスとメンタルヘルス	不安障害・抑鬱に関する医学的理解、および身体活動との関連について学習する。身体活動と認知症（アルツハイマー型、血管性）との関連について学習する。**キーワード**：うつ状態、うつ病、不安障害
13	（1）こどもの体力低下と身体活動 および （2）身体活動環境と健康増進政策、生活習慣病予防プログラム	（1）こどもの生活習慣病の実態、身体活動の重要性について学習する。**キーワード**：『体力・運動能力調査』（文部科学省）、エビジェネティクス （2）国内外の身体活動環境と健康増進政策、生活習慣病予防のための身体活動指導の実践について学習する。**キーワード**：健康増進法、健康日本21（第2次）、特定健診・保健指導、『健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023』、都市計画と肥満
14	身体活動介入と行動変容	身体活動・運動継続のための行動科学的アプローチの理論的な基礎を学習する。**キーワード**：行動変容モデル（transtheoretical model、プロチャスカ、1979）、運動のアドヒアランス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 各回の内容に記載したキーワードについて事前に学んで予備知識をつけておくと、講義の理解を深める助けになる。
② 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
③ 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summaryなど、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
④ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当する部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めず

【参考書】
各授業回に関連するテーマについてより深く学ぶために必要な参考書・文献は各授業回で提示する。**【授業計画 /Schedule】**内容欄の各回**キーワード**にも、参考図書・文献を記載している。以下その他の参考文献
・『健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023』（https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/undou/index.html）
・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト　上・下』
※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】
期末試験（原則100%、ただし下記※参照）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。

※授業回の中には、事前にまたは授業内に小課題を課す場合がある。これらの成果の集積は期末試験の点数と合わせて最終成績を決定する点数算出に用いる場合がある。
【禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
可能な限り各回の授業の前週末までに授業支援システムにPDFハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】
①授業の展開によって、若干の変更があり得る。
②『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましい。
【実務の経験】
臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】
上記診療経験に基づき、実際の患者症例を提示しながら疾患の病態生理、発症機序、症状、治療、運動療法、予後などについて講義し、学生が生活習慣病の基礎的・臨床的知識を習得することができるようにする。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide the basic knowledge of chronic diseases and clinical epidemiology.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to master the definition, pathophysiology, epidemiology, and treatment of chronic diseases and to understand the role of physical activity and exercise to prevent chronic diseases and that of physical inactivity and sedentary lifestyle to develop chronic diseases on the basis of scientific evidences.
[Learning activities outside of classroom] Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Students who is willing to become the Health Fitness Programmer certified by the Japan Health Promotion Fitness Foundation are strongly encouraged to study the corresponding topic of each classroom in the textbook assigned by the foundation afterward. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined by the score of the term-end examination (100%). **CAUTION: To take photos of any materials presented in the classroom or to record the lecture is prohibited. Students who violate this rule and take photos or record any materials presented in the classroom without permission are not allowed to take the term-end examination.**

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

運動生理学

瀬戸　宏明

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**3〜4年次／2単位**
曜日・時限：**木**4/Thu.4
備考（履修条件等）：**2023年度以前入学者対象**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
運動に対する生体の反応および機能的・構造的適応について扱う学問である運動生理学について講義する。

【到達目標】
運動生理学は生理学を基盤とし、理解のためには生化学や解剖学の内容も補足的活用する必要がある。体育学や最先端のスポーツ科学、スポーツ栄養学などを理解・活用する上で重要な科目の一つである。健康増進を目的とした身体活動や、スポーツパフォーマンス向上のためのトレーニングを、科学的エビデンスに基づいて実践するために必要な知識を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として各回ごとに完結するテーマを設定して講義形式で行う。
生体における運動時の反応や運動に対する適応の機序は、生体の機能的・構造的特徴に基づき呼吸・循環器、神経、血液・免疫、内分泌、エネルギー代謝等の多くの分野に細分化されて研究されている。各テーマに沿って、身体活動およびスポーツ活動時に対する生体の反応や生理的適応の機序を系統的に学ぶ。
社会情勢によってはオンライン授業に変更することもありうる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板などで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	神経系の役割と運動制御	運動機能を担う神経系の解剖・生理学的特徴の概論。神経筋接合部（運動単位）と高次中枢としての脳の運動制御に関する概論。
2	運動中の末梢神経活動の実際	神経受容体における神経伝達物質による化学調節の基礎。運動時の心拍出量の変化に応じて血圧を制御するarterial baroreflexについて学習する。
3	運動中の中枢神経活動の実際	筋活動時の中枢神経系を介した神経活動について理解する。運動時に末梢から中枢（exercise pressor reflex）、中枢から末梢（central command）へと伝播される神経伝達について学習する。
4	骨格筋の役割と運動時の活動	運動による骨格筋への影響について学習する。
5	運動と骨	各種トレーニングに対する骨の構造、生理機能の変化を学習する。
6	運動と臓器	運動時における臓器の変化について学習する。
7	運動と糖質代謝	運動時における糖質の代謝について学習する。
8	運動とアミノ酸代謝	運動時におけるアミノ酸の代謝について学習する。
9	運動と脂質代謝	運動時における脂質の代謝について学習する。
10	運動と乳酸・核酸代謝	運動時における乳酸や拡散の代謝について学習する。
11	運動と呼吸・循環	ガス交換、換気応答、心拍応答、心拍出量、動静脈酸素分圧較差など、運動における心肺循環器系の役割とその適応について学習する。
12	運動と体温	運動における体温の上昇の影響について学習する。
13	運動生理学の応用	運動生理学のスポーツへの応用について学習する。
14	総括・単位認定試験	講義内容の総括と単位認定試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第1回：特に定めず
第2〜14回：前回授業への取り組みと復習
参考書の予習と復習本授業の準備学習・復習時間は各2時間 を標準とします。各講義の約1週間前から授業支援システム上の「教材」に資料を掲載するので、受講者は指定参考書などを用いて事前学習をおこない授業やテストにのぞむこと。

【テキスト（教科書）】
特に定めず

【参考書】
・宮村実春 『ニュー運動生理学I、II』　（真興貿易、2015）
・Powers S, et al. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 10th ed. (2017)
・Kenney WL, eta l. "Physiology of Sport and Exercise" Human Kinetics Publishers; 6th ed. (2015)
・McArdle WD, eta l. "Exercise Physiology: Energy, Nutrition, and Human Performance" Lippincott Williams &Wilkins; 8th ed (2014)

【成績評価の方法と基準】
単位認定試験（原則100%）
ただし授業内で小テストを課すことがある。
小テストは単位認定試験の点数と合わせて最終成績を決定するための点数算出に用いる場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
提示資料・スライドの説明を音声や映像を導入し、印象に残るような効果を導入する。

【その他の重要事項】
※授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、運動生理学について講義する。

【Outline (in English)】
【Course out line】
We give a lecture about exercise physiology, the study of the acute responses and chronic adaptations to exercise such as specific changes in muscular, cardiovascular, and neural systems.
【Learning Objectives】
The goal is to acquire the knowledge necessary to practice physical activity aimed at improving health and training for improving sports performance based on scientific evidence.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (100%),

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

運動負荷テスト実習

木下　訓光

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**3〜4年次／1単位**
曜日・時限：**水2**/Wed.2
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、運動負荷テスト原理・方法、適切な運動負荷テスト、心臓血管系・神経系・筋骨格系の機能・解剖学・生理学・病態生理など、各種運動負荷テストの実践と結果の評価を学ぶ。

【到達目標】
① 運動負荷テスト原理・方法について理解し、各種対象者（疾患）に対して、適切な運動負荷テストを行い、得られた結果から処方が実際に行えるようにする。
② 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、本講義とともに同資格テキスト該当部分の内容を理解・習得する。
③ 単なる知識・手技の習得ではなく、実習を通じて心臓血管系・神経系・筋骨格系の機能・解剖学・生理学・病態生理への理解を深めることを目的とする。
④ データを分析して論理的・科学的なレポートが作成できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
① 実習の性質から少人数制で行い、4〜5名から構成されるグループに分かれて実習を行う。
② 原則として毎回各グループまたは全体から1人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。
③ 測定したデータを利用して解析するべきテーマを与える。これをもとにディスカッションやプレゼンテーションを行う。またその成果をレポートとして提出する授業回がある。レポートを課した場合の提出期限は次の授業回までが原則である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	運動負荷テストの準備 感染症パンデミック下の運動指導	実習室の構成を理解し、部屋の環境、備品、確認事項、など安全管理上の基礎について。その他グループ分け、テキストの紹介など。 またCOVID-19のパンデミックを経て、フィットネスジムなどスポーツ施設の運営、クライエント指導における感染対策を学ぶ。
2	バイタルサインの計測（1）	安静時の血圧、脈拍の測定を実習する。
3	バイタルサインの計測（2）	運動時の血圧、脈拍の測定を実習する。
4	モニター心電図	モニター心電図を用いてバルサルバ試験、呼吸性変動、顔面浸水試験。
5	循環器の自律神経調節	前回の結果を分析し、心臓血管系の自律神経調節機構について分析結果を踏まえてグループごとに発表する。
6	超音波断層診断装置による心臓の観察	運動負荷テストで異常を認めた場合や、運動負荷テストの適応可否について診断するために用いられる超音波断層診断装置を使い、心臓の解剖について、臨床的に学習する。
7	標準12誘導心電図	標準12誘導心電図の測定。
8	運動負荷テストのための心電図装着	メイソン・ライカー法による心電図装着を実習し、運動負荷テストのために工夫された心電図測定装置の仕組みなどについて学ぶ。
9	運動負荷テスト（1）サイクルエルゴメーターによる多段階負荷	サイクルエルゴメーターによる多段階運動負荷テストを行う。
10	運動負荷テスト（2）サイクルエルゴメーターによるRamp負荷	サイクルエルゴメーターによるRamp式運動負荷テストを行う。最適な負荷増加率を計算できるようにする。
11	運動負荷テスト（3）：トレッドミルによる多段階負荷	12誘導心電図を装着し、Bruce法を用いて症候限界性運動負荷試験を行う。サイクルエルゴメーターとの違いを理解する。
12	心肺運動負荷試験（1）：サイクルエルゴメーターによるRamp負荷	サイクルエルゴメーターによるRamp式心肺運動負荷試験を行う。VTを求める。
13	ホルター心電図および携帯型心電記録装置	ホルター心電図の装着、測定を行い、解析結果を分析する。携帯型心電記録装置を用いてスポーツ現場における使用法について学ぶ。
14	心肺運動負荷試験（2）：トレッドミルによる多段階負荷	トレッドミルによる多段階運動負荷を行い、最大酸素摂取量について理解する。サイクルエルゴメーターとの違いを理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① レポートの作成・提出。
② 各回の最後に次の授業に行う実習内容に必要な予習項目を提示するので十分な準備をして臨むこと。
③ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当する部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・アメリカスポーツ医学会 『運動処方の指針―運動負荷試験と運動プログラム』（南江堂）**※資料室収蔵**
・心肺運動試験に関しては、下記図書が簡潔にまとめて記載している。『A Practical guite to the Interpretation of Cardiopulmonary Exercise Tests』（Oxford University Press）**※資料室収蔵**
同書籍には旧版の翻訳書がある（『運動負荷試験とその解釈の原理』（Japan Heart Club）**※資料室収蔵**）

【参考書】
【実習全体を通して利用できる参考書】
・Arthur C.Guyton. 『ガイトン生理学』（エルゼビア・ジャパン）**※資料室収蔵**
・Gerard J. Tortora. 『トートラ人体の構造と機能』（丸善出版）**※資料室収蔵**
・小澤瀞司 他. 『標準生理学』（医学書院）**※資料室収蔵**
・岡田隆夫. 『心臓・循環の生理学』（メディカルサイエンスインターナショナル）**※資料室収蔵**
・山地啓司. 『こころとからだを知る心拍数』（杏林書院）**※資料室収蔵**
・池田隆徳. 『マンガで学ぶ心電図&不整脈』（中外医学社）**※資料室収蔵**
・David P. Swain, Brian C. Leutholtz. 『運動処方―ケーススタディでみるACSMガイドライン』（ナップ）**※資料室収蔵**
・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト　上・下』**※資料室収蔵**
・川久保清『運動負荷心電図：その方法と読み方』医学書院**※資料室収蔵**
・上嶋健治『運動負荷試験Q&A119』（南江堂）**※資料室収蔵**
・安達 仁『CPX・運動療法ハンドブック：心臓リハビリテーションのリアルワールド　改訂4版』（中外医学社）**※資料室収蔵**
【第2・3回の実習に関する参考書】
・『PWVを知る PWVで診る』（中山書店）**※資料室収蔵**
・『初学者のための生体機能の測り方』（日本出版サービス）**※資料室収蔵**
・『血圧をいかに測るか』（Life Science Publishing）**※資料室収蔵**
【第4・5回の実習に関する参考書】
・『やさしい自律神経生理学』（中外医学社）**※資料室収蔵**
・『自律神経機能検査』（日本自律神経学会）**※資料室収蔵**

【成績評価の方法と基準】
測定機器の扱いや記録など実際の測定への参加（10%）＋プレゼンテーション（20%）＋ディスカッション（20%）＋レポート（50%）の総合評価とする（カッコ内の数字は目安）。
測定や結果に関する質疑応答の質、ディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーションの質などに加えて、レポートを評価して総合評価とする。
【レポートに関して】今年度よりプレゼンテーションやディスカッション、およびその準備に割く時間を増やし、レポートの作成回数を例年と比べて減らす。レポートを課す場合は、測定結果を整理して提示し、これを解析して考察、参考文献を適切に記載して表紙をつけ、次回の講義に提出することを原則とする。レポートごとに評価を行い、得点化したうえで、レポートに関する最終的な評価を算出する。
欠席した場合はその回のプレゼンテーション、ディスカッション、レポートなどの得点は原則として0点とするので、欠席が多い場合は、合格点を得ることができなくなる可能性があるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
必要なものは各実習回に合わせて指示する。
なお実習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合がある。

【その他の重要事項】
① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
② 各回の実習は、その後の実習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く実習の理解が不十分となる可能性があるので注意が必要である。
③ 春学期科目『運動処方・負荷テスト』の単位を修得していることが履修の絶対条件である。
④ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、1）健康運動指導士資格試験受験の準備状況（テキストの購入、取得に必要な科目の履修状況など）、2）『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修・単位取得状況を考慮する。
⑤ 学習効果を上げるためには『運動生理学』、『スポーツ医学A』、『生活習慣病と身体活動』の履修を済ませていることが望ましい。
【実務の経験】

臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。

【どのように実務経験が授業に反映されるか】

上記診療経験に基づき、病院で医療行為として行われている安静時１２誘導心電図、運動負荷心電図、呼気ガス分析、モニター心電図、ホルター心電図などの具体的手法と診断方法について、医師の指導のもと学生自らが経験して習得できるようにする。

【Outline (in English)】

[Course outline] The lecture intends to provide practical knowledge of exercise test and prescription and related cardiovascular physiology. The lecture provide skill how to conduct cardiopulmonary exercise test (CPX). The students should take part in practice an exercise test by themselves.

[Learning objectives] The goal of the lecture is to master the principle and various methods of exercise test, to obtain the skill to individualize protocol of exercise test according to the background of patients with chronic diseases, and to be able to implement the prescribed exercise program.

[Learning activities outside of classroom] Students should write a report about the topic of each classroom with measurement data and analysis and the reports should be handed in by next week. Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Students who is willing to become the Health Fitness Programmer certified by the Japan Health Promotion Fitness Foundation are strongly encouraged to study the corresponding topic of each classroom in the textbook assigned by the foundation afterward. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.

[Grading criteria/policy] The grading will be determined based on the score of each report handed in.

CIM300IA（内科系臨床医学 / Clinical internal medicine 300）

スポーツ医科学実習

瀬戸　宏明

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**3〜4年次／1単位**
曜日・時限：**水4/Wed.4**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ医学に興味・関心があるものの専門家を目指しているわけではない学生が、スポーツ医学・科学の実際を体験しながら、科学的分析に触れ、論理的思考を鍛える場所とすることが第一の目的である。
その上で、特に専門家を目指す学生は、スポーツ医学的評価、妥当性のある測定、検査結果の正しい解釈、論理的アセスメント、科学的介入など、スポーツ現場で発生する内科的および外科的障害・外傷の発生にたいする医学的支援（対処・治療・予防）の実践に必要な知識・技術を学ぶ。

【到達目標】
スポーツ医学的評価を正確に行い、妥当性のある測定、検査結果の正しい解釈が行えるようにして、アスリートや患者の必要としている要求を論理的にアセスメントして、科学的介入が行えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
① 少人数制で行い、4〜5名から構成されるグループに分かれて実習を行う。
② 原則として毎回各グループまたは全体から1人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。
③ 体組成評価、血液検査、熱中症の治療、脳振盪の評価、Hands only CPRなどについて実習を行う。
④ リハビリテーションの評価と関連する筋力測定、ロコモティブシンドロームに対する測定を実施し、得られたデータを評価する。さらに代表的なスポーツ障害のケーススタディーを交えて、評価・介入計画について実習を行う。
⑤ 測定したデータを利用して解析するべきテーマを与える。これをもとにディスカッションやプレゼンテーションを行う。またその成果をレポートとして提出する場合もある。レポートを課した場合の提出期限は次の授業回までが原則である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス スポーツ現場における一次救命処置	①グループ分け、実習の概要・運営について、機器の扱いや実験に関する諸注意。 ②BLSとAEDの使用方法について、特にスポーツ現場における活用を念頭に、Hands-only CPRの技術を習得する。
2	運動と体温、熱中症	熱疲労の初期治療、熱射病のwhole body coolingなどについて実習する。
3	運動と血液（1） メディカルチェックと血液検査	血液検査（ヘモグロビン、血糖値、CKなど）を行い、スポーツ選手のメディカルチェックに用いられる採血とその項目について学習する。
4	身体組成および骨密度（1） DXA法による測定	体組成評価方法におけるgold standardとしてのDXA法による身体組成および骨密度評価を行う。この授業回では、主として体組成について得られたデータについてプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。アスリートにおける体脂肪率の解釈や高齢者のサルコペニアの評価について学習する。
5	運動と血液（2） プレゼンテーションとディスカッション	「運動と血液（1）」の授業で得られた血液データを用いて、プレゼンテーションとディスカッションを行い、スポーツ選手における貧血の診断、運動による各種血液指標の変化などについて学ぶ。
6	身体組成および骨密度（2）	「身体組成および骨密度（1）」で得られたデータのうち、骨密度のデータを利用して、運動と骨の関係について、骨粗鬆症の評価や疲労骨折などについて学ぶ。
7	運動と呼吸・肺機能	運動負荷肺機能検査を行い、アスリートの評価に必要な肺機能（Flow-Volume曲線、最大努力換気量や運動誘発性喘息の評価などについて学習する。
8	脳振盪・脊椎損傷への対応	脳振盪による認知機能、随伴症状を認めた場合の競技中止の判断と、経過観察後の競技復帰について学ぶ。SCATおよびコンピュータを用いた神経心理学的検査を学習する。頸椎損傷が疑われる場合のスポーツ現場における初期対応について学ぶ。
9	整形外科的メディカルチェック（1）	メディカルチェックの具体的な方法を説明する。身体各部位の観察方法について学習する。
10	整形外科的メディカルチェック（2）	関節可動域、弛緩性、タイトネスなどの項目について、実際の計測を行い、身体所見の観察方法を学習する。
11	超音波装置について	超音波装置の基礎、臨床応用について学ぶ。
12	筋力測定	求心性、遠心性の筋力測定の実際を通してパフォーマンス向上やリハビリテーションへの理科を深める。
13	物理療法について	物理療法について理論と実際の使用を通して理解を深める。
14	総括　プレゼンテーション	実習中の総括および学習したことを応用したプレゼンテーションをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レポート作成、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めず

【参考書】
特に指定なし
適時授業内で紹介をする。
全体を通しての参考書
Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 11th ed. (2020) **※研究室収蔵**
※訳書あり。『パワーズ運動生理学』（メディカル・サイエンス・インターナショナル）**※資料室収蔵**
第1回：
『AHA心肺蘇生と救急心血管治療のためのガイドライン2020』**※資料室収蔵**（AHA BLS関連のDVDも資料室にあるので参考にすること）
国際的なハンズオンリーCPRよくある質問（https://international.heart.org/wp-content/uploads/2021/10/FAQ.pdf）
第2回：
木下訓光．熱中症－海外における最近のトピックス－．臨床スポーツ医学 2011;28(7):709-717.（**メディカルオンラインより全文閲覧可能**）
『熱中症：日本を襲う熱波の恐怖（日本救急医学会、へるす出版）
『熱中症対策マニュアル』（稲葉 裕 監修、エクスナレッジ）
『熱中症を防ごう：熱中症予防対策の基本』（堀江正知、中央労働災害防止協会）
『熱中症review：Q&Aでわかる熱中症のすべて』（三宅康史、中外医学社）
『熱中症の現状と予防：さまざまな分野から予防対策を見つけ出す』（澤田晋一、杏林書院）
『高温環境とスポーツ・運動：熱中症の発生と予防対策』（中井誠一、篠原出版新社）
『体温の「なぜ？」がわかる生理学』（永島 計、杏林書院）
※以上、すべて資料室収蔵
『スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック』（日本スポーツ協会）
『夏のトレーニングガイドブック』（日本スポーツ協会）
（いずれも　https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.htmlより閲覧可能）
第3・5回：
『Newton別冊 からだの検査数値 新装版』**※資料室収蔵**
第4・6回：
Benardot D. "ACSM's Nutrition for Exercise Science" (Wolters Kluwer, 2018) **※資料室収蔵**
『骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2015年版』**※資料室収蔵**

【成績評価の方法と基準】
測定機器の扱いや記録など実際の測定への参加（20%）
プレゼンテーション（40%）
ディスカッション（40%）
ただしレポートを課した場合はそれを加味して総合評価とする。
（カッコ内の数字は目安）

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
必要なものは各実習回に合わせて指示する。

【その他の重要事項】
① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
② 各回の実習は、その後の実習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く実習の理解が不十分となる可能性があるので注意が必要である。

③ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、『スポーツ医学A』の単位取得の有無を考慮し、加えて『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修・単位取得状況を考慮する。
【実務の経験】
臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】
上記診療経験に基づき、医師の指導のもと学生が医療行為を含めた実習を経験し、スポーツ現場において発生する内科的および外科的障害・外傷の発生に対する医学的支援の実践において必要な知識・技術を習得できるようにする。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide practical knowledge of sports medicine related to physical activity, exercise, and sports. The lecture provide skills how to deal and prevent sports injuries in children and adults.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to master the skill of medical and scientific evaluation of athletes and patients who will be engaged in exercise and physical activity.
[Learning activities outside of classroom] Students should write a report about the topic of each classroom with measurement data and analysis and the reports should be handed in by next week. Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Students who is willing to become the Health Fitness Programmer certified by the Japan Health Promotion Fitness Foundation are strongly encouraged to study the corresponding topic of each classroom in the textbook assigned by the foundation afterward. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined based on the score of each report handed in.

CIM200IA（内科系臨床医学 / Clinical internal medicine 200）

スポーツ医学Ａ

日浦　幹夫

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**備考参照年次／2単位**
曜日・時限：**水1**/Wed.1
備考（履修条件等）：**2024年度以降入学者は2年次から履修可能。2023年度以前入学者は3年次から履修可能。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ障害のうち、外傷を除いた全領域の中から、up-to-dateでpracticalな内容を選りすぐって講義する。
スポーツは身体的・精神的・環境的ストレスへの挑戦であり、ヒトは恒常性（ホメオスタシス）を維持するため運動と環境のストレスに巧妙に適応する。その適応が破綻した状態がスポーツ障害である。スポーツ障害を理解するためには以下の点が重要である。
① ヒトはいかにして運動中に体内の恒常性を維持するか
② 運動によってどのような適応が起きるのか
③ いかにしてその適応や恒常性が破綻するのか
④ 適応や恒常性が破綻するといかなる事態に遭遇するか
⑤ その事態にいかに対処するか
本授業では、全身の臓器を系統的に扱いつつ、上記について、運動だけでなく環境ストレスへの適応とその破綻も含めて講義を行う。

【到達目標】
目標１ 巷にはスポーツ医学に関連した誤情報が多い。エビデンスを正しく理解し、フェイクに立ち向かいスポーツをする人々にとってよき助言者になれる。
目標２ 単なる知識ではなく、real worldのアスリートの障害を適切に予防し、対処することができるようになる。
目標３ スポーツを通じて健康を維持・増進し豊かな人生を送るために必要な医学的基礎を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は以下の３部構成で行う。
① 扱う疾病・障害に関連した臓器や機能の正常について：解剖、組織、生理学、運動生理学の基本的事項を復習
② 実際のスポーツ障害の症例提示とその検討・討論（グループディスカッションやプレゼンテーションなど）
③ 病的破綻（障害）の各論について解説
重要な留意事項
① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。
② 実際にスポーツ現場や健康管理関連事業の中で直面する可能性のある状況を念頭に講義する。
③ 可能な限り各回の授業の前週末までにスライドのハンドアウトを授業支援システムにアップロードする。
④ 各回の授業ではkeyword, take-home message, summaryを適宜提示する。
⑤ 講義中の質疑応答を奨励する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	COVID-19がスポーツにもたらしたもの ―Long COVIDとアスリート―	COVID-19が単なる呼吸器感染症ではなく、全身疾患であること、また呼吸器系・神経系の異常が継続する（Long COVID）ことがわかっているが、Long COVIDはアスリートにおいて見過ごされていることも多く、スポーツ医学における新たな課題となっている。 ① 新型コロナウイルス感染症 ② 症例提示・検討 ③ COVID-19の合併症およびLong COVIDとアスリートについて学習する。
2	スポーツ心臓病学（１） 突然死とメディカルチェック	スポーツ選手の突然死はスポーツドクター、トレーナー、指導者、学校関係者すべてにとっての最重要な課題である。スポーツに携わるものすべてが、絶対にアスリートを競技中に死なせないという使命感を持つべきである。 ① 心臓循環生理 ② 症例提示・検討 ③ スポーツ選手の突然死の機序・実態・予防法について医学的なエビデンスに基づき学習する。合わせてメディカルチェックについても学習する。 ※同一教員による「スポーツリスクマネジメント」の授業でも扱うテーマであるが、本授業では、豊富な症例を提示し、症例検討から多くを学ぶ形式で、より臨床的な内容を講義する予定である。
3	スポーツ心臓病学（２） スポーツ心臓	どのような時にスポーツ心臓という診断が下されるのか。スポーツ心臓と言われたらどうしたらよいのか、その時学校やスポーツ指導現場では何が重要か。 ① 心臓循環生理 ② 症例提示・検討 ③ スポーツ心臓の定義、発生機序、心疾患との鑑別、などについて学習する。
4	呼吸器疾患・大気汚染とスポーツ	運動強度が上がるとなぜ「苦しくなる」のか？ 病的呼吸困難との違いは？ 人が運動する時に最も意識させられるのが「呼吸」である。スポーツにおける呼吸の病理について学習する。 ① 呼吸（換気・ガス交換）とその制御の生理学 ② 症例提示・検討 ③ 喘息とスポーツ、運動誘発性喘息、運動誘発性喉頭閉塞症、運動（水泳）誘発性肺水腫（浸漬性肺水腫）、過換気症候群などについて学習する。大気汚染とスポーツ活動、呼吸器感染症としてのインフルエンザなどについても学習する予定である。
5	熱中症と脱水	発症の病態生理を理解すれば、酷暑のスポーツ活動でも熱中症は予防できる。 ① 体温・体液調節のホメオスタシス ② 症例提示・検討 ③ 熱中症の診断、治療、予防に加え、重篤な合併症である横紋筋融解症についても学習する。 ※同一教員による「スポーツリスクマネジメント」の授業でも扱うテーマであるが、本授業では、より臨床的な内容を講義する。
6	高所・寒冷環境とスポーツ	ヒトはなぜエベレストに無酸素で登頂できたのか？ 高地トレーニングは本当に効果があるのか？ 実はスポーツ現場でも多い低体温症のサバイバル法は？ ① 寒冷環境、低圧環境（高地）における適応の生理学 ② 症例提示・検討 ③ 登山の医学、高山病、ウィンタースポーツの医学、寒冷障害（低体温症、凍傷など）について学習する。また、いわゆる高地トレーニングについて、その理論的根拠、効果に関するエビデンスなどについても学習する予定である。
7	貧血のスポーツ医学	「スポーツ貧血」と言うなかれ。アスリートの貧血の原因はスポーツではない。 ① 造血のメカニズム ② 症例提示・検討 ③ スポーツ選手の貧血をどのように考え、予防するかについて学習する。

8	内分泌疾患とスポーツ―ホルモンのスポーツ医学―	“Hit the wall”は低血糖？ でも健康な人が運動しても低血糖にはならないはずでは？ 不整脈や貧血の原因がホルモンの異常？ その疲労は下垂体機能異常が原因かも？ 内分泌疾患の治療薬の多くはアンチドーピングの禁止薬物だが、診断されたらどうする？ ① 内分泌機能（ホルモン分泌）の生理学 ② 症例提示・検討 ③ 糖尿病（特にⅠ型）、甲状腺疾患、下垂体・副腎皮質系異常を有するアスリートについて学習する。また日本ではまだ馴染のない「Male athlete triad（男性選手の三主徴）」についても触れる予定である。
9	感染症と免疫、アレルギーのスポーツ医学	感染症は選手やチームのパフォーマンスを突如として落とす身近なリスクである。感染から体を守る仕組みが免疫だが、正常に機能しなければ疾患の原因にもなる。 ① 感染と免疫、アレルギー反応の医学・生理学 ② 症例提示 ③ 感染症については伝染性単核球症などの全身感染症や皮膚感染症について、免疫異常については筋痛性脳脊髄炎／慢性疲労症候群、アレルギーについては（食物依存性）運動誘発アナフィラキシー、運動誘発性蕁麻疹（コリン性蕁麻疹）などについて学習する。
10	水辺と海のスポーツ医学―アプネア、潜水、溺水―	息止めの世界最高記録は11分54秒であり、素潜りの潜水深度記録は214mである（2023年時点）。その時ヒトの体には何が起きているのか？ ① アプネア競技と潜水の生理学 ② 症例提示・検討 ③ 低酸素血症、減圧症、圧外傷、溺水の機序と対処法について学習する。可能な範囲でマリンスポーツに関連した障害についても扱う予定である。
11	女性のスポーツ医学	2023年にREDs（Relative energy deficiency in sport）が再定義された。男性REDsのエビデンスも増えている。アスリートの無月経には本当にピルの処方が必要なのか？ Low energy availabilityは悪くない？ 講義を通じて古い知識や先入観を払拭する。 ① 女性の生殖・性腺機能、energy availability ② 症例提示・検討 ③ スポーツ障害としてのProblematic low energy availability、女性選手の三徴、REDsについて学習する。運動に伴う一過性で正常な適応反応としての（むしろパフォーマンス促進に必要な過程としての）Adaptable low energy availabilityについても触れる。また経口避妊薬（ピル）、妊娠とスポーツについても学習する。
12	消化器系の異常とスポーツ	運動してわき腹が痛くなる（side stitch）のはなぜか？ 試合が近くなると下痢をしてしまう、どうしたらよいか？ ① 消化器系の医学・解剖学・生理学 ② 症例提示・検討 ③ 肝炎、Exercise-related transient abdominal pain（ETAP）、過敏性腸症候群、運動誘発性腸症候群などについて学習する。
13	腎臓とスポーツ	若年アスリートのメディカルチェックで最も多く経験する異常が、血尿・蛋白尿である。 ① 酸塩基平衡と電解質バランス、腎機能の生理学 ② 症例提示・検討 ③ 顕微鏡的血尿、運動後タンパク尿、トレーニングによる肉眼的血尿、IgA腎症、腎疾患（透析）とアスリート・スポーツなどについて学習する。
14	神経徴候とスポーツ	オーバートレーニングは簡単に診断できる病態ではなく、"over diagnosis"（過剰診断）であることも多い。アスリートの摂食障害は一般の人の摂食障害と何が違うのか？ 怪我を繰り返すのには心理的原因がある？ ① アスリートのストレス反応と回復・適応について ② 症例提示・検討 ③ スポーツ選手の摂食障害、いわゆる「オーバートレーニング」、injury prone athleteなどについて学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
② 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summaryなど、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
③ 各回のテーマに沿った課題を授業内で適宜提示するので、必ず取り組み、理解を深めるための自習に活用すること。
④ 下記【参考書】欄に掲載されたもの以外に、各回のテーマに沿って講義内容の習得または習得した知識の発展に役立つと考えられる書籍、文献、資料を適宜紹介するので、予習、復習などに積極的に活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めないので、下記参考書を参照のこと。

【参考書】
【最も強く推奨する参考書】
・"Medical Conditions in the Physically Active 4th Edition" by Katie Walsh Flanagan, Micki Cuppett. (Human Kinetics, 2024) **※2024年4月資料室収蔵予定**、旧３版は図書館、資料室ともに収蔵なし。
【その他の参考書】
・日本スポーツ協会指導者育成専門委員会スポーツドクター部会 『スポーツ医学研修ハンドブック 基本科目・応用科目』（文光堂、2011）**※図書館および資料室収蔵**

【成績評価の方法と基準】
期末試験（原則100%、ただし下記※参照）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。
※授業内で提示された症例について検討する時間を設けることがある。個人またはグループで症例を検討しディスカッションすることがある。授業に先立ちまたは授業内に小課題を課すことがある。症例検討への参加、発言の質や小課題の成果の集積は期末試験の点数と合わせて最終成績を決定するための点数算出に用いる場合がある。
【禁止事項】
授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影・録画・録音することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。授業スライドに関連する資料を入手したい場合は必ず教員に相談すること。

【学生の意見等からの気づき】
担当教員の交代に伴い、今年度の担当教員に関する前年度よりのフィードバックはない。

【学生が準備すべき機器他】
可能な限り各回の授業の前週末までに授業支援システムにPDFハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】
① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
② **『スポーツリスクマネジメント』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましい。**
【実務の経験】
臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）であり、日本スポーツ協会認定スポーツドクターの養成、各種チームドクター、日本臨床スポーツ医学会代議員としてガイドライン策定などにも携わる教員が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】
上記診療経験に基づき、スポーツ現場で発生する様々な障害、外傷について、患者症例を供覧しながら理解し、学生がその発症機序を医学的に理解して対処できるように講義する。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide the basic, practical, and up-to-date knowledge of medical conditions in relation to physical activity, exercise, and sports except for traumatic injuries according to the scientific evidences. The lecture consists of the following three parts; 1) physiology of adaptative responses to exercise and environmental stresses, 2) case presentation and discussion (individual or group based) of the medical conditions, and 3) pathophysiology, mechanisms, and treatment of the medical conditions.

[Learning objectives] The substantial goal of the lecture is as follows: 1) to understand physiology of homeostasis and acute and chronic adaptation to exercise and environmental stresses, 2) to obtain practical skills of logical assessment of the medical conditions and of developing individual strategy for health promotion through exercise, and 3) to be able to provide evidence-based advice to athletes and all other people in sports field.
[Learning activities outside of classroom] Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined by the score of the term-end examination (100%, as a rule but please refer to the following). Participation in case discussion will be evaluated on basis of quality of opinions and attitudes of students. A quiz (“mini test”) may be provided in the classroom. The score of the discussion and quiz would be considered to determine the final score of the term-end examination.
CAUTION: To take photos of any materials presented in the classroom or to record the lecture is prohibited. Students who violate this rule and take photos or record any materials presented in the classroom without permission are not allowed to take the term-end examination.

CIM300IA（内科系臨床医学 / Clinical internal medicine 300）

スポーツ医学Ｂ

瀬戸　宏明

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**3〜4年次／2単位**
曜日・時限：**火**2/Tue.2

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
運動器の構造を理解して、スポーツの動きとの整合性を学び、外傷・障害発生機序を理解して外傷・障害の予防プログラムを構築できるようにする。

【到達目標】
運動器の構造を理解して、スポーツの動きとの整合性を学び、外傷・障害発生機序を理解して外傷・障害の予防プログラムを構築できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
スポーツ外傷・障害について部位別に年齢・性別・競技特性などによる相違を学ぶ。これらの外傷・障害について科学的に分析する能力を養い、外傷・障害発症と関節弛緩性・関節可動域・関節アライメント・関節不安定性・筋タイトネス等の身体特性との関連性について学ぶ。損傷した組織が修復していく過程を把握し、アスレティックリハビリテーションのメニュー作成のための基礎的な知識を身につけ、安全なスポーツ現場の整備についても習得する。
社会情勢によってはオンライン授業に変更することもありうる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板などで提示する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	半年間の講義の概要、などを説明する。 骨・筋肉の名称、作用に関する試験を行う。
2	外傷・障害の修復	骨・軟骨や筋・腱・靭帯の修復機転について学習する
3	頭部の外傷・障害	主に頭部の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
4	頚部の外傷・障害	主に頚部の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
5	上肢の外傷・障害	上肢の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
6	体幹の外傷・障害	体幹の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する。
7	骨盤・股関節の外傷・障害	骨盤・股関節の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
8	上肢・体幹のアスレティックリハビリテーション	上肢・体幹のアスリハについて要点を学習する
9	大腿の外傷・障害	大腿の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
10	膝の外傷・障害	膝の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
11	下腿の外傷・障害	下腿の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
12	足関節・足部の外傷・障害	足関節・足部の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
13	下肢のアスレティックリハビリテーション	下肢のアスリハについて要点を学習する
14	総括・単位認定試験	講義内容の総括と単位認定試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各講義の約１週間前から授業支援システム上の「教材」に資料を掲載するので、
　受講者は参考書などを用いて事前学習をおこない授業やテストにのぞむこと。
・第1回：特に定めず
　第2〜14回：前回授業への取り組みと復習、予習
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
１）アスレティックトレーナー専科テキスト１− ９　日本スポーツ協会
２）スポーツ指導者のためのスポーツ医学改訂第2版　編集 ： 小出清一/福林徹/河野一郎
３）スポーツ科学・医学大事典　スポーツ医学　プライマリケアー理論と実践　西村書店

【成績評価の方法と基準】
単位認定試験（原則100%）
ただし授業内で小テストを課すことがある。
小テストは単位認定試験の点数と合わせて最終成績を決定するための点数算出に用いる場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
図や動画を用いてわかりやすく解説していく。
後方の席は使用しない。
常に受講者の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。

【その他の重要事項】
※授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、スポーツの外傷・障害の予防プログラムを構築できるよう講義する。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
Sports medicine is a branch of medicine that deals with the treatment and prevention of injuries related to sports.
A purpose of Sports Medicine B is to learn the following things
1: understanding of the structure of physical devises
2: understanding outbreak mechanism of injuries
3: how to make a prevention program of injuries
【Learning Objectives】
The goals of this course are to To be able to understand the mechanism of trauma /disability and build a trauma /disability prevention program.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (100%),

CLS200IA（外科系臨床医学 / Clinical surgery 200）

整形外科学

瀬戸　宏明

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4年次／2単位**
曜日・時限：**木**3/Thu.3
備考（履修条件等）：**2024年度以降入学者対象**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高齢者社会への加速やスポーツ傷害の増加などにより運動器に対する注目は増え続けている。そして運動器領域の傷害予防や治療を学ぶ上で基本となるのは整形外科学である。
本授業では整形外科学の基礎と総論について講義をおこなう。

【到達目標】
１：運動器疾患に関わるにあたって基本的な考え方を理解する
２：運動器疾患に対する診断方法、検査方法、治療方法について理解する
３：スポーツ傷害のみならず高齢者の運動器疾患、全身疾患、慢性疾患などを理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
スライドや参考書に沿いながら、整形外科学について基礎的な知識を学習する。必要に応じてビデオなどの視聴覚教材を使い、理解を深める手助けとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	半年間の講義の概要などを説明する。
2	運動器の基礎①	運動器の構成組織について学習する。
3	運動器の基礎②	疼痛、運動感覚異常などについて学習する。
4	診断総論	診断方法、所見の取り方、各種検査について学習する。
5	治療総論	保存的治療、手術的治療の基礎を学習する。
6	疾患総論（外傷）	外傷の総論について学習する。
7	疾患総論（慢性疾患）	慢性疾患の総論について学習する。
8	疾患総論（感染症）	感染症の総論について学習する。
9	疾患総論（腫瘍）	骨軟部腫瘍の総論について学習する。
10	疾患総論（骨系統疾患）	骨系統性疾患の総論について学習する。
11	疾患総論（先天性疾患）	先天性疾患の総論について学習する。
12	疾患総論（代謝性疾患）	代謝性疾患の総論について学習する。
13	疾患総論（神経・筋疾患）	神経疾患の総論について学習する。
14	総括、単位認定試験	講義内容の総括と単位認定試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回テーマについて予備知識をあらかじめ学習すること。例えば、骨折とは何か？ など。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。
各講義の約１週間前から授業支援システム上の「教材」に資料を掲載するので、受講者は事前学習をおこない授業やテストにのぞむこと。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
標準整形外科学（医学書院）

【成績評価の方法と基準】
単位認定試験（原則100%）
授業内で小テストを課すことがある。小テストは単位認定試験の点数と合わせて最終成績を決定するための点数算出に用いる場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
※授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である

【Outline (in English)】
【Course Outline】
The goals of this course are to be able to understand Basics of Orthopaedics.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to understand the followings:
－Understand basic concepts in working with musculoskeletal disorders
－ Understand diagnostic, testing and treatment methods for musculoskeletal disorders
－ Understand sports injuries as well as musculoskeletal, systemic and chronic diseases of the elderly
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (100%),

ECN100IA（経済学 / Economics 100）

スポーツ経済論

得田　進介

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4年次／2単位**
曜日・時限：**水2**/Wed.2
備考（履修条件等）：**2023年度以前入学者対象**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在のスポーツ産業をさらに発展させていくためにはスポーツチームやスポーツ関連組織の経営管理体制の強化が必要不可欠となっています。
本講義では経営管理強化の具体的な事例を解説し、日本のスポーツ産業の発展に寄与するための基礎知識およびビジネスにおいて最低限必要な専門能力の習得を目的とする授業を行います。

【到達目標】
・スポーツマネジメント人材として、組織経営に必要な専門知識を習得する
・組織で生じている課題に対して対応策を立案することができる
・自分の考えを伝えて他者を巻き込んでいけるリーダーシップを備えている

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
授業冒頭で授業内容に関連する時事的テーマについて解説します。授業はPower Point資料を主に用いた講義形式ですが、一方通行の授業とならぬように、授業で扱う各テーマについてリアクションペーパーを提出してもらう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	総論	日本のスポーツ産業の現状（市場規模や課題など）を理解する。
2	マネジメント	マネジメントとは何か、マネジメントの必要性を知る。 組織におけるマネジメントを学ぶ。
3	ガバナンス	ガバナンスとは何か、ガバナンスの必要性を知る。 組織のガバナンス体制を整備するために何が必要であるか、どのような対応策を講じるべきかを理解する。
4	コンプライアンス	コンプライアンスとは何か、コンプライアンスの必要性を知る。 コンプライアンスを守ることの重要性、守らなかったときの影響、コンプライアンスを強化するための対応策を理解する。
5	アカウンタビリティー①	アカウンタビリティーとは何か、アカウンタビリティーの必要性を知る。 スポーツチームにおいて最低限必要な報告水準を理解する。
6	アカウンタビリティー② 資産管理	スポーツチームにはどのような収入と支出があるのかを理解する。 入出金の一般的な管理方法を理解する。 組織にある資産（現金、在庫など）の管理方法を理解する。
7	予算統制①	予算とは何か、予算を作成する必要性を知る。 予算の作成方法を理解する。
8	予算統制②	予算と実績の差を分析（予実分析）する必要性を知る。 予実分析の方法について理解する。
9	スポーツチームのビジネスモデル	スポーツチームがどのように運営されているか、主な収益と費用について理解する。
10	スポーツの価値	スポーツの価値とは何か。 スポーツの価値を具体的に可視化する必要性を理解する。
11	スポーツの経済的価値と社会的価値	スポーツにおける経済的価値と社会的価値を理解する。
12	スポーツの露出効果と限界	スポンサーシップの変遷、スポンサーの権利、スポンサーアクティベーションを理解する。
13	これからのスポンサーシップ	スポンサーシップの最新事例、今後のスポンサーシップの姿について理解する。
14	講義まとめ	講義内容についての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習は特に必要なし。授業を受講した後に内容を理解できているか関連する記事や紹介した資料などを用いて復習してください。本授業の復習時間は4時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
「スポーツチーム経営の教科書」有限責任 あずさ監査法人 学研プラス
「新たなスポーツビジネス等の創出に向けた市場動向」スポーツ庁
「社会的インパクト評価の手法を用いたスタジアム・アリーナ効果検証モデル報告書」株式会社日本経済研究所

【成績評価の方法と基準】
成績評価の方法：授業の内容を理解し、スポーツ界における課題と対応策について自らの意見を述べることができるか、で評価します。
成績評価の基準：講義後に提出するリアクションペーパー：50%、期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
公認会計士としてスポーツチームの運営や組織体制強化、スタジアム・アリーナ開発に携わっている経験を踏まえて、スポーツ界で必要とされている人材や知識について実例を基に講義していきます。
スポーツ界で今何が起きていて何が課題になっているのか、自分に必要な知識は何かを常に考えながら授業を受講してください。授業内容や用語等の暗記は一切不要であり、それよりも自分の考えをまとめること、伝えることを意識してください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The class will explain specific examples of strengthening business management, and will aim at acquiring the basic knowledge and the minimum necessary professional skills in business to contribute to the development of the sports industry in Japan.
【Learning Objectives】
· To acquire the expertise necessary to manage an organization as a management personnel.
· To be able to plan countermeasures against problems that arise in organizations.
· To be equipped with leadership skills to convey one's own ideas and to involve others in the process.
【Learning activities outside of classroom】
After attending the class, please review for about four hours to make sure you understand the contents of the class, using related articles and other materials introduced in the class.
【Grading Criteria /Policy】
Reaction paper to be submitted after the lecture: 50%, Final exam: 50%
.

ECN100IA（経済学 / Economics 100）

スポーツと経済

得田　進介

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4年次／2単位**
曜日・時限：**水2**/Wed.2
備考（履修条件等）：**2024年度以降入学者対象**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在のスポーツ産業をさらに発展させていくためにはスポーツチームやスポーツ関連組織の経営管理体制の強化が必要不可欠となっています。
本講義では経営管理強化の具体的な事例を解説し、日本のスポーツ産業の発展に寄与するための基礎知識およびビジネスにおいて最低限必要な専門能力の習得を目的とする授業を行います。

【到達目標】
・スポーツマネジメント人材として、組織経営に必要な専門知識を習得する
・組織で生じている課題に対して対応策を立案することができる
・自分の考えを伝えて他者を巻き込んでいけるリーダーシップを備えている

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
授業冒頭で授業内容に関連する時事的テーマについて解説します。授業はPower Point資料を主に用いた講義形式ですが、一方通行の授業とならぬように、授業で扱う各テーマについてリアクションペーパーを提出してもらう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	総論	日本のスポーツ産業の現状（市場規模や課題など）を理解する。
2	マネジメント	マネジメントとは何か、マネジメントの必要性を知る。 組織におけるマネジメントを学ぶ。
3	ガバナンス	ガバナンスとは何か、ガバナンスの必要性を知る。 組織のガバナンス体制を整備するために何が必要であるか、どのような対応策を講じるべきかを理解する。
4	コンプライアンス	コンプライアンスとは何か、コンプライアンスの必要性を知る。 コンプライアンスを守ることの重要性、守らなかったときの影響、コンプライアンスを強化するための対応策を理解する。
5	アカウンタビリティー①	アカウンタビリティーとは何か、アカウンタビリティーの必要性を知る。 スポーツチームにおいて最低限必要な報告水準を理解する。
6	アカウンタビリティー② 資産管理	スポーツチームにはどのような収入と支出があるのかを理解する。 入出金の一般的な管理方法を理解する。 組織にある資産（現金、在庫など）の管理方法を理解する。
7	予算統制①	予算とは何か、予算を作成する必要性を知る。 予算の作成方法を理解する。
8	予算統制②	予算と実績の差を分析（予実分析）する必要性を知る。 予実分析の方法について理解する。
9	スポーツチームのビジネスモデル	スポーツチームがどのように運営されているか、主な収益と費用について理解する。
10	スポーツの価値	スポーツの価値とは何か。 スポーツの価値を具体的に可視化する必要性を理解する。
11	スポーツの経済的価値と社会的価値	スポーツにおける経済的価値と社会的価値を理解する。
12	スポーツの露出効果と限界	スポンサーシップの変遷、スポンサーの権利、スポンサーアクティベーションを理解する。
13	これからのスポンサーシップ	スポンサーシップの最新事例、今後のスポンサーシップの姿について理解する。
14	講義まとめ	講義内容についての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習は特に必要なし。授業を受講した後に内容を理解できているか関連する記事や紹介した資料などを用いて復習してください。本授業の復習時間は4時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
「スポーツチーム経営の教科書」有限責任 あずさ監査法人 学研プラス
「新たなスポーツビジネス等の創出に向けた市場動向」スポーツ庁
「社会的インパクト評価の手法を用いたスタジアム・アリーナ効果検証モデル報告書」株式会社日本経済研究所

【成績評価の方法と基準】
成績評価の方法：授業の内容を理解し、スポーツ界における課題と対応策について自らの意見を述べることができるか、で評価します。
成績評価の基準：講義後に提出するリアクションペーパー：50%、期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
公認会計士としてスポーツチームの運営や組織体制強化、スタジアム・アリーナ開発に携わっている経験を踏まえて、スポーツ界で必要とされている人材や知識について実例を基に講義していきます。
スポーツ界で今何が起きていて何が課題になっているのか、自分に必要な知識は何かを常に考えながら授業を受講してください。授業内容や用語等の暗記は一切不要であり、それよりも自分の考えをまとめること、伝えることを意識してください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The class will explain specific examples of strengthening business management, and will aim at acquiring the basic knowledge and the minimum necessary professional skills in business to contribute to the development of the sports industry in Japan.
【Learning Objectives】
· To acquire the expertise necessary to manage an organization as a management personnel.
· To be able to plan countermeasures against problems that arise in organizations.
· To be equipped with leadership skills to convey one's own ideas and to involve others in the process.
【Learning activities outside of classroom】
After attending the class, please review for about four hours to make sure you understand the contents of the class, using related articles and other materials introduced in the class.
【Grading Criteria /Policy】
Reaction paper to be submitted after the lecture: 50%, Final exam: 50%
.

ARSl100IA（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 100）

スポーツ組織論

得田　進介

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4年次／2単位**
曜日・時限：**水**3/Wed.3
その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在のスポーツ産業をさらに発展させていくためにはスポーツチームやスポーツ関連組織の経営管理体制の強化が必要不可欠となっています。
本講義では、組織の基礎知識を多角的（経営組織論、人的資源管理論、経営管理論、経営戦略論など）に学び、スポーツ組織が実際に行なっている組織運営の実務において最低限必要な専門能力の習得を目的とする授業を行います。

【到達目標】
・マネジメントについて明確に理解する。
・組織論の基礎知識を理解する。
・スポーツ組織を効果的にマネジメントするための理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
授業冒頭で授業内容に関連する時事的テーマについて解説します。授業はPowerPoint資料を主に用いた講義形式ですが、一方通行の授業とならぬように、授業で扱う各テーマについて、次の授業までにリアクションペーパーを提出してもらう予定です。
マネジメントの基本を学修した後、事例を参考にしながらスポーツ組織行動論の基礎を学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概論	授業の概要説明、授業評価方法の説明 日本のスポーツ産業の現状（市場規模や課題など）を理解する
2	組織とは	組織の理念、ビジョン、戦略に関する考え方を学習する
3	組織におけるリーダーシップ	組織での効果的なリーダーシップと意思決定方法について学習する
4	スポーツ組織	スポーツ組織における目的や戦略、経営計画の立案方法について学習する
5	スポーツ組織とステークホルダーとの関係性	スポーツ組織と関連するステークホルダーについて学習する
6	スポーツ組織のマネジメント	スポーツ組織でのマネジメントの現状および課題、対応策について理解する
7	組織のマネジメント体制の強化①	組織のガバナンスについて理解する
8	組織のマネジメント体制の強化②	組織のコンプライアンスについて理解する
9	組織のマネジメント体制の強化③	組織のアカウンタビリティーについて理解する
10	スポーツ組織のビジネスモデルと組織形態・人員配置	プロスポーツチームや中央競技団体のビジネスモデルについて理解し、スポーツ組織の組織形態や人員配置を学習する
11	組織の経営戦略	組織における選択と集中、マーケティングなどの経営戦略について学習する
12	組織のファイナンス	経営戦略に沿った経営計画、予算収支計画の策定方法を理解する
13	スポーツ組織の事例紹介	スポーツ組織の現状や課題把握、課題解決の実際の試みについて学ぶ
14	講義まとめ	今までの講義の総括を行なう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習は特に必要なし。授業を受講した後に内容を理解できているか関連する記事や紹介した資料などを用いて復習してください。本授業の復習時間は4時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
「スポーツチーム経営の教科書」有限責任あずさ監査法人 学研プラス
「新たなスポーツビジネス等の創出に向けた市場動向」スポーツ庁

【成績評価の方法と基準】
成績評価の方法：授業の内容を理解し、スポーツ界や組織における課題と対応策について自らの意見を述べることができるか、インプットとアウトプットが適切にできているかで評価します。
成績評価の基準：講義後に提出するリアクションペーパー：50%、期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
公認会計士としてスポーツチームの組織運営や組織体制強化に実際に携わっている経験を踏まえて、組織で必要とされている人材や知識について実例を基に講義していきます。
社会に存在している組織がどのような運営を行なっているのか、スポーツ界で今何が起きていて何が課題になっているのか、自分に必要な知識は何かを常に考えながら授業を受講してください。授業内容や用語等の暗記は一切不要であり、それよりも自分の考えをまとめること、伝えることを意識してください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, students will learn basic knowledge of organizations from various perspectives (management organization theory, human resource management theory, business management theory, management strategy theory, etc.), with the aim of acquiring the minimum necessary professional skills in the actual organizational management practices of sports organizations.
【Learning Objectives】
· To clearly understand management.
· To understand the basic knowledge of organizational theory.
· To understand the theory of effective management of sports organizations.
【Learning activities outside of classroom】
After attending the class, please review the content to see if you understand it.
After attending the class, please review the content by using the related articles and other materials. The standard review time for this class is about 4 hours.
【Grading Criteria/Policy】
Reaction paper to be submitted after the lecture: 50%, Final exam: 50%
.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

バドミントン指導論演習

升　佑二郎

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　配当年次／単位：**2〜4年次／2単位**
曜日・時限：**木1/Thu.1**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知り、バドミントンの指導ができるようになることを目的とする。

【到達目標】
指導者としてバドミントンを教えるために必要な基礎知識、技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
バドミントンの歴史、競技規則、基礎技術論を資料を参考に学ぶ。
バドミントン指導者として身に着けなければならない基本ストローク、フットワーク、フィーディング技術等実技を中心にコート上で実習し、シングルス、ダブルスのゲームが行えるように学習する。また、地域スポーツ指導者として要望の多いバドミントンの指導者として、ジュニアからシニアまで生涯スポーツプログラムを作成できる能力を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	バドミントン概論
2	バドミントン技術論1	講義と実技　「基本ストローク」
3	バドミントン技術論2	講義と実技　「コースを打ち分ける」
4	バドミントン技術論3	講義と実技　「フットワーク」
5	バドミントン競技指導1	講義と実技　「ジュニア編」
6	バドミントン競技指導2	講義と実技　「シニア編」
7	バドミントン・トレーニング論1	講義と実技　「導入編」
8	バドミントン・トレーニング論2	講義と実技　「応用編」
9	バドミントン・コーチ論	講義と実技　「ティーチングとコーチング」
10	バドミントン戦術の指導と事例の研究	講義と実技　「研究データの活用」
11	バドミントン競技規則	講義と実技　「歴史とルール」
12	バドミントンゲームの分析1	講義と実技　「シングルス」
13	バドミントンゲームの分析2	講義と実技　「ダブルス」
14	理論及び技術習得試験とまとめ	試験と授業振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第1回〜14回：準備学習、復習、課題
本授業の準備学習・復習時間は合わせて各回4時間以上とします。

【テキスト（教科書）】
升佑二郎 著「必ずうまくなるバドミントン　基本と練習法」
出版社：コスミック出版　出版年：2023年

【参考書】
DVD教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
出版社：ティアンドエイチ　出版年：2017年

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（70%）、技術習得および指導法の実技試験（30%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
体育館シューズ

【その他の重要事項】
春学期科目のバドミントン実習を併せて履修することが望ましい。

本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ4の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development.
【Learning Objectives】This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】) Your overall grade in the class will be decided based on the following
Skill test: 30%、in class contribution: 70%

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

バレーボール指導論演習

荒牧　亜衣

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4年次／2単位**
曜日・時限：**木**2/Thu.2
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
バレーボールの主な戦術、技術(パス、スパイク、ブロック、サーブ、ディグ、セット)の指 導体系と方法論について学ぶ。授業の前半は、バレーボールの基本的な技術を確認しつつ、スキルアップを目指す。授業の後半は、それぞれテーマを決めて授業計画を立案し、模擬授業を実施する。バレーボールの競技特性やコーチングのポイントについて理解を深め、安全に授業を展開できる指導方法を身につけることをねらいとする。

【到達目標】
・バレーボールの戦術、技術、審判法、歴史、用語を説明できる。
・バレーボールの指導に求められる理論的な思考を身につける。
・バレーボールの競技特性を踏まえた指導方法を学び、効果的かつ安全な授業を実施することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の前半は、バレーボールの基本的な技術(オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、スパイク、サーブ等)の向上のため、主にペアや3人組等のドリル練習を行う。授業の後半は、ぞれぞれテーマを決めて模擬授業を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 基本技術の確認	・授業計画及び成績評価の説明 ・パスのポイントの確認と練習
2	・パスのコーチング	・オーバーハンドパスとアンダーハンドパスの確認練習 ・指導上のポイントや注意点の解説
3	・スパイクのコーチング	・スパイク動作の確認 ・指導上のポイントや注意点の解説
4	・サーブとサーブレシーブのコーチング	・サーブの打ち方の確認 ・サーブレシーブの練習方法の確認 ・指導上のポイントや注意点の解説
5	・ブロックとディグのコーチング	・ステップの確認 ・ディグの練習方法の紹介 ・指導上のポイントや注意点の解説
6	・レセプションアタックのコーチング	・テンポの確認 ・レセプションアタックに関する練習方法の紹介 ・指導上のポイントや注意点の解説
7	・トータルディフェンスのコーチング	・トータルディフェンスの考え方について学ぶ ・指導上のポイントや注意点の解説
8	・模擬授業テーマの決定と計画の立案	・模擬授業で取り扱うテーマの決定 ・指導案作成のための準備と意見交換
9	・模擬授業の実施①(パス) ・フィードバックとディスカッション	・模擬授業を行い、グループに分かれてフィードバックとディスカッションを行う。
10	・模擬授業の実施②（スパイク） ・フィードバックとディスカッション	・模擬授業を行い、グループに分かれてフィードバックとディスカッションを行う。
11	・模擬授業の実施③(サーブとサーブレシーブ) ・フィードバックとディスカッション	・模擬授業を行い、グループに分かれてフィードバックとディスカッションを行う。
12	・模擬授業の実施④（ブロックとディグ） ・フィードバックとディスカッション	・模擬授業を行い、グループに分かれてフィードバックとディスカッションを行う。
13	・模擬授業の実施⑤（レセプションアタック） ・フィードバックとディスカッション	・模擬授業を行い、グループに分かれてフィードバックとディスカッションを行う。
14	・ゲームの運営 ・本授業のまとめ	・グループに分かれて、ゲームを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業計画を参考に各回の授業前に授業内容に関する下調べや予習を行うこと。
・授業後には、個人やチームの課題を整理し、次回授業に備えるため復習を行うこと。
・模擬授業の準備、指導計画を作成すること。
・各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
公益財団法人日本バレーボール協会編（2017）コーチングバレーボール（基礎編）、大修館書店.

【成績評価の方法と基準】
・模擬授業の指導計画内容と実施内容に関する評価30％（授業内に示すチェックポイントに基づき評価する）
・平常点 60％（授業への取り組み、参加状況、チームへの貢献、グループ活動における積極性を評価する）
・レポート 10％（6人制バレーボールの競技特性および指導上のポイントとについて、授業での学びを踏まえ、論述する）

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業の評価に関しては、担当教員から個別のフィードバックを行います。また、学生同士による相互評価も実施し、授業実施者にコメントシート形式で返却します。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出等のために学習支援システムを利用することがある。

【その他の重要事項】
本授業は春学期に開講される「バレーボール実習」の単位修得後に受講することを前提とした内容になっている。教員免許状の取得を希望する学生の履修を基本とする。本授業は、高等学校教員経験を有する教員が担当する。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course deals with the Volleyball Teaching Theory and Teaching Techniques. It also enhances the development of students' skill in How to do teaching volleyball.
（Learning Objectives）
At the end of the course, students are expected to Volleyball skills and instruction.
（Learning activities outside of classroom）
Before each class meeting, students will be expected to Preparatory learning and review time. Your required study time is at least four hour for each class meeting.
（Grading Criteria /Policies）
Final grade will be calculated according to the Volleyball mock lesson (30%),final report(10%) and in-class contribution（60%）.

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

剣道指導論演習

小田　佳子

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4年次／2単位**
曜日・時限：**水2**/Wed.2
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文部科学省・中学校学習指導要領の改訂により、2012年4月より中学校において武道必修化が実施された。
そこで本授業では学習指導要領の内容に基づき、武道（剣道）の伝統的な考え方を理解し、まずは指導者となる者が基本動作を修得し、基本となる技を用いて相手の動きに応じて、打ったり受けたりするなどの攻防を通した練習や試合及び審判が出来るようになることを目的とする。
その上で、模擬授業を展開し、剣道の基本的な指導法を修得することを目的とする。

【到達目標】
中学校および高等学校において保健体育教師として武道（剣道）の授業を展開することができる知識・技能、および実践的指導力を身に付けることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎・基本を大切にしながら、暗黙知を形式知に置きかえ理論的に剣道を理解することができるように授業をすすめる。
実技については、授業内容に関する「課題レポート」を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業展開と武道（剣道）の概要	授業の展開 剣道の歴史と特性 武道必修化 指導案の書き方
2	基本指導法①	礼法（正座・座礼・立礼）、竹刀の名称と構造、姿勢、呼吸、構えと目付け、構え方、納め方、足さばき、素振り、掛け声、切り返し
3	基本指導法② （基本技稽古法①）	一本打ちの技 「正面・小手・面・胴・突き」 剣道具の装着（胴・垂れ・小手）
4	基本指導法③ （基本技稽古法②）	基本技稽古法①の反復 ・連続技（二・三段の技） 間合、踏み込み足、竹刀打ち
5	基本指導法④ （基本技稽古法③）	基本技稽古法①－②の反復 ・払い技 剣道具の装着（手拭い・面）
6	基本指導法⑤ （基本技稽古法④）	基本指導法①－③の反復 打ち方・打たせ方・受け方 一本打の技・連続技
7	基本指導法⑥ （基本技稽古法⑤）	基本指導法①－④の反復 ・抜き技 ・返し技
8	技のふりかえりと模擬授業準備	・指導案作成・模擬授業について
9	模擬授業１	基本技稽古法①－⑤の反復 模擬授業１ ・基本動作
10	模擬授業２	基本技稽古法（総合演習） 模擬授業２ ・一本打ちの技
11	模擬授業３	基本技稽古法（総合演習）模擬授業３ ・連続技
12	模擬授業４	基本技稽古法（総合演習） 模擬授業４ ・払い技 打ち込み、互角稽古
13	模擬授業５	基本技稽古法（総合演習） 模擬授業５ ・引き技 打ち込み、互角稽古
14	試験・解説	実技試験 基本技稽古法①－⑤ 試合・審判法② まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
技能習得の段階では、実技レポートを作成すること。
模擬授業を実施するための指導案を作成すること。

【テキスト（教科書）】
・全日本剣道連盟「剣道授業の展開」第4版

【参考書】
（授業において適時、資料を配布する。）

【成績評価の方法と基準】
①授業への参加態度・貢献度 30%
②模擬授業評価 30%
③技能評価 40%
①から③を総合的に判断し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
教員採用試験を受験するために「剣道実技」対策を必要とする履修生も積極的に歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】
剣道具、竹刀については学校で準備します。
名札、小手下、面シールドは学校から支給します。
手拭い、面マスクは各自準備して下さい。

【その他の重要事項】
公立学校教員・剣道（七段）
「学校教育」現場で培った剣道指導経験を活かし学生にわかりやすく指導します。
剣道本来の姿と未来像を模索しながら、礼法や相手を思いやる心を大切に授業を進めます。

【Outline (in English)】
（Learning Objectives）
The aim of this course is to help students acquire 1)comprehension of traditional idea of martial art(kendo) , 2)getting able to do the practice, match, and judge and 3)mastering the basic skills of offense and defense through hitting and receiving.
（Learning activities outside of classroom）
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. There is a report assignment after each class.
（Grading Criteria /Policy）
(1) Attitude and contribution to class participation 30%.
(2) Simulated class evaluation 30%
(3) Skills evaluation 40

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

剣道指導論演習

小田　佳子

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1～4年次／2単位**
曜日・時限：**水3**/Wed.3
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文部科学省・中学校学習指導要領の改訂により、2012年4月より中学校において武道必修化が実施された。
そこで本授業では学習指導要領の内容に基づき、武道（剣道）の伝統的な考え方を理解し、まずは指導者となる者が基本動作を修得し、基本となる技を用いて相手の動きに応じて、打ったり受けたりするなどの攻防を通した練習や試合及び審判が出来るようになることを目的とする。
その上で、模擬授業を展開し、剣道の基本的な指導法を修得することを目的とする。

【到達目標】
中学校および高等学校において保健体育教師として武道（剣道）の授業を展開することができる知識・技能、および実践的指導力を身に付けることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎・基本を大切にしながら、暗黙知を形式知に置きかえ理論的に剣道を理解することができるように授業をすすめる。
実技については、授業内容に関する「課題レポート」を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業展開と武道（剣道）の概要	授業の展開 剣道の歴史と特性 武道必修化 指導案の書き方
2	基本指導法①	礼法（正座・座礼・立礼）、竹刀の名称と構造、姿勢、呼吸、構えと目付け、構え方、納め方、足さばき、素振り、掛け声、切り返し
3	基本指導法② （基本技稽古法①）	一本打ちの技 「正面・小手・面・胴・突き」 剣道具の装着（胴・垂れ・小手）
4	基本指導法③ （基本技稽古法②）	基本技稽古法①の反復 ・連続技（二・三段の技） 間合、踏み込み足、竹刀打ち
5	基本指導法④ （基本技稽古法③）	基本技稽古法①－②の反復 ・払い技 剣道具の装着（手拭い・面）
6	基本指導法⑤ （基本技稽古法④）	基本指導法①－③の反復 打ち方・打たせ方・受け方 一本打の技・連続技
7	基本指導法⑥ （基本技稽古法⑤）	基本指導法①－④の反復 ・抜き技・返し技
8	技のふりかえりと模擬授業準備	・指導案作成 ・模擬授業について
9	模擬授業１	基本技稽古法①－⑤の反復 模擬授業１ ・基本動作
10	模擬授業２	基本技稽古法（総合演習） 模擬授業２ ・一本打ちの技
11	模擬授業３	基本技稽古法（総合演習）模擬授業３ ・連続技
12	模擬授業４	基本技稽古法（総合演習） 模擬授業４ ・払い技 打ち込み、互角稽古
13	模擬授業５	基本技稽古法（総合演習） 模擬授業５ ・引き技 打ち込み、互角稽古
14	試験・解説	実技試験 基本技稽古法①－⑤ 試合・審判法② まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
技能習得の段階では、実技レポートを作成すること。
模擬授業を実施するための指導案を作成すること。

【テキスト（教科書）】
・全日本剣道連盟「剣道授業の展開」第4版

【参考書】
（授業において適時、資料を配布する）

【成績評価の方法と基準】
①授業への参加態度・貢献度 30%
②模擬授業評価 30%
③技能評価 40%
①から③を総合的に判断し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
教員採用試験を受験するために「剣道実技」対策を必要とする履修生も積極的に歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】
剣道具、竹刀については学校で準備します。
名札、小手下、面シールドは学校から支給します。
手拭い、面マスクは各自準備して下さい。

【その他の重要事項】
公立学校教員・剣道（七段）
「学校教育」現場で培った剣道指導経験を活かしわかりやすく指導します。
剣道の理念を考慮しつつ、礼法や相手を思いやる心を大切に授業を進めます。

【Outline (in English)】
（Learning Objectives）
The aim of this course is to help students acquire 1)comprehension of traditional idea of martial art(kendo) , 2)getting able to do the practice, match, and judge and 3)mastering the basic skills of offense and defense through hitting and receiving.
（Learning activities outside of classroom）
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. There is a report assignment after each class.
（Grading Criteria /Policy）
(1) Attitude and contribution to class participation 30%.
(2) Simulated class evaluation 30%
(3) Skills evaluation 40

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

バレーボール実習

荒牧　亜衣

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4年次／1単位**
曜日・時限：**木**2/Thu.2
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、パス、スパイク、サーブといったバレーボールの基本的な技術を習得するとともに、ゲームを通じて6人制バレーボールの特性について理解することを目的とする。前半の授業では、特にパス，サーブ，スパイクの練習にペアやグループで取り組み、スキルの向上をはかるとともに、指導方法についても学ぶ。後半の授業では，ゲームを通してバレーボールのルール、戦術、審判法を理解する。

【到達目標】
・バレーボールの基本的な技術（パス、スパイク、サーブ）を身につけ、ゲームの中で実践できる。
・チームで競争する楽しさ体験し、仲間と協力しながらゲームを行うことができる。
・6人制バレーボールの特性を理解し、説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の前半は、バレーボールの基本的な技術(オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、スパイク、サーブの)の習得のため、主にペアや3人組等のドリル練習を行う。授業の後半は、グループに分かれ、ゲームを中心に展開し、6人制バレーボールのルール、戦術、審判法を解説する。授業の最後に、オーバーハンドパス、アンダーハンドパスのスキルチェックテストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	・オリエンテーション ・バレーボールに有効なストレッチとウォーミングアップ	・授業計画、評価方法の説明 ・用具の名称、使用方法、ネットの設営方法について
2	・オーバーハンドパスのポイント	・オーバーハンドパスを使った二人組のドリル ・ミニゲーム（2対2）
3	・オーバーハンドパスのスキルアップ ・スパイク動作の3局面 ・三段攻撃の練習	・オーバーハンドパスを使った3人組のドリル練習 ・スパイク動作の説明 ・ミニゲーム（3対3）
4	・アンダーハンドパスのポイント ・ディグ	・パスのスキルアップトレーニング ・ディグのポイント解説と練習方法の紹介 ・ミニゲーム（4対4または5対5）
5	・サーブのポイント ・サーブレシーブからの攻撃 ・ローテションなしのゲーム	・サーブのポイント解説と練習方法の紹介 ・サーブレシーブの練習 ・6対6のミニゲーム
6	・「プレーの前後」を理解する ・ブロックの跳び方 ・セッターを固定したゲーム	・これまでのドリル練習の復習 ・ブロックのポイント解説と練習方法紹介 ・Wフォーメンションの説明と実践
7	・ポジションとローテーションの確認 ・基本的なルールの確認 ・ゲーム	・各ポジションの役割を解説 ・ローテーションのルールを理解し、ゲームを行う
8	・ブロックとディグ ・ゲーム ・審判法の確認	・組織的なディフェンスシステムを理解し、ゲームの中で実践する ・審判法を確認し、ゲーム運営も行う
9	・スパイクのテンポ ・リーグ戦①	・スパイクのテンポについて解説し、ゲームの中で実践する ・チーム分けを行い、総当たりのリーグ戦を行う
10	・バックアタック ・リーグ戦②	・バックアタックについて解説し、ゲームの中で実践する ・前回のゲームを振り返り、個人、チームの課題を設定してゲームに取り組む
11	・リベロの役割 ・リーグ戦③	・リベロの役割について解説する ・これまでのゲームを振り返り、個人、チームの課題を設定して、ゲームに取り組む
12	・リーグ戦④ ・スキルチェック（オーバーハンドパス）	・チームを再編成し、リーグ戦を行う ・オーバーハンドのスキルチェックを実施
13	・リーグ戦⑤ ・スキルチェック（アンダーハンドパス）	・前回のゲームを踏まえ、個人、チームの課題を設定してゲームに取り組む ・アンダーハンドパスのスキルチェックを実施
14	・リーグ戦⑥ ・スキルチェック（再テスト）	・これまでのゲームを踏まえ、個人、チームで課題を設定してゲームに取り組む ・希望者を対象にスキルチェックの再テストを実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業計画を参考に各回の授業前に授業内容に関する下調べや予習を行うとともに、授業後には、個人やチームの課題を整理し、次回授業に備えるため復習を行うこと。各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
公益財団法人日本バレーボール協会編（2017）コーチングバレーボール（基礎編）、大修館書店.

【成績評価の方法と基準】
・バレーボールの基本的な技術に関するテスト20％（オーバーハンドパス、アンダーハンドパスのスキルチェック。授業内に示すチェックポイントに基づき評価する）
・平常点 70％（授業への取り組み、参加状況、チームへの貢献、グループ活動における積極性を評価する）
・レポート 10％（6人制バレーボールの競技特性について、授業での学びを踏まえ、論述する）

【学生の意見等からの気づき】
特に授業の前半はバレーボールの基本的な技術の習得を目的とした授業を展開する。パスやスパイク等に着目した簡易的なゲームを実施し、より実践的にバレーボールの競技特性について学ぶ。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出等のために学習支援システムを利用することがある。

【その他の重要事項】
本授業は秋に開講される「バレーボール指導論演習」の履修に先立って受講することを前提とした内容になっている。教員免許状の取得を希望する学生が履修することが望ましい。本授業は、高等学校教員経験を有する教員が担当する。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course deals with the Volleyball basic theory. It also enhances the development of students' skill in Volleyball.
（Learning Objectives）
At the end of the course, students are expected to Volleyball basic theory and skills.
（Learning activities outside of classroom）
Before each class meeting, students will be expected to preparatory learning and review time. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
（Grading Criteria /Policies）
Final grade will be calculated according to the following process final report (10%), Volleyball skills test (20%), and in-class contribution（70%）.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

バドミントン実習

升　佑二郎

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4年次／1単位**
曜日・時限：**木**1/Thu.1

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知り、バドミントンの指導ができるようになることを目的とする。

【到達目標】
指導者としてバドミントンを教えるために必要な基礎知識, 技術論を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
バドミントン指導者として身に着けなければならない基本ストローク、フットワーク、ノック技術等実技を中心にコート上で実習し、シングルス、ダブルスのゲームが行えるように学習する。また、地域スポーツ指導者として要望の多いバドミントンの指導者として、ジュニアからシニアまで生涯スポーツプログラムを作成できる技術能力を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	基本技術1	グリップと技術習得
2	基本技術2	ラケットテクニックの技術習得
3	基本ストローク1	ドライブ
4	基本ストローク2	ハイクリア＆ヘアピン
5	基本ストローク3	ドロップ＆ロビング
6	基本ストローク4	プッシュ＆レシーブ
7	基本ストローク5	スマッシュ＆レシーブ
8	基本技術　応用編1	オールロング
9	基本技術　応用編2	オールショート
10	シングルス1	フットワーク
11	シングルス2	ゲーム組立
12	ダブルス1	フォーメーション
13	ダブルス2	組立
14	実技試験とまとめ	試験と授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第1回：特になし
第2〜14回：前回授業の復習
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
升佑二郎 著「必ずうまくなるバドミントン　基本と練習法」
出版社：コスミック出版　出版年：2023年

【参考書】
DVD教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
出版社：ティアンドエイチ　出版年：2017年

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（70%）、技術習得および指導法の実技試験（30%）により評価する

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
体育館シューズ

【その他の重要事項】
秋学期科目のバドミントン指導論演習を併せて履修することが望ましい。
本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ4の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development.
【Learning Objectives】This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton. 【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following
Skill test: 30%、in class contribution: 70%

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

専門演習Ⅰ

木下　訓光

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2年次／4単位**
曜日・時限：**水**5/Wed.5

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
科学的測定・調査を学ぶ

【到達目標】
科学的測定・調査を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
様々な科学的測定・調査を実践して結果を分析する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本専門演習の理念、各学生の目標設定、長期的な学習計画について。課題図書の提示。
2	プレゼンテーションの基礎	[演習] 2年生による自己紹介（英語）。
3	プレゼンテーションの方法論	[講義] プレゼンテーションの方法論に関する基礎。
4	プレゼンテーションの演習	[演習] 3年生による研究課題報告を聴講し、プレゼンテーションの構造・質疑応答について学習する。
5	Book Club ①	モデレーターを決めて、課題図書について討議する（第１回）。
6	AIリテラシー	[演習] 生成系AIを用いる上で注意すべきポイント。オプトアウト、倫理的問題、ハルシネーションなど。
7	DXAによる体組成測定	[実習] DXAで体組成を測定する。
8	InBodyの測定	[実習] InBodyで体水分量・体組成を測定する。
9	DXAによる骨密度測定	[実習] DXAで骨密度を測定する。
10	Book Club ②	モデレーターを決めて、課題図書について討議する（第２回）。
11	VO2maxの測定 ①	[実習] 2年生の最大酸素摂取量の測定を行う。
12	VO2maxの測定 ②	[実習] 引き続き前回行っていない2年生の最大酸素摂取量の測定を行う。
13	VO2maxの分析	[演習] 測定データをもとに、各人の最大酸素摂取量等を分析する。
14	VO2maxの比較検討	[演習] 分析データをもとに、各人の最大酸素摂取量等を比較検証する。
15	Book Club ③	モデレーターを決めて、課題図書について討議する（第３回）。
16	LTの測定 ①	[実習] 2年生の LTを測定する。
17	LTの測定 ②	[実習] 前回行えなかった2年生の LTを測定する。
18	LTの分析	[演習] 測定データをもとに、被検者のLTを検証する。
19	Book Club ④	モデレーターを決めて、課題図書について討議する（第４回）。
20	ヒューマンカロリメーターによる測定 ①	[実習] 運動や身体活動に伴う2年生のエネルギー消費を様々な条件下で測定する。
21	ヒューマンカロリメーターによる測定 ②	[実習] 前回行えなかった2年生の運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定する。
22	ヒューマンカロリメーター による測定結果の分析	[演習] 運動や身体活動に伴うエネルギー消費の測定結果を分析する。
23	ヒューマンカロリメーター による測定結果の比較検討	[演習] 運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析した結果を比較検討する。
24	研究進捗報告会	[演習] 前回の研究課題報告から進捗させた3年生の研究発表を聴講し、研究の構造について学ぶ。
25	Book Club ⑤	モデレーターを決めて、課題図書について討議する（第５回）。
26	スポーツ栄養の基礎	[講義] 栄養調査の方法論、エネルギーバランス、減量・バルクアップの機序について正確に理解する。
27	栄養調査分析	[実習] 2年生の栄養調査・分析を行う。
28	栄養調査結果発表	[演習] 栄養調査・分析の結果発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 課題図書・文献のレビュー作成
② データ解析
③ 学外研究会への参加
④ 本授業の準備学習・復習時間は1時間程度

【テキスト（教科書）】
・ツノダフミコ.『いちばんわかりやすい問題発見の授業』ワニブックス.（2024）
※資料室収蔵：3冊あり。ゼミ生においては専門演習Ⅰを通して本書を読破することを強く勧める
・近藤克則.『研究の育て方: ゴールとプロセスの「見える化」』医学書院.（2018）
※資料室収蔵：3冊あり。ゼミ生においては専門演習Ⅰ・Ⅱを通して本書を読破することを強く勧める
・トーマス・S・マラニー『リサーチのはじめかた―「きみの問い」を見つけ、育て、伝える方法』. 筑摩書房.（2023）
※資料室収蔵。ゼミ生においては専門演習Ⅰ・Ⅱを通して本書を読破することを強く勧める
・本多勝一.『中学生からの作文技術』. 朝日新聞社.（2004）**※研究室収蔵**
・福澤一吉.『議論のレッスン』. 生活人新書.（2002）**※資料室収蔵**
・小笠原 喜康、片岡 則夫.『中高生からの論文入門』. 講談社現代新書.（2019）**※資料室収蔵**

【参考書】
・Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 11th ed. (2020) **※研究室収蔵、ただし旧版および10版の翻訳本（『パワーズ運動生理学 体力と競技力向上のための理論と応用』）は資料室にあり**
・Wilmore JH, Costill D, Kenney WL. "Physiology of Sport and Exercise" Human Kinetics ; 7th ed. (2019) **※研究室収蔵、ただし旧版は資料室にあり**
・McArdle WD, Katch FI, Katch VL. "Sports and Exercise Nutrition" Lippincott Williams &Wilkins; 5th ed (2019) **※研究室収蔵、ただし第3版は資料室にあり**
・Jeukendrup A, Gleeson M. "Sport Nutrition" Human Kinetics; 3rd ed. (2018) **※資料室収蔵**
・ACSM's Nutrition for Exercise Science. (2018)**※資料室収蔵**

【成績評価の方法と基準】
① 参加の仕方・姿勢（20%）：一つのテーマに関する一貫性のある参加と成果。**発言、質問、議論を自ら進んで行った場合のみ「参加」と認める。**成果はレポートなどで評価する。
専門演習Ⅲで取り組む卒業研究に関して、年度末の2月上旬までにそのリサーチクエスチョンを決めて提出すること。提出できなかった場合は専門演習Ⅰの成績はD判定となる可能性がある。
② 抄読会（20％）：評論・レビューの妥当性。論理的考察の有無。
③ プレゼンテーション（20％）：発表のstructure、論理性。スライドの質。Non verbal communication skillの水準。
④ 実習参加（20％）：実習参加、レポート作成を評価する。
⑤ 演習およびレポート作成（20％）：科学的分析能力。
⑥ 夏期セミナー、研究会への参加（optional）：夏期セミナーや研究会への参加を追加的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
成績評価を厳密に行う。

【学生が準備すべき機器他】
実習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合がある。

【その他の重要事項】
測定の順番は適宜変更され、また繰り返し行う可能性がある。
したがってすべての測定を予定通り行えるとは限らない。
この授業は測定体験型授業ではない。「ただそこにある機器」で「とりあえず測定を行ってみる」だけでは学びとは言えない。背景にある生理学的基礎、医学的知識に基づく測定の実践、データの科学的分析、批判的解釈が行えるようにすることが必要であり、そのために実習を行うので、学びは高度で膨大である。「たくさんの科学的測定を体験できるゼミ」といった勘違いをすることの無いように。したがって知識の習得やデータの分析に関連するスキルを取得するために、学びの進捗によっては授業内容の大幅な変更を行う可能性もある。
なお測定を積み重ねていく中で実習室の利用ルールや機器の扱い方を十分習熟すること。
測定以外にも課題図書を指定してモデレーターを決め、読解力を評価し、テーマを議論する回を適宜行う。

【実務の経験】
臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。

【どのように実務経験が授業に反映されるか】
上記経験に基づき、「人を対象とする医学系研究」の最適な指導ができる。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide opportunities to conduct scientific measurements.

[Learning objectives] The goal of the lecture is to master the skill of measurements and evaluations in sports medicine and science.
[Learning activities outside of classroom] Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 2 hours; 1 hour beforehand and 1 hour afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined on the basis of the following; in class contribution (20%), reviewing scientific and medical literature (20%), presentation of measurement data (20%), participation in experiments (20%), and submitting reports related the topics in the classroom (20%).

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

専門演習Ⅰ

高見　京太

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2年次／4単位**
曜日・時限：**水**5/Wed.5

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
運動や身体活動などの生活習慣が、健康や体力にどのように関係しているかを考え、実生活の中で、健康・体力づくりを進めるうえでの方法を探ること、そして、それらを実践の場面で活かせるようになることを目標とする。

【到達目標】
・研究の進め方を理解する。
・健康づくりに関わる現場を知り、様々な経験を積む。
・健康づくりへの取り組みの効果を科学的に評価する手法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
子どもから高齢者にいたるまで幅広い性および年代について、健康体力づくりに関する事例や学術論文などの情報を収集してディスカッションを行う。また測定機器をの取り扱いや調査方法を身につけ、データに基づいた測定評価ができるようになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、各自の関心のあるテーマを発表する。
2	スポーツ健康学部の役割	社会に対して学部として何ができるか、また、卒業後にはどのような所で活躍できるかをディスカッションする。
3	文献の検索	発表する論文を選ぶ。
4	論文抄読準備	発表のための資料を作成する。
5	論文抄読発表	発表と質疑応答。
6	幼児の体力測定の準備	幼稚園児の体力テスト測定の計画およびリハーサルを行う。
7	幼児の体力測定の実施	幼稚園児の体力測定を実施する。
8	幼児の体力測定結果の整理	幼稚園児の体力測定結果のデータを整理する。
9	幼児の体力の考察	幼稚園児の体力測定結果についての考察する。
10	フィールドワーク（調査）	健康づくりに関連する場に出かけて調査する。
11	フィールドワーク（発表・議論）	フィールドワークで得た結果についてディスカッションしてまとめる。
12	健康づくり教室の構想	健康づくりを目的とした教室型の取り組みについて調べる。
13	健康づくり教室の作成	健康づくり教室を企画する。
14	健康づくり教室の実施	健康づくり教室を模擬的に実践する。
15	健康づくり教室の実施後の振り返り	実施した健康づくり教室について振り返りをする。
16	心拍数の測定方法	心拍数の測定方法を理解する。
17	心拍数を用いたミニ実験	心拍数の測定値を用いたショートレポートを発表する。
18	酸素摂取量の測定方法	酸素摂取量の測定方法を理解する。
19	酸素摂取量を用いたミニ実験	酸素摂取量の測定値を用いたショートレポートを発表する。
20	身体活動量の測定方法	身体活動量の測定を理解する。
21	身体活動量測定を用いたミニ実験	身体活動量の測定値を用いたショートレポートの発表。
22	身体組成の測定方法	身体組成の測定を理解する。
23	身体組成測定を用いたミニ実験	身体組成の測定値を用いたショートレポートを発表する。
24	筋力の測定方法	筋力の測定方法を理解する。
25	筋力測定を用いたミニ実験	筋力の測定値を用いたショートレポートを発表する。
26	アンケート調査の実施方法	アンケート調査の実施方法を理解する。
27	アンケート調査を用いたミニ実験	アンケート調査を用いたショートレポートを発表する。
28	1年間の反省	1年を振り返って意見交換をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連の文献収集、測定や調査を実施した結果のまとめ。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
(1)授業への参加(40%)：ただ出席をカウントするだけでなく、ディスカッションに参加し、自分の意見をどれだけ述べられたかを評価する。
(2)課題の提出および発表(60%)：ショートレポートや企画したプログラムの、内容および発表・実施について評価する。

【学生の意見等からの気づき】
活発な議論ができる環境を整える。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために授業支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】
専門演習Ⅰでは研究テーマを探索するため、集中講義、フィールドワークに積極的に参加し、他の受講者と積極的に協力すること。担当講師は研究機関で運動生理学研究に従事した経験を活かして、体力増進、介護予防や健康づくりについて教授する。

【Outline (in English)】
Course outline
This seminar is intended to enhance the students' understanding of the role of life style (sports, exercise and physical activity) in physical education and health promotion. Students will learn to critically evaluate the evidence and literature in sports sciences and health research.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− A. Understand how to proceed with research.
− B. Get to know the site related to health promotion and gain various experiences.
− C. Learn how to scientifically evaluate the effects of health promotion efforts.
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policy
Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (40%), term-end examination (60%), and in-class contribution.

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

専門演習Ⅰ

瀬戸　宏明

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業/Yearly**　｜　配当年次／単位：**2年次／4単位**
曜日・時限：**水5/Wed.5**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①運動器の障害に対する予防、再生について必要な基礎知識の獲得。
②実習などを通して医学、医療の現状を把握する。
③各自の研究テーマの決定とそれに沿った文献考察や研究成果について適時プレゼンテーションがおこなえる。

【到達目標】
①運動器疾患についての知識の獲得。
②運動器疾患について所見に基づいて評価ができる。
③科学的分析および論理的思考能力の基礎能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
①割り当てられた文献を用いた抄読会とテーマについて各自がプレゼンテーションをおこない、それらについてディスカッションをおこなう。
②適宜運動器疾患の評価のための実技、実習をおこなう。
③スポーツ医学や運動器疾患分野の学会・研究会に参加して各自が学んだことをプレゼンテーションをおこなう。
社会情勢によってはオンライン授業に変更することもありうる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板などで提示する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本演習のガイダンスをおこなう。
2	プレゼンテーションの方法と実際１	2年生の自己紹介。
3	プレゼンテーションの方法と実際２	プレゼンテーションの方法論に関する講義など。
4	文献検索の方法と実際	文献検索の方法を紹介して実際に自分で検索する方法を学習する。
5	機能解剖学/抄読会（上肢の前半）	特に肩関節周囲の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
6	機能解剖学の抄読会（上肢の後半）	特に肘・手関節周囲の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
7	機能解剖学の抄読会（体幹の前半）	脊椎の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
8	機能解剖学の抄読会（体幹の後半）	骨盤や股関節周囲の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
9	機能解剖学の抄読会（下肢の前半）	大腿や膝周囲の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
10	機能解剖学の抄読会（下肢の後半）	膝や足関節、足部周囲の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
11	機能解剖学の抄読会（頭部）	頭部の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
12	機能解剖学の抄読会（その他）	今までで不足していると思われる各部位の機能解剖学について討議する。
13	スポーツ現場での障害への評価・処置/抄読会９	スポーツ現場での評価・処置について/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
14	春学期のまとめ	春学期の総括と秋学期以降の研究テーマを決定する。
15	頭頚部について/抄読会	頭頚部について代表的な傷害、特に脳震盪についてその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
16	肩関節について/抄読会	肩関節について代表的な傷害とその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
17	肘関節、手関節について/抄読会	肘関節・手関節について代表的な傷害とその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
18	体幹、骨盤、股関節について/抄読会	体幹・骨盤・股関節について代表的な傷害とその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
19	膝関節について/抄読会	膝関節の評価について代表的な傷害とその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
20	足関節、足部について/抄読会	足関節・足部について代表的な傷害とその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
21	変形性関節症（前半）/抄読会１	変形性関節症の疫学、経過などについて討議する/抄読会をおこなう。
22	変形性関節症（後半）/抄読会２	変形性関節症の外科的治療やリハビリテーションなどについて討議する/抄読会をおこなう。
23	疲労骨折（前半）/抄読会１	疲労骨折の疫学や受傷機序について討議する/抄読会をおこなう。
24	疲労骨折（後半）/抄読会２	疲労骨折の経過や治療などについて討議する/抄読会をおこなう。
25	実技演習（評価方法）	これまでの知識を利用して傷害の評価を実習、習得する。
26	実技演習（機器操作）	傷害の評価のための測定機器の実習をおこなう。
27	実技演習（実際の評価）	これまでの知識を利用して実際に傷害の評価をおこない抄読会等で得た知識との相違点などを討議する。
28	秋学期のまとめ	秋学期の総括と3年時の研究テーマを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第1回　特になし
第2-14回：前回授業の復習
第15回：春学期の復習
第16-28回：前回授業の復習
その他：課題レポートなど本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし
適時資料を用意する

【参考書】
適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
基本的には
①平常点70点
②各内容や課題への取り組み30点
であるが、その他出席や学内外の学会や研究会などへの
参加姿勢などで総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】
テーマを明確にし、成績評価を厳密に行う。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用する場合がある。
プロジェクターの準備など。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。
※大学の行動方針レベルが２となった場合，この授業はオンラインで行う場合がある。そのため大学の行動方針レベルが変更となった場合は学習支援システムで伝達するので必ず各自で確認をおこなうこと。

【Outline (in English)】
【Learning Objectives】
In this course, we study the fundamental concepts related with sports medicine especially orthopaedics diseases. By reading scientific articles and practical measurements during exercise, students will be able to learn about sports medicine and orthopaedics diseases.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− Acquiring knowledge about locomotor disorders.
− Can evaluate locomotor disorders based on findings.
− Acquire the basic ability of scientific analysis and logical thinking ability.

【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process in class contribution (100%),

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

専門演習Ⅱ

木下　訓光

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**3年次／4単位**
曜日・時限：**水**5/Wed.5

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「読む・分析する・評価する」から「調べる・発表する」へ

【到達目標】
春学期終了までに卒業研究テーマを確定し、遅くとも夏期休暇までに研究活動を開始する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
研究テーマに沿って調査活動を行う。
研究活動の報告を行う。論理的思考に基づく議論、論文作成の技術などに関して、文献抄読やレポート提出、プレゼンテーションなどを通じて学習する。
英語によるプレゼンテーション、文章作成の指導を行う。
各学生の研究に必要な実験・測定を行う。
ヒューマンカロリメーターを用いた測定を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	2年生に対する本専門演習の理念、各学生の目標設定、長期的な学習計画について、3年生がガイドする。
2	プレゼンテーション・スキル	[演習] 2年生の自己紹介（英語）を3年生が評価する。
3	プレゼンテーションの方法論（応用編）	[講義] プレゼンテーションの方法論に関する3年生向けの講義。特殊なグラフやインフォグラフィクスの作成など高度なスキルについて。
4	プレゼンテーションの演習	[演習] 3年生によるっ卒業研究課題報告
5	Book Club ①	モデレーターを決めて、課題図書について討議する（第1回）。
6	学術へのAIの応用	[演習] レポートや論文作成に活かすAIのスキル訓練。プロンプトエンジニアリングなど。
7	体組成①：体組成測定の精度	[講義] 各種体組成測定方法の原理、compornent modelについて理解する。
8	体組成②：インピーダンス法	[実習] インピーダンス法による体組成評価を行う。 インピーダンス法の原理について学ぶ。
9	体組成③：骨密度	[実習] DXA法による実際に体組成評価を行う。 DXA法および骨密度について理解する。
10	Book Club ②	モデレーターを決めて、課題図書について討議する（第2回）。
11	持久力①：最大酸素摂取量の測定①	[実習] 2年生の最大酸素摂取量の測定を3年生が測定する。
12	持久力②：最大酸素摂取量の測定②	[実習] 引き続き前回行っていない2年生の最大酸素摂取量を3年生が測定する。
13	持久力③：最大酸素摂取量の分析	[演習] 測定データをもとに、2年生による最大酸素摂取量の分析を補助・指導する。
14	持久力④：最大酸素摂取量の比較検討	[演習] 2年生の分析データをもとに、3年生の最大酸素摂取量を比較検証する。
15	Book Club ③	モデレーターを決めて、課題図書について討議する（第3回）。
16	LTの測定①	[実習] 2年生のLT測定を補助・指導する。
17	LTの測定②	[実習] 前回行えなかった2年生のLT測定を補助・指導する。
18	LTの分析	[演習] 測定データをもとに、2年生のLTを3年生と比較検証する。
19	Book Club ④	モデレーターを決めて、課題図書について討議する（第4回）。
20	ヒューマンカロリメーターによる測定①	[実習] 運動や身体活動に伴う2年生のエネルギー消費を3年生が測定する。
21	ヒューマンカロリメーターによる測定②	[実習] 前回行えなかった2年生の運動や身体活動に伴うエネルギー消費を3年生が測定する。
22	ヒューマンカロリメーター による測定結果の分析	運動や身体活動に伴う2年生のエネルギー消費の測定結果の分析を補助・指導する。
23	ヒューマンカロリメーター による測定結果の比較検討	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析した2年生の結果を3年生と比較検討する。
24	研究進捗報告会	[演習]前回の研究課題報告会から進捗させた3年生の研究発表
25	Book Club ⑤	モデレーターを決めて、課題図書について討議する（第5回）。
26	スポーツ栄養の応用	[講義] 栄養調査の方法論、エネルギーバランス、減量・バルクアップの高度な機序について深く理解する。
27	栄養調査分析	[実習] 2年生の栄養調査・分析を補助する。
28	栄養調査結果発表	[演習] 2年生の栄養調査・分析の結果発表を聴講して、3年生の結果と比較する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 課題図書・文献のレビュー作成
② データ解析
③ 学外研究会への参加本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。
【注意】専門演習Ⅲで取り組む卒業研究に関して、年度末の2月上旬までに具体的で実現可能な研究計画書を提出すること。研究計画書の作成は原則的に個別指導となるので、授業時間以外に積極的に担当教員と相談をする時間を設けること。相談の時間は事前に調整して決めること。提出締め切り直前に慌てて準備しても決して成就しないため、十分に準備を行うこと。

【テキスト（教科書）】
・近藤克則.『研究の育て方: ゴールとプロセスの「見える化」』医学書院.（2018）
※資料室収蔵：3冊あり。ゼミ生においては専門演習Ⅰ・Ⅱを通して本書を読破することを強く勧める
・トーマス・S・マラニー『リサーチのはじめかた―「きみの問い」を見つけ、育て、伝える方法』. 筑摩書房.（2023）
※資料室収蔵。ゼミ生においては専門演習Ⅰ・Ⅱを通して本書を読破することを強く勧める
・Benardot D. "ACSM's Nutrition for Exercise Science" (Wolters Kluwer, 2018)
※アスリートのエネルギー代謝に関する最重要テキストである。資料室収蔵

【参考書】
・Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 11th ed. (2020)
※研究室収蔵、ただし旧版および10版の翻訳本（『パワーズ運動生理学 体力と競技力向上のための理論と応用』）は資料室にあり
・Wilmore JH, Costill D, Kenney WL. "Physiology of Sport and Exercise" Human Kinetics ; 7th ed. (2019)
※研究室収蔵、ただし旧版は資料室にあり
・McArdle WD, Katch FI, Katch VL. "Sports and Exercise Nutrition" Lippincott Williams &Wilkins; 5th ed (2019)
※研究室収蔵、ただし第3版は資料室にあり
・Jeukendrup A, Gleeson M. "Sport Nutrition" Human Kinetics; 3rd ed. (2018) **※資料室収蔵**
・ACSM's Nutrition for Exercise Science. (2018) **※資料室収蔵**

【成績評価の方法と基準】
① 【到達目標】にあるように「卒業研究テーマを確定し、遅くとも夏期休暇までに研究活動を開始する」ことが出来たか否か（60%）。
② **専門演習Ⅲで取り組む卒業研究に関して、年度末の2月上旬までに具体的で実現可能な研究計画書を提出すること。提出できなかった場合は専門演習Ⅱの成績はD判定となる可能性があり、かつ専門演習Ⅲの履修を認めない。**
③ 参加の仕方・姿勢（5%）：一つのテーマに関する一貫性のある参加と成果。**発言、質問、議論を自ら進んで行った場合のみ「参加」と認める。**成果はレポートなどで評価する。
④ 抄読会・Book Club（5％）：評論・レビューの妥当性。論理的考察の有無。
⑤ プレゼンテーション（10％）：発表のstructure、論理性。スライドの質。Non verbal communication skillの水準。
⑥ 実習参加（10％）：実習参加、レポート作成を評価する。
⑦ 演習およびレポート作成（10％）：科学的分析能力。
⑧ 授業外セミナー、研究会への参加（optional）：各種セミナーや研究会への参加を追加的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
実習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合がある。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、若干の変更があり得る。
【実務の経験】

臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】
上記経験に基づき、「人を対象とする医学系研究」の最適な指導ができる。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide basic knowledge and skills of scientific investigation, statistical analysis, and presentation of data.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to determine the theme of a graduation thesis by the end of the spring term and to start research in the summer vacation.
[Learning activities outside of classroom] Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hour beforehand and 2 hour afterward. Students must report the research design of graduation thesis in detail by the beginning of February. Students are strongly encouraged to visit the laboratory for consultation about their thesis frequently.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined on the basis of the following; whether or not the students can determine the theme of their graduation thesis and can start research by the deadline as mentioned above (60%), in class contribution (5%), reviewing scientific and medical literature (5%), presentation of measurement data (10%), participation in experiments (10%), and submitting reports related the topics in the classroom (10%). If a student can't report the research design of graduation thesis in detail by the beginning of February, the grading of the student will be "D". Furthermore, the student is not permitted to take the seminar III in the next year.

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

専門演習Ⅱ

高見　京太

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**3年次／4単位**
曜日・時限：**水**5/Wed.5

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
運動や身体活動などの生活習慣が、健康や体力にどのように関係しているかを考え、実生活の中で、健康・体力づくりを進めるうえでの方法を探ること、そして、それらを実践の場面で活かせるようになることを目標とする。

【到達目標】
・研究の進め方を理解する。
・健康づくりに関わる現場を知り、様々な経験を積む。
・健康づくりへの取り組みの効果を科学的に評価する手法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
子どもから高齢者にいたるまで幅広い性および年代について、健康体力づくりに関する事例や学術論文などの情報を収集してディスカッションを行う。また測定機器をの取り扱いや調査方法を身につけ、データに基づいた測定評価ができるようになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、各自の関心のあるテーマを発表。
2	スポーツ健康学部の役割	社会に対して学部として何ができるか、また、卒業後にはどのような所で活躍できるかをディスカッションする。
3	文献の検索	論文を選ぶ。
4	論文抄読準備	発表の資料作成。
5	論文抄読発表	発表と質疑応答。
6	幼児の体力測定の準備	幼稚園児の体力テスト測定の計画およびリハーサル
7	幼児の体力測定の実施	幼稚園児の体力測定の実施
8	幼児の体力測定結果の整理	幼稚園児の体力測定結果のデータ整理
9	幼児の体力の考察	幼稚園児の体力測定結果についての考察
10	フィールドワーク（調査）	健康づくりに関連する場に出かけて調査する。
11	フィールドワーク（発表・議論）	フィールドワークで得た結果についてディスカッションしてまとめる。
12	健康づくり教室の構想	健康づくりを目的とした教室型の取り組みについて調べる。
13	健康づくり教室の作成	健康づくり教室を企画する。
14	健康づくり教室の実施	健康づくり教室を模擬的に実践する。
15	健康づくり教室の実施後の振り返り	健康づくり教室を模擬的に実践する。
16	心拍数の測定方法	心拍数の測定。
17	心拍数を用いたミニ実験	心拍数の測定値を用いたショートレポートの発表。
18	酸素摂取量の測定方法	酸素摂取量の測定。
19	酸素摂取量を用いたミニ実験	酸素摂取量の測定値を用いたショートレポートの発表。
20	身体活動量の測定方法	身体活動量の測定。
21	身体活動量測定を用いたミニ実験	身体活動量の測定値を用いたショートレポートの発表。
22	身体組成の測定方法	身体組成の測定。
23	身体組成測定を用いたミニ実験	身体組成の測定値を用いたショートレポートの発表。
24	筋力の測定方法	筋力の測定。
25	筋力測定を用いたミニ実験	筋力の測定値を用いたショートレポートの発表。
26	アンケート調査の実施方法	アンケート調査の実践。
27	アンケート調査を用いたミニ実験	アンケート調査を用いたショートレポートの発表。
28	1年間の反省	1年を振り返って意見交換。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連の文献収集、測定や調査を実施した結果のまとめ。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
(1)授業への参加(40%)：ただ出席をカウントするだけでなく、ディスカッションに参加し、自分の意見をどれだけ述べられたかを評価する。
(2)課題の提出および発表(60%)：ショートレポートや企画したプログラムの、内容および発表・実施について評価する。

【学生の意見等からの気づき】
活発な議論ができる環境を整える。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために授業支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】
専門演習Ⅱでは研究デザインを策定するため、集中講義、フィールドワークに積極的に参加し、他の受講者と積極的に協力すること。担当講師は研究機関で運動生理学研究に従事した経験を活かして、体力増進、介護予防や健康づくりについて教授する。

【Outline (in English)】
Course outline
This seminar is intended to enhance the students' understanding of the role of life style (sports, exercise and physical activity) in physical education and health promotion. Students will learn to critically evaluate the evidence and literature in sports sciences and health research.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− A. Understand how to proceed with research.
− B. Get to know the site related to health promotion and gain various experiences.
− C. Learn how to scientifically evaluate the effects of health promotion efforts.
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policy
Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (40%), term-end examination (60%), and in-class contribution.

HSS300IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

専門演習Ⅱ

瀬戸　宏明

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**3年次／4単位**
曜日・時限：**水**5/Wed.5

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①運動器の障害に対する予防、再生について専門知識の獲得
②各自の研究テーマに沿った文献考察や研究成果についてプレゼンテーションがおこなえる

【到達目標】
①運動器疾患について所見といままで獲得した知識に基づいて評価ができる。
②科学的分析および論理的思考能力の応用力を獲得する。
③卒業論文にむけての研究テーマの検索と課題の設定。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
①割り当てられた文献を用いた抄読会とテーマについて各自がプレゼンテーションをおこない、それらについてディスカッションをおこなう。
②適宜運動器疾患の評価のための実技、実習をおこなう。
③スポーツ医学や運動器疾患分野の学会・研究会に参加して各自が学んだことをプレゼンテーションをおこなう。
社会情勢によってはオンライン授業に変更することもありうる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板などで提示する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本演習のガイダンスをおこなう。
2	プレゼンテーションの方法と実際	3年生の自己紹介
3	プレゼンテーションの方法論	前回のプレゼンテーションを利用した方法論の講義
4	文献検索の方法と実際	オンラインデータベースの使い方および文献検索の方法
5	機能解剖学の復習と講義（上肢）	各自の研究課題に関連する機能解剖学の復習と上肢の機能解剖学についてゼミ内で講義する。
6	機能解剖学の復習と講義（体幹）	各自の研究課題に関連する機能解剖学の復習と体幹の機能解剖学についてゼミ内で講義する。
7	機能解剖学の復習と講義（下肢）	各自の研究課題に関連する機能解剖学の復習と下肢の機能解剖学についてゼミ内で講義する。
8	変形性関節症の学習/抄読会	変形性関節症の学習とそれに関連した抄読会
9	疲労骨折の学習/抄読会	疲労骨折の学習とそれに関連した抄読会
10	外傷性疾患の学習/抄読会	外傷性疾患の学習とそれに関連した抄読会
11	Introductuionについて/抄読会	リサーチクエスチョンの重要性について講義する。
12	Material and Methodについて/抄読会	対象の選び方とそれぞれの方法論について講義する。
13	統計について/抄読会	論文で多用される統計について講義する。
14	春学期のまとめ	春学期のまとめと秋学期の以降の方向性について確認する。
15	ガイダンス	秋学期の内容の確認
16	器械操作の確認（Biodexなど）/抄読会	主にBiodexの操作の習得と関連する論文の抄読会
17	器械操作の確認（EMGなど）/抄読会	主にEMGの操作の習得と関連する論文の抄読会
18	器械操作の確認（超音波など）/抄読会	主に超音波装置の操作の習得と関連する論文の抄読会
19	器械操作の確認（DEXA）/抄読会	DEXAの原理や結果の読み取りの習得と関連する論文の抄読会
20	研究計画の注意点	研究をするにあたっての注意点（剽窃、倫理など）
21	研究計画の検討（リサーチクエスチョンに妥当性）/抄読会	リサーチクエスチョンの作成と関連する領域の抄読会
22	研究計画の検討（対象と方法の妥当性）/抄読会	研究計画の対象と方法について討議する。
23	研究計画の検討（使用予定の統計方法の妥当性）/抄読会	どのような統計を使用するか検討する。それに関連する抄読会
24	予備実験の設定	各自課題を設定して予備実験を行う。
25	予備実験の報告	予備実験の結果と考察について報告する。
26	予備実験の総括	予備実験のlimitationの討議と総括
27	今後の研究計画発表	卒業研究の研究計画発表会を行う。
28	まとめ	1：3年時のまとめ 2：卒業研究に関する方向性の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第1回　特になし
第2-14回：前回授業の復習
第15回：春学期の復習
第16-28回：前回授業の復習
その他：課題レポートなど本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし
適時資料を用意する

【参考書】
適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
基本的には
①平常点70点
②各内容や課題への取り組み30点
であるが、その他出席や学内外の学会や研究会などへの
参加姿勢などで総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】
テーマを明確にし、成績評価を厳密に行う。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用する場合がある。
プロジェクターの準備など。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。
※大学の行動方針レベルが２となった場合，この授業はオンラインで行う場合がある。そのため大学の行動方針レベルが変更となった場合は学習支援システムで伝達するので必ず各自で確認をおこなうこと。

【Outline (in English)】
【Learning Objectives】
In this course, we study the fundamental concepts of sports medicine and Orthopaedics diseases by reading scientific articles and practical measurements during exercise. Theoretical background in this scientific area enables us to learn about sports medicine and Orthopaedics diseases.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− can evaluate locomotor disorders based on your findings and the knowledge you have acquired.
− Acquire the application of scientific analysis and logical thinking ability.
−Searching for research themes and setting assignments for graduation thesis.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process in class contribution (100%),

HSS400IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 400）

専門演習Ⅲ

木下　訓光

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4年次／4単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
科学的分析と論理的考察に基づく学術論文の作成。

【到達目標】
卒業論文の完成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
研究データの集積、分析を指導する。研究計画書を作成する。優れた内容の研究は、学会で発表するための指導をする。
本授業専門演習Ⅲは集中授業と考えるべきではない。専門演習は毎週水曜5限に行うので、同時限に出頭して卒論作成の進捗報告をすることが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文献検索	Clinical questionに沿った先行研究論文の選定・報告し議論する。主としてPubmedとCiNiiを用いて先行研究を確認する。
2	研究のdelimitation	研究のdelimitationを明確にし、選定した先行研究論文の取捨選択を行う。Impact factor, Cite score, predatory journalの実態などに習熟し、Scopusを活用する。
3	先行研究のmethodology	先行研究のmethodology、特にデータ解析方法、統計解析について検証し、誤った分析方法を用いている、あるいは不適切な統計解析を行っているような科学的妥当性の低い論文を批判的に分析する。
4	先行研究の総括	各論文における仮説に対応したdelimitation、母集団、サンプル、仮説検定方法の妥当性、null hypothesisの適切な設定、結果の解釈の適不適を理解できるようにする。
5	Research questionの設定	先行研究の総括を踏まえてclinical questionを十分distilateし、より高度でsimpleかつ具体的なResearch questionを設定するための議論を行う。
6	Research questionのdistillation	Research questionの倫理的・科学的妥当性検証と最適化を行い、最終的に決定する。この時点で学生は「その研究を行って一体何の役に立つのか」という質問に明確に回答できなければならない。
7	仮説立論	Research questionに対応した適切で強力な仮説を設定する。学生は十分なエビデンスをもってこれを過不足なく説明することを要求される。
8	研究目的の決定	仮説に沿って適切な研究目的を設定する。その倫理的・科学的妥当性について検証する。
9	研究方法の設定	仮説検証に必要な方法を適切に設定する。方法の倫理的・科学的妥当性について検証する。
10	研究倫理	本学部における研究の多くはヒトを対象にして行われる。卒業研究でも文部科学省・厚生労働省『人を対象とする医学系研究に関する倫理指針』にしたがって行う必要もあり、その場合、倫理審査を受けたうえで許可される。倫理委員会に研究計画の審査を申請するために必要な、同指針の基本について学ぶ。
11	倫理委員会における卒業研究審査の対策	倫理審査申請書作成指導。実際にスポーツ健康学部倫理委員会に提出し審査を受けるための申請書の作成方法について学習する。
12	研究論文導入部の論述	研究論文導入部について議論、指導を受ける。学生は研究目的と仮説に至るまでを理路整然と説明できることが求められる。
13	パラグラフライティング	適切な論理的表現をするために必要な日本語力、すなわち論理的文章の作成について学ぶ。導入部をパラグラフライティングの手法に則って明確に叙述できるように学ぶ。指導を踏まえて次週までに研究論文導入部の草稿を完成させる。
14	研究論文導入部の提出	研究論文導入部の完成稿を提出し指導を受ける。 夏休み期間中に調査・測定を進めておくこと。
15	調査・実験機器のメカニズム	調査・実験に必要な分析機器・設備のメカニズムについて学習する。ただし本科目では、学生は夏休み期間中にも調査・測定を行い、定期的に成果の報告を行わなければならない。したがってこの回のテーマに調査・実験機器（1）とあるが、実際には第１回目ではないことに注意すること。あらゆる調査・測定において、「ただそこにある機器を使って無批判に計測を行う」という姿勢では、得られたデータはすでに「研究成果」とは呼べない代物となってしまう。いかにして信頼性・妥当性のある調査・測定を行いえるか、その基本ともいえる機器類の工学的メカニズムについて学習する。
16	調査・実験機器の操作	調査・実験に必要な分析機器・設備の扱いを習得する。準備、整備、検定・較正作業、後片付け、実験室における注意・ルールなど、最低限習得しておかなければならない技能を習得する。
17	分析手法の検討	測定データの分析に用いる統計解析手法について検討する。適切な分析方法の設定とその理論的根拠を明確に述べることができるようにする。なお実際の測定は夏休みを含め、授業時間以外に行うことがほとんどである。前回までの理解を踏まえて授業時間以外に速やかに調査・測定を進めること。
18	分析の実践	この時点までに得た測定データを総括し報告を行い議論する。
19	研究方法の執筆	この回までに研究方法のセクションを完成させて提出する。研究方法についてプレゼンテーションを行う。
20	研究結果の執筆	この回までに研究結果のセクションを完成させて提出する。研究結果についてプレゼンテーションを行う。
21	考察の発表	研究結果の考察を行う。研究結果を考察した内容をプレゼンテーションする。
22	考察の執筆	この回までに研究考察セクションを完成させて提出する。
23	結論の執筆	この回までに結論セクションを完成させて提出する。
24	卒業論文の推敲	論文初稿の推敲水準は低いものである。「書き上げた」だけでは論文として仕上がっていないことが多いと心得てほしい。特に参考文献の記載をルールに則り最初から正確に記載できる学生は少ないであろう。そこで、どのようなポイントに留意して推敲するか、また校閲・校正の作業も経験し、正式に論文と呼べる成果物に仕上げるために必要な手続きについて学習する。
25	卒業論文完成稿の提出	この回までに卒業論文を完成させて提出する。提出した論文の査読・指導を受ける。
26	卒業論文発表	ゼミ生を対象に卒論を発表する。
27	卒業研究発表会の準備	スライドを作成して提出、指導を受ける。なおスライドはすべて英語で作らなければならない。
28	卒業研究発表会予演会	ゼミ生を対象に卒業研究発表会の予演会を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 研究データ解析
② 調査活動
③ 学会・研究会参加
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めず

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
卒業論文（100％）：科学的データに基づき、論理的に考察され、かつ指定された様式にのっとって記述された卒業論文の完成をもってのみ単位認定をする。**推敲水準の低い論文には単位を与えない。**
なお10月終わりまでに先行研究の総括から始まって測定・調査を終了し、緒言部分の執筆が終了していない場合は卒論の執筆中止を言い渡す可能性があるので注意すること。その場合、専門演習Ⅲの単位取得は出来ない。

【学生の意見等からの気づき】
卒業研究を計画的に完成させられるように指導する。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、若干の変更があり得る。
【実務の経験】
臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】
上記経験に基づき、「人を対象とする医学系研究」の最適な指導ができる。
【注意事項-1】（再掲）本授業専門演習Ⅲは集中授業と考えるべきではない。専門演習は毎週水曜5限に行うので、同時限に出頭して卒論作成の進捗報告をすることが望ましい。またそれ以外に個人指導を希望する場合は必ず事前にEメールなどでアポイントメントをとり相談すること。
【注意事項-2】専門演習Ⅱの過程において、年度末の2月上旬までに専門演習Ⅲで取り組む卒業研究に関して、具体的で実現可能な研究計画書を提出できなかった場合は専門演習Ⅲの履修を認めない。
【注意事項-3】本ゼミにおける卒業論文提出の期限は12月末であり、学部の提出期限と異なる。この提出期限までに完成度の高い論文を作成して終了できない場合は専門演習Ⅲの単位を与えない。学生は十分な余裕を持って早期に執筆を開始すること。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide basic and advanced knowledge and skill of writing a graduation thesis.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to complete writing the graduation thesis.
[Learning activities outside of classroom] Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 10 hours. Students are strongly encouraged to visit the laboratory for consultation about their thesis frequently.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined by the graduation thesis (100%). The student who couldn't report the research design of graduation thesis in detail by the beginning of February in the former year of the seminar II is not permitted to take the seminar III.

HSS400IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 400）

専門演習Ⅲ

瀬戸　宏明

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4年次／4単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習Ⅱで決定したテーマから科学的分析や論理的考察に基づいて卒業論文を完成させる。

【到達目標】
1：卒業論文完成までの作成過程の学習
2：卒業論文の完成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
1：実験より得られたデータの分析
2：先行研究より考えられる仮説、実験方法を随時検討する
社会情勢によってはオンライン授業に変更することもありうる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板などで提示する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	卒業論文作成について方向性の確認
第2回	先行研究の検討	先行研究について精査する。
第3回	先行研究と自身のテーマとの対比	先行研究に対して自身の求めている研究の整合性について検討する。
第4回	研究方法の精査	研究方法について検討する。
第5回	予備実験の準備	先行研究に基づいて研究デザインを決定する。
第6回	予備実験の実施	予備実験をおこない研究の方向性の確認をおこなう。
第7回	予備実験の最終確認	予備実験をおこない改善点を検討する
第8回	データの収集	データの収集をおこなう。
第9回	データの解析	データの解析をおこなう。
第10回	倫理書作成と論文作成について	倫理書の作成と今後論文作成についてのガイダンスをおこなう
第11回	論文指導（緒言）	論文における緒言の意義について指導をおこなう。
第12回	論文指導（対象と方法）	論文における対象と方法について指導をおこなう。
第13回	論文指導（結果）	論文における結果のまとめかたについて指導をおこなう。
第14回	論文指導（考察、まとめ）	考察の論理的構築の指導をおこなう。
第15回	ガイダンス	中間報告と今後の方向性の検討
第16回	実験の最終確認	実験方法の最終確認
第17回	実験の実施	実験の実施をおこなう。
第18回	結果報告 実験の継続	結果報告と引き続き不足分の実験をおこなう。
第19回	追加実験	必要に応じて追加実験をおこなう。
第20回	実験のlimitationについて	実験のlimitationについて検討する。
第21回	緒言の作成	仮説、緒言、目的について精査する
第22回	対象と方法の作成	方法について精査する
第23回	結果の作成	結果について精査する
第24回	考察、まとめの作成	考察とまとめについて精査する
第25回	卒業論文の作成	全体について振り返りをおこなう
第26回	卒業論文の予演	ゼミ内での予演をおこなう
第27回	卒業論文の発表	卒業研究の発表
第28回	卒業論文の提出	卒業論文の完成・提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定論文の精読
データの解析
学会、研究会への参加本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし

【参考書】
研究テーマにあわせて適時紹介する

【成績評価の方法と基準】
卒業論文完成にいたる論理の構築　50％
卒業論文　50％

【学生の意見等からの気づき】
テーマを明確にし、成績評価を厳密に行う。

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクターなど

【その他の重要事項】
授業の展開によって、若干の変更があり得る。
論文作成という性質上本人より自主的に相談の機会を作ること。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。
必要に応じて遠隔での双方向の授業という体制をおこなう予定である。
※大学の行動方針レベルが２となった場合，この授業はオンラインで行う場合がある。そのため大学の行動方針レベルが変更となった場合は学習支援システムで伝達するので必ず各自で確認をおこなうこと。

【Outline (in English)】
【Learning Objectives】
The lecture intends to complete of the graduation thesis based on scientific analysis and logical consideration.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− Learning the process of writing a graduation thesis.
− Completion of graduation thesis.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process graduation thesis (100%),

BSP100JA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎演習Ⅰ（B・Oクラス）

宮城　孝

配当年次／単位数：**1年次／2単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定あり。指定されたクラスを受講すること。基礎演習Ⅰ・Ⅱの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング（Well-being）の考え方を学ぶことを目標とします。

【到達目標】
現代福祉学部の大きな３つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関しての入門的な知識を身に着けること。
レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
２０人程度の少人数です。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行います。課題、質問や意見などへのフィードバックは授業中に行うか、学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第2回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第3回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第4回	本学部の３分野①	社会福祉について学習する内容
第5回	本学部の３分野②	地域づくりについて学習する内容
第6回	本学部の３分野③	臨床心理について学習する内容
第7回	福祉体験①	車椅子の試乗体験または多様性の理解についてのワークショップ
第8回	福祉体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験または多様性の理解についてのワークショップ
第9回	障がい者支援活動	ノートテイクまたはコミュニケーション支援の講習会
第10回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第11回	レポートの書き方①	テキストによる学習①講義
第12回	レポートの書き方②	テキストによる学習②実習
第13回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス
第14回	春学期のまとめ	春学期の学びの総括と夏休みの過ごし方について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習と復習をしてください。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しいものです。授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜、プリントを配布します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点50%、レポート等課題50%（総合的に評価）

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートや各回のリアクションペーパーを参考に、授業の内容等を適宜修正しながら進めます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
【Course outline】This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. 【Learning Objectives】At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years. 【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance in the class（Discussion, presentation, and report）(50%).

BSP100JA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎演習Ⅰ（F・Sクラス）

水野　雅男

配当年次／単位数：**1年次／2単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定あり。指定されたクラスを受講すること。基礎演習Ⅰ・Ⅱの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング（Well-being）の考え方を学ぶことを目標とします。

【到達目標】
現代福祉学部の大きな３つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関しての入門的な知識を身に着けること。
レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
２０人程度の少人数です。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行います。課題、質問や意見などへのフィードバックは授業中に行うか、学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第2回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第3回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第4回	本学部の３分野①	社会福祉について学習する内容
第5回	本学部の３分野②	地域づくりについて学習する内容
第6回	本学部の３分野③	臨床心理について学習する内容
第7回	福祉体験①	車椅子の試乗体験または多様性の理解についてのワークショップ
第8回	福祉体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験または多様性の理解についてのワークショップ
第9回	障がい者支援活動	ノートテイクまたはコミュニケーション支援の講習会
第10回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第11回	レポートの書き方①	テキストによる学習①講義
第12回	レポートの書き方②	テキストによる学習②実習
第13回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス
第14回	春学期のまとめ	春学期の学びの総括と夏休みの過ごし方について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習と復習をしてください。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しいものです。授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜、プリントを配布します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点50%、レポート等課題50%（総合的に評価）

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートや各回のリアクションペーパーを参考に、授業の内容等を適宜修正しながら進めます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. 【Learning Objectives】At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years. 【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance in the class（Discussion, presentation, and report）(50%).

BSP100JA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎演習Ⅰ（Ⅰ・Ⅴクラス）

杉浦　ちなみ

配当年次／単位数：**1年次／2単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定あり。指定されたクラスを受講すること。基礎演習Ⅰ・Ⅱの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング（Well-being）の考え方を学ぶことを目標とします。

【到達目標】
現代福祉学部の大きな３つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関しての入門的な知識を身に着けること。
レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
２０人程度の少人数です。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行います。課題、質問や意見などへのフィードバックは授業中に行うか、学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第2回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第3回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第4回	本学部の３分野①	社会福祉について学習する内容
第5回	本学部の３分野②	地域づくりについて学習する内容
第6回	本学部の３分野③	臨床心理について学習する内容
第7回	福祉体験①	車椅子の試乗体験または多様性の理解についてのワークショップ
第8回	福祉体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験または多様性の理解についてのワークショップ
第9回	障がい者支援活動	ノートテイクまたはコミュニケーション支援の講習会
第10回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第11回	レポートの書き方①	テキストによる学習①講義
第12回	レポートの書き方②	テキストによる学習②実習
第13回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス
第14回	春学期のまとめ	春学期の学びの総括と夏休みの過ごし方について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習と復習をしてください。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しいものです。授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜、プリントを配布します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点50%、レポート等課題50%（総合的に評価）

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートや各回のリアクションペーパーを参考に、授業の内容等を適宜修正しながら進めます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
【Course outline】This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. 【Learning Objectives】At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years. 【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance in the class（Discussion, presentation, and report）(50%).

BSP100JA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎演習Ⅰ（J・Wクラス）

野田　岳仁

配当年次／単位数：**1年次／2単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定あり。指定されたクラスを受講すること。基礎演習Ⅰ・Ⅱの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング（Well-being）の考え方を学ぶことを目標とします。

【到達目標】
現代福祉学部の大きな３つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関しての入門的な知識を身に着けること。
レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
２０人程度の少人数です。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行います。課題、質問や意見などへのフィードバックは授業中に行うか、学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第2回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第3回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第4回	本学部の３分野①	社会福祉について学習する内容
第5回	本学部の３分野②	地域づくりについて学習する内容
第6回	本学部の３分野③	臨床心理について学習する内容
第7回	福祉体験①	車椅子の試乗体験または多様性の理解についてのワークショップ
第8回	福祉体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験または多様性の理解についてのワークショップ
第9回	障がい者支援活動	ノートテイクまたはコミュニケーション支援の講習会
第10回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第11回	レポートの書き方①	テキストによる学習①講義
第12回	レポートの書き方②	テキストによる学習②実習
第13回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス
第14回	春学期のまとめ	春学期の学びの総括と夏休みの過ごし方について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習と復習をしてください。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しいものです。授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜、プリントを配布します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点50%、レポート等課題50%（総合的に評価）

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートや各回のリアクションペーパーを参考に、授業の内容等を適宜修正しながら進めます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
【Course outline】This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. 【Learning Objectives】At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years. 【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance in the class（Discussion, presentation, and report）(50%).

BSP100JA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎演習Ⅰ（L・Yクラス）

小林　由佳

配当年次／単位数：1年次／2単位
備考（履修条件等）：**クラス指定あり。指定されたクラスを受講すること。基礎演習Ⅰ・Ⅱの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング（Well-being）の考え方を学ぶことを目標とします。

【到達目標】
現代福祉学部の大きな３つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関しての入門的な知識を身に着けること。
レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
２０人程度の少人数です。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行います。課題、質問や意見などへのフィードバックは授業中に行うか、学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第2回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第3回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第4回	本学部の３分野①	社会福祉について学習する内容
第5回	本学部の３分野②	地域づくりについて学習する内容
第6回	本学部の３分野③	臨床心理について学習する内容
第7回	福祉体験①	車椅子の試乗体験または多様性の理解についてのワークショップ
第8回	福祉体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験または多様性の理解についてのワークショップ
第9回	障がい者支援活動	ノートテイクまたはコミュニケーション支援の講習会
第10回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第11回	レポートの書き方①	テキストによる学習①講義
第12回	レポートの書き方②	テキストによる学習②実習
第13回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス
第14回	春学期のまとめ	春学期の学びの総括と夏休みの過ごし方について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習と復習をしてください。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しいものです。授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜、プリントを配布します。

【参考書】
『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』戸田山和久著（NHK出版） 2022年
『レポート・論文の書き方入門 第4版』河野哲也著（慶應義塾大学出版会）　２０１８年
『言語表現法講義』加藤典洋著（岩波書店） 1996年

【成績評価の方法と基準】
平常点50%、レポート等課題50%（総合的に評価）

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートや各回のリアクションペーパーを参考に、授業の内容等を適宜修正しながら進めます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
【Course outline】This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. 【Learning Objectives】At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years. 【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance in the class（Discussion, presentation, and report）(50%).

BSP100JA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎演習Ⅱ（B・Oクラス）

宮城　孝

配当年次／単位数：**1年次／2単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定あり。指定されたクラスを受講すること。基礎演習Ⅰ・Ⅱの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コンペに向けたグループワークと発表準備を行う。問いを立て、それに基づき文献を収集し読み、フィールドワークを含めた調査を行い、まとめて発表する、という一連の流れを、個人およびグループの双方で取り組んでいける力を養う。

【到達目標】
2年次以降の専門演習、実習やフィールドワーク、そして将来の職業人生を見据えて、論理的な思考力やプレゼンテーション、コミュニケーション手法を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
文献・資料集め、フィールド調査、聞き取り、プレゼンテーション作成、ディスカッションを通じた発表などを主にグループワークを通じて進めていく。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、または対面等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	秋学期の概要確認・夏休みの活動報告
第2回	テーマに関する課題をさぐる	コンペのテーマに対する関心と理解を深める。
第3回	グループ分けおよびテーマの決定	課題意識によってグループを作り、各グループでテーマを具体化する。
第4回	テーマに基づく下調べ(1)	各グループで決めたテーマに関わる情報を持ち寄る
第5回	テーマに基づく下調べ(2)	第4回に続き、グループとしての提案の方向性や調査手法を明確にしていく。
第6回	調査計画の検討	グループのテーマ、テーマに関して得られた情報の概要、今後の調査計画等について各グループが発表し、相互に検討を行う
第7回	調査の実施	グループごとに各種調査を行う。
第8回	調査のまとめ	調査結果をまとめ、分析する
第9回	ゼミコンペ準備(1)	発表資料の作成や追加調査などを行う。
第10回	ゼミコンペ準備（2）	発表原稿の作成、発表資料のブラッシュアップなどを行う。
第11回	ゼミコンペ準備（3）	発表の練習を行う。
第12回	ゼミコンペ（1）	クラス内予選プレゼンテーションと参加
第13回	ゼミコンペ（2）	時限予選プレゼンテーションと参加
第14回	ゼミコンペ（3）	本選プレゼンテーションと参加

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時までに求められた課題に取り組む。本授業の時間外の学習時間は各回4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】
平常点50%、発表・レポート等課題50%（総合的に評価）

【学生の意見等からの気づき】
講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】
プレゼン資料作成のための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。

【Outline (in English)】
【Course outline】In this course, there will be a presentation competition between other classes. Students will work in groups to decide on a presentation theme, conduct research and prepare for the presentation.
【Learning Objectives】Students will be expected to develop the ability to correctly handle information, conduct research, and make presentations in order to point out issues related to a theme and propose its solutions.
【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】Group work and discussion： 50%, presentation of issues： 50%(comprehensive evaluation)

BSP100JA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎演習Ⅱ（F・Sクラス）

水野　雅男

配当年次／単位数：**1年次／2単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定あり。指定されたクラスを受講すること。基礎演習Ⅰ・Ⅱの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
与えられたテーマに対する提案をグループで考え、他のクラスとともにコンペを実施します。自分たちでテーマや仮説を設定し、それを検証する共同作業を通じて答えを創り出す力を養います。

【到達目標】
・問題を設定し、課題解決策を提示する力が身につきます。
・魅力的なプレゼンを準備・発表する力を養います。
・他者との意見交換を通じて、一つのプランを作り上げていくグループワークの力が身につきます。
・ゼミ外の学生・教職員等と交流し、自ら働きかける力を養います。
・社会を見つめる視野が広がります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
チーム単位での話し合いを重視します。同時に、疑問→リサーチ→仮説→検証→さらなる疑問という思考のサイクルを重視し、自分で考える力を養います。チームでの協働作業と外部から評価を受けるプレゼンを交互に織り交ぜながら進めます。プレゼンテーションの作成やディスカッションを通じた発表の推敲は、主にグループワークを通じて進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 課題発表１	後期の進め方を共有します。夏休みの課題発表を行います。
第2回	課題発表２	夏休みの課題発表を行います。
第3回	課題発表３	引き続き夏休みの課題発表を行います。
第4回	グループ分け・テーマ決め	共通する課題をもつ個人を中心にグループ分けを行ったのち、グループで具体的テーマや提案の方向を定めます。
第5回	リサーチ１	設定したテーマに関する取り組みや政策等の情報を持ち寄り、自分たちの提案の有効性を検討します。更に必要な調査を検討し、その方法を定めます。
第6回	リサーチ２	自分たちの提案の有効性等について、アンケートやインタビューを行い、検証作業を行います。
第7回	中間報告準備１	中間報告に向けてプレゼン資料を作成します。
第8回	中間報告準備２	プレゼンの完成度を高める作業を行います。
第9回	中間報告	クラス内で中間報告会を行い、学生相互でフィードバックを行います。
第10回	修正１	中間報告を受けた修正を行います。
第11回	修正２	中間報告を受けた修正を引き続き行います。
第12回	プランコンペ予選１	ゼミ内で予選を行い、ゼミ代表チームを確定します。
第13回	プランコンペ予選２	クラス合同で予選を行い、本選進出チームを確定します。
第14回	プランコンペ本選	参加するほかのゼミとともに、本選を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題設定のための情報収集、インタビューやアンケートなどの実施、プレゼン資料の作成など、グループ単位での作業や学習が必要になります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点50%、レポート等課題50%（総合的に評価）

【学生の意見等からの気づき】
受講生の意見を聞き、進め方を適宜修正しながら進めます。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、学習支援システムを活用します。

【その他の重要事項】
受講生の関心と要請に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

【Outline (in English)】
< Course outline>
The aim of this course is to help students acquire an ability to set themes and hypotheses by ourselves and create answers through collaborative work to verify them.
< Learning Objectives>
By the end of the course, students should be able to do the followings:
· You will acquire the ability to set problems and present solutions to problems.
· Develop the ability to prepare and present attractive presentations.
· By exchanging opinions with others, you will acquire the power of group work to create one plan.
< Learning activities outside of classroom>
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy>
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 50%, in class contribution: 50%

BSP100JA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎演習Ⅱ（Ⅰ・Ⅴクラス）

杉浦　ちなみ

配当年次／単位数：**1年次／2単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定あり。指定されたクラスを受講すること。基礎演習Ⅰ・Ⅱの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コンペに向けたグループワークと発表準備を行う。問いを立て、それに基づき文献を収集し読み、フィールドワークを含めた調査を行い、まとめて発表する、という一連の流れを、個人およびグループの双方で取り組んでいける力を養う。

【到達目標】
2年次以降の専門演習、実習やフィールドワーク、そして将来の職業人生を見据えて、論理的な思考力やプレゼンテーション、コミュニケーション手法を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
文献・資料集め、フィールド調査、聞き取り、プレゼンテーション作成、ディスカッションを通じた発表などを主にグループワークを通じて進めていく。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、または対面等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	秋学期の概要確認・夏休みの活動報告
第2回	テーマに関する課題をさぐる	コンペのテーマに対する関心と理解を深める。
第3回	グループ分けおよびテーマの決定	課題意識によってグループを作り、各グループでテーマを具体化する。
第4回	テーマに基づく下調べ(1)	各グループで決めたテーマに関わる情報を持ち寄る
第5回	テーマに基づく下調べ(2)	第4回に続き、グループとしての提案の方向性や調査手法を明確にしていく。
第6回	調査計画の検討	グループのテーマ、テーマに関して得られた情報の概要、今後の調査計画等について各グループが発表し、相互に検討を行う
第7回	調査の実施	グループごとに各種調査を行う。
第8回	調査のまとめ	調査結果をまとめ、分析する
第9回	ゼミコンペ準備(1)	発表資料の作成や追加調査などを行う。
第10回	ゼミコンペ準備（2）	発表原稿の作成、発表資料のブラッシュアップなどを行う。
第11回	ゼミコンペ準備（3）	発表の練習を行う。
第12回	ゼミコンペ（1）	クラス内予選プレゼンテーション
第13回	ゼミコンペ（2）	時限予選プレゼンテーションと参加
第14回	ゼミコンペ（3）	本選プレゼンテーションと参加

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時までに求められた課題に取り組む。本授業の時間外の学習時間は各回4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】
平常点50%、発表・レポート等課題50%（総合的に評価）

【学生の意見等からの気づき】
講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】
プレゼン資料作成のための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。

【Outline (in English)】
【Course outline】In this course, there will be a presentation competition between other classes. Students will work in groups to decide on a presentation theme, conduct research and prepare for the presentation.
【Learning Objectives】Students will be expected to develop the ability to correctly handle information, conduct research, and make presentations in order to point out issues related to the competition theme and propose its solutions.
【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】Group work and discussion： 50%, presentation of issues： 50%(comprehensive evaluation)

BSP100JA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎演習Ⅱ（J・Wクラス）

野田　岳仁

配当年次／単位数：**1年次／2単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定あり。指定されたクラスを受講すること。基礎演習Ⅰ・Ⅱの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
興味のある課題についてグループで対応等を検討し、プレゼンテーションを行う。その中から代表となったグループが他のクラスも含めた全体のコンペで発表を行う。これらのプロセスから、大学生として必要なスキルを習得する。

【到達目標】
・課題に関する情報を収集・分析することができる。
・グループで協働することができる。
・自分たちの考えを他者にプレゼンテーションすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
グループごとに課題を設定し、その多面的な把握および対応検討を行う。そして、それを他者に効果的に伝えることができるようプレゼンテーションのあり方を検討する。その後、クラス内で発表を行い、質を高め合う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方とスケジュールの確認
第2回	現場から考える方法論とは？	フィールド思考の研究方法について学ぶ
第3回	フィールドワークとは？	社会調査の基礎知識とフィールドワークの技法
第4回	問題関心のつくり方	関心のある学問領域に応じてグループワーク
第5回	文献調査の方法	グループごとに先行研究と分析視角の検討
第6回	問いのつくり方と仮説の提示	問いの立て方と仮説の設定について実習
第7回	研究テーマ発表	グループごとに研究テーマを発表
第8回	データの収集（1）	文献調査によってデータを収集する
第9回	データの収集（2）	フィールドワークよってデータを収集する
第10回	データの解釈・分析（1）	文献調査で得られたデータを解釈する
第11回	データの解釈・分析（2）	フィールドワークで得られたデータを分析する
第12回	追加データの収集	調査の振り返りと不足しているデータ収集
第13回	結論の提示	調査データから導き出される結論を検討する
第14回	プレゼンテーション	グループごとに研究成果の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて、課題に関する情報収集等をグループで行う。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）＆プレゼンテーション（50%）の総合評価

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見を尊重しながら、学生間のグループ・ワークおよび相互交流を促進するような授業を心掛けたいと考えています。

【その他の重要事項】
授業の展開によっては、上記の授業スケジュールは若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course is the second semester for a two-semester integrative Freshman Seminar. This course is designed to allow students to gain experience in constructing research projects and giving effective presentations in Japanese. 【Learning Objectives】The goal of this class is for students to acquire the ability to research, analyze, and present on social issues through group work.【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance in the class（presentation）(50%).

BSP100JA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎演習Ⅱ（L・Yクラス）

小林　由佳

配当年次／単位数：**1年次／2単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定あり。指定されたクラスを受講すること。基礎演習Ⅰ・Ⅱの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
次年度からの専門演習での活動を見据えて、文献収集・グループワーク・フィールドワーク・プレゼンテーションなどの基礎的な知識やスキルを身につけます。また、自らの興味関心を探っていきます。

【到達目標】
以下の項目を達成することを目指します。
・学部の理念であるWell-beingについての理解や関心を深める。
・関心に沿って、適切に文献収集を行う。
・他者と建設的に意見交換を行う。
・グループのメンバーと協力し合い、計画立案・情報収集・プレゼンテーション等を行う。
・自らの意見や考えを、学術的な作法に基づいて表明する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
グループワークを中心に、適宜資料を配布しながら学習を進めます。リアクションペーパーや課題に対するフィードバックは、主に授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	秋学期全体の内容を確認するとともに、夏休み中の成果等について報告する。
第2回	問題関心を深める①	教材を通してWell-beingについての理解を深めて、自らの関心を探る。
第3回	問題関心を深める②	相互の関心を共有し対話することを通して、自らの関心を探る。
第4回	グループワーク①	グループを決定し、ディスカッションを通してテーマの決定などを行う。
第5回	グループワーク②	データ収集の方法を学び、アプローチの対象や方法を選定する。
第6回	グループワーク③	フィールドに出るためのマナーや方法を学び、準備を行う。
第7回	グループワーク④	フィールドワークや調査等を行い、データを収集する。
第8回	グループワーク⑤	得られたデータを集約し、分析を行う。
第9回	グループワーク⑥	プレゼンテーションの準備および練習を行う。
第10回	基礎ゼミコンペ　クラス内予選	クラス内でプレゼンテーションを行う。他のグループのプレゼンテーションから学ぶ。
第11回	基礎ゼミコンペ　時限予選	各クラスの選抜チームがプレゼンテーションを行う。他のグループのプレゼンテーションから学ぶ。
第12回	基礎ゼミコンペ　本選	各時限の選抜チームがプレゼンテーションを行う。他のグループのプレゼンテーションから学ぶ。
第13回	グループでの振り返り	一連のグループワークについて振り返り、学習の定着を図る。
第14回	1年間のまとめと振り返り	1年間の学習を振り返り、成果をまとめる。次年度に向けての課題を明確化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業はグループワークが中心となるため、各自授業外で文献収集や文献精読などの学習を行うことが求められます。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
『9割の社会問題はビジネスで解決できる』田口一成著（PHP研究所） 2021年

【成績評価の方法と基準】
平常点50%、レポート等課題50%（総合的に評価します）

【学生の意見等からの気づき】
履修者とのコミュニケーションを大切にします。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを活用します。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purpose of this course is to acquire basic knowledge and skills such as literature collection, group work, field work, and presentation in preparation for activities in the next year Seminar. Exploring individual interests is also required.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
· To deepen understanding and interest in Well-being which is faculty's philosophy.
· To collect literature appropriately according to their interests.
· To constructively exchange opinions with others.
· To collaborate with group members in planning, literature/data collection, and presentation.
· To express one's own opinions and ideas in an academic manner.
【Learning activities outside of classroom】
As the class is mainly based on group work, each student is expected to collect and read literature outside the class.
【Grading Criteria/Policy】
Your overall grade in the class will be decided comprehensively based on the following:
50%in-class contribution, and 50%reports and other assignments.

BSP100JA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

フィールドスタディ入門

岩崎　晋也、水野　雅男、服部　環

配当年次／単位数：1年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会福祉、コミュニティマネジメント、臨床心理に関わる実務領域の内容と課題について理解する。

【到達目標】
現代福祉学部の学生として、所属学科の専門領域にこだわることなく、広く社会福祉、コミュニティマネジメント、臨床心理に目が向けられるような資質を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
３領域に関わる実務家を招いて実務内容について紹介いただく。毎回リアクションペーパーにて授業の感想を提出する。
ソーシャルワーク実習、心理実習の先行履修科目である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義のガイダンス	本講義の進め方、諸注意
第2回	社会福祉分野①	ゲスト講師①による実務内容の紹介と担当教員によるまとめ（岩崎）
第3回	社会福祉分野②	ゲスト講師②による実務内容の紹介と担当教員によるまとめ（岩崎）
第4回	社会福祉分野③	ゲスト講師③による実務内容の紹介と担当教員によるまとめ（岩崎）
第5回	社会福祉分野④	ゲスト講師④による実務内容の紹介と担当教員によるまとめ（岩崎）
第6回	臨床心理分野①	ゲスト講師⑤による実務内容の紹介と担当教員によるまとめ（服部）
第7回	臨床心理分野②	ゲスト講師⑥による実務内容の紹介と担当教員によるまとめ（服部）
第8回	臨床心理分野③	ゲスト講師⑦による実務内容の紹介と担当教員によるまとめ（服部）
第9回	臨床心理分野④	ゲスト講師⑧による実務内容の紹介と担当教員によるまとめ（服部）
第10回	コミュニティマネジメント分野①	ゲスト講師⑨による実務内容の紹介と担当教員によるまとめ（水野）
第11回	コミュニティマネジメント分野②	ゲスト講師⑩による実務内容の紹介と担当教員によるまとめ（水野）
第12回	コミュニティマネジメント分野③	ゲスト講師⑪による実務内容の紹介と担当教員によるまとめ（水野）
第13回	コミュニティマネジメント分野④	ゲスト講師⑫による実務内容の紹介と担当教員によるまとめ（水野）
第14回	実習体験報告	各分野の実習体験内容の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
外部講師の専門分野について予告するので、当該分野の概略を調べて講義に臨むことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
講義の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100％）で評価する。
＊学外実務者からの啓発が重要、リアクションペーパーの内容を重視する。
＊欠席5回以上の場合は評価をしない。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーで評価の高い外部講師に引き続き講義を依頼する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて学習支援システムを通じて情報を伝達する。

【その他の重要事項】
授業を担当する3名の教員がそれぞれ実務経験を有しており、各専門分野で講師を選定し招聘するとともに、講義内容を適宜補足説明する。

【Outline (in English)】
< Course outline>
The aim of this course is to help students acquire the content and issues of practical areas related to social welfare, community management, and clinical psychology.
< Learning Objectives>
By the end of the course, students should be able to do the followings:
Develop qualities that broadly focus on social welfare, community management, and clinical psychology.
< Learning activities outside of classroom>
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy>
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 100%

CUA100JA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 100）

文化人類学

松井　生子

配当年次／単位数：1〜4年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
異なる社会・文化の研究を通じて展開してきた文化人類学は、他者理解・自己理解の学問です。本講義ではさまざまな社会の事例を比較検討しながら、人類の多様性と共通性を把握し、理解することをめざします。

【到達目標】
1．具体的な事例をもとに、自分とは違う他者を理解することの重要性を考えることができる。
2．異なる社会を鏡として、自らが生きる社会とその文化について相対的に捉えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でおこないます。講義全体の前半部で人類学の古典的ともいえるテーマを取り上げ、後半部で今日的な問題意識に基づいたテーマを取り上げます。人々の具体的な姿を知り、学べるように、映像資料を活用します。受講生の理解度や関心を把握するためにリアクションペーパーを提出してもらい、その内容や寄せられた質問について、翌週の授業で全体に対しフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	文化人類学の特徴、社会・文化に関する視点について概観する。
第2回	文化相対主義	文化を相対的に捉えることの意義を考える。
第3回	世界の中に自己を位置づける―儀礼・象徴	人が世界を認識する方法、社会での自己の位置づけ方を検討する。
第4回	社会におけるコミュニケーション―贈与交換	モノのやりとりを通した人間関係の構築について考察する。
第5回	社会に埋め込まれた経済	経済の多様な側面、他領域との連関について検討する。
第6回	むすぶ行為としての結婚	結婚が人々をむすびつける働きや、さまざまな結婚形態について考察する。
第7回	「関係性」の中の親子・家族	「関係性」をキーワードに、親子・家族のあり方について考察する。
第8回	「民族」とは何か	「民族」を固定的・本源的なものとする見方を離れ、その生成および可変性について考察する。
第9回	マイノリティとマジョリティ	多数派と少数派の力関係、公平性の維持について考察する。
第10回	国境を越える労働者	外国人労働者との協働・共生について検討する。
第11回	ジェンダーと身体の構築性	人間における性の多様性、男女の性差のイメージの形成、カテゴリー認識の身体化について考察する。
第12回	争いと平和	戦争および災害後の社会の再生について考察する。
第13回	環境と人間	環境の文化的・社会的側面について考える。
第14回	総括・最終レポート	これまでの授業の総括・最終レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で取り上げるテーマに関し、予習として、学習支援システムで配信する資料（レジュメ）を確認し、講義の概要と構成について理解しておくこと。授業後は関心を持った事柄について、文献やウェブサイト等を用いて調べ、気付きや疑問を整理し、最終レポートの作成に活かしてください。準備・復習、および事後の発展学習の時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
1．梅屋潔, シンジルト（共編）『文化人類学のレッスン：フィールドからの出発』2017年、学陽書房.
2．越智郁乃・関恒樹・長坂格・松井生子（共編）『グローバリゼーションとつながりの人類学』2021年、七月社.
※ 他に、授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーと授業への取り組み姿勢による平常点（40％）および最終レポート（60％）により、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進め方について随時受講生の意見を聞き、授業に反映させていきます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを用いて事前に資料（レジュメ）を配信します（教室では印刷したものを配布します）。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、各回の内容や順番に変更がありえます。

【Outline (in English)】
Using anthropological theories and methodology, this class seeks to explore diversity, differences and similarities among humans. Its overall aim is to offer students an analytical toolkit for thinking about ourselves and “the others”. We will examine a wide range of case-studies around the globe, in an effort to gain comparative understanding of human cultures. At the same time, we will examine our own society and culture from a relativistic standpoint. Topics include gift exchange, ritual, marriage, kinship, ethnicity, global processes, gender and human/non-human relationships.
Before and after attending each class, students will be expected to spend four hours to acquire full understanding of the course content by reading related books and writing. Grading will be decided based on short reports and in-class contribution(40%), and term-end report(60%).

TRS100JA（観光学 / Tourism Studies 100）

ホスピタリティ論

山田　祐子

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講座は、講師のホテル業やサービスに関するリサーチやコンサルティング経験をもとに、ホスピタリティの基本概念を学んだ後、いくつかのケース・スタディを通じて課題や現状を学ぶ。本講座の目的は、受講生が、表象的なホスピタリティだけではなく、サービス産業の経営戦略にホスピタリティの概念が用いられている重要性を理解できるようになることである。

【到達目標】
1. ホスピタリティの基本的な概念や本質を理解できるようになる。
2. サービス産業の構造を理解し、ホスピタリティの位置づけを説明することができる。
3. 授業の一環で行う小テストやケース・スタディの学修によって情報収集力や課題発見力を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で進められる。受講生は、講義期間中の小テストを受け、ケース・スタディへのリアクションを提出することが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ホスピタリティの概念	授業の進め方や注意点を説明。ホスピタリティの概念を解説する。
第2回	ホスピタリティの実践	ホスピタリティの実践に有効な思考法を解説する。
第3回	ホスピタリティと産業	ホスピタリティと産業界の関係を解説する。
第4回	ホスピタリティとマナー	ホスピタリティの実践に有効な言葉遣いや態度などを解説する。
第5回	ホスピタリティと感情労働	感情労働やクレーム対応を解説する。
第6回	ホスピタリティと顧客満足	ホスピタリティと顧客満足度の関係を解説する。
第7回	ホスピタリティと従業員満足	ホスピタリティと従業員満足度の関係を解説する。
第8回	ケース・スタディ①宿泊業(1)	ホテル旅館業がホスピタリティを活用する事例を紹介する。
第9回	ケース・スタディ②宿泊業(2)	ホテルコンシェルジュがホスピタリティを実践する事例を紹介する。
第10回	ケース・スタディ③鉄道業	観光列車や鉄道の清掃会社がホスピタリティを活用する事例を紹介する。
第11回	ケース・スタディ④テーマ・パーク業	テーマ・パーク業がホスピタリティを活用する事例を紹介する。
第12回	ケース・スタディ⑤医療機関	医療機関がホスピタリティを活用する事例を紹介する。
第13回	ケース・スタディ⑥学習支援機関	学習支援機関がホスピタリティを活用する事例を紹介する。
第14回	ホスピタリティの展望、講座の総括	全授業内容の総括。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前週に翌週の受講に必要な情報収集や小テストの範囲を連絡するので予習（2時間）をして授業に臨む。また、小テストの結果とリアクションの内容を講師の解説をもとに復習(2時間)しておく。

【テキスト（教科書）】
教科書は無し。講義資料は映写し、授業後、学習支援システム上に格納する。

【参考書】
1. 社会人ホスピタリティ 要点チェック&確認問題
2. 新版　社会人ホスピタリティ　要点チェック＆確認問題

【成績評価の方法と基準】
1. 平常点 30％（授業参加度）
2. 小テスト 40％（10点×4回）
3. リアクション 30%（ケース・スタディに対して）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
学生は、講義中に資料閲覧や小テスト受験のために学習支援システムを使用する。システムが利用できる電子機器類の持参が求められる。

【その他の重要事項】
1. 出欠席や遅刻の扱い
第１回目の授業で説明する。
2. 授業進行や評価方法の変更
極端に履修者数が多い場合や少ない場合には、授業の進行方法や評価方法を変更する場合がある。その際には、授業中の告知と学習支援システムにより周知する。
3. 実務経験の有無
宿泊業（ホテル）の業務経験、宿泊業や地域活性化のコンサルティング業務経験

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces the concept of hospitality, its necessity and characteristics in today's society to students taking this course.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to explain basic concepts of hospitality, explain the position of hospitality in the Service industry. At the end of the course, students are expected to consider the challenges of hospitality in the Service industry.
【Learning activities outside of classroom】
The instructor will provide information needed for the following week's class and the scope of the examination the previous week, so students are expected to prepare (2 hours) for the class. Additionally, students should review (2 hours) the examination results and the content of their reflection writing based on the instructor's explanation.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on in-class contribution(30%), multiple midterm examination(40%) , reflection writing on the case study (30%),

LAW100JA（法学 / law 100）

法学

清水　弥生

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①市民として知識を備えておくべき基本的な法である刑法、民法、労働法の、趣旨と基本内容を学ぶ。②刑法、民法、労働法の現実社会での適用の仕組みを学ぶ。

【到達目標】
①刑法の基礎知識の修得を通じて、公正かつ適切に判断する基本知識を得る。②民法の基礎知識の修得を通じて、権利と義務の関係、自由と責任について法的にとらえる力を得る。③労働法の基礎知識の修得を通じて、少子高齢問題や社会保障財源不足問題を抱える現代の社会の中で働く際の法的根拠を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
対面講義形式①レジュメを前日までに学習支援システムにアップします。教室内にも一定数配置します。②小テストの無い回に、リアクションペーパーを配布しますので、講義内で理解したことを５行程度以内に記し提出してもらいます。前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に対してフィードバックを行うことがあります。③オンラインで実施する計３回各７点満点の小テストを、授業時間終了１０分前から配信します。対面授業は出席が前提なので当日中の締め切りです。スマホやPCの無い人は学内の施設を利用すること。締め切り終了後に統計とともに点数をフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要の説明。刑法の役割	全体の流れと学び方。罪とは刑罰とは何か。
第2回	刑法の基本原則	罪刑法定主義
第3回	刑法の適用①	犯罪の構成要件
第4回	刑法の適用②	違法性阻却事由、責任阻却事由、故意
第5回	民法の役割と３原則	過失責任主義と私的自治の原則と所有権絶対の原則
第6回	民法の3原則の例外①	PL法、時効
第7回	民法の3原則の例外②	制限行為能力者
第8回	家族関係と法	婚姻、夫婦、扶養
第9回	財産関係と法①	契約の成立と意思表示
第10回	労働法①	労働法の意義と労働条件の決定
第11回	労働法②	労働契約の成立まで
第12回	労働法③	労働時間
第13回	労働法④	賃金、休憩、休日
第14回	労働法⑤	労働災害。学び残したこと

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
＜準備学習＞２時間①翌週範囲の参考資料を前週に示すので、レジュメ内のURLにアクセスするなどし、社会背景等の大まかな理解を独自にしておく。
＜復習＞２時間①オンラインの計３回各７点満点の小テストの復習。②背後にある制度や根拠法を復習し、意義を自分なりにまとめ、理解を再構築する。③記述定期テストに備え、法的知識を確認する

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
末川博先生等、どなたのでもよいので、「法学」の入門書を薦めます。労働法部分では、「18歳から考えるワークルール（第３版）」（法律文化社）が簡潔でわかりやすいです。

【成績評価の方法と基準】
①２０％。各回の内容についての、オンラインで行う小テスト３回各７点満点。授業内に開始し、当日中締切。
②２０％。各回の内容について、理解したことの記述のリアクションペーパー。対面授業時間内提出。予定では11回。ただし第１回は成績に算入しません。
③６０％。対面記述定期試験。持ち込み不可。授業内定期試験の予定。ただし、皆さんの理解度と進度により、定期試験期間中定期試験となることもあり得ます。
＊①②の回数は、受講者数と学内サイトアクセス可能状況により変更する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい言葉で、ゆっくり伝えるようにこころがけます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通じたオンラインの小テストが3回あります。
シラバスに記述した通り当日23時59分までに提出が必要です。

【その他の重要事項】
①全て対面の予定です。内容も幅広いので出席する意欲のある人が受講してください。
②疑問点は、遠慮なく、授業時間終了後、あるいは掲示板で質問してください。
③成績評価は、多種類の総合評価です。範囲が広く、進度が早いので復習することが苦にならない人、出席と提出を怠らない人の受講を希望します。
④シラバス内容は、皆さんの理解により前後したり、変更することがあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course introduces criminal law,civil law and labour law to students taking this course.
【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to have knoowledge of these law, which should have knowledge as citizen.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
preparation Learning ： 2H:Understand about social background of
next week range.
post-learning ： 2H:① Produce the short exams by on line. ② Understand about the rationale Law. ③ Prepare for final exam .
【Grading Criteria /Policy】
①short exams by on line 20%(about 3 times.7 points for each time. Start during class time. Deadline:23:59 on the day.)
② comment papers 20%(face to face. About 11times. 2 points for each time.)
③final exam 60%(1time)
【References】 I recommend a primer of law,it doesn't matter who wrote it.
【Comments】I will try to speak in easy-to-understand language.

LAW100JA（法学 / law 100）

日本国憲法

清水　弥生

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①日本国憲法は誰に対し何を定め、どのように国家をコントロールしているのかという基本知識を包括的に学ぶ。②基本的人権の保障と民主主義という観点から、統計などの諸資料を通じ、社会事情の変化や社会通念の変化を学ぶ。そしてそれらが最高裁判例にどのように映り込んできたかを学ぶ。

【到達目標】
①各テーマごとに、憲法の基本的な法的性質をひとに説明することができる。②各テーマごとに、憲法の現代における課題をひとに説明することができる。③広い視野から現代の社会について主体的に考察するための、少しでも高いレベルの基礎知識を得ている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
対面講義形式①レジュメを前日までに学習支援システムにアップします。教室内にも一定数配置します。②リアクションペーパーを配布しますので、講義内で理解したことを５行程度以内に記し提出してもらいます。あるいは、簡単な課題に答えて提出してもらうことがあります。授業の初めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に対してフィードバックを行うことがあります。
③オンラインのホッピー上で実施する計３回の小テスト（各７点満点）を、授業時間終了約１０分前から配信します。対面授業は出席が前提なので当日中の締め切りです。受験機能のスマホやPCを持たない人は学内の施設を利用すること。締め切り終了後に点数を統計とともにフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要の説明。憲法とはなにか。	憲法の特徴。
第2回	憲法の構造	権力分立と法の支配について。
第3回	国会・内閣・裁判所	三権と裁判所の権能。
第4回	司法権	裁判所の権能
第5回	国民主権と象徴天皇制	主権と国民主権。天皇
第6回	基本的人権の及ぶ範囲	人権と外国人（マクリーン事件等）
第7回	基本的人権の適用関係	憲法の私人間適用（三菱樹脂事件等）
第8回	平等とは何か	絶対的平等と相対的平等。実質的平等と形式的平等。
第9回	日本国憲法と平等	（夫婦別姓事件）（生後認知子国籍法事件等）
第10回	13条と新しい人権としての幸福追求権	幸福追求権の多様性について
第11回	13条と新しい人権としての人格権	人格権と最高裁判例
第12回	表現の自由の今日的意義	事前抑制と検閲の禁止の違いについて（北方ジャーナル事件等）
第13回	表現の自由と名誉棄損	人権と人権の衝突としての名誉棄損、プライバシー侵害。（「宴のあと」事件等）
第14回	表現の自由とネット社会	グーグル事件ツイッター事件最高裁判決等、および学び残したこと

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
＜準備学習＞2時間①翌回範囲のレジュメを事前にアップしておくので、その概要や参考資料に目を通しておく。社会背景等の大まかな理解を独自にしておく。
＜復習＞2時間①授業内で学んだ事件や判例について、背後にある制度や根拠法を復習し、判例の意義を自分なりにまとめ、理解を再構築する。③小テストに備える。
④定期試験としての記述試験に備え、法的な知識を確認する。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
学びの助けとして、芦部信喜、伊藤正巳、末川博先生など「憲法」関連著作。

【成績評価の方法と基準】
①２０％。各回の内容についての、オンラインで行う小テスト計3回。各回７点満点。授業内に開始し、当日中締切り。スマホやPCなどの受験機能を所有していない人は学内のPCなどから受験してください。送受信の安定した環境で受験するようにしてください。
②２０％。各回の内容について、理解したことの記述のリアクションペーパー。対面授業時間内提出。予定では11回。ただし、第１回は成績評価に算入しません。
③６０％。対面記述定期試験。持ち込み不可。授業内定期試験の予定。ただし、皆さんの理解度と進度により、定期試験期間中定期試験となることもありえます。
＊①②の回数は、受講者数と学内サイトアクセス可能状況により変更する場合がありえます。

【学生の意見等からの気づき】
なるべくわかりやすい言葉を用いるように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインの小テストがあるので、送受信環境。

【その他の重要事項】
①全て対面の予定なので、出席する意欲のある人が受講してください。
②疑問点は、遠慮なく、授業終了後、あるいは掲示板上で質問してください。
③成績評価は、多種類の総合評価です。範囲が広く、進度が早いので復習することが苦にならない人、出席と提出を怠らない人の受講を希望します。
④シラバス内容は、皆さんの理解により前後したり、変更することがあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】You learn　comprehensively the basic knowledge of the Japanese Constitution.You learn　how the Japanese Constitution controls the state.From the viewpoint of fundamental human rights security and democracy,you learn changes in social circumstances and changes in social wisdom through materials such as statistics.And you learn how it affected the Supreme Court precedent.
【Learning Objectives】At the end of the course, you can explain about the nature of the constitution. ② You can explain about the constitutional Challenges. ③ You can gain foundational knowledge of constitution.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
preparation Learning ： 2H:Understand about social background of next week range.
post-learning ： 2H:① Produce the short exams by on line. ② Understand about the rationale Law. ③ Prepare for final exam .
【Grading Criteria /Policy】
①short exams by on line 20%(about 3 times.7 points for each time. Start during class time. Deadline:23:59 on the day.)
② comment papers 20%(face to face. About 11times. 2 points for each time.)
③final exam 60%(1time)
【References】 I recommend a primer of constitution,it doesn't matter who wrote it.
【Comments】I will try to speak in easy-to-understand language.

SOC100JA（社会学 / Sociology 100）

老年学

新名　正弥

配当年次／単位数：1～4年次／2単位
備考（履修条件等）：**現代福祉学部以外のSSI生は授業コード「N5117」を選択すること。**

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
老年学は、生物が普遍的に経験する「加齢・老化」現象を人間の視点から学際的に捉えることを目的とする学問領域である。本講義では、老年学の生物学的、心理学的、社会心理学的、社会学的視点を網羅的に解説するとともに、特に社会老年学領域のテーマについて重点的に解説を行う。一方で、老年学の学際性故に老いに対する様々な見方があり、その見方によって「問題の所在とその社会的対応」が異なることも学ぶ。

【到達目標】
老年学の方法及び理論、人口論、身体、心・精神、社会、政治、環境、死などの各テーマにおける視座と現代的課題を学ぶ。加えて、老化に係わる課題に対応するための個人的適応及び社会政策による対応について海外の動向を関連させ学ぶ。これらの作業を通じて、人間の老いという現象を社会や文化、そして価値による影響を含めて多角的に理解する。加えて、学生が現実の政策課題について理論的な思考を応用的に展開できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
主に講義を中心に進め、映像資料を多数用いる。各回の内容についてリアクションペーパーを記すことで理解を深めてもらう。また、課題のフィードバックはLMS等を通じて適宜コメントする他、課題提出翌週の講義開始時に解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のねらい、講義の構成、スケジュール、成績評価
第2回	老年学とは	老化・加齢について、老年学・社会老年学のアプローチ
第3回	人口の高齢化	人口高齢化、少子化、地域差と社会変動の影響
第4回	老化と身体	高齢者の寿命 高齢者の疾病と障害
第5回	老いと心・精神	高齢者の心と知能、感情と欲求、パーソナリティ 心理的適応 老いと発達（生涯発達理論と老年的超越）
第6回	高齢期の健康問題と対応	老化と健康 認知症
第7回	老化の社会学理論①	活動理論、離脱理論、継続性理論等の老化に関する社会学理論
第8回	老化の社会学理論②	老いに対する態度、エイジズム 老化の政治経済学的アプローチ、ポストモダンアプローチ
第9回	高齢期の社会関係と社会参加①	高齢期の家族・社会関係
第10回	高齢期の社会関係と社会参加②	雇用、ボランティア、政治参加
第11回	高齢社会の問題と政策対応	社会問題の社会学アプローチと構造化された依存
第12回	老いと経済	経済格差と政策対応
第13回	老い、医療・介護、終末期	多死社会における医療・介護・終末の課題
第14回	高齢社会の構造（グローバリゼーション、老いを取り巻く社会構造の変化）	少子高齢社会の展開と政策課題について検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞、雑誌、書籍、テレビ番組等から関連するテーマについて日頃から注意しておくこと。また、自身の高齢者との経験について振り返っておくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。授業前に資料を配付する。

【参考書】
国民の福祉と介護の動向（厚生労働統計協会）
高齢社会白書（厚生労働省）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーによる各回の振り返り、クイズ、レスポンスペーパー（40％）、期末レポート（60％）によって総合的に判定する。

【学生の意見等からの気づき】
領域が広い教科であるが、標準的な体系が確立していない学問分野なので、一回その都度完結型の講義を心がける。

【その他の重要事項】
老年学は、高齢者福祉論、介護福祉論、介護保険制度を理解するための基盤となる科目なので、高齢者や高齢社会に関して発展的学習を行う予定の学生に対して網羅的かつ基礎的な知識を提供することを心がけたい。

【Outline (in English)】
Gerontology is an interdisciplinary subject dealing with the aging of humans and society surrounding the elderly. The lecture aims to comprehensively describe the biological, psychological, social-psychological, and sociological perspectives of gerontology and explain the themes, especially in social gerontology. On the other hand, because of the multidisciplinary nature of gerontology, the lecture aims to exemplify how values embedded in perspectives of gerontological theories differently affect the understanding of social issues surrounding aging and its policy response.
By the end of the course, students are expected to understand the basic terms and theories concerning aging.
Before the lecture, students must tackle assignments (about 2 hours). After the class, students are asked to answer quizzes (about 2 hours).
The course's grading will be based on quizzes/assignments (40%) and term-reports (60%).

BAM100JA（基礎医学 / Basic medicine 100）

人体の構造と機能及び疾病

瀬戸　宏明

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、心身機能、身体の構造と機能及び疾病について、社会福祉や臨床心理に必要な基礎的な医学知識を身につける。

【到達目標】
心身機能、身体の構造と機能及び疾病について、基礎的な知識を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書に沿いながら、身体の構造と機能及び疾病について基礎的な知識を学習する。必要に応じてビデオなどの視聴覚教材を使い、理解を深める手助けとする。社会情勢などによってはオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更等については、学習支援システムでその都度提示します。
課題等についてのフィードバックは必要に応じて学習支援システムを通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人の成長・発達と老化	「身体の成長・発達」「精神の成長・発達」「老化」
第2回	心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害	心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害について概要を説明
第3回	疾病の概要（1）	「生活習慣病」「悪性腫瘍」「脳血管疾患」「心疾患」「高血圧」
第4回	疾病の概要（2）	「糖尿病と内分泌疾患」「呼吸器疾患」「消化器疾患」「血液疾患と膠原病」「腎臓疾患」「泌尿器系疾患」
第5回	疾病の概要（3）	「骨・関節疾患」「目・耳の疾患」「感染症」「神経疾患と難病」「先天性疾患」「その他の高齢者に多い疾患」
第6回	がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾患	がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾患について概説する
第7回	国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要	国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について説明する。
第8回	障害の概要（1）	「視覚障害」「聴覚障害」「平衡機能障害」「肢体不自由」「内部障害」
第9回	障害の概要（2）	「知的障害」「発達障害」「認知症」「高次機能障害」「精神障害」
第10回	リハビリテーションの概要（1）	「リハビリテーションとは」「リハビリテーションにおける障害評価」「リハビリテーションの諸段階」
第11回	リハビリテーションの概要（2）	「リハビリテーションにかかわる専門職」「リハビリテーションの四つの側面」
第12回	健康のとらえ方（1）	「健康の概念とプライマリヘルスケア」「日本の人口統計」
第13回	健康のとらえ方（2）	「人口の高齢化と家族」「国民健康づくり対策」「感染症対策」「産業保健」「歯科保健」
第14回	授業内テスト（期末テスト）を通しての授業全体の振り返り	期末テストによって授業全体の振り返り学習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業予定の講義内容にかかわるテキスト部分を、その都度事前に目を通して予習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし
（参考書参照のこと）

【参考書】
最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座1 医学概論
中央法規出版

【成績評価の方法と基準】
①出欠確認：必要に応じて、出席を確認する。
②試験方法：期末に筆記試験を行う。参考書、ノート類の持ち込みは一切＜不可＞
③採点基準：単位認定試験で原則100%
ただし授業内で小テストを課すことがある。
小テストは単位認定試験の点数と合わせて最終成績を決定するための点数算出に用いる場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
適宜、解説用の補助プリントを作成し授業支援システムに掲示する。

【その他の重要事項】
上記の授業スケジュールは授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, students will gain general medical knowledge by being able to identify and describe human body structure, function and disease relevant for social welfare and clinical psychology.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
－ Mental and physical function
－ body structure and function
－ illness
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process
term-end examination (100%),

BME100JA（人間医工学 / Biomedical engineering 100）

リハビリテーション概論

後藤　圭介、酒井　克也、細井　雄一郎

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々な病気によって引き起こされるヒトの障害と、それに対するリハビリテーションの関係について、特に臨床的な観点をふまえながら学ぶ。また、身体機能のみでなく社会的観点も踏まえ包括的なリハビリテーションの重要性も考えていく。そうした過程を通して、医療・福祉視点の知識に留まらず、一般的な日常生活の観点からも、障害やリハビリテーションを考えることの重要性を身に着ける。最終的には、現代のリハビリテーションサービスの現状に対して、自分なりの意見を考えアウトプットできることを目指す。

【到達目標】
各種疾患について学び、世の中にはどのような障害あり、その障害を持った人たちがどのように困っているのかを理解する。また、それに対してどういった取り組みをしていくべきか、そうした障害を抱えている人達にどうすれば寄り添えるか考えられるようになる。また、疾患のみでなく、ヒトのそもそもの認知機能や身体機能の基本的な知識も学びながら、より障害を持った方々の大変さを実感手出来ることを目指す。また同時に、得られた知識に基づく考えを発信できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講師が作成した資料に沿いながら、障害の概念や人体の構造と機能、及び疾病について基礎的な知識を学習する。必要に応じてビデオなどの視聴覚教材を使い、理解を深める手助けとする。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。各講義内において、質疑の時間設定し、疑問点の解消を目指す。また、適宜グループディスカッションを取り入れ、自分たちの意見交換をする中で、多様な考えを受け入れる能力を身に着ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リハビリテーションの概要	リハビリテーションの成り立ちから、その構成要素取り巻く社会システムについて。(後藤)
第2回	リハビリテーションに関わる職種	リハビリテーションに関わる各職種の専門性について。(後藤)
第3回	リハビリテーションと障害	リハビリテーションが関わる多様な障害像について、その概要。(後藤)
第4回	小児疾患のリハビリテーション	脳性麻痺を中心にその障害からリハビリテーションについて。(後藤)
第5回	高齢者に対するリハビリテーション1	現代の高齢者が直面する身体、精神面での問題についての理解。(酒井)
第6回	高齢者に対するリハビリテーション2	医療・介護両方の観点から、高齢者に必要なリハビリテーションに関して。(酒井)
第7回	運動器疾患のリハビリテーション	骨折から変形性関節症を中心に、疾患の概要とその障害に関して。(酒井)
第8回	脳卒中のリハビリテーション1	脳卒中の病態から障害の理解。(細井)
第9回	脳卒中のリハビリテーション2	脳卒中後遺症に対するリハビリテーションの概要から各論まで。(細井)
第10回	難病のリハビリテーション	神経難病からリウマチまで、難病へのリハビリテーションの理解。(細井)
第11回	がん患者に対するリハビリテーション	悪性腫瘍の病態・リハビリテーショの現実。(細井)
第12回	高次脳機能障害に対するリハビリテーション	様々な疾患の高次脳機能障害を中心にその障害からリハビリテーションについて。(酒井)
第13回	地域社会におけるリハビリテーション	福祉からみたリハビリについて。(細井)
第14回	授業のまとめ(授業内試験)	これまで学んだリハビリテーションに関する知識についての試験。(酒井)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、講義に即した資料が提供されるので、それを用いて適宜復習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義資料を中心に進め，参考資料は適時紹介する。

【参考書】
特に参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】
試験：期末試験を実施する。
採点基準：期末試験100％

【学生の意見等からの気づき】
毎回、講義に際してリアクションペーパーを用い、必要な改善点はその際にフィードバックしてもらう。また、期末テスト時にも希望者には感想を書いてもらい、次年度の講義に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduces the concept and details of rehabilitation by showing the specific cases of some disorders.
Learning activities outside of classroom: We recommend reviewing our materials and, if possible, looking for the related news by using the internet or any other media.
Learning Objectives: The aim of this class is to learn the characteristics of disabilities associated with some typical diseases, and the related examples of clinical rehabilitation to treat the disabilities.
Grading Criteria/Policies: Final grade will be decided based on the following process; term-end examination 100%. We aim for having the students' own opinions and show them. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

HSS100JA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ総合Ⅰ

坪田　智夫

配当年次／単位数：1～4年次／1単位
備考（履修条件等）：**体育会の活動により本科目の単位修得を望む場合は、別途申請が必要となります。事務課にお問い合わせください。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々なスポーツを行い体を動かす楽しさを感じてもらいながら、基礎動作やルールを習得し楽しくスポーツを学ぶ。

【到達目標】
・各種目のルールや基本動作の獲得。
・スポーツを通しての人間形成。
・体力の維持向上。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
各種目を２週間続けて行う予定。基本は１週目を基礎的な運動、２週目はゲームを中心とした時間。天候や競技場の確保により内容や種目の変更があります。
課題に対しては、授業内やHoppii等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	運動能力検査	ガイダンス・運動適正検査
第2回	身体能力検査	身体測定・筋力測定
第3回	サッカー①	・ルール説明 ・基礎練習
第4回	サッカー②	・ゲーム
第5回	アルティメット①	・ルール説明 ・基礎練習
第6回	アルティメット②	・ゲーム
第7回	バスケットボール①	・ルール説明 ・基礎練習
第8回	バスケットボール②	・ゲーム
第9回	テニス①	・ルール説明 ・基礎練習
第10回	テニス②	・ゲーム
第11回	ソフトボール①	・ルール説明 ・基礎練習
第12回	ソフトボール②	・ゲーム
第13回	バトミントン①	・ルール説明 ・基礎練習
第14回	バトミントン②	・ゲーム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本ルールを学習しておいてもらいたい。１００分間体を動かす授業となります、体調を整えて出席するようにして下さい.
準備・復習時間は、計１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（８０％）
運動の習得率（２０％）

【学生の意見等からの気づき】
各種目で全員で楽しく参加できるように授業を進めていく。

【Outline (in English)】
Course outline:
While studying various sports and moving the body, learn basic motions and rules and learn sports happily.
Learning Objectives:
· Acquisition of rules and basic actions for each item
· Human formation through sports
· Maintaining and improving physical fitness
Learning activities outside of classroom：
I want you to learn the basic rulesIt will be a 100-minute physical activity class, so please be in good physical condition and attend.
Grading Criteria /Policy:
Normal point (80%)Exercise acquisition rate (20%)

HSS100JA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ総合Ⅰ

坪田　智夫

配当年次／単位数：1～4年次／1単位
備考（履修条件等）：**体育会の活動により本科目の単位修得を望む場合は、別途申請が必要となります。事務課にお問い合わせください。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々なスポーツを行い体を動かす楽しさを感じてもらいながら、基礎動作やルールを習得し楽しくスポーツを学ぶ。

【到達目標】
・各種目のルールや基本動作の獲得。
・スポーツを通しての人間形成。
・体力の維持向上。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
各種目を２週間続けて行う予定。基本は１週目を基礎的な運動、２週目はゲームを中心とした時間。天候や競技場の確保により内容や種目の変更があります。課題に対しては、授業内やHoppii等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	運動能力検査	ガイダンス・運動適正検査
第2回	身体能力検査	身体測定・筋力測定
第3回	サッカー①	・ルール説明 ・基礎練習
第4回	サッカー②	・ゲーム
第5回	アルティメット①	・ルール説明 ・基礎練習
第6回	アルティメット②	・ゲーム
第7回	バスケットボール①	・ルール説明 ・基礎練習
第8回	バスケットボール②	・ゲーム
第9回	テニス①	・ルール説明 ・基礎練習
第10回	テニス②	・ゲーム
第11回	ソフトボール①	・ルール説明 ・基礎練習
第12回	ソフトボール②	・ゲーム
第13回	バトミントン①	・ルール説明 ・基礎練習
第14回	バトミントン②	・ゲーム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本ルールを学習しておいてもらいたい。１００分間体を動かす授業となります、体調を整えて出席するようにして下さい.
準備・復習時間は、計１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（８０％）
運動の習得率（２０％）

【学生の意見等からの気づき】
各種目で全員で楽しく参加できるように授業を進めていく。

【Outline (in English)】
Course outline:
While studying various sports and moving the body, learn basic motions and rules and learn sports happily.
Learning Objectives:
· Acquisition of rules and basic actions for each item
· Human formation through sports
· Maintaining and improving physical fitness
Learning activities outside of classroom：
I want you to learn the basic rulesIt will be a 100-minute physical activity class, so please be in good physical condition and attend.
Grading Criteria /Policy:
Normal point (80%)Exercise acquisition rate (20%)

HSS100JA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ総合Ⅰ

坪田　智夫

配当年次／単位数：1～4年次／1単位
備考（履修条件等）：**体育会の活動により本科目の単位修得を望む場合は、別途申請が必要となります。事務課にお問い合わせください。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々なスポーツを行い体を動かす楽しさを感じてもらいながら、基礎動作やルールを習得し楽しくスポーツを学ぶ。

【到達目標】
・各種目のルールや基本動作の獲得。
・スポーツを通しての人間形成。
・体力の維持向上。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
各種目を２週間続けて行う予定。基本は１週目を基礎的な運動、２週目はゲームを中心とした時間。天候や競技場の確保により内容や種目の変更があります。課題に対しては、授業内やHoppii等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	運動能力検査	ガイダンス・運動適正検査
第2回	身体能力検査	身体測定・筋力測定
第3回	サッカー①	・ルール説明 ・基礎練習
第4回	サッカー②	・ゲーム
第5回	アルティメット①	・ルール説明 ・基礎練習
第6回	アルティメット②	・ゲーム
第7回	バスケットボール①	・ルール説明 ・基礎練習
第8回	バスケットボール②	・ゲーム
第9回	テニス①	・ルール説明 ・基礎練習
第10回	テニス②	・ゲーム
第11回	ソフトボール①	・ルール説明 ・基礎練習
第12回	ソフトボール②	・ゲーム
第13回	バトミントン①	・ルール説明 ・基礎練習
第14回	バトミントン②	・ゲーム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本ルールを学習しておいてもらいたい。１００分間体を動かす授業となります、体調を整えて出席するようにして下さい.
準備・復習時間は、計１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（８０％）
運動の習得率（２０％）

【学生の意見等からの気づき】
各種目で全員で楽しく参加できるように授業を進めていく。

【Outline (in English)】
Course outline:
While studying various sports and moving the body, learn basic motions and rules and learn sports happily.
Learning Objectives:
· Acquisition of rules and basic actions for each item
· Human formation through sports
· Maintaining and improving physical fitness
Learning activities outside of classroom：
I want you to learn the basic rulesIt will be a 100-minute physical activity class, so please be in good physical condition and attend.
Grading Criteria /Policy:
Normal point (80%)Exercise acquisition rate (20%)

HSS100JA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ総合Ⅱ

坪田　智夫

配当年次／単位数：**1～4年次／1単位**
備考（履修条件等）：**体育会の活動により本科目の単位修得を望む場合は、別途申請が必要となります。事務課にお問い合わせください。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々なスポーツを行い体を動かす楽しさを感じてもらいながら、基礎動作やルールを習得し楽しくスポーツを学ぶ。

【到達目標】
・各種目のルールや基本動作の獲得。
・スポーツを通しての人間形成。
・体力の維持向上。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
各種目を２週間続けて行う予定。基本は１週目を基礎的な運動、２週目はゲームを中心とした時間。天候や競技場の確保により内容や種目の変更があります。
課題に対しては、授業内やHoppii等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゴルフ①	・ルール説明
		・基本練習
第2回	ゴルフ②	・ゲーム
第3回	フットサル①	・ルール説明
		・基本練習
第4回	フットサル②	・ゲーム
第5回	バレーボール①	・ルール説明
		・基本練習
第6回	バレーボール②	・ゲーム
第7回	テニス①	・ルール説明
		・基本練習
第8回	テニス②	・ゲーム
第9回	ソフトラクロス①	・ルール説明
		・基本練習
第10回	ソフトラクロス②	・ゲーム
第11回	バトミントン①	・ルール説明
		・基本練習
第12回	バトミントン②	・ゲーム
第13回	ソフトボール①	・ルール説明
		・基本練習
第14回	ソフトボール②	・ゲーム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本ルールを学習しておいてもらいたい。１００分間体を動かす授業となります、体調を整えて出席するようにして下さい。
準備・復習時間は、計１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（８０％）
運動の習得率（２０％）

【学生の意見等からの気づき】
各種目で全員で楽しく参加できるように授業を進めていく。

【Outline (in English)】
Course outline:
While studying various sports and moving the body, learn basic motions and rules and learn sports happily.
Learning Objectives:
· Acquisition of rules and basic actions for each item
· Human formation through sports
· Maintaining and improving physical fitness
Learning activities outside of classroom：
I want you to learn the basic rulesIt will be a 100-minute physical activity class, so please be in good physical condition and attend.
Grading Criteria /Policy:
Normal point (80%)Exercise acquisition rate (20%)

HSS100JA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ総合Ⅱ

坪田　智夫

配当年次／単位数：**1～4年次／1単位**
備考（履修条件等）：**体育会の活動により本科目の単位修得を望む場合は、別途申請が必要となります。事務課にお問い合わせください。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々なスポーツを行い体を動かす楽しさを感じてもらいながら、基礎動作やルールを習得し楽しくスポーツを学ぶ。

【到達目標】
・各種目のルールや基本動作の獲得。
・スポーツを通しての人間形成。
・体力の維持向上。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
各種目を２週間続けて行う予定。基本は１週目を基礎的な運動、２週目はゲームを中心とした時間。天候や競技場の確保により内容や種目の変更があります。課題に対しては、授業内やHoppii等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゴルフ①	・ルール説明 ・基本練習
第2回	ゴルフ②	・ゲーム
第3回	フットサル①	・ルール説明 ・基本練習
第4回	フットサル②	・ゲーム
第5回	バレーボール①	・ルール説明 ・基本練習
第6回	バレーボール②	・ゲーム
第7回	テニス①	・ルール説明 ・基本練習
第8回	テニス②	・ゲーム
第9回	ソフトラクロス①	・ルール説明 ・基本練習
第10回	ソフトラクロス②	・ゲーム
第11回	バトミントン①	・ルール説明 ・基本練習
第12回	バトミントン②	・ゲーム
第13回	ソフトボール①	・ルール説明 ・基本練習
第14回	ソフトボール②	・ゲーム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本ルールを学習しておいてもらいたい。１００分間体を動かす授業となります、体調を整えて出席するようにして下さい。
準備・復習時間は、計１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（８０％）
運動の習得率（２０％）

【学生の意見等からの気づき】
各種目で全員で楽しく参加できるように授業を進めていく。

【Outline (in English)】
Course outline:
While studying various sports and moving the body, learn basic motions and rules and learn sports happily.
Learning Objectives:
· Acquisition of rules and basic actions for each item
· Human formation through sports
· Maintaining and improving physical fitness
Learning activities outside of classroom：
I want you to learn the basic rulesIt will be a 100-minute physical activity class, so please be in good physical condition and attend.

Grading Criteria /Policy:
Normal point (80%)Exercise acquisition rate (20%)

HSS100JA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ総合Ⅱ

坪田　智夫

配当年次／単位数：**1～4年次／1単位**
備考（履修条件等）：**体育会の活動により本科目の単位修得を望む場合は、別途申請が必要となります。事務課にお問い合わせください。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々なスポーツを行い体を動かす楽しさを感じてもらいながら、基礎動作やルールを習得し楽しくスポーツを学ぶ。

【到達目標】
・各種目のルールや基本動作の獲得。
・スポーツを通しての人間形成。
・体力の維持向上。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
各種目を２週間続けて行う予定。基本は１週目を基礎的な運動、２週目はゲームを中心とした時間。天候や競技場の確保により内容や種目の変更があります。課題に対しては、授業内やHoppii等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゴルフ①	・ルール説明 ・基本練習
第2回	ゴルフ②	・ゲーム
第3回	フットサル①	・ルール説明 ・基本練習
第4回	フットサル②	・ゲーム
第5回	バレーボール①	・ルール説明 ・基本練習
第6回	バレーボール②	・ゲーム
第7回	テニス①	・ルール説明 ・基本練習
第8回	テニス②	・ゲーム
第9回	ソフトラクロス①	・ルール説明 ・基本練習
第10回	ソフトラクロス②	・ゲーム
第11回	バトミントン①	・ルール説明 ・基本練習
第12回	バトミントン②	・ゲーム
第13回	ソフトボール①	・ルール説明 ・基本練習
第14回	ソフトボール②	・ゲーム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本ルールを学習しておいてもらいたい。１００分間体を動かす授業となります、体調を整えて出席するようにして下さい。
準備・復習時間は、計１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（８０％）
運動の習得率（２０％）

【学生の意見等からの気づき】
各種目で全員で楽しく参加できるように授業を進めていく。

【Outline (in English)】
Course outline:
While studying various sports and moving the body, learn basic motions and rules and learn sports happily.
Learning Objectives:
· Acquisition of rules and basic actions for each item
· Human formation through sports
· Maintaining and improving physical fitness
Learning activities outside of classroom：
I want you to learn the basic rulesIt will be a 100-minute physical activity class, so please be in good physical condition and attend.
Grading Criteria /Policy:
Normal point (80%)Exercise acquisition rate (20%)

LANe100JA（英語 / English language education 100）

基礎英語Ａ（Ｋ・Ｏ・Ｔクラス）

田高　信一

配当年次／単位数：**１年次／１単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定あり。指定されたクラスを受講すること。2021年度以降入学者のみ受講可能。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ウェルビーイング(Well-being)の重要な指標の一つであるワークライフ・バランス(Work-life Balance)に関する様々な社会問題について英語で学び国際的な教養を深めつつ総合的な英語力を身に着ける。

【到達目標】
社会問題について英語で情報を適切に理解できる。
英語の情報を批判的にとらえることができる。
学んだ内容について英語で自分の意見や考えを伝えることができる。
英語の語彙力・読解力・表現力を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
指定テキストを用いて、ペアワーク・グループワークを積極的に取り入れながらアクティブラーニング形式での授業を行います。指定テキスト以外の教材をデータ上で使用してもらいます。そのため、各自でノートPCかタブレットを毎回の授業に持ってくるようにしてください。課題等に対するフィードバックについては，Google Classroomのコメント欄等で対応します。定期的にGoogle Classroomにアクセスし、教員からのフィードバックを確認するようにしてください。授業内でGoogle Classroomの使い方を説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	Course Orientation, Self-Introduction	授業の進め方、評価方法、指定テキストの使用法、授業内外での英語学習などについての説明
2回目	Course Orientation (continued)	授業の進め方、評価方法、指定テキストの使用法、授業内外での英語学習などについての説明
3回目	Textbook Unit 1	Work-Life Balance
4回目	Textbook Unit 2	Career Building
5回目	Textbook Unit 3	The Value of Rewards
6回目	Presentation Preparation	Prepare for Midterm Presentation
7回目	Midterm Presentation	Deliver a Presentation
8回目	Textbook Unit 4	Flexible Work Hours
9回目	Textbook Unit 5	Working Environment
10回目	Textbook Unit 6	Importance of Exercise
11回目	Textbook Unit 7	Burnout
12回目	Review Day Presentation Preparation	Review the textbook units Prepare for Final Presentation
13回目	Final Presentation 1	Deliver a Presentation
14回目	Final Presentation 2	Deliver a Presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の予習・課題の時間は、各1.5時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『Work-Life Balance: Essential Insights and Practices/映像メディアで考えるワーク・ライフ・バランス』(2025) 松柏社. [ISBN 978-4-7754-5002-4]

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
Participation Portfolio: 20%, Quick-Write: 10%, Vocabulary Homework: 10%, Vocabulary Quiz: 15%, Speaking Task : 10%, Midterm Presentation: 15%, Final Presentation: 20%

【学生の意見等からの気づき】
ペアワークやグループワークを多く取り入れ、楽しみながら英語をアウトプットしてもらう授業を展開していきます。

【学生が準備すべき機器他】
各自でノートPCかタブレットを毎回の授業に持ってくるようにしてください。

【その他の重要事項】
授業の展開によっては、上記の授業スケジュールは若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】
This course aims to enhance students' understanding of work-life balance by engaging with English readings and video clips. Through critical analysis of authentic materials, students will deepen their knowledge of the topic while simultaneously developing their English proficiency. The course focuses on improving a wide range of language skills, including listening comprehension, speaking fluency, and intensive reading. As the term progresses, students will expand their vocabulary, become familiar with useful phrases, and strengthen their ability to comprehend and analyze English reading and viewing materials. A variety of interactive tasks, such as oral communication, presentations, and collaborative pair and group activities, will provide opportunities to apply their learning in practical contexts.
The primary goals of this course are to help students understand and discuss the concept of work-life balance and to explore related social issues, including mental health, productivity, and workplace policies. By participating in class discussions and completing assignments, students will gain the confidence to express their ideas on these topics in English, both orally and in writing.
To prepare for each class, students are expected to read the assigned unit, watch relevant video materials, and complete reflective tasks. Active participation in class discussions and group work is essential for success in the course. By the end of the term, students will have improved their English proficiency while gaining valuable insights into work-life balance and its impact on society.
Final grade in the class will be decided based on the following.
Participation Portfolio: 20%, Quick-Write: 10%, Vocabulary Homework: 10%, Vocabulary Quiz: 15%, Speaking Task : 10%, Midterm Presentation: 15%, Final Presentation: 20%

LANe100JA（英語 / English language education 100）

基礎英語Ａ（Ｃ・Ｊ・Ｑクラス）

田高　信一

配当年次／単位数：**1年次／1単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定あり。指定されたクラスを受講すること。2021年度以降入学者のみ受講可能。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ウェルビーイング(Well-being)の重要な指標の一つであるワークライフ・バランス(Work-life Balance)に関する様々な社会問題について英語で学び国際的な教養を深めつつ総合的な英語力を身に着ける。

【到達目標】
社会問題について英語で情報を適切に理解できる。
英語の情報を批判的にとらえることができる。
学んだ内容について英語で自分の意見や考えを伝えることができる。
英語の語彙力・読解力・表現力を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
指定テキストを用いて、ペアワーク・グループワークを積極的に取り入れながらアクティブラーニング形式での授業を行います。指定テキスト以外の教材をデータ上で使用してもらいます。そのため、各自でノートPCかタブレットを毎回の授業に持ってくるようにしてください。課題等に対するフィードバックについては，Google Classroomのコメント欄等で対応します。定期的にGoogle Classroomにアクセスし、教員からのフィードバックを確認するようにしてください。授業内でGoogle Classroomの使い方を説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	Course Orientation, Self-Introduction	授業の進め方、評価方法、指定テキストの使用法、授業内外での英語学習などについての説明
2回目	Course Orientation (continued)	授業の進め方、評価方法、指定テキストの使用法、授業内外での英語学習などについての説明
3回目	Textbook Unit 1	Work-Life Balance
4回目	Textbook Unit 2	Career Building
5回目	Textbook Unit 3	The Value of Rewards
6回目	Presentation Preparation	Prepare for Midterm Presentation
7回目	Midterm Presentation	Deliver a Presentation
8回目	Textbook Unit 4	Flexible Work Hours
9回目	Textbook Unit 5	Working Environment
10回目	Textbook Unit 6	Importance of Exercise
11回目	Textbook Unit 7	Burnout
12回目	Review Day	Review the textbook units
	Presentation Preparation	Prepare for Final Presentation
13回目	Final Presentation 1	Deliver a Presentation
14回目	Final Presentation 2	Deliver a Presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の予習・課題の時間は、各1.5時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『Work-Life Balance: Essential Insights and Practices/映像メディアで考えるワーク・ライフ・バランス』(2025) 松柏社.　[ISBN 978-4-7754-5002-4]

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
Participation Portfolio: 20%, Quick-Write: 10%, Vocabulary Homework: 10%, Vocabulary Quiz: 15%, Speaking Task : 10%, Midterm Presentation: 15%, Final Presentation: 20%

【学生の意見等からの気づき】
ペアワークやグループワークを多く取り入れ、楽しみながら英語をアウトプットしてもらう授業を展開していきます。

【学生が準備すべき機器他】
各自でノートPCかタブレットを毎回の授業に持ってくるようにしてください。

【その他の重要事項】
授業の展開によっては、上記の授業スケジュールは若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】
This course aims to enhance students' understanding of work-life balance by engaging with English readings and video clips. Through critical analysis of authentic materials, students will deepen their knowledge of the topic while simultaneously developing their English proficiency. The course focuses on improving a wide range of language skills, including listening comprehension, speaking fluency, and intensive reading. As the term progresses, students will expand their vocabulary, become familiar with useful phrases, and strengthen their ability to comprehend and analyze English reading and viewing materials. A variety of interactive tasks, such as oral communication, presentations, and collaborative pair and group activities, will provide opportunities to apply their learning in practical contexts.
The primary goals of this course are to help students understand and discuss the concept of work-life balance and to explore related social issues, including mental health, productivity, and workplace policies. By participating in class discussions and completing assignments, students will gain the confidence to express their ideas on these topics in English, both orally and in writing.
To prepare for each class, students are expected to read the assigned unit, watch relevant video materials, and complete reflective tasks. Active participation in class discussions and group work is essential for success in the course. By the end of the term, students will have improved their English proficiency while gaining valuable insights into work-life balance and its impact on society.
Final grade in the class will be decided based on the following.
Participation Portfolio: 20%, Quick-Write: 10%, Vocabulary Homework: 10%, Vocabulary Quiz: 15%, Speaking Task : 10%, Midterm Presentation: 15%, Final Presentation: 20%

LANe100JA（英語 / English language education 100）

基礎英語Ｂ（Ｋ・Ｏ・Ｔクラス）

田高　信一

配当年次／単位数：**1年次／1単位**
備考（履修条件等）：**2021年度以降入学者のみ受講可能。クラス指定あり。指定されたクラスを受講すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基礎英語Aの授業内容を踏まえ、ウェルビーイング(Well-being)の重要な指標の一つであるワークライフ・バランス(Work-life Balance)に関する様々な社会問題について英語で学び国際的な教養を深めつつ総合的な英語力をさらに伸ばす。

【到達目標】
社会問題について英語で情報を適切に理解できる。
英語の情報を批判的にとらえることができる。
学んだ内容について英語で自分の意見や考えを伝えることができる。
高度な英語の語彙力・読解力・表現力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
指定テキストを用いて、ペアワーク・グループワークを積極的に取り入れながらアクティブラーニング形式での授業を行います。指定テキスト以外の教材をデータ上で使用してもらいます。そのため、各自でノートPCかタブレットを毎回の授業に持ってくるようにしてください。課題等に対するフィードバックについては，Google Classroomのコメント欄等で対応します。定期的にGoogle Classroomにアクセスし、教員からのフィードバックを確認するようにしてください。授業内でGoogle Classroomの使い方を説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	Course Orientation	授業の進め方、評価方法、指定テキストの使用法、授業内外での英語学習などについての説明
2回目	Textbook Unit 8	Rest and Relaxation
3回目	Textbook Unit 9	Off the Job Activities
4回目	Textbook Unit 10	Vacation
5回目	Textbook Unit 11	Changing Jobs
6回目	Presentation Preparation	Prepare for Midterm Presentation
7回目	Midterm Presentation	Deliver a Presentation
8回目	Textbook Unit 12	Basic Income
9回目	Textbook Unit 13	Career as Identity
10回目	Textbook Unit 14	Lifelong Career
11回目	Review Day	Review the textbook units
12回目	Final Presentation 1	Deliver a Presentation
13回目	Final Presentation 2	Deliver a Presentation
14回目	Review Day	Review the textbook units

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の予習・課題の時間は、各1.5時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『Work-Life Balance: Essential Insights and Practices/映像メディアで考えるワーク・ライフ・バランス』(2025) 松柏社. [ISBN 978-4-7754-5002-4]

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
Participation Portfolio: 20%, Quick-Write: 10%, Vocabulary Homework: 10%, Vocabulary Quiz: 15%, Speaking Task : 10%, Midterm Presentation: 15%, Final Presentation: 20%

【学生の意見等からの気づき】
ペアワークやグループワークを多く取り入れ、楽しみながら英語をアウトプットしてもらう授業を展開していきます。

【学生が準備すべき機器他】
各自でノートPCかタブレットを毎回の授業に持ってくるようにしてください。

【その他の重要事項】
授業の展開によっては、上記の授業スケジュールは若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】
This course builds upon the foundation established in Basic English A, further enhancing students' understanding of work-life balance through engagement with English readings and video clips. Students will continue to develop their proficiency in listening comprehension, speaking fluency, and intensive reading. As the term progresses, they will expand their vocabulary, refine their analytical skills, and strengthen their ability to comprehend and analyze English reading and viewing materials. Interactive tasks, including oral communication, presentations, and collaborative pair and group activities, will provide opportunities to apply their learning in practical contexts, building on the skills acquired in Basic English A.
The primary goals of this course are to reinforce students' understanding of work-life balance and to explore new aspects of related social issues. By participating in class discussions and completing assignments, students will further enhance their ability to express their ideas on these topics in English, both orally and in writing. The course encourages students to apply the language skills and knowledge gained in Basic English A to engage with more complex materials and discussions.
To prepare for each class, students are expected to read the assigned unit, watch relevant video materials, and complete reflective tasks. Active participation in class discussions and group work is essential for success in the course. By the end of the term, students will have refined their English proficiency while gaining deeper insights into work-life balance and its broader implications.
Final grade in the class will be decided based on the following.
Participation Portfolio: 20%, Quick-Write: 10%, Vocabulary Homework: 10%, Vocabulary Quiz: 15%, Speaking Task : 10%, Midterm Presentation: 15%, Final Presentation: 20%

LANe100JA（英語 / English language education 100）

基礎英語Ｂ（Ｃ・Ｊ・Ｑクラス）

田高　信一

配当年次／単位数：**1年次／1単位**
備考（履修条件等）：**2021年度以降入学者のみ受講可能。クラス指定あり。指定されたクラスを受講すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基礎英語Aの授業内容を踏まえ、ウェルビーイング(Well-being)の重要な指標の一つであるワークライフ・バランス(Work-life Balance)に関する様々な社会問題について英語で学び国際的な教養を深めつつ総合的な英語力をさらに伸ばす。

【到達目標】
社会問題について英語で情報を適切に理解できる。
英語の情報を批判的にとらえることができる。
学んだ内容について英語で自分の意見や考えを伝えることができる。
高度な英語の語彙力・読解力・表現力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
指定テキストを用いて、ペアワーク・グループワークを積極的に取り入れながらアクティブラーニング形式での授業を行います。指定テキスト以外の教材をデータ上で使用してもらいます。そのため、各自でノートPCかタブレットを毎回の授業に持ってくるようにしてください。課題等に対するフィードバックについては，Google Classroomのコメント欄等で対応します。定期的にGoogle Classroomにアクセスし、教員からのフィードバックを確認するようにしてください。授業内でGoogle Classroomの使い方を説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	Course Orientation	授業の進め方、評価方法、指定テキストの使用法、授業内外での英語学習などについての説明
2回目	Textbook Unit 8	Rest and Relaxation
3回目	Textbook Unit 9	Off the Job Activities
4回目	Textbook Unit 10	Vacation
5回目	Textbook Unit 11	Changing Jobs
6回目	Presentation Preparation	Prepare for Midterm Presentation
7回目	Midterm Presentation	Deliver a Presentation
8回目	Textbook Unit 12	Basic Income
9回目	Textbook Unit 13	Career as Identity
10回目	Textbook Unit 14	Lifelong Career
11回目	Review Day	Review the textbook units
12回目	Final Presentation 1	Deliver a Presentation
13回目	Final Presentation 2	Deliver a Presentation
14回目	Review Day	Review the textbook units

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の予習・課題の時間は、各1.5時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『Work-Life Balance: Essential Insights and Practices/映像メディアで考えるワーク・ライフ・バランス』(2025) 松柏社.　[ISBN 978-4-7754-5002-4]

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
Participation Portfolio: 20%, Quick-Write: 10%, Vocabulary Homework: 10%, Vocabulary Quiz: 15%, Speaking Task : 10%, Midterm Presentation: 15%, Final Presentation: 20%

【学生の意見等からの気づき】
ペアワークやグループワークを多く取り入れ、楽しみながら英語をアウトプットしてもらう授業を展開していきます。

【学生が準備すべき機器他】
各自でノートPCかタブレットを毎回の授業に持ってくるようにしてください。

【その他の重要事項】
授業の展開によっては、上記の授業スケジュールは若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】
This course builds upon the foundation established in Basic English A, further enhancing students' understanding of work-life balance through engagement with English readings and video clips. Students will continue to develop their proficiency in listening comprehension, speaking fluency, and intensive reading. As the term progresses, they will expand their vocabulary, refine their analytical skills, and strengthen their ability to comprehend and analyze English reading and viewing materials. Interactive tasks, including oral communication, presentations, and collaborative pair and group activities, will provide opportunities to apply their learning in practical contexts, building on the skills acquired in Basic English A.
The primary goals of this course are to reinforce students' understanding of work-life balance and to explore new aspects of related social issues. By participating in class discussions and completing assignments, students will further enhance their ability to express their ideas on these topics in English, both orally and in writing. The course encourages students to apply the language skills and knowledge gained in Basic English A to engage with more complex materials and discussions.
To prepare for each class, students are expected to read the assigned unit, watch relevant video materials, and complete reflective tasks. Active participation in class discussions and group work is essential for success in the course. By the end of the term, students will have refined their English proficiency while gaining deeper insights into work-life balance and its broader implications.
Final grade in the class will be decided based on the following.
Participation Portfolio: 20%, Quick-Write: 10%, Vocabulary Homework: 10%, Vocabulary Quiz: 15%, Speaking Task : 10%, Midterm Presentation: 15%, Final Presentation: 20%

LANe200JA（英語 / English language education 200）

発展英語Ａ（英文講読入門）

相馬　美明

配当年次／単位数：**2年次／1単位**
備考（履修条件等）：**抽選科目。2021年度以降入学者のみ履修可。抽選に当選した場合同一曜日・時限の発展英語Ｂに自動登録となる。同一名称科目については1クラスのみ履修可能。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常生活のいろいろな場面において実践的英語能力を向上させることを目的とする。読解のみならず、リスニングの問題に加え，毎回，映画・音楽など多岐にわたる生の英語に触れながら聴解力も高めていく。

【到達目標】
基礎的な文法などを確認しながら読解能力を養う。また、最終的に自らの考えを自らのことばで伝えることを学ぶ。同時に、他の学生の考えを聞き理解する能力を培うとともに，意見を交換する場を多く持ち，コミュニケーション能力の向上に努める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
いろいろな場面において使われるネイティブ・スピーカーの英語に充分慣れる。多くの練習問題を通して，おおよその内容が理解できるようにする。リスニング能力の増強のために，穴埋めや書き取り，インフォーメーション・ギャップや要約などの練習を行う。
リスニング・スピーキングに上達するには毎日の練習が必要である。授業中の練習に加え教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い，授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	イントロダクション 授業の趣旨、進め方を理解する。	イントロダクション、授業計画、諸注意など
(2)	What is a good college?	Exercise 2, < True or False questions> , Film ①
(3)	ひとつの単語に集中することを覚える	Film ①〜②, Your Song < Background of the singer> , Questions
(4)	A sense of humour.	Exercise 3, Chimpanzee, < True or False questions> , Film ③
(5)	A sense of humour. June bride or rainy season bride.	Exercise 3, Film ③〜④, Exercise 4,
(6)	聞こえたままに音をつくる	Film ④〜⑤, Top of the world < Background of the singer> , Questions
(7)	区切れを意識して書き取る June bride or rainy season bride.	Exercise 4, Halloween < True or False questions> , Film ⑤〜⑥
(8)	つながりでとらえる, Culture in our lives.	Exercise 6, A certain story < True or False questions> , Film ⑦
(9)	全体の流れを把握する。レポート指示, Culture in our lives.	Exercise 6, Film ⑧, レポート指示
(10)	一度に聞き取れる量を増やす, Human creativity.	Exercise 8, The sound of silence < Background of the singer> , Film ⑧〜⑨
(11)	一語から二語へ、二語から三語へ, Human creativity.	Exercise 8, Film ⑨
(12)	瞬時に聞き取る	Film ⑨〜⑩, Exercise 8
(13)	重要なことば、キーワードを聞き取る	Exercise,　まとめ, レポート提出
(14)	まとめ　既習学習事項確認	Film まとめ、リスニングの最終確認、

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で学習した表現の反復練習のみならず、授業外では英語でニュースを聞いたり、また字幕なしで映画をみるなど、普段の生活においても意識的に英語に触れ、関心を深めてもらいたい。またそのことを通じ、自信をつけてもらいたいと考える。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間半を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定せず、毎回プリントを使用する。

【参考書】
必要に応じ適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験（50％），レポート（10％），平常点（40％），それらを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生をどのようにしてやる気にさせるか、われわれ教員はつねにそれを試されているように思う。学生を通じ学ぶことは実に多い。少しでも彼らの望むものに応えられる授業となるよう努力していきたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Basic English grammar, vocabulary, and conversational expressions will be very helpful to communicate with each other and at the same time essential when writing, speaking and of course listening.
【Learning Objectives】
Students will be able to read analytically and think critically at a high level and demonstrate the ability to transfer critical thinking skills to the interpretation and analysis of ideas encountered in academic reading.　Through read-out-loud activities, students are expected to improve overall reading comprehension.
【Grading Criteria /Policy】
Active participation（40%）, examination（50%）, assignments &presentation（10%） will be totally evaluated.
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom: one and a half hours. Comments upon the details about the textbook, attendance rule, evaluation and so on will be made at the first class of this semester. Attendance is mandatory, and students will be expected to attend every class and hopefully enjoy their own activities. Great joy is only earned by great exertion!

LANe200JA（英語 / English language education 200）

発展英語Ａ（ビジネス英語入門）

松下　晴彦

配当年次／単位数：**2年次／1単位**
備考（履修条件等）：**抽選科目。2021年度以降入学者のみ履修可。抽選に当選した場合同一曜日・時限の発展英語Ｂに自動登録となる。同一名称科目については1クラスのみ履修可能。**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間関係を築く上で必要とされるコミュニケーションの上手な取り方を習得し、国際ビジネスで使われる丁寧な英語を身につけることを目標としている。テキストでは会話表現、電子メール、ビジネスマナーを学ぶ。

【到達目標】
学生は、ビジネスに相応しい上品な英語を使うことができる。
国際的なビジネスマナーを身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
ビジネスの場面にふさわしい英語、大人らしい英語を学習していく。テキスト・プリントにて基本的なビジネス英語を学び、演習を行っていく。英語力の定着を目指し、復習の小テストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要説明
2	Unit 1	Introducing Yourself
3	Unit 2	Introducing Companies
4	Unit 3	Explaining Your Role
5	Unit 4	Introducing Products
6	Unit 5	Checking Information
7	Unit 6	Giving Your Opinion
8	Unit 7	Making Requests
9	Unit 8	Asking Permission
10	Unit 9	Making Invitations
11	Unit 10	Making Appointments
12	Unit 11	Canceling and Rescheduling
13	Unit 12	Describing Locations
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。
毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『Go Global』Garry Pearson （成美堂:2019）税別：2,400円

【参考書】
『敬語の英語』デイヴィッド・セイン他（ジャパンタイムズ）
『敬語の英語:実践編』デイヴィッド・セイン他（ジャパンタイムズ）
『スーパーアンカー和英辞典』（学研）を自習用の辞典としてお薦めする。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度：30％
授業内小テスト：30％
定期試験：40％
これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】
「実用的な英語が学べた」「楽しかった」との意見があった。今後も実用的な英語が楽しく学べるように努力していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システム。

【その他の重要事項】
授業の展開によって，若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】
Course outline: This course deals with business English and business manners.
Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to use business English and acquire knowledge and awareness of business culture.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.
Grading Criteria: Final grade will be calculated based on Classwork 30%, Quizzes 30%and Final Examination 40%.

LANe200JA（英語 / English language education 200）

発展英語Ａ（ライティング入門）

田高　信一

配当年次／単位数：**2年次／1単位**
備考（履修条件等）：**抽選科目。2021年度以降入学者のみ履修可。抽選に当選した場合同一曜日・時限の発展英語Ｂに自動登録となる。同一名称科目については1クラスのみ履修可能。**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語でパラグラフを作成するために必要な知識とスキルの獲得を目指す。Process approachでパラグラフを書くために必要なステップを学ぶ。具体的にはトピックの選び方、ブレインストーミングの手法、topic sentenceやsupporting sentenceの書き方、ドラフトの書き方、フィードバックの与え方、ドラフトの修正の仕方などを習得する。また、良い英文を書くために必要な文法知識の定着も図る。

【到達目標】
・授業の予習、復習、ライティング課題を通して、以下のアカデミックライティングの基礎を身につける。
1. モデルパラグラフを正しく分析できる。
2. ライティングに必要なアイディアを創出することができる。
3. 自分の考えをまとめて文章にすることができる。
4. 文章をパラグラフへと発展させることができる。
5. 自分で作成したパラグラフを丁寧に見直すことができる。
6. 自分で作成したパラグラフを修正し、より良いパラグラフを作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
指定テキストを用いて、ペアワーク・グループワークを積極的に取り入れながらアクティブラーニング形式での授業を行います。 授業中にノートPCかタブレットを用いて作業を行います。毎回の授業に必ずデバイス（ノートPCかタブレット）を持参してください。課題等に対するフィードバックについては，Google Classroom のコメント欄等で対応します。定期的にGoogle Classroom にアクセスし、教員からのフィードバックを確認するようにしてください。授業内で Google Classroom の使い方を説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Orientation, Self-Introduction	授業の進め方、評価方法、指定テキストの使用法、授業内外での英語学習などについての説明
2	Textbook Unit 1 Beginning to Work	Recognizing and writing complete sentences
3	Textbook Unit 1 Beginning to Work (continued)	Identifying strong and weak paragraphs
4	Textbook Unit 2 Gifts	Identifying topics and main ideas
5	Textbook Unit 2 Gifts (continued)	Using commas in sentences with and and but
6	Textbook Unit 3 An Interesting Place	Developing paragraphs with descriptive details
7	Textbook Unit 3 An Interesting Place (continued)	Writing about places
8	Textbook Unit 4 An Exceptional Person	Using word maps to brainstorm
9	Textbook Unit 4 An Exceptional Person (continued)	Writing about people
10	Textbook Unit 5 Trends and Fads	Review of descriptive vocabulary
11	Textbook Unit 5 Trends and Fads (continued)	Writing about a trend
12	Textbook Unit 6 Fact or Fiction	Opinions and examples in supporting sentences
13	Textbook Unit 6 Fact or Fiction (Continued) Review	Writing about your opinions
14	Final Exam Homework Feedback Review (Units 1–6)	Exam, Summary, and Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の予習・課題の時間は、各 1.5 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
書名： Writing Paragraphs from Topic to Paragraph (2nd Edition)
出版年：2020
著者：Dorothy Zemach &Carlos Islam
出版社：Macmillan Education

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
Participation: 10%, Quick-Write: 10%, Vocabulary: 10%, Major Writing Assignments: 40%, Final Exam: 30%

【学生の意見等からの気づき】
ペアワークを多く取り入れ、フィードバックを丁寧に行い、アクティブラーニングの手法で楽しみながらacademic writingを学べる授業を展開していきます。

【学生が準備すべき機器他】
各自でノートPCかタブレットを毎回の授業に持ってくるようにしてください。

【その他の重要事項】
授業の展開によっては、上記の授業スケジュールは若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】
This is a once-a-week English course where students learn how to write clear sentences and paragraphs in English.
The objective of this course is to deepen students' knowledge about academic writing and develop students' writing skills with improved accuracy, fluency and confidence.
After completing the course, students will be able to:
1. analyze model paragraphs
2. find ideas for their writing
3. put their ideas into sentences
4. organize their sentences into paragraphs
5. review their paragraphs
6. revise their paragraphs again so that they become even stronger
Students will be expected to have completed textbook exercises before class and the required assignments after class. Students should expect 1.5 hours or more of homework and study time outside class.
Final grade in the class will be decided based on the following.
Participation: 10%, Quick-Write: 10%, Vocabulary: 10%, Major Writing Assignments: 40%, Final Exam: 30%

LANe200JA（英語 / English language education 200）

発展英語Ｂ（英文購読）

相馬　美明

配当年次／単位数：**2年次／1単位**
備考（履修条件等）：**2021年度以降入学者のみ受講可能。単独履修は不可。同一曜日・時限の発展英語Ａに当選した場合のみ履修可能。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまなトピックについて読み進めることを通じ、英語を英語のまま理解する感覚を身につける。加えて、それらのトピックスから、さらなる国際理解を深めていきたいと考える。

【到達目標】
精読、多読の両面から、短時間で確実に英文を読み取る能力を養うこと。また、複雑な英文を読み解くことを通じ、さらなる自信をつけていくこと。要は、自分がどれくらい伸びたかである。その点では、なにより学生のやる気が大切となろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、学生の理解度を主体に進めていきたいと考える。基本的にテキストに沿って進められるが、学生の理解度、興味に応じて斟酌したい。学生の興味のわきそうなトピックをさまざま扱っていく予定である。また、課題に対するフィードバックとしては、授業内における口頭コメント、もしくは文書による提出物へのコメントを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	イントロダクション、授業計画、諸注意など
第二回	Unit1 What's So Funny?	Unit1, TOEFL Exercise 1 PART A, Film ①
第三回	Unit1, 2 Eureka	Unit1 Practices, Film ①〜②, We're All Alone. (Background of the singer), Unit2
第四回	Unit2, 3 The Super-rich	Unit2 Practices, TOEFL Exercise 2 PART B, Chimpanzee, Film ③ Unit3
第五回	Unit3, 4 Will You Be My Robot?	Unit3 Practices, TOEFL Exercise 3 PART C, Film ③〜④, Unit4
第六回	Unit4,	Unit4 Practices, Film ④〜⑤, Sound of Silence.(Background of the singer)
第七回	Unit5, Brainpower	Unit5, TOEFL Exercise PART A, Halloween
第八回	Unit5, 6 What's Romantic Love got to do with it?	Unit5 Practices, TOEFL Exercise 5 PART B, A certain story, Film ⑦, Unit6
第九回	Unit6 What's Romantic Love got to do with it?	Unit6 Practices, TOEFL Exercise 6 PART C, Film ⑧, レポート内容説明、指示
第十回	Unit7 Feelings... oh, oh, oh!	Unit7, TOEFL Exercise 7, PART A, The sound of silence (Background of the singer), Film ⑧〜⑨
第十一回	Unit7, 8 Bad Guys	Unit 7 Practices, TOEFL Exercise 8 PART B, Film ⑨, Unit8
第十二回	Unit8, Bad Guys	Unit8 Practices, TOEFL Exercise 9 PART C, Film ⑨〜⑩, Unit8
第十三回	Unit8,	Film まとめ、テキストの最終確認、レポート提出
第十四回	既習事項確認、試験	学期末まとめ、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の予習は必須であり、また出席についても基本的に全出席が原則となる。学生は自らの無限の可能性を信じ、授業に臨んでもらいたい。本授業における準備・復習時間は各1時間半を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Wayne I. Phillips /Yoshiaki Soma,『Eureka』(Asahi Press)，およびプリント使用。

【参考書】
必要に応じ、適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
定期試験（60％），レポート（10％），平常点（20％），発表点（10％）など、それらを総合的に評価する。懸命に努力する姿を評価したい。
出席・平常点：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
学期末試験：必ず受験すること。
レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
学生の発する「わからない」こそ、学生からの大切なメッセージであり、教員はこれを真摯に受け止め、対処していかなければならないと感じている。また、このメッセージを忌憚なく発せられる雰囲気作りにも配慮がなされるべきであろうと考える。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Basic English grammar, vocabulary, and conversational expressions will be very helpful to communicate with each other and at the same time essential when writing, speaking and of course listening.
【Learning Objectives】
Students will be able to read analytically and think critically at a high level and demonstrate the ability to transfer critical thinking skills to the interpretation and analysis of ideas encountered in academic reading. Through read-out-loud activities, students are expected to improve overall reading comprehension.
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom: one and a half hours.
Comments upon the details about the textbook, attendance rule, evaluation and so on will be made at the first class of this semester. Attendance is mandatory, and students will be expected to attend every class and hopefully enjoy their own activities. Great joy is only earned by great exertion!
【Grading Criteria /Policy】
Active participation（20%), examination （60%）, assignments （10%）, presentation （10%） will be totally evaluated.

LANe200JA（英語 / English language education 200）

発展英語Ｂ （ビジネス英語）

松下　晴彦

配当年次／単位数：2年次／1単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。単独履修は不可。同一曜日・時限の発展英語Ａに当選した場合のみ履修可能。
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際ビジネスで使われる英語を身につけることを目標としている。主に大人らしい上品な会話表現を習得する。
あわせて国際的なビジネスマナーも学ぶ。

【到達目標】
学生は、ビジネスに相応しい大人の英語を使うことができる。
国際的なビジネスマナーを身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
ビジネス英語といっても特別な英語を使うのではなく、場面にふさわしい英語、大人らしい英語を学習していく。テキスト・プリントにて基本的なビジネス英語を学び、演習を行っていく。
英語力の定着を目指し、復習の小テストを行う。
毎回、リアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Lesson 1	Meeting for the First Time
2	Lesson 2	Welcoming a Newcomer
3	Lesson 3	Telephone Communication
4	Lesson 4	Office Issues
5	Lesson 5	Arranging a Meeting
6	Lesson 6	Video Conferencing
7	Lesson 7	Review 1
8	Lesson 8	Job Interviews
9	Lesson 9	Traveling on Business
10	Lesson 10	Receiving Overseas Visitors
11	Lesson 11	Meeting with Clients
12	Lesson 12	Negotiations
13	Lesson 13	Giving Presentations
14	試験・まとめと解説	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。
毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『English for the Global Workplace』塩見佳代子（成美堂）税込：2,860円

【参考書】
『敬語の英語』デイヴィッド・セイン他（ジャパンタイムズ）
『敬語の英語:実践編』デイヴィッド・セイン他（ジャパンタイムズ）
『スーパーアンカー和英辞典』（学研）を自習用の辞典としてお薦めする。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度：30％
授業内小テスト：30％
定期試験：40％
これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】
「実用的な英語が学べた」「楽しかった」との意見があった。今後も実用的な英語が楽しく学べるように努力していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム。

【その他の重要事項】
授業の展開によって，若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】
Course outline: This course deals with business English and business manners.
Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to use business English and acquire knowledge and awareness of business culture.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.
Grading Criteria: Final grade will be calculated based on Classwork 30%, Quizzes 30%and Final Examination 40%.

LANe200JA（英語 / English language education 200）

発展英語Ｂ（ライティング）

田高　信一

配当年次／単位数：**2年次／1単位**
備考（履修条件等）：**2021年度以降入学者のみ受講可能。単独履修は不可。同一曜日・時限の発展英語Ａに当選した場合のみ履修可能。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語でパラグラフを作成するために必要な知識とスキルの獲得を目指す。Process approachでパラグラフを書くために必要なステップを学ぶ。具体的にはトピックの選び方、ブレインストーミングの手法、topic sentenceやsupporting sentenceの書き方、ドラフトの書き方、フィードバックの与え方、ドラフトの修正の仕方などを習得する。また、良い英文を書くために必要な文法知識の定着も図る。秋学期に開講される本授業では教科書の後半部分を使用する。したがって，春学期に発展英語Ａ（ライティング）を履修していることが望ましい。

【到達目標】
・授業の予習、復習、ライティング課題を通して、以下のアカデミックライティングの基礎を身につける。
1. モデルパラグラフを正しく分析できる。
2. ライティングに必要なアイディアを創出することができる。
3. 自分の考えをまとめて文章にすることができる。
4. 文章をパラグラフへと発展させることができる。
5. 自分で作成したパラグラフを丁寧に見直すことができる。
6. 自分で作成したパラグラフを修正し、より良いパラグラフを作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
指定テキストを用いて、ペアワーク・グループワークを積極的に取り入れながらアクティブラーニング形式での授業を行います。 授業中にノートPCかタブレットを用いて作業を行います。毎回の授業に必ずデバイス（ノートPCかタブレット）を持参してください。課題等に対するフィードバックについては，Google Classroom のコメント欄等で対応します。定期的にGoogle Classroom にアクセスし、教員からのフィードバックを確認するようにしてください。授業内で Google Classroom の使い方を説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Orientation, Self-Introduction	授業の進め方、評価方法、指定テキストの使用法、授業内外での英語学習などについての説明
2	Textbook Unit 7 Explanations and Excuses	Paragraphs explaining cause and effect/result
3	Textbook Unit 7 Explanations and Excuses (continued)	Writing about explanations and excuses
4	Textbook Unit 8 Problems and Challenges	Expressing personal feelings about problems
5	Textbook Unit 8 Problems and Challenges (continued)	Writing about problems or difficulties
6	Textbook Unit 9 Strange Stories	Using time expressions: offer, before, and when
7	Textbook Unit 9 Strange Stories (continued)	Writing about interesting or unusual experiences
8	Textbook Unit 10 Differences	Using double lists to brainstorm
9	Textbook Unit 10 Differences (continued)	Writing about life changes
10	Textbook Unit 11 Difficult Decisions	Writing about cause and effect relationships
11	Textbook Unit 11 Difficult Decisions (continued)	Writing about a difficult decision
12	Textbook Unit 12 Fate or Choice	Writing about hopes and plans for the future
13	Textbook Unit 12 Fate or Choice (continued) Review	Writing about the future
14	Final Exam Homework Feedback Review (Units 1–6)	Exam, Summary, and Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の予習・課題の時間は、各 1.5 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
書名： Writing Paragraphs from Topic to Paragraph (2nd Edition)
出版年：2020
著者：Dorothy Zemach &Carlos Islam
出版社：Macmillan Education

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
Participation: 10%, Quick-Write: 10%, Vocabulary: 10%, Major Writing Assignments: 40%, Final Exam: 30%

【学生の意見等からの気づき】
ペアワークを多く取り入れ、フィードバックを丁寧に行い、アクティブラーニングの手法で楽しみながらacademic writingを学べる授業を展開していきます。

【学生が準備すべき機器他】
各自でノートPCかタブレットを毎回の授業に持ってくるようにしてください。

【その他の重要事項】
授業の展開によっては、上記の授業スケジュールは若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】
This is a once-a-week English course where students learn how to write clear sentences and paragraphs in English.
The objective of this course is to deepen students' knowledge about academic writing and develop students' writing skills with improved accuracy, fluency and confidence.
After completing the course, students will be able to:
1. analyze model paragraphs
2. find ideas for their writing
3. put their ideas into sentences
4. organize their sentences into paragraphs
5. review their paragraphs
6. revise their paragraphs again so that they become even stronger
Students will be expected to have completed textbook exercises before class and the required assignments after class. Students should expect 1.5 hours or more of homework and study time outside class.
Final grade in the class will be decided based on the following.

Participation: 10%, Quick-Write: 10%, Vocabulary: 10%, Major Writing Assignments: 40%, Final Exam: 30%

LANe200JA（英語 / English language education 200）

資格英語Ａ　基礎

相馬　美明

配当年次／単位数：**2年次／1単位**
備考（履修条件等）：**抽選科目。2021年度以降入学者のみ履修可。抽選に当選した場合同一曜日・時限の資格英語Ｂに自動登録となる。同一名称科目については1クラスのみ履修可能。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業はTOEIC L&R（４００点未満の方）への基本的な受験対策を主軸に授業を行います。加えて、リスニング強化のためにさまざまなリスニング問題に触れ、自信をつけていただくことを主眼としたいと考えております。

【到達目標】
TOEICの問題を基軸としたリスニング、リーディングの問題に慣れる。また、毎回配布する文法問題を通じ、英文法、熟語などの再確認などを行う。くわえて多岐にわたる生の英語にも触れながら、読解力のみならず聴解力をも高めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
いろいろな場面において使われるネイティブ・スピーカーの英語に充分慣れる。多くの練習問題を通して，おおよその内容が理解できるようにする。また、リスニング能力の増強のために，穴埋めや書き取り，インフォーメーション・ギャップや要約などの練習を行う。課題に対するフィードバックとしては、授業内における口頭コメント、もしくは文書による提出物へのコメントを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	イントロダクション	オリエンテーション、授業計画、諸注意、リスニング問題など
(2)	TOEIC Listening	Exercise 1, < True or False questions> , Film ①, 文法問題　①
(3)	TOEIC Listening & Reading	Exercise 2, Film ①〜②, Questions、文法問題　②
(4)	TOEIC Listening	Exercise 3, Chimpanzee, < True or False questions> , Film ③、文法問題　②-③
(5)	TOEIC Listening	Exercise 4, Film ③〜④、文法問題　③
(6)	TOEIC Listening & Reading	Exercise 5, Film ④〜⑤, Questions、文法問題　④
(7)	TOEIC Listening	Exercise 5-6, Halloween < True or False questions> , Film ⑤〜⑥、文法問題　⑤
(8)	TOEIC Listening & Reading	Exercise 6, A certain story < True or False questions> , Film ⑦、文法問題　⑥
(9)	TOEIC Listening, レポート内容説明、指示	Exercise 7, Film ⑧, レポート内容説明、指示
(10)	TOEIC Listening & Reading	Exercise 8, The sound of silence < Background of the singer> , Film ⑧〜⑨、文法問題　⑥-⑦
(11)	TOEIC Listening	Exercise 9, Film ⑨、文法問題　⑦
(12)	TOEIC Listening & Reading	Exercise 9-10, Film ⑨〜⑩、文法問題　⑧
(13)	TOEIC Listening, まとめ	Exercise (Listening, Reading), 文法問題など　まとめ レポート提出
(14)	Film まとめ、TOEICリスニング、リーディングの最終確認、	Film まとめ、TOEICリスニング、リーディングの最終確認、

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は不可欠である。また、リスニング・スピーキングの上達には毎日の練習が必要となる。授業中の練習に加え教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い、授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間半を標準とする。

【テキスト（教科書）】
プリントを使用。

【参考書】
必要に応じ、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験（50％），レポート（10％），平常点（40％），それらを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の発する「わからない」こそ、学生からの大切なメッセージであり、教員はこれを真摯に受け止め、対処していかなければならないと感じている。また、このメッセージを忌憚なく発せられる雰囲気作りにも配慮がなされるべきであろうと考える。

【その他の重要事項】
登録時の英語力（TOEIC のスコア等）に制限はありません。「資格英語Ａ・Ｂ」に関しては異なる習熟度の授業が複数開講されていますの で，授業内容や教材等をシラバスで確認し自分に合った授業を履修するようにしてください。 Ａ・Ｂを通して受講することで学習効果があがるようにデザインされているため，前期と後期で同じ教員の授業を履修することになります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to improve students' listening skills when solving the questions in TOEIC L&R. This course gives you a good chance to know the tips of noticing the differences especially in sound successions between Japanese and English, and will hopefully develop self-confidence through questions in a different way.
【Learning Objectives】
Students will be able to read analytically and think critically at a high level and demonstrate the ability to transfer critical thinking skills to the interpretation and analysis of ideas encountered in academic reading. Through read-out-loud activities, students are expected to improve overall reading comprehension.
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom: one and a half hours. Comments upon the details about the textbook, attendance rule, evaluation and so on will be made at the first class of this semester. Attendance is mandatory, and students will be expected to attend every class and hopefully enjoy their own activities. Great joy is only earned by great exertion!
【Grading Criteria /Policy】
Active participation（40%）, examination（50%）, assignments &presentation （10%） will be totally evaluated.

LANe200JA（英語 / English language education 200）

資格英語Ａ　基礎

松下　晴彦

配当年次／単位数：**2年次／1単位**
備考（履修条件等）：**抽選科目。2021年度以降入学者のみ履修可。抽選に当選した場合同一曜日・時限の資格英語Ｂに自動登録となる。同一名称科目については1クラスのみ履修可能。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業はTOEIC L&Rの問題形式を通じて、今まで習得した英語力を充実・発展させ、同時にビジネスで使われる英語を身に着けること目標とする。TOEICのPartごとに必要とされる英語力、スキル、戦略を学び実践する。

【到達目標】
TOEIC L&Rの問題に慣れ、総合的な英語力を高めることができる。演習を通じてビジネス習慣を身に着けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストで多様な英語を聴き、読み、問題に解答する練習をしていく。ボキャブラリービルディングを目指し、毎回、前回の復習単語テストを行う。ビジネスについても様々な事象を考える。
毎回、リアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の紹介等
第2回	Unit 1 Restaurants	TOEICの問題演習
第3回	Unit 2 Entertainment	TOEICの問題演習
第4回	Unit 3 Business	TOEICの問題演習
第5回	Unit 4 Office	TOEICの問題演習
第6回	Unit 5 Telephone	TOEICの問題演習
第7回	Unit 6 Letters & E-mails	TOEICの問題演習
第8回	Unit 7 Health	TOEICの問題演習
第9回	Unit 8 Bank &Post Office	TOEICの問題演習
第10回	Unit 9 New Products	TOEICの問題演習
第11回	Unit 10 Travel	TOEICの問題演習
第12回	Unit 11 Daily Life	TOEICの問題演習
第13回	Unit 12 Job Applications	TOEICの問題演習
第14回	試験・まとめと解説	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。
毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『Welcome to the TOEIC L&R Test -New Edition-』北原良夫（朝日出版社）税込1,980円

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度：30％
授業内小テスト：30％
定期試験：40％
これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、変更があり得る。

【Outline (in English)】
Course outline: This course deals with TOEIC L&R style questions.
Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to improve their ability to answer TOEIC questions and acquire knowledge and awareness of business.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.
Grading Criteria: Final grade will be calculated based on Classwork 30%, Quizzes 30%and Final Examination 40%.

LANe200JA（英語 / English language education 200）

資格英語Ａ　中級

松下　晴彦

配当年次／単位数：**2年次／1単位**
備考（履修条件等）：**抽選科目。2021年度以降入学者のみ履修可。抽選に当選した場合同一曜日・時限の資格英語Ｂに自動登録となる。同一名称科目については1クラスのみ履修可能。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業はTOEIC L&Rの問題形式を通じて、今まで習得した英語力を充実・発展させ、同時にビジネスで使われる英語を身に着けること目標とする。TOEICのPartごとに必要とされる英語力、スキル、戦略を学び実践する。

【到達目標】
TOEIC L&Rの問題に慣れ、総合的な英語力を高めることができる。演習を通じてビジネス習慣を身に着けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストで多様な英語を聴き、読み、問題に解答する練習をしていく。ボキャブラリービルディングを目指し、毎回、前回の復習単語テストを行う。ビジネスについても様々な事象を考える。
毎回、リアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の紹介等
第2回	Unit 1 Restaurant	TOEICの問題演習
第3回	Unit 2 Sightseeing	TOEICの問題演習
第4回	Unit 3 Business	TOEICの問題演習
第5回	Unit 4 Hotel	TOEICの問題演習
第6回	Unit 5 Shopping	TOEICの問題演習
第7回	Unit 6 Transportation	TOEICの問題演習
第8回	Unit 7 Travel	TOEICの問題演習
第9回	Unit 8 Housing	TOEICの問題演習
第10回	Unit 9 Entertainment	TOEICの問題演習
第11回	Unit 10 Hobby	TOEICの問題演習
第12回	Unit 11 Education	TOEICの問題演習
第13回	Unit 12 Sports	TOEICの問題演習
第14回	試験・まとめと解説	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。
毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『STRATEGIC PRACTICE FOR THE TOEIC L&R TEST』松本恵美子/西井賢太郎/Sam Little（三修社）税込2,310円

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度：30％
授業内小テスト：30％
定期試験：40％
これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、変更があり得る。

【Outline (in English)】
Course outline: This course deals with TOEIC L&R style questions.
Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to improve their ability to answer TOEIC questions and acquire knowledge and awareness of business.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.
Grading Criteria: Final grade will be calculated based on Classwork 30%, Quizzes 30%and Final Examination 40%.

LANe200JA（英語 / English language education 200）

資格英語Ｂ　基礎

相馬　美明

配当年次／単位数：**2年次／1単位**
備考（履修条件等）：**2021年度以降入学者のみ受講可能。単独履修は不可。同一曜日・時限の資格英語Ａに当選した場合のみ履修可能。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業はTOEIC L&R（４００点未満の方）への基本的な受験対策を主軸に授業を行います。加えて、リスニング強化のためにさまざまなリスニング問題に触れ、自信をつけていただくことを主眼としたいと考えております。

【到達目標】
TOEICの問題を基軸としたリスニング、リーディングの問題に慣れる。また、毎回配布する文法問題を通じ、英文法、熟語などの再確認などを行う。くわえて多岐にわたる生の英語にも触れながら、読解力のみならず聴解力をも高めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
いろいろな場面において使われるネイティブ・スピーカーの英語に充分慣れる。多くの練習問題を通して，おおよその内容が理解できるようにする。また、リスニング能力の増強のために，穴埋めや書き取り，インフォーメーション・ギャップや要約などの練習を行う。課題に対するフィードバックとしては、授業内における口頭コメント、もしくは文書による提出物へのコメントを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	イントロダクション	オリエンテーション、授業計画、諸注意、リスニング問題など
(2)	TOEIC Listening ①	Exercise 13, < True or False questions> , Film ①, 文法問題 ①
(3)	TOEIC Listening & Reading ②	Exercise 14, Film ①〜②, Questions、文法問題 ②
(4)	TOEIC Listening ③	Exercise 15, Chimpanzee, < True or False questions> , Film ③、文法問題 ②-③
(5)	TOEIC Listening ④	Exercise 16, Film ③〜④、文法問題 ③
(6)	TOEIC Listening & Reading ⑤	Exercise 17, Film ④〜⑤, Questions、文法問題 ④
(7)	TOEIC Listening ⑥	Exercise 17-18, Halloween < True or False questions> , Film ⑤〜⑥、文法問題 ⑤
(8)	TOEIC Listening & Reading ⑦	Exercise 18, A certain story < True or False questions> , Film ⑦、文法問題 ⑥
(9)	TOEIC Listening ⑧, レポート内容説明、指示	Exercise 19, Film ⑧, レポート内容説明、指示
(10)	TOEIC Listening & Reading ⑨	Exercise 20, The sound of silence < Background of the singer> , Film ⑧〜⑨、文法問題 ⑥-⑦
(11)	TOEIC Listening ⑩	Exercise 21, Film ⑨、文法問題 ⑦
(12)	TOEIC Listening & Reading ⑪	Exercise 21-22, Film ⑨〜⑩、文法問題 ⑧
(13)	TOEIC Listening ⑫, まとめ	Exercise (Listening, Reading), 文法問題など まとめ レポート提出
(14)	Film まとめ、TOEICリスニング、リーディングの最終確認、	Film まとめ、TOEICリスニング、リーディングの最終確認、

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は不可欠である。また、リスニング・スピーキングの上達には毎日の練習が必要となる。授業中の練習に加え教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い、授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
プリントを使用。

【参考書】
必要に応じ、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験（50％），レポート（10％），平常点（40％），それらを総合的に評価する。
オンラインでの開講となり成績評価の方法と基準も変更となった場合、
具体的な方法と基準に関しては、適宜、学習支援システムで提示したいと考える。

【学生の意見等からの気づき】
学生の発する「わからない」こそ、学生からの大切なメッセージであり、教員はこれを真摯に受け止め、対処していかなければならないと感じている。また、このメッセージを忌憚なく発せられる雰囲気作りにも配慮がなされるべきであろうと考える。

【その他の重要事項】
登録時の英語力（TOEIC のスコア等）に制限はありません。「資格英語Ａ・Ｂ」に関しては異なる習熟度の授業が複数開講されていますの で，授業内容や教材等をシラバスで確認し自分に合った授業を履修するようにしてください。 Ａ・Ｂを通して受講することで学習効果があがるようにデザインされているため，前期と後期で同じ教員の授業を履修することになります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to improve students' listening skills when solving the questions in TOEIC L&R. This course gives you a good chance to know the tips of noticing the differences especially in sound successions between Japanese and English, and will hopefully develop self-confidence through questions in a different way.
【Learning Objectives】
Students will be able to read analytically and think critically at a high level and demonstrate the ability to transfer critical thinking skills to the interpretation and analysis of ideas encountered in academic reading. Through read-out-loud activities, students are expected to improve overall reading comprehension.
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom: one and a half hours. Comments upon the details about the textbook, attendance rule, evaluation and so on will be made at the first class of this semester. Attendance is mandatory, and students will be expected to attend every class and hopefully enjoy their own activities. Great joy is only earned by great exertion!
【Grading Criteria /Policy】
Active participation（40%）, examination（50%）, assignments &presentation （10%） will be totally evaluated.

LANe200JA（英語 / English language education 200）

資格英語Ｂ　基礎

松下　晴彦

配当年次／単位数：**2年次／1単位**
備考（履修条件等）：**2021年度以降入学者のみ受講可能。単独履修は不可。同一曜日・時限の資格英語Ａに当選した場合のみ履修可能。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業はTOEIC L&Rの問題形式を通じて、今まで習得した英語力を充実・発展させ、同時にビジネスで使われる英語を身に着けること目標とする。TOEICのPartごとに必要とされる英語力、スキル、戦略を学び実践する。

【到達目標】
TOEIC L&Rの問題に慣れ、総合的な英語力を高めることができる。演習を通じてビジネス習慣を身に着けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストで多様な英語を聴き、読み、問題に解答する練習をしていく。ボキャブラリービルディングを目指し、毎回、前回の復習単語テストを行う。ビジネスについても様々な事象を考える。
毎回、リアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Unit 1 Travel	TOEICの問題演習
第2回	Unit 2 Health	TOEICの問題演習
第3回	Unit 3 Entertainment	TOEICの問題演習
第4回	Unit 4 Entertainment	TOEICの問題演習
第5回	Unit 5 Ecology	TOEICの問題演習
第6回	Unit 6 Job hunting	TOEICの問題演習
第7回	Unit 7 Careers and Employment	TOEICの問題演習
第8回	Unit 8 Advertisements and Sales Campaign	TOEICの問題演習
第9回	Unit 9 Communications	TOEICの問題演習
第10回	Unit 10 Complaints and Troubleshooting	TOEICの問題演習
第11回	Unit 11 Innovations and Technology	TOEICの問題演習
第12回	Unit 12 Promotion	TOEICの問題演習
第13回	Unit 13 Transport	TOEICの問題演習
第14回	試験・まとめと解説	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。
毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『TIPSで攻略するTOEIC L&Rテスト』塚田幸光（英宝社）税込2,310円

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度： 30％
授業内小テスト： 30％
定期試験： 40％
これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、変更があり得る。

【Outline (in English)】
Course outline: This course deals with TOEIC L&R style questions.
Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to improve their ability to answer TOEIC questions and acquire knowledge and awareness of business.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.
Grading Criteria: Final grade will be calculated based on Classwork 30%, Quizzes 30%and Final Examination 40%.

LANe200JA（英語 / English language education 200）

資格英語Ｂ　中級

松下　晴彦

配当年次／単位数：**2年次／1単位**
備考（履修条件等）：**2021年度以降入学者のみ受講可能。単独履修は不可。同一曜日・時限の資格英語Ａに当選した場合のみ履修可能。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業はTOEIC L&Rの問題形式を通じて、今まで習得した英語力を充実・発展させ、同時にビジネスで使われる英語を身に着けること目標とする。TOEICのPartごとに必要とされる英語力、スキル、戦略を学び実践する。

【到達目標】
TOEIC L&Rの問題に慣れ、総合的な英語力を高めることができる。演習を通じてビジネス習慣を身に着けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストで多様な英語を聴き、読み、問題に解答する練習をしていく。ボキャブラリービルディングを目指し、毎回、前回の復習単語テストを行う。ビジネスについても様々な事象を考える。
毎回、リアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Unit1 CAMPUS LIFE	TOEICの問題演習
第2回	Unit 2 EATING & DRINKING	TOEICの問題演習
第3回	Unit 3 BUSINESS	TOEICの問題演習
第4回	Unit 4 COOKING	TOEICの問題演習
第5回	Unit 5 HEALTH	TOEICの問題演習
第6回	Unit 6 SHOPPING	TOEICの問題演習
第7回	Unit 7 DAYLY LIFE	TOEICの問題演習
第8回	Unit 8 MEETINGS	TOEICの問題演習
第9回	Unit 9 COMMUNI-CATIONS	TOEICの問題演習
第10回	Unit 10 ADVERTIZING	TOEICの問題演習
第11回	Unit 11 ENTER-TAINMENT	TOEICの問題演習
第12回	Unit 12 JOBS	TOEICの問題演習
第13回	Unit 13 TRIPS & VACATIONS	TOEICの問題演習
第14回	試験・まとめと解説	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。
毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『SHARPENING YOUR TOEIC L&R TEST SKILLS: STANDARD』安浪誠祐 /Richard S. Lavin（朝日出版社）税込1,980円

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度： 30％
授業内小テスト： 30％
定期試験： 40％
これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、変更があり得る。

【Outline (in English)】
Course outline: This course deals with TOEIC L&R style questions.
Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to improve their ability to answer TOEIC questions and acquire knowledge and awareness of business.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.
Grading Criteria: Final grade will be calculated based on Classwork 30%, Quizzes 30%and Final Examination 40%.

LANe200JA（英語 / English language education 200）

時事英語 A

相馬　美明

配当年次／単位数：**2年次／1単位**
備考（履修条件等）：**抽選科目。2021年度以降入学者のみ履修可。抽選に当選した場合同一曜日・時限の時事英語Bに自動登録となる。同一名称科目については1クラスのみ履修可能。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史、環境問題、文化、サイエンスなど、世界のさまざまな分野における時事問題の読解を基軸とし、国際情勢などについて自らトピックを見い出し考察することを目的とする。加えて、映像教材を通じ、日常生活のさまざまな場面における実践的英語コミュニケーション能力を養成する。

【到達目標】
テクストの英文を通じ、英語の文法、構成、流れなどを意識しつつ、スピードを上げて読むことに慣れる。同時に、英文のキーセンテンスを瞬時に見極める能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
テクストの読解については、つねに要約すること、要点をまとめる意識をもって読んでほしい。授業ではテクストの英文の読解に加え、毎回ビデオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現にも触れ、リスニング、ディクテーション、スピーキング、読解などのいわゆる英語のフォー・スキルズを高めていく。毎回ご提出いただいたサマリ（要約）をこちらで添削し、次回の授業時にコメントともに返却していく形で進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、年間計画、諸注意など	イントロダクション、年間計画、諸注意など
2	Food and Health 1A. Sweet Love	Unit 1A, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ①
3	Food and Health 1B. Food for the Future	Unit 1B, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ①, ②
4	Call of the Wild 2A. Song of the Humpback	Unit 2A, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ②
5	Call of the Wild 2B. Dogs in a Human World	Unit 2B, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ③
6	History Detectives 3A. Was King Tut Murdered?	Unit 3A, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ③, ④
7	History Detectives 3B. Who killed the Iceman?	Unit 3B, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ④
8	Traditions and Rituals 4A. Living treasures	Unit 4A, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ④, ⑤
9	Traditions and Rituals 4B. The Changing Face of Kung Fu. レポート内容説明、指示	Unit 4B, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ⑤, レポート内容説明、指示
10	Finding Wonders 5A. The Secrets in the Sand	Unit 5A, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ⑥
11	Finding Wonders 5B. The Stories in the Rocks	Unit 5B, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ⑥, ⑦
12	Reef Encounters 6A. Cities Beneath the sea	Unit 6A, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ⑧
13	Reef Encounters 6B. The Truth about Great Whites, Film まとめ	Unit 6B, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ⑨, レポート提出
14	まとめ、リスニングの最終確認	まとめ、リスニングの最終確認、

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の予習は絶対条件となる。地味な努力を続けることで自信をつけてもらいたい。テクストの読解については、つねに要約できる能力について意識しつつ読んでほしい。また、リスニング・スピーキングの上達には、毎日の練習が肝要である。授業中の練習に加え、教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い、授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むことが要求される。準備学習・復習・宿題などに1時間半以上を期待している。

【テキスト（教科書）】
Reading Explorer 2 (Third Edition)/CENGAGE Learning

【参考書】
必要に応じ、適宜、指示する

【成績評価の方法と基準】
定期試験（20％），レポート（10％），平常点（60％），プレゼンテーション（10％）それらを総合的に評価する。また、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
平常点：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
学期末試験：必ず受験すること。
レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。
プレゼンテイション：積極的に話し、聞き、発表することを評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の発する「わからない」こそ、学生からの大切なメッセージであり、教員はこれを真摯に受け止め、対処していかなければならないと感じている。また、このメッセージを忌憚なく発せられる雰囲気作りにも配慮がなされるべきであろうと考える。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Through read-out-loud activities, students are expected to improve overall reading comprehension. Basic English grammar, vocabulary, and conversational expressions will be very helpful to communicate with each other, and at the same time essential when writing, speaking and of course listening.
【Learning Objectives】
Students will be able to read analytically and think critically at a high level and demonstrate the ability to transfer critical thinking skills to the interpretation and analysis of ideas encountered in academic reading. Through read-out-loud activities, students are expected to improve overall reading comprehension.
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom: one and a half hours. Comments upon the details about the textbook, attendance rule, evaluation and so on will be made at the first class of this semester. Attendance is mandatory, and students will be expected to attend every class and hopefully enjoy their own activities. Great joy is only earned by great exertion!

【Grading Criteria /Policy】
Active participation（60%）, examination（20%）, assignments &presentation （20%） will be totally evaluated.

LANe200JA（英語 / English language education 200）

時事英語Ｂ

相馬　美明

配当年次／単位数：**2年次／1単位**
備考（履修条件等）：**2021年度以降入学者のみ受講可能。単独履修は不可。同一曜日・時限の時事英語Ａに当選した場合のみ履修可能。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史、環境問題、文化、サイエンスなど、世界のさまざまな分野における時事問題の読解を基軸とし、国際情勢などについて自らトピックを見い出し考察することを目的とする。加えて、映像教材を通じ、日常生活のさまざまな場面における実践的英語コミュニケーション能力を養成する。

【到達目標】
テクストの英文を通じ、英語の文法、構成、流れなどを意識しつつ、スピードを上げて読むことに慣れる。同時に、英文のキーセンテンスを瞬時に見極める能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
テクストの読解については、つねに要約すること、要点をまとめる意識をもって読んでほしい。授業ではテクストの英文の読解に加え、毎回ビデオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現にも触れ、リスニング、ディクテーション、スピーキング、読解などのいわゆる英語のフォー・スキルズを高めていく。毎回ご提出いただいたサマリ（要約）をこちらで添削し、次回の授業時にコメントともに返却していく形で進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、秋学期予定、諸注意など	イントロダクション、秋学期計画、諸注意など。 リスニング、Wedding Ceremony Expenses, Just the Way You Are
2	Dollars and Scents 7A. The Flower Trade	Unit 7A, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ①
3	Dollars and Scents 7B. The Power of Perfume	Unit 7B, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ①, ②
4	Great Explorers 8A. An Incredible Journey	Unit 8A, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ②
5	Great Explorers 8B. The Travels of Ibn Battuta	Unit 8B, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ③
6	Identity 9A. The Teenage Brain	Unit 9A, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ③, ④
7	Identity 9B. Seeing Double	Unit 9B, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ④
8	Facing Change 10A. The Big Thaw	Unit 10A, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ④, ⑤
9	Facing Change 10B. Life on the Edge レポート内容説明、指示	Unit 10B, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ⑤, レポート内容説明、指示
10	Fact or Fake? 11A. The Knowledge Illusion	Unit 11A, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ⑥
11	Fact or Fake? 11B. The Limits of Lying	Unit 11B, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ⑥
12	Going to Extremes 12A. The Dream of Flight	Unit 12A, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ⑦
13	Going to Extremes 12B. Dark Descent, Film まとめ	Unit 6B, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ⑦,レポート提出
14	まとめ、リスニングの最終確認	まとめ、リスニングの最終確認、

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の予習は絶対条件となる。地味な努力を続けることで自信をつけてもらいたい。テクストの読解については、つねに要約できる能力について意識しつつ読んでほしい。また、リスニング・スピーキングの上達には、毎日の練習が肝要である。授業中の練習に加え、教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い、授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むことが要求される。準備学習・復習・宿題などに1時間半以上を期待している。

【テキスト（教科書）】
Reading Explorer 2 (Third Edition)/CENGAGE Learning

【参考書】
必要に応じ、適宜、指示する

【成績評価の方法と基準】
定期試験（20％），レポート（10％），平常点（60％），プレゼンテーション（10％）それらを総合的に評価する。また、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
平常点：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
学期末試験：必ず受験すること。
レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。
プレゼンテイション：積極的に話し、聞き、発表することを評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の発する「わからない」こそ、学生からの大切なメッセージであり、教員はこれを真摯に受け止め、対処していかなければならないと感じている。また、このメッセージを忌憚なく発せられる雰囲気作りにも配慮がなされるべきであろうと考える。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Through read-out-loud activities, students are expected to improve overall reading comprehension. Basic English grammar, vocabulary, and conversational expressions will be very helpful to communicate with each other, and at the same time essential when writing, speaking and of course listening.
【Learning Objectives】
Students will be able to read analytically and think critically at a high level and demonstrate the ability to transfer critical thinking skills to the interpretation and analysis of ideas encountered in academic reading. Through read-out-loud activities, students are expected to improve overall reading comprehension.
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom: one and a half hours. Comments upon the details about the textbook, attendance rule, evaluation and so on will be made at the first class of this semester. Attendance is mandatory, and students will be expected to attend every class and hopefully enjoy their own activities. Great joy is only earned by great exertion!
【Grading Criteria /Policy】

Active participation（60%）, examination（20%）, assignments &presentation （20%） will be totally evaluated.

LANc100JA（中国語 / Chinese language education 100）

中国語１Ａ

邱　奎福

配当年次／単位数：1～4年次／1単位
備考（履修条件等）：抽選科目。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では中国語の発音と基礎文法を教授する。
　まず、学生一人一人に声を出して発音を繰り返し練習させる。それから文法をやさしい会話文形式で理解したうえ、身に付けさせる。そして、中国語の表現力を養うとともに、少しでも話せるように指導し、実用的な語学力の向上をはかる。また、語学学習を通して、中国の文化、社会事情を知り、中国に対する理解を深めることもはかる。

【到達目標】
中国語の発音が分かるようになる。簡単な会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、対面でを実施する予定です。
講義と演習が中心、毎回数名を指名し、習得度を確認する。
重要な内容は課題を出し、毎回答えあわせをし、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	教科書などの説明
2	単母音・子音	単母音の発音の仕方 有気音と無気音の区別
3	声調・複合母音	４声・複合母音
4	鼻母音・音節	鼻母音ｎとｎｇの区別
5	発音の復習	中国語の発音の特徴
6	これは何ですか（文法説明）	疑問詞疑問文
7	これは何ですか（会話練習）	人称代名詞 指示代名詞
8	本は机の上にあります（文法説明）	存在を表す“在”
9	本は机の上にあります（会話練習）	存在、所有を表す“有”
10	私と私の家（文法説明）	名詞述語文 数の数え方
11	私と私の家（会話練習）	年月日、曜日の言い方
12	東京の夏は暑い（文法説明）	形容詞述語文
13	東京の夏は暑い（会話練習）	反復疑問文 選択疑問文
14	達成度チェック	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習1時間が目安。CDを繰り返し聞くこと。

【テキスト（教科書）】
『初級中国語簡明課本』邱奎福(白帝社 2015年3月)

【参考書】
『日中いぶこみ交差点　エッセンシャル版』
相原　茂・陳　淑梅・飯田　敦子　朝日出版社

【成績評価の方法と基準】
平常の学習態度50％・試験50％。

【学生の意見等からの気づき】
もっとこまめに学生の習得の度合いをチェックすることを心掛ける。

【その他の重要事項】
中国語1A,中国語1B,中国語1C,中国語1Dをセットで受けたが望ましい。

【Outline (in English)】
Course outline
Strengthening the foundation of Chinese pronunciation.
Learning Objectives
The course focuses on dialog exercises such as pronunciation and greetings.
Learning activities outside of classroom
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、in class contribution: 50%

LANc100JA（中国語 / Chinese language education 100）

中国語１Ｂ

邱　奎福

配当年次／単位数：1～4年次／1単位
備考（履修条件等）：抽選科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の発音の基礎を固める。授業の重点は発音とあいさつなどの会話練習です。

【到達目標】
中国語の発音が分かるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回指名し、発音させて、個別にチェックします。CDを活用すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	教科書などの説明
2	第1課	声調　単母音　複母音
3	第2課	子音　無気音と有気音
4	第3課	鼻音（-ｎと-ｎｇ）
5	第4課	“不”の声調変化　“一”の声調変化
6	第5課　どうぞよろしく	“☒”を使う疑問文
7	第6課　お名前は	省略疑問文
8	第7課　ご出身は	動詞述語文
9	発音と第5課～第7課の復習	会話練習
10	第8　飲み物は	反復疑問文
11	第9課　おいくつ	名詞述語文
12	第10課　和食はいかが	選択疑問文
13	第8課～第10課の復習	会話練習
14	試験・まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は毎回１時間以上すること。

【テキスト（教科書）】
『日中いぶこみ交差点 エッセンシャル版』相原　茂・陳　淑梅・飯田　敦子　(朝日出版社 2024年1月）

【参考書】
『初級中国語簡明課本』邱奎福(白帝社 2004年4月)

【成績評価の方法と基準】
平常点50％、テスト50％。

【学生の意見等からの気づき】
こまめに学生の習得の度合いをチェックすることを心掛ける。

【その他の重要事項】
中国語1A,中国語1B,中国語1C,中国語1Dをセットで受けた方が望ましい。

【Outline (in English)】
Course outline
Strengthening the foundation of Chinese pronunciation.
Learning Objectives
The course focuses on dialog exercises such as pronunciation and greetings.
Learning activities outside of classroom
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、in class contribution: 50%

LANc100JA（中国語 / Chinese language education 100）

中国語１Ｃ

邱　奎福

配当年次／単位数：**1〜4年次／1単位**
備考（履修条件等）：**抽選科目。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では中国語の発音と基礎文法を教授する。
　まず、学生一人一人に声を出して発音を繰り返し練習させる。それから文法をやさしい会話文形式で理解したうえ、身に付けさせる。そして、中国語の表現力を養うとともに、少しでも話せるように指導し、実用的な語学力の向上をはかる。また、語学学習を通して、中国の文化、社会事情を知り、中国に対する理解を深めることもはかる。

【到達目標】
中国語検定試験・準４級

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習が中心。楽しい会話を徹底的に練習する。
重要な内容は課題を出し、毎回答えあわせをし、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	新学期に当たって	教科書などの説明
2	私は中国語を勉強します（文法説明）	動詞述語文
3	私は中国語を勉強します（会話練習）	状況語の使い方
4	あなたは何をしていますか（文法説明）	現在進行形
5	あなたは何をしていますか（会話練習）	助動詞“想”
6	私は北京に行きました（文法説明）	動作の完了と過去を表わす“了”
7	私は北京に行きました（会話練習）	経験のを表す“☒”
8	私は図書館に勉強をしにいきます（文法説明）	連動文
9	私は図書館に勉強をしにいきます（会話練習）	時間、数量補語など
10	私は読んでわかります（文法説明）	結果補語と可能補語
11	第９項 私は読んでわかります（会話練習）	仮定の表現
12	明日私は行けなくなりました（文法説明）	助動詞“会”“能”
13	明日私は行けなくなりました（会話練習）	助動詞“得”など
14	まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習1時間が目安。CDを繰り返し聞くこと。

【テキスト（教科書）】
『初級中国語簡明課本』肖広・邱奎福・梁春香（白帝社 2015年3月）

【参考書】
　『日中いぶこみ交差点　エッセンシャル版』
相原　茂・陳　淑梅・飯田　敦子　朝日出版社

【成績評価の方法と基準】
平常の学習態度50%,試験50%。

【学生の意見等からの気づき】
もっとこまめに学生の習得の度合いをチェックすることを心掛ける。

【その他の重要事項】
中国語1A、中国語1B、中国語1C、中国語1Dをセットで受けた方が望ましい。

【Outline (in English)】
Course outline
The course is designed to guide students to pass the fourth grade of the Chinese language examination.
Learning Objectives
The course focuses on listening and analysis of common verbs, adjectives and nouns related to grammar.
Learning activities outside of classroom
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading Criteria /Policy
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、in class contribution: 50%

LANc100JA（中国語 / Chinese language education 100）

中国語１Ｄ

邱　奎福

配当年次／単位数：**1〜4年次／1単位**
備考（履修条件等）：**抽選科目。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では簡単な中国語の文法を習得できます。　まず、学生一人一人に声を出して発音を繰り返し練習させる。それから文法をやさしい会話文形式で理解したうえ、身に付けさせる。そして、中国語の表現力を養うとともに、少しでも話せるように指導し、実用的な語学力の向上をはかる。また、語学学習を通して、中国の文化、社会事情を知り、中国に対する理解を深めることもはかる。

【到達目標】
中国語検定試験・準４級

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習。毎回個別に指名し、発音練習をさせます。重要な内容は課題を出し、定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	新学期に当たって	授業の進め方など
2	第11課　家庭訪問	主述述語文
3	第12課　買い物	連動文
4	第13課　道案内	動作の完了・実現をあらわす“了”
5	第14課　中秋節	「もうすぐ〜なる」
6	第15課　食事の前は	時間量の言い方
7	第11課〜第15課の復習	会話練習
8	第16課　手作り料理	結果補語
9	第17課　カニの季節	可能補語
10	第18課　スキー場で	様態補語と程度補語
11	第19課　おみやげ	現在進行形
12	第20課　空港まで	“把”構文　受け身
13	第16課〜第20課の復習	会話練習
14	達成度チェック	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は毎回１時間目安です。

【テキスト（教科書）】
『日中いぶこみ交差点　エッセンシャル版』
相原　茂・陳　淑梅・飯田　敦子　（朝日出版社　2024年１月　2400円＋税）

【参考書】
『初級中国語簡明課本』肖広・邱奎福・梁春香（白帝社 2004年4月）

【成績評価の方法と基準】
平常点50％、テスト50％。

【学生の意見等からの気づき】
学生の習得の度合いをチェックすることを心掛ける。

【その他の重要事項】
中国語1A,中国語1B,中国語1C,中国語1Dをセットで受けたが望ましい。

【Outline (in English)】
Course outline
The course is designed to guide students to pass the fourth grade of the Chinese language examination.
Learning Objectives
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
The course focuses on listening and analysis of common verbs, adjectives and nouns related to grammar.
Learning activities outside of classroom
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、in class contribution: 50%

LANc200JA（中国語 / Chinese language education 200）

中国語２Ａ

劉　紅

配当年次／単位数：2〜4年次／1単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の授業を１年以上受けた人を対象とします（初級からの学生でも構いません）。中国語コミュニケーション能力の向上を目指します。

【到達目標】
中国語で簡単な日常会話ができるようになることと短い作文を書けるようになること。。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
①教科書にそって、映像を見ながら会話文と読解文を学習します。②既に学んだ基本的な単語や表現を復習しながら、新しい表現を徐々に加え、繰り返し会話練習をします。③フィードバック方法:授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。④時々単語テストをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第1☒ 学☒☒（1）	読解　会話
第2回	第1☒ 学☒☒（2）	読解　会話　練習
第3回	第2☒ 吃中餐（1）	読解　会話
第4回	第2☒ 吃中餐（2）	読解　会話　練習
第5回	第3☒ 爬☒城（1）	読解　会話
第6回	第3☒ 爬☒城（2）	読解　会話　練習
第7回	第4☒ 去中国留学（1）	読解　会話
第8回	第4☒ 去中国留学（2）	読解　会話　練習
第9回	第5☒ 中国的留学☒（1）	読解　会話
第10回	第5☒ 中国的留学☒（2）	読解　会話　練習
第11回	第6☒ 去☒家☒（1）	読解　会話
第12回	第6☒ 去☒家☒（2）	読解　会話　練習
第13回	看☒影	映画鑑賞
第14回	まとめ、期末試験	授業期間内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①教科書の予習と復習をします。
②学習した表現をできるだけ覚えます。③本授業の準備・復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『中国語はじめの一歩』白水社

【参考書】
中国語の辞書を各自用意すること。電子辞書でも構いません。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は期末試験は70％で、小テストは30％です。出席状況も参考になります。

【学生の意見等からの気づき】
以上の方針で授業を進め、学生に意見にしたがい、改善していくつもりである。

【学生が準備すべき機器他】
特に使用しない。

【その他の重要事項】
中国語だけではなく、中国文化や伝統についても授業を通じて学生に伝えようと思っている。この授業を通じて、中国語に興味を持ち、また中国文化に興味を持つきっかけになってもらえれば何よりだと思っています。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire basic Chinese communication skills. At the end of the course, students are expected to be able to take part in basic everyday Chinese conversation and be able to write short articles. Students will be expected to complete the required assignments. The required study time will be more than four hours for a class. The final grade will be decided based on the following: Term-end examination 70%, in class contribution 30%.

LANc200JA（中国語 / Chinese language education 200）

中国語２Ｂ

劉　紅

配当年次／単位数：2〜4年次／1単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前期しっかり勉強した内容を基礎として、さらなる日常会話を覚えることを目的とする。

【到達目標】
この授業では文法を徐々に基礎を築いていくうえで、単語を増やし、読解力を高めていきます。ある程度単語と文法を身に着けてから作文の練習を増やします。自分が言いたいことを中国語で表現することができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
単語をしっかり覚えるうえで、文法を理解してもらい、その応用として本文や練習問題をたくさん練習させます。練習問題の答え合わせは授業中に行います。単語や作文の小テストも行います。小テストのフィードバックは毎回その次の授業で各問題の答え合わせをするという形でに行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第7☒ 找☒象（1）	読解　会話
第2回	第7☒ 找☒象（2）	読解　会話　練習
第3回	第8☒ 不当☒老族（1）	読解　会話
第4回	第8☒ 不当☒老族（2）	読解　会話　練習
第5回	第9☒ 找工作（1）	読解　会話
第6回	第9☒ 找工作（2）	読解　会話　練習
第7回	第10☒ 西藏行（1）	読解　会話
第8回	第20☒ 西藏行（2）	読解　会話　練習
第9回	自習コーナー　☒健康（1）	読解　会話
第10回	☒自習コーナー　健康（2）	読解　会話　練習
第11回	自習コーナー　☒程教育（1）	読解　会話
第12回	自習コーナー　☒程教育（2）	読解　会話　練習
第13回	看☒影	映画鑑賞
第14回	期末試験・まとめと解説	授業期間内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①教科書の予習と復習をします。
②学習した表現をできるだけ覚えます。③本授業の準備・復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『中国語はじめの一歩』白水社

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は期末試験は70％で、小テストは30％で評価します。出席状況も参考になります。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見を参考しながら、授業を改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
特に使用しない

【その他の重要事項】
この授業を通じて中国語と中国文化に興味を持ってもらえれば何よりだと思っています。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire basic Chinese communication skills. At the end of the course, students are expected to be able to take part in basic everyday Chinese conversation and be able to write short articles. Students will be expected to complete the required assignments. The required study time will be more than four hours for a class. The final grade will be decided based on the following: Term-end examination 70%, in class contribution 30%.

LANx100JA（その他の言語 / Foreign language education 100）

日本手話言語１Ａ

宮本　一郎

配当年次／単位数：1～4年次／1単位
備考（履修条件等）：**抽選科目。抽選に当選した場合同一曜日・時限の日本手話言語１Ｂに自動登録となる。同一名称科目については1クラスのみ履修可能。2020年度以前入学者は科目名称・授業コードが異なる（日本手話1A／N5601）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本手話の文法に則った自己紹介を習得し、講師及び履修生同士のコミュニケーションができるようにします。
他に、ろう社会の文化や歴史などを学びます。

【到達目標】
数字と指文字の表現、読取りができる。
自己紹介（名前、学籍番号、住まい、趣味、家族）を表現できる。
手話での質問を読み取って、手話で回答できる。
ろう文化について、生活行動に関する知識を得て、理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
手話は視覚言語ですので、終始、講師を見ながら学びます。
基本的に音声なしですが、内容によって、音声付きで進めることがあります。
指差しや呼びかけなど、ろう文化特有の行動に慣れてもらいます。
読取りの確認のため、小テストを行うことがありますが、成績に関わりません。
オンライン授業の場合、全員顔出しで進めます。
各自の動画を提出することがあります。Google Classroomを使います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	・指さし ・Yes/No ・肩たたき ・視線	ろう者とのコミュニケーションを理解する。
2	・手話の楽しさ	音声言語と異なることを学び、手話の世界を知る。
3	・身振り	表現のイメージを作って、相手へ伝えてみる。
4	・自己紹介（１） ・指文字、数字の習得	・「初めまして」「私は～と申します」を覚える。 ・指文字と数字を覚える。
5	・自己紹介（２） ・名前と学籍番号の習得	・名前の指文字、学籍番号を覚える。 ・ろう者の会話に関する知識を学ぶ。
6	・自己紹介（３） ・住まい、家族の習得 ・５Ｗ１Ｈを習得	・名前の手話を覚える。 ・住まい、家族、誕生日に関する手話を覚える。 ・５Ｗ１Ｈの表現を覚える。
7	・自己紹介（４） ・趣味の習得	・趣味の手話を覚える。 ・５Ｗ１Ｈを使って会話をする。
8	・自己紹介（５） ・通学方法を習得	・交通機関などの手話を覚える。 ・通学方法、時間の会話をする。
9	・感情の表現	・感情の手話を覚える。 ・感情の程度を表現する。
10	・大きさ ・長さ ・重さ	・大きさ、長さ、重さの表現を習得する。
11	・時間の表現	・未来・現在・過去の表現を習得する。 ・カレンダーの表現を習得する。
12	・手話会話（１）	・５Ｗ１Ｈを使って、手話でたずねて、手話で答える。
13	・手話会話（２）	・５Ｗ１Ｈの手話を使って、いろいろな質問をして回答する会話を続ける。 いろいろな質問を読み取って、適した回答ができるようにする。
14	・全体の復習	表現のチェックを行います 。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
手話表現の復習を必ず行って下さい。
授業の初めに、表現のチェックを行います。
本授業の学習・復習時間は、100分を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「手にことばを（初級用）」

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
＜定期試験＞
・自己紹介の表現ができている
・手話を読み取って、理解できている
・手話での質問を読み取って、手話で回答できている
＜採点方法＞
・期末試験（100 %）
＜必須＞
・指文字と数字の表現を習得できていること
・名前と学籍番号がスムーズに表現できていること
・家族や趣味などの手話を表現できていること

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
※オンライン授業を実施する時、次の通り、指示することがあります。
・スマホなどを使って、自分の手話を収録できるようにする
・Google Classroomへ動画をアップロードできるようにする

【その他の重要事項】
秋学期とセットです。
講師を見ながら手を動かして覚えていきます。
また、履修生同士の会話もお互いに見ながら会話します。
頻繁に「（先生を）見て下さい」と指示します。すぐ先生を見るようにして下さい。
今までの授業は音声中心であり、終始見なくても良いですが、当授業は、目で見なければなりません。
不慣れなどで疲れることがあると思います。かんばりましょう。

【Outline (in English)】
【Outline】
You will learn self-introduction based on the grammar of Japanese Sign Language(JSL), and you will be able to talk with teacher, students.
In addition, you will learn about the culture and history on the Deaf communities.
【Learning Objectives】
The target levels are as follows.
・Speak and read numbers and finger-spelling.
・Speak self-introduction (Name, Student ID number, Residence, Hobbies, Family).
・You will be able both reading and answering in JSL.
You will understand the knowledge of life and behavior on the Deaf culture.
【Method】
JSL is the visual language, so you learn watching me.
Basically without voice, and it will be promoted with voice by JSL Interpreter.

You will get accustomed the pointing and calling of Deaf behaviors.
I may take several tests to confirm your reading and speaking. It does not affect your grades.
When Online-lesson, we will face-to-face. I will tell you to submit your own videos, so we will use Google Classroom.
【Learning activities outside of classroom】
You must to review JSL expression.
At the beginning of the lessons, I will check your expressions.
The standard study /review time for this lesson is 100 minutes.
【Grading Criteria /Policy】
< Regular Test>
· You can express myself in JSL.
· You can read JSL.
· You can read questions and answer in JSL.
< Scoring>
· Final exam (100%)
< Required>
· Being able to master the expressions of finger-spelling and numbers
· You express smoothly your name and student ID number.
· You can express such as family and hobbies etc. in JSL.
【Equipment student needs to prepare】
· You will be able to record your own JSL by smartphone, etc.
· You will be able to allow your videos for uploading to the Google Classroom.
【Others】
Set with the fall semester.
While watching me, move your hands and remember as same as me. In addition, we will talk while watching each other's conversations between students. Frequently instruct "Please look me(teacher)". Please see the teacher immediately. I think that you don't have to look at teacher from beginning to end. But the lesson must be see. You maybe get tired due to unfamiliarity. Let's do it.

LANx100JA（その他の言語 / Foreign language education 100）

日本手話言語１Ｂ

宮本　一郎

配当年次／単位数：**1～4年次／1単位**
備考（履修条件等）：**単独履修は不可。同一曜日・時限の日本手話言語１Ａに当選した場合のみ履修可能。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期で習得した自己紹介に、「どうして」「どちら」などを加えて、より多く手話で話せるようにします。
５Ｗ１Ｈの質問ができて、全てスムーズに回答できるようにします。
日本手話文法の「強弱」「反覆」を習得します。
ろう歴史と手話通訳について学びます。

【到達目標】
・第一者（私）、第二者（あなた）、第三者（彼・彼女）を使った空間を理解して、動詞の方向を習得します。
・接続詞を使った表現を習得します。
・日本手話文法の「強弱」「反覆」を習得して、読取りができるようにします。
・授業外学習を設けて、ろう者と手話通訳者について学ぶことを予定しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では、基本的に音声による説明を行いません。
春学期の授業で覚えた自己紹介の会話文に、接続詞を入れます。
テキストの手話会話を習得します。
日本手話文法を説明して、例文の表現を習得します。
習得チェックのため、時々、読取りと表現の小テストを行い、適切でない部分について指導します。
秋学期定期試験の成績評価に関わりません。
オンライン授業では、全員顔出しで授業を進めます。
各自手話動画の提出がある場合、Google Classroomを使います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	・オリエンテーション ・日本手話１Ａの復習	・授業外学習の情報を提供します。 ・自己紹介の手話表現をチェックします。
2	・接続詞 ～けれども、～ ～ので、～ ～ために、～	・自己紹介の例文を使って練習します。
3	・位置（１） ・会話	テーブルに並べた皿、コップなどの様子を、ＣＬを使って表現します。
4	・位置（２） ・会話	道案内や建物内の案内をする時の表現を習得します。
5	・方向を伴う動詞	「言う」「見る」「渡す」「送る」などの、方向軌跡を伴う動詞を覚えます。
6	・動詞の強弱、反覆	強弱、反覆し、顎や肩の使い方によって、意味が変わることを学びます。
7	・いろいろな動詞を使って復習 ・ろう者の人権運動	・方向や強弱などの、いろいろな動詞を表現できるようにします。 ・ろう者の歴史を学んで、人権について理解します。
8	・自己紹介の会話 ・手話通訳について	・自己紹介の会話を膨らましていきます。 ・手話通訳派遣制度や歴史を学びます。
9	・道順の説明（１） ・空間認識について	・地図などを使って、手話表現を学びます。 ・ろう者特有の空間認識について学びます。
10	・道順の説明（２）	・復習 ・交通機関利用、大学内の道順の、手話表現を学びます。
11	・自己紹介＋いろいろな会話	・自己紹介の会話を膨らましていきます。
12	・会話 ・今までの復習	・手話表現をチェックします。
13	・今までの復習	・手話表現をチェックします。
14	・手話での会話 ・全体の復習	今まで習ったことを復習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、手話表現の復習を必ずして下さい。
履修生同士で声を出さず、手話会話をして下さい。習得しやすくなります。
本授業の学習・復習時間は1時間を標準とします。
本授業の学習・復習時間は、100分を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業外学習レポートの提出があります。
秋学期定期試験の評価に加算します。

【参考書】
「手にことばを（初級用）」

【成績評価の方法と基準】
＜授業外学習＞
・出席が必須です。
　レポート提出あり。（１０点）
　　※出席が困難な場合、相談して下さい。
＜期末試験＞
・手話を読み取って、ペーパーの質問に答えます。（４０点）
・習った手話を使って、話します。（５０点）
＜採点方法＞
課外学習（10 %）
期末試験（90 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
Google Classroomを使えるようにして下さい。

【その他の重要事項】
春学期とセットです。

【Outline (in English)】
【Outline and objectives】
You will be able to speak adding "why" and "which" to your self-introduction, and that you will be able to speak more JSL.
You can ask using 5W1H-questions and you can answer them all smoothly.
And you will learn the "strength" and "rebellion" of JSL's grammar.
You will learn about the History of both Deaf' communities and Sign Language interpreters.
【Learning Objectives】
・You will study the Space of JSL, “me”, “you”, “him/her”, and learn the direction of the verb.
・You learn expressions using Conjunctions.
・You learn the Strength and Rebellion of JSL's grammar so that you will be able to read JSL.
・We plan to set up Out-of-Class for learning about Deaf people and their societies.
【Method】
At lesson, I basically speak without voice.

Add conjunctions to your self-introduction conversations you learned in the spring semester. JSL conversation on the book. You study JSL's grammar, and you expression. Occasionally quizzes are given to check learning. It is not related to the grade evaluation of the fall semester regular exam.
When Online-lesson, we will face-to-face. I will tell you to submit your own videos, so we will use Google Classroom.
When Online-lesson, we will face-to-face. I will tell you to submit your own videos, so we will use Google Classroom.
【Learning activities outside of classroom】
Please review JSL's expression by yourself.
It's better to talk between classmates in JSL.
The standard study /review time for this lesson is 100 minutes.
< Learning outside class>
· Attendance is required. There is a report submission. (10 points) * If attendance is difficult, please contact me.
< Final exam>
· Read JSL and answer the questions on the paper. (40 points)
· Speak using JSL you learned. (50 points)
< Scoring method>
Extracurricular learning (10%)
Final exam (90%)
【Others】
It is a set with the spring semester.

LANx200JA（その他の言語 / Foreign language education 200）

日本手話言語２Ａ

宮本　一郎

配当年次／単位数：2～4年次／1単位
備考（履修条件等）：**抽選科目。抽選に当選した場合同一曜日・時限の日本手話言語２Ｂに自動登録となる。同一名称科目については1クラスのみ履修可能。2020年度以前入学者は科目名称・授業コードが異なる（日本手話2A／N5605）ため注意。日本手話言語1A・1B履修済みの学生のみ受講可能。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本手話言語を中心に、手話の基礎やろう文化、法律制度などを学び、かつ、手話でのコミュニケーションができるように目指します。尚、全国手話検定5級の受験希望者に対して、練習や助言などを行います。

【到達目標】
名前、趣味などの自己紹介ができて、手話での質疑応答の会話がスムーズにできるようにします。
空間の使い方を学びます。
手話スピーチができるようにします。
ろう者同士の会話でよく使われる慣用句を習得できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
手話を学ぶ時、基本的に、音声なしで進めます。
毎回の授業では、次の通り行います。
・テキストの会話文などの手話を習得
　次の授業で、復習チェックと指導を行います。
・講師の手話スピーチを読取り
　読み取った内容とスピーチ原稿を比べて、手話表現を確実に習得します。
・履修生の手話スピーチ
　表出をチェックして、指導します。
・慣用句の習得、表現
　独自の言語体系であることを理解していきます。
オンライン授業の場合、全員顔出しにして授業を進めます。
提出がある時、Google Classroomを使います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	・オリエンテーション ・検定などを説明 ・手話表現のチェック	自己紹介の手話表現や読み取りができていることをチェックします。
2	・グループ話し合い	自己紹介や質疑応答を行った上、与えられたテーマについて手話で議論します。 5W1Hの表現もチェックします。
3	・「社会生活」	「社会生活」に記されている手話会話を習得します。
4	・「社会生活」（復習）	習得した手話をよりスムーズに表現できるようにします。
5	・「家庭生活」	「家庭生活」に記されている手話会話を習得します。
6	・「家庭生活」（復習）	習得した手話をよりスムーズに表現できるようにします。
7	・「職業生活」	「職業生活」に記されている手話会話を習得します。
8	・「職業生活」（復習）	習得した手話をよりスムーズに表現できるようにします。
9	・課された課題について調べて、各自発表して議論します。	「社会生活」「家庭性格」「職業生活」の範囲で、課題について調べて、手話で話してもらいます。
10	・意思疎通支援制度	主に手話通訳者育成、手話通訳派遣の制度について話します。 手話スキルを必要とする仕事などを紹介します。
11	・「教育」	「教育」で使われる会話を習得します。
12	・「教育」（復習）	習得した手話をよりスムーズに表現できるようにします。
13	・慣用句のチェック	・慣用句の習得をチェックします。 ・試験へ向けて、手話でのスピーチできるように練習します。
14	・全体の復習 ・手話スピーチ	・今まで習った手話を表現できているかをチェックします。 ・試験へ向けて、手話でのスピーチができるように練習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、手話表現の復習を必ずして下さい。
履修生同士で、手話の会話をして、目で手話を見ることを慣れて下さい。
声を出さないで手話会話をした方が効果があります。
本授業の学習・復習時間は合わせて100分を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「手にことばを（中級用）」

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
＜期末試験＞
※筆記と会話を予定しています。
・接続詞を使って、長文の表現ができている。
・質問を読み取って、回答できている。
・習った手話表現をほぼ使い、議論や主張ができている。
＜採点方法＞
期末試験（100％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
秋学期とセットです。
主に全国手話検定試験に関する情報を提供します。

【Outline (in English)】
【Outline】
You will learn the basics of Japanese Sign Language(JSL), the Deaf culture, the legal systems, etc., and will be able to communicate in JSL.
We help you to take the Certification test on JSL.
【Learning Objectives】
You will be able to introduce yourself, Name, Hobbies, etc., so that you will speak smoothly Q &A conversation in JSL.
Allows you to speak in JSL.
You will learn the Idioms that it's used in conversations between Deaf people.
【Method】
When learning JSL, it's basically proceed without voice.
It will be the following.
・Learn JSL such as conversational texts
・Read my speech in JSL
・Your speech in JSL
・Acquisition and expression of idioms
When Online-lesson, everyone will come face-to-face. When I take submissions, you use Google Classroom.
【Learning activities outside of classroom】
Please be sure to review the sign language JSL's expressions by yourself.

Get used JSL's conversations with each other and seeing JSL.
It is more effective to have JSL without voice.
The standard study /review time for this lesson is 100 minutes.
【Grading Criteria /Policy】
< Regular exam >
* I will prepare writing and speech.
· You will be able to speak long sentences can using conjunctions.
· You can read the question and answer.
· You can make discussions and assertions using most of JSL you learned.
< Scoring method >
Final exam (100%)

LANx200JA（その他の言語 / Foreign language education 200）

日本手話言語２Ｂ

宮本　一郎

配当年次／単位数：2～4年次／1単位
備考（履修条件等）：**単独履修は不可。同一曜日・時限の日本手話言語２Ａに当選した場合のみ履修可能。2021年度以降入学者のみ受講可能。2020年度以前入学者は「N5606 日本手話２Ｂ」を受講すること。日本手話言語1A・1B履修済みの学生のみ受講可能。**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本手話言語の会話をより広げて行きます。
授業外学習で、手話話者との手話会話ができることを目指します。
全国手話検定試験の受験をフォローします。

【到達目標】
自己紹介、質疑応答、意思などの手話会話ができて、空間の使い方を習得することを目標にします。
更に、履修生自身から、講師へ手話で質問できるようにします。
慣用句の習得を増やしていきます。
ろう者の生活や歴史などを学んで、授業外学習へ連結できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
手話を学ぶ時、基本的に、音声なしで進めます。
毎回、次の通り行います。
毎回の授業では、次の通り行います。
・テキストの会話文などの手話を習得
　次の授業で、復習チェックと指導を行います。
・講師の手話スピーチを読取り
　読み取った内容とスピーチ原稿を比べて、手話表現を確実に習得します。
・履修生の手話スピーチ
　表出をチェックして、指導します。
・慣用句の習得、表現
　独自の言語体系であることを理解していきます。
様々な手話関係の行事企画を提供します。
履修生が手話会話をチャレンジしてみましょう。
オンライン授業となる場合、全員顔出しで進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	・オリエンテーション ・空間利用	授業外学習と手話検定についての説明を行います。 空間を利用した手話会話のチェックをします。
2	・「聴覚障害」 ・慣用句 /ある//どうやって/	「聴覚障害」に記された手話会話を習得します。
3	・「聴覚障害」（復習） ・慣用句（復習）	取得した手話会話をよりスムーズに表現できるようにします。
4	・「福祉制度」 ・慣用句 /目が高い・安い/	「福祉制度」に記された手話会話を習得します。
5	・「福祉制度」（復習） ・慣用句（復習）	取得した手話会話をよりスムーズに表現できるようにします。
6	・「手話通訳」 ・慣用句 /どうやって//ある/	「手話通訳に記された手話会話を習得します。
7	・「手話通訳」（復習） ・慣用句（復習）	取得した手話会話をよりスムーズに表現できるようにします。
8	・授業外学習の事前学習	見学予定の施設やろう協会行事について学んで、各自の見学計画を立てます。
9	・授業外学習での感想、話し合い	話し合って情報共有を図り、履修生のロードマップの参考となるようにする。
10	・手話通訳者の話	手話通訳者自身の経験などを聞きます。
11	・課された課題について調べて、各自発表して議論します。	「聴覚障害」「福祉制度」「手話通訳」の範囲で、課題について調べて、手話で話してもらいます。
12	・春学期、秋学期で習得した慣用句の復習	慣用句の表現をチェックします。
13	・全体の復習 ・手話スピーチ	秋学期試験へ向けて、チェックを行います。
14	・手話スピーチ	秋学期試験へ向けて、手話スピーチを練習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、手話表現の復習を必ずして下さい。
履修生同士で、声を出さないで手話会話をした方が効果があります。
予め、与えられたテーマについて調べてまとめてもらうことがあります。
授業外学習に出席してレポートを提出して下さい。秋学期定期試験の評価に加算します。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて100分を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「手にことばを（中級用）」

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
＜学外学習＞
・ろう者団体の行事への参加が必須です。
　レポート提出あり。（２０点）
　　※行事への見学が困難な場合、相談して下さい。
＜期末試験＞
・手話を読み取って、ペーパーの質問に答えます。（４０点）
・習った手話を使って、スピーチをします。（４０点）
＜採点方法＞
授業外学習（２０％）
期末試験（８０％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
春学期とセットです。

【Outline (in English)】
【Outline】
I will be expanded your conversations in JSL.
I will support you talk in JSL the Deaf people, through the Out-of-Class.
I will support you will take the Certification test on JSL.
【Learning Objectives】
The goal is to be able to JSL conversations such as self-introduction, questions and answers, and intentions.
In addition, you will be able to ask questions in JSL instructor.
It will be increased the learning of idioms.
You learn about the life and history of Deaf communities, so that they can be connected to out-of-class learning.
【Method】
When learning sign language, it basically will be proceed without voice. It will be the following each time.
・Acquisition of JSL conversation sentences
・Learning conversation using idioms
・Read JSL speech
・Your speech in JSL

When Online lessons, everyone will come face-to-face.
【Learning activities outside of classroom】
Please be sure to review the sign language expression by yourself. It is more effective to have a sign language conversation between the students without speaking out. You may be asked to research and summarize a given theme in advance. Please attend the out-of-class study and submit a report. It will be added to the evaluation of the regular exam for the fall semester. The standard preparatory study and review time for this class is 100 minutes in total.
【Grading Criteria /Policy】
< Learning outside class >
· Participation in events of Deaf groups is mandatory. There is a report submission. (20 points) * If it is difficult to visit the event, please contact us.
< Final exam >
· Read the sign language and answer the questions on the paper. (40 points)
·Give a speech using the sign language you learned. (40 points)
< Scoring method > Out-of-class learning (20%) Final exam (80%)

ARSk100JB,ARSk200JC（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 100 , 地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 200）

地域問題入門

野田　岳仁

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、地域社会が抱えるさまざまな社会的な課題に対して、現場に暮らす人びとの立場からの解決を模索することを目的とする。地域づくり、観光、地域福祉、災害、環境問題をテーマにしたケーススタディを扱うなかで、人びとの創造性や地域社会の志向性を捉えながら、問題解決につながる政策論を構想していく。

【到達目標】
地域社会が抱える諸課題に対して、現場の人たちが考える問題の本質とはどのようなものであるのかを見極める力を養うこと。そのうえで、現場に暮らす人びとが納得し、満足できるような政策論を構想する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は知識を覚えることよりも、地域問題を理解する際の”考え方”を身につけることに重点をおいた実践的な講義である。受講生には、理想論や常識的な考え方にとらわれることなく、現場の人びとの立場に立って問題の本質を見極めることを求める。DVDなどの視覚資料を積極的に活用する。授業の展開によって若干の変更がありうる。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域問題を捉える視座	現場に暮らす人びとの立場から
第2回	地域社会を理解する視点①	むらの暮らしと生活文化
第3回	地域社会を理解する視点②	むらの共同性と社会関係
第4回	地域社会が担ってきた教育と福祉	社会的親と平凡教育
第5回	地域問題としての環境汚染	水はなぜ汚れるのか？
第6回	水辺空間管理と地域づくり	コモンズと弱者生活権
第7回	地域社会の合意形成はいかにして可能か？	住民参加と地域づくり
第8回	コミュニティづくりはなぜうまくいかないのか？	地域コミュニティとNPO・NGO
第9回	自然災害と災害文化	なぜ人びとは雪崩が予測できると語るのか？
第10回	原発災害とコミュニティ	被災者にとっての”被害”とは？
第11回	魅力ある景観形成と地域づくり	町並み保全と地域づくり
第12回	環境と観光はどのように両立されるのか？	ローカル・ルールを守る観光まちづくり
第13回	地域問題の理論と実践	生活環境主義の立場から
第14回	講義のまとめと試験	本講義の知見と有効性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の振り返りは不可欠となる。毎回配布するレジュメには参考文献を記載しておくので必要に応じて参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布する。

【参考書】
配布資料に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
講義内のコメントやリアクションペーパー（10%）と期末試験（90%）の総合評価。到達目標が達成されているかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】
担当教員は環境保全活動や地域づくり活動などの地域問題の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to help students master the basic concepts of environmental sociology and sociology of local community.【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe major methods and theories of environmental sociology and sociology of local community, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems.【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.　【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on reaction papers(10%) and term-end examination（90%).

ARSx100JB（地域研究（その他）/ Area studies(Others) 100）

コミュニティマネジメント入門

水野　雅男、図司　直也、土肥　将敦、野田　岳仁、杉浦　ちなみ

配当年次／単位数：1～4年次／2単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。2020年度以前入学者は「N6002 まちづくりの思想」を受講すること。

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コミュニティマネジメント（まちづくり）とは何か、その原則や方策、あるいは農山村、都市、地域、コミュニティの捉え方について、市民活動やソーシャルビジネスの実践事例を通じて理解する。

【到達目標】
日本国内や海外のコミュニティマネジメント（まちづくり）、地域再生の取り組みとその実態を把握し、それらが内包する意味と現代的意義について幅広く理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教員5名がオムニバス形式で講義を担当する。実践事例やケーススタディでは、関連スライドやＤＶＤ等を活用して紹介する。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（図司）	「自分ごと」から地域を感じる
第2回	「地域／まち」をつくるとは？（図司）	地域づくりを実践する現場に触れる
第3回	若者は「地域」で何ができるのか？（図司）	地域づくりに動き出した仲間の姿に触れる
第4回	なぜ人びとは地域の自然を守るのか？（野田）	地元の人びとの生活の立場から考える
第5回	ツーリズムによる地域再生（野田）	大衆的な観光地を目指さない観光まちづくり
第6回	コミュニティの暮らしと創造性（野田）	生活文化の「価値」継承のしくみ
第7回	コミュニティ×企業（土肥）	地域固有の企業とステイクホルダー
第8回	コミュニティ×NPO（土肥）	社会的課題とNPO
第9回	コミュニティ×ソーシャルビジネス（土肥）	ソーシャル・ビジネスの可能性
第10回	学びがつくる地域（杉浦）	学校外での学びの空間
第11回	地域で文化を学び伝える（杉浦）	暮らしの中にある豊かさ
第12回	アート＆クラフトとまちづくり（水野）	アート＆クラフトによる地域資源の発掘
第13回	地域資源の保全活用によるまちづくり（水野）	歴史的建造物の保全活用の意義と実践事例
第14回	住民主体のまちづくり（水野）	ＮＰＯと行政のパートナーシップの必要性と実践事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞、雑誌、書籍等によるまちづくり関連報道、論文等に関心を持つ。旅行等の機会、出身市町村、居住地等、身近な地域について調べる。講義で示した実例等について、より詳しく調べ自らの関心を深める。本授業の予習・復習時間は各2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、授業中に資料を配布する。

【参考書】
授業中に随時示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパーのコメント）100％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度の授業改善アンケート結果を反映して改善する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、学習支援システムを利用して教材を掲載する。

【その他の重要事項】
授業を担当する5名の教員がそれぞれ地域プランニング、ソーシャルビジネス、まちづくり活動などのフィールドワークに基づいてコミュニティマネジメント（まちづくり）の考え方を具体的に紹介する。

【Outline (in English)】
< Course outline>
The aim of this course is to help students acquire what community management is, its principles and measures, or how to understand agricultural and mountain villages, cities, regions, and communities through practical examples of civic activities and social business.
< Learning Objectives>
By the end of the course, students should be able to do the followings:
Understand the community management in Japan and overseas, the efforts for regional revitalization and their actual conditions, and broadly understand the meaning and modern significance of them.
< Learning activities outside of classroom>
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy>
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 100%

SOW100JB,SOW200JC（社会福祉学 / Social Welfare 100 , 社会福祉学 / Social Welfare 200）

社会問題論

髙良　麻子

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代の日本における社会問題を中心に、多様な視点から理解するとともに、問題解決に向けた様々な活動を学ぶ。

【到達目標】
・それぞれの社会問題の概要を説明できる。
・様々な社会問題は相互に関連していることを説明できる。
・社会問題の解決に向けた活動を考えられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、講義とともに、少人数でのディスカッション等を行う。また、映像やゲストスピーカーからの講義によって理解を深める。授業ごとにリアクションペーパーを提出してもらい、次の回の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	社会問題とは何か①	状態からの理解
第3回	社会問題とは何か②	活動からの理解
第4回	社会問題①	少子高齢化・人口減少
第5回	社会問題②	ヤングケアラー
第6回	社会問題③	ワーキングプア
第7回	社会問題④	子どもの貧困
第8回	社会問題⑤	ハラスメント
第9回	社会問題⑥	DV（家庭内暴力）
第10回	社会問題⑦	性暴力
第11回	社会問題⑧	難民
第12回	社会問題⑨	孤独・孤立
第13回	社会問題⑩	自殺
第14回	総括	社会問題の全体像　まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料を活用して、予習および復習をすることで、理解を深めてほしい。また、日頃から社会問題に興味をもち調べることを期待する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
必要に応じて、適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点 60%
・レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】
昨年度の学生のフィードバックをもとに、今年度もゲストスピーカーからの講義を予定している。

【Outline (in English)】
This course is designed to explore contemporary social problems in Japan. The design of this course provides students with an opportunity to develop knowledge of current social problems. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report (40%) and in-class contribution (60%).

SOW100JB（社会福祉学 / Social Welfare 100）

社会福祉概論

岩崎　晋也

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会福祉とは何か。他の政策との比較や歴史的経緯をもとに理解する。

【到達目標】
社会福祉における基本的な概念や知識、理論を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では、教科書をもとに講義する。教科書に重要事項は記載してあるので、教員の話しを書き取ることより、話しの流れをよく聴くことに専念すること。この講義で取り扱う基本的な学術用語については、（丸暗記ではなく）その意味を確実に理解し、習得することが重要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会福祉とは（教科書ユニット0）	社会福祉の基礎的理解を行う
第2回	社会政策とは何か1（ユニット11）	社会政策の基本を理解する
第3回	社会政策とは何か2（ユニット11）	社会政策のレジームの違いを理解する
第4回	社会福祉の補完性と固有性1（ユニット12）	社会政策に対する社会福祉の補充性を理解する
第5回	社会福祉の補完性と固有性2（ユニット12）	社会政策に対して社会福祉の固有性を理解する
第6回	イギリスの救貧政策の展開1（ユニット13）	資本主義と福祉政策の関係を学ぶためにイギリスの福祉の歴史を理解する
第7回	社会国家の基本プラン『ベヴァリッジ報告』1（ユニット14）	福祉国家政策の本質を理解する
第8回	福祉国家はどこへ行くのか1（ユニット15）	福祉国家政策の課題を理解する
第9回	福祉国家はどこへ行くのか2（ユニット15）	福祉国家政策の課題への解決策を理解する
第10回	戦前の社会福祉1（ユニット16）	日本の社会福祉の特徴を歴史的に理解する。慈善事業から感化救済事業まで
第11回	戦前の社会福祉2（ユニット16）	日本の社会福祉の特徴を歴史的に理解する。社会事業から戦時厚生事業まで
第12回	戦後の社会福祉1（ユニット17）	日本の社会福祉の特徴を歴史的に理解する。福祉三法体制から六法体制まで
第13回	戦後の社会福祉2（ユニット17）	日本の社会福祉の特徴を歴史的に理解する。福祉見直し期から基礎構造改革まで
第14回	社会福祉とは何か	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に教科書を読むこと。授業後に教科書の確認問題などで復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各１時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
稲沢公一・岩崎晋也著『社会福祉をつかむ【第三版】』有斐閣、2019

【参考書】
参考文献は適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
①試験方法 筆記試験（100%）
②採点基準 講義内容の理解度を評価する

【学生の意見等からの気づき】
難しいと感じる場合は，事前に教科書を読んできてください。その上で説明を聞くとよくわかると思います。

【Outline (in English)】
This course introduces "What is Social Welfare?". The goals of this course are understanding Social Welfare through comparison with other social policies and historical background. Before /after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the
course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following, Term-end examination: 100%.

SOW100JB,SOW200JC（社会福祉学 / Social Welfare 100 , 社会福祉学 / Social Welfare 200）

ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ

安西　美咲

配当年次／単位数：1～4年次／2単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。2020年度以前入学者は「N6005 ソーシャルワークⅠ」を受講すること。
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ、役割と意義を理解し、ソーシャルワークの基盤となる考え方、概念やその範囲、多職種との連携など、ソーシャルワーク実践を行うために必要な理念について学習します。また、ソーシャルワークの形成過程、価値規範、倫理について理解し、ソーシャルワークの基礎を習得することを目指します。

【到達目標】
①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。
②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。
③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義では、ソーシャルワーク実践の基礎となる専門性について学習し、実践の場において応用できるように様々な課題を提示したいと思います。受講生は提示された課題を分析し、その結果を提出してもらいます。提出された課題は、授業内でコメントをしたり、学習支援システムを通じてフィードバックしていきます。
※講義内容については授業進度により変更の可能性があります。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：生活課題の多様化と相談援助活動の必要性	講義スケジュール及び成績評価、本講義のねらい、生活課題の多様化とソーシャルワークが必要となる社会的背景についての説明、社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけの概要説明
第2回	社会福祉士及び介護福祉士法	・定義、義務 ・法制度成立の背景 ・法制度見直しの背景
第3回	精神保健福祉士法	・定義、義務 ・法制度成立の背景 ・法制度見直しの背景
第4回	社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性	社会福祉士や精神保健福祉士の専門性を理解するための事例検討
第5回	ソーシャルワークの定義	ソーシャルワーク専門職のグローバル定義に関する講義
第6回	ソーシャルワークの原理	・社会正義・人権尊重・集団的責任・多様性の尊重についての説明
第7回	ソーシャルワークの理念	・当事者主権 ・尊厳の保持 ・権利擁護 ・自立支援 ・ソーシャルインクルージョン ・ノーマライゼーションについての説明
第8回	ソーシャルワークの基盤となる考え方	ソーシャルワークの基盤となる考え方に関する確認・グループ討議・小テスト
第9回	ソーシャルワークの形成過程	・慈善組織協会 ・セツルメント運動 ・医学モデルから生活モデルへ ・ソーシャルワークの統合化
第10回	ソーシャルワークの形成過程に関する確認	講義と小グループでの討議
第11回	専門職倫理の概念	社会福祉士としての倫理とは何か、概念に関する説明
第12回	倫理綱領	・ソーシャルワーカーの倫理綱領 ・社会福祉士の倫理綱領 ・精神保健福祉士の倫理綱領
第13回	倫理的ジレンマ	専門職倫理とジレンマに関する講義及びグループディスカッション
第14回	専門職としての倫理とジレンマの関係性についての事例検討 ◆定期試験範囲の発表	・討議 ・ソーシャルワークにおける最近の動向 ・授業内容の振り返りとまとめ ・定期試験の範囲についての説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
相談援助にかかわる専門職のイメージ像をもっていただくために、以下の文献に目を通しておいて下さい。
①奥川幸子（1997）『未知との遭遇』三輪書店
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新・社会福祉士　精神保健福祉士養成講座11　ソーシャルワークの基盤と専門職〔共通・社会専門〕』中央法規　2021年
・副田あけみ『社会福祉援助技術論　　ジェネラリスト・アプローチの視点から』誠信書房　2005年

【成績評価の方法と基準】
①出欠確認：リアクションペーパーを随時提出してもらい、出欠を確認します。
②試験方法：筆記試験
③成績評価:リアクションペーパー,授業内課題の提出が40％,筆記試験が60％の割合で総合的に評価します。課題提出が全くない場合、定期試験を受けても評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】
実践現場の話を積極的に盛り込みながら、授業展開していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインで授業を受講する機会があるため、パソコン等を準備してください。

【その他の重要事項】
社会福祉士として行政・社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、ソーシャルワーク実践の基礎的な技術、知識、価値に関する具体的な事例を盛り込みながら話を進めていきます。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】The purpose of this course is to help students acquire the knowledge, skills and values of social work.
【到達目標（Learning Objectives）】In this lecture, the goal is to describe the role of social workers and the effect of collaboration with other occupations.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】：Final grade will be calculated according to the following process report (40%), term-end examination (60%), and in-class contribution.

SOW200JB（社会福祉学 / Social Welfare 200）

地域福祉論

宮城　孝

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域福祉についての基礎的な理解と思考法を養うとともに、地域福祉の今日的課題について考察する力を養う。地域福祉に関する基本的な重要事項については、今後の学習に活かせるようしっかりと理解しているか試験等により確認するので、自己学習を図ること。

【到達目標】
・地域福祉に関する基礎的な知識を体系的に理解し説明できる。
・今後の社会の変化に対応した地域福祉に関する課題を予測できる。
・地域福祉に関する先進的な実践事例を分析することができ、実践への応用を工夫す
　ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
まず、「地域福祉」の概念、その歩みや思想、諸理論、現代生活における地域福祉問題について基本的理解を図る。さらに、具体的に地域福祉の政策や財源、社会福祉協議会、NPO法人など地域福祉を推進する組織・団体、サービス内容、担い手などについて理解を図る。課題やリアクションペーパーにより、講義内容の理解と考察を表現し提出してもらうとともに、必要に応じてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代社会における社会福祉問題と地域福祉	社会福祉問題を地域福祉の視点からの理解
第2回	今日の地域福祉とシステム	地域福祉のシステムと実践の意義、概要
第3回	地域福祉の歴史的発展と展開①	地域福祉の源流と1960年代まで
第4回	地域福祉の歴史的発展と展開②	1970年代から1980年代まで
第5回	地域福祉の歴史的発展と展開③	1990年代から今日まで
第6回	地域福祉の理念と概念、諸理論	地域福祉の基本的な理念、概念、代表的な諸理論
第7回	地域福祉の構成要件①	在宅ケアサービスの内容と提供のあり方
第8回	地域福祉の構成要件②	住宅、交通、バリアフリーなどの関連公共施策
第9回	地域福祉の構成要件③	予防的福祉サービス、活動（権利擁護、災害支援など）
第10回	地域福祉の推進主体①	推進主体の性格、社会福祉協議会、民生委員
第11回	地域福祉の推進主体②	ＮＰＯ、ボランティア団体、各種相談支援機関等
第12回	地域福祉と包括的支援体制	包括的支援体制構築の意義と内容、実践事例
第13回	地域福祉の行財政	地域福祉の政策と財源（公的財源、民間財源）
第14回	地域福祉計画、まとめ	地域福祉計画の沿革と内容、策定方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は、次回の講義の内容に対応するテキストを予習する。課されたレポート課題について、テーマに即してフィールドワークや文献等によりレポートを作成する。課題は、２～３のテーマとする。準備・復習時間は、１回につき４時間以上。

【テキスト（教科書）】
平野隆之・宮城　孝・山口稔『コミュニティとソーシャルワーク』有斐閣、2008年

【参考書】
宮城　孝『住民力－超高齢社会を生き抜くチカラ－』明石書店,2022年
地域福祉学会『新版地域福祉事典』中央法規、2006年
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『地域福祉と包括的支援体制』中央法規、2021年
宮城　孝編集代表『地域福祉のイノベーション－コミュニティの持続可能性の危機に挑む』中央法規、2017年
宮城　孝他編著『地域福祉とファンドレイジングー財源確保の方法と先進事例－』中央法規、2018年

【成績評価の方法と基準】
1. 平常点、２～３のテーマの課題についてのレポート（３０％）
2. 試験期間内に行う理解度を問う試験（７０％）

【学生の意見等からの気づき】
学生自ら学習する自主的な態度の形成や大学における学習の基礎的な能力を高める授業方法を取り入れることとする。また、現代における地域社会における福祉のあり方を広い視野でとらえるように工夫したい。

【その他の重要事項】
・本授業は、地域福祉に関する用語や制度、実践についての基本的な理解を図ることが重要になります。積極的・意欲的な学習態度で臨んでください。また、福祉コミュニティ学科においては、社会福祉士試験科目であることも意識して学習してください。
・講師は、社会福祉協議会において実務経験を有しており、本講義において、その経験を踏まえ、地域福祉に関する実践的な内容、先進事例などを紹介し理解を深めることとする。

【Outline (in English)】
【授業の概要(Course outline)】
This course learn about basic understanding and thinking skills about the Community welfare.

【到達目標 (Learning Objectives)】
The goals of this course A and B.
A Basic understanding and thinking skills about the Community welfare.
B To consider about Community welfare problem having to do with today.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom)】
Before/after each class meeting,students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on Short report(30%), Term-end examination(70%)

ENG200JB（その他の工学 / Engineering 200）

社会的包摂論

水野　雅男

配当年次／単位数：1〜4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
バリアフリーあるいは社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）を多様な観点から把握することで、すべての人びとが健康で文化的な生活をおくる地域社会のあり方について理解を深める。特に、その実現に向けた各セクター（行政・民間・市民）の役割分担と連携について注目する。

【到達目標】
バリアフリーやユニバーサルデザイン、ソーシャル・インクルージョンが出現してきた社会的背景ならびにそれらの概念の違いを理解できるようにする。さらに、国内外の政策の変遷を辿り、市民セクターの地域づくり現場での関わり方や今後の在り方を理解し、自ら行動する意識付けを行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回のテーマに関するデータを参考書から引用紹介する。
国内外の近年の動向を理解しやすいように、参考となる映像資料を紹介する。
講義の感想や質問、意見を毎回リアクションペーパーで提出、翌週に素晴らしいコメントを抽出し紹介することで、受講生相互の理解の違いと多様性を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	社会的包摂の概念の紹介
第2回	バリアフリー政策① 国内	バリアフリー、国内の政策の変遷
第3回	バリアフリー政策② 米国	日米のバリアフリー政策の相違
第4回	移動とUD①	国内の交通施設や公共交通機関
第5回	移動とUD②	欧州の交通政策とトラム
第6回	包摂的なまちづくり①	海外の交通計画・土地利用計画における社会的包摂
第7回	包摂的なまちづくり②	住まいにおける社会的包摂
第8回	障害者の能力①	エイブルアート
第9回	障害者の能力②	めだかの育成プログラムによる障害者の就労支援事業
第10回	障害者のシゴト①	障害者の実態と障害者差別解消法
第11回	障害者のシゴト②	我が国のホームレス政策とNPO活動
第12回	ホームレス支援①	国内外のホームレス政策の相違
第13回	ホームレス支援②	NPOによるホームレス支援アプローチ
第14回	試験・まとめと解説	レポートの授業内提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回翌週のテーマを提示するので、授業の前に授業内容に関連する書籍、文献や資料のレビューを充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。
学習支援システムに当日の教材を掲載するので、充分に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、適宜資料として紹介する。

【参考書】
「ユニバーサル・デザインの仕組みをつくる」川内美彦、学芸出版社、2007年
「インクルーシブデザイン　社会の課題を解決する参加型デザイン」ジュリア・カセム他編、学芸出版社、2014年
「人間都市クリチバ」服部圭郎、学芸出版社、2004年
「ストラスブールのまちづくり」ヴァンソン藤井由実、学芸出版社、2011年
「フライブルクのまちづくり」村上敦、学芸出版社、2007年
「英国発グラウンドワーク」渡辺豊博・松下重雄、春風社、2010年

【成績評価の方法と基準】
①平常点　70％　②レポート　30％　　①と②を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度の授業改善アンケートは現在集計中、結果を活用していく。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに30年間関わった中で、バリアフリータウン計画を策定した経験に基づき、プランニングの視点を授業に導入する。

【Outline (in English)】
< Course outline>
The aim of this course is to help students acquire understanding of the community in which all people live a healthy and cultural life.
< Learning Objectives>
By the end of the course, students should be able to do the followings:
Understand the social background of barrier-free, universal design, and the emergence of social inclusion, as well as the differences in their concepts.
< Learning activities outside of classroom>
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy>
① Normal score 70%② Report 30%Comprehensive evaluation of ① and ②.

ENG200JB（その他の工学 / Engineering 200）

地域計画論

杉浦　ちなみ

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域を計画するとはどういうことか。誰が、どのように計画するのか。これらの問いを地域の中で私たちが豊かに生きるためにはどうしたらよいか、という生活者の目線から、その歴史をたどりつつ深める。本講義は、地域計画の中でも地域の教育・文化に関わる計画にもとづいて展開する。

【到達目標】
地域・社会の抱える課題に対して地域計画に携わる主体がどのように向き合うことができるか、基本的な視点をもつ。また、私たち一人ひとりが生活者として、それぞれ暮らす地域をよくしていくことにどう関わっていくか、という当事者意識を育む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に講義形式で進める。回によって、リアクションペーパーの作成を求めるほか、小レポートを課すこともある。それらのフィードバックは授業時間中に行い、授業内容に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概略および進め方を確認する。
第2回	私たちはどのような地域に生きているのか	地域をめぐる状況を俯瞰する
第3回	一人ひとりの学びがつくる地域	個人の学びと地域づくりの関わりについて考える
第4回	生活の中の「計画」	私たち一人ひとりの問題としてどう考えるか
第5回	地域計画の歴史（1）1940年代後半（1）	地域社会の教育計画
第6回	地域計画の歴史（2）1940年代後半（2）	地域の拠点としての公民館
第7回	地域計画の歴史（3）1950年代	「村の古さ」をめぐって（1）
第8回	地域計画の歴史（4）1960年代	「村の古さ」をめぐって（2）
第9回	地域計画の歴史（5）1960～1970年代	住民運動と地域課題の学習
第10回	地域計画の歴史（6）1980～1990年代	「豊かさとは何か」を問い直す（1）
第11回	地域計画の歴史（7）1980～1990年代	「豊かさとは何か」を問い直す（2）
第12回	地域計画の歴史（8）2000年代～	コロナ禍を経た現在へ
第13回	地域計画をつくり支える仕事	自治体職員、民間、市民団体など
第14回	まとめ	講義全体をふりかえる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業や各回のテーマについて、日頃から関心をもって国・自治体の情報や新聞・雑誌等に積極的に触れる。授業後には内容を振り返り、自ら応用的に情報を収集することを期待する。また、課題が示された際にはそれに取り組むこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。

【参考書】
佐藤一子編『地域学習の創造ー地域再生への学びを拓く』東京大学出版会、2015 ほか授業時間中に適宜示す。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー、小レポートを含む平常点50％、最終レポート50%

【学生の意見等からの気づき】
学生からの意見や要望を可能な範囲で授業に活かしていく。

【その他の重要事項】
上述の計画は若干変更する場合がある。

【Outline (in English)】
【Course outline】What does it mean to plan a community? Who plans and how? In this course, we will consider these questions through an overview of the history of regional planning, especially as it relates to education and culture.
【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to have a basic perspective on how regional planners can be involved in regional issues. In addition, students will also gain a new perspective on how each of us, as a citizen, can be involved in improving the community in which we live.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
short report and in-class contribution (50%), term-end report (50%)

ARSx200JB（地域研究（その他）/ Area studies(Others) 200）

ローカルイノベーション論

野田　岳仁、水野　雅男、図司　直也、土肥　将敦

配当年次／単位数：1〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。2020年度以前入学者は「N6055 地域の歴史と文化」を受講すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ローカルイノベーションが立ち現れる社会的な背景や新たな社会変革を創出する仕組みとはどのようなものであるのかを各地の実践事例を通じて理解することを目的とする。

【到達目標】
ローカルイノベーションの基本的な考え方をマスターし、自らがローカルイノベーションを創出するプレイヤーになるための知識や技能について理解を深めることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
教員４名（水野・図司・土肥・野田）が具体的な事例を取り上げ、オムニバス形式で講義を担当する。１地域を２回の講義で構成し、１回目では、地域の概要やイノベーターについて担当教員がレクチャーを行う。２回目は、当該地域からゲストスピーカーを招いてのレクチャー、担当教員、受講生を交えてディスカッションを行う。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／イントロダクション（水野・図司・土肥・野田）	ローカルイノベーションとは何か
第2回	景観まちづくりにおけるローカルイノベーション①（野田）	景観まちづくりについての概要と社会的背景についてのレクチャー
第3回	景観まちづくりにおけるローカルイノベーション②（土肥・野田）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第4回	地域ツーリズムにおけるローカルイノベーション①（野田）	地域ツーリズムについての概要と社会的背景についてのレクチャー
第5回	地域ツーリズムにおけるローカルイノベーション②（土肥・野田）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第6回	半島先端におけるローカルイノベーション①（水野）	世界農業遺産の環境保全活用についての概要と社会的背景についてのレクチャー
第7回	半島先端におけるローカルイノベーション②（水野・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第8回	多様なライフスタイルでローカルイノベーション①（水野）	ライフスタイル研究と移住推進の市民事業についてのレクチャー
第9回	多様なライフスタイルでローカルイノベーション②（水野・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第10回	若者と地域をつなぐローカルイノベーション①（図司）	地域に向かう若者の動向と社会的背景についてのレクチャー
第11回	若者と地域をつなぐローカルイノベーション②（図司・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第12回	農山村再生に向けたローカルイノベーション①（図司）	農山村における地域づくりの概要と社会的背景についてのレクチャー
第13回	農山村再生に向けたローカルイノベーション②（図司・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第14回	総括（水野・図司・土肥・野田）	６事例からの学びと提言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関心のある分野や領域でどのようなローカルイノベーションが創出されているのか事前に調べておく。講義で取り上げた地域やゲストスピーカーの活動については、メディアの記事、論文、書籍等を通じて、より詳しく探求すること。本講義の予習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて講義内で資料を配布する。

【参考書】
講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパーへのコメント）100%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度授業改善アンケートの結果を反映させるとともに、リアクションペーパー等を通じて学生の意見や要望には積極的に応えていく。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布や課題提出等に学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】
講義を担当する４名の教員は、それぞれ地域プランニング、まちづくり活動等の豊富なフィールド経験を有している。それらの経験に基づいてローカルイノベーションの考え方を示していく。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to master the basic concept of local innovation through various case studies. 【Learning Objectives】The goal of this course is to understand the knowledge and skills needed to become a player in creating local innovation. 【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on reaction papers(100%).

SOW200JB（社会福祉学 / Social Welfare 200）

ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）Ⅱ

宮城　孝

配当年次／単位数：2～4年次／2単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。2020年度以前入学者は「N6056 コミュニティソーシャルワーク」を受講すること。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、社会福祉士、またソーシャルワークに関する専門職の役割と機能について、基本的な内容や方法について理解することを目的とする。また、ミクロ・メゾ・マクロの様々な課題に対応するソーシャルワーク実践の内容について基礎的な理解を図るとともに、事例分析などを通して実践的な思考法や創造力を養うことを目的とする。

【到達目標】
社会福祉士の職域と求められる役割、ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について説明できる。ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について説明できる。地域における総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について説明できる。地域の福祉問題・ニーズを多角的にアセスメントし、具体的なプランニングを基本的に行うことがことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義によるが、理解を助けるために先進的な事例を取り上げるとともに、演習的な方法により、実践的な能力開発を図ることとする。必要に応じ先進事例などのＤＶＤなどを視聴する。演習問題及び課題については、解説を行い、各自で見直しができるようにする。なお、毎回リアクションペーパーに質問・感想を記入させ、必要に応じて次回の講義でコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ソーシャルワーク専門職の概念と範囲、その社会的役割	ソーシャルワーク専門職の概念と範囲,その社会的役割について
第2回	社会福祉士の職域と役割	社会福祉士の職域と役割について事例等を通しての基本的な理解
第3回	福祉行政等における専門職	福祉行政の今日的動向と専門職の役割についての理解
第4回	民間の施設・組織における専門職	民間の施設・組織における専門職の役割についての理解
第5回	地域における社会福祉士の役割	地域における社会福祉士の役割について、事例を通して理解を図る
第6回	諸外国における動向	欧米・その他の諸外国における社会問題とソーシャルワーク等の動向
第7回	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク①	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と方法についての基本的な理解
第8回	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク②	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの実際について事例を通しての理解
第9回	事例を用いた地域におけるソーシャルワーク実践の展開	ニーズの把握方法、焦点化について事例を用いての理解
第10回	総合的・包括的な支援と多職種連携	複合的な事例における多職種連携の意義と方法について事例を用いての理解
第11回	当事者のエンパワメントと組織化支援	当事者のエンパワメントと組織化支援、ボランティアのコーディネートの実際について事例を用いての理解
第12回	チームアプローチの意義と内容	チームアプローチの意義と内容について事例を用いての理解
第13回	ソーシャルワークにおける地域支援	ソーシュルワークにおける地域支援の意義と方法について事例を用いての理解
第14回	まとめ	授業の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は、次回の授業に応じた演習の内容等について理解を図れるようテキストの予習を行う。また、与えられた課題について、文献などを調べてレポートとしてまとめる。レポートの課題は、２～３とする。
準備・復習時間は、４時間以上。

【テキスト（教科書）】
宮城　孝『住民力－超高齢社会を生き抜くチカラ－』明石書店,2022年,1,980円【税込み】
平野隆之・宮城　孝・山口　稔『コミュニティとソーシャルワーク　地域福祉論』有斐閣、2008年

【参考書】
宮城　孝他編著、日本地域福祉研究所監修『コミュニティソーシャルワークの新たな展開－理論と先進事例－』中央法規、2019年
宮城　孝編集代表『地域福祉のイノベーション－コミュニティの持続可能性の危機に挑む－』中央法規、2017年
日本地域福祉学会編『新版地域福祉辞典』中央法規、2006年

【成績評価の方法と基準】
①　平常点、レポート課題(2～3回）等ホームワークの提出とその内容(30%)
②　試験期間内に行う理解度を問う試験(70%)
　両方により総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】
基本的な知識としての理解を図るだけでなく、それらを理解したうえでの応用的な学習、思考力を高めるために、参加型学習方法を取り入れることとする。

【学生が準備すべき機器他】
ＤＶＤ等による事例の視聴

【その他の重要事項】
・本授業は、ソーシャルワークの専門職の役割と機能に関する基礎的な知識を得るとともに、実践的な思考法や創造性を養うことを目標とします。ボランティア活動の体験や報道等で取り上げられる社会的な課題に関心を持ち、授業に活かして下さい。
・講師は、社会福祉協議会での実務経験を有しており、本講義では、その経験や実践現場のソーシャルワーカーへの研修などで用いた教材などを活用して、受講生がソーシャルワークの基本的な理解とスキルを習得することを図ることとする。

【Outline (in English)】
【授業の概要(Course outline)】
This course learn about basic understanding the role and skills about the
generic social work.

【到達目標（Learning Objectives)】
The goals of this course A and B.
A To understanding about the basic contents and skills of generic social　k.through the case analysis.
B To cultivates practical skills and creativity.basic understanding the role and skills of generic social work.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom)】
Before/after each class meeting,students will be expected to spend four
hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on Short report(30%), Term-end examination(70%)

SOW200JB,SOW300JC（社会福祉学 / Social Welfare 200 , 社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ

伊藤　正子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。2018～2020年度入学者は「N6057 ソーシャルワークⅢ」を受講すること。
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、人と環境の交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて、特にその方法としてソーシャルワークの実践過程に係る知識と技術、スーパービジョン、および事例分析の意義と方法について説明をする。その目的は、履修者が援助専門職として、その基本的概念、実践過程を構成する様々な要素と留意点、およびアセスメントにおけるソーシャルワーカーの役割等を説明できるようになることである。

【到達目標】
①支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。
②ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。
③ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。
④個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
理論や事例等を通して、ソーシャルワークにおける援助関係の形成、ソーシャルワークの展開過程の意義、目的、方法、留意点、ケアマネジメント、グルー プワークの意義、目的、原則、展開、およびソーシャルワークの記録とスーパービジョン・コンサルテーション、カンファレンスの定義、意義、機能と方法について講義する。対面式での開講となる。学習支援システムを通じてリアクションペーパーや課題を提出してもらい、次回講義の最初にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本講義のねらいと進め方、多様化・複雑化する課題に対応するための、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの理論と方法の概要
第2回	ソーシャルワークにおける援助関係の意義と概念	ソーシャルワーカーとクライエントシステムの関係
第3回	援助関係の形成方法	自己覚知と他者理解、コミュニケーションとラポール
第4回	面接技術	面接の意義、目的、方法、留意点、面接の場面と構造、面接の技法
第5回	アウトリーチ	アウトリーチの意義、目的、方法、留意点、アウトリーチを必要とする対象、ニーズの掘り起こし
第6回	ソーシャルワークの過程①	ケースの発見（アウトリーチ、スクリーニング）、インテーク（インテークの意義、目的、方法、留意点、契約）
第7回	ソーシャルワークの過程②	アセスメント（アセスメントの意義、目的、方法、留意点）、プランニング（プランニングの意義、目的、方法、留意点、効果と限界の予測、支援方針・内容の説明・同意）
第8回	ソーシャルワークの過程③	支援の実施（支援の意義、目的、方法、留意点）、モニタリング（モニタリングの意義、目的、方法、留意点、効果測定）、支援の終結と事後評価（支援の終結と事後評価の目的、方法、留意点）、アフターケア（アフターケアの目的、方法、留意点）
第9回	ソーシャルワークの記録	記録の意義と目的（ソーシャルワークの質の向上、支援の継続性、一貫性、機関の運営管理、教育、研究、アカウンタビリティ）、記録の方法と実際（記録の文体（叙述体、要約体、説明体等）、項目式（フェースシート等）、図表式（ジェノグラム、エコマップ等）
第10回	ケアマネジメント	ケアマネジメントの原則（ケアマネジメントの歴史、適用と対象）、ケアマネジメントの意義と方法（ケアマネジメントの意義、ケアマネジメントのプロセス、ケアマネジメントのモデル）
第11回	集団を活用した支援①	グループワークの意義と目的（グループダイナミクス）、グループワークの原則（個別化の原則、受容の原則、参加の原則、体験の原則、葛藤解決の原則、制限の原則、継続評価の原則）
第12回	集団を活用した支援②	グループワークの展開過程（準備期、開始期、作業期、終結期）、セルフヘルプグループ（共感性、分かち合い、ヘルパーセラピー原則、体験的知識、役割モデルの習得、援助者の役割）
第13回	スーパービジョンとコンサルテーション	スーパービジョンの意義、目的、方法（スーパービジョンの定義、スーパーバイザーとスーパーバイジーの関係、スーパービジョンの機能、スーパービジョンの形態と方法）、コンサルテーションの意義、目的、方法（コンサルテーションの定義、コンサルタントとコンサルティーの関係、コンサルテーションの方法）
第14回	カンファレンスと事例分析	カンファレンスの一義、目的、留意点、カンファレンスの運営と展開、事例分析の意義、目的、事例検討、事例研究の意義、目的、方法、留意点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適宜紹介する文献については読み、理解を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 11 ソーシャルワークの理論と方法 (共通・社会専門)』中央法規
一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法 (共通科目)』中央法規窪田暁子著『福祉援助の臨床：共感する他者として』誠信書房 2013年
その他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点、リアクションペーパー、試験の総合評価とする。
授業への能動的参加（40％）、試験（60％）

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーを通じた学生との意見交換、授業内容の確認を積極的に行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
資料の配布、課題の提出等は学習支援システムを利用するため、事前にプリントアウトするか情報機器（パソコン）を準備しておくことが望ましい。

【その他の重要事項】
医療機関・外国人支援ＮＧＯでのソーシャルワーカー経験を持つ教員が、社会福祉領域において発生する諸問題やその支援のあり方について、様々な事例を交えて解説する。

【Outline (in English)】
This course introduces the interaction between people and the environments, microlevel, midlevel, macro level intervention, the theories and practice models, social work knowledges, values, skills, the concepts and process of community social work, care management, and supervision. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of social work theories as an empowering profession, the various elements that make up social work and practice the role of social worker on assessment.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%、Short reports : 40%

PSY200JB,PSY200JC（心理学 / Psychology 200 , 心理学 / Psychology 200）

心理学的支援法

末武　康弘

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界を学習し、あわせて、訪問による支援や地域支援の意義、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、プライバシーへの配慮、心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、心の健康教育について学びます。

【到達目標】
この授業の到達目標は、次のとおりです。
・代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義及び適応について概説できること。
・訪問による支援や地域支援の意義について概説できること。
・心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができること。
・良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につけること。
・心理療法やカウンセリングの適用には限界があることを説明できること。
・心理に関する支援を要する者等のプライバシーに配慮できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を中心としますが、私たちの身のまわりにある様々な問題や具体例を取り上げながら、また心理学的支援法の実際についての視聴教材や事例などを活用しながら、わかりやすく心理学的支援法の考え方や方法が共有できるように授業を進めていきます。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の内容について概説し、あわせて成績評価の基準を示します。
第2回	心理学的支援法への誘い	心理学的支援法への導入を行います。
第3回	心理学的支援法の特質	心理学的支援法の特質や効果、限界について学びます。
第4回	対象となる諸問題	心理学的支援法ではどのような問題を対象とするのかを学びます。
第5回	心理学的支援法の発展	心理学的支援法の歴史的発展について学びます。
第6回	さまざまな理論と方法	心理学的支援法のさまざまな理論と方法の概要を学びます。
第7回	主要理論（その1）	心理学的支援法の主要理論であるパーソンセンタードセラピーを学びます。
第8回	主要理論（その2）	パーソンセンタードセラピーの発展的方法とヒューマニスティックセラピーを学びます。
第9回	主要理論（その3）	精神分析と精神力動的セラピーについて学びます。
第10回	主要理論（その4）	認知行動療法について学びます。
第11回	主要理論（その5）	その他の主要な理論と方法について学びます。
第12回	実際とプロセス	心理学的支援法のプロセスや実際の進展について学びます。
第13回	心理支援の適用	訪問支援や家族支援、特性や状況に応じた心理支援の考え方や方法について学びます。
第14回	留意点と授業のまとめ	心理学的支援法にとって重要なコミュニケーション、プライバシーの配慮、倫理について学びます。最後に授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として次回のテキストの該当範囲を読んできてもらいます。また、毎回の授業の終了時に授業で取り上げた内容に関連した課題を提示し、学習内容を各自が深めていく作業を求めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
末武康弘（2018）『心理学的支援法―カウンセリングと心理療法の基礎―』誠信書房（2,200円＋税）

【参考書】
参考書は授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験（60％）と平常点（毎回の課題ほか：40％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートの結果を踏まえて、より具体的でわかりやすい授業内容を組み立てたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく講義します。

【Outline (in English)】
In this lecture, you learn the history, concepts, significance, application and limitations of representative psychotherapy and counseling. In addition, you also learn the meaning of support by outreach, community support, the way of communication to build good relationships, privacy protection, support for stakeholders, and mental health education.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− understand history, concepts, significance, application and limitations of representative psychotherapy and counseling.
− understand meaning of support by outreach, community support, way of communication to build good relationships, privacy protection, support for stakeholders, and mental health education.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. And students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 60%、Assignments after each class meeting: 40%.

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

社会福祉原理

岩崎　晋也

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会福祉の原理を考える

【到達目標】
社会福祉の専門職としての基本的な視点や論理を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
なるべく具体的な事例を題材にしながら、社会福祉専門職として、どのように問題をとらえるべきなのかを検討する。知識を身につけることよりも思考力や価値観を身につけることを重視する。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会福祉の正当化問題	社会福祉原理の基本問題である正当化問題とは何かを理解する
第2回	人間はなぜ他者を援助するのか１	社会の変化に応じて、援助の位置づけが変化することを理解する。狩猟採集社会・氏族社会
第3回	人間はなぜ他者を援助するのか２	社会の変化に応じて、援助の位置づけが変化することを理解する。都市国家
第4回	人間はなぜ他者を援助するのか３	社会の変化に応じて、援助の位置づけが変化することを理解する。ローマ帝国とキリスト教
第5回	人間はなぜ他者を援助するのか４	キリスト教や仏教などの普遍宗教がもたらした影響を理解する
第6回	近代社会はなぜ福祉を必要とするのか１	社会契約説において、他者を援助することがどのように位置付けられたかを理解する
第7回	近代社会はなぜ福祉を必要とするのか２	フランス革命において公的救済がどのように位置付けられたかを理解する
第8回	近代社会はなぜ福祉を必要とするのか３	フランス第三共和制における社会連帯説の意義を理解する
第9回	近代社会はなぜ福祉を必要とするのか４	福祉国家の意義と、リスクの共有の現代的課題を理解する
第10回	社会福祉の原理１	社会保険などの文脈とは異なる福祉としての社会福祉の誕生
第11回	社会福祉の原理２	パターナリスティックな社会福祉の問題点
第12回	社会福祉の原理３	ノーマライゼーションとパーソナライゼーションからの批判
第13回	社会福祉の原理４	基本的ケーパビリティの平等と個人の尊厳としての人権
第14回	社会福祉の原理５	新しい社会福祉のあり方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の授業内容の復習をし、全体の論理の流れを理解する。下記に示した参考書や、授業で示した参考文献で興味を持ったものを読む。本授業の準備学習・復習時間は各１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
岩崎晋也（2018）『福祉原理－社会はなぜ他者を援助する仕組みを作ってきたのか』有斐閣

【成績評価の方法と基準】
①試験方法 筆記試験（100%）
②採点基準 講義内容の理解度を評価する

【学生の意見等からの気づき】
考えるための素材を提供する

【Outline (in English)】
This course introduces the principles of social welfare. The goals of this course are understanding the basic perspectives and logic of social worker. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following, Term-end examination: 100%.

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

医療政策論

小磯　明

配当年次／単位数：2～4年次／2単位
備考（履修条件等）：2025年度の授業実施日は、9月11日（木）・12日（金）・16日（火）。

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業での意見交換を通じて、学生が医療政策の重要性を認識する。

【到達目標】
医療政策とは何か、を学生が理解するとともに、日常生活の中で、医療政策・制度がどのような役割を果たしているか、を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は対面で実施する。学生の授業への積極的参加を促すために、毎回の授業終了後にリアクションペーパーを提出してもらう。リアクションペーパーでの質問・意見については、翌週の授業の冒頭で答えるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義のねらい、授業の進め方など
2	医療政策の定義と周辺学問	「医療政策とは何か」ということと周辺領域の学問について検討する
3	医療提供体制	現在の医療提供体制について設立主体や他国との違いを検討する
4	医療保険のしくみ	日本の医療保険制度のしくみについて理解するとともに他国との違いを検討する
5	診療報酬制度	日本の診療報酬制度について理解するとともに他国との違いを検討する
6	医療費の動向	日本の医療費について理解するとともに他国と比較検討する
7	医療の質	医療の質とは何かについて理解するとともに質向上の取り組みを検討する
8	保険者の役割	日本の保険者の役割について理解するとともに他国との違いを検討する
9	高齢者医療制度	高齢者医療制度の歴史と現在の仕組みを理解する
10	医療費の患者負担	医療費における患者負担について理解するとともに他国との違いを検討する
11	医療改革	日本の医療改革について理解する
12	医療の患者満足	医療の患者満足について理解する
13	国民皆保険制度	国民皆保険制度について理解するとともに、他国との違いを検討する
14	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムについて理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
医療や社会保障に関する新聞報道等に注目してほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しない。毎回、教材資料を配布する。

【参考書】
小磯明『医療機能分化と連携』御茶の水書房,2013年.
小磯明『高齢者医療と介護看護』御茶の水書房,2016年.
小磯明『イギリスの認知症国家戦略』同時代社,2017年.
小磯明『フランスの医療福祉改革』日本評論社,2019年.
小磯明『イギリスの医療制度改革』同時代社,2019年.

【成績評価の方法と基準】
授業平常点60％、レポート提出40％。レポートは1回とし、内容を総合的に判断する。履修者は必ず、レポートを提出すること。毎回の授業は対面授業のため、出席を重視することに注意のこと。

【学生の意見等からの気づき】
諸外国の医療制度や事例を紹介するとともに、日本の医療保険制度についての理解も深める。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントを使用する。

【その他の重要事項】
受講生の関心に応じて、授業計画が若干変更される可能性がある。

【Outline (in English)】
Recognize the importance of health policy through exchange of ideas in class.The aim of this course is to help students acquire knowledge of medical policy.
At the end of the course, students are expected to knowledge of medical system and policy.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is a least two hour for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the following Short reports: 40%, in class contribution: 60%.

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

社会保障論

赤澤　公省

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人々の間の格差の拡大、人と人とのつながりの希薄化が進行していることから、セーフティネット、すなわち私たち国民一人一人の生活の支えとなる医療、介護、福祉、年金などの社会保障制度の役割はますます高まっている。世界的にも例を見ない速度で少子高齢化が進み、多額の財政赤字も抱える我が国における、社会保障の現状と課題を考える。

【到達目標】
我が国の医療、介護、年金、労働保険などの各制度の基本的な仕組み、現状、社会保険方式で運営されている理由を理解し、今後のあり方についても説明ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
社会保障の各制度、とりわけ全国民が関わる医療、介護、年金の制度に関し、どう保障されているのかからスタートし、最新の動向を含めた我が国全体の制度の状況と将来の課題にも理解を深める。毎回の講義修了時にミニテスト（兼リアクションペーパー）を実施し、理解度を把握する。講義を中心とするが、授業内および終了後での質問も受け付け、適宜回答する。なお、リアクションペーパーは、適宜、次回以降の授業において、氏名等を伏せて紹介する。また、授業の進め方等に変更がある場合には、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義のねらい、社会保障制度の概要、民間保険との違い	社会保障制度の概念、対象及び理念と現状、公的保険制度と民間保険制度との関係
第2回	医療保険制度①	医療保険制度の目的及び適用
第3回	医療保険制度②	医療保険制度の給付及び負担
第4回	医療保険制度③	現金給付、医療保険制度の財源、高齢者医療制度
第5回	医療保険制度④	医療費の動向、医療サービスの提供体制、欧米の医療制度
第6回	介護保険制度①	介護保険制度の目的、適用、負担及び財源
第7回	介護保険制度②	介護保険制度の給付、欧米の介護制度
第8回	年金制度①	公的年金制度の目的、適用及び負担
第9回	年金制度②	公的年金制度の給付（老齢年金）、公的年金制度の財源
第10回	年金制度③	公的年金制度の給付（障害年金、遺族年金）、企業年金等の概要、欧米の年金制度
第11回	生活保護制度、社会手当制度、子ども・子育て支援制度、社会保険と社会扶助の関係	生活保護制度の概要、児童手当・児童扶養手当・特別児童扶養手当制度等の概要、子ども・子育て支援制度の概要、社会保険と社会扶助の関係、
第12回	労働保険制度（雇用保険）	雇用保険制度の目的、適用、給付、負担及び財源
第13回	労働保険制度（労災保険）	労災保険制度の目的、適用、給付、負担及び財源
第14回	社会保障制度のこれまでとこれから	社会保障制度の歴史（欧米・日本）、現状、財政及び今後の方向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習はテキスト通読、復習はテキストと授業時配付のレジュメ、ミニテストで理解を深める。本授業の準備・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
レジュメと資料を毎回配布しますが、椋野美智子・田中耕太郎著「はじめての社会保障」第22版（有斐閣、2025.3末刊行予定）を教科書とします。

【参考書】
「社会保障論」（社会福祉学習双書6：全国社会福祉協議会出版部2025.1刊行）

【成績評価の方法と基準】
学期末試験の結果（50％）および平常点（50％）を総合評価します。平常点は毎回リアクションペーパー（兼ミニテスト）の提出で確認します（ミニテストは自己採点であり、評価対象とはしません）。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
学期末テストの一部は毎回の授業の締めに行うミニテスト（＝リアクションペーパーを兼ねているので次の回に返還します）から出題します。授業への出席ができなかった場合は、次回以降に配付資料及びミニテストのペーパー（＝教室内左前方に配置）を入手し、内容を理解することを勧めます。
講師は厚生労働省及び関連団体において各制度の運営、改革に法律改正等で携わった経験を有することから制度について掘り下げた解説を行う。

【Outline (in English)】
Course outline
We study the social security system in Japan. It consists of health insurance,nursing-care insurance,pension insurance,unemployment insurance and workmen's accident compensation insurance.
These insurance system are significantly contributed to the stability of the Japanese people's living.
We study the substance,history and function of the each insurance system.
We also study the international comparison of these systems .
The Japanese population is rapidly aging with fewer children,and the Japanese government is suffering from the huge fiscal deficit,so there are many difficulties to maintain these systems.
We have to consider the sustainability of these systems for the purpose of keeping the stability Japanese people's living for future.
Learning Objectives
The goals of this course are,
to understand the reason why most social security system is operated by social insurance.
to understand how to use each social security system when each student can not keep the stability of living because of sickness,accident.disastar,etc.
Learning activities outside of classroom
Before each class meeting,students will be expected to have read the relevant chapter from the text.
After each class meeting,students will be expected to review the lesson by reading the text and the summary.
The study time of the preparation and review is at least one hour.
Grading Criteria/Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination 50%,in-class contribution 50%.

ENG300JB（その他の工学 / Engineering 300）

都市住宅政策論

水野　雅男

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生活に深く関わり、地域景観や社会福祉の面でも重要な住宅について、住宅政策がどのように取り組まれてきたのか、国内外の比較ならびに市民活動事例を通じて学ぶ。

【到達目標】
都市住宅政策が社会背景の中でどのように変遷してきたのか、国内外ではどのように異なるのかを認識できるようにする。さらに、都市の歴史資産として木造住宅が残存する金沢と京都において、その歴史的な木造住宅を保全活用する市民活動を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回のテーマに関するデータを参考書から引用紹介する。
国内外の近年の動向を理解しやすいように、参考となる映像資料を紹介する。
講義の感想や質問、意見を毎回リアクションペーパーで提出、翌週に素晴らしいコメントを抽出し紹介することで、受講生相互の理解の違いと多様性を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の枠組みとスケジュール、住宅政策の問題提起
第2回	我が国の住宅政策①	住宅所有の政策推進と社会変化
第3回	我が国の住宅政策②	社会的変容と若年層の住宅条件
第4回	我が国の住宅政策③	持ち家社会のグローバル化
第5回	我が国の住宅政策④	住宅セーフティネット
第6回	我が国の住宅政策⑤	シェアする生活
第7回	歴史的住宅の保全活用①	金澤町家の保全活用
第8回	歴史的住宅の保全活用②	金澤町家の現状と課題
第9回	歴史的住宅の保全活用③	木造建物のコンバージョン活用
第10回	歴史的住宅の保全活用④	京町家の実態と再生方策
第11回	海外の住宅政策①	アメリカの住宅政策とNPO
第12回	海外の住宅政策②	英国ドイツ・スウェーデンの住宅政策とまちづくり事業体
第13回	被災地の住宅政策	在来工法と大工職人の継承
第14回	試験・まとめと解説	授業内レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前に授業内容に関連する書籍、文献や資料のレビューを充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。
学習支援システムに前週の教材を掲載しているので、充分に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、適宜資料として紹介する。

【参考書】
「住宅政策のどこが問題か」平山洋介、光文社新書、2009年
「居住の貧困」本間義人、岩波新書、2009年
「空き家問題」牧野知弘、祥伝社、2014年
「欧米の住宅政策―イギリス・ドイツ・フランス・アメリカ」小玉徹他、ミネルヴァ書房、1999年
「町家再生の論理」宗田好史、学芸出版社、2009年
「生活景」社団法人日本建築学会編、学芸出版社、2009年
「これからの日本のために「シェア」の話をしよう」三浦展、NHK出版、2011年

【成績評価の方法と基準】
①平常点　70％　②レポート　30％　①と②を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度の授業改善アンケート結果を反映する。

【学生が準備すべき機器他】
授業の教材（パワーポイントデータ）は、授業終了後に学習支援システムに掲載する。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに30年間関わった中で、NPO法人金澤町家研究会、NPO法人輪島土蔵文化研究会などの市民活動を企画運営してきた経験に基づき、フィールドレベルからの住宅政策の課題について授業で言及する。

【Outline (in English)】
< Course outline>
The aim of this course is to help students acquire how housing policies have been tackled through domestic and international comparisons and examples of civic activities.
< Learning Objectives>
By the end of the course, students should be able to do the followings:
Recognizing how urban housing policies have changed in the social background and how they differ at home and abroad.
< Learning activities outside of classroom>
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy>
① Normal score 70%② Report 30%Evaluate ① and ② comprehensively.

CUM300JB（文化財科学・博物館学 / Cultural assets study and museology 300）

地域文化政策論

杉浦　ちなみ

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：旧「地域文化政策」を修得した者は履修不可
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域の文化をつくり、支える制度と人はどのようなものか。その歴史と現状について、日本の歴史やいくつかの地域に即して学んでいく。さらには地域の文化活動をどう支援するかについて、現代的課題と可能性についても考える。

【到達目標】
地域文化を支える教育・文化政策の歴史と現状についての基本的な理解を得る。また、地域文化の継承や創造に直接・間接的に関わることの意味、具体的な職業などについても学ぶことで、日々の生活の中で文化を身近に感じ、自分自身もその作り手として意識し行動できるような関心を育む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式によるが、適宜ディスカッションを交えながら進める。可能であれば、ゲストスピーカーによる講義も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法など
第2回	地域文化の継承と創造(1)	鹿児島県奄美群島の島唄文化
第3回	地域文化の継承と創造(2)	東日本大震災後の東北地方での継承活動
第4回	地域文化とはなにか	私達の身の回りにある文化に目を向ける
第5回	地域文化を支える政策(1)	公教育の原理と理念
第6回	地域文化を支える政策(2)	社会教育・生涯学習
第7回	地域文化を支える政策(3)	文化行政(文化財保護を含む)
第8回	地域文化をつくる場所(1)	地域の中の学校、文化の中の学校
第9回	地域文化をつくる場所(２)	公民館・図書館・博物館・公共ホール
第10回	地域文化を支える人(1)	福祉と生涯学習の接点から
第11回	地域文化を支える人(２)	社会教育職員、文化行政職員
第12回	地域文化を学ぶ(1)	生涯学習の実際
第13回	地域文化を学ぶ(2)	暮らしのなかの表現空間
第14回	まとめ	授業全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考文献や小さな課題をその都度提示するので、授業計画に示されたテーマ・内容にもとづき予習・復習を行うこと。また、地域文化に関連する報道や博物館展示等に関心を持ち、身近な事例や展示などに積極的に足を運んでほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
山﨑功・新藤浩伸・田所祐史・飯塚哲子編『地域文化の再創造ー暮らしのなかの表現空間』水曜社、2024
佐藤一子『地域文化が若者を育てるー民俗・芸能・食文化のまちづくり』農山漁村文化協会、2016
ほか適宜示す。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー、小レポートを含む平常点50％、最終レポート50%

【学生の意見等からの気づき】
学生からの意見や要望を可能な範囲で授業に活かしていく。

【その他の重要事項】
上述の計画は若干変更する場合がある。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course discusses the history and current state of Japan's policies related to regional culture. It also addresses contemporary challenges and prospects in supporting local cultural activities.
【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to gain a basic understanding of the history and current status of educational and cultural policies that support local culture.
【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to be interested in news reports and museum exhibitions related to local culture, and to actively visit there. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following:
short report and in-class contribution (50%), term-end report (50%)

ENV300JB（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境政策論

藤澤　浩子

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球規模で発生しているさまざまな環境問題の解決のために必要とされる環境政策の形成と実施には、市民の主体的な関与と自発的な実践活動が不可欠です。身近な環境を知り、そこで生じている問題について学ぶことは、そうした取り組みの基礎として極めて重要です。この授業では、環境および環境政策に関する基礎的な内容や取組み事例、初歩的な体験を通して理解を深め、身近な環境を愛し環境問題の解決に自ら取組む市民を育成することを目的とします。

【到達目標】
学習や発表、実践体験が、受講者自身の気づきや継続的な取組みの契機となることを目標とします。受講生には、身のまわりの環境にふれ、そこから何かを感じとり自ら動く姿勢、自分で調べ正しい情報を判断する力、それを他者に伝える力、仲間の発表に耳を傾け共有する力を、身につけ高めていこうとする姿勢を求めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
環境政策はＰＤＣＡサイクルの各段階で市民による関与が重要であり、そのためには市民レベルでの学習・実践活動が不可欠です。そこで本講座は、市民による環境学習を柱に、環境政策及び環境教育の理念・歴史的経緯・基礎知識・方法論等、基本的事項について解説していく予定です。課題等の提出・フィードバックは、講義時または「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション１ 講義の進め方等の確認とミニフィールドワーク（FW）	ガイダンス及び環境学習経験の確認、キャンパス周辺を歩き、身近な自然的・歴史的環境にふれる。宿題：FW後、フィールドノートを作成提出する。
第2回	オリエンテーション２ 身近な環境に関するイメージの共有	フィールドノート及び「人間をとりまく環境のイメージ」を共有する
第3回	SDGsについて	SDGs関連情報（国際的取組み経過・現状、日本の環境政策における位置づけ等）の解説及び関心共有ワーク
第4回	環境・環境政策の理念	環境とは、環境政策とはどのようなものか、環境問題への取組みの歴史的経緯等を踏まえて解説する
第5回	環境に関する基礎知識	地球規模の環境問題とその対策を知る上で必要な、地球に関する基礎知識と問題となっている諸テーマについて概説する
第6回	環境問題を知る１	温暖化、エネルギー問題
第7回	環境問題を知る２	生物多様性、地球環境問題
第8回	環境問題を知る３	循環型社会、地域環境問題
第9回	環境問題を知る４	化学物質、震災関連の問題等
第10回	環境政策の原則・手法	環境政策の原則・手法、環境学習、環境アセスメント等に関する概説
第11回	各主体の役割・活動１	各主体の役割、参加・協働の手法、国際機関・政府セクターの取組み、企業の取組み
第12回	各主体の役割・活動２	市民（個人、NPO等）の取組み、身近な環境に関する市民の取組み事例（DVD視聴等）
第13回	身近な環境保全の取組み実践体験　全体ワーク１	かるた制作（読み札づくり）
第14回	身近な環境保全の取組み実践体験　全体ワーク２	かるた制作（絵札づくり）と試用（場合によっては、読書レポート発表会）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
現在までに受けた環境教育や関心をもった環境問題等を整理しておく。
関心のあるテーマとその背景について、新聞や書籍、インターネット等から情報を得る。多摩キャンパス周辺の環境に目を向ける。関心のあるテーマやフィールドでの行事や活動に、積極的に参加してみる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
東京商工会議所（2023）『環境社会検定試験eco検定公式テキスト改訂９版』。
その他、必要に応じ講義時にプリントを配布します。

【参考書】
倉阪秀史(2014)『環境政策論（第3版）』信山社、竹本和彦編（2020）『環境政策論講義：SDGs達成に向けて』東京大学出版会、日本環境教育学会編(2013)『環境教育辞典』教育出版、藤澤浩子著（2011）『自然保護分野の市民活動の研究』芙蓉書房出版、他、講義時に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
1.出欠確認：毎回リアクションペーパーをとります。
2.試験方法：随時行う小テストと読書レポート
3.採点基準：リアクションペーパー及び小テスト、かるた制作への参加等で把握する平常点70％、提出課題（フィールドノート、読書レポート）30％とします。

【学生の意見等からの気づき】
過去11年間、受講生との話し合いをもとにキャンパス周辺でのフィールドワークとグループやクラス単位でのワークショップを行ってきました。全回オンライン形式となった2020年度以外、全体ワークで、かるた制作を行い大変好評でした。長年通学しているキャンパスの周辺をあらためて見つめ、受講者間で共有する機会をもつことは、地に足のついた取り組みにつながるため、対面でのアクティブラーニングが可能な状況であれば、受講者数に応じた形式で実施する予定です。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出及び資料配布等のために学習支援システムを活用する予定です。

【その他の重要事項】
受講者数および授業の展開により若干の変更があり得ます。
質問等については、リアクションペーパーで受け付ける他、必要に応じ、授業終了後に教室で、または電子メールで受け付けます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces basic knowledge of the environment /environmental problem and policy to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire the knowledge necessary for solving familiar environmental problems. Please refer to the schedule for detailed information.
【Leaning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-understand the importance of each citizen's efforts.
-understand the significance of actually touching and feeling the environment around us.
-get the right information, make wise decision, and tell others, listen and share with others.
-willing to do good activities for the familiar/global environment.

【Learning activities outside of classroom】
1.Find out about environmental issues of your interest.
2.Try participating in environmental activities, if possible.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
· Normal point 70%: Preparations, reaction papers, approaches, contribution to group work
· Report (Field-note, Mid-term, Final) 30%

POL300JB（政治学 / Politics 300）

政策評価論

倉根　明徳

配当年次／単位数：2～4年次／2単位
備考（履修条件等）：2025年度の授業実施日は、8月6日（水）・7日（木）・8日（金）。

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策評価の理論だけではなく、政策立案や評価プロセスの実例を学ぶことで、行政経営や政策の意義について理解することを目的とする。

【到達目標】
日本に政策評価が導入された背景や政策評価の理論と手法、政策立案のプロセスを把握した上で、政策評価が政策のマネジメントサイクルの中で果たす役割について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は3日間の集中講義となります。政策評価と政策立案の理論を学んだ上で、ワークシート等を使った演習を行いながら理解を深めます。最終日には各自またはグループで政策の立案と評価指標の設定をしていただき、発表とディスカッションを行います。
また、授業の初めに、前日の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
各回のテーマに応じて適宜資料を提供しながら講義を進めますが、可能な限り具体的な事例を紹介しながら、短期間で理解できる内容にします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	全体概要、講義の進め方について
2	政策評価の概要	政策評価導入の背景や評価の類型等について
3	政策評価の手法①	事業評価方式、実績評価方式、総合評価方式の概要と評価手順について
4	政策評価の手法②	実際に行われている政策評価について（ケーススタディ）
5	政策立案の手法①	目標設定から政策立案の流れについて
6	政策立案の手法②	2018年度以降、主流になりつつあるEBPM（エビデンスに基づく政策立案）について
7	政策立案の手法③	海外との比較について（NZの震災復興計画等を事例に）
8	政策立案と評価の実例①	政策・評価の実例紹介（健康福祉政策）
9	政策立案と評価の実例②	政策・評価の実例紹介（まちづくり政策）
10	政策立案と評価の実例③	政策・評価の実例紹介（官民連携政策）
11	政策立案と評価の実践①（演習）	各自（またはグループ）で政策の立案と評価指標設定を実施
12	政策立案と評価の実践②	第11回で作成した施策の発表及びディスカッション
13	政策立案と評価の実践③	第11回で作成した施策の発表及びディスカッション
14	講義のまとめ	全体の振り返りと修得内容の共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。関心のあるテーマに関わる施策について国や地方自治体のHPなどを調べてみてください。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて講義の際に紹介します。

【参考書】
必要に応じて講義の際に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点50%、演習及びディスカッション50％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
令和4年度の学生から「講師や学生同士でのディスカッションが良かった」と意見をいただいたため、令和5年度はディスカッションの時間を増やすように改善しました。結果、受講した全学生から肯定的な感想をもらうことができたことから、令和7年度も引き続きディスカッションの時間を十分確保します。また、令和6年度の学生からは「理論を学んだあとにミニ演習があると良い」という意見をいただいたことから、令和7年度については、理論＋ミニ演習で理解を深めてもらいたいと思います。

【その他の重要事項】
県庁で約20年間の実務経験があり、特にまちづくり分野に関わる政策立案や評価を数多く担当してきました。学生が利用する公共施設（公園や図書館など）がどのような背景でつくられ、評価され、運営されているかなど、具体的な事例を参考にしながら、政策評価や政策のマネジメントを学びます。特に行政職員を目指している学生の受講を奨励します。

【Outline (in English)】
This course introduces students to policy evaluation, policy making, and public management. The objective of this course is the role of policy evaluation. Students are expected to spend four hours before/after each class meeting to understand the course content.
Your overall grade in the course will be based on the following
Class participation: 50%, Exercises and Discussions: 50%

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

刑事司法と福祉

辰野　文理

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。2020年度以前入学者は「N6114 司法福祉論 」を受講すること。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、主に社会福祉士に関心のある学生向けに、刑事司法の概略とその中の更生保護に関する基本的な事項を解説することにより、そうした学生の皆さんが社会福祉士として活動するために必要となる基礎的知識を習得することをめざす。
刑事司法は、犯罪問題に向けられた国家的諸活動の総称で、犯罪の防止、捜査、裁判、犯罪者の処遇に至る刑事手続の全過程を含むものである。具体的には、警察、検察、裁判、矯正、更生保護の諸活動を指す。
矯正は、刑務所等の矯正施設の保安警備、被収容者に対する処遇などを司っており、保護は、仮釈放に関する事務や仮釈放になった者等の保護観察、恩赦や犯罪予防活動に関する事などを担っている。この中で、更生保護は、刑務所を出所したひとや非行少年などに対し、指導や援助をすることで、再犯を防ぎ、社会生活を送れるように働きかける制度であり、対象となるのは、刑務所から仮釈放になった人、少年院から仮退院になる少年、家庭裁判所で保護観察処分となった少年、保護観察付き執行猶予の言い渡しを受けた人などである。
更生保護は、こうした人々を対象に、遵守事項の遵守を求め、生活上必要な指導を行って、改善更生への指導を行うとともに、自立した生活を営むことができるようにするために必要に応じて住居や職を得る援助を行っており、福祉との関係が強い領域である。
近年、刑務所を出所した高齢者や障害者を福祉サービスにつなぐことで再犯を防止する対策が打ち出されており、その中の福祉へのつなぎ役として、刑務所や更生保護施設、検察庁に関わる社会福祉士の役割が重要となってきている。
そこで本講義では、資料等により刑事司法や更生保護の個々の制度を学習する。受講者はこの学習を通じ、刑事司法、少年司法の概要と更生保護制度に対する理解を深めることができる。

【到達目標】
・刑事司法、少年司法、更生保護等、本授業で扱う基本的用語の意味を説明できる。
・本授業で扱う種々の手続きについて、その対象、具体的内容を説明できる。
・刑事司法の流れと福祉との関わりを説明できる。
・犯罪者処遇の意義や課題について複数の視点から討議できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
各回ごとに各事項の概要を講義と討議により学習した上で、基本的事項の振り返り課題を行いながら進行する。振り返り課題へのフィードバックとして、解説、講評を行うとともに、区切りごとに、振り返りを行う。（授業展開によって各回で扱うテーマや内容に若干の変更がありうる。また、諸状況により、授業形式に変更がありうる。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	犯罪の動向、刑事司法の流れ、少年非行の動向、再犯の状況等	犯罪動向、少年非行の動向、再犯の状況等を把握した上で、刑事司法の流れを学習する。
2	刑事司法を取り巻く環境	再犯の防止等の推進に関する法律を軸に、再犯防止のための取り組みを学習する。
3	刑事司法と刑事司法機関	刑法、犯罪の成立要件、刑事司法機関の概要などを学習する。
4	刑事司法と犯罪者処遇	犯罪原因論を概観した上で、犯罪者処遇へのつながりについて学習する。
5	少年司法	少年法、少年事件の手続を概観した上で、少年鑑別所や少年院の役割について学習する。
6	犯罪被害者支援	犯罪被害の状況、犯罪被害者等基本法、犯罪被害者支援の展開等を学習する。
7	更生保護制度の概要	更生保護制度の意義、歴史、関連機関を学習する。
8	仮釈放、生活環境の調整	仮釈放等の概要と性格環境の調整について学習する。
9	保護観察の概要	保護観察の種類、遵守事項等を学習する。
10	保護観察の詳細	保護観察処遇の具体的な内容について学習する。
11	更生緊急保護、更生保護施設等	更生緊急保護の対象や内容、更生保護施設の概要を学習する。
12	医療観察制度	医療観察制度の概要を学習する。
13	更生保護に関わる機関や民間協力者、犯罪者処遇における近年の動向	犯罪者の処遇に関する近年の話題や施策、司法と福祉との連携について学習する。
14	最終確認試験、解説	学習範囲の全般を復習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、毎時間、資料等の該当箇所に目を通して授業に臨む。授業後、復習として、学習した範囲を見直し、振り返り問題を行う。
また、刑事司法や更生保護に対する理解を深めるために、事件を起こした者がその後どのように扱われているかについて関心を持ってメディアに目を通しておく。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書はとくに指定しない。
毎回、授業で使用するスライドをｐｄｆファイルにして事前配付する。

【参考書】
・法務省保護局のサイト
（http://www.moj.go.jp/hogo1/soumu/hogo_index.html）
・日本更生保護学会編『更生保護学事典』成文堂,2021年
・辰野文理『要説 更生保護[3版]』成文堂,2018年
・藤本・生島・辰野 (編)『よくわかる更生保護』ミネルヴァ書房,2016年
・そのほか、犯罪白書、再犯防止推進白書、犯罪被害者白書等を参照する（いずれもWebでの利用が可）

【成績評価の方法と基準】
各回の区切りごとに振り返りの確認テストを行い、その履修状況及び結果を評価する（20%）。
全範囲学習後に、授業への参加度を考慮した上で、基本的知識の定着度を確認するための試験を行う（80％）。
成績の評価はこれらを総合して100点満点として行い、60点以上が合格となる。
フィードバックとして、順次確認問題の解答を提示する。最終試験実施後、講評を行う。

【学生の意見等からの気づき】
多くの受講生にとって刑事司法や犯罪関係の講義の受講が初めてであることを考慮し、基本的な事項や用語の説明にも時間をさく予定である。

【その他の重要事項】
法務省や保護観察所勤務の実務経験に基づき、実務に即した具体的説明を取り入れた授業内容とする。（「実務経験のある教員による授業」に該当）

【Outline (in English)】
【Course outline】

The purpose of this course is to introduce procedure and the significance of "Offenders Rehabilitation".
"Offenders Rehabilitation" system is, with regard to persons who have committed crimes and juvenile delinquents, to prevent them from re-offending and assist them to rehabilitate themselves by treating them properly within society.
The object of the welfare often overlaps with an object of "Offenders Rehabilitation". Most of method and menus of the support are common, too. Therefore in late years the role of the social worker became important in a field of "Offenders Rehabilitation".
Through this course, students will be able to explain basic knowledge about "Criminal Justice", "Juvenile Justice" and "Offenders Rehabilitation", that is necessary to be a social worker.
【Learning Objectives】
· To be able to explain the meaning of basic terms used in this class.
· To be able to explain the subject matter and specific details of the various procedures covered in this class.
· To be able to explain the flow of criminal justice and its relation to welfare.
· To be able to discuss the significance and issues of the treatment of offenders from multiple perspectives.
【Learning activities outside of classroom】
[Preparation: 60 minutes: Have a look at the relevant parts of the textbook to grasp an overview.
[Review: 60 minutes] Have a look at the relevant parts of the text and deepen your understanding of them to leave nothing unclear.
Keep yourself interested in everyday life and follow media reports concerning how offenders are treated after their troublemaking, in order to deepen your understanding of criminal justice and offenders rehabilitation.
【Grading Criteria /Policy】
A paper exam will be given to test how well you have established your basic knowledge. Its scores will be considered for your grades (80%).
The level of effort in the quiz for review (20%).
The final exam will be used to evaluate whether the students have understood the fundamentals of the entire course.
The answers to the quizzes will be presented as feedback. The final exam will be followed by a critique.

MAN300JB（経営学 / Management 300）

地域経営論

遠藤　聖子

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：SSI生は授業コード「N6151」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
少子高齢化、人口減少に直面した我が国では、地域でその社会的課題に対し様々な手法で解決に取り組んでいます。本講義では、この取り組みを「地域経営＝地域のまちづくり」と捉え、誰が、何を、どのようにマネジメントして、持続可能な地域づくり・まちづくりを行なっているか事例を中心に学びます。そして、地域で起きている課題を自分ごととして考え、地域のあり方、まちづくりにおける市民・行政・企業・大学などの役割と協働のあり方について考察します。

【到達目標】
次の事項について基本的な理解を得るとともに、テーマごとの課題とその対応方針についても問題意識を高めることを到達目標とします。
・地域経営に関する基本的な枠組み、法制度及び諸制度、考え方
・地域経営に関する国と地方の関係、地方分権と自治
・地域経営に関する市民(住民)、事業者、行政等の連携・協力・分担の考え方
・地域経営の手法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は原則、「講義」と「講義テーマに応じた全体、またはグループ討議等のミニワークショップ」により進めます。受講生が、地域経営、地域づくり、まちづくりについて具体的なイメージを持って思考できるよう事例紹介を中心に進めます。各回講義のに対するリアクションペーパーで示された問いやつぶやきを講義の中で紹介し、双方向のやりとりをしながら受講者全体の理解が深まるよう進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 地域経営とは	・講義ガイダンス ・「地域経営」の全体像とまちづくり ・視点の整理 ・各回講義の要点解説
第2回	地方分権と地方自治、その系譜	・「地方分権」「地方自治」の系譜 ・今日的課題
第3回	地域経営における行政の役割とは	・行政が取り組む事例の紹介
第4回	住民参加とまちづくり①	・まちづくり、地域経営における法律と条例の役割 ・まちづくり条例の系譜 ・まちづくり協議会
第5回	住民参加とまちづくり②	・まちづくりセンター ・まちづくりにおける紛争とその歴史 ・住民参加の意義 ・地域経営における合意形成の方法とあり方の考察
第6回	官民産学連携のまちづくり	各地の ・エリアマネジメント ・アーバンデザインセンター等、果たす役割と取り組み
第7回	地域のストックを活かすまちづくり①	・風景づくり ・歴史、文化を活かす ・リノベーション　等、 まちづくりの取り組みと課題
第8回	地域のストックを活かすまちづくり②	・公共施設、公共空間の更新と魅力化 ・空き家、空き地の活用　等、 各地の取り組みと課題
第9回	商業地・中心市街地のまちづくり①	・商業地、中心市街地の現状と課題 ・まちなか再生の動き　等、 各地の取り組みと課題
第10回	商業地・中心市街地のまちづくり②	・まちづくり会社（TMO） ・まちなか観光（DMO） 等、まちづくりを担う組織の役割と取り組み、課題
第11回	郊外住宅地のまちづくり	・戸建て住宅地の管理 ・ニュータウン、郊外住宅地の取り組み ・団地、マンション管理組合と自治会 等、まちづくりを担う組織の役割と取り組み、課題
第12回	災害とまちづくり	・大規模災害、大規模震災にみる地域、まちづくりの課題と取り組みの系譜 ・これからの課題
第13回	講義の総括①	・レポートの課題の解説 ・個別相談
第14回	講義の総括②	・受講生の感想 ・講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・少子高齢化、人口減少社会における地域経営、地域づくり、まちづくりに関する広範な書籍、新聞記事等の通読を薦めます。本講義の復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。毎回、パワーポイント資料を事前にアップします。

【参考書】
講義において適宜紹介しますが、次の書籍を参考図書として薦めます。
・「平成都市計画史ー転換期の30年間が残したもの・受け継ぐもの」饗庭 伸 著（共栄書房/2021年）
・「アーバンデザイン講座」前田 英寿 等　著（彰国社/2018年）

【成績評価の方法と基準】
①講義とその後の全体討議・ミニワークショップ等を踏まえたリアクションペーパー50％
②レポート50％（レポート課題は6月前半に提示）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
特にありません。

【Outline (in English)】
【Course outline】

Faced with a declining birthrate, an aging population, and a shrinking population, Japan's local communities are using a variety of methods to address social issues. In this lecture, this approach will be considered as "regional management = regional community development. You will learn who, what, and how sustainable regional and community development is carried out, focusing on case studies. The course will also consider local issues as if they were their own, and examine the roles of citizens, government, business, and universities in community development and how they should work together. In Japan, facing declining birthrates, an aging population, and a shrinking population, local communities are working to solve social issues using a variety of methods. In this lecture, we will consider these efforts as "regional management = regional community development. We will learn who, what, and how sustainable regional and community development is carried out, focusing on case studies. We will also consider issues that arise in the community as if they were our own, and discuss how the community should be, and the roles and collaboration of citizens, government, businesses, and universities in community development.

【Learning Objectives】

The objective of the course is to provide participants with a basic understanding of the following issues, and to raise their awareness of the issues and policies related to each theme.

· Basic framework, legal system, and various systems and ideas related to regional management

· Relationship between the national and local governments, decentralization, and self-governance related to regional management

· Collaboration, cooperation, and sharing of responsibilities among citizens (residents), businesses, and governments related to regional management

· Methods of regional management

【Learning activities outside of classroom】

Students will be required to read a wide range of books and articles related to urban and regional planning and regional management in a society with a declining population, low birthrate and aging society. In this class, we will review a wide range of articles on urban and regional development and regional management in a declining population and an aging society. The standard review time for this class is two hours each.

【Grading Criteria/Policy】

(1) Reaction paper based on the lecture and subsequent plenary discussions, mini-workshops, etc.: 50%

(2) Report: 50%(report assignment will be presented in the first half of June)

MAN300JB（経営学 / Management 300）

ソーシャルマネジメント論

樋口　邦史

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業および企業が行う事業と社会の関わりを考える。企業と社会の関わりは、多様な形が可能である。企業の社会への関わり方、関わる対象、内容、組織形態の多様さを理解する。また、なぜ企業の社会的側面を考えることが大切なのかを考え、理解する。

【到達目標】
本講義の受講生は、企業が社会的課題を捉えて、解決するまでのプロセスと論理を理解する。また、このプロセスと論理を学ぶことを通じて、企業と社会の関係性を、社会学或いは経営学的観点から考えられるようになる。さらに、企業の社会への影響を理解できるようになる。以上のことを本講義のゴールとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
企業と社会の関係は、多様かつ多面的な側面を内包している。そのため、学際的かつ実践的に講義を行う。例えば、企業や社会の仕組みを理解するために、経営学や社会学の観点を取り入れて講義をすすめる。また、企業活動とその社会への影響を考察するために、実践例としてのケーススタディやゲストによるセッションを取り入れる。事前課題に対する議論とグループ討議を中心に講義をすすめる。予習を求めるが、講義の展開によって若干の変更があり得る。事前課題には講師が学生個別にフィードバックをし、講義での論点などの指摘や記述方法への指導を行う。対面での開講を前提とするが、ゲストセッションや、社会状況によってはオンラインでの双方向型講義となる場合もある。それにともなう各回の講義計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。また、本講義の開始日や授業の方法なども、学習支援システムで随時提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入と概要	講義の進め方について 講義で取り扱う内容の概要を紹介
2	CSR経営におけるSDGsの主流化	企業CSR経営を起点としたソーシャルマネジメントとSDGsの位置づけについて議論
3	ソーシャルマネジメントに必要なコミュニケーション技術①	企業組織におけるコミュニケーションとその活性化について議論
4	ソーシャルマネジメントに必要なコミュニケーション技術②	企業組織において「相手」に届くコミュニケーションとプレゼンテーションを実践
5	企業におけるプロジェクト活動	プロジェクト型マネジメントを知る
6	行政とコミュニティ組織	行政組織の特色とコミュニティの役割を知る
7	今年度の地域活性化プロジェクト先の選定とグルーピング	学生に身近な地域の選定とプロジェクトの進め方に関する議論
8	事例研究①官民連携	特定地域の官民連携事例について議論
9	事例研究②企業組織の光と陰	企業の不正（不正開示不正会計）はなぜ起きてしまうのかについて議論
10	演習①	ローカルなフィールドでのプロジェクトの進め方を議論
11	演習②	同フィールドでのマネジメントを進める
12	演習③	特定地域での活性化企画の立案
13	演習④	特定地域での活性化計画の設計
14	最終発表、まとめと展望	Final Presentation 講義のまとめ、最終レポート提出について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義では、全5回の事前課題レポート（A4 1枚以内）の提出を求める。講義で紹介する事例のほかに、日頃からニュース等の情報および自身の日常生活を、企業と社会の関係性から観察し、企業の社会的行動の事例として考える癖を身につけること。なお、毎回幾つかの課題レポートを取り上げ、講義の冒頭で全員で議論する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
遠野みらい創りカレッジ編著「SDGsの主流化と実践による地域創生」水曜社；まち創り叢書

【参考書】
講義の中で随時紹介する

【成績評価の方法と基準】
課題レポート10点×5回、最終レポート50点で評価し、グループワークでの貢献度によって加点する（最高10点）。オンラインでのセッションとなった場合でも、評価方法や基準は変更しない。より具体的な方法と基準は、講義開始日に案内する。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度の講義参加者からの要望に基づき、学生にとって身近な地域を選んだ演習を実施します。今年度も、2年生から4年生まで「学部横断型」の多様な参加者によるコミュニケーションとグループワークを中心に「実践型」の講義を実施します。経済学部、社会学部からの参加者も期待しています。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
【Course outline】In this course,the students will think about relationship for Enterprise and Society by some discussion or dialog. Because it's a available for diversification between Enterprise and Society. We will communicate the variety of relationship, the domain, contents and organization among us. And we will be able to identify why the Enterprise have to consider about the social dimension.
【Learning Objectives】The goals of this course are to undustand logic and process of Social Management. Indeed, at the end of the course, students are expected to identfy social responsiblity of te company organization and the meaning of the mainstream for SDGs.
【Learning activities outside of classroom】Before the every session, students will be expected to have read the relevnat case study on web site or news paper. And some text will be intoroduced in the session for refarence of group discussion.
【Grading Criteria /Policy】Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (50%), term-end report (50%), and additional point by in-class contribution and leader-ship on work shop.

MAN300JB（経営学 / Management 300）

ソーシャルファイナンス論

徳永　洋子

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
少子高齢化、経済格差、震災からの復興といった社会の課題を民間の力で解決していく、NPO法人、公益法人、社会福祉法人などのソーシャルセクターが注目されています。しかし、こうした団体の多くが活動資金の調達に苦労しています。一般に金融（ファイナンス）とは、資金余剰者から資金不足者へ資金を融通することを意味します。本講では、ソーシャルファイナンスを「社会的価値を生むための金融」と捉えて、日本のソーシャルセクターを支える資金の概要とその調達手法を学びます。

【到達目標】
非営利団体の活動資金の調達について具体的なノウハウを体得します。加えて、身近な寄付やクラウドファンディングへの理解を深めることで社会貢献意欲が高まることも期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
スライドを用いた講義形式。スライドは学習支援システムを通じて配布。理解度や関心の把握には毎授業提出してもらうリアクションペーパーを活用し、各授業の初めにフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プロローグ	本講の概要、目的
第2回	非営利団体の資金源	各種資金源とその特徴
第3回	日本の寄付文化の歴史	奈良時代から現代の事例
第4回	日本の寄付市場	各種調査結果から考察
第5回	ドナージャーニー	寄付者の心理と行動
第6回	ドナーピラミッド	団体の寄付者の構造的把握
第7回	心理学と寄付集め	寄付者心理を事例から考察
第8回	遺贈寄付	その定義と実態
第9回	クラウドファンディング	その概要と成功の秘訣
第10回	会員拡大	新規会員拡大と継続率向上
第11回	企業からの支援獲得	支援のステップアップ戦略
第12回	助成金	助成金の獲得方法と活用
第13回	事業収益	非営利団体らしい事業収益の上げ方
第14回	エピローグ	まとめとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題はありませんが、授業に関連するニュースや話題については、さらに調べたり、自分の意見を持つように努めてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
「改訂新版　非営利団体の資金調達ハンドブック」　徳永洋子著　時事通信社
https://www.amazon.co.jp/dp/4788718820/

【成績評価の方法と基準】
平常点（20％）、期末テスト（80％）※期末テストはマークシート形式。資料持ち込み可。

【学生の意見等からの気づき】
卒業後に、社会福祉法人などのソーシャルセクターに就職するとは限らないことから、本講座の共感を軸とした資金調達の学びを、一般企業に就職した際にも役立てられるようにします。

【Outline (in English)】
1) Course Outline
In today's Japanese society, there are many problems, such as the aging population and declining birthrate, economic disparity, post-earthquake restoration, domestic violence, and lack of public nursery school places. Everyone feels that these problems cannot be solved by the work of national and local government organizations alone. Hoping that they can therefore be solved by efforts in the private sector, the work of social sector organizations, such as social welfare corporations, NPOs, and public-service corporations has been gaining attention. However, most of these organizations have difficulty raising the funds required in order to tackle these issues. In general, "financing" refers to the funding of those who lack required funds by those with surplus funds.
 In this course, we will see how "charitable funding" can be raised from a diverse range of groups in order to support social sector work in Japan.
2) Learning Objectives
The goals of this course is to know how to fundraise.
3) Learning activities outside of class room
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content by checking relevant contents from newspapers, TV news, online materials, etc.
4) Grading Criteria/Policy
Your overall grade in the class will be decided based on the following.Term-end examination: 80%In class contribution: 20%

MAN300JB（経営学 / Management 300）

NPO論

渡真利　紘一

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：SSI生は授業コード「N6155」を選択すること。旧「非営利組織の運営」修得者は不可。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「NPO/非営利組織」は単に行政サービスを補完する組織ではなく、新しい未知なる価値を生み出し、市民社会を創造する主体であることを理解し、その実践のための方法を学びます。併せて、NPOの成立した歴史的背景やその社会的役割をはじめ、運営上の課題や他の主体（ボランティア、行政、民間企業(CSR)、助成財団など）との関係から、今後の社会のあり方を考えていきます。

【到達目標】
・NPOの社会的意義を理解し、実践の方法について具体的にイメージすることができる
・自らの関心分野のNPO活動の考案や授業のなかで気になったテーマに関する研究を通じ、社会との主体的な関わり方を学ぶ
NPOを論じる過程で、受講者自らが、自分らしく在ること／他者に対して寛容であること／仲間を持つこと／社会と本音で向き合うこと等の重要性を認識する機会につながればと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の前半は、NPOに関する基本的な内容（歴史的背景や社会的意義、運営方法や他の社会資源との関係等）について、映像資料や参考書等を交えて紹介します。後半は、NPO活動実践者から実践を聞き、体験的に実践を把握できる機会をつくります。授業形態は講義を主とします。受講者各々が授業を通じて感じたことや考えたことを言葉にし、共有するなかでの学びも大切にします。
各回の授業計画の変更が生じる場合があります。変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション/NPOのイメージ	NPOのイメージや昨今の社会情勢を共有し、本講義の目的や目標、進め方を受講生と決定する。
第2回	NPOの活動分野と関心分野	映像資料等を活用しながら、NPOの活動分野について知るとともに各々の関心分野について話し合う。
第3回	NPOの歴史的背景と社会的意義	非営利な活動の歴史的背景やNPO法設立経緯等から、NPOの文脈を辿る。
第4回	NPOの社会的意義	行政や企業等との比較を通じ、NPOの社会的意義について考察する。
第5回	NPOの組織運営	NPO組織の立ち上げや運営方法について基本的な内容を理解する。
第6回	NPOと他の主体との関係	他の主体（ボランティア、行政、民間企業(CSR)、助成財団など）との関係について把握する。
第7回	中間課題の共有	中間課題で調べたり考えたことを共有し、お互いの観点から学ぶ。
第8回	実践から考えるシリーズ「資金を調達する」	クラウドファンディングや会費による基金創設、助成金申請など、NPOの多様な財源確保策を取り上げ、各手段の特徴や資金調達の際に配慮すべきことについて考察する。
第9回	実践から考えるシリーズ「協力関係をつくる」	コミュニティ・オーガナイジングや協力のテクノロジー等の理論や具体例を取り上げ、協力関係をつくる方法について考察する。
第10回	NPOの活動事例紹介	NPO活動に携わる者（ゲスト）から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第11回	NPOの活動事例紹介	NPO活動に携わる者（ゲスト）から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第12回	期末課題発表会１	グループ又は個人で期末課題の発表を行う。
第13回	期末課題発表会２	グループ又は個人で期末課題の発表を行う。
第14回	最終講義「これからの市民社会とわたしたち」	授業の振り返りやまとめを行うとともに、これからの社会を生きる私たちにとって大切な観点とは何か、検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の振り返りの時間を大切にしてください。
また、授業で気になったキーワードや考え方について本やネット、ニュースや映画等から更なる情報をインプットしたり、学んだ内容を周囲に話す等、言葉によるアウトプットを心がけ、自らの「観」を養っていくことを期待します。
授業で紹介したNPOの主催するイベント等へ参加したり、NPO活動へボランティアや取材等を通じて主体的に関わることを推奨します。本授業の準備・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
（1）平常点（出席・リアクション）50点、（2）中間課題（NPO活動計画書）10点、（3）期末課題（発表、レポート）40点。
平常点については、授業ごとに授業中の発言又はリアクションペーパーによって評価・採点します。
なお、成績評価の観点の例は以下のとおりです。
・NPOを論じることで社会の捉え方がどのくらい多様になったか
・受講者自らの関心分野の活動や研究テーマにどのくらい主体的に理解を深める関わりができたか
・クラスメイトが関心分野への理解を深めることにどのくらい協力して取り組めたか
（注）授業を欠席する場合は事前に連絡してください。
（注）実習や就職活動、部活動や健康上の理由などで授業への出席があまりできない人は、出来るだけ早く教員に知らせてください。

【学生の意見等からの気づき】
・受講者同士がお互いの観点を尊重して学びを深める環境をつくります。
・授業内容の理解の手助けとなる書籍や映像、記事等を紹介します。
・NPO活動の企画立案を具体的に検討する内容や実践からNPO活動を考察する内容の充実を図ります。

【学生が準備すべき機器他】
講義資料の閲覧や調べ物をする際に使用するため、パソコン又はスマートフォンを持参してください。

【その他の重要事項】
授業計画の内容は、社会情勢や授業の展開によって、変更があり得ることを申し添えます。

【Outline (in English)】
NPO/Non Profit Organization is not just organizations to cover government services, but it provides new values and creates civil societies proactively.

Throughout the class, we understand methods of cooperation with NPOs and the future of our society learning historical background of its establishment, its social roles, operational challenges and relations of other social resources such as volunteers, public administrations, CSRs and grant making foundations.
The goals of this course are to “To understand Social significance of Non Profit Organization”.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
- Being yourself.
- Being tolerant of others.
- Facing society in earnest.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 40%、Short reports : 10%、in class contribution: 50%

MAN300JB（経営学 / Management 300）

協同組合論

西井　賢悟

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、協同組合が人々のくらしの中で果たしてきた役割、そして現在果たしている役割を学ぶ。特に、その役割を社会・経済的な動きと関連付けながら見ていくことにより、さまざまな企業形態の経営組織が存在する中での、協同組合の存在意義を学ぶ。また、農協や生協などの実際の取り組みから、実社会をよりよりものにしていく方策を学ぶ。

【到達目標】
・協同組合の経営組織としての特徴を説明できる
・協同組合の展開過程を社会・経済的背景を踏まえて説明できる
・農協と生協が地域社会に果たしている役割を説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義形式とするが、適宜質疑やグループワークの時間を設けることにより、受講生が主体的に講義に関われるようにする。また、講義後のリアクションペーパーの作成を通じて、講義内容を自らの知識や実際の生活と結びつけながら考察することを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	協同組合とは	協同組合の多様なタイプ、協同組合と株式会社の違いなど、協同組合の概要を把握する
第2回	世界の協同組合－誕生の歴史と協同組合原則－	イギリス産業革命と協同組合の誕生、協同組合原則の制定・改定など、世界的な協同組合の原理・原則と動向を学ぶ
第3回	日本の協同組合の歴史①	二宮尊徳の思想・実践、産業組合法の制定など、戦前の日本の協同組合の歴史を学ぶ
第4回	日本の協同組合の歴史②	戦時中の協同組合の再編、戦後の多様な組合の設立・発展など、戦時・戦後の日本の協同組合の歴史を学ぶ
第5回	日本の農協①	総合事業の構成と内容、連合会と中央会の機能など、農協・ＪＡグループの概要を把握する
第6回	日本の農協②	正・准組合員の相違、組合運営の仕組みなど、農協の特徴を協同組合らしさの観点から学ぶ
第7回	日本の農協③	自己改革の実践、農業振興の応援団づくりなど、近年のＪＡにおける改革の動向を学ぶ
第8回	日本の農協④	農協の実務者をゲストスピーカーとして招き、農協が地域農業や地域社会に果たしている役割の実際を学ぶ
第9回	日本の生協①	生協の多様なタイプ、購買生協の事業構成と内容、供給事業の仕組みなど、生協の概要を把握する
第10回	日本の生協②	組合員組織と組合員活動の概況、組合運営の仕組みなど、生協の特徴を協同組合らしさの観点から学ぶ
第11回	日本の生協③	生協の実務者をゲストスピーカーとして招き、生協が個々の家庭や地域社会に果たしている役割の実際を学ぶ
第12回	新たな協同の動向	労働者協同組合法の制定、協同組合間連携の拡大など、日本における新たな協同の動向を把握する
第13回	期末試験	小論文中心の試験を通じて、これまで学んだことの到達状況を確認する
第14回	まとめ	これまで学んだことをもとに、協同組合の進むべき途や、協同の実社会での可能性を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。
・毎回、復習として講義内容を考察してリアクションペーパーを作成する。
・毎回、事前に提供する資料や視聴資材を用いて準備学習する。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない

【参考書】
参考書は指定しない

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー（70％）、期末試験（30％）。
リアクションペーパーは、毎回の講義内容を自らの知識や実際の生活と結びつけながら考察できているかを評価する。
期末試験は、小論文中心の構成とし、本講義の到達目標に対する到達状況を評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回、講義の開始時にその回のポイント、終了時にポイントを踏まえたまとめを行う。

【その他の重要事項】
本講義では農協・生協の実務者をゲストスピーカーとして招く予定としている。農業振興、食品流通、地域づくり、環境問題への対応や、そこで働く職員などをリアルに学ぶことができるようにする。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this lecture, students will learn the roles that cooperatives have played in people's lives and the roles they are playing today. In particular, students will learn about the significance of the existence of cooperatives in the presence of various types of management organizations, and how to improve the real world.
【Learning Objectives】
· Be able to explain the characteristics of cooperatives as management organizations
· Be able to explain the development process of cooperatives based on the social and economic background
· Be able to explain the role that agricultural cooperatives and consumer cooperatives play in the local community.
【Learning activities outside of classroom】
· The standard time for preparation and review of this class is 2 hours each.
· Every time, as a review, consider the contents of the lecture and create a reaction paper.
· Prepare for each lesson using materials and audio-visual materials provided in advance.
【Grading Criteria /Policy】
· Reaction paper (70%), final exam (30%).
· Reaction papers are evaluated based on whether students are able to consider the content of each lecture while connecting it with their own knowledge and actual life.

· The final exam will be composed mainly of short essays and will be evaluated on the achievement status of the goals of this course.

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

災害支援論

青木　信夫、正谷　絵美

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
災害が発生した後に余儀なくされる避難生活や生活再建などへの支援の在り方また、災害発生後の支援を効果的に行うために必要な事前の備えなどについて総合的に学び実践するための知識や技術を習得して、年々繰り返され巨大化する自然災害の被災者に必要な支援とは何か、支援のあるべき姿を探求していく。

【到達目標】
被災者に必要とされる支援や支援の方法について知り、実践的な支援のあり方について理解を深める。
・我が国における災害支援の体制を知り、日常生活でどのような備えが必要であるか考える。
・一方的な支援だけでなくお互いに支援し合えるコミュニティの形成と共助を通して人々が地域を支えて行くことの大切さを知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義のほかに、グループ討議や図上演習を実施することで学生自身が考え、災害をイメージして支援のあり方について気づかせる。また、被災者と交わる支援のあり方として、体験型の授業を取り入れる。レポート等の提出、フィードバックはメールあるいは「学習支援システム」を通じて行い、最終授業では13回までの各講義内容のまとめやレポート等の講評、解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	①授業のオリエンテーション ②ワークショップ	・授業の概要や目的及び進め方、理解すべき点や評価方法等について知る。 ・災害支援のあり方について、グループ討議を行い被災者が本当に必要とする支援のあり方について知る。
2	体験学習 ・震動体験（起震車） ・煙避難体験（煙体験ハウス） ・初期消火（訓練用消火器）	・東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の実際の地震観測データを基に３次元で再現された震動を体験する。 ・人体に無害な煙を充満させたテント内に入り、火災時における煙の怖さと避難方法などを体験する。 ・初期消火の必要性を学び、消火器の操作手順を体験する。
3	防災講話 ・地域防災（自助、共助、公助）	・地域防災を、「自助」「共助」「公助」の視点から考え、平常時及び発災時の行動について考える。
4	ロープワーク ・結びの基本と応用	・日常生活では勿論のこと、災害発生時には人命救助や避難生活にも役立つロープの結び方の基本を体験する。
5	災害の種類と災害心理	・地震、津波、水害、火災など各災害の原因、特徴、対策と共に逃げ遅れの原因となる災害心理について学ぶ。
6	クロスロード	・災害発生後に行う支援のあり方について出された質問にYESまたはNOで答え、自分ならどのように対応するかを考える。
7	心肺蘇生法 ・胸骨圧迫／AED操作 応急手当 ・止血法・災害時の手当	・救命の重要性を理解する。 ・心肺蘇生に必要な胸骨圧迫とAED操作を体験し、実施手順を知る。 ・災害時の傷病者に対して身の回りにあるものを利用して一時的に施す手当の方法を知る。
8	避難計画、避難行動	・避難計画や避難行動のあり方について知り、避難に必要な支援とはなにかを考える。
9	災害ボランティアセンター実施訓練	・災害ボランティアセンターの仕組みを理解し、運営に必要な技術を実施訓練により習得する。
10	避難所HUG	・避難所の開設、運営を模擬的に体験することにより、避難所で起こる様々な問題にどう対応するかまた、避難所で生活する被災者への支援をどのようにするかについて考える。
11	防災グッズの作成	・災害時に身の回りにあるものを利用して避難生活などに役立つ防災グッズを作成する。
12	国の支援構造	・災害時、有事の際、国がどのように行動し、どのように支援するかその構造を学ぶ。
13	図上演習DIG	・災害発生後に行う、「避難行動要支援者」への支援のあり方と事前に必要な体制づくりについて考える。
14	①授業のまとめ ②春学期定期試験	・各授業の要点をまとめ、レポート等の講評、質疑応答、ディスカッションを通して災害支援を掘り下げる。 ・本授業を終えた後の理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
災害支援に関する学問は、「災害支援学」などのように決められた枠組みの中だけに存在するのではなく、日常生活の中にこそ多くのヒントが潜在していることから、自身が日常生活を送る中で防災や減災とどう取り組んで行くべきか考えることが大切であり、人と交わることで多くの気づきを得ることができるので積極的に情報を得て人と共有するようにする。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。
授業時に参考となる資料を配布する。

【参考書】
授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
春学期定期試験50%、平常点40%、レポート10%
演習や体験型授業を行うので継続的な出席を求める。単位取得の前提条件となる出席回数については、オリエンテーション時（初回授業）に明示する。

【学生の意見等からの気づき】
授業では、講師陣の防災啓発活動の現場や被災地での活動体験を基に、学生が災害の当事者として支援のあり方を自ら考え理解できるような内容に心がける。

【Outline (in English)】
[Course outline] Knowledge of how to provide comprehensive support for evacuation and rebuilding of life after a disaster occurs, as well as the necessary preparation for effective support after a disaster occurs. They will acquire skills and explore what kind of support is needed for victims of natural disasters that are repeated and huge every year.

[Learning Objectives] Learn about the support and support methods needed by disaster victims and deepen their understanding of practical support.
—Learn about the disaster support system in Japan and think about what kind of preparations are necessary in daily life.
—Learn the importance of people supporting the community not only through one-sided support but also through the formation and mutual assistance of communities that can support each other.
[Learning activities outside of classroom] The study of disaster relief does not exist only within a fixed framework such as "disaster support studies", but because many hints are latent in daily life, oneself has a lot of hints in daily life. It is important to think about how to tackle disaster prevention and mitigation while sending a message, and since you can get a lot of awareness by interacting with people, actively obtain information and share it with people. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria /Policy] Fall semester regular exam 50%, normal score 40%, report 10%
Since we will hold exercises and hands-on lessons, we request continuous attendance. The number of attendances, which is a prerequisite for earning credits, will be clearly stated at the time of orientation (first class).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

人権活動論

寺中　誠

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【授業概要】
人権は、実社会の問題の解決のための手段として使ってこそ、意味のある概念です。多くの社会事象の中から「人権問題」として対象化された問題の解決手法を学びます。
【授業の目的・意義】
人権問題の構造や主なテーマを把握するための方法の習得を目的とし、人権活動を担う団体や組織のマネジメントの基礎についても考えます。

【到達目標】
・法や権利を理解するための基礎知識を身につけ、国内的・国際的人権なシステムがどのように機能しているかを理解する。
・上記で得た法や権利の知識を日常生活の上で使えるようになる。
・実際に人権に関わる活動の現場で役立つ基礎知識と技術を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は主として講義形式で行い、必要に応じてディスカッション形式も取り入れます。関係する資料等を紹介し、外部の経験者の声なども紹介しながら、理論的な仕組みを勉強します。毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。
学生は、各自受講用のノートを準備し、毎回ノートに講義内容を記録します。このノートを充実させることにより、自分自身の人権活動論を習得するようにします。
課題に対しては、授業内やHoppii等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人権論基礎 I 人権における権利義務関係論	権利義務関係論で基本的人権概念を再考する。
第2回	人権論基礎 II 人権を構成する要素	社会資本（ソーシャルキャピタル）としての人権と依存
第3回	人権論基礎 III 福祉と人権	多義的な平等概念とポジティブアクション：配分の平等と結果の平等
第4回	人権基礎論 IV 権利の優先順位	絶対的自由と調整可能な権利：自由権と社会権、そして人権の不可分性・相互依存性
第5回	人権基礎論 V 権利制約の原理	調整可能な権利の具体的な調整における手順：比例原則、LRA等
第6回	依存と人権 I 依存症の構造	依存症という概念の理解とその実態
第7回	依存と人権II ハームリダクション	依存症におけるハームリダクション政策：公衆衛生か刑罰か？
第8回	性産業と人権 I 性産業論	性産業政策の歴史と近年のハームリダクション政策
第9回	性産業と人権 II 「慰安婦」問題の構造	性産業論と植民地主義（戦争責任）の狭間で
第10回	移民問題 I 移民排斥という構造的暴力	移民をめぐる意識や「テロ」不安、「体感治安」。
第11回	移民問題 II 「在日」問題と「ヘイト」	植民地支配に伴う「在日」問題と「ヘイト犯罪」の状況。
第12回	移民問題 III 移住労働者問題が表すグローバルな変化	移民を政策的に受け入れたり、締め出したりした政策のブレについて。
第13回	企業と人権 I ビジネスと人権	国連指導原則の誕生と企業の社会的責任（CSR）の流れ
第14回	企業と人権 II 企業や非国家主体の統制のための制度	ソフトローの重要性と国内人権機関、差別禁止法制の必要性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ノートに、授業等で知りえた参考情報や文献の内容を記録します。その内容を見直し、次回授業では必要な点を確認します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に定めませんが、山崎・川島・菅原「国際人権法の考え方」（法律文化社）を参照することが多いと思います。

【参考書】
申惠ボン「友だちを助けるための国際人権法入門」（影書房）、阿部浩己「国際法を物語る」三分冊（朝陽会）ほか
http://www.teramako.jp/housei.html 上で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
「知る」「理解する」「日常的に使える」「活動できる」という各段階をどの程度習得したかを確認する。
期末レポートないし試験の評価（60％）
リアクションペーパーの内容も含めた平常点評価（40％）

【学生の意見等からの気づき】
「理念的」「抽象的」と捉えるという先入観を壊し、日常の具体的な事例に即したところから、実際の問題解決に役立てるための発想を養うことに注力したい。

【Outline (in English)】
[Outline]
Human Rights are to solve problems within the real life and in the community. The class shall explore ways to find out how to design 'social problems' adaptable to human rights.
[Learning Objectives]
Obtaining methods to understand themes and mechanisms of human rights problems as "social problems", while getting some thoughts of organising and managing human rights movements.
[Learning activities outside of classroom]
Each students are required to spend three to four hours before and after the class meetings. They are also invited to make questions regarding contents.
[Grading Criteria]
60%are considered for ordinal attendance attitude and performances provided during the class (including response sheets). 40%are counted from term-end essays/reports.

CMF300JB（その他の複合領域 / Complex systems(Others) 300）

コミュニティアート

吉野　裕之

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：SSI生は授業コード「N6162」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多くの事例を通して、アートは単に芸術作品のことではなく、まち＝コミュニティを豊かに耕す日常的な実践であることを理解し、その実践のための方法を学ぶとともに、これからのまちづくりのあり方を考えていく。

【到達目標】
まち＝コミュニティは最も身近な社会であり、私たちの生活の現場であることの意味を理解し、コミュニティアートとは住民がそれぞれの立場でまち＝コミュニティの価値を高めていく行為であるという視点から、こうした実践の分析や評価、企画を行うことができるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業でいうアートとは、いわゆる美術だけでなく、文芸、音楽、演劇など、さらに暮らしに根づいた生活文化をも含めたもの／ことを指し、こうしたアートをまちづくりにおいてどのように活用するかについて学ぶ。前半では「まちづくりとは何か」「アートとは何か」について、後半では「まちづくりにおけるよりよいアートの活用のしかた」について学ぶ。
方法としては、講義形式が中心にはなるが、ワークシートを活用した思考のトレーニングやグループでのディスカッションなども取り入れていく。また、リアクションペーパーなどにおける優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容全般の説明。
第2回	ＮＰＯ・市民主体のまちづくりの意義	ＮＰＯ・市民主体のまちづくりの意味や意義についての説明。（授業の展開によって、若干の変更があり得る。以下同）
第3回	市民主体のまちづくりの事例（１）	ＮＰＯ・市民活動によるまちづくりの事例（学生が主体となった活動の事例）の紹介と解説。
第4回	市民主体のまちづくりの事例（２）	ＮＰＯ・市民活動によるまちづくりの事例（中高齢者が主体となった活動の事例）の紹介と解説。
第5回	生活の現場としてのまちをめぐる考察	実体験に基づくまちをめぐる考察とＮＰＯ・市民主体のまちづくりの意味の考察。
第6回	アートの意味	アートの意味（意味の歴史的変遷や芸術家のことばなど）の説明。
第7回	コミュニティアートの要件と機能	コミュニティアートの要件と機能の説明。
第8回	都市空間・まちなかのアートの変遷	都市空間・まちなかのアート（パブリックアートやコミュニティアートなど）の変遷の説明。
第9回	コミュニティアートの事例（１）	コミュニティアートの事例（基本的な考え方を理解するための事例）の紹介と解説。
第10回	コミュニティアートの事例（２）	コミュニティアートの事例（大都市／拠点型）の紹介と解説。
第11回	コミュニティアートの事例（３）	コミュニティアートの事例（大都市／まちなか展開型）の紹介と解説。
第12回	コミュニティアートの事例（４）	コミュニティアートの事例（地方都市／地域密着型）の紹介と解説。
第13回	コミュニティアートの事例（５）	コミュニティアートの事例（地方都市／地域交流型）の紹介と解説。
第14回	これからのまちづくりとアート	これからのまちづくりとアートの関係のあり方についての解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、必ず授業の復習をすること。また、授業に関連する新聞記事や文献などに関心をもつとともに、日々の生活のさまざまなもの／ことを、授業との関連で捉え直していくように心掛けること。さらには、まちづくりやアートに関わるイベントなどには積極的に参加することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は1回につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。（必要に応じて適宜配布する。）

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパーなど）：30点　期末レポート：70点
平常点におけるリアクションペーパーなどでは、1回〜数回の授業の内容の理解度について確認する。
期末レポートでは、コミュニティアートの意味の理解度やその分析・評価などの習得度について確認する。

【学生の意見等からの気づき】
これまでと同様だが、応用力、思考力がついた、新しい発見があったなどの感想をもつ学生が多い。自分が大きく変化できたということだろう。今年度も引き続きこうした授業を展開していきたい。

【Outline (in English)】
(Course outline)
We will understand that art is a powerful way to revitalize the community, learn methods for practicing it, and think about the way of community design in the future.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students will be able to do the followings:
− Analysis and evaluation of cases about community art
− Planning of community art
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
− Reviewing the class meeting
− Reading literature related to the class meeting
− Participating in events related to community design and art
(Grading Criteria /Policy)
Final grade will be calculated according to the following process.
Short reports : 30%、Term-end report : 70%

CMF300JB（その他の複合領域 / Complex systems(Others) 300）

コミュニティスポーツ

深野　聡

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：**抽選科目。2025年度の授業実施日は、9月11日（木）・12日（金）・17日（水）。**

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人類の長年のパートナーである「馬」について、その歴史やコミュニティスポーツとしての役割を含む今日の多岐にわたる活用事例について実馬を用いた体験活動を組み入れながら実践的に学ぶ。
加えて本学多摩キャンパスが有する「馬」資源を用いて、この地域において目指すべき「人馬のウェルビーイング」の形は何かを共に考え、その実現を目指す。

【到達目標】
・人と馬の歴史、コミュニティスポーツとしての役割を含む国内外の馬の多様な利活用を理解できる。
・馬の性格と特徴を理解できる。
・馬とのふれあいにより、その感触、大きさ、体温などを実感する。
・馬を用いた活動における基礎知識と注意事項を理解し、安全に馬にさわれるようになる。
・高齢者、障がい者を対象とするホースセラピーや教育における馬活用の事例を学ぶ。
・馬のいる場所が人の暮らしと地域にどのように繋がるべきか、人馬のウェルビーイングを検討できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
・フィールドワーク時の安全性確保のため、受講希望者数が制限を超えた場合は事前アンケートでの記載事項に基づく選抜を行います。
・講義にて小レポート（リアクションペーパー）の提出を求め、授業内やHoppii等を活用してフィードバックを行う予定です。
・教室では講義形式が中心、城山地区（馬場）では実馬を用いたフィールドワークを実施します。
・全講義終了後にレポートの提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス：「馬に会う、その前に」	本授業の概要と目的、到達目標を確認し、フィールドワーク実施時の注意事項を理解する。
2	フィールドワーク：「馬と仲良くなろう」Ⅰ	見る、近づく、さわるの実施。活動を通じて馬の身体を観察し、大きさ、体温、性質を理解する。
3	人と馬の関係学①	人と馬の歴史や馬の進化について理解する。
4	人と馬の関係学②	馬の性格や生態、品種や特徴について理解する。
5	人と馬の関係学③	国内外における馬事産業およびスポーツとしての馬術を含む馬事文化の概要を理解する。
6	フィールドワーク：「馬と仲良くなろう」Ⅱ	厩舎における日常の馬の世話を体験し、その内容と各種馬具の使い方等を理解する。
7	フィールドワーク：「馬と仲良くなろう」Ⅲ	ブラッシングを体験し、その際に必要となる注意事項を理解する。
8	人と馬の関係学④	コミュニティスポーツとしての活用を含む馬の多様な利活用の事例を理解する。
9	人と馬の関係学⑤	高齢者や障がい者を対象としたホースセラピーの活動事例を紹介し、その内容について理解する。
10	人と馬の関係学⑥	馬を用いた活動実施時の課題を学び、その解決には何が必要かを考える。
11	フィールドワーク：「馬と仲良くなろう」Ⅳ	馬と一緒に歩く体験をする。馬の表情や動作からその心理の感じ取り方を学ぶ。
12	人馬のウェルビーイングを考える①	競走馬の一生と引退競走馬の活用策について、ホースセラピーでの可能性を含め国内事例を紹介し理解する。
13	人馬のウェルビーイングを考える②	法政大学が考える人馬のウェルビーイングを紹介し、今後の可能性を説明する。
14	総括	本授業を振り返り、受講者相互のディスカッションを通じて、自らが参加できる人馬のウェルビーイングの形は何か考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
提示するテキストを元に準備学習を行うこと。配布資料やノートを復習して小レポート（リアクションペーパー）を作成すること。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『人馬のウェルビーイング』　編者：高見京太・佐野竜平　発行：㈱クリエイツかもがわ　2,200円
『フレンドリーホース』　編集：（公社）全国乗馬倶楽部振興協会　880円
※フレンドリーホースの購入方法ついて、後日学習支援システムを通じて案内します。
※必要に応じて、その他の資料は配布します。

【参考書】
『ホースセラピーサポートブック』　発行元：うまJAM
https://www.umajam.com/pages/35/
『絵でわかる馬の本』 WAVE出版
https://www.wave-publishers.co.jp/books/9784872906677/

【成績評価の方法と基準】
①講義の平常点およびリアクションペーパー：４５％（５点×９回）
②フィールドワークの平常点と取り組み姿勢：４０％（８点×５回）
③最終レポート：１５％（１５点×１回）

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーや講義内における学生の関心事項に応じ、授業計画にて予定以外の馬事関連テーマに関しても学習できるよう柔軟に対応します。

【学生が準備すべき機器他】
フィールドワーク時は帽子と動きやすい服装を着用し、水分補給に必要な飲料を必ず持参してください。
※半ズボン、スカート、サンダル着用は不可です。

【その他の重要事項】
・本科目は、オータムセッション期間内の次の３日間による集中講義です。
①９月１１日（木）、②９月１２日（金）、③９月１７日（水）
・城山地区（馬場）と現代福祉学部棟の２カ所で学習を実施し、移動には青バスを利用予定です。
・初回ガイダンスは、城山地区（馬場）にて実施します。ガイダンス終了後はそのままフィールドワークとなりますので事前連絡に注意してください。
・馬アレルギーまたはその可能性がある学生は、必要な対策を講じた上で授業参加してください。

【Outline (in English)】
Lecture outline.

This lecture treats the horse as a partner of Humans, learning about its history, characteristics and diverse uses. Time will be set aside for interaction with horses to deepen understanding. Consider the wellbeing of people and horses in the region.
Learning objectives
By the end of the course, students will be able to:
-A. Understand the history of people and horses and examples of diverse uses of horses in different regions.
-B.Understand the character and characteristics of horses.
-C.Know the temperature of horses and handle them safely.
-D.Be able to consider the links between horses and local communities.
Learning activities outside the classroom
Students should have completed the prescribed assignments at the end of each lesson.
Grading criteria
The overall class grade will be determined according to the following criteria.
Reports in lectures: 45%(5 points x 9 times)
Fieldwork: 40%(8 points x 5 times)
Final report: 15%(15 points x 1 time)

CUM300JB（文化財科学・博物館学 / Cultural assets study and museology 300）

地域遺産マネジメント論

須田　英一

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の歴史や文化の中から生成されてきた地域遺産（歴史的町並み、歴史的建造物、民俗芸能、史跡など）を活かした地域づくりが、日本各地で取り組まれています。そこには地域住民をはじめNPOなどが担い手として活躍しています。授業では、さまざまな地域遺産に関する基礎的な知識や、地域遺産を活かし、Well-being（健康で幸福なくらし）を地域の中に実現していくための方法について幅広く解説します。近年の文化政策の展開も視野に入れながら、文化財の保存と活用についての知識と、実務に展開可能な適応力を身に着ける講義を展開します。

【到達目標】

さまざま地域遺産に関する基礎的な知識をはじめ、地域遺産の活用と地域のネットワークづくりに向けた能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

地域遺産の多くを占める文化財の保護の歴史をふりかえり、地域遺産のマネジメントに関わる人々の仕事や役割、地域遺産に関わるボランティア活動や地域遺産の活用例を映像や画像などにより紹介します。なお、授業の展開によって、授業テーマに若干の変更があり得ます。講義形式の授業形態です。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法、関連映像
第2回	地域遺産とは、地域遺産マネジメントとは	地域遺産、地域遺産マネジメント
第3回	地域遺産の生成と保護の現状	地域の歴史と地域遺産の生成、文化財の保存・管理と活用
第4回	文化財保護の歴史	明治期の文化財保護、大正期・昭和戦前期の文化財保護
第5回	今日の文化財の保護制度	文化財保護法、文化財保護法の改正と文化財の拡大
第6回	地域遺産保護と専門家(1)	文化財担当専門職員、学芸員の仕事と役割
第7回	地域遺産保護と専門家(2)	文化財保護修理技術者の仕事と役割、さまざまな地域遺産
第8回	世界遺産条約	世界遺産の成り立ちとしくみ
第9回	地域遺産とボランティア活動	博物館ボランティア、文化遺産ボランティア
第10回	地域遺産の再生と活用(1)	地域遺産としての建造物の修復と活用
第11回	地域遺産の再生と活用(2)	地域遺産としての史跡の修景と活用
第12回	地域遺産の再生と活用(3)	地域遺産としての名勝・天然記念物・食文化
第13回	地域遺産の再生と活用（4）	地域遺産としての伝統的建造物群
第14回	まとめ	地域遺産と地域づくりまとめ、課題レポートのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の住む地域にはどのような地域遺産があり、それらは私達の生活とどのような関わりがあるのでしょうか。きっとすごい身近に何かしらの地域遺産があるはずですし、どこかに眠っているかもしれません。見つけてみて下さい。また、博物館や美術館の展覧会にも是非行ってみましょう。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に選定しません。資料を毎授業時に配布します。

【参考書】

馬場憲一『地域文化政策の新視点－文化遺産保護から伝統文化の継承へ－』（雄山閣、3000円）、川村恒明監修・著『文化財政策概論－文化遺産保護の新たな展開に向けて－』（東海大学出版会、3500円）。その他については、必要に応じて講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①成績評価方法

・平常点：毎回リアクションペーパーの提出を求めます。

・試験方法：期末に課題レポート提出。

・評価方法：平常点（リアクションペーパー）40%、課題レポート60％により総合的に評価します。課題レポート提出は単位の修得に不可欠とします。

②評価基準

・平常点：授業態度、学習への意欲、リアクションペーパーの内容によって評価します。

・レポート：課題に適切に答え、現地を訪れるなど積極的に取り組んだものであるかどうかを評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答を積極的に行い、双方向での授業運営を図ります。

【その他の重要事項】

地方自治体での文化財調査・実務経験、大学文化財調査機関での調査・研究経験を活かして、実際の経験にも重きを置きながら授業を展開したいと思います。地方自治体勤務を希望している学生においては、自治体の仕事の進め方などを理解するうえで、参考になると考えます。

【Outline (in English)】

This lecture explain broadly about the basic knowledge on various regional heritage and the way to make use of community heritage and to realize Well-being Society in the area.The goals of this course are to acquire the ability to utilize regional heritage and build regional networks.Students will try to find a community heritage　that is related to our lives in their area.　Students should also visit museums and museum exhibitions.　Your study time will be more than four hours for class. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report,　term-end report（70%）,and in-class contoribution（30％）.

TRS300JB（観光学 / Tourism Studies 300）

地域ツーリズム

野田　岳仁

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：SSI生は授業コード「N6165」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、地域ツーリズムの論理とその仕組みを理解することを通じて、地域社会における持続的な観光のあり方を模索することを目的としている。地域ツーリズムとは、観光の本質にある“大衆性”を相対化し、地域課題の解決や現場に暮らす人びとの幸せ（ウェルビーイング）の実現を目指す新しい観光実践である。それゆえ本講義では、地域ツーリズムの典型として、”水辺空間の観光化”、”伝統文化の観光化”、”生活空間の観光化”の３つのテーマのケースタディを扱う。地域ツーリズムという新しい観光実践を理解するうえで大切なことは、現場に暮らす人びとの立場に立って、問題の本質を理解し、その解決に応えようとする視点を持つことである。従来の大衆的な観光とは異なる特徴を持つからこそ、地域ツーリズムを理解する新しい方法論を構想していく必要があるからである。本講義では、現場の人びとの立場からの持続可能な観光のあり方を探究していく。

【到達目標】
大衆的な観光との差異に注目しながら、地域ツーリズムの基本的な考え方を理解し、地域ツーリズムを捉える視点を養うこと。そのうえで、現場の人びとが抱える課題に対して、本講義の知見を活かして有効性のある政策論を構想する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では”いくら儲かるか”、”いかに集客を伸ばせるのか”といった大衆的な観光のイメージを相対化して、現場の人びとの立場から観光という現象を捉え直していく。DVDなどの視覚資料を積極的に活用する。授業の展開によって若干の変更がありうる。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域ツーリズムとは？	地域づくりの手段としての「観光」論
第2回	地域ツーリズムをとらえる視点	人びとの「生活」を捉える方法から
第3回	大衆的な観光地は本当に稼げるのか？	マスツーリズムの功罪
第4回	観光地化を目指さない美しいむらづくり	競争から共創の観光まちづくり
第5回	地域ツーリズムにおける成功とは？	水辺空間の観光化①
第6回	生活保全としての地域ツーリズム	水辺空間の観光化②
第7回	地域の自治とツーリズム	前半のまとめ
第8回	なぜ地元の人びとは踊りの観光資源化を望まないのか？	伝統文化の観光化
第9回	水を愛でる自然観からみたアクアツーリズム	生活空間の観光化①
第10回	アクアツーリズムの担い手論	生活空間の観光化②
第11回	アクアツーリズムの論理と価値	生活空間の観光化③
第12回	銀座のローカル・ルールとアクアツーリズム	生活空間の観光化④
第13回	地域ツーリズムの理論と実践	観光の大衆性を相対化する新しい観光論の構想
第14回	講義のまとめと試験	本講義の知見と意義の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適宜アナウンスするが、各回の振り返りは不可欠となる。配布資料に記載された参考文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布する。

【参考書】
毎回の配布資料に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
講義内のコメント・リアクションペーパー（10%）、期末試験（90%）の総合評価。到達目標が達成されているかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】
担当教員は地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to help students master the basic concepts of community tourism studies.【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe major methods and theories of community tourism studies, discuss the role of local community policy and apply the treatment of community tourism problems.【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on reaction papers(10%) and term-end examination (90%).

SOW300JB,SOW300JC（社会福祉学 / Social Welfare 300 , 社会福祉学 / Social Welfare 300）

精神保健福祉制度論Ⅰ

三木　良子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。2020年度以前入学者は「N6167 精神保健福祉論Ⅰ」を受講すること。
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1. 精神保健医療福祉に関連する法制度の成立の背景を理解する
2. 精神保健医療福祉に関する法制度やサービスを理解する
3. 法制度や福祉サービスの理解を通して精神保健福祉士としての価値や実践を理解する
4. 精神保健福祉領域における人権について理解を深める

【到達目標】
1. 精神障害者に関する制度・施策を理解している
2. 精神障害者の医療に関する制度について理解している
3. 精神保健医療福祉領域の人権に関する課題について理解している
5. 精神障害者の医療の現場の精神保健福祉士の役割や実践を理解している

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
精神保健福祉に係る歴史や理念を理解し、現行の福祉施策の背景や動向について解説します。また、精神障害者をとりまく保健医療福祉に関する具体的な法律や制度及び現状について解説します。主として講義形式で行います。リアクションペーパーや課題等に対しては、提出後翌授業時に口頭及びコメントを記載したものを返却するなどしてフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	学習目標、学習内容の確認
2	精神障害者と法制度	精神科医療における精神障害者の現状を理解する
3	精神保健福祉法の成立過程とこれまで	精神保健法福祉法成立までの法律の変遷を理解する
4	精神保健福祉法①	精神保健福祉法の全体像を理解する
5	精神保健福祉法②	精神保健福祉法の詳細を理解する①
6	精神保健福祉法③	精神保健福祉法の詳細を理解する②
7	精神保健福祉法④	精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割
8	精神科救急の現状	精神科救急の現状や精神保健福祉士の役割を理解する
9	精神科医療がかかわりを持つ施策	自殺対策、認知症対策、依存症対策等
10	心神喪失者医療観察法①	心神喪失者医療観察法の全体像を理解する
11	心神喪失者医療観察法②	事例を通して当事者理解と精神保健福祉士の役割を理解する
12	障害者の権利条約と周辺法律	障害者の権利条約の成立過程について理解する
13	精神障害者の医療と関連する法律	障害者差別解消法、障害者虐待防止法、地域移行・地域定着と地域包括ケアシステム
14	試験	試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時に説明する本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時に紹介する

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題提出、小テスト等を含む） 50%、定期期末試験 50%
※平常点を満たしていても、試験で60点以下の場合は不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
板書を丁寧に行う

【Outline (in English)】
Course outline
This lecture course is aimed understand lows, policies and any other systems for person with mental health issues and around them.
Learning Objectives
The goals of this course are to understand below 1. 2. 3 and 4.
-1. Policies about psychiatry and social service for person with mental health issues.
-2. Support facilities for person with mental health issues.
-3. Offenders' rehabilitation and act on medical care treatment for person who have caused serious cases under the condition of insanity.
-4 Rights and with mental health issues.
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policy
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination:　50%、Short reports and in class contribution: 50%

SOW300JB,SOW300JC（社会福祉学 / Social Welfare 300 , 社会福祉学 / Social Welfare 300）

精神保健福祉制度論Ⅱ

三木　良子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。2020年度以前入学者は「N6168 精神保健福祉論Ⅱ 」を受講すること。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1.精神障害者の「本人らしい生活」について理解し、個々人に応じた居住支援や就労支援、余暇支援等について理解を深める
2.また、その際の精神福祉士の役割や実践課題などとともに、精神障害者の地域包括支援のための具体的な知識と方法を習得することを目的とする。

【到達目標】
1.生活の実際と生活支援の意義と特徴を理解する
2.居住支援に関する制度・施策について理解する
3.就労支援に関する制度・施策について理解する
4.精神障害者への包括支援システムについて理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
精神障害者の地域生活を支援するために必要な、概念の理解、法律や制度、支援方法について学ぶ。主として講義形式で行います。リアクションペーパーや課題等に対しては、提出後翌授業時に口頭及びコメントを記載したものを返却するなどしてフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	学習目標、内容の確認
2	精神障害者の生活の実際	地域、医療における精神障害者の現状についての基礎知識を理解する
3	精神障害者の生活と権利	地域生活、医療における人権と権利擁護について理解する
4	居住支援①	居住支援制度の概要を理解する
5	居住支援②	居住支援にかかわる専門職とその役割を理解する
6	雇用支援①	雇用・就労の現状を理解する
7	雇用支援②	雇用・就労に関する法律、制度を理解する
8	精神障害者の経済的支援①	所得保障の全体像を理解する
9	精神障害者の経済的支援②	低所得に関する制度を理解する
10	精神障害者の経済的支援③	事例を通した所得保障や制度を理解する
11	地域生活支援①	精神障害者の地域移行・地域定着の事例理解
12	地域生活支援②	精神障害者の就労に関する事例理解
13	地域生活支援③	精神障害者の地域生活支援における精神保健福祉士の役割を理解する
14	試験	試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回授業で取り扱う内容に関連する文献等を指示し、予習を行う。また、授業時にも復習用の文献を提示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時に紹介する

【参考書】
授業時に紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題提出、小テスト等を含む） 50%、定期期末試験 50％
※平常点を満たしていても、試験で60点以下の場合は不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
板書を丁寧に行う

【Outline (in English)】
Course outline
This lecture course is aimed understand lows for working, housing and other support to live well for person with mental health issues.
Learning Objectives
The goals of this course are to understand below 1. 2. 3. 4. and 5
-1.　Actual life of person with mental health issues and importance of support system for them.
-2. Social service of housing.
-3. Social service of employment and working.
-4. support system in community.
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policy
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination:　50%、Short reports and in class contribution: 50%

MED300JB,MED300JC（その他の医歯薬学 / Medicine 300 , その他の医歯薬学 / Medicine 300）

精神保健学

行實　志都子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国民全体のメンタルヘルスを考え精神疾患の予防・治療・リハビリテーションから精神面での健康保持・促進を図るための精神保健とは何かを基礎知識から現代社会の課題などについて理解する。

【到達目標】
1．ライフサイクルに応じたメンタルヘルスの内容や課題を説明することができる。
2．近年に起こる精神保健の課題について理解し、内容を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は，講義形式が中心であるが、視聴覚教材や学生同士の意見交換を実施し，またリアクションペーパーなどを使った質問等にも答える。
　その中で精神保健の基礎的視点や基礎知識を学び、現代における精神保健の意義や課題を考える。さらにライフサイクルでの課題、精神障害者対策、発達障害、うつ病、アルコール、ターミナルケア等を取り上げて検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	精神保健についての基礎知識	精神保健の概要 生活習慣と精神の健康 精神保健の動向 精神保健活動の対象
2	ライフサイクルと精神保健①乳幼児期とその課題	母親の精神保健 乳児期・幼児の精神保健 出産・育児を巡る精神保健について
3	ライフサイクルと精神保健②学童期とその課題と障害	子供にとって「遊び」の意義 発達障害について
4	家族に関する精神保健の課題を支援①	家族関係の課題 子育て支援と暴力、虐待予防
5	ライフサイクルと精神保健③思春期とその課題	思春期におけるアイデンティティの獲得及び混乱 社会的ひきこもりを巡る精神保健の課題 ニート・若年無業者と精神保健の課題
6	ライフサイクルと精神保健④青年期・壮年期とその課題	青年期・壮年期におけるアイデンティティの拡散から統合へ 介護をめぐる精神保健
7	ライフサイクルと精神保健⑥高齢期とその課題	高齢期における3大喪失体験とグリーフケア、ターミナルケア
8	個別課題①高齢期	認知症について 高齢者
9	精神保健の視点からみた学校教育の課題とアプローチ①	不登校 いじめ 子どもの自殺
10	精神保健の視点からみた学校教育の課題とアプローチ②	校内暴力と非行 教員の精神保健 スクールソーシャルワーク
11	個別課題②	精神疾患、うつ病、自殺対策
12	精神保健の視点からみた勤労者の課題をアプローチ	職場におけるメンタルヘルスの制度や復職支援について
13	個別課題③	アルコール依存症、薬物依存症等関連問題
14	精神保健活動での実際と課題	諸外国での精神保健の実情 精神保健福祉士が求められる役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は，各1時間，合計2時間を標準とする。以下の内容の準備・復習を行う
授業準備としては、授業計画及び授業内で次週の授業内容について告知されたものやそのテーマにそって、参考書等や日々のニュースなどを使って予習を行う。また、その時に出た質問については、リアクションペーパーなどを使って質問する。
授業後の復習は、授業内で行ったものについてしっかりと復習、整理をし学期末の期末テストにむけて各自ノートを作成する。また，復習の小テストを実施するので，その小テストを受けること．

【テキスト（教科書）】
授業時にプリントを配布する

【参考書】
最新　精神保健福祉士養成講座　現代の精神保健の課題と支援　中央法規出版

【成績評価の方法と基準】
平常点（10％）レポート（20％），復習の小テスト（20％）期末試験（50％）から授業到達目標に達しているかを判断する

【学生の意見等からの気づき】
学生の興味等を考えながら、わかりやすい授業を心がける。

【Outline (in English)】
(Course outline)
What is mental health?
Understand the challenges of mental health in Japan.
(Learning　Objectives)
At the end of course, students are expected to understanding and explanation mental health challenges on the Lifecycle.
(Learning activities outside of classroom)
Lecture(two-credits)
Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policy)
Term-end examination 50%, Reports 20%, Review quizzes 20% , in-class contribution 10%.

SOW300JB,SOW300JC（社会福祉学 / Social Welfare 300 , 社会福祉学 / Social Welfare 300）

障害者福祉論

眞保　智子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまでの障害者施策の展開と現在の障害者施策、そして今後の施策の動向について学び、「わたしたちみんな」のWell-beingを考えていきたいと思います。

【到達目標】
暮らしの安寧を支援していく対人支援サービス体系の枠組みを理解する。そして「わたしたちみんな」のWell-beingに向け、方策を考えていくために地域の「暮らし」の中で見えてくる障害を捉える「目」と実践に際しての「心」を育むことを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
「障害」と向き合って生活をしている当事者の語りなど、具体的事例を題材としながら社会福祉専門職として現行の制度や課題をどのようにとらえていくのか検討していきます。なお、レポートやリアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 障害者・障害の概念	講義の進め方とグループワークと個人ワークについての説明を行う。
第2回	障害者福祉を支える理念	障害者福祉を支える理念について学ぶ。
第3回	障害者福祉の歴史	障害者福祉の歴史について学ぶ。
第4回	ゲストスピーカーによる講義による障害理解	講義をもとに考察する。
第5回	障害者運動	障害者運動の歴史と意義について学ぶ。
第6回	障害者福祉がかかわる法体系	現在の障害者福祉の法体系について学ぶ。
第7回	障害者自立支援法の成立	障害者自立支援法がどのように誕生したのかということについて学ぶ。
第8回	障害者自立支援法下(総合福祉法）のサービス体系	障害者自立支援法（総合福祉法）の具体的なサービスについて学ぶ。
第9回	ゲストスピーカーによる講義に基づき障害理解	講義をもとにゲストへの質問を検討する。
第10回	障害者の就労	障害者の雇用の状況及び、雇用を促進する法律、制度等について学ぶ。
第11回	障害者の所得保障	障害者の経済状況及び所得保障の在り方について学ぶ。
第12回	障害者福祉の国際動向	国連障害者権利条約の内容について学ぶ。
第13回	障害者福祉の今後	日本国内において、現在進行している障害者制度改革について学ぶ。
第14回	まとめ	講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義中やテキスト中の参考文献のから興味をもったものを精読し、個人ワークの内容を充実させる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義中に紹介します。

【参考書】
講義中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
講義中の課題100％

【学生の意見等からの気づき】
講義・ゲストの講義・レポートなど多彩な取り組みをしております。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆の際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用します。

【その他の重要事項】
精神保健福祉士として、知的障害のある方、発達障害のある方、精神障害のある方に対する就労支援および生活支援の実践を通じての知識および技能についても紹介します。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work for persons with disabilities. And provides lecture on the current problems of persons with disabilities and the progress of policies. Students mainly learn the framework of disability studies and the perspective of welfare. This course discusses the well-being of all people, including people with disabilities and without disabilities. The goal of this course students will be enhancing their necessary knowledge in social work for persons with disabilities. Before/after each course, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (100％) .

SOW300JB,SOW300JC（社会福祉学 / Social Welfare 300 , 社会福祉学 / Social Welfare 300）

子ども家庭福祉論

板倉　香子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。2020年度以前入学者は「N6204 児童福祉論」を受講すること。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、子どもと家族をとりまく社会の現状を知り、子どもの育ちと子育てを支える子ども家庭福祉の理念や制度について体系的に学ぶことを目的とする。

【到達目標】
・現代社会における子どもと家族の問題を社会的背景と歴史的検討を踏まえて考察できる。
・児童福祉制度とサービスについて、ニーズと実践をふまえて理解し説明できる。
・子どもの権利の視点から、子どもの育ちと子育て支援、社会的養護について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
上記の到達目標を達成するために、①現代社会における子どもと子育て家庭をとりまく社会的状況について概説し、②子ども家庭福祉の理念と概念を学習する。③歴史的経緯をふまえて、④子どもの権利を中心に子どもの育ちと子育てをどのように支援するのか、⑤子ども家庭福祉に関わる法制度や福祉サービスの理解を深める。授業全般を通して、子どもが健やかに育つことのできる地域社会のありようについて考察する。
原則として毎回ふりかえりの提出を求め、その内容の共有やフィードバックの機会を設ける。また、授業内で複数回の小レポートを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション　子ども家庭福祉で学ぶこと	授業の進め方／子どもの定義／子どもの育ちと子育て家庭に関わる社会の状況を知る
第2回	現代社会の子どもと家族を取り巻く課題	現代日本の子どもと家族をとりまく社会状況と課題について学ぶ
第3回	子ども福祉の歴史	欧米と日本における児童福祉の歴史と先達の実践について学ぶ
第4回	子どもの権利と児童福祉法	子どもの権利と児童福祉法について学ぶ
第5回	子ども家庭福祉の法体系と実施体制	児童家庭福祉の制度・法体系と実施体制について学ぶ
第6回	生命倫理と母子保健	母子保健と子育て支援の展開／出生前診断について学ぶ
第7回	少子化対策と子育て支援、現代における保育	少子化対策の変遷と子育て支援の現状／多様な保育サービスについて学ぶ
第8回	学齢期の子どもの福祉	学齢期の子どもの育ち／福祉と教育の重なりについて学ぶ
第9回	障害と子ども・家族	障害のある子どもと家族の支援について学ぶ
第10回	子ども虐待とドメスティックバイオレンス	子ども虐待とドメスティックバイオレンスについて学ぶ
第11回	社会的養護	社会的養護について施設養護・家庭養護の法制度や実践を学ぶ
第12回	子ども・家族の貧困	子どもと家族の貧困の現状と支援の実際について学ぶ
第13回	ひとり親家族の福祉	ひとり親家族の現状と関連する法制度やサービスについて学ぶ
第14回	非行少年の背景と支援	非行少年の背景と支援の実際について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修者は、事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。授業内では小レポート課題やふりかえりの提出を求める。事後には配布資料とテキストを元に授業内容を復習し、関心をもったトピックについてニュース等を調べること。
本授業の準備・復習時間は各回４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
垣内国光・岩田美香・板倉香子・新藤こずえ（2022）『子ども家庭福祉―子ども・家族・社会をどうとらえるか』＜第２刷＞生活書院

【参考書】
一般社団法人全国保育士養成協議会監修／宮島清・山縣文治編集（2024）『ひと目でわかる　保育者のための子ども家庭福祉データブック2025』中央法規
ほか、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
ふりかえり（30％）、小レポート（30％）、期末レポート（40％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
資料は、授業当日は紙で配布し、１週間後に学習支援システムからデータ（PDF）を配信する。ふりかえりや小レポート課題、学期末レポート課題の提出は学習支援システムを用いる。

【その他の重要事項】
レポート課題の作成に生成AIを用いる場合は、利用した旨と利用の方法（利用したツールの名称、利用箇所、ツールへの入力とツールからの出力）を明記すること。質問は授業後もしくは学習支援システムにて受け付ける。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to learn about the current state of society surrounding children and families, and to systematically learn the principles and systems of child and family welfare that support the upbringing and child rearing of children.
Approximately 4 hours will be spent before and after class to deepen understanding of the course content. Grading will be determined by in-class report (30%), final report (40%), and reflection (30%).

SOW300JB,SOW300JC（社会福祉学 / Social Welfare 300 , 社会福祉学 / Social Welfare 300）

若者支援論

眞保　智子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
かつて先進国の中で優等生と称されていた日本の若者自立モデルはグローバル化の中で溶解し、自立の困難を抱える若者への包括的な支援政策が求められている。こうした現状において社会はどのような対応をするればよいのか、ともに考えていきます。

【到達目標】
自立の危機にある若者の背景にある事情は多様であり、中には障害が関係する場合もあると指摘もされています。安易に自己責任論に同調することなく、自己責任の問題と社会構造の問題とを見極め、自らの考えを表明できるようになることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
若者の自立の問題について、歴史的な経緯や国際比較、性別・学歴・就業形態・障害・貧困の再生産等背景にある問題を取り上げ理解を深められるように進めていきます。また、ゲストスピーカーによる当事者や支援者の現場の声に触れる機会を用意する予定です。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の進め方について説明する。
第2回	若者の自立の困難さ	何が問題なのか
第3回	若者の自立の諸問題―海外との比較	日本の現状と他の先進諸国の諸問題
第4回	若年女性の自立の危機	女性ならではの困難さ
第5回	就職活動と大学教育	教育と労働市場の相互関係
第6回	雇用形態のちがいによる自立の危機	非正規化の拡大がもたらす困難さ
第7回	発達障害のある若者の困難さ	困難さの理解と支援
第8回	若者の社会からの孤立	困難さの理解と支援
第9回	ひきこもる若者	困難さの理解と支援
第10回	精神疾患の好発期	課題と支援
第11回	障害のある若者	困難さの理解と支援
第12回	障害者雇用の現状と課題	障害のある若者の就労
第13回	ゲストスピーカー講演（就労・生活支援者）	仕事を通じてのリハビリテーション
第14回	まとめ	講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　ゲストスピーカーの講演後の講義でレポートを作成する際には、単なる感想ではなく、関連する文献を読み考察するレポートを望みます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義中に適宜プリント配布や紹介します。

【参考書】
講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
講義内で提示する課題についての数回のレポート作成：100％（出席、提出だけでは評価できません。講義内容の理解度と自らの考えを根拠（参考文献の引用）をもとに展開していることを評価のポイントとします）

【学生の意見等からの気づき】
評価の方法についてアンケートでのご意見に基づき、変更しています。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆の際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用します。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course deals with the basic concepts and principles of social work for youth. And provides a lecture on current issues and progress of policy for youth.
【Learning Objectives】
Students will mainly learn the framework for social work for youth. The goal of this course students will be enhancing their necessary knowledge in social work for youth.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each course, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on reports (100％).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

権利擁護と成年後見

西田　ちゆき

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、権利擁護の立場から、成年後見制度を学びます。
具体的には、
（1）民法や行政法等、成年後見制度に関連する法律とその実際を解説します。
（2）成年後見制度を補完する社会福祉の事業やサービスに関する学習します。
（3）実践事例の解説と検討します。
（4）ソーシャルワークにおける権利擁護の視点と価値・倫理の再検討します。

【到達目標】
・権利擁護の概念と関連する法律・制度の概要を理解する。
・成年後見制度の関連法、法定後見・任意後見制度の内容、手続き方法、制度上の問題や課題、実践上の課題を理解し、事例を説明、考察できるようになる。
・事例検討において、意思決定支援をはじめとする、権利擁護の多様なアプローチを提案できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には対面授業とし、個別の事情には配慮します。課題に対しては、授業内やHoppii等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	権利擁護と意思決定支援	権利擁護と意思決定支援おん意義と実際の対応について学びます。
第2回	民法についての理解1	親族法・相続法について、基本的な考え方を学びます。
第3回	民法についての理解2	財産法について基本的な考え方を学びます。
第4回	行政法についての理解	行政法について基本的な知識を学びます。
第5回	成年後見制度の概要と法定後見制度	成年後見制度の全体像と法定後見制度について学びます。
第6回	任意後見制度	任意後見制度について学びます。
第7回	福祉サービス利用支援事業の概要と課題	社会福祉協議会が実施している権利擁護サービスについて学びます。
第8回	児童虐待と未成年後見制度	児童虐待防止法と未成年後見制度について、事例を通して学びます。
第9回	高齢者虐待防止法と虐待への対応	高齢者虐待防止法の要点と、高齢者虐待の事例を通し、権利擁護について学びます。
第10回	障害者虐待防止法と虐待への対応	障害者虐待防止法の要点と、障害者虐待の事例を通し、権利擁護について学びます。
第11回	消費者被害への対応	消費者被害とそれに対応する法律、実際の対応について学びます。
第12回	制度の間にある人々への権利擁護	既存の福祉サービスでは十分に対応できないニーズを持つ場合の支援について検討します。
第13回	権利擁護を担う人材	権利擁護を担う人材とその育成について学びます。
第14回	総括	13回の授業の振り返りを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の指示されてきた箇所については事前に予習しきてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟『権利擁護を支える法制度』中央法規、2021年

【参考書】
公益社団法人日本社会福祉士会編『社会福祉士のための成年後見入門』民事法研究会　2019年
永田祐・堀善昭・生田一郎・松宮良典『よくわかる権利擁護と成年後見制度』初版　ミネルヴァ書房　2016年
成年後見センターリーガルサポート編『後見六法』民事法研究会　2022年
その他授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
定期試験（60％）と平常点（40％）の総合評価とします。

【学生の意見等からの気づき】
一方的な講義だけではなく、事例検討などを通して皆さんが主体的に権利擁護について考えられるような内容にしていきます。また、国家試験で出題されている法律の要点についてできるだけわかりやすく解説できるよう準備します。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを活用し、事前課題や授業時使用の資料をアップしていきます。メールで事前通知は致しますが、授業前には必ず学習支援システムをご確認ください。

【Outline (in English)】
In this lecture, we will learn the adult guardianship system from the standpoint of advocacy of human rights.
Specifically, we will
(1) Explanation of civil and administrative laws related to adult guardianship system.
(2) Learning about social welfare projects and services complementing the adult guardianship system.
(3) Explanation and examination of practical cases.
(4) Review the perspectives, values, and ethics of rights protection in social work.
Learning Objectives are follows.
· Understand the concept of rights protection and the outline of related laws and systems.
· Understand the relevant laws of the adult guardianship system, contents of the legal guardianship and voluntary guardianship systems, procedural methods, problems and issues in the systems, and issues in practice, and be able to explain and discuss case studies.
· To be able to confirm the perspective of rights protection in case studies.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria will be based on the final exam (60%) and the normal score (40%).

SOW300JB,SOW300JC（社会福祉学 / Social Welfare 300 , 社会福祉学 / Social Welfare 300）

セルフヘルプグループ

横川　剛毅

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人が生活するうえで、さまざまな困難や生きづらさがあります。同じような生きづらさをもつ人たちの集まりがセルフヘルプグループ（SHG=自助グループ）です。その意義を理解することがこの科目の目的です。

【到達目標】
次の2点を目標とします。
①さまざまな困難や生きづらさを理解することによって、支え合いについての考えを他者に伝えることができる。
②SHGの役割と意義を言語化できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
この科目は学生同士が協働しながら学びます。講義形式と併せて、視聴覚教材・ゲストスピーカーの声や姿をもとに、毎回、小グループでのディスカッションを取り入れます。そのため受講者には、相応の主体性と協調性を求め評価にあたってはそれらを平常点として重視します。併せて、基本的に「休まない」「遅刻しない」心構えを求めます。課題のフィードバックについては、①前週の授業のリアクションペーパーを授業冒頭に匿名で全体に対して紹介して共有を図ります。②発表に関しては、教員が評価コメントを授業内で伝えます。なお、履修者数、授業の進度などを考慮し、下記の授業計画を若干変更することがあり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション　SHGとは何か	この授業の全体像を把握する。またSHGの定義を学ぶ
第2回	知的障がいのある人の地域生活	障がいを隠さない生き方について学ぶ
第3回	摂食障がいの困難	摂食障がいについて学ぶ
第4回	摂食障がいの SHG	摂食障がいのSHGについて学ぶ
第5回	パニック障がいの理解とSHG	パニック障がいのある当事者の手記から学ぶ
第6回	精神障がいの理解	精神障がいを理解しSHGについて学ぶ
第7回	ゲストスピーカーから学ぶ①	精神障がいのある親をもつ子どものSHGから、実践を学ぶ
第8回	依存症とは　ゲーム依存	多様な依存症を知り、特にゲーム依存について学ぶ
第9回	アルコール依存症の困難	アルコール依存症について学ぶ
第10回	ゲストスピーカーから学ぶ②	ゲストスピーカーの語りから依存症と回復について考える
第11回	アルコール依存症者の SHG	アルコール依存症者のSHGについて学ぶ
第12回	学びの振り返りと、発表テーマ設定、及び発表準備	発表テーマを設定し、プレゼンテーション資料を作成する
第13回	学びの成果の共有①	一人ひとりが履修者全体に、学びの成果をプレゼンテーションする
第14回	学びの成果の共有②	一人ひとりが履修者全体に、学びの成果をプレゼンテーションする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループ内でのシェアや、全体への発表・レポート作成に向け、授業内容だけでなく、自分自身が関心のあるSHGについて調べたり情報収集したりして学びを深めましょう。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。基本的に毎回プリントを配布します。

【参考書】
「セルフヘルプ・グループ　―当事者へのまなざし―」（久保紘章 著）相川書房　2004他、授業内で適宜伝えます。

【成績評価の方法と基準】
ディスカッション参画度合いなどの平常点（20％）、
リアクション（30％）、レポート課題（50％）。

【学生の意見等からの気づき】
一昨年度の授業改善アンケートや、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通した学びの意義が見出されました。そのため、この科目の本質である「語り合いと共有」を大切にしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
授業配布プリント収納用にクリアファイル（A4サイズ・20シート以上）を準備しておく。

【Outline (in English)】
【Course outline】
When a person lives, there are various difficulty and difficulty in living.　People's gathering with difficulty in living equally is a self-helping group (SHG).It's the purpose of this classroom to understand the significance of SHG.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to about following two.
① By understanding various difficulty and difficulty in living, it's possible to tell ideas about mutual support.
②Can be put into words about The role and the significance of SHG.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policies】
The posture overlooked in this class meeting:20%、Reaction paper:30%、Report:50％

SOW300JB,SOW300JC（社会福祉学 / Social Welfare 300 , 社会福祉学 / Social Welfare 300）

スクールソーシャルワーク

宮地　さつき

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スクールソーシャルワークの実際について、現場である学校と社会状況、また児童生徒と家族の理解も含めて検討していく。

【到達目標】
・スクールソーシャルワーカー導入の背景として、学校現場と子どもと家族の現状を理解する。
・海外の動向も含めた、スクールソーシャルワーカーの歴史と発展過程を理解する。
・スクールソーシャルワークの視点と実践モデルを理解し、それが実際にどのように活用されているのかを考察する。
・学校現場におけるスクールソーシャルワーカーの展開と、今後の可能性について考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・上記の目標を達成するために、①社会的な背景とともに様々な状況にある子どもと家族、および教育と学校の現状を理解する。②スクールソーシャルワーカーとは何かを諸外国の歴史的発展過程も含めて理解し、実践での独自性について考察する。③学校現場でのスクールソーシャルワーク実践について、事例の検討も含めながら考察を深めていく。
・講義形式を中心とするが、視聴覚教材の活用やゲストスピーカーからの学びも得る。授業では必要に応じて、ディスカッションや課題、リアクションペーパーの提出を求める。
・ゲストスピーカーの日程等により、授業計画が前後することがあり得る。
・リアクションペーパーは、次回以降の授業の中で、名前等を伏せて紹介していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション／子どもと家族の理解１	教育と福祉について、貧困と不平等、社会問題と家族
第2回	子どもと家族の理解２	現代の子育てと子育ち、多様化する家族
第3回	学校・教育の現状１	教育費、学校現場と教育の現状
第4回	学校・教育の現状２	学校現場に福祉援助が入るということ
第5回	スクールソーシャルワーカーの歴史と展開	日本および海外における動向
第6回	スクールソーシャルワークの価値と倫理	ソーシャルワークの価値と倫理、子どもの権利条約
第7回	スクールソーシャルワークの視点と実践モデル	スクールソーシャルワークで用いられる視点とモデルの検討
第8回	スクールソーシャルワーク実践１	不登校、いじめ、校内暴力と支援
第9回	スクールソーシャルワーク実践２	子どもの虐待、多国籍の子どもと親支援
第10回	スクールソーシャルワーク実践３	発達の課題と特別支援
第11回	スクールソーシャルワーク実践４	非行問題と多様な課題をもつ生徒への支援
第12回	ゲストスピーカー	現職のスクールソーシャルワーカーによる講義
第13回	多職種連携の現状と課題	学校内外の社会資源、地域での連携の実際、チーム学校、スーパービジョンの必要性と実際
第14回	スクールソーシャルワークのこれから	スクールソーシャルワークの限界と今後の展開

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業の復習を行い、期末試験に備えること。
・本授業の準備・復習時間は各回４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義内で資料を配布する。

【参考書】
・山野則子・野田正人・半場利美佳編（2016）『よくわかるスクールソーシャルワーク（第２版）』ミネルヴァ書房
・鈴木庸裕編（2018）『学校福祉とは何か』ミネルヴァ書房
・大塚美和子・西野緑・峯本耕治（2020）『「チーム学校」を実現するスクールソーシャルワーク』明石書店
他の参考文献は、講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー（30％）、講義内課題（20％）、定期試験（50％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
This course will examine major issues in schools. We will consider the main problems of school, families, and society. This course will also examine how social work can intervene to address these problems. Students will be enhancing their necessary knowledge and skills in school social work.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (20%), term-end examination (50%), and in-class contribution (30%).

SOW300JB,SOW300JC（社会福祉学 / Social Welfare 300 , 社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅱ

西田　ちゆき

配当年次／単位数：3～4年次／2単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。2018～2020年度入学者は「N6210 ソーシャルワークⅡ」を受講すること。
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワーカーが支援の対象とする問題やニーズの状況を理解するための知識と、具体的な介入のための知識から構成される、ソーシャルワークのための理論について理解する。

【到達目標】
・ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために必要な基本的な知識と技術について説明できる。
・中でも、人と環境の交互作用について説明できる。
・また、それぞれのソーシャルワークの実践モデルとアプローチについて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、講義とともに、事例検討を中心としたグループワークを行う。また、授業ごとのリアクションペーパーをもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	人と環境との交互作用	システム理論 生態学理論 バイオ・サイコ・ソーシャルモデル ミクロ・メゾ・マクロレベルのソーシャルワーク
第3回	実践モデルアプローチ①	治療モデル・ストレングスモデル・生活モデル 心理社会的アプローチ
第4回	アプローチ②	機能的アプローチ 問題解決アプローチ 課題中心アプローチ
第5回	アプローチ③	行動変容アプローチ 認知アプローチ
第6回	アプローチ④	危機介入アプローチ エンパワメントアプローチ
第7回	アプローチ⑤	ナラティブアプローチ 解決志向アプローチ さまざまなアプローチ
第8回	コミュニティワーク	コミュニティワークの意義と展開 地域アセスメント
第9回	ネットワーク	ネットワーキング コーディネーション
第10回	カンファレンス	会議の種類 プレゼンテーション ファシリテーション
第11回	社会資源	社会資源の理解 社会資源の活用・調整・開発
第12回	ソーシャルアクション	ソーシャルアクションの意義と目的 ネゴシエーショ
第13回	ジェネラリストソーシャルワーク実践の実際	ミクロ・メゾ・マクロシステムの連鎖的変化を実現する実践
第14回	総括	これまでに学んだソーシャルワーク実践理論とアプローチの復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に該当するテキストを読んで予習をしておいてください。また、参考書や配布資料を活用して、予習および復習をすることで、理解を深めてもらえればと思います。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法 (共通科目)』中央法規

【参考書】
①一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新 社会福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法 (社会専門)』中央法規
②空閑浩人・白澤正和・和気純子編著（2022）『新・MINERVA社会福祉士養成テキストブック６ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ』ミネルヴァ書房
③髙良麻子・佐々木千里編著（2022）『ジェネラリスト ・ソーシャルワークを実践するために』かもがわ出版
④川村隆彦（2011）『ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ』中央法規
⑤久保紘章・副田あけみ編著（2006）『ソーシャルワークの実践モデル– 心理社会的アプローチからナラティブまで– 』川島書店

【成績評価の方法と基準】
・平常点60%
・期末試験 40%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
This course provides students with opportunities to develop knowledge of theoretical perspective for social work practice. At the end of the course, students are expected to explain basic knowledge and skills concerning jeneralist social work practice. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end exam (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

多文化ソーシャルワーク

伊藤　正子

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多文化社会を形成する要因とその問題について「資本と労働の国際移動」と「外国人労働者問題」から検討し、外国にルーツを持つ人々の生活問題とその福祉援助について考える。

【到達目標】
グローバリゼーションの視点から、現代社会の特質と人種・民族、文化の差異が関わって発生する偏見・差別と生活問題について理解する。
多文化ソーシャルワークの視点、思想・価値、原則・方法について理解する。
多文化ソーシャルワークの実際について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
まず、仮想現実の中で問題解決のあり方を探る集団討議を行い、多文化理解や多文化社会実現の方法と課題について検討する。次に、現実に存在する人種・民族差別についてその具体例、人々に及ぼす影響をアメリカ、日本の場合を中心に検討する。その上で、多文化ソーシャルワークについて、その起源・発展、理論的基盤、思想・価値、原則・方法について説明し、実際の展開例の演習を行う。対面式での開講となり、出席を重視する。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標、評価方法の確認、文化固有の習慣・価値とコミュニケーション・ギャップの理解
第2回	多文化社会における諸問題①	異文化間コミュニケーションの相違と相互理解 エスニシティとインターセクショナリティ
第3回	多文化社会における諸問題②	勤労に対する価値観の相違と社会問題
第4回	多文化社会における諸問題③	言語・教育における価値観の相違と社会問題
第5回	多文化社会における諸問題④	居住の集住化と分離と社会保障問題
第6回	多文化社会における諸問題⑤	共有財産と共生の条件
第7回	制度的人種差別①	前半の振り返りとアメリカにおける人種差別
第8回	制度的人種差別②	日本における外国人差別・排斥
第9回	多文化ソーシャルワーク理論	歴史的変遷、理論とその特徴
第10回	多文化ソーシャルワークの実際①	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるアプローチ
第11回	多文化ソーシャルワークの実際②	やさしい日本語①書きことば
第12回	多文化ソーシャルワークの実際③	やさしい日本語②話しことば
第13回	多文化ソーシャルワークの実際④	やさしい日本語③演習
第14回	試験・まとめと解説	学習した内容の発表と相互評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に紹介した文献・資料の他、新聞、テレビ、地域活動などからも関連した問題・動向に関心をもち、理解を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、毎回プリントを配布する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への能動的参加・発言（60％）
最終試験（40％）

【学生の意見等からの気づき】
集団討議を積み重ねていくことでディスカッションに慣れていき、講義より積極的に参加できるとの意見に基づき、主体的な検討、討議ができる主題をさらに工夫していきたい。

【その他の重要事項】
外国人支援ＮＧＯでのソーシャルワーカー経験を持つ教員が、多文化社会において発生する諸問題やその支援のあり方について、様々な事例を交えて解説する。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course introduces the complexity of issues on multicultural society from the perspective of the historical, global economy and international migration.
【Learning Objectives】At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Ethnic Sensitive Social Work, discuss the role of social worker and apply in the treatment of difference, oppression and social justice.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following
Class attendance and attitude in class: 60%、 Term-end examination: 40%

SOW300JB,SOW300JC（社会福祉学 / Social Welfare 300 , 社会福祉学 / Social Welfare 300）

死生観とソーシャルワーク

安西　美咲

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常の生活では意識しにくくなっている「死」について考えることにより、改めて「生きる」ことを見つめ、ソーシャルワークにおける援助観の形成を目指すものである。授業内では、「死」を取り扱うことへの概念的な理解から、映像・グループワークを通して、死にゆく人への寄り添い方や専門的な実務に至るまでを学習していく。

【到達目標】
受講者ひとりひとりが自己の生き方や価値観を見つめ、死生観を育むことを目指す。また、社会福祉や近接領域の死の位相について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を主体とするが、参加型の授業を目指すため、DVD視聴、グループディスカッションや演習を実施します。また、リアクションペーパー、小レポートを課すので、必ず提出してください。フィードバックの方法として、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、死生観を育む必要性についての解説
第2回	ホスピスの誕生	ホスピスの誕生、三徴候死、脳死
第3回	病む人が抱える痛み	病む人が抱える痛みについて考える
第4回	残された人生	あなたにとって大切なこと・ものを考える
第5回	グリーフ・ケア、ビリーブメントケア	悲嘆へのケアについて考える
第6回	尊厳死・安楽死	現代の死の様相について考える
第7回	愛する人を失うということ①	大切な人を失う感覚について考える
第8回	愛する人を失うということ②	悲嘆感情の表出について考える
第9回	ソーシャルワーカーとして何ができるか①	社会福祉援助対象者の喪失について考える
第10回	ソーシャルワーカーとして何ができるか②	対象者の悲嘆感情への支援について考える
第11回	癒しとは何か①	人の癒しについて考える
第12回	癒しとは何か②	心地よさについて考える
第13回	死への準備に必要なこと	人として死を迎えることについて考える
第14回	総括	これまでの学習をふまえたまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義を受講するにあたり、ソーシャルワーク実践の概要について以下の参考文献を読み進めておくことをおすすめする。
社会福祉士養成講座編集委員会編（2015）『相談援助の基盤と専門職』、『相談援助の理論と方法Ⅰ』、『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規
本授業の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。授業内では資料やレジュメを配布する。

【参考書】
適宜必要な文献を紹介する

【成績評価の方法と基準】
小レポート及びリアクションペーパーの内容30%、ディスカッション・ディベートへの参加度20%、学期末レポート50%

【学生の意見等からの気づき】
「生きること」「死ぬこと」について学生同士で意見交換することについて、好評だったので、今年度も意識しながら実施していく。

【その他の重要事項】
社会福祉士として社会福祉協議会や東日本大震災被災地の行政に勤務した経験をもとに、ソーシャルワーカーが関わる「生と死」について具体的な話を盛り込みながら、授業を展開する。

【Outline (in English)】
【Course outline】 The aim of this course is to help students acquire an understanding of the view of life with death in social work.
【Learning Objectives】 The goal is to understand the view of life and death as a profession.
【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (50%), and in-class contribution(20%).

SOW300JB,SOW300JC（社会福祉学 / Social Welfare 300 , 社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅲ

山口　創生

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。2020年度以前入学者は「N6214 精神保健ソーシャルワークⅡ」を受講すること。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は主に精神保健ソーシャルワークに関する内容となります。例えば、我が国の精神障害者にかかわる統計データやソーシャルワークに関係する支援技法、多職種連携を含む効果的なプログラムやスティグマの問題について取り上げます。本講義の目的および意義は、受講者が1) 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験に向けた知識・情報を得ること、2)（精神）障害者の生活実態に関する統計データや現在のサービス内容・制度、ソーシャルワーカーに関連する効果的な支援を鑑みて、（精神）障害者の地域生活の改善に寄与するソーシャルワークの在り方やサービスの開発・普及について包括的な考察を行う機会を得ることです。

【到達目標】
1. 精神障害者を取り巻く環境について把握できる
2. ソーシャルワークや連携の過程を把握できる
3. 効果的な実践と実装に関するソーシャルワーカーの役割について考える機会を得る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業では、講義とグループでの議論を通して授業を進めます。課題（レポート等）に対するフィードバックは要望に応じて個別に実施いたしますので、いつでもご連絡ください。講義は原則対面で実施いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションと精神障害者統計	講義の内容や成績評価の説明と精神障害に関連する統計の説明
第2回	精神障害スティグマ	スティグマの実態や是背の説明
第3回	精神障害とリカバリー	リカバリー・当事者中心の説明
第4回	ソーシャルワークの過程	ｴﾋﾞﾃﾞﾝｽ時代のｿｰｼｬﾙﾜｰｸの視点、内容、過程の説明
第5回	ソーシャルワークと連携	多職種・機関連携の説明
第6回	ケアマネジメント総論	地域支援としてのケアマネジメントの概要の説明
第7回	効果的ケアマネジメント1	ACTの説明
第8回	効果的ケアマネジメント2	ストレングスモデルの説明
第9回	就労支援の現状	現在の障害者就労支援の説明
第10回	効果的な就労支援	ソーシャルワークにも通じる就労支援、援助付き雇用の説明
第11回	精神疾患と家族	家族支援の説明
第12回	ピアサポート	セルフヘルプ・ピアサポートの説明
第13回	当事者との共同	当事者との共同した実践・研究・政策の説明
第14回	レポート提出	レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生が事前に必ず学習すべきことなどは定めません。講義内容の理解を深めたい方にとっての準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。スライドを使用した講義となります。

【参考書】
1) ソーニクロフト・グラハム, タンセラ・ミケーレ, 訳：岡崎祐士, 笠井清登, 福田正人 (2012) 精神保健サービス実践ガイド. 日本評論社, 東京.

【成績評価の方法と基準】
1. 評価方法
レポート：90%、平常点（講義内の発言など）：10%。レポートは、「リカバリー」「精神障害者に対するスティグマ」「Assertive community treatment」「ストレングス・モデル」「Individual placement and support /援助付き雇用」「家族支援」「ピアサポート」のいずれかのテーマを選び、定められた様式で記載する。
2. 評価基準
S：講義内の積極的な発言、レポートが規定した様式で書かれており、自身の考えや講義で学んだ内容、過去のデータが織り交ぜられている
A：上記に次ぐ
B：考察は十分ではないが、規定した様式で書かれている
C：規定した様式で書かれていない/考察が著しく不十分
D：レポートの書き方、内容が不十分

【学生の意見等からの気づき】
受講者同士が議論する機会を多く設けています。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
講義の進捗状況によって、当事者との共同（第14回）は省略する可能性があります。

【Outline (in English)】
1. Course outline
This lecture is mainly on mental health social work and introduces statistical data for people with mental illness in Japan, social work skills, effective community programs including social work and mental health-related stigma. The aims of the lecture are that students gain the relevant information for national examination for the license of mental health social worker, and that students discuss social work and the development and the dissemination of effective community mental health services through learning the relevant statistical data, mental health policies, mental health services and effects of services
2. Learning Objectives
1) Understanding the Statistics of the environment surrounding people with mental illness
2) Gaining an opportunity to consider about effective practices for people with mental illness
3) Gaining an opportunity to consider about social workers' roles for implementation of effective practices
3. Learning activities outside of classroom
Preparation for each lecture is not necessarily required. For those who wish to deepen their understanding of the lecture content, the standard time for preparation and review for this lecture is one hour each.
4. Grading Criteria /Policy
1) Evaluation method
Reports: 90%, Comments and discussion in the lecture: 10% . The report should be written for one of the following topics: "Recovery", "Mental health-related stigma", "Assertive community treatment" "Strengths model", "Individual placement and support or Supported employment", "Family support", or "Peer support". Reports should be written based on this lecture's rules.
2) Evaluation criteria

S: Reports with a writing style based on the lecture's rules, and the texts incorporate own ideas, the lecture contents and data from previous research.
A: Next to the above
B: Reports with a writing style based on the lecture's rules, but discussion is inadequate
C：Reports with a writing style not based on the lecture's rules, or reports with very inadequate discussion
D：Reports with inadequate writing style and contents

HSS300JB,HSS300JC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300 , 健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

精神障害リハビリテーション論

行實　志都子

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。2020年度以前入学者は「N6215 精神科リハビリテーション学」を受講すること。
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1. 精神科リハビリテーションの概要・プロセス・スキルを理解する。
2. 精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割を理解する。

【到達目標】
精神科リハビリテーションの目的を理解し、精神保健福祉士が精神科リハビリテーションを行う役割・理念を理解し技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は，講義が中心であるが、視聴覚教材や学生同士の意見交換、演習、リアクションペーパーを使った質問など学生が理解しやすいように授業を進める。
その中で、ストレス社会といわれる日本では、300万人以上いるといわれる精神障害者のリハビリテーションについて理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則①	リハビリテーションの定義・精神科リハビリテーションとは何か 医学的・職業的・教育的・社会的リハビリテーションについて
2	精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則②	精神障害リハビリテーションの原則とリカバリーの概念を基盤としたリハビリテーションの定義
3	精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則③ 精神障害リハビリテーションの構成及び展開①	精神障害リハビリテーションとソーシャルワークの関係 精神障害リハビリテーションの対象
4	精神障害リハビリテーションの構成及び展開②	チームアプローチ 精神霜害リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割
5	精神障害リハビリテーションの構成及び展開③	精神障害リハビリテーションのプロセス
6	精神障害者リハビリテーションプログラムの内容と実施機関①	医学的リハビリテーションプログラム① （集団療法・行動療法・作業療法・健康自己管理プログラム）
7	精神障害者リハビリテーションプログラムの内容と実施機関②	医学的リハビリテーションプログラム② アディクション治療とリハビリテーション
8	精神障害者リハビリテーションプログラムの内容と実施機関③	職業的リハビリテーション① 職業的リハビリテーションの定義 就労準備プログラム・援助付き雇用プログラム
9	精神障害者リハビリテーションプログラムの内容と実施機関④	職業的リハビリテーションプログラム② IPSモデル・復職支援プログラム・職業定着プログラム
10	精神障害者リハビリテーションプログラムの内容と実施機関⑤	社会的リハビリテーションプログラム① 社会生活スキルトレーニング（SST）・当事者研究・心理教育プログラム
11	精神障害者リハビリテーションプログラムの内容と実施機関⑥	社会的リハビリテーションプログラム② WRAP・生活訓練プログラム・地域移行プログラム
12	精神障害者リハビリテーションプログラムの内容と実施機関⑦	教育的リハビリテーション
13	精神障害者リハビリテーションプログラムの内容と実施機関⑧	家族支援プログラム セルフヘルプグループ ピアサポート
14	精神障害リハビリテーションの動向と実際	マインドフルネス・オープンダイアローグ・リカバリーカレッジ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、それぞれ1時間，合計2時間を標準とする。
【それぞれのポイント】
学生は、授業準備にあたり、授業計画及び授業時間内で伝えらられた次回のポイントについて参考書等を使い、授業の準備を行う。その時に生じた疑問点などについては、授業時のリアクションペーパーなどを使って質問をする。
授業後の復習については、授業でやったところを復習するだけでなく、自分で整理し学期末の期末試験のためのまとめを行う。また，復習のための小テストを実施するので，その小テストを受けること．
精神障害者については、日ごろから接する機会がない場合などは、ボランティア活動に行くことやニュースなどで精神障害者に関する項目について目を通しておくことも必要である。

【テキスト（教科書）】
授業時にプリントを配布する

【参考書】
新・精神障害リハビリテーション論　弘文堂

【成績評価の方法と基準】
平常点（10％）レポート（20％），復習小テスト(20％)，期末試験(50％）から授業到達目標に達しているかを判断する

【学生の意見等からの気づき】
精神障害者の人は、どんな生活のしづらさがあるかなどイメージをもってもらいながら、理解できるように授業を展開していきたいと思います。

【Outline (in English)】
(Courese　Outline)
Understand the outline,process,skills of psychiatric rehabilitation performed by psychiatric social wokers.
(Learning　Objestive)
At the end of course, students are expected to understanding and using rehabilitation skills with psychiatric disabilities.
(Learning activities outside of classroom)
Lecture(two-credits)
Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policy)
Term-end examination 50%, Reports 20%, Review quizzes 20% , in-class contribution 10%.

CIM300JB,CIM200JC（内科系臨床医学 / Clinical internal medicine 300 , 内科系臨床医学 / Clinical internal medicine 200）

精神疾患とその治療

関谷　秀子

配当年次／単位数：**福コミ：2〜4心理：1〜4年次／2単位**
備考（履修条件等）：**福祉コミュニティ学科と臨床心理学科とで配当年次が異なるため、注意すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間の精神的側面を対象とする精神医学は我々にとって身近な学問である。福祉や臨床心理のみならず幅広い分野で必要な精神医学の正しい知識を習得し応用すべく精神医学的見地を身につける。

【到達目標】
精神科医療の歴史と現状を理解する。
精神疾患を症候学的分類に基づいて体系的に理解する。
代表的な精神疾患の成因・症状・経過・診断法・治療法・本人や家族への支援に関する基本的知識を習得する。
精神医療・福祉との連携の重要性と心理専門職・精神保健福祉士が担うべき役割について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
主にＰＣプロジェクターを用いた講義形式で行い、適宜レジメを配布する。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション／精神医学序論①	授業の進め方と成績評価基準についての説明。「西洋の精神医療の歴史」
第2回	精神医学序論②	「日本の精神医療の歴史」「精神科治療における人権擁護について」「精神科医療機関の治療構造及び専門病棟」
第3回	精神医学序論③	「精神医学の概念」「精神医学における正常・異常と健康・病的状態の問題」「精神障害の成因と分類」
第4回	診断学①	「身体的検査と心理検査」「診断の手順と方法」
第5回	診断学②	「定式化の実際」
第6回	症状学	「精神症状と状態像」
第7回	精神障害①	「統合失調症」
第8回	精神障害②	「うつ病」
第9回	精神障害③	「双極性障害」
第10回	精神障害④	「神経症概念の歴史」「神経症性障害」
第11回	精神障害⑤	「神経症の精神療法」
第12回	精神障害⑥	「パーソナリティー障害」
第13回	精神障害⑦	「器質性精神障害」
第14回	期末試験	期末試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容について事前に予習をする。授業中に配布した資料の復習をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する。また、必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
「思春期に心が折れた時親がすべきことー不登校、うつ状態、発達障害」関谷秀子　中央公論新社　2020.10
代表的な精神疾患の説明とその疾患のケースについて記載されている。

【成績評価の方法と基準】
平常点40％、期末試験60％にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
臨床場面のエピソードや具体的なケースを提示しながらわかりやすく授業を進行したい。

【その他の重要事項】
精神科医である教員が精神疾患とその治療について講義する。

【Outline (in English)】
The study of psychiatry is one familiar to us. It is not only important to study fields such as welfare psychology or clinical psychology, but a whole array of other fields deserve to be examined from a psychiatric point of view.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following:In class contribution: 40%,Term-end examination: 60%.

PSY300JB,PSY300JC（心理学 / Psychology 300 , 心理学 / Psychology 300）

発達心理学

前田　基成

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間が生まれてから死ぬまでの間に、知覚、認知、感情、社会性などの諸機能がどのように変化していくのか、その過程について学びます。

【到達目標】
受精から死に至るまでの人間の発達の特徴と発達課題について理解できる。人間の発達過程およびそれに影響を与える要因について理解できる。これまで蓄積されてきた発達心理学の知見や理論について理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には映像資料を用いた講義を中心に授業を行います。また小テストを行うことがあります。小テストについては、実施した後、授業中に説明・解説を加えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	遺伝と環境	人間の発達に及ぼす遺伝と環境の影響について学習する。
第2回	知能の発達	知能の発達とその規定因について学習する。
第3回	発達と教育	発達に及ぼす教育の影響について学習する。
第4回	発達課題と性格形成	発達課題の達成が性格形成に及ぼす影響について学習する。
第5回	人間関係の生涯発達	生涯にわたる人間関係の発達について学習する。
第6回	虐待と精神的健康	幼少期の虐待がその後の発達に及ぼす影響について学習する。
第7回	自己の発達	自己の心理の発達について学習する。
第8回	思考の発達	乳児期から青年期に至る思考の発達について学習する。
第9回	社会的行動の発達	道徳性、援助行動の発達について学習する。
第10回	恋愛の心理	青年期の恋愛の心理について学習する。
第11回	人間関係の発達	自己と他者との人間関係の生涯発達について学習する。
第12回	価値観と長寿	老年期の心理と精神的健康について学習する。
第13回	性意識と性的行動	異性に対する性意識と性的行動の発達について学習する。
第14回	発達障害	自閉症、アスペルガー症候群、ADHDなど非定型発達について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
あらかじめ配布された授業の資料を読んでおくこと。また、授業で学習した内容については、確実に身につくように復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
自作の資料を用いて授業を行います。授業に先立って配布します。

【参考書】
開　一夫・斎藤慈子（編）『ベーシック発達心理学』東京大学出版会。また、授業で学習するトピックに関して、授業中に参考書を適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の得点80％と授業中の小テスト20％を総合して成績を評価します。合計100点満点のうち、60点以上が合格となります。なお、欠席回数が授業回数の3分の1以上（具体的には5回以上。5回含む）の場合は不合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
今年度も、受講生のみなさんの疑問や質問にお答えしながら授業を進めていこうと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
資料配付・小テストの実施等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
授業の展開によって若干の予定変更があります。

【Outline (in English)】
In this class, students will be shown what human development means and what process people follow from birth to death. ： The goals of this course are to understand the factors that influence human development. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following; Term-end examination: 80%, Quiz: 20%.

PSY300JB,PSY300JC（心理学 / Psychology 300 , 心理学 / Psychology 300）

障害者・障害児心理学

星井　純子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、障害とは何か、障害児者の心理とはどのようなものかをテーマとする。近年の障害の捉え方の変遷や法律、制度を概観し、障害種ごとの障害特性を理解した上で、個々のニーズに合わせた支援の在り方や家族支援について考察する。扱う障害種は、肢体不自由、聴覚障害、視覚障害、知的障害、発達障害（LD、ADHD、ASD）とする。また演習をとおして、障害当事者の困難さについて理解を深める。

【到達目標】
① 障害に対する世界的な意識の変化や共生社会、インクルーシブ教育の理念について理解する。
② 障害に関わる法律の基礎的知識を身につける。
③ 障害種ごとの障害特性に関する基礎的知識を身につける。
④ 家族支援について理解する。
⑤ 当事者の困難さについての理解を深め、支援の在り方について考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は、講義形式を基本とし、第13回、第14回は演習形式とする。
授業の振り返りとして、リアクションペーパーの提出を求める。次の授業回の冒頭でいくつかのコメントや質問事項を紹介し学習の発展につなげる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 障害とは	授業内容、自己紹介、講義形式、評価方法の説明 障害とは何かというテーマで国際障害分類、国際生活機能分類について解説し、ディスカッションも行う
第2回	ユニバーサルデザインと合理的配慮	ユニバーサルデザインとバリアフリーの概念について解説し、身近な生活から具体例を探す。また、合理的配慮について具体例を挙げながら理念について解説する。
第3回	障害特性の理解と支援（1）肢体不自由	肢体不自由の障害特性と支援について解説する。
第4回	障害特性の理解と支援（2）視覚障害	視覚障害の障害特性と支援について解説する。
第5回	障害特性の理解と支援（3）聴覚障害	聴覚障害の障害特性と支援について解説する。
第6回	障害特性の理解と支援 （4）知的障害	知的障害の障害特性と支援について解説する。
第7回	障害特性の理解と支援（5）LD	LDの障害特性と支援について解説する。また、アセスメントについても言及する。
第8回	障害特性の理解と支援（6）ADHD	ADHDの障害特性と支援について解説する。
第9回	障害特性の理解と支援（7）ASD	ASD（自閉スペクトラム症）の障害特性と支援について解説する。
第10回	障害特性の理解と支援（8）発達障害に併存しやすい困難さ	発達障害と関連して、感覚過敏、緘黙、トゥーレット症候群について解説する。
第11回	障害受容と家族支援	障害受容の過程と家族支援について解説する。
第12回	多職種連携による障害児支援	教育、心理、福祉、医療などの多職種連携について解説する。
第13回	【演習】認知特性に応じた支援（1）ワーク	強い認知処理を活かし、弱さに配慮した指導や支援について解説し、計画案の作成を行う。
第14回	【演習】認知特性に応じた支援（2）発表とディスカッション	前回のワークをとおして障害に対して新たに理解したことや支援のポイント等を発表し合い、ディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の予習・復習の時間は各1～2時間ずつを目安とする。
前回の授業の最後に、予習および復習のポイントや参考資料等を提示するので、それを参考に学習を進める。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
第１回～１２回　リアクションペーパーおよびミニテスト２回　５０％
第１３回～１４回　演習レポート　２０％
最終確認テスト　３０％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
＊授業内容は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】
[Course outline]
In this lecture, we will discuss the challengers facing people with disabilities in school, workplace and other life events. Furthermore, consider how effective psychological interventions could be delivered to individuals with disabilities and family members.
[Goal]
① Understand changes in global awareness of disabilities, a symbiotic society, and the philosophy of inclusive education.
② Acquire basic knowledge of laws related to disabilities.
③ Acquire basic knowledge about disability characteristics for each type of disability.
④ Understand family support.
⑤ Deepen understanding of the difficulties of persons with disabilities and consider how support should be.
[Learning activities outside of classroom]
Prepare and review for 1-2 hours each time
At the end of the previous lesson, present points for preparation and review, reference materials, etc.
[Grading Criteria]
#1 to #12reaction paper and small test 50%
#13#14Exercise Report 20%
Final test 30%

PSY300JB,PSY200JC（心理学 / Psychology 300 , 心理学 / Psychology 200）

コミュニティ心理学

丹羽　郁夫

配当年次／単位数：**福コミ：2〜4・臨心：1〜4年次／2単位**
備考（履修条件等）：**福祉コミュニティ学科と、臨床心理学科とで配当年次が異なるため、注意すること。**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コミュニティ心理学のアプローチは、伝統的個人心理臨床と異なり、個人の心だけでなく取り巻く環境（家族、学校、職場、地域社会など）へも働きかけ、治療よりも予防を重視します。その点で福祉および地域づくりと接点をもちます。この講義を受講することで、現代の様々な心理的問題の理解と解決方法の幅が広がると思います。

【到達目標】
コミュニティ心理学のもつ視点と様々な介入方法に関して、個人心理臨床との違いを踏まえて説明することができます。そして、コミュニティ心理学に基づいた実証研究を計画できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理学関連の授業を初めて履修する場合にも理解できるように、伝統的な心理臨床のモデルと基本的な視点について紹介します。その上で、コミュニティ心理学の基本的視点と理論、介入方法について講義します。実践や研究などの実際の紹介を多くまじえながら進める予定です。また授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。課題などのフィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の内容と進め方、評価の仕方を説明。
第2回	伝統的心理臨床モデルとは	伝統的心理臨床モデルによる事例を報告し、個人心理臨床の特徴を講義。
第3回	臨床心理の基本的視点①：発達的視点	臨床心理の基本的な視点としてM.マーラーの分離-個体化理論などの発達モデルを講義。
第4回	臨床心理の基本的視点②：病態水準の視点	臨床心理の基本的な視点として病態水準を講義。
第5回	臨床心理の基本的視点③：システム論の視点	臨床心理の基本的な視点としてシステムの視点と家族療法を講義。
第6回	コミュニティ心理学の視点①	伝統的心理臨床の限界とそれを補うコミュニティ心理学の視点を講義。
第7回	コミュニティ心理学の視点②	コミュニティ心理学の歴史、定義、専門家の役割を講義。
第8回	心理的ストレス	心理的ストレス理論と実証研究、自然災害によるPTSDを講義。
第9回	ソーシャルサポートと介入	ソーシャルサポートの理論とその介入を講義。
第10回	危機理論と危機介入	危機理論と危機介入の実際を事例を用いて講義。
第11回	コンサルテーションとコラボレーション	コンサルテーションとコラボレーションの理論と実践を事例を用いて講義。
第12回	予防と介入	いくつかの予防の理論とその介入を講義。
第13回	コミュニテ―・アプローチの実際	ひきこもりへの支援について講義
第14回	まとめ	講義全体の振り返りと質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前の講義で次回の講義内容が説明されるので、参考書などで事前に調べることが求められます。講義の後には、配布資料を読み、講義内容を振り返り、疑問点や興味をもったことなどを調べることが求められます。さらに学習を進めたい場合は、配布資料に記載された引用・参考文献を読むことが勧められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用せず、教員が作成する資料を配布します。各テーマの重要文献は資料に記載します。

【参考書】
授業では使用しませんが、参考書には次のものがあります（必ずしも購入する必要はありません）。『よくわかるコミュニティ心理学（改訂第3版）』（植村勝彦・高畠克子・箕口雅博・久田満編 ミネルヴァ書房 2017年 2,500円+税）。

【成績評価の方法と基準】
筆記試験で評価しますが、その得点が60点未満の場合は平常点（リアクションペーパーの内容等）を含め総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
現状を維持します。

【その他の重要事項】
講義する内容を学生の皆さんが理解しやすくするため、プライバシーに配慮して、教員が経験した事例をいくつか報告します。

【Outline (in English)】
Course outline
Unlike the traditional individual clinical psychological approach, community psychology approach works not only on the individual but also on the surrounding environment (family, school, workplace, community, etc.) and emphasizes prevention rather than treatment. In that respect, this approach has contacts with welfare and community development. By taking this lecture, students will be able to understand and solve various modern psychological problems.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-Sturents can explain a viewpoint and various intervention methods of the community psychology.
-Students become able to plan a proof study based on community psychology.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies
Final grade will be decided based on the Term-end examination (100%).

PSY300JB,PSY300JC（心理学 / Psychology 300 , 心理学 / Psychology 300）

異文化心理学

奥山　今日子

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「文化」の定義は様々です。この講義においては、受講生の生活に資するように、全ての個人間の相互作用までを異文化交流として捉えます。私たちは時々刻々とものごとを経験をしていますが、そのような経験は私たちが気づかないところでかたどられている部分が多くあります。
私たちが持って生まれた資質と私たちのこれまでの諸経験の相互作用の結果が、いまの私たちの感じ方、知り方、解釈の仕方を規定しているとも言えるでしょう。
私たちが知らないうちに排除してしまっている異質なもの/異文化/他者が私たちをより豊かにする可能性を持っていることを知る機会になればと考えています。
授業内で映画を視聴し、私が提示するテーマについて、グループディスカッションを行うことを通じで、異質なもの/異文化/他者に触れていきます。私は精神分析的な観点を紹介します。

【到達目標】
この講義を通じて、受講生のみなさんに目指していただきたいのは、①自分自身の経験に気づき、②それを他者に伝えることができるようになり、③自分の経験について自分自身がより考えられるようになり、④他者との交流を通じて、自身をより豊かにする可能性のあるスキルを身につけることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
対面で行います。講義では刺激素材として主に映画を上映します。その際、みなさんはそれらの映画をどのように経験しているかに注意を払いながら視聴します。まずは、みなさんそれぞれが感じたり想ったり思ったり考えたことを可能な限り言語化し、その上で、グループディスカッションを通じて、異質なものに触れていきます。私は精神分析的な観点を紹介します。
受講者の反応に従って、視聴するDVD素材の内容・順序を変更します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の全体像が理解できるよう説明する。
第2回	アサーション・トレーニング（1）	授業で多く行うグループ・ワークは他者/異文化との交流として位置づけられる。そこで重要と思われる基本的なスキルを学ぶ。
第3回	アサーション・トレーニング（2）	さらにアサーティブ・コミュニケーションを学ぶ
第4回	映画視聴（1）とディスカッション	家族関係について
第5回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	家族関係について更に学ぶ
第6回	映画視聴（2)とディスカッション	心理的な成長や発達とは何か
第7回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	心理的な成長や発達とは何かについて更に学ぶ
第8回	映画視聴（3）とディスカッション	心理的な成長あるいは発達あるいは展開の行き詰まり
第9回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	心理的な成長あるいは発達あるいは展開の行き詰まりについて更に学ぶ
第10回	映画視聴（4）とディスカッション	人生に登場する壁のような存在について
第11回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	人生に登場する壁のような存在について更に学ぶ
第12回	映画視聴（5）とディスカッション	夢と現実、無意識とは
第13回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	夢と現実、無意識について更に学ぶ
第14回	映画視聴(6)	ある人生を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分が何をどのように経験しているのか、つまり、何を感じ、どのようなことを想い、考え、行動しているのかに注意を払うようにして下さい。本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
『こころの処方箋』　河合隼雄　新潮社（新潮文庫）

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパー・授業への能動的参加）40％
期末レポート60％

【学生の意見等からの気づき】
発言を求められたり、グループワークをすることが多いことが、受講者によっては負担となっているようです。私は、そういう方たちにこそ、この際、苦手に感じられていることに挑戦してみてほしいと思います。

【Outline (in English)】
The definition of "culture" varies. In this lecture, the interaction between all individuals is considered as cross-cultural exchange to contribute to the lives of the students. We experience things from time to time, and many of those experiences are shaped in ways we don't realize.
It can be said that the result of the interplay between our qualities and our previous experiences defines the way we feel, know and interpret now.
I hope this lecture will be an opportunity for you to see that the alien /different culture /others that we unknowingly exclude have the potential to make us richer.
The students will be exposed to the alien /different culture /others through watching several movies and holding group discussions on the themes I will present. I will introduce a psychoanalytic point of view.
【Goal】
Through this course, I would like to encourage students to (1) become aware of their own experiences, (2) become able to communicate them to others, (3) become more self-reflective about their own experiences, and (4) acquire skills that can enrich themselves through interaction with others.
【Methods】
In the lecture, movies are mainly shown as stimulus materials. You watch these movies paying attention to how you experience them. First, you
will try to put what you feel, imagine, reflect and think into words as much as possible, and then touch on the alien / different culture /others through group discussions. I will introduce a psychoanalytic point of view.
I will change the contents to be viewed according to the student's response. We have a hybrid of face-to-face and online classes. The learning support system will show you which way the next class will be. Feedback on assignments, etc. is given sequentially and comprehensively in class. If you personally wish to receive feedback, please let us know by email.
【Work to be done outside of class】

Pay attention to what and how you are experiencing — what you feel, what you imagine, reflect, think, and do.
【Grading criteria 】
Normal point (reaction paper, active participation in class) 40%
Year-end Report 60%

PSY300JB,PSY300JC（心理学 / Psychology 300 , 心理学 / Psychology 300）

教育・学校心理学

前田　基成

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教授－学習、動機づけ、生徒指導など学校教育を理解するうえで必要な心理学の知識、概念や理論について学びます。また、不登校やいじめ、非行など様々な困難をもつ児童生徒に対する理解および支援について学習します。

【到達目標】
・教育心理学の基本的な知識、概念や理論を理解する。
・学校心理学の基本的な知識、概念や理論を理解する。
・教育・学校の諸問題の理解や解決について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義を中心に授業を行いますが、必要に応じて映像資料を用います。また、小テストを行うことがあります。小テストについては、実施した後、授業中に説明・解説を加えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	学校教育制度と法律	教育に関する権利と義務、学校教育制度と法律について学習する。
2	発達課題への取り組み	主として青年期の発達課題の達成と教育について学習する。
3	生涯発達とキャリア	生き方の教育であるキャリア教育について学習する。
4	教授・学習の過程	一斉指導の講義法の欠点を補う教授法について学習する。
5	動機づけと学習意欲	いかにして学習意欲を高めるかについて学習する。
6	生徒指導	生徒指導の意義と歴史、生徒指導の内容と方法などついて学習する。
7	教育相談	学校教育におけるカウンセリングの理論と実際について学習する。
8	カウンセリング・マインド	生徒への個別的な支援に効果的な考え方や態度、方法について学習する。
9	いじめと集団の心理	あっという間にエスカレートする現代型いじめの心理について学習する。
10	いじめの予防的アプローチ	いじめが起こらないような指導の在り方について学習する。
11	青少年の攻撃行動	青少年の攻撃行動とその社会的背景について学習する。
12	非行と犯罪	非行の心理と支援について学習する。
13	不登校の理解	不登校の心理と支援について学習する。
14	試験・まとめと解説	期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
あらかじめ配布された授業の資料を読んでおくこと。また、授業で学習した内容を復習して確実に身につけること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
自作の資料を用いて授業を行います。授業に先立って配布します。

【参考書】
必要に応じて授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の得点 80 %と授業中の小テスト20 %を総合して成績を評価します。合計100点満点のうち、60点以上が合格となります。なお、欠席回数が授業回数の3分の1（具体的には5回。5回を含む）を超えた場合には不合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
今年度も、受講生のみなさんの疑問や質問にお答えしながら授業を進めていこうと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
教材配付や授業に関するお知らせ等のために学習支援システムを利用します。配信を受け取ることができるようにパソコン、スマートフォンなどの情報通信機器を準備してください。

【その他の重要事項】
授業の展開によって若干の予定変更があります。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to systematically understand school psychology and to deepen the understanding of school support. The goal is to be able to understand the psychology and development of children with various difficulties and think about specific support. Students are expected to complete the required tasks after class. The study time outside the class will be 4 hours or more. The overall grade of the class will be determined based on: Term-end examination: 80%, quiz: 20%.

PSY300JB,PSY300JC（心理学 / Psychology 300 , 心理学 / Psychology 300）

教育心理学特講

金山　裕介

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：**教職・スクールソーシャルワーク課程科目でないため注意。**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、教育心理学の基礎的な知見を習得するとともに、臨床心理学的視点から学校現場における様々な課題への理解を深めることを目的とする。子どもの発達や学習に関する心理学的知見に加え、現代の子どもが抱える困難の理解と対応についても学ぶ。

【到達目標】
教育心理学の理論を習得し、子どもの発達や学習および学校における諸問題への理解が深まること、対応と支援に関する基礎的な知識が身につくことを目標とする。また、学校場面での具体的な問題や支援の実際について学ぶことで、教育に対する様々な考え方、困難や障害を抱える生徒への配慮や学校が抱える問題について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本として、教育心理学分野に関する基礎的な内容について概説する。毎回の講義内でリフレクションペーパーを提出する。また内容に応じて、講義内で小グループでの話し合いを取り入れることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教育心理学を知る	オリエンテーション。教育心理学とはどのような研究分野かについて概観する。
2	知識を広げる記憶のメカニズム	記憶のモデルと記憶方略を理解し、教科の学習内容を効率的に記憶する方法を学ぶ。
3	経験から学ぶということ	学習理論を理解し、人の行動がどのように身につくのか、および問題行動への対応を学ぶ。
4	子どもの意欲を育む	動機づけの理論を理解し、子どもの学習意欲を引き出す方法を学ぶ。
5	子どもの育ちの過程	幼児期、児童期、青年期における発達の特徴と、それぞれの段階で子どもたちが直面する課題を学ぶ。
6	パーソナリティの形成	パーソナリティの概念、その形成過程、そして心理学的に測定する方法を学ぶ。
7	頭がいいとはどういうことか	知能の概念、その発達メカニズム、そして知能検査とその結果を教育現場でどのように活用できるかを学ぶ。
8	子どもの「わからない」を理解する	認知科学の知見を基に、算数や読解における「わからない」のメカニズムを理解し、学習上のつまずきを捉える視点を学ぶ。
9	困難を抱える子どもたち①	知的障害や発達障害の理解と対応を学ぶ。
10	困難を抱える子どもたち②	いじめや非行の理解と対応を学ぶ。
11	困難を抱える子どもたち③	家族の問題や虐待の理解と対応を学ぶ。
12	困難を抱える子どもたち④	不登校や自死の理解と対応を学ぶ。
13	学級づくり	学級集団の特徴や対人関係、リーダーシップ、教師のメンタルヘルスを学ぶ。
14	社会における学校	学校内外での連携について学び、社会における学校の役割について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。事前学習としては、子どもや学校に関心をもち、関連する新聞記事などを読むこと。また、必要に応じて「教育相談」「心理学」「臨床心理学」「心理学辞典」などの関連書籍を参考に学習すること。本授業においては、各回のテーマに沿った参考資料を紹介する。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ　鎌原雅彦・竹綱誠一郎　著
「ベーシック現代心理学6　教育心理学」有斐閣　子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司　著

【成績評価の方法と基準】
レポート課題（60％）
授業参加およびリフレクションペーパー（40％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
なし

【Outline (in English)】
Educational Psychology
Course outline:
This course introduces students to the fundamental principles of educational psychology.
Learning Objectives:
The goal of this course is to provide students with a foundational understanding of educational psychology and to explore various challenges in educational settings from a psychological perspective.
Learning activities outside of classroom:
· Lecture/Exercise (two-credits)
Student will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria/Policies:
The final grade will be determined as follows:
· End-of-semester report: 60%
· Reflection papers and in-class contributions: 40%

PSY300JB,PSY300JC（心理学 / Psychology 300 , 心理学 / Psychology 300）

芸術療法

蜂谷　和郎

配当年次／単位数：2～4年次／2単位
備考（履修条件等）：**抽選科目。同一名称科目については１クラスのみ履修可能。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
美術表現することで脳を刺激し、認知症の予防、改善に道を開いた臨床美術。96年のスタート以来臨床美術士と医師、家族を支えるカウンセラーが三位一体となって成果を上げています。子どもの不登校、自閉症、社会人のメンタルヘルスなど様々なケースにも有効であると考えられています。実際に病院や施設等で行われている臨床美術の実践から認知症への理解と対応を学びます。

【到達目標】
認知症への理解と実践的対応を習得する。
作品制作により美術の表現力及び自己表現力を身につける。
作品制作と鑑賞を通じてコミュニケーション能力の向上を図る。
言葉による伝達スキルと能動的思考を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
実技・オイルパステルを使用しての作画・・指定のオイルパステル、スケッチブック、和紙を購入する必要あり
理論・臨床美術の概要
グループごとにディスカッションを行いながら理解を深める。受講者数によりロールプレイング実施方法は変更する場合がある。課題に対しては、授業内や学習支援システムを活用してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	臨床美術基幹①	臨床美術の簡単なプログラムを体験。 受講生全員の自己紹介を行う。 鉛筆（2B）持参
2	臨床美術基幹②	認知症リハビリテーションとしての臨床美術。　鉛筆（2B）持参
3	臨床美術のアートプログラム　抽象表現	アナログ画。形の無いものを描く。オイルパステル持参
4	アートコミュニケーション	二人一組となり作画する オイルパステル持参。グループ分けを行い、以後グループ単位での受講となる。
5	臨床美術のアートプログラム　量感画	リンゴを描く リンゴ1個、オイルパステル持参
6	美術の苦手意識を取り払う	様々な技法による描写と模写。 鉛筆、消しゴム持参
7	臨床美術のアートプログラム　量感画	茄子を描く。各自茄子とオイルパステル持参持参
8	臨床美術のアートプログラム　立体	かぼちゃを新聞紙と和紙を使って立体表現する。グループごとにかぼちゃを準備
9	ギャラリートーク 作品鑑賞会	作品鑑賞会のロールプレイング。 感じたことを言葉で伝える。
10	ロールプレイングのための試作	サツマイモを描く。以降各自サツマイモを毎回持参。
11	ロールプレイングのための進行計画作成	ロールプレイングの進行計画をグループごとに作成
12	ロールプレイングの予行	グループごとにロールプレイングの予行練習を行う
13	ロールプレイング①	グループごとにロールプレイング形式で模擬授業を行い意見交換をする
14	ロールプレイング②	前週の気付きをふまえてグループごとにロールプレイング形式で模擬授業を行い意見交換をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自宅課題は１００％提出
自宅課題は授業内容をしっかりと理解するためのものであるため、十分に時間を取りたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
臨床美術・認知症医療と芸術のコラボレーション（金剛出版） オイルパステル、和紙セット、スケッチブック、鉛筆（2B）、消しゴム、野菜などのモチーフを各自購入する必要がある。

【参考書】
参考書は必要としない

【成績評価の方法と基準】
1　出席確認　出席カードにて確認
2　試験方法　なし
3　採点基準　提出物（30％）、平常点（30％）、ロールプレイング（40％）
オンラインになった場合には　　提出物（60％）平常点（40％）

【学生の意見等からの気づき】
課題説明及び制作の手順などは十分理解できるように説明する。制作に必要な持ち物などを事前に通知する。学生同士の意見交換やコミュニケーションの時間を増やすとともにコミュニケーションをとる人数も増やす。作品鑑賞を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
持ち物の告知は学習支援システムにより行う。

【その他の重要事項】
21世紀の福祉の現場は高いレベルのスキルと深い教養が求められています。本授業で表現を通して真のコミュニケーションの獲得、自己実現、自己超越という人間の最も高い欲求を満たす事も可能になるでしょう。

【Outline (in English)】
Clinical art that stimulated the brain by expressing art
Opened the way for prevention and improvement of dementia
　Since the start in 1996,clinical artist　doctors and counselors have achieved results together　It is thought that it is effective for various cases such as school refusal children autistic people mental health of social workers.　We will learn understanding and correspondence to dementia from the practice of clinical art which is actually done at hospitals snd facilities.
GOal Learn the expressiveness and self-expression of art
Improve communication skills
improve your communication skills
Gain understanding and response to dementia
Home assignments 100%submit home assignments
Home assignments are for understanding the contents of the class
so take enough time
Preparatory learning The standard review time is 2 hours
confirm attendance by call
No exams
Scoring criteria Submitted work 30%Normal point 30%Role-playing 40%
（If online　Submitted work　60％　Normal point　40％）

PSY300JB,PSY300JC（心理学 / Psychology 300 , 心理学 / Psychology 300）

芸術療法

蜂谷　和郎

配当年次／単位数：2～4年次／2単位
備考（履修条件等）：**抽選科目。同一名称科目については1クラスのみ履修可能。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
美術表現することで脳を刺激し、認知症の予防、改善に道を開いた臨床美術。96年のスタート以来臨床美術士と医師、家族を支えるカウンセラーが三位一体となって成果を上げています。子どもの不登校、自閉症、社会人のメンタルヘルスなど様々なケースにも有効であると考えられています。実際に病院や施設等で行われている臨床美術の実践から認知症への理解と対応を学びます。

【到達目標】
認知症への理解と実践的対応を習得する。
作品制作により美術の表現力及び自己表現力を身につける。
作品制作と鑑賞を通じてコミュニケーション能力の向上を図る。
言葉による伝達スキルと能動的思考を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
実技・オイルパステルを使用しての作画・・指定のオイルパステル、スケッチブック、和紙を購入する必要あり
理論・臨床美術の概要
グループごとにディスカッションを行いながら理解を深める。受講者数によりロールプレイング実施方法は変更する場合がある。課題に対しては、授業内や学習支援システムを活用してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	臨床美術基幹①	臨床美術の簡単なプログラムを体験。受講生全員の自己紹介を行う。鉛筆（2B）持参
2	臨床美術基幹②	認知症リハビリテーションとしての臨床美術。　鉛筆（2B）持参
3	臨床美術のアートプログラム　抽象表現	アナログ画。形の無いものを描く。オイルパステル持参
4	アートコミュニケーション	二人一組となり作画する オイルパステル持参。グループ分けを行い、以後グループ単位での受講となる。
5	臨床美術のアートプログラム　量感画	リンゴを描く リンゴ1個、オイルパステル持参
6	美術の苦手意識を取り払う	様々な技法による描写と模写。鉛筆、消しゴム持参
7	臨床美術のアートプログラム　量感画	茄子を描く。各自茄子とオイルパステル持参持参
8	臨床美術のアートプログラム　立体	かぼちゃを新聞紙と和紙を使って立体表現する。グループごとにかぼちゃを準備
9	ギャラリートーク　作品鑑賞会	作品鑑賞会のロールプレイング。感じたことを言葉で伝える。
10	ロールプレイングのための試作	サツマイモを描く。以降各自サツマイモを毎回持参。
11	ロールプレイングのための進行計画作成	ロールプレイングの進行計画をグループごとに作成
12	ロールプレイングの予行	グループごとにロールプレイングの予行練習を行う
13	ロールプレイング ①	グループごとにロールプレイング形式で模擬授業を行い意見交換をする
14	ロールプレイング ②	前週の気付きをふまえてグループごとにロールプレイング形式で模擬授業を行い意見交換をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自宅課題は１００％提出
自宅課題は授業内容をしっかりと理解するためのものであるため、十分に時間を取りたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
臨床美術・認知症医療と芸術のコラボレーション（金剛出版） オイルパステル、和紙セット、スケッチブック、鉛筆（2B）、消しゴム、野菜などのモチーフを各自購入する必要がある。

【参考書】
参考書は必要としない

【成績評価の方法と基準】
1　出席確認　出席カードにて確認
2　試験方法　なし
3　採点基準　提出物（30％）、平常点（30％）、ロールプレイング（40％）
オンラインになった場合には　　提出物（60％）平常点（40％）

【学生の意見等からの気づき】
課題説明及び制作の手順などは十分理解できるように説明する。制作に必要な持ち物などを事前に通知する。学生同士の意見交換やコミュニケーションの時間を増やすとともにコミュニケーションをとる人数も増やす。作品鑑賞を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
持ち物の告知は学習支援システムにより行う。

【その他の重要事項】
21世紀の福祉の現場は高いレベルのスキルと深い教養が求められています。本授業で表現を通して真のコミュニケーションの獲得、自己実現、自己超越という人間の最も高い欲求を満たす事も可能になるでしょう。

【Outline (in English)】
Clinical art that stimulated the brain by expressing art　Opened the way for prevention and improvement of dementia　Since the start in 1996,clinical artist　doctors and counselors have achieved results together　It is thought that it is effective for various cases such as school refusal children　autistic people mental health of social workers.
We will learn understanding and correspondence to dementia from the practice of clinical art which is actually done at hospitals snd facilities.
GOal Learn the expressiveness and self-expression of art
Improve communication skills
improve your communication skills
Gain understanding and response to dementia
Home assignments 100%submit home assignments
Home assignments are for understanding the contents of the class
so take enough time
Preparatory learning The standard review time is 2 hours
confirm attendance by call
No exams
Scoring criteria Submitted work 30%Normal point 30%Role-playing 40%
（If online　Submitted work　60％　Normal point　40％）

PSY300JC（心理学 / Psychology 300）

社会・集団・家族心理学

丹羽　郁夫

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は対人関係および集団が個人の意識と態度、行動に及ぼす影響についての基本的な社会心理学の理論を講義します。その上で、家族と集団、社会、文化の影響による現代社会のさまざまな問題を概説し、それら諸問題への対応について検討を行います。

【到達目標】
対人関係並びに集団における人の意識と行動についての心の過程が推測できます。人の態度と行動についてさまざまな理論を用いて説明できます。家族と集団、文化が個人に及ぼす影響について概説でき、その対応策について考えることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
各回、講師が作成した資料をもとに講義を行います。また授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。課題などのフィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容と進め方、評価の仕方を説明。
第2回	人の態度及び行動（個人過程）①	社会的自己、自己過程、印象形成、ステレオタイプ、帰属などを講義。
第3回	人の態度及び行動（個人過程）②	社会的認知、社会的推論、社会的感情、社会的動機などを講義。
第4回	対人関係における人の意識と行動についての心の過程①	対人魅力、親密な人間関係、援助行動などを講義。
第5回	対人関係における人の意識と行動についての心の過程②	対人葛藤、対人ストレス、社会的スキル、説得、攻撃行動などを講義。
第6回	集団における人の意識と行動についての心の過程①	社会的インパクト、集団思考、リーダーシップ、社会的アイデンティティ、生態学的システム論などを講義。
第7回	集団における人の意識と行動についての心の過程②	社会的ジレンマ、社会的ネットワーク、ソーシャルサポート、集団、組織、集合現象などを講義。
第8回	集団における人の意識と行動についての心の過程③	いじめを集団過程の視点から講義。
第9回	家族が個人に及ぼす影響①	マルトリートメント（不適切な養育）を講義。
第10回	家族が個人に及ぼす影響②	家族システムの視点を講義。
第11回	家族が個人に及ぼす影響③	ジェノグラム（家族の歴史）の視点を講義。
第12回	文化が個人に及ぼす影響①	文化の違いについて講義。
第13回	文化が個人に及ぼす影響②	異文化適応について講義。
第14回	講義全体のまとめ	授業全体の振り返りと質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前の講義で次回の講義内容が説明されるので、事前に調べることが求められます。講義の後には、配布資料を読み、講義内容を振り返り、疑問点や興味を持ったことなどを調べることが求められます。さらに学習を進めたい場合は、配布資料に記載された引用・参考文献を読むことが勧められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ありません。講師が作成する資料を使用します。

【参考書】
ありません。講師が作成する資料に引用・参考文献として記載されています。

【成績評価の方法と基準】
筆記試験で評価しますが、その得点が60点未満の場合は平常点（リアクションペーパーの内容など）を含め総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
2022年度から公認心理師の試験問題に基づいた授業を始めたところ好評のようなので、これを継続します。

【学生が準備すべき機器他】
ありません。

【Outline (in English)】
Course outline
This lecture describes the basic social psychology theory about interpersonal relationships and the influence of groups on personal consciousness and attitudes and behavior. Then, this lecture outlines various problems of the modern society due to family and group, society, culture, and examines how to deal with these problems.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
－ Students can suppose the consciousness of the person in personal relationships and the group and the process of the heart about the action.
－Students　can explain a manner and the action of the person using various theories.
－ Students can give an outline about the influence that a family and a group, culture give to an individual and can think about the countermeasure.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies
Final grade will be calculated according to the Term-end examination (100%).

PSY300JC（心理学 / Psychology 300）

産業・組織心理学

小林　由佳

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：2018年度以降入学者のみ受講可能。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、組織における人の行動について理解するとともに、職場における問題(キャリア形成に関することを含む)に対して必要な心理に関する支援を学ぶ。

【到達目標】
この授業の到達目標は、次のとおりである。
(1) 組織における人の行動について概説できること
(2) 職場における問題に対して必要な心理に関する支援及びその方法について 説明できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を中心とするが、授業内での発表やディスカッションなどのアクティブラーニングを取り入れながら進めていく。対面授業を基本とする。状況により方法の変更が必要となるときは、学習支援システムで提示する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方と成績評価、授業内容の概説
第2回	産業・組織心理学への導入	産業・組織心理学の対象範囲、働く人の現状
第3回	産業・組織心理学の歴史と発展	産業心理学および組織心理学の歴史と発展、課題
第4回	キャリア発達の理論	キャリアに関する各種理論の解説と議論
第5回	職場集団のダイナミクスとコミュニケーション	グループダイナミクス、コミュニケーションについての解説と議論
第6回	リーダーシップ	リーダーシップ理論の解説と議論
第7回	モチベーション	モチベーション理論の解説と議論
第8回	働く人のパフォーマンスとエンゲージメント	パフォーマンス、エンゲージメントについての解説と議論
第9回	購買行動と消費者心理	購買行動と消費者心理についての解説と議論
第10回	働く人のストレスと心理学的アセスメント	職業性ストレス理論、心理学的アセスメント
第11回	産業心理臨床	産業領域におけるケース対応や背景となる状況の解説と議論
第12回	メンタルヘルス対策の基本	メンタルヘルス対策（一次〜三次予防）の解説と議論
第13回	職場のハラスメント問題	職場のハラスメント問題の現状と背景に関する解説と議論
第14回	授業のまとめ	授業全体のまとめ、試験の実施方法等の伝達

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容に関連した発展課題を指示するので、毎回の授業の間にそれに取り組むことが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
参考書は授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
発展課題（50％）＋期末試験（50％）

【学生の意見等からの気づき】
発展課題と授業中のディスカッションを連動させ、授業内容の理解度をより深める。

【Outline (in English)】
Course outline ： In this class, students will learn theories about organizational behavior and enhance their understanding of problems and support in occupational life. Classes consist of lectures and discussions. They will also learn about common problems in career formation.
Learning Objectives ： The objectives of this class are as follows.
(1)To be able to give an overview of human behavior in organizations
(2)To be able to explain the psychological support and methods needed to deal with problems in the workplace
Learning activities outside of the classroom ： Developmental assignments related to the class content will be given, and students are expected to work on them between each class session. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy ： Developmental assignments (50%) + final exam (50%)

PSY300JC（心理学 / Psychology 300）

臨床心理学特講

末武　康弘

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な概念や理論について、その提唱者の原著（主に日本語訳）の読解をすることを通して、臨床心理学がどのような考え方や方法から成り立っているのかを学びます。

【到達目標】
この授業の達成目標は、臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な概念や理論を提唱した心理学者や臨床家の原著（主に日本語訳）の内容を理解し、またそれらが臨床心理学の成り立ちや発展に与えた意義を考察し説明できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義レジュメをもとに、パワーポイントを活用しながら講義、原著の読解、関連する問題や英文和訳などの課題、ディスカッション等によって授業を進めていきます。関連する映像資料の視聴も行います。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業への導入を行い、成績評価の基準を明示します。
第2回	臨床心理学の主要な概念と理論：概説	臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な立場の概要を学びます。
第3回	主要な概念と理論（1）：無意識、自我、対象関係	精神分析学的な概念と理論をフロイトの著作等から考察します。
第4回	主要な概念と理論（2）：集合無意識、元型、夢と箱庭	分析心理学の概念と理論をユングの著作等から考察します。
第5回	主要な概念と理論（3）：自己愛、シニフィアン、大文字の他者	精神分析の特異な発展をコフートやラカンの著作等から考察します。
第6回	主要な概念と理論（4）：実存、現象学、超越	ビンスワンガーらの現存在分析およびフランクルのロゴセラピーの概念と理論を考察します。
第7回	主要な概念と理論（5）：ヒューマニスティック、クライアント中心、PCA	クライアント中心療法の概念と理論をロジャーズの著作等から考察します。
第8回	主要な概念と理論（6）：体験過程、フォーカシング、暗在性	クライアント中心療法から発展した概念と理論をジェンドリンの著作等から考察します。
第9回	主要な概念と理論（7）：逆制止、強化、思考修正	行動療法や認知行動療法の概念と理論をウォルピやベックの著作等から考察します。
第10回	主要な概念と理論（8）：ダブルバインド、家族システム、ソリューションフォーカス	家族療法、システム理論、ナラティブアプローチ等の概念と理論を考察します。
第11回	主要な概念と理論（9）：芸術、ドラマ、詩歌	芸術療法、サイコドラマ、読書療法や詩歌療法の理論を考察します。
第12回	主要な概念と理論（10）：エスノ、自然、真空	日本的エスノセラピーやクライアント中心療法の日本的な発展について考察します。
第13回	主要な概念と理論（11）：折衷、統合、多元的アプローチ	複数の理論や方法を活用するアプローチについて考察します。
第14回	新しい概念と理論、授業のまとめ	最近注目されている新しい概念や理論を取り上げて考察します。最後に授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業の資料は、事前に「授業支援システム」上に掲載するので、それを読んで授業に参加することが求められます。また、毎回の授業の終了時に授業で取り上げた内容に関連した「発展課題」を提示し、学習内容を各自が深めていく作業を求めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
参考書は授業の中で適宜紹介します。また、資料（講義レジュメ、パワーポイント等）、映像教材などを使用します。

【成績評価の方法と基準】
学期末に提出するレポート（2000字前後）（60％）と平常点（毎回の発展課題ほか：40％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートの結果に基づき、より具体的でわかりやすい内容の授業を組み立てたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
おもに思春期〜老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく講義します。

【Outline (in English)】
In this lesson, through reading the original author's work (mainly Japanese translation) on clinical psychology, especially counseling and psychotherapy, you learn major theories and methods of clinical psychology.
At the end of the course, students are expected to understand major theories and methods of clinical psychology, especially counseling psychotherapy.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant materials uploaded on Hoppii . And students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end report: 60%、Assignments after each class meeting: 40%.

PSY300JC（心理学 / Psychology 300）

精神分析学

関谷　秀子

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フロイトの精神分析学理論は人の心を理解しようとする科学的仮説の体系である。力動的な精神分析学仮説は、通常の日常生活で意識することのない、無意識的なレベルにおける人の心を示す概念である。そのため難解であるが、授業では無意識の発見、構造論モデル、精神性的発達、親子関係ならびに治療関係論をテーマにして、心の在り方を理解する。

【到達目標】
精神分析学仮説の意味する事柄を日常生活のレベルで理解できるようにすることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
PCプロジェクターを用いた講義形式で行い、適宜資料を配布する。毎回の授業での質疑応答やディスカッションを行うほか、リアクションペーパーの内容を取り上げてフィードバックを行う。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	精神分析学の誕生①	メスメルの磁気術、催眠術
第2回	精神分析学の誕生②	ブロイエルと症例アンナO、ヒステリー研究、催眠浄化法から前額法・自由連想法へ
第3回	無意識、フロイトの夢判断	心の局所論モデル、夢分析、心の構造論モデル、防衛機制
第4回	精神性的発達論①	口唇期、肛門期、幼児性器期、エディプス・コンプレックス、潜伏期、性器期、退行と固着
第5回	精神性的発達論②	思春期青年期、性器統裁、対象選択、超自我の構造的変化、Blosによる思春期の発達論
第6回	フロイトの症例／ドラ	転移と抵抗への気づき
第7回	フロイトの症例／ハンス	親を介しての児童分析
第8回	精神分析療法と精神分析的精神療法	精神分析療法、治療構造、基本規則、精神分析的心理療法、心理療法の進め方。アセスメントと治療契約、適応
第9回	契約	治療契約について
第10回	退行	治療的退行について
第11回	抵抗	抵抗の形式、抵抗解釈について
第12回	転移、逆転移、解釈技法	転移・逆転移の概念、転移解釈について
第13回	終結の仕事	終結の仕事、喪の仕事、同一化
第14回	期末試験・まとめと解説	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の進行に伴い、日常生活における自己の感情と思考を眺めてみてほしい。自己理解につながるかもしれない。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験(70%)、平常点(リアクション・ペーパーを含む)(30%)にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
具体的なケースを提示しながらわかりやすく授業を進行したい。

【その他の重要事項】
精神科医が、専門分野である精神分析学について講義する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course deals with the Freud's psychoanalytic theory, which is a system of scientific hypotheses. Psychodynamic theory is a notion which demonstrates the unconscious state of mind of human being. The aim of this lecture is to understand the state of the mind, through learning about discovery of unconsciousness, structural point of view, psychosexual development, parent-child relationship, and therapeutic relationship.
【Learning objectives】
The goal of this course is to understand the psychoanalytic theory in the level of everyday life.
【Learning activities outside the classroom】
Attending this course, try to observe your emotion and thought in everyday life. It may leads to understanding yourself. Before /after each class meeting, students will be expected to spend two hours each to understand the course content.
【Grading criteria/policy】
Grading will be decided based on term-end examination (70%), in-classroom contribution (including reaction paper)(30%).

PSY300JC（心理学 / Psychology 300）

児童精神医学

関谷　秀子

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
児童精神医学は1950年代に成立した比較的新しい領域である。精神発達の正常からの逸脱をすべて疾患として理解するのは必ずしも適切ではないが、国際的診断分類学の臨床単位ごとの病理特性と治療について取り上げる。またその理解に必要な心の発達について理解する。

【到達目標】
児童精神医学の歴史を理解する。
児童・思春期の心の発達について理解する。
代表的な児童思春期の心の病について基本的知識を習得する。
児童思春期に対する治療的アプローチについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主にＰＣプロジェクターを用いた講義形式で行い、適宜レジメを配布する。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 児童精神医学の歴史①	授業の進め方と成績評価基準についての説明。19世紀の子ども観について。
第2回	児童精神医学の歴史②	子どもガイダンス運動の展開について。
第3回	児童精神医学の歴史③	児童精神医学の誕生について。
第4回	子どもの精神発達①	乳幼児期・幼児期の発達について。マーラーの発達理論。
第5回	子どもの精神発達②	児童期・思春期の発達について。アンナフロイトの発達ライン。
第6回	子どもの精神療法	児童期と精神療法
第7回	親ガイダンス	親ガイダンスの基本構造と基本原則
第8回	不登校①	小学生の不登校
第9回	不登校②	思春期の不登校
第10回	摂食障害	摂食障害の経過と治療について
第11回	強迫性障害・恐怖症	強迫性障害・恐怖症の経過と治療について
第12回	精神遅滞・広範性発達障害・注意欠陥多動性障害・行為障害・反抗挑戦性障害	精神遅滞・広範性発達障害・注意欠陥多動性障害・行為障害・反抗挑戦性障害の経過と治療について
第13回	ケースの検討	見立て・治療経過について
第14回	期末試験とまとめ	期末試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
幼児や児童と関わるボランティア活動を推奨する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する。また、必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験(60%),平常点（40%）にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
具体的なケースを提示しながらわかりやすく授業を進行したい。

【その他の重要事項】
精神科医が専門分野である児童思春期精神医学について講義する。

【Outline (in English)】
The child psychiatry is a relatively new field established in the 1950s. It is not necessarily appropriate to understand all deviation from normal mental development as a disease. But nevertheless, an international criterion of diagnosis and classification is currently available. We should learn about pathology and the treatment of all disorders respectively. In addition, we must understand child development and adolescence. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 60%、Short reports : 40%

PSY300JC（心理学 / Psychology 300）

グループアプローチ

大竹　直子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グループ・アプローチは、心理、福祉、教育、医療、看護などの臨床場面で広く行われているグループ状況での専門的援助活動の総称です。「人は人との間で人になる」という人間の本来的特質を改めて確認しながら、治療的グループ・アプローチ、教育的グループ・アプローチ、成長傾向のグループ・アプローチなどについて理解を深めていきます。

【到達目標】
主に心理臨床の現場で用いられるグループ・アプローチの理論を理解するとともに、グループ体験をとおして「人間」や「自己」への理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、毎回異なったメンバーとグループを組み、前半はレジュメを用いた講義を中心に、後半はグループワークやディスカッションを中心に進めていきます。(授業の展開によって若干の変更があり得ます。)
また、毎回リアクションペーパーの提出を求め、出欠の確認をするとともに、質問が記入されている場合は、次の授業の始めに回答をいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画、ねらい、進め方、評価などの確認
2	グループ・アプローチとは	講義：グループ・アプローチの歴史と発展
3	人は人との間で人になる（1）	講義と演習：人間の本来的特質～“人間”に焦点を当てて～
4	人は人との間で人になる（2）	講義と演習：人間の本来的特質に～“個人”に焦点を当てて～
5	グループ体験（1）	演習：構成的グループの体験
6	ベーシック・エンカウンター・グループ	講義とビデオ：カール・ロジャーズと記録映画
7	医療現場におけるグループ・アプローチ	講義と演習：集団精神療法など
8	教育現場におけるグループ・アプローチ	講義と演習：構成的グループエンカウンターなど
9	企業におけるグループ・アプローチ	講義と演習：研修や開発に用いられるグループ・アプローチ
10	グループ体験（2）	演習：非構成的グループの体験
11	グループ・アプローチの現代的意義	講義と演習：今なぜグループ・アプローチか～グループ・アプローチ再考～
12	グループ・ファシリテーターの役割	講義と演習：ファシリテーターの役割と在り方
13	グループワークのまとめ	講義と演習
14	試験・まとめと解説	筆記試験（持込不可）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業では、これまで話したことがない人とグループを組み、話し合いや演習を行います。みなさんで安心した場を作っていきながら、積極的に自分や他者と向き合えるよう、心構えをもってご参加ください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。（プリントを配布します。Ａ４版のファイルをご準備ください。）

【参考書】
講義の中で提示します

【成績評価の方法と基準】
①最終試験 ６０％
②平常点 ４０％

【学生の意見等からの気づき】
受講生の皆さんより、授業内でのグループを体験は、自己や他者への発見や気づきの機会となったこと、グループアプローチの理解に役立ったとの感想をいただいております。毎回、違うメンバーとのグループワークやディスカッションを行うため「最初は、自分について話すことに戸惑った」「知らない人と話すのは緊張した」との声や「回数を重ねるごとに楽しみになってきた」「自己理解が深まった」「グループの意義を実感することができた」などのフィードバックをいただきました。
今年度も、受講生同士のディスカッション、グループ体験の時間を持つ予定です。できるだけ安心して授業やグループに参加していただけるよう、工夫をしていきたいと考えております。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【Outline (in English)】
The group approach is a general term for professional psychological helping activities in group situations that are widely practiced in clinical situations such as Psychology, Welfare, Education, Medical care, Nursing. We will deepen our understanding of the group approaches, while again confirming the inherent characteristics of human beings, "People become people with people".
【Learning Objectives】
The goal of this course is to understand the theory of group approach and to deepen understanding of humans and self.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%、in class contribution: 40%

PSY300JC（心理学 / Psychology 300）

司法・犯罪心理学

西田　俊男

配当年次／単位数：2～4年次／2単位
備考（履修条件等）：2018年度以降入学者のみ受講可能。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
犯罪、非行、あるいは被害者支援に対し、どのように理解していくのか理論を学び、さらに更生するための処遇、そこに関わる心理職の役割などについて考えられるようにします。また、非行などの背景には家庭内の問題が潜んでいることが多いことから、生育史を含めた非行や家族の理解を学び、犯罪について主体的に考察します。

【到達目標】
犯罪、非行、被害者支援及び家事事件についての基本的な事項を説明することができる。司法、犯罪分野における問題に対して必要な心理支援を考え、他者に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業はパワーポイントを使って進め、学習支援システム(Hoppii)でテキスト、レジメや参考資料を配付します。また、授業冒頭には社会で起きた犯罪や非行等を取り上げ、授業の内容に絡めた上で犯罪心理学の観点から、なぜ起きたのかを考察します。授業の出欠はHoppiiを使ったレポートの提出で出席とします。このレポートは講師とのコミュニケーションツールとして使い、次回授業では必要に応じてレポートに記載された疑問点などを取り上げます。授業のレポートとは別に、春期授業開始前のレポートと春期授業終了時のレポートの２回のレポート提出が単位取得のための条件です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、犯罪・非行の状況	犯罪・非行全体について概説し、統計からその実態をみていきます。
第2回	罪種別に非行の動機・心理を探る	各事件別の動機・心理について学びます。
第3回	犯罪心理学の系譜	生物学的原因論、心理学的原因論、社会学的原因論について学びます
第4回	新たな犯罪心理学	エビデンス、メタアナリシス、セントラルエイト、RNR原則等について学びます。
第5回	家庭裁判所の機能、ビデオ視聴	家裁の役割、そしてビデオを視聴します。
第6回	家庭裁判所の機能、具体的な非行理解	家裁での非行理解、BPSの視点などを学びます。
第7回	保護観察と少年院について	家庭裁判所の処分である保護観察と少年院について学びます。
第8回	少年院の実際についてビデオ視聴	少年院のドキュメンタリービデオを視聴します。
第9回	成人事件の流れと刑務所について	成人の起訴、刑務所の在り方、死刑囚と無期囚の心理などについて学びます。
第10回	事例によるケース理解（演習形式）１	事例について、班別でなぜ事件を起こしたのか、その動機及び仮説などについて討議、発表します。
第11回	事例によるケース理解（演習形式）２	前回の討議に続き、心理テスト(SCTとTAT)結果からの事例理解を行い、さらに更生について討議、発表します。
第12回	事例によるケース理解（演習形式）３	前回の討議に続き、心理テスト結果の具体的な伝え方（フィードバック）について討議します。
第13回	被害者救済のための制度と各面接法	被害者保護に関する制度を学びます。また、動機付け面接と司法面接について学びます。
第14回	多様な家族	離婚に関する制度を学び、面会交流、ハーグ条約、子の引き渡しなどについて心理職としての見方、関わり等を考えていきます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業で配布したパワーポイントの資料やテキストを元に復習を行います。また、次の授業への連続性から配付資料の予習も行います。家裁見学も行います。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Hoppiiにて必要なテキストを配付します。

【参考書】
綿村英一郎他編「入門司法・犯罪心理学　理論と現場を学ぶ」有斐閣
河原俊也編「ケースから読み解く 少年事件－実務の技」青林書院

【成績評価の方法と基準】
授業態度・発表：５２％
レポート課題の提出・評価：４８％

【学生の意見等からの気づき】
アンケートを踏まえ、改善します。また、配付資料などはダウンロードできるようにします。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
特にありません。

【Outline (in English)】
We learn how to understand delinquency, support to victims, and how to deal with these problems and the role of the psychologists. In addition, we study the theory to grasp delinquency including background because it can cause crimes in many cases. After class,we are capable of comprehending these crimes for ourselves.
（Learning Objectives）
At the end of the course, students are expected to explain the basic matters of crime, delinquency, victim support and domestic affairs cases.
（Learning activities outside of classroom）
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
（Grading Criteria /Policies）
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports : 48%、in class contribution : 52%

SOW300JC（社会福祉学 / Social Welfare 300）

関係行政論

小磯　明

配当年次／単位数：2～4年次／2単位
備考（履修条件等）：2025年度の授業実施日は、8月4日（月）・5日（火）・6日（水）。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公認心理師としての業務を行うに当たり、学生が適切な知識及び技能を身につけられるようにする。

【到達目標】
公認心理師として活動する分野を問わず、他の分野と連携すべき機会があることから、保健医療、教育、福祉、司法・犯罪、産業・労働等、公認心理師が活動すると想定される主な分野に係る関係法規や制度等が網羅的に学生が理解できる。特に、教育分野においては、学校等と密に連携した公認心理師の活動が想定されるため、関係法規や制度等に加えて、学校教育に関する知識が一定程度必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は対面で実施する。講義形式で、配布資料及び関係資料の理解を通じて、現状・実態を学ぶ。必要に応じてグループディスカッションを行う。毎回の授業でリアクションペーパーの提出を求める。前回のリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に対してフィードバックを行う。授業計画の変更がある場合は、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	法・制度の基本	法・制度の基本について理解する
第2回	医療全般の法律・制度	保健医療分野に関係する法律・制度のうち、医療全般について理解する
第3回	精神科医療の法律・制度	精神科医療や精神保健に関わる法律の歴史を理解する
第4回	地域保健・医療の法律・制度	自殺対策、アルコール対策、母子保健の基本の理解、保健所、市町村、精神保健福祉センターの役割を理解する
第5回	児童福祉の法律・制度	児童虐待の種別、児童虐待防止法の特徴、児童相談所の相談援助活動の流れ、児童福祉施設ごとの特徴を理解する
第6回	障害者・障害児福祉の法律・制度	障害者基本法の概要、障害者権利条約の内容、障害者総合支援法の概要、自立支援医療、障害児の施策の流れ、障害者差別解消法の概要を理解する
第7回	高齢者福祉の法律・制度	日本の超高齢社会の概要、高齢者のための医療制度、介護保険の概要、地域包括ケアシステム等について理解する
第8回	教育分野に関係する法律・制度	教育に関わる法律、児童福祉に関わる法律、スクールカウンセラーの守秘義務、子どもの権利について理解する
第9回	刑事に関係する法律・制度	刑法第39条の内容、司法システムと医療システムの関連、ストーカー規制法の概要、心身喪失者等医療観察法の成立の意義と措置入院制度との相違等を理解する
第10回	家事に関係する法律・制度	夫婦間紛争とDV問題、親権とそれをめぐる紛争、面会交流とそれをめぐる紛争、被虐待児童を守るための施設収容許可、成年後見制度について理解する
第11回	少年非行の法律・制度	非行少年の取り扱いの理念や流れ、家庭裁判所における審理、少年鑑別所の鑑別・観護処遇・地域援助、少年院の矯正教育について理解する
第12回	産業・労働分野に関係する法律・制度	産業・労働分野において法令・制度が重要となった経緯、衛生管理体制の概略と関連法令、心の健康の保持増進に係る主な制度と関連法令を理解する
第13回	関係機関の連携	関係機関の連携について理解する
第14回	まとめ	心の支援に関する全体像を法律や制度の観点から把握し、国民からの期待や社会的使命を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料の復習。関係資料の収集・まとめ。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しない。必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
特定の参考書は指定しない。必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業平常点が60％、レポート提出を40％とする。レポートは1回とし、内容を総合的に判断する。履修者は必ず、レポートを提出すること。毎回の授業は対面授業のため、出席を重視することに注意のこと。

【学生の意見等からの気づき】
各分野の法や制度の変化に対応する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
受講生の関心に応じて、授業計画が若干変更される可能性がある。

【Outline (in English)】
Make it possible to acquire appropriate knowledge and skills of Psychology.
At the end of the course, students are expected to gain the knowledge to become a psychologist.
Before each class meeting, students be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least two hour for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the following Short reports: 40%, in class contribution: 60%.

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク演習Ⅰ

中條　桂子

配当年次／単位数：**2年次／2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る科目との関係性も視野に入れつつ、ソーシャルワークの基礎的な知識と技術について、実践的に習得する。

【到達目標】
・ソーシャルワーカーとして自己理解を深め、動機と目的意識を明確に示すことができる。
・ソーシャルワーカーとして利用者を理解し、必要な基本的な態度を示すことができる。
・ソーシャルワーカーに求められる基本的なコミュニケーション・面接技術を実践することができる。
・ソーシャルワーカーとしてソーシャルワークの展開に必要な基本的知識・技術を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
自己ワーク、グループワーク、ロールプレイ、事例検討等を活用して、ソーシャルワークの基礎的な知識と技術を実践的に習得する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらい・進め方・留意点等
第2回	自己覚知①	自己の特性の理解
第3回	自己覚知②	自他の違いの理解
第4回	援助者の基本姿勢	援助者に求められる基本的態度
第5回	個人の価値観と専門職の価値	専門職に求められる価値、倫理とは
第6回	基本的なコミュニケーション技術	言語・非言語コミュニケーション
第7回	基本的な面接技術①	面接の場と空間、傾聴の方法
第8回	基本的な面接技術②	基本的応答技法
第9回	ソーシャルワークの展開過程①	ケースの発見とエンゲージメントに関する基礎的理解
第10回	ソーシャルワークの展開過程②	アセスメントとプランニングに関する基礎的理解
第11回	ソーシャルワークの展開過程③	アセスメントとプランニングに関する基礎的理解 記録の意義と技術
第12回	ソーシャルワークの展開過程④	支援の実施とモニタリングに関する基礎的理解 プレゼンテーション技術の理解
第13回	ソーシャルワークの展開過程⑤	支援の終結と評価、アフターケアに関する基礎的理解
第14回	グループダイナミクスについて	グループダイナミクス活用技術の基礎的理解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けて、与えられた課題について十分に準備し、学習した内容については制度などと照らし合わせ、十分な復習を行っておくこと。本授業の準備・復習時間は各1時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜指定する。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士・精神保健福祉士養成講座1　ソーシャルワーク演習（共通科目）』中央法規

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
より効果的なロールプレイ等の体験型の学習方法の改善、開発に努める。

【その他の重要事項】
本授業は、来年度ソーシャルワーク実習の履修を予定している者のみ履修できる。
授業計画は担当教員により変更する場合がある。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク演習Ⅰ

根本　輝

配当年次／単位数：2年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る科目との関係性も視野に入れつつ、ソーシャルワークの基礎的な知識と技術について、実践的に習得する。

【到達目標】
・ソーシャルワーカーとして自己理解を深め、動機と目的意識を明確に示すことができる。
・ソーシャルワーカーとして利用者を理解し、必要な基本的な態度を示すことができる。
・ソーシャルワーカーに求められる基本的なコミュニケーション・面接技術を実践することができる。
・ソーシャルワーカーとしてソーシャルワークの展開に必要な基本的知識・技術を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
自己ワーク、グループワーク、ロールプレイ、事例検討等を活用して、ソーシャルワークの基礎的な知識と技術を実践的に習得する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらい・進め方・留意点等
第2回	自己覚知①	自己の特性の理解
第3回	自己覚知②	自他の違いの理解
第4回	援助者の基本姿勢	援助者に求められる基本的態度
第5回	個人の価値観と専門職の価値	専門職に求められる価値、倫理とは
第6回	基本的なコミュニケーション技術	言語・非言語コミュニケーション
第7回	基本的な面接技術①	面接の場と空間、傾聴の方法
第8回	基本的な面接技術②	基本的応答技法
第9回	ソーシャルワークの展開過程①	ケースの発見とエンゲージメントに関する基礎的理解
第10回	ソーシャルワークの展開過程②	アセスメントとプランニングに関する基礎的理解
第11回	ソーシャルワークの展開過程③	アセスメントとプランニングに関する基礎的理解 記録の意義と技術
第12回	ソーシャルワークの展開過程④	支援の実施とモニタリングに関する基礎的理解 プレゼンテーション技術の理解
第13回	ソーシャルワークの展開過程⑤	支援の終結と評価、アフターケアに関する基礎的理解
第14回	グループダイナミクスについて	グループダイナミクス活用技術の基礎的理解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けて、与えられた課題について十分に準備し、学習した内容については制度などと照らし合わせ、十分な復習を行っておくこと。本授業の準備・復習時間は各1時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜指定する。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士・精神保健福祉士養成講座1　ソーシャルワーク演習（共通科目）』中央法規

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
より効果的なロールプレイ等の体験型の学習方法の改善、開発に努める。

【その他の重要事項】
本授業は、来年度ソーシャルワーク実習の履修を予定している者のみ履修できる。
授業計画は担当教員により変更する場合がある。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク演習Ⅰ

西田　ちゆき

配当年次／単位数：2年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る科目との関係性も視野に入れつつ、ソーシャルワークの基礎的な知識と技術について、実践的に習得する。

【到達目標】
・ソーシャルワーカーとして自己理解を深め、動機と目的意識を明確に示すことができる。
・ソーシャルワーカーとして利用者を理解し、必要な基本的な態度を示すことができる。
・ソーシャルワーカーに求められる基本的なコミュニケーション・面接技術を実践することができる。
・ソーシャルワーカーとしてソーシャルワークの展開に必要な基本的知識・技術を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
自己ワーク、グループワーク、ロールプレイ、事例検討等を活用して、ソーシャルワークの基礎的な知識と技術を実践的に習得する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらい・進め方・留意点等
第2回	自己覚知①	自己の特性の理解
第3回	自己覚知②	自他の違いの理解
第4回	援助者の基本姿勢	援助者に求められる基本的態度
第5回	個人の価値観と専門職の価値	専門職に求められる価値、倫理とは
第6回	基本的なコミュニケーション技術	言語・非言語コミュニケーション
第7回	基本的な面接技術①	面接の場と空間、傾聴の方法
第8回	基本的な面接技術②	基本的応答技法
第9回	ソーシャルワークの展開過程①	ケースの発見とエンゲージメントに関する基礎的理解
第10回	ソーシャルワークの展開過程②	アセスメントとプランニングに関する基礎的理解
第11回	ソーシャルワークの展開過程③	アセスメントとプランニングに関する基礎的理解 記録の意義と技術
第12回	ソーシャルワークの展開過程④	支援の実施とモニタリングに関する基礎的理解 プレゼンテーション技術の理解
第13回	ソーシャルワークの展開過程⑤	支援の終結と評価、アフターケアに関する基礎的理解
第14回	グループダイナミクスについて	グループダイナミクス活用技術の基礎的理解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けて、与えられた課題について十分に準備し、学習した内容については制度などと照らし合わせ、十分な復習を行っておくこと。本授業の準備・復習時間は各1時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜指定する。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士・精神保健福祉士養成講座1　ソーシャルワーク演習（共通科目）』中央法規

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
より効果的なロールプレイ等の体験型の学習方法の改善、開発に努める。

【その他の重要事項】
本授業は、来年度ソーシャルワーク実習の履修を予定している者のみ履修できる。
授業計画は担当教員により変更する場合がある。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク演習Ⅱ

伊藤　正子

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ／N7011）ため注意。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導(ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク演習Ⅱ

佐藤　繭美

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ／N7015）ため注意。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導(ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク演習Ⅱ

岩崎　晋也

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ／N7012）ため注意。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導(ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク演習Ⅱ

宮城　孝

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ／N7016）ため注意。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導(ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク演習Ⅱ

安西　美咲

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ／N7017）ため注意。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導(ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク演習Ⅲ

中條　桂子

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅲ／N7022）ため注意。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導(ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見 アウトリーチ
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座７ソーシャルワーク演習（社会専門)』中央法規

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク演習Ⅲ

島谷　綾郁

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅲ／N7023）ため注意。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導(ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見 アウトリーチ
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座７ ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク演習Ⅲ

西田　ちゆき

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅲ／N7024）ため注意。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導(ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見 アウトリーチ
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座７ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク演習Ⅳ

中條　桂子

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅳ／N7032）ため注意。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワーク実践に係る知識と技術について、ソーシャルワーク実習における体験を踏まえ、より実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

【到達目標】
・ソーシャルワークのスキルの内容について事例に応じて適切に説明できる。
・ソーシャルワーカーに求められる倫理と基本的な態度形成を強める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、ソーシャルワーク実習における各自の個別的な体験も視野に入れつつ、テーマ別の事例検討を集団指導により行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	困難・多問題事例検討①	困難・多問題事例への対応の理解① 貧困
第3回	困難・多問題事例検討②	困難・多問題事例への対応の理解② ひきこもり
第4回	困難・多問題事例検討③	困難・多問題事例への対応の理解③ 高齢者虐待
第5回	困難・多問題事例検討④	困難・多問題事例への対応の理解④ 児童虐待
第6回	困難・多問題事例検討⑤	困難・多問題事例への対応の理解⑤ 家庭内暴力（DV）
第7回	困難・多問題事例検討⑥	困難・多問題事例への対応の理解⑥ 社会的排除
第8回	困難・多問題事例検討⑦	困難・多問題事例への対応の理解⑦ 災害時
第9回	困難・多問題事例検討⑧	困難・多問題事例への対応の理解⑧ 終末期ケア
第10回	地域福祉の基盤整備と開発①	地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握
第11回	地域福祉の基盤整備と開発②	地域福祉の計画
第12回	地域福祉の基盤整備と開発③	ネットワーキング
第13回	地域福祉の基盤整備と開発④	社会資源の活用・調整・開発
第14回	地域福祉の基盤整備と開発⑤	サービスの評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員により与えられた課題について、報告できるように作業し準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座７ ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
ソーシャルワーク実習の体験と事例検討の理論的統合をはかる学習方法を工夫します。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合があります。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能です。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク演習Ⅳ

島谷　綾郁

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅳ／N7033）ため注意。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワーク実践に係る知識と技術について、ソーシャルワーク実習における体験を踏まえ、より実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

【到達目標】
・ソーシャルワークのスキルの内容について事例に応じて適切に説明できる。
・ソーシャルワーカーに求められる倫理と基本的な態度形成を強める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、ソーシャルワーク実習における各自の個別的な体験も視野に入れつつ、テーマ別の事例検討を集団指導により行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	困難・多問題事例検討①	困難・多問題事例への対応の理解① 貧困
第3回	困難・多問題事例検討②	困難・多問題事例への対応の理解② ひきこもり
第4回	困難・多問題事例検討③	困難・多問題事例への対応の理解③ 高齢者虐待
第5回	困難・多問題事例検討④	困難・多問題事例への対応の理解④ 児童虐待
第6回	困難・多問題事例検討⑤	困難・多問題事例への対応の理解⑤ 家庭内暴力（DV）
第7回	困難・多問題事例検討⑥	困難・多問題事例への対応の理解⑥ 社会的排除
第8回	困難・多問題事例検討⑦	困難・多問題事例への対応の理解⑦ 災害時
第9回	困難・多問題事例検討⑧	困難・多問題事例への対応の理解⑧ 終末期ケア
第10回	地域福祉の基盤整備と開発①	地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握
第11回	地域福祉の基盤整備と開発②	地域福祉の計画
第12回	地域福祉の基盤整備と開発③	ネットワーキング
第13回	地域福祉の基盤整備と開発④	社会資源の活用・調整・開発
第14回	地域福祉の基盤整備と開発⑤	サービスの評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員により与えられた課題について、報告できるように作業し準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座７ ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
ソーシャルワーク実習の体験と事例検討の理論的統合をはかる学習方法を工夫します。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合があります。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能です。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク演習Ⅳ

西田　ちゆき

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅳ／N7034）ため注意。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワーク実践に係る知識と技術について、ソーシャルワーク実習における体験を踏まえ、より実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

【到達目標】
・ソーシャルワークのスキルの内容について事例に応じて適切に説明できる。
・ソーシャルワーカーに求められる倫理と基本的な態度形成を強める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、ソーシャルワーク実習における各自の個別的な体験も視野に入れつつ、テーマ別の事例検討を集団指導により行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	困難・多問題事例検討①	困難・多問題事例への対応の理解① 貧困
第3回	困難・多問題事例検討②	困難・多問題事例への対応の理解② ひきこもり
第4回	困難・多問題事例検討③	困難・多問題事例への対応の理解③ 高齢者虐待
第5回	困難・多問題事例検討④	困難・多問題事例への対応の理解④ 児童虐待
第6回	困難・多問題事例検討⑤	困難・多問題事例への対応の理解⑤ 家庭内暴力（DV）
第7回	困難・多問題事例検討⑥	困難・多問題事例への対応の理解⑥ 社会的排除
第8回	困難・多問題事例検討⑦	困難・多問題事例への対応の理解⑦ 災害時
第9回	困難・多問題事例検討⑧	困難・多問題事例への対応の理解⑧ 終末期ケア
第10回	地域福祉の基盤整備と開発①	地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握
第11回	地域福祉の基盤整備と開発②	地域福祉の計画
第12回	地域福祉の基盤整備と開発③	ネットワーキング
第13回	地域福祉の基盤整備と開発④	社会資源の活用・調整・開発
第14回	地域福祉の基盤整備と開発⑤	サービスの評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員により与えられた課題について、報告できるように作業し準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座７ ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
ソーシャルワーク実習の体験と事例検討の理論的統合をはかる学習方法を工夫します。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合があります。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能です。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク演習Ⅴ

髙良　麻子

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅴ／N7035）ため注意。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワーク実習や社会福祉関連科目等での学びをもとに、ソーシャルワークの価値、知識、技術の総体としての実践能力の習得を目指す。中でも、人びとのウェルビーイングの増進と社会正義の実現に向けて、ミクロ・メゾ・マクロシステムの連鎖的変化を目標とした、分野横断的で包括的なソーシャルワークの実践方法・技術の統合的な活用を習得することに注目する。

【到達目標】
・人と環境との関係からニーズを把握できる。
・ミクロ・メゾ・マクロシステムの交互作用の仮説が構築できる。
・クライエントがニーズを充足できる交互作用への連鎖的変化を構想できる。
・ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処を検討できる。
・ソーシャルワークの実践方法・技術を活用して、変化を促進する介入を試すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
指定する設定のソーシャルワーカーとしてグループで検討しながら、ロールプレイ等によってソーシャルワークの実践展開過程を擬似体験する。その際、ソーシャルワーク実習での経験を最大限活かす。そのため、事前の準備と授業中での積極的な参加が求められる。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	所属組織の理解	組織アセスメント
第3回	地域の理解と実践環境の整備	地域アセスメント ネットワーキング
第4回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践①	ニーズの発見　アウトリーチ アセスメント
第5回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践②	アセスメント（ケース会議） チームアプローチ プレゼンテーション ファシリテーション
第6回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践③	アウトリーチ　エンゲージメント（面接）
第7回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践④	アセスメント（面接）
第8回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑤	アセスメント（連鎖的変化の構想）　スーパービジョン
第9回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑥	プランニング（連鎖的変化に向けた計画）
第10回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑦	プランニング（ケース会議） ファシリテーション コーディネーション
第11回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処①	メゾ・マクロシステムの問題把握
第12回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処②	メゾ・マクロシステムの問題の構造的把握 （地域ケア推進会議） ファシリテーション
第13回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処③	メゾ・マクロシステムの問題への対応検討 （地域ケア推進会議） ファシリテーション ネゴシエーション
第14回	実習・演習の総括	まとめと振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けて、与えられた課題について十分に準備し、学習した内容については振り返りを行うこと。本授業の準備・復習時間は各2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座7　ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規
髙良麻子・佐々木千里編著（2022）『ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために– スクールソーシャルワーカーの事例から –』かもがわ出版.

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 100％

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見をもとに、毎回の授業の最初に演習の進捗の振り返りを行います。

【その他の重要事項】
本授業は、ソーシャルワーク実習を履修した者のみ履修できる。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク演習Ⅴ

髙良　麻子

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅴ／N7036）ため注意。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワーク実習や社会福祉関連科目等での学びをもとに、ソーシャルワークの価値、知識、技術の総体としての実践能力の習得を目指す。中でも、人びとのウェルビーイングの増進と社会正義の実現に向けて、ミクロ・メゾ・マクロシステムの連鎖的変化を目標とした、分野横断的で包括的なソーシャルワークの実践方法・技術の統合的な活用を習得することに注目する。

【到達目標】
・人と環境との関係からニーズを把握できる。
・ミクロ・メゾ・マクロシステムの交互作用の仮説が構築できる。
・クライエントがニーズを充足できる交互作用への連鎖的変化を構想できる。
・ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処を検討できる。
・ソーシャルワークの実践方法・技術を活用して、変化を促進する介入を試すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
指定する設定のソーシャルワーカーとしてグループで検討しながら、ロールプレイ等によってソーシャルワークの実践展開過程を擬似体験する。その際、ソーシャルワーク実習での経験を最大限活かす。そのため、事前の準備と授業中での積極的な参加が求められる。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	所属組織の理解	組織アセスメント
第3回	地域の理解と実践環境の整備	地域アセスメント ネットワーキング
第4回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践①	ニーズの発見　アウトリーチ アセスメント
第5回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践②	アセスメント（ケース会議） チームアプローチ プレゼンテーション ファシリテーション
第6回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践③	アウトリーチ　エンゲージメント（面接）
第7回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践④	アセスメント（面接）
第8回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑤	アセスメント（連鎖的変化の構想） スーパービジョン
第9回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑥	プランニング（連鎖的変化に向けた計画）
第10回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑦	プランニング（ケース会議） ファシリテーション コーディネーション
第11回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処①	メゾ・マクロシステムの問題把握
第12回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処②	メゾ・マクロシステムの問題の構造的把握 （地域ケア推進会議） ファシリテーション
第13回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処③	メゾ・マクロシステムの問題への対応検討 （地域ケア推進会議） ファシリテーション ネゴシエーション
第14回	実習・演習の総括	まとめと振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けて、与えられた課題について十分に準備し、学習した内容については振り返りを行うこと。本授業の準備・復習時間は各2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規
髙良麻子・佐々木千里編著（2022）『ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために– スクールソーシャルワーカーの事例から– 』かもがわ出版.

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 100％

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見をもとに、毎回の授業の最初に演習の進捗の振り返りを行います。

【その他の重要事項】
本授業は、ソーシャルワーク実習を履修した者のみ履修できる。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク演習Ⅴ

髙良　麻子

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅴ／N7037）ため注意。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワーク実習や社会福祉関連科目等での学びをもとに、ソーシャルワークの価値、知識、技術の総体としての実践能力の習得を目指す。中でも、人びとのウェルビーイングの増進と社会正義の実現に向けて、ミクロ・メゾ・マクロシステムの連鎖的変化を目標とした、分野横断的で包括的なソーシャルワークの実践方法・技術の統合的な活用を習得することに注目する。

【到達目標】
・人と環境との関係からニーズを把握できる。
・ミクロ・メゾ・マクロシステムの交互作用の仮説が構築できる。
・クライエントがニーズを充足できる交互作用への連鎖的変化を構想できる。
・ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処を検討できる。
・ソーシャルワークの実践方法・技術を活用して、変化を促進する介入を試すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
指定する設定のソーシャルワーカーとしてグループで検討しながら、ロールプレイ等によってソーシャルワークの実践展開過程を擬似体験する。その際、ソーシャルワーク実習での経験を最大限活かす。そのため、事前の準備と授業中での積極的な参加が求められる。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	所属組織の理解	組織アセスメント
第3回	地域の理解と実践環境の整備	地域アセスメント ネットワーキング
第4回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践①	ニーズの発見　アウトリーチ アセスメント
第5回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践②	アセスメント（ケース会議） チームアプローチ プレゼンテーション ファシリテーション
第6回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践③	アウトリーチ　エンゲージメント（面接）
第7回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践④	アセスメント（面接）
第8回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑤	アセスメント（連鎖的変化の構想） スーパービジョン
第9回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑥	プランニング（連鎖的変化に向けた計画）
第10回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑦	プランニング（ケース会議） ファシリテーション コーディネーション
第11回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処①	メゾ・マクロシステムの問題把握
第12回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処②	メゾ・マクロシステムの問題の構造的把握 （地域ケア推進会議） ファシリテーション
第13回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処③	メゾ・マクロシステムの問題への対応検討 （地域ケア推進会議） ファシリテーション ネゴシエーション
第14回	実習・演習の総括	まとめと振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けて、与えられた課題について十分に準備し、学習した内容については振り返りを行うこと。本授業の準備・復習時間は各2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規
髙良麻子・佐々木千里編著（2022）『ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために– スクールソーシャルワーカーの事例から– 』かもがわ出版.

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 100％

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見をもとに、毎回の授業の最初に演習の進捗の振り返りを行います。

【その他の重要事項】
本授業は、ソーシャルワーク実習を履修した者のみ履修できる。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク演習Ⅴ

髙良　麻子

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅳ／N7037）ため注意。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワーク実習や社会福祉関連科目等での学びをもとに、ソーシャルワークの価値、知識、技術の総体としての実践能力の習得を目指す。中でも、人びとのウェルビーイングの増進と社会正義の実現に向けて、ミクロ・メゾ・マクロシステムの連鎖的変化を目標とした、分野横断的で包括的なソーシャルワークの実践方法・技術の統合的な活用を習得することに注目する。

【到達目標】
・人と環境との関係からニーズを把握できる。
・ミクロ・メゾ・マクロシステムの交互作用の仮説が構築できる。
・クライエントがニーズを充足できる交互作用への連鎖的変化を構想できる。
・ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処を検討できる。
・ソーシャルワークの実践方法・技術を活用して、変化を促進する介入を試すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
指定する設定のソーシャルワーカーとしてグループで検討しながら、ロールプレイ等によってソーシャルワークの実践展開過程を擬似体験する。その際、ソーシャルワーク実習での経験を最大限活かす。そのため、事前の準備と授業中での積極的な参加が求められる。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	所属組織の理解	組織アセスメント
第3回	地域の理解と実践環境の整備	地域アセスメント ネットワーキング
第4回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践①	ニーズの発見　アウトリーチ アセスメント
第5回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践②	アセスメント（ケース会議） チームアプローチ プレゼンテーション ファシリテーション
第6回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践③	アウトリーチ　エンゲージメント（面接）
第7回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践④	アセスメント（面接）
第8回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑤	アセスメント（連鎖的変化の構想） スーパービジョン
第9回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑥	プランニング（連鎖的変化に向けた計画）
第10回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑦	プランニング（ケース会議） ファシリテーション コーディネーション
第11回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処①	メゾ・マクロシステムの問題把握
第12回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処②	メゾ・マクロシステムの問題の構造的把握 （地域ケア推進会議） ファシリテーション
第13回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処③	メゾ・マクロシステムの問題への対応検討 （地域ケア推進会議） ファシリテーション ネゴシエーション
第14回	実習・演習の総括	まとめと振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けて、与えられた課題について十分に準備し、学習した内容については振り返りを行うこと。本授業の準備・復習時間は各2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規
髙良麻子・佐々木千里編著（2022）『ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために– スクールソーシャルワーカーの事例から– 』かもがわ出版.

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 100％

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見をもとに、毎回の授業の最初に演習の進捗の振り返りを行います。

【その他の重要事項】
本授業は、ソーシャルワーク実習を履修した者のみ履修できる。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク実習指導Ⅰ

伊藤　正子

配当年次／単位数：2年次／1単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の事前学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
・自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。
・配属実習分野や施設・機関等について理解したうえで、明確な実習の目標や達成課題を計画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習計画作成の方法、およびソーシャルワークに必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際的に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第2回	実習先の検討・決定	個別指導による希望実習先・内容の検討・決定
第3回	実習計画の作成方法	実習課題の定め方、事前学習の進め方の理解
第4回	実習地域の理解	実習地域の自治体の特徴・歴史的変遷・社会資源等の理解
第5回	実習領域の理解	法制度や施策、施設・機関、専門職、利用者の実態やニーズ等の理解
第6回	実習施設・機関の理解	理念・目的、組織体系、職員体制、業務内容、利用者の実態やニーズ等の理解
第7回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第8回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第9回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導
第10回	実習計画の作成④	実習計画書の完成
第11回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第12回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第13回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護（個人情報保護法の理解を含む）、守秘義務について
第14回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜指定する。

【参考書】
適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」は、「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の履修予定者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能である。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク実習指導Ⅰ

佐藤　繭美

配当年次／単位数：2年次／1単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の事前学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
・自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。
・配属実習分野や施設・機関等について理解したうえで、明確な実習の目標や達成課題を計画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習計画作成の方法、およびソーシャルワークに必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際的に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第2回	実習先の検討・決定	個別指導による希望実習先・内容の検討・決定
第3回	実習計画の作成方法	実習課題の定め方、事前学習の進め方の理解
第4回	実習地域の理解	実習地域の自治体の特徴・歴史的変遷・社会資源等の理解
第5回	実習領域の理解	法制度や施策、施設・機関、専門職、利用者の実態やニーズ等の理解
第6回	実習施設・機関の理解	理念・目的、組織体系、職員体制、業務内容、利用者の実態やニーズ等の理解
第7回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第8回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第9回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導
第10回	実習計画の作成④	実習計画書の完成
第11回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第12回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第13回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護（個人情報保護法の理解を含む）、守秘義務について
第14回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜指定する。

【参考書】
適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」は、「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の履修予定者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能である。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク実習指導Ⅰ

岩崎　晋也

配当年次／単位数：2年次／1単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の事前学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
・自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。
・配属実習分野や施設・機関等について理解したうえで、明確な実習の目標や達成課題を計画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習計画作成の方法、およびソーシャルワークに必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際的に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第2回	実習先の検討・決定	個別指導による希望実習先・内容の検討・決定
第3回	実習計画の作成方法	実習課題の定め方、事前学習の進め方の理解
第4回	実習地域の理解	実習地域の自治体の特徴・歴史的変遷・社会資源等の理解
第5回	実習領域の理解	法制度や施策、施設・機関、専門職、利用者の実態やニーズ等の理解
第6回	実習施設・機関の理解	理念・目的、組織体系、職員体制、業務内容、利用者の実態やニーズ等の理解
第7回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第8回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第9回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導
第10回	実習計画の作成④	実習計画書の完成
第11回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第12回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第13回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護（個人情報保護法の理解を含む）、守秘義務について
第14回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜指定する。

【参考書】
適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」は、「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の履修予定者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能である。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク実習指導Ⅰ

宮城　孝

配当年次／単位数：2年次／1単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の事前学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
・自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。
・配属実習分野や施設・機関等について理解したうえで、明確な実習の目標や達成課題を計画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習計画作成の方法、およびソーシャルワークに必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際的に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第2回	実習先の検討・決定	個別指導による希望実習先・内容の検討・決定
第3回	実習計画の作成方法	実習課題の定め方、事前学習の進め方の理解
第4回	実習地域の理解	実習地域の自治体の特徴・歴史的変遷・社会資源等の理解
第5回	実習領域の理解	法制度や施策、施設・機関、専門職、利用者の実態やニーズ等の理解
第6回	実習施設・機関の理解	理念・目的、組織体系、職員体制、業務内容、利用者の実態やニーズ等の理解
第7回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第8回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第9回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導
第10回	実習計画の作成④	実習計画書の完成
第11回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第12回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第13回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護（個人情報保護法の理解を含む）、守秘義務について
第14回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜指定する。

【参考書】
適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」は、「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の履修予定者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能である。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク実習指導Ⅰ

安西　美咲

配当年次／単位数：**2年次／1単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の事前学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
・自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。
・配属実習分野や施設・機関等について理解したうえで、明確な実習の目標や達成課題を計画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習計画作成の方法、およびソーシャルワークに必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際的に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第2回	実習先の検討・決定	個別指導による希望実習先・内容の検討・決定
第3回	実習計画の作成方法	実習課題の定め方、事前学習の進め方の理解
第4回	実習地域の理解	実習地域の自治体の特徴・歴史的変遷・社会資源等の理解
第5回	実習領域の理解	法制度や施策、施設・機関、専門職、利用者の実態やニーズ等の理解
第6回	実習施設・機関の理解	理念・目的、組織体系、職員体制、業務内容、利用者の実態やニーズ等の理解
第7回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第8回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第9回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導
第10回	実習計画の作成④	実習計画書の完成
第11回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第12回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第13回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護（個人情報保護法の理解を含む）、守秘義務について
第14回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜指定する。

【参考書】
適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」は、「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の履修予定者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能である。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク実習指導Ⅱ

伊藤　正子

配当年次／単位数：3年次／1単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の振り返りと「ソーシャルワーク実習Ⅱ」の事前学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
ソーシャルワーク実習Ⅰの振り返りを通して、自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。
ソーシャルワーク実習Ⅱの配属実習分野や施設・機関等について理解したうえで、明確な実習の目標や達成課題を計画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
事後学習および事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習の振り返り、実習計画作成の方法、およびソーシャルワーク実践に必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際的に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第2回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第3回	実習の振り返り②	印象に残る利用者と必要とされたソーシャルワーク技術
第4回	実習地域や施設・機関の理解	実習地域の自治体や実習先の理念、職員体制、利用者等
第5回	領域別講義	実習先で必要とされる利用者に関する理解 社会福祉士の役割
第6回	実習への準備	事前訪問等の留意事項
第7回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第8回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第9回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第10回	実習計画の作成④	実習計画書の完成（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第11回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第12回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第13回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護（個人情報保護法の理解を含む）、守秘義務について
第14回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習指導」は、「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能である。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク実習指導Ⅱ

佐藤　繭美

配当年次／単位数：3年次／1単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の振り返りと「ソーシャルワーク実習Ⅱ」の事前学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
ソーシャルワーク実習Ⅰの振り返りを通して、自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。
ソーシャルワーク実習Ⅱの配属実習分野や施設・機関等について理解したうえで、明確な実習の目標や達成課題を計画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
事後学習および事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習の振り返り、実習計画作成の方法、およびソーシャルワーク実践に必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際的に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第2回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第3回	実習の振り返り②	印象に残る利用者と必要とされたソーシャルワーク技術
第4回	実習地域や施設・機関の理解	実習地域の自治体や実習先の理念、職員体制、利用者等
第5回	領域別講義	実習先で必要とされる利用者に関する理解 社会福祉士の役割
第6回	実習への準備	事前訪問等の留意事項
第7回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第8回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第9回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第10回	実習計画の作成④	実習計画書の完成（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第11回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第12回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第13回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護（個人情報保護法の理解を含む）、守秘義務について
第14回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習指導」は、「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能である。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク実習指導Ⅱ

岩崎　晋也

配当年次／単位数：3年次／1単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の振り返りと「ソーシャルワーク実習Ⅱ」の事前学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
ソーシャルワーク実習Ⅰの振り返りを通して、自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。
ソーシャルワーク実習Ⅱの配属実習分野や施設・機関等について理解したうえで、明確な実習の目標や達成課題を計画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
事後学習および事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習の振り返り、実習計画作成の方法、およびソーシャルワーク実践に必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際的に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第2回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第3回	実習の振り返り②	印象に残る利用者と必要とされたソーシャルワーク技術
第4回	実習地域や施設・機関の理解	実習地域の自治体や実習先の理念、職員体制、利用者等
第5回	領域別講義	実習先で必要とされる利用者に関する理解 社会福祉士の役割
第6回	実習への準備	事前訪問等の留意事項
第7回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第8回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第9回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第10回	実習計画の作成④	実習計画書の完成（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第11回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第12回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第13回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護（個人情報保護法の理解を含む）、守秘義務について
第14回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習指導」は、「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能である。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク実習指導Ⅱ

宮城　孝

配当年次／単位数：3年次／1単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の振り返りと「ソーシャルワーク実習Ⅱ」の事前学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
ソーシャルワーク実習Ⅰの振り返りを通して、自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。
ソーシャルワーク実習Ⅱの配属実習分野や施設・機関等について理解したうえで、明確な実習の目標や達成課題を計画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
事後学習および事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習の振り返り、実習計画作成の方法、およびソーシャルワーク実践に必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際的に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第2回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第3回	実習の振り返り②	印象に残る利用者と必要とされたソーシャルワーク技術
第4回	実習地域や施設・機関の理解	実習地域の自治体や実習先の理念、職員体制、利用者等
第5回	領域別講義	実習先で必要とされる利用者に関する理解 社会福祉士の役割
第6回	実習への準備	事前訪問等の留意事項
第7回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第8回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第9回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第10回	実習計画の作成④	実習計画書の完成（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第11回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第12回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第13回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護（個人情報保護法の理解を含む）、守秘義務について
第14回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習指導」は、「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能である。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク実習指導Ⅱ

安西　美咲

配当年次／単位数：3年次／1単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の振り返りと「ソーシャルワーク実習Ⅱ」の事前学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
ソーシャルワーク実習Ⅰの振り返りを通して、自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。
ソーシャルワーク実習Ⅱの配属実習分野や施設・機関等について理解したうえで、明確な実習の目標や達成課題を計画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
事後学習および事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習の振り返り、実習計画作成の方法、およびソーシャルワーク実践に必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際的に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第2回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第3回	実習の振り返り②	印象に残る利用者と必要とされたソーシャルワーク技術
第4回	実習地域や施設・機関の理解	実習地域の自治体や実習先の理念、職員体制、利用者等
第5回	領域別講義	実習先で必要とされる利用者に関する理解 社会福祉士の役割
第6回	実習への準備	事前訪問等の留意事項
第7回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第8回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第9回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第10回	実習計画の作成④	実習計画書の完成（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第11回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第12回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第13回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護（個人情報保護法の理解を含む）、守秘義務について
第14回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習指導」は、「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能である。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク実習指導Ⅲ

伊藤　正子

配当年次／単位数：3年次／1単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習」の事後における学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
・振り返りをとおして実習の意義について適切に説明できる。
・ソーシャルワーカーに求められる基本的な技能や資質を習得できる。
・今後の自らの課題について自覚することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
実習の事後学習として、個別指導並びに集団指導を通しての振り返りや事例検討を行い、具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得するとともに、最終的には実習総括の報告書を作成し、実習の評価の報告会を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	全体の流れの理解
第2回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第3回	実習の振り返り②	印象に残る利用者と必要とされた相談援助技術
第4回	実習の振り返り③	実習先組織・機関・団体の役割・機能
第5回	実習の振り返り④	ソーシャルワークの価値・知識・技術
第6回	実習報告書の作成の説明	実習報告書作成の目標と内容
第7回	実習報告書の個別指導①	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理
第8回	実習報告書の個別指導②	実習経験を専門的援助技術として概念化、理論化し体系立てる
第9回	実習報告書の個別指導③	実習報告書の完成
第10回	実習報告会の準備①	報告会の内容検討
第11回	実習報告会の準備②	配布資料の作成
第12回	実習報告会の準備③	リハーサルによるプレゼンテーション・スキルの理解
第13回	実習報告会(実習の評価全体総括会)	実習報告会における報告と運営
第14回	報告会の振り返り	報告内容と質疑応答結果の検討・課題整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。実習報告書を完成させるとともに、実習報告会に参加し、自らの報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。
欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習終了後の課題整理について具体的な指導が可能である。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク実習指導Ⅲ

佐藤　繭美

配当年次／単位数：3年次／1単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習」の事後における学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
・振り返りをとおして実習の意義について適切に説明できる。
・ソーシャルワーカーに求められる基本的な技能や資質を習得できる。
・今後の自らの課題について自覚することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
実習の事後学習として、個別指導並びに集団指導を通しての振り返りや事例検討を行い、具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得するとともに、最終的には実習総括の報告書を作成し、実習の評価の報告会を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	全体の流れの理解
第2回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第3回	実習の振り返り②	印象に残る利用者と必要とされた相談援助技術
第4回	実習の振り返り③	実習先組織・機関・団体の役割・機能
第5回	実習の振り返り④	ソーシャルワークの価値・知識・技術
第6回	実習報告書の作成の説明	実習報告書作成の目標と内容
第7回	実習報告書の個別指導①	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理
第8回	実習報告書の個別指導②	実習経験を専門的援助技術として概念化、理論化し体系立てる
第9回	実習報告書の個別指導③	実習報告書の完成
第10回	実習報告会の準備①	報告会の内容検討
第11回	実習報告会の準備②	配布資料の作成
第12回	実習報告会の準備③	リハーサルによるプレゼンテーション・スキルの理解
第13回	実習報告会(実習の評価全体総括会)	実習報告会における報告と運営
第14回	報告会の振り返り	報告内容と質疑応答結果の検討・課題整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。実習報告書を完成させるとともに、実習報告会に参加し、自らの報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。
欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習終了後の課題整理について具体的な指導が可能である。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク実習指導Ⅲ

岩崎　晋也

配当年次／単位数：3年次／1単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習」の事後における学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
・振り返りをとおして実習の意義について適切に説明できる。
・ソーシャルワーカーに求められる基本的な技能や資質を習得できる。
・今後の自らの課題について自覚することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
実習の事後学習として、個別指導並びに集団指導を通しての振り返りや事例検討を行い、具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得するとともに、最終的には実習総括の報告書を作成し、実習の評価の報告会を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	全体の流れの理解
第2回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第3回	実習の振り返り②	印象に残る利用者と必要とされた相談援助技術
第4回	実習の振り返り③	実習先組織・機関・団体の役割・機能
第5回	実習の振り返り④	ソーシャルワークの価値・知識・技術
第6回	実習報告書の作成の説明	実習報告書作成の目標と内容
第7回	実習報告書の個別指導①	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理
第8回	実習報告書の個別指導②	実習経験を専門的援助技術として概念化、理論化し体系立てる
第9回	実習報告書の個別指導③	実習報告書の完成
第10回	実習報告会の準備①	報告会の内容検討
第11回	実習報告会の準備②	配布資料の作成
第12回	実習報告会の準備③	リハーサルによるプレゼンテーション・スキルの理解
第13回	実習報告会(実習の評価全体総括会)	実習報告会における報告と運営
第14回	報告会の振り返り	報告内容と質疑応答結果の検討・課題整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。実習報告書を完成させるとともに、実習報告会に参加し、自らの報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。
欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習終了後の課題整理について具体的な指導が可能である。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク実習指導Ⅲ

宮城　孝

配当年次／単位数：3年次／1単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習」の事後における学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
・振り返りをとおして実習の意義について適切に説明できる。
・ソーシャルワーカーに求められる基本的な技能や資質を習得できる。
・今後の自らの課題について自覚することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
実習の事後学習として、個別指導並びに集団指導を通しての振り返りや事例検討を行い、具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得するとともに、最終的には実習総括の報告書を作成し、実習の評価の報告会を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	全体の流れの理解
第2回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第3回	実習の振り返り②	印象に残る利用者と必要とされた相談援助技術
第4回	実習の振り返り③	実習先組織・機関・団体の役割・機能
第5回	実習の振り返り④	ソーシャルワークの価値・知識・技術
第6回	実習報告書の作成の説明	実習報告書作成の目標と内容
第7回	実習報告書の個別指導①	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理
第8回	実習報告書の個別指導②	実習経験を専門的援助技術として概念化、理論化し体系立てる
第9回	実習報告書の個別指導③	実習報告書の完成
第10回	実習報告会の準備①	報告会の内容検討
第11回	実習報告会の準備②	配布資料の作成
第12回	実習報告会の準備③	リハーサルによるプレゼンテーション・スキルの理解
第13回	実習報告会(実習の評価全体総括会)	実習報告会における報告と運営
第14回	報告会の振り返り	報告内容と質疑応答結果の検討・課題整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。実習報告書を完成させるとともに、実習報告会に参加し、自らの報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。
欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習終了後の課題整理について具体的な指導が可能である。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク実習指導Ⅲ

安西　美咲

配当年次／単位数：**3年次／1単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習」の事後における学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
・振り返りをとおして実習の意義について適切に説明できる。
・ソーシャルワーカーに求められる基本的な技能や資質を習得できる。
・今後の自らの課題について自覚することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
実習の事後学習として、個別指導並びに集団指導を通しての振り返りや事例検討を行い、具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得するとともに、最終的には実習総括の報告書を作成し、実習の評価の報告会を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	全体の流れの理解
第2回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第3回	実習の振り返り②	印象に残る利用者と必要とされた相談援助技術
第4回	実習の振り返り③	実習先組織・機関・団体の役割・機能
第5回	実習の振り返り④	ソーシャルワークの価値・知識・技術
第6回	実習報告書の作成の説明	実習報告書作成の目標と内容
第7回	実習報告書の個別指導①	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理
第8回	実習報告書の個別指導②	実習経験を専門的援助技術として概念化、理論化し体系立てる
第9回	実習報告書の個別指導③	実習報告書の完成
第10回	実習報告会の準備①	報告会の内容検討
第11回	実習報告会の準備②	配布資料の作成
第12回	実習報告会の準備③	リハーサルによるプレゼンテーション・スキルの理解
第13回	実習報告会(実習の評価全体総括会)	実習報告会における報告と運営
第14回	報告会の振り返り	報告内容と質疑応答結果の検討・課題整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。実習報告書を完成させるとともに、実習報告会に参加し、自らの報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。
欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習終了後の課題整理について具体的な指導が可能である。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク実習Ⅰ

伊藤　正子

配当年次／単位数：3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
①実習施設の機能・運営について理解する
②社会福祉士の業務や役割について理解する
③関係職種の役割や機能について理解する
④利用者のニーズを適切に理解する
⑤地域の特性とニーズについて理解する
⑥援助者として適切な観察・記録ができる
⑦実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
⑧利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね2～3月	現場実習	各自、60時間以上、大学が指定する施設・機関にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、実習終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価60％、実習のまとめ40％。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク実習Ⅰ

佐藤　繭美

配当年次／単位数：3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
①実習施設の機能・運営について理解する
②社会福祉士の業務や役割について理解する
③関係職種の役割や機能について理解する
④利用者のニーズを適切に理解する
⑤地域の特性とニーズについて理解する
⑥援助者として適切な観察・記録ができる
⑦実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
⑧利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね2～3月	現場実習	各自、60時間以上、大学が指定する施設・機関にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、実習終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価60％、実習のまとめ40％。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク実習Ⅰ

岩崎　晋也

配当年次／単位数：3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
①実習施設の機能・運営について理解する
②社会福祉士の業務や役割について理解する
③関係職種の役割や機能について理解する
④利用者のニーズを適切に理解する
⑤地域の特性とニーズについて理解する
⑥援助者として適切な観察・記録ができる
⑦実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
⑧利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね2～3月	現場実習	各自、60時間以上、大学が指定する施設・機関にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、実習終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価60％、実習のまとめ40％。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク実習Ⅰ

宮城　孝

配当年次／単位数：3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
①実習施設の機能・運営について理解する
②社会福祉士の業務や役割について理解する
③関係職種の役割や機能について理解する
④利用者のニーズを適切に理解する
⑤地域の特性とニーズについて理解する
⑥援助者として適切な観察・記録ができる
⑦実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
⑧利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね2～3月	現場実習	各自、60時間以上、大学が指定する施設・機関にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、実習終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価60％、実習のまとめ40％。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク実習Ⅰ

安西　美咲

配当年次／単位数：**3年次／2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
①実習施設の機能・運営について理解する
②社会福祉士の業務や役割について理解する
③関係職種の役割や機能について理解する
④利用者のニーズを適切に理解する
⑤地域の特性とニーズについて理解する
⑥援助者として適切な観察・記録ができる
⑦実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
⑧利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね2～3月	現場実習	各自、60時間以上、大学が指定する施設・機関にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、実習終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価60％、実習のまとめ40％。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク実習Ⅱ

伊藤　正子

配当年次／単位数：3年次／4単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。2020年度以前入学者は「N7091 ソーシャルワーク実習」を受講すること。
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
①実習施設の機能・運営について理解する
②社会福祉士の業務や役割について理解する
③関係職種の役割や機能について理解する
④利用者のニーズを適切に理解する
⑤地域の特性とニーズについて理解する
⑥多職種連携のあり方を理解する
⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
⑩援助者として適切な観察・記録ができる
⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね 7 〜 10月	現場実習	各自、180時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価60％、報告書40％。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク実習Ⅱ

佐藤　繭美

配当年次／単位数：3年次／4単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。2020年度以前入学者は「N7095 ソーシャルワーク実習」を受講すること。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
①実習施設の機能・運営について理解する
②社会福祉士の業務や役割について理解する
③関係職種の役割や機能について理解する
④利用者のニーズを適切に理解する
⑤地域の特性とニーズについて理解する
⑥多職種連携のあり方を理解する
⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
⑩援助者として適切な観察・記録ができる
⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね7～10月	現場実習	各自、180時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価60％、報告書40％。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク実習Ⅱ

岩崎　晋也

配当年次／単位数：3年次／4単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。2020年度以前入学者は「N7092 ソーシャルワーク実習」を受講すること。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
①実習施設の機能・運営について理解する
②社会福祉士の業務や役割について理解する
③関係職種の役割や機能について理解する
④利用者のニーズを適切に理解する
⑤地域の特性とニーズについて理解する
⑥多職種連携のあり方を理解する
⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
⑩援助者として適切な観察・記録ができる
⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね7～10月	現場実習	各自、180時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価60％、報告書40％。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク実習Ⅱ

宮城　孝

配当年次／単位数：3年次／4単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。2020年度以前入学者は「N7096 ソーシャルワーク実習」を受講すること。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
①実習施設の機能・運営について理解する
②社会福祉士の業務や役割について理解する
③関係職種の役割や機能について理解する
④利用者のニーズを適切に理解する
⑤地域の特性とニーズについて理解する
⑥多職種連携のあり方を理解する
⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
⑩援助者として適切な観察・記録ができる
⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね7～10月	現場実習	各自、180時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価60％、報告書40％。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク実習Ⅱ

安西　美咲

配当年次／単位数：**3年次／4単位**
備考（履修条件等）：**2021年度以降入学者のみ受講可能。2020年度以前入学者は「N7097 ソーシャルワーク実習」を受講すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
①実習施設の機能・運営について理解する
②社会福祉士の業務や役割について理解する
③関係職種の役割や機能について理解する
④利用者のニーズを適切に理解する
⑤地域の特性とニーズについて理解する
⑥多職種連携のあり方を理解する
⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
⑩援助者として適切な観察・記録ができる
⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね7～10月	現場実習	各自、180時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価60％、報告書40％。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

精神保健ソーシャルワーク演習Ⅰ

眞保　智子

配当年次／単位数：4年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
精神保健ソーシャルワークの知識と技術に関係する他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神保健福祉士に求められる相談援助に必要な基礎的な知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養していきます。

【到達目標】
(1) 自己の動機と目的意識を確認し、自己理解と他者理解を深める契機とします。
(2) 利用者の人間理解や生活理解の方法を学び、実践できるようにしていきます。
(3) 援助専門職として必要な基本的姿勢や態度について理解し、習得していきます。
(4) 援助専門職に求められる面接技法、記録技術の基礎を習得していきます。
(5) 援助専門職に求められるコミュニケーション、コミュニティワークの基礎を習得していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本演習は、精神保健福祉分野の援助専門職に必要な対人援助の基礎を学びます。援助専門職は、自分という人格を通して他者を援助しますので、自分自身を知ること、他者を理解することが重要になります。具体的には、(1)援助専門職を目指すにあたって、自分自身の性格や対人援助・コミュニケーションの傾向を知ること、(2)面接における傾聴の姿勢（人の話を聴けること）を身につけること、を中心とした習得を目指します。授業では、個別指導や集団指導、ロールプレイ等を通して体験型・ディスカッション型で演習を行います。主体的態度で臨み、自らの体験や意見を積極的に述べることが求められます。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本演習のねらいと進め方を説明する
第2回	自己覚知	自己の特性の理解
第3回	自己理解と他者理解	自他の違いの理解
第4回	専門職の価値と倫理	専門職としての価値と倫理綱領の理解
第5回	援助関係形成の理論と面接技術（援助者とは）	援助者としての基本姿勢、バイスティックの原則の理解
第6回	援助関係形成の理論と面接技術（集団力動）	グループダイナミクスを活用するための理論と技術の理解
第7回	アセスメントの基礎（ニーズとは何か）	課題の発見・分析・解決の技術を学ぶ
第8回	記録の技術	情報の収集・整理・伝達の技術を学ぶ
第9回	地域福祉の基盤整備にかかわる技術	地域の福祉ニーズ把握
第10回	地域福祉の基盤整備にかかわる技術（実践）	コミュニティアウトリーチ
第11回	地域福祉の基盤整備にかかわる技術（評価）	コミュニティ・アセスメント技法と計画策定技法とサービス評価
第12回	ネットワーキング	ネットワーク連結技法
第13回	ソーシャルアクション	社会資源の活用・調整・開発
第14回	まとめ	事例検討を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けて、与えられた課題に取り組むこと。なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜指定します。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習への参加態度６０％・課題４０％

【学生の意見等からの気づき】
少人数学習のよさを最大限活用し、学生相互の学びを大切にしています。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆やグループワークの際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用します。

【その他の重要事項】
この科目は、来年度精神保健ソーシャルワーク実習の履修を予定している者のみ履修できます。実習に行くための演習ですので、全出席が前提です。無断欠席は成績評価の対象外となります。来年度の実習は履修することができませんので注意してください。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of psychiatric social work practices. The goals of this course students will be enhancing their necessary skills and knowledge in psychiatric social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

精神保健ソーシャルワーク演習Ⅱ

眞保　智子

配当年次／単位数：4年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
精神保健ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養していきます。また、精神保健福祉士に求められる相談援助に関する知識と技術について、具体的事例の検討やロールプレイなどを用いて実践的に習得します。

【到達目標】
(1)精神保健福祉課題を理解し、その解決に向け総合的かつ包括的な援助を習得する
(2)具体的な相談援助場面及び相談援助の過程で用いる技術を習得する
(3)精神保健福祉相談援助に関する知識と技術について、個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
(1）総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談事例を体系的に取り上げます。(2)個別指導並びに集団指導の下で、学生自身が積極的に報告し議論し合う形で事例研究およびロールプレイ等を行います。(3)精神保健ソーシャルワーク実習における個別体験も視野にいれ，集団指導並びに個別指導による実技指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらい、進め方について説明する
第2回	「精神保健福祉士とは」（グループディスカッションを含む）	精神保健福祉士の理解
第3回	「精神保健福祉士の職業倫理」（ロールプレイを含む）	精神保健福祉士の職業倫理の理解
第4回	援助過程に沿った援助展開（支援計画策定）	インテーク（受理面接）・契約とアセスメント（課題分析）・プランニング（支援計画）・ケアマネジメント
第5回	援助過程に沿った援助展開（モニタリング）	支援の実施・振返り（モニタリング）、効果測定と支援評価・終結とアフターケア
第6回	事例研究（社会的排除）	社会的排除（偏見・差別）
第7回	事例研究（ソーシャルアクション）	退院支援・地域移行・地域生活支援とアウトリーチ、ソーシャルアクション
第8回	事例研究（若者を中心とした地域精神保健福祉）	地域における精神保健福祉（自殺、ひきこもり、児童虐待等）
第9回	事例研究（自助グループ）	地域における精神保健福祉（薬物・アルコール依存等）とピアサポート
第10回	事例研究（働くことへの支援）	就労・雇用とネットワーキング
第11回	事例研究（公的扶助と社会保障）	貧困、低所得、ホームレスの課題と生活保護法と障害年金の理解
第12回	事例研究（リカバリ）	精神科リハビリテーションとチームアプローチ
第13回	事例研究（援助計画の作成）	援助計画の理解、社会資源の活用・調整・開発
第14回	まとめ	外部講師による現場の取り組みについての理解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けて、与えられた課題に取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しないが、事例資料を配布します。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習への参加態度６０％・課題４０％

【学生の意見等からの気づき】
少人数学習のよさを最大限活用し、学生相互の学びを大切にしています。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆やグループワークの際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用する。

【その他の重要事項】
本演習は、今年度精神保健ソーシャルワーク実習および精神保健ソーシャルワーク実習指導の履修登録者のみが履修できます。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of psychiatric social work practices. The goals of this course students will be enhancing their necessary skills and knowledge in psychiatric social work through role play and discussion. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅰ

眞保　智子

配当年次／単位数：3年次／1単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
精神科病院、精神障害のある方を支援する地域の施設での実習の準備を行うために以下の点について指導します。(1) 精神保健ソーシャルワーク実習の意義と概要について理解できるようにします。(2) 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得していきます。

【到達目標】
実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な知識を習得します。精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む。）に関して理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
精神保健ソーシャルワーク実習に係る個別指導、集団指導並びに見学・フィールドワーク等を通して、精神保健ソーシャルワーク実習に必要な知識と技術について具体的に理解し、適切に実習に必要な準備を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	精神保健ソーシャルワーク実習の意義
第2回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関の理解	実習先に関する理解
第3回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関の理解（見学）	見学
第4回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関の理解（個人ワーク）	見学レポート作成
第5回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関の理解（報告）	見学・体験・レポートに基づき議論
第6回	個別面談	実習の目的の確認
第7回	実習先の調整	個別指導による実習先の研究
第8回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関決定	個別指導による実習先について報告
第9回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関の理解（医療機関）	個別指導による実習先（医療機関）調整
第10回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関の理解（地域施設）	個別指導による実習先（地域施設）の研究
第11回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関の理解（行政機関）	個別指導による実習先（行政機関）の研究
第12回	実習施設・事業者・機関・団体の基本的な理解	実習報告会への参加への準備
第13回	実習施設・事業者・機関・団体の発展的な理解	実習報告会への参加
第14回	まとめ	実習報告会の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。実習配属のための面接に必ず出席すること。なお、本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業中に紹介します。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習への参加状況６０％・課題４０％

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートは実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆、グループワークや報告の際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用します。

【その他の重要事項】
精神保健福祉士としての実践をもとに事例検討を行います。

【Outline (in English)】
This course will prepare to internship for work effectively as a psychiatric social worker. The goal of this course students will be enhancing their necessary skills and knowledge in psychiatric social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅱ

眞保　智子

配当年次／単位数：4年次／1単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
精神科病院、精神障害のある方を支援する地域の施設での実習の準備を行うために以下の点について指導します。(1) 精神保健ソーシャルワーク実習の意義と概要について理解できるようにします。(2) 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得していきます。

【到達目標】
精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得して、実習に備えることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
精神保健ソーシャルワーク実習に係る個別指導、集団指導並びに見学・フィールドワーク等を通して、精神保健ソーシャルワーク実習に必要な知識と技術について具体的に理解し、適切に実習に必要な準備を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	実習および実習指導のねらいと留意点の説明
第2回	課題確認	実習課題の確認と事前学習の進め方
第3回	専門的知識と技術	実習先で必要となる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解
第4回	専門的知識と技術（個人ワーク）	実習先で必要となる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関するレポート
第5回	専門的知識と技術（報告）	実習先で必要となる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解と報告
第6回	倫理と責務	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解
第7回	倫理と責務（議論）	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解と事例を通じての議論
第8回	プライバシー保護	実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解（個人情報保護法の理解）
第9回	記録の意義	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解
第10回	記録（実践）	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解と実践
第11回	実習計画の作成	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議をふまえた実習計画の作成
第12回	実習計画の報告	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議をふまえた実習計画の作成と報告
第13回	実習計画の検討	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議　実習計画の修正
第14回	まとめ	実習に向けてまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。なお、本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義中に紹介します。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習への参加状況６０％・課題４０％

【学生の意見等からの気づき】
授業アンケートは実施していません。

【その他の重要事項】
精神保健福祉士としての実践をもとに事例検討を行います。

【Outline (in English)】
This course will prepare to internship for work effectively as a psychiatric social worker. The goal of this course students will be enhancing their necessary skills and knowledge in psychiatric social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅲ

眞保　智子

配当年次／単位数：4年次／1単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
精神科病院、精神障害のある方を支援する地域の施設での実習での学びを通じて以下の点について指導します。(1) 精神保健ソーシャルワーク実習の意義と概要について理解できるようにします。(2) 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得していきます。

【到達目標】
精神科病院、精神障害のある方を支援する地域の施設での実習を通じて学んだ精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力について振り返り、深化させ、理論化することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
精神保健ソーシャルワーク実習に係る個別指導、集団指導等を通して、精神保健ソーシャルワーク実習に必要な知識と技術を習得し、実習に臨むとともに学びを深化させていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	事後学習のねらいと進め方を説明する
第2回	実習の振り返り（個人ワーク）	実習記録や体験の整理 （個人ワーク）
第3回	実習の振り返りと学びの共有	実習記録や体験の整理 （グループワーク）
第4回	実習の振り返り（報告）	実習記録や体験をふまえた課題の整理 と議論
第5回	実習報告書作成の説明	実習報告書作成の目標と内容 実習報告書作成の目標と内容
第6回	個別面談	個別指導による実習報告書の作成指導
第7回	実習報告書の作成	グループワークによる実習報告書作成の相互学習
第8回	実習報告書に基づく報告	実習報告
第9回	実習報告書に基づく議論	実習報告と議論
第10回	実習報告会の企画	実習報告会の内容検討
第11回	実習報告会の準備	実習報告会の準備
第12回	実習報告会のリハーサル	実習報告会の準備、リハーサル
第13回	実習報告会	実習報告会における報告と運営（実習の評価全体総括会）
第14回	まとめ	実習報告会の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。なお、本授業の準備・復習時間は、各１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義中に紹介します。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習への参加状況６０％・課題４０％

【学生の意見等からの気づき】
授業アンケートは実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆、グループワークや報告の際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用します。

【その他の重要事項】
精神保健福祉士としての実践をもとに事例検討を行います。

【Outline (in English)】
This course reflects and theorizes an internship to work effectively as a psychiatric social worker. The goals of this course are to complete the report of internship, presentations on the internship. Before/after each class meeting, students are expected to spend an hour understanding the content of the course. Grades are based on reports (40%) and in-class contributions (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

精神保健ソーシャルワーク実習

眞保　智子

配当年次／単位数：4年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
精神科病院、精神障害のある方を支援する地域の施設での実習を通じて、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得していきます。

【到達目標】
精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得します。さらに、具体的な体験や援助活動を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	精神科病院等の実習オリエンテーション	実習のねらいと進め方 病棟見学、面談への同席
第2回	任意入院の診察に同席、心理教室への参加、退院支援委員会への同席	任意入院、心理教室、退院支援委員会について振り返り実習記録や体験の整理
第3回	医療保護入院の診察に同席、心理教室への参加、退院支援委員会への同席	医療保護入院の診察に同席、心理教室への参加、退院支援委員会への同席について振り返り実習記録や体験の整理
第4回	措置入院の診察に同席、家族心理教室への参加、退院支援委員会への同席	措置入院の診察に同席、家族心理教室への参加、退院支援委員会への同席について振り返り実習記録や体験の整理
第5回	退院請求への対応に同席、生活歴の聞き取り	退院請求への対応に同席、生活歴の聞き取りについて振り返り実習記録や体験の整理
第6回	病棟カンファレンスに同席、心理教室への参加	病棟カンファレンスに同席、心理教室への参加について振り返り実習記録や体験の整理
第7回	デイケアプログラムへの参加、モニタリング面談への同席	デイケアプログラムへの参加、モニタリング面談への同席について振り返り実習記録や体験の整理
第8回	巡回指導	巡回指導について振り返り実習記録や体験の整理
第9回	外来の患者さんとの面談に同席、措置入院の診察に同席	外来の患者さんとの面談に同席、措置入院の診察に同席について振り返り実習記録や体験の整理
第10回	外来面談への同席、面談の記録作成	外来面談への同席、面談の記録作成について振り返り実習記録や体験の整理
第11回	退院支援委員会への同席、生活歴の聞き取り	退院支援委員会への同席、生活歴の聞き取りについて振り返り実習記録や体験の整理
第12回	面談への同席、外出同行(退院に向けた住居の確認等)	面談への同席、外出同行(退院に向けた住居の確認等)について振り返り実習記録や体験の整理
第13回	患者さんとの面談、外出同行(退院に向けた物件探し)	患者さんとの面談、外出同行(退院に向けた物件探し)について振り返り実習記録や体験の整理
第14回	実習のまとめと実習指導者によるスーパービジョン	実習指導者によるスーパービジョンを受けて実習のまとめを行う。
第15回	障害福祉サービス事業所・行政機関等の実習ガイダンス	実習のねらいと進め方 専門職としての倫理、価値、組織役割の理解
第16回	啓発・広報活動への参加	啓発・広報活動への参加について振り返り実習記録や体験の整理
第17回	作業訓練　ビジネスコミュニケーションプログラム	作業訓練　ビジネスコミュニケーションプログラムについて振り返り実習記録や体験の整理
第18回	関係性の構築とニーズの把握	関係性の構築とニーズの把握について振り返り実習記録や体験の整理
第19会	関係性の構築とニーズの把握・退院支援計画の作成	関係性の構築とニーズの把握・退院支援計画の作成について振り返り実習記録や体験の整理
第20回	地域への啓発活動　権利擁護事業説明	地域への啓発活動　権利擁護事業説明について振り返り実習記録や体験の整理
第21回	事例検討会に同席	事例検討会に同席について振り返り実習記録や体験の整理
第22回	巡回指導	精神保健福祉士としての価値・倫理、法的義務についての確認、実習目的と達成課題の把握と調整
第23回	思春期・青年期家族講座に同席	思春期・青年期家族講座に同席について振り返り実習記録や体験の整理
第24回	自治体保健師との情報交換連絡会に同席	自治体保健師との情報交換連絡会に同席について振り返り実習記録や体験の整理
第25回	就労支援事業所見学　ジョブガイダンス（求人票の見方・検索の仕方）など	就労支援事業所見学　ジョブガイダンス（求人票の見方・検索の仕方）などについて振り返り実習記録や体験の整理
第26回	退院支援計画の振り返りとスーパービジョン	退院支援計画の振り返りとスーパービジョン などについて振り返り実習記録や体験の整理
第27回	担当事例の振り返りと評価会議に同席	担当事例の振り返りと評価会議に同席について振り返り実習記録や体験の整理
第28回	実習のまとめと実習指導者によるスーパービジョン	実習指導者によるスーパービジョンを受けて実習のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎日の実習に向けて、記録のまとめ翌日の予定についての準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は合わせて２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
実習先の評価票60％巡回指導と帰校日指導40％

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートは実施していません。

【その他の重要事項】
本科目は、「精神保健ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できます（単独履修不可）。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively as a psychiatric social worker. The goal of this course students acquires the knowledge and skills required of psychiatric social workers through internships. Before/after each days internships, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on contributions (100%) within internships.

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

スクールソーシャルワーク演習

安西　美咲

配当年次／単位数：4年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スクール（学校）ソーシャルワーク（以下、ＳＳＷ）における相談援助の知識と技能について実践的に習得するとともに、理論化し体系立てて習得していく能力を身につける。

【到達目標】
・現代における子どもと家族を取り巻く課題を理解し、ＳＳＷの視点からアセスメントできる知識と技術を習得する。
・ＳＳＷにかかわる法律と教育委員会等の組織やサービスを理解し、具体的な支援方法を考察する。
・ＳＳＷの意義を確認しつつ、教育行政や地域理解を進めるための方策について学びを深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・上記の目的を達成するため、①ＳＳＷの視点から、様々な事例を使って実際にアセスメントと援助計画を立て、個人やグループの発表によってクラス全体の学びを深める。②それらの演習を通して、ＳＳＷの活動に必要な法律やサービスについて再確認する。③ゲストスピーカーの講義も交えて、実践における具体的支援について考察する。④ＳＳＷの倫理・価値および、教育行政や地域の理解を得ながらＳＳＷを展開していくことの必要性を検討する。
・課題のフィードバックは、直接に返却あるいは学習支援システム等を通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、ＳＳＷとは？	今後の進め方についての説明、ＳＳＷの現状と意義、課題
第2回	ＳＳＷを取り巻く制度	ＳＳＷに関する法律と教育にかかわる組織・社会福祉サービス
第3回	アセスメント技法	ＳＳＷのアセスメント・プラニングに関する知識と技術
第4回	記録とスーパービジョン	ＳＳＷとしての記録とスーパービジョンに関する知識と技術
第5回	アセスメントの実際１	学校と児童生徒の家族との関係に課題のある事例を用いたアセスメント
第6回	アセスメントの実際２	児童生徒と家族との関係に課題のある事例を用いたアセスメント
第7回	事例研究の発表と検討	相互の発表に基づく検討
第8回	ゲストスピーカー	現役のスクールソーシャルワーカーによる支援の実際
第9回	学校内連携	校内チーム体制、ケース会議の方法
第10回	学校外連携	市町村子ども支援体制と資源開発
第11回	アセスメントの実際３	事例を用いたミクロ・メゾ・マクロを考慮したアセスメント
第12回	事例検討の発表と検討	相互の発表による検討
第13回	学校とＳＳＷ	学校とＳＳＷ、ＳＣ（スクールカウンセラー）も含めた現状と両者の関係
第14回	ＳＳＷの展開	ＳＳＷの理論・価値とソーシャルアクション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習で出される課題について、期日までに行うこと。
本授業の準備・復習時間は、各回４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義内で資料を配付する。

【参考書】
参考文献は、講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的参加（50％）、講義内課題およびレポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a school social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in school social work.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), and in-class contribution (50%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

スクールソーシャルワーク実習指導Ⅰ

安西　美咲

配当年次／単位数：4年次／1単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スクール（学校）ソーシャルワーク（以下、ＳＳＷ）の意義・価値と概要を理解すると同時に、ＳＳＷに関わる技法を習得する。

【到達目標】
・ＳＳＷの意義を理解し、学校現場におけるＳＳＷ実践を体験的に学ぶ。
・ＳＳＷ実習にかかわる個別援助、集団援助、そして間接援助に関して、実践的な技術を体験的に習得する。
・ＳＳＷの社会的意義と価値、さらに今後の展開について考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
・上記の目的を達成するため、事前学習として①実習先の地域における子どもと家族の課題や社会資源の現状を把握する。②各自の実習先での実習目標と課題（実習計画書）を作成する。③見学やゲストスピーカーの講義も交え、学校現場の現状について理解するとともに、④実習において必要とされる知識と技術、また記録や守秘義務のあり方について学びを深める。
・実習中は、実習巡回により、事前に作成した実習計画の検討および進捗状況の確認と実習全般のスーパービジョンを行う。
・課題のフィードバックは、直接に返却あるいは学習支援システム等を通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	実習計画書作成の進め方（計画書の書き方と提出時期）
第2回	対象者理解	実習先での子どもと家族、地域の理解
第3回	地域資源の理解	実習先における社会資源の検討
第4回	実習先の理解	実習先および実習関係機関の見学
第5回	ゲストスピーカー	学校からみたＳＳＷ（生徒指導、特別支援、養護教諭）
第6回	学校現場の理解	学校理解と学校内でのチーム体制
第7回	ＳＳＷを知る	ＳＳＷの職務と社会的責任の検討
第8回	実習計画	実習計画書の提出・検討
第9回	連携の重要性	学校内外の連携のあり方と守秘義務の検討
第10回	実習記録	記録の意義と方法
第11回	実習のまとめ１	グループディスカッション
第12回	実習のまとめ２	自分とＳＳＷ（自己覚知）＋スーパービジョン
第13回	実習のまとめ３	課題と事例に関して＋スーパービジョン
第14回	実習のまとめ４	実習全体を通して＋スーパービジョン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事前学習での課題について、期日までに提出すること。
・実習中は、実習巡回とスーパービジョンを行う。
・本授業の準備・復習時間は、各回1時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義内で資料を配付する。

【参考書】
講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的参加（50％）、講義内課題および実習計画書（50％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a school social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in school social work.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend more than one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), and in-class contribution (50%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

スクールソーシャルワーク実習指導Ⅱ

安西　美咲

配当年次／単位数：4年次／1単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スクール（学校）ソーシャルワーク（以下、ＳＳW）の意義・価値と概要を理解すると同時に、ＳＳWに関わる技法を習得する。

【到達目標】
・ＳＳWの意義を理解し、学校現場におけるＳＳW実践を体験的に学ぶ。
・ＳＳW実習にかかわる個別援助、集団援助、そして間接援助に関して、実践的な技術を体験的に習得する。
・ＳＳWの社会的意義と価値、さらに今後の展開について考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
・上記の目的を達成するため、ＳＳW実習の事後学習として、以下の振り返りとまとめを行う。①個別およびグループを通して自らの実習を個別的・相対的に振り返る、②実習前に各自が設定した課題に即した実習の検討を行う、③事例をもとにした実習の検討を行うと同時に、SSWの支援についてのスーパービジョンを受ける、④実習を通した自らの課題と向き合い、今後の支援に生かしていく。
・これらの結果を実習総括としての報告書を作成するとともに、実習報告会で発表する。
・課題のフィードバックは、直接に返却あるいは学習支援システム等を通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	今後の進め方について
第2回	実習の振り返り１	実習の報告
第3回	実習の振り返り２	個別指導
第4回	実習の振り返り３	グループワーク
第5回	実習の振り返り４	グループディスカッション
第6回	実習のまとめ１	自分とＳＳW（自己覚知）についてのまとめ
第7回	実習のまとめ２	自己覚知についてのスーパービジョン
第8回	実習のまとめ３	事例と課題に関するまとめ
第9回	実習のまとめ４	事例と課題に関するスーパービジョン
第10回	実習報告書の作成１	グループによる執筆
第11回	実習報告書の作成２	個人による執筆
第12回	報告会リハーサル	プレゼンテーション・スキルの理解
第13回	実習報告会	各自の実習の成果を発表
第14回	まとめ	報告会の振り返りと全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事後学習での課題や実習報告書の原稿は、期日までに提出すること。
・本授業の準備・復習時間は、各回１時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義内で資料を配付する。

【参考書】
講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的参加（50％）、講義内課題および実習報告書（50％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a school social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in school social work.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend more than one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), and in-class contribution (50%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

スクールソーシャルワーク実習

安西　美咲

配当年次／単位数：4年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
将来、学校や教育行政、また地域の児童関連施設などで働くことを希望し、教育と福祉の連携を中心とした福祉の仕事に関心をもつ学生を対象に、学校や教育委員会などでの実践を通して、学校におけるソーシャルワークを習得する。

【到達目標】
・スクール（学校）ソーシャルワーク（以下、ＳＳＷ）の意義について理解するとともに、学校現場と教育にかかわる組織について体験的に学ぶ。
・ＳＳＷ実習にかかる個別・集団援助技術、さらに間接援助について、これまで学んだ理論や実践技術の体系を、体験を通して修得する。
・ＳＳＷの意義と価値を考えると同時に、教育現場での展開における課題と方向性についても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
・実習先の実習指導者（スクールソーシャルワーカー）や教育委員会・学校等の指導のもと、次の内容について学びを深める。
①当該地域における、子どもと家庭のニーズ、地域と社会資源、学校および教育組織などの現状。
②学校現場における、子どもと家族、教職員とのコミュニケーションの持ち方や連携のあり方。
③子どもと家族の権利擁護を前提とした、実際のアセスメントと援助の進め方。
④学校内・学校外でのチームアプローチの実際、関係者会議への参加。
⑤社会資源の活用・調整・開発の理解。
⑥ＳＳＷのスーパービジョン。
⑦ＳＳＷのミッションと社会正義、学校・地域での今後の展開。
・課題のフィードバックは、直接に返却あるいは学習支援システム等を通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね10月	6- 現場実習	各自、80時間以上、大学が指定する学校・機関・組織にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・スクールソーシャルワーク教育課程認定のためには、社会福祉士受験資格獲得予定学生であること、先行履修科目とスクールソーシャルワーク実習群に加えて、「精神保健学」と教育関連科目群から以下に示す科目の履修が必要である。
「精神保健学（２単位）」必修
「教育の制度・経営（２単位）」必修
＋
「教育心理学（２単位）」「教育相談（２単位）」「生徒・進路祖指導論（２単位）」の中から１科目以上選択必修
＊注意：「教育心理学」は、本学部開講の科目ではなく、教職課程での科目を履修すること。
・社会福祉士養成におけるソーシャルワーク実習が児童福祉領域以外である場合、児童福祉施設での事前実習が要求される。また、先行履修科目の履修が必要である。
本授業の準備・復習時間は各回２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
実習先での態度や実習記録・提出物（60％）、実習先による評価（40％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
・本実習は、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟によるスクール（学校）ソーシャルワーク教育課程認定事業に位置づく実習です。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in an internship as a school social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in school social work.
Before/after each time, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on the quality of the students' performance and reports in the practicum (60%), evaluation of the training agency (40%).

ARSx200JB（地域研究（その他）/ Area studies(Others) 200）

コミュニティマネジメント・インターンシップⅠ

図司　直也、土肥　将敦、水野　雅男

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
原則として夏休み期間中に実施するインターンシップに向けて、事前学習と準備を進める。

【到達目標】
コミュニティマネジメントに取り組むための基礎的な知識と能力を獲得し、またインターンシップに臨む姿勢を養う。また、インターンシップ先での活動 内容や個人研究のとりまとめを通して、地域社会におけるコミュニティマネジメントのあり方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
自分の関心のあるテーマについて、実習先の検討とそこでのプログラムづくりを進める。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施し、実習先とのやり取りなどオンラインの強みを活かしつつアレンジを進める。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	全体説明①	実習（ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ）のねらいについての共有
第2回	全体説明②	実習に関する基礎的な学習
第3回	グルーピング	実習（ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ）候補の中から検討
第4回	講義「実習ﾃｰﾏを考える視点①」	実習に関する基礎的な学習（前半）
第5回	講義「実習ﾃｰﾏを考える視点②」	実習に関する基礎的な学習（後半）
第6回	実習ﾃｰﾏに関する近隣地域の取組分析①	ﾃｰﾏに関する事例収集
第7回	実習ﾃｰﾏに関する近隣地域の取組分析②	ﾃｰﾏに関する事例分析
第8回	実習ﾃｰﾏに関する近隣地域の取組分析③	ﾃｰﾏに関する事例考察
第9回	実習先の検討とﾏｯﾁﾝｸﾞ①	実習生の意向の聞き取り
第10回	実習先の検討とﾏｯﾁﾝｸﾞ②	実習先候補の検討
第11回	実習先の検討とﾏｯﾁﾝｸﾞ③	実習先候補の調整
第12回	事前調査の発表・共有①	実習先別に事前に情報収集する
第13回	事前調査の発表・共有②	実習先別情報を整理・発表する
第14回	派遣前の諸準備	書類等の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、実習先や個人テーマに関連する情報・文献・データ収集を積極的に進める。毎回の指導で得られた内容を復習し、実習に対する基礎的な知見を身につける。本講義の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。

【参考書】
必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】
講義への参加姿勢：60％　インターンシップ実施計画：40％

【学生の意見等からの気づき】
講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】
講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。

【その他の重要事項】
講義を担当する3名の教員がそれぞれ地域プランニング、まちづくり活動などのフィールド体験を有しており、その実績に基づいてインターンシップの考え方を具体的に助言する。

【Outline (in English)】
【Course Outline】This course is designed to elaborate on ideas among students and develop an outline for the internship during the summer vacation period, in principle.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be ready for the implementation of at least one internship program.
【Learning Activities Outside of Classroom】Before and after each class, students will be expected to spend 2 hours each to understand the course contents.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (60%) and internship planning (40%).

ARSx200JB（地域研究（その他） / Area studies(Others) 200）

コミュニティマネジメント・インターンシップⅡ

図司　直也、土肥　将敦、水野　雅男

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
原則として夏休み期間中に実施したインターンシップを受けて、事後学習を進め、報告書を作成する。

【到達目標】
インターンシップ先での活動内容や個人研究のとりまとめを通して、地域社会におけるコミュニティマネジメントのあり方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
実習内容を整理し、補足、分析しながら個人研究を深め、その成果に基づいて報告会を実施し、報告書を作成する。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施し、実習先とのやり取りなどオンラインの強みを活かしつつアレンジを進める。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現場実習の概要報告	実習の概要報告
第2回	実習報告①	実習先（第1ｸﾞﾙｰﾌﾟ）の発表と質疑
第3回	実習報告②	実習先（第2ｸﾞﾙｰﾌﾟ）の発表と質疑
第4回	実習報告③	実習先（第3ｸﾞﾙｰﾌﾟ）の発表と質疑
第5回	ﾃｰﾏ別ｸﾞﾙｰﾌﾟ指導①	ｸﾞﾙｰﾌﾟ討議の準備
第6回	ﾃｰﾏ別ｸﾞﾙｰﾌﾟ指導②	ｸﾞﾙｰﾌﾟ討議
第7回	ﾃｰﾏ別ｸﾞﾙｰﾌﾟ指導③	ｸﾞﾙｰﾌﾟ討議のまとめ
第8回	報告書作成作業①	報告書の内容ﾒﾓ作成
第9回	報告書作成作業②	報告書の内容構成の検討
第10回	ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ指導	報告会の準備
第11回	実習報告会Ⅰ	報告会の実施（前半）
第12回	実習報告会Ⅱ	報告会の実施（後半）
第13回	報告書原稿校正作業	報告書原稿の校正作業
第14回	報告書最終原稿提出	報告書原稿提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
個人研究に関する知見を広げ、実習時の活動内容の取りまとめ、分析作業を日々進めておく。本講義の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。

【参考書】
必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】
講義への参加姿勢：60％　インターンシップ最終報告書：40％

【学生の意見等からの気づき】
講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】
講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）

【その他の重要事項】
講義を担当する3名の教員がそれぞれ地域プランニング、まちづくり活動などのフィールド体験を有しており、その実績に基づいてインターンシップの考え方を具体的に助言する。

【Outline (in English)】
【Course Outline】Based on the internship conducted during the summer vacation period, in principle, the course is arranged to focus on the review of their learnings and the development of a report on field studies.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to demonstrate their learnings publicly and externalize their experiences explicitly.
【Learning Activities Outside of Classroom】Before and after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course contents.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (60%) and internship final report (40%).

PSY300JC（心理学 / Psychology 300）

心理演習Ⅰ

末武　康弘、丹羽　郁夫、小野　純平、金築　優、小林　由佳、古畑　僚

配当年次／単位数：**3年次／1単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理の基本的な知識及び技能を、演習を通して身につけ、心理実習につなげます。

【到達目標】
心理実習の事前における学習を通して、臨床心理に関する基本的な知識と技能を高め、自己理解を深めることがこの授業の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理の実践に必要な知識と援助技能を、役割演技や事例検討を通して学びます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。なお、演習の展開によって、内容の若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的と内容、授業計画、成績評価の基準を明示します。
第2回	支援を要する者に関する知識及び技能①	心理実習の現場担当者（小学校関連）を招いて、現場で必要な知識や技能を学びます。
第3回	支援を要する者に関する知識及び技能②	心理実習の現場担当者（中学校関連）を招いて、現場で必要な知識や技能を学びます。
第4回	支援を要する者に関する知識及び技能③	心理実習の現場担当者（教育相談関連）を招いて、現場で必要な知識や技能を学びます。
第5回	支援を要する者に関する知識及び技能④	心理実習の現場担当者（保育関連）を招いて、現場で必要な知識や技能を学びます。
第6回	心理実習のための知識と技能①	心理実習の事前指導として、実習で求められるコミュニケーションについて学びます。
第7回	心理実習のための知識と技能②	心理実習の事前指導として、心理検査について学びます。
第8回	心理実習のための知識と技能③	心理実習の事前指導として、心理面接について学びます。
第9回	心理実習のための知識と技能④	心理実習の事前指導として、地域支援について学びます。
第10回	心理実習先を踏まえた知識と技能①	支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。
第11回	心理実習先を踏まえた知識と技能②	心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ。
第12回	心理実習先を踏まえた知識と技能③	多職種連携及び地域連携。
第13回	心理実習先を踏まえた知識と技能④	公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。
第14回	まとめ	半期の演習を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習内容を振り返って、自己理解を深めるための学習を行うことや、心理実習に向けての志望書等の執筆作業が求められます。本演習の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業での積極性、授業態度による平常点（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実習科目のためアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【Outline (in English)】
The goal of this seminar is to acquire knowledge for practical training. Major topics include psychological assessment methods, and psychotherapy approaches. Off-campus practical training takes place at mainly educational area. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

PSY300JC（心理学 / Psychology 300）

心理演習Ⅱ

末武　康弘、丹羽　郁夫、小野　純平、金築　優、小林　由佳、古畑　僚

配当年次／単位数：**3年次／1単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理の基本的な知識及び技能を、主に事例検討を通して身につけます。

【到達目標】
役割演技や事例検討を通して、（1）心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能、（2）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、（3）心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ、（4）多職種連携及び地域連携、（5）心理専門職としての職業倫理及び法的義務について、学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
各自の体験を深めるための検討と学習を行い、最終的には報告書を作成します。なお、演習の展開によって、若干の変更があり得ます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的と内容、授業計画、成績評価の基準を明示します。
第2回	医療分野において心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能	医療系の見学実習体験を踏まえ、ディスカッションします。
第3回	福祉分野における心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能	福祉系の見学実習体験を踏まえ、ディスカッションします。
第4回	教育分野における心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能	教育系の見学実習体験を踏まえ、ディスカッションします。
第5回	心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画（1）	各自の施設実習体験（特に、医療・福祉系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第6回	心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画（2）	各自の施設実習体験（特に、教育系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第7回	心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ（1）	各自の施設実習体験（特に、医療・福祉系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第8回	心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ（2）	各自の施設実習体験（特に、教育系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第9回	多職種連携及び地域連携（1）	各自の施設実習体験（特に、医療・福祉系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第10回	多職種連携及び地域連携（2）	各自の施設実習体験（特に、教育系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第11回	心理専門職としての職業倫理及び法的義務（1）	各自の施設実習体験（特に、医療・福祉系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第12回	心理専門職としての職業倫理及び法的義務（2）	各自の施設実習体験（特に、教育系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第13回	報告書の検討	これまでの学びの報告書の作成を通して、自己理解を深めます。
第14回	まとめ	これまでの演習のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
これまでの見学実習や施設実習での体験を踏まえて、自己理解を深めるための学習を行うことや、報告書の執筆作業が求められます。本演習の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習での積極性、演習態度による平常点（60%）と事例の報告（40%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
演習科目のためアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【Outline (in English)】
The goal of this practical training is to acquire practice-based knowledge of clinical psychology. At the conference, students introduce cases from the school where they are receiving practical training. Lecturers and students in the case study group have a free discussion. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on case reports (40%), and in-class contribution (60%).

PSY300JC（心理学 / Psychology 300）

心理実習

久保田　幹子、服部　環、関谷　秀子、望月　聡、末武　康弘、小野　純平、丹羽　郁夫、金築　優、小林　由佳、古畑　僚

配当年次／単位数：**3年次／2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の分野の複数の施設において、見学等による実習を行いながら、当該施設の実習指導者又は教員による指導を受ける。

【到達目標】
到達目標は、下記の事項を実習を通して学習することである。
（ア） 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
（イ） 多職種連携及び地域連携
（ウ） 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
クラスに分かれ、担当教員の指導のもと、実習計画を策定するとともに、配属施設の実習指導者から指導を受け、合計80時間以上の実習を行う。実習期間中は、担当教員が巡回指導、または、実習生が帰校し、実習課題に応じて指導を行う。なお、下記の授業計画の内容は、実習施設との調整で時期は入れ替わることがある。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	実習施設でのガイダンス	実習施設で担当者から実習の内容や期間についてのガイダンスを受ける。
第2回	保健医療施設見学実習　第1回	入院施設等の見学実習
第3回	保健医療施設見学実習　第2回	デイケア等の見学実習
第4回	福祉施設見学実習　第1回	児童養護施設の見学実習
第5回	福祉施設見学実習　第2回	児童相談所等の見学実習
第6回	学校等教育施設等での実習　第1回	学校等教育施設等（例、A小学校）の施設実習
第7回	学校等教育施設等での実習　第2回	学校等教育施設等（例、B小学校）の施設実習
第8回	学校等教育施設等での実習　第3回	学校等教育施設等（例、C小学校）の施設実習
第9回	学校等教育施設等での実習　第4回	学校等教育施設等（例、D小学校）の施設実習
第10回	学校等教育施設等での実習　第5回	学校等教育施設等（例、E小学校）の施設実習
第11回	学校等教育施設等での実習　第6回	学校等教育施設等（例、F小学校）の施設実習
第12回	学校等教育施設等での実習　第7回	学校等教育施設等（例、G小学校）の施設実習
第13回	学校等教育施設等での実習　第8回	学校等教育施設等（例、A中学校）の施設実習
第14回	学校等教育施設等での実習　第9回	学校等教育施設等（例、B中学校）の施設実習
第15回	学校等教育施設等での実習　第10回	学校等教育施設等（例、C中学校）の施設実習
第16回	学校等教育施設等での実習　第11回	学校等教育施設等（例、D中学校）の施設実習
第17回	学校等教育施設等での実習　第12回	学校等教育施設等（例、E中学校）の施設実習
第18回	学校等教育施設等での実習　第13回	学校等教育施設等（例、F中学校）の施設実習
第19回	学校等教育施設等での実習　第14回	学校等教育施設等（例、G中学校）の施設実習
第20回	学校等教育施設等での実習　第15回	学校等教育施設等（例、A教育センター）の施設実習
第21回	学校等教育施設等での実習　第16回	学校等教育施設等（例、B教育センター）の施設実習
第22回	学校等教育施設等での実習　第17回	学校等教育施設等（例、C教育センター）の施設実習
第23回	学校等教育施設等での実習　第18回	学校等教育施設等（例、A保育園）の施設実習
第24回	学校等教育施設等での実習　第19回	学校等教育施設等（例、B保育園）の施設実習
第25回	学校等教育施設等での実習　第20回	学校等教育施設等（例、C保育園）の施設実習
第26回	学校等教育施設等での実習　第21回	学校等教育施設等（例、D保育園）の施設実習
第27回	学校等教育施設等での実習　第22回	学校等教育施設等（例、E保育園）の施設実習
第28回	学校等教育施設等での実習　第23回	学校等教育施設等（例、F保育園）の施設実習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習記録をまとめ、次回の達成課題を明らかにすること。また、施設ごとにまとめを行い、全体の実習終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本実習の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設の実習態度や実習記録および実習指導者の評価80％、報告書20％。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施。

【学生が準備すべき機器他】
「心理実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をしている事が必要です。また、「心理演習」の授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、実習施設と相談の上、実習中止とすることがあります。

【Outline (in English)】
The goal of this practical training is to acquire practice-based knowledge of clinical psychology. For example, Students are placed in middle/high schools for a certain period of time. They will develop practical skills. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on reports (20%), and the quality of the students' performance in the field (80%).

OTR200JB（その他 / Others 200）

専門演習ＩＡ

伊藤　正子

配当年次／単位数：**2年次／2単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、社会的排除の理論的検討、およびそれに関連する多様な実態について学ぶ。

【到達目標】
「社会的排除」の主要概念を説明できる。
日本における様々な排除の現実を理解し、その背景と課題について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期は、社会的排除に関わる諸理論や現状についての学習。方法は、文献研究、実践（外部講師招聘、現地視察・調査）などを組み合わせて行う。対面式での開講となる。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期授業内容の概要と目標
第2回	グループ面接	専門演習Ⅱ・Ⅲとの合同面接
第3回	研究テーマの選定①	問題関心の意見交換
第4回	研究テーマの選定②	図書館等での文献検索
第5回	研究テーマの決定①	各自の研究テーマの概要を報告し、目的、研究方法について検討する。
第6回	研究テーマの決定②	研究計画を具体的に検討する。
第7回	集団討議①	グループ毎に研究作業を進める①文献研究
第8回	集団討議②	グループ毎に研究作業を進める②文献研究の共有と検討
第9回	集団討議③	グループ毎に研究作業を進める③文献研究の課題について討議
第10回	集団討議④	グループ毎に研究作業を進める④文献研究のまとめ
第11回	研究報告①	貧困系テーマ研究結果の発表
第12回	研究報告②	障害系テーマ研究結果の発表
第13回	研究報告③	多文化・その他のマイノリティ系テーマ研究結果の発表
第14回	まとめ	春学期の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミで取り組むテーマに関するボランティアないしは現場の見学、参加を自主的に行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介、学生と相談して決定する。

【参考書】
必要に応じて、適宜参考図書・論文・事例を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
１．レポート(30%)
２．研究発表(40%)
３．演習への能動的参加(30%)

【学生の意見等からの気づき】
受講者の関心に応じて、ゼミのテーマに限定しない研究、ディスカッションも取り入れていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）を準備しておくことが望ましい。

【その他の重要事項】
基本的には学生主体の運営で、柔軟な姿勢と思考でお互いの多様性と異質性を認め合い、異学年間で意見交換を行いながら、積極的にゼミを作っていく姿勢を期待する。
医療機関・外国人支援ＮＧＯソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助について解説する。

【Outline (in English)】
This course deals with the theory on social exclusion and the realities of various form of discriminations.At the end of the course, students are expected to understand the main theory about social exclusion and the social issues in Japan.Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least four hours for each class meeting.Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (40%), and in-class contribution(30%).

OTR200JB（その他 / Others 200）

専門演習ＩＡ

岩崎　晋也

配当年次／単位数：**2年次／2単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会福祉にかかわるテーマをとりあげ基本的な研究スキルを身につける

【到達目標】
論理的な議論の仕方や論文作成能力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
このゼミは、社会福祉に関連する問題に対して、「なぜ」という疑問を持ち、それについて調べ、議論をし、論文を作成する力をつけることを目的としています。
具体的には、入られた皆さんと相談しながら決めたいと思いますが、教員の方で社会福祉に関連する様々なテーマを設定し、ビデオや新聞などの教材を使って、ゼミのみなさんと議論しながら考えられればよいと思っています。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ゼミのルールや予定をガイダンスする
第2回	論文とはどのようなものか	論文とは何か、講義する
第3回	グループ別テーマ学習１	文献収集、新聞記事ＤＢを使ってみる
第4回	グループ別テーマ学習２	論文や記事の要旨をまとめる
第5回	グループ別テーマ学習３	グループで議論して主張をまとめる
第6回	ディベート1	ディベートの仕方、評価のポイントを学ぶ。ディベートのテーマの設定
第7回	ディベート２	３ティーム総当たり戦でディベートを行う。チームＡ・Ｂ
第8回	ディベート３	３ティーム総当たり戦でディベートを行う。チームＢ・Ｃ
第9回	ディベート４	３ティーム総当たり戦でディベートを行う。チームＡ・Ｃ
第10回	論文テーマの選び方	テーマの選び方を学ぶ
第11回	先行研究の調べ方	先行研究の調べ方を学ぶ
第12回	論文テーマのプレゼンテーション	個々に研究したいテーマのプレンゼンテーションを行う
第13回	グループ研究テーマの選定	プレゼンテーションで出されたテーマからグループテーマを選定する
第14回	グループ研究の進め方	グループ研究を行う方向性を指示する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題を出しますので、事前に準備してきてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績は、平常点(100%)により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんの意見を聞きながら授業を進めるつもりです。

【その他の重要事項】
原則として、部活やその他の用事で、ゼミを欠席することを認めません。

【Outline (in English)】
Study social welfare themes and master basic research skills.
The goals of this course are to improve the ability to think logically and discuss with others.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 100%.

OTR200JB（その他 / Others 200）

専門演習ＩＡ

髙良　麻子

配当年次／単位数：**2年次／2単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、社会的に不利な立場におかれている人びとのウェルビーイングの実現を目的に、抑圧や無視されている当事者の声を社会に届け、集団、組織、地域、政策等における連鎖的変化をどのように起こすのかについて、ソーシャルワークの観点から検討する。

【到達目標】
・社会問題に関して適切な情報収集・分析・発表ができる。
・社会問題を構造的に理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
社会問題の解決に向けた活動について理解したうえで、興味のある社会問題を理解するのに必要な情報収集・分析・発表をグループで行い、全体でディスカッションしながら、社会問題の解決に向けた活動計画を検討する。
授業ごとのリアクションペーパーをもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	活動のための関係構築	相互理解のうえの関係構築
第3回	社会問題の解決に向けた活動	社会問題の構造的理解 ソーシャルアクションの概要
第4回	社会問題の発表	各自が興味のある社会問題の発表
第5回	活動計画策定方針の検討	活動計画策定グループの決定
第6回	社会問題の理解① 当事者の事例から	権利侵害・権利の非実現当事者のニーズ
第7回	社会問題の理解② 実態や社会の理解から	問題の実態 メディアの報道内容
第8回	社会問題の理解③ 構造的理解	社会的不正義の背景
第9回	社会問題の理解④ 構造的理解	社会的不正義の背景要因の連鎖
第10回	社会問題の理解⑤ 現在の対応	公的対応 非公的対応
第11回	社会問題の理解⑥ 具体的な理解	支援者による講義
第12回	社会問題のグループ発表①	社会問題に関する理解の共有
第13回	社会問題のグループ発表②	社会問題に関する理解の深化
第14回	総括	振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループのメンバーと協働して、各時間の課題に関する準備を進めるとともに、授業での議論内容を踏まえて理解を深める復習を行なってほしい。また、日頃から社会問題等に興味を持ち、講演会やボランティア等に参加することを期待する。本授業の準備・復習時間は、各3時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法 (共通科目)』中央法規
空閑浩人・白澤正和・和気純子編著（2022）『新・MINERVA社会福祉士養成テキストブック６ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ』ミネルヴァ書房
髙良麻子（2017）『日本におけるソーシャルアクションの実践モデル− 「制度からの排除」への対処』中央法規
萩上チキ（2023）『社会問題のつくり方− 困った世界を直すには？』翔泳社

【成績評価の方法と基準】
・平常点 60%
・発表資料 40%

【学生の意見等からの気づき】
グループ活動を進めやすいように、より体系的に社会問題を理解できるようにしました。また、グループ同士の相互議論の機会を増やしました。

【Outline (in English)】
This course is the first semester of a two-semester integrative practice course. Students will use the seminar format to learn how to achieve institutional change to meet a need, solve a social problem, and correct injustices as a social worker. Before /after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

OTR200JB（その他 / Others 200）

専門演習ＩＡ

眞保　智子

配当年次／単位数：**2年次／2単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生きづらさを抱え、孤立しがちな方と共に暮らす地域社会をみなさんと当事者の言葉から精神保健ソーシャルワークの視点でとらえ、発達障害、メンタルヘルスと若者と社会の関係について検討します。

【到達目標】
問題意識を高め、関連する文献渉猟を経て自らの関心領域を確認すること、そして議論の方法と論文作成、プレゼンテーション力を身につけることを目的としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
多摩地区を中心とした児童養護施設、精神科病院、就労支援施設、インクルーシブ＆ダイバーシティ経営の企業などへの見学や依存症などのピアサポート（当事者相互のサポート）グループでの語りで学びながら、身近な地域の社会資源の調査や地域ニーズを把握し解決について検討していきます。文献研究とともにフィールドワークも重視して進めていきます。なお、レポートやリアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介とゼミの進め方の確認　各自の役割分担の話し合い
第2回	関心領域の明確化	各自の問題意識や関心領域の共有と研究課題の設定
第3回	文献調査の準備	基本文献の選定
第4回	フィールドワークの準備(事前研究)	マナーやルールと調査対象に関する事前研究
第5回	フィールドワーク（多摩地区を中心とした児童養護施設、精神科病院、就労支援施設、インクルーシブ＆ダイバーシティ経営の企業）	インタビュー調査
第6回	フィールドワークの振り返り（多摩地区を中心とした児童養護施設、精神科病院、就労支援施設、インクルーシブ＆ダイバーシティ経営の企業）	レポートの作成とディスカッション
第7回	文献調査および報告A/B	報告担当者からの発表とディスカッションA/B
第8回	文献調査および報告C/D	報告担当者からの発表とディスカッションC/D
第9回	文献調査および報告E/F	報告担当者からの発表とディスカッションE/F
第10回	フィールドワークの準備（多摩地区を中心とした児童養護施設、精神科病院、就労支援施設、インクルーシブ＆ダイバーシティ経営の企業）	調査対象に関する事前研究
第11回	フィールドワーク（多摩地区を中心とした児童養護施設、精神科病院、就労支援施設、インクルーシブ＆ダイバーシティ経営の企業）	インタビュー調査
第12回	フィールドワークの振り返り（多摩地区を中心とした児童養護施設、精神科病院、就労支援施設、インクルーシブ＆ダイバーシティ経営の企業）	レポートの作成とディスカッション
第13回	研究課題の明確化	グループ編成
第14回	グループワーク（課題設定）	研究課題の設定とゼミ合宿での発表の準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
個人で行う文献研究報告、ゼミ合宿でのグループ報告を行います。レジュメの作成やパワーポイントの利用など報告時には十分な準備をして行うことを求めています。(先輩学生からの支援があります)本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
演習中に適宜紹介します。

【参考書】
眞保智子（2020）『精神障害・発達害のある方とともに働くためのＱ＆Ａ50　～採用から定着まで～』日本加除出版

【成績評価の方法と基準】
演習での報告・発言：５０％
フィールドワークレポート・グループワーク報告等：５０％

【学生の意見等からの気づき】
少人数学習のよさを最大限活用し、学生相互の学びを大切にしています。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆やグループワークの際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用する。

【その他の重要事項】
フィールドワークと自主的な学びを重視しており、時間割記載のゼミ時間以外の時間に活動することもあることを承知して参加してください。

【Outline (in English)】
This course provides a lecture on the fundamental principles and practices of writing academic essays. The goal of the course students to progress from the basic components of academic vocabulary, sentence structure, and style to the construction of arguments, paragraphs, and short essays. Before/after each course, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%) and in-class contribution (50%).

OTR200JB（その他 / Others 200）

専門演習ＩＡ

杉浦　ちなみ

配当年次／単位数：**2年次／2単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、文化を楽しみ、学ぶことでつくられる地域のありかたを探る。日々の生活や活動を通じた住民の学びが地域づくりや地域文化の基盤になってきた。学びのなかには、教科的な学習にとどまらず、食や芸能、生活習慣といった文化の学習や継承も含まれる。それを支え形作るのが、学校外の学習機会を保障する社会教育・生涯学習行政の課題である。演習を通じて、地域づくりや地域文化創造の営みにおける人々の学びついて、各自の関心にあわせた切り口から考察していく。

【到達目標】
地域づくりや地域文化創造を支える社会教育・生涯学習の基本的視点を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
文献購読、グループディスカッション、フィールドワークを組み合わせて進める。課題等に対するフィードバックは授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミの進め方の確認
第2回	文献購読（1）	社会教育・生涯学習の概念
第3回	文献購読（2）	社会教育の歴史
第4回	文献購読（3）	社会教育・生涯学習行政
第5回	文献購読（4）	公民館・図書館・博物館
第6回	文献購読（5）	地域づくりと社会教育①東日本の事例検討
第7回	文献購読（6）	地域づくりと社会教育②西日本の事例検討
第8回	文献購読（7）	地域文化と社会教育①東日本の事例検討
第9回	文献購読（8）	地域文化と社会教育②西日本の事例検討
第10回	フィールドワークの準備（1）	調査対象の検討、課題の設定
第11回	フィールドワークの準備（2）	事前調査の共有
第12回	フィールドワーク（1）	地域の社会教育施設
第13回	フィールドワーク（2）	社会教育実践への参加
第14回	まとめ	春学期の振り返りと秋学期に向けての準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
専門演習の前後に、文献講読や振り返り、報告準備など、準備・復習時間として各2時間程度を標準とする。文献講読では自身の関心にもとづき疑問も含めて積極的に発言する姿勢が求められる。テーマに関連する現場のリサーチを行い、現実に即してテーマを理解し文献を読み込んでいってほしい。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献度50%、レポート・報告の内容50%

【学生の意見等からの気づき】
学生からの意見や要望を可能な範囲で授業に活かしていく。

【Outline (in English)】
【Course outline】In this course, we will explore the ways in which community can be created by enjoying and learning about culture.
【Learning Objectives】The goal of this seminar is to gain a basic perspective for researching the transmission and creation of local culture and community development through adult education and lifelong learning.
【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to spend approximately 4 hours in each class for reading, reviewing, writing reports, etc.
【Grading Criteria /Policy】in-class contribution(50%), discussions/presentations/reports(50%).

OTR200JB（その他 / Others 200）

専門演習ＩＡ

野田　岳仁

配当年次／単位数：**2年次／2単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、環境社会学・地域社会学の主要な方法論である生活環境主義の方法を使って、現場に暮らす人びとにとって有効性のある地域づくり・地域ツーリズム政策を考えることを目的としている。専門演習Ｉでは年間を通じて、次年度以降の研究の土台をつくるため、現場の人びとの実践に学ぶ方法論とフィールドワークの技法をマスターすることを目指している。

【到達目標】
地域社会が抱える地域づくりや地域ツーリズムの諸課題に対して、現場に暮らす生活者の立場に立って問題の本質を見極め、問題解決につながる有効性のある政策論を提示することができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
本演習では、土台づくりのために方法論のマスターに重きを置くが、議論の題材として”アクアツーリズム”と呼ばれる地域の水辺空間で展開される新しい地域ツーリズムの実践をとりあげる。アクアツーリズムにおける現場の実践に学びながら、ひとつの研究テーマを設定し、問いを立て、フィールドワーク、文献調査を行い、得られたデータからひとつの結論を導き出すという一連の研究手法を体験する。議論の題材やテーマは受講生の関心を考慮して若干の変更はありうる。変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習の進め方とスケジュール、目標設定
第2回	生活環境主義とは？	現場の人びとの実践から学ぶ方法論
第3回	アクアツーリズムとは？	文献を精読し、討議
第4回	問題関心のつくり方	グループワークを通じて問題関心を明確化する
第5回	文献調査の方法	先行研究と分析視角の検討
第6回	フィールドワークの技法	フィールドワークの基礎知識と技法について
第7回	問いのつくり方と仮説の提示	問いの立て方と仮説の設定について実習
第8回	フィールドワークの準備	調査地の選定と下調べ
第9回	フィールドワーク	聞きとり調査
第10回	調査データの解釈・分析（１）	調査で得られたデータを解釈する
第11回	調査データの解釈・分析（２）	調査で得られたデータを先行研究とつきあわせながら分析する
第12回	今後の調査の方向性（１）	これまでの調査の振り返り
第13回	今後の調査の方向性（２）	不足しているデータの収集
第14回	生活環境主義の実践性	役に立つ研究とはどのようなものか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題文献の精読、フィールドワークの準備、レジュメの作成・発表の準備などの事前学習は不可欠である。調査の状況によっては授業時間外でのフィールドワークが必要な場合もある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
受講生の関心を考慮し、適宜アナウンスする。

【参考書】
参考書や関連論文は適宜紹介したり、必要に応じて配布する。

【成績評価の方法と基準】
討議や発表を含めた平常点（50%）とレジュメやレポートなどの成果物（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートの結果や受講生の声を適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems.【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance（Discussion, presentation, and report）(50%).

OTR200JB（その他 / Others 200）

専門演習ＩＡ

水野　雅男

配当年次／単位数：**2年次／2単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域住民やNPOが主体的に関わるまちづくり（地域づくり）を題材として、地域住民やNPOは地域の課題をどのように捉え、組織を結成し、財源を確保し、行政セクターと連携しているのかを学ぶ。

【到達目標】
受講生が実践的な取り組みを調査するなかから、まちづくり（地域づくり）に必要な要因を把握する能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
まちづくり（地域づくり）活動のフィールドワーク現場を選定するために、活動助成事業への企画書をグループ単位でとりまとめる。課題の事前提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習の目的、進め方、構成員の問題意識の確認
第2回	まちづくり活動の事例研究①	活動先進事例の実態把握① リノベーション住宅
第3回	まちづくり活動の事例研究②	活動先進事例の実態把握② クリエイティブツーリズム
第4回	まちづくり活動の事例研究③	活動先進事例の実態把握③ メンタルヘルスツーリズム
第5回	まちづくり活動の事例研究④	活動先進事例の実態把握④ シェアリングエコノミー
第6回	まちづくり活動の事例研究⑤	活動先進事例の実態把握⑤ コミュニティの居場所
第7回	活動助成の企画書作成①	フィールドワークの目的確認
第8回	活動助成の企画書作成②	フィールドワークでの活動プログラムの検討①
第9回	活動助成の企画書作成③	フィールドワークでの活動プログラムの検討②
第10回	活動助成の企画書作成④	活動スケジュールの検討
第11回	活動助成の企画書作成⑤	企画書とりまとめ
第12回	フィールドワークの事前調査①	対象地域の社会条件の整理
第13回	フィールドワークの事前調査②	対象地域の環境条件の整理
第14回	春学期のふりかえり	到達度と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献調査などの発表準備、フィールドワークの準備と実施など、グループワークに対して積極的に関わる姿勢が求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、適宜資料として配付する。

【参考書】
必要に応じて、適宜資料として配付する。

【成績評価の方法と基準】
演習での報告（70％）や議論など（30％）を総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムやFacebookグループなどを活用して、学生への連絡と情報共有を図る。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに30年間関わり、市民活動を企画運営してきた経験に基づき、まちづくり活動を企画する術について授業で紹介する。

【Outline (in English)】
< Course outline>
The aim of this course is to help students acquire how local residents and NPOs perceive local issues, form organizations, secure financial resources, and collaborate with the administrative sector.
< Learning Objectives>
By the end of the course, students should be able to do the followings:
Understand the factors necessary for community development while the students investigate practical efforts.
< Learning activities outside of classroom>
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy>
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 70%, in class contribution: 30%

OTR200JC（その他 / Others 200）

専門演習ＩＡ

久保田　幹子

配当年次／単位数：**2年次／2単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちを取り巻く社会の中で、どのような問題が生じているのか、その背後にどのような心理的な問題があるのか、といった疑問を通して、心理学的に考える姿勢を培うとともに、心理学的な基礎知識を学ぶ。

【到達目標】
心の問題の基本的な知識とその背後にある要因を多面的に理解できる。
現代の心の問題について、自分の考え、疑問をディスカッションし、深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
・人間の心の発達について理解する
・現代が抱えるテーマ（いじめ、虐待、ひきこもり、うつ、不安障害など）と心理学的要因との関連を考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション①	ゼミの進め方に関するオリエンテーション。
第2回	オリエンテーション②	関心のあるテーマを出し合い、今後のグループ発表などのスケジュールを話し合う。
第3回	現代が抱える心の問題や援助について考える	一つのテーマを選び、全体でディスカッションを行い、理解を深める。
第4回	現代が抱える心の問題について①	テーマを選び、グループ発表テーマA
第5回	現代が抱える心の問題について②	Aに関する発表内容を元に、ディスカッション。ビデオ学習。
第6回	現代が抱える心の問題について③	関連した論文を持ち寄り、ディスカッション①
第7回	現代が抱える心の問題について④	テーマを選び、グループ発表テーマB
第8回	現代が抱える心の問題について⑤	Bに関する発表内容を元に、ディスカッション。ビデオ学習。
第9回	現代が抱える心の問題について⑥	関連した論文を持ち寄り、ディスカッション②
第10回	現代が抱える心の問題について⑦	テーマを選び、グループ発表テーマC
第11回	現代が抱える心の問題について⑧	Cに関連する発表内容を元に、ディスカッション。ビデオ学習。
第12回	現代が抱える心の問題について⑨	テーマを選び、グループ発表テーマD
第13回	現代が抱える心の問題について⑩	Dに関する発表内容を元に、ディスカッション。ビデオ学習。
第14回	まとめ	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関心のあるテーマを選び、グループ発表を行うため、発表のための準備が必要となる。また、発表者のみの学習にならないように、各テーマについて個々に文献を調べる事前学習も必要である。
関連する文献・図書を検索し、あらかじめ読んでおくといった学習も求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60％）および発表内容（40％）から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、臨床心理学の基礎知識をわかりやすく学べるように、また現代社会においてみられる現象を心理学の観点からディスカッションできるよう工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】
発表の際にはパワーポイントを使用することをお勧めします。

【その他の重要事項】
医療機関において病院臨床の実務経験があることから、現代人が直面する課題や心理的問題なども紹介しながら、皆さんの問題提議や議論の助けになるように進めていきます。

【Outline (in English)】
Learning the basics in psychology and cultivating a perspective in the field by exploring problems in our society and investigating underlying issues related to psychology.
The goals of this lecture are to provide an understanding of the attitudes of psychotherapists, an overview of psychotherapy and
To be able to discuss and deepen one's thoughts and questions about contemporary psychological issues.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (60%) and research presentation (40%).

OTR200JC（その他 / Others 200）

専門演習ＩＡ

小林　由佳

配当年次／単位数：**2年次／2単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業・組織心理学と臨床心理学(特に認知行動アプローチ)の観点から、働く人のウェルビーイングに関する理解を深め、課題解決と支援の方法を考えます。

【到達目標】
働く人が直面する諸問題とその捉え方に関する基礎知識を習得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
働くことに関わる各テーマについて、文献調査やDVD視聴、小グループでの発表、全体での議論を通して、理解と考察を深めます。演習の展開によって授業計画を若干変更することがあります。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介、演習の目的と進め方、成績の評価法
第2回	産業・組織領域の基礎	産業・組織領域の構造やそこで働く人についての概説と議論
第3回	働く人のストレスとメンタルヘルス	働く人のストレスとメンタルヘルスについての概説と議論
第4回	働く人のウェルビーイング	働く人のウェルビーイングについての概説とグループワーク
第5回	キャリアモデルとキャリア観の変遷	キャリアについて、代表的なモデルと昨今のキャリア観の変遷についての概説と議論
第6回	働き方の変遷	外部環境の変化や働き方改革などの法整備の中での働き方の変遷についての概説と議論
第7回	ワークエンゲージメント	ワークエンゲージメントについてのグループ発表と議論
第8回	リーダーシップ①	リーダーシップの歴史と代表的なモデル（特性理論、行動理論、条件適合型理論）についてのグループ発表と議論
第9回	リーダーシップ②	リーダーシップの代表的なモデル（コンセプト理論）についてのグループ発表と議論
第10回	モチベーション	モチベーション理論についてのグループ発表と議論
第11回	職業性ストレスモデル	職業性ストレスモデルについてのグループ発表と議論
第12回	職場の関係性、心理的安全性	職場の関係性と心理的安全性についてのグループ発表と議論
第13回	企業理念とウェルビーイング	企業理念と企業のウェルビーイング施策についてのグループ発表と議論
第14回	まとめ	春学期ゼミの振り返りおよび秋学期の進め方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループで協力し話し合いながら、文献を調べ、発表内容をレジュメにまとめる必要があります。自分以外の発表内容についても、有意義なディスカッションをするために事前学習を求めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60％）および発表内容（40％）をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
より多くの気づきと視点を得るため、ディスカッションや学生間の共同作業の時間を多くとります。

【Outline (in English)】
Course outline ： In this specialized seminar, students will deepen their understanding of various issues related to workers, problem solving, and support methods from the perspectives of industrial/organizational psychology and clinical psychology (especially the cognitive-behavioral approach) under the theme of the wellbeing of workers.
Learning Objectives ： The goal of the spring semester is to acquire basic knowledge of the various problems faced by workers and how to understand them.
Learning activities outside of the classroom ： Students need to cooperate and discuss in groups, research the literature, and compile their presentations into resumes. Students are also required to study the contents of presentations other than their assigned ones in advance to have meaningful discussions. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy ： Students will be evaluated comprehensively based on their participation in the class (60%) and the content of their presentations (40%).

OTR200JC（その他 / Others 200）

専門演習ＩＡ

末武　康弘

配当年次／単位数：**2年次／2単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミ生同士で協力しながら、臨床心理学に関連する問題や支援について報告や議論を行い、臨床心理学の基本的な考え方や態度、スキルを共有します。

【到達目標】
到達目標は、体験実習とディスカッションを通じて、臨床心理学の基本的な考え方や態度、スキルを共有することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
各種のセラピーについてグループで歴史・理論・方法を調べて発表し、そのセラピーについての体験実習を行い、ディスカッションします。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション①	ゼミの進め方、成績評価の基準を示します
第2回	オリエンテーション②	ゼミ長他、ゼミにおける役割を決めます
第3回	春学期の小グループ、学習内容の決定	春学期に行う実践体験グループのグループ分けと、各グループで実施する内容を決定します
第4回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション①	例：カウンセリングロールプレイ
第5回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション②	例：箱庭療法
第6回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション③	例：音楽療法
第7回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション④	例：造形療法
第8回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション⑤	例：夢分析とイメージセラピー
第9回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション⑥	例：プレイセラピーとボディワーク
第10回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション⑦	例：行動療法と認知行動療法
第11回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション⑧	例：サイコドラマ
第12回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション⑨	例：森田療法と内観療法
第13回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション⑩	例：マインドフルネスストレス低減法
第14回	授業のまとめ	授業のふりかえりとまとめを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループで協力し話し合いながら、文献を調べ、発表内容をレジュメにまとめ、発表と体験実習の内容を事前に検討してもらいます。また各グループで発表内容と体験実習、ディスカッションについてレポートを執筆します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（発表の内容50％、授業への参加度50％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
体験実習やディスカッションが積極的に展開するように発言を促したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
発表の際にパワーポイントを使用することを勧めます。パソコン本体は個人のものを持参しなくても大丈夫です。

【その他の重要事項】
おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく授業します。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire basic knowledge and skill required for research and practice in clinical psychology, through discussion and exercise.
The goals of this course are to acquire basic knowledge and skill required for research and practice in clinical psychology.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on students' presentation performance (50%), and in-class contribution (50%).

OTR200JC（その他 / Others 200）

専門演習ＩＡ

関谷　秀子

配当年次／単位数：**2年次／2単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
精神発達についての基本的な知識を習得する。現代を生きる社会人の常識としての発達心理学と臨床心理学、あるいは児童精神医学の知識を身につけ、健康な社会人としての自分自身の発達に生かすことを目的とする。

【到達目標】
精神発達についての基本的な内容について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
論文やテキストの輪読を行う。それと並行して精神発達の正常と異常に関連するテーマについて調べ、発表とディスカッションを行う。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミ生同士の自己紹介、ゼミの進め方、輪読の担当と発表順番決め
第2回	文献検索の方法について	多摩図書館においてガイダンス受講
第3回	テキストの輪読①／発表①	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う①
第4回	テキストの輪読②／発表②	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う②
第5回	テキストの輪読③／発表③	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う③
第6回	テキストの輪読④／発表④	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う④
第7回	テキストの輪読⑤／発表⑤	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う⑤
第8回	テキストの輪読⑥／発表⑥	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う⑥
第9回	テキストの輪読⑦／発表⑦	レジメを準備して発表、ディスカッションを行う⑦
第10回	テキストの輪読⑧／発表⑧	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う⑧
第11回	テキストの輪読⑨／発表⑨	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う⑨
第12回	まとめ①	各発表を振り返り、印象に残った発表や新しい理解などについてディスカッションを行う
第13回	論文によるケース検討	ケースについてディスカッションを行う
第14回	まとめ②	春学期を振り返り、秋学期のゼミの内容と進行についてディスカッションを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを読み、自分の担当箇所の発表用レジメを作成する。
自分の興味のあるテーマについて調べ、発表準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点(60%)、発表(40%)に基づいて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
臨床場面のエピソードや具体的なケースを提示することで学生のテーマについての理解を深めたい。

【Outline (in English)】
We will learn basic knowledge of the developing mind. We will also learn about developmental psychology, clinical psychology, and child psychiatry with the goal of nurturing a healthy member of society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.　Your overall grade in the class will be decided based on the following. In class contribution: 60%　presentation : 40%.

OTR200JC（その他 / Others 200）

専門演習ＩＡ

丹羽　郁夫

配当年次／単位数：**2年次／2単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
子どもの心理療法の各理論（子ども中心、自我心理学、対象関係論）とそれぞれの理論に基づくセラピーの実践を学びます。また子どもの心理的問題および発達障害、そしてこれらの問題に対する心理臨床的な対応の基本を学びます。

【到達目標】
子どもの心の発達とその問題、さらに心理療法の基本的な内容について説明できます。さらに、心理療法の各場面における子どもの心理状態とそれへの適切な対応についてもおおよその見当がつきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
教員が用意した事例をクイズ形式で検討します。また授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。課題などの提出・フィードバックなどは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	新ゼミ生同士の自己紹介、簡単なワーク、ゼミでの係りを決め、授業の進め方を説明します
第2回	事例検討①	日本的な遊戯療法の事例（被虐待児：身体的虐待）①
第3回	事例検討②	日本的な遊戯療法の事例（被虐待児：身体的虐待）②
第4回	事例検討③	日本的な遊戯療法の事例（被虐待児：ネグレクト）
第5回	遊戯療法④	日本的な遊戯療法の事例（自閉症スペクトラム障害）
第6回	遊戯療法の理論と技法	遊戯療法の基本について講義
第7回	事例検討⑤	精神分析（自我心理学）的視点からの遊戯療法①
第8回	事例検討⑥	精神分析（自我心理学）的視点からの遊戯療法②
第9回	事例検討⑦	精神分析（対象関係論）的視点からの遊戯療法
第10回	事例検討⑧	子ども中心の視点からの遊戯療法
第11回	事例検討⑨	中学生（いじめを受けたことによる不登校）とのカウンセリング
第12回	事例検討⑩	高校生（不登校）とのカウンセリング
第13回	事例検討⑪	大学生（留年）とのカウンセリング
第14回	まとめ	全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前の演習で次回の演習の内容が説明されるので、事前に調べることが求められます。講義の後には、演習の内容を振り返り、疑問点などを調べることが求められます。演習後は、発表された内容を振り返り、疑問点や興味を持ったことなどを調べることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。教員が用意した資料を使用します。

【参考書】
各テーマに応じて参考文献を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
ディスカッションでの発言(100%)。

【学生の意見等からの気づき】
現状を維持します。

【その他の重要事項】
プライシーに配慮して作成した、いくつかの事例をもとに、クライエントの内面の理解とそれにもとづいた対応方法を学生の皆さんと検討する予定です。

【Outline (in English)】
Course outline
Students will learn each theory of psychotherapy for children (child-centered, ego psychology, object relations theory) and the practice of therapy based on each theory. Students learn basic knowledge of the psychological problems and developmental disorders of children, and the clinical approach to these problems.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
－ Students can explain the development of the heart of the child and the problem, the contents that the psychotherapy is more basic
－ Students read documents and I make resume and can announce it.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies
Final grade will be decided based on the remark in the discussion(100%).

OTR200JB（その他 / Others 200）

専門演習ＩＢ

伊藤　正子

配当年次／単位数：**2年次／2単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、「社会的排除」をキーワードに、人間関係や制度等何らかの理由で社会との「関係性」から離れて社会的孤立の状態にある人びとの現状について学ぶ。

【到達目標】
社会的排除の実態を様々な側面から理解し、批判的思考を養う。
当事者のおかれた状況について様々な視点から理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
秋学期は、理論と実践を統合するためのフィールドワーク等を行い、春学期の研究テーマを実践的に深める。対面式での開講となる。外部講師へのヒアリング等は、状況に応じてオンライン上で実施することもある。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	秋学期の目標、内容の確認
第2回	フィールドワークの計画①	グループ毎にテーマの確認とフィールドワーク先の検討
第3回	フィールドワークの計画②	フィールドワークの内容・進行計画の作成①
第4回	フィールドワークの実践①	グループ毎にフィールドワークの実践を行い各々持ち帰った課題を整理・検討する。①（介入方法について）
第5回	フィールドワークの実践②	グループ毎にフィールドワークの実践を行い各々持ち帰った課題を整理・検討する。②（支援方法について）
第6回	フィールドワークの実践③	グループ毎にフィールドワークの実践を行い各々持ち帰った課題を整理・検討する。③（相談・連携について）
第7回	フィールドワークの実践④	グループ毎にフィールドワークの実践を行い各々持ち帰った課題を整理・検討する。④（記録について）
第8回	フィールドワーク結果の検討①	フィールドワーク実践の振り返りと検討①（研究テーマとの関連で）
第9回	フィールドワーク結果の検討②	フィールドワーク実践の振り返りと検討②（実践方法について）
第10回	フィールドワーク結果の検討の③	フィールドワーク実践の振り返りと検討③（社会問題との関連について）
第11回	研究報告①	貧困系グループの発表
第12回	研究報告②	障害系グループの発表
第13回	研究報告③	多文化・その他のマイノリティ系グループの発表
第14回	まとめ	年間の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミで取り組むテーマに関するボランティアないしは現場の見学、参加を自主的に行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて、適宜参考図書・論文・事例を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
１．レポート(30%)
２．研究発表(40%)
３．演習への能動的参加(30%)

【学生の意見等からの気づき】
受講者の関心に応じて、ゼミのテーマに限定しない研究、ディスカッションも取り入れていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】
基本的には学生主体の運営で、柔軟な姿勢と思考でお互いの多様性と異質性を認め合い、異学年間で意見交換を行いながら、積極的にゼミを作っていく姿勢を期待する。
医療機関・外国人支援ＮＧＯソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助について解説する。

【Outline (in English)】
This course deals with the support people who have been in socially isolated situation.At the end of the course, students are expected to get knowledge about social supports with people who socially isolated. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class meeting. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (40%), and in-class contribution (30%).

OTR200JB（その他 / Others 200）

専門演習ＩＢ

岩崎　晋也

配当年次／単位数：**2年次／2単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会福祉にかかわるテーマをとりあげ基本的な研究スキルを身につける

【到達目標】
論理的な議論の仕方や論文作成能力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
グループごとに研究の基本的な方法を学び、インタビュー調査を行い、その結果をまとめます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	先行研究の検討１	グループごとに先行研究を調べて報告する１
第2回	先行研究の検討２	グループごとに先行研究を調べて報告する２
第3回	先行研究の検討３	グループごとに先行研究を調べて報告する３
第4回	先行研究の検討４	グループごとに先行研究を調べて報告する４
第5回	先行研究の検討５	先行研究を整理し、研究課題を明らかにする
第6回	研究仮説の構築	先行研究をもとに研究仮説を構築する
第7回	インタビュー調査の設計１	インタビュー調査先を選定する
第8回	インタビュー調査の設計２	インタビュー調査先の事前調査を行う
第9回	インタビュー調査の設計３	インタビュー調査の項目を検討する
第10回	インタビュー調査結果の検討１	インタビュー調査の結果を文字化する
第11回	インタビュー調査結果の検討２	インタビュー内容をまとめる
第12回	インタビュー調査結果の検討３	先行研究の知見や研究仮説から、インタビュー結果を分析する
第13回	追加調査の検討	インタビュー調査で追加調査すべき点がないか検討する。
第14回	追加調査の実施	必要な追加調査を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミにおいて指導を受けた内容を、グループで調査研究し、次回までに報告する。
必要に応じてサブゼミを開催し、議論を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績は、平常点(100%)により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんの意見を聞きながら授業を進めるつもりです。

【その他の重要事項】
原則として、部活やその他の用事で、ゼミを欠席することを認めません。

【Outline (in English)】
Study social welfare themes and master basic research skills.
The goals of this course are to improve the ability to think logically and
discuss with others.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 100%.

OTR200JB（その他 / Others 200）

専門演習ＩＢ

髙良　麻子

配当年次／単位数：**2年次／2単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、社会的に不利な立場におかれている人びとのウェルビーイングの実現を目的に、抑圧や無視されている当事者の声を社会に届け、集団、組織、地域、政策等における連鎖的変化をどのように起こすのかについて、ソーシャルワークの観点から検討する。

【到達目標】
・社会問題の解決に向けた活動計画を策定することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
専門演習ＩＡの学びをもとに、グループで社会問題の解決に向けた活動計画を策定する。授業ごとのリアクションペーパー等をもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	社会問題の理解	支援者からの講義
第3回	社会問題の解決に向けた活動計画の検討①	社会問題の解決目標
第4回	社会問題の解決に向けた活動計画の検討②	連鎖的変化の仮説
第5回	社会問題の解決に向けた活動計画の検討③	連鎖的変化を生じさせる活動
第6回	社会問題の解決に向けた活動計画の検討④	具体的な活動
第7回	社会問題への対応検討	全体でのディスカッション
第8回	社会問題の解決に向けた活動計画の策定	活動計画の完成
第9回	社会問題の解決に向けた活動計画の発表①	活動計画の発表
第10回	社会問題の解決に向けた活動計画の発表②	活動計画の議論
第11回	社会問題の解決に向けた活動計画の再検討	活動計画の再検討
第12回	社会問題の解決に向けた活動計画の発表	活動計画の全体発表
第13回	個々の学びの総括	各自の学びの共有
第14回	総括	振り返りと課題認識 個別面談

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当者として責任をもって、各時間の課題に関する準備を進めるとともに、授業での議論内容等を踏まえて理解を深める復習を行なってほしい。また、日頃から社会問題等に興味を持ち、講演会やボランティア等に参加することを期待する。
本授業の準備・復習時間は、各3時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法 (共通科目)』中央法規
空閑浩人・白澤正和・和気純子編著（2022）『新・MINERVA社会福祉士養成テキストブック６ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ』ミネルヴァ書房
髙良麻子（2017）『日本におけるソーシャルアクションの実践モデル− 「制度からの排除」への対処』中央法規
萩上チキ（2023）『社会問題のつくり方− 困った世界を直すには？』翔泳社

【成績評価の方法と基準】
・平常点60%
・社会問題の活動計画に関する発表 40%

【学生の意見等からの気づき】
２年生の最後にそれまでの学びの総括を行い、次年度からの卒業研究につなげます。

【Outline (in English)】
This course is the second semester of a two-semester integrative practice course. Students will use the seminar format to learn how to achieve institutional change to meet a need, solve a social problem, and correct injustices as a social worker. Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end presentation (40%) and in-class contribution (60%).

OTR200JB（その他 / Others 200）

専門演習ＩＢ

眞保　智子

配当年次／単位数：**2年次／2単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生きづらさを抱え、孤立しがちな方と共に暮らす地域社会をみなさんと当事者の言葉から精神保健ソーシャルワークの視点でとらえ、発達障害、メンタルヘルスと若者と社会の関係について検討します。

【到達目標】
問題意識を高め、関連する文献渉猟を経て自らの関心領域を確認すること、そして議論の方法と論文作成、プレゼンテーション力を身につけることを目的としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
多摩地区を中心とした児童養護施設、精神科病院、就労支援施設、インクルーシブ＆ダイバーシティ経営の企業などへの見学や依存症などのピアサポート（当事者相互のサポート）グループでの語りで学びながら、身近な地域の社会資源の調査や地域ニーズを把握し解決について検討していきます。文献研究とともにフィールドワークも重視して進めていきます。なお、レポートやリアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の振り返り
第2回	グループワーク(合宿総括)	ゼミ合宿の振り返り
第3回	ゼミ合宿報告会	ゼミ合宿でのフィールドワークを総括
第4回	研究構想報告会	研究課題・問題意識・先行研究のレビュー・研究の目的を発表
第5回	フィールドワークの準備（児童養護施設、精神科病院、就労支援施設、インクルーシブ＆ダイバーシティ経営の企業）	調査対象に関する事前研究
第6回	フィールドワーク（児童養護施設、精神科病院、就労支援施設、インクルーシブ＆ダイバーシティ経営の企業）	インタビュー調査
第7回	フィールドワークの振り返り（児童養護施設、精神科病院、就労支援施設、インクルーシブ＆ダイバーシティ経営の企業）	レポートの作成とディスカッション
第8回	グループワーク（文献研究準備）	図書館等での文献研究
第9回	グループワーク（文献検索など）	図書館等での文献研究と報告
第10回	ゲストスピーカー講義	講義とディスカッション
第11回	ゲストスピーカーの振り返り	講義とディスカッション・振り返り
第12回	研究報告会（１班）	１班発表とディスカッション
第13回	研究報告会（２班）	２班発表とディスカッション
第14回	研究報告会（３班）	３班発表とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループで行う研究発表会を行います。レジュメの作成やパワーポイントの利用など報告時には十分な準備をして行うことを求めています。
　本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
演習中に適宜紹介します。

【参考書】
眞保智子（2020）『精神障害・発達害のある方とともに働くためのＱ＆Ａ50　～採用から定着まで～』日本加除出版

【成績評価の方法と基準】
演習での報告・発言：５０％
フィールドワークレポート・グループワーク報告等：５０％

【学生の意見等からの気づき】
少人数学習のよさを最大限活用し、学生相互の学びを大切にしています。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆やグループワークの際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用する。

【その他の重要事項】
フィールドワークを重視しており、時間割記載のゼミ時間以外の時間に活動することもあることを承知して参加してください。

【Outline (in English)】
This course provides a lecture on the fundamental principles and practices of writing academic essays. The goal of the course students to progress from the basic components of academic vocabulary, sentence structure, and style to the construction of arguments, paragraphs, and short essays. Before/after each course, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%) and in-class contribution (50%).

OTR200JB（その他 / Others 200）

専門演習ＩＢ

杉浦　ちなみ

配当年次／単位数：**2年次／2単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、文化を楽しみ、学ぶことでつくられる地域のありかたを探る。日々の生活や活動を通じた住民の学びが地域づくりや地域文化の基盤になってきた。学びのなかには、教科的な学習にとどまらず、食や芸能、生活習慣といった文化の学習や継承も含まれる。それを支え形作るのが、学校外の学習機会を保障する社会教育・生涯学習行政の課題である。演習を通じて、地域づくりや地域文化創造の営みにおける人々の学びついて、各自の関心にあわせた切り口から考察していく。

【到達目標】
地域づくりや地域文化創造を支える社会教育・生涯学習の基本的視点を習得するとともに、その実際に触れ、課題も含めて考察することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
文献購読、グループディスカッション、フィールドワークを組み合わせて進める。課題等に対するフィードバックは授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方の確認
第2回	フィールドワークの振り返り（1）	春学期～夏休みに行ったフィールドワークのまとめ（前半）
第3回	フィールドワークの振り返り（2）	春学期～夏休みに行ったフィールドワークのまとめ（後半）
第4回	報告書の作成（1）	各自のレポートの検討（前半）
第5回	報告書の作成（2）	各自のレポートの検討（後半）
第6回	報告書の作成（3）	修正レポートの検討・確認
第7回	前半のまとめと後半に向けて	報告書作成の振り返りと後半の進め方の確認
第8回	文献購読（1）	現代社会の課題と社会教育の関わり（先行研究から）
第9回	文献購読（2）	現代社会の課題と社会教育の関わり（事例検討）
第10回	文献購読（3）	社会教育・生涯学習の現場を理解するために（先行研究から）
第11回	文献購読（4）	社会教育・生涯学習の現場を理解するために（事例検討）
第12回	フィールドワーク（1）	ゼミの学びに関わる社会教育現場の訪問
第13回	フィールドワーク（2）	ゼミの学びに関わる社会教育実践への参加
第14回	まとめ	秋学期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
専門演習の前後に、文献講読や振り返り、報告準備など、準備・復習時間として各2時間程度を標準とする。文献講読では自身の関心にもとづき疑問も含めて積極的に発言する姿勢が求められる。テーマに関連する現場のリサーチを行い、現実に即してテーマを理解し文献を読み込んでいってほしい。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
授業時間内に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献度50%、レポート・報告の内容50%

【学生の意見等からの気づき】
学生からの意見や要望を可能な範囲で授業に活かしていく。

【Outline (in English)】
【Course outline】In this course, we will explore the ways in which community can be created by enjoying and learning about culture.
【Learning Objectives】The goal of this seminar is to gain a basic perspective for researching the transmission and creation of local culture and community development through adult education and lifelong learning.
【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to spend approximately 4 hours in each class for reading, reviewing, writing reports, etc.
【Grading Criteria /Policy】in-class contribution(50%), discussions/presentations/reports(50%).

OTR200JB（その他 / Others 200）

専門演習ＩＢ

野田　岳仁

配当年次／単位数：**2年次／2単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、環境社会学・地域社会学の主要な方法論である生活環境主義の方法を使って、現場に暮らす人びとにとって有効性のある地域づくり・地域ツーリズム政策を考えることを目的としている。専門演習Ｉでは年間を通じて、次年度以降の研究の土台をつくるため、現場の人びとの実践に学ぶ方法論とフィールドワークの技法をマスターすることを目指している。

【到達目標】
地域社会が抱える地域づくりや地域ツーリズムの諸課題に対して、現場に暮らす生活者の立場に立って問題の本質を見極め、問題解決につながる有効性のある政策論を提示することができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
本演習では、土台づくりのために方法論のマスターに重きを置くが、議論の題材として”アクアツーリズム”と呼ばれる地域の水辺空間で展開される新しい地域ツーリズムの実践をとりあげる。アクアツーリズムにおける現場の実践に学びながら、ひとつの研究テーマを設定し、問いを立て、フィールドワーク、文献調査を行い、得られたデータからひとつの結論を導き出すという一連の研究手法を体験する。議論の題材やテーマは受講生の関心を考慮して若干の変更はありうる。変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習の進め方とスケジュール、目標設定
第2回	調査結果の報告（1）	プレゼンテーションの作法
第3回	調査結果の報告（2）	調査結果についての討議
第4回	先行研究の再検討（1）	調査結果を踏まえて先行研究を見直す
第5回	先行研究の再検討（2）	調査結果を踏まえて分析視角を見直す
第6回	フィールドワーク（1）	追加のデータを収集する①
第7回	フィールドワーク（2）	追加のデータを収集する②
第8回	データの解釈・分析（1）	追加調査で得られたデータを解釈する
第9回	データの解釈・分析（2）	追加調査で得られたデータを分析する
第10回	結論の検討（1）	調査によって導き出された結論について検討・討議する①
第11回	結論の検討（2）	調査によって導き出された結論について検討・討議する②
第12回	論文執筆の作法と構成	研究結果を論文にまとめる
第13回	プレゼンテーション	研究結果について発表する
第14回	2年次ゼミの総括	総括と3年次ゼミの計画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題文献の精読、フィールドワークの準備、レジュメの作成・発表の準備などの事前学習は不可欠である。調査の状況によっては授業時間外でのフィールドワークが必要な場合もある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
受講生の関心を考慮し、適宜アナウンスする。

【参考書】
参考書や関連論文は適宜紹介したり、必要に応じて配布する。

【成績評価の方法と基準】
討議や発表を含めた平常点（50%）とレジュメやレポートなどの成果物（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートの結果や学生からの声は適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを積極的に活用する。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems.【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance（Discussion, presentation, and report）(50%).

OTR200JB（その他 / Others 200）

専門演習ＩＢ

水野　雅男

配当年次／単位数：**2年次／2単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域住民やNPOが主体的に関わるまちづくり（地域づくり）を題材として、地域住民やNPOは地域の課題をどのように捉え、組織を結成し、財源を確保し、行政セクターと連携しているのかを学ぶ。

【到達目標】
受講生が実践的なフィールドワークを通じて、まちづくり（地域づくり）に必要な要因を把握する能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
グループワークにより、まちづくり（地域づくり）のフィールドワークの準備と実施、報告まで一貫して行う。
課題の事前提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第1回　活動報告	夏休みのフィールドワークの概要報告
第2回	活動結果とりまとめ①	フィールドワーク成果の整理①
第3回	活動結果とりまとめ②	フィールドワーク成果の整理②と発表
第4回	今後の活動課題①	秋のフィールドワークに向けての課題の検討①
第5回	今後の活動課題②	秋のフィールドワークに向けての課題の検討②
第6回	活動プログラム立案①	秋のフィールドワーク行動計画①
第7回	活動プログラム立案②	秋のフィールドワーク行動計画②
第8回	フィールドワーク実施①	現地での活動①第一次調査
第9回	フィールドワーク実施②	現地での活動②第二次調査
第10回	活動結果とりまとめ①	フィールドワーク成果のデータ整理
第11回	活動結果とりまとめ②	フィールドワーク成果の図表作成
第12回	報告書作成①	活動報告書のとりまとめ
第13回	報告書作成②	活動報告書の校正
第14回	秋学期のふりかえり	到達度と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
フィールドワークの準備と実施、報告書作成など、グループワークに対して積極的に関わる姿勢が求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、適宜資料として配付する。

【参考書】
必要に応じて、適宜資料として配付する。

【成績評価の方法と基準】
演習時間での報告（70％）や議論など（30％）を総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムやFacebookグループなどを活用して、学生への連絡と情報共有を図る。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに30年間関わり、市民活動を企画運営してきた経験に基づき、まちづくり活動を企画する術について授業で紹介する。

【Outline (in English)】
< Course outline>
The aim of this course is to help students acquire how do local residents and NPOs perceive local issues, form organizations, secure financial resources, and collaborate with the administrative sector.
< Learning Objectives>
By the end of the course, students should be able to do the followings:
Acquire the ability to understand the factors necessary for community development (community development) through practical fieldwork.
< Learning activities outside of classroom>
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy>
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 70%, in class contribution: 30%

OTR200JC（その他 / Others 200）

専門演習ＩＢ

久保田　幹子

配当年次／単位数：**2年次／2単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちを取り巻く社会の中で、どのような問題が生じているのか、その背後にどのような心理的な問題があるのか、といった疑問を通して、心理学的に考える姿勢を培うとともに、心理学的な基礎知識を学ぶ。

【到達目標】
心理療法家の姿勢、心理療法の概要について理解できる。
現代の心の問題について、自分の考え、疑問をディスカッションし、深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
・心理療法の基礎について学ぶ（幾つかの心理療法を取り上げる）
・心理査定を通して心の問題やその援助を考える
・臨床現場を実際に見学し、心の問題と援助について学びを深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	心理療法とは	心理療法の基礎的な知識を学ぶ
第2回	心理療法家とは	心理臨床家の役割、姿勢など基礎的な知識を学ぶ
第3回	心理療法の具体的な内容を学ぶ①	関心のある心理療法を選び、グループ発表①
第4回	心理療法の具体的な内容を学ぶ②	発表内容を元に、ディスカッション。関連する論文を読む①ビデオ学習
第5回	心理療法の具体的な内容を学ぶ③	関心のある心理療法を選び、グループ発表②
第6回	心理療法の具体的な内容を学ぶ④	発表内容を元に、ディスカッション。関連する論文を読む②ビデオ学習
第7回	心理療法の具体的な内容を学ぶ⑤	関心のある心理療法を選び、グループ発表③
第8回	心理療法の具体的な内容を学ぶ⑥	発表内容を元に、ディスカッション。関連する論文を読む③ビデオ学習
第9回	心理療法の具体的な内容を学ぶ⑦	関心のある心理療法を選び、グループ発表④
第10回	心理療法の具体的な内容を学ぶ⑧	発表内容を元に、ディスカッション。関連する論文を読む④ビデオ学習
第11回	心理療法の具体的な内容を学ぶ⑨	関心のある心理療法を選び、グループ発表⑤
第12回	心理療法の具体的な内容を学ぶ⑩	発表内容を元に、ディスカッション。関連する論文を読む⑤ビデオ学習
第13回	心理療法の具体的な内容を学ぶ⑪	関心のある心理療法を選び、グループ発表⑥およびディスカッション
第14回	まとめ	全体を通した振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関心のあるテーマを選び、グループ発表を行うため、発表のための準備が必要となる。また、発表者のみの学習にならないように、各テーマについて個々に文献を調べる事前学習も必要である。
関連する文献・図書を検索し、あらかじめ読んでおくといった学習も求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60％）と発表内容（40％）から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、臨床心理学の基礎知識をわかりやすく学べるように、また現代社会においてみられる現象を心理学の観点からディスカッションできるよう工夫したい。
体験学習も積極的に取り入れていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
発表の際にはパワーポイントを使用することをお勧めします。

【その他の重要事項】
医療機関において病院臨床の実務経験があることから、現代人が直面する課題や心理的問題なども紹介しながら、皆さんの問題提議や議論の助けになるように進めていきます。

【Outline (in English)】
Learning the basics in psychology and cultivating a perspective in the field by exploring problems in our society and investigating underlying issues related to psychology.
The goals of this lecture are to provide an understanding of the attitudes of psychotherapists, an overview of psychotherapy and
To be able to discuss and deepen one's thoughts and questions about contemporary psychological issues.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (60%) and research presentation (40%).

OTR200JC（その他 / Others 200）

専門演習ＩＢ

小林　由佳

配当年次／単位数：**2年次／2単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業・組織心理学と臨床心理学(特に認知行動アプローチ)の観点から、働く人のウェルビーイングに関する理解を深め、課題解決と支援の方法を考えます。

【到達目標】
働く人のウェルビーイングのためのアプローチ方法を理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
働く人のウェルビーイングを支えるためのアプローチについて、文献調査やDVD視聴、小グループでの発表、全体での議論を通して、理解と考察を深めます。演習の展開によって授業計画を若干変更することがあります。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の進め方と計画
第2回	働く人のウェルビーイングを支える関係者と仕組み	働く人のウェルビーイングを支える関係者と仕組み、法整備についての概説と議論
第3回	働く人のメンタルヘルス不調の予防	メンタルヘルス不調の予防の考え方と実際についての概説と議論
第4回	個人への支援	個人支援の基礎となる認知行動アプローチとその考え方についての概説と議論
第5回	組織への支援	職場環境を改善するためのアプローチについての概説と議論
第6回	個人と組織の活性化支援	個人と組織を活性化するためのアプローチについての概説と議論
第7回	個人へのアプローチ１	働く人のウェルビーイングを向上させる個人向けアプローチについてのグループ発表と議論１
第8回	個人へのアプローチ２	働く人のウェルビーイングを向上させる個人向けアプローチについてのグループ発表と議論２
第9回	個人へのアプローチ３	働く人のウェルビーイングを向上させる個人向けアプローチについてのグループ発表と議論３
第10回	個人へのアプローチ４	働く人のウェルビーイングを向上させる個人向けアプローチについてのグループ発表と議論４
第11回	組織へのアプローチ１	働く人のウェルビーイングを向上させる組織向けアプローチについてのグループ発表と議論１
第12回	組織へのアプローチ２	働く人のウェルビーイングを向上させる組織向けアプローチについてのグループ発表と議論２
第13回	組織へのアプローチ３	働く人のウェルビーイングを向上させる組織向けアプローチについてのグループ発表と議論３
第14回	まとめ	一年間の学びのまとめ、翌年度の進め方について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関心のあるテーマを選び、グループで協力し合いながら文献を調べ、発表内容をレジュメにまとめる必要があります。自分以外の発表内容についても、有意義なディスカッションをするために事前学習を求めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60％）および発表内容（40％）をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
より多くの気づきと視点を得るため、ディスカッションや学生間の共同作業の時間を多くとります。

【Outline (in English)】
Course outline： In this specialized seminar, students will deepen their understanding of various issues related to workers, problem solving, and support methods from the perspectives of industrial/organizational psychology and clinical psychology (especially the cognitive-behavioral approach) under the theme of the wellbeing of workers.
Learning Objectives： The goal of the autumn seminar is to understand how to approach the wellbeing of workers.
Learning activities outside of the classroom： Students need to cooperate and discuss in groups, research the literature, and compile their presentations into resumes. Students are also required to study the contents of presentations other than their assigned ones in advance to have meaningful discussions. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy： Students will be evaluated comprehensively based on their participation in the class (60%) and the content of their presentations (40%).

OTR200JC（その他 / Others 200）

専門演習ＩＢ

末武　康弘

配当年次／単位数：**2年次／2単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミ生同士で協力しながら、臨床心理学に関連する問題や支援について報告や議論を行い、ゼミ論にまとめます。

【到達目標】
このゼミの到達目標は、グループ学習を通じて、臨床心理学の基本的な考え方や態度、スキルを共有することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理学のトピックをグループでゼミ論にまとめます。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション①	ゼミの進め方、成績評価の基準を示します
2	オリエンテーション②	グループ分けと、ゼミ長他の役割を決めます
3	小グループ、研究内容の決定	各グループで取り組む内容を決定します
4	小グループによる研究発表とディスカッション①	各グループによる研究テーマと進行予定の発表
5	小グループによる研究発表とディスカッション②	例：グループA、グループBの発表
6	小グループによる研究発表とディスカッション③	例：グループC、グループDの発表
7	小グループによる研究発表とディスカッション④	例：グループE、グループAの発表
8	小グループによる研究発表とディスカッション⑤	例：グループB、グループCの発表
9	小グループによる研究発表とディスカッション⑥	例：グループD、グループEの発表
10	小グループによる研究発表とディスカッション⑦	例：グループAの発表
11	小グループによる研究発表とディスカッション⑧	例：グループBの発表
12	小グループによる研究発表とディスカッション⑨	例：グループCの発表
13	小グループによる研究発表とディスカッション⑩	例：グループDの発表
14	小グループによる研究発表とディスカッション⑪、まとめ	例：グループEの発表、授業のまとめを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループで協力し合いながら、文献を調べ、発表内容をレジュメにまとめ、発表内容を事前に検討してもらいます。また各グループでゼミ論文を執筆します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40％）、ゼミ論文（60％）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションが積極的に展開するように発言を促したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
発表の際にパワーポイントを使用することを勧めます。パソコン本体は個人のものを持参しなくても大丈夫です。

【その他の重要事項】
おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく授業します。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire basic knowledge and skill required for research and practice in clinical psychology, through discussion and exercise.
The goals of this course are to acquire basic knowledge and skill required for research and practice in clinical psychology.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on term-end report (seminar report) (60%), and in-class contribution (40%).

OTR200JC（その他 / Others 200）

専門演習ＩＢ

関谷　秀子

配当年次／単位数：**2年次／2単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習ＩＡで学んだことを基礎として、乳幼児期から初期成人期に至る精神発達の正常と異常を学習する。現代を生きる社会人の常識としての発達心理学と臨床心理学、あるいは児童精神医学の知識を身につけ、健康な社会人としての自分自身の発達に生かすことを目的とする。

【到達目標】
乳幼児期から初期成人期に至る精神発達の正常と異常に関連した、関心のあるテーマについて調べ理解を深める。またそのテーマについて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
各自が関心のあるテーマを設定し文献を収集し、発表とディスカッションを行う。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	進行についての提案ないし希望があれば、それについてゼミ全体で検討する。
第2回	文献検索①	関心のあるテーマに関連した研究論文または著作を選択して決定する。
第3回	文献検索②	関心のあるテーマに関連した研究論文または著作を選択して決定する。
第4回	発表①	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う①。
第5回	発表②	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う②。
第6回	発表③	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う③。
第7回	発表④	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う④。
第8回	発表⑤	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う⑤。
第9回	発表⑥	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う⑥。
第10回	発表⑦	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う⑦。
第11回	発表⑧	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う⑧。
第12回	発表⑨	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う⑨。
第13回	まとめ①	各発表を振り返り、印象に残った発表や新しい理解についてディスカッションを行う。
第14回	まとめ②	来年度春学期のゼミの内容と進行について意見交換を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関心のあるテーマについて調べ、レジメを作成し、発表の準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点(60%)、発表(40%)に基づいて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
臨床場面のエピソードや具体的なケースを提示することで学生のテーマについての理解を深めたい。

【Outline (in English)】
We will learn normal and abnormal mental development from infancy to early adulthood.　We will also learn about developmental psychology, clinical psychology, and child psychiatry with the goal of nurturing a healthy member of society.　Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following. In class contribution: 60%　presentation : 40%.

OTR200JC（その他 / Others 200）

専門演習ＩＢ

丹羽　郁夫

配当年次／単位数：**2年次／2単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理臨床に関する自分の関心を広げるため似た関心をもった者同士のグループに分かれ、その関心の多様な側面について調査を実施して発表する。

【到達目標】
心理臨床に関連する自分が関心を持つ領域について調べて、発表することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
小グループに分かれ、それぞれのテーマに関して調査を実施して、発表する。また授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。課題などの提出・フィードバックなどは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方を説明
第2回	グループに分かれて調査を行うため、グループ分け	関心が類似した学生でグループを作る
第3回	研究テーマの検討	グループごとに研究するテーマを検討する
第4回	研究テーマの決定	グループごとに研究テーマを決定する
第5回	研究方法の検討と決定	グループごとに研究方法を検討し決定する
第6回	研究の開始	グループごとに研究を開始する
第7回	研究の継続①	グループごとに研究を継続する①
第8回	研究の継続②	グループごとに研究を継続する②
第9回	研究のまとめ	グループごとに研究をまとめる
第10回	グループ発表の準備	グループごとにパワポ資料を作成する
第11回	グループ発表①	最初のグループの発表
第12回	グループ発表②	次のグループの発表
第13回	グループ発表③	最後のグループの発表
第14回	卒業論文発表会	4年生の卒業論文発表会へ参加する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習前は、小グループで各テーマに関する先行研究を調べたり、質問紙調査などを行ったり、パワーポイント資料を作成したりすることが求められます。その際、発表が皆に伝わりやすいよう工夫することも求められます。演習後は内容を振り返り、疑問点や興味をもったことなどを調べることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
各テーマに応じて適切な文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
発表の内容（70%)、ディスカッションでの発言(30%)。

【学生の意見等からの気づき】
現状を維持します。

【Outline (in English)】
Course outline
Students are divided into groups of similar students with similar interests to broaden the students' interest in psychology clinics and conduct surveys on various aspects of their interests
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to check the domain where oneself in conjunction with the psychology clinical practice is interested in and can announce it.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies
Final grade will be calculated according to the following Contents of the announcement(70%), and remark in the discussion(30%).

OTR300JB（その他 / Others 300）

専門演習ⅡA

伊藤　正子

配当年次／単位数：**3年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅡA・ⅡBの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、社会的排除に関わる様々な現状と当事者のおかれた状況について具体的に学ぶ。

【到達目標】
このゼミでは、これまで学習してきた社会的排除に関する視点に基づきながら、各自の関心に応じてテーマを選択し、それぞれの社会的排除の実態、その社会的背景と問題を批判的に検討し、当事者のおかれた状況を「社会問題としての生活問題を科学的に理解する」ことによって具体的に理解することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期は、グループによりテーマを共有し、文献研究、アンケート調査、フィールドワーク調査などを行いながら課題を追求しレポート報告を行う。対面式での開講となる。関係者への調査は、状況に応じてオンライン上で実施することもある。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等のフィードバックは学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期目標、内容の確認
第2回	グループ面接	専門演習Ⅰ・Ⅲとの合同面接
第3回	研究テーマの明確化①	研究関心の列挙と絞り込み
第4回	研究テーマの明確化②	テーマの決定とグループ分け
第5回	先行研究のレビュー①	関連領域の調査報告書
第6回	先行研究のレビュー②	関連領域の文献および論文
第7回	集団討議①	グループ毎に研究作業を進める①文献研究のまとめ
第8回	集団討議②	グループ毎に研究作業を進める②フィールドワーク先とテーマの検討
第9回	集団討議③	グループ毎に研究作業を進める③フィールドワーク先の具体的検討
第10回	集団討議④	グループ毎に研究作業を進める④フィールドワークの計画作成
第11回	集団討議⑤	グループ毎に研究作業を進める⑤フィールドワーク実践状況についての意見交換
第12回	集団討議⑥	グループ毎に研究作業を進める⑥フィールドワーク実践の課題の検討
第13回	集団討議⑦	グループ毎に研究作業を進める⑦フィールドワーク実践の課題整理
第14回	まとめ	グループ毎に春学期の報告とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
これまでの学習を踏まえた研究方法を実践していくため、授業以外でグループによる討議を十分に行い、協働で研究の準備を進めていくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めないが、必要に応じてテキストを使用する。

【参考書】
必要に応じて、適宜参考図書・論文・事例を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
１．レポート(30%)
２．研究発表(40%)
３．演習への能動的参加(30%)

【学生の意見等からの気づき】
研究指導については、可能ならば合宿等も活用していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）を準備しておくことが望ましい。

【その他の重要事項】
昨年度の経験、成果をもとに、今年度は中心的にゼミの企画、運営を主体的に担うことを期待する。
医療機関・外国人支援ＮＧＯソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

【Outline (in English)】
This course deals with the reality of social exclusion. At the end of the course, students are expected to understand the various aspects of social exclusion in Japan and find critical thinking. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least four hours for each class meeting. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (40%), and in-class contribution(30%).

OTR300JB（その他 / Others 300）

専門演習ⅡA

岩崎　晋也

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：専門演習ⅡA・ⅡBの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会福祉にかかわるテーマをとりあげ基本的な研究スキルを身につける

【到達目標】
論理的な議論の仕方や論文作成能力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
個別にテーマを設定し、ゼミでの討議を踏まえて調査・検討を進めます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	個別テーマの選定	関心のあるテーマを選定する
第2回	先行研究の検討１	先行研究を検討する１
第3回	先行研究の検討２	先行研究を検討する２
第4回	先行研究の検討３	先行研究を検討する３
第5回	先行事例の検討１	研究テーマに関連する先行事例を検討する１
第6回	先行事例の検討２	研究テーマに関連する先行事例を検討する２
第7回	先行事例の検討３	研究テーマに関連する先行事例を検討する３
第8回	研究仮説の構築	先行研究と先行事例の検討から研究仮説を構築する
第9回	予備調査の設計１	予備調査先を選定する
第10回	予備調査の設計２	予備調査の調査内容を設計する
第11回	予備調査の実施	予備調査を実施する
第12回	予備調査結果の検討１	予備調査の結果を文字化する
第13回	予備調査結果の検討２	予備調査の結果を解釈し、分析する
第14回	予備調査結果の検討３	研究仮説の再検討を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミにおいて指導を受けた内容を、調査研究し、次回までに報告する。必要に応じて、フィールド調査を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点(100%)により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんの意見を聞きながら授業を進めるつもりです。

【Outline (in English)】
Study social welfare themes and master basic research skills.
The goals of this course are to improve the ability to think logically and
discuss with others.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 100%.

OTR300JB（その他 / Others 300）

専門演習ⅡA

宮地　さつき

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：**専門演習ⅡA・ⅡBの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、社会経済的な困難をもつ子どもと家族が、子どもの発達段階に即して、どのような不利益を負っているのか、また、その子どもと家族への援助、教育について考察を深める。

【到達目標】
・社会経済的に弱い立場にある子どもと家族の現状を理解する。
・社会的弱者の視点から、社会問題を考察する。
・社会福祉としての援助を、他の専門職との関連で検討する。
・文献やデータの読み方、およびレポートや論文の書き方についての基礎的なスキルを身につける。
・来年度作成の卒業論文に向けて、各自のテーマの絞り込みと方法について検討する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
・子どもと家族の背景としての「現代の貧困問題」、対象としての「子どもと家族」、「青少年・非行問題」、「ジェンダーと女性福祉」、さらに援助・教育の場としての「学校と教育問題」、「社会的養護問題」に関する基礎的文献を読み進めていく。
・子どもと家族の支援にかかわるゲストスピーカーや実践現場の見学から、支援の現状についての学びを得る。
・本年度は、障害児を育てる親の立場から社会を考える文献をテキストとして学びを深める。テキストの輪読は、順番で司会進行を担当すると同時に、司会以外のゼミ生も事前にテキストを読み、全員が論点を書き出したペーパーを用意して討論を進めていく。
・授業の最後に、課題についての講評を行いフィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	テキストの紹介、ゼミの進め方について
第2回	テキスト：障害児を産むということ１	大病院での出産とケアの実際
第3回	テキスト：障害児を産むということ２	母子入院と療育研究会
第4回	テキスト：親としてものを言う	母親自身をケアすること
第5回	子どもと家族の現場１	児童養護施設における支援の実際
第6回	テキスト：障害児者問題を考える１	アシュリー事件を考える
第7回	テキスト：障害児者問題を考える２	ケアラー支援と「親が一番の敵」であるということ
第8回	テキスト：障害児者問題を考える３	相模原障害者殺傷事件を考える
第9回	子どもと家族の現場２	里親支援、フォスタリングセンターにおける支援の実際
第10回	テキスト：コロナ禍を通して問い続ける１	コロナ禍の家族の状況
第11回	テキスト：コロナ禍を通して問い続ける２	「迷惑な患者」問題とは何か
第12回	テキスト：コロナ禍を通して問い続ける３	親亡き後の障害児者を考える
第13回	子どもと家族の現場３	母子生活支援施設における支援の実際
第14回	まとめ：文献を通してのディスカッション	障害児の子育てを通して社会問題を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にテキストを読み、論点を書き出したペーパーを用意すること。本授業の準備・復習時間は各回４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
児玉真美（2024）『障害のある人の親がものを言うということ　医療と福祉・コロナ禍・親亡き後』生活書院
その他のテキストについては、授業内で指定する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
演習への積極的参加（50％）、演習における発表・レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
In this seminar, we will examine social issues related to poverty. Students will be enhancing their necessary knowledge and critical thinking in this field.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), and in-class contribution (50%).

OTR300JB（その他 / Others 300）

専門演習ⅡA

髙良　麻子

配当年次／単位数：**3年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅡA・ⅡBの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、社会的に不利な立場におかれている人びとのウェルビーイングの実現を目的に、抑圧や無視されている当事者の声を社会に届け、集団、組織、地域、政策等における連鎖的変化をどのように起こすのかについて、ソーシャルワークの観点から検討する。卒業研究を進めるために必要な研究方法を学び、研究テーマを決める。

【到達目標】
・ソーシャルワークの研究方法を理解できる。
・卒業研究のテーマを決めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
ソーシャルワーク研究に関する講義にもとづき、各自が自分の研究テーマ等について検討する。また、授業ごとのリアクションペーパー等をもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	活動のための関係構築	研究に向けた関係構築
第3回	ソーシャルワーク研究について	ソーシャルワーク研究の概要 論文の構成
第4回	研究テーマの設定	リサーチクエスチョンの検討方法
第5回	先行研究のレビュー	リサーチクエスチョンに関する先行研究のレビューの方法
第6回	研究の目的	研究目的の明確化
第7回	質的研究①	インタビュー調査方法
第8回	質的研究②	質的データ分析方法
第9回	量的研究	アンケート調査方法
第10回	研究テーマの検討	研究グループの決定
第11回	卒業研究の研究課題	リサーチクエスチョンの検討
第12回	卒業研究のテーマに関する先行研究	先行研究のレビュー
第13回	卒業研究の目的	研究目的の決定
第14回	卒業研究の中間報告	４年生の卒業研究の中間報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各時間の課題に関する準備を進めるとともに、授業での議論内容等を踏まえて理解を深める復習を行なってほしい。また、日頃から社会問題等に興味を持ち、講演会やボランティア等に参加することを期待する。
本授業の準備・復習時間は、各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない

【参考書】
岩田正美他編（2006）「社会福祉研究法：現実世界に迫る１４レッスン」有斐閣アルマ

【成績評価の方法と基準】
・平常点60%
・研究計画 40%

【学生の意見等からの気づき】
３年生と４年生の交流の機会を設定し、ともに学びを高め会えるようにしている。

【Outline (in English)】
This course is the first semester of a two-semester integrative practice course. Students will use the seminar format to learn how to achieve institutional change to meet a need, solve a social problem, and correct injustices as a social worker. The aim of this course is to learn the research methods necessary to proceed with graduation research and decide on a research theme. Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. Grading will be decided based on research plan(40%) and in-class contribution (60%).

OTR300JB（その他 / Others 300）

専門演習ⅡA

佐野　竜平

配当年次／単位数：**3年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅡA・ⅡBの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本とアジアを比較しつつ、障害と開発およびその他社会開発課題に関する研究を通じて、国際舞台で求められる知識・スキルを応用していく。

【到達目標】
アジアについて応用的な理解を深める。動画による発信力が向上する。また、現代福祉に関連した国際協力あるいは国際開発の応用知識・実践スキルを培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
前年のゼミ活動から得られた知見を生かして、個々の関心事項への理解を深めるアプローチを中心とする。オンラインを基本に実施する。海外関係者とのやり取りなどオンラインの強みを活かしつつアレンジを進める。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、Google クラスルーム、Google フォームまたは面談等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの目標や進行に関する議論
第2回	1次自主企画報告①	プレゼンおよび質疑応答①
第3回	1次自主企画報告②	プレゼンおよび質疑応答②
第4回	卒業論文を書く前に①	現場活動の方向性を検討
第5回	卒業論文を書く前に②	現場活動の文献・資料レビュー
第6回	卒業論文を書く前に③	骨子案を作成
第7回	2次自主企画準備①	現場活動の時期や準備を検討
第8回	2次自主企画準備②	現場活動の時期や準備を可視化
第9回	2次自主企画骨子①	骨子発表および質疑応答①
第10回	2次自主企画骨子②	骨子発表および質疑応答②
第11回	企画の学び合い	学年を超えて意見交換
第12回	2次自主企画骨子③	現場活動の時期や準備修正
第13回	4年生卒論中間発表	様々な研究課題の深め方
第14回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。国際協力関連の課外活動への参画。発表や報告はスライド表示が原則。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。

【参考書】
必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】
演習への積極的参加：50％、レポート・プレゼン：50％

【学生の意見等からの気づき】
学生が主体的に参加できるゼミ運営。様々なアイディアを応用。

【学生が準備すべき機器他】
講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。自主ゼミ企画、海外または国内フィールド活動にかかる諸準備。

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野等】
障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】
【Course Outline】This course aims to associate with other experts and practitioners in society and gain practical and professional skills at the basic level from the international perspective.
【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to gain experience in working with international stakeholders, especially in Asia.
【Learning activities outside of the classroom】Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours each to understand the course contents.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance in the class (presentation, report) (50%). Additional details about assessment methods may be included for clarity.

OTR300JB（その他 / Others 300）

専門演習ⅡA

杉浦　ちなみ

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：**専門演習ⅡA・ⅡBの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、人が学校外も含めた多様な機会で学ぶ営みである社会教育・生涯学習を、各自の関心にあわせた切り口から考察する。人は生きるなかで出会うさまざまな課題とどう向き合うか。その際、社会教育・生涯学習行政、および施設はどのような役割を果たしているか。関連する文献に学ぶこととあわせ、社会教育・生涯学習の現場に足を運び、実践から学んでいく。

【到達目標】
文献購読、調査、ゼミでの議論を通して、社会教育・生涯学習研究における基本的な視点を習得するとともに、参加する一人ひとりが卒業論文に向けた自らの研究の問いを育てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
文献購読、グループディスカッション、フィールドワークを組み合わせて進める。課題等に対するフィードバックは授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方の確認
第2回	文献購読（1）	社会教育・生涯学習の基本概念
第3回	文献購読（2）	社会教育・生涯学習の歴史①戦後～1950年代
第4回	文献購読（3）	社会教育・生涯学習の歴史②1960年代～1970年代
第5回	文献購読（4）	社会教育・生涯学習の歴史③1980年代～
第6回	文献購読（5）	社会教育・生涯学習行政
第7回	文献購読（6）	社会教育・生涯学習の施設
第8回	文献購読（7）	社会教育・生涯学習の実際
第9回	文献購読（8）	社会教育・生涯学習の課題
第10回	フィールドワーク準備（1）	調査対象の検討、課題の設定
第11回	フィールドワーク準備（2）	事前調査の共有
第12回	フィールドワーク（1）	地域の社会教育施設
第13回	フィールドワーク（2）	社会教育実践への参加
第14回	まとめ	前期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献購読の準備、フィールドワークの事前調査・事後レポート作成など事前・事後の学習を要する。本演習の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業時間内に適宜紹介する。

【参考書】
授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献度50%、レポート・報告の内容50%

【学生の意見等からの気づき】
学生からの意見や要望を可能な範囲で授業に活かしていく。

【Outline (in English)】
【Course outline】In this course, we will consider the possibilities and challenges of adult education and lifelong learning. In addition to reviewing previous research in the field, we will conduct fieldwork at social education facilities.
【Learning Objectives】The goal of this seminar is to acquire basic perspectives in adult education and lifelong learning research. Students will also develop their own research questions for their graduation thesis.
【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to spend approximately 4 hours in each class for reading, reviewing, and writing reports.
【Grading Criteria /Policy】in-class contribution(50%), discussions/presentations/reports(50%).

OTR300JB（その他 / Others 300）

専門演習ⅡA

野田　岳仁

配当年次／単位数：**3年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅡA・ⅡBの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、環境社会学・地域社会学の方法論を使って、現場に暮らす人びとにとって有効性のある地域づくり・地域ツーリズム政策を考えることを目的としている。専門演習Ⅱでは次年度からの卒業研究へ向けて、現場の人びとの価値観や地域社会の志向性や創造性を捉える方法論とフィールドワークの技法をマスターすることを目指す。

【到達目標】
環境社会学・地域社会学の方法論を用いて、地域社会が抱える地域問題の本質を見極め、問題解決につながる有効性のある政策論を構想する力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
本演習では、複数の研究テーマを設定し、自ら問いを立て、フィールドワーク、文献調査を行い、得られたデータからひとつの結論を導き出すという一連の研究手法を体験する。議論の題材やテーマは受講生の関心を考慮して若干の変更はありうる。変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習の進め方と目標の設定
第2回	問いをつくる	問題関心とテーマの検討
第3回	文献調査（1）	文献の精読を通じた問題関心の明確化
第4回	文献調査（2）	先行研究の批判的検討
第5回	調査の準備（1）	対象の設定と調査手法の検討
第6回	調査の準備（2）	理論仮説と作業仮説を立てる
第7回	フィールドワーク（1）	資料収集と聞き取り調査
第8回	フィールドワーク（2）	聞き取り調査とデータの整理
第9回	フィールドワーク（3）	調査のまとめ
第10回	調査データの分析と解釈（1）	データを分析する
第11回	調査データの分析と解釈（2）	仮説を検証する
第12回	調査レポートの作成（1）	知見と意義を検討する
第13回	調査レポートの作成（2）	限界と課題を検討する
第14回	調査レポートの発表	研究結果の発表と討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題文献の精読、調査レポートの作成、フィールドワーク、プレゼンテーションの準備など事前学習は不可欠である。本演習の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
討議や発表を含めた平常点（50%）と調査レポートなどの成果物（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems.【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance（Discussion, presentation, and report）(50%).

OTR300JB（その他 / Others 300）

専門演習ⅡA

水野　雅男

配当年次／単位数：**3年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅡA・ⅡBの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域住民やNPOが主体的に関わるまちづくり（地域づくり）を題材として、地域住民やNPOは地域の課題をどのように捉え、組織を結成し、財源を確保し、行政セクターと連携しているのかを学ぶ。

【到達目標】
受講生が実践的な取り組みに関心を深めるなかから、地域住民による自立的なまちづくり（地域づくり）への研究意欲を高めることを目標とする。
関心のあるテーマごとにグループ研究を行い、政策提言コンペに応募する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
フィールドワークと専門演習とを相互に連携させながら進め、フィールドワークに基づいた実証的な政策提言をとりまとめる。
課題の事前提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習の目的、進め方、構成員の問題意識の確認
第2回	政策提言のテーマ設定①	関心のあるテーマの共有
第3回	政策提言のテーマ設定②	テーマごとにグループ結成
第4回	フィールドワーク計画①	活動フィールドの選定
第5回	フィールドワーク計画②	活動フィールドの決定
第6回	フィールドワーク計画③	現地での調査計画①予備調査
第7回	フィールドワーク計画④	現地での調査計画②本調査
第8回	フィールドワークの実施①	現地調査の実施①予備調査
第9回	フィールドワークの実施②	現地調査の実施②本調査
第10回	政策提言とりまとめ①	調査結果データのとりまとめ
第11回	政策提言とりまとめ②	調査結果の図表とりまとめ
第12回	政策提言とりまとめ③	政策提言申請書類作成①
第13回	政策提言とりまとめ④	政策提言申請書類作成②
第14回	春学期のふりかえり	到達度と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献調査などの発表準備、フィールドワークの企画と実施など、グループワークに対して積極的に関わる姿勢が求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、適宜資料として配付する。

【参考書】
必要に応じて、適宜資料として配付する。

【成績評価の方法と基準】
演習での報告（70％）や議論など（30％）を総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムやFacebookグループなどを活用して、学生への連絡と情報共有を図る。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに30年間関わり、市民活動を企画運営してきた経験に基づき、フィールドワークと政策提言を企画する術について授業で紹介する。

【Outline (in English)】
< Course outline>
The aim of this course is to help students acquire how do local residents and NPOs perceive local issues, form organizations, secure financial resources, and collaborate with the administrative sector.
< Learning Objectives>
By the end of the course, students should be able to do the followings:
While deepening interest in practical efforts, motivate local residents to research independent community development.
< Learning activities outside of classroom>
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy>
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 70%, in class contribution: 30%

OTR300JB（その他 / Others 300）

専門演習ⅡA

宮城　孝

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：**専門演習ⅡA・ⅡBの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
２年次ゼミでの学習をもとに、さらに基礎的な研究能力を高めることを目標とする。報告におけるプレゼンテーション能力や積極的に実践にかかわり、分析する能力を高めることも目標とする。また、自らの卒業研究のテーマと研究方法を明確にし、関連する文献やデータを探索し、分析を行う。

【到達目標】
研究テーマに関して、先行研究を探索しレビューできる。
自らの研究テーマについて、ある程度根拠を示し論理的に説明できる。
人前で、説得力のあるプレゼンテーションをすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
自ら文献を探索し、成果をレポートにより報告することと、ディスカッションが主となる。卒業研究における論文の作成方法やフィールドワークにおけるインタビューの方法などについて講義を行う。
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	テーマ設定の方法
第2回	研究の方法について	講義による理解
第3回	仮テーマの報告	報告と指導
第4回	先行研究のレビュー	講義による理解
第5回	研究報告①	報告と討議①（研究テーマ）
第6回	研究報告②	報告と討議②（研究の目的）
第7回	研究報告③	報告と討議③（先行研究のレビュー）
第8回	研究報告④	報告と討議④（研究の方法）
第9回	グループ研究のテーマ設定	テーマに関する討議①
第10回	研究報告⑤	報告と討議①（研究の目的）
第11回	研究報告⑥	報告と討議②（研究の対象）
第12回	研究報告⑦	報告と討議③（A先行研究のレビュー）
第13回	研究報告⑧	報告と討議④（研究方法について）
第14回	研究報告⑨、前期のまとめ	報告と討議⑤ 前期の振り返りと後期に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究テーマに関する文献やデータの収集、研究段階ごとのレポートの作成
準備・復習時間は４時間以上とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない

【参考書】
適宜指示する。また、研究テーマに応じて、自ら選択する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加状況（60％）と研究の報告内容（40％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
引き続きゼミ生の積極性を高めるための改善を図ることとする。

【その他の重要事項】
講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導を行うこととする。

【Outline (in English)】
This seminar is the purpose of improving basic research capability and the skill of presentation,and it sets the theme the reseach paper,it searches the
related paper and data.

OTR300JC（その他 / Others 300）

専門演習ⅡA

久保田　幹子

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：専門演習ⅡA・ⅡBの両方を登録しないとエラーが出ます

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文作成に向けて、関心のあるテーマを設定し、研究を行う。

【到達目標】
関心のあるテーマをみつけ、先行研究の調査を通して、研究テーマの絞り込み、研究方法の吟味を行うことができる。
他の学生の研究テーマについて、ディスカッションに参加することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
関心のあるテーマに関する発表およびディスカッション
関心のあるテーマについて先行研究の調査。
課題等の提出・フィードバックは授業内および「学習支援システム」を通じて行う予定です。
なお、各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	卒業論文に向けて、テーマの選び方、論文検索の方法を学ぶ。
第2回	現代の抱える問題についてディスカッション①	ビデオ学習も取り入れながら、現代の問題を心理学的に考える。テーマA
第3回	関心のある心理学的テーマの学習①	関心のあるテーマを選び、個人発表①
第4回	関心のある心理学的テーマの学習②	関心のあるテーマを選び、個人発表②
第5回	関心のある心理学的テーマの学習③	4年生の発表を聞きながら、卒業論文のテーマを検討する①
第6回	関心のある心理学的テーマの学習④	関心のあるテーマを選び、個人発表③
第7回	関心のある心理学的テーマの学習⑤	関心のあるテーマを選び、個人発表④
第8回	関心のある心理学的テーマの学習⑥	関心のあるテーマを選び、個人発表⑤
第9回	関心のある心理学的テーマの学習⑦	4年生の発表を聞きながら、卒業論文のテーマを検討する②
第10回	関心のある心理学的テーマの学習⑧	関心のあるテーマを選び、文献学習①
第11回	関心のある心理学的テーマの学習⑨	関心のあるテーマを選び、文献学習②
第12回	現代の抱える問題についてディスカッション②	ビデオ学習も取り入れながら、現代の問題を心理学的に考える。テーマB
第13回	関心のある心理学的テーマの学習⑩	4年生の発表を聞きながら、卒業論文のテーマを検討する③
第14回	春学期のまとめ	まとめとして、これまでの発表内容から今後の調査・研究テーマを話し合う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文に向けて関心のあるテーマを決定するための学習として、論文検索、先行研究の調査、まとめ、個人発表およびグループ発表の準備が求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜、紹介する。

【参考書】
必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60％）と授業内の発表（40％）から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
知識と日常体験をつなぐ工夫、臨床現場の実際を伝える工夫を引き続き行いたい。また、卒業論文作成に向けて、より一層、学生が相互に意見交換できるゼミ作りを心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
各自の研究発表でPCやプロジェクターなどを使うことをお勧めします。

【その他の重要事項】
学生と共に作る授業です。受講生の関心や要請に応じて、上記計画は若干の変更可能性があります。
医療機関において病院臨床の実務経験があることから、現代人が直面する課題や心理的問題なども紹介しながら、皆さんの問題提議や議論の助けになるように進めていきます。

【Outline (in English)】
In this lecture, students set their own themes of interest and conduct research for writing a bachelor thesis. The goal of this course are to find and examine the main theme of the thesis and to use and evaluate the research method, revisiting the previous academic research. Students are able to participate in discussions on the research themes of other students. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (60%) and research presentation (40%).

OTR300JC（その他 / Others 300）

専門演習ⅡA

小林　由佳

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：**専門演習ⅡA・ⅡBの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業・組織心理学と臨床心理学(特に認知行動アプローチ)の観点から、働く人のウェルビーイングに関する理解を深め、課題解決と支援の方法を考えます。

【到達目標】
卒業論文に向けて、関心のあるテーマに関する研究論文を読み、学術的知見と研究法に関する理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
自らの関心があるテーマについて、グループで協力して研究論文を読み、発表を行います。発表者と参加者は、議論を通して、テーマに関する理解と考察を深めます。演習の展開によって授業計画を若干変更することがあります。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方に関するオリエンテーション
第2回	産業領域における研究1	産業領域におけるトピックスと研究についての解説と議論1
第3回	産業領域における研究2	産業領域におけるトピックスと研究についての解説と議論2
第4回	テーマの決定	関心あるテーマの話し合い、発表内容と担当の決定
第5回	グループ発表①	小グループによる発表と全体ディスカッション①
第6回	グループ発表②	小グループによる発表と全体ディスカッション②
第7回	グループ発表③	小グループによる発表と全体ディスカッション③
第8回	グループ発表④	小グループによる発表と全体ディスカッション④
第9回	中間まとめ	グループ発表の振り返り
第10回	グループ発表⑤	小グループによる発表と全体ディスカッション⑤
第11回	グループ発表⑥	小グループによる発表と全体ディスカッション⑥
第12回	グループ発表⑦	小グループによる発表と全体ディスカッション⑦
第13回	グループ発表⑧	小グループによる発表と全体ディスカッション⑧
第14回	まとめ	春学期ゼミの振り返りおよび秋学期の進め方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループで協力し話し合いながら、文献を調べ、発表内容をレジュメにまとめる必要があります。自分以外の発表内容についても、有意義なディスカッションをするために事前学習を求めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60％）および発表内容（40％）をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
より多くの気づきと視点を得るため、ディスカッションや学生間の共同作業の時間を多くとります。

【Outline (in English)】
Course outline ： In this specialized seminar, students will deepen their understanding of various issues related to workers, problem solving, and support methods from the perspectives of industrial/organizational psychology and clinical psychology (especially the cognitive-behavioral approach) under the theme of the wellbeing of workers.
Learning Objectives ： The goal of this seminar is to deepen students' understanding of academic knowledge and research methods by reading research papers on topics of interest in preparation for their graduation thesis.
Learning activities outside of the classroom ： Students need to cooperate and discuss in groups, research the literature, and compile their presentations into resumes. Students are also required to study the contents of presentations other than their assigned ones in advance to have meaningful discussions. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy ： Students will be evaluated comprehensively based on their participation in the class (60%) and the content of their presentations (40%).

OTR300JC（その他 / Others 300）

専門演習ⅡA

末武　康弘

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：**専門演習ⅡA・ⅡBの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理学に関連する問支援支援について各自で研究発表し、臨床心理学の研究を進めていくための基本的な方法やスキルを共有し、ゼミ論文にまとめる準備をします。

【到達目標】
このゼミの到達目標は、臨床心理学の研究を進めていくための基本的な方法やスキル（文献検索、先行研究の検討、研究方法の理解など）を獲得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
各自が臨床心理学にかかわる研究テーマを設定し、ゼミで発表・ディスカッションし、その成果をゼミ論文にまとめる準備をします。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方や成績評価の基準を示し、また、ゼミ長他、ゼミでの役割を決定します
2	個人テーマの選定①	各自の研究テーマを決めるためのブレーンストーミングを行います
3	個人テーマの選定②	各自の研究テーマを決めるためのディスカッションを行います
4	研究テーマと発表スケジュールの決定	各自の研究テーマを決定し、ゼミでの発表のスケジュールを決めます
5	個人報告とディスカッション①	研究テーマについての学習の途中経過を報告し、それに基づきディスカッションを行います、例：ゼミ生A～C発表。
6	個人報告とディスカッション②	例：ゼミ生D～Fの発表
7	個人報告とディスカッション③	例：ゼミ生G～Iの発表
8	個人報告とディスカッション④	例：ゼミ生J～Lの発表
9	個人報告とディスカッション⑤	例：ゼミ生M～Oの発表
10	個人報告とディスカッション⑥	例：ゼミ生A～C発表。
11	個人報告とディスカッション⑦	例：ゼミ生D～Fの発表
12	個人報告とディスカッション⑧	例：ゼミ生G～Iの発表
13	個人報告とディスカッション⑨	例：ゼミ生J～Lの発表
14	個人報告とディスカッション⑩、まとめ	例：ゼミ生M～Oの発表、授業のふりかえりとまとめを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミ論文の執筆に向けて、各自の自己学習が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（個人報告の内容 50％、授業への参加度 50％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションが積極的に展開するように発言を促したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
発表の際にパワーポイントを使用することを勧めます。パソコン本体は個人のものを持参しなくても大丈夫です。

【その他の重要事項】
おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく授業します。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire standard knowledge and skill required for research and practice in clinical psychology, through presentation and discussion.
The goals of this course are to acquire standard knowledge and skill required for research and practice in clinical psychology.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on students' presentation performance (50%), and in-class contribution (50%).

OTR300JC（その他 / Others 300）

専門演習ⅡA

関谷　秀子

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：**専門演習ⅡA・ⅡBの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習Ⅰに引き続き乳幼児期から初期成人期に至る発達の正常と異常を学習する。専門演習Ⅰで学んだことを基礎として、発達の異常やその対応（さまざまな心理療法）について知識を深める。自分の関心のあるテーマを明確にし、そのテーマについて理解を深める。

【到達目標】
自分の関心のあるテーマを決め、そのテーマに関連する文献を探すことができる。文献を読み込み、発表、ディスカッションができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
専門演習Ⅰで学んだことを振り返る。各自が関心のある幾つかのテーマについて、関心のある点、調べてみたいことなどを具体的に報告しあう。そして自分の関心のあるテーマを選定する。そのテーマについて文献を調べ発表、ディスカッションを行う。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方に関するオリエンテーション
第2回	テーマの選定①	演習Ⅰの発表と興味のあるテーマについてディスカッション①
第3回	テーマの選定②	演習Ⅰの発表と興味のあるテーマについてディスカッション②
第4回	文献検索①	専門書や文献検索方法を図書館で学ぶ
第5回	文献検索②	テーマに関する文献を探す
第6回	文献抄読会①	各自が興味のある文献を読み紹介する①
第7回	文献抄読会②	各自が興味のある文献を読み紹介する②
第8回	発表①	レジメを配布して発表、ディスカッション①
第9回	発表②	レジメを配布して発表、ディスカッション②
第10回	発表③	レジメを配布して発表、ディスカッション③
第11回	発表④	レジメを配布して発表、ディスカッション④
第12回	発表⑤	レジメを配布して発表、ディスカッション⑤
第13回	発表⑥	レジメを配布して発表、ディスカッション⑥
第14回	まとめ	春学期の学習内容を振り返りディスカッションを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関心のあるテーマに関する文献を調べ発表用のレジメを作成する本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点(60%)、発表(40%)に基づいて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
臨床場面のエピソードや具体的なケースを提示することで学生のテーマについての理解を深めたい。

【Outline (in English)】
We will learn normal and abnormal mental development from infancy to early adulthood. Expanding upon that, we will also further study psychotherapy for mental disease. We will then specify a particular theme and deepen our understanding of that theme. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following. In class contribution: 60%　presentation : 40%.

OTR300JC（その他 / Others 300）

専門演習ⅡA

丹羽　郁夫

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：**専門演習ⅡA・ⅡBの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理臨床における自分の関心のある特定のテーマを明確にし、そのテーマについて理解するための方法を知る。

【到達目標】
ゼミ生一人ひとりが心理臨床の領域における自分の関心のあるテーマを明確にすることができ、そのテーマに関連する文献の探し方を知り、文献を読解して、それをまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミ生一人ひとりの関心を報告し合い、関心のあるテーマを明確にする。その後に、文献調査の仕方、レジュメの作成の仕方などを講義し、その後に個別に関心を持ったテーマに関する調査経過を報告してもらう。また、月に1回、4年生の卒業論文についての指導を聞いて、卒業論文作成のプロセスを知る。課題などの提示およびフィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ゼミの内容と進め方、具体的なスケジュールなどを決める
第2回	関心のあるテーマの明確化①	2人ずつ関心のあるテーマについて語る①
第3回	関心のあるテーマの明確化②	2人ずつ関心のあるテーマについて語る②
第4回	関心のあるテーマの明確化③	2人ずつ関心のあるテーマについて語る③
第5回	4年生の卒業論文指導①	卒業論文の進め方全般を知る
第6回	関心のあるテーマの明確化④	2人ずつ関心のあるテーマについて語る④
第7回	関心のあるテーマの明確化⑤	2人ずつ関心のあるテーマについて語る⑤
第8回	4年生の卒業論文指導②	卒業論文における研究の仕方を知る
第9回	関心のあるテーマの明確化⑥	2人ずつ関心のあるテーマについて語る⑥
第10回	文献検索の仕方	文献検索の仕方を学ぶ
第11回	発表資料の作成の仕方	図表や文献リスト等の書き方を知る
第12回	4年生の卒業論文指導③	卒業論文の書き方を知る
第13回	箱庭療法	集団箱庭療法を体験する
第14回	描画療法	バウムテストなどを体験する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関心のあるテーマについて考え、必要に応じて文献を入手して読む。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ありません。研究テーマに応じて適宜適切な文献を紹介する。

【参考書】
関心のあるテーマに応じて適宜適切な文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
ディスカッションへの参加(70%)、平常点(30%)。

【学生の意見等からの気づき】
現状を維持します。

【Outline (in English)】
Course outline
Students will clarify specific subjects of their own interest in psychology clinic and know how to understand the subject.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-Students can make a theme with own interest in the psychology clinical domain clear
-Students know how to look for documents in conjunction with the theme with the interest and read and understand documents and can gather it up.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies
Final grade will be calculated according to the following process Participation in discussion (70%), and in-class contribution(30%).

OTR300JB（その他 / Others 300）

専門演習ⅡＢ

伊藤　正子

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：**専門演習ⅡＡ・ⅡＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、社会的排除に関わる諸問題に対する社会的対応および援助の実際について学ぶ。

【到達目標】
このゼミでは、これまで学習してきた社会的排除に関する視点に基づきながら、各自の関心に応じてテーマを選択し、その社会的排除の実態、社会的背景と現代の課題を明らかにし、支援現場のフィールドワークと省察を繰り返し、求められる社会福祉援助とは何かについて理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の研究結果を基盤としながら、グループの研究関心に基づいてさらに深め、ゼミでの質疑応答を反映させながら４年次の研究へとつなげることをめざす。対面式での開講となる。外部講師へのヒアリング等は、状況に応じてオンライン上で実施することもある。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	秋学期の目標、内容の確認
第2回	フィールドワークの計画	フィールドワーク先の確認・進行計画の検討・作成
第3回	フィールドワークの実践①	グループ毎にフィールドワーク実践を行い、各々持ち帰った課題を整理・検討する①（現場の状況について）
第4回	フィールドワークの実践②	グループ毎にフィールドワーク実践を行い、各々持ち帰った課題を整理・検討する②（支援方法について）
第5回	フィールドワークの実践③	グループ毎にフィールドワーク実践を行い、各々持ち帰った課題を整理・検討する③（課題の達成状況について）
第6回	グループ活動①	グループ毎にフィールドワーク結果を分析・考察する①（研究テーマとの関係と方法について）
第7回	グループ活動②	グループ毎にフィールドワーク結果を分析・考察する②（現場の現状と課題について）
第8回	グループ活動③	グループ毎にフィールドワーク結果を分析・考察する③（これからの課題・活動の方向性について）
第9回	報告書の作成①	グループ毎に研究結果のまとめと報告書を作成する①（構成・目次について）
第10回	報告書の作成②	グループ毎に研究結果のまとめと報告書を作成する②（理論的検討のまとめ）
第11回	報告書の作成③	グループ毎に研究結果のまとめと報告書を作成する③（実践結果のまとめ）
第12回	報告書の作成④	グループ毎に研究結果のまとめと報告書を作成する④（校正作業）
第13回	報告書の発表	グループ毎に報告書をもとに発表する
第14回	まとめ	年間の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
これまでの学習を踏まえた研究方法を実践していくため、授業以外でグループによる討議を十分に行い、協働で研究を進めていくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。

【参考書】
必要に応じて、適宜参考図書・論文・事例を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
１．レポート(30%)
２．研究発表(40%)
３．演習への能動的参加(30%)

【学生の意見等からの気づき】
研究指導については、合宿等も活用していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】
昨年度の経験、成果をもとに、今年度は中心的にゼミの企画、運営を主体的に担うことを期待する。
医療機関・外国人支援ＮＧＯソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

【Outline (in English)】
This course deals with supporting people who have been in socially isolated situation. At the end of the course, students are expected to get knowledge about social supports with people who socially isolated. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class meeting. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (40%), and in-class contribution(30%).

OTR300JB（その他 / Others 300）

専門演習ⅡB

岩崎　晋也

配当年次／単位数：**3年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅡA・ⅡBの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会福祉にかかわるテーマをとりあげ基本的な研究スキルを身につける

【到達目標】
論理的な議論の仕方や論文作成能力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
個別にテーマを設定し、ゼミでの討議を踏まえて調査・検討を進めます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	個別テーマの選定	関心のあるテーマを選定する
第2回	先行研究の検討１	先行研究を検討する１
第3回	先行研究の検討２	先行研究を検討する２
第4回	先行研究の検討３	先行研究を検討する３
第5回	先行事例の検討１	研究テーマに関連する先行事例を検討する１
第6回	先行事例の検討２	研究テーマに関連する先行事例を検討する２
第7回	先行事例の検討３	研究テーマに関連する先行事例を検討する３
第8回	研究仮説の構築	先行研究と先行事例の検討から研究仮説を構築する
第9回	予備調査の設計１	予備調査先を選定する
第10回	予備調査の設計２	予備調査の調査内容を設計する
第11回	予備調査の実施	予備調査を実施する
第12回	予備調査結果の検討１	予備調査の結果を文字化する
第13回	予備調査結果の検討２	予備調査の結果を解釈し、分析する
第14回	予備調査結果の検討３	研究仮説の再検討を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミにおいて指導を受けた内容を、調査研究し、次回までに報告する。必要に応じて、フィールド調査を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点(100%)により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんの意見を聞きながら授業を進めるつもりです。

【Outline (in English)】
Study social welfare themes and master basic research skills.
The goals of this course are to improve the ability to think logically and
discuss with others.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 100%.

OTR300JB（その他 / Others 300）

専門演習ⅡＢ

宮地　さつき

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：**専門演習ⅡＡ・ⅡＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、社会経済的な困難をもつ子どもと家族が、子どもの発達段階に即して、どのような不利益を負っているのかについて、また、その子どもと家族への援助や教育について考察を深める。これらの問題関心から、各自の問題関心を明らかにしていく。

【到達目標】
・文献やデータの読み方、およびレポートや論文の書き方についての基礎的なスキルを身につける。
・来年度作成の卒業論文に向けて、各自のテーマの絞り込みと研究方法について検討する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
・各自の問題関心を明確にし、それぞれ課題を設定して発表し、互いに検討していく。
・授業の最後に、課題についての講評を行いフィードバックしてく。
・子どもと家族の支援にかかわるゲストスピーカーや実践現場の見学から、支援の現状についての学びを得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	夏休みの課題発表、ゼミの進め方について
第2回	論文の書き方１	論文とは何か
第3回	論文の書き方２	各自の関心テーマを論文にするには
第4回	論文の書き方３	論文を書くための約束事
第5回	子どもと家族の現場１	ゲストスピーカー（ゼミの先輩の現場）からの学び
第6回	発表１－１	卒業論文に向けての構想発表（学籍番号順で最初の３～４名）
第7回	発表１－２	卒業論文に向けての構想発表（学籍番号順で次の３～４名）
第8回	発表１－３	卒業論文に向けての構想発表（学籍番号順で最後の３～４名）
第9回	子どもと家族の現場２	裁判所見学
第10回	発表２－１	卒業論文における関心テーマと課題の設定・方法についての発表（学籍番号順で最初の２～３名）
第11回	発表２－２	卒業論文における関心テーマと課題の設定・方法についての発表（学籍番号順で次の２～３名）
第12回	発表２－３	卒業論文における関心テーマと課題の設定・方法についての発表（学籍番号順で次の２～３名）
第13回	発表２－４	卒業論文における関心テーマと課題の設定・方法についての発表（学籍番号順で最後の２～３名）
第14回	まとめ	全体の振り返り、来年度の卒業論文作成に向けての確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時に紹介された文献を読み進めること。テキストも参考にしながら来年度の卒業論文に向けて、論文テーマを検討し、必要な資料・参考文献を集めて読み進めること。
発表では、レジメやパワポを作成して発表すること。
本授業の準備・復習時間は各回４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・日本子どもを守る会編（2025）『子ども白書2025』かもがわ出版
・白井利明・高橋一郎（2013）『よくわかる卒論の書き方[第2版]』ミネルヴァ書房
・戸田山和久（2022）『新版　論文の書き方』NHKブックス
・河野哲也（2018）『レポート・論文の書き方　第４版』慶応義塾大学出版会
その他のテキストについては、授業内で指定する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
演習への積極的参加（50％）、演習における発表・レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
各自の研究発表でPCやプロジェクターなどを使うことができます。必要な場合には、担当教員に相談してください。

【Outline (in English)】
This seminar focuses specifically on the process to elaborate the idea of the students' thesis. Students will be enhancing their necessary knowledge and skills to write their thesis.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), and in-class contribution (50%).

OTR300JB（その他 / Others 300）

専門演習ⅡＢ

髙良　麻子

配当年次／単位数：**3年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅡＡ・ⅡＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、社会的に不利な立場におかれている人びとのウェルビーイングの実現を目的に、抑圧や無視されている当事者の声を社会に届け、組織、地域、政策等における変化をどのように起こすのかについて、ソーシャルワークの観点から検討する。卒業研究の計画を立て、できるところから研究を進める。

【到達目標】
・卒業研究の計画を立てる。
・卒業研究を進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
各自またはグループで卒業研究を進めるための準備を全体のディスカッションを通して行いながら、研究を始める。また、授業ごとのリアクションペーパー等をもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	研究方法の検討①	研究の枠組みと調査方法の検討
第3回	研究方法の検討②	データ収集方法の検討
第4回	倫理的配慮の理解	研究における倫理的配慮
第5回	研究計画書の作成	研究計画書の作成完成
第6回	研究計画の発表	研究計画の発表と再検討
第7回	データ収集の準備①	アンケート調査項目の検討
第8回	データ収集の準備②	プレアンケート調査の実施
第9回	データ収集の準備③	インタビュー調査項目の検討
第10回	データ収集の準備④	インタビュー調査の練習
第11回	卒業研究の発表①	卒業研究の進捗の共有
第12回	卒業研究の発表②	研究計画の修正
第13回	卒論発表会	４年生の卒業論文の発表
第14回	総括	振り返りとまとめ 個別面談

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自が卒業研究を進めるために、各時間の課題に関する準備を進めるとともに、授業での議論内容等を踏まえて理解を深める復習を行なってほしい。また、日頃から社会問題等に興味を持ち、講演会やボランティア等に参加することを期待する。本授業の準備・復習時間は、各3時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない

【参考書】
岩田正美他編（2006）「社会福祉研究法：現実世界に迫る１４レッスン」有斐閣アルマ川村匡由(2018)「三訂　福祉系学生のためのレポート＆卒論の書き方」中央法規
白井利明・高橋一郎（2013）『よくわかる卒論の書き方（第２版）」ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
・平常点60%
・研究計画 40%

【学生の意見等からの気づき】
４年生の卒業研究の報告から学べる機会を設けている。

【Outline (in English)】
This course is the second semester of a two-semester integrative practice course. Students will use the seminar format to learn how to achieve institutional change to meet a need, solve a social problem, and correct injustices as a social worker. The aim of this course is to proceed with graduation research. Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. Grading will be decided based on research plan (40%) and in-class contribution (60%).

OTR300JB（その他 / Others 300）

専門演習ⅡB

佐野　竜平

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：**専門演習ⅡA・ⅡBの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本とアジアを比較しつつ、障害と開発およびその他社会開発課題に関する研究を通じて、国際舞台で求められる知識・実践スキルを応用していく。

【到達目標】
アジアについて応用的な理解を深める。動画による発信力が向上する。また、現代福祉に関連した国際協力あるいは国際開発の応用知識・実践スキルを培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期のゼミ活動をさらに発展させ、個々の関心事項を卒業研究論文に関連づけていくプロセスとする。オンラインを基本に実施する。海外関係者とのやり取りなどオンラインの強みを活かしつつアレンジを進める。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、Googleクラスルーム、Googleフォームまたは面談等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの目標や進行に関する議論
第2回	2次自主企画報告①	プレゼンおよび質疑応答①
第3回	2次自主企画報告②	プレゼンおよび質疑応答②
第4回	グループ研究①	特定テーマについて意見交換
第5回	グループ研究②	特定テーマについて発表準備
第6回	グループ研究③	特定テーマをゼミ内発表
第7回	グループ研究④	特定テーマをゼミ外で発表
第8回	フィールド調査①	個別フィールドワークの計画
第9回	フィールド調査②	個別フィールドワークの実施
第10回	フィールド調査③	個別フィールドワークのレビュー
第11回	3次自主企画準備①	卒業論文の検討①
第12回	3次自主企画準備②	卒業論文の検討②
第13回	3次自主企画準備③	卒業論文の検討③
第14回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。国際協力関連の課外活動への参画。発表や報告はスライド表示が原則。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。

【参考書】
必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】
演習への積極的参加：50％、レポート・プレゼン：50％

【学生の意見等からの気づき】
学生が主体的に参加できるゼミ運営。様々なアイディアを応用。

【学生が準備すべき機器他】
講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。自主ゼミ企画、海外または国内フィールド活動にかかる諸準備。

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野等】
障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】
【Course Outline】This course aims to further connect with other experts and practitioners in society, gaining practical and professional skills at the basic level from an international perspective.
【Learning Objectives】By the end of the course, students are expected to gain more experience in working with international stakeholders, especially in Asia.
【Learning Activities Outside of the Classroom】Before/after each class, students are expected to spend 2 hours understanding the course content.
【Grading Criteria/Policy】Grades will be decided based on in-class contribution (50%) and the quality of students' performance in class (presentation, report) (50%).

OTR300JB（その他 / Others 300）

専門演習ⅡＢ

杉浦　ちなみ

配当年次／単位数：**3年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅡＡ・ⅡＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、人が学校外も含めた多様な機会で学ぶ営みである社会教育・生涯学習を、各自の関心にあわせた切り口から考察する。人は生きるなかで出会うさまざまな課題とどう向き合うか。その際、社会教育・生涯学習行政、および施設はどのような役割を果たしているか。関連する文献に学ぶこととあわせ、社会教育・生涯学習の現場に足を運び、実践から学んでいく。

【到達目標】
社会教育・生涯学習研究における基本的な視点をもとにしながら、卒業論文のテーマを設定し、その研究計画を作成できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
文献購読、グループディスカッション、フィールドワークを組み合わせて進める。課題等に対するフィードバックは授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方の確認
第2回	フィールドワークの振り返り（1）	春学期～夏休みに行ったフィールドワークのまとめ（前半）
第3回	フィールドワークの振り返り（2）	春学期～夏休みに行ったフィールドワークのまとめ（後半）
第4回	報告書の作成（1）	各自のレポートの検討（前半）
第5回	報告書の作成（2）	各自のレポートの検討（後半）
第6回	報告書の作成（3）	修正レポートの検討・確認
第7回	前半のまとめと後半に向けて	報告書作成の振り返りと個人研究の進め方の確認
第8回	個人研究のテーマ設定（1）	各自の研究関心と先行研究の検討（前半）
第9回	個人研究のテーマ設定（2）	各自の研究関心と先行研究の検討（後半）
第10回	調査対象・方法について（1）	各自の研究報告（前半）
第11回	調査対象・方法について（2）	各自の研究報告（後半）
第12回	フィールドワーク（1）	各自の研究テーマに関わる社会教育現場の訪問
第13回	フィールドワーク（2）	各自の研究テーマに関わる社会教育実践への参加
第14回	まとめ	研究計画の発表と秋学期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献購読の準備、フィールドワークの事前調査・事後レポート作成など事前・事後の学習を要する。本演習の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業時間内に適宜紹介する。

【参考書】
授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献度50%、レポート・報告の内容50%

【学生の意見等からの気づき】
学生からの意見や要望を可能な範囲で授業に活かしていく。

【Outline (in English)】
【Course outline】In this course, we will consider the possibilities and challenges of adult education and lifelong learning. In addition to reviewing previous research in the field, we will conduct fieldwork at social education facilities.
【Learning Objectives】The goal of this seminar is to set a theme for your graduation thesis related to adult education and lifelong learning and make a research plan for it.
【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to spend approximately 4 hours in each class for reading, reviewing, and writing reports.
【Grading Criteria /Policy】in-class contribution(50%), discussions/presentations/reports(50%).

OTR300JB（その他 / Others 300）

専門演習ⅡＢ

野田　岳仁

配当年次／単位数：**3年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅡＡ・ⅡＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、環境社会学・地域社会学の主要な方法論である生活環境主義の方法を使って、現場に暮らす人びとにとって有効性のある地域づくり・地域ツーリズム政策を考えることを目的としている。専門演習Ⅱでは次年度からの卒業研究へ向けて、現場の人びとの価値観や地域社会の志向性や創造性を捉える方法論とフィールドワークの技法をマスターすることを目指す。

【到達目標】
生活環境主義の方法を用いて、地域社会が抱える地域問題の本質を見極め、問題解決につながる有効性のある政策論を構想する力を身につけること。各自が卒業研究に向けた構想をまとめ、研究計画書を作成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
本演習では、各自が卒業研究に向けた研究テーマを設定し、自ら問いを立て、フィールドワーク、文献調査を行い、得られたデータからひとつの結論を導き出すという一連の研究手法を体験する。議論の題材やテーマは受講生の関心を考慮して若干の変更はありうる。変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習の進め方と目標の設定
第2回	問いをつくる	問題関心とテーマの検討
第3回	文献調査（1）	文献の精読を通じた問題関心の明確化
第4回	文献調査（2）	先行研究の批判的検討
第5回	調査の準備（1）	対象の設定と調査手法の検討
第6回	調査の準備（2）	理論仮説と作業仮説を立てる
第7回	フィールドワーク（1）	資料収集と聞き取り調査
第8回	フィールドワーク（2）	聞き取り調査とデータの整理
第9回	フィールドワーク（3）	調査のまとめ
第10回	調査データの分析と解釈（1）	データを分析する
第11回	調査データの分析と解釈（2）	仮説を検証する
第12回	研究計画書の構想と作成（1）	知見と意義を検討する
第13回	研究計画書の構想と作成（2）	限界と課題を検討する
第14回	研究計画書の発表	研究結果の発表と討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題文献の精読、研究計画書の作成、フィールドワーク、プレゼンテーションの準備など事前学習は不可欠である。本演習の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
討議や発表を含めた平常点（50%）とレポートや研究計画書などの成果物（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems.【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance（Discussion, presentation, and report）(50%).

OTR300JB（その他 / Others 300）

専門演習ⅡＢ

水野　雅男

配当年次／単位数：**3年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅡＡ・ⅡＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域住民やNPOが主体的に関わるまちづくり（地域づくり）を題材として、地域住民やNPOは地域の課題をどのように捉え、組織を結成し、財源を確保し、行政セクターと連携しているのかを学ぶ。

【到達目標】
受講生が実践的な取り組みに関心を深めるなかから、地域住民による自立的なまちづくり（地域づくり）への研究意欲を高めることを目標とする。
関心のあるテーマごとにグループ研究を行い、政策提言コンペに応募する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
フィールドワークと専門演習とを相互に連携させながら進め、フィールドワークに基づいた実証的な政策提言をとりまとめる。
課題の事前提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	活動課題の検討	第1次予選で指摘された課題の整理
第2回	フィールドワーク計画①	補足調査の計画①
第3回	フィールドワーク計画②	補足調査の計画②
第4回	フィールドワークの実施①	補足調査の実施①
第5回	フィールドワークの実施②	補足調査の実施②
第6回	フィールドワーク成果①	現地調査結果データのとりまとめ
第7回	フィールドワーク成果②	現地調査結果の図表とりまとめ
第8回	政策提言の補足修正①	発表原稿作成①
第9回	政策提言の補足修正②	発表原稿作成②
第10回	発表練習	発表原稿の確認
第11回	活動とりまとめ①	報告書作成①目次構成
第12回	活動とりまとめ②	報告書作成②各章作成
第13回	活動とりまとめ③	報告書作成③考察作成
第14回	秋学期のふりかえり	到達度と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献調査などの発表準備、フィールドワークの企画と実施など、グループワークに対して積極的に関わる姿勢が求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、適宜資料として配付する。

【参考書】
必要に応じて、適宜資料として配付する。

【成績評価の方法と基準】
演習での報告（70％）や議論など（30％）を総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムやFacebookグループなどを活用して、学生への連絡と情報共有を図る。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに30年間関わり、市民活動を企画運営してきた経験に基づき、フィールドワークと政策提言を企画する術について授業で紹介する。

【Outline (in English)】
< Course outline>
The aim of this course is to help students acquire how do local residents and NPOs perceive local issues, form organizations, secure financial resources, and collaborate with the administrative sector.
< Learning Objectives>
By the end of the course, students should be able to do the followings:
While deepening interest in practical efforts, motivate local residents to research independent community development.
< Learning activities outside of classroom>
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy>
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 70%, in class contribution: 30%

OTR300JB（その他 / Others 300）

専門演習ⅡＢ

宮城　孝

配当年次／単位数：**3年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅡＡ・ⅡＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前期の学習をもとに、グループ研究をさらに進展させ、ゼミ報告会にて報告する。
卒業研究の準備を進め、研究テーマを明確化するとともに、先行研究のレビューや関連するデータを収集し、分析する。また、適切な研究方法について検討する。

【到達目標】
研究テーマに関して、先行研究を探索しレビューできる。
自らの研究テーマについて、ある程度根拠を示し、論理的に説明できる。
人前で、説得力のあるプレゼンテーションをすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
自ら文献や関連するデータを探索し、成果をレポートにより報告することと、ディスカッションが主となる。ゼミと合同で研究報告会を行う。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	秋期授業の流れ
第2回	フィールドワークの方法、インタビューについて	講義による理解
第3回	事例分析について	事例による理解
第4回	研究報告①	報告と討議①
第5回	研究報告②	報告と討議②
第6回	研究報告③	報告と討議③
第7回	研究報告④	報告と討議④
第8回	グループ報告①	グループ報告と討議①
第9回	グループ報告②	グループ報告と討議②
第10回	合同ゼミ・卒論報告会	卒論報告会への参加
第11回	研究報告⑤	先行研究のレビュー
第12回	研究報告⑥	研究方法について
第13回	研究報告会に向けて	研究報告の準備
第14回	合同ゼミ・研究報告会	公開研究会における研究報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究テーマに関する先行研究、関連するデータの収集・分析を行う。
研究の段階ごとにレポートを課す。
準備・復習時間は、４時間以上とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない

【参考書】
適宜指示する、自らの天球テーマに関する文献等を探索すること。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加状況（60％）と研究の報告内容（40％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見を参考に、より学生が積極性を高め、充実したゼミとなるよう図る。

【その他の重要事項】
講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導を行うこととする。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline)】
It proceeds with the research by the group and it dose the presentation of the research.Also,it collects a data about the own research subject and it proceeds with the analysis.
【到達目標（Learning Objectives)】
The goals of this course are to A and B
A. Students can search of the necessary article and data.
B. Students can makes sentences as the research paper.
【授業時間外の学習（Learning activities of classroom)】
Students will be expected to have completed assignments after each supervision
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria Policy)】
Grading will be decided on research paper(40%),and
the quality of the students experimental performance in the lab(60%).

OTR300JC（その他 / Others 300）

専門演習ⅡＢ

久保田　幹子

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：**専門演習ⅡＡ・ⅡＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文作成に向けて、関心のあるテーマを設定し、研究を行う。

【到達目標】
関心のあるテーマをみつけ、先行研究の調査を通して、研究テーマの絞り込み、研究方法の吟味を行うことができる。
他の学生の研究テーマについて、ディスカッションに参加することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
関心のあるテーマに関する発表およびディスカッション
関心のあるテーマについて先行研究の調査。
課題等の提出・フィードバックは授業内および「学習支援システム」を通じて行う予定です。
なお、各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	卒業論文に向けて調査、研究法の検討①	卒業論文のテーマを絞り込み、先行研究の文献学習と研究計画の検討。
第2回	卒業論文に向けて調査、研究法の検討②	各自のテーマに関連する先行研究を調べ、まとめる。
第3回	卒業論文に向けて調査、研究法の検討③	各自のテーマに関連する先行研究をまとめる（グループ研究）①
第4回	卒業論文に向けて調査、研究法の検討④	各自のテーマに関連する先行研究をまとめる（グループ研究）②
第5回	卒業論文に向けて調査、研究法の検討⑤	4年生の発表を聞きながら、卒業論文の研究方法を検討する①
第6回	卒業論文に向けて調査、研究法の検討⑥	各自のテーマに関連する調査研究をまとめる（グループ研究）③
第7回	卒業論文に向けて調査、研究法の検討⑦	各自のテーマに関連する調査研究をまとめる（グループ研究）④
第8回	卒業論文に向けて調査、研究法の検討⑧	4年生の発表を聞きながら、卒業論文の研究方法を検討する②
第9回	卒業論文に向けて調査、研究法の検討⑨	各自のテーマに関連する調査研究をまとめる（グループ研究）⑤
第10回	卒業論文に向けて調査、研究法の検討⑩	各自のテーマに関連する調査研究をまとめる（グループ研究）⑥
第11回	卒業論文に向けて調査、研究法の検討⑪	グループですすめてきた調査研究の考察および発表の準備をおこなう
第12回	卒業論文に向けて調査、研究法の検討⑫	4年生の発表を聞きながら、卒業論文の研究方法を検討する③
第13回	卒業論文に向けて調査、研究法の検討⑬	グループごとに調査研究を発表し、検討課題についてディスカッションをする。
第14回	まとめ	全体の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文に向けて関心のあるテーマを決定するための学習として、論文検索、先行研究の調査、まとめ、個人発表およびグループ発表の準備が求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜、紹介する。

【参考書】
必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60％）と授業内の発表（40％）から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
知識と日常体験をつなぐ工夫、臨床現場の実際を伝える工夫を引き続き行いたい。また、卒業論文作成に向けて、より一層、学生が相互に意見交換できるゼミ作りを心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
各自の研究発表でPCやプロジェクターなどを使うことをお勧めします。

【その他の重要事項】
学生と共に作る授業です。受講生の関心や要請に応じて、上記計画は若干の変更可能性があります。
医療機関において病院臨床の実務経験があることから、現代人が直面する課題や心理的問題なども紹介しながら、皆さんの問題提議や議論の助けになるように進めていきます。

【Outline (in English)】
In this lecture, students set their own themes of interest and conduct research for writing a bachelor thesis. The goal of this course are to find and examine the main theme of the thesis and to use and evaluate the research method, revisiting the previous academic research. Students are able to participate in discussions on the research themes of other students. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (60%) and research presentation (40%).

OTR300JC（その他 / Others 300）

専門演習ⅡB

小林　由佳

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：**専門演習ⅡA・ⅡBの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業・組織心理学と臨床心理学(特に認知行動アプローチ)の観点から、働く人のウェルビーイングに関する理解を深め、課題解決と支援の方法を考えます。

【到達目標】
卒業論文に向けて、関心のあるテーマに関する研究論文を読み、研究計画を立てることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
自らの関心があるテーマについて、研究計画をたて、個人発表を行います。発表者は、議論を通して、テーマに関する理解と考察を深めます。演習の展開によって授業計画を若干変更することがあります。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方に関するオリエンテーション
第2回	研究の進め方	研究法の基礎についての講義
第3回	テーマ発表1	関心のあるテーマに関する発表と議論1
第4回	テーマ発表2	関心のあるテーマに関する発表と議論2
第5回	テーマ発表3	関心のあるテーマに関する発表と議論3
第6回	テーマ発表4	関心のあるテーマに関する発表と議論4
第7回	テーマ発表5	関心のあるテーマに関する発表と議論5
第8回	中間まとめ・研究計画について	研究計画の立て方についての講義
第9回	研究計画の発表1	研究計画の発表と議論1
第10回	研究計画の発表2	研究計画の発表と議論2
第11回	研究計画の発表3	研究計画の発表と議論3
第12回	研究計画の発表4	研究計画の発表と議論4
第13回	研究計画の発表5	研究計画の発表と議論5
第14回	まとめ	一年間の学びのまとめ、翌年度の進め方について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関心のあるテーマを選び、文献を調べ、発表内容をレジュメにまとめる必要があります。自分以外の発表内容についても、有意義なディスカッションをするために事前学習を求めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60％）および発表内容（40％）をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
より多くの気づきと視点を得るため、ディスカッションや学生間の共同作業の時間を多くとります。

【Outline (in English)】
Course outline ： In this specialized seminar, students will deepen their understanding of various issues related to workers, problem solving, and support methods from the perspectives of industrial/organizational psychology and clinical psychology (especially the cognitive-behavioral approach) under the theme of the wellbeing of workers.
Learning Objectives ： The goal of this seminar is to read research papers on topics of interest and develop a research plan for the graduation thesis.
Learning activities outside of the classroom ： Students are required to select a topic of interest, research the literature, and compose a resume of their presentation. Students are also required to study the content of presentations other than their own in advance in order to engage in meaningful discussion. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy ： Students will be evaluated comprehensively based on their participation in the class (60%) and the content of their presentations (40%).

OTR300JC（その他 / Others 300）

専門演習ⅡB

末武　康弘

配当年次／単位数：**3年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅡA・ⅡBの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理学に関連する問題や支援について各自で研究発表し、臨床心理学の研究を進めていくための基本的な方法やスキルを共有します。研究成果をゼミ論文にまとめます。

【到達目標】
このゼミの到達目標は、臨床心理学の研究を進めていくための基本的な方法やスキル（文献検索、先行研究の検討、研究方法の理解など）を獲得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
各自が臨床心理学にかかわる研究テーマを設定し、ゼミで発表・ディスカッションし、その成果をゼミ論文にまとめます。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方と、ゼミ論文作成に向けてのガイダンスを行います
2	ゼミ論途中経過発表とディスカッション①	研究テーマについての学習の途中経過（特に先行研究の検討を中心に）を報告し、それに基づきディスカッションを行います、例：ゼミ生A～C発表。
3	ゼミ論途中経過発表とディスカッション②	例：ゼミ生D～Fの発表
4	ゼミ論途中経過発表とディスカッション③	例：ゼミ生G～Iの発表
5	ゼミ論途中経過発表とディスカッション④	例：ゼミ生J～Lの発表
6	ゼミ論途中経過発表とディスカッション⑤	例：ゼミ生M～Oの発表
7	ゼミ論途中経過発表とディスカッション⑥	例：ゼミ生A、Bの発表
8	ゼミ論途中経過発表とディスカッション⑦	例：ゼミ生C、Dの発表
9	ゼミ論途中経過発表とディスカッション⑧	例：ゼミ生E、Fの発表
10	ゼミ論途中経過発表とディスカッション⑨	例：ゼミ生G、Hの発表
11	ゼミ論途中経過発表とディスカッション⑩	例：ゼミ生I、Jの発表
12	ゼミ論途中経過発表とディスカッション⑪	例：ゼミ生K、Lの発表
13	ゼミ論途中経過発表とディスカッション⑫	例：ゼミ生M、N、Oの発表
14	卒論構想発表会	卒論の構想を全員が発表し、ディスカッションします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミ論文の執筆に向けて、各自の自己学習が求められます。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（30％）、ゼミ論文（70％）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションが積極的に展開するように発言を促したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
発表の際にパワーポイントを使用することを勧めます。パソコン本体は個人のものを持参しなくても大丈夫です。

【その他の重要事項】
おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく授業します。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire standard knowledge and skill required for research and practice in clinical psychology, through presentation and discussion. And You should complete seminar report.
The goals of this course are to acquire standard knowledge and skill required for research and practice in clinical psychology, and to complete seminar report.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on term-end report (seminar report) (70%), and in-class contribution (30%).

OTR300JC（その他 / Others 300）

専門演習ⅡＢ

関谷　秀子

配当年次／単位数：**3年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅡＡ・ⅡＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習Ⅰに引き続き乳幼児期から初期成人期に至る発達の正常と異常を学習する。専門演習Ⅰで学んだことを基礎として、発達の異常やその対応（さまざまな心理療法）について知識を深める。卒業論文制作を視野に入れ、専門演習Ⅰ・ⅡＡで学んだことを基礎として、自分の関心のあるテーマを確定し、さらに理解を深める。

【到達目標】
発表やディスカッションを通して、自分の関心のあるテーマの理解をさらに深めていく。新たに生じた疑問点について調べ直す。
大学生活と自己を振り返り、卒業後の自分の目標を定める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
卒業論文制作を視野に入れ、自分の関心のあるテーマを確定し文献を調べ発表、ディスカッションを行う。４年生との交流や、様々な分野で働いている卒業生の話を聞く機会を設け、職業選択や自分自身の将来像について検討する。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方に関するオリエンテーション
第2回	テーマの確定①	演習ⅡＡの発表と興味のあるテーマについてディスカッション①
第3回	テーマの確定②	演習ⅡＡの発表と興味のあるテーマについてディスカッション②
第4回	文献検索①	テーマに関する文献を探す①
第5回	文献検索②	テーマに関する文献を探す②
第6回	卒業生との交流	卒業生の話を聞き交流する
第7回	４年生との交流	４年生の話を聞き交流する
第8回	発表①	レジメを配布して発表、ディスカッション①
第9回	発表②	レジメを配布して発表、ディスカッション②
第10回	発表③	レジメを配布して発表、ディスカッション③
第11回	発表④	レジメを配布して発表、ディスカッション④
第12回	発表⑤	レジメを配布して発表、ディスカッション⑤
第13回	ディスカッション	職業選択や将来像について①
第14回	ディスカッション・クリニック見学	職業選択や将来像について②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関心のあるテーマに関する文献を調べ発表用のレジメを作成する。
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点(60%)、発表(40%)に基づいて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
臨床場面のエピソードや具体的なケースを提示することで学生のテーマについての理解を深めたい。

【Outline (in English)】
We will learn normal and abnormal mental development from infancy to early adulthood. Expanding upon that, we will also further study psychotherapy for mental disease. We will choose a theme with one's interest to write a graduation thesis, and deepen understanding about that theme. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. In class contribution: 60% presentation : 40%.

OTR300JC（その他 / Others 300）

専門演習ⅡB

丹羽　郁夫

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：**専門演習ⅡA・ⅡBの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理臨床における自分の関心のある特定のテーマについて理解を深めて報告する。

【到達目標】
ゼミ生一人ひとりが心理臨床の領域における自分の関心のあるテーマについての先行研究の概観とその課題について体系的に説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
3年生には個別に心を持ったテーマに関して調べた内容をレジュメを作成して発表してもらう。また、月に1回、4年生の卒業論文の経過報告と指導を聞いて、卒業論文作成のプロセスを知る。課題の提示およびフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ゼミの進め方と具体的なスケジュールなどを決める
第2回	個人発表①	2人ずつ関心のあるテーマについての先行研究の概観を発表①
第3回	個人発表②	2人ずつ関心のあるテーマについての先行研究の概観を発表②
第4回	4年生の卒業論文指導①	4年生の卒業論文の準備状況を聞く
第5回	個人発表③	2人ずつ関心のあるテーマについての先行研究の概観を発表③
第6回	個人発表④	2人ずつ関心のあるテーマについての先行研究の概観を発表④
第7回	個人発表⑤	2人ずつ関心のあるテーマについての先行研究の概観を発表⑤
第8回	4年生の卒業論文指導②	4年生の卒業論文についての経過報告を聞く
第9回	個人発表⑥	2人ずつ関心のあるテーマについての先行研究の概観を発表⑥
第10回	事例検討①	事例を読んでグループ・ディカッションをする①
第11回	事例検討②	事例を読んでグループ・ディスカッションをする②
第12回	4年生の卒業論文指導③	4年生の卒業論文の発表準備状況を聞く
第13回	卒業論文発表会①	4年生の卒業論文発表会に参加（前半）
第14回	卒業論文発表会②	4年生の卒業論文発表会に参加（後半）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表のため、関心のあるテーマに関する文献を検索し発表資料を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
研究テーマおよび研究方法に応じて適宜適切な文献を紹介する。

【参考書】
研究テーマおよび研究方法に応じて適宜適切な文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
発表（70％）、ディスカッションへの参加(30%)。

【学生の意見等からの気づき】
現状を維持します。

【Outline (in English)】
Course outline
Students deepen their understanding of specific subjects of their interest in clinical psychology and report it.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to explain the precedent study on theme with own interest in the psychology clinical domain systematically.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies
Final grade will be calculated according to the following process　Presentation of the results of the study (70%), and participation in discussion (30%)

OTR400JB（その他 / Others 400）

専門演習ⅢＡ

伊藤　正子

配当年次／単位数：**4年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅢＡ・ⅢＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、社会的排除の実態とそれらに対する地域的取り組みや現場実践について学ぶとともに実践力を涵養することを目的とする。

【到達目標】
このゼミでは、これまで学習してきた社会的排除に関する視点に基づきながら、各自の関心に応じてテーマを選択し、その社会的排除の実態、社会的背景および問題を明らかにし、そこに求められる地域的な取り組みや専門職による支援について理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期は、グループによりテーマを共有し、３年次の成果と文献研究を中心に課題を整理し、秋学期以降のフィールドワークの計画を作成し、レポート報告にまとめる。対面式での開講となる。外部講師へのヒアリング等は、状況に応じてオンライン上で実施することもある。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期目標、内容の確認
第2回	グループ面接	専門演習Ⅰ、Ⅱとの合同面接
第3回	研究テーマの明確化①	研究関心の列挙と絞り込み
第4回	研究テーマの明確化②	テーマの決定とグループ分け
第5回	先行研究のレビュー①	関連領域の調査研究報告書
第6回	先行研究のレビュー②	関連領域の論文
第7回	集団討議①	グループ毎に研究作業を進める①先行研究からの課題の整理
第8回	集団討議②	グループ毎に研究作業を進める②これまでのフィールドワークの振り返り
第9回	集団討議③	グループ毎に研究作業を進める③フィールドワークと研究テーマの再検討
第10回	集団討議④	グループ毎に研究作業を進める④フィールドワーク計画の検討
第11回	集団討議⑤	グループ毎に研究作業を進める⑤フィールドワーク実践状況の確認
第12回	集団討議⑥	グループ毎に研究作業を進める⑥フィールドワーク実践の課題の検討
第13回	集団討議⑦	グループ毎に研究作業を進める⑦フィールドワーク実践の課題整理
第14回	まとめ	グループ毎に春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
これまでの学習を踏まえた研究方法を実践していくため、授業以外でグループによる討議を十分に行い、協働で研究の準備を進めていくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めないが、必要に応じてテキストを使用する。

【参考書】
必要に応じて、適宜参考図書、論文、事例、外部講師を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
１．レポート(30%)
２．研究発表(40%)
３．演習への能動的参加(30%)

【学生の意見等からの気づき】
研究指導については、可能ならば合宿等も活用していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）を準備しておくことが望ましい。

【その他の重要事項】
医療機関・外国人支援ＮＧＯソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

【Outline (in English)】
This course deal with tackling social exclusion and community based social work practices and social supports. At the end of the course, students are expected to understand the various aspects of social support services. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least four hours for each class meeting. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (40%), and in-class contribution(30%).

OTR400JB（その他 / Others 400）

専門演習ⅢA

岩崎　晋也

配当年次／単位数：**4年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅢA・ⅢBの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の研究内容についてディスカッションすることで研究への理解を深める。

【到達目標】
論理的な思考力を高め、他者とディスカッションする力を高める。
卒業論文の研究内容への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
個々の卒論研究を定期的に報告を行いディスカッションする。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーションを行い、進め方を確認する
第2回	テーマに関する報告1	卒論テーマを報告する１
第3回	テーマに関する報告2	卒論テーマを報告する２
第4回	テーマに関する報告3	卒論テーマを報告する３
第5回	先行研究に関する報告１	先行研究をまとめ報告する１
第6回	先行研究に関する報告２	先行研究をまとめ報告する２
第7回	先行研究に関する報告３	先行研究をまとめ報告する３
第8回	先行研究に関する報告２回目１	先行研究をまとめ報告する４
第9回	先行研究に関する報告２回目２	先行研究をまとめ報告する５
第10回	先行研究に関する報告２回目３	先行研究をまとめ報告する６
第11回	調査フィールドに関する報告１	調査フィールドの概要と調査内容を報告する１
第12回	調査フィールドに関する報告２	調査フィールドの概要と調査内容を報告する２
第13回	調査フィールドに関する報告３	調査フィールドの概要と調査内容を報告する２
第14回	まとめ	研究内容を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒論指導をもとに報告のためのレジュメを作成する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんの意見を聞きながら授業を進めるつもりです。

【Outline (in English)】
Discuss the theme of the graduation thesis.
The goals of this course are to improve the ability to think logically and
discuss with others.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 100%.

OTR400JB（その他 / Others 400）

専門演習ⅢA

宮地　さつき

配当年次／単位数：**4年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅢA・ⅢBの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまでに培った問題関心をもとに個別のテーマを設定し、研究成果の集大成としての卒業論文を完成させる。

【到達目標】
卒業論文を完成し発表する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
・卒業論文完成のための文献検討、データや資料の収集と、それらの分析を進める。
・お互いの発表に対して意見交換を行う。また課題等のフィードバックは、直接に返却あるいは学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期スケジュールの確認
第2回	論文構想発表	各自の関心テーマに沿った構想の発表
第3回	論文構想検討	前回の発表をもとに論文構想を検討
第4回	論文構想発表	検討した結果の論文構想の発表
第5回	文献検討：収集	論文作成に必要な関連文献を収集
第6回	文献検討：レビューの仕方	関連文献のレビューの仕方を学ぶ
第7回	文献検討：レビュー論文執筆	関連文献のレビューを書いてみる
第8回	文献検討：レビュー論文の発表	各自の文献レビューを発表する
第9回	文献検討：検討	文献レビューの再検討
第10回	資料収集の検討	論文テーマに沿った調査・フィールドの検討
第11回	資料収集の準備	調査やフィールドスタディの準備
第12回	資料の収集	調査やフィールドスタディの実施
第13回	資料の収集と再検討	論文のテーマに沿った、資料・データの収集と分析
第14回	進捗状況の発表	状況確認と夏休み課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・発表者は必ずレジュメを用意して発表すること。
・論文の書き方に関する文献や資料に再度目を通して、論文執筆方法について復習しておくこと。
・本授業の準備・復習時間は、各回4時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
・白井利明・高橋一郎（2013）『よくわかる卒論の書き方 [第2版]』ミネルヴァ書房
・戸田山和久（2022）『新版　論文の書き方』NHKブックス
・河野哲也（2018）『レポート・論文の書き方入門　第4版』慶応義塾大学出版会
その他は適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
演習への積極的参加・発表内容（40％）、提出物（60％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
各自の研究発表でPCやプロジェクターなどを使うことができます。必要な場合には、担当教員に相談してください。

【Outline (in English)】
This course focuses specifically on the necessary skills and methods according to the students' research topics. The goal is to write and present their thesis.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend more than four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (60%), and in-class contribution (40%).

OTR400JB（その他 / Others 400）

専門演習ⅢA

髙良　麻子

配当年次／単位数：**4年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅢA・ⅢBの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習Ⅱで立てた卒業研究の計画にもとづき、研究を進める。

【到達目標】
・卒業研究を推進できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
各自またはグループで卒業研究を進め、随時報告をして指導を受けながら研究を進めていく。本学期の最後に卒業研究に関する中間発表を行い、それに対して意見交換をすることで、卒業研究の質を高める。また、授業ごとのリアクションペーパー等をもとに、学習支援システム等でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	研究計画書の修正	研究計画書の発表と修正
第3回	フィールドワークの理解	フィールドワークの目的と内容
第4回	フィールドワークの倫理的配慮	倫理的配慮の理解
第5回	卒業研究の報告と指導①	アンケート調査実施の指導
第6回	卒業研究の報告と指導②	アンケート調査結果の分析指導
第7回	卒業研究の報告と指導③	インタビュー調査実施の指導
第8回	卒業研究の報告と指導④	インタビュー調査結果の分析指導
第9回	卒業研究の報告と指導⑤	事例研究実施の指導
第10回	卒業研究の報告と指導⑥	事例分析の指導
第11回	卒業研究の報告と指導⑦	文献収集の指導
第12回	卒業研究の報告と指導⑧	文献分析の指導
第13回	卒業研究の中間報告	卒業研究の中間報告と指導
第14回	総括	まとめと振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
主体的に卒業研究や活動を進めるとともに、指導や意見交換等を踏まえてそれを研究等に活かす復習を行なってほしい。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない

【参考書】
岩田正美他編（2006）「社会福祉研究法：現実世界に迫る１４レッスン」有斐閣アルマ川村匡由(2018)『三訂　福祉系学生のためのレポート＆卒論の書き方』中央法規
白井利明・高橋一郎（2013）『よくわかる卒論の書き方（第２版）」ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
・平常点 40%
・卒業研究の報告 60%

【学生の意見等からの気づき】
卒業研究に関して定期的に指導できる機会を設けている。

【Outline (in English)】
This course is the first semester of a two-semester integrative practice course. Students will use the seminar format to learn how to proceed with graduation research. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (60%) and in-class contribution (40%).

OTR400JB（その他 / Others 400）

専門演習ⅢA

佐野　竜平

配当年次／単位数：**4年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅢA・ⅢBの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本とアジアを比較しつつ、障害と開発およびその他社会開発課題に関する研究を通じて、国際舞台で求められる知識・スキルを具体的に実践する。

【到達目標】
アジアについて応用的な理解をレビューする。動画による発信力を確かなスキルの一つとする。また、現代福祉に関連した国際協力あるいは国際開発について知見をまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
過去2年のゼミ活動から得られた知見を生かして、個々の関心事項への理解を振り返り、将来に応用する知見として確立させる。オンラインを基本に実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、Googleクラスルーム、Googleフォームまたは面談等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	全体像の意見交換
第2回	研究の企画化①	ブレインストーミング①
第3回	研究の企画化②	ブレインストーミング②
第4回	研究の企画化③	ブレインストーミング③
第5回	研究計画①	具体的な計画作成①
第6回	研究計画②	具体的な計画作成②
第7回	研究計画③	具体的な計画作成③
第8回	文献・資料のレビュー①	関連資料・データの分析①
第9回	文献・資料のレビュー②	関連資料・データの分析②
第10回	文献・資料のレビュー③	関連資料・データの分析③
第11回	発表前準備	中間発表の骨子作成
第12回	卒論中間発表①	卒論中間報告と質疑応答①
第13回	卒論中間発表②	卒論中間報告と質疑応答②
第14回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。国際協力関連の課外活動への参画。発表や報告はスライド表示が原則。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。

【参考書】
必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】
演習への積極的参加：50％、レポート・プレゼン：50％

【学生の意見等からの気づき】
学生が主体的に参加できるゼミ運営。様々なアイディアを応用。

【学生が準備すべき機器他】
講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。自主ゼミ企画、海外または国内フィールド活動にかかる諸準備。

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野等】
障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】
【Course Outline】This course is designed to mobilize and utilize knowledge and practical skills for international cooperation within the context of disability-inclusive development.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to develop ideas in the international context, collaborate with international partners, and professionally present their learnings.
【Learning activities outside of classroom】Before each class and after each class, students are expected to spend 2 hours understanding the course contents.
【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and the quality of students' performance in presentations and reports (50%).

OTR400JB（その他 / Others 400）

専門演習ⅢA

眞保　智子

配当年次／単位数：4年次／2単位
備考（履修条件等）：**専門演習ⅢA・ⅢBの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究テーマについて、専門演習ⅠAB・ⅡABでの学びから醸成したそれぞれ調査や実践を通じて研究し、ゼミでの報告と議論を踏まえて卒業論文にまとめることを目指します。精神保健ソーシャルワークの視点でとらえ、発達障害、メンタルヘルスと若者と社会の関係について検討することと合わせて関係する文献を渉猟し、卒業論文にまとめる研究を進め、成果を報告し、各自の学びを共有し、自らの研究について考察していきます。

【到達目標】
研究テーマについて、それぞれ調査や実践を通じて研究し、ゼミでの報告と議論を踏まえて卒業論文にまとめることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
多摩地区を中心とした児童養護施設、精神科病院、就労支援施設、インクルーシブ＆ダイバーシティ経営の企業などへの見学や依存症などのピアサポート（当事者相互のサポート）グループでの語りで学びながら、身近な地域の社会資源の調査や地域ニーズを把握し解決について検討し、文献研究とともにフィールドワークのデータや資料の収集と、それらの分析・考察から卒業論文にまとめ、発表します。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	年間スケジュールの確認
第2回	論文構想発表(問題意識)	各自の関心テーマの焦点化
第3回	論文構想発表（構想発表）	各自の関心テーマに沿った構想の検討
第4回	論文構想発表（課題検討）	各自の関心テーマの課題について検討
第5回	文献検討（主要な論点）	論文作成に必要な関連文献の検討（核となる議論）
第6回	文献検討（主要な議論）	論文作成に必要な関連文献の検討（主要な研究者の議論）
第7回	文献検討（近接領域）	論文作成に必要な関連文献の検討（近接領域の研究）
第8回	文献検討（海外の研究）	論文作成に必要な関連文献の検討（海外の研究）
第9回	文献検討（関連領域）	論文作成に必要な関連文献の報告
第10回	資料の収集・論文執筆	論文のテーマに沿った、資料の収集と執筆
第11回	データの収集と論文執筆	データの収集（インタビュー)
第12回	データ収集方法と論文執筆	データの収集(アンケート）
第13回	分析と論文執筆	論文のテーマに沿った、資料の分析
第14回	報告と論文執筆	論文のテーマに沿った、データの報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表者は必ずレジメを用意して発表すること。前年度等の先輩学生からのレクチャー等で学習した論文の書き方の資料に再度目を通して、論文執筆方法について復習しておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
白井利明・高橋一郎（2013）『よくわかる卒論の書き方 (第２版)』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
講義参加の準備と発言20％、課題レポート80％

【学生の意見等からの気づき】
少人数学習のよさを最大限活用し、学生相互の学びを大切にしています。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆やグループワークの際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用する。

【その他の重要事項】
研究はゼミ以外の時間で各自進め、ゼミでは報告とディスカッションをする場となります。報告の際は、レジュメの作成やパワーポイントの利用など十分な準備をして行うことを求めています。

【Outline (in English)】
This course builds on the skills learned in seminar ⅡAB and applies them to the writing of a major research paper (in either the social sciences). Students are expected to take responsibility in choosing a theme and thoroughly researching it for the final paper, no less than 20000 words, excluding a bibliography. This course content includes essay organization, research strategies (collecting and evaluating references, conducting web searches, using electronic databases), bibliographic organization, and citation styles: footnotes, endnotes. Before/after each seminar, students will be expected to spend four hours to understand the seminar content.The goal of this course is to complete the degree paper. Grading will be decides based on degree paper (80%) and in-class contribution (20%).

OTR400JB（その他 / Others 400）

専門演習ⅢA

野田　岳仁

配当年次／単位数：**4年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅢA・ⅢBの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境社会学・地域社会学の主要な方法論である生活環境主義の方法を用いて、現場に暮らす人びとにとって有効性のある地域づくり・地域ツーリズム政策を構想することを目的としている。

【到達目標】
3年間のゼミでの学びの集大成として卒業論文を執筆する。生活環境主義の方法論を用いて、有効性のある政策論に仕上げることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
本演習では、研究テーマを設定し、自ら問いを立て、フィールドワーク、文献調査を行い、得られたデータから有効性のある結論を導き出すための指導と討議を行う。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習の進め方と目標設定
第2回	論文の構想（1）	問題関心の設定
第3回	論文の構想（2）	問いの設定
第4回	論文の構想の発表（1）	問題関心の発表と討議
第5回	論文の構想の発表（2）	問いについての発表と討議
第6回	研究計画の検討	研究の計画、スケジュール、フィールドについて検討
第7回	研究計画の発表	研究の計画、スケジュール、フィールドについて討議
第8回	調査計画の検討	フィールドでの聞き取り調査の手法と計画について検討
第9回	調査計画の発表	フィールドでの聞き取り調査の手法と計画について討議
第10回	先行研究のレビュー（1）	環境社会学における議論をレビュー
第11回	先行研究のレビュー（2）	地域社会学における議論をレビュー
第12回	先行研究のレビュー（3）	民俗学や文化人類学などの隣接領域での議論をレビュー
第13回	先行研究のレビュー（4）	先行研究をまとめ、各自の論文の位置付けをクリアにする
第14回	まとめ	論文構想についての総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自で論文執筆、先行研究レビュー、フィールドワーク、プレゼンテーションの準備など事前学習を進める必要がある。演習後には、教員や仲間からの助言やコメントを卒業論文に反映させる作業が不可欠である。適宜本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
討議や発表を含めた平常点(50%)と論文などの成果物(50%)を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生からの要望やコメントは適宜内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems.【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance（Discussion, presentation, and report）(50%).

OTR400JB（その他 / Others 400）

専門演習ⅢA

水野　雅男

配当年次／単位数：**4年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅢA・ⅢBの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
関心のある社会的な課題をテーマとして、調査研究を行い、学内懸賞論文として書き上げる。

【到達目標】
論文の構想に沿って調査を進め、専門演習での発表・議論を経て、論文の完成に導くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
各自、定期的にメンバーの前でプレゼンテーションして意見交換する。その討議を踏まえて更なる調査・検討を進め、研究論文を形作っていく。
課題の事前提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習の目的や進め方の確認
第2回	論文構想発表①	問題意識の提示
第3回	論文構想発表②	問題意識に関する情報収集
第4回	論文構想発表③	問題意識の絞り込み
第5回	文献レビュー報告①	関心領域に関する文献や資料の調査報告①グループA
第6回	文献レビュー報告②	関心領域に関する文献や資料の調査報告②グループB
第7回	文献レビュー報告③	関心領域に関する文献や資料の調査報告③グループC
第8回	研究テーマ発表①	研究のキーワードの検討
第9回	研究テーマ発表②	研究のテーマの検討
第10回	論文構成発表①	論文の章立ての検討①目的と分析方法の対応確認
第11回	論文構成発表②	論文の章立ての検討②テーマとの整合性確認
第12回	調査計画の報告①	調査対象と方法の検討
第13回	調査計画の報告②	調査票の検討
第14回	調査計画の報告③	調査時期、依頼書類の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修メンバーに取り組んでいる内容が伝わりやすいように、発表用の資料を作成したり、その方法を工夫することが求められる。演習後には、教員やメンバーから受けた助言やコメントに基づき改善することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて配付・指示する。

【参考書】
必要に応じて配付・指示する。

【成績評価の方法と基準】
演習での報告（70％）や議論など（30％）を総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
各自の研究発表でPCやプロジェクターなどを使うことが出来る。
学習支援システムやFacebookグループを利用して、学生への連絡や情報の共有を図る。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに30年間関わり、市民活動を企画運営してきた経験に基づき、フィールドワークと政策提言を企画する術について授業で紹介する。

【Outline (in English)】
< Course outline>
The aim of this course is to help students acquire research on the theme of social issues of interest, and write it as an on-campus prize paper.
< Learning Objectives>
By the end of the course, students should be able to do the followings:
Proceed with the research according to the concept of the dissertation, and lead to the completion of the dissertation through presentations and discussions in specialized exercises.
< Learning activities outside of classroom>
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy>
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 70%, in class contribution: 30%

OTR400JB（その他 / Others 400）

専門演習ⅢＡ

宮城　孝

配当年次／単位数：**4年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅢＡ・ⅢＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の作成に向けて問題関心の明確化を行い、必要な文献探索やデータ収集、調査等を行い、論文として文章化し完成させる。

【到達目標】
○地域の福祉課題等への問題意識を明確化させ、その解決方法を提案できる。
○調査研究や分析の方法を学び、自ら課題に対し分析する方法を組み立てることができる。
○学術的な文章の書き方を学び、論理的な文章力を磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
原則、個別指導による。ゼミ生による中間報告と２・３年生を含めた研究報告の機会を設ける。全員、定期的に授業内でプレゼンテーションします。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
基本的には対面で行うが、学生の都合によりオンラインで行う場合もある。その際には、学習支援システムで事前に周知することとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	問題意識の明確化①	卒論の意義を学び、問題意識を明確化させる。
第2回	問題意識の明確化②	卒論の意義を学び、問題意識を明確化させる。
第3回	調査研究方法の学習Ⅰ	調査方法、分析の視点を学ぶ①
第4回	調査研究方法の学習Ⅱ	調査方法、分析の視点を学ぶ②
第5回	調査研究方法の学習Ⅲ	調査方法、分析の視点を学ぶ③
第6回	論文作成計画の検討Ⅰ	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する①
第7回	論文作成計画の検討Ⅱ	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する②
第8回	論文作成計画の検討Ⅲ	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する③
第9回	論文作成計画の検討Ⅳ	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する④
第10回	文献や資料などの検討Ⅰ	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる①
第11回	文献や資料などの検討Ⅱ	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる②
第12回	文献や資料などの検討Ⅲ	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる③
第13回	調査計画の検討Ⅰ	調査方法を検討する①
第14回	調査計画の検討Ⅱ	調査方法を検討する②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査研究に当たっては、フィールドワークを重視し、現場でのインタビューやアンケート調査を行ったり、自ら活動に参加し参与観察などを行うことを進める
準備・復習時間を４時間以上とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない

【参考書】
個別的に卒論作成に必要な文献等を指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点60％、研究への取り組みの態度と内容40%。

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながらよりよい指導方法を検討していきます。

【その他の重要事項】
講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導を行うこととする。

【Outline (in English)】
【授業の概要(Course outline)】
This Course is the setting data about its own research subject and it proceeds with the analysis.Also,it proceeds making sentences with the own research.
【到達目標（Learning Objectives)】
The goals of this course are to Ａ and Ｂ
Ａ. Students can search of the necessary article and data.
Ｂ. Students can makes sentences as the research paper.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom)】
Student will be expected to have completed assignments after each supervision,
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy)】
Grading will be decided on research paper(40 %),and the quality of the students' experimental performance in the lab(60％）

OTR400JC（その他 / Others 400）

専門演習ⅢA

久保田　幹子

配当年次／単位数：4年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会の抱える諸問題を心理学の立場から議論し、その理解を深めると共に、心理的援助について学習する。

【到達目標】
現代社会の抱える問題を心理学の立場から議論し、心理的援助について学ぶと共に、各自で研究テーマを決定し、調査・研究を実施する。専門演習での発表・議論を経て、卒業論文の完成に導くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
演習Ⅲでは、卒業論文の内容をゼミにおいて定期的にプレゼンテーションし、ゼミでのディスカッションを踏まえて検討を進め、卒業論文作成のための準備を行う。
課題等の提出・フィードバックは授業内および「学習支援システム」を通じて行う予定です。
なお、各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習の目的や進め方について話し合う。
第2回	論文構想発表①	問題意識や論文の構想について発表し、議論する①
第3回	論文構想発表②	問題意識や論文の構想について発表し、議論する②
第4回	論文構想発表③	問題意識や論文の構想について発表し、議論する③
第5回	論文構想発表④	問題意識や論文の構想について発表し、議論する④
第6回	論文計画の発表①	調査テーマ、対象、方法、スケジュール等を発表し、議論する①
第7回	論文計画の発表②	調査テーマ、対象、方法、スケジュール等を発表し、議論する②
第8回	論文計画の発表③	研究の進捗状況を発表し、それについて皆で議論する。
第9回	論文計画の発表④	調査テーマ、対象、方法、スケジュール等を発表し、議論する③
第10回	文献等レビュー報告①	テーマに関する文献や資料を集め、その概要と分析結果を報告する①
第11回	文献等レビュー報告②	テーマに関する文献や資料を集め、その概要と分析結果を報告する②
第12回	文献等レビュー報告③	テーマに関する文献や資料を集め、その概要と分析結果を報告する③
第13回	文献等レビュー報告④	テーマに関する文献や資料を集め、その概要と分析結果を報告する④
第14回	まとめ	卒業論文作成のために進めてきた準備を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文を執筆するための準備として、過去の文献や研究結果を収集する。また、演習の仲間に取り組んでいる内容が伝わりやすいように、発表用の資料を作成したり、その方法を工夫することが求められる。演習後には、教員や仲間から受けた助言やコメントを卒業論文に反映させ、論文を改善することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて配付・指示する。

【参考書】
必要に応じて配付・指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点　70％
主体的取組み・参加の姿勢（演習内での報告、議論での積極的参加など）　30％

【学生の意見等からの気づき】
卒業論文作成に向けて、研究に役立つ相互の意見交換と、個々の関心を生かした研究が出来るようにサポートしたい。

【学生が準備すべき機器他】
各自の研究発表でPCやプロジェクターなどを使うことが出来ます。

【その他の重要事項】
ゼミ生と共につくる授業です。受講生の関心や要請に応じて、上記計画は、若干の変更可能性があります。
医療機関において病院臨床の実務経験があることから、現代人が直面する課題や心理的問題なども紹介し、皆さんの問題提議や論文構想の助けになるように進めていきます。

【Outline (in English)】
We will discuss issues of our modern society from a psychological perspective, deeply understanding them, and learning how to utilize psychological support for them. The goal is to lead to the completion of the bachelor thesis through presentations and discussions in this course. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based in-class contribution (70%) and research presentation (30%).

OTR400JC（その他 / Others 400）

専門演習ⅢA

小林　由佳

配当年次／単位数：**4年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅢA・ⅢBの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本専門演習では、各自の問題意識に基づいた研究テーマを設定し、ディスカッションを通して理解を深めます。

【到達目標】
1）自身の問題意識について、その背景や知見を調べて整理する
2）問題意識を説明し、ディスカッションを通して理解を深める

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
卒業論文で扱う研究内容をゼミにおいてプレゼンし、ディスカッションを行います。先行研究、データの収集と分析の方法についても共有します。課題等の提出とフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方、成績評価の基準等の確認
第2回	論文構想1	卒業論文の研究テーマの検討とディスカッション（前半）
第3回	論文構想2	卒業論文の研究テーマの検討とディスカッション（後半）
第4回	論文構想3	卒業論文の研究テーマの発表
第5回	先行研究1	研究テーマにおける先行研究の収集
第6回	先行研究2	各研究テーマにおける先行研究のレビューと整理
第7回	先行研究3	各研究テーマにおける先行研究の課題点の整理
第8回	先行研究4	各研究テーマの先行研究の発表
第9回	研究計画1	研究の実施計画とディスカッション
第10回	研究計画2	研究の実施方法とデータの分析方法について検討
第11回	研究計画3	研究の実施準備
第12回	研究の遂行1	各自の計画に沿った研究の実施
第13回	研究の遂行2	研究の進捗状況の確認
第14回	まとめ	春学期の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文の作成に必要な自己学習（先行研究や文献の分析）、データ収集・解析、論文執筆作業と発表、および議論が求められます。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
議論への参加（50％）と発表内容（50％）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生が積極的に参加できるよう発言の機会を促します。

【Outline (in English)】
In this class, students will establish research theme based on their individual concerns and deepen understanding through discussions.
The objectives of this class are as follows
(1) Research and organize the background and findings of one's own problem consciousness
(2) Deepen understanding through explanations and discussions of problem consciousness
Students are required to study outside of class time for self-study (analysis of previous research and literature), data collection and analysis, paper writing work and presentation, and discussion necessary for the preparation of the graduation thesis. Standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Participation in the discussion (50%) and the content of the presentation (50%) will be evaluated as a whole.

OTR400JC（その他 / Others 400）

専門演習ⅢA

末武　康弘

配当年次／単位数：**4年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅢA・ⅢBの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理学の諸問題と支援について議論します。

【到達目標】
臨床心理学に関連する諸問題と心理的支援、研究方法を学び、各自で研究テーマを設定して卒業論文を作成する準備をします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理学に関連する問題や援助について各自で研究発表し、卒業論文の執筆に向けた先行研究の検討、調査の実施方法、データの分析方法、文章表現のスキルなどを共有します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方、成績評価の基準について示し、ゼミ長他の役割を決定します
2	個人テーマの選定①	卒業論文に向けた各自の研究テーマについてブレーンストーミングを行います
3	個人テーマの選定②	卒業論文に向けた各自の研究テーマについてディスカッションを行います
4	個人テーマの決定と発表スケジュールの話し合い	各自の研究テーマを決定し、発表スケジュールを話し合います
5	個人報告①	論文作成の途中経過を各自報告し、ディスカッションを行います、例：ゼミ生A～Eの報告
6	研究報告②	例：ゼミ生F～Jの報告
7	研究報告③	例：ゼミ生K～Oの報告
8	研究報告④	例：ゼミ生A～Cの報告
9	研究報告⑤	例：ゼミ生D～Fの報告
10	研究報告⑥	例：ゼミ生G～Iの報告
11	研究報告⑦	例：ゼミ生J～Lの報告
12	研究報告⑧	例：ゼミ生M～Oの報告
13	研究報告⑨	例：希望者による発表
14	まとめ	授業のふりかえりとまとめを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文の作成に直結した報告のために、自己学習（文献や先行研究の収集と分析）およびデータ収集・解析、論文執筆の作業が求められます。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
発表内容（50％）、ディスカッションへの参加（50％）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションが積極的に展開するように発言を促したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
発表の際にパワーポイントを使用することを勧めます。パソコン本体は個人のものを持参しなくても大丈夫です。

【その他の重要事項】
おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく授業します。

【Outline (in English)】
You discuss the clinical problems and psychological support. The aim of this course is to help students acquire high level knowledge and skill required for research and practice in clinical psychology, through presentation and discussion.
The goals of this course are to acquire high level knowledge and skill required for research and practice in clinical psychology, through presentation and discussion.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on students' presentation performance (50%), and in-class contribution (50%).

OTR400JC（その他 / Others 400）

専門演習ⅢA

関谷　秀子

配当年次／単位数：**4年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅢA・ⅢBの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
演習Ⅲでは各自が臨床心理学に関連した興味のあるテーマを選定し、卒業論文を完成させる。

【到達目標】
演習Ⅱで明確にした問題意識をさらに発展させ、卒業論文のテーマを選定し、必要な調査・研究を行う。それについてゼミでプレゼンテーションとディスカッションを行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
演習Ⅲでは、卒業論文作成過程の内容を専門演習において定期的にプレゼンテーションし、ゼミでのディスカッションを踏まえて検討を進め、卒業論文を完成させる。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文構想①	問題意識や論文の構想について①
第2回	論文構想②	問題意識や論文の構想について②
第3回	論文構想③	問題意識や論文の構想について③
第4回	論文構想④	問題意識や論文の構想について④
第5回	論文計画①	テーマ、対象、方法、スケジュール①
第6回	論文計画②	テーマ、対象、方法、スケジュール②
第7回	論文計画③	テーマ、対象、方法、スケジュール③
第8回	論文計画④	テーマ、対象、方法、スケジュール④
第9回	先行研究①	先行研究の収集
第10回	先行研究②	先行研究の読み込み
第11回	先行研究③	先行研究のまとめ
第12回	先行研究④	先行研究の発表
第13回	まとめ①	進捗状況の確認と計画全体の見直しと修正①
第14回	まとめ②	進捗状況の確認と計画全体の見直しと修正②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
多摩図書館オンライン検索と成書・論文の通読を行い論文作成の準備をする。演習での教員や仲間からの助言やコメントは論文に反映させ、論文を改善することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の経過報告(70%)、ディスカッションへの参加(30%)に基づいて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
臨床場面のエピソードや具体的なケースを提示することで学生のテーマについての理解を深めたい。

【Outline (in English)】
We will choose the theme with the interest in conjunction with the clinical psychology, and finish writing a graduation thesis. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Report of graduation thesis:70%in-class contribution:30%.

OTR400JC（その他 / Others 400）

専門演習ⅢA

丹羽　郁夫

配当年次／単位数：**4年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅢA・ⅢBの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の作成の仕方を学ぶ。

【到達目標】
卒業論文の作成の仕方を知り、専門演習での発表・議論を経て、論文作成を準備することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
授業時間外の個別指導も行い、演習Ⅱで明確にした問題意識をさらに発展させ、卒業論文のテーマと調査方法を決定し、その調査の準備を指導する。課題などのフィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	卒業論文の進め方全般を知る
第2回	問題意識の明確化	問題意識を明確にし、ゼミ生間で共有する
第3回	文献の検索方法	問題意識に関連する文献の探し方を知る
第4回	文献の入手方法	文献を入手する方法を知る
第5回	文献の読み方	文献の読み方を知る
第6回	卒論のテーマの検討	卒論のテーマを検討する
第7回	卒論のテーマの決定	卒論のテーマを決定する
第8回	調査研究方法①	文献研究の方法を知る
第9回	調査研究方法②	面接法を知る
第10回	調査研究方法③	質問紙法を知る
第11回	調査方法の検討	どの調査方法で研究を行うかを検討する
第12回	調査方法の決定	調査方法を決定する
第13回	研究計画①	研究計画を検討する
第14回	研究計画②	研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文作成の準備を進めると共に、演習での報告が皆に伝わりやすいように、資料の作成や発表の仕方を工夫することが求められます。演習後には、演習での教員や仲間からの助言やコメントを卒業論文に反映させる改善が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
個々の卒業論文のテーマおよび研究方法に応じて適宜適切な文献を紹介する。

【参考書】
個々の卒業論文のテーマおよび研究方法に応じて適宜適切な文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の経過報告(70%)、ディスカッションへの参加(30%)。

【学生の意見等からの気づき】
現状を維持します。

【Outline (in English)】
Course outline
Students learn how to prepare graduation theses.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to know the way of making of the graduation thesis:
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies
Final grade will be calculated according to the following process
The progress report of the graduation thesis(70%), and the participation in discussion (30%).

OTR400JB（その他 / Others 400）

専門演習ⅢＢ

伊藤　正子

配当年次／単位数：**4年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅢＡ・ⅢＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、社会的排除の実際について、その現状と課題、および求められる制度・政策および社会的支援について学ぶ。

【到達目標】
このゼミでは、これまで学習してきた社会的排除に関する視点に基づきながら、各自の関心に応じてテーマを選択し、その社会的排除の実態、社会的背景および問題を明らかにし、フィールドワークと省察を繰り返しながら、求められる社会福祉制度、政策および社会福祉援助について考察することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
秋学期は、グループ学習をさらに深めてフィールドワーク実践、および実践の振り返り・考察を行い、最終報告としてのプレゼンテーションの準備を行う。対面式での開講となる。外部講師へのヒアリング等は、状況に応じてオンライン上で実施することもある。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等のフィードバックは学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	秋学期目標、内容の確認
第2回	フィールドワークの振り返りと再検討	グループ毎にフィールドワーク実践の振り返りと今後に向けての計画を作成する。
第3回	フィールドワークの実践①	グループ毎にフィールドワーク実践を行い、各々持ち帰った課題を整理・検討する。①（現場状況について）
第4回	フィールドワークの実践②	グループ毎にフィールドワーク実践を行い、各々持ち帰った課題を整理・検討する。②（支援の実際について）
第5回	フィールドワーク結果の分析①	グループ毎にフィールドワーク実践を行い、各々持ち帰った課題を分析する。①（介入方法について）
第6回	フィールドワーク結果の分析②	グループ毎にフィールドワーク実践を行い、各々持ち帰った課題を分析する。②（支援の効果）
第7回	フィールドワーク結果の分析③	グループ毎にフィールドワーク実践を行い、各々持ち帰った課題を分析する。③（関係団体との連携について）
第8回	フィールドワーク結果の考察①	グループ毎にフィールドワーク実践の分析結果を考察する。①（研究テーマの観点から）
第9回	フィールドワーク結果の考察②	グループ毎にフィールドワーク実践の分析結果を考察する。②（援助者の立場から）
第10回	フィールドワーク結果の考察③	グループ毎にフィールドワーク実践の分析結果を考察する。③（社会問題の観点から）
第11回	研究報告①	貧困関連グループの発表
第12回	研究報告②	障害関連グループの発表
第13回	研究報告③	ダイバーシティ関連の発表
第14回	まとめ	年間の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
これまでの学習を踏まえた研究方法を実践していくため、授業以外でグループによる討議を十分に行い、協働で研究の準備を進めていくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めないが、必要に応じてテキストを使用する。

【参考書】
必要に応じて、適宜参考図書・論文・事例、外部講師を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
１．レポート(30%)
２．研究発表(40%)
３．演習への能動的参加(30%)

【学生の意見等からの気づき】
研究指導については、可能ならば合宿等も活用していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】
医療機関・外国人支援ＮＧＯソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

【Outline (in English)】
This course deal with the social exclusion and social support network.At the end of the course, students are expected to get knowledge and skills about social exclusion, social support system and social services. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least four hours for each class meeting. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (40%), and in-class contribution(30%).

OTR400JB（その他 / Others 400）

専門演習ⅢＢ

岩崎　晋也

配当年次／単位数：**4年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅢＡ・ⅢＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の研究内容についてディスカッションすることで研究への理解を深める。

【到達目標】
論理的な思考力を高め、他者とディスカッションする力を高める。
卒業論文の研究内容への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
個々の卒論研究を定期的に報告を行いディスカッションする。課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーションを行い、進め方を確認する
第2回	調査結果の報告１	調査結果を報告する１
第3回	調査結果の報告２	調査結果を報告する２
第4回	調査結果の報告３	調査結果を報告する３
第5回	調査結果の分析１	調査結果の分析を報告する１
第6回	調査結果の分析２	調査結果の分析を報告する２
第7回	調査結果の分析３	調査結果の分析を報告する３
第8回	考察１	調査結果を考察としてまとめ報告する４
第9回	考察２	調査結果を考察としてまとめ報告する５
第10回	考察３	調査結果を考察としてまとめ報告する６
第11回	卒論報告会の準備１	卒論報告会にむけて研究の概要をまとめて報告する１
第12回	卒論報告会の準備２	卒論報告会にむけて研究の概要をまとめて報告する２
第13回	卒論報告会の準備３	卒論報告会にむけて研究の概要をまとめて報告する２
第14回	卒論報告会	卒論報告会を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒論指導をもとに報告のためのレジュメを作成する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
Create a resume for reporting based on the graduation thesis guidance.
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours
each.

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんの意見を聞きながら授業を進めるつもりです。

【Outline (in English)】
Discuss the theme of the graduation thesis.
The goals of this course are to improve the ability to think logically and
discuss with others.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 100%.

OTR400JB（その他 / Others 400）

専門演習ⅢＢ

宮地　さつき

配当年次／単位数：**4年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅢＡ・ⅢＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまでに培った問題関心をもとに個別のテーマを設定し、研究成果の集大成としての卒業論文を完成させる。

【到達目標】
卒業論文を完成し発表する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
・卒業論文完成のための文献検討、データや資料の収集と、それらの分析を進める。
・お互いの発表に対して意見交換を行う。また課題等のフィードバックは、直接に返却あるいは学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	秋学期スケジュールの確認、夏休み課題の発表
第2回	論文構想発表	論文の構想について発表
第3回	文献・データの再検討	論文作成に必要な文献やデータの再検討
第4回	資料・データ分析	資料やデータの分析
第5回	論文執筆１	論文を書き進める：先行研究のレビュー
第6回	論文執筆２	論文を書き進める：課題の設定と分析枠組み・研究方法
第7回	中間発表１	現段階における論文の発表
第8回	論文執筆３	論文を書き進める：データ分析結果
第9回	論文執筆４	論文を書き進める：データ分析結果
第10回	中間発表２	現段階における論文の発表
第11回	論文執筆	論文を書き進める：結論と残された課題
第12回	論文執筆	論文執筆の完成
第13回	論文発表の準備	論文発表のための準備
第14回	論文発表	完成論文を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・発表者は必ずレジュメを用意して発表すること。
・論文の書き方に関する文献や資料に再度目を通して、論文執筆方法について復習しておくこと。
・本授業の準備・復習時間は、各回４時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
・白井利明・高橋一郎（2013）『よくわかる卒論の書き方 [第２版]』ミネルヴァ書房
・戸田山和久（2022）『新版　論文の書き方』NHKブックス
・河野哲也（2018）『レポート・論文の書き方入門　第４版』慶応義塾大学出版会
その他は適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
演習への積極的参加・発表内容（40％）、提出物（60％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
各自の研究発表でPCやプロジェクターなどを使うことができます。必要な場合には、担当教員に相談してください。

【Outline (in English)】
This course focuses specifically on the necessary skills and methods according to the students' research topics. The goal is to write and present their thesis.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend more than four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (60%), and in-class contribution (40%).

OTR400JB（その他 / Others 400）

専門演習ⅢＢ

髙良　麻子

配当年次／単位数：**4年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅢＡ・ⅢＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習Ⅰと専門演習Ⅱ、そして専門演習ⅢＡで学んだことをもとに、これまでの集大成として、卒業論文を完成させる。

【到達目標】
・卒業論文を完成させる。
・卒業論文を発表する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
各自またはグループで卒業研究を進め、適時個別指導を行う。また、授業ごとのリアクションペーパー等をもとに、学習支援システム等でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	論文構想の発表	論文構想の発表と検討
第3回	データ分析の検討①	データ分析結果に関する発表と議論
第4回	データ分析の検討②	データ分析結果に関する再検討
第5回	論文執筆①	問題の認識と先行研究のレビューの執筆
第6回	論文執筆②	研究目的・方法と調査結果の執筆
第7回	中間発表	論文執筆内容の発表と議論
第8回	論文執筆③	考察の執筆
第9回	論文執筆④	まとめと残された課題の執筆
第10回	論文執筆の完成	論文執筆内容の報告と修正
第11回	発表準備	卒論と活動報告の発表準備
第12回	卒論発表会	卒論の発表
第13回	卒論の振り返り	卒論の発表を踏まえた振り返り
第14回	総括	全体の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
主体的に卒業研究を進めるとともに、個別指導や意見交換等を踏まえてそれを研究等に活かす復習を行なってほしい。本授業の準備・復習時間は、各４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない

【参考書】
岩田正美他編（2006）「社会福祉研究法：現実世界に迫る１４レッスン」有斐閣アルマ川村匡由(2018)『三訂　福祉系学生のためのレポート＆卒論の書き方』中央法規
白井利明・高橋一郎（2013）『よくわかる卒論の書き方（第２版）」ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
・平常点40%
・卒業研究発表資料 60%

【学生の意見等からの気づき】
卒業研究を進めるにあたり、定期的に相談ができるようにしている。

【Outline (in English)】
This course is the second semester of a two-semester integrative practice course. Students will use the seminar format to learn how to proceed with graduation research. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (60%) and in-class contribution (40%).

OTR400JB（その他 / Others 400）

専門演習ⅢＢ

佐野　竜平

配当年次／単位数：**4年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅢＡ・ⅢＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本とアジアを比較しつつ、障害と開発およびその他社会開発課題に関する研究を通じて、国際舞台で求められる知識・実践スキルを具体的に応用する。

【到達目標】
アジアについて応用的な理解をレビューする。動画による発信力を確かなスキルの一つとする。また、現代福祉に関連した国際協力あるいは国際開発について知見をまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
過去2年のゼミ活動から得られた知見を生かして、個々の関心事項への理解を振り返り、将来に応用する知見として確立させる。オンラインを基本に実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、Googleクラスルーム、Googleフォームまたは面談等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	全体像の意見交換
第2回	卒論の草稿①	内容の表出化①
第3回	卒論の草稿②	内容の表出化②
第4回	卒論の草稿③	内容の表出化③
第5回	卒論の草稿④	第1次原稿へのフィードバック
第6回	卒論の修正①	内容の修正・変更①
第7回	卒論の修正②	内容の修正・変更②
第8回	卒論の修正③	第2次原稿へのフィードバック
第9回	卒論仕上げ①	質疑応答と微修正①
第10回	卒論仕上げ②	質疑応答と微修正②
第11回	卒論仕上げ③	質疑応答と微修正③
第12回	卒論最終発表①	卒論最終報告と質疑応答①
第13回	卒論最終発表②	卒論最終報告と質疑応答②
第14回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。国際協力関連の課外活動への参画。発表や報告はスライド表示が原則。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。

【参考書】
必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】
演習への積極的参加：50％、レポート・プレゼン：50％

【学生の意見等からの気づき】
学生が主体的に参加できるゼミ運営。様々なアイディアを応用。

【学生が準備すべき機器他】
講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。自主ゼミ企画、海外または国内フィールド活動にかかる諸準備。

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野等】
障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】
【Course Outline】 This course is designed to maximize knowledge and practical skills on international cooperation in the context of disability-inclusive development.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to facilitate communication and collaboration internationally, particularly among those with different backgrounds in Asia.
【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours each to understand the course contents.
【Grading Criteria /Policy】 Grading will be determined based on in-class contribution (50%) and the quality of students' performance in the class (presentation, report) (50%).

OTR400JB（その他 / Others 400）

専門演習ⅢＢ

眞保　智子

配当年次／単位数：**4年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅢＡ・ⅢＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究テーマについて、専門演習ⅠAB・ⅡABでの学びから醸成したそれぞれ調査や実践を通じて研究し、ゼミでの報告と議論を踏まえて卒業論文にまとめることを目指します。精神保健ソーシャルワークの視点でとらえ、発達障害、メンタルヘルスと若者と社会の関係について検討することと合わせて関係する文献を渉猟し、卒業論文にまとめる研究を進め、成果を報告し、各自の学びを共有し、自らの研究について考察していきます。

【到達目標】
専門演習ⅠAB・ⅡABでの学びから醸成した個別の課題関心からテーマを設定し、研究成果の集大成として卒業論文を完成させることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
多摩地区を中心とした児童養護施設、精神科病院、就労支援施設、インクルーシブ＆ダイバーシティ経営の企業などへの見学や依存症などのピアサポート（当事者相互のサポート）グループでの語りで学びながら、身近な地域の社会資源の調査や地域ニーズを把握し解決について検討し、文献研究とともにフィールドワークのデータや資料の収集と、それらの分析・考察から卒業論文にまとめ、発表します。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	スケジュールの確認
第2回	論文構想検討	各自の関心テーマの焦点化
第3回	論文構想報告	各自の関心テーマに沿った構想の検討
第4回	論文構想発表	各自の関心テーマに沿った構想の発表
第5回	文献検討	論文作成に必要な関連文献の検討（核となる議論）
第6回	文献報告	論文作成に必要な関連文献の検討（主要な研究者の議論）
第7回	文献発表	論文作成に必要な関連文献の検討（近接領域の研究）
第8回	海外研究比較	論文作成に必要な関連文献の検討（海外の研究）
第9回	文献調査報告	論文作成に必要な関連文献の報告
第10回	資料の収集と整理	論文のテーマに沿った、資料の収集
第11回	資料の収集と調査結果検討	論文のテーマに沿った、データの収集（インタビューA)
第12回	資料の収集と調査結果執筆	論文のテーマに沿った、データの収集(インタビューB）
第13回	資料の収集と論文執筆	論文のテーマに沿った、資料・データの分析
第14回	論文執筆と考察	論文のテーマに沿った、資料・データの報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表者は必ずレジメを用意して発表することを求めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
白井利明・高橋一郎（2013）『よくわかる卒論の書き方(第２版)』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
講義参加の準備と発言20％
課題レポート80％

【学生の意見等からの気づき】
アンケートは実施していませんが、少人数学習のよさを最大限活用し、学生相互の学びを大切にしています。

【学生が準備すべき機器他】
各自の研究発表でPCやプロジェクターなどを使うことができます。必要な場合には、担当教員に相談してください。

【Outline (in English)】
This course builds on the skills learned in seminar ⅡAB and applies them to the writing of a major research paper (in either the social sciences). Students are expected to take responsibility in choosing a theme and thoroughly researching it for the final paper, no less than 20000 words, excluding a bibliography. This course content includes essay organization, research strategies (collecting and evaluating references, conducting web searches, using electronic databases), bibliographic organization, and citation styles: footnotes, endnotes. Before/after each seminar, students will be expected to spend four hours to understand the seminar content.The goal of this course is to complete the degree paper. Grading will be decides based on degree paper (80%) and in-class contribution (20%).

OTR400JB（その他 / Others 400）

専門演習ⅢＢ

野田　岳仁

配当年次／単位数：**4年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅢＡ・ⅢＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境社会学・地域社会学の主要な方法論である生活環境主義の方法を用いて、現場に暮らす人びとにとって有効性のある地域づくり・地域ツーリズム政策を構想することを目的としている。

【到達目標】
3年間のゼミでの学びの集大成として卒業論文を執筆する。生活環境主義の方法論を用いて、有効性のある政策論に仕上げることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
本演習では、研究テーマを設定し、自ら問いを立て、フィールドワーク、文献調査を行い、得られたデータから有効性のある結論を導き出すための指導と討議を行う。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習の進め方と目標設定
第2回	研究の進歩状況の発表	夏休み中のフィールドワーク、論文執筆の状況を確認
第3回	論文作成の方法（1）	問題関心と問いの設定
第4回	論文作成の方法（2）	先行研究のレビュー
第5回	論文作成の方法（3）	論敵の設定
第6回	論文作成の方法（4）	章立ての検討
第7回	調査データの分析（1）	データの分析と解釈
第8回	調査データの分析（2）	データの分析結果
第9回	調査データの分析（3）	研究の独自性の検討
第10回	論文執筆（1）	研究課題と問いの再検討
第11回	論文執筆（2）	章立ての再検討
第12回	論文執筆（3）	結論の見通しの検討
第13回	論文執筆（4）	論理構成の確認と討議
第14回	論文執筆（5）	卒業論文の完成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自で論文執筆、先行研究レビュー、フィールドワーク、プレゼンテーションの準備など事前学習を進める必要がある。演習後には、教員や仲間からの助言やコメントを卒業論文に反映させる作業が不可欠である。適宜本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
討議や発表を含めた平常点(50%)と論文などの成果物(50%)を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生からの要望やコメントは適宜内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems.【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance（Discussion, presentation, and report）(50%).

OTR400JB（その他 / Others 400）

専門演習ⅢＢ

水野　雅男

配当年次／単位数：**4年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅢＡ・ⅢＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
関心のある社会的な課題をテーマとして、学内懸賞論文を完成させ、さらにそれを補足修正して卒業論文を書き上げる。

【到達目標】
論文の構想に沿って調査を進め、専門演習での発表・議論を経て、学内懸賞論文と卒業論文の完成に導くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
各自、定期的にメンバーの前でプレゼンテーションして意見交換する。その討議を踏まえて更なる調査・検討を進め、研究論文を形作っていく。
課題の事前提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	調査結果報告	夏休み期間中の調査結果の概要報告
第2回	調査結果分析発表①	調査結果を整理分析
第3回	調査結果分析発表②	調査結果のとりまとめ
第4回	論文執筆①	学内懸賞論文の作成①
第5回	論文執筆②	学内懸賞論文の作成②
第6回	第1回　論文発表会	学内懸賞論文の申請と残された課題の確認
第7回	補足調査①	残された課題に対応する調査の実施
第8回	補足調査②	補足調査結果のとりまとめ
第9回	補足調査③	補足調査結果の報告
第10回	論文執筆①	卒業論文の作成①目次作成
第11回	論文執筆②	卒業論文の作成②各章執筆
第12回	論文執筆③	卒業論文の作成③考察検討
第13回	発表練習	発表資料・原稿の作成
第14回	第2回　論文発表会	卒業論文の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修メンバーに取り組んでいる内容が伝わりやすいように、発表用の資料を作成したり、その方法を工夫することが求められる。演習後には、教員やメンバーから受けた助言やコメントに基づき改善することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて配付・指示する。

【参考書】
必要に応じて配付・指示する。

【成績評価の方法と基準】
演習での報告（70％）や議論など（30％）を総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
各自の研究発表でPCやプロジェクターなどを使うことが出来る。
学習支援システムやFacebookグループを利用して、学生への連絡や情報の共有を図る。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに30年間関わり、市民活動を企画運営してきた経験に基づき、フィールドワークと政策提言を企画する術について授業で紹介する。

【Outline (in English)】
< Course outline>
The aim of this course is to help students acquire that complete the on-campus prize thesis on the theme of social issues of interest, and then supplement and revise it to write a graduation thesis.
< Learning Objectives>
By the end of the course, students should be able to do the followings:
Proceeding with the research according to the concept of the dissertation, and after presentations and discussions in specialized exercises, lead to the completion of the on-campus prize thesis and the graduation thesis.
< Learning activities outside of classroom>
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy>
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 70%, in class contribution: 30%

OTR400JB（その他 / Others 400）

専門演習ⅢＢ

宮城　孝

配当年次／単位数：**4年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅢＡ・ⅢＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自らのテーマに基づく卒業論文の完成に向けて、適切な方法と表現によって論文を仕上げる。また、卒業論文報告会において、第三者に理解しやすい、また訴求力のあるプレゼンテーションを行うことを目的とする。

【到達目標】
○設定したテーマについて、自ら探求する努力をすることができる。
○オリジナルな視点を持つとともに、論理的に考察し、それらを適切に文章化することができる。
○第三者に、自らの研究を理解しやすく、また訴求力のあるプレゼンテーションを行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
卒業論文の執筆に関する個別指導、中間報告会での報告・卒論報告会に向けての指導・助言。全員、定期的に授業内でプレゼンテーションします。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
基本的には対面での開講となる。但し学生の都合に合わせてオンラインで行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の分析の指導①	分析の方法について検討
第2回	研究の分析の指導②	分析の方法についての指導・助言
第3回	研究の分析の指導③	分析の内容について検討
第4回	研究の分析の指導④	分析の内容についての指導・助言
第5回	研究の分析の指導⑤	分析のまとめ方についての指導・助言
第6回	研究結果の指導①	分析の結果について検討
第7回	研究結果の指導②	分析の結果についての指導・助言
第8回	研究結果の指導③	分析のまとめ方についての指導・助言
第9回	考察の指導①	考察の内容について検討
第10回	考察の指導②	考察の内容についての指導・助言
第11回	考察の指導③	考察のまとめ方についての指導・助言
第12回	研究報告の指導	研究報告についての検討
第13回	卒業論文の研究報告	2年、3年、4年生による合同ゼミにおいて、卒論報告を行う。
第14回	研究の振り返り	報告の振り返りにより自らのこれまでの卒業研究の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究テーマについて、必要なデータや文献などを収集し、分析を行う。
また、必要に応じて関連する機関や団体などに、インタビューを行い分析する。
準備・復習時間を４時間以上とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
各自研究テーマに応じて、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
出席と参加態度(30％)、卒業論文の内容（70％）

【学生の意見等からの気づき】
受講生の研究成果を振り返り、改善を図ることとする。

【その他の重要事項】
講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導を行うこととする。

【Outline (in English)】
【授業の概要(Course outline)】
This Course is the setting data about its own research subject and it proceeds with the analysis. Also, it proceeds making sentences with the own research.
【到達目標（Learning Objectives)】
The goals of this course are to Ａ and Ｂ
Ａ. Students can search of the necessary article and data.
Ｂ. Students can make sentences as the research paper.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom)】
Student will be expected to have completed assignments after each supervision. Your study time will be more than four hours for a class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy)】
Grading will be decided on research paper (70 %), and the quality of the students' experimental performance in the lab (30％)

OTR400JC（その他 / Others 400）

専門演習ⅢB

久保田　幹子

配当年次／単位数：4年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会の抱える諸問題を心理学の立場から議論し、その理解を深めると共に、心理的援助について学習する。

【到達目標】
現代社会の抱える問題を心理学の立場から議論し、心理的援助について学ぶと共に、各自で研究テーマを決定し、調査・研究を実施する。専門演習での発表・議論を経て、卒業論文の完成に導くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
演習Ⅲでは、卒業論文の内容をゼミにおいて定期的にプレゼンテーションし、ゼミでのディスカッションを踏まえて検討を進め、年度末までに卒業論文を作成する。
課題等の提出・フィードバックは授業内および「学習支援システム」を通じて行う予定です。
なお、各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	調査計画の報告①	調査方法、時期、対象等を検討し、報告する①
第2回	調査計画の報告②	調査方法、時期、対象等を検討し、報告する②
第3回	進捗状況報告①	調査研究の進捗状況を報告し、改善のための議論をする①
第4回	進捗状況報告②	調査研究の進捗状況を報告し、改善のための議論をする②
第5回	進捗状況報告③	調査研究の進捗状況を報告し、改善のための議論をする③
第6回	卒業論文中間報告（第1回）①	完成した章を発表し、改善のための議論を行う①
第7回	卒業論文中間報告（第1回）②	完成した章を発表し、改善のための議論を行う②
第8回	卒業論文中間報告（第1回）③	完成した章を発表し、改善のための議論を行う③
第9回	卒業論文中間報告（第2回）①	完成した章と全体の構成について発表し、改善のための議論を行う①
第10回	卒業論文中間報告（第2回）②	完成した章と全体の構成について発表し、改善のための議論を行う②
第11回	卒業論文中間報告（第2回）③	完成した章と全体の構成について発表し、改善のための議論を行う③
第12回	卒業論文報告Ⅰ	完成した卒業論文の発表を行い、質疑応答を行う①
第13回	卒業論文報告Ⅱ	完成した卒業論文の発表を行い、質疑応答を行う②
第14回	卒業論文報告Ⅲ	完成した卒業論文の発表を行い、質疑応答を行う③

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文の執筆を計画的に進める。また論文の内容が演習の仲間に十分に理解されるように、発表用の資料を作成したり、その方法を工夫することが求められる。演習後には、教員や仲間から受けた助言やコメントを卒業論文に反映させ、論文を改善することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて配付・指示する。

【参考書】
必要に応じて配付・指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点　70％
主体的取組み・参加の姿勢（演習内での報告、議論での積極的参加など）　30％

【学生の意見等からの気づき】
卒業論文作成に向けて、研究に役立つ相互の意見交換と、個々の関心を生かした研究が出来るようにサポートしたい。

【学生が準備すべき機器他】
各自の研究発表でPCやプロジェクターなどを使うことが出来ます。

【その他の重要事項】
ゼミ生と共につくる授業です。受講生の関心や要請に応じて、上記計画は、若干の変更可能性があります。
医療機関において病院臨床の実務経験があることから、現代人が直面する課題や心理的問題なども紹介し、皆さんの問題提議や論文構想の助けになるように進めていきます。

【Outline (in English)】
We will discuss issues of our modern society from a psychological perspective, deeply understanding them, and learning how to utilize psychological support for them. The goal is to lead to the completion of the bachelor thesis through presentations and discussions in this course. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based in-class contribution (70%) and research presentation (30%).

OTR400JC（その他 / Others 400）

専門演習ⅢＢ

小林　由佳

配当年次／単位数：**4年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅢＡ・ⅢＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本専門演習では、各自の問題意識に関するディスカッションをおこない、卒業論文の作成と発表を行います。

【到達目標】
1）研究テーマを設定し、必要な研究を行う
2）研究内容について口頭でのプレゼンおよび卒業論文にて文章表現を行う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
各自の研究の進捗や得られた知見をゼミにおいてプレゼンし、ディスカッションを行います。調査結果のまとめかたや文章表現のスキルについても共有します。課題等の提出とフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方、成績評価の基準等の確認
第2回	研究の進捗報告１	研究の進捗状況の報告と課題の検討
第3回	研究の進捗報告２	研究の進捗と課題への対応方法の検討
第4回	研究の進捗報告３	研究上の課題と対応状況の報告
第5回	研究の進捗報告４	研究の進捗状況と今後の計画の報告
第6回	データ分析１	データ分析方法と結果の発表（前半）
第7回	データ分析２	データ分析方法と結果の発表（後半）
第8回	結果と考察１	結果に対する考察の検討
第9回	結果と考察２	結果に対する考察についての議論
第10回	結果と考察３	結果に対する考察の修正
第11回	最終報告１	論文の修正点の検討
第12回	最終報告２	論文の修正点の報告
第13回	卒業論文発表会	卒業論文の発表と議論
第14回	まとめ	卒業論文作成に向けて取り組んだ活動の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文の作成に必要な自己学習（先行研究や文献の分析）、データ収集・解析、論文執筆作業と発表、および議論が求められます。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
議論への参加（50％）と発表内容（50％）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生が積極的に参加できるよう発言の機会を促します。

【Outline (in English)】
【Course outline】　In this seminar, participants will engage in discussions regarding their individual concerns and work on the creation and presentation of their graduation thesis.
【Learning Objectives】1)Set a research theme and conduct research activities. 2) Make an oral presentation and write a graduation thesis.
【Learning activities outside of classroom】 Students will be required to self-study (analysis of previous research and literature), collect and analyze data, and discuss the thesis in order to complete prepare the graduation thesis. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】 Participation in the discussion (50%) and the content of the graduation thesis (50%) will be evaluated as a whole.

OTR400JC（その他 / Others 400）

専門演習ⅢＢ

末武　康弘

配当年次／単位数：**4年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅢＡ・ⅢＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理学の諸問題と支援について議論します。臨床心理学の研究や実践に必要な考え方や態度、スキルを共有し、卒業論文の作成と発表を行います。

【到達目標】
臨床心理学に関連する諸問題と心理的支援、研究方法を学び、各自で研究テーマを設定して卒業論文を作成し発表します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理学に関連する問題や支援について各自で研究発表し、卒業論文の執筆に向けた先行研究の検討、調査の実施方法、データの分析方法、文章表現のスキルなどを共有します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方、成績評価の基準について示します
2	発表スケジュールの話し合い	卒業論文に直結した各自の最終報告のスケジュールを話し合います
3	最終報告①	例：ゼミ生A、Bの報告
4	最終報告②	例：ゼミ生C、Dの報告
5	最終報告③	例：ゼミ生E、Fの報告
6	最終報告④	例：ゼミ生G、Hの報告
7	最終報告⑤	例：ゼミ生I、Jの報告
8	最終報告⑥	例：ゼミ生K、Lの報告
9	最終報告⑦	例：ゼミ生M、Nの報告
10	最終報告⑧	例：ゼミ生Oの報告
11	最終報告⑨	例：希望者の報告
12	最終報告⑩	例：各自の修正点の報告
13	卒論発表会の準備	卒論発表会の準備を行います
14	卒論発表会	提出された卒業論文について各自発表し、ディスカッションを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文の作成に直結した報告のために、自己学習（文献や先行研究の収集と分析）およびデータ収集・解析、論文執筆の作業が求められます。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
発表内容（50％）、ディスカッションへの参加（50％）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションが積極的に展開するように発言を促したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
発表の際にパワーポイントを使用することを勧めます。パソコン本体は個人のものを持参しなくても大丈夫です。

【その他の重要事項】
おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく授業します。

【Outline (in English)】
You discuss the clinical problems and psychological support. The aim of this course is to help students acquire high level knowledge and skill required for research and practice in clinical psychology, through presentation and discussion. And you should complete and present graduation thesis.
The goals of this course are to acquire high level knowledge and skill required for research and practice in clinical psychology, through presentation and discussion.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on students' presentation performance (50%), and in-class contribution (50%).

OTR400JC（その他 / Others 400）

専門演習ⅢＢ

関谷　秀子

配当年次／単位数：**4年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅢＡ・ⅢＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
演習Ⅲでは各自が臨床心理学に関連した興味のあるテーマを選定し、卒業論文を完成させる。

【到達目標】
演習Ⅱで明確にした問題意識をさらに発展させ、卒業論文のテーマを選定し、必要な調査・研究を行う。それについてゼミでプレゼンテーションとディスカッションを行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
演習Ⅲでは、卒業論文作成過程の内容を専門演習において定期的にプレゼンテーションし、ゼミでのディスカッションを踏まえて検討を進め、卒業論文を完成させる。授業の展開によって授業計画には若干の変更があり得る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	調査計画の報告①	調査計画の報告と検討・修正①
第2回	調査計画の報告②	調査計画の報告と検討・修正②
第3回	進捗状況報告①	進捗状況の報告と検討・修正①
第4回	進捗状況報告②	進捗状況の報告と検討・修正②
第5回	進捗状況報告③	進捗状況の報告と検討・修正③
第6回	卒業論文中間報告①	中間報告発表と議論・修正①
第7回	卒業論文中間報告②	中間報告発表と議論・修正②
第8回	卒業論文中間報告③	中間報告発表と議論・修正③
第9回	卒業論文中間報告④	中間報告発表と議論・修正④
第10回	卒業論文中間報告⑤	中間報告発表と議論・修正⑤
第11回	卒業論文中間報告⑥	中間報告発表と議論・修正⑥
第12回	卒業論文発表会①	卒業論文の発表と議論①
第13回	卒業論文発表会②	卒業論文の発表と議論②
第14回	卒業論文発表会③	卒業論文の発表と議論③

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
多摩図書館オンライン検索と成書・論文の通読を行い論文作成の準備をする。演習での教員や仲間からの助言やコメントは論文に反映させ、論文を改善することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の経過報告(70%)、ディスカッションへの参加(30%)。

【学生の意見等からの気づき】
前年度のアンケートは現在集計中につき、結果が出次第それを授業に生かしたい。

【Outline (in English)】
We will choose the theme with the interest in conjunction with the clinical psychology, and finish writing a graduation thesis. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Report of graduation thesis:70%in-class contribution:30%.

OTR400JC（その他 / Others 400）

専門演習ⅢＢ

丹羽　郁夫

配当年次／単位数：**4年次／2単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅢＡ・ⅢＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の経過報告と指導。

【到達目標】
卒業論文の構想に沿って研究を進め、専門演習での発表・議論を経て、論文の完成に導くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
授業時間外の個別指導も行い、演習Ⅱで明確にした問題意識をさらに発展させ、卒業論文のテーマと調査方法を決定し、その調査と執筆を指導する。最終的には、その内容を発表してもらう。課題などのフィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	卒論の新潮状況の報告①	卒論の新潮状況を報告する
第2回	調査実施の指導	調査の実施の指導を受ける
第3回	調査結果の分析①	調査結果の分析の仕方の指導を受ける
第4回	調査結果の分析②	調査結果を検討する
第5回	卒業論文の執筆指導①	一次原稿の検討：序論
第6回	卒業論文の執筆指導②	一次原稿の検討：方法
第7回	卒業論文の執筆指導③	一次原稿の検討：結果
第8回	卒業論文の執筆指導④	一次原稿の検討：考察
第9回	卒業論文の執筆指導⑤	二次原稿の検討：序論・方法
第10回	卒業論文の執筆指導⑥	二次原稿の検討：結果
第11回	卒業論文の執筆指導⑦	二次原稿の検討：考察
第12回	論文の完成	論文の最終チェクを受ける
第13回	卒業論文発表会①	卒業論文を発表する（前半）
第14回	卒業論文発表会②	卒業論文を発表する（後半）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文の執筆を進めると共に、演習での報告が皆に伝わりやすいように、資料の作成や発表の仕方を工夫することが求められます。演習後には、演習での教員や仲間からの助言やコメントを卒業論文に反映させる改善が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
個々の卒業論文のテーマおよび研究方法に応じて適宜適切な文献を紹介する。

【参考書】
個々の卒業論文のテーマおよび研究方法に応じて適宜適切な文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の経過報告および発表(80%)、ディスカッションへの参加(20%)。

【学生の意見等からの気づき】
現状を維持します。

【Outline (in English)】
Course outline
In this class, students report the progress of graduation thesis and teachers conduct guidance.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to complete a graduation thesis.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies
Final grade will be calculated according to the following process Announcement of the graduation thesis(80%), and participation in discussion (20%).

OTR400JB（その他 / Others 400）

卒業論文

伊藤　正子

配当年次／単位数：**4年次／4単位**
備考（履修条件等）：**履修登録をしないと単位が付かないので注意**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文を大学４年間の集大成として位置づけ、これまで積み重ねてきた研究成果や実践的経験に基づいた問題意識を卒業論文としてまとめ、発表できるようにする。

【到達目標】
①先行研究のレビュー、文献研究、アンケート調査、フィールドワークなどによって必要なデータを収集し、その結果を分析、論文を完成させる。
②卒業論文の発表を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
年間を通じて個別指導を基本とするが、研究方法の確認、中間報告会、卒論発表会などは集団で行い、ディスカッションを重視する。対面を基本としつつ、状況に応じてオンラインまたはハイブリッド型での開講となる。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等のフィードバックは学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	卒業論文についてのガイダンス
第2回	研究方法について①	文献研究について
第3回	研究方法について②	アンケート調査、フィールドワーク調査について
第4回	テーマの設定①	問題意識の明確化
第5回	テーマの設定②	先行研究の検討
第6回	テーマの確定	テーマ、目的、研究方法、目次の確定
第7回	論文作成のための準備作業①	文献研究概要の個別報告
第8回	論文作成のための準備作業②	調査研究概要の個別報告
第9回	論文作成のための準備作業③	フィールドワーク計画の個別報告
第10回	論文作成のための準備作業④	文献研究の中間報告
第11回	論文作成のための準備作業⑤	調査研究の中間報告
第12回	論文作成のための準備作業⑥	フィールドワーク状況の経過報告
第13回	論文作成のための準備作業⑦	これまでの研究結果についての報告
第14回	中間報告会	夏休み中の研究計画の整理
第15回	オリエンテーション	夏休みの課題の報告と研究計画の確認
第16回	研究結果の議論①	研究結果・データの分析・考察①（データの整理）
第17回	研究結果の議論②	研究結果・データの分析・考察②（データの集計）
第18回	研究結果の議論③	研究結果・データの分析・考察③（データの分析）
第19回	研究結果の議論④	研究結果・データの分析・考察④（データの考察）
第20回	研究結果の議論⑤	研究結果・データの分析・考察⑤（データのまとめ）
第21回	研究結果の議論⑥	研究結果全体の考察
第22回	論文執筆①	序論について
第23回	論文執筆②	本論について①（先行研究レビューと理論的検討）
第24回	論文執筆③	本論について②（研究結果の分析と考察）
第25回	論文執筆④	結論について
第26回	論文執筆⑤	全体を通しての論旨の確認
第27回	論文執筆⑥	引用・参考文献の確認
第28回	卒業論文提出	最終確認と提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
個別指導は、基本的に進捗状況の報告と研究内容についてのディスカッションの場である。文献研究、アンケート調査、フィールドワーク調査および結果の整理、分析は各自で積極的に進めて、自ら個別指導時間を確保するよう能動的に行動してほしい。本授業の準備学習・復習時間は各４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。

【参考書】
必要に応じて、適宜参考図書・論文・事例、現場を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
１．個別指導、集団による研究への能動的取り組み(20%)
２．課題提出(30%)
３．卒業論文の内容(50%)

【学生の意見等からの気づき】
論文指導については、可能な範囲で合宿等も活用していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】
医療機関・外国人支援ＮＧＯソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

【Outline (in English)】
This course enhances the development of skills in preparing a graduation thesis. At the end of the course, students are expected to write a graduation thesis and make the presentation of it. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.Grading will be decided based on reports (30%), and the quality of the students' graduation thesis (50%),and in-class contribution (20%).

OTR400JB（その他 / Others 400）

卒業論文

岩崎　晋也

配当年次／単位数：4年次／4単位
備考（履修条件等）：**履修登録をしないと単位が付かないので注意**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文に向けて問題意識の明確化を行い、必要な調査の後、文章を完成させる。

【到達目標】
○調査研究や分析の方法を学び、自ら文章を組み立てる。
○学術的な文章の書き方を学び、文章力を磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
原則、個別指導による。専門演習と連動させ、発表の機会を設ける。課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	問題意識の明確化１	卒論の意義を学び、テーマを絞る。
第2回	問題意識の明確化２	個々の問題意識を明確化させる。
第3回	調査研究方法の学習1	調査方法、分析の視点を学ぶ１
第4回	調査研究方法の学習2	調査方法、分析の視点を学ぶ２
第5回	調査研究方法の学習3	調査方法、分析の視点を学ぶ３
第6回	論文計画の検討　1	論文作成にむけた計画を策定する１
第7回	論文計画の検討　2	論文作成にむけた計画を策定する２
第8回	論文計画の検討　3	論文作成にむけた計画を策定する３
第9回	文献や資料などの検討1	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる１
第10回	文献や資料などの検討2	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる２
第11回	文献や資料などの検討3	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる３
第12回	調査計画の検討1	調査方法を検討し、改善させる１
第13回	調査計画の検討 2	調査方法を検討し、改善させる２
第14回	調査計画の検討 3	調査方法を検討し、改善させる３
第15回	中間報告１	進捗報告書提出と議論１
第16回	中間報告２	進捗報告書提出と議論２
第17回	中間報告３	進捗報告書提出と議論３
第18回	論文執筆１	章ごとに第１次原稿の提出１
第19回	論文執筆２	章ごとに第１次原稿の提出２
第20回	論文執筆３	章ごとに第１次原稿の提出３
第21回	論文完成に向けての作業１	二次稿提出１
第22回	論文完成に向けての作業２	二次稿提出２
第23回	論文完成に向けての作業３	二次稿提出３
第24回	論文完成に向けての作業４	二次稿提出４
第25回	文章最終仕上げ１	発表と修正１
第26回	文章最終仕上げ２	発表と修正２
第27回	文章最終仕上げ３	発表と修正３
第28回	卒論報告会	卒論報告会を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査研究に当たっては、フィールドワークを重視し、現場でのインタビューやアンケートを行ったり、自ら活動に参加して参与観察を行うことを推奨する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜提示する。

【参考書】
適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の内容　80%
研究への取り組み　20%

【学生の意見等からの気づき】
みなさんの意見を聞きながら授業を進めるつもりです。

【Outline (in English)】
Study the graduation thesis.
The goals of this course are to improve the ability to think logically and
discuss with others.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following the graduation thesis; 80%, in class contribution: 20%.

OTR400JB（その他 / Others 400）

卒業論文

宮地　さつき

配当年次／単位数：**4年次／4単位**
備考（履修条件等）：**履修登録をしないと単位が付かないので注意**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文に向けて問題意識の明確化を行い、必要な調査等の後、論文を完成させる。

【到達目標】
・個人や社会の生活問題を明確化させ、その支援を考察する。
・調査研究や分析の方法を学び、自ら文章を組み立てる。
・学術的な文章の書き方を学び、文章力を磨きながら、卒業論文を書き上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
原則、個別指導による。専門演習と連動させ発表と検討の機会を設ける。また課題等のフィードバックは、直接に返却あるいは学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	問題意識の明確化１	卒論の意義について学ぶ
第2回	問題意識の明確化２	問題意識を明確化させる
第3回	調査研究方法の学習１	調査方法の学習
第4回	調査研究方法の学習２	分析の視点の学習
第5回	調査研究方法の学習３	調査方法、分析の視点の学習
第6回	論文計画の検討１	テーマに関する議論
第7回	論文計画の検討２	前回の議論をもとに研究計画の策定
第8回	論文計画の検討３	テーマに関する議論と研究計画の検討
第9回	論文計画の検討４	研究計画の完成
第10回	文献や資料の検討１	テーマに関する知識の蓄積1
第11回	文献や資料の検討２	テーマに関する知識の蓄積2
第12回	文献や資料の検討３	テーマに関する知識の蓄積3
第13回	調査計画の検討１	調査方法の確認
第14回	調査計画の検討２	調査方法の検討
第15回	調査計画の検討３	調査方法の再検討と改善
第16回	中間報告１	進捗状況報告書提出と議論（子ども・家族、子育てのテーマ）
第17回	中間報告２	進捗状況報告書提出と議論（貧困、教育のテーマ）
第18回	中間報告３	進捗状況報告書提出と議論（少年非行、その他のテーマ）
第19回	論文執筆１	章ごとに第一次原稿の提出と検討（子ども・家族、子育て、貧困）
第20回	論文執筆２	章ごとに第一次原稿の提出と検討（教育、少年非行、その他）
第21回	論文執筆３	第一次原稿の校正
第22回	完成に向けた作業１	二次原稿の提出と検討（子ども・家族、子育て）
第23回	完成に向けた作業２	二次原稿の提出と検討（貧困）
第24回	完成に向けた作業３	二次原稿の提出と検討（教育）
第25回	完成に向けた作業４	二次原稿の提出と検討（少年非行、その他）
第26回	文章最終仕上げ１	発表と修正
第27回	文章最終仕上げ２	発表と修正に対する検討
第28回	文章最終仕上げ３	卒業論文完成と全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・個別指導と専門演習と連動させる。調査研究にあたっては、フィールドワークを重視し、現場でのインタビュー調査やアンケート調査を行ったり、自ら活動に参加して参与観察を行うことを推奨する。
・本授業の準備・復習時間は、各回4時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜提示する。

【参考書】
・白井利明・高橋一郎（2013）『よくわかる卒業論文の書き方[第2版]』ミネルヴァ書房
・戸田山和久（2022）『新版　論文の教室』NHKブックス
・河野哲也（2018）『レポート・論文の書き方　第4版』慶応義塾大学出版会
その他は適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の内容（80%）、研究への取り組み（20%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
This course focuses specifically on the process to elaborate the idea of the students' thesis. The goal of this course is to write the thesis.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend more than four hours to understand the course content. Grading will be decided based on the thesis (80%), and working on the paper (20%).

OTR400JB（その他 / Others 400）

卒業論文

髙良　麻子

配当年次／単位数：**4年次／4単位**
備考（履修条件等）：**履修登録をしないと単位が付かないので注意**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「専門演習Ⅲ」と連動させて、卒業論文を完成させる。

【到達目標】
・卒業論文を完成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
学生が自分の課題認識にもとづき、研究を進めることができ、かつそれを論文としてまとめることができるように、個別指導を行う。授業ごとのリアクションをもとに、次の授業でフィードバックを行いながら授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	卒業論文の作成プロセス	卒業論文の作成の流れの理解
第3回	先行研究のレビュー①	関連する先行研究の検証
第4回	先行研究のレビュー②	関連領域の先行研究の検証
第5回	調査計画の検討①	調査対象の検討
第6回	調査計画の検討②	調査方法の検討
第7回	調査計画の検討③	調査内容の検討
第8回	研究計画の修正	研究計画書の修正
第9回	研究計画の確定	研究計画の修正と確定
第10回	調査の実施	データの収集
第11回	データ分析①	データ全体の俯瞰的確認
第12回	データ分析②	データの質的分析・量的分析
第13回	データ分析③	データ分析結果の考察
第14回	中間総括	振り返りと夏季休暇中の計画
第15回	オリエンテーション	夏季休暇中の研究進捗報告
第16回	論文構成の検討①	論文の章立て
第17回	論文構成の検討②	各章の概要検討
第18回	論文執筆指導①	序論の検討
第19回	論文執筆指導②	準備の検討
第20回	論文執筆指導③	本論の検討
第21回	論文執筆指導④	考察の検討
第22回	論文執筆指導⑤	結論の検討
第23回	論文執筆指導⑥	課題の検討
第24回	論文執筆指導⑦	引用文献の確認
第25回	卒業論文の提出	卒業論文提出
第26回	卒論発表準備	発表の準備と修正
第27回	卒論発表会の振り返り	卒論発表を踏まえた振り返り
第28回	総括	全体の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
計画的に研究および論文執筆を進めること。各時間の課題に関するレジュメ作成等の準備を進めるとともに、個別指導等を踏まえて理解を深める復習を行なってほしい。本授業の準備・復習時間は、各４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない

【参考書】
岩田正美他編（2006）「社会福祉研究法：現実世界に迫る１４レッスン」有斐閣アルマ川村匡由(2018)「三訂　福祉系学生のためのレポート＆卒論の書き方」中央法規
白井利明・高橋一郎（2013）『よくわかる卒論の書き方（第２版）」ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
・課題提出　20%
・卒業論文　80%

【学生の意見等からの気づき】
卒業論文の作成を継続できるように、学生と調整しながら指導を行う。

【Outline (in English)】
This course is a two-semester integrative practice course. Students will use the seminar format to learn about completing the graduation thesis.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (20%) and graduation thesis (80%).

OTR400JB（その他 / Others 400）

卒業論文

佐野　竜平

配当年次／単位数：**4年次／4単位**
備考（履修条件等）：**履修登録をしないと単位が付かないので注意**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
関心のあるテーマについて必要なプロセスを経て卒論として完成させる。

【到達目標】
自ら取り組んできた研究内容を卒業論文として仕上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
個別指導が原則。専門演習と連動し、意見交換・発表の機会を設定していく。オンラインを基本に実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題については、学習支援システムまたはGoogleクラスルームでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	卒論テーマの明確化	卒論に向けた全体像づくり
第2回	研究内容・方法の検討①	調査・分析方法を深める①
第3回	研究内容・方法の検討②	調査・分析方法を深める②
第4回	研究内容・方法の検討③	調査・分析方法を深める③
第5回	卒論計画の作成①	研究計画を策定①
第6回	卒論計画の作成②	研究計画を策定②
第7回	卒論計画の作成③	研究計画を策定③
第8回	先行研究のレビュー①	引用する文献・資料の検討①
第9回	先行研究のレビュー②	引用する文献・資料の検討②
第10回	先行研究のレビュー③	引用する文献・資料の検討③
第11回	卒論中間発表準備	現段階の到達点の確認
第12回	卒論中間発表①	研究内容の中間発表①
第13回	卒論中間発表②	研究内容の中間発表②
第14回	卒論中間発表③	研究内容の中間発表③
第15回	卒論計画の見直し	研究計画の改善
第16回	卒論執筆①	第1次原稿提出準備①
第17回	卒論執筆②	第1次原稿提出準備②
第18回	卒論執筆③	第1次原稿提出準備③
第19回	卒論執筆④	第1次原稿提出・修正
第20回	卒論執筆⑤	第2次原稿提出準備①
第21回	卒論執筆⑥	第2次原稿提出準備②
第22回	卒論執筆⑦	第2次原稿提出準備③
第23回	卒論執筆⑧	第2次原稿提出
第24回	卒論発表回①	卒論の最終発表①
第25回	卒論発表回②	卒論の最終発表②
第26回	卒論発表回③	卒論の最終発表③
第27回	卒論の修正・仕上げ	必要に応じて最終調整
第28回	卒論完成	完成版の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
フィールド調査を進めつつ、ゼミと個別指導を連動させていく。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。

【参考書】
必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の内容：80％、研究への取り組み（期限遵守等）：20％

【学生の意見等からの気づき】
学生による様々なアイディアを応用。

【学生が準備すべき機器他】
講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。論文執筆にかかる諸準備。

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野等】
障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】
【Course Outline】This course is designed to facilitate students' learning processes and the completion of their graduation theses.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to externalize their learning in a tangible manner.
【Learning Activities Outside of Classroom】Before and after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course contents.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on thesis development (80%) and research arrangements (deadlines, etc.) (20%).

OTR400JB（その他 / Others 400）

卒業論文

眞保　智子

配当年次／単位数：**4年次／4単位**
備考（履修条件等）：**履修登録をしないと単位が付かないので注意**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習ⅠAB・ⅡABでの学びから醸成したそれぞれ調査や実践を通じて研究し、ゼミでの報告と議論を踏まえて卒業論文にまとめることを目指します。

【到達目標】
ゼミ活動他で得られた問題関心を明確にし、研究テーマを立ち上げ、考察するための調査研究や分析の方法を学ぶとともに、自らの主張を学術論文の形式で論理的に説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
個別指導と専門演習との連携によるグループダイナミクスにより、確実に卒業論文を完成させるように進めていく。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	問題意識の明確化（意義）	卒論の意義を学ぶ
第2回	問題意識の明確化（問題意識）	卒論の問題意識をさらに焦点化
第3回	調査研究方法の学習（量的調査）	調査方法、分析の視点を学ぶ。（量的調査）
第4回	調査研究方法の学習（質的調査）	調査方法、分析の視点を学ぶ。（質的調査）
第5回	調査研究方法の検討	調査方法、分析の視点を学ぶ。（質的調査の深化）
第6回	論文計画の検討（テーマ）	テーマについて議論する
第7回	論文計画の検討（調査対象）	調査対象について議論する
第8回	論文計画の検討（研究計画）	研究計画について議論する
第9回	論文計画の検討（方法）	調査方法についてコメントをもらう。
第10回	文献検討	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる。
第11回	資料検討	テーマに関する資料を検討し、テーマにそって発表する
第12回	先行研究のまとめ	テーマに関する知識を蓄積し、考察を深める
第13回	調査計画の検討	調査方法を検討し、改善をはかる。
第14回	予備調査	調査方法を検討し、パイロットスタディを行う。
第15回	予備調査の振り返り	パイロットスタディの結果を検討する。
第16回	中間報告	進捗報告書提出
第17回	中間報告の発表と議論	進捗報告の発表と議論
第18回	進捗再確認	進捗報告を踏まえた今後の計画を検討する
第19回	論文執筆（序章）	序章第一次原稿の提出
第20回	論文執筆（本論）	本論第一次原稿の提出
第21回	論文執筆（第一次提出）	考察の第一次原稿の提出
第22回	論文完成に向けての作業（目次）	目次二次原稿提出
第23回	論文完成に向けての作業（序章二次提出）	序章二次原稿提出
第24回	論文完成に向けての作業（本論）	本論二次原稿提出
第25回	論文完成に向けての作業（考察二次検討）	考察二次原稿提出
第26回	文章最終仕上げ	発表と検討
第27回	論文最終仕上げ	修正と発表
第28回	卒業論文の提出	発表と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
個別指導と専門演習でのグループダイナミクスにより学生相互の学びを進める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜提示します。

【参考書】
適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文：100％

【学生の意見等からの気づき】
少人数学習のよさを最大限活用し、学生相互の学びを大切にしています。

【学生が準備すべき機器他】
論文の執筆やグループワーク、研究報告の際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用します。

【その他の重要事項】
草稿提出：11月最終ゼミ日　最終提出日：12月最終ゼミ

【Outline (in English)】
This course builds on the skills learned in seminar Ⅰ AB, Ⅱ AB, Ⅲ AB and applies them to the writing of a thesis. Students will reinforce the basic reading skills and strategies that are needed for academic success at the university level, and moves up through critical reading of more advanced texts toward the writing of academic papers. The goal of this seminar is to complete the degree paper. Before/after each seminar, students will be expected to spend four hours to understand the seminar content. Grading will be decided based on degree paper (100%).

OTR400JB（その他 / Others 400）

卒業論文

野田　岳仁

配当年次／単位数：**4年次／4単位**
備考（履修条件等）：**履修登録をしないと単位が付かないので注意**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境社会学・地域社会学の主要な方法論である生活環境主義の方法を用いてフィールドワークを行い、現場に暮らす人びとにとって有効性のある地域づくり・地域ツーリズム政策にかかわる卒業論文を執筆する。

【到達目標】
卒業論文は、3年間のゼミでの学びの集大成である。生活環境主義の方法論を用いて、有効性のある政策論に仕上げることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
研究テーマを設定し、自ら問いを立て、フィールドワーク、文献調査を行い、得られたデータから有効性のある結論を導き出すための指導と討議を行う。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	スケジュールの確認と目標設定
第2回	論文の構想（1）	テーマと問いの設定方法
第3回	論文の構想（2）	方法論や調査技法の確認
第4回	論文の構想（3）	対象と方法の選択
第5回	論文の構想（4）	目次と章立ての検討
第6回	論文の構想（5）	理論仮説を立てる
第7回	論文の構想（6）	作業仮説を立てる
第8回	論文の構想（7）	研究の意義と限界の検討
第9回	先行研究のレビュー（1）	環境社会学における研究史の検討
第10回	先行研究のレビュー（2）	地域社会学における研究史の検討
第11回	先行研究のレビュー（3）	民俗学・文化人類学における研究史の検討
第12回	中間発表会（1）	研究方法の確認と討議
第13回	中間発表会（2）	研究の意義の確認と討議
第14回	中間発表会（3）	研究のオリジナリティの確認と討議
第15回	調査データの分析（1）	データの整理と集計
第16回	調査データの分析（2）	データの解釈
第17回	調査データの分析（3）	仮説の検証
第18回	調査データの分析（4）	モデルの構築の検討
第19回	論文執筆（1）	問いと問題関心の見直し
第20回	論文執筆（2）	分析視角の確認
第21回	論文執筆（3）	先行研究との対話と論敵の設定
第22回	論文執筆（4）	目次と章立ての確定
第23回	論文執筆（5）	事例の記述と解釈
第24回	論文執筆（6）	理論仮説と作業仮説の再検討
第25回	論文執筆（7）	分析結果の再検討
第26回	論文執筆（8）	結論の見通しの再検討
第27回	論文執筆（9）	論文全体の論理構成の再検討
第28回	卒業論文の完成	得られた知見をもとに学問の実践性について討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自で論文執筆、先行研究レビュー、フィールドワーク、プレゼンテーションの準備など事前学習を進める必要がある。演習後には、教員や仲間からの助言やコメントを卒業論文に反映させる作業が不可欠である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
受講生の関心や研究テーマに応じて適宜紹介する。

【参考書】
受講生の関心や研究テーマに応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
討議や発表を含めた平常点を考慮しつつ、卒業論文（100%）の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の意見や要望は積極的に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems.【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on the quality of the graduation thesis(100%).

OTR400JB（その他 / Others 400）

卒業論文

水野　雅男

配当年次／単位数：**4年次／4単位**
備考（履修条件等）：**履修登録をしないと単位が付かないので注意**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文に向けて問題意識の明確化を行い、必要な調査の後、集計分析を行い、論文を完成させる。

【到達目標】
○地域づくりへの問題意識を明確化させ、その解決方法を提案できる。
○調査研究や分析の方法を学び、自ら論文を組み立てる。
○学術的な文章の書き方を学び、文章力を磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
原則、個別指導による。専門演習と連動させ、発表の機会を設ける。
研究室での個別面談とオンラインを組み合わせて指導を行う。
課題の事前提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	問題意識の明確化①	卒論の意義と問題意識を明確化
第2回	問題意識の明確化②	問題意識の深化
第3回	調査研究方法の学習①	調査方法・分析の視点①予備調査
第4回	調査研究方法の学習②	調査方法・分析の視点②量的調査
第5回	調査研究方法の学習③	調査方法・分析の視点③質的調査
第6回	論文計画の検討①	調査対象の選定
第7回	論文計画の検討②	調査対象の絞り込み
第8回	論文計画の検討③	テーマのキーワード抽出
第9回	論文計画の検討④	テーマの絞り込み
第10回	文献や資料の検討①	先行研究のレビュー
第11回	文献や資料の検討②	参考文献のレビュー
第12回	文献や資料の検討③	先行研究・参考文献のとりまとめ
第13回	調査計画の検討①	調査対象組織の選定
第14回	調査計画の検討②	実施調査方法の検討
第15回	調査計画の検討③	調査スケジュールの検討
第16回	中間報告①	進捗状況の確認
第17回	中間報告②	分析結果の確認
第18回	中間報告③	残された作業課題の確認
第19回	論文執筆①	第一次原稿の提出（第１章）
第20回	論文執筆②	第一次原稿の提出（第２章）
第21回	論文執筆③	第一次原稿の提出（第３章）
第22回	論文のまとめ作業①	第二次原稿の提出（第１章）
第23回	論文のまとめ作業②	第二次原稿の提出（第２章）
第24回	論文のまとめ作業③	第二次原稿の提出（第３章）
第25回	論文のまとめ作業④	第二次原稿の提出（終章）
第26回	文章最終仕上げ①	中間発表
第27回	文章最終仕上げ②	原稿の第一次修正
第28回	文章最終仕上げ③	原稿の第二次修正、校了

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
個別指導と専門演習とを連動させる。調査研究に当たっては、フィールドワークを重視し、現場でのインタビューやアンケート調査を行ったり、自ら活動に参加して参与観察を行うことを推奨する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜提示する。

【参考書】
適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の内容　80％
研究への取り組み　20％
上記を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムやFacebookグループにより、学生への連絡や情報共有を図る。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに30年間関わった経験に基づき、フィールドレベルからの調査手法について助言する。

【Outline (in English)】
< Course outline>
The aim of this course is to help students acquire that clarify the awareness of the problem for the graduation thesis, perform the aggregate analysis after the necessary research, and complete the thesis.
< Learning Objectives>
By the end of the course, students should be able to do the followings:
Clarify the awareness of problems in community development and propose solutions.
Learn the methods of research and analysis, and assemble your own dissertation.
Learn how to write academic sentences and improve your writing skills.
< Learning activities outside of classroom>
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy>
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Content of graduation thesis 80%, Research efforts 20%

OTR400JB（その他 / Others 400）

卒業論文

宮城　孝

配当年次／単位数：**4年次／4単位**
備考（履修条件等）：**履修登録をしないと単位が付かないので注意**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文に向けて問題意識の明確化を行い、必要な文献探索やデータ収集、調査等を行い、論文とし文章化し完成させる。

【到達目標】
○地域の福祉課題への問題意識を明確化させ、その解決方法を提案できる。
○調査研究や分析の方法を学び、自ら文章を組み立てる。
○学術的な文章の書き方を学び、文章力を磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
原則、個別指導による。専門演習と連動させ、卒業論文発表の機会を設ける。基本的には対面で行うが、学生の都合でオンラインで行う場合もある。る。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	問題意識の明確化	卒論の意義を学び、問題意識を明確化させる。
第2回	問題意識の文章化	卒論の意義を学び、問題意識を文章として明示化する。
第3回	調査研究方法の学習	自分の研究テーマについての調査方法、分析の視点を学ぶ。
第4回	調査研究方法の選択	自分の研究テーマの調査方法を選し、分析の視点と方法を検討する。
第5回	具体的な調査研究方法と分析の視点の検討	自分の研究テーマに応じた調査方法を選択し、分析方法を選択する。
第6回	論文の骨格の検討	論文のテーマ、背景と意義、調査対象や方法について検討し、研究計画を策定する。
第7回	研究のテーマや調査方法の決定	テーマや調査対象、方法について決定を図る。
第8回	研究計画の検討	調査対象やテーマについて議論し、具体的な研究計画を検討する。
第9回	具体的な研究計画の作成	調査対象やテーマについて議論し、具体的な研究計画を作成する。
第10回	文献や資料などの探索	テーマに関連する文献を探索する。
第11回	先行研究についての検討	テーマに関連する文献を読み、自分なりのコメントをする。
第12回	先行研究についての概要のまとめ	先行研究についてのレビューの概要をまとめる。
第13回	調査計画の検討	具体的な調査方法を検討する。
第14回	調査計画の具体化	具体的な調査方法を作成する。
第15回	調査の実施のまとめ	調査を実施し、その内容のまとめ方を検討し、改善させる。
第16回	調査結果の検討	調査結果のまとめ方について検討する。
第17回	論文の構成の検討	論文全体の構成を検討する。
第18回	問題関心と背景、研究の意義の内容の検討	研究に関する問題関心、背景、研究の意義の内容について検討する。
第19回	先行研究のまとめ方の検討	先行研究のまとめ方の内容について検討する。
第20回	調査の分析方法と内容のまとめ方の検討	実施した調査の分析方法と内容のまとめ方について検討する。
第21回	調査の分析結果の内容についての検討	調査の分析結果の内容について検討する。
第22回	全体的な結果についての検討	論文の全体的な結果の内容について検討する。
第23回	全体的な考察についての検討	論文全体の考察について検討する。
第24回	文章表現、引用の方法などについての検討	論文の完成に向け、文章表現、引用の方法を確認する。
第25回	論文の第一次提出と内容の検討	論文の第一次提出を行い、内容を検討する。
第26回	修正した内容の確認と検討	修正した内容の確認と検討を行う。
第27回	論文の内容の最終修正	論文の完成に向け、表現や形式などについて検討する。
第28回	文章の最終仕上げ	卒業論文を最終修正し完成させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
個別指導と専門演習と連動させる。調査研究に当たっては、フィールドワークを重視し、現場でのインタビューやアンケートを行ったり、自ら活動に参加して参与観察を行うことを推奨する。準備・復習時間は、１回につき４時間以上とする。

【テキスト（教科書）】
適宜提示する。

【参考書】
適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の内容　80%、研究への取り組み　20%春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながらよりよい方法を検討していきます。

【その他の重要事項】
講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、先進事例の紹介などその経験を活かして卒論作成の助言・指導をおこなうこととする。

【Outline (in English)】
【授業の概要(Course outline)】
This course is to complete a research paper,it does search of the necessary article and data.It makes sentences as the research paper.
【到達目標（Learning Objectives)】
The goals of this course are to Ａ and Ｂ
Ａ. To complete a research paper.
Ｂ. Students can search of the necessary article and data
Ｃ. Students can makes sentences as the research paper.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom)】
Student will be expected to have completed assignments after each supervision,
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy)】
Grading will be decided on research paper(80 %),and the quality of the students' experimental performance in the lab(20％).

OTR400JC（その他 / Others 400）

卒業論文

久保田　幹子

配当年次／単位数：**4年次／4単位**
備考（履修条件等）：**履修登録をしないと単位が付かないので注意**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理学的理解を基盤として、卒業論文に向けて問題意識の明確化を行い、必要な調査・分析の後、文章を完成する。

【到達目標】
臨床心理学の諸問題の中から、興味のあるテーマを各自設定し、専門演習での発表・ディスカッションを踏まえて、オリジナリティーの高い卒業論文を作成することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
原則、個別指導による。専門演習と連動させ、発表の機会を設ける。
なお、課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。
また各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	問題意識の明確化　Ⅰ	卒論の意義を学ぶ
第2回	問題意識の明確化　Ⅱ	問題意識を明確化させる
第3回	調査研究方法の学習　Ⅰ	調査方法を学ぶ
第4回	調査研究方法の学習　Ⅱ	分析の視点を学ぶ
第5回	調査研究方法の学習　Ⅲ	調査したい対象に適合する調査・分析方法を学ぶ
第6回	論文計画の検討　Ⅰ	調査対象やテーマについて議論し、研究計画案を策定する
第7回	論文計画の検討　Ⅱ	調査対象やテーマについて議論し、研究計画案を検討および修正する
第8回	論文計画の検討　Ⅲ	調査対象やテーマについて議論し、研究計画案を決定する
第9回	文献や資料などの検討 Ⅰ	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる
第10回	文献や資料などの検討 Ⅱ	文献収集の経過報告
第11回	文献や資料などの検討 Ⅲ	文献収集結果のまとめと確認
第12回	調査計画の検討　Ⅰ	調査方法案を策定する
第13回	調査計画の検討　Ⅱ	調査方法案を検討および修正する
第14回	調査計画の検討　Ⅲ	調査方法を決定する
第15回	中間報告　Ⅰ	調査状況の進捗報告
第16回	中間報告　Ⅱ	調査実施の進捗報告
第17回	中間報告　Ⅲ	調査結果の進捗報告
第18回	論文執筆　Ⅰ	調査結果の大まかな分析
第19回	論文執筆　Ⅱ	調査結果の統計的分析
第20回	論文執筆　Ⅲ	調査結果の文章化
第21回	論文完成に向けての作業　Ⅰ	考察の骨子の検討
第22回	論文完成に向けての作業　Ⅱ	考察の文献的検討
第23回	論文完成に向けての作業　Ⅲ	考察のまとめと執筆
第24回	文章最終仕上げ　Ⅰ	発表と議論
第25回	文章最終仕上げ　Ⅱ	議論の結果を修正に反映させる
第26回	文章最終仕上げ　Ⅲ	最終校正
第27回	論文完成　Ⅰ	提出に向けた最終的仕上げ作業
第28回	論文完成　Ⅱ	卒業論文提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
個別指導と専門演習と連動させる。
本授業の準備・復習時間は、各回４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜提示する。

【参考書】
適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の内容　80%
研究への取り組み　20%

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながらよりよい方法を検討していきます。

【その他の重要事項】
医療機関において病院臨床の実務経験があることから、現代人が直面する課題や心理的問題なども紹介し、皆さんの問題提議や論文構想の助けになるように進めていきます。

【Outline (in English)】
Based on the basic clinical psychology understanding, students will set themes, conduct research and analysis to complete their Bachelor's thesis. The goal is to create a highly original bachelor thesis based on presentations and discussions in this course, setting themes of interest from the various issues in clinical psychology. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on achievement of contents of the bachelor thesis (80%) and in-class contribution (20%).

OTR400JC（その他 / Others 400）

卒業論文

小林　由佳

配当年次／単位数：**4年次／4単位**
備考（履修条件等）：**履修登録をしないと単位が付かないので注意**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究テーマを設定し、学術的な手続きによって問いを明らかにすること、およびその知見を卒業論文として完成させるための指導を行います。

【到達目標】
1）自身の関心を研究テーマとして明確化する
2）問いを明らかにするための研究方法を理解する
3）研究を行い、卒業論文を執筆する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
先行研究の検討、研究計画立案、データ収集と分析、結果の考察、学術的な文章表現について個別指導を行います。専門演習Ⅲと連動させて発表の機会を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	卒業論文提出までの流れ、成績評価の条件等の確認
第2回	研究テーマの検討1	各自の問題意識に基づく研究テーマの検討
第3回	研究テーマの検討2	各自の問題意識に基づく研究テーマの設定
第4回	先行研究のレビュー	先行研究のレビューの実施と整理
第5回	研究の進め方1	研究テーマと問いの設定
第6回	研究の進め方2	データ収集、分析、解釈
第7回	研究の進め方3	結果から得られた知見と意義の表現
第8回	研究計画1	問題意識と先行研究に基づく研究テーマと問い、仮説の設定
第9回	研究計画2	研究デザインと手続きの検討
第10回	研究計画3	データ分析方法の検討
第11回	データ収集1	データ収集のための具体的な方法の検討
第12回	データ収集2	データ収集の準備
第13回	データ収集3	データ収集の進捗報告
第14回	春学期まとめ	春学期の振り返り、秋学期までに進めることの確認
第15回	ガイダンス	卒業論文提出までの進め方の確認
第16回	データ分析1	収集したデータの整理
第17回	データ分析2	収集したデータの分析
第18回	データ分析3	データ分析結果と解釈の報告
第19回	データ分析4	分析した結果の表現の検討
第20回	研究結果の考察	データ分析から得られた結果の考察
第21回	論文執筆指導1	論文の序論と先行研究の執筆、より良い表現の検討
第22回	論文執筆指導2	研究の目的と仮説の執筆、より良い表現の検討
第23回	論文執筆指導3	データ分析と結果の執筆、より良い表現の検討
第24回	論文執筆指導4	結果に対する考察の執筆、より良い表現の検討
第25回	論文執筆指導5	論文の修正稿の作成、不明点の確認
第26回	論文執筆指導6	論文の最終チェック
第27回	論文の発表	卒業論文をプレゼン形式にまとめて発表
第28回	まとめ	卒業論文作成過程の振り返りと総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文の作成のために、先行研究のレビュー、研究目的と問いの明確化、データの収集・分析、結果の考察及び本文執筆を計画的に進めることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文への取り組み（30％）と内容（70％）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
適宜学生からの意見を反映し、丁寧な指導をしていきます。

【Outline (in English)】
This course will guide students in setting research topics, elucidating questions through scholarly procedures, and providing instruction to complete their findings as a graduation thesis.
The objectives of this course are as follows:
(1) Clarify one's own interest as a research theme
(2) Understand research methods for clarifying research questions
(3) Conduct research and write a graduation thesis
Students are required to plan their study outside of class time to review previous research, clarify the purpose and questions of the research, collect and analyze data, discuss the results, and write the main text for their graduation thesis. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Students will be evaluated based on their work on the graduation thesis (30%) and the content (70%).

OTR400JC（その他 / Others 400）

卒業論文

末武　康弘

配当年次／単位数：**4年次／4単位**
備考（履修条件等）：**履修登録をしないと単位が付かないので注意**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理学の諸問題や支援に関する卒業論文の執筆の指導を行います。

【到達目標】
臨床心理学に関連する研究方法を学び、各自で研究テーマを設定して卒業論文を作成します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
個別の指導を行いながら、卒業論文の執筆に向けた先行研究の検討、調査の実施方法、データの分析方法、文章表現のスキルなどを共有します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	卒業論文の基準、成績評価の条件等を提示します。
2	個人テーマの選定①	卒業論文に向けた各自の研究テーマが収れんするように指導を行います。例：ゼミ生A～E
3	個人テーマの選定②	例：ゼミ生F～J
4	個人テーマの選定③	例：ゼミ生J～O
5	先行研究レビューの指導①	論文執筆のための先行研究をレビューを指導します。例：ゼミ生A～E
6	先行研究レビューの指導②	例：ゼミ生F～J
7	先行研究レビューの指導③	例：ゼミ生J～O
8	研究方法の指導①	各自の卒論テーマに沿った研究方法を指導します。例：ゼミ生A～C
9	研究方法の指導②	例：ゼミ生D～F
10	研究方法の指導③	例：ゼミ生G～I
11	研究方法の指導④	例：ゼミ生J～L
12	研究方法の指導⑤	例：ゼミ生M～O
13	研究方法の指導⑥	希望者への指導
14	データ収集のための準備の指導、まとめ	データ収集のための準備について指導し、春学期のふりかえりとまとめを行います
15	秋学期のガイダンス	秋学期のゼミの進め方についてガイダンスします
16	データの収集と分析の指導①	各自のデータの収集と分析の方法について指導します。例：ゼミ生A～C
17	データの収集と分析の指導②	例：ゼミ生D～F
18	データの収集と分析の指導③	例：ゼミ生G～I
19	データの収集と分析の指導④	例：ゼミ生J～L
20	データの収集と分析の指導⑤	例：ゼミ生M～O
21	卒論執筆指導①	卒論執筆のための最終的な指導を行います。例：ゼミ生A、B
22	卒論執筆指導②	例：ゼミ生C、D
23	卒論執筆指導③	例：ゼミ生E、F
24	卒論執筆指導④	例：ゼミ生G、H
25	卒論執筆指導⑤	例：ゼミ生I、J
26	卒論執筆指導⑥	例：ゼミ生K、L
27	卒論執筆指導⑦	例：ゼミ生M、N
28	卒論執筆指導⑧、まとめ	例：ゼミ生M、O、授業のふりかえりとまとめを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文の作成のために、自己学習（文献や先行研究の収集と分析）およびデータ収集・解析、論文執筆の作業が求められます。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の内容（100%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートの結果に基づき、全員が有意義な卒業論文を完成できるようにていねいな指導をしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、具体的にわかりやすく指導します。

【Outline (in English)】
You will write graduation thesis with a certain academic level on clinical psychology.
The goal of this course is to complete graduation thesis with a certain academic level on clinical psychology.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on graduation thesis (100%).

OTR400JC（その他 / Others 400）

卒業論文

関谷　秀子

配当年次／単位数：**4年次／4単位**
備考（履修条件等）：**履修登録をしないと単位が付かないので注意**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文に向けて問題意識の明確化を行い研究テーマを選定する。必要な調査・分析、あるいは文献研究に基づいて卒業論文を完成させる。

【到達目標】
①自分の問題意識を明確化させ、臨床心理学と学問的に関連付けることができる。②調査研究や文献探索の方法が分かる。③学術的な文章の書き方を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
原則、個別指導による。専門演習Ⅲと連動させて発表の機会を設ける。授業計画は学生の卒論テーマや進捗状況に応じて若干の変更の可能性があり得る。オフィス・アワーで、それぞれの課題に対してフィードバックを行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	問題意識の明確化Ⅰ	問題意識を明確化する。
第2回	問題意識の明確化Ⅱ	問題意識をまとめる。
第3回	調査研究方法の学習Ⅰ	調査方法、分析の方法を学ぶ。
第4回	調査研究方法の学習Ⅱ	調査方法をより具体的に学ぶ。
第5回	調査研究方法の学習Ⅲ	調査方法、分析の方法を具体的に決定する。
第6回	論文計画の検討Ⅰ	調査対象や研究テーマについて議論し、研究計画の概要を策定する。
第7回	論文計画の検討Ⅱ	調査対象や研究テーマについて議論し、研究計画の内容を指導する。
第8回	論文計画の検討Ⅲ	調査対象や研究テーマについて議論し、研究計画の詳細を検討していく
第9回	論文計画の検討Ⅳ	調査対象や研究テーマについて議論し、研究計画を最終的に決定する。
第10回	文献や資料などの検討Ⅰ	文献を収集し、整理していく。
第11回	文献や資料などの検討Ⅱ	文献を読み、知識を蓄積する。
第12回	文献や資料などの検討Ⅲ	文献を読み、知識をまとめていく。
第13回	調査計画の検討Ⅰ	調査計画の可能性を話し合う。
第14回	調査計画の検討Ⅱ	調査計画の詳細を検討しする。
第15回	調査計画の検討Ⅲ	調査計画を最終的に決定する。
第16回	中間報告Ⅰ	進捗状況を報告する
第17回	中間報告Ⅱ	進捗状況を検討する
第18回	中間報告Ⅲ	卒論の調査・研究の最終的な結果を報告する
第19回	論文執筆の指導Ⅰ	「はじめに」「論文の目的」について、第１次原稿を指導する
第20回	論文執筆の指導Ⅱ	「先行研究」「仮説」について第１次原稿を指導する
第21回	論文執筆の指導Ⅲ	「結果」「考察」について第１次原稿を提出させる
第22回	論文執筆の指導Ⅳ	「はじめに」「論文の目的」について、第２次稿を指導する
第23回	論文執筆の指導Ⅴ	「先行研究」「仮説」について第２次稿を提出させる
第24回	論文執筆の指導Ⅵ	「結果」について第２次稿を指導する
第25回	論文執筆の指導Ⅶ	「考察」について第２次稿を指導する
第26回	論文完成	論文の最終チェック
第27回	論文の発表会Ⅰ	パワーポイントを用いて卒業論文を発表する①
第28回	論文の発表会Ⅱ	パワーポイントを用いて卒業論文を発表する②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査研究を行う場合には心理的な統計処理に関する知識や技法は各自でマスターしておくこと。文献研究を行う場合には文献研究に関連する基礎的な専門知識を事前に学習しておくこと。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
必要に応じて適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文への取り組み（30%）とその内容（70%）にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度のアンケート結果集計後検討したい。

【Outline (in English)】
We will specify a theme of one's interest, and choose that theme in conjunction with clinical psychology. We will perform necessary investigation, analysis, document study in order to complete a graduation thesis. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on graduation thesis (30%), and the quality of the students' experimental performance about the graduation thesis (70%).

OTR400JC（その他 / Others 400）

卒業論文

丹羽　郁夫

配当年次／単位数：4年次／4単位
備考（履修条件等）：**履修登録をしないと単位が付かないので注意**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
問題意識の明確化を行い、テーマおよび調査方法を決定し、卒業論文を完成させる。

【到達目標】
○自分の問題意識を明確化させ、その解決方法を提案できる。
○関心のある問題を調査するための適切な方法が分かる。
○学術的な文章の書き方を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
専門演習Ⅲでの報告と連動させて、原則、個別指導で行う。また課題などのフィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	問題意識の明確化①	問題意識について自由に語る
第2回	問題意識の明確化②	問題意識を明確化する
第3回	文献を検索	問題意識に関連する文献の探し方を知る
第4回	文献検索の経過報告①	文献検索の経過を報告する
第5回	文献検索の経過報告②	文献検査の結果を報告する
第6回	卒論のテーマの検討	卒論のテーマを検討する
第7回	卒論のテーマの決定	卒論のテーマを決定する
第8回	調査方法の紹介①	文献研究の方法を知る
第9回	調査方法の紹介②	面接法を知る
第10回	調査方法の紹介③	質問紙法を知る
第11回	調査方法の検討①	調査方法を検討する
第12回	調査方法の検討②	調査方法を決定する
第13回	研究計画①	研究計画を検討する
第14回	研究計画②	研究計画を決定する
第15回	中間報告①	進捗状況の報告
第16回	調査実施	調査実施の指導
第17回	調査結果の分析①	調査の分析の仕方を検討する
第18回	調査結果の分析②	調査結果を検討する
第19回	卒業論文の執筆①	第一次原稿提出：序論
第20回	卒業論文の執筆②	第一次原稿提出：方法
第21回	卒業論文の執筆③	第一次原稿提出：結果
第22回	卒業論文の執筆④	第二次原稿提出：考察
第23回	卒業論文の執筆⑤	二次原稿提出：序論・方法
第24回	卒業論文の執筆⑥	二次原稿提出：結果
第25回	卒業論文の執筆⑦	二次原稿提出：考察
第26回	論文完成	論文の最終チェック
第27回	卒業論文の発表会①	パワーポイントを用いて卒業論文を発表する①
第28回	卒業論文の発表会②	パワーポイントを用いて卒業論文を発表する②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
個別指導および専門演習Ⅲの前は、卒業論文の作成を進め、その進行状況と疑問点などを報告できるように準備をすることが求められます。指導および演習の後は、教員や仲間からの助言やコメントを卒業論文の作成に反映させる改善が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間(合計4時間)以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜提示する。

【参考書】
適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文への取り組み(20%)とその内容（80%）。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートを実施しておりません。

【Outline (in English)】
Students will clarify problem awareness, decide the theme and survey method, and complete the graduation thesis.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-Students let you clarify own critical mind and can suggest the solution.
-Students know an appropriate method to investigate a problem with the interest.
-Students acquire the form of the scientific sentence.
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria/Policies
Final grade will be calculated according to the following process
Degree of the approach to a graduation thesis（20%）,Contents of the graduation thesis（80%）.

SOC100JA（社会学 / Sociology 100）

老年学(SSI)

新名　正弥

配当年次／単位数：**1〜4年次／2単位**
備考（履修条件等）：**他学部SSI生向けの科目につき、現代福祉学部SSI生およびSSI生以外は授業コード「N0117」を選択すること。**
その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
老年学は、生物が普遍的に経験する「加齢・老化」現象を人間の視点から学際的に捉えることを目的とする学問領域である。本講義では、老年学の生物学的、心理学的、社会心理学的、社会学的視点を網羅的に解説するとともに、特に社会老年学領域のテーマについて重点的に解説を行う。一方で、老年学の学際性故に老いに対する様々な見方があり、その見方によって「問題の所在とその社会的対応」が異なることも学ぶ。

【到達目標】
老年学の方法及び理論、人口論、身体、心・精神、社会、政治、環境、死などの各テーマにおける視座と現代的課題を学ぶ。加えて、老化に係わる課題に対応するための個人的適応及び社会政策による対応について海外の動向を関連させ学ぶ。これらの作業を通じて、人間の老いという現象を社会や文化、そして価値による影響を含めて多角的に理解する。加えて、学生が現実の政策課題について理論的な思考を応用的に展開できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
主に講義を中心に進め、映像資料を多数用いる。各回の内容についてリアクションペーパーを記すことで理解を深めてもらう。また、課題のフィードバックはLMS等を通じて適宜コメントする他、課題提出翌週の講義開始時に解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のねらい、講義の構成、スケジュール、成績評価
第2回	老年学とは	老化・加齢について、老年学・社会老年学のアプローチ
第3回	人口の高齢化	人口高齢化、少子化、地域差と社会変動の影響
第4回	老化と身体	高齢者の寿命 高齢者の疾病と障害
第5回	老いと心・精神	高齢者の心と知能、感情と欲求、パーソナリティ 心理的適応 老いと発達（生涯発達理論と老年的超越）
第6回	高齢期の健康問題と対応	老化と健康 認知症
第7回	老化の社会学理論①	活動理論、離脱理論、継続性理論等の老化に関する社会学理論
第8回	老化の社会学理論②	老いに対する態度、エイジズム 老化の政治経済学的アプローチ、ポストモダンアプローチ
第9回	高齢期の社会関係と社会参加①	高齢期の家族・社会関係
第10回	高齢期の社会関係と社会参加②	雇用、ボランティア、政治参加
第11回	高齢社会の問題と政策対応	社会問題の社会学アプローチと構造化された依存
第12回	老いと経済	経済格差と政策対応
第13回	老い、医療・介護、終末期	多死社会における医療・介護・終末の課題
第14回	高齢社会の構造（グローバリゼーション、老いを取り巻く社会構造の変化）	少子高齢社会の展開と政策課題について検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞、雑誌、書籍、テレビ番組等から関連するテーマについて日頃から注意しておくこと。また、自身の高齢者との経験について振り返っておくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。授業前に資料を配付する。

【参考書】
国民の福祉と介護の動向（厚生労働統計協会）
高齢社会白書（厚生労働省）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーによる各回の振り返り、クイズ、レスポンスペーパー（40％）、期末レポート（60％）によって総合的に判定する。

【学生の意見等からの気づき】
領域が広い教科であるが、標準的な体系が確立していない学問分野なので、一回その都度完結型の講義を心がける。

【その他の重要事項】
老年学は、高齢者福祉論、介護福祉論、介護保険制度を理解するための基盤となる科目なので、高齢者や高齢社会に関して発展的学習を行う予定の学生に対して網羅的かつ基礎的な知識を提供することを心がけたい。

【Outline (in English)】
Gerontology is an interdisciplinary subject dealing with the aging of humans and society surrounding the elderly. The lecture aims to comprehensively describe the biological, psychological, social-psychological, and sociological perspectives of gerontology and explain the themes, especially in social gerontology. On the other hand, because of the multidisciplinary nature of gerontology, the lecture aims to exemplify how values embedded in perspectives of gerontological theories differently affect the understanding of social issues surrounding aging and its policy response.
By the end of the course, students are expected to understand the basic terms and theories concerning aging.
Before the lecture, students must tackle assignments (about 2 hours). After the class, students are asked to answer quizzes (about 2 hours).
The course's grading will be based on quizzes/assignments (40%) and term-reports (60%).

LANe100JA（英語 / English language education 100）

英語１（K・O・Tクラス）

田高　信一

配当年次／単位数：**1年次／1単位**
備考（履修条件等）：**2020年度以前入学者のみ受講可能。クラス指定あり、指定されたクラスを登録すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ウェルビーイング(Well-being)の重要な指標の一つであるワークライフ・バランス(Work-life Balance)に関する様々な社会問題について英語で学び国際的な教養を深めつつ総合的な英語力を身に着ける。

【到達目標】
社会問題について英語で情報を適切に理解できる。
英語の情報を批判的にとらえることができる。
学んだ内容について英語で自分の意見や考えを伝えることができる。
英語の語彙力・読解力・表現力を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
指定テキストを用いて、ペアワーク・グループワークを積極的に取り入れながらアクティブラーニング形式での授業を行います。指定テキスト以外の教材をデータ上で使用してもらいます。そのため、各自でノートPCかタブレットを毎回の授業に持ってくるようにしてください。課題等に対するフィードバックについては，Google Classroomのコメント欄等で対応します。定期的にGoogle Classroomにアクセスし、教員からのフィードバックを確認するようにしてください。授業内でGoogle Classroomの使い方を説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	Course Orientation, Self-Introduction	授業の進め方、評価方法、指定テキストの使用法、授業内外での英語学習などについての説明
2回目	Course Orientation (continued)	授業の進め方、評価方法、指定テキストの使用法、授業内外での英語学習などについての説明
3回目	Textbook Unit 1	Work-Life Balance
4回目	Textbook Unit 2	Career Building
5回目	Textbook Unit 3	The Value of Rewards
6回目	Presentation Preparation	Prepare for Midterm Presentation
7回目	Midterm Presentation	Deliver a Presentation
8回目	Textbook Unit 4	Flexible Work Hours
9回目	Textbook Unit 5	Working Environment
10回目	Textbook Unit 6	Importance of Exercise
11回目	Textbook Unit 7	Burnout
12回目	Review Day Presentation Preparation	Review the textbook units Prepare for Final Presentation
13回目	Final Presentation 1	Deliver a Presentation
14回目	Final Presentation 2	Deliver a Presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の予習・課題の時間は、各1.5時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『Work-Life Balance: Essential Insights and Practices/映像メディアで考えるワーク・ライフ・バランス』(2025) 松柏社. [ISBN 978-4-7754-5002-4]

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
Participation Portfolio: 20%, Quick-Write: 10%, Vocabulary Homework: 10%, Vocabulary Quiz: 15%, Speaking Task : 10%, Midterm Presentation: 15%, Final Presentation: 20%

【学生の意見等からの気づき】
ペアワークやグループワークを多く取り入れ、楽しみながら英語をアウトプットしてもらう授業を展開していきます。

【学生が準備すべき機器他】
各自でノートPCかタブレットを毎回の授業に持ってくるようにしてください。

【その他の重要事項】
授業の展開によっては、上記の授業スケジュールは若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】
This course aims to enhance students' understanding of work-life balance by engaging with English readings and video clips. Through critical analysis of authentic materials, students will deepen their knowledge of the topic while simultaneously developing their English proficiency. The course focuses on improving a wide range of language skills, including listening comprehension, speaking fluency, and intensive reading. As the term progresses, students will expand their vocabulary, become familiar with useful phrases, and strengthen their ability to comprehend and analyze English reading and viewing materials. A variety of interactive tasks, such as oral communication, presentations, and collaborative pair and group activities, will provide opportunities to apply their learning in practical contexts.
The primary goals of this course are to help students understand and discuss the concept of work-life balance and to explore related social issues, including mental health, productivity, and workplace policies. By participating in class discussions and completing assignments, students will gain the confidence to express their ideas on these topics in English, both orally and in writing.
To prepare for each class, students are expected to read the assigned unit, watch relevant video materials, and complete reflective tasks. Active participation in class discussions and group work is essential for success in the course. By the end of the term, students will have improved their English proficiency while gaining valuable insights into work-life balance and its impact on society.
Final grade in the class will be decided based on the following.
Participation Portfolio: 20%, Quick-Write: 10%, Vocabulary Homework: 10%, Vocabulary Quiz: 15%, Speaking Task : 10%, Midterm Presentation: 15%, Final Presentation: 20%

LANe100JA（英語 / English language education 100）

英語１（C・J・Qクラス）

田高　信一

配当年次／単位数：**1年次／1単位**
備考（履修条件等）：**2020年度以前入学者のみ受講可能。クラス指定あり、指定されたクラスを登録すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ウェルビーイング(Well-being)の重要な指標の一つであるワークライフ・バランス(Work-life Balance)に関する様々な社会問題について英語で学び国際的な教養を深めつつ総合的な英語力を身に着ける。

【到達目標】
社会問題について英語で情報を適切に理解できる。
英語の情報を批判的にとらえることができる。
学んだ内容について英語で自分の意見や考えを伝えることができる。
英語の語彙力・読解力・表現力を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
指定テキストを用いて、ペアワーク・グループワークを積極的に取り入れながらアクティブラーニング形式での授業を行います。指定テキスト以外の教材をデータ上で使用してもらいます。そのため、各自でノートPCかタブレットを毎回の授業に持ってくるようにしてください。課題等に対するフィードバックについては，Google Classroomのコメント欄等で対応します。定期的にGoogle Classroomにアクセスし、教員からのフィードバックを確認するようにしてください。授業内でGoogle Classroomの使い方を説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	Course Orientation, Self-Introduction	授業の進め方、評価方法、指定テキストの使用法、授業内外での英語学習などについての説明
2回目	Course Orientation (continued)	授業の進め方、評価方法、指定テキストの使用法、授業内外での英語学習などについての説明
3回目	Textbook Unit 1	Work-Life Balance
4回目	Textbook Unit 2	Career Building
5回目	Textbook Unit 3	The Value of Rewards
6回目	Presentation Preparation	Prepare for Midterm Presentation
7回目	Midterm Presentation	Deliver a Presentation
8回目	Textbook Unit 4	Flexible Work Hours
9回目	Textbook Unit 5	Working Environment
10回目	Textbook Unit 6	Importance of Exercise
11回目	Textbook Unit 7	Burnout
12回目	Review Day	Review the textbook units
	Presentation Preparation	Prepare for Final Presentation
13回目	Final Presentation 1	Deliver a Presentation
14回目	Final Presentation 2	Deliver a Presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の予習・課題の時間は、各1.5時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『Work-Life Balance: Essential Insights and Practices/映像メディアで考えるワーク・ライフ・バランス』(2025) 松柏社.　[ISBN 978-4-7754-5002-4]

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
Participation Portfolio: 20%, Quick-Write: 10%, Vocabulary Homework: 10%, Vocabulary Quiz: 15%, Speaking Task : 10%, Midterm Presentation: 15%, Final Presentation: 20%

【学生の意見等からの気づき】
ペアワークやグループワークを多く取り入れ、楽しみながら英語をアウトプットしてもらう授業を展開していきます。

【学生が準備すべき機器他】
各自でノートPCかタブレットを毎回の授業に持ってくるようにしてください。

【その他の重要事項】
授業の展開によっては、上記の授業スケジュールは若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】
This course aims to enhance students' understanding of work-life balance by engaging with English readings and video clips. Through critical analysis of authentic materials, students will deepen their knowledge of the topic while simultaneously developing their English proficiency. The course focuses on improving a wide range of language skills, including listening comprehension, speaking fluency, and intensive reading. As the term progresses, students will expand their vocabulary, become familiar with useful phrases, and strengthen their ability to comprehend and analyze English reading and viewing materials. A variety of interactive tasks, such as oral communication, presentations, and collaborative pair and group activities, will provide opportunities to apply their learning in practical contexts.
The primary goals of this course are to help students understand and discuss the concept of work-life balance and to explore related social issues, including mental health, productivity, and workplace policies. By participating in class discussions and completing assignments, students will gain the confidence to express their ideas on these topics in English, both orally and in writing.
To prepare for each class, students are expected to read the assigned unit, watch relevant video materials, and complete reflective tasks. Active participation in class discussions and group work is essential for success in the course. By the end of the term, students will have improved their English proficiency while gaining valuable insights into work-life balance and its impact on society.
Final grade in the class will be decided based on the following.
Participation Portfolio: 20%, Quick-Write: 10%, Vocabulary Homework: 10%, Vocabulary Quiz: 15%, Speaking Task : 10%, Midterm Presentation: 15%, Final Presentation: 20%

LANe100JA（英語 / English language education 100）

英語３（K・O・Tクラス）

田高　信一

配当年次／単位数：**1年次／1単位**
備考（履修条件等）：**2020年度以前入学者のみ受講可能。クラス指定あり、指定されたクラスを登録すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基礎英語Aの授業内容を踏まえ、ウェルビーイング(Well-being)の重要な指標の一つであるワークライフ・バランス(Work-life Balance)に関する様々な社会問題について英語で学び国際的な教養を深めつつ総合的な英語力をさらに伸ばす。

【到達目標】
社会問題について英語で情報を適切に理解できる。
英語の情報を批判的にとらえることができる。
学んだ内容について英語で自分の意見や考えを伝えることができる。
高度な英語の語彙力・読解力・表現力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
指定テキストを用いて、ペアワーク・グループワークを積極的に取り入れながらアクティブラーニング形式での授業を行います。指定テキスト以外の教材をデータ上で使用してもらいます。そのため、各自でノートPCかタブレットを毎回の授業に持ってくるようにしてください。課題等に対するフィードバックについては，Google Classroomのコメント欄等で対応します。定期的にGoogle Classroomにアクセスし、教員からのフィードバックを確認するようにしてください。授業内でGoogle Classroomの使い方を説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	Course Orientation	授業の進め方、評価方法、指定テキストの使用法、授業内外での英語学習などについての説明
2回目	Textbook Unit 8	Rest and Relaxation
3回目	Textbook Unit 9	Off the Job Activities
4回目	Textbook Unit 10	Vacation
5回目	Textbook Unit 11	Changing Jobs
6回目	Presentation Preparation	Prepare for Midterm Presentation
7回目	Midterm Presentation	Deliver a Presentation
8回目	Textbook Unit 12	Basic Income
9回目	Textbook Unit 13	Career as Identity
10回目	Textbook Unit 14	Lifelong Career
11回目	Review Day	Review the textbook units
12回目	Final Presentation 1	Deliver a Presentation
13回目	Final Presentation 2	Deliver a Presentation
14回目	Review Day	Review the textbook units

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の予習・課題の時間は、各1.5時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『Work-Life Balance: Essential Insights and Practices/映像メディアで考えるワーク・ライフ・バランス』(2025) 松柏社.　[ISBN 978-4-7754-5002-4]

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
Participation Portfolio: 20%, Quick-Write: 10%, Vocabulary Homework: 10%, Vocabulary Quiz: 15%, Speaking Task : 10%, Midterm Presentation: 15%, Final Presentation: 20%

【学生の意見等からの気づき】
ペアワークやグループワークを多く取り入れ、楽しみながら英語をアウトプットしてもらう授業を展開していきます。

【学生が準備すべき機器他】
各自でノートPCかタブレットを毎回の授業に持ってくるようにしてください。

【その他の重要事項】
授業の展開によっては、上記の授業スケジュールは若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】
This course builds upon the foundation established in Basic English A, further enhancing students' understanding of work-life balance through engagement with English readings and video clips. Students will continue to develop their proficiency in listening comprehension, speaking fluency, and intensive reading. As the term progresses, they will expand their vocabulary, refine their analytical skills, and strengthen their ability to comprehend and analyze English reading and viewing materials. Interactive tasks, including oral communication, presentations, and collaborative pair and group activities, will provide opportunities to apply their learning in practical contexts, building on the skills acquired in Basic English A.
The primary goals of this course are to reinforce students' understanding of work-life balance and to explore new aspects of related social issues. By participating in class discussions and completing assignments, students will further enhance their ability to express their ideas on these topics in English, both orally and in writing. The course encourages students to apply the language skills and knowledge gained in Basic English A to engage with more complex materials and discussions.
To prepare for each class, students are expected to read the assigned unit, watch relevant video materials, and complete reflective tasks. Active participation in class discussions and group work is essential for success in the course. By the end of the term, students will have refined their English proficiency while gaining deeper insights into work-life balance and its broader implications.
Final grade in the class will be decided based on the following.
Participation Portfolio: 20%, Quick-Write: 10%, Vocabulary Homework: 10%, Vocabulary Quiz: 15%, Speaking Task : 10%, Midterm Presentation: 15%, Final Presentation: 20%

LANe100JA（英語 / English language education 100）

英語３（C・J・Qクラス）

田高　信一

配当年次／単位数：**1年次／1単位**
備考（履修条件等）：**2020年度以前入学者のみ受講可能。クラス指定あり、指定されたクラスを登録すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基礎英語Aの授業内容を踏まえ、ウェルビーイング(Well-being)の重要な指標の一つであるワークライフ・バランス(Work-life Balance)に関する様々な社会問題について英語で学び国際的な教養を深めつつ総合的な英語力をさらに伸ばす。

【到達目標】
社会問題について英語で情報を適切に理解できる。
英語の情報を批判的にとらえることができる。
学んだ内容について英語で自分の意見や考えを伝えることができる。
高度な英語の語彙力・読解力・表現力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
指定テキストを用いて、ペアワーク・グループワークを積極的に取り入れながらアクティブラーニング形式での授業を行います。指定テキスト以外の教材をデータ上で使用してもらいます。そのため、各自でノートPCかタブレットを毎回の授業に持ってくるようにしてください。課題等に対するフィードバックについては，Google Classroomのコメント欄等で対応します。定期的にGoogle Classroomにアクセスし、教員からのフィードバックを確認するようにしてください。授業内でGoogle Classroomの使い方を説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	Course Orientation	授業の進め方、評価方法、指定テキストの使用法、授業内外での英語学習などについての説明
2回目	Textbook Unit 8	Rest and Relaxation
3回目	Textbook Unit 9	Off the Job Activities
4回目	Textbook Unit 10	Vacation
5回目	Textbook Unit 11	Changing Jobs
6回目	Presentation Preparation	Prepare for Midterm Presentation
7回目	Midterm Presentation	Deliver a Presentation
8回目	Textbook Unit 12	Basic Income
9回目	Textbook Unit 13	Career as Identity
10回目	Textbook Unit 14	Lifelong Career
11回目	Review Day	Review the textbook units
12回目	Final Presentation 1	Deliver a Presentation
13回目	Final Presentation 2	Deliver a Presentation
14回目	Review Day	Review the textbook units

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の予習・課題の時間は、各1.5時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『Work-Life Balance: Essential Insights and Practices/映像メディアで考えるワーク・ライフ・バランス』(2025) 松柏社.　[ISBN 978-4-7754-5002-4]

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
Participation Portfolio: 20%, Quick-Write: 10%, Vocabulary Homework: 10%, Vocabulary Quiz: 15%, Speaking Task : 10%, Midterm Presentation: 15%, Final Presentation: 20%

【学生の意見等からの気づき】
ペアワークやグループワークを多く取り入れ、楽しみながら英語をアウトプットしてもらう授業を展開していきます。

【学生が準備すべき機器他】
各自でノートPCかタブレットを毎回の授業に持ってくるようにしてください。

【その他の重要事項】
授業の展開によっては、上記の授業スケジュールは若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】
This course builds upon the foundation established in Basic English A, further enhancing students' understanding of work-life balance through engagement with English readings and video clips. Students will continue to develop their proficiency in listening comprehension, speaking fluency, and intensive reading. As the term progresses, they will expand their vocabulary, refine their analytical skills, and strengthen their ability to comprehend and analyze English reading and viewing materials. Interactive tasks, including oral communication, presentations, and collaborative pair and group activities, will provide opportunities to apply their learning in practical contexts, building on the skills acquired in Basic English A.
The primary goals of this course are to reinforce students' understanding of work-life balance and to explore new aspects of related social issues. By participating in class discussions and completing assignments, students will further enhance their ability to express their ideas on these topics in English, both orally and in writing. The course encourages students to apply the language skills and knowledge gained in Basic English A to engage with more complex materials and discussions.
To prepare for each class, students are expected to read the assigned unit, watch relevant video materials, and complete reflective tasks. Active participation in class discussions and group work is essential for success in the course. By the end of the term, students will have refined their English proficiency while gaining deeper insights into work-life balance and its broader implications.
Final grade in the class will be decided based on the following.
Participation Portfolio: 20%, Quick-Write: 10%, Vocabulary Homework: 10%, Vocabulary Quiz: 15%, Speaking Task : 10%, Midterm Presentation: 15%, Final Presentation: 20%

LANe200JA（英語 / English language education 200）

英語７（英文講読入門）

相馬　美明

配当年次／単位数：2年次／1単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者のみ受講可能。クラス指定あり、指定されたクラスを登録すること。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常生活のいろいろな場面において実践的英語能力を向上させることを目的とする。読解のみならず、リスニングの問題に加え，毎回，映画・音楽など多岐にわたる生の英語に触れながら聴解力も高めていく。

【到達目標】
基礎的な文法などを確認しながら読解能力を養う。また、最終的に自らの考えを自らのことばで伝えることを学ぶ。同時に、他の学生の考えを聞き理解する能力を培うとともに，意見を交換する場を多く持ち，コミュニケーション能力の向上に努める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
いろいろな場面において使われるネイティブ・スピーカーの英語に充分慣れる。多くの練習問題を通して，おおよその内容が理解できるようにする。リスニング能力の増強のために，穴埋めや書き取り，インフォーメーション・ギャップや要約などの練習を行う。
リスニング・スピーキングに上達するには毎日の練習が必要である。授業中の練習に加え教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い，授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	イントロダクション 授業の趣旨、進め方を理解する。	イントロダクション、授業計画、諸注意など
(2)	What is a good college?	Exercise 2, < True or False questions> , Film ①
(3)	ひとつの単語に集中することを覚える	Film ①〜②, Your Song < Background of the singer> , Questions
(4)	A sense of humour.	Exercise 3, Chimpanzee, < True or False questions> , Film ③
(5)	A sense of humour. June bride or rainy season bride.	Exercise 3, Film ③〜④, Exercise 4,
(6)	聞こえたままに音をつくる	Film ④〜⑤, Top of the world < Background of the singer> , Questions
(7)	区切れを意識して書き取る June bride or rainy season bride.	Exercise 4, Halloween < True or False questions> , Film ⑤〜⑥
(8)	つながりでとらえる, Culture in our lives.	Exercise 6, A certain story < True or False questions> , Film ⑦
(9)	全体の流れを把握する。レポート指示, Culture in our lives.	Exercise 6, Film ⑧, レポート指示
(10)	一度に聞き取れる量を増やす, Human creativity.	Exercise 8, The sound of silence < Background of the singer> , Film ⑧〜⑨
(11)	一語から二語へ、二語から三語へ, Human creativity.	Exercise 8, Film ⑨
(12)	瞬時に聞き取る	Film ⑨〜⑩, Exercise 8
(13)	重要なことば、キーワードを聞き取る	Exercise,　まとめ, レポート提出
(14)	まとめ　既習学習事項確認	Film まとめ、リスニングの最終確認、

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で学習した表現の反復練習のみならず、授業外では英語でニュースを聞いたり、また字幕なしで映画をみるなど、普段の生活においても意識的に英語に触れ、関心を深めてもらいたい。またそのことを通じ、自信をつけてもらいたいと考える。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間半を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定せず、毎回プリントを使用する。

【参考書】
必要に応じ適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験（50％），レポート（10％），平常点（40％），それらを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生をどのようにしてやる気にさせるか、われわれ教員はつねにそれを試されているように思う。学生を通じ学ぶことは実に多い。少しでも彼らの望むものに応えられる授業となるよう努力していきたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Basic English grammar, vocabulary, and conversational expressions will be very helpful to communicate with each other and at the same time essential when writing, speaking and of course listening.
【Learning Objectives】
Students will be able to read analytically and think critically at a high level and demonstrate the ability to transfer critical thinking skills to the interpretation and analysis of ideas encountered in academic reading.　Through read-out-loud activities, students are expected to improve overall reading comprehension.
【Grading Criteria /Policy】
Active participation（40%）, examination（50%）, assignments &presentation（10%） will be totally evaluated.
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom: one and a half hours. Comments upon the details about the textbook, attendance rule, evaluation and so on will be made at the first class of this semester. Attendance is mandatory, and students will be expected to attend every class and hopefully enjoy their own activities. Great joy is only earned by great exertion!

LANe200JA（英語 / English language education 200）

英語７（ビジネス英語入門）

松下　晴彦

配当年次／単位数：**2年次／1単位**
備考（履修条件等）：**2020年度以前入学者のみ受講可能。クラス指定あり、指定されたクラスを登録すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間関係を築く上で必要とされるコミュニケーションの上手な取り方を習得し、国際ビジネスで使われる丁寧な英語を身につけることを目標としている。テキストでは会話表現、電子メール、ビジネスマナーを学ぶ。

【到達目標】
学生は、ビジネスに相応しい上品な英語を使うことができる。
国際的なビジネスマナーを身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
ビジネスの場面にふさわしい英語、大人らしい英語を学習していく。テキスト・プリントにて基本的なビジネス英語を学び、演習を行っていく。英語力の定着を目指し、復習の小テストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要説明
2	Unit 1	Introducing Yourself
3	Unit 2	Introducing Companies
4	Unit 3	Explaining Your Role
5	Unit 4	Introducing Products
6	Unit 5	Checking Information
7	Unit 6	Giving Your Opinion
8	Unit 7	Making Requests
9	Unit 8	Asking Permission
10	Unit 9	Making Invitations
11	Unit 10	Making Appointments
12	Unit 11	Canceling and Rescheduling
13	Unit 12	Describing Locations
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。
毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『Go Global』Garry Pearson （成美堂:2019）税別：2,400円

【参考書】
『敬語の英語』デイヴィッド・セイン他（ジャパンタイムズ）
『敬語の英語:実践編』デイヴィッド・セイン他（ジャパンタイムズ）
『スーパーアンカー和英辞典』（学研）を自習用の辞典としてお薦めする。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度：30％
授業内小テスト：30％
定期試験：40％
これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】
「実用的な英語が学べた」「楽しかった」との意見があった。今後も実用的な英語が楽しく学べるように努力していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システム。

【その他の重要事項】
授業の展開によって，若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】
Course outline: This course deals with business English and business manners.
Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to use business English and acquire knowledge and awareness of business culture.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.
Grading Criteria: Final grade will be calculated based on Classwork 30%, Quizzes 30%and Final Examination 40%.

LANe200JA（英語 / English language education 200）

英語７（ライティング入門）

田高　信一

配当年次／単位数：**2年次／1単位**
備考（履修条件等）：**2020年度以前入学者のみ受講可能。クラス指定あり、指定されたクラスを登録すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語でパラグラフを作成するために必要な知識とスキルの獲得を目指す。Process approachでパラグラフを書くために必要なステップを学ぶ。具体的にはトピックの選び方、ブレインストーミングの手法、topic sentenceやsupporting sentenceの書き方、ドラフトの書き方、フィードバックの与え方、ドラフトの修正の仕方などを習得する。また、良い英文を書くために必要な文法知識の定着も図る。

【到達目標】
・授業の予習、復習、ライティング課題を通して、以下のアカデミックライティングの基礎を身につける。
1. モデルパラグラフを正しく分析できる。
2. ライティングに必要なアイディアを創出することができる。
3. 自分の考えをまとめて文章にすることができる。
4. 文章をパラグラフへと発展させることができる。
5. 自分で作成したパラグラフを丁寧に見直すことができる。
6. 自分で作成したパラグラフを修正し、より良いパラグラフを作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
指定テキストを用いて、ペアワーク・グループワークを積極的に取り入れながらアクティブラーニング形式での授業を行います。 授業中にノートPCかタブレットを用いて作業を行います。毎回の授業に必ずデバイス（ノートPCかタブレット）を持参してください。課題等に対するフィードバックについては，Google Classroom のコメント欄等で対応します。定期的にGoogle Classroom にアクセスし、教員からのフィードバックを確認するようにしてください。授業内で Google Classroom の使い方を説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Orientation, Self-Introduction	授業の進め方、評価方法、指定テキストの使用法、授業内外での英語学習などについての説明
2	Textbook Unit 1 Beginning to Work	Recognizing and writing complete sentences
3	Textbook Unit 1 Beginning to Work (continued)	Identifying strong and weak paragraphs
4	Textbook Unit 2 Gifts	Identifying topics and main ideas
5	Textbook Unit 2 Gifts (continued)	Using commas in sentences with and and but
6	Textbook Unit 3 An Interesting Place	Developing paragraphs with descriptive details
7	Textbook Unit 3 An Interesting Place (continued)	Writing about places
8	Textbook Unit 4 An Exceptional Person	Using word maps to brainstorm
9	Textbook Unit 4 An Exceptional Person (continued)	Writing about people
10	Textbook Unit 5 Trends and Fads	Review of descriptive vocabulary
11	Textbook Unit 5 Trends and Fads (continued)	Writing about a trend
12	Textbook Unit 6 Fact or Fiction	Opinions and examples in supporting sentences
13	Textbook Unit 6 Fact or Fiction (Continued) Review	Writing about your opinions
14	Final Exam Homework Feedback Review (Units 1–6)	Exam, Summary, and Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の予習・課題の時間は、各 1.5 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
書名： Writing Paragraphs from Topic to Paragraph (2nd Edition)
出版年：2020
著者：Dorothy Zemach &Carlos Islam
出版社：Macmillan Education

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
Participation: 10%, Quick-Write: 10%, Vocabulary: 10%, Major Writing Assignments: 40%, Final Exam: 30%

【学生の意見等からの気づき】
ペアワークを多く取り入れ、フィードバックを丁寧に行い、アクティブラーニングの手法で楽しみながらacademic writingを学べる授業を展開していきます。

【学生が準備すべき機器他】
各自でノートPCかタブレットを毎回の授業に持ってくるようにしてください。

【その他の重要事項】
授業の展開によっては、上記の授業スケジュールは若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】
This is a once-a-week English course where students learn how to write clear sentences and paragraphs in English.
The objective of this course is to deepen students' knowledge about academic writing and develop students' writing skills with improved accuracy, fluency and confidence.
After completing the course, students will be able to:
1. analyze model paragraphs
2. find ideas for their writing
3. put their ideas into sentences
4. organize their sentences into paragraphs
5. review their paragraphs
6. revise their paragraphs again so that they become even stronger
Students will be expected to have completed textbook exercises before class and the required assignments after class. Students should expect 1.5 hours or more of homework and study time outside class.
Final grade in the class will be decided based on the following.
Participation: 10%, Quick-Write: 10%, Vocabulary: 10%, Major Writing Assignments: 40%, Final Exam: 30%

LANe200JA（英語 / English language education 200）

英語８（英文講読）

相馬　美明

配当年次／単位数：**2年次／1単位**
備考（履修条件等）：**2020年度以前入学者のみ受講可能。クラス指定あり、指定されたクラスを登録すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまなトピックについて読み進めることを通じ、英語を英語のまま理解する感覚を身につける。加えて、それらのトピックスから、さらなる国際理解を深めていきたいと考える。

【到達目標】
精読、多読の両面から、短時間で確実に英文を読み取る能力を養うこと。また、複雑な英文を読み解くことを通じ、さらなる自信をつけていくこと。要は、自分がどれくらい伸びたかである。その点では、なにより学生のやる気が大切となろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、学生の理解度を主体に進めていきたいと考える。基本的にテキストに沿って進められるが、学生の理解度、興味に応じて斟酌したい。学生の興味のわきそうなトピックをさまざま扱っていく予定である。また、課題に対するフィードバックとしては、授業内における口頭コメント、もしくは文書による提出物へのコメントを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	イントロダクション、授業計画、諸注意など
第二回	Unit1 What's So Funny?	Unit1, TOEFL Exercise 1 PART A, Film ①
第三回	Unit1, 2 Eureka	Unit1 Practices, Film ①〜②, We're All Alone. (Background of the singer), Unit2
第四回	Unit2, 3 The Super-rich	Unit2 Practices, TOEFL Exercise 2 PART B, Chimpanzee, Film ③ Unit3
第五回	Unit3, 4 Will You Be My Robot?	Unit3 Practices, TOEFL Exercise 3 PART C, Film ③〜④, Unit4
第六回	Unit4,	Unit4 Practices, Film ④〜⑤, Sound of Silence.(Background of the singer)
第七回	Unit5, Brainpower	Unit5, TOEFL Exercise PART A, Halloween
第八回	Unit5, 6 What's Romantic Love got to do with it?	Unit5 Practices, TOEFL Exercise 5 PART B, A certain story, Film ⑦, Unit6
第九回	Unit6 What's Romantic Love got to do with it?	Unit6 Practices, TOEFL Exercise 6 PART C, Film ⑧, レポート内容説明、指示
第十回	Unit7 Feelings... oh, oh, oh!	Unit7, TOEFL Exercise 7, PART A, The sound of silence (Background of the singer), Film ⑧〜⑨
第十一回	Unit7, 8 Bad Guys	Unit 7 Practices, TOEFL Exercise 8 PART B, Film ⑨, Unit8
第十二回	Unit8, Bad Guys	Unit8 Practices, TOEFL Exercise 9 PART C, Film ⑨〜⑩, Unit8
第十三回	Unit8,	Film まとめ、テキストの最終確認、レポート提出
第十四回	既習事項確認、試験	学期末まとめ、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の予習は必須であり、また出席についても基本的に全出席が原則となる。学生は自らの無限の可能性を信じ、授業に臨んでもらいたい。本授業における準備・復習時間は各1時間半を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Wayne I. Phillips /Yoshiaki Soma,『Eureka』(Asahi Press),　およびプリント使用。

【参考書】
必要に応じ、適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
定期試験（60％），レポート（10％），平常点（20％），発表点（10％）など、それらを総合的に評価する。懸命に努力する姿を評価したい。
出席・平常点：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
学期末試験：必ず受験すること。
レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
学生の発する「わからない」こそ、学生からの大切なメッセージであり、教員はこれを真摯に受け止め、対処していかなければならないと感じている。また、このメッセージを忌憚なく発せられる雰囲気作りにも配慮がなされるべきであろうと考える。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Basic English grammar, vocabulary, and conversational expressions will be very helpful to communicate with each other and at the same time essential when writing, speaking and of course listening.
【Learning Objectives】
Students will be able to read analytically and think critically at a high level and demonstrate the ability to transfer critical thinking skills to the interpretation and analysis of ideas encountered in academic reading.　Through read-out-loud activities, students are expected to improve overall reading comprehension.
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom: one and a half hours.
Comments upon the details about the textbook, attendance rule, evaluation and so on will be made at the first class of this semester. Attendance is mandatory, and students will be expected to attend every class and hopefully enjoy their own activities. Great joy is only earned by great exertion!
【Grading Criteria /Policy】
Active participation（20%), examination （60%）, assignments（10%）, presentation （10%） will be totally evaluated.

LANe200JA（英語 / English language education 200）

英語８（ビジネス英語）

松下　晴彦

配当年次／単位数：**2年次／1単位**
備考（履修条件等）：**2020年度以前入学者のみ受講可能。クラス指定あり、指定されたクラスを登録すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際ビジネスで使われる英語を身につけることを目標としている。
主に大人らしい上品な会話表現を習得する。
あわせて国際的なビジネスマナーも学ぶ。

【到達目標】
学生は、ビジネスに相応しい大人の英語を使うことができる。
国際的なビジネスマナーを身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
ビジネス英語といっても特別な英語を使うのではなく、場面にふさわしい英語、大人らしい英語を学習していく。テキスト・プリントにて基本的なビジネス英語を学び、演習を行っていく。
英語力の定着を目指し、復習の小テストを行う。
毎回、リアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Lesson 1	Meeting for the First Time
2	Lesson 2	Welcoming a Newcomer
3	Lesson 3	Telephone Communication
4	Lesson 4	Office Issues
5	Lesson 5	Arranging a Meeting
6	Lesson 6	Video Conferencing
7	Lesson 7	Review 1
8	Lesson 8	Job Interviews
9	Lesson 9	Traveling on Business
10	Lesson 10	Receiving Overseas Visitors
11	Lesson 11	Meeting with Clients
12	Lesson 12	Negotiations
13	Lesson 13	Giving Presentations
14	試験・まとめと解説	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。
毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『English for the Global Workplace』塩見佳代子（成美堂）税込：2,860円

【参考書】
『敬語の英語』デイヴィッド・セイン他（ジャパンタイムズ）
『敬語の英語:実践編』デイヴィッド・セイン他（ジャパンタイムズ）
『スーパーアンカー和英辞典』（学研）を自習用の辞典としてお薦めする。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度：30％
授業内小テスト：30％
定期試験：40％
これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】
「実用的な英語が学べた」「楽しかった」との意見があった。今後も実用的な英語が楽しく学べるように努力していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム。

【その他の重要事項】
授業の展開によって，若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】
Course outline: This course deals with business English and business manners.
Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to use business English and acquire knowledge and awareness of business culture.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.
Grading Criteria: Final grade will be calculated based on Classwork 30%, Quizzes 30%and Final Examination 40%.

LANe200JA（英語 / English language education 200）

英語８（ライティング）

田高　信一

配当年次／単位数：**2年次／1単位**
備考（履修条件等）：**2020年度以前入学者のみ受講可能。クラス指定あり、指定されたクラスを登録すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語でパラグラフを作成するために必要な知識とスキルの獲得を目指す。Process approachでパラグラフを書くために必要なステップを学ぶ。具体的にはトピックの選び方、ブレインストーミングの手法、topic sentenceやsupporting sentenceの書き方、ドラフトの書き方、フィードバックの与え方、ドラフトの修正の仕方などを習得する。また、良い英文を書くために必要な文法知識の定着も図る。秋学期に開講される本授業では教科書の後半部分を使用する。したがって，春学期に発展英語A（ライティング）を履修していることが望ましい。

【到達目標】
・授業の予習、復習、ライティング課題を通して、以下のアカデミックライティングの基礎を身につける。
1. モデルパラグラフを正しく分析できる。
2. ライティングに必要なアイディアを創出することができる。
3. 自分の考えをまとめて文章にすることができる。
4. 文章をパラグラフへと発展させることができる。
5. 自分で作成したパラグラフを丁寧に見直すことができる。
6. 自分で作成したパラグラフを修正し、より良いパラグラフを作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
指定テキストを用いて、ペアワーク・グループワークを積極的に取り入れながらアクティブラーニング形式での授業を行います。 授業中にノートPCかタブレットを用いて作業を行います。毎回の授業に必ずデバイス（ノートPCかタブレット）を持参してください。課題等に対するフィードバックについては，Google Classroom のコメント欄等で対応します。定期的にGoogle Classroom にアクセスし、教員からのフィードバックを確認するようにしてください。授業内で Google Classroom の使い方を説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Orientation, Self-Introduction	授業の進め方、評価方法、指定テキストの使用法、授業内外での英語学習などについての説明
2	Textbook Unit 7 Explanations and Excuses	Paragraphs explaining cause and effect/result
3	Textbook Unit 7 Explanations and Excuses (continued)	Writing about explanations and excuses
4	Textbook Unit 8 Problems and Challenges	Expressing personal feelings about problems
5	Textbook Unit 8 Problems and Challenges (continued)	Writing about problems or difficulties
6	Textbook Unit 9 Strange Stories	Using time expressions: offer, before, and when
7	Textbook Unit 9 Strange Stories (continued)	Writing about interesting or unusual experiences
8	Textbook Unit 10 Differences	Using double lists to brainstorm
9	Textbook Unit 10 Differences (continued)	Writing about life changes
10	Textbook Unit 11 Difficult Decisions	Writing about cause and effect relationships
11	Textbook Unit 11 Difficult Decisions (continued)	Writing about a difficult decision
12	Textbook Unit 12 Fate or Choice	Writing about hopes and plans for the future
13	Textbook Unit 12 Fate or Choice (continued) Review	Writing about the future
14	Final Exam Homework Feedback Review (Units 1–6)	Exam, Summary, and Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の予習・課題の時間は、各 1.5 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
書名： Writing Paragraphs from Topic to Paragraph (2nd Edition)
出版年：2020
著者：Dorothy Zemach &Carlos Islam
出版社：Macmillan Education

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
Participation: 10%, Quick-Write: 10%, Vocabulary: 10%, Major Writing Assignments: 40%, Final Exam: 30%

【学生の意見等からの気づき】
ペアワークを多く取り入れ、フィードバックを丁寧に行い、アクティブラーニングの手法で楽しみながらacademic writingを学べる授業を展開していきます。

【学生が準備すべき機器他】
各自でノートPCかタブレットを毎回の授業に持ってくるようにしてください。

【その他の重要事項】
授業の展開によっては、上記の授業スケジュールは若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】
This is a once-a-week English course where students learn how to write clear sentences and paragraphs in English.
The objective of this course is to deepen students' knowledge about academic writing and develop students' writing skills with improved accuracy, fluency and confidence.
After completing the course, students will be able to:
1. analyze model paragraphs
2. find ideas for their writing
3. put their ideas into sentences
4. organize their sentences into paragraphs
5. review their paragraphs
6. revise their paragraphs again so that they become even stronger
Students will be expected to have completed textbook exercises before class and the required assignments after class. Students should expect 1.5 hours or more of homework and study time outside class.
Final grade in the class will be decided based on the following.

Participation: 10%, Quick-Write: 10%, Vocabulary: 10%, Major Writing Assignments: 40%, Final Exam: 30%

LANe100JA（英語 / English language education 100）

英語５

相馬　美明

配当年次／単位数：**１年次／１単位**
備考（履修条件等）：**2020年度以前入学者のみ受講可能。クラス指定あり、指定されたクラスを登録すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史、環境問題、文化、サイエンスなど、世界のさまざまな分野における時事問題の読解を基軸とし、国際情勢などについて自らトピックを見い出し考察することを目的とする。加えて、映像教材を通じ、日常生活のさまざまな場面における実践的英語コミュニケーション能力を養成する。

【到達目標】
テクストの英文を通じ、英語の文法、構成、流れなどを意識しつつ、スピードを上げて読むことに慣れる。同時に、英文のキーセンテンスを瞬時に見極める能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
テクストの読解については、つねに要約すること、要点をまとめる意識をもって読んでほしい。授業ではテクストの英文の読解に加え、毎回ビデオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現にも触れ、リスニング、ディクテーション、スピーキング、読解などのいわゆる英語のフォー・スキルズを高めていく。毎回ご提出いただいたサマリ（要約）をこちらで添削し、次回の授業時にコメントともに返却していく形で進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、年間計画、諸注意など	イントロダクション、年間計画、諸注意など
2	Food and Health 1A. Sweet Love	Unit 1A, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ①
3	Food and Health 1B. Food for the Future	Unit 1B, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ①, ②
4	Call of the Wild 2A. Song of the Humpback	Unit 2A, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ②
5	Call of the Wild 2B. Dogs in a Human World	Unit 2B, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ③
6	History Detectives 3A. Was King Tut Murdered?	Unit 3A, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ③, ④
7	History Detectives 3B. Who killed the Iceman?	Unit 3B, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ④
8	Traditions and Rituals 4A. Living treasures	Unit 4A, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ④, ⑤
9	Traditions and Rituals 4B. The Changing Face of Kung Fu. レポート内容説明、指示	Unit 4B, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ⑤, レポート内容説明、指示
10	Finding Wonders 5A. The Secrets in the Sand	Unit 5A, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ⑥
11	Finding Wonders 5B. The Stories in the Rocks	Unit 5B, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ⑥, ⑦
12	Reef Encounters 6A. Cities Beneath the sea	Unit 6A, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ⑧
13	Reef Encounters 6B. The Truth about Great Whites, Film まとめ	Unit 6B, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ⑨, レポート提出
14	まとめ、リスニングの最終確認	まとめ、リスニングの最終確認、

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の予習は絶対条件となる。地味な努力を続けることで自信をつけてもらいたい。テクストの読解については、つねに要約できる能力について意識しつつ読んでほしい。また、リスニング・スピーキングの上達には、毎日の練習が肝要である。授業中の練習に加え、教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い、授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むことが要求される。準備学習・復習・宿題などに1時間半以上を期待している。

【テキスト（教科書）】
Reading Explorer 2 (Third Edition)/CENGAGE Learning

【参考書】
必要に応じ、適宜、指示する

【成績評価の方法と基準】
定期試験（20％），レポート（10％），平常点（60％），プレゼンテーション（10％）それらを総合的に評価する。また、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
平常点：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
学期末試験：必ず受験すること。
レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。
プレゼンテイション：積極的に話し、聞き、発表することを評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の発する「わからない」こそ、学生からの大切なメッセージであり、教員はこれを真摯に受け止め、対処していかなければならないと感じている。また、このメッセージを忌憚なく発せられる雰囲気作りにも配慮がなされるべきであろうと考える。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Through read-out-loud activities, students are expected to improve overall reading comprehension. Basic English grammar, vocabulary, and conversational expressions will be very helpful to communicate with each other, and at the same time essential when writing, speaking and of course listening.
【Learning Objectives】
Students will be able to read analytically and think critically at a high level and demonstrate the ability to transfer critical thinking skills to the interpretation and analysis of ideas encountered in academic reading. Through read-out-loud activities, students are expected to improve overall reading comprehension.
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom: one and a half hours. Comments upon the details about the textbook, attendance rule, evaluation and so on will be made at the first class of this semester. Attendance is mandatory, and students will be expected to attend every class and hopefully enjoy their own activities. Great joy is only earned by great exertion!

【Grading Criteria /Policy】
Active participation（60%）, examination（20%）, assignments &presentation （20%） will be totally evaluated.

LANe200JA（英語 / English language education 200）

英語１０

相馬　美明

配当年次／単位数：3年次／1単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者のみ受講可能。クラス指定あり、指定されたクラスを登録すること。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史、環境問題、文化、サイエンスなど、世界のさまざまな分野における時事問題の読解を基軸とし、国際情勢などについて自らトピックを見い出し考察することを目的とする。加えて、映像教材を通じ、日常生活のさまざまな場面における実践的英語コミュニケーション能力を養成する。

【到達目標】
テクストの英文を通じ、英語の文法、構成、流れなどを意識しつつ、スピードを上げて読むことに慣れる。同時に、英文のキーセンテンスを瞬時に見極める能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
テクストの読解については、つねに要約すること、要点をまとめる意識をもって読んでほしい。授業ではテクストの英文の読解に加え、毎回ビデオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現にも触れ、リスニング、ディクテーション、スピーキング、読解などのいわゆる英語のフォー・スキルズを高めていく。毎回ご提出いただいたサマリ（要約）をこちらで添削し、次回の授業時にコメントともに返却していく形で進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、秋学期予定、諸注意など	イントロダクション、秋学期計画、諸注意など。 リスニング、Wedding Ceremony Expenses, Just the Way You Are
2	Dollars and Scents 7A. The Flower Trade	Unit 7A, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ①
3	Dollars and Scents 7B. The Power of Perfume	Unit 7B, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ①, ②
4	Great Explorers 8A. An Incredible Journey	Unit 8A, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ②
5	Great Explorers 8B. The Travels of Ibn Battuta	Unit 8B, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ③
6	Identity 9A. The Teenage Brain	Unit 9A, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ③, ④
7	Identity 9B. Seeing Double	Unit 9B, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ④
8	Facing Change 10A. The Big Thaw	Unit 10A, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ④, ⑤
9	Facing Change 10B. Life on the Edge レポート内容説明、指示	Unit 10B, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ⑤, レポート内容説明、指示
10	Fact or Fake? 11A. The Knowledge Illusion	Unit 11A, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ⑥
11	Fact or Fake? 11B. The Limits of Lying	Unit 11B, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ⑥
12	Going to Extremes 12A. The Dream of Flight	Unit 12A, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ⑦
13	Going to Extremes 12B. Dark Descent, Film まとめ	Unit 6B, Reading Comprehension, Vocabulary Practice, Film ⑦,レポート提出
14	まとめ、リスニングの最終確認	まとめ、リスニングの最終確認、

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の予習は絶対条件となる。地味な努力を続けることで自信をつけてもらいたい。テクストの読解については、つねに要約できる能力について意識しつつ読んでほしい。また、リスニング・スピーキングの上達には、毎日の練習が肝要である。授業中の練習に加え、教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い、授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むことが要求される。準備学習・復習・宿題などに1時間半以上を期待している。

【テキスト（教科書）】
Reading Explorer 2 (Third Edition)/CENGAGE Learning

【参考書】
必要に応じ、適宜、指示する

【成績評価の方法と基準】
定期試験（20％），レポート（10％），平常点（60％），プレゼンテーション（10％）それらを総合的に評価する。また、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
平常点：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。
学期末試験：必ず受験すること。
レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。
プレゼンテイション：積極的に話し、聞き、発表することを評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の発する「わからない」こそ、学生からの大切なメッセージであり、教員はこれを真摯に受け止め、対処していかなければならないと感じている。また、このメッセージを忌憚なく発せられる雰囲気作りにも配慮がなされるべきであろうと考える。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Through read-out-loud activities, students are expected to improve overall reading comprehension. Basic English grammar, vocabulary, and conversational expressions will be very helpful to communicate with each other, and at the same time essential when writing, speaking and of course listening.
【Learning Objectives】
Students will be able to read analytically and think critically at a high level and demonstrate the ability to transfer critical thinking skills to the interpretation and analysis of ideas encountered in academic reading. Through read-out-loud activities, students are expected to improve overall reading comprehension.
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom: one and a half hours.
Comments upon the details about the textbook, attendance rule, evaluation and so on will be made at the first class of this semester. Attendance is mandatory, and students will be expected to attend every class and hopefully enjoy their own activities. Great joy is only earned by great exertion!
【Grading Criteria /Policy】

Active participation（60%）, examination（20%）, assignments &presentation （20%） will be totally evaluated.

LANx100JA（その他の言語 / Foreign language education 100）

日本手話１Ａ

宮本　一郎

配当年次／単位数：**1〜4年次／1単位**
備考（履修条件等）：**抽選科目。抽選に当選した場合同一曜日・時限の日本手話１Ｂに自動登録となる。同一名称科目については1クラスのみ履修可能。2021年度以降入学者は科目名称・授業コードが異なる（日本手話言語1A／N0601）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本手話の文法に則った自己紹介を習得し、講師及び履修生同士のコミュニケーションができるようにします。
他に、ろう社会の文化や歴史などを学びます。

【到達目標】
数字と指文字の表現、読取りができる。
自己紹介（名前、学籍番号、住まい、趣味、家族）を表現できる。
手話での質問を読み取って、手話で回答できる。
ろう文化について、生活行動に関する知識を得て、理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
手話は視覚言語ですので、終始、講師を見ながら学びます。
基本的に音声なしですが、内容によって、音声付きで進めることがあります。
指差しや呼びかけなど、ろう文化特有の行動に慣れてもらいます。
読取りの確認のため、小テストを行うことがありますが、成績に関わりません。
オンライン授業の場合、全員顔出しで進めます。
各自の動画を提出することがあります。Google Classroomを使います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	・指さし ・Yes/No ・肩たたき ・視線	ろう者とのコミュニケーションを理解する。
2	・手話の楽しさ	音声言語と異なることを学び、手話の世界を知る。
3	・身振り	表現のイメージを作って、相手へ伝えてみる。
4	・自己紹介（１） ・指文字、数字の習得	・「初めまして」「私は〜と申します」を覚える。 ・指文字と数字を覚える。
5	・自己紹介（２） ・名前と学籍番号の習得	・名前の指文字、学籍番号を覚える。 ・ろう者の会話に関する知識を学ぶ。
6	・自己紹介（３） ・住まい、家族の習得 ・５Ｗ１Ｈを習得	・名前の手話を覚える。 ・住まい、家族、誕生日に関する手話を覚える。 ・５Ｗ１Ｈの表現を覚える。
7	・自己紹介（４） ・趣味の習得	・趣味の手話を覚える。 ・５Ｗ１Ｈを使って会話をする。
8	・自己紹介（５） ・通学方法を習得	・交通機関などの手話を覚える。 ・通学方法、時間の会話をする。
9	・感情の表現	・感情の手話を覚える。 ・感情の程度を表現する。
10	・大きさ ・長さ ・重さ	・大きさ、長さ、重さの表現を習得する。
11	・時間の表現	・未来・現在・過去の表現を習得する。 ・カレンダーの表現を習得する。
12	・手話会話（１）	・５Ｗ１Ｈを使って、手話でたずねて、手話で答える。
13	・手話会話（２）	・５Ｗ１Ｈの手話を使って、いろいろな質問をして回答する会話を続ける。 いろいろな質問を読み取って、適した回答ができるようにする。
14	・全体の復習	表現のチェックを行います 。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
手話表現の復習を必ず行って下さい。
授業の初めに、表現のチェックを行います。
本授業の学習・復習時間は、100分を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「手にことばを（初級用）」

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
＜定期試験＞
・自己紹介の表現ができている
・手話を読み取って、理解できている
・手話での質問を読み取って、手話で回答できている
＜採点方法＞
・期末試験（100 %）
＜必須＞
・指文字と数字の表現を習得できていること
・名前と学籍番号がスムーズに表現できていること
・家族や趣味などの手話を表現できていること

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
※オンライン授業を実施する時、次の通り、指示することがあります。
・スマホなどを使って、自分の手話を収録できるようにする
・Google Classroomへ動画をアップロードできるようにする

【その他の重要事項】
秋学期とセットです。
講師を見ながら手を動かして覚えていきます。
また、履修生同士の会話もお互いに見ながら会話します。
頻繁に「（先生を）見て下さい」と指示します。すぐ先生を見るようにして下さい。
今までの授業は音声中心であり、終始見なくても良いですが、当授業は、目で見なければなりません。
不慣れなどで疲れることがあると思います。かんばりましょう。

【Outline (in English)】
【Outline】
You will learn self-introduction based on the grammar of Japanese Sign Language(JSL), and you will be able to talk with teacher, students.
In addition, you will learn about the culture and history on the Deaf communities.
【Learning Objectives】
The target levels are as follows.
・Speak and read numbers and finger-spelling.
・Speak self-introduction (Name, Student ID number, Residence, Hobbies, Family).
・You will be able both reading and answering in JSL.
You will understand the knowledge of life and behavior on the Deaf culture.
【Method】
JSL is the visual language, so you learn watching me.
Basically without voice, and it will be promoted with voice by JSL Interpreter.

You will get accustomed the pointing and calling of Deaf behaviors.
I may take several tests to confirm your reading and speaking. It does not affect your grades.
When Online-lesson, we will face-to-face. I will tell you to submit your own videos, so we will use Google Classroom.
【Learning activities outside of classroom】
You must to review JSL expression.
At the beginning of the lessons, I will check your expressions.
The standard study /review time for this lesson is 100 minutes.
【Grading Criteria /Policy】
< Regular Test>
· You can express myself in JSL.
· You can read JSL.
· You can read questions and answer in JSL.
< Scoring>
· Final exam (100%)
< Required>
· Being able to master the expressions of finger-spelling and numbers
· You express smoothly your name and student ID number.
· You can express such as family and hobbies etc. in JSL.
【Equipment student needs to prepare】
· You will be able to record your own JSL by smartphone, etc.
· You will be able to allow your videos for uploading to the Google Classroom.
【Others】
Set with the fall semester.
While watching me, move your hands and remember as same as me. In addition, we will talk while watching each other's conversations between students. Frequently instruct "Please look me(teacher)". Please see the teacher immediately. I think that you don't have to look at teacher from beginning to end. But the lesson must be see. You maybe get tired due to unfamiliarity. Let's do it.

LANx100JA（その他の言語 / Foreign language education 100）

日本手話１Ａ

宮本　一郎

配当年次／単位数：**1～4年次／1単位**
備考（履修条件等）：**抽選科目。抽選に当選した場合同一曜日・時限の日本手話１Ｂに自動登録となる。同一名称科目については1クラスのみ履修可能。2021年度以降入学者は科目名称・授業コードが異なる（日本手話言語1A／N0602）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本手話の文法に則った自己紹介を習得し、講師及び履修生同士のコミュニケーションができるようにします。
他に、ろう社会の文化や歴史などを学びます。

【到達目標】
数字と指文字の表現、読取りができる。
自己紹介（名前、学籍番号、住まい、趣味、家族）を表現できる。
手話での質問を読み取って、手話で回答できる。
ろう文化について、生活行動に関する知識を得て、理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
手話は視覚言語ですので、終始、講師を見ながら学びます。
基本的に音声なしですが、内容によって、音声付きで進めることがあります。
指差しや呼びかけなど、ろう文化特有の行動に慣れてもらいます。
読取りの確認のため、小テストを行うことがありますが、成績に関わりません。
オンライン授業の場合、全員顔出しで進めます。
各自の動画を提出することがあります。Google Classroom を使います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	・指さし ・Yes/No ・肩たたき ・視線	ろう者とのコミュニケーションを理解する。
2	・手話の楽しさ	音声言語と異なることを学び、手話の世界を知る。
3	・身振り	表現のイメージを作って、相手へ伝えてみる。
4	・自己紹介（１） ・指文字、数字の習得	・「初めまして」「私は～と申します」を覚える。 ・指文字と数字を覚える。
5	・自己紹介（２） ・名前と学籍番号の習得	・名前の指文字、学籍番号を覚える。 ・ろう者の会話に関する知識を学ぶ。
6	・自己紹介（３） ・住まい、家族の習得 ・５Ｗ１Ｈを習得	・名前の手話を覚える。 ・住まい、家族、誕生日に関する手話を覚える。 ・５Ｗ１Ｈの表現を覚える。
7	・自己紹介（４） ・趣味の習得	・趣味の手話を覚える。 ・５Ｗ１Ｈを使って会話をする。
8	・自己紹介（５） ・通学方法を習得	・交通機関などの手話を覚える。 ・通学方法、時間の会話をする。
9	・感情の表現	・感情の手話を覚える。 ・感情の程度を表現する。
10	・大きさ ・長さ ・重さ	・大きさ、長さ、重さの表現を習得する。
11	・時間の表現	・未来・現在・過去の表現を習得する。 ・カレンダーの表現を習得する。
12	・手話会話（１）	・５Ｗ１Ｈを使って、手話でたずねて、手話で答える。
13	・手話会話（２）	・５Ｗ１Ｈの手話を使って、いろいろな質問をして回答する会話を続ける。いろいろな質問を読み取って、適した回答ができるようにする。
14	・全体の復習	表現のチェックを行います 。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
手話表現の復習を必ず行って下さい。
授業の初めに、表現のチェックを行います。
本授業の学習・復習時間は、100分を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「手にことばを（初級用）」

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
＜定期試験＞
・自己紹介の表現ができている
・手話を読み取って、理解できている
・手話での質問を読み取って、手話で回答できている
＜採点方法＞
・期末試験（100 %）
＜必須＞
・指文字と数字の表現を習得できていること
・名前と学籍番号がスムーズに表現できていること
・家族や趣味などの手話を表現できていること

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
※オンライン授業を実施する時、次の通り、指示することがあります。
・スマホなどを使って、自分の手話を収録できるようにする
・Google Classroomへ動画をアップロードできるようにする

【その他の重要事項】
秋学期とセットです。
講師を見ながら手を動かして覚えていきます。
また、履修生同士の会話もお互いに見ながら会話します。
頻繁に「（先生を）見て下さい」と指示します。すぐ先生を見るようにして下さい。
今までの授業は音声中心であり、終始見なくても良いですが、当授業は、目で見なければなりません。
不慣れなどで疲れることがあると思います。かんばりましょう。

【Outline (in English)】
【Outline】
You will learn self-introduction based on the grammar of Japanese Sign Language(JSL), and you will be able to talk with teacher, students.
In addition, you will learn about the culture and history on the Deaf communities.
【Learning Objectives】
The target levels are as follows.
・Speak and read numbers and finger-spelling.
・Speak self-introduction (Name, Student ID number, Residence, Hobbies, Family).
・You will be able both reading and answering in JSL.
You will understand the knowledge of life and behavior on the Deaf culture.
【Method】
JSL is the visual language, so you learn watching me.
Basically without voice, and it will be promoted with voice by JSL Interpreter.
You will get accustomed the pointing and calling of Deaf behaviors.
I may take several tests to confirm your reading and speaking. It does not affect your grades.
When Online-lesson, we will face-to-face. I will tell you to submit your own videos, so we will use Google Classroom.
【Learning activities outside of classroom】
You must to review JSL expression.
At the beginning of the lessons, I will check your expressions.
The standard study /review time for this lesson is 100 minutes.
【Grading Criteria /Policy】
< Regular Test>
・You can express myself in JSL.
・You can read JSL.
・You can read questions and answer in JSL.
< Scoring>
・Final exam (100%)
< Required>
・Being able to master the expressions of finger-spelling and numbers
・You express smoothly your name and student ID number.
・You can express such as family and hobbies etc. in JSL.
【Equipment student needs to prepare】
・You will be able to record your own JSL by smartphone, etc.
・You will be able to allow your videos for uploading to the Google Classroom.
【Others】
Set with the fall semester.
While watching me, move your hands and remember as same as me. In addition, we will talk while watching each other's conversations between students. Frequently instruct "Please look me(teacher)". Please see the teacher immediately. I think that you don't have to look at teacher from beginning to end. But the lesson must be see. You maybe get tired due to unfamiliarity. Let's do it.

LANx100JA（その他の言語 / Foreign language education 100）

日本手話１Ｂ

宮本　一郎

配当年次／単位数：**1～4年次／1単位**
備考（履修条件等）：**単独履修は不可。同一曜日・時限の日本手話１Ａに当選した場合のみ履修可能。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期で習得した自己紹介に、「どうして」「どちら」などを加えて、より多く手話で話せるようにします。
５Ｗ１Ｈの質問ができて、全てスムーズに回答できるようにします。
日本手話文法の「強弱」「反覆」を習得します。
ろう歴史と手話通訳について学びます。

【到達目標】
・第一者（私）、第二者（あなた）、第三者（彼・彼女）を使った空間を理解して、動詞の方向を習得します。
・接続詞を使った表現を習得します。
・日本手話文法の「強弱」「反覆」を習得して、読取りができるようにします。
・授業外学習を設けて、ろう者と手話通訳者について学ぶことを予定しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では、基本的に音声による説明を行いません。
春学期の授業で覚えた自己紹介の会話文に、接続詞を入れます。
テキストの手話会話を習得します。
日本手話文法を説明して、例文の表現を習得します。
習得チェックのため、時々、読取りと表現の小テストを行い、適切でない部分について指導します。
秋学期定期試験の成績評価に関わりません。
オンライン授業では、全員顔出しで授業を進めます。
各自手話動画の提出がある場合、Google Classroomを使います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	・オリエンテーション ・日本手話１Ａの復習	・授業外学習の情報を提供します。 ・自己紹介の手話表現をチェックします。
2	・接続詞 ～けれども、～ ～ので、～ ～ために、～	・自己紹介の例文を使って練習します。
3	・位置（１） ・会話	テーブルに並べた皿、コップなどの様子を、ＣＬを使って表現します。
4	・位置（２） ・会話	道案内や建物内の案内をする時の表現を習得します。
5	・方向を伴う動詞	「言う」「見る」「渡す」「送る」などの、方向軌跡を伴う動詞を覚えます。
6	・動詞の強弱、反覆	強弱、反覆し、顎や肩の使い方によって、意味が変わることを学びます。
7	・いろいろな動詞を使って復習 ・ろう者の人権運動	・方向や強弱などの、いろいろな動詞を表現できるようにします。 ・ろう者の歴史を学んで、人権について理解します。
8	・自己紹介の会話 ・手話通訳について	・自己紹介の会話を膨らましていきます。 ・手話通訳派遣制度や歴史を学びます。
9	・道順の説明（１） ・空間認識について	・地図などを使って、手話表現を学びます。 ・ろう者特有の空間認識について学びます。
10	・道順の説明（２）	・復習 ・交通機関利用、大学内の道順の、手話表現を学びます。
11	・自己紹介＋いろいろな会話	・自己紹介の会話を膨らましていきます。
12	・会話 ・今までの復習	・手話表現をチェックします。
13	・今までの復習	・手話表現をチェックします。
14	・手話での会話 ・全体の復習	今まで習ったことを復習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、手話表現の復習を必ずして下さい。
履修生同士で声を出さず、手話会話をして下さい。習得しやすくなります。
本授業の学習・復習時間は1時間を標準とします。
本授業の学習・復習時間は、100分を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業外学習レポートの提出があります。
秋学期定期試験の評価に加算します。

【参考書】
「手にことばを（初級用）」

【成績評価の方法と基準】
＜授業外学習＞
・出席が必須です。
　レポート提出あり。（１０点）
　　※出席が困難な場合、相談して下さい。
＜期末試験＞
・手話を読み取って、ペーパーの質問に答えます。（４０点）
・習った手話を使って、話します。（５０点）
＜採点方法＞
課外学習（10 %）
期末試験（90 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
Google Classroomを使えるようにして下さい。

【その他の重要事項】
春学期とセットです。

【Outline (in English)】
【Outline and objectives】
You will be able to speak adding "why" and "which" to your self-introduction, and that you will be able to speak more JSL.
You can ask using 5W1H-questions and you can answer them all smoothly.
And you will learn the "strength" and "rebellion" of JSL's grammar.
You will learn about the History of both Deaf' communities and Sign Language interpreters.
【Learning Objectives】
・You will study the Space of JSL, “me”, “you”, “him/her”, and learn the direction of the verb.
・You learn expressions using Conjunctions.
・You learn the Strength and Rebellion of JSL's grammar so that you will be able to read JSL.
・We plan to set up Out-of-Class for learning about Deaf people and their societies.
【Method】
At lesson, I basically speak without voice.

Add conjunctions to your self-introduction conversations you learned in the spring semester. JSL conversation on the book. You study JSL's grammar, and you expression. Occasionally quizzes are given to check learning. It is not related to the grade evaluation of the fall semester regular exam.
When Online-lesson, we will face-to-face. I will tell you to submit your own videos, so we will use Google Classroom.
When Online-lesson, we will face-to-face. I will tell you to submit your own videos, so we will use Google Classroom.
【Learning activities outside of classroom】
Please review JSL's expression by yourself.
It's better to talk between classmates in JSL.
The standard study /review time for this lesson is 100 minutes.
< Learning outside class>
· Attendance is required. There is a report submission. (10 points) * If attendance is difficult, please contact me.
< Final exam>
· Read JSL and answer the questions on the paper. (40 points)
· Speak using JSL you learned. (50 points)
< Scoring method>
Extracurricular learning (10%)
Final exam (90%)
【Others】
It is a set with the spring semester.

LANx100JA（その他の言語 / Foreign language education 100）

日本手話１Ｂ

宮本　一郎

配当年次／単位数：1～4年次／1単位
備考（履修条件等）：**単独履修は不可。同一曜日・時限の日本手話１Ａに当選した場合のみ履修可能。2020年度以前入学者のみ受講可能。2021年度以降入学者は「N0606 日本手話言語１Ｂ」を受講すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期で習得した自己紹介に、「どうして」「どちら」などを加えて、より多く手話で話せるようにします。
５Ｗ１Ｈの質問ができて、全てスムーズに回答できるようにします。
日本手話文法の「強弱」「反覆」を習得します。
ろう歴史と手話通訳について学びます。

【到達目標】
・第一者（私）、第二者（あなた）、第三者（彼・彼女）を使った空間を理解して、動詞の方向を習得します。
・接続詞を使った表現を習得します。
・日本手話文法の「強弱」「反覆」を習得して、読取りができるようにします。
・授業外学習を設けて、ろう者と手話通訳者について学ぶことを予定しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では、基本的に音声による説明を行いません。
春学期の授業で覚えた自己紹介の会話文に、接続詞を入れます。
テキストの手話会話を習得します。
日本手話文法を説明して、例文の表現を習得します。
習得チェックのため、時々、読取りと表現の小テストを行い、適切でない部分について指導します。
秋学期定期試験の成績評価に関わりません。
オンライン授業では、全員顔出しで授業を進めます。
各自手話動画の提出がある場合、Google Classroom を使います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	・オリエンテーション ・日本手話１Ａの復習	・授業外学習の情報を提供します。 ・自己紹介の手話表現をチェックします。
2	・接続詞 ～けれども、～ ～ので、～ ～ために、～	・自己紹介の例文を使って練習します。
3	・位置（１） ・会話	テーブルに並べた皿、コップなどの様子を、ＣＬを使って表現します。
4	・位置（２） ・会話	道案内や建物内の案内をする時の表現を習得します。
5	・方向を伴う動詞	「言う」「見る」「渡す」「送る」などの、方向軌跡を伴う動詞を覚えます。
6	・動詞の強弱、反覆	強弱、反覆し、顎や肩の使い方によって、意味が変わることを学びます。
7	・いろいろな動詞を使って復習 ・ろう者の人権運動	・方向や強弱などの、いろいろな動詞を表現できるようにします。 ・ろう者の歴史を学んで、人権について理解します。
8	・自己紹介の会話 ・手話通訳について	・自己紹介の会話を膨らましていきます。 ・手話通訳派遣制度や歴史を学びます。
9	・道順の説明（１） ・空間認識について	・地図などを使って、手話表現を学びます。 ・ろう者特有の空間認識について学びます。
10	・道順の説明（２）	・復習 ・交通機関利用、大学内の道順の、手話表現を学びます。
11	・自己紹介＋いろいろな会話	・自己紹介の会話を膨らましていきます。
12	・会話 ・今までの復習	・手話表現をチェックします。
13	・今までの復習	・手話表現をチェックします。
14	・手話での会話 ・全体の復習	今まで習ったことを復習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、手話表現の復習を必ずして下さい。
履修生同士で声を出さず、手話会話をして下さい。習得しやすくなります。
本授業の学習・復習時間は1時間を標準とします。
本授業の学習・復習時間は、100分を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業外学習レポートの提出があります。
秋学期定期試験の評価に加算します。

【参考書】
「手にことばを（初級用）」

【成績評価の方法と基準】
＜授業外学習＞
・出席が必須です。
　レポート提出あり。（１０点）
　　※出席が困難な場合、相談して下さい。
＜期末試験＞
・手話を読み取って、ペーパーの質問に答えます。（４０点）
・習った手話を使って、話します。（５０点）
＜採点方法＞
課外学習（10 %）
期末試験（90 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
Google Classroom を使えるようにして下さい。

【その他の重要事項】
春学期とセットです。

【Outline (in English)】
【Outline and objectives】
You will be able to speak adding "why" and "which" to your self-introduction, and that you will be able to speak more JSL.
You can ask using 5W1H-questions and you can answer them all smoothly.
And you will learn the "strength" and "rebellion" of JSL's grammar.
You will learn about the History of both Deaf' communities and Sign Language interpreters.
【Learning Objectives】
· You will study the Space of JSL, “me”, “you”, “him/her”, and learn the direction of the verb.
· You learn expressions using Conjunctions.
· You learn the Strength and Rebellion of JSL's grammar so that you will be able to read JSL.
· We plan to set up Out-of-Class for learning about Deaf people and their societies.
【Method】
At lesson, I basically speak without voice.
Add conjunctions to your self-introduction conversations you learned in the spring semester. JSL conversation on the book. You study JSL's grammar, and you expression. Occasionally quizzes are given to check learning. It is not related to the grade evaluation of the fall semester regular exam.
When Online-lesson, we will face-to-face. I will tell you to submit your own videos, so we will use Google Classroom.
When Online-lesson, we will face-to-face. I will tell you to submit your own videos, so we will use Google Classroom.
【Learning activities outside of classroom】
Please review JSL's expression by yourself.
It's better to talk between classmates in JSL.
The standard study /review time for this lesson is 100 minutes.
< Learning outside class >
· Attendance is required. There is a report submission. (10 points) * If attendance is difficult, please contact me.
< Final exam >
· Read JSL and answer the questions on the paper. (40 points)
· Speak using JSL you learned. (50 points)
< Scoring method >
Extracurricular learning (10%)
Final exam (90%)
【Others】
It is a set with the spring semester.

LANx200JA（その他の言語 / Foreign language education 200）

日本手話２Ａ

宮本　一郎

配当年次／単位数：2〜4年次／1単位
備考（履修条件等）：**抽選科目。抽選に当選した場合同一曜日・時限の日本手話２Ｂに自動登録となる。同一名称科目については1クラスのみ履修可能。2021年度以降入学者は科目名称・授業コードが異なる（日本手話言語2A／N0605）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本手話言語を中心に、手話の基礎やろう文化、法律制度などを学び、かつ、手話でのコミュニケーションができるように目指します。尚、全国手話検定5級の受験希望者に対して、練習や助言などを行います。

【到達目標】
名前、趣味などの自己紹介ができて、手話での質疑応答の会話がスムーズにできるようにします。
空間の使い方を学びます。
手話スピーチができるようにします。
ろう者同士の会話でよく使われる慣用句を習得できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
手話を学ぶ時、基本的に、音声なしで進めます。
毎回の授業では、次の通り行います。
・テキストの会話文などの手話を習得
　次の授業で、復習チェックと指導を行います。
・講師の手話スピーチを読取り
　読み取った内容とスピーチ原稿を比べて、手話表現を確実に習得します。
・履修生の手話スピーチ
　表出をチェックして、指導します。
・慣用句の習得、表現
　独自の言語体系であることを理解していきます。
オンライン授業の場合、全員顔出しにして授業を進めます。
提出がある時、Google Classroomを使います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	・オリエンテーション ・検定などを説明 ・手話表現のチェック	自己紹介の手話表現や読み取りができていることをチェックします。
2	・グループ話し合い	自己紹介や質疑応答を行った上、与えられたテーマについて手話で議論します。 5W1Hの表現もチェックします。
3	・「社会生活」	「社会生活」に記されている手話会話を習得します。
4	・「社会生活」（復習）	習得した手話をよりスムーズに表現できるようにします。
5	・「家庭生活」	「家庭生活」に記されている手話会話を習得します。
6	・「家庭生活」（復習）	習得した手話をよりスムーズに表現できるようにします。
7	・「職業生活」	「職業生活」に記されている手話会話を習得します。
8	・「職業生活」（復習）	習得した手話をよりスムーズに表現できるようにします。
9	・課された課題について調べて、各自発表して議論します。	「社会生活」「家庭性格」「職業生活」の範囲で、課題について調べて、手話で話してもらいます。
10	・意思疎通支援制度	主に手話通訳者育成、手話通訳派遣の制度について話します。 手話スキルを必要とする仕事などを紹介します。
11	・「教育」	「教育」で使われる会話を習得します。
12	・「教育」（復習）	習得した手話をよりスムーズに表現できるようにします。
13	・慣用句のチェック	・慣用句の習得をチェックします。 ・試験へ向けて、手話でのスピーチできるように練習します。
14	・全体の復習 ・手話スピーチ	・今まで習った手話を表現できているかをチェックします。 ・試験へ向けて、手話でのスピーチができるように練習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、手話表現の復習を必ずして下さい。
履修生同士で、手話の会話をして、目で手話を見ることを慣れて下さい。
声を出さないで手話会話をした方が効果があります。
本授業の学習・復習時間は合わせて100分を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「手にことばを（中級用）」

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
＜期末試験＞
※筆記と会話を予定しています。
・接続詞を使って、長文の表現ができている。
・質問を読み取って、回答できている。
・習った手話表現をほぼ使い、議論や主張ができている。
＜採点方法＞
期末試験（100％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
秋学期とセットです。
主に全国手話検定試験に関する情報を提供します。

【Outline (in English)】
【Outline】
You will learn the basics of Japanese Sign Language(JSL), the Deaf culture, the legal systems, etc., and will be able to communicate in JSL.
We help you to take the Certification test on JSL.
【Learning Objectives】
You will be able to introduce yourself, Name, Hobbies, etc., so that you will speak smoothly Q &A conversation in JSL.
Allows you to speak in JSL.
You will learn the Idioms that it's used in conversations between Deaf people.
【Method】
When learning JSL, it's basically proceed without voice.
It will be the following.
・Learn JSL such as conversational texts
・Read my speech in JSL
・Your speech in JSL
・Acquisition and expression of idioms
When Online-lesson, everyone will come face-to-face. When I take submissions, you use Google Classroom.
【Learning activities outside of classroom】
Please be sure to review the sign language JSL's expressions by yourself.

Get used JSL's conversations with each other and seeing JSL.
It is more effective to have JSL without voice.
The standard study /review time for this lesson is 100 minutes.
【Grading Criteria /Policy】
< Regular exam >
* I will prepare writing and speech.
· You will be able to speak long sentences can using conjunctions.
· You can read the question and answer.
· You can make discussions and assertions using most of JSL you learned.
< Scoring method >
Final exam (100%)

LANx200JA（その他の言語 / Foreign language education 200）

日本手話２Ｂ

宮本　一郎

配当年次／単位数：**2〜4年次／1単位**
備考（履修条件等）：**単独履修は不可。同一曜日・時限の日本手話２Ａに当選した場合のみ履修可能。2020年度以前入学者のみ受講可能。2021年度以降入学者は「N0606 日本手話言語Ⅱ B」を受講すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本手話言語の会話をより広げて行きます。
授業外学習で、手話話者との手話会話ができることを目指します。
全国手話検定試験の受験をフォローします。

【到達目標】
自己紹介、質疑応答、意思などの手話会話ができて、空間の使い方を習得することを目標にします。
更に、履修生自身から、講師へ手話で質問できるようにします。
慣用句の習得を増やしていきます。
ろう者の生活や歴史などを学んで、授業外学習へ連結できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
手話を学ぶ時、基本的に、音声なしで進めます。
毎回、次の通り行います。
毎回の授業では、次の通り行います。
・テキストの会話文などの手話を習得
　次の授業で、復習チェックと指導を行います。
・講師の手話スピーチを読取り
　読み取った内容とスピーチ原稿を比べて、手話表現を確実に習得します。
・履修生の手話スピーチ
　表出をチェックして、指導します。
・慣用句の習得、表現
　独自の言語体系であることを理解していきます。
様々な手話関係の行事企画を提供します。
履修生が手話会話をチャレンジしてみましょう。
オンライン授業となる場合、全員顔出しで進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	・オリエンテーション ・空間利用	授業外学習と手話検定についての説明を行います。 空間を利用した手話会話のチェックをします。
2	・「聴覚障害」 ・慣用句 /ある//どうやって/	「聴覚障害」に記された手話会話を習得します。
3	・「聴覚障害」（復習） ・慣用句（復習）	取得した手話会話をよりスムーズに表現できるようにします。
4	・「福祉制度」 ・慣用句 /目が高い・安い/	「福祉制度」に記された手話会話を習得します。
5	・「福祉制度」（復習） ・慣用句（復習）	取得した手話会話をよりスムーズに表現できるようにします。
6	・「手話通訳」 ・慣用句 /どうやって//ある/	「手話通訳に記された手話会話を習得します。
7	・「手話通訳」（復習） ・慣用句（復習）	取得した手話会話をよりスムーズに表現できるようにします。
8	・授業外学習の事前学習	見学予定の施設やろう協会行事について学んで、各自の見学計画を立てます。
9	・授業外学習での感想、話し合い	話し合って情報共有を図り、履修生のロードマップの参考となるようにする。
10	・手話通訳者の話	手話通訳者自身の経験などを聞きます。
11	・課された課題について調べて、各自発表して議論します。	「聴覚障害」「福祉制度」「手話通訳」の範囲で、課題について調べて、手話で話してもらいます。
12	・春学期、秋学期で習得した慣用句の復習	慣用句の表現をチェックします。
13	・全体の復習 ・手話スピーチ	秋学期試験へ向けて、チェックを行います。
14	・手話スピーチ	秋学期試験へ向けて、手話スピーチを練習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、手話表現の復習を必ずして下さい。
履修生同士で、声を出さないで手話会話をした方が効果があります。
予め、与えられたテーマについて調べてまとめてもらうことがあります。
授業外学習に出席してレポートを提出して下さい。秋学期定期試験の評価に加算します。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて100分を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「手にことばを（中級用）」

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
＜学外学習＞
・ろう者団体の行事への参加が必須です。
　レポート提出あり。（２０点）
　　※行事への見学が困難な場合、相談して下さい。
＜期末試験＞
・手話を読み取って、ペーパーの質問に答えます。（４０点）
・習った手話を使って、スピーチをします。（４０点）
＜採点方法＞
授業外学習（２０％）
期末試験（８０％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
春学期とセットです。

【Outline (in English)】
【Outline】
I will be expanded your conversations in JSL.
I will support you talk in JSL the Deaf people, through the Out-of-Class.
I will support you will take the Certification test on JSL.
【Learning Objectives】
The goal is to be able to JSL conversations such as self-introduction, questions and answers, and intentions.
In addition, you will be able to ask questions in JSL instructor.
It will be increased the learning of idioms.
You learn about the life and history of Deaf communities, so that they can be connected to out-of-class learning.
【Method】
When learning sign language, it basically will be proceed without voice. It will be the following each time.
・Acquisition of JSL conversation sentences
・Learning conversation using idioms
・Read JSL speech
・Your speech in JSL

When Online lessons, everyone will come face-to-face.
【Learning activities outside of classroom】
Please be sure to review the sign language expression by yourself. It is more effective to have a sign language conversation between the students without speaking out. You may be asked to research and summarize a given theme in advance. Please attend the out-of-class study and submit a report. It will be added to the evaluation of the regular exam for the fall semester. The standard preparatory study and review time for this class is 100 minutes in total.
【Grading Criteria /Policy】
< Learning outside class >
· Participation in events of Deaf groups is mandatory. There is a report submission. (20 points) * If it is difficult to visit the event, please contact us.
< Final exam >
· Read the sign language and answer the questions on the paper. (40 points)
·Give a speech using the sign language you learned. (40 points)
< Scoring method > Out-of-class learning (20%) Final exam (80%)

ARSx100JB（地域研究（その他）/ Area studies(Others) 100）

まちづくりの思想

水野　雅男、図司　直也、土肥　将敦、野田　岳仁、杉浦　ちなみ

配当年次／単位数：1～4年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者のみ受講可能。2021年度以降入学者は「N1002 コミュニティマネジメント入門」を受講すること。

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コミュニティマネジメント（まちづくり）とは何か、その原則や方策、あるいは農山村、都市、地域、コミュニティの捉え方について、市民活動やソーシャルビジネスの実践事例を通じて理解する。

【到達目標】
日本国内や海外のコミュニティマネジメント（まちづくり）、地域再生の取り組みとその実態を把握し、それらが内包する意味と現代的意義について幅広く理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教員5名がオムニバス形式で講義を担当する。実践事例やケーススタディでは、関連スライドやＤＶＤ等を活用して紹介する。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（図司）	「自分ごと」から地域を感じる
第2回	「地域／まち」をつくるとは？（図司）	地域づくりを実践する現場に触れる
第3回	若者は「地域」で何ができるのか？（図司）	地域づくりに動き出した仲間の姿に触れる
第4回	なぜ人びとは地域の自然を守るのか？（野田）	地元の人びとの生活の立場から考える
第5回	ツーリズムによる地域再生（野田）	大衆的な観光地を目指さない観光まちづくり
第6回	コミュニティの暮らしと創造性（野田）	生活文化の「価値」継承のしくみ
第7回	コミュニティ×企業（土肥）	地域固有の企業とステイクホルダー
第8回	コミュニティ×NPO（土肥）	社会的課題とNPO
第9回	コミュニティ×ソーシャルビジネス（土肥）	ソーシャル・ビジネスの可能性
第10回	学びがつくる地域（杉浦）	学校外での学びの空間
第11回	地域で文化を学び伝える（杉浦）	暮らしの中にある豊かさ
第12回	アート＆クラフトとまちづくり（水野）	アート＆クラフトによる地域資源の発掘
第13回	地域資源の保全活用によるまちづくり（水野）	歴史的建造物の保全活用の意義と実践事例
第14回	住民主体のまちづくり（水野）	ＮＰＯと行政のパートナーシップの必要性と実践事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞、雑誌、書籍等によるまちづくり関連報道、論文等に関心を持つ。旅行等の機会、出身市町村、居住地等、身近な地域について調べる。講義で示した実例等について、より詳しく調べ自らの関心を深める。本授業の予習・復習時間は各2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、授業中に資料を配布する。

【参考書】
授業中に随時示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパーのコメント）100％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度の授業改善アンケート結果を反映して改善する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、学習支援システムを利用して教材を掲載する。

【その他の重要事項】
授業を担当する5名の教員がそれぞれ地域プランニング、ソーシャルビジネス、まちづくり活動などのフィールドワークに基づいてコミュニティマネジメント（まちづくり）の考え方を具体的に紹介する。

【Outline (in English)】
< Course outline>
The aim of this course is to help students acquire what community management is, its principles and measures, or how to understand agricultural and mountain villages, cities, regions, and communities through practical examples of civic activities and social business.
< Learning Objectives>
By the end of the course, students should be able to do the followings:
Understand the community management in Japan and overseas, the efforts for regional revitalization and their actual conditions, and broadly understand the meaning and modern significance of them.
< Learning activities outside of classroom>
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy>
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 100%

SOW100JB,SOW200JC（社会福祉学 / Social Welfare 100 , 社会福祉学 / Social Welfare 200）

ソーシャルワークⅠ

安西　美咲

配当年次／単位数：1～4年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者のみ受講可能。2021年度以降入学者は「N1005 ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」を受講すること。
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ、役割と意義を理解し、ソーシャルワークの基盤となる考え方、概念やその範囲、多職種との連携など、ソーシャルワーク実践を行うために必要な理念について学習します。また、ソーシャルワークの形成過程、価値規範、倫理について理解し、ソーシャルワークの基礎を習得することを目指します。

【到達目標】
①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。
②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。
③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義では、ソーシャルワーク実践の基礎となる専門性について学習し、実践の場において応用できるように様々な課題を提示したいと思います。受講生は提示された課題を分析し、その結果を提出してもらいます。提出された課題は、授業内でコメントをしたり、学習支援システムを通じてフィードバックしていきます。
※講義内容については授業進度により変更の可能性があります。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：生活課題の多様化と相談援助活動の必要性	講義スケジュール及び成績評価、本講義のねらい、生活課題の多様化とソーシャルワークが必要となる社会的背景についての説明、社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけの概要説明
第2回	社会福祉士及び介護福祉士法	・定義、義務 ・法制度成立の背景 ・法制度見直しの背景
第3回	精神保健福祉士法	・定義、義務 ・法制度成立の背景 ・法制度見直しの背景
第4回	社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性	社会福祉士や精神保健福祉士の専門性を理解するための事例検討
第5回	ソーシャルワークの定義	ソーシャルワーク専門職のグローバル定義に関する講義
第6回	ソーシャルワークの原理	・社会正義・人権尊重・集団的責任・多様性の尊重についての説明
第7回	ソーシャルワーク の理念	・当事者主権 ・尊厳の保持 ・権利擁護 ・自立支援 ・ソーシャルインクルージョン ・ノーマライゼーションについての説明
第8回	ソーシャルワークの基盤となる考え方	ソーシャルワークの基盤となる考え方に関する確認・グループ討議・小テスト
第9回	ソーシャルワークの形成過程	・慈善組織協会 ・セツルメント運動 ・医学モデルから生活モデルへ ・ソーシャルワークの統合化
第10回	ソーシャルワークの形成過程に関する確認	講義と小グループでの討議
第11回	専門職倫理の概念	社会福祉士としての倫理とは何か、概念に関する説明
第12回	倫理綱領	・ソーシャルワーカーの倫理綱領 ・社会福祉士の倫理綱領 ・精神保健福祉士の倫理綱領
第13回	倫理的ジレンマ	専門職倫理とジレンマに関する講義及びグループディスカッション
第14回	専門職としての倫理とジレンマの関係性についての事例検討 ◆定期試験範囲の発表	・討議 ・ソーシャルワークにおける最近の動向 ・授業内容の振り返りとまとめ ・定期試験の範囲についての説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
相談援助にかかわる専門職のイメージ像をもっていただくために、以下の文献に目を通しておいて下さい。
①奥川幸子（1997）『未知との遭遇』三輪書店
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新・社会福祉士　精神保健福祉士養成講座11　ソーシャルワークの基盤と専門職〔共通・社会専門〕』中央法規　2021年
・副田あけみ『社会福祉援助技術論　　ジェネラリスト・アプローチの視点から』誠信書房　2005年

【成績評価の方法と基準】
①出欠確認：リアクションペーパーを随時提出してもらい、出欠を確認します。
②試験方法：筆記試験
③成績評価:リアクションペーパー,授業内課題の提出が40％,筆記試験が60％の割合で総合的に評価します。課題提出が全くない場合、定期試験を受けても評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】
実践現場の話を積極的に盛り込みながら、授業展開していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインで授業を受講する機会があるため、パソコン等を準備してください。

【その他の重要事項】
社会福祉士として行政・社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、ソーシャルワーク実践の基礎的な技術、知識、価値に関する具体的な事例を盛り込みながら話を進めていきます。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】The purpose of this course is to help students acquire the knowledge, skills and values of social work.
【到達目標（Learning Objectives）】In this lecture, the goal is to describe the role of social workers and the effect of collaboration with other occupations.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】：Final grade will be calculated according to the following process report (40%), term-end examination (60%), and in-class contribution.

ARSx200JB（地域研究（その他）/ Area studies(Others) 200）

地域の歴史と文化

野田　岳仁、水野　雅男、図司　直也、土肥　将敦

配当年次／単位数：1～4年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者のみ受講可能。2021年度以降入学者は「N1055 ローカルイノベーション論」を受講すること。

その他属性：〈実〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ローカルイノベーションが立ち現れる社会的な背景や新たな社会変革を創出する仕組みとはどのようなものであるのかを各地の実践事例を通じて理解することを目的とする。

【到達目標】
ローカルイノベーションの基本的な考え方をマスターし、自らがローカルイノベーションを創出するプレイヤーになるための知識や技能について理解を深めることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
教員４名（水野・図司・土肥・野田）が具体的な事例を取り上げ、オムニバス形式で講義を担当する。１地域を２回の講義で構成し、１回目では、地域の概要やイノベーターについて担当教員がレクチャーを行う。２回目は、当該地域からゲストスピーカーを招いてのレクチャー、担当教員、受講生を交えてディスカッションを行う。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／イントロダクション（水野・図司・土肥・野田）	ローカルイノベーションとは何か
第2回	景観まちづくりにおけるローカルイノベーション①（野田）	景観まちづくりについての概要と社会的背景についてのレクチャー
第3回	景観まちづくりにおけるローカルイノベーション②（土肥・野田）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第4回	地域ツーリズムにおけるローカルイノベーション①（野田）	地域ツーリズムについての概要と社会的背景についてのレクチャー
第5回	地域ツーリズムにおけるローカルイノベーション②（土肥・野田）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第6回	半島先端におけるローカルイノベーション①（水野）	世界農業遺産の環境保全活用についての概要と社会的背景についてのレクチャー
第7回	半島先端におけるローカルイノベーション②（水野・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第8回	多様なライフスタイルでローカルイノベーション①（水野）	ライフスタイル研究と移住推進の市民事業についてのレクチャー
第9回	多様なライフスタイルでローカルイノベーション②（水野・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第10回	若者と地域をつなぐローカルイノベーション①（図司）	地域に向かう若者の動向と社会的背景についてのレクチャー
第11回	若者と地域をつなぐローカルイノベーション②（図司・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第12回	農山村再生に向けたローカルイノベーション①（図司）	農山村における地域づくりの概要と社会的背景についてのレクチャー
第13回	農山村再生に向けたローカルイノベーション②（図司・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第14回	総括（水野・図司・土肥・野田）	６事例からの学びと提言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関心のある分野や領域でどのようなローカルイノベーションが創出されているのか事前に調べておく。講義で取り上げた地域やゲストスピーカーの活動については、メディアの記事、論文、書籍等を通じて、より詳しく探求すること。本講義の予習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて講義内で資料を配布する。

【参考書】
講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパーへのコメント）100%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度授業改善アンケートの結果を反映させるとともに、リアクションペーパー等を通じて学生の意見や要望には積極的に応えていく。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布や課題提出等に学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】
講義を担当する４名の教員は、それぞれ地域プランニング、まちづくり活動等の豊富なフィールド経験を有している。それらの経験に基づいてローカルイノベーションの考え方を示していく。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to master the basic concept of local innovation through various case studies. 【Learning Objectives】The goal of this course is to understand the knowledge and skills needed to become a player in creating local innovation. 【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on reaction papers(100%).

SOW200JB（社会福祉学 / Social Welfare 200）

コミュニティソーシャルワーク

宮城　孝

配当年次／単位数：2～4年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者のみ受講可能。2021年度以降入学者は「N1056 ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）Ⅱ」を受講すること。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、社会福祉士、またソーシャルワークに関する専門職の役割と機能について、基本的な内容や方法について理解することを目的とする。また、ミクロ・メゾ・マクロの様々な課題に対応するソーシャルワーク実践の内容について基礎的な理解を図るとともに、事例分析などを通して実践的な思考法や創造力を養うことを目的とする。

【到達目標】
社会福祉士の職域と求められる役割、ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について説明できる。ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について説明できる。地域における総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について説明できる。地域の福祉問題・ニーズを多角的にアセスメントし、具体的なプランニングを基本的に行うことがことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義によるが、理解を助けるために先進的な事例を取り上げるとともに、演習的な方法により、実践的な能力開発を図ることとする。必要に応じ先進事例などのＤＶＤなどを視聴する。演習問題及び課題については、解説を行い、各自で見直しができるようにする。なお、毎回リアクションペーパーに質問・感想を記入させ、必要に応じて次回の講義でコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ソーシャルワーク専門職の概念と範囲、その社会的役割	ソーシャルワーク専門職の概念と範囲,その社会的役割について
第2回	社会福祉士の職域と役割	社会福祉士の職域と役割について事例等を通しての基本的な理解
第3回	福祉行政等における専門職	福祉行政の今日的動向と専門職の役割についての理解
第4回	民間の施設・組織における専門職	民間の施設・組織における専門職の役割についての理解
第5回	地域における社会福祉士の役割	地域における社会福祉士の役割について、事例を通して理解を図る
第6回	諸外国における動向	欧米・その他の諸外国における社会問題とソーシャルワーク等の動向
第7回	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク①	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と方法についての基本的な理解
第8回	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク②	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの実際について事例を通しての理解
第9回	事例を用いた地域におけるソーシャルワーク実践の展開	ニーズの把握方法、焦点化について事例を用いての理解
第10回	総合的・包括的な支援と多職種連携	複合的な事例における多職種連携の意義と方法について事例を用いての理解
第11回	当事者のエンパワメントと組織化支援	当事者のエンパワメントと組織化支援、ボランティアのコーディネートの実際について事例を用いての理解
第12回	チームアプローチの意義と内容	チームアプローチの意義と内容について事例を用いての理解
第13回	ソーシャルワークにおける地域支援	ソーシュルワークにおける地域支援の意義と方法について事例を用いての理解
第14回	まとめ	授業の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は、次回の授業に応じた演習の内容等について理解を図れるようテキストの予習を行う。また、与えられた課題について、文献などを調べてレポートとしてまとめる。レポートの課題は、２～３とする。
準備・復習時間は、４時間以上。

【テキスト（教科書）】
宮城　孝『住民力－超高齢社会を生き抜くチカラ－』明石書店,2022年,1,980円【税込み】
平野隆之・宮城　孝・山口　稔『コミュニティとソーシャルワーク　地域福祉論』有斐閣、2008年

【参考書】
宮城　孝他編著、日本地域福祉研究所監修『コミュニティソーシャルワークの新たな展開－理論と先進事例－』中央法規、2019年
宮城　孝編集代表『地域福祉のイノベーション－コミュニティの持続可能性の危機に挑む－』中央法規、2017年
日本地域福祉学会編『新版地域福祉辞典』中央法規、2006年

【成績評価の方法と基準】
①　平常点、レポート課題(2～3回）等ホームワークの提出とその内容(30%)
②　試験期間内に行う理解度を問う試験(70%)
　両方により総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】
基本的な知識としての理解を図るだけでなく、それらを理解したうえでの応用的な学習、思考力を高めるために、参加型学習方法を取り入れることとする。

【学生が準備すべき機器他】
ＤＶＤ等による事例の視聴

【その他の重要事項】
・本授業は、ソーシャルワークの専門職の役割と機能に関する基礎的な知識を得るとともに、実践的な思考法や創造性を養うことを目標とします。ボランティア活動の体験や報道等で取り上げられる社会的な課題に関心を持ち、授業に活かして下さい。
・講師は、社会福祉協議会での実務経験を有しており、本講義では、その経験や実践現場のソーシャルワーカーへの研修などで用いた教材などを活用して、受講生がソーシャルワークの基本的な理解とスキルを習得することを図ることとする。

【Outline (in English)】
【授業の概要(Course outline)】
This course learn about basic understanding the role and skills about the
generic social work.

【到達目標（Learning Objectives)】
The goals of this course A and B.
A To understanding about the basic contents and skills of generic social　k.through the case analysis.
B To cultivates practical skills and creativity.basic understanding the role and skills of generic social work.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom)】
Before/after each class meeting,students will be expected to spend four
hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on Short report(30%), Term-end examination(70%)

SOW200JB,SOW300JC（社会福祉学 / Social Welfare 200 , 社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワークⅢ

伊藤　正子

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者のみ受講可能。2021年度以降入学者は「N1057 ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」を受講すること。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、人と環境の交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて、特にその方法としてソーシャルワークの実践過程に係る知識と技術、スーパービジョン、および事例分析の意義と方法について説明をする。その目的は、履修者が援助専門職として、その基本的概念、実践過程を構成する様々な要素と留意点、およびアセスメントにおけるソーシャルワーカーの役割等を説明できるようになることである。

【到達目標】
①支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。
②ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。
③ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。
④個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
理論や事例等を通して、ソーシャルワークにおける援助関係の形成、ソーシャルワークの展開過程の意義、目的、方法、留意点、ケアマネジメント、グルー プワークの意義、目的、原則、展開、およびソーシャルワークの記録とスーパービジョン・コンサルテーション、カンファレンスの定義、意義、機能と方法について講義する。対面式での開講となる。学習支援システムを通じてリアクションペーパーや課題を提出してもらい、次回講義の最初にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本講義のねらいと進め方、多様化・複雑化する課題に対応するための、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの理論と方法の概要
第2回	ソーシャルワークにおける援助関係の意義と概念	ソーシャルワーカーとクライエントシステムの関係
第3回	援助関係の形成方法	自己覚知と他者理解、コミュニケーションとラポール
第4回	面接技術	面接の意義、目的、方法、留意点、面接の場面と構造、面接の技法
第5回	アウトリーチ	アウトリーチの意義、目的、方法、留意点、アウトリーチを必要とする対象、ニーズの掘り起こし
第6回	ソーシャルワークの過程①	ケースの発見（アウトリーチ、スクリーニング）、インテーク（インテークの意義、目的、方法、留意点、契約）
第7回	ソーシャルワークの過程②	アセスメント（アセスメントの意義、目的、方法、留意点）、プランニング（プランニングの意義、目的、方法、留意点、効果と限界の予測、支援方針・内容の説明・同意）
第8回	ソーシャルワークの過程③	支援の実施（支援の意義、目的、方法、留意点）、モニタリング（モニタリングの意義、目的、方法、留意点、効果測定）、支援の終結と事後評価（支援の終結と事後評価の目的、方法、留意点）、アフターケア（アフターケアの目的、方法、留意点）
第9回	ソーシャルワークの記録	記録の意義と目的（ソーシャルワークの質の向上、支援の継続性、一貫性、機関の運営管理、教育、研究、アカウンタビリティ）、記録の方法と実際（記録の文体（叙述体、要約体、説明体等）、項目式（フェースシート等）、図表式（ジェノグラム、エコマップ等）
第10回	ケアマネジメント	ケアマネジメントの原則（ケアマネジメントの歴史、適用と対象）、ケアマネジメントの意義と方法（ケアマネジメントの意義、ケアマネジメントのプロセス、ケアマネジメントのモデル）
第11回	集団を活用した支援①	グループワークの意義と目的（グループダイナミクス）、グループワークの原則（個別化の原則、受容の原則、参加の原則、体験の原則、葛藤解決の原則、制限の原則、継続評価の原則）
第12回	集団を活用した支援②	グループワークの展開過程（準備期、開始期、作業期、終結期）、セルフヘルプグループ（共感性、分かち合い、ヘルパーセラピー原則、体験的知識、役割モデルの習得、援助者の役割）
第13回	スーパービジョンとコンサルテーション	スーパービジョンの意義、目的、方法（スーパービジョンの定義、スーパーバイザーとスーパーバイジーの関係、スーパービジョンの機能、スーパービジョンの形態と方法）、コンサルテーションの意義、目的、方法（コンサルテーションの定義、コンサルタントとコンサルティーの関係、コンサルテーションの方法）
第14回	カンファレンスと事例分析	カンファレンスの一義、目的、留意点、カンファレンスの運営と展開、事例分析の意義、目的、事例検討、事例研究の意義、目的、方法、留意点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適宜紹介する文献については読み、理解を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 11 ソーシャルワークの理論と方法 (共通・社会専門)』中央法規
一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法 (共通科目)』中央法規窪田暁子著『福祉援助の臨床：共感する他者として』誠信書房 2013年
その他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点、リアクションペーパー、試験の総合評価とする。
授業への能動的参加（40％）、試験（60％）

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーを通じた学生との意見交換、授業内容の確認を積極的に行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
資料の配布、課題の提出等は学習支援システムを利用するため、事前にプリントアウトするか情報機器（パソコン）を準備しておくことが望ましい。

【その他の重要事項】
医療機関・外国人支援ＮＧＯでのソーシャルワーカー経験を持つ教員が、社会福祉領域において発生する諸問題やその支援のあり方について、様々な事例を交えて解説する。

【Outline (in English)】
This course introduces the interaction between people and the environments, microlevel, midlevel, macro level intervention, the theories and practice models, social work knowledges, values, skills, the concepts and process of community social work, care management, and supervision. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of social work theories as an empowering profession, the various elements that make up social work and practice the role of social worker on assessment.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%、Short reports : 40%

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

司法福祉論

辰野　文理

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者のみ受講可能。2021年度以降入学者は「N1114 刑事司法と福祉」を受講すること。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、主に社会福祉士に関心のある学生向けに、刑事司法の概略とその中の更生保護に関する基本的な事項を解説することにより、そうした学生の皆さんが社会福祉士として活動するために必要となる基礎的知識を習得することをめざす。
刑事司法は、犯罪問題に向けられた国家的諸活動の総称で、犯罪の防止、捜査、裁判、犯罪者の処遇に至る刑事手続の全過程を含むものである。具体的には、警察、検察、裁判、矯正、更生保護の諸活動を指す。
矯正は、刑務所等の矯正施設の保安警備、被収容者に対する処遇などを司っており、保護は、仮釈放に関する事務や仮釈放になった者等の保護観察、恩赦や犯罪予防活動に関する事などを担っている。この中で、更生保護は、刑務所を出所したひとや非行少年などに対し、指導や援助をすることで、再犯を防ぎ、社会生活を送れるように働きかける制度であり、対象となるのは、刑務所から仮釈放になった人、少年院から仮退院になる少年、家庭裁判所で保護観察処分となった少年、保護観察付き執行猶予の言い渡しを受けた人などである。
更生保護は、こうした人々を対象に、遵守事項の遵守を求め、生活上必要な指導を行って、改善更生への指導を行うとともに、自立した生活を営むことができるようにするために必要に応じて住居や職を得る援助を行っており、福祉との関係が強い領域である。
近年、刑務所を出所した高齢者や障害者を福祉サービスにつなぐことで再犯を防止する対策が打ち出されており、その中の福祉へのつなぎ役として、刑務所や更生保護施設、検察庁に関わる社会福祉士の役割が重要となってきている。
そこで本講義では、資料等により刑事司法や更生保護の個々の制度を学習する。受講者はこの学習を通じ、刑事司法、少年司法の概要と更生保護制度に対する理解を深めることができる。

【到達目標】
・刑事司法、少年司法、更生保護等、本授業で扱う基本的用語の意味を説明できる。
・本授業で扱う種々の手続きについて、その対象、具体的内容を説明できる。
・刑事司法の流れと福祉との関わりを説明できる。
・犯罪者処遇の意義や課題について複数の視点から討議できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
各回ごとに各事項の概要を講義と討議により学習した上で、基本的事項の振り返り課題を行いながら進行する。振り返り課題へのフィードバックとして、解説、講評を行うとともに、区切りごとに、振り返りを行う。（授業展開によって各回で扱うテーマや内容に若干の変更がありうる。また、諸状況により、授業形式に変更がありうる。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	犯罪の動向、刑事司法の流れ、少年非行の動向、再犯の状況等	犯罪動向、少年非行の動向、再犯の状況等を把握した上で、刑事司法の流れを学習する。
2	刑事司法を取り巻く環境	再犯の防止等の推進に関する法律を軸に、再犯防止のための取り組みを学習する。
3	刑事司法と刑事司法機関	刑法、犯罪の成立要件、刑事司法機関の概要などを学習する。
4	刑事司法と犯罪者処遇	犯罪原因論を概観した上で、犯罪者処遇へのつながりについて学習する。
5	少年司法	少年法、少年事件の手続を概観した上で、少年鑑別所や少年院の役割について学習する。
6	犯罪被害者支援	犯罪被害の状況、犯罪被害者等基本法、犯罪被害者支援の展開等を学習する。
7	更生保護制度の概要	更生保護制度の意義、歴史、関連機関を学習する。
8	仮釈放、生活環境の調整	仮釈放等の概要と性格環境の調整について学習する。
9	保護観察の概要	保護観察の種類、遵守事項等を学習する。
10	保護観察の詳細	保護観察処遇の具体的な内容について学習する。
11	更生緊急保護、更生保護施設等	更生緊急保護の対象や内容、更生保護施設の概要を学習する。
12	医療観察制度	医療観察制度の概要を学習する。
13	更生保護に関わる機関や民間協力者、犯罪者処遇における近年の動向	犯罪者の処遇に関する近年の話題や施策、司法と福祉との連携について学習する。
14	最終確認試験、解説	学習範囲の全般を復習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、毎時間、資料等の該当箇所に目を通して授業に臨む。授業後、復習として、学習した範囲を見直し、振り返り問題を行う。
また、刑事司法や更生保護に対する理解を深めるために、事件を起こした者がその後どのように扱われているかについて関心を持ってメディアに目を通しておく。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書はとくに指定しない。
毎回、授業で使用するスライドをｐｄｆファイルにして事前配付する。

【参考書】
・法務省保護局のサイト
（http://www.moj.go.jp/hogo1/soumu/hogo_index.html）
・日本更生保護学会編『更生保護学事典』成文堂,2021年
・辰野文理『要説 更生保護[3版]』成文堂,2018年
・藤本・生島・辰野 (編)『よくわかる更生保護』ミネルヴァ書房,2016年
・そのほか、犯罪白書、再犯防止推進白書、犯罪被害者白書等を参照する（いずれもWebでの利用が可）

【成績評価の方法と基準】
各回の区切りごとに振り返りの確認テストを行い、その履修状況及び結果を評価する（20%）。
全範囲学習後に、授業への参加度を考慮した上で、基本的知識の定着度を確認するための試験を行う（80％）。
成績の評価はこれらを総合して100点満点として行い、60点以上が合格となる。
フィードバックとして、順次確認問題の解答を提示する。最終試験実施後、講評を行う。

【学生の意見等からの気づき】
多くの受講生にとって刑事司法や犯罪関係の講義の受講が初めてであることを考慮し、基本的な事項や用語の説明にも時間をさく予定である。

【その他の重要事項】
法務省や保護観察所勤務の実務経験に基づき、実務に即した具体的説明を取り入れた授業内容とする。（「実務経験のある教員による授業」に該当）

【Outline (in English)】
【Course outline】

The purpose of this course is to introduce procedure and the significance of "Offenders Rehabilitation".
"Offenders Rehabilitation" system is, with regard to persons who have committed crimes and juvenile delinquents, to prevent them from re-offending and assist them to rehabilitate themselves by treating them properly within society.
The object of the welfare often overlaps with an object of "Offenders Rehabilitation". Most of method and menus of the support are common, too. Therefore in late years the role of the social worker became important in a field of "Offenders Rehabilitation".
Through this course, students will be able to explain basic knowledge about "Criminal Justice", "Juvenile Justice" and "Offenders Rehabilitation", that is necessary to be a social worker.
【Learning Objectives】
· To be able to explain the meaning of basic terms used in this class.
· To be able to explain the subject matter and specific details of the various procedures covered in this class.
· To be able to explain the flow of criminal justice and its relation to welfare.
· To be able to discuss the significance and issues of the treatment of offenders from multiple perspectives.
【Learning activities outside of classroom】
[Preparation: 60 minutes: Have a look at the relevant parts of the textbook to grasp an overview.
[Review: 60 minutes] Have a look at the relevant parts of the text and deepen your understanding of them to leave nothing unclear.
Keep yourself interested in everyday life and follow media reports concerning how offenders are treated after their troublemaking, in order to deepen your understanding of criminal justice and offenders rehabilitation.
【Grading Criteria /Policy】
A paper exam will be given to test how well you have established your basic knowledge. Its scores will be considered for your grades (80%).
The level of effort in the quiz for review (20%).
The final exam will be used to evaluate whether the students have understood the fundamentals of the entire course.
The answers to the quizzes will be presented as feedback. The final exam will be followed by a critique.

MAN300JB（経営学 / Management 300）

地域経営論（SSI）

遠藤　聖子

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：SSI生向けの科目につき、SSI生以外は授業コード「N1151」を選択すること。

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
少子高齢化、人口減少に直面した我が国では、地域でその社会的課題に対し様々な手法で解決に取り組んでいます。本講義では、この取り組みを「地域経営＝地域のまちづくり」と捉え、誰が、何を、どのようにマネジメントして、持続可能な地域づくり・まちづくりを行なっているか事例を中心に学びます。そして、地域で起きている課題を自分ごととして考え、地域のあり方、まちづくりにおける市民・行政・企業・大学などの役割と協働のあり方について考察します。

【到達目標】
次の事項について基本的な理解を得るとともに、テーマごとの課題とその対応方針についても問題意識を高めることを到達目標とします。
・地域経営に関する基本的な枠組み、法制度及び諸制度、考え方
・地域経営に関する国と地方の関係、地方分権と自治
・地域経営に関する市民(住民)、事業者、行政等の連携・協力・分担の考え方
・地域経営の手法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は原則、「講義」と「講義テーマに応じた全体、またはグループ討議等のミニワークショップ」により進めます。受講生が、地域経営、地域づくり、まちづくりについて具体的なイメージを持って思考できるよう事例紹介を中心に進めます。各回講義のに対するリアクションペーパーで示された問いやつぶやきを講義の中で紹介し、双方向のやりとりをしながら受講者全体の理解が深まるよう進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 地域経営とは	・講義ガイダンス ・「地域経営」の全体像とまちづくり ・視点の整理 ・各回講義の要点解説
第2回	地方分権と地方自治、その系譜	・「地方分権」「地方自治」の系譜 ・今日的課題
第3回	地域経営における行政の役割とは	・行政が取り組む事例の紹介
第4回	住民参加とまちづくり①	・まちづくり、地域経営における法律と条例の役割 ・まちづくり条例の系譜 ・まちづくり協議会
第5回	住民参加とまちづくり②	・まちづくりセンター ・まちづくりにおける紛争とその歴史 ・住民参加の意義 ・地域経営における合意形成の方法とあり方の考察
第6回	官民産学連携のまちづくり	各地の ・エリアマネジメント ・アーバンデザインセンター等、果たす役割と取り組み
第7回	地域のストックを活かすまちづくり①	・風景づくり ・歴史、文化を活かす ・リノベーション　等、 まちづくりの取り組みと課題
第8回	地域のストックを活かすまちづくり②	・公共施設、公共空間の更新と魅力化 ・空き家、空き地の活用　等、 各地の取り組みと課題
第9回	商業地・中心市街地のまちづくり①	・商業地、中心市街地の現状と課題 ・まちなか再生の動き　等、 各地の取り組みと課題
第10回	商業地・中心市街地のまちづくり②	・まちづくり会社（TMO） ・まちなか観光（DMO） 等、まちづくりを担う組織の役割と取り組み、課題
第11回	郊外住宅地のまちづくり	・戸建て住宅地の管理 ・ニュータウン、郊外住宅地の取り組み ・団地、マンション管理組合と自治会 等、まちづくりを担う組織の役割と取り組み、課題
第12回	災害とまちづくり	・大規模災害、大規模震災にみる地域、まちづくりの課題と取り組みの系譜 ・これからの課題
第13回	講義の総括①	・レポートの課題の解説 ・個別相談
第14回	講義の総括②	・受講生の感想 ・講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・少子高齢化、人口減少社会における地域経営、地域づくり、まちづくりに関する広範な書籍、新聞記事等の通読を薦めます。本講義の復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。毎回、パワーポイント資料を事前にアップします。

【参考書】
講義において適宜紹介しますが、次の書籍を参考図書として薦めます。
・「平成都市計画史ー転換期の30年間が残したもの・受け継ぐもの」 饗庭 伸 著（共栄書房/2021年）
・「アーバンデザイン講座」前田 英寿 等　著（彰国社/2018年）

【成績評価の方法と基準】
①講義とその後の全体討議・ミニワークショップ等を踏まえたリアクションペーパー50％
②レポート50％（レポート課題は6月前半に提示）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
特にありません。

【Outline (in English)】
【Course outline】

Faced with a declining birthrate, an aging population, and a shrinking population, Japan's local communities are using a variety of methods to address social issues. In this lecture, this approach will be considered as "regional management = regional community development. You will learn who, what, and how sustainable regional and community development is carried out, focusing on case studies. The course will also consider local issues as if they were their own, and examine the roles of citizens, government, business, and universities in community development and how they should work together. In Japan, facing declining birthrates, an aging population, and a shrinking population, local communities are working to solve social issues using a variety of methods. In this lecture, we will consider these efforts as "regional management = regional community development. We will learn who, what, and how sustainable regional and community development is carried out, focusing on case studies. We will also consider issues that arise in the community as if they were our own, and discuss how the community should be, and the roles and collaboration of citizens, government, businesses, and universities in community development.

【Learning Objectives】

The objective of the course is to provide participants with a basic understanding of the following issues, and to raise their awareness of the issues and policies related to each theme.

· Basic framework, legal system, and various systems and ideas related to regional management

· Relationship between the national and local governments, decentralization, and self-governance related to regional management

· Collaboration, cooperation, and sharing of responsibilities among citizens (residents), businesses, and governments related to regional management

· Methods of regional management

【Learning activities outside of classroom】

Students will be required to read a wide range of books and articles related to urban and regional planning and regional management in a society with a declining population, low birthrate and aging society. In this class, we will review a wide range of articles on urban and regional development and regional management in a declining population and an aging society. The standard review time for this class is two hours each.

【Grading Criteria/Policy】

(1) Reaction paper based on the lecture and subsequent plenary discussions, mini-workshops, etc.: 50%

(2) Report: 50%(report assignment will be presented in the first half of June)

MAN300JB（経営学 / Management 300）

NPO論（SSI）

渡真利　紘一

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：SSI生向けの科目につき、SSI生以外は授業コード「N1155」を選択すること。旧「非営利組織の運営」修得者は不可。

その他属性：〈実〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「NPO/非営利組織」は単に行政サービスを補完する組織ではなく、新しい未知なる価値を生み出し、市民社会を創造する主体であることを理解し、その実践のための方法を学びます。併せて、NPOの成立した歴史的背景やその社会的役割をはじめ、運営上の課題や他の主体（ボランティア、行政、民間企業(CSR)、助成財団など）との関係から、今後の社会のあり方を考えていきます。

【到達目標】
・NPOの社会的意義を理解し、実践の方法について具体的にイメージすることができる
・自らの関心分野のNPO活動の考案や授業のなかで気になったテーマに関する研究を通じ、社会との主体的な関わり方を学ぶ
NPOを論じる過程で、受講者自らが、自分らしく在ること／他者に対して寛容であること／仲間を持つこと／社会と本音で向き合うこと等の重要性を認識する機会につながればと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の前半は、NPOに関する基本的な内容（歴史的背景や社会的意義、運営方法や他の社会資源との関係等）について、映像資料や参考書等を交えて紹介します。後半は、NPO活動実践者から実践を聞き、体験的に実践を把握できる機会をつくります。授業形態は講義を主とします。受講者各々が授業を通じて感じたことや考えたことを言葉にし、共有するなかでの学びも大切にします。
各回の授業計画の変更が生じる場合があります。変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション/NPOのイメージ	NPOのイメージや昨今の社会情勢を共有し、本講義の目的や目標、進め方を受講生と決定する。
第2回	NPOの活動分野と関心分野	映像資料等を活用しながら、NPOの活動分野について知るとともに各々の関心分野について話し合う。
第3回	NPOの歴史的背景と社会的意義	非営利な活動の歴史的背景やNPO法設立経緯等から、NPOの文脈を辿る。
第4回	NPOの社会的意義	行政や企業等との比較を通じ、NPOの社会的意義について考察する。
第5回	NPOの組織運営	NPO組織の立ち上げや運営方法について基本的な内容を理解する。
第6回	NPOと他の主体との関係	他の主体（ボランティア、行政、民間企業(CSR)、助成財団など）との関係について把握する。
第7回	中間課題の共有	中間課題で調べたり考えたことを共有し、お互いの観点から学ぶ。
第8回	実践から考えるシリーズ「資金を調達する」	クラウドファンディングや会費による基金創設、助成金申請など、NPOの多様な財源確保策を取り上げ、各手段の特徴や資金調達の際に配慮すべきことについて考察する。
第9回	実践から考えるシリーズ「協力関係をつくる」	コミュニティ・オーガナイジングや協力のテクノロジー等の理論や具体例を取り上げ、協力関係をつくる方法について考察する。
第10回	NPOの活動事例紹介	NPO活動に携わる者（ゲスト）から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第11回	NPOの活動事例紹介	NPO活動に携わる者（ゲスト）から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第12回	期末課題発表会1	グループ又は個人で期末課題の発表を行う。
第13回	期末課題発表会2	グループ又は個人で期末課題の発表を行う。
第14回	最終講義「これからの市民社会とわたしたち」	授業の振り返りやまとめを行うとともに、これからの社会を生きる私たちにとって大切な観点とは何か、検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の振り返りの時間を大切にしてください。
また、授業で気になったキーワードや考え方について本やネット、ニュースや映画等から更なる情報をインプットしたり、学んだ内容を周囲に話す等、言葉によるアウトプットを心がけ、自らの「観」を養っていくことを期待します。
授業で紹介したNPOの主催するイベント等へ参加したり、NPO活動へボランティアや取材等を通じて主体的に関わることを推奨します。本授業の準備・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
（1）平常点（出席・リアクション）50点、（2）中間課題（NPO活動計画書）10点、（3）期末課題（発表、レポート）40点。
平常点については、授業ごとに授業中の発言又はリアクションペーパーによって評価・採点します。
なお、成績評価の観点の例は以下のとおりです。
・NPOを論じることで社会の捉え方がどのくらい多様になったか
・受講者自らの関心分野の活動や研究テーマにどのくらい主体的に理解を深める関わりができたか
・クラスメイトが関心分野への理解を深めることにどのくらい協力して取り組めたか
（注）授業を欠席する場合は事前に連絡してください。
（注）実習や就職活動、部活動や健康上の理由などで授業への出席があまりできない人は、出来るだけ早く教員に知らせてください。

【学生の意見等からの気づき】
・受講者同士がお互いの観点を尊重して学びを深める環境をつくります。
・授業内容の理解の手助けとなる書籍や映像、記事等を紹介します。
・NPO活動の企画立案を具体的に検討する内容や実践からNPO活動を考察する内容の充実を図ります。

【学生が準備すべき機器他】
講義資料の閲覧や調べ物をする際に使用するため、パソコン又はスマートフォンを持参してください。

【その他の重要事項】
授業計画の内容は、社会情勢や授業の展開によって、変更があり得ることを申し添えます。

【Outline (in English)】
NPO/Non Profit Organization is not just organizations to cover government services, but it provides new values and creates civil societies proactively.

Throughout the class, we understand methods of cooperation with NPOs and the future of our society learning historical background of its establishment, its social roles, operational challenges and relations of other social resources such as volunteers, public administrations, CSRs and grant making foundations.
The goals of this course are to “To understand Social significance of Non Profit Organization”.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
- Being yourself.
- Being tolerant of others.
- Facing society in earnest.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 40%、Short reports : 10%、in class contribution: 50%

CMF300JB（その他の複合領域 / Complex systems(Others) 300）

コミュニティアート（SSI）

吉野　裕之

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：SSI生向けの科目につき、SSI生以外は授業コード「N1162」を選択すること。

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多くの事例を通して、アートは単に芸術作品のことではなく、まち＝コミュニティを豊かに耕す日常的な実践であることを理解し、その実践のための方法を学ぶとともに、これからのまちづくりのあり方を考えていく。

【到達目標】
まち＝コミュニティは最も身近な社会であり、私たちの生活の現場であることの意味を理解し、コミュニティアートとは住民がそれぞれの立場でまち＝コミュニティの価値を高めていく行為であるという視点から、こうした実践の分析や評価、企画を行うことができるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業でいうアートとは、いわゆる美術だけでなく、文芸、音楽、演劇など、さらに暮らしに根づいた生活文化をも含めたもの／ことを指し、こうしたアートをまちづくりにおいてどのように活用するかについて学ぶ。前半では「まちづくりとは何か」「アートとは何か」について、後半では「まちづくりにおけるよりよいアートの活用のしかた」について学ぶ。
方法としては、講義形式が中心にはなるが、ワークシートを活用した思考のトレーニングやグループでのディスカッションなども取り入れていく。また、リアクションペーパーなどにおける優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容全般の説明。
第2回	ＮＰＯ・市民主体のまちづくりの意義	ＮＰＯ・市民主体のまちづくりの意味や意義についての説明。（授業の展開によって、若干の変更があり得る。以下同）
第3回	市民主体のまちづくりの事例（１）	ＮＰＯ・市民活動によるまちづくりの事例（学生が主体となった活動の事例）の紹介と解説。
第4回	市民主体のまちづくりの事例（２）	ＮＰＯ・市民活動によるまちづくりの事例（中高齢者が主体となった活動の事例）の紹介と解説。
第5回	生活の現場としてのまちをめぐる考察	実体験に基づくまちをめぐる考察とＮＰＯ・市民主体のまちづくりの意味の考察。
第6回	アートの意味	アートの意味（意味の歴史的変遷や芸術家のことばなど）の説明。
第7回	コミュニティアートの要件と機能	コミュニティアートの要件と機能の説明。
第8回	都市空間・まちなかのアートの変遷	都市空間・まちなかのアート（パブリックアートやコミュニティアートなど）の変遷の説明。
第9回	コミュニティアートの事例（１）	コミュニティアートの事例（基本的な考え方を理解するための事例）の紹介と解説。
第10回	コミュニティアートの事例（２）	コミュニティアートの事例（大都市／拠点型）の紹介と解説。
第11回	コミュニティアートの事例（３）	コミュニティアートの事例（大都市／まちなか展開型）の紹介と解説。
第12回	コミュニティアートの事例（４）	コミュニティアートの事例（地方都市／地域密着型）の紹介と解説。
第13回	コミュニティアートの事例（５）	コミュニティアートの事例（地方都市／地域交流型）の紹介と解説。
第14回	これからのまちづくりとアート	これからのまちづくりとアートの関係のあり方についての解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、必ず授業の復習をすること。また、授業に関連する新聞記事や文献などに関心をもつとともに、日々の生活のさまざまなもの／ことを、授業との関連で捉え直していくように心掛けること。さらには、まちづくりやアートに関わるイベントなどには積極的に参加することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は1回につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。（必要に応じて適宜配布する。）

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパーなど）：30点　期末レポート：70点
平常点におけるリアクションペーパーなどでは、1回〜数回の授業の内容の理解度について確認する。
期末レポートでは、コミュニティアートの意味の理解度やその分析・評価などの習得度について確認する。

【学生の意見等からの気づき】
これまでと同様だが、応用力、思考力がついた、新しい発見があったなどの感想をもつ学生が多い。自分が大きく変化できたということだろう。今年度も引き続きこうした授業を展開していきたい。

【Outline (in English)】
(Course outline)
We will understand that art is a powerful way to revitalize the community, learn methods for practicing it, and think about the way of community design in the future.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students will be able to do the followings:
– Analysis and evaluation of cases about community art
– Planning of community art
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
– Reviewing the class meeting
– Reading literature related to the class meeting
– Participating in events related to community design and art
(Grading Criteria /Policy)
Final grade will be calculated according to the following process.
Short reports : 30%、Term-end report : 70%

TRS300JB（観光学 / Tourism Studies 300）

地域ツーリズム（SSI）

野田　岳仁

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：SSI生向けの科目につき、SSI生以外は授業コード「N1165」を選択すること。

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、地域ツーリズムの論理とその仕組みを理解することを通じて、地域社会における持続的な観光のあり方を模索することを目的としている。地域ツーリズムとは、観光の本質にある“大衆性”を相対化し、地域課題の解決や現場に暮らす人びとの幸せ（ウェルビーイング）の実現を目指す新しい観光実践である。それゆえ本講義では、地域ツーリズムの典型として、”水辺空間の観光化”、”伝統文化の観光化”、”生活空間の観光化”の３つのテーマのケーススタディを扱う。地域ツーリズムという新しい観光実践を理解するうえで大切なことは、現場に暮らす人びとの立場に立って、問題の本質を理解し、その解決に応えようとする視点を持つことである。従来の大衆的な観光とは異なる特徴を持つからこそ、地域ツーリズムを理解する新しい方法論を構想していく必要があるからである。本講義では、現場の人びとの立場からの持続可能な観光のあり方を探究していく。

【到達目標】
大衆的な観光との差異に注目しながら、地域ツーリズムの基本的な考え方を理解し、地域ツーリズムを捉える視点を養うこと。そのうえで、現場の人びとが抱える課題に対して、本講義の知見を活かして有効性のある政策論を構想する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では”いくら儲かるか”、”いかに集客を伸ばせるのか”といった大衆的な観光のイメージを相対化して、現場の人びとの立場から観光という現象を捉え直していく。DVDなどの視覚資料を積極的に活用する。授業の展開によって若干の変更がありうる。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域ツーリズムとは？	地域づくりの手段としての「観光」論
第2回	地域ツーリズムをとらえる視点	人びとの「生活」を捉える方法から
第3回	大衆的な観光地は本当に稼げるのか？	マスツーリズムの功罪
第4回	観光地化を目指さない美しいむらづくり	競争から共創の観光まちづくり
第5回	地域ツーリズムにおける成功とは？	水辺空間の観光化①
第6回	生活保全としての地域ツーリズム	水辺空間の観光化②
第7回	地域の自治とツーリズム	前半のまとめ
第8回	なぜ地元の人びとは踊りの観光資源化を望まないのか？	伝統文化の観光化
第9回	水を愛でる自然観からみたアクアツーリズム	生活空間の観光化①
第10回	アクアツーリズムの担い手論	生活空間の観光化②
第11回	アクアツーリズムの論理と価値	生活空間の観光化③
第12回	銀座のローカル・ルールとアクアツーリズム	生活空間の観光化④
第13回	地域ツーリズムの理論と実践	観光の大衆性を相対化する新しい観光論の構想
第14回	講義のまとめと試験	本講義の知見と意義の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適宜アナウンスするが、各回の振り返りは不可欠となる。配布資料に記載された参考文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布する。

【参考書】
毎回の配布資料に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
講義内のコメント・リアクションペーパー（10%）、期末試験（90%）の総合評価。到達目標が達成されているかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】
担当教員は地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to help students master the basic concepts of community tourism studies.【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe major methods and theories of community tourism studies, discuss the role of local community policy and apply the treatment of community tourism problems.【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on reaction papers(10%) and term-end examination (90%).

SOW300JB,SOW300JC（社会福祉学 / Social Welfare 300 , 社会福祉学 / Social Welfare 300）

精神保健福祉論Ⅰ

三木　良子

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者のみ受講可能。2021年度以降入学者は「N1167 精神保健福祉制度論Ⅰ」を受講すること。
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1. 精神保健医療福祉に関連する法制度の成立の背景を理解する
2. 精神保健医療福祉に関する法制度やサービスを理解する
3. 法制度や福祉サービスの理解を通して精神保健福祉士としての価値や実践を理解する
4. 精神保健福祉領域における人権について理解を深める

【到達目標】
1. 精神障害者に関する制度・施策を理解している
2. 精神障害者の医療に関する制度について理解している
3. 精神保健医療福祉領域の人権に関する課題について理解している
5. 精神障害者の医療の現場の精神保健福祉士の役割や実践を理解している

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
精神保健福祉に係る歴史や理念を理解し、現行の福祉施策の背景や動向について解説します。また、精神障害者をとりまく保健医療福祉に関する具体的な法律や制度及び現状について解説します。主として講義形式で行います。リアクションペーパーや課題等に対しては、提出後翌授業時に口頭及びコメントを記載したものを返却するなどしてフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	学習目標、学習内容の確認
2	精神障害者と法制度	精神科医療における精神障害者の現状を理解する
3	精神保健福祉法の成立過程とこれまで	精神保健法福祉法成立までの法律の変遷を理解する
4	精神保健福祉法①	精神保健福祉法の全体像を理解する
5	精神保健福祉法②	精神保健福祉法の詳細を理解する①
6	精神保健福祉法③	精神保健福祉法の詳細を理解する②
7	精神保健福祉法④	精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割
8	精神科救急の現状	精神科救急の現状や精神保健福祉士の役割を理解する
9	精神科医療がかかわりを持つ施策	自殺対策、認知症対策、依存症対策等
10	心神喪失者医療観察法①	心神喪失者医療観察法の全体像を理解する
11	心神喪失者医療観察法②	事例を通して当事者理解と精神保健福祉士の役割を理解する
12	障害者の権利条約と周辺法律	障害者の権利条約の成立過程について理解する
13	精神障害者の医療と関連する法律	障害者差別解消法、障害者虐待防止法、地域移行・地域定着と地域包括ケアシステム
14	試験	試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時に説明する本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時に紹介する

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題提出、小テスト等を含む） 50%、定期期末試験 50%
※平常点を満たしていても、試験で60点以下の場合は不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
板書を丁寧に行う

【Outline (in English)】
Course outline
This lecture course is aimed understand lows, policies and any other systems for person with mental health issues and around them.
Learning Objectives
The goals of this course are to understand below 1. 2. 3 and 4.
-1. Policies about psychiatry and social service for person with mental health issues.
-2. Support facilities for person with mental health issues.
-3. Offenders' rehabilitation and act on medical care treatment for person who have caused serious cases under the condition of insanity.
-4 Rights and with mental health issues.
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policy
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination:　50%、Short reports and in class contribution: 50%

SOW300JB,SOW300JC（社会福祉学 / Social Welfare 300 , 社会福祉学 / Social Welfare 300）

精神保健福祉論Ⅱ

三木　良子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者のみ受講可能。2021年度以降入学者は「N1168 精神保健福祉制度論Ⅱ」を受講すること。
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1.精神障害者の「本人らしい生活」について理解し、個々人に応じた居住支援や就労支援、余暇支援等について理解を深める
2.また、その際の精神福祉士の役割や実践課題などとともに、精神障害者の地域包括支援のための具体的な知識と方法を習得することを目的とする。

【到達目標】
1.生活の実際と生活支援の意義と特徴を理解する
2.居住支援に関する制度・施策について理解する
3.就労支援に関する制度・施策について理解する
4.精神障害者への包括支援システムについて理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
精神障害者の地域生活を支援するために必要な、概念の理解、法律や制度、支援方法について学ぶ。主として講義形式で行います。リアクションペーパーや課題等に対しては、提出後翌授業時に口頭及びコメントを記載したものを返却するなどしてフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	学習目標、内容の確認
2	精神障害者の生活の実際	地域、医療における精神障害者の現状についての基礎知識を理解する
3	精神障害者の生活と権利	地域生活、医療における人権と権利擁護について理解する
4	居住支援①	居住支援制度の概要を理解する
5	居住支援②	居住支援にかかわる専門職とその役割を理解する
6	雇用支援①	雇用・就労の現状を理解する
7	雇用支援②	雇用・就労に関する法律、制度を理解する
8	精神障害者の経済的支援①	所得保障の全体像を理解する
9	精神障害者の経済的支援②	低所得に関する制度を理解する
10	精神障害者の経済的支援③	事例を通した所得保障や制度を理解する
11	地域生活支援①	精神障害者の地域移行・地域定着の事例理解
12	地域生活支援②	精神障害者の就労に関する事例理解
13	地域生活支援③	精神障害者の地域生活支援における精神保健福祉士の役割を理解する
14	試験	試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回授業で取り扱う内容に関連する文献等を指示し、予習を行う。また、授業時にも復習用の文献を提示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時に紹介する

【参考書】
授業時に紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題提出、小テスト等を含む） 50%、定期期末試験 50％
※平常点を満たしていても、試験で60点以下の場合は不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
板書を丁寧に行う

【Outline (in English)】
Course outline
This lecture course is aimed understand lows for working, housing and other support to live well for person with mental health issues.
Learning Objectives
The goals of this course are to understand below 1. 2. 3. 4. and 5
-1.　Actual life of person with mental health issues and importance of support system for them.
-2. Social service of housing.
-3. Social service of employment and working.
-4. support system in community.
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policy
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination:　50%、Short reports and in class contribution: 50%

SOW300JB,SOW300JC（社会福祉学 / Social Welfare 300 , 社会福祉学 / Social Welfare 300）

児童福祉論

板倉　香子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者のみ受講可能。2021年度以降入学者は「N1204 子ども家庭福祉論」を受講すること。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、子どもと家族をとりまく社会の現状を知り、子どもの育ちと子育てを支える子ども家庭福祉の理念や制度について体系的に学ぶことを目的とする。

【到達目標】
・現代社会における子どもと家族の問題を社会的背景と歴史的検討を踏まえて考察できる。
・児童福祉制度とサービスについて、ニーズと実践をふまえて理解し説明できる。
・子どもの権利の視点から、子どもの育ちと子育て支援、社会的養護について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
上記の到達目標を達成するために、①現代社会における子どもと子育て家庭をとりまく社会的状況について概説し、②子ども家庭福祉の理念と概念を学習する。③歴史的経緯をふまえて、④子どもの権利を中心に子どもの育ちと子育てをどのように支援するのか、⑤子ども家庭福祉に関わる法制度や福祉サービスの理解を深める。授業全般を通して、子どもが健やかに育つことのできる地域社会のありようについて考察する。
原則として毎回ふりかえりの提出を求め、その内容の共有やフィードバックの機会を設ける。また、授業内で複数回の小レポートを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション　子ども家庭福祉で学ぶこと	授業の進め方／子どもの定義／子どもの育ちと子育て家庭に関わる社会の状況を知る
第2回	現代社会の子どもと家族を取り巻く課題	現代日本の子どもと家族をとりまく社会状況と課題について学ぶ
第3回	子ども福祉の歴史	欧米と日本における児童福祉の歴史と先達の実践について学ぶ
第4回	子どもの権利と児童福祉法	子どもの権利と児童福祉法について学ぶ
第5回	子ども家庭福祉の法体系と実施体制	児童家庭福祉の制度・法体系と実施体制について学ぶ
第6回	生命倫理と母子保健	母子保健と子育て支援の展開／出生前診断について学ぶ
第7回	少子化対策と子育て支援、現代における保育	少子化対策の変遷と子育て支援の現状／多様な保育サービスについて学ぶ
第8回	学齢期の子どもの福祉	学齢期の子どもの育ち／福祉と教育の重なりについて学ぶ
第9回	障害と子ども・家族	障害のある子どもと家族の支援について学ぶ
第10回	子ども虐待とドメスティックバイオレンス	子ども虐待とドメスティックバイオレンスについて学ぶ
第11回	社会的養護	社会的養護について施設養護・家庭養護の法制度や実践を学ぶ
第12回	子ども・家族の貧困	子どもと家族の貧困の現状と支援の実際について学ぶ
第13回	ひとり親家族の福祉	ひとり親家族の現状と関連する法制度やサービスについて学ぶ
第14回	非行少年の背景と支援	非行少年の背景と支援の実際について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修者は、事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。授業内では小レポート課題やふりかえりの提出を求める。事後には配布資料とテキストを元に授業内容を復習し、関心をもったトピックについてニュース等を調べること。
本授業の準備・復習時間は各回４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
垣内国光・岩田美香・板倉香子・新藤こずえ（2022）『子ども家庭福祉―子ども・家族・社会をどうとらえるか』＜第２刷＞生活書院

【参考書】
一般社団法人全国保育士養成協議会監修／宮島清・山縣文治編集（2024）『ひと目でわかる　保育者のための子ども家庭福祉データブック2025』中央法規
ほか、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
ふりかえり（30％）、小レポート（30％）、期末レポート（40％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
資料は、授業当日は紙で配布し、１週間後に学習支援システムからデータ（PDF）を配信する。ふりかえりや小レポート課題、学期末レポート課題の提出は学習支援システムを用いる。

【その他の重要事項】
レポート課題の作成に生成AIを用いる場合は、利用した旨と利用の方法（利用したツールの名称、利用箇所、ツールへの入力とツールからの出力）を明記すること。質問は授業後もしくは学習支援システムにて受け付ける。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to learn about the current state of society surrounding children and families, and to systematically learn the principles and systems of child and family welfare that support the upbringing and child rearing of children.
Approximately 4 hours will be spent before and after class to deepen understanding of the course content. Grading will be determined by in-class report (30%), final report (40%), and reflection (30%).

SOW300JB,SOW300JC（社会福祉学 / Social Welfare 300 , 社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワークⅡ

西田　ちゆき

配当年次／単位数：2～4年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者のみ受講可能。2021年度以降入学者は「N1210 ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅱ」を受講すること。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワーカーが支援の対象とする問題やニーズの状況を理解するための知識と、具体的な介入のための知識から構成される、ソーシャルワークのための理論について理解する。

【到達目標】
・ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために必要な基本的な知識と技術について説明できる。
・中でも、人と環境の交互作用について説明できる。
・また、それぞれのソーシャルワークの実践モデルとアプローチについて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、講義とともに、事例検討を中心としたグループワークを行う。また、授業ごとのリアクションペーパーをもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	人と環境との交互作用	システム理論 生態学理論 バイオ・サイコ・ソーシャルモデル ミクロ・メゾ・マクロレベルのソーシャルワーク
第3回	実践モデルアプローチ①	治療モデル・ストレングスモデル・生活モデル 心理社会的アプローチ
第4回	アプローチ②	機能的アプローチ 問題解決アプローチ 課題中心アプローチ
第5回	アプローチ③	行動変容アプローチ 認知アプローチ
第6回	アプローチ④	危機介入アプローチ エンパワメントアプローチ
第7回	アプローチ⑤	ナラティブアプローチ 解決志向アプローチ さまざまなアプローチ
第8回	コミュニティワーク	コミュニティワークの意義と展開 地域アセスメント
第9回	ネットワーク	ネットワーキング コーディネーション
第10回	カンファレンス	会議の種類 プレゼンテーション ファシリテーション
第11回	社会資源	社会資源の理解 社会資源の活用・調整・開発
第12回	ソーシャルアクション	ソーシャルアクションの意義と目的 ネゴシエーショ
第13回	ジェネラリストソーシャルワーク実践の実際	ミクロ・メゾ・マクロシステムの連鎖的変化を実現する実践
第14回	総括	これまでに学んだソーシャルワーク実践理論とアプローチの復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に該当するテキストを読んで予習をしておいてください。また、参考書や配布資料を活用して、予習および復習をすることで、理解を深めてもらえればと思います。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法 (共通科目)』中央法規

【参考書】
①一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新 社会福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法 (社会専門)』中央法規
②空閑浩人・白澤正和・和気純子編著（2022）『新・MINERVA社会福祉士養成テキストブック６ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ』ミネルヴァ書房
③髙良麻子・佐々木千里編著（2022）『ジェネラリスト ・ソーシャルワークを実践するために』かもがわ出版
④川村隆彦（2011）『ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ』中央法規
⑤久保紘章・副田あけみ編著（2006）『ソーシャルワークの実践モデル– 心理社会的アプローチからナラティブまで– 』川島書店

【成績評価の方法と基準】
・平常点60%
・期末試験 40%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
This course provides students with opportunities to develop knowledge of theoretical perspective for social work practice. At the end of the course, students are expected to explain basic knowledge and skills concerning jeneralist social work practice. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end exam (40%) and in-class contribution (60%).

HSS300JB,HSS300JC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300 , 健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

精神科リハビリテーション学

行實　志都子

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者のみ受講可能。2021年度以降入学者は「N1215精神障害リハビリテーション論」を受講すること。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1. 精神科リハビリテーションの概要・プロセス・スキルを理解する。
2. 精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割を理解する。

【到達目標】
精神科リハビリテーションの目的を理解し、精神保健福祉士が精神科リハビリテーションを行う役割・理念を理解し技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は，講義が中心であるが、視聴覚教材や学生同士の意見交換、演習、リアクションペーパーを使った質問など学生が理解しやすいように授業を進める。
その中で、ストレス社会といわれる日本では、300万人以上いるといわれる精神障害者のリハビリテーションについて理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則①	リハビリテーションの定義・精神科リハビリテーションとは何か 医学的・職業的・教育的・社会的リハビリテーションについて
2	精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則②	精神障害リハビリテーションの原則とリカバリーの概念を基盤としたリハビリテーションの定義
3	精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則③ 精神障害リハビリテーションの構成及び展開①	精神障害リハビリテーションとソーシャルワークの関係 精神障害リハビリテーションの対象
4	精神障害リハビリテーションの構成及び展開②	チームアプローチ 精神霜害リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割
5	精神障害リハビリテーションの構成及び展開③	精神障害リハビリテーションのプロセス
6	精神障害者リハビリテーションプログラムの内容と実施機関①	医学的リハビリテーションプログラム① （集団療法・行動療法・作業療法・健康自己管理プログラム）
7	精神障害者リハビリテーションプログラムの内容と実施機関②	医学的リハビリテーションプログラム② アディクション治療とリハビリテーション
8	精神障害者リハビリテーションプログラムの内容と実施機関③	職業的リハビリテーション① 職業的リハビリテーションの定義 就労準備プログラム・援助付き雇用プログラム
9	精神障害者リハビリテーションプログラムの内容と実施機関④	職業的リハビリテーションプログラム② IPSモデル・復職支援プログラム・職業定着プログラム
10	精神障害者リハビリテーションプログラムの内容と実施機関⑤	社会的リハビリテーションプログラム① 社会生活スキルトレーニング（SST）・当事者研究・心理教育プログラム
11	精神障害者リハビリテーションプログラムの内容と実施機関⑥	社会的リハビリテーションプログラム② WRAP・生活訓練プログラム・地域移行プログラム
12	精神障害者リハビリテーションプログラムの内容と実施機関⑦	教育的リハビリテーション
13	精神障害者リハビリテーションプログラムの内容と実施機関⑧	家族支援プログラム セルフヘルプグループ ピアサポート
14	精神障害リハビリテーションの動向と実際	マインドフルネス・オープンダイアローグ・リカバリーカレッジ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、それぞれ1時間，合計2時間を標準とする。
【それぞれのポイント】
学生は、授業準備にあたり、授業計画及び授業時間内で伝えらられた次回のポイントについて参考書等を使い、授業の準備を行う。その時に生じた疑問点などについては、授業時のリアクションペーパーなどを使って質問をする。
授業後の復習については、授業でやったところを復習するだけでなく、自分で整理し学期末の期末試験のためのまとめを行う。また，復習のための小テストを実施するので，その小テストを受けること．
精神障害者については、日ごろから接する機会がない場合などは、ボランティア活動に行くことやニュースなどで精神障害者に関する項目について目を通しておくことも必要である。

【テキスト（教科書）】
授業時にプリントを配布する

【参考書】
新・精神障害リハビリテーション論　弘文堂

【成績評価の方法と基準】
平常点（10％）レポート（20％），復習小テスト(20％)，期末試験(50％）から授業到達目標に達しているかを判断する

【学生の意見等からの気づき】
精神障害者の人は、どんな生活のしづらさがあるかなどイメージをもってもらいながら、理解できるように授業を展開していきたいと思います。

【Outline (in English)】
(Courese　Outline)
Understand the outline,process,skills of psychiatric rehabilitation performed by psychiatric social wokers.
(Learning　Objestive)
At the end of course, students are expected to understanding and using rehabilitation skills with psychiatric disabilities.
(Learning activities outside of classroom)
Lecture(two-credits)
Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policy)
Term-end examination 50%, Reports 20%, Review quizzes 20% , in-class contribution 10%.

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク演習Ⅱ

伊藤　正子

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ／N2011）ため注意。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導(ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク演習Ⅱ

佐藤　繭美

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ／N2015）ため注意。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導(ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク演習Ⅱ

岩崎　晋也

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ／N2012）ため注意。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導(ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク演習Ⅱ

宮城　孝

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ／N2016）ため注意。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導(ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク演習Ⅱ

安西　美咲

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ／N2017）ため注意。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導(ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク演習Ⅲ

中條　桂子

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅲ／N2022）ため注意。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導(ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見 アウトリーチ
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座７ ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク演習Ⅲ

島谷　綾郁

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅲ／N2023）ため注意。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導(ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見 アウトリーチ
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座７ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク演習Ⅲ

西田　ちゆき

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅲ／N2024）ため注意。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導(ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第3回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見 アウトリーチ
第4回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第5回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第6回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第7回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第8回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第9回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第10回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第11回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第12回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第13回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第14回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座７ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク演習Ⅳ

中條　桂子

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅳ／N2032）ため注意。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワーク実践に係る知識と技術について、ソーシャルワーク実習における体験を踏まえ、より実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

【到達目標】
・ソーシャルワークのスキルの内容について事例に応じて適切に説明できる。
・ソーシャルワーカーに求められる倫理と基本的な態度形成を強める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、ソーシャルワーク実習における各自の個別的な体験も視野に入れつつ、テーマ別の事例検討を集団指導により行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	困難・多問題事例検討①	困難・多問題事例への対応の理解① 貧困
第3回	困難・多問題事例検討②	困難・多問題事例への対応の理解② ひきこもり
第4回	困難・多問題事例検討③	困難・多問題事例への対応の理解③ 高齢者虐待
第5回	困難・多問題事例検討④	困難・多問題事例への対応の理解④ 児童虐待
第6回	困難・多問題事例検討⑤	困難・多問題事例への対応の理解⑤ 家庭内暴力（DV）
第7回	困難・多問題事例検討⑥	困難・多問題事例への対応の理解⑥ 社会的排除
第8回	困難・多問題事例検討⑦	困難・多問題事例への対応の理解⑦ 災害時
第9回	困難・多問題事例検討⑧	困難・多問題事例への対応の理解⑧ 終末期ケア
第10回	地域福祉の基盤整備と開発①	地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握
第11回	地域福祉の基盤整備と開発②	地域福祉の計画
第12回	地域福祉の基盤整備と開発③	ネットワーキング
第13回	地域福祉の基盤整備と開発④	社会資源の活用・調整・開発
第14回	地域福祉の基盤整備と開発⑤	サービスの評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員により与えられた課題について、報告できるように作業し準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座７ ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
ソーシャルワーク実習の体験と事例検討の理論的統合をはかる学習方法を工夫します。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合があります。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能です。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク演習Ⅳ

島谷　綾郁

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅳ／N2033）ため注意。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワーク実践に係る知識と技術について、ソーシャルワーク実習における体験を踏まえ、より実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

【到達目標】
・ソーシャルワークのスキルの内容について事例に応じて適切に説明できる。
・ソーシャルワーカーに求められる倫理と基本的な態度形成を強める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、ソーシャルワーク実習における各自の個別的な体験も視野に入れつつ、テーマ別の事例検討を集団指導により行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	困難・多問題事例検討①	困難・多問題事例への対応の理解① 貧困
第3回	困難・多問題事例検討②	困難・多問題事例への対応の理解② ひきこもり
第4回	困難・多問題事例検討③	困難・多問題事例への対応の理解③ 高齢者虐待
第5回	困難・多問題事例検討④	困難・多問題事例への対応の理解④ 児童虐待
第6回	困難・多問題事例検討⑤	困難・多問題事例への対応の理解⑤ 家庭内暴力（DV）
第7回	困難・多問題事例検討⑥	困難・多問題事例への対応の理解⑥ 社会的排除
第8回	困難・多問題事例検討⑦	困難・多問題事例への対応の理解⑦ 災害時
第9回	困難・多問題事例検討⑧	困難・多問題事例への対応の理解⑧ 終末期ケア
第10回	地域福祉の基盤整備と開発①	地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握
第11回	地域福祉の基盤整備と開発②	地域福祉の計画
第12回	地域福祉の基盤整備と開発③	ネットワーキング
第13回	地域福祉の基盤整備と開発④	社会資源の活用・調整・開発
第14回	地域福祉の基盤整備と開発⑤	サービスの評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員により与えられた課題について、報告できるように作業し準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座７ ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
ソーシャルワーク実習の体験と事例検討の理論的統合をはかる学習方法を工夫します。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合があります。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能です。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク演習Ⅳ

西田　ちゆき

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅳ／N2034）ため注意。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワーク実践に係る知識と技術について、ソーシャルワーク実習における体験を踏まえ、より実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

【到達目標】
・ソーシャルワークのスキルの内容について事例に応じて適切に説明できる。
・ソーシャルワーカーに求められる倫理と基本的な態度形成を強める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、ソーシャルワーク実習における各自の個別的な体験も視野に入れつつ、テーマ別の事例検討を集団指導により行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	困難・多問題事例検討①	困難・多問題事例への対応の理解① 貧困
第3回	困難・多問題事例検討②	困難・多問題事例への対応の理解② ひきこもり
第4回	困難・多問題事例検討③	困難・多問題事例への対応の理解③ 高齢者虐待
第5回	困難・多問題事例検討④	困難・多問題事例への対応の理解④ 児童虐待
第6回	困難・多問題事例検討⑤	困難・多問題事例への対応の理解⑤ 家庭内暴力（DV）
第7回	困難・多問題事例検討⑥	困難・多問題事例への対応の理解⑥ 社会的排除
第8回	困難・多問題事例検討⑦	困難・多問題事例への対応の理解⑦ 災害時
第9回	困難・多問題事例検討⑧	困難・多問題事例への対応の理解⑧ 終末期ケア
第10回	地域福祉の基盤整備と開発①	地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握
第11回	地域福祉の基盤整備と開発②	地域福祉の計画
第12回	地域福祉の基盤整備と開発③	ネットワーキング
第13回	地域福祉の基盤整備と開発④	社会資源の活用・調整・開発
第14回	地域福祉の基盤整備と開発⑤	サービスの評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員により与えられた課題について、報告できるように作業し準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座７ ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度60％、課題提出40％。

【学生の意見等からの気づき】
ソーシャルワーク実習の体験と事例検討の理論的統合をはかる学習方法を工夫します。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合があります。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能です。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク演習Ⅴ

髙良　麻子

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅴ／N2035）ため注意。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワーク実習や社会福祉関連科目等での学びをもとに、ソーシャルワークの価値、知識、技術の総体としての実践能力の習得を目指す。中でも、人びとのウェルビーイングの増進と社会正義の実現に向けて、ミクロ・メゾ・マクロシステムの連鎖的変化を目標とした、分野横断的で包括的なソーシャルワークの実践方法・技術の統合的な活用を習得することに注目する。

【到達目標】
・人と環境との関係からニーズを把握できる。
・ミクロ・メゾ・マクロシステムの交互作用の仮説が構築できる。
・クライエントがニーズを充足できる交互作用への連鎖的変化を構想できる。
・ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処を検討できる。
・ソーシャルワークの実践方法・技術を活用して、変化を促進する介入を試すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
指定する設定のソーシャルワーカーとしてグループで検討しながら、ロールプレイ等によってソーシャルワークの実践展開過程を擬似体験する。その際、ソーシャルワーク実習での経験を最大限活かす。そのため、事前の準備と授業中での積極的な参加が求められる。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	所属組織の理解	組織アセスメント
第3回	地域の理解と実践環境の整備	地域アセスメント ネットワーキング
第4回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践①	ニーズの発見　アウトリーチ アセスメント
第5回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践②	アセスメント（ケース会議） チームアプローチ プレゼンテーション ファシリテーション
第6回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践③	アウトリーチ　エンゲージメント（面接）
第7回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践④	アセスメント（面接）
第8回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑤	アセスメント（連鎖的変化の構想）　スーパービジョン
第9回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑥	プランニング（連鎖的変化に向けた計画）
第10回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑦	プランニング（ケース会議） ファシリテーション コーディネーション
第11回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処①	メゾ・マクロシステムの問題把握
第12回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処②	メゾ・マクロシステムの問題の構造的把握 （地域ケア推進会議） ファシリテーション
第13回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処③	メゾ・マクロシステムの問題への対応検討 （地域ケア推進会議） ファシリテーション ネゴシエーション
第14回	実習・演習の総括	まとめと振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けて、与えられた課題について十分に準備し、学習した内容については振り返りを行うこと。本授業の準備・復習時間は各2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座7　ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規
髙良麻子・佐々木千里編著（2022）『ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために– スクールソーシャルワーカーの事例から –』かもがわ出版.

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 100％

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見をもとに、毎回の授業の最初に演習の進捗の振り返りを行います。

【その他の重要事項】
本授業は、ソーシャルワーク実習を履修した者のみ履修できる。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク演習Ⅴ

髙良　麻子

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅴ／N2036）ため注意。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワーク実習や社会福祉関連科目等での学びをもとに、ソーシャルワークの価値、知識、技術の総体としての実践能力の習得を目指す。中でも、人びとのウェルビーイングの増進と社会正義の実現に向けて、ミクロ・メゾ・マクロシステムの連鎖的変化を目標とした、分野横断的で包括的なソーシャルワークの実践方法・技術の統合的な活用を習得することに注目する。

【到達目標】
・人と環境との関係からニーズを把握できる。
・ミクロ・メゾ・マクロシステムの交互作用の仮説が構築できる。
・クライエントがニーズを充足できる交互作用への連鎖的変化を構想できる。
・ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処を検討できる。
・ソーシャルワークの実践方法・技術を活用して、変化を促進する介入を試すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
指定する設定のソーシャルワーカーとしてグループで検討しながら、ロールプレイ等によってソーシャルワークの実践展開過程を擬似体験する。その際、ソーシャルワーク実習での経験を最大限活かす。そのため、事前の準備と授業中での積極的な参加が求められる。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	所属組織の理解	組織アセスメント
第3回	地域の理解と実践環境の整備	地域アセスメント ネットワーキング
第4回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践①	ニーズの発見　アウトリーチ アセスメント
第5回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践②	アセスメント（ケース会議） チームアプローチ プレゼンテーション ファシリテーション
第6回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践③	アウトリーチ　エンゲージメント（面接）
第7回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践④	アセスメント（面接）
第8回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑤	アセスメント（連鎖的変化の構想） スーパービジョン
第9回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑥	プランニング（連鎖的変化に向けた計画）
第10回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑦	プランニング（ケース会議） ファシリテーション コーディネーション
第11回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処①	メゾ・マクロシステムの問題把握
第12回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処②	メゾ・マクロシステムの問題の構造的把握 （地域ケア推進会議） ファシリテーション
第13回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処③	メゾ・マクロシステムの問題への対応検討 （地域ケア推進会議） ファシリテーション ネゴシエーション
第14回	実習・演習の総括	まとめと振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けて、与えられた課題について十分に準備し、学習した内容については振り返りを行うこと。本授業の準備・復習時間は各2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規
髙良麻子・佐々木千里編著（2022）『ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために– スクールソーシャルワーカーの事例から– 』かもがわ出版.

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 100％

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見をもとに、毎回の授業の最初に演習の進捗の振り返りを行います。

【その他の重要事項】
本授業は、ソーシャルワーク実習を履修した者のみ履修できる。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク演習Ⅴ

髙良　麻子

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅴ／N2037）ため注意。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワーク実習や社会福祉関連科目等での学びをもとに、ソーシャルワークの価値、知識、技術の総体としての実践能力の習得を目指す。中でも、人びとのウェルビーイングの増進と社会正義の実現に向けて、ミクロ・メゾ・マクロシステムの連鎖的変化を目標とした、分野横断的で包括的なソーシャルワークの実践方法・技術の統合的な活用を習得することに注目する。

【到達目標】
・人と環境との関係からニーズを把握できる。
・ミクロ・メゾ・マクロシステムの交互作用の仮説が構築できる。
・クライエントがニーズを充足できる交互作用への連鎖的変化を構想できる。
・ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処を検討できる。
・ソーシャルワークの実践方法・技術を活用して、変化を促進する介入を試すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
指定する設定のソーシャルワーカーとしてグループで検討しながら、ロールプレイ等によってソーシャルワークの実践展開過程を擬似体験する。その際、ソーシャルワーク実習での経験を最大限活かす。そのため、事前の準備と授業中での積極的な参加が求められる。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	所属組織の理解	組織アセスメント
第3回	地域の理解と実践環境の整備	地域アセスメント ネットワーキング
第4回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践①	ニーズの発見　アウトリーチ アセスメント
第5回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践②	アセスメント（ケース会議） チームアプローチ プレゼンテーション ファシリテーション
第6回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践③	アウトリーチ　エンゲージメント（面接）
第7回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践④	アセスメント（面接）
第8回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑤	アセスメント（連鎖的変化の構想） スーパービジョン
第9回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑥	プランニング（連鎖的変化に向けた計画）
第10回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑦	プランニング（ケース会議） ファシリテーション コーディネーション
第11回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処①	メゾ・マクロシステムの問題把握
第12回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処②	メゾ・マクロシステムの問題の構造的把握 （地域ケア推進会議） ファシリテーション
第13回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処③	メゾ・マクロシステムの問題への対応検討 （地域ケア推進会議） ファシリテーション ネゴシエーション
第14回	実習・演習の総括	まとめと振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けて、与えられた課題について十分に準備し、学習した内容については振り返りを行うこと。本授業の準備・復習時間は各2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規
髙良麻子・佐々木千里編著（2022）『ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために– スクールソーシャルワーカーの事例から– 』かもがわ出版.

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 100％

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見をもとに、毎回の授業の最初に演習の進捗の振り返りを行います。

【その他の重要事項】
本授業は、ソーシャルワーク実習を履修した者のみ履修できる。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク演習Ⅴ

髙良　麻子

配当年次／単位数：3年次／2単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅴ／N2037）ため注意。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワーク実習や社会福祉関連科目等での学びをもとに、ソーシャルワークの価値、知識、技術の総体としての実践能力の習得を目指す。中でも、人びとのウェルビーイングの増進と社会正義の実現に向けて、ミクロ・メゾ・マクロシステムの連鎖的変化を目標とした、分野横断的で包括的なソーシャルワークの実践方法・技術の統合的な活用を習得することに注目する。

【到達目標】
・人と環境との関係からニーズを把握できる。
・ミクロ・メゾ・マクロシステムの交互作用の仮説が構築できる。
・クライエントがニーズを充足できる交互作用への連鎖的変化を構想できる。
・ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処を検討できる。
・ソーシャルワークの実践方法・技術を活用して、変化を促進する介入を試すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
指定する設定のソーシャルワーカーとしてグループで検討しながら、ロールプレイ等によってソーシャルワークの実践展開過程を擬似体験する。その際、ソーシャルワーク実習での経験を最大限活かす。そのため、事前の準備と授業中での積極的な参加が求められる。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第2回	所属組織の理解	組織アセスメント
第3回	地域の理解と実践環境の整備	地域アセスメント ネットワーキング
第4回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践①	ニーズの発見　アウトリーチ アセスメント
第5回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践②	アセスメント（ケース会議） チームアプローチ プレゼンテーション ファシリテーション
第6回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践③	アウトリーチ　エンゲージメント（面接）
第7回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践④	アセスメント（面接）
第8回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑤	アセスメント（連鎖的変化の構想） スーパービジョン
第9回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑥	プランニング（連鎖的変化に向けた計画）
第10回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑦	プランニング（ケース会議） ファシリテーション コーディネーション
第11回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処①	メゾ・マクロシステムの問題把握
第12回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処②	メゾ・マクロシステムの問題の構造的把握 （地域ケア推進会議） ファシリテーション
第13回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処③	メゾ・マクロシステムの問題への対応検討 （地域ケア推進会議） ファシリテーション ネゴシエーション
第14回	実習・演習の総括	まとめと振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けて、与えられた課題について十分に準備し、学習した内容については振り返りを行うこと。本授業の準備・復習時間は各2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規
髙良麻子・佐々木千里編著（2022）『ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために– スクールソーシャルワーカーの事例から– 』かもがわ出版.

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 100％

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見をもとに、毎回の授業の最初に演習の進捗の振り返りを行います。

【その他の重要事項】
本授業は、ソーシャルワーク実習を履修した者のみ履修できる。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク実習

伊藤　正子

配当年次／単位数：3年次／4単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク実習Ⅱ／N2091）ため注意。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
①実習施設の機能・運営について理解する
②社会福祉士の業務や役割について理解する
③関係職種の役割や機能について理解する
④利用者のニーズを適切に理解する
⑤地域の特性とニーズについて理解する
⑥多職種連携のあり方を理解する
⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
⑩援助者として適切な観察・記録ができる
⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね7～10月	現場実習	各自、180時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価60％、報告書40％。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク実習

佐藤　繭美

配当年次／単位数：3年次／4単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク実習Ⅱ／N2095）ため注意。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
①実習施設の機能・運営について理解する
②社会福祉士の業務や役割について理解する
③関係職種の役割や機能について理解する
④利用者のニーズを適切に理解する
⑤地域の特性とニーズについて理解する
⑥多職種連携のあり方を理解する
⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
⑩援助者として適切な観察・記録ができる
⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね7～10月	現場実習	各自、180時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価60％、報告書40％。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク実習

岩崎　晋也

配当年次／単位数：3年次／4単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク実習Ⅱ／N2092）ため注意。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
①実習施設の機能・運営について理解する
②社会福祉士の業務や役割について理解する
③関係職種の役割や機能について理解する
④利用者のニーズを適切に理解する
⑤地域の特性とニーズについて理解する
⑥多職種連携のあり方を理解する
⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
⑩援助者として適切な観察・記録ができる
⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね7～10月	現場実習	各自、180時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価60％、報告書40％。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク実習

宮城　孝

配当年次／単位数：3年次／4単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク実習Ⅱ／N2096）ため注意。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
①実習施設の機能・運営について理解する
②社会福祉士の業務や役割について理解する
③関係職種の役割や機能について理解する
④利用者のニーズを適切に理解する
⑤地域の特性とニーズについて理解する
⑥多職種連携のあり方を理解する
⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
⑩援助者として適切な観察・記録ができる
⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね7～10月	現場実習	各自、180時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価60％、報告書40％。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ソーシャルワーク実習

安西　美咲

配当年次／単位数：3年次／4単位
備考（履修条件等）：2021年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク実習Ⅱ／N2097）ため注意。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
①実習施設の機能・運営について理解する
②社会福祉士の業務や役割について理解する
③関係職種の役割や機能について理解する
④利用者のニーズを適切に理解する
⑤地域の特性とニーズについて理解する
⑥多職種連携のあり方を理解する
⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
⑩援助者として適切な観察・記録ができる
⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね7～10月	現場実習	各自、180時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価60％、報告書40％。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

PRI100LA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報処理演習

2017年度以降入学者

大間　哲

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水**5/Wed.5
単位数：**2単位**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学生にとって、情報技術の習得は必須です。それも、むしろ理系や経済学部等の計算をメインに行う学生よりも、キャリアデザイン学部等「文系」と言われる学生にとってこそ大切と言えます。それは、皆さんが、プログラミングなどのITの専門技術者よりも、キャリアデザイン学等の幅広い専門知識を扱うための「道具として」、パソコンやネットの情報を文具のように使いこなすことが求められるからです。
そのため、この授業では一番の目的を、「コンピュータが使えるようになること」とはしません。実践的な実務能力を身につけられるようにします。言い換えるなら、皆さんが将来にわたって、コンピュータやネットの技術を使って、皆さんの「やりたいこと」ができるようになることを目的とします。
情報処理の技術は日進月歩ですから、今あるコンピュータやネットの情報技術が使えるようになっても、将来皆さんが進学したり社会人になるころに、そのまま使えるとは限りません。ですから、この授業では、各コンピュータ／ソフトウェア／サービスの「操作のやり方（操作方法）」を全て丸暗記のように覚えることよりも、ソフトウェアやサービスが「どのようなものなのか、何ができるのか」を知ることを大切にします。そして、日々進化する情報処理技術に対応できるよう、応用的な操作方法は随時「検索して自力で調べられる」ようになることを目的とします。その目的実現のための手段として、この授業では、大学で学ぶために必要となる、コンピュータ／ソフトウェアおよびネット上のサービスの基本的使用方法を習得します。
同時に、大学の学びの基本となる、自ら興味があることの中から「問い」を立てて、調査をし、ディスカッションをし、結果を纏めるという一連の作業を、情報処理技術を使いながら行う演習をして、レポートや卒論に使えるスキルを身に付けます。
＜オンラインでの開講について＞
前年度、前々年度は、初回に定員の倍以上の申込みがあったため、初回授業はオンラインとし、受講希望者多数の場合は適宜抽選等で人数を確定します（オンライン授業の方法や抽選については、学習支援システムのお知らせを事前に確認してください）。
また、受講希望者数が定員以下の場合でも、情報処理演習という授業の性格上、オンラインミーティングの技術について学習することは有意義であるため、学期中一部の授業はオンライン開講を行う可能性があります（その場合、前の週までには告知します）。
なお、2月現在、大学の方針で対面授業ですので、原則は対面授業とします。ただし、万が一インフルエンザやコロナ等の感染流行の再悪化やその他やむを得ない事情が起きた場合は、別途オンラインの開講もあり得ます。
ただし、対面授業であろうとオンラインであろうと、前述の目的が変わることはありません。
※大学の授業実施方針については、最新の情報を大学ホームページで確認してください。

【到達目標】
Windows環境で基礎的なPCリテラシーやインターネットのリテラシーの習得をめざします。大学の授業のレポートや卒論作成時に使えるOfficeソフト（Word・Excel・PowerPoint）やGoogleのWebサービス、クラウド等の基本操作および活用方法を知ります。またChatGPT等の生成AIの適切な利用方法についても、学習します。
同時に、最も大切なこととして、自分がやりたいことのための操作方法を検索して、調べる技術を身につけることを目標とします。
＜皆さんのパソコン等の環境について＞
学期の早い時期に皆さんの学習環境（自宅等のネット環境を含む）のアンケートを行い、皆さんが将来の授業や卒業研究に役立てられるスキルを身につけられるよう内容を構築します。また、もし自宅等での環境が整わない場合は、必要な操作方法を自ら検索する能力をより高めることにより、将来必要な時に十分な情報リテラシーの習得が可能なようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
(1) テキストと毎回のレジュメをベースに、基礎的な操作方法を習得していきます。
(2) 毎回の授業は、講義と演習、ディスカッション等のグループワークを組み合わせて行います。
(3) 単に操作方法を学習するのではなく、コンピュータの機能を理解し、必要情報をネットで検索する能力を身につけることによって、日常生活においても効率よく使いこなせるようになることを目指します。
時間に余裕があれば、応用的内容も扱います。
※ 出席さえすれば単位がもらえる楽な科目ではありませんが、課題を着々と提出して行けば、期初に初心者であっても、最終的にはWebを利用した調査や、その結果を纏めて発表するなど、レポートや卒論に使えるだけの能力が自然に身に着くように、段階的に演習を進めます。また、暗記科目ではないので、期末テストは行いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション Windowsの基本操作 ネットリテラシーとセキュリティ Zoomの基本操作	授業ガイダンス。授業の目的の確認。 自身のPCを使用する場合、使い方の確認。 WindowsPCの基本的な使い方の説明。 ネットリテラシーの基本と、セキュリティの重要性。 オンライン会議システム（Zoom）の参加者としての基本機能を知る。
第2回	電子メールとネットの基本 学習環境を整える	電子メールの仕組みと使用上の注意点。電子メールと他のコミュニケーション・ツールやSNSとの比較。 USBメモリの使い方と利用上の注意点。 アンケートによる、学生の自身の学習環境の報告。 学習支援ハンドブック等による、メールの書き方（マナー）の学習。
第3回	ウェブの仕組みと情報検索 クラウドの利用 生成AIについて	ウェブの仕組みについて理解する。 情報検索演習として、ウェブから必要な情報を探すための方法を知る。 Dropboxの利用と、注意点。 ChatGPTの利用と、注意点。
第4回	Word(1)	教科書によるネットリテラシーの復習。 Windowsの基礎の復習。 ワープロソフト（Word）の基本的な文章の作成方法、 フォント・段落書式（インデント）・表について学ぶ。
第5回	Word(2)	応用的な文章作成方法。 Wordで絵・写真や図を挿入する方法。 見出し・アウトライン・スタイル・脚注。校閲機能。見出しの利用と目次の作成（課題）。 「表計算ソフト」とは。Excelでできることを知る（頭出し）
第6回	Word(3) Excel(1)	脚注。校閲機能（補足）。 表計算ソフト（Excel）の基本操作を習得する。 （Google スプレッドシートとの関連の確認）

第7回	Excel(2)	計算式や関数の基本的な使い方。 見やすい表の作り方。書式設定、見出しなど。
第8回	Excel(3)	Excelでグラフを作成する。 Excelの表やグラフをWordに貼り付ける。 計算式や関数の応用的な使い方。
第9回	Excel(4)	Excelでのリスト管理（データベース）。 Excelとワードの合わせ技（差し込み印刷）。
第10回	PowerPoint(1)	プレゼンテーションソフト（PowerPoint）の基本操作を習得する。 発表資料としてのPowerPointファイルの作成。
第11回	PowerPoint(2)	簡易DTPとしてのPowerPointの利用。 Canvaの利用。 Word Excelとの連携。
第12回	Offceiソフト総合演習	Excel、Word、Powerpointを総合的に使用し、最終課題の準備を行う。
第13回	Googleのサービスと Officeソフトの合わせ技	Google Forms（アンケート調査）、Google Spreadsheet Excel、Word、Powerpointを総合的に使用し、最終課題を行う。
第14回	総合演習	授業で扱った内容を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・当授業の準備学習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。
・小課題を期日を守って、決められた方法で提出してください。
・次の授業に向けてのリーディング・アサイメント（準備学習としての読む課題）を出すことがあります。その場合は、そこを読んでから授業に臨むようにしてください。

【テキスト（教科書）】
・『学生・新社会人のための情報リテラシー入門』大間 哲 著 カットシステム（2025年4月発売予定。発売日決定後に、購入を指示します）
・法政大学『学習支援ハンドブック』http://www.hoseikyoiku.jp/lf/（法政大学教育開発・学習支援センター）のメニューより「学習支援ハンドブック」を選択。（ダウンロードをしておく必要はないが、授業時にパソコンから参照できるように、一度見つけて確認をしておくこと）

【参考書】
・『思考を鍛えるレポート・論文作成法[第３版]』 井下千以子 慶応義塾大学出版会（他の授業でテキストとして指定されている場合もあります）
・『情報リテラシー教科書 -Windows11/Office2021対応版-』 矢野文彦 著　オーム社 （定価：本体2090円）
（『情報リテラシー教科書 -Windows10 Office2019 対応版-』 でも可。自分が持っているパソコンのソフトのバージョンに合わせてください）
・『キャリアデザイン・就活のプロによるChatGPT徹底活用法: 就活生・就職担当者必携AIアシスト・キャリアデザイン』大間哲 著　カットシステム（定価：1540円）
・『情報処理エンジニア職業ガイド　– プログラマ・ITエンジニア・SEのためのキャリアデザイン-』 豊沢聡/大間哲 著 カットシステム （定価：本体1800円）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加状況（出席という意味ではありません。積極的な参加という意味です。）や課題提出状況をふまえて総合的に評価します。情報処理は、高校時代を含むそれまでの経験によって知識レベルに大きく差が出る可能性がある授業です。しかし、初心者であっても、恐れる必要はありません。真面目な講義・演習への参加と小課題の提出によって必要なゴールは達成できるようにします。また、熟達者や真剣にスキルの向上を望んで取り組む者には、さらに加点方式で評価がなされるよう工夫します。
・授業内の講義と演習への参加（配点比重 30%）
・毎回の小課題の提出（未提出の場合、その課題について0点。提出遅れは減点）（配点比重50%）
・総合課題（配点比重20%）
※期末テストは行いません。

【学生の意見等からの気づき】
・自らの興味がある事について能動的に調べ、ディスカッションし、発表するという課題は好評でもあり、また、大学での学び方の基本でもあるので、今期も続けたいと考えています。
・好評だった、最終的な総合課題に向けてのグループワーク、ディスカッション方式での演習は続けたいと考えています。
・「『月曜5限可哀想～』と友人から言われても、『情報処理楽しいから良いんだ～』と言い返すくらい楽しい授業でした」「学生の視点に立って接して下さり、とても嬉しかった」（授業アンケートより）。今年度から水曜5限・木曜3限・4限になったが、今回も学生の皆さんがそう思ってくれるような、学生主体の視点で、楽しい授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
・初回参加時までに、このシラバスと、学習支援システムの「お知らせ」を良く読んでおくこと。
・指定されたテキストを大学から指定された方法で入手すること。
・この授業の目的である大学での授業のレポートや卒業研究・卒論作成に実践的に使用できるスキルを身に着けるため、できれば大学の授業で使う予定の自身のパソコンや自宅から、ネットへの接続環境を整える事が望ましい（必須ではありません）。
・今後の他の授業やレポートで使えるようになるために、自身のパソコンに慣れる意味からも、授業時に自身のパソコンを持参することを推奨する。
・自身のパソコンを持参できない場合は、大学でパソコンの貸し出し手続きをして持参すること。その場合、USBメモリー（8GB以上の容量のもの）を入手し、持参すること。

【その他の重要事項】
・基本的な内容からはじめ、段階的にレベルアップできるように授業を行います。
・学期末の必須課題を軽くし、受講生の皆さんの期末の負担を少なくするように工夫します。
・授業進度、理解度に合わせて、予定している授業日程の内容が前後することがあります。
・情報処理演習という授業の内容上、ChatGPT等生成AIの適切な利用法についても学習します。が、他の授業での生成AIの使用については、それぞれの授業の教員の指示に従ってください。
・定員超過の場合は抽選をします。抽選に漏れた場合は、他の曜日時限に開講されている同一科目を履修してください。
・Q0301（水曜5限）、Q0303（木曜3限）、Q0305（木曜4限）は、授業内容は基本的に同一です。ただし、皆さんの学習の進度、理解度等に合わせ、内容に若干の修正・差異が生じる可能性はあります。
・当授業は「実務経験がある教員による授業」です。教員は、20年間日本IBMに在籍し、システムエンジニア（特にネットワーク系）の経験があります。また、社内での専門職育成部門での経験もあるため、一般から先端までの技術をわかりやすく説明することに長けています。

【Outline (in English)】
[Course outline and Objectives]
The objective of this class is NOT only acquiring computer skills BUT to learn how to find the necessary information when you need it, from now and in the future. Since information technology is advancing every day, it is more important to understand what the computers and/or network services actually are and what can be done with them than memorizing the way of using computer software.
Mastering information technology is essential for university students, particularly for those in liberal arts fields like Career Design. Unlike students in fields focused on computational tasks, liberal arts students must use computers and internet tools as essential instruments to complement their broad knowledge base.
Students will learn basic computer, software, and web service operations needed for academic tasks, such as reports and theses. You will also develop skills in research, discussion, and presentation using information technology, providing a foundation for academic and professional success.
[Goals]
Students will acquire fundamental PC and internet literacy in a Windows environment. You will learn to use Office software (Word, Excel, PowerPoint), Google Web Services, and cloud tools for report and thesis preparation. You will also understand the appropriate use of generative AI tools like ChatGPT.
The most critical objective is to develop the ability to search for and learn necessary operations independently to achieve their goals.
[Learning activities outside of classroom (Preparation, etc.)]
Students are expected to understand the course content and complete the required assignments after each class meeting.
- Allocate approximately 4 hours for preparation (2 hours) and review (2 hours) for each class.
- Submit assignments by the deadline and via the specified method.

- Reading assignments may be given; complete these before attending the next class.
[Grading Criteria /Policy]
Students are evaluated comprehensively based on participation, assignment submission, and effort. Beginners can achieve the course goals through active engagement and completing assignments, while advanced students can earn additional points for demonstrating excellence.
- Participation In class contribution:30%
- Submission of regular assignments (zero points for non-submission, penalties for late submissions): 50%
- Term-end assignment: 20%
** No final exam will be conducted.

PRI100LA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報処理演習

2017年度以降入学者

大間　哲

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木**3/Thu.3
単位数：**2単位**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学生にとって、情報技術の習得は必須です。それも、むしろ理系や経済学部等の計算をメインに行う学生よりも、キャリアデザイン学部等「文系」と言われる学生にとってこそ大切と言えます。それは、皆さんが、プログラミングなどのITの専門技術者よりも、キャリアデザイン学等の幅広い専門知識を扱うための「道具として」、パソコンやネットの情報を文具のように使いこなすことが求められるからです。
そのため、この授業では一番の目的を、「コンピュータが使えるようになること」とはしません。実践的な実務能力を身につけられるようにします。言い換えるなら、皆さんが将来にわたって、コンピュータやネットの技術を使って、皆さんの「やりたいこと」ができるようになることを目的とします。
情報処理の技術は日進月歩ですから、今あるコンピュータやネットの情報技術が使えるようになっても、将来皆さんが進学したり社会人になるころに、そのまま使えるとは限りません。ですから、この授業では、各コンピュータ／ソフトウェア／サービスの「操作のやり方（操作方法）」を全て丸暗記のように覚えることよりも、ソフトウェアやサービスが「どのようなものなのか、何ができるのか」を知ることを大切にします。そして、日々進化する情報処理技術に対応できるよう、応用的な操作方法は随時「検索して自力で調べられる」ようになることを目的とします。その目的実現のための手段として、この授業では、大学で学ぶために必要となる、コンピュータ／ソフトウェアおよびネット上のサービスの基本的使用方法を習得します。
同時に、大学の学びの基本となる、自ら興味があることの中から「問い」を立てて、調査をし、ディスカッションをし、結果を纏めるという一連の作業を、情報処理技術を使いながら行う演習をして、レポートや卒論に使えるスキルを身に付けます。
＜オンラインでの開講について＞
前年度、前々年度は、初回に定員の倍以上の申込みがあったため、初回授業はオンラインとし、受講希望者多数の場合は適宜抽選等で人数を確定します（オンライン授業の方法や抽選については、学習支援システムのお知らせを事前に確認してください）。
また、受講希望者数が定員以下の場合でも、情報処理演習という授業の性格上、オンラインミーティングの技術について学習することは有意義であるため、学期中一部の授業はオンライン開講を行う可能性があります（その場合、前の週までには告知します）。
なお、2月現在、大学の方針で対面授業ですので、原則は対面授業とします。ただし、万が一インフルエンザやコロナ等の感染流行の再悪化やその他やむを得ない事情が起きた場合は、別途オンラインの開講もあり得ます。
ただし、対面授業であろうとオンラインであろうと、前述の目的が変わることはありません。
※大学の授業実施方針については、最新の情報を大学ホームページで確認してください。

【到達目標】
Windows環境で基礎的なPCリテラシーやインターネットのリテラシーの習得をめざします。大学の授業のレポートや卒論作成時に使えるOfficeソフト（Word・Excel・PowerPoint）やGoogleのWebサービス、クラウド等の基本操作および活用方法を知ります。またChatGPT等の生成AIの適切な利用方法についても、学習します。
同時に、最も大切なこととして、自分がやりたいことのための操作方法を検索して、調べる技術を身につけることを目標とします。
＜皆さんのパソコン等の環境について＞
学期の早い時期に皆さんの学習環境（自宅等のネット環境を含む）のアンケートを行い、皆さんが将来の授業や卒業研究に役立てられるスキルを身につけられるよう内容を構築します。また、もし自宅等での環境が整わない場合は、必要な操作方法を自ら検索する能力をより高めることにより、将来必要な時に十分な情報リテラシーの習得が可能なようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
(1) テキストと毎回のレジュメをベースに、基礎的な操作方法を習得していきます。
(2) 毎回の授業は、講義と演習、ディスカッション等のグループワークを組み合わせて行います。
(3) 単に操作方法を学習するのではなく、コンピュータの機能を理解し、必要情報をネットで検索する能力を身につけることによって、日常生活においても効率よく使いこなせるようになることを目指します。
時間に余裕があれば、応用的内容も扱います。
※ 出席さえすれば単位がもらえる楽な科目ではありませんが、課題を着々と提出して行けば、期初に初心者であっても、最終的にはWebを利用した調査や、その結果を纏めて発表するなど、レポートや卒論に使えるだけの能力が自然に身に着くように、段階的に演習を進めます。また、暗記科目ではないので、期末テストは行いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション Windowsの基本操作 ネットリテラシーとセキュリティ Zoomの基本操作	授業ガイダンス。授業の目的の確認。 自身のPCを使用する場合、使い方の確認。 WindowsPCの基本的な使い方の説明。 ネットリテラシーの基本と、セキュリティの重要性。 オンライン会議システム（Zoom）の参加者としての基本機能を知る。
第2回	電子メールとネットの基本 学習環境を整える	電子メールの仕組みと使用上の注意点。電子メールと他のコミュニケーション・ツールやSNSとの比較。 USBメモリの使い方と利用上の注意点。 アンケートによる、学生の自身の学習環境の報告。 学習支援ハンドブック等による、メールの書き方（マナー）の学習。
第3回	ウェブの仕組みと情報検索 クラウドの利用 生成AIについて	ウェブの仕組みについて理解する。 情報検索演習として、ウェブから必要な情報を探すための方法を知る。 Dropboxの利用と、注意点。 ChatGPTの利用と、注意点。
第4回	Word(1)	教科書によるネットリテラシーの復習。 Windowsの基礎の復習。 ワープロソフト（Word）の基本的な文章の作成方法、 フォント・段落書式（インデント）・表について学ぶ。
第5回	Word(2)	応用的な文章作成方法。 Wordで絵・写真や図を挿入する方法。 見出し・アウトライン・スタイル・脚注。校閲機能。見出しの利用と目次の作成（課題）。 「表計算ソフト」とは。Excelでできることを知る（頭出し）
第6回	Word(3) Excel(1)	脚注。校閲機能（補足）。 表計算ソフト（Excel）の基本操作を習得する。 （Google スプレッドシートとの関連の確認）

第7回	Excel(2)	計算式や関数の基本的な使い方。見やすい表の作り方。書式設定、見出しなど。
第8回	Excel(3)	Excelでグラフを作成する。 Excelの表やグラフをWordに貼り付ける。 計算式や関数の応用的な使い方。
第9回	Excel(4)	Excelでのリスト管理（データベース）。 Excelとワードの合わせ技（差し込み印刷）。
第10回	PowerPoint(1)	プレゼンテーションソフト（PowerPoint）の基本操作を習得する。 発表資料としてのPowerPointファイルの作成。
第11回	PowerPoint(2)	簡易DTPとしてのPowerPointの利用。 Canvaの利用。 Word Excelとの連携。
第12回	Offceiソフト総合演習	Excel、Word、Powerpointを総合的に使用し、最終課題の準備を行う。
第13回	Googleのサービスと Officeソフトの合わせ技	Google Forms（アンケート調査）、Google Spreadsheet Excel、Word、Powerpointを総合的に使用し、最終課題を行う。
第14回	総合演習	授業で扱った内容を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・当授業の準備学習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。
・小課題を期日を守って、決められた方法で提出してください。
・次の授業に向けてのリーディング・アサイメント（準備学習としての読む課題）を出すことがあります。その場合は、そこを読んでから授業に臨むようにしてください。

【テキスト（教科書）】
・『学生・新社会人のための情報リテラシー入門』大間 哲 著 カットシステム（2025年4月発売予定。発売日決定後に、購入を指示します）
・法政大学『学習支援ハンドブック』http://www.hoseikyoiku.jp/lf/（法政大学教育開発・学習支援センター）のメニューより「学習支援ハンドブック」を選択。（ダウンロードをしておく必要はないが、授業時にパソコンから参照できるように、一度見つけて確認をしておくこと）

【参考書】
・『思考を鍛えるレポート・論文作成法[第３版]』 井下千以子 慶応義塾大学出版会（他の授業でテキストとして指定されている場合もあります）
・『情報リテラシー教科書 -Windows11/Office2021対応版-』 矢野文彦 著　オーム社 （定価：本体2090円）
（『情報リテラシー教科書 -Windows10 Office2019 対応版-』 でも可。自分が持っているパソコンのソフトのバージョンに合わせてください）
・『キャリアデザイン・就活のプロによるChatGPT徹底活用法: 就活生・就職担当者必携AIアシスト・キャリアデザイン』大間哲 著　カットシステム（定価：1540円）
・『情報処理エンジニア職業ガイド　– プログラマ・ITエンジニア・SEのためのキャリアデザイン-』 豊沢聡/大間哲 著 カットシステム （定価：本体1800円）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加状況（出席という意味ではありません。積極的な参加という意味です。）や課題提出状況をふまえて総合的に評価します。情報処理は、高校時代を含むそれまでの経験によって知識レベルに大きく差が出る可能性がある授業です。しかし、初心者であっても、恐れる必要はありません。真面目な講義・演習への参加と小課題の提出によって必要なゴールは達成できるようにします。また、熟達者や真剣にスキルの向上を望んで取り組む者には、さらに加点方式で評価がなされるよう工夫します。
・授業内の講義と演習への参加（配点比重 30%）
・毎回の小課題の提出（未提出の場合、その課題について0点。提出遅れは減点）（配点比重50%）
・総合課題（配点比重20%）
※期末テストは行いません。

【学生の意見等からの気づき】
・自らの興味がある事について能動的に調べ、ディスカッションし、発表するという課題は好評でもあり、また、大学での学び方の基本でもあるので、今期も続けたいと考えています。
・好評だった、最終的な総合課題に向けてのグループワーク、ディスカッション方式での演習は続けたいと考えています。
・「『月曜5限可哀想～』と友人から言われても、『情報処理楽しいから良いんだ～』と言い返すくらい楽しい授業でした」「学生の視点に立って接して下さり、とても嬉しかった」（授業アンケートより）。今年度から水曜5限・木曜3限・4限の開講になったが、今回も学生の皆さんがそう思ってくれるような、学生主体の視点で、楽しい授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
・初回参加時までに、このシラバスと、学習支援システムの「お知らせ」を良く読んでおくこと。
・指定されたテキストを大学から指定された方法で入手すること。
・この授業の目的である大学での授業のレポートや卒業研究・卒論作成に実践的に使用できるスキルを身に着けるため、できれば大学の授業で使う予定の自身のパソコンや自宅から、ネットへの接続環境を整える事が望ましい（必須ではありません）。
・今後の他の授業やレポートで使えるようになるために、自身のパソコンに慣れる意味からも、授業時に自身のパソコンを持参することを推奨する。
・自身のパソコンを持参できない場合は、大学でパソコンの貸し出し手続きをして持参すること。その場合、USBメモリー（8GB以上の容量のもの）を入手し、持参すること。

【その他の重要事項】
・基本的な内容からはじめ、段階的にレベルアップできるように授業を行います。
・学期末の必須課題を軽くし、受講生の皆さんの期末の負担を少なくするように工夫します。
・授業進度、理解度に合わせて、予定している授業日程の内容が前後することがあります。
・情報処理演習という授業の内容上、ChatGPT等生成AIの適切な利用法についても学習します。が、他の授業での生成AIの使用については、それぞれの授業の教員の指示に従ってください。
・定員超過の場合は抽選をします。抽選に漏れた場合は、他の曜日時限に開講されている同一科目を履修してください。
・Q0301（水曜5限）、Q0303（木曜3限）、Q0305（木曜4限）は、授業内容は基本的に同一です。ただし、皆さんの学習の進度、理解度等に合わせ、内容に若干の修正・差異が生じる可能性はあります。
・当授業は「実務経験がある教員による授業」です。教員は、20年間日本IBMに在籍し、システムエンジニア（特にネットワーク系）の経験があります。また、社内での専門職育成部門での経験もあるため、一般から先端までの技術をわかりやすく説明することに長けています。

【Outline (in English)】
[Course outline and Objectives]
The objective of this class is NOT only acquiring computer skills BUT to learn how to find the necessary information when you need it, from now and in the future. Since information technology is advancing every day, it is more important to understand what the computers and/or network services actually are and what can be done with them than memorizing the way of using computer software.
Mastering information technology is essential for university students, particularly for those in liberal arts fields like Career Design. Unlike students in fields focused on computational tasks, liberal arts students must use computers and internet tools as essential instruments to complement their broad knowledge base.
Students will learn basic computer, software, and web service operations needed for academic tasks, such as reports and theses. You will also develop skills in research, discussion, and presentation using information technology, providing a foundation for academic and professional success.
[Goals]
Students will acquire fundamental PC and internet literacy in a Windows environment. You will learn to use Office software (Word, Excel, PowerPoint), Google Web Services, and cloud tools for report and thesis preparation. You will also understand the appropriate use of generative AI tools like ChatGPT.
The most critical objective is to develop the ability to search for and learn necessary operations independently to achieve their goals.
[Learning activities outside of classroom (Preparation, etc.)]
Students are expected to understand the course content and complete the required assignments after each class meeting.
- Allocate approximately 4 hours for preparation (2 hours) and review (2 hours) for each class.
- Submit assignments by the deadline and via the specified method.

- Reading assignments may be given; complete these before attending the next class.
[Grading Criteria /Policy]
Students are evaluated comprehensively based on participation, assignment submission, and effort. Beginners can achieve the course goals through active engagement and completing assignments, while advanced students can earn additional points for demonstrating excellence.
- Participation In class contribution:30%
- Submission of regular assignments (zero points for non-submission, penalties for late submissions): 50%
- Term-end assignment: 20%
** No final exam will be conducted.

PRI100LA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

情報処理演習

2017年度以降入学者

大間　哲

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木4**/Thu.4
単位数：**2単位**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学生にとって、情報技術の習得は必須です。それも、むしろ理系や経済学部等の計算をメインに行う学生よりも、キャリアデザイン学部等「文系」と言われる学生にとってこそ大切と言えます。それは、皆さんが、プログラミングなどのITの専門技術者よりも、キャリアデザイン学等の幅広い専門知識を扱うための「道具として」、パソコンやネットの情報を文具のように使いこなすことが求められるからです。
そのため、この授業では一番の目的を、「コンピュータが使えるようになること」とはしません。実践的な実務能力を身につけられるようにします。言い換えるなら、皆さんが将来にわたって、コンピュータやネットの技術を使って、皆さんの「やりたいこと」ができるようになることを目的とします。
情報処理の技術は日進月歩ですから、今あるコンピュータやネットの情報技術が使えるようになっても、将来皆さんが進学したり社会人になるころに、そのまま使えるとは限りません。ですから、この授業では、各コンピュータ／ソフトウェア／サービスの「操作のやり方（操作方法）」を全て丸暗記のように覚えることよりも、ソフトウェアやサービスが「どのようなものなのか、何ができるのか」を知ることを大切にします。そして、日々進化する情報処理技術に対応できるよう、応用的な操作方法は随時「検索して自力で調べられる」ようになることを目的とします。その目的実現のための手段として、この授業では、大学で学ぶために必要となる、コンピュータ／ソフトウェアおよびネット上のサービスの基本的使用方法を習得します。
同時に、大学の学びの基本となる、自ら興味があることの中から「問い」を立てて、調査をし、ディスカッションをし、結果を纏めるという一連の作業を、情報処理技術を使いながら行う演習をして、レポートや卒論に使えるスキルを身に付けます。
＜オンラインでの開講について＞
前年度、前々年度は、初回に定員の倍以上の申込みがあったため、初回授業はオンラインとし、受講希望者多数の場合は適宜抽選等で人数を確定します（オンライン授業の方法や抽選については、学習支援システムのお知らせを事前に確認してください）。
また、受講希望者数が定員以下の場合でも、情報処理演習という授業の性格上、オンラインミーティングの技術について学習することは有意義であるため、学期中一部の授業はオンライン開講を行う可能性があります（その場合、前の週までには告知します）。
なお、2月現在、大学の方針で対面授業ですので、原則は対面授業とします。ただし、万が一インフルエンザやコロナ等の感染流行の再悪化やその他やむを得ない事情が起きた場合は、別途オンラインの開講もあり得ます。
ただし、対面授業であろうとオンラインであろうと、前述の目的が変わることはありません。
※大学の授業実施方針については、最新の情報を大学ホームページで確認してください。

【到達目標】
Windows環境で基礎的なPCリテラシーやインターネットのリテラシーの習得をめざします。大学の授業のレポートや卒論作成時に使えるOfficeソフト（Word・Excel・PowerPoint）やGoogleのWebサービス、クラウド等の基本操作および活用方法を知ります。またChatGPT等の生成AIの適切な利用方法についても、学習します。
同時に、最も大切なこととして、自分がやりたいことのための操作方法を検索して、調べる技術を身につけることを目標とします。
＜皆さんのパソコン等の環境について＞
学期の早い時期に皆さんの学習環境（自宅等のネット環境を含む）のアンケートを行い、皆さんが将来の授業や卒業研究に役立てられるスキルを身につけられるよう内容を構築します。また、もし自宅等での環境が整わない場合は、必要な操作方法を自ら検索する能力をより高めることにより、将来必要な時に十分な情報リテラシーの習得が可能なようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
(1) テキストと毎回のレジュメをベースに、基礎的な操作方法を習得していきます。
(2) 毎回の授業は、講義と演習、ディスカッション等のグループワークを組み合わせて行います。
(3) 単に操作方法を学習するのではなく、コンピュータの機能を理解し、必要情報をネットで検索する能力を身につけることによって、日常生活においても効率よく使いこなせるようになることを目指します。
時間に余裕があれば、応用的内容も扱います。
※ 出席さえすれば単位がもらえる楽な科目ではありませんが、課題を着々と提出して行けば、期初に初心者であっても、最終的にはWebを利用した調査や、その結果を纏めて発表するなど、レポートや卒論に使えるだけの能力が自然に身に着くように、段階的に演習を進めます。また、暗記科目ではないので、期末テストは行いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション Windowsの基本操作 ネットリテラシーとセキュリティ Zoomの基本操作	授業ガイダンス。授業の目的の確認。 自身のPCを使用する場合、使い方の確認。 WindowsPCの基本的な使い方の説明。 ネットリテラシーの基本と、セキュリティの重要性。 オンライン会議システム（Zoom）の参加者としての基本機能を知る。
第2回	電子メールとネットの基本 学習環境を整える	電子メールの仕組みと使用上の注意点。電子メールと他のコミュニケーション・ツールやSNSとの比較。 USBメモリの使い方と利用上の注意点。 アンケートによる、学生の自身の学習環境の報告。 学習支援ハンドブック等による、メールの書き方（マナー）の学習。
第3回	ウェブの仕組みと情報検索 クラウドの利用 生成AIについて	ウェブの仕組みについて理解する。 情報検索演習として、ウェブから必要な情報を探すための方法を知る。 Dropboxの利用と、注意点。 ChatGPTの利用と、注意点。
第4回	Word(1)	教科書によるネットリテラシーの復習。 Windowsの基礎の復習。 ワープロソフト（Word）の基本的な文章の作成方法、 フォント・段落書式（インデント）・表について学ぶ。
第5回	Word(2)	応用的な文章作成方法。 Wordで絵・写真や図を挿入する方法。 見出し・アウトライン・スタイル・脚注。校閲機能。見出しの利用と目次の作成（課題）。 「表計算ソフト」とは。Excelでできることを知る（頭出し）
第6回	Word(3) Excel(1)	脚注。校閲機能（補足）。 表計算ソフト（Excel）の基本操作を習得する。 （Google スプレッドシートとの関連の確認）

第7回	Excel(2)	計算式や関数の基本的な使い方。 見やすい表の作り方。書式設定、見出しなど。
第8回	Excel(3)	Excelでグラフを作成する。 Excelの表やグラフをWordに貼り付ける。 計算式や関数の応用的な使い方。
第9回	Excel(4)	Excelでのリスト管理（データベース）。 Excelとワードの合わせ技（差し込み印刷）。
第10回	PowerPoint(1)	プレゼンテーションソフト（PowerPoint）の基本操作を習得する。 発表資料としてのPowerPointファイルの作成。
第11回	PowerPoint(2)	簡易DTPとしてのPowerPointの利用。 Canvaの利用。 Word Excelとの連携。
第12回	Offceiソフト総合演習	Excel、Word、Powerpointを総合的に使用し、最終課題の準備を行う。
第13回	Googleのサービスと Officeソフトの合わせ技	Google Forms（アンケート調査）、Google Spreadsheet Excel、Word、Powerpointを総合的に使用し、最終課題を行う。
第14回	総合演習	授業で扱った内容を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・当授業の準備学習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。
・小課題を期日を守って、決められた方法で提出してください。
・次の授業に向けてのリーディング・アサイメント（準備学習としての読む課題）を出すことがあります。その場合は、そこを読んでから授業に臨むようにしてください。

【テキスト（教科書）】
・『学生・新社会人のための情報リテラシー入門』大間 哲 著 カットシステム（2025年4月発売予定。発売日決定後に、購入を指示します）
・法政大学『学習支援ハンドブック』http://www.hoseikyoiku.jp/lf/（法政大学教育開発・学習支援センター）のメニューより「学習支援ハンドブック」を選択。（ダウンロードをしておく必要はないが、授業時にパソコンから参照できるように、一度見つけて確認をしておくこと）

【参考書】
・『思考を鍛えるレポート・論文作成法[第３版]』 井下千以子 慶応義塾大学出版会（他の授業でテキストとして指定されている場合もあります）
・『情報リテラシー教科書 -Windows11/Office2021対応版-』 矢野文彦 著　オーム社 （定価：本体2090円）
（『情報リテラシー教科書 -Windows10 Office2019 対応版-』 でも可。自分が持っているパソコンのソフトのバージョンに合わせてください）
・『キャリアデザイン・就活のプロによるChatGPT徹底活用法: 就活生・就職担当者必携AIアシスト・キャリアデザイン』大間哲 著　カットシステム（定価：1540円）
・『情報処理エンジニア職業ガイド　– プログラマ・ITエンジニア・SEのためのキャリアデザイン-』 豊沢聡/大間哲 著 カットシステム （定価：本体1800円）

【成績評価の方法と基準】
授業への参加状況（出席という意味ではありません。積極的な参加という意味です。）や課題提出状況をふまえて総合的に評価します。情報処理は、高校時代を含むそれまでの経験によって知識レベルに大きく差が出る可能性がある授業です。しかし、初心者であっても、恐れる必要はありません。真面目な講義・演習への参加と小課題の提出によって必要なゴールは達成できるようにします。また、熟達者や真剣にスキルの向上を望んで取り組む者には、さらに加点方式で評価がなされるよう工夫します。
・授業内の講義と演習への参加（配点比重 30%）
・毎回の小課題の提出（未提出の場合、その課題について0点。提出遅れは減点）（配点比重50%）
・総合課題（配点比重20%）
※期末テストは行いません。

【学生の意見等からの気づき】
・自らの興味がある事について能動的に調べ、ディスカッションし、発表するという課題は好評でもあり、また、大学での学び方の基本でもあるので、今期も続けたいと考えています。
・好評だった、最終的な総合課題に向けてのグループワーク、ディスカッション方式での演習は続けたいと考えています。
・「『月曜5限可哀想～』と友人から言われても、『情報処理楽しいから良いんだ～』と言い返すくらい楽しい授業でした」「学生の視点に立って接して下さり、とても嬉しかった」（授業アンケートより）。今年度から水曜5限・木曜3限・4限の開講になったが、今回も学生の皆さんがそう思ってくれるような、学生主体の視点で、楽しい授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
・初回参加時までに、このシラバスと、学習支援システムの「お知らせ」を良く読んでおくこと。
・指定されたテキストを大学から指定された方法で入手すること。
・この授業の目的である大学での授業のレポートや卒業研究・卒論作成に実践的に使用できるスキルを身に着けるため、できれば大学の授業で使う予定の自身のパソコンや自宅から、ネットへの接続環境を整える事が望ましい（必須ではありません）。
・今後の他の授業やレポートで使えるようになるために、自身のパソコンに慣れる意味からも、授業時に自身のパソコンを持参することを推奨する。
・自身のパソコンを持参できない場合は、大学でパソコンの貸し出し手続きをして持参すること。その場合、USBメモリー（8GB以上の容量のもの）を入手し、持参すること。

【その他の重要事項】
・基本的な内容からはじめ、段階的にレベルアップできるように授業を行います。
・学期末の必須課題を軽くし、受講生の皆さんの期末の負担を少なくするように工夫します。
・授業進度、理解度に合わせて、予定している授業日程の内容が前後することがあります。
・情報処理演習という授業の内容上、ChatGPT等生成AIの適切な利用法についても学習します。が、他の授業での生成AIの使用については、それぞれの授業の教員の指示に従ってください。
・定員超過の場合は抽選をします。抽選に漏れた場合は、他の曜日時限に開講されている同一科目を履修してください。
・Q0301（水曜5限）、Q0303（木曜3限）、Q0305（木曜4限）は、授業内容は基本的に同一です。ただし、皆さんの学習の進度、理解度等に合わせ、内容に若干の修正・差異が生じる可能性はあります。
・当授業は「実務経験がある教員による授業」です。教員は、20年間日本IBMに在籍し、システムエンジニア（特にネットワーク系）の経験があります。また、社内での専門職育成部門での経験もあるため、一般から先端までの技術をわかりやすく説明することに長けています。

【Outline (in English)】
[Course outline and Objectives]
The objective of this class is NOT only acquiring computer skills BUT to learn how to find the necessary information when you need it, from now and in the future. Since information technology is advancing every day, it is more important to understand what the computers and/or network services actually are and what can be done with them than memorizing the way of using computer software.
Mastering information technology is essential for university students, particularly for those in liberal arts fields like Career Design. Unlike students in fields focused on computational tasks, liberal arts students must use computers and internet tools as essential instruments to complement their broad knowledge base.
Students will learn basic computer, software, and web service operations needed for academic tasks, such as reports and theses. You will also develop skills in research, discussion, and presentation using information technology, providing a foundation for academic and professional success.
[Goals]
Students will acquire fundamental PC and internet literacy in a Windows environment. You will learn to use Office software (Word, Excel, PowerPoint), Google Web Services, and cloud tools for report and thesis preparation. You will also understand the appropriate use of generative AI tools like ChatGPT.
The most critical objective is to develop the ability to search for and learn necessary operations independently to achieve their goals.
[Learning activities outside of classroom (Preparation, etc.)]
Students are expected to understand the course content and complete the required assignments after each class meeting.
- Allocate approximately 4 hours for preparation (2 hours) and review (2 hours) for each class.
- Submit assignments by the deadline and via the specified method.

- Reading assignments may be given; complete these before attending the next class.
[Grading Criteria /Policy]
Students are evaluated comprehensively based on participation, assignment submission, and effort. Beginners can achieve the course goals through active engagement and completing assignments, while advanced students can earn additional points for demonstrating excellence.
- Participation In class contribution:30%
- Submission of regular assignments (zero points for non-submission, penalties for late submissions): 50%
- Term-end assignment: 20%
** No final exam will be conducted.

PSY100LA（心理学 / Psychology 100）

心理学Ⅰ

2017年度以降入学者

望月　由紀子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水4**/Wed.4
単位数：**2単位**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「心」とは何か、「心理学」という学問とはどのようなものなのかを理解し、それぞれの専門分野での学び、周囲の人との関わりの中で活用できるようになることを本授業では目指します。
受講者には心理学IIを連続履修することを期待します。

【到達目標】
授業では、私たちがどのように環境を認識したり、記憶したりしているか、あるいは私たちは生涯を通じてどのように成長していくのかなどを学びます。
「心理学」の知識を持つことで皆さんの専攻する学問での学びや周りの人たちとの関係性がより深まり、私たち人間の心の働きをさまざまな切り口から捉えることができる能力を身につけることが目標です。また、授業の中でリラクゼーションやマインドフルネスを実施し、心理学を体験的にも学んでもらう時間を設ける予定ですので、生活の中で心理学がどう役に立つかも体験してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式により授業を進めていきます。また、時折、映像を用いて心の問題を捉えてみたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業計画、授業のねらいなどの説明
第2回	心理学とは何か	心理学が生まれてくるまで。心を科学的に研究することとはどういうことか
第3回	感覚と知覚について	私たちが環境を認識する際の心の働きについて
第4回	記憶について	私たちが何かを記憶することに関する心の働きについて
第5回	学習について	私たちが物を学ぶ際の心の働きについて
第6回	言語と思考について	私たちはどのように言語と関わり、思考しているのかについて
第7回	情動について	私たちの情動とはどんな働きをしているのだろうか
第8回	動機付けについて	私たちの動機付けと欲求のメカニズムについて
第9回	性格とは何か	心理学における性格のとらえ方
第10回	発達の基礎	私たちの様々な機能の発達段階について
第11回	社会的な発達	私たちが社会的に発達するとはどんなことなのか
第12回	自己とは何か	自分とは何か。心理学ではどのように考えてきたのか
第13回	集団の中での人の心について	同調と服従、説得などの社会的影響について
第14回	ストレスについてまとめ	心理学Ⅰのまとめとストレスについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
事前準備は、教科書でその回のテーマを読み、自分なりの疑問・問題意識を持ち授業に臨んでください。
復習は、その回のテーマを振り返り、自分なりの解答をまとめ、文章化しておきましょう。

【テキスト（教科書）】
よくわかる心理学 (やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ)　無藤隆・森俊昭・池上智子・福丸由佳（編）　ミネルヴァ書房
ISBN-13 ： 978-4623052509

【参考書】
心理学への招待―こころの科学を知る (新心理学ライブラリ)　梅本堯夫・大山正著　サイエンス社
ISBN-13 ： 978-4781913476

【成績評価の方法と基準】
レポート　100％
授業の中で扱ったテーマを一つ選び、授業で学んだことが自分自身の実体験とどうかかわり、今後どう活かせそうかを、500字～1000字以内でまとめて提出してもらいます。
テーマについてまとめている部分は50点とし、自分の考えについてまとめた個所を50点で評価をします。

【学生の意見等からの気づき】
シラバスとそれた個所へのフィードバックがあったため、それた個所であった体験的学習について目標のところで触れておきました。

【その他の重要事項】
臨床心理学での実務経験を踏まえ、心理学の知識がどのように活用されているかの具体例を示していきます。

【Outline (in English)】
You will understand what the “mind” is and what the science of “psychology” is.
The goal of this class is for you to be able to use these skills in your studies in your specialized field and in your interactions with people around you.
I expect you to take Psychology II.

PSY100LA（心理学 / Psychology 100）

心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

望月　由紀子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水4**/Wed.4
単位数：**2単位**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学Ⅰで学んだ心理学の基礎が、生活や社会の中でどのように役立っているかを学びます。主に臨床心理学の分野から、人格理論、発達各期における心理臨床的問題、異常心理、臨床心理学的査定、心理療法について学びます。

【到達目標】
心理学Ⅰでは学びきれなかった応用分野での心理学を学び、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えることができるようになることを、本授業ではめざします。リラクゼーションやマインドフルネスを体験してもらい、心理学を日常的に活かすことを体験的に学んでいただきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式により授業を進めていきます。また、時折、DVD教材を用いて心の問題を映像で捉えてみたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業計画、授業のねらいなどの説明
第2回	パーソナリティー理論	私たちの性格をどうとらえるか（類型論、特性論、状況論、相互作用論）
第3回	欲求と防衛機制	私たちの欲求や自分の心を守ろうとする防衛機制について知る
第4回	臨床心理学について	臨床心理学とはなにか、その誕生や専門性や活動について
第5回	臨床心理学の理論的モデル	臨床心理学の主な理論的モデルと実践について
第6回	臨床心理学のアセスメント方法について	アセスメントとは何か、どんなふうに用いられているのか、その方法について
第7回	臨床心理学の介入方法①	精神分析と分析心理学と認知行動療法
第8回	臨床心理学の介入方法②	来談者中心療法とマイクロカウンセリング
第9回	臨床心理学の介入方法③	ブリーフセラピー（解決志向アプローチなど）
第10回	臨床心理学の介入方法④	集団療法：アサーティブネストレーニングなど
第11回	臨床心理学の介入方法⑤	集団療法：カップルカウンセリングなど
第12回	異常心理学①	気分障害・統合失調症・不安障害など
第13回	異常心理学②	パーソナリティ障害・摂食障害・性同一性障害・身体症状症と解離性障害など
第14回	まとめ	これまでの授業内容を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
事前学習は毎回のテーマの教科書を読み自分なりの疑問を用意して授業に臨んでください。
復習は、授業の中で扱ったことを復習し、疑問に対する自分なりの回答を練り上げ、文章にまとめておきましょう。

【テキスト（教科書）】
よくわかる臨床心理学［改訂新版］（やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ）下山晴彦（著）　ミネルヴァ書房　ISBN(13桁)978-4623054350

【参考書】
実践に役立つ臨床心理学 【第４版】 塩﨑尚美（著） 北樹出版
ISBN(13桁)978-4779306976

【成績評価の方法と基準】
レポート課題　100％
授業の中で扱ったテーマについて、自分自身の体験の中でどのようにそのテーマで学んだことが活かせるかについて500字～1000字以内でまとめて提出してください。
テーマについてまとめている部分は50点とし、自分の考えについてまとめた個所を50点で評価をします。

【学生の意見等からの気づき】
心理学Ⅰを受講した学生の希望に出ていた、リラクゼーションやマインドフルネスを授業の中に取り入れました。

【その他の重要事項】
心理学Ⅰを履修していること。
医療現場における臨床実務経験がある教員のため、なるべく現場での経験も踏まえ授業を行います。

【Outline (in English)】
You learn about how psychology helps us in our lives and in society. From the field of clinical psychology, you learn about personality theory, clinical psychological problems at various stages of development, abnormal psychology, clinical psychological assessment, and psychotherapy.

PSY100LA（心理学 / Psychology 100）

心理学Ⅰ

2017年度以降入学者

望月　由紀子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水**3/Wed.3
単位数：**2単位**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「心」とは何か、「心理学」という学問とはどのようなものなのかを理解し、それぞれの専門分野での学び、周囲の人との関わりの中で活用できるようになることを本授業では目指します。
受講者には心理学IIを連続履修することを期待します。

【到達目標】
授業では、私たちがどのように環境を認識したり、記憶したりしているか、あるいは私たちは生涯を通じてどのように成長していくのかなどを学びます。
「心理学」の知識を持つことで皆さんの専攻する学問での学びや周りの人たちとの関係性がより深まり、私たち人間の心の働きをさまざまな切り口から捉えることができる能力を身につけることが目標です。また、授業の中でリラクゼーションやマインドフルネスを実施し、心理学を体験的にも学んでもらう時間を設ける予定ですので、生活の中で心理学がどう役に立つかも体験してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式により授業を進めていきます。また、時折、映像を用いて心の問題を捉えてみたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業計画、授業のねらいなどの説明
第2回	心理学とは何か	心理学が生まれてくるまで。心を科学的に研究することとはどういうことか
第3回	感覚と知覚について	私たちが環境を認識する際の心の働きについて
第4回	記憶について	私たちが何かを記憶することに関する心の働きについて
第5回	学習について	私たちが物を学ぶ際の心の働きについて
第6回	言語と思考について	私たちはどのように言語と関わり、思考しているのかについて
第7回	情動について	私たちの情動とはどんな働きをしているのだろうか
第8回	動機付けについて	私たちの動機付けと欲求のメカニズムについて
第9回	性格とは何か	心理学における性格のとらえ方
第10回	発達の基礎	私たちの様々な機能の発達段階について
第11回	社会的な発達	私たちが社会的に発達するとはどんなことなのか
第12回	自己とは何か	自分とは何か。心理学ではどのように考えてきたのか
第13回	集団の中での人の心について	同調と服従、説得などの社会的影響について
第14回	ストレスについてまとめ	心理学Ⅰのまとめとストレスについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
事前準備は、教科書でその回のテーマを読み、自分なりの疑問・問題意識を持ち授業に臨んでください。
復習は、その回のテーマを振り返り、自分なりの解答をまとめ、文章化しておきましょう。

【テキスト（教科書）】
よくわかる心理学 (やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ)　無藤隆・森俊昭・池上智子・福丸由佳（編）　ミネルヴァ書房
ISBN-13 ： 978-4623052509

【参考書】
心理学への招待―こころの科学を知る (新心理学ライブラリ)　梅本堯夫・大山正著　サイエンス社
ISBN-13 ： 978-4781913476

【成績評価の方法と基準】
レポート　100％
授業の中で扱ったテーマを一つ選び、授業で学んだことが自分自身の実体験とどうかかわり、今後どう活かせそうかを、500字～1000字以内でまとめて提出してもらいます。
テーマについてまとめている部分は50点とし、自分の考えについてまとめた個所を50点で評価をします。

【学生の意見等からの気づき】
シラバスとそれた個所へのフィードバックがあったため、それた個所であった体験的学習について目標のところで触れておきました。

【その他の重要事項】
臨床心理学での実務経験を踏まえ、心理学の知識がどのように活用されているかの具体例を示していきます。

【Outline (in English)】
You will understand what the “mind” is and what the science of “psychology” is.
The goal of this class is for you to be able to use these skills in your studies in your specialized field and in your interactions with people around you.
I expect you to take Psychology II.

PSY100LA（心理学 / Psychology 100）

心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

望月　由紀子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水**3/Wed.3
単位数：**2単位**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学Ⅰで学んだ心理学の基礎が、生活や社会の中でどのように役立っているかを学びます。主に臨床心理学の分野から、人格理論、発達各期における心理臨床的問題、異常心理、臨床心理学的査定、心理療法について学びます。

【到達目標】
心理学Ⅰでは学びきれなかった応用分野での心理学を学び、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えることができるようになることを、本授業ではめざします。リラクゼーションやマインドフルネスを体験してもらい、心理学を日常的に活かすことを体験的に学んでいただきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式により授業を進めていきます。また、時折、DVD教材を用いて心の問題を映像で捉えてみたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業計画、授業のねらいなどの説明
第2回	パーソナリティー理論	私たちの性格をどうとらえるか（類型論、特性論、状況論、相互作用論）
第3回	欲求と防衛機制	私たちの欲求や自分の心を守ろうとする防衛機制について知る
第4回	臨床心理学について	臨床心理学とはなにか、その誕生や専門性や活動について
第5回	臨床心理学の理論的モデル	臨床心理学の主な理論的モデルと実践について
第6回	臨床心理学のアセスメント方法について	アセスメントとは何か、どんなふうに用いられているのか、その方法について
第7回	臨床心理学の介入方法①	精神分析と分析心理学と認知行動療法
第8回	臨床心理学の介入方法②	来談者中心療法とマイクロカウンセリング
第9回	臨床心理学の介入方法③	ブリーフセラピー（解決志向アプローチなど）
第10回	臨床心理学の介入方法④	集団療法：アサーティブネストレーニングなど
第11回	臨床心理学の介入方法⑤	集団療法：カップルカウンセリングなど
第12回	異常心理学①	気分障害・統合失調症・不安障害など
第13回	異常心理学②	パーソナリティ障害・摂食障害・性同一性障害・身体症状症と解離性障害など
第14回	まとめ	これまでの授業内容を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
事前学習は毎回のテーマの教科書を読み自分なりの疑問を用意して授業に臨んでください。
復習は、授業の中で扱ったことを復習し、疑問に対する自分なりの回答を練り上げ、文章にまとめておきましょう。

【テキスト（教科書）】
よくわかる臨床心理学［改訂新版］（やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ） 下山晴彦（著） ミネルヴァ書房　ISBN(13桁)978-4623054350

【参考書】
実践に役立つ臨床心理学【第４版】 塩﨑尚美（著） 北樹出版
ISBN(13桁)978-4779306976

【成績評価の方法と基準】
レポート課題　100％
授業の中で扱ったテーマについて、自分自身の体験の中でどのようにそのテーマで学んだことが活かせるかについて500字～1000字以内でまとめて提出してください。
テーマについてまとめている部分は50点とし、自分の考えについてまとめた個所を50点で評価をします。

【学生の意見等からの気づき】
心理学Ⅰを受講した学生の希望に出ていた、リラクゼーションやマインドフルネスを授業の中に取り入れました。

【その他の重要事項】
心理学Ⅰを履修していること。
医療現場における臨床実務経験がある教員のため、なるべく現場での経験も踏まえ授業を行います。

【Outline (in English)】
You learn about how psychology helps us in our lives and in society. From the field of clinical psychology, you learn about personality theory, clinical psychological problems at various stages of development, abnormal psychology, clinical psychological assessment, and psychotherapy.

SOW500J1（社会福祉学 / Social Welfare 500）

福祉社会研究法Ⅰ

野田　岳仁、土肥　将敦、岡田　栄作、金　慧英

科目分類・科目群：**専門共通科目**
配当年次／単位数：**1・2年次／2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
福祉領域および地域領域における研究の方法論と技法についてマスターすることを目的とする。

【到達目標】
研究のデザインから調査データの収集と分析、論文執筆に至るまで、研究の一連の流れについて理解し、修士論文執筆に向けて必要な研究方法と論文執筆の作法について習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP6」「DP7」「「DP9」「DP10」関連

【授業の進め方と方法】
福祉領域および地域領域における研究方法、論文執筆の作法についてオムニバス形式で授業を運営する。リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で積極的に活用する。授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	量的調査の方法①（岡田）	量的研究の結果と考察の執筆の仕方
第2回	量的調査の方法②（岡田）	量的研究の研究デザイン
第3回	量的調査の方法③（岡田）	量的研究の質問紙の作成方法
第4回	量的調査の方法④（岡田）	量的研究の結果と考察の執筆の仕方
第5回	量的研究の方法⑤（金）	量的研究論文の精読
第6回	量的研究の方法⑥（金）	量的研究論文の執筆ポイントの解説
第7回	福祉領域における調査法とアプローチ（金）	高齢者福祉の現場から考える
第8回	質的調査の方法①（土肥）	イントロダクションとフィールド課題解説
第9回	質的調査の方法②（土肥）	フィールド調査と研究デザイン
第10回	質的調査の方法③（土肥）	フィールド調査と質的調査法
第11回	質的調査の方法④（野田）	フィールドワークの方法
第12回	質的調査の方法⑤（野田）	参与観察の方法
第13回	質的調査の方法⑥（野田	ライフヒストリー（生活史）の方法
第14回	質的調査の方法⑦（野田）	問いの立て方と論文執筆の技法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とするが、各回のテキストや教材についての十分な事前学習が求められる。

【テキスト（教科書）】
各回のテキストは下記の通り。事前に入手し、内容を理解しておくこと。
［第1-4回］近藤克則『研究の育て方：ゴールとプロセスの「見える化」』医学書院（2018年）
［第8-14回］岸政彦・石岡丈昇・丸山里美『質的社会研究の方法―他者の合理性の理解社会学』有斐閣（2016年）
その他の回については、講義内で適宜指示がある。

【参考書】
参考書および参考文献については講義内で適宜指示がある。

【成績評価の方法と基準】
平常点（80%）とリアクションペーパーや課題等の提出物（20%）

【学生の意見等からの気づき】
受講生の意見を積極的に取り入れていく。

【その他の重要事項】
授業の日程・時間割などの詳細は、オリエンテーションや学習支援システムを通じて連絡する。

【担当教員の専門分野等】
【野田岳仁】
〔専門領域〕
環境社会学・地域社会学・観光社会学
〔主要業績〕
『環境社会学の考え方ー暮らしを見つめる12の視点』（共著書、ミネルヴァ書房、2019年）
『生活環境主義のコミュニティ分析ー環境社会学のアプローチ』（共著書、ミネルヴァ書房、2018年）
『原発災害と地元コミュニティー福島県川内村奮闘記』（共著書、東信堂、2018年）
『Rebuilding Fukushima』（共著書、Routledge、2017年）
【土肥将敦】
〔専門領域〕
企業社会論、ソーシャル・イノベーション論、CSR論
〔研究テーマ〕
ソーシャル・イノベーションの創出と普及のあり方
〔主要業績〕
『社会的企業者』（単著、千倉書房、2022年）
『ソーシャル・ビジネス・ケース』（共著、中央経済社、2015年）
『ソーシャル・エンタプライズ論』（共著、有斐閣、2014年）
『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』（共著、NTT出版、2013年）
【岡田栄作】
〔専門領域〕
福祉疫学、ファシリテーション論、保健医療福祉論
〔研究テーマ〕
介護・医療関連情報の見える化、地域診断と健康
〔主要業績〕
『ソーシャル・キャピタルと健康・福祉』（共著書、ミネルヴァ書房、2020年）
『住民主体の楽しい「通いの場」づくり』（共著書、日本看護協会出版会、2019年）
【金慧英】
〔専門領域〕
高齢者福祉、介護専門職支援
〔主要業績〕
「介護職員のバーンアウト要因についての一考察:職場環境の管理体 制に着目して」『Human Welfare』11(1)（共著、2019年）
「韓国の介護職員の主観的職場環境認識とバーンアウトに関する研究」『人間福祉学研究』11(1)（共著、2018年）

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to help students master concepts of social welfare and community studies. 【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe method and theory of social welfare and community studies.【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (80%), and the quality of the students' performance (Reaction papers and reports) (20%).

SOW500J1（社会福祉学 / Social Welfare 500）

地域共生社会特論

水野　雅男、図司　直也、宮城　孝、金　慧英、杉浦　ちなみ、眞保　智子、渡辺　寛人

科目分類・科目群：**専門共通科目**
配当年次／単位数：**1・2年次／2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
福祉サイド（例：個別・地域・政策レベルの生活問題解決）およびまちづくり・地域創生サイド（例：興味・関心から始まるまちづくり）の両アプローチを念頭に置いた諸問題を様々な専門領域（担当教員の専門領域は下記参照）に照らして理解する。

【到達目標】
人・暮らしを中心に据えた生活問題の解決・改善、地域課題の解決を目指した地域づくりやまちづくりに関して、社会福祉と地域づくりの両面から具体的な理論・実践力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP6」「DP7」「「DP9」関連

【授業の進め方と方法】
教員7名がオムニバス形式で講義を担当する。外部講師を招聘することもある。遠隔地からの講義の【オンライン型】、または【対面型授業】での開講となる。本講義のお知らせ・教材・課題およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム等でその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	地方自治体における包括的支援システムとコミュニティソーシャルワークの展開①（宮城）	包括的支援システム構築への展望と課題
第2回	地方自治体における包括的支援システムとコミュニティソーシャルワークの展開②（宮城）	包括的支援システム構築とコミュニティソーシャルワークの展開
第3回	高齢者介護と介護専門職の支援①（金）	介護をめぐる課題
第4回	高齢者介護と介護専門職の支援②（金）	外国人を含む介護専門職の支援
第5回	合理的配慮提供と産業ソーシャルワーク①（眞保）	企業等産業分野における包摂
第6回	合理的配慮提供と産業ソーシャルワーク②〔眞保）	ダイバーシティマネジメント
第7回	貧困に対する支援①（渡辺）	貧困問題の基礎理論と貧困対策の展開
第8回	貧困に対する支援②（渡辺	貧困に対する支援の実践
第9回	地域マネジメントと地域経済循環①（図司）	農村コミュニティの基礎的理解
第10回	地域マネジメントと地域経済循環②（図司）	内発的発展の考え方とその実践
第11回	地域における学習の組織化と展開①（杉浦）	地域社会教育の基本的課題
第12回	地域における学習の組織化と展開②（杉浦）	地域課題の解決と社会教育
第13回	障害者の社会的包摂を目指した市民事業①（水野）	社会的包摂を目指すローカルビジネスの展開
第14回	障害者の社会的包摂を目指した市民事業②（水野）	障害者の就業支援を目指すメダカ育成ビジネス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。本授業の準備学習・復習時間は各2時間合計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて講義中に資料を配布。

【参考書】
講義中に随時紹介。

【成績評価の方法と基準】
平常点（各講義中のリアクションペーパー等）100%

【学生の意見等からの気づき】
これまでの受講者の声を踏まえて、講義内容を改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン講義のための機器（パソコン、スマートフォン等）

【その他の重要事項】
主な研究領域
1) 宮城（コミュニティソーシャルワーク、包括的支援システム）
2) 金（介護施設の組織的管理体制の構築）
3) 眞保（障害者雇用と就労支援　若者支援）
4) 渡辺（若者の労働・貧困問題と生活保護）
5) 図司（農山村における地域経営の仕組みづくりと地域経済循環）
6) 杉浦（地域文化の継承と創造）
7) 水野（社会的包摂の市民事業）

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to provide students with an understanding of community and social cohesion. The topics covered will be diverse to provide an overview of areas that impact on social policies and community development. The goal of this course students will be enhancing their necessary knowledge in social work and community management. Before /after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on contributions (100%: including in-class reports) within class.

SOW500J1（社会福祉学 / Social Welfare 500）

社会福祉学特論

岩崎　晋也

科目分類・科目群：**専門共通科目**
配当年次／単位数：**1・2年次／2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会福祉学の論点を検討する。

【到達目標】
社会福祉学に関わる原理・思想・歴史・政策などに関して、近年発表された論文を素材にして、現在の社会福祉が検討すべき論点の理解を深めることを目的としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP6」「DP7」「「DP9」関連

【授業の進め方と方法】
社会福祉学に関わる学術雑誌の中から、教員が指定する論文、または発表者が興味を持った論文を事前に参加者に提示し、全員が読了した上で、論文で示された論点やトピックをテーマに議論を深めたいと思います。
そのため、発表者に限らず参加者全員が毎回論文を読み込み、予習することが参加条件となりますので、受講者はその点を了解した上で履修してください。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文研究1	論文とは何かを講義する
第2回	論文研究2	社会福祉学の論点について講義する
第3回	論文研究3	指定論文（原理論）を読み論文の方法論について論じる１
第4回	論文研究4	指定論文（歴史）を読み論文の方法論について論じる２
第5回	論文研究5	指定論文（政策）を読み論文の方法論について論じる３
第6回	論文研究6	指定論文（制度）を読み論文の方法論について論じる４
第7回	論文研究7	指定論文（ソーシャルワーク）を読み論文の方法論について論じる５
第8回	論文研究8	指定論文（地域福祉）を読み論文の方法論について論じる６
第9回	論文研究9	指定論文（国際比較）を読み論文の方法論について論じる７
第10回	論文研究10	指定論文（貧困）を読み論文の方法論について論じる８
第11回	論文研究11	指定論文（高齢）を読み論文の方法論について論じる９
第12回	論文研究12	指定論文（児童）を読み論文の方法論について論じる１０
第13回	論文研究13	参加者の自らの研究テーマについて研究方法論を検討する１
第14回	論文研究14	参加者の自らの研究テーマについて研究方法論を検討する２

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された文献を予習すること本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点(100%)による。。

【学生の意見等からの気づき】
よりわかりやすい解説をしたいと思います。

【担当教員の専門分野】
社会福祉原理・思想

【Outline (in English)】
Discuss the issues of social welfare studies.
The goals of this course are to understanding of current issues that need to be considered in social welfare.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 100%.

SOW500J1（社会福祉学 / Social Welfare 500）

ソーシャルワーク特論Ⅰ

佐藤　繭美

科目分類・科目群：**専門展開科目（ソーシャルワーク系）**
配当年次／単位数：**1・2年次／2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまでのソーシャルワーク実践では、当事者支援のプロセスにおける死別ケアや看取りについて語られることが少ない状況であった。しかしながら、人口の高齢化や核家族化などの社会状況の変化により、ソーシャルワーク実践において、当事者の死別ケアや看取りにかかわることが求められつつある。こうした状況をふまえ、本講義ではソーシャルワーク実践における死別ケアのあり方について考究していくことを目的とする。

【到達目標】
本講義を通して、生と死について考究し、学問的見地をふまえた自らの意見を表明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
具体的には、いくつかの代表的な死をめぐる諸説を取り上げ、学習していく。そのうえで、当事者の死別体験にソーシャルワーカーはいかにしてかかわっているのかをディスカッションや事例を通して検討し、ソーシャルワークにおける死別ケアのあり方について考察する。授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。課題に対しては、授業内やHoppii等を活用してフィードバックを行う予定にしている

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義要領と内容説明
第2回	死をめぐる諸説の説明	死別に関する先行研究の説明
第3回	死をめぐる諸説の説明と検討	死別に関する先行研究の説明と議論
第4回	死別ケアの実際	先行研究および文献検討
第5回	ソーシャルワーク実践における死別ケア	先行研究および文献検討
第6回	死別ケアについての討議	ソーシャルワーク実践における具体的な死別ケアに関するグループディスカッションを行う
第7回	死生観と援助観との関連性	文献検討とディスカッション
第8回	自らの死生観についての検討	文献検討とグループディスカッション
第9回	死別に関するDVD鑑賞	死別に関するDVDを鑑賞する
第10回	全体討議	死別に関するDVD鑑賞をうけて、グループディスカッションを行う
第11回	医療職とソーシャルワーカーの立ち位置について	説明とディスカッション
第12回	医療職とソーシャルワーカーの実践比較	論文検討
第13回	他職種とのかかわりの違い	これまで学習したことを踏まえてのディスカッション
第14回	総括	生と死についてのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義を受講するにあたり、ソーシャルワーク実践の概要について以下の参考文献を読み進めておくことをおすすめする。
①一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ』、②一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『ソーシャルワークの理論と方法』　なお、本講義の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
坂口幸弘（2010）『悲嘆学入門』昭和堂

【成績評価の方法と基準】
レポート（50％）、知識・技術の習得（50％）を総合的に評価する。
特に、発表と討議に備えた先行研究の読み込み、自主学習については、成績評価の際のポイントとなる。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
日常生活において「死」について考える機会が少ないため、その機会を提供することについて評価をいただいたので、その点を意識して講義を展開したい。

【その他の重要事項】
社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、実践と理論の融合について教示していく。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ソーシャルワーク論、死別ケア
＜研究テーマ＞
・ソーシャルワークにおける死別ケアとACP
・セルフヘルプ・グループ論（特に自閉症者と家族）
＜主要研究業績＞
①自閉症の人の死別経験とソーシャルワーク.明石書店 2011年
②医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグリーフとその対応：共通性と相違性.ホスピスケアと在宅ケア 25(1)2017.
③アドバンス・ケア・プランニング先進国の状況とわが国における課題.医療ソーシャルワーク67号.2019

【Outline (in English)】
【Course outline】The aim of this course is to help students acquire an understanding of the view of life with death in social work.
【Learning Objectives】The purpose of this lecture is to be able to express one's views on life and death.
【Learning activities outside of classroom】The preparation and review time for this lecture will be about 4 hours each.
【Grading Criteria /Policy】The final grade will be the dissertation writing process (50%) and the acquisition of knowledge and skills (50%).

SOW500J1（社会福祉学 / Social Welfare 500）

ソーシャルワーク理論研究特論

伊藤　正子

科目分類・科目群：**専門展開科目（ソーシャルワーク系）**
配当年次／単位数：**1・2年次／2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワーク理論の変遷とそれぞれの時代における実践モデルについて学び、日本社会での適用可能性について批判的検討を行う。

【到達目標】
ソーシャルワークの発展過程において、援助の視点、方法、目標がどのように変遷してきたのかについて説明できる。
ソーシャルワークの各実践モデルの特徴と限界について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
まず、ソーシャルワークを歴史的に概観し、各実践モデルが発展してきた過程を整理する。その上で、テキストに沿いながらソーシャルワークにおける各実践モデルについて、起源・影響、問題理解の視点、介入原理・技法・過程、ターゲットグループ、残された課題、日本における展開の７つの項目について整理していく。対面式での開講となる。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標
第2回	ソーシャルワークの歴史	視点、価値、思想
第3回	実践モデル①	心理社会的アプローチ
第4回	実践モデル②	機能的アプローチ
第5回	実践モデル③	問題解決モデル
第6回	実践モデル④	家族療法とソーシャルワーク
第7回	実践モデル⑤	行動療法とソーシャルワーク
第8回	実践モデル⑥	課題中心ソーシャルワーク
第9回	実践モデル⑦	生態学的(エコロジカル）アプローチ
第10回	実践モデル⑧	ジェネラリスト・アプローチ
第11回	実践モデル⑨	ケアマネジメント
第12回	実践モデル⑩	ソーシャルサポート・ネットワーク
第13回	実践モデル⑪	エンパワメント・アプローチ
第14回	実践モデル⑫	構成主義・ナラティブアプローチ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の該当部分をテキストに沿って学習しておくこと。また報告担当者は、テキスト内の参考文献や、授業中に紹介する文献・資料などを中心に、入念な準備を行っておくこと。本授業の準備・復習時間は、各回４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
久保紘章・副田あけみ著『ソーシャルワークの実践モデル　心理社会的アプローチからナラティブまで』川島書店　2005年、
一部の理論、近年の理論に関する文献については、受講生と相談の上決定する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
１．課題発表 (50%)
２．授業への能動的参加(50%)

【学生の意見等からの気づき】
アンケートは未実施

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】
医療機関・外国人支援ＮＧＯソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、ソーシャルワークの実際について解説する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論
＜研究テーマ＞エスニック・マイノリティへのソーシャルワーク、外国人労働者の医療・労働・生活問題

【Outline (in English)】
This course introduce the different perspectives and skills of social work theory　to students taking course. By the end of the course, students should be able to do the followings:
-A. Explain how aid perspectives, methods, and goals have changed over the course of social work development.
-B. Explain the characteristics of each practical model of social work.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hours for each class meeting.Grading will be decided based on reports and presentation (50%), in-class contribution (50%).

SOW500J1（社会福祉学 / Social Welfare 500）

ソーシャルワーク・スーパービジョン

佐藤　繭美、伊藤　正子、髙良　麻子

科目分類・科目群：**専門展開科目（ソーシャルワーク系）**
配当年次／単位数：**1・2年次／2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、専門職として、ソーシャルワーク実践を言語化、文章化できるよう学習し、そのうえで、実践者としての支援のあり方を省察できるよう、スーパービジョンの実際を学習し、そのスキルを向上していくことを目的とします。

【到達目標】
専門職として、自らの実践を振り返り省察することにより、スーパービジョンを含む実践力の質を向上していくことを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
講義では、ソーシャルワーク実践におけるスーパービジョンの実際について学習し、実践の場において応用できるように様々な課題を提示したいと思います。受講生は提示された課題を分析し、その結果を提出してもらいます。提出された課題は、授業内でコメントをしたり、学習支援システムを通じてフィードバックしていきます。
※授業の内容等によっては、オンラインにて実施します。
※講義内容については授業進度により変更の可能性があります。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	スーパービジョンとは何か①	講義スケジュール及び成績評価、講義趣旨についての説明
第2回	スーパービジョンとは何か②	スーパービジョンの歴史と定義・種類
第3回	ジェネラリスト・ソーシャルワークにおけるスーパービジョン①	ジェネラリスト視点に基づくソーシャルワークの概要説明
第4回	ジェネラリスト・ソーシャルワークにおけるスーパービジョン②	ジェネラリスト・ソーシャルワークにおける倫理的ジレンマとスーパービジョン
第5回	医療領域におけるスーパービジョンの実際①	医療領域におけるスーパービジョンの方法
第6回	医療領域におけるスーパービジョンの実際②	医療領域におけるスーパービジョンについての討議
第7回	ソーシャルワーク・スーパービジョンの実際①	ゲスト・スピーカーによる講義
第8回	ソーシャルワーク・スーパービジョンの実際②	ゲスト・スピーカーとの討議
第9回	事例を用いたスーパービジョン①	講義と事例検討
第10回	事例を用いたスーパービジョン②	事例検討と討議
第11回	北米におけるソーシャルワーク・スーパービジョンの実際①	ゲスト・スピーカーによる講義
第12回	北米におけるソーシャルワーク・スーパービジョンの実際②	ゲスト・スピーカーとの討議
第13回	事例を用いたスーパービジョン③	ライブスーパービジョンの実際
第14回	スーパービジョンの課題	グループディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実践者向けの講義となる部分が多いので、スーパービジョンを実施したい事例についてまとめておくことを求めます。本授業の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、適宜紹介していきます。

【参考書】
・福山和女/渡辺律子/小原真知子他編（2018）『保健・医療・福祉専門職のためのスーパービジョン』ミネルヴァ書房
・山崎美貴子監修（2018）『ソーシャルワーカーの成長を支えるグループスーパービジョン』中央法規

【成績評価の方法と基準】
①出欠確認：リアクションペーパーを随時提出してもらい、出欠を確認します。
②成績評価:リアクションペーパー,授業内課題の提出が50％,最終課題50％の割合で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講する学生の現場経験を考慮した授業展開を工夫します。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインで授業を受講する機会があるため、パソコン等を準備してください。

【その他の重要事項】

【担当教員の専門分野】
【高良麻子】
ソーシャルワーク、ソーシャルアクション
【伊藤正子】
多文化ソーシャルワーク、医療福祉論
【佐藤繭美】
ソーシャルワーク、グリーフケア、セルフヘルプグループ

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
In this course, students will learn how to verbalize social work practice and will enhance their necessary skills including social work supervision by reflecting on their own practice.
【到達目標（Learning Objectives）】
The goal is to improve the quality of practice skills, including supervision, by reflecting and reflecting on one's own practice as a professional.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Grading will be decided based on in-class assignments (50%) and term-end assignments(50%).

SOW500J1（社会福祉学 / Social Welfare 500）

地域福祉特論

宮城　孝

科目分類・科目群：**専門展開科目（ソーシャルワーク系）**
配当年次／単位数：**1・2年次／2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域福祉の実践方法論、特に地域を基盤としたソーシャルワークの方法（コミュニティソーシャルワーク）について、その概念、関連する理論、今日的意義について理解を図るとともに、実践現場における具体的なスキルについて、事例を用いた演習によって修得を図る。また、地域福祉のシステムの開発、整備の在り方について、先進的な事例の分析によって理解を図る。

【到達目標】
コミュニティソーシャルワークの理論の内容について説明できる。地域を基盤としたソーシャルワークの一連のスキルを説明できる。自らの事例について、アセスメントからプランニングを適切に設計できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP6」「DP7」「「DP9」関連

【授業の進め方と方法】
講義、演習、事例分析などによる。課題に対して学生個人、また学生が協力して演習による作業を通して課題解決型学習を重視する。レポートへのコメントやリアクションペーパーなどを通して、疑問等へのフィードバックを図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、ＣＳＷの概念等
第2回	ＣＳＷの理論と今日的な意義	理論と今日的な意義、先進事例分析
第3回	個別課題アセスメントの視点と方法	演習（個別課題アセスメントの視点と方法）
第4回	個別課題アセスメントの実際	演習（個別課題アセスメントの実際）
第5回	地域アセスメントの視点と方法	地域アセスメントの視点と方法
第6回	地域アセスメントの実際	演習（地域アセスメントの実際）
第7回	アセスメントの統合の視点と方法	演習（アセスメントの統合の実際）
第8回	ソーシャルサポートマップの作成	演習（ソーシャルサポートマップの作成）
第9回	プランニングの方法	コミュニティソーシャルワークのプランニングの方法
第10回	プランニングの実際	演習（プランニングの実際）
第11回	地域ネットワークの形成	視点と方法、先進事例の分析等
第12回	地域福祉のシステム開発	視点と方法、先進事例の分析等
第13回	地域福祉計画と包括的支援システムについて	地域福祉計画と包括的支援システムについての視座
第14回	包括的支援システムの先進事例について	先進事例の分析、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指示した文献や演習課題等をレポートやワークシートにまとめ報告できるように準備すること。準備・復習時間を４時間以上とする。

【テキスト（教科書）】
宮城　孝他編著、日本地域福祉研究所監修『コミュニティソーシャルワークの新たな展開- 理論と先進事例-』中央法規、2019年

【参考書】
宮城　孝『住民力-超高齢社会を生き抜くチカラ-』明石書店,2022年
宮城　孝共編『地域福祉と包括的支援システムー基本的視座と先進的取り組みー』明石書店、2021年、
宮城　孝ほか編著『地域福祉とファンドレイジングー財源確保の方法と先進事例ー』中央法規、2018年
中島　修、菱沼幹男『コミュニティソーシャルワークの理論と実践」中央法規、2015年　他、必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点70％、レポート等の提出とその内容30％により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の関心のある研究テーマに応じ、地域福祉との関連について探求する機会を設けることとする。

【その他の重要事項】
講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、その経験を活かしてコミュニティソーシャルワークのスキルの修得を図ることとする。

【担当教員の専門分野等】
〔専門領域〕地域福祉論
〔主要研究業績〕
・『地域福祉と包括的支援システムー基本的視座と先進的取り組みー』（共編著）中央法規,2021年
・『住民力ー超高齢社会を生き抜くチカラー』（単著）明石書店,2022年
・『地域福祉と包括的支援システムー基本的視座と先進的取り組みー』（共編著）明石書店,2021年
・『仮設住宅　その10年ー陸前高田における被災者の暮らしー』（共編著）御茶の水書房,2020年
・『コミュニティソーシャルワークの新たな展開ー理論と先進事例ー」（共編著）中央法規、2019年、
・『地域福祉とファンドレイジングー理論と先進事例ー」（編著）中央法規、2018年
・『地域福祉のイノベーションーコミュニティの持続可能性の危機に挑む』（編集代表・共著）中央法規,2017年
・『東日本大震災と地域福祉ー次代への継承を探るー』（編集担当・共著）中央法規,2015年
・『相談援助演習』（編著）ミネルヴァ書房、2015年
・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）中央法規、2014年
・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房,2010年
・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣.2008年
・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規2007年
・『新版　地域福祉事典』(編集幹事)日本地域福祉学会,中央法規,2006年
・『イギリスの社会福祉とボランタリーセクター』中央法規,2000年

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course learn about practical understanding and thinking skills about the Community social work.

【Learning Objectives】
The goals of this course A and B.A Practical understanding and thinking skills about the Community social work.
B To consider about Community welfare problem and system having to do with
today.
【Learning activities outside of classroom)】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Grading will be decided based on the quality of the students' experimental performance in the lab(70%) Short report(30%)

SOW500J1（社会福祉学 / Social Welfare 500）

障害者福祉特論

眞保　智子

科目分類・科目群：**専門展開科目（ソーシャルワーク系）**
配当年次／単位数：**1・2年次／2単位**
備考（履修条件等）：**隔週開講**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では障害者の地域での「あたりまえ」の暮らしと社会参加を考える上で重要なトピックである「就労」について注目する。障害者雇用現状を把握し、障害者雇用率制度や就労支援関する諸制度を理解し、雇用現場における合理的配慮について考察する。

【到達目標】
①障害者雇用促進法と障害者雇用率制度を理解する。
②就労支援に関わる社会資源や制度を理解する。
③障害者雇用の現場での合理的配慮提供についてその実際を理解する。
④企業やＡ型事業所における障害者雇用の事例から合理的配慮のプロセスを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
障害者雇用の現状と障害者雇用の根拠法や支援制度についての講義とともに、視聴覚教材やゲストスピーカーによる実践報告やロールプレイなど演習を通して企業やＡ型事業所における合理的配慮提供の実践力について考察します。また、教室内での講義と演習だけでなく実際に企業やＡ型事業所等を訪問し、見学と意見交換をさせて頂くことによって、障害者雇用の現場で経営サイドと従業員サイドが抱える課題を理解し、その解決方法について検討します。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	障害者雇用の現状	厚生労働省の調査等をもとに現状を把握し、課題を検討する
第2回	雇用率制度と各種支援制度と社会資源	高齢・障害・求職者雇用支援機構の役割と支援サービス提供事業者について理解する
第3回	就労支援の現状	視聴覚教材で障害者雇用の現場の実情を学ぶ
第4回	企業における合理的配慮の提供	ノーマライゼーションを実現するための労務管理を「同僚性」キーワードに理解する
第5回	合理的配慮提供のためのアセスメント	アセスメント方法の講義と演習を通じて学ぶ
第6回	合理的配慮提供のための環境調整①	障害特性の理解と職場における協働について学ぶ
第7回	合理的配慮提供のための環境調整②	障害特性の理解と職場における協働と支援実践について学ぶ
第8回	合理的配慮提供のための環境調整③	障害特性の理解と職場における協働と課題について学ぶ
第9回	障害者雇用の現場理解	Ａ型事業所の見学およびディスカッション
第10回	事例検討①	Ａ型事業所の見学の振り返りとディスカッション
第11回	障害者雇用の現場理解	企業の見学およびディスカッション
第12回	事例検討②	企業の見学の振り返りとディスカッション
第13回	フィールドワーク	各自の興味に応じて障害者雇用の現場での参与観察
第14回	フィールドワーク報告	フィールドワークの振り返りとディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
厚生労働省障害者雇用実態調査の通読を行うなど本授業の準備・復習時間は、各4時間を時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で指定し、資料等も配布します。

【参考書】
中川昭一（2013）『特例子会社における障害者雇用: 知的障害者雇用の実践事例』学苑社
中島隆信（2011）『障害者の経済学』東洋経済

【成績評価の方法と基準】
proposal paper５０％ 講義内での発言と報告５０％

【学生の意見等からの気づき】
アンケートは実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆、グループワークや報告の際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用します。

【その他の重要事項】
精神保健福祉士として、知的障害のある方、発達障害のある方、精神障害のある方に対する就労支援および生活支援の実践を通じての知識および技能についても紹介する。

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域>
障害者福祉政策　障害者雇用・就労支援
< 研究テーマ>
１障害者の就労とキャリアデザイン
２障害者・若者・高齢者・女性の雇用に関する諸問題
３企業における精神科ソーシャルワーク

【Outline (in English)】
This class provides a lecture on current issues and progress of policy for persons with disabilities.As described in the seminar title, students will mainly learn the framework for disability studies, not just welfare perspectives.At the seminar, We will discuss Well-being for all people, whether they are disabled or not disabled. Before/after each seminar, students will be expected to spend four hours to understand the seminar content.Grading will be decided based on proposal paper (50%) and in-class presentation (50%).

SOW500J1（社会福祉学 / Social Welfare 500）

生活問題特論

結城　俊哉

科目分類・科目群：**専門展開科目（ソーシャルワーク系）**
配当年次／単位数：**1・2年次／2単位**
備考（履修条件等）：**2025年度の授業実施日は、9月12日（金）・16日（月）・17日（火）。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本社会における生活問題について検討する。そのための方法として社会問題の反映としての生活問題を構造的に理解する方法と支援の意義について事例を通して学ぶ。

【到達目標】
この授業を通して、個別の生活問題の背景にある社会（病理）問題についてソーシャルワーク的なケアの視点をとおして理解する力を涵養することができる。具体的には、「貧困問題（生活保護・ホームレス・子供の貧困）」、「障害者・高齢者虐待問題」、「差別・偏見（スティグマ）」の問題を事例としながらソーシャルワーク・スキルとしてのアセスメント力、問題解決力を育てることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP6」「DP7」「「DP9」関連

【授業の進め方と方法】
本講義は「対面」での開講となります。それにともなう授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本講義は、集中講義ですので、課題解決型学習を取り入れフィールド・ワーク等の体験によるリアクションペーパー及びフィードバックとしての学習課題レポート（まとめ）の提出と発表（報告）が必要となります。 さらに、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる各自の研究テーマと関わらせた議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入：生活問題とは何か= ケアの視点から	生活問題と社会問題の関係についてケアの視点から検討する。
2	ケアの担い手が対峙する生活問題と社会病理及び精神病理現象との関係について。	顕在化する生活問題としての社会病理と精神病理の関係とは何かについて考える。
3	生活問題としての「いじめ」問題とのケアの関係	いじめ現象の理解についてその対処方法について検討する。
4	生活問題における「ひきこもり」問題へのケアの視点からのアプローチ	生活問題としての「ひきこもり」現象の意味について考える。
5	生活問題と「非行」問題の関連とケアのアプローチ	非行問題としての「少年非行・少女売春」について検討する。
6	生活問題における「虐待」問題の位置とケアの介入方法	児童虐待・障害者虐待・高齢者虐待、ドメスティック・バイオレンス（DV）等の「虐待」問題の背景について考える。
7	生活問題と「自殺」問題へのケアのアプローチ	日本社会における「自殺」問題は、各世代ごとにことなる背景の意味について検討する。
8	生活問題における「ハラスメント問題とケアと人権について	日常の人間関係における「人権侵害」をハラスメント問題の視点から検討する。
9	生活問題と「嗜癖（アディクション）」問題へのケアの視点	アルコール依存・ギャンブル依存・買い物依存等々の「依存症」問題が描き出す生活問題における社会問題を考える。
10	生活問題としての「貧困・ホームレス」問題	福祉問題の原点でもある「貧困」問題について「生活保護（公的扶助）」の視点から再検討する。
11	生活問題に対処する援助者（ケアの担い手）の視点と役割	ソーシャルワークの視点から生活問題の構造を理解する方法について学ぶ
12	生活問題に向き合う援助者（ケアの担い手）の精神病理について	対人援助職の病理と言われる「バーン・アウト（燃え尽き症候群）」について考える。
13	生活問題と「対象喪失」問題（＝喪の仕事を中心に）へのケアの視点	援助者として「対象喪失」・「メメント・モリ」の問題との向き合い方について検討する。
14	社会問題の構造的変化と生活問題	生活問題解決に向けた諸課題と各自の研究テーマを関わらせた発表（報告）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は、本授業の準備学習・復習時間には、各回４時間を標準とします。その中で、各自の研究テーマ（課題興味・関心）に近いテーマに引きつけながら文献レビュー等の学習を深めておくこと。

【テキスト（教科書）】
結城俊哉著（2022）『ケアのフォークロア：対人援助の基本原則と展開方法を考える』（初版４刷）高菅出版

【参考書】
神谷美恵子（2013）『ケアへのまなざし』みすず書房
江口英一編（1991）『生活分析から福祉へ～社会福祉の生活理論』（第６刷版）光生館
社会病理学会監修（2019）『社会病理学の足跡と再構成』学文社
堤 未果（2023）『堤未果のショック・ドクトリン』幻冬舎新書

【成績評価の方法と基準】
最終レポート(25%)・中間レポート（25％）・平常点（５０％）
授業における参加度及び授業内容を反映した深く考察力のあるレポート課題の提出によって、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
生活問題とケア（支援）の方法について履修希望者の興味・関心に応じた講義内容も適宜、計画します。

【Outline (in English)】
Consider living problems in Japanese society. As a method for that, we will learn through examples how to structurally understand life problems as a reflection of social problems and the significance of support.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 25%、Mid-term report: 25%、in class contribution: 50%.

SOW500J1（社会福祉学 / Social Welfare 500）

社会リハビリテーション特論

行實　志都子

科目分類・科目群：**専門展開科目（ソーシャルワーク系）**
配当年次／単位数：**1・2年次／2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
リハビリテーションの哲学、歴史、領域、制度、実践を踏まえ、国際的な視点から最先端の研究について学ぶ。

【到達目標】
1．リハビリテーションの哲学と科学について自身の言葉で説明することができる。
2．社会的リハビリテーションについて、理解し説明することができる。
3．リハビリテーションの研究課題について論じ、解決すべき研究課題について適切な研究計画を立てることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。受講生は講義内容に対して口頭で所見を述べることが求められる。また，グループディスカッションや事例検討などを通して，リハビリテーションについて学ぶ．
講義は、最初に、リハビリテーションの理念に関わる基本概念、およびそれと密接に関連する障害構造論について明確にする。その後、社会的リハビリテーションの授業な視点である、エンパワメント、リカバリー、社会生活力プログラムを学ぶ。最後に、各方面からの社会的リハビリテーションの現状や課題を整理する。受講生は、上記に挙げた３つ到達目標に関する口頭発表及びレポートの提出を求められ、その内容と質について評価を受ける。
課題に対しては、授業内やHoppii等を活用してフィードバックを行う予定にしている．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リハビリテーションと何か	オリエンテーション リハビリテーションの定義 医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーションの違い
第2回	社会的リハビリテーションの思想と理論の発展	社会的リハビリテーション論の世界的発展の過程
第3回	生活者としての障害者とその権利①	障害者の生活意識 QOLと社会的リハビリテーション
第4回	生活者としての障害者とその権利②	障害者の社会的人権の対応としての社会的リハビリテーション
第5回	社会リハビリテーションを学ぶ視点１	リカバリー概念
第6回	社会リハビリテーションを学ぶ視点２	社会生活力プログラム
第7回	社会リハビリテーションを学ぶ視点３	社会生活スキルトレーニング（SST)
第8回	社会リハビリテーションを学ぶ視点４	当事者研究
第9回	社会リハビリテーションを学ぶ視点５	WRAP
第10回	社会リハビリテーションを学ぶ視点6	心理教育プログラム
第11回	社会リハビリテーションを学ぶ視点7	生活訓練プログラム
第12回	地域に根差したリハビリテーション	地域ネットワーク
第13回	リハビリテーションの最新の動向１	ピアサポート セルフヘルプ
第14回	リハビリテーションの最新の動向２	マインドフルネス オープンダイアローグ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で紹介する参考文献等を事前学習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各回2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
社会リハビリテーションの理論と実際　奥野英子著　誠信書房.2007
その他、必要に応じて適宜紹介する。また、資料を配付する。

【参考書】
1. 新・社会リハビリテーション（小嶋蓉子、奥野英子).誠信書房.1995
2.社会リハビリテーション論（澤村誠志）.三輪書房.2007
3.リハビリテーションの哲学（八重田淳）．法律文化社，2001
4.リハビリテーション連携論（澤村誠志，奥野英子編），2009
5. Educational Transitions: Moving Stories from around the world. (Jindal-Snape, D,ed.), New York: Routledge. 2009
6. 発達障害支援ハンドブック：医療、療育、教育、心理、福祉、労働からのアプローチ.日本発達障害学会監修、金子書房, 2012
7.職業リハビリテーション：松為信雄　ジアース教育新社、2024

【成績評価の方法と基準】
課題レポート（20％）講義への参加姿勢（80％）

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすく理解しやすい講義を工夫する。一方的な講義ではなく、学生中心の論議を促し、アクティブラーニングに基づいた授業を進める。それゆえ、学生の皆さんとは、講義内容から触発を受けながらも、その範疇にとらわれない広範な質疑応答と論議のできることを期待している。その意味で、論議への積極的な参加を求めたい。

【その他の重要事項】
精神科病院での精神保健福祉士として急性期病棟，慢性期病棟，デイケアなどの勤務経験があり，行政機関においても障害福祉課において地域生活への支援を行っていたという実務経験がある．
質問等について，メールで受け付ける．タイトルに【法政大学】をつけてください。
yukizane-avs@kuhs.ac.jp

【担当教員の専門分野等】
精神科リハビリテーション，ピアサポート，精神保健福祉士のキャリアラダーに関する研究，

【オフィスアワー】
授業の開始前や教室で質問・相談を受け付けます。

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn about cutting-edge research from an international perspective based on the philosophy, history, domain, system, and practice of rehabilitation
（Learning Objectives）
1. To be able to explain the general idea of rehabilitation philosophy and science with your own words.
2. To be able to explain social rehabilitation.
3. To be able to design rehabilitation research by stating research questions and future research issues.
(Learning activities outside of classroom)
Lecture(two-credits)
Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Report 20%and in-class contribution 80%

SOW500J1（社会福祉学 / Social Welfare 500）

保健医療福祉システム特論

小島　香

科目分類・科目群：**専門展開科目（システム・マネジメント系）**
配当年次／単位数：**1・2年次／2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、保健・医療・福祉に関連した制度や関係法規、基礎知識や理論についての理解を深め、保健医療福祉行政のマネジメントの視点から、社会福祉の理念と制度を体系的に学ぶ。

【到達目標】
①保健医療・福祉活動における基本理念と目標について理解し、説明できる。
②保健医療と福祉、各分野の制度の仕組みと機能、対策、保健活動や福祉政策の実際や動向について理解できる。
③行政における保健医療活動や福祉政策の役割と重要性が理解できる。
④住民の健康を支え、健康な地域づくりをすすめるための制度や活用方法が理解できる。
⑤保健医療に携わる専門職の役割と、連携・協働体制について理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義および課題を中心に学生同士で議論をしながら、講義を進めていく。場合によっては受講者に事前課題を与え、プレゼン等、話題提供してもらうこともある。オンラインを基本とする。本講義の授業計画の変更・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義内でその都度行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	保健医療と福祉を学ぶ意義	保健医療福祉活動の基本理念と健康とは何かについて学ぶ。
第2回	保健医療福祉行政の仕組みとヘルスプロモーション	保健医療福祉行政の仕組みとヘルスプロモーションを推進する重要性について学ぶ。
第3回	成人保健と健康増進	健康増進法や健康日本21、生活習慣病対策について学ぶ。
第4回	母子保健と児童福祉	母子保健と児童福祉は密接に関連していることを知り、育児環境整備について学ぶ。
第5回	高齢者保健と介護予防	高齢者の保健事業と介護予防は一体的に進めていけるのか可能性と実際について学ぶ。
第6回	保健医療福祉のチームマネジメント	保健医療福祉専門職の役割を理解し、チームマネジメントについて理解する。
第7回	居住環境と健康	居住環境は健康と福祉に密接に関連することを学ぶ。
第8回	労働衛生と健康	働き方と健康は密接に関連することを学ぶ。
第9回	ソーシャルキャピタルと健康	地域のつながりは健康に関連することを学ぶ。
第10回	国際保健と医療	国際保健と医療の関連について学ぶ。
第11回	健康危機管理Ⅰ～感染症編～	感染症に対する健康危機管理について学ぶ。
第12回	健康危機管理Ⅱ～防災編～	災害に対しての身の守り方、地域協働、健康危機管理について学ぶ。
第13回	地域包括ケアと多職種連携	地域包括ケアの実際と専門職連携の課題について学ぶ。
第14回	住民と協働して地域づくりをすすめるための保健と福祉	住民と地域づくりを進めながら、どうやったら皆と協働して、保健と福祉を推進できるかを学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書指定はなし。毎回、講義資料を提示し、適宜、参考図書等を紹介

【参考書】
公衆衛生がみえる（医療情報科学研究所）

【成績評価の方法と基準】
レポート50％、講義毎の振り返りシートによる自己評価50％

【学生の意見等からの気づき】
講義後の振り返りで皆さんからの要望を聞いて、随時、講義に反映していく予定です。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（オンライン学習環境）

【その他の重要事項】
受講生の関心と要請に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

【Outline (in English)】
Course outline: In this course students will learn about systems and related laws and regulations as well as basic knowledge and theories related to health, medical care and welfare. Students will systematically learn the principles and systems of social welfare from the perspective of health and welfare administration management.
Learning Objectives: 1) Understand and explain the basic principles and objectives of health and welfare activities.
2) Understand the structure and function of health and welfare systems and policies and each area, as well as the current situation and trends of health and welfare activities. 3) Understand the role and importance of health and welfare activities and policies in public administration.
3) Understand the role and importance of health activities and welfare policies in public administration.
4) Understand the systems and methods of using them to support the health of residents and promote healthy community development.
5) Understand the role of professionals involved in health and medical care and the system of cooperation and collaboration.
Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this course is 4 hours each.
Grading Criteria /Policy: Report 50%, self-assessment 50%by review sheet for each lecture.

ENG500J1（その他の工学 / Engineering 500）

住宅政策特論

水野　雅男

科目分類・科目群：**専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）**
配当年次／単位数：**1・2年次／2単位**
備考（履修条件等）：**2024年度以降入学者のみ受講可能。2023年度以前入学者は「S0034 都市・住宅政策特論」を受講すること。**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
少子高齢化社会において、生活の基盤となり、福祉とも深いかかわりを持つ住宅はどういう状況下にあるのか、「空き家」の実態と対策に焦点を充てて住宅市場と住宅政策の課題を概観する。

【到達目標】
国内外の実態と対策を俯瞰し、かつ研究論文をレビューしながら、人口減少という社会の変化に対して、住宅市場はどのように対応してきたのか、それを政策がどう支援してきたのか理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストに基づき毎回テーマに沿った課題についてレポートを提示し、冒頭にその発表を行い、参加者で意見交換する。
毎回の検討課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画と各自の住宅変遷の紹介
第2回	空き家の実態①	住宅・土地統計調査報告書
第3回	空き家の実態②	空き家所有者実態調査報告書
第4回	国内外の空き家対策①	我が国の空き家等対策特別措置法
第5回	国内外の空き家対策②	アメリカの空き家対策
第6回	国内外の空き家対策③	ドイツの空き家対策
第7回	国内外の空き家対策④	フランスの空き家対策
第8回	国内外の空き家対策⑤	イギリスの空き家対策
第9回	空き家の活用事例①	金沢における活用プロジェクト
第10回	空き家の活用事例②	「家いちば」「0円空き家バンク」等のビジネスモデル
第11回	空き家に関する研究①	金沢での居住継承に関する研究
第12回	空き家に関する研究②	空き家の実態に関する研究
第13回	空き家に関する研究③	空き家の流通に関する研究
第14回	総括	戦後日本の住宅政策の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で紹介した内容について、自主的に関心を広げて学習をすることが望まれる。毎回の準備学習（テキストを読みレポートを作成する）と復習に4時間以上充てる。

【テキスト（教科書）】
「世界の空き家対策」米山秀隆編著、学芸出版社、2018年
「空き家幸福論」藤木哲也著、日経ＢＰ、2020年

【参考書】
「マイホームの彼方に」平山洋介、筑摩書房、2020年
「アメリカの空き家対策とエリア再生」平修久、2020年
「老いた家、衰えぬ町」野澤千絵、講談社現代新書、2018年

【成績評価の方法と基準】
授業への参加・討論状況（50％）、課題レポート（50％）にもとづき評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムで課題の提示を行う。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに30年間関わった中で、町家再生活用や震災復興住宅再建に関する市民活動を企画運営してきた経験を踏まえて、ローカルな視点で住宅政策のあり方を授業で紹介する。

【担当教員の専門分野】
住宅問題・地域経営論・市民活動運営論

【主要研究業績】
「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集Vol.51、2016年
「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」日本建築学会論文集第707号、2015年
『地方都市の再生戦略』（共著）学芸出版社、2013年
『生活景』（共著）学芸出版社、2009年

【Outline (in English)】
< Course outline>
In a society with a declining birthrate and an aging population, what is the current state of housing, which is the foundation of life and is deeply connected to welfare,? This program will focus on the current situation of vacant houses and measures to address the housing market and housing policy issues.
< Learning Objectives>
This course will provide an overview of the current state of affairs and measures both in Japan and overseas, and will also review research papers, enabling students to understand how the housing market has responded to the social change of a declining population, and how policies have supported this response.
< Learning activities outside of classroom>
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy>
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 50%, in class contribution: 50%

ARSk500J1（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 500）

地域文化と教育特論

杉浦　ちなみ

科目分類・科目群：**専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）**
配当年次／単位数：**1・2年次／2単位**
備考（履修条件等）：**2024年度以降入学者のみ受講可能。2023年度以前入学者は「S0036 地域マネジメント特論」を受講すること。**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域づくりに文化と教育が果たす役割について、これまでの歴史を振り返りながら、文献および各地の事例から考える。

【到達目標】
本授業では、市民一人ひとりが文化を楽しみ学ぶことで地域がつくられていく道筋について学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
受講生と相談の上、輪読するテキストを決定する。授業は、担当者がレジュメを用意し、テキストの内容に関する議論を交わしながら、理解を深める。課題等のフィードバックも授業内で行い、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	テキストを紹介し、進め方を検討する。
第2回	テキスト輪読①	テキスト輪読を中心に議論し、適宜事例も検討する。
第3回	テキスト輪読②	第2回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第4回	テキスト輪読③	第3回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第5回	テキスト輪読④	第4回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第6回	関連テーマVTR視聴Ⅰ	前半のテキスト輪読のまとめを行い、関連するテーマの事例を議論する。
第7回	テキスト輪読⑤	テキスト輪読を中心に議論し、適宜事例も検討する。
第8回	テキスト輪読⑥	第7回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第9回	テキスト輪読⑦	第8回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第10回	テキスト輪読⑧	第9回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第11回	関連テーマVTR視聴Ⅱ	後半のテキスト輪読のまとめを行い、関連するテーマの事例を議論する。
第12回	テキスト輪読⑨	テキスト輪読を中心に議論し、適宜事例も検討する。
第13回	テキスト輪読⑩	第12回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第14回	まとめ	テキスト全体を通した議論と総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストや取り扱う事例の内容について、担当者はレジュメを用意する。担当者以外はテキスト等に事前に目を通し、疑問点や論点を挙げる。授業後に内容を振り返り、要点を整理する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
初回授業で候補を出し、受講者の研究テーマを踏まえて決定する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点・討論への参加50％、指摘課題・報告内容50％

【学生の意見等からの気づき】
学生からの意見や要望を可能な範囲で授業に活かしていく。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　教育学、社会教育・生涯学習論、地域文化論
＜研究テーマ＞　地域文化の伝承に教育・文化行政が果たす役割についての歴史的研究
＜主要研究業績＞
「1980年代の「郷土教育」をめぐる論争と実践―鹿児島県を事例に―」（教育学研究87(4)、2020）
『地域文化の再創造ー暮らしのなかの表現空間』（共著、水曜社、2024）
『地域に根ざす民衆文化の創造ー「常民大学」の総合的研究』（共著、藤原書店、2016）
『成人教育と文化の発展』（共訳、東洋館出版社、2016）

【Outline (in English)】
【Course outline】In this course, we will consider the role of culture and education in developing communities through case studies from various regions.
【Learning Objectives】By the end of the course, students will be able to learn about the way in which citizens can develop their community through enjoying and learning about culture.
【Learning activities outside of classroom】The student in charge of reporting will prepare a resume. Other students are required to read the text in advance and raise questions and points to discuss. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following：
in-class contribution：50%, Report content：50%

ENV500J1（環境保全学 / Environmental conservation 500）

環境社会学特論

野田　岳仁

科目分類・科目群：**専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）**
配当年次／単位数：**1・2年次／2単位**
備考（履修条件等）：**2024年度以降入学者のみ受講可能。2023年度以前入学者は「S0037 地域環境特論」を受講すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は環境社会学・地域社会学の主要な方法論である生活環境主義の方法を用いて、地域問題の解決、地域づくりや地域ツーリズムの有効性のある政策論を構想することを目的としている。そのうえで、生活環境主義によるフィールドワークとデータ分析の方法およびその思想をマスターすることを目指す。

【到達目標】
地域問題の解決や地域づくり、地域ツーリズム政策に対して、自らの方法論的立場を明確にしたうえで、あるべき方向性や有効性のある政策論を提言する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
基本のテキストと複数の学術論文をとりあげて、議論を深めていくスタイルをとる。受講生の関心や研究テーマによって若干の変更もありうる。変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。本講義は多様な学び方に配慮して対面とオンラインを組み合わせて授業を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境社会学の考え方	現場の生活者の暮らしをとらえる視点
第2回	環境を守るとはどういうことか？	環境の利用と管理の社会的な仕組み
第3回	誰がしっかりすれば環境は守られるのか？	環境保全の要としての地域コミュニティ
第4回	嫌な環境は誰が受け入れるのか？	迷惑施設問題と地元の合意
第5回	公園は都市の環境を豊かにしてきたか？	都市空間における自然環境としての公園
第6回	環境と観光はどのように両立されるのか？	地域のローカル・ルールを守る観光のあり方
第7回	人と野生生物はどのような関係なのか？	農山村地域が抱える獣害問題とその解決方法
第8回	未曾有の災害に人はどのように対処していくのか？	防災政策と復興まちづくり
第9回	環境をめぐって人びとはどのようにいがみ合うのか？	多様性を承認する地域コミュニティ
第10回	生活環境主義の基本理論	現場の生活者の立場から
第11回	生活環境主義の所有論	環境権と所有論
第12回	生活環境主義の組織論	生活組織論と住民の価値規範
第13回	生活環境主義の経験論	行為論から経験論へ
第14回	生活環境主義の実践性	有効性のある政策論への模索

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題文献の精読、レジュメの作成・発表の準備など事前学習は不可欠である。自分の関心や研究テーマにひきつけながら検討していくことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義内で適宜アナウンスする。

【参考書】
講義内で適宜紹介したり、必要に応じて配布する。

【成績評価の方法と基準】
討議や発表を含めた平常点（50%）とレジュメやレポートなどの成果物（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】
担当教員は環境保全活動や地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【担当教員の専門分野等】
〔専門領域〕
環境社会学・地域社会学・観光社会学
〔主要業績〕
『井戸端からはじまる地域再生ー暮らしから考える防災と観光』（単著、筑波書房、2023年）
『Everyday Life-Environmetalism: Community Sustainability and Resilience in Asia』（共著書、Routledge、2023年）
『環境社会学の考え方ー暮らしを見つめる12の視点』（共著書、ミネルヴァ書房、2019年）
『生活環境主義のコミュニティ分析ー環境社会学のアプローチ』（共著書、ミネルヴァ書房、2018年）
『原発災害と地元コミュニティー福島県川内村奮闘記』（共著書、東信堂、2018年）
『Rebuilding Fukushima』（共著書、Routledge、2017年）

【Outline (in English)】
【Course outline】 The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems.【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance（Discussion, presentation, and report）(50%).

ENG500J1（その他の工学 / Engineering 500）

都市・住宅政策特論

水野　雅男

科目分類・科目群：**専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）**
配当年次／単位数：**1・2年次／2単位**
備考（履修条件等）：**2023年度以前入学者のみ受講可能。2024年度以降入学者は「S0022 住宅政策特論」を受講すること。**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
少子高齢化社会において、生活の基盤となり、福祉とも深いかかわりを持つ住宅はどういう状況下にあるのか、「空き家」の実態と対策に焦点を充てて住宅市場と住宅政策の課題を概観する。

【到達目標】
国内外の実態と対策を俯瞰し、かつ研究論文をレビューしながら、人口減少という社会の変化に対して、住宅市場はどのように対応してきたのか、それを政策がどう支援してきたのか理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストに基づき毎回テーマに沿った課題についてレポートを提示し、冒頭にその発表を行い、参加者で意見交換する。
毎回の検討課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画と各自の住宅変遷の紹介
第2回	空き家の実態①	住宅・土地統計調査報告書
第3回	空き家の実態②	空き家所有者実態調査報告書
第4回	国内外の空き家対策①	我が国の空き家等対策特別措置法
第5回	国内外の空き家対策②	アメリカの空き家対策
第6回	国内外の空き家対策③	ドイツの空き家対策
第7回	国内外の空き家対策④	フランスの空き家対策
第8回	国内外の空き家対策⑤	イギリスの空き家対策
第9回	空き家の活用事例①	金沢における活用プロジェクト
第10回	空き家の活用事例②	「家いちば」「0円空き家バンク」等のビジネスモデル
第11回	空き家に関する研究①	金沢での居住継承に関する研究
第12回	空き家に関する研究②	空き家の実態に関する研究
第13回	空き家に関する研究③	空き家の流通に関する研究
第14回	総括	戦後日本の住宅政策の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で紹介した内容について、自主的に関心を広げて学習をすることが望まれる。毎回の準備学習（テキストを読みレポートを作成する）と復習に4時間以上充てる。

【テキスト（教科書）】
「世界の空き家対策」米山秀隆編著、学芸出版社、2018年
「空き家幸福論」藤木哲也著、日経ＢＰ、2020年

【参考書】
「マイホームの彼方に」平山洋介、筑摩書房、2020年
「アメリカの空き家対策とエリア再生」平修久、2020年
「老いた家、衰えぬ町」野澤千絵、講談社現代新書、2018年

【成績評価の方法と基準】
授業への参加・討論状況（50％）、課題レポート（50％）にもとづき評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムで課題の提示を行う。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに30年間関わった中で、町家再生活用や震災復興住宅再建に関する市民活動を企画運営してきた経験を踏まえて、ローカルな視点で住宅政策のあり方を授業で紹介する。

【担当教員の専門分野】
住宅問題・地域経営論・市民活動運営論

【主要研究業績】
「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集Vol.51、2016年
「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」日本建築学会論文集第707号、2015年
『地方都市の再生戦略』（共著）学芸出版社、2013年
『生活景』（共著）学芸出版社、2009年

【Outline (in English)】
< Course outline>
In a society with a declining birthrate and an aging population, what is the current state of housing, which is the foundation of life and is deeply connected to welfare,? This program will focus on the current situation of vacant houses and measures to address the housing market and housing policy issues.
< Learning Objectives>
This course will provide an overview of the current state of affairs and measures both in Japan and overseas, and will also review research papers, enabling students to understand how the housing market has responded to the social change of a declining population, and how policies have supported this response.
< Learning activities outside of classroom>
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy>
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 50%, in class contribution: 50%

ARSk500J1（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 500）

地域マネジメント特論

杉浦　ちなみ

科目分類・科目群：**専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）**
配当年次／単位数：**1・2年次／2単位**
備考（履修条件等）：**2023年度以前入学者のみ受講可能。2024年度以降入学者は「S0024 地域文化と教育特論」を受講すること。**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域づくりに文化と教育が果たす役割について、これまでの歴史を振り返りながら、文献および各地の事例から考える。

【到達目標】
本授業では、市民一人ひとりが文化を楽しみ学ぶことで地域がつくられていく道筋について学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
受講生と相談の上、輪読するテキストを決定する。授業は、担当者がレジュメを用意し、テキストの内容に関する議論を交わしながら、理解を深める。課題等のフィードバックも授業内で行い、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	テキストを紹介し、進め方を検討する。
第2回	テキスト輪読①	テキスト輪読を中心に議論し、適宜事例も検討する。
第3回	テキスト輪読②	第2回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第4回	テキスト輪読③	第3回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第5回	テキスト輪読④	第4回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第6回	関連テーマVTR視聴Ⅰ	前半のテキスト輪読のまとめを行い、関連するテーマの事例を議論する。
第7回	テキスト輪読⑤	テキスト輪読を中心に議論し、適宜事例も検討する。
第8回	テキスト輪読⑥	第7回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第9回	テキスト輪読⑦	第8回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第10回	テキスト輪読⑧	第9回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第11回	関連テーマVTR視聴Ⅱ	後半のテキスト輪読のまとめを行い、関連するテーマの事例を議論する。
第12回	テキスト輪読⑨	テキスト輪読を中心に議論し、適宜事例も検討する。
第13回	テキスト輪読⑩	第12回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第14回	まとめ	テキスト全体を通した議論と総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストや取り扱う事例の内容について、担当者はレジュメを用意する。担当者以外はテキスト等に事前に目を通し、疑問点や論点を挙げる。授業後に内容を振り返り、要点を整理する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
初回授業で候補を出し、受講者の研究テーマを踏まえて決定する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点・討論への参加50％、指摘課題・報告内容50％

【学生の意見等からの気づき】
学生からの意見や要望を可能な範囲で授業に活かしていく。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　教育学、社会教育・生涯学習論、地域文化論
＜研究テーマ＞　地域文化の伝承に教育・文化行政が果たす役割についての歴史的研究
＜主要研究業績＞
「1980年代の「郷土教育」をめぐる論争と実践―鹿児島県を事例に―」（教育学研究87(4)、2020）
『地域文化の再創造ー暮らしのなかの表現空間』（共著、水曜社、2024）
『地域に根ざす民衆文化の創造ー「常民大学」の総合的研究』（共著、藤原書店、2016）
『成人教育と文化の発展』（共訳、東洋館出版社、2016）

【Outline (in English)】
【Course outline】In this course, we will consider the role of culture and education in developing communities through case studies from various regions.
【Learning Objectives】By the end of the course, students will be able to learn about the way in which citizens can develop their community through enjoying and learning about culture.
【Learning activities outside of classroom】The student in charge of reporting will prepare a resume. Other students are required to read the text in advance and raise questions and points to discuss. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following：
in-class contribution：50%, Report content：50%

ENV500J1（環境保全学 / Environmental conservation 500）

地域環境特論

野田　岳仁

科目分類・科目群：**専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）**
配当年次／単位数：**1・2年次／2単位**
備考（履修条件等）：**2023年度以前入学者のみ受講可能。2024年度以降入学者は「S0025 環境社会学特論」を受講すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は環境社会学・地域社会学の主要な方法論である生活環境主義の方法を用いて、地域問題の解決、地域づくりや地域ツーリズムの有効性のある政策論を構想することを目的としている。そのうえで、生活環境主義によるフィールドワークとデータ分析の方法およびその思想をマスターすることを目指す。

【到達目標】
地域問題の解決や地域づくり、地域ツーリズム政策に対して、自らの方法論的立場を明確にしたうえで、あるべき方向性や有効性のある政策論を提言する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
基本のテキストと複数の学術論文をとりあげて、議論を深めていくスタイルをとる。受講生の関心や研究テーマによって若干の変更もありうる。変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。本講義は多様な学び方に配慮して対面とオンラインを組み合わせて授業を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境社会学の考え方	現場の生活者の暮らしをとらえる視点
第2回	環境を守るとはどういうことか？	環境の利用と管理の社会的な仕組み
第3回	誰がしっかりすれば環境は守られるのか？	環境保全の要としての地域コミュニティ
第4回	嫌な環境は誰が受け入れるのか？	迷惑施設問題と地元の合意
第5回	公園は都市の環境を豊かにしてきたか？	都市空間における自然環境としての公園
第6回	環境と観光はどのように両立されるのか？	地域のローカル・ルールを守る観光のあり方
第7回	人と野生生物はどのような関係なのか？	農山村地域が抱える獣害問題とその解決方法
第8回	未曾有の災害に人はどのように対処していくのか？	防災政策と復興まちづくり
第9回	環境をめぐって人びとはどのようにいがみ合うのか？	多様性を承認する地域コミュニティ
第10回	生活環境主義の基本理論	現場の生活者の立場から
第11回	生活環境主義の所有論	環境権と所有論
第12回	生活環境主義の組織論	生活組織論と住民の価値規範
第13回	生活環境主義の経験論	行為論から経験論へ
第14回	生活環境主義の実践性	有効性のある政策論への模索

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題文献の精読、レジュメの作成・発表の準備など事前学習は不可欠である。自分の関心や研究テーマにひきつけながら検討していくことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義内で適宜アナウンスする。

【参考書】
講義内で適宜紹介したり、必要に応じて配布する。

【成績評価の方法と基準】
討議や発表を含めた平常点（50%）とレジュメやレポートなどの成果物（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】
担当教員は環境保全活動や地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【担当教員の専門分野等】
〔専門領域〕
環境社会学・地域社会学・観光社会学
〔主要業績〕
『井戸端からはじまる地域再生ー暮らしから考える防災と観光』（単著、筑波書房、2023年）
『Everyday Life-Environmetalism: Community Sustainability and Resilience in Asia』（共著書、Routledge、2023年）
『環境社会学の考え方ー暮らしを見つめる12の視点』（共著書、ミネルヴァ書房、2019年）
『生活環境主義のコミュニティ分析ー環境社会学のアプローチ』（共著書、ミネルヴァ書房、2018年）
『原発災害と地元コミュニティー福島県川内村奮闘記』（共著書、東信堂、2018年）
『Rebuilding Fukushima』（共著書、Routledge、2017年）

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems.【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance（Discussion, presentation, and report）(50%).

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

論文研究演習Ⅰ

伊藤　正子

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**1年次／4単位**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文にむけた研究計画の作成。

【到達目標】
修士論文の作成に向けて、研究計画を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】
まず、各自の研究関心を明確化することから始め、次に、先行研究のレビューを隣接領域も含めて丁寧に行う。さらに、春学期中に研究課題を絞り込み、秋学期に入ってからは、研究目的を明確化するとともに、研究構想の基盤を作り上げ、研究計画書の作成に取りかかる。対面式を基本としつつ、状況に応じてオンラインでの開講となる。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期目標の明確化
第2回	研究関心の明確化①	研究関心の列挙
第3回	研究関心の明確化②	研究関心のグループ化
第4回	研究関心の明確化③	グループ化された関心への命名
第5回	研究関心の明確化④	各関心におけるキーワードの抽出
第6回	先行研究のレビュー①	隣接領域の文献研究
第7回	先行研究のレビュー②	関連領域の文献研究
第8回	先行研究のレビュー③	隣接領域の論文研究
第9回	先行研究のレビュー④	関連領域の論文研究
第10回	研究課題の絞り込み①	オリジナリティの検討
第11回	研究課題の絞り込み②	実践的意義の検討
第12回	研究課題の絞り込み③	データ収集可能性の検討
第13回	研究課題の絞り込み④	研究実施フィールドの検討
第14回	研究課題の絞り込み⑤	研究仮説の検討
第15回	中間総括	明確化されたことの確認
第16回	オリエンテーション	秋学期目標の明確化
第17回	研究目的の明確化①	研究の具体的目的の列挙
第18回	研究目的の明確化②	学術的な意義による絞り込み
第19回	研究目的の明確化③	独創性に基づく絞り込み
第20回	研究目的の明確化④	予想される結果の検討
第21回	研究構想の基盤作り①	研究仮説の明確化
第22回	研究構想の基盤作り②	研究手法（量的、質的等）の検討
第23回	研究構想の基盤作り③	研究データ収集方法の検討
第24回	研究構想の基盤作り④	研究データ分析方法の検討
第25回	研究計画書の作成①	研究実施体制の検討
第26回	研究計画書の作成②	研究実施フィールドの確認
第27回	研究計画書の作成③	データ収集のスケジュール検討
第28回	まとめ	研究計画の確認とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回報告を求めるので、担当する報告内容については、入念な準備を行っておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各回４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
１．演習への積極的参加（20％）
２．演習内課題（60％）
３．論文構想発表会（20％）

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）を準備しておくことが望ましい。

【その他の重要事項】
医療機関・外国人支援ＮＧＯソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論
＜研究テーマ＞ エスニック・マイノリティへのソーシャルワーク、外国人労働者の労働・生活問題

【Outline (in English)】
This course introduces academic writing to prepare a master's thesis. The goals of this course are to enhance necessary knowledge, skills, and to create a research plan. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (60%), and presentation (20%),in-class contribution (20%).

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

論文研究演習Ⅰ

岩崎　晋也

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**1年次／4単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究テーマを決定し、その研究テーマに即した先行研究のレビュー、仮説の設定などの研究手法を学ぶ。

【到達目標】
論文作成の基礎力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】
事前に課題を提示し、その報告と検討により授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーションを行う
第2回	論文作成の方法①	論文作成の方法の概略を学ぶ
第3回	論文作成の方法②	テーマを設定することの意義を学ぶ
第4回	論文作成の方法③	先行研究を検討することの意義を学ぶ
第5回	論文作成の方法④	研究テーマの絞り方を学ぶ
第6回	関心領域・テーマの検討①	自分が関心がある研究テーマを発表する
第7回	関心領域・テーマの検討②	そのテーマの歴史的意義を検討する
第8回	関心領域・テーマの検討③	そのテーマの現代的意義を検討する
第9回	関心領域・テーマの検討④	そのテーマの国際比較の意を検討する
第10回	先行研究のレビュー①	先行研究（歴史）を検討する
第11回	先行研究のレビュー②	先行研究（現代的意義）を検討する
第12回	先行研究のレビュー③	先行研究（国際比較）を検討する
第13回	先行研究のレビュー④	先行研究（研究方法）を検討する
第14回	中間総括	前期の研究を総括する
第15回	テーマの明確化①	先行研究との関係で研究テーマを絞る
第16回	テーマの明確化②	研究テーマのオリジナリティを明確化する
第17回	テーマの明確化③	予想される成果を整理する
第18回	発表会原稿の作成①	発表原稿のドラフトを作成する
第19回	発表会原稿の作成②	発表原稿のパワーポイントを作成する
第20回	発表会原稿の作成③	発表の読み上げ原稿を作成する
第21回	発表会リハーサル	発表会のリハーサルを行う
第22回	【論文構想発表会】	発表会で指導する
第23回	論文構想の明確化①	論文の起承転結の承の部分のアウトラインを構想する
第24回	論文構想の明確化②	論文の起承転結の転の部分のアウトラインを構想する
第25回	論文構想の明確化③	論文の起承転結の結の部分のアウトラインを構想する
第26回	論文構想の明確化④	論文の起承転結の起の部分のアウトラインを構想する
第27回	論文構想の明確化⑤	論文の起承転結のつながりを明確化する
第28回	年間総括	1年間の研究を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に指示された課題を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点(100%)による。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんの意見を聞きながら授業を進めるつもりです。

【担当教員の専門分野】
社会福祉原理・思想

【Outline (in English)】
Learn research methods such as reviewing previous studies and setting hypotheses according to the research theme.
The goals of this course are to improve research methods ability.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 100%.

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

論文研究演習Ⅰ

髙良　麻子

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**1年次／4単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文の執筆に向けて、ソーシャルワークの研究方法を学ぶ。

【到達目標】
・論文を作成するために必要な研究方法について理解できる。
・自分の研究計画を策定できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】
学生が自分の課題認識にもとづき、研究を進めることができるだけの基礎を習得できるように、個別やグループ指導を行う。授業ごとのリアクションをもとに、次の授業でフィードバックを行うなどで授業を進める。また、修士論文構想発表会に向けて準備を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	ソーシャルワーク研究とは	研究とは ソーシャルワーク研究の特徴
第3回	論文とは	論文の構成要素
第4回	関心テーマ①	関心テーマに関する情報取集：定義
第5回	関心テーマ②	関心テーマに関する情報取集：実態
第6回	関心テーマ③	関心テーマに関する情報取集：文献
第7回	リサーチクエスチョン	リサーチクエスチョンの構築
第8回	リサーチクエスチョンに関する先行研究①	先行研究の文献収集
第9回	リサーチクエスチョンに関する先行研究②	リサーチクエスチョンに関する先行研究のレビュー
第10回	リサーチクエスチョンに関する先行研究③	関連領域の先行研究のレビュー
第11回	レビュー論文の検討	レビュー論文の批判的検討
第12回	研究の目的	研究の目的や仮説の設定
第13回	研究方法の決定	研究方法の検討
第14回	中間総括	振り返りと夏季休暇中の計画
第15回	オリエンテーション	夏期休暇中の研究成果の発表
第16回	研究計画の策定①	研究目的や方法の検討
第17回	研究計画の策定②	倫理的配慮の検討
第18回	論文構想発表の準備	発表会原稿の作成
第19回	発表会原稿の検討	発表会原稿の批判的検討
第20回	発表会原稿の完成	発表会原稿の修正
第21回	発表会リハーサル	論文構想発表会のリハーサルと内容検討
第22回	論文構想発表会	自身の論文構想を発表する
第23回	発表会の振り返り	発表会全体での質疑応答の振り返り
第24回	研究計画の修正①	発表会のコメントを踏まえた検討
第25回	研究計画の修正②	研究計画の修正
第26回	研究計画の実施に向けた準備①	倫理的配慮等
第27回	研究計画の実施に向けた準備②	実施準備
第28回	総括	振り返りと課題の明確化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
計画的に修士論文作成を進めること。各時間の課題に関するレジュメ作成等の準備を進めるとともに、授業での議論内容等を踏まえて理解を深める復習を行なってほしい。本授業の準備・復習時間は、各５時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・課題提出 50%
・平常点30%
・論文構想発表会 20%

【学生の意見等からの気づき】
学生の研究に関する知識によって指導の内容を変更する。

【担当者の専門分野】
ソーシャルワーク論
髙良麻子（2017）『日本におけるソーシャルアクションの実践モデル− 「制度からの排除」への対処 』中央法規.
髙良麻子（2013）「日本の社会福祉士によるソーシャル・アクションの認識と実践」『社会福祉学』53（4）,42-54,日本社会福祉学会.

【Outline (in English)】
This course is a two-semester integrative practice course. Students will use the seminar format to learn about research methods in social work.Before/after each class meeting, students will be expected to spend five hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%) , in-class contribution (30%), and presentation in the thesis proposal presentation meeting (20%).

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

論文研究演習Ⅰ

佐藤　繭美

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**1年次／4単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文の作成を目指し、論文執筆の方法を学習するとともに、研究課題の明確化、論文構想を明確化していくことを目的とする。

【到達目標】
修士論文が執筆可能となる文章力、表現力を体得できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】
はじめに、論文執筆の方法について学習したうえで、受講者の関心領域に基づき、研究テーマを設定する。次に、研究テーマに関する先行研究のレビューを行い、研究内容を明確化していく。さらに、研究課題を遂行するための研究アプローチ、調査・分析方法を検討し、修士論文の執筆に向けて論文構想を明確化していく。フィードバックの方法として、オフィス・アワーで、課題に対して講評する。授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容の説明
第2回	論文作成方法の説明	研究論文についての講義
第3回	論文作成方法の検討	研究手法の選択に関する講義
第4回	論文作成方法に関するディスカッション	論文執筆に関する講義
第5回	論文作成方法の検討	論文作成に関するフリーディスカッション
第6回	関心領域の検討①	関心領域設定についての講義
第7回	関心領域の検討②	関心領域の設定
第8回	研究テーマの検討①	研究テーマ設定についての講義
第9回	研究テーマの検討②	研究テーマの設定
第10回	先行研究のレビューの方法	先行研究の検索方法についての講義
第11回	先行研究のレビューの実際	先行研究の検索の実際
第12回	先行研究のまとめ方	先行研究のまとめ方の検討
第13回	先行研究の報告	先行研究の検討結果発表
第14回	中間総括	研究についてのフリーディスカッション
第15回	オリエンテーション	講義内容の説明と夏休みの課題についての報告
第16回	論文の方向性について	論文の方向性に関するフリーディスカッション
第17回	研究テーマの明確化①	論文テーマ等についての発表
第18回	研究テーマの明確化②	論文テーマ等の修正
第19回	研究テーマの明確化③	論文のテーマ等の確定
第20回	構想発表会の原稿作成①	原稿作成要領の説明
第21回	構想発表会原稿の作成②	原稿作成と指導
第22回	構想発表会原稿の作成③	原稿の読み合わせと見直し
第23回	構想発表会リハーサル	原稿報告と修正
第24回	【論文構想発表会】	研究論文の具体的内容の発表
第25回	論文構想の明確化①	指摘事項の再検討
第26回	論文構想の明確化②	論文内容の再検討
第27回	論文構想の明確化③	論文の方向性についての報告
第28回	総括	論文作成にむけての総括発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生各自の研究領域、関心領域についての先行研究を概観し、不明な点、気づいた点などをまとめ、講義内で発表・説明できるよう学習をすすめておいてください。本講義の準備・復習時間は各回4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに使用しない。

【参考書】
とくに使用しない。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加－60％
レポート（発表原稿等含む）－40％
特に、受講生各自の研究報告・論文報告を適切に行えるよう学習を進めておくことが成績評価の基準となる。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
論文についての疑問点を質問しやすいよう環境づくりに努めていく。

【その他の重要事項】
社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、実践と理論の融合について教示していく。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ソーシャルワーク論、死別ケア
＜研究テーマ＞
・ソーシャルワークにおける死別ケアとACP
・セルフヘルプ・グループ論（特に自閉症者と家族）
＜主要研究業績＞
①自閉症の人の死別経験とソーシャルワーク.明石書店 2011年
②医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグリーフとその対応：共通性と相違性.ホスピスケアと在宅ケア 25(1)2017.
③アドバンス・ケア・プランニング先進国の状況とわが国における課題.医療ソーシャルワーク67号.2019

【Outline (in English)】
【Course outline】This course introduces academic writing to prepare a master's thesis.
【Learning Objectives】The purpose is to acquire the writing and expression skills required for a master's thesis.
【Learning activities outside of classroom】The standard preparation and review time for this lecture is 4 hours each.
【Grading Criteria /Policy】Your final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score 60%, Reports 40%.

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

論文研究演習Ⅰ

眞保　智子

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**1年次／4単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生各自が専攻分野の学びの中で、追求しようと考えている問題について、論文執筆により研究成果を組織だてて発表できるように研究デザインを行います。

【到達目標】
学生各自が専攻分野の学びの中で、追求しようと考えている問題について研究活動を実践し、成果を組織だてて発表できるように研究をデザインする基礎力をつけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】
研究のために必要な①主題の選定、②理論・キー概念の把握と検討、③先行研究のレビューと研究意義の検討、④方法論の検討、⑤仮説の構築と検証方法の検討、⑥事例・資料・調査データへの接近を通して論文執筆に向けての準備を進めていきます。オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の進め方と春学期スケジュールの確認する
第2回	論文のジャンル・タイプの検討	学術論文のタイプの検討する
第3回	研究に向けて	何をなぜ、明らかにしたいのか議論する
第4回	先行研究のレビュー（アクセス法）	問題意識に関連する研究へのアクセス法の確認
第5回	先行研究のレビュー（近接領域）	問題意識に関連する領域および隣接領域の文献研究
第6回	先行研究のレビュー（報告）	問題意識に関連する領域および隣接領域の文献研究と報告
第7回	先行研究のレビュー（議論）	問題意識に関連する領域および隣接領域の文献研究の検討と議論
第8回	研究課題の焦点化	何を調査し、何を明らかにしたいのか
第9回	研究課題の検討	理論と独創性の検討
第10回	研究課題の価値	理論と研究意義の検討
第11回	研究課題へのアプローチ	調査の可能性の検討
第12回	研究方法の検討	方法論の検討
第13回	主題の選定	研究テーマの決定
第14回	研究仮説の設定	仮説と検証方法の検討
第15回	中間総括	研究テーマについてディスカッション
第16回	オリエンテーション	秋学期のスケジュールと目標の確認
第17回	問題意識の明確化	なぜ、研究テーマを取り上げるのか
第18回	問題意識の研究課題への返還	研究課題と理論・キー概念の検討
第19回	研究の構想に向けて	研究課題と理論・キー概念と独創性の検討
第20回	研究構想の検討（仮説の構築）	研究仮説と作業仮説の検討
第21回	研究構想の検討（研究手法）	実際に採用する研究手法と想定される結果についての検討
第22回	研究構想の検討（調査対象）	研究フィールドの確認
第23回	研究構想の検討（事前調査）	パイロット・スタディによる仮説構築、検証手法の検討
第24回	研究構想の発表（報告）	研究の全体構想について発表する
第25回	proposalの検討	課題解決のための見直し
第26回	proposal作成	研究対象の再検討
第27回	proposal作成（スケジュール）	研究方法・分析方法の再検討とスケジュール確認
第28回	proposal報告	研究の全体構想の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回報告を求めますので、そのためのレジュメや資料を準備して演習に臨むようにしていただきたい。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
proposal：４０％ 演習内報告・発表：６０％

【学生の意見等からの気づき】
アンケートは行っていません。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆、グループワークや報告の際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞若者支援論、障害者雇用、障害者福祉
＜研究テーマ＞
１　障害者の就労とキャリアデザイン
２　障害者・若者・高齢者・女性雇用に関する諸問題
３　産業分野における精神科ソーシャルワーク

【Outline (in English)】
This seminar provides a lecture on the formal structures and styles of academic writing. This seminar focuses on two primary areas. The first is essay organization: students will examine the fundamentals of outlining and structuring essays as well as practice writing a variety of essay forms. The second is academic language: students will study the specific vocabulary, conventions, and styles of writing particular to graduate school research. The goal of this seminar is to acquire the basics of research design. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the seminar content. Grading will be decided based on proposal paper (40%) and in-class presentation (60%).

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

論文研究演習Ⅰ

宮城　孝

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**1年次／4単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2年次における修士論文の作成に向け、テーマの設定、先行研究のレビュー、関連データの分析、データの収集と分析方法など、研究の方法について十分な準備を行う。

【到達目標】
自らの研究テーマに関する先行研究を十分にレビューできる。また、研究テーマに関する背景、目的を明らかにし、説明することができる。さらに研究方法に関する知識を広げ、自らの研究テーマに関する適切な研究方法を選択することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】
関心のあるテーマについて、関連するデータや先行研究をレビューし、いまだ明らかにされていない内容を明確にしていく作業を行なう。先行研究のレビュー等のレポートによる報告などによる個別の指導を行う。提出されたレポートや課題については、適宜個別に内容についてのフィードバックを行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の分野と範囲	研究分野と範囲の明確化
第2回	研究の視点と実践の視点	研究の視点と実践の視点の相違
第3回	先行研究レビューの方法	先行研究のレビューの具体的な方法
第4回	先行研究のレビュー①	実際の先行研究のレビューの検討
第5回	先行研究のレビュー②	実際の先行研究のレビューの検討
第6回	先行研究のレビュー③	実際の先行研究のレビューの検討についての報告
第7回	先行研究のレビュー④	実際の先行研究のレビューの検討と協議
第8回	レビュー論文のまとめ方	レビュー論文の執筆方法
第9回	先行研究のレビュー⑤	実際の先行研究のレビュー論文の検討
第10回	先行研究のレビュー⑥	実際の先行研究のレビューの検討と協議
第11回	先行研究のレビュー⑦	実際の先行研究のレビューの追加の検討
第12回	先行研究のレビュー⑧	実際の先行研究のレビューの追加についての協議
第13回	先行研究のレビュー⑨	実際の先行研究のレビューのの追加についての確認
第14回	先行研究のレビュー⑩	実際の先行研究のレビューの最終確認
第15回	レビュー論文の報告	レビュー論文の報告と検討
第16回	研究の設計方法案について	研究の設計方法案についての報告
第17回	研究の設計方法についての確認	研究の設計方法の検討
第18回	研究倫理について	研究における倫理的配慮
第19回	仮説の構築	仮説の構築方法の検討
第20回	仮説の内容について	仮説の内容について
第21回	データの範囲と収集方法	データの収集方法の検討
第22回	データの具体的な収集方法	データの具体報告方法についての報告検討
第23回	データの収集方法の最終確認	データの収集方法の最終確認
第24回	テーマの背景と意義についての研究指導	実際のテーマに基づく研究内容（背景と意義）
第25回	研究方法についての研究指導	研究方法について研究指導
第26回	結果の分析についての研究指導	結果の分析についての研究指導
第27回	考察についての研究指導	考察についての研究指導
第28回	論文の構成について	論文の構成方法の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究対象とテーマにより、次回の研究指導までにレポート等によりまとめて報告を行うこと。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
岩田正美他編著『社会福祉研究法』有斐閣、2006年

【参考書】
研究テーマによって自ら選択する。

【成績評価の方法と基準】
平常点40％、研究画書の作成、レポートの報告とその内容60％により、評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その実践経験を活かして助言指導することとする。

【担当教員の専門分野等】
〔専門領域〕地域福祉論
〔主要研究業績〕
・『住民力－超高齢社会を生き抜く地域のチカラ－』（単著）明石書店,2022年
・『地域福祉と包括的支援システム－基本的な視座と先進的取り組み－』（共編著）明石書店,2020年
・「仮設住宅　その10年－陸前高田における被災者の暮らし－』（共編著）御茶の水書房,2020年
・『コミュニティソーャルワークの新たな展開－理論と先進事例－』（共編著）中央法規,2019年
・『地域福祉とファンでレイジング－財源確保の方法と先進事例－』（共編著）中央法規,2018年
・『地域福祉のイノベーション－コミュニティの持続可能性の危機に挑む－』（編集代表・共著）中央法規、2017年
・『東日本大震災と地域福祉－次代への継承を探る－」（共編著）中央法規、2015年
・『ソーシャルワークと社会開発－開発的ソーシャルワークの理論とスキル－」（監訳、丸善出版、2012年
・『コミュニティソーシャルワークの理論と方法』（共著）中央法規、2014年
・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房,2010年
・『新版コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣.2008年
・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規,2007年
・『新版　地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会,中央法規,2006年
・『イギリスの社会福祉とボランタリーセクター』中央法規,2000年
・『ソーシャルワークと社会開発-開発的ソーシャルワークの理論とスキル』（監訳）丸善出版,2012年

【Outline (in English)】
【Course outline】
For its own research subject, it guides some advice in the setting subject, the research way and so on appropriately. Then it creates the research paper. Of the necessary article and data. It makes sentences as the research paper.

【Learning Objectives】
The goals of this course are to Ａ and Ｂ
Ａ. Students can search of the necessary article and data
Ｂ. Students can make sentences as the research paper.
【Learning activities outside of classroom) 】
Student will be expected to spend four hours with each supervision,
【Grading Criteria/Policy】
Grading will be decided on the quality of the students' experimental performance in the lab (40％), and research paper(60％)

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

論文研究演習Ⅱ

伊藤　正子

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**2年次／4単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文の執筆をめざす。

【到達目標】
論文演習Ⅰにおいて構想した研究デザインを明確化し、必要な研究データの収集・分析を行い、修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
まず、各自の研究計画の進捗状況を確認することから始め、次に、研究データの分析を進めながら、先行研究のレビューの執筆も進める。秋学期に入ってからは、研究データの考察を行いながら論文構想を確定させ、論文執筆を開始する。
オンラインまたは対面での開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	春学期目標の明確化
2	研究データの分析①	データの収集と分析方法
3	研究データの分析②	データの全体的分析
4	研究データの分析③	データの簡略化作業
5	研究データの分析④	データの信頼性の検討
6	研究データの分析⑤	分析結果の考察①
7	先行研究との比較①	分析結果の考察②
8	先行研究との比較②	隣接領域文献との比較
9	先行研究との比較③	関連領域文献との比較
10	先行研究との比較④	隣接領域論文との比較
11	先行研究との比較⑤	関連領域論文との比較
12	論文構想の確定①	全体のアウトライン検討
13	論文構想の確定②	各章における節立ての検討
14	論文構想の確定③	目次（第一次案）の確定
15	中間総括	秋学期に向けた課題の確認
16	オリエンテーション	秋学期目標の明確化
17	論文構成の検討	オリジナリティの検討
18	引用文献の確認①	本論概説箇所について
19	引用文献の確認②	本論調査箇所について
20	引用文献の確認③	考察・結論箇所について
21	引用文献の確認④	全体にわたっての確認
22	論文執筆指導①	序論について
23	論文執筆指導②	本論概説箇所について
24	論文執筆指導③	本論概説箇所について
25	論文執筆指導④	考察、結論について
26	論文執筆指導⑤	全体にわたって
27	論文執筆指導⑥	推敲、校正
28	口頭試問対策①	要旨の作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回報告を求めるので、担当する報告内容については、入念な準備を行っておくこと。
本授業の準備・復習時間は､各４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
１．授業内でのテーマ報告（２０％）
２．修士論文（８０％）

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【学生が準備すべき機器他】
オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）

【その他の重要事項】
医療機関・NGOソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域> 社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論
< 研究テーマ> マイノリティ・解放に関わるソーシャルワーク、エスニック・マイノリティの生活問題

【Outline (in English)】
This course enhances the development of students' skill in making academic papers. At the end of the course, students are expected to write a master's thesis.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on short reports (20%),and the quality of the students' master's thesis(80%).

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

論文研究演習Ⅱ

佐藤　繭美

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**2年次／4単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文の執筆に取りかかり、完成させることを目的とする。

【到達目標】
受講生の研究テーマに即した研究方法、分析手法を身につけ、論文執筆ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】
確定した研究テーマについて、再度検証し、研究方法やデータ分析の技法が研究内容に適しているかを確認したうえで、論文の作成が可能となる指導を行う。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	年間スケジュールの確認
第2回	先行研究の検証①	論文内の先行研究の検討
第3回	先行研究の検証②	論文内の先行研究の妥当性
第4回	先行研究との比較検討①	隣接領域文献との比較
第5回	先行研究との比較検討②	比較検討の結果の検証
第6回	研究データの分析①	データ全体の俯瞰
第7回	研究データの分析②	データの簡略化作業
第8回	研究データの分析③	データの信頼性の検討
第9回	研究データの分析④	データの妥当性についての検討
第10回	研究データの分析⑤	データ分析結果の考察
第11回	研究データの分析⑥	分析結果と考察内容の関連性の検討
第12回	考察の検討①	分析に基づく考察の検討
第13回	考察の検討②	考察の最終確認
第14回	中間総括	春学期の研究の成果を発表
第15回	オリエンテーション	論文執筆スケジュールの確認
第16回	論文基礎資料の確認	基礎資料の正確性
第17回	論文執筆指導①	全体のアウトライン検討章立ての検討
第18回	論文執筆指導②	各章における節立ての検討
第19回	論文執筆指導③	目次の確定
第20回	論文執筆指導④	序論の検討
第21回	論文執筆指導⑤	本論の検討
第22回	論文執筆指導⑥	考察・結論の検討
第23回	論文執筆指導⑦	全体にわたっての確認
第24回	引用文献の確認①	序論・本論概説箇所について
第25回	引用文献の確認②	考察、結論について
第26回	引用文献の確認③	全体にわたっての確認
第27回	最終稿の検討①	推敲、校正
第28回	最終稿の検討②	論文要旨の作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回報告を求めるので、担当する報告内容については、入念な準備を行い、プレゼンテーションに備えておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、毎回資料を配付する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1．授業内でのテーマ報告（50％）。
2．修士論文（50％）の執筆。具体的な方法と基準は、授業開始日に説明を行う。

【学生の意見等からの気づき】
学生の論文執筆に関する疑問や課題を受け止めて、解決できるよう共に考えることを行うよう努めていく。

【その他の重要事項】
社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、実践と理論の融合について教示していく。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ソーシャルワーク論、死別ケア
＜研究テーマ＞
・ソーシャルワークにおける死別ケアとACP
・セルフヘルプ・グループ論（特に自閉症者と家族）
＜主要研究業績＞
①自閉症の人の死別経験とソーシャルワーク.明石書店 2011年
②医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグリーフとその対応：共通性と相違性.ホスピスケアと在宅ケア 25(1)2017.
③アドバンス・ケア・プランニング先進国の状況とわが国における課題.医療ソーシャルワーク 67号.2019

【Outline (in English)】
【Course outline】 This course introduces academic writing to prepare a master's thesis.
【Learning Objectives】Achievement goal is completion of master's thesis.
【Learning activities outside of classroom】The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.
【Grading Criteria /Policy】 The final grade will be the dissertation writing process (50%) and the acquisition of knowledge and skills (50%).

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

論文研究演習Ⅱ

野田　岳仁

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**2年次／4単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域社会を舞台としてフィールドワークを行い、地域ツーリズムや地域づくり、地域の環境政策にかかわる修士論文を執筆するための環境社会学・地域社会学の方法論をマスターすることを目的としている。

【到達目標】
フィールドワークによる修士論文の作成に向けて必要な社会調査の技法、先行研究の批判的かつ創造的なレビューの方法、論文執筆の作法を身につけることができる。これらの技能を修得することを通じて、高度な修士論文を完成させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は演習形式で進める。主体的な課題文献の精読、レジュメの作成、研究発表、論文執筆が求められる。修士論文執筆に必要な高度な専門知識、調査技法、論文作成方法を身につけるため、綿密な指導を行う。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	スケジュールの確認と目標設定
第2回	論文の構成（1）	テーマと問いの設定方法
第3回	論文の構成（2）	方法論や調査技法の確認
第4回	論文の構成（3）	対象と方法の選択
第5回	論文の構成（4）	目次と章立ての検討
第6回	論文の構成（5）	理論仮説を立てる
第7回	論文の構成（6）	作業仮説を立てる
第8回	論文の構成（7）	分析の問題点の検証
第9回	論文の構成（8）	研究の意義と限界の検討
第10回	先行研究のレビュー（1）	当該テーマの環境社会学における研究史の検討
第11回	先行研究のレビュー（2）	当該テーマの地域社会学における研究史の検討
第12回	先行研究のレビュー（3）	当該テーマの民俗学における研究史の検討
第13回	先行研究のレビュー（4）	当該テーマの文化人類学における研究史の検討
第14回	中間まとめ	研究の知見と独自性について討議
第15回	調査データの分析（1）	データの整理と集計
第16回	調査データの分析（2）	データの解釈
第17回	調査データの分析（3）	仮説の検証
第18回	調査データの分析（4）	モデルの構築の検討
第19回	論文執筆（1）	問いと問題関心の見直し
第20回	論文執筆（2）	分析視角の確認
第21回	論文執筆（3）	先行研究との対話と論敵の設定
第22回	論文執筆（4）	目次の確定
第23回	論文執筆（5）	事例の記述と解釈
第24回	論文執筆（6）	分析結果の再検討
第25回	論文執筆（7）	結論の見通しの再検討
第26回	論文執筆（8）	理論仮説と作業仮説の再検討
第27回	論文執筆（9）	論理構成の再検討
第28回	修士論文の完成	学問の実践性の検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自フィールドワークを進めておくことはもちろんのこと、専門領域における先行研究の課題文献の精読、レジュメの作成、論文執筆に向けた入念な準備が必要である。本演習の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
受講生の関心や研究テーマを考慮して選定する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
討議への参加を含めた平常点（50%）、論文や発表などの成果物（50%）の総合評価となる。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の意見や要望を積極的に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【担当教員の専門分野等】
〔専門領域〕
環境社会学・地域社会学・観光社会学
〔主要業績〕
『井戸端からはじまる地域再生ー暮らしから考える防災と観光』（単著、筑波書房、2023年）
『Everyday Life-Environmetalism: Community Sustainability and Resilience in Asia』（共著書、Routledge、2023年）
『環境社会学の考え方ー暮らしを見つめる12の視点』（共著書、ミネルヴァ書房、2019年）
『生活環境主義のコミュニティ分析ー環境社会学のアプローチ』（共著書、ミネルヴァ書房、2018年）
『原発災害と地元コミュニティー福島県川内村奮闘記』（共著書、東信堂、2018年）
『Rebuilding Fukushima』（共著書、Routledge、2017年）

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems.【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance（Discussion, presentation, and report）(50%).

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

論文研究演習Ⅱ

宮城　孝

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**2年次／4単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文の作成に伴う研究テーマ、対象の設定、研究方法等について、研究の過程において適宜研究報告をもとに研究指導を行い、修士論文の作成を行う。

【到達目標】
自らの研究テーマについて、適切な研究方法を用いて研究を進め、文章等により根拠を示し、結論と研究の成果等を表現できる。研究の目的と内容、結論等を説得力のある報告ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】
研究経過について適宜報告を行い、それをもとに研究指導を行う。提出された課題や報告等について、適宜個別にその内容について、フィードバックを行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テーマについての報告と指導	テーマについての報告
第2回	テーマについての協議	テーマについて協議と確認
第3回	研究対象について	研究対象についての報告
第4回	研究対象についての協議	研究対象についての協議と確認
第5回	先行研究の調べ方	先行研究について調べ方
第6回	先行研究についての報告	先行研究についての協議と確認
第7回	先行研究のレビューのまとめ方について	先行研究のレビューのまとめ方の指導
第8回	データの収集方法	データの収集方法についての指導
第9回	データの収集方法についての報告	データの収集方法についての協議と確認
第10回	データの具体的な収集方法	データの具体的な収集方法についての報告
第11回	データの具体的な収集方法についての報告	データの具体的な収集方法についての協議
第12回	データの具体的な収集方法の確認	データの具体的な収集方法の確認と指導
第13回	データの分析方法について	データの分析方法についての指導
第14回	データの分析方法の報告	データの分析についての協議と確認
第15回	春学期のまとめ	振り返りと今後の課題に向けて
第16回	データの分析結果について	データの分析結果についての報告
第17回	データの分析結果の報告	データの分析結果についての協議、指導
第18回	データの分析結果の確認	データの分析結果についての確認
第19回	研究の結果について	結果についての報告、指導
第20回	結果についての確認	結果についての協議と確認
第21回	考察について	考察についての報告、指導
第22回	論文の構成と内容	論文の構成と内容についての報告
第23回	論文のまとめに向けて	論文の構成と内容についての協議
第24回	構成と内容の確認	論文の構成と内容についての検討と確認
第25回	構成と内容の最終確認	論文の構成と内容についての最終的な確認
第26回	完成に向けての確認	完成に向けての協議
第27回	論文の完成に向けて	完成に向けた確認と指導
第28回	論文の最終確認	完成に向けての最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の指導に向けて、各自が与えられた課題について、十分に報告できるように準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、毎回4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
特に使用しない。

【成績評価の方法と基準】
平常点40％、研究に関するレポート等60％により評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業ではその経験を活かし助言指導することとする。

【担当教員の専門分野等】
〔専門領域〕地域福祉論
〔主要研究業績〕
・『住民力－超高齢社会を生き抜く地域のチカラ－』（単著）明石書店,2021年
・『地域福祉と包括的支援システム－基本的視座と先進的取り組み－』(共編著）明石書店,2020年,
・『仮設住宅　その10年　陸前高田における被災者の暮らし－』（共編著）御茶の水書房,2020年
・『コミュニティソーシャルワークの新たな展開ー理論と先進的事例－』（共編著）中央法規,2018
・『地域福祉のイノベーション－コミュニティの持続可能性の危機に挑む－』（編集代表、共著)、中央法規、2017年
・『東日本大震災と地域福祉－次代への継承を探る－』（共編著）中央法規、2015年
・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）,2014年
・『ソーシャルワークと社会開発－開発的ソーシャルワークの理論とスキル－』（監訳）丸善出版,2012年
・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房,2010年
・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣.2008年
・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規2007年
・『新版　地域福祉事典』(編集幹事)日本地域福祉学会,中央法規,2006年
・『イギリスの社会福祉とボランタリーセクター』中央法規,2000

【Outline (in English)】
【Course outline】
For its own research subject, it guides an advice in the setting

subject, the research way and so on appropriately. Then it creates the research paper. Of the necessary article and data. It makes sentences as the research paper.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to Ａ and Ｂ
Ａ. Students can search of the necessary article and data
Ｂ. Students can make sentences as the research paper.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, student will be expected to spend four hours to understand the course content
【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided on the quality of the students' experimental performance in the lab (40 %), and research paper (60 %)

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

実践研究演習Ⅰ

伊藤　正子

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**1年次／2単位**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文にむけた調査計画の作成。

【到達目標】
修士論文の作成に必要なデータを収集するために、調査計画を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】
まず、各自の調査関心を明確化することから始め、次に、先行調査データのレビューを隣接領域も含めて丁寧に行う。さらに、春学期中に調査課題を絞り込み、秋学期に入ってからは、調査目的を明確化するとともに、調査実施の基盤を確定させ、調査計画書の作成に取りかかる。対面を基本としつつ、状況に応じてオンラインでの開講となる。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期目標の明確化
第2回	調査関心の明確化①	調査関心の列挙
第3回	調査関心の明確化②	調査関心のグループ化
第4回	調査関心の明確化③	グループ化された関心への命名
第5回	調査関心の明確化④	各関心におけるキーワードの抽出
第6回	先行データのレビュー①	隣接領域の文献
第7回	先行データのレビュー②	関連領域の文献
第8回	先行データのレビュー③	隣接領域の論文
第9回	先行データのレビュー④	関連領域の論文
第10回	調査課題の絞り込み①	オリジナリティの検討
第11回	調査課題の絞り込み②	実践的意義の検討
第12回	調査課題の絞り込み③	データ収集可能性の検討
第13回	調査課題の絞り込み④	調査実施フィールドの検討
第14回	調査課題の絞り込み⑤	調査仮説の検討
第15回	中間総括	春学期を通じて明確化されたことの確認
第16回	オリエンテーション	秋学期目標の明確化
第17回	調査目的の明確化①	調査の具体的目的の列挙
第18回	調査目的の明確化②	学術的な意義による絞り込み
第19回	調査目的の明確化③	独創性に基づく絞り込み
第20回	調査目的の明確化④	予想される結果の検討
第21回	調査構想の基盤作り①	調査仮説の明確化
第22回	調査構想の基盤作り②	調査手法（量的、質的等）の検討
第23回	調査構想の基盤作り③	調査データ収集方法の検討
第24回	調査構想の基盤作り④	調査データ分析方法の検討
第25回	調査計画書の作成①	調査実施体制の検討
第26回	調査計画書の作成②	調査実施フィールドの確認
第27回	調査計画書の作成③	調査対象者の確認
第28回	まとめ	調査計画の確認とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各回４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
１．演習への積極的参加（50％）
２．調査計画書（50％）

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）を準備しておくことが望ましい。

【その他の重要事項】
医療機関・外国人支援ＮＧＯソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論
＜研究テーマ＞ エスニック・マイノリティへのソーシャルワーク、外国人労働者の労働・生活問題

【Outline (in English)】
This course introduces fundamental of academic research to prepare a master's thesis. The goals of this course are to enhance necessary knowledge, skills, and to develop a research plan. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), and in-class contribution (50%).

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

実践研究演習Ⅰ

岩崎　晋也

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**1年次／2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究に必要なデータの収集に必要な研究手法を学ぶ。

【到達目標】
データ収集のスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】
研究テーマに即したデータ収集の方法の検討を行い、データの収集を行うための準備を行う。課題に対しては、授業中にコメントするなどのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーションを行う
第2回	データ収集の方法１	統計調査と事例調査について学ぶ
第3回	データ収集の方法２	標本調査の技法について学ぶ
第4回	データ収集の方法３	データ収集技法について学ぶ
第5回	データ収集の方法４	質問紙・調査票の作成方法を学ぶ
第6回	研究テーマと手法の検討１	訪問面接、インタビュー調査の特質を学ぶ
第7回	研究テーマと手法の検討２	参与観察調査の特質を学ぶ
第8回	研究テーマと手法の検討３	フィールド調査の方法・技術を学ぶ
第9回	研究テーマと手法の検討４	データ解析の技法を学ぶ
第10回	関連研究方法のレビュー１	量的調査の代表的研究方法をレビューする
第11回	関連研究方法のレビュー２	研究テーマに沿った量的調査の研究方法をレビューする
第12回	関連研究方法のレビュー３	質的調査の代表的研究方法をレビューする
第13回	関連研究方法のレビュー４	研究テーマに沿った質的調査の研究方法をレビューする
第14回	中間総括	中間の総括を行う
第15回	オリエンテーション	オリエンテーションを行う
第16回	研究仮説の検討１	研究仮説を考える
第17回	研究仮説の検討２	研究仮説を立証するために必要な方法を考える
第18回	研究仮説の検討３	研究仮説を立証するために必要なデータを考える
第19回	研究仮説の検討４	研究仮説を確定する
第20回	研究フィールドの検討１	データ収集のためのフィールドを検討する
第21回	研究フィールドの検討２	データ収集が可能な施設等を検討する
第22回	研究フィールドの検討３	データ収集が可能な施設の実践等を観察する
第23回	研究フィールドの検討４	データ収集のためのフィールドを確定する
第24回	研究方法の明確化１	研究方法を具体的に検討する
第25回	研究方法の明確化２	研究方法を具体的に検討し、調査票を設計する
第26回	研究方法の明確化３	調査票による予備的調査を行う
第27回	研究方法の明確化４	研究方法を確定する
第28回	年間総括	１年間の研究を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に指示された課題を行う。本授業の準備学習・復習時間は各回４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点(100%)により行う。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートは実施しませんでした。

【担当教員の専門分野】
社会福祉原理・思想

【Outline (in English)】
Learn the skills of data collection.
The goals of this course are to improve the skills of data collection.
Students will be expected to have completed the required assignments
after each class meeting. Your study time will be more than four hours
for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following in
class contribution: 100%.

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

実践研究演習Ⅰ

髙良　麻子

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**1年次／2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文作成に必要なデータ収集の方法を学ぶ。

【到達目標】
・研究を進めために必要なデータの収集方法を理解する。
・データ収集を行うことができるようになる。
・倫理的配慮について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】
自分の研究テーマにもとづいたデータを収集できるように、個別やグループ指導を行う。計画したうえで、実際にデータ収集を行う。授業ごとのリアクションをもとに、次の授業にフィードバックしながら進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	実践研究の方法	実践研究の位置づけと方法
第3回	データ収集の方法	データ収集方法の概要
第4回	質問紙調査法	質問紙調査法の概要
第5回	文献・記録調査法	文献・記録調査法の概要
第6回	事例研究の方法	事例研究の概要
第7回	インタビュー調査法	インタビュー調査法の概要
第8回	観察調査法	観察調査法の概要
第9回	アクションリサーチ	アクションリサーチの概要
第10回	データ収集方法の位置づけ	論文のレビューによる研究目的と調査方法の関係の理解
第11回	調査計画の策定①	研究目的を達成するための調査方法の検討
第12回	調査計画の策定②	調査対象の選定
第13回	調査計画の策定③	調査における倫理的配慮の検討
第14回	中間総括	振り返りと発表
第15回	オリエンテーション	夏期休暇中の研究成果の発表
第16回	調査計画の見直し①	調査計画の再検討
第17回	調査計画の見直し②	調査計画の修正
第18回	調査計画の策定	見直し等にもとづく調査計画の策定
第19回	倫理計画	倫理的配慮の検討
第20回	調査計画実施の準備①	実施書等
第21回	調査計画実施の準備②	調査実施の練習
第22回	調査計画実施の準備③	調査実施のリハーサル
第23回	パイロット調査実施準備	パイロット調査のリハーサル
第24回	パイロット調査実施	フィールドでのパイロット調査の実施
第25回	パイロット調査の振り返り	調査実施概要の報告と振り返り
第26回	パイロット調査結果の分析	調査結果の分析
第27回	調査計画の見直し	パイロット調査を踏まえた調査計画の再検討
第28回	総括	振り返りと課題の明確化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
計画的に研究を進めること。各時間の課題に関するレジュメ作成等の準備を進めるとともに、授業での議論内容等を踏まえて理解を深める復習を行なってほしい。本授業の準備・復習時間は、各回４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・課題提出 50%
・平常点30%
・パイロット調査 20%

【学生の意見等からの気づき】
学生の調査に関する理解度に応じて指導を変更する。

【担当教員の専門分野】
ソーシャルワーク論
髙良麻子（2017）『日本におけるソーシャルアクションの実践モデル－「制度からの排除」への対処』中央法規.
髙良麻子（2013）「日本の社会福祉士によるソーシャル・アクションの認識と実践」『社会福祉学』53（4）,42-54,日本社会福祉学会.

【Outline (in English)】
This course is a two-semester integrative practice course. Students will use the seminar format to learn how to collect data for research in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%) , in-class contribution (30%), and presurvey (20%).

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

実践研究演習Ⅰ

佐藤　繭美

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**1年次／2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文作成に必要なデータの収集にむけたフィールドワークや調査を実施することを目指す。

【到達目標】
データ収集に必要な研究手法を検討・習得し、フィールド調査の応用することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】
はじめに、一般的なデータ収集の方法について学習し、受講者の関心領域や研究方法に適したデータ収集の技法、フィールドの選定、研究仮説の検討を行い、研究内容を明確化していく。フィードバックの方法として、オフィス・アワーで、課題に対して講評する。授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容の説明
第2回	データ収集の方法①	研究対象の選定について
第3回	データ収集の方法②	フィールドの選定方法についての説明
第4回	データ収集の方法③	各自の研究対象とフィールドの方向性についての発表
第5回	データ収集の実際	データ収集の実際についてＤＶＤで学習する
第6回	データ収集方法のまとめ	データ収集に関するフリーディスカッション
第7回	研究テーマと手法の検討①	研究手法についての説明
第8回	研究テーマと手法の検討②	研究テーマと手法の関連性についての説明
第9回	研究テーマと手法の検討③	各自の研究テーマと研究手法の方向性医ついて報告
第10回	関連研究方法のレビュー①	関連研究法に関する講義とディスカッション
第11回	関連研究方法のレビュー②	前週の講義を受けての確認とディスカッション
第12回	関連研究方法のレビュー③	関連研究方法への関心の確認
第13回	関連研究方法のレビュー④	フリーディスカッション
第14回	中間総括	研究内容の検討とまとめ
第15回	オリエンテーション	講義内容の説明
第16回	研究仮設の検討①	研究仮設に関する説明
第17回	研究仮設の検討②	研究仮説の立て方
第18回	研究仮設の検討③	受講生の研究内容の検討
第19回	研究仮設の検討④	受講生の研究内容についての議論
第20回	研究仮設の報告	各自の研究仮設についての報告
第21回	研究テーマの発表①	各自の研究テーマの報告
第22回	研究テーマの発表②	全体での質疑応答とフリーディスカッション
第23回	研究フィールドについての報告①	各自の研究フィールドの報告
第24回	研究フィールドについての報告②	研究の方向性について確認
第25回	研究方法の明確化①	研究方法の妥当性の説明
第26回	研究方法の明確化②	研究方法についての報告
第27回	研究方法の明確化③	研究方法の検証
第28回	総括	研究の方向性についての確認と発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生自らが研究の対象とするフィールドに関連する資料および情報を収集し、授業進度にあわせて適宜説明できるよう準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
とくに使用しない。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点－60％
課題への取組み・提出課題－40％
特に、研究対象とするフィールドに関連する専門的知識や情報については、授業進度に合わせて説明できることが評価の基準となる。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
毎年、双方向の授業で議論することに評価を得ているので、心がけていきたい。

【その他の重要事項】
社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、実践と理論の融合について教示していく。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ソーシャルワーク論、死別ケア
＜研究テーマ＞
・ソーシャルワークにおける死別ケアとACP
・セルフヘルプ・グループ論（特に自閉症者と家族）
＜主要研究業績＞
①自閉症の人の死別経験とソーシャルワーク.明石書店 2011年
②医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグリーフとその対応：共通性と相違性.ホスピスケアと在宅ケア 25(1)2017.
③アドバンス・ケア・プランニング先進国の状況とわが国における課題.医療ソーシャルワーク 67号.2019

【Outline (in English)】
【Course outline】This course focuses specifically on the necessary skills and methods according to the students' research topics.
【Learning Objectives】The goal is to acquire research methods.
【Learning activities outside of classroom】The standard preparation and review time for this lecture is 4 hours each.
【Grading Criteria /Policy】Your final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score 60%, Reports 40%.

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

実践研究演習Ⅰ

眞保　智子

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**1年次／2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
具体的な調査や実践を通して、論文執筆に必要な調査データの収集を行います。

【到達目標】
研究課題に答える社会調査を実践し、研究活動を自ら遂行する基礎を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】
以下について演習を行います。①問題意識の研究課題への変換、②研究テーマに関する主要文献の収集・把握・理解、③先行研究の批判に基づく妥当な仮説構築、④研究課題の探求に適切な研究方法の選択・実践、⑤研究課題の探求に適切な研究対象へのアクセス、⑥理論やデータに基づくオリジナルな発見事実・仮説の提起⑦7研究成果の理論的貢献、実践的貢献、および研究の限界の説明。各回の授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の進め方と春学期スケジュールの確認
第2回	調査の前に	問題意識の確認と課題の共有
第3回	先行研究のレビュー	主要文献の収集
第4回	主要文献の検討	主要文献の収集・把握・理解
第5回	先行研究のレビュー（仮説構築へ）	先行研究の批判に基づく妥当な仮説構築
第6回	先行研究のレビュー（研究方法の検討）	研究方法の選択・妥当性の検討
第7回	質的調査手法の理解	エスノグラフィックアプローチ
第8回	質的調査手法の検討	クリニカルアプローチ
第9回	質的調査準備	調査対象の検討・選定
第10回	質的調査準備（情報収集）	調査対象の内実と周辺情報の収集
第11回	質的調査の検証法	仮説と想定される結果の検討
第12回	量的調査手法	既存データ利用による調査
第13回	量的調査手法の実践	アンケート調査の実践
第14回	量的調査手法の設計	解析方法と調査設計
第15回	中間総括	調査計画の発表とパイロットスタディに向けて
第16回	オリエンテーション	春学期の振り返りとスケジュールの確認
第17回	パイロットスタディの報告	パイロットスタディの結果を発表
第18回	パイロットスタディを用いての議論	仮説構築の妥当性をディスカッション
第19回	パイロットスタディから研究の検討	研究対象の再検討
第20回	パイロットスタディから研究手法の検討	研究手法の再検討
第21回	調査の実践	対象へのアクセス（調査・データ収集）
第22回	調査の実践（データ収集）	対象へのアクセスと報告
第23回	調査の実践（報告）	対象へのアクセスと発表
第24回	調査の実践（修正）	対象へのアクセス（コメントをもとに修正）
第25回	調査の実践報告と研究方法の検討	データ収集のスケジュール確認
第26回	調査の実践報告と研究方法の検討（手法の検討）	データ分析手法の妥当性の検討とスケジュール確認
第27回	調査の実践報告と研究方法の検討（独創性）	データを分析し独創性を検討
第28回	調査の実践報告と研究方法の検討（課題）	研究課題と調査・分析手法と得られる結果から課題と限界を確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究デザインに基づきデータの収集を進め、演習では必ず検討のため報告を求めるので、レジュメや資料を用意して演習に臨むことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
研究課題や研究方法に応じて適宜紹介します。

【参考書】
研究課題や研究方法に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習内での報告・発表：１００％

【学生の意見等からの気づき】
アンケートは行っていません。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆、グループワークや報告の際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用します。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞若者支援論、障害者雇用、障害者福祉
＜研究テーマ＞
1　障害者のキャリアデザイン
2　障害者・若者・高齢者・女性雇用に関する諸問題
3　産業分野における精神科ソーシャルワーク

【Outline (in English)】
This seminar provides a lecture on the formal structures and styles of academic writing. This seminar focuses on two primary areas. The first is essay organization: students will examine the fundamentals of outlining and structuring essays as well as practice writing a variety of essay forms. The second is academic language: students will study the specific vocabulary, conventions, and styles of writing particular to graduate school research. The goal of this seminar is to acquire the basics of research design. Before/after each seminar, students will be expected to spend four hours to understand the seminar content. Grading will be decided based on presentation (100%).

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

実践研究演習Ⅰ

宮城　孝

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**1年次／2単位**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会福祉の現場における実習や修士論文作成のためのデータの収集方法について理解し、フィールドを設定する。そして、実際にフィールドに関与し実践能力を高めるとともに、修士論文に必要なデータの収集を行う。

【到達目標】
適切な方法で、一連のフィールドワークを行うことができる。フィールドワークで得たデータを分析し、適切に研究に活用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】
関心のある領域や修士論文のテーマに関したフィールドについて情報を収集し、実際の実習やデータ収集の方法を検討する。その上でフィールドに継続的に関わり、実践的な能力を高めるとともにデータ収集を行う。方法は、個別のスーパービジョンにより行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	フィールドワークの目的と方法について	フィールドワークの目的と方法についての検討
第2回	フィールドの選択について	フィールドの選択の検討
第3回	フィールドの選択について確認	フィールドの選択の検確認確認
第4回	フィールドワークの内容について	実際の内容と方法の検討
第5回	フィールドワークの報告	実際の内容と方法についての報告と検討
第6回	初期スーパービジョン①	初期フイールドワークの経過報告
第7回	初期スーパービジョン②	初期フィールドワークの内容検討
第8回	初期スーパービジョン③	初期フィールドワークの確認
第9回	初期スーパービジョン④	初期フィールドワークの振り返り
第10回	中期スーパービジョン①	中期フィールドワークの目標設定
第11回	中期スーパービジョン②	中期フィールドワークの報告と検討
第12回	中期スーパービジョン③	中期フィールドワークの検討
第13回	中期スーパービジョン④	中期フィールドワークの報告
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめと振り返り
第15回	中期スーパービジョン⑤	中期フィールドワークの報告
第16回	中期スーパービジョン⑥	中期フィールドワークの報告と検討
第17回	中期スーパービジョン⑦	中期フィールドワークの再検討
第18回	中期スーパービジョン⑧	中期フィールドワークのまとめに向けて
第19回	中期スーパービジョン⑨	中期フィールドワークの振り返り
第20回	後期の目標設定と方法	後期のフィールドワークの目標の設定の検討
第21回	後期スーパービジョン①	スーパービジョンの実際
第22回	後期スーパービジョン②	後期フィールドワークの報告
第23回	後期スーパービジョン③	後期フィールドワークの報告と検討
第24回	後期スーパービジョン④	後期フィールドワークの振り返り
第25回	後期スーパービジョン⑤	後期フィールドワークのまとめ
第26回	後期スーパービジョン⑥（まとめに向けて）	フィールドワークの全体報告と振り返り
第27回	後期スーパービジョン⑦（まとめに向けて）	フィールドワークのまとめ方について
第28回	フィールドワークのまとめの報告	フィールドワークのまとめの報告と検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の指導に向けた報告を、フィールドワークに関する記録やレポートとしてまとめ準備しておくこと。本授業の準備・復習時間は、各回4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
浦上昌則・脇田貴文『心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方』東京書籍,2008年
佐藤郁哉『質的データ分析法』新曜社,2008年
萱間真美『質的研究実践ノート』医学書院,2007年
筒井真優美『アクションリサーチ入門』ライフサポート社,2010年

【成績評価の方法と基準】
平常点40％とフィールドワークの内容とレポート60％により評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして助言指導することとする。

【担当教員の専門分野等】
〔専門領域〕地域福祉方法論
〔主要研究業績〕
・『地域福祉のイノベーション－コミュニティの持続可能性の危機に挑む－』中央法規、2017年
・『東日本大震災と地域福祉－次代への継承を探る－』（共編著）中央法規、2015年
・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）, 中央法規,2014年
『ソーシャルワークと社会開発－開発的ソーシャルワークの理論とスキル－』丸善出版、2012年
・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房,2010年
・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣.2008年
・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規2007年
・『新版　地域福祉事典』(編集幹事)日本地域福祉学会,中央法規,2006年
・『イギリスの社会福祉とボランタリーセクター』中央法規,2000年

【Outline (in English)】
【Course outline】
It sets a field to create research paper and to improve practice skill,and collect the data in take field, also, analyze a case in the field.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to A and B

Ａ. Students can improve practice skill, and collect the data in take
field,also, analyze a case in the field.
Ｂ. Students can makes sentences as the research paper.
【Learning activities outside of classroom)】
Student will be expected to spend four hours with each supervision,
【Grading Criteria/Policy】
Grading will be decided on research paper(60 ％),and the quality of the students' experimental performance in the lab(40 ％).

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

実践研究演習Ⅱ

伊藤　正子

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**2年次／2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文に必要なデータの収集および分析を行う。

【到達目標】
実践研究演習Ⅰにおいて構想した研究デザインを明確化し、研究データの収集・分析を行い、修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
まず、研究データの分析作業に取りかかり、分析結果について、先行研究との比較を行う。それに基づいてオリジナリティを明確化し、春学期中には、論文構想の確定作業を終える。秋学期からは、参考文献をあらためて確認し、その上で、データの文章化を開始する。オンラインまたは対面での開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	春学期目標の明確化
2	データ分析方法の検討①	データの記録と文書化
3	データ分析方法の検討②	量的調査結果の分析①
4	データ分析方法の検討③	量的調査結果の分析②
5	データの質的分析①	逐語録の読み込み①
6	データの質的分析②	Ｍ－ＧＴＡによる分析の検討
7	データの質的分析③	カテゴリカルコンテント分析
8	データの質的分析④	ホリスティックフォーム分析
9	データの質的分析⑤	会話・ディスコース分析
10	先行データとの比較①	隣接領域文献との比較
11	先行データとの比較②	関連領域文献との比較
12	先行データとの比較③	関連領域文献との比較
13	先行データとの比較④	関連領域論文との比較
14	先行データとの比較⑤	オリジナリティの明確化
15	中間総括	秋学期に向けた課題の確認
16	オリエンテーション	秋学期目標の明確化
17	分析結果の検討①	量的データの結果について①
18	分析結果の検討②	量的データの結果について②
19	分析結果の検討③	質的データの逐語録について
20	分析結果の検討④	質的データの分析結果について
21	参考文献の確認①	量的データの結果について
22	参考文献の確認②	質的データの結果について
23	参考文献の確認③	全体にわたって分析結果の妥当性・信頼性・客観性の検討
24	論文執筆指導①	量的データに基づく考察
25	論文執筆指導②	質的データに基づく考察
26	論文執筆指導③	研究結果の理論化作業①
27	論文執筆指導④	研究結果の理論化作業②
28	論文執筆指導⑤	研究結果の理論化作業③

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回報告を求めるので、担当する報告内容については、入念な準備を行っておくこと。
本授業の準備・復習時間は、各４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
１．授業内でのテーマ報告（２０％）
２．修士論文（８０％）

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【学生が準備すべき機器他】
オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）

【その他の重要事項】
医療機関・NGO ソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域> 社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論
< 研究テーマ> マイノリティ・解放に関わるソーシャルワーク、エスニック・マイノリティの生活問題

【Outline (in English)】
This course enhances the development of students' skill in data collection and analysis for making academic papers. At the end of the course, students are expected to write a master's thesis.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on short reports (20%),and the quality of the students' master's thesis(80%).

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

実践研究演習Ⅱ

佐藤　繭美

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**2年次／2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文の執筆に向けて、調査データの多角的な分析を実施する。

【到達目標】
研究テーマに即したデータ分析手法を使用して、自らの研究に応用できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】
春学期は、研究データの分析作業に取りかかり、分析結果について、先行研究との比較を行う。それに基づいてオリジナリティを明確化していく。秋学期は、参考文献をあらためて確認し、その上で、データの文章化を開始する。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	年間スケジュールの確認
第2回	データ分析方法の確認	逐語記録の整理
第3回	データ分析方法の検討①	逐語記録の確認
第4回	データ分析方法の検討②	逐語記録の読み込み
第5回	データの質的分析①	カテゴリーの生成について
第6回	データの質的分析②	カテゴリーの生成の実際
第7回	データの質的分析③	分析手順の確認
第8回	データの質的分析④	カテゴリカルコンテント分析
第9回	データの質的分析⑤	ホリスティックフォーム分析
第10回	先行データとの比較①	隣接領域文献との比較
第11回	先行データとの比較②	関連領域文献との比較
第12回	先行データとの比較③	文献検討
第13回	先行データとの比較④	オリジナリティの明確化
第14回	中間総括	秋学期に向けた課題の確認
第15回	オリエンテーション	執筆スケジュールの確認
第16回	データの確認	論文データの確認
第17回	分析結果の最終確認	分析結果と結論について
第18回	考察の最終確認	分析結果と考察について
第19回	論文構成の最終確認	全体にわたっての確認
第20回	論文執筆指導①	質的データの逐語録について
第21回	論文執筆指導②	質的データの分析結果について
第22回	論文執筆指導③	分析結果の妥当性について
第23回	論文執筆指導④	分析結果の信頼性について
第24回	論文執筆指導⑤	質的データに基づく考察
第25回	論文執筆指導⑥	質的データの逐語録
第26回	論文執筆指導⑦	質的データのＭ－ＧＴＡ分析結果
第27回	論文執筆指導⑧	質的データのＣＣ・ＨＦ分析結果
第28回	総括	論文の仕上げと要旨の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回報告を求めるので、担当する報告内容については、入念な準備を行い、予行を終えておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、毎回資料を配付する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
１．授業内でのテーマ報告（50％）。
２．修士論文執筆（50％）。
なお、授業回数の３分の１を超える欠席は成績評価の対象としない。具体的な方法と基準は、授業開始日に説明する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者の論文課題について指導を行うとともに、論文内で使用しているデータの課題などをともに洗い出し、論文の完成までのサポートを行うよう努めていく。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ソーシャルワーク論、死別ケア
＜研究テーマ＞
・ソーシャルワークにおける死別ケアとACP
・セルフヘルプ・グループ論（特に自閉症者と家族）
＜主要研究業績＞

①自閉症の人の死別経験とソーシャルワーク.明石書店 2011年
②医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグリーフとその対応：共通性と相違性.ホスピスケアと在宅ケア 25(1)2017.
③アドバンス・ケア・プランニング先進国の状況とわが国における課題.医療ソーシャルワーク 67号.2019

【Outline (in English)】
【Course outline】This course focuses specifically on the necessary skills and methods according to the students' research topics.
【Learning Objectives】The goal is to acquire research methods
【Learning activities outside of classroom】The standard preparation and review time for this lecture is 4 hours each.
【Grading Criteria /Policy】The grades are the content of the presentation（50％） and the master's thesis（50％）.

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

実践研究演習Ⅱ

野田　岳仁

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**2年次／2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域社会をフィールドとした修士論文の作成に向けて、実践的なフィールド調査の技法および専門的な論文執筆の作法を習得することを目的としている。本講義では環境社会学・地域社会学の方法論をマスターすることを目指す。

【到達目標】
フィールドワークによる修士論文の作成に向けて必要な社会調査の技法および論文執筆の作法を身につけることができる。環境社会学・地域社会学の方法論をマスターし、完成の高い修士論文を執筆することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
演習形式で進める。主体的な課題文献の精読、レジュメの作成、研究発表、論文執筆が求められる。修士論文執筆に必要な高度な専門知識、調査技法、論文作成方法を身につけるため、綿密な指導を行う。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方と目標設定
第2回	研究課題の設定（1）	研究課題と方法論の検討
第3回	研究課題の設定（2）	論敵の設定
第4回	研究課題の設定（3）	研究史の構想
第5回	質的調査の方法（1）	民俗学や文化人類学の方法から
第6回	質的調査の方法（2）	環境社会学の方法から
第7回	質的調査の方法（3）	地域社会学の方法から
第8回	調査データの分析（1）	調査データの整理
第9回	調査データの分析（2）	調査のデータの加工
第10回	調査データの分析（3）	図表の作成
第11回	調査データの分析（4）	調査データの集計
第12回	調査データの分析（5）	調査データの解釈
第13回	調査データの分析（6）	分析結果の検討
第14回	中間のまとめ	研究のオリジナリティの検討
第15回	先行研究のレビュー（1）	環境社会学領域のレビュー
第16回	先行研究のレビュー（2）	地域社会学領域のレビュー
第17回	先行研究のレビュー（3）	民俗学や文化人類学の隣接領域のレビュー
第18回	先行研究のレビュー（4）	研究の位置の再確認
第19回	論文の構成と設計（1）	章立ての再検討
第20回	論文の構成と設計（2）	分析結果と結論の再検討
第21回	論文の構成と設計（3）	論理構成の見直し
第22回	論文執筆（1）	問題関心と問いの記述
第23回	論文執筆（2）	調査地概要の記述
第24回	論文執筆（3）	調査データの記述の方法
第25回	論文執筆（4）	調査データの記述の作法
第26回	論文執筆（5）	調査データの考察
第27回	論文執筆（6）	考察と結論
第28回	修士論文の完成	研究の知見と独自性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自フィールドワークを進めておくことはもちろんのこと、専門領域における先行研究の課題文献の精読、調査データの分析など論文執筆に向けた入念な準備が必要である。本演習の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介していく。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
討議への参加を含めた平常点（50%）、論文や発表などの成果物（50%）の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の意見や要望は積極的に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【担当教員の専門分野等】
〔専門領域〕
環境社会学・地域社会学・観光社会学
〔主要業績〕
『井戸端からはじまる地域再生ー暮らしから考える防災と観光』（単著、筑波書房、2023年）
『Everyday Life-Environmetalism: Community Sustainability and Resilience in Asia』（共著書、Routledge、2023年）
『環境社会学の考え方ー暮らしを見つめる12の視点』（共著書、ミネルヴァ書房、2019年）
『生活環境主義のコミュニティ分析ー環境社会学のアプローチ』（共著書、ミネルヴァ書房、2018年）
『原発災害と地元コミュニティーー福島県川内村奮闘記』（共著書、東信堂、2018年）
『Rebuilding Fukushima』（共著書、Routledge、2017年）

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems.【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance（Discussion, presentation, and report）(50%).

SOW600J1（社会福祉学 / Social Welfare 600）

実践研究演習Ⅱ

宮城　孝

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**2年次／2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策や実践のフィールドにおいて求められるスキルの修得を図ること。または、それらのフィールドにおける学術的な分析を加えるためのデータを収集することを目標とする。

【到達目標】
適切な方法でフィールドワークができる。
フィールドワークで得たデータを適切に分析し、可視化できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】
履修生のフィールドワークに対する個別的なスーパービジョンを行う。各報告の内容に対して、指導・助言を行い、フィールドワークが成果をあげるように支援する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	フィールドワークの全体像
第2回	フィールドワークの目的	目的の明確化
第3回	フィールドワークの対象	対象の明確化
第4回	フィールドワークの対象と方法	対象と方法の明確化
第5回	フィールドワークの対象と方法の具体化	対象と方法の具体化
第6回	スーパービジョン（初期①）	実際のスーパービジョン①実際の対象の選定について
第7回	スーパービジョン（初期②）	実際のスーパービジョン②実際の対象と方法の明確化について
第8回	スーパービジョン（初期③）	実際のスーパービジョン③初期のフィールドワークの内容について
第9階	スーパービジョン（初期④）	実施のスーパービジョン④初期のまとめと振り返り
第10回	スーパービジョン（前期①）	実際のスーパービジョン①前期の目標の設定
第11回	スーパービジョン（前期②）	実際のスーパービジョン②前期のフィールドワークの具体的な方法について
第12回	スーパービジョン（前期③）	実際のスーパービジョン③前期の試行の内容と方法について
第13回	スーパービジョン（前期④）	実際のスーパービジョン④前期の試行の結果について
第14回	前期の振り返りとまとめ	前期の振り返りと今後に向けて
第15回	オリエンテーション	秋学期の目標の設定
第16回	目標の設定	目標の設定と課題の明確化
第17回	スーパービジョン（中期①）	実際のスーパービジョン①中期の目標の設定
第18回	スーパービジョン（中期②）	実際のスーパービジョン②中期における内容と方法について
第19回	スーパービジョン（中期③）	実際のスーパービジョン③中期の結果について
第20回	スーパービジョン（中期④）	実際のスーパービジョン④中期の振り返りについて
第21回	スーパービジョン（後期①）	実際のスーパービジョン①後期の目標の設定
第22回	スーパービジョン（後期②）	実際のスーパービジョン②結果のまとめについて
第23回	スーパービジョン（後期③）	実際のスーパービジョン③（レポートの作成に向けて）
第24回	スーパービジョン（後期④）	実際のスーパービジョン④（レポートの骨子について）
第25回	振り返りとまとめ①	データ等の分析
第26回	振り返りとまとめ②	レポートの作成
第27回	振り返りとまとめ③	理論化の検討
第28回	振り返りとまとめ④	レポートの完成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の指導に向けて、記録やデータをレポートとしてまとめ報告できるように準備しておくこと。本授業の準備・復習時間は、各回4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
適宜必要に応じ指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点40％、フィールドワークの内容とそれらを反映したレポートの内容60％により、評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
講師は、社会福祉協議会における実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして助言指導することとする。

【担当教員の専門分野等】
〔専門領域〕地域福祉論
〔主要研究業績〕
・『住民力－超高齢社会を生き抜くチカラ－』（単著）明石書店,2022年
・『地域福祉と包括的支援システム－基本的な視座と先進的取り組み－』（共編著）明石書店,2021年
・『仮設住宅　その10年－陸前高田における被災者の暮らし－』（共編著】御茶の水書房,2020年
・『コミュニティソーシャルワークの新たな展開－理論と先進事例－』（共編著）中央法規,2019年
・『地域福祉とファンドレイジングー財源確保の方法と先進事例-」中央法規、2018年『地域福祉のイノベーショとン－コミュニティの持続可能性の危機に挑む－』編集代表)、中央法規、2017年
・『東日本大震災と地域福祉－次代への継承を探る－』（共編著）中央法規,2015年
・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）中央法規,2014年
・『ソーシャルワークと社会開発－開発的ソーシャルワークの理論とスキル－』（監訳）丸善,2012年
・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房,2010年
・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣.2008年
・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規2007年
・『新版　地域福祉事典』(編集幹事)日本地域福祉学会,中央法規,2006年
・『イギリスの社会福祉とボランタリーセクター』中央法規,2000年

【Outline (in English)】
【Course outline】
It sets a field to create research paper and to improve practice skill,and collect the data in take field, also, analyzes a case in the field.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to Ａ and Ｂ
Ａ. Students can improve practice skill, and collect the data in take
field,also, analyzes a case in the field.
Ｂ. Students can makes sentences as the research paper.

【Learning activities outside of classroom】
Student will be expected to sped four hours with each supervision,
【Grading Criteria/Policy】
Grading will be decided based on Short report(60%)„and the quality of the students' experimental performance in the lab(40％).

PSY500J2（心理学 / Psychology 500）

臨床心理基礎実習

久保田　幹子、末武　康弘

科目分類・科目群：**専門基幹科目**
配当年次／単位数：**1年次／2単位**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理実践の基本的態度や技能、倫理を学び、あわせて臨床心理実習に向けた事前指導を行います。

【到達目標】
この授業の達成目標は、臨床心理実習を行うため、そして公認心理師・臨床心理士として将来的に活動するための基本的な態度や技能、倫理等を学習することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理学の理論と方法を実践にいかすための基礎的なトレーニングを実施し、臨床心理士として将来的に活動するために欠かすことのできない素養や技能を学習します。なお、この授業の単位取得は法政大学臨床心理相談室の研修相談員の条件となるので、必ず1年次で履修すること。
なお、課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。
また授業の展開によって、授業計画には若干の変更もあり得ます。各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的と内容、授業計画および成績評価の基準を示します。
第2回	臨床心理実践の基礎①：概説	臨床心理実践の基礎を、本専攻における実習教育の内容を中心に概説します。
第3回	臨床心理実践の基礎②：臨床心理面接	臨床心理実践の基礎を臨床心理面接を中心に概説します
第4回	臨床心理実践の基礎③：臨床心理査定	臨床心理実践の基礎を臨床心理査定を中心に概説します
第5回	臨床心理実践の基礎④：臨床心理地域援助	臨床心理実践の基礎を臨床心理地域援助を中心に概説します。
第6回	臨床心理実践の倫理①：概説	臨床心理実践および臨床心理学研究における倫理の意義や課題について概説します。
第7回	臨床心理実践の倫理②：日本の規定の具体論	臨床心理実践および臨床心理学研究における倫理の具体例（例：日本臨床心理士会倫理規定）を取り上げ、発表とディスカッションを行います。
第8回	臨床心理実践の倫理③：海外の規定の具体論	臨床心理実践および臨床心理学研究における倫理の具体例（例：アメリカ心理学会倫理規定）を取り上げ、発表とディスカッションを行います。
第9回	臨床心理実践の倫理④：当大学の規定の具体論	臨床心理実践および臨床心理学研究における倫理の具体例（例：法政大学大学院人間社会研究科倫理規定）を取り上げ、発表とディスカッションを行います。
第10回	臨床心理実習事前指導：発達領域機関A	発達領域における実習の事前指導①を行います。
第11回	臨床心理実習事前指導：発達領域機関B	発達領域における実習の事前指導②を行います。
第12回	臨床心理実習事前指導：教育領域機関	教育領域における実習の事前指導を行います。
第13回	臨床心理実習事前指導：産業領域機関	産業領域における実習の事前指導を行います。
第14回	ケース・カンファレンス	M1・M2合同のケース・カンファレンスを行います。実習担当の専任教員も参加します。
第15回	臨床心理実習事前指導：大学内臨床心理相談室	大学内（臨床心理相談室）における実習教育についてのガイダンスを行います。
第16回	臨床心理実習事前指導：医療機関A	医療領域における実習の事前指導①を行います。
第17回	臨床心理実習事前指導：医療機関B	医療領域における実習の事前指導②を行います。
第18回	臨床心理実習事前指導：医療機関C	医療領域における実習の事前指導③を行います。
第19回	臨床心理実習事前指導：福祉領域	福祉領域における実習の事前指導を行います。
第20回	臨床心理実習事前指導：心理相談領域等	心理相談領域における実習の事前指導を行います。
第21回	臨床心理実践の基本的技能：概説	実習で求められる基本的な技能について講義とディスカッションを行います。
第22回	臨床心理実践の基本的技能：インテーク①神経症	インテークを適切に実施し、記録をまとめるためのトレーニングを実施します。（例：神経症）
第23回	臨床心理実践の基本的技能：インテーク②鬱	インテークを適切に実施し、記録をまとめるためのトレーニングを実施します。（例：鬱）
第24回	臨床心理実践の基本的技能：インテーク③パーソナリティ障害	インテークを適切に実施し、記録をまとめるためのトレーニングを実施します。（例：パーソナリティ障害）
第25回	臨床心理実践の基本的技能：インテーク④発達障害	インテークを適切に実施し、記録をまとめるためのトレーニングを実施します。（例：発達障害）
第26回	臨床心理実践の基本的技能：アセスメント①発達検査	アセスメントを適切に実施し、記録をまとめるためのトレーニングを実施します。（例：発達検査）
第27回	臨床心理実践の基本的技能：アセスメント②知能検査	アセスメントを適切に実施し、記録をまとめるためのトレーニングを実施します。（例：知能検査）
第28回	ケース・カンファレンス	M1・M2合同のケース・カンファレンスを行います。実習担当の専任教員も参加します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表やディスカッションを行うための自己学習（文献の収集と分析、発表レジュメの作成等）および、インテーク記録やアセスメント記録の作成と修正の作業等が求められます。本授業の準備学習・復習時間は合わせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50％）、発表（30％）、ディスカッション（20％）への参加をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実際の臨床現場の様子が理解できるよう、具体例を交えつつ講義を進めたい。

【学生が準備すべき機器他】
発表に際してはパワーポイントの使用を推奨します。

【その他の重要事項】
医療現場における臨床、カウンセリング機関における臨床の実務経験があります。
実際の臨床経験を紹介しつつ、心理臨床家としての姿勢、現場実習に必要な知識などを習得できるよう進めていきます。

【担当教員の専門分野等】
【末武康弘】
＜専門分野＞　臨床心理学、カウンセリング・心理療法
＜研究テーマ＞　パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究
＜主要研究業績＞
① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Eperiential Psychotherapies, 9(2), 2010)
②『ロジャーズ主要著作集1～3』（共訳、岩崎学術出版社、2005年3月～7月）
③『プロセスモデル―暗在性の哲学』（共訳、みすず書房、2023年2月）
【久保田幹子】
＜専門領域＞
森田療法、比較心理療法
＜研究テーマ＞
女性の心理的危機、強迫性障害に対する森田療法、比較心理療法など
＜主要研究業績＞
１）『森田療法で読む強迫性障害』（共著書・編者，東京,白揚社,2015年3月）
２）『女性はなぜ生きづらいのか』（共著書,東京,白揚社,2018年8月）
３）久保田幹子：対人恐怖の森田療法．こころの科学, 2009;147:72-78
４）久保田幹子：森田療法における受容．精神療法, 2013;39(6):12-17

【Outline (in English)】
Course outline： Students learn the basic attitudes, skills, and ethics of clinical psychology practice, and also receive advanced guidance for a clinical psychology practice.
Learning Objectives： The goal of this class is to learn the basic attitudes, skills, ethics, etc. for conducting clinical psychology practice and for future activities as a licensed psychologist and clinical psychologist.
Learning activities outside of the classroom ： Self-study for presentation and discussion (collection and analysis of literature, preparation of presentation resumes, etc.) and preparation and revision of intake and assessment records are required. The standard preparation and review time for this class is 4hour in total.
Grading Criteria /Policy ： Students will be evaluated based on their participation in the presentation (30%) and discussion (20%), as well as based on their normal score (50%).

PSY500J2（心理学 / Psychology 500）

臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）

末武　康弘

科目分類・科目群：**専門基幹科目**
配当年次／単位数：**1・2年次／2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業で学ぶ内容は次のことです。
1. 力動論に基づく心理療法の理論と方法
2. 行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法
3. その他の心理療法の理論と方法
4. 心理に関する相談、助言、指導等への上記 1.～3. の応用
5. 心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整

【到達目標】
この授業の到達目標は、次のとおりです。
・代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義及び適応について概説できること。
・訪問による支援や地域支援の意義について概説できること。
・心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができること。
・良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につけること。
・心理療法やカウンセリングの適用には限界があることを説明できること。
・心理に関する支援を要する者等のプライバシーに配慮できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義、レジュメ作成と発表、ディスカッション、ロールプレイや体験学習などを織り交ぜながら進めていきます。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方や成績評価について
第2回	心理支援と心理学的支援法	全体の理論と方法を概説します
第3回	力動論に基づく心理療法	力動論に基づく心理療法の理論と方法を学びます
第4回	力動論に基づく発展的な心理療法	力動論に基づく発展的な心理療法の理論と方法を学びます
第5回	行動論に基づく心理療法	行動論に基づく心理療法の理論と方法を学びます
第6回	認知論に基づく心理療法	認知論に基づく心理療法の理論と方法を学びます
第7回	その他の心理療法①	その他の心理療法の理論と方法を学びます（人間性の理論）
第8回	その他の心理療法②	その他の心理療法の理論と方法を学びます（システム理論）
第9回	その他の心理療法③	その他の心理療法の理論と方法を学びます（表現芸術療法）
第10回	その他の心理療法④	その他の心理療法の理論と方法を学びます（民族文化療法）
第11回	心理に関する相談、助言、指導等への理論と方法の応用	心理に関する相談、助言、指導等への上記の理論と方法の応用を学びます
第12回	適切な支援方法の選択・調整①	心理に関する支援を要する者の特性に応じた適切な支援方法の選択・調整について学びます
第13回	適切な支援方法の選択・調整について②	心理に関する支援を要する者の状況に応じた適切な支援方法の選択・調整について学びます
第14回	授業のまとめ	授業のふりかえりとまとめをおこないます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連資料の収集・分析、レジュメ作成などの学習が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
発表（60％）、ディスカッションへの参加（40％）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
関連する科目のアンケート結果に基づき、受講生にとってより明確な知識やスキルが身につくように授業を組み立てたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
授業での発表においては、パワーポイント使用を推奨します。

【その他の重要事項】
おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的に講義します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞　臨床心理学、カウンセリング・心理療法
＜研究テーマ＞　パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究
＜主要研究業績＞
① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Eperiential Psychotherapies, 9(2), 2010)
②『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究』（共監訳、岩崎学術出版社、2012年)
③『心理臨床への多元的アプローチ』（共監訳、岩崎学術出版社、2015年）

【Outline (in English)】
The contents to be learned in this lesson are as follows.
1. Theories and methods of psychotherapy based on psychodynamic theory.
2. Theories and methods of psychotherapy based on behavioral /cognitive theory.
3. Theories and methods of other representative psychotherapies.
4. Application of the above items 1 to 3.
5. Selection and adjustment of appropriate support methods.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− understand history, concepts, significance, application and limitations of representative psychotherapy and counseling.
− understand meaning of support by outreach, community support, way of communication to build good relationships, limitation of psychological support, and significance of privacy protection.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on presentations (60%), and in-class contribution (40%)

PSY500J2（心理学 / Psychology 500）

臨床心理面接特論Ⅱ

末武　康弘

科目分類・科目群：**専門基幹科目**
配当年次／単位数：**1・2年次／2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カウンセリングや心理療法など臨床心理面接の基礎となる理論と方法を学び、あわせて臨床心理面接の態度やスキルを共有するための実習やディスカッションを行います。

【到達目標】
カウンセリングや心理療法など臨床心理面接の基礎となる理論と方法の効果やプロセスについて説明できること、さらに、試行カウンセリングを継続して実施し、その内容を事例報告や逐語記録としてまとめ報告できることなど、臨床心理面接に求められる専門性の土台を形成することがこの授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理面接の効果やプロセスについて学ぶとともに、試行カウンセリングを中心とした実習・検討・議論を実施し、臨床心理面接の態度やスキルを実践的に学びます。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的と内容、授業計画、成績評価の基準を示します
第2回	臨床心理面接の効果とプロセス：概説①	臨床心理面接の主要な歴史について概説します
第3回	臨床心理面接の効果とプロセス：概説②	臨床心理面接の効果についての研究を概観します
第4回	臨床心理面接の効果とプロセス：概説③	臨床心理面接のプロセスに関する研究を概観します
第5回	試行カウンセリングについての概説	各自が試行カウンセリングを実施し（インテークおよび3回の継続面接）、その事例報告と逐語記録（抜粋）を作成して報告します。報告を受けてディスカッションを行います。
第6回	インフォームドコンセントと契約および試行カウンセリングの実習と報告①	インフォームドコンセントと契約について指導します。あわせて院生A、Bの報告と検討を行います。
第7回	インテークのとり方および試行カウンセリングの実習と報告②	インテークのとり方とまとめ方を指導します。あわせて院生C、Dの報告と検討を行います。
第8回	アセスメントと見立ての検討および試行カウンセリングの実習と報告③	アセスメントと見立ての検討について指導します。あわせて院生E、Fの報告と検討を行います。
第9回	方針の立て方および試行カウンセリングの実習と報告④	方針の立て方について指導します。あわせて院生G、Hの報告と検討を行います。
第10回	継続面接の進め方および試行カウンセリングの実習と報告⑤	継続面接の進め方について指導します。あわせて院生I、Jの報告と検討を行います。
第11回	面接のプロセスの検討および試行カウンセリングの実習と報告⑥	面接のプロセスの検討方法について指導します。あわせて院生K、Lの報告と検討を行います。
第12回	終結の方法および試行カウンセリングの実習と報告⑦	終結の方法について指導します。あわせて院生M、N、Oの報告と検討を行います。
第13回	ケースレポートの書き方および試行カウンセリングの報告書の作成について	ケースレポートの書き方および試行カウンセリングの報告書の作成について指導します
第14回	まとめ	授業を振り返り、各自の学習内容や学習成果をディスカッションします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表と報告のための自己学習（文献の収集と分析、試行カウンセリングの実施、事例報告や逐語記録の作成、発表レジュメの執筆等）が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
発表（40％）、試行カウンセリングの報告書（50％）、ディスカッションへの参加（10％）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
関連する科目のアンケート結果に基づき、受講生にとってより明確な知識やスキルが身につくように授業を組み立てたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
発表に際してはパワーポイントの使用を推奨します。

【その他の重要事項】
おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的に講義します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞　臨床心理学、カウンセリング・心理療法
＜研究テーマ＞　パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究
＜主要研究業績＞
① The clinical significance of Gendlin’s process model.(Person-Centered and Experiential Psychotherapies, 9(2), 2010)
②『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究』（共監訳、岩崎学術出版社、2012年)
③『心理臨床への多元的アプローチ』（共監訳、岩崎学術出版社、2015年）

【Outline (in English)】
You learn practical methods and skill of psychological support, especially counseling/psychotherapy.
At the end of the course, students are expected to explain effect and process of counseling/psychotherapy, to do trial counseling and to write and present its case report.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on case report on trial counseling (50%), and presentation (40%), and in-class contribution (10%).

PSY500J2（心理学 / Psychology 500）

臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）

金築　優、丹羽　郁夫

科目分類・科目群：**専門基幹科目**
配当年次／単位数：**2年次／1単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野の施設のうち、3分野以上の施設で実習を行うが、保健医療の領域の医療機関（病院又は診療所）での実習は必須とする。なお医療機関以外の施設においては、見学を中心とする実習を行うことがある。また上記の5分野には加えないが、学内の臨床心理相談室においても実習を行う。そして、実習中は当該施設の実習指導者及び実習担当教員による指導を受ける。

【到達目標】
到達目標は、以下の事項を実習を通して学習することである。
(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得
（1）コミュニケーション、（2）心理検査、（3）心理面接、（4）地域支援 等
(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
(ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
(エ) 多職種連携及び地域連携
(オ) 心理専門職としての職業倫理及び法的義務への理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
実習担当教員の指導のもと、実習施設の決定と施設に関する事前学習を行い、実習施設の実習指導者及び実習担当教員から指導を受け、計450時間以上の実習を行う。実習の内、ケースを直接担当する時間は270 時間以上とし、その内、学外施設での実習時間は90 時間以上とする。学内実習は、臨床心理相談室で行い、担当ケースについて、事例検討を行う。修士1年生と2年生及び実習担当教員による合同カンファレンスも実施する。なお実習担当教員は、実習生の実習状況を把握しつつ、上記の目的に掲げる事項の基本的な修得ができるように、実習生及び実習指導者との連絡調整を行う。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
実習前①	実習オリエテーション	実習全般に関わるガイダンスを行う。
実習前②	実習施設の紹介	実習施設に関する情報提供をする。
実習前③	実習施設の決定	実習施設を決定し、その施設に関して事前学習を指導する。
実習中①	学外施設での実習	実習先の指導者から指導を受けながら実習を行うが、実習施設によっては実習担当教員が実習先に出向いて指導を行う。
実習中②	臨床心理相談室での実習第1回	実習担当教員から指導を受けながら実習を行う。
実習中③	臨床心理相談室での実習第2回	臨床心理相談室でのケース（例、子ども）を担当する。
実習中④	臨床心理相談室での実習第3回	臨床心理相談室でのケース（例、成人）を担当する。
実習中⑤	臨床心理相談室での実習第4回	臨床心理相談室でのケース（例、高齢者）を担当する。
実習中⑥	医療施設等での実習第1回	医療施設等（例、A病院）の施設実習
実習中⑦	医療施設等での実習第2回	医療施設等（例、B病院）の施設実習
実習中⑧	医療施設等での実習第3回	医療施設等（例、C病院）の施設実習
実習中⑨	医療施設等での実習第4回	医療施設等（例、D病院）の施設実習
実習中⑩	医療施設等での実習第5回	医療施設等（例、E病院）の施設実習
実習中⑪	ケース・カンファレンス	大学において実習担当教員が定期的にケース・カンファレンス等の指導を行い、修士1年生と2年生全員で実習経験を共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習記録をまとめ、次回の到達目標を明らかにすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
実習担当教員及び実習指導者により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
施設での実習態度や実習報告(20%)、および実習指導者の評価(80%)。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施。

【学生が準備すべき機器他】
ありません。

【その他の重要事項】
両教員とも現場での経験が豊富であり、この経験に基づいて実習指導を行う。

【担当教員の専門分野】
丹羽郁夫：コミュニティ心理学、子どもの心理療法
金築優：認知行動療法、教育相談

【Outline (in English)】
Practice at three or more institutions out of the five sectors of health care, welfare, education, judicial and criminal, industry and labor, but practice at a medical institution (hospital or clinic) in the area of health care Mandatory. In facilities other than medical institutions, practical training centered on tours may be conducted. Also, although not added to the above five fields, we also conduct practical training in the clinical psychology counseling room in the university. During practical training, you will receive guidance from the instructor's instructor and practical teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on case reports (20%), and the quality of the students' performance in the field (80%).

PSY500J2（心理学 / Psychology 500）

臨床心理実習Ⅱ

金築　優、丹羽　郁夫

科目分類・科目群：**専門基幹科目**
配当年次／単位数：**2年次／1単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野の施設のうち、3分野以上の施設で実習を行うが、保健医療の領域の医療機関（病院又は診療所）での実習は必須とする。なお医療機関以外の施設においては、見学を中心とする実習を行うことがある。また学内の臨床心理相談室においても実習を行う。そして実習中は当該施設の実習指導者及び実習担当教員による指導を受ける。

【到達目標】
到達目標は、以下の事項を実習を通して学習することである。
(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得
（1）コミュニケーション、（2）心理検査、（3）心理面接、（4）地域支援 等
(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
(ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
(エ) 多職種連携及び地域連携
(オ) 心理専門職としての職業倫理及び法的義務への理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
実習担当教員の指導のもと、実習施設の決定と施設に関する事前学習を行い、実習施設の実習指導者及び実習担当教員から指導を受け、計450時間以上の実習を行う。実習の内、ケースを直接担当する時間は270 時間以上とし、その内、学外施設での実習時間は90 時間以上とする。学内実習は、臨床心理相談室で行い、担当ケースについて、事例検討を行う。修士1年生と2年生及び実習担当教員による合同カンファレンスも実施する。なお実習担当教員は、実習生の実習状況を把握しつつ、上記の目的に掲げる事項の基本的な修得ができるように、実習生及び実習指導者との連絡調整を行う。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
実習前①	実習オリエテーション	実習全般に関わるガイダンスを行う。
実習前②	実習施設の紹介	実習施設に関する情報提供をする。
実習前③	実習施設の決定	実習施設を決定し、その施設に関して事前学習を指導する。
実習中①	学外施設での実習	実習先の指導者から指導を受けながら実習を行うが、実習施設によっては実習担当教員が実習先に出向いて指導を行う。
実習中②	臨床心理相談室での実習	実習担当教員から指導を受けながら実習を行う。
実習中③	医療施設等での実習 第1回	医療施設等（例、A病院）の施設実習
実習中④	医療施設等での実習 第2回	医療施設等（例、B病院）の施設実習
実習中⑤	医療施設等での実習 第3回	医療施設等（例、C病院）の施設実習
実習中⑥	医療施設等での実習 第4回	医療施設等（例、D病院）の施設実習
実習中⑦	医療施設等での実習 第5回	医療施設等（例、E病院）の施設実習
実習中⑧	医療施設等での実習 第6回	医療施設等（例、F病院）の施設実習
実習中⑨	医療施設等での実習 第7回	医療施設等（例、G病院）の施設実習
実習中⑩	医療施設等での実習 第8回	医療施設等（例、H病院）の施設実習
実習中⑪	ケース・カンファレンス	大学において実習担当教員が定期的にケース・カンファレンス等の指導を行い、修士1年生と2年生全員で実習経験を共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習記録をまとめ、次回の到達目標を明らかにすること。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
実習担当教員及び実習指導者により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
施設での実習態度や実習報告(20%)、および実習指導者の評価(80%)。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施。

【学生が準備すべき機器他】
ありません。

【その他の重要事項】
両教員とも現場での経験が豊富であり、この経験に基づいて実習指導を行う。

【担当教員の専門分野】
丹羽郁夫：コミュニティ心理学、子どもの心理療法
金築優：認知行動療法、教育相談

【Outline (in English)】
Practice at three or more institutions out of the five sectors of health care, welfare, education, judicial and criminal, industry and labor, but practice at a medical institution (hospital or clinic) in the area of health care Mandatory. In facilities other than medical institutions, practical training centered on tours may be conducted. Also, we also conduct practical training in the clinical psychology counseling room in the university. During practical training, you will receive guidance from the instructor's instructor and practical teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on case reports (20%), and the quality of the students' performance in the field (80%).

PSY500J2（心理学 / Psychology 500）

臨床心理学研究法特論

小林　由佳

科目分類・科目群：**専門展開科目（研究法科目）**
配当年次／単位数：**1・2年次／2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理学研究法の進め方を適切に理解し、研究計画を立てるための知識を習得することを目的とします。

【到達目標】
臨床心理学研究の計画を適切に行えることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
講義のみでなく、発表、ディスカッション、グループワークを行います。受講生の積極的な参加を期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方に関するオリエンテーション
第2回	臨床心理学研究の考え方と研究法	臨床心理学研究の諸分野と研究法（面接法、観察法、質問紙調査法、事例研究法、実験法）
第3回	研究の進め方①研究デザイン	研究デザインの選択とリサーチクエスチョンの構造化、良い研究デザインをするための視点
第4回	研究の進め方②文献研究	先行研究の整理、文献管理、システマティックレビュー
第5回	研究の進め方③量的研究	量的研究の進め方、データ収集上の留意点、標本抽出、研究におけるバイアス
第6回	研究の進め方④質的研究１	質的研究の進め方（主にグラウンデッド・セオリー・アプローチ）
第7回	研究の進め方⑤質的研究２	質的研究の進め方（主にSCAT、テキストマイニング、主題分析法）
第8回	研究の進め方⑥論文執筆と公表	学位論文と学術論文の違い、雑誌の投稿、査読、掲載
第9回	研究倫理と臨床倫理	倫理と法、研究倫理、臨床倫理
第10回	研究アウトカムの測定	主観的な指標の有用性を評価するためのガイドライン
第11回	尺度作成のガイドライン	尺度作成のガイドラインに基づく論文の読み方と論文作成
第12回	観察研究のガイドライン	観察研究のガイドラインに基づく論文の読み方と論文作成
第13回	介入研究のガイドライン	介入研究のガイドラインに基づく論文の読み方と論文作成
第14回	まとめ	臨床心理学研究計画の立案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容に関連した課題を提示するので、授業の間にそれに取り組むことが求められます。演習を実施するため、次回講義で扱う内容の疑問点は整理しておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とし ます。

【テキスト（教科書）】
テキストは適宜お知らせします。

【参考書】
「臨床心理学研究法特論 (放送大学大学院教材) 」（小川俊樹・望月聡、放送大学教育振興会：2018）
「心理学研究法 補訂版」（高野陽太郎・岡隆、有斐閣：2017）
「心理学の実践的研究法を学ぶ (臨床心理学研究法 第 1巻)」（下山晴彦・能智正博、新曜社：2008）

【成績評価の方法と基準】
平常点（60％）、課題・レポート（40％）

【学生の意見等からの気づき】
課題と授業中のディスカッションを連動させ、授業内容の理解度をより深める

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞ 職場のメンタルヘルス、産業組織心理学、認知行動療法
＜研究テーマ＞働く人のウェルビーイングと心理社会的アプローチ
＜主要研究業績＞
1)Servant Leadership in Japan: A Validation Study of the Japanese Version of the Servant Leadership Survey (SLS-J). Frontiers in Psychology. 11:1711.2020.
2)産業領域で心理専門職に求められるコンピテンシーの抽出と難易度の推 定:デルファイ法による検討. 産業ストレス研究. 27(2):263-271. 2020.
3)What Kind of Intervention Is Effective for Improving Subjective Well-Being Among Workers? A Systematic Review and Meta-Analysis of Randomized Controlled Trials. Frontiers in Psychology. 11:528656. 2020.

【Outline (in English)】
Course outline ： The purpose of this course is to provide students with an appropriate understanding of how to proceed with clinical psychology research methods and statistical analysis methods, and to acquire the knowledge to formulate a research plan.
Learning Objectives ： The goal of this course is to enable students to appropriately plan clinical psychology research.
Learning activities outside of the classroom ： To conduct exercises, please organize your questions about the contents to be covered in the next lecture. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy ： Class participation (60%), Assignments and Reports (40%)

PSY500J2（心理学 / Psychology 500）

犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）

西田　俊男

科目分類・科目群：**専門展開科目（家族・社会心理科目）**
配当年次／単位数：**1・2年次／2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
司法、犯罪分野に関わる理論を概観し、心理職としての関与の方法、非行理解、更生のための方法について学びます。また、家事事件における基本的な知識についても学びます。演習では、表層的な情報に惑わされること無く、支援する側とされる側の両方の視点から相手を理解した上での助言や支援策を考えられるようにします。そして、単なる知識だけでない、幅広くあたたかな人間理解の方法を学び、実践的な臨床家を育てます。

【到達目標】
司法、犯罪分野における諸問題に対して心理職の立場から相手の背景を理解し、支援について説明できる。また、実際の支援・実践策を構築、提供できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、パワポを使って進め学習支援システム（Hoppii)でレジメやテキスト、参考資料を配付します。授業前半でテキストの概要を説明し、授業後半は、社会で起きた犯罪や非行等を取り上げ、を幾回かにわたって演習形式で進めます。さらに随時ビデオ視聴及び施設見学を行います。こうしてケース理解を深め、あたたかな臨床家を育てます。また、順番（１回につき１人）に５分間プレゼン（事例は各自が選択）の練習を行い、ケースに関するプレゼン能力を高めます。授業の出欠は、Hoppiiを使ったレポートの提出で出席とします。授業のレポートとは別に、秋期授業開始前にレポート、秋期終了時にレポート、と２回のレポート提出が、単位取得の条件です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、非行の動機など	犯罪・非行について概説し、各事件別に統計から見た犯罪・非行の推移、実態及び主な動機・背景などをみていきます。
2	犯罪心理学の系譜	生物学的原因論、心理学的原因論、社会学的要因について学びます。
3	新たな犯罪心理学	犯罪心理学分野における新たな考え方、セントラルエイト、ビッグ４、RNRモデルなど概観し、行動科学の知見の活用について学びます。
4	家庭裁判所の事件処理	家庭裁判所での処理、BPSの視点について学びます。
5	具体的な非行理解、ビデオ視聴	前回を踏まえた非行理解について学び、さらに授業内容に関係したビデオを視聴します。
6	家庭裁判所の調査と処遇	家庭裁判所の調査と処遇について学びます。
7	少年院の処遇	少年院での指導・助言、処遇プログラムなどについて学び、関連したビデオを視聴します。
8	成人事件、刑罰（無期囚と死刑囚）	地方裁判所での事件処理、刑務所、無期囚と死刑囚の心理等について学びます。
9	裁判員裁判制度、事例によるケース理解（演習形式）	裁判員裁判制度を学びます。またTATテストを実施した事例を用いて、なぜ事件を起こしたのか、その動機及び仮説などを班別で討議、検討し、発表します。
10	事例によるケース理解（演習形式、その２）	引き続き同じ事例を用いて、その仮説に基づき、どのように働きかけたら良いか班別にて検討し、発表します。
11	事例によるケース理解（演習形式、その３）	引き続き同じ事例を用いて、TATテストからみたケース理解を学びます。
12	事例によるケース理解（演習形式、その４）	引き続き同じ事例を用いて、テスト結果のフィードバックについて学びます。
13	被害者支援について、司法面接と動機付け面接	被害者支援に関して、その制度、警察、検察段階での心理職としての関わりについて学びます。さらに、相談援助、非行防止に関する現状、子どもから事実を聞き出すための技法である司法面接、さらに、動機付け面接について学びます。
14	多様な家族	離婚による母子、父子家庭について学びます。その離婚の際の親権者決定、面会交流のあり方、ハーグ条約、子の引き渡しなど心理職が関わる際の視点、実際に紛争の中に置かれた子どもの声、などについて学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業で配布したテキストや資料をもとに各自で文献学習を行います。その学習を基礎として演習を進めていきます。各施設見学なども随時行います。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Hoppii にて必要なテキストを配付します。

【参考書】
綿村英一郎他編「入門司法犯罪心理学　理論と現場を学ぶ」有斐閣
河原俊也編「ケースから読み解く 少年事件－実務の技」青林書院

【成績評価の方法と基準】
授業態度・発表・意欲：５２％
レポート課題の提出・評価：４８％

【学生の意見等からの気づき】
学生から出されたレポートの内容、疑問点に関し、随時授業で触れ、答えていきます。また、学生の改善意見等も参考にして授業内容を改善、工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門分野等】
司法・矯正領域。特に家庭裁判所での事件処理、調査官調査と処遇、離婚、面会交流などについて。

【オフィスアワー】
授業の開始前または授業後に教室等で質問・相談を受け付けます。

【Outline (in English)】
After studying the rough theory about justice and crime, we learn how to be concerned in delinquency as a psychologist, the risk assessment and treatment program for rehabilitation. We also acquire the basic knowledge domestic case. In class, we study advice and support measures from both viewpoints of the side to be supported and the side to be supported.This class is designed to become practical psychologist who have not only knowledge but also warm heart and learn extensive ways to understand human.
[Learning Objectives]
At the end of the course,students are expected to explain support from the perspective of certified public psychologists on various issues in the judicial and criminal fields. In addition, we can build and provide actual support and practical measures.
[Learning activities outside of classroom]
Students will learn literature based on the materials distributed in each class. We will proceed with the exercises based on that learning. Your study time will be more than two hours for a class.
[Grading Criteria /Policies]
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports : 48%、in class contribution :52%

CIM500J2（内科系臨床医学 / Clinical internal medicine 500）

精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）

関谷　秀子

科目分類・科目群：**専門展開科目（関連専門領域科目）**
配当年次／単位数：**1・2年次／2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では公認心理師に求められる保健医療分野の実践について学ぶ。
具体的にはライフサイクルと精神発達、代表的な精神疾患とその治療についての知識を習得し、保健医療分野における理論と支援について学ぶ。心理専門職に必要な精神医学的見地を身につける。

【到達目標】
人間のライフサイクルと精神発達を理解する。
精神疾患を症候学的分類に基づいて体系的に理解する。
代表的な精神疾患の症状・経過・診断・治療・本人や家族への支援に関する基本的知識を習得する。
精神医療において公認心理師が担うべき役割について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って発表者の分担を決める。授業は発表とディスカッションの形式で行う。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション
第2回	ライフサイクル	乳児期、幼児期、児童期、思春期青年期、初期成人期、成人期、老年期について
第3回	精神性的発達論	口唇期、肛門期、幼児性器期、潜伏期、思春期、性器統裁について
第4回	精神医学序論	精神医学の概念、精神障害の成因と分類
第5回	精神症状学	精神症状と状態像
第6回	精神障害①	統合失調症
第7回	精神障害②	気分障害
第8回	精神障害③	神経症性障害
第9回	精神障害④	パーソナリティ障害
第10回	精神障害⑤	器質性障害
第11回	精神障害⑥	物質関連精神障害
第12回	精神障害⑦	児童・思春期精神障害
第13回	精神医学的治療学①	薬物療法
第14回	精神医学的治療学②	心理療法（力動的心理療法、認知行動療法、家族療法、集団療法） 精神医療における公認心理師の役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の指定箇所を事前に予習し、授業で討論できるように準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
カプラン臨床精神医学テキスト（メディカルサイエンスインターナショナル）

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績は授業への積極的な参加(100%)に基づいて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
臨床場面のエピソードや具体的なケースを提示することで学生のテーマについての理解を深めたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門分野等】
精神分析学、児童青年精神医学、精神分析的発達心理学

【Outline (in English)】
We learn about the practice of the field of medical health care required as a licensed psychologist. Specifically, we will learn the life cycle and mind development, representative psychiatric disorders and their treatments. We will learn about theory and support in the field of medical health care. We will learn the psychiatric viewpoint necessary for psychologists. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the contribution in class.

PSY500J2（心理学 / Psychology 500）

産業・労働分野に関する理論と支援の展開

小林　由佳

科目分類・科目群：**専門展開科目（関連専門領域科目）**
配当年次／単位数：**1・2年次／2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業・労働分野で働く心理職には、個別の心理的支援のほか、職場組織の環境改善、関係者との調整など、本分野特有の知識と技能が求められます。本授業では、これらの知識を習得し、技能についての理解を深め、実践で求められる思考力、判断力や倫理観を養うことを目的とします。

【到達目標】
この授業では、産業・労働分野における問題に対して必要な心理的支援を学ぶとともに、実践で求められる力を養うことを目標とします。到達目標は次の通りです。
1）職場における諸問題とそれらに求められる心理的支援の概要を説明できること
2）労働者の健康を守るための法規、会社の基本的な取り組みについて説明できること
3）労働者への心理的支援の計画を立てることができること
4）組織的な心理的支援対策を提案できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義のみでなく、発表、ディスカッション、グループワークを行います。受講生の積極的な参加を期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、産業・労働分野における課題と心理職に求められるコンピテンシー
第2回	職場のメンタルヘルス（産業精神保健）の歴史と法規	労働者の健康管理と産業精神保健に関する法律や指針、精神障害の労災申請や民事訴訟
第3回	職場のメンタルヘルス対策の実際	働く上でのストレス要因、および企業で行ううつ病対策、過重労働対策、自殺予防対策
第4回	職場のメンタルヘルス関連疾患と対応	労働者のメンタルヘルス不調のアセスメント、基本的な対応、およびケースマネジメント
第5回	産業心理臨床の基礎	産業心理臨床において求められるケース対応の基礎知識とスキル、メール相談対応
第6回	職場のハラスメント対策	職場のハラスメント問題の理解と予防、ハラスメント発生後の対応
第7回	キャリア関連問題とキャリアコンサルティング	働く人のキャリア関連問題とキャリアコンサルティング
第8回	職場復帰支援	労働者の休職の実態、職場復帰支援体制づくりと復職支援プログラム
第9回	産業・労働分野における関係者との連携	関係者との連携において心理職が果たすべき役割と身につけておくべきスキル、マネジメントコンサルテーション
第10回	事業場内外からの支援、EAP	EAPや産業精神保健サービス提供者の活動と支援の実際
第11回	職業性ストレスとストレスチェック制度	職業性ストレス理論とストレスチェック制度の活用
第12回	職場のメンタルヘルスに関する教育研修	職場のメンタルヘルスに関する教育研修（対従業員、対管理職）、プレゼンテーションスキル
第13回	グループダイナミクスと職場環境改善	グループダイナミクスの基礎理論と職場環境改善の進め方
第14回	人と組織の活性化に向けて：心の健康づくり計画	産業・労働分野における心の健康づくりの方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考文献や新聞、近親者へのヒアリングなどから、働く人の健康問題、労働環境、働き方への理解を深め、心理職の役割と関係者との連携について考察を進めてください。本授業の準備学習、復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定テキストはありません。

【参考書】
「産業心理職のコンピテンシー　その習得、高め方の実践的・専門的方法」種市康太郎・小林由佳・高原龍二・島津美由紀編著（川島書店, 2023）
「産業・労働分野（公認心理師分野別テキスト5）」平木典子・松本桂樹編著（創元社, 2019）
「基礎からはじめる 職場のメンタルヘルス 改訂版—事例で学ぶ考え方と実践ポイント」川上憲人著（大修館書店, 2021）
「ポジティブメンタルヘルス－いきいき職場づくりへのアプローチ」川上憲人・小林由佳編著（培風館, 2015）
「心理職のための産業保健入門」小山文彦著（金剛出版, 2021）

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加（60％）、試験（40％）

【学生の意見等からの気づき】
実技やディスカッション、質疑の時間を充実させる。

【Outline (in English)】
Course outline ： Psychologists working in the industrial and labor fields are required to have knowledge and skills specific to this field, such as individual psychological support, improving the environment of workplace organizations, and coordinating with related parties. The purpose of this class is to acquire this knowledge, deepen understanding of skills, and cultivate the ability to think, make decisions, and develop a sense of ethics required in practice.
Learning Objectives ： The goal of this class is to learn the psychological support needed for workers' mental health, and to develop the skills required in the occupational health field. The objectives are as follows
(1) To be able to give an overview of various problems in the workplace and the psychological support required for them
(2) To be able to explain the laws and regulations of mental health care.
(3) To be able to formulate plans for psychological support for workers
(4) To be able to formulate plans for psychological support for the organization.
Learning activities outside of the classroom ： Students need to deepen their understanding of workers' mental health problems and workplace environment through reference literature, newspapers, and interviews with close relatives. The preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy ： Class participation (60%), exam (40%)

PSY500J2（心理学 / Psychology 500）

教育分野に関する理論と支援の展開

谷　由紀子

科目分類・科目群：**専門展開科目（専門技能科目）**
配当年次／単位数：**1・2年次／2単位**
備考（履修条件等）：**2025年度の授業実施日は、7月25日（金）・28日（月）・29日（火）。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・学校という組織の中で心理専門職が担う役割について説明します。
・学校現場で求められる専門的な知識やスキルを習得することを目的とします。

【到達目標】
自分自身の個性や特徴を踏まえながら、チーム学校の一員である心理専門職としてどのように貢献するか、自分なりのイメージを描けるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
教員と学生間で、学生同士でも質問や意見が飛び交うような活発な時間を一緒につくりましょう。事例をもとに小グループで話し合う、発表する、当事者等の話を聞く、感じたことを伝えあう、ロールプレイをするなどの機会を作っていきます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的、進め方を説明します。 この授業に期待すること、これまで身に付けたことなどを中心に自己紹介します。
第2回	聴く力と自己理解度、アセスメント力、今の私の自己評価	相談者とカウンセラーのロールプレイ通してお互いをアセスメントし合います。 自分は他者からどのような印象をもたれるのか、その根拠は何かを理解します。
第3回	子ども時代を振り返る	自分の子ども時代を振り返り、学校についてどういうイメージや印象をもっているか明らかにします。
第4回	学校における心理専門職の役割	学校組織や風土を理解し、教師とは異なるスクールカウンセラーの役割を考えます。
第5回	学校組織のアセスメント	事例をもとに、スクールカウンセラーとして必要な情報を収集し、学校組織をアセスメントします。
第6回	スクールカウンセリングの活動計画	アセスメントから得られた情報を用いて学校の現状を把握し、その学校に必要な支援活動計画を作ります。
第7回	発達の特性と支援	事例をもとに、発達の特性をもった児童・生徒への支援を考えます。
第8回	愛着障害の支援	発達の問題との見極めが難しい、愛着の問題を抱えているケースの対応事例をもとに支援の方法を考えます。
第9回	不登校	不登校の実態や現状を説明します。その上で事例をもとに不登校の対応について考えます。
第10回	子どもたちを取り巻く様々な課題	虐待、自傷、ヤングケアラーの支援について、他機関やスクールソーシャルワーカーとの連携も含めて考えます。
第11回	当事者等の話	不登校経験者や保護者、教員等の当事者の話をもとに、様々なニーズがある中で、心理職として「どうあるべきか」、「どうありたいか」を考えます。
第12回	コンサルテーション	教師役、スクールカウンセラー役に分かれてコンサルテーションのロールプレイを体験します。 教師がわかりやすく、納得するコンサルテーションのあり方について考えます。
第13回	成長や変化への気付き	参加者同士で1日目との変化や違いがあれば伝えあいます。自己評価します。
第14回	まとめ	疑問、質問、感想を自由に発言しあいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
スクールカウンセリング、学校心理学の著書を1冊は読んでおいてください。できれば、学校で相談活動に従事しておられる方にインタビューして、学校のイメージつくりをしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書としては使いません。

【参考書】
「近藤邦夫論考集　学校臨床心理学への歩み－子供たちとの出会い、教師たちとの出会い」　近藤邦夫著　福村出版
「スクールカウンセリングのこれから」石隈利紀・家近早苗　創元社
「子どもの脳を傷つける親たち」友田明美　ＮＨＫ出版新書
「どうしても頑張れない人たち」　宮口幸治著　新潮新書

【成績評価の方法と基準】
自己分析レポート４０％
　第2回と第12回のロールプレイの自己分析の質。自己理解は深まったか。
授業全般についての意見の発表３０％
　第1回と第１３回の全体への表現。わかり易いか、変化はみえるか。
平常点　　３０％
　ファシリテートするセンスがあるか。積極的に興味をもってこの場やテーマにかかわれたか。

【学生の意見等からの気づき】
前年度も好評であった、ロールプレイや当事者の体験談など、体験や現場の感覚を捉える機会を豊富にもちながら、相互の議論を深めていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【担当教員の専門分野等】
学校臨床
キャリアカウンセリング

【オフィスアワー】
授業の開始前または授業後に教室で質問・相談を受け付けます。

【Outline (in English)】
＜Course outline＞
・This class focuses on defining roles of school counselor as a professional psychologist in a school organization.
・The purpose of this class is to get the specialized knowledge and skills required in a school field.
＜Learning Objectives＞

You will be able to get your own image of how to contribute as a professional psychologist as well as a member of TEAM “school” , based on your personality and characteristics.
＜Learning activities outside of classroom＞
Please read one book on school counseling or school psychology. It is recommended to interview someone who is engaged in counseling activities at the school to understand a reality in school. It takes 2 hours each to prepare and review for the class generally.
＜Grading Criteria /Policy＞
＊Self-analysis report 40%
・the quality of self-analysis of the 2nd and 12th role-plays.
・the depth of self-understanding
＊Giving a good opinion in the class 30%
・the quality of opinion of the 1st and 13th.
・the level of comprehensibility/transformastion
＊ Mark given for class participation 30%
・sence of facilitation
・participation and assertiveness

PSY500J2（心理学 / Psychology 500）

家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践

飯田　敏晴

科目分類・科目群：**専門展開科目（専門技能科目）**
配当年次／単位数：**1・2年次／2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、家族や地域社会といった人間集団に対する心理支援に関する諸理論と、それらを基にした心理学的援助実践について体系的に学ぶ。はじめに人間集団として最も身近な「家族」に焦点を当て家族療法などの心理支援の実際を学ぶ。続いて、家族を取り巻く人間集団としての「地域社会」における心理支援の在り方を、主としてコミュニティ心理学の考え方を基に学んでいく。

【到達目標】
・家族関係がもたらす精神病理に関する理論を説明でき、心理学的支援の方法について説明できる
・コミュニティ心理学の基本的な考え方を説明でき、コミュニティや地域社会での心理学的支援の方法について説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を中心とするが、適宜、授業内での発表や受講者とのディスカッションを取り入れる。数回のリアクションペーパーを課し、その内容についても授業内に取り上げる。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大状況にともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題に対しては、授業内やHoppii等を活用してフィードバックを行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コミュニティ心理学とは	授業の目標、授業内容、成績評価方法、参考文献の紹介（序章）
第2回	人と環境の適合	生態学的発想について学びます（第1章）
第3回	ソーシャルサポート	ソーシャルサポートネットワーク、ソーシャルサポートを背景においた支援について学ぶ（第2章)。
第4回	コンサルテーション	コンサルテーションについての講義とグループワークを通じて、その実際を学ぶ(第3章)。
第5回	ウェルビーイング	ウェルビーイングやQOLとの関係について学ぶ（第4章）
第6回	予防	コミュニティ心理学の基本にある予防について、その理論の実際について学ぶ（第5章）
第7回	ラベリング	ラベリングや臨床的バイアスなど、基本的な考え方実践での留意点について学ぶ（第6章）
第8回	エンパワメント	コミュニティが有する力が回復していくプロセスを表す「エンパワメント」の概念と実際について学ぶ（第7章）
第9回	コミュニティ感覚	人と人とのつながりでの重要な感覚であるコミュニティ感覚について学ぶ（第8章）
第10回	セルフヘルプ	セルフヘルプグループ（ダルクやAA等）の機能や有効性について学ぶ（第9章）
第11回	ストレスコーピング	ストレス理論と心理教育（ストレスマネジメント）について学ぶ（第10章）
第12回	コラボレーション	多職種協働において必須の概念であるコラボレーションについて、講義とグループワークを通じて、その実際を学ぶ(第11章）
第13回	社会変革	現在社会における様々な心の問題を概観し、その解決に資する変革のためのポイントやそのアプローチについて学ぶ（第12章）
第14回	コミュニティ心理学の課題と展望	コミュニティ心理学の独自性について再度考える（第13章及び関連資料配布）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に授業内容に関連する書籍や論文を読んでおき、授業内での発表（プレゼン）の準備をする。第5回から第11回目までの講義が発表に相当します。第15回はテキストの指定資料と、事前指定論文を読んできた上で、コミュニティ心理学と今後の自身の実践についてディスカッションしていきます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
現代コミュニティ心理学：理論と展開、植村勝彦、東京大学出版会、3,740円

【参考書】
適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1）授業への能動的参加（40％：事前質問5回(20%)、グループワーク時の取り組み（10&)、リアクション（10%))、
2）発表（30％）
3）発表に対して、当日や、後日収集される他履修生や教員からの文章でのコメントに基づいて、その振り返りや事後学習を行い、その成果をレポート（30%)する。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度実施時に、授業時間の超過への改善への要望を頂戴しています。時間きっかりに終えることをまずはお約束したい、と思います。

【学生が準備すべき機器他】
初回の授業に必ず出席すること。

【その他の重要事項】
保健・医療領域における実務経験あり。

【担当教員の専門分野等】
多文化カウンセリング、コミュニティ心理学、健康・医療心理学

【オフィスアワー】
授業の開始前または授業後に質問・相談を受け付けます。

【Outline (in English)】
The objective of this class is to understand some theories of psychological support for a group or system of human being such as family and community. First, we learn the theories and skills of family therapy. Then we focus on so called community approach to solve psychological problems in communities. The preparation for the class such as reading research papers and /or books is required. Also the review is required. Total hours will be 2 hours for the preparation and 2 hours for the review. Participation(40%), presentation(30%) and report(30%).
This grading criteria may change according to the situation of COVID-19.

PSY500J2（心理学 / Psychology 500）

力動的心理療法特論

関谷　秀子

科目分類・科目群：**専門展開科目（専門技能科目）**
配当年次／単位数：**1・2年次／2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
力動的心理療法の基本を学ぶ。

【到達目標】
力動的心理療法の治療過程について学ぶ。
治療者ー患者間の治療契約を基軸として、治療契約、退行、抵抗、防衛、転移と逆転移、解釈、治療の終結について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書または論文をあらかじめ指定し、発表の分担を決める。授業は発表とディスカッションの形式で行う。発表の内容やディスカッションでの発言について、毎回の授業の中でフィードバックを行う。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の内容と進め方を説明し、題材とする文献と担当を決める。
第2回	フロイトによる治療理論／精神分析療法の開始のしかた	フロイトの精神分析の方法、精神分析療法の開始時の注意点
第3回	精神分析療法を行う際の留意点①	精神分析療法の基本規則
第4回	精神分析療法を行う際の留意点②	乱暴な分析について
第5回	転移とその取扱い①	精神分析療法の経過中に現れる転移の様相、転移への対応
第6回	転移とその取扱い②	恋愛性転移についての考え方、取り扱い
第7回	メニンガーによる治療理論／解釈	解釈についての考え方と実際
第8回	グリーンソンによる治療理論／抵抗	抵抗の現れと、その解釈の実際
第9回	転移	転移解釈の方法
第10回	グリーンソンによる現実的関係(real relation-ship)をめぐって	心理療法の中での現実的な問題の取り扱い方
第11回	皆川による治療理論／精神分析的心理療法の面接法	精神分析的面接の実際、エディプス・コンプレックスについて
第12回	転移と現実的関係、超自我の理解	転移概念と現実的関係、自我心理学における超自我の理解
第13回	思春期青年期の心理療法の原則	思春期青年期の心理療法の構造と考え方
第14回	思春期患者の親に対する親ガイダンス	親ガイダンス試行上の原則、親ガイダンスの適応について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業テーマについて事前に予習し、討論できるように準備をしておくこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
フロイト著作集(人文書院)またはフロイト全集(岩波書店)
カール・メニンガー；精神分析技法論(岩崎学術出版社)
R.Greenson ： The Technique and Practice of Psychoanalysis.(International University Press)

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績は、授業内での話し合いや質疑への積極的な参加 (70%) や、割り当てられた文献に関するリポート (30%) に基づいて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
臨床場面のエピソードや具体的なケースを提示することで、学生のテーマについての理解を深めたい。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業の場合は、パソコンを使用しzoomを用いて授業を行う。

【担当教員の専門分野】
精神分析的精神療法、思春期青年期精神医学

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to learn the basis of dynamic psychotherapy.
【Learning objectives】
The goal of this course is to learn the therapeutic process of dynamic psychotherapy.　By the end of the course, students should be able to understand therapeutic contract between client and therapist, regression, resistance, defenses, transference and countertransference, interpretation, and termination of psychotherapy.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have prepared about the theme of every class meeting, and to join the discussion.
【Grading criteria/policy】
Grading will be decided based on the in class contribution (70%), and the report about the assigned article (30%).

PSY500J2（心理学 / Psychology 500）

心理療法特論

小林　由佳

科目分類・科目群：**専門展開科目（専門技能科目）**
配当年次／単位数：**1・2年次／2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理職はクライエントの問題を理解し、提供しうる治療の中から効果的なものを選択しますが、その問題理解の視野には限界があります。本講義では、複数の心理療法およびその視点の共通点と相違点を踏まえた統合や組み合わせの試みを通して、心理的な問題を多角的に理解する視点を得ることを目的とします。

【到達目標】
本講義では、複数の心理療法の共通点と相違点、統合や組み合わせの試みを理解し、この観点から心理的な問題を見立てることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義のみでなく、発表、ディスカッション、グループワークを行います。受講生の積極的な参加を期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価、授業の概要
第2回	心理療法への統合的アプローチ①	共通要因アプローチ
第3回	心理療法への統合的アプローチ②	技法折衷アプローチ
第4回	心理療法への統合的アプローチ③	理論統合アプローチ
第5回	心理療法への統合的アプローチ④	同化的統合アプローチ
第6回	心理療法への統合的アプローチ⑤	多元的アプローチ
第7回	各心理療法の共通点と相違点①	アセスメントと変化のメカニズム
第8回	各心理療法の共通点と相違点②	治療関係と介入技法
第9回	各心理療法の共通点と相違点③	臨床例と効果研究
第10回	不安とうつの統一プロトコル①	統一プロトコルの基本的な考え方
第11回	不安とうつの統一プロトコル②	統一プロトコルの治療手続き
第12回	プロセスベースドセラピー①	プロセスベースドセラピーの基本的な考え方
第13回	プロセスベースドセラピー②	プロセスベースドセラピーの治療手続き
第14回	授業のまとめ	授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容に関連した課題を提示するので、授業の間にそれに取り組むことが求められます。演習を実施するため、次回講義で扱う内容の疑問点は整理しておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とし ます。

【テキスト（教科書）】
テキストは適宜お知らせします。

【参考書】
「心理療法統合ハンドブック」（杉原保史、福島哲夫、誠信書房：2021）

【成績評価の方法と基準】
平常点（60％）、課題・レポート（40％）

【学生の意見等からの気づき】
課題と授業中のディスカッションを連動させ、授業内容の理解度をより深める

【Outline (in English)】
Course outline : Psychologists understand their clients' problems and select the most effective treatment from among those they can offer, but their perspective of understanding problems is limited. In this lecture, we will attempt to examine the similarities and differences among multiple psychotherapies and their perspectives in order to gain a viewpoint from which to understand psychological problems from multiple perspectives.
Learning Objectives : The goal of this course is to understand the similarities and differences among several psychotherapies, their attempts at integration and combination, and to view psychological problems from this perspective.
Learning activities outside of the classroom : In order to conduct exercises, please organize your questions about the contents to be covered in the next lecture. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy : Class participation (60%), Assignments and Reports (40%)

PSY500J2（心理学 / Psychology 500）

心理臨床演習

丹羽　郁夫

科目分類・科目群：**専門展開科目（専門技能科目）**
配当年次／単位数：**1・2年次／2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
子どもの心理療法に関する基本的な理論と技法、そして実際を学ぶこと。

【到達目標】
子どもの心理療法において何が起きているかの基本的な理解ができ、どのように対応したらよいかのおおよその見当がつくようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
最初に、教員が子どもの心理療法の導入をおこなった後、教員がパワポで作成したか、書籍や研究雑誌に掲載されている、子どもの心理療法の事例を検討する。その後に、子どもの心理療法の歴史、理論、技法などをより詳細に講義する。また課題などのフィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容と進め方の説明
第2回	子どもの心理療法の基礎	子どもの心理療法の基本事項について講義
第3回	子どもの心理療法の事例を検討する①	虐待の事例（前半）
第4回	子どもの心理療法の事例を検討する②	虐待の事例（後半）
第5回	子どもの心理療法の事例を検討する③	ネグレクトの事例
第6回	子どもの心理療法の事例を検討する④	自閉スペクトラム症の事例
第7回	子どもの心理療法の事例を検討する⑤	精神分析的な心理療法の事例①
第8回	子どもの心理療法の事例を検討する⑥	精神分析的な心理療法の事例②
第9回	子どもの心理療法の事例を検討する⑦	子ども中心の事例
第10回	子どもの心理療法の事例を検討する⑧	研究雑誌に掲載されている事例①
第11回	子どもの心理療法の事例を検討する⑨	研究雑誌に掲載されている事例②
第12回	子どもの心理療法の歴史と理論、技法⑩	子どもの心理療法の歴史と理論、技法の講義
第13回	子ども中心プレイセラピー①	子ども中心プレイセラピーの理論と技法について詳細に学ぶ①
第14回	子ども中心プレイセラピー②	子ども中心プレイセラピーの理論と技法について詳細に学ぶ②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習の前に事例を読み、疑問点を整理しておくことが求められます。演習後は、事例を読み返し、演習での教員や仲間からのコメントなどを振り返ることで、事例をより豊かに理解できるようになることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。教員が実施したか、書籍や研究雑誌に掲載されている子どもの心理療法の事例を用いる。

【参考書】
授業の中で、適宜、参考図書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
事例検討への参加(100％)。

【学生の意見等からの気づき】
現在の授業を継続します。

【担当教員の専門領域】
臨床心理学（子どもの心理療法、D.W.ウィニコット、移行対象など）とコミュニティ心理学（コンサルテーション、ストレス、ソーシャルサポートなど）
＜主要研究業績＞
『最初の児童分析家ヘルミーネ・フーク－ヘルムートの児童分析の技法について』（単著、現代福祉研究14、2014年）
『D.W.ウィニコットの「ビグル」に関する海外文献の概観－ビグルの症状をめぐる背景要因に焦点を当てて－』（単著、現代福祉研究11、2011年）

【Outline (in English)】
Course outline
Students will learn basic theories, techniques and practices related to children's psychotherapy.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-Students know what happens in the psychotherapy of the child.
-Students know how I should cope in the psychotherapy of the child.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies
Final grade will be decided based on the in-class contribution(100%).
.

PSY600J2（心理学 / Psychology 600）

論文研究指導

久保田　幹子

科目分類・科目群：**研究指導科目**
配当年次／単位数：**2年次／4単位**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文を作成する

【到達目標】
修士論文のテーマを設定し、先行研究の調査、研究の実施を通して論文を完成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
修士論文作成に向けて、関心のあるテーマについて事前学習を行う。修士論文の研究テーマを決定し、研究計画の作成、研究の実施、論文の作成を行う。
なお、課題等のフィードバックはオフィスアワーや、学習支援システムを通じて行う予定です。各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション、論文作成の手順について
第2回	テーマ決定の事前学習	関心のあるテーマについてディスカッション
第3回	文献収集の技法	文献収集の方法について
第4回	関心のあるテーマについて国内外の文献学習、発表①	関心のあるテーマについて先行研究を調べ、まとめる①
第5回	関心のあるテーマについて国内外の文献学習、発表②	関心のあるテーマについて先行研究を調べ、まとめる②
第6回	関心のあるテーマについて国内外の文献学習、発表③	関心のあるテーマについて先行研究を調べ、まとめる③
第7回	関心のあるテーマについて国内外の文献学習、発表④	関心のあるテーマについて先行研究を調べ、まとめる④
第8回	テーマ決定	修士論文のテーマを決定する。
第9回	調査・研究法の検討①	研究の目的、方法を検討し、実施する①
第10回	調査・研究法の検討②	研究の目的、方法を検討し、実施する②
第11回	調査・研究法の検討③	研究の目的、方法を検討し、実施する③
第12回	調査・研究法の検討④	研究の目的、方法を検討し、実施する④
第13回	調査・研究法の検討⑤	研究の目的、方法を検討し、実施する⑤
第14回	調査・研究法の検討⑥	研究の目的、方法を検討し、実施する⑥
第15回	調査・研究結果の検討①	調査、研究結果を具体的に検討し、理解を深める①
第16回	調査・研究結果の検討②	調査、研究結果を具体的に検討し、理解を深める②
第17回	調査・研究結果の検討③	調査、研究結果を具体的に検討し、理解を深める③
第18回	調査・研究結果の検討④	調査、研究結果を具体的に検討し、理解を深める④
第19回	調査・研究結果の検討⑤	調査、研究結果を具体的に検討し、理解を深める⑤
第20回	調査・研究結果の検討⑥	調査、研究結果を具体的に検討し、理解を深める⑥
第21回	論文執筆指導①	研究結果を元に論文を作成する①
第22回	論文執筆指導②	研究結果を元に論文を作成する②
第23回	論文執筆指導③	研究結果を元に論文を作成する③
第24回	論文執筆指導④	研究結果を元に論文を作成する④
第25回	論文執筆指導⑤	研究結果を元に論文を作成する⑤
第26回	論文執筆指導⑥	研究結果を元に論文を作成する⑥
第27回	論文執筆指導⑦	研究結果を元に論文を作成する⑦
第28回	論文執筆指導⑧	研究結果を元に論文を作成する⑧

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究テーマの選択、方法論を吟味するために、主体的に文献を検索し、先行研究を調査すること。研究テーマの理解を深めるためにも、幅広く情報収集すること。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜、紹介する。

【参考書】
必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
修士論文作成に向けての研究姿勢（50％）および修士論文（50％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
関心のあるテーマを尊重し、実際の臨床に役立つ研究・修士論文となるよう段階的に指導していきたい。

【その他の重要事項】
医療現場における臨床の実務経験があります。臨床経験を通して、皆さんの研究に関する問題提起・論文構想に関してアドバイスを行っていきます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
森田療法、比較心理療法、心理検査法
＜研究テーマ＞
女性の心理的危機、強迫性障害に対する森田療法、比較心理療法など
＜主要研究業績＞
1）『森田療法で読む強迫性障害』（共著書・編者．東京,白揚社,2015年3月）
2）『女性はなぜ生きづらいのか』（共著書,東京,白揚社,2018年8月）
3）久保田幹子：対人恐怖の森田療法．こころの科学, 2009;147:72-78
4）久保田幹子：森田療法における受容．精神療法, 2013;39(6):12-17

【Outline (in English)】
Creating a master's thesis.
The goal of this lecture is to set the topic of the master's thesis, investigate previous research and complete the thesis through the implementation of the research.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on master's thesis (50%) and academic attitudes in writing process (50%).

PSY600J2（心理学 / Psychology 600）

論文研究指導

小林　由佳

科目分類・科目群：**研究指導科目**
配当年次／単位数：**2年次／4単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自身のリサーチクエスチョンを構造化し、適切な方法を用いて明らかにすること、さらに修士論文として表現する力を身につけることを目的とします。

【到達目標】
修士論文作成を通して、研究を進めるための技術の習得、および研究テーマに関する専門的知見を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
修士論文を作成するための個人指導を行います。研究の進捗や展開に応じて、授業計画を若干変更する可能性があります。課題等の提出・フィードバックは対面もしくはメールにて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	論文作成の進め方について
第2回	研究テーマの検討１	各自の問題意識について
第3回	研究テーマの検討２	各自のテーマについて
第4回	先行研究Ｉ	テーマに関連した先行研究のまとめ
第5回	先行研究２	課題に関わる先行研究のまとめ
第6回	研究デザイン１	リサーチクエスチョンと仮説
第7回	研究デザイン２	研究方法の検討
第8回	研究デザイン３	質問紙、対象者等の検討
第9回	研究デザイン４	データ解析方法の検討
第10回	データ収集の方法１	データ収集の手続きの確認
第11回	データ収集の方法２	データ収集の準備状況の確認
第12回	データ収集の方法３	データ収集の段取りの確認
第13回	データ処理の方法１	収集したデータの取り扱いの確認
第14回	データ処理の方法２	収集したデータの分析方法の確認
第15回	データの分析１	基本的な集計実施
第16回	データの分析２	データ解析の実施
第17回	データの分析３	データ解析結果の解釈
第18回	考察の検討１	考察の概要整理
第19回	考察の検討２	考察の内容の組み立て
第20回	考察の検討３	考察の詳細の検討
第21回	論文執筆の指導１	論文執筆の開始
第22回	論文執筆の指導２	先行研究の執筆
第23回	論文執筆の指導３	目的と方法の執筆
第24回	論文執筆の指導４	結果の執筆
第25回	論文執筆の指導５	結果の修正
第26回	論文執筆の指導６	考察の執筆
第27回	論文執筆の指導７	考察の修正
第28回	まとめ	修士論文の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本コースでは、修士論文作成に関わる過程（文献研究、研究デザインの決定、データの収集と分析、考察など）全てにおいて主体的な取り組みが必要となります。指導日には進捗状況について説明できるよう準備を整えてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
修士論文作成における研究姿勢（60％）と論文の内容（40％）から評価します。

【学生の意見等からの気づき】
丁寧に指導を進めます。

【その他の重要事項】
【担当教員の専門分野等】
< 専門領域> 職場のメンタルヘルス、産業組織心理学、認知行動療法
< 研究テーマ> 働く人のウェルビーイングと心理社会的アプローチ
< 主要研究業績>
1)Servant Leadership in Japan: A Validation Study of the Japanese Version of the Servant Leadership Survey (SLS-J). Frontiers in Psychology. 11:1711.2020. 2)産業領域で心理専門職に求められるコンピテンシーの抽出と難易度の推 定:デルファイ法による検討. 産業ストレス研究. 27(2):263-271. 2020. 3)What Kind of Intervention Is Effective for Improving Subjective Well-Being Among Workers? A Systematic Review and Meta-Analysis of Randomized Controlled Trials. Frontiers in Psychology. 11:528656. 2020.

【Outline (in English)】
Course outline : The purpose of this course is to help students develop the ability to structure their own research questions, clarify them using appropriate methods, and express them in a master's thesis.
Learning Objectives : Through the preparation of a master's thesis, the goal is to master the techniques for conducting research and to deepen one's expertise in the subject matter of the research.
Learning activities outside of the classroom : In this course, students are required to work independently in all processes related to the preparation of their master's thesis, including literature research, determination of the research design, collection and analysis of data, and discussion. Please be prepared to explain your progress on the day of instruction. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy : Research attitude in writing master's thesis (60%) and quality of the thesis (40%)

PSY600J2（心理学 / Psychology 600）

論文研究指導

末武　康弘

科目分類・科目群：**研究指導科目**
配当年次／単位数：**2年次／4単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理学の修士論文を作成するための知識、研究方法、論文執筆の力を身につけます。

【到達目標】
修士論文の作成が到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理学の修士論文を作成するための指導を行います。なお、指導の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	論文研究指導の概要を示します
第2回	研究計画の概要の検討①	修士論文作成のための研究計画の概要を検討します。院生Aを中心に指導
第3回	研究計画の概要の検討②	修士論文作成のための研究計画の概要を検討します。院生Bを中心に指導
第4回	研究計画の概要の検討③	修士論文作成のための研究計画の概要を検討します。院生Cを中心に指導
第5回	先行研究の探索と検討①	先行研究の探索と分析について概説します。
第6回	先行研究の探索と検討②	研究テーマに関連する先行研究の探索と分析を行います。院生Aを中心に指導
第7回	先行研究の探索と検討③	研究テーマに関連する先行研究の探索と分析を行います。院生Bを中心に指導
第8回	先行研究の探索と検討④	研究テーマに関連する先行研究の探索と分析を行います。院生Cを中心に指導
第9回	研究デザインの検討①	修士論文作成のための研究デザインと研究方法を概説します。
第10回	研究デザインの検討②	修士論文作成のための研究デザインと研究方法を検討します。院生Aを中心に指導
第11回	研究デザインの検討③	修士論文作成のための研究デザインと研究方法を検討します。院生Bを中心に指導
第12回	研究デザインの検討④	修士論文作成のための研究デザインと研究方法を検討します。院生Cを中心に指導
第13回	リサーチクエスチョンの検討とチェック①	データ収集のためのリサーチクエスチョンを作成し検討します。院生Aを中心に指導。
第14回	リサーチクエスチョンの検討とチェック②	データ収集のためのリサーチクエスチョンを作成し検討します。院生B、Cを中心に指導
第15回	秋学期のオリエンテーション	秋学期の進め方について示します。
第16回	データ収集とその処理の検討①	収集されたデータの処理と分析方法を解説します。
第17回	データ収集とその処理の検討②	収集されたデータの処理と分析方法を検討します。院生Aを中心に指導
第18回	データ収集とその処理の検討③	収集されたデータの処理と分析方法を検討します。院生Bを中心に指導
第19回	データ収集とその処理の検討④	収集されたデータの処理と分析方法を検討します。院生Cを中心に指導
第20回	処理結果のまとめと検討①	データの処理と分析によって結果を検討します。院生Aを中心に指導
第21回	処理結果のまとめと検討②	データの処理と分析によって結果を検討します。院生Bを中心に指導
第22回	処理結果のまとめと検討③	データの処理と分析によって結果を検討します。院生Cを中心に指導
第23回	考察の検討①	結果についての考察を検討します。院生Aを中心に指導
第24回	考察の検討②	結果についての考察を検討します。院生Bを中心に指導
第25回	考察の検討③	結果についての考察を検討します。院生Cを中心に指導
第26回	論文執筆の指導①	論文の構成、文章表現、引用や注、文献の書き方等を指導します。院生Aを中心に指導
第27回	論文執筆の指導②	論文の構成、文章表現、引用や注、文献の書き方等を指導します。院生Bを中心に指導
第28回	論文執筆の指導③、まとめ	論文の構成、文章表現、引用や注、文献の書き方等を指導します。院生Cを中心に指導。授業のまとめを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文作成のための学習活動（文献や先行研究の収集と分析、研究方法の学習、データの収集と分析、論文執筆等）が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
修士論文の執筆過程（60％）と論文の内容（40％）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見から、より各自の研究意図に沿った指導を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
データの分析や論文執筆にはパソコンを使用してください。

【その他の重要事項】
おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、具体的に指導します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞　臨床心理学、カウンセリング・心理療法
＜研究テーマ＞　パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究
＜主要研究業績＞
① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Experiential Psychotherapies, 9(2), 2010)
②『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究』（監訳、岩崎学術出版社、2012年)
③『「主観性を科学化する」質的研究法入門』（共編著、金子書房、2016年）

【Outline (in English)】
You learn the knowledge, research methodology, skill to write a master's thesis on clinical psychology. And You should complete master thesis.
The goals of this course are to acquire knowledge, research methodology and skill to write a master's thesis on clinical psychology and to complete your master's thesis.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on master's thesis (40%), and academic attitudes in the writing process (60%).

PSY600J2（心理学 / Psychology 600）

論文研究指導

関谷　秀子

科目分類・科目群：**研究指導科目**
配当年次／単位数：**2年次／4単位**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理学の分野に関連したテーマを選択し、専門書や論文を調べ、研究計画を立案し
修士論文としてふさわしい論文を書き上げる。

【到達目標】
適切な研究方法を用いて先行研究を踏まえ、論理的な内容と適切な形式を備えた修士論文を書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
修士論文を書き上げることを目標に論文指導をする。基本的に個別的な指導を原則とする。授業計画は学生のテーマや進捗状況に応じて若干の変更の可能性がある。それぞれの課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究計画の概要の検討1	研究計画の要点を検討。
第2回	研究計画の概要の検討2	研究計画の要点を精査
第3回	研究計画の概要の検討3	構想発表会に向けての整理
第4回	研究計画の概要の検討4	構想発表会に向けての仕上げ
第5回	修士論文に関連した先行研究の探索と学習1	先行研究の資料を収集
第6回	修士論文に関連した先行研究の探索と学習2	先行研究を整理
第7回	修士論文に関連した先行研究の探索と学習3	先行研究からみた研究計画の妥当性を再考
第8回	修士論文に関連した先行研究の探索と学習4	先行研究のおおまかな「まとめ」を行う
第9回	調査研究の学習	調査方法の概要を学習していく
第10回	調査研究の内容の検討1	調査方法を具体的に検討していく
第11回	調査研究の内容の検討2	調査対象の選定を議論する
第12回	調査研究の内容の検討3	調査対象を検討
第13回	調査研究の内容の検討4	統計処理方法を検討
第14回	完成した調査計画や調査表のチェック1	調査方法やスケジュール検討
第15回	完成した調査計画や調査表のチェック2	調査の具体方法や項目のチェック一夏休み中に行うデータ収集のスケジュール整理
第16回	調査したデータの処理1	収集したデータを実際に統計処理
第17回	調査したデータの処理2	統計処理された結果のまとめ
第18回	調査したデータの処理3	統計処理された結果を読み込む
第19回	調査したデータの処理4	統計処理データの結果を検証
第20回	調査結果のまとめと検討1	先行研究とデータから得られた結果を比較
第21回	調査結果のまとめと検討2	先行研究とデータから得られた結果をまとめ考察につなげていく
第22回	考察の検討1	考察の概要を整理。
第23回	考察の検討2	考察の詳細を検討していく
第24回	考察の検討3	考察の内容を論理的に組み立てていく
第25回	考察の検討4	考察の内容を最終的に決定していく
第26回	論文の実際の仕上げ1	論文の「はじめに」「目的」を仕上げる。
第27回	論文の実際の仕上げ2	論文の「仮説」「先行研究」を仕上げる。
第28回	論文の実際の仕上げ3	論文の「結果」を仕上げる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回の指導までに必要な修士論文の諸課題を準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
修士論文指導にかかわる学習態度や平常点（50％）と論文作成の知識・技術の習得（50％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度のアンケートは現在集計中につき、結果が出次第それを授業に生かしたい。

【担当教員の専門分野】
精神分析学、児童青年精神医学、精神分析的発達研究

【Outline (in English)】
We will read specialized books and articles, make study plans and finish writing an article that is suitable for a master's thesis concerning your thesis in the field of the clinical psychology. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process ： In-class contribution (50%), the knowledge and technique of the article making (50%).

PSY600J2（心理学 / Psychology 600）

論文研究指導

丹羽　郁夫

科目分類・科目群：**研究指導科目**
配当年次／単位数：**2年次／4単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目はオリジナリティがあり、臨床的価値が高い修士論文を学生が作成できるのを目指す。

【到達目標】
修士論文の完成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
修士論文を作成するため、先行研究の検索、研究テーマの設定、データ解析の方法、調査結果の解釈、論文の構成などについて個別に指導する。また課題などのフィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	修士論文の作成の進め方とタイムテーブル
第2回	文献検索と収集の仕方①	文献の検索と収集の仕方
第3回	文献検索と収集の仕方②	文献検索と収集の実践
第4回	研究テーマの絞り込み①	関心の報告
第5回	研究テーマの絞り込み②	関心を絞り込む
第6回	研究テーマの絞り込み③	明確にされた関心に関連する先行研究の探索
第7回	研究テーマの絞り込み④	関連する先行研究から関心の絞り込み
第8回	研究テーマの決定	研究テーマの決定
第9回	調査方法の検討①	研究テーマに合った調査方法の検討
第10回	調査方法の検討②	研究テーマに関する先行研究の調査方法を探索
第11回	調査方法の検討③	研究テーマに合った先行研究の調査方法を検討
第12回	調査方法の検討④	研究テーマに合った先行研究の調査方法の絞り込み
第13回	調査方法の検討⑤	研究テーマに合った調査方法の決定
第14回	調査の実施	調査の実施の指導
第15回	調査データの解析方法の検討①	調査で得たデータの解析方法の検討
第16回	調査データの解析方法の検討②	解析方法を絞り込む
第17回	解析結果①	基本的な統計結果を出す
第18回	解析結果②	必要な解析をほぼ全て行う
第19回	解析結果の解釈①	結果の解釈を行う
第20回	解析結果の解釈②	結果全体を説明できる物語の構築
第21回	論文執筆①	論文執筆の開始
第22回	論文執筆②	先行研究の再検討の執筆
第23回	論文執筆③	目的と方法の執筆
第24回	論文執筆④	調査結果の執筆
第25回	論文執筆⑤	調査結果の修正
第26回	論文執筆⑥	考察の執筆
第27回	論文執筆⑦	考察の修正
第28回	論文の最終チェック	完成した修士論文の最終チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導前は、修士論文の作成を進め、その進行状況と疑問点などを報告できるように準備をすることが求められます。指導の後は、教員からの助言やコメントを修士論文の作成に反映させる改善が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
研究テーマと研究方法に応じて重要な参考図書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
修士論文作成への取り組み(100%)。

【学生の意見等からの気づき】
現状を維持します。

【その他の重要事項】
研究の進み具合に応じて変更することがある。

【担当教員の専門分野】
臨床心理学（子どもの心理療法、D.W.ウィニコット、移行対象など）とコミュニティ心理学（コンサルテーション、ストレス、ソーシャルサポートなど）
＜主要研究業績＞
『コンサルテーションとコラボレーション』（共編著、金子書房、2022年）
『ジェラルド・キャプランのメンタルヘルスコンサルテーションの概観』（単著、コミュニティ心理学研究18(2)、2015年）
『最初の児童分析家ヘルミーネ・フーク－ヘルムートの児童分析の技法について』（単著、現代福祉研究14、 2014年）主な研究業績>
『中国帰国者におけるソーシャル・サポート利用の精神健康への影響』（単著、コミュニティ心理学研究）2(2)、1999年）

【Outline (in English)】
Course outline
This subject aims to allow students to create a master's thesis with originality and high clinical value.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to complete a master's thesis
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies
Final grade will be decided based on the approach to master's thesis making(100%).

SOW500J3（社会福祉学 / Social Welfare 500）

福祉社会系特殊講義Ⅰ

岩崎　晋也

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会福祉の原理および思想に関する研究動向について講義する

【到達目標】
社会福祉の原理および思想に関する研究動向を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
指定する文献をもとに講義とディスカッションをする。文献は，受講者と相談しながら決定する。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーションを行う
第2回	文献研究1	文献研究を行う１
第3回	文献研究2	文献研究を行う２
第4回	文献研究3	文献研究を行う３
第5回	文献研究4	文献研究を行う４
第6回	文献研究5	文献研究を行う５
第7回	文献研究6	文献研究を行う６
第8回	文献研究7	文献研究を行う７
第9回	文献研究8	文献研究を行う８
第10回	文献研究9	文献研究を行う９
第11回	文献研究10	文献研究を行う１０
第12回	文献研究11	文献研究を行う１１
第13回	文献研究12	文献研究を行う１２
第14回	文献研究13	文献研究を行う１３

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された文献を読み、考察してくること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点(100%)による。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートを実施しませんでした。

【担当教員の専門分野】
社会福祉原理・思想

【Outline (in English)】
Lecture on research trends on social welfare principles and thought

SOW500J3（社会福祉学 / Social Welfare 500）

福祉社会系特殊講義Ⅰ

眞保　智子

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
障害者政策における社会的な課題とそれに対応する制度等のあり方に関する近年の研究動向について講義します。

【到達目標】
障害者雇用に関わる制度・政策論と就労支援について、障害者福祉制度を踏まえ、障害者の雇用・就労について、障害者の労働参加のあり方を考える視点から、障害者雇用・就労に関する研究方法の展開と課題を理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
障害者雇用・就労に関する制度・政策論と支援実践について、関連文献をもとに障害者雇用・就労研究方法の展開と課題を講義し、ディスカッションを行います。オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のねらい、スケジュールの説明
第2回	近代社会と労働	近代思想と労働について、その認識や発見について整理する
第3回	近代社会と障害者の生活世界	障害者福祉の位置づけについて
第4回	障害者福祉制度・政策体系	歴史的変遷から特質を学ぶ
第5回	障害者福祉制度・政策体系（障害別制度の体系）	障害者福祉制度の特質と課題について
第6回	障害者の就労に関する制度・政策体系（福祉的就労制度）	所謂福祉的就労制度の特質と課題について
第7回	障害者雇用に関する制度・政策体系（雇用促進法と雇用率制度）	雇用促進法の体系と雇用率の特質と課題について
第8回	障害者雇用に関する制度・政策体系（特例子会社制度）	特例子会社制度の特質と課題について
第9回	障害者就労支援に関する制度・政策体系（福祉サイドの支援）	障害者就労支援制度の特質と課題について（障害者総合支援法等による支援）
第10回	障害者就労支援に関する制度・政策体系（労働サイドの支援）	障害者就労支援制度の特質と課題について（労働施策における支援）
第11回	障害者就労とソーシャルワーク	IPSの理論と実践
第12回	障害者就労とソーシャルワークの理論	ストレングスモデルの理論と実践
第13回	障害者就労支援とソーシャルワークの実践	「比較優位」の視点による就労支援の実践
第14回	差別禁止法制と割当雇用制度	わが国と諸外国の障害者雇用制度の現状と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
国内外の文献や諸状況を事前に学習してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
眞保智子（2017）『障害者雇用の実務と就労支援「合理的配慮」のアプローチ』日本法令
その他適宜紹介します。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
講義への参加準備および発言：５０％課題レポート：５０％

【学生の意見等からの気づき】
アンケートは実施しておりません。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆、グループワークや報告の際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用します。

【その他の重要事項】
精神保健福祉士として、知的障害のある方、発達障害のある方、精神障害のある方に対する就労支援および生活支援の実践を通じての知識および技能についても紹介します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞若者支援論、障害者雇用、障害者福祉
＜研究テーマ＞
1　障害者の就労とキャリアデザイン
2　障害者・若者・高齢者・女性雇用に関する諸問題
3　産業領域における精神科ソーシャルワーク

【Outline (in English)】
This course provides lecture on the current problems of persons with disabilities and the progress of policies. Students mainly learn the framework of disability studies and the perspective of social work. This course discusses the well-being of all people, including people with disabilities and without disabilities. The goal of this course is to prepares for writing degree paper. Before/after each seminar, students will be expected to spend four hours to understand the seminar content. Grading will be decided based on proposal paper (50 %) and in-class presentation (50%).

SOW500J3（社会福祉学 / Social Welfare 500）

福祉社会系特殊講義Ⅱ

岩崎　晋也

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会福祉の原理および思想に関する研究動向について講義する

【到達目標】
社会福祉の原理および思想に関する研究動向を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
指定する文献をもとに講義とディスカッションをする。文献は，受講者と相談しながら決定する。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーションを行う
第2回	文献研究1	文献研究を行う１
第3回	文献研究2	文献研究を行う２
第4回	文献研究3	文献研究を行う３
第5回	文献研究4	文献研究を行う４
第6回	文献研究5	文献研究を行う５
第7回	文献研究6	文献研究を行う６
第8回	文献研究7	文献研究を行う７
第9回	文献研究8	文献研究を行う８
第10回	文献研究9	文献研究を行う９
第11回	文献研究10	文献研究を行う１０
第12回	文献研究11	文献研究を行う１１
第13回	文献研究12	文献研究を行う１２
第14回	文献研究13	文献研究を行う１３

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された文献を読み、考察してくること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点(100%)による

【学生の意見等からの気づき】
アンケートを実施しませでした。

【担当教員の専門分野】
社会福祉原理・思想

【Outline (in English)】
Lecture on research trends on social welfare principles and thought

SOW500J3（社会福祉学 / Social Welfare 500）

福祉社会系特殊講義Ⅱ

眞保　智子

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会的な問題状況、福祉課題について、その問題解決のための研究動向を講義する。

【到達目標】
社会福祉系特殊講義Ⅰをふまえ、障害者福祉を含む学際的研究の視点や方法、知見から障害者雇用・就労制度・政策論と実践論とを関連させて理解することを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
障害者雇用・就労制度・政策論と実践論との関連文献をもとに講義し、ディスカッションします。オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のねらいとスケジュールについて
第2回	職業リハビリテーション学とは	障害者の職業リハビリテーション研究の意義
第3回	職業リハビリテーションのアプローチ	学際的知見を整理する
第4回	職業リハビリテーションの現状	わが国および海外の研究の現状を理解する
第5回	職業リハビリテーション学の理論	職業リハビリテーションの理論と実践
第6回	障害者雇用・就労の学際的視点　障害学	障害学の知見から障害者雇用・就労を学ぶ
第7回	障害者雇用・就労の学際的視点　社会学	社会学の知見から障害者雇用・就労を学ぶ
第8回	障害者雇用・就労の学際的視点　経済学	経済学の知見から障害者雇用・就労を学ぶ
第9回	障害者の雇用・就労と人的資源管理論	人的資源管理論で障害者の雇用・就労を考える
第10回	障害者の雇用・就労と企業	企業の視点で障害者の雇用・就労を考える
第11回	社会福祉行政と労働行政	社会福祉行政と労働行政の連携（労働者の生活支援）
第12回	社会福祉行政と労働行政のあり方	社会福祉行政と労働行政の連携（就労移行支援）
第13回	わが国の障害者雇用・就労制度・政策の現状と課題	差別禁止法制と合理的配慮提供から障害者雇用・就労の将来を展望する
第14回	海外の障害者雇用・就労制度・政策の現状と課題	差別禁止法制と割当雇用制度から障害者雇用・就労の将来像を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
障害者雇用・就労に関わる研究論文および労働研究論文（日本語、英文を問わず）を事前に読んでいただきたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
眞保智子（2017）『障害者雇用の実務と就労支援「合理的配慮」のアプローチ』日本法令
その他適宜、紹介します。

【参考書】
適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業参加準備と発言:５０％、レポート提出：５０％

【学生の意見等からの気づき】
アンケートは実施しておりません。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆、グループワークや報告の際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞若者支援論、障害者雇用、障害者福祉
＜研究テーマ＞
1　障害者の就労とキャリアデザイン
2　障害者・若者・高齢者・女性雇用に関する諸問題
3　産業領域における精神科ソーシャルワーク

【Outline (in English)】
This course provides lecture on the current problems of persons with disabilities and the progress of policies. Students mainly learn the framework of vocational rehabilitation and the perspective of social work. This course discusses the well-being of all people, including people with disabilities and without disabilities. The goal of this course is to prepares for writing degree paper. Before/after each seminar, students will be expected to spend two hours to understand the seminar content. Grading will be decided based on proposal paper (50％) and in-class presentation (50%).

SOW500J3（社会福祉学 / Social Welfare 500）

福祉臨床系特殊講義Ⅰ

伊藤　正子

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークにおけるクライエント理解の視点を学ぶ。

【到達目標】
グローバル時代における抑圧の構造と生活問題の特質を説明できる。クライエントの人格発達に影響を及ぼす諸要因を理解し、援助モデルを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
まず、生活を規定する諸要因ごとに、それらが人間発達および生活問題に及ぼす影響について検討し、次に資本主義社会における現代生活の一般的な問題状況の把握を試みる。さらに、グローバリゼーションという視点から再度現代社会における社会問題、およびそれによる生活問題という視点を、マジョリティの視点とマイノリティの視点の双方から、正義の原理、ケアと責任の原理およびポストコロニアル・社会構成主義、それぞれの特質を捉え、社会福祉的観点から課題を考察する。対面式での開講となる。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標
第2回	生活問題論①	経済的規定性
第3回	生活問題論②	生活と人格発達
第4回	生活問題論③	集団と人格発達
第5回	生活問題論④	障害と人格発達
第6回	生活問題論⑤	病と人格発達
第7回	生活問題論⑥	文化、宗教、エスニシティとこころ
第8回	グローバリゼーション時代の生活問題①	資本と労働の国際移動と資本主義的世界システム
第9回	グローバリゼーション時代の生活問題②	新自由主義、マネジリアリズムと個人化
第10回	グローバリゼーション時代の生活問題③	世界都市における生活問題とまとめ
第11回	クライエント理解の視点①	正義の原理とケアと責任の原理
第12回	クライエント理解の視点②	ポストコロニアル・社会構成主義
第13回	クライエント理解の視点③	インターセクショナリティ
第14回	まとめ	クライエント理解の理論的変遷と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に紹介した文献・資料などを中心に、該当箇所について復習し、理解を深めておくこと。また、報告を求めることがあるので、報告を担当する際には、入念な準備を行い、プレゼンテーションの予行を終えておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、毎回資料を配付する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1．講義内発表と討議参加（50％）
2．課題の提出（50％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）があると望ましい。

【その他の重要事項】
医療機関・外国人支援ＮＧＯソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論
＜研究テーマ＞エスニック・マイノリティへのソーシャルワーク、外国人労働者の医療・労働・生活問題

【Outline (in English)】
【Course outline】This course introduces the perspectives of social work practices for understanding client reality. 【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to enhance their necessary knowledge and critical thinking for understanding client condition. 【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.【Grading Criteria 】 Final grade will be calculated according to the following process:Participation in presentations and discussions during lectures(50%),and term-end examination (50%).

SOW500J3（社会福祉学 / Social Welfare 500）

福祉臨床系特殊講義Ⅰ

髙良　麻子

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会問題とは何かについて、ソーシャルワークの観点から検討する。

【到達目標】
・社会問題とは何かを説明できる。
・社会問題を構造的に理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、担当者がテキストをまとめて発表し、全員で議論することで、社会問題とは何かを検討する。また、授業ごとのリアクションペーパーをもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	社会問題とは何か①	状態からの理解
第3回	社会問題とは何か②	活動からの理解 SDGs(持続可能な開発目標) 社会問題の連鎖
第4回	第１章　社会問題過程	クレイム申し立て活動の過程
第5回	第２章　クレイム	クレイムとは何か
第6回	第３章　クレイム申し立て者としての活動家	クレイム申し立て者としての活動家の役割
第7回	第４章　クレイム申し立て者としての専門家	クレイム申し立て者としての専門家の役割
第8回	第５章　メディアとクレイム	社会問題過程のおけるメディア
第9回	第６章　大衆の反応	世論の測定
第10回	第７章　政策形成	政策形成の流れ
第11回	第８章　社会問題ワーク	政策の実施
第12回	第９章　政策の影響	政策評価にもとづく新たなクレイム
第13回	第１０章　時空をかけるクレイム	クレイム申し立てのサイクル
第14回	第１１章　構築主義スタンスの使い方	社会問題過程の活用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキスト、参考書、配布資料を活用して、予習および復習をすることで、理解を深めてほしい。また、日頃から社会問題に興味をもち調べることを期待する。本授業の準備・復習時間は、各３時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ジュエル・ベスト、赤川学監訳（2020）『社会問題とは何かー なぜ、どのように生じ、なくなるのか？』筑摩書房

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点60%
・レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野】
ソーシャルワーク論
髙良麻子（2017）『日本におけるソーシャルアクションの実践モデルー「制度からの排除」への対処』中央法規.
髙良麻子（2013）「日本の社会福祉士によるソーシャル・アクションの認識と実践」『社会福祉学』53（4）,42-54,日本社会福祉学会.

【Outline (in English)】
This course is designed to explore social problems from the perspective of social work.Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW500J3（社会福祉学 / Social Welfare 500）

福祉臨床系特殊講義Ⅰ

佐藤　繭美

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの中核をなす「当事者性」について考究する。

【到達目標】
授業では、受講者とソーシャルワークにおける当事者性の基本事項について共有したうえで、関連する知識を学習し、理論的な側面を含め、当事者理解を深めていくことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
講義のテーマと受講生の研究テーマを合わせながら、取り扱うテーマを絞り込み、それに関連する文献を収集し、輪読、議論を行います。フィードバックの方法として、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	テキスト・文献の紹介と講義の進め方
第2回	ソーシャルワークに関する研究動向	論文をとおして学習する
第3回	ソーシャルワークに関する最近の研究動向	最近の論文をとおして学習する
第4回	当事者性とは何か	当事者とは何かを理解する
第5回	セルフヘルプ・グループに関する研究	先行研究のレビュー
第6回	セルフヘルプ・グループに関する最新の研究	近接領域における先行研究のレビュー
第7回	セルフヘルプ・グループに関する文献を用いた検討	先行研究をレビューしながらの討議
第8回	セルフヘルプ・グループに関する解釈	先行研究のレビューと課題の探求
第9回	セルフヘルプ・グループに関する研究課題の検討	課題について、討議を行う
第10回	セルフヘルプ・グループに関する研究課題の設定	先行研究の検討と研究課題設定
第11回	セルフヘルプ・グループに関する研究内容の報告	これまでの議論を踏まえた研究内容の報告
第12回	当事者と専門職者との関係性	援助関係の検討
第13回	当事者と専門職者の関係性とその課題	援助関係とその課題に関する検討を行う
第14回	春学期のまとめと議論	「援助」「支援」についてのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に提示された文献を通読した上で、論点を洗い出しておくこと。また、報告を求める場合は、単なる発表にならないよう、議論をする準備をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
あらかじめ指定しない。授業の中で話し合い、決定する。

【参考書】
・石川到覚・久保紘章（1998）『セルフヘルプ・グループの理論と展開』中央法規
・石川到覚・久保紘章（1998）『セルフヘルプ・グループ活動の実際』中央法規

【成績評価の方法と基準】
・授業内報告　50%
・課題提出　50%　具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の課題や研究の方向性について、積極的にコミュニケーションを図りながら授業を改善していきたい。

【その他の重要事項】
社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、実践と理論の融合について教示していく。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞ソーシャルワーク論、グリーフケア
＜研究テーマ＞ソーシャルワークにおける死別ケア研究、セルフヘルプグループ研究

【Outline (in English)】
【Course outline】This course deals with the basic concepts and principles of social work practices for people with difficulties.
【Learning Objectives】The goal is to understand social work practice theory and ownership
【Learning activities outside of classroom】The standard preparation and review time for this lecture is 4 hours each.
【Grading Criteria /Policy】Grading is based on report (50%) and presentation performance (50 %).

SOW500J3（社会福祉学 / Social Welfare 500）

福祉臨床系特殊講義Ⅰ

宮城　孝

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、地域を基盤としたソーシャルワーク（コミュニティソーシャルワーク）の概念、理論、先進的事例の分析を交えて講義する。また、地域福祉に関するネットワーク、システムについて、地域福祉計画の策定方法を交えて講義する。

【到達目標】
地域を基盤としたソーシャルワークについて、理論的に説明できる
地域福祉のシステムや計画策定の方法について説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
前半では、コミュニティソーシャルワークについての講義と文献解読、先進事例の分析について中心に取り組む。後半では、地域福祉のネットワーク、システム、地域福祉計画の策定方法について、理論や先進事例についての分析に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コミュニティソーシャルワーク	概念と今日的意義
第2回	コミュニティソーシャルワーク	理論
第3回	コミュニティソーシャルワーク（プロセス①）	個別課題アセスメント
第4回	コミュニティソーシャルワーク（プロセス②）	地域アセスメント
第5回	コミュニティソーシャルワーク（プロセス③）	アセスメントの統合
第6回	コミュニティソーシャルワーク（プロセス④）	プランニング
第7回	チームアプローチ	理論と実践
第8回	ネットワーク形成	理論と実践
第9回	地域福祉システム	内容と事例分析
第10回	地域福祉計画①	今日的意義
第11回	地域福祉計画②	ニーズ把握の方法
第12回	地域福祉計画③	課題の明確化
第13回	地域福祉計画④	目標の設定と資源化
第14回	地域福祉計画⑤	関連公共施策との連携

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業までに、先行研究や事例に関するレポートをまとめ報告できるように準備すること。準備・復習時間を４時間以上とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60％）と提出課題の内容（40％）により評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導することとする。

【担当教員の専門分野等】
〔専門領域〕地域福祉方法論
〔主要研究業績〕
・『コミュニティソーシャルワークの新たな展開ー理論と先進事例ー』（編著）中央法規、2019年
・『地域福祉とファンドレイジングー財源確保の理論と先進事例ー』（中央法規）2018年
・『地域福祉とファンドレイジングー財源確保の方法と先進事例－』中央法規,2018年
・『地域福祉とイノベーション』編集代表、中央法規、2017年
・『東日本大震災と地域福祉　－次代への継承を探る－』（共編著）中央法規、2015年
・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）中央法規,2014年
・『ソーシャルワークと社会開発－開発的ソーシャルワークの理論とスキル』（監訳）丸善,2012年
・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房,2010年
・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣.2008年
・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規　2007年
・『新版　地域福祉事典』(編集幹事)日本地域福祉学会,中央法規,2006年
・『イギリスの社会福祉とボランタリーセクター』中央法規,2000年

【Outline (in English)】
In this lecture,it attempts to understand the concept and theory of the community social work. Also, analyze the case of the community social work.
The goals of this course are to understand the concept and theory of the community social work and analyze the case of the community social work.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students'experimental performance in the lab (60%)

SOW500J3（社会福祉学 / Social Welfare 500）

福祉臨床系特殊講義Ⅱ

伊藤　正子

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
移民、エスニックマイノリティの現状と反抑圧的実践を学ぶ。

【到達目標】
カルチュラル・コンピテンスおよび反抑圧的実践の重要概念を説明できる。
マジョリティ側の特権や抑圧について意識し、説明できる。
移民、エスニックマイノリティの生活問題と援助者の役割について議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
この講義では、エスニックマイノリティを中心としつつ、マイノリティとよばれる人びとのおかれた状況とそれに対する社会福祉実践についてアメリカを中心として概観し、その上で近年のマイノリティ援助理論の動向を検討し、その特徴を整理する。対面での開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標
第2回	マイノリティについて	マイノリティとは何かーインターセクショナリティ概念
第3回	マジョリティについて	マジョリティの特権と抑圧
第4回	社会福祉実践におけるマイノリティ①	アメリカにおけるマイノリティ援助の歴史的変遷
第5回	社会福祉実践におけるマイノリティ②	アメリカにおける黒人問題とソーシャルワーク
第6回	社会福祉実践におけるマイノリティ③	日本におけるオールドカマーとニューカマーの生活問題
第7回	マイノリティ援助のソーシャルワーク理論①	ラディカルソーシャルワーク
第8回	マイノリティ援助のソーシャルワーク理論②	エンパワメントアプローチ
第9回	マイノリティ援助のソーシャルワーク理論③	エスニックセンシティブソーシャルワーク
第10回	マイノリティ援助のソーシャルワーク理論④	反抑圧的ソーシャルワーク
第11回	マイノリティ援助のソーシャルワーク理論⑤	カルチュラル・コンピテンス
第12回	マイノリティに関する最近の実践動向①	アメリカの事例
第13回	マイノリティに関する最近の実践動向②	日本の事例
第14回	まとめ	ソーシャルワークにおけるマイノリティ支援の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に紹介した文献・資料などを中心に、該当箇所について復習し、理解を深めておくこと。また、報告を求めることがあるので、報告を担当する際には、入念な準備を行い、プレゼンテーションの予行を終えておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、必要に応じて資料を配布し、後半の文献研究は受講者の関心に沿って文献を選定する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
１．講義内発表と討論参加(50%)
２．課題の提出(50%)

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）があると望ましい。

【その他の重要事項】
医療機関・外国人支援ＮＧＯソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論
＜研究テーマ＞エスニック・マイノリティへのソーシャルワーク、外国人労働者の医療・労働・生活問題

【Outline (in English)】
This course introduces the realities of migrants and ethnic minorities issues in Japan and anti-oppressive practice of social work. At the end of the course, students are expected to enhance their necessary knowledge and critical thinking for understanding the reality of ethnic minorities. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (50%), and in-class contribution(50%).

SOW500J3（社会福祉学 / Social Welfare 500）

福祉臨床系特殊講義Ⅱ

髙良　麻子

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
制度や分野ごとの縦割りによる弊害への対処を目指した、地域共生社会の実現に向けて、包括的な相談支援体制と地域住民による地域課題への対応のための体制構築に必要なソーシャルワークを理解する。

【到達目標】
・地域共生社会とは何かを説明できる。
・ジェネラリスト・ソーシャルワークを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、文献や事例の分析およびディスカッションを通して、様々な視点から地域共生社会の実現に向けたジェネラリスト・ソーシャルワークを理解する。また、授業ごとのリアクションペーパーをもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	地域共生社会と背景	地域共生社会とは
第3回	ジェネラリスト・ソーシャルワーク①	システム理論
第4回	ジェネラリスト・ソーシャルワーク②	生態学理論
第5回	ジェネラリスト・ソーシャルワーク③	ストレングスモデル
第6回	ジェネラリスト・ソーシャルワーク④	エンパワメントアプローチ
第7回	ジェネラリスト・ソーシャルワーク⑤	ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開過程:エンゲージメント、アセスメント、プランニング
第8回	ジェネラリスト・ソーシャルワーク⑥	ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開過程：計画の実施、モニタリング・評価、終結、フォローアップ
第9回	事例分析①	ジェネラリスト・ソーシャルワーク実践事例分析：交互作用に注目して
第10回	事例分析②	ジェネラリスト・ソーシャルワーク実践事例分析：ストレングスに注目して
第11回	事例分析③	ジェネラリスト・ソーシャルワーク実践事例分析：エンパワメントに注目して
第12回	事例分析④	ジェネラリスト・ソーシャルワーク実践事例分析：ミクロ・メゾ・マクロの循環に注目して
第13回	地域ケア会議	地域ケア会議の機能と方法
第14回	総括	振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキスト、参考書、配布資料を活用して、予習および復習をすることで、理解を深めてほしい。また、日頃から地域共生社会等に興味をもち調べることを期待する。本授業の準備・復習時間は、各３時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
日本社会福祉士会編（2018）『地域共生社会に向けたソーシャルワーク－ 社会福祉士による実践事例から－ 』中央法規
髙良麻子・佐々木千里編著（2022）『ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために－ スクールソーシャルワーカーの事例から－ 』かもがわ出版.

【成績評価の方法と基準】
・平常点60%
・レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野】
ソーシャルワーク論
髙良麻子（2017）『日本におけるソーシャルアクションの実践モデル－ 「制度からの排除」への対処 』中央法規.
髙良麻子（2013）「日本の社会福祉士によるソーシャル・アクションの認識と実践」『社会福祉学』53（4）,42-54,日本社会福祉学会.

【Outline (in English)】
This course provides students with opportunities to develop knowledge of theoretical perspective for generalist social work practice.Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW500J3（社会福祉学 / Social Welfare 500）

福祉臨床系特殊講義Ⅱ

佐藤　繭美

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークにおける死別ケアに関する研究を理解する

【到達目標】
本講義では、ソーシャルワークにおける援助関係を理解した上で、人が生きるということの線上にある「死」について、専門職としてのアプローチの仕方について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
死生にかかわるテーマを設定し、受講者の関心と合わせながら、輪読・議論を行っていく。具体的には、担当教員の専門領域やこれまでの研究から導出されたことを明らかにし、本講義の基盤を形成して行く。その上で、受講者の関心に合わせたテーマを定め、関連する文献等を収集し、報告を行っていく。報告された内容・文献について、提起された課題について議論して行く。フィードバックの方法として、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、文献紹介
第2回	ソーシャルワークにおける死別とケアの実際①	死別に関する研究
第3回	ソーシャルワークにおける死別とケアの実際②	悲嘆に関する研究
第4回	ソーシャルワークにおける死別とケアの実際③	グリーフケアに関する研究
第5回	成年後見と尊厳死①	ドイツにおける事前指示書の概要
第6回	成年後見と尊厳死②	事前指示書の法的概要
第7回	意思決定支援と尊厳死①	意思決定支援の方法
第8回	意思決定支援と尊厳死②	意思決定支援の課題
第9回	死生をめぐるソーシャルワーク研究①	文献読み込み
第10回	死生をめぐるソーシャルワーク研究②	課題検討
第11回	死生をめぐるソーシャルワーク研究③	ディスカッション
第12回	死生をめぐるソーシャルワーク研究④	死生をめぐる感情とケア
第13回	死生をめぐるソーシャルワーク研究⑤	専門職の死生観
第14回	研究の動向についてのまとめと議論	秋学期を通して学んだことを議論しまとめとする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に提示された文献を通読した上で、論点を洗い出しておくこと。また、報告を求める場合は、単なる発表にならないよう、議論をする準備をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
あらかじめ指定しない。授業の中で話し合い、決定する。

【参考書】
清水哲郎・島薗進（2010）『ケア従事者のための死生学』

【成績評価の方法と基準】
・授業内報告　50%
・課題提出　50%

【学生の意見等からの気づき】
受講生とコミュニケーションをとることが評価されているので、その点を意識して取り組みたい。

【その他の重要事項】
社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、実践と理論の融合について教示していく。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞ソーシャルワーク論、死別ケア
＜研究テーマ＞
・ソーシャルワークにおける死別ケアとACP
・セルフヘルプ・グループ論（特に自閉症者と家族）
＜主要研究業績＞
①自閉症の人の死別経験とソーシャルワーク.明石書店 2011年
②医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグリーフとその対応：共通性と相違性.ホスピスケアと在宅ケア 25(1)2017.
③アドバンス・ケア・プランニング先進国の状況とわが国における課題.医療ソーシャルワーク 67号.2019

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】This course introduces the bereavement care in social work practices to students taking this course.
【到達目標（Learning Objectives）】The goal is to understand death in social work and acquire approach methods.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】The grades are the content of the presentation（50％） and the term-end examination (50%), and in-class contribution.

SOW500J3（社会福祉学 / Social Welfare 500）

福祉臨床系特殊講義Ⅱ

宮城　孝

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日、また将来の福祉問題に対応する地域を基盤としたソーシャルワーク実践、地域福祉のシステム、計画策定に関して、先行研究や先進事例をとおして検討する。履修希望者の関心領域に応じてテーマを変えることもある。

【到達目標】
地域を基盤としたソーシャルワーク、地域福祉のシステム形成において、理論的、応用的なレベルで説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
先行研究に関する文献のレビューや、先進事例の分析に関してレポートを作成し報告を行う。レポートの報告と個別指導による。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域福祉領域の研究法について	研究テーマに関する研究法の検討
第2回	テーマに関する研究法について	研究テーマに適合した研究法の選択
第3回	レポートによる報告①	研究対象と研究法の検討
第4回	レポートによる報告②	研究法の選択とデータの収集方法
第5回	地域福祉に関する先行研究について	先行研究の検討
第6回	レポートによる報告③	先行研究の選択とその概要
第7回	レポートによる報告④	先行研究のレビューについての検討
第8回	前半のまとめ	まとめと今後の目標
第9回	地域福祉領域の先進事例について	先進事例の分析の視点
第10回	レポートによる報告⑤	先進事例の分析についての検討
第11回	地域福祉領域におけるデータ分析について	データの分析の視点と方法
第12回	レポートによる報告⑥	具体的なデータ分析と検討
第13回	まとめに向けて	中間的なまとめに向けた検討
第14回	レポートによる報告⑦	中間的なまとめの検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けて、課題を課したり、自ら課題を設定し、レポートにまとめて報告できるように準備すること。本授業の準備・復習時間は、各回４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
必要に応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点40％、レポートの提出と報告内容60%により評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導を行う。

【担当教員の専門分野等】
〔専門領域〕地域福祉論
〔主要研究業績〕
・『住民力－超高齢社会における地域のチカラ－』（単著）2021年
・『仮設住宅　その10年　陸前高田における被災者の暮らし－』（共編著）御茶の水書房,2020年
・『コミュニティソーシャルワークの新たな展開－理論と先進事例－』（共編著）中央法規,2019年
・『地域福祉とファンドレイジング－財源確保の方法と先進事例－』（共編著）中央法規,2018年
・『地域福祉のイノベーション－コミュニティの持続可能性の危機に挑む』（編集代表）中央法規、2017年
・『東日本大震災と地域福祉－次代への継承を探る－』（共編著）中央法規、2015年
・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）中央法規,2014年
・『ソーシャルワークと社会開発－開発的ソーシャルワークの理論とスキル－』（監訳）丸善,2012年
・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房,2010年
・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣.2008年
・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規2007年
・『新版　地域福祉事典』(編集幹事)日本地域福祉学会,中央法規,2006年
・『イギリスの社会福祉とボランタリーセクター』中央法規,2000年

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this lecture,it attempts to understand the concept,theory of the community social work,also,it improve to analyze the case of the community social work.
【Learning Objectives】
The goals of this course A and B.
A To understanding about the practical contents and skills of Community
social work.through the case analysis.
B To cultivates practical skills and creativity.basic understanding and
thinking skills of Community Social work.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting,students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Grading will be decided based on Short report(60%),and the quality of the students' experimental performance in the lab(40％）.

ARSk500J3（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 500）

地域・文化系特殊講義Ⅰ

野田　岳仁

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、環境社会学・地域社会学の方法論をもとに、博士後期課程の研究に必要な分析視角の検討や論文執筆の技法をマスターすることを目的とする。

【到達目標】
地域づくり、地域ツーリズム、環境政策に対して、自らの方法論的立場を明確にしたうえで、あるべき方向性や有効性のある政策論を構想する力を養い、学術論文として表現する技法を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では担当教員の専門分野をもとに、受講生の関心に合わせて扱うテーマを設定し、それに関連する文献や論文を収集し輪読・討議を行っていく。受講生の研究報告に対して、問いの設定や先行研究との接続など論文執筆につなげるためのサジェスチョンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生活環境主義の考え方	現場の生活者の暮らしをとらえる視点
第2回	生活環境主義の方法論	方法論的特徴とその有効性
第3回	受講生の問題関心についての発表	受講生の関心をふまえて取り扱うテーマについて検討する
第4回	受講生の問題関心についての討議	受講生の関心をふまえて取り扱う文献について検討する
第5回	社会学における課題論文の輪読	社会学における課題論文について論点整理
第6回	社会学における課題論文の討議	社会学における課題論文について議論
第7回	環境社会学における課題論文の輪読	環境社会学について論点整理
第8回	環境社会学における課題論文の討議	環境社会学における研究の位置史付けの確認
第9回	地域社会学における課題論文の輪読	地域社会学について論点整理
第10回	地域社会学における課題論文の討議	地域社会学における研究の位置史付けの確認
第11回	観光社会学における課題論文の輪読	観光社会学について論点整理
第12回	論文の方法論的立場と構成の検討	研究論文の知見および有効性について検討
第13回	分析視角の設定と論文執筆の技法	本講義の立場からの検討と討議
第14回	まとめ	議論の振り返りと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表に向けて課題論文の読み込みや関連分野の論文にも目を通すなど入念な準備を行う必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義内で適宜紹介したり、必要に応じて配布する。

【参考書】
講義内で適宜紹介したり、必要に応じて配布する。

【成績評価の方法と基準】
討議や発表を含めた平常点（50%）とレジュメやレポートなどの成果物（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】
担当教員は環境保全活動や地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【担当教員の専門分野等】
〔専門領域〕
環境社会学・地域社会学・観光社会学
〔主要業績〕
『井戸端からはじまる地域再生ー暮らしから考える防災と観光』（単著、筑波書房、2023年）
『Everyday Life-Environmetalism: Community Sustainability and Resilience in Asia』（共著書、Routledge、2023年）
『環境社会学の考え方ー暮らしを見つめる12の視点』（共著書、ミネルヴァ書房、2019年）
『生活環境主義のコミュニティ分析ー環境社会学のアプローチ』（共著書、ミネルヴァ書房、2018年）
『原発災害と地元コミュニティー福島県川内村奮闘記』（共著書、東信堂、2018年）
『Rebuilding Fukushima』（共著書、Routledge、2017年）

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems.【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance（Discussion, presentation, and report）(50%).

ARSk500J3（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 500）

地域・文化系特殊講義Ⅰ

水野　雅男

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ「成熟化社会における豊かな地域社会を創造するための景観政策のあり方」
成熟化社会において、生活の豊かさを醸し出すとともに、地域の個性を演出する上で重要な景観政策への取り組みについて、その歴史的な変遷と近年の取り組みについて、国内外を比較しながら検討する。

【到達目標】
豊かさを享受できる地域社会を標榜する上での「景観」の果たす役割を「政策」という観点から理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミ形式で行うので、講義内容は開講時に受講生と話し合い受講生の問題関心などに合わせて、柔軟に対応していく。
毎回の検討課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方とスケジュール
第2回	我が国の風景の変遷①	異邦人がみた風景
第3回	我が国の風景の変遷②	風景の乱れ・歪み
第4回	我が国の風景の変遷③	明治から大正時代の風景論
第5回	我が国の風景の変遷④	風景づくりの作法
第6回	海外の風景づくり①	英国でのユートピア
第7回	海外の風景づくり②	西欧でのアメニティ論
第8回	海外の風景づくり③	イタリアの小都市
第9回	海外の風景づくり④	イタリアの農山村
第10回	海外の風景づくり⑤	イタリアの景観政策
第11回	生活景①	中心市街地と郊外住宅地
第12回	生活景②	景観を育む取り組み　金沢大野
第13回	生活景③	景観を育む取り組み　伊勢河崎
第14回	生活景④	生活景と都市計画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前にテーマに関連する資料に目を通し、明確な問題意識を持って参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
「都市をつくる風景」中村良夫、藤原書店、2010年
「イタリア小さなまちの底力」陣内秀信、講談社、2000年
「生活景」日本建築学会編、学芸出版社、2009年

【参考書】
必要に応じて、適宜資料として配付する。

【成績評価の方法と基準】
討論への参加（50％）とレポート（50％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを活用して、課題などを提示する。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに30年間関わった中で、町家再生活用や震災復興住宅再建に関する市民活動を企画運営してきた経験を中心に授業で紹介する。

【担当教員の専門分野等】
都市住宅政策論・地域経営論・市民活動運営論

【主要研究業績】
「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集Vol.51、2016年
「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」日本建築学会論文集第707号、2015年
『地方都市の再生戦略』（共著）学芸出版社、2013年
『生活景』（共著）学芸出版社、2009年

【Outline (in English)】
< Course outline>
The aim of this course is to help students acquire that the historical transition and recent efforts of landscape policy, which is important for creating affluence of life and directing the individuality of the region, while comparing domestic and overseas.
< Learning Objectives>
By the end of the course, students should be able to do the followings:understanding the role of "landscape" in advocating a community that can enjoy affluence from the perspective of "policy"
< Learning activities outside of classroom>
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy>
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 50%, in class contribution: 50%

ARSk500J3（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 500）

地域・文化系特殊講義Ⅱ

野田　岳仁

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、環境社会学・地域社会学の方法論をもとに、博士後期課程の研究に必要な分析視角の検討や論文執筆の技法をマスターすることを目的とする。

【到達目標】
「地域・文化系特殊講義Ⅰ」をさらに発展させ、地域政策全般に対して、現場の人びとの立場から有効性のある政策論を構想する力を養い、水準の高い学術論文として表現する技法を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では担当教員の専門分野をもとに、受講生の関心に合わせて扱うテーマを設定し、それに関連する文献や論文を収集し輪読・討議を行っていく。受講生の研究報告に対して、問いの設定や先行研究との接続など論文執筆につなげるためのサジェスチョンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生活論という方法	生活論の系譜とその発展
第2回	生活論からみた現代社会	生活論の有効性
第3回	受講生の問題関心についての発表	受講生の関心をふまえて取り扱うテーマについて検討する
第4回	受講生の問題関心についての討議	受講生の関心をふまえて取り扱う文献について検討する
第5回	社会学における課題論文の輪読	社会学における課題論文について論点整理
第6回	社会学における課題論文の討議	社会学における研究の位置付けの確認
第7回	民俗学分野における課題論文の輪読	民俗学における課題論文について論点整理
第8回	民俗学における課題論文の討議	民俗学における研究の位置付けの確認
第9回	文化人類学における研究論文の輪読	文化人類学における課題論文について論点整理
第10回	文化人類学における研究論文の討議	文化人類学における研究の位置付けの確認
第11回	観光学における研究論文の輪読	観光学における課題論文について論点整理
第12回	観光学における研究論文の討議	観光学における研究の位置付けの確認
第13回	生活論からみた地域政策	地域政策の課題と展望
第14回	まとめ	議論の振り返りと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表に向けて課題論文の読み込みや関連分野の論文にも目を通すなど入念な準備を行う必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義内で適宜紹介したり、必要に応じて配布する。

【参考書】
講義内で適宜紹介したり、必要に応じて配布する。

【成績評価の方法と基準】
討議や発表を含めた平常点（50%）とレジュメやレポートなどの成果物（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】
担当教員は環境保全活動や地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【担当教員の専門分野等】
〔専門領域〕
環境社会学・地域社会学・観光社会学
〔主要業績〕
『井戸端からはじまる地域再生ー暮らしから考える防災と観光』（単著、筑波書房、2023年）
『Everyday Life-Environmetalism: Community Sustainability and Resilience in Asia』（共著書、Routledge、2023年）
『環境社会学の考え方ー暮らしを見つめる12の視点』（共著書、ミネルヴァ書房、2019年）
『生活環境主義のコミュニティ分析ー環境社会学のアプローチ』（共著書、ミネルヴァ書房、2018年）
『原発災害と地元コミュニティー福島県川内村奮闘記』（共著書、東信堂、2018年）
『Rebuilding Fukushima』（共著書、Routledge、2017年）

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems.【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance（Discussion, presentation, and report）(50%).

ARSk500J3（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 500）

地域・文化系特殊講義Ⅱ

水野　雅男

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ「成熟化社会における文化多様性を享受できる創造都市」
経済効率を追い求めた20世紀を経て、21世紀は個々の多様性を尊重し、文化が生み出す新しい価値を求める「創造都市」を世界各都市が標榜している。創造都市とはどういうものか、その経済的な側面も考察しながら、取り組まれている政策について国内外を比較しながら検討する。

【到達目標】
21世紀の新しい都市の在り方としての「創造都市」の果たす役割を「政策」という観点から理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミ形式で行うので、講義内容は開講時に受講生と話し合い受講生の問題関心などに合わせて、柔軟に対応していく。
毎回の検討課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方とスケジュール
第2回	創造都市の文化戦略①	文化多様性と社会包摂に向かう創造都市
第3回	創造都市の文化戦略②	都市の創造的縮小の時代
第4回	創造都市の文化戦略③	創造都市の文化ブランド戦略
第5回	創造都市の文化戦略④	アジアの創造産業と都市政策
第6回	創造都市への戦略①	アートによるイノベーション
第7回	創造都市への戦略②	都市のアイデンティティ創出、創造的産業創生
第8回	創造都市への戦略③	文化の空間戦略と都市計画
第9回	創造都市への戦略④	国内の創造都市の事例
第10回	創造都市への戦略⑤	海外の創造都市の事例
第11回	創造都市と観光振興①	地方都市の観光振興
第12回	創造都市と観光振興②	観光客を惹きつける街
第13回	創造都市と観光振興③	景観まちづくりと交通政策
第14回	創造都市と観光振興④	創造都市と雇用創出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前にテーマに関連する資料に目を通し、明確な問題意識を持って参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
「創造都市と社会包摂」佐々木雅幸・水内俊雄編、水曜社、2009年
「創造性が都市を変える」横浜市・鈴木伸治編、学芸出版社、2010年
「創造都市のための観光振興」宗田好史、学芸出版社、2009年

【参考書】
必要に応じて、適宜資料として配付する。

【成績評価の方法と基準】
討論への参加（50％）とレポート（50％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを活用して、課題などを提示する。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに30年間関わった中で、創造都市構築に関する市民活動を企画運営してきた経験を中心に授業で紹介する。

【担当教員の専門分野等】
都市住宅政策論・地域経営論・市民活動運営論

【主要研究業績】
「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集Vol.51、2016年
「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」日本建築学会論文集第707号、2015年
『地方都市の再生戦略』（共著）学芸出版社、2013年
『生活景』（共著）学芸出版社、2009年

【Outline (in English)】
< Course outline>
The aim of this course is to help students acquire that comparing domestic and overseas policies being undertaken, considering what a creative city is and its economic aspects.
< Learning Objectives>
By the end of the course, students should be able to do the followings:
Understanding the role of a "creative city" as a new city in the 21st century from the perspective of "policy"
< Learning activities outside of classroom>
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy>
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 50%, in class contribution: 50%

PSY500J3（心理学 / Psychology 500）

臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅰ

小林　由佳

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
働く人の健康に対する心理的アプローチについて、個人と組織の両面から、関係する諸理論や技法の理解を深めます。

【到達目標】
産業・労働分野における心理臨床活動の根拠となる諸理論を理解し、自身の研究に活かすことが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
産業・労働分野の心理学研究に関する最新の論文等を講読することを通して、知識を深めていきます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容と進め方の提示
第2回	職業性ストレス理論1	主要な職業性ストレス理論の変遷についての講義
第3回	職業性ストレス理論2	最新の職業性ストレス理論についての講義
第4回	ポジティブ心理学1	ポジティブ心理学の発展の歴史と主要理論についての講義
第5回	ポジティブ心理学2	最新のポジティブ心理学の知見についての講義
第6回	キャリア理論1	キャリア理論の発展の歴史と主要理論についての講義
第7回	キャリア理論2	最新のキャリア理論についての講義
第8回	組織開発の理論と実践1	組織開発の背景理論ににいての講義
第9回	組織開発の理論と実践2	組織開発の実践モデルについての講義
第10回	組織開発の理論と実践3	組織開発の効果についての講義
第11回	労働法と心理学1	労働法とその背景についての講義
第12回	労働法と心理学2	労働法の発展と心理学に関する講義
第13回	職場のメンタルヘルス	働く人のメンタルヘルスを向上させるための介入効果に関する講義
第14回	まとめ	春学期の学びの振り返りと今後の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前に指定された文献を読み、疑問点などを整理しておくことが求められます。授業の後は、授業の内容を振り返り、興味を持ったことや新たに生じた疑問点について調べることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
「産業心理職のコンピテンシー　その習得、高め方の実践的・専門的方法」種市康太郎・小林由佳・島津美由紀・高原龍二編著（川島書店, 2023）

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）とディスカッションの内容（50%）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
使用しません。

【その他の重要事項】
履修者の関心に応じて内容を若干変更することがあります。

【担当教員の専門領域】
< 専門領域>
職場のメンタルヘルス、産業組織心理学、認知行動療法
< 研究テーマ>
働く人のウェルビーイングと心理社会的アプローチ
< 主要研究業績>
1)Servant Leadership in Japan: A Validation Study of the Japanese Version of the Servant Leadership Survey (SLS-J). Frontiers in Psychology. 11:1711.2020.
2)産業領域で心理専門職に求められるコンピテンシーの抽出と難易度の推 定:デルファイ法による検討. 産業ストレス研究. 27(2):263-271. 2020.
3)What Kind of Intervention Is Effective for Improving Subjective Well-Being Among Workers? A Systematic Review and Meta-Analysis of Randomized Controlled Trials. Frontiers in Psychology. 11:528656. 2020.

【Outline (in English)】
This course aims to deepen understanding of psychological approaches to the health of workers, exploring theories and techniques relevant to both individual and organizational aspects.

PSY500J3（心理学 / Psychology 500）

臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅰ

末武　康弘

配当年次／単位数：1〜3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理療法の理論、とくにクライアント中心療法（パーソンセンタードセラピー）、体験的心理療法、フォーカシング指向心理療法に関する理論を原著や論文等で学びます。

【到達目標】
心理療法の理論、とくにクライアント中心療法（パーソンセンタードセラピー）、体験的心理療法、フォーカシング指向心理療法に関する理論を専門的に理解することが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
心理療法の理論、とくにクライアント中心療法（パーソンセンタードセラピー）、体験的心理療法、フォーカシング指向心理療法に関する理論を原著や論文を受講者の要望をとり入れながら検討します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	心理療法概説	主要な心理療法の歴史や理論について概説します
第2回	心理療法におけるクライアント中心療法の位置づけ	心理療法の分野全体におけるクライアント中心療法の位置づけを考察します
第3回	クライアント中心療法の歴史	クライアント中心療法の歴史を考察します
第4回	クライアント中心療法の理論①	クライアント中心療法のパーソナリティ理論を考察します
第5回	クライアント中心療法の理論②	クライアント中心療法のセラピー理論を考察します
第6回	体験過程と体験的心理療法①	体験過程の理論を考察します
第7回	体験過程と体験的心理療法②	体験的心理療法の理論を考察します
第8回	フォーカシングとFOT①	フォーカシングとについて考察します
第9回	フォーカシングとFOT②	フォーカシングの実際を体験し、議論します
第10回	フォーカシングとFOT③	フォーカシング指向心理療法について考察します
第11回	困難ケースとクライアント中心療法	対応が困難ケースへのクライアント中心療法の適用について考察します
第12回	プリセラピー	困難ケースへの対応方法としてのプリセラピーについて考察します
第13回	パーソンセンタードセラピー①	パーソンセンタードセラピーの展開について考察します
第14回	パーソンセンタードセラピー②	パーソンセンタードセラピーの各種の方法について考察します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連する文献（英語文献を含む）を読んで分析し、自分の臨床的見解と照らし合わせる作業が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
発表（50％）、ディスカッションへの参加（50％）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
前年度はアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
おもに思春期〜老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、具体的に講義します。

【その他の重要事項】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞　臨床心理学、カウンセリング・心理療法
＜研究テーマ＞　パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究
＜主要研究業績＞
① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Experiential Psychotherapies, 9(2), 2010)
②『ロジャーズ主要著作集1〜3』（共訳、岩崎学術出版社、2005年)
③『プロセスモデル―暗在性の哲学』（共訳、みすず書房、2023年）

【Outline (in English)】
You learn theories and methods of person-centered therapy, experiential therapy and focusing-oriented therapy.
The goals of this course are to understand theories and methods of person-centered therapy, experiential therapy and focusing-oriented therapy.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on presentation (50%), and in-class contribution (50%)

PSY500J3（心理学 / Psychology 500）

臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅰ

丹羽　郁夫

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理的地域援助（コミュニティ心理学）に関する重要かつ先端的な研究面の動向を知ること。

【到達目標】
臨床心理的地域援助（コミュニティ心理学）に関する重要かつ先端的な研究面の動向について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
上記の目標に到達するため、コミュニティ心理学の研究面における重要なテーマに関して最新の研究動向も踏まえて講義を行う。課題などのフィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義内容と進め方の説明をする。
第2回	コミュニティ心理学全般の動向	コミュニティ心理学全般の研究動向について講義する。
第3回	生態学的アプローチ	生態学の視点とそれに基づいたアプローチを講義する。
第4回	心理学ストレス①	心理学ストレス研究の歴史と基礎を講義する。
第5回	心理学ストレス②	心理学ストレスに関する最新の実証研究を講義する。
第6回	コーピング①	コーピング研究の歴史と基礎を講義する。
第7回	コーピング②	コーピングに関する最新の実証研究を講義する。
第8回	ソーシャルサポート①	ソーシャルサポート研究の歴史と基礎を講義する。
第9回	ソーシャルサポート②	ソーシャルサポートに関する最新の実証研究を紹介する。
第10回	予防①	予防研究に関する歴史と基礎を講義する。
第11回	予防②	予防に関する最新の実証研究を講義する。
第12回	コミュニティ感覚	コミュニティ感覚研究の歴史・基礎・近年の動向について講義する。
第13回	エンパワーメント	エンパワーメント研究の歴史・基礎・近年の動向について講義する。
第14回	コラボレーション	コラボレーション研究の歴史・基礎・近年の動向について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前にテキストを読み、疑問点などを整理しておくことが求められます。授業の後は、授業の内容を振り返り、興味を持ったことや新たに生じた疑問点について調べることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『コミュニティ心理学ハンドブック』（日本コミュニティ心理学会編　東京大学出版会　2007年　12,960円）

【参考書】
テーマに応じて適切な参考図書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組み(100%)。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートを実施しておりません。

【学生が準備すべき機器他】
使用しない。

【その他の重要事項】
履修者の関心に応じて内容を若干変更することがある。

【担当教員の専門領域】
臨床心理学（子どもの心理療法、D.W.ウィニコット、移行対象など）とコミュニティ心理学（コンサルテーション、ストレス、ソーシャルサポートなど）
＜主要研究業績＞
『コンサルテーションとコラボレーション』（共編著、金子書房、2022年）
『ジェラルド・キャプランのメンタルヘルスコンサルテーションの概観』（単著、コミュニティ心理学研究18(2)、2015年）
『コミュニティ心理学ハンドブック』（共著、東京大学出版社、2007年）
『中国帰国者におけるソーシャル・サポート利用の精神健康への影響』（共著、コミュニティ心理学研究）2(2)、1999年）

【Outline (in English)】
Course outline
Students acquire knowledge of important and cutting-edge research trends in clinical psychological community support (community psychology).
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to explain the trend of the important and advanced study on clinical psychological local support (community psychology) side.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies
Final grade will be decided based on the in-class contribution(100%).

PSY500J3（心理学 / Psychology 500）

臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅱ

小林　由佳

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
働く人の健康に対する心理的アプローチについて、個人と組織の両面から、関係する諸理論や技法の理解を深めます。

【到達目標】
産業・労働分野における心理臨床活動の実践に関わる技法と活動の効果を理解し、自身の研究に活かすことが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
産業・労働分野の心理学研究に関する最新の論文等を講読することを通して、知識を深めていきます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容と進め方の提示
第2回	産業カウンセリング	職域で活用されるカウンセリング技法と理論についての講義
第3回	認知行動療法１	第三世代認知行動療法の技法と理論についての講義
第4回	認知行動療法２	認知行動療法の職域での活用についての講義
第5回	個別介入の効果	職域での個別介入の効果評価研究についての講義
第6回	ケースマネジメント	ケースマネジメントの実際と効果についての講義
第7回	コンサルテーション	コンサルテーションの有効性と実際についての講義
第8回	コンフリクトマネジメント	コンフリクトマネジメントが求められる場面と有効な対応についての講義
第9回	惨事ケア	惨事における個人、集団への有効な介入に関する講義
第10回	ファシリテーション	ファシリテーションの有効な方法についての講義
第11回	職場環境改善	職場環境改善の有効な方法についての講義
第12回	調査・分析と提案	職域における各種調査結果の分析とより良い提案に関する講義
第13回	組織介入の効果	職域での組織介入の効果評価研究についての講義
第14回	まとめ	これまでの学びの振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前に指定された文献を読み、疑問点などを整理しておく必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
「産業心理職のコンピテンシー　その習得、高め方の実践的・専門的方法」種市康太郎・小林由佳・島津美由紀・高原龍二編著（川島書店, 2023）

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）とディスカッションの内容（５０%）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域>
職場のメンタルヘルス、産業組織心理学、認知行動療法
< 研究テーマ>
働く人のウェルビーイングと心理社会的アプローチ
< 主要研究業績>
1)Servant Leadership in Japan: A Validation Study of the Japanese Version of the Servant Leadership Survey (SLS-J). Frontiers in Psychology. 11:1711.2020.
2)産業領域で心理専門職に求められるコンピテンシーの抽出と難易度の推 定:デルファイ法による検討. 産業ストレス研究. 27(2):263-271. 2020.
3)What Kind of Intervention Is Effective for Improving Subjective Well-Being Among Workers? A Systematic Review and Meta-Analysis of Randomized Controlled Trials. Frontiers in Psychology. 11:528656. 2020.

【Outline (in English)】
This course aims to deepen understanding of psychological approaches to the health of workers, exploring theories and techniques relevant to both individual and organizational aspects.

PSY500J3（心理学 / Psychology 500）

臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅱ

末武　康弘

配当年次／単位数：1〜3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理療法、とくにクライアント中心療法（パーソンセンタードセラピー）やフォーカシング指向心理療法の哲学的な基盤を検討します。

【到達目標】
心理療法、とくにクライアント中心療法（パーソンセンタードセラピー）やフォーカシング指向心理療法の哲学的な基盤を専門的に理解することが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
主にジェンドリンの『パターンを超えて思考する（Thinking beyond patterns）』の講読を通して、クライアント中心療法やフォーカシング指向心理療法の哲学的な基盤を探求します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	概説	パーソンセンタードセラピーやフォーカシング指向心理療法の哲学的な基盤を概説します。
第2回	Thinking beyond patterns の背景	ジェンドリンのThinking beyond patternsの背景を考察します。
第3回	Thinking beyond patterns 講読①	Thinking beyond patterns, ChapterA-1を検討します。
第4回	Thinking beyond patterns 購読②	Thinking beyond patterns, ChapterA-2を検討します。
第5回	Thinking beyond patterns 購読③	Thinking beyond patterns, ChapterA-3を検討します。
第6回	Thinking beyond patterns 講読④	Thinking beyond patterns, ChapterA-4を検討します。
第7回	Thinking beyond patterns 講読⑤	Thinking beyond patterns, ChapterA-5を検討します。
第8回	Thinking beyond patterns 講読⑥	Thinking beyond patterns, ChapterB-1を検討します。
第9回	Thinking beyond patterns 講読⑦	Thinking beyond patterns, ChapterB-2を検討します。
第10回	Thinking beyond patterns 講読⑧	Thinking beyond patterns, ChapterB-3を検討します。
第11回	Thinking beyond patterns 講読⑨	Thinking beyond patterns, ChapterB-4を検討します。
第12回	Thinking beyond patterns 講読⑩	Thinking beyond patterns, ChapterB-5を検討します。
第13回	Thinking beyond patterns 講読⑪	Thinking beyond patterns, ChapterB-6を検討します。
第14回	まとめ	まとめとふりかえりを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストThinking beyond patterns および、関連文献（英語文献を含む）の読解と分析が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Gendlin, E. T. (1991) Thinking beyond patterns. New York: The Focusing Institute.　http://www.focusing.org/gendlin/docs/gol_2159.html

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
発表（50％）、ディスカッションへの参加（50％）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
前年度はアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
おもに思春期〜老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、具体的に講義します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞　臨床心理学、カウンセリング・心理療法
＜研究テーマ＞　パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究
＜主要研究業績＞
① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Experiential Psychotherapies, 9(2), 2010)
②『ロジャーズ主要著作集1〜3』（共訳、岩崎学術出版社、2005年）
③『プロセスモデル―暗在性の哲学』（共訳、みすず書房、2023年）

【Outline (in English)】
You learn the philosophical bases on person-centered/focusing-oriented therapy.
The goals of this course are to understand the philosophical bases on person-centered/focusing-oriented therapy.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on presentation (50%), and in-class contribution (50%)

PSY500J3（心理学 / Psychology 500）

臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅱ

丹羽　郁夫

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理的地域援助（コミュニティ心理学）の領域における重要かつ先端的な研究の応用(実践)。

【到達目標】
臨床心理的地域援助（コミュニティ心理学）の領域における重要かつ先端的な研究の応用(実践)面に関する動向について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
上記の目標に到達するため、コミュニティ心理学の領域における実践面に関する重要なテーマについて講義する。課題などのフィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の内容と進め方の説明
第2回	コミュニティアプローチ全般	コミュニティアプローチ全般
第3回	予防プログラム①	一次予防プログラムの理論と実際
第4回	予防プログラム②	二次予防プログラムと三次予防プログラムの理論と実際
第5回	危機介入①	危機理論の理論
第6回	危機介入②	危機介入の実際
第7回	コンサルテーション①	コンサルテーションの理論
第8回	コンサルテーション②	コンサルテーションの実際
第9回	ソーシャルサポート介入①	ソーシャルサポート介入の理論
第10回	ソーシャルサポート介入②	ソーシャルサポート介入の実際
第11回	セルフヘルプグループ①	セルフヘルプグループの基礎
第12回	セルフヘルプグループ②	セルフヘルプグループの実際
第13回	エンパワーメント	エンパワーメント理論と実際
第14回	市民参加	市民参加による社会変革などの実際

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前にテキストを読み、疑問点などを整理しておくことが求められます。授業の後は、授業の内容を振り返り、興味を持ったことや新たに生じた疑問点について調べることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『コミュニティ心理学ハンドバック』（コミュニティ心理学会編　東京大学出版会　2007年　12,960円）

【参考書】
テーマに応じて適切な参考図書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組み（100%)。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートを実施しておりません。

【その他の重要事項】
履修者の関心に応じて内容を若干変更することがある。

【担当教員の専門領域】
臨床心理学（子どもの心理療法、D.W.ウィニコット、移行対象など）とコミュニティ心理学（コンサルテーション、ストレス、ソーシャルサポートなど）
＜主要研究業績＞
『コンサルテーションとコラボレーション』(共編著、金子書房、2022年)
『ジェラルド・キャプランのメンタルヘルスコンサルテーションの概観』（単著、コミュニティ心理学研究18(2)、2015年）
『コミュニティ心理学ハンドブック』(共著、東京大学出版社、2007年)
『中国帰国者におけるソーシャル・サポート利用の精神健康への影響』（共著、コミュニティ心理学研究）2(2)、1999年）

【Outline (in English)】
Course outline
Application of important and advanced research in the field of clinical psychological regional aid (community psychology) (practice).
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to explain the trend about the applied (practice) aspect of the important and advanced study in the domain of the clinical psychological local support (community psychology).do the followings:
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies
Final grade will be decides based on the in-class contribution(100%).

PSY500J3（心理学 / Psychology 500）

臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅰ

久保田　幹子

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義を通して、精神医学、精神病理学、精神療法等に関する重要かつ先端的な研究動向について学習します。

【到達目標】
精神医学、精神病理学、精神療法等の基本的知識を備えるとともに、最近の研究動向を調査し、理解することが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理学における基礎的研究および学術領域としての精神医学、精神病理学、精神療法等に関する重要かつ先端的な研究動向について講義します。特に、不安障害に対する理解と援助を中心として、講義を行う予定です。精神療法としては、森田療法を軸に扱っていきます。
なお、課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。
また各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション
第2回	不安障害における最近の研究動向	最近の論文を通して学習する。
第3回	不安障害について	不安障害について具体的に理解する。
第4回	不安障害のアセスメント	不安障害のアセスメントについて理解する。
第5回	不安障害とその背後にある心理的問題	不安障害の背後にある心理的問題（個人、家族）について文献調査を行う。
第6回	不安障害に対する精神療法	最近の不安障害に対する精神療法について文献調査を行う。
第7回	不安障害に対する森田療法	森田療法の有効性について文献調査を行う。
第8回	不安障害に関する最近の研究動向1	不安障害に関する最近の研究について文献調査を行う①
第9回	不安障害に関する最近の研究動向2	不安障害に関する最近の研究について文献調査を行う②
第10回	不安障害に関する最近の研究動向3	不安障害に関する最近の研究について文献調査を行う③
第11回	不安障害に関する最近の研究動向4	不安障害に関する最近の研究について文献調査を行う④
第12回	不安障害に関する最近の研究動向5	不安障害に関する最近の研究について文献調査を行う⑤
第13回	不安障害に関する最近の研究動向6	不安障害に関する最近の研究について文献調査を行う⑥
第14回	不安障害に関する最近の研究動向7	不安障害に関する最近の研究について文献調査を行う⑦

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
精神医学、精神病理学、精神療法について積極的に文献を読み、幅広く知識を得るように努力すること。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定テキストはありませんが、参考文献を適宜お知らせします。

【参考書】
参考文献を適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60％）　ディスカッション等への積極的な参加（40％）

【学生の意見等からの気づき】
これまでの研究の流れを基盤として、新たな疑問や関心を個々の研究につなげられるように指導したい。

【その他の重要事項】
医療現場における臨床の実務経験があります。臨床経験を通して、皆さんの研究に関する問題提議・論文構想に関してアドバイスを行っていきます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
森田療法、比較心理療法、心理検査法
＜研究テーマ＞
女性の心理的危機、強迫性障害に対する森田療法、比較心理療法など
＜主要研究業績＞
1）『森田療法で読む強迫性障害』（共著書・編者．東京,白揚社,2015年3月）
2）『女性はなぜ生きづらいのか』（共著書,東京,白揚社,2018年8月）
3）久保田幹子：対人恐怖の森田療法．こころの科学, 2009;147:72-78
4）久保田幹子：森田療法における受容．精神療法, 2013;39(6):12-17

【Outline (in English)】
Latest and important developments in the study of psychiatry, psychopathology, and psychotherapy.
The goals of this course are to provide basic knowledge of psychiatry, psychopathology and psychotherapy, and to provide an understanding of recent research.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (60%) and report and discussion (40%).

PSY500J3（心理学 / Psychology 500）

臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅰ

関谷　秀子

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、乳児期から幼児期、児童期、思春期青年期そして初期成人期に至る精神分析的発達論の基礎を形成するところにある。

【到達目標】
情緒発達の詳細をライフサイクル全体に渡って理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書または論文をあらかじめ指定する。発表の分担を定めてレジメを作成、30分で要点を発表する。発表者だけでなく、参加者すべてが熟読の上授業に参加する。そして残りの60分はディスカッションに用いる。課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	妊娠中	妊娠中の胎児への幻想
第2回	乳児期	乳児期の発達と母親の幻想、愛着
第3回	幼児期前期①	母子の分離と幼児の個体化
第4回	幼児期前期②	自律性の発生と個体化、自己保存
第5回	幼児期後期①	エディプスコンプレクス
第6回	幼児期後期②	男児の去勢不安
第7回	幼児期後期③	女児の分離不安
第8回	児童期（潜伏期）	超自我の内在化、対象関係の拡大、昇華チャンネルの発生と拡大
第9回	思春期①	前、初期、中期（固有の）、後期思春期、思春期後
第10回	思春期②	親表象からの脱備給と自我理想の改訂、禁止系超自我の緩和、対象関係の拡大
第11回	青年期①	アイデンティティの確立
第12回	青年期②	サイコソーシャル・モラトリアム、孤独感の男女差と種の保存
第13回	青年期③	対象の発見と再発見
第14回	初期成人期	性器統裁とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
フロイト著作集に親しむこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
精神分析的発達論の統合①　P.タイソン/R・Lタイソン（馬場禮子監訳）岩崎学術出版社

【参考書】
子どもの心理療法　モートン・チェシック（斉藤久美子ほか訳）創元社

【成績評価の方法と基準】
平常点(60%)、発表(40%)に基づいて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度には担当していなかったため、授業アンケートを実施していない。

【担当教員の専門分野】
精神分析学、児童青年精神医学、精神分析的発達研究

【Outline (in English)】
We will learn the basics of psychoanalytic development through the period of infantile, childhood, adolescence, and early adulthood. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process ： In-class contribution (60%), presentation about the thesis(40%).

PSY500J3（心理学 / Psychology 500）

臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅱ

久保田　幹子

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
特殊講義Ⅰで学習した内容を基盤として、精神医学、精神病理学、精神療法等に関する重要かつ先端的な研究動向について、さらに学習を進めます。

【到達目標】
精神医学、精神病理学、精神療法等に関する重要な先行研究の概要を理解するとともに、最近の研究動向の概要についても理解することが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理学における基礎的研究および学際領域としての精神医学、精神病理学、精神療法等に関する重要かつ先端的な研究動向について講義します。特に、不安障害や森田療法に関する最新の研究動向について、文献講読とディスカッションを通して学習を深めます。
なお、課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。
また各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション
第2回	国内外における研究動向について	文献調査を元に理解を深める。
第3回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向1	先行研究の調査、文献研究①
第4回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向2	先行研究の調査、文献研究②
第5回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向3	先行研究の調査、文献研究③
第6回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向4	先行研究の調査、文献研究④
第7回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向5	先行研究の調査、文献研究⑤
第8回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向6	先行研究の調査、文献研究⑥
第9回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向7	先行研究の調査、文献研究⑦
第10回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向8	先行研究の調査、文献研究⑧
第11回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向9	先行研究の調査、文献研究⑨
第12回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動10	先行研究の調査、文献研究⑩
第13回	研究動向のまとめ1	最近の研究概要を理解し、今後必要な研究テーマを探る①
第14回	研究動向のまとめ2	最近の研究概要を理解し、今後必要な研究テーマを探る②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
国内のみならず、海外の研究を理解するために、先行研究を主体的に探り、その内容を学習すること。独創的な研究テーマを探るために、幅広く知識を得ること。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
参考文献を適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60％）、ディスカッション等への積極的な参加（40％）

【学生の意見等からの気づき】
先行研究の学習や先端の研究動向の調査を基盤に、さらに個々の関心や疑問を掘り下げ、研究につなげられるように指導したい。

【その他の重要事項】
医療現場における臨床の実務経験があります。臨床経験を通して、皆さんの研究に関する問題提議・論文構想に関してアドバイスを行っていきます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
森田療法、比較心理療法、心理検査法
＜研究テーマ＞
女性の心理的危機、強迫性障害に対する森田療法、比較心理療法など
＜主要研究業績＞
1）『森田療法で読む強迫性障害』（共著書・編者．東京,白揚社,2015年3月）
2）『女性はなぜ生きづらいのか』（共著書,東京,白揚社,2018年8月）
3）久保田幹子：対人恐怖の森田療法．こころの科学, 2009;147:72-78
4）久保田幹子：森田療法における受容．精神療法, 2013;39(6):12-17

【Outline (in English)】
Latest and important developments in the study of psychiatry, psychopathology, psychotherapy based on a foundation built in Special Lecture Ⅰ.
The goals of this course are to provide an overview of important previous research in psychiatry, psychopathology and psychotherapy, and to provide an overview of recent research trends.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (60%) and report and discussion (40%).

PSY500J3（心理学 / Psychology 500）

臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅱ

関谷　秀子

配当年次／単位数：1～3年次／2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
乳幼児期から初期成人期に至る発達の内的過程とそれに影響する環境要因との関係を理解して、力動的心理療法の基礎知識を得る。

【到達目標】
情緒発達とそれに影響する環境要因との関係の詳細をライフサイクル全体に渡って理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書を用いる。発表の分担を定めてレジメを作成、30分で要点を発表する。発表者だけでなく、参加者すべてが熟読の上授業に参加する。そして残りの60分はディスカッションに用いる。それぞれの課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	口唇期①	口唇期の欲動と対象、目的
第2回	口唇期②	口唇期の防衛、すなわち、現実歪曲、否認、投影、投影性同一視
第3回	口唇期③	欲求充足水準の対象関係
第4回	肛門期①	欲動満足か母親の愛情か→自律性の発生
第5回	肛門期②	反動形成、理性化、合理化、隔離、取り消しやり直し
第6回	肛門期③	肛門期の対象関係
第7回	幼児性器期①	幼児性器期の対象は全体対象である。幼児期対象の性愛化と同性の親との葛藤
第8回	幼児性器期②	男児の去勢不安と女児の分離不安
第9回	幼児性器期③	性別同一性の確立と両親の役割
第10回	潜伏期	超自我の内在化と自我の発達
第11回	思春期	親表象からの脱備給、同性仲間による集団形成と禁止系超自我の緩和・自我理想の改訂
第12回	不安の増大と退行	欲動退行と自我退行
第13回	神経症病理	精神神経症と退行
第14回	パーソナリティ病理	自我親和的な防衛配置（パーソナリティ形成）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
フロイト著作集に親しむこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
精神分析的発達論の統合②　P.タイソン/R・Lタイソン（皆川邦直　監訳）岩崎学術出版社

【参考書】
子どもの心理療法　モートン・チェシック（斉藤久美子ほか訳）創元社

【成績評価の方法と基準】
平常点(60%)、発表(40%)に基づいて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度には担当していなかったため、授業アンケートを実施していない。

【担当教員の専門分野】
精神分析学、児童青年精神医学、精神分析的発達研究

【Outline (in English)】
We will learn the way environmental factors influence the process of internal development from infancy to early adulthood and acquire basic knowledge of psychodynamic psychotherapy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.　Final grade will be calculated according to the following process ： In-class contribution (60%), presentation about the thesis(40%).

SOW700J3（社会福祉学 / Social Welfare 700）

人間福祉特別演習Ⅰ

伊藤　正子

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士学位論文の作成に向けて、論文構想を固めることを目的とする。

【到達目標】
テーマにそって必要な先行研究のレビュー、研究方法を確定し、研究計画書を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」とに関連

【授業の進め方と方法】
まず、各自の研究関心を明確することから始め、次に、先行研究のレビューを隣接領域も含めて丁寧に行う。さらに、春学期中に研究課題を絞り込み、秋学期に入ってからは、研究目的を明確化するとともに、研究構想の基盤を作り上げ、研究計画書の作成に取りかかる。対面式での開講。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期目標の明確化
第2回	研究関心の明確化①	研究関心の列挙
第3回	研究関心の明確化②	研究関心のグループ化
第4回	研究関心の明確化③	グループ化された関心への命名
第5回	研究関心の明確化④	各関心におけるキーワードの抽出
第6回	先行研究のレビュー①	隣接領域の文献研究
第7回	先行研究のレビュー②	関連領域の文献研究
第8回	先行研究のレビュー③	隣接領域の論文研究
第9回	先行研究のレビュー④	関連領域の論文研究
第10回	研究課題の絞り込み①	オリジナリティの検討
第11回	研究課題の絞り込み②	実践的意義の検討
第12回	研究課題の絞り込み③	データ収集可能性の検討
第13回	研究課題の絞り込み④	研究実施フィールドの検討
第14回	研究課題の絞り込み⑤	研究仮説の検討
第15回	中間総括	明確化されたことの確認
第16回	オリエンテーション	秋学期目標の明確化
第17回	研究目的の明確化①	研究の具体的目的の列挙
第18回	研究目的の明確化②	学術的な意義による絞り込み
第19回	研究目的の明確化③	独創性に基づく絞り込み
第20回	研究目的の明確化④	予想される結果の検討
第21回	研究構想の基盤作り①	研究仮説の明確化
第22回	研究構想の基盤作り②	研究手法（量的、質的等）の検討
第23回	研究構想の基盤作り③	データ収集方法の検討
第24回	研究構想の基盤作り④	データ分析方法の検討
第25回	研究計画書の作成①	研究実施体制の検討
第26回	研究計画書の作成②	研究実施フィールドの確認
第27回	研究計画書の作成③	研究対象者の確認
第28回	まとめ	データ収集のスケジュール検討とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回報告を求めるので、担当する報告内容については、入念な準備を行っておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1．演習への積極的参加（20%）
2．演習内課題（50%）
3．博士論文構想発表会(30%)

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）があると望ましい。

【その他の重要事項】
医療機関・外国人支援ＮＧＯソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域> 社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論
< 研究テーマ> マイノリティ・解放に関わるソーシャルワーク、エスニック・マイノリティの生活問題

【Outline (in English)】
This course enhances the development of student's skills in consolidation the paper conception to prepare a dissertation. Students will be expected to enhance necessary knowledge, skills, and to develop a research plan. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), presentation(30%),and in-class contribution (20%).

SOW700J3（社会福祉学 / Social Welfare 700）

人間福祉特別演習Ⅰ

岩崎　晋也

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文作成にむけた研究指導を行う。

【到達目標】
博士論文にむけて研究計画を明確にする。
先行研究の検討を行う。
第一次調査の設計を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」とに関連

【授業の進め方と方法】
個別指導により，研究テーマの深化と，研究方法論の検討を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究計画の概要の検討1	研究計画の概略をたてる
第2回	研究計画の概要の検討2	研究目的の明確化をはかる
第3回	研究計画の概要の検討3	基本的な研究動向を整理する
第4回	研究計画の概要の検討4	基本的な研究動向を発表する
第5回	研究計画の概要の検討5	自らの研究のオリジナリティを検討する
第6回	研究計画の概要の検討6	自らの研究のオリジナリティを発表する
第7回	研究計画の概要の検討7	研究方法を検討する
第8回	研究計画の概要の検討8	研究方法を発表する
第9回	研究計画の概要の検討9	研究対象を検討する
第10回	研究計画の概要の検討10	研究対象を発表する
第11回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習1	先行研究（歴史）を検討する
第12回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習2	先行研究（現状）を検討する
第13回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習3	先行研究（課題）を検討する
第14回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習4	先行研究（関連領域）を検討する
第15回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習5	先行研究（隣接領域）を検討する
第16回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習6	先行研究（研究方法）を検討する
第17回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習7	先行研究（解釈枠組み）を検討する
第18回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習8	先行研究（国際比較アメリカ）を検討する
第19回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習9	先行研究（国際比較ヨーロッパ）を検討する
第20回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習10	先行研究（国際比較アジア）を検討する
第21回	調査研究の内容の検討1	データクリーニングを行う
第22回	調査研究の内容の検討2	記述統計を検討する
第23回	調査研究の内容の検討3	多変量解析を行う
第24回	調査研究の内容の検討4	解析結果を検討し、仮説との適合性を検討する
第25回	調査研究の内容の検討5	追加の解析について検討する
第26回	調査研究の内容の検討6	追加の解析結果を検討する
第27回	調査研究の内容の検討7	改めて仮説との適合性を検討する
第28回	調査研究の内容の検討8	調査結果の全体を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に指示された課題を行い、考察すること。本授業の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点(100%)による

【学生の意見等からの気づき】
アンケートを実施しませんでした。

【担当教員の専門分野】
社会福祉原理・思想

【Outline (in English)】
Research guidance for doctor dissertation preparation.
The goals of this course are to improve doctor dissertation preparation ability.
Students will be expected to have completed the required assignments
after each class meeting. Your study time will be more than four hours
for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following in
class contribution: 100%.

SOW700J3（社会福祉学 / Social Welfare 700）

人間福祉特別演習Ⅰ

久保田　幹子

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理学に関する高度な知識と専門家としての技能の習得を目指します。また、個々の学生の博士論文のテーマにそって専門書・論文を調べ、研究計画をたて、博士論文を書き上げるための学習を行います。

【到達目標】
臨床心理学に関する専門的な知識を有するとともに、個々のテーマを掘り下げ、博士論文を書き上げることが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
専門家としての知識、技術を学ぶことに加え、博士論文を書き上げることを目標にした授業になります。原則的には、個々の学生のテーマや博士論文の内容や進行状況にそって進めていきます。課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。
なお、各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究計画の概要の検討1	研究テーマの検証①
第2回	研究計画の概要の検討2	研究テーマの検証②
第3回	研究計画の概要の検討3	研究テーマの検証③
第4回	研究計画の概要の検討4	研究の目的、方法論の検討①
第5回	研究計画の概要の検討5	研究の目的、方法論の検討②
第6回	研究計画の概要の検討6	研究の目的、方法論の検討③
第7回	研究計画の概要の検討7	研究の目的、方法論の検討④
第8回	研究計画の概要の検討8	研究の目的、方法論の検討⑤
第9回	研究計画の概要の検討9	研究の目的、方法論の検討⑥
第10回	研究計画の概要の検討10	研究の目的、方法論の検討⑦
第11回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習1	国内外の先行研究の学習①
第12回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習2	国内外の先行研究の学習②
第13回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習3	国内外の先行研究の学習③
第14回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習4	国内外の先行研究の学習④
第15回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習5	国内外の先行研究の学習⑤
第16回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習6	国内外の先行研究の学習⑥
第17回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習7	国内外の先行研究の学習⑦
第18回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習8	国内外の先行研究の学習⑧
第19回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習9	国内外の先行研究の学習⑨
第20回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習10	国内外の先行研究の学習⑩
第21回	調査研究の内容の検討1	研究の実施、および研究結果の検討①
第22回	調査研究の内容の検討2	研究の実施、および研究結果の検討②
第23回	調査研究の内容の検討3	研究の実施、および研究結果の検討③
第24回	調査研究の内容の検討4	研究の実施、および研究結果の検討④
第25回	調査研究の内容の検討5	研究の実施、および研究結果の検討⑤
第26回	調査研究の内容の検討6	研究の実施、および研究結果の検討⑥
第27回	調査研究の内容の検討7	研究の実施、および研究結果の検討⑦
第28回	調査研究の内容の検討8	研究の実施、および研究結果の検討⑧

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文を完成させるための様々な準備（先行研究の探索、方法論の検討、関連したテーマの知識を得るなど）を積極的に行うこと。研究を主体的、速やかに進めていくこと。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定テキストはありませんが、参考文献は適宜紹介します。

【参考書】
参考文献を適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
博士論文の執筆過程（50％）　専門的知識、研究技法の習得（50％）

【学生の意見等からの気づき】
博士論文を作成するための準備・ディスカッションを段階的に行い、個々の関心のあるテーマを専門的な研究に繋げられるよう指導する。

【その他の重要事項】
医療現場における臨床の実務経験があります。臨床経験を通して、皆さんの研究に関する問題提議・論文構想に関してアドバイスを行っていきます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
森田療法、比較心理療法、心理検査法
＜研究テーマ＞
女性の心理的危機、強迫性障害に対する森田療法、比較心理療法など
＜主要研究業績＞
1）『森田療法で読む強迫性障害』（共著書・編者．東京,白揚社,2015年3月）
2）『女性はなぜ生きづらいのか』（共著書,東京,白揚社,2018年8月）
3）久保田幹子：対人恐怖の森田療法．こころの科学, 2009;147:72-78
4）久保田幹子：森田療法における受容．精神療法, 2013;39(6):12-17

【Outline (in English)】
Instruction for compiling a doctor's thesis: research conceptualization, literature review, research design, methodology and analysis.

The goals of these lectures are to provide students with specialist knowledge of clinical psychology, to learn research methods and to prepare a dissertation for their doctoral thesis. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on writing process of the doctoral thesis (50%) and the level of professional knowledge acquired (50%).

SOW700J3（社会福祉学 / Social Welfare 700）

人間福祉特別演習Ⅰ

髙良　麻子

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆に向けて、研究デザインを構築する。

【到達目標】
・博士論文を執筆するために必要な研究方法を理解できる。
・自分の研究デザインを構築できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」とに関連

【授業の進め方と方法】
学生が自分の課題認識にもとづき、研究を進めることができるように、個別指導を行う。授業ごとのリアクションをもとに、フィードバックしながら次の授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	関心テーマ①	関心テーマに関する情報取集：定義
第3回	関心テーマ②	関心テーマに関する情報取集：実態
第4回	関心テーマ③	関心テーマに関する情報取集：文献
第5回	リサーチクエスチョン	リサーチクエスチョンの構築
第6回	リサーチクエスチョンに関する先行研究①	先行研究の文献収集
第7回	リサーチクエスチョンに関する先行研究②	先行研究のレビュー：研究成果の確認
第8回	リサーチクエスチョンに関する先行研究③	先行研究のレビュー：先行研究の課題
第9回	研究目的の明確化①	研究目的と仮説の検討
第10回	研究目的の明確化②	研究目的と仮説の決定
第11回	研究方法の決定①	研究デザインと研究方法の検討
第12回	研究方法の決定②	研究デザインと研究方法の決定
第13回	博士論文構想発表会準備	研究計画の策定
第14回	中間総括	構想発表会後の振り返りと夏季休暇中の計画
第15回	オリエンテーション	夏季休暇中の研究成果の報告
第16回	研究計画の策定①	研究計画の見直し
第17回	研究計画の策定②	研究計画の決定
第18回	調査計画の策定①	研究目的を達成するための調査検討
第19回	調査計画の策定②	調査計画の検討
第20回	調査計画実施の準備①	実施に必要な準備
第21回	調査計画実施の準備②	調査実施の練習
第22回	パイロット調査の実施①	調査結果の報告と課題対応検討
第23回	パイロット調査の実施②	調査結果の報告と調査方法の見直し
第24回	パイロット調査結果の分析	調査結果の分析
第25回	研究計画書の見直し①	パイロット調査を踏まえた調査計画の再検討
第26回	研究計画書の見直し②	研究計画の再検討
第27回	研究計画書の見直し③	論文構成の検討
第28回	総括	振り返りと課題の明確化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
計画的に博士論文作成を進めること。各時間の課題に関するレジュメ作成等の準備を進めるとともに、授業での議論内容等を踏まえて理解を深める復習を行なってほしい。本授業の準備・復習時間は、各６時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点 30%
・課題提出 30%
・博士論文構想発表会 40％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野】
ソーシャルワーク論
髙良麻子（2017）『日本におけるソーシャルアクションの実践モデル－「制度からの排除」への対処』中央法規.
髙良麻子（2013）「日本の社会福祉士によるソーシャル・アクションの認識と実践」『社会福祉学』53（4）,42-54,日本社会福祉学会.

【Outline (in English)】
This course is a two-semester integrative practice course. Students use the seminar format to learn how to build a research design for writing a doctoral dissertation. Before/after each class meeting, students will be expected to spend six hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (30%), in-class contribution (30%), and presentation in the doctoral dissertation proposal presentation meeting (40%).

SOW700J3（社会福祉学 / Social Welfare 700）

人間福祉特別演習Ⅰ

佐藤　繭美

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士学位論文の作成に向けて、専門的な研究手法、先行研究のレビュー、研究課題や研究対象の設定など、論文執筆に向けた研究指導を行う。

【到達目標】
博士論文作成に必要な知識や専門的技術の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」とに関連

【授業の進め方と方法】
各自の関心領域、研究テーマに応じて、先行研究のレビュー、仮説および研究方法の検討などについて個別指導を行う。フィードバックの方法として、オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する。授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	博士論文執筆に向けたスケジュールの検討
第2回	関心領域・テーマの検討1	関心に沿った課題の探索
第3回	関心領域・テーマの検討2	研究課題設定に関する報告
第4回	関心領域・テーマの検討3	研究課題の検討
第5回	関心領域・テーマの検討4	研究課題の設定
第6回	先行研究のレビュー1	先行研究の探索
第7回	先行研究のレビュー2	先行研究の検討
第8回	先行研究のレビュー3	先行研究に関する報告
第9回	先行研究のレビュー4	先行研究の整理
第10回	先行研究のレビュー5	近接領域の先行研究の検討
第11回	研究テーマの仮設検討1	先行研究の精査
第12回	研究テーマの仮設検討2	先行研究の精査と問題の明確化
第13回	研究テーマの仮設検討3	近接領域の先行研究との比較検証
第14回	春学期の総括	春学期の内容を総括し、夏季のフィールドワークや調査に関する指導
第15回	オリエンテーション	論文執筆スケジュールの確認
第16回	夏季課題報告	夏季に行ったフィールドワーク及び調査結果についての報告
第17回	研究方法の検討1	論文で用いる研究方法の探索
第18回	研究方法の検討2	論文で用いる研究方法の検討
第19回	研究方法の検討3	論文で用いる研究方法の設定
第20回	研究方法の検討4	研究方法の妥当性の検討
第21回	探索的調査の検討	調査に向けての課題整理
第22回	探索的調査の実施1	調査の実施
第23回	探索的調査の実施2	調査結果のまとめ
第24回	調査結果の検証1	調査の実施と成果の検証
第25回	調査結果の検証2	調査の実施と成果の報告
第26回	調査結果の検証3	成果のまとめ方と分析方法の検討
第27回	論文構想の明確化	探索的調査をふまえた研究内容の修正と論文執筆に向けた研究内容の明確化
第28回	1年間の成果まとめ	これまでの総括と今後の展望の議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究テーマに関連する国内外の先行研究について丁寧に整理し、各回の指導において報告できるよう準備すること本授業の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
①演習への参加姿勢　20％　②課題提出　40％　③論文構想発表会　40％
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
論文の完成に向け、受講生の困りごとや研究の方向性について話し合いながら、授業を改善していきたい。

【その他の重要事項】
社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、実践と理論の融合について教示していく。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ソーシャルワーク論、死別ケア
＜研究テーマ＞
・ソーシャルワークにおける死別ケアとACP
・セルフヘルプ・グループ論（特に自閉症者と家族）
＜主要研究業績＞
①自閉症の人の死別経験とソーシャルワーク.明石書店 2011年
②医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグリーフとその対応：共通性と相違性.ホスピスケアと在宅ケア 25(1)2017.
③アドバンス・ケア・プランニング先進国の状況とわが国における課題.医療ソーシャルワーク 67号.2019

【Outline (in English)】
【Course outline】This course focuses especially on to examine the knowledge, the theme, the research method, the research hypotheses, in order to write a doctoral dissertation.
【Learning Objectives】The goal of this lecture is to acquire the skills necessary for writing a doctoral dissertation.
【Learning activities outside of classroom】The standard preparation and review time for this lecture is 4 hours each.
【Grading Criteria /Policy】： Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (40%), in-class contribution（20％）,Doctoral dissertation presentation（40％）.

SOW700J3（社会福祉学 / Social Welfare 700）

人間福祉特別演習Ⅰ

眞保　智子

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士学位論文作成にむけて、課題の設定や分析枠組みの検討を含めた、研究デザインを行います。

【到達目標】
これまでの研究成果および今後の研究課題について、報告会での報告と研究成果報告書を作成し、博士論文執筆につなげることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」とに関連

【授業の進め方と方法】
先行研究のレビュー、仮説の検討、研究方法の検討などを通して、学位博士論文の構想をもとに学術論文の執筆を個別指導の中で進めていきます。オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期スケジュールの確認
第2回	領域・テーマの提示	関心テーマにそった課題設定の検討
第3回	課題設定	課題設定の検討と仮説
第4回	仮説の構築	仮説の検討
第5回	仮説と作業仮説	作業仮説の検討
第6回	先行研究のレビュー	研究課題に関する先行研究の探索
第7回	先行研究の検討	研究課題に関する先行研究の選定
第8回	先行研究の考察	研究課題に関する先行研究の検討
第9回	先行研究と仮説	研究課題に関する先行研究と仮説の検討
第10回	先行研究と作業仮説	研究課題に関する先行研究と作業仮説の検討
第11回	研究テーマの明確化	自らの研究テーマを明確にすると共に仮説を検討
第12回	研究テーマと仮説検討	自らの研究テーマを明確にすると共に仮説を検討し発表
第13回	研究テーマと仮説修正	自らの研究テーマを明確にすると共に仮説の修正
第14回	研究テーマへのアプローチ	自らの研究テーマを明確にすると共に仮説を修正し発表
第15回	中間総括	春学期での総括を発表
第16回	オリエンテーション	秋学期スケジュールの確認
第17回	研究方法の検討	論文で用いる研究方法の検討と課題の抽出
第18回	研究方法の実践	論文で用いる研究方法の実践
第19回	研究方法の修正	論文で用いる研究方法の検討と修正
第20回	研究方法の整理	論文で用いる研究方法の検討と発表
第21回	分析枠組み検討	論文で展開する分析枠組を検討する
第22回	分析枠組み報告	論文で展開する分析枠組の発表
第23回	先行研究の分析枠組み修正	論文で展開する分析枠組の修正
第24回	分析枠組み決定	論文で展開する分析枠組の決定
第25回	論文構想の明確化	博士論文を構成する学術論文を執筆
第26回	論文執筆	学術論文の執筆と報告・検討
第27回	論文要旨の報告	学術論文の執筆と報告・議論
第28回	論文要旨の修正	学術論文の執筆と報告・修正

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修者は、計画的に博士論文執筆を進めると同時に、毎回、必ず検討するためのレジメや資料を用意して演習に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究テーマに即して適宜紹介します。

【参考書】
履修者の研究テーマに即して適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
研究成果報告書50％、報告会50％

【学生の意見等からの気づき】
アンケートは実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆、グループワークや報告の際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用します。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞若者支援論、障害者雇用、障害者福祉
＜研究テーマ＞
1　障害者の就労とキャリアキャリアデザイン
2　障害者・若者・高齢者・女性雇用に関する諸問題
3　産業領域における精神科ソーシャルワーク

【Outline (in English)】
This seminar builds on the skills learned in other seminar and applies them to writing of a degree paper. Students are expected to take responsibility in choosing a theme and thoroughly researching it for the final paper. This seminar content includes essay organization, research strategies (collecting and evaluating references, conducting web searches, using electronic databases), bibliographic organization, and citation styles: footnotes, end notes. The goal of this seminar is to prepares for writing degree paper. Before/after each seminar, students will be expected to spend two hours to understand the seminar content. Grading will be decided based on reports (50％) and in-class presentation (50%).

SOW700J3（社会福祉学 / Social Welfare 700）

人間福祉特別演習Ⅰ

末武　康弘

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理学領域の博士論文を作成するための知識、研究方法、論文執筆の力を身につけます。

【到達目標】
臨床心理学領域の博士論文を作成するための知識、研究方法、論文執筆の力を身につけることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理学領域の博士論文を作成するための指導を行います。なお、指導の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。提出された課題や論文等へのフィードバックは個別指導（対面、場合によっては学習支援システムやズーム等のオンライン）によって行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究計画の概要の検討1	オリエンテーション
第2回	研究計画の概要の検討2	研究の意図を検討
第3回	研究計画の概要の検討3	研究の背景を検討
第4回	研究計画の概要の検討4	研究の目的を検討
第5回	研究計画の概要の検討5	研究の社会的な意義を検討
第6回	研究計画の概要の検討6	研究のオリジナリティを検討
第7回	研究計画の概要の検討7	研究のグローバル性を検討
第8回	研究計画の概要の検討8	研究のアップトゥーデイトな意義を検討
第9回	研究計画の概要の検討9	研究の臨床的な意義を検討
第10回	研究計画の概要の検討10	研究の倫理性を検討
第11回	先行研究の探索と検討1	研究テーマに関連する先行研究の概要を検討
第12回	先行研究の探索と検討2	研究テーマに関連する先行研究の探索
第13回	先行研究の探索と検討3	研究テーマに関連する先行研究の探索と検討
第14回	先行研究の探索と検討4	研究テーマに関連する先行研究の分析
第15回	研究デザインと研究方法の検討1	研究テーマに沿った研究デザインと研究方法の概要を検討
第16回	研究デザインと研究方法の検討2	研究テーマに沿った研究デザインと研究方法のバリエーションを検討
第17回	研究デザインと研究方法の検討3	研究テーマに沿った研究デザインを検討
第18回	研究デザインと研究方法の検討4	研究テーマに沿った研究方法を検討
第19回	研究デザインと研究方法の検討5	研究テーマに沿った研究デザインと研究方法を検討
第20回	研究デザインと研究方法の検討6	研究テーマに沿った研究デザインと研究方法をさらに検討
第21回	研究デザインと研究方法の確定1	研究デザインと研究方法の確定に向けた検討
第22回	研究デザインと研究方法の確定2	研究デザインと研究方法を確定
第23回	データ収集と処理検討1	データ収集の方法を検討
第24回	データ収集と処理検討2	データ処理の方法を検討
第25回	データ収集と処理検討3	データ収集と処理の方法を検討
第26回	論文執筆の指導1	大学院紀要等の論文執筆について指導
第27回	論文執筆の指導2	学会投稿論文等の執筆について指導
第28回	論文執筆の指導3、まとめ	博士論文作成の目的と方法の書き方を指導、指導のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための研究活動（文献や先行研究の収集と分析、研究方法の学習、データの収集と分析、論文執筆等）が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
博士論文の執筆過程（70％）と投稿論文等の内容（30％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
前年度はアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、具体的に指導します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞　臨床心理学、カウンセリング・心理療法
＜研究テーマ＞　パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究
＜主要研究業績＞
① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Experiential Psychotherapies, 9(2), 2010)
②『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究』（監訳、岩崎学術出版社、2012年)
③『「主観性を科学化する」質的研究法入門』（共編著、金子書房、2016年）

【Outline (in English)】
You learn the knowledge, research methodology, skill to write a doctoral dissertation in clinical psychology.
The goals of this course are to acquire the knowledge, research methodology, skill to write a doctoral dissertation in clinical psychology.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on process of writing doctoral dissertation (70%), and contributing activity at academic associations (30%).

SOW700J3（社会福祉学 / Social Welfare 700）

人間福祉特別演習Ⅰ

関谷　秀子

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究目的と方法および研究対象に関すること、データ収集に関すること、データの解析に関すること、得られたデータの解釈に関すること、解釈に関する考察および研究の結論に関することが博士課程レベルに到達する必要がある。

【到達目標】
研究の諸段階の各目標が達成されると次の目標を目指す作業に入ることになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
到達目標及びテーマに必要な質問と議論を1対1形式で行なう。オフィス・アワーで、課題に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの選び方①	展望論文の選択①
第2回	研究テーマの選び方②	展望論文の選択②
第3回	研究テーマの選び方③	展望論文の選択③
第4回	研究テーマと研究目的の決定	十分な先行論文検索から研究の流れと最先端を知る。現在の最先端の状況把握をする。
第5回	フィールドの選び方①	先行研究論文を検索①
第6回	フィールドの選び方②	先行研究論文を検索②
第7回	フィールドの選び方③	十分な先行研究展望から、どのようなフィールドでデータは取りえるか、また、それぞれのメリット・ディメリットを考察する。
第8回	研究フィールドの決定	理想的な研究フィールドと現実
第9回	研究方法の選び方①	先行研究展望から可能な方法を選択、必要があれば、論文原著者に連絡して問い合わせる。①
第10回	研究方法の選び方②	先行研究展望から可能な方法を選択、必要があれば、論文原著者に連絡して問い合わせる。②
第11回	研究方法の決定①	対象群と比較対照、分析方法の決定。
第12回	研究方法の決定②	評価者間信頼性チェックの必要性がある場合、その方法を決定する。
第13回	倫理委員会申請準備	研究倫理委員会規定を踏まえて、誰からどのような研究協力の承諾を得るべきか検討する。
第14回	研究倫理委員会申請	必要な書式を準備して申請する
第15回	研究実施の最終チェック	必要な書類の準備と研究フィールド準備
第16回	研究実施①	データ収集上の問題点のチェック①
第17回	研究実施②	データ収集上の問題点のチェック②
第18回	研究実施③	データ収集上の問題点のチェック③
第19回	研究実施④	データ収集上の問題点のチェック④
第20回	研究実施⑤	データ収集上の問題点のチェック⑤
第21回	研究実施⑥	データ収集上の問題点のチェック⑥
第22回	研究実施⑦	データ収集上の問題点のチェック⑦
第23回	研究実施⑧	データ収集上の問題点のチェック⑧
第24回	研究実施⑨	データ収集上の問題点のチェック⑨
第25回	研究実施⑩	データ収集上の問題点のチェック⑩
第26回	研究実施⑪	データ収集上の問題点のチェック⑪
第27回	論文作成①	目的（実証すべき作業仮説に至る先行研究の展望を含む）
第28回	論文作成②	研究方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究検索、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは専門雑誌に掲載されている先行研究論文である。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
日々の学習意欲と研究への取り組みの姿勢によって評価する(100%)。

【学生の意見等からの気づき】
前年度には担当していないため、授業アンケートを実施していない。

【担当教員の専門分野】
精神分析学、児童青年精神医学、精神分析的発達研究

【Outline (in English)】
Analysis and study of theory at a doctoral level concerning research objective methods and study, and data collection and analysis. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class .Final grade will be calculated according to the contribution in class .

SOW700J3（社会福祉学 / Social Welfare 700）

人間福祉特別演習Ⅰ

丹羽　郁夫

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究領域において、オリジナリティがあり、最先端である博士論文を学生が作成するために、テーマと調査方法を設定するように指導すること。

【到達目標】
オリジナリティがあり、臨床心理的価値の高い、研究領域における最先端の博士論文のテーマを設定でき、それに最も適した調査方法を設定できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
上記の目標に到達するため、関心領域の検討からはじめ、先行研究の検索と読み込みを通して、研究テーマを絞り込み、テーマと研究方法の決定までを指導する。課題などのフィードバックは個別指導（対面、場合によっては学習支援システムやズーム等のオンライン）によって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	博士論文のテーマと研究方法決定までのタイムテーブルについて説明。
第2回	関心領域の検討①	関心領域の探索
第3回	関心領域の検討②	関心領域の検討
第4回	関心領域の検討③	関心領域の明確化
第5回	先行研究の検索と読み込み①	明確になった関心領域に関する先行研究の検索
第6回	先行研究の検索と読み込み②	関心領域に関する先行研究の収集
第7回	先行研究の検索と読み込み③	関心領域に関する先行研究の読み込み
第8回	先行研究の検索と読み込み④	再収集する必要のある文献の収集と読み込み
第9回	先行研究の検索と読み込み⑤	関連する先行研究をほぼ全て読み込む
第10回	研究テーマの絞り込み①	先行研究の検討から研究テーマの可能性の検討
第11回	研究テーマの絞り込み②	研究テーマの検討
第12回	研究テーマの絞り込み③	研究テーマの明確化
第13回	研究テーマの設定①	研究テーマの設定
第14回	研究テーマの設定②	研究テーマの設定を検討して再設定
第15回	先行研究のレビュー①	研究テーマに関する先行研究のレビューの準備
第16回	先行研究のレビュー②	先行研究のレビューに着手
第17回	先行研究のレビュー③	先行研究のレビューの経過報告
第18回	先行研究のレビュー④	先行研究のレビューを進める
第19回	先行研究のレビュー⑤	先行研究のレビューの検討
第20回	先行研究のレビュー⑥	再検討から必要だと気づいた文献の再収集
第21回	先行研究のレビュー⑦	先行研究のレビューの作成
第22回	先行研究のレビュー⑧	先行研究のレビューの検討
第23回	先行研究のレビュー⑨	先行研究のレビューの再作成
第24回	先行研究のレビュー⑩	先行研究のレビューの完成
第25回	研究テーマの明確化	先行研究の詳細なレビューに基づいてさらに研究テーマの明確化
第26回	研究方法の検討①	研究方法の検討
第27回	研究方法の検討②	研究方法についてさらに検討
第28回	研究方法の決定	研究方法の決定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習の前は、研究テーマに関連する国内外の専門図書と研究雑誌を検索して読み、博士論文作成の準備を進め、その進行状況と疑問点などを報告できる用意をすることが求められます。演習の後は、教員からの助言やコメントを博士論文の作成に反映させることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
論文のテーマと方法に応じて適切な参考図書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
論文作成への取り組み(100%)。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートを実施しておりません。

【担当教員の専門領域】
臨床心理学（子どもの心理療法、D.W.ウィニコット、移行対象など）とコミュニティ心理学（コンサルテーション、ストレス、ソーシャルサポートなど）
＜主要研究業績＞
『コンサルテーションとコラボレーション』(共編著、金子書房、2022年)
『ジェラルド・キャプランのメンタルヘルスコンサルテーションの概観』（単著、コミュニティ心理学研究18(2)、2015年）
『コミュニティ心理学ハンドブック』(共著、東京大学出版社、2007年)
『中国帰国者におけるソーシャル・サポート利用の精神健康への影響』（共著、コミュニティ心理学研究）2(2)、1999年）

【Outline (in English)】
Course outline
In the research area, to instruct students to set themes and survey methods in order to create students with originality and cutting edge doctoral thesis.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to set the theme of the highest doctoral dissertation in the study domain where there is originality, and has high clinical psychological value and can set an investigation method most suitable for it.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies
Final grade will be decided based on the approach to doctoral dissertation making.

SOW700J3（社会福祉学 / Social Welfare 700）

人間福祉特別演習Ⅰ

水野　雅男

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
各自が関心を持っている分野に即して、博士論文作成に必要な考え方や手法について実践的に学ぶ。
各自の関心分野に応じて、先行研究のレビューを重ねながら研究仮説とテーマを組み立てる。さらに、仮説に応じた実証方法を検討し、研究構成を組み立てる。

【到達目標】
博士論文作成の技術を習得するようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
履修生の関心分野に沿って、履修生と相談の上、指導助言のスケジュールと方法を決定する。
毎回の検討課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文作成計画の検討①	論文作成の流れの確認
第2回	論文作成計画の検討②	論文の構成案の検討
第3回	論文作成計画の検討③	研究作業スケジュールの確認
第4回	先行研究のレビュー①	関連テーマ①に関する検索結果
第5回	先行研究のレビュー②	関連テーマ①の主要論文の概要
第6回	先行研究のレビュー③	関連テーマ②に関する検索結果
第7回	先行研究のレビュー④	関連テーマ②の主要論文の概要
第8回	先行研究のレビュー⑤	先行研究の概要整理
第9回	研究仮説の検討①	先行研究から導き出された研究課題の提示
第10回	研究仮説の検討②	研究仮説案の確認
第11回	研究仮説の検討③	研究仮説の修正
第12回	研究方法の検討①	文献調査・参与観察の検討
第13回	研究方法の検討②	量的調査手法の検討
第14回	研究方法の検討③	質的調査手法の検討
第15回	研究構成の検討①	研究のフローの確認
第16回	研究構成の検討②	研究の章立て案の確認
第17回	研究構成の検討③	研究の章立ての修正
第18回	データ収集分析①	調査データの分析①
第19回	データ収集分析②	調査データの図表作成
第20回	データ収集分析③	調査データの分析②
第21回	データ収集分析④	分析結果の考察
第22回	論文執筆の指導①	序章に関する指導助言
第23回	論文執筆の指導②	調査対象・研究の方法に関する指導助言
第24回	論文執筆の指導③	調査結果分析に関する指導助言
第25回	論文執筆の指導④	考察素案に対する指導助言
第26回	論文執筆の指導⑤	考察修正に関する指導助言
第27回	論文投稿の指導①	学会への投稿に向けた技術的な指導
第28回	論文投稿の指導②	同上に向けた構成内容の吟味

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前に必要な作業を充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、適宜資料として配付する。

【参考書】
必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを活用して、課題などを提示する。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに30年間関わった経験に基づき、フィールドレベルからの研究テーマの構築について助言する。

【担当教員の専門分野】
都市住宅政策論・地域経営論・市民活動運営論

【主要研究業績】
「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集Vol.51、2016年
「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」日本建築学会論文集第707号、2015年
『地方都市の再生戦略』（共著）学芸出版社、2013年
『生活景』（共著）学芸出版社、2009年

【Outline (in English)】
< Course outline>
The aim of this course is to help students acquire practically learn the ideas and methods necessary for writing a doctoral dissertation according to the field in which each person is interested.
< Learning Objectives>
By the end of the course, students should be able to do the followings:
Learn the skills of writing a doctoral dissertation.
< Learning activities outside of classroom>
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy>
Your overall grade in the class will be decided based on the following
In class contribution: 100%

SOW700J3（社会福祉学 / Social Welfare 700）

人間福祉特別演習Ⅰ

宮城　孝

配当年次／単位数：1年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文作成のための研究デザインを作成し、テーマに関する先行研究のレビューを体系的に行うとともに、自らの研究の目的、対象、研究方法を構築することを目標とする。

【到達目標】
自らの研究テーマについて適切にデザインできる。
研究の内容に対し、適切な研究方法が選択できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」とに関連

【授業の進め方と方法】
　研究テーマを明確にするために、先行研究のレビューを体系的に行うなどの作業、必要なデータの収集方法などについて指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の目的	明確化の検討
第2回	研究の対象	明確化の検討
第3回	研究テーマの設定	主題の明確化の検討
第4回	研究テーマの設定の具体化	主題の具体化
第5回	研究方法の明確化	研究方法の検討
第6回	研究方法の具体化	研究方法の具体的検討
第7回	先行研究のレビュー	対象の明確化
第8回	先行研究のレビューの作業	対象の探索と検討
第9回	先行研究のレビューの振り返り	対象の探索と振り返り
第10回	先行研究のレビューのまとめ方	まとめ方について
第11回	研究仮説の検討	視点と仮説の検討
第12回	研究仮説の設定	視点と仮設の具体化
第13回	データの収集の対象	データの収集の対象の検討
第14回	データの収集方法	具体的な収集方法の検討①
第15回	データの収集方法の具体化	具体的な収集方法の明確化
第16回	データの収集内容	具体的な収集内容の検討
第17回	データの具体的な内容	具体的な内容の明確化
第18回	データの収集と分析①	分析方法の検討①
第19回	データの収集と分析②	分析方法の検討②
第20回	データの収集と分析③	分析方法の明確化①
第21回	データの収集と分析④	分析方法の明確化②
第22回	考察の視点と枠組み	視点と枠組みの検討
第23回	考察の骨子	視点と枠組みの明確化
第24回	考察の内容	内容の検討
第25回	論文の構成	論文の構成の検討
第26回	論文の中間報告の構成の具体化	内容の構成の具体化
第27回	論文の中間報告・指導	中間報告の内容の検討
第28回	論文の中間報告のまとめ	中間報告について完成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けて、課題を設定してレポートや仮論文としてまとめ報告できるように準備すること。準備・復習時間を4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
必要に応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点40％、レポートの提出と報告、その内容60％により評価を行う。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導することとする。

【担当教員の専門分野等】
〔専門領域〕地域福祉論
〔主要研究業績〕
・『住民力－超高齢社会を生き抜くチカラ－』（単著）明石書店,2022年
・『仮設住宅　その10年－陸前高田における被災者の暮らし－』（共編著）御茶の水書房,2021年
・『コミュニティソーシャルワークの新たな展開ー理論と先進事例ー』（編著）中央法規、2019年
・『地域福祉とファンドレイジングー財源確保の方法と先進事例－』編著、中央法規、2018年
・『地域福祉のイノベーション－コミュニティの持続可能性の危機に挑む－』（編集代表）、中央法規、2017年
・『東日本大震災と地域福祉－次代への継承を探る－』（共編著）中央法規,2015年
・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）中央法規,2014年
・『ソーシャルワークと社会開発－開発的ソーシャルワークの理論とスキル－』（監訳）丸善,2012年
・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房,2010年
・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣.2008年
・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規2007年
・『新版　地域福祉事典』(編集幹事)日本地域福祉学会,中央法規,2006年
・『イギリスの社会福祉とボランタリーセクター』中央法規,2000年
・『ソーシャルワークと社会開発-開発的ソーシャルワークの理論とスキル-』（監訳）丸善出版,2012年

【Outline (in English)】
【Course outline】
To create research paper, it sets research design. It does the review of the past research paper systematically about the own research subject.Then,it makes to build the purpose, the object, the way of its research.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to A and B,C
Ａ. To complete a research paper.
Ｂ. Students can search of the necessary article and data.
Ｃ. Students can makes sentences as the research paper.
【Learning activities outside of classroom】
Student will be expected to spend four hours after each supervision.
【Grading Criteria/Policy】
Grading will be decided on quality of the students' experimental performance in the lab (40％). and the research paper (60％)

SOW700J3（社会福祉学 / Social Welfare 700）

人間福祉特別演習Ⅱ

末武　康弘

配当年次／単位数：2年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理学領域の博士論文を作成するための専門知識、高度な研究方法、論文執筆の力を身につけます。

【到達目標】
臨床心理学領域の博士論文を作成するための専門知識、高度な研究方法、論文執筆の力を身につけることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP7」と「DP8」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
特別演習Ⅰに引き続き、臨床心理学領域の博士論文を作成するための指導を行います。なお、指導の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。提出された課題や論文等へのフィードバックは個別指導（対面、場合によっては学習支援システムやズーム等のオンライン）によって行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	年度目標と課題の確認	博士論文作成のために今年度達成すべき目標と課題を確認します。
第2回	先行研究の探索と検討1	最新の先行研究を探索します。
第3回	先行研究の探索と検討2	最新の先行研究を収集します。
第4回	先行研究の探索と検討3	最新の先行研究を分析します。
第5回	先行研究の探索と検討4	最新の先行研究を検討します。
第6回	先行研究の探索と検討5	最新の先行研究を精査します。
第7回	研究デザインと研究方法の検討1	特別演習Ⅰで確定した研究デザインを再検討します。
第8回	研究デザインと研究方法の検討2	特別演習Ⅰで確定した研究デザインを洗練します。
第9回	研究デザインと研究方法の検討3	特別演習Ⅰで確定した研究方法を再検討します。
第10回	研究デザインと研究方法の検討4	特別演習Ⅰで確定した研究方法を洗練します。
第11回	研究デザインと研究方法の検討5	特別演習Ⅰで確定した研究デザインと研究方法を洗練します。
第12回	論文投稿の準備1	博士論文提出の条件となる学会誌あるいは大学院紀要への論文投稿について、その準備を指導します。
第13回	論文投稿の準備2	大学院紀要や学会への投稿論文のデータ収集ついて指導します。
第14回	論文投稿の準備3	大学院紀要や学会への投稿論文のデータの分析について指導します。
第15回	研究倫理の指導	大学院紀要や学会への投稿論文の研究倫理について指導します。
第16回	論文執筆の指導1	大学院紀要や学会への投稿論文の書き方について指導します。
第17回	論文執筆の指導2	大学院紀要や学会への投稿論文の目的の書き方について指導します。
第18回	論文執筆の指導3	大学院紀要や学会への投稿論文の方法の書き方について指導します。
第19回	論文執筆の指導4	大学院紀要や学会への投稿論文の結果の書き方について指導します。
第20回	論文執筆の指導5	大学院紀要や学会への投稿論文の考察の書き方について指導します。
第21回	論文執筆の指導6	2本目以降の投稿論文執筆の指導を行います。
第22回	論文執筆の指導7	2本目以降の投稿論文の目的の書き方について指導します。
第23回	論文執筆の指導8	2本目以降の投稿論文の方法の書き方について指導します。
第24回	論文執筆の指導9	2本目以降の投稿論文の結果の書き方について指導します。
第25回	論文執筆の指導10	2本目以降の投稿論文の考察の書き方について指導します。
第26回	博士論文執筆の指導1	博士論文作成に向けたスケジュールの指導を行います。
第27回	博士論文執筆の指導2	博士論文の構成の組み立て方について指導します。
第28回	博士論文執筆の指導3、まとめ	博士論文の展開について指導し、指導のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための研究活動（文献や先行研究の収集と分析、研究方法の学習、データの収集と分析、投稿論文の執筆、博士論文の執筆等）が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
博士論文の執筆過程（70％）と投稿論文の内容（30％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
前年度はアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞　臨床心理学、カウンセリング・心理療法
＜研究テーマ＞　パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究
＜主要研究業績＞
① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Experiential Psychotherapies, 9(2), 2010)
②『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究』（監訳、岩崎学術出版社、2012年)
③『「主観性を科学化する」質的研究法入門』（共編著、金子書房、2016年）

【Outline (in English)】
You learn the knowledge, research method, ability to write a doctoral dissertation in clinical psychology.

SOW700J3（社会福祉学 / Social Welfare 700）

人間福祉特別演習Ⅲ

末武　康弘

配当年次／単位数：3年次／4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理学領域の博士論文を作成するための専門知識、高度な研究方法、論文執筆の力を身につけます。

【到達目標】
臨床心理学領域の博士論文を作成するための専門知識、高度な研究方法、論文執筆の力を身につけることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
特別演習Ⅰ・Ⅱに引き続き、臨床心理学領域の博士論文を作成するための指導を行います。なお、指導の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。提出された課題や論文等へのフィードバックは個別指導（対面、場合によっては学習支援システムやズーム等のオンライン）によって行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文提出のための計画の確認	博士論文作成の年度計画確認
第2回	先行研究の探索と検討1	最新の先行研究を探索
第3回	先行研究の探索と検討2	最新の先行研究を収集
第4回	先行研究の探索と検討3	最新の先行研究を分析
第5回	先行研究の探索と検討4	最新の先行研究を検討
第6回	先行研究の探索と検討5	最新の先行研究を精査
第7回	研究デザインと研究方法の検討1	特別演習Ⅱで確定した研究デザインを再検討
第8回	研究デザインと研究方法の検討2	特別演習Ⅱで確定した研究デザインを洗練
第9回	研究デザインと研究方法の検討3	特別演習Ⅱで確定した研究方法を再検討
第10回	研究デザインと研究方法の検討4	特別演習Ⅱで確定した研究方法を洗練
第11回	研究デザインと研究方法の検討5	特別演習Ⅱで確定した研究デザインと研究方法を洗練
第12回	博士論文の構成の検討1	博士論文の構成の整合性を検討
第13回	博士論文の構成の検討2	博士論文の構成を洗練
第14回	博士論文予備登録の指導	博士論文予備登録のための指導
第15回	博士論文完成の指導1	博士論文を仕上げるための指導
第16回	博士論文完成の指導2	博士論文のテーマの妥当性の指導
第17回	博士論文完成の指導3	博士論文の論述形式の妥当性の指導
第18回	博士論文完成の指導4	博士論文の論理的整合性の指導
第19回	博士論文完成の指導5	博士論文の論述内容の妥当性の指導
第20回	博士論文完成の指導6	博士論文の研究倫理の検討
第21回	博士論文完成の指導7	博士論文のオリジナリティの検討
第22回	博士論文完成の指導8	博士論文の社会的意義の検討
第23回	博士論文完成の指導9	博士論文の学術的意義の検討
第24回	博士論文完成最終指導1	博士論文を仕上げるため最終的な指導
第25回	博士論文完成最終指導2	最終的な論述形式の指導
第26回	博士論文完成最終指導3	最終的な論述内容の指導
第27回	博士論文審査に向けた指導	博士論文審査に向けた指導
第28回	博士論文発表に向けた指導、まとめ	博士論文発表に向けた指導とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための研究活動（文献や先行研究の収集と分析、研究方法の学習、データの収集と分析、博士論文の執筆等）が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
博士論文の執筆過程（40％）と論文の内容（60％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
前年度はアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、具体的に指導します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞　臨床心理学、カウンセリング・心理療法
＜研究テーマ＞　パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究
＜主要研究業績＞
① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Experiential Psychotherapies, 9(2), 2010)
②『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究』（監訳、岩崎学術出版社、2012年)
③『「主観性を科学化する」質的研究法入門』（共編著、金子書房、2016年）

【Outline (in English)】
You learn the high-level knowledge, research methodology, skill to write doctoral dissertation in clinical psychology.
The goals of this course are to acquire the high-level knowledge, research methodology, skill to write doctoral dissertation in clinical psychology.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on process of writing doctoral dissertation (40%), and the content of doctoral dissertation (60%)

HSS500I1（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500）

スポーツ健康学特論Ⅱ(自然科学)

瀬戸　宏明

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**木5**/Thu.5　｜　キャンパス：**多摩**
配当年次：**1〜2年次**
備考（履修条件等）：

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ健康学を学修するために必要な自然科学系知識とその基礎の習得、および論理的・批判的・科学的思考法の習得および自然科学領域における学術論文の読み方と執筆の基礎と技術を学ぶ。

【到達目標】
スポーツ健康学領域における自然科学的現象をめぐる最新の知見や事例を概観することにより、当該領域の動向について理解する。修士論文の執筆に必要な基礎的技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の前半はスポーツ医科学領域の最新知見を理解するために必要となる理数科学的基礎と、スポーツ医科学領域の基盤的研究テーマについて学習する。提示する参考書と文献を事前に精読し、この内容を確認しながら双方向性に講義・討議を行う。
後半はスポーツ医科学領域の先端的知見・研究成果について学習する。基本的に①各回のテーマに関連する文献紹介・精読、②各回のテーマに関する講義、③症例提示の3部構成で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	生体を構成する物質	生体を構成する基本的な元素、細胞構築などの微小構造、エネルギー代謝や細胞内信号応答に必要な膜構造などを学習する。【keyword】元素、細胞構築、組織、細胞膜
2回	運動・身体活動の生化学	スポーツ医科学分野の重点事項であるエネルギー代謝、身体組成の基礎知識として生化学分野の基本事項を確認する。【keyword】糖質、脂質、アミノ酸、タンパク質、核酸
3回	運動・身体活動と物理量	スポーツ医学研究で必要な物理量について、実験データを例示しながら単位系の概念も含めて学習する。【keyword】単位系、仕事、仕事率、エネルギー
4回	医科学研究で活用する基礎統計学	スポーツ医科学研究で取り扱うデータ・数値に関する統計学の基礎を学習する。【keyword】記述統計、カイ２乗検定、２群の差の検定、分散分析、統計学的検出力
5回	運動と細胞内シグナル伝達	運動に伴う刺激、ストレスによる細胞レベルでの応答について解説する。古典的な内分泌応答と細胞内シグナル伝達を担う伝達物質について学習する。【keyword】内分泌系、ホルモン受容体、ステロイド、神経内分泌学
6回	運動と免疫系	運動に伴う刺激、ストレスに伴う、生体防御システム（免疫系）の基礎的事項を学習する。【keyword】白血球、Ｂ細胞、Ｔ細胞、サイトカイン、炎症
7回	運動介入と機能への影響	運動習慣、運動療法の効果のトピックスとして、運動介入（短期的・長期的）と機能への影響の関連性について基礎的事項を紹介する。【keyword】運動療法、変形性関節症、長寿
8回	運動器の医科学	最近の運動器の医科学について紹介する【keyword】 エコー、MRI、ウエラブル運動疫学
9回	アスリートにおける生体エネルギー論の活用	mechanical efficiencyや、誤解が多いためほとんど場合で正しく運用されていない高強度インターバルなどについて学び、トレーニングやパフォーマンスについての生体エネルギー論的考察を行う。【keyword】 クリティカルパワー、乳酸閾値、酸素摂取動態
10回	身体組成（体脂肪率）の医科学	体組成の基礎的概念、評価方法、その妥当性・信頼性、アスリートのコンディショニング・競技力向上および臨床への応用について学習する。【keyword】 体脂肪率、コンポーネントモデル、DXA、BIA
11回	エネルギー代謝とアスリートの減量	基礎代謝とエネルギーバランスの基礎について学習し、その評価方法、減量・リバウンドの機序などについて学習する。【keyword】 基礎代謝、減量、energy availability、ヒューマン・カロリメーター、内分泌（ホルモン）
12回	女性選手の三徴	女性選手の三徴（female athlete triad）の歴史、概念、実態、評価法、対処・治療法についてアスリートの摂食障害、骨粗鬆症などの実例を通して学ぶ。【keyword】Low energy availability、骨代謝、月経異常、低用量ピル
13回	アスリートの臨床栄養学	サプリメント、low energy availability、within day energy balanceなど、アスリートの栄養とパフォーマンスを考えるうえで必要な最先端の理論と臨床（対処法・治療法）について学ぶ。【keyword】Low energy availability、within day energy balance、貧血、ergogenic aid
14回	総合討論	いままでの講義内容をふまえて症例提示をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に提示する各分野の教科書及び文献を事前に参照して授業に臨むこと。また指定した文献がある場合には精読して授業に望むこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
テーマが多岐にわたるため、課題達成に必要な参考書などは適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
各授業後に学習課題を提示し次回までに毎回提出を義務づける。提出された課題に対するレポート内容をS〜Dまで評定し、これを点数化して平均したものを点数とする。

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を検討すべき意見なし

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
履修者が数学や化学・物理学、生化学といった科学の基礎となる分野に関して一定の習得をしていることを前提に授業を行うので注意すること。
※授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である

【Outline (in English)】
【Course outline】 The lecture intends to provide basic and advanced knowledge of biomedical science and skills of reading and reviewing research papers of science and medicine in sports and exercise. The lecture should provide skills of writing a master's graduate thesis.
【Learning objectives】 The goal of the lecture is to obtain the basic and advanced knowledge of biomedical science necessary for writing a master's thesis.
[Learning activities outside of classroom] Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 10 hours. Students are strongly encouraged to visit the laboratory for consultation about their thesis frequently.
【Grading criteria/policy】 The grading will be determined on the basis of the score of task and exercise assigned in each classroom (100%).

SOC500I1（社会学 / Sociology 500）

スポーツ組織構造特論

得田　進介

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**水4**/Wed.4　｜　キャンパス：**多摩**
配当年次：**1～2年次**
備考（履修条件等）：

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在のスポーツ産業をさらに発展させていくためにはスポーツチームやスポーツ関連組織の経営管理体制の強化が必要不可欠となっています。
本講義では、組織の基礎知識を多角的（経営組織論、人的資源管理論、経営管理論、経営戦略論など）に学び、スポーツ組織が実際に行なっている組織運営の実務において最低限必要な専門能力の習得を目的とする授業を行います。

【到達目標】
・マネジメントについて明確に理解する。
・組織論の基礎知識を理解する。
・スポーツ組織を効果的にマネジメントするための理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
授業冒頭で授業内容に関連する時事的テーマについて解説します。授業はPowerPoint資料を主に用いた講義形式ですが、一方通行の授業とならぬように、授業で扱う各テーマについて、次の授業までにリアクションペーパーを提出してもらう予定です。
マネジメントの基本を学修した後、事例を参考にしながらスポーツ組織行動論の基礎を学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概論	授業の概要説明、授業評価方法の説明 日本のスポーツ産業の現状（市場規模や課題など）を理解する
2	組織とは	組織の理念、ビジョン、戦略に関する考え方を学習する
3	組織におけるリーダーシップ	組織での効果的なリーダーシップと意思決定方法について学習する
4	スポーツ組織	スポーツ組織における目的や戦略、経営計画の立案方法について学習する
5	スポーツ組織とステークホルダーとの関係性	スポーツ組織と関連するステークホルダーについて学習する
6	スポーツ組織のマネジメント	スポーツ組織でのマネジメントの現状および課題、対応策について理解する
7	組織のマネジメント体制の強化①	組織のガバナンスについて理解する
8	組織のマネジメント体制の強化②	組織のコンプライアンスについて理解する
9	組織のマネジメント体制の強化③	組織のアカウンタビリティーについて理解する
10	スポーツ組織のビジネスモデルと組織形態・人員配置	プロスポーツチームや中央競技団体のビジネスモデルについて理解し、スポーツ組織の組織形態や人員配置を学習する
11	組織の経営戦略	組織における選択と集中、マーケティングなどの経営戦略について学習する
12	組織のファイナンス	経営戦略に沿った経営計画、予算収支計画の策定方法を理解する
13	スポーツ組織の事例紹介	スポーツ組織の現状や課題把握、課題解決の実際の試みについて学ぶ
14	講義まとめ	今までの講義の総括を行なう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習は特に必要なし。授業を受講した後に内容を理解できているか関連する記事や紹介した資料などを用いて復習してください。本授業の復習時間は4時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
「スポーツチーム経営の教科書」有限責任あずさ監査法人 学研プラス
「新たなスポーツビジネス等の創出に向けた市場動向」スポーツ庁

【成績評価の方法と基準】
成績評価の方法：授業の内容を理解し、スポーツ界や組織における課題と対応策について自らの意見を述べることができるか、インプットとアウトプットが適切にできているかで評価します。
成績評価の基準：講義後に提出するリアクションペーパー：50%、期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
公認会計士としてスポーツチームの組織運営や組織体制強化に実際に携わっている経験を踏まえて、組織で必要とされている人材や知識について実例を基に講義していきます。
社会に存在している組織がどのような運営を行なっているのか、スポーツ界で今何が起きていて何が課題になっているのか、自分に必要な知識は何かを常に考えながら授業を受講してください。授業内容や用語等の暗記は一切不要であり、それよりも自分の考えをまとめること、伝えることを意識してください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, students will learn basic knowledge of organizations from various perspectives (management organization theory, human resource management theory, business management theory, management strategy theory, etc.), with the aim of acquiring the minimum necessary professional skills in the actual organizational management practices of sports organizations.
【Learning Objectives】
· To clearly understand management.
· To understand the basic knowledge of organizational theory.
· To understand the theory of effective management of sports organizations.
【Learning activities outside of classroom】
After attending the class, please review the content to see if you understand it.
After attending the class, please review the content by using the related articles and other materials. The standard review time for this class is about 4 hours.
【Grading Criteria/Policy】
Reaction paper to be submitted after the lecture: 50%, Final exam: 50%
.

OTR600I1（その他 / Others 600）

スポーツ健康学演習Ⅲ

瀬戸　宏明

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses　｜　キャンパス：**多摩**
配当年次：**2年次**
備考（履修条件等）：

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①修士論文作成に必要な研究計画を実施するための能力の習得
②調査・分析の実施

【到達目標】
①9月に実施予定の修士論文中間発表会の準備ができる力を身につけること
②研究計画に基づいて修士論文作成に必要なデータの収集を完成させること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
I、IIで習得した実験方法を用いてデータの集積をおこない、整理や分析をおこなう。
必要に応じてオンライン授業をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	研究計画の確認と今後の方向性について
2	調査・実験の実施計画の確認	研究計画に基づいた調査・実験の実施のための最終確認
3	結果の整理方法の確認	結果の整理、分析とそれに対するディスカッションの方法の確認
4	論文抄読会/リサーチクエスチョン	リサーチクエスチョンにかかわる抄読会
5	予備実験	予備実験の実施
6	調査・実験の実施	研究計画に基づいた調査・実験の経過報告
7	論文抄読会/統計	使用する統計にかかわる抄読会
8	調査・実験の継続	研究計画に基づいた調査・実験の最終報告
9	結果の整理	結果の整理、分析とそれに対するディスカッション
10	論文抄読会/関連領域	関連領域にかかわる抄読会
11	追加実験の検討	前回までの結果を踏まえた追加実験の検討
12	修士論文作成について	修士論文作成の開始のための講義/剽窃などの違法行為についての講義
13	修士論文中間発表会への対応	修士論文中間発表会への準備、討議
14	中間発表	研究内容の中間発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連した領域内の文献の精読、資料作成

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
適時必要な文献などを提示する

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組み（50％）
口頭試問（50％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
特になし
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。
そのため現場で求められるものを授業に展開可能である。

【Outline (in English)】
【Course outline】
A purpose of this lecture is to learn the following things
1: acquire the ability to implement the research plan necessary for master's thesis
2: conduct research and analysis.

【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− To acquire the ability to prepare for the master's thesis interim presentation
− Complete the collection of data necessary for writing a master's thesis based on the research plan
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process lab reports and the quality of the students experimental performance in the lab (100%)

OTR600I1（その他 / Others 600）

スポーツ健康学演習Ⅳ

瀬戸　宏明

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses　｜　キャンパス：**多摩**
配当年次：**2年次**
備考（履修条件等）：

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①論文作成に必要な考察力、文章力の強化
②修士論文の完成

【到達目標】
①得られたデータの分析、それに基づく考察
②修士論文の提出
③学会発表

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
これまでに得られた結果を踏まえて、自身のリサーチクエスチョンに対する検証をおこなう。そして先行研究などと比較もおこない修士論文を作成していく。
必要に応じてオンライン授業をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	修士論文完成への方向性の確認
2	結果の総括/リサーチクエスチョンとの関連性	自身のリサーチクエスチョンに対する実験方法の妥当性や結果の信頼性などについての検討
3	結果の総括/今後の発展性	実験、解析のふりかえりと反省、今後への見通しと発展の可能性についての検討
4	結果の考察/学会発表の予演	結果についてのディスカッション/学会の予演
5	学会発表	学会発表をおこなう
6	結果の考察/先行研究との比較	結果についてのディスカッション/先行研究との比較とその意義についてなど
7	結果の考察/検証方法	結果についてのディスカッション/結果の信頼性の具体的な検証の方法についてなど
8	結果の考察/統計手法	結果についてのディスカッション/統計の方法など
9	ディスカッション/解釈	結果についてのディスカッション/結果の解釈について
10	ディスカッション/その他の因子	結果についてのディスカッション/その他の包絡因子などの検討など
11	ディスカッション/limitation	結果についてのディスカッション/研究の限界についてなど
12	ディスカッション/総括	結果についてのディスカッション/結果の総括
13	最終発表の予演	発表内容についての検討
14	修士論文の提示	修士論文の完成形の提示

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連した領域内の文献の精読、資料作成

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
論文など適時指定する。

【成績評価の方法と基準】
修士論文作成までの過程（80％）
口頭試問（20％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
特になし
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。
そのため現場で求められるものを授業に展開可能である。

【Outline (in English)】
【Course outline】
A purpose of this lecture is to learn the following things
1: improve the thinking and writing skills necessary for writing a master's thesis
2: complete the master's thesis
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− Analysis of the obtained data and consideration based on it
− Submission of master's thesis
− Conference presentation
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process up to master's thesis (80%) and Oral examination (20%)

ADE500N1（建築学 / Architecture and building engineering 500）

近現代デザイン概論

今村　創平

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築院：建築士**
都市院：建築士

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
建築および都市における近代および現代の「計画」について、その手法や理論を検証する。
建築を成立させる「形式」や、建築の「自律性」について多角的に学ぶ。
上記のテーマについての知識を習得し、議論、記述する能力を身につける。

【到達目標】
建築や都市の背後にある形式や理論を理解し、分析する能力を身につける。
【学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）】
歴史と文化：◎ 技術と芸術：○

【修得できる能力】

総合デザイン力	歴史と文化	持続可能性と設計倫理	専門性	技術と芸術	情報技術	表現能力・コミュニケーション能力
	◎					

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」「DP7」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回講義を行う。ノートをよくとり、関連する書籍の自習を求める。
講義内容に関連した課題を出すので、2回発表をし、最後にレポートとして提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 計画の概念と近代	講義ガイダンス 建築計画学の現在 大量生産とフォーディズム 田園都市、CIAM的近代都市計画 ヒルベルトザイマー、アウシュビッツ
2	機能主義、計画の限界	機能主義 計画の限界 ヴィトゲンシュタインの家 均質空間（ミース） ジャンクスペース（レム）
3	革命と建築	近代への転換（啓蒙思想、革命）と計画 ロシア革命/ロシア・アバンギャルド・アート ロシア・アヴァンギャルドにおける建築と都市
4	建築と形式①	革命か建築か（歴史否定としてのモダニズム） ロウ「理想的ヴィラの数学」 近代：「形式」から自由へ カウフマン「自律的建築の起源と展開」
5	建築と形式②	日本の歴史建築にみる形式の変遷 異なる形式の結合 純粋形式
6	建築と形式③	数寄屋と書院 大江宏の建築 能舞台と茶室 形式の歴史と現代
7	学生発表-1	課題発表
8	コラージュ	シュルレアリズム コラージュ 野生の思考、ブリコラージュ ロウ「コラージュ・シティ」
9	グリッド	プラトン幾何学 都市とグリッド 建築とグリッド（磯崎、藤井、アイゼンマン、ウンガース） グリッドとアート
10	美術史・コンセプト	アートの起源から印象派まで モダンアート、コンセプチュアルアール、ミニマルあーとなど コンセプトとは
11	ポスト・モダニズム	ポストモダニズム ジェンクス、ヴェンチューリ、磯崎 デコンストラクティヴィズム コンスタント「ニュー・バビロン」 相対主義
12	現代建築理論	マリオ・カルポ「アルベルティ・パラダイム」 アウレリ「アウトノミア・プロジェクト」 オルジアッティ「ノンリファレンシャル」
13	現代状況論	資本主義、情報都市 コモン/シェア/パブリック エコロジー、人新世、代謝
14	学生発表-2	課題発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
近現代の建築および都市に関する参考文献の読書。事例研究の作品を選定し、発表の準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
今村創平「現代都市理論講義」
ロバート・ヴェンチューリ他「ラスベガス」
コーリン・ロウ「マニエリズムと近代建築」
その他、講義内にて、関連書籍、テキスト、作品集を指示する。

【参考書】
講義内にて、関連書籍、テキスト、作品集を指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組み(20%)と発表(40%)およびレポート（40％）とする。授業を4回以上無断欠席すると単位認定外となるので注意。

【学生の意見等からの気づき】
毎回講義後に、出席確認も兼ねて、簡単な授業の感想を書いていただいてます。そこでの指摘事項で、授業内容及び進め方で改善できるものは、採用するようにしています。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントでの発表。IAEサーバーの利用、RFCによる公開。

【その他の重要事項】
実務経験との関連：建築家で一級建築士である担当教員から、建築の実務や現代の建築や都市を取りまく課題の視点からの説明、コメントを受けることができる。
授業終了後に教室で質問を受け付ける

【Outline (in English)】
This course investigates the methods and theories of modern and contemporary "planning" of architecture and urbanism. The students will learn "formalism" and "autonomy" of architecture from various points.
Learning the knowledge of the abovementioned themes, and gaining the abilities of discussing and describing them.

ADE500N1（建築学 / Architecture and building engineering 500）

近現代デザイン概論

今村　創平

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築院：建築士**
都市院：建築士

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
建築および都市における近代および現代の「計画」について、その手法や理論を検証する。
建築を成立させる「形式」や、建築の「自律性」について多角的に学ぶ。
上記のテーマについての知識を習得し、議論、記述する能力を身につける。

【到達目標】
建築や都市の背後にある形式や理論を理解し、分析する能力を身につける。
【学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）】
歴史と文化：◎ 技術と芸術：○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」「DP7」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回講義を行う。ノートをよくとり、関連する書籍の自習を求める。
講義内容に関連した課題を出すので、2回発表をし、最後にレポートとして提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 計画の概念と近代	講義ガイダンス 建築計画学の現在 大量生産とフォーディズム 田園都市、CIA的近代都市計画 ヒルベルトザイマー、アウシュビッツ
2	機能主義、計画の限界	機能主義 計画の限界 ヴィトゲンシュタインの家 均質空間（ミース） ジャンクスペース（レム）
3	革命と建築	近代への転換（啓蒙思想、革命）と計画 ロシア革命/ロシア・アバンギャルド・アート ロシア・アヴァンギャルドにおける建築と都市
4	建築と形式①	革命か建築か（歴史否定としてのモダニズム） ロウ「理想的ヴィラの数学」 近代：「形式」から自由へ カウフマン「自律的建築の起源と展開」
5	建築と形式②	日本の歴史建築にみる形式の変遷 異なる形式の結合 純粋形式
6	建築と形式③	数寄屋と書院 大江宏の建築 能舞台と茶室 形式の歴史と現代
7	学生発表-1	課題発表
8	コラージュ	シュルレアリズム コラージュ 野生の思考、ブリコラージュ ロウ「コラージュ・シティ」
9	グリッド	プラトン幾何学 都市とグリッド 建築とグリッド（磯崎、藤井、アイゼンマン、ウンガース） グリッドとアート
10	美術史・コンセプト	アートの起源から印象派まで モダンアート、コンセプチュアル アール、ミニマルあーとなど コンセプトとは
11	ポスト・モダニズム	ポストモダニズム ジェンクス、ヴェンチューリ、磯崎 デコンストラクティヴィズム コンスタント「ニュー・バビロン」 相対主義
12	現代建築理論	マリオ・カルポ「アルベルティ・パラダイム」 アウレリ「アウトノミア・プロジェクト」 オルジアッティ「ノンリファレンシャル」
13	現代状況論	資本主義、情報都市 コモン/シェア/パブリック エコロジー、人新世、代謝
14	学生発表-2	課題発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
近現代の建築および都市に関する参考文献の読書。事例研究の作品を選定し、発表の準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
今村創平「現代都市理論講義」
ロバート・ヴェンチューリ他「ラスベガス」
コーリン・ロウ「マニエリズムと近代建築」
その他、講義内にて、関連書籍、テキスト、作品集を指示する。

【参考書】
講義内にて、関連書籍、テキスト、作品集を指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組み(20%)と発表(40%)およびレポート（40％）とする。授業を4回以上無断欠席すると単位認定外となるので注意。

【学生の意見等からの気づき】
毎回講義後に、出席確認も兼ねて、簡単な授業の感想を書いていただいてます。そこでの指摘事項で、授業内容及び進め方で改善できるものは、採用するようにしています。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントでの発表。IAEサーバーの利用、RFCによる公開。

【その他の重要事項】
実務経験との関連：建築家で一級建築士である担当教員から、建築の実務や現代の建築や都市を取りまく課題の視点からの説明、コメントを受けることができる。
授業終了後に教室で質問を受け付ける

【Outline (in English)】
This course investigates the methods and theories of modern and contemporary "planning" of architecture and urbanism. The students will learn "formalism" and "autonomy" of architecture from various points.
Learning the knowledge of the abovementioned themes, and gaining the abilities of discussing and describing them.

ADE500N1（建築学 / Architecture and building engineering 500）

近現代デザイン概論

今村　創平

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築院：建築士**
都市院：建築士

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
建築および都市における近代および現代の「計画」について、その手法や理論を検証する。
建築を成立させる「形式」や、建築の「自律性」について多角的に学ぶ。
上記のテーマについての知識を習得し、議論、記述する能力を身につける。

【到達目標】
建築や都市の背後にある形式や理論を理解し、分析する能力を身につける。
【学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）】
歴史と文化：◎ 技術と芸術：○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」「DP7」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回講義を行う。ノートをよくとり、関連する書籍の自習を求める。
講義内容に関連した課題を出すので、2回発表をし、最後にレポートとして提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 計画の概念と近代	講義ガイダンス 建築計画学の現在 大量生産とフォーディズム 田園都市、CIA的近代都市計画 ヒルベルトザイマー、アウシュビッツ
2	機能主義、計画の限界	機能主義 計画の限界 ヴィトゲンシュタインの家 均質空間（ミース） ジャンクスペース（レム）
3	革命と建築	近代への転換（啓蒙思想、革命）と計画 ロシア革命/ロシア・アバンギャルド・アート ロシア・アヴァンギャルドにおける建築と都市
4	建築と形式①	革命か建築か（歴史否定としてのモダニズム） ロウ「理想的ヴィラの数学」 近代：「形式」から自由へ カウフマン「自律的建築の起源と展開」
5	建築と形式②	日本の歴史建築にみる形式の変遷 異なる形式の結合 純粋形式
6	建築と形式③	数寄屋と書院 大江宏の建築 能舞台と茶室 形式の歴史と現代
7	学生発表-1	課題発表
8	コラージュ	シュルレアリズム コラージュ 野生の思考、ブリコラージュ ロウ「コラージュ・シティ」
9	グリッド	プラトン幾何学 都市とグリッド 建築とグリッド（磯崎、藤井、アイゼンマン、ウンガース） グリッドとアート
10	美術史・コンセプト	アートの起源から印象派まで モダンアート、コンセプチュアル アール、ミニマルあーとなど コンセプトとは
11	ポスト・モダニズム	ポストモダニズム ジェンクス、ヴェンチューリ、磯崎 デコンストラクティヴィズム コンスタント「ニュー・バビロン」 相対主義
12	現代建築理論	マリオ・カルポ「アルベルティ・パラダイム」 アウレリ「アウトノミア・プロジェクト」 オルジアッティ「ノンリファレンシャル」
13	現代状況論	資本主義、情報都市 コモン/シェア/パブリック エコロジー、人新世、代謝
14	学生発表-2	課題発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
近現代の建築および都市に関する参考文献の読書。事例研究の作品を選定し、発表の準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
今村創平「現代都市理論講義」
ロバート・ヴェンチューリ他「ラスベガス」
コーリン・ロウ「マニエリズムと近代建築」
その他、講義内にて、関連書籍、テキスト、作品集を指示する。

【参考書】
講義内にて、関連書籍、テキスト、作品集を指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組み(20%)と発表(40%)およびレポート（40％）とする。授業を4回以上無断欠席すると単位認定外となるので注意。

【学生の意見等からの気づき】
毎回講義後に、出席確認も兼ねて、簡単な授業の感想を書いていただいてます。そこでの指摘事項で、授業内容及び進め方で改善できるものは、採用するようにしています。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントでの発表。IAEサーバーの利用、RFCによる公開。

【その他の重要事項】
実務経験との関連：建築家で一級建築士である担当教員から、建築の実務や現代の建築や都市を取りまく課題の視点からの説明、コメントを受けることができる。
授業終了後に教室で質問を受け付ける

【Outline (in English)】
This course investigates the methods and theories of modern and contemporary "planning" of architecture and urbanism. The students will learn "formalism" and "autonomy" of architecture from various points.
Learning the knowledge of the abovementioned themes, and gaining the abilities of discussing and describing them.

ADE500N1（建築学 / Architecture and building engineering 500）

環境工学概論

加用　現空

開講時期：**秋学期前半/Fall(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築院：建築士**
都市院：建築士

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
IoT技術やシミュレーション技術の発展に伴い、建築空間における環境情報は入手可能な状況が整いつつある。しかしながら、収集した環境情報の活用方法は限定的で検討の余地がある。我々の住環境におけるエネルギーフローを把握し、空間の環境理解を促進する情報収集、情報可視化のあり方を考える必要がある。本講義では、建築環境の状態を理解し、調整行動を実践するために必要な情報収集と解析手法をテーマに、実践的なデータマネジメントの基礎を学ぶ。

【到達目標】
・建築環境の状態を把握するための視点を獲得する
・建築環境をモデル化する基礎的技能を習得する
・建築環境理解のために必要な手法を学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP6」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
各自のPCを用いたデータマネジメント、モデリング作業を基本とした演習型の授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入	講義の目的、概要、プログラムインストール
2	環境物理量	計測基礎、直接比較、間接比較
3	環境情報の可視化	グラフ化、AR技術の適用
4	演習（1）	環境情報収集：データ収集からデータマネジメントまで（R言語）
5	演習（2）	環境情報のグラフ化：データマネジメントからグラフ化まで（R言語）
6	演習（3）	データ分析、可視化
7	演習（4）	3Dモデルを用いた環境情報の可視化
8	演習（5）	環境解析と環境計測情報の連成
9	空間モデリング演習	環境解析、気候情報の可視化
10	個人演習（1）	習得技能の応用・実践
11	個人演習（2）	習得技能の応用・実践
12	個人演習（3）	環境情報の収集と可視化の提案
13	個人演習（4）	環境情報の収集と可視化の提案
14	まとめ	建築デザインに向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。授業内で完了しなかった演習作業がある場合は、必要に応じて個別に時間外作業に取り組み、遂行すること。適宜、教員・他履修者と十分コミュニケーションをとり、進めること。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
授業内の演習、個別課題、最終課題の成果により評価する予定。なお未提出がある者の成績評価は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックはありません。

【学生が準備すべき機器他】
本講義では、Rhino Grasshopper、R言語を用いたデータ解析、空間シミュレーションを用いて進める。他のプログラミング言語（Python, Processing, p5jsなど）で同様の検討が実践可能であれば、ツール・手法選択は自由とする。

【その他の重要事項】
授業終了後に教室で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
Course Outline: With the development of IoT and simulation technologies, environmental information in building spaces is becoming more readily available. However, the utilization of the collected environmental information is limited and there is room for further study. It is necessary to understand the energy flow in our living environment and to consider how to collect and visualize information that will promote an understanding of the environment of space. In this lecture, students will learn the basics of practical data management on the theme of information collection and analysis methods necessary to understand the state of the built environment and to implement adjustment actions.
Learning Objectives: 1) To acquire the scope to understand the status of the built environment, 2) To understand the basics of mathematical modeling, 3) To develop basic skills of mathematical modeling through exercises.
Learning Activities Outside of The Classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. If there are any exercises that were not completed in class, students are expected to work on them individually during off-hours as needed. Communicate with the instructor and other students as appropriate.
Grading Criteria /Policy: Grades will be based on the results of in-class exercises, individual assignments, and the final project. Grades will not be given to students who have not yet submitted their work.

ADE500N1（建築学 / Architecture and building engineering 500）

環境工学概論

加用　現空

開講時期：**秋学期前半/Fall(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築院：建築士**
都市院：建築士

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
IoT技術やシミュレーション技術の発展に伴い、建築空間における環境情報は入手可能な状況が整いつつある。しかしながら、収集した環境情報の活用方法は限定的で検討の余地がある。我々の住環境におけるエネルギーフローを把握し、空間の環境理解を促進する情報収集、情報可視化のあり方を考える必要がある。本講義では、建築環境の状態を理解し、調整行動を実践するために必要な情報収集と解析手法をテーマに、実践的なデータマネジメントの基礎を学ぶ。

【到達目標】
・建築環境の状態を把握するための視点を獲得する
・建築環境をモデル化する基礎的技能を習得する
・建築環境理解のために必要な手法を学ぶ

【修得できる能力】

総合デザイン力	歴史と文化	持続可能性と設計倫理	専門性	技術と芸術	情報技術	表現能力・コミュニケーション能力
		◎				

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP6」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
各自のPCを用いたデータマネジメント、モデリング作業を基本とした演習型の授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入	講義の目的、概要、プログラムインストール
2	環境物理量	計測基礎、直接比較、間接比較
3	環境情報の可視化	グラフ化、AR技術の適用
4	演習（1）	環境情報収集：データ収集からデータマネジメントまで（R言語）
5	演習（2）	環境情報のグラフ化：データマネジメントからグラフ化まで（R言語）
6	演習（3）	データ分析、可視化
7	演習（4）	3Dモデルを用いた環境情報の可視化
8	演習（5）	環境解析と環境計測情報の連成
9	空間モデリング演習	環境解析、気候情報の可視化
10	個人演習（1）	習得技能の応用・実践
11	個人演習（2）	習得技能の応用・実践
12	個人演習（3）	環境情報の収集と可視化の提案
13	個人演習（4）	環境情報の収集と可視化の提案
14	まとめ	建築デザインに向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。授業内で完了しなかった演習作業がある場合は、必要に応じて個別に時間外作業に取り組み、遂行すること。適宜、教員・他履修者と十分コミュニケーションをとり、進めること。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
授業内の演習、個別課題、最終課題の成果により評価する予定。なお未提出がある者の成績評価は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックはありません。

【学生が準備すべき機器他】
本講義では、Rhino Grasshopper、R言語を用いたデータ解析、空間シミュレーションを用いて進める。他のプログラミング言語（Python, Processing, p5jsなど）で同様の検討が実践可能であれば、ツール・手法選択は自由とする。

【その他の重要事項】
授業終了後に教室で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
Course Outline: With the development of IoT and simulation technologies, environmental information in building spaces is becoming more readily available. However, the utilization of the collected environmental information is limited and there is room for further study. It is necessary to understand the energy flow in our living environment and to consider how to collect and visualize information that will promote an understanding of the environment of space. In this lecture, students will learn the basics of practical data management on the theme of information collection and analysis methods necessary to understand the state of the built environment and to implement adjustment actions.
Learning Objectives: 1) To acquire the scope to understand the status of the built environment, 2) To understand the basics of mathematical modeling, 3) To develop basic skills of mathematical modeling through exercises.
Learning Activities Outside of The Classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. If there are any exercises that were not completed in class, students are expected to work on them individually during off-hours as needed. Communicate with the instructor and other students as appropriate.
Grading Criteria /Policy: Grades will be based on the results of in-class exercises, individual assignments, and the final project. Grades will not be given to students who have not yet submitted their work.

ADE500N1（建築学 / Architecture and building engineering 500）

環境工学概論

加用　現空

開講時期：**秋学期前半/Fall(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築院：建築士**
都市院：建築士

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
IoT技術やシミュレーション技術の発展に伴い、建築空間における環境情報は入手可能な状況が整いつつある。しかしながら、収集した環境情報の活用方法は限定的で検討の余地がある。我々の住環境におけるエネルギーフローを把握し、空間の環境理解を促進する情報収集、情報可視化のあり方を考える必要がある。本講義では、建築環境の状態を理解し、調整行動を実践するために必要な情報収集と解析手法をテーマに、実践的なデータマネジメントの基礎を学ぶ。

【到達目標】
・建築環境の状態を把握するための視点を獲得する
・建築環境をモデル化する基礎的技能を習得する
・建築環境理解のために必要な手法を学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP6」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
各自のPCを用いたデータマネジメント、モデリング作業を基本とした演習型の授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入	講義の目的、概要、プログラムインストール
2	環境物理量	計測基礎、直接比較、間接比較
3	環境情報の可視化	グラフ化、AR技術の適用
4	演習（1）	環境情報収集：データ収集からデータマネジメントまで（R言語）
5	演習（2）	環境情報のグラフ化：データマネジメントからグラフ化まで（R言語）
6	演習（3）	データ分析、可視化
7	演習（4）	3Dモデルを用いた環境情報の可視化
8	演習（5）	環境解析と環境計測情報の連成
9	空間モデリング演習	環境解析、気候情報の可視化
10	個人演習（1）	習得技能の応用・実践
11	個人演習（2）	習得技能の応用・実践
12	個人演習（3）	環境情報の収集と可視化の提案
13	個人演習（4）	環境情報の収集と可視化の提案
14	まとめ	建築デザインに向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。授業内で完了しなかった演習作業がある場合は、必要に応じて個別に時間外作業に取り組み、遂行すること。適宜、教員・他履修者と十分コミュニケーションをとり、進めること。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
授業内の演習、個別課題、最終課題の成果により評価する予定。なお未提出がある者の成績評価は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックはありません。

【学生が準備すべき機器他】
本講義では、Rhino Grasshopper、R言語を用いたデータ解析、空間シミュレーションを用いて進める。他のプログラミング言語（Python, Processing, p5jsなど）で同様の検討が実践可能であれば、ツール・手法選択は自由とする。

【その他の重要事項】
授業終了後に教室で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
Course Outline: With the development of IoT and simulation technologies, environmental information in building spaces is becoming more readily available. However, the utilization of the collected environmental information is limited and there is room for further study. It is necessary to understand the energy flow in our living environment and to consider how to collect and visualize information that will promote an understanding of the environment of space. In this lecture, students will learn the basics of practical data management on the theme of information collection and analysis methods necessary to understand the state of the built environment and to implement adjustment actions.
Learning Objectives: 1) To acquire the scope to understand the status of the built environment, 2) To understand the basics of mathematical modeling, 3) To develop basic skills of mathematical modeling through exercises.
Learning Activities Outside of The Classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. If there are any exercises that were not completed in class, students are expected to work on them individually during off-hours as needed. Communicate with the instructor and other students as appropriate.
Grading Criteria /Policy: Grades will be based on the results of in-class exercises, individual assignments, and the final project. Grades will not be given to students who have not yet submitted their work.

CST500N1（土木工学 / Civil engineering 500）

景観デザイン概論

福井　恒明

開講時期：**春学期前半/Spring(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市院：建築士**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では，景観デザインに関する様々な概念を学び，公共空間における景観デザインプロジェクトの事例についてその内容や考え方を学ぶ．基本的な概念を確認したのちに，いくつかのテーマについてグループディスカッションにより論点を整理する．それらにより今後の都市・建築・環境などの分野における景観デザインの考え方を修得すると共に，自分の専門分野との関係を確認する．

【到達目標】
1）景観デザインの着眼点および分析の基礎を習得する
2）都市環境デザイン／社会基盤分野において良好な景観を形成している事例を知り、評価されている理由を理解する
3）都市環境デザイン／社会基盤において景観デザインが必要とされる理由やその価値観について理解する

【修得できる能力】

総合デザイン力	歴史と文化	持続可能性と設計倫理	専門性	技術と芸術	情報技術	表現能力・コミュニケーション能力
	◎	○				

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
GoogleClassroomを使用して教材の配付や課題提出を行う．miroを用いたグループワークを行う．
教員による説明とグループワークまたは個人作業とその発表の組み合わせで各回の授業を構成する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	景観デザインの範疇	景観デザインが取り扱う課題や範疇について確認する．
2	景観のとらえ方	景観について考える上で前提となる人間の視覚特性や景観把握モデルについて説明する．
3	景観の規範	伝統的な景観・文化的景観の概要について説明する．
4	景観の価値	景観が生み出す効果と価値の考え方について説明する．
5	グループディスカッション（1）	事前に与えられたテーマ（立場の異なる2者の議論）について，グループワークによってその主張を確認する．
6	グループディスカッション（2）	引き続き，グループワークにより，議論の論点を整理し，それらについて学生自身の意見を整理し，発表する．
7	景観デザインの系譜	戦後の景観デザインの流れについて説明する．
8	インフラのデザイン	他分野のデザインに比べてインフラストラクチャーのデザインに求められる要件や特徴について説明する．
9	水辺のデザイン実践（1）	河川等の水辺のデザイン事例について実務者をゲストを招きデザインの意図や成果について説明を受ける．
10	水辺のデザイン実践（2）	前授業の内容を元に質疑やディスカッションを行う．
11	道のデザイン実践（1）	都市空間のデザイン事例について実務者をゲストとして招きデザインの意図や成果について説明を受ける．
12	道のデザイン実践（2）	前授業の内容を元に質疑やディスカッションを行う．
13	今後の景観デザインの方向	土木・建築といった従来の分野を越えた地域の持続に貢献する景観デザインの方向性について紹介・議論する．
14	まとめ	講義範囲全般を対象としたふりかえりを行う．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各回終了後に習得した概念や用語の確認を行う．
・グループディスカッションの前には事前に配布した資料を十分に確認し，授業当日はすぐにディスカッションに入れるようにする．本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
景観とデザイン（改訂２版），佐々木葉著・内山久雄編，オーム社，2024，2700円＋税景観用語事典（増補改訂第二版），篠原修編，彰国社，2021，3600円+税

【成績評価の方法と基準】
授業における提出物（70%）と最終レポート+発表（30%）により評価し、総合点60%以上を合格とする．
全ての課題提出を単位取得の条件とする．
欠席4回以上は単位取得を認めない（D評価）

【学生の意見等からの気づき】
前年度に引き続き，グループディスカッションを導入する．

【学生が準備すべき機器他】
グループワーク実施のため，貸与PC等の作業ができるパソコンとインターネット接続環境を準備すること．

【その他の重要事項】
景観計画・景観デザインについての実務経験を持つ教員が、その経験を活かして、都市環境デザインにおける景観の考え方を実際のプロジェクトにおける適用を踏まえて講義する。
オフィスアワーについては『履修の手引き』を参照すること。

【Outline (in English)】
Outline:
In this course, students will learn various concepts concerning architecture for infrastructure and environment, and learn the outline and concept of several actual projects. After reviewing basic concepts, group discussions on several themes will be held. Through the course, students should acquire the concept of landscape design in urban, architecture and environment fields.
Objectives:
1) To acquire the basics of landscape design and analysis
2）To understand why good landscapes are valued by learning about examples of good landscapes in urban environmental design and social infrastructure.
3）To understand the reasons and values of landscape design in urban environmental design and social infrastructure
Learning activities outside of the classroom:
To review the concepts and terminology mentioned in each session.
Students are expected to review the materials distributed in advance before the group discussion and to be ready for the discussion immediately on the day of the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy:
The evaluation will be based on class submissions (70%) and reports (30%). A total score of 60%or higher is considered passing. All assignments must be submitted.
More than four absences are not acceptable.

CST500N1（土木工学 / Civil engineering 500）

景観デザイン概論

福井　恒明

開講時期：**春学期前半/Spring(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市院：建築士**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では，景観デザインに関する様々な概念を学び，公共空間における景観デザインプロジェクトの事例についてその内容や考え方を学ぶ．基本的な概念を確認したのちに，いくつかのテーマについてグループディスカッションにより論点を整理する．それらにより今後の都市・建築・環境などの分野における景観デザインの考え方を修得すると共に，自分の専門分野との関係を確認する．

【到達目標】
1）景観デザインの着眼点および分析の基礎を習得する
2）都市環境デザイン／社会基盤分野において良好な景観を形成している事例を知り、評価されている理由を理解する
3）都市環境デザイン／社会基盤において景観デザインが必要とされる理由やその価値観について理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
GoogleClassroomを使用して教材の配付や課題提出を行う．miroを用いたグループワークを行う．
教員による説明とグループワークまたは個人作業とその発表の組み合わせで各回の授業を構成する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	景観デザインの範疇	景観デザインが取り扱う課題や範疇について確認する．
2	景観のとらえ方	景観について考える上で前提となる人間の視覚特性や景観把握モデルについて説明する．
3	景観の規範	伝統的な景観・文化的景観の概要について説明する．
4	景観の価値	景観が生み出す効果と価値の考え方について説明する．
5	グループディスカッション（1）	事前に与えられたテーマ（立場の異なる2者の議論）について，グループワークによってその主張を確認する．
6	グループディスカッション（2）	引き続き，グループワークにより，議論の論点を整理し，それらについて学生自身の意見を整理し，発表する．
7	景観デザインの系譜	戦後の景観デザインの流れについて説明する．
8	インフラのデザイン	他分野のデザインに比べてインフラストラクチャーのデザインに求められる要件や特徴について説明する．
9	水辺のデザイン実践（1）	河川等の水辺のデザイン事例について実務者をゲストを招きデザインの意図や成果について説明を受ける．
10	水辺のデザイン実践（2）	前授業の内容を元に質疑やディスカッションを行う．
11	道のデザイン実践（1）	都市空間のデザイン事例について実務者をゲストとして招きデザインの意図や成果について説明を受ける．
12	道のデザイン実践（2）	前授業の内容を元に質疑やディスカッションを行う．
13	今後の景観デザインの方向	土木・建築といった従来の分野を越えた地域の持続に貢献する景観デザインの方向性について紹介・議論する．
14	まとめ	講義範囲全般を対象としたふりかえりを行う．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各回終了後に習得した概念や用語の確認を行う．
・グループディスカッションの前には事前に配布した資料を十分に確認し，授業当日はすぐにディスカッションに入れるようにする．本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
景観とデザイン（改訂２版），佐々木葉著・内山久雄編，オーム社，2024，2700円＋税景観用語事典（増補改訂第二版），篠原修編，彰国社，2021，3600円+税

【成績評価の方法と基準】
授業における提出物（70%）と最終レポート+発表（30%）により評価し、総合点60%以上を合格とする．
全ての課題提出を単位取得の条件とする．
欠席4回以上は単位取得を認めない（D評価）

【学生の意見等からの気づき】
前年度に引き続き，グループディスカッションを導入する．

【学生が準備すべき機器他】
グループワーク実施のため，貸与PC等の作業ができるパソコンとインターネット接続環境を準備すること．

【その他の重要事項】
景観計画・景観デザインについての実務経験を持つ教員が、その経験を活かして、都市環境デザインにおける景観の考え方を実際のプロジェクトにおける適用を踏まえて講義する。
オフィスアワーについては『履修の手引き』を参照すること．

【Outline (in English)】
Outline:
In this course, students will learn various concepts concerning architecture for infrastructure and environment, and learn the outline and concept of several actual projects. After reviewing basic concepts, group discussions on several themes will be held. Through the course, students should acquire the concept of landscape design in urban, architecture and environment fields.
Objectives:
1) To acquire the basics of landscape design and analysis
2）To understand why good landscapes are valued by learning about examples of good landscapes in urban environmental design and social infrastructure.
3）To understand the reasons and values of landscape design in urban environmental design and social infrastructure
Learning activities outside of the classroom:
To review the concepts and terminology mentioned in each session.
Students are expected to review the materials distributed in advance before the group discussion and to be ready for the discussion immediately on the day of the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy:
The evaluation will be based on class submissions (70%) and reports (30%). A total score of 60%or higher is considered passing. All assignments must be submitted.
More than four absences are not acceptable.

CST500N1（土木工学 / Civil engineering 500）

景観デザイン概論

福井　恒明

開講時期：**春学期前半/Spring(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市院：建築士**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では，景観デザインに関する様々な概念を学び，公共空間における景観デザインプロジェクトの事例についてその内容や考え方を学ぶ．基本的な概念を確認したのちに，いくつかのテーマについてグループディスカッションにより論点を整理する．それらにより今後の都市・建築・環境などの分野における景観デザインの考え方を修得すると共に，自分の専門分野との関係を確認する．

【到達目標】
1）景観デザインの着眼点および分析の基礎を習得する
2）都市環境デザイン／社会基盤分野において良好な景観を形成している事例を知り、評価されている理由を理解する
3）都市環境デザイン／社会基盤において景観デザインが必要とされる理由やその価値観について理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
GoogleClassroomを使用して教材の配付や課題提出を行う．miroを用いたグループワークを行う．
教員による説明とグループワークまたは個人作業とその発表の組み合わせで各回の授業を構成する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	景観デザインの範疇	景観デザインが取り扱う課題や範疇について確認する．
2	景観のとらえ方	景観について考える上で前提となる人間の視覚特性や景観把握モデルについて説明する．
3	景観の規範	伝統的な景観・文化的景観の概要について説明する．
4	景観の価値	景観が生み出す効果と価値の考え方について説明する．
5	グループディスカッション（1）	事前に与えられたテーマ（立場の異なる2者の議論）について，グループワークによってその主張を確認する．
6	グループディスカッション（2）	引き続き，グループワークにより，議論の論点を整理し，それらについて学生自身の意見を整理し，発表する．
7	景観デザインの系譜	戦後の景観デザインの流れについて説明する．
8	インフラのデザイン	他分野のデザインに比べてインフラストラクチャーのデザインに求められる要件や特徴について説明する．
9	水辺のデザイン実践（1）	河川等の水辺のデザイン事例について実務者をゲストを招きデザインの意図や成果について説明を受ける．
10	水辺のデザイン実践（2）	前授業の内容を元に質疑やディスカッションを行う．
11	道のデザイン実践（1）	都市空間のデザイン事例について実務者をゲストとして招きデザインの意図や成果について説明を受ける．
12	道のデザイン実践（2）	前授業の内容を元に質疑やディスカッションを行う．
13	今後の景観デザインの方向	土木・建築といった従来の分野を越えた地域の持続に貢献する景観デザインの方向性について紹介・議論する．
14	まとめ	講義範囲全般を対象としたふりかえりを行う．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各回終了後に習得した概念や用語の確認を行う．
・グループディスカッションの前には事前に配布した資料を十分に確認し，授業当日はすぐにディスカッションに入れるようにする．本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
景観とデザイン（改訂２版），佐々木葉著・内山久雄編，オーム社，2024，2700円＋税景観用語事典（増補改訂第二版），篠原修編，彰国社，2021，3600円+税

【成績評価の方法と基準】
授業における提出物（70%）と最終レポート+発表（30%）により評価し、総合点60%以上を合格とする．
全ての課題提出を単位取得の条件とする．
欠席4回以上は単位取得を認めない（D評価）

【学生の意見等からの気づき】
前年度に引き続き，グループディスカッションを導入する．

【学生が準備すべき機器他】
グループワーク実施のため，貸与PC等の作業ができるパソコンとインターネット接続環境を準備すること．

【その他の重要事項】
景観計画・景観デザインについての実務経験を持つ教員が、その経験を活かして、都市環境デザインにおける景観の考え方を実際のプロジェクトにおける適用を踏まえて講義する。
オフィスアワーについては『履修の手引き』を参照すること。

【Outline (in English)】
Outline:
In this course, students will learn various concepts concerning architecture for infrastructure and environment, and learn the outline and concept of several actual projects. After reviewing basic concepts, group discussions on several themes will be held. Through the course, students should acquire the concept of landscape design in urban, architecture and environment fields.
Objectives:
1) To acquire the basics of landscape design and analysis
2）To understand why good landscapes are valued by learning about examples of good landscapes in urban environmental design and social infrastructure.
3）To understand the reasons and values of landscape design in urban environmental design and social infrastructure
Learning activities outside of the classroom:
To review the concepts and terminology mentioned in each session.
Students are expected to review the materials distributed in advance before the group discussion and to be ready for the discussion immediately on the day of the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy:
The evaluation will be based on class submissions (70%) and reports (30%). A total score of 60%or higher is considered passing. All assignments must be submitted.
More than four absences are not acceptable.

ADE500N1（建築学 / Architecture and building engineering 500）

地域・都市再生概論

高見　公雄

開講時期：**春学期後半**/Spring(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当授業は、地域・都市再生概論、即ち人口減少社会下における地域・都市整備の課題を捉え、どのように再生していくかに関する視点を学ぶものである。しかしながら、これは大きなテーマであり、かつ漠然としている。当授業では当面、4つの柱を建て、それに関する課題を受講者が見つけ、自らが絞り込んだテーマに対して調査研究を行うといったスタイルをとっていく。
当面の4つの柱とは、
①人口減少局面を迎えた、わが国の国土のあり方
②地方都市の空洞化、衰退への対処
③東日本大震災による復興まちづくり、今後の大規模震災への備え
④景観形成のあり方
である。

【到達目標】
当授業では、受講者が『自ら絞り込んだテーマについて調査し、一定のまとめを行う』といった出口を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
初回から前半において地域・都市が置かれる状況、これを再生していくための諸制度の概要説明を行う。これらを踏まえ、受講者は自らのテーマ、研究対象地域を選定し、発表して教員との質疑応答を行う。さらにこれらについて深く研究し、全員がこれをPPT等により発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、問題提起 地方都市の状況	広範な地域・都市再生の課題について概観するとともに、当授業で重点的に取り扱う範囲を明らかにする。
2	被災地の状況 制度、予算概要	地方都市の状況、被災地の状況などを紹介し、合わせて地域再生の重要なツールとなる国の制度、予算などを論ずる。
3	研究テーマに関する質疑（1）	受講生は自らのテーマを絞り込むための質疑書を作成し、教員とディスカションする。
4	研究テーマに関する質疑（2）	受講生は自らのテーマを絞り込むための質疑書を作成し、教員とディスカションする。
5	地域・都市再生の視点	課題意識が深まった段階を捉え、地域・都市再生の視点を論ずる。課題意識から現実の動きへの橋渡しの考え方である。
6	ディスカッション	以上を踏まえてフリー・ディスカッションを行う。
7	研究テーマと対象都市の発表	受講生全員から研究テーマと対象都市、研究の狙いの発表を受け、必要な質疑を行う。
8	調査・研究、質疑（1）	調査・研究を進める。暫時質疑に対応する。
9	調査・研究、質疑（2）	調査・研究を進める。暫時質疑に対応する。
10	調査・研究、質疑（3）	調査・研究を進める。暫時質疑に対応する。
11	研究発表（1）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。
12	研究発表（2）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。
13	研究発表（3）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。
14	研究発表（4）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会の動きに関心を持つ。新聞など社会性ある情報に接する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特段なし（その都度、紹介する。）

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
テーマの選定、研究成果(50％)、プレゼンテーション能(50％)力により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
情報収集、発表用ツールの制作などにPCを用いる。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員であることから、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。

【Outline (in English)】
In this course students research problems related to the city they live in, compiling relevant data and presenting it.
Grades will be based on course attendance, reports (50%), and presentations in the lecture (50%).
Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ADE500N1（建築学 / Architecture and building engineering 500）

地域・都市再生概論

高見　公雄

開講時期：**春学期後半**/Spring(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当授業は、地域・都市再生概論、即ち人口減少社会下における地域・都市整備の課題を捉え、どのように再生していくかに関する視点を学ぶものである。しかしながら、これは大きなテーマであり、かつ漠然としている。当授業では当面、4つの柱を建て、それに関する課題を受講者が見つけ、自らが絞り込んだテーマに対して調査研究を行うといったスタイルをとっていく。
当面の4つの柱とは、
①人口減少局面を迎えた、わが国の国土のあり方
②地方都市の空洞化、衰退への対処
③東日本大震災による復興まちづくり、今後の大規模震災への備え
④景観形成のあり方
である。

【到達目標】
当授業では、受講者が『自ら絞り込んだテーマについて調査し、一定のまとめを行う』といった出口を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
初回から前半において地域・都市が置かれる状況、これを再生していくための諸制度の概要説明を行う。これらを踏まえ、受講者は自らのテーマ、研究対象地域を選定し、発表して教員との質疑応答を行う。さらにこれらについて深く研究し、全員がこれをPPT等により発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、問題提起 地方都市の状況	広範な地域・都市再生の課題について概観するとともに、当授業で重点的に取り扱う範囲を明らかにする。
2	被災地の状況 制度、予算概要	地方都市の状況、被災地の状況などを紹介し、合わせて地域再生の重要なツールとなる国の制度、予算などを論ずる。
3	研究テーマに関する質疑（1）	受講生は自らのテーマを絞り込むための質疑書を作成し、教員とディスカションする。
4	研究テーマに関する質疑（2）	受講生は自らのテーマを絞り込むための質疑書を作成し、教員とディスカションする。
5	地域・都市再生の視点	課題意識が深まった段階を捉え、地域・都市再生の視点を論ずる。課題意識から現実の動きへの橋渡しの考え方である。
6	ディスカッション	以上を踏まえてフリー・ディスカッションを行う。
7	研究テーマと対象都市の発表	受講生全員から研究テーマと対象都市、研究の狙いの発表を受け、必要な質疑を行う。
8	調査・研究、質疑（1）	調査・研究を進める。暫時質疑に対応する。
9	調査・研究、質疑（2）	調査・研究を進める。暫時質疑に対応する。
10	調査・研究、質疑（3）	調査・研究を進める。暫時質疑に対応する。
11	研究発表（1）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。
12	研究発表（2）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。
13	研究発表（3）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。
14	研究発表（4）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会の動きに関心を持つ。新聞など社会性ある情報に接する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特段なし（その都度、紹介する。）

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
テーマの選定、研究成果(50％)、プレゼンテーション能(50％)力により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
情報収集、発表用ツールの制作などにPCを用いる。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員であることから、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。

【Outline (in English)】
In this course students research problems related to the city they live in, compiling relevant data and presenting it.
Grades will be based on course attendance, reports (50%), and presentations in the lecture (50%).
Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ADE500N1（建築学 / Architecture and building engineering 500）

地域・都市再生概論

高見　公雄

開講時期：**春学期後半**/Spring(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当授業は、地域・都市再生概論、即ち人口減少社会下における地域・都市整備の課題を捉え、どのように再生していくかに関する視点を学ぶものである。しかしながら、これは大きなテーマであり、かつ漠然としている。当授業では当面、4つの柱を建て、それに関する課題を受講者が見つけ、自らが絞り込んだテーマに対して調査研究を行うといったスタイルをとっていく。
当面の4つの柱とは、
①人口減少局面を迎えた、わが国の国土のあり方
②地方都市の空洞化、衰退への対処
③東日本大震災による復興まちづくり、今後の大規模震災への備え
④景観形成のあり方
である。

【到達目標】
当授業では、受講者が『自ら絞り込んだテーマについて調査し、一定のまとめを行う』といった出口を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
初回から前半において地域・都市が置かれる状況、これを再生していくための諸制度の概要説明を行う。これらを踏まえ、受講者は自らのテーマ、研究対象地域を選定し、発表して教員との質疑応答を行う。さらにこれらについて深く研究し、全員がこれをPPT等により発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、問題提起 地方都市の状況	広範な地域・都市再生の課題について概観するとともに、当授業で重点的に取り扱う範囲を明らかにする。
2	被災地の状況 制度、予算概要	地方都市の状況、被災地の状況などを紹介し、合わせて地域再生の重要なツールとなる国の制度、予算などを論ずる。
3	研究テーマに関する質疑（1）	受講生は自らのテーマを絞り込むための質疑書を作成し、教員とディスカションする。
4	研究テーマに関する質疑（2）	受講生は自らのテーマを絞り込むための質疑書を作成し、教員とディスカションする。
5	地域・都市再生の視点	課題意識が深まった段階を捉え、地域・都市再生の視点を論ずる。課題意識から現実の動きへの橋渡しの考え方である。
6	ディスカッション	以上を踏まえてフリー・ディスカッションを行う。
7	研究テーマと対象都市の発表	受講生全員から研究テーマと対象都市、研究の狙いの発表を受け、必要な質疑を行う。
8	調査・研究、質疑（1）	調査・研究を進める。暫時質疑に対応する。
9	調査・研究、質疑（2）	調査・研究を進める。暫時質疑に対応する。
10	調査・研究、質疑（3）	調査・研究を進める。暫時質疑に対応する。
11	研究発表（1）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。
12	研究発表（2）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。
13	研究発表（3）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。
14	研究発表（4）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会の動きに関心を持つ。新聞など社会性ある情報に接する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特段なし（その都度、紹介する。）

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
テーマの選定、研究成果(50％)、プレゼンテーション能(50％)力により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
情報収集、発表用ツールの制作などにPCを用いる。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員であることから、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。

【Outline (in English)】
In this course students research problems related to the city they live in, compiling relevant data and presenting it.
Grades will be based on course attendance, reports (50%), and presentations in the lecture (50%).
Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ENV500N1（環境保全学 / Environmental conservation 500）

環境技術英語

大友　敬三

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・グローバル化の進展に伴い，技術者や研究者には英語による技術情報の表現，文書化等のスキルが求められている．本授業では，建築，都市環境，システムデザイン等の分野を対象として，英語論文の構成や執筆方法を系統的に学習するとともに英語論文作成を実践する．

【到達目標】
①英語論文の論理構造やテンプレートを理解できる．
②英語論文を構成する項目（タイトル，アブストラクト，キーワード，序論，材料・方法または実験・理論，結果，考察，結論）の基本的な考え方と作成方法を習得できる．
③卒業研究論文等を英語論文化するための情報を洗い出しできる．
④卒業研究論文等を題材として，英語論文の構成項目と典型的な英語構文に沿った簡潔な英語論文を作成できる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP7」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
・本授業では，履修学生各自の卒業研究論文等を題材として，段階的に英語論文化する．仕上がりはA4版4～6ページを想定する．それに必要な知識やノウハウを習得できるように，以下のように授業を進める．
(1)毎回の授業では，各回テーマの解説，履修学生による演習と発表等で構成する．
(2)授業テーマに「演習」とある回では，授業時間を英語論文作成演習に充てる．
(3)英語論文化に必要な資料等については，必要とする授業回に対応して配布する．
(4)英語論文の典型的な英語構文や例文，ならびに専門用語を収集するため，履修学生の研究内容に関係するモデル英語論文2編を準備することを推奨する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	・本授業の進め方，授業計画等を把握する． ・技術系の英語論文特有のスタイル，英語論文を作成するためのテクニックを整理する．
2	英語論文の基本ルールとテンプレート	・英語論文を攻略するためのいくつかの基本ルールならびにその習得方法を理解する． ・英語論文の特徴を踏まえたテンプレートの使い方を把握する． ・英語論文作成の対象とする卒業研究論文等を選定する．
3	タイトルの決め方と演習	・英語論文のタイトルを作成する際のポイントを把握する． ・自分の卒業研究論文等を対象にして英語タイトルを作成する．
4	序論のまとめ方	・序論のまとめ方に関する基本的な考え方を把握する． ・序論に含めるべき情報を整理する． ・序論に含めるべき情報に対応した英文構文や例文を整理する．
5	序論の作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして序論を作成する ・作成したコンテンツを発表する．
6	材料・方法または実験・理論のまとめ方	・材料・方法または実験・理論のまとめ方に関する基本的な考え方を把握する． ・自分の卒業研究論文等を対象にして，材料・方法または実験・理論に関する英語構文や例文を整理する．
7	材料・方法または実験・理論の作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして，材料・方法または実験・理論を作成する． ・作成したコンテンツを発表する．
8	結果のまとめ方	・実験や解析の結果を正確に伝えるための基本的な考え方を把握する． ・結果の提示に必要な典型的な英語構文や例文を整理する．
9	結果の作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして，論文内容に対応した結果を作成する． ・作成したコンテンツを発表する．
10	考察のまとめ方	・考察をまとめるための基本的な考え方を把握する． ・考察によく使われる論点ごとの英語構文や例文を理解する．
11	考察の作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして，論文内容に対応した結果を作成する． ・作成したコンテンツを発表する．
12	結論のまとめ方	・結論をまとめるための基本的な考え方を把握する． ・結論の構成に応じてよく使われる英語構文や例文を理解する． ・自分の卒業研究論文を対象にして結論に含める内容を整理する．
13	アブストラクトとキーワードのまとめ方	・アブストラクトの基本ルールとまとめ方を把握する． ・アブストラクトでよく使われる英文構文や例文を整理する． ・キーワードの決め方を把握する．
14	結論ならびにアブストラクトとキーワード作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして結論ならびにアブストラクトとキーワードを作成する． ・作成したコンテンツを発表する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
★第1回_ガイダンス
【準備学習】
・本授業のシラバスを読んで，到達目標，授業の進め方・方法，授業計画等を把握する．（1時間）
【復習】
・自分の卒業研究論文等の内容を振り返り，英語論文化に必要な事項を整理しておく．（1時間）
★第2回_英語論文の基本ルールとテンプレート
【準備学習】
・授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1時間）
【復習】
・自分の卒業研究論文等の内容を振り返り，英語論文化に必要な専門用語等を整理しておく．（1時間）
★第3回_タイトルの決め方と演習
【準備学習】
・授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1時間）
【復習】
・作成した英語タイトルについて，精査しておく．（1時間）
★第4回_序論のまとめ方
【準備学習】
・授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1時間）
【復習】
・自分の卒業研究論文の序論に含めるべき情報に対応した英文構文や例文について，他論文等をあたって収集しておく．（1時間）
★第5回_序論の作成演習
【準備学習】
・自分の卒業研究論文等の序論を作成するための専門用語を調べておく．
【復習】
・作成した序論について未完成部分を完成させるとともに精査しておく．（1時間）
★第6回_材料・方法または実験・理論のまとめ方
【準備学習】
・授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1時間）
【復習】
・自分の卒業研究論文の内容に対応した材料・方法または実験・理論に使う英文構文や例文について，他論文等をあたって収集しておく．（1時間）
★第7回_材料・方法または実験・理論の作成演習
【準備学習】
・自分の卒業研究論文等の材料・方法または実験・理論を作成するための専門用語を調べておく．
【復習】
・作成した材料・方法または実験・理論について未完成部分を完成させるとともに精査しておく．（1時間）
★第8回_結果のまとめ方

【準備学習】
・授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1時間）
【復習】
・結果の提示に必要な典型的な英語構文や例文について，他論文等をあたって収集しておく．（1時間）
★第9回_結果の作成演習
【準備学習】
・自分の卒業研究論文等の結果を作成するための専門用語を調べておく．
【復習】
・作成した結果について未完成部分を完成させるとともに精査しておく．（1時間）
★第10回_考察のまとめ方
【準備学習】
・授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1時間）
【復習】
・考察によく使われる論点ごとの英語構文や例文について，他論文等をあたって収集しておく．（1時間）
★第11回_考察の作成演習
【準備学習】
・自分の卒業研究論文等の考察を作成するための専門用語を調べておく．
【復習】
・作成した考察について未完成部分を完成させるとともに精査しておく．（1時間）
★第12回_結論のまとめ方
【準備学習】
・授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1時間）
【復習】
・結論によく使われる論点ごとの英語構文や例文について，他論文等をあたって収集しておく．（1時間）
★第13回_アブストラクトとキーワードのまとめ方
【準備学習】
・授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1時間）
【復習】
・アブストラクトでよく使われる英文構文や例文について，他論文等をあたって収集しておく．（1時間）
★第14回_結論ならびにアブストラクトとキーワード作成演習
【準備学習】
・自分の卒業研究論文等のアブストラクトを作成するための専門用語を調べておく．
【復習】
・作成したアブストラクトやキーワードについて未完成部分を完成させるとともに精査しておく．（1時間）

【テキスト（教科書）】
・教科書は特に指定しません．

【参考書】
・「理工系の英語論文講座」，佐藤洋一著，オーム社，2008年，￥2,420　←授業解説スライドはこの参考書に基づいて作成．
・「最短ルートで迷子にならない！ 理工系の英語論文執筆講座」，西山聖久著，化学同人，2019年，￥2,640
・「理工系なら必ず知っておきたい 英語論文を読みこなす技術: 頻出単語をイメージで把握! 論文の定型文だからわかりやすい！」，福田尚代・西山聖久著，誠文堂新光社，2016年，￥2,200
・「英語論文ライティング教本 ―正確・明確・簡潔に書く技法― (KS語学専門書)」，中山裕木子著，講談社，2018年，￥3,850
・「技術系英文ライティング教本: 基本・英文法・応用」，中山裕木子著，日本工業英語協会，2009年，￥1,980
・「英語は「名詞」と「動詞」が9割! 速効! 英文ライティング」，福田尚代著，日本能率協会マネジメントセンター，2017年，￥1,650

【成績評価の方法と基準】
・本授業における到達目標に対し，以下のように平常点と期末レポート（各自の研究論文等の英語論文）により到達度を測定（点数化）し，100点満点として総合的に成績評価する（60点以上が合格）．平常点と期末レポートの配分は，それぞれ40点，60点とする．
【到達目標と評価の対応】
①英語論文の論理構造やテンプレートを理解できる．→平常点10点＋期末レポート10点＝小計20点
②英語論文を構成する項目（タイトル，アブストラクト，キーワード，序論，材料・方法または実験・理論，結果，考察，結論）の基本的な考え方と作成方法を習得できる．→平常点10点＋期末レポート10点＝小計20点
③卒業研究論文等を英語論文化するための情報を洗い出しできる．→平常点10点＋期末レポート10点＝小計20点
④卒業研究論文等を題材として，英語論文の構成項目と典型的な英語構文に沿った簡潔な英語論文を作成できる．→平常点10点＋期末レポート30点＝小計40点
・平常点には，課題と質疑応答・発表等が含まれる．
・期末レポートは，各自の研究成果等の英語論文を指す．
・4回以上欠席した場合は，単位取得不可（評価：D）とする．

【学生の意見等からの気づき】
・2024年度授業評価アンケートの記述式回答からは，学生との交流を増やしてほしい，との意見が出された．ただし，2024年度授業の履修者数が例年に比べて大幅に増えたため，学生とのコミュニケーションをとることが難しい状況にはあった．いずれにしても本授業の運営にあたっては，より一層履修学生に対する指導・コミュニケーションを充実させていきたい．

【学生が準備すべき機器他】
・プリント教材の配布や演習の提出と返却，および各種の連絡にlms2025;WebClassを利用するので，同システムの操作には充分に慣れておくこと．

【その他の重要事項】
・担当教員は実務経験教員である．所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた．研究成果を国際会議で口頭発表，あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた．このような経験を講義に反映し，履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい．
・・オフィスアワーに関して，授業に関する質問等は随時教員メールアドレスkeizo.ohtomo.td@hosei.ac.jpで受け付ける．

【Outline (in English)】
【Course outline】
Growing globalization requires engineers and researchers to acquire English-handling skills on technical communications and documentations. For this purpose, students will systematically learn organization and development of an English-written academic paper as well as prepare a short paper on their past study related with a specified field such as architecture, urban environment and systems design.
【Learning Objectives】
1) You will understand logical structure of a technical paper and typical expressions.
2) You will acquire the knowledge and development skills on necessary chapters that organize a technical paper such as title, abstract, key words, introduction, material/method, experiment/theory, results, discussions, and conclusions.
3) You will prepare key elements from your undergraduate thesis (in Japanese) to develop English version of your thesis.
4) You will establish a short and concise English paper in accordance with general organization and expressions for a typical technical paper based on your undergraduate thesis (in Japanese).
【Learning activities outside of classroom】
The 1st classroom: guidance
< preparation >
You should refer the syllabus of the class to understand the learning objectives, methods, and class schedule. (one hour required)
< review >
You should re-examine your undergraduate thesis to organize key issues for an English paper development. (one hour required)
The 2nd classroom: general rules and templates for an English paper
< preparation >
You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should re-examine your undergraduate thesis to arrange necessary technical terms for an English paper development. (one hour required)
The 3rd classroom: title development and its exercise
< preparation >
You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should critically review candidate your paper title. (one hour required)
The 4th classroom: development of introduction
< preparation >
You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should collect sentence structures and examples suitable for introduction of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)
The 5th classroom: exercise for development of introduction
< preparation >
You should examine technical terms in English for developing introduction of your undergraduate thesis. (one hour required)
< review >
You should complete the introduction and critically review the products. (one hour required)
The 6th classroom: development of material/method or experiment/theory
< preparation >
You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should collect sentence structures and examples suitable for material/method or experiment/theory of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)
The 7th classroom: exercise for development of material/method or experiment/theory
< preparation >
You should examine technical terms in English for developing introduction of your undergraduate thesis. (one hour required)
< review >
You should complete the material/method or experiment/theory and critically review the products. (one hour required)
The 8th classroom: development of results

< preparation >
You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should collect sentence structures and examples suitable for results of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)
The 9th classroom: exercise for development of results
< preparation >
You should examine technical terms in English for developing results of your undergraduate thesis. (one hour required)
< review >
You should complete the results and critically review the products. (one hour required)
The 10th classroom: development of discussions
< preparation >
You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should collect sentence structures and examples suitable for discussions of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)
The 11th classroom: exercise for development of discussions
< preparation >
You should examine technical terms in English for developing discussions of your undergraduate thesis. (one hour required)
< review >
You should complete the discussions and critically review the products. (one hour required)
The 12th classroom: development of conclusions
< preparation >
You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should collect sentence structures and examples suitable for conclusions of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)
The 13th classroom: development of abstract and key words
< preparation >
You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should collect sentence structures and examples frequently used in abstract using other reference papers. (one hour required)
The 14th classroom: exercise for development of conclusion, abstract and key words
< preparation >
You should examine technical terms in English for developing conclusion and abstract of your undergraduate thesis. (one hour required)
< review >
You should complete the conclusion, abstract and key words and critically review the products. (one hour required)
【Grading Criteria /Policy】
The supervisor will evaluate your achievement for learning objectives based on your mark in class attendance (allocation: 40%) and scores in final examination (allocation: 60%), completing your final scores in the full score of 100%. You will earn the credit if you score equal to or more than the score of 60%.
< Learning objectives and corresponding evaluations >
1) Understanding of logical structure of a technical paper and typical expressions: class participation 10%+final examination 10%= total 20%
2) Acquisition of the knowledge and development skills on necessary chapters that organize a technical paper: class participation 10%+final examination 00%=total 20%
3) Preparation for key elements from your undergraduate thesis: class participation 10%+final examination 10%=total 20%
4) Establishing a short and concise English paper in accordance with general organization and expressions: class participation 10%+final examination 30%=total 40%
A mark in class participation includes assignments, discussions, and others.
Final examination will be conducted on your English version of undergraduate thesis.
You will fail to earn the credit if you miss the class more than three times, your final evaluation being applied Grade D.
【Office Hours】
You can anytime communicate with the supervisor via his mail address; keizo.ohtomo.td@hosei.ac.jp.

ENV500N1（環境保全学 / Environmental conservation 500）

環境技術英語

大友　敬三

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・グローバル化の進展に伴い，技術者や研究者には英語による技術情報の表現，文書化等のスキルが求められている．本授業では，建築，都市環境，システムデザイン等の分野を対象として，英語論文の構成や執筆方法を系統的に学習するとともに英語論文作成を実践する．

【到達目標】
①英語論文の論理構造やテンプレートを理解できる．
②英語論文を構成する項目（タイトル，アブストラクト，キーワード，序論，材料・方法または実験・理論，結果，考察，結論）の基本的な考え方と作成方法を習得できる．
③卒業研究論文等を英語論文化するための情報を洗い出しできる．
④卒業研究論文等を題材として，英語論文の構成項目と典型的な英語構文に沿った簡潔な英語論文を作成できる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP7」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
・本授業では，履修学生各自の卒業研究論文等を題材として，段階的に英語論文化する．仕上がりはA4版4～6ページを想定する．それに必要な知識やノウハウを習得できるように，以下のように授業を進める．
(1)毎回の授業では，各回テーマの解説，履修学生による演習と発表等で構成する．
(2)授業テーマに「演習」とある回では，授業時間を英語論文作成演習に充てる．
(3)英語論文化に必要な資料等については，必要とする授業回に対応して配布する．
(4)英語論文の典型的な英語構文や例文，ならびに専門用語を収集するため，履修学生の研究内容に関係するモデル英語論文2編を準備することを推奨する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	・本授業の進め方，授業計画等を把握する． ・技術系の英語論文特有のスタイル，英語論文を作成するためのテクニックを整理する．
2	英語論文の基本ルールとテンプレート	・英語論文を攻略するためのいくつかの基本ルールならびにその習得方法を理解する． ・英語論文の特徴を踏まえたテンプレートの使い方を把握する． ・英語論文作成の対象とする卒業研究論文等を選定する．
3	タイトルの決め方と演習	・英語論文のタイトルを作成する際のポイントを把握する． ・自分の卒業研究論文等を対象にして英語タイトルを作成する．
4	序論のまとめ方	・序論のまとめ方に関する基本的な考え方を把握する． ・序論に含めるべき情報を整理する． ・序論に含めるべき情報に対応した英文構文や例文を整理する．
5	序論の作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして序論を作成する ・作成したコンテンツを発表する．
6	材料・方法または実験・理論のまとめ方	・材料・方法または実験・理論のまとめ方に関する基本的な考え方を把握する． ・自分の卒業研究論文等を対象にして，材料・方法または実験・理論に関する英語構文や例文を整理する．
7	材料・方法または実験・理論の作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして，材料・方法または実験・理論を作成する． ・作成したコンテンツを発表する．
8	結果のまとめ方	・実験や解析の結果を正確に伝えるための基本的な考え方を把握する． ・結果の提示に必要な典型的な英語構文や例文を整理する．
9	結果の作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして，論文内容に対応した結果を作成する． ・作成したコンテンツを発表する．
10	考察のまとめ方	・考察をまとめるための基本的な考え方を把握する． ・考察によく使われる論点ごとの英語構文や例文を理解する．
11	考察の作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして，論文内容に対応した結果を作成する． ・作成したコンテンツを発表する．
12	結論のまとめ方	・結論をまとめるための基本的な考え方を把握する． ・結論の構成に応じてよく使われる英語構文や例文を理解する． ・自分の卒業研究論文を対象にして結論に含める内容を整理する．
13	アブストラクトとキーワードのまとめ方	・アブストラクトの基本ルールとまとめ方を把握する． ・アブストラクトでよく使われる英文構文や例文を整理する． ・キーワードの決め方を把握する．
14	結論ならびにアブストラクトとキーワード作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして結論ならびにアブストラクトとキーワードを作成する． ・作成したコンテンツを発表する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
★第1回_ガイダンス
【準備学習】
・本授業のシラバスを読んで，到達目標，授業の進め方・方法，授業計画等を把握する．（1時間）
【復習】
・自分の卒業研究論文等の内容を振り返り，英語論文化に必要な事項を整理しておく．（1時間）
★第2回_英語論文の基本ルールとテンプレート
【準備学習】
・授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1時間）
【復習】
・自分の卒業研究論文等の内容を振り返り，英語論文化に必要な専門用語等を整理しておく．（1時間）
★第3回_タイトルの決め方と演習
【準備学習】
・授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1時間）
【復習】
・作成した英語タイトルについて，精査しておく．（1時間）
★第4回_序論のまとめ方
【準備学習】
・授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1時間）
【復習】
・自分の卒業研究論文の序論に含めるべき情報に対応した英文構文や例文について，他論文等をあたって収集しておく．（1時間）
★第5回_序論の作成演習
【準備学習】
・自分の卒業研究論文等の序論を作成するための専門用語を調べておく．
【復習】
・作成した序論について未完成部分を完成させるとともに精査しておく．（1時間）
★第6回_材料・方法または実験・理論のまとめ方
【準備学習】
・授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1時間）
【復習】
・自分の卒業研究論文の内容に対応した材料・方法または実験・理論に使う英文構文や例文について，他論文等をあたって収集しておく．（1時間）
★第7回_材料・方法または実験・理論の作成演習
【準備学習】
・自分の卒業研究論文等の材料・方法または実験・理論を作成するための専門用語を調べておく．
【復習】
・作成した材料・方法または実験・理論について未完成部分を完成させるとともに精査しておく．（1時間）
★第8回_結果のまとめ方

【準備学習】
・授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1時間）
【復習】
・結果の提示に必要な典型的な英語構文や例文について，他論文等をあたって収集しておく．（1時間）
★第9回_結果の作成演習
【準備学習】
・自分の卒業研究論文等の結果を作成するための専門用語を調べておく．
【復習】
・作成した結果について未完成部分を完成させるとともに精査しておく．（1時間）
★第10回_考察のまとめ方
【準備学習】
・授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1時間）
【復習】
・考察によく使われる論点ごとの英語構文や例文について，他論文等をあたって収集しておく．（1時間）
★第11回_考察の作成演習
【準備学習】
・自分の卒業研究論文等の考察を作成するための専門用語を調べておく．
【復習】
・作成した考察について未完成部分を完成させるとともに精査しておく．（1時間）
★第12回_結論のまとめ方
【準備学習】
・授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1時間）
【復習】
・結論によく使われる論点ごとの英語構文や例文について，他論文等をあたって収集しておく．（1時間）
★第13回_アブストラクトとキーワードのまとめ方
【準備学習】
・授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1時間）
【復習】
・アブストラクトでよく使われる英文構文や例文について，他論文等をあたって収集しておく．（1時間）
★第14回_結論ならびにアブストラクトとキーワード作成演習
【準備学習】
・自分の卒業研究論文等のアブストラクトを作成するための専門用語を調べておく．
【復習】
・作成したアブストラクトやキーワードについて未完成部分を完成させるとともに精査しておく．（1時間）

【テキスト（教科書）】
・教科書は特に指定しません．

【参考書】
・「理工系の英語論文講座」，佐藤洋一著，オーム社，2008年，￥2,420　←授業解説スライドはこの参考書に基づいて作成．
・「最短ルートで迷子にならない！ 理工系の英語論文執筆講座」，西山聖久著，化学同人，2019年，￥2,640
・「理工系なら必ず知っておきたい 英語論文を読みこなす技術: 頻出単語をイメージで把握! 論文の定型文だからわかりやすい！」，福田尚代・西山聖久著，誠文堂新光社，2016年，￥2,200
・「英語論文ライティング教本 ―正確・明確・簡潔に書く技法― (KS語学専門書)」，中山裕木子著，講談社，2018年，￥3,850
・「技術系英文ライティング教本: 基本・英文法・応用」，中山裕木子著，日本工業英語協会，2009年，￥1,980
・「英語は「名詞」と「動詞」が9割! 速効! 英文ライティング」，福田尚代著，日本能率協会マネジメントセンター，2017年，￥1,650

【成績評価の方法と基準】
・本授業における到達目標に対し，以下のように平常点と期末レポート（各自の研究論文等の英語論文）により到達度を測定（点数化）し，100点満点として総合的に成績評価する（60点以上が合格）．平常点と期末レポートの配分は，それぞれ40点，60点とする．
【到達目標と評価の対応】
①英語論文の論理構造やテンプレートを理解できる．→平常点10点＋期末レポート10点＝小計20点
②英語論文を構成する項目（タイトル，アブストラクト，キーワード，序論，材料・方法または実験・理論，結果，考察，結論）の基本的な考え方と作成方法を習得できる．→平常点10点＋期末レポート10点＝小計20点
③卒業研究論文等を英語論文化するための情報を洗い出しできる．→平常点10点＋期末レポート10点＝小計20点
④卒業研究論文等を題材として，英語論文の構成項目と典型的な英語構文に沿った簡潔な英語論文を作成できる．→平常点10点＋期末レポート30点＝小計40点
・平常点には，課題と質疑応答・発表等が含まれる．
・期末レポートは，各自の研究成果等の英語論文を指す．
・4回以上欠席した場合は，単位取得不可（評価：D）とする．

【学生の意見等からの気づき】
・2024年度授業評価アンケートの記述式回答からは，学生との交流を増やしてほしい，との意見が出された．ただし，2024年度授業の履修者数が例年に比べて大幅に増えたため，学生とのコミュニケーションをとることが難しい状況にはあった．いずれにしても本授業の運営にあたっては，より一層履修学生に対する指導・コミュニケーションを充実させていきたい．

【学生が準備すべき機器他】
・プリント教材の配布や演習の提出と返却，および各種の連絡にはlms2025;WebClassを利用するので，同システムの操作には充分に慣れておくこと．

【その他の重要事項】
・担当教員は実務経験教員である．所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた．研究成果を国際会議で口頭発表，あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた．このような経験を講義に反映し，履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい．
・・オフィスアワーに関して，授業に関する質問等は随時教員メールアドレスkeizo.ohtomo.td@hosei.ac.jpで受け付ける．

【Outline (in English)】
【Course outline】
Growing globalization requires engineers and researchers to acquire English-handling skills on technical communications and documentations. For this purpose, students will systematically learn organization and development of an English-written academic paper as well as prepare a short paper on their past study related with a specified field such as architecture, urban environment and systems design.
【Learning Objectives】
1) You will understand logical structure of a technical paper and typical expressions.
2) You will acquire the knowledge and development skills on necessary chapters that organize a technical paper such as title, abstract, key words, introduction, material/method, experiment/theory, results, discussions, and conclusions.
3) You will prepare key elements from your undergraduate thesis (in Japanese) to develop English version of your thesis.
4) You will establish a short and concise English paper in accordance with general organization and expressions for a typical technical paper based on your undergraduate thesis (in Japanese).
【Learning activities outside of classroom】
The 1st classroom: guidance
< preparation >
You should refer the syllabus of the class to understand the learning objectives, methods, and class schedule. (one hour required)
< review >
You should re-examine your undergraduate thesis to organize key issues for an English paper development. (one hour required)
The 2nd classroom: general rules and templates for an English paper
< preparation >
You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should re-examine your undergraduate thesis to arrange necessary technical terms for an English paper development. (one hour required)
The 3rd classroom: title development and its exercise
< preparation >
You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should critically review candidate your paper title. (one hour required)
The 4th classroom: development of introduction
< preparation >
You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should collect sentence structures and examples suitable for introduction of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)
The 5th classroom: exercise for development of introduction
< preparation >
You should examine technical terms in English for developing introduction of your undergraduate thesis. (one hour required)
< review >
You should complete the introduction and critically review the products. (one hour required)
The 6th classroom: development of material/method or experiment/theory
< preparation >
You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should collect sentence structures and examples suitable for material/method or experiment/theory of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)
The 7th classroom: exercise for development of material/method or experiment/theory
< preparation >
You should examine technical terms in English for developing introduction of your undergraduate thesis. (one hour required)
< review >
You should complete the material/method or experiment/theory and critically review the products. (one hour required)
The 8th classroom: development of results

< preparation >
You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should collect sentence structures and examples suitable for results of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)
The 9th classroom: exercise for development of results
< preparation >
You should examine technical terms in English for developing results of your undergraduate thesis. (one hour required)
< review >
You should complete the results and critically review the products. (one hour required)
The 10th classroom: development of discussions
< preparation >
You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should collect sentence structures and examples suitable for discussions of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)
The 11th classroom: exercise for development of discussions
< preparation >
You should examine technical terms in English for developing discussions of your undergraduate thesis. (one hour required)
< review >
You should complete the discussions and critically review the products. (one hour required)
The 12th classroom: development of conclusions
< preparation >
You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should collect sentence structures and examples suitable for conclusions of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)
The 13th classroom: development of abstract and key words
< preparation >
You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should collect sentence structures and examples frequently used in abstract using other reference papers. (one hour required)
The 14th classroom: exercise for development of conclusion, abstract and key words
< preparation >
You should examine technical terms in English for developing conclusion and abstract of your undergraduate thesis. (one hour required)
< review >
You should complete the conclusion, abstract and key words and critically review the products. (one hour required)
【Grading Criteria /Policy】
The supervisor will evaluate your achievement for learning objectives based on your mark in class attendance (allocation: 40%) and scores in final examination (allocation: 60%), completing your final scores in the full score of 100%. You will earn the credit if you score equal to or more than the score of 60%.
< Learning objectives and corresponding evaluations >
1) Understanding of logical structure of a technical paper and typical expressions: class participation 10%+final examination 10%= total 20%
2) Acquisition of the knowledge and development skills on necessary chapters that organize a technical paper: class participation 10%+final examination 00%=total 20%
3) Preparation for key elements from your undergraduate thesis: class participation 10%+final examination 10%=total 20%
4) Establishing a short and concise English paper in accordance with general organization and expressions: class participation 10%+final examination 30%=total 40%
A mark in class participation includes assignments, discussions, and others.
Final examination will be conducted on your English version of undergraduate thesis.
You will fail to earn the credit if you miss the class more than three times, your final evaluation being applied Grade D.
【Office Hours】
You can anytime communicate with the supervisor via his mail address; keizo.ohtomo.td@hosei.ac.jp.

ENV500N1（環境保全学 / Environmental conservation 500）

環境技術英語

大友　敬三

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・グローバル化の進展に伴い，技術者や研究者には英語による技術情報の表現，文書化等のスキルが求められている．本授業では，建築，都市環境，システムデザイン等の分野を対象として，英語論文の構成や執筆方法を系統的に学習するとともに英語論文作成を実践する．

【到達目標】
①英語論文の論理構造やテンプレートを理解できる．
②英語論文を構成する項目（タイトル，アブストラクト，キーワード，序論，材料・方法または実験・理論，結果，考察，結論）の基本的な考え方と作成方法を習得できる．
③卒業研究論文等を英語論文化するための情報を洗い出しできる．
④卒業研究論文等を題材として，英語論文の構成項目と典型的な英語構文に沿った簡潔な英語論文を作成できる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP7」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
・本授業では，履修学生各自の卒業研究論文等を題材として，段階的に英語論文化する．仕上がりはA4版4～6ページを想定する．それに必要な知識やノウハウを習得できるように，以下のように授業を進める．
(1)毎回の授業では，各回テーマの解説，履修学生による演習と発表等で構成する．
(2)授業テーマに「演習」とある回では，授業時間を英語論文作成演習に充てる．
(3)英語論文化に必要な資料等については，必要とする授業回に対応して配布する．
(4)英語論文の典型的な英語構文や例文，ならびに専門用語を収集するため，履修学生の研究内容に関係するモデル英語論文2編を準備することを推奨する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	・本授業の進め方，授業計画等を把握する． ・技術系の英語論文特有のスタイル，英語論文を作成するためのテクニックを整理する．
2	英語論文の基本ルールとテンプレート	・英語論文を攻略するためのいくつかの基本ルールならびにその習得方法を理解する． ・英語論文の特徴を踏まえたテンプレートの使い方を把握する． ・英語論文作成の対象とする卒業研究論文等を選定する．
3	タイトルの決め方と演習	・英語論文のタイトルを作成する際のポイントを把握する． ・自分の卒業研究論文等を対象にして英語タイトルを作成する．
4	序論のまとめ方	・序論のまとめ方に関する基本的な考え方を把握する． ・序論に含めるべき情報を整理する． ・序論に含めるべき情報に対応した英文構文や例文を整理する．
5	序論の作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして序論を作成する ・作成したコンテンツを発表する．
6	材料・方法または実験・理論のまとめ方	・材料・方法または実験・理論のまとめ方に関する基本的な考え方を把握する． ・自分の卒業研究論文等を対象にして，材料・方法または実験・理論に関する英語構文や例文を整理する．
7	材料・方法または実験・理論の作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして，材料・方法または実験・理論を作成する． ・作成したコンテンツを発表する．
8	結果のまとめ方	・実験や解析の結果を正確に伝えるための基本的な考え方を把握する． ・結果の提示に必要な典型的な英語構文や例文を整理する．
9	結果の作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして，論文内容に対応した結果を作成する． ・作成したコンテンツを発表する．
10	考察のまとめ方	・考察をまとめるための基本的な考え方を把握する． ・考察によく使われる論点ごとの英語構文や例文を理解する．
11	考察の作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして，論文内容に対応した結果を作成する． ・作成したコンテンツを発表する．
12	結論のまとめ方	・結論をまとめるための基本的な考え方を把握する． ・結論の構成に応じてよく使われる英語構文や例文を理解する． ・自分の卒業研究論文を対象にして結論に含める内容を整理する．
13	アブストラクトとキーワードのまとめ方	・アブストラクトの基本ルールとまとめ方を把握する． ・アブストラクトでよく使われる英文構文や例文を整理する． ・キーワードの決め方を把握する．
14	結論ならびにアブストラクトとキーワード作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして結論ならびにアブストラクトとキーワードを作成する． ・作成したコンテンツを発表する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
★第1回_ガイダンス
【準備学習】
・本授業のシラバスを読んで，到達目標，授業の進め方・方法，授業計画等を把握する．（1時間）
【復習】
・自分の卒業研究論文等の内容を振り返り，英語論文化に必要な事項を整理しておく．（1時間）
★第2回_英語論文の基本ルールとテンプレート
【準備学習】
・授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1時間）
【復習】
・自分の卒業研究論文等の内容を振り返り，英語論文化に必要な専門用語等を整理しておく．（1時間）
★第3回_タイトルの決め方と演習
【準備学習】
・授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1時間）
【復習】
・作成した英語タイトルについて，精査しておく．（1時間）
★第4回_序論のまとめ方
【準備学習】
・授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1時間）
【復習】
・自分の卒業研究論文の序論に含めるべき情報に対応した英文構文や例文について，他論文等をあたって収集しておく．（1時間）
★第5回_序論の作成演習
【準備学習】
・自分の卒業研究論文等の序論を作成するための専門用語を調べておく．
【復習】
・作成した序論について未完成部分を完成させるとともに精査しておく．（1時間）
★第6回_材料・方法または実験・理論のまとめ方
【準備学習】
・授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1時間）
【復習】
・自分の卒業研究論文の内容に対応した材料・方法または実験・理論に使う英文構文や例文について，他論文等をあたって収集しておく．（1時間）
★第7回_材料・方法または実験・理論の作成演習
【準備学習】
・自分の卒業研究論文等の材料・方法または実験・理論を作成するための専門用語を調べておく．
【復習】
・作成した材料・方法または実験・理論について未完成部分を完成させるとともに精査しておく．（1時間）
★第8回_結果のまとめ方

【準備学習】
・授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1時間）
【復習】
・結果の提示に必要な典型的な英語構文や例文について，他論文等をあたって収集しておく．（1時間）
★第9回_結果の作成演習
【準備学習】
・自分の卒業研究論文等の結果を作成するための専門用語を調べておく．
【復習】
・作成した結果について未完成部分を完成させるとともに精査しておく．（1時間）
★第10回_考察のまとめ方
【準備学習】
・授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1時間）
【復習】
・考察によく使われる論点ごとの英語構文や例文について，他論文等をあたって収集しておく．（1時間）
★第11回_考察の作成演習
【準備学習】
・自分の卒業研究論文等の考察を作成するための専門用語を調べておく．
【復習】
・作成した考察について未完成部分を完成させるとともに精査しておく．（1時間）
★第12回_結論のまとめ方
【準備学習】
・授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1時間）
【復習】
・結論によく使われる論点ごとの英語構文や例文について，他論文等をあたって収集しておく．（1時間）
★第13回_アブストラクトとキーワードのまとめ方
【準備学習】
・授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1時間）
【復習】
・アブストラクトでよく使われる英文構文や例文について，他論文等をあたって収集しておく．（1時間）
★第14回_結論ならびにアブストラクトとキーワード作成演習
【準備学習】
・自分の卒業研究論文等のアブストラクトを作成するための専門用語を調べておく．
【復習】
・作成したアブストラクトやキーワードについて未完成部分を完成させるとともに精査しておく．（1時間）

【テキスト（教科書）】
・教科書は特に指定しません．

【参考書】
・「理工系の英語論文講座」，佐藤洋一著，オーム社，2008年，￥2,420　←授業解説スライドはこの参考書に基づいて作成．
・「最短ルートで迷子にならない！ 理工系の英語論文執筆講座」，西山聖久著，化学同人，2019年，￥2,640
・「理工系なら必ず知っておきたい 英語論文を読みこなす技術: 頻出単語をイメージで把握! 論文の定型文だからわかりやすい！」，福田尚代・西山聖久著，誠文堂新光社，2016年，￥2,200
・「英語論文ライティング教本 ―正確・明確・簡潔に書く技法― (KS語学専門書)」，中山裕木子著，講談社，2018年，￥3,850
・「技術系英文ライティング教本: 基本・英文法・応用」，中山裕木子著，日本工業英語協会，2009年，￥1,980
・「英語は「名詞」と「動詞」が9割! 速効! 英文ライティング」，福田尚代著，日本能率協会マネジメントセンター，2017年，￥1,650

【成績評価の方法と基準】
・本授業における到達目標に対し，以下のように平常点と期末レポート（各自の研究論文等の英語論文）により到達度を測定（点数化）し，100点満点として総合的に成績評価する（60点以上が合格）．平常点と期末レポートの配分は，それぞれ40点，60点とする．
【到達目標と評価の対応】
①英語論文の論理構造やテンプレートを理解できる．→平常点10点＋期末レポート10点＝小計20点
②英語論文を構成する項目（タイトル，アブストラクト，キーワード，序論，材料・方法または実験・理論，結果，考察，結論）の基本的な考え方と作成方法を習得できる．→平常点10点＋期末レポート10点＝小計20点
③卒業研究論文等を英語論文化するための情報を洗い出しできる．→平常点10点＋期末レポート10点＝小計20点
④卒業研究論文等を題材として，英語論文の構成項目と典型的な英語構文に沿った簡潔な英語論文を作成できる．→平常点10点＋期末レポート30点＝小計40点
・平常点には，課題と質疑応答・発表等が含まれる．
・期末レポートは，各自の研究成果等の英語論文を指す．
・4回以上欠席した場合は，単位取得不可（評価：D）とする．

【学生の意見等からの気づき】
・2024年度授業評価アンケートの記述式回答からは，学生との交流を増やしてほしい，との意見が出された．ただし，2024年度授業の履修者数が例年に比べて大幅に増えたため，学生とのコミュニケーションをとることが難しい状況にはあった．いずれにしても本授業の運営にあたっては，より一層履修学生に対する指導・コミュニケーションを充実させていきたい．

【学生が準備すべき機器他】
・プリント教材の配布や演習の提出と返却，および各種の連絡にはlms2025;WebClassを利用するので，同システムの操作には充分に慣れておくこと．

【その他の重要事項】
・担当教員は実務経験教員である．所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた．研究成果を国際会議で口頭発表，あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた．このような経験を講義に反映し，履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい．
・オフィスアワーに関して，授業に関する質問等は随時教員メールアドレスkeizo.ohtomo.td@hosei.ac.jpで受け付ける．

【Outline (in English)】
【Course outline】
Growing globalization requires engineers and researchers to acquire English-handling skills on technical communications and documentations. For this purpose, students will systematically learn organization and development of an English-written academic paper as well as prepare a short paper on their past study related with a specified field such as architecture, urban environment and systems design.
【Learning Objectives】
1) You will understand logical structure of a technical paper and typical expressions.
2) You will acquire the knowledge and development skills on necessary chapters that organize a technical paper such as title, abstract, key words, introduction, material/method, experiment/theory, results, discussions, and conclusions.
3) You will prepare key elements from your undergraduate thesis (in Japanese) to develop English version of your thesis.
4) You will establish a short and concise English paper in accordance with general organization and expressions for a typical technical paper based on your undergraduate thesis (in Japanese).
【Learning activities outside of classroom】
The 1st classroom: guidance
< preparation >
You should refer the syllabus of the class to understand the learning objectives, methods, and class schedule. (one hour required)
< review >
You should re-examine your undergraduate thesis to organize key issues for an English paper development. (one hour required)
The 2nd classroom: general rules and templates for an English paper
< preparation >
You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should re-examine your undergraduate thesis to arrange necessary technical terms for an English paper development. (one hour required)
The 3rd classroom: title development and its exercise
< preparation >
You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should critically review candidate your paper title. (one hour required)
The 4th classroom: development of introduction
< preparation >
You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should collect sentence structures and examples suitable for introduction of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)
The 5th classroom: exercise for development of introduction
< preparation >
You should examine technical terms in English for developing introduction of your undergraduate thesis. (one hour required)
< review >
You should complete the introduction and critically review the products. (one hour required)
The 6th classroom: development of material/method or experiment/theory
< preparation >
You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should collect sentence structures and examples suitable for material/method or experiment/theory of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)
The 7th classroom: exercise for development of material/method or experiment/theory
< preparation >
You should examine technical terms in English for developing introduction of your undergraduate thesis. (one hour required)
< review >
You should complete the material/method or experiment/theory and critically review the products. (one hour required)
The 8th classroom: development of results

< preparation >
You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should collect sentence structures and examples suitable for results of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)
The 9th classroom: exercise for development of results
< preparation >
You should examine technical terms in English for developing results of your undergraduate thesis. (one hour required)
< review >
You should complete the results and critically review the products. (one hour required)
The 10th classroom: development of discussions
< preparation >
You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should collect sentence structures and examples suitable for discussions of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)
The 11th classroom: exercise for development of discussions
< preparation >
You should examine technical terms in English for developing discussions of your undergraduate thesis. (one hour required)
< review >
You should complete the discussions and critically review the products. (one hour required)
The 12th classroom: development of conclusions
< preparation >
You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should collect sentence structures and examples suitable for conclusions of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)
The 13th classroom: development of abstract and key words
< preparation >
You should refer the PowerPoint slides for the class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should collect sentence structures and examples frequently used in abstract using other reference papers. (one hour required)
The 14th classroom: exercise for development of conclusion, abstract and key words
< preparation >
You should examine technical terms in English for developing conclusion and abstract of your undergraduate thesis. (one hour required)
< review >
You should complete the conclusion, abstract and key words and critically review the products. (one hour required)
【Grading Criteria /Policy】
The supervisor will evaluate your achievement for learning objectives based on your mark in class attendance (allocation: 40%) and scores in final examination (allocation: 60%), completing your final scores in the full score of 100%. You will earn the credit if you score equal to or more than the score of 60%.
< Learning objectives and corresponding evaluations >
1) Understanding of logical structure of a technical paper and typical expressions: class participation 10%+final examination 10%= total 20%
2) Acquisition of the knowledge and development skills on necessary chapters that organize a technical paper: class participation 10%+final examination 00%=total 20%
3) Preparation for key elements from your undergraduate thesis: class participation 10%+final examination 10%=total 20%
4) Establishing a short and concise English paper in accordance with general organization and expressions: class participation 10%+final examination 30%=total 40%
A mark in class participation includes assignments, discussions, and others.
Final examination will be conducted on your English version of undergraduate thesis.
You will fail to earn the credit if you miss the class more than three times, your final evaluation being applied Grade D.
【Office Hours】
You can anytime communicate with the superviser via his mail adress; keizo.ohtomo.td@hosei.ac.jp.

LAW500N1（法学 / law 500）

知的財産権論

宮武　久佳

開講時期：**秋学期後半**/Fall(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
知識が力を生む。本講義では、大学院生として専門の道を歩む学生が身に付けておきたい教養としての知的財産論を学ぶ。従来の「特許」「著作権」など知財法に基づく縦割りの知財論を超えて、リベラルアーツ的などんな分野でも応用の効く「知のストレッチ」を目指す。キーワードは次のとおり。「ChatGPTと仕事」「AI時代の模倣と創造」「人生100年時代のロボット技術」「人工知能と共存できるか」など。

【到達目標】
好むと好まざると関わらず、あらゆるデータがデジタル化され、ネットワーク化される時代の、情報や知識、知恵に関する高度なセンスと、社会で必要とされる情報のインプットとアウトプットに関する法的ルールの基礎を身に付けることができる。併せて、今がどういう時代か、人工知能をはじめとする情報テクノロジーの観点から検討する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP7」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
対面方式となる。
少人数のセミナー形式とする。前半は教員が、今、知識の世界で起きていることを、デジタル化、ネットワーク化する時代の文脈において講義する。
後半は、分担を決めて学生発表形式とする。あらかじめ、ひとり一人の受講者が調査方向テーマを受け取り、それについて、取材調査し、報告する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	知的財産の現在	知的財産とは何かについて俯瞰する。
2	情報のインパクト（情報と人生）	情報という知財の最小単位がどのようなインパクトを持つのか、歴史的現象から学ぶ。
3	情報のインパクト（情報とビジネス）	前回から引き続き、情報という知財の最小単位がどのようなインパクトを持つのか、歴史的現象から学ぶ。
4	創造と模倣（１）	文化資源のリサイクルという視点から、コンテンツ知財の独占と保護を考える。
5	創造と模倣（２）	前回から引き続き、文化資源のリサイクルという視点から、コンテンツ知財の独占と保護を考える。
6	メディアとリテラシー	作品がSNSで瞬時に展開する時代の情報リテラシーを検討する。
7	電子図書の未来	書物の電子化がもたらすものを、人文、社会、理工の観点から学びたい（学生発表）。
8	3Dプリンターの行方	知財とテクノロジーが交差する３Ｄプリンターについて多角的に分析する（学生発表）。
9	ドローンの問題点	小ヘリコプターのドローンが各界にインパクトを与えている。ドローンの光と影を押さえたい（学生発表）。
10	人生100年時代の「学び」を考える	爆発的に増えるデータ。従来の学校教育では追いつかない。人生100年時代の「学び」を議論する（学生発表）。
11	科学と社会	原発開発、生命科学、宇宙開発などで、科学者の倫理が問われている。根本問題は何か議論したい（学生発表）。
12	人工知能と創造性	あらゆる分野で人工知能が注目を集める。クリエーティブな世界と人工知能の関係を考える（学生発表）。
13	コンテンツにお金を払う理由	なぜコンテンツにお金を払わなければならないのか。著作権ビジネスを論じたい（学生発表）。
14	全体まとめ	２１世紀前半の知的財産権論を概括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本教科書を繰り返し読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『ゼロからの著作権』（宮武久佳著。岩波書店）940円プラス税

【参考書】
その都度、講義中に知らせる。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献（５０％）と期末レポート（５０％）。

【学生の意見等からの気づき】
授業アンケートやコメントシートなど学生からのフィードバックを参考にして授業改善に取り組む。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、タブレットなどの持ち込みは自由。

【その他の重要事項】
議論を歓迎する。毎回のトピックについて、多方面な意見をもって授業に臨むこと。日頃から、「現代を生きるセンス」を磨くよう、あらゆるニュースに精通する姿勢を持ってほしい。
教員は、記者として長らく通信社に勤務した。取材で得た情報をいち早く正確に世界に伝えることが仕事であった。現場の経験に基づいて、情報や知識の伝達について解説する。
各回の内容や進行については、講義の進捗に応じて変更される場合があるので注意してほしい。
オフィスアワーについて：授業終了後に教室で質問を受け付ける，または随時，電子メールで質問を受け付ける.

【Outline (in English)】
Knowledge creates power. In this course, students will learn intellectual property theory as part of their preparation for specialist graduate study. More than just learning about divisions in intellectual property based on patent and rights holder laws, this course aims to stretch students' way of thinking in a liberal arts approach that is applicable to almost any field. Keywords in this course include Chat GPT and our lives, robotic technology, sharing economy, artificial intelligence　and others.

LAW500N1（法学 / law 500）

知的財産権論

宮武　久佳

開講時期：**秋学期後半**/Fall(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
知識が力を生む。本講義では、大学院生として専門の道を歩む学生が身に付けておきたい教養としての知的財産論を学ぶ。従来の「特許」「著作権」など知財法に基づく縦割りの知財論を超えて、リベラルアーツ的などんな分野でも応用の効く「知のストレッチ」を目指す。キーワードは次のとおり。「ChatGPTと仕事」「AI時代の模倣と創造」「人生100年時代のロボット技術」「人工知能と共存できるか」など。

【到達目標】
好むと好まざると関わらず、あらゆるデータがデジタル化され、ネットワーク化される時代の、情報や知識、知恵に関する高度なセンスと、社会で必要とされる情報のインプットとアウトプットに関する法的ルールの基礎を身に付けることができる。併せて、今がどういう時代か、人工知能をはじめとする情報テクノロジーの観点から検討する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP7」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
対面方式となる。
少人数のセミナー形式とする。前半は教員が、今、知識の世界で起きていることを、デジタル化、ネットワーク化する時代の文脈において講義する。
後半は、分担を決めて学生発表形式とする。あらかじめ、ひとり一人の受講者が調査方向テーマを受け取り、それについて、取材調査し、報告する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	知的財産の現在	知的財産とは何かについて俯瞰する。
2	情報のインパクト（情報と人生）	情報という知財の最小単位がどのようなインパクトを持つのか、歴史的現象から学ぶ。
3	情報のインパクト（情報とビジネス）	前回から引き続き、情報という知財の最小単位がどのようなインパクトを持つのか、歴史的現象から学ぶ。
4	創造と模倣（１）	文化資源のリサイクルという視点から、コンテンツ知財の独占と保護を考える。
5	創造と模倣（２）	前回から引き続き、文化資源のリサイクルという視点から、コンテンツ知財の独占と保護を考える。
6	メディアとリテラシー	作品がSNSで瞬時に展開する時代の情報リテラシーを検討する。
7	電子図書の未来	書物の電子化がもたらすものを、人文、社会、理工の観点から学びたい（学生発表）。
8	3Dプリンターの行方	知財とテクノロジーが交差する３Dプリンターについて多角的に分析する（学生発表）。
9	ドローンの問題点	小ヘリコプターのドローンが各界にインパクトを与えている。ドローンの光と影を押さえたい（学生発表）。
10	人生100年時代の「学び」を考える	爆発的に増えるデータ。従来の学校教育では追いつかない。人生100年時代の「学び」を議論する（学生発表）。
11	科学と社会	原発開発、生命科学、宇宙開発などで、科学者の倫理が問われている。根本問題は何か議論したい（学生発表）。
12	人工知能と創造性	あらゆる分野で人工知能が注目を集める。クリエーティブな世界と人工知能の関係を考える（学生発表）。
13	コンテンツにお金を払う理由	なぜコンテンツにお金を払わなければならないのか。著作権ビジネスを論じたい（学生発表）。
14	全体まとめ	２１世紀前半の知的財産権論を概括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本教科書を繰り返し読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『ゼロからの著作権』（宮武久佳著。岩波書店）940円プラス税

【参考書】
その都度、講義中に知らせる。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献（５０％）と期末レポート（５０％）。

【学生の意見等からの気づき】
授業アンケートやコメントシートなど学生からのフィードバックを参考にして授業改善に取り組む。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、タブレットなどの持ち込みは自由。

【その他の重要事項】
議論を歓迎する。毎回のトピックについて、多方面な意見をもって授業に臨むこと。日頃から、「現代を生きるセンス」を磨くよう、あらゆるニュースに精通する姿勢を持ってほしい。
教員は、記者として長らく通信社に勤務した。取材で得た情報をいち早く正確に世界に伝えることが仕事であった。現場の経験に基づいて、情報や知識の伝達について解説する。
各回の内容や進行については、講義の進捗に応じて変更される場合があるので注意してほしい。
オフィスアワーについて：授業終了後に教室で質問を受け付ける，または随時，電子メールで質問を受け付ける．

【Outline (in English)】
Knowledge creates power. In this course, students will learn intellectual property theory as part of their preparation for specialist graduate study. More than just learning about divisions in intellectual property based on patent and rights holder laws, this course aims to stretch students' way of thinking in a liberal arts approach that is applicable to almost any field. Keywords in this course include Chat GPT and our lives, robotic technology, sharing economy, artificial intelligence　and others.

LAW500N1（法学 / law 500）

知的財産権論

宮武　久佳

開講時期：**秋学期後半**/Fall(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
知識が力を生む。本講義では、大学院生として専門の道を歩む学生が身に付けておきたい教養としての知的財産論を学ぶ。従来の「特許」「著作権」など知財法に基づく縦割りの知財論を超えて、リベラルアーツ的などんな分野でも応用の効く「知のストレッチ」を目指す。キーワードは次のとおり。「ChatGPTと仕事」「AI時代の模倣と創造」「人生100年時代のロボット技術」「人工知能と共存できるか」など。

【到達目標】
好むと好まざると関わらず、あらゆるデータがデジタル化され、ネットワーク化される時代の、情報や知識、知恵に関する高度なセンスと、社会で必要とされる情報のインプットとアウトプットに関する法的ルールの基礎を身に付けることができる。併せて、今がどういう時代か、人工知能をはじめとする情報テクノロジーの観点から検討する。

【修得できる能力】

総合デザイン力	歴史と文化	持続可能性と設計倫理	専門性	技術と芸術	情報技術	表現能力・コミュニケーション能力

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP7」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
対面方式となる。
少人数のセミナー形式とする。前半は教員が、今、知識の世界で起きていることを、デジタル化、ネットワーク化する時代の文脈において講義する。
後半は、分担を決めて学生発表形式とする。あらかじめ、ひとり一人の受講者が調査方向テーマを受け取り、それについて、取材調査し、報告する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	知的財産の現在	知的財産とは何かについて俯瞰する。
2	情報のインパクト（情報と人生）	情報という知財の最小単位がどのようなインパクトを持つのか、歴史的現象から学ぶ。
3	情報のインパクト（情報とビジネス）	前回から引き続き、情報という知財の最小単位がどのようなインパクトを持つのか、歴史的現象から学ぶ。
4	創造と模倣（１）	文化資源のリサイクルという視点から、コンテンツ知財の独占と保護を考える。
5	創造と模倣（２）	前回から引き続き、文化資源のリサイクルという視点から、コンテンツ知財の独占と保護を考える。
6	メディアとリテラシー	作品がSNSで瞬時に展開する時代の情報リテラシーを検討する。
7	電子図書の未来	書物の電子化がもたらすものを、人文、社会、理工の観点から学びたい（学生発表）。
8	3Dプリンターの行方	知財とテクノロジーが交差する３Ｄプリンターについて多角的に分析する（学生発表）。
9	ドローンの問題点	小ヘリコプターのドローンが各界にインパクトを与えている。ドローンの光と影を押さえたい（学生発表）。
10	人生100年時代の「学び」を考える	爆発的に増えるデータ。従来の学校教育では追いつかない。人生100年時代の「学び」を議論する（学生発表）。
11	科学と社会	原発開発、生命科学、宇宙開発などで、科学者の倫理が問われている。根本問題は何か議論したい（学生発表）。
12	人工知能と創造性	あらゆる分野で人工知能が注目を集める。クリエーティブな世界と人工知能の関係を考える（学生発表）。
13	コンテンツにお金を払う理由	なぜコンテンツにお金を払わなければならないのか。著作権ビジネスを論じたい（学生発表）。
14	全体まとめ	２１世紀前半の知的財産権論を概括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本教科書を繰り返し読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『ゼロからの著作権』（宮武久佳著。岩波書店）940円プラス税

【参考書】
その都度、講義中に知らせる。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献（５０％）と期末レポート（５０％）。

【学生の意見等からの気づき】
授業アンケートやコメントシートなど学生からのフィードバックを参考にして授業改善に取り組む。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、タブレットなどの持ち込みは自由。

【その他の重要事項】
議論を歓迎する。毎回のトピックについて、多方面な意見をもって授業に臨むこと。日頃から、「現代を生きるセンス」を磨くよう、あらゆるニュースに精通する姿勢を持ってほしい。
教員は、記者として長らく通信社に勤務した。取材で得た情報をいち早く正確に世界に伝えることが仕事であった。現場の経験に基づいて、情報や知識の伝達について解説する。
各回の内容や進行については、講義の進捗に応じて変更される場合があるので注意してほしい。
オフィスアワーについて：授業終了後に教室で質問を受け付ける，または随時，電子メールで質問を受け付ける．

【Outline (in English)】
Knowledge creates power. In this course, students will learn intellectual property theory as part of their preparation for specialist graduate study. More than just learning about divisions in intellectual property based on patent and rights holder laws, this course aims to stretch students' way of thinking in a liberal arts approach that is applicable to almost any field. Keywords in this course include Chat GPT and our lives, robotic technology, sharing economy, artificial intelligence　and others.

MAN500N1（経営学 / Management 500）

現代産業論

渡邊　徹

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ミクロ経済学を使用して各種産業の特徴と規制、意思決定に対する分析を行う。

【到達目標】
各種産業の特徴と規制、意思決定等を理解する基盤を養うとともに、学生がそれらの諸要素を経済全体における位置づけから把握する能力を磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP6」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を行うが、適宜学生に発言を求める。なお、学生と相談の上、授業の進め方と方法を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンスとイントロダクション	シラバスをもとに授業の進め方や成績評価方法等を改めて確認した上で、この授業で学ぶミクロ経済学とはどのような学問で、ミクロ経済学を学ぶことにどのような意味があるか考える。
2回	市場	市場（しじょう）の仕組みについて学ぶ。
3回	余剰	市場に対する理解を前提として、余剰とは何か学ぶ。
4回	規模の経済	市場の機能である効率的な資源配分をゆがめる規模の経済について学ぶ。
5回	外部性	市場の機能である効率的な資源配分をゆがめる外部性ついて学ぶ。
6回	情報の非対称性と公共財	市場の機能である効率的な資源配分をゆがめる情報の非対称性と公共財について学ぶ。
7回	不確実性下の意思決定	不確実性が存在する場合の意思決定について学ぶ。
8回	情報と決定木	意思決定における情報の価値と意思決定のプロセスを見える化する決定木について学ぶ。
9回	戦略形ゲーム	ゲーム理論の戦略形ゲームについて学ぶ。
10回	展開形ゲーム	ゲーム理論の展開形ゲームについて学ぶ。
11回	前半の授業の振り返り	前半の授業で学んだことのうち、特に重要なことを振り返る。
12回	後半の授業の振り返り	後半の授業で学んだことのうち、特に重要なことを振り返る。
13回	筆記試験	筆記試験を行い、授業の理解度を確認する。
14回	筆記試験の解説	筆記試験の採点結果をもとに授業の理解度を確認するとともに、理解度が不十分な箇所について改めて理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回の授業のテーマについて文献等で調べ、整理しておくこと。また、授業で学んだことを復習しつつ、関心や疑問を持ったことについて文献等で調べ、整理するとともに、社会のさまざまな事柄にあてはめ、自分なりの意見を考えてみること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
多数あるため、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
各種産業の特徴と規制、意思決定を主なテーマとして出題される下記の諸要素で評価する。
平常点（授業態度や授業中の発言等の向学心）30%、筆記試験70%という組み合わせで評価する。

【学生の意見等からの気づき】
シラバスに準拠しながら、論理的思考力を養うような授業を心がける。
経済学の専門用語に関し、基礎から解説する。
毎回補足資料を映示する。最終回において、それまでのリアクションをふり返り、俯瞰的な見地からコメントを加える。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
質問等は授業の前後に受け付ける。

【Outline (in English)】
The main theme of this course is micro-economic analyses of industries. Game theory is applied to management strategy, market development and decision making.

MAN500N1（経営学 / Management 500）

現代産業論

渡邊　徹

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ミクロ経済学を使用して各種産業の特徴と規制、意思決定に対する分析を行う。

【到達目標】
各種産業の特徴と規制、意思決定等を理解する基盤を養うとともに、学生がそれらの諸要素を経済全体における位置づけから把握する能力を磨く。

【修得できる能力】

総合デザイン力	歴史と文化	持続可能性と設計倫理	専門性	技術と芸術	情報技術	表現能力・コミュニケーション能力
		◎				

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP6」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を行うが、適宜学生に発言を求める。なお、学生と相談の上、授業の進め方と方法を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンスとイントロダクション	シラバスをもとに授業の進め方や成績評価方法等を改めて確認した上で、この授業で学ぶミクロ経済学とはどのような学問で、ミクロ経済学を学ぶことにどのような意味があるか考える。
2回	市場	市場（しじょう）の仕組みについて学ぶ。
3回	余剰	市場に対する理解を前提として、余剰とは何か学ぶ。
4回	規模の経済	市場の機能である効率的な資源配分をゆがめる規模の経済について学ぶ。
5回	外部性	市場の機能である効率的な資源配分をゆがめる外部性ついて学ぶ。
6回	情報の非対称性と公共財	市場の機能である効率的な資源配分をゆがめる情報の非対称性と公共財について学ぶ。
7回	不確実性下の意思決定	不確実性が存在する場合の意思決定について学ぶ。
8回	情報と決定木	意思決定における情報の価値と意思決定のプロセスを見える化する決定木について学ぶ。
9回	戦略形ゲーム	ゲーム理論の戦略形ゲームについて学ぶ。
10回	展開形ゲーム	ゲーム理論の展開形ゲームについて学ぶ。
11回	前半の授業の振り返り	前半の授業で学んだことのうち、特に重要なことを振り返る。
12回	後半の授業の振り返り	後半の授業で学んだことのうち、特に重要なことを振り返る。
13回	筆記試験	筆記試験を行い、授業の理解度を確認する。
14回	筆記試験の解説	筆記試験の採点結果をもとに授業の理解度を確認するとともに、理解度が不十分な箇所について改めて理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回の授業のテーマについて文献等で調べ、整理しておくこと。また、授業で学んだことを復習しつつ、関心や疑問を持ったことについて文献等で調べ、整理するとともに、社会のさまざまな事柄にあてはめ、自分なりの意見を考えてみること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
多数あるため、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
各種産業の特徴と規制、意思決定を主なテーマとして出題される下記の諸要素で評価する。
平常点（授業態度や授業中の発言等の向学心）30%、筆記試験70%という組み合わせで評価する。

【学生の意見等からの気づき】
シラバスに準拠しながら、論理的思考力を養うような授業を心がける。
経済学の専門用語に関し、基礎から解説する。
毎回補足資料を映示する。最終回において、それまでのリアクションをふり返り、俯瞰的な見地からコメントを加える。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
質問等は授業の前後に受け付ける。

【Outline (in English)】
The main theme of this course is micro-economic analyses of industries. Game theory is applied to management strategy, market development and decision making.

MAN500N1（経営学 / Management 500）

現代産業論

渡邊　徹

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ミクロ経済学を使用して各種産業の特徴と規制、意思決定に対する分析を行う。

【到達目標】
各種産業の特徴と規制、意思決定等を理解する基盤を養うとともに、学生がそれらの諸要素を経済全体における位置づけから把握する能力を磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP6」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を行うが、適宜学生に発言を求める。なお、学生と相談の上、授業の進め方と方法を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンスとイントロダクション	シラバスをもとに授業の進め方や成績評価方法等を改めて確認した上で、この授業で学ぶミクロ経済学とはどのような学問で、ミクロ経済学を学ぶことにどのような意味があるか考える。
2回	市場	市場（しじょう）の仕組みについて学ぶ。
3回	余剰	市場に対する理解を前提として、余剰とは何か学ぶ。
4回	規模の経済	市場の機能である効率的な資源配分をゆがめる規模の経済について学ぶ。
5回	外部性	市場の機能である効率的な資源配分をゆがめる外部性ついて学ぶ。
6回	情報の非対称性と公共財	市場の機能である効率的な資源配分をゆがめる情報の非対称性と公共財について学ぶ。
7回	不確実性下の意思決定	不確実性が存在する場合の意思決定について学ぶ。
8回	情報と決定木	意思決定における情報の価値と意思決定のプロセスを見える化する決定木について学ぶ。
9回	戦略形ゲーム	ゲーム理論の戦略形ゲームについて学ぶ。
10回	展開形ゲーム	ゲーム理論の展開形ゲームについて学ぶ。
11回	前半の授業の振り返り	前半の授業で学んだことのうち、特に重要なことを振り返る。
12回	後半の授業の振り返り	後半の授業で学んだことのうち、特に重要なことを振り返る。
13回	筆記試験	筆記試験を行い、授業の理解度を確認する。
14回	筆記試験の解説	筆記試験の採点結果をもとに授業の理解度を確認するとともに、理解度が不十分な箇所について改めて理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回の授業のテーマについて文献等で調べ、整理しておくこと。また、授業で学んだことを復習しつつ、関心や疑問を持ったことについて文献等で調べ、整理するとともに、社会のさまざまな事柄にあてはめ、自分なりの意見を考えてみること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
多数あるため、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
各種産業の特徴と規制、意思決定を主なテーマとして出題される下記の諸要素で評価する。
平常点（授業態度や授業中の発言等の向学心）30%、筆記試験70%という組み合わせで評価する。

【学生の意見等からの気づき】
シラバスに準拠しながら、論理的思考力を養うような授業を心がける。
経済学の専門用語に関し、基礎から解説する。
毎回補足資料を映示する。最終回において、それまでのリアクションをふり返り、俯瞰的な見地からコメントを加える。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
質問等は授業の前後に受け付ける。

【Outline (in English)】
The main theme of this course is micro-economic analyses of industries. Game theory is applied to management strategy, market development and decision making.

ADE500N2（建築学 / Architecture and building engineering 500）

建築プロフェッショナル総合演習 1

赤松　佳珠子、志賀　良和、坂田　泉、藤澤　百合、武石　正宣

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「デザインスタジオ」「建築インターンシップ」を補完する内容をテーマとし、他の個別授業では得られない建築の職能意識の修得、建築設計に関わる周辺分野の知識と技能の習得を目標とする。

【到達目標】
1. 建築設計に関わる幅広い周辺分野の知識および技術を学び、その応用を試みることで広範な専門技術の習得を目指す。
2. 建築分野の職能倫理に関する理解を深め、それに基づいて行動する能力を養う。

【修得できる能力】

総合デザイン力	歴史と文化	持続可能性と設計倫理	専門性	技術と芸術	情報技術	表現能力・コミュニケーション能力
			◎			○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」、「DP5」、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
建築計画および設計の実務面に関わる内容を題材とし、レクチャー、セミナー、ワークショップ（演習）を組み合せた授業形式による。ワークショップは3分野それぞれ4回ずつから構成され、導入段階では基礎知識と基本手法の習得を、試行段階ではそれらを用いて初期作業の実行を試み、発展段階では各人それぞれに固有な展開を加え、完成段階でまとまった制作物として仕上げる。
【合同ガイダンスについて】
A期第1週に建築プロフェッショナル総合演習1および2の合同ガイダンスを実施し、履修抽選を行います。詳細は学習支援システムの【お知らせ】で確認して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・合同ガイダンス ・ワークショップ／照明計画とデザイン1	・建築士制度に関わる授業の成り立ちについて ・セミナー形式による授業（導入段階）
第2回	ワークショップ／照明計画とデザイン2	（試行段階）
第3回	ワークショップ／照明計画とデザイン3	（発展段階）
第4回	ワークショップ／照明計画とデザイン4	発表および講評
第5回	ワークショップ／建築企画デザイン1	（導入段階）
第6回	ワークショップ／建築企画デザイン2	（試行段階）
第7回	ワークショップ／建築企画デザイン3	（発展段階）
第8回	ワークショップ／建築企画デザイン4	発表および講評
第9回	建築家の職能意識1	・セミナー形式による授業
第10回	建築家の職能意識2	・セミナー形式による授業 ・発表および講評
第11回	ワークショップ／グラフィックに関わるデザイン1	（導入段階）
第12回	ワークショップ／グラフィックに関わるデザイン2	（試行段階）
第13回	ワークショップ／グラフィックに関わるデザイン3	（発展段階）
第14回	ワークショップ／グラフィックに関わるデザイン4	発表および講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて授業内で紹介
本授業の準備学習・復習時間は4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書はないが必要な参考文献は授業内で紹介する

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介

【成績評価の方法と基準】
レポート、ワークショップの成果等にもとづく総合評価とする
配分：レポート10％、ワークショップ成果物30％×3回

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC、デジタルカメラ、必要に応じて授業内に指定されたソフト

【その他の重要事項】
・実務で活躍する教員が自身の経験を活かし実習指導を行うオムニバス形式の授業である。
・少人数スタジオ制授業のため、受講者制限を行う場合がある。
・A期第1週に開催する「建築プロフェッショナル総合演習1・2合同ガイダンス」にて抽選を行うので、1または2を履修希望する学生は必ず「合同ガイダンス」に出席すること。
・希望者多数の場合、合同ガイダンスを欠席した学生は履修を認めない。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Complementing the contents in “Design Studio” and “Architecture Internship”, this course provides professional awareness and knowledge and technical skills from surrounding fields not available in other lectures.
【Learning Objectives】
1. To acquire knowledge and skills in a wide range of peripheral fields related to architectural design, and to acquire a broad range of specialized skills by attempting to apply such knowledge and skills.
2. To deepen students’ understanding of professional ethics in the architectural field and to develop the ability to act accordingly..
【Learning activities outside of classroom】
Instructions will be given at the time of guidance.
The standard preparation and review time for this class is 4 hours.
【Grading Criteria /Policy】
Overall evaluation will be based on reports, workshop results, etc.
Allocation: Report 10%, Workshop deliverables 30%x 3 times

ADE500N2（建築学 / Architecture and building engineering 500）

建築プロフェッショナル総合演習２

赤松　佳珠子、石渡　智秋、鈴木　研一、畠中　克弘、内海　慎一

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「デザインスタジオ」「建築インターンシップ」を補完する内容をテーマとし、他の個別授業では得られない建築の職能意識の修得、建築設計に関わる周辺分野の知識と技能の習得を目標とする。

【到達目標】
1. 建築設計に関わる幅広い周辺分野の知識および技術を学び、その応用を試みることで広範な専門技術の習得を目指す。
2. 建築分野の職能倫理に関する理解を深め、それに基づいて行動する能力を養う。

【修得できる能力】

総合デザイン力	歴史と文化	持続可能性と設計倫理	専門性	技術と芸術	情報技術	表現能力・コミュニケーション能力
			◎			○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」、「DP5」、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
建築計画および設計の実務面に関わる内容を題材とし、レクチャー、セミナー、ワークショップ（演習）を組み合せた授業形式による。ワークショップは3分野それぞれ4回ずつから構成され、導入段階では基礎知識と基本手法の習得を、試行段階ではそれらを用いて初期作業の実行を試み、発展段階では各人それぞれに固有な展開を加え、完成段階でまとまった制作物として仕上げる。
【合同ガイダンスについて】
A期第1週に建築プロフェッショナル総合演習1および2の合同ガイダンスを実施し、履修抽選を行います。詳細は学習支援システムの【お知らせ】で確認して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・ガイダンス ・建築家の職能意識、建築事務所の業務と運営1	・建築士制度に関わる授業の成り立ちについて ・セミナー形式による授業
第2回	建築家の職能意識、建築事務所の業務と運営2	・セミナー形式による授業 ・発表・講評
第3回	ワークショップ／コミュニティデザイン1	（導入段階）
第4回	ワークショップ／コミュニティデザイン12	（試行段階）
第5回	ワークショップ／コミュニティデザイン13	（発展段階）
第6回	ワークショップ／コミュニティデザイン14	発表・講評
第7回	ワークショップ／建築写真と撮影手法1	（導入段階）
第8回	ワークショップ／建築写真と撮影手法2	（試行段階）
第9回	ワークショップ／建築写真と撮影手法3	（発展段階）
第10回	ワークショップ／建築写真と撮影手法4	発表・講評
第11回	ワークショップ／建築音響計画とデザイン1	（導入段階）
第12回	ワークショップ／建築音響計画とデザイン2	（試行段階）
第13回	ワークショップ／建築音響計画とデザイン3	（発展段階）
第14回	ワークショップ／建築音響計画とデザイン4	発表・講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ガイダンス時に指示される
本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書はないが、必要な参考文献については授業内で指示される

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介

【成績評価の方法と基準】
レポート、ワークショップの成果等にもとづく総合評価とする
配分：レポート10％、ワークショップ成果物30％×3回

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC、デジタルカメラ

【その他の重要事項】
・実務で活躍する教員が自身の経験を活かし実習指導を行うオムニバス形式の授業である。
・少人数スタジオ制授業のため、受講者制限を行う場合がある。
・A期第1週に開催する「建築プロフェッショナル総合演習1・2合同ガイダンス」にて抽選を行います。プロ演習2を履修希望する学生も必ず「合同ガイダンス」に出席すること。
・履修希望者多数の場合、合同ガイダンスを欠席した学生は履修を認めない。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Complementing the contents in “Design Studio” and “Architecture Internship”, this course provides professional awareness and knowledge and technical skills from surrounding fields not available in other lectures.
【Learning Objectives】
1. To acquire knowledge and skills in a wide range of peripheral fields related to architectural design, and to acquire a broad range of specialized skills by attempting to apply such knowledge and skills.
2. To deepen students’ understanding of professional ethics in the architectural field and to develop the ability to act accordingly.
【Learning activities outside of classroom】
Instructions will be given at the time of guidance.
The standard preparation and review time for this class is 4 hours.
【Grading Criteria /Policy】
Overall evaluation will be based on reports, workshop results, etc.
Allocation: Report 10%, Workshop deliverables 30%x 3 times

ADE500N2（建築学 / Architecture and building engineering 500）

建築構造デザイン

浜田　英明

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
建築構造物がもつべき適切な骨格を描き出す創造的行為が構造デザインである。そして，構造デザインは，科学や技術だけではなく多くのものと結びついている。審美，歴史，文化，哲学，思想，経済・・・。一般的に構造設計としてイメージされる構造計算は，この活動において，仕上げの筆を加え，その構造物が要求にそった強さや健全さを持っている事を証明することにすぎない。そのような段階に入る前に統合的な判断に基づく基本的な構造概念の構築を行う必要があり，それが構造計画である。
本授業では，このような構造計画から構造計算までの一連の構造デザインの流れについて，著名な構造設計者の例を研究するとともに，実際の構造物の設計を通して体感する。

【到達目標】
構造計画立案のための基本的な構造原理や著名構造設計者などの専門家の言葉を理解する力の養成と，我が国の構造関係技術基準の把握，それに適合した構造設計・構造計算法の理解を到達目標とし，その過程で構造デザインの真髄の一端に触れる事をめざす。

【修得できる能力】

総合デザイン力	歴史と文化	持続可能性と設計倫理	専門性	技術と芸術	情報技術	表現能力・コミュニケーション能力
○			◎	○		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP6」、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
まずはじめに，著名構造設計者の設計例を調査し，その拠り所となる構造原理，推進力となる設計思想，手だてとしての設計手法を整理・研究する。その際には構造模型なども作製し五官を総動員させながら構造デザインの神髄の理解に努める。その後，日本における構造関係技術基準を総覧した上で，実際に自分の力で建築物の構造設計に取りかかり，構造設計図書をまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業ガイダンス 構造デザインとは
第2回	事例研究	著名構造設計者の文献・作品調査 設計思想・設計手法の把握
第3回	事例研究	構造模型製作 構造原理の把握
第4回	事例研究	発表会
第5回	構造関係技術基準	構造関係規定の構成と要求性能 仕様規定・構造計算規定 荷重・外力 耐震計算 許容応力度・材料強度
第6回	構造関係技術基準	鉄骨造の技術規準 鉄筋コンクリート造の技術規準
第7回	設計演習（課題設定）	課題設定エスキス 与条件の把握
第8回	設計演習（構造計画）	要求性能・設計方針決定 荷重表作成 仮定断面の設定
第9回	設計演習（構造計画）	構造解析モデルの作成 略構造図の作成
第10回	設計演習（構造解析）	応力計算 変形計算
第11回	設計演習（構造計算）	許容応力度計算 柱の断面検定 梁の断面検定 耐震壁の断面検定
第12回	設計演習（構造計算）	許容応力度計算 接合部の断面検定 2次部材の断面検定 基礎の断面検定
第13回	設計演習（構造計算）	層間変形角の検討 剛性率・偏心率の検討 保有水平耐力の検討
第14回	設計演習（構造図）	基礎伏図の作成 梁伏図の作成 軸組図の作成 部材リスト図の作成 構造詳細図の作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献調査および構造模型製作，発表会のための資料作成，構造設計図書の作成とそのための学習など授業時間外の自主学習が非常に重要である。授業時間内では，これまでの作業進捗状況の説明と疑問点の確認が主体である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
とくになし。

【参考書】
とくになし。

【成績評価の方法と基準】
授業内発表（30％），期末レポート（構造設計図書）（70％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
情報教室のPCもしくは配布ノートPC

【その他の重要事項】
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
Structural design is the creative act of drawing out the appropriate framework that a building structure should have. Structural design is not only related to science and technology, but also to many other things. Aesthetics, history, culture, philosophy, ideology, economics, and so on. Structural calculations, which are generally thought of as structural design, are just a way to add the finishing touches to this activity and prove that the structure is strong and sound enough to meet the requirements. Before entering such a stage, it is necessary to construct a basic structural concept based on an integrated judgment, which is structural planning.In this class, we will study the examples of famous structural designers and experience the flow of structural design from structural planning to structural calculation through the design of actual structures.
Learning Objectives:
The course aims to cultivate the ability to understand basic structural principles and the words of famous structural designers and other experts for structural planning, to grasp the technical standards related to structure in Japan, and to understand structural design and structural calculation methods that conform to these standards, and in the process, to touch the essence of structural design.
Learning activities outside of classroom:
Independent study outside of class time is very important, such as literature research, structural model making, preparation of materials for presentations, and preparation of structural design documents and study for them. In the class, students are mainly expected to explain the progress of their work and confirm any questions they may have. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on in-class presentations and final reports.

OTR500N3（その他 / Others 500）

都市環境デザイン工学基礎２

高見　公雄、酒井　久和、内田　大介

開講時期：**春学期後半**/Spring(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学部で学習した基礎的な教科のうち、空間の視覚モデル化とその表現、景観デザイン、地盤力学と地盤環境、構造力学と鋼構造に関連する知識のエッセンスを再確認する。

【到達目標】
上記内容について基礎的な能力を修得とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
上記内容について講義と演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス，土の物理量、土の分類と力学的性質	土の物理量、土の分類と力学的性質についての演習問題と解答、関連する講義
2	地盤内の水の動き	地盤内の水の動きについての演習問題と解答、関連する講義
3	圧密沈下量、圧密時間	圧密沈下量、圧密時間についての演習問題と解答、関連する講義
4	土のせん断強度と土質試験の関係、土圧の種類、土圧計算法	土のせん断強度と土質試験の関係、土圧の種類、土圧計算法についての演習問題と解答、関連する講義
5	鋼材の機械的性質、弾塑性棒の変形、軸方向力が作用する２・３次元物体の応力と変形	鋼材の機械的性質、弾塑性棒の変形、軸方向力が作用する２・３次元物体の応力と変形についての演習問題と解答、解説
6	梁部材の曲げ応力・せん断応力と変形の計算法(1)	梁部材の曲げ応力・せん断応力と変形の計算法についての演習問題と解答、解説
7	梁部材の曲げ応力・せん断応力と変形の計算法(2)	梁部材の曲げ応力・せん断応力と変形の計算法についての演習問題と解答、解説。関連する講義
8	トラス構造の部材力と変形の計算方法	トラス構造の部材力と変形の計算方法についての演習問題と解答、解説
9	鋼材の継手部（高力ボルト接合、溶接接合）の強度計算方法	鋼材の継手部（高力ボルト接合、溶接接合）の強度計算方法についての演習問題と解答、解説
10	土地区画整理事業の成果	都市計画の母、と呼ばれる土地区画整理事業がこれまでのわが国の都市整備に果たしてきた役割を理解する
11	土地区画整理事業の事業計画の仕組み	土地区画整理事業の国庫補助の仕組みを始め、市街地の設計が事業収支にどう影響するかなど、事業構造のポイントを知る
12	例題市街地の設計	都内の具体的な地区を取り上げ、土地区画整理事業にて整備するとした場合の市街地設計を行う
13	例題市街地の設計に基づく土地区画整理事業の事業計画検討	設計した市街地に、現状の地価、整備後の可能処分価格、整備事業費などから、事業計画としての成立性について検討する
14	土地区画整理事業としての成立性	望ましい市街地形成に向けて、現実的な事業費検討を踏まえた事業計画案をとりまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業の復習。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し。適宜指示する。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
レポートによる(100%)。遅刻・欠席は減点する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
電卓

【その他の重要事項】
3名の教員は，それぞれ都市計画，橋梁設計，土構造物設計に実務者として携わった経験を有し，その知見を活かした講義を行う．
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに,専任教員であることから,履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する．

【Outline (in English)】
The program objectives of Basics of Civil Engineering 2 are to confirm fundamental knowledge and skills related to structural engineering, steel structure, geomechanics, environmental geotechnics, landscape and city planning.
· Grading Criteria
The goals of this course are to acquire the contents of above outline.
· Learning activities outside of classroom
Review each class meeting. Standard study time is 2 hours for each time.
· Grading Criteria
Grading will be decided based on each time exercises.

CST500N3（土木工学 / Civil engineering 500）

材料科学概論

羽原　俊祐

開講時期：**春学期後半**/Spring(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市院：建築士**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
建設に使用される主要材料の物理的・化学的特性について、使用上熟知しておくべき基礎的事項を身につける。さらに、これらの諸材料の材料設計に関する基本的な考え方、ならびにコンクリートの体積変化の種類と制御技術を修得する。

【到達目標】
材料の化学的側面を理解し、材料の諸特性を定量的に評価する技術とコンクリートの体積変化制御技術を身につけることを本授業の到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
今年は休講します。
社会環境材料としてのセメント系材料の現状や技術的課題、さらに新材料・技術について概説する。具体的な講義内容としては、社会環境材料としてのセメント系材料の物理的・化学的特性、セメント系材料の水和物とその利用、社会環境材料と資源循環、セメント・コンクリートの高性能化・多機能化、コンクリートの空隙と体積変化のメカニズムの概説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス　材料科学概論	授業の概要と目的、到達目標、授業の進め方と方法
2	材料科学的な設計方法の考え方	組成と構造(キャラクター）とその評価方法（キャラクタリゼーション）
3	セメント・コンクリートの歴史	セメント・コンクリートの歴史
4	セメント製造プロセスの変遷	セメント製造プロセスの変遷
5	セメントクリンカ原料としての廃棄物利用	廃棄物利用と環境負荷の低減、廃棄物・副産物利用による環境影響評価、廃棄物の利用拡大に向けて
6	CO2削減の取り組み	代替原料の利用と混合セメント　LC3　Limestone Calcined Clay Cement
7	セメント系材料の水和と組織形成	水和反応と組織形成の研究の意義、ポルトランドセメントの水和、ポルトランドセメントの水和による硬化体組織の形成 カルシウムシリケート系水和物（C-S-H)、エトリンガイト系水和物（AFt相）、モノサルフェート系水和物（AFm相）、水酸化カルシウム
8	混和材料（混和材）	高炉スラグ、フライアッシュ、フライアッシュ、シリカフューム石灰石微粉末、もみ殻灰、仮焼スラグ
9	混和剤	・化学混和剤の種類と性能 ・AE剤、AE減水剤・高性能減水剤
10	セメント・コンクリートの高性能化	高強度化・超早強化技術
11	実際の装置、施設の見学・実習１	セメント会社研究所視察を予定
12	実際の装置、施設の見学・実習２	セメント会社研究所視察を予定
13	コンクリートの弱点　寸法変化　寸法変化低減技術	乾燥収縮・自己収縮 膨張　塩害・膨張、硫酸塩劣化・DEF、凍害、アルカリ骨材反応 まとめ・課題発表
14	まとめ・課題発表	まとめ・課題発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前配布資料による準備学習・講義した内容の復習
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書なし。パワーポイントおよび印刷物による授業

【参考書】
田沢栄一、佐伯昇　コンクリート工学　微視構造と材料特性　技報堂出版

【成績評価の方法と基準】
レポートによる評価
成績評価は100点満点として、セメント系材料の熟知度およびセメント関連英文パワーポイントの和訳にて評価し、60点以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
なし

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
セメント業界・大学での研究開発と製造実績の経験を活かし、材料の物理的・化学的特性、コンクリートのひび割れ制御技術ならびに環境に及ぼす影響について解説する。
オフィスアワーについて、授業終了後の質問を受ける。必要に応じて、メールにて質問の対応を行う。

【Outline (in English)】
(Learning Objectives) In this course students will be expected to fully understand how to use physical and chemical properties of main materials for construction use. In addition, they will be able to learn the basic concept of material design for such construction materials, including types of volume change for concrete and methods of control.
(learning activities outside of class room)
After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policy)
Grading will be decided based on reports and discussions of student.

CST500N3（土木工学 / Civil engineering 500）

災害リスクマネジメント

竹末　直樹、細川　雅則、真下　義章、泉　千年、加古　聡一郎、溝口　宏樹

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国内外の様々なインフラの計画、建設、維持・管理における災害リスクおよびその対応・対策について、経験に基づく事例紹介や解説を行う。講義を通じて，インフラの災害リスク・対応の現状、最新動向、課題等の把握・理解を深めることを目的とする。

【到達目標】
1) リスクマネジメントの概念・手法を理解する。
2) 自然・労働などの災害リスクおよび、災害対策の概要・現状を把握する。
3) 海外プロジェクトにおけるリスク、その対策を理解する。
4) 危機対応における組織の役割や連携、事前対策の重要性について認識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
災害リスクに関する講義・説明を受け、質疑応答や演習を通じて理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	水害リスクと対策	気候変動と水害リスク、頻発する水害と課題、治水対策の今後の方向性、避難行動と情報について、実例を示しながら解説する。
2	水害対応の実例	令和元年東日本台風での水害対応、国土交通省TEC-FORCEなど、災害対応の実例について、行政での経験談を交えて解説する。
3	都市内高速道路の大雪対策	首都高速道路を例に、大雪対応の基本方針、路面凍結予防、除排雪作業、交通情報提供など大雪対策の概要を理解する。
4	都市内高速道路の地震対策	首都高速道路を例に、高架橋の耐震補強、地震発生時の初動対応、緊急輸送路の道路啓開など大地震への備えを理解する。
5	アジア開発銀行の紹介とコロナ危機への対応	アジア開発銀行の設立目的や戦略、実績などを紹介する。またコロナ危機にあたっての対応とその成果を検証する。
6	アジア都市鉄道プロジェクト、財源リスクへの対応	アジア都市交通における課題と都市鉄道が果たす役割を取り上げる。また、都市鉄道開発を行うにあたり、直面する財源問題とその対策を協議する。
7	持続可能な開発（Sustainable Development Goal）とリスク対応	気候変動など世界的な災害リスクの現状を紹介し、アジア開発銀行のSDGへの取組みを、ケーススタディを交えて紹介する。
8	日本の社会課題と災害リスクマネジメント	日本の社会課題である人口減少と社会インフラの老朽化について、増加する自然災害発生時の対応状況から問題点を議論する。事例として平成３０年７月西日本豪雨災害への対応を解説。
9	老朽化するインフラへの対応と建設会社の役割	社会インフラの老朽化に伴い災害発生時のリスクが増加することへの対応として、官民連携の拡大と建設会社の新たな役割を考える。増加するコンセッション案件の取組を紹介。
10	建設現場のリスクマネジメント	建設現場におけるリスクとしての自然災害、労働災害及び周辺環境に及ぼす影響とその対策を実例を交えて実践的に学ぶ。
11	建設プロセスにおける防災技術の最前線	建設現場での災害リスク軽減に資する防災技術を中心に、近年実用化が進む自動化・機械化技術、ICT、CIM等を用いた建設技術の最新動向を解説。
12	防災減災／災害復旧プロジェクト事例紹介	震災復興事業、治水・治山事業など、大規模土木プロジェクトの事例を写真や動画を用いて分かりやすく紹介する。
13	リスクマネジメントの概説	リスクマネジメントの概念・手法、適用事例等を紹介し、一部演習を実施する。
14	公共施設マネジメントとリスクマネジメント	リスクを考慮した地方自治体の公共施設マネジメントの手法を紹介し、一部演習を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レポート課題，講義への積極的参加を求める。
本授業の準備・復習時間は，約各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
災害危機管理論入門、吉井裕明＋田中　淳、弘文堂
防災学原論、岡田憲夫監修、築地書房
災害の経済学、馬奈木俊介、中央経済社
その他適宜追加する。

【成績評価の方法と基準】
レポート発表60％、小テスト20％、講義における積極的参加度20％。

【学生の意見等からの気づき】
担当者変更により講義内容を大幅に変更したため、今後の学生意見を反映して、次年度以降の講義内容・方法について検討を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。
講義にPPT使用。適宜資料を配布する。

【その他の重要事項】
インフラ関係の管理者側、建設コンサルタント、ゼネコン、国際開発金融機関、経営コンサルタントの実務に携わっている実務者により、それぞれの立場から経験に基づいた講義を行う。
オフィスアワー：授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】
The course introduces case studies based on experience and provides commentary on disaster risk and response/measures in the planning, construction, maintenance, and management of various infrastructures in Japan and overseas. The objective of the course is to deepen understanding of the current status, trends, and unsolved problems of disaster risk and response for infrastructure.
This course's standard preparation and review time is about 2 hours, respectively.
Grade evaluation: Reports 60%+ Short tests 20%+ Activities 20%= 100%
.

ADE500N3（建築学 / Architecture and building engineering 500）

比較都市環境デザイン

高見　公雄、伊藤　香織、橋本　圭央

開講時期：**秋学期後半/Fall(2nd half)**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市院：建築士**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
わが国では前世紀後半の戦災復興から都市化の時代に、猛烈なスピードで都市が計画され、つくられてきた。21世紀に入り一転して人口減少を最大要因としながら都市化の時代への反省、拡がり過ぎた市街地の集約化の時代を迎えた。このように常に荒波の中にあると言えるわが国の都市整備の環境の中、都市環境デザインの妥当性、あるべき姿を見いだすためには、時間的、空間的な比較の中で、私たちの置かれている状況を認識する力が求められる。当授業はこのような視点に基づき、時間的、地域的、また国際的視野の中で都市環境デザインを捉え評価することを狙いとして進める。

【到達目標】
わが国の都市環境デザインの現状を客観的に認識する能力を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
都市整備の今後を考える時、現状を的確に判断できる能力が求められる。わが国の多くの都市は中世までそのルーツを遡ることができ、また地勢や気候風土の固有性を背景として多様な都市環境ができあがってきた。一方近代以降の時代においては少なからず欧米の都市づくりの影響を受け、またその後の極端な人口移動等に応じて、その時々に求められる量的な課題に応えつつ都市はつくられてきた。このような固有性、外的または社会的影響などを切り口にして、都市環境デザインの今後と現状について論じる(高見 公雄)。
都市や地域に関するデータの飛躍的増加に伴い，膨大な情報の中から何を読み取りどのように伝えていくのかが重要性を増している。一方，個々の都市に目を向けると，都市ブランディングや市民とのコミュニケーションなど都市の個性を戦略的都市運営に結び付ける試みが盛んになっている。本講義では，世界の状況の視覚化によって都市のグローバルな様相を論じるとともに，都市の個性を育てるコミュニケーションの手法と理念を概観する(伊藤 香織)。
近代以降、様々な分野において機能主義的な建築・都市環境の概念形成を批判的に捉えなおすために、人間目線でのミクロな考察や実践が重要とされるようになっている。一方で、そこでの建築・都市環境の概念形成を捉える際に、中世から続く視覚中心主義、近代における動線分離、近代以降における境界・周縁性等の現代まで続く影響に対する人間目線での通時的な考察はこれまであまりなされていない。そのため、本講義では、近代以前から現代までの建築・都市環境の概念形成について、特に人間目線におけるそれらの記述の過程を概観したうえで、その限界と今後の展望を見通す。(橋本圭央)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	過去～戦後復興期の都市と建築	経済成長とともに進められた都市づくり
第2回	安定成長期の都市デザイン	一時代を築いた都市環境デザイン
第3回	フィールドワーク	20世紀末の跡地開発プロジェトの代表例を現地にて説明、視察
第4回	フィールドワーク	20世紀末の跡地開発プロジェトの代表例を現地にて説明、視察
第5回	データマイニング	所在情報 情報相互の関連性
第6回	都市の視覚化	意思決定のためのプラットフォーム ステップアップの戦略
第7回	都市の個性とコミュニケーション	良さ・利点の発見と確認 表現方法
第8回	事例研究	市民参加 さまざまなイベント 都市情報センター
第9回	近代以前における建築・都市環境の概念形成	視覚中心主義、および遠近法の影響を確認
第10回	近代における建築・都市環境の概念形成	機能主義、および動線分離の問題を例証
第11回	近代以降における建築・都市環境の概念形成	機能主義批判、および境界・周縁性を検証
第12回	現代における建築・都市環境の概念形成	多自然主義、感覚人類学等、およびネットワーク論の可能性を検討
第13回	各自論ずる比較都市環境デザイン１（発表会）	第12回までの各教員からの情報提供を踏まえ、各自考える比較都市環境デザインをまとめ、発表する
第14回	各自論ずる比較都市環境デザイン２（発表会）	第12回までの各教員からの情報提供を踏まえ、各自考える比較都市環境デザインをまとめ、発表する（つづき）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回に教員より必要な指示が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教員作成のプリントが配布される。

【参考書】
各回の内容に即して参考書の紹介がある。

【成績評価の方法と基準】
レポート（50％）並びに研究発表（50％）による。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
瞬時に関連情報を捕捉しつつ講義を理解することが望ましく貸与パソコン等を常に携行することが望ましい。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。
担当教員の執務上の都合により，5～12回はリモートまたはオンデマンド方式の授業となる場合がある。
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員については、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。兼任の教員については、Eメールで対応する。

【Outline (in English)】
In this course students will learn about important observations when considering urban environment, including topics such as period and regions.
Grades will be based on course attendance, reports (50%), and presentations in the lecture (50%).
Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST500N3（土木工学 / Civil engineering 500）

社会基盤施設の資産管理

丸山　明

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このコースでは、社会基盤施設の特徴を知り、社会基盤施設の戦略的な資産管理に必要な技術を修得し、修得した能力を実務で発揮できるようになる。社会基盤施設の老朽化による影響を近年の具体的な事例から学び、土木分野におけるアセットマネジメントの特徴を解説し、現状求められる維持管理戦略を学ぶ。一方、個別構造物に発生する変状の種類と特徴、変状の発見と診断、変状の進展予測、変状の最適修繕時期、修繕方法等の短期計画の策定の流れを理解する。中長期計画と短期計画、両者の理解により、インフラマネジメントの全体像、各プロセスの要素技術、PDCAサイクルの重要性を習得し、その結果、学生は、社会基盤施設の運営・管理を効率的に行い、その後、業務を指導できる専門技術者となる。

【到達目標】
到達目標は、①社会基盤施設の現状と抱えている課題を正しく理解する。②分野におけるアセットマネジメントの違いや考え方を正しく理解する。③既設構造物にどのような変状（損傷と劣化）が発生するか、またその原因は何かを理解する。④社会基盤設備の中長期維持管理計画、短期修繕計画策定について、その要諦を理解する。⑤社会基盤施設の建設から維持管理、補修・補強、更新までをマネジメントする技術を理解する。最終目標は、①～⑤までを理解し、自分のスキルとすることで実務に活かし、職務遂行能力に優れ、説明責任を適切に果たす能力と倫理観のある優れた技術者となることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は、建設コンサルタントとして実践経験や学会等で修得した広範囲な知見や技術を解説することにより、社会基盤施設の戦略的管理を実施、指導できる実務型技術者育成を目指す。このような観点から、講義用に作成したパワーポイント及び板書によって各ステップの必要項目を解説し、理解度を高める講義方式を採用する。学生の質問、要望については、臨機応変に対応し、相互理解のもと進める。なお、講義に使用するパワーポイントは講義終了後に配布し、復習に役立てる。また、社会に出て、即戦力として機能するように、プレゼンテーション能力を高める実務型スタイルも取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	建設コンサルタントの役割と業務領域	社会基盤施設に関する建設コンサルタントの役割と業務領域について説明する。 また、インフラにはどのような施設があり、どのような役割があるかを説明する。
第2回	インフラ施設とその現状	インフラが現在どのような状況になるかを解説し、近年相次ぐ落橋事故の原因のほか、豪雨が橋梁に及ぼす影響について解説する。
第3回	アセットマネジメントの概要	なぜアセットマネジメントが必要なのか。そもそもアセットマネジメントとは何かを説明し、土木分野におけるアセットマネジメントと建築分野におけるアセットマネジメントの違い等について解説する。
第4回	新技術の活用(1)	最新のICT技術等を用いた、インフラ施設の維持管理などを解説する。
第5回	新技術の活用(2)	第4回に続き、最新のICT技術等を用いた、インフラ施設の維持管理などを解説する。
第6回	官民連携事業	官民連携手法を用いたインフラ施設の整備・運営・維持管理について解説する。
第7回	住民の理解醸成	インフラ維持管理を推進するうえでの住民への理解醸成活動や、行政ではなく住民自らのインフラ施設維持管理に参加する取組みについて、事例を用いて解説する。
第8回	構造物の耐震化	インフラ施設への自然災害や老朽化による影響、地震が橋梁に及ぼす影響について解説する。
第9回	アセットマネジメントの変遷(1)	インフラ維持管理の方針を変える出来事とその時代のアセトマネジメントを解説する。(1)では、2010年代まで。
第10回	アセットマネジメントの変遷(2)	第9回に続き、インフラ維持管理の方針を変える出来事とその時代のアセトマネジメントを解説する。(2)では2010以降から現在まで。
第11回	構造物の劣化	インフラ施設の老朽化による影響、構造物の材料による違い、補強方法等について解説する。
第12回	長寿命化修繕計画(1)	長寿命化修繕計画の詳細と課題を説明する。
第13回	長寿命化修繕計画(2)	実践的な長寿命化修繕計画を、事例を用いて解説する。
第14回	これからのアセットマネジメント	これまでの講義を踏まえ、これからのアセットマネジメントについて説明する。 また、社会基盤施設の戦略的資産管理について講師とのミーティングを通じ、更なるスキルアップを目指して実戦力となるよう導く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
国内外の社会基盤施設の現状と課題、資産管理手法（インフラマネジメント）に関する事前学習が望ましい。
各講義で行う次回講義内容の概説を踏まえて予習し、講義時に疑問点を質問し、理解度を高めることが好ましい。また、講義後に配布される講義時資料により復習を行い、疑問点があれば、講義時に質問する積極性を重視する。講義が進む過程で1回程度の課題を講師が設定、課題レポートとしてプレゼンテーション資料を提出する。本授業1回あたりの準備学習・復習時間は、各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義用資料：各講義終了後にネットで公開する。

【参考書】
1．アセットマネジメント導入への挑戦：土木学会
2．これならわかる「道路橋の点検」：建設図書

【成績評価の方法と基準】
1．講義への積極的な参加：４０％
2．課題レポート（1回程度）：３０％
3．講義出席：３０％

【学生の意見等からの気づき】
今年度も机上理論だけではなく、インフラ資産維持管理の現場での課題や実装に至る障害等について、リアリティを持って講義する。

【学生が準備すべき機器他】
パーソナルコンピューター（ワード、エクセル、パワーポイントソフト含む)

【その他の重要事項】
・鳥取県や新潟市等の地方公共団体に、戦略的維持管理の実装に関して建設コンサルタントの立場で支援してきた教員が、自らの知見とスキルによって戦略的資産管理手法について指導する。
・即戦力として機能する人材育成が目標であることから、講義中、講義後に分からないこと、知りたいことを積極的にヒヤリングすることが望ましい。
オフィスアワー：授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to learn about characteristics of social infrastructure facilities and to acquire skills for strategic assessment. Practical knowledge and skills obtained from this course can be applied to actual projects. One will learn the effects of aging social infrastructure facilities from recent specific case studies, by deciphering characteristics of asset management in the civil engineering field and also learn about maintenance and management strategies that are currently required.
At the same time, topics such as typical degradation and damage of infrastructure, inspection methods and diagnostics, performance prediction, reinforcing and retrofitting, planning of management and their PDCA cycle will be discussed in class. By understanding both medium-to-long term and short period plans, one will be able to acquire the overall picture of infrastructure management, the elemental technology of each process, and the importance of a PDCA cycle.
By taking this course, students will become highly qualified engineers, being able to perform operation and management of infrastructures in civil engineering efficiently and give guidance as a specialist.

【Learning Objectives】
Learning Objectives are as follows:
① To be able to properly understand the current situation and challenging issues that infrastructures are facing. ② To be able to properly understand differences and concepts of asset management within the field. ③ To understand what kind of deformation (damage and deterioration) will occur to already-existing structures and trace its cause ④To understand the essence and keystone of medium to long term maintenance management plans and short term restoration programs of infrastructure ⑤ To understand management technology concerning infrastructure from construction to operation and maintenance, repair, reinforcement and renewal. The final objective is to understand ①～⑤, to refine it as your own skill, apply it in practice, maximize job performance and become a leading engineer that has the ability to perform one's duty with clear explanations with a sense of ethics.
【Learning activities outside of classroom】
Prior studying is advised, concerning the current situation and challenging issues of social infrastructure facilities together with the asset management method, both domestic and international. It is preferred to prepare for each lecture based on the overview of the next lectures' content distributed within each lecture, and to ask questions to improve ones' understanding. In addition, it is expected to review the lecture materials distributed after each lecture, and to be proactive in asking questions during the lecture if there are any dubious points. Lecturer will set approximately one assignment in the course of the term, and presentation materials will be submitted as assignment reports. The standard time for preparation and review per class is one hour on average.
【Grading Criteria /Policy】
Overall grade in the course will be decided based on the following:
1. Active participation in lectures:40%
2. Assigned reports (1 report assumed):30%
3. Attendance to lectures:30%

CST500N3（土木工学 / Civil engineering 500）

鋼橋の点検・診断・対策技術

杉本　一朗

開講時期：**春学期後半**/Spring(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、主として鋼橋を対象とした維持管理に関するもので、大学院デザイン工学研究科を対象としたものである。この授業では、鋼橋の維持管理計画，点検，診断，対策などについて紹介する。学生は対策方法，モニタリングなどのケーススタディを通じて基礎的な概念を学ぶことができる。また、維持管理において必要な溶接継手とボルト継手の基礎知識についても習得できる。鋼橋の維持管理の課題の理解を通じて、「土木鋼構造診断士補」レベルとしての素養を身に付けることが期待される。

【到達目標】
鋼橋の維持管理に関連する各種事項の理解に務めると共に，土木鋼構造診断士補と同等の専門的知識を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を行う。 授業内で行った課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1・2回	ガイダンス，点検・診断の概要と演習	ガイダンスを行うと共に，鋼橋の点検・診断の概要について述べると共に演習を行う。
第3・4回	主要材料の性質と変遷，接合方法の概要と演習	主要材料の特徴とこれまでの変遷及び接合方法について述べると共に演習を行う。
第5・6回	損傷の種類と測定方法の概要と演習	損傷の種類と測定方法について述べると共に演習を行う。
第7・8回	損傷の点検と測定方法の概要と演習	損傷の点検と測定方法に関して述べると共に演習を行う。
第9・10回	損傷部材の評価の概要と演習	損傷部材の評価方法について述べると共に演習を行う。
第11･12回	補修・補強の概要と演習	補修・補強方法について述べると共に演習を行う。
第13･14回	鋼道路橋，鋼鉄道橋他，鋼構造物に関する損傷と演習	鋼道路橋，鋼鉄道橋他，鋼構造物の損傷に関して紹介すると共に演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
鋼構造に関する知識を習得しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
日本鋼構造協会　土木鋼構造物の点検・診断・対策技術
授業でのプリント配布

【参考書】
特に指定しない。（必要に応じて講義で紹介する）

【成績評価の方法と基準】
レポートの課題（70％）と授業中の討議（30％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生との対話型の授業を目指します。

【その他の重要事項】
鉄道の土木鋼構造物の設計から維持管理業務に携わってきた教員が、土木鋼構造物の維持管理について解説する。
オフィスアワー：授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】
This class mainly introduces the maintenance and management of steel bridges, and is intended for graduate students in the division of civil and environmental engineering.
The class introduces maintenance planning, inspection, diagnosis, countermeasures, etc., for steel bridges through case studies of countermeasures and monitoring of steel bridges.
At the end of the class, the goal is to deepen the understanding of various matters related to the maintenance and management of steel bridges, and to acquire specialized knowledge equivalent to that of a steel infrastructure inspection engineer.
Although the class consists of lectures and exercises, it is important to prepare and review in order to understand of the class.
The standard time of preparation and review is 2 hours each.
Final grade will be based on term-end report (70%) and in-class discussion (30%).

CST500N3（土木工学 / Civil engineering 500）

複合材料構造解析

山本　佳士

開講時期：**春学期後半/Spring(2nd half)**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市院：建築士**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
鉄筋コンクリート構造物の設計において利用されつつある、非線形有限要素法と各種要素モデルの概要、およびその利用方法について概説する。

【到達目標】
鉄筋コンクリート構造物に対する専門的な知識を習得するきっかけをつくる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
鉄筋コンクリート構造物の設計の基本となる数値解析手法および構成則の概説と，構造物設計に関する最近の話題について研究情報を紹介する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	線形有限要素法(1)	仮想仕事式の導出、有限要素離散化の概要
2	線形有限要素法(2)	アイソパラメトリック要素(1次元)
3	線形有限要素法(3)	アイソパラメトリック要素(2次元)
4	線形有限要素法(4)	有限要素法のプログラム実装
5	非線形有限要素法の概要	増分形仮想仕事式、ニュートンラフソン法、収束計算
6	弾塑性構成則(1)	1次元弾塑性構成則
7	弾塑性構成則(2)	3次元弾塑性構成則、von Misesモデル
8	弾塑性構成則(3)	弾塑性構成則のプログラム実装
9	鉄筋コンクリートの構成則(1)	鉄筋コンクリートの非線形材料応答、ひび割れのないコンクリートの構成モデル
10	鉄筋コンクリートの構成則(2)	ひび割れが生じた鉄筋コンクリートの構成モデル
11	初期応力を考慮した鉄筋コンクリートの非線形有限要素解析(1)	熱伝導方程式（拡散方程式）の有限要素離散化
12	初期応力を考慮した鉄筋コンクリートの非線形有限要素解析(2)	初期ひずみを考慮した非線形有限要素解析の概要
13	初期応力を考慮した鉄筋コンクリートの非線形有限要素解析(3)	温度応力解析の概要
14	初期応力を考慮した鉄筋コンクリートの非線形有限要素解析(4)	乾燥収縮・クリープ解析の概要

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回講義の復習
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
1．非線形有限要素法-弾塑性解析の理論と実践，EA de Souza Neto(原著) D Peric(原著) DRJ Owen(原著) 寺田 賢二郎(監訳)，森北出版
2．コンクリート構造物の塑性解析，W.F.Chen (著), 色部 誠 (翻訳)，丸善
3．鉄筋コンクリートの非線形解析と構成則，岡村甫, 前川宏一，技報堂出版
4．初期応力を考慮したRC構造物の非線形解析法，田辺忠顕，技報堂出版

【成績評価の方法と基準】
・成績評価は、毎回の演習課題（60％）、最終レポート（期末テストに準ずる課題）（40％），とする．

【学生の意見等からの気づき】
なし

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
オフィスアワー
火 12:30～13:30

【Outline (in English)】
This course provides an overview of nonlinear finite element methods and various element models that are increasingly being used in the design of reinforced concrete structures, as well as their applications.
The goals of this course are to provide students with an understanding of (1) basic theories of nonlinear finite element methods, (2) material nonlinear constitutive laws for steel and concrete, and (3) basic theories for moisture transfer analysis, heat transfer analysis, and volume change analysis associated with moisture and heat transfer.
The standard preparation and review time for this course is 2 hours each.
Grading will be based on each exercise (60%) and a final report (equivalent to a final exam) (40%).

ADE500N3（建築学 / Architecture and building engineering 500）

サステイナブル都市デザイン

高見　公雄

開講時期：**春学期後半**/Spring(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当授業の目標は、サステイナブル都市デザイン、即ち持続可能な都市をどのように作るかである。まずは、「地区の課題を見つけ、その解決策としての市街地整備の形を提案する」ということの訓練を行う。授業は演習形式とし、『都市問題を考えつつ、手仕事としての図面、そのテクニック』
の習得を中心に進める。

【到達目標】
現下の都市整備課題を理解し、自ら設定したテーマに即して例示される市街地においてその解答を見い出す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
国の社会資本整備審議会における、サステイナブル都市への指向などを捉え、最新の社会状況を紹介しつつ、各自テーマを見つけ研究を進める。講義と演習を適宜組み合わせて進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	市街地整備の歴史と到達点	今日までの都市整備の流れ、歴史の概要を理解する。
第2回	人口減少社会における都市づくり サステイナブル都市デザインの課題	今後の持続可能なまちづくりのポイントを理解する。
第3回	状況視察	課題の対象地を視察する。
第4回	状況視察	課題の対象地を視察し、現状を理解する。
第5回	テーマ発表、討論	各自より研究テーマを発表する。
第6回	サステイナブル都市づくり演習（1）課題の抽出と整理	テーマに即して、具体的なまちづくり検討を進める。
第7回	サステイナブル都市づくり演習（2）類似対応策の検索と評価	教員とディスカッションしながら計画を詰めていく。
第8回	サステイナブル都市づくり演習（3）課題対応の方向性検討	教員とディスカッションしながら計画を詰めていく。
第9回	テーマへのアプローチに関する評価	中間的な発表を行い、課題の理解についての講評を得る。
第10回	求められている都市デザインの方向	中間発表を踏まえ、まちづくりのポイントを明らかにしていく。
第11回	サステイナブル都市デザイン演習（1）求められるデザインの指向性	教員とディスカッションしながら計画を詰めていく。
第12回	サステイナブル都市デザイン演習（2）デザイン案比較検討	教員とディスカッションしながら計画を詰めていく。
第13回	サステイナブル都市デザイン演習（3）デザイン案の確定とブラッシュアップ	教員とディスカッションしながら計画を詰めていく。
第14回	発表、講評	研究成果を発表し、講評を得る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞を読み社会の動きを理解する。各種報道、専門書などに幅広く接し、都市整備に関する関心を高める。
現地に関する情報収集等のため、個別にフィールドワークを行う必要が生ずると想定される。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義にPPTを使用する。

【参考書】
サステイナブル都市に関する最新の刊行物など

【成績評価の方法と基準】
課題の選定、取り上げた課題に対応した検討内容(50%)、検討成果と発表(50%)により評価。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
演習課題の作図には、初期エスキスにおいて定規などの製図器具を用い、仕上げに際しては貸与PC等を使用して、デジタルツールによる図面作成を行う。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員であることから、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。

【Outline (in English)】
This course is a collaboration with Project Studio in the undergraduate program to examine and develop the planning of target districts.
Grades will be based on course attendance, reports (50%), and presentations in the lecture (50%).
Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST500N3（土木工学 / Civil engineering 500）

構造解析と設計

奥井　義昭

開講時期：**春学期前半/Spring(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市院：建築士**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
橋梁設計法の基本原理を学び，設計で必要となる構造解析手法をFEMソフトウエアを用いた実習を通して理解する。

【到達目標】
実際の構造解析が実行でき，さらに解析結果を判断し，設計に結びつけられるようになることを目指す。線形弾性解析，粘弾性論，弾塑性解析を内容を理解して実施できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義とPCを用いた実習をほぼ半々で行う。そのため，授業時間には毎回ノート型PCを持参のこと。構造解析のソフト(DIANA)は初回の授業時にインストール方法などを説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス，構造物の設計法の概要	授業の全体の概要とソフトウェアの設定，構造物の設計法を概説する．
2	FEMソフトウェアの紹介，信頼性設計理論	汎用FEMソフトの概要を理解する．信頼性設計理論の説明
3	モデル化と線形解析	構造，荷重，境界条件，材料のモデル化，橋梁設計のための格子解析を紹介
4	FEMのデータ作成演習	プリプロセッサを用いて3次元のRC橋脚のモデル作成
5	弾性解析の実施と結果の表示に関する演習	橋脚モデルの弾性解析とポストプロセッサの活用
6	塑性論の基礎：弾性，塑性，降伏関数	鋼材の弾塑性挙動，降伏関数を理解する．
7	流れ則	鋼材を対象とした流れ則を理解する
8	硬化則	鋼材を対象とした硬化則を理解する．ひずみ硬化，加工硬化など
9	非線形方程式の求解	Newton Raphson法と計算の制御，収束判定について学ぶ
10	弾塑性FEM解析の予備段階として弾性解析の演習	円孔をもつ鋼板のFEM解析，メッシュ作成と弾性解析まで実施する
11	弾塑性FEM解析の演習	円孔をもつ鋼板のFEM解析，メッシュ作成と弾塑性解析までを実施
12	期末レポートの実施	期末レポートを与え，授業中に実施する．
13	期末レポートの内容とレポートの構成に関する議論	期末レポートの課題についてレポートの構成，内容について議論する
14	期末レポートの実施	期末レポートの課題を実施する。終わらなかった部分はレポートして後日提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
解析ソフトのインストール，授業の復習、レポートの作成、解析ソフトウェアを用いたデータ作成，解析の実行など。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
1冊の教科書に沿って行う授業ではないが、適宜、以下の参考書を参照してください。

【参考書】
実践有限要素法シミュレーション、泉聡志、酒井信介共著、森北出版
塑性の有限要素法，Owen他著，科学技術出版
非線形CAE協会監修，岸正彦著，構造解析のための有限要素法実践ハンドブック，森北出版

【成績評価の方法と基準】
中間レポート40%，期末レポート60%

【学生の意見等からの気づき】
昨年度アンケート対象外のためアンケート結果なし

【学生が準備すべき機器他】
以下の条件を満足するノート型PCを毎回授業に持参してください。
Microsoft Windows 10, 11　(64 bit)

【その他の重要事項】
鋼構造物の製作会社に4年間勤務し，鋼橋の設計と研究に従事していた．そのため本授業では設計実務のための基礎的な知識を座学で講義し，構造解析ソフトを用いた実習を行っている．
オフィスアワー：授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】
[Course outline]
In this course, students will study the fundamentals of bridge design, and understand structural analysis methods for structural design through practice with FEM software.
[Learning Objectives]
To understand standard procedures and methods for design and analysis
[Learning activities outside of classroom]
Students will be expected to have completed the assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
[Grading Criteria /Policy]
Final grade will be calculated according to mid-term reports (40%) and a term-end report (60%).

LANe500N4（英語 / English language education 500）

テクニカルライティング

豊島　純子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバリゼーションとEmailの普及により、自らの考えを英語で発信できる能力―特にライティングによるコミュニケーション力―が社会で活躍するための要件となってきています。

この授業の目的は、工学系大学院生にとって特に重要な「ロジカルでわかりやすいメッセージを伝えられる英語ライティング力を身につけること」です。この目的を達成するために、情報の受け手を常に意識しながら、しっかりと組み立てられた明快な英文を書くための考え方とスキルを学んでいきます。

【到達目標】

英文ライティングにおいて、自分の伝えたいメッセージを相手に正確に伝え、その内容を納得してもらうには、文章のストラクチャー（組立て）がきわめて重要です。

この授業の目標は「読み手にとってわかりやすく機能的な英文を書けるようになること」です。そして、その目標を達成するために工学系大学院生に必須のEmail、CV（英文履歴書）、英語プレゼンテーション原稿、アブストラクト(英語要旨）を英語で書く練習をします。特に論文要旨を200ワード程度に凝縮させたアブストラクトを書くには「誰の為」、「何の為にその研究を行ったか」、そして「既存研究と比べてどこが新しいのか」を明示する必要があります。要点をわかりやすく簡潔に表現する能力は、研究活動のみならず、様々な場面で不可欠と言えます。修士論文の冒頭に必要なアブストラクトを自信をもって書けるように授業でしっかり学んでいきましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義と実習からなり、オンラインと対面の両方で行います。初回授業はコースの概要と進め方について対面で説明します。尚、学習支援システム(WebClass)にオンライン授業用URLをアップロードしますのでご確認ください。

テキストにそって各テーマ（Email, CV,英語プレゼンテーション、アブストラクト等）に関する講義を受けた後、受講者はライティングの課題に取り組みます。受講者は作成した原稿を相互にレビュー(ピア・レビュー）しあい、中間と学期末の課題は口頭発表します。各自のプレゼンテーション技術の向上のため、発表はビデオ撮影し、聞き手である教員、TA、受講者がフィードバックします。ライティングの課題は主として授業中にフィードバックしますが、学習支援システム（WebClass）を通じて行う場合もあります。テキスト以外にも British Council LearnEnglish等の優れた英語学習サイトを題材に学びを深めます。

最終課題は修士論文に必須のアブストラクトで、各自の研究テーマにそって書き上げます。アブストラクトを執筆する準備としてそれぞれの専門分野の英語論文をレビューし、専門用語や表現を学びます。

尚、詳細な授業計画と内容は初回授業で説明します。授業の進捗によって内容を一部変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	テクニカル・ライティング概論	初日はガイダンスとテクニカルコミュニケーションについてお話します。
2	英語ライティングの基本(パラグラフ構造とエッセーについて）	英語のパラグラフ、エッセイの書き方を復習し、実際に書く練習をします。
3	英語論文の書き方 "Keys to Writing Great Papers"の講読	大学院生向けに英語論文執筆の秘訣が書かれた"Keys to Writing Great Papers"を読み、優れた英語論文を書くための心構えと方法を学びます。
4	第3章　英文メール術	英文メールの基礎と構成を学びます。そしてフォーマルとインフォーマルなライティングの違いと書き方を学習します。
5	第3章　英文メール術	さまざまな事例を研究して実際に書く練習をします。
6	第6章　CV、レジメ（英語履歴書）	自分の経歴と業績をCV、レジメのフォーマットにまとめる方法を学びます。
7	第6章　CV、レジメ（英語履歴書）	CV、レジメを実際に書く練習をします。
8	Article Review	各自の専門分野の英語論文をレビューして発表します。発表はビデオ撮影します。発表者はビデオ録画、教員、TA、受講者によるフィードバックを参照して自己省察レポートを書きます。
9	第4章　プレゼンテーションの極意	英語プレゼンテーションの事例研究を行い、実際にロジカルなプレゼンテーションを組み立てる練習をします。
10	第4章　プレゼンテーションの極意	新形態のポストカードプレゼンテーションの練習をします。
11	第1章　アブストラクトの書き方	アブストラクト（英語要旨）の構成を学び、実際に書く練習をします。
12	第1章　アブストラクトの書き方	作成したアブストラクト第一稿をピア・レビューし、フィードバックをもとに原稿を修正して仕上げます。
13	Abstract Presentation	アブストラクトを書いた研究について口頭発表後、アブストラクト最終稿を提出します。発表はビデオ撮影します。発表者は教員、TA、受講者のフィードバックとビデオ録画を参考に省察レポートを書きます。
14	まとめ	第13回目の授業で提出されたアブストラクトを教員が添削し、各受講者にフィードバックします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は各回の学習内容をテキストにそって予習し、授業にのぞみます。ライティングの課題は各自が授業時間外に準備し、授業でピア・レビューし、中間と期末に対面で口頭発表を実施します。

中間課題は各自の専門分野の英語論文をレビューして口頭で発表するArticle Reviewです。紹介する英語論文を探しておいてください。そして、最終課題には各自の研究を題材にアブストラクトを書きますので、とりあげる研究テーマ（学部の卒論テーマも可）を考えておいてください。

尚、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「ハーバードでも通用した研究者の英語術-ひとりで学べる英文ライティング・スキル」　島岡　要、Joseph A.Moore、羊土社、ISBN978-4-7581-0840-9

【参考書】
・「Keys to Writing Great Papers: Advice for Graduate Students and Young Researcher」（中島エリザベス著、BookWay)
・Rosenberg, B.(2005). *Technical Writing for Engineers and Scientists.* New Jersey:Pearson Education.
・Wallwork, A.(2011). *English for Writing Research Papers*.New York: Springer
・Zemach, D.E., Broudy, D.,&Valvona, C.(2011). *Writing Research Papers - From Essay to Research Paper* . Oxford: Macmillan Education
・「科学技術系の現場で役立つ英文の書き方」（N.マッカードル、J.T.ムラオカ、時国滋夫著、講談社サイエンティフィック）
・「ポイントで学ぶ科学英語論文の書き方」（小野義正著、丸善株式会社）
・「理系研究者のためのアカデミック・ライティング」(ヒラリー・グラスマンーディール著、東京書籍）

【成績評価の方法と基準】
・Midterm Review　22%（Presentation 12%, Paper 10%)
・課題 28%
・最終課題　40%（Presentation 12%, Paper 28%）
・授業への取組み 10％
・授業の3分の1を超えて欠席した場合、単位は不可とします。

【学生の意見等からの気づき】
「修士論文の冒頭に必要な英語要旨の構成や書き方がわかって、大変ためになった」、「自分の研究分野の英語論文を読む機会ができてよかった」「学会参加の際に役立つ知識やスキルを学べ、大いに役立った」というコメントをいただきました。ライティング力だけでなくコミュニケーション力を高めるために、日常生活で使用頻度の高い実践的な内容を選び、授業を進めてまいります。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業に参加できるデバイスを用意してください。

【その他の重要事項】
ニューヨーク州立大学(UB)で理工系学生(STEM)向けのテクニカル・コミュニケーションを修了し書籍および実務翻訳を手がけてきた教員が、機能的で明快な英文ライティングの書き方を指導します。授業終了後に教室で質問を受け付けます。または随時，電子メールで質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
Modern engineers need strong communication skills to be successful in the global world. This course aims to improve graduate students' verbal English communication skills, especially writing skills, to thrive in the worldwide engineering community. The course aims to instruct students on structuring explicit, concise, and audience-directed texts. The 14-week course consists of lectures, writing projects, discussions, and presentations. Students learn to write documents such as e-mail messages, PowerPoint presentation slides, CVs, and academic papers. Also, they will collaborate with their peers to critique the assigned writing tasks. The final goal of this course is to write an English abstract of their research. Before writing their abstracts, students will read English academic articles related to their specializations. They will review the content and make presentations about their chosen articles to familiarize themselves with common phrases and expressions applicable to their writings. Students will make their final presentations on their abstracts.

HUI500N4（人間情報学 / Human informatics 500）

ヒューマンサイエンス論

谷　直道、榎原　毅

開講時期：**秋学期後半**/Fall(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多様な応用領域でシステムデザインを適用し、社会実装するためには人とシステムの相互作用を分析し、デザイン案へと落とし込むことが不可欠である。本講義ではヒューマンサイエンスの基礎である人間工学の最新知見から、人間の諸特性とモノ・コト・体験のデザインアプローチを習得する。

【到達目標】
・多様な社会課題の解決策を導出するトレーニングを通じて、人間工学の理論、原則、設計参照データおよび手法を学ぶ
・人の諸特性を理解する（身体・認知・行動特性のメカニズムの理解）
・世界標準の人間工学に基づく課題解決アプローチを体得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義はケースメソッド（課題解決型学習：PBL）方式を多く採用し、実際の社会課題に直結した事例を用いた演習トレーニングを通じて、デザインソリューション提案スキルを獲得する。なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ヒューマンサイエンス基礎：人間工学とは	本講義の目標と進め方について説明を行う。ヒューマンサイエンスの基礎理論である人間工学の考え方を学ぶ。
2	ケースメソッド（PBL）(1)：現場観察と作業環境デザイン	現場ニーズに基づく課題解決プロジェクトの手続きを学ぶ。オフィス空間やワークステーション設計のソリューション提案の視点を学ぶ。
3	ケースメソッド（PBL）(2)：業種別の課題解決型デザイン１	システムデザインの観点から業種別の労働災害の課題解決案を検討する。労働災害の約6割を占める腰痛災害を防止するために、製造業の重量物取扱作業を事例としたPBLにより、課題解決のアプローチを学ぶ。
4	PBL解説：ものづくりに活かす生体力学の基礎と国際標準の腰痛リスク評価法	ケースメソッドの解説を通じて、科学的根拠に基づくデザイン（Evidence based design）に必要となる生体力学の基礎、国際標準規格ISO11228-1に準拠した腰痛リスク評価法などの理論を学ぶ。
5	ケースメソッド（PBL）(3)：高齢・障害者のQOL向上とアクセシブルデザイン	高齢・身体障害者（車いす利用者）の生活ニーズ・経済状況・住環境などの諸情報を把握し、当事者が望む生活を営めるようにQOL(Quality of Life)を高めるソリューション創出方法を学ぶ。
6	PBL解説：イノベーションのメカニズム	ケースメソッドの解説を通じて、ニーズの把握、ステークホルダ参画型解決、アクセシブルデザインなどの手法を学ぶ。
7	ケースメソッド（PBL）(4)：業種別の課題解決型デザイン２	システムデザインの観点から業種別の労働災害の課題解決案を検討する。陸上貨物運送業の重量物取扱作業を事例としたPBLにより、課題解決のアプローチを学ぶ。
8	PBL解説：ものづくりに活かすデジタルヘルステクノロジ	アシストスーツ、予防介入アプリなどのデジタルヘルステクノロジ、発荷物のデザインの工夫等の多面的アプローチに加え、IEA（国際人間工学連合）が提唱する、現場に根付く解決策を普及させるためのプロジェクト設計の基礎を学ぶ。
9	ケースメソッド（PBL）(5)：働き方とUXデザイン	働き方改革や人的資本経営（ISO30414:2018）が近年重視される。人が持つ知識・能力・技術などを資本とみなす人的資本の考え方の普及に伴い、新発想の働き方やUXデザインによる解決策が求められる。夜勤交代勤務の検査作業を事例に、システムズ・アプローチによるデザインを学ぶ。
10	PBL解説：システムズ・アプローチによるシステムデザイン	ケースメソッドの解説を通じて、近年人間工学領域で国際的に注目されているシステムズ・アプローチの考え方を身につける。社会実装をはかるためには、企業経営が求めるperformanceと、労働者のwell-being（健康や働きがいなど）の調和を図ることが重要であり、その均衡設計の考え方を学ぶ。
11	行動科学と人の意思決定特性	社会の課題解決に資するソリューションデザインには、人々の行動変容を促し、意思決定を支援するデザインが必要である。システムデザインに応用可能な行動科学の基礎を学ぶ。
12	ケースメソッド（PBL）(6)：サービス・価値デザイン	より実践的な現場ニーズに基づく課題解決プロジェクトの手続きを学ぶ。健康経営の課題解決事例をベースに、従業員の行動変容を促すサービスデザイン、multiple winに基づく価値デザインの考え方を学ぶ。
13	ISO国際標準規格にみる人間工学設計の基本理論	安全・安心・快適なものづくりや製品デザイン、システムデザインを指向するためには、人間工学の要求事項に対応することが求められる。ユーザビリティの定義や測定法・結果報告書式、Human Centered Design(HCD) プロセスなど、国際標準規格ISOで定められている各種人間工学国際規格を概説する。
14	まとめ：　これからのヒューマンサイエンスとバックキャスティング型デザイン	講義全体を振り返り解説する。また、従来のニーズドリブンによるフォアキャスティング型のデザインではなく、近年注目されているバックキャスティング型のデザインの考え方や事例を紹介し、ヒューマンサイエンスを応用した課題解決手法を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は、PBL課題に関して予習・復習を求められます。授業時間内で受講生間の議論がまとまらない場合は授業時間外での事例検討などが必要になる場合があります。本授業の準備学習・復習時間は、原則各2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書の指定はありません。各回講義ごとに、資料を配布します。

【参考書】
講義時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・PBLへの参加姿勢・提案内容50%、講義終了時のレポート50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
対面での講義を基本として、本講義全体におけるさらなるアクティブラーニングの導入と、講義手順の改善を行うことで、専門的な知識と実践的な知恵をより身に着けられるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】
講義資料の配布、課題提出等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
様々な人間工学関連の国際標準規格の策定に関わり、歴史ある人間工学誌の編集委員長、国際ジャーナルの編集委員長などを歴任し、国際的にも人間工学の研究と実践をリードする榎原教授の講義を受けられる貴重な機会です。
随時，電子メールで質問を受け付けます。
授業終了後に教室で質問を受け付ける，または随時，電子メールで質問を受け付ける．

【Outline (in English)】
Course outlines:

Disseminating and implementing system design in the general public or working environment, it is essential to analyze the interaction between humans and systems and apply it to design for solution proposals.
This course aims to learn about understanding the interactions among humans and other elements of a system and to learn how to apply theory, principles, data, and methods to design in order to optimize human well-being and overall system performance.
The lecture mainly adopts a Problem-Based Learning (PBL) approach, and students will acquire the ergonomic skills to propose design solutions through practice training using various case studies directly related to actual social issues.

SES500N4（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 500）

ソシオシステムデザイン論

廣田　尚子

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生活・社会・ビジネスを横断した解決すべき課題を取り上げて、本質的価値の循環を生むシステムのデザインプロセスを学びます。仕組みのデザインでは、社会や環境が抱える問題の解決・人々の生活の質が向上し心が豊かになる価値の創造・新しいビジネス創出を切り分けて考える部分解決ではなく、それらが深く関連することで価値が循環する全体解決のシステム設計が求められています。全体解決を見出すデザインには、論理的思考とクリエイティブな発想の両方の力が求められているため、この授業は実践的作業を繰り返し行い、論理的思考と発想力を同時に身につけるプログラムとしています。

【到達目標】
社会の多くの場面で求められているデザイン的思考を身につけ、アイデアを生む発想法と実践力を強化する。特に論理的思考とクリエイティブな発想の連携の習得を目標とする。また実践的作業プロセスにおいて、次の習得も行う。
・ユーザー視点の徹底化
・多重する複雑な情報から問題を抽出する情報分析力
・問題とニーズを把握して繋げる発見力
・イノベーティブなアイデアを生み出す発想力
深掘りする思考法、アイデアを生み出し方、システム構築法を実践的に強化することにより、自己研究分野における開発力と推進力の向上が可能になる。将来に向けては、更に経営デザインを理解できる人材の育成を最終目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
【内容】
実際のコンペに応募する想定で基礎学習を行った後に本提案を制作します。
【進め方】
本年度は教室で行います。PC持参してください。
個人または3名程度のグループワークで行います。
オンラインホワイトボードアプリMiroを使い情報共有をしながら、グループディスカッションによって各自の制作提案を高めていきます。
各回の最後には情報共有のため発表会を行います。
【日程】
第1週　オリエンテーション・課題提示
第2週　練習課題・テーマ設定
第3週　調査・分析
第4週　フィールドワーク・その他調査・分析
第5週　コンペ応募を想定した思考レッスン
第6週　コンペ応募を想定した思考レッスン
第7週　プレゼンテーション・講評
グッドデザイン賞を受賞したソーシャルデザイン・ビジネスデザインの優良事例を参考に、社会的問題解決を生む提案作業を行います。
・優良事例の研究
・ブレーンストーミングによる課題抽出
・調査分析とアイデアを生む思考の構築を繰り返し行う（グループディスカッション）
・提案システムの伝達と運用方法の提案
・論理的思考によるデザイン手法を総合的に理解する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1週	オリエンテーション・課題提示	課題内容の説明、テーマ設定の調査
2週	デザインの概論的解説	デザインの役割と可能性を講義形式にて解説
3週	優良練習課題	優良事例を詳細に解説し、練習課題を行う。
4週	テーマ選定	グループディスカッションによって課題の理解を深め、視野を広げて自己のテーマを選定する
5週	調査・分析	ブレーンストーミングを行い、テーマについて詳細に調査・分析する。
6週	調査・分析・中間発表会	ブレーンストーミングを行い、テーマについて更に詳細に調査・分析し、発表する。
7週	分析と統合	デザイン思考による調査の分析、課題の抽出と選択、統合によりコンセプトを明確化する。
8週	分析と統合：解像度を上げる	収集・分析した情報を深掘りして粒度を高める。
9週	情報の抽象化	複雑で膨大な情報をどのように処理してアイデアを生む準備作業。
10週	抽象化の分析	通常ブラックボックス化されているクリエイティブな思考作業を紐解く。
11週	情報のアイデア化	分析・抽象化した情報をアイデアに昇華する
12週	ストーリー構築・システムフローの作成	プロセスの解説と実践。
13週	プレゼン準備	アイデアを核に、完結したストーリーへ構築するプロセスの実践。
14週	成果発表	成果発表と講評。発表に使用したデータを提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会の不都合や問題点を抽出し、各自に於いて思考の準備をする。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を提示する。

【参考書】
基本的にはテーマの進行に合わせ提示するが、基本参考書としては下記の書籍を紹介する。
・アナロジー思考：細谷功
・ソーシャルリサーチ：ジェフ・ペイン
・意味論的転回：クリッペンドルフ、最適デザインの概念：松岡由幸

・未来を洞察する：鷲田祐一、第３の波：アルビン・トフラー
その他

【成績評価の方法と基準】
チーム発表の成果と個人のチーム貢献度を中心に評価。欠席は2回まで認め、出席日数を個人評価に加算される。

【学生の意見等からの気づき】
毎年、履修者による満足度は極めて高いが、更なる改善を目指し、工学系・デザイン系・ビジネス系の授業を参考に講義内容の修正を行っている。

【学生が準備すべき機器他】
履修者はPCを持参し、必要ソフト（Miro・PaworPoint）は事前にインストール済みとする。

【その他の重要事項】
授業に関することや、それ以外でも社会を良くする仕組み・デザイン全般に関することなど、疑問や興味があることは問い合わせてください。授業終了後に教室で質問を受け付けます。また随時、電子メールでも質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
In this course students will learn about system design processes which give way to fundamental value cycles, engaging in areas which cut across topics in daily life, society and business. In this design, rather than clearly categorizing the value/creation of businesses which sustain and solve problems in society and environment towards better quality of living, we study their deep-set relationships to discover systems of value cycles. The design of such solutions requires both logical and creative processes, which this program aims to develop through the exploration of practical exercises.

HUI500N4（人間情報学 / Human informatics 500）

インタフェースデザイン論

土屋　雅人

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日の情報社会では、電子機器の多機能化、高機能化の進展により、インタフェースがより多様化、複雑化するため、ユーザーに過度な操作の負担や不安を与えることが多くなっている。ユーザーの操作技術や記憶に頼らず、効率的で快適な人と機器の対話（インタラクション）と、より高次の感性価値実現を目指すインタフェースデザインの方法論を、実製品のインタフェースの評価分析とラピッドプロトタイプイングによる新たな提案を通して学習する。

【到達目標】
具体的事例を通して、インタフェースデザインのコンセプト立案からプロトタイプ制作までのプロセスと、そのユーザビリティ（操作性）、およびアクセプタビリティ（受容性）評価手法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
具体的な製品のインタフェースを、ISOのインタフェース設計ガイドラインやユーザビリティワークショップ等の評価手法を用いて評価・分析することで、インタフェースデザインに必要な技術を体感的に確認すると同時に、次世代の入出力ディバイスの技術動向を踏まえた新しいインタフェースのデザインとラピッドプロトタイプの製作を通して、実践的デザイン手法を学習する。授業の中で複数の演習を行い、その成果物に対して講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	インタフェースデザインの現状、必然性・可能性両面からのデザイン手法等を概説する
2	製品観察	実製品を事例にユーザーの操作行為の観察とインタフェースの問題点抽出手法を解説する
3	製品分析、問題点抽出	ユーザー行為の観察データ、およびユーザーニーズの定量的・定性的分析手法を解説する
4	情報の企画（仮説構築）	身体的・認知的両面からのインタフェースデザインコンセプトを構築する
5	情報の構造化	ユーザーと機器とのインタラクションを操作フローとしてとりまとめる
6	情報の可視化（1）	身体的・認知的インタフェースの基本デザイン案を制作、GUI要素をデータ化する
7	情報の可視化（2）	インタラクション確認のための動作プロトタイプを制作する
8	情報の検証（1）	インタフェース設計ガイドライン、およびユーザビリティワークショップを用いた評価実験を実施する
9	情報の検証（2）	評価実験で得られたデータの分析を行い、改善案をとりまとめる
10	インタフェース開発の現状	インタフェース開発の歴史と開発動向について解説する
11	インタフェース開発環境とディバイス	オーサリング、プロトタイプ、ホットモデルの開発ツール、入出力ディバイスを解説する
12	インタフェースデザイン評価１	インタフェースデザインの線形評価手法を学習する。
13	インタフェースデザイン評価２	インタフェースデザインの非線形評価手法を学習する。
14	インタフェースデザイン評価３	線形評価と非線形評価の違いを事例を通して学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題に対する調査、レポートの作成を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
インタフェースデザインに関する学外の展示会視察、市場調査を含みます。具体的には授業内で説明します。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてテキストを配布する。

【参考書】
こんなデザインが使いやすさを生む、三菱電機デザイン研究所、工業調査会
ユーザビリティテスティング、黒須正明、共立出版
デザインと感性、井上勝雄、土屋雅人他、海文堂出版
ユーザビリティハンドブック、共立出版

【成績評価の方法と基準】
各課題の達成度、および授業内での発表、授業態度をもとに総合的に評価する。
平常点（40％）＋ 各課題合計（60％）＝合計100％

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションによる学生同士の意見交流を取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】
課題によってノートパソコンを使用する（授業の中で指示する）。

【その他の重要事項】
実践的なユーザビリティ評価手法を学習するため、企業訪問を行うことがあるので、実施方法については指示に従うこと。

【Outline (in English)】
In the information society, interfaces are becoming more complicated due to the progress of electronic device multifunctionality, leading to greater burden being placed on users. Through the evaluation analysis of interface and rapid prototyping, we will learn about the interface design methodology aiming for efficient and comfortable human-machine interaction without undue reliance on users' operation skills.
After each class, students will be expected to spend two hours to understand the course content and to write reports following each subject.
Your overall grade in the class will be decided based the following,
In class contribution:40%, Short report:60%.

MEC500N4（機械工学 / Mechanical engineering 500）

品質マネジメント論

池庄司　雅臣

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
品質マネジメント論では、様々な形のデータに対する捉え方や扱い方を学ぶことで、実践的な問題解決能力を育成することを目的とする。
とりわけ問題解決へのアプローチとしては、統計的品質管理（Statistical Quality Control：SQC）の基礎的な理論と、代表的な統計手法を理解すること。そして実際にデータに触れて分析してみることを重視する。
授業を通じて、仮説検定などの統計的な考え方や分析方法を身につけることで、様々な問題や事象の背後にあるデータが身近な存在となり、主体的に分析・評価できるようになるための一助となれば幸いである。

【到達目標】
統計的な考え方に基づく問題解決としては、以下のようなプロセスが挙げられる。
①. 与えられたデータを客観的な事象として観察
②. データをもとに事象全体の構造を仮説として設定
③. 仮説を説明する統計的数理モデルの構築
④. 数理モデルに対する評価検証
①～④のプロセスについて、演習を通して理解することに重点を置きつつ、その背後にある基礎的な確率・統計の知識についても学習する。
さらに、エクセルの「分析ツール」をメインとした、基礎的なデータの取り扱いについても習得する。
また、演習では必要最低限の記述・説明を意識してもらい、その都度、講師からの十分な解説も反映させることで、論理的なレポートを作成できることを企図する。
以上を本講義の目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に前半の講義と後半の演習から構成され、演習ではノートパソコン（主にエクセル）を利用する。
演習レポートは、電子ファイル形式（ワードまたはエクセル）での提示とする。
最後の自由演習については、パワーポイントにまとめて発表する場を設ける。（最終発表）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容や構成、また品質マネジメントの有り方などについて説明
2	ＱＣ７つ道具	基礎的な品質管理の考え方について説明
3	管理図	管理図の作成方法と、その背後にある統計的考え方について説明
4	推定・検定の考え方（1）	平均や分散、正規分布などについて説明
5	推定・検定の考え方（2）	ｔ検定・カイ２乗検定・Ｆ検定について説明
6	分散分析	一元配置と二元配置の分散分析について説明
7	実験計画法	実験計画法について説明
8	品質工学（1）	品質工学の考え方とＳＮ比の説明
9	品質工学（2）	品質工学の適用事例と損失関数の説明
10	相関と回帰	相関と単回帰分析について説明
11	重回帰分析	重回帰分析について説明
12	主成分分析	主成分分析について説明
13	総括および自由演習	授業のまとめを行い、個々が題材とするテーマから自由にデータを分析
14	最終発表	自由演習の結果について発表（ppt形式の資料を準備）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習課題については次回講義のレジュメで詳細な解説を付けるので、その内容については十分に復習されたい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。
（毎回配布するレジュメに基づいて授業を進める）

【参考書】
特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組み、毎回の演習、および最終発表をもとに評価する。
（平常点：30%、演習レポート：40%、最終発表：30%）

【学生の意見等からの気づき】
なるべく平易な解説を心がけます。解らない事は適宜質問して下さい。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC

【その他の重要事項】
・データ分析の豊富な業務経験を持つ教員が、品質マネジメントで必要となるデータの扱い方や分析手法、統計的な考え方について講義する。
・随時、電子メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
The aim of this course in quality management theory is learn about methods of capturing and handling various sorts of data in order gain skills in solving practical problems.
At the forefront of problem solving approaches are the understanding of fundamental theory of statistical quality control (SQC) as well as representative statistical methods. Focus will also be given on experience of analyzing real data.
Through this course, by obtaining skills in statistical approaches and analysis methods such as hypothesis testing, students should become familiar with the data underlying various problems and phenomena and reach a position to analyze and evaluate them independently.

HUI500N4（人間情報学 / Human informatics 500）

プロダクトデザイン論

安積　伸

開講時期：**秋学期後半**/Fall(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テクノロジーの進化は社会の構造や人の価値観に影響を与え、人間とデザインの関係も様々な広がりを持ちながら変化しています。この授業では、多様な広がりを見せるデザインの事例を理解しながら、その文化的価値、芸術的視点、表現としての魅力を理解し、クリエイティブな表現領域の現在と未来を考察する事を目的とします。
本年度のテーマとするデザイン領域は、D期開始時に発表します。

【到達目標】
今日的なデザイン事例を様々な切り口で読み解きつつ、その歴史的背景、技術、問題意識、表現の魅力などへの理解を深めます。
学外施設への積極的な訪問調査を行い、クリエイターの生の声を聞くことで、現在進行形のデザイン表現としてどう昇華されているかを理解し、さらにそれらが今後どのように発展出来る可能性があるか、考察を含む提案としてプレゼンテーションしてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
様々な切り口でデザイン事例を読み解きつつ、その歴史的背景、技術、問題意識、表現の魅力などへの理解を深めます。
学外施設への積極的な訪問調査を行い、クリエイターの生の声を聞くことで、現在進行形の表現としてどう昇華されているかを理解し、さらにそれらが今後どのように発展出来るか、考察を含むレポートあるいは提案としてプレゼンテーションしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明
2	プロダクトデザインをとりまく歴史・文化とその周辺	プロダクトデザインの歴史と現状を読み解く。
3	参考作品鑑賞　視聴 学外調査１準備	テーマとするプロダクトデザインの作品・記録などの研究。 学外調査を行うための準備。
4	学外調査１－１	学外施設を訪問し、テーマとするデザイン領域の歴史と現状を理解する。
5	学外調査１－２	学外施設を訪問し、テーマとするデザイン領域の歴史と現状を理解する。
6	学外調査１まとめ 学外調査２準備	学外施設訪問で得た知見をまとめ報告。 第２回目学外調査の準備。
7	学外調査２－１	学外施設を訪問し、テーマとするデザイン領域の歴史と現状を理解する。
8	学外調査２－２	学外施設を訪問し、テーマとするデザイン領域の歴史と現状を理解する。
9	調査２まとめ 学外調査３準備	学外施設訪問で得た知見をまとめ報告。 第３回目学外調査の準備。
10	学外調査３－１	学外施設を訪問し、テーマとするデザイン領域の歴史と現状を理解する。
11	学外調査３－２	学外施設を訪問し、テーマとするデザイン領域の歴史と現状を理解する。
12	調査３まとめ 個人課題検討	学外施設訪問で得た知見をまとめ報告。 訪問調査により得られた知見を元に各自の提案テーマの検討を行う。
13	個人課題進捗発表	各自のテーマ設定に基づいた発案・提案の中間進捗発表を行う。
14	最終発表	各自のテーマ設定に基づいた発案・提案の最終発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習　各テーマの自主的調査
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示。

【参考書】
近代デザインの歩み (橋本 太久磨：理工学社)
The Shock of the New（Robert Hughes：Thames &Hudson）

【成績評価の方法と基準】
課題発表40点、授業50点、提出レポート10点、とします。
　成績基準は、総合点90点以上をSとし、
89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-
79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-
69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-
60点未満をD、未受験をEとする。
積極的な調査への参加、授業態度を評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
内容・進行スケジュールに関する要求があれば、随時考慮してゆきます。

【その他の重要事項】
デザイナーとしての経験を有する教員が、現在進行形のクリエイティブワークに関する授業を行います。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to look at the current expansion of design expression, and to consider a more diverse and fertile form of design by understanding the cultural and artistic aspects of design adjacent to design. The theme is announced at the beginning of the D semester.

OTR500N4（その他 / Others 500）

システムデザインワークショップ（ＰＢＬ）

安積　伸、田中　豊

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々な人工的な「もの・こと」は、人間が生活していくためのもの・ことであり、「ものつくり」は、いわば現在の様々な課題の解決策ととらえることができる。「ものつくり」にあたっては、(1)デザイン、(2)機能、安全性、(3)公知といったデザインに関わる3つの事項を確保しなければならない。これを実現するためには、「もの・こと」としてそのものを生成する為に多面的に熟慮されたデザイン設計計画、材料や加工技術やメカニズム、エレクトロニクスといったテクノロジーに関わる知識が不可欠である。さらに、「ものつくり」に際して、クラウドコンピューティングを活用し様々な情報を得ながら政策を進める。また制作はプロトタイプにはコンピュータ数値制御でのデスクトップ工房を活用する。また限られた資源を有効に利用し、環境に配慮すること、また創出された「ものつくり」を世の中に認知させるためのマネジメントを忘れてはならない。この実習講義では，実社会の課題に対して，クリエーション系計画，テクノロジー系計画，マネジメント系計画の三つの観点から具体的な解決策を制作し，総合的にものつくりの本質を学ぶ事が出来る。

【到達目標】
クリエーション系計画，テクノロジー系計画，マネジメント系計画の三つの観点から具体的な製品プロトタイプを制作し、総合的にものつくりの本質を学び、デザイン成果物を製作する事を目標としている．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
実際の製品は，クリエーション，テクノロジー，マネジメントのコラボレーションにより創造される．本講義では，「もの・こと」の課題を設定し，実際の企画・製作・製造プロセスを体験しながら，ものづくりをクリエーション，テクノロジー，マネジメントの各系を連携した総合的デザイン視座に立った（意匠、機構、管理の視点求められる。）実習形式で学ぶ。作業はチーム編成による集中講義等で対応する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 制作テーマの発表	授業の進め方、本年度の「ものつくり」テーマ発表、制作チーム編成
第2回	デザイン開発計画企画	テーマに沿った、開発事象（デザイン）の策定、初期製品開発企画立案法を学ぶ。
第3回	デザイン開発計画方向性立案	デザイン開発企画立案よりより具体的なデザイン対象を見いだし、その対象の調査研究を行う。調査方法の精査法を学び、初期デザイン開発計画提案資料作成を行う。
第4回	デザイン開発計画の発表（第1回デザインレビュー） 第一次プロトタイプ	前回までの、作業プロセスをまとめ、開発対象物の第一次プロトタイプをまとめて発表を行う。
第5回	機構企画	デザイン開発計画に基づく対象デザインの機構について学び、機構企画を行う。
第6回	機構の方向性立案	デザイン開発計画に基づく対象デザインの表現調整と機構の適合性について学ぶ。
第7回	機構の決定	デザイン開発計画に基づく対象デザインの外観機構と実装機構の整合性を調整し、機構の決定の仕方を学ぶ。
第8回	機構計画の発表（第2回デザインレビュー） 第二次プロトタイプ	前回までの作業プロセスをまとめ機構計画を中心に第二次プロトタイプをまとめて発表を行う。発表を行う，また調整によって変更された意匠仕様変更についても発表を行う。
第9回	販売企画	デザイン開発計画に基づく対象デザインの外観機構と実装機構の整合性を調整し、対象製品の販売企画の仮説立案法を学び、初期販売企画をたてる。
第10回	販売の方向性立案	デザイン開発計画に基づく対象デザインの外観機構と実装機構の整合性を調整し、販売企画の方向性を立案し、立案された計画の整合性について学ぶ。
第11回	販売方法の決定	デザイン開発計画に基づく対象デザインの外観と実装機構の整合性を調整し、販売方法、効果の決定法を学ぶ。
第12回	販売計画の発表（第3回デザインレビュー） 第三次プロトタイプ	前回までの作業プロセスをまとめ販売計画を中心に発表を行う，また調整によって変更された意匠仕様変更、機構変更についても発表を行う。第三次プロトタイプ
第13回	開発計画企画の策定	デザイン開発計画に基づく対象デザインの外観決定、実装機構決定、販売法の決定の整合性を調整し、開発計画全体の企画書の策定法を学ぶ。
第14回	総合デザインレビュー 総合講評	授業で行った全てのの作業プロセスをまとめ最終プロトタイプ、制作フロー、問題点等のプレゼンテーションを行う。 全体講評。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テーマの基礎調査、調査データの分析、分析より得られたテーマに沿った「ものつくり」方向性立案、基本方針より導きだされる課題テーマに対する現在の問題点の抽出から問題点解決のための第一次仮説立案までを、しっかりとまとめる事が重要でる。様々な基礎データの収集を各チームが行う。また、問題可決された提案モデルの制作を行ないプレゼンテーションをする。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。演習時必要な参考資料は適宜配布する。

【参考書】
特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】
最終作品，プレゼンテーション内容、発想能力などにより総合的に評価する．（100%）

【学生の意見等からの気づき】
授業環境の改善

【その他の重要事項】
■英国、日本でプロダクトデザイナー実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の基礎知識・手法を指導する。

【Outline (in English)】
In this practical lecture (PBL), we generate concrete solutions from the three viewpoints of creation, technology, and management planning, considering real-world social problems and studying the foundations of making comprehensive systems.

SES500N4（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 500）

デザイン創生学特論

土屋　雅人、安積　伸、大西　景太

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本特論では，人間の感性へ大きく依存するノンバーバル(nonverbal)分野へ科学的方法論を導入し，ノンバーバル分野における普遍性や規則性を，内外の先端的なデザイン事例や演習などを交えながら考究する。このような考究に基づき物作りの基盤を成すデザイン創生学を論ずる。（オムニバス方式/全15回）

【到達目標】
以下の能力を身につけることを目標とする。
1．インターフェイスデザイン理論的思考能力
2．ヒューマニティーデザイン理論的思考能力
3．ビジュアライゼーションデザイン理論的思考能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
最近の研究動向を把握するため，国内外の学術雑誌を中心に文献調査を行い，それらの内容に対するプレゼンテーションとディスカッションを行う．５回づつ，３名の教員がオムニバス方式で講義する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	インターフェイスデザイン観点1（土屋雅人）	インターフェイスデザイン学の観点から，問題の設定やモデル化，およびその具体的な解決策の事例を通して，インターフェイスデザインの理論的デザイン創生学を考究する．ディスカッション1
第2回	インターフェイスデザイン観点2（土屋雅人）	ディスカッション2（テーマ討議）
第3回	インターフェイスデザイン観点3（土屋雅人）	ディスカッション3（考察）
第4回	インターフェイスデザイン観点4（土屋雅人）	ディスカッション4（評価）
第5回	インターフェイスデザイン観点5（土屋雅人）	ディスカッション5（発表）
第6回	ヒューマニティーデザイン観点1（安積　伸）	ヒューマニティーデザイン学の観点から，問題の設定やモデル化，およびその具体的な解決策の事例を通して、デザインの理論的デザイン創生学を考究する．ディスカッション1
第7回	ヒューマニティーデザイン観点2（安積　伸）	ディスカッション2（テーマ討議）
第8回	ヒューマニティーデザイン観点3（安積　伸）	ディスカッション3（考察）
第9回	ヒューマニティーデザイン観点4（安積　伸）	ディスカッション4（評価）
第10回	ヒューマニティーデザイン観点5（安積　伸）	ディスカッション5（発表）
第11回	ビジュアライゼーションデザイン観点1（大西景太）	ビジュアライゼーションデザイン学の観点から，問題の設定やモデル化，およびその具体的な解決策の事例を通して，デザインの理論的デザイン創生学を考究する．ディスカッション1
第12回	ビジュアライゼーションデザイン観点（2大西景太）	ディスカッション2（テーマ討議）
第13回	ビジュアライゼーションデザイン観点3（大西景太）	ディスカッション3（考察）
第14回	ビジュアライゼーションデザイン観点4（大西景太）	ディスカッション4（発表）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献の調査,分析
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員から進捗に合わせ適宜配布する。

【参考書】
担当教員から学生の相談に合わせ適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーション，ディスカッションなどから総合的に判定する．

【学生の意見等からの気づき】
新規開講科目につきアンケートを実施していません

【その他の重要事項】
■デザイナー実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン、サービスデザイン、コンテンツデザイン全般の基礎知識・手法を指導する。

【Outline (in English)】
Through advanced design cases and domestic and foreign examples, we will study universality and regularity in non-linguistic fields.

ADE600N2（建築学 / Architecture and building engineering 600）

建築学修士研修 1

小堀　哲夫

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程修了要件として修士論文の提出がある。本科目はラボ系所属生にとってはこのための最初の必修コースワークでもある。論文作成を試行するための次のコースワークであるプロジェクトⅠで必要となる基礎的な専門技術を指導する。

【到達目標】
専門分野を研究する上での基本的な知識と技術を指導ゼミの研究活動を通して習得する。

【修得できる能力】

総合デザイン力	歴史と文化	持続可能性と設計倫理	専門性	技術と芸術	情報技術	表現能力・コミュニケーション能力
			◎		○	◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎資料の紹介と説明，調査法・実験法・プログラム開発法の個別指導

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第2回	研修の基礎１	使用機器・ソフトの整備
第3回	研修の基礎２	資料の読み合わせと解説
第4回	研修の基礎３	資料の読み合わせと解説
第5回	研修の基礎４	資料の読み合わせと解説
第6回	研修の実践１	実践課題の説明
第7回	研修の実践２	課題作業と適宜指導
第8回	研修の実践３	課題作業と適宜指導
第9回	研修の実践４	まとめ方の指導と作業結果の整理
第10回	中間報告	中間報告と討議
第11回	研修の応用１	応用課題の説明
第12回	研修の応用２	課題作業と適宜指導
第13回	研修の応用３	課題作業と適宜指導
第14回	研修の応用４	まとめ方の指導と作業結果についての報告・討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し，積極的に参加し，幅広い知識と技能の習得に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し，読み合わせることもある。

【参考書】
特に定めないが，自主的な要望に沿って参考書は紹介する。

【成績評価の方法と基準】
ゼミでの貢献度(学習姿勢、取り組み姿勢など)，報告内容，作成論文の水準などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
Course outline:
As part of the requirements for master's graduation the submission of a master's thesis is necessary. For laboratory assigned students this course is the first part of their compulsory coursework. Guidance will be provided on fundamental technical skills necessary for Project I, the next course in which students prepare to write their thesis.
Learning Objectives:
Acquire basic knowledge and skills in researching specialized fields through research activities in instructional seminars.
Learning activities outside of classroom:
Students should actively participate in all aspects of conducting surveys, experiments, and software development in the instructional seminar, and should strive to acquire a wide range of knowledge and skills. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy:
The level of contribution to the seminar (learning attitude, commitment, etc.), the content of the report, and the standard of the paper will be evaluated comprehensively.

ADE600N2（建築学 / Architecture and building engineering 600）

建築学修士研修 1

浜田　英明

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程修了要件として修士論文の提出がある。本科目はラボ系所属生にとってはこのための最初の必修コースワークでもある。論文作成を試行するための次のコースワークであるプロジェクトⅠで必要となる基礎的な専門技術を指導する。

【到達目標】
専門分野を研究する上での基本的な知識と技術を指導ゼミの研究活動を通して習得する。

【修得できる能力】

総合デザイン力	歴史と文化	持続可能性と設計倫理	専門性	技術と芸術	情報技術	表現能力・コミュニケーション能力
			◎		○	◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎資料の紹介と説明，調査法・実験法・プログラム開発法の個別指導

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第2回	研修の基礎１	使用機器・ソフトの整備
第3回	研修の基礎２	資料の読み合わせと解説
第4回	研修の基礎３	資料の読み合わせと解説
第5回	研修の基礎４	資料の読み合わせと解説
第6回	研修の実践１	実践課題の説明
第7回	研修の実践２	課題作業と適宜指導
第8回	研修の実践３	課題作業と適宜指導
第9回	研修の実践４	まとめ方の指導と作業結果の整理
第10回	中間報告	中間報告と討議
第11回	研修の応用１	応用課題の説明
第12回	研修の応用２	課題作業と適宜指導
第13回	研修の応用３	課題作業と適宜指導
第14回	研修の応用４	まとめ方の指導と作業結果についての報告・討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し，積極的に参加し，幅広い知識と技能の習得に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し，読み合わせることもある。

【参考書】
特に定めないが，自主的な要望に沿って参考書は紹介する。

【成績評価の方法と基準】
ゼミでの貢献度(学習姿勢、取り組み姿勢など)，報告内容，作成論文の水準などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
Course outline:
As part of the requirements for master's graduation the submission of a master's thesis is necessary. For laboratory assigned students this course is the first part of their compulsory coursework. Guidance will be provided on fundamental technical skills necessary for Project I, the next course in which students prepare to write their thesis.
Learning Objectives:
Acquire basic knowledge and skills in researching specialized fields through research activities in instructional seminars.
Learning activities outside of classroom:
Students should actively participate in all aspects of conducting surveys, experiments, and software development in the instructional seminar, and should strive to acquire a wide range of knowledge and skills. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy:
The level of contribution to the seminar (learning attitude, commitment, etc.), the content of the report, and the standard of the paper will be evaluated comprehensively.

ADE600N2（建築学 / Architecture and building engineering 600）

建築学修士研修2

山道　拓人

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
プロジェクトⅠで得られた研究成果を分析し，修士論文作成に必要となるより高度な専門知識や技術・手法を説明する。また，修士論文の位置付けを行うために必要な既存研究の評価方法を指導する。

【到達目標】
より高度な専門知識や技能の獲得に努めるとともに，学内外の様々な研究資料に触れ，異なる研究テーマへの理解を深め，現在の研究水準を把握する能力を養う。これまでの研究成果との比較，検証を実施し，既存研究のレビューとしてまとめる。

【修得できる能力】

総合デザイン力	歴史と文化	持続可能性と設計倫理	専門性	技術と芸術	情報技術	表現能力・コミュニケーション能力
			◎		○	◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
資料の読み合わせ，調査・実験・プログラム開発の内容報告と討議。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第2回	研修の継続１	研究課題に関連した資料のリスト作成
第3回	研修の継続２	資料の収集と分類
第4回	研修の継続３	資料の読み合わせと解説
第5回	研修の拡張１	これまでの研究成果と既往研究の比較
第6回	研修の拡張２	比較結果に基づく検証方法の策定
第7回	研修の拡張３	検証の実施
第8回	研修の拡張４	検証の実施
第9回	中間報告	中間報告と討議
第10回	研修のまとめ１	検証結果に基づく研究方法の再構築
第11回	研修のまとめ２	研究方法の改良，追加研究課題の有無について検討
第12回	研修のまとめ３	方法の改良や追加課題についての報告と討議
第13回	研修のまとめ４	検証結果，新提案を含む研究課題の位置付けを行い，レビュー報告書の概要を確認する
第14回	最終報告	最終報告と討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し，積極的に参加し，幅広い知識と技能の習得に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し，読み合わせることもある。

【参考書】
特に定めないが，自主的な要望に沿って参考書は紹介する。

【成績評価の方法と基準】
ゼミでの貢献度(学習姿勢、取り組み姿勢など)，報告内容，作成論文の水準などを総合的に評価する。
総合点60点以上を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【その他の重要事項】
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
In this course students will analyze the results gathered in Project I, receiving guidance on a higher technical knowledge, skills and methods necessary for writing their master's thesis. Furthermore, in order to understand the relevance of their thesis evaluation methods of existing research will also be reviewed.
Learning Objectives:
To strive to acquire more advanced specialized knowledge and skills, as well as to deepen understanding of different research themes and cultivate the ability to grasp the current level of research through exposure to a variety of research materials both inside and outside the university. Students will compare and verify the results of previous research and summarize them as a review of existing research.
Learning activities outside of classroom:
Students should actively participate in all aspects of conducting surveys, experiments, and software development in the instructional seminar, and should strive to acquire a wide range of knowledge and skills. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy:
The level of contribution to the seminar (learning attitude, commitment, etc.), the content of the report, and the standard of the paper will be evaluated comprehensively.

ADE600N2（建築学 / Architecture and building engineering 600）

建築学修士研修2

小堀　哲夫

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
プロジェクトⅠで得られた研究成果を分析し，修士論文作成に必要となるより高度な専門知識や技術・手法を説明する。また，修士論文の位置付けを行うために必要な既存研究の評価方法を指導する。

【到達目標】
より高度な専門知識や技能の獲得に努めるとともに，学内外の様々な研究資料に触れ，異なる研究テーマへの理解を深め，現在の研究水準を把握する能力を養う。これまでの研究成果との比較，検証を実施し，既存研究のレビューとしてまとめる。

【修得できる能力】

総合デザイン力	歴史と文化	持続可能性と設計倫理	専門性	技術と芸術	情報技術	表現能力・コミュニケーション能力
			◎		○	◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
資料の読み合わせ，調査・実験・プログラム開発の内容報告と討議。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第2回	研修の継続１	研究課題に関連した資料のリスト作成
第3回	研修の継続２	資料の収集と分類
第4回	研修の継続３	資料の読み合わせと解説
第5回	研修の拡張１	これまでの研究成果と既往研究の比較
第6回	研修の拡張２	比較結果に基づく検証方法の策定
第7回	研修の拡張３	検証の実施
第8回	研修の拡張４	検証の実施
第9回	中間報告	中間報告と討議
第10回	研修のまとめ１	検証結果に基づく研究方法の再構築
第11回	研修のまとめ２	研究方法の改良，追加研究課題の有無について検討
第12回	研修のまとめ３	方法の改良や追加課題についての報告と討議
第13回	研修のまとめ４	検証結果，新提案を含む研究課題の位置付けを行い，レビュー報告書の概要を確認する
第14回	最終報告	最終報告と討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し，積極的に参加し，幅広い知識と技能の習得に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し，読み合わせることもある。

【参考書】
特に定めないが，自主的な要望に沿って参考書は紹介する。

【成績評価の方法と基準】
ゼミでの貢献度(学習姿勢、取り組み姿勢など)，報告内容，作成論文の水準などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【その他の重要事項】
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
In this course students will analyze the results gathered in Project I, receiving guidance on a higher technical knowledge, skills and methods necessary for writing their master's thesis. Furthermore, in order to understand the relevance of their thesis evaluation methods of existing research will also be reviewed.
Learning Objectives:
To strive to acquire more advanced specialized knowledge and skills, as well as to deepen understanding of different research themes and cultivate the ability to grasp the current level of research through exposure to a variety of research materials both inside and outside the university. Students will compare and verify the results of previous research and summarize them as a review of existing research.
Learning activities outside of classroom:
Students should actively participate in all aspects of conducting surveys, experiments, and software development in the instructional seminar, and should strive to acquire a wide range of knowledge and skills. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy:
The level of contribution to the seminar (learning attitude, commitment, etc.), the content of the report, and the standard of the paper will be evaluated comprehensively.

ADE600N2（建築学 / Architecture and building engineering 600）

建築学修士研修2

浜田　英明

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
プロジェクトⅠで得られた研究成果を分析し，修士論文作成に必要となるより高度な専門知識や技術・手法を説明する。また，修士論文の位置付けを行うために必要な既存研究の評価方法を指導する。

【到達目標】
より高度な専門知識や技能の獲得に努めるとともに，学内外の様々な研究資料に触れ，異なる研究テーマへの理解を深め，現在の研究水準を把握する能力を養う。これまでの研究成果との比較，検証を実施し，既存研究のレビューとしてまとめる。

【修得できる能力】

総合デザイン力	歴史と文化	持続可能性と設計倫理	専門性	技術と芸術	情報技術	表現能力・コミュニケーション能力
			◎		○	◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
資料の読み合わせ，調査・実験・プログラム開発の内容報告と討議。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第2回	研修の継続１	研究課題に関連した資料のリスト作成
第3回	研修の継続２	資料の収集と分類
第4回	研修の継続３	資料の読み合わせと解説
第5回	研修の拡張１	これまでの研究成果と既往研究の比較
第6回	研修の拡張２	比較結果に基づく検証方法の策定
第7回	研修の拡張３	検証の実施
第8回	研修の拡張４	検証の実施
第9回	中間報告	中間報告と討議
第10回	研修のまとめ１	検証結果に基づく研究方法の再構築
第11回	研修のまとめ２	研究方法の改良，追加研究課題の有無について検討
第12回	研修のまとめ３	方法の改良や追加課題についての報告と討議
第13回	研修のまとめ４	検証結果，新提案を含む研究課題の位置付けを行い，レビュー報告書の概要を確認する
第14回	最終報告	最終報告と討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し，積極的に参加し，幅広い知識と技能の習得に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し，読み合わせることもある。

【参考書】
特に定めないが，自主的な要望に沿って参考書は紹介する。

【成績評価の方法と基準】
ゼミでの貢献度(学習姿勢、取り組み姿勢など)，報告内容，作成論文の水準などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【その他の重要事項】
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
In this course students will analyze the results gathered in Project I, receiving guidance on a higher technical knowledge, skills and methods necessary for writing their master's thesis. Furthermore, in order to understand the relevance of their thesis evaluation methods of existing research will also be reviewed.
Learning Objectives:
To strive to acquire more advanced specialized knowledge and skills, as well as to deepen understanding of different research themes and cultivate the ability to grasp the current level of research through exposure to a variety of research materials both inside and outside the university. Students will compare and verify the results of previous research and summarize them as a review of existing research.
Learning activities outside of classroom:
Students should actively participate in all aspects of conducting surveys, experiments, and software development in the instructional seminar, and should strive to acquire a wide range of knowledge and skills. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy:
The level of contribution to the seminar (learning attitude, commitment, etc.), the content of the report, and the standard of the paper will be evaluated comprehensively.

ADE600N2（建築学 / Architecture and building engineering 600）

建築学修士プロジェクト 1

浜田　英明

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究課題を設定し，研修Ⅰで習得した技能を駆使して，いかにしたら論文を作成することができるかを指導する。

【到達目標】
与えられた研究課題を独自の視点と工夫を持ち込んで一編の個性ある論文としてまとめる。

【修得できる能力】

総合デザイン力	歴史と文化	持続可能性と設計倫理	専門性	技術と芸術	情報技術	表現能力・コミュニケーション能力
			◎		○	◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
研究課題・研究計画の策定指導，調査・実験・開発プログラムの内容報告と討議，論文作成指導，口頭発表練習。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第2回	プロジェクトの企画１	ゼミの既出研究資料・学会関係資料の収集と系統的分類
第3回	プロジェクトの企画２	資料の読み合わせと評価：資料的価値の吟味，内容の妥当性・今後の問題点・拡張の可能性に関する検討。
第4回	プロジェクトの企画３	プロジェクトに関する主要資料の選択，追加資料の必要性・新たな課題の可能性に関する検討
第5回	プロジェクトの企画４	プロジェクト課題の検討と策定
第6回	プロジェクトの立案１	プロジェクト課題に必要な技術（機器，ソフト）のリストアップ
第7回	プロジェクトの立案２	調査・実験・ソフト開発に関する計画の策定
第8回	プロジェクトの立案３	調査・実験・ソフト開発の実施
第9回	中間報告	中間報告と討議
第10回	プロジェクトの展開１	調査・実験・ソフト解析の結果に対する収集整理
第11回	プロジェクトの展開２	調査・実験・ソフト解析の結果に対する収集整理
第12回	プロジェクトの展開３	追加の調査・実験・ソフト解析の検討
第13回	プロジェクトの展開４	追加の調査・実験・ソフト解析の検討
第14回	最終報告	最終報告と討議・投稿可否の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し，積極的に参加し，幅広い知識と技能の習得に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し，読み合わせることもある。

【参考書】
特に定めないが，自主的な要望に沿って参考書は紹介する。

【成績評価の方法と基準】
ゼミでの貢献度(学習姿勢、取り組み姿勢など)，発表の内容，作成論文の水準などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
This course will guide students on setting their research topic, and using the skills obtained in Training 1, how to go about writing their thesis.
Learning Objectives:
The student will bring his/her own unique perspective and ingenuity to a given research topic and summarize it in a single, unique paper.
Learning activities outside of classroom:
Students are expected to actively participate in all aspects of conducting surveys, experiments, and software development in the instructional seminar, and to strive to acquire a wide range of knowledge and skills. The standard total preparation and review time for this class is one hour.
Grading Criteria/Policy:
The contribution to the seminar (learning attitude, commitment, etc.), the content of the presentations, and the standard of the papers prepared will be evaluated comprehensively.

ADE600N2（建築学 / Architecture and building engineering 600）

建築学修士プロジェクト２

川久保　俊

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コースワークの最終段階として，修士論文の作成開始から完成に至る全過程を一貫して指導する。これまでに蓄積または収集した調査資料・実験結果・開発プログラムを分析し，設定した研究課題から価値ある総合的な知見を導き出す方法を指導する。

【到達目標】
プロジェクトⅠ，研修Ⅱの成果を更に発展させ，豊かな内容を盛り込んだ納得の修士論文としてまとめ上げる。修士論文で得られた新しい知見を紀要，学内外の論文・情報誌に投稿する。

【修得できる能力】

総合デザイン力	歴史と文化	持続可能性と設計倫理	専門性	技術と芸術	情報技術	表現能力・コミュニケーション能力
			◎		○	◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
修士論文課題・研究計画の策定指導，調査・実験・開発プログラムの内容報告と討議，修士論文作成の指導。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第2回	プロジェクトの継続１	レビューを踏まえた研究課題の検討と確認
第3回	プロジェクトの継続２	作業の実施と結果の検討
第4回	プロジェクトの継続３	作業の実施と結果の検討
第5回	プロジェクトの継続４	作業の実施と結果の検討
第6回	プロジェクトの発展１	研究課題を支える調査・実験・開発ソフトついて説明する丁寧な記述
第7回	プロジェクトの発展２	研究課題を支える調査・実験・開発ソフトついて説明する丁寧な記述
第8回	プロジェクトの発展３	調査・実験・開発ソフトから得られたデータの分かりやすい表示とグラフ化
第9回	中間報告	中間報告と討議
第10回	プロジェクトのまとめ１	修士論文の構成案について討議
第11回	プロジェクトのまとめ２	修士論文の内容案について討議
第12回	プロジェクトのまとめ３	修士論文原稿について討議し，追加事項の有無を検討
第13回	プロジェクトのまとめ４	修士論文の主要内容に基づく投稿論文の作成
第14回	最終報告	最終報告書（修士論文相当）について討議し，提出の可否を判断する。投稿予定論文の発表，修正の有無を検討し，完成稿の内容を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し，積極的に参加し，幅広い知識と技能の習得に努めること。。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し，読み合わせることもある。

【参考書】
特に定めないが，自主的な要望に沿って参考書は紹介する。

【成績評価の方法と基準】
ゼミでの貢献度（学習姿勢、取り組み姿勢など），発表の内容，作成論文の水準などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
As their final coursework, students will be guided from start to finish on writing their master's thesis. By analyzing all of the collected knowledge, fieldwork, experimental and program developmental data so far, students will receive guidance on drawing valuable conclusions from their research topics.
Learning Objectives:
Further develop the results of Project I and Training II and compile them into a convincing master's thesis with rich content. Submit the new findings obtained in the master's thesis to bulletins, internal and external publications, and information journals.
Learning activities outside of classroom:
Students should actively participate in all aspects of conducting research, experiments, and software development in the instructional seminar, and should strive to acquire a wide range of knowledge and skills. The standard combined preparation and review time for this class is one hour.
Grading Criteria/Policy:
The contribution to the seminar (learning attitude, commitment, etc.), the content of the presentations, and the standard of the papers prepared will be evaluated comprehensively.

ADE600N2（建築学 / Architecture and building engineering 600）

建築学修士プロジェクト２

浜田　英明

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コースワークの最終段階として，修士論文の作成開始から完成に至る全過程を一貫して指導する。これまでに蓄積または収集した調査資料・実験結果・開発プログラムを分析し，設定した研究課題から価値ある総合的な知見を導き出す方法を指導する。

【到達目標】
プロジェクトⅠ，研修Ⅱの成果を更に発展させ，豊かな内容を盛り込んだ納得の修士論文としてまとめ上げる。修士論文で得られた新しい知見を紀要，学内外の論文・情報誌に投稿する。

【修得できる能力】

総合デザイン力	歴史と文化	持続可能性と設計倫理	専門性	技術と芸術	情報技術	表現能力・コミュニケーション能力
			◎		○	◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
修士論文課題・研究計画の策定指導，調査・実験・開発プログラムの内容報告と討議，修士論文作成の指導。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第2回	プロジェクトの継続１	レビューを踏まえた研究課題の検討と確認
第3回	プロジェクトの継続２	作業の実施と結果の検討
第4回	プロジェクトの継続３	作業の実施と結果の検討
第5回	プロジェクトの継続４	作業の実施と結果の検討
第6回	プロジェクトの発展１	研究課題を支える調査・実験・開発ソフトついて説明する丁寧な記述
第7回	プロジェクトの発展２	研究課題を支える調査・実験・開発ソフトついて説明する丁寧な記述
第8回	プロジェクトの発展３	調査・実験・開発ソフトから得られたデータの分かりやすい表示とグラフ化
第9回	中間報告	中間報告と討議
第10回	プロジェクトのまとめ１	修士論文の構成案について討議
第11回	プロジェクトのまとめ２	修士論文の内容案について討議
第12回	プロジェクトのまとめ３	修士論文原稿について討議し，追加事項の有無を検討
第13回	プロジェクトのまとめ４	修士論文の主要内容に基づく投稿論文の作成
第14回	最終報告	最終報告書（修士論文相当）について討議し，提出の可否を判断する。投稿予定論文の発表，修正の有無を検討し，完成稿の内容を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し，積極的に参加し，幅広い知識と技能の習得に努めること。。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し，読み合わせることもある。

【参考書】
特に定めないが，自主的な要望に沿って参考書は紹介する。

【成績評価の方法と基準】
ゼミでの貢献度（学習姿勢、取り組み姿勢など），発表の内容，作成論文の水準などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
As their final coursework, students will be guided from start to finish on writing their master's thesis. By analyzing all of the collected knowledge, fieldwork, experimental and program developmental data so far, students will receive guidance on drawing valuable conclusions from their research topics.
Learning Objectives:
Further develop the results of Project I and Training II and compile them into a convincing master's thesis with rich content. Submit the new findings obtained in the master's thesis to bulletins, internal and external publications, and information journals.
Learning activities outside of classroom:
Students should actively participate in all aspects of conducting research, experiments, and software development in the instructional seminar, and should strive to acquire a wide range of knowledge and skills. The standard combined preparation and review time for this class is one hour.
Grading Criteria/Policy:
The contribution to the seminar (learning attitude, commitment, etc.), the content of the presentations, and the standard of the papers prepared will be evaluated comprehensively.

ADE600N2（建築学 / Architecture and building engineering 600）

修士論文（建築）

山道　拓人

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文を執筆する。

【到達目標】
修士論文の完成。

【修得できる能力】

総合デザイン力	歴史と文化	持続可能性と設計倫理	専門性	技術と芸術	情報技術	表現能力・コミュニケーション能力
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
修士論文課題・研究計画の策定指導，調査・実験・開発プログラムの内容報告と討議，修士論文作成の指導。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第2回	プロジェクトの継続１	レビューを踏まえた研究課題の検討と確認
第3回	プロジェクトの継続２	作業の実施と結果の検討
第4回	プロジェクトの継続３	作業の実施と結果の検討
第5回	プロジェクトの継続４	作業の実施と結果の検討
第6回	プロジェクトの発展１	研究課題を支える調査・実験・開発ソフトついて説明する丁寧な記述
第7回	プロジェクトの発展２	研究課題を支える調査・実験・開発ソフトついて説明する丁寧な記述
第8回	プロジェクトの発展３	調査・実験・開発ソフトから得られたデータの分かりやすい表示とグラフ化
第9回	中間報告	中間報告書の提出と討議
第10回	プロジェクトのまとめ１	修士論文の構成案について討議
第11回	プロジェクトのまとめ２	修士論文の内容案について討議
第12回	プロジェクトのまとめ３	修士論文原稿について討議し，追加事項の有無を検討
第13回	プロジェクトのまとめ４	修士論文の主要内容に基づく投稿論文の作成
第14回	最終報告	最終報告書（修士論文相当）について討議し，提出の可否を判断する。投稿予定論文の発表，修正の有無を検討し，完成稿の内容を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し，積極的に参加し，幅広い知識と技能の習得に努めること。。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し，読み合わせることもある。

【参考書】
特に定めないが，自主的な要望に沿って参考書は紹介する。

【成績評価の方法と基準】
ゼミでの貢献度，報告書の内容，作成論文の水準などを総合的に評価する。総合点60点以上を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
By applying techniques acquired through the master's program, students will choose a research topic related to cities and architecture, receiving advice from their supervisor and reporting the findings in their thesis submission.
Learning Objectives:
Completion of Master's thesis.
Learning activities outside of classroom:
Students should actively participate in all aspects of conducting surveys, experiments, and software development in the instructional seminar, and should strive to acquire a wide range of knowledge and skills. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy:
The contribution made in the seminar, the content of the report, and the standard of the paper prepared will be evaluated comprehensively.

ADE600N2（建築学 / Architecture and building engineering 600）

修士論文（建築）

浜田　英明

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文を執筆する。

【到達目標】
修士論文の完成。

【修得できる能力】

総合デザイン力	歴史と文化	持続可能性と設計倫理	専門性	技術と芸術	情報技術	表現能力・コミュニケーション能力
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
修士論文課題・研究計画の策定指導，調査・実験・開発プログラムの内容報告と討議，修士論文作成の指導。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第2回	プロジェクトの継続１	レビューを踏まえた研究課題の検討と確認
第3回	プロジェクトの継続２	作業の実施と結果の検討
第4回	プロジェクトの継続３	作業の実施と結果の検討
第5回	プロジェクトの継続４	作業の実施と結果の検討
第6回	プロジェクトの発展１	研究課題を支える調査・実験・開発ソフトついて説明する丁寧な記述
第7回	プロジェクトの発展２	研究課題を支える調査・実験・開発ソフトついて説明する丁寧な記述
第8回	プロジェクトの発展３	調査・実験・開発ソフトから得られたデータの分かりやすい表示とグラフ化
第9回	中間報告	中間報告書の提出と討議
第10回	プロジェクトのまとめ１	修士論文の構成案について討議
第11回	プロジェクトのまとめ２	修士論文の内容案について討議
第12回	プロジェクトのまとめ３	修士論文原稿について討議し，追加事項の有無を検討
第13回	プロジェクトのまとめ４	修士論文の主要内容に基づく投稿論文の作成
第14回	最終報告	最終報告書（修士論文相当）について討議し，提出の可否を判断する。投稿予定論文の発表，修正の有無を検討し，完成稿の内容を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し，積極的に参加し，幅広い知識と技能の習得に努めること。。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し，読み合わせることもある。

【参考書】
特に定めないが，自主的な要望に沿って参考書は紹介する。

【成績評価の方法と基準】
ゼミでの貢献度，報告書の内容，作成論文の水準などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
By applying techniques acquired through the master's program, students will choose a research topic related to cities and architecture, receiving advice from their supervisor and reporting the findings in their thesis submission.
Learning Objectives:
Completion of Master's thesis.
Learning activities outside of classroom:
Students should actively participate in all aspects of conducting surveys, experiments, and software development in the instructional seminar, and should strive to acquire a wide range of knowledge and skills. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy:
The contribution made in the seminar, the content of the report, and the standard of the paper prepared will be evaluated comprehensively.

CST600N3（土木工学 / Civil engineering 600）

都市環境デザイン工学研究 1

高見　公雄

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工の分野のうち、自ら選択した各専門分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】
修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。
具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
(概要)　各学生は個々に題目が与えられ、教授の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。
　都市・地域レベルから小空間までといった空間の拡がり、また大都市から村落まで多様な都市状況など、幅広い都市デザインのフィールドへの理解を深めるとともに、それぞれのフィールドが抱える課題整理を行う。整理された課題を踏まえ、また現下の社会的な問題意識等を勘案して対応について検討すべき具体的な地区や地域を特定し、その状況分析と都市デザインの観点からの解決策について研究する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(1)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 1
2	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(2)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 2
3	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(3)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 3
4	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(4)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 4
5	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(5)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 5
6	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(6)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 6
7	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(7)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 7
8	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(8)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 8
9	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(9)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 9
10	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(10)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 10
11	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(11)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 11
12	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(12)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 12
13	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(13)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 13
14	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(14)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関するの基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【参考書】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
教員との研究面談時の提出資料（50％）とその口頭諮問（50％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。
研究指導は少人数、対面で行われ学生は随時質問などが可能である。また面談時以外については、Eメールにより対応する。

【Outline (in English)】
The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.
Grades will be based on a mid-term presentation (50%) and a summary presentation (50%).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST600N3（土木工学 / Civil engineering 600）

都市環境デザイン工学研究 1

福井　恒明

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工学の分野のうち、自ら選択した景観工学・景観デザインに関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】
修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。
具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の緒テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
各学生は個々に題目が与えられ、教員の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、 実地にものづくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。当研究室では、都市や地域における景観を対象に、その文化的背景・実状の把握・景観を構成する公共事業の仕組みや設計・都市計画関連制度の運用など多面的な議論にもとづき研究を行う。定められた研究テーマに関して、指導教員と議論しながら手法を検討する。文献調査・ヒアリング・アンケート・フィールドワーク・実験等の中からテーマに即した適切な方法によりデータを収集し、GISの活用や画像処理、統計処理等の分析を用いて考察を行う。これらにより景観保全・形成に資する知見について研究する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	景観工学・景観デザインに関する文献調査(1)	景観工学・景観デザインに関する文献・知見の調査方法について
2	景観工学・景観デザインに関する文献調査(2)	景観工学・景観デザインに関する基礎的文献の内容確認（1回目）
3	景観工学・景観デザインに関する文献調査(3)	景観工学・景観デザインに関する基礎的文献の内容確認（2回目）
4	景観工学・景観デザインに関する文献調査(4)	景観工学・景観デザインに関する基礎的文献の内容確認（3回目）
5	景観工学・景観デザインに関する文献調査(5)	景観工学・景観デザインに関する基礎的文献の内容確認（4回目）
6	国内外のデザイン作品レビュー(1)	国内外のデザイン作品のレビュー方法について
7	国内外のデザイン作品レビュー(2)	国内外のデザイン作品事例の文献調査と紹介（1回目）
8	国内外のデザイン作品レビュー(3)	国内外のデザイン作品事例の文献調査と紹介（2回目）
9	国内外のデザイン作品レビュー(4)	国内外のデザイン作品事例の文献調査と紹介（3回目）
10	まちなみの見方しらべ方(1)	景観上特徴のあるまちなみの調査方法について
11	まちなみの見方しらべ方(2)	景観上特徴のあるまちなみの現地確認（1回目）
12	まちなみの見方しらべ方(3)	景観上特徴のあるまちなみの現地確認（2回目）
13	まちなみの見方しらべ方(4)	景観上特徴のあるまちなみの現地確認（3回目）
14	まとめ	景観工学・景観デザインに関する知識や，これらに関する問題意識を確認することを通じ，修士論文テーマの方向性について個別に議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しないが，以下の書籍の内容の習得が前提となる．
篠原修編：景観用語事典 増補改訂第二版，彰国社，2021

【参考書】
特に無し．適宜指示する．

【成績評価の方法と基準】
個別に指示する課題により評価する（100%）．60点以上を合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
修士一年次の授業であるが、各担当者の受講者が少数であるため、授業評価アンケートは実施しない科目となっている。
多くの受講者は、共通基盤科目・基盤科目・専門科目の履修に主眼が注がれ、本授業への取組みが不足している。各分野の担当教員の工夫が必要である。

【その他の重要事項】
景観計画・景観デザインについての実務経験を持つ教員が、その経験を活かして、研究成果の都市環境デザインにおけるプロジェクトにおける適用を踏まえて指導する。
専任教員のオフィスアワーについては『履修の手引き』を参照すること。兼任教員のオフィスアワーは授業直後あるいはメール等で随時対応する。

【Outline (in English)】
Outline:
The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.
Objectives:
The goal is to acquire the knowledge and skills necessary to conduct research for the master's thesis.
Specifically, the goal is to form an awareness of issues related to their field of specialization and acquire rudimentary problem-solving skills through reading internal and external literature, field visits, discussions, surveys, and research on specific themes.
Learning activities outside of classroom:
Review of weekly classes, as well as a wide range of ongoing self-directed study, from basic knowledge of a specific topic to research-level assignments. A total of 4 hours of preparatory study and review time for this class is standard.
Grading Criteria /Policy:
Assignments will be evaluated based on the individually assigned tasks (100%). 60 points or more will be considered as a passing grade.

CST600N3（土木工学 / Civil engineering 600）

都市環境デザイン工学研究 1

酒井　久和

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工の分野のうち、地震減災分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】
修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。
具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
(概要)　各学生は個々に題目が与えられ、教授の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。
地震分野において、実問題を意識した減災に関わるテーマを取り扱う。文献研究、現地調査、土質試験、統計的分析、各種解析的手法による数値解析等に基づいて、諸問題の改善を目的とした研究を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(1)	特定テーマに関する議論
2	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(2)	研究計画の策定
3	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(3)	同上内外の文献等の講読
4	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(4)	内外の文献等の講読
5	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(5)	内外の文献等の講読
6	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(6)	研究方針・計画の修正
7	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(7)	研究方法の策定
8	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(8)	研究の推進
9	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(9)	研究の推進
10	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(10)	研究の推進
11	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(11)	研究の推進
12	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(12)	研究の推進
13	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(13)	研究の推進
14	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(14)	中間報告書の作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関するの基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、各5時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し。研究テーマに応じて適宜指示する。

【参考書】
特に無し。研究テーマに応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業時間外の自己啓発的な日々の学習への取組みにより評価する。取り組み（100%）
法政大学大学院基準に従いSからEまで12段階で評価する.

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
建設会社で設計，研究開発に携わっていた教員が，実社会の課題を紹介しながら研究指導を行っている.

【Outline (in English)】
The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.
This class's standard preparation and review time is about 5 hours, respectively.
Grade evaluation will be conducted based on daily efforts (100%).

CST600N3（土木工学 / Civil engineering 600）

都市環境デザイン工学研究２

山本　佳士

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工学の分野のうち、自ら選択した各専門分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】
修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。
具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
各学生は個々に題目が与えられ、教員の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、 実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教員の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(1)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 1
2	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(2)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 2
3	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(3)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 3
4	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(4)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 4
5	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(5)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 5
6	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(6)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 6
7	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(7)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 7
8	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(8)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 8
9	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(9)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 9
10	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(10)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 10
11	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(11)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 11
12	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(12)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 12
13	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(13)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 13
14	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(14)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関するの基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【参考書】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
主として授業時間外の自己啓発的な日々の学習への取組みにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
オフィスアワー
火 12:30～13:30

【Outline (in English)】
The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.
· Learning Objectives
The goals of this course are to acquire the knowledge and skills necessary to proceed with research for a master's thesis.
· Learning activities outside of classroom
Continued learning from a wide range of self-development perspectives. Standard study time is 2 hours for each class meeting.
· Grading Criteria
Grading will be decided based on attitude toward daily study.

CST600N3（土木工学 / Civil engineering 600）

都市環境デザイン工学研究２

高見　公雄

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工の分野のうち、自ら選択した各専門分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】
修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。
具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
(概要)　各学生は個々に題目が与えられ、教授の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。
　都市・地域レベルから小空間までといった空間の拡がり、また大都市から村落まで多様な都市状況など、幅広い都市デザインのフィールドへの理解を深めるとともに、それぞれのフィールドが抱える課題整理を行う。整理された課題を踏まえ、また現下の社会的な問題意識等を勘案して対応について検討すべき具体的な地区や地域を特定し、その状況分析と都市デザインの観点からの解決策について研究する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(1)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 1
2	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(2)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 2
3	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(3)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 3
4	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(4)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 4
5	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(5)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 5
6	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(6)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 6
7	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(7)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 7
8	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(8)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 8
9	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(9)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 9
10	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(10)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 10
11	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(11)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 11
12	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(12)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 12
13	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(13)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 13
14	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(14)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関するの基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【参考書】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
教員との研究面談時の提出資料（50％）とその口頭諮問（50％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。
研究指導は少人数、対面で行われ学生は随時質問などが可能である。また面談時以外については、Eメールにより対応する。

【Outline (in English)】
The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.
Grades will be based on a mid-term presentation (50%) and a summary presentation (50%).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST600N3（土木工学 / Civil engineering 600）

都市環境デザイン工学研究２

福井　恒明

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工学の分野のうち、自ら選択した景観工学・景観デザインに関するテーマを中心課題に据え、修士論文のテーマを具体的に定めるための学習や調査を行う。

【到達目標】
修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。
具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の緒テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
各学生は個々に題目が与えられ、教員の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実地にものづくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。当研究室では、都市や地域における景観を対象に、その文化的背景・実状の把握・景観を構成する公共事業の仕組みや設計・都市計画関連制度の運用など多面的な議論にもとづき研究を行う。定められた研究テーマに関して、指導教員と議論しながら手法を検討する。文献調査・ヒアリング・アンケート・フィールドワーク・実験等の中からテーマに即した適切な方法によりデータを収集し、GISの活用や画像処理、統計処理等の分析を用いて考察を行う。これらにより景観保全・形成に資する知見について研究する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	修士論文の方向性についての確認と調査・研究方針の検討	これまでの学習を踏まえて，修士論文の大まかなテーマについて確認し，研究方針について検討を行う．
2	既往研究レビュー(1)	修士論文のテーマに関する既往研究をリストアップする．
3	既往研究レビュー(2)	修士論文のテーマに関する既往研究を収集し，目的，方法及び到達点について整理する．
4	既往研究レビュー(3)	修士論文のテーマに関する既往研究を収集し，目的，方法及び到達点について整理する．
5	既往研究レビュー(4)	修士論文のテーマに関する既往研究を収集し，目的，方法及び到達点について整理する．
6	修士論文テーマの概要決定	既往研究のレビュー等に基づき，修士論文のテーマとして取り扱う内容（目的，対象等）について確認する．
7	修士論文の対象・方法検討(1)	修士論文の対象・方法について検討するため，予備的な資料収集や現地確認等を行う．研究に必要な装置等についても確認する．
8	修士論文の対象・方法検討(2)	修士論文の対象・方法について検討するため，予備的な資料収集や現地確認等を行う．研究に必要な装置等についても確認する．
9	修士論文の対象・方法検討(3)	修士論文の対象・方法について検討するため，予備的な資料収集や現地確認等を行う．研究に必要な装置等についても確認する．
10	予備調査・予備実験(1)	修士論文実施のフィージビリティを確認するため，予備的な調査や実験等を行い，必要に応じて計画の修正を検討する．
11	予備調査・予備実験(2)	修士論文実施のフィージビリティを確認するため，予備的な調査や実験等を行い，必要に応じて計画の修正を検討する．
12	予備調査・予備実験(3)	修士論文実施のフィージビリティを確認するため，予備的な調査や実験等を行い，必要に応じて計画の修正を検討する．
13	学会発表・聴講(1)	土木学会景観・デザイン研究発表会に発表または聴講参加し，他の研究者の研究内容や発表方法について確認する．
14	学会発表・聴講(2)	土木学会景観・デザイン研究発表会に発表または聴講参加し，他の研究者の研究内容や発表方法について確認する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し．

【参考書】
特に無し．各自のテーマや進捗状況に応じて紹介する．

【成績評価の方法と基準】
個別に指示する課題により評価する（100%）．60点以上を合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
修士一年次の授業であるが、各担当者の受講者が少数であるため、授業評価アンケートは実施しない科目となっている。
多くの受講者は、共通基盤科目・基盤科目・専門科目の履修に主眼が注がれ、本授業への取組みが不足している。各分野の担当教員の工夫が必要である。

【その他の重要事項】
景観計画・景観デザインについての実務経験を持つ教員が、その経験を活かして、研究成果の都市環境デザインにおけるプロジェクトにおける適用を踏まえて指導する。
専任教員のオフィスアワーについては『履修の手引き』を参照すること。兼任教員のオフィスアワーは授業直後あるいはメール等で随時対応する。

【Outline (in English)】
Outline:
The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.
Objectives:
The goal is to acquire the knowledge and skills necessary to conduct research for the master's thesis.
Specifically, the goal is for students to form an awareness of issues related to their field of specialization and acquire rudimentary problem-solving skills through reading internal and external literature, field visits, discussions, surveys, and research on specific themes.
Learning activities outside of classroom:
Review of weekly classes, as well as a wide range of ongoing self-directed study, from basic knowledge of a specific topic to research-level assignments. A total of 4 hours of preparatory study and review time for this class is standard.
Grading Criteria /Policy:
Assignments will be evaluated based on the individually assigned tasks (100%). 60 points or more will be considered as a passing grade.

CST600N3（土木工学 / Civil engineering 600）

都市環境デザイン工学研究２

酒井　久和

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工の分野のうち、地震減災分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】
修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。
具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
各学生は個々に題目が与えられ、教授の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、 実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。地震分野において、実問題を意識した減災に関わるテーマを取り扱う。文献研究、現地調査、土質試験、統計的分析、各種解析的手法による数値解析等に基づいて、諸問題の改善を目的とした研究を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(1)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 1
2	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(2)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 2
3	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(3)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 3
4	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(4)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 4
5	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(5)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 5
6	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(6)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 6
7	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(7)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 7
8	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(8)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 8
9	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(9)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 9
10	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(10)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 10
11	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(11)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 11
12	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(12)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 12
13	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(13)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 13
14	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(14)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関するの基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、各5時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し。研究テーマに応じて適宜指示する。

【参考書】
特に無し。研究テーマに応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業時間外の自己啓発的な日々の学習への取組みにより評価する。取り組み（100%）
法政大学大学院基準に従いSからEまで12段階で評価する.

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
建設会社で設計，研究開発に携わっていた教員が，実社会の課題を紹介しながら研究指導を行っている.

【Outline (in English)】
The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.
This class's standard preparation and review time is about 5 hours, respectively.
Grade evaluation will be conducted based on daily efforts (100%).

CST600N3（土木工学 / Civil engineering 600）

都市環境デザイン工学研究３

内田　大介

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工学の分野のうち、自ら選択した各専門分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】
修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。
具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
各学生は個々に題目が与えられ，教員の直接指導をうけて，都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに，実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し，広く自由に応用できる能力を修得する。指導教員の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し，国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。橋梁などの鋼構造物を適切に設計・製作・架設し、長期間安全に維持することを目的とした研究を行う。このような範囲の中から、研究テーマを定め、構造物試験機や材料試験機を用いてモデル試験体の耐力試験を行い、強度・耐力を実験的に求めるとともに、有限要素法などの構造解析を通して、それらの評価方法について検討する。また、構造物の実態を把握するための現地調査なども行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(1)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 1
2	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(2)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 2
3	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(3)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 3
4	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(4)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 4
5	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(5)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 5
6	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(6)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 6
7	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(7)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 7
8	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(8)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 8
9	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(9)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 9
10	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(10)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 10
11	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(11)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 11
12	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(12)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 12
13	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(13)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 13
14	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(14)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関するの基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【参考書】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
主として自己啓発的な日々の学習への取組みにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【その他の重要事項】
造船・重機メーカーで鋼橋の設計や種々の鋼構造物に関する研究開発に携わっていた教員が指導する。

【Outline (in English)】
The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.
· Learning Objectives
The goals of this course are to acquire the knowledge and skills necessary to proceed with research for a master's thesis.
· Learning activities outside of classroom
Continued learning from a wide range of self-development perspectives. Standard study time is 2 hours for each class meeting.
· Grading Criteria
Grading will be decided based on attitude toward daily study.

CST600N3（土木工学 / Civil engineering 600）

都市環境デザイン工学研究３

高見　公雄

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工の分野のうち、自ら選択した各専門分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】
修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。
具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
(概要)　各学生は個々に題目が与えられ，教授の直接指導をうけて，都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに，実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し，広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し，国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。
　都市・地域レベルから小空間までといった空間の拡がり、また大都市から村落まで多様な都市状況など、幅広い都市デザインのフィールドへの理解を深めるとともに、それぞれのフィールドが抱える課題整理を行う。整理された課題を踏まえ、また現下の社会的な問題意識等を勘案して対応について検討すべき具体的な地区や地域を特定し、その状況分析と都市デザインの観点からの解決策について研究する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(1)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 1
2	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(2)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 2
3	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(3)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 3
4	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(4)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 4
5	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(5)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 5
6	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(6)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 6
7	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(7)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 7
8	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(8)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 8
9	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(9)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 9
10	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(10)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 10
11	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(11)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 11
12	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(12)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 12
13	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(13)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 13
14	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(14)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関するの基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【参考書】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
教員との研究面談時の提出資料（50％）とその口頭諮問（50％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。
研究指導は少人数、対面で行われ学生は随時質問などが可能である。また面談時以外については、Eメールにより対応する。

【Outline (in English)】
The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.
Grades will be based on a mid-term presentation (50%) and a summary presentation (50%).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST600N3（土木工学 / Civil engineering 600）

都市環境デザイン工学研究３

福井　恒明

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工学の分野のうち、自ら選択した景観工学・景観デザインに関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】
修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。
具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の緒テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
各学生は個々に題目が与えられ，教員の直接指導をうけて，都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに，実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し，広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し，国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。当研究室では、都市や地域における景観を対象に、その文化的背景・実状の把握・景観を構成する公共事業の仕組みや設計・都市計画関連制度の運用など多面的な議論にもとづき研究を行う。定められた研究テーマに関して、指導教員と議論しながら手法を検討する。文献調査・ヒアリング・アンケート・フィールドワーク・実験等の中からテーマに即した適切な方法によりデータを収集し、GISの活用や画像処理、統計処理等の分析を用いて考察を行う。これらにより景観保全・形成に資する知見について研究する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究テーマの確認	各自の研究課題について、これまでに実施した内容を論文形式にまとめ提出し、課題や今後の方向性を議論する
2	研究構成と研究方法の確認(1)	研究の構成と方法について，手順やスケジュールを計画として作成する
3	研究構成と研究方法の確認(2)	研究の構成と方法について，手順やスケジュールを計画として確定させる
4	調査及び実験等の準備(1)	研究に必要な情報やデータを得るための準備作業を行う．
5	調査及び実験等の準備(2)	研究に必要な情報やデータを得るための準備作業を行う．準備が終了次第，調査や実験を実施する．
6	調査及び実験等の準備(3)	研究に必要な情報やデータを得るための準備作業を行う．準備が終了次第，調査や実験を実施する．
7	調査及び実験等の準備(4)	研究に必要な情報やデータを得るための準備作業を行う．準備が終了次第，調査や実験を実施する．
8	調査及び実験等の実施(1)	計画した調査及び実験等を実施する．
9	調査及び実験等の実施(2)	計画した調査及び実験等を実施する．
10	調査及び実験等の実施(3)	計画した調査及び実験等を実施する．
11	調査及び実験結果等の分析・考察(1)	得られた情報やデータを整理し，統計的処理や図化等の分析作業を行った後，考察を行う．
12	調査及び実験結果等の分析・考察(2)	得られた情報やデータを整理し，統計的処理や図化等の分析作業を行った後，考察を行う．
13	中間とりまとめ準備	これまでの研究成果を論文形式にまとめ，指導教員の確認・修正指示を受ける
14	中間とりまとめ	指示に基づいて修正作業を行い，中間報告書とする．状況に応じて学会等の口頭発表論文として投稿する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、1回につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し．

【参考書】
特に無し．各自のテーマや進捗状況に応じて紹介する．

【成績評価の方法と基準】
個別に指示する課題により評価する（100%）．60点以上を合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
修士二年次の授業であるが、各担当者の受講者が少数であるため、授業評価アンケートは実施しない科目となっている。
多くの受講者は、共通基盤科目・基盤科目・専門科目の履修に主眼が注がれ、本授業への取組みが不足している。各分野の担当教員の工夫が必要である。

【その他の重要事項】
景観計画・景観デザインについての実務経験を持つ教員が、その経験を活かして、研究成果の都市環境デザインにおけるプロジェクトにおける適用を踏まえて指導する。
専任教員のオフィスアワーについては『履修の手引き』を参照すること。兼任教員のオフィスアワーは授業直後あるいはメール等で随時対応する。

【Outline (in English)】
Outline:
The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.
Objectives:
The goal is to acquire the knowledge and skills necessary to conduct research for the master's thesis.
Specifically, the goal is for students to form an awareness of issues related to their field of specialization and acquire rudimentary problem-solving skills through reading internal and external literature, field visits, discussions, surveys, and research on specific themes.
Learning activities outside of classroom:
Review of weekly classes, as well as a wide range of ongoing self-directed study, from basic knowledge of a specific topic to research-level assignments. The standard preparation and review time for this class is 4 hours per session.
Grading Criteria /Policy:
Assignments will be evaluated based on the individually assigned tasks (100%). 60 points or more will be considered as a passing grade.

CST600N3（土木工学 / Civil engineering 600）

都市環境デザイン工学研究３

酒井　久和

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工の分野のうち、都市環境デザイン工の分野のうち、地震減災分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】
修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。
具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
(概要)　各学生は個々に題目が与えられ，教授の直接指導をうけて，都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに，実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し，広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し，国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。
地震分野において、実問題を意識した減災に関わるテーマを取り扱う。文献研究、現地調査、土質試験、統計的分析、各種解析的手法による数値解析等に基づいて、諸問題の改善を目的とした研究を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(1)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 1
2	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(2)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 2
3	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(3)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 3
4	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(4)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 4
5	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(5)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 5
6	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(6)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 6
7	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(7)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 7
8	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(8)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 8
9	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(9)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 9
10	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(10)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 10
11	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(11)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 11
12	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(12)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 12
13	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(13)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 13
14	都市環境デザイン工学に関する基礎学習(14)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関するの基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて10時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【参考書】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業時間外の自己啓発的な日々の学習への取組みにより評価する。取り組み（100%）
法政大学大学院基準に従いSからEまで12段階で評価する.

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
建設会社で設計，研究開発に携わっていた教員が，実社会の課題を紹介しながら研究指導を行っている.

【Outline (in English)】
The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.
This class's standard preparation and review time is about 10 hours, respectively.
Grade evaluation will be conducted based on daily efforts (100%).

CST600N3（土木工学 / Civil engineering 600）

都市環境デザイン工学研究３

尾関　智子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工学および機械学習分野のうち，自ら選択した各専門分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う．

【到達目標】
修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することを目標とする．修士論文テーマに関わる国内外の文献等の収集と講読，現地調査と情報収集，研究を進める上での議論や調査・研究などを通じてテーマに関する問題意識を形成し，問題解決のための基礎能力をより広範囲に展開することを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
各学生は個々に題目が与えられ，教員の直接指導をうけて，都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに，実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し，広く自由に応用できる能力を修得する．指導教員の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し，国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学と機械学習に関する基礎学習(1)	国内外の文献等の収集と講読 1
2	都市環境デザイン工学と機械学習に関する基礎学習(2)	国内外の文献等の収集と講読 2
3	都市環境デザイン工学と機械学習に関する基礎学習(3)	国内外の文献等の収集と講読 3
4	都市環境デザイン工学と機械学習に関する基礎学習(4)	国内外の文献等の収集と講読 4
5	都市環境デザイン工学と機械学習に関する基礎学習(5)	国内外の文献等の収集と講読 5
6	都市環境デザイン工学と機械学習に関する基礎学習(6)	国内外の文献等の収集と講読 6
7	都市環境デザイン工学と機械学習に関する基礎学習(7)	学習成果の中間報告
8	都市環境デザイン工学と機械学習に関する基礎学習(8)	国内外の文献等の収集と講読 7
9	都市環境デザイン工学と機械学習に関する基礎学習(9)	国内外の文献等の収集と講読 8
10	都市環境デザイン工学と機械学習に関する基礎学習(10)	国内外の文献等の収集と講読 9
11	都市環境デザイン工学と機械学習に関する基礎学習(11)	国内外の文献等の収集と講読 10
12	都市環境デザイン工学と機械学習に関する基礎学習(12)	国内外の文献等の収集と講読 11
13	都市環境デザイン工学と機械学習に関する基礎学習(13)	国内外の文献等の収集と講読 12
14	都市環境デザイン工学と機械学習に関する基礎学習(14)	本授業で学んだ成果のとりまとめと総括発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外においては文献・書籍から修士論文テーマに関連する情報を収集し，自らの理解を促進するためにとりまとめる．本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定なし．

【参考書】
授業を通して適宜提供するとともに自らの学習を通して参考文献を収集する．

【成績評価の方法と基準】
授業時間外の自己啓発的な日々の学習への取組みにより評価する（100%）．

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
なし

【Outline (in English)】
[Course outline] The course focuses on foundational learning, investigation, and research in the selected specialized fields in civil and environmental design engineering and machine learning, with an emphasis on themes chosen by the students.
[Learning Objectives] This course aims to equip students with the knowledge and skills necessary to conduct research for their master's thesis. Through the collection and review of relevant domestic and international literature, field investigations, data collection, discussions, and research activities, students will develop a critical awareness of issues related to their thesis topic. Additionally, the course will foster fundamental problem-solving skills essential for advancing their research.
[Learning activities outside of classroom] Students are expected to gather and compile information related to their master's thesis topic from academic literature and books to enhance their understanding. The standard preparation and review time for this course is approximately two hours each.
[Grading Criteria /Policy] Evaluation will be based on the student's self-development and daily learning efforts outside of class time (100%).

CST600N3（土木工学 / Civil engineering 600）

都市環境デザイン工学研究４

内田　大介

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工学の分野のうち、自ら選択した各専門分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】
修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。
具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
各学生は個々に題目が与えられ，教員の直接指導をうけて，都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに，実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し，広く自由に応用できる能力を修得する。指導教員の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し，国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。橋梁などの鋼構造物を適切に設計・製作・架設し、長期間安全に維持することを目的とした研究を行う。このような範囲の中から、研究テーマを定め、構造物試験機や材料試験機を用いてモデル試験体の耐力試験を行い、強度・耐力を実験的に求めるとともに、有限要素法などの構造解析を通して、それらの評価方法について検討する。また、構造物の実態を把握するための現地調査なども行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(1)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。1
2	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(2)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。2
3	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(3)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。3
4	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(4)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。4
5	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(5)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。5
6	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(6)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。6
7	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(7)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。7
8	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(8)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。8
9	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(9)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。9
10	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(10)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。10
11	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(11)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。11
12	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(12)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。12
13	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(13)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。13
14	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(14)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関するの基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて10時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【参考書】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
主として自己啓発的な日々の学習への取組みにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【その他の重要事項】
造船・重機メーカーで鋼橋の設計や種々の鋼構造物に関する研究開発に携わっていた教員が指導する。

【Outline (in English)】
In this course students will investigate and study problems relevant to civil and environmental engineering. Students will determine which problems they wish to solve.
· Learning Objectives
The goals of this course are to acquire the knowledge and skills necessary to proceed with research for a master's thesis.
· Learning activities outside of classroom
Continued learning from a wide range of self-development perspectives. Standard study time is 10 hours for each class meeting.
· Grading Criteria
Grading will be decided based on attitude toward daily study.

CST600N3（土木工学 / Civil engineering 600）

都市環境デザイン工学研究４

高見　公雄

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工の分野のうち、自ら選択した各専門分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】
修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。
具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
(概要)　各学生は個々に題目が与えられ，教授の直接指導をうけて，都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに，実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し，広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し，国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。
　都市・地域レベルから小空間までといった空間の拡がり、また大都市から村落まで多様な都市状況など、幅広い都市デザインのフィールドへの理解を深めるとともに、それぞれのフィールドが抱える課題整理を行う。整理された課題を踏まえ、また現下の社会的な問題意識等を勘案して対応について検討すべき具体的な地区や地域を特定し、その状況分析と都市デザインの観点からの解決策について研究する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(1)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。1
2	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(2)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。2
3	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(3)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。3
4	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(4)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。4
5	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(5)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。5
6	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(6)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。6
7	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(7)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。7
8	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(8)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。8
9	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(9)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。9
10	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(10)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。10
11	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(11)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。11
12	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(12)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。12
13	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(13)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。13
14	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(14)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関するの基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【参考書】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
教員との研究面談時の提出資料（30％）とその口頭諮問（70％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。
研究指導は少人数、対面で行われ学生は随時質問などが可能である。また面談時以外については、Eメールにより対応する。

【Outline (in English)】
In this course students will investigate and study problems relevant to civil and environmental engineering. Students will determine which problems they wish to solve.
Grades will be based on a mid-term presentation (30%) and a summary presentation (70%).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST600N3（土木工学 / Civil engineering 600）

都市環境デザイン工学研究４

福井　恒明

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工学の分野のうち、自ら選択した景観工学・景観デザインに関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】
修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。
具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の緒テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
各学生は個々に題目が与えられ，教員の直接指導をうけて，都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに，実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し，広く自由に応用できる能力を修得する。指導教員の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し，国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。都市や地域における景観を対象に、その文化的背景・実状の把握・景観を構成する公共事業の仕組みや設計・都市計画関連制度の運用など多面的な議論にもとづき研究を行う。定められた研究テーマに関して、指導教員と議論しながら手法を検討する。文献調査・ヒアリング・アンケート・フィールドワーク・実験等の中からテーマに即した適切な方法によりデータを収集し、GISの活用や画像処理、統計処理等の分析を用いて考察を行う。これらにより景観保全・形成に資する知見について研究する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	取り組んだ研究の進捗状況確認	これまでの研究成果について確認し，再度課題の抽出を行い，研究の方向性を議論する．
2	継続的研究実施(1)	個別状況に応じて必要な追加作業（資料補足，実験実施，追加分析等）を行う．
3	継続的研究実施(2)	個別状況に応じて必要な追加作業（資料補足，実験実施，追加分析等）を行う．
4	継続的研究実施(3)	個別状況に応じて必要な追加作業（資料補足，実験実施，追加分析等）を行う．
5	継続的研究実施(4)	個別状況に応じて必要な追加作業（資料補足，実験実施，追加分析等）を行う．
6	論文の論理構成の確認(1)	最終的なまとめにむけて，方法の検討，データの収集や処理過程についてまとめ，指導教員に報告・議論する．
7	論文の論理構成の確認(2)	論文の目的と得られた結果についての対応を確認し，必要に応じて修正を行う
8	論文執筆(1)	研究の位置づけについて再度確認した上で論文として執筆する．
9	論文執筆(2)	用語の統一，図表表現の統一等に注意し，確認を行う．
10	論文執筆(3)	背景目的と結論の対応関係について注意し，確認を行う．
11	論文草稿完成	論文としての体裁を整える．自分で全体を読み直して修正を行う．
12	論文草稿チェック	論文草稿について主査の確認を受ける．必要に応じて修正する．
13	副査による指導	草稿をもとに副査の指導を受け，必要な修正を加える．
14	論文としての仕上げ	論文の体裁を整えて完成させる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関するの基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、１回につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し．

【参考書】
特に無し．各自のテーマや進捗状況に応じて紹介する．

【成績評価の方法と基準】
個別に指示する課題により評価する（100%）．60点以上を合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
各担当者の受講者が少数であるため、授業評価アンケートは実施しない科目となっている。

【その他の重要事項】
景観計画・景観デザインについての実務経験を持つ教員が、その経験を活かして、研究成果の都市環境デザインにおけるプロジェクトにおける適用を踏まえて指導する。
専任教員のオフィスアワーについては『履修の手引き』を参照すること。兼任教員のオフィスアワーは授業直後あるいはメール等で随時対応する。

【Outline (in English)】
Outline:
In this course students will investigate and study problems relevant to civil and environmental engineering. Students will determine which problems they wish to solve.
Objectives:
The goal is to acquire the knowledge and skills necessary to conduct research for the master's thesis.
Specifically, the goal is for students to form an awareness of issues related to their field of specialization and acquire rudimentary problem-solving skills through reading internal and external literature, field visits, discussions, surveys, and research on specific themes.
Learning activities outside of classroom:
Review of weekly classes, as well as a wide range of ongoing self-directed study, from basic knowledge of a particular topic to research-level assignments. The standard preparation and review time for this class is 4 hours per session.
Grading Criteria /Policy:
Assignments will be evaluated based on the individually assigned tasks (100%). 60 points or more will be considered as a passing grade.

CST600N3（土木工学 / Civil engineering 600）

都市環境デザイン工学研究４

酒井　久和

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工の分野のうち、地震減災分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】
修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。
具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
(概要)　各学生は個々に題目が与えられ，教授の直接指導をうけて，都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに，実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し，広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し，国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。
地震分野において、実問題を意識した減災に関わるテーマを取り扱う。文献研究、現地調査、土質試験、統計的分析、各種解析的手法による数値解析等に基づいて、諸問題の改善を目的とした研究を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(1)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。1
2	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(2)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。2
3	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(3)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。3
4	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(4)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。4
5	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(5)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。5
6	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(6)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。6
7	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(7)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。7
8	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(8)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。8
9	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(9)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。9
10	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(10)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。10
11	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(11)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。11
12	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(12)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。12
13	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(13)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。13
14	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(14)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関するの基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて10時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【参考書】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業時間外の自己啓発的な日々の学習への取組みにより評価する。取り組み（100%）
法政大学大学院基準に従いSからEまで12段階で評価する.

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
建設会社で設計，研究開発に携わっていた教員が，実社会の課題を紹介しながら研究指導を行っている.

【Outline (in English)】
In this course, students will investigate and study problems relevant to civil and environmental engineering. Students will determine which problems they wish to solve.
This class's standard preparation and review time is about 10 hours, respectively.
Grade evaluation will be conducted based on daily efforts (100%).

CST600N3（土木工学 / Civil engineering 600）

都市環境デザイン工学研究４

今井　龍一

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市プランニングや土木情報学に関わる研究テーマを対象として応用的な学習や調査・研究を行う．

【到達目標】
修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することを目標とする．修士論文テーマに関わる国内外の文献等の収集と講読，現地調査と情報収集，研究を進める上での議論や調査・研究などを通じてテーマに関する問題意識を形成し，問題解決のための応用能力を開発することを目標とする．
The objective of this course is to acquire the knowledge and skills necessary for advancing research related to the master's thesis. Through the collection and critical analysis of domestic and international literature relevant to the thesis topic, field surveys, data collection, discussions, and research activities, students will develop a critical awareness of key issues and enhance their ability to apply problem-solving skills in their respective fields.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
各学生は個々に題目が与えられ，教員の直接指導をうけて，都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに，実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し，広く自由に応用できる能力を修得する．指導教員の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し，国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される．
Each student is assigned an individual topic and receives direct guidance from the faculty. They thoroughly pursue fundamental discussions in various fields of urban environmental design engineering while also acquiring methodologies and approaches for practical creation. This enables them to develop the ability to apply their knowledge broadly and freely. Through advanced discussions and debates conducted in the advising professor's laboratory, students cultivate a refined technical perspective that allows them to objectively and critically evaluate their research from an international viewpoint.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(1)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。1
2	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(2)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。2
3	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(3)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。3
4	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(4)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。4
5	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(5)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。5
6	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(6)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。6
7	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(7)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。7
8	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(8)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。8
9	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(9)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。9
10	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(10)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。10
11	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(11)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。11
12	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(12)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。12
13	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(13)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。13
14	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(14)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外においては文献・書籍から修士論文テーマに関連する情報を収集し，自らの理解を促進するためにとりまとめる．本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
Outside of class, students will collect information related to their master's thesis topic from literature and books and compile it to enhance their understanding. The standard preparation and review time for this course is set at two hours each.

【テキスト（教科書）】
指定なし．

【参考書】
授業を通して適宜提供するとともに自らの学習を通して参考文献を収集する．

【成績評価の方法と基準】
中間発表（30%）と総括発表（70%）により評価する．

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
同分野での豊富な実務経験を有する教員が講義する。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」、NEDO「3次元空間情報基盤に関する研究開発」およびNEDO「空間ID・3次元空間情報基盤の活用人材育成に係る特別講座」で作成した教材を活用する。
オフィスアワー：金曜　12:20～13:00

【Outline (in English)】
The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.Applied learning, investigations, and research will be conducted, particularly focusing on research topics related to urban planning and civil engineering informatics.
The goal of this course is to acquire the knowledge and skills necessary to carry out research related to the master's thesis.
The goal is to develop an awareness of the issues related to the master's thesis theme through the collection and reading of domestic and international literature, field surveys and information gathering, and discussions, surveys and research in the course of the research, and to develop basic skills for problem solving.
Grades will be based on a mid-term presentation (30%) and a summary presentation (70%).

CST700N3（土木工学 / Civil engineering 700）

都市環境デザイン工学特別研究１_2014年度以降入学

今井　龍一

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工学分野の研究テーマに関する専門的な学習と調査・研究を継続し，研究の進展を図る。教員との議論を通して研究指導を受ける。

【到達目標】
博士論文に関わる研究を進めるために必要な専門的知識・能力を習得することを目標とする．具体的には博士論文テーマに関わる国内外の文献・資料の収集と購読，必要に応じて現地調査による情報収集を実施する。研究を進める上での議論や調査．研究を通じてテーマに関する問題意識を形成，問題解決のための応用能力を身につけることを目標とする。
The objective of this course is to acquire the specialized knowledge and skills necessary to advance research related to the doctoral dissertation. Specifically, students will collect and review domestic and international literature and materials related to their dissertation topic and conduct field surveys when necessary to gather relevant information. Through discussions, investigations, and research, students will develop a strong awareness of key issues within their research topic and enhance their ability to apply problem-solving skills effectively.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学研究科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
各学生は，教員の直接指導をうけて，都市環境デザイン工学の各専門分野での研究を進めるための方法や考え方をより深く学び，様々な問題へ応用し総合的に解決する能力を修得する。所属研究室での論議・討論を通じ，国際的な視野で研究内容を広く客観的に考えるための科学技術的素養が育成される。都市環境デザイン工学分野に関する書籍・文献を購読かつ現地調査を通じて，担当教員との議論を通して理解を深める。また，当該分野の国内外の研究動向を調査し，博士論文テーマの研究を進める。
Each student will receive direct guidance from faculty members to deepen their understanding of research methodologies and perspectives in various specialized fields of urban environmental design engineering. They will develop the ability to comprehensively apply their knowledge to solve diverse problems. Through discussions and debates within their affiliated research laboratories, students will cultivate a scientific and technological foundation that enables them to analyze research content objectively from an international perspective.
Students will engage in reading books and literature related to urban environmental design engineering, conduct field surveys, and enhance their understanding through discussions with their supervising faculty members. Additionally, they will investigate domestic and international research trends in the field to advance their doctoral dissertation research.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究(1)	国内外の文献・資料の収集と購読1
2	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究(2)	国内外の文献・資料の収集と購読2
3	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究(3)	国内外の文献・資料の収集と購読3
4	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究(4)	国内外の文献・資料の収集と購読4
5	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究(5)	国内外の文献・資料の収集と購読5
6	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究(6)	国内外の文献・資料の収集と購読6
7	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究(7)	学習成果の中間報告
8	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究(8)	国内外の文献・資料の収集と購読7
9	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究(9)	国内外の文献・資料の収集と購読8
10	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究(10)	国内外の文献・資料の収集と購読9
11	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究(11)	国内外の文献・資料の収集と購読10
12	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究(12)	国内外の文献・資料の収集と購読11
13	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究(13)	国内外の文献・資料の収集と購読12
14	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究(14)	本授業で学んだ成果の最終報告のとりまとめと発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特定テーマに関するの専門的な知識から研究レベルの問題解決能力の形成までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
This course promotes a broad and continuous self-directed learning approach, ranging from acquiring specialized knowledge on specific topics to developing problem-solving skills at a research level. The standard preparation and review time for this course is set at two hours each.

【テキスト（教科書）】
特になし。適宜指示する。
None in particular. Instructions will be given as necessary.

【参考書】
特になし。適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
自己啓発的な日々の調査・研究への取組みにより評価する(100%)。
Evaluation will be based entirely (100%) on students' self-directed daily research and investigative efforts.

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
同分野での豊富な実務経験を有する教員が講義する。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」、NEDO「3次元空間情報基盤に関する研究開発」およびNEDO「空間ID・3次元空間情報基盤の活用人材育成に係る特別講座」で作成した教材を活用する。
オフィスアワー：A期　水曜　12:20～13:00、B期　木曜　12:20～13:00

【Outline (in English)】
Continue professional study and research on research topics in the field of civil and environmental engineering. The students will be supervised through discussion with their professor. The goal is to acquire in depth the specialized knowledge and abilities necessary to carry out research related to the doctoral dissertation.

CST700N3（土木工学 / Civil engineering 700）

都市環境デザイン工学特別研究2_2014年度以降入学

今井　龍一

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工学分野の研究テーマに関する専門的な学習と調査・研究を継続し，研究の進展を図る。教員との議論を通して研究指導を受ける。

【到達目標】
博士論文に関わる研究を進めるために必要な専門的知識・能力をより深く習得することを目標とする．具体的には博士論文テーマに関わる国内外の文献・資料の収集と購読，必要に応じて現地調査による情報収集を実施する。研究を進める上での議論や調査．研究を通じてテーマに関する問題意識を深め，問題解決のための総合能力を身につけることを目標とする。
The objective of this course is to further deepen the acquisition of specialized knowledge and skills necessary to advance research related to the doctoral dissertation. Specifically, students will collect and review domestic and international literature and materials related to their dissertation topic and conduct field surveys when necessary to gather relevant information. Through discussions, investigations, and research, students will deepen their awareness of key issues within their research topic and develop comprehensive problem-solving abilities.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学研究科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
各学生は，教員の直接指導をうけて，都市環境デザイン工学の各専門分野での研究を進めるための方法や考え方をより深く学び，様々な問題へ応用し総合的に解決する能力を修得する。所属研究室での論議・討論を通じ，国際的な視野で研究内容を広く客観的に考えるための科学技術的素養が育成される。都市環境デザイン工学分野に関する書籍・文献を購読かつ現地調査を通じて，担当教員との議論を通して理解を深める。また，当該分野の国内外の研究動向を調査し，博士論文テーマの研究を進める。
Each student will receive direct guidance from faculty members to deepen their understanding of research methodologies and perspectives in various specialized fields of urban environmental design engineering. They will develop the ability to comprehensively apply their knowledge to solve diverse problems. Through discussions and debates within their affiliated research laboratories, students will cultivate a scientific and technological foundation that enables them to analyze research content objectively from an international perspective.
Students will engage in reading books and literature related to urban environmental design engineering, conduct field surveys, and enhance their understanding through discussions with their supervising faculty members. Additionally, they will investigate domestic and international research trends in the field to advance their doctoral dissertation research.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究(1)	国内外の文献・資料の収集と購読1
2	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究(2)	国内外の文献・資料の収集と購読2
3	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究(3)	国内外の文献・資料の収集と購読3
4	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究(4)	国内外の文献・資料の収集と購読4
5	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究(5)	国内外の文献・資料の収集と購読5
6	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究(6)	国内外の文献・資料の収集と購読6
7	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究(7)	学習成果の中間報告
8	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究(8)	国内外の文献・資料の収集と購読7
9	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究(9)	国内外の文献・資料の収集と購読8
10	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究(10)	国内外の文献・資料の収集と購読9
11	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究(11)	国内外の文献・資料の収集と購読10
12	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究(12)	国内外の文献・資料の収集と購読11
13	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究(13)	国内外の文献・資料の収集と購読12
14	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究(14)	本授業で学んだ成果の最終報告のとりまとめと発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特定テーマに関するの専門的な知識から研究レベルの問題解決能力の形成までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
This course promotes a broad and continuous self-directed learning approach, ranging from acquiring specialized knowledge on specific topics to developing problem-solving skills at a research level. The standard preparation and review time for this course is set at two hours each.

【テキスト（教科書）】
特になし。適宜指示する。
None in particular. Instructions will be given as necessary.

【参考書】
特になし。適宜指示する。
None in particular. Instructions will be given as necessary.

【成績評価の方法と基準】
自己啓発的な日々の調査・研究への取組みにより評価する(100%)。
Evaluation will be based entirely (100%) on students' self-directed daily research and investigative efforts.

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
同分野での豊富な実務経験を有する教員が講義する。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」、NEDO「3次元空間情報基盤に関する研究開発」およびNEDO「空間ID・3次元空間情報基盤の活用人材育成に係る特別講座」で作成した教材を活用する。
オフィスアワー：金曜　12:20～13:00

【Outline (in English)】
Continue professional study and research on research topics in the field of civil and environmental engineering. The students will be supervised through discussion with their professor. The goal is to acquire in depth the specialized knowledge and abilities necessary to carry out research related to the doctoral dissertation.

CST600N3（土木工学 / Civil engineering 600）

修士論文（都市）

今井　龍一

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工学分野の研究テーマに関する専門的な学習と調査・研究を継続し，研究の進展を図る。教員との議論を通して研究指導を受ける。

【到達目標】
修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。
具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。
The objective is to acquire the knowledge and skills necessary to advance research related to the master's thesis. Specifically, students will engage in reading and analyzing domestic and international literature related to their field of study, conducting field visits, participating in discussions on specific topics, and carrying out investigative research. Through these activities, they will develop an awareness of key issues in their specialized field and gain fundamental problem-solving skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
各学生は個々に題目が与えられ，教授の直接指導をうけて，都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに，実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し，広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し，国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。
Each student is assigned an individual research topic and receives direct guidance from a professor. They will thoroughly pursue fundamental discussions in their respective fields of urban environmental design engineering while also acquiring methodologies and perspectives necessary for practical creation. This will enable them to develop the ability to apply their knowledge broadly and flexibly.
Through advanced discussions and debates conducted in the advising professor's laboratory, students will cultivate a refined technical perspective that allows them to objectively and critically evaluate their research from an international viewpoint.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(1)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。1
2	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(2)	同上特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。2
3	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(3)	同上特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。3
4	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(4)	同上特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。4
5	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(5)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。5
6	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(6)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。6
7	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(7)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。7
8	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(8)	同上特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。8
9	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(9)	同上特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。9
10	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(10)	同上特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。10
11	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(11)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。11
12	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(12)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。12
13	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(13)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。13
14	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(14)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関するの基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、各5時間を標準とします。
This course promotes a broad and continuous self-directed learning approach, ranging from acquiring specialized knowledge on specific topics to developing problem-solving skills at a research level. The standard preparation and review time for this course is set at five hours each.

【テキスト（教科書）】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。
None in particular. Instructions will be given as necessary.

【参考書】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。
None in particular. Instructions will be given as necessary.

【成績評価の方法と基準】
授業時間外の自己啓発的な日々の学習への取組み30%，論文50%，発表20%により評価する。本大学院基準に従いSからEまで12段階で評価する。
Evaluation will be based on self-directed daily learning outside of class (30%), the thesis (50%), and presentations (20%). Grading will follow the graduate school's standards, using a 12-level scale from S to E.

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
建設会社で設計，研究開発に携わっていた教員が，実社会の課題を紹介しながら研究指導を行っている．
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」、NEDO「3次元空間情報基盤に関する研究開発」およびNEDO「空間ID・3次元空間情報基盤の活用人材育成に係る特別講座」で作成した教材を活用する。
オフィスアワー：金曜　12:20～13:00

【Outline (in English)】
Students will continue specialized learning, investigations, and research on their chosen topic in the field of urban environmental design engineering to advance their studies. They will receive research guidance through discussions with faculty members.

CST600N3（土木工学 / Civil engineering 600）

修士論文（都市）

高見　公雄

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工の分野のうち、自ら選択した各専門分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】
修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。
具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
各学生は個々に題目が与えられ，教員の直接指導をうけて，都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに，実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し，広く自由に応用できる能力を修得する。指導教員の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し，国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(1)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。1
2	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(2)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。2
3	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(3)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。3
4	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(4)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。4
5	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(5)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。5
6	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(6)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。6
7	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(7)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。7
8	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(8)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。8
9	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(9)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。9
10	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(10)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。10
11	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(11)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。11
12	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(12)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。12
13	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(13)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。13
14	都市環境デザイン工学に関する調査・研究(14)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関するの基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【参考書】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
主として授業時間外の自己啓発的な日々の学習への取組み(30%)、レポート(50%)、プレゼンテーション(30%)により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。
研究指導は少人数、対面で行われ学生は随時質問などが可能である。また面談時以外については、Eメールにより対応する。

【Outline (in English)】
In this course students will write a thesis describing their problems and their solutions. The problems to solve are determined by students.
The goal is to develop an awareness of the issues related to the master's thesis theme through the collection and reading of domestic and international literature, field surveys and information gathering, and discussions, surveys and research in the course of the research, and to develop basic skills for problem solving.
Students will be graded on the basis of 30%for self-development in daily study outside class time, 50%for papers, and 20%for presentations. Evaluation will be made according to the Hosei University Graduate School Standards.

CST600N3（土木工学 / Civil engineering 600）

修士論文（都市）

溝渕　利明

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工の分野のうち、自ら選択した各専門分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】
都市環境デザイン工学研究１～４にて修得した知識やスキルをもとに、これまでの研究成果を学術論文としての修士論文にとりまとめることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
各学生は個々に題目が与えられ，教員の直接指導をうけて，都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに，実地にものづくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し，広く自由に応用できる能力を修得する。指導教員の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し，国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。当研究室では都市や地域における景観を対象に、その文化的背景・実状の把握・景観を構成する公共事業の仕組みや設計・都市計画関連制度の運用など多面的な議論にもとづき研究を行う。定められた研究テーマに関して、指導教員と議論しながら手法を検討する。文献調査・ヒアリング・アンケート・フィールドワーク・実験等の中からテーマに即した適切な方法によりデータを収集し、GISの活用や画像処理、統計処理等の分析を用いて考察を行う。これらにより景観保全・形成に資する知見について研究する。
都市環境デザイン工学研究１～４を通じて取り組んできた修士論文の研究目的を達成し、論文執筆計画に基づいて国内外の研究集会や学術誌への発表を前提として研究成果をとりまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究テーマの決定	研究の目的・対象を定める.
2	既往研究レビュー	研究テーマに関する既往研究についてレビューし，研究の位置づけを確認する.
3	研究の構成及び方法の検討	研究目的を達成するための論理的な構成や具体的な方法について吟味し，決定する.
4	文献収集・調査・実験等の実施(1)	研究に必要なデータを収集するための文献収集・調査・実験等を行う.
5	文献収集・調査・実験等の実施(2)	研究に必要なデータを収集するための文献収集・調査・実験等を行う.
6	文献収集・調査・実験等の実施(3)	研究に必要なデータを収集するための文献収集・調査・実験等を行う.
7	分析・考察(1)	得られたデータについて整理・分析し，その結果についての考察を行う.
8	分析・考察(2)	得られたデータについて整理・分析し，その結果についての考察を行う.
9	中間取りまとめ	ここまでに得られた成果について取りまとめた上で，今後必要な作業について確認・検討を行う
10	追加作業(1)	各自の状況に応じて追加作業を行う
11	追加作業(2)	各自の状況に応じて追加作業を行う
12	研究取りまとめ	研究成果を論文形式にとりまとめる.
13	研究取りまとめ	研究成果を論文形式にとりまとめる.
14	研究とりまとめと発表準備	修士論文審査会での発表準備について指導教員の指導を受ける.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関するの基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、１回につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし.

【参考書】
特に無し．各自のテーマや進捗状況により紹介する.

【成績評価の方法と基準】
提出された論文の内容（60%），審査会での発表・質疑の内容（40%）により評価し，全体で60%以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
該当無し.

【その他の重要事項】
景観計画・景観デザインについての実務経験を持つ教員が、その経験を活かして、研究成果の都市環境デザインにおけるプロジェクトにおける適用を踏まえて指導する。
土木構造物の設計，施工，維持管理について実務経験が豊富な教員が，それまでの経験名とを生かした研究指導を行っていく。

【Outline (in English)】
In this course students will write a thesis describing their problems and their solutions. The problems to solve are determined by students.
Learning Objectives
Based on the knowledge and skills acquired in Urban Environmental Design Engineering Research 1-4, the goal is to summarize the research results so far in a master's thesis as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Weekly class review and a wide range of self-development continuing learning, from basic knowledge on specific topics to research-level assignments. The standard time for preparation and review for this class is 4 hours per session.
Grading Criteria /Policy
Evaluation will be based on the content of the submitted thesis (60%) and the content of the presentation and question-and-answer session (40%).

CST600N3（土木工学 / Civil engineering 600）

修士論文（都市）

鈴木　善晴

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工学の専門分野のうち，水工学の分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や，プログラミングや数値シミュレーション等に関する基本的なスキルを習得するとともに，各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで，修士論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す．

【到達目標】

各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する．また，演習課題への取り組みを通じてプログラミングや数値シミュレーション等に関する基本的なスキルを習得する．さらには，各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め，修士論文の執筆へ向けた研究計画を自ら立案・実行することができるように各自のレベルアップ（問題解決能力の向上）を図ることが本授業における到達目標となる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

水工学の分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む．既往研究のレビューや数値モデルの理解，各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに，指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め，学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての修士論文の執筆を目指す．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得(1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
②	基礎知識の習得(2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
③	基礎知識の習得(3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
④	基礎知識の習得(4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得(5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得(1)	プログラミングや数値シミュレーション等に関する課題演習，各種分析手法に関する課題演習
⑦	基本スキルの習得(2)	プログラミングや数値シミュレーション等に関する課題演習，各種分析手法に関する課題演習
⑧	基本スキルの習得(3)	プログラミングや数値シミュレーション等に関する課題演習，各種分析手法に関する課題演習
⑨	基本スキルの習得(4)	プログラミングや数値シミュレーション等に関する課題演習，各種分析手法に関する課題演習
⑩	基本スキルの習得(5)	プログラミングや数値シミュレーション等に関する課題演習，各種分析手法に関する課題演習
⑪	課題への取り組み(1)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み(2)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み(3)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み(4)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに関するの基礎的な知識の習得，プログラミングや数値シミュレーション等に関する基本的なスキルの習得，および具体的な研究課題への取り組みなど，授業時間外における幅広い継続学習が必要である（本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする）．

【テキスト（教科書）】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【参考書】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【成績評価の方法と基準】

日常的な学習・研究への取組み状況を50％，知識やスキルの習得状況および得られた研究成果を50％として総合的に評価を行う．

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

In this course, students will write a thesis describing their problems and their solutions. The problems to solve are determined by students. Before/after each activity in the lab, students will be expected to spend four hours to study about research technique and knowledge. Grading will be decided based on the students' performance including research results (50%), and students' acquired skills in the lab (50%).

OTR600N4（その他 / Others 600）

システムデザイン修士研修１

安積　伸

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学位取得のための研究の基盤となる知識やスキルを修得し，参考文献や研究分野の関連情報のサーベイ作業などを通して基礎力を涵養する。とくに、修士１年生の最初である、このシステムデザイン研修１では、幅広い視点からのアプローチを試み、その研究の妥当性を学ぶ。

【到達目標】
修士学位論文の作成にあたり必要となる関連事項を指導教員からの個別指導を受ける．
この修士研修１では、少なくとも修士論文としてどのようなテーマが相応しいか、関連研究（成果物）にどのようなものがあるかを知ることを目標とする。とくに、そのrationale(必然性、理論的根拠、妥当性）について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員の個別指導の下に、必要となる研修を行う。これは最終的な修士論文のテーマ、学生本人の意向や能力によって内容は異なる。それぞれ内容や進捗スピード、目標は学生により異なるものとなる。指導教員と学生がマンツーマンで相談・議論しながら進めることになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士研修１(春学期）を取り組む心構えやその意義について解説し，必要な関連事項の概要について述べる．
2	Rationale　の概念	新しい研究や作品については、それが必要であるというRationale（論理的根拠、正当性）と呼ばれるものが必要である。Rationale に関する導入教育を行う。
3	Rationale Case Study-1A	関連する研究（case1) をひとつ取り上げ、その　rationale を考察する。
4	Rationale Case Study-1B	case１について、より深くその rationale を考察する。
5	Rationale Case Study-2A	関連する研究（case２) をひとつ取り上げ、そのrationale を考察する。
6	Rationale Case Study-2B	case ２　について、より深くその rationale を考察する。
7	Rationale Case Study-3A	関連する研究（case３) をひとつ取り上げ、そのrationale を考察する。
8	Rationale Case Study-3B	case ３について、より深くその rationale を考察する。
9	Rationale Case Study-4A	関連する研究（case４) をひとつ取り上げ、そのrationale を考察する。
10	Rationale Case Study-4B	case ４について、より深くその rationale を考察する。
11	Rationale Case Study-5A	関連する研究（case５) をひとつ取り上げ、そのrationale を考察する。
12	Rationale Case Study-5B	case ５ について、より深くその rationale を考察する。
13	Rationale Case Study-６	関連する研究（case６) をひとつ取り上げ、そのrationale を考察する。
14	まとめ	新しい研究は、どうあるべきかについての総合議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、各自が調査し、考察する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導教員から指示・配布

【参考書】
指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】
与えられた課題に対する、解析・分析能力などを判断基準として，担当教員が総合的に評価する．
成績基準は、総合点90点以上をSとし、
89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-
79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-
69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-
60点未満をD、未受験をEとする。

【学生の意見等からの気づき】
個別指導科目のためアンケートを実施していない．

【その他の重要事項】
プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で培った知識・経験・考え方に基づいた指導を行う。

【Outline (in English)】
This course commences with an introduction to the knowledge and skills for establishing the basis of studies for a master's degree. It then cultivates that foundation through surveys of relevant references and information in the specific research field for each student. This first part of the course 'System Design Training 1' will provide students with opportunities to take various approaches from different perspectives and to validate the studies.

OTR600N4（その他 / Others 600）

システムデザイン修士研修１

姜　理恵

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学位取得のための研究の基盤となる知識やスキルの修得し，参考文献や研究分野の関連情報のサーベイ作業などを通して基礎力を涵養する。とくに、修士１年生の最初である、このシステムデザイン研修１では、幅広い視点からのアプローチを試み、その研究の妥当性を学ぶ。

【到達目標】
修士学位論文の作成にあたり必要となる関連事項を指導教員からの個別指導を受ける.
この修士研修１では、少なくとも修士論文としてどのようなテーマが相応しいか、関連研究（成果物）にどのようなものがあるかを知ることを目標とする。とくに、そのrationale(必然性、理論的根拠、妥当性）について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員の個別指導の下に、必要となる研修を行う。これは最終的な修士論文のテーマ、学生本人の意向や能力によって内容は異なる。それぞれ内容や進捗スピード、目標は学生により異なるものとなる。指導教員と学生がマンツーマンで相談・議論しながら進めることになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士研修１(春学期）を取り組む心構えやその意義について解説し，必要な関連事項の概要について述べる.
2	Rationale　の概念	新しい研究や作品については、それが必要であるというRationale（論理的根拠、正当性）と呼ばれるものが必要である。Rationale に関する導入教育を行う。
3	Rationale Case Study-1A	関連する研究（case1) をひとつ取り上げ、その　rationale を考察する。
4	Rationale Case Study-1B	case１について、より深くその rationale を考察する。
5	Rationale Case Study-2A	関連する研究（case２) をひとつ取り上げ、そのrationale を考察する。
6	Rationale Case Study-2B	case ２　について、より深くその rationale を考察する。
7	Rationale Case Study-3A	関連する研究（case３) をひとつ取り上げ、そのrationale を考察する。
8	Rationale Case Study-3B	case ３について、より深くその rationale を考察する。
9	Rationale Case Study-4A	関連する研究（case４) をひとつ取り上げ、そのrationale を考察する。
10	Rationale Case Study-4B	case ４について、より深くその rationale を考察する。
11	Rationale Case Study-5A	関連する研究（case５) をひとつ取り上げ、そのrationale を考察する。
12	Rationale Case Study-5B	case ５ について、より深くその rationale を考察する。
13	Rationale Case Study-６A	関連する研究（case６) をひとつ取り上げ、そのrationale を考察する。
14	Rationale Case Study-６B まとめ	case ６について、より深くその rationale を考察する。 新しい研究は、どうあるべきかについての総合議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、各自が調査し、考察する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導教員から指示・配布

【参考書】
指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】
与えられた課題に対する、解析・分析能力などを判断基準として，担当教員が総合的に評価する.
成績基準は次の通り.
A+(100-95)，A(94-80)，B(79-70)，C(69-60)，D(59-0)，E(未受験)

【学生の意見等からの気づき】
個別指導科目のためアンケートを実施していない.

【その他の重要事項】
■イタリア、日本でプロダクトデザイナー実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の基礎知識・手法を指導する。

【Outline (in English)】
In Master's Training 1, students receive individual guidance from their supervising advisor regarding preparation for their master's degree dissertation.

OTR600N4（その他 / Others 600）

システムデザイン修士研修２

安積　伸

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学位取得のための研究の基盤となる知識やスキルの修得し，参考文献や研究分野の関連情報のサーベイ作業などを通して基礎力を涵養する。とくに、修士１年生の秋学期である、このシステムデザイン研修２では、研究の手法や必要となる基礎知識、理論、テクニック、スキルに関する研修を行う。

【到達目標】
修士学位論文の作成にあたり必要となる関連事項を指導教員からの個別指導を受ける．
この修士研修２では、少なくとも修士論文作成の研究を遂行する上で必要となる、基礎知識、スキルに関するトレーニングを行う。研究に必要となる基礎知識およびスキルのもっとも基本的なものを身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員の個別指導の下に、必要となる研修を行う。これは最終的な修士論文のテーマ、学生本人の意向や能力によって内容は異なる。それぞれ内容や進捗スピード、目標は学生により異なるものとなる。指導教員と学生がマンツーマンで相談・議論しながら進めることになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士研修2(秋学期）を取り組む心構えやその意義について解説し，必要な関連事項の概要について述べる.
2	関連する分野の研究論文の調査１（研究論文１）	関連する研究論文（論文１）を取り上げ、そこで用いられている、用語・理論・テクニック・スキル等をピックアップする。
3	研究論文１の専門用語	当該研究に関連する専門用語に関して調査を行う。
4	研究論文１の理論１	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
5	研究論文１の理論２	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
6	研究論文１のテクニック	研究論文１で用いられているテクニックについて、学び、それを練習する。
7	研究論文１のスキル	研究論文１で用いられているスキルについて、学び、それを練習する。
8	関連する分野の研究論文の調査２（研究論文２）	関連する研究論文（論文２）を取り上げ、そこで用いられている、用語・理論・テクニック・スキル等をピックアップする。
9	研究論文２の専門用語	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
10	研究論文２の理論１	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
11	研究論文２の理論２	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
12	研究論文２のテクニック	研究論文２で用いられているテクニックについて、学び、それを練習する。
13	研究論文２のスキル	研究論文２で用いられているスキルについて、学び、それを練習する。
14	まとめ	研究遂行には、新しい理論やテクニック、スキルを学ぶ必要があることを理解させ、その自己学習方法を示す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献の調査
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導教員から配布

【参考書】
指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】
修士課程前半（後期）を通じて，各専門領域分野におけるプロジェクトテーマの立案能力や解析・分析能力などを判断基準として，担当教員が総合的に評価する．
成績基準は、総合点90点以上をSとし、
89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-
79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-
69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-
60点未満をD、未受験をEとする。

【学生の意見等からの気づき】
個別指導科目のため，アンケートを実施していない．

【その他の重要事項】
プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で培った知識・経験・考え方に基づいた指導を行う。

【Outline (in English)】
This course commences with an introduction to the knowledge and skills for establishing the basis of studies for a master's degree. It then cultivates that foundation through surveys of relevant references and information in the specific research field for each student. This second part of the course 'System Design Training 2' held during the autumn semester of the first year will provide students with the necessary research methods, necessary rudimentary knowledge, theory, techniques and skills.

OTR600N4（その他 / Others 600）

システムデザイン修士研修２

姜　理恵

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学位取得のための研究の基盤となる知識やスキルの修得し，参考文献や研究分野の関連情報のサーベイ作業などを通して基礎力を涵養する。とくに、修士１年生の秋学期である、このシステムデザイン研修２では、研究の手法や必要となる基礎知識、理論、テクニック、スキルに関する研修を行う。

【到達目標】
修士学位論文の作成にあたり必要となる関連事項を指導教員からの個別指導を受ける．
この修士研修２では、少なくとも修士論文作成の研究を遂行する上で必要となる、基礎知識、スキルに関するトレーニングを行う。研究に必要となる基礎知識およびスキルのもっとも基本的なものを身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員の個別指導の下に、必要となる研修を行う。これは最終的な修士論文のテーマ、学生本人の意向や能力によって内容は異なる。それぞれ内容や進捗スピード、目標は学生により異なるものとなる。指導教員と学生がマンツーマンで相談・議論しながら進めることになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士研修2(秋学期）を取り組む心構えやその意義について解説し，必要な関連事項の概要について述べる.
2	関連する分野の研究論文の調査１（研究論文１）	関連する研究論文（論文１）を取り上げ、そこで用いられている、用語・理論・テクニック・スキル等をピックアップする。
3	研究論文１の専門用語	当該研究に関連する専門用語に関して調査を行う。
4	研究論文１の理論１	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
5	研究論文１の理論２	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
6	研究論文１の理論3	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
7	研究論文１のテクニック	研究論文１で用いられているテクニックについて、学び、それを練習する。
8	研究論文１のスキル	研究論文１で用いられているスキルについて、学び、それを練習する。
9	関連する分野の研究論文の調査２（研究論文２）	関連する研究論文（論文２）を取り上げ、そこで用いられている、用語・理論・テクニック・スキル等をピックアップする。
10	研究論文２の専門用語	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
11	研究論文２の理論１	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
12	研究論文２の理論２	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
13	研究論文２のテクニック、スキル	研究論文２で用いられているテクニック、スキルについて、学び、それを練習する。
14	まとめ	研究遂行には、新しい理論やテクニック、スキルを学ぶ必要があることを理解させ、その自己学習方法を示す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献の調査
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導教員から配布

【参考書】
指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】
修士課程前半（後期）を通じて，各専門領域分野におけるプロジェクトテーマの立案能力や解析・分析能力などを判断基準として，担当教員が総合的に評価する．

【学生の意見等からの気づき】
個別指導科目のため，アンケートを実施していない．

【Outline (in English)】
In Master's Training 2, students receive individual guidance from their supervising advisor regarding preparation for their master's degree dissertation.

OTR600N4（その他 / Others 600）

システムデザイン修士研修３

安積　伸

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
システムデザイン専攻における修士２年生春学期の修士研修３に取り組む心構えやその意義について解説し，必要な関連事項の概要について述べる。
とくに研究の論理構造や論旨展開の妥当性、問題設定と結論の在り方について学ぶ。

【到達目標】
修士学位論文の作成にあたり必要となる関連事項を指導教員からの個別指導を受ける.
この修士研修３では、少なくとも修士論文作成の研究を遂行する上で必要となる、論文の論理構成、結論導出に至るプロセスについて知ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員の個別指導の下に、必要となる研修を行う。これは最終的な修士論文のテーマ、学生本人の意向や能力によって内容は異なる。それぞれ内容や進捗スピード、目標は学生により異なるものとなる。指導教員と学生がマンツーマンで相談・議論しながら進めることになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士研修３(春学期）を取り組む心構えやその意義について解説し，必要な関連事項の概要について述べる.
2	関連する分野の研究論文の調査１（研究論文１）	関連する研究論文（論文１）を取り上げ、そこでの論旨展開、結論に至るプロセス、問題設定と結論の妥当性を検討する。
3	研究論文１の論旨展開	当該論文の論理構造、論旨展開について考察し、論文の論理構造はどうあるべきかを学ぶ。
4	研究論文１の結論導出方法とその記述	当該論文の結論を導出プロセスおよびその妥当性、記述方法を学ぶ。
5	研究論文１の問題設定と結論	当該論文の問題設定と得られた結論の関係を考察し、その妥当性を検証する。
6	関連する分野の研究論文の調査２（研究論文２）	関連する研究論文（論文２）を取り上げ、そこでの論旨展開、結論に至るプロセス、問題設定と結論の妥当性を検討する。
7	研究論文２の論旨展開	当該論文の論理構造、論旨展開について考察し、論文の論理構造はどうあるべきかを学ぶ。
8	研究論文２の結論導出方法とその記述	当該論文の結論を導出プロセスおよびその妥当性、記述方法を学ぶ。
9	研究論文２の問題設定と結論	当該論文の問題設定と得られた結論の関係を考察し、その妥当性を検証する。
10	関連する分野の研究論文の調査３（研究論文３）	関連する研究論文（論文３）を取り上げ、そこでの論旨展開、結論に至るプロセス、問題設定と結論の妥当性を検討する。
11	研究論文３の論旨展開	当該論文の論理構造、論旨展開について考察し、論文の論理構造はどうあるべきかを学ぶ。
12	研究論文３の結論導出方法とその記述	当該論文の結論を導出プロセスおよびその妥当性、記述方法を学ぶ
13	研究論文３の問題設定と結論	当該論文の問題設定と得られた結論の関係を考察し、その妥当性を検証する。
14	まとめ 論文の論理構造と、その記述方法 問題設定と、その結論の対応関係	研究論文（リポート）を作成する上で重要となる、論理構造と記述方法、問題設定の在り方、対応する結論に在り方についてについて纏める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献の調査
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導教員から配布

【参考書】
指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】
修士課程後半（前期）を通じて，各専門領域分野におけるプロジェクトテーマの立案能力や解析・分析能力などを判断基準として，担当教員が総合的に評価する.
成績基準は、総合点90点以上をSとし、
89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-
79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-
69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-
60点未満をD、未受験をEとする。

【学生の意見等からの気づき】
個別指導科目のためアンケートを実施していない.

【その他の重要事項】
プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で培った知識・経験・考え方に基づいた指導を行う。

【Outline (in English)】
This course will prepare students for the ‘System Design Training 3’ course in the spring semester of the second year of a master’s degree. It provides students with its significance and a summary of related issues, focusing on the logical structure of studies, validity of argument, problem setting and drawing conclusions.

OTR600N4（その他 / Others 600）

システムデザイン修士研修３

姜　理恵

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
システムデザイン専攻における修士２年生春学期の修士研修３に取り組む心構えやその意義について解説し，必要な関連事項の概要について述べる。
とくに研究の論理構造や論旨展開の妥当性、問題設定と結論の在り方について学ぶ。

【到達目標】
修士学位論文の作成にあたり必要となる関連事項を指導教員からの個別指導を受ける.
この修士研修３では、少なくとも修士論文作成の研究を遂行する上で必要となる、論文の論理構成、結論導出に至るプロセスについて知ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員の個別指導の下に、必要となる研修を行う。これは最終的な修士論文のテーマ、学生本人の意向や能力によって内容は異なる。それぞれ内容や進捗スピード、目標は学生により異なるものとなる。指導教員と学生がマンツーマンで相談・議論しながら進めることになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士研修３(春学期）を取り組む心構えやその意義について解説し，必要な関連事項の概要について述べる.
2	関連する分野の研究論文の調査１（研究論文１）	関連する研究論文（論文１）を取り上げ、そこでの論旨展開、結論に至るプロセス、問題設定と結論の妥当性を検討する。
3	研究論文１の論旨展開	当該論文の論理構造、論旨展開について考察し、論文の論理構造はどうあるべきかを学ぶ。
4	研究論文１の結論導出方法とその記述	当該論文の結論を導出プロセスおよびその妥当性、記述方法を学ぶ。
5	研究論文１の問題設定と結論	当該論文の問題設定と得られた結論の関係を考察し、その妥当性を検証する。
6	関連する分野の研究論文の調査２（研究論文２）	関連する研究論文（論文２）を取り上げ、そこでの論旨展開、結論に至るプロセス、問題設定と結論の妥当性を検討する。
7	研究論文２の論旨展開	当該論文の論理構造、論旨展開について考察し、論文の論理構造はどうあるべきかを学ぶ。
8	研究論文２の結論導出方法とその記述	当該論文の結論を導出プロセスおよびその妥当性、記述方法を学ぶ。
9	研究論文２の問題設定と結論	当該論文の問題設定と得られた結論の関係を考察し、その妥当性を検証する。
10	関連する分野の研究論文の調査３（研究論文３）	関連する研究論文（論文３）を取り上げ、そこでの論旨展開、結論に至るプロセス、問題設定と結論の妥当性を検討する。
11	研究論文３の論旨展開	当該論文の論理構造、論旨展開について考察し、論文の論理構造はどうあるべきかを学ぶ。
12	研究論文３の結論導出方法とその記述	当該論文の結論を導出プロセスおよびその妥当性、記述方法を学ぶ
13	研究論文３の問題設定と結論	当該論文の問題設定と得られた結論の関係を考察し、その妥当性を検証する。
14	まとめ	研究論文（リポート）を作成する上で重要となる、その論理構造と、その記述方法、問題設定の在り方、対応する結論に在り方について纏める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献の調査
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導教員から配布

【参考書】
指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】
修士課程後半（前期）を通じて，各専門領域分野におけるプロジェクトテーマの立案能力や解析・分析能力などを判断基準として，担当教員が総合的に評価する.
成績基準は次の通り.
A+(100-95)，A(94-80)，B(79-70)，C(69-60)，D(59-0)，E(未受験)

【学生の意見等からの気づき】
個別指導科目のためアンケートを実施していない.

【Outline (in English)】
This course will prepare students for ‘System Design Training 3’ in the spring semester of the second year of their master’s degree. It provides students with the significance and the summary of the related topics, focusing on the logical structure of studies, validity of arguments, problem setting and drawing conclusions.

OTR600N4（その他 / Others 600）

システムデザイン修士研修４

安積　伸

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　システムデザイン専攻における修士２年生秋学期の修士研修４に取り組む心構えやその意義について解説し，必要な関連事項の概要（類似分野調査・周辺研究分野調査と体系化）について述べる．

【到達目標】
修士学位論文の作成にあたり必要となる関連事項を指導教員からの個別指導を受ける．
この修士研修４では、少なくとも修士論文作成の研究を遂行する上で必要となる、周辺分野を含めた研究分野調査と、その体系化を行うことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
　指導教員の個別指導の下に、必要となる研修を行う。これは最終的な修士論文のテーマ、学生本人の意向や能力によって内容は異なる。それぞれ内容や進捗スピード、目標は学生により異なるものとなる。指導教員と学生がマンツーマンで相談・議論しながら進めることになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士研修４(秋学期）を取り組む心構えやその意義について解説し，必要な関連事項の概要について述べる．
2	類似研究調査１	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
3	類似研究調査２	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
4	類似研究調査３	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
5	類似研究調査４	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
6	類似研究調査５	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
7	類似研究調査６	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
8	周辺研究分野調査１	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
9	周辺研究分野調査２	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
10	周辺研究分野調査３	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
11	周辺研究分野調査４	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
12	周辺研究分野調査５	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
13	学問分野の体系化	いろいろな学問分野があり、それらが体系化されていることを学ぶ。修士論文で取り上げる研究が体系のどこに位置づけされるかを考える。
14	まとめ	学問体系の重要性を理解し、当該研究の位置づけ、その記述・表現方法について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　関連文献の調査
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　指導教員から配布

【参考書】
　指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】
　修士課程後半（後期）を通じて，各専門領域分野におけるプロジェクトテーマの立案能力や解析・分析能力などを判断基準として，担当教員が総合的に評価する．
　成績基準は、総合点90点以上をSとし、
89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-
79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-
69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-
60点未満をD、未受験をEとする。

【学生の意見等からの気づき】
　個別指導科目のため，アンケートを実施していない．

【その他の重要事項】
プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で培った知識・経験・考え方に基づいた指導を行う。

【Outline (in English)】
This course will prepare students for the ‘System Design Training 4’ course in the autumn semester of the second year of a master’s degree. It provides students with its significance and a summary of the related issues, focusing on the exploration of studies in similar/peripheral areas and systematization of them.

OTR600N4（その他 / Others 600）

システムデザイン修士研修４

姜　理恵

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　システムデザイン専攻における修士２年生秋学期の修士研修４に取り組む心構えやその意義について解説し，必要な関連事項の概要（類似分野調査・周辺研究分野調査と体系化）について述べる．

【到達目標】
修士学位論文の作成にあたり必要となる関連事項を指導教員からの個別指導を受ける．
この修士研修４では、少なくとも修士論文作成の研究を遂行する上で必要となる、周辺分野を含めた研究分野調査と、その体系化を行うことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
　指導教員の個別指導の下に、必要となる研修を行う。これは最終的な修士論文のテーマ、学生本人の意向や能力によって内容は異なる。それぞれ内容や進捗スピード、目標は学生により異なるものとなる。指導教員と学生がマンツーマンで相談・議論しながら進めることになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士研修４(秋学期）を取り組む心構えやその意義について解説し，必要な関連事項の概要について述べる．
2	類似研究調査１	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
3	類似研究調査２	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
4	類似研究調査３	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
5	類似研究調査４	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
6	類似研究調査５	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
7	類似研究調査６	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
8	周辺研究分野調査１	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
9	周辺研究分野調査２	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
10	周辺研究分野調査３	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
11	周辺研究分野調査４	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
12	周辺研究分野調査５	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
13	周辺研究分野調査６	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
14	まとめ:学問分野の体系化	いろいろな学問分野があり、それらが体系化されていることを学ぶ。修士論文で取り上げる研究が体系のどこに位置づけされるかを考える。 学問体系の重要性を理解し、当該研究の位置づけ、その記述・表現方法について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　関連文献の調査
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　指導教員から配布

【参考書】
　指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】
　修士課程後半（後期）を通じて，各専門領域分野におけるプロジェクトテーマの立案能力や解析・分析能力などを判断基準として，担当教員が総合的に評価する．

【学生の意見等からの気づき】
　個別指導科目のため，アンケートを実施していない．

【Outline (in English)】
This course will prepare students for the ‘System Design Training 4’ course in the autumn semester of the second year of a master’s degree. It provides students with its significance and a summary of the related issues, focusing on the exploration of studies in similar/peripheral areas and systematization of them.

OTR600N4（その他 / Others 600）

システムデザイン修士プロジェクト１

安積　伸

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学位取得のための研究の基盤となる知識やスキルの修得のためのプロジェクトを行う。
この修士１年生春学期のプロジェクトは、比較的小規模なプロジェクトで当該分野に関連する研究プロジェクトの概要を知ることを目的ととする。

【到達目標】
このプロジェクトを通して、当該研究分野の見識を深めることを目的とすると共に、必要となる基礎知識、プロジェクトの進め方、成果物の提示方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
個々の指導教員の指導の下，各自が、それぞれのプロジェクト内容を設定してすすめる。各段階毎に、指導教員に報告し、アドバイスを受けるというプロセスを繰り返す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士プロジェクト１（春学期）に取り組む心構えやその意義について解説し，必要な関連事項の概要について述べる．
2	テーマの候補	指導教員が幾つかのテーマ候補をあげ、その概要を説明する。最初のプロジェクトであるので、比較的簡単なもので今後の基礎となるものを候補とする。
3	テーマ候補に関する調査	テーマ候補に関する先行プロジェクトの調査を行い、それを報告する。
4	テーマの選定およびスケジュール・マイルストーンの設定	テーマに選定に関して、指導教員と議論を行い、テーマを決定する。また、プロジェクトスケジュールおよびマイルストーンを設定する。
5	マイルストーン１	マイルストーン１の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
6	マイルストーン１	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン１の纏めを行う。
7	マイルストーン２	マイルストーン２の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
8	マイルストーン２	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン２の纏めを行う。
9	マイルストーン３	マイルストーン３の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
10	マイルストーン３	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン３の纏めを行う。
11	マイルストーン４	マイルストーン４の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
12	マイルストーン４	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン４の纏めを行う。
13	マイルストーン５	マイルストーン５の到達状況を指導教員に報告し、マイルストーン５の纏めを行う。
14	プロジェクトの纏め、成果物の提示	プロジェクトの成果を纏め、成果物を対外的に提示する方法を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献の調査、プロジェクトの実施
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導教員から配布

【参考書】
指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】
プロジェクトテーマの立案能力や実施能力、問題解決能力などを判断基準として，担当教員が総合的に評価する．
成績基準は、総合点が90点以上をSとし、
89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-
79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-
69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-
60点未満をD、未受験をEとする。

【学生の意見等からの気づき】
個別指導科目のため実施せず

【その他の重要事項】
プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で培った知識・経験・考え方に基づいた指導を行う。

【Outline (in English)】
Various projects will be undertaken in this course to provide students with the basic knowledge and skills for the studies required for a master's degree. 'System Design Master's Project 1' in the spring semester of the first year is relatively small-scale and helps to provide an overview of related research projects.

OTR600N4（その他 / Others 600）

システムデザイン修士プロジェクト２

安積　伸

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学位取得のための研究の基盤となる知識やスキルの修得のためのプロジェクトを行う。
この修士１年生秋学期のプロジェクトは、春学期のプロジェクトを礎として中程度のプロジェクトを行う。このプロジェクトを通して、プロジェクトの進め方を知るとともに、問題解決能力を涵養する。

【到達目標】
　このプロジェクトを通して、当該研究分野の見識を深めることを目的とすると共に、必要となる基礎知識、プロジェクトの進め方、問題解決の方法、成果物の提示方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
個々の指導教員の指導の下，各自が、それぞれのプロジェクト内容を設定してすすめる。各段階毎に、指導教員に報告し、アドバイスを受けるというプロセスを繰り返す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士プロジェクト２（秋学期）に取り組む心構えやその意義について解説し，必要な関連事項の概要について述べる。
2	テーマの候補	指導教員が幾つかのテーマ候補をあげ、その概要を説明する。春学期のプロジェクトを礎として若干高度なプロジェクトを候補とする。
3	テーマ候補に関する調査	テーマ候補に関する先行プロジェクトの調査を行い、それを報告する。
4	テーマの選定およびスケジュール・マイルストーンの設定	テーマに選定に関して、指導教員と議論を行い、テーマを決定する。また、プロジェクトスケジュールおよびマイルストーンを設定する。
5	マイルストーン１	マイルストーン１の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
6	マイルストーン１	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン１の纏めを行う。
7	マイルストーン２	マイルストーン２の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
8	マイルストーン２	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン２の纏めを行う。
9	マイルストーン３	マイルストーン３の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
10	マイルストーン３	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン３の纏めを行う。
11	マイルストーン４	マイルストーン４の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
12	マイルストーン４	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン４の纏めを行う。
13	マイルストーン５	マイルストーン５の到達状況を指導教員に報告し、マイルストーン５の纏めを行う。
14	プロジェクトの纏め、成果物の提示	プロジェクトの成果を纏め、成果物を対外的に提示する方法を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　関連文献の調査、プロジェクトの実施
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　指導教員から配布

【参考書】
　指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】
　プロジェクトテーマの立案能力や実施能力、問題解決能力などを判断基準として，担当教員が総合的に評価する．
　成績基準は、総合点が90点以上をSとし、
89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-
79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-
69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-
60点未満をD、未受験をEとする。

【学生の意見等からの気づき】
　個別指導科目のため実施ていない。

【その他の重要事項】
プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で培った知識・経験・考え方に基づいた指導を行う。

【Outline (in English)】
Various projects will be undertaken in this course to provide students with the basic knowledge and skills for the studies required for a master's degree. The medium-scale project 'System Design Master's Project 2' in the autumn semester of the first year is based on the previous one conducted in the spring semester. Students are expected to learn how to proceed with the project and to cultivate problem-solving skills.

OTR600N4（その他 / Others 600）

システムデザイン修士プロジェクト２

姜　理恵

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学位取得のための研究の基盤となる知識やスキルの修得のためのプロジェクトを行う。
この修士１年生秋学期のプロジェクトは、春学期のプロジェクトを礎として中程度のプロジェクトを行う。このプロジェクトを通して、プロジェクトの進め方を知るとともに、問題解決能力を涵養する。

【到達目標】
このプロジェクトを通して、当該研究分野の見識を深めることを目的とすると共に、必要となる基礎知識、プロジェクトの進め方、問題解決の方法、成果物の提示方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
個々の指導教員の指導の下，各自が、それぞれのプロジェクト内容を設定してすすめる。各段階毎に、指導教員に報告し、アドバイスを受けるというプロセスを繰り返す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士プロジェクト２（秋学期）に取り組む心構えやその意義について解説し，必要な関連事項の概要について述べる。
2	テーマ候補の選定	指導教員が幾つかのテーマ候補をあげ、その概要を説明する。春学期のプロジェクトを礎として若干高度なプロジェクトを候補とする。さらに、テーマ候補に関する先行プロジェクトの調査を行い、それを報告する。
3	テーマの選定およびスケジュール・マイルストーンの設定	テーマに選定に関して、指導教員と議論を行い、テーマを決定する。また、プロジェクトスケジュールおよびマイルストーンを設定する。
4	マイルストーン１	マイルストーン１の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
5	マイルストーン１	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン１の纏めを行う。
6	マイルストーン２	マイルストーン２の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
7	マイルストーン２	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン２の纏めを行う。
8	マイルストーン３	マイルストーン３の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
9	マイルストーン３	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン３の纏めを行う。
10	マイルストーン４	マイルストーン４の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
11	マイルストーン４	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン４の纏めを行う。
12	マイルストーン５	マイルストーン５の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
13	マイルストーン５	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン５の纏めを行う。
14	プロジェクトの纏め、成果物の提示	プロジェクトの成果を纏め、成果物を対外的に提示する方法を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献の調査、プロジェクトの実施
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導教員から配布

【参考書】
指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】
プロジェクトテーマの立案能力や実施能力、問題解決能力などを判断基準として，担当教員が総合的に評価する．
成績基準は次の通り．
A+(100-95)，A(94-80)，B(79-70)，C(69-60)，D(59-0)，E(未受験)

【学生の意見等からの気づき】
個別指導科目のため実施せず

【Outline (in English)】
Various projects are held to provide students the basic knowledge and skills of the subjects required for a master's degree. The medium-scale project 'System Design Master's Project 2' in the autumn semester of first year is based on the previous one conducted in the spring semester. Students are expected to learn how to proceed with the project and to cultivate their problem-solving skills.

OTR600N4（その他 / Others 600）

システムデザイン修士プロジェクト３

安積　伸

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学位取得のための、修士論文に密接に関連したプロジェクトを行う。このシステムデザイン修士プロジェクト３とシステムデザイン修士プロジェクト４は、連結したひとまとまりの大きなプロジェクトであり、システムデザイン修士プロジェクト３はプロジェクトの前半部分である。このプロジェクトを通して、修士論文作成に必要な実証的データを得ることを目的とする。

【到達目標】
修士論文作成に必要な実証的データを得ることを目的にプロジェクトを行う。プロジェクトの設定方法や得られたデータの検証方法、得られたデータからのフィードバックの方法を学ぶことも目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
個々の指導教員の指導の下，各自が、それぞれのプロジェクト内容を設定してすすめる。各段階毎に、指導教員に報告し、アドバイスを受けるというプロセスを繰り返す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士プロジェクト３，４（春学期・秋学期）に取り組む心構えやその意義について解説し，必要な関連事項の概要について述べる.
2	テーマの候補	指導教員と相談しながら、修士論文で必要となる実証データをえるためのプロジェクトテーマの候補をあげる。
3	テーマ候補に関する調査および精査	テーマ候補に関する先行事例の調査を行い、それを報告する。利用可能な先行事例を精査する。
4	テーマの選定およびスケジュール・マイルストーンの設定	テーマに選定に関して、指導教員と議論を行い、テーマを決定する。このテーマは大きく２つのテーマに分割する。（テーマ１およびテーマ２）各テーマのプロジェクトスケジュールおよびマイルストーンを設定する。
5	テーマ１のマイルストーン１	テーマ１のマイルストーン１の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
6	テーマ１のマイルストーン１	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ１のマイルストーン１の纏めを行う。
7	テーマ１のマイルストーン２	テーマ１のマイルストーン２の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
8	テーマ１のマイルストーン２	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ１のマイルストーン２の纏めを行う。
9	テーマ１のマイルストーン３	テーマ１のマイルストーン３の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
10	テーマ１のマイルストーン３	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ１のマイルストーン３の纏めを行う。
11	テーマ１のマイルストーン４	テーマ１のマイルストーン４の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
12	テーマ１のマイルストーン４	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ１のマイルストーン４の纏めを行う。
13	テーマ１のマイルストーン５	テーマ１のマイルストーン５の到達状況を指導教員に報告し、テーマ１のマイルストーン５の纏めを行う。
14	テーマ１の取り纏め、テーマ１の成果に基づくテーマ２の修正	プロジェクトの成果を纏め、成果物を対外的に提示可能な形にする。その成果を検討し、テーマ２の修正を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献の調査、プロジェクトの実施
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導教員から配布

【参考書】
指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】
プロジェクトテーマの立案能力や実施能力、問題解決能力、最終成果物の学術的価値などを判断基準として，担当教員が総合的に評価する.
成績基準は、総合点が90点以上をSとし、
89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-
79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-
69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-
60点未満をD、未受験をEとする。

【学生の意見等からの気づき】
個別指導科目のため実施していない。

【その他の重要事項】
プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で培った知識・経験・考え方に基づいた指導を行う。

【Outline (in English)】
In this course students will complete one project closely related to the master's thesis. 'System Design Master's Project 3' and the 'System Design Master's Project 4' are connected to form one large-scale project. 'System Design Master's Project 3' is the first half of the whole project aiming to collect empirical data for the writing of the thesis.

OTR600N4（その他 / Others 600）

システムデザイン修士プロジェクト３

姜　理恵

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学位取得のための、修士論文に密接に関連したプロジェクトを行う。このシステムデザイン修士プロジェクト３とシステムデザイン修士プロジェクト４は、連結したひとまとまりの大きなプロジェクトであり、システムデザイン修士プロジェクト３はプロジェクトの前半部分である。このプロジェクトを通して、修士論文作成に必要な実証的データを得ることを目的とする。

【到達目標】
修士論文作成に必要な実証的データを得ることを目的にプロジェクトを行う。プロジェクトの設定方法や得られたデータの検証方法、得られたデータからのフィードバックの方法を学ぶことも目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
個々の指導教員の指導の下，各自が、それぞれのプロジェクト内容を設定して進める。各段階毎に、指導教員に報告し、アドバイスを受けるというプロセスを繰り返す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士プロジェクト３，４（春学期・秋学期）に取り組む心構えやその意義について解説し，必要な関連事項の概要について述べる．
2	テーマ候補に関する調査	指導教員と相談しながら、修士論文で必要となる実証データをえるためのプロジェクトテーマの候補をあげる。さらに、テーマ候補に関する先行事例の調査を行い、それを報告する。利用可能な先行事例を精査する。
3	テーマの選定およびスケジュール・マイルストーンの設定	テーマに選定に関して、指導教員と議論を行い、テーマを決定する。このテーマは大きく２つのテーマに分割する。（テーマ１およびテーマ２） 各テーマのプロジェクトスケジュールおよびマイルストーンを設定する。
4	テーマ１のマイルストーン１	テーマ１のマイルストーン１の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
5	テーマ１のマイルストーン１	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ１のマイルストーン１の纏めを行う。
6	テーマ１のマイルストーン２	テーマ１のマイルストーン２の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
7	テーマ１のマイルストーン２	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ１のマイルストーン２の纏めを行う。
8	テーマ１のマイルストーン３	テーマ１のマイルストーン３の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
9	テーマ１のマイルストーン３	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ１のマイルストーン３の纏めを行う。
10	テーマ１のマイルストーン４	テーマ１のマイルストーン４の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
11	テーマ１のマイルストーン４	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ１のマイルストーン４の纏めを行う。
12	テーマ１のマイルストーン５	テーマ１のマイルストーン５の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
13	テーマ１のマイルストーン５	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ１のマイルストーン５の纏めを行う。
14	テーマ１の取り纏め、テーマ１の成果に基づくテーマ２の修正	プロジェクトの成果を纏め、成果物を対外的に提示可能な形にする。その成果を検討し、テーマ２の修正を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献の調査、プロジェクトの実施
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導教員から配布

【参考書】
指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】
プロジェクトテーマの立案能力や実施能力、問題解決能力、最終成果物の学術的価値などを判断基準として，担当教員が総合的に評価する．
成績基準は次の通り．
A+(100-95)，A(94-80)，B(79-70)，C(69-60)，D(59-0)，E(未受験)

【学生の意見等からの気づき】
個別指導科目のため実施せず

【Outline (in English)】
Students complete one project that is closely related to their master's thesis. 'System Design Master's Project 3' and 'System Design Master's Project 4' are connected to form one large-scale project. 'System Design Master's Project 3' is the first half of the project that aims to collect empirical data for writing the master's thesis.

OTR600N4（その他 / Others 600）

システムデザイン修士プロジェクト４

安積　伸

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学位取得のための、修士論文に密接に関連したプロジェクトを行う。このシステムデザイン修士プロジェクト３とシステムデザイン修士プロジェクト４は、連結したひとまとまりの大きなプロジェクトであり、システムデザイン修士プロジェクト４はプロジェクトの後半部分である。このプロジェクトを通して、修士論文作成に必要な実証的データを得ることを目的とする。

【到達目標】
修士論文作成に必要な実証的データを得ることを目的にプロジェクトを行う。プロジェクトの設定方法や得られたデータの検証方法、得られたデータからのフィードバックの方法を学ぶことも目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
個々の指導教員の指導の下，各自が、それぞれのプロジェクト内容を設定してすすめる。各段階毎に、指導教員に報告し、アドバイスを受けるというプロセスを繰り返す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン修士プロジェクト３で行ったテーマ１の総括とテーマ２に関する準備を行う。
2	テーマ２のスケジュールおよびマイルストーンの再設定	テーマ１の反省を踏まえ、テーマ２のスケジュールおよびマイルストーンの再設定を行う。
3	テーマ２のマイルストーン１	テーマ２のマイルストーン１の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
4	テーマ２のマイルストーン１	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ２のマイルストーン１の纏めを行う。
5	テーマ２のマイルストーン２	テーマ２のマイルストーン２の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
6	テーマ２のマイルストーン２	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ２のマイルストーン２の纏めを行う。
7	テーマ２のマイルストーン３	テーマ２のマイルストーン３の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
8	テーマ２のマイルストーン３	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ２のマイルストーン３の纏めを行う。
9	テーマ２のマイルストーン４	テーマ２のマイルストーン４の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
10	テーマ２のマイルストーン４	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ２のマイルストーン４の纏めを行う。
11	テーマ２のマイルストーン５	テーマ２のマイルストーン５の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
12	テーマ２のマイルストーン５	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ２のマイルストーン５の纏めを行う。
13	テーマ２の纏めと総括、不足データ・補足データの収集と検証および最終的な纏め	テーマ２の総括を行い、修士論文作成に十分な検証データが得られたか否かを検証する。不足データ・補足データを検証し、最終的な纏めを行う。
14	テーマ１およびテーマ２の統合および対外的提示	テーマ１およびテーマ２を統合してひとつのプロジェクトとして纏め、対外的に提示可能な形とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献の調査、プロジェクトの実施
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導教員から配布

【参考書】
指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】
プロジェクトテーマの立案能力や解析・分析能力、問題解決能力、最終成果の学術的価値などを判断基準として，担当教員が総合的に評価する．
成績基準は、総合点が90点以上をSとし、
89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-
79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-
69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-
60点未満をD、未受験をEとする。

【学生の意見等からの気づき】
個別指導科目のため実施していない。

【その他の重要事項】
プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で培った知識・経験・考え方に基づいた指導を行う。

【Outline (in English)】
In this course students will complete one project closely related to the master's thesis. 'System Design Master's Project 3' and the 'System Design Master's Project 4' are connected to form one large-scale project. 'System Design Master's Project 4' is the second half of the whole project aiming to collect empirical data for the writing of the thesis.

OTR600N4（その他 / Others 600）

システムデザイン修士プロジェクト４

姜　理恵

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学位取得のための、修士論文に密接に関連したプロジェクトを行う。このシステムデザイン修士プロジェクト３とシステムデザイン修士プロジェクト４は、連結したひとまとまりの大きなプロジェクトであり、システムデザイン修士プロジェクト４はプロジェクトの後半部分である。このプロジェクトを通して、修士論文作成に必要な実証的データを得ることを目的とする。

【到達目標】
修士論文作成に必要な実証的データを得ることを目的にプロジェクトを行う。プロジェクトの設定方法や得られたデータの検証方法、得られたデータからのフィードバックの方法を学ぶことも目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
個々の指導教員の指導の下，各自が、それぞれのプロジェクト内容を設定してすすめる。各段階毎に、指導教員に報告し、アドバイスを受けるというプロセスを繰り返す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テーマ２のスケジュールおよびマイルストーンの再設定	システムデザイン修士プロジェクト３で行ったテーマ１の反省を踏まえ、テーマ２のスケジュールおよびマイルストーンの再設定を行う
2	テーマ２のマイルストーン１	テーマ２のマイルストーン１の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
3	テーマ２のマイルストーン１	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ２のマイルストーン１の纏めを行う。
4	テーマ２のマイルストーン２	テーマ２のマイルストーン２の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
5	テーマ２のマイルストーン２	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ２のマイルストーン２の纏めを行う。
6	テーマ２のマイルストーン３	テーマ２のマイルストーン３の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
7	テーマ２のマイルストーン３	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ２のマイルストーン３の纏めを行う。
8	テーマ２のマイルストーン４	テーマ２のマイルストーン４の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
9	テーマ２のマイルストーン４	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ２のマイルストーン４の纏めを行う。
10	テーマ２のマイルストーン５	テーマ２のマイルストーン５の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
11	テーマ２のマイルストーン５	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ２のマイルストーン５の纏めを行う。
12	テーマ２の纏めと総括、不足部分の抽出	テーマ２の総括を行い、修士論文作成に十分な検証データが得られたか否かを検証する。不足部分や、補足データ収集に関する計画を立てる
13	不足データ・補足データの収集と検証および最終的な纏め	得られた不足データ・補足データを検証し、最終的な纏めを行う。
14	テーマ１およびテーマ２の統合および対外的提示	テーマ１およびテーマ２を統合してひとつのプロジェクトとして纏め、対外的に提示可能な形とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献の調査、プロジェクトの実施
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導教員から配布

【参考書】
指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】
プロジェクトテーマの立案能力や解析・分析能力、問題解決能力、最終成果の学術的価値などを判断基準として，担当教員が総合的に評価する．
成績基準は次の通り．
A+(100-95)，A(94-80)，B(79-70)，C(69-60)，D(59-0)，E(未受験)

【学生の意見等からの気づき】
個別指導科目のため実施せず

【Outline (in English)】
Students complete one project that is closely related to their master's thesis. 'System Design Master's Project 3' and 'System Design Master's Project 4' are connected to form one large-scale project. 'System Design Master's Project 4' is the second half of the project that aims to collect empirical data for writing the master's thesis.

OTR600N4（その他 / Others 600）

修士論文（SD）

安積　伸

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学位取得のための修士論文の作成を行う。研究の基盤となる知識やスキルの修得，実証データの提示作業、参考文献や研究分野の関連情報のサーベイ作業などを通して研究手法を学ぶ。

【到達目標】
修士学位論文を作成することを最終目標とし、その作成ために必要となる考え方や各種スキルを身につけることを副次的な目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員の日々のアドバイスの下に修士論文を作成する。各段階毎に、指導教員と議論を行い、進捗状況のチェック、途中経過の問題点、最終目標の再検討を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士プロジェクト後半（後期）に取り組む心構えやその意義について解説し，必要な関連事項の概要について述べる．
第2回	テーマに関するブレーンストーミング１	どのようなテーマで修士論文を作成するかについて、多方面の視点から議論する。
第3回	テーマに関するブレーンストーミング２	どのようなテーマで修士論文を作成するかについて、多方面の視点から議論する。
第4回	テーマの合理性（社会的意義・学術的意義）	取り上げたテーマが、研究対象として相応しいか否かを、検証する。その学術的意義や社会的意義についても検討する。
第5回	先行研究調査１	当該テーマに関連する先行研究を調査し、その概要、その優れた点、欠落している点を纏める。
第6回	先行研究調査２	当該テーマに関連する先行研究を調査し、その概要、その優れた点、欠落している点を纏める。
第7回	ゴール・サブゴールの設定 研究計画の作成	研究を遂行するための研究計画を作成する。とくに、必要となるマイルストーンを設定する。
第8回	サブゴール１の検証	研究計画に基づいて、そのサブゴールを順に達成していく。サブゴールが到達不可能であれば、最終ゴールの見直し、研究計画の見直しも行う。
第9回	サブゴール２の検証	研究計画に基づいて、そのサブゴールを順に達成していく。サブゴールが到達不可能であれば、最終ゴールの見直し、研究計画の見直しも行う。
第10回	サブゴール３の検証	研究計画に基づいて、そのサブゴールを順に達成していく。サブゴールが到達不可能であれば、最終ゴールの見直し、研究計画の見直しも行う。
第11回	サブゴール４の検証	研究計画に基づいて、そのサブゴールを順に達成していく。サブゴールが到達不可能であれば、最終ゴールの見直し、研究計画の見直しも行う。
第12回	サブゴール５の検証	研究計画に基づいて、そのサブゴールを順に達成していく。サブゴールが到達不可能であれば、最終ゴールの見直し、研究計画の見直しも行う。
第13回	研究成果の取り纏め	研究成果を取り纏め、成文化する。各章の構成や緒言、参考文献の記述を行う。
第14回	対外的に提示可能な成果物としての取り纏め	修士論文を公開可能なものとするための最終検証を行う。とくに、新規性や著作権問題に関するチェックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献の調査、修士研究、修士論文作成
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導教員から配布

【参考書】
指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】
修士課程後半（後期）を通じて，各専門領域分野におけるプロジェクトテーマの立案能力や解析・分析能力などを判断基準として，担当教員が総合的に評価する．
成績基準は、総合点が90点以上をSとし、
89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-
79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-
69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-
60点未満をD、未受験をEとする。

【学生の意見等からの気づき】
個別指導科目のため実施せず

【その他の重要事項】
プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で培った知識・経験・考え方に基づいた指導を行う。

【Outline (in English)】
In this program students will write a thesis for their master's degree. During the process, they will learn research methods by gaining fundamental knowledge and skills for their field, presenting empirical data and referencing information in related areas.

OTR600N4（その他 / Others 600）

修士論文（SD）

姜　理恵

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学位取得のための修士論文を執筆する.

【到達目標】
・修士論文として適切なテーマを設定すること.
・関連研究を調査すること.
・研究テーマの実現に必要な知識・技術を把握し，習得すること.
・研究成果をあげ，修士論文としてまとめあげること.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員の日々のアドバイスの下に修士論文を作成する．各段階毎に，指導教員と議論を行い，進捗状況のチェック，問題点の把握，最終目標の再検討を行う.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	修士論文を執筆する心構えやその意義，関連事項の概要について学ぶ.
2	研究テーマの選定	院生の関心に合致し，修士論文として適切な研究テーマを選定する.
3	先行研究の調査	研究テーマに関連する先行研究を調査する.
4	先行研究の整理	収集した先行研究を整理し，課題等をまとめる.
5	研究企画の立案	先行研究を調査・整理した結果を踏まえ，研究の目標，方法，手順等を整理する.
6	関連知識の把握・習得	研究を実施するうえで必要となる知識を把握・習得し，研究テーマに応用する.
7	関連技術の把握・習得	研究を実施するうえで必要となる技術を把握・習得し，研究テーマに応用する.
8	調査・実験の実施	研究の中核となる調査・実験の実施を行う.
9	調査・実験結果の考察	調査・実験の結果を整理し，考察を行う.
10	問題点の把握・解決方法の検討	研究上の問題点を把握し，その解決方法を検討する.
11	研究成果の整理・論文構成の検討	研究成果を整理し，研究の全体像を把握して論文の構成を検討する.
12	修士論文の執筆	論文構成に沿い，修士論文（第1稿）を執筆する.
13	修士論文の推敲・修正	第1稿の推敲・修正を行い，修士論文を完成させる.
14	修士論文の内容確認・質疑応答	修士論文の内容を再確認し，発表および質疑応答の練習を行う.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連研究の調査，知識・技術の習得，調査・実験の実施，論文の執筆
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない.

【参考書】
必要に応じて指示する.

【成績評価の方法と基準】
研究テーマの立案能力や解析・分析能力などを判断基準として，総合的に評価する.

【学生の意見等からの気づき】
該当なし.

【Outline (in English)】
In this program, students prepare their master's thesis for graduation, acquiring knowledge and skills important for the foundations of research. In addition, students learn research methods through presentations of empirical data, and surveying references and related research fields.

MAN500F2（経営学 / Management 500）

経営イノベーション体系

Principles of Management and Innovation

玄場 公規、高田 朝子、丹下 英明、豊田 裕貴

単位数：**2単位**
学期：**春学期前半**/Spring(1st half)
授業分類：**専門講義**
基礎科目
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業経営におけるイノベーションの具体例と役割を考えます。企業経営は、イノベーションの連続です。イノベーションを怠ると企業は衰退していきます。健全な企業経営には何が必要かを理論と実際の両面から学びます。

【到達目標】
経営学的な思考方法を身につけるとともに、大学院で研究する上で必要とされるレポートの書き方や文献研究の方法を学びます。同時に、抽象化された概念から具体的な事象を思い浮かべ、その事象の特徴を把握する訓練も行います。抽象と具象の間を往復することで現実の問題への理解が深まることを実感します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
2コマ単位で進めます。1コマ目は教員が講義をし、2コマ目は提案されたテーマに対するディスカッションを行います。講義とディスカッションを組み合わせて、各テーマを理解していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	企業経営とイノベーション(1)	イノベーションについての議論を紹介し、イノベーションの本質を理解する。
2	企業経営とイノベーション(2)	日本企業のイノベーション創出の経営課題について議論する。
3	イノベーションの不確実性	イノベーションを起こすには、何が問題かがわからなければならない。問題発見から問題解決までの不確実性に向き合う必要性などについて紹介する。
4	イノベーションの不確実のマネジメント	イノベーションの不確実性を踏まえ、イノベーション創出のための戦略的マネジメントを議論する。
5	大企業と中小企業のどちらがイノベーションに向くのか？	中小企業におけるイノベーション戦略の現状と課題を踏まえたうえで、 大企業と中小企業のどちらがイノベーションに向くのか、ディスカッションを行う 。
6	中小企業のイノベーション戦略	中小企業がイノベーションを実現するためにはどのような戦略が有効なのか、事例をもとにディスカッションを行う。
7	イノベーションをうみだすリーダーシップ①	リーダーシップというと暗黙のうちに「強いリーダー」を意識するが、リーダーは常に強くなければならないのか。リーダーシップの本質を理解する。
8	イノベーションをうみだすリーダーシップ②	状況に応じて行動を変えることができるのが本当のリーダーである。リーダーとして何をすることが部下の信頼を得ることになるのかを議論する。
9	組織とリーダーシップ概要と調査方法①	組織とリーダーシップの概要を紹介し、イノベーション創出における重要性を学ぶ。
10	組織とリーダーシップ概要と調査方法②	組織とリーダーシップのに関する具体的な調査方法を習得する。
11	DXとデータ活用が生むイノベーション:基礎編	DX(デジタルトランスフォーメーション)の概念とその重要性を解説し、企業がデータ活用を通じてイノベーションを創出するプロセスを基礎から学びます。国内外の事例を交え、ビジネスの変革を実現するポイントを考察します。
12	DXとデータ活用が生むイノベーション:AI活用編	AIを活用したデータ分析や意思決定プロセスの進化について解説します。機械学習や自然言語処理をビジネスに応用する方法を学び、AIがどのようにイノベーションを加速させるかを事例で解説します。
13	イノベーション創出のためのマーケティング：市場理解編	市場を深く理解するためのマーケティング手法や消費者インサイトの重要性を学びます。データリサーチやジョブ理論を活用し、顧客の課題を発見するプロセスと、その発見をイノベーションに繋げる道筋を解説します。
14	イノベーション創出のためのマーケティング：市場創造編	既存市場ではなく、新市場を創造するためのマーケティング戦略を学びます。ブルーオーシャン戦略やプロダクト・マーケット・フィットの考え方を用いて、新たな需要を生み出す実践的なアプローチを解説します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
４名の担当者ごとに課題文献を提示しますので、それを熟読し、自分自身の考えをA4版1～2ページ程度にまとめてきて下さい。読むだけではなく、書くことによって理解を深めるねらいがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
榊原清則『経営学入門(上)』『経営学入門(下)』(日経文庫)を使います。その他の教材は、適宜指示します。

【参考書】
講義の中で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
次の2つの要素を合計して評価します。
①毎回の出席と講義時間中の議論への関与(50%)
②自分でテーマ設定したレポートの作成(50%)

【学生の意見等からの気づき】
必読文献の量と題材を工夫します。

【その他の重要事項】
オフィスアワー：講義終了後、相談を受け付けます。

【Outline (in English)】
This lecture aims to understand meanings of innovation in business. Continuous innovation is necessary for management. How to make business innovative is the main theme of the lecture.

MAN500F2（経営学 / Management 500）

中小企業戦略

Strategic Management in SMEs

丹下　英明［タンゲ ヒデアキ］

単位数：3単位
学期：春学期前半/Spring(1st half)
授業分類：専門講義
基礎科目、MBA特別必修
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【授業の目的】
本講義は、経営戦略の形成や、経営計画の策定・マネジメントについて、中小企業に的確な支援ができるスキルを修得することを目的としています。そのために、中小企業がどのような戦略を策定し、マネジメントしているのか、実際の事例をとりあげながら、講義やグループワークを通じて、体系的に学んでいただきます。
本講義は、中小企業診断士養成課程必修科目であり、中小企業経営に興味がある方に向けた講義です。
【授業の概要】
本講義は、大きく、前半（第1～6回）と後半（第7～11回）に分かれます。
前半は、「フレームワークの意義と限界を学ぶ」をテーマに、経営戦略の理論やフレームワークを学んでいただきます。そして、講義で採り上げるフレームワークをグループワークで実際の企業に適用してみることで、その意義と限界を学んでいきます。
これらによって、経営戦略策定のためのプロセス（外部環境・内部環境の分析→ドメインの明確化→経営戦略の確立）を学んでいただきます。
後半は、実際の企業事例を通じて、経営戦略を具体的な経営計画に落とし込み、マネジメントしていくプロセスを学んでいただきます。中小企業が直面する個別テーマについて、実際の中小企業の事例を取り上げて、そのマネジメントプロセスを学んでいきます。
また、本講義では、グループによる戦略提案を行っていただきます。戦略提案では、まず、各グループで企業を選定していただきます。次に、講義で学ぶフレームワークを用いて現状分析を行ったうえで、第10回の講義では、今後の経営戦略を中小企業がすぐにでも実行に移せるような具体的な経営計画とともに提案していただきます。提案時に、選定先企業の経営者に参加いただくことも歓迎します。
以上、本講義では、一方的な聴講型ではなく、アクティブ・ラーニング型の授業を目指します。そのため、本講義では、講義内での発表や発言、ディスカッションを重視します。

【到達目標】
1. 経営戦略を策定するための基礎理論を体系的に習得し、分析に活用することで、的確な戦略策定ができる。
2. 戦略の実行を支援するための経営計画を策定することができる。
3. 経営戦略策定・実行・評価の全プロセスを中小企業に合った形で指導・支援・アドバイスができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業形態、授業内での発表】
講義では、基本的知識や理論の説明を行うとともに、中小企業の事例を用いて議論を行います。
また、グループに分かれて、企業に対する戦略提案を行っていただきます。講義内でその結果を発表していただきます。
なお、第1回から第5回講義については、事前講義動画を視聴したうえで、講義に臨んでいただきます。視聴方法など詳細につきましては、第1回講義前に学習支援システムにて連絡しますので、必ずご確認ください。
【課題提出とフィードバック】
講義終了後は、感想や意見、質問をまとめた「講義レポート」を毎回提出いただきます。次回講義の冒頭に、講義レポートのなかから、皆様の感想や意見をいくつか紹介するとともに、質問に回答することで、フィードバックを行います。
グループ戦略提案については、講義内および学習支援システムを通じて、採点結果とコメントをフィードバックさせていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 経営戦略論の体系的理解：戦略とは何か	・授業計画、授業内容および成績評価について説明する。 ・自己紹介を行う。 ・グループ戦略提案の進め方について説明する。 ・グループを決定し、各グループで戦略提案を行う対象企業を決める。 ・戦略とは何か、経営戦略策定の基本プロセスと構成要素はどのようなものかについて説明する。
2	経営戦略策定のための分析：ドメイン	・前回講義への質問回答を行う。 ・前回グループワーク結果の発表を行う（奇数チーム）。 ・ドメインとは何か、ドメインを定義する重要性や方法、課題を説明する。 ・戦略提案対象企業について、グループで実際にドメインを定義する。
3	経営戦略策定のための分析：外部環境分析（SCPモデル、ファイブフォース）	・前回講義への質問回答を行う。 ・前回グループワーク結果の発表を行う（偶数チーム）。 ・SCPモデル、ファイブフォースとは何か、その意義は何かを説明する。 ・戦略提案対象企業について、グループで実際にファイブフォース分析を行う。
4	経営戦略策定のための分析：内部環境分析（RBV）	・前回講義への質問回答を行う。 ・前回グループワーク結果の発表を行う（奇数チーム）。 ・RBVとは何か、その意義は何かを説明する。 ・戦略提案対象企業について、グループで実際にRBV分析を行う。
5	経営戦略策定のための分析：外部・内部環境分析（3C、PEST、 SWOT）	・前回講義への質問回答を行う。 ・前回グループワーク結果の発表を行う（偶数チーム）。 ・3CやPEST、SWOT分析などの環境分析フレームワークについて説明する。 ・戦略提案対象企業について、グループで実際に SWOT分析を行う。
6	経営戦略策定のための分析：小括 経営計画策定とマネジメント 概略説明	・前回講義への質問回答を行う。 ・前回グループワーク結果の発表を行う（全チーム）。 ・経営戦略策定のための分析について、その意義と限界を小括する。 ・経営戦略を具体化するための経営計画の立て方について学ぶ。 ・戦略提案対象企業について、グループで戦略提案の方向性を決める。

7	経営計画策定とマネジメント：資金調達と計数マネジメント	・前回講義への質問回答を行う。 ・中小企業は、どのように資金調達と計数マネジメントを行えばよいのか、議論する。 ・ゲスト講師による講演・担当教員によるまとめを行う。 ・グループで具体的な戦略提案を策定する。
8	経営計画策定とマネジメント：M&A	・前回講義への質問回答を行う。 ・中小企業は、M&Aに際して、どのように計画を策定し、マネジメントするのがよいのか、議論する。 ・ゲスト講師による講演・担当教員によるまとめを行う。 ・グループで具体的な戦略提案を策定する。
9	経営計画策定とマネジメント：サスティナビリティ戦略	・前回講義への質問回答を行う。 ・中小企業は、SDGs などサスティナビリ ティ戦略に取り組む際に、どのように計 画を策定し、マネジメントするのがよい のか、議論する。 ・ゲスト講師による講演・担当教員によ るまとめを行う。 ・グループで具体的な戦略提案を策定する。
10	経営計画策定とマネジメント：グループ戦略提案発表	・前回講義への質問回答を行う。 ・各グループによる戦略・経営計画提案の発表を行う。
11	グループ戦略提案へのフィードバックとまとめ	・各グループによる戦略提案について、フィードバックを行う。 ・講義の振り返りと質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回授業前にレジュメや関連文献に必ず目を通したうえで出席してください。
・授業終了後は、教科書の該当部分を確認し、復習をおこなってください。
・講義レポートや課題は、必ず期限までに提出してください。
・グループによる戦略提案に取り組むための準備（関連文献の調査・精読など）を必ず行ってください。
・グループによる戦略提案については、授業時間内にグループワークの時間を多くとりますので、グループでの作業は、極力、授業時間内に終わらせるように努めてください。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
【経営戦略に関する教科書】
・グロービス経営大学院編著『新版 グロービスMBA経営戦略』ダイヤモンド社、2017年
【中小企業戦略に関する教科書】
・丹下英明・足立裕介・奥山雅之『中小企業の新たな国際化とマネジメント』同友館、2024年
・丹下英明『中小企業の国際経営：－ 現地市場開拓と撤退にみる海外事業の変革－ 』同友館、2016年

【参考書】
【経営戦略に関する参考書】
・網倉久永; 新宅純二郎『マネジメント・テキスト 経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011年
・伊丹敬之『経営戦略の論理 〈第4版〉―ダイナミック適合と不均衡ダイナミズム』日本経済新聞社、2012年
・入山章栄『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社、2019年
・グロービス 『ダークサイドMBAコンセプト』東洋経済新報社、2019年
・山田英夫『ビジネス・フレームワークの落とし穴』光文社新書、2019年
・山田英夫『競争しない競争戦略：環境激変下で生き残る3つの選択』日経BP、日本経済新聞出版本部、日経BPマーケティング、2021年
【中小企業戦略に関する参考書】
・井上善海,瀬戸正則ほか『中小企業の戦略：戦略優位の中小企業経営論』同友館、2009年
・植田浩史ほか『中小企業・ベンチャー企業論– グローバルと地域のはざまで新版』有斐閣、2014年
・奥山雅之、加藤秀雄、柴田仁夫、丹下英明『繊維・アパレルの集団間・地域間競争と産地の競争力再生』文眞堂、2022年
・商工総合研究所『商工金融』
・鈴木智博『戦略的中期経営計画で会社は変わる! 後継者の経営力向上入門』プレジデント社、2019年
・中小企業庁『中小企業白書（各年版）』
・日本政策金融公庫総合研究所『調査月報』
・日本政策金融公庫総合研究所『日本公庫総研レポート』
・日本政策金融公庫総合研究所『日本政策金融公庫論集』
・安田武彦、鈴木正明 他『中小企業論：組織のライフサイクルとエコシステム』同友館、2021年

【成績評価の方法と基準】
・個人による成果（講義への参加姿勢と貢献、グループワークへの貢献）：50%
・グループによる戦略提案の成果:50%
・60％以上で合格。

【学生の意見等からの気づき】
・ゲスト講義時には特に、ディスカッションの時間を多めにとりたいと考えています。
・引き続き、事前講義動画を一部活用するなどによって、グループディスカッションの時間確保と充実化に努めたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
・パワーポイントによる資料作成など、グループワークではＰＣを使いますので、ご準備ください。
・講義資料は、原則、2日前までに学習支援システムに掲示します。
・課題提出は、学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
・グループ戦略提案にかかる企業選定について：各自、実在の候補企業を1社選んだうえで、第1回の講義に臨んでください。候補企業については、業種、企業規模は問いませんが、①中小・中堅企業、②上場企業、の順で検討してみてください。また、企業規模に関わらず、ご自身または親戚・知人が経営・勤務している企業のほうが、情報が多く入手でき、現状分析や戦略策定が行いやすいので、そうした企業を優先してください。第1回の講義では、グループ内で各自が選定した企業を発表していただきます。そのうえで、グループとして戦略提案する企業を決めていただきます。
・「経営戦略論」（土曜日開講）を受講された方（または受講される方）へ：本講義の前半（第1～7回）は、経営戦略の基本的な理論やフレームワークを学ぶ内容となっています。そのため、「経営戦略論」と講義内容が一部重複しています。本講義の受講を希望される方は、その点をご理解いただいたうえで、受講をご判断ください。
・ゲスト講義については、ゲスト講師の都合により、日程やテーマの変更が生じることがあります。
・教員の実務経験：株式会社日本政策金融公庫において、中小企業向け融資・審査業務に従事。その後、同公庫総合研究所に異動し、中小企業経営に関する様々な研究を行う。本授業では、これらの実務経験を踏まえて、実際の企業事例を活用した授業を行います。

【Outline (in English)】
This course provides learning about the management strategy of small and medium enterprises.
In particular, we will focus on management strategies for innovation such as new business development.

MAN500F2（経営学 / Management 500）

マーケティング論

Marketing

坂本　和子［サカモト カズコ］

単位数：**2単位**
学期：**春学期前半**/Spring(1st half)
授業分類：**専門講義**
基礎科目、MBA特別必修
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では，中小企業が競争優位性を構築・維持するためのマーケティング理論と実践を学ぶ．特に，製品戦略を軸にデザインとイノベーションの理論的な基盤を学びつつ，それを実務に活かすためのノウハウ習得やスキルの滋養を目的とする．

【到達目標】
・マーケティングの基本概念や諸理論を理解し，それを使って身の回りの事象が説明できるようになる．
・マーケティングの視点から経営環境の諸問題を捉え，課題解決の手がかりを習得する．
・中小企業特有の課題に対応したマーケティング戦略を設計できる．
・マーケティング分析手法による市場の理解と提案スキルを身につける．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
2時限続きで7日，全14回の開講
教科書とスライド教材を基に講義を進める．
・各テーマにおいて，教員によるレクチャーの後，ミニ課題を提示し，グループによる演習を実施する．
・最終日に受講生によるショートケースの解説と分析を発表．その後，クラス全員で発表内容についてディスカッションする．
・提出物やプレゼンテーションに対して講評などフィードバックを実施する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスとマーケティングの基礎	マーケティングの基礎概念，定義と意義 参考章：Chapter1 The Nature of Marketing
2	マーケティング戦略と計画 ミニ課題の提示①	中小企業が直面する市場環境の特性と戦略 ミニ課題演習 参考章：Chapter 2 Marketing Strategy and Planning
3	ミニ課題の発表と講評	前回提示のミニ課題について，各グループによる発表 担当教員によるまとめ
4	顧客の理解	顧客特性の把握と管理 参考章：Chapter 4 Marketing Research and Customer Insights
5	STPアプローチ	効果的なセグメンテーションの条件，ターゲティングとその重要性，差別化と価値提案の構築 参考章：Chapter 5 Market Segmentation,Targeting and Positoning
6	ミニ課題の提示②	ミニ課題演習
7	ミニ課題の発表と講評 ゲストスピーカーによる講演（食品メーカー事例）	前回提示のミニ課題について，各グループによる発表とゲストスピーカのコメント，レクチャー 担当教員によるまとめ
8	製品戦略の基礎	製品ライフサイクル（PLC）の理解 コアプロダクトと付加価値の関係 参考章：Chaper6 Value through Products and Brands
9	デザイン戦略と製品開発，ブランドとデザインの統合	デザイン思考，ブランド価値の構築 ブランドアイデンティティとデザインの調和
10	イノベーションと製品戦略 ミニ課題の提示③	イノベーションの定義と分類，イノベーション創出と製品開発 ミニ課題演習
11	ミニ課題の発表と講評 ゲストスピーカーによる講演（広告代理店事例）	前回提示のミニ課題について，各グループによる発表とゲストスピーカのコメント，レクチャー 担当教員によるまとめ
12	マーケティング・コミュニケーション	メッセージの設計と伝達，デジタル技術とユーザーエクスペリエンス（UX） 参考章：Chapter10,11 Integrated Marketing Communications
13	最終発表	各ケースの発表とフィードバック
14	講義総括	コース全体の振り返りと捕捉

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は，各2時間を目安とする．
・教科書の指定する箇所や事例を読み込み講義に臨むようにする．
・プレゼンテーションを担当する回には発表用ファイルを作成し，事前提出する．

【テキスト（教科書）】
John Fahy , David Jobber(2022), “Foundations of Marketing”(7nd Edition), UK Higher Education Business Marketing.

【参考書】
参考書は項目ごとにその都度，講義中にて紹介する．

【成績評価の方法と基準】
ショートケースのプレゼンテーション50%，ディスカッションへの貢献20％，ミニ課題30％，左記の割合で総合的に評価する．

【学生の意見等からの気づき】
ハイフレックス講義における工夫と満足度向上に努める．

【学生が準備すべき機器他】
パソコン持参が望ましい

【その他の重要事項】
本講義は中小企業診断士養成課程の必修科目である．
オフィスアワー：講義後1時間

【Outline (in English)】
In this course, students will learn about marketing theory and practice to build and maintain a competitive advantage for small and medium-sized enterprises. In particular, the course aims to learn the theoretical foundations of design and innovation centered on product strategy, while acquiring know-how and cultivating the skills to apply this knowledge in practice.

MAN500F2（経営学 / Management 500）

ファイナンスⅠ

Finance Ⅰ

山﨑　泰明［ヤマサキ ヤスアキ］

単位数：**2単位**
学期：**春学期前半**/Spring(1st half)
授業分類：**専門講義**
基礎科目
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業経営にとって、ファイナンスの知識は正しい意思決定を行なうにあたり極めて重要であり、ビジネスの成否を大きく左右します。本講義では、株式会社の財務的な意思決定を研究・体得する分野である「コーポレートファイナンス」について学びます。もう少し平易にいうと企業のおカネに関するマネジメントを研究する科目です。ビジネスの原理や構造、その管理法などを研究するという点では経営学の一種ですが、限られた資源をいかに効率よく利用するかを検討するという点では経済学の一種でもあります。本講義の目的は、企業経営の意思決定の重要な要因となるさまざまな「価値」の算出方法に必要な知識と実務に付随することを習得することです。ファイナンスⅠでは、主として伝統的ファイナンス理論からのアプローチを行ないます。受講者全員が一定の水準の目標に達するようにフルサポートを行ないます。なお、可能であるならば、ファイナンスⅡとともに受講することを望みます。

【到達目標】
以下の５つを目標とします。
①ファイナンスを身近に感じ、実務での活用を可能とする。
②資本市場の仕組みを理解する。
③主要なファイナンス理論の枠組みを理解する。
④ファイナンスの観点からの財務分析を理解する。
⑤資本市場における企業の価値決定の方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
実務家のためのファイナンスの授業という点から、演算演習を交えた講義形式で行ないます。ミニ・ケースや実務での経験談も適宜取り入れます。講義では事前にパワーポイントによるテキストをアップしますので予め理解に努めて下さい。各回の授業の後半では確認課題を出し、各自の考えや意見などの交換を行なうこととします。事業会社のＣＦＯや外資系金融機関の経営者等の実務経験者を適宜招聘し、ファイナンスの実際について各々の立場からの話を聞く機会を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	①イントロダクション ②講義の進め方 ③成績の評価について ④ファイナンスを身近に感じるためのクイズ
第2回	バリュエーション①	①リスクと期待収益率 ②投資家のリスク選好 ③要求収益率 ④将来価値と現在価値
第3回	バリュエーション②	①将来価値 ②現在価値 ③合理的期待形成
第4回	ポートフォリオ理論とＣＡＰＭ①	①ポートフォリオ理論 ②分散投資によるリスクの軽減 ③相関係数
第5回	ポートフォリオ理論とＣＡＰＭ②	①効率的フロンティア ②ベータ値 ③ＣＡＰＭ
第6回	資本予算：投資プロジェクト①	①投資プロジェクト ②キャッシュフローの予測
第7回	資本予算：投資プロジェクト②	①正味現在価値：ＮＰＶ ②永久年金型 ③割増永久年金型 ④ターミナルバリュー ⑤リアルオプション
第8回	資本予算：投資プロジェクト③	①回収期間法 ②内部収益率：ＩＲＲ ③投資価値と企業価値
第9回	資本コスト	①株主と金融債権者 ②ＷＡＣＣ ③財務レバレッジ
第10回	資本構成①	①MM命題 ②投資家の視点 ③裁定取引と一物一価 ④株式のエージェンシー費用 ⑤負債のエージェンシー費用
第11回	資本構成②	①余剰資金 ②資本構成の実証的事実 ③情報の非対称性 ④株価のミスプライシング ⑤株式発行の過大評価シグナル ⑥ベッキングオーダー仮説
第12回	ペイアウト：配当政策①	①配当政策と投資政策 ②既存株主への影響 ③株価に与える影響 ④株主への影響
第13回	ペイアウト：配当政策②	①配当のMM命題 ②売買に関わるコスト等
第14回	ペイアウト：自社株買い	①自社株買いの方法 ②自社株買いと株価への影響 ③自社株買いと市場のタイミング仮説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義中にも説明は行ないますが、予め財務諸表には触れていることが望ましいでしょう。テキストは事前にサイトにアップしますので、２時間程度の予習をしておくことを求めます。復習に関しては、各回の授業の後半もしくは授業後に確認のための課題を行ないます。その結果を踏まえ、事後に２時間程度の復習を各自で行なうようにして下さい。

【テキスト（教科書）】
・講義用資料（パワーポイント）

【参考書】
リチャード・ブリーリー、スチュワート・マイヤーズ、フランクリン・アレン著、藤井眞理子、國枝茂樹監訳、“コーポレートファイナンス（上）（下）”日経ＢＰ社 2014年
森直哉著、“コーポレートファイナンス”創成社 2018年

【成績評価の方法と基準】
・最終確認テスト 40％
・各回の小レポート 30％
・授業での関与度 30％

【学生の意見等からの気づき】
多くの意見を期待します。

【学生が準備すべき機器他】
Excelが使用できるパソコンが必要です。

【その他の重要事項】
三十年強に及ぶ証券会社での各種業務における実務と企業経営の経験を活かした授業を心掛けます。
【オフィスアワー】
質問等は、木曜日の３限目（13:10-14:50）に受け付けます。
別途、事前に連絡をいただければ、対面・メールなどでの質問等はいつでも歓迎です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ ファイナンス、イノベーション戦略、起業論、ファミリービジネス経営

【実務家教員】
３０数年間に及ぶ証券会社での実務と企業経営の経験を活かした授業を行ないます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Financial knowledge is very important for corporate management to make correct decisions. It is important and has a significant impact on the success or failure of your business. In this lecture, you will learn about corporate finance.
【Learning Objectives】
The purpose of this lecture is to acquire the knowledge and practical skills necessary to calculate various "values" that are important factors in business management decision making. In Finance Ⅰ, you will mainly study traditional finance theory. We provide full support to help all students achieve a certain level of goals. If possible, I would like to take Finance Ⅱ as well.
【Learning activities outside of classroom】
Two hours of preparation and two hours of review.
【Grading Criteria/Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination ： 40%、Short report ： 30%、in class contribution ： 30%

MAN500F2（経営学 / Management 500）

ファイナンスⅡ

Finance Ⅱ

山﨑　泰明［ヤマサキ ヤスアキ］

単位数：2単位
学期：春学期後半/Spring(2nd half)
授業分類：専門講義
基礎科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業経営にとって、ファイナンスの知識は正しい意思決定を行なうにあたり極めて重要であり、ビジネスの成否を大きく左右します。本講義では、株式会社の財務的な意思決定に関わる投資理論について主に学びます。ファイナンスⅠで学ぶ伝統的投資理論を発展させたものや派生させた分野です。本講義の目的は、企業経営の意思決定の重要な要因となるさまざまな「価値」の算出について多方面からアプローチするために必要な知識と実務に付随することを習得することです。受講者全員が一定の水準の目標に達するようにフルサポートを行ないます。なお、可能であるならば、ファイナンスⅠとともに受講することが望ましいでしょう。

【到達目標】
以下の５つを目標とします。
①ファイナンスを身近に感じ、実務での活用を可能とする。
②資本市場の仕組みを理解する。
③株式や債券の投資について理解する。
④原資産の派生商品を知る。
⑤伝統的ファイナンス理論以外のアプローチ方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
実務家のためのファイナンスの授業という点から、演算演習を交えた講義形式で行ないます。ミニ・ケースや実務での経験談も適宜取り入れます。講義では事前にパワーポイントによるテキストをアップしますので予め理解に努めて下さい。各回の授業の後半では確認課題を出し、各自の考えや意見などの交換を行なうこととします。事業会社のＣＦＯや外資系金融機関の経営者等の実務経験者を適宜招聘し、ファイナンスの実際について各々の立場からの話を聞く機会を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	①イントロダクション ②講義の進め方 ③成績の評価について ④株式投資コンテスト
第2回	ファイナンス概論①	①株式会社の起源と仕組み ②株式市場の仕組み ③債券市場の仕組み
第3回	ファイナンス概論②	①キャッシュフロー ②資金調達の構造 ③利益分配の構造 ④内部留保の構造 ⑤企業価値とは
第4回	証券の価格：株式	①株式の価格 ②配当割引モデル ③市場の効率性 ④ランダムウォーク
第5回	証券の価格：債券	①債券の利回り ②社債の価格
第6回	株式投資理論	①ファンダメンタルズ分析 ②テクニカル分析 ③株式投資コンテスト
第7回	行動ファイナンス①	①代表性バイアス ②利用可能性のバイアス ③保守性バイアス
第8回	行動ファイナンス②	①プロスペクト理論 ②バリュー効果 ③効率的／非効率的市場と株式市場
第9回	外部講師招聘	コーポレートガバナンス改革と日本市場 担当教員によるまとめ
第10回	外部講師招聘	米国株式市場制度の特色 担当教員によるまとめ
第11回	デリバティブ取引①	先物取引
第12回	デリバティブ取引②	オプション取引
第13回	デリバティブ取引③	①スワップ取引 ②転換社債等
第14回	総括	①確認テスト ②株式投資コンテストの講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義中にも説明は行ないますが、予め財務諸表には触れていることが望ましいでしょう。テキストは事前にサイトにアップしますので事前に２時間程度の予習をしておくことを求めます。復習に関しては、各回の授業の後半もしくは授業後に確認のための課題を行ないます。その結果を踏まえ、事後に２時間程度の復習を各自で行なうようにして下さい。

【テキスト（教科書）】
・講義用資料（パワーポイント）

【参考書】
ダニエル・カーネマン著、村井章子訳、“ファスト＆スロー（上）（下）”ハヤカワノンフィクション文庫 2014年

【成績評価の方法と基準】
・最終確認テスト 40％
・各回の小レポート 30％
・授業での関与度 30％

【学生の意見等からの気づき】
多くの意見を期待します。

【学生が準備すべき機器他】
Excelが使用できるパソコンが必要です。

【その他の重要事項】
三十年強に及ぶ証券会社での各種業務における実務と企業経営の経験を活かした授業を心掛けます。
【オフィスアワー】
質問等は、木曜日の３限目（13:10-14:50）に受け付けます。
別途、事前に連絡をいただければ対面・メールなどでの質問等はいつでも歓迎です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ ファイナンス、イノベーション戦略、起業論、ファミリービジネス経営

【実務家教員】
３０数年間に及ぶ証券会社での実務と企業経営の経験を活かした授業を行ないます。

【Outline (in English)】
【Course outline】

Knowledge of finance is extremely important for business management in making the right decisions, and it greatly affects the success or failure of a business. In this lecture, you will mainly learn about investment theory related to financial decision making of corporations. It is a field that is a development or derivative of the traditional investment theory learned in Finance I.
【Learning Objectives】
The purpose of this lecture is to acquire the knowledge and practices necessary for a multifaceted approach to the calculation of various "values" that are important factors in corporate management decision-making. We will provide full support to ensure that all students reach a certain level of goals. If possible, it is advisable to take this course together with Finance I.
【Learning activities outside of classroom】
Two hours of preparation and two hours of review.
【Grading Criteria/Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination ： 40%、Short report ： 30%、in class contribution ： 30%

MAN500F2（経営学 / Management 500）

人的資源管理

Human Resource Management

山田　久［ヤマダ ヒサシ］

単位数：**2単位**
学期：**春学期前半**/Spring(1st half)
授業分類：**専門講義**
基礎科目、MBA特別必修
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【中小企業診断士登録養成課程必修科目】事業活動の担い手は人であり、イノベーションを産み出すのも人です。そして、経済社会環境が高度化し複雑化した今日、事業活動・イノベーション活動は、人の集合体である企業組織を通じて行われるのが一般的です。本講義では、「企業経営・組織運営における人材」にまつわる諸問題を取り上げ、歴史的視点と国際比較の視点を交えながら、戦略的人材マネジメントの考え方――事業価値創造のために、最も重要な経営資源である人材をどう活かしていくべきか―の要点を幅広い視野で多角的に学びます。

【到達目標】
人材マネジメントの基本要素（採用・育成・評価・配置）についてのベーシックなロジックを習得することが第１の目標です。同時に「マクロ環境(経営・事業環境)―企業経営(事業戦略)―人材」という三層構造の中に人材を位置づけたうえで、これら三層の相互の関係性の理解を深めます。それにより、既存の枠組みの根本的な見直しが求められるＶＵＣＡ時代において、イノベーションを興すための人材活用・組織運営に必要な思考――経済社会の在り方まで遡って大局的かつ本質を突いた見方・考え方――ができるようになることを目指します。歴史的視点と国際比較の視点を交えて学び、目先の状況に左右されることなく、問題の本質をつかむ能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
2コマ単位で進める。まず教員が講義し、各回のテーマの概要をつかんだうえで、グループディスカッションを行う。その後グループごとに発表してもらい、補足的な講義を行いながら各回のポイントの理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	人的資源管理とは、人材を巡る問題	人的資源管理で何を学ぶかの概要を示し、いま日本の雇用・人事の現場でどういったことが問題になっているか、を理解する。
1	日本的人事の特徴と変遷	欧米比較からみたわが国雇用システムの特徴を理解し、歴史的に日本の雇用・人事はどう変わってきたかを学び、その現在へのインプリケーションを議論する。
2	採用戦略と若年雇用(１)	若者雇用の現状はどうなっているか、海外の若年雇用の状況との違いは何かを学ぶ。若者の離職率が高いのはなぜか、どうすれば定着するかを議論する。
2	採用戦略と若年雇用(２)	社会経済の環境変化を踏まえ、どうすれば優秀な人材を採用できるか、いかにすれば優秀な人材を確保できるかについて、議論する。
3	人材育成とキャリア開発(１)	人材不足が深刻になっているがその背景は何か、企業の人材育成の現状はどうなっているかについて、国際比較の観点から学ぶ。
3	人材育成とキャリア開発(２)	なぜ企業は人材投資を十分に行わないか、「できる人材」はどういった能力を持っているのか、どうすれば人材は効果的に育つのか、といった論点について議論する。
4	人事評価と昇進管理(１)	評価はどういった要素を対象にし、そもそも何のために行うのか、評価者が陥りやすい誤りにどのようなことがあるか等、評価の基本的ロジックを学び、企業を発展させる評価制度とはどのようなものか、議論する。
4	人事評価と昇進管理(２)	日本企業の昇進制度の特徴はどういったものかを国際比較の観点から理解し、遅い選抜・早い選抜の功罪について議論する。
5	報酬管理と福利厚生(１)	賃金とは何か、どのような機能があるか、どのように決まるのか、といった賃金にまつわる基本的論理と、国際比較からの日本の特徴を理解する。やる気をもたらす賃金制度とはどういったものかを議論する。
5	報酬管理と福利厚生(２)	春闘（春季労使交渉）や福利厚生にはどういう意味があるのかを考え、それらは時代遅れになったといえるのか、その今日的な意味合いを議論する。
6	労働移動と退職管理(１)	わが国の雇用の流動性の現状はどうなっているか、終身雇用の崩壊は本当か、わが国が解雇しにくいのは本当か、海外のリストラはどうなっているか、といった点を学ぶ。
6	労働移動と退職管理(２)	人員削減はどのようなときに合理化され、どういったコストを企業にもたらすのか、適正な人員管理にはどのような考え方が必要か、について議論し、人材ビジネスの役割は何かについても考える。
7	多様な働き方と人材ポートフォリオ（１）	非典型労働者にはどのような種類があり、どういった分野で多く働いているか、企業が非典型労働者を活用する理由は何か、個人が非典型労働で働く理由は何か、等について学ぶ。そのうえで、企業にとって非典型労働者のメリットとデメリットは何かを議論する。
7	多様な働き方と人材ポートフォリオ（２）	非典型労働者にモチベーション高く働いてもらうにはどうすればよいか、正規・非正規間の公平な処遇にはどういった考え方が必要かについて議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、授業で行ったディスカッション・テーマについて、講義で学んだことやディスカッションした内容を踏まえ、自分の考えをA4版1～2ページにまとめて提出する。書くという作業によって学習効果が高まるからである。本授業の準備学習・復習時間は、各１時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回講義資料を配布する。

【参考書】
基本参考文献として、今野浩一郎・佐藤博樹『人事管理入門(新装版)』日本経済新聞出版、守島基博『人材マネジメント入門』日本経済新聞出版社、山田久『同一労働同一賃金の衝撃』日本経済新聞出版社。その他参考文献は適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】
次の要素を合計して評価する。①毎回の出席と講義時間中の議論への関与(40%)、②毎回提出するレポート(20％)、③期末レポートの作成および小テスト(40%)

【学生の意見等からの気づき】
講義資料の見やすさを工夫し、ディスカッションを活発化させるグループ人数を設定するよう心がけます。

【その他の重要事項】
本講義は「中小企業診断士養成過程必修科目」です。講師は民間シンクタンクでのジェネラルマネジャー(部長）を６年間勤め、人材マネジメントの実際を経験しています。また、「働き方改革」関連の政府審議会に属したことがあり、企業人事実務者や労組幹部向けの講演を通じて様々な意見交換をしてきました。そうした実務経験で得た知識を活かしながら、人材マネジメントの現場に即したディスカッションを行い、組織と人の問題の実際を学べる場を提供できればと考えています。

【担当教員の専門分野、最近の主要業績】
＜専門領域＞労働経済学、人的資源管理論
＜研究テーマ＞新しい労働市場のグランド・デザイン、ＶＵＣＡ時代の人材マネジメント
＜主要研究業績＞
①『失業なき雇用流動化』慶応義塾大学出版会、②『同一労働同一賃金の衝撃』日本経済新聞出版社、③『賃上げ立国論』日本経済新聞出版社

【Outline (in English)】
Human resources are the most important elements to enhance business innovations.　The propose of the lecture is to understand core concepts of human resource management in Japan.　Students will learn various issues concerning Strategic Human Resource Management, from the viewpoints of historical context and international comparison.

MAN500F2（経営学 / Management 500）

人的資源管理論Ⅰ

Human Resource Management 1

山田　久［ヤマダ ヒサシ］

単位数：2単位
学期：秋学期前半/Fall(1st half)
授業分類：専門講義
基礎科目
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
事業活動の主体的な担い手は人であり、イノベーションを実現するのも人です。そして、経済社会環境が高度化し複雑化した今日、あらゆる事業活動・イノベーション活動は、基本的に人の集合体である企業組織を通じて行われます。本講義では、「企業経営・組織運営における人材」に関連する中核的なトピックスを取り上げ、歴史的視点と国際比較の視点を交えながら、戦略的人材マネジメントの考え方――事業価値創造のために、最も重要な経営資源である人材をどう活かしていくべきか―の要点を学びます。

【到達目標】
人材マネジメントの基本要素（採用・育成・評価・配置）についてのベーシックなロジックを習得することが目標です。同時に「マクロ環境(経営・事業環境)―企業経営(事業戦略)―人材」という三層構造の中に人材を位置づけたうえで、これら三層の相互の関係性の理解を深めます。それにより、既存の枠組みの根本的な見直しが求められるＶＵＣＡ時代において、イノベーションを興すための人材活用・組織運営に必要な思考――経済社会の在り方まで遡って大局的かつ本質を突いた見方・考え方――ができるようになることを目指します。歴史的視点と国際比較の視点を交えて学び、目先の状況に左右されることなく、問題の本質をつかむ能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
まず教員が講義し、各回のテーマの概要をつかんだうえで、グループディスカッションを行う。その後グループごとに発表してもらい、補足的な講義を行いながら各回のポイントの理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人的資源管理とは、人材を巡る問題	人的資源管理で何を学ぶかの概要を示し、いま日本の雇用・人事の現場でどういったことが問題になっているか、を理解する。
第1回	日本的人事の特徴と変遷	欧米比較からみたわが国雇用システムの特徴を理解し、歴史的に日本の雇用・人事はどう変わってきたかを学び、その現在へのインプリケーションを議論する。
第2回	採用戦略と若年雇用(1)	若者雇用の現状はどうなっているか、海外の若年雇用の状況との違いは何かを学ぶ。若者の離職率が高いのはなぜか、どうすれば定着するかを議論する。
第2回	採用戦略と若年雇用(2)	社会経済の環境変化を踏まえ、どうすれば優秀な人材を採用できるか、いかにすれば優秀な人材を確保できるかについて、議論する。
第3回	人材育成とキャリア開発(1)	人材不足が深刻になっているがその背景は何か、企業の人材育成の現状はどうなっているかについて、国際比較の観点から学ぶ。
第3回	人材育成とキャリア開発(2)	なぜ企業は人材投資を十分に行わないか、「できる人材」はどういった能力を持っているのか、どうすれば人材は効果的に育つのか、といった論点について議論する。
第4回	人事評価と昇進管理(1)	評価はどういった要素を対象にし、そもそも何のために行うのか、評価者が陥りやすい誤りにどのようなことがあるか等、評価の基本的ロジックを学び、企業を発展させる評価制度とはどのようなものか、議論する。
第4回	人事評価と昇進管理(2)	日本企業の昇進制度の特徴はどういったものかを国際比較の観点から理解し、遅い選抜・早い選抜の功罪について議論する。
第5回	報酬管理と福利厚生(1)	賃金は労働の対償。賃金支払いの基準、適切な賃金水準を決める方法。
第5回	報酬管理と福利厚生(2)	賃金体系のあり方。定期昇給の意味。ボーナスの支払基準。
第6回	労働移動と退職管理(1)	わが国の雇用の流動性の現状はどうなっているか、終身雇用の崩壊は本当か、わが国が解雇しにくいのは本当か、海外のリストラはどうなっているか、といった点を学ぶ。
第6回	労働移動と退職管理(2)	人員削減はどのようなときに合理化され、どういったコストを企業にもたらすのか、適正な人員管理にはどのような考え方が必要か、について議論し、人材ビジネスの役割は何かについても考える。
第7回	労働時間管理と柔軟な働き方(1)	わが国労働者の長時間労働の実態を把握したうえで、残業削減にはどういった目的があり、それに副作用はないかを議論する。
第7回	労働時間管理と柔軟な働き方(2)	裁量労働制や高度プロフェッショナル制度の意義を理解し、適正運用の課題は何かを考える。テレワークにはどういった功罪があるか、転勤制度は必要かを議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、授業で行ったディスカッション・テーマについて、講義で学んだことやディスカッションした内容を踏まえ、自分の考えをA4版1～2ページにまとめて提出する。書くという作業によって学習効果が高まるからである。本授業の準備学習・復習時間は、各１時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回講義資料を配布する。

【参考書】
基本参考文献として、今野浩一郎・佐藤博樹『人事管理入門(新装版)』日本経済新聞出版、守島基博『人材マネジメント入門』日本経済新聞出版社、山田久『同一労働同一賃金の衝撃』日本経済新聞出版社。その他参考文献は適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】
次の３つの要素を合計して評価します。
①毎回の出席と講義時間中の議論への関与(40%)
②毎回提出するレポートの質(20％)
③レポートの作成および小テスト(40%)

【学生の意見等からの気づき】
講義資料の見やすさを工夫し、ディスカッションを活発化させるグループ人数を設定するよう心がけます。

【その他の重要事項】
次年度開講予定の人的資源管理論Ⅱを併せて履修することが望ましい。

【担当教員の専門分野、研究テーマ、最近の主要な業績】
＜専門領域＞労働経済学、人的資源管理論
＜研究テーマ＞新しい労働市場のグランド・デザイン、ＶＵＣＡ時代の人材マネジメント
＜主要研究業績＞
①『失業なき雇用流動化』慶応義塾大学出版会、②『同一労働同一賃金の衝撃』日本経済新聞出版社、③『賃上げ立国論』日本経済新聞出版社

【Outline (in English)】
Human resources are the most important elements to enhance business innovations. The propose of the lecture is to understand core concepts of human resource management in Japan. Students will learn core issues concerning Strategic Human Resource Management, from the viewpoints of historical context and international comparison.

MAN500F2（経営学 / Management 500）

財務会計論（M特必修）

Financial Accounting

石島　隆［Takashi ISHIJIMA］

単位数：**2単位**
学期：**春学期前半**/Spring(1st half)
授業分類：**専門講義**
基礎科目、MBA特別必修
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、中小企業診断士養成課程の必修科目である。
財務諸表は、事業活動の成果と資産・負債等の状況を簡潔に要約し、株主・債権者等に伝達する媒体である。従って、財務諸表の内容を正確に理解できることは、経営者にとっても、また、それを支援する立場である経営管理スタッフやコンサルタントにとっても重要である。
学生は、本授業において、財務諸表（貸借対照表、損益計算書及びキャッシュ・フロー計算書等）を分析する手法を学ぶことにより、企業の経営状況の特徴を財務の視点から理解し、企業に対して改善提案ができるようになることを目指す。
公表されている上場企業の財務諸表を分析対象として用いるが、中小企業の財務会計と経営指標の特徴についても学ぶ。

【到達目標】
学生が財務諸表数値の内容を理論的に理解するだけではなく、実際に財務諸表を分析し、分析結果を解釈し、財務上の課題に対する改善提案ができるようになることを目標とする。
このため、授業内で行うグループ討議と発表において、各単元の理解度を確認するとともに、最終レポートにおいて、学生が自ら選定した企業の財務諸表分析の結果と改善提案を報告することで目標達成度を評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では，受講者が会計学の基本的な知識を持っていること（中小企業診断士第１次試験の「財務・会計」に合格したレベルを前提とする。
財務諸表分析に関するグループ討議を行い、分析結果に基づく財務上の課題に対する改善提案の発表を求めることにより、財務会計に対する実践的な知識の理解を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	財務会計の役割と財務分析の目的 財務諸表の体系・表示方法、財務情報の入手方法	財務会計の役割と財務分析の目的について討議し、授業の到達目標を共有する。 有価証券報告書の構成、財務諸表の体系・表示方法、及び財務分析のためのデータの入手方法を学ぶ。
2	財務諸表の全体構造 財務諸表分析の方法	財務諸表の全体構造と財務諸表分析の方法を学び、実際の財務諸表を用いた分析方法を学ぶ。
3	分析対象会社の選定と資本利益率の分析	分析対象会社の選定と資本利益率の分析についてグループ討議を行い、結果を発表する。 担当教員によるまとめ
4	費用・収益の会計と分析方法 (1)	収益・費用の会計と実際の財務諸表を用いた分析方法を学ぶ。
5	費用・収益の会計と分析方法 (2)	分析対象会社の財務諸表を用いて、①収益性指標のうち売上高利益率、②生産性指標、③各種の収益・費用項目の内容の分析について、グループ討議を行い、結果を発表する。
6	資産の会計と分析方法 (1)	資産の会計と実際の財務諸表を用いた分析方法を学ぶ。
7	資産の会計と分析方法 (2)	分析対象会社の財務諸表を用いて、①収益性指標のうち資本回転率、②設備の状況、③各種の資産項目の内容の分析について、グループ討議を行い、結果を発表する。
8	負債・純資産及び税金の会計と分析方法 (1)	負債・純資産及び税金の会計と実際の財務諸表を用いた分析方法を学ぶ。
9	負債・純資産及び税金の会計と分析方法 (2)	分析対象会社の財務諸表を用いて、①安全性指標及び財務レバレッジ、②株価関連指標、③成長性指標、④各種の負債・純資産項目の内容、⑤法人税等の分析について、グループ討議を行い、結果を発表する。
10	キャッシュ・フロー計算書の構造と分析方法 (1)	キャッシュ・フロー計算書の構造と実際の財務諸表を用いた分析方法を学ぶ。
11	キャッシュ・フロー計算書の構造と分析方法 (2)	分析対象会社の財務諸表を用いて、①キャッシュフロー関連指標、②各種のキャッシュフロー項目の内容の分析について、グループ討議を行い、結果を発表する。
12	会計情報に基づく経営分析結果の総合的な結論 (1)	会計情報に基づく経営分析結果の総合的な結論（改善提案を含む）のまとめ方について学ぶ。
13	会計情報に基づく経営分析結果の総合的な結論 (2)	分析対象会社の財務諸表を用いた経営分析結果の総合的な結論（改善提案を含む）のとりまとめについて、グループ討議を行い、結果を発表する。担当教員によるとりまとめとコメントを行う。
14	中小企業の財務の特徴（ゲスト講師招聘）	中小企業の財務に詳しい中小企業診断士をゲスト講師として招聘し、講演の後、質疑・討議を行う。最後に担当教員によるとりまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義では、ノートPCを用いた経営分析の演習を行う。グループ別に会社を選定して、分析と討議を行い、分析結果の発表を求めることによって、各種分析手法を学んでいく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
桜井久勝著『財務諸表分析（第９版）』中央経済社（税込￥3,740）
なお、上記のテキストの改訂版等が発売された場合は、最新版を使用するが、受講において第９版でも学習に差し支えないように配慮する。

【参考書】
桜井久勝著『財務会計講義（第25版）』中央経済社（税込￥4,180）

【成績評価の方法と基準】
授業中に行うグループ討議結果に関する発表及び積極的な質問や発言（50％）
最終レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】
企業の財務分析の結果を財務上の課題に対する改善提案に繋げるための体系的な考え方を身につけられるようにする。

【学生が準備すべき機器他】
授業で使用する資料の配付は、授業支援システムで行う。

授業中に行うグループ討議のための情報収集、とりまとめ、発表にノートPCを利用するので、毎回、ノートPCを持参すること。

【その他の重要事項】
授業の中での活発な質問、討議と質の高い最終レポートを期待する。
＜オフィスアワー＞
春学期：月曜日5限目（16:50-18:30）
この日時の都合が悪い学生については、個別に調整するので、E-Mailで連絡いただきたい。
教員は、20年余りにわたり、上場企業等の財務諸表監査、システム監査、IT利用監査、システム構築のコンサルティング業務等に従事した後に大学教員となった。これらの経験を生かして、財務分析を企業経営の実態を理解し、改善提案を行うためのツールとして活用できるように指導する。

【Outline (in English)】
Financial statements are mediums that briefly summarize the outcomes of business activities and the status of assets, liabilities, etc. and convey them to shareholders, creditors, etc. Therefore, being able to understand the contents of financial statements accurately is also important for management and for management staff and consultants who are in a position to support it.
In this class, students will learn how to analyze financial statements (balance sheets, profit and loss statements, cash flow statements, etc.), thereby understanding the characteristics of a company's business situation from a financial perspective and applying it to a company. The aim is to be able to make suggestions for improvement.
We will use the published financial statements of listed companies as the analysis target, but also learn about the characteristics of financial accounting and management indicators of SMEs.

MAN500F2（経営学 / Management 500）

財務会計論

Financial Accounting

内山　峰男［ウチヤマ ミネオ］

単位数：2単位
学期：秋学期前半/Fall(1st half)
授業分類：専門講義
基礎科目
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では，受講者が会計学を初めて学習することを前提として，新聞やテレビ等の報道で取り上げられる会計問題等、身近な話題も題材にしながら、会計に関する幅広い知識を習得していくことを目的としている。

【到達目標】
企業の会計に関して、企業の作成する財務諸表の具体的な内容を理解し、財務諸表が社会的にどのような役割と機能を備えているのか、さらには財務諸表を通じて企業がどのように活動しているのかについて、実際の数値を分析したり、モデルの数値を作成することにより理解をはかっていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
財務諸表を分析するにあたりに必要な基本知識を講義し、具体的な事例を紹介すると共に、各自興味のある会社を実際に分析し発表してもらいこれを題材に議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	財務情報の内容・役割を解説し、具体的な入手方法を説明する。
2	企業の情報開示	金融商品取引法と会社法の情報開示についてその目的・内容について説明する。
3	会計情報の作成方法	会計情報はどの様に作成されるかについて、具体的数値を用いて、複式簿記の基礎を説明する。
4	財務諸表の種類	個別財務諸表と連結財務諸表の記載内容について説明する。
5	貸借対照表	貸借対照表の作成原則および構成する資産・負債・純資産の記載内容について説明する。
6	損益計算書	損益計算書の作成原則および構成する費用・収益・利益の記載内容について説明する。
7	キャッシュ・フロー	キャッシュ・フロー作成原則および具体的キャッシュの記載内容について説明する。
8	株主資本等変動計算書およびセグメント情報	株主資本等変動計算書およびセグメント情報の作成原則および記載内容について説明する。
9	財務諸表分析の具体的方法(1)	財務分析の方法その目的について説明する。
10	財務諸表分析の具体的方法(2)	具体例を用いて財務の安全性に関する分析の手法を説明する。
11	財務諸表分析の具体的方法(3)	具体例を用いて財務の収益性に関する分析の手法を説明する。
12	財務諸表分析の具体的方法(4)	具体例を用いて財務の生産性・成長性に関する分析の手法を説明する。
13	財務諸表分析事例（1）	受講生の選定した企業を具体的な事例として財務分析を行い議論する。
14	財務諸表分析事例（2）	受講生の選定した企業を具体的な事例として財務分析を行い議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自興味のある企業を選定し、そのビジネスモデルや競合企業について、企業のWeb（IR情報）等により情報を入手し調べておくこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
・新版 会計学入門(第4版) 千代田邦夫著 中央経済社
・新・現代会計入門 第2版 伊藤邦雄 日本経済新聞出版社
・新・企業価値評価 伊藤邦雄 日本経済新聞出版社
・財務諸表読解入門 高田直芳 日本実業出版社
・決定版 ほんとうにわかる財務諸表 高田直芳 ＰＨＰ研究所
・増補改訂 財務3表一体理解法 (朝日新書) 國貞克則著 朝日新聞出版
・財務3表図解分析法 (朝日新書) 國貞克則著 朝日新聞出版
・財務3表実践活用法 國貞克則著 朝日新聞出版

【成績評価の方法と基準】
（発表：リポート） 30％：70％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
The lecture intends for a student learning after starting accounts. I take up the basic knowledge of accounts and an imminent topic. It is intended to learn the wide knowledge about accounts.

MAN500F2（経営学 / Management 500）

管理会計論

Managerial Accounting

石島　隆［Takashi ISHIJIMA］

単位数：2単位
学期：秋学期後半/Fall(2nd half)
授業分類：専門講義
基礎科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
管理会計は、経営管理を支援するためにさまざまな会計情報に基づいて構築された管理システムである。本授業では、管理会計の理論を学び、実践事例を検討することにより、効果的な経営管理のための管理会計の手法を学ぶ。
なお、本授業では、主として大企業の管理会計の実践事例を取り上げるが、中小企業向けに応用するための観点についても議論する。

【到達目標】
本授業では、学生が管理会計の理論を活用して、自らが所属する組織又は支援対象組織における経営管理に関する問題点を分析し、改善策の策定ができるようになることを目標とする。
管理会計の実践に関して、学生が各自でテーマを選定して、事例調査又は特定の事例への手法の適用例の作成を行い、その結果を発表し、最終レポートとして報告することで目標達成度を評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業方法は、講義を中心とするが、内容をより深く理解するために、適宜ノートPCでExcelを用いた計算演習を行う。また、最終回では、管理会計の実践に関して、学生が各自でテーマを選定して、事例調査又は特定の事例への手法の適用例の作成を行い、その結果の発表を求める。さらに、管理会計の理論と実務適用に関する知見を得るためにゲスト講師を招聘する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	管理会計の役割と体系	管理会計の役割と体系について学ぶ。
2	原価概念と原価計算モデル	原価概念と製造業・サービス業の原価計算の方法の概要を学ぶ。
3	企業評価と財務諸表分析	企業価値評価と財務諸表分析の方法について学ぶ。
4	中長期経営計画、利益計画と予算管理	中期経営計画と利益計画について、上場企業における中期経営計画の事例を検討する。予算管理については、脱予算管理の論点も含めて学ぶ。
5	バランススコアカード（BSC）	バランススコアカードの考え方と適用方法について学ぶ。
6	直接原価計算とCVP分析	直接原価計算の考え方とCVP分析（原価・営業量・利益の関係に関する分析）の手法について学ぶ。
7	活動基準原価計算（ABC）と戦略的コストマネジメント	活動基準原価計算（ABC）、マテリアルフローコスト会計（MFCA）、ライフサイクル・コスティング、品質コストマネジメント等の手法について学ぶ。
8	営業費管理会計	営業費の管理会計について学ぶ。
9	設備投資の経済性計算	投資決定プロセスの内容と投資経済計算の手法について学ぶ。
10	事業部制とセグメント利益管理	事業セグメント別の利益管理の考え方、内部振替価格の設定、共通費配賦の手法について学ぶ。また、企業間取引価格の設定に関連して、移転価格税制の考え方についても学ぶ。
11	製造業の管理会計（1）	ゲスト講師を招聘し、製造業の管理会計の考え方について学ぶ。担当教員によりまとめとコメントを行う。
12	製造業の管理会計（2）	ゲスト講師を招聘し、製造業の管理会計について質疑及び討議を行う。担当教員によりまとめとコメントを行う。
13	学生による事例研究発表（1）	管理会計の実践に関して、学生が各自でテーマを選定して、事例調査結果又は特定の事例への適用例の作成を行い、その結果を発表する。担当教員によりまとめとコメントを行う。
14	学生による事例研究発表（2）	前回の続きを行う。担当教員によりまとめとコメントを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの該当する章を事前に読んでおくこと。
また、最終回に、管理会計の実践に関して、学生が各自でテーマを選定して、事例調査（自社事例調査、関連文献調査等）又は特定の事例への手法の適用例の作成を行い、その結果の発表を求める。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
櫻井通晴著『管理会計論 第7版』同文舘出版（税込￥6,490）

【参考書】
吉川武男著『決定版バランス・スコアカード』生産性出版（税込￥2,640）
上總康行著『ケースブック 管理会計』新世社（税込￥2,805）
加登豊・李建著『ケースブック コストマネジメント 第2版』（税込￥2,695）

【成績評価の方法と基準】
授業中に行う討議への積極的な参加と発表（60%）
最終レポート（40%）

【学生の意見等からの気づき】
授業中の討議・演習の機会を増やし、管理会計の考え方が体得できるようにする。製造業のみではなく、多様な業種における管理会計の考え方を取り扱うようにする。

【学生が準備すべき機器他】
講義の内容をより深く理解するために、適宜ノートPCでExcelを用いた計算演習を行う。また、資料はｅラーニングシステムからのダウンロードによる配付のため、毎回ノートPCを持参すること。

【その他の重要事項】
授業の中での活発な質問と討議を期待する。
＜オフィスアワー＞
秋学期・金曜日5限目（16:50-18:30）
この日時の都合が悪い学生については、個別に調整するので、E-Mailで連絡いただきたい。
教員は、20年余りにわたり、上場企業等の財務諸表監査、システム監査、IT利用監査、システム構築のコンサルティング業務等に従事した後に大学教員となった。これらの経験を生かして、管理会計の様々な手法を組織の経営に有効に活用するための考え方について指導する。

【Outline (in English)】
The management accounting is a management system constructed based on various accounting information to support business management. In this class, you will learn the theory of management accounting and study management accounting methods for effective business management by examining practical cases. In this class, we will mainly focus on practical cases of management accounting of large companies, but we will also discuss the viewpoints for applying it to small and medium-sized enterprises.

MAN500F2（経営学 / Management 500）

ビジネスと租税法

Tax Law

金田　勇［カネダ イサム］

単位数：2単位
学期：春学期後半/Spring(2nd half)
授業分類：専門講義
基礎科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
わが国の租税法について、租税の意義から主な税目の概要まで、一通りの基本的事項を学習し、租税法を体系的に修得することを目的とする。さらに、租税法は、法律のみならず、会計、経済、経営の領域にもまたがる学際的な学問であることから、各ビジネス実務への高い対応能力を修得することも目的とする。なお、本授業は個人と法人（中小法人、大企業）に関する租税を対象としている。

【到達目標】
租税法の基本を理解したうえで、適切な事例を参照・検討しながら、租税理論と租税実務の相違点を把握して、さまざまなビジネス取引に当てはめることのできる能力を身につけることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式で行うが、教員と学生との質疑応答や、学生からの課題の発表等によるディスカッションも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	租税の意義	租税法における租税とは何か。租税の定義、根拠、種類、目的、制度沿革、原則、体系等を通じて、租税の意義を理解する。
2	租税法の意義	租税に関する学問分野の1つである租税法について、その体系、特色等を通じて、租税法の意義を理解する。
3	租税法の基本原則①	租税法の全体を支配する基本原則について理解する。次に、基本原則のひとつである租税公平主義とりあげて、その意義と機能について考察する。
4	租税法の基本原則②	租税法の基本原則のひとつである租税法律主義をとりあげて、その意義と機能について考察する。
5	相続税法の法源と効力	租税法の法源として、わが国の法体系を理解する。さらに、租税法の効力が及ぶ適用範囲を検討する。
6	租税法の解釈と適用	租税法を適用するためには、法の意味内容についての法解釈が重要である。裁判例等を検討することによって、様々な法解釈論を修得する。
7	課税要件総論	納税義務の成立要件たる課税要件について理解する。特に、各租税に共通の課税要件について一般的・体系的に検討する。
8	課税要件各論①	所得税の課税要件について理解する。
9	課税要件各論②	所得税の税務訴訟事例を検討する。
10	課税要件各論③	法人税の課税要件について理解する。
11	課税要件各論④	法人税の税務訴訟事例を検討する。
12	課税要件各論⑤	相続税・贈与税の課税要件について理解する。
13	課税要件各論⑥	相続税・贈与税の税務訴訟事例を検討する。
14	まとめ	授業において議論した論点や裁判例等を整理・確認しながら、授業内容を総括する。また、試験等により学生の評価も行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習・復習、補助レジュメの復習、授業内で指示された課題の提出・発表の対応、裁判例等の検索・整理。
本授業の準備・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
補助レジュメを配付する

【参考書】
税務大学校講本（税務大学校HPからダウンロード）
金子宏『租税法（第24版）』（弘文堂、2021）
金子宏他共編著『ケースブック租税法（第5版）』（弘文堂、2017）
中里実他共編『租税判例百選（第7版）』別冊ジュリストNo.253（有斐閣、2021）
中里実他共編『租税法判例六法（第5版）』（有斐閣、2021）

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、レポート・課題発表50％、試験20％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
レポート等提出にあたっては、学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
公認会計士・税理士として税務会計業務に精通しているので、授業内容と実務の関連性についても説明する。また専門職大学院での教員歴も長いため、資格取得のためのアドバイスも行う。

【Outline (in English)】
The purpose of this study is to systematically learn tax law by learning a general set of basic matters, from the significance of tax to the outline of major tax items, regarding tax law in Japan. Furthermore, since tax law is an interdisciplinary discipline that spans not only law but also accounting, economics, and management, the purpose is to acquire a high level of ability to respond to each business practice. This study covers taxes related to individuals and corporations (SMEs and large corporations).

MAN500F2（経営学 / Management 500）

ロジカル・シンキング

Logical Thinking

村上　健一郎［ムラカミ ケンイチロウ］

単位数：2単位
学期：春学期前半/Spring(1st half)
授業分類：専門講義
基礎科目
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、ビジネスのデザインを目的として、課題解決のための論理的な仮説検証の思考方法、および、フレームワークをプロジェクトメソッドで学ぶ。まず、ロジカルシンキングの概要と原理や経営学の各分野における代表的なフレームワークを理解する。そして、自分のビジネスプロジェクトについて最新のジョブ理論とリーンスタートアップ理論によるビジネスデザインを行う。なお、ビジネスプランや論文のロジカルライティングについても説明する。（中小企業、大企業の両方向け。）

【到達目標】
目標は、各学生が、自分のプロジェクトテーマに本講義の内容を適用することによって、ビジネスのデザインを行えるようになることである。従って、毎回の講義で習得した論理思考の技法やフレームワークを自分のプロジェクトへ適用した結果を提出すること、および、そのプレゼンテーションが課せられる。これらの一連の課題を通し、デザインプロセス全体を体験してデザインの技法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は2コマ単位で進める。資料を毎回配布し、それに基づいて講義を進めてゆく。受講者には、毎回課題が課せられ、1コマ目はその発表と議論から始まる。基本的に下記のスケジュールで進め、学生の理解の状況によって適宜見直す。ケースメソッドではなくプロジェクトメソッドで講義を行うため、自分のビジネスプロジェクトが必要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ロジカルシンキングとビジネスモデル	ビジネスデザインにおける、よくある間違いについて学ぶ。また、PICT図によりビジネス分析を行い、ビジネスモデルの基本を知る。
2	ビジネスデザインとロジカルシンキング	ビジネスデザインとロジカルシンキングとの関係について説明し、ウォーターフォールとリーンスタートアップとの２つのデザインモデルについて説明する。
3	ジョブ理論と切実な課題JTBD	切実な課題JTBDの発見と、それがニーズにつながるメカニズムを学ぶ。また、自分のプロジェクトについてニーズのメカニズム分析を行う。
4	論理展開	代表的な論理展開法である演繹法、帰納法、逆演繹（アブダクション）について学ぶ。また、因果関係の把握を簡単なケースを使って行う。
5	仮説思考と多段階検証	課題や解決策発見のための仮説思考について説明する。また、自分のプロジェクトに適用し、課題仮説とソリューション仮説とを立てる。
6	BMCによるビジネスデザイン	ビジネスモデルキャンパスBMCの基礎を学ぶ。また、自分のプロジェクトに適用し、９つの要素から成るビジネスモデルのデザインを行う。
7	MECE(ミーシー)とフレームワーク思考	さまざまなフレームワークの基礎となるミーシー(漏れなく、ダブりなく)を４つの例題を使って説明する。また、その落とし穴についても言及する。
8	ロジックツリー	ロジックツリーの概要と作成のコツについて説明する。また、応用として、原因追求、解決策探索のロジックツリーを自分のプロジェクトに適用する。
9	フレームワークの適用	分析や課題解決に用いられる代表的なフレームワーク3Cs, 5Fs, SWOTの適用例を例題で学ぶ。また、これらを自分のプロジェクトへ適用して仮説検証を行う。
10	市場規模の推定	フェルミ推定によって、市場規模の予測を行う方法を学ぶ。また、自分のプロジェクトに適用して規模を推定するとともに、ビジネスとして成立するかどうかの判断を行う。
11	フレームワークの実際	ビジネスデザインで用いられるSTPと4Pフレームワークを具体的に学び、自分のプロジェクトにそれらを適用してプロジェクトの改善を行う。
12	ビジネスプランの書き方	ビジネスプランの構成、要件、作成プロセスについて説明する。また、スタートアップに必要なメンターの役割、投資家へのエレベータピッチについても解説する。
13	論文の構成と要件	論文の構成、要件、作成プロセスについて説明する。論文形式PREPについて示し、取りかかり方のノウハウについても解説する。
14	ロジカルプレゼンテーションの技法	プレゼンの種類を説明し、聞き手という視点からのプレゼンの構成方法、準備が8割である等のノウハウ、よくある失敗例を示す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義は反転授業の形式で進められる。即ち、講義の終わりには自分のプロジェクトテーマに講義で説明を受けたフレームワークを適用する課題が毎回課せられる。この結果は、パワーポイントやワードなどを使って文書化し、講義の冒頭で発表することが求められる。本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストとして、pdf化した講義資料を学習支援システムにて毎回事前配布する。参考書については、毎回の講義の中で適宜指示する。

【参考書】
理科系の作文技術（新書）、木下是雄著、中央公論新社、ISBN4-12-100624-0(￥756)
世界一やさしい問題解決の授業、渡辺健介著、ダイアモンド社、ISBN：978-4-478-00049-6(￥1,200)
ジョブ理論、クレイトン・M・クリステンセン著、ハーパーコリンズ・ジャパン社、ISBN-10: 4596551227(￥2,160)
ビジネスモデルジェネレーション、アレックス・オスターワルダー他著、翔泳社、ISBN: 9784798122977（￥2,728)

リーンスタートアップ、エリック・リース著、日経BP社、ISBN-10: 4822248976（￥1,980）
アントレプレナーの教科書、スティーブ・ブランク著、翔泳社、ISBD-10: 4798143839（￥2,640）

【成績評価の方法と基準】
以下の3つの点から評価する。
(1) 毎回の課題と発表の品質(25%)、(2) 講義への関与度と貢献度(25%)、(3) 総合演習レポートの品質(50%)

【学生の意見等からの気づき】
アサインメントを毎回課すためにアサインメントの数が多すぎるとの指摘や、逆に、毎回アサインメントに関するプレゼンテーションを受講者全員ができるようにすべき、との相反する意見がある。前者に対しては、本講義が各学生に課せられたビジネスプロジェクトの促進の目的があること、また、アサインメントが毎回課されることを初回の講義で伝える。後者に対しては、講義時間が有限であることから、ラウンドロビンでプレゼンテーションや発言の機会を用意することにより、全体の講義を通じて平等になるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン(キーボードのついているもの、スマホでは迅速な検索や発表ができないため）

【その他の重要事項】
本講義では、学生自身のビジネスプロジェクトへ学びを適用するプロジェクトメソッドで講義を行います。例題は自分自身のプロジェクトとなります。
毎回の課題は、各自のプロジェクトのレビューと再デザインを目的としている。オフィスアワーは本講義前の５限目（16:50-18:20)としますが、プロジェクトの秘密保持のため、他の学生と重ならないように事前にメールで確認願います。
この講義には、24年間のNTT研究所での研究実用化と論文執筆の実務経験を活かし、課題解決法とフレームワーク、および、論文執筆の基礎を織り込んでいます。

【Outline (in English)】
This course focuses on problem solving and business design. First, it introduces fundamental logical thinking methods such as induction, deduction, and abduction. Then, it refers to typical frameworks and concepts for problem solving in business management. Students are assigned to review and improve their own business projects based on the frameworks. Each lecture starts with PowerPoint presentations of the improved business projects by some students. In addition to logical thinking, this course explains logical writing principles for writing a business plan, papers, and a master thesis.

MAN500F2（経営学 / Management 500）

コンサルティング技法

Consulting Skills

並木　雄二［ナミキ ユウジ］

単位数：2単位
学期：春学期前半/Spring(1st half)
授業分類：専門講義
基礎科目、MBA特別必修
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中小企業診断士養成課程の必修科目であり、助言能力にあたる。「調べること、思考すること、書くこと、発表すること」という一連の課題に対して基礎的な知識と実践方法を得る。経営目標の達成を図るため、企業の問題発見・問題解決プロセスに参加し、信頼感を獲得したうえで、的確な指導・支援・アドバイスができるスキルを習得する。コンサルタントの思考法、コンサルタントのコミュニケーションスキル、コンサルティングプロセスについてケースを用いて習得する。

【到達目標】
経営コンサルタントとして求められる課題の発見、そして課題の設定、情報収集とリサーチ、考察、プレゼンテーションとドキュメンテーションまでの一連の流れを理解し、主体的に取り組む基礎を作る。
1．コンサルタントの思考法では、経営コンサルタントの思考法の土台となる論理的思考、問題発見・問題解決の思考技術を習得すること。
2．コンサルタントのコミュニケーションスキルでは、インタビュースキル、プレゼンテーションスキルを習得すること。
3．コンサルティングプロセスでは、経営コンサルタントとしてのコンサルティングプロセスとクライアント企業の自律化を支援するための経営コンサルタントとしてのプロフェッショナリズムを理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
中小企業診断士養成課程の入り口の講義として、その後に求められる様々な調査のやり方や経営診断実習の基礎を作る。講義と実践を半々で行う。学生は常に課題についての予習をすることが求められる。ゲスト講師の講義も取り入れ、積極的にそれについても参加することを求める。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義科目の目的や全体構成について	各領域の重要ポイントと関連性、及び経営コンサルタントのあり方と経営診断実習との関連性、実習で求められる基本姿勢について学ぶ
2	コンサルタントの思考法	情報収集、現状分析、仮説づくりの一連のプロセスについて
3	コンサルタントの思考法企業コンサルティング事例	問題発見技術と課題設定の技術
4	コンサルタントの思考法問題点の整理と構造化 PDCAサイクルとKPIマネジメント	問題を共通認識とするために整理分析の手法を学ぶ PDCAサイクルとKPIマネジメントによるコンサルティング手法を事例と演習で学ぶ
5	コンサルタントの思考法企業コンサルティング事例	論理的思考、問題発見、問題解決技法などの思考法を学ぶ
6	企業コンサルティング事例課題解決手法	課題解決の手法を具体的な事例と演習で学ぶ
7	プレゼンテーション技法	プレゼンテーションの基礎から構成法、デリバリー手法を理解
8	インタビュースキル	ゲスト講義 経営診断のためのコミュニケーションの技術、調査の設計、アポイントの取り方、経営者へのインタビューの仕方とまとめ方などを具体的に修得する
9	コンサルティングとプレゼンテーションス実践	コンサルタントによる講師業務の実際とメニュー開発、組み立て、評価方法などを学ぶ
10	コンサルティング事例	ゲスト講義 実際のコンサルティング事例から討議を行う
11	コンサルティングプロセスⅠ	コンサルティングのプロポーザルからアフターフォローまでの一連の流れを理解する
12	コンサルティング事例 中小企業	ゲスト講義 中小企業のコンサルティング事例を学び、討議を行う
13	コンサルティング事例とコンサルタントに求められる要件①自律化支援	コンサルティング事例からコンサルタントに求められる要件を学ぶ。
14	コンサルティング事例とコンサルタントに求められる要件②プロフェッショナリズム	コンサルティング事例からコンサルタントに求められる要件を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
経営コンサルティングの理論と実務を事理を通して学ぶ。それぞれの講義を積極的に参加し、2回の講義の中で1回以上の質問、討議、発表を求める。ゲスト講師の講義にも同様。
各種レポートの提出とプレゼンテーション準備本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義中に指定する。

【参考書】
講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
討議への参加と発表、質問品質（７０％）レポート（３０％）
討議は一日一回の積極的な発表を求めます。討議に参加する姿勢が重要です。
レポートと発表は、
課題は、企業経営や実務に役立つ具体的なレベルのものを求めます。

【学生の意見等からの気づき】
理解を深めるための演習や討議の時間を増やす。

【その他の重要事項】
授業の中での活発なディスカッションを期待する。
オフィスアワー
前期は水曜日17時50分～18時50分
他は随時アポイントをお願いします。

【受講要件】
実務経験3年以上。

【Outline (in English)】
Learn the basics of advising abilities required for business persons and consultants. It is a lesson to obtain basic knowledge and practical method.

MAN500F2（経営学 / Management 500）

エスノグラフィのビジネス応用

Business Application of Ethnography

石山　恒貴［イシヤマ ノブタカ］

単位数：**2単位**
学期：**春学期前半**/Spring(1st half)
授業分類：**専門講義**
基礎科目
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
激変する社会環境において、革新的なビジネスモデルを創造するためには、お客様の潜在ニーズを把握するだけではなく、自らお客様の不便さを体感し、その解決策を創造することが求められます。お客様の潜在的な困りごとへの解決策を創造するために、フィールドワークとエスノグラフィを応用していきます。
エスノグラフィのさまざまなスキルは、ビジネスの状況を見極めるために重要ですので、中小企業向け、大企業向け、両方を対象とした内容になります。

【到達目標】
・学問分野における研究法としてのとしてのフィールドワークとエスノグラフィを理解する。
・関連領域として、学問分野における質的研究法の基礎を理解する
・学問分野とビジネスにおけるエスノグラフィの違いを理解する
・ビジネスにおけるフィールドワークとエスノグラフィの活用方法について理解し、問題設定と解決を主体的に行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学問分野としての研究法である質的研究法の基礎とフィールドワークとエスノグラフィを理解し、ビジネスへの活用方法について学ぶ。そのうえで、受講者は、自分の組織でエスノグラフィのビジネス応用を実践し、その事例研究の結果を授業中に発表する。
またゲストによる講演を行い、エスノグラフィの実例を解説していただく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	フィールドワークとエスノグラフィの基本	フィールドワークとエスノグラフィの基本について理解する
第2回	討議その1	自分がとりあげたい組織の問題について議論する
第3回	エスノグラフィと行動観察の事例	代表的なエスノグラフィと行動観察の事例について理解する
第4回	討議その2	ケース事例をリッチピクチャーにまとめる
第5回	ゲスト講演１	エスノグラフィの考え方と事例につき、講演いただく 担当教員によるまとめ
第6回	ゲスト講演２	ゲスト講演とともに、その考え方・事例を自組織にひきつけ議論する 担当教員によるまとめ
第7回	データの収集方法	フィールドワークでデータをいかに収集するかについて、理解する。効果的なフィールドノーツなど
第8回	討議その3	ケース事例を因果ループ図にまとめる
第9回	データのコーディングと分析方法	収集したデータをいかにコーディングし、分析するかについて理解する
第10回	討議その4	ケース事例の問題設定と解決施策について討議する
第11回	事例研究発表その1	受講者による事例研究発表と討議
第12回	事例研究発表その2	受講者による事例研究発表と討議
第13回	事例研究発表その3	受講者による事例研究発表と討議
第14回	まとめ	授業全体のふりかえりを行い、理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分で観察可能な場所、組織、たとえば自分の組織、自分の好きなお店、自分の属する様々な団体、自分の身の回りの関心事項、などについて、実際にエスノグラフィを実践し、その結果を授業内に発表すること
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業において、都度、授業資料を配布します。

【参考書】
佐藤郁哉『フィールドワーク増訂版』新曜社、2006年
髙橋広嗣『半径3メートルの行動観察から大ヒットを生む方法』SBクリエィティブ、2015年
ギデオン・クンダ著樫村志保訳『洗脳するマネジメント』日経BP社、2005年
安斎勇樹『問いかけの作法』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2021年

【成績評価の方法と基準】
授業における討論参加の状況による得点（35点）と各自が担当する事例研究発表の得点(65点）の合計点により評価する

【学生の意見等からの気づき】
エスノグラフィを行うためのさまざまな手法が、企業の状況を見極めるための基本的なスキルとして重要であるとのご意見をいただいた。また、実際に授業で学んだ手法を用いたところ、業務改善に大きな成果（売上向上、効率化など）があったとの報告をいただいた。そこで、実際の業務に応用可能となるよう留意しつつ、エスノグラフィのさまざまな手法について、わかりやすく解説し、討議を促進して理解を深めることに努める

【その他の重要事項】
授業開始前または終了後に質問を受け付ける
3社の企業における実務経験に基づき、組織エスノグラフィとしての解説の観点を盛り込む

【Outline (in English)】
Outline and objectives
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of fieldwork and ethnography.
The various skills of ethnography are important for identifying business situations, so the content will be geared towards both small and large companies.
Goal
At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of business ethnography and understand the basics of qualitative research methods in academic fields.
Work to be done outside of class
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Presentation of case study assigned by each student: 65%,in class contribution: 35%

MAN500F2（経営学 / Management 500）

経営情報戦略論

Business Innovation and IT Strategy

大塚　有希子［オオツカ ユキコ］

単位数：3単位
学期：春学期授業/Spring
授業分類：専門講義
基礎科目、MBA特別必修
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中小企業診断士養成課程必須授業。
経営情報戦略の目的は、主として一般企業（事業会社）の経営改革を担当する要員が身につけるべき知識とスキル、気づきをチーム演習・発表、相互評価を通じて、実践的な力を身につけることである。経営改革の必要性を理解し、経営戦略立案に対応するビジネスモデルを支援するIT戦略について学ぶ。春学期を通して一貫したコンサルティング事例として実践体験しながら、業務効率化・ＤＸ化などの経営情報化ビジネスモデルを創出することで、必要なマネジメント、創造力のスキルを身につける。授業内容は、中堅中小企業を対象としている。

【到達目標】
①知識・思考：経営情報戦略に関する考え方や知識、求められるスキルを理解できる。
②技能・表現：具体的に課題を通じて経営情報戦略の知識やスキルを使って課題を解決できる。
③意欲・関心・態度等：チーム演習を通じて、経営情報戦略に関心を持ち、経営情報戦略マネジメントに関する各種技法を活用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
座学で、経営情報戦略に関する考え方や知識を説明する。チーム演習では、講師から経営情報戦略に関係する演習課題を提示するので、チームまたは個人で、経営情報戦略に関する知識や考え方、さらには幅広い観点から演習課題を検討し、発表またはレポートを作成して相互評価、相互学習を行う。
演習に関してはオンラインホワイトボードを利用する。
対面必須の回をのぞきオンライン・対面によるハイブリッド方式とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	イントロダクション	講義全体概要、授業の進め方、経営情報化戦略の背景とトレンド、チーム・マネジメント
第02回	チームビルディング	チーム・ビルディング、チーム・アセスメント
第03回	チーム・ビルディング、チーム・アセスメント	ビジョン・ミッション、ポートフォリオ・マネジメント、プロダクト・ライフサイクル、DXのトレンド
第04回	経営ビジョン（演習）	ミッション・ステートメント、エイベルの事業ドメイン（AsIs）
第05回	ビジネス・アナリシス	ビジネス・アナリシスとは、ステークホルダー分析、経営戦略と潜在要求の発見、要求の妥当性確認
第06回	要求分析（演習）	ステークホルダー分析と要求引き出し、要求のトレーサビリティ、要求の優先順位づけ（仮）
第07回	環境分析と重要成功要因	内部環境分析、外部環境分析、重要成功要因
第08回	環境分析と重要成功要因（演習）	SWOT分析、クロス分析、重要成功要因（仮）抽出
第09回	ボトムアップのソリューションデザイン	特性要因図、妥当性確認（重要成功要因、要求トレーサビリティなど）
第10回	ソリューション検討（演習）	特性要因図、妥当性確認（重要成功要因、要求トレーサビリティなど）
第11回	イノベーション・ソリューションデザイン	システム×デザイン思考、リフレーミング、新市場の発見、プロトタイプ、イノベーションのジレンマ
第12回	イノベーション・ソリューションデザイン（演習）	リフレーミング、二軸図、プロトタイプまたはアンケートと調査
第13回	顧客視点によるソリューションデザイン	プロダクトアウトとマーケットイン、事業ドメイン、顧客視点によるビジネスモデル
第14回	顧客視点によるソリューションデザイン（演習）	エイベルの事業ドメイン（ToBe）、ビジネスモデル・キャンバス作成、妥当性確認（これまでの成果）
第15回	ソリューションの具体化	機能要求と非機能要求、要求引き出しに関するガイドライン、業務フロー、日本版EA、SOA
第16回	ソリューションの具体化（演習）	業務フロー図、ペルソナ・シナリオ・デザインによる機能要求引き出し、妥当性確認
第17回	リスクマネジメントとソリューション選定	リスクマネジメントのプロセス、リスク分析、リスク対応、課題管理、リスクコントロール、ソリューション選定手法
第18回	リスクマネジメント（演習）	RBSとリスク登録簿、ソリューション比較
第19回	経営情報戦略の可視化とスコープ定義	プログラム・マネジメント、フィージビリティ・スタディ、経営情報戦略の可視化
第20回	経営情報戦略の可視化（演習）	妥当性確認のうえ→重要成功要因確定、戦略の可視化、経営情報戦略企画書作成
第21回	最終発表	経営情報戦略を発表し、相互評価する 担当教員によるまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習
当該授業に関するテーマについて、文献調査等を通じて準備学習をしておく。
また、演習の課題が提示されている場合には、事前に、読んでおき、関連情報を収集するなどの準備をしてチーム演習に臨むこと。ハイブリッド形式の授業に鑑み、オンライン・ホワイトボードMiroを活用する。授業中にレクチャーを行うが操作練習用ボードを事前に提供する。
復習・宿題等
授業スケジュール（各回の授業テーマと内容）に基づいて、チーム演習を行うので整理すべき点や不明な点を復習する。それでも不明な点については、文献調査を行うまたは講師に質問する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。授業時間内に終了しなかった個人ワーク、グループワーク等を次回までに完成させる。

【テキスト（教科書）】
テキストは、講師が資料を提示する。

【参考書】
講師が授業中に指定する場合がある

【成績評価の方法と基準】
・講義、チーム演習への参加姿勢（50%）、指定の提出物（50%）

・座学で学んだ知識および自分で調べた情報を使ってチーム演習や個人レポート作成を行う。
・参加度合いが60%に満たない場合には、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
コースの全体像を毎回共有し、全体の中での位置づけを認識できるようにする。オンラインホイトボードの利用について習熟差を極力なくすよう配慮する。

【学生が準備すべき機器他】
学生は、パソコンを授業に持参すること（講義資料の閲覧、チーム演習、発表に際に必要）

【その他の重要事項】
・イノベーティブなITビジネスのデザインに興味がある場合は「プロジェクトデザインマネジメント（春学期後半）」の受講により更に理解が深まる。
・経営情報戦略に関する資格取得を目指す場合は「ＩＴＣケース研修」の受講も推奨する
・担当教員は、これまでに経営情報戦略に関連した大手企業および中小企業のコンサルティング、教育、制度設計の実務経験を有する。また、金融機関における融資審査、経営革新支援法元審査委員等の経営戦略評価の実務経験を有する。中小企業庁の優秀アドバイザー賞受賞。
・質問・相談がある場合には、
1.メールで講師に、質問・相談内容（日時、質問事項など）、希望日時などを伝えてください。
2.講師からの連絡をお待ちください。

【Outline (in English)】
The objective of the management information strategy is to provide practical power through team exercises and presentations, mutual evaluation, knowledge, skills, and awareness that personnel in charge of management reform of business companies should acquire. Understand the necessity of management reform and learn about IT strategies to support business models that correspond to management strategy planning. Through practical experience as a consulting case study throughout the spring semester, students will acquire the necessary management and creativity skills by creating business models such as business efficiency, DX and so on.

MAN500F2（経営学 / Management 500）

企業倫理

雉井　茂樹［Shigeki USUI］

単位数：2単位
学期：秋学期後半/Fall(2nd half)
授業分類：専門講義
基礎科目
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・なぜ日本企業、金融機関は、不祥事を繰り返しているのか。不正が起きるメカニズムを学ぶ。また、どのような形で予兆が現れるかを考察する。
・企業倫理の確立、不正防止の観点で、ガバナンス、コンプライアンス、コンダクトリスク管理、クレド、３線モデル、内部通報、内部監査など、どのような施策が有効か。ケース・スタディや過去の事例などを題材にして議論をすることで理解を深める。

【到達目標】
・企業倫理の確立、不正防止、予兆の発見などのために必要となる基礎知識を学ぶ。
・ケース・スタディを通じて、不祥事が起きた背景・理由、予兆の発見、不正の防止策などに関して、自分なりの仮説を立てて議論できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・頭で理解するだけでは、実務では有効な対策を打つことができない。講義を受けて、ディスカッションをすることにより、実践的な知識を身に付けることを目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、進め方、成績評価など
第2回	企業、金融機関の不祥事と問題提起	不祥事の発生状況と傾向。なぜ、不祥事が繰り返されるのか
第3回	不正の発生メカニズム	クレッシーの不正のトライアングル
第4回	不祥事のケース・スタディとディスカッション	主に不正の発生メカニズムの観点から議論する
第5回	不正の予防	内部統制、コンプライアンス意識、クレド、コンダクトリスク管理
第6回	不祥事のケース・スタディとディスカッション	主に内部統制の観点から議論する
第7回	不正の予兆	さまざまな不正の予兆（レッド・フラグ）
第8回	不祥事のケーススタディとディスカッション	主に不正の予兆がどこにみられるかを議論する
第9回	ガバナンス	国際的なガバナンス原則はどのように確立したか
第10回	３線モデル	日本独自のガバナンス vs 国際社会のガバナンス
第11回	内部通報	内部通報は機能するか
第12回	不祥事のケース・スタディとディスカッション（内部通報）	内部通報が機能するには何が重要かを議論する
第13回	内部監査	内部監査は不祥事を防げるか
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ケーススタディに関しては事前に授業で通知する。準備学習、復習については各自に任せる。企業倫理に関するレポートを作成・提出してもらう（所要時間は個人により異なる）。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
授業中に、適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組み姿勢（50％）と企業倫理に関するレポート（50％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回、授業アンケートを取る。
理解が難しかった点、授業への要望を記載してもらう。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、PADを持参。

【その他の重要事項】
・実務経験のある教員による授業
・1983年、日本銀行入行。40年間勤務。金融政策のオペレーション、景気・企業動向の調査などを経験したあと、金融機関の経営動向の考査・モニタリングに従事。破綻金融機関の処理にも携わった。
・金融機関の不祥事の取りまとめ統括として、事件・事故報告を受理し、再発防止に向けた管理態勢の改善指導に当たった。
・最後の16年間は、金融高度化センターに所属。金融機関の役職員に対して、ガバナンス、コンプライアンス、リスクマネジメント、危機管理、内部監査など経営管理の高度化に向けた指導・支援を行った。
・2011年3月、日本金融監査協会を設立。主に金融の分野で、ガバナンス、リスクマネジメント、監査に携わる高度な人材の育成を支援する活動をはじめ、現在に至る。
・金融機関の事例を多く取り上げる。

【Outline (in English)】
・Why are Japan companies and financial institutions repeating scandals? We will learn the mechanisms by which fraud occurs. In addition, we will consider red flags in which the signs appear.
・ From the perspective of establishing corporate ethics and preventing fraud, what are effective, such as governance, compliance, conduct risk management, credo, three-lines model, whistleblowing, and internal audits?
・ We will deepen understanding through discussions based on case studies and past cases.

MAN500F2（経営学 / Management 500）

消費者行動論

Theory of Consumer Behavior

坂本　和子［サカモト カズコ］

単位数：2単位
学期：春学期集中/Intensive(Spring)
授業分類：専門講義
基礎科目
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学や社会学など多くの領域で学際的な研究が進む消費者行動論について，マーケティング戦略，特にモノづくりに生かすための基礎概念，諸理論を理解する．さらにさまざまな事例を通して，消費者視点での市場の捉え方や社会で活用するための方法論について学び，実践力を身につける．

【到達目標】
・消費者行動における基礎理論を理解する．
・消費者行動がマーケティング戦略を構築する上でどう関わってくるかを理解する．
・消費者心理を科学的に分析する技術を身につける．
・知識の体系的理解を深め，問題解決に生かすことができる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
製品開発や販売促進に必要な消費者行動の基礎知識習得のため，デザイン学や言語学などの学際的アプローチを行う．
集中講義形式のため，スタンフォード大やデルフト工科大のケースメソッドや演習等を取り入れ，授業内での発表やディスカッション等を実施するなど，講義と演習をバランス良く組み合わせた形態とする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の内容と消費者行動に関する研究領域について概説する．
第2回	消費者行動における問題認識と購買意思決定	問題認識，ニーズの分類，購買意思決定のプロセスについて説明する．
第3回	消費者行動における情報探索と選択肢評価	内的・外的情報検索，選択評価，決定方略等について説明する．
第4回	消費者の態度形成	フィッシュバインモデルを中心に態度の形成と変容について説明する
第5回	消費者の関与と個人特性	関与の種類とどのような時にそれが高まるのかを解説する．またパーソナリティやライフスタイルなど個人的影響要因についても言及する．
第6回	消費者行動への心理学的アプローチ①（知覚，記憶）	五感を通じて外界から選択的に情報を入手して意味づけを行う知覚について説明する．
第7回	消費者行動への心理学的アプローチ②（学習，動機づけ）	古典的条件付けとオペラント条件付けという２つの学習プロセスについて検討し，マーケティングにどう活用されているのかを説明する．
第8回	消費者行動への社会学的アプローチ	社会や文化による消費者特性が購買に与える影響について解説する．
第9回	デザインと消費者行動①	デザインシンキングによる消費者の理解と製品開発への応用を解説する．
第10回	デザインと消費者行動②	消費者のデザイン嗜好や国際比較に関する傾向や最新トピックについて解説する．
第11回	消費者行動の調査と分析	ヒアリング，調査票調査の方法と分析について解説する．
第12回	価格とブランドからアプローチする消費者行動	消費者の心理動向と価格，ブランドの態度形成等について解説する．
第13回	レポート課題報告会	レポート課題に関する発表と講評を行う．
第14回	まとめ	全体の総括を行う．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業毎に資料を配布する．

【参考書】
Marketing and Design Management,Margaret Bruce and Rachel Cooper,INTERNATIONAL THOMSON BUSINESS PRESS，1997
HOW TO RESEARCH TRENDS,Els Dragt,B/S PUBLISHERS,2017
新・消費者理解のための心理学, 杉本徹雄編著, 福村出版, 2012

【成績評価の方法と基準】
レポート60％と授業への積極的関与(プレゼンテーションほか）40％として，総合的に評価する．

【学生の意見等からの気づき】
演習と講義をバランスよく組み込んだ授業とする。テクニカルタームなど分りにくい言葉がある際は、事例などを駆使して理解を深めるよう努力する．
グローバルレベルでのビジネスに対応するため、海外トレンド情報を網羅する．

【その他の重要事項】
集中講義のためオフィスアワーは以下のように設定する．
・6,7限に開催の日は講義前の1時間
・1～4限に開催の日は講義後の1時間

【Outline (in English)】
The consumer behavior theory has been studied in the interdisciplinary domain of many, such as psychology and sociology. This course deals with the basic concept and theories for employing in production efficiently. It also enhances the development of students' skill in analyzing markets from various cases and utilizing in society.

MAN510F2（経営学 / Management 500）

創業・ベンチャー起業論

Entrepreneurship

丹下　英明［タンゲ ヒデアキ］

単位数：2単位
学期：秋学期前半/Fall(1st half)
授業分類：専門講義
専門科目、MBA特別必修
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【目的】
本講義では、創業・ベンチャー起業について、企業の成長ステージに応じた特有の経営課題（ビジネスモデルの構築、経営資源の確保・充実など）について、総合的かつ実践的な指導・支援・アドバイスができるスキルを修得することを目的としています。そのために、本講義では、実際にグループでビジネスプランを策定することで、起業プロセスを体験していただきます。
本講義は、創業に関心のある方だけでなく、大企業内で新事業開発を目指す方や、大企業から独立しての起業を目指す方など、大企業向けも想定した講義内容となっております。幅広い方の受講をお待ちしております。
【概要】
第1～6回講義では、創業・ベンチャー起業のビジネスモデル構築、経営資源の確保・充実、ビジネスプラン作成等における成功要因について学んでいただきます。
第7～14回講義では、創業・ベンチャー起業の課題発見・解決のための助言の進め方について学んでいただきます。
また講義全体を通じて、グループでビジネスプランを策定していただきます。
以上を通じて、創業を成功させるためのビジネスモデルの構築や、経営資源の確保・充実について的確な助言ができるようになることを目指します。
なお、本講義は、中小企業診断士養成課程必修科目である。

【到達目標】
1. 創業を成功させるためのビジネスモデルの構築や経営資源の確保・充実について的確な助言ができる。
2. 創業プロセスを理解したうえで、みずからビジネスプランを作成し、プレゼンテーションすることができる。
3. 創業・ベンチャー支援における中小企業支援施策の活用を必要に応じてガイドできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」 に関連

【授業の進め方と方法】
【授業形態、授業内での発表】
講義では、基本的知識や理論の説明を行い、みなさんとディスカッションを行います。
また、グループに分かれてビジネスプランを作成していただきます。第7回の講義ではグループで作成したビジネスプランの中間発表を、第13回の講義では、最終発表をしていただきます。
【課題提出とフィードバック】
講義終了後は、感想や意見、質問をまとめた「講義レポート」を毎回提出いただきます。次回講義の冒頭に、講義レポートのなかから、皆様の感想や意見をいくつか紹介するとともに、質問に回答することで、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 創業・ベンチャーへの助言能力養成：支援機関の事例を通じた創業・ベンチャーに対する課題発見・解決	・授業計画、授業内容および成績評価について説明する。 ・グループによるビジネスプラン作成の進め方について説明する。 ・支援機関の事例から、創業・ベンチャーの課題発見・解決に向けた助言の進め方を学ぶ。 ・ゲスト講師による講演・担当教員によるまとめを行う。
2	創業・ベンチャーのビジネスモデル構築支援：事業アイデアの創出、評価、事業コンセプト固め	・ビジネスプラン作成におけるプロセスのうち、①事業アイデアの創出、②事業アイデアの評価、③事業コンセプト固めについて、説明する。 ・支援機関の事例から、創業・ベンチャーの課題発見・解決や経営資源の確保・充実に向けた助言の進め方を学ぶ。 ・ゲスト講師による講演・担当教員によるまとめを行う。
3	創業・ベンチャーのビジネスモデル構築支援：事業アイデアの創出、評価	・前回講義への質問に回答する。 ・各人が事前に考えた事業アイデアを発表する。 ・他者が発表した事業アイデアについて、①革新性、②実現性、③発展性の視点から評価する。
4	創業・ベンチャーのビジネスモデル構築支援：チームビルディング、事業コンセプト固め	・グループを決定し、各グループで事業コンセプトを固める。 担当教員によるまとめ
5	創業・ベンチャーのビジネスモデル構築支援：ビジネスプランの作成、経営資源の確保・充実	・前回講義への質問に回答する。 ・ビジネスプラン作成におけるプロセスのうち、④ビジネスプラン作成について、説明する。 ・創業・ベンチャーの経営資源の確保・充実について、説明する。
6	創業・ベンチャーのビジネスモデル構築支援：ビジネスプランの作成	・各グループでビジネスプラン作成を進める。 担当教員によるまとめ
7	ビジネスプラン中間発表	・前回講義への質問に回答する。 ・各グループで考えたビジネスプランについて、中間発表を行う。
8	ビジネスプラン中間発表への講評	・各グループで考えたビジネスプランについて、中間発表を行う。 ・教員よりビジネスプラン中間発表への講評を行う。 ・講評を踏まえて、各グループでビジネスプラン作成を進める。
9	創業・ベンチャーへの助言能力養成：金融機関の事例を通じた創業・ベンチャーに対する課題発見・解決	・前回講義への質問に回答する。 ・金融機関の事例から、創業・ベンチャーの課題発見・解決に向けた助言の進め方を学ぶ。 ・ゲスト講師による講演・担当教員によるまとめを行う。
10	創業・ベンチャーへの助言能力養成：ディスカッション	・ゲスト講師による講演を踏まえて、創業・ベンチャーへの助言についてグループでディスカッションを行う。 ・各グループでビジネスプラン作成を進める。
11	創業・ベンチャーへの助言能力の養成：起業事例を通じた創業・ベンチャーに対する課題発見・解決	・前回講義への質問に回答する。 ・起業事例から、創業・ベンチャーの課題発見・解決に向けた助言の進め方を学ぶ。 ・ゲスト講師による講演・担当教員によるまとめを行う。

12	創業・ベンチャーへの助言能力養成：ディスカッション	・ゲスト講師による講演を踏まえて、創業・ベンチャーへの助言についてグループでディスカッションを行う。 ・各グループでビジネスプラン作成を進める。
13	ビジネスプラン最終発表	・前回講義への質問に回答する。 ・各グループで作成したビジネスプランをパワーポイントまたはワードを用いて発表してもらう。
14	ビジネスプラン最終発表 総括	・各グループで作成したビジネスプランをパワーポイントまたはワードを用いて発表してもらう。 ・教員よりビジネスプランの講評を行う。 ・最後に、講義の振り返りと質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回授業前にレジュメや関連文献に必ず目を通したうえで出席してください。
・授業終了後は、教科書の該当部分を確認し、復習をおこなってください。
・講義レポートや課題は、必ず期限までに提出してください。
・グループでのビジネスプラン作成に取り組むための準備（関連文献の調査・精読など）を必ず行ってください。
・グループによるビジネスプラン作成ついては、授業時間内だけでなく、授業時間外も活用して進めてください。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・グロービス経営大学院『グロービスMBAビジネスプラン』ダイヤモンド社、2010年
・ダイアナ・キャンダー著 ; 牧野洋訳『Startup : スタートアップ : アイデアから利益を生みだす組織マネジメント』新潮社、2017年

【参考書】
・エリック・リース著 ; 井口耕二訳『リーン・スタートアップ : ムダのない起業プロセスでイノベーションを生みだす』日経BP社、日経BPマーケティング、 2012年
・スティーブン・G.ブランク, ボブ・ドーフ著 ; 堤孝志, 飯野将人訳『スタートアップ・マニュアル : ベンチャー創業から大企業の新事業立ち上げまで』翔泳社、2012年
・スティーブン・G・ブランク著 ; 堤孝志, 渡邉哲訳『アントレプレナーの教科書 : シリコンバレー式イノベーション・プロセス』翔泳社、2016年
・長谷川博和『ベンチャー経営論』東洋経済新報社、2018年
・柳孝一『ベンチャー経営論: 創造的破壊と矛盾のマネジメント』日本経済新聞社、2004年

【成績評価の方法と基準】
・個人による成果・講義への参加姿勢（講義への貢献、グループワークへの貢献、レポート課題など）：50%
・グループによるビジネスプラン作成の成果:50%
・60 %以上で合格。
・最終講義時までに、各チームで作成したビジネスプラン（データ）を合わせて提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
・グループワークの時間を講義内になるべく設けたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
・パワーポイントによる資料作成など、グループワークではＰＣを使いますので、ご準備ください。
・講義資料は、原則、2日前までに学習支援システムに掲示します。
・課題提出は、学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
・教科書については、夏季休暇中に目を通したうえで、講義に臨んでください。
・第1回講義までに以下の事前課題を提出していただきます。詳細につきましては、別途事前にご連絡させていただきます。
「事前課題
自分がやってみたいと考えるビジネスアイデアを一つあげて、A4用紙1～2枚程度で概要を説明してください。」

・教員の実務経験：株式会社日本政策金融公庫において、中小企業向け融資・審査業務に従事。その後、同公庫総合研究所に異動し、中小企業経営に関する様々な研究を行う。本授業では、これらの実務経験を踏まえて、実際の企業事例を活用した授業を行います。

【Outline (in English)】
The purpose of this lecture is to acquire skills that can give practical advice to startups.
In addition, in order to acquire support skills, you will be asked to create a business plan in a group.

MAN510F2（経営学 / Management 500）

コーチング

Coaching

稲川　由太郎［イナガワ ユウタロウ］

単位数：2単位
学期：秋学期後半/Fall(2nd half)
授業分類：専門講義
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【目的】
本講義は、コーチングの理論や考え方を学び、受講者自身がコーチングを実践することを通じて、コーチングマインド・スキルの習得を目的とする。受講者が所属するチーム・組織において、コーチングを活用し、人材開発・組織開発を自ら推進できる状態を目指す。
【概要】
近年、企業の経営者をはじめ、ビジネスシーンで、専任のコーチを活用する例が増えている。
コーチは、コーチングを受ける人（以下、コーチィー）に対して、一切アドバイスをしない。［問い］を間に置き、［対話］へといざなう。
本講義では、コーチングとは何か、コーチとコーチィーとの間で行われている[対話]とはどのようなものなのか、また、その対話がどのように組織のリーダー・経営者の成長や、企業の業績向上に貢献するのかを学ぶ。
本講義を通じて得られるコーチング、対話の能力は、現代の組織におけるリーダー開発、組織開発に向けて非常に重要な能力である。それらは、
・部下やチームメンバーの、効果的な目標設定を支援する
・組織の目的や目標に向けた主体的な行動をとる人を増やす
・部下やチームメンバーと共にコラボレーション（共創）ができるチームをつくる
といったことにもつながっていく。
すなわち1on1のコーチングの実践は、目の前のリーダーの開発にとどまらず、組織全体の変革へとつながる。
コーチングは、実践を通じてしか身につかない。したがって、本講義では、受講者が選んだコーチィーに対し講義外でコーチングを実践し、その体験を通じた気づきや学びを講義内で扱いながら、講義を進める。
【対象者】
リーダーシップ、モチベーション、チームビルディング、キャリアという様々な面で、自らの所属するチームに影響力を発揮するマネジャーになりたい、また、組織全体を変革するリーダーになりたいと考えている方。中小企業、大企業、職種は問わない。講義外でのコーチングの実践が可能な人を対象とする。

【到達目標】
コーチングとは何か、それが組織で働く人・組織にとってどのように活用されうるものなのかを理解している。
コーチングスキルを活用して、周囲とコミュニケーションをとることができる。
（やや発展的）職場でコーチング・コミュニケーションが実践されている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
■授業形態
オンライン講義
演習・実践型（講義内、またフィールドワークとしてコーチングを実践する）
■詳細
この授業は、組織変革を実現するエグゼクティブ・コーチング・ファームである株式会社コーチ・エィの講師陣が担当し、実践的なスキルの獲得を目指したレクチャーと演習を行う。授業内では、様々なコミュニケーションを体験するための（実習）に重点を置く。また、講義内での学びを活用し、実際に職場でのコーチングを繰り返し実践することで、自身のコミュニケーションを内省する。そして、さらに効果的なコミュニケーションスタイルへのバージョンアップを目指す。最終回では、その実践をもとに受講者が自身の体験を発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	なぜ今、企業はコーチングを活用するのか？	近年、世界中でコーチングを活用する企業が増えている。 コーチングとは何か。なぜ、今企業はコーチングを導入するのか。どのようにコーチングを活用し、どのような成果を手にしているのか。 コーチングが、組織や個人の「変化する未来をつくる”対話”の手法」として注目を集める今日の社会背景を、様々な事例とともに紹介する。
第2回	コーチングとは何か？	コーチングとは何かについて理解を深めるため、コーチングの歴史やコーチングの対話の構造、コーチングの三原則を学習する。
第3回	目標設定	コーチングは、コーチィ―の目標に向けて行うものである。この講義では、「目標」という概念に対する理解を深めた後、エクササイズを通じて、コーチィ―と目標設定を行うための対話を体験的に学習する。
第4回	聞く	相手の話を聞く能力はコーチングの基礎であり、非常に重要な要素である。なぜ聞くことが重要であるのか、聞くことを阻害する要因は何か、相手の話を深く聞くためには何に意識をはらう必要があるのか、について学習する。
第5回	コーチングフロー	効果的なコーチング・セッションを実践する上で、もっとも基本となる対話の流れ「コーチングフロー」を習得する。
第6回	効果的な問い	コーチにとって最大の武器になる「問い」について学習する。 コーチングにおいて、どのような問いが機能するのか。エクササイズを通じて体験的に学習する。
第7回	観察と個別対応	コーチングの根幹には、「人はひとりひとり違う」という考え方がある。一人ひとりのコーチィ―に対して、効果的なコーチングを行うために欠かせないのが「個別対応」である。個別対応を実践するための具体的な切り口として、コミュニケーションの「タイプ分け」を学習する。
第8回	アクノレッジメント（承認）	一人ひとりのコーチィ―と信頼関係を築き、相手の行動変容を促進するための関わり、「アクノレッジメント（承認）」について学習する。

第9回	フィードバック	コーチが自分に見えている視点を相手に伝える「フィードバック」は、コーチィ―の新たな気づきや行動変容につながり、目標達成を促す。 また、コーチをする側も、自分に対するフィードバックを受け取ることで、自身のコミュニケーションや行動を軌道修正することができる。 ここでは、効果的なフィードバックの伝え方と受け取り方について、学習する。
第10回	インターナルコーチ（社内コーチ）	組織におけるコーチング活用の実践的なノウハウについて学習する。コーチングを組織能力として定着させるアプローチの一つとして、現在世界的に注目され始めている「インターナルコーチ（社内コーチ）」について取り上げる。「インターナルコーチ（社内コーチ）」の役割や活用事例を紹介し、組織におけるコーチングの効果的な活用方法を探求する。
第11回	成果のエバリュエーション	コーチング期間中の取り組みとその成果について振り返ることを「エバリュエーション」と呼ぶ。効果的なエバリュエーションに必要な観点と、コーチングを振り返るためのツール（Ayce）を紹介する。
第12回	コーチングの活用事例（ゲストスピーカー）	実際にコーチングを活用している企業のエグゼクティブにご登壇いただき、経営者に対するエグゼクティブ・コーチングや企業の組織開発における実例をご紹介いただく。
第13回	成果発表①	コーチィ―とのコーチング実践について、履修者自身の体験を発表する。
第14回	成果発表②	コーチィ―とのコーチング実践について、履修者自身の体験を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者自身が3名のコーチィー（コーチングを受ける人）を選び、1名あたり週に30分のコーチングセッションを計5回実践する意思と時間を確保することを条件とする。講義の最後には、実際にコーチングを行ったクライアントからフィードバックをもらう。国際コーチング連盟指定のコーチングの質・効果を測定するエバリュエーションシステム（Ayce）を活用し、自らのコーチングについて振り返る。

【テキスト（教科書）】
毎講義資料をhoppiiに掲載する。※著作権の関係で一部抜粋・編集をしている。

【参考書】
・コーチ・エィ著『この 1 冊ですべてわかる 新版 コーチングの基本』日本実業出版
社、2019
・鈴木義幸著『新 コーチングが人を活かす』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2020
・鈴木義幸著『未来を共創する 経営チームをつくる』ディスカヴァー・トゥエンティ
ワン、2020
・コーチングのポータルサイト「Hello, Coaching!」
https://coach.co.jp/

【成績評価の方法と基準】
・出席点（マイク・カメラオン、講義への積極的な参加姿勢、講義後の提出物）40％
・クライアントへのコーチング実施状況20%
・成果発表に対する評価40％

【学生の意見等からの気づき】
2024年度に実施した本講義において、毎講義後のエバリュエーション中の「今回の講義内容を有意義に感じた」の項目平均は、「6.08/7」であった。講義で学んだことを自身の職場で実践し、その結果を講義に持ち込んで他の参加者と対話する、という学習サイクルを確立できた受講生から、毎年高い評価を得ている。
【受講生からの声】
・コーチングを学んだことにより、私も相手に対してフィードバックを行い、より良い信頼関係が築けるように努めたいと自然に思えるようになった。
・（自分のコーチングに対する）エバリュエーションを行うことで、目標達成に向けた取り組みやその過程で起きた変化などをコーチィーとの間でお互いに言語化することができ、今後に生かせる気づきや学びへと昇華させることができたと実感できた。
・今後、自組織にコーチングを取り入れたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】
Zoomが使用できるPC

【その他の重要事項】
【注意事項】
・この授業は対話の実践（エクササイズ）に主眼をおいているため、聴講や10分以上の遅刻、離席を認めない。
・カメラ、マイクオンでの参加が必須。エクササイズに参加できない環境（移動中、電車の中など）は出席として認めない。

【Outline (in English)】
In this lecture, students will learn the theory and philosophy of coaching and acquire coaching skills by practicing coaching on their own. The coach does not give any advice to the person being coached (hereafter referred to as "coachee"). Students will be able to practice coaching in their own working environment and promote the organizational development as leaders.
【Outline】
In recent years, there has been a rapid increase in the number of leaders including corporate executives who have a full-time coach. The coach generates questions and invites coachee to the dialogue. In this lecture, you will learn what coaching is, what the dialogue between the coach and the coachee is like, and how this dialogue contributes to the growth of organizational leaders and managers and to the improvement of corporate performance.
The coaching and dialogue skills gained through this course are very important skills for leader development and organizational development in today's organizations. They help you to:
· assist subordinates and team members in setting effective goals.
· increase the number of people who take proactive actions toward organizational goals and objectives.
· create a team which is collaborative and co-creative.
Therefore, the practice of 1-on-1 coaching leads not only to the development of the leader in front of you, but also to the transformation of the entire organization.
Coaching can only be acquired through practices. Therefore, in this lecture, participants will practice coaching outside of the lecture with coachees they chose by themselves, and the lecture will proceed by handling the insights and learnings gained through those experiences.
【Target Audience】
Anyone who wants to become a manager who can influence his /her own team in various aspects of leadership, motivation, team building, and career, as well as a leader who can transform the entire organization. Small, medium or large companies, any type of job is acceptable.

MAN510F2（経営学 / Management 500）

Project Design Management Ⅰ (Japanese curriculum)

Project Design Management Ⅰ

大塚　有希子［オオツカ ユキコ］

単位数：**2単位**
学期：**春学期後半**/Spring(2nd half)
授業分類：**専門講義**
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Project is activities for future value creation under a specific mission and certain constraints such as resources or situation during a certain period.The characteristics of a project are: (1) activities to achieve the purpose, (2) there is a specified start and finish point, (3) there are restrictions on the resources that can be used, (4) since it gives out a specific result or solves a specific problem, it is clear that what to achieve is clear, so the success or failure is clearly understood. Project management applies optimal knowledge, technology, tools and techniques to meet the requirements and expectations of business units and other stakeholders, or to achieve other results to make the project a success.In this lesson, we understand the knowledge and skills of project management in the lecture, and acquire the application of project management through team exercises.

【到達目標】
1). Knowledge and thinking: thinking about the project management knowledge and skills required to understand.
2). Skills and expression: specifically through the challenges can be resolved issues using the project management knowledge and skills.
3). Interest, attitude and motivation: can use project management through a team practice, have interest in the project manager.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
This will be a flipped learning experience that combines e-leaning and group learning.
The first period will be a recorded e-leaning lesson, which will be presented one week before the class date.
The first period will be a recorded e-leaning lesson, which will be presented one week before the class date, so students should watch it at their own convenience until the day before class.
Viewing confirmation quiz
Attendance will be confirmed by submitting a quiz by the day before the class.
The second period (10:50-12:30) is a real-time class, so students must attend in the classroom or online.
The second period (10:50-12:30) is a real-time class and should be taken in the classroom or online. Exercises will be conducted on the subject of each student's project, and opinions will be exchanged in the classroom.
The second period (10:50-12:30) will be taught in real time and can be taken in the classroom or online.
The course is designed to help students learn about project planning, progress management and the management of stakeholders through exercises based on their own projects and by exchanging opinions in the classroom. However, the course is not designed as a real-time classroom course,
However, real-time classroom participation may be required, e.g. for guest speaker lectures.
The course is designed to provide students with the opportunity to learn about their own projects and to exchange ideas and opinions in the classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Episode 01	Introduction, what is a project.	Project, explain about project management, organization and project, program management and project management.
Episode 02	Team exercises on projects and project management.	Team exercises on projects and project management.
Episode 03	Project integration management (initial stage)	Explanation of project charter, confirmation of project goal, preparation of project plan.
Episode 04	Team exercises on project integration management (initial stage).	Team exercises on project integration management (initial stage).
Episode 05	Project Integrated Management (Execution ,Monitoring & Control stage)	Explanation of leadership and project management, integrated (Execution ,Monitoring &Control stage).
Episode 06	Team exercises on project integration management (Execution ,Monitoring & Control stage).	Team exercises on project integration management (Execution ,Monitoring & Control stage).
Episode 07	Stakeholder Management	Explanation about stakeholder identification, management plan, engage management, engage control.
Episode 08	Team exercises on stakeholder management.	Team exercises on stakeholder management.
Episode 09	Scope management	Explanation about Scope definition, WBS creation.
Episode 10	Team exercises on scope management.	Team exercises on scope management.
Episode 11	Resilience(1) of Project Manager	Guest lecturer: Mr. Hidetaka Nakajima Executive Director, PMI Japan Branch. Professor feedback
Episode 12	Resilience(2) of Project Manager	Guest lecturer: Mr. Hidetaka Nakajima Executive Director, PMI Japan Branch. Professor feedback
Episode 13	Schedule management	Explanation about Activity definition, Sequence setting, Resource estimate, Duration estimation, Schedule creation.
Episode 14	Team exercises on schedule management.	Team exercises on schedule management.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
2 hours of preparation and review or completion of exercises required. Quizzes may be given.

【テキスト（教科書）】
For the text, the instructor presents materials using Powerpoint etc.

【参考書】
1) A guide to the Project Management Body Of Knowledge 6th Edition,Project Management Institute,2017.
2) IT project management by WBS/EVM 978-4-88373-274-6 Shoso Yamato, Kenichi Nagachi, Soft Research Center,2009.

【成績評価の方法と基準】
· Attitude to participate in lectures (30%), Participation in team exercise (30%), Mutual evaluation (40%)
· Team exercises and report preparation using knowledge learned in the lecture and information studied by oneself.
· Team exercises and evaluations are carried out every time.
· In the case of team exercises, conduct studies by mutual assessment by students, attitudes towards consideration, enthusiasm, presentation and question-and-answer.
· If the degree of participation is less than 75%(21frames= 2100minutes= 35hours),it is not subject to evaluation.

【学生の意見等からの気づき】
ITC Case Training Course, Management Information Strategy Course and the necessary tools and techniques are introduced.

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring their own personal computer or lending computer to the class. It is necessary for viewing lecture materials, team exercises and presentations.

【その他の重要事項】
· If there is a question or consultation,
1. Please tell the lecturer by e-mail the question /consultation details (date, question, etc.), desired date and time etc.
2. Please wait for contact from the instructor.

【Outline (in English)】
Project is activities for future creating value under a specific mission and certain constraints such as resources or situation during a certain period. The characteristics of a project are: (1) activities to achieve the purpose, (2) there is a point of start and end specified, (3) there are restrictions on resources that can be used, (4) Since it gives out a specific result or solves a specific problem, it is clear that what to accomplish is clear, so the success or failure is clearly understood. Project management apply optimal knowledge, technology, tools and techniques to satisfy the requirements and expectations of business entities and other stakeholders or to achieve further results in order to lead the project to success. In this lesson, we understand the knowledge and skills of project management at lecture, and acquire the application of project management through team exercises.

MAN510F2（経営学 / Management 500）

プロジェクト・デザインマネジメント Ⅰ

Project Design Management Ⅰ

大塚　有希子［オオツカ ユキコ］

単位数：**2単位**
学期：**春学期後半**/Spring(2nd half)
授業分類：**専門講義**
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
プロジェクトとは、特定の使命を受けて、特定期間に、資源、状況など特定の制約条件の下で達成を目指す、将来に向けた価値創造事業である。プロジェクトの特徴は、①目的を達成する活動である、②特定された始まりと終了の時点がある、③使用できる資源の制約がある、④ある特定の成果を出すあるいは特定の問題や課題を解決するので何を達成するのか明確であり成否がはっきりわかる。プロジェクトマネジメントは、プロジェクトを成功に導くために、事業主体や他のステークホルダーの要求事項や期待を充足する、またはそれ以上の成果を上げるために、最適な知識、技術、ツールそして技法を適用することである。本授業は、座学でプロジェクトマネジメントに関する知識、スキルを理解し、チーム演習を通じて、プロジェクトマネジメントの適用を体得する。

【到達目標】
①知識・思考：プロジェクトマネジメントに関する基礎的な考え方や知識、求められるスキルを理解できる。
②技能・表現：具体的に課題を通じてプロジェクトマネジメントの知識やスキルを自業務にテーラリングできる。
③意欲・関心・態度等：チーム演習を通じて、プロジェクトマネジメントに関心を持ち、自己のプロジェクトに活用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
e-leaningと集合学習を併用する反転学習とする。
１限めはe-leaningの録画授業とし、授業日の１週間前に提示するので、授業前日まで各自の都合に合わせて視聴すること。視聴確認のためのクイズを授業前日までに提出することで、出席確認とする。
２限め（10:50～12:30）はリアルタイムの授業を行うので、教室またはオンラインで受講すること。各自のプロジェクトを題材とした演習を行い、教室で意見交換することにより、プロジェクトの計画立案、進捗管理、関係者のマネジメント等について学ぶ。、
ただし、ゲストスピーカー講演などリアルタイム教室参加を指示する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	はじめに、プロジェクトとは	プロジェクトとは、プロジェクトマネジメントとは、組織とプロジェクト、プログラムマネジメントとプロジェクトマネジメントについて説明する
第02回	プロジェクト、プロジェクトマネジメントに関するチーム演習	プロジェクト、プロジェクトマネジメントに関するチーム演習を行う。
第03回	ステークホルダーの要求分析とスコープマネジメント	スコープマネジメントとステークホルダーの要求分析について説明する。
第04回	ステークホルダーの要求とスコープマネジメント演習	ステークホルダーの要求引き出しと構造化演習
第05回	チーム・マネジメント	人的資源、チム・コミュニケーションについて説明し、演習する。
第06回	リスクと変更管理	問題発生時の対応について説明し、演習する。
第07回	ステークホルダー・マネジメント	ステークホルダー特定、マネジメント計画、エンゲージマネジメント、エンゲージ・コントロールについて説明する。
第08回	スコープ＆スケジュールマネジメント	スコープ＆スケジュールその他のマネジメントに関して説明する
第09回	スコープ＆スケジュールマネジメント	スコープ定義、WBS、スケジュールについて説明する。
第10回	モニタリング＆コントロール	プロジェクトの進捗管理について説明する。
第11回	プロジェクトマネジメントの実務事例	外部講師による講演 担当教員によるまとめ
第12回	プロジェクトマネジメントの実務事例	外部講師による講演 担当教員によるまとめ
第13回	その他のマネジメント	その他のマネジメント項目について説明する。
第14回	前回のまとめ	まとめおよび事例紹介、テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
当該授業に関するテーマについて、文献調査等を通じて準備学習をしておく。
復習・宿題等
授業スケジュール（各回の授業テーマと内容）に基づいて、演習を行うので整理すべき点や不明な点を復習する。それでも不明な点については、文献調査を行うまたは講師に質問する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは、講師がPowerpoint等を使った資料を提示する。

【参考書】
授業中に講師が指示する
（参考図書　※購入を必須としない）
「プロジェクトマネジメント知識体系（PMBOK® Guide）」

【成績評価の方法と基準】
・講義・演習への参加姿勢（30%）、提出物（70%）
・座学で学んだおよび自分で調べた情報を使って、各自のプロジェクトを題材として、チーム議論やレポート作成を行う。
・ビデオ学習を行った場合はクイズにて理解確認を行う。
・参加度合いが75%に満たない場合には、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
経営情報戦略科目およびＩＴＣケース研修との関連や必要なツールと技法を紹介する。

【学生が準備すべき機器他】
学生は、PC持参のこと（講義および自プロジェクトなどの資料の閲覧、演習、発表に際に利用）。

【その他の重要事項】
・単独での受講も可能であるが「プロジェクトデザインマネジメントⅡ（春学期後半）」の受講も推奨する。前半（Ⅰ）ではプロジェクト推進の手法を中心に学び、後半（Ⅱ）ではプロジェクトでの成果物（サービスや製品、ビジネスモデルなど）のアイデア創出方法を学ぶ
・ＩＴプロジェクトに興味がある場合は、「経営情報戦略」「ＩＴＣケース研修」にてマネジメントすべきＩＴプロジェクトの設定を学ぶことができる。
・講師はシステムデザイン・マネジメントの学位を持ち、プロジェクトマネジメントとソリューションデザインに関する研究およびコンサルティング、教育、制度設計などの実務経験がある。ＰＭＰ、ＩＴコーディネータ、ＣＢＡＰの資格も有する。
・質問・相談がある場合には、
1.メールで講師に、質問・相談内容（日時、質問事項など）、希望日時などを伝えてください。

2. 講師からの連絡をお待ちください。

【Outline (in English)】
A project is a value-creating undertaking that aims to achieve its objectives within a specified period of time and under specified constraints, including resources and circumstances.
Project management is the application of the most appropriate knowledge, skills, tools and techniques to successfully deliver a project to meet or exceed the requirements and expectations of the business unit and other stakeholders.
This course systematically teaches project management knowledge through lectures on global standard project management knowledge and exercises based on each students own projects in INOMANE.

MAN510F2（経営学 / Management 500）

Project Design Management Ⅱ (Japanese curriculum)

Project Design Management Ⅱ

大塚　有希子［オオツカ ユキコ］

単位数：**2単位**
学期：**春学期集中**/Intensive(Spring)
授業分類：**専門講義**
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Project is activities for future creating value under a specific mission and certain constraints such as resources or situation during a certain period.The characteristics of a project are: (1) activities to achieve the purpose, (2) there is a point of start and end specified, (3) there are restrictions on resources that can be used, (4) Since it gives out a specific result or solves a specific problem, it is clear that what to accomplish is clear, so the success or failure is clearly understood.Project management apply optimal knowledge, technology, tools and techniques to satisfy the requirements and expectations of business entities and other stakeholders or to achieve further results in order to lead the project to success.In this lesson, we understand the knowledge and skills of project management at lecture, and acquire the application of project management through team exercises.

【到達目標】
1). Knowledge and thinking: thinking about the project management knowledge and skills required to understand.
2). Skills and expression: specifically through the challenges can be resolved issues using the project management knowledge and skills.
3). Interest, attitude and motivation: can use project management through a team practice, have interest in the project manager.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
The course will be a flipped learning experience combining recorded and real-time teaching
Sunday 3 August, 1st period 8:50-10:30 Classes by recording
Sunday 3 August, 2nd - 5th period, 10:40-18:30 Real-time classes online only
Sunday, 3 August, 6th period, 18:35-20:15 Classes by recording
Thursday, 7 August, 6th period, 18:35-20:15 Real-time class in the classroom
Thursday, 7 August, 7th period, 20:20-22:00 Class by recording
Sunday, 10 August, 1st period, 8:50 - 10:30 Recorded lesson
Sunday, 10 August, 2nd - 5th period, 10:40-18:30 Real-time lessons online only
Sunday, 10 August, 6th period, 18:35-20:15 Recorded lesson
Firstly, the lecture explains the system, knowledge, process, tools and techniques related to project management and the skills required of the project manager. In the exercise, exercises related to project management are presented by the lecturer, so the study or exercise is studied by the team or individual from the knowledge and thinking learned in the lecture and from a wide range of perspectives, and a presentation or report is prepared.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Episode 01	Introduction, what is a project.	Project, explain about project management, organization and project, program management and project management.
Episode 02	Team exercises on projects and project management.	Team exercises on projects and project management.
Episode 03	Project integration management (initial stage)	Explanation of project charter, confirmation of project goal, preparation of project plan.
Episode 04	Team exercises on project integration management (initial stage).	Team exercises on project integration management (initial stage).
Episode 05	Project Integrated Management (Execution ,Monitoring & Control stage)	Explanation of leadership and project management, integrated (Execution ,Monitoring &Control stage).
Episode 06	Team exercises on project integration management (Execution ,Monitoring & Control stage).	Team exercises on project integration management (Execution ,Monitoring & Control stage).
Episode 07	Stakeholder Management	Explanation about stakeholder identification, management plan, engage management, engage control.
Episode 08	Team exercises on stakeholder management.	Team exercises on stakeholder management.
Episode 09	Scope management	Explanation about Scope definition, WBS creation.
Episode 10	Team exercises on scope management.	Team exercises on scope management.
Episode 11	Resilience(1) of Project Manager	Guest lecturer: Mr. Hidetaka Nakajima Executive Director, PMI Japan Branch. Professor feedback
Episode 12	Resilience(2) of Project Manager	Guest lecturer: Mr. Hidetaka Nakajima Executive Director, PMI Japan Branch. Professor feedback
Episode 13	Schedule management	Explanation about Activity definition, Sequence setting, Resource estimate, Duration estimation, Schedule creation.
Episode 14	Team exercises on schedule management.	Team exercises on schedule management.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparation
Lecture materials on the class schedule (class theme and contents of each class) will be posted in advance, so prepare and learn about themes related to the lesson through literature survey etc.
Review /Homework
Based on the class schedule (each lesson theme and contents), team exercises are conducted, so review the points to be arranged and unclear points. If you still have any questions, do a literature survey or ask the instructor.(As a standard, 2 hours for preparation and 2 hours for review: a total of 4 hours.)

【テキスト（教科書）】
For the text, the instructor presents materials using Power-point etc.

【参考書】
1) A guide to the Project Management Body Of Knowledge 6th Edition,Project Management Institute,2017.
2) IT project management by WBS/EVM 978-4-88373-274-6 Shoso Yamato, Kenichi Nagachi, Soft Research Center,2009.

【成績評価の方法と基準】
· Attitude to participate in lectures (30%), Participation in team exercise (30%), Mutual evaluation (40%)
· Team exercises and report preparation using knowledge learned in the lecture and information studied by oneself.
· Team exercises and evaluations are carried out every time.
· In the case of team exercises, conduct studies by mutual assessment by students, attitudes towards consideration, enthusiasm, presentation and question-and-answer.
· If the degree of participation is less than 75%(21frames= 2100minutes= 35hours),it is not subject to evaluation.

【学生の意見等からの気づき】
ITC Case Training Course, Management Information Strategy Course and the necessary tools and techniques are introduced.

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring their own personal computer or lending computer to the class. It is necessary for viewing lecture materials, team exercises and presentations.

【その他の重要事項】
· If there is a question or consultation,
1. Please tell the lecturer by e-mail the question /consultation details (date, question, etc.), desired date and time etc.
2. Please wait for contact from the instructor.

【Outline (in English)】
Project is activities for future creating value under a specific mission and certain constraints such as resources or situation during a certain period. The characteristics of a project are: (1) activities to achieve the purpose, (2) there is a point of start and end specified, (3) there are restrictions on resources that can be used, (4) Since it gives out a specific result or solves a specific problem, it is clear that what to accomplish is clear, so the success or failure is clearly understood. Project management apply optimal knowledge, technology, tools and techniques to satisfy the requirements and expectations of business entities and other stakeholders or to achieve further results in order to lead the project to success. In this lesson, we understand the knowledge and skills of project management at lecture, and acquire the application of project management through team exercises.

MAN510F2（経営学 / Management 500）

プロジェクト・デザインマネジメントⅡ

Project Design Management Ⅱ

大塚　有希子［オオツカ ユキコ］

単位数：**2単位**
学期：**春学期集中**/Intensive(Spring)
授業分類：**専門講義**
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
プロジェクトとは、特定期間に、資源、状況など特定の制約条件の下で目標達成を目指す、価値創造事業である。ビジネスや製品・サービスの創造、研究、インベントなど様々なプロジェクトがあるが、イノベーティブで価値ある成果物を創造するために、以下の３つ体系と手法を学ぶ。①デザイン思考（新しい視点でイノベーティブなデザインを発想する思考法）②システム思考とシステムエンジアリング（アイデアを論理的に構造化し、全体と部分の整合性を明確にするための体系）③ビジネス・アナリシス（ビジネス視点と顧客視点の要求から戦略やソリューション＝解決策を創出するための分析体系）

【到達目標】
①知識・思考：プロジェクトマネジメントとビジネスや製品・サービスなどのアイデア創出にに関する基礎的な考え方や知識、求められるスキルを理解できる。
②技能・表現：具体的に課題を通じてプロジェクトマネジメントやシステム×デザイン思考の知識やスキルを自業務にテーラリングできる。
③意欲・関心・態度等：演習を通じて、プロジェクト・デザインに関心を持ち、プロジェクトに活用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
録画とリアルタイムの授業を組み合わせた反転学習とする
8月3日（日）１限　　8:50～10:30　録画による授業
8月3日（日）２限～５限　10:40～18:30　オンラインのみのリアルタイム授業
8月3日（日）６限　　18:35～20:15　録画による授業
8月7日（木）６限　　18:35～20:15　教室にてのリアルタイム授業
8月7日（木）７限　　20:20～22:00　録画による授業
8月10日（日）１限　　8:50～10:30　録画による授業
8月10日（日）２限～５限　10:40～18:30　オンラインのみのリアルタイム授業
8月10日（日）６限　　18:35～20:15　録画による授業
講義は、録画による授業とし、春学期中に提示するので、講義がはじまるまでに各自の都合にあわせて視聴すること。視聴確認のためのクイズを授業前日までに提出すること
プロジェクトマネジメントやシステム×デザイン思考に関する体系、知識、プロセス、ツールやフレームワークなどを説明し、プロジェクト・デザインに求められるスキルを伝える。リアルタイムの授業では事例および各自の実プロジェクトを題材にフレームワーク等利用により解決策やビジネスモデルのアイデアを検討する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	はじめに、プロジェクト・デザインとは	プロジェクトおよび成果のデザイン、それらを検討する体系
第02回	プロジェクトおよび成果のデザイン、それらを検討する体系	イノベーティブで価値のある成果を創出するためのプロジェクトマネジメント
第03回	システム×デザイン思考	既存のステレイタイプな視点をブレークスルーする手法やツールの紹介（二軸図など）
第04回	システム×デザイン思考	既存のステレイタイプな視点をブレークスルーする手法やツールの適用（バリューラダーなど）
第05回	システム×デザイン思考	既存のステレイタイプな視点をブレークスルーする手法やツールの紹介（ＡＹモデルなど）
第06回	システム×デザイン思考	既存のステレイタイプな視点をブレークスルーする手法やツールの適用（ペルソナなど）
第07回	要求分析とビジネスアナリシス	ビジネス・アナリシス体系とビジネス・顧客とソリューションのトレーサビリティ、および要求分析の説明
第08回	要求分析とビジネスアナリシス	要求分析およびトレーサビリティの演習（優先順位づけなど）
第09回	要求の妥当性確認とシステムエンジニアリング	システムエンジアリング体系の紹介と要求の妥当性確認についての説明（因果関係ループ図など）
第10回	要求の妥当性確認とシステムエンジニアリング	要求妥当性確認の演習（CVCA、WCAなど）
第11回	プロジェクトデザインの事例	外部講師による講演 担当教員によるまとめ
第12回	プロジェクトデザインの事例	外部講師による講演 担当教員によるまとめ
第13回	まとめと発表	まとめ・発表および事例紹介、テスト
第14回	まとめと発表	まとめ・発表および事例紹介、テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
当該授業に関するテーマについて、文献調査等を通じて準備学習をしておく。
復習・宿題等
授業スケジュール（各回の授業テーマと内容）に基づいて、演習を行うので整理すべき点や不明な点を復習する。それでも不明な点については、文献調査を行うまたは講師に質問する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは、講師がPowerpoint等を使った資料を提示する。

【参考書】
授業中に講師が指示する
（参考　※購入の必要はない）
「システム×デザイン思考で世界を変える」
「ビジネスアナリシス知識体系（BABOK® Guide）」
「システムエンジニアリングハンドブック」

【成績評価の方法と基準】
・講義・演習への参加姿勢（30%）、提出物（70%）
・座学で学んだ知識および自分で調べた情報を使ってチーム演習やレポート作成を行う。
・ビデオ学習を行った場合はクイズにて理解確認を行う。
・参加度合いが75%に満たない場合には、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
経営情報戦略科目およびＩＴＣケース研修との関連や必要なツールと技法を紹介する。

【学生が準備すべき機器他】
学生は、PC持参のこと（講義および自プロジェクトなどの資料の閲覧、演習、発表に際に利用）。

【その他の重要事項】
・単独での受講も可能であるが「プロジェクトデザインマネジメントⅠ・Ⅱ」（春学期）」連続の受講も推奨する。

・ＩＴを利用したイノベーティブ・プロジェクトに興味がある場合は「経営情報戦略」においてビジネスモデルのデザインを体系的に経験することができる。
・講師はシステムデザイン・マネジメントの学位を持ち、プロジェクトマネジメントとソリューションデザイン、DXを含むビジネス戦略デザインに関する研究およびコンサルティング、教育、制度設計などの実務経験がある。、ＰＭＰ、ＩＴコーディネータ、ＣＢＡＰの資格も有する。
・質問・相談がある場合には、
1.メールで講師に、質問・相談内容（日時、質問事項など）、希望日時などを伝えてください。
2.講師からの連絡をお待ちください。

【Outline (in English)】
A project is a value-creating enterprise that takes a specific mission and aims to achieve it in a specific period of time and under specific constraints.
There are various types of projects such as business, product /service creation, research, and invent, etc. In order to create innovative and valuable deliverables, the following three systems and methods are studied.(1) Design Thinking (2) Systems thinking and systems engineering (3) Business Analysis (a system for analyzing requirements to create solutions from the business perspective and the customer perspective)

MAN510F2（経営学 / Management 500）

リスクマネジメント概論

Risk Management

指田　朝久［サシダ トモヒサ］

単位数：2単位
学期：春学期前半/Spring(1st half)
授業分類：専門講義
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業は商品やサービスを社会に提供し適切な対価を得て継続的に発展することを目的としています。しかしその目的の達成を阻害する様々な事象が発生し、場合によっては企業の継続が不可能になります。自然災害や火災、製品事故、地政学リスクなど、この様々な事象である事件や事故をいかに未然に防ぎ、また万が一発生した場合にもその影響を最小限に止める経営手法がリスクマネジメントです。この授業で、企業を継続的に発展させるための経営者としてのリスクマネジメントの考え方を学びます。起業を目指す学生にとっても、中小企業診断士を目指す学生にとっても企業経営のリスクマネジメントの考え方を身に着けることは重要です。また、リスクマネジメントの考え方を身に着けることはプロジェクトの推進にも役立ちます。リスクマネジメントの考え方は大企業・中堅中小企業すべてに共通です。なお、
授業の演習で用いるモデル企業は資本金1億円従業員300人の製造業を扱います。

【到達目標】
企業経営としてのリスクマネジメントの考え方として、国際標準規格ISO31000(2018年改訂）を学びます。
モデル企業のリスクマネジメントの仕組みを構築することにより、リスクマネジメントの実践手法を学びます。
実際の危機発生時の企業の対応から危機管理の仕組みを学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
国際標準規格ISO31000の概要を説明したのち、モデル企業のリスクマネジメントを毎回の演習やグループディスカッションにより構築していきます。
危機に陥った企業のケーススタディや意思決定ゲームに取り組むことにより、危機管理の能力を身につけます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要、リスクとは、リスクマネジメントとは	地震・水害・情報漏洩事件など最近のリスク事例を振り返りながら、リスクマネジメントの概論を説明します
2	リスクマネジメント規格ISO31000	国際標準規格ISO31000の概要、章立て、主要な項目などを説明します。
3	リスクマネジメント方針、組織の状況の理解	モデル企業を例にグループディスカッションによりISO31000の要求項目を具体的に検討します。経営者の定める方針と自社の現状把握を行います。
4	リスクの発見、リスクの種類、リスクの分類、主なリスクの理解	企業を取り巻く様々なリスクを解説します。演習としてモデル企業のリスクの特定を行います。
5	リスクの算定、リスクマップ	モデル企業の各リスクの発生頻度と企業に与える影響度を見積もり、リスクマップを作成します。
6	被害想定、リスクの評価	重要なリスクの被害想定を作成し、企業が取り扱うリスクの優先順位を決定します。
7	リスクの対応	重要なリスクに如何に対処するか、回避、低減、共有、保有などのリスク対策について具体的に学び、モデル企業に適用します。また、事件事故を経験した企業のケーススタディを行います。
8	パフォーマンス評価と有効性評価、是正改善、モニタリング	リスク対応が具体的に企業の日常業務の中で対処できているか、モニタリングを行う仕組みを検討します。
9	マネジメントレビュー、リスクコミュニケーション	経営者が実施するレビューによる継続的改善を検討します。またステークホルダーとの情報共有を学びます。
10	損害保険の役割、リスクコスト	企業は財務諸表で評価されます。財務的側面で重要な保険とリスクコストについて学びます。
11	危機管理、インシデントコマンドシステムＩＣＳ	万が一の事件事故に遭遇した場合の危機への対処方法を机上演習などで学びます。
12	ケーススタディトレーニング	実際の事件や事故のケーススタディや意思決定ゲームにより、危機管理における意思決定を学びます。
13	事業継続計画（BCP)	地震や水害、工場火災、システムダウン、感染症等を踏まえて注目されているＢＣＰにつき解説します。
14	まとめ、レポートの説明	リスクマネジメントと危機管理の振り返りをします。またレポート課題の説明を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分の会社および自分の会社の業種、あるいは起業を検討している業種の上場企業を中心に、各社の有価証券報告書に記載されている「事業等のリスク」について情報収集をおこなってください。授業の中で発表してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
これだけは知っておきたいリスクマネジメントと危機管理ガイドブック；東京海上ディーアール株式会社編；同文舘出版；2022年；2400円＋税；ISBN978-4-495-39066-2

【参考書】
①JISQ31000:2019（日本工業規格；日本規格協会；2625円）
②ISO31000リスクマネジメント解説と適用ガイド:2018年版（日本規格協会；4400円＋税）ISBN：978-4-5424-02812
③ケースブックあなたの組織を守る危機管理（ぎょうせい；4762円＋税）ISBN978-4-324-09258-3
④企業の地震リスクマネジメント入門（日科技連；3200円+税）ISBN978-4-8171-9498-5

【成績評価の方法と基準】
レポートの提出および内容（60％）、出席および小課題の提出（20%)、積極的な発表など授業への貢献（20％）

【学生の意見等からの気づき】
グループディスカッションやケーススタディの割合をより充実させていきます。また、発表においては、生徒同士の発表のほか、過去の履修生（匿名）の回答の中から参考となる事例も紹介していきます。

【学生が準備すべき機器他】
zoom等を用いて各自の発表をスクリーンに投影することにより、グループディスカッションを実施していきます。また、資料配布や課題提出のために学習支援システムを用いるため、パソコンは必要になります。

【その他の重要事項】
テキスト（教科書）にそって授業をすすめていきます。毎回授業のポイントにそった小課題を検討し演習を行います。また、実際に発生した事件や事故についても適宜ケーススタディを行い議論や意見交換を行っていきますので出席が重要です。また、マスコミやインターネット、業界紙などで報道されている企業の事件・事故事例について関心をもってください。
経営コンサルティングの実務経験から、生徒のディスカッションや演習結果につき、実際の企業の考え方をフィードバックしていきます。
オフィスアワー 授業開始前または終了後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
【Course outline】 The purpose of a company is to provide goods and services to society, obtain appropriate money, and develop continuously. However, various events occur and hinder the achievement of corporate objectives. In some cases, the event causes the company to go bankrupt. The event is natural disaster, fire, product accident, geopolitical risk, etc. Risk management prevents incidents and accidents that are various events. Risk management also minimizes the impact of events that have occurred. In this lesson, students learn about thinking about risk management as a top manager to continuously develop the company.
【Learning Objectives】Understand the international standard ISO31000 (revised in 2018) as a concept of risk management as corporate management. Understand crisis management methods from the company's response when an actual crisis occurs.
【Learning activities outside of classroom】 Collect information on the "business risks" described in each company's securities report. Have them make a presentation in class.
The standard time for preparation and review of this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】 Contents of the term-end report (60%),Attendance and submission of small assignments (20%),Contribution to class such as active presentation(20%).

MAN510F2（経営学 / Management 500）

事業リスクマネジメントと内部統制

Enterprise Risk Management and Internal Control

石島　隆［Takashi ISHIJIMA］

単位数：**2単位**
学期：**秋学期前半**/Fall(1st half)
授業分類：**専門講義**
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
事業リスクマネジメント（Enterprise Risk Management）とは、戦略策定及び業績評価と統合されたリスク管理のための組織のカルチャー・ケイパビリティ・実務をいう。また、内部統制とは、企業組織の全ての階層を通じたガバナンスとマネジメントのプロセスにおけるコントロール機能を意味する。
本授業において学生は、最初に、企業において、どのようにして戦略策定及び業績評価とリスク管理を一体化させるかを学び、その実現手段として、内部統制を組み込んだビジネスプロセスをどのように構築・運用すればよいかを学ぶ。また、これらに共通に関わる要素としての内部監査の計画・手順・方法についても学ぶ。
本授業のケーススタディでは、グローバル展開している大規模上場企業など大企業の事例を主として取り上げるが、中小・中堅企業の改善にも資するように、新興市場の小規模上場会社の事例も取り上げる。

【到達目標】
学生は、事業リスクマネジメントと内部統制のフレームワークを活用して、自らが所属する組織又は支援対象組織におけるガバナンスとマネジメントにおける問題点を調査・分析し、改善策の策定ができるようになることを目標とする。
自らが選定した組織における事業リスクマネジメントと内部統制の問題点を調査・分析し、改善策の策定を適切に行うための報告書を作成することをゴールとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
事業リスクマネジメントと内部統制のフレームワークについて解説した後、それらの実践をより深く理解するためにケースを用いたグループ討議を行う。
また、事業リスクマネジメントと内部統制の実践における課題及び改善策を把握するため、ゲスト講師を招聘する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	事業リスクマネジメントのフレームワーク(1)	事業リスクマネジメントのフレームワークの考え方について学び、戦略策定及び業績評価との関係を検討する。
2	事業リスクマネジメントのケーススタディ(1)	製造業における事業リスクマネジメントについて、ケースを用いて討議する。
3	事業リスクマネジメントのケーススタディ(2)	卸売業又は小売業における事業リスクマネジメントについて、ケースを用いて討議する。
4	事業リスクマネジメントのフレームワーク(2)	事業リスクマネジメントの構成要素の内容と論点について学ぶ。
5	事業リスクマネジメントのケーススタディ(3)	金融機関における事業リスクマネジメントについて、ケースを用いて討議する。
6	内部統制のフレームワーク	内部統制のフレームワークと「財務報告に係る内部統制の評価及び監査」の制度について学ぶ。
7	内部統制のケーススタディ(1)	全社的な内部統制について、ケースを用いて討議する。
8	不正会計と内部統制とデータ分析	不正会計に対応するための内部統制とデータ分析について学ぶ。
9	内部統制のケーススタディ(2)	海外子会社における内部統制について、ケースを用いて討議する。
10	内部監査の計画・実施・報告	内部監査の計画・実施・報告の手順と方法について学ぶ。
11	事業リスクマネジメントと内部監査の実務（1）	事業リスクマネジメントと内部監査について、ゲスト講師を招いた講義を行う。
12	事業リスクマネジメントと内部監査の実務（2）	上記のゲスト講師への質疑及び討議を行う。
13	学生による事例研究発表（1）	事業リスクマネジメントと内部統制の実践に関して、学生が各自でテーマを選定して、事例研究を行い、その結果を発表する。担当教員によりまとめとコメントを行う。
14	学生による事例研究発表（2）	前回の続きを行う。担当教員によりまとめとコメントを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に配付するケーススタディの資料を読んで、授業までに検討しておくこと。
ケーススタディに関する討議後の自己の見解のレポートを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
日本内部監査協会他監訳『COSO 全社的リスクマネジメント－戦略およびパフォーマンスとの統合』同文舘出版（税込￥6,380）
各回の資料は、授業支援システムよりダウンロードすること。

【参考書】
八田信二他訳『COSO 全社的リスクマネジメント－戦略およびパフォーマンスとの統合－事例の解説篇』日本内部監査協会（税込￥3,190）
齋藤 正章、蟹江 章『現代の内部監査』放送大学教材（税込￥2,750)

【成績評価の方法と基準】
授業中に行う討議への積極的な参加と討議後のレポートの提出（60%）
最終レポート（40%）

【学生の意見等からの気づき】
ケースの討議結果についての学生へのフィードバックの文書化を行い、学生の理解度を深める。

【学生が準備すべき機器他】
ケースに関するグループ毎の討議結果のとりまとめにノートPCを利用する。
また、資料はｅラーニングシステムからのダウンロードによる配付のため、毎回ノートPCを持参すること。

【その他の重要事項】
授業の中での活発な質問と討議を期待する。
＜オフィスアワー＞
秋学期：金曜日5限目（16:50-18:30）
この日時の都合が悪い学生については、個別に調整するので、E-Mailで連絡いただきたい。
教員は、20年余りにわたり、上場企業等の財務諸表監査、システム監査、IT利用監査、システム構築のコンサルティング業務等に従事した後に大学教員となった。これらの経験を生かして、企業におけるリスクマネジメントと内部統制の実態を理解し、改善策が策定できるように指導する。

【Outline (in English)】
Enterprise Risk Management refers to the culture, capability, and practice of an organization for risk management integrated with strategy formulation and performance evaluation. In addition, internal control means the control function in the process of governance and management through all the layers of an enterprise organization.
In this class, students learn how to integrate strategy formulation, performance evaluation and risk management at enterprises first, how to build a business process incorporating internal control as a means to realize it learn how to operate. Also learn about planning, procedures, and methods of internal audit as elements related to these in common.
The case study of this class mainly deals with cases of large companies such as large-scale listed companies that are developing globally, but also cases of small listed companies in emerging markets, so as to contribute to improvement of small and medium-sized enterprises.

MAN510F2（経営学 / Management 500）

生産マネジメント論

Production Management

都丸　孝之［トマル タカユキ］

単位数：2単位
学期：春学期後半/Spring(2nd half)
授業分類：専門講義
専門科目、MBA特別必修

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
（本講座は中小企業診断士養成課程の必修科目です）
本講座は、生産マネジメントに必要な知識とスキルを体系的に習得することを目的とし、小規模製造業のデジタル化、大企業の開放特許の活用、付加価値経営と人材活用、生産技術を活かした海外展開といったテーマを取り上げる。また、製造に関するビジネスゲームを導入することで、生産管理の基礎を学ぶとともに、品質・コスト・納期のバランスを考慮した生産改善をチーム協働で体験する。生産現場の課題を理解し、製品・サービスの付加価値を高めるための生産戦略などのアプローチを考える力を養う。

【到達目標】
ものづくり中小企業の経営や、生産現場を改善するための必要な知識・スキルを習得し、現場目線での能動的な改善提案ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
討議を交えながら講義の理解を深めていく。工場経営ゲームにおいては、品質問題を最小限に抑えながら生産のリードタイムを短縮するためには、どのような施策を実行したらよいのかグループで議論しながら進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	貿易ゲーム	限られた資源（道具）で、指定された製品を短時間で製造・販売する。チーム内での協業、他チームとの交渉を行いながら、チームの利益最大化を目指す。
第02回	中小ものづくり企業の海外展開事例	町工場で開発した汚泥乾燥装置を日本国内だけでなく、フランスやドイツなど海外へ展開した事例を紹介する。
第03回	中小製造業のデジタル化の基礎知識	DX（デジタルトランスフォーメンション）への関心の高まる中、中小製造業の経営改善に必須となる工場のデジタル化の基礎知識について解説する。
第04回	製造業の知的財産戦略	大手企業の開放特許を活用と高付加価値製品開発を実現した川崎モデルの事例を紹介する
第05回	LEAN生産マネジメント①	メーリングゲームを体験することで、バリューストリーミングマップ（VSM）の活用などの生産管理の基礎を学ぶ
第06回	LEAN生産マネジメント②	メーリングゲームを体験することで、バリューストリーミングマップ（VSM）の活用などの生産管理の基礎を学ぶ
第07回	LEAN生産マネジメント③	メーリングゲームを通じ、ボトルネックやラインバランスを考慮した生産工程の見直しを行う
第08回	LEAN生産マネジメント④	メーリングゲームを通じ、ボトルネックやラインバランスを考慮した生産工程の見直しを行う
第09回	小規模事業の付加価値経営例①	付加価値をベースとした経営手法を、製造業にて実践する考え方や事例を紹介する。業務の棚卸：労働者の工数を詳細に把握し、工程の改善や対価の設定と紐づける実例を紹介する
第10回	小規模事業の付加価値経営例②	開発支援：3D CADを活用したプロダクト開発について、顧客とリスクを分担しながら、ミニマムリソースでの開発を実現した事例を紹介する。ハブ企業：パートナーシップにより信頼コストを下げつつ、付加価値を継いでいく小規模ならではのネットワーク構築例を紹介する
第11回	中小企業の同族経営と事業承継の実態	中小企業に多い同族経営。一般的な長所と短所を理解し、現実に起きている事業承継の実態を見ながら、あるべき姿や中小企業診断士としての支援の形について、ディスカッションを通じて考える。
第12回	工場経営ゲーム①	チーム単位で製品の製造工場を経営しながら、品質・納期ペナルティーを最小限にするための施策を考える。製品を組み立てる際の生産効率改善のための討議を行う
第13回	工場経営ゲーム②	チーム単位で製品の製造工場を経営しながら、品質・納期ペナルティーを最小限にするための施策を考える。製品を組み立てる際の生産効率改善のための討議を行う
第14回	工場経営ゲーム③	チーム単位で製品の製造工場を経営しながら、品質・納期ペナルティーを最小限にするための施策を考える。製品を組み立てる際の生産効率改善のための討議を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
大手企業、中小企業の生産現場の実態を事前に調査しどのような課題を抱えているのか文献や新聞等で情報収集しておくこと。本講義の事前学習、復習時間は、2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回講義資料を配布します。

【参考書】
・藤本隆宏「生産マネジメントⅠ・Ⅱ」、日本経済新聞社、2001年
・石川 和幸「生産管理のすべてがわかる本」日本実業出版社、2022年
・商工総合研究所「競争力強化に挑む中小製造業 躍進するものづくり企業」、商工総合研究所、2014年

【成績評価の方法と基準】
・課題レポート（90％）、授業内発言（10%）

【学生の意見等からの気づき】
・レポート課題のフィードバックを行います。
・ビジネスゲームにおいてはなるべく全グループに発表していただく機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
持ち運びが可能なノートパソコンが必要

【その他の重要事項】
ものづくり企業における、設計や生産業務の内容を事前に理解しておくこと。担当教員は、大企業、中小企業での新規ビジネスの立案、製品企画・設計、購買、生産などを経験した実務家教員であり、その知見を活用した講義を行う。

【Outline (in English)】
(This course is a required subject for the Certified Small and Mediam Enterprise Management Consultant Training Course)
The aim of this course is to systematically acquire the knowledge and skills for production management, and it will cover topics such as the digitalization of small and medium-sized manufacturers, utilizing open patents enterprise manufacturing companies hold, value-added management and human resource utilization, and expanding overseas using production technologies.
In addition, by introducing business games regarding manufacturing, students will learn the basics of production management and experience improvements in quality, cost, and delivery. Students will not only be able to understand the challenges faced in the production field, but will also develop the ability to approaches such as production strategies and added value of products.

MAN510F2（経営学 / Management 500）

サプライチェーンマネジメント

Supply chain Management

都丸　孝之［トマル タカユキ］

単位数：**2単位**
学期：**秋学期集中**/Intensive(Fall)
授業分類：**専門講義**
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、企業の生産活動や物流活動を実際に体験するためのサプライチェーンに関するビジネスゲームを取り入れ、在庫をどうやって圧縮しているのか、リードタイムを短縮するためにはどうしたらよいのか、受講生同士のディスカッションを通じてサプライチェーンの理解を深める。また、大手飲料業界や大手小売り業界がどのようにして需要予測を行っているのか、また物流拠点、在庫計画など実際の現場を詳しく解説する。

【到達目標】
ビジネスゲームを取り入れること、また実際の企業が行っている生産・物流活動を理解することで、生産から物流全体を横断したサプライチェーンの理解を深め、現場目線での能動的な改善提案ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この科目は、日曜日に実施する授業回があります。
ビジネスゲームを活用した能動的学習法を取り入れることで履修者同士のディスカッションを促す。また、飲料業界や小売りなどの業界の課題を理解することで、生産や物流ネットワークのあり方をディスカッションする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	貿易ゲーム	限られた資源（道具）で、指定された製品を短時間で製造・販売する。チーム内での協業、他チームとの交渉を行いながら、チームの利益最大化を目指す。
第2回	ビールゲーム①	小売り、2次卸、1次卸、工場に分かれ、在庫費、受注残費を最小限にするためのチーム協業のサプライチェーンゲーム。
第3回	ビールゲーム②	小売り、2次卸、1次卸、工場に分かれ、在庫費、受注残費を最小限にするためのチーム協業のサプライチェーンゲーム。
第4回	ビールゲーム③	小売り、2次卸、1次卸、工場に分かれ、在庫費、受注残費を最小限にするためのチーム協業のサプライチェーンゲーム。
第5回	サプライチェーンの課題と対策	飲料業界を事例にサプライチェーンの供給の課題、需要予測などの実務の実際を解説する。
第6回	小売りの物流戦略	大型物流倉庫を活用したサプライチェーンネットワークの構築事例を紹介する。
第7回	生産性改善①	サプライチェーンに関する簡単なビジネスゲームを通じて、リードタイム、サイクルタイム、滞留時間などの生産管理に関する基礎的な内容を理解する。
第8回	生産性改善②	需要変動に対する在庫管理の考え方を理解する。特に、SKU数、サービスレベル、安全在庫の関係を理論的に学ぶ。
第9回	サプライチェーンゲーム（CANDY OG)①	顧客と仕入れ先と協業しながら、製品を生産ことで品質、コスト、納期などの在庫管理に関する内容を理解する。
第10回	サプライチェーンゲーム（CANDY OG)②	顧客と仕入れ先と協業しながら、製品を生産ことで品質、コスト、納期などの在庫管理に関する内容を理解する。
第11回	サプライチェーンのリスク	災害時におけるサプライチェーンの分断とリスク発生時の対応を述べる。
第12回	飲料業界を事例とした人財育成	大手飲料メーカーでのシックスシグマなどを活用した改善プロジェクトを通じ、人材育成のあり方を解説する。
第13回	フューチャーサプライチェーン①	DX（Digital Transformation）と生成AIを活用した未来のサプライチェーンの在り方を、演習を交え議論する。
第14回	フューチャーサプライチェーン②	DX（Digital Transformation）と生成AIを活用した未来のサプライチェーンの在り方を、演習を交え議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
生産・物流現場の実態を事前に調査しどのような課題を抱えているのか文献や新聞等で情報収集しておくこと。本講義の事前学習、復習時間は、2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回講義資料を配布する。

【参考書】
・ショシャナ・コーエン「戦略的サプライチェーンマネジメント」英治出版、2015
・ハーバード・ビジネス・レビュー「デジタル変革で強化するサプライチェーンの競争力」ダイヤモンド社、2020年12月号

【成績評価の方法と基準】
・グループ討議（30％）、課題レポート（70％）

【学生の意見等からの気づき】
・チームディスカッションの時間を多くとるよう配慮する。
・グループワークにおいてはなるべく全グループに発表していただく機会を設ける。

【学生が準備すべき機器他】
ビジネスゲームにおいては、ウェブアクセスが必要なためパソコンが必須

【その他の重要事項】
企業における、生産活動や物流活動の内容を事前に理解しておくこと。担当教員は、大企業、中小企業での新規ビジネスの立案、製品企画・設計、購買、生産などを経験した実務家教員であり、その知見を活用した講義を行う。

【Outline (in English)】
In this lecture, a business game about supply chain will be introduced to experience the production and logistics activities of enterprises. In addition, this lecture introduces theory to help students understand the importance of inventory compression and lead-time reduction. lecturers will describe actual supply chain sites, including logistics and inventory planning of the major beverage industries.

MAN510F2（経営学 / Management 500）

プラットフォーム戦略

Platform strategy

長谷川　純一［ハセガワ ジュンイチ］

単位数：2単位
学期：秋学期後半/Fall(2nd half)
授業分類：専門講義
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Google (Alphabet)・Amazon・Facebook (Meta)・Apple・Microsoft を総称して Big Five と呼ぶが、彼らはプラットフォーム企業として、エコシステムを形成し、膨大なネットワーク効果を産み、急激な事業成長を遂げてきた(これをプラットフォーム・スケールと呼びます)。また、Uber、Airbnb なども、シェアリング・エコノミーを実現するプラットフォームとして注目されている。これらプラットフォーム企業は、これまでの経営戦略と異なった戦略に基づき、プラットフォームの構築、事業の拡大を実現している。
今日、革新的な製品を産んでも、競合他社により短期間でコモディティ化されてしまう。このため、製品を核にプラットフォームを形成し、競争力を高める必要が産まれている。また、プラットフォーム企業は多面市場で事業を展開しており、ある市場で無償や安価に製品やサービスを展開し、それをテコに別の市場で収益をあげる戦略を取ることがある。このため、製品ベンダーは、プラットフォーム企業による脅威に潜在的に曝されている。
本講義では、プラットフォーム・ビジネスの本質を紐解き、プラットフォームをどのようにデザインし、ローンチさせるべきか。製品事業をどのようにプラットフォーム事業へシフトすべきか。プラットフォーム時代の競争戦略はどうあるべきか等について論じる。

【到達目標】
この授業を履修することで、以下のスキルの習得を目標としています。
1. Big Five、Uber、Airbnbなどのプラットフォーム・ビジネスの基本原理の理解
2. 新たなプラットフォームをどうデザインし、ローンチさせるべきかの戦略立案力
3. プラットフォーム時代における事業戦略、競争戦略について論じる力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
ケースを用いながら講義内容の理解を深めます。また、グループ課題として、プラットフォームを活用したビジネスモデルの創出にチャレンジしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	プラットフォームとその戦略	・オリエンテーション ・プラットフォーム時代の到来 ・Amazonはどのようにプラットフォームを作ったのか? ・プラットフォーム戦略 ・プラットフォーム・マニュフェスト
2	デジタル変革: 製品からプラットフォームへ	・プラットフォームへのシフト ・プラットフォームのもたらすネットワーク効果
3	ケース: Apple iTunes	・プラットフォームとしてのiTunes ビジネス モデル
4	ネットワーク効果	・プラットフォームと規模の経済 ・マルチホーミングとスイッチングコスト ・二面市場ネットワーク
5	ケース: Intuit QuickBooks	会計ソフトウェアからクラウドベースのプラットフォームへの転換
6	成功するプラットフォームをデザインする	・パイプ ビジネスとプラットフォーム ビジネス ・プラットフォームの設計指針 ・実用最小限のプラットフォーム ・プラットフォームの収益化
7	ケース: Airbnb, Etsy, Uber	成功したプラットフォームはどのように産まれたのか?
8	プラットフォームのローンチと成長の戦略	・「鶏が先か卵が先か」問題 ・ローンチ戦略 ・モジュール構造とAPI戦略
9	オープンイノベーションの活用	・オープンイノベーション ・何をオープンにし、何を占有すべきか? ・エコシステムの管理
10	プラットフォーム ガバナンス	・なぜガバナンスが必要か? ・ガバナンスの設計原理 ・ガバナンス ツール ・ガバナンス ルール
11	ケース: Uber	・シェアリング・エコノミーと規制 ・プラットフォーム・ガバナンスの実装
12	プラットフォーム時代の競争と戦略	・なぜプラットフォームは製品を凌駕するのか？ ・プラットフォーム時代の戦略 ・ネットワーク効果と事業戦略
13	グループ課題のプレゼンテーション	グループ課題(プラットフォーム・ビジネスの創出アイディア)をグループごとにビジネスピッチ形式で発表し、議論
14	プラットフォーム革命の未来	・プラットフォーム戦略を採用している企業群 ・様々な分野で展開されるプラットフォーム革命

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、毎回の講義の終わりに、次回の講義までに事前学習すべき項目やプレゼンテーションを行う準備について指示を受ける。事前課題を指示された場合には、講義の初めに提出する。
事前課題を含め、本授業の準備学習・復習時間は、2時間を標準とします。
グループ課題(プラットフォーム・ビジネスの創出)については、グループでの議論、プレゼンテーション準備を要します。
プラットフォーム戦略について考察する個人課題を1つ設定。

【テキスト（教科書）】
Harvard Business Publishing で指定した Coursepack (4 cases) を購入していただきます。和文抄訳を別途提供します。

【参考書】
『プラットフォーム・レボリューション PLATFORM REVOLUTION 未知の巨大なライバルとの競争に勝つために』 ダイヤモンド社
ジェフリー・G・パーカー 著/マーシャル・W・ヴァン・アルスタイン 著/サンジート・ポール・チョーダリー 著/妹尾 堅一郎 監訳/渡部 典子 訳
ISBN：978-4-478-10003-5

【成績評価の方法と基準】
以下の4つの要素から総合的に評価する。
(1) 授業への貢献: 23%
(2) ケースに対する事前課題: 32%(8%x 4 ケース)
(3) 個人課題: 20%
(4) グループ課題: 25%

【学生の意見等からの気づき】
プロジェクト・メソッドにおいてプラットフォーム関連のプロジェクトを検討、進めている学生には、プロジェクトに関する個別の相談にも応じます。

【学生が準備すべき機器他】
PDFで配布されるケースが読み取れ、課題レポートが作成・提出できる情報機器。

【その他の重要事項】
経営戦略の基礎を学んでいると講義での議論の質をより高めることができるが、基礎を平行して学ぶ受講者でも無理のない講義への参加ができるよう、オリエンテーション時にレベルを確認し、内容および進捗を調整する。
講義やケーススタディにおいて、講師が、アマゾン、オラクルなど成功したプラットフォーム企業のほか、プラットフォーム構築を目指すスタートアップで経験したことを適宜お話します。

【Outline (in English)】
Today is the era of data, network, and platform. Platform players, such as Google (Alphabet), Amazon, Facebook (Meta), Apple and Microsoft (Big Five) have established ecosystems, been enjoying vast network effects, and grown dramatically (it is called “Platform Scale”). Fresh players such as Uber and Airbnb, have formed sharing economies without owning considerable assets. Those platform players take different strategies from the ones of traditional business strategies. This course covers those topics through lectures, case studies and individual &group exercises.
Through the lectures, you can obtain the following skills:
1. Understand basic principles of platform businesses, driven by Big Five, Uber, Airbnb, etc.
2. Capability to design a new platform, and to plan its successful launch.
3. Ability to discuss platform strategy
Grading criteria are followings:
(1) Class contributions: 23%
(2) Pre-class quizzes for cases: 32%(8%* 4)
(3) Individual exercise: 20%
(4) Group exercise: 25%

MAN510F2（経営学 / Management 500）

グローバルビジネス経営論

Global Business Management

山本　晋也［ヤマモト シンヤ］

単位数：2単位
学期：秋学期後半/Fall(2nd half)
授業分類：専門講義
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このコースは、昨今のグローバルビジネスにおいて、人工知能やロボット工学、ブロックチェーンなどの急速な技術革新がもたらす社会の分散化に焦点を当てています。既存のグローバルビジネスの経営や組織において、分散化が加速していることの意味と、それが与える社会への影響について包括的に理解することを目的としています。学生は、現在の業務ワークフローにおける知識と経験の重要性、イノベーションのジレンマによってもたらされる課題、グローバルビジネス環境における小規模組織と社会起業家の重要性について探求します。さらに、このコースでは、Web 3.0、分散型自律組織（DAO）、コミュニティ・マネジメントに関連するトピックも取り上げます。

【到達目標】
1. グローバル企業と呼ばれるWeb 2.0（Web 1.0）の事業モデルにおける課題について理解を深める。
2. 急速な技術革新が既存のグローバルビジネスの経営に及ぼす影響を調査する。
3. 顧客体験、運用ワークフローの管理・改善等、現場での知識と経験の重要性を理解する。
4. イノベーターのジレンマと両利きの経営、それらが組織に与える影響を分析する。
5. グローバルビジネスのエコシステムにおける小規模組織と社会起業家の重要性と可能性を認識する。
6. Web 3.0と分散型自律組織（DAO）の概念、およびグローバルビジネス経営に対するそれらの影響を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
このコースでは、講義、ケーススタディ、グループディスカッション、業界専門家によるゲスト講義を組み合わせて実施します。 理解と批判的思考を高めるために、実例と実践的な応用を重視します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1週目	グローバルビジネスの変遷１	1. 技術革新に伴うグローバルビジネスの事業モデルの変化 2. Web 1.0とは？ 3. Web 2.0とは？ 4. Web 3.0とは？ 5. 事例紹介
2週目	グローバルビジネスの変遷２	1. 技術革新に伴うグローバルビジネスの組織論の変化 2. Management 1.0とは？ 3. Management 2.0とは？ 4. Management 3.0とは？ 5. 事例紹介
3週目	ケース：技術革新による分散化とは何か？	1. 人工知能 2. ロボット工学 3. ブロックチェーン 4. 分散化する社会の意味 5. 事例紹介
4週目	お金の仕組み	1. 金融システムの歴史 2. 21世紀の資本 3. 資本とイデオロギー 4. Broken Money 5. 事例紹介
5週目	株式会社から分散型自律組織（DAO）へ	1. グローバルビジネス経営における小規模組織（スタートアップ）とコミュニティの重要性 2. 株式会社の歴史 3. 分散型自律組織（DAO）とは？ 4. 事例紹介
6週目	コミュニティ・マネジメントによる分散的経済圏（新たな付加価値）の創造	1. グローバルビジネス経営における付加価値創造のための新モデル 2. 新たな資金調達方法（トークン・ファイナンス） 3. IEO/ICOとは？ 4. 事例紹介
7週目	プロジェクト研究への応用	1. プロジェクト研究へのWeb 3.0の応用 2. プロジェクトピッチ 3. 事例紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は各授業の前に、指定された関連記事、事例研究、研究論文を読むことが求められることがあります。また、コースのトピックに関連するディスカッションに積極的に参加することも求められます。

【テキスト（教科書）】
1. The Innovator's Dilemma: When New Technologies Cause Great Firms to Fail - by Clayton M. Christensen
2. Lead and Disrupt: How to Solve the Innovator's Dilemma - by Charles A. O'Reilly III and Michael L. Tushman
3. Social Entrepreneurship: What Everyone Needs to Know - by David Bornstein
4. Capital in the Twenty-First Century - by Thomas Piketty
5. Capital and Ideology - by Thomas Piketty
6. Broken Money: Why Our Financial System is Falling Us and How We Can Make it Better - by Lyn Alden

【参考書】
コース全体を通じて、関連トピックに関する追加の読み物や参考資料を適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績は授業への参加（30 点）、ディスカッション（20 点）、プロジェクトピッチ（20 点）、最終レポート（30 点）に基づいて決定されます。

【学生の意見等からの気づき】
グローバル企業を経営する実際の事例から実学を学べるように努めたい。

【学生が準備すべき機器他】
学生用のラップトップ/タブレットは、BYOD (Bring Your Own Device) として準備する必要があります。

【その他の重要事項】
このクラスは、大手/中規模/中小企業、スタートアップ、コミュニティ、中央政府/地方自治体、病院、大学/研究機関などのあらゆる組織を対象としています。

【Outline (in English)】
This course focuses on the decentralization of society brought about by rapid technological innovations such as artificial intelligence, robotics, and blockchain in today's global business. It aims to provide a comprehensive understanding of the meaning of accelerating decentralization in the management and organization of existing global businesses and its impact on society. Students will explore the importance of knowledge and experience in current business workflows, the challenges posed by the innovation dilemma, and the importance of small organizations and social entrepreneurs in the global business environment. Additionally, the course will cover topics related to Web 3.0, Decentralized Autonomous Organizations (DAOs), and community management.

MAN510F2（経営学 / Management 500）

コミュニケーションマネジメント

Communication Management

浦上　早苗［ウラガミ サナエ］

単位数：2単位
学期：春学期後半/Spring(2nd half)
授業分類：専門講義
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報発信のツールが多様化する社会において、効果的な情報発信とリスクへの対応について学びます。
皆さんは、自身が関心あることについてどのように情報収集をしていますか。また、世の中に流れている情報からどのような影響を受けているでしょうか。
ほんの20年前まで、企業や個人の情報発信手段はほぼマスメディアに限られていました。その後、2010年代に入るとSNS、動画配信プラットフォームが爆発的に普及し、インフルエンサーやYouTuberに代表されるように、個人やスタートアップができるマーケティング活動も広がっています。一方、情報が瞬時に拡散し残り続ける社会にあって、情報発信のリスクもかつてなく高まっています。
私自身、新聞記者からキャリアをスタートし、経済記者として変わりゆくメディアの現場に身を置いていますが、取材先の企業から「役員は日経とWBSに取り上げられたがるけど、学生は全然見ていないので人事からはウェブでの露出を強化してほしいと言われる」「YouTuberから取材依頼が来たけど対応が分からず断った」「TikTokをやった方がいいのか」
といった悩みを相談されることが増えました。
講義では新聞、テレビなどオールドメディアからSNS、動画プラットフォームといった新興メディアを介した情報発信の全体像を知り、世の中に流れている情報がどのような意図でピックされ広がっているのかを、実際のケースを基に学び、各自のビジネスへの活用を目指します。

【到達目標】
・マスメディアからSNSまで情報発信に関係するプラットフォーム全般に対する知識を得て、発信したい情報に応じた適切な手法を選択できることを目指します。
・特に小さな企業、スタートアップ、士業などの個人事業主においては、経営者の発信能力が、商品販売、サービス展開だけでなく採用活動においても重要です。大手企業の広報担当部門が担う役割を1人でこなし、費用を抑えながら自社の情報を伝えるスキルを磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
講義にグループワークを組み入れます。プレスリリースの作成、記者レク実践などを予定しています。
履修者にはSNSアカウントを開設し、数カ月間運用してもらうため、継続的に授業外での作業が発生します。
広報業務における履修者の具体的な経験や疑問、反省を教材として取り上げるため、オリエンテーションでレポートを提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1,2	オリエンテーション・メディア概論	新聞・雑誌からウェブメディア、ソーシャルメディアまで多様化するメディアの現状、講義の目的について概観します。
3,4	メディアを通じた情報発信 プレスリリースグループワーク	自社の情報を発信する際には、その内容だけでなく、時期、ビジュアル、経路（レクをするかプレスリリースを投げ込むか、ツテをあたるか、オウンドメディアを使うか）など、さまざまな要素を考慮することで、効果を大きくできます。具体的なノウハウを実例を交えて説明します。
5,6	SNSを通じた情報発信 プレスリリースグループワーク	Twitter、インスタグラムなど利用者の傾向、企業の活用法などについて学びます。
7,8	広報の役割 プレスリリース演習	企業の広報担当者は、社内と社外のコミュニケーションをつなぐ重要な役割を担います。組織内における位置づけや、多様化している広報の業務、情報発信から逆算した企画の作り方を考えます。 情報発信の手段として最も一般的なのが「プレスリリース」の公開です。実際に作成し、学生間で講評します。
9,10	ゲスト講師 プレスリリース演習	当講義の元履修生で、修了後に起業し、現在YouTubeチャンネルを展開している経営者に編集の具体的な方法など「YouTubeのリアル」を語ってもらいます
11,12	各自のSNS運用中間報告 芸能人とコンプライアンス	最終課題に向けて各自が運用しているSNSの運用状況を振り返り、改善点を考えます。
13,14	リスクマネジメントと情報発信	ネット社会においては、自社が悪いことをしていなくても、社会問題が飛び火し、炎上するケースが後を絶ちません。自分たちが炎上の当事者となったとき、風評被害を受けそうなときの対処法を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
SNS時代になり、企業や著名人のちょっとした発言・投稿が炎上したり、10年前は誰も気に留めていなかった事象が「不祥事」として掘り起こされるなど、発信の効果とリスクは絶えず変化を続けています。企業側も学習し、対策を取っているのですが変化の方が速く、100％の先回りや対策はできないのが現状です。
特にコロナ禍後はSNSの影響が加速度的に大きくなり、2024年は出直し兵庫県知事選が「SNS選挙」として大いに話題になりました。履修する皆さんもニュースを見て「なぜこんなに叩かれるのだろう」「どうしてこの会社ばかり取り上げられるのだろう」「わが社の広報体制は弱いのではないか」など、疑問に感じていることがあると思うので、講義期間中はこれまで以上に意識して「情報」に接し、気づいたことや疑問に感じたことを積極的にシェアしてください。
また、最近は情報拡散とSNSが切っても切り離せないことから、講義期間中はSNS（Facebook除く）の運用を必須とし、期末の成績にも反映します。
リリースの作成や記者レクの準備など、授業時間外の宿題に相当する作業が数回発生します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
実際のニュースを題材にすることが多いので、講義期間中にその都度指定します。

【参考書】
参考書は指定しませんが、課題をやり遂げるために広範囲の情報収集が必要になります。
企業広報をゼロから学びたい方は「ひとり広報」（同文舘出版）がお勧めです。

【成績評価の方法と基準】
平常点：30点（欠席・遅刻・早退の取り扱いは講義冒頭で説明します。出張などでやむをえず欠席する際は、レポートや発表によって授業の一部を代替することがあります）
SNSの運用と最終レポート：40点。本講義を担当して6年目になりますが、年々情報拡散におけるSNSの果たす役割が大きくなっており、その割には企業の意思決定層のキャッチアップが追い付かず、対応が後手に回ったり炎上するケースが後を絶ちません。実践力を身に着けるために、Twitter、インスタグラム、YouTubeなどのアカウントを作成し（既存アカウントの利用も可）、テーマや目標を決めて運用し、最終発表（レポート）を行います。
授業時の課題30点：プレスリリースの作成など

【学生の意見等からの気づき】
「情報発信」という概念が非常に広く、日々変化している領域のため、毎年学生の興味関心のばらつきが大きいです。また、その年の履修生の属性によって、ビジネス上の情報発信のニーズも異なります。そのため、大枠はシラバスの通りですが、初回の授業の後にレポートを書いていただき、2回目以降の講義を組み立てています。

【学生が準備すべき機器他】
課題の作成においてPCなど入力機器が必要です。

【その他の重要事項】
グループワークの発表回数など、履修生の人数によって調整があるため、各回の構成やゲスト講師の招聘回が変更される可能性があります。
広報機能が薄い中小企業、スタートアップの社員、起業を目指している人、個人事業主などを履修生として想定しています。
実践・実務寄りの講義であるため、PRやブランディングの実務経験がある方とそうでない方で知識量に大きな差があることを踏まえ、その年の履修生の構成、バックグラウンドによって講義の重点を調整しています。特に2024年は講義期間を秋学期→春学期に移行したことで、M特からの履修生がゼロになり、講義内容が大きく変更されました。初回に参加した上で履修登録するかを判断してください。

【Outline (in English)】
Leaning how to communicate with consumers.
We have been hearing more and more of these concerns from corporate PR staff.
While PR opportunities are expanding for individuals and start-ups that previously had no contact with the mass media due to the diversification of information transmission tools and media, the skills that companies and CEOs demand of PR personnel are expanding, and the burden on PR staff who have to deal with multiple media is increasing.
In a society where a vast amount of information flows from old media such as newspapers and TV to SNS and video platforms, participants will learn the current situation and methods surrounding information dissemination in order to effectively utilize the media while preparing for new risks.

MAN510F2（経営学 / Management 500）

ヘルスケアマネジメント

Health Care Management

山田　敦弘［ヤマダ アツヒロ］

単位数：**2単位**
学期：**秋学期前半**/Fall(1st half)
授業分類：**専門講義**
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1．授業の目的
本講座では、「ヘルスケア×まちづくり×エコシステム（持続的に循環する仕組み）」の視点を重視しながら、ヘルスケア分野における課題解決策を自ら創出していくためのノウハウや考え方を学んで行く。我が国の高齢化は、急速に進んでおり、厚生労働省の「今後の高齢者人口の見通しについて」によると2025年には30％を上回り、これに伴い疾病の増加も予測されている。厚生労働省の「医療費の将来見通し」によると、2025年には54兆円を超え、2035年には69兆円にも達すると予測されている。このような状況の中で、財政面に加えて、個人の生活の質の向上の観点からも、健康増進や予防（発症抑制、早期発見など）が益々重要な取り組みとなる。加えて公的保険外サービスにおいて、個人や企業などが健康増進や予防へ取り組むことが盛んになっている。このようなヘルスケア産業市場の規模は、2016年に約25兆円だったものが、2025年には約33兆円になると推計(経産省調べ)されている。
また、近年の技術開発の進展は目覚しく、体温や血圧の測定だけではなく、血中酸素度、心電図、メンタルの状況などが簡単に測定できるデバイスやツールが開発されていることや、循環器疾患や認知症の将来予測など、AI技術等を活用した検出手法などが開発されている。
他方、いくら技術が発展しても、それを多くの方が適切・効果的に利用し、また持続的に継続できなければ、健康課題の解決には繋がらない。利用者の置かれている環境に合わせた提供方法の確立、自治体や企業などのステークスホルダーとの連携など、まちづくりに融合・親和することがなければ、解決策としては期待できない。本講座では、これらのヘルスケアを巡る多岐にわたる要素・要因を勘案し、「ヘルスケア×まちづくり×エコシステム（持続的に循環する仕組み）」の視点を重視しながら、医療・保健・福祉にかかるサービスを提供する仕組みを構築・運営することをヘルスマネジメントと定義し、その知見を深め、何らかの実践に繋げることを目指す。
なお、本講座では、ヘルスケアマネジメントを広義に捉えており、医療・保健・福祉に精通している方も、していない方も、一緒に学んで行く場としたい。

【到達目標】
本講座の到達目標は、ヘルスケアマネジメントに関して、「事例を整理・分析するスキル」、「ケースタディでディスカッションするスキル」、「事業企画書を作成するスキル」の３つのスキルを習得することである。これらはMBAレベルのヘルスケアマネジメントのスキルとして不可欠と考える。具体的には以下である。
①「事例を整理・分析するスキル」では、一定のフォーマットに準じて事例を整理・分析し、コンパクトにわかりやすく人に伝えること。
②「ケースタディでディスカッションするスキル」では、各個人がケーススタディについて、コンパクトに分析した内容を持ち寄って人とディスカッションすること。
③「事業企画書を作成するスキル」では、定められた項目（視点）について触れながら、事業企画書を作成する。事業企画書は、クラス発表、ディスカッションを行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
授業については、基本的に対面にて実施し、ディスカッションを織り交ぜながら進める。履修証明プログラムの学生、ならびにリアルの受講が難しい学生についてはウェブ受講も選択肢のひとつとする。開講時に講師に相談されたい。本講座においては、ヘルスケアマネジメントを主題としているが、それらに関連する国、自治体、企業などの動向や知見についても併せてテーマとして取り上げる。
また、事例調査及び事業企画書作成については、講座時間外で準備していただき、発表及びディスカッションを行うことを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-2	第1回9月24日水曜日 ・アイスブレーク ・ケーススタディ実践(2)	講師から長めの自己紹介と本講座の目指すべき方向性の説明を行います。 学生からの自己紹介もお行います。 · 米国MBAヘルスサービスマネジメントの概要 · ヘルスケアを取り巻く環境 · ケーススタディの進め方
3-4	第２回10月1日水曜日 ・ビジネスモデル事例の紹介(1) ・地方自治体の役割 ・ケーススタディ実践(2)	・ヘルスケアビジネスの事例紹介及び作成方法の説明（講師からの紹介） ・医療・保健・福祉サービスにおける地方自治体の役割 ・チームに分かれてケーススタディの実施(2)
5-6	第3回10月8日水曜日 ・ビジネスモデル事例の紹介（2） ・事業企画書作成の進め方 ・地域支援事業の事例 ・ケーススタディ実践(3)	・ヘルスケアビジネスの事例紹介（学生から紹介） ・サービスモデルの事業企画書の作成方法についての説明 ・地域支援事業（地域福祉事例の紹介） ・チームに分かれてケーススタディの実施(3)
7-8	第4回10月15日水曜日 ・ビジネスモデル事例の紹介（3） ・米国医療サービス概要 ・ケーススタディ実践(4)	・ビジネスモデル事例の紹介（3） ・米国医療サービス概要 ・チームに分かれてケーススタディの実施(4)
9-10	第5回10月22日水曜日 ・ビジネスモデル事例の紹介（4） ・事業企画書中間報告	・ビジネスモデル事例の紹介（4）サービスとの関連性 ・事業企画書中間報告（発表、意見交換）
11-12	第6回10月29日水曜日 ・ビジネスモデル事例の紹介(5) ・スマートシティ×ヘルスケア ・ケーススタディ実践(5)	・ビジネスモデル事例の紹介(5) ・スマートシティ×ヘルスケアビジネスの事例紹介 ・チームに分かれてケーススタディの実施(5)
13-14	第7回11月5日水曜日 ・事業企画書発表会 ・講座の最後に伝えたいこと	・クラスを企画会議と見立てて、事業企画を発表し、全員でディスカッション ・7回の講座を通して伝えたかったことを解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1から2回程度のミニ調査を宿題としてビジネス事例の提出・発表依頼する。また、サービスモデルの事業企画書を各自にて準備し、最終日に発表する。

【テキスト（教科書）】
特にない。参照するべきインターネットサイトなどについては、随時、授業内にて伝える。

【参考書】
特にない。参照するべき文献などについては、随時、授業内にて伝える。

【成績評価の方法と基準】
クラスへの貢献度（出席、発言、材料提供）及び提出課題を評価対象とする。割合については概ね以下を想定している。
出席 20％
ビジネスモデル事例　20％
事業企画書 40％
ディスカッション 20％

【学生の意見等からの気づき】
対面、メール等で、随時改善点、希望などを募集。

【学生が準備すべき機器他】
スマホやパソコンは必須。プレゼンテーションできるアプリケーションも必要。

【その他の重要事項】
なし

【Outline (in English)】
【Course Outline】
In this course, you will learn the know-how and ways of thinking to create your own solutions to problems in the healthcare field. And also, we will learn Community Development and Ecosystem (sustainably circulating system) that are strongly related to healthcare.
【Leading Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1: Organize and analyze business cases in Health care management
2: Manage case study discussion in Health care management
3: Write a business plan in Health care management
【Learning active outside of classroom】
One or two mini-surveys will be presented as homework. In addition, each participant will prepare a business plan for the service model and present it on the final day.
【Grading Criteria/Policies】
Contribution to the class (attendance, remarks, provision of materials) and submitted assignments will be evaluated. The following ratios are generally assumed.
Attendance 30%, Presentation 40%, Discussion 30%

MAN510F2（経営学 / Management 500）

コンテンツビジネス論

Multi-use Content Business Strategy

岩崎　達也［イワサキ タツヤ］

単位数：2単位
学期：秋学期集中/Intensive(Fall)
授業分類：専門講義
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
DX化が進む現在のビジネス環境下では、コンテンツビジネスの展開も大きく変わってきている。メディアの受け手である生活者は、コンテンツをさまざまなデバイスで受け取り、さらに創作して発信するなど一つのメディアとして機能している。近年のアニメコンテンツの大ヒットも、戦略的なメディアミックスによるところが大きい。生活者参加のコンテンツ消費の時代には、どのようなコミュニケーション戦略、マーケティング戦略をとればよいのか、時代の捉え方やマーケティング理論、さらにメディアとコンテンツについて、毎回テーマを決め講義を行う。さらに、アニメ、映画、スポーツ、TVなどの様々なコンテンツビジネスの現状を説明し、学術的な理論と実務的な手法を教授することで、使える知識としていく。また、アニメやドラマなどコンテンツによる地域誘客や地域ブランディングなどについても講義する。

【到達目標】
最初に代表的なメディアの思想やメディアの変遷について学ぶ。その後、我が国の成長戦略であるドラマ、アニメ、映画、音楽など、コンテンツビジネスの現状を順次把握していく。コンテンツ市場を分析するために、マーケティングやブランディングの基本的な理論についても理解する。さらに、広告、PR、SPなどを活用したコミュニケーションデザインについて学び、基本的な実践ができるようにする。近年、コンテンツを通じた地域振興やコンテンツツーリズムが隆盛だが、その現状と分析を紹介する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
講義全体を通して、第1部から第3部まで、以下のような流れになる。第1部:「メディアを理解する」新たなものを生みだす発想（1・2回）、メディアの思想とメディアの受け手（3・4回）、コンテンツビジネスの実際について外部講師による講義（5・6回）、第2部:「マーケティング理論とコンテンツ、マーケティング・コミュニケーション」マーケティング1.0から5.0、コンテンツ・マーケティングと物語論（7・8回）、マーケティング・コミュニケーション（9・10回）、スポーツマーケティング（11・12回）、第3部：「地域とコンテンツ」コンテンツによる地域誘客と地域ブランディング（13・14回）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	・ガイダンス（授業の進め方） ・自己紹介	授業への臨み方。授業の進め方。採点方法。
2	・企画立案手法、コンセプトワークの手法。 ・	企画立案の際にもっとも重要である新たな切り口や発想の仕方などを学ぶ。
3	メディアとは。その歴史と思想	メディアコミュニケーションの歴史と基本的なメディアの思想を学ぶ。ベンヤミン、マクルーハン、ブーアスティンなどを理解する。
4	アニメビジネスの実際 アニメは日本を救えるか。	アニメビジネスの内容とIPビジネス展開について。
5	テレビの歴史と今後の展開（1）ゲスト講師による講義。	テレビ局員によるテレビの過去、現在、未来。
6	テレビの歴史と今後の展開（2）ゲスト講師による講義の後、岩崎解題。	テレビビジネスと多角的展開。テレビは、どう生きるべきか。
7	コトラーのマーケティング1.0から5.0までを学ぶ。	時代とともに、マーケティング理論も変化してきたが、コトラーのマーケティング理論の概要を1.0から5.0までを理解する。
8	コンテンツ・マーケティング	コンテンツの解釈と生成を学ぶ。また、コンテンツにおけるメディアミックスなど、マネジメント手法を学ぶ。
9	広告概論（時代と広告の変容）	広告の考え方。実際の広告事例をあげて仕組みを説明する。
10	マーケティング・コミュニケーション（広告、SP、PR、OOH）	新しい広告の傾向から刺さるマーケティング・コミュニケーションを学ぶ。 受賞広告を分析して新たな広告の方向を探る。
11	スポーツのスポンサード	スポーツコンテンツをビジネスの視点で理解し、マネジメントを学ぶ。
12	オリンピックとFIFAワールドカップ	オリンピックとFIFAワールドカップの変遷をビジネス視点で捉え、今後のあり方についても探索する。
13	地域ブランドの概念とブランドストーリーのつくり方	地域も資源の伝達だけではその魅力は伝わらない。物生成生成と、地域のブランド力を上げる方法をを学ぶ。
14	コンテンツツーリズム	ドラマ、アニメ、映画の舞台へのツーリズムが盛んである。アニメ聖地巡礼を事例として、巡礼者の分析と地域施策について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
最近の企業の情報伝播の手法や新たなコンテンツビジネスの台頭などを注視しておいてください。また、地域はコンテンツを活用したツーリズム（アニメ聖地巡礼やドラマツーリズムなど）やメタバースを活用した地域体験など、さまざまな施策を実施しているが、各地域の施策など事前の情報を得ておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しないが、講義には、下記【参考書】の内容を用いて説明する。

【参考書】
岩崎達也『実践メディア・コンテンツ論入門』慶応義塾大学出版会
岩崎達也・小川孔輔編著『メディアの循環 伝えるメカニズム』（生産性出版）
岩崎達也・高田朝子『本気で地域を変える-地域づくり3.0の発想とマネジメント』（晃洋書房）
岩崎達也『日本テレビの1秒戦略』（小学館新書）

【成績評価の方法と基準】
最終レポート(50％)、出席とクラスでの議論(50%)。

【学生の意見等からの気づき】
座学を中心とした講義であるが、毎回の講義テーマにおけるディスカッションをしたい。受講生たちも、社会人としてそれぞれの道のプロである。特に、デジタルメディア関しては、多くの知見をもつ受講者もおり、それが講義をより豊穣なものとしてくれるはずである。活発な意見交換によって、授業を双方向の議論の場としたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
メディアおよびコンテンツの状況は、社会の変化とともに日々変化しており、最新の情報を加味していくため、内容を変更する可能性がある。また、講義のテーマが授業の流れによって前後、追加、省略する場合がある。
・外部講師による、メディアおよびコンテンツマネジメントの講義を予定している。

【Outline (in English)】
In the current business environment where digital transformation is advancing, the way of developing the content business is also changing drastically. Consumers, who are the recipients of media, receive content on various devices, create it, and send it out, functioning as a single medium. The big hit of "Kimetsu no Yaiba" is also largely due to the background of this era and the good use of media. In the era of content consumption with consumer participation, we will give lectures on what kind of communication strategy and marketing strategy should be taken, how to grasp the era, marketing theory, media and content every time. Furthermore, by explaining the current state of diversifying content businesses such as animation, movies, sports, and TV, and teaching academic theory and practical methods, we will use it as knowledge that can be used. In addition, lectures will be given on regional attraction and regional branding through content tourism such as pilgrimage to anime sacred sites.

MAN510F2（経営学 / Management 500）

中小企業総合経営論Ⅰ

General management for small and family companies Ⅰ

並木　雄二［ナミキ ユウジ］

単位数：**2単位**
学期：**秋学期前半**/Fall(1st half)
授業分類：**専門講義**
専門科目、MBA特別必修
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中小企業診断士養成課程の必修科目である。全社的な経営診断を踏まえ、経営戦略の策定、経営課題の抽出、課題解決を目指した実行計画策定という一連の経営戦略診断プロセスを学ぶことにより、特に流通業についての中小企業経営について総合的かつ実践的な指導、支援、アドバイスができるスキルを修得する。
全社的に経営診断を実施するという想定で、検討の材料は可能な限り、経営を俯瞰的に把握できる定性的情報(経営者、社員へのインタビュー報告等)、定量的情報(財務、販売、生産、モラルサーベイ等)を盛り込んだ内容とする。

【到達目標】
1.経営戦略を策定するため必要となる分析を絞り込み、的確な分析ができること。
2.中小企業経営の特性を踏まえ、中期経営計画を策定するための基本戦略と戦略オプション(戦略候補、戦略代替案)を提案できるスキルを修得していること。
3.経営戦略を推進するための2～3つの重要課題について、具体的かつ実践的な提案ができるスキルを修得していること。
4.重要課題の解決策の1つとして、中小企業支援施策の活用を必要に応じてガイドできる知識を修得していること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
中小企業経営、特に流通業についての総合的な指導、支援、アドバイスができるため、実際の企業の経営診断を行い、それに基づいて経営戦略、また施策活用も含めた経営 戦略の実行対策について提案を行う。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	中小企業概要	中小企業の現状と中小企業政策の動向などをマクロ的な理解を行う
2	外部環境分析、内部資源分析 演習（実習）流通業の事例	全社的かつ総合的に、経営の現状分析、戦略形成のための分析の進め方を学ぶ。経営の現状分析について企業事例の演習を行う。
3	中小企業と経営理念	経営理念の重要性と浸透させる方法、また経営課題を抽出する進め方を総合的に学ぶ。
4	経営理念と経営計画（実習）	経営理念について基づいて経営計画策定の企業事例の演習を行う。
5	経営課題の抽出と重点化	経営課題の抽出と重点化の手法を学ぶ。
6	経営課題の抽出と重点化演習（実習）	経営課題の抽出と重点化について企業事例の演習を行う。
7	中小企業の事業承継	ゲスト講師による事例などにもとづいて解説を行う
8	ゲスト講師事例の討議とまとめ	事例を含めて具体的な討議を行う
9	中小企業施策の活用	中小企業支援施策の活用を必要に応じてガイドできる知識を修得する。
10	中小企業施策の活用事例	中小企業施策の活用の事例の実際を学ぶ。
11	流通業の支援事例	流通業の経営支援の課題と実際の対応策を学ぶ
12	中小企業支援事例	実際の支援事例から中小企業経営を学ぶ
13	発表評価	発表に基づいて評価点、改善点を説明する。
14	まとめ	中小企業の経営及び経営診断の体系を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義時間以外のグループワーク、フィールドワークが求められる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし

【参考書】
特に指定なし

【成績評価の方法と基準】
講義、グループワークへの貢献度 ６０％
発表、報告書の評価 ４０％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】
【オフィスアワー】
授業開始前または終了後に質問を受け付けます。
そのほか受講生からの希望に応じて、対面・メールなどでの質問等を受け付けます。

【受講要件】
実務経験3年以上必要。課外のグループワークに参加できること。

【Outline (in English)】
learn comprehensive and practical guidance on SME management, by learning a series of management strategy diagnosis process such as formulation of management strategy, extraction of management tasks and implementation plan aiming at problem solving, Learn the skills that you can give advice and advice.

MAN510F2（経営学 / Management 500）

中小企業総合経営論Ⅱ

General management for small and family companies Ⅱ

都丸　孝之［トマル タカユキ］

単位数：2単位
学期：秋学期後半/Fall(2nd half)
授業分類：専門講義
専門科目、MBA特別必修

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
（本講座は中小企業診断士養成課程の必修科目です）
ものづくり中小企業の多くが、顧客視点で新製品やサービスなどを創り出し新しいビジネスに繋げることができないという課題を抱えている。そこで本講義では、ものづくり中小企業の経営課題を理解しながら顧客視点で新しい製品、サービスをつくりあげ、ビジネスとして実現可能かどうか収益性の検証を行います。特に、ものづくり企業のもつ生産技術や加工技術などの強み、さらには企業間ネットワークを活用した新製品やサービスの提案も行います。

【到達目標】
顧客のニーズ・課題を分析し、新しい製品・サービスなどを積極的に提案できる力を身につけます。提案した製品やサービスがビジネスとして成立するかどうか検証するための方法論を理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では新製品やサービスなどのビジネスを創出する上での方法論を演習を通じて解説します。各回で学んだ方法論を活用し、新たな新製品・サービスの提案を行うプロジェクト型の講義スタイルとなります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	顧客価値連鎖分析に基づく製品企画演習①	顧客価値連鎖分析を用いたニーズや課題の分析と顧客ニーズに基づいた製品企画の演習
第2回	顧客価値連鎖分析に基づく製品企画演習②	顧客価値連鎖分析を用いたニーズや課題の分析と顧客ニーズに基づいた製品企画の演習
第3回	新製品・サービスのアイディア創出①	マトリックス法
第4回	新製品・サービスのアイディア創出②	構造シフト発想法
第5回	新製品・サービスのアイディア創出③	バリューグラフ
第6回	新製品・サービスのアイディア創出④	シナリオグラフ
第7回	リーンキャンバス	リーンキャンバスを用いたビジネス全体像のスケッチ
第8回	プロトタイプ①	ダーティープロトタイピングの演習
第9回	プロトタイプ②	ダーティープロトタイピングの演習
第10回	ビジネスリスク	FMEA（Failure Mode Effect Analysis）を用いたビジネスリスクの演習
第11回	ビジネスの収益性検証①	正味現在価値法を用いたビジネスの収益性検証（講義）
第12回	ビジネスの収益性検証②	正味現在価値法を用いたビジネスの収益性検証（実践）
第13回	新製品・サービスの提案①	チーム発表と担当教員による振り返り
第14回	新製品・サービスの提案②	チーム発表と担当教員による振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、講義で学んだビジネス創出の方法論を活用し、チーム協業で課題を実施していただきます。チーム課題の作業時間の目安は2時間です。

【テキスト（教科書）】
毎回講義資料を配布します。

【参考書】
・前野隆司ら「システム×デザイン思考で世界を変える」日本経済新聞出版、2012年
・Krista M. Donaldson , Kosuke Ishii, Sheri D. Sheppard, Customer Value Chain Analysis, Research in Engineering Design, Volume 16, Issue 4, pp 174-183,2006.
・石野雄一「道具としてのファイナンス」日本実業出版社、2022年
・土井秀生「DCF企業分析と価値評価」東洋経済新報社、2001年

【成績評価の方法と基準】
・チーム課題（50％）、チーム活動の貢献度（20％）、チームの最終発表（30％）

【学生の意見等からの気づき】
・チームディスカッションの時間を多くとるよう配慮します。
・グループワークにおいてはなるべく全グループに発表していただく機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
グループワークに用いる、演習シートをオンライン上でアクセスしていただくため、パソコンが必要となります。

【その他の重要事項】
チーム協業のプロジェクト形式ですので、チーム活動に必ず参加してください。担当教員は、大企業、中小企業での新規ビジネスの立案、製品企画・設計、購買、生産などを経験した実務家教員であり、その知見を活用した講義を行います。

【Outline (in English)】
Many small and medium-sized enterprises (SMEs) face the challenge of creating new products and services from the customer and business needs. In this course, students will create new products and services based on customer needs while understanding the business challenges of small and medium-sized companies, and make business proposals. In addition, Students will also attempt to propose new products and services that take advantage of the processing technology of SMEs and their inter-company networks.

MAN510F2（経営学 / Management 500）

店舗施設マネジメント

Store Management

花畑　裕香［ハナバタ ユカ］

単位数：**2単位**
学期：**春学期前半**/Spring(1st half)
授業分類：**専門講義**
専門科目、MBA特別必修
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中小企業診断士養成課程の必修科目である。店舗マネジメントは、店舗コンセプトを制定し、それに基づいた店舗レイアウト等の計画を立てることにより店舗について指導・支援・アドバイス出来るスキルを修得する。実際の実務事例を多く取り入れながら、業務を革新できるプロフェッショナルを教育する。

【到達目標】
店舗施設の経営診断についての知識を習得し、中小店舗などを改善できる実践的な視点とスキルを身につける。
・経営戦略と一貫性のとれた店舗コンセプトを策定できる。
・策定した店舗コンセプトに基づき、店舗レイアウト等を作成し、投資採算性も含めたリニューアルプランを立案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
リアル店舗施設を題材とした講義とグループワーク、ディスカッション、フィールドワークを組み合わせた内容で進める。課題は、実務に沿ったフィールドワークを交えたレポートの提出を求める。2コマ連続のため、講義回数は7回である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	・イントロダクション ・店舗施設マネジメントの概要 ・店舗施設の企画・計画	経営理念、経営戦略に基づいた店舗施設マネジメントの理解と店舗診断スキルについて学ぶ。 1. 店舗コンセプト
2	・店舗施設マネジメントの概要 ・店舗施設の企画・計画	経営理念、経営戦略に基づいた店舗施設マネジメントの理解と店舗診断スキルについて学ぶ。 2. マーチャンダイジング 3. 店舗構成 4. 店舗設備
3	ケーススタディ① ・物品販売業態の店舗設計に関する講義	物品販売業態の店舗設計（店舗コンセプト、マーチャンダイジング、店舗構成、店舗設備、立地、視認性等）について学ぶ。事例はリアル店舗を題材に、より実践的に学ぶ
4	ケーススタディ① ・物品販売業態の店舗設計に関するディスカッション	物品販売業態の店舗設計（店舗コンセプト、マーチャンダイジング、店舗構成、店舗設備、立地、視認性等）について学ぶ。事例はリアル店舗を題材に、より実践的に学ぶ
5	ケーススタディ② ・飲食サービス業態の店舗設計に関する講義	飲食サービス業態の店舗設計（店舗コンセプト、マーチャンダイジング、店舗構成、店舗設備、立地、視認性等）について学ぶ。事例はリアル店舗を題材に、より実践的に学ぶ
6	ケーススタディ② ・飲食サービス業態の店舗設計に関するディスカッション	飲食サービス業態の店舗設計、立地、収益構造、展示、陳列、装飾、デザイン等について学ぶ。事例はリアル店舗を題材に、より実践的に学ぶ
7	ケーススタディ③ ・各種サービス業態の店舗設計に関する講義	各種サービス業態の店舗設計（店舗コンセプト、マーチャンダイジング、店舗構成、店舗設備、立地、視認性等）について学ぶ。事例はリアル店舗を題材に、より実践的に学ぶ
8	ケーススタディ③ ・各種サービス業態の店舗設計に関するディスカッション	各種サービス業態の店舗設計（店舗コンセプト、マーチャンダイジング、店舗構成、店舗設備、立地、視認性等）について学ぶ。事例はリアル店舗を題材に、より実践的に学ぶ
9	ケーススタディ④ ・課題解決トレーニング	教員オリジナルの課題解決事例（店舗コンセプト、マーチャンダイジング、店舗構成、店舗設備、立地、視認性等）に対し、ディスカッションしながら解を導くトレーニングを行う
10	ケーススタディ④ ・課題解決トレーニング	教員オリジナルの課題解決事例（店舗コンセプト、マーチャンダイジング、店舗構成、店舗設備、立地、視認性等）に対し、ディスカッションしながら解を導くトレーニングを行う
11	・フィールドワーク ・店舗診断	実際に店舗施設へ出向き、独自の視点で店舗施設のマネジメントを解明する
12	・フィールドワーク ・店舗診断	実際に店舗施設へ出向き、独自の視点で店舗施設のマネジメントを解明する
13	・課題発表	課題発表を行う。評価者は受講者と担当教員。
14	・課題発表	課題発表を行う。評価者は受講者と担当教員。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本的に授業時間内にフィールドワークやグループワークを行う。ただし、時間内にできなかった課題を時間外に行う可能性はある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業前、授業中に適宜電子配布する。

【参考書】
実践テキスト「店舗の企画・設計とデザイン」（オーム社）
「スーパーバイザーの実務」（商業界）
他は授業中に適宜指示をする。

【成績評価の方法と基準】
授業の取り組みと授業貢献（40％）、個人レポート課題やグループ発表（60％）

【学生の意見等からの気づき】
受講者の関心によって授業内容や課題を調整する

【その他の重要事項】
オフィスアワー
前期は月曜日8時30分～12時30分
他は随時アポイントをお願いします。

【受講要件】
実務経験3年以上必要。課外のフィールドワークに参加できること。

【Outline (in English)】
Required lecture for the Certified Small and Medium Enterprise Management Consultant training course.In store management, students acquire the skills to provide guidance, support, and advice regarding stores by establishing a store concept and planning store layouts based on that concept. We educate professionals who can innovate their work while incorporating many actual practical examples.

MAN510F2（経営学 / Management 500）

サービスマネジメント

Service Management

齋藤　隆行［サイトウ タカユキ］

単位数：**2単位**
学期：**秋学期集中**/Intensive(Fall)
授業分類：**専門講義**
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
デジタル社会の進展により産業の主役は、製造業からサービス産業へ移行しつつある。また、商品においても有形財と無形財の垣根が曖昧になり、顧客ベネフィットを重視したビジネス展開が肝要である。企業は「デジタル社会で市場はどう変わったのか」を理解し、付加価値の高いサービス提供と自社の利益最大化を両立させることが大きな課題である。本授業の目的は、サービスビジネスの概念を理解しながら、デジタル社会におけるイノベーション創出に向けた実践的な方法論を習得することである。授業では、新たな概念として登場しているデジタル財やサブスクリプション、オムニチャネル、トリプルメディアなどの潮流に触れながら、企業が取り組むべきサービス・マネジメントの本質を探究する。（大企業・中小企業の両方向け）

【到達目標】
・サービス（無形財）の特徴やサービス・マーケティングの基本知識を習得する。
・サービス産業におけるイノベーション創出のプロセスを理解し、ビジネス企画力を習得する。
・サービスマネジメントに関する課題解決力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は、単に知識を習得するのみならず、ビジネス実践力向上を目指す。そのため、授業は、講義とグループワークおよびディスカッション形式で進行する。グループワークでは、幾つかのケース学習を行い、理解促進を図る。また、サービス産業におけるイノベーションプランを企画・発表し、相互評価を行う。学生には、相互啓発志向を持って建設的な議論を行っていただくことを期待する。2回連続であり、授業日は7日間となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	デジタル社会における市場の変化	・授業ガイダンス ・デジタル社会におけるビジネスの変化 ・自己紹介およびグループ編成
第2回	サービスとイノベーション	・サービスの特徴とサービス・マーケティング ・イノベーションの３類型（変革型・開発型・改善型）
第3回	プロフィット・ゴール・マネジメント	・プロフィット・ゴールの考え方 ・価値ある商品の条件（VGI）と７パターン（Vup7）
第4回	カスタマーリレーションシップ	・顧客満足とLTV（Life Time Value） ・顧客ニーズの類型 ・課題検討①（目標設定）
第5回	サービス・デザイン	・デジタル財、クラウドソーシング ・カスタマー・ジャーニーマップ
第6回	プロトタイプ設計	・サービス・コンセプト ・課題検討②（仮説立案）
第7回	プライシング	・ダイナミックプライシングとレベニューマネジメント ・サブスクリプション
第8回	営業戦略	・O2Oとオムニチャネル ・トリプルメディアと共同格付け ・課題検討③（仮説修正）
第9回	オペレーションマネジメント	・従業員のオペレーション力向上策 ・サービスマニュアルづくりのポイント
第10回	課題検討	・課題検討④（営業戦略立案）
第11回	クレームマネジメント	・クレーム発生時の対応 ・クレームマネジメントのポイント
第12回	課題検討	・課題検討⑤（発表準備）
第13回	課題発表１	プレゼンテーションと相互評価
第14回	課題発表２	プレゼンテーションと相互評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
短期集中授業であることから、理解促進を図ることを目的に、毎回授業レポート（A4一枚）の提出を求める。その他にケース学習の予習、課題発表の準備等、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜、資料を配布する。

【参考書】
齋藤隆行・福岡宣行・松尾泰・蔵田浩（2020）「プロフィットゴール・マーケティング」産業能率大学出版部

【成績評価の方法と基準】
１．授業への参画態度（発言の量と質）20％
２．授業レポート（量と質）20％
３．課題発表（グループ発表）40％
４．個人レポート（グループ発表を踏まえたレポート）20％

【学生の意見等からの気づき】
昨年度の授業においてグループ討議が課題作成において有益であったことから、討議中心で授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【Outline (in English)】
The theme of this lecture is to learn management in providing customers with services that are invisible intangible goods.
While paying attention to differences from tangible goods management, we will consider how to provide intangible services to customers.
The lecture is practical oriented that strongly considers providing knowledge that can be used in practice. In addition to understanding phenomena, we will focus on providing tools that can be used at the worksite.

MAN510F2（経営学 / Management 500）

公共・非営利・社会的企業経営論

Strategic Perspectives in Nonprofit Organizations and Social Enterprise Management

佐藤　裕弥［サトウ ユウヤ］

単位数：2単位
学期：秋学期前半/Fall(1st half)
授業分類：専門講義
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
資本主義社会の是正の観点から、「新しい資本主義」が模索されており、これまでの「効率性」「収益性」の視点に加えて、「公共性」、「公益性」、「公正性」などの視点を交えた経営が求められてきている。その中でもとくに人口減少問題と地方創生などの観点から、公共（国・地方公共団体等）・非営利（NPO/NGO等）および社会的企業（社会的目的をもった企業。株主、オーナーのために利益の最大化を追求するのではなく、コミュニティや社会活動に利益を再投資する企業）の存在と社会貢献が注目されてきている。
本講座では、営利企業とはその存在理由を異にする公共・非営利企業のあり方と実例に基づいた経営戦略を学ぶ。
また、営利企業であってもSDGｓ経営、環境経営などに見られるように、企業活動と社会性・公共性の調和を意識した「社会的企業」の成長が期待されていることから、広く社会的存在としての企業経営を学ぶことを目的としている。
この授業を通じて、公共・非営利・社会的企業における経営の着眼点と実際について学び、今後の企業経営のあり方や中小企業診断士などのコンサルタントが担うべき役割などを理解し、実社会に活かせるよう事例研究等を通じて学ぶことを予定している。
全体として中小規模の経営組織を想定して講義を構成しますが、一部のグローバル戦略に関する社会的企業・公的組織については大規模かつ国際的な視点を基礎としながらも、それぞれの国・地域におけるミクロ的な問題解決課題を学ぶことを意図しています。

【到達目標】
1.公共・非営利・社会的企業が重要視する「公益性」を学び、持続可能な社会を構築するための着眼点を理解すること。
2.環境問題、少子高齢化に伴う社会問題や、格差社会における社会・経済情勢の変化に対応した社会的企業の経営戦略を理解すること。
3.SDGｓ経営について理解し、経営戦略を策定できること。
4.公共・非営利・社会的企業について、具体的かつ実践的な提案ができる基礎的なスキルを習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、
「DP2」
「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
公共・非営利・社会的企業に対する総合的指導、支援、アドバイスができるよう、事例研究を含めて具体的な論点を整理して進めます。グループディスカッションなどの方法を取り入れて、各グループの発表をもとに議論を進め、全体としてのとりまとめを行ないます。またレポート等を通じて各人の理解を促すとともに、注目すべき見解を授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	公共・非営利・社会的企業論の視座	公共・非営利・社会的企業の存在意義・社会的役割・事業の範囲を学ぶ。
第2回	国・地方公営企業の現状と経営戦略	市場の失敗の克服策として存在する公営企業の経営戦略を学ぶ
第3回	NPO/NGOの現状と経営戦略	NPO/NGOの事例に基づいて、経営上の問題点・課題を抽出し、経営戦略を学ぶ。
第4回	非営利目的企業の現状と経営戦略	非営利目的の企業（例.病院等）の経営の現状と今後の経営戦略を学ぶ。
第5回	SDGsと社会的企業の現状と経営戦略	SDGｓを取り入れた企業の経営の現状と経営戦略を学ぶ。
第6回	ソーシャル・マーケティングの理論と経営戦略	ソーシャル・マーケティングの考え方を活かした経営戦略の実例を学ぶ
第7回	日本の成長戦略と市場開放	政府の規制改革による公共・非営利組織と民間企業の連携方策を学ぶ。
第8回	公民共同企業体の経営戦略	第一セクター（国および地方公共団体が経営する公企業）や第二セクター（私企業）とは異なる第三的方式による法人の現状と経営戦略を学ぶ。
第9回	行財政改革と地方創生・地域活性化の自治体経営・マーケティング	行政のスリム化、地方財政の健全化と持続可能な地域住民へのサービス提供のための経営戦略を学ぶ。
第10回	人口減少下における社会インフラの維持と社会的企業の経営戦略	水道、下水道、電気、ガスなどの公益事業の現状と課題を学び、その維持に関わる企業活動のあり方を学ぶ。
第11回	社会的企業の現状と経営戦略	社会的企業（例.医療・福祉・介護サービス）の現状と経営戦略を学ぶ。
第12回	政府規制改革と民間企業の公共マーケットへの参入手法	官民連携手法の多様化と民間企業のビジネスチャンスを学ぶ。
第13回	人口減少社会の現状と地方創生における公共・非営利・社会的企業の役割	地域資源を活用したビジネスについて、地方創生に関わる公共・非営利・社会的企業の経営戦略を学ぶ。
第14回	公共・非営利・社会的企業経営論のまとめ	持続可能な社会に向けた資本主義の修正と、社会・経済情勢の変化に対応した企業活動のあり方について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義時間以外のグループワーク、フィールドワーク等による学習が求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし

【参考書】
・フィリップ・コトラー (著), 松野弘 (翻訳), 熊倉広志 (翻訳), 玉村雅敏 (翻訳)『「公共の利益」のための思想と実践：企業・政府・非営利団体の戦略』, ミネルヴァ書房 (2022).
・ヘンリー・ミンツバーグ (著), 池村千秋 (翻訳)『私たちはどこまで資本主義に従うのか』ダイヤモンド社 (2015）.
・ヘンリー・ミンツバーグ (著), 池村千秋 (翻訳)『MBAが会社を滅ぼす』日経BP (2006).
その他、授業の中で取り上げて参考文献を紹介します.

【成績評価の方法と基準】
講義、グループワークへの貢献度 ６０％
発表、授業での発表、レポートの評価 ４０％

【学生の意見等からの気づき】
今年度も継続して各分野の最先端事例を取り上げ、当該分野の専門家をゲスト講師に迎え、議論・質疑を通じて理解を深めていきます。

【その他の重要事項】
【オフィスアワー】
授業開始前または終了後に質問を受け付けます。
そのほか受講生からの希望に応じて、対面・メールなどでの質問等を受け付けます。
【実務経験と授業の基本的な方針】

30年を超える中小企業診断士としての活動経験を有し、経済産業省ほかの有識者委員を務めています。
また、JICA（国際協力機構）専門家としてSDG s に関する活動をしています。
そのほか地球環境問題の支援を目的とするNPO法人の理事として運営方針の決定に携わっているとともに、開発途上国の支援を目的とするNGO法人のメンバーとして海外での学生の教育指導も担当しています。
現在まで開発途上国の中央省庁および大学のアドバイザーを務めています。

【担当教員の専門分野等】
・公共・非営利方針の経営診断技法の開発
・産学官連携の推進
・政府規制改革による非営利部門への民間企業の参入推進
・市場競争と公共性・公益性の調和
・SDG s 経営とNPO/NGOの国際貢献ビジネス
・グローバル経営戦略の展開
・社会的企業育成支援

【Outline (in English)】
In this course, students will learn business management of national government, public organizations, and non-profit organizations, comparing them with for-profit corporate activities.
The course also aims to teach SDGs management strategies and management strategies of social enterprises.

MAN510F2（経営学 / Management 500）

収益モデルの構築

Earnings Model

山﨑　泰明［ヤマサキ ヤスアキ］

単位数：2単位
学期：秋学期後半/Fall(2nd half)
授業分類：専門講義
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卓越した事業アイデアだけではビジネスは実現しません。そのアイデアを活かし、事業機会につなげることによりビジネス化が可能となります。そのためには将来の事業を構想し、具体的な数値に落とし込むことが不可欠です。将来の事業構想とは、新規事業や企業買収などといった新たな取り組みだけではなく、製造工程の自動化やＳＣMの推進などといった既存のやり方の変更なども含みます。本講義の目的は、これら将来の事業に関する意思決定を行なうためのファイナンス理論をベースに事業の数値化を習得します。受講者全員が一定の水準の目標に達するようにフルサポートします。また、可能であるならば、ファイナンスⅠ、ファイナンスⅡとともに受講することが望ましいでしょう。

【到達目標】
急速な成長を目指すベンチャー起業家および企業内で新たなビジネスの構築を担う者が、事前に有用なコーポレートファイナンスに関わる知識やスキルをすべて習得することは決して簡単なものではありません。そのため、本講義では、事業アイデアをビジネス化するために必要と考えられる収益モデルの構築に絞り基礎的な素養を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
新規事業の創出ならびに既存事業の改善等の収益モデルを構築する知識やスキルを習得する授業という点から、演算演習を交えた講義形式で進めていきます。ミニ・ケースや実務での経験談も適宜取り入れます。講義では事前にパワーポイントによるテキストをアップしますので予め理解に努めて下さい。各回の授業の後半で行なう確認課題に取り組み、それによって議論をおこなう、各自の意見などを紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	①イントロダクション ②講義の進め方 ③成績の評価について
第2回	事業構想段階の留意点と、新しいアイデアの調達方法	①事業家としての適格度 ②サービスイノベーション戦略 ③ビジネスプランに関する課題 ④主なアプローチ方法 ⑤事業アイデアと事業機会
第3回	マネタイズモデルの類型	①リアルビジネスでのモデル ②プラットフォームビジネス
第4回	実務家の経験談	・ゲストスピーカー 担当教員によるまとめ
第5回	ビジネスプランの概要	①事業アイデアの具体化 ②ビジネスプラン作成時の留意点
第6回	収益モデルの構築①	①お金の時間的価値 ②ＤＣＦ法
第7回	収益モデルの構築②	①予測キャッシュフローの想定 ②バリューチェーンとキャッシュフロー
第8回	収益モデルの構築③	①予測キャッシュフローの現在価値 ②ターミナルバリュー
第9回	収益モデルの構築④	①資本コスト ②機会コストと要求リターン
第10回	事業の数値化①	①要素の洗い出しと数値化
第11回	事業の数値化②	①事業創出型の数値化 ②M＆Aにおけるデューデリジェンス
第12回	事業の数値化③	①既存事業型の数値化
第13回	新規事業の普及	①イノベーションの普及
第14回	確認テスト、総括	・ビジネスモデルと事業の数値化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義中にも説明は行ないますが、予め財務諸表に触れていることが望ましいでしょう。テキストは事前にサイトにアップしますので２時間程度の事前学習をお勧めします。復習に関しては、各回の授業の終わりに確認のための課題を行ないます。その結果を踏まえ、事後に２時間程度の復習を各自で行なうように努めて下さい。

【テキスト（教科書）】
講義用資料（パワーポイント）

【参考書】
リチャード・ブリーリー、スチュワート・マイヤーズ、フランクリン・アレン著、藤井眞理子、國枝茂樹監訳、“コーポレートファイナンス（上）（下）”日経ＢＰ社 2014年
磯崎哲也著、“起業のファイナンス”日本実業出版社 2020年

【成績評価の方法と基準】
・最終確認テスト 40％
・各回の小レポート 30％
・授業での関与度 30％

【学生の意見等からの気づき】
多くの意見を期待します。

【学生が準備すべき機器他】
Excelが使用できるパソコンが必要です。

【その他の重要事項】
三十年強に及ぶ証券会社での各種業務における実務と企業経営の経験を活かした授業を心掛けます。
【オフィスアワー】
質問等は、木曜日の３限目（13:10-14:50）に受け付けます。
別途、事前に連絡をいただければ対面・メールなどでの質問等はいつでも歓迎です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ ファイナンス、イノベーション戦略、起業論、ファミリービジネス経営

【実務家教員】
３０数年間に及ぶ証券会社での実務と企業経営の経験を活かした授業を行ないます。

【Outline (in English)】
【Course outline】

A business cannot be realized only by excellent business ideas. By utilizing the idea and connecting it to business opportunities, it will be possible to commercialize it. For that purpose, it is indispensable to envision future businesses and reduce them to concrete figures. Future business plans include not only new initiatives such as new businesses and acquisitions, but also changes to existing methods such as automation of manufacturing processes and promotion of SCM.
【Learning Objective】
The purpose of this lecture is to learn the quantification of businesses based on the finance theory for making decisions about these future businesses. We will fully support all students to reach a certain level of goals. Also, if possible, it is advisable to take the course together with Finance I and Finance II.
【Learning activities outside of classroom】
two hours of preparation and two hours of review.
【Grading Criteria/Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination：40%、Short report：30%、in class contribution：30%

MAN510F2（経営学 / Management 500）

事業再生・経営革新

Business turnaround and alliance

栗本　興治［クリモト コウジ］

単位数：2単位
学期：秋学期前半/Fall(1st half)
授業分類：専門講義
専門科目、MBA特別必修
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
事業が毀損、衰退し、財務体質が悪化する中、企業を取り巻く利害関係者間の利害を調整するとともに、毀損、衰退した事業を立て直す一連のプロセスを「事業再生」と定義し、また、事業者が新事業活動を行うことにより、その経営の相当程度の向上を図ることを「経営革新」と定義し、講義を進める。
本授業の目的は、事業再生や経営革新の意義、目的、効果、概要（一連のプロセスを含む）を理解するとともに、ビジネスイノベーターとして変容する市場ニーズに対応するべく、中小企業の適時適切な変革やビジネスイノベーションをリードできる素養を修得することにあり、主に中小企業向けの講義内容である。

【到達目標】
①事業再生及び経営革新の目的や効果を理解すること
②実務で利用される事業再生手法の体系と各手法のプロセスを理解すること
③事業再生に着手するタイミングとその効果を理解すること
④経営改革を促進するための制度概要と進め方の概略につき理解すること
⑤事業再生や経営革新に関与する各プレイヤー（主にアドバイザー）が期待され求められる役割を理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は毎回講義を中心に進めるが、授業の一部は受講生参加型のディスカッションにあて理解を深める。
なお本講義のまとめとして、（実例もしくは仮想）事例を使ってグループ発表会を開催する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	事業再生の定義、目的、概要の理解【理論編】	事業再生につき、その定義、目的、概要、その効果等を理解するとともに、実例や学際的視点（法学的、経済学的視点を含む）からも考察、理解する。
2	事業再生の定義、目的、概要の理解【実務対応編】	事業再生が必要となる状況や兆候を理解するとともに、会社を取り巻く各利害関係者との関係性の変化と変化に伴い再構築するプロセス（事業再生実務全般）の概要を理解する。
3	事業再生手法の体系の理解【理論編】	再生可能性の考え方、事業再生手法の選定プロセス実務やその特徴、加えて事業再生実務や事業再生に活用される組織再編行為に関する主な法的・税務的論点の概要(例)等を理解する。
4	事業再生手法の体系の理解【実務対応編】	事業再生手法の選定プロセスにおける現状把握・現状分析方法や再生スキームの策定方法の考え方等、再生実務全般を理解する。
5	事業再生（法的整理）の制度及び各手法の概要とプロセスの理解【理論編】	法的整理の制度概要及び各手法の概要、プロセス、特徴等を理解する。
6	事業再生（法的整理）の制度及び各手法の概要とプロセスの理解【実務対応編】	法的整理の利用状況を理解するとともに、過去事例を用いてプロセス概要を理解する。
7	事業再生（私的整理）の制度及び各手法の概要とプロセスの理解【理論編】	私的整理制度の変遷、各手法の概要及び進め方のプロセスを理解する。また法的整理との比較を通して私的整理の意義を理解する。
8	事業再生（私的整理）の制度及び各手法の概要とプロセスの理解【実務対応編】	私的整理制度の利用状況を理解するとともに、主に中小企業の再生実務に即した具体的な私的整理手続の進め方と最近の傾向を理解する。
9	経営革新の概要【理論編】	経営革新の定義、目的を理解するとともに、経営革新に関する制度概要とその効果等につき理解する。加えてイノベーションについて経営学の視点から考察する。
10	経営革新を促進する制度/仕組【実務対応編】	経営革新を促進する制度の概要、その制度を利用する際の進め方、得られる効果やメリットに加え、利用状況等につき理解する。
11	企業のライフステージ別経営革新及び事業再生局における利害関係者とアドバイザーの役割【理論編】	企業のライフステージ別に事業再生及び経営革新の視点から、関与する専門家や実務家の担当領域や求められる役割について理解する。
12	企業のライフステージ別経営革新及び事業再生局における利害関係者とアドバイザーの役割【実務対応編】	認定経営革新等支援機関の活動実績や活動状況を把握する。さらに事業再生局面や経営革新を起こす局面における支援施策の概要と活用方法を理解し、ビジネスイノベーターとして如何に関与するべきか考察する。
13	グループワーク/チーム発表【1/2】	仮想の事例を設定し、これに基づき事業再生や経営革新に関するビジネスイノベーターとして提案書を策定し発表する（グループ発表とディスカッション）。
14	グループワーク/チーム発表【2/2】	仮想の事例を設定し、これに基づき事業再生や経営革新に関するビジネスイノベーターとして提案書を策定し発表する（グループ発表とディスカッション）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
■授業前は参考文献を読む等の予習をし、授業後はレジュメを中心に復習する。
■予習復習各1時間程度を標準学習時間とする。
■毎週授業前までにオンラインにて復習テスト（20分程度）を受けて頂く。
■グループ発表は、グループメンバー全員参加型でプレゼン資料を作成し、発表も全員で発表して頂く。

【テキスト（教科書）】
講義の前にレジュメを配布する。

【参考書】
■『事業再生』岩波新書 高木新二郎著
■『事業再生の実践（第Ⅰ巻～第Ⅲ巻）』商事法務 産業再生機構著

■『経営研究調査会研究報告第62号「早期着手による事業再生の有用性について」』日本公認会計士協会
■『事業再生の実務』日本公認会計士協会出版局 日本公認会計士協会編
■『イノベーション・マネジメント入門』日本経済新聞出版社 一橋大学イノベーション研究センター編
その他必要に応じて授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
①試験評価40％程度
■各講義日終了後、次回の講義開始前までに20分程度の復習テストを実施（Hoppiiを利用し6回実施）
■復習テストの内容は、講義で説明した主なポイントやレジュメに関する理解度を確認するために実施
②平常評価60％程度
■授業中の発言等積極性、授業への貢献度、グループ発表（演習評価）を加えたものを平常評価とする

【学生の意見等からの気づき】
■受講生参加型（可能な限り質疑の時間やディスカッションの時間を設ける）で講義を進め、馴染みの薄い事業再生実務を理解して頂く。

【学生が準備すべき機器他】
PC及び電卓

【その他の重要事項】
■質問については、授業後に口頭で、もしくは授業終了後翌週火曜日までにメールで受付け、次回以降の授業の冒頭で、復習テスト後に授業を通じて回答する。

【Outline (in English)】
A business turnaround is a series of restructuring processes of an underperforming company, including reconciling interests among stakeholders and rebuilding its struggling business.
Business innovation is defined as seeking a considerable degree of management improvement by conducting new business activities.
The objective of this class is to understand the significance, purpose, effects, process of turnarounds and business innovation, and to acquire basic knowledge to lead timely and appropriate reforms and business innovation in SMEs, while responding to the changing market needs.

MAN510F2（経営学 / Management 500）

デジタル・マーケティング

Digital Maketing

村上　健一郎［ムラカミ ケンイチロウ］

単位数：**2単位**
学期：**秋学期前半**/Fall(1st half)
授業分類：**専門講義**
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、ジョブ理論とリーンメソッドをベースとし、マーケティングファネルとリードの概念や、検索エンジン/ネット広告/ソーシャルメディアなどから構成されるデジタルマーケティングの原理と応用を、ウェブでの調査や議論を通じて学ぶ。受講者はスモールワールドの構成とリーチの概念、ターゲティング広告、ソーシャルメディアによる情報拡散の仕組みを理解し、戦略の策定と検証方法を統合的に理解する。そして、デジタルマーケティングの全体像をつかむ。（中小企業、大企業の両方向け）

【到達目標】
ファネルを理解しデジタルマーケティング戦略を策定できること、および、総合的にデジタルマーケティングを展開できる実践的な知識を身につけることを目標とする。このために、ファネルの概念を中心として、顧客との関係CR(Customer Relationship)構築のために用いられるシステムや手法、投資判断に用いられる重要な評価指標KPIを具体的に学ぶ。特に、製造から販売まですべてをオンラインで行う直販ビジネスD2C(Direct To Consumer)を事例として、SNSやウェブを通じた顧客との対話や顧客の行動トラッキングによる広告手法を学び、最終的にはデジタルマーケティングプラットフォームDMPの理解へとつなげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」 に関連

【授業の進め方と方法】
講義は、事例調査および分析、課題発表と議論、の２つを中心とし、2コマ単位で進める。基本的に下記のスケジュールで進めるが、受講者の知識レベルや進捗状況によって適宜見直す。履修者はネットに接続された自分のパソコンを操作しながら、リアルタイムにネットで検索や検証を行い、議論を進めていく。なお、グループワークでは調査や分析を行い、最終的にはデジタルマーケティング戦略の理解と組み立てができる能力の獲得を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	デジタルマーケティング入門	リードジェネレーションからコンバージョンまでのマーケティングとセールスのファネルの概要、Get/Keep/Growのプロセスについて説明する。
2	D2Cビジネスとデジタルマーケティング	ネット直販ビジネスD2C(Direct To Consumer)の代表例を調査し、どのようにデジタルマーケティングを行っているかを学ぶ。
3	マーケティング投資と回収のKPI	マーケティングは投資であることを知り、リードジェネレーション、コンバージョン、リテンション費用と顧客生涯価値LTVとの関係を学ぶ。
4	デジタルマーケティングシステムの構築	カスタマジャーニーを中心としたデジタルマーケティングシステムの構築手順と方法について学び、自分のプロジェクトへの適用を行う。
5	行動トラッキングの仕組み	ネットでは過剰な行動のトラッキングが行われている。その理由と手段とを知り、その是非および許容範囲について議論する。
6	ネット広告入門	行動トラッキング情報がどのようにネット広告に利用されているのかを知る。また、広告種別や発生する費用体系について理解する。
7	ソーシャルグラフとイノベーションの普及	スモールワールド理論を学び、社会の構造と情報の伝達速度とを知る。また、情報伝搬とイノベーションの普及との関係を考え、アーリーアダプタとマジョリティへのアプローチが全く異なることを認識する。
8	D2Cビジネスとインスタグラム	D2CビジネスがどのようにSNS、特にInstagramを活用しているかを知り、顧客との関係構築について学ぶ。
9	検索エンジン入門	Google検索エンジンの歴史と仕組みを学び、リードジェネレーションやコンバージョンにおける役割の重要性を理解する。
10	検索エンジンの仕組み	Google検索エンジンにおけるキーワードと表示形式の関係について学ぶ。そして、Googleが検索キーワードではなく検索意図を判断していることを理解する。
11	検索エンジン最適化	検索エンジンで上位に表示される仕組みと、そのパラメータを学ぶ。また、D2Cビジネスにおける検索エンジン最適化の例から、最適化のキーポイントと効果を知る。
12	検索エンジンエミュレーション	検索エンジンの仕組みをグループワークによるエミュレーションで学ぶ。各受講者は検索エンジンの構成要素となり、体と頭を使うことにより理解を深める。
13	ゲスト講師(1/2)デジタルマーケティングシステムの概要	企業における実際のデジタルマーケティングシステムについて、ゲスト講師の講義で学ぶ。講師はJTB, 学研、JR西日本でのCMO等を歴任したデジタルマーケティングの権威を予定。担当教員によるまとめも行う。
14	ゲスト講師(2/2)デジタルマーケティングシステムの利用	デジタルマーケティングの実践事例についてゲスト講師が講義を行い、解決してきた課題とアプローチを学ぶ。また、これからの展望について議論を行う。担当教員によるまとめも行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者が少ない場合は個人単位で、多い場合にはグループワークで、事例調査、マーケティング戦略の設計、統計情報を使った検証などを行う。講義は反転授業の形式で進められる。即ち、毎回の講義の終わりには事例調査および分析の課題が出され、次の講義は、この進捗および分析結果の発表から始め、議論を行う。このため、本授業の準備学習・復習には、1から2時間程度が必要となる。

【テキスト（教科書）】
テキストとして、毎回、事前に、学習支援システムにてpdf化した講義資料を配布する。その中で、参考書を紹介する。

【参考書】
(1) ダンカン・ワッツ（辻竜平・友知政樹訳）、"スモールワールド・ネットワーク - 世界を知るための新科学的思考法"、阪急コミュニケーションズ, ISBN-10: 4484041162
(2) DMP入門、横山隆治 他著、インプレス、ISBN-10: 484439584X
(3) ジョブ理論、クレイトン・M・クリステンセン著、ハーパーコリンズ・ ジャパン社、ISBN-10: 4596551227(￥2,160)
(4) ビジネスモデルジェネレーション、アレックス・オスターワルダー他著、翔泳社、ISBN: 9784798122977（￥2,728)
(5) リーンスタートアップ、エリック・リース著、日経BP社、ISBN-10: 4822248976（￥1,980）
(6) アントレプレナーの教科書、スティーブ・ブランク著、翔泳社、ISBD-10: 4798143839（￥2,640）

【成績評価の方法と基準】
以下の4つの点から評価する。
(1) 講義での発言と貢献(30%)
(2) 毎回のレポートとグループワークでの貢献(20%)
(3) 総合演習レポートの提出(50%)

【学生の意見等からの気づき】
講義ではジョブ理論をベースとした実践的かつ最新のデジタルマーケティングの知識を得られたという意見がある一方、デジタルの基礎知識がないと理解が難しい部分があるという意見があるため、講義中でも中断して基礎的な質問ができることを最初の講義時間に学生に周知する。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン(キーボードのないものは不可）

【その他の重要事項】
オフィスアワーは本講義前の５限目（16:50-18:20)としますが、事前にメールで確認願います。なお、この講義には、24年間のNTT研究所での研究実用化の経験と、スタートアップ企業でのデジタルマーケティング経験から得られた最新のノウハウを織り込んでいます。

【Outline (in English)】
This course focuses on the theory and practice of digital marketing. It starts with the major marketing concepts such as marketing funnel and lead generation. Then, it provides detailed knowledge on digital channels and platforms, such as Google Search Engine, Google Analytics, Net Advertisement, and Social Media, for getting, keeping customers. By understanding these means, students get a clear knowledge on the relationship between digital marketing platforms and sales funnel.

MAN510F2（経営学 / Management 500）

ITCケース研修

IT Coordinator Case Training

大塚　有希子［オオツカ ユキコ］

単位数：4単位
学期：秋学期授業/Fall
授業分類：専門講義
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新しいビジネスや業務への変革により競争優位をめざすＤＸにおいては、ＩＴを効果的に活用することが不可欠となっている。ITとビジネスが結びつくことで、情報制約や物理制約が克服され、①革新的な製品・サービスの創出（需要面における変革）、②供給効率性の飛躍的向上（供給面における変革）が起きる可能性がある。現代は、あらゆる産業において、需要・供給の両面から、破壊的なイノベーションを通じた新たな価値創造が求められている。ITは企業経営を飛躍的に成長させる潜在能力を持っている。ＩＴありきではなく、ＩＴをツールとして経営改革に活かすための経済産業省推奨のフレームワークがＩＴコーディネータプロセスである。ITCケース研修の目的は、ケース研修を通じてIT経営を実現するプロフェッショナル人材を養成することである。中小企業の経営者とＩＴを結びつける架け橋となるＩＴコーディネータ資格取得の要件ともなる実践的研修として、ＩＴコーディネータ協会の協力を得て開講される。授業内容は、中堅中小企業を対象としている。

【到達目標】
①知識・思考：IT経営推進プロセスガイドラインに関する考え方や知識、求められるスキルを理解できる。
②技能・表現：具体的に課題を通じてIT経営推進プロセスガイドラインの知識やスキルを使って課題を解決できる。
③意欲・関心・態度等：チーム演習を通じて、IT経営推進プロセスガイドラインに関心を持ち、IT経営推進プロセスガイドラインに関する各種技法を活用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
・秋学期開始前にITC協会より資格取得要件等についての説明会がオンラインで開催される（9月13日13:10より1時間程度予定）
・秋学期前半（9月18日～11月9日）３限４限はリアルタイムによるハイブリット授業
・秋学期後半（11月10日～1月10日）
１限はe-leaning（録画）による授業。授業開始前までに各自の都合にあわせて指定された録画を視聴すること（リアルタイム出席不要）
２限（10:50～12:30）教室・オンラインのハイブリッドによるリアルタイム授業
IT経営推進プロセスガイドラインに基づきテーマ事例による経営分析演習を行うことにより、ITコーディネータとしての実務的なスキルを身に着ける。
オンラインによる参加も認めるが、対面でワークを行うべき回数を講師より指定する。
ITC協会より指定された動画受講、アンケート提出の必要がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	開講式、オリエンテーション、IT経営とは 概説「変革認識プロセス（A1）」	はじめに、評価の方法、ケース研修の進め方などを説明する。 概説「IT経営とは」、概説「IT経営推進プロセスガイドライン」 概説「変革認識プロセス（A1）」、IT経営、経営者、IT経営推進者、IT経営支援者、IT経営の「進め方」、IT経営を成功に導く7つの基本原則
第2回	課題1「変革構想の検討とコミットメント」	課題1_手順1気づき情報の収集、課題1_手順2変革に向けての課題の抽出
第3回	IT経営の認識	概説「IT経営の推進方法」、概説「IT経営認識領域（A）」、戦略経営サイクル、イノベーション経営サイクル、IT経営の成熟度、プロセスとプロジェクトの関係、セキュリティマネジメント、リスクマネジメント、変革認識プロセス（A1）、変革マネジメントプロセス（A2）、持続的成長認識プロセス（A3）、変革、経営戦略の見直しのサイクル、破壊的イノベーター企業、「組織的な」プロセス、経営者の役割
第4回	課題1「変革構想の検討とコミットメント」続き	課題1_手順3本質的な課題の理解、課題1_手順4解決策の検討と策定
第5回	変革構想書	概説「IT経営認識領域（A）」、概説「変革認識プロセス（A1）」 A共通の基本原則、変革のための企業体質の確立、変革への気づき、変革に向けての課題・解決策の可視化、変革に対するコミットメント、変革認識プロセス（A1）の基本原則
第6回	課題1「変革構想の検討とコミットメント」続き	課題1_手順5経営者の判断、課題1_手順6変革構想書の作成と変革の表明
第7回	経営環境の分析	概説「IT経営実現領域（B）」、IT経営実現領域の各プロセス、成果物の関連図、目標とKGI/KPIの関連、全体プロセス、基本原則（B共通）
第8回	課題2「企業理念・使命の確認と経営環境情報収集・分析」	課題2_手順1企業理念・使命の確認、課題2_手順2事業ドメインの確認、課題2_手順3外部経営ミクロ環境情報収集、課題2_手順4外部経営マクロ環境情報収集、課題2_手順5内部経営環境情報収集
第9回	あるべき姿の構築	概説「経営戦略プロセス（B1）」、経営戦略プロセス（B1）の基本原則
第10回	課題3「あるべき姿の構築」	課題3_手順1経営環境分析の実施、課題3_手順2経営課題の導出 課題3_手順3CSF（案）の導出、課題3_手順4経営ビジョン（案）とビジネスモデル（案）の構築
第11回	経営リスクの評価と対応	概説「IT経営共通領域（C）」、概説「プロジェクトマネジメント（C1）」
第12回	課題4「経営リスクの評価と対応」	課題4_手順1経営リスクの特定、課題4_手順2経営リスクの分析と評価、課題4_手順3経営リスクの対応、課題4_手順4経営リスク顕在時の対応

第13回	経営戦略策定	概説「モニタリング＆コントロール（C2)」
第14回	課題5「経営戦略策定」	課題5_手順1経営ビジョン、ビジネスモデル、ＣＳＦの最終決定 課題5_手順2経営戦略目標の決定、課題5_手順3ＫＰＩの定義、課題5_手順4経営戦略実行の組織体制の設定、課題5_手順5経営戦略企画書の作成
第15回	経営戦略の展開	概説「コミュニケーション（C3)」
第16回	課題6「経営戦略の展開」	課題6_手順1中期の経営改革への展開、課題6_手順2中期経営計画の策定、課題6_手順3中期経営計画書の作成
第17回	業務改革	概説「業務改革プロセス（B2)」
第18回	課題7「IT戦略の策定と展開」	課題7_手順1現行業務プロセス分析、課題7_手順2IT領域環境分析、課題7_手順3目標業務プロセスの策定、課題7_手順4目標IT環境の策定
第19回	IT戦略	概説「IT戦略プロセス（B3)」
第20回	課題7「IT戦略の策定と展開」続き	課題7_手順5IT戦略評価項目、達成指標、目標値、課題7_手順6IT環境構築の基本方針、課題7_手順7目標ＩＴサービスレベルの設定、課題7_手順8IT戦略企画（実行計画）書の作成
第21回	IT資源調達	概説「IT利活用プロセス（IT資源調達ステップ）（B4-1)」
第22回	課題8「IT資源調達」	課題8_手順1提案評価基準書の作成、課題8_手順2RFPの作成、課題8_手順3RFPの発行と調達先の選定、契約
第23回	IT導入とITサービス利活用	概説「IT利活用プロセス（IT導入ステップ）（B4-2)」、概説「IT利活用プロセス（ITサービス利活用ステップ）（B4-3)」
第24回	課題9「IT導入」と課題10「ITサービス利活用」	課題9_手順1ＩＴ導入マネジメント、課題10_手順1ＳＬＭの実施 課題10_手順2ＩＴ戦略達成度評価、課題10_手順3経営戦略達成度評価
第25回	持続的成長の認識	概説「持続的成長認識プロセス（A3)」、概説「変革マネジメント（A2)」
第26回	課題11「持続的成長認識」と課題12「変革マネジメント」	課題11_手順1IT経営成熟度の評価、課題11_手順2将来に対する変革への洞察、課題11_手順3持続的成長に対するコミットメント、課題12_手順1変革マネジメント体制の構築、課題12_手順2変革の実行状況の把握と是正
第27回	新たな旅立ち	学生の決意表明、プレゼン内容についてのチーム討議
第28回	ケース研修のまとめ、修了式	活躍するITコーディネータからの期待 ゲスト講師：平野尚也様 担当教員によるまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】

準備学習
当該授業に関するテーマについて、文献調査等を通じて準備学習をしておく。
復習・宿題等
授業スケジュール（各回の授業テーマと内容）に基づいて、チーム演習を行うので整理すべき点や不明な点を復習する。それでも不明な点については、文献調査を行うまたは講師に質問する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書)】

・IT経営推進プロセスガイドライン
特定非営利活動法人ITコーディネータ協会発行
・ITコーディネータ資格認定制度ケース研修資料
特定非営利活動法人ITコーディネータ協会発行

【参考書】

・講師が授業を通じて適切な参考書を紹介する。
「プロジェクトマネジメントの教科書」（著者 山戸昭三 出版社 大学教育出版）ISBN978-4-86692-222-5 C3034

【成績評価の方法と基準】

・講義・チームへの参加姿勢（30%)、チーム・個人レポート（70%)
・座学で学んだ知識および自分で調べた情報を使ってチーム演習やレポート作成を行う。
・原則として、チーム演習、評価は、毎回、実施する。
・チーム演習の場合、検討内容や熱意、発表や質疑応答への態度を受講生による
相互評価を行う。
・参加度合いが24コマ/全28コマ以上を満たし、かつeラーニング指定成果物を提出していること。

【学生の意見等からの気づき】

経営情報戦略科目、プロジェクトマネジメント科目との関連や必要なツールと技法を紹介する。
ＩＴＣ資格取得の知識試験学習の情報も提供する。

【学生が準備すべき機器他】

学生は、パソコンを授業に持参のこと。（講義資料の閲覧、チーム演習、発表の際に利用）
チーム演習ではマイクロソフト・パワーポイントによるテンプレートを配布する予定。

【その他の重要事項】

・本科目の受講対象者は、在学生のみとする。
・本科目の受講には、8万円（税抜き）の教材費（教科書代およびeラーニング受講費を含む）が必要である。
・本科目の開始約2週間前に、オリエンテーションを行う。その際に、受講者名簿をITコーディネータ協会に通知し、それに基づいてeラーニング受講のための情報を付与する。
・本科目の修了者は、ITコーディネータ協会がITコーディネータの資格要件の一つであるケース研修修了とみなされる。
・担当教員は、これまでに中小企業のIT戦略に関する中小企業庁、経済産業省のコンサルティング表彰や助成金を受賞。元経営革新支援法審査委員。経営情報戦略に関連した大手・中小企業のコンサルティング、人材開発、制度設計、監査の実務経験を有し、PMP®、１級FP、CBAP®の資格を有する。ITコーディネータ立ち上げ時からケース研修のインストラクション、継続学習コース設計・指導などを行う。
・質問・相談がある場合には、
1. メールで講師に、質問・相談内容（日時、質問事項など)、希望日時などを伝えてください。
2. 講師からの連絡をお待ちください。

【Outline (in English)】

In DX, which aims for competitive advantage through transformation to new business and operations, effective use of IT is indispensable. By effectively utilizing IT, it is possible to newly acquire and analyze a large amount of data, and to use it. By linking IT and business, information constraints and physical constraints are overcome, (1) creation of innovative products and services (change in demand side), (2) drastic improvement of supply efficiency (change in supply side) can occur There is sex. In today's society, new value creation through destructive innovation is required from both demand and supply in all industries. IT has the potential to dramatically grow corporate management.
The IT Coordinator Process is a framework recommended by the Ministry of Economy, Trade and Industry to utilize IT as a tool for management reform. The purpose of the ITC case training is to develop IT management professionals.

The course is offered in cooperation with the IT Coordinators Association of Japan as a practical training course for IT coordinator certification, which serves as a bridge between small- and medium-sized business managers and IT.

MAN510F2（経営学 / Management 500）

デジタル広告論

Theory of Digital Advertising

高田　勝裕［タカタ カツヒロ］

単位数：2単位
学期：秋学期後半/Fall(2nd half)
授業分類：専門講義
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在のディジタルマーケティング活動は、パーソナライゼーションをコアテクノロジーとするデータドリブンアプローチへと大変革を遂げている。世界最大の広告代理店であるWPPの元CEOであるマーティン・ソレル卿は、マーケティングの鍵を握るのは「データ」であると宣言し、データアセットの集約と活用のためにディジタルマーケティングにかかわる数多くの会社を買収した。一方で、データアセットの活用に秀でたITコンサルティング会社であるIBM、アクセンチュア、デロイトなどは経営コンサルとマーケティング活動を一気通貫するサービスを広告主に提案して、総合広告代理店と広告販売で競合するようになり、広告業界を構成する顔ぶれが大きく変貌した。
それらが成立した背景として、(1)生活者のオンライン・オフライン活動が共にデータとして計測可能となること、(2)マーケティング活動がすべてデータで取得・管理できるようになること、そして(3)マーケティング活動の諸プロセスがプログラマティックに自動化されたことがあげられる。さらにGAFA+M（Google Amazon Facebook Apple Microsoft）に代表されるテックジャイアントと呼ばれる企業群の中でも、ディジタルマーケティングビジネスを展開してそれらに関する膨大なデータを所有するGoogle、Facebook、Amazonは自社プラットフォーム上の個々人に関するデータアセットを独占利用できる立場により、高度なテクノロジーを駆使して広告主に大きな広告成果を提供している。さらに、それぞれ広告主企業のディジタルマーケティング活動の場を自社プラットフォーム内に完結させることで、より独占的な収益を獲得することに成功している。
そこで本講義の目的は、ディジタルマーケティングにおける広告を「デジタル広告」と定義して、「デジタル広告」の全体を俯瞰し、さらに現在の高度なテクノロジーの基礎を成す主要な手段であるパーソナライズ技術やターゲティング技術を中心に、「デジタル広告」が変遷してきた経緯を踏まえてその基礎概念・技術を体系的に理解・習得することを目的とする。

【到達目標】
本講義の目標は、パーソナライズやデータドリブンアプローチなど先端テクノロジを活用し、AI（人工知能）と融合する「デジタル広告」を理解することにより、それらが持つ特性やベネフィットを自身の事業やビジネスモデルに適応・応用展開することである。
さらに、それらのテクノロジ等によって成立する「デジタル広告」が、特定の企業群をテックジャイアントだけに膨大な利益をもたらしたのか、その過程を振り返って学生自身の知識として具備することにより、自身の未来環境におけるビジネスの成功確率の向上に寄与することを目指す。
また、現在ではオウンドサイトやブログなどのウェブメディア、さらに、Facebook、X（Twitter）、Instagramなどソーシャルメディアでの発信者が「デジタル広告」を通じて収益を得ることが一般的となっている。本講義ではそれらの収益モデルも合わせて解説するため、自身をウェブサイトやソーシャルメディアを通じて発信することに取り組む学生にとっても非常に役立つものと確信する。
本講義では「デジタル広告」におけるテックジャイアントが駆使する手法の初歩的なものを自身の環境で動作させて体験する。適宜、生成AIを活用して、技術的な背景なども解説を加えていく。これら応用方法の体験により、学生自身の将来において、コンピュータの利活用による競争上の優位性を得ることにつながることを望む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は2コマ単位で、スケジュールにのっとり進める。
各講義で前半では座学を中心とした講義をおこなう。講義の前半では「デジタル広告」に関するホットトピックを毎回数点選んで解説する。後半では前半の講義に関する技術を実際にR言語のライブラリを用いて体感する。学生の希望に応じて、著名な実務者をゲスト講師として迎えて、実ビジネスでの活用や進行中の課題などについて議論する機会も用意することも考える予定である。
後半の講義ではティーチングアシスタントがすべての学生の補助にあたり、実際に「デジタル広告」で利用されている主要アルゴリズムについてR言語を利用してデータ処理して、そのアウトプットを吟味する。なお、R言語の実習を希望しない学生については、デジタル広告実務に関するデータ分析実習を用意する予定である（過年度はオンラインショッピングサイトのレビュー分析実習、ソーシャルメディアアカウントの運用に関するデータ分析実習を用意した）。なお、学生に対しては「デジタル広告」の経験や背景、技術的知識を問わない。
各回においてレポート課題を与えるので、その前提で出席すること。
すべての講義は大学設備またはオンラインなどを状況に応じて適宜選択する。実習は学生自身のノートパソコン上の環境上またはクラウドなども積極的に活用する予定である。環境の構築は最初の講義でおこないティーチングアシスタントが実習環境の導入を支援する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	デジタル広告序説	我が国において、1996年に初めてヤフージャパンのトップページにバナー広告が掲載されてから「デジタル広告」は20年以上の歴史を持つことになった。このバナー広告は、単なる掲載されるものから、閲覧者の興味関心に対して訴求をおこなうターゲティング広告に進化し、また毎日数千億回を超える広告表示が生活者に対して供給されるレベルまで成長した。既存の広告手段とも比較しながら、これに至る背景を説明する。また各学生が応用を考えているビジネスについて確認して、本講義のゴールについて確認する。
2	演習（1）	「デジタル広告」の基礎は膨大なデータにもとづくパーソナライズである。本方法を確認するためにR言語によるデータ処理環境を各学生のパソコンまたは大学設備に構築する。クラウド上の環境も利用できる場合は利用する。R言語によるデータ処理実習を希望しない学生には別途の演習課題を提案する。

3	データホリスティックとマーケティングミックスモデリング（MMM）	「デジタル広告」が急成長した主要の概念となる「データホリスティック」がある。「データホリスティック」は「全体性」の側面から事象や現象をデータによって総体的に取り扱う考え方である。近年では、この概念を土台とした、売上などのマーケティング目標に影響していると考えられる多数の要因を時系列に蓄積し、統計的手法モデルを導き出すことで、要因の相互関係や影響度合いを明示し、広告予算を効果的に分配する（アロケーション）手法が主流となった。これはマーケティングミックスモデリング（MMM）と呼ばれ、デジタル広告時代における最も重要な広告予算最適化手法となった。本講義で説明する。
4	演習（2）	パーソナライズにおいて最も有名かつ利用されているアルゴリズムの基礎を演習する。具体的には生活者の趣味趣向を計数したり、または測定するために利用する統計量について演習する。R言語によるデータ処理実習を希望しない学生には、デジタル広告の実務で利用されているデータ分析手法の基礎概念をエクセルで演習する。
5	ウェブメディア・ソーシャルメディアでの情報発信とその広告効果の分析アプローチ	「デジタル広告」は広告の成果が可視化されることで大きく発展を遂げた。これは具体的には、ウェブメディアやソーシャルメディアなどオーディエンスに届けられる情報に掲載された広告を通じて発生した成果をデータとして取得し、その分析によって実現される。本講義ではこれらを発信者側の側面と広告出稿側の側面のそれぞれの実務的な基礎を学ぶ。発信者側としては、Facebook、X（Twitter）、Instagramなどのソーシャルメディアの発信者によるフォロワー獲得やウェブメディアでのページビュー獲得などの情報発信側の広告トラフィック獲得とその広告収益について基礎を学ぶ。広告出稿側としては、発信者への広告依頼により配信された広告の広告効果を発信者の計測データの分析により広告効果を分析する。これにより、学生は学生自身が発信側としても広告出稿側としても活動できる基礎的な知識を得て自身のビジネスに活かすことができる。
6	演習（3）	「デジタル広告」においてパーソナライズの基礎となるアルゴリズムを実際に各自の環境でデータ処理する基礎演習をおこなう。本講義によりコンピュータが生活者の趣味趣向を計数化することを体験する。R言語によるデータ処理実習を希望しない学生には、デジタル広告の実務で利用されているデータ分析手法を実際にエクセルで演習する。
7	広告と生活者のプライバシ	現在、個々人の趣味や趣向に即した広告配信を実現させる企業が現れてきた一方で、そのデータアセットの中身は、生活者の生活を写す大量のデータであり、個々人のプライバシ侵害など、思わぬ問題点が明らかになりつつある。中でも、2016年に「ケンブリッジ・アナリティカ」は、生活者に同意を得ないままSNS上のデータを取得・活用して効果的な政治広告を展開して大きな疑惑とプライバシ保護に関する議論を呼んだ。そこで欧州では2018年にデータ保護法（GDPR）が、米国加州で2019年にカリフォルニア州消費者プライバシー法（CCPA）が制定、2020年にはカリフォルニア州プライバシー権法（CPRA）が承認され、生活者のプライバシに配慮したデータ利用が厳しく求められるようになっている。本講義ではこれら業界の状況を説明し、さらに近年進行中の事案を議論する。
8	演習（4）	パーソナライズの基礎となるアルゴリズムを実際に各自の環境でデータ処理する応用演習をおこなう。本講義では具体的なデータを用意して、学生自身の環境でコンピュータが生活者の趣味趣向をもとに判定する状況を体験する。R言語によるデータ処理実習を希望しない学生には、デジタル広告の実務で利用されているデータ分析手法の応用処理をエクセルで演習する。
9	業界分析1「なぜITコンサルティング会社と総合広告代理店は競争するのか」	「デジタル広告」業界では、IBM、アクセンチュア、デロイトなどのITコンサルティングファームが多くの広告関連企業を買収して、WPP、ピュブリシス、オムニコム、電通等の従前の総合広告代理店と「デジタル広告」の覇権をかけた勝負に出ている。なぜこのようになったかのか、至る背景をふまえて、業界を俯瞰しつつ、今後のビジネスに与える影響を議論する。
10	演習（5）	各学生のコンピュータ上に構築した環境上で、クラウド上のビジュアライゼーション環境を作成して、実際の意思決定に用いられる実環境を体験する。具体的には、コンピュータの計算結果をインタラクティブに可視化するまでの環境構築をおこなう。R言語によるデータ処理実習を希望しない学生には、デジタル広告の実務で利用されているデータビジュアライゼーション手法をエクセルで演習する。

11	業界分析２「プラットフォームにより占有されるデジタル広告市場」	「デジタル広告」に必要となるデータアセットはプラットフォームにより占有され、その結果として世界のデジタル広告市場は、テックジャイアントの数社が独占する状況に陥った。本講義では、グローバルで起こっているデジタル広告の寡占状況を解説し、さらに学生諸君と共に今後のビジネスへの影響と対策を議論する。
12	演習（６）	各学生のコンピュータ上に構築した環境上で、クラウド上のビジュアライゼーション環境を作成して、「デジタル広告」に関する意思決定を体感する。具体的には、実データを利用してコンピュータの計算を反映させたビジュアライゼーション環境から意思決定をおこなうための要素やその可視化要素を実際に構築する。R言語によるデータ処理実習を希望しない学生には、デジタル広告の実務における分析結果を用いた戦略立案を演習する。
13	イノベーションの創出	要望に応じて、ゲスト講師として著名実務者を迎え，業界で現在進行しているイノベーションについて聴講する。さらに、そのイノベーションにより変化する未来のビジネス展望について学生と議論をおこなう。
14	演習（７）	全演習について総括をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

１．短期間で多くの内容を説明する場合は、事前に目を通しておく内容を告知するので、それらをを必ず理解した上で講義に参加すること。

２．各学生の課題意識に応用できる演習を予定しているため、各学生においては、事前に課題意識を整理のうえで講義に参加することが望ましい。

３．学生に対して講義の内容を要旨としてまとめるレポート（A4で1枚以内）の提出を適宜求める。優秀なレポートは授業で表彰する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。なお、別講義などの課題や実習で時間が取りづらい場合もあると思われるため、そのような場合は講師側へ事前に当該事項を相談する対応をおこなっている。

【テキスト（教科書）】

適宜授業で関連記事を紹介し解説する予定である。

【参考書】

本講義で扱う領域は変化が激しく、有益な情報はウェブサイトや生の展示会を中心に提供されている。

そこで「デジタル広告」先進国である米国の情報を中心に有益な情報を掲載するサイトとして以下をあげる。

１． Website:"AdExchanger.com", https://adexchanger.com/

２． Website:"Digiday", https://digiday.com/

【成績評価の方法と基準】

以下の点から評価する。

１．レポート 40％

２．出席と積極的な発言 30％

３．最終レポート 30％

【学生の意見等からの気づき】

本講義では数学的な知識のみを求めず、論理的思考を中心に理解できるよう表現を工夫している。ティーチングアシスタントも参加して学生の支援をおこなう。講義の内容に応じてゲスト講師を招聘する場合は、国内外の第一線で活躍する著名実務者を迎えることで、実務の現場を各学生が体感できるように工夫している。実講義については、オンラインと対面とも、両方の学生が受講しやすいように配慮した講義資料の作成や設計をおこなっている。演習について、オンライン形式だと1人の学生との対話時間が長くなる傾向があり、サポートを受けたい学生全員の要望を聞きづらいことが生じたため、サポートルーム設置（ブレイクアウトルームを用いる方法）をはじめることとした。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、スマートフォン

【その他の重要事項】

講師は「デジタル広告」業界の萌芽期に始まり、プラットフォームに占有される現代にかけて、「デジタル広告」ビジネスの第一線で活躍する起業家／実務者であり、デジタルマーケティングに関する諸問題を学生と一緒に議論したいと考えている。本講義に関しては、オフィスアワーとして特定の時間を定めないが、電子メールアドレス gogokarubi@gmail.com でいつでも質問を受け付けている。

【Outline (in English)】

Today’s digital marketing activities are changing to a data-driven approach with personalization as the core technology. Sir Martin Sorrell, the former CEO of WPP, the world’s largest advertising agency, declared that "data" is the key to marketing and acquired a number of companies involved in digital marketing to consolidate and utilize data assets. At the same time, IBM, Accenture, Deloitte, and other IT consulting companies that excelled in using data assets proposed marketing services that integrated management and sales activities to advertisers and began to compete with general advertising agencies in advertising sales. The face of the advertising industry has changed dramatically.

The background to these changes is that (1) both online and offline activities of consumers can be measured in the form of data, (2) all marketing activities can be acquired and managed in the form of data, and (3) the various processes of marketing activities have been programmatically automated. Furthermore, among the tech giants represented by GAFA+M (Google, Amazon, Facebook, Apple, and Microsoft), Google, Facebook, and Amazon, which possess vast amounts of data related to digital marketing activities, have developed their own data assets about individuals on their platforms. With its exclusive access to the data assets related to each individual on its platform, Google, Facebook, and Amazon use advanced technology to provide advertisers with significant advertising results. In addition, each of them has succeeded in gaining more exclusive revenue by completing the digital marketing activities of advertisers within their platforms.

Therefore, the purpose of this lecture is to define "digital advertising" as advertising in digital marketing and to provide an overview of "digital advertising" as a whole, as well as to systematically understand and master the basic concepts and technologies of "digital advertising" based on the history of its transition, focusing on personalization and targeting technologies, which are the main tools that form the basis of the current advanced technologies. This course aims to systematically understand and master the basic concepts and technologies of "digital advertising," focusing on personalization and targeting technologies, which are the main means that form the basis of today’s advanced technologies.

MAN510F2（経営学 / Management 500）

デザイン思考とビジネス創出

A design thinking and creation of new business

都丸　孝之［トマル タカユキ］

単位数：**2単位**
学期：**春学期前半**/Spring(1st half)
授業分類：**専門講義**
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、ビジネスを創出する上で必要な、近年注目されているデザイン思考を用いた、新たなビジネス提案を行うプログラムです。特に顧客ニーズの導き出し方や、顧客価値連鎖などのビジネスを考える上で効果的な方法論を使いながら顧客視点で新しい価値を創造、新たなビジネスの仮説を導き出します。また、ビジネスの実現性を検証するための、ビジネスリスクや正味現在価値法を用いた収益性を学びます。

【到達目標】
顧客価値の導き出し方を理解し、顧客視点で新しい価値を創造し、ビジネスモデルの仮説を作り出します。また、提案したビジネス仮説が、現場や顧客課題を本当に解決できるかどうかを検証するためのスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は、ビジネスを創出する上での方法論を、演習を通じて理解します。その方法論を使いながら新たなビジネスの提案を行うチーム協業で行うプロジェクト形式の講義となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	デザイン思考とは	デザイン思考の概要説明
第2回	参与観察からビジネス仮説を導き出す1	みかん畑の耕作放棄地を活用するための地域活動の事例
第3回	参与観察からビジネス仮説を導き出す2	参与観察。問いの立て方。仮説の導き出し方を解説
第4回	顧客価値連鎖分析	お金、もの、情報の流れを可視化。ステークホルダーのニーズ・課題分析
第5回	システムの問題分析	現状問題構造ツリーを用いた問題の根本原因の分析
第6回	アイディア創出 1	マトリックス法、構造シフト発想法
第7回	アイディア創出 2	シナリオグラフ
第8回	アイディア創出 3	バリューグラフを用いた顧客価値検証
第9回	リーンキャンバス	リーンキャンバスを用いたビジネス全体像のスケッチ
第10回	ビジネスリスク	FMEAを用いたビジネスリスクの洗い出しと未然防止
第11回	シナリオプロトタイピング	シナリオを用いたプロトタイピングの演習
第12回	ビジネスの収益性検証1	正味現在価値法を用いたビジネスの収益性検証（講義）
第13回	ビジネスの収益性検証2	正味現在価値法を用いたビジネスの収益性検証（演習）
第14回	ビジネス提案	チーム発表 担当教員によるまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、講義で学んだビジネス創出の方法論を活用し、チーム協業で課題を実施していただきます。チーム課題の作業時間の目安は2時間です。

【テキスト（教科書）】
毎回講義資料を配布します。

【参考書】
・前野隆司ら「システム×デザイン思考で世界を変える」日本経済新聞出版、2012年
・Krista M. Donaldson , Kosuke Ishii, Sheri D. Sheppard, Customer Value Chain Analysis, Research in Engineering Design, Volume 16, Issue 4, pp 174-183,2006.
・石野雄一「道具としてのファイナンス」日本実業出版社、2022年
・土井秀生「DCF企業分析と価値評価」東洋経済新報社、2001年

【成績評価の方法と基準】
・チーム課題（40％）、チーム活動の貢献度（30％）、チームの最終発表（30％）

【学生の意見等からの気づき】
・チームディスカッションの時間を多くとるよう配慮します。
・グループワークにおいてはなるべく全グループに発表していただく機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
グループワークに用いる、演習シートをオンライン上でアクセスしていただくため、パソコンが必要となります。

【その他の重要事項】
チーム協業のプロジェクト形式ですので、チーム活動に必ず参加してください。担当教員は、大企業、中小企業での新規ビジネスの立案、製品企画・設計、購買、生産などを経験した実務家教員であり、その知見を活用した講義を行います。

【Outline (in English)】
This lecture is a program to propose new business proposals using design thinking. It is designed to create new value based on the customer's needs and derive new business hypotheses by using effective methodologies such as customer value chain analysis (CVCA). In addition, this course will cover business risk and profitability using the net present value method (NPV) to verify business feasibility.

MAN510F2（経営学 / Management 500）

ビジネス活用のためのPython基礎

Fundamentals of Python for Business Utilization

飛田　北斗［ヒダ ホクト］

単位数：**2単位**
学期：**秋学期前半**/Fall(1st half)
授業分類：**専門講義**
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、ビジネスパーソンを対象としたPythonの入門コースである。Pythonは、可読性が高く、多くのライブラリを備えたプログラミング言語であるため、エンジニアだけでなく、ビジネスパーソンからも広く利用されている。
本授業では、Pythonの基礎から学び、外部ライブラリやWebAPIの活用等、自身ですべてを作る方法ではなくPythonに用意された様々な有用機能を使いこなす方法を習得することに焦点をあてることで、中小企業のDX化推進能力を身に着ける。
イノベーションマネジメント科の生徒は自身のプロジェクトにおけるソリューションを授業内で構築することを目標とする。
プログラミング知識に関しては基礎にとどめ、システム開発者やエンジニアが必要とするような深い知識は対象外とする。
ライブラリを活用したプログラムやAIによるプログラミングサポートを受ける方法を講義する。

【到達目標】
・Pythonの基礎を理解し、基本的なコーディングができるようになる。
・Pythonがビジネス現場でどのように活用できるかを理解し、実際のビジネス課題解決に取り組めるようになる。
・データ分析に関しては、データ分析そのものの基礎や概念に関しては扱わない。あくまでPythonでのデータ分析方法を扱う。データ分析そのものの基礎に関しては「W0022 ビジネスデータ分析（ベーシック）」を履修していることが望ましい。
・外部ライブラリやWebAPIの活用方法を学び、用意された様々な機能を扱えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業はオンラインと対面のハイブリッド形式にて行う。
本授業は大きく「Python基礎」「データ分析・予測」「実践演習」と分かれている。
プログラムの基礎やプログラムそのものを学びたい初学者向けと、プログラムそのものを学びたいというよりはPythonをツールとして動かしたい、もしくはある程度プログラムに知見のある応用者向けに分けて演習を行う。
Python基礎に関しては、Google Colabを使用し、インターネット上のPythonツールを利用するため受講者側の準備は不要となる。
「データ分析・予測」に関してはPythonの特徴であるデータ分析系やDeepLearningをPythonで実行するためのライブラリについて講義するが、データ分析の手法そのものに関しては対象外とする。データ分析の手法そのものに関しては「ビジネスデータ分析ベーシック」「ビジネスデータ分析アドバンス」を受講のこと。
「実践演習」独自のアプリケーションを作成することを目的として演習を行うが、基礎編の理解および進度が不足している受講生に関しては
別途基礎編の演習を用意することとする。
授業の進め方は反転学習を採用し、座学の部分はe-learningの動画形式で提供し、授業時間内は教室およびオンラインでの受講にて演習および質問対応を行う。
11～14回の実践演習の内容は10回までに紹介した技術もしくは学生が調査を行った技術を活用した独自アプリケーションの作成を行う。
●学生の課題実績例
・飲食レビューサイトから情報を収集してデータ構造化およびデータ分析
・小売店の売り上げ予測
・医療情報のデータ加工とデータ分析
・生成AIと連携をしてオリジナルのチャットボット作成
・生成AIと連携をした特許情報分析アプリ
・画像認識を用いた野菜の等級判別

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1講	Python概要	・プログラムとは ・なぜPythonか ・Pythonでできること
2講	Pythonの実行	・Google Cola動作確認 ・変数
3講	プログラミング基礎(条件)	・演算子 ・条件分岐
4講	プログラミング基礎(繰り返し)	・配列・辞書型 ・繰り返し
5講	関数とクラス	・関数・クラス ・ライブラリの利用方法
6講	ライブラリの活用(データ)	・各ライブラリの利用例 ・pandas
7講	ライブラリの活用(その他)	・各ライブラリの利用例 ・ネットワーク ・文字認識 ・画像認識
8講	開発環境	・IDE(統合開発ツール) ・バージョン管理ツール ・差分管理ツール ・AIによるコーディングサポート(Github Copilot, ColabAI, AI Phind)
9講	データ分析・予測	データ分析の基礎(numpy)
10講	Deep Learning	機械学習・ディープラーニング基礎(keras/tensorflow)
11講	実践演習・検討	紹介技術を活用し、自身のプロジェクトや業務に使用するアプリケーションやツールの作成
12講	実践演習・設計	紹介技術を活用し、自身のプロジェクトや業務に使用するアプリケーションやツールの作成
13講	実践演習・製造	紹介技術を活用し、自身のプロジェクトや業務に使用するアプリケーションやツールの作成
14講	実戦演習・レビュー	紹介技術を活用し、自身のプロジェクトや業務に使用するアプリケーションやツールの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・e-learningの動画教材を使用したコンテンツで事前の知識習得を行う。(毎週20分～1時間程度の動画)
・授業時間内では、知識補足および演習と質問対応を行う。
・別途プロジェクト各自のプロジェクトに関する相談も受け付ける
・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
別途周知するe-learning動画コンテンツおよびGoogleColabの教材を配布する。

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献度 30%
各回の課題演習 70%

【学生の意見等からの気づき】
アンケート結果未受領
アンケート結果を受領後に追記

【学生が準備すべき機器他】
・PC
　Google Colab上で実行可能であるため、インターネットにつながるPCであれば受講可能である。
　自身のPCで動作させるなどの場合
　PythonおよびIDEが動作する以下環境を推奨とする

　CPU:　1.6GHz以上
　メモリ：　1GB以上
　OS
　　Windows:10,11以上(32bit/64bit)
　　Mac:13以上
・クレジットカード
各種サービスを利用するのに必要となる。
ただし、授業内では無料枠内で実施するので実際の課金は発生しない。

【その他の重要事項】
・教員の実務経験：
　・国内製スマートフォンのOS組み込み開発
　・国内製スマートフォンのバックエンドシステム開発
　・健康Webサービスにおけるフロントエンド開発
　　および
　　健康データを活用したバックエンドデータ分析システム
　・Deep Learningによる工場導線分析
　・Deep Learningによる河川氾濫検知分析
上記実務経験に則し、授業内ではPythonアプリケーションやAI / Deep LearningをPythonプログラムの作成を行う。

【Outline (in English)】
This course is an introduction to Python, a programming language with high readability and many libraries, which is widely used not only by engineers but also by business people. This course focuses on learning the basics of Python and how to use the various useful functions provided in Python, such as external libraries and WebAPI, rather than how to create everything yourself. The course does not cover in-depth programming knowledge required by system developers and engineers, but rather focuses on programming fundamentals and how to receive programming support from AI.

MAN510F2（経営学 / Management 500）

DXとデジタルガバナンス

Digital Transformation and Digital Governance

大久保　光伸、湯山　敬太、石島　隆［Mitsunobu OKUBO, Keita YUYAMA, Takashi ISHIJIMA］

単位数：**2単位**
学期：**秋学期後半**/Fall(2nd half)
授業分類：**専門講義**
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
AI等の新技術を活用したデジタルトランスフォーメーション（DX）による業務の高度化、付加価値を創出するためのフレームワーク及びデジタルガバナンスについて学び、環境変化を適切に把握しながら企業経営への適用について立案できるようにする。金融機関の事例を中心に取り上げるが、中小企業のDXにも応用できる内容を学ぶ。また、サービスデザイン思考の導入により、ユーザーの潜在的ニーズと組織の目標を効果的に結び付け、実行可能で持続的なビジネスソリューションの創出を目指す。
なお、この授業は、一般社団法人金融データ活用推進協会（FDUA）及び特定非営利活動法人金融IT協会（FITA）の寄付講座として開講する。

【到達目標】
・AI、DX、サービスデザイン思考を活用して、持続可能なイノベーションを推進する
・人間中心かつデータ駆動型のビジネスモデルを設計し、実践する
・専門家や業界リーダーの成功事例から実務的な知識を習得する
・デジタル技術の採用に伴う倫理的・ガバナンスの課題を解決する方法を学ぶ
・ユーザー体験と組織的成果を両立させるデザイン戦略を構築する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
・各回の授業は、講義とディスカッションの組み合わせで進行する。講義では基本的な理論やフレームワークを説明し、ディスカッションではそれらの概念を実際の事例に適用して考察する。
・次回の授業の内容に関連する書籍やケーススタディの課題を提示する。それらの資料を事前に読んで準備し、授業でのディスカッションに参加する。
・企業や組織におけるデジタルガバナンス課題に取り組む。与えられた課題に対して解決策を提案し、プレゼンテーションを行う。
・ディスカッションやロールプレイを通じ、実践的なスキルを開発し、現実社会の課題に対処する能力を向上させる。
・各自が設定した個人課題プロジェクト（自社のDX戦略策定や改善提案、新商品・新サービスの企画等）に取り組み、発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	デジタルトランスフォーメーションの概要	・デジタルトランスフォーメーション（DX）の定義 ・DXの効果と社会的意義 ・DXの主要技術とトレンドの紹介
第2回	FDUA/FITAの取り組み紹介と金融機関の事例研究	ゲスト講師による協会の取り組み紹介と金融機関におけるDX事例紹介
第3回	PEST分析による環境変化の捕捉	・分析フレームワークの紹介（PEST/5Forces/SWOT/3C分析/STP/4P） ・2030年までのマクロ環境要因 ・環境変化に適応したビジネスモデルの必要性
第4回	事例研究（DXに関するフレームワーク）	ゲスト講師によるDXに関するフレームワークの事例紹介
第5回	デジタルガバナンスの重要性	・デジタル化のリスクとセキュリティの基礎知識（ISO31000 / NIST /COBIT /FAIR / OCTAVE）、 ・デジタルリスク管理とセキュリティマネジメントの戦略的アプローチ ・デジタル時代におけるリスクコミュニケーション
第6回	事例研究（デジタルガバナンス、セキュリティ）	ゲスト講師によるデジタルガバナンスやセキュリティに関する事例紹介
第7回	データマネジメントとプライバシー保護	・データマネジメントとデータガバナンスの重要性の理解（GDPR） ・プライバシー保護とデータセキュリティの法的枠組みの解説 ・データ利活用による新規ビジネス創出 ・ファイナンスにおけるAI、データ利活用成功パターン紹介
第8回	事例研究（AIとデータマネジメント）	ゲスト講師によるAIやデータ利活用の事例紹介
第9回	現代社会に求められるデジタルエシックス（デジタル倫理）	・デジタルガバナンスにおける倫理的な課題 ・AIと自律システムのガバナンス ・各エンティティにおける生成AIとの付き合い方
第10回	事例研究（デジタル倫理、生成AI）	ゲスト講師によるデジタル倫理や生成AIの事例紹介
第11回	リーダーシップとDXのマネジメント	・フューチャーレディに向けた企業のアプローチ（顧客志向先行/産業化先行/段階的/新組織創設） ・フォアキャストとバックキャストによる戦略策定（社会課題解決型プロジェクト） ・日本政府の掲げるDFFTが目指す世界の紹介
第12回	事例研究（リーダーシップの実践とDXマネジメント）	ゲスト講師によるリーダーシップの実践とDXマネジメントの事例紹介
第13回	個人課題プロジェクト最終発表と総括	・各自が設定した個人課題プロジェクトに関するDX戦略とデジタルガバナンスについて発表 ・個人課題プロジェクト最終発表に関するフィードバック
第14回	DXとデジタルガバナンスの実践事例と将来展望	ゲスト講師（FDUA/FITA幹部）による事例紹介と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自が設定した個人課題プロジェクト（自社のDX戦略策定や改善提案、新商品・新サービスの企画等）についてのプレゼンテーション資料の作成などの発表の準備を含め、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
一般社団法人 金融データ活用推進協会『金融AI成功パターン』日経BP、2023（税込￥2,420）

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
70%DXとデジタルガバナンスに関する個人課題プロジェクトの発表とその成果物
30%講義への貢献度（発言、質疑等の参加度合い）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
資料のダウンロードや発表のため、ノートPCを持参のこと。

【その他の重要事項】
大久保　光伸：米国での起業を経て電通総研（ISID）で金融ソリューションアーキテクトに従事。ソニー銀行では日本初となるパブリッククラウドの導入を主導し、当局への提言を行ってきた。みずほフィナンシャルグループでは海外VCとBlueLabを創設しCTOに着任。内閣官房政府CIO補佐官制度にて外務省CIO補佐官、財務省CIO補佐官を歴任。元金融庁参与。これらの実務経験をもとにして、学生がAIやクラウド等の先端技術を活用したDXによる業務の高度化や付加価値を創出するためのフレームワークとデジタルガバナンスを学び、産官学連携を通じて社会環境の変化を適切に把握しながら企業経営への適用について立案できるようになることを目的とする。
湯山　敬太：国内シンクタンクおよびコンサルティングファームでの豊富な経験を経て、「テクノロジーとコ ミュニティで金融の未来を創る」というミッションを掲げ、Trust株式会社を共同創業。取締役COO(最高執行責任者) 兼 ITコンサルティング事業部責任者として、組織の運営および事業戦略を統括している。これまで、金融機関を中心にデジタル戦略の立案から業務改革、AI・DXを活用したプロジェクト推進を数多く経験。さらに、スマートフォンアプリ開発やRPA導入支援、生成AIを活用した業務 効率化など、テクノロジードリブンのプロジェクトや、AIスタートアップとのアライアンスなどの新たな事業創出や企業の競争力強化にも貢献。現在もITコンサルタントとして第一線で活動し、金融機関をはじめとする多様なクライアントの経営課題に対して、持続可能で実効性のあるデジタ ルソリューションを提供。AIを用いた働き方改革や業務プロセスの改善など、先進技術を駆使したコンサルティングを通じて、企業の成長を支援している。
石島　隆：20年余りにわたり、金融機関を含む上場企業等の財務諸表監査、システム監査、IT利用監査、システム構築のコンサルティング業務等に従事した後に大学教員となった。現在、巣鴨信用金庫非常勤理事、金融情報システム監査等協議会副会長を兼務している。これらの経験を生かして、学生が客観的な立場から施策を評価できるように指導する。

【Outline (in English)】
To learn about frameworks and digital governance to enhance business operations and create added value through digital transformation (DX) utilizing new technologies such as AI, and to be able to plan application to corporate management while appropriately grasping changes in the environment. The class is focused on the case studies of financial institutions, but it is also applicable to the DX of SMEs. By introducing service design thinking, the company aims to create viable and sustainable business solutions by effectively connecting the potential needs of users with the goals of the organization. This class will be offered as a donation by the Financial Data Utilizing Association (FDUA) and the Financial IT Association (FITA).

MAN510F2（経営学 / Management 500）

リテールサイエンスとAI

Retail science and AI

山下　理夫［Masao YAMASHITA］

単位数：**2単位**
学期：**春学期後半**/Spring(2nd half)
授業分類：**専門講義**
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
リテール業界のこれまでの技術的進化を振り返るとともに、最新技術である生成AIの活用状況について学びます。また、生成AIの基礎学習と実習を通じて、ビジネス全般での生成AI活用の基礎を学び、実際の現場で生成AIを効果的に活用できる基礎能力を養います。

【到達目標】
1.リテール業界の技術的進化及び現在の最新技術を理解する。
2.生成AIを基礎から学び、ビジネスに応用できる基礎的スキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は毎回講義を中心に進めますが、授業の一部には演習時間を設けて理解を深めます。なお本講義のまとめとして、最終回に生成AIを用いたレポートの発表会開催を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リテールサイエンスの歴史	リテールの技術革新の歴史を概観する。
2	生成ＡＩ導入による生産性向上	企業、個人での生産性向上ツールとしての活用方法や事例を紹介する。
3	生成ＡＩの基礎	生成ＡＩの歴史と基礎理論等を学習する。
4	ChatGPTの基礎と活用	ChatGPTの基礎から具体的活用を学習する。
5	プロンプトエンジニアリング	生成AIを効果的に活用するためのプロンプトエンジニアリング技法を学ぶ。
6	各種生成AIツールの活用	各生成AIツールの使い方と活用方法を実践的に学ぶ。
7	RAGの基礎知識と活用	RAG（Retrieval-Augmented Generation）の技術と活用方法を学ぶ。
8	ローカルLLMの基礎と活用	ローカルLLMの基礎を学び、自分のPCで稼働させて活用方法を探る。
9	生成AIを使ったアンケート作成と分析	生成AIを使ったアンケート作成と情報分析の技術を習得する。
10	地理情報システムと活用	地理情報システムを理解するために、jSTAT-MAPを使用し、商圏分析方法を学ぶ。
11	小売業のＡＩ活用例（チェーンストア）	小売業での具体的事例を学ぶ。
12	小売業のＡＩ活用例（その他小売業）	小売業での具体的事例を学ぶ。
13	生成AIの最新動向	生成ＡＩの最新動向について紹介し体験する。
14	課題発表	受講者が生成AIを使い課題を発表し担当教員が総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業中に適宜配布をします。

【参考書】
授業中に適宜指示をします。

【成績評価の方法と基準】
授業テーマの取り組みと授業貢献（70％）、課題の取り組みと発表（30％）。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目のためありません。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン及びスマートフォンを利用しますのでご準備ください。

【その他の重要事項】
・受講前に、無料版で構いませんので、ChatGPTなどの生成AIツールを簡単に体験しておくことを推奨します。
・生成AIの日々の更新に伴い、授業計画内容は変更することがあります。
・教員は、GMSにおける経営企画および管理業務に従事し、また、学習塾の創業期から成長期にかけて、経営企画やバックオフィス全般の業務、さらにシステム構築にも取り組んできました。現在は、中小企業の経営支援を目的としたローカルベンチマークの推進や、生成AIの活用に注力するとともに、生成AIセミナーの講師としても活動しています。

【Outline (in English)】
This course provides an overview of the technological evolution in the retail industry while exploring the current applications of the latest technology, generative AI. Through foundational learning and hands-on exercises with generative AI, students will acquire the basic knowledge necessary to utilize generative AI across various business domains and develop essential skills for effectively implementing it in real-world settings.

MAN510F2（経営学 / Management 500）

スタートアップの創業からIPOまで

From Startup Creation to IPO

伊藤　章子［Akiko ITO］

単位数：**2単位**
学期：**秋学期前半**/Fall(1st half)
授業分類：**専門講義**
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、スタートアップが起業してからIPOに至るまで、企業の成長ステージに応じた知識を修得することを目的とする。本講義の主な対象は、起業を目指す人や、起業支援を行いたい人である。

【到達目標】
・起業時の法人設立プロセスと選択肢のメリット・デメリットを説明できる。
・成長ステージごとの課題を理解し、具体的な対応策を提案できる。
・起業アイデアの創出・検証プロセスを実践できる。
・創業期におけるマーケティング戦略やグロースハック手法を活用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、法政IPO会のメンバーである起業家や起業、IPO実務に精通した専門家がゲスト講師となり、テーマ別に講義を実施した後、グループワーク、ケーススタディ、ディスカッション等を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	起業の基礎 - 法人設立と成長ステージ ゲスト講師：ベンチャーパートナー 渡邊 祐也氏	起業時の法人設立の選択肢やプロセス、成長段階ごとの課題を理解する。
2	起業の基礎 - 法人設立と成長ステージ ゲスト講師：ベンチャーパートナー 渡邊 祐也氏	第1回の講義をテーマにグループワーク、ケーススタディ、ディスカッション等を実施する。
3	起業アイデアのアイディエーションと創業期のマーケティング・グロースハック ゲスト講師：株式会社Rebase　代表取締役　佐藤 海氏	起業アイデアの創出・検証方法と創業期におけるマーケティング戦略・グロースハックを学ぶ。
4	起業アイデアのアイディエーションと創業期のマーケティング・グロースハック ゲスト講師：株式会社Rebase　代表取締役　佐藤 海氏	第3回の講義をテーマにグループワーク、ケーススタディ、ディスカッション等を実施する。
5	起業家のためのリスクと法務入門 ゲスト講師：弁護士　尾西 祥平氏	創業期における法務リスクとよくある法的対応を学び、予防策を学ぶ。
6	起業家のためのリスクと法務入門 ゲスト講師：弁護士　尾西 祥平氏	第5回の講義をテーマにグループワーク、ケーススタディ、ディスカッション等を実施する。
7	資本政策と資金調達 ゲスト講師：公認会計士、税理士　土屋 憲氏	ベンチャー企業の資本政策や成長ステージに応じた資金調達戦略を学ぶ。
8	資本政策と資金調達 ゲスト講師：公認会計士、税理士　土屋 憲氏	第7回の講義をテーマにグループワーク、ケーススタディ、ディスカッション等を実施する。
9	エグジット戦略 - IPOとM&A ゲスト講師：野村證券株式会社　公開引受部坂井 康浩氏	スタートアップのエグジット戦略（IPOやM&A）を学び、成果の最終段階を理解する。
10	エグジット戦略 - IPOとM&A ゲスト講師：野村證券株式会社　公開引受部坂井 康浩氏	第9回の講義をテーマにグループワーク、ケーススタディ、ディスカッション等を実施する。
11	スタートアップと会計・ガバナンス ゲスト講師：公認会計士　根岸 大樹氏、公認会計士 齋藤 直人氏	スタートアップにおける会計とガバナンスを学び、企業価値向上のための戦略を理解する。
12	スタートアップと会計・ガバナンス ゲスト講師：公認会計士　根岸 大樹氏、公認会計士 齋藤 直人氏	第11回の講義をテーマにグループワーク、ケーススタディ、ディスカッション等を実施する。
13	ベンチャー企業の組織と人事 ゲスト講師：フォースタートアップス株式会社 専門役員 中村 優太氏	スタートアップにおける組織構築と人材戦略、リーダーシップの重要性を学ぶ。
14	ベンチャー企業の組織と人事 ゲスト講師：フォースタートアップス株式会社 専門役員 中村 優太氏	第13回の講義をテーマにグループワーク、ケーススタディ、ディスカッション等を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義テーマに関連する記事や参考書籍等を事前に読んで、講義内では積極的に講師への質問やグループディスカッションを行うことを推奨する。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）は使用しない。

【参考書】
・「ストーリーでわかる 起業家のためのリスク＆法律入門」下平 将人著/尾西 祥平 著、ダイヤモンド社、定価：2860円（本体2600円＋税10％）、発行年月：2024年3月
https://www.diamond.co.jp/book/9784478118764.html
・「IPOは野村にきいてみよう。［改訂版］」野村證券 公開引受部 編、ダイヤモンド社、定価：1650円（本体1500円＋税10％）、発行年月：2023年4月
https://www.diamond.co.jp/book/9784478117361.html

【成績評価の方法と基準】
・平常点：40％
講義内での質疑応答、グループディスカッション等の参加度を評価する。
・レポート提出：60％
レポートテーマ等の詳細は講義内でアナウンスする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
講義レジュメはPDFで配布するため、各自PCを準備する。

【その他の重要事項】
本講義は、法政大学出身の経営者や起業支援、IPO実務に精通した専門家などで構成される「法政IPO会」による寄附講座である。毎回、豊富な実務経験を有するゲスト講師が登壇し、現場の知見を活かした実践的な講義を提供する。起業を目指す人や、起業支援を行いたい人にとって貴重な学びの機会となる本講義を是非、積極的に活用してほしい。

【Outline (in English)】
This lecture aims to equip participants with the knowledge corresponding to each stage of a startup's growth, from its inception to an IPO. The primary audience for this lecture includes individuals aspiring to start their own business and those who wish to support entrepreneurial ventures.

MAN510F2（経営学 / Management 500）

インキュベーション・マネジメント

Incubation Management

山本　晋也［ヤマモト シンヤ］

単位数：1単位
学期：秋学期集中/Intensive(Fall)
授業分類：専門講義
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このコースは、「グローバルビジネス経営論」の応用編であり、インキュベーションやコミュニティの創設、そのマネジメントに興味のある実践者向け集中講義です。また、各自のプロジェクト研究への応用や参考になるはずです。既存のグローバルビジネスの経営や組織において、分散化が加速していることの意味に加え、それが与える社会への影響について包括的に理解し、その実践のための準備を目的としています。 学生は、インキュベーションやコミュニティの重要性について探求し、Web 3.0や分散型自律組織（DAO）、コミュニティ・マネジメントの実践を学びます。さらに、このコースでは、地方創生事業やインバウンド事業などに関連するトピックも取り上げ、複数のゲスト講師を実践者として招聘する予定です。

【到達目標】
1. 既存の事業モデル（Web 1.0 - 2.0）における課題について理解を深める。
2. Web 3.0や分散型自律組織（DAO）を活用したインキュベーション・マネジメントを学ぶ。
3. インキュベーションやコミュニティが、ビジネスやイノベーションに及ぼす影響を理解する。
4. 共感、自律的な参加、共創の重要性を理解する。
5.「中央集権により統合される社会から、自律分散によって融合する社会へ」という概念を理解する。
6.『競争』ではなく、『共創』による価値創造。そして、『起業の民主化』による『社会起業』の推進こそがインキュベーションの要であることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
この科目は、日曜日に実施する授業回があります。日曜日の授業回はオンライン実施のみです。
このコースでは、講義、ケーススタディ、グループディスカッション、業界専門家によるゲスト講義を組み合わせて実施します。 理解と批判的思考を高めるために、実例と実践的な応用を重視します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1日目	コミュニティの形成	1. コミュニティの重要性 2. コミュニティ・マネジメントの本質 3. Web 3.0 4. Management 3.0 5. 分散型自律組織(DAO) 6. 共創イノベーション 7. プロジェクト・プロトタイピング 8. 科学、技術、芸術、創造の融合 9. 中央集権により統合される社会から、自律分散によって融合する社会へ。 10.『競争』ではなく、『共創』による価値創造。そして、『起業の民主化』による『社会起業』の推進へ。
2日目	分散的経済圏（新たな付加価値）の創造	1. エンタメ事業 2. 地方創生事業 3. インバウンド事業 4. 教育 5. 医療 6. 農業 7. 付加価値創造のための新モデル 8. 新たな資金調達方法（トークン・ファイナンス） 9. IEO/ICOとは？ 10. プロジェクト研究へのWeb 3.0の応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は各授業の前に、指定された関連記事、事例研究、研究論文を読むことが求められることがあります。また、コースのトピックに関連するディスカッションに積極的に参加することも求められます。

【テキスト（教科書）】
1. The Innovator's Dilemma: When New Technologies Cause Great Firms to Fail - by Clayton M. Christensen
2. Lead and Disrupt: How to Solve the Innovator's Dilemma - by Charles A. O'Reilly III and Michael L. Tushman
3. Social Entrepreneurship: What Everyone Needs to Know - by David Bornstein
4. Capital in the Twenty-First Century - by Thomas Piketty
5. Capital and Ideology - by Thomas Piketty
6. Broken Money: Why Our Financial System is Falling Us and How We Can Make it Better - by Lyn Alden

【参考書】
コース全体を通じて、関連トピックに関する追加の読み物や参考資料を適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績は授業への参加（50 点）、グループディスカッション（15 点）、プロジェクト研究への応用（15 点）、レポート（20 点）に基づいて決定されます。

【学生の意見等からの気づき】
2022年3月に渋谷区代々木にオープンしたWeb 3.0/DAOの国際共創イノベーションのための社会実験プラットフォーム、『DICT CUBE TOKYO』でのインキュベーション・マネジメントの経験を活かして、実際の事例から実学を学べるよう実践的な講義内容に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】
学生用のラップトップ/タブレットは、BYOD (Bring Your Own Device) として準備する必要があります。

【その他の重要事項】
このクラスは、大手/中規模/中小企業、スタートアップ、コミュニティ、中央政府/地方自治体、病院、大学/研究機関などのあらゆる組織を対象としています。

この科目は、日曜日に実施する授業回があります。日曜日の授業回はオンライン実施のみです。

【Outline (in English)】
This course is an applied version of "Global Business Management" and is an intensive course for practitioners who are interested in incubation, community creation, and its management. It should also be useful for application and reference in each student's project research. The aim is to comprehensively understand the meaning of the accelerating decentralization in existing global business management and organization, as well as its impact on society, and to prepare for its practice. Students will explore the importance of incubation and community, learn about Web 3.0, decentralized autonomous organizations (DAOs), and community management practices. In addition, the course will cover topics related to regional revitalization projects and inbound projects, and will invite several guest lecturers as practitioners.

MAN510F2（経営学 / Management 500）

ガバナンス経営論（ステークホルダーと企業価値経営）

Corporate value management (Stakeholders and management by governance)

関　雄太［セキ ユウタ］

単位数：2単位
学期：秋学期後半/Fall(2nd half)
授業分類：専門講義
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会・経済環境が激しく変動する中で、外部性や格差・分断の問題の深刻化により、資本主義と株式会社のあり方が問われている。一方で、すべての環境変化・構造変化が、多くの機会や市場創出に直結している面もある。また、日本など先進国における金融資産の拡大によって、グローバル・国内の投資家によるベンチャーキャピタルや公開・非公開エクイティへの資本流入が増大し、スタートアップ振興、事業承継・企業再生、海外展開など企業の成長・変革の選択肢を大きく拡げている。
こうした中で、資本主義の根幹ともいえる株式会社の経営においては、ステークホルダー（利害関係者）を幅広く、大きくとらえて、それぞれのステークホルダーとの関係を見直していくことにより、株式会社と資本主義を『使い倒す』発想が求められている。それは、言い換えれば、例えば『株主（アウトサイダー）』と『内部昇格経営者＋従業員（インサイダー）』との間のゼロサムゲーム的な関係をプラスサムゲーム的な関係に変革・再構築することであり、また『収益・利益の獲得』と『環境・社会の改善』を両立もしくは好循環に導く経営目標の設定と評価サイクルの構築である。
上場企業は、ある意味では毎日、その存在価値や経済・社会への貢献を評価される立場と言える。それは決算や財務指標・事業計画など開示情報が格段に多く、何より株価を通じて資本市場からの評価にさらされているからであるが、近年、アクティビストなどの株主提案や友好的・敵対的M&Aの増加により、株主・投資家との対話を通じて経営改革を推進しようという動きが出ていることは、今後「ガバナンス」あるいは「ステークホルダーとの対話」を基軸にした企業経営がさらに重要になることを示唆している。
本講座は、企業価値評価の基礎を学ぶこと、株式会社のステークホルダーの置かれた現状を理解すること、ステークホルダーの声を経営改革に活かす意義について議論することを目的としている。分析に資する情報が豊富に入手できる上場企業を講義やケーススタディの対象とするが、本講座を通じて得られる知見は、非上場企業、非営利団体、政府・自治体の経営に携わるマネージャーにとっても有益なものと期待される。

【到達目標】
・「ガバナンス」の基本である株式会社の構造と資本市場におけるステークホルダーの立場、それぞれのインセンティブ構造を理解する
・ROE, DCF, WACCなど企業価値評価の基礎を学ぶ
・ステークホルダーによるエンゲージメントの作用によって、企業価値を高めている企業の事例について研究し、自らの意思決定や経営に生かせるような示唆を得る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・教室における対面の講義・ディスカッション
・テキストを使った理論の解説
・（上場企業数社にフォーカスした）ケーススタディ
・個人によるケーススタディとプレゼンテーション（最終試験もしくはレポートの代替として）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	なぜガバナンス（企業価値経営）か	・経済・社会環境の変化と企業の役割・責任 ・株式会社経営における成長と分配の基本的な意味
第2回	企業価値経営のフレームワーク	・株式会社のステークホルダーとは ・株式時価総額とは。企業価値とは
第3回	企業分析の基礎（1）	・ROE（株主資本利益率）とは。なぜROEが重要か
第4回	企業分析の基礎（2）	・キャッシュフローとは何か
第5回	企業価値評価の基礎（1）	・NPV（正味現在価値）とは。なぜNPVが重要か ・DDM（配当割引モデル）とは ・DCF（ディスカウントキャッシュフロー）法とは
第6回	企業価値評価の基礎（2）	・資本コストとは。なぜ資本コストが重要なのか ・WACC（加重平均資本コスト）とは
第7回	資本市場の潮流	・株式保有構造・セカンダリー市場構造の変化
第8回	株主・投資家の期待及び行動変化	・株主還元（配当・自社株買い）とは ・アクティビストとは、エンゲージメントとは
第9回	コーポレート・ガバナンスの基礎	・取締役会を巡る論点と潮流 ・株主総会を巡る論点と潮流
第10回	ガバナンスと企業価値をめぐる論点（1）	・M&Aと企業価値 ・企業再生・事業承継と企業価値 ・スタートアップ、ベンチャーキャピタル ・IPOと企業価値
第11回	ガバナンスと企業価値をめぐる論点（2）	・いくつかのケーススタディ
第12回	サステナビリティ・ESGを巡る論点	・ESG投資とは何か ・企業とサステナブルファイナンスの関係
第13回	ケーススタディ（プレゼンテーション）	・受講生によるケーススタディ発表
第14回	総括	・その他の論点 ・総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・講義ノートは事前にシステムにアップする予定
・その他、参考レポート・参考記事などがある場合には事前に共有
・テキストについては該当するチャプターの事前購読を推奨
・企業分析・企業価値評価の基本概念理解確認のため、きわめて簡単な課題を提示する可能性あり
・上記を総合し、毎週最低2時間程度の準備・復習時間確保を期待
・その他、個人によるケーススタディの最終プレゼンテーションに向け、毎回、課題作業を提示。ケーススタディの深度によっては相当の時間を要する可能性あり

【テキスト（教科書）】
伊藤邦雄「企業価値経営」日経BP・日本経済新聞出版本部（2021年）

【参考書】
ミヒル・A・デサイ（齊藤聖美訳）「HOW FINANCE WORKS ハーバード・ビジネス・スクールファイナンス講座」ダイヤモンド社（2020年）
加藤晃・野村資本市場研究所編著「新キャピタリズム時代の企業と金融資本市場『変革』－「サステナビリティ」と「インパクト」への途－」金融財政事情研究会（2022年）

【成績評価の方法と基準】
・ケーススタディ（日本の上場企業1社を採り上げ成長戦略、資本政策などを分析。一定の評価もしくは提言を加えて発表）：50％（分析、マテリアル、ボーカルプレゼンテーションなどを評価）
・課題（確認テスト、Excelを使った簡単な企業分析）：25％
・授業における議論・分析への参加・貢献（平常点）：25％

【学生の意見等からの気づき】
・本年度新規科目につきアンケートを実施していない。
（GMBAのコースで個人による企業分析プロジェクトを実施してきた。これをベースに本コースでもケーススタディを実施予定だが、財務分析・株価分析などテクニカルな分析作業については、場合によっては共通化して2-3名のチームワークとすることも検討の余地あり）

【その他の重要事項】
・財務会計、コーポレートファイナンスについて、若干の用語や公式・原則を学んでいただくことになりますが、数学等の専門的な知識や経験は必要としません
・講師は兼任講師で、フルタイムの本業を有していますので、基本的にオフィスアワーはありません。質問やケーススタディの進め方等に関する相談・サポートは、授業の前後の時間や講師のオフィス連絡先を活用したコミュニケーションによって実施いたします。

【Outline (in English)】
As the social and economic environment changes drastically, the problems of externalities, inequality, and division become more serious, calling into question the very nature of capitalism and corporations. On the other hand, all environmental and structural changes are actually creating many opportunities and new markets. In addition, the expansion of financial assets in developed countries such as Japan has led to an increase in capital inflows from global and domestic investors into venture capital and public and private equity, greatly expanding alternatives for corporate growth and transformation, such as startup incubation, business succession, corporate revitalization, and overseas expansion.
In this context, the management of corporations, which can be said to be the foundation of capitalism, requires a broad and broad view of stakeholders and a review of relationships with each stakeholder, in order to "make the most of" corporations and capitalism. In other words, it is about changing and reconstructing the zero-sum game between "shareholders (outsiders)" and "internal promotion managers + employees (insiders)" into a positive-sum game, and also about setting management goals and constructing an evaluation cycle that balances or leads to a virtuous cycle of "earning capabilities" and "improving institutional and social issues".
In a sense, listed companies are in a position where their existence value and contribution to the economy and society are evaluated every day. This is because they disclose a much larger amount of information, such as financial statements, financial indicators, and business plans, and are exposed to evaluation from the capital market through stock prices above all else. In recent years, with the increase in shareholder proposals by activists and friendly and hostile M&A, there has been a movement to promote management reform through dialogue with shareholders and investors, suggesting that corporate management based on "governance" or "dialogue with stakeholders" will become even more important in the future.
The purpose of this course is to learn the basics of corporate valuation, understand the current situation of stakeholders of corporations, and discuss the significance of utilizing the voices of stakeholders in management reform. Lectures and case studies will focus on listed companies, for which there is a richness of information available for analysis, but the insights gained through this course are expected to be useful to managers involved in the management of unlisted companies, non-profit organizations, and government and local government organizations.

MAN510F2（経営学 / Management 500）

ファミリー・ビジネス＆ファミリーオフィス

Family Business and Family Office

中島　努、高田　朝子［Tsutomu NAKAJIMA, タカダ アサコ］

単位数：**2単位**
学期：**秋学期前半**/Fall(1st half)
授業分類：**専門講義**
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ファミリー資産の承継・ファミリービジネスの承継について社会課題として取り上げられることが多い昨今、ファミリー資産のあり方について、ファミリー資産とはなにかにまで立ち返り、その全体像を把握する重要性を再認識することから始める。そして、そのファミリービジネスオーナーにとって中核資産となるファミリービジネスのあり方について、議論を進め、その先にあるファミリー資産運営会社であるファミリーオフィスについて議論を進める。そのファイナンシャルの意味合いを理解した上で、ノンファイナンシャルの側面である、ファミリーガバナンスそして、ファミリーにとっての共通の価値観・レガシーとは何かについて議論し、ノンファイナンシャルの側面を理解することが、結果的にファミリー資産（ビジネス）防衛に繋がり、かつ、その円滑なる承継につながる事を学ぶ機会にします。

【到達目標】
日本の経済を支える中堅中小企業の後継者不足から乗じる事業承継問題・高齢者に集中する個人金融資産の次世代への承継という2つの社会課題に対して、より広い視点からファミリー資産のあるべき姿についての考察をファイナンシャルとノンファイナンシャル両面から学び、社会課題に対する一つのソリューションを知ること。ならびに、新たな金融分野であるファミリーオウェルス（オフィス）アドバイザリーというファミリーの資産全体の問題、そしてファミリーの次世代・次次世代のへの継承に対するアドバイスをするという、新たな職種が如何に社会的意義のあるものだとを理解をすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と各自の仮題
講義とテーマにおける授業内でのディスカッションを重視します。また、学生による授業内発表も課します。
新しい分野ですので、一択の正解がないだけに、学生との議論を通じて、課題の本質的な意味に迫ることを前提に授業を進めることを想定します。
2名の最前線にいるゲスト講師の授業内講演も実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション　今なぜFamily Wealth Managementか	すべての始まりはファミリーバランスシートを作る事ファミリー「資産」とは何か。世界の「家」制度と日本の「家」制度について一考察
第2回	「中核資産」であるファミリービジネスについて	ファミリービジネス、スリーサークルモデル・４Ｃ・ファミリー・株主・会社の関係を読み解く ファミリービジネスの特徴を考える。 preservation of wealthかcontinuity of family businessか？ 資産防衛を取るか、家業の永続を取るか
第3回	共通課題であるガバナンスについて学ぶ1	コーポレートガバナンスとファミリーガバナンスについて考える ファミリーガバナンスの要諦３つのpreservation ３つのキーワード
第4回	共通課題であるガバナンスについて学ぶ2	ケースを通して学ぶ即ち、実体験からガバナンスの重要性を語る。著名ファミリーケース：ソニーの盛田家、大塚家具の大塚家
第5回	ファミリー資産運用の世界（資産を守る）	アセットクラスについて考える　伝統的資産とオルタナティブ資産について　アセットアロケーションについて考える ファミリーアセットアロケーションの考え方世界の富豪のアセットアロケーションを知る Ibbotson社 のCIO小松原氏と共に考える
第6回	世界のリスクマネーを席巻するファミリーオフィスとは	信託・財団：スイスの大富豪が使った信託とは？ 地中海の島も信託財産　グローバル・タックスマネージメントとは？ 見えてくる100年続くエステート・プランニング　国際税務弁護士の木村弁護士と語る
第7回	まとめ　ファミリー・ウェルス・マネージャーの役割について	第4回で事例として出したケースを再度振り返り、受講生一人一人が自分のファミリー資産管理の在り方について語る。（一人１５分、５－１０名の受講生を対象に） 担当教員によるまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書にかかれている3つは授業開始前までに読んでおいてください。また、授業の際に課題をだしますのでそれについて自らリサーチをすることを求めます。適宜リーディングアサインメントをだします。
本授業は復習よりも予習を主とします。

【テキスト（教科書）】
原則テキストは使わず、準備したスライドを投影しながら、みなさんと議論を進める形で考えています。

【参考書】
１．星野佳路と考えるファミリービジネスの教科書；出版社日経ＢＰ
～ファミリービジネスに関して平易に書かれており入門書としては読みやすいと思います。
２．ファミリーガバナンス　スムーズな事業承継を実現するために
著者：階戸照雄、加藤孝治
出版社；中央経済社
～我が国で唯一出版されているファミリーガバナンスに関する書物です。
３．[Survey] Landscape of Family Offices in Greater China 2024, Winnie Qian Peng et al,
2024.3.12
https://afbfo.hkust.edu.hk/system/files/2024-03/landscape-of-family-offices-in-greater-china-202

グレーターチャイナというと中国本土と香港と台湾の３つの地域のファミリーオフィスの現状についてアンケート調査報告です。その数は１０年ほどで相当程度に増えています。日本周辺地域ではすでにこんなに大きくなりつつある現場を知って頂きたく思います

【成績評価の方法と基準】
・【クラスパーティシペーション比率50％】基本は授業主体というよりも、30分程度のキックオフトークから残りはアクティブラーニング式で授業を進めるので、クラスパーティシペーションを全体の半分程度評価対象とします。そこには、議論への貢献度合いも加味したいと考えています。発言回数と全体の議論に対するプロダクティブな貢献度合いを一つのメジャーとしたいと考えています。
・【ケーススタディ発表成果比率50％】講義の最終回で事前に渡したケースに関するそれぞれの受講生一人一人の理解度図ることができると考えています。4時間で前半は発表。残りは講評の時間に当てることを想定します。

【学生の意見等からの気づき】
初年度のため該当無し

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用

【Outline (in English)】
In recent times, the succession of family assets and family businesses has often been raised as a social agenda, so we will start by reaffirming the importance of understanding the overall picture of 'Family Assets' and going back to what family assets are. We will then discuss the state of 'Family Business', which are the core assets of family business owners, and then discuss 'Family Office', which are the family asset management companies that lie beyond that. After understanding the financial implications, we will discuss the non-financial aspects of 'Family Governance' and what the common values and legacy are for families and use this as an opportunity to learn that understanding the non-financial aspects leads to the defense of family assets (businesses) and their smooth succession.

MAN510F2（経営学 / Management 500）

ヘルスケア・イノベーション

Healthcare Innovation

倉浪　孝明［Takaaki KURANAMI］

単位数：1単位
学期：秋学期集中/Intensive(Fall)
授業分類：専門講義
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義「ヘルスケア・イノベーション」では、急速に進化する医療分野における技術革新と、医薬品や医療サービスがもたらす価値について理解を深める。昨今、我が国においては、高齢化や医療費の増加といった社会的課題が挙げられるが、子どもに対する医療課題も挙げられている。これらの課題に対しては、新しい技術の導入が不可欠である。その際、技術をどのように戦略的に管理・運用するかを考える「技術経営（MOT）」の視点が重要となる。技術経営の視点は、単なる技術導入ではなく、技術の価値を最大化し、社会や医療システムにおける持続可能な成果を生むための手法を提供する。ヘルスケア産業におけるイノベーション戦略を構築するための知識と実践的なスキルを習得することを目指す。

【到達目標】
ヘルスケア産業における戦略的な技術の管理・運用ができるようになる。前提として、ヘルスケアの本質が「人のため」であることを理解し、ヘルスケア分野における戦略を構築できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この科目は、日曜日に実施する授業回があります。日曜日の授業回はオンライン実施のみです。
教員による講義のみだけではなく、毎回講義中にヘルスケアに関するテーマを提示する。このテーマについてグループディスカッションを行い、講義の最後にディスカッションした内容を発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ヘルスケア・イノベーションの概要と課題 ～これからのヘルスケア産業にイノベーションを起こすには～	医療分野における技術革新の現状を概観し、特に日本が直面する高齢化や医療費増加の課題を背景に、ヘルスケア分野でのイノベーションの重要性を学ぶ
2	医薬品のライフサイクルとイノベーション ～パテントクリフをどう乗り切るか～	医薬品のライフサイクル（研究・開発・市場投入・特許消失・ジェネリック化）とその市場に与える影響について学ぶ。市場イノベーションの観点から、バイオシミラーやオーソライズドジェネリックについて学ぶ。
3	事例研究 ～日本企業のヘルスケア産業への新規参入事例～	参入障壁が高いといわれているヘルスケア産業であるが、自社で培った技術やノウハウを活用し、異業種からの新規参入を果たした日本企業もある。今後、異業種から新規参入を検討する場合、どのようなことを考えなければならないか検討する。
4	オープンイノベーションと異業種連携 ～医薬品開発を事例に～	従来、ヘルスケア産業はクローズドイノベーションであったが、近年は、オープンイノベーションや異業種連携を通じて新薬開発や技術導入を加速させている。これらの事例を学び、MOTの視点からコラボレーションの重要性と戦略的連携の実践を検討する。
5	子どもに対する医療課題 ～神経発達症と保護者～	年々確定診断が増加している子どもの神経発達症は、初診を受診するまでに相当の時間を要する。子ども本人のみならず、養育者である保護者も困り事を抱えている。我々はどのようなソリューションを提供できるか検討する。
6	ヘルスケアとメンタルヘルス ～presenteeismとabsenteeism～	労働者数50人以上の事業場において年に1回、ストレスチェックを実施することが事業者の義務となっている。企業にとって、メンタル面の不調は生産性低下を招くことから、従業員に対して様々な取り組みがある。健康経営的な視点で検討する。
7	デジタルヘルス ～今とこれから～	今や、病気の治療は内科的・外科的のみならず、技術革新によって生まれたデジタルセラピューティックスが注目を集めている。これらの事例を通じて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。事前にテキストをサイトにアップするので、2時間程度の予習を望む。 また、レポート作成に向け、毎回授業の復習を2時間程度望む。

【テキスト（教科書）】
教員作成の資料を講義1週間前を目安に学習支援システムへアップする。

【参考書】
講義1週間前を目安に教員より指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加(出席、発言、グループディスカッションの参加など)50％、レポート50％。60％以上で合格。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】
グループディスカッションでの発表やオンライン講義日があるため、パソコンなどの情報機器を準備すること

【その他の重要事項】
教員は、20年以上製薬会社に勤務し、循環器・感染症・公衆衛生・消化器・アレルギー・精神神経分野などの新製品ローンチ経験がある。また、子どもの神経発達症に関する研究で、小児神経科医と共同研究を行っており、ヘルスケアに関連する新製品の市場導入やメンタルヘルスに関する最新の話題を提供する。

【Outline (in English)】
This lecture on "Healthcare Innovation" aims to deepen understanding of technological advancements in the rapidly evolving medical field and the value brought by pharmaceuticals and healthcare services. In Japan, societal challenges such as aging and increasing healthcare costs are prominent, but pediatric healthcare issues are also significant. Addressing these challenges requires the introduction of new technologies. The perspective of Management of Technology (MOT) is crucial for strategically managing and utilizing these technologies. MOT focuses on maximizing the value of technology to achieve sustainable outcomes in society and healthcare systems. The goal is to acquire the knowledge and practical skills needed to build innovation strategies in the healthcare industry.

MAN540F2（経営学 / Management 500）

ビジネスイノベータ育成セミナー

Seminar of Business Innovators

坂本　和子［サカモト カズコ］

単位数：2単位
学期：秋学期後半/Fall(2nd half)
授業分類：専門講義
応用科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科のミッションの一つとして，文系・理系といった枠にとらわれず，幅広いアプローチによる課題の発見や解決，そしてそれらを社会的価値に転換・創造していく能力を有する人材，いわゆるビジネス・イノベーターの育成があげられる．
本講義はそれを実現するために，世界へ挑戦しているエンジニア，イノベーションに貢献しているデザイナー，そして幾多の苦難を乗り越えてイノベーションを創出してきたビジネスリーダー等のゲスト講師が，体験や実学のレクチャーを実施する．加えてPBL（Project-Based Learning）をベースとしたグループ演習を行うことで，学習動機や理論・手法の応用力の獲得や社会人基礎力の向上を目的とする．

【到達目標】
・様々な社会ニーズに対応できる幅広い学術基盤をベースとする事業推進力を習得する．
・科学者，技術者のマインドやアーティストの感性を取り入れたビジネス開発力を習得する．
・チームを起動させ，チーム単位での事業開拓やアイディア発想，企画力を習得する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
・2時限続きで7日，全14回の開講．
・初回にPBLの課題を提示する．
・2回セットで前半はテーマに沿ったゲスト講師が講演後，質疑応答やディスカッションを実施．後半はPBLによるグループ演習を実施し，授業の最後にリフレクションシート（今回の学び，気づき,疑問点等を記載）を提出してもらう．
・7,8回目に中間報告会を行う．
・最終回に課題の最終報告会をコンペ形式で行い，担当教員により講評．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1,2	ガイダンス イノベーションに役立つDEM（デザイン・エンジニアリング・マネジメント）の融合，VTSの実践	本講義のガイダンスと，グループ演習の課題提示． ゲスト講師によるVTSを実施 担当教員によるまとめ
3,4	事例研究①デザインを起点に考えるイノベーションとは	アイディア発想法とデザインシンキングの講義とワークショップの実施 担当教員によるまとめ
5,6	事例研究②どんな技術がイノベーションを起こすのか	ゲスト講師の講義とディスカッションの後，グループ演習により技術とイノベーションについて考察 担当教員によるまとめ
7,8	中間報告会 事例研究③問いを改めてデザインする	グループによる中間報告とグループ演習により”問い”について再考察 担当教員によるまとめ
9,10	事例研究④DEMを活かして，日本からグローバルへの展開	ゲスト講師の講義とディスカッションの後，グループ演習によりグローバル戦略を考慮した課題への取り組み 担当教員によるまとめ
11,12	事例研究⑤技術を社会にどう実装していくか	ゲスト講師の講義とディスカッションの後，グループ演習により技術ブランディングと実現可能性について検討 担当教員によるまとめ
13,14	最終報告会	グループによる最終発表と講評 担当教員によるまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講に当たって事前の準備学習を必要としないが，中間報告会や最終報告会へ提出するアプトプットやプレゼンテーション準備に時間を必要とする（1回の授業に対して平均2時間程度が望ましい）

【テキスト（教科書）】
必要に応じ,授業内で適宜,ゲスト講師と講義内容に関する資料を配布する．

【参考書】
安斎勇樹・塩瀬隆之（2020）「問いのデザイン」学芸出版社
岡田 美智男（2022）「ロボット: 共生に向けたインタラクション (知の生態学の冒険 J・J・ギブソンの継承 1)」東京大学出版会
佐藤聡（2010）「技術を魅せる化する－テクノロジーブランディング」技術評論社
Thomas Lockwood8（2009）”Design Thinking: Integrating Innovation, Customer Experience, and Brand Value”，Allworth Press; Original

【成績評価の方法と基準】
グループ評価60％（中間報告20％，最終報告40％），毎回の出席と討議への貢献20％，リフレクションシート20％で評価する．

【学生の意見等からの気づき】
グループ演習を円滑に進めるための工夫
ビジネスイノベーター育成のための選りすぐりの講師を招聘

【学生が準備すべき機器他】
毎回グループ演習を実施し，最終報告のアプトプットを作成していくので，ノートパソコン等を持参すること

【その他の重要事項】
オフィスアワー：講義前の1時間

【Outline (in English)】
One of our mission statements is to develop human resources, so-called business innovators, who have the ability to discover and solve problems through a wide range of approaches, and to convert and create social values, regardless of the framework of humanities and science.
In order to realize this, this lecture will be a lecture by guest lecturers such as engineers who are challenging the world, designers who are contributing to innovation, and business leaders who have overcome many hardships and created innovation. In addition, by conducting group exercises based on PBL (Project-Based Learning), we aim to acquire learning motivation and application skills of theory and methods, and to improve fundamental skills of a working adults.

MAN600F2（経営学 / Management 600）

経営診断実習Ⅰ

Management Diagnosis Training Ⅰ

並木 雄二、岩瀬 敦智、佐藤 裕弥、郷 保直、斉藤 徹、山岡 雄己、手塚 邦雄、花畑 裕香、仁保 聡一郎.青木 季博、高橋 利治、齊藤 信

単位数：**4単位**
学期：**春学期授業**/Spring
授業分類：**実験・実習**
応用科目、MBA特別必修
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中小企業診断士養成課程の必修科目である。中小企業の経営について、総合的に現状を把握することにより経営課題を抽出し、課題解決のための重点部門ごとの具体的な解決策を策定することを通し、指導・支援・アドバイスできるコンサルティングスキルを習得する。

【到達目標】
担当する部門毎に、現状分析→問題点構造化→課題抽出→課題構造化→具体的解決策検討、という一連のプロセスを進め、検討された解決策について、現状の組織能力、実行力を考慮するとともに、総合的に調整し、実現可能性、効果性の高い総合的な経営改善実行計画を策定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
経営診断実務の講義後、2企業（製造業と流通業）の診断実習を行う。各企業の実態調査と分析などを行い、経営診断報告書（経営全般について現状分析、問題点構造化、重点課題の抽出）と個別経営課題（重点診断事項）の改善計画書を作成する。実習成果は報告会で経営者等に説明する。授業は2コマ単位とする。
報告書、報告会における良い点、悪い点は授業内で紹介し、さらなる診断に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	経営診断実習 基本講義	演習（MBA）科目と実習を結びつけるための補強 経営診断実習の手引き 担当教員によるまとめ
2	経営診断実習 基本講義	流通業経営診断のための導入、流通業界の環境と仕組み、流通業経営診断のポイント、担当教員によるまとめ
3	流通業の企業・環境把握	関連資料の収集、分析、診断計画の作成（業界分析、ガントチャート、インタビューシート）、担当教員によるまとめ
4	流通現場の診断①	経営者・経営幹部インタビュー（コミュニケーション、議事録作成、インタビュー後の整理と理解）、担当教員によるまとめ
5	流通現場の診断②	顧客ヒアリング、実態調査、調査内容の分析（顧客ヒアリングシート作成、アンケート票設計）、担当教員によるまとめ
6	流通現場の診断③	グループディスカッション（KJ法、マインドマップ、各種PCソフトの活用による議論と整理）、担当教員によるまとめ
7	流通現場の診断④	経営者・経営幹部インタビュー第二回（議事録作成、インタビュー後の整理と理解）、担当教員によるまとめ
8	流通現場の診断⑤	関連調査の実施、商圏分析（地図情報ソフト、各種行政データ、通行量調査、STビュー分析）、担当教員によるまとめ
9	流通現場の診断⑥	関連調査の実施、顧客調査（顧客インタビュー、顧客アンケート、グーグルアンケート）、担当教員によるまとめ
10	流通現場の診断⑦	関連調査の実施、競合調査（運営4原則分析シート、重点SPチャート、店舗売場分析表）、担当教員によるまとめ
11	流通現場の診断⑧	関連調査の実施,、グループディスカッション（業界調査、ベンチマーク調査）、担当教員によるまとめ
12	報告書作成	報告書作成、製本／プレゼン資料作成、プレゼン練習（各種マニュアルによる基本動作の習得）、担当教員によるまとめ
13	製造業界の基礎講義	製造業経営診断のための導入、製造業界の環境と仕組み、製造業経営診断のポイント、担当教員によるまとめ
14	最終報告会（報告書提出）	企業報告会、反省会　企業評価と検証、担当教員によるまとめ
15	製造業の企業・環境把握	関連資料の収集、分析、診断計画の作成（業界分析、ガントチャート、インタビューシート）、担当教員によるまとめ
16	生産現場の診断①	経営者・経営幹部インタビュー（コミュニケーション、議事録作成、インタビュー後の整理と理解）、担当教員によるまとめ
17	生産現場の診断②	現場動作分析、工程調査、実態調査、調査内容の分析（映像・動画撮影による分析調査）、担当教員によるまとめ
18	生産現場の診断③	関連調査の実施（KJ法、マインドマップ、各種PCソフトの活用による議論と整理）、担当教員によるまとめ
19	生産現場の診断④	経営者・経営幹部インタビュー（第2回）（議事録作成、インタビュー後の整理と理解）、担当教員によるまとめ
20	生産現場の診断⑤	調査内容の分析（各種映像・動画撮影による分析調査）、担当教員によるまとめ
21	生産現場の診断⑥	関連調査の実施、グループディスカッション（KJ法、マインドマップの活用による議論と整理）、担当教員によるまとめ
22	生産現場の診断⑦	調査、討議、フィールドワーク（業界調査、ベンチマーク調査）、担当教員によるまとめ
23	生産現場の診断⑧	グループディスカッション（KJ法、マインドマップの活用による議論と整理）、追加調査、担当教員によるまとめ
24	部門別診断①	フィールドワーク（ベンチマーク調査）アポイントシートの作成と依頼、インタビューの実施、担当教員によるまとめ

25	部門別診断②	フィールドワーク（ベンチマーク調査）アポイントシートの作成と依頼、インタビューの実施、担当教員によるまとめ
26	個別経営課題の改善計画策定	調査内容による個別問題の抽出、原因分析、課題設定、改善策の立案、改善スケジュールの作成、担当教員によるまとめ
27	報告書作成	報告書作成、製本／プレゼン資料作成、プレゼン練習（各種マニュアルによる基本動作の習得）、担当教員によるまとめ
28	最終報告会（報告書提出）	企業報告会、反省会　企業評価と検証、担当教員によるまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
カリキュラムに記入しきれない実習があり、時間割を参照する。
また時間外での企業訪問、関連調査や資料収集、グループ討議などを頻繁に行う。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。
一定のPCスキルは各自で習得しておく

【テキスト（教科書）】
授業中に適宜指示をする。

【参考書】
授業中に適宜指示をする。

【成績評価の方法と基準】
審査8項目(①知識手法の理解度・応用能力、②調査・分析力、③インタビュー力、④問題形成力、⑤経営課題の改善立案力、⑥報告書作成力、⑦プレゼンテーション能力、⑧班への貢献度)と実習企業先評価(80%)、出席状況(20%)から行う。

【学生の意見等からの気づき】
事前の集中補強講義を行い、スムーズに実習に入れる工夫を行う。
演習科目と連動することを考慮する。

【その他の重要事項】
スケジュールは診断先の都合に合わせて修正することがある。
オフィスアワー
前期は火曜日12時30分～13時10分
他は随時アポイントをお願いします。

【Outline (in English)】
Consulting skills that can be taught, supported, and advised through extracting management tasks by comprehensively grasping the current situation about the management of SMEs and formulating concrete solutions for each priority division for solving the problem To master

MAN600F2（経営学 / Management 600）

経営診断実習Ⅱ

Management Diagnosis Training II

並木 雄二、丹下 英明、岩瀬 敦智、佐藤 裕弥、郷 保直、斉藤 徹、山岡 雄己、手塚 邦雄、花畑 裕香、宮川 孝文、仁保 聡一郎、高橋 利治、齊藤 信

単位数：6単位
学期：秋学期授業/Fall
授業分類：実験・実習
応用科目、MBA特別必修

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中小企業診断士養成課程の必修講義である。企業の持続的な成長・発展を支援するため、企業を取り巻く外部環境、内部資源について総合的に分析し、分析の結果として策定された経営戦略により明らかになった戦略課題を解決するための具体策を策定することにより、中小企業の指導・支援・アドバイスができるコンサルティングスキルを習得する。

【到達目標】
第1ステップは主として経営戦略確立を中心とする。第2ステップは主としては経営戦略確立と戦略計画確立を中心とする。第3ステップは企業の個別経営課題のソリューション及び実行支援を中心とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
第1ステップ：経営戦略・戦略計画策定実習Ⅰ（経営診断報告書、経営戦略策定書の作成）、第2ステップ：経営戦略・戦略計画策定実習Ⅱ（経営診断報告書、経営戦略策定書、中長期経営計画書の作成）、第3ステップ：経営総合ソリューション実習（経営診断報告書、重点経営課題解決プロジェクト計画書の作成）、実習成果は報告会で経営者等に説明する。授業は3コマ単位とする。
報告書、報告会における良い点、悪い点は授業内で紹介し、さらなる診断に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	経営戦略・戦略計画策定実習Ⅰ 企業・環境把握	関連資料の収集、分析、診断計画の作成（業界分析、ガントチャート、インタビューシート） 担当教員によるまとめ
2	経営戦略策定のための調査・分析①	経営者・経営幹部インタビュー（コミュニケーション、議事録作成、インタビュー後の整理と理解） 担当教員によるまとめ
3	経営戦略策定のための調査・分析②	顧客ヒアリング、実態調査、調査内容の分析（顧客ヒアリングシート作成、アンケート票設計等） 担当教員によるまとめ
4	経営戦略策定のための調査・分析③	調査内容の分析（各種映像・動画撮影による分析調査等） 担当教員によるまとめ
5	経営戦略策定のための調査・分析④	経営者・経営幹部インタビュー第二回（議事録作成、インタビュー後の整理と理解） 担当教員によるまとめ
6	経営戦略策定のための調査・分析⑤	調査内容の分析（各種映像・動画撮影による分析調査） 担当教員によるまとめ
7	経営戦略策定のための調査・分析⑥	関連調査の実施（モチベーションサーベイ、従業員ヒアリング） 担当教員によるまとめ
8	経営戦略策定のための調査・分析⑦	グループディスカッション（KJ法、マインドマップ、各種PCソフトの活用による議論と整理） 担当教員によるまとめ
9	経営戦略策定①	フィールドワーク（ベンチマーク調査）アポイントシートの作成と依頼、インタビューの実施 担当教員によるまとめ
10	経営戦略策定②	フィールドワーク（ベンチマーク調査）アポイントシートの作成と依頼、インタビューの実施 担当教員によるまとめ
11	経営戦略策定③	グループディスカッション（KJ法、マインドマップ、各種PCソフトの活用による議論と整理） 担当教員によるまとめ
12	全体調整・報告書作成①	経営戦略書策定書作成 担当教員によるまとめ
13	全体調整・報告書作成②	報告書作成、製本／プレゼン資料作成、プレゼン練習 担当教員によるまとめ
14	最終報告会	企業報告会、反省会 企業評価と検証など 担当教員によるまとめ
15～28	経営戦略・戦略計画策定実習Ⅱ	経営戦略・戦略計画策定実習Ⅰ（1から14）の内容を他の企業で行う 担当教員によるまとめ
29	経営総合ソリューション実習 簡易経営診断	関連資料の収集、分析、診断計画の作成（業界分析、ガントチャート、インタビューシート） 担当教員によるまとめ
30	調査・分析①	経営者・経営幹部インタビュー（コミュニケーション、議事録作成、インタビュー後の整理と理解） 担当教員によるまとめ
31	調査・分析②	調査内容の分析（各種映像・動画撮影による分析調査等） 担当教員によるまとめ
32	調査・分析③	調査内容の分析（各種分析のグラフ化、課題の見える化） 担当教員によるまとめ
33	調査・分析④	関連調査の実施（モチベーションサーベイ、従業員ヒアリング） 担当教員によるまとめ
34	経営課題解決策・解決計画の策定①	グループディスカッション（KJ法、マインドマップ、各種PCソフトの活用による議論と整理） 担当教員によるまとめ
35	経営課題解決策・解決計画の策定②	課題解決策・解決計画のまとめ 担当教員によるまとめ
36	課題解決計画に基づくソリューション案の具体化①	ソリューション案の仮説設定 担当教員によるまとめ
37	課題解決計画に基づくソリューション案の具体化②	経営者・経営幹部インタビュー第二回（議事録作成、インタビュー後の整理と理解） 担当教員によるまとめ
38	課題解決計画に基づくソリューション案の具体化③	調査内容の分析（重点課題の計画化） 担当教員によるまとめ

39	課題解決計画に基づくソリューション案の具体化④⑤	フィールドワーク（ベンチマーク調査）アポイントシートの作成と依頼、インタビューの実施 ソリューション案まとめ（具体的な手順とステップの作成） 担当教員によるまとめ
40-41	最終報告書作成	重点経営課題解決プロジェクト計画書作成 報告書作成、製本 プレゼン資料作成、プレゼン練習 担当教員によるまとめ
42	最終報告会	企業報告会、反省会 企業評価と検証など 担当教員によるまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
時間外でのフィールドワーク、企業訪問、関連調査や資料収集、グループ討議などを頻繁に行う。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業中に適宜指示をする。

【参考書】
授業中に適宜指示をする。

【成績評価の方法と基準】
企業診断実習の審査(30%)、面接審査(30%)、出席状況(20%)及び受講態度等(20%)を勘案して、総合審査をする。

【学生の意見等からの気づき】
診断グループは企業ごとに編成し、実習生が企業を選択できるような配慮を行いたい。

【その他の重要事項】
スケジュールは診断先の都合に合わせて修正することがある。
オフィスアワー
前期は火曜日12時40分～13時30分
他は随時アポイントをお願いします。

【Outline (in English)】
In order to support the sustainable growth and development of enterprises, we comprehensively analyze external and internal resources surrounding enterprises and concrete solutions to solve strategic issues clarified by management strategy formulated as a result of analysis by devising measures, you will acquire consulting skills that can provide guidance, support, and advice for SMEs.

MAN540F2（経営学 / Management 500）

経営診断特講Ⅰ

Management Diagnosis Lecture Ⅰ

並木　雄二、岩瀬　敦智［ナミキ ユウジ, イワセ アツトモ］

単位数：6単位
学期：春学期前半/Spring(1st half)
授業分類：専門講義
応用科目、MBA特別必修
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中小企業診断士養成課程の必修科目である。コンサルタントとして活躍する上で重要となる「現場感覚」「戦略的思考力」「コミュニケーション能力」を学ぶと共に、「貢献領域の認識」「知的好奇心の醸成」「プロフェッショナリズム」の醸成を図る。

【到達目標】
コンサルタントの視点から、企業経営の戦略的な問題の発見と現場感覚に根ざした適切な問題解決のための具体的施策を立案するプロセスを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と実践を半々で行う。学生は常に各回の講義テーマに関する情報収集と講義内容の復習が求められる。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
助言能力	経営コンサルタントに求められる助言能力	経営コンサルタントに求められる役割と、必要な助言能力を学ぶ
論理思考	経営コンサルタントに求められる論理思考	支援企業の問題解決の土台となる論理的思考力を学ぶ
表現技法	経営コンサルタントに求められる表現理法	支援企業に的確に情報を伝えるための表現技法を学ぶ
分析技法	経営コンサルタントに求められる分析技法	支援企業により深い情報を伝えるための分析技法を学ぶ
経営計画の基礎	経営計画の概要	企業の経営計画立案に向けて、経営計画の概要を学ぶ
財務計画の実践（P/L）	中小企業の損益計算書のシミュレーション	Excelを活用して中小企業の損益計算書のシミュレーションを実践する
財務計画の実践（B/S）	中小企業の貸借対照表のシミュレーション	Excelを活用して中小企業の貸借対照表のシミュレーションを実践する
財務計画の実践（CF）	中小企業のキャッシュフロー計算書のシミュレーション	Excelを活用して中小企業のキャッシュフロー計算書のシミュレーションを実践する
経営計画の全体像	経営計画の全体像とフォーマット	経営計画立案に向けて、フォーマットを踏まえて全体像を学ぶ
経営計画の構成	経営計画の構成要素と特徴	経営計画立案に向けて、経営計画の構成要素とその特徴、各要素間の関係を学ぶ
流通業の経営計画	流通業の経営計画の特徴	流通経営診断実習に向けて、流通業の経営計画のポイントを学ぶ
流通業の実行計画	流通業の実行計画の特徴	流通経営診断実習に向けて、流通業の実行計画のポイントを学ぶ
流通業の実行管理	流通業の実行管理の特徴	流通経営診断実習に向けて、流通業の実行計画の管理方法を学ぶ
経営計画の策定	経営計画のシミュレーション	経営計画策定のイメージを掴むためにシミュレーションを実践する
流通業の組織課題	流通業の組織課題の概要	流通経営診断実習に向け、流通業において発生しやすい組織課題を学ぶ
流通業の組織構造	流通業の組織構造の概要	流通経営診断実習に向け、流通業の一般的な組織構造を学ぶ
流通業の組織文化	流通業の組織文化の概要	流通経営診断実習に向け、流通業の一般的な組織文化を学ぶ
流通業の組織変革	流通業の組織変革の実際	流通経営診断実習に向け、流通業の組織変革の実際を知る
組織診断の基本	組織診断を実践するための心構え	経営診断実習に向け、組織診断を実践するために必要な姿勢を学ぶ
組織診断の要諦	組織診断を実践する際の重要ポイント	経営診断実習に向け、組織診断の土台となる支援先企業との関わり方を学ぶ
組織診断のプロセス	組織診断を実践する際のプロセス	経営診断実習に向け、組織診断の一般的なプロセスを学ぶ
人材管理の問題解決	人材管理における問題解決	経営診断実習に向け、人材管理における問題解決を演習する
組織マネジメントの問題解決	組織のマネジメントにおける問題解決	経営診断実習に向け、組織マネジメントにおける問題解決を演習する
コンサルティング・プロセスの概要	コンサルティング・プロセスの重要性と役割	経営診断実習に向け、コンサルティング・プロセスがなぜ求められるか、どのような役割を担うかを学ぶ
コンサルティング・プロセスの実際	一般的なコンサルティング・プロセスの実際	経営診断実習に向け、一般的なコンサルティング・プロセスについて学ぶ
コンサルティング・プロセスの実践	一般的なコンサルティング・プロセスに基づく実践	経営診断実習に向け、一般的なコンサルティング・プロセスに基づく実践演習を行う
経営システムが確立された企業のコンサルティング	経営システムが確立された企業に向けたコンサルティング・プロセスのポイント	経営診断実習に向け、経営システムが確立された企業に向けたコンサルティング・プロセスのポイントを学ぶ
経営システムが不明瞭な企業のコンサルティング	経営システムが確立されていない企業に向けたコンサルティング・プロセスのポイント	経営診断実習に向け、経営システムが確立されていない企業に向けたコンサルティング・プロセスのポイントを学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の講義テーマに関する情報収集と講義内容の復習が求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜、レジュメを配布する。

【参考書】
授業内で適宜、指定する。

【成績評価の方法と基準】
討議への参加（50％）レポートと発表（50％）で評価する。
討議への参加については積極的な発言を求める。討議に参加する姿勢を重視する。
レポートと発表は、適宜、指定するが、常に経営診断実習を意識して企業経営に役立つ具体的なレベルのものを求める。

【学生の意見等からの気づき】
新規科目につき該当なし。

【Outline (in English)】
This is a required subject for the Small and Medium Enterprise Management Consultant Training Course.In addition to learning the “on-site sensibility”, “strategic thinking ability” and “communication skills” that are important for working as a consultant, we also aim to foster “recognition of areas of contribution”, “cultivation of intellectual curiosity” and “professionalism”.

MAN540F2（経営学 / Management 500）

経営診断特講Ⅱ

Management Diagnosis Lecture Ⅱ

知念　毅、岩瀬　敦智［Takeshi CHINEN, イワセ アツトモ］

単位数：**1単位**
学期：**春学期後半**/Spring(2nd half)
授業分類：**専門講義**
応用科目、MBA特別必修
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中小企業診断士養成課程の必修科目である。コンサルタント、中小企業診断士として活躍する上で重要となる製造業のマーケティング、営業マネジメントに関する知識や、企業における製品開発に関する知識を学ぶ。

【到達目標】
製造業経営診断実習を意識しながら、マーケティング、営業マネジメント、製品開発に関する具体的かつ実践的な支援施策のイメージを構想できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
講義の中に討論を織り交ぜながら進める。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
製造業の生産マネジメント（現状分析編）	製造経営診断実習に向けた現状分析手法	製造業のコンサルティング事例を通じて、経営診断における現状分析の実践手法を学ぶ
製造業のマーケティング戦略	製造経営診断実習に向けたマーケティング実践手法	製造業のコンサルティング事例を通じて、経営診断におけるマーケティングの実践手法を学ぶ
製造業の営業マネジメント	製造経営診断実習に向けた営業マネジメント実践手法	製造業のコンサルティング事例を通じて、経営診断における営業マネジメントの実践手法を学ぶ
製品開発戦略の概要と事例	製造経営診断実習に向けた製品開発戦略の立案と実践	製造業のコンサルティング事例を通じて、経営診断における製品開発戦略の立案と実践の手法を学ぶ
製品開発のプロセス	製造経営診断実習に向けた製品開発プロセスの理解	企業事例を通して、製品開発プロセスを学ぶ
顧客軸で考える製品開発	製品開発に必要な顧客分析視点	企業事例を通して、製品開発に必要な顧客分析視点を学ぶ
製品開発とコア・コンピタンス	経営資源に限りがある企業の製品開発の要諦	経営資源に限りがある企業が製品開発で意識するべき、コア・コンピタンスの構築について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の講義テーマに関する情報収集と講義内容の復習が求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
授業内で適宜、指定する。

【成績評価の方法と基準】
討議への参加（50％）とレポート（50％）
討議での積極的な発言を求める。討議に参加する姿勢を重視する。
レポートは、適宜、指定するが、常に経営診断実習を意識して企業経営に役立つ具体的なレベルのものを求める。

【学生の意見等からの気づき】
新規科目につき該当なし

【Outline (in English)】
This is a required subject for the Small and Medium Enterprise Management Consultant Training Course.Students will learn about the marketing and sales management of manufacturing industries, which are important for working as a consultant, as well as knowledge about product development in companies.

MAN540F2（経営学 / Management 500）

経営診断特講Ⅲ

Management Diagnosis Lecture Ⅲ

宮川　孝文［ミヤカワ タカフミ］

単位数：2単位
学期：春学期後半/Spring(2nd half)
授業分類：専門講義
応用科目、MBA特別必修
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生産マネジメントに関する問題を発見し、またその問題解決の方向性について指導・援助・アドバイスができるスキルの修得を目的とします。
工場診断の基本的プロセス及び経営数値と現場での関連性の理解及びＱＣ手法による現状分析・問題発見のスキルについて学びます。また生産マネジメントの体系的な理解し（VE・IE含む）、事例学習や課題考察を通して、現状分析・問題発見のスキルの修得を図ります。

【到達目標】
製造業がかえる問題・課題に対して、企業の有り様（規模・業種・組織力・製造工程など）に合った指導・支援ができる。
At the end of the course, students are expected to be able to provide guidance and support that is tailored to a company circumstances (size, industry, organizational strength, manufacturing process, etc.).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的知識や理論、製造業コンサルティング事例紹介などの講義とともにケーススタディを通して、個人またはグループで分析・検討を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-2講	工場診断の進め方	製造業診断に有効な基本的な知識や技術情報、視方や知識、心構えについて事例や演習を交えて学習する。
3-4講	品質管理とＱＣ的問題解決法	品質管理の概要（QC7つ道具やQC工程表など）やＱＣ的問題解決法を事例や演習を交えて、的確な現状分析と問題発見できる思考手順を学習する。
5-6講	生産マネジメント概論	製造プロセス（材料や部品の調達から製品として出荷まで）における生産活動を効率的かつ効果的に進める手法について、事例と演習を交えて学習する。
7講	ＶＥ（Value Engineering）概論	最小限のコストで必要機能の達成を目指して行うＶＥ手法について、演習を交えて学習する。
8講	ＩＥ（Industrial Engineering）概論	製造プロセスや作業内容を科学的に分析し、業務改善を実現するＩＥ手法について、演習を交えて学習する。
9-10講	設備管理と生産技術	投資計画の評価及び決定の基本的な手法・考え方と、生産性向上施策にどのような生産技術を織り込むべきかについて、省人化・省力化の観点で概要を学習する。
11講	工場自動化支援の定石	自動化省力化設備の構想・具現化する上での支援のポイントについて、事例を交えて学習する。
12講	製造現場での品質管理の現状と改善施策	製造現場行われている品質管理（検査）の事例を踏まえて、改善策について学習する。
13-14講	生産性向上施策の事例と試験（課題レポート）	製造工程の生産性向上に資する基本的な施策（工程改善・治具化・LCA・ロボット化など）について、事例や演習を交えて学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は，各1時間を目安とする.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
毎回講義資料を配布します。

【参考書】
・藤本隆宏「生産マネジメント入門Ⅰ」「生産マネジメント入門Ⅱ」、日本経済新聞社、2001年
・平野健次「入門生産マネジメント」、日科技連出版社、2018年
・今里健一郎「QC七つ道具がよ～くわかる本」、秀和システム、2009年
・土屋裕、産能大学VE研究グループ「新・ＶＥの基本」、産業能率大学出版部、1998年
・川瀬武志「IE問題の基礎」、日刊工業新聞社、2007年
・日本ＩＥ協会「新人IErと学ぶ実践IEの強化書」、日刊工業新聞社、2021年
・藤井春雄「儲かるIE七つ道具の活用術」、日刊工業新聞社、2015年
・宮川孝文「工場自動化のすすめ」、日刊工業新聞社、2018年

【成績評価の方法と基準】
次の要素を合計して評価する。①最終講義で作成する課題レポート（40%）、②小テスト（30%）、③平常点(30%)
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 40%、Short reports: 30%、in class contribution: 30%

【学生の意見等からの気づき】
新規科目につき該当なし

【学生が準備すべき機器他】
演習シートにアクセスするため、パソコンが必要

【その他の重要事項】
精密機械器具製造業（映像製品）で生産技術・要素技術開発に従事した後、中小企業診断士業と並行して技術コンサルティング会社を創業しました。関東・関西圏の自治体や公的機関、企業からの依頼で、製造業に対して自動化・省力化支援や講演活動を行っています。これまでに培った知見・経験を踏まえて、本授業では製造業支援の技術的なポイントについて紹介します。

【Outline (in English)】
This course deals with the Production Management,QC Method and Factory Automation Methods. It also enhances the development of students' skill in Current situation analysis and problem discovery.

MAN500F2（経営学 / Management 500）

データベースの基礎

Database

五月女　健治［サオトメ ケンジ］

単位数：2単位
学期：秋学期前半/Fall(1st half)
授業分類：専門講義
基礎科目
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報は、ビジネスにおける重要な資源のひとつである。その情報を蓄積・管理する手段として、データベースがある。近年、ビッグデータやデータ分析が注目されているが、データベースはこれらの技術の基礎である。この講義では、データベースによる、データ（情報）の設計・蓄積から活用（データ分析）まで、一連のデータのライフサイクルを学習する。対象は、中小企業を想定する。

【到達目標】
データモデリングによるデータの設計、アプリケーションによるデータの蓄積、データ分析によるデータの活用を体験して、データのライフサイクルを学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
馴染みのMS Officeと親和性のあるツールを利用して演習する。具体的には、MS Access（データベースアプリ、以下Access）、Power BI Desktop（データ分析・可視化アプリ）を使用する。授業は、データのライフサイクルの最終段階であるデータの活用（データ分析）からスタートする。どのようなデータが必要となるかを知った上で、データのライフサイクルの始まりであるデータの設計、次にデータの蓄積の順序で進める。
各回の提出課題に対して改善点がある場合は、個々にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	講義概要	EXCELのデータ操作機能を学習することで、データ操作の概要をつかむ。
第2回	演習ツール概要	データ活用のためのツールPower BI Desktopの利用方法を演習する。
第3回	データ活用 講義	Power BI Desktopを利用した分析方法について講義する。
第4回	データ活用 演習	Power BI Desktopを利用して、OLAP（ダイシング、スライシング、ドリルダウン、ドリルスルー）を演習する。これにより、データ活用に求められるデータの形式や内容について学習する。
第5回	データベース 講義	AccessおよびSQLによるデータベース操作（結合、集計、並び替えなど）の概念を講義する。
第6回	データベース 演習	AccessおよびSQLで、データベース操作（結合、集計、並び替えなど）を演習する。
第7回	データモデリング 講義	ERモデル、エンティティとリレーションシップについて講義する。
第8回	データモデリング 演習	Accessで、エンティティとリレーションシップからなるデータモデルを作成する演習を行う。
第9回	データモデルパターン 講義	典型的なデータモデルのパターンおよび正規化について、講義する。正規化とは、データの冗長性を取り除く作業である。
第10回	データモデルパターン 演習	Accessで、作成したデータモデルを典型的なデータモデルのパターンに変換して、データモデルを完成させる演習を行う。
第11回	総合演習 講義	Accessを使用したアプリケーションの作成方法を講義する。
第12回	総合演習	アプリケーション作成を中心に、例題に基づいたデータ設計・蓄積・活用を演習する。
第13回	データベースのアーキテクチャ	トランザクション、RAID、データウェアハウスなどについて講義を行う。
第14回	総括	学習内容の振返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業は、前回の授業の内容を利用してさらに発展させる方式を採るので、次回までに、当日実施したテキストの該当箇所の復習を必要とする。
本授業の準備学習・復習時間は各1時間、宿題は各1時間（6回）を標準とする。

【テキスト（教科書）】
以下の参考書は貸与するので、必ずしも購入する必要はない。
・「データベース応用 ―データモデリングから実装まで―（未来へつなぐデジタルシリーズ）（共立出版）」（ISBN-13: 978-4320123540）。
・その他、配布資料あり。

【参考書】
以下の参考書は準備するので、必ずしも購入する必要はない。
・「ソフトウェアシステム工学入門 (未来へつなぐ デジタルシリーズ22)（共立出版）」（ISBN-13: 978-4320123427）
・「30時間でマスター Access2013（実教出版）」(ISBN-13: 978-4407332681)

【成績評価の方法と基準】
各回の課題演習（40%）、期末レポート（60%）

【学生の意見等からの気づき】
ビデオ教材を充実していることで、個別質問を躊躇するケースがあった。
理解できないままにすることは望まない。直接の対話を求める。
このことは授業の最初にアナウンスする。

【学生が準備すべき機器他】
Accessを利用できるOfficeを搭載している、およびPower BI Desktopを使用できるPC（Windows）が必要（MacのOfficeにはAccessがないので不可）。上述の条件を満たすPCを持たない場合、大学の貸与PCを利用することを検討すること。

【その他の重要事項】
必要な前提知識として、基本的なExcelの操作ができる程度の知識を有すること。
オフィスアワーは、金曜日5限目とする。この日時の都合が悪い学生については、個別に調整する。
大手電機メーカーにおいて28年間勤務し、一貫してITシステムの開発・研究に従事。当該授業のテーマに対して、ITの総合的な観点で授業を実施する。

【Outline (in English)】
Information is one of the important resources in business. There is the Database as a means for storing and managing that Information. In recent years, Big Data and Data Analysis have attracted attention, but Database is the basis of these technologies. In this lecture, we learn a series of the life cycle of Data, that is the design, storing and utilization with Database. This lecture is for Small to Medium Business.

MAN500F2（経営学 / Management 500）

会計入門

Intensive accounting

石島　隆［Takashi ISHIJIMA］

単位数：**2単位**
学期：**春学期後半**/Spring(2nd half)
授業分類：**専門講義**
基礎科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業会計は、企業の経済活動を貨幣価値で表現するための仕組みである。企業の財務諸表を見ることによって企業の事業活動の状況を理解することができる。
本授業で学生は、企業における財務会計（外部に報告するための会計）の基本的な考え方と財務諸表の見方・分析方法を学ぶ。
公表されている上場企業の財務諸表を分析対象として用いるが、財務会計の基本的な事項を取り扱うので、大企業のみでなく、中小・中堅企業の経営状況の把握にも役立てることができる。

【到達目標】
学生は、本授業において、ビジネスに携わる上での常識としての会計知識と企業の財務諸表に記載された情報の活用方法の基本を身につけることを目標とする。
なお、本授業は、財務会計に関する初心者のための授業であるので、財務会計に関する基本知識がある学生は「財務会計論」を受講されたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業の講義は、大部分をオンデマンド型のｅラーニングとして実施する。
講義を中心とするが、基礎的な会計知識については、演習問題の解答の提出を求める。
教材の配信は、第１回～第３回分と第４回～第６回分をまとめて行い、演習問題の解答の提出についても第１回～第３回分と第４回～第６回分をまとめて期限を設定する。
授業の内容に関する質問については、随時E-Mailで受け付けるが、質疑のためのオンラインミーティングを２回設定する予定である。その日程は学習支援システムで伝えるが、参加は任意である。
また、最終回（第７回）には、学生が自ら選定した上場企業の財務諸表の分析結果の発表をオンライン又は発表動画ファイルの提出によって行い、その内容について最終レポートの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回(1)	会計の種類と役割 [テキスト第１章]	会計にはどのような種類があり、それぞれどのような役割を果たすのか、企業会計を中心として検討する。
第1回(2)	財務会計のシステムと基本原則 [テキスト第２章] 財務諸表の作成と公開 [テキスト第１０章]	財務会計のシステムの基本となる取引や仕訳の考え方、損益計算と資産評価の基本原則、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）の相互関係について学ぶ。 外部に公表する財務諸表の種類、作成と公開の方法について学ぶ。
第2回(1)	企業の設立と資金調達 [テキスト第３章]	企業の設立手続と資金調達取引に関する会社法の定めとその会計処理について学ぶ。
第2回(2)	仕入・生産活動 [テキスト第４章]	商品や材料の調達活動と製品を製造するための生産活動に関する会計処理を学ぶ。
第3回(1)	販売活動（１） [テキスト第５章]	収益の計上時期、売上原価の計算方法など販売活動に関する会計処理全般を学ぶ。
第3回(2)	販売活動（２） [テキスト第５章]	建設業や受託ソフトウェア開発業で用いられる工事進行基準など特殊な収益計上の会計処理について学ぶ。
第4回(1)	設備投資と研究開発 [テキスト第６章]	固定資産の取得、減価償却、除却、売却などの設備投資に関連する活動及び研究開発活動に関する会計処理を学ぶ。
第4回(2)	資金の管理と運用 [テキスト第７章]	資金の管理と運用に関する活動の会計処理とキャッシュフロー計算書の作成方法について学ぶ。
第5回(1)	国際活動 [テキスト第８章] 税金と配当 [テキスト第９章]	輸出入活動、海外投資活動など国際活動に関連する会計処理を学ぶ。 企業に課される税金の会計処理及び配当の形態と会計処理について学ぶ。
第5回(2)	企業集団の財務報告 [テキスト第１１章]	企業集団の財務報告のために作成される連結財務諸表の作成方法を学ぶ。
第6回(1)	財務諸表による経営分析（１） [テキスト第１２章]	財務諸表数値を用いた収益性の分析の方法を学ぶ。
第6回(2)	財務諸表による経営分析（２） [テキスト第１２章]	財務諸表数値を用いた安全性の分析の方法を学ぶ。
第7回(1)	経営分析結果の学生発表 (1)	自ら選定した上場企業の財務諸表の分析結果の発表をオンライン又は発表動画ファイルの提出によって行う。 担当教員によりまとめとコメントを行う。
第7回(2)	経営分析結果の学生発表 (2)	前回の続きを行う。 担当教員によりまとめとコメントを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、オンデマンドで動画教材を視聴するとともに、教科書の該当する章を読んで理解を深めること。
また、自らが関心を持っている企業の事業内容と業績について、新聞記事や企業のＷｅｂサイトを見て、企業がどのような事業を行い、そこにどのようなリスクがあり、その結果が決算にどのように反映するのかという観点を持って、会計処理を理解することにより、最終回（第７回）の学生発表につなげること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
桜井久勝・須田一幸著『財務会計・入門（第17版）』有斐閣アルマ（税込￥1,980）
なお、上記のテキストの改訂版等が発売された場合は、最新版を使用するが、受講において第17版でも学習に差し支えないように配慮する。

【参考書】
國貞克則著『【新版】財務３表図解分析法 (朝日新書)』朝日新聞出版（税込￥891）

【成績評価の方法と基準】
演習問題の解答の提出及び積極的な質問や発言（50％）
経営分析結果の発表と最終レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】
理解を深めるため、質疑のためのオンラインミーティングを設定する。また、学生発表の参考にするため、財務諸表による経営分析の方法について、説明動画を配信する。

【学生が準備すべき機器他】
オンデマンド方式の授業のため、PCの利用が必須である。また、授業の教材、動画、問題は、学習支援システムを利用して提供する。

【その他の重要事項】
「授業形態」が「オンライン」となっているが、最終回（第７回）の学生発表を除いて「オンデマンド」で行う。最終回に出席できない場合は、発表の動画による提出も可能である。
なお、授業の内容に関する質問については、随時E-Mailで受け付けるが、質疑のためのオンラインミーティングを２回設定する予定である。その日程は学習支援システムで伝えるが、参加は任意である。
＜オフィスアワー＞
春学期：月曜日5限目（16:50-18:30）
この日時の都合が悪い学生については、個別に調整するので、E-Mailで連絡いただきたい。
教員は、20年余りにわたり、上場企業等の財務諸表監査、システム監査、IT利用監査、システム構築のコンサルティング業務等に従事した後に大学教員となった。これらの経験を生かして、企業経営の実態を理解するための財務会計の基本が理解できるように指導する。

【Outline (in English)】
Business accounting is a mechanism for representing the economic activity of a company in monetary value. By looking at the company's financial statements, you can understand the situation of business activities of the company.
In this class, students learn the basic idea of financial accounting (accounting for reporting to the outside) and how to view and analyze financial statements.
Although it uses the published financial statements of listed companies as the analysis target, it handles the basic matters of financial accounting, so it can be useful not only for large enterprises but also for grasping the management situation of small- and medium-sized enterprises.

MAN510F2（経営学 / Management 500）

クラウドコンピューティング

Cloud computing

五月女　健治［サオトメ ケンジ］

単位数：2単位
学期：秋学期後半/Fall(2nd half)
授業分類：専門講義
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
クラウドコンピューティングの利用が急速に広がっている。クラウドコンピューティングによって、選択肢が広がって、さまざまなビジネスシーンでの活用が可能となっている。特に、ITの難しいスキルを取得することなくサービスの利用ができつつあり、我々が直接ITを利用する時代が近づいている。一方で、いくつかの問題があることも事実である。ただ、このような光と影についての情報はあふれていて、すでに周知のことである。この授業では、実際にクラウドを体験して、利点・問題点の理解を深めて、必要となったときに実践的な判断を可能とする知識を習得することが目的である。対象は、中小企業を想定する。

【到達目標】
クラウドで提供されるサービスは、主にSaaS、PaaS、IaaSに分類される。この授業では、SaaSとPaaSの著名なサービスを体験する。また、クラウドと社内のコンピュータ環境を連携する演習も実施して、クラウドサービスの理解を深める。
（SaaS：Software as a Service、アプリケーション機能を提供するサービス）
（PaaS：Platform as a Service、アプリケーション開発環境を提供するサービス）
（IaaS：Infrastructure as a Service、ハードウェア環境を提供するサービス）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
クラウドサービスで最も利用されているオンラインストレージ（Dropbox、OneDrive、Googleドライブ）を取り上げ、Zoomオンライン会議での活用方法の演習を行う。
PaaSとして、プログラミングレスのアプリケーション作成環境であるサイボウズ社のKintoneを取り上げ、それを利用したアプリケーション作成の演習を行う。また、作成したアプリケーションで生成されたデータの活用方法として、データ分析の演習を行う。
SaaSとして、プラットフォームビジネス（マッチング、シェアーリングエコノミなど）を構築できるクラウドサービスを取り上げ、そのサービスのアカウント作成や運用・利用を体験する。
ただし、提供者側の状況によっては、利用するサービスの変更があり得る。
各回の提出課題に対して改善点がある場合は、個々にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	講義概要	クラウドコンピューティングの種類・技術の現状や利点・問題点などについて、講義する。
第2回	オンラインストレージ演習-1	オンラインストレージ演習の準備を行う。
第3回	オンラインストレージ演習-2 講義	オンラインストレージとZoomオンライン会議での活用方法を講義する。
第4回	オンラインストレージ演習-2 演習	オンラインストレージとZoomオンライン会議での活用方法を演習する。
第5回	PaaS演習-1 講義	Kintoneの利用準備と簡単なアプリ作成の方法を講義する。
第6回	PaaS演習-1 演習	Kintoneの利用準備を行い、簡単なアプリを作成する。
第7回	PaaS演習-2 講義	Kintoneによる、アプリ（請求書）の作成方法を講義する。
第8回	PaaS演習-2 演習	Kintoneで、アプリ（請求書）を作成する。
第9回	データ活用 講義	Kintoneで生成したデータを利用して、データ分析を行う方法を講義する。
第10回	データ活用 演習	Kintoneで生成したデータを利用してデータ分析を行う。データ分析で利用するツールは、Power BI Desktop（データ分析・可視化アプリ）を利用する。
第11回	SaaS演習 講義	プラットフォームビジネスについて講義する。
第12回	SaaS演習 演習	プラットフォームビジネスを構築するクラウドサービスのアカウントを取得し、運用・利用する演習を行う。
第13回	活用事例	「ゲスト講師による講義・担当教員によるまとめ。
第14回	総括	学習内容の振返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業は、前回の授業の内容を利用してさらに発展させる方式を採るので、次回までに、当日実施したテキストの該当箇所の復習を必要とする。
本授業の準備学習・復習時間は各1時間、宿題は各1時間（6回）を標準とする。

【テキスト（教科書）】
配布する。

【参考書】
・サイボウズ提供の「はじめてのKintoneガイドブック」（無償配布）をPDFファイルで配布する。

【成績評価の方法と基準】
各回の課題演習（40%）、期末レポート（60%）

【学生の意見等からの気づき】
ビデオ教材を充実していることで、個別質問を躊躇するケースがあった。
理解できないままにすることは望まない。直接の対話を求める。
このことは授業の最初にアナウンスする。

【学生が準備すべき機器他】
自身のPCを各自準備する。Power BI DesktopのみWindowsPCが必要である。上述の条件を満たすPCを持たない場合、大学の貸与PCを利用することを検討すること。

【その他の重要事項】
必要な前提知識として、基本的なExcelの操作ができる程度の知識を有すること。
オフィスアワーは、金曜日5限とする。この日時の都合が悪い学生については、個別に調整する。
大手電機メーカーにおいて28年間勤務し、一貫してITシステムの開発・研究に従事。当該授業のテーマとして、ITの総合的な観点で授業を実施する。

【Outline (in English)】
The use of cloud computing is rapidly expanding. Cloud computing has made it possible to use it in various business scenes. Especially, the services of cloud computing are being used without acquiring the difficult skills of IT, and the era when we use IT directly is approaching. On the other hand, it is a fact that there are some problems. However, such information on light and shadows is already well-known. The purpose of this class is to experience the cloud computing, understand advantages and problems, and acquire knowledge that enables practical judgment when necessary. This lecture is for Small to Medium Business.

MAN510F2（経営学 / Management 500）

モバイルプログラミング

Mobile programming

五月女　健治［サオトメ ケンジ］

単位数：**2単位**
学期：**春学期前半**/Spring(1st half)
授業分類：**専門講義**
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
MIT App Inventor（以降、App Inventor）により、モバイルアプリの作成を通して、基本的なプログラミング技術を学びつつ、ビジネスで必要となるさまざまな技術を体験することによって、企業人としての高度なITの知識の習得を可能とする。
現在の時代の転換期において、企業は本格的なデジタルトランスフォーメーション（DX）に取り組むべき時期に来ている。しかし、企業人のITリテラシーは、そのスピードに対応できているのか。
App Inventorは、学校でのプログラミング教育に使用されているScratchと同じビジュアルプログラミングであると同時に、ビジネスで必要となる技術を利用して、本格的なモバイルアプリを作成できるプログラミング環境である。
対象は、中小企業を想定する。

【到達目標】
基本的なプログラミング技術と、ビジネスで必要となるさまざまなIT技術を、プログラミングを通して体験することによって、企業人としての高度なITの知識を習得する。
自身のソリューションを想定したアプリ作成ができるプログラミングスキルを習得したいときは、当科目を受講後に「モバイルプログラミング（アドバンス）」を受講すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
App Inventorを利用して、プログラミング技術の基礎を演習する。
授業は、演算、分岐や繰返しを行うプログラミングとしての基本的な機能とIT関連の外部機器やサービスを利用する機能（コンポーネント）を使用して、基礎的なモバイルアプリの作成を行う。
各回の提出課題に対して改善点がある場合は、個々にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	アプリ作成環境 講義	App Inventorでモバイルアプリを作成する開発環境について講義する。
第2回	アプリ作成環境 演習	App Inventorでモバイルアプリを作成する開発環境を、自身のPCとモバイル端末で構築する。
第3回	チュートリアル初級 講義	App Inventorが提供する基礎的なチュートリアルアプリについて講義する。
第4回	チュートリアル初級 演習	基礎的なチュートリアルアプリを作成し、App Inventorの基本を学習する。
第5回	プログラム構造 講義	演算機能、分岐や繰返しを行う機能など、どのようなプログラミング言語にも備わっている必須の機能について講義する。
第6回	プログラム構造 演習	App Inventorによって、演算機能、分岐や繰返しを行う機能を演習する。
第7回	チュートリアル中級 講義	App Inventorが提供するコンポーネントについて講義する。
第8回	チュートリアル中級 演習	応用的なチュートリアルアプリを作成し、App Inventorのアプリ作成方法を演習する。
第9回	コンポーネント 講義	コンポーネントについて講義する。
第10回	コンポーネント 演習	いくつかのコンポーネントを組み合わせて、アプリを作成する。
第11回	拡張機能　講義	App Inventorの拡張機能（IoT）を講義する。
第12回	拡張機能　デモ	拡張機能（IoT）を使用したアプリを作成するデモを行う。
第13回	まとめ	App Inventorについて、まとめる。
第14回	期末課題	期末課題のテーマ選定と作成を指導する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業は、前回の授業の内容を利用してさらに発展させる方式を採るので、次回までに、当日実施したテキストの該当箇所の復習を必要とする。

【テキスト（教科書）】
講義資料を配布する。

【参考書】
・MIT App Inventorの公式サイト
https://appinventor.mit.edu/

【成績評価の方法と基準】
各回の課題演習（70%）、期末課題（30%）。
期末課題として、この授業で習得したスキルに基づいて、以下のいずれかのテーマのレポートを求める。
・自身の企業・組織におけるプログラミングなどのIT教育
・App Inventorによるアプリ作成

【学生の意見等からの気づき】
ビデオ教材を充実していることで、個別質問を躊躇するケースがあった。
理解できないままにすることは望まない。直接の対話を求める。
このことは授業の最初にアナウンスする。

【学生が準備すべき機器他】
App Inventor のアプリを作成するPC（WindowsまたはMac）と、アプリの実行環境としてAndroidまたはiOSを搭載したモバイル端末（スマートフォンまたはタブレット）が必要である。

【その他の重要事項】
必要な前提知識として、日常的な使用程度のモバイル端末の操作ができること。
プログラミングの知識・体験は、不要である。
オフィスアワーは、金曜日5限目とする。この日時の都合が悪い学生については、個別に調整する。
大手電機メーカーにおいて28年間勤務し、一貫してITシステムの開発・研究に従事。当該授業のテーマに対して、ITの総合的な観点で授業を実施する。

【Outline (in English)】
Using MIT App Inventor, it is possible to acquire advanced IT literacy as a business person by learning basic programming technology and experiencing various technologies required for business through the creation of mobile apps. This lecture is for Small to Medium Business.

MAN510F2（経営学 / Management 500）

モバイルプログラミング（アドバンス）

Mobile programming:Advance

五月女　健治［サオトメ ケンジ］

単位数：2単位
学期：春学期後半/Spring(2nd half)
授業分類：専門講義
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
MIT App Inventor（以降、App Inventor）により、モバイルアプリの作成を通して、基本的なプログラミング技術を学びつつ、ビジネスで必要となるさまざまな技術を体験することによって、企業人としての高度なITの知識の習得を可能とする。
この科目は、科目「モバイルプログラミング」の応用科目である。この科目を受講することで、自身の課題を想定し、それを解決するITソリューションを実現するプロセスを体験する。この体験は、より高度なITの知識の習得を可能とする。
現在の時代の転換期において、企業は本格的なデジタルトランスフォーメーション（DX）に取り組むべき時期に来ている。しかし、企業人のITリテラシーは、そのスピードに対応できているのか。
App Inventorは、学校でのプログラミング教育に使用されているScratchと同じビジュアルプログラミングであると同時に、ビジネスで必要となる技術を利用して、本格的なモバイルアプリを作成できるプログラミング環境である。
対象は、中小企業を想定する。

【到達目標】
この科目は、科目「モバイルプログラミング」の応用科目である。自身の課題を想定し、それを解決するITソリューションを実現するプロセスを体験する。この体験によって、App Inventorまたは他のプログラミング言語によるアプリケーションの設計、作成の基本的なスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
App Inventorが提供する言語機能とIT関連の外部機器やサービスを利用する機能（コンポーネント）の全体像を把握し、それらを利用して実現できるソリューション例を体験する。また、期末課題として、個別指導を行いつつ、自身のソリューションを実現する。
各回の提出課題に対して改善点がある場合は、個々にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	言語機能　講義	App Inventorが備えるリスト、辞書、関数など、言語としての応用機能について講義する。
第2回	言語機能　演習	リスト、辞書、関数など、応用機能を演習する。
第3回	コンポーネント1　講義	App Inventorが提供する各コンポーネントの基本的な機能と動作について講義する。
第4回	コンポーネント1　演習	約40種類のコンポーネントのうち20種類のコンポーネントの基本的な機能と動作について演習する。
第5回	コンポーネント2　講義	App Inventorが提供する各コンポーネントの基本的な機能と動作について講義する。
第6回	コンポーネント2　演習	約40種類のコンポーネントのうち20種類のコンポーネントの基本的な機能と動作について演習する。
第7回	ソリューション1　講義	App Inventorが提供するコンポーネントを統合したソリューション（例題1）について講義する。
第8回	ソリューション1　演習	ソリューション（例題1）の実現を演習する。
第9回	ソリューション2　講義	App Inventorが提供するコンポーネントを統合したソリューション（例題2）について講義する。
第10回	ソリューション2　演習	ソリューション（例題2）の実現を演習する。
第11回	拡張機能　講義	App Inventorの拡張機能（IoT、AI）を講義する。
第12回	拡張機能　デモ	拡張機能（IoT、AI）を使用したアプリを作成するデモを行う。
第13回	まとめ	App Inventorについて、まとめる。
第14回	期末課題	ソリューションを想定し、その実現に着手できるように指導する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業は、前回の授業の内容を利用してさらに発展させる方式を採るので、次回までに、当日実施したテキストの該当箇所の復習を必要とする。

【テキスト（教科書）】
講義資料を配布する。

【参考書】
・MIT App Inventorの公式サイト
https://appinventor.mit.edu/

【成績評価の方法と基準】
各回の課題演習（70%）、期末課題（30%）。
期末課題として、自身の課題を設定し、App Inventorにより、そのソリューションを実現する。必要なら、期末課題の一連の作業について個別に指導する。

【学生の意見等からの気づき】
ビデオ教材を充実していることで、個別質問を躊躇するケースがあった。
理解できないままにすることは望まない。直接の対話を求める。
このことは授業の最初にアナウンスする。

【学生が準備すべき機器他】
App Inventor のアプリを作成するPC（WindowsまたはMac）と、アプリの実行環境としてAndroidまたはiOSを搭載したモバイル端末（スマートフォンまたはタブレット）が必要である。

【その他の重要事項】
必要な前提知識として、科目「モバイルプログラミング」の受講、またはプログラミング経験を必要とする。なお、プログラミング経験者の場合は、事前または必要になった時に、科目「モバイルプログラミング」の講義資料を参照する必要がある。
期末課題について、それぞれの受講者の興味・スキルはさまざまであるので、自身に合ったソリューションを考える。そのためこれについては個別に指導する。
オフィスアワーは、金曜日5限目とする。この日時の都合が悪い学生については、個別に調整する。
大手電機メーカーにおいて28年間勤務し、一貫してITシステムの開発・研究に従事。当該授業のテーマに対して、ITの総合的な観点で授業を実施する。

【Outline (in English)】
Using MIT App Inventor, it is possible to acquire advanced IT literacy as a business person by learning basic programming technology and experiencing various technologies required for business through the creation of mobile apps. This lecture is for Small to Medium Business.
This subject is the applied subject of the subject "Mobile Programming".

MAN550F2（経営学 / Management 500）

Global Management

Global Management

山本　晋也［ヤマモト シンヤ］

単位数：**2単位**
学期：**秋学期後半**/Fall(2nd half)
授業分類：**専門講義**
Global MBA
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course focuses on the decentralization of society brought about by rapid technological innovations such as artificial intelligence, robotics, and blockchain in today's global business. It aims to provide a comprehensive understanding of the meaning of accelerating decentralization in the management and organization of existing global businesses and its impact on society. Students will explore the importance of knowledge and experience in current business workflows, the challenges posed by the innovation dilemma, and the importance of small organizations and social entrepreneurs in the global business environment. Additionally, the course will cover topics related to Web 3.0, Decentralized Autonomous Organizations (DAOs), and community management.

【Goal】
1. Gain an in-depth understanding of the challenges in the business model of Web 2.0 (Web 1.0) so-called global enterprises.
2. Investigate the impact of rapid technological innovation on the management of existing global businesses.
3. Understand the importance of field knowledge and experience in managing and improving customer experience, operational workflows, etc.
4. Analyze the innovator's dilemma and ambidextrous management and their impact on organizations.
5. Recognize the importance and potential of small organizations and social entrepreneurs in the global business ecosystem.
6. Understand the concepts of Web 3.0 and Decentralized Autonomous Organizations (DAOs) and their impact on global business management.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain"DP1","DP2","DP3"and"DP5".

【Method(s)】
This course will employ a combination of lectures, case studies, group discussions, and guest lectures from industry experts. Real-world examples and practical applications will be emphasized to enhance understanding and critical thinking.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
あり /Yes

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1st	Changes in Global Business 1	1. Changes in global business models due to technological innovation 2. What is Web 1.0? 3. What is Web 2.0? 4. What is Web 3.0? 5. Case studies
2nd	Changes in Global Business 2	1. Changes in organizational theory in global business due to technological innovation 2. What is Management 1.0? 3. What is Management 2.0? 4. What is Management 3.0? 5. Case studies
3rd	Case: What is technological decentralization?	1. Artificial Intelligence 2. Robotics 3. Blockchain 4. The meaning of a decentralized society 5. Case studies
4th	How money works	1. History of the Financial System 2. Capital in the 21st Century 3. Capital and Ideology 4. Broken Money 5. Case Studies
5th	From corporations to decentralized autonomous organizations (DAOs)	1. The importance of small organizations (startups) and communities in global business management 2. The history of corporations 3. What is a decentralized autonomous organization (DAO)? 4. Case studies
6th	Creating a decentralized economic system (new added value) through community management	1. A new model for creating added value in global business management 2. A new method of fundraising (token financing) 3. What is an IEO/ICO? 4. Case studies
7th	Application to project research	1. Application of Web 3.0 to project research 2. Project pitch 3. Case study

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to read relevant articles, case studies, and research papers as assigned before each class. They will also be required to actively participate in online forums and discussions related to the course topics. In general students may expect 3 to 5 hours per week required outside of class for reading and assignments.

【Textbooks】
1. The Innovator's Dilemma: When New Technologies Cause Great Firms to Fail - by Clayton M. Christensen
2. Lead and Disrupt: How to Solve the Innovator's Dilemma - by Charles A. O'Reilly III and Michael L. Tushman
3. Social Entrepreneurship: What Everyone Needs to Know - by David Bornstein
4. Capital in the Twenty-First Century - by Thomas Piketty
5. Capital and Ideology - by Thomas Piketty
6. Broken Money: Why Our Financial System is Falling Us and How We Can Make it Better - by Lyn Alden

【References】
Additional reading materials and references will be provided throughout the course on relevant topics.

【Grading criteria】
Grades will be based on class participation(30 pts), group discussion(20 pts), project pitch(20 pts) and a final report(30 pts).

【Changes following student comments】
I would like to try to let students learn practical lessons from actual cases of managing a global company.

【Equipment student needs to prepare】
Laptop/Tablet for student should be prepared as BYOD (Bring Your Own Device).

【Others】
This class is geared to all organizations major/medium/small enterprises, startup, community, Central/Local Government, Hospital and University/Institute.

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline (in English)】
This course focuses on the decentralization of society brought about by rapid technological innovations such as artificial intelligence, robotics, and blockchain in today's global business. It aims to provide a comprehensive understanding of the meaning of accelerating decentralization in the management and organization of existing global businesses and its impact on society. Students will explore the importance of knowledge and experience in current business workflows, the challenges posed by the innovation dilemma, and the importance of small organizations and social entrepreneurs in the global business environment. Additionally, the course will cover topics related to Web 3.0, Decentralized Autonomous Organizations (DAOs), and community management.

MAN550F2（経営学 / Management 500）

Business Communication in Japanese Organization

Business Communication in Japanese Organization

一守　靖［イチモリ ヤスシ］

単位数：**2単位**
学期：**春学期後半**/Spring(2nd half)
授業分類：**専門講義**
Global MBA
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course presents communication as a critical component for success in the workplace. To develop yourself as a leader who is capable of decision-making from a global perspective that takes consideration of various viewpoints, who possess thoroughgoing knowledge of Japanese small, mid to large corporations, who is capable of creating connections around the world, you have to become more aware of the differences between yourselves and people from other countries. In this class, you will learn cultural, behavioral and organizational differences between Japan and other countries, including your mother country, to make an effective communication strategy in a workplace.

【Goal】
Upon successful completion of this class, you will be able to:
· Build an understanding of different organizational cultures, business practices, and social norms to communicate more effectively in Japan and cross-cultural business contexts.
· Employ principles of effective group communication to cultivate trust and understanding, increase open participation, and strengthen decision making in work groups and teams.
· Profile and develop your intercultural competence.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain“DP1”,“DP2”,“DP3”,“DP4”and“DP5”.

【Method(s)】
This class is conducted based on a case-method. Some lectures will also be provided to support the class discussion.
I will share my experiences how I communicated effectively in a real working place at a local and a multinational company. I also provide you an opportunity to communicate with non-Japanese people who have an experience in working with Japanese people so that you understand the real situation from a non-Japanese viewpoint. You can get may feedback by email when you submut a final report.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
Class#1 June 7	Understanding the Foundations of Business Communication	Welcome Course overview and policy The Foundations of Business Communication
Class#2 June 7	Cultural Differences	Cultures and Organization Trust Building
lass#3 June 14	Human Resource Management in Japanese and Multi-National Company	Case: “I don’t want to take a new role” Questions Q1. Why the company changes her role so often? Q2. What are main features of Japan employment system and Human Resource management?
Class#4 June 14	Individualism (Individualist vs. Collectivist)	Case: “Sense the Atmosphere” Questions Q1 Why did the procurement manager get angry? Q2 If you were Huang Yong, how would you communicate with the procurement manager? Q3 If you were the procurement manager, how would you communicate with Huang Young? Case: “Expensive Signboard” Questions Q1 Why did the marketing manager complete the sign-board setting by himself? Q2 If you were the marketing manager, how would you proceed the task? Q3 If you were president Sugiyama, how would you communicate with the marketing manager?
Class#5 June 21	Uncertainty Avoidance (Weak vs. Strong)	Case: Still 9:30 am! Questions Q1. How did Maha feel? Q2. Why did Mr. Tanaka check the progress in the (too) early stage? Q3. If you were Mr. Tanaka (Maha), how would you communicate? Case: “Ho-Ren-So Questions Q1.What is a “Ho-Ren-So” and what are benefits to do so? Q2.Why Alili and Yama didn’t report the situation to Hamada-san? Q3. How do you advise Hamada-san to improve the situation?

Class#6 June 21	Long-Term Orientation (Short-term vs. Long-term)	Case: “I can’t change it” Questions Q1.Why did Mr. Takagi get angry? Q2.If you were Ann, how would you reply to Mr. Tanaka? Q3 How do you advise for Ann to improve the situation? Case “Same conclusion” Questions Q1.Why did the customer get angry against Kamara’s reply? Q2. Why did the customer ask the same question to Nisha? Q3. Why did the customer get satisfaction from the reply by Nisha, although it was the same reply as one Kamara did? Case: Sales Incentive Program Questions Q1. Why do Japanese employees think a sales incentive program was not effective for Japan office? Q2. Do you like the program or not? Why? Q3. How do you modify the program for Japan office?
Class#7 June 28	High /Low context culture	Case: “I was delegated…” Questions Q1.What was Mr. Ichikawa’s expectation for Kumar? Q2.How did Kumar think when he got a request from Mr. Ichikawa? Q3. Please give Mr. Ichikawa and Kumar advice about how to avoid miscommunication next time. Case: “Please complete it like what you do with other Japanese company” Questions Q1.Why did Japan team do sightseeing within the city before the meeting? Q2. How do you understand what Mr. Takahashi said at the last time? Q3. Why were Panda’s expectations disappointed?
Class#8 June 28	Masculinity (Feminine vs Masculine)	Case: “Nominucation 1” Questions Q1. How do you think the president’s behavior? Q2. If you were Yumi, how would you behave under the situation? Case: “Nominucation - Soramichi Questions Q1. If you were the president of a company, would you encourage "Nominication" in your company? Why ? Q2. How, would you interpret the generational views on “Nominication” presented in this case? Q3. In this case, the frequency of “Nominication” was reported by age group. What other categories do you think are possible?
Class#9 July 5	Power Distance (Small vs. Large)	Case “New Japanese president in Korea” Questions Q1. Why did president Tanaka behave like that? Q2. Why Korean employees didn’t accept Tanaka’s behavior? Q3. If you were president Tanaka, how would you behave? Case: “A capable boss” Questions Q1.Why does Mr. Ueda get a good reputation from his subordinates? Q2.Why does Mr. Ueda get a low evaluation from Peter? Q3.How do you advise for Mr. Ueda if he needs to change his behavior? Why? Case: ”No submission” Questions Q1. What is the problem from Jack’s point of view? Q2.How well do you think Jack understands the reasons for Akash’s behavior? Q3. What is Jack’s proposal to solve the problem? What other solutions could be there?
Class#10 July 5	Business Communication – Japanese point of view	Lecture Reality of business communication in large traditional Japanese company 【Guest Speaker】 Seiya Raiju, VP Global QA/ RA at HOYA K,K.

Class#11 July 12	Managing conflict	Case “Performance Improvement Plan” Questions Q1. how did this happen? Q2: If you were Manager Kizuki, how would you proceed? Q3: It is said that communication in business is becoming increasingly difficult. Why is this? And what can we do about it? Case: “Beautiful Format” Questions Q1. Do you agree with the explanation Mr. Yamashita did? Q2. Why is Japanese meticulous about the format? Q3. If you were Sharm, how would you do for the request? Case: “Delivery at an interim stage” Questions Q1.Why did the Japanese company test and point out a defect for incomplete product? Q2. What are problems at this stage? Q3. If you were Dill, how would you do to improve the situation?
Class#12 July 12	Business Communication – Non Japanese point of view	Lecture How to work effectively with Japanese colleagues as a Non-Japanese 【Guest Speaker】 Jason Hung, BMW Japan.
Class#13 July 19	Cross Cultural Management	Case “Ben &Jerry’s Japan” Questions Q1. What are strengths, weaknesses, opportunities and threads of Ben &Jerry’s ? Q2. What do you think Japanese consumers are looking for in ice cream? Q3. If you were a member of Ben &Jerry’s top management team, what decision would you make - Go with Iida or Go with Yamada or No go?
Class#14 July 19	Intercultural Competence	Profile and develop an intercultural competence 1.Analyze your intercultural competency. 2.Create three personal development targets. 3.Share your personal development targets with class mates and get insights

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
You are required to read a case which will be provided in advance of the class, and prepare your thoughts on questions delivered together with the case.(As a standard, 2 hours for preparation and 2 hours for review: a total of 4 hours.)

【Textbooks】
近藤彩ほか著『ビジネスコミュニケーションのためのケース学習 職場のダイバーシティで学び合う【教材編】』ココ出版 ISBN978-4-904595-37-4 JPY1,728
(Cases in the book will be translated and distributed by lecturer – Translation was permitted by authors for the purpose of this class)

【References】
· Hofstede, G. et al. (2010) Cultures and Organizations: software of the mind: intercultural cooperation and its importance for survival 3rd edition, McGraw-Hill
· Trompenaars, F. and Hampden-Turner, C. (2012) Riding the waves of culture – Understanding Diversity in Global Business, Clerkenwell, London
· Meyer, E. (2015) The Culture Map – Decoding how people think, lead, and get things done across cultures, International edition, PublicAffairs, New York.

【Grading criteria】
Assignments Grade Weights
Contribution to class discussion 80%
Excellent(E)80%
Good(G) 60%
Average(A) 40%
Poor(P) 0%
Final report 20%
Excellent(E)20%
Good(G) 10%
Average(A) 5%
Poor(P) 0%
Total 100%

【Changes following student comments】
Encourage students to share their opinion so that all of the participants learn from others, learn diversity.

【Equipment student needs to prepare】
N/A

【Others】
The order of lectures may change depending on the level of understanding of the participants and the progress of the lecture.
Guest speakers are subject to change.

【Outline (in English)】
【Course outline】 This course is to learn not only business communication but also cross-cultural management in a diverse work place.
【Learning Objectives】 The goal of this course is to build an understanding of effective communication in Japan and cross-cultural business contexts.
【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend two to four hours to understand the course content
【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process Term-end report (20%), and in-class contribution (80%).

MAN550F2（経営学 / Management 500）

Management Strategy

Management Strategy

栗原　浩一［クリハラ コウイチ］

単位数：**2単位**
学期：**秋学期前半**/Fall(1st half)
授業分類：**専門講義**
Global MBA
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
An effective management strategy is absolutely necessary for companies to create innovation. Students will learn the basic knowledge and essential skills to plan and practice management strategy.

【Goal】
Management strategy is decision making necessary to achieve the company's goal. The purpose of this course is to systematically learn the basic knowledge and the theory which are necessary for planning management strategy, through case study and group discussions.
By planning strategies for specific case companies, students learn the process of planning a detailed strategy. Based on the basic knowledge and concepts such as the Five Forces, SWOT, and the Balanced Scorecard, students improve their skill at analyzing companies' practical innovations. It is very important for students to have a thorough, structured, and consistent understanding of basic concepts and theories of strategic management.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain"DP1","DP2","DP3"and"DP4".

【Method(s)】
Basic concepts and theories for planning strategies are provided briefly in each lecture. Students must apply them to specific companies and plan the detailed strategies in their group work. Students will be expected to formulate an agenda for group work, develop a presentation file, and make a presentation and lead the subsequent discussion in the next lecture.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1st	Guidance	What is management strategy? Process of planning a strategy; selection of specific case companies
2nd	Strategy	Definition of strategy Management strategy and innovation
3rd	Domain	Definition of domain Domain setting
4th	Competitive Strategy	Five forces Competitive Advantage
5th	Resource Strategy	Resource-based view VRIO
6th	Business Model	Business model creation Balanced Scorecard
7th	Discussion	Final presentation

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Each class included a detailed agenda for group work. Students must prepare a presentation file going over the results of group work in each lecture. (As a standard, 2 hours for preparation and 2 hours for review: a total of 4 hours.)

【Textbooks】
Koichi Kurihara and Kiminori Gemba, Basic of Management Strategy, 2019, Amazon Kindle.

【References】
Michael E. Porter, Competitive strategy : techniques for analyzing industries and competitors : with a new introduction, Free Press ,1998
Jay Barney, Gaining and sustaining competitive advantage, Prentice Hall, 2002

【Grading criteria】
Class Participation:40%
Presentation:30%
Report:30%

【Changes following student comments】
Supportive information explaining the frameworks introduced in the classes are provided in a written form following such introductions. This will help students further understand the lectures.

【Equipment student needs to prepare】
Each student needs to prepare/bring in a PC to attend class discussions, which normally is held in the classroom, but occasionally can be held in a hybrid situation with students attending both online and offline.

【Outline (in English)】
An effective management strategy is absolutely necessary for companies to create innovation. Students will learn the basic knowledge and essential skills to plan and practice management strategy.

MAN550F2（経営学 / Management 500）

Strategic Organizational Management（Corporate Governance and Ethics）

Strategic Organizational Management（Corporate Governance and Ethics）

Nichols David［ニコルズ デビッド］

単位数：**2単位**
学期：**春学期前半**/Spring(1st half)
授業分類：**専門講義**
Global MBA
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
Effective strategic organizational management must consider both management and governance as well as ethics in order for any organization to make sustainable long-term growth possible. How an organization governs its business activities is dependent on factors including the industry, legal jurisdiction, regulatory regime and society in which it is operating.
This course will focus on developing tools that future managers can use to manage and govern at all levels of the company and stages of their career. Through case studies students will understand the origins and fundamental reasons for established governance and strong ethics, and employees, managers and other stakeholders' roles in developing and maintaining robust corporate governance in an ethical environment.

【Goal】
Students should be able to:
- Explain the difference between corporate governance and management and how they differ and are related in all levels of the organization
- Understand the historical background and events that drive the present focus on corporate governance and ethics
- Compare corporate governance and ethics in different cultures and industries
- Analyze the implications for managers and corporate functions at all levels of the corporation
- Identify areas where corporate governance and ethics will need to further evolve to meet the challenges of the evolving business landscape

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
Case studies /Lecture /Group discussion /Activity /Presentation
- Case Studies – Students will be assigned individually or in groups to introduce cases to kick off case discussion
- Lecture
- Group discussion
- Group presentation of case studies
Students are expected to read a pre-assignment.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	- Introduction - Management and Governance	- Self-introduction – students &instructor - Why Governance – the Principal /Agency problem - The difference between management and governance - The history of corporate governance
2	- Corporate Governance at the Board of Directors level	- Roles and responsibilities of Board Directors in Europe, Japan and the US - Defining BOD Fiduciary responsibilities - Comparison of different corporate structures
3	- Ethical decision making	- Ethical decision making framework - Ethical dilemma cases - Ethics in context of industry and cultures - Customer protection vs. fiduciary duty
4	- Corporate governance in the organization - Project and product governance	- Three lines of defense - CG throughout the organization - Using governance to keep projects under control
5	- Corporate governance in different environments	- Comparison of corporate governance in - The US. - Europe - Asia - Japan
6	- Corporate governance and ethics in the 21st century	- Focus on ESG - Technology Impact - Future expectations of CG
7	- Student led case study discussions	- Corporate Governance and crisis management

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Pre-reading and case preparation will be required.
Preparation 1.5 hours, review 1 hour, a total of 2.5 hours per week.

【Textbooks】
To be confirmed. Handouts and/or URLs to reference materials will be provided. Some case studies will require online purchase. Details will be provided later.

【References】
The Case Study Handbook - A Student's Guide, Wilson Ellet, Harvard Business Review Press, 2018

【Grading criteria】
Course grades are calculated according to the following method
- Class participation and attitude 50%
- Case study presentations 15%- each student will have the opportunity of kicking off a case discussion during the course
- Peer evaluations 10%
- Quality of submitted evaluations 10%
- Group led case discussion 15%
More detailed information including schedule will be provided at the first class

【Changes following student comments】
No previous class

【Equipment student needs to prepare】
It is highly recommended that students bring laptop computers or tablets with internet access to each class

【Outline (in English)】
Effective strategic organizational management must consider both management and governance as well as ethics in order for any organization to make sustainable long-term growth possible. How an organization governs its business activities is dependent on factors including the industry, legal jurisdiction, regulatory regime and society in which it is operating.

This course will focus on developing tools that future managers can use to manage and govern at all levels of the company and stages of their career. Through case studies students will understand the origins and fundamental reasons for established governance and strong ethics, and employees, managers and other stakeholders' roles in developing and maintaining robust corporate governance in an ethical environment.
Materials will include case studies and relevant articles and will be communicated later.
Course schedule is subject to change.
Grading criteria:
- Class participation and attitude 50%
- Case study presentations 15%- each student will have the opportunity of kicking off a case discussion during the course
- Peer evaluations 10%
- Quality of submitted evaluations 10%
- Group led case discussion 15%

MAN550F2（経営学 / Management 500）

Business Practice in Japan

Business Practice in Japan

高田　朝子、Kenneth Pechter

単位数：**2単位**
学期：**秋学期前半**/Fall(1st half)
授業分類：**専門講義**
Global MBA
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course provides an introduction to standard business practice in Japan. The purpose of this introduction is to provide general preparation for working in Japan, as well as specific preparation for the practical learning opportunities students will encounter in the form of internships or field research. Accordingly, this course also provides an overview of these practical learning opportunities, internship and field research. In the process, students will discuss and be exposed to key traits and behaviors that will help them to successfully navigate the GMBA program.
This course also contributes to the three core learning objectives of the GMBA Program, which are to instill the following skills:
1 Practical Management Competency
2 Critical Analysis Competency
3 Communication Competency

【Goal】
The goal of this course is to develop understanding of standard business practice in Japan, in order for students to make the most of their practical learning experiences via internships or field research. In the process, students work on developing key traits and behaviors to support successful completion of the GMBA program, as well as future careers both in and out of Japan.
Upon completion of the course, students should have a basic knowledge of standard business practice in Japan, including:
- Business Professionalism in Japan
- Business Communication in Japan
- Organizational Behavior and Japan Regional Government
- Consumer Psychology and Marketing in Japan
- Legal Compliance for Internships in Japan
- Business Manners in Japan
This learning is relevant to work in both large corporations as well as small &medium enterprises in Japan.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain“DP1”,“DP2”,“DP3”and“DP5”.

【Method(s)】
The primary approach of this course is in-class discussion – in the form of both lectures and guided discourse – supported by outside readings. Students are expected to actively participate in this discussion, and be prepared to ask questions of concern based on their own experiences.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview	Business Professionalism in Japan
2	Organizational Behavior and Japan Regional Government	Regional government structure, organizational behavior and business practice in Japan
3	Legal Compliance for Internships in Japan	Legal and regulatory compliance while doing an internship in Japan
4	Business Manners in Japan Part I	Business manners and culture in Japan
5	Business Manners in Japan Part II	Business manners and culture in Japan
6	Consumer Psychology and Marketing in Japan	Characteristics of Japanese market, design and brand
7	Wrap-up	Integrity, accountability and business professionalism in Japan

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
For the most part, each week will be conducted as a separate unit, and so material will be provided in class. In the case that readings are required for a specific week's class, they will be assigned before, during or after class by individual instructors. Assignments may be assigned as needed in the form of short reports, presentations or take-home exams.
(In general students may expect few if any reading or other assignments outside of class.)

【Textbooks】
No textbook will be used. Handouts and reading material will be provided. Access to the internet will be needed both during and outside of class, as well as a computer for access and writing.

【References】
Handouts or URLs to reference materials will be provided. Access to the internet will be needed both during and outside of class, as well as a computer for access and writing.

【Grading criteria】
[Final grade is determined by]
· Professional attitude 60%
· Assigned work in class 40%
Students will be assessed based on their overall professional attitude, and completion of assignments should any be assigned.
Professional attitude will be judged on characteristics including the following:
- Positive and cooperative attitude during class
- Active participation during class
- Proper and business-like communications in email and other submissions
- Critical assessment and decision-making
- Punctuality during class and with regard to communications and any required submissions
Overall assessments are made in consideration of the three core learning objectives of the GMBA Program, which are instilling the following competencies:
1 Practical Management Competency
Learning Outcome 1a. Management Planning:
Student demonstrates competency in the application of the principles of management theory &practice to the planning of new business and/or the assessment of existing business
Learning Outcome 1b. Strategy Execution:
Student demonstrates competency in the application of the principles of management strategy to the planning of new business and/or the assessment of existing business
2 Critical Analytical Competency
Learning Outcome 2a. Hypothesis Setting:
Demonstrates competency in the formulation of hypotheses used to validate the planning of new business and/or the assessment of existing business

Learning Outcome 2b. Hypothesis Testing:
Demonstrates competency in the evaluation of hypotheses used to validate the planning of new business and/or the assessment of existing business
3 Communication Competency
Learning Outcome 3a. Written Communication
Demonstrates competency in professional written communication
Learning Outcome 3b. Spoken Communication
Demonstrates competency in professional spoken communication

【Changes following student comments】
Not applicable

【Equipment student needs to prepare】
Students should have use of a computer for internet access and writing, should bring the computer to class, and have access to the internet outside of class as well.

【Others】
1) Courses in general will be held face-to-face in the classroom.
2) Each class above (1 7) uses two class periods of 1 hour 40 minutes each, for a total of 3 hours 20 minutes per class

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline (in English)】
This course provides an introduction to standard business practice in Japan. The purpose of this introduction is to provide general preparation for working in Japan, as well as specific preparation for the practical learning opportunities students will encounter in the form of internships or field research. Accordingly, this course also provides an overview of these practical learning opportunities, internship and field research. In the process, students will discuss and be exposed to key traits and behaviors that will help them to successfully navigate the GMBA program.
This course also contributes to the three core learning objectives of the GMBA Program, which are to instill the following skills:
1 Practical Management Competency
2 Critical Analysis Competency
3 Communication Competency

MAN560F2（経営学 / Management 500）

Accounting

Accounting

鳥飼　裕一［トリカイ ユウイチ］

単位数：**2単位**
学期：**秋学期後半**/Fall(2nd half)
授業分類：**専門講義**
Global MBA
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
In this course, we study the fundamentals of financial accounting. We begin by exploring basic accounting concepts, such as the definition of accounting, the users of accounting information, and the principles of GAAP. Next, we learn how to prepare financial statements and analyze accounting information. Additionally, we cover key areas in financial accounting, including consolidation, revenue recognition, pension accounting, and deferred tax accounting, to deepen our understanding of the financial statements of publicly listed companies.

The objective of this class is to enhance your understanding of accounting theory and practice, develop your ability to prepare financial statements, and equip you with the skills to analyze accounting information effectively.

In addition, in this course, we will discuss on the potential opportunity of using AI in accounting.

【Goal】
Students will gain the ability to read and analyze the accounting information of publicly listed companies, as well as establish a foundation for discussing accounting treatments in complex areas. Students will also develop an understanding of the structure and management of accounts necessary for preparing accounting information.

Through this course, students are expected to attain a foundational level of knowledge suitable for various accounting certification examinations.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain“DP1”and“DP2”.

【Method(s)】
This is a lecture-based class; however, a portion of each class is dedicated to group discussions on topics related to the lecture content.
Quizzes and exams are conducted during each class to assess students' understanding of the material.

Teaching materials are made available in the "Resource" section of the database prior to each class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
Session 1	Introducing Accounting and Financial Statements	What is accounting? Who are the users of accounting information? Financial statements
Session 2	Generally Accepted Accounting Principles	Who are the SEC, AICPA, FASB, and IASB? What are Generally Accepted Accounting Principles(GAAP)?
Session 3	The Balance Sheet and its Components	Understanding the balance sheet Components of the balance sheet
Session 4	The Income Statement	Understanding the income statement Presentation of income statement
Session 5	The Double-Entry Accounting	The general journal The general ledger Trial balance Adjusting journal entries
Session 6	The Corporation	The definition of corporation What is capital stock? Cash dividends, stock dividends, and stock splits
Session 7	Preparing and Using a Statement of Cash Flows	What is a statement of cash flows? Cash and cash equivalents The presentation of the statement of cash flows
Session 8	Consolidated Financial Statements	Basis for consolidation Consolidation procedure Asset valuation Non controlling interest
Session 9	Using Financial Statements for Short-term Analysis	Using short-term ratios Current and quick ratio Working capital
Session 10	Using Financial Statements for Long-term Analysis	Quality of earnings Rate of return on investment Sales-based ratios or percentage Earnings data Rate of return on investment
Session 11	Revenue Recognition	Accounting for revenue from contracts with customers Application of 5 step model
Session 12	Accounting for Financial Insruments	What Are Financial Instruments? Recognition of Financial Instruments Measurement of Financial Instruments
Session 13	Accouting Data Analytics	Trends and Recent Developments in AI for Business Potential Applications of AI in Accounting Data Analytics
Session 14	Last Examination and its Explanation	Examination is set out of the subjects studied at this course. Explanation for the examination is provided in advance.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are expected to prepare for each class by reading the teaching materials and the relevant sections of the textbook in advance. After each class, students should review the materials to reinforce their understanding. On average, students should allocate two hours for preparation and two hours for review per class.

【Textbooks】
Wayne A. Label, Accounting for Non-Accountants 3rd Edition, 2018, sourcebooks.

【References】
Wayne A. Label and Cheryl Kennedy Henderson, Study Guide and Workbook for Accounting for Non-Accountants 4th Edition, 2019, sourcebooks.

F. Greg Burton and Eva K. Jermakowicz, International Financial Reporting Standards A Framework-based Perspective, 2015, Routledge.

【Grading criteria】
Contribution to the class through participating to the discussion 30%, Short test 30%, Last examination 40%.

【Changes following student comments】
N/A

【Equipment student needs to prepare】
Students should have use of a computer for internet access and writing, and should bring the computer to class.

【Outline (in English)】
In this course, we study the fundamentals of financial accounting. We begin by exploring basic accounting concepts, such as the definition of accounting, the users of accounting information, and the principles of GAAP. Next, we learn how to prepare financial statements and analyze accounting information. Additionally, we cover key areas in financial accounting, including consolidation, revenue recognition, pension accounting, and deferred tax accounting, to deepen our understanding of the financial statements of publicly listed companies.

The objective of this class is to enhance your understanding of accounting theory and practice, develop your ability to prepare financial statements, and equip you with the skills to analyze accounting information effectively.

In addition, in this course, we will discuss on the potential opportunity of using AI in accounting.

MAN560F2（経営学 / Management 500）

Logical Thinking vs Intuition

Logical Thinking vs Intuition

西出　香［ニシデ カオリ］

単位数：**2単位**
学期：**秋学期前半**/Fall(1st half)
授業分類：**専門講義**
Global MBA
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
Logical thinking is a powerful approach for decision making in complex situations. You will learn theory and apply it in practice. That being said, sometimes intuition is more important than logical thinking. We will discuss in groups when to take logical approaches and when to rely on intuition.

【Goal】
The goal of this course is to get familiar with the logical thought process so that it becomes a natural thought process. It is also designed to sharpen your intuition and balance your logical thinking. By the end of this course, you will be able to approach problems and challenges logically, based on existing data, information, your own hypotheses, and also using intuition.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain“DP1”,“DP2”,“DP3”,“DP4”and“DP5”.

【Method(s)】
Lesson method
- The lessons consist of lectures of about half an hour, followed by individual or group works and presentations.
- Theoretical input
- Application of logical thinking in case studies
- Simulation game in groups
- Homework

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course guideline
2	Basic logical thinking	Theory and case studies
3	Problem breakdown	Lecture, individual work in a case study
4	Questioning your level of success	Simulation game to be announced
5	Analytical approach	Lecture, individual work in case studies
6	What-if analysis	Simulation game to be announced
7	Decision making in innovation	Lecture, individual work in case studies
8	Commitment of stakeholders	Simulation game to be announced
9	Hypothesis verification	Lecture, individual work in case studies
10	Selling your product	Simulation game to be announced
11	Hypothesis verification	Lecture, individual work in case studies
12	Sustainable operation	Simulation game to be announced
13	Design thinking	Lecture, individual work in case studies
14	Tackling real-world problems	Simulation game to be announced

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Review 1 hour, homework 2 hours. A total of ca. 3 hours per week.

【Textbooks】
No textbook for this course. Slides will be mailed every week before the class.

【References】
Students are encouraged to find situations (e.g., movies, novels) where logical thinking and intuition are balanced in a person's decision-making.

【Grading criteria】
Homework 50%, performance in group works (discussions and presentations) 50%.

【Changes following student comments】
Gives opportunities to consider whether or not the current way of making decision is the best approach for the given complex situation. The course is practice-oriented.

【Equipment student needs to prepare】
PC and internet.

【Prerequisite】
Willingness to shift your current thought process to more flexible and creative ways.

【Outline (in English)】
The class consists of relatively short lectures followed by individual work and simulation game in groups. Students are given a number of case studies with multiple conditions how to make decisions in complex situations. We will discuss possible solutions and the reasoning. In a real life, however, we often have to cope with conflicting interests and uncertainties, that also require flexible and creative solutions based on logical thinking. Students will be challenged to come up with unprecedented solutions while taking into account other aspects such as interpersonal relationships, effective leadership and the various interests of stakeholders.

MAN560F2（経営学 / Management 500）

Financial Management（Analyzing and Leveraging Financial Information）

Financial Management（Analyzing and Leveraging Financial Information）

GORDON Samuel Frederick［Samuel Frederick GORDON］

単位数：**2単位**
学期：**秋学期後半**/Fall(2nd half)
授業分類：**専門講義**
Global MBA
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course provides an introduction of financial statement analysis, financial performance evaluation &peer comparison and forecasting for the development of financially "literate" managers of organizations.
This course contributes to the three core learning objectives of the GMBA program, namely 1) Practical Management Competency, 2) Critical Analysis Competency, and 3) Communication Competency.

【Goal】
Critical analysis competency
·Understand financial statements, financial ratio analysis, and business cycles.
· Understand the implications for different business models on financial statements, cash flow and financial ratios.
· Be able to analyze firm financial information with respect to change over time; relative to other firms; forecast versus actual results.
· Be able to construct business forecast based on macroeconomic, broad market, and firm and/or peer information.
Practical management competency
·Be able to evaluate distinct types of businesses based financial information and to put forward reasonable views on future expectations and overall performance risk of a particular business.
Communication competency
· Obtain competency in the language of financial statements, financial ratios and the wherewithal to understand and participate in dialogue in management assessments of financial performance and forecasting exercises.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In class lecture and discussion, case study, analysis, and corner stone project

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Financial intelligence - purpose, context and concepts (session 1)	Purpose Defining key concepts and goals What is financial analysis? Required Reading: “Financial Intelligence: A Managers Guide to Knowing What the Numbers Really Mean” Part One Required reading: “Guide to Analyzing Companies” Part 1 Sections 1
2	Financial intelligence - purpose, context and concepts (session 2)	The finance value chain and financial markets Required Reading: “Financial Intelligence: A Managers Guide to Knowing What the Numbers Really Mean” Part One Required reading: “Guide to Analyzing Companies” Part 1 Sections 1
3	Financial statement I (session 1)	Why accrual accounting and what are its implications? Income statement Required Reading: “Financial Intelligence: A Managers Guide to Knowing What the Numbers Really Mean” Part Two
4	Financial statement 1 (session 2)	Why ratio analysis matter? Key ratios for income statement analysis Dos and don’ts of working in excel Required Reading: “Financial Intelligence: A Managers Guide to Knowing What the Numbers Really Mean” Pa
5	Financial statement II (session 1)	Balance sheet Cash flow statement Required Reading: “Financial Intelligence: A Managers Guide to Knowing What the Numbers Really Mean” Part Three and Four
6	Financial statement II (session 2)	Why ratio analysis matter? Key ratios for balance sheet and cashflow analysis Cornerstone project explanation Required Reading: “Financial Intelligence: A Managers Guide to Knowing What the Numbers Really Mean” Part Three and Four
7	Business models and cycles (session 1)	Business model concepts Industry specific financial analysis Required reading: “Guide to Analyzing Companies” Part 2 Sections 11 Required Reading: “Financial Intelligence: A Managers Guide to Knowing What the Numbers Really Mean”, Part Three and Four
8	Business models and cycles (session 2)	Business cycles Financial results and ratios across different cycles Cornerstone project Q&A Required reading: “Guide to Analyzing Companies” Part 2 Sections 11 Required Reading: “Financial Intelligence: A Managers Guide to Knowing What the Numbers Really Mean”, Part Three and Four

9	Comparative analysis (Session 1)	Peer analysis Time series analysis Required reading: “Guide to Analyzing Companies” Part 2 Sections 6 thru 9 Required reading: “Number Guide: The Essentials of Business Numeracy”, Chapter 5
10	Comparative analysis (Session 2)	Forecast vs. actual Dos and don’ts of working in excel Required reading: “Guide to Analyzing Companies” Part 2 Sections 6 thru 9 Required reading: “Number Guide: The Essentials of Business Numeracy”, Chapter 5
11	Forecasting (Session 1)	Purposes Basis Techniques Required reading and case work - Harvard Business Review case - How to Choose the Right Forecasting Technique
12	Forecasting (Session 2)	Cornerstone project check in Required reading and case work - Harvard Business Review case - How to Choose the Right Forecasting Technique
13	Matching with objectives (Session 1)	Short term vs. long term financial objectives Ethical and other non-financial objectives Required reading and case work - Harvard Business Review case -The Balanced Scorecard—Measures that Drive Performance Cornerstone project finalization
14	Matching with objectives (Session 1)	Required reading and case work - Harvard Business Review case -The Balanced Scorecard—Measures that Drive Performance Cornerstone project finalization

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are usually required to spend 4 to 6 hours per week outside of required reading and assignments. In addition, students who are not familiar with statistics, and /or financial statement analysis may need some self-study (pe the optional reading noted in weeks 1 and 2 above) to enhance their level of basic understanding.

A cornerstone project which will serve as portion of the final grade be outlined in week 2, will require 10 to 12 hours and must be completed by the date of the last class in week 7.

【Textbooks】
· Financial Intelligence: A Managers Guide to Knowing What the Numbers Really Mean Copyright 2013, Karen Berman, Joe Knight, and John Case (“textbook”)
· Guide to Analyzing Companies (Pdf) The Economist,2005 (instructor to provide)
· Number Guide: The Essentials of Business Numeracy (Pdf) The Economist, fifth edition, 2003 (instructor to provide)
· Harvard Business Review cases (instructor to provide)

【References】
· Select financial data for publicly listed companies (available free via Google or Yahoo finance)

【Grading criteria】
· Thirty percent class discussion/group analysis contribution
· Forty percent partner/group analysis contribution
· Thirty percent Individual contribution (inclusive of corner stone project)

【Changes following student comments】
To be determined

【Equipment student needs to prepare】
· A laptop PC with the most recent version of excel, good internet access

【Others】
Any questions and inquiries are welcome before and after class. Also students can contact lecturer by email anytime during the course.

【Outline (in English)】
To provide students with the tools, mindset, and experience with financial analysis necessary for the financial aspects of business decision making.

MAN560F2（経営学 / Management 500）

The Foundations of Corporate Finance in a Global Context

The Foundations of Corporate Finance in a Global Context

GORDON Samuel Frederick［Samuel Frederick GORDON］

単位数：**2単位**
学期：**春学期後半**/Spring(2nd half)
授業分類：**専門講義**
Global MBA
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course provides an introduction of corporate finance in a global contacts and the extends to the rational, tools, and the real world data necessary to make sound financing and investment decisions.
This course contributes to the three core learning objectives of the GMBA program, namely 1) Practical Management Competency, 2) Critical Analysis Competency, and 3) Communication Competency.

【Goal】
To provide students with core competencies in corporate finance and a perspective on global finance.
Critical analysis competency
- Students will obtain the corporate finance foundation evaluating and pricing equity and debt and for determining the right mix of debt and equity capital for maximizing firm value.
- Students will obtain the corporate finance foundation for evaluating the potential value of projects and assets for determining if such projects and assets are expected to contribute to the maximization of firm value.
Practical management competency
- Students will be able to distinguish corporate finance in the context involving distinct types of firms in different situations common to current, global markets.
- Students will gain an awareness of corporate finance in a global context by exploring commonalities and differences of capital markets globally and in Asia Pacific.
Communication competency
- Students will obtain competency in the language of corporate finance and capital markets; and in market information and case studies that will foster their ability to probe, rationalize, and articulate core corporate finance concepts and decision making in normal business settings

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
In class lecture and discussion, case study, analysis, and corner stone project

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Key concepts and the logic of corporate finance (Session 1)	Understanding of key concepts of risk, limited liability, corporate governance, financial statements, cash flow, maximizing shareholder value Required reading textbook chapter 1 and 2 Optional reading appendix 2 (financial statements) of the textbook
2	Key concepts and the logic of corporate finance (Session 2)	Understanding of key concepts of time value of money, capital instruments, and capital markets. Required reading textbook chapter 1 and 2 Optional reading appendix 2 (financial statements) of the textbook
3	Basics of risk and equity instruments (Session 1)	Understanding the framework for measuring risk Measuring equity risk and expected return Required reading textbook chapter 3 Optional reading appendix 1 (statistics) of the textbook
4	Basics of risk and equity instruments (Session 2)	Referencing APAC/global equity market data and information Working on excel data structuring and modeling Cornerstone project explanation Required reading textbook chapter 3 Optional reading appendix 1 (statistics) of the textbook
5	Basics of risk and debt instruments (Session 1)	Understanding interest rate risk Measuring default risk and risk premiums Required reading textbook chapter 3 Optional reading appendix 1 (statistics) of the textbook
6	Basics of risk and debt instruments (Session 2)	Referencing rating agency and credit risk premium data Discussing loans vs. bonds in Asia Pacific Working on excel data structuring/modeling Cornerstone Q&A Required reading textbook chapter 3 Optional reading appendix 1 (statistics) of the textbook
7	Cost of equity vs. return on investments (Session 1)	Discussing hurdle rates and investment Review of concepts from prior weeks Required reading textbook chapter 4

8	Cost of equity vs. return on investments (Session 2)	Comparing COE and ROE/ ROI for publicly listed companies Excel formulation and structuring of analytics Required reading textbook chapter 4
9	Projects or assets decision making (Session 1)	Discussing basics of valuing assets and projects Required reading textbook chapter 6
10	Projects or assets decision making (Session 2)	Discussing project and asset decision making in the generally and in an asset management (PE/VC) context Cornerstone check in textbook chapter 6
11	Capital structure decision making (Session 1)	Discussing key factors/ decisions in determining a capital structure Reviewing the capital structure of select publicly listed companies Required reading textbook chapter 7
12	Capital structure decision making (Session 2)	Case work - Harvard Business Review case– the Capital Structure Decision: Underlying Theory Required reading textbook chapter 7
13	Global factors in corporate finance (Session 1)	Cornerstone finalization Accessing capital - USD, other G10 currencies, and other currencies Accessing capital and economic development: micro credit and micro finance Comparing international tax rules/practices that impact global corporate finance decision making and outcomes No required reading
14	Global factors in corporate finance (Session 2)	Accessing capital - USD, other G10 currencies, and other currencies Accessing capital and economic development: micro credit and micro finance Comparing international tax rules/practices that impact global corporate finance decision making and outcomes Cornerstone finalization No required reading

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are usually required to spend approximately 4 hours per week outside of required reading and assignments. In addition, students who are not familiar with statistics, and / or financial statement analysis may need some self-study (per the optional reading noted in weeks 1 and 2 above) to enhance their level of basic understanding.
A cornerstone project which will serve as portion of the final grade be outlined in week 2, will require 10 to 12 hours and must be completed by the date of the last class in week 7.

【Textbooks】
Applied Corporate Finance Fourth Edition, Aswath Damodaran. Students may rent the e-version of the book if they prefer to do so.

【References】
Reference materials to be provided by instructor
- The Key to Industrial Capitalism: Limited Liability, The Economist,23 December 1999
- Short excerpt from "Against the Gods: The remarkable Story of Risk" by Peter L Bernstein
-Short excerpts from Capital Ideas: The Improbable Origins of Modern Wallstreet" by Peter L Bernstein
- Harvard Business Review case, "The Capital Structure Decision: Underlying Theory"
Reference websites
https://pages.stern.nyu.edu/ adamodar/
https://www.google.com/finance
https://finance.yahoo.com

【Grading criteria】
30%class discussion/group analysis contribution
40%partner/group analysis contribution
30%Individual contribution (inclusive of corner stone project)

【Changes following student comments】
None

【Equipment student needs to prepare】
A laptop PC with the most recent version of excel, good internet access.

【Outline (in English)】
The course provides the basic tools and thought process of corporate finance in a global context. Students who complete the class should come away with a working knowledge of the tools for selecting and managing the capital instruments and capital structure to maximize the value of a firm in a global context.
The primary approach of this course will be a combination of required reading class discussions, exercises, and a cornerstone project that focuses on combination of rationale for/application of foundational corporate finance concepts, logic/decision trees walk thru visual the logic of corporate finance, case studies, and real world company/capital market data observations. This course willinvolve face to face teaching.

MAN560F2（経営学 / Management 500）

Human Resource Management in Japan

Human Resource Management in Japan

LANE Gary Matthew［Gary Matthew LANE］

単位数：**2単位**
学期：**秋学期後半**/Fall(2nd half)
授業分類：**専門講義**
Global MBA
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
Every company, government and non-government organization must manage its human resources taking into account how its human resources will be used to support the organizations key mission. While companies in Japan have the similar human resource management requirements as other organizations throughout the world, the way that HRM is executed in Japan has been greatly influenced by Japanese history, society and culture. This course will focus on how human resources are managed in companies in Japan both presently and how it will evolve in the future.
The course objective is to give students and understanding of how and why human resource management is applied by companies operating in Japan and be able to apply that understanding to operate successfully in the Japanese business environment both now and as human resource needs change in the future to address societal, technological, and demographic changes.
While HR professionals are welcome, this course is intended to enable line managers to maximize the impact of the human resources they are responsible for managing.

【Goal】
By the end of the course, students should be able to:
- Explain how human resource management is typically done by companies in Japan and the strengths and weaknesses of the Japanese approach
- Understand how historical, cultural, demographic, and other societal factors influenced human resource management in Japan
- Discuss how HRM in Japan differs from other markets around the world
- Understand and discuss the difference of HR needs between large, medium and small/startup companies and the pros/cons of HRM approaches to meet those needs
- Analyze the implications for managers building their careers in the Japanese business environment
- Hypothesize how HRM in Japan will evolve in response to the global economy and Japan's changing society

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain"DP1","DP2","DP3"and"DP4".

【Method(s)】
Lecture /Group discussion /Activity /Presentation
1 Lecture
2 Group discussion
3 Group activity to re-enforce lecture concepts
4 Written report
5 Presentation of final project
Students are expected to read all pre-assignments

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction &the fundamentals of HRM	- Self-introduction – students &instructor - HRM and the company mission - 7 policies of traditional Japanese HRM
2	Societal changes impacting Japanese HRM	- Declining &aging population - Female participation in the workforce - Technology (e.g., Automation, Generative AI) - Globalization including foreigners in Japan
3	Lifetime Employment	- Key characteristics of lifetime employment - What %of workforce actually included? (myths of Japanese HRM) - Strengths and weaknesses - Temporary workers
4	Life Inside the Company	- Recruitment - Training &development - Performance evaluation - Explanation of titles - Employee retention - Retirement
5	Life Inside the Company 2	- Compensation and promotion - Legal and market framework - Employee grievances and dispute resolution
6	- Needs of different size and stage companies and Japanese HRM changing to meet the future	- Addressing social change - The changing business environment - Diversity &inclusion - Going global and accepting HR imports
7	Summary and Final Group Presentations	- Course summary - Project presentations - Group Feedback

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
The students are expected to read the assigned articles provided before class. (As a standard, 2 hours for preparation and 2 hours for review: a total of 4 hours.)

【Textbooks】
articles will be posted on the Learning Management System.

【References】
None

【Grading criteria】
Class participation, group discussion, and attitude 40%
Peer evaluations 10%
Written report 20%
Final project 30%

【Changes following student comments】
Will give more specific guidance on which specific articles are relevant for specific classes.

【Equipment student needs to prepare】
Materials and equipment necessary to deliver presentations

【Others】
Office hours: after each lecture

【Outline (in English)】
Every company, government and non-government organization must manage its human resources taking into account how its human resources will be used to support the organization's primary mission. While companies in Japan have the similar human resource management requirements as other organizations throughout the world, the way that HRM is executed in Japan has been greatly influenced by Japanese history, society and culture. This course will focus on how human resources are managed in companies in Japan both presently and how it may evolve in the future.
The course objective is to give students an understanding of how and why human resource management is applied by companies operating in Japan and be able to apply that understanding to operate successfully in the Japanese business environment both now and as human resource needs change in the future to address societal, technological, economic, and demographic changes.

MAN560F2（経営学 / Management 500）

Managing Talent

Managing Talent

豊嶋　晴美［トヨシマ ハルミ］

単位数：**2単位**
学期：**秋学期前半**/Fall(1st half)
授業分類：**専門講義**
Global MBA
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
The goal of this course is to understand and be able to explain Japanese work society and its globalization particularly from different aspects, such as business communicating across cultures in workplace, organizational behavior, human capital management, general local recruiting process, and learning and development. This course helps students apply the knowledge to achieve preparation for working in Japan with various nationalities of people and managing organizational people who are critical to achieve their mission. Class will be conducted closely with instructor. This course is applicable to the both corporate size and small size of company, but if we had to choose one, then corporate is more suitable to practice.

【Goal】
By the end of the course:
1. Students are able to practice and develop their business communications skills to communicate with people who have Japanese cultural background, as well as others with various different cultural backgrounds.
2. Students are able to understand what managing talent means today on the front lines.
3. Students are able to understand the importance of the basic concepts of recruiting, training, OJT (On the Job Training), feedback and counselling in managing talent.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain“DP1”,“DP2”,“DP3”,“DP4”and“DP5”.

【Method(s)】
IN-CLASS ACTIVITY WORKSHEETS:
This course uses In-Class Activity Worksheets as a way to facilitate students' in-class discussion activities (e.g., group discussions) as an important learning activity of this course. This worksheet lists several open-ended questions relevant to the main topic of the class and provide some space for each question in which to handwrite the answer.
LECTURES WITH POWERPOINT SLIDES:
Each lecture is delivered with a set of PowerPoint presentation slides that will be projected in the classroom.
Over the course of this semester, students are required to take notes on all major information delivered through the PowerPoint lecture slides in each class.
PRESENTATION AND FINAL PAPER:
The topic to be announced in the early stage of this course. The topic of both the final paper and the presentation will be the same.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Welcome to this course	-Course &Class Introduction
2	What is managing talent?	-Human Capital Management
3	Japan business uniqueness	-Japan labor environment -Japan organization structure and behavior -Retention
4	What does talent value?	- Competency - Specialty
5	How can we measure?	- Social skills
6	Communications	-Communications style with people who have Japanese cultural background
7	What are key concepts for talent managing by recruiting leader/ learning and development leader?	- Recruiting - Learning - On the job training(counseling/feedback)
8	What are you being expected by recruiter from company?	-Recruiting process and placement
9	What is effective way of communications?	- Diversity, Equity, and Inclusiveness - Work ethic
10	Comparisons between Japanese working style and other country's	-Students will be allowed to choose one country to compare with Japan work society
11	Presentation by students	-Topic to be announced
12	Presentation by students	-Topic to be announced
13	Human Resources technology today at front line	-People technology -HR Systems &data analytics -People engagement
14	Course wrap-up	Course wrap-up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are expected to prepare their assignments, presentation, and final paper by the due date. Students' preparation and review time will be 4 hours per course. Further details will be announced in the course.

【Textbooks】
For this course, students are NOT required to purchase any textbook. Instead, students are expected to research by their own outside of class for paper.

【References】
Again Students are NOT expected to buy any books. The books are only references.
GALLUP and Tom Rath
StrengthsFinder 2.0
The new book has your unique access code to take the assessment. This access code is valid for one use only. Do not buy this book if this packet has been opened, therefore the used book is not suitable.
Erin Meyer
Culture Map

【Grading criteria】
1. Class Attendance: 40%
2. Class Participation: 20%
3. In-class Paper Presentation: 20 %
4. Final Research Paper: 20 %

【Changes following student comments】
More case studies to be included to practice

【Equipment student needs to prepare】
Students should have use of a computer for internet access and writing, and should bring the computer to class.

【Others】
N/A

【Contact】
Contact: If you have questions or other needs for communication with the instructors, please send email to;
Harumi Toyoshima's email :
harumi.toyoshima.33@hosei.ac.jp
Kiyohito Shiraishi's email: kiyoinstructor@gmail.com

【Warning】
Making copy from other student's case material is the infringement of copyright. IF ILLEGAL COPY IS FOUND, THE CREDIT WILL NOT BE AWARDED.

【Outline (in English)】
The goal of this course is to understand and be able to explain Japanese work society and its globalization particularly from different aspects, such as business communicating across cultures in workplace, organizational behavior, human capital management, general local recruiting process, and learning and development. This course helps students apply the knowledge to achieve preparation for working in Japan with various nationalities of people and managing organizational people who are critical to achieve their mission. Class will be conducted closely with instructor. This course is applicable to the both cooperate size and small size of company, but if we had to choose one, then corporate is more suitable to practice.

MAN560F2（経営学 / Management 500）

Opportunity and Entrepreneurship in Japan

Opportunity and Entrepreneurship in Japan

KENNETH G PECHTER［ケネス ペクター］

単位数：**2単位**
学期：**春学期後半**/Spring(2nd half)
授業分類：**専門講義**
Global MBA
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course provides an introduction to entrepreneurship and related opportunities in Japan. This is done in the context of lessons from the study of the innovation process, which at its core seeks to link the power of emerging ideas to the development of profitable business. Entrepreneurship is a key mode for this linkage. The Japan specific context for entrepreneurship is explored, along with the evolving nature of work and the career opportunities and challenges connected to this evolution.
This course also contributes to the three core learning objectives of the GMBA Program, which are to instill the following skills:
1 Practical Management Competency
2 Critical Analysis Competency
3 Communication Competency
Note that this course does not repeat the same content that is contained in similarly named courses the Spring 1st and 2nd Quarters, Professor Komura's Entrepreneurship and New Business Creation and Professor Connor's Leadership, Strategy, and Entrepreneurship. In fact, the three courses compliment each other well.

【Goal】
The goal of this course is to develop understanding of the opportunities and challenges related to entrepreneurship in Japan, and the forces driving them. Upon completion of the course, students should be able to answer the question, What is entrepreneurship and why does it matter? Students should understand the specific context for entrepreneurship in Japan, and the major constraints driving change in this context. Students will be able to use concepts from the study of innovation to assess these constraints, and appreciate the opportunities afforded by entrepreneurship – both to the entrepreneurs themselves and to the broader workforce – for both large corporations as well as small &medium enterprises.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain"DP1","DP2"and"DP5".

【Method(s)】
The primary approach of this course is in-class discussion – in the form of both lectures and guided discourse – supported by outside readings. Students are expected to actively participate in this discussion based on knowledge gained from the readings, and will be tested on their knowledge via presentations, assignments, quizzes and exams.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What is entrepreneurship, and what opportunities does it create?
2	Innovation & Organizations	The interaction between organizational dynamics and the innovation process
3	Entrepreneurship	The role of entrepreneurship in innovation
4	Entrepreneurship in Japan	Long-term postwar growth, the bubble economy, the lost decades, 311 and beyond
5	Escalators vs Elevators	Models for career advancement
6	Work, Love, Play and The Gig Economy	New opportunities for work in the Gig Economy
7	What's Next?	Outlook for opportunity & entrepreneurship

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Readings will be assigned during class, either via handouts or URLs for downloads. These materials are to be read thoroughly, and the student ready for discussion during the next class meeting and a quiz. Assignments in the form of short reports, presentations and take-home exams will be given as needed. A final exam, report and/or presentation will be required at the end of the course.
(In general students may expect 1 to 3 hours per week required outside of class for reading and assignments.)

【Textbooks】
No textbook will be used. Handouts and reading material will be provided. Access to the internet will be needed both during and outside of class, as well as a computer for access and writing.

【References】
Handouts or URLs to reference materials will be provided. Access to the internet will be needed both during and outside of class, as well as a computer for access and writing.

【Grading criteria】
Participation and ability to use concepts 50%
Mid-term assignments 20%
Final assignments 30%
Overall assessments are made in consideration of the three core learning objectives of the GMBA Program, which are instilling the following competencies:
1 Practical Management Competency
Learning Outcome 1a. Management Planning:
Student demonstrates competency in the application of the principles of management theory &practice to the planning of new business and/or the assessment of existing business
Learning Outcome 1b. Strategy Execution:
Student demonstrates competency in the application of the principles of management strategy to the planning of new business and/or the assessment of existing business
2 Critical Analytical Competency
Learning Outcome 2a. Hypothesis Setting:
Demonstrates competency in the formulation of hypotheses used to validate the planning of new business and/or the assessment of existing business
Learning Outcome 2b. Hypothesis Testing:
Demonstrates competency in the evaluation of hypotheses used to validate the planning of new business and/or the assessment of existing business
3 Communication Competency
Learning Outcome 3a. Written Communication
Demonstrates competency in professional written communication
Learning Outcome 3b. Spoken Communication
Demonstrates competency in professional spoken communication

【Changes following student comments】
Not applicable

【Equipment student needs to prepare】
Students should have use of a computer for internet access and writing, should bring the computer to class, and have access to the internet outside of class as well.

【Others】
1) Office Hours:
Class Days (Thursday) 18:00-18:30 (appointment advised)
2) Courses in general will be held face-to-face in the classroom.
3) Each class above (1 7) uses two class periods of 1 hour 40 minutes each, for a total of 3 hours 20 minutes per class

【Outline (in English)】
This course provides an introduction to entrepreneurship and related opportunities in Japan. This is done in the context of lessons from the study of the innovation process, which at its core seeks to link the power of emerging ideas to the development of profitable business. Entrepreneurship is a key mode for this linkage. The Japan specific context for entrepreneurship is explored, along with the evolving nature of work and the career opportunities and challenges connected to this evolution.
This course also contributes to the three core learning objectives of the GMBA Program, which are to instill the following skills:
1 Practical Management Competency
2 Critical Analysis Competency
3 Communication Competency
Note that this course does not repeat the same content that is contained in similarly named courses the Spring 1st and 2nd Quarters, Professor Komura's Entrepreneurship and New Business Creation and Professor Connor's Leadership, Strategy, and Entrepreneurship. In fact, the three courses compliment each other well.

MAN560F2（経営学 / Management 500）

Media and Entertainment

Media and Entertainment

KENNETH G PECHTER［ケネス ペクター］

単位数：**2単位**
学期：**春学期前半**/Spring(1st half)
授業分類：**専門講義**
Global MBA
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course provides an introduction to the Media & Entertainment industries. This is done in the context of lessons from the study of the innovation process, which at its core points to a major challenge of such industries: developing profitable business out of creative activity. These industries include TV, film, animation, gaming, publishing and other creative industries, with an emphasis on the situation in Japan.
This course also contributes to the three core learning objectives of the GMBA Program, which are to instill the following skills:
1 Practical Management Competency
2 Critical Analysis Competency
3 Communication Competency

【Goal】
The goal of this course is to develop understanding of the Media &Entertainment industries, and the forces driving them. Upon completion of the course, students should have a basic knowledge of the main components of these industries in Japan and overseas, of the specific characteristics of these industries in Japan, and of the major constraints driving change in these industries. Students will be able to use concepts from the study of innovation to assess these constraints, and appreciate the strategies for competition and growth suitable to these industries for both large corporations as well as small & medium enterprises.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain“DP1”,“DP2”,“DP3”and“DP5”.

【Method(s)】
The primary approach of this course is in-class discussion – in the form of both lectures and guided discourse – supported by outside readings. Students are expected to actively participate in this discussion based on knowledge gained from the readings, and will be tested on their knowledge via presentations, assignments, quizzes and exams.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What are the media & entertainment industries, and why do they matter?
2	Media &Economic Development	The role of the media & entertainment industries in economic development
3	Media &Innovation	Creative industries and innovation in Japan
4	Film &TV Industries	Film industry, TV industry, etc.
5	Entertainment & Other Visual Media Industries	Visual media entertainment, manga, anime, games, etc.
6	Music &Media Industries	Music industry, distribution &payment models
7	What’s Next?	Outlook for media & entertainment

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Readings will be assigned during class, either via handouts or URLs for downloads. These materials are to be read thoroughly, and the student ready for discussion during the next class meeting and a quiz. Assignments in the form of short reports, presentations and take-home exams will be given as needed. A final exam, report and/or presentation will be required at the end of the course.
(In general students may expect 1 to 3 hours per week required outside of class for reading and assignments.)

【Textbooks】
No textbook will be used. Handouts and reading material will be provided. Access to the internet will be needed both during and outside of class, as well as a computer for access and writing.

【References】
Handouts or URLs to reference materials will be provided. Access to the internet will be needed both during and outside of class, as well as a computer for access and writing.

【Grading criteria】
Participation and ability to use concepts 50%
Mid-term assignments 20%
Final assignments 30%
Overall assessments are made in consideration of the three core learning objectives of the GMBA Program, which are instilling the following competencies:
1 Practical Management Competency
Learning Outcome 1a. Management Planning:
Student demonstrates competency in the application of the principles of management theory &practice to the planning of new business and/or the assessment of existing business
Learning Outcome 1b. Strategy Execution:
Student demonstrates competency in the application of the principles of management strategy to the planning of new business and/or the assessment of existing business
2 Critical Analytical Competency
Learning Outcome 2a. Hypothesis Setting:
Demonstrates competency in the formulation of hypotheses used to validate the planning of new business and/or the assessment of existing business
Learning Outcome 2b. Hypothesis Testing:
Demonstrates competency in the evaluation of hypotheses used to validate the planning of new business and/or the assessment of existing business
3 Communication Competency
Learning Outcome 3a. Written Communication
Demonstrates competency in professional written communication
Learning Outcome 3b. Spoken Communication
Demonstrates competency in professional spoken communication

【Changes following student comments】
Not applicable

【Equipment student needs to prepare】
Students should have use of a computer for internet access and writing, should bring the computer to class, and have access to the internet outside of class as well.

【Others】
1) Office Hours:
Class Days (Thursday) 18:00-18:30 (appointment advised)
2) Courses in general will be held face-to-face in the classroom.

3) Each class above (1 7) uses two class periods of 1 hour 40 minutes each, for a total of 3 hours 20 minutes per class

【Outline (in English)】
This course provides an introduction to the Media & Entertainment industries. This is done in the context of lessons from the study of the innovation process, which at its core points to a major challenge of such industries: developing profitable business out of creative activity. These industries include TV, film, animation, gaming, publishing and other creative industries, with an emphasis on the situation in Japan.
This course also contributes to the three core learning objectives of the GMBA Program, which are to instill the following skills:
1 Practical Management Competency
2 Critical Analysis Competency
3 Communication Competency

MAN560F2（経営学 / Management 500）

Marketing in Japan

Marketing in Japan

大澤　裕［オオサワ ユタカ］

単位数：**2単位**
学期：**秋学期後半**/Fall(2nd half)
授業分類：**専門講義**
Global MBA
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
The objectives of this course are to learn practical marketing method in Japan and to gain a deeper understanding of its theory.
Specifically, the students will learn how to effectively attract interest in products/services, and how to build win-win relationships with sales partners in Japan.
(Each student will choose a product or service that he/she would like to sell in Japan.)

【Goal】
The goals of this course are as follows:
1) To master how to advertise products/services attractively, how to create marketing materials, and how to make presentations.
2) To master negotiation skills for creating win-win relationships with sales partners in Japan.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain“DP1”,“DP2”,“DP3”and“DP5”.

【Method(s)】
Lecture /Presentation /Discussion
Each student will create marketing materials and make presentations to market a product of his/her choice in Japan. Presentations will be made several times. By getting feedback from other classmates and outside guests, you will come to understand your strengths and weaknesses.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Lecture	・Types of sales partners ・Difficulties of marketing in Japan ・Guest Lecturer （TBD）
2	Self-Introduction	・Self-introduction and introduction of a classmate
3	Lecture	・Business practice in Japan ・Win-win relationships with sales partners
4	Presentation /Discussion	・Presentation and discussion of what products/services you want to sell in Japan
5	Lecture	・How to prepare catalogs and marketing materials ・Tradeshows
6	Presentation / Discussion	・Presentation to end-users in Japan ・Discussion about the presentations
7	Lecture	・Sales Promotion ・How to approach distributor
8	Presentation / Discussion	・Presentation to distributors in Japan ・Discussion about the presentations
9	Lecture	・Pricing Strategy ・How to approach manufacturer
10	Presentation / Discussion	・Presentation to manufacturers ・Discussion about the presentations
11	Presentation / Discussion	Presentations for end-users, distributors and manufactures
12	Presentation / Discussion	・Discussion regarding marketing materials and presentations
13	Presentation / Discussion	・Final presentations for end-users, distributors and manufactures
14	Presentation / Discussion	・Final presentations for end-users, distributors and manufactures

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Each student will prepare six PowerPoint presentations. (As a standard, 4 hours for preparation and 1 hour for review: a total of 5 hours.)

【Textbooks】
None

【References】
None

【Grading criteria】
Class participation 30%
1-6th presentation 30%
Final presentation 40%

【Changes following student comments】
One student commented that there was a little too much homework, but I believe that the content of the assignments should be the same as in the previous year.

【Equipment student needs to prepare】
Personal computer

【Outline (in English)】
The objectives of this course are to learn practical marketing method in Japan and to gain a deeper understanding of its theory.
Specifically, the students will learn how to effectively attract interest in products/services, and how to build win-win relationships with sales partners in Japan.
(Each student will choose a product or service that he/she would like to market in Japan.)

MAN560F2（経営学 / Management 500）

Service Management in Japan

Service Management in Japan

KENNETH G PECHTER［ケネス ペクター］

単位数：2単位
学期：秋学期後半/Fall(2nd half)
授業分類：専門講義
Global MBA
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course provides an introduction to Service Management in Japan. This is done in the context of lessons from the study of the innovation process, for which the service sector is a key and growing platform, and which also provides a framework for understanding challenges to service sector growth in Japan. The Japan-specific context for Service Management is explored, with special attention on such cultural artifacts as “omotenashi” - Japanese style hospitality - which is widely considered to be a core asset of Japanese service offerings.
This course also contributes to the three core learning objectives of the GMBA Program, which are to instill the following skills:
1 Practical Management Competency
2 Critical Analysis Competency
3 Communication Competency

【Goal】
The goal of this course is to develop understanding of Service Management in Japan, and the forces driving it. Upon completion of the course, students should have a basic knowledge of the main components of and expectations for the service sector in Japan and overseas, of the specific characteristics of services in Japan, and of the major constraints driving change in them. Students will be able to use concepts from the study of innovation to assess these constraints, and appreciate the word “Omotenashi” (Japanese style hospitality), which has become the focal point for the discussion of services and Service Management in Japan for both large corporations as well as small &medium enterprises.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain“DP1”,“DP2”,“DP3”,“DP4”and“DP5”.

【Method(s)】
The primary approach of this course is in-class discussion – in the form of both lectures and guided discourse – supported by outside readings. Students are expected to actively participate in this discussion based on knowledge gained from the readings, and will be tested on their knowledge via presentations, assignments, quizzes and exams.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What is service management?
2	Global Promise of Services	Economic development and the service sector
3	Promise of Services in Japan	Economic development and Japan’s service sector
4	Services & Innovation	Problem solving, organizational dynamics and service management
5	Inside the Black Box of Service Businesses	Japanese-style communication and the service business value chain
6	Tourism and Omotenashi	What is Omotenashi, and does it make an industry?
7	What’s Next?	Outlook for service management

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Readings will be assigned during class, either via handouts or URLs for downloads. These materials are to be read thoroughly, and the student ready for discussion during the next class meeting and a quiz. Assignments in the form of short reports, presentations and take-home exams will be given as needed. A final exam, report and/or presentation will be required at the end of the course.
(In general students may expect 1 to 3 hours per week required outside of class for reading and assignments.)

【Textbooks】
No textbook will be used. Handouts and reading material will be provided. Access to the internet will be needed both during and outside of class, as well as a computer for access and writing.

【References】
Handouts or URLs to reference materials will be provided. Access to the internet will be needed both during and outside of class, as well as a computer for access and writing.

【Grading criteria】
Participation and ability to use concepts 50%
Mid-term assignments 20%
Final assignments 30%
Overall assessments are made in consideration of the three core learning objectives of the GMBA Program, which are instilling the following competencies:
1 Practical Management Competency
Learning Outcome 1a. Management Planning:
Student demonstrates competency in the application of the principles of management theory &practice to the planning of new business and/or the assessment of existing business
Learning Outcome 1b. Strategy Execution:
Student demonstrates competency in the application of the principles of management strategy to the planning of new business and/or the assessment of existing business
2 Critical Analytical Competency
Learning Outcome 2a. Hypothesis Setting:
Demonstrates competency in the formulation of hypotheses used to validate the planning of new business and/or the assessment of existing business
Learning Outcome 2b. Hypothesis Testing:
Demonstrates competency in the evaluation of hypotheses used to validate the planning of new business and/or the assessment of existing business
3 Communication Competency
Learning Outcome 3a. Written Communication
Demonstrates competency in professional written communication
Learning Outcome 3b. Spoken Communication
Demonstrates competency in professional spoken communication

【Changes following student comments】
Not applicable

【Equipment student needs to prepare】
Students should have use of a computer for internet access and writing, should bring the computer to class, and have access to the internet outside of class as well.

【Others】
1) Office Hours:
Class Days (Thursday) 18:00-18:30 (appointment advised)
2) Courses in general will be held face-to-face in the classroom.

3) Each class above (1 7) uses two class periods of 1 hour 40 minutes each, for a total of 3 hours 20 minutes per class

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to Service Management in Japan. This is done in the context of lessons from the study of the innovation process, for which the service sector is a key and growing platform, and which also provides a framework for understanding challenges to service sector growth in Japan. The Japan-specific context for Service Management is explored, with special attention on such cultural artifacts as “omotenashi” - Japanese style hospitality - which is widely considered to be a core asset of Japanese service offerings.

This course also contributes to the three core learning objectives of the GMBA Program, which are to instill the following skills:

1 Practical Management Competency

2 Critical Analysis Competency

3 Communication Competency

MAN560F2（経営学 / Management 500）

Innovation in Global business

Innovation in Global business

WOLFGANG BIERER［ウォルフガング ビアラ］

単位数：**2単位**
学期：**秋学期前半**/Fall(1st half)
授業分類：**専門講義**
Global MBA
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
In this course we will study innovation in an increasingly global business environment. We will develop an innovation toolkit with state of the art tools to improve processes and team performance designed to enhance collaboration and iteration in global development. We will discuss with industry leaders real business cases, research innovation leaders' in global business and work on developing our own innovative business ideas.

【Goal】
1) To understand the innovation framework and how to apply modern tools
2) To understand key challenges and benefits of Global Innovation Management
3) To create your own innovative business ideas

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain"DP1","DP2","DP3","DP4"and"DP5".

【Method(s)】
The approach for this course is active in-class discussion, lectures and interaction with real business leaders. Students are expected to actively participate in this discussion based on knowledge gained from the readings, and will be tested on their knowledge via presentations, assignments and exams.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
あり /Yes

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
09/22	Introduction Framework of Innovation Think Globally - Innovate locally	What is innovation? Types of innovation and what innovation is in a global context and why it is so important. Learning modern tools and processes of innovation.
09/29	Design Thinking and innovation process	Learn how design thinking works, learn the processes and apply it to use cases in teamwork. Prepare presentation and questionnaire to discuss with our future guest Hiromi Hara, MD of SAP LABS JAPAN
10/06	Doblin's 10 Types of Innovation	We learn how globalization and foreign competition increase the pressure for businesses to innovate continually. Doblin's 10 Types of Innovation is a framework that helps to identify elements of the business can be innovated. We will learn the components and apply it to a business case.
10/13	Innovation in the world leading truly global software company – SAP	A guest speaker from SAP Japan will give us her insights into corporate innovation processes on global scale and will discuss with us our presentation and questions prepared in our previous session.
10/20	Analysis of the global innovation strategies of most innovative companies in 2024	3 teams will research innovation strategies from top 100 innovative companies and present it in class
10/27	Climate change is the most demanding area for innovation – how companies address this issue	Lecture and discussion with business leader(tbd) in this area how to tackle the issue with innovation. Students present ideas and discuss concrete action points and how they already contribute.
11/03	Social innovation manifests in various forms — from cutting-edge technologies to innovative business models, policies, programs, and services — all designed to make a tangible impact on individual lives and community well-being. Final Assignment presentations	Lecture and discussion with business leader (tbd) in this area how to tackle the issue with innovation. Students present ideas for a concrete case previously selected and discuss concrete action points. In the second half students will present their individual assigment results.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
In order to prepare a group presentation to invited business leaders, Approximately 4-6 hours group works are required. It will be a little bit hard, but will be worthwhile. (As a standard, 2 hours for preparation and 2 hours for review: a total of 4 hours.)

【Textbooks】
Slide decks and reading lists on various lecture content.

【References】
Internet link list, will be provided.

【Grading criteria】
Participation and ability to use concepts 50%
Mid-term assignments 20%
Final assignments 30%
Overall assessments are made in consideration of the three core learning objectives of the GMBA Program, which are instilling the following competencies:
1. Practical Management Competency
Learning Outcome 1a. Management Planning:
Student demonstrates competency in the application of the principles of

management theory &practice to the planning of new business and/or the
assessment of existing business
Learning Outcome 1b. Strategy Execution:
Student demonstrates competency in the application of the principles of
management strategy to the planning of new business and/or the assessment
of existing business
2. Critical Analytical Competency
Learning Outcome 2a. Hypothesis Setting:
Demonstrates competency in the formulation of hypotheses used to validate
the planning of new business and/or the assessment of existing business
Learning Outcome 2b. Hypothesis Testing:
Demonstrates competency in the evaluation of hypotheses used to validate
the planning of new business and/or the assessment of existing business
3. Communication Competency
Learning Outcome 3a. Written Communication
Demonstrates competency in professional written communication
Learning Outcome 3b. Spoken Communication
Demonstrates competency in professional spoken communication

【Changes following student comments】
Students comments will be actively encouraged and if changes required Wolfgang Bierer will incorporate changes wherever possible.

【Equipment student needs to prepare】
Students should have use of a computer for internet access and writing, and should bring the computer to class.

【Others】
Each class above (1 7) uses two class periods of 1 hour 40 minutes each, for a total of 3 hours 20 minutes per class. In between we will schedule a short break.

【Outline (in English)】
In this course we will study innovation in an increasingly global business environment. We will develop an innovation toolkit with state of the art tools to improve processes and team performance designed to enhance collaboration and iteration in global development. We will discuss with industry leaders real business cases, research innovation leaders' in global business and work on developing our own innovative business ideas.

MAN560F2（経営学 / Management 500）

Leadership, Strategy, and Entrepreneurship

Leadership, Strategy, and Entrepreneurship

TIMOTHY M CONNOR［ティモシー コナー］

単位数：**2単位**
学期：**春学期前半**/Spring(1st half)
授業分類：**専門講義**
Global MBA
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
The global economy is based on value creation, and at the heart of value creation is entrepreneurship. Entrepreneurship comes in many forms and takes many shapes from the moment a new business idea is formed. The path of an entrepreneur is never a straight line and will go through many challenges and paths to growth. Not all ventures succeed, and this course is designed to let students discover and experience the many facets of entrepreneurship. As ventures grow, their strategy and the leadership skills necessary will change. Through a series of cases, material provided in advance, a venture simulation along with preparation assignments/questions and presentations students will virtually experience the six or seven stages of an entrepreneurial venture.

【Goal】
1. To understand how entrepreneurial ventures and strategies change as they grow
2. To develop deductive reasoning and critical thinking skills and a framework for evaluating venture ideas
3. To learn to recognize the types of leadership and relevant skills necessary at each stage of growth of an entrepreneurial venture
4. To experience communication, teamwork, strategy building, and leadership practice just as in a real life venture

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain“DP1”,“DP2”,“DP3”,“DP4”and“DP5”.

【Method(s)】
The class learning method consists of reading assignments, preparation in advance, class discussion/participation, report writing, and a simulation

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
あり /Yes

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1: 4/12	Introduction From Idea to Launch preparation	Why entrepreneurship? What does a new entrepreneur need to consider when thinking about starting a venture?
2: 4/12	Setting up and what to look out for Simulation introduction	Considering the pitfalls of founders. Prepare for running the simulation of a venture.
3: 4/19	From founder led to CEO led	When should a founder bring on a CEO. Introduction of Strategic Leadership
4: 4/19	Why pivot is so powerful.	What can a CEO from outside do, and what skills do they need? First session of simulation
5: 4/26	Different business models in the same industry	How do you analyze a business model? Introduction of business model development
6:4/26	Competitive Advantages	Comparing business models and frameworks Second session of simulation
7: 5/10	Managing and embracing change	How can the business grow sustainably? The importance of a pivot.
8: 5/10	Managing and embracing change (2)	When should you embrace change and pivot? Third session of simulation
9: 5/17	Growing pains and management systems	Looking at cases and when a venture needs to embrace management systems.
10 5/17	Growing pains and management systems (2)	Looking at management systems and maintaining agility Fourth session of simulation
11: 5/24	Culture and Innovation	How do you maintain the culture of innovation and a growth mindset?
12: 5/24	Culture and Innovation	Growth mindset Fifth session of simulation
13: 5/31	Path to scale and sustainable growth	Looking to growth in five years
14: 5/31	Simulation presentations	Presentation and feedback from Prof. and from peers

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
1) Group work for simulation
2) Group presentation preparation
3) Preparation in advance of relevant questions
4) Framework development
Weekly Time Required for work outside of class: 3 to 5 hours per week

【Textbooks】
No textbook will be used
Handouts will be provided by the lecturer

【References】
None

【Grading criteria】
1) Class participation/discussion and group leadership (50%)
2) A quality of presentation by Group work (24%)
3) Submission of a report or framework for business models
Grade A:80-100%, Grade B:60 80%, Grade C:40-60%, Grade F: under 40%

【Changes following student comments】
Not applicable

【Equipment student needs to prepare】
Students will need access to a PC and internet during the class to download cases.

【Outline (in English)】
The global economy is based on value creation, and at the heart of value creation is entrepreneurship. Entrepreneurship comes in many forms and takes many shapes from the moment a new business idea is formed. The path of an entrepreneur is never a straight line and will go through many challenges and paths to growth. Not all ventures succeed, and this course is designed to let students discover and experience the many facets of entrepreneurship. As ventures grow, their strategy and the leadership skills necessary will change. Through a series of cases, material provided in advance, a venture simulation along with preparation assignments/questions and presentations students will virtually experience the six or seven stages of an entrepreneurial venture.

MAN560F2（経営学 / Management 500）

Applied Marketing

Applied Marketing

坂本　和子［サカモト カズコ］

単位数：**2単位**
学期：**春学期後半**/Spring(2nd half)
授業分類：**専門講義**
Global MBA
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
In this course, we will trace the evolution from "Marketing 3.0" to "Marketing 6.0" proposed by Philip Kotler, and understand the overall picture of next-generation marketing. In particular, we will focus on technology, artificial intelligence, and human-centered marketing in the digital age, and learn the skills and frameworks to put these to practical use..

【Goal】
Understand the evolution of Kotler's marketing theory and gain a perspective that can be applied to modern marketing issues.
You will be able to design marketing strategies that utilize technology, data, sustainability, and more.
Through practical assignments, you will develop the ability to apply next-generation marketing theories.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain"DP1","DP2","DP3"and"DP4".

【Method(s)】
Lectures will mainly use textbooks and slides.
The textbook used will be mainly "Marketing 5.0," which is what Kotler calls Marketing X.0 (3.0-6.0). In addition, the latest version, 6.0, will be used whenever possible.
Groups will be assigned in advance for each chapter covered in the lecture, and each group will give a presentation outlining the chapter, including examples of its application to actual companies and consumer behavior.
Participants will deepen their understanding of the presentations through questions and discussions.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
第1回	Guidance and Marketing Evolution	Lecture outline and objectives, evolution from "Marketing 1.0" to "Marketing 6.0", changes in the role of marketing and current issues
第2回	Prior to Marketing 5.0①	Overview of Marketing 1.0 + 2.0 ： Traditional Marketing Theory
第3回	Prior to Marketing 5.0②	Overview of Marketing 3.0 + 4.0 ： Value Principle and Self-Actualization
第4回	Introducing Marketing 5.0	Technology for Humanity
第5回	Generations that use technology and their characteristics①	Digital Divide, Phygital Natives 5.0 Chapter2,4 6.0 Chapter2
第6回	Generations that use technology and their characteristics②	Creating Inclusivity and Sustainability for Society 5.0 Chapter3
第7回	New Strategies For Tech-Empowered Marketing①	The Next Thec 5.0 Chapter6
第8回	New Strategies For Tech-Empowered Marketing②	The Next CX 5.0 Chapter7
第9回	New Tactics Leveraging Marketing Tech①	Data-Driven Marketing, Predictive Marketing 5.0 Chapter8,9
第10回	New Tactics Leveraging Marketing Tech②	Contextual Marketing 5.0 Chapter10
第11 回	Design Marketing①	How Color and Shape Affect Purchasing Decisions
第12回	Design Marketing②	Design Thinking and Art Thinking
第13回	New Topics	Multisensory Marketing, Metaverse Marketing 6.0 Chapter8,10
第14回	Lecture Summary	Review of the Entire Lecture

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
· Each group should prepare presentation materials for the chapters assigned to them.
· They should also review the chapters that are not assigned to them and come up with some relevant questions in advance.
· The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Textbooks】
Philip Kotler,Hermawam Kartajaya,Iwan Setiawan (2021), "Marketing 5.0: Technology for Humanity", Wiley.

【References】
Philip Kotler,Hermawam Kartajaya,Iwan Setiawan (2010), "Marketing 3.0: From Products to Customers to the Human Spirit ", Wiley.
Philip Kotler,Hermawam Kartajaya,Iwan Setiawan (2016), "Marketing 4.0: Moving from Traditional to Digital ", Wiley.
Philip Kotler, Waldemar Pfoertsch, Uwe Sponholz(2020), "H2H Marketing: The Genesis of Human-to-Human Marketing", Springer.
Philip Kotler,Hermawam Kartajaya,Iwan Setiawan (2023), "Marketing 6.0: The Future is Immersive ", Wiley.

【Grading criteria】
Method of evaluation
Group presentation: 50%
Contribution to the class: 20％
Reflection sheets ： 30％

【Changes following student comments】
Ingeniously create lecture content and materials to increase interest.

【Equipment student needs to prepare】
Students should have use of a computer for internet access and writing, and should bring the computer to class.

【Others】
Office hours are set for one hour before the lecture.

【Outline (in English)】
In this course, we will trace the evolution from "Marketing 3.0" to "Marketing 6.0" proposed by Philip Kotler, and understand the overall picture of next-generation marketing. In particular, we will focus on technology, artificial intelligence, and human-centered marketing in the digital age, and learn the skills and frameworks to put these to practical use.

MAN650F2（経営学 / Management 600）

Project 1-A (Internship)

Project 1-A(Internship)

Kenneth Pechter、HUG, Jose、高田　朝子

単位数：**6単位**
学期：**秋学期授業**/Fall
授業分類：**専門演習**
Global MBA
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
Project 1-A is a group internship project (referred to as Internship 1), which generally takes place with a social imptact-oriented NPO or a regional government office in Japan. (At the discretion of the faculty, however, in certain cases according to the background of the individual student, placements may be made instead to private sectorsector or – in rare cases – overseas organizations.) The internship takes place for at least 160 hours over approximately 18 weeks in the October-February time period of the Global MBA (GMBA) Program Academic Year 1.
The purpose of Internship 1 is to provide a real-world business learning experience, while also providing the opportunity for students to be exposed to intensive Japanese language and cultural learning, and to real-world workplace conditions.
The internships are arranged and assigned by the GMBA program faculty.
In certain special cases, students may be accepted into the GMBA program with the understanding that they are unable to participate in Internship 1 for the following specific reasons (to be pre-approved by the faculty):
- People with concurrent full-time jobs who are unable to take leave of absence
- People with full-time childcare duties who are unable to be away from home
- Special institutional arrangements requiring a field research project
- Special company dispatches requiring a field research project
In these cases, students may be permitted to take Project 1-B (Field Research) instead of 1-A, with the specific project to be carried out under supervision of the faculty in order to provide an equivalent experience. (Such cases result from GMBA program decisions, not simply because the student prefers to do a field research project.)
In case of a time conflict during Academic Year 1, it is possible though not recommended that Project 1-A may be taken in Year 2 along with Project 2-A.
This course also contributes to the three core learning objectives of the GMBA Program, which are to instill the following skills:
1 Practical Management Competency
2 Critical Analysis Competency
3 Communication Competency

【Goal】
Internship 1 provides a real-world business learning experience. This serves as a complement to the project-based learning approach promoted in the Hosei Business School of Innovation Management, in which classroom learning is facilitated though the exploration of practical, real-world problem solving. Internship 1 (and later Internship 2 in Academic Year 2) corresponds to the “project method” used in the Japanese MBA programs residing in the Business School alongside the English-language GMBA program. This enables the student to acquire working knowledge and develop critical assessment abilities that form a solid foundation for a career as a management professional.
As the majority of students in the GMBA program are anticipated to be non-native Japanese speakers, Internship 1 also provides the opportunity for students to be exposed to intensive Japanese language and cultural learning while experiencing real-world workplace conditions in Japan. This enables the student to cultivate the global perspective that the GMBA program values.
The primary job responsibility of interns is to work on projects assigned to them by their host organization, as well as on their own individual project on topics assigned by the GMBA program, such as the improvement of inbound tourism.
Goals:
- To acquire real-world working knowledge of innovation practitioners grounded in management theory and practice
-To experience real-world work conditions in Japan, in order to cultivate the critical thinking skills of innovation practitioners
- To cultivate the global perspective that the GMBA program values, through exposure to intensive Japanese language and cultural learning, in order to become innovation practitioners grounded in effective communication

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain“DP1”,“DP2”,“DP3”,“DP4”and“DP5”.

【Method(s)】
In order to clarify the purpose and procedures, and to explain the specific goal and deliverables of Internship 1, orientation meetings are provided in the months prior to the internship, and this is furthermore supported by individual discussions with the internship coordinators.
The internship itself is a required over 160 hours, during which the student works with the internship organization under the direction of a supervisor in the assigned organization. The general format for the internship is small-group hybrid format, in which, say, two to five students are assigned to work with a regional organization, and work is carried out via a range of remote and face-to-face action. This range goes from online video meetings to city visits and/or city stays.
This amount of time varies over the course of the internship, but the total hours by the end of February will be at least 160 hours.
Weekly timesheets and periodic internship reports in English are required, as will be specified during the orientation and assignment period, with the final report of the same format due within a week of finishing the internship.
Towards the end of the internship students will make a Summary Presentation to their host organizations at the internship location (face-to-face if possible, but online is acceptable). A Final Presentation will be made at the Internship Presentation Conference in Tokyo in late February.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
あり /Yes

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Internship 1 Orientation Period Week 1	General information on Internship 1
2	Internship 1 Orientation Period Week 2	General information on Internship 1
3	Internship 1 Orientation Period Week 3	General information on Internship 1
4	Internship 1 Planning Period Week 1	Familiarization with host region and organization

5	Internship 1 Planning Period Week 2	Familiarization with host region and organization
6	Internship 1 Planning Period Week 3	Familiarization with host region and organization
7	Internship 1 Preparation Week 1	Determination of internship project topic
8	Internship 1 Preparation Week 2	Determination of internship project topic
9	Internship 1 Preparation Week 3	Determination of internship project topic
10	Internship 1 Internship Week 1	Finalization of project work in coordination with regional organization
11	Internship 1 Internship Week 2	Finalization of project work in coordination with regional organization
12	Internship 1 Internship Week 3	Finalization of project work in coordination with regional organization
13	Internship 1 Internship Week 4	Summary Presentation at internship location
14	Internship 1 Final Week	Final Presentation in Tokyo

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
The student must attend the orientation meetings (dates to be announced).
During the first part of the internship, students will work in small groups to learn about their assigned regions, and start interacting with internship hosts.
As this interaction proceeds, student groups will work with their hosts to develop an appropriate project topic or two, which they will work towards completion by the end of the internship. Faculty will support the students in this effort.
Students will keep track of their working hours in weekly timesheets and submit these regularly, as will be specified during the orientation and assignment period.
During the term of the internship, periodic internship reports in English are required, as will be specified during the orientation and assignment period, with the final report of the same format due within a week of finishing the internship.
Towards the end of the internship, the student will make a presentation to their host organization summarizing their assigned duties during the internship, their own individual project (for example, promotion of inbound tourism), and their feelings on the overall internship experience. The student is encouraged to do this Summary Presentation in Japanese (or bilingual Japanese and English) if at all possible, both as a goal for improving Japanese ability, and as an expression of gratitude to hosts who have so kindly accepted the student for the internship. Ideally this would be done at the internship location, although remote presentation is also acceptable.
After returning to Tokyo a Final Presentation will be made at the Internship Presentation Conference. This presentation is generally in English, although students for whom their English is stronger than their Japanese may challenge themselves to presenting in Japanese if they desire.
(In general students may expect 2 to 4 hours per week of preparation prior to the internship, 10 to 20 hours per week during the internship and in preparation for the Final Presentation after the internship.)

【Textbooks】
Not applicable

【References】
Not applicable

【Grading criteria】
[Final grade is determined by]
· Administrative Cooperation 30%
· Professional Communications 30%
· Project Planning &Execution 40%
Students will be judged on their overall professional attitude and completion of assigned tasks.
The assigned tasks include:
- Attendance at orientation and training sessions
- Creation and maintenance of a weekly timesheet (detailed instructions to be provided during the orientation period)
- On-time submission of regular reports in English (detailed instructions to be provided during the orientation period)
- Submission of final weekly report, and a Summary Presentation (in Japanese if possible) at the internship location, and a Final Presentation (usually in English but Japanese also possible) at the Internship Presentation Conference following the internship (detailed instructions to be provided during the orientation period)
Professional attitude will be judged on characteristics including the following:
- Positive and cooperative attitude during the orientation and assignment period
- Active participation in training
- Proper and business-like communications in email and report submissions
- Critical assessment and decision-making during the internship
- Collegial relationships with colleagues in both the GMBA program and at the internship locations
- Responsible communication with the GMBA program office, GMBA faculty, and adherence to rules and guidelines
In making the assessments, the GMBA faculty also works with the internship hosting organizations, so that the overall grade will also take account of the intern's performance as assessed by the intern's supervisor in the organization.
Overall assessments are made in consideration of the three core learning objectives of the GMBA Program, which are instilling the following competencies:
1 Practical Management Competency
Learning Outcome 1a. Management Planning:
Student demonstrates competency in the application of the principles of management theory &practice to the planning of new business and/or the assessment of existing business
Learning Outcome 1b. Strategy Execution:
Student demonstrates competency in the application of the principles of management strategy to the planning of new business and/or the assessment of existing business
2 Critical Analytical Competency
Learning Outcome 2a. Hypothesis Setting:
Demonstrates competency in the formulation of hypotheses used to validate the planning of new business and/or the assessment of existing business
Learning Outcome 2b. Hypothesis Testing:
Demonstrates competency in the evaluation of hypotheses used to validate the planning of new business and/or the assessment of existing business
3 Communication Competency
Learning Outcome 3a. Written Communication
Demonstrates competency in professional written communication
Learning Outcome 3b. Spoken Communication
Demonstrates competency in professional spoken communication

【Changes following student comments】
Although the small-group hybrid internship format is robust, it is always possible that operations of the internship could be affected by COVID-19 pandemic. The faculty and/or the Innovation Management Office will provide guidance should this happen.

【Equipment student needs to prepare】
Students should have use of a computer for internet research, communication and writing, should bring the computer to their internships, and have access to the internet as well.

【Others】
Courses in general will be held face-to-face in the classroom. In the event of a new extreme wave of the COVID-19 pandemic, courses may be changed to online format according to the decisions of Hosei University, the Business School of Innovation Management, and the GMBA Program. Please check the university website and communications from the university for the final decision each quarter. In case of online course, please check the HOSEI Learning Management System for specific online instructions of each course.
Specifically in the case of project courses, the projects (usually internships) may be changed to a full online or hybrid online/ face-to-face format.

【Outline (in English)】
Project 1-A is a group internship project (referred to as Internship 1), which generally takes place with a regional government office in Japan. (At the discretion of the faculty, however, in certain cases according to the background of the individual student, placements may be made instead to private sector, non-profit sector or – in rare cases – overseas organizations.) The internship takes place for at least 160 hours over approximately 18 weeks in the October-February time period of the Global MBA (GMBA) Program Academic Year 1.
The purpose of Internship 1 is to provide a real-world business learning experience, while also providing the opportunity for students to be exposed to intensive Japanese language and cultural learning, and to real-world workplace conditions.
The internships are arranged and assigned by the GMBA program faculty.
In certain special cases, students may be accepted into the GMBA program with the understanding that they are unable to participate in Internship 1 for the following specific reasons (to be pre-approved by the faculty):
- People with concurrent full-time jobs who are unable to take leave of absence
- People with full-time childcare duties who are unable to be away from home
- Special institutional arrangements requiring a field research project
- Special company dispatches requiring a field research project
In these cases, students may be permitted to take Project 1-B (Field Research) instead of 1-A, with the specific project to be carried out under supervision of the faculty in order to provide an equivalent experience. (Such cases result from GMBA program decisions, not simply because the student prefers to do a field research project.)
In case of a time conflict during Academic Year 1, it is possible though not recommended that Project 1-A may be taken in Year 2 along with Project 2-A.
This course also contributes to the three core learning objectives of the GMBA Program, which are to instill the following skills:
1 Practical Management Competency
2 Critical Analysis Competency
3 Communication Competency

MAN650F2（経営学 / Management 600）

Project 1-B (Field Research)

Project 1-B(Field Research)

KENNETH G PECHTER［ケネス ペクター］

単位数：**6単位**
学期：**秋学期授業**/Fall
授業分類：**専門演習**
Global MBA
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
Project 1-B (Field Research) and Project 2-B (Field Research), for Global MBA (GMBA) Program students in Year 1 and Year 2 respectively, is offered only in special cases for GMBA students who have been permitted to take these courses instead of Project 1-A (Internship) and Project 2-A (Internship) for the following reason.
In certain special cases, students may be accepted into the GMBA program with the understanding that they are unable to participate in Project 1-A (Internship) and Project 2-A (Internship) for the following specific reasons (to be pre-approved by the faculty):
- People with concurrent full-time jobs who are unable to take leave of absence
- People with full-time childcare duties who are unable to be away from home
- Special institutional arrangements requiring a field research project
- Special company dispatches requiring a field research project
In these cases, students may be permitted to take Project 1-B (Field Research) and Project 2-B (Field Research) instead, with the specific Field Research project to be carried out under supervision of the faculty in order to provide an equivalent experience to the internship courses. (Such cases result from GMBA program decisions, not simply because the student prefers to do a Field Research project.)
The purpose of the Project 1-A &2-A (Internship) and the Project 1-B &2-B (Field Research) courses is to provide a real-world business learning experience known as Project-based Learning or Active Learning, in support of the course work encountered in the GMBA program.
As the mission of the Business School of Innovation Management is to foster innovation practitioners in companies, organizations and society at large, grounded in management theory &practice, critical thinking, and effective communication, the emphasis of this Field Research project work is not purely academic. Rather, the focus is on practical analysis and problem-solving on par with the type of problems encountered by management professionals. Accordingly the reports and presentations of this course do not constitute a standard Master's Thesis, nor do they necessarily guarantee advancement to further doctoral study such as PhD.
This course also contributes to the three core learning objectives of the GMBA Program, which are to instill the following skills:
1 Practical Management Competency
2 Critical Analysis Competency
3 Communication Competency

【Goal】
Field Research provides real-world business learning experiences. Project 1-B (Field Research) in Academic Year 1 and Project 2- B (Field Research) in Academic Year 2 correspond to the "project method" (also known as Project-based Learning) used in the Japanese MBA programs residing in the Business School alongside the English-language GMBA program, in which learning is facilitated though the exploration of practical, real-world problem solving. This enables the student to acquire working knowledge and develop critical assessment abilities that form a solid foundation for a career as a management professional.
The emphasis of this project work is not purely academic, but rather the focus is on practical analysis and problem-solving on par with the type of problems encountered by management professionals, especially those in Japanese organizations or organizations based in Japan.
It is permissible but not required for the Project 2-B (Field Research) project in Year 2 to build on the work done in Year 1 for the Project 1-B (Field Research) project
Goals:
- To acquire real-world working knowledge of innovation practitioners grounded in management theory and practice
-To experience real-world work conditions in Japan, in order to cultivate the critical thinking skills of innovation practitioners
- To cultivate the global perspective that the GMBA program values, through exposure to intensive Japanese language and cultural learning, in order to become innovation practitioners grounded in effective communication

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain"DP1","DP2","DP3","DP4"and"DP5".

【Method(s)】
The student is to develop and carry out a Field Research project plan in consultation with and under the guidance of a faculty advisor or advisors. In order to do this, the student will first identify a general area or areas of interest based on past and current work experience and career interest. Then with this as a starting point, the student will meet with the faculty advisor(s) to be determined by the GMBA faculty.
The project is to be identified through the literature search and consultation with the faculty adviser(s) to identify a company or topic for the project. Appropriate methods of inquiry both qualitative and quantitative will be used, including but not limited to interviews, survey questionnaires and data analysis. The findings of the project should be synthesized into business recommendations and summarized in a project report. Upon approval by the faculty adviser(s), the report will be submitted to the GMBA Administrative office.
In the process of the above consultation, specific goals and procedures will be identified, and specific deliverables clarified. While the exact form and format of these deliverables is up to the faculty advisor(s), they will likely include development in turn of a problem statement, project thesis, project plan, and initial, midterm, and final reports.
It is permissible but not required for the Project 2-B (Field Research)h project in Year 2 to build on the work done in Year 1 for the Project 1-B (Field Research) project.
The emphasis of this project work is not purely academic, but rather the focus is on practical analysis and problem-solving on par with the type of problems encountered by management professionals, especially those in Japanese organizations or organizations based in Japan.
Although the Field Research project is not strictly comparable to the Internships on an hourly basis, the student should keep in mind that the internships require over 160 hours. Using that as a general baseline, over the course of a 4-6 month project, the student will likely spend at least 5-10 hours per week minimum on the project.

The deliverables (problem statement, project thesis, project plan, and initial, midterm, and final report) will be written in English, and based on regular (weekly-to-monthly) meetings with the faculty advisor(s). The final report is due a week prior to the Internship Presentation Conference to be held about February of each year, and will be accompanied by a Final Faculty Presentation to the faculty advisor(s) and other relevant faculty.
A Final Presentation will be made at the Internship Presentation Conference in Tokyo (usually in English but Japanese also possible for students whose English ability is stronger than their Japanese ability).

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
あり /Yes

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation	General guidance on the process of Field Research project
2	Research Methods Overview	Overview of general Field Research methodology
3	Problem Identification	Identification of general problem
4	Problem Development	Development of problem issues
5	Presentation of Problem Statement	Presentation of arrived at problem statement for discussion by faculty advisor(s)
6	Project Planning	Discussion and development of project approach
7	Literature Review	Review of literature relevant to the project topic, problem, and methodology
8	Project Design	Bring together project approach and findings from the literature search into a design of the project
9	Presentation of Project Plan	Presentation of arrived at project design for discussion by faculty advisor(s)
10	Field Work 1	Planning of field work (company visits, survey questionnaires, etc)
11	Field Work 2	Carrying out of field work
12	Project Conclusion	Synthesis of problem findings into business recommendations
13	Faculty Presentation	Presentation of project findings and recommendations to faculty advisor(s)
14	Final Presentation	General Presentation of project findings and recommendations at Internship Presentation Conference

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
The student is to develop and carry out a field research project plan in consultation with and under the guidance of a faculty advisor or advisors.
In order to do this, the student will first identify and general areas of interest based on past and current work experience and career interest, and with this as a starting point, faculty advisor(s) will be determined by the GMBA faculty (but will include the faculty assigned to this course).
The field research is to be conducted through the literature search, and in consultation with the faculty adviser(s) to identify a company and/or topic for the project. Appropriate methods of inquiry both qualitative and quantitative will be used, including but not limited to interviews, survey questionnaires, and data analysis. All of this will be supported by the management principles being learned in the GMBA courses. The findings of the project should be synthesized into business recommendations and summarized in a project report. Upon approval by the faculty adviser(s), the report will be submitted to the GMBA Administrative office.
In the process of the above consultation, specific goals and procedures will be identified, and specific deliverables clarified. While the exact form and format of these deliverables is up to the faculty advisor(s), they will likely include development in turn of a problem statement, project thesis, project plan, and initial, midterm, and final reports.
These deliverables will be written in English, and based on regular (weekly-to-monthly) meetings with faculty advisor(s). The final report is due a week prior to the Internship Presentation Conference to be held about February of each year.
Towards the end of the project, the student will make a Final Faculty Presentation to the faculty advisor(s) and any other relevant faculty members, in which the student presents the field research topic, problem, analytical approach, findings and field research conclusion. This is done in English.
After the Field Research is finished, a Final Presentation will be made at the Internship Presentation Conference in Tokyo. This is a simplified version of the Faculty Presentation, suited for a general audience. This presentation is generally in English, although students for whom their English is stronger than their Japanese may challenge themselves to presenting in Japanese if they desire.
It is permissible but not required for the Project 2-B (Field Research)h project in Year 2 to build on the work done in Year 1 for the Project 1-B (Field Research) project.
The emphasis of this project work is not purely academic, but rather the focus is on practical analysis and problem-solving on par with the type of problems encountered by management professionals, especially those in Japanese organizations or organizations based in Japan.
(Although the Field Research project is not strictly comparable to the Internships on an hourly basis, the student should keep in mind that the internships require over 160 hours. Using that as a general baseline, over the course of a 4-6 month project, the student will likely spend at least 5-10 hours per week minimum on the project.)

【Textbooks】
Not applicable

【References】
Not applicable

【Grading criteria】
[Final grade is determined by]
· Administrative Cooperation 30%
· Professional Communications 30%
· Project Planning &Execution 40%
Students will be judged on their overall professional attitude, completion of assigned tasks, development the Field Research project, and findings resulting from the project.
The assigned tasks include:
- Attendance at orientation and regular meetings with the faculty advisor(s)
- Creation of a problem statement, research thesis, and research plan (detailed instructions to be provided during the orientation period)
- On-time submission of initial, midterm, and final reports (detailed instructions to be provided during the orientation period)

- Presentation of Field Research project at the Final Faculty Presentation (in English) and at the Internship Presentation Conference (usually in English but Japanese also possible for students whose English ability is stronger than their Japanese ability)
Detailed instructions on the above task will be provided during the orientation period and via the regular faculty advisor meetings.
Professional attitude will be judge on characteristics including the following:
- Positive and cooperative attitude during the orientation and assignment period
- Active participation in all aspects of the Field Research Project
- Proper and business-like communications in email and report submissions, etc.
- Critical assessment and decision-making during the internship
- Collegial relationships with faculty advisor(s) and other faculty
- Responsible communication with the GMBA program office, GMBA faculty, and adherence to rules and guidelines
For Project 1-B and Project 2-B, assessment of the Field Research project will place greater weight on the planning and the implementation of the project than it will for the project results.
Overall assessments are made in consideration of the three core learning objectives of the GMBA Program, which are instilling the following competencies:
1 Practical Management Competency
Learning Outcome 1a. Management Planning:
Student demonstrates competency in the application of the principles of management theory &practice to the planning of new business and/or the assessment of existing business
Learning Outcome 1b. Strategy Execution:
Student demonstrates competency in the application of the principles of management strategy to the planning of new business and/or the assessment of existing business
2 Critical Analytical Competency
Learning Outcome 2a. Hypothesis Setting:
Demonstrates competency in the formulation of hypotheses used to validate the planning of new business and/or the assessment of existing business
Learning Outcome 2b. Hypothesis Testing:
Demonstrates competency in the evaluation of hypotheses used to validate the planning of new business and/or the assessment of existing business
3 Communication Competency
Learning Outcome 3a. Written Communication
Demonstrates competency in professional written communication
Learning Outcome 3b. Spoken Communication
Demonstrates competency in professional spoken communication

【Changes following student comments】
Not applicable

【Equipment student needs to prepare】
Students should have use of a computer for internet research, communication and writing, should bring the computer to their internships, and have access to the internet as well.

【Others】
As the mission of the Business School of Innovation Management is to foster innovation practitioners in companies, organizations and society at large, grounded in management theory &practice, critical thinking, and effective communication, the emphasis of this Field Research project work is not purely academic. Rather, the focus is on practical analysis and problem-solving on par with the type of problems encountered by management professionals, especially those in Japanese organizations or organizations based in Japan. Given this objective, Field Research reports and presentations are not modeled after typical academic papers, but instead should take the form and style of standard business materials. It does not constitute a standard Master's Thesis.
Moreover, the Business School of Innovation Management is a Professional School, not a research-oriented Master's degree program. For these reasons, the completion of the Field Research project and the attainment of the MBA degree itself do not necessarily guarantee advancement to further doctoral study such as PhD. The decision as to whether the Field Research work supports such advancement is solely at the discretion of the academic program the student may apply to in the future.
Courses in general will be held face-to-face in the classroom. In the event of a new extreme wave of the COVID-19 pandemic, courses may be changed to online format according to the decisions of Hosei University, the Business School of Innovation Management, and the GMBA Program. Please check the university website and communications from the university for the final decision each quarter. In case of online course, please check the HOSEI Learning Management System for specific online instructions of each course.
Specifically in the case of project courses, the projects (in this case, field research) may be changed to a full online or hybrid online/face-to-face format.

【Outline (in English)】
Project 1-B (Field Research) and Project 2-B (Field Research), for Global MBA (GMBA) Program students in Year 1 and Year 2 respectively, is offered only in special cases for GMBA students who have been permitted to take these courses instead of Project 1-A (Internship) and Project 2-A (Internship) for the following reason.
In certain special cases, students may be accepted into the GMBA program with the understanding that they are unable to participate in Project 1-A (Internship) and Project 2-A (Internship) for the following specific reasons (to be pre-approved by the faculty):
- People with concurrent full-time jobs who are unable to take leave of absence
- People with full-time childcare duties who are unable to be away from home
- Special institutional arrangements requiring a field research project
- Special company dispatches requiring a field research project
In these cases, students may be permitted to take Project 1-B (Field Research) and Project 2-B (Field Research) instead, with the specific Field Research project to be carried out under supervision of the faculty in order to provide an equivalent experience to the internship courses. (Such cases result from GMBA program decisions, not simply because the student prefers to do a Field Research project.)
The purpose of the Project 1-A &2-A (Internship) and the Project 1-B &2-B (Field Research) courses is to provide a real-world business learning experience known as Project-based Learning or Active Learning, in support of the course work encountered in the GMBA program.

As the mission of the Business School of Innovation Management is to foster innovation practitioners in companies, organizations and society at large, grounded in management theory &practice, critical thinking, and effective communication, the emphasis of this Field Research project work is not purely academic. Rather, the focus is on practical analysis and problem-solving on par with the type of problems encountered by management professionals. Accordingly the reports and presentations of this course do not constitute a standard Master's Thesis, nor do they necessarily guarantee advancement to further doctoral study such as PhD.
This course also contributes to the three core learning objectives of the GMBA Program, which are to instill the following skills:
1 Practical Management Competency
2 Critical Analysis Competency
3 Communication Competency

MAN650F2（経営学 / Management 600）

Project 2-A (Internship)

Project 2-A(Internship)

Kenneth Pechter、大澤　裕

単位数：6単位
学期：年間授業/Yearly
授業分類：専門演習
Global MBA
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
Project 2-A is an internship (referred to as Internship 2), which generally takes place at a private sector company in Japan. (At the discretion of the faculty, however, in certain cases according to the background of the individual student, placements may be made instead to other organizations or – in rare cases – overseas organizations). The internship takes place for at least 160 hours sometime in the summer-fall-winter time period of the Global MBA (GMBA) Program Academic Year 2.
The purpose of Internship 2 is to provide a real-world business learning experience, while also providing the opportunity for students to be exposed to intensive Japanese language and cultural learning, and to real-world workplace conditions. (In cases where the student is a native Japanese speaker, alternative placements may be made to provide equivalent learning opportunities in a non-Japanese environment.)
The internships are generally found by the students themselves, but the GMBA program faculty also help support this process and will make appropriate introductions for students in need.
In certain special cases, students may be accepted into the GMBA program with the understanding that they are unable to participate in Internship 2 for the following specific reasons (to be pre-approved by the faculty):
- People with concurrent full-time jobs who are unable to take leave of absence
- People with full-time childcare duties who are unable to be away from home
- Special institutional arrangements requiring a field research project
- Special company dispatches requiring a field research project
In these cases, students may be permitted to take Project 2-B (Field Research) instead of 2-A, with the specific project to be carried out under supervision of the faculty in order to provide an equivalent experience. (Such cases result from GMBA program decisions, not simply because the student prefers to do a field research project.)
This course also contributes to the three core learning objectives of the GMBA Program, which are to instill the following skills:
1 Practical Management Competency
2 Critical Analysis Competency
3 Communication Competency

【Goal】
Internship 2 provides a real-world business learning experience. This serves as a complement to the project-based learning approach promoted in the Hosei Business School of Innovation Management, in which classroom learning is facilitated though the exploration of practical, real-world problem solving. Internship 2 (and Internship 1 in Academic Year 1) corresponds to the “project method” used in the Japanese MBA programs residing in the Business School alongside the English-language GMBA program. This enables the student to acquire working knowledge and develop critical assessment abilities that form a solid foundation for a career as a management professional.
As the majority of students in the GMBA program are anticipated to be non-native Japanese speakers, Internship 2 also provides the opportunity for students to be exposed to intensive Japanese language and cultural learning while experiencing real-world workplace conditions in Japan. This enables the student to cultivate the global perspective that the GMBA program values.
Student interns perform as if they were regular employees of the organization, including expectations of neatness, punctuality, productivity, and openness to supervision (this rule still holds in the case the internship is conducted in remote format according to the judgment of the host company). The primary job responsibility of interns is to work on projects assigned to them by their host organization, as well as on their own individual project on topics assigned by the GMBA program, such as a competitiveness assessment. Interns are also expected to do routine tasks and clerical work.
Goals:
- To acquire real-world working knowledge of innovation practitioners grounded in management theory and practice
-To experience real-world work conditions in Japan, in order to cultivate the critical thinking skills of innovation practitioners
- To cultivate the global perspective that the GMBA program values, through exposure to intensive Japanese language and cultural learning, in order to become innovation practitioners grounded in effective communication

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain“DP1”,“DP2”,“DP3”,“DP4”and“DP5”.

【Method(s)】
In order to clarify the purpose and procedures, and to explain the specific goal and deliverables of Internship 2, orientation meetings are provided in the months prior to the internship, and this is furthermore supported by individual discussions with the internship coordinators.
The internship itself is a required over 160 hours, during which the student works in the internship organization under the direction of a supervisor in the assigned organization.
Based on a maximum full-time work schedule, the internships are expected to last longer than a single month but will often be completed within 2 months. However, the internship may also take longer than 2 months if the work schedule is fewer than 8 hours a day, 5 days a week; this is fine.
In general students are not permitted to finish the internship in less than a single month. In cases where the student has a valid reason for wanting to finish the internship within a single month, permission may be granted on a case-by-case basis. The student is required to bring such requests to the Office in advance for consideration of a grant of permission.
Periodic internship reports in English are required, as will be specified during the orientation and assignment period, with the final report of the same format due within a week of finishing the internship.
Towards the end of the internship the student will make a Summary Presentation to their host organizations at the internship location, A Final Presentation will be made at the Internship Presentation Conference in Tokyo following the internships.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
あり /Yes

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Internship 2 Orientation Period Week 1	General information on Internship 2

2	Internship 2 Orientation Period Week 2	General information on Internship 2
3	Internship 2 Orientation Period Week 3	General information on Internship 2
4	Internship 2 Search & Negotiation Week 1	Student searches for internship leads, approaches potential host company, and negotiates for internship placement
5	Internship 2 Search & Negotiation Week 2	Student searches for internship leads, approaches potential host company, and negotiates for internship placement
6	Internship 2 Search & Negotiation Week 3	Student searches for internship leads, approaches potential host company, and negotiates for internship placement
7	Internship 2 Internship Week 1	Work at company
8	Internship 2 Internship Week 2	Work at company
9	Internship 2 Internship Week 3	Work at company
10	Internship 2 Internship Week 4	Work at company
11	Internship 2 Internship Week 5	Work at company, make Summary Presentation
12	Internship 2 Follow-up Week 1	Finalizing internship matters and preparing final report and presentation
13	Internship 2 Follow-up Week 2	Finalizing internship matters and preparing final report and presentation
14	Internship 2 Final Week	Final Presentation in Tokyo

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
The student must attend the orientation meetings (dates to be announced).
During the term of the internship, the student will participate in the activities of the host organization, as well as work on an individual project (such as conducting a competitiveness assessment of the organization).
Periodic internship reports in English are required, as will be specified during the orientation and assignment period, with the final report of the same format due within a week of finishing the internship.
Towards the end of the internship, the student will make a Summary Presentation to their host organization summarizing their assigned duties during the internship, their own individual project (for example, competitiveness assessment, assuming the organization welcomes such an assessment), and their feelings on the overall internship experience. The student is encouraged to do this Summary Presentation in Japanese (or bilingual Japanese and English) if at all possible, both as a goal for improving Japanese ability, and as an expression of gratitude to hosts who have so kindly accepted the student for the internship (unless of course the organization uses English as their standard language).
After the internships are finished, a Final Presentation will be made at the Internship Presentation Conference in Tokyo. This presentation is generally in English, although students for whom their English is stronger than their Japanese may challenge themselves to presenting in Japanese if they desire.
(In general students may expect 2 to 4 hours per week of preparation prior to the internship, just the internship hours worked during the internship, and then 5 to 10 hours per week in preparation for the Final Presentation after the internship.)

【Textbooks】
Not applicable

【References】
Not applicable

【Grading criteria】
[Final grade is determined by]
· Administrative Cooperation 30%
· Professional Communications 30%
· Project Planning &Execution 40%
Students will be judged on their overall professional attitude and completion of assigned tasks.
The assigned tasks include:
- Attendance at orientation and training sessions
- On-time submission of regular reports (detailed instructions to be provided during the orientation period)
- Submission of final weekly report, and a Summary Presentation (in Japanese if possible) at the internship location, and a Final Presentation (usually in English but Japanese also possible) at the Internship Presentation Conference following the internship (detailed instructions to be provided during the orientation period)
Professional attitude will be judge on characteristics including the following:
- Positive and cooperative attitude during the orientation and assignment period
- Active participation in training
- Proper and business-like communications in email and report submissions, etc.
- Critical assessment and decision-making during the internship
- Collegial relationships with colleagues in both the GMBA program and at the internship locations
- Responsible communication with the GMBA program office, GMBA faculty, and adherence to rules and guidelines
In making the assessments, the GMBA faculty also works with the internship hosting organizations, so that the overall grade will also take account of the intern's performance as assessed by the intern's supervisor in the organization.
Overall assessments are made in consideration of the three core learning objectives of the GMBA Program, which are instilling the following competencies:
1 Practical Management Competency
Learning Outcome 1a. Management Planning:
Student demonstrates competency in the application of the principles of management theory &practice to the planning of new business and/or the assessment of existing business
Learning Outcome 1b. Strategy Execution:
Student demonstrates competency in the application of the principles of management strategy to the planning of new business and/or the assessment of existing business
2 Critical Analytical Competency
Learning Outcome 2a. Hypothesis Setting:
Demonstrates competency in the formulation of hypotheses used to validate the planning of new business and/or the assessment of existing business
Learning Outcome 2b. Hypothesis Testing:
Demonstrates competency in the evaluation of hypotheses used to validate the planning of new business and/or the assessment of existing business
3 Communication Competency
Learning Outcome 3a. Written Communication
Demonstrates competency in professional written communication
Learning Outcome 3b. Spoken Communication
Demonstrates competency in professional spoken communication

【Changes following student comments】
Not applicable

【Equipment student needs to prepare】
Students should have use of a computer for internet research, communication and writing, should bring the computer to their internships, and have access to the internet as well.

【Others】
Courses in general will be held face-to-face in the classroom. In the event of a new extreme wave of the COVID-19 pandemic, courses may be changed to online format according to the decisions of Hosei University, the Business School of Innovation Management, and the GMBA Program. Please check the university website and communications from the university for the final decision each quarter. In case of online course, please check the HOSEI Learning Management System for specific online instructions of each course.
Specifically in the case of project courses, the projects (usually internships) may be changed to a full online or hybrid online/face-to-face format.

【Outline (in English)】
Project 2-A is an internship (referred to as Internship 2), which generally takes place at a private sector company in Japan. (At the discretion of the faculty, however, in certain cases according to the background of the individual student, placements may be made instead to other organizations or – in rare cases – overseas organizations). The internship takes place for at least 160 hours sometime in the summer-fall-winter time period of the Global MBA (GMBA) Program Academic Year 2.
The purpose of Internship 2 is to provide a real-world business learning experience, while also providing the opportunity for students to be exposed to intensive Japanese language and cultural learning, and to real-world workplace conditions. (In cases where the student is a native Japanese speaker, alternative placements may be made to provide equivalent learning opportunities in a non-Japanese environment.)
The internships are generally found by the students themselves, but the GMBA program faculty also help support this process and will make appropriate introductions for students in need.
In certain special cases, students may be accepted into the GMBA program with the understanding that they are unable to participate in Internship 2 for the following specific reasons (to be pre-approved by the faculty):
- People with concurrent full-time jobs who are unable to take leave of absence
- People with full-time childcare duties who are unable to be away from home
- Special institutional arrangements requiring a field research project
- Special company dispatches requiring a field research project
In these cases, students may be permitted to take Project 2-B (Field Research) instead of 2-A, with the specific project to be carried out under supervision of the faculty in order to provide an equivalent experience. (Such cases result from GMBA program decisions, not simply because the student prefers to do a field research project.)
This course also contributes to the three core learning objectives of the GMBA Program, which are to instill the following skills:
1 Practical Management Competency
2 Critical Analysis Competency
3 Communication Competency

MAN650F2（経営学 / Management 600）

Project 2-B (Field Research)

Project 2-B(Field Research)

Kenneth Pechter、佐藤　裕弥

単位数：6単位
学期：年間授業/Yearly
授業分類：専門演習
Global MBA
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
Project 1-B (Field Research) and Project 2-B (Field Research), for Global MBA (GMBA) Program students in Year 1 and Year 2 respectively, is offered only in special cases for GMBA students who have been permitted to take these courses instead of Project 1-A (Internship) and Project 2-A (Internship) for the following reason.
In certain special cases, students may be accepted into the GMBA program with the understanding that they are unable to participate in Project 1-A (Internship) and Project 2-A (Internship) for the following specific reasons (to be pre-approved by the faculty):
- People with concurrent full-time jobs who are unable to take leave of absence
- People with full-time childcare duties who are unable to be away from home
- Special institutional arrangements requiring a field research project
- Special company dispatches requiring a field research project
In these cases, students may be permitted to take Project 1-B (Field Research) and Project 2-B (Field Research) instead, with the specific Field Research project to be carried out under supervision of the faculty in order to provide an equivalent experience to the internship courses. (Such cases result from GMBA program decisions, not simply because the student prefers to do a Field Research project.)
The purpose of the Project 1-A &2-A (Internship) and the Project 1-B &2-B (Field Research) courses is to provide a real-world business learning experience known as Project-based Learning or Active Learning, in support of the course work encountered in the GMBA program.
As the mission of the Business School of Innovation Management is to foster innovation practitioners in companies, organizations and society at large, grounded in management theory &practice, critical thinking, and effective communication, the emphasis of this Field Research project work is not purely academic. Rather, the focus is on practical analysis and problem-solving on par with the type of problems encountered by management professionals. Accordingly the reports and presentations of this course do not constitute a standard Master's Thesis, nor do they necessarily guarantee advancement to further doctoral study such as PhD.
This course also contributes to the three core learning objectives of the GMBA Program, which are to instill the following skills:
1 Practical Management Competency
2 Critical Analysis Competency
3 Communication Competency

【Goal】
Field Research provides real-world business learning experiences. Project 1-B (Field Research) in Academic Year 1 and Project 2- B (Field Research) in Academic Year 2 correspond to the "project method" (also known as Project-based Learning) used in the Japanese MBA programs residing in the Business School alongside the English-language GMBA program, in which learning is facilitated though the exploration of practical, real-world problem solving. This enables the student to acquire working knowledge and develop critical assessment abilities that form a solid foundation for a career as a management professional.
The emphasis of this project work is not purely academic, but rather the focus is on practical analysis and problem-solving on par with the type of problems encountered by management professionals, especially those in Japanese organizations or organizations based in Japan.
It is permissible but not required for the Project 2-B (Field Research) project in Year 2 to build on the work done in Year 1 for the Project 1-B (Field Research) project
Goals:
- To acquire real-world working knowledge of innovation practitioners grounded in management theory and practice
-To experience real-world work conditions in Japan, in order to cultivate the critical thinking skills of innovation practitioners
- To cultivate the global perspective that the GMBA program values, through exposure to intensive Japanese language and cultural learning, in order to become innovation practitioners grounded in effective communication

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain"DP1","DP2","DP3","DP4"and"DP5".

【Method(s)】
The student is to develop and carry out a Field Research project plan in consultation with and under the guidance of a faculty advisor or advisors. In order to do this, the student will first identify a general area or areas of interest based on past and current work experience and career interest. Then with this as a starting point, the student will meet with the faculty advisor(s) to be determined by the GMBA faculty.
The project is to be identified through the literature search and consultation with the faculty adviser(s) to identify a company or topic for the project. Appropriate methods of inquiry both qualitative and quantitative will be used, including but not limited to interviews, survey questionnaires and data analysis. The findings of the project should be synthesized into business recommendations and summarized in a project report. Upon approval by the faculty adviser(s), the report will be submitted to the GMBA Administrative office.
In the process of the above consultation, specific goals and procedures will be identified, and specific deliverables clarified. While the exact form and format of these deliverables is up to the faculty advisor(s), they will likely include development in turn of a problem statement, project thesis, project plan, and initial, midterm, and final reports.
It is permissible but not required for the Project 2-B (Field Research)h project in Year 2 to build on the work done in Year 1 for the Project 1-B (Field Research) project.
The emphasis of this project work is not purely academic, but rather the focus is on practical analysis and problem-solving on par with the type of problems encountered by management professionals, especially those in Japanese organizations or organizations based in Japan.
Although the Field Research project is not strictly comparable to the Internships on an hourly basis, the student should keep in mind that the internships require over 160 hours. Using that as a general baseline, over the course of a 4-6 month project, the student will likely spend at least 5-10 hours per week minimum on the project.

The deliverables (problem statement, project thesis, project plan, and initial, midterm, and final report) will be written in English, and based on regular (weekly-to-monthly) meetings with the faculty advisor(s). The final report is due a week prior to the Internship Presentation Conference to be held about February of each year, and will be accompanied by a Final Faculty Presentation to the faculty advisor(s) and other relevant faculty.
A Final Presentation will be made at the Internship Presentation Conference in Tokyo (usually in English but Japanese also possible for students whose English ability is stronger than their Japanese ability).

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
あり /Yes

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation	General guidance on the process of Field Research project
2	Research Methods Overview	Overview of general Field Research methodology
3	Problem Identification	Identification of general problem
4	Problem Development	Development of problem issues
5	Presentation of Problem Statement	Presentation of arrived at problem statement for discussion by faculty advisor(s)
6	Project Planning	Discussion and development of project approach
7	Literature Review	Review of literature relevant to the project topic, problem, and methodology
8	Project Design	Bring together project approach and findings from the literature search into a design of the project
9	Presentation of Project Plan	Presentation of arrived at project design for discussion by faculty advisor(s)
10	Field Work 1	Planning of field work (company visits, survey questionnaires, etc)
11	Field Work 2	Carrying out of field work
12	Project Conclusion	Synthesis of problem findings into business recommendations
13	Faculty Presentation	Presentation of project findings and recommendations to faculty advisor(s)
14	Final Presentation	General Presentation of project findings and recommendations at Internship Presentation Conference

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
The student is to develop and carry out a field research project plan in consultation with and under the guidance of a faculty advisor or advisors.
In order to do this, the student will first identify and general areas of interest based on past and current work experience and career interest, and with this as a starting point, faculty advisor(s) will be determined by the GMBA faculty (but will include the faculty assigned to this course).
The field research is to be conducted through the literature search, and in consultation with the faculty adviser(s) to identify a company and/or topic for the project. Appropriate methods of inquiry both qualitative and quantitative will be used, including but not limited to interviews, survey questionnaires, and data analysis. All of this will be supported by the management principles being learned in the GMBA courses. The findings of the project should be synthesized into business recommendations and summarized in a project report. Upon approval by the faculty adviser(s), the report will be submitted to the GMBA Administrative office.
In the process of the above consultation, specific goals and procedures will be identified, and specific deliverables clarified. While the exact form and format of these deliverables is up to the faculty advisor(s), they will likely include development in turn of a problem statement, project thesis, project plan, and initial, midterm, and final reports.
These deliverables will be written in English, and based on regular (weekly-to-monthly) meetings with faculty advisor(s). The final report is due a week prior to the Internship Presentation Conference to be held about February of each year.
Towards the end of the project, the student will make a Final Faculty Presentation to the faculty advisor(s) and any other relevant faculty members, in which the student presents the field research topic, problem, analytical approach, findings and field research conclusion. This is done in English.
After the Field Research is finished, a Final Presentation will be made at the Internship Presentation Conference in Tokyo. This is a simplified version of the Faculty Presentation, suited for a general audience. This presentation is generally in English, although students for whom their English is stronger than their Japanese may challenge themselves to presenting in Japanese if they desire.
It is permissible but not required for the Project 2-B (Field Research)h project in Year 2 to build on the work done in Year 1 for the Project 1-B (Field Research) project.
The emphasis of this project work is not purely academic, but rather the focus is on practical analysis and problem-solving on par with the type of problems encountered by management professionals, especially those in Japanese organizations or organizations based in Japan.
(Although the Field Research project is not strictly comparable to the Internships on an hourly basis, the student should keep in mind that the internships require over 160 hours. Using that as a general baseline, over the course of a 4-6 month project, the student will likely spend at least 5-10 hours per week minimum on the project.)

【Textbooks】
Not applicable

【References】
Not applicable

【Grading criteria】
[Final grade is determined by]
· Administrative Cooperation 30%
· Professional Communications 30%
· Project Planning &Execution 40%
Students will be judged on their overall professional attitude, completion of assigned tasks, development the Field Research project, and findings resulting from the project.
The assigned tasks include:
- Attendance at orientation and regular meetings with the faculty advisor(s)
- Creation of a problem statement, research thesis, and research plan (detailed instructions to be provided during the orientation period)
- On-time submission of initial, midterm, and final reports (detailed instructions to be provided during the orientation period)

- Presentation of Field Research project at the Final Faculty Presentation (in English) and at the Internship Presentation Conference (usually in English but Japanese also possible for students whose English ability is stronger than their Japanese ability)
Detailed instructions on the above task will be provided during the orientation period and via the regular faculty advisor meetings.
Professional attitude will be judge on characteristics including the following:
- Positive and cooperative attitude during the orientation and assignment period
- Active participation in all aspects of the Field Research Project
- Proper and business-like communications in email and report submissions, etc.
- Critical assessment and decision-making during the internship
- Collegial relationships with faculty advisor(s) and other faculty
- Responsible communication with the GMBA program office, GMBA faculty, and adherence to rules and guidelines
For Project 1-B and Project 2-B, assessment of the Field Research project will place greater weight on the planning and the implementation of the project than it will for the project results.
Overall assessments are made in consideration of the three core learning objectives of the GMBA Program, which are instilling the following competencies:
1 Practical Management Competency
Learning Outcome 1a. Management Planning:
Student demonstrates competency in the application of the principles of management theory &practice to the planning of new business and/or the assessment of existing business
Learning Outcome 1b. Strategy Execution:
Student demonstrates competency in the application of the principles of management strategy to the planning of new business and/or the assessment of existing business
2 Critical Analytical Competency
Learning Outcome 2a. Hypothesis Setting:
Demonstrates competency in the formulation of hypotheses used to validate the planning of new business and/or the assessment of existing business
Learning Outcome 2b. Hypothesis Testing:
Demonstrates competency in the evaluation of hypotheses used to validate the planning of new business and/or the assessment of existing business
3 Communication Competency
Learning Outcome 3a. Written Communication
Demonstrates competency in professional written communication
Learning Outcome 3b. Spoken Communication
Demonstrates competency in professional spoken communication

【Changes following student comments】
Not applicable

【Equipment student needs to prepare】
Students should have use of a computer for internet research, communication and writing, should bring the computer to their internships, and have access to the internet as well.

【Others】
As the mission of the Business School of Innovation Management is to foster innovation practitioners in companies, organizations and society at large, grounded in management theory &practice, critical thinking, and effective communication, the emphasis of this Field Research project work is not purely academic. Rather, the focus is on practical analysis and problem-solving on par with the type of problems encountered by management professionals, especially those in Japanese organizations or organizations based in Japan. Given this objective, Field Research reports and presentations are not modeled after typical academic papers, but instead should take the form and style of standard business materials. It does not constitute a standard Master's Thesis.
Moreover, the Business School of Innovation Management is a Professional School, not a research-oriented Master's degree program. For these reasons, the completion of the Field Research project and the attainment of the MBA degree itself do not necessarily guarantee advancement to further doctoral study such as PhD. The decision as to whether the Field Research work supports such advancement is solely at the discretion of the academic program the student may apply to in the future.
Courses in general will be held face-to-face in the classroom. In the event of a new extreme wave of the COVID-19 pandemic, courses may be changed to online format according to the decisions of Hosei University, the Business School of Innovation Management, and the GMBA Program. Please check the university website and communications from the university for the final decision each quarter. In case of online course, please check the HOSEI Learning Management System for specific online instructions of each course.
Specifically in the case of project courses, the projects (in this case, field research) may be changed to a full online or hybrid online/face-to-face format.

【Outline (in English)】
Project 1-B (Field Research) and Project 2-B (Field Research), for Global MBA (GMBA) Program students in Year 1 and Year 2 respectively, is offered only in special cases for GMBA students who have been permitted to take these courses instead of Project 1-A (Internship) and Project 2-A (Internship) for the following reason.
In certain special cases, students may be accepted into the GMBA program with the understanding that they are unable to participate in Project 1-A (Internship) and Project 2-A (Internship) for the following specific reasons (to be pre-approved by the faculty):
- People with concurrent full-time jobs who are unable to take leave of absence
- People with full-time childcare duties who are unable to be away from home
- Special institutional arrangements requiring a field research project
- Special company dispatches requiring a field research project
In these cases, students may be permitted to take Project 1-B (Field Research) and Project 2-B (Field Research) instead, with the specific Field Research project to be carried out under supervision of the faculty in order to provide an equivalent experience to the internship courses. (Such cases result from GMBA program decisions, not simply because the student prefers to do a Field Research project.)
The purpose of the Project 1-A &2-A (Internship) and the Project 1-B &2-B (Field Research) courses is to provide a real-world business learning experience known as Project-based Learning or Active Learning, in support of the course work encountered in the GMBA program.

As the mission of the Business School of Innovation Management is to foster innovation practitioners in companies, organizations and society at large, grounded in management theory &practice, critical thinking, and effective communication, the emphasis of this Field Research project work is not purely academic. Rather, the focus is on practical analysis and problem-solving on par with the type of problems encountered by management professionals. Accordingly the reports and presentations of this course do not constitute a standard Master's Thesis, nor do they necessarily guarantee advancement to further doctoral study such as PhD.
This course also contributes to the three core learning objectives of the GMBA Program, which are to instill the following skills:
1 Practical Management Competency
2 Critical Analysis Competency
3 Communication Competency

MAN570F2（経営学 / Management 500）

Japanese Management

Japanese Management

長谷川　卓也［ハセガワ タクヤ］

単位数：**2単位**
学期：**秋学期前半**/Fall(1st half)
授業分類：**専門講義**
Global MBA
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
Since the Meiji Restoration (1868) and the end of World War II (1945), Japan has achieved significant success and economic prosperity. While exemplary achievements are frequently highlighted in textbooks, less favorable cases are often overlooked or underemphasized. This course is designed for individuals interested in exploring the disparity between ideals and reality by examining unsuccessful examples of Japanese management practices. The ultimate goal is to apply insights gained from these cases to the development of future business strategies.
The course objectives are as follows:
1) To identify discrepancies between idealized concepts and practical realities.
2) To select and conduct an in-depth analysis of a specific case study.
3) To pinpoint instances of irrational decision-making and propose effective countermeasures.

【Goal】
In addition to acquiring foundational knowledge in innovation science, students will cultivate critical thinking skills grounded in behavioral and evolutionary economics. They will learn to identify instances of innovation stagnation in real-world contexts and develop original hypotheses and strategies to address and overcome these challenges.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain“DP1”,“DP3”and“DP5”.

【Method(s)】
The course includes introductory sessions, discussions with two guest lectures, and three group presentations. Students are required to submit a "Final Essay" as part of the coursework. The essay, limited to 10 slides in PowerPoint format, challenges students to convey a high density of information using concise and precise language within the given constraints.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction (1)	Self-introduction of the instructor and students
2	Lecture (1)	Japan’s Decline, Peter Drucker, Business creation and business operation
3	Group presentation (1)	"Drucker’s paper: Difference between 1971 and 2020"
4	Lecture (2)	Structural inertia, Peter Thiel &Normal distribution, The PayPal mafia
5	Lecture (3)	Schumpeter theory, Water bath heating, Oslo manual
6	Lecture (4)	Definitions of the business, #1.Diversity, #2.Future projection
7	Lecture (5)	Definitions of the business #3.Nazokake, #4.Bystander effect
8	Guest lecture (1)	Raymond Chang, Abalance Corporation, Japan "Introduction to Securitization“
9	Group presentation (2)	"Financing and Innovation"
10	Guest lecture (2)	Xiao Yang, senior consultant, Arthur D. Little Japan “Organizational and Management Behavior – Japan vs. USA and how can we improve Japanese companies’ competitiveness in the age of AI?"
11	Lecture (6)	Episode ZERO of Birdy Fuel Cells LLC
12	Lecture (7)	Long delay, Philosophers
13	Group presentation (3)	"Confront the stagnation"
14	Group presentation (4)	"Confront the stagnation"

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Pre-Course Reading
Students are required to complete the following readings before the start of the course:
Drucker, P.F. (1971). What We Can Learn from Japanese Management. Harvard Business Review (March/April 1971), pp. 110– 122. Link
Thiel, P. A., &Masters, B. (2014). Zero to One: Notes on Startups, or How to Build the Future. Broadway Business.
Anticipated Weekly Time Commitment
Students should allocate their time as follows:
Preparation for each class: 120 minutes
Review of class content: 120 minutes
This may also include:
3. Pre-reading of assigned materials (1 &2): 180 minutes
4. Preparation for group presentations: 60 minutes per presentation
5. Preparation for the final essay: 180 minutes

【Textbooks】
No textbook will be used. Handouts will be provided by the lecturer.

【References】
1934 The Theory of Economic Development 2nd Ed.: Joseph Schumpeter
1970 The Structure of Scientific Revolutions 2nd Ed.: Thomas Kuhn
1997 The Innovator’s Dilemma: Clayton Christensen
2000 UBIQUITY: Mark Buchanan
2008 Predictably Irrational: Dan Ariely
2010 HBR’s 10 Must Reads The Essentials: Harvard Business School Press
2014 Zero to One: Peter Thiel

【Grading criteria】
Class contribution (40%)
Group discussion and presentation (40%)
Final essay (20%)
- 5%Template (organized?)
- 5%Unique (new?)
- 5%Reasoning (deep?)
- 5%Conclusion (specific?)

【Changes following student comments】
Final essay:

1. Cover page (1 page)
2. AI&I (3 pages)
3. Conclusion (1 page)

The first step in the final essay is to identify your own research question
(RQ) based on a case of innovation stagnation. Consulting AI can provide seemingly plausible answers by aggregating widely available opinions on the internet. At times, you may wish to 'supplement' the AI's response, while at other times, you may feel inclined to challenge or 'contradict' it. In the case of supplementation, the AI is likely to align with your perspective. However, if you choose to contradict the AI's response, this may lead to the development of a new argument — or it may not. Either way, the process is expected to spark some form of inspiration.
Reflect on your findings and ask the AI again for further insights. Repeat this process several times, and incorporate your final reflections and conclusions into the Conclusion section of your essay.

【Equipment student needs to prepare】
Notebook computer

【Others】
Work experience of the lecturer:
https://www.linkedin.com/in/takuya-hasegawa-4759243b/
The lecturer has over 30 years of experience in advanced technology and market development with more than 100 team members and 500 suppliers + partners.
In 2012-15, he served as a chief engineer of Nissan's last fuel cell electric vehicle research prototype.
In 2021, he and his co-founder established a Japanese hydrogen technology company to further accelerate the deployment of large-scale energy storage systems with automotive fuel cell and water electrolyzer technologies.
https://www.birdyfuelcells.com/

【Outline (in English)】
Since the Meiji Restoration (1868) and the end of World War II (1945), Japan has achieved significant success and economic prosperity. While exemplary achievements are frequently highlighted in textbooks, less favorable cases are often overlooked or underemphasized. This course is designed for individuals interested in exploring the disparity between ideals and reality by examining unsuccessful examples of Japanese management practices. The ultimate goal is to apply insights gained from these cases to the development of future business strategies.
The course objectives are as follows:
1) To identify discrepancies between idealized concepts and practical realities.
2) To select and conduct an in-depth analysis of a specific case study.
3) To pinpoint instances of irrational decision-making and propose effective countermeasures.

MAN570F2（経営学 / Management 500）

Japanese Production Management & Supply Chain Management

Japanese Production Management & Supply Chain Management

長谷川　卓也［ハセガワ タクヤ］

単位数：**2単位**
学期：**春学期前半**/Spring(1st half)
授業分類：**専門講義**
Global MBA
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
After World War II, Japan emerged as a global leader in all facets of production and supply chain management, including design, procurement, manufacturing, transportation, and delivery methods. In recent years, however, Japan has faced significant challenges due to stagnation in innovation. This course aims to address how to identify and overcome such stagnation, with a particular focus on the raw material and manufacturing costs of various products. Guest speakers with expertise in the automotive, hydrogen, and battery industries will provide insights into these challenges.

The primary goal of this course is not to study academic theories, but to develop practical skills essential for business, particularly in cost calculation and analysis.

【Goal】
In addition to gaining foundational knowledge in production management and supply chain management, students will develop critical thinking skills informed by cost engineering and behavioral economics. They will learn to identify instances of innovation stagnation in real-world contexts and formulate original hypotheses and effective countermeasures to address and overcome these challenges.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain“DP1”,“DP2”and“DP4”.

【Method(s)】
The course includes introductory sessions, discussions with three guest lectures, and four group presentations. Students are required to submit a "Final Essay" as part of the coursework. The essay, limited to 10 slides in PowerPoint format, challenges students to convey a high density of information using concise and precise language within the given constraints.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction (1)	Course assessment
2	Lecture (1) Short presentation	Objectives of this course, About wealth, Basics knowledge, A quiz
3	Group presentation (1)	TOC quiz 2
4	Lecture (2)	How to dive into the blue ocean, Simple. Simple. Simple., Dichotomy, Skunkworks
5	Guest lecture (1)	"Battery Industry" (FREYR, Ryuta Kawaguchi, Chief Science Officer &Technical Fellow)
6	Guest lecture (2)	"Hydrogen Industry" (Hywealth, Katsuhiko Hirose, CEO &Chief Consultant)
7	Lecture (3)	Innovation analysis in industry, A-U Theory Art of Approximation
8	Lecture (4) Lecture (5)	Dr. Hasegawa’s Fermi Estimate: world energy design Value added Price per kg, Trade statistics
9	Individual Presentation (2)	Art of Approximation
10	Guest lecture (3)	"Automotive Industry" (PwC, Yasuhiro Sugawara, Partner)
11	Group presentation (3) Lecture (6)	Trade statistics Inertia &Pivot, Schumpeter’s five cases, Impairment loss, Five cases + Inertia
12	Lecture (7)	An instinctive problem of disruptive innovation, Prof. Christensen’s prescription, Human instincts in economics
13	Group Presentation (4)	"Confront the stagnation"
14	Group Presentation (5)	"Confront the stagnation"

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are required to complete one of the following readings before the course begins:
Goldratt, E. M., &Cox, J. (2016). The Goal: A Process of Ongoing Improvement. Routledge.
ザ・ゴール コミック版 単行本（ソフトカバー） – 2014/12/5, エリヤフ・ゴールドラット/ジェフ・コックス
Anticipated Weekly Time Commitment
Students should allocate their time as follows:
Preparation for each class: 120 minutes
Review of class content: 120 minutes
This may also include:
3. Pre-reading of 1) or 2): 120 minutes
4. Preparation for group presentations: 60 minutes per presentation
5. Preparation for the final essay: 180 minutes

【Textbooks】
No textbook will be used. Handouts will be provided by the lecturer.

【References】
Web:
1. http://www.toyota.co.jp/jpn/company/vision/production_system/
2. http://www.nissan-global.com/JP/NISSANCRAFTSMANSHIP/
3. http://keio-ocw.sfc.keio.ac.jp/International_Center/09B-016_e/list.html
Book:
1. https://www.amazon.co.jp/英語でkaizen-トヨタ生産方式-成沢-俊子/dp/4526060151

【Grading criteria】
Class contribution (40%)
Group discussion and presentation (40%)
Final essay (20%)
- 5%Template (organized?)
- 5%Unique (new?)
- 5%Reasoning (deep?)
- 5%Conclusion (specific?)

【Changes following student comments】
Final essay:
1. Cover page (1 page)
2. AI&I (3 pages)

3. Conclusion (1 page)
The first step in the final essay is to identify your own research question
(RQ) based on a case of innovation stagnation. Consulting AI can provide seemingly plausible answers by aggregating widely available opinions on the internet. At times, you may wish to 'supplement' the AI's response, while at other times, you may feel inclined to challenge or 'contradict' it. In the case of supplementation, the AI is likely to align with your perspective. However, if you choose to contradict the AI's response, this may lead to the development of a new argument — or it may not. Either way, the process is expected to spark some form of inspiration.
Reflect on your findings and ask the AI again for further insights. Repeat this process several times, and incorporate your final reflections and conclusions into the Conclusion section of your essay.

【Equipment student needs to prepare】
Notebook computer

【Others】
Work experience of the lecturer:
https://www.linkedin.com/in/takuya-hasegawa-4759243b/
The lecturer has over 30 years of experience in advanced technology and market development with more than 100 team members and 500 suppliers + partners.
In 2012-15, he served as a chief engineer of Nissan's last fuel cell electric vehicle research prototype.
In 2021, he and his co-founder established a Japanese hydrogen technology company to further accelerate the deployment of large-scale energy storage systems with automotive fuel cell and water electrolyzer technologies.
https://www.birdyfuelcells.com/

【Outline (in English)】
After World War II, Japan emerged as a global leader in all facets of production and supply chain management, including design, procurement, manufacturing, transportation, and delivery methods. In recent years, however, Japan has faced significant challenges due to stagnation in innovation. This course aims to address how to identify and overcome such stagnation, with a particular focus on the raw material and manufacturing costs of various products. Guest speakers with expertise in the automotive, hydrogen, and battery industries will provide insights into these challenges.

MAN570F2（経営学 / Management 500）

Open Innovation

Open Innovation

RADHAKRISHNAN NAIR［ラーダーキリシャナンナーヤ］

単位数：**2単位**
学期：**秋学期前半**/Fall(1st half)
授業分類：**専門講義**
Global MBA

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
Open Innovation (OI) enables companies to access wider external innovation sources to accelerate the pace of innovation needed to sustain business in the fast changing world and stay competitive. Several global companies successfully created OI strategies which helped them accelerate innovation to market and build business. Procter and Gamble's Connect and Develop (C&D) is one of the well known examples.
The course will start with introducing the need of accelerated innovation in the fast changing world and ,through subsequent lectures and discussions, build an overview of OI strategies, models and successful examples. The course is aimed introducing OI as one of the strategies to build business by accessing external innovation sources.

【Goal】
The course is designed to introduce Open Innovation (OI) mindset through compelling case studies from world's leading innovative companies.
At the end of the course, students will get basic understanding of OI with successful examples through case studies and their own research on companies doing OI.
Students will be introduced to resources through reference books and articles to further enable them to learn more on OI and prepare them to influence the organizations they work for in the future.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain"DP1"

【Method(s)】
Group discussion- debate , lectures, case study analysis. Researching and presentations of OI examples from global and domestic corporations. Group exercise on developing OI strategies for different business scenarios.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Types of Innovation-Introductory Lecture.	Introduction to Types of Innovation.. Sustaining, disruptive. Examples and case studies.
2	Open Innovation frame-work.	Introducing Open Innovation. Why Open Innovation and why companies adapt OI. P& G Case study and examples.
3	Strategic Approach to Open Innovation –	Management strategies for a successful Open Innovation. Leadership Issues and Challenges.
4	Organization Development for Open Innovation.	Developing OI culture in the organization. Identifying Opportunities. Case Studies.
5	Tools for Open Innovation	Different approaches of Open Innovation explained with case studies from companies. Risk Avoidance in OI. Business models for OI. Legal, IP issues in OI. Pitfalls of OI.
6	Developing OI network and building OI partnership.	OI network and partnerships, how to develop effective external eco system. Case studies.
7	Future Vision of Open Innovation	How OI will evolve in the new digital era. Crowd sourcing, Hackathons, Lean Innovation

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Reading recommended books, articles, and also some examples (internet search and read) (As a standard, 2 hours for preparation and 2 hours for review: a total of 4 hours.)

【Textbooks】
Reference text books will be recommended.

【References】
(i) A guide to Open Innovation and CrowdSourcing: Advice from Experts in the Field (Edited by Paul Sloane)
(ii) Open Service Innovation (Henry Chesbrough)
(iii) https://hbr.org/2006/03/connect-and-develop-inside-procter-gambles-new-model-for-innovation

【Grading criteria】
(i) Class Participation 50%and 50%on the 3 assignments below)
(ii) Case study and presentation - Students need to research on Open
Innovation example of a company of their choice and make presentation.
(iii) Short essay on OI case study - Make a short essay (max 2 pages) based on
the case study research above.
(iv) Group work and presentation - Group work on business case study and short
presentation

【Changes following student comments】
Guest Lecture by Japanese industry expert on Open Innovation.

【Equipment student needs to prepare】
none

【Others】
none

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【Outline (in English)】
Open Innovation (OI) enables companies to access wider external innovation sources to accelerate the pace of innovation needed to sustain business in the fast changing world and stay competitive. Several global companies successfully created OI strategies which helped them accelerate innovation to market and build business. Procter and Gamble's Connect and Develop (C&D) is one of the well known examples.

The course will start with introducing the need of accelerated innovation in the fast changing world and ,through subsequent lectures and discussions, build an overview of OI strategies, models and successful examples. The course is aimed introducing OI as one of the strategies to build business by accessing external innovation sources.

MAN570F2（経営学 / Management 500）

Entrepreneurship and New Business Creation

Entrepreneurship and New Business Creation

小村　隆祐［コムラ リュウスケ］

単位数：**2単位**
学期：**春学期後半**/Spring(2nd half)
授業分類：**専門講義**
Global MBA
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course delves into the concept of “Entrepreneurship” as a vital approach to navigating and thriving in today’s VUCA(*) world. Through engaging class discussions and hands-on experiences, students will explore the distinctive mindset and behaviors that entrepreneurs embody. Participants will gain practical experience in both individual and group settings by engaging in the business ideation and formulation process.
Designed as an action-oriented course, it features a variety of interactive workshops and exercises to foster creativity, teamwork, and proactive problem-solving. Students are encouraged to think innovatively, embrace collaboration, and take bold steps toward action.
*VUCA: An acronym for “Volatility, Uncertainty, Complexity, and Ambiguity.”

【Goal】
Upon completing this course, students will be able to:
- Understand and adopt the entrepreneurial mindset and unique behavioral practices of successful entrepreneurs.
- Develop a foundational knowledge of key concepts and terminologies in the fields of startups and entrepreneurship.
- Build confidence to think and act entrepreneurially, empowering them to make a meaningful impact in an uncertain world. (Yes, you can do it!)

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Program is intended to acquire all of dp1 to dp5. But order is illustrated in terms of Likelihood of acquiring.

【Method(s)】
1. Class discussions &Lectures
2. Workshop
3. Dialogue with gusset speakers (Entrepreneur, VC etc)
4. The students will formulate two types (group and individual) of launch plan(*) of their business(or NPO) throughout the course with learnings from each class and present (pitch) them in the course
*We use the term, “Launch Plan” instead of “Business Plan” as entrepreneurial activities are dynamic and must be always adaptive to possible changes. In other words, there is no definite plan for a business especially in the early phase with much uncertainty. What we can do is fairly create a “launch plan”.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Entrepreneurial Mindset (&Action)	How can we be an entrepreneur? Or what is entrepreneurship after all!? In this session, we will focus on the unique mindset &way of behaviors that entrepreneurs practice to start your entrepreneurial journey.
2	Unleashing Your Creativity	Can anybody be creative? Yes creativity is for everyone. We will unleash (y)our creativity through some hands-on experience.
3	The power of team	Collaboration is the source of innovation but it can be a really tiring process. We will look into what is good about "team" and how we can unleash the possibility of team.
4	Evolving as a team	In this session, we will cultivate the teamwork with group-work.
5	Design Thinking - Introduction	Design thinking emphasizes direct observation, engagement, and deep understanding of user needs and behavior. The fundamental framework of Design Thinking is introduced in this session.
6	Design Thinking - Practice	Design thinking emphasizes direct observation, engagement, and deep understanding of user needs and behavior. We will practice several methodologies of Design Thinking following the introduction.
7	The Pitch	Entrepreneurship is a process of acquiring resources to pursue an opportunity from the external. We will focus on the effective way of communication in the form of "pitch" to practice entrepreneurship.
8	Business Model	Business Model Canvas is introduced. You will map out your business idea on the framework to examine the feasibility of your idea.
9	Rocket Pitch (Mid-term presentation)	Rocket Pitch is a pitch format of 3 minutes &3 slides. You will present your business ideas with the format.
10	Guest Speaker Session 1	We will dialogue with a real entrepreneur in order to cultivate the understanding of entrepreneurship.
11	Startup Finance - Primer	The foundation of startup finance is introduced.
12	Guest Speaker Session 2	We will dialogue with a real entrepreneur in order to cultivate the understanding of entrepreneurship.

13	Final Pitch Presentation	You will pitch your launch plan in the class.
14	Reflection & Growing Pain	In the world of entrepreneurship, action trumps everything but also reflection trumps everything too. We will reflect the journey you have taken throughout the course and extract the learning out of it. As a final topic we will also touch upon the frequent pitfalls that entrepreneurs/ startups face as they grow.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be required to work on two types of business ideas—one as a group and one individually—outside of class. Assignments will be provided at the end of each session. On average, students are expected to dedicate approximately two hours of preparation for each class.

【Textbooks】
N/A

【References】
· Leonard A. Schlesinger, Charles F. Kiefer, Paul B. Brown.(2012) Just Start: Take Action, Embrace Uncertainty, Create the Future | ISBN-10 : 1422143619 | ISBN-13 : 978-1422143612

【Grading criteria】
1. Class Participation: 50%
This course includes numerous interactive discussions. Class participation will be evaluated based on both the quantity and quality of contributions to discussions and group work. Contributions that demonstrate leadership and deepen the class's overall learning experience are highly valued.
2. Rocket Pitch (Mid-term Presentation): 10%
Students are required to prepare and deliver a pitch using the format introduced in class. The pitch should reflect the core principles discussed during the course.
3. Final Presentation: 40%
The final presentation will be assessed based on the following criteria:
1) Entrepreneurship: The extent of actions and experiments undertaken to refine and improve the business idea.
2) Persuasiveness: The ability to deliver a compelling and convincing presentation.
3) Social Impact: The potential of the business idea to create meaningful social impact, as well as its feasibility in terms of technology and the capabilities of the team.

【Changes following student comments】
N/A

【Equipment student needs to prepare】
PC or other devices that is needed to work on the launch plan within the classes

【Others】
Ryusuke is a dedicated advocate for entrepreneurs of all backgrounds and an accomplished entrepreneur himself. He began his career as an intrapreneur within a major Japanese corporation, where he honed his skills in innovation and business development. After earning an MBA from Babson College, he joined GLOBIS as a senior consultant, contributing to various executive education projects for leading Japanese corporations and supporting the organizational development of startups. During his tenure, he also developed multiple business school case studies focusing on entrepreneurship and startups.
Since 2024, Ryusuke has served as the Executive Director of Venture Café Tokyo, where he leads efforts to strengthen Japan's innovation ecosystem and foster a vibrant community of innovators. Before this role, he served as Program Director, playing a pivotal role in establishing and expanding the organization. Venture Café Tokyo is part of the global innovation network led by the Venture Café Global Institute, headquartered in Boston.

【Outline (in English)】
This course delves into the concept of "Entrepreneurship" as a vital approach to navigating and thriving in today's VUCA(*) world. Through engaging class discussions and hands-on experiences, students will explore the distinctive mindset and behaviors that entrepreneurs embody. Participants will gain practical experience in both individual and group settings by engaging in the business ideation and formulation process.
Designed as an action-oriented course, it features a variety of interactive workshops and exercises to foster creativity, teamwork, and proactive problem-solving. Students are encouraged to think innovatively, embrace collaboration, and take bold steps toward action.
*VUCA: An acronym for "Volatility, Uncertainty, Complexity, and Ambiguity."

BSP500Q2（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 500）

地域創造ワークショップ

柿野　成美

備考（履修条件等）：**インスティテュート共通科目**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当科目では、これからの地域づくりの考え方・進め方等について各教員からの講義を聴講して理解を深め、グループでのディスカッションを通じて地域づくりの多様な考え方を交流することにより、独自の考え方を深めることを目的とする。

【到達目標】
毎回講師が提示する地域創造に関するテーマ・論点に応じたワークショップでの議論を通じて、これからの地域創造の在り方について考えることができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業当授業は、授業担当教員の他、各実施回1名ずつゲスト教員が講義に加わる。前半は各教員が専門とするテーマで講義を行う。後半は、各教員からのテーマに沿って、グループに分かれて討議を行い、討議内容を発表し、最後に担当教員が講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス	当科目の主旨及び内容説明。
	ワークショップ①	ゲストによる講義をもとにワークショップ・担当教員による講評を行う。
2回（3･4）	ワークショップ②	ゲストによる講義をもとにワークショップ・担当教員による講評を行う。
3回（5･6）	ワークショップ③	ゲストによる講義をもとにワークショップ・担当教員による講評を行う。
4回（7･8）	ワークショップ④	ゲストによる講義をもとにワークショップ・担当教員による講評を行う。
5 回（9・10）	ワークショップ⑤	ゲストによる講義をもとにワークショップ・担当教員による講評を行う。
6回（11・12）	ワークショップ⑥	ゲストによる講義をもとにワークショップ・担当教員による講評を行う。
7回（13・14）	ワークショップ⑦	ゲストによる講義をもとにワークショップ・担当教員による講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ワークショップで議論した内容及び個人の意見をまとめ、毎回レポートとして提出する。本授業の復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。必要に応じてレジュメを配布する。

【参考書】
講義内容に応じて適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点60％、提出レポート40％。

【学生の意見等からの気づき】
限られた時間内で、一層効率的な議論・討論ができるようにするため、ファシリテーターの知識を共有するなどの工夫をすること。

【学生が準備すべき機器他】
毎回、ノートPCを持参すること。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to deepen understanding by listening to lectures by each teacher on the ideas and methods of future regional development, and to deepen original ideas by exchanging diverse ideas on regional development through group discussions.

BSP510Q2（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 500）

調査法

高尾　真紀子

備考（履修条件等）：**リサーチ・フィールドワーク系科目**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策立案、政策創造の前提となる現状把握には客観的な数量分析が不可欠であり、修士論文においても、客観的データの分析を加えることによって、より説得性を増す。本講義では、統計データ及び質問紙調査を使った実証分析の方法を理解、習得し、修士論文作成にあたって実際に応用できるようにする。

【到達目標】

データサイエンスの基礎的な考え方を理解した上で、量的調査の実証分析の方法を習得し、各自の修士論文作成にあたって実際に応用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

実際に統計データを使用して計算ソフト（EXCEL）による分析方法を実習し、分析結果を正しく解釈するための統計の基礎を学ぶ。エクセルを使ったアンケート集計の方法についても解説する。統計学、数学的知識は必要としないが、エクセルの基礎的操作は習得していることが望ましい。内容は以下を予定しているが、受講人数、受講者の希望に応じて弾力的に変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	イントロダクション 経済統計の基礎	講義の進め方、さまざまな調査手法と本講義で取り扱う範囲について学ぶ。経済統計データの基礎知識を学び、統計データを加工する
2回（3･4）	社会調査の方法：質問票の作成 調査結果の集計・分析	社会調査、特に質問紙調査の設計から実施までの方法と留意点を学び、質問票を作成する。調査結果の集計、分析の手法を学び、エクセルを使った単純集計、クロス集計の方法を習得する。
3回（5･6）	統計の基礎	平均と分散、標準偏差、正規分布等の統計の基礎について学ぶ。カイ二乗検定、ｔ検定、F検定など仮説検定の手法について、どのような場合に使うかを学び、実習を行う。
4回（7･8）	相関分析・回帰分析	相関の概念について学び、散布図の作成や相関係数の求め方を実習する。単回帰分析の考え方を学び、分析手法を実習する
5 回（9･10）	重回帰分析	多変量解析の中でも様々な場面で活用範囲の広い重回帰分析について学び、様々な重回帰分析を実際のデータを基に実習する。
6回（11･12）	多変量解析 統計分析演習	因子分析、主成分分析等の多変量解析の考え方とどのような場面で活用できるのかを学ぶ。学習した手法を用いたデータ分析演習を行う。
7回（13･14）	課題発表	各自の問題意識や研究テーマに基づき、学習した手法を用いてデータ分析を行った結果の発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Excelの基本操作が出来るようにしておくこと。

授業中のデータをUSB等で保存し、授業中に出来なかったことは家で復習すること。

本講義で用いた手法等を用いて、各自の専門（修士論文）に関連したテーマを選び、現状分析を行い(データをさがし加工する)、レポートを作成（文章と図表で説明）。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメや参考資料を配布する。

【参考書】

鮑戸弘『社会調査ハンドブック』日本経済新聞社
伊藤公一朗『データ分析の力　因果関係に迫る思考法』光文社新書
神林博史・三輪哲『社会調査のための統計学　生きた事例で理解する』技術評論社
中室牧子、津川友介『「原因と結果」の経済学　データから真実を見抜く思考法』
森田果『実証分析入門』日本評論社
西内啓『統計学が最強の学問である』ダイヤモンド社
西内啓『統計学が日本を救う　少子高齢化、貧困、経済成長』中央公論新社
涌井良幸、涌井 貞美『Excelで学ぶ統計解析』
涌井良幸、涌井 貞美『図解　使える統計学』

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）、実習（30％）、レポート（50％）を総合的に勘案する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のエクセル習熟度が異なるため、複数の演習課題を用意し、進捗の速い学生は、さらに進んだ演習に進めるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

各自が情報端末を使用（インターネットによるデータのダウンロードが行える）しながら受講できる教室を使用。

【その他の重要事項】

基礎的な内容なので、出来る限り早期（1年目）に履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

This　course aims to understand and acquire the method of empirical analysis of data using statistical data and questionnaire survey and make it practically applicable for preparation of master thesis.

BSP510Q2（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 500）

研究法

上山　肇

備考（履修条件等）：**リサーチ・フィールドワーク系科目**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文作成手法の習得

【到達目標】
研究テーマの設定と先行研究を踏まえた研究計画書の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、研究計画書の内容に関する講義を行います。その講義を踏まえ、各自の論文テーマを設定し、関連する先行研究を調べ、それらを読み進めます。その上で、①研究の目的・意義　②研究の内容　③期待される成果（仮説）を盛り込んだ研究計画書を作成します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス	本授業の進め方について説明します。また、「研究計画書とは何か」について説明するとともに、各自の論文テーマを設定します。
2回（3･4）	文献資料の検索	各自の論文テーマに関連する文献資料を収集します。
3回（5･6）	研究計画の立案	最終的な論文のイメージを明確にします。
4回（7･8）	研究計画書の書き方	研究計画書の作成にあたっての留意点について説明します。
5 回（9･10）	研究計画書の作成①	実際に研究計画書を作成します。
6回（11･12）	研究計画書の作成②	実際に研究計画書を作成します。
7回（13･14）	研究計画書の発表	作成した研究計画書に基づいて口頭発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自のテーマに即した先行研究の調査・分析を行います。それと並行し、文献を事前に読み、配布資料や演習問題（スライド作成等）の予習・復習、授業内で示される課題（レポート、スライド作成等）に対応してもらいます。本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
「まちづくり研究法」（三恵社）。その他、講義の中で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点50％、発言20％、レポート30％で行います。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This course introduces about writing method of a thesis to students taking this course.
[Learning Objectives]
Setting research themes and creating research plans based on previous research.
[Learning activities outside of classroom]
Survey and analysis of previous research according to your theme
[Grading Criteria /Policy]
Your final grade will be calculated according to the following process: Attendance (50%), Comment (20%), and Reports(30%).

BSP510Q2（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 500）

質的研究法

齊藤　弘通

備考（履修条件等）：**リサーチ・フィールドワーク系科目**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
質的研究法とは、事象の性質や特徴といった数値化しにくいデータを扱い、事象を質的に理解、説明、解釈しようとする研究法であり、量的研究ではアプローチできない研究課題を解明する上で有用なものである。本科目ではこの質的研究法の特性や質的研究を行う際の流れを理解するとともに、質的研究で用いられる代表的な分析手法について理解、実践できるようになることを目的とする。

【到達目標】
①質的研究法の特性、研究プロセスが説明できる。
②インタビュー法や観察法を用いて質的データを収集することができる。
③収集した質的データを適切に分析・解釈することができる。
④質的研究を活用した研究計画を立てることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
・授業は各回とも講義と演習を織り交ぜながら進めていく。
・演習は個人で行うものとチームで行うものがある。
・提出された課題については毎回いくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・第6回・第7回ではチームで設定した調査課題に関するインタビューデータを収集・分析するとともに、最終報告の途中経過について発表する。（インタビュー調査については対面またはZOOMなどを活用したオンライン上での実施を想定）
・講義は質的研究法の初学者を念頭において行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	質的研究の特性と研究プロセス	量的研究との対比から、質的研究の持つ特性について詳しく理解する。また、質的研究の一般的な流れ（リサーチクエスチョンの設定、調査対象の選定とデータの収集、テクストデータに対するコーディングとカテゴリ化、概念モデル・理論の生成）について理解する。
2回（3･4）	質的データ収集の技法①インタビュー法	質的データを収集するための技法であるインタビュー法の類型や特徴、インタビュー調査の際に準備すべきこと、インタビューの具体的な進め方について理解する。
3回（5･6）	質的データ収集の技法②観察法	質的データを収集するための技法である観察法の類型や特徴、進め方について理解する。また、映像データを観察し、フィールドノーツを作成する手順を実際に体験する。
4回（7･8）	質的データの解釈・分析	収集した質的データに対して、コードを割り当て（コーディング）、カテゴリを生成していくプロセスについて理解する。また、カテゴリ間の関係性を図解し、分析結果をストーリーラインにまとめていく手順を把握する。
5回（9・10）	代表的な質的データ分析法	質的研究で用いられる代表的な分析法（M-GTA、SCAT、TEM、ドキュメント分析等）について理解する。また、M-GTAなど、代表的な質的データ分析法を用いた研究論文を読み、分析手続きの仕方や結果のまとめ方を把握する。
6回（11・12）	質的データの収集・分析演習	チームごとに、設定された調査課題に応じて実際にインタビュー調査を行い、質的データを収集するとともに、得られたデータを分析する演習を行う。
7回（13・14）	演習結果の発表・研究計画の検討	チームごとにインタビュー調査の途中経過を報告資料にまとめ、発表する。（なお最終報告資料は、途中経過報告に対する教員からのフィードバックを踏まえ、授業後の指定期日までに提出する。）また、自身の研究において質的研究を用いる場合の研究計画について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①本授業の準備学習および復習のため、質的研究法に関する文献や論文を読み、ポイントを要約する。（文献や論文は都度授業において配布する）
②授業内で行った演習に関する課題に取り組む。（課題の内容は随時指示する）
③チームで取り組むインタビュー調査演習において、授業外の時間を用いて、データの分析と調査報告資料の作成を行う。
④レポート課題に取り組む。（レポートのテーマは授業において指示する）
・本授業の準備学習および復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回、授業で配布するレジュメ（パワーポイントにて作成）をテキストとして使用する。

【参考書】
ウヴェ・フリック著・小田博志監訳『新版　質的研究入門＜人間の科学＞のための方法論』春秋社,2011年
太田裕子『はじめて「質的研究」を「書く」あなたへ ―研究計画から論文作成まで―』東京図書,2019年
大谷尚『質的研究の考え方　研究方法論からSCATによる分析まで』名古屋大学出版会,2019年
佐藤郁哉『フィールドワークの技法　問いを育てる、仮説をきたえる』新曜社,2002年
佐藤郁哉『質的データ分析法　原理・方法・実践』新曜社,2008年
サトウタツヤ・春日秀朗・神崎真実編『質的研究法マッピング』新曜社,2019年
須田敏子『マネジメント研究への招待　研究方法の種類と選択』中央経済社,2019年
岡田昌毅編著『働くひとの生涯発達心理学　M-GTAによるキャリア研究』晃洋書房，2017年
その他、授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
以下の配分により、成績評価を行う。
①平常点（授業への参加、グループ演習への積極的参加）20％
②文献・論文の要約および課題への取り組み　20％
③インタビュー調査報告資料の作成（チームにて作成）20％
④レポート課題への取り組み　40％

【学生の意見等からの気づき】
・質的研究のイメージをより深めてもらえるよう、オープンコーディングやM-GTA、SCAT、TEM、事例研究法など、様々な質的分析法が用いられた論文を昨年度より多く紹介する。
・質的データの分析過程についてより体験的に理解してもらえるよう、授業で使用した演習用の題材やワークシートを改良する。
・質的データ分析におけるオープンコーディングの手続きについて時間をかけて体験していただくようにする。

【学生が準備すべき機器他】
授業でパワーポイントを使うことがある。

【その他の重要事項】
・少人数チームでのインタビュー調査演習（インタビュー調査の実施、データの分析、調査報告資料の作成）があることにご留意いただきたい。また当該演習において授業外の時間を活用する場合がある点もお含みおきいただきたい。
・なお、授業外でインタビュー調査を行う際には、ZOOMなどのオンラインミーティングツールを活用する場合があることもお含みおきいただきたい。

【Outline (in English)】
【Outline and objectives】
This course introduces the qualitative research methods to students taking this course.
The aim of this course is to help students acquire an understanding the characteristics and process of qualitative research methods.
【Goal】
The goals of this course are to
- be able to explain the characteristics and process of qualitative research methods,
- be able to collect qualitative data using interview survey and observation method,
- be able to analyze and interpret the collected qualitative data properly,
- be able to make a research plan using qualitative research.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.) 】
- Read and summarize the literature and articles on qualitative research methods.
- Work on assignments related to the exercises in the class.
- Analyze qualitative data and prepare research report materials for the interview research exercise in teams, using time outside of class.
- Work on the report assignment.
【Grading criteria】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
- Ordinary points (class attendance, active participation in group exercises) :20%
- Summarization of documents and articles and work on assignments: 20%
- Preparation of interview survey report materials (prepared by team): 20%
- Efforts and quality of the report assignment: 40%

ECN520Q2（経済学 / Economics 500）

特別講義（地域から考える日本経済）

梅溪　健児

備考（履修条件等）：**産業・企業・イノベーション創造群**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本経済論はマクロ経済学の枠組みと分析を用いることが多い。しかし、本講義はそれではなく、厳しさを増している地域のくらしに重点を置いて日本経済を考察する。例えば、医療については、高齢化が医療費を押し上げ社会保障費を増大させるというのが通常の日本経済論であるが、本講義は医師の偏在がもたらす医療サービスの先細りが地域のくらしの差し迫った課題であることを重視する。授業では、人口動態と産業動向によって地域の市場が縮小を迫られていることをデータで押さえ、くらしを支える所得・医療・教育・商業・交通などの地域格差を探求する。さらに、日本経済が直面する就職氷河期の影響、離職の増加と人手不足、外国人労働の増加などについて地域の視点で再考する。授業の目的は、①これまでふつうの生活として可能であったことが地域のくらしでは困難になるという流れを理解すること、②地域のくらしに求められる支援策の枠組みを評価することの２点である。

【到達目標】

本講義の目標は次の2点である。第一に、日本経済の長期停滞は国民生活に大きな打撃を与えたが、地域のくらしの視点に立つと先鋭な問題は何であるのかを理解すること。第二に、即断ではなく関連する事実を見極めてポピュリズム的な政策に陥らない前提に立ち、くらしの継続に対処する政策視点を身に着けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は教材（パワポ）、関係資料（文献等）を配布して行う。各回の前半は講義とし、後半は輪読と討議にあてる。必要な教材は一部を除いて１週間前に配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	長期停滞を経た日本経済	日本経済は少子高齢化が加速し、産業構造のサービス化とデジタル化が進む。集積が進む東京に対し地方は消滅の危機が深まる。人口減少が地域のくらしに影響する論点の全体像を学ぶ。
2回（3･4）	東京集中の比較：過去と現在	現在の東京集中は高度成長期と異なり女性が多く、しかも東京都の豊かな財政に支えられた政策により集中が続く勢いである。現在の東京集中の強さを学ぶ。
3回（5･6）	地域格差の考察：所得、健康、教育	人口動態と産業構造の変化により地域格差は高まる傾向にある。所得、健康、教育について格差の現状を学ぶ。実例としては、医師の偏在、教員不足を考える。
4回（7･8）	就職氷河期のインパクト	団塊ジュニア世代の就職期が長期停滞と重なり、賃金の停滞、非正規雇用の拡がり、少子化の加速が生じた。この世代は中高年化し、深まる問題を学ぶ。
5回（9・10）	経済停滞と労働市場の変貌	高齢者と女性の雇用化が増加しながら、最賃引上げ、人手不足と雇用ミスマッチの高まり、外国人労働の増加が生じている。地域の視点に立って労働市場の動きを学ぶ。
6回（11・12）	日本経済のこれから	日本の一人当たりGDPは世界順位を大きく落とした。地域は厳しく、書店が消え、流通が過疎化し、地域交通の撤退が増した。これからの視点、議論の方向を考える。
7回（13・14）	レポート発表と意見交換	期末レポートを発表し、日本経済の課題について討議を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は1回の講義につき4時間を標準とする。日頃から新聞、ニュース報道などを通じて、エビデンスと政策のポイントを整理することが望ましい。自身で経済社会データ（総務省e-Statなど）を検索し、図表化することを心がけてほしい。

【テキスト（教科書）】

講義用の教材と討議用資料を配布する。教材でメインとなるのは、参考書に示した小峰・村田（2025）と伊藤・星（2023）である。

【参考書】

井伊雅子（2024）『地域医療の経済学』慶應義塾大学出版会
伊藤隆敏・星岳雄（2023）『日本経済論』東洋経済新報社（原著（2020英書）の和訳）
小峰隆夫・村田啓子（2025）『最新日本経済入門（第7版）』日本評論社
近藤絢子（2024）『就職氷河期世代』中公新書
近藤克則（2022）『健康格差社会（第2版）』医学書院
日本経済新聞社地域報道センター編（2024）『新データで読む地域再生』
山田昌弘（2007）『少子社会日本』岩波新書
吉見俊哉（2019）『平成時代』岩波新書

【成績評価の方法と基準】

輪読及び討議50％（10%×5）、レポート作成と発表 50％

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、「所得格差の現状をジニ係数を用いて学べて良かった。小泉政権は悪いと思っていたが、統計によるとそうでもなかった。」という意見があり、教材に取り上げた意義があった。格差を調べる対象は他にもあり、本年の第3回講義で取り上げる。「過去70年の姿をGDP統計で俯瞰するのは頭に入りやすく勉強になった」という声があり、これは第1回、第6回講義で続ける。経済動向を図で理解する方針はすべての講義で維持する。講師はかつて公務員であったので、政策決定における政府や政治家の思考について紹介するが、これは学生の関心が高く、継続する。経済学と数学の知識がなくても授業は非常に分かりやすかったとの感想が寄せられたので、難しい数式を使わずに地域の視点で経済の仕組みを説明する。

【学生が準備すべき機器他】

レポート作成・発表には、図表（パワポ・エクセル等で自身が作成したもの）を掲載してください。

【その他の重要事項】

経済学の予備知識はなくてかまいませんが、新聞雑誌テレビなどで発信される経済ニュースが理解できることは必要です。

【Outline (in English)】

This course aims to build a perspective of local economies on important issues that have shaped the development of the Japanese economy. Some important issues to be tackled are the shrinking of local regions with gaps among people of health and education, and the changing labor market with foreign workers increasing. The class is provided with quantitative facts and economic explanations by economists, together with thoughts from other scholars, including sociologists. Students are expected to prepare for the class for four hours prior to and after the class. Students are graded with in-class discussion (50%) and the term paper (50%).

MAN520Q2（経営学 / Management 500）

人的資源管理論

石山　恒貴

備考（履修条件等）：**人材育成・生活・ウェルビーイング創造群**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義においては、変わりつつある日本的雇用を背景に、今後の人的資源管理をどのように設計・運用していくべきか、という点に焦点をあてる。人的資源管理に携わる人のみならず、企業の経営、人事施策、キャリア施策に興味を持つ人は、広く対象となる。人的資源管理論の知識を講義で解説した後に、受講者で今後の方向性を議論していくことにより、新しい知見の生成を目指していく。

参加型とし、受講生自身が選択した人的資源管理に関する事例（企業、公的団体、非営利を問わず組織の事例）について報告することを求める。

【到達目標】

人的資源管理の定義、概念、最新の動向を理解し、企業の組織経営、人事施策という大きな視野の中での位置づけることができるようにする。それを通じて、実際の企業／組織における人的資源管理を設計、運用、実施できるようになる知識とセンスの習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

人的資源管理の歴史的背景、日本的雇用の変化と課題、グローバルにおける人的資源管理の最新動向などを講義、解説したうえでグループディスカッションを行い、あるべき方向性を全員でつくりあげていく。また受講者相互の発表により、グローバルの状況、日本の状況の実態の理解を深める。

また、人的資源管理は、経営理論、リーダーシップ理論、キャリア理論との関係も重要である。こうした理論との関係性を踏まえながら、授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	人的資源管理の定義、歴史的背景、理論的背景	人的資源管理の定義を行い、どのような歴史的背景、理論的背景があるのかについて分析を行う。
2回（3･4）	組織開発と組織行動	人的資源管理との関連において、組織開発と組織行動の重要概念について、分析、考察する。
3回（5･6）	日本的雇用と職務、エンゲージメント	変化しつつある日本的雇用の状況を分析する。その変化を踏まえ、日本における職務主義と職能資格の実態を考察する。エンゲージメントを多角的に分析する
4回（7･8）	戦略的人的資源管理と人事部の機能・役割	特に欧米における人的資源管理論の発展には戦略的人的資源管理論の貢献が大きく、経営戦略との結びつきが基礎となっている。この観点から分析を行う。それを踏まえて、人事部門の機能・役割がどうあるべきなのかについて考えていく。
5回（9・10）	タレントマネジメントおよび受講者による事例発表	タレントマネジメントには、人材ポートフォリオ、報酬、評価、職務評価、目標管理、リテンションなど様々な要素がある。各要素とその統合の必要性を、タレントという観点から分析する。また、受講者による事例発表を行う。
6回（11・12）	受講者による事例発表	受講者による事例発表を行う。
7回（13・14）	受講者による事例発表とまとめ	受講者による事例発表と授業の総括として、人的資源管理の未来のあり方の総合的な考察。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、講義だけなく、グループ討議を積極的に取り入れていく。自分の所属する組織における人的資源管理についての問題意識を持ち、グループ討議にいかしていただきたい。

また講義で示す参考書については、積極的にお読みいただきたい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ノートについては、毎回の授業で配布する。

【参考書】

有沢正人・石山恒貴『カゴメの人事改革』中央経済社、2023年
石山恒貴『日本企業のタレントマネジメント』中央経済社,2020年
石山恒貴『越境的学習のメカニズム』福村出版,2018年

【成績評価の方法と基準】

評価は、①授業における議論の実施状況による得点（1回あたり5点満点で計35点満点）、②受講者による事例発表の得点（65点満点）で、両者を足した総得点を規定による評価基準に沿って評価する。

【学生の意見等からの気づき】

実務面の参考にしていただくべく、豊富な実例の紹介を行う

【学生が準備すべき機器他】

授業ではパワーポイントなどPCを使うことがある。

【その他の重要事項】

各人の事例研究報告が課されていることに留意して受講すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Human Resource Management. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Human Resource Management.

Goal

At the end of the course, students are expected to understand the definitions, concepts, and current trends in human resource management

Work to be done outside of class

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Presentation of case study assigned by each student: 65%、in class contribution: 35%

ARSl520Q2（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500）

地域活性化システム論

高尾　真紀子

備考（履修条件等）：**人材育成・生活・ウェルビーイング創造群**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、地域活性化の様々な角度から焦点を当てて、内閣府の協力の下に、学外講師（関係省庁、自治体の政策担当者、民間専門家、有識者）が講義に臨み、受講者と直接ディスカッションを行う。受講者は地域活性化の現場で役立つ多角的な視点と実践的な知識を得ることを目指す。

【到達目標】

学外講師（関係省庁の政策担当者、有識者、民間専門家）とディスカッションを行うことにより、地域活性化をめぐる現状や課題、政策的知見を共有し、地域活性化に関する提言をまとめることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は対面を基本とし、一部地方とつなぐ等、オンラインを併用して実施する。毎回、学外講師による講義の後、受講者とディスカションを行う。また、受講者は毎回の講義テーマと関連し地域活性化に関するグループディスカッションを行う。最終日には地域経済分析システム（ＲＥＳＡＳ）を利用し、データに基づく地域活性化の提言をまとめて発表することが求められる。

地域活性化を多様な角度からとらえることとしているが、毎年統一テーマを決めて、講義内容や講師を検討している（2020年度：都市と地方、2021年度：地域のウェルビーイング、2022年：関係人口と地域、2023年度：地域活性化と人づくり、2024年度：人口減少時代の地域活性化）。2025年度のテーマは直近の社会経済情勢を踏まえて決定する予定。

参考までに、以下に2024年度の内容を記す（講師の肩書きは講義時のもの）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	講義 受講生によるディスカッション1 担当教員によるまとめ	イントロダクション 地域活性化政策の変遷
2回（3･4）	講義 受講生によるディスカッション2 担当教員によるまとめ	特定非営利法人　土佐山アカデミー事務局長　吉冨慎作氏 「土佐山アカデミーにおける地域課題の解決法」
3回（5･6）	講義 受講生によるディスカッション3 担当教員によるまとめ	一般社団法人　スマートシティ・インスティテュート　専務理事　南雲岳彦氏 「市民の幸福度を高めるまちづくり」
4回（7･8）	講義 受講生によるディスカッション4 担当教員によるまとめ	一般社団法人　スマートシティ・インスティテュート　専務理事　南雲岳彦氏 第3回のまとめとグループワークの発表
5回（9･10）	講義 受講生によるディスカッション5 担当教員によるまとめ	愛知県新城設楽建設事務所　道路整備課　課長補佐 あいち橋の会　事務局　　宮川　洋一氏 「人口減少時代のインフラのあり方」
6回（11･12）	講義及び対談 受講生によるディスカッション6 担当教員によるまとめ	株式会社価値総合研究所　主席研究員　鴨志田武史氏 「地方創生とＲＥＳＡＳ(地域経済分析システム)」内閣府地方創生推進事務局　　ご担当者 「地方創生の推進について」
7回（13･14）	受講生による発表 担当教員によるまとめ	各自が対象地域を設定し、分析に基づく地域活性化の方策について発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から地域活性化に関する新聞や雑誌記事、ニュースなどを読み、政策に関する自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとにレジュメを配布する。

【参考書】

前野隆司編著『システム×デザイン思考で世界を変える』日経BP社

木下斉『地方創生大全』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

平常点(1/3)、授業への貢献(1/3)、発表の内容（1/3）を総合的に勘案する。

【学生の意見等からの気づき】

Zoomのブレークアウト・セッションの利用による講師とのディスカッションが好評だったため、地方在住の講師を招いてディスカッションできるよう、オンラインと対面を併用した講義とする。

【その他の重要事項】

※オンライン授業の受講方法は学習支援システムに表示します。

※講義概要は講師の都合等により変更がある場合があります。

【Outline (in English)】

In this course, focusing on various angles of regional revitalization, guest lecturers such as practitioners, experts, administrative staff etc. give lectures and discuss directly with the students. This lecture is under the cooperation of the Cabinet Office.

GEO520Q2（地理学 / Geography 500）

文化地理学

増淵　敏之

備考（履修条件等）：**都市・文化・観光創造群**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域を論じて行く場合、地理学的な概念が不可欠になる。地理学は現代では空間の学問といわれており、学際的にその領域を拡張している。本授業は地域の文化的差異に注目する文化地理学の入門編である。講義全体を通じて、文化地理学とは何か、その方法上の特色はどこにあるかを考えていくが、また都市地理学の紹介も行って行きたい。

【到達目標】
到達目標は文化地理学の全貌把握にあり、その理論を個々が研究に活用できるようにすることにある。地理学が空間の学問である点を把握したうえで、学際的になっている現代の社会科学、人文科学の中でどのような位置を占め、文化的差異への注目はどのような効用をもたらせているのかを理解し、説明することができるところまで求めたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
一般的には地理学は人文地理学と自然地理学のふたつの領域で構成されるが、本授業では文化地理学を主にして進めていく。文化地理学のこれまでの流れを把握しながら、空間論的、文化的転換期を迎えて以降の様々な研究を紹介していく。適宜、議論を交えていくが、最後にレポート課題の提出を求めたい。なお、状況によって授業内容が変わることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	人文地理学と現代社会・人文地理学と地域/ Human Geography and Modern Society・ Human Geography and Region	現代社会における地理学の位置付け、地域という概念について/ About the position of geography in modern society and the concept of region
2回（3･4）	文化地理学入門/ Introduction to Cultural Geography	文化地理学のこれまでの流れを説明/Explaining the history of cultural geography
3回（5･6）	食文化の地理学/ Geography of food culture	おにぎり、稲荷寿司、どら焼き、バウムクーヘンなどの食文化を通じて文化的差異を見る/See cultural differences through food culture such as rice balls, Inari sushi, Taiyaki, and Baumkuchen
4回（7･8）	文化的地域差についての議論/Discussion of cultural regional differences1	テーマを設定し、学生間での議論を行う/Set a theme and have discussions among students
5回（9・10）	言語の地域性と景観の地域性/ Regionality of language and regionality of landscape	言語地理学について学び、その後、景観論に言及する/Learn about linguistic geography and then mention landscape theory
6回（11・12）	習慣の文化的差異と文化的差異を形成する要因/Cultural differences in customs and the factors that form them	儀式、しきたり、風俗の違いによる文化的差異、文化的差異に影響する要因について/Cultural differences due to differences in rituals, customs, and customs, and factors that influence cultural differences
7回（13・14）	ポピュラーカルチャーの地理学/ Geography of popular culture	これまでの地理学領域でのポピュラーカルチャーについての研究を紹介/Introducing research on popular culture in the field of geography so far

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習をしてくること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。状況によって授業内容が変わることもあります。

【テキスト（教科書）】
レジュメを中心に授業を進める。

【参考書】
森 正人、中川正（2022）「文化地理学ガイダンス」ナカニシヤ出版
森正人（2021）「文化地理学講義ー< 地理> の誕生からポスト人間中心主義へ 」

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、レポート70％

【学生の意見等からの気づき】
説明をできるだけ平易に、具体例を交えて授業を行うことをこころがける。適宜、タイムリーな内容への変更もあり得る。

【学生が準備すべき機器他】
PC、DVDを使用することもある。

【その他の重要事項】
オフィスアワー：金16 − 18時

【Outline (in English)】
When discussing regions, geographical concepts become essential. Geography is nowadays a discipline of space, and it has expanded its field interdisciplinarily. This lesson is an introduction to cultural geography focusing on cultural differences in the region. Throughout the lecture, I will consider what cultural geography is and what is unique about the method. I would also like to introduce urban geography.

ARSx520Q2（地域研究（その他） / Area studies(Others) 500）

都市空間論

上山　肇

備考（履修条件等）：**都市・文化・観光創造群**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市空間の成立条件（構成要素、計画、ルール、プロセス等）について学び、都市空間形成に関する能力を養います。

【到達目標】
都市政策立案に必要な都市空間に関する基本事項を理解できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
都市空間の計画的利用を立案する行政、開発事業者、民間プランナーなどにとって必要な知識を、理論と実践（実務）の両方の視点から解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	(1)地域社会における都市空間 (2)都市環境と都市空間を取り巻く状況	(1)「まちづくり」とは (2)都市化と都市問題
2回（3･4）	(1)都市空間の構成要素 (2)都市空間を実現するための手段	(1)建築と敷地、緑と都市、オープンスペース (2)計画、ルール、事業　等
3回（5･6）	(1)都市空間の形成プロセス (2)都市空間の規制手法１	(1)市民参加と合意形成　等 (2)ゾーニングの歴史と理論
4回（7･8）	(1)都市空間の規制手法２ (2)都市空間における景観	(1)ゾーニングと地区まちづくり (2)景観コントロール
5 回（9・10）	(1)都市空間の開発手法 (2)都市空間の再生	(1)都市再開発の仕組み　等 (2)中心市街地の活性化
6回（11・12）	(1)都市空間の評価手法 (2)事例研究１（事業）	(1)評価の仕組み、具体的まちづくりの評価 (2)土地区画整理事業、再開発事業、密集事業　等
7回（13・14）	(1)事例研究２（制度） (2)事例研究３（テーマ型）	(1)地域地区、地区計画　等 (2)水辺空間の再生（国内・海外事例）　等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布する資料を読んできてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
実践・自治体まちづくり学（上山肇編著、公人の友社）。その他については講義の中で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点50％、発言20％、レポート30％で行います。

【学生の意見等からの気づき】
毎年、事例紹介が学生にとって有効であるため、今年度もできるだけ多くの事例（現地視察を含む）を授業に取り入れたいと考えています。

【その他の重要事項】
受講生と相談した上で、通常授業（1回程度）を休日を利用し現地視察に振り替えることがあります。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
In this course, you will learn about the conditions for establishing urban space (components, plans, rules, processes, etc.) and develop the ability to form urban space.
[Learning Objectives]
This course will help you understand the basics of urban space needed for urban policymaking.
[Learning activities outside of classroom]
Please read the materials to be distributed.
[Grading Criteria /Policy]
Your final grade will be calculated according to the following process: Attendance (50%), Comment (20%), and Reports(30%).

TRS520Q2（観光学 / Tourism Studies 500）

観光社会学

北郷　裕美

備考（履修条件等）：**都市・文化・観光創造群**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
観光社会学とは何か　社会学という視点でその意味するところを考え続けることが本講義の目的である。現代社会における観光のあり方を探究することによって、現代社会の成り立ちを考えるのが観光社会学である。したがって、本講義では、観光に含まれる文化的要素も併せて把握することで、「現代観光」についてより理解を深める。

【到達目標】
現代社会における観光のあり方を再考し、学生の分析力を養う。現代社会において観光はサービス商品であるとともに政策面での重要な手段である。単なる観光事例研究やツーリズム研究に留まるものではなく、社会学的な手法や知見を基に、観光という広い領域をどう捉え直すべきか。言い換えれば、観光現象を一定の社会を背景に構築され制度化されたもの（中略）として理論化するもの（須藤・遠藤 2018）である。そういう意味において、「観光」は両義的なものである。この両義性のなかで観光現象を的確に分析できる研究者及び実践者に資することがこの授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
各自の論文執筆にどう活かせるかを学ぶ。教員のこれまでの具体的な調査活動や研究実績を基にして、基本的に座学で行うが、各自の研究テーマに沿った形でディスカッションやワークショップを試みたい。具体的な講義形式は、毎回スクリーンにパワーポイント及びウェブサイト・リンクを投影しておこなう。必要に応じてレジュメの配布（学習支援システムに事前アップ）、板書、音声や画像、DVD動画の視聴等も取り入れる。また課題提出を毎回課す。詳細はガイダンス時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス　観光社会学が目指すもの	講義全体を俯瞰するとともに、観光のまなざしと映画に見る社会学という立ち位置で映画視聴による具体例の検証を行う
2回（3･4）	観光社会学とは何か	観光社会学とは何かという問いに対して社会学としての観光を考える　近代化と観光社会学および社会現象としての観光の構造に関して考察する
3回（5･6）	現代観光の特徴	マス・ツーリズムの出現と弊害～現代観光の特徴～新たな観光形態 観光の多様化へ
4回（7･8）	現代観光の特徴：新たな観光形態　観光の多様性	多様な観光形態を事例に観光について社会学的な視点を持つ
5 回（9･10）	現代観光の特徴：新たな観光形態　観光の多様性	文化、産業、家族、宗教等　多くの社会学領域が観光といかなる結びつきがあるかを検証する
6回（11･12）	現代観光の特徴：新たな観光形態　観光の多様性	観光に欠かせない多くの施設や文化装置について広く概観し各々が観光に果たす役割や課題を検証する
7回（13･14）	観光施設の社会性（観光の文化装置としての事例研究）	観光社会学総括　これからの観光を考える（湯布院を事例として）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習のために、毎回事前に講義用のレジュメを学習支援システムにアップする。講義後はコメントシート作成も兼ねて授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧し、授業時間以外に学修してもらうことを望む。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。ただし普段から社会全体で議論されている内容（報道等）には注意深くあって欲しい。

【テキスト（教科書）】
特には設けないが毎回作成配布するPPTを通して独自のノートを作成してほしい　文献等はその都度紹介していく

【参考書】
須藤廣・遠藤英樹『観光社会学 2.0』福村出版、2018年
遠藤 英樹、 堀野 正人、 寺岡 伸悟『観光メディア論 』ナカニシヤ出版、2014年
ジョン アーリ (著)、 ヨーナス ラースン (著)、加太 宏邦 (翻訳)『観光のまなざし』法政大学出版局、2014年
その他　講義内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点30点、レポート70点。

【学生の意見等からの気づき】
毎回提出いただくコメントシート又は対面による学生の感想・意見を授業に反映する

【Outline (in English)】
What is tourism sociology?　The purpose of this lecture is to continue to think about what tourism sociology means from the perspective of sociology.　Tourism sociology considers the origins of modern society by investigating the nature of tourism in modern society.　Therefore, this lecture deals with the "modern tourism" by grasping the cultural elements included in tourism.
Your overall grade in the class will be decided
based on the following:
- Class attendance and attitude in class: 30%
- Term-end examination reports: 70%

MAN520Q2（経営学 / Management 500）

地域産業論

橋本　正洋

備考（履修条件等）：**産業・企業・イノベーション創造群**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、地域での産業の再生、興隆について学ぶ。このため、教授からのレクチャーで得た基本的知識を踏まえ、地方創生に実績のあるゲストを招いて話題提供をお願いし、実践的な講義と討議を行う。ここでは日本の地域における産業活動の実体を把握し、地方経済再生などを目指すために、どの様な政策・取り組みなどが必要かについて、理解を深める。

【到達目標】
日本の地域経済の状況を理解し、実務に応用可能な産業政策や企業の経営戦略などを立案・実行する能力をつけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
担当教授によるイントロダクション（第一回講義）に続き、全国的にも著名であり、具体的な地域産業興隆を進めているゲストスピーカーから担当教授の立ち合いのもと話題提供をお願いし、これを踏まえ担当教授による解説及びモデレートによるグループディスカッション及び全体討論を行う。当然のことながら全体討論のまとめが担当教員により行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	イントロダクション	地域産業の現状と課題について俯瞰する。
2回（3･4）	地域産業興隆の状況	地域経済興隆の先進的取り組みについてゲストスピーカーからの話題提供を基に教授と指導のもと討論する。担当教授によるイントロダクション（第一回講義）に続き、全国的にも著名であり、具体的な地域産業興隆を進めているゲストスピーカーから担当教授の立ち合いのもと話題提供をお願いし、これを踏まえ担当教授のモデレートによるグループディスカッション及び全体討論を行う。当然のことながら全体討論のまとめが担当教員により行われる。
3回（5･6）	地域産業の動向①	ゲスト講師による地域産業興隆のケーススタディの話題提供を基に教授の指導の下議論する。担当教授によるイントロダクション（第一回講義）に続き、全国的にも著名であり、具体的な地域産業興隆を進めているゲストスピーカーから担当教授の立ち合いのもと話題提供をお願いし、これを踏まえ担当教授のモデレートによるグループディスカッション及び全体討論を行う。当然のことながら全体討論のまとめが担当教員により行われる。
4回（7･8）	地域産業の動向②	ゲスト講師による地域産業興隆のケーススタディの話題提供を基に教授の指導の下議論する。担当教授によるイントロダクション（第一回講義）に続き、全国的にも著名であり、具体的な地域産業興隆を進めているゲストスピーカーから担当教授の立ち合いのもと話題提供をお願いし、これを踏まえ担当教授のモデレートによるグループディスカッション及び全体討論を行う。当然のことながら全体討論のまとめが担当教員により行われる。
5回（9･10）	地域産業の動向③	ゲスト講師による地域産業興隆のケーススタディの話題提供を基に教授の指導の下議論する。担当教授によるイントロダクション（第一回講義）に続き、全国的にも著名であり、具体的な地域産業興隆を進めているゲストスピーカーから担当教授の立ち合いのもと話題提供をお願いし、これを踏まえ担当教授のモデレートによるグループディスカッション及び全体討論を行う。当然のことながら全体討論のまとめが担当教員により行われる。
6回（11･12）	地域産業の動向④	ゲスト講師による地域産業興隆のケーススタディの話題提供を基に教授の指導の下議論する。担当教授によるイントロダクション（第一回講義）に続き、全国的にも著名であり、具体的な地域産業興隆を進めているゲストスピーカーから担当教授の立ち合いのもと話題提供をお願いし、これを踏まえ担当教授のモデレートによるグループディスカッション及び全体討論を行う。当然のことながら全体討論のまとめが担当教員により行われる。
7回（13･14）	まとめ	これまでの講義の内容を振り返り、地域産業のポイントをおさえる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常起きている経済活動や経済事象について関心を高め、それが地域産業とどのような関係にあるか、深く検討することが必要。すべての履修者は、そうした検討に基づいてプレゼンテーション、ディスカッションに参加することが求められる。本授業の準備・復習時間は、合計で5時間を標準とする。授業の内容により、準備または復習に重点を置くことに注意。復習結果を課題レポートとして提出する。

【テキスト（教科書）】
講義の際に配布する。

【参考書】
授業の進展に伴い、適切な参考図書等を提示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点(授業中の発表・ディスカッションへの参加等)（おおむね５０％）、プレゼンテーション（おおむね５０％）とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生からの評価に基づき、地域産業分析にかかる手法の講義も行う。

【学生が準備すべき機器他】
ゲストスピーカーが遠隔で話題提供を行う場合があるのでパソコンを持ち込むこと。

【その他の重要事項】
担当教員が資料を事前に提示するので、予習をしておくこと。

【Outline (in English)】
In this lecture, I will invite a guest who has a proven track record in the revitalization and prosperity of industry in the region, and give a practical presentation and sufficient discussion under professor's moderation. Here, we aim to deepen our understanding of what kind of policies and initiatives are necessary in order to grasp the reality of industrial activities in Japan's regions and to aim for regional economic revitalization.Naturally, the overall discussion will be summarized by the teacher in charge.

MAN520Q2（経営学 / Management 500）

中小企業論

黒澤　佳子

備考（履修条件等）：**産業・企業・イノベーション創造群**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、わが国産業の競争力を支えてきた中小企業の構造的問題について、課題別に考察することをねらいとします。そこで、まずわが国中小企業の歴史的な変遷および国際比較を行いながら、中小企業の存在意義について明らかにします。その後、大企業との格差問題および下請中小企業問題を中心としながら、中小企業が地域経済の担い手やグローバル化に寄与していることについて考察していきます。

【到達目標】
①日本経済における中小企業の地位や役割について説明できる。
②大企業とは異なった中小企業の経営特性について説明できる。
③経営環境の変化に対応し、成長を続ける中小企業のマネジメントついて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義はテキストをもとに進め、補足資料についてはパワーポイントで示します。また、講義の内容をもとにしたディスカッションも行います。理解度を把握するため、定期的に講義の中でミニレポートを課します。講義内容に関する質問は、講義中以外にも、オフィスアワーやメール等で受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	中小企業の経営特性 中小企業の歴史	単に大企業を縮小したような存在ではなく、大企業とは異なった経営特性を持つ中小企業が、その経営特性を生かす道としてどのような事業分野があるのかについて。 産業革命から現代まで、世界における中小企業がどのように変化してきたのかについて。
2回（3･4）	海外の中小企業 中小企業問題と中小企業政策	海外では、中小企業がどのような地位を占め、どのような役割を担っているのかについて。 中小企業問題の本質とは何か、その解決のために講じられる中小企業政策の役割や体系について。
3回（5･6）	経営環境の変容と戦略マネジメント 資金難と財務マネジメント	企業を取り巻く経営環境が変容しているなかで、中小企業が長期的な戦略にもとづく経営に取り組む必要性について。 資金調達をはじめとした中小企業の財務マネジメントのあり方について。
4回（7･8）	分業構造の変容と下請マネジメント 企業間関係の変容とネットワーク・マネジメント	下請企業の構造的問題を解決するマネジメントについて。 経営資源に制約の多い中小企業が事業展開において抱える問題について。
5回（9・10）	産業構造の変容と地域産業マネジメント 世界市場の変容とグローバル・マネジメント	産業集積の戦略的な連携や他地域への進出、地域資源の有効活用について。 中小企業がグローバル化を行うことによって起きる問題について。
6回（11・12）	人材難と組織・人材マネジメント 後継者難と事業承継マネジメント	経営環境の多様な変化に適応していくための組織や人のマネジメントのあり方について。 中小企業に特有の事業承継リスクへの対応方法について。
7回（13・14）	研究開発力不足と製品開発マネジメント 既存事業の衰退と事業開発マネジメント	イノベーションによる中小企業の製品開発マネジメントの重要性について。 中小企業の事業開発上の経営課題と対応策について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習ではシラバスをもとにテキストや参考図書等を用い事前学習をしておいてください。復習では目安となる水準を講義中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
井上善海編著（2022）『中小企業経営入門』中央経済社（2,300円）

【参考書】
井上善海・黒澤佳子・田中克昌（2024）『事業創造入門』中央経済社（2,300円）
井上善海・遠藤真紀・山本公平（2022）『企業経営入門』中央経済社（2,200円）
中小企業庁編『中小企業白書』（各年度版）
その他、講義テーマごとに適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
本講義の３つの到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での発言・貢献度（50％）、講義内で課す課題レポート（50％）により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【Outline (in English)】
This lecture aims at considering the structural problems of SMEs that have supported the competitiveness of Japanese industries by subject. Therefore, while first making historical changes and international comparisons of SMEs, we will clarify the significance of SMEs. After that, we will consider the fact that SMEs are contributing to the regional economy and globalization, centering on inequality issues with large companies and subcontracting SMEs.

MAN520Q2（経営学 / Management 500）

CSR論

佐々木　恭子

備考（履修条件等）：**産業・企業・イノベーション創造群**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Corporate Social Responsibility（CSR）は欧州連合が21世紀の新しい政策の1つとして打ち出したことをきっかけに全世界に拡がった概念であり、変化し続ける社会の中での企業と社会の関係性を問うものである。本授業ではCSRの基礎を学んだ後に、サステナビリティ、CSV（Creating Shared Value）、ESG、SDGs、パーパスなど、関連する領域に対する理解を深めることで、これらの現象について考察し、事例を用いた実践的な学びを提供する。

【到達目標】
CSR関連の様々な言葉に踊らされることなく、それらの本質的な意味を考察するための視座を身につけることで、企業と社会/ステークホルダーとの関係や各企業の取り組みを背景とともに分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
「学習支援システム」に授業資料を掲載するので、事前学習を励行して頂きたい。原則として、授業前半では理論とケースを学び、後半ではケースについてのグループ及び全体討議を行う。ケースを通じて、企業と社会の関わり方について実践的な学びを深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	イントロダクション〜CSRとは何か〜	・授業の目的と進め方 ・CSRの定義 ・ステークホルダー論
2回（3･4）	サステナビリティとCSR	・サステナビリティの定義 ・SDGsと企業活動
3回（5･6）	CSRと戦略・インパクト	・CSRとCSV ・ESG投資
4回（7･8）	CSRとレポーティング	・マテリアリティとは何か ・レポーティングの枠組みと制度化
5回（9・10）	パーパスとCSR	・企業理念とパーパス ・B Corpムーブメント ・創発型責任経営
6回（11・12）	中小企業とCSR	・社会的企業とCSR ・日本国内の事例
7回（13・14）	CSRへの批判とこれからのCSR	・CSRに関する4つの批判 ・CSRの未来

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（1）配布資料を事前に読んで、グループ討議で発言できるように準備する。
（2）授業を振り返り論点を整理する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布する。

【参考書】
國部克彦. (2017). CSR の基礎―企業と社会の新しいあり方. 中央経済社
Blowfield, M., Blowfield, M., &Murray, A. (2019). Corporate responsibility. Oxford University Press, USA.

【成績評価の方法と基準】
授業参加・授業貢献（４０％）、期末レポート（６０％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生から評価されたグループ討議を今年度も継続し、学生間で議論し考える時間を適切に確保する。また、教員と学生による双方向の授業スタイルを深化する。

【その他の重要事項】
ゲスト講師招聘などに伴い、授業計画を一部変更することがある。なお、ゲスト講師招聘の場合も、担当教員の責任で授業を行う。ゲスト講師によるグループ討議またはクラス討議を行う場合も、担当教員が取り纏めを行う。

【Outline (in English)】
Corporate Social Responsibility (CSR) is a concept that has become popular worldwide since the European Union launched it as one of its new policies for the 21st century. It questions the relationship between companies and society in a constantly changing society. In this class, students will learn the fundamentals of CSR and gain a deeper understanding of related areas such as sustainability, CSV (Creating Shared Value), ESG, SDGs, and Purpose. The class will discuss these trends and provide practical learning through case studies.

ECN520Q2（経済学 / Economics 500）

ウェルビーイング論

高尾　真紀子

備考（履修条件等）：**人材育成・生活・ウェルビーイング創造群**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、ウェルビーイングが国内外の政策や企業経営においても重要なテーマとして注目されている。身体的・精神的・社会的に良好な状態を示し、幸福、健康、福祉と訳されることもあるウェルビーイングについて、心理学、経済学、経営学など様々な領域で蓄積されてきた学術分野での研究成果を学び、地域や企業における実践事例を取り上げながら、人々がウェルビーイングを実現しながら生活し働くために、地域政策や企業経営においてどのような方策が必要かについて議論し、政策提言に必要な知識及び視点を養う。

【到達目標】
ウェルビーイングについての学術分野での研究成果、ウェルビーイングの測定、地域や企業における実践を踏まえ、ＥＢＰＭ（根拠に基づく政策形成）に資する政策立案・遂行に必要な知識や考え方を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
ウェルビーイングに関する学術的知見についてはできるだけデータに即した客観的な視点を提示し（講義）、地域や企業における実践についてワークショップやグループディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	イントロダクション：ウェルビーイングとは何か	ウェルビーイングの概念及び測定について学術的な知見を学び、ウェルビーイングとは何かについて議論する。
2回（3･4）	ウェルビーイングの規定要因	ウェルビーイング（幸福）に関する心理学、経済学からウェルビーイングの規定要因について学び、議論する。
3回（5･6）	ウェルビーイングに関する政策	世界各国及び日本におけるウェルビーイングに関する政策や指標について学び、政策のあり方について議論する。
4回（7･8）	お金とウェルビーイング（ワークショップ）	お金と幸せについてのワークショップを通じ、お金とウェルビーイングの関係について議論する。
5 回（9･10）	企業におけるウェルビーイング	人的資本経営、健康経営や生産性向上の観点からも注目されている働き方とウェルビーイングについての研究や実践例を学び、幸福な働き方について議論する。
6回（11･12）	地域におけるウェルビーイング	地域におけるウェルビーイングについて、人とのつながりや文化的な観点を含めて議論し、実践例を学ぶ。
7回（13･14）	課題発表	各自が関心を持つ領域におけるウェルビーイングを実現する政策（方策）について発表とディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ウェルビーイング（幸福、健康）は身近なテーマであり、自分の関心のある領域について参考図書に挙げた書籍を読んでおくと役に立つ。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回レジュメや参考資料を配布する

【参考書】
内田由紀子『これからの幸福について　文化的幸福観のすすめ』2020年、新曜社
大竹文雄 , 白石小百合 , 筒井義郎『日本の幸福度　格差・労働・家族』2010　　年，日本評論社
小塩隆士『「幸せ」の決まり方　主観的厚生の経済学』2014年，日本経済新聞社
キャロル・グラハム（多田洋介訳）『幸福の経済学』2013年，日本経済新聞出版社
経済協力開発機構『ＯＥＣＤ幸福度白書２―より良い暮らし指標：生活向上と社会進歩の国際比較』2015年，明石書店
島井哲志『幸福の構造 – 持続する幸福感と幸せな社会づくり　あなたの幸せは何に左右されているか？』2015年，有斐閣
ブルーノ・Ｓ・フライ（白石小百合訳）『幸福度をはかる経済学』2012年，ＮＴＴ出版
前野隆司『幸せのメカニズム－実践・幸福学入門』2013年，講談社現代新書
矢野和男『文庫　データの見えざる手　ウエアラブルセンサが明かす人間・組織・社会の法則』2018年，草思社文庫
矢野和男『予測不能の時代 データが明かす新たな生き方、企業、そして幸せ』2021年，草思社
山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学』2019年，光文社新書

【成績評価の方法と基準】
平常点（議論への参加・貢献）（30％）、各回の課題（20％）、最終レポート（50％）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の話し合いやワークショップによる気づきが得られたとの意見があり、グループディスカッションを積極的に取り入れていく。

【Outline (in English)】
In recent years, well-being has been attracting attention as an important theme in national policies and corporate management. In this course, we will study the results of research on well-being in various academic fields such as psychology, economics, and business administration. We will discuss what kind of measures are necessary in regional policies and corporate management for people to live and work with well-being , taking up practical examples in regions and companies, and cultivate the knowledge and perspectives necessary for policy proposals.

ECN520Q2（経済学 / Economics 500）

実証分析入門

柿野　成美

備考（履修条件等）：**人材育成・生活・ウェルビーイング創造群**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文執筆においては先行研究を丁寧に読み解くことが不可欠である。本講義は、実証研究を行っている雑誌掲載論文を教材として取り上げ、論文の作法と分析の手法に慣れるとともに、論文ポイントを把握するための読解力を養成することが目的である。

【到達目標】

１．実証研究論文の構成と作法を理解すること、２．先行研究の分析結果の読み方を習得すること、３．各自が今後執筆する論文に関わる実証研究の先行研究を読み進められるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

実証分析を行っている査読論文を各自の関心に応じて選び、グループで論文のポイントとなる分析手法や結論の読み方を紐解き、論点を明確にする。授業で扱う論文は、教育、福祉、人材育成、男女共同参画、地域連携、環境など幅広く扱う。事前に用意した論文に目を通してから講義に臨むこと。なお、データ分析の実習は行わない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス 実証分析の基礎	実証分析の基本的な考え方について理解する。
2回（3･4）	実証分析論文の収集	図書館の国内外の論文検索機能について理解し、各自の関心に応じた実証分析論文を収集する。
3回（5･6）	実証分析の考え方①	相関係数、有意差検定の基本的な考え方について理解し、論文を用いてグループで討議する。
4回（7･8）	実証分析の考え方②	重回帰分析、ロジスティック回帰分析の基本的な考え方について理解し、論文を用いてグループで討議する。
5 回（9･10）	実証分析の考え方③	因子分析・主成分分析等の基本的な考え方について理解し、論文を用いてグループで討議する。
6回（11･12）	先行研究論文の発表と討議	自身の執筆論文に関連した、実証研究で構成された論文を選び、その分析手法、内容検討結果を発表、討議する。
7回（13･14）	先行研究論文の発表と討議	自身の執筆論文に関連した、実証研究で構成された論文を選び、その分析手法、内容検討結果を発表、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。事前に配布する論文を読んでから講義に出席することを前提とする。各自の研究分野に関する雑誌（査読論文が望ましい）にアクセスし、論文を検索する習慣を身につけることを勧める。

【テキスト（教科書）】

教科書はなく、教材を毎回配布する。教材は優れた実証分析で構成された学術論文を予定している。

【参考書】

浦上昌則・脇田貴文（2021）『心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方　改訂版』東京図書
小塩真司（2021）『第3版　SPSSとAmosによる心理・調査データ解析　因子分析・共分散構造分析まで』東京図書
小塩真司（2021）『研究事例で学ぶSPSSとAmosによる心理・調査データ解析』東京図書

【成績評価の方法と基準】

平常点　５０％
期末レポート　５０％

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

毎回、パソコンを持参する。

【その他の重要事項】

教材で取り上げる論文は、回帰分析、因子分析などの量的分析手法を用いる研究が多いので、それらの考え方に慣れてほしい。

【Outline (in English)】

This course aims to enhance the ability to understand a paper through fast reading by familiarizing students with the structures and research methods of reviewed papers. Course materials will be mostly selected from established journals in Japanese focusing on empirical research on human resources, education, welfare, living economy, and consumer life.

MAN520Q2（経営学 / Management 500）

雇用政策研究（マクロ）

石山　恒貴

備考（履修条件等）：**人材育成・生活・ウェルビーイング創造群**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働市場において働く人々のキャリア形成支援、職業能力開発、若年・女性・高齢者・外国人などの雇用への対応をめぐる多くの施策の有効な展開は、日本における喫緊の課題であり、その雇用政策全般(マクロ）について検討する．少子高齢化，グローバル化，知識基盤社会化のなかで，雇用はどのような課題を担い、どのように対策を講ずることが適切であるかを考える。

様々な組織において、雇用・人事管理施策・人的資源管理にかかわる仕事を行う実務家、または，これらに興味のある人を念頭に，雇用とはいかにあるべきかを、総論的に検討する．ただし、雇用の実務に直接関係ない院生にも，雇用に関心があり、仕事経験があれば、もちろん履修可能である。

【到達目標】

雇用プログラムの入門的な位置づけにある科目。雇用・人事管理施策・人的資源管理の全体的な展望を得ていただくことを目的にする。現状、沿革、国際比較などについて、総論的な知識を獲得するとともに、雇用を考える際の勘所を養っていただくことを到達目標に置く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

雇用の歴史的背景、国際比較、職業能力開発、キャリア形成支援、日本的雇用など、広い視点から、多角的な検討を行う。

各回の授業は，講義と議論の両者を併用して進める．毎回のテーマにそって講義を進めたのち，関連した課題をめぐり，受講生がいくつかのグループをつくって議論し，その結果を報告し，相互に批判的な検討を加えるなどのディスカッションを行う．必要なコメントも最後に与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	雇用の定義、論点および、雇用の歴史	– そもそも雇用の定義、範囲は何を意味するのか。また、当たり前と思い込んでいる雇用の論点を、あらためて考え直してみる。また、日本型雇用はいつ形成されたのか、その歴史を探る。
2回（3･4）	日本的雇用と雇用の国際比較	そもそも、日本的雇用とは何を意味するのだろうか。通説は正しいのか。日本と他国を国際比較すると、本質的な共通点と違いはどのようなものだろうか か？
3回（5･6）	雇用の流動化、内部労働市場と外部労働市場	雇用の流動化の必要性が指摘されているが、そもそもその定義、また流動化がもたらすものとは？ さらに、労働市場の基本構造を考える
4回（7･8）	職業能力開発	職業能力開発とは、通常の人材開発となにが違うのか？ 環境変化を踏まえ、求められる職業能力開発を考える
5 回（9・10）	非正規雇用、新卒一括採用、女性活躍、兼業・副業など柔軟な働き方	非正規雇用という問題が注目されているが、その本質は何か？ 日本特有の慣行と言われる、新卒一括採用の是非を検討する。さらに、女性活躍について考える
6回（11・12）	兼業・副業と雇用によらない働き方	兼業・副業、フリーランスなど新しい柔軟な働き方はなぜ生じたのか、その効果と課題について分析する。
7回（13・14）	ミドル・シニアの働き方とまとめ	日本型雇用において、ミドル・シニアの現状はどのようなものか。その課題と今後の方向性を考える。さらに授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

雇用に関連した事項を広く勉強することが望ましいです。
1.必須文献として指定された本を選択し、書評レポートを書くこと
2.授業で配布される資料、論文などに目を通すこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使用しないが，以下に掲げる7冊から1冊を選び、書評レポートをお願いする（どちらも早目に入手するか、図書館で借りるように）．このほか別途に挙げる主な参考書，授業でその都度，必要に応じて紹介する文献などを参照していただく．また，毎回の授業にはレジュメや参考資料を配付する予定.

1. ピーター・キャペリ（若山由美訳）『雇用の未来』日本経済新聞社,2001年
2.清家篤『雇用再生―持続可能な働き方を考える』NHK出版,2013年
3.山田久『失業なき雇用流動化』慶応義塾大学出版会，2016年
4.永野仁『労働と雇用の経済学』中央経済社,2017年
5. 川上淳之『副業の研究』慶應義塾大学出版会，2021年
6.小熊英二『日本社会のしくみ』講談社,2019年
7.西村純子・池田心豪『社会学で考えるライフ＆キャリア』中央経済社,2023年

【参考書】

・労働経済白書
・『日本労働研究雑誌』などの研究雑誌に掲載される論文

【成績評価の方法と基準】

評価は，①授業における議論の実施状況による得点（1回当たり5点満点で計35点満点），②2500字以上の長さの科目レポートの得点（65点満点）で，両者を足した総得点を規定による評価基準にそって評価する．ただし，これ以外に，必須の小レポートとして、書評レポートを課す．終了時に提出を求める科目レポートは，授業内容を自分なりに消化し，できるだけ自分の最終課題（修士論文テーマ）に引きつけて書くことが望ましい.

【学生の意見等からの気づき】

文献は、科目履修を決めた場合、出来るだけ早く図書館などで借り出すか、入手しておいていただきたい。なお、どうしても入手できない者のために、代替的な図書を指示することがある。

【学生が準備すべき機器他】

授業ではパワーポイントを使うことがある.

【その他の重要事項】

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of Employment Policy. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Employment Policy.
Goal
At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on employment, human resource management policies, and human resource management.
Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end reports : 65%、in class contribution: 35%

MAN520Q2（経営学 / Management 500）

キャリア理論と統計分析

佐藤　雄一郎

備考（履修条件等）：**人材育成・生活・ウェルビーイング創造群**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、修士論文を執筆する際にアンケートなどの量的調査を実施することを想定し、調査の実施方法、設問の作成方法、分析の手法、結果の読み取り方など、基本的な知識・スキルを学ぶ。また、最終的に量的調査を実際に行えるようになることを目標とする。学習の題材としてはキャリア理論に関する調査や論文を使用するが、あくまでも統計の理解を深めるための例示として用いるものである。そのため、キャリア理論以外のテーマを扱う場合でも問題なく学習できる。

【到達目標】
1.量的調査（アンケートの設計、実施、分析、結果の解釈）の一連の手法を理解し、自身の研究に活用できるようになる。
2.単純集計やクロス集計、t検定、分散分析、回帰分析などの基本的な統計手法を正しく用いて結果を読み解き、批判的に検証できるようになる。
3.統計分析を活用した論文や修士論文を理解・評価し、自分の研究テーマにも応用できる視点を身につける。
4.キャリア理論を題材とした調査事例を参照することで、量的調査の実践的なプロセスを把握し、学んだ統計手法を幅広いテーマに応用できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
各回の授業では、量的調査に関する基本事項を解説するとともに、授業支援システムを用いて受講者それぞれの研究テーマや調査内容を共有し、フィードバックを行う。さらに、グループワークを実施し、キャリアに関する調査や論文、量的調査を活用した修士論文の事例を解説することで、学習内容への理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	オリエンテーション / 量的調査実施の全体像	オリエンテーションでは、本授業の到達目標や成績評価の方法、授業の進め方を概説する。講義では、量的調査を実施する際の全体像を示し、本授業の方向性を提示する。
2回（3･4）	量的調査で実施できること /分析方法の全体像	量的調査を行うことで、修士論文執筆においてどのようなことが可能になるのかを説明する。あわせて、代表的な分析方法の種類と、それぞれで明らかにできることを示す。
3回（5･6）	アンケート調査の作り方	実際に行われたアンケート調査を例に取り、設問の作成手順や注意点について解説する。
4回（7･8）	統計の読み方・使い方① /単純集計、クロス集計、平均値、標準偏差など	量的データを分析する上で基本となる単純集計やクロス集計の読み取り方を中心に学ぶ。さらに、平均値などの代表値や分散、標準偏差についても理解を深める。
5回（9・10）	統計の読み方・使い方② /相関、χ^2 検定、平均の差の検定（t検定、分散分析）など	異なる対象群の比較を主眼に置き、統計的な差異を明らかにするための分析方法（主に多変量解析）を学ぶ。相関やχ^2 検定、t検定、分散分析などを扱う。
6回（11・12）	統計の読み方・使い方③ /（重）回帰分析など	原因と結果の因果関係を想定した分析手法（回帰分析）を中心に解説する。単回帰分析や重回帰分析を通じて、仮説の検証方法を理解する。
7回（13・14）	まとめ /量的調査を用いた修士論文を読む	これまでの内容を総括し、量的調査を用いた修士論文の具体例を確認することで、今後の修士論文執筆に向けた指針を示す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から論文や書籍に触れることが望ましい。授業で配布した論文や参考書をはじめ、関連する論文や書籍を読んでおくこと。
本授業では、準備学習１.5時間、復習時間１.5時間を標準とする。
統計学の知識に不安がある場合は、以下の本を事前に読んでおくことを推奨する。
・小島寛之『完全独習 統計学入門』ダイヤモンド社、2006年

【テキスト（教科書）】
授業では、レジュメと本授業用のテキストを配布し、これらをもとに進行する。必要に応じて、各テーマに関連する論文や調査報告書も配布する。たとえば、キャリア理論に関する文献として、キャリアレジリエンス、キャリアアダプタビリティ、キャリア焦燥感、キャリアプラトー、キャリア自律などを扱う予定である。ただし、本授業はキャリア理論自体を学ぶことを目的とするものではなく、あくまでも量的調査を実施する際の参考として、それらの論文を用いるものである。したがって、人的資源管理やキャリア論の事前知識がない院生でも問題なく履修できる。

【参考書】
・渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版、2018年
・宮本聡介・宇井美代子『質問紙調査と心理測定尺度』サイエンス社、2014年
・石山恒貴『越境的学習のメカニズム』福村出版、2018年
その他、必要があれば授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
次の配分によって成績評価を行う。
①平常点(授業への参加、グループワーク、課題) 30％
②最終レポート 70％

【学生の意見等からの気づき】
今年度から担当するため、現段階では特になし。

【学生が準備すべき機器他】
授業では、授業支援システムに各自が準備した課題や進捗状況をアップロードし、それを画面に投影して共有する予定である。そのため、パソコンを持参することが望ましい。

【その他の重要事項】
・最終レポートは手書きではなく、原則としてWordで作成し、授業支援システムを通じて提出することを求める。
・オフィスアワーは授業後に設けるとともに、メール等でも質問を受け付ける。
・授業の進め方や取り扱う題材は、履修する院生の状況やニーズに応じて柔軟に対応する。そのため、シラバスの内容や進め方が状況により一部変更になる場合がある。

【Outline (in English)】
In this class, students will acquire the fundamental knowledge and skills necessary for conducting quantitative research, including how to implement surveys, formulate questions, analyze data, and interpret findings. The overall goal is to enable students to incorporate quantitative research into their master's theses. The course will use surveys and papers on career theory as illustrative materials to deepen students' understanding of statistics; however, these examples are not restrictive. Therefore, students can still derive significant value from the class even if they plan to research topics other than career theory.

MAN520Q2（経営学 / Management 500）

キャリア政策研究

岸田　泰則

備考（履修条件等）：**人材育成・生活・ウェルビーイング創造群**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世の中の不確実性が高まるなか、個人のキャリア・マネジメントはますますその価値を高めている。本授業では、個人のキャリア・マネジメントについての理解を深めることを目的とする。授業では、一貫して働くことの意味を考えていく。授業では、主に組織行動論、キャリア心理学の概念を扱う。

【到達目標】
本授業では、個人のキャリア・マネジメントに関する課題への考察を通じて、働くことの意味を自ら考えるきっかけを得ることができる。さらには、キャリア・マネジメントの先行研究（質的研究）を自らのオリジナルな視点でレビューできることを最終的な到達目標とする。
By the end of the course,students should be able to do the following:
・Think about the meaning of work by themselves through consideration of career-related issues.
・Evaluate previous studies in terms of their metods,results,conclusions and implications.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
各回とも学生が分担して、先行研究（質的研究）をレビューし、その結果を発表する。その後、講師が先行研究の基本的な概念と研究方法について説明を加える。毎回、授業の後半でグループディスカッションを行い、グループごとにその結果を発表することで理解を深める。課題等に対するフィードバックは、授業内で適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	オリエンテーション	授業の目的・到達目標、そして、先行研究のレビューの仕方について説明する。中間発表のスケジュールを確定する。
2回（3･4）	ゲスト講演	キャリア政策の事例について、ゲスト講師から説明する。その後、ディスカッション、担当講師によるまとめを行う。
3回（5･6）	若年者のキャリア・マネジメント	若年者のキャリア・マネジメントについての理解を深める。
4回（7･8）	ミドル・シニアのキャリア・マネジメント	ミドル・シニアのキャリア・マネジメントについての理解を深める。
5 回（9・10）	女性のキャリア・マネジメント	女性のキャリア・マネジメントについての理解を深める。
6回（11・12）	フリーランスのキャリア・マネジメント	フリーランスのキャリア・マネジメントについての理解を深める。
7回（13・14）	グローバル人材（外国人を含む）のキャリア・マネジメントとまとめ	グローバル人材（外国人を含む）のキャリアマネジメントについての理解を深める。 授業全体のふりかえりを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として事前に指定された先行研究（論文）を読み、自らのオリジナルな視点でレビューをし発表することを課題とする。なお、課題は分担として、授業7回の中で1回は担当するようにする。本授業の準備学習・復習・宿題等の授業時間外の学習は、各回2時間を標準とする。
Students will be expected to read the previous study,review them from your own original perspective, and present your findings.　Before/after each class meeting,students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
各回の授業において、授業資料と論文（質的研究）を提示する。

【参考書】
近藤龍彰・浅川淳司『心理学論文解体新書―論文の読み方・まとめ方活用ガイド』ミネルヴァ書房　2022年

【成績評価の方法と基準】
次の配分によって成績評価を行う。
①平常点（授業への参加、グループ討議）30％
②各自が担当する発表(中間発表)　30％
③最終レポート　40％
　最終レポートとして、キャリア・マネジメントに関わる先行研究のレビューを
　3000字程度のレポートとして提出する。
Your final grade will be caluculated according to the following process:Usual performance score 30%,mid-term report 30％,and 40%final report.

【学生の意見等からの気づき】
授業の都度、学生から多くの発言が出るように工夫していく。

【学生が準備すべき機器他】
特にないが、授業時にPC等を利用することは構わない。

【その他の重要事項】
オフィス・アワーは、授業開始前と授業終了後とする。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acuquire an understanding of measures to encourage career management of workers.In this course,we will consider the meaning of work consistently.

MAN520Q2（経営学 / Management 500）

地域雇用政策事例研究

石山　恒貴

備考（履修条件等）：**人材育成・生活・ウェルビーイング創造群**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域における雇用につき国内の事例を調査研究する科目。先進的な事例、成功・失敗事例などの特色ある顕著な例を取り上げて多様なケーススタディを行う。

地域活性化における人材育成のあり方、コーディネーターのあり方、実践共同体などネットワークの構築方法についても議論する。

地域雇用のあり方を、事例を通じて検討していく。参加型で、受講院生自身が選択した地域について事例研究をし、報告することを求める。

【到達目標】

事例を通じて雇用を地域の観点から学習する科目。各人が特定の地域を選んで報告することが必須要件であるが、それを通じて地域と雇用とキャリアをみる視点が広がっていくことが主な目的となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

広い意味で雇用あるいは地域にかかわる仕事を行うか、または、これらに興味のある人を念頭に、地域雇用とはいかにあるべきかを、事例分析的に検討していく。

受講生がどこか一地域を担当して、その雇用の状況に関して、授業内で発表していただく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	地域雇用の定義と背景	そもそも地域雇用の定義、範囲、歴史とはどのようなものなのか、地域雇用の成功事例の共通点は何かを考える。
2回（3･4）	地域における創造的な人材の集積	地域雇用においては、如何に創造的な人材が集まるかによって、競争力が左右される。UIJターンを含め、創造的な人材を集めた成功例を考える。
3回（5･6）	地域のサードプレイスと関係人口	ゲスト講師の可能性もある。地域においては、その活性化においてサードプレイス（NPO、プロボノ、読書会など）や、よそものが地域に関わる関係人口という考え方が重要になっている。この新しい切り口を検討する。
4回（7･8）	働き方の形態と地域	地域においては、新しい柔軟な働き方が生じつつある。二地点居住、副業、ワーケーション、新しい自営など、働き方と地域について考える。
5 回（9･10）	地域雇用の対比 – 地域雇用の諸事例の対比と検討（その1）	地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する。
6回（11･12）	地域雇用の対比 – 地域雇用の諸事例の対比と検討（その2）	地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する。
7回（13･14）	地域雇用の対比 – 地域雇用の諸事例の対比と検討(その3）地域雇用の未来とまとめ	地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する、および授業の総括として地域雇用の未来を議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は以下のような事項に留意することが望まれる。

１．いずれかの地域を選び、その雇用状況と課題について、実地に調べること（その成果を授業中に発表していただく）

２．地域雇用政策をめぐる記事、番組などに注意を払うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業の都度配布する講義ノートによって行うので、教科書は使用しない。授業の際に、参考文献リスト等を配布することがある。

【参考書】

以下に掲げる主な参考書のほか、授業では地域雇用政策をめぐる各種論文、資料などを、その都度、必要に応じて紹介する。

石山恒貴編『地域とゆるくつながろう－サードプレイスと関係人口の時代』静岡新聞社　2019年

石山恒貴編『ゆるい場をつくる人々: サードプレイスを生み出す17のストーリー』学芸出版社　2024年

【成績評価の方法と基準】

①授業における議論の実施状況による得点（1回当り5点満点で計35点満点）、②各自が分担する地域雇用政策の事例研究の報告による得点（65点満点）の合計点を、規程による評価基準に沿って評価する。

【学生の意見等からの気づき】

地域をみる視点が変わってきたとの反応があるので、その到達目標には今年度も留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

場合によってパワーポイントによる投影などを行う。事例発表の際にパワーポイントを用いるか、それともレジュメのみにて行うかは任意。

【その他の重要事項】

各人の事例研究報告が課されていることに留意して受講すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Regional Employment Policy .At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Regional Employment Policy.

Goal

At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on employment and human resource strategies for regional revitalization.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Presentation of case study assigned by each student: 65%、in class contribution: 35%

MAN520Q2（経営学 / Management 500）

人材育成論

石山　恒貴

備考（履修条件等）：**人材育成・生活・ウェルビーイング創造群**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学における人材育成という観点で、キャリア理論も含めて幅広く議論する授業である。不確実で変化の激しい環境化において、従来のような長期的な安定を全体にした人材育成の考え方は通用しなくなってきている。そのような不確実な環境における人材育成のあり方を、人材育成理論とキャリア理論を踏まえて考察していく授業。

参加型とし、受講生自身が選択した人材育成に関する事例（企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など）について報告することを求める。

【到達目標】

不確実で変化の激しい環境化において、従来のような長期的な安定を全体にした人材育成の考え方は通用しなくなってきている。そのような不確実な環境における人材育成のあり方を、人材育成理論とキャリア理論を踏まえて考察できる視点を確立することを目的とする。また国際的な人材育成の視点を確立することも目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

人材育成とキャリアに関する幅広い理論と議論を紹介しつつ，日本の現在における人材育成を考える。また国際的な視点も考慮する。

各回の授業は、講義と議論の両者を併用して進める。毎回のテーマにそって講義をしたのち、関連した課題をめぐり、受講生がいくつかのグループをつくって議論し、その結果を報告し、相互に批判的な検討を加えるなどのディスカッションを行う。

参加型とし、受講生自身が選択した人材育成に関する事例（企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など）について報告することを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	人材育成の定義と能力開発	人材育成について議論を進めていくために、それらの基本的な考え方、基本用語の定義、理論枠組みなどを考える。また、能力開発の詳細についても、検討する。
2回（3･4）	キャリア理論	人材育成におけるキャリア理論の位置づけ、実務への応用、発展性について考える。
3回（5･6）	リーダーシップ理論	人材育成におけるリーダーシップ論の位置づけ、実務への応用、発展性について考える。
4回（7･8）	実践共同体と越境的学習	学習理論の発展とも深い関係がある実践共同体と越境学習について、特に状況学習論との関係で考える。
5 回（9・10）	経験学習とジョブ・クラフティングおよび事例発表	学習理論において大きな比重を占める経験学習、および近年注目されるジョブ・クラフティングについて考える。さらに、受講者が、人材育成に関する事例を発表し、発表し、議論する。
6回（11・12）	事例発表	受講者が、人材育成に関する事例を発表し、議論する。
7回（13・14）	事例発表および人材育成の未来とまとめ	受講者が、人材育成に関する事例を発表し、発表し、議論する、および授業の総括として、人材育成の未来について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

いずれかの人材育成に関する事例（企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など）について調査し、授業内で発表する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、授業で配布するパワーポイントをテキストとして使用する。

【参考書】

労働政策研究･研修機構『新時代のキャリアコンサルティング』2016年
石山恒貴『越境的学習のメカニズム』福村出版、2018年
石山恒貴『定年前と定年後の働き方』光文社、2023年

【成績評価の方法と基準】

評価は，①授業における議論の実施状況による得点（1回当たり5点満点で計35点満点），②各自が分担する事例発表の得点（65点満点）で，両者を足した総得点による。

【学生の意見等からの気づき】

理論の実務面への応用に受講者の興味・関心があるため、その点を重視して進める。

【学生が準備すべき機器他】

授業でパワーポイントを使うことがある。

【その他の重要事項】

受講者の事例発表が求められることにご留意いただきたい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of Human Resource Development. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Human Resource Development.

Goal

At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on human resource development theory and career theory.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Presentation of case study assigned by each student: 65%、in class contribution: 35%

ARSl520Q2（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500）

地域コミュニティ論

中島　由紀

備考（履修条件等）：**都市・文化・観光創造群、人材育成・生活・ウェルビーイング創造群**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域コミュニティは多様な使われた方があり、その定義や理解も非常に多岐にわたる。本講義では、昨今使われている「地域コミュニティ」の本質を複数の観点から掘り下げていき、最後は最新事例をみながら考察を深める。
▼前半はコミュニティの理論の古典的概念とその変遷を整理していき、それらが日本社会でどのように扱われ、それによって社会生活の中でどのような位置づけで語られてきたかをみていく。
▼後半は、今日的「地域コミュニティ」の課題に焦点を当て、具体的な事例や現象から「地域コミュニティ」の何が問題で、どう解決していくべきかを考えていく。特に、コロナは私たちの生活や価値観に大きな影響を与え、この変化はコミュニティの在り方にも大きく影響を与えている。論点となるのはネット社会と新しいコミュニティ形成についてである。この点について考えていく。
▼最終回の2回は、ここ数年で激変している日本社会。これからの社会に求められているコミュニティの在り方を考えて、グループ討議する。

【到達目標】
①自身の問いが明確になり調査研究の方向性が固まること。
②自身の論文で「地域コミュニティ」を扱う場合に、コミュニティの何にアプローチし、どの観点から論じるのか、論点が明確になること。
以上の２点が到達できることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・講義形式を中心に、各回のテーマに沿った参考文献、資料、論文を読んだり、映像視聴や事例をみていき、適宜グループディスカッション形式も取り入れる。
・また、講義資料と参考論文から、社会科学でよくでてくるアンケート調査の統計処理方法を提示する。ここから、論文作成に必要な基礎的な統計データの読み方（主にクロス集計、多変量解析）について触れる時間も設けるので、各自論文作成に役立ててもらいたい。
・事前に読んでおいて欲しい資料は適宜提示する。その場合は、次の講義で同資料の輪読を中心にディスカッションを行うため必読である。
・毎回、講義終了時にコメントシートを配布するので、授業で得た気づきや疑問、論点整理などを記載して提出してもらうが、これが出席カードの代わりとなるので留意して記入いただきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	○イントロダクション ○コミュニティとは何か？ ―理論の系譜― ○近代から現代の変化	R.M.マッキーバー、F.テンニエス、ジンメル、ワース、バージェスらの古典的コミュニティの概念を整理する。 その上で、日本でいかに「コミュニティ」が捉えられ、議論されてきたか根幹を確認する。
2回（3･4）	○近代から現代 都市論からみたコミュニティ ○日本の共同体から都市化の変化	第１回に続き、コミュニティ論の変遷を都市論の観点でみていく。その上で、日本の共同体の概念から都市化を経た社会変化を背景に、現代的日本の課題は何かをディスカッションする。
3回（5･6）	○コミュニティ政策の変遷 ○自治体における地域コミュニティ活性化への取り組み	1970年代から始まった旧自治省のコミュニティ政策の変遷をたどり、政府が意図していたコミュニティの活性化と現実がどのように乖離したのか、なぜ乖離したのかを考えていく。本回は特に、町内会・自治会といった機能組織の側面からの変遷を捉えていく。
4回（7･8）	○コミュニティ参加の問題 ○「かかわり」の意識と「共同性」「公共性」の問題	日本のNPOや公共を担う団体組織の現状を概観し、どのような政策が進められてきたかをみていく。 ここから日本人の「個」と「共同性」「公共性」の問題について考える。人々の公共性はいかに醸成されるのか、行動につうすにはどうしたらいいのか。今日的コミュニティへの「参加」の問題を扱う。
5 回（9・10）	○日本人の生活と価値観の変化 ○「ウチ／ソト」「タテ／ヨコ」社会、「信頼と安心」 ○ネット社会がもたらしたコミュニティの変化	日本的生活様式、価値観はどのように変化してきたか。生活と価値観の変化は、そのまま「コミュニティの在り方の変化」と捉えることができる。 旧来型の地縁型コミュニティの特性は何か、その後のネット社会とコロナがあたえたコミュニティへの影響。今日的地域コミュニティの変化の問題を考えていく。
6回（11・12）	○「新しい地域コミュニティ」を考える ○関係人口、DAOといった新しい形のコミュニティ形成を考える	2020年以降のコロナ禍は、私たちの生活様式や価値観に大きな変化を与えた。さらに、ここ数年連続して起きている自然災害や、働き方が多様になり副業社会へと移行していきている日本。私たちの生活環境はここ数年で激変してきている。この社会変化の中で、コミュニティの存在意義を考える。これから求められているコミュニティの在り方は？ 特に、最近の新しいコミュニティの形として、関係人口創出事業やDAOについても触れる。 第６回は、これらの変化を念頭にグループに分かれてディスカッションし、各グループが描く「新しい地域コミュニティの在り方」をまとめていく。
7回（13・14）	○コミュニティの行方 ○新しいコミュニティの形はどこへ向かうのか？	第６回目でディスカッションしたグループの「新しい地域コミュニティの在り方」を発表。さらに、これからの日本社会における、新しい地域コミュニティの在り方を議論していく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義で参考資料や論文を配布するので、それらを次回講義までに必ず読了しておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

また、授業欠席者は資料を受取れるようにしておくため適宜キャッチアップして参加するのが望ましい。

【テキスト（教科書）】
以下の【参考書】の中で「●」は授業中に必ず使う。授業中に使う部分のみ一部をコピーして配布するが、全文を読了しておくことが望ましいです。

【参考書】
《必読》
●『安心社会から信頼社会へ』山岸俊男,1999（中公新書）
●『共同体の基礎理論』内山節,2010年（農山漁村文化協会）
●『生き心地の良い町』岡壇,2013（講談社）
『都市コミュニティの社会学』中村八朗, 1973（有斐閣双書）
『都市コミュニティ論』倉田和四生,1985（法律文化社）
『タテ社会の人間関係』中根千枝,1967（講談社現代新書）
『都市的共同性の社会学』中道實、神谷国弘,1997（ナカニシヤ出版）
『われらの子ども　―米国における機会格差の拡大』ロバート・D・パットナム,2017（訳（創元社）
『コミュニティを問いなおす』広井良典,2009（ちくま新書）
『集団と組織の社会学―集合的アイデンティティのダイナミクス』山田真茂留,2017（世界思想社）
『サードプレイス　「コミュニティの核になるとびきり心地よい場所」』レイ・オルデンバーグ,2013（みすず書房）

【成績評価の方法と基準】
・授業の参加とコメントシートの提出（60%）
・6回目のグループワーク＆7回目の発表（20%）
・最終レポート提出（20%）
※グループワークへの参加が難しい場合は個別取組みでの対応も可、但し事前に要相談

【学生の意見等からの気づき】
●今日的「コミュニティ問題」の扱い方について
コミュニティの変化は時代の変化に呼応している。本講義の後半は今日的「コミュニティの問題」を扱う訳であるが、本講義はシラバス公開後半年以上先の開講となるため、実際の講義は時代の変化に合わせた内容に適宜変更している。この時代感にマッチした内容の討議、事例の検討が学生からは非常に有益であったという意見があったため、今年度も継続して行う。
●毎年、講義以外に調査方法として多くの学生が良かった点で挙げてくれるのは以下の3点がある。実際にもらったコメントと併せて紹介する。
①コミュニティの歴史と年表について「コミュニティの概念を歴史を遡り各時代での意味と意義を考える行為は非常に参考になった。年表を作成して考えを整理する方法も、別のテーマでも応用できる」
②文献の探し方「国会図書館や公文書検索について「論文作成に非常に参考になった」
③統計データの探し方について「e-statは少しいじったことがあったが、具体的なリサーチ方法や入口を聞けて非常に役に立ちました」

【学生が準備すべき機器他】
授業で使う資料を都度、共有するため、各種資料を正確にダウンロードし一読した上での受講をお願いする。

【Outline (in English)】
The first half organizes the classic concept of community theory and its transition.From there, we will look at how it was treated in Japanese society.The second half will focus on today's "community" subject. With reference to concrete examples and phenomena, we will consider how to solve the "community".By the end of the course, students should be able to do the following:
· The point of discussion of the "community" will be clarified when preparing the paper.
· To be clear what you are focusing on in the ambiguous "community".
· Learn the basic knowledge of statistics used in questionnaire surveys.

ECN520Q2（経済学 / Economics 500）

消費者政策論

柿野　成美

備考（履修条件等）：**産業・企業・イノベーション創造群、人材育成・生活・ウェルビーイング創造群**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
少子高齢化、デジタル化、グローバル化の進展の下で、複雑化・多様化する消費者問題に対し、消費者政策がどのように対応しているのか理解し、SDGs達成に向けた消費者政策の今後の在り方について検討する。

【到達目標】
身近にある消費者問題に気づき、具体的な事例をもとに消費者政策の現状について理解し、今後の在り方について検討できるようになることを目標とする。主な論点は、１．消費者被害とその対応、２．消費者の自立支援（消費者教育・啓発）、３.SDGs達成に向けた消費者と企業との共創（エシカル消費・消費者志向経営）である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義とディスカッションを中心に進める。授業前半では、消費者庁幹部等をゲストスピーカーに招聘する他、飯田橋にある東京都消費生活総合センターの実地調査を取り入れる。授業後半では、各自で消費者政策に関する具体事例を設定し、発表・討議を行い理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス	消費者政策の基本的な考え方や消費者政策の推進体制について学ぶ。
2回（3･4）	消費者の自立支援：消費者教育・啓発	学校、家庭、地域、職域における消費者教育の現状と課題について検討する。
3回（5･6）	地方消費者行政の実際（現地調査）	東京都消費生活総合センター（飯田橋）を訪れ、消費生活相談や自立支援策の現状と課題について学ぶ。最後に担当教員によるまとめを行う。
4回（7･8）	消費者政策の最前線（ゲストスピーカー）	消費者庁幹部をゲストスピーカーに招聘し、消費者政策の最前線について理解すると共に、これからの消費者政策の在り方についてディスカッションする。最後に担当教員からまとめを行う。
5 回（9･10）	消費者と企業の共創：消費者志向経営とエシカル消費	持続可能な社会に向けた企業と消費者の役割について具体的事例を用いて検討する。
6回（11･12）	個人発表・討議	消費者政策に関する具体事例を設定し、その現状と課題について発表・討議する。
7回（13･14）	個人発表・討議・まとめ	消費者政策に関わる具体事例を設定し、その現状と課題について発表・討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。日頃から新聞等に目を通し、消費者政策に関連ある諸課題に関心を持つようにすること。

【テキスト（教科書）】
『日本の消費者政策―公正で健全な市場をめざして―』樋口一清・井内正敏、創成社、2020年、2500円

【参考書】
『くらしの豆知識2022』国民生活センター編集・発行、全国官報販売協同組合
『消費者事件　歴史の証言』及川昭伍・田口義明、民事法研究会、2015年
『消費者教育の未来ー分断を乗り越える実践コミュニティの可能性』柿野成美、法政大学出版局、2019年

【成績評価の方法と基準】
レポート課題：50％、平常点：50％
毎回の講義における議論やリアクションペーパーへの記載等を平常点として評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】

【Outline (in English)】
This course aims to understand how the consumer policy is responding to the increasingly complex and diversified consumer issues under the declining birthrate and aging population, digitalization, and globalization. In addition, we will consider the remaining issues and the ways to solve them.

ARSl520Q2（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500）

生活政策論

柿野　成美

備考（履修条件等）：**産業・企業・イノベーション創造群、人材育成・生活・ウェルビーイング創造群**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では公正で持続可能な社会の形成に向けて地域が抱える生活課題を取り上げ、その課題解決に向けた政策の在り方について議論することを目的とする。

【到達目標】
地域における生活課題を設定し、あるべき解決策に向けた政策を具体的に検討することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義とディスカッションを中心に進める。講義では具体的事例を紹介し、ゲストスピーカーによる講義を取り入れる。授業の後半では、各自で生活に関わる課題を設定し、その解決の方向性について発表・討議を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス	公正で持続可能な社会の実現に向けた生活政策が求められる背景を理解し、具体的な課題について検討する。
2回（3･4）	地域課題解決に向けたソーシャルデザイン（ゲストスピーカー：田中美帆氏）	地域における生活課題解決にデザインの力を活用したソーシャルインクルージョンや価値創造について検討する。最後に担当教員によるまとめを行う。
3回（5･6）	つながりを創るコーディネーターの役割	地域の関係者をつなぐコーディネーターの役割について、消費者教育コーディネーターの事例を通じて、連携・協働のメカニズムを議論する。
4回（7･8）	地域における生活政策の実務（ゲストスピーカー）	地域で生活政策に関わる実務家を招聘し、具体事例を理解する。
5 回（9･10）	生産者と消費者をつなぐ学習プログラムー「SDGs調査隊」を事例としてー	地元企業と小学生親子を対象としたプログラム「SDGs調査隊」を事例として、事業者と消費者の共創に向けた学習プログラム及び地域における消費生活の在り方について議論する。
6回（11･12）	発表・討議	生活課題を具体的に設定し、その処方箋ついて発表・討議する。
7回（13･14）	発表・討議・まとめ	生活課題を具体的に設定し、その処方箋ついて発表・討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。日頃から経済、社会に関する新聞、雑誌記事、ニュースなどを読み、政策に関する自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。「生活に関る政策の中で、私が考える最重要課題と解決のための処方箋」についてレポートを作成し発表する。

【テキスト（教科書）】
毎回、レジュメや参考資料を配布する。

【参考書】
〇政府の白書
内閣府「高齢社会白書」「少子社会対策白書」「子供・若者白書」「障害者白書」「経済財政白書」
厚生労働省「厚生労働白書」「労働経済白書」
環境省「環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書」
消費者庁「消費者白書」等
〇『消費者教育の未来―分断を乗り越える実践コミュニティの可能性』柿野成美、法政大学出版局、2019年

【成績評価の方法と基準】
授業中の議論への参加度（50％）、最終レポート（50％）を総合的に勘案する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to learn about the basic concepts that contribute to the realization of livelihood policies for the formation of a fair and sustainable society and to discuss the state of regional policies through specific examples.

ARSl520Q2（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500）

男女共同参画政策論

池永　肇恵

備考（履修条件等）：**人材育成・生活・ウェルビーイング創造群**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

性別に関わりなく能力が発揮できる男女共同参画社会は、誰にとっても暮らしやすい社会である。海外に比べて日本は男女共同参画で大きく後れをとっている。当授業では、様々な分野における男女共同参画の現状と課題、関連施策について学び、政策提言に必要な視点や知識を得ることを目的とする。

【到達目標】

男女共同参画に関するデータから日本の経済社会に潜むジェンダー（社会的・文化的な性別）のバイアスに気付き、ジェンダーへの感度を高める。家庭・職場・地域などで、多様な個人を尊重し性別にかかわりなく能力が発揮できる、いわゆるダイバーシティ,エクィティ&インクルージョンに向けた環境づくりに資する知識や視点を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

男女共同参画に関するテーマごとに、現状、背景、関連施策などを出来る限りデータを示して講義する。講義に加えて、受講生によるディスカッションにより、多様な視点の交換や課題解決の方策を検討する。

各回の講義については、疑問点、意見等をリアクションペーパーに記載し提出してもらう。提出されたリアクションペーパーは次回の授業で適宜取り上げ、全体にフィードバックする。

最終授業では、まとめとともに、受講生によるレポートの発表とディスカッションを実施する。

受講生の参加のしやすさを考慮し、オンライン（Zoom）講義を原則とするが、初回ガイダンスと最終日のレポート発表は対面とする予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	導入/経済分野	ジェンダーの概念、ジェンダーギャップ指数、男女の就業状況、女性活躍の経済への影響、関連法制度などを学ぶ。
2回（3･4）	政治分野/ハラスメント	女性議員の状況、政治分野に関する国内外の関連法制度、セクハラ、マタハラ・パタハラ、DVや性暴力など男女間の暴力の実態と対応策を学ぶ。
3回（5･6）	ワークライフバランス/法制度の中立性	家事・子育て・介護等と仕事のバランス、社会保障・税制・家族法制等が男女の行動に及ぼす影響を学ぶ。
4回（7･8）	健康・スポーツ/教育・科学技術	男女の健康・疾病状況、医療分野、教育・科学技術における女性の参画状況、多様性とイノベーションなどを学ぶ。
5 回（9・10）	地域社会/防災	地域社会の様々な分野での担い手、意思決定過程、防災・被災現場・復興など各過程における女性参画の状況と意義を学ぶ。
6回（11・12）	国際動向と残された課題/最近のトピック	SDGsを含む国際的な関心の高まり、「意識」の問題、AIやコロナ禍の影響など新たな課題を学ぶ。
7回（13・14）	まとめ、レポート発表・ディスカッション	これまでの講義を振り返る。受講生が関心を持ったジェンダー課題とその対応策についてレポートを発表し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から経済、社会に関する新聞、雑誌記事、ニュースなどに接し、どのようなジェンダー課題があるか、必要な対応はどのようなものかに関して、自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを学習支援システムに事前にアップロードするので、受講生は事前にダウンロードし一読しておくこと。

【参考書】

内閣府「男女共同参画白書」
イリス・ボネット『ワークデザイン』NTT出版　2018年
キャロライン・クリアド＝ペレス『存在しない女たち』河出書房新社2020年
マシュー・サイド『多様性の科学』ディスカバー・トゥエンティワン　2021年
前田健太郎『女性のいない民主主義』岩波新書　2019年
山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学』光文社新書　2019年
牧野百恵『ジェンダー格差』中公新書　2023年
小西一禎『妻に稼がれる夫のジレンマ』ちくま新書　2024年

【成績評価の方法と基準】

レポート（70％）、平常点（30％）

毎回の授業におけるディスカッションへの参加やリアクションペーパーへの記載等を授業での学習や参加度（平常点）として評価する。

受講生自身が関心を持ったジェンダー課題とその解決のための処方箋についてレポートを作成し最終日に発表する。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションを通じて多様な背景からなる受講生の意見交換や情報共有を促したい。リアクションペーパーの提出期限は、受講生の受講スケジュールを考慮する。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン（Zoom）講義が受講できるように、Zoomが利用できる環境を整えること。

【その他の重要事項】

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary perspectives and knowledge needed for policy making through learning the current situation, challenges and related policy measures with respect to gender equality.

ARSl520Q2（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500）

実践地方行政論

池永　肇恵

備考（履修条件等）：**人材育成・生活・ウェルビーイング創造群**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

住民の暮らしに身近な存在である自治体は、国が決定した法制度の下で、地域の実情を踏まえて施策を推進する現場であり、日本が直面する人口減少、少子・超高齢化などの課題に対して、最前線で取組みを進めている。当授業では、地方行政が直面する課題を採り上げ、国の施策や先進事例に触れながら、自治体の様々な取組を学ぶ。

【到達目標】

生活者の目線で地方行政の課題と対応する取組を考察することで、自身が居住する、あるいは関心ある地域の課題を発見し、持続可能な地域づくりに主体的に関わる視点や知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

地方行政に関するテーマごとに、現状、背景、関連施策などを出来る限りデータを示して講義する。講義に加えて、受講生によるディスカッションにより、多様な視点の交換や課題解決の方策を検討する。

各回の講義については、疑問点、意見等をリアクションペーパーに記載し提出してもらう。提出されたリアクションペーパーは次回の授業で適宜取り上げ、全体にフィードバックする。

最終授業では、まとめとともに、受講生によるレポートの発表とディスカッションを実施する。

受講生の参加のしやすさを考慮し、オンライン（Zoom）講義を原則とするが、初回ガイダンスと最終回のレポート発表は対面とする予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	導入/人口減少の影響	地方公共団体の種類、国と地方公共団体の役割分担、人口減少のなかでの自治体運営の方向性を学ぶ。
2回（3･4）	財政/健康医療福祉	地方公共団体の財政の特徴や課題、介護・高齢化対応や健康増進、地域医療の課題を学ぶ。
3回（5･6）	商工・労働/農林水産業/地域公共交通	産業振興としての企業誘致、就労支援策の特徴、農林水産業のスマート化など担い手不足への対応、地域インフラとして重要な地域公共交通の動向を学ぶ。
4回（7･8）	生活インフラ/防災	老朽化や人口減少に対応したインフラの再構成、災害時、防災における行政の役割や取組を学ぶ。
5 回（9･10）	環境問題/文化・スポーツ・多様性への対応	ごみ行政、再生可能エネルギー、地域の特性を生かした文化・スポーツ、国籍・性別・障害などの多様性に配慮した取組を学ぶ。
6回（11･12）	住民参加/デジタル化	住民参加の意義や形態、地方議会の状況、行政手続や業務面などにおける自治体のデジタル化の動きを学ぶ。
7回（13･14）	まとめ、レポート発表・ディスカッション	これまでの講義を振り返る。受講生が関心を持った地域の課題とその対応策についてレポートを発表し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から経済、社会に関する新聞、雑誌記事、ニュース、自治体の広報などに接し、どのような地域の課題があり、自治体はどのような取組をしているか、課題と対応に関する自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを学習支援システムに事前にアップロードするので、受講生は事前にダウンロードし一読しておくこと。

【参考書】

総務省「地方財政白書」

大森彌・大杉覚「これからの地方自治の教科書」第一法規　2019年

【成績評価の方法と基準】

レポート（70％）、平常点（30％）

毎回の授業におけるディスカッションへの参加やリアクションペーパーへの記載等を授業での学習や参加度（平常点）として評価する。

受講生自身の居住地あるいは関心のある地域における課題とその解決のための処方箋についてレポートを作成し最終日に発表する。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションを通じて多様な背景からなる受講生の意見交換や情報共有を促したい。リアクションペーパーの提出期限は、受講生の受講スケジュールを考慮する。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン（Zoom）講義が受講できるように、Zoomが利用できる環境を整えること。

【その他の重要事項】

【Outline (in English)】

This course introduces challenges faced by local governments and their policy choices while referring to national government policies and examples of advanced cases.

ARSx520Q2（地域研究（その他） / Area studies(Others) 500）

まちづくり事例研究

上山　肇

備考（履修条件等）：**都市・文化・観光創造群**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
具体的な都市や地域を対象として、資料収集やフィールドワークを行い、地域資源を活用した都市や地域のあり方を提示するとともに、今後の都市再生やまちづくりの手法を創造します。

【到達目標】
フィールド調査（あるいは資料分析）にもとづいた成果をまとめ、同時にプレゼンができる能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
これからのまちづくりは、都市や地域に積層する歴史や文化、また地域のコミュニティを活かしながら行っていくことが求められています。都市における既存の空間や景観に埋もれている資源、地域コミュニティ形成の実態を探るための調査や分析手法を学び、それらを表現する方法を習得します。学生による作品提出が課題となるため、受講生と相談したうえで授業を変則で行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス	当科目での課題について説明します。
2回（3･4）	テーマ設定	調査対象地（商店街、住宅地、公園、水辺、地域コミュニティの具体例等）を選定します。
3回（5･6）	事例研究及び作業①	各自の調査対象地の先行研究や情報について整理します。
4回（7･8）	事例研究及び作業②	各自の調査対象地の先行研究や情報について整理します。
5 回（9･10）	フィールド調査	調査対象地でのフィールドワークの結果について整理します。
6回（11･12）	事例研究及び作業③	各自の調査対象地の先行研究や情報について整理します。
7回（13･14）	発表	各自、事例研究及び作業の成果をプレゼンします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査対象地に関する資料収集とフィールドワークを行います。
本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
講義の中で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点50％、発言20％、作品30％で行います。

【学生の意見等からの気づき】
学生が時間内に課題（作品）を作成するための時間を確保しやすくできるよう授業を工夫する。

【Outline (in English)】
This course introduces the state of the city and the area utilized area resources, the technique of the city revival and the community development to students taking this course.

ARSk520Q2（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 500）

比較都市事例研究

伴　宣久

備考（履修条件等）：**都市・文化・観光創造群**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
江戸から現代までの東京における各時代の都市政策の背景、課題、解決策を多角的に学びます。受講生は、ソフト・ハードの都市政策の変遷を学び、それを参考に自身で選んだ都市を、経営層になったつもりで特定のテーマに着目し今後の社会状況に変化に応じた新たな都市政策を提案します。

【到達目標】
・江戸から現代までの東京の都市政策を時系列で理解する。
・都市政策の課題解決策やその影響を多面的に分析する能力を身につける。
・将来の社会状況を考慮した政策提案を行うスキルを養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
江戸から東京の都市政策の変遷の歴史を講義し、その後、受講者によるディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス 講義（江戸時代の都市政策とその背景）	オリエンテーション 江戸の都市政策の特徴 ディスカッション
2回（3･4）	講義（明治初期の都市政策と東京の近代化）	東京の近代都市への転換 ディスカッション
3回（5･6）	講義（関東大震災後の復興と都市設計）	災害復興を通じた都市政策の進化 ディスカッション
4回（7･8）	講義（戦後復興と高度経済成長期の都市政策）	経済成長による都市政策の変革 ディスカッション
5 回（9・10）	事例研究（特別区のまちづくり）	特別区制度と東京のまちづくり政策の変遷 課題中間発表
6回（11・12）	講義（バブル崩壊後の都市政策と課題）	バブル崩壊の教訓と都市再生 ディスカッション
7回（13・14）	講義（今後のまちづくりの課題）	人口減少・高齢化・都市インフラの再編・サステイナブルなまちづくり 最終発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習・復習　3時間/各回　21時間
調査対象地に関する資料収集とフィールドワーク　8時間

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
東京の都市づくりのあゆみ（東京都）。
江戸・東京の「地形と経済」のしくみ（鈴木浩三、日本実業出版社）。
東京都市計画物語（越沢明、ちくま書房）。東京都市計画の遺産（越沢明、ちくま書房）。
実践・自治体まちづくり学（上山肇編著、公人の友社）。その他については必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点50%、発言20%、作品（課題として取り上げる地域に関するパワポによるポスター製作）30%で行います。

【学生の意見等からの気づき】
学生が作品（課題として取り上げる地域に関するパワポによるポスター）製作に時間がさけるよう授業を工夫する。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
In this course,Students will learn the background from Edo to modern Tokyo and challenges and solutions of the urban policies of each period from various perspectives. Students will also learn about the changes in software-hardware of the city policies and use them as a reference to propose new city policies that will change according to future social conditions by focusing on specific themes with the intention of becoming a mayor.
[Grading Criteria /Policy]
Your final grade will be calculated according to the following process: Attendance (50%), Comment (20%), and Work production(30%).

ARSl520Q2（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500）

コミュニティーメディア論

北郷　裕美

備考（履修条件等）：**都市・文化・観光創造群**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域社会を含む様々なコミュニティに帰属する一人の市民として、各々が多様な活動を行う際の、異なったセクター同士を結ぶコミュニケーションツールとしてのメディアの在り方、捉え方を考える。メディアも時代とともに多様化し、インターネットの普及でグローバルな発信のメディアとして市民が活用する機会・環境も生まれてきた。そこで市民社会(特に地域社会)の課題を前提に、如何様にコミュニケーション手段としてのコミュニティーメディア、市民のメディアを捉えるべきか，を考える。

【到達目標】
本講義は毎回テーマ文脈を埋めながらメディア・コミュニケーションの歴史等も時系列的に捉えなおし、最終的に、受講者に市民メディアの役割を理解してもらうとともに、理想的な市民社会のコミュニケーション・モデル(規範モデル)を考えることを目標とする。現状認識としてマス・メディアと市民メディアの定義や機能・役割の違い、及び課題に焦点を当て比較検討し、その視点を基にメディア相互の特性や機能についても考察していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に講義は対面、オンラインどちらの場合も、パワーポイント及びウェブサイト・リンクや視聴覚教材を使った形式を取る。必要に応じて音声や画像、You tube、DVD動画の視聴等も取り入れる。授業計画にあるような全体を繋ぐテーマを毎回設定しているため、講義後に提出いただく受講生のコメントや質問からピックアップした内容を基に、毎回講義内容を反映したQ＆Aやディスカッションも盛り込もうと考えている。これらのことは講義における双方の重要なコミュニケーションの一つと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス～地域情報・コミュニケーションの過去と現在（失われた空間の意味するところ）：マス・メディアの発展と限界	本講義の前提となる社会状況を俯瞰する：高度経済成長期の花形メディアは今いかなる状況にあるかを考える
2回（3･4）	市民メディアの種類と歴史：パブリックアクセスを学ぶ	多様なコミュニティメディアの役割を時系列で総論的に扱う：市民メディアのキーワードである『パブリックアクセス』について考える
3回（5･6）	映画視聴①：ディスカッションと解説	米国映画 (Public Access）を視聴する：米国映画(Public Access）についての意見交換と解説
4回（7･8）	映画視聴②：ディスカッションと解説	邦画(コミュニティ放送前夜の時代を描いた作品）を視聴する：日本のコミュニティ・メディアを念頭に映画についての意見交換と解説
5回（9・10）	動画視聴講義 コミュニティ放送を観る：コミュニティ放送の概要と機能　公共性指標	日本のコミュニティFM放送を取材したNHKドキュメンタリーほか動画視聴　意見交換と解説：北海道のコミュニティFM放送調査を事例に解説
6回（11・12）	メディアと防災～コミュニティ放送を事例に	実際に起きた様々な事例より、コミュニティメディアの防災側面や　リスク最大値からの教訓を考える
7回（13・14）	コミュニティFM放送の組織経営課題「動画視聴講義」メディアリテラシー	コミュニティFM放送の組織経営の在り方と課題：コミュニティメディアの将来的な課題を探る テロ事件をテーマとした映像を用いてメディアリテラシー全般について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習のために、毎回事前に講義用のレジュメを学習支援システムにアップする。講義後はコメントシート作成も兼ねて授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧し、授業時間以外に学修してもらうことを望む。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。ただし普段から社会全体で議論されている内容（報道等）には注意深くあって欲しい。

【テキスト（教科書）】
・『コミュニティFMの可能性: 公共性・地域・コミュニケーション―』(北郷裕美著　青弓社）
・『市民が育む持続可能な地域づくり』（北郷裕美（第1章） 共著 同時代社）

【参考書】
・『日本のコミュニティ放送－理想と現実の間で－』（北郷裕美 共著 晃洋書房）
・『新・公共経営論』（北郷裕美 共著　ミネルヴァ書房）

【成績評価の方法と基準】
平常点 30％、レポート試験 70％を原則的な配分として評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回受講生のコメントや質問を参考にしながらその内容を具体的な事例を中心に講義内で反映しディスカッションを深める。

【学生が準備すべき機器他】
講義は原則としてPPTを用い、毎回PC機器、視聴覚機器（DVD等）を使ったスクリーン・プレゼンテーション型の講義を行う。受講生がPCを用意して講義ノートを作成することは差し支えない。

【Outline (in English)】
The purpose of this lecture is to think about how community media as communication means should be grasped on the premise of the problem of civil society (especially local, regional community).
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
- Class attendance and attitude in class: 30%
- Term-end examination reports: 70%

ARSl520Q2（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500）

都市文化論

増淵　敏之

備考（履修条件等）：**都市・文化・観光創造群**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市と文化の関わりについての議論を学際的に行っていくが、基本的に経年的なアプローチを重視していく。都市の拡大とともに変容していく文化の諸相の考察が本授業のテーマになる。学生には都市文化を学んでいくための幅広い知識の習得を期待している。

【到達目標】
都市論の様々な議論を前提にした文化創出の政策的な手法、方法を理解することを到達目標としたい。とくに都市政策の面においても文化の活用は重要になってきているので、学生は具体的な事例を知識として習得することが必要で、それを自分なりに多角的に考察する姿勢を身につけて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
都市政策を考える上で、都市が内包する文化を把握することが極めて重要である。特にコミュニティ形成や新たな産業創出の上でも比重が高まってきているといえるだろう。本授業では1960年代以降に日本で盛んになってきた都市論全般を見ていくことから始めていくが、特に文化との関係性の強いものを中心に取り上げていく。文化面が強調されていくのは1980年以降になるが、前田愛、吉見俊哉などのいわゆるテクスト分析型の都市論、そして1990年代以降のカルチュラルスタディーズ、文化社会学領域での都市論までを概観していく。また都市文化を象徴する都市装置（劇場、映画館、カフェなど）にも着目、都市文化の生成に果たした役割も見ていきたい。ポップカルチャーもひとつの都市の文化として扱っていく。状況によっては授業内容の変更もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンスと都市論の系譜/Genealogy of guidance and urban studies	都市文化に関する基礎知識/Basic knowledge about urban culture
2回（3･4）	近代においての都市形成と博覧会の果たした役割/The role played by urban formation and expositions in modern times	都市形成とイベント/City formation and events
3回（5･6）	「考現学入門」解読とカフェ論/Deciphering "Introduction to Thinking and Learning" and Cafe Theory	フィールドワークの事例紹介と都市文化装置としてのカフェ/Case study of fieldwork and cafe as an urban cultural device
4回（7･8）	百貨店論、東京への文化的装置の集中/Department store theory, concentration of cultural equipment in Tokyo	都市文化装置としての百貨店、文化装置の東京への集中過程/Department store as an urban cultural device, the process of concentrating cultural devices in Tokyo
5 回（9・10）	東京への文化的装置の集中、映画や小説の中の東京/Concentration of cultural equipment in Tokyo, Tokyo in movies and novels	文化装置の東京への集中過程、映画や小説の中に見る東京の変容/The process of concentration of cultural equipment in Tokyo, the transformation of Tokyo seen in movies and novels
6回（11・12）	アジアの諸都市/Asian cities	アジアの諸都市にみられる文化の変容を見ていく、例：バンコク、マニラ/Look at the cultural transformations of Asian cities, eg Bangkok, Manila
7回（13・14）	都市と異文化受容、都市というメディア/The media of cities, cross-cultural acceptance, and cities	異文化の受容による都市文化の変容、都市をメディアととらえるアプローチ/Transformation of urban culture by accepting different cultures, approach to seeing cities as media

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習をしてきてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。状況に応じて授業内容の変更もあります。

【テキスト（教科書）】
レジュメを使用

【参考書】
授業中に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、レポート70％

【学生の意見等からの気づき】
都市文化を地域再生に結びつける方策について適宜、議論していく。授業の内容も適宜、工夫していく。

【学生が準備すべき機器他】
PC.DVDの使用もある。

【その他の重要事項】
多少、内容等が変わる可能性もある。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。オフィスアワー：月16－18時。

【Outline (in English)】
Discussions on the relationship between cities and culture will be conducted interdisciplinaryly, but basically we will emphasize aging approaches. The theme of this lesson is the consideration of various aspects of culture that transforms as the city expands. I expect students to acquire a wide range of knowledge to learn urban culture.

TRS520Q2（観光学 / Tourism Studies 500）

観光開発論

北郷　裕美

備考（履修条件等）：**都市・文化・観光創造群**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
観光開発、観光振興、地域振興の全体を俯瞰しながら、地域の観光化の功罪についても考察する。観光の歴史や観光産業の実態を検証しながら、観光は生活文化主体の地域文化であることを再確認する。さらにこの問題を最終的には政策や制度の問題と結びつけて観光開発のこれからを考える。

【到達目標】
この授業では、観光開発がもたらす社会問題に目を向け、それを観光地住民の課題として考える。観光開発の功罪という両側面から見ることで、最終的には、観光文化の意義、意味をネガティブなものからポジティブなものへと転換し、観光地住民の手で観光を創造するにはどのような方法があり得るのか、あるいはどのように支援することができるのかを学修する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
各自の論文執筆にどう活かせるかを学ぶ。教員のこれまでの具体的な調査活動や研究実績を基にして、基本的に座学で行うが、各自の研究テーマに沿った形でディスカッションを試みたい。具体的な講義形式は、毎回スクリーンにパワーポイント及びウェブサイト・リンクを投影しておこなう。必要に応じてレジュメの配布（学習支援システムに事前アップ）、板書、音声や画像、DVD動画の視聴等も取り入れる。また課題提出を毎回課す。詳細はガイダンス時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス　観光開発とは	最初に授業全体を概観し、本講義の目的や到達点を確認する 観光開発とは何かという原点を共有する
2回（3･4）	観光開発における功と罪　地域創生における観光	観光の意味を再確認しながら観光化におけるメリット、デメリットを考察する 観光資源の在り方を通して地域創生の課題を考える
3回（5･6）	サスティナブルツーリズム	現在盛んに語られているSDGsについて再考し、それと観光の関連を通して「サスティナブルなツーリズム」の意義、意味を考える
4回（7･8）	日本の観光開発の歴史	明治期から現在に至るまでの日本の観光開発の歴史を俯瞰していく 過去から現在、未来へとその足跡を辿っていくことで観光開発について再考する
5回（9･10）	観光産業の成り立ち	「旅行業」の在り方に関して、産業面での捉え方を前提に具体的な交通手段、宿泊施設について「観光産業論」として検証する
6回（11･12）	交通機関と宿泊機関を概観する	観光開発の主軸となる、交通機関と宿泊機関の全体を総括する
7回（13･14）	ホスピタリティと観光これからの観光行政を考える	「おもてなし」の意味を再検証し、正しく「ホスピタリティ」について考える　地域振興との関連から、観光を政策や制度面から捉えなおし、観光政策を取り巻く現状を踏まえた「観光開発のこれから」を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習のために、毎回事前に講義用のレジュメを学習支援システムにアップする。講義後はコメントシート作成も兼ねて授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧し、授業時間以外に学修してもらうことを望む。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。ただし普段から社会全体で議論されている内容（報道等）には注意深くあって欲しい。

【テキスト（教科書）】
特には設けないが毎回作成するPPTを通して独自のノートを作成してほしい　文献等はその都度紹介していく

【参考書】
以下一部ではあるが紹介する
ジョン・アーリ、加太宏邦訳『観光のまなざし―現代社会におけるレジャーと旅行』法政大学出版、1995年
須藤廣、遠藤英樹『観光社会学2.0―拡がりゆくツーリズム研究』明石書店、2018年
長谷政広『観光振興論』税務経理協会1998年

【成績評価の方法と基準】
平常点30点、レポート70点

【学生の意見等からの気づき】
コメントシート又は対面による学生の感想・意見を聞きながら授業を行う

【Outline (in English)】
With overlooking tourism development, tourism promotion, and regional promotion, we consider the advantages and disadvantages of regional tourism.　In addition, in this lecture, it is important to examine the history of tourism and the actual situation of the tourism industry.　Therefore, it is possible to reconfirm that tourism is a local culture centered on daily life.　Ultimately, we will consider the future of tourism development by linking this issue with policy and system issues.
Your overall grade in the class will be decided
based on the following:
- Class attendance and attitude in class: 30%
- Term-end examination reports: 70%

BSP520Q2（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 500）

フィールドワーク論

北郷　裕美

備考（履修条件等）：**都市・文化・観光創造群**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、フィールドワーク(現地調査）の理論と基本技術を身に付けることを目的とする。この講義では基本的に「質的調査」に軸足を置く予定である。

【到達目標】
フィールドワークの技法にはさまざまな種類があるが、まずはそれらを体系的に理解し、最終的には各自の研究テーマに合った調査法を選択すべきである。論文執筆にあたり、全体構成の中でフィールドワークの役割と位置づけを構築し、実践できるようになることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
フィールドワークには様々なアプローチがあるが、論文執筆にそれらをどう生かすかについて学んでもらう。具体的な講義形式は、毎回スクリーンにパワーポイント及びウェブサイト・リンクを投影しておこなう。必要に応じてレジュメの配布（学習支援システムに事前アップ）、板書、音声や画像、映画、DVD動画の視聴等も取り入れる。また課題提出を毎回課す。また、ワークショップも実践したい。詳細はガイダンス時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス　フィールドワークの基本①	授業の目的と到達目標を確認し、講義全体を俯瞰する 質的研究（調査）の再評価を中心に歴史や意義を学ぶ
2回（3･4）	フィールドワークの基本②	エスノグラフィーを基に、フィールドワークの理論や概念、仮説の立て方等を学ぶ
3回（5･6）	フィールドワーク事例①	『映画視聴から学ぶ』 理論に基づいた事例研究に際し、方法論（調査技法）の長所短所について検証する
4回（7･8）	フィールドワーク事例　②	多様なフィールドワーク事例より、参与観察等を通して手法の実際を学ぶ
5 回（9･10）	フィールドワークの実践的なリアリティ	オンラインによる調査・フィールドワークについて考える
6回（11･12）	CASE　STUDY(事例をもとに学ぶ)	フィールドワークの分析手法について『暴走族のエスノグラフィー（佐藤郁哉著)』を用いて多角的に解説する
7回（13･14）	総括　ワークショップ	グループ型のワークショップ形式で具体的なフィールドワーク事例を基に、課題や改善点を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
準備学習のために、毎回事前に講義用のレジュメを学習支援システムにアップする。講義後はコメントシート作成も兼ねて授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧し、授業時間以外に学修してもらうことを望む。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。ただし普段から社会全体で議論されている内容（報道等）には注意深くあって欲しい。

【テキスト（教科書)】
特には設けないが毎回呈示するPPTを通して独自のノートを作成してほしい

【参考書】
佐藤郁也(2008)「質的データ分析法―原理・方法・実践』新曜社
佐藤郁哉（1984-2011)『暴走族のエスノグラフィー』新曜社
はか多くの参考文献は講義中に適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点30%、レポート70%

【学生の意見等からの気づき】
コメントシート又は対面による学生の感想・意見を聞きながら授業を行う

【Outline (in English)】
The aim of this lecture is to acquire the theory and basic techniques of fieldwork (fieldwork).This lecture will basically focus on qualitative research.
Your overall grade in the class will be decided
based on the following:
- Class attendance and attitude in class: 30%
- Term-end examination reports: 70%

TRS520Q2（観光学 / Tourism Studies 500）

観光マーケティング論

青木　洋高

備考（履修条件等）：**都市・文化・観光創造群**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「観光」は不況、人口減少、高齢化など厳しい環境下におかれた我が国にとっての救世主として注目されている領域である。とりわけ疲弊した地方都市の「活性化」という側面ではその期待も大きい。
一方で、旅行者のニーズは多様化し、さらにインターネットの普及で旅行者個人による情報収集や手配が可能になり旧来の旅行代理店の優位性が崩れつつあるほか、地域の実態に即した「持続可能な観光」形態が求められてきたことなど、時代の変化による様々な要因を背景にその観光スタイルも変化しつつある。これら多種多様な旅行者のニーズを的確に捉え、旅行者の満足を最大化し、「持続可能な観光」を維持、発展させるためには「マーケティング」の発想が欠かせない。この授業では、「マーケティング」についての基礎的な理論を把握したうえで、観光産業における具体的な事例を交えながら、そのプロセスを学習していく。

【到達目標】
観光マーケティングの基礎的な理論を習得し、その役割や重要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
観光マーケティングの理論を考察する。観光産業における具体的な事例を積極的に紹介し、ケーススタディを交えながら進めていく。共通テーマでのディスカッションなどを取り入れた双方向な授業を目指す。
講義のなかで複数回、実務者のゲスト講師を迎えて講義・討議を行う（詳細は初回講義時に説明。そのため授業計画の順序は変更になる場合がある）。なお、その場合も担当教員が取り纏めを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス、授業の進め方	観光マーケティングとは何か、観光の「いま」を知る。
2回（3･4）	デスティネーションにおけるマーケティング戦略①	具体的事例をベースに各地域の取り組みと課題を考察する。
3回（5･6）	航空会社におけるマーケティング戦略	激動の航空業界の現況を理解する。ＬＣＣとＦＳＡ、プライシング戦略など。
4回（7･8）	鉄道会社におけるマーケティング戦略	観光需要の創造、地域振興に対する鉄道会社の取り組みを把握する。
5 回（9･10）	旅行会社におけるマーケティング戦略	旅行会社のプロモーション戦略、旅行商品の流通、これからの旅行業界の姿などを学ぶ。
6回（11･12）	宿泊施設におけるマーケティング戦略	多様化するホテル、旅館業界について学ぶ。宿泊施設の収益モデル、外資系ホテルの参入など。
7回（13･14）	デスティネーションにおけるマーケティング戦略②	具体的事例をベースに各地域の取り組みと課題を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で取り扱った内容を各自の研究テーマとリンクさせながら復習し、次の講義に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
レジュメを中心に授業を進める。

【参考書】
講義の中で、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、レポート70％。

【学生の意見等からの気づき】
各回の冒頭で理解の確認を図るための振り返りの時間を確保したい。

【その他の重要事項】
一部講義をオンラインで行う場合がある。

【Outline (in English)】
“Tourism” is a field currently gaining a significant attention as a savior of Japan in the tough environments such as economic depression, population decline, and aging. In particular, it has particularly large expectations for the aspect of “Revitalization” in exhausted local cities. On the other hand, needs of tourists become diversified and traditional travel agencies have been losing their advantageous grounds due to information collection and travel arrangement by each individual tourist himself through the wide spread of the Internet while the tourism style itself has also been changing on the background of various factors with the change of the times such as requiring a form of “Sustainable tourism” in harmony with actual local conditions. It will absolutely need a concept or idea of “Marketing” when accurately comprehending a large variety of tourist needs, maximizing the tourist satisfaction, and then developing “Sustainable tourism”. In this class, on the basis of understanding the basic theory of “Marketing”, you will learn the process of tourism industry by examining particular cases in the industry.

MAN520Q2（経営学 / Management 500）

地域経営戦略論

橋本　正洋

備考（履修条件等）：**産業・企業・イノベーション創造群**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、教授からの俯瞰的な講義に加え、霞が関及び地方の政策責任者をはじめ、地域政策研究の第一人者、地方創生の担い手、地方の産業指標の見える化の専門家をゲストに迎えて話題提供をお願いし、地方創生に必要な取り組みを経済産業政策、企業経営戦略などの側面から多面的に考える。これにより、得た内容を実務（政策立案・運営、企業戦略）に活かすことを目指す。

【到達目標】
具体的に、日本経済の状況を踏まえたうえで、各地方における政策、取り組みなどを把握し、どのような成功例、課題があるかを理解することを目指す。その上で、地方経済再生のための戦略論を考察することを目指す。特に、地域経営とは何か、受講者自らが定義を示すことが重要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
イントロダクションにより地域経営戦略に関する概要を理解したうえで、官界、学界、実践家の第一人者からの話題提供を受け、担当教授の指導の下グループディスカッション及び全体討議を行い、今後の地方行政、政策運営、企業の経営戦略などに必要な発想、取り組みを考察する。
当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	イントロダクション	地域経営戦略とは何か。
2回（3･4）	地域経営と政策	ゲスト講師からのプレゼンテーションを基に、わが国の経済政策（マクロ、地方振興策など）の方向性、特徴を担当教授の指導の下確認する。その中で、地方の活性化、地方創生などのためにどのような政策が行われているか理解する。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。
3回（5･6）	地域経営戦略①	地域政策研究の第一人者からの話題提供を基に担当教授の指導の下議論する。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。
4回（7･8）	地域経営戦略②	国の地域イノベーション政策担当責任者からの話題提供を基に、地域におけるイノベーション創生の議論を担当教授の指導の下行う当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。。
5回（9･10）	地域経営戦略③	地域行政の責任者を招き、地域行政の進め方、課題についての話題提供に基づき担当教授の指導の下議論する。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。
6回（11･12）	地域経営戦略④	地域の様々なデータの分析手法について専門家からの話題提供を受け担当教授の指導の下演習を行う。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。
7回（13･14）	まとめ	担当教授の指導の下、一連の講義を通して、地域地方経営に必要な政策等を受講者間で議論する。また、地域経営に関する疑問を解決し、更なる学習への橋渡しを行う機会とする。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常起きている経済活動や経済事象について関心を高め、それが地方の経済、社会動向などと、どのような関係にあるか、深く検討することが必要。すべての履修者は、そうした検討に基づいてプレゼンテーション、ディスカッションに参加することが求められる。また毎回課題レポートを提出する。

【テキスト（教科書）】
教員、ゲストから資料を提示する。

【参考書】
授業の進展に伴い、適切な参考図書等を提示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点(授業中の発表・ディスカッションへの参加等)（おおむね５０％）、プレゼンテーション（おおむね５０％）とする。

【学生の意見等からの気づき】
グループディスカッションへの積極的参加が重要。
地域経営戦略分析に有効な手法に関する講義を含む。

【学生が準備すべき機器他】
一部遠隔講義がありうるので、パソコンを持参すること。

【その他の重要事項】
今年度限りの貴重なゲストもおられるので、受講機会を逃さないように。

【Outline (in English)】
In this lecture, having luctures of landscape for regional policy strategy by professor, I welcome leaders in regional policy research, leaders in regional revitalization, and experts in visualization of regional industrial indicators, as well as Kasumigaseki and regional policy managers. I consider initiatives from multiple perspectives, such as economic and industrial policy and corporate management strategy. Through this, we aim to utilize what we have learned in practice (policy planning and management, corporate strategy).Naturally, the overall discussion will be summarized by the teacher in charge.

ARSl520Q2（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500）

地域イノベーション論

橋本　正洋

備考（履修条件等）：**産業・企業・イノベーション創造群**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国の政策全般を俯瞰したうえで、イノベーション政策にフォーカスする。研究に政策要素（国、自治体の関与）がある学生には履修を推奨する。

ここでは、地域における経済再生戦略に必要な、国や地域のイノベーション政策のうち重要なものを取り上げ、それらの歴史的背景と現在の課題について検討する。これに基づき、地域イノベーションを創成するための地域産業政策の在り方、地域経済再生のための戦略論について考察する。

【到達目標】

政策立案の仕組みを明らかにするとともに、イノベーションとは何かを踏まえ、日本のイノベーション政策の大きな流れ、特に構造改革型政策を理解し、地域イノベーションとの関係を認識できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

政策の仕組みとイノベーション創生のモデルを理解したうえで、関係するイノベーション政策について概観したうえで、グループワークにより個別の政策、システムについて検討し、グループ及び全体で討議することにより本質的な理解を得る。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンスとイントロダクション	講義の目的、進め方について説明し、イノベーションに関する基本的概念とモデルを説明する。
2回（3･4）	政策プロセスとイノベーション政策概観	日本の政策プロセスとイノベーション政策を概観し、重要な事項について解説する。グループ分けを行い課題を選択する。
3回（5･6）	イノベーション政策1	科学技術基本法制定、総合科学技術・イノベーション会議設置と日本のイノベーション政策
4回（7･8）	イノベーション政策2	大学等技術移転促進法制定（ＴＬＯ法）、99年：産業活力再生特別措置法制定（日本版ﾊﾞｲﾄﾞｰﾙ）と大学技術移転、大学発ベンチャー
5回（9･10）	イノベーション政策3	国立大学法人化・大学改革
6回（11･12）	イノベーション政策4	産業クラスター・地域イノベーション政策
7回（13･14）	イノベーション政策5	省庁再編・独法改革

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常起きている産業経済活動や政策について関心を高め、それが国全体及び地方の政策、産業社会と、どのような関係にあるかを常に考えることが必要。すべての履修者は、そうした検討に基づいてプレゼンテーション、ディスカッションに参加することが求められる。十分な準備のもと、与えられた課題についてプレゼンを行うともに、講義後課題レポートを提出する。

【テキスト（教科書）】

講義の際に配布する。

【参考書】

講義の際に適宜資料を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

グループディスカッションによるプレゼンテーション、講義への貢献及び必要に応じ最終課題（実施の場合およそ50％）により採点する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回講義後にアンケートによりフィードバックを行い、講義の内容を調整する。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼン用のパソコン等を用意すること。

【その他の重要事項】

実務経験のある教員による授業です。経済産業省における実経験とそのネットワークにより内容を構成します。

【Outline (in English)】

This lecture will focus on innovation policy after taking a bird's-eye view of national policies in general。 Students who have policy elements(involvement of national or local governments) in their research are recommended to take this course.Innovation that occurs in a company is strongly influenced by the environment of each country (National Innovation System) in the company. This is due to the establishment of legal systems, tax systems, intellectual property systems, finance, and support organizations that differ from country to country. In order to bring about innovation in the region, it is necessary to establish appropriate innovation policies at the national and regional levels. In this lecture, we will take up important national and regional innovation policies necessary for regional economic revitalization strategies, and examine their historical background and current issues. Based on this, we will consider the ideal way of regional industrial policy to create regional innovation and the strategic theory for regional economic revitalization.

MAN520Q2（経営学 / Management 500）

新産業創出論

小具　龍史

備考（履修条件等）：**産業・企業・イノベーション創造群**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
IoT、ビッグデータ、人工知能（AI）、ロボットに代表される技術革新によって新産業が生まれる第4次産業革命が、想定外のスピードとインパクトで進行しています。新産業の創出には、新規事業の開発が極めて重要となります。本講義では、新規事業開発手法である事業アイデア創造手法および事業性評価手法について習得します。

【到達目標】
新産業の創出に必要な新規事業の開発に関する一般的な知識を習得し、その役割と基本的な理論を理解するとともに、当該理論と実際に社会の中で実践されているイノベーションやマーケティングの手法を結びつけて理解できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義とグループディスカッション、発表（プレゼンテーション）等により実施します。授業内容に関する質問は、リアクションペーパー等により受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。※授業回によって完全対面と完全オンラインの日があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	新規事業開発プロセスと実施事項	本講義の目的・進め方および新規事業開発プロセスと実施事項についてレクチャーを行う。
2回（3･4）	事業アイデアの創造	事業アイデア創造に係る代表的な手法（フレームワークやツール）の紹介およびレクチャーを行う。
3回（5･6）	事業コンセプトの検討	事業アイデア創造手法を用いた事業コンセプトの検討および詳細化ワークを行う。
4回（7･8）	事業コンセプトの発表とブラッシュアップ	事業コンセプト案の発表（プレゼンテーション）および振り返り、ブラッシュアップワークを行う。
5 回（9・10）	一次スクリーニングによる事業性評価	事業性評価手法（一次スクリーニング）のレクチャーおよび事業コンセプト案の評価とブラッシュアップワークを行う。
6回（11・12）	二次スクリーニングによる事業性評価	事業性評価手法（二次スクリーニング）のレクチャーおよび事業コンセプト案に関する事業性評価（BusinessModel Canvas、BMO法による評価）とブラッシュアップワークを行う。
7回（13・14）	事業性評価結果の作成と発表	二次スクリーニング結果の作成と最終事業コンセプト案の発表（プレゼンテーション）、振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習ではシラバスをもとに参考図書等を用いて事前学習をしておいて下さい。復習では目安となる水準を講義中に示します。 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義の際に資料を配布します。

【参考書】
講義テーマごとに適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
本講義の到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での平常点（講義内での発言・グループディスカッション・プレゼンテーションへの貢献度）５０％、講義内で課す課題レポート５０％により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」
みずほリサーチ＆テクノロジーズ株式会社にて経営コンサルタントとしての実務経験を持つ教員が、その経験を基に新規事業開発について解説する。※本講義はAL(Active Leaning)形態による授業である。

【Outline (in English)】
The fourth industrial revolution, in which new industries are being created through technological innovation represented by IoT, big data, artificial intelligence (AI), and robotics, is progressing with unexpected speed and impact. New business development is extremely important for the creation of new industries. In this lecture, participants will learn about business idea creation methods and business feasibility evaluation methods, which are new business development methods.

MAN520Q2（経営学 / Management 500）

コーポレートガバナンス

林　順一

備考（履修条件等）：**産業・企業・イノベーション創造群**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、コーポレートガバナンスとサステナビリティの基礎と最新の動向について学習します。学習に際して、グローバルな視点や実務の観点を取り入れ、また事例を用いて理解を深めます。

【到達目標】
コーポレートガバナンスとは何か、どのような論点があるのか、またサステナビリティのいくつかの論点について、具体的に理解し、自らの考えがまとめられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の前半では、講師作成のレジメに基づいた講義を行い、後半では、グループディスカッションなどの参加型授業を行い、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	イントロダクション	（1）授業の進め方の説明とその確認（2）最近のコーポレートガバナンスに関するトピックスに関する議論
2回（3･4）	米国のコーポレートガバナンス	（1）米国のコーポレートガバナンスの変遷（1930年代から現在まで、事例を含む)（2）最近の動き（ビジネス・ラウンド・テーブルの「会社の目的」の変更とその意味など）
3回（5･6）	英国のコーポレートガバナンス	（1）伝統的な英国のコーポレートガバナンスの仕組み（機関投資家の役割の重視など）（2）最近の動き（コーポレートガバナンス・コードの改訂とその意義など）
4回（7･8）	わが国のコーポレートガバナンス	（1）外国人機関投資家の圧力と日本企業の対応の歴史（2）アベノミクスのガバナンス改革の概要と現在の課題
5 回（9･10）	ドイツのコーポレートガバナンス、サプライチェーンの人権問題	（1）ドイツのコーポレートガバナンスの特徴と課題（2）サプライチェーンの人権問題への対応
6回（11･12）	フランスのコーポレートガバナンス、社会的企業	（1）フランスのコーポレートガバナンスの特徴（2）ベネフィットコーポレーション、ダノンの事例分析など
7回（13･14）	ESG投資とSDGs、ダイバーシティ、コンプライアンスとリスク管理	（1）ESG投資とSDGs（2）ダイバーシティ、コンプライアンスとリスク管理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。（1）事前配布資料がある場合には、事前に読んで、授業で発言できるように準備してください。（2）授業を振り返り、論点を整理してください。（3）期末レポートの作成があります。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布します。

【参考書】
林順一（2022）『コーポレートガバナンスの歴史とサステナビリティ－会社の目的を考える』文眞堂。

【成績評価の方法と基準】
平常点（５０％）、期末レポート（５０％）

【学生の意見等からの気づき】
コーポレートガバナンスに馴染みのない受講生にも理解しやすいよう、丁寧な説明を心がけています。また受講生の要望に柔軟に対応します。

【学生が準備すべき機器他】
該当ありません。

【その他の重要事項】
※「実務経験のある教員による授業」に該当する場合
実務家教員（非常勤）。銀行・証券業界28年、不動産・資産運用会社10年余の実務経験（コーポレートガバナンス関連の実務経験を含む）を活かして、実務家の視点を踏まえた授業を行います。

【Outline (in English)】
This course introduces the foundation of and recent trends in corporate governance and sustainability to students. In order to better understand the global and practical perspectives, a case study will be introduced.

ARSl520Q2（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500）

地域活性特論

橋本　正洋

備考（履修条件等）：**産業・企業・イノベーション創造群、人材育成・生活・ウェルビーイング創造群**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域政策の研究者、実務家を主な対象とした実践的な講義である。教授からの基礎知識にに関する講義を踏まえ、地域の活性化の取り組みについて、その分野の専門家や各地域で活躍するキーパーソンをゲストスピーカーに招き、政策の枠組み、産業連関分析や産業クラスター論などの基礎的な分析の手法、課題と成功の要因を紹介していただき、それを基に受講生と討議を行う形式の講義とする。ゲストには、この分野で著名な有識者、行政、地域のリーダーにお願いする。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。

【到達目標】
地域における最新の取り組みを理解し、その戦略の在り方等について考察を深めることにより、自らの課題等の研究活動に活用できるよう努める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
イントロダクションに続いて、各界の識者から講義及び討議テーマをいただき、それについてグループディスカッションを進め、全体で討議を行う。必要に応じ、現地での実習を行うこともある。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	イントロダクション	地域活性化に関する基本的な問題点を俯瞰する。 招聘講師について詳細を提示する。
2回（3･4）	地域活性化ケース1	具体的な地域活性化プロジェクトに関するケースを紹介し、討議する当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。
3回（5･6）	地域活性化ケース２	具体的な地域活性化プロジェクトに関するケースを紹介し、討議する。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。
4回（7･8）	地域活性化ケース３	具体的な地域活性化プロジェクトに関するケースを紹介し、討議する。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。
5 回（9・10）	地域活性化ケース４	具体的な地域活性化プロジェクトに関するケースを紹介し、討議する。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。
6回（11・12）	地域活性化ケース５	具体的な地域活性化プロジェクトに関するケースを紹介し、討議する。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。
7回（13・14）	地域活性化ケース６	具体的な地域活性化プロジェクトに関するケースを紹介し、討議する。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゲスト講師を事前に提示するので、予習しておくこと。講義後には、毎回レポートを提出する。

【テキスト（教科書）】
講義の際に講師より配布、提示する。

【参考書】
講義の際に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
グループディスカッション、講義への貢献及び必要に応じ最終課題（実施する場合はおよそ50％）により採点する。

【学生の意見等からの気づき】
他では得られない講師の講義を受講できる。

【学生が準備すべき機器他】
ゲスト講師が遠隔で講義する場合もあるので、パソコンを持参すること。

【その他の重要事項】
本講義は原則隔年で行うが、他の講義との関係で、2025年度の開講は未定であり注意すること。

【Outline (in English)】
This is a practical lecture aimed primarily at regional policy researchers and practitioners. Based on the professor's lecture on basic acquaintanceship, experts in the field and key people active in each region will be invited as guests to talk about regional revitalization efforts. They will introduce policy frameworks, basic analytical methods such as input-output analysis and industrial cluster theory, as well as challenges and factors for success, and the lecture will be in the form of a discussion with students. Guests will be well-known experts in this field, government officials, and regional leaders.

OTR530Q2（その他 / Others 500）

特別講義（統計学入門）

後藤　嘉孝

備考（履修条件等）：**特別講義科目**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、社会科学分野の研究に必要な統計学の基礎を学びます。統計に苦手意識を持つ受講者でも理解しやすいよう、理論と実践をバランスよく組み合わせ、データ分析の考え方や基本的な統計手法を習得することを目的とします。
修士課程で量的研究を予定している受講者は、統計の基礎知識を身につけ、自身の研究に活用できることを目指します。一方、質的研究を予定している受講者は、統計手法を用いた先行研究を適切に読み解く力を養うことを目指します。

【到達目標】
・統計学の基本概念を理解し、データの整理や可視化ができる。
・仮説検定や回帰分析などの基本的な統計手法を用いて、データを分析・解釈できる。
・先行研究の統計分析結果を読み解き、自身の研究に活用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・スライドを利用した講義形式で授業を進めます。
・実際に統計ソフト（エクセルを予定）を用いた演習により理解・定着を図ります。
・社会科学の論文を題材にし、統計的手法の具体的な活用例について、グループ討議を行います。
・統計学が初めての受講者を念頭に、丁寧に解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	イントロダクション（統計学とは）	講義の概要と進め方について説明する。また、データの集め方、データと母集団などの統計学の基本的概念を学びます。
2回（3･4）	母集団と標本、確率	母集団と標本の概念、確率の考え方とについて学びます。
3回（5･6）	推測統計と信頼区間	推測統計の考え方（標本から母集団を推測する）、点推定と区間推定（信頼区間の概念）、標本サイズと誤差の関係について学びます。
4回（7･8）	仮説検定の基本	仮説の立て方（帰無仮説と対立仮説）、p値の意味と統計的有意性、第一種の過誤・第二種の過誤について学びます。
5 回（9・10）	様々な仮説検定（t検定・分散分析・カイ二乗検定）	t検定、分散分析およびカイ二乗検定（クロス集計表を用いた分析）について学びます。
6回（11・12）	相関と回帰分析（単回帰・重回帰）	相関の考え方（相関係数の意味と注意点）、単回帰分析（最小二乗法・回帰直線・決定係数）、重回帰分析について学びます。
7回（13・14）	まとめ	本授業の復習・まとめと自身の研究に関連する論文を読み、研究に統計分析をどのように活用できるかを発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業後にテキストや資料を見直し、基本概念の理解度を確認します。
・演習問題を宿題として解きます。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業で配布するレジュメ（パワーポイント）をテキストとして使用します。

【参考書】
阿部真人『データ分析に必須の知識・考え方　統計学入門』ソシム（2021）
毛塚和宏『社会科学のための統計学入門　実例からていねいに学ぶ(ＫＳ専門書)』講談社（2022）
西内啓『統計学が最強の学問である』ダイヤモンド社（2013）
神林博史、三輪哲『【改訂新版】社会調査のための統計学　–生きた実例で理解する– 現場の統計学』技術評論社（2024）

【成績評価の方法と基準】
平常点（５０％）：授業への参加・貢献度
提出課題（５０％）：各回の演習課題、期末レポート課題

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
授業でエクセルを使うことがあるため、パソコンを持参すること。

【その他の重要事項】
※「実務経験のある教員による授業」に該当する場合
実務家教員（非常勤）。シンクタンクにおける社会調査・データ分析の経験を踏まえ、研究だけでなく実務にも役立つ事例を交えながら授業を行います。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces the fundamental statistical concepts necessary for research in the social sciences. The aim is to help students develop an understanding of statistical thinking and basic data analysis techniques through a balanced approach that combines theory and practice.
For students planning to conduct quantitative research, this course will provide the foundational knowledge necessary to utilize statistics effectively and apply it to their own studies. For those focusing on qualitative research, it will enhance their ability to accurately interpret previous studies that utilize statistical techniques.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to:
Understand fundamental statistical concepts and organize data effectively.
Apply statistical methods such as hypothesis testing and regression analysis to analyze and interpret data.
Read and interpret statistical results in academic papers and utilize statistical approaches in their own research.
Learning Activities Outside of Classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least four hours reviewing lecture materials and completing assigned exercises to reinforce their understanding of statistical concepts.
【Learning activities outside of classroom】
After each class, students are expected to review the textbook and lecture materials to reinforce their understanding of fundamental concepts.
Students will complete exercise problems as homework to apply and deepen their knowledge.
The standard preparation and review time for this course is two hours per session.
【Grading Criteria /Policy】
Class participation and contribution: 50%
Assignments and final report: 50%

ECN500Q2（経済学 / Economics 500）

経済学

梅溪　健児

備考（履修条件等）：**導入科目**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では入門レベルの経済学（ミクロ経済学が中心）を数式なしで学ぶ。教材は政策設計に役立つであろう経済学の現実適用事例に重点を置く。授業の目的は、第一に、経済社会を形成する個人や組織の選択は経済学でどのように理論化されるのかを理解する。第二に、研究のストーリーづくりの一助となるように、経済学が地域の課題解決に役立つ枠組みを学ぶ。

これまで経済学を履修したことのない学生の受講を想定するが、履修経験のある学生にとっても本講義が少しでも役立つことを期待するので受講を歓迎する。

【到達目標】

本講義の目標は、①個人や組織が物事を選択する(質的ではなく)数量的な判断基準を理解すること（例．予算制約下の効用最大化)、②日常生活やビジネスで遭遇する事象を経済学の枠組みで解明できること（例．情報の非対称性)、③個人や組織の利便性を高めたり地域社会の困難に対処するために経済学が適用されている最近の事例（例．ダイナミック・プライシング（変動価格制)、ゲームの理論）を理解することの３点である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の進行は入門テキストに基づくが、その内容を順に取り上げるのではなく、必要な部分を抽出した教材を配布して講義を行う。各回の前半は講義とし、後半は輪読と討議、質疑応答にあてる。必要な教材は一部を除いて１週間前に配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	経済学の基本は最大化（最小化）をよしとする	消費者の効用の最大化、企業の利益の最大化という基本を通じて価格が果たす役割を学ぶ。効率と公平を考える。事例として、変動価格制（スーパーの総菜値引き)、移住を取り上げる。
2回（3･4）	経済学は資源配分の最適化を目指す	経済学は市場における自由な取引を通じて効率的な資源配分をゴールとするが、それを意味するパレート最適の考え方を学ぶ。事例として、チケット販売、外食、競争政策を取り上げる。
3回（5･6）	市場取引はベストというが実は失敗する	経済学は市場を重視するが、実は前提が満たされないと市場は失敗することを学ぶ。事例として、道路混雑と渋滞税、うその申告、地域における公共財、鉄道沿線開発を取り上げる。
4回（7･8）	非対称な情報が引き起こす問題は世に多い	市場の失敗の続きで、情報の非対称性の意味、逆選択を学ぶ。事例として、採用と学歴重視、過大コストをかける広告、観光地の土産物店を取り上げる。
5回（9・10）	ゲームの理論が提案する策により満足を高める	マッチングを用いて、相手の出方が関係する場合に参加者の満足を高める方策を学ぶ。事例として、学生のゼミ配属、高校入試単願制を取り上げる。
6回（11・12）	政策研究における経済学と社会学を比較する	経済学と社会学における分析の特徴を学ぶ。事例として、結婚に関して機会費用を用いる経済学、世間体や本人の心意気から迫る社会学を取り上げる。
7回（13・14）	レポート発表と討議	共通課題に関するレポートを発表し討議を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は１回の講義につき４時間を標準とする。日頃からニュースや記事に接し、経済学が問題解明や政策立案にどのように貢献しているのかに関心を持つことを勧める。

【テキスト（教科書)】

伊藤元重（2015）『入門経済学（第4版)』日本評論社

【参考書】

市村英彦・岡崎哲二他編（2020）『経済学を味わう』日本評論社
伊藤元重（2021）『ビジネス・エコノミクス』（第2版）日本経済新聞出版
小塩隆士（2024）『経済学の思考軸』ちくま新書
神取道宏（2014）『ミクロ経済学の力』日本評論社
坂井豊貴（2013）『マーケットデザイン』ちくま新書
坂井豊貴（2017）『ミクロ経済学入門の入門』岩波新書
日本経済新聞社編（2014）『身近な疑問が解ける経済学』日経文庫
松井彰彦（2018）『市場って何だろう』ちくまプリマー新書

【成績評価の方法と基準】

輪読及び討議（50％)、レポート作成と発表（50％）の合計

【学生の意見等からの気づき】

身近な事例の紹介は経済学の理解にとても役立つとの指摘があったので、本年度も重点を置く（例．百貨店vs業種専門店：消費者行動、自治体サービスと居住地選択：市場メカニズム、ワクチン接種の無料提供：外部経済効果、ネット保険はなぜ安いのか：情報の非対称性、人はなぜお土産を渡すのか：ゲームの理論など)。

【学生が準備すべき機器他】

教材は学習支援システムに掲載する。また、レポートは図表を各自作成するのでパソコンが必要。

【その他の重要事項】

対面授業を基本とする。経済学は数学が必要と認識している受講生が多いかもしれないが、本講義で数学的証明を用いる説明は行わない。代わりに、図表によって量的な比較を学んでいただきたい。マクロ経済学は、本講義では原則として取り上げない。

【Outline (in English)】

This is an introductory course of economics aiming to encourage students who have not studied economics at university to acquire basic principles of economics. The goal of this course is to understand the role of the economics in solving social problems related to local activities. Students are expected to prepare for the class by studying the course materials for four hours prior to and after the class. Students are graded according to the following scales: in-class discussion (50%) and the term paper (50%).

BSP500Q2（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 500）

レポートライティング

佐藤　雄一郎

備考（履修条件等）：**導入科目**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、修士論文の執筆に必要な基本的知識とスキルを習得することを目的とする。修士論文を「序論」「本論」「結論」に分け、各パートで何をどのように書くかについて具体的な方法とスキルを学ぶ。特に、論文の作法と序論の書き方に力点を置き、問題意識、先行研究、リサーチギャップ、リサーチクエスチョンの流れに沿って構造的に論文を書く力を高める。最終レポートでは、今後作成する修士論文の序論に相当する部分を実際に書き上げることで、実践的な執筆力を養うことを目指す。

【到達目標】
学術論文の形式に関する知識をもとに、自ら設定したテーマに関する論文を書く力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、講義とグループワークを組み合わせて進行する。講義では、論文執筆に必要な知識を中心に扱う。グループワークでは、論文のテーマやリサーチクエスチョンの設定、先行研究の共有など、論文執筆に欠かせない事項を深め、参加者が研究の進め方や論文執筆に関する具体的なイメージを形成するように進める。さらに、授業支援システムを利用して、参加者は各セッションのテーマに関する考えや進捗を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	イントロダクション	・授業の進め方及びテキスト・参考書の紹介 ・研究や論文の概略 ・自分の研究テーマや問題意識を整理してみよう
2回（3･4）	論文の基礎事項	・論文の構成 ・論証の方法 ・自分の研究の「問い」（明らかにしたいこと）を考えてみよう
3回（5･6）	序論の記述（１）	・論文における序論の役割 ・問題提起と背景の説明 ・先行研究の記述とリサーチクエスチョンの設定
4回（7･8）	序論の記述（２）	・先行研究の調べ方 ・先行研究を踏まえた文章の書き方 ・先行研究からリサーチギャップの導き方 ・参考文献の記載の仕方 ・剽窃ソフトの活用
5 回（9・10）	本論の記述	・序論から本論へ ・本論の役割と記述 ・様々な研究手法 ・調査結果の記述方法
6回（11・12）	結論の記述	・本論から結論へ ・結論の役割と記述 ・結果と結論の違い ・研究の限界と課題について
7回（13・14）	まとめ	・読みやすい文章とは ・優秀論文の紹介 ・授業全体の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後の課題、および最終レポートを作成し提出する。

【テキスト（教科書）】
小熊英二『基礎からわかる　論文の書き方』講談社現代新書 2022年.
授業時にレジュメを毎回配布する。
当研究科の優秀論文を扱う。

【参考書】
ダン・レメニイほか著・小樽商科大学ビジネス創造センター訳『社会科学系大学院生のための研究の進め方 修士・博士論文を書く前に』同文舘出版 2003年.
木下是雄『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫 1994年.
栗田治『思考の方法学』講談社現代新書 2023年.
レスリー-ジェーン・イーグルズ-レイノルズ他著・楠見孝・田中優子訳『大学生のためのクリティカルシンキング―学びの基礎から教える実践へ』北大路書房 2019年.
高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書 1979年.
戸田山和久『新版 論文の教室－レポートから卒論まで』NHK出版 2012年.
吉田健正『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方（第2版）』ナカニシヤ出版 2017年.

【成績評価の方法と基準】
次の配分によって成績評価を行う。
①平常点（授業への参加、グループワーク、課題）30％
②最終レポート70％

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見からは、個々のテーマに即したコメントやフィードバックが重要であるという点が明らかになった。そこで、可能な限り学生の論文テーマを授業で取り上げ、修士論文や政策研究論文の序論執筆を進めるための場として活用できるようにすることを目指す。

【学生が準備すべき機器他】
授業では、授業支援システムに各自が準備した課題や進捗状況をアップロードし、それを画面に投影して共有する予定である。そのため、パソコンを持参することが望ましい。

【その他の重要事項】
・最終レポートは手書きではなく、原則としてWordで作成し、授業支援システムを通じて提出することを求める。
・オフィスアワーは授業後に設けるとともに、メール等でも質問を受け付ける。
・授業の進め方や取り扱う題材は、履修する院生の状況やニーズに応じて柔軟に対応する。そのため、シラバスの内容や進め方が状況により一部変更になる場合がある。

【Outline (in English)】
The aim of this class is to help students acquire the fundamental knowledge and skills necessary for writing a master's thesis. The course divides the thesis into three parts — introduction, body, and conclusion — and covers specific methods and techniques for what to write and how to write in each section. Particular emphasis is placed on the conventions of thesis writing and on structuring an introduction according to the logical flow of problem awareness, previous research, research gaps, and research questions. For the final report, students will develop practical writing skills by drafting the portion of their future master's thesis that corresponds to the introduction.

OTR600Q2（その他 / Others 600）

地域創造演習Ａ

石山　恒貴

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
広い意味での「雇用、キャリア、人材育成、人的資源管理」をめぐる修士論文・政策研究論文の作成に向けた体系的な知的作法の訓練をゼミ形式で行う。最低限の調査手法と調査研究論文・政策提言論文を作成する方法を勉強し、自立した調査研究をできるようにする。

【到達目標】
「雇用、キャリア、人材育成、人的資源管理」だけでなく、研究にあたり必要な知識と技術とセンスを育成することが目的となる。
また、論文に必要な、研究手法の選択、リサーチクエスチョンの設定、論文の表記、構成、定量調査の手法、定性調査の手法、考察の行い方について、包括的に習得できることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
資料の探し方、読み方、調査の方法、調査結果の分析法などの講義や討論。参加者による報告と相互の質疑応答、コメント。全体にゼミ形式で進める。
論文に必要な、研究手法の選択、リサーチクエスチョンの設定、論文の表記、構成、定量調査の手法、定性調査の手法、考察の行い方について、包括的に習得できるための内容も軸となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	演習運営への導入	演習の進め方に関する基本方針の検討
2回	研究テーマの選定方法	研究テーマの選び方の検討
3回	研究テーマの調査方法（その１）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その１）
4回	研究テーマの調査方法（その２）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その２）
5回	研究テーマの調査方法（その３）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その３）
6回	調査結果の分析方法（その１）	調査結果の分析手法の検討（その１）
7回	調査結果の分析方法（その２）	調査結果の分析手法の検討（その２）
8回	調査結果の分析方法（その３）	調査結果の分析手法の検討（その３）
9回	調査結果から考察する方法（その１）	調査結果から考察する手法の検討（その１）
10回	調査結果から考察する方法（その２）	調査結果から考察する手法の検討（その２）
11回	調査結果から考察する方法（その３）	調査結果から考察をする手法の検討（その３）
12回	提言の検証方法（その１）	提言を検証する方法の検討（その１）
13回	提言の検証方法（その２）	提言を検証する方法の検討（その２）
14回	調査と研究についてのまとめ	調査と研究を実践できることの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
通年の演習のために
１．自身の調査研究テーマの推進
２．ゼミ全体の調査テーマなどへの参画
３．各人に与えられた課題の処理
４．合宿等のゼミ行事への参加に努めること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
その都度、必要な共通テキストを指定する。なお、必要な論文や資料はコピーして配布する。

【参考書】
参考書リストなどは別途配布する予定。文献の調べ方を教示し、各人で自分のテーマにそった文献を探し出すことを重視する。

【成績評価の方法と基準】
大学院の基準に従い、ゼミ活動への発言と作業状況と論文準備作業などをもとに総合的に評価する。
特に、ゼミの演習で課す課題対処の水準について重視する。

【学生の意見等からの気づき】
論文作成に向けた個別指導時間を多く設けるように努める。

【学生が準備すべき機器他】
毎回持参する必要はないにしても、パソコンおよび一定のソフトの知識は必要である。パワーポイントも使っていただく。

【その他の重要事項】
ゼミ全体としての共同作業から得られるところは大きい。個人作業だけでなく、共同作業にもできるかぎり参加することを望む。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of employment policy, career theory, human resource development and human resource management.
Goal
At the end of the course, students are expected to acquire the knowledge and skills necessary for research.
Work to be done outside of class (preparation, etc.)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria
In accordance with the standards of the graduate school, students will be evaluated comprehensively based on their comments and work status in seminar activities and preparation work for the paper.

OTR600Q2（その他 / Others 600）

地域創造演習Ｂ

石山　恒貴

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
広い意味での「雇用、キャリア、人材育成、人的資源管理」をめぐる修士論文・政策研究論文の作成に向けた体系的な知的作法の訓練をゼミ形式で行う。最低限の調査手法と調査研究論文・政策提言論文を作成する方法を勉強し、自立した調査研究をできるようにする。

【到達目標】
「雇用、キャリア、人材育成、人的資源管理」だけでなく、研究にあたり必要な知識と技術とセンスを育成することが目的となる。
また、論文に必要な、研究手法の選択、リサーチクエスチョンの設定、論文の表記、構成、定量調査の手法、定性調査の手法、考察の行い方について、包括的に習得できることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
資料の探し方、読み方、調査の方法、調査結果の分析法などの講義や討論。参加者による報告と相互の質疑応答、コメント。全体にゼミ形式で進める。
論文に必要な、研究手法の選択、リサーチクエスチョンの設定、論文の表記、構成、定量調査の手法、定性調査の手法、考察の行い方について、包括的に習得できるための内容も軸となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	演習運営への導入	演習の進め方に関する基本方針の検討
2回	研究テーマの選定方法	研究テーマの選び方の検討
3回	研究テーマの調査方法（その１）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その１）
4回	研究テーマの調査方法（その２）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その２）
5回	研究テーマの調査方法（その３）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その３）
6回	調査結果の分析方法（その１）	調査結果の分析手法の検討（その１）
7回	調査結果の分析方法（その２）	調査結果の分析手法の検討（その２）
8回	調査結果の分析方法（その３）	調査結果の分析手法の検討（その３）
9回	調査結果から考察する方法（その１）	調査結果から考察する手法の検討（その１）
10回	調査結果から考察する方法（その２）	調査結果から考察する手法の検討（その２）
11回	調査結果から考察する方法（その３）	調査結果から考察をする手法の検討（その３）
12回	提言の検証方法（その１）	提言を検証する方法の検討（その１）
13　回（25・26）	提言の検証方法（その２）	提言を検証する方法の検討（その２）
14回	調査と研究についてのまとめ	調査と研究を実践できることの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
通年での演習のために
１．自身の調査研究テーマの推進
２．ゼミ全体の調査テーマなどへの参画
３．各人に与えられた課題の処理
４．合宿等のゼミ行事への参加に努めること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
その都度、必要な共通テキストを指定する。なお、必要な論文や資料はコピーして配布する。

【参考書】
参考書リストなどは別途配布する予定。文献の調べ方を教示し、各人で自分のテーマにそった文献を探し出すことを重視する。

【成績評価の方法と基準】
大学院の基準に従い、ゼミ活動への発言と作業状況と論文準備作業などをもとに総合的に評価する。
特に、ゼミの演習で課す課題対処の水準について重視する。

【学生の意見等からの気づき】
論文作成に向けた個別指導時間を多く設けるように努める。

【学生が準備すべき機器他】
毎回持参する必要はないにしても、パソコンおよび一定のソフトの知識は必要である。パワーポイントも使っていただく。

【その他の重要事項】
ゼミ全体としての共同作業から得られるところは大きい。個人作業だけでなく、共同作業にもできるかぎり参加することを望む。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of employment policy, career theory, human resource development and human resource management.
Goal
At the end of the course, students are expected to acquire the knowledge and skills necessary for research.
Work to be done outside of class (preparation, etc.)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria
In accordance with the standards of the graduate school, students will be evaluated comprehensively based on their comments and work status in seminar activities and preparation work for the paper.

OTR600Q2（その他 / Others 600）

地域創造演習Ａ

高尾　真紀子

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論文の基礎知識、質的及び量的調査の手法の習得するとともに、関連する分野の文献購読等を行い、修士論文作成の知識と研究スキルを身に着ける。

【到達目標】
先行研究を適切に読み込み、質的または量的調査の実証分析による修士論文を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
基本文献の輪読、ゲストを招いての質疑応答、フィールドワーク、参加者による発表及び討論などにより、各自の専攻分野における研究を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス	授業の進め方、各自の研究テーマに沿って年間スケジュールについて調整する
2回	論文作成の基礎	論文作成に関する基礎的な知識を講義し、討議を行う。
3回	研究テーマの選定	各自が研究テーマを選定し、研究テーマに関する討議を行う。
4回	先行研究のサーベイ	先行研究のサーベイの方法を学び、各自の研究テーマに関係する先行研究の発表と討議を行う。
5回	先行研究のサーベイ	先行研究のサーベイの方法を学び、各自の研究テーマに関係する先行研究の発表と討議を行う。
6回	文献購読	共通の基本文献を輪読し、各自の研究に活用する。
7回	文献購読	共通の基本文献を輪読し、各自の研究に活用する。
8回	リサーチクエスチョンの設定	先行研究を踏まえ、研究テーマからリサーチクエスチョンを設定する
9回	リサーチクエスチョンの設定	先行研究を踏まえ、研究テーマからリサーチクエスチョンを設定する
10回	質的調査の方法	質的調査の基本知識を講義し、研究への活用を討議する。
11回	量的調査の方法	量的調査の基本知識を講義し、研究への活用を討議する
12回	調査方法の検討	各自の研究テーマにおいてどのような調査方法がふさわしいのかを討議する。
13回	研究発表	各自の研究計画について発表し、討議する。
14回	研究発表	各自の研究計画について発表し、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表および討論のための十分な準備を行うこと。
その他、必要に応じて指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
その都度指定する。

【参考書】
伊藤修一郎『政策リサーチ入門―仮説検証による問題解決の技法』2011年,東京大学出版会
上野千鶴子『情報生産者になる』2018年，ちくま新書
岡田正毅編著『働くひとの生涯発達心理学Vol.2　M-GTAによるキャリア研究』2021年，晃洋書房
佐藤郁哉『社会調査の考え方(上下)』2015年，東京大学出版会
佐藤郁哉『リサーチ・クエスチョンとは何か？』2024年，ちくま新書
その他についてはその都度指定する。

【成績評価の方法と基準】
演習への参加と研究発表による。

【学生の意見等からの気づき】
研究の基礎的な考え方、質的・量的調査手法の実践的方法を講義する。学生の多様な意見が反映されるようにディスカッションを活発化させる。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】
※授業の内容やスケジュールは変更する場合があります。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to master the basic knowledge of academic paper, the method of qualitative and quantitative survey. Students can acquire knowledge and research skills for preparing master's theses by subscribing to previous literature and presenting research presentations.

OTR600Q2（その他 / Others 600）

地域創造演習Ｂ

高尾　真紀子

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　論文の基礎知識、質的及び量的調査の手法を習得するとともに、関連する分野の文献購読等を行い、修士論文作成の知識と研究スキルを身に着ける。

【到達目標】
質的または量的分析を活用した修士論文を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
　基本文献の輪読、ゲストを招いての質疑応答、フィールドワーク、参加者による発表及び討論などにより、各自の専攻分野における研究を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	質的調査の方法	半構造化インタビュー、参与観察など質的調査の方法を学ぶ。
2回	フィールドワーク	フィールドワークにより質的調査の方法を実践的に習得する。
3回	文献購読	基礎的文献の輪読を行い、フィールドワークのまとめ方を学ぶ。
4回	文献購読	基礎的文献の輪読を行い、フィールドワークのまとめ方を学ぶ。
5回	フィールドワーク結果の分析	フィールドワーク結果をもとにグループワークで分析を実施する。
6回	フィールドワーク結果の発表	フィールドワークの分析結果を発表する
7回	量的調査の方法	質問票の作り方等、量的調査の方法を学ぶ。
8回	量的調査の分析	量的調査の分析手法を学び、実際のデータを使ってスキルを習得する。
9回	量的調査の分析	量的調査の分析手法を学び、実際のデータを使ってスキルを習得する。
10　回（19・20）	調査結果の考察と提言	研究テーマに沿って調査結果の考察と提言を発表し討議する。
11回	調査結果の考察と提言	研究テーマに沿って調査結果の考察と提言を発表し討議する。
12回	論文作成の方法	論文作成の方法について学ぶ。
13回	研究発表	各自の研究について発表し、討議する。
14回	研究発表	各自の研究について発表し、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　発表および討論のための十分な準備を行うこと。
その他、必要に応じて指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　その都度指定する。

【参考書】
伊藤修一郎『政策リサーチ入門―仮説検証による問題解決の技法』2011年,東京大学出版会
岡田正毅編著『働くひとの生涯発達心理学　M-GTAによるキャリア研究』2017年，晃洋書房

【成績評価の方法と基準】
　演習への参加と研究発表による。

【学生の意見等からの気づき】
　研究の基礎的な考え方、質的・量的調査手法の実践的方法を講義する。学生の多様な意見が反映されるようディスカッションを活発化させる。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】
※授業の内容・スケジュールは変更する場合があります。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to master the basic knowledge of academic paper, the method of qualitative and quantitative survey. Students can acquire knowledge and research skills for preparing master's theses by subscribing to previous literature and presenting research presentations.

OTR600Q2（その他 / Others 600）

地域創造演習Ａ

増淵　敏之

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士1年次の学生には専門性の高い教育に慣れてもらうために、導入的に文献購読、調査法、分析法の習得、そして修士論文の構成作業を通じて、論文執筆に当たっての基礎的な知識の習得を目標にし、学生の研究発表の機会において修士論文のベーシックな形を作ることを目標にする。
修士2年次の学生には具体的に修士論文を執筆することを目標にする。

【到達目標】
修士1年次の学生は2年次に速やかに調査、研究に臨めるような基盤を作るようにすることを到達目標にする。春学期ではその目的達成のための導入に充てる。
修士2年次の学生は修士論文の完成が到達目標になる。学生は修士論文として認められるものを完成させる。春学期では事前調査、本調査のための準備に充てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
文献輪読、研究発表を中心にフィールドワークも適宜、実施したい。学際的な研究は多様な文献を読まなければならず、また変化する時代の理解も深めなければならない。その点に留意して授業を進めたい。また修士2年次の学生には修士論文執筆のための個別指導を授業以外にも行う。内容が変更の場合もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス/guidance	授業の進め方について説明を行う/Explain how to proceed with the class
2回	研究計画の発表/Announcement of research plan	研究計画の発表/Announcement of research plan
3回	研究計画の発表/Announcement of research plan	研究計画の発表/Announcement of research plan
4回	論文の書き方/How to write a dissertation	論文執筆の手順と方法/Procedure and method of writing a dissertation
5回	形式要件及び参考文献/Formal requirements and references	論文の形式要件及び参考文献リストの作成法/Format requirements for papers and how to create a bibliography
6回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
7回（13・14）	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
8回	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
9回	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
10回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
11回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
12回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
13回	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer、担当教員によるまとめ/summary
14回	まとめ/summary	本年度の振り返り/Looking back on this year

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献を事前に読むことは必要、また研究発表のための資料作成等も事前に用意すること。また授業内容も適宜、変更することもあり得るので留意されたし。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくになし。必要に応じて適宜、紹介する。

【参考書】
とくになし。必要に応じて適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
研究発表による評価50％、平常点50％

【学生の意見等からの気づき】
授業に参加している学生が活発に自由に発言できる環境作りに留意したい。

【学生が準備すべき機器他】
映像資料等を使用する場合もある。

【その他の重要事項】
授業内容は適宜、変更もあり得る。
オフィスアワーは毎週月曜日16 − 18時。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。

【Outline (in English)】
Basic knowledge of writing a dissertation through introductory literature reading, research and analysis methods, and the construction of a master's dissertation so that students in the first year of the master's course can become accustomed to highly specialized education. The goal is to create a basic form of master's thesis at the opportunity for students to present their research.
The goal of second-year master's students is to write a master's thesis.

OTR600Q2（その他 / Others 600）

地域創造演習Ｂ

増淵　敏之

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士1年次の学生には専門性の高い教育に慣れてもらうために、導入的に文献購読、調査法、分析法の習得、そして修士論文の構成作業を通じて、論文執筆に当たっての基礎的な知識の習得を目標にし、学生の研究発表の機会において修士論文のベーシックな形を作ることを目標にする。
修士2年次の学生には具体的に修士論文を執筆することを目標にする。

【到達目標】
修士1年次の学生は2年次に速やかに調査、研究に臨めるような基盤を作るようにすることを到達目標にする。春学期ではその目的達成のための導入に充てる。
修士2年次の学生は修士論文の完成が到達目標になる。学生は修士論文として認められるものを完成させる。春学期では事前調査、本調査のための準備に充てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
文献輪読、研究発表を中心にフィールドワークも適宜、実施したい。学際的な研究は多様な文献を読まなければならず、また変化する時代の理解も深めなければならない。その点に留意して授業を進めたい。また修士2年次の学生には修士論文執筆のための個別指導を授業以外にも行う。内容が変更の場合もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス/guidance	授業の進め方について説明を行う/Explain how to proceed with the class
2回	研究計画の発表/Announcement of research plan	研究計画の発表/Announcement of research plan
3回	研究計画の発表/Announcement of research plan	研究計画の発表/Announcement of research plan
4回	論文の書き方/How to write a dissertation	論文執筆の手順と方法/Procedure and method of writing a dissertation
5回	形式要件及び参考文献/Formal requirements and references	論文の形式要件及び参考文献リストの作成法/Format requirements for papers and how to create a bibliography
6回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
7回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
8回	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
9回	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
10回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
11回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
12回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
13回	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer、担当教員によるまとめ/Summary by the teacher in charge
14回	まとめ/summary	本年度の振り返り/Looking back on this year

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献を事前に読むことは必要、また研究発表のための資料作成等も事前に用意すること。また授業内容も適宜、変更することもあり得るので留意されたし。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくになし。必要に応じて適宜、紹介する。

【参考書】
とくになし。必要に応じて適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
研究発表による評価50％、平常点50％

【学生の意見等からの気づき】
授業に参加している学生が活発に自由に発言できる環境作りに留意したい。

【学生が準備すべき機器他】
映像資料等を使用する場合もある。

【その他の重要事項】
授業内容は適宜、変更もあり得る。
オフィスアワーは毎週月曜日16 − 18時。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。

【Outline (in English)】
Basic knowledge of writing a dissertation through introductory literature reading, research and analysis methods, and the construction of a master's dissertation so that students in the first year of the master's course can become accustomed to highly specialized education. The goal is to create a basic form of master's thesis at the opportunity for students to present their research.
The goal of second-year master's students is to write a master's thesis.

OTR600Q2（その他 / Others 600）

地域創造演習Ａ

上山　肇

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論文作成に向けた演習

【到達目標】
各自の論文作成に向けた情報・知識の習得と論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
まちづくり等に関し、教員から提示された課題あるいは持ち寄り課題についての議論や基本図書の輪読等を通し、各自の論文作成に向けた情報や知識を習得します。また、その都度各自の論文の進捗状況について発表を通して確認していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本科目の進め方について説明
第2回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第3回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第4回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第5回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第6回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第7回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第8回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第9回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第10回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第11回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第12回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第13回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第14回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表に向けた準備。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
必要に応じて提示します。

【成績評価の方法と基準】
発表や議論の場での発言、研究成果によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
共同研究・勉強会を通して他ゼミ等と交流を図ります。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This course introduces about writing method of a thesis to students taking this course.
[Learning Objectives]
Acquisition of information and knowledge for writing your own dissertation
[Learning activities outside of classroom]
Preparation for presentation.
[Grading Criteria /Policy]
Evaluation will be made based on the statements made at the presentations and discussions, and the research results.

OTR600Q2（その他 / Others 600）

地域創造演習Ｂ

上山　肇

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論文作成に向けた演習

【到達目標】
各自の論文作成に向けた情報・知識の習得と論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
まちづくり等に関し、教員から提示された課題あるいは持ち寄り課題についての議論や基本図書の輪読等を通し、各自の論文作成に向けた情報や知識を習得します。また、その都度各自の論文の進捗状況について発表を通して確認していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本科目の進め方について説明
第2回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第3回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第4回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第5回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第6回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第7回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第8回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第9回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第10回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第11回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第12回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第13回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第14回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表に向けた準備。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
必要に応じて提示します。

【成績評価の方法と基準】
発表や議論の場での発言、研究成果によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
共同研究・勉強会を通して他ゼミ等と交流を図ります。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This course introduces about writing method of a thesis to students taking this course.
[Learning Objectives]
Acquisition of information and knowledge for writing your own dissertation
[Learning activities outside of classroom]
Preparation for presentation.
[Grading Criteria /Policy]
Evaluation will be made based on the statements made at the presentations and discussions, and the research results.

OTR600Q2（その他 / Others 600）

地域創造演習Ａ

北郷　裕美

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では、論文作成のための知識と研究スキルを習得する。特にメディア学、観光学、社会学の包括的な知識を学修する。このゼミナールのテーマは観光およびメディアである。

【到達目標】
ゼミ受講を通して無理なく、論文を作成する際に必要なスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、講義、受講者の研究発表・プレゼン、ディスカッションなどを中心に進める。また、視聴覚教材の使用も積極的に行う。さらに個人の進度に応じた個別指導を並行して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス	演習の編成に関する方針とスケジュール
2回	論文作成に向けた演習①	研究計画個人発表とディスカッション、研究スキルの学習、論文の形式について概説
3回	論文作成に向けた演習②	研究計画個人発表とディスカッション、研究スキルの学習、論文の形式について概説
4回	論文作成に向けた演習③	研究計画個人発表とディスカッション、研究スキルの学習、論文の形式について概説
5回	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション①	『既存先行論文購読』　個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
6回	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション②	『既存先行論文購読』　個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
7回	社会学思考についての学びとディスカッション	『映画視聴』視聴後グループディスカッション
8回	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション③	『既存先行論文購読』個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
9回	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション④	『既存先行論文購読』個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
10回	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション⑤	『既存先行論文購読』個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
11回	社会学思考についての学びとディスカッション	『映画視聴』視聴後グループディスカッションと振り返りを行う
12回	ゼミ越境授業 見学会	フィールドワーク調査演習を兼ねる　見学後グループディスカッション
13回	外部講師による講義	観光メディアプログラム・ゼミ全体に関わる知見を得るグループディスカッションと振り返りを行う
14回	夏休みの調査・研究の準備	各々が夏休み中にどのような調査研究を行うのかプランを検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の調査研究テーマにそった学習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
西村大志・松浦雄介編『映画は社会学する』法律文化社
そのほか各回の演習に必要な論文や資料は毎回コピーして配布する。

【参考書】
その都度提示する　基本的に観光社会学・メディア論関連書籍を予定している

【成績評価の方法と基準】
メディア学、観光学、観光社会学の視点と調査方法をどの程度身につけたのかを評価する。また、ゼミ参加と論文作成の進捗状況なども評の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
個人の関心や研究分野にしたがった指導を行う。受講生との対話によって柔軟に対応する。

【学生が準備すべき機器他】
基本的に資料の共有等、情報機器（ノートパソコン、タブレット等）を用意いただきたい

【Outline (in English)】
In this seminar, you will acquire knowledge and research skills for writing a thesis. In particular, students acquire comprehensive knowledge of tourism studies, media studies, and sociology. The theme of this seminar is tourism and media.

OTR600Q2（その他 / Others 600）

地域創造演習Ｂ

北郷　裕美

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では、論文作成のための知識と研究スキルを習得する。特にメディア学、観光学、社会学の包括的な知識を学修する。このゼミナールのテーマは観光・メディアである。

【到達目標】
論文を作成する際に必要なスキルを習得する。
修士１年次の学生は２年次に速やかに調査、研究に臨めるような基盤を作る
ようにすることを到達目標にする。
修士２年次の学生は修士論文の完成が到達目標になる。学生は修士論文とし
て認められるものを完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生の発表を基本に進める。校外学習（フィールドワーク）は合同ゼミ合宿を想定して行う（予定）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	秋学期ガイダンス 夏休み中の研究進捗・調査内容の報告	秋学期へのプラン発表　受講生各々が研究とスケジュール発表を行う
2回	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション①	『既存先行論文購読』個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
3回	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション②	『既存先行論文購読』個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
4回	社会学思考についての学びとディスカッション	『映画視聴』視聴後グループディスカッションと振り返りを行う
5回	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション③	『既存先行論文購読』個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
6回	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション④	『既存先行論文購読』個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
7回	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション⑤	『既存先行論文購読』個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
8回	ゼミ越境授業 見学会	フィールドワーク調査演習を兼ねる 見学後グループディスカッションと振り返りを行う
9回	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション⑥	『既存先行論文購読』個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
10回	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション⑦	『既存先行論文購読』個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
11回	修士論文の口述試験予行演習　ゼミ内報告	修士論文の構想を発表　確認ディスカッション
12回	M2修論中間発表準備演習	修士論文の全体について報告する
13回	外部講師による講義	観光メディアプログラム・ゼミ全体に関わる知見を得る グループディスカッションと振り返りを行う
14回	ビブリオバトル発表会　ゼミ振り返り	個々のテーマに沿ったおすすめの既存文献をプレゼン発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の調査研究テーマにそった学習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
演習に必要な論文や資料は毎回HOPPIIにアップロードもしくはコピーして配布する。

【参考書】
その都度提示する　基本的に観光社会学・メディア論関連書籍を予定している　また関連する既存の各種論文を読み解く機会も設けたい

【成績評価の方法と基準】
メディア学、観光学、観光社会学の視点、その調査方法をどの程度身につけたのかを評価の基準とする。また、ゼミ参加と論文作成の進捗状況なども評価対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
個人の関心や研究分野にしたがった指導を行う。受講生との対話によって柔軟に対応する。

【学生が準備すべき機器他】
基本的に資料の共有等、情報機器（ノートパソコン、タブレット等）を用意いただきたい

【その他の重要事項】
ゼミへの積極的な参加を望む。やむを得ず欠席する際は事前に申し出ること。

【Outline (in English)】
In this seminar, you will acquire knowledge and research skills for writing a thesis. In particular, students acquire comprehensive knowledge of tourism studies, media studies, and sociology. The theme of this seminar is tourism and media.

SOW600Q2（社会福祉学 / Social Welfare 600）

地域創造演習Ａ

土肥　将敦

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業と社会のインターフェースにかかわる新しい問題について、国内外の具体的な事例を取り上げながら考察する。例えば、企業の社会的責任(CSR)や社会貢献活動、企業とNPO/NGOのコラボレーションのあり方、企業の地域社会への関わり方などが研究トピックとして考えられる。特に、CSRは近年世界的に重要視されており、多くの企業が多様な取り組みを行っているので、本演習の大きな研究テーマの1つになる。また、企業社会を理解する上でNPOやNGOの存在は年々大きなものとなっており、その意義や役割についても考察する。この他にも、環境、福祉、教育、都市再開発、途上国支援など多様な社会的課題の解決をミッションとしてビジネスを立ち上げる社会的企業者の台頭の背景やその意義についても議論する。

【到達目標】
本演習の目標は、企業と社会の関係性を理解するとともに、コースの集大成としての修士論文を執筆することである。テーマ設定、問い・仮説を立てる、既存研究 を読む、考える、書く、という一連の作業を辛抱強く取り組むことで企業社会に関する思考をより深めることを目標とする。大規模な文章を論理的に破綻することなく構成することは容易なことではない。その難しさを味わいながらも克服できるように、毎回のゼミでは周到な準備と討論が要求される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
修論報告とディスカッションを基本としながら、フィールド調査（インタビュー調査・参与観察など含む）などの学外活動を通して、総合的な理解を目指していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	前期イントロダクション	半年間のスケジュールの確認と進捗状況の確認
第2回	各人の調査進捗状況の報告①	各人が自分の関心あるテーマに基づき、論文執筆に必要な基礎文献や先行研究に関する報告を行う①
第3回	各人の調査進捗状況の報告②	各人が自分の関心あるテーマに基づき、論文執筆に必要な基礎文献や先行研究に関する報告を行う②
第4回	各人の調査進捗状況の報告③	各人が自分の関心あるテーマに基づき、論文執筆に必要な基礎文献や先行研究に関する報告を行う③
第5回	各人の調査進捗状況の報告④	各人が自分の関心あるテーマに基づき論文執筆に必要な基礎文献や先行研究に関する報告を行う。（まとめ）
第6回	調査対象先の情報収集とインタビューシートの作成①	インタビューシートを作成し、インタビューイーにアポイントをとり調査を実施し、現状を報告する①
第7回	調査対象先の情報収集とインタビューシートの作成②	インタビューシートを作成し、インタビューイーにアポイントをとり調査を実施し、現状を報告する②
第8回	調査対象先の情報収集とインタビューシートの作成③	インタビューシートを作成し、インタビューイーにアポイントをとり調査を実施し、現状を報告する③
第9回	インタビュー調査の報告①	インタビュー調査の概要を報告し、既存研究をふまえて整理する①
第10回	インタビュー調査の報告②	インタビュー調査の概要を報告し、既存研究をふまえて整理する②
第11回	インタビュー調査の報告③	インタビュー調査の概要を報告し、既存研究をふまえて整理する③
第12回	インタビュー調査の報告④	インタビュー調査の概要の報告をふまえて、再度問いを考察する。
第13回	各人の調査進捗状況の報告①	論文執筆に必要な基礎文献や先行研究に関する報告を行う①
第14回	各人の調査進捗状況の報告②	論文執筆に必要な基礎文献や先行研究に関する報告を行う②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義時間外にもインタビュー調査を行ってもらう予定である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義中に適宜指示する。

【参考書】
土肥将敦(2022)『社会的企業者ー CSIの推進プロセスにおける正統性』千倉書房
谷本・大室・大平・土肥・古村（2013）『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』NTT出版
佐藤郁哉(2021)『はじめての経営学 ビジネス・リサーチ』東洋経済新報社
佐藤郁哉（2006）『フィールドワークー書を持って街へ出よう』新曜社

【成績評価の方法と基準】
ゼミへのコミットメント・平常点（50％）、ゼミでの報告内容（50％）。具体的な方法と基準は、授業開始日にガイダンスと学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
学生とのコミュニケーションを大切にする。

【Outline (in English)】
How can organizations achieve greater social impact through social entrepreneurship? This seminar(Zemi) explores how to utilize social entrepreneurship or Corporate Social Responsibility to generate social impact in our society.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.Your study time will be more than four hours for a class. Finally, Your overall grade in the class will be decided based on the following; Final reports and presentations(50%), in class contribution(50%).

SOW600Q2（社会福祉学 / Social Welfare 600）

地域創造演習Ｂ

土肥　将敦

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業と社会のインターフェースにかかわる新しい問題について、国内外の具体的な事例を取り上げながら考察する。例えば、企業の社会的責任(CSR)や社会貢献活動、企業とNPO/NGOのコラボレーションのあり方、企業の地域社会への関わり方などが研究トピックとして考えられる。特に、CSRは近年世界的に重要視されており、多くの企業が多様な取り組みを行っているので、本演習の大きな研究テーマの1つになる。また、企業社会を理解する上でNPOやNGOの存在は年々大きなものとなっており、その意義や役割についても考察する。この他にも、環境、福祉、教育、都市再開発、途上国支援など多様な社会的課題の解決をミッションとしてビジネスを立ち上げる社会的企業者の台頭の背景やその意義についても議論する。

【到達目標】
本演習の目標は、企業と社会の関係性を理解するとともに、コースの集大成としての修士論文を執筆することである。テーマ設定、問い・仮説を立てる、既存研究 を読む、考える、書く、という一連の作業を辛抱強く取り組むことで企業社会に関する思考をより深めることを目標とする。大規模な文章を論理的に破綻することなく構成することは容易なことではない。その難しさを味わいながらも克服できるように、毎回の演習では周到な準備と討論が要求される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
修論報告とディスカッションを基本としながら、フィールド調査などの学外活動を通して、総合的な理解を目指していきます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	後期イントロダクション	半年間のスケジュールの確認と進捗状況の確認
第2回	各人の論文の調査進捗状況の報告①	各人が自分の関心あるテーマに基づき、論文執筆に必要な基礎文献や先行研究に関する報告を行う①
第3回	各人の論文の調査進捗状況の報告②	各人が自分の関心あるテーマに基づき、論文執筆に必要な基礎文献や先行研究に関する報告を行う②
第4回	各人の論文の調査進捗状況の報告③	各人が自分の関心あるテーマに基づき、論文執筆に必要な基礎文献や先行研究に関する報告を行う③
第5回	各人の論文の調査進捗状況の報告④	各人が自分の関心あるテーマに基づき、論文執筆に必要な基礎文献や先行研究に関する報告を行う。（まとめ）
第6回	調査対象先の情報収集とインタビューシートの作成①	インタビューシートを作成し、インタビューイーにアポイントをとり調査を実施し、現状を報告する①
第7回	調査対象先の情報収集とインタビューシートの作成②	インタビューシートを作成し、インタビューイーにアポイントをとり調査を実施し、現状を報告する②
第8回	調査対象先の情報収集とインタビューシートの作成③	インタビューシートを作成し、インタビューイーにアポイントをとり調査を実施し、現状を報告する③
第9回	インタビュー調査の報告①	インタビュー調査の概要を報告し、既存研究をふまえて整理する①
第10回	インタビュー調査の報告②	インタビュー調査の概要を報告し、既存研究をふまえて整理する②
第11回	インタビュー調査の報告③	インタビュー調査の概要を報告し、既存研究をふまえて整理する③
第12回	インタビュー調査の報告④	インタビュー調査の概要の報告をふまえて、再度問いを考察する。
第13回	各人の修士論文の調査進捗状況の報告①	修論全体のまとめ報告を行う①
第14回	各人の修士論文の調査進捗状況の報告②	修論全体のまとめ報告を行う②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義時間外にもインタビュー調査を行ってもらう予定である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義中に適宜指示する。

【参考書】
土肥将敦(2022)『社会的企業者ー CSIの推進プロセスにおける正統性』千倉書房
谷本・大室・大平・土肥・古村（2013）『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』NTT出版
佐藤郁哉(2021)『はじめての経営学 ビジネス・リサーチ』東洋経済新報社
佐藤郁哉（2006）『フィールドワーク一書を持って街へ出よう』新曜社

【成績評価の方法と基準】
毎回のゼミでの報告（50％）、ゼミへのコミットメント・平常点（50％）。

【学生の意見等からの気づき】
学生とのコミュニケーションを大切にする。

【Outline (in English)】
How can organizations achieve greater social impact through social entrepreneurship? This seminar(Zemi) explores how to utilize social entrepreneurship or Corporate Social Responsibility to generate social impact in our society.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.Your study time will be more than four hours for a class. Finally, Your overall grade in the class will be decided based on the following; Presentations(50%), in class contribution(50%).

SOW600Q2（社会福祉学 / Social Welfare 600）

地域創造演習Ａ

野田　岳仁

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域社会においてフィールドワークを行い、地域問題の解決や地域づくり、地域ツーリズム、地域環境などの政策にかかわる修士論文を執筆するために環境社会学・地域社会学の主要な方法論である生活環境主義の方法をマスターすることを目的としている。

【到達目標】
フィールドワークによる修士論文の作成に向けて必要な社会調査の技法、先行研究の批判的かつ創造的なレビューの方法、論文執筆の作法を身につけることができる。これらの技能を修得することを通じて、高度な修士論文を完成させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本演習では主体的な課題文献の精読、レジュメの作成、研究発表、論文執筆が求められる。修士論文執筆に必要な高度な専門知識、調査技法、論文作成方法を身につけるため、綿密な指導を行う。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	スケジュールの確認と目標設定
第2回	論文の構成（1）	テーマと問いの設定方法
第3回	論文の構成（2）	方法論や調査技法の選択
第4回	論文の構成（3）	対象と方法の選択
第5回	論文の構成（4）	目次と章立ての検討
第6回	論文の構成（5）	理論仮説を立てる
第7回	論文の構成（6）	作業仮説を立てる
第8回	論文の構成（7）	分析の問題点の検証
第9回	論文の構成（8）	研究の意義と限界の検討
第10回	先行研究のレビュー（1）	当該テーマの環境社会学における研究史の検討
第11回	先行研究のレビュー（2）	当該テーマの地域社会学における研究史の検討
第12回	先行研究のレビュー（3）	当該テーマの民俗学における研究史の検討
第13回	先行研究のレビュー（4）	当該テーマの文化人類学における研究史の検討
第14回	まとめ	研究の知見と独自性について討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自フィールドワークを進めておくことはもちろんのこと、専門領域における先行研究の課題文献の精読、レジュメの作成、論文執筆に向けた入念な準備が必要である。本演習の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
受講生の関心や研究テーマを考慮して選定する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
討議への参加を含めた平常点（50%）、論文や発表などの成果物（50%）の総合評価となる。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の意見や要望を積極的に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【〔専門領域〕】
環境社会学・地域社会学・観光社会学

【〔主要業績〕】
『井戸端からはじまる地域再生ー暮らしから考える防災と観光』（単著、筑波書房、2023年）
『Everyday Life-Environmetalism: Community Sustainability and Resilience in Asia』（共著書、Routledge、2023年）
『環境社会学の考え方ー暮らしを見つめる12の視点』（共著書、ミネルヴァ書房、2019年）
『生活環境主義のコミュニティ分析ー環境社会学のアプローチ』（共著書、ミネルヴァ書房、2018年）
『原発災害と地元コミュニティーー福島県川内村奮闘記』（共著書、東信堂、2018年）
『Rebuilding Fukushima』（共著書、Routledge、2017年）

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community.【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems.【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance（Discussion, presentation, and report）(50%).

SOW600Q2（社会福祉学 / Social Welfare 600）

地域創造演習Ｂ

野田　岳仁

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域社会においてフィールドワークを行い、地域問題の解決や地域づくり、地域ツーリズム、地域環境などの政策にかかわる修士論文を執筆するために環境社会学・地域社会学の主要な方法論である生活環境主義の方法をマスターすることを目的としている。

【到達目標】
フィールドワークによる修士論文の作成に向けて必要な社会調査の技法、先行研究の批判的かつ創造的なレビューの方法、論文執筆の作法を身につけることができる。これらの技能を修得することを通じて、高度な修士論文を完成させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本演習では主体的な課題文献の精読、レジュメの作成、研究発表、論文執筆が求められる。修士論文執筆に必要な高度な専門知識、調査技法、論文作成方法を身につけるため、綿密な指導を行う。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	調査データの分析（1）	データの整理と集計
第2回	調査データの分析（2）	データの解釈
第3回	調査データの分析（3）	仮説の検証
第4回	調査データの分析（4）	モデルの構築の検討
第5回	論文執筆（1）	問いと問題関心の見直し
第6回	論文執筆（2）	分析視角の確認
第7回	論文執筆（3）	先行研究との対話と論敵の設定
第8回	論文執筆（4）	目次の確定
第9回	論文執筆（5）	事例の記述と解釈
第10回	論文執筆（6）	分析結果の再検討
第11回	論文執筆（7）	結論の見通しの再検討
第12回	論文執筆（8）	理論仮説と作業仮説の再検討
第13回	論文執筆（9）	論理構成の再検討
第14回	修士論文の完成	学問の実践性の検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自フィールドワークを進めておくことはもちろんのこと、専門領域における先行研究の課題文献の精読、レジュメの作成、論文執筆に向けた入念な準備が必要である。本演習の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
受講生の関心や研究テーマを考慮して選定する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
討議への参加を含めた平常点（50%）、論文や発表などの成果物（50%）の総合評価となる。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の意見や要望を積極的に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【〔専門領域〕】
環境社会学・地域社会学・観光社会学

【〔主要業績〕】
『井戸端からはじまる地域再生ー暮らしから考える防災と観光』（単著、筑波書房、2023年）
『Everyday Life-Environmetalism: Community Sustainability and Resilience in Asia』（共著書、Routledge、2023年）
『環境社会学の考え方ー暮らしを見つめる12の視点』（共著書、ミネルヴァ書房、2019年）
『生活環境主義のコミュニティ分析ー環境社会学のアプローチ』（共著書、ミネルヴァ書房、2018年）
『原発災害と地元コミュニティー福島県川内村奮闘記』（共著書、東信堂、2018年）
『Rebuilding Fukushima』（共著書、Routledge、2017年）

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community.【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems.【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance（Discussion, presentation, and report）(50%).

ARSl700Q2（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 700）

研究論文指導A

高尾　真紀子

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
各自の研究テーマに応じた研究指導を行う。文献調査、統計データの分析、質問紙調査等の定量分析、事例研究等の定性的分析を踏まえた政策立案について議論し、査読論文の作成を目指す。

【到達目標】
地域政策、社会政策に関する理論を理解し、分析能力及び政策立案能力を向上させ、論文執筆のスキルを習得する。修士論文の再検討と査読論文の執筆を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
各自の論文テーマに沿って個別指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	授業全体のガイダンス	授業の進め方、論文作成に向けたスケジュール
2回	論文作成に向けた個別指導 研究テーマ	各自の研究テーマに即して必要な論文購読等、個別指導を行う
3回	論文作成に向けた個別指導 研究テーマ	各自の研究テーマに即して必要な論文購読等、個別指導を行う
4回	論文作成に向けた個別指導 先行研究レビュー	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、先行研究レビュー等、個別指導を行う
5回	論文作成に向けた個別指導 先行研究レビュー	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、先行研究等、個別指導を行う
6回	論文作成に向けた個別指導　先行研究レビュー	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
7回	論文作成に向けた個別指導 RQの設定	各自の研究テーマに即して必要な先行研究レビューから適切なRQを設定するため、個別指導を行う
8回	論文作成に向けた個別指導 RQの設定	各自の研究テーマに即して必要な先行研究レビューから適切なRQを設定するため、個別指導を行う
9回	論文作成に向けた個別指導 分析手法の検討	各自の研究テーマに即して必要な量的、質的分析手法等について、個別指導を行う
10回	論文作成に向けた個別指導 分析手法の検討	各自の研究テーマに即して必要な量的、質的分析手法等について、個別指導を行う
11回	論文作成に向けた個別指導 査読論文	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
12回	論文作成に向けた個別指導 査読論文	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
13回	論文作成に向けた個別指導 査読論文	各自の研究テーマに即して必要な先行研究レビュー、分析手法、論文執筆のスキル等、査読論文の投稿に向けた個別指導を行う
14回	論文作成に向けた個別指導 査読論文	各自の研究テーマに即して必要な先行研究レビュー読、分析手法、論文執筆のスキル等、査読論文投稿に向けた個別指導を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究テーマに応じて取り上げた文献の購読、論文の作成。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
阿部幸大『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』2024年，光文社
その他、各自の研究テーマに合わせて指定する。

【成績評価の方法と基準】
授業における議論、発表、論文によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
In this course, research guidance will be conducted according to each student's research theme for preparing doctoral dissertations. Students learn analysis of statistical data, quantitative analysis such as questionnaire survey, qualitative analysis and policy planning.

ARSl700Q2（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 700）

研究論文指導B

高尾　真紀子

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
各自の研究テーマに応じた研究指導を行う。文献調査、統計データの分析、質問紙調査等の定量分析、事例研究等の定性的分析を踏まえた政策立案について議論し、博士論文の作成を目指す。

【到達目標】
地域政策、社会政策に関する理論を理解し、分析能力及び政策立案能力を向上させ、査読論文の投稿及び掲載を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
各自の論文テーマに沿って個別指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	授業全体のガイダンス	授業の進め方、論文作成に向けたスケジュール
2回	論文作成に向けた個別指導　文献調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
3回	論文作成に向けた個別指導　文献調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
4回	論文作成に向けた個別指導　統計分析	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
5回	論文作成に向けた個別指導　統計分析	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
6回	論文作成に向けた個別指導　定量調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
7回	論文作成に向けた個別指導　定量調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
8回	論文作成に向けた個別指導　定量調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
9回	論文作成に向けた個別指導　定性調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
10回	論文作成に向けた個別指導　定性調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
11回	論文作成に向けた個別指導　定性調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
12回	論文作成に向けた個別指導　結果と考察	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
13回	論文作成に向けた個別指導　結果と考察	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
14回	論文作成に向けた個別指導　査読論文	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究テーマに応じて取り上げた文献の購読、論文の作成。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
各自の研究テーマに合わせて指定する

【成績評価の方法と基準】
授業における議論、発表、論文によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
査読論文執筆に向けた具体的な指導を行う。

【Outline (in English)】
In this course, research guidance will be conducted according to each student's research theme for preparing doctoral dissertations. Students learn analysis of statistical data, quantitative analysis such as questionnaire survey, qualitative analysis and policy planning.

CMF510Q2（その他の複合領域 / Complex systems(Others) 500）

フィールドワーク演習（1単位）

水野　雅男

備考（履修条件等）：**リサーチ・フィールドワーク系科目**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ユネスコの創造都市（クラフト＆フォクアート部門）に認定された金沢市において、行政機関と連携している市民組織の活動現場を視察し、その関係者から組織運営について聴取する。

【到達目標】
都市政策を遂行する上で、市民組織が行政機関とどのような役割分担を取ることが望ましいのかを体感する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
創造都市金沢に関する行政政策と市民活動について事前学習を行った上で、1泊2日の現地調査を行い、調査結果についてレポートをとりまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	事前学習	創造都市金沢に関する情報を収集整理し共有する
2回（3･4）	現地調査①	アートＮＰＯの視察
3回（5･6）	現地調査②	シェアアトリエ（リノベーション町家）の視察
4回（7･8）	現地調査③	アートまちづくり（リノベーション倉庫）現場の視察
5 回（9･10）	現地調査④	金澤町家情報館と金澤町家研究会の視察
6回（11･12）	現地調査⑤	アート・クラフトゾーン（金沢21世紀美術館、国立工芸館）の視察
7回（13･14）	調査レポートの発表・共有	調査結果を各自レポートにまとめ報告会で発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前に必要な作業を充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、適宜資料として配付する。

【参考書】
必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
履修生と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして主に金沢での市民活動とそのコーディネートに30年間関わった経験に基づき、現場を案内する。

【担当教員の専門分野】
都市住宅政策論・地域経営論・市民活動運営論

【主要研究業績】
「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集Vol.51、2016年
「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」日本建築学会論文集第707号、2015年
『地方都市の再生戦略』（共著）学芸出版社、2013年
『生活景』（共著）学芸出版社、2009年

【Outline (in English)】
【Outline and objectives】
In Kanazawa, a city designated as a UNESCO Creative City (Crafts and Folk Arts) the tour will visit the sites of citizen organizations that work in collaboration with government agencies and hear from those involved about how the organizations are run.
【Goal】
This program will provide participants with an opportunity to experience what role sharing is desirable between citizen organizations and government agencies in implementing urban policies.
【Method(s)】
After preliminary learning about administrative policies and civic activities related to the creative city of Kanazawa, students will conduct a two-day, one-night field survey and compile a report on the survey results.
【Grading criteria】
Evaluation will be based on normal marks (100%).

CMF510Q2（その他の複合領域 / Complex systems(Others) 500）

フィールドワーク演習（1単位）

石山　恒貴

備考（履修条件等）：**リサーチ・フィールドワーク系科目**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現地に赴き、フィールドワークをし、その事例を調査研究する科目。地域活性化における事例の先進性、成功のポイント、課題などを受講生が現地でフィールドワークで洗い出す。

地域活性化のあり方を、事例を通じて検討していく。フィールドワーク終了後に、受講院生自身がフィールドワークから得た知見を、各自報告することを求める。

【到達目標】

フィールドワークを通じて地域活性化の先進性、成功のポイント、課題などを現地で学習する科目。各人がフィールドワークの中で、それぞれ自分なりのリサチクエスチョンを設定し、それを解明していく。フィールドワークを通じて地域活性化をみる視点が広がっていくことが主な目的となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

広い意味で地域活性化にかかわる仕事を行うか、または、これらに興味のある人を念頭に、地域活性化とはいかにあるべきかを、事例分析的に検討していく。

受講生がフィールドワークから得た知見に関して、フィールドワーク後に報告していただく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	地域活性化の定義と背景 フィールドワークの方法	そもそも地域活性化の定義とはどのようなものなのか、フィールドワークの方法論を学ぶ。
2回	フィールドワークにおけるリサーチクエスチョンの設定	フィールドワークにおけるリサーチクエスチョンをグループ討議などもふまえて、各自設定する
3回	北海道室蘭市でのフィールドワーク1	北海道室蘭市でのフィールドワークで地域活性化の背景を分析する
4回	北海道室蘭市でのフィールドワーク2	北海道室蘭市でのフィールドワークで地域活性化の成功のポイントを分析する
5回	北海道室蘭市でのフィールドワーク3	北海道室蘭市でのフィールドワークで地域活性化の課題を分析する
6回	地域活性化のフィールドワーク事例の検討・報告（その1）	地域活性化のフィールドワーク事例のポイントを、受講者が発表し、議論する。
7回	地域活性化のフィールドワーク事例の検討・報告（その2）	地域活性化のフィールドワーク事例のポイントを、受講者が発表し、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は以下のような事項に留意することが望まれる。

1．フィールドワークは自分なりのリサーチクエスチョンを設定し、それを現地で分析する

2．地域活性化をめぐる記事、番組などに注意を払うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業の都度配布する講義ノートによって行うので、教科書は使用しない。授業の際に、参考文献リスト等を配布することがある。

【参考書】

以下に掲げる主な参考書のほか、授業では地域活性化をめぐる各種論文、資料などを、その都度、必要に応じて紹介する。

石山恒貴編『地域とゆるくつながろう－サードプレイスと関係人口の時代』静岡新聞社　2019年

石山恒貴編『ゆるい場をつくる人々: サードプレイスを生み出す17のストーリー』学芸出版社　2024年

【成績評価の方法と基準】

①フィールドワーク事前授業における議論の実施状況による得点（20点）、②フールドワーク中における、調査への貢献による得点（30点）、③フィールドワーク事後授業における報告の得点（50点）の合計点を、規程による評価基準に沿って評価する。

【学生の意見等からの気づき】

初回の実施なので、今後の検討になる

【学生が準備すべき機器他】

場合によってパワーポイントなどを使用する

【その他の重要事項】

現地でフィールドワークを行うことに留意して受講すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire
an understanding of regional revitalisation.　At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of
regional revitalisation.
Goal
At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on regional revitalization.
Learning about regional revitalisation is done on-site through fieldwork.
Grading criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
In class contribution before fieldwork: 20%
Contributionduring fieldwork: 30%
Presentation on regional revitalization after fieldworkof : 50%、

ENG520Q2（その他の工学 / Engineering 500）

住宅政策特論

水野　雅男

備考（履修条件等）：**都市・文化・観光創造群**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
少子高齢化社会において、生活の基盤となり、福祉とも深いかかわりを持つ住宅はどういう状況下にあるのか、「空き家」の実態と対策に焦点を充てて住宅市場と住宅政策の課題を概観する。

【到達目標】
国内外の実態と対策を俯瞰し、かつ研究論文をレビューしながら、人口減少という社会の変化に対して、住宅市場はどのように対応してきたのか、それを政策がどう支援してきたのか理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストに基づき毎回テーマに沿った課題についてレポートを提示し、冒頭にその発表を行い、参加者で意見交換する。
毎回の検討課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画と各自の住宅変遷の紹介
第2回	空き家の実態①	住宅・土地統計調査報告書
第3回	空き家の実態②	空き家所有者実態調査報告書
第4回	国内外の空き家対策①	我が国の空き家等対策特別措置法
第5回	国内外の空き家対策②	アメリカの空き家対策
第6回	国内外の空き家対策③	ドイツの空き家対策
第7回	国内外の空き家対策④	フランスの空き家対策
第8回	国内外の空き家対策⑤	イギリスの空き家対策
第9回	空き家の活用事例①	金沢における活用プロジェクト
第10回	空き家の活用事例②	「家いちば」「0円空き家バンク」等のビジネスモデル
第11回	空き家に関する研究①	金沢での居住継承に関する研究
第12回	空き家に関する研究②	空き家の実態に関する研究
第13回	空き家に関する研究③	空き家の流通に関する研究
第14回	総括	戦後日本の住宅政策の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で紹介した内容について、自主的に関心を広げて学習をすることが望まれる。毎回の準備学習（テキストを読みレポートを作成する）と復習に4時間以上充てる。

【テキスト（教科書）】
「世界の空き家対策」米山秀隆編著、学芸出版社、2018年
「空き家幸福論」藤木哲也著、日経ＢＰ、2020年

【参考書】
「マイホームの彼方に」平山洋介、筑摩書房、2020年
「アメリカの空き家対策とエリア再生」平修久、2020年
「老いた家、衰えぬ町」野澤千絵、講談社現代新書、2018年

【成績評価の方法と基準】
授業への参加・討論状況（50％）、課題レポート（50％）にもとづき評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムで課題の提示を行う。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに30年間関わった中で、町家再生活用や震災復興住宅再建に関する市民活動を企画運営してきた経験を踏まえて、ローカルな視点で住宅政策のあり方を授業で紹介する。

【担当教員の専門分野】
住宅問題・地域経営論・市民活動運営論

【主要研究業績】
「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集Vol.51、2016年
「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」日本建築学会論文集第707号、2015年
『地方都市の再生戦略』（共著）学芸出版社、2013年
『生活景』（共著）学芸出版社、2009年

【Outline (in English)】
< Course outline>
In a society with a declining birthrate and an aging population, what is the current state of housing, which is the foundation of life and is deeply connected to welfare,? This program will focus on the current situation of vacant houses and measures to address the housing market and housing policy issues.
< Learning Objectives>
This course will provide an overview of the current state of affairs and measures both in Japan and overseas, and will also review research papers, enabling students to understand how the housing market has responded to the social change of a declining population, and how policies have supported this response.
< Learning activities outside of classroom>
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy>
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 50%, in class contribution: 50%

ENV520Q2（環境保全学 / Environmental conservation 500）

環境社会学特論

野田　岳仁

備考（履修条件等）：**都市・文化・観光創造群**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は環境社会学・地域社会学の主要な方法論である生活環境主義の方法を用いて、地域問題の解決、地域づくりや地域ツーリズムの有効性のある政策論を構想することを目的としている。そのうえで、生活環境主義によるフィールドワークとデータ分析の方法およびその思想をマスターすることを目指す。

【到達目標】
地域問題の解決や地域づくり、地域ツーリズム政策に対して、自らの方法論的立場を明確にしたうえで、あるべき方向性や有効性のある政策論を提言する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本のテキストと複数の学術論文をとりあげて、議論を深めていくスタイルをとる。受講生の関心や研究テーマによって若干の変更もありうる。変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。本講義は多様な学び方に配慮して対面とオンラインを組み合わせて授業を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境社会学の考え方	現場の生活者の暮らしをとらえる視点
第2回	環境を守るとはどういうことか？	環境の利用と管理の社会的な仕組み
第3回	誰がしっかりすれば環境は守られるのか？	環境保全の要としての地域コミュニティ
第4回	嫌な環境は誰が受け入れるのか？	迷惑施設問題と地元の合意
第5回	公園は都市の環境を豊かにしてきたか？	都市空間における自然環境としての公園
第6回	環境と観光はどのように両立されるのか？	地域のローカル・ルールを守る観光のあり方
第7回	人と野生生物はどのような関係なのか？	農山村地域が抱える獣害問題とその解決方法
第8回	未曾有の災害に人はどのように対処していくのか？	防災政策と復興まちづくり
第9回	環境をめぐって人びとはどのようにいがみ合うのか？	多様性を承認する地域コミュニティ
第10回	生活環境主義の基本理論	現場の生活者の立場から
第11回	生活環境主義の所有論	環境権と所有論
第12回	生活環境主義の組織論	生活組織論と住民の価値規範
第13回	生活環境主義の経験論	行為論から経験論へ
第14回	生活環境主義の実践　有効性のある政策論への模索性	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題文献の精読、レジュメの作成・発表の準備など事前学習は不可欠である。自分の関心や研究テーマにひきつけながら検討していくことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義内で適宜アナウンスする。

【参考書】
講義内で適宜紹介したり、必要に応じて配布する。

【成績評価の方法と基準】
討議や発表を含めた平常点（50%）とレジュメやレポートなどの成果物（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】
担当教員は環境保全活動や地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【担当教員の専門分野等】
〔専門領域〕
環境社会学・地域社会学・観光社会学
〔主要業績〕
『井戸端からはじまる地域再生ー暮らしから考える防災と観光』（単著、筑波書房、2023年）
『Everyday Life-Environmetalism: Community Sustainability and Resilience in Asia』（共著書、Routledge、2023年）
『環境社会学の考え方ー暮らしを見つめる12の視点』（共著書、ミネルヴァ書房、2019年）
『生活環境主義のコミュニティ分析ー環境社会学のアプローチ』（共著書、ミネルヴァ書房、2018年）
『原発災害と地元コミュニティー福島県川内村奮闘記』（共著書、東信堂、2018年）
『Rebuilding Fukushima』（共著書、Routledge、2017年）

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems.【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance（Discussion, presentation, and report）(50%).

MAN520Q2（経営学 / Management 500）

ソーシャル・イノベーション特論

土肥　将敦

備考（履修条件等）：**産業・企業・イノベーション創造群**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、主として地域社会とビジネスの関係性を理解するために、「社会的に責任ある企業経営（CSR経営）」の理論と現状について、基本文献を読み、国内外の事例を参考にしつつ検討していく。講義では、企業と社会に関する基礎理論、CSR経営にかかわる議論、ソーシャル・ビジネスにかかわる議論ついて理解していく。

【到達目標】
CSR経営、ソーシャル・ビジネス、NPO/NGOのグローバル/ローカルな潮流を理解し、それらの関係性（結びつきや対抗関係など）についても理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義では、CSR経営やソーシャル・ビジネス、NPO/NGOにかかわる文献を輪読し、議論を通して理解を深める。またそれぞれの受講生が各回のテーマに関連する国内外の事例資料を持ち寄り、事例研究の報告も行う。講義形態はオンラインまたは対面での開講となります。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。リアクションペーパーやミニレポート等における優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的・進め方について
第2回	企業と社会の関係を理解する①	さまざまな社会的課題を理解するとともに、企業と社会の関係性を捉える①
第3回	企業と社会の関係を理解する②	さまざまな社会的課題を理解するとともに、企業と社会の関係性を捉える②
第4回	輪読とディスカッション①(ソーシャル・ビジネスの基礎)	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う①
第5回	輪読とディスカッション②（ソーシャル・ビジネスの基礎）	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う②
第6回	輪読とディスカッション③（ソーシャル・ビジネスの基礎）	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う③
第7回	輪読とディスカッション④（ソーシャル・ビジネスの基礎）	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う④
第8回	輪読とディスカッション⑤（ソーシャル・ビジネスの基礎）	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う⑤
第9回	中間とりまとめ	これまでの講義内容の振り返りと今後の計画
第10回	輪読とディスカッション①（CSRの基礎）	CSRにかかわる基本文献を読みディスカッションを行う①
第11回	輪読とディスカッション②（CSRの基礎）	CSRにかかわる基本文献を読みディスカッションを行う②
第12回	輪読とディスカッション③（CSRの基礎）	CSRにかかわる基本文献を読みディスカッションを行う③
第13回	輪読とディスカッション④（CSRの基礎）	CSRにかかわる基本文献を読みディスカッションを行う④
第14回	受講生の研究テーマとの接点を探る	講義全体の振り返りと、各受講生の研究テーマとの接点を探り、全員で議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
少人数講義であるため、受講生の積極性や自主性が求められます。与えられた課題をこなすだけでなく、各回のテーマに関連する国内外の事例等を調べて、履修者全員が共有できるように資料を事前準備することが求められる。なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
初回のガイダンス時に、いくつかの候補の中から選定する。また、講義中にも適宜指示をする。

【参考書】
講義中に、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
講義へのコミットメント（能動的参加50％、各回の報告内容50％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
履修者とのコミュニケーションを大切にする。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　企業社会論、ソーシャル・イノベーション論、CSR論
＜研究テーマ＞　ソーシャル・イノベーション、CSR
＜主要研究業績＞
『社会的企業者ーCSIの推進プロセスにおける正統性』（単著, 千倉書房, 2022年）
『ソーシャル・ビジネス・ケース』（共著，中央経済社，2015年）
『ソーシャル・エンタプライズ論』（共著、有斐閣、2014年）
『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』（共著、NTT出版、2013年）

【Outline (in English)】
Leading companies recognize the long-term value of integrating corporate social responsibility/sustainability into their core business strategies.　The coursework of this class is as follows; ethical entrepreneurship, human rights and business, corporate social responsibility, social entrepreneurship, social innovation.

OTR530Q2（その他 / Others 500）

特別講義（九州地域創生論）

岡野　秀之

備考（履修条件等）：**特別講義科目**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
九州を題材にして、地方の地域経済・地域産業が抱える実態や課題を捉え、課題解決を図ろうとする「地域創生」の取り組みについて理解を深めます。
具体的に、農業や半導体産業などの外貨を稼ぐ「基盤産業」を取り上げ、地域産業政策のあり方について考えます。加えて、成長著しい福岡市の都市開発戦略や、武雄市や日南市などの中小都市・過疎地域の「地域づくり」を取り上げ、都市や農山村がそれぞれが抱える課題を理解し、官民連携による地域振興政策や各種の実践のあり方について考えます。
講義を通じて、「地域創生」に求められる考え方や実践力を高めます。

【到達目標】
講義を通じて、九州の「地域」が抱える実態や課題を捉え、「創生」に向けた政策や実践についての理解を深めます。その上で、それらの課題や取り組みについて、ディスカッションを通じて深化させ、課題解決に向けた新しいアイディアを考えていきたいと思います。
最終的には、ひとり１テーマを定めて、九州の「地域創生」に向けた提言をショートレポートもしくはレジュメとして取りまとめることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
ワンテーマ２コマを割り当て、講義とディスカッションを繰り返し、２コマ完結で進めていくようにします。ディスカッションの質を高めるため、リアルタイムでデータや情報を参照しながら授業を進めていきます。自ら考え、発言し、周りの意見を聞き、ワンテーマごとに自分の考え方をとりまとめていくようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	オリエンテーション 九州経済のアウトライン	講義の目的と成果目標 九州の経済社会の概観 討議テーマ：九州経済・産業・地域の特徴とポテンシャルについて
2回（3･4）	九州の産業構造と基盤産業 農業～アグリプレナーが拓く農業進化論	外貨を稼ぐ基盤産業 農業の高付加価値化 討議テーマ：持続可能な農業をつくるには
3回（5･6）	半導体産業～新生シリコンアイランドに向けた再始動	半導体の世界的潮流と経済安全保障 シリコンアイランド九州のポテンシャルと半導体産業政策 討議テーマ：九州の半導体産業の進化を促すには
4回（7･8）	情報通信産業～情報の産業化とDXによる産業の情報化	既存産業×情報産業による産業の付加価値化 討議テーマ：DXによる社会課題解決とイノベーションについて
5回（9・10）	九州の地域構造と都市の再構築	人口の配置と都市構造・都市機能 人口減少下の地域づくり 討議テーマ：均衡ある地域の発展と多様な地域づくりを促すには
6回（11・12）	福岡市の都市戦略～双子都市	都市の開発主体と発展戦略 ネット時代・働き方改革時代の都心の機能と役割 討議テーマ：持続的に都市の発展と成長を促すには
7回（13・14）	九州の「地域創生」を考える	九州広域圏地方計画とインフラ整備のあり方 討議テーマ：九州の「地域創生」の深化させるアイディアについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「地域創生」につながるヒントや気づきは、日常生活のなかにも多く眠っています。日頃からアンテナを立てて情報を収集し、思考を整理し、ディスカッションの機会に発言してください。

【テキスト（教科書）】
『図説九州経済2025』公益財団法人九州経済調査協会、2024年、2,200円
『地域創生のデザイン』山﨑朗編著、中央経済社、2015年、2,640円
（2025年に続編の『地域創生の新しいデザイン（仮題）』刊行予定）

【参考書】
データサラダDATASALAD：https://datasalad.jp
おでかけウォッチャー：https://odekake-watcher.info
『九州経済白書2016年版 中核企業と地域産業の新陳代謝』岡野秀之編著、九州経済調査協会、2016年
『九州経済白書2015年版 都市再構築と地方創生のデザイン』岡野秀之編著、九州経済調査協会、2015年
『九州経済白書2014年版 アグリプレナーが拓く農業新時代』岡野秀之編著、九州経済調査協会、2014年

【成績評価の方法と基準】
ワンテーマごとのディスカッションでの「発言」を評価します。加えて、最終講義時に、九州の「地域創生」に向けた「提言」をショートレポートもしくはレジュメとして取りまとめていただきます。
成績評価は100点とし、発言を40点、提言を60点として総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度からの新規科目につきフィードバックはありません。次年度以降の改善のため、最終講義で授業改善アンケートを行います。

【学生が準備すべき機器他】
インターネットに接続でき、chrome（インターネットブラウザ）をインストールした「パソコン」を持参して講義に臨んでください。

【その他の重要事項】
本講義の講師は、シンクタンクに勤務しており、九州をフィールドとして、地域経済・地域産業に関する調査分析や地域産業政策の立案を行なっています。日々、さまざまな地域経済データに向き合い、収集・整理・分析を行うなか、データの収集・整理を簡略化し、分析やその後のアクションに思考に時間をかけるべく、地域経済データをクラウドで提供する「データサラダDATASALAD」の開発・運営をしています。講義では、「データサラダ」を実際に使いつつ、地域の実態や課題を可視化しつつ、新たな気づきや発見を体感しながら進めていきたいと思います。インターネットにつながるパソコン持参で講義に臨んでください。

【Outline (in English)】
We will learn about the actual situation and issues of regional economy and leading industry in KYUSHU, so we will also deepen their understanding of problem-solving efforts "regional revitalization".
Specifically, we will focus on "leading industries" such as agriculture industry and semiconductor industry and consider the form of regional industrial policy.

In addition, we will discuss the urban development strategy of Fukuoka City, which is experiencing rapid growth, and regional development in small and medium-sized cities. We will understand the issues that cities and rural areas face, and consider "regional development policies" and various practices through public-private collaboration.
Through lectures, we will enhance the way of thinking and practical skills required for "regional revitalization".

BSP500R1（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 500）

政策ワークショップ

柿野　成美

科目分類：**基本科目（必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当科目では、これからの地域づくりの考え方・進め方等について各教員からの講義を聴講して理解を深め、グループでのディスカッションを通じて地域づくりの多様な考え方を交流することにより、独自の考え方を深めることを目的とする。

【到達目標】
毎回講師が提示する地域創造に関するテーマ・論点に応じたワークショップでの議論を通じて、これからの地域創造の在り方について考えることができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業当授業は、授業担当教員の他、各実施回1名ずつゲスト教員が講義に加わる。前半は各教員が専門とするテーマで講義を行う。後半は、各教員からのテーマに沿って、グループに分かれて討議を行い、討議内容を発表し、最後に担当教員が講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス	当科目の主旨及び内容説明。
	ワークショップ①	ゲストによる講義をもとにワークショップ・担当教員による講評を行う。
2回（3･4）	ワークショップ②	ゲストによる講義をもとにワークショップ・担当教員による講評を行う。
3回（5･6）	ワークショップ③	ゲストによる講義をもとにワークショップ・担当教員による講評を行う。
4回（7･8）	ワークショップ④	ゲストによる講義をもとにワークショップ・担当教員による講評を行う。
5 回（9・10）	ワークショップ⑤	ゲストによる講義をもとにワークショップ・担当教員による講評を行う。
6回（11・12）	ワークショップ⑥	ゲストによる講義をもとにワークショップ・担当教員による講評を行う。
7回（13・14）	ワークショップ⑦	ゲストによる講義をもとにワークショップ・担当教員による講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ワークショップで議論した内容及び個人の意見をまとめ、毎回レポートとして提出する。本授業の復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。必要に応じてレジュメを配布する。

【参考書】
講義内容に応じて適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点60％、提出レポート40％。

【学生の意見等からの気づき】
限られた時間内で、一層効率的な議論・討論ができるようにするため、ファシリテーターの知識を共有するなどの工夫をすること。

【学生が準備すべき機器他】
毎回、ノートPCを持参すること。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to deepen understanding by listening to lectures by each teacher on the ideas and methods of future regional development, and to deepen original ideas by exchanging diverse ideas on regional development through group discussions.

BSP510R1（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 500）

調査法

高尾　真紀子

科目分類：**基本科目（選択必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策立案、政策創造の前提となる現状把握には客観的な数量分析が不可欠であり、修士論文においても、客観的データの分析を加えることによって、より説得性を増す。本講義では、統計データ及び質問紙調査を使った実証分析の方法を理解、習得し、修士論文作成にあたって実際に応用できるようにする。

【到達目標】

データサイエンスの基礎的な考え方を理解した上で、量的調査の実証分析の方法を習得し、各自の修士論文作成にあたって実際に応用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

実際に統計データを使用して計算ソフト（EXCEL）による分析方法を実習し、分析結果を正しく解釈するための統計の基礎を学ぶ。エクセルを使ったアンケート集計の方法についても解説する。統計学、数学的知識は必要としないが、エクセルの基礎的操作は習得していることが望ましい。内容は以下を予定しているが、受講人数、受講者の希望に応じて弾力的に変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	イントロダクション 経済統計の基礎	講義の進め方、さまざまな調査手法と本講義で取り扱う範囲について学ぶ。経済統計データの基礎知識を学び、統計データを加工する
2回（3･4）	社会調査の方法：質問票の作成 調査結果の集計・分析	社会調査、特に質問紙調査の設計から実施までの方法と留意点を学び、質問票を作成する。調査結果の集計、分析の手法を学び、エクセルを使った単純集計、クロス集計の方法を習得する。
3回（5･6）	統計の基礎	平均と分散、標準偏差、正規分布等の統計の基礎について学ぶ。カイ二乗検定、ｔ検定、F検定など仮説検定の手法について、どのような場合に使うかを学び、実習を行う。
4回（7･8）	相関分析・回帰分析	相関の概念について学び、散布図の作成や相関係数の求め方を実習する。単回帰分析の考え方を学び、分析手法を実習する
5 回（9･10）	重回帰分析	多変量解析の中でも様々な場面で活用範囲の広い重回帰分析について学び、様々な重回帰分析を実際のデータを基に実習する。
6回（11･12）	多変量解析 統計分析演習	因子分析、主成分分析等の多変量解析の考え方とどのような場面で活用できるのかを学ぶ。学習した手法を用いたデータ分析演習を行う。
7回（13･14）	課題発表	各自の問題意識や研究テーマに基づき、学習した手法を用いてデータ分析を行った結果の発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Excelの基本操作が出来るようにしておくこと。

授業中のデータをUSB等で保存し、授業中に出来なかったことは家で復習すること。

本講義で用いた手法等を用いて、各自の専門（修士論文）に関連したテーマを選び、現状分析を行い(データをさがし加工する)、レポートを作成（文章と図表で説明）。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメや参考資料を配布する。

【参考書】

鮑戸弘『社会調査ハンドブック』日本経済新聞社
伊藤公一朗『データ分析の力　因果関係に迫る思考法』光文社新書
神林博史・三輪哲『社会調査のための統計学　生きた事例で理解する』技術評論社
中室牧子、津川友介『「原因と結果」の経済学　データから真実を見抜く思考法』
森田果『実証分析入門』日本評論社
西内啓『統計学が最強の学問である』ダイヤモンド社
西内啓『統計学が日本を救う　少子高齢化、貧困、経済成長』中央公論新社
涌井良幸、涌井 貞美『Excelで学ぶ統計解析』
涌井良幸、涌井 貞美『図解　使える統計学』

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）、実習（30％）、レポート（50％）を総合的に勘案する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のエクセル習熟度が異なるため、複数の演習課題を用意し、進捗の速い学生は、さらに進んだ演習に進めるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

各自が情報端末を使用（インターネットによるデータのダウンロードが行える）しながら受講できる教室を使用。

【その他の重要事項】

基礎的な内容なので、出来る限り早期（1年目）に履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

This　course aims to understand and acquire the method of empirical analysis of data using statistical data and questionnaire survey and make it practically applicable for preparation of master thesis.

BSP510R1（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 500）

研究法

上山　肇

科目分類：**基本科目（選択必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文作成手法の習得

【到達目標】
研究テーマの設定と先行研究を踏まえた研究計画書の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、研究計画書の内容に関する講義を行います。その講義を踏まえ、各自の論文テーマを設定し、関連する先行研究を調べ、それらを読み進めます。その上で、①研究の目的・意義　②研究の内容　③期待される成果（仮説）を盛り込んだ研究計画書を作成します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス	本授業の進め方について説明します。また、「研究計画書とは何か」について説明するとともに、各自の論文テーマを設定します。
2回（3･4）	文献資料の検索	各自の論文テーマに関連する文献資料を収集します。
3回（5･6）	研究計画の立案	最終的な論文のイメージを明確にします。
4回（7･8）	研究計画書の書き方	研究計画書の作成にあたっての留意点について説明します。
5 回（9・10）	研究計画書の作成①	実際に研究計画書を作成します。
6回（11・12）	研究計画書の作成②	実際に研究計画書を作成します。
7回（13・14）	研究計画書の発表	作成した研究計画書に基づいて口頭発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自のテーマに即した先行研究の調査・分析を行います。それと並行し、文献を事前に読み、配布資料や演習問題（スライド作成等）の予習・復習、授業内で示される課題（レポート、スライド作成等）に対応してもらいます。本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
「まちづくり研究法」（三恵社）。その他、講義の中で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点50％、発言20％、レポート30％で行います。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This course introduces about writing method of a thesis to students taking this course.
[Learning Objectives]
Setting research themes and creating research plans based on previous research.
[Learning activities outside of classroom]
Survey and analysis of previous research according to your theme
[Grading Criteria /Policy]
Your final grade will be calculated according to the following process: Attendance (50%), Comment (20%), and Reports(30%).

BSP510R1（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 500）

質的研究法

齊藤　弘通

科目分類：**基本科目（選択必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
質的研究法とは、事象の性質や特徴といった数値化しにくいデータを扱い、事象を質的に理解、説明、解釈しようとする研究法であり、量的研究ではアプローチできない研究課題を解明する上で有用なものである。本科目ではこの質的研究法の特性や質的研究を行う際の流れを理解するとともに、質的研究で用いられる代表的な分析手法について理解、実践できるようになることを目的とする。

【到達目標】
①質的研究法の特性、研究プロセスが説明できる。
②インタビュー法や観察法を用いて質的データを収集することができる。
③収集した質的データを適切に分析・解釈することができる。
④質的研究を活用した研究計画を立てることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
・授業は各回とも講義と演習を織り交ぜながら進めていく。
・演習は個人で行うものとチームで行うものがある。
・提出された課題については毎回いくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・第6回・第7回ではチームで設定した調査課題に関するインタビューデータを収集・分析するとともに、最終報告の途中経過について発表する。（インタビュー調査については対面またはZOOMなどを活用したオンライン上での実施を想定）
・講義は質的研究法の初学者を念頭において行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	質的研究の特性と研究プロセス	量的研究との対比から、質的研究の持つ特性について詳しく理解する。また、質的研究の一般的な流れ（リサーチクエスチョンの設定、調査対象の選定とデータの収集、テクストデータに対するコーディングとカテゴリ化、概念モデル・理論の生成）について理解する。
2回（3･4）	質的データ収集の技法①インタビュー法	質的データを収集するための技法であるインタビュー法の類型や特徴、インタビュー調査の際に準備すべきこと、インタビューの具体的な進め方について理解する。
3回（5･6）	質的データ収集の技法②観察法	質的データを収集するための技法である観察法の類型や特徴、進め方について理解する。また、映像データを観察し、フィールドノーツを作成する手順を実際に体験する。
4回（7･8）	質的データの解釈・分析	収集した質的データに対して、コードを割り当て（コーディング）、カテゴリを生成していくプロセスについて理解する。また、カテゴリ間の関係性を図解し、分析結果をストーリーラインにまとめていく手順を把握する。
5回（9・10）	代表的な質的データ分析法	質的研究で用いられる代表的な分析法（M-GTA、SCAT、TEM、ドキュメント分析等）について理解する。また、M-GTAなど、代表的な質的データ分析法を用いた研究論文を読み、分析手続きの仕方や結果のまとめ方を把握する。
6回（11・12）	質的データの収集・分析演習	チームごとに、設定された調査課題に応じて実際にインタビュー調査を行い、質的データを収集するとともに、得られたデータを分析する演習を行う。
7回（13・14）	演習結果の発表・研究計画の検討	チームごとにインタビュー調査の途中経過を報告資料にまとめ、発表する。（なお最終報告資料は、途中経過報告に対する教員からのフィードバックを踏まえ、授業後の指定期日までに提出する。）また、自身の研究において質的研究を用いる場合の研究計画について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①本授業の準備学習および復習のため、質的研究法に関する文献や論文を読み、ポイントを要約する。（文献や論文は都度授業において配布する）
②授業内で行った演習に関する課題に取り組む。（課題の内容は随時指示する）
③チームで取り組むインタビュー調査演習において、授業外の時間を用いて、データの分析と調査報告資料の作成を行う。
④レポート課題に取り組む。（レポートのテーマは授業において指示する）
・本授業の準備学習および復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回、授業で配布するレジュメ（パワーポイントにて作成）をテキストとして使用する。

【参考書】
ウヴェ・フリック著・小田博志監訳『新版　質的研究入門＜人間の科学＞のための方法論』春秋社,2011年
太田裕子『はじめて「質的研究」を「書く」あなたへ ―研究計画から論文作成まで―』東京図書,2019年
大谷尚『質的研究の考え方　研究方法論からSCATによる分析まで』名古屋大学出版会,2019年
佐藤郁哉『フィールドワークの技法　問いを育てる、仮説をきたえる』新曜社,2002年
佐藤郁哉『質的データ分析法　原理・方法・実践』新曜社,2008年
サトウタツヤ・春日秀朗・神崎真実編『質的研究法マッピング』新曜社,2019年
須田敏子『マネジメント研究への招待　研究方法の種類と選択』中央経済社,2019年
岡田昌毅編著『働くひとの生涯発達心理学　M-GTAによるキャリア研究』晃洋書房，2017年
その他、授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
以下の配分により、成績評価を行う。
①平常点（授業への参加、グループ演習への積極的参加）20％
②文献・論文の要約および課題への取り組み　20％
③インタビュー調査報告資料の作成（チームにて作成）20％
④レポート課題への取り組み　40％

【学生の意見等からの気づき】
・質的研究のイメージをより深めてもらえるよう、オープンコーディングやM-GTA、SCAT、TEM、事例研究法など、様々な質的分析法が用いられた論文を昨年度より多く紹介する。
・質的データの分析過程についてより体験的に理解してもらえるよう、授業で使用した演習用の題材やワークシートを改良する。
・質的データ分析におけるオープンコーディングの手続きについて時間をかけて体験していただくようにする。

【学生が準備すべき機器他】
授業でパワーポイントを使うことがある。

【その他の重要事項】
・少人数チームでのインタビュー調査演習（インタビュー調査の実施、データの分析、調査報告資料の作成）があることにご留意いただきたい。また当該演習において授業外の時間を活用する場合がある点もお含みおきいただきたい。
・なお、授業外でインタビュー調査を行う際には、ZOOMなどのオンラインミーティングツールを活用する場合があることもお含みおきいただきたい。

【Outline (in English)】
【Outline and objectives】
This course introduces the qualitative research methods to students taking this course.
The aim of this course is to help students acquire an understanding the characteristics and process of qualitative research methods.
【Goal】
The goals of this course are to
- be able to explain the characteristics and process of qualitative research methods,
- be able to collect qualitative data using interview survey and observation method,
- be able to analyze and interpret the collected qualitative data properly,
- be able to make a research plan using qualitative research.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.) 】
- Read and summarize the literature and articles on qualitative research methods.
- Work on assignments related to the exercises in the class.
- Analyze qualitative data and prepare research report materials for the interview research exercise in teams, using time outside of class.
- Work on the report assignment.
【Grading criteria】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
- Ordinary points (class attendance, active participation in group exercises) :20%
- Summarization of documents and articles and work on assignments: 20%
- Preparation of interview survey report materials (prepared by team): 20%
- Efforts and quality of the report assignment: 40%

ECN510R1（経済学 / Economics 500）

日本経済論

梅溪　健児

科目分類：**基本科目（選択必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本経済論はマクロ経済学の枠組みと分析を用いることが多い。しかし、本講義はそれではなく、厳しさを増している地域のくらしに重点を置いて日本経済を考察する。例えば、医療については、高齢化が医療費を押し上げ社会保障費を増大させるというのが通常の日本経済論であるが、本講義は医師の偏在がもたらす医療サービスの先細りが地域のくらしの差し迫った課題であることを重視する。授業では、人口動態と産業動向によって地域の市場が縮小を迫られていることをデータで押さえ、くらしを支える所得・医療・教育・商業・交通などの地域格差を探求する。さらに、日本経済が直面する就職氷河期の影響、離職の増加と人手不足、外国人労働の増加などについて地域の視点で再考する。授業の目的は、①これまでふつうの生活として可能であったことが地域のくらしでは困難になるという流れを理解すること、②地域のくらしに求められる支援策の枠組みを評価することの２点である。

【到達目標】

本講義の目標は次の2点である。第一に、日本経済の長期停滞は国民生活に大きな打撃を与えたが、地域のくらしの視点に立つと先鋭な問題は何であるのかを理解すること。第二に、即断ではなく関連する事実を見極めてポピュリズム的な政策に陥らない前提に立ち、くらしの継続に対処する政策視点を身に着けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は教材（パワポ）、関係資料（文献等）を配布して行う。各回の前半は講義とし、後半は輪読と討議にあてる。必要な教材は一部を除いて１週間前に配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	長期停滞を経た日本経済	日本経済は少子高齢化が加速し、産業構造のサービス化とデジタル化が進む。集積が進む東京に対し地方は消滅の危機が深まる。人口減少が地域のくらしに影響する論点の全体像を学ぶ。
2回（3･4）	東京集中の比較：過去と現在	現在の東京集中は高度成長期と異なり女性が多く、しかも東京都の豊かな財政に支えられた政策により集中が続く勢いである。現在の東京集中の強さを学ぶ。
3回（5･6）	地域格差の考察：所得、健康、教育	人口動態と産業構造の変化により地域格差は高まる傾向にある。所得、健康、教育について格差の現状を学ぶ。実例としては、医師の偏在、教員不足を考える。
4回（7･8）	就職氷河期のインパクト	団塊ジュニア世代の就職期が長期停滞と重なり、賃金の停滞、非正規雇用の拡がり、少子化の加速が生じた。この世代は中高年化し、深まる問題を学ぶ。
5回（9・10）	経済停滞と労働市場の変貌	高齢者と女性の雇用化が増加しながら、最賃引上げ、人手不足と雇用ミスマッチの高まり、外国人労働の増加が生じている。地域の視点に立って労働市場の動きを学ぶ。
6回（11・12）	日本経済のこれから	日本の一人当たりGDPは世界順位を大きく落とした。地域は厳しく、書店が消え、流通が過疎化し、地域交通の撤退が増した。これからの視点、議論の方向を考える。
7回（13・14）	レポート発表と意見交換	期末レポートを発表し、日本経済の課題について討議を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は1回の講義につき4時間を標準とする。日頃から新聞、ニュース報道などを通じて、エビデンスと政策のポイントを整理することが望ましい。自身で経済社会データ（総務省e-Statなど）を検索し、図表化することを心がけてほしい。

【テキスト（教科書）】

講義用の教材と討議用資料を配布する。教材でメインとなるのは、参考書に示した小峰・村田（2025）と伊藤・星（2023）である。

【参考書】

井伊雅子（2024）『地域医療の経済学』慶應義塾大学出版会
伊藤隆敏・星岳雄（2023）『日本経済論』東洋経済新報社（原著（2020英書）の和訳）
小峰隆夫・村田啓子（2025）『最新日本経済入門（第7版）』日本評論社
近藤絢子（2024）『就職氷河期世代』中公新書
近藤克則（2022）『健康格差社会（第2版）』医学書院
日本経済新聞社地域報道センター編（2024）『新データで読む地域再生』
山田昌弘（2007）『少子社会日本』岩波新書
吉見俊哉（2019）『平成時代』岩波新書

【成績評価の方法と基準】

輪読及び討議50％（10%×5）、レポート作成と発表 50％

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、「所得格差の現状をジニ係数を用いて学べて良かった。小泉政権は悪いと思っていたが、統計によるとそうでもなかった。」という意見があり、教材に取り上げた意義があった。格差を調べる対象は他にもあり、本年の第3回講義で取り上げる。「過去70年の姿をGDP統計で俯瞰するのは頭に入りやすく勉強になった」という声があり、これは第1回、第6回講義で続ける。経済動向を図で理解する方針はすべての講義で維持する。講師はかつて公務員であったので、政策決定における政府や政治家の思考について紹介するが、これは学生の関心が高く、継続する。経済学と数学の知識がなくても授業は非常に分かりやすかったとの感想が寄せられたので、難しい数式を使わずに地域の視点で経済の仕組みを説明する。

【学生が準備すべき機器他】

レポート作成・発表には、図表（パワポ・エクセル等で自身が作成したもの）を掲載してください。

【その他の重要事項】

経済学の予備知識はなくてかまいませんが、新聞雑誌テレビなどで発信される経済ニュースが理解できることは必要です。

【Outline (in English)】

This course aims to build a perspective of local economies on important issues that have shaped the development of the Japanese economy. Some important issues to be tackled are the shrinking of local regions with gaps among people of health and education, and the changing labor market with foreign workers increasing. The class is provided with quantitative facts and economic explanations by economists, together with thoughts from other scholars, including sociologists. Students are expected to prepare for the class for four hours prior to and after the class. Students are graded with in-class discussion (50%) and the term paper (50%).

MAN510R1（経営学 / Management 500）

人的資源管理論

石山　恒貴

科目分類：**基本科目（選択必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義においては、変わりつつある日本的雇用を背景に、今後の人的資源管理をどのように設計・運用していくべきか、という点に焦点をあてる。人的資源管理に携わる人のみならず、企業の経営、人事施策、キャリア施策に興味を持つ人は、広く対象となる。人的資源管理論の知識を講義で解説した後に、受講者で今後の方向性を議論していくことにより、新しい知見の生成を目指していく。

参加型とし、受講生自身が選択した人的資源管理に関する事例（企業、公的団体、非営利を問わず組織の事例）について報告することを求める。

【到達目標】

人的資源管理の定義、概念、最新の動向を理解し、企業の組織経営、人事施策という大きな視野の中での位置づけることができるようにする。それを通じて、実際の企業／組織における人的資源管理を設計、運用、実施できるようになる知識とセンスの習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

人的資源管理の歴史的背景、日本的雇用の変化と課題、グローバルにおける人的資源管理の最新動向などを講義、解説したうえでグループディスカッションを行い、あるべき方向性を全員でつくりあげていく。また受講者相互の発表により、グローバルの状況、日本の状況の実態の理解を深める。

また、人的資源管理は、経営理論、リーダーシップ理論、キャリア理論との関係も重要である。こうした理論との関係性を踏まえながら、授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	人的資源管理の定義、歴史的背景、理論的背景	人的資源管理の定義を行い、どのような歴史的背景、理論的背景があるのかについて分析を行う。
2回（3･4）	組織開発と組織行動	人的資源管理との関連において、組織開発と組織行動の重要概念について、分析、考察する。
3回（5･6）	日本的雇用と職務、エンゲージメント	変化しつつある日本的雇用の状況を分析する。その変化を踏まえ、日本における職務主義と職能資格の実態を考察する。エンゲージメントを多角的に分析する
4回（7･8）	戦略的人的資源管理と人事部の機能・役割	特に欧米における人的資源管理論の発展には戦略的人的資源管理論の貢献が大きく、経営戦略との結びつきが基礎となっている。この観点から分析を行う。それを踏まえて、人事部門の機能・役割がどうあるべきなのかについて考えていく。
5回（9・10）	タレントマネジメントおよび受講者による事例発表	タレントマネジメントには、人材ポートフォリオ、報酬、評価、職務評価、目標管理、リテンションなど様々な要素がある。各要素とその統合の必要性を、タレントという観点から分析する。また、受講者による事例発表を行う。
6回（11・12）	受講者による事例発表	受講者による事例発表を行う。
7回（13・14）	受講者による事例発表とまとめ	受講者による事例発表と授業の総括として、人的資源管理の未来のあり方の総合的な考察。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、講義だけなく、グループ討議を積極的に取り入れていく。自分の所属する組織における人的資源管理についての問題意識を持ち、グループ討議にいかしていただきたい。

また講義で示す参考書については、積極的にお読みいただきたい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ノートについては、毎回の授業で配布する。

【参考書】

有沢正人・石山恒貴『カゴメの人事改革』中央経済社、2023年
石山恒貴『日本企業のタレントマネジメント』中央経済社,2020年
石山恒貴『越境的学習のメカニズム』福村出版,2018年

【成績評価の方法と基準】

評価は、①授業における議論の実施状況による得点（1回あたり5点満点で計35点満点）、②受講者による事例発表の得点（65点満点）で、両者を足した総得点を規定による評価基準に沿って評価する。

【学生の意見等からの気づき】

実務面の参考にしていただくべく、豊富な実例の紹介を行う

【学生が準備すべき機器他】

授業ではパワーポイントなどPCを使うことがある。

【その他の重要事項】

各人の事例研究報告が課されていることに留意して受講すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Human Resource Management. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Human Resource Management.

Goal

At the end of the course, students are expected to understand the definitions, concepts, and current trends in human resource management

Work to be done outside of class

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Presentation of case study assigned by each student: 65%、in class contribution: 35%

ARSl510R1（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500）

地域活性化システム論

高尾　真紀子

科目分類：**基本科目（選択必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、地域活性化の様々な角度から焦点を当てて、内閣府の協力の下に、学外講師（関係省庁、自治体の政策担当者、民間専門家、有識者）が講義に臨み、受講者と直接ディスカッションを行う。受講者は地域活性化の現場で役立つ多角的な視点と実践的な知識を得ることを目指す。

【到達目標】

学外講師（関係省庁の政策担当者、有識者、民間専門家）とディスカッションを行うことにより、地域活性化をめぐる現状や課題、政策的知見を共有し、地域活性化に関する提言をまとめることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は対面を基本とし、一部地方とつなぐ等、オンラインを併用して実施する。毎回、学外講師による講義の後、受講者とディスカションを行う。また、受講者は毎回の講義テーマと関連し地域活性化に関するグループディスカッションを行う。最終日には地域経済分析システム（ＲＥＳＡＳ）を利用し、データに基づく地域活性化の提言をまとめて発表することが求められる。

地域活性化を多様な角度からとらえることとしているが、毎年統一テーマを決めて、講義内容や講師を検討している（2020年度：都市と地方、2021年度：地域のウェルビーイング、2022年：関係人口と地域、2023年度：地域活性化と人づくり、2024年度：人口減少時代の地域活性化）。2025年度のテーマは直近の社会経済情勢を踏まえて決定する予定。

参考までに、以下に2024年度の内容を記す（講師の肩書きは講義時のもの）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	講義 受講生によるディスカッション1 担当教員によるまとめ	イントロダクション 地域活性化政策の変遷
2回（3･4）	講義 受講生によるディスカッション2 担当教員によるまとめ	特定非営利法人　土佐山アカデミー事務局長　吉冨慎作氏 「土佐山アカデミーにおける地域課題の解決法」
3回（5･6）	講義 受講生によるディスカッション3 担当教員によるまとめ	一般社団法人　スマートシティ・インスティテュート　専務理事　南雲岳彦氏 「市民の幸福度を高めるまちづくり」
4回（7･8）	講義 受講生によるディスカッション4 担当教員によるまとめ	一般社団法人　スマートシティ・インスティテュート　専務理事　南雲岳彦氏 第3回のまとめとグループワークの発表
5回（9･10）	講義 受講生によるディスカッション5 担当教員によるまとめ	愛知県新城設楽建設事務所　道路整備課　課長補佐 あいち橋の会　事務局　　宮川　洋一氏 「人口減少時代のインフラのあり方」
6回（11･12）	講義及び対談 受講生によるディスカッション6 担当教員によるまとめ	株式会社価値総合研究所　主席研究員　鴨志田武史氏 「地方創生とＲＥＳＡＳ(地域経済分析システム)」内閣府地方創生推進事務局　　ご担当者 「地方創生の推進について」
7回（13･14）	受講生による発表 担当教員によるまとめ	各自が対象地域を設定し、分析に基づく地域活性化の方策について発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から地域活性化に関する新聞や雑誌記事、ニュースなどを読み、政策に関する自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとにレジュメを配布する。

【参考書】

前野隆司編著『システム×デザイン思考で世界を変える』日経BP社
木下斉『地方創生大全』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

平常点(1/3)、授業への貢献(1/3)、発表の内容（1/3）を総合的に勘案する。

【学生の意見等からの気づき】

Zoomのブレークアウト・セッションの利用による講師とのディスカッションが好評だったため、地方在住の講師を招いてディスカッションできるよう、オンラインと対面を併用した講義とする。

【その他の重要事項】

※オンライン授業の受講方法は学習支援システムに表示します。
※講義概要は講師の都合等により変更がある場合があります。

【Outline (in English)】

In this course, focusing on various angles of regional revitalization, guest lecturers such as practitioners, experts, administrative staff etc. give lectures and discuss directly with the students. This lecture is under the cooperation of the Cabinet Office.

GEO510R1（地理学 / Geography 500）

文化地理学

増淵　敏之

科目分類：**基本科目（選択必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域を論じて行く場合、地理学的な概念が不可欠になる。地理学は現代では空間の学問といわれており、学際的にその領域を拡張している。本授業は地域の文化的差異に注目する文化地理学の入門編である。講義全体を通じて、文化地理学とは何か、その方法上の特色はどこにあるかを考えていくが、また都市地理学の紹介も行って行きたい。

【到達目標】
到達目標は文化地理学の全貌把握にあり、その理論を個々が研究に活用できるようにすることにある。地理学が空間の学問である点を把握したうえで、学際的になっている現代の社会科学、人文科学の中でどのような位置を占め、文化的差異への注目はどのような効用をもたらせているのかを理解し、説明することができるところまで求めたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
一般的には地理学は人文地理学と自然地理学のふたつの領域で構成されるが、本授業では文化地理学を主にして進めていく。文化地理学のこれまでの流れを把握しながら、空間論的、文化的転換期を迎えて以降の様々な研究を紹介していく。適宜、議論を交えていくが、最後にレポート課題の提出を求めたい。なお、状況によって授業内容が変わることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	人文地理学と現代社会・人文地理学と地域/ Human Geography and Modern Society・ Human Geography and Region	現代社会における地理学の位置付け、地域という概念について/ About the position of geography in modern society and the concept of region
2回（3･4）	文化地理学入門/ Introduction to Cultural Geography	文化地理学のこれまでの流れを説明/Explaining the history of cultural geography
3回（5･6）	食文化の地理学/ Geography of food culture	おにぎり、稲荷寿司、どら焼き、バウムクーヘンなどの食文化を通じて文化的差異を見る/See cultural differences through food culture such as rice balls, Inari sushi, Taiyaki, and Baumkuchen
4回（7･8）	文化的地域差についての議論/Discussion of cultural regional differences1	テーマを設定し、学生間での議論を行う/Set a theme and have discussions among students
5回（9・10）	言語の地域性と景観の地域性/ Regionality of language and regionality of landscape	言語地理学について学び、その後、景観論に言及する/Learn about linguistic geography and then mention landscape theory
6回（11・12）	習慣の文化的差異と文化的差異を形成する要因/Cultural differences in customs and the factors that form them	儀式、しきたり、風俗の違いによる文化的差異、文化的差異に影響する要因について/Cultural differences due to differences in rituals, customs, and customs, and factors that influence cultural differences
7回（13・14）	ポピュラーカルチャーの地理学/ Geography of popular culture	これまでの地理学領域でのポピュラーカルチャーについての研究を紹介/Introducing research on popular culture in the field of geography so far

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習をしてくること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。状況によって授業内容が変わることもあります。

【テキスト（教科書）】
レジュメを中心に授業を進める。

【参考書】
森 正人、中川正（2022）「文化地理学ガイダンス」ナカニシヤ出版
森正人（2021）「文化地理学講義ー< 地理> の誕生からポスト人間中心主義へ 」

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、レポート70％

【学生の意見等からの気づき】
説明をできるだけ平易に、具体例を交えて授業を行うことをこころがける。適宜、タイムリーな内容への変更もあり得る。

【学生が準備すべき機器他】
PC、DVDを使用することもある。

【その他の重要事項】
オフィスアワー：金16 − 18時

【Outline (in English)】
When discussing regions, geographical concepts become essential. Geography is nowadays a discipline of space, and it has expanded its field interdisciplinarily. This lesson is an introduction to cultural geography focusing on cultural differences in the region. Throughout the lecture, I will consider what cultural geography is and what is unique about the method. I would also like to introduce urban geography.

ARSx510R1（地域研究（その他） / Area studies(Others) 500）

都市空間論

上山　肇

科目分類：**基本科目（選択必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市空間の成立条件（構成要素、計画、ルール、プロセス等）について学び、都市空間形成に関する能力を養います。

【到達目標】
都市政策立案に必要な都市空間に関する基本事項を理解できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
都市空間の計画的利用を立案する行政、開発事業者、民間プランナーなどにとって必要な知識を、理論と実践（実務）の両方の視点から解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	(1)地域社会における都市空間 (2)都市環境と都市空間を取り巻く状況	(1)「まちづくり」とは (2)都市化と都市問題
2回（3･4）	(1)都市空間の構成要素 (2)都市空間を実現するための手段	(1)建築と敷地、緑と都市、オープンスペース (2)計画、ルール、事業　等
3回（5･6）	(1)都市空間の形成プロセス (2)都市空間の規制手法１	(1)市民参加と合意形成　等 (2)ゾーニングの歴史と理論
4回（7･8）	(1)都市空間の規制手法２ (2)都市空間における景観	(1)ゾーニングと地区まちづくり (2)景観コントロール
5 回（9･10）	(1)都市空間の開発手法 (2)都市空間の再生	(1)都市再開発の仕組み　等 (2)中心市街地の活性化
6回（11･12）	(1)都市空間の評価手法 (2)事例研究１（事業）	(1)評価の仕組み、具体的まちづくりの評価 (2)土地区画整理事業、再開発事業、密集事業　等
7回（13･14）	(1)事例研究２（制度） (2)事例研究３（テーマ型）	(1)地域地区、地区計画　等 (2)水辺空間の再生（国内・海外事例）　等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布する資料を読んできてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
実践・自治体まちづくり学（上山肇編著、公人の友社）。その他については講義の中で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点50％、発言20％、レポート30％で行います。

【学生の意見等からの気づき】
毎年、事例紹介が学生にとって有効であるため、今年度もできるだけ多くの事例（現地視察を含む）を授業に取り入れたいと考えています。

【その他の重要事項】
受講生と相談した上で、通常授業（1回程度）を休日を利用し現地視察に振り替えることがあります。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
In this course, you will learn about the conditions for establishing urban space (components, plans, rules, processes, etc.) and develop the ability to form urban space.
[Learning Objectives]
This course will help you understand the basics of urban space needed for urban policymaking.
[Learning activities outside of classroom]
Please read the materials to be distributed.
[Grading Criteria /Policy]
Your final grade will be calculated according to the following process: Attendance (50%), Comment (20%), and Reports(30%).

TRS510R1（観光学 / Tourism Studies 500）

観光社会学

北郷　裕美

科目分類：**基本科目（選択必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
観光社会学とは何か　社会学という視点でその意味するところを考え続けることが本講義の目的である。現代社会における観光のあり方を探究することによって、現代社会の成り立ちを考えるのが観光社会学である。したがって、本講義では、観光に含まれる文化的要素も併せて把握することで、「現代観光」についてより理解を深める。

【到達目標】
現代社会における観光のあり方を再考し、学生の分析力を養う。現代社会において観光はサービス商品であるとともに政策面での重要な手段である。単なる観光事例研究やツーリズム研究に留まるものではなく、社会学的な手法や知見を基に、観光という広い領域をどう捉え直すべきか。言い換えれば、観光現象を一定の社会を背景に構築され制度化されたもの（中略）として理論化するもの（須藤・遠藤 2018）である。そういう意味において、「観光」は両義的なものである。この両義性のなかで観光現象を的確に分析できる研究者及び実践者に資することがこの授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
各自の論文執筆にどう活かせるかを学ぶ。教員のこれまでの具体的な調査活動や研究実績を基にして、基本的に座学で行うが、各自の研究テーマに沿った形でディスカッションやワークショップを試みたい。具体的な講義形式は、毎回スクリーンにパワーポイント及びウェブサイト・リンクを投影しておこなう。必要に応じてレジュメの配布（学習支援システムに事前アップ）、板書、音声や画像、DVD動画の視聴等も取り入れる。また課題提出を毎回課す。詳細はガイダンス時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス　観光社会学が目指すもの	講義全体を俯瞰するとともに、観光のまなざしと映画に見る社会学という立ち位置で映画視聴による具体例の検証を行う
2回（3･4）	観光社会学とは何か	観光社会学とは何かという問いに対して社会学としての観光を考える　近代化と観光社会学および社会現象としての観光の構造に関して考察する
3回（5･6）	現代観光の特徴	マス・ツーリズムの出現と弊害～現代観光の特徴～新たな観光形態 観光の多様化へ
4回（7･8）	現代観光の特徴：新たな観光形態　観光の多様性	多様な観光形態を事例に観光について社会学的な視点を持つ
5 回（9･10）	現代観光の特徴：新たな観光形態　観光の多様性	文化、産業、家族、宗教等　多くの社会学領域が観光といかなる結びつきがあるかを検証する
6回（11･12）	現代観光の特徴：新たな観光形態　観光の多様性	観光に欠かせない多くの施設や文化装置について広く概観し各々が観光に果たす役割や課題を検証する
7回（13･14）	観光施設の社会性（観光の文化装置としての事例研究）	観光社会学総括　これからの観光を考える（湯布院を事例として）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習のために、毎回事前に講義用のレジュメを学習支援システムにアップする。講義後はコメントシート作成も兼ねて授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧し、授業時間以外に学修してもらうことを望む。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。ただし普段から社会全体で議論されている内容（報道等）には注意深くあって欲しい。

【テキスト（教科書）】
特には設けないが毎回作成配布するPPTを通して独自のノートを作成してほしい　文献等はその都度紹介していく

【参考書】
須藤廣・遠藤英樹『観光社会学 2.0』福村出版、2018年
遠藤 英樹、 堀野 正人、 寺岡 伸悟『観光メディア論 』ナカニシヤ出版、2014年
ジョン アーリ (著)、 ヨーナス ラースン (著)、加太 宏邦 (翻訳)『観光のまなざし』法政大学出版局、2014年
その他　講義内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点30点、レポート70点。

【学生の意見等からの気づき】
毎回提出いただくコメントシート又は対面による学生の感想・意見を授業に反映する

【Outline (in English)】
What is tourism sociology?　The purpose of this lecture is to continue to think about what tourism sociology means from the perspective of sociology.　Tourism sociology considers the origins of modern society by investigating the nature of tourism in modern society.　Therefore, this lecture deals with the "modern tourism" by grasping the cultural elements included in tourism.
Your overall grade in the class will be decided
based on the following:
- Class attendance and attitude in class: 30%
- Term-end examination reports: 70%

MAN510R1（経営学 / Management 500）

地域産業論

橋本　正洋

科目分類：**基本科目（選択必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、地域での産業の再生、興隆について学ぶ。このため、教授からのレクチャーで得た基本的知識を踏まえ、地方創生に実績のあるゲストを招いて話題提供をお願いし、実践的な講義と討議を行う。ここでは日本の地域における産業活動の実体を把握し、地方経済再生などを目指すために、どの様な政策・取り組みなどが必要かについて、理解を深める。

【到達目標】
日本の地域経済の状況を理解し、実務に応用可能な産業政策や企業の経営戦略などを立案・実行する能力をつけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
担当教授によるイントロダクション（第一回講義）に続き、全国的にも著名であり、具体的な地域産業興隆を進めているゲストスピーカーから担当教授の立ち合いのもと話題提供をお願いし、これを踏まえ担当教授による解説及びモデレートによるグループディスカッション及び全体討論を行う。当然のことながら全体討論のまとめが担当教員により行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	イントロダクション	地域産業の現状と課題について俯瞰する。
2回（3･4）	地域産業興隆の状況	地域経済興隆の先進的取り組みについてゲストスピーカーからの話題提供を基に教授と指導のもと討論する。担当教授によるイントロダクション（第一回講義）に続き、全国的にも著名であり、具体的な地域産業興隆を進めているゲストスピーカーから担当教授の立ち合いのもと話題提供をお願いし、これを踏まえ担当教授のモデレートによるグループディスカッション及び全体討論を行う。当然のことながら全体討論のまとめが担当教員により行われる。
3回（5･6）	地域産業の動向①	ゲスト講師による地域産業興隆のケーススタディの話題提供を基に教授の指導の下議論する。担当教授によるイントロダクション（第一回講義）に続き、全国的にも著名であり、具体的な地域産業興隆を進めているゲストスピーカーから担当教授の立ち合いのもと話題提供をお願いし、これを踏まえ担当教授のモデレートによるグループディスカッション及び全体討論を行う。当然のことながら全体討論のまとめが担当教員により行われる。
4回（7･8）	地域産業の動向②	ゲスト講師による地域産業興隆のケーススタディの話題提供を基に教授の指導の下議論する。担当教授によるイントロダクション（第一回講義）に続き、全国的にも著名であり、具体的な地域産業興隆を進めているゲストスピーカーから担当教授の立ち合いのもと話題提供をお願いし、これを踏まえ担当教授のモデレートによるグループディスカッション及び全体討論を行う。当然のことながら全体討論のまとめが担当教員により行われる。
5回（9･10）	地域産業の動向③	ゲスト講師による地域産業興隆のケーススタディの話題提供を基に教授の指導の下議論する。担当教授によるイントロダクション（第一回講義）に続き、全国的にも著名であり、具体的な地域産業興隆を進めているゲストスピーカーから担当教授の立ち合いのもと話題提供をお願いし、これを踏まえ担当教授のモデレートによるグループディスカッション及び全体討論を行う。当然のことながら全体討論のまとめが担当教員により行われる。
6回（11･12）	地域産業の動向④	ゲスト講師による地域産業興隆のケーススタディの話題提供を基に教授の指導の下議論する。担当教授によるイントロダクション（第一回講義）に続き、全国的にも著名であり、具体的な地域産業興隆を進めているゲストスピーカーから担当教授の立ち合いのもと話題提供をお願いし、これを踏まえ担当教授のモデレートによるグループディスカッション及び全体討論を行う。当然のことながら全体討論のまとめが担当教員により行われる。
7回（13･14）	まとめ	これまでの講義の内容を振り返り、地域産業のポイントをおさえる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常起きている経済活動や経済事象について関心を高め、それが地域産業とどのような関係にあるか、深く検討することが必要。すべての履修者は、そうした検討に基づいてプレゼンテーション、ディスカッションに参加することが求められる。本授業の準備・復習時間は、合計で5時間を標準とする。授業の内容により、準備または復習に重点を置くことに注意。復習結果を課題レポートとして提出する。

【テキスト（教科書）】
講義の際に配布する。

【参考書】
授業の進展に伴い、適切な参考図書等を提示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点(授業中の発表・ディスカッションへの参加等)（おおむね５０％)、プレゼンテーション（おおむね５０％）とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生からの評価に基づき、地域産業分析にかかる手法の講義も行う。

【学生が準備すべき機器他】
ゲストスピーカーが遠隔で話題提供を行う場合があるのでパソコンを持ち込むこと。

【その他の重要事項】
担当教員が資料を事前に提示するので、予習をしておくこと。

【Outline (in English)】
In this lecture, I will invite a guest who has a proven track record in the revitalization and prosperity of industry in the region, and give a practical presentation and sufficient discussion under professor's moderation. Here, we aim to deepen our understanding of what kind of policies and initiatives are necessary in order to grasp the reality of industrial activities in Japan's regions and to aim for regional economic revitalization.Naturally, the overall discussion will be summarized by the teacher in charge.

MAN510R1（経営学 / Management 500）

中小企業論

黒澤　佳子

科目分類：**基本科目（選択必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、わが国産業の競争力を支えてきた中小企業の構造的問題について、課題別に考察することをねらいとします。そこで、まずわが国中小企業の歴史的な変遷および国際比較を行いながら、中小企業の存在意義について明らかにします。その後、大企業との格差問題および下請中小企業問題を中心としながら、中小企業が地域経済の担い手やグローバル化に寄与していることについて考察していきます。

【到達目標】
①日本経済における中小企業の地位や役割について説明できる。
②大企業とは異なった中小企業の経営特性について説明できる。
③経営環境の変化に対応し、成長を続ける中小企業のマネジメントついて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義はテキストをもとに進め、補足資料についてはパワーポイントで示します。また、講義の内容をもとにしたディスカッションも行います。理解度を把握するため、定期的に講義の中でミニレポートを課します。講義内容に関する質問は、講義中以外にも、オフィスアワーやメール等で受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	中小企業の経営特性 中小企業の歴史	単に大企業を縮小したような存在ではなく、大企業とは異なった経営特性を持つ中小企業が、その経営特性を生かす道としてどのような事業分野があるのかについて。 産業革命から現代まで、世界における中小企業がどのように変化してきたのかについて。
2回（3･4）	海外の中小企業 中小企業問題と中小企業政策	海外では、中小企業がどのような地位を占め、どのような役割を担っているのかについて。 中小企業問題の本質とは何か、その解決のために講じられる中小企業政策の役割や体系について。
3回（5･6）	経営環境の変容と戦略マネジメント 資金難と財務マネジメント	企業を取り巻く経営環境が変容しているなかで、中小企業が長期的な戦略にもとづく経営に取り組む必要性について。 資金調達をはじめとした中小企業の財務マネジメントのあり方について。
4回（7･8）	分業構造の変容と下請マネジメント 企業間関係の変容とネットワーク・マネジメント	下請企業の構造的問題を解決するマネジメントについて。 経営資源に制約の多い中小企業が事業展開において抱える問題について。
5回（9・10）	産業構造の変容と地域産業マネジメント 世界市場の変容とグローバル・マネジメント	産業集積の戦略的な連携や他地域への進出、地域資源の有効活用について。 中小企業がグローバル化を行うことによって起きる問題について。
6回（11・12）	人材難と組織・人材マネジメント 後継者難と事業承継マネジメント	経営環境の多様な変化に適応していくための組織や人のマネジメントのあり方について。 中小企業に特有の事業承継リスクへの対応方法について。
7回（13・14）	研究開発力不足と製品開発マネジメント 既存事業の衰退と事業開発マネジメント	イノベーションによる中小企業の製品開発マネジメントの重要性について。 中小企業の事業開発上の経営課題と対応策について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習ではシラバスをもとにテキストや参考図書等を用い事前学習をしておいてください。復習では目安となる水準を講義中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
井上善海編著（2022）『中小企業経営入門』中央経済社（2,300円）

【参考書】
井上善海・黒澤佳子・田中克昌（2024）『事業創造入門』中央経済社（2,300円）
井上善海・遠藤真紀・山本公平（2022）『企業経営入門』中央経済社（2,200円）
中小企業庁編『中小企業白書』（各年度版）
その他、講義テーマごとに適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
本講義の３つの到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での発言・貢献度（50％）、講義内で課す課題レポート（50％）により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【Outline (in English)】
This lecture aims at considering the structural problems of SMEs that have supported the competitiveness of Japanese industries by subject. Therefore, while first making historical changes and international comparisons of SMEs, we will clarify the significance of SMEs. After that, we will consider the fact that SMEs are contributing to the regional economy and globalization, centering on inequality issues with large companies and subcontracting SMEs.

MAN510R1（経営学 / Management 500）

CSR論

佐々木　恭子

科目分類：**基本科目（選択必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Corporate Social Responsibility（CSR）は欧州連合が21世紀の新しい政策の1つとして打ち出したことをきっかけに全世界に拡がった概念であり、変化し続ける社会の中での企業と社会の関係性を問うものである。本授業ではCSRの基礎を学んだ後に、サステナビリティ、CSV（Creating Shared Value）、ESG、SDGs、パーパスなど、関連する領域に対する理解を深めることで、これらの現象について考察し、事例を用いた実践的な学びを提供する。

【到達目標】
CSR関連の様々な言葉に踊らされることなく、それらの本質的な意味を考察するための視座を身につけることで、企業と社会/ステークホルダーとの関係や各企業の取り組みを背景とともに分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
「学習支援システム」に授業資料を掲載するので、事前学習を励行して頂きたい。原則として、授業前半では理論とケースを学び、後半ではケースについてのグループ及び全体討議を行う。ケースを通じて、企業と社会の関わり方について実践的な学びを深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	イントロダクション〜CSRとは何か〜	・授業の目的と進め方 ・CSRの定義 ・ステークホルダー論
2回（3･4）	サステナビリティとCSR	・サステナビリティの定義 ・SDGsと企業活動
3回（5･6）	CSRと戦略・インパクト	・CSRとCSV ・ESG投資
4回（7･8）	CSRとレポーティング	・マテリアリティとは何か ・レポーティングの枠組みと制度化
5回（9・10）	パーパスとCSR	・企業理念とパーパス ・B Corpムーブメント ・創発型責任経営
6回（11・12）	中小企業とCSR	・社会的企業とCSR ・日本国内の事例
7回（13・14）	CSRへの批判とこれからのCSR	・CSRに関する4つの批判 ・CSRの未来

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（1）配布資料を事前に読んで、グループ討議で発言できるように準備する。
（2）授業を振り返り論点を整理する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布する。

【参考書】
國部克彦. (2017). CSR の基礎―企業と社会の新しいあり方. 中央経済社
Blowfield, M., Blowfield, M., &Murray, A. (2019). Corporate responsibility. Oxford University Press, USA.

【成績評価の方法と基準】
授業参加・授業貢献（４０％）、期末レポート（６０％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生から評価されたグループ討議を今年度も継続し、学生間で議論し考える時間を適切に確保する。また、教員と学生による双方向の授業スタイルを深化する。

【その他の重要事項】
ゲスト講師招聘などに伴い、授業計画を一部変更することがある。なお、ゲスト講師招聘の場合も、担当教員の責任で授業を行う。ゲスト講師によるグループ討議またはクラス討議を行う場合も、担当教員が取り纏めを行う。

【Outline (in English)】
Corporate Social Responsibility (CSR) is a concept that has become popular worldwide since the European Union launched it as one of its new policies for the 21st century. It questions the relationship between companies and society in a constantly changing society. In this class, students will learn the fundamentals of CSR and gain a deeper understanding of related areas such as sustainability, CSV (Creating Shared Value), ESG, SDGs, and Purpose. The class will discuss these trends and provide practical learning through case studies.

ECN520R1（経済学 / Economics 500）

ウェルビーイング論

高尾　真紀子

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2単位**
群／プログラム：**経済・社会・雇用**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、ウェルビーイングが国内外の政策や企業経営においても重要なテーマとして注目されている。身体的・精神的・社会的に良好な状態を示し、幸福、健康、福祉と訳されることもあるウェルビーイングについて、心理学、経済学、経営学など様々な領域で蓄積されてきた学術分野での研究成果を学び、地域や企業における実践事例を取り上げながら、人々がウェルビーイングを実現しながら生活し働くために、地域政策や企業経営においてどのような方策が必要かについて議論し、政策提言に必要な知識及び視点を養う。

【到達目標】
ウェルビーイングについての学術分野での研究成果、ウェルビーイングの測定、地域や企業における実践を踏まえ、ＥＢＰＭ（根拠に基づく政策形成）に資する政策立案・遂行に必要な知識や考え方を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
ウェルビーイングに関する学術的知見についてはできるだけデータに即した客観的な視点を提示し（講義）、地域や企業における実践についてワークショップやグループディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	イントロダクション：ウェルビーイングとは何か	ウェルビーイングの概念及び測定について学術的な知見を学び、ウェルビーイングとは何かについて議論する。
2回（3･4）	ウェルビーイングの規定要因	ウェルビーイング（幸福）に関する心理学、経済学からウェルビーイングの規定要因について学び、議論する。
3回（5･6）	ウェルビーイングに関する政策	世界各国及び日本におけるウェルビーイングに関する政策や指標について学び、政策のあり方について議論する。
4回（7･8）	お金とウェルビーイング（ワークショップ）	お金と幸せについてのワークショップを通じ、お金とウェルビーイングの関係について議論する。
5 回（9･10）	企業におけるウェルビーイング	人的資本経営、健康経営や生産性向上の観点からも注目されている働き方とウェルビーイングについての研究や実践例を学び、幸福な働き方について議論する。
6回（11･12）	地域におけるウェルビーイング	地域におけるウェルビーイングについて、人とのつながりや文化的な観点を含めて議論し、実践例を学ぶ。
7回（13･14）	課題発表	各自が関心を持つ領域におけるウェルビーイングを実現する政策（方策）について発表とディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ウェルビーイング（幸福、健康）は身近なテーマであり、自分の関心のある領域について参考図書に挙げた書籍を読んでおくと役に立つ。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回レジュメや参考資料を配布する

【参考書】
内田由紀子『これからの幸福について　文化的幸福観のすすめ』2020年、新曜社
大竹文雄 , 白石小百合 , 筒井義郎『日本の幸福度　格差・労働・家族』2010　　年，日本評論社
小塩隆士『「幸せ」の決まり方　主観的厚生の経済学』2014年，日本経済新聞社
キャロル・グラハム（多田洋介訳）『幸福の経済学』2013年，日本経済新聞出版社
経済協力開発機構『ＯＥＣＤ幸福度白書２―より良い暮らし指標：生活向上と社会進歩の国際比較』2015年，明石書店
島井哲志『幸福の構造 – 持続する幸福感と幸せな社会づくり　あなたの幸せは何に左右されているか？』2015年，有斐閣
ブルーノ・Ｓ・フライ（白石小百合訳）『幸福度をはかる経済学』2012年，ＮＴＴ出版
前野隆司『幸せのメカニズム－実践・幸福学入門』2013年，講談社現代新書
矢野和男『文庫　データの見えざる手　ウエアラブルセンサが明かす人間・組織・社会の法則』2018年，草思社文庫
矢野和男『予測不能の時代 データが明かす新たな生き方、企業、そして幸せ』2021年，草思社
山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学』2019年，光文社新書

【成績評価の方法と基準】
平常点（議論への参加・貢献）（30％）、各回の課題（20％）、最終レポート（50％）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の話し合いやワークショップによる気づきが得られたとの意見があり、グループディスカッションを積極的に取り入れていく。

【Outline (in English)】
In recent years, well-being has been attracting attention as an important theme in national policies and corporate management. In this course, we will study the results of research on well-being in various academic fields such as psychology, economics, and business administration. We will discuss what kind of measures are necessary in regional policies and corporate management for people to live and work with well-being , taking up practical examples in regions and companies, and cultivate the knowledge and perspectives necessary for policy proposals.

ECN520R1（経済学 / Economics 500）

実証分析入門

柿野　成美

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2単位**
群／プログラム：**経済・社会・雇用**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論文執筆においては先行研究を丁寧に読み解くことが不可欠である。本講義は、実証研究を行っている雑誌掲載論文を教材として取り上げ、論文の作法と分析の手法に慣れるとともに、論文ポイントを把握するための読解力を養成することが目的である。

【到達目標】
１．実証研究論文の構成と作法を理解すること、２．先行研究の分析結果の読み方を習得すること、３．各自が今後執筆する論文に関わる実証研究の先行研究を読み進められるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
実証分析を行っている査読論文を各自の関心に応じて選び、グループで論文のポイントとなる分析手法や結論の読み方を紐解き、論点を明確にする。授業で扱う論文は、教育、福祉、人材育成、男女共同参画、地域連携、環境など幅広く扱う。事前に用意した論文に目を通してから講義に臨むこと。なお、データ分析の実習は行わない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス 実証分析の基礎	実証分析の基本的な考え方について理解する。
2回（3･4）	実証分析論文の収集	図書館の国内外の論文検索機能について理解し、各自の関心に応じた実証分析論文を収集する。
3回（5･6）	実証分析の考え方①	相関係数、有意差検定の基本的な考え方について理解し、論文を用いてグループで討議する。
4回（7･8）	実証分析の考え方②	重回帰分析、ロジスティック回帰分析の基本的な考え方について理解し、論文を用いてグループで討議する。
5 回（9･10）	実証分析の考え方③	因子分析・主成分分析等の基本的な考え方について理解し、論文を用いてグループで討議する。
6回（11･12）	先行研究論文の発表と討議	自身の執筆論文に関連した、実証研究で構成された論文を選び、その分析手法、内容検討結果を発表、討議する。
7回（13･14）	先行研究論文の発表と討議	自身の執筆論文に関連した、実証研究で構成された論文を選び、その分析手法、内容検討結果を発表、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。事前に配布する論文を読んでから講義に出席することを前提とする。各自の研究分野に関する雑誌（査読論文が望ましい）にアクセスし、論文を検索する習慣を身につけることを勧める。

【テキスト（教科書）】
教科書はなく、教材を毎回配布する。教材は優れた実証分析で構成された学術論文を予定している。

【参考書】
浦上昌則・脇田貴文（2021）『心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方　改訂版』東京図書
小塩真司（2021）『第3版　SPSSとAmosによる心理・調査データ解析　因子分析・共分散構造分析まで』東京図書
小塩真司（2021）『研究事例で学ぶSPSSとAmosによる心理・調査データ解析』東京図書

【成績評価の方法と基準】
平常点　５０％
期末レポート　５０％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
毎回、パソコンを持参する。

【その他の重要事項】
教材で取り上げる論文は、回帰分析、因子分析などの量的分析手法を用いる研究が多いので、それらの考え方に慣れてほしい。

【Outline (in English)】
This course aims to enhance the ability to understand a paper through fast reading by familiarizing students with the structures and research methods of reviewed papers. Course materials will be mostly selected from established journals in Japanese focusing on empirical research on human resources, education, welfare, living economy, and consumer life.

MAN520R1（経営学 / Management 500）

雇用政策研究（マクロ）

石山　恒貴

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2単位**
群／プログラム：**経済・社会・雇用**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
労働市場において働く人々のキャリア形成支援、職業能力開発、若年・女性・高齢者・外国人などの雇用への対応をめぐる多くの施策の有効な展開は、日本における喫緊の課題であり、その雇用政策全般(マクロ）について検討する．少子高齢化，グローバル化，知識基盤社会化のなかで，雇用はどのような課題を担い、どのように対策を講ずることが適切であるかを考える。
様々な組織において、雇用・人事管理施策・人的資源管理にかかわる仕事を行う実務家、または，これらに興味のある人を念頭に，雇用とはいかにあるべきかを、総論的に検討する．ただし、雇用の実務に直接関係ない院生にも，雇用に関心があり、仕事経験があれば、もちろん履修可能である。

【到達目標】
雇用プログラムの入門的な位置づけにある科目。雇用・人事管理施策・人的資源管理の全体的な展望を得ていただくことを目的にする。現状、沿革、国際比較などについて、総論的な知識を獲得するとともに、雇用を考える際の勘所を養っていただくことを到達目標に置く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
雇用の歴史的背景、国際比較、職業能力開発、キャリア形成支援、日本的雇用など、広い視点から、多角的な検討を行う。
各回の授業は，講義と議論の両者を併用して進める．毎回のテーマにそって講義を進めたのち，関連した課題をめぐり，受講生がいくつかのグループをつくって議論し，その結果を報告し，相互に批判的な検討を加えるなどのディスカッションを行う．必要なコメントも最後に与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	雇用の定義、論点および、雇用の歴史	– そもそも雇用の定義、範囲は何を意味するのか。また、当たり前と思い込んでいる雇用の論点を、あらためて考え直してみる。また、日本型雇用はいつ形成されたのか、その歴史を探る。
2回（3･4）	日本的雇用と雇用の国際比較	そもそも、日本的雇用とは何を意味するのだろうか。通説は正しいのか。日本と他国を国際比較すると、本質的な共通点と違いはどのようなものだろうか か？
3回（5･6）	雇用の流動化、内部労働市場と外部労働市場	雇用の流動化の必要性が指摘されているが、そもそもその定義、また流動化がもたらすものとは？ さらに、労働市場の基本構造を考える
4回（7･8）	職業能力開発	職業能力開発とは、通常の人材開発となにが違うのか？ 環境変化を踏まえ、求められる職業能力開発を考える
5 回（9･10）	非正規雇用、新卒一括採用、女性活躍、兼業・副業など柔軟な働き方	非正規雇用という問題が注目されているが、その本質は何か？ 日本特有の慣行と言われる、新卒一括採用の是非を検討する。さらに、女性活躍について考える
6回（11･12）	兼業・副業と雇用によらない働き方	兼業・副業、フリーランスなど新しい柔軟な働き方はなぜ生じたのか、その効果と課題について分析する。
7回（13･14）	ミドル・シニアの働き方とまとめ	日本型雇用において、ミドル・シニアの現状はどのようなものか。その課題と今後の方向性を考える。さらに授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
雇用に関連した事項を広く勉強することが望ましいです。
1.必須文献として指定された本を選択し、書評レポートを書くこと
2.授業で配布される資料、論文などに目を通すこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書を使用しないが，以下に掲げる7冊から1冊を選び、書評レポートをお願いする（どちらも早目に入手するか、図書館で借りるように）．このほか別途に挙げる主な参考書，授業でその都度，必要に応じて紹介する文献などを参照していただく．また，毎回の授業にはレジュメや参考資料を配付する予定．
1.ピーター・キャペリ（若山由美訳）『雇用の未来』日本経済新聞社,2001年
2.清家篤『雇用再生―持続可能な働き方を考える』NHK出版,2013年
3.山田久『失業なき雇用流動化』慶応義塾大学出版会，2016年
4.永野仁『労働と雇用の経済学』中央経済社,2017年
5．川上淳之『副業の研究』慶應義塾大学出版会，2021年
6.小熊英二『日本社会のしくみ』講談社,2019年
7.西村純子・池田心豪『社会学で考えるライフ＆キャリア』中央経済社,2023年

【参考書】
・労働経済白書
・『日本労働研究雑誌』などの研究雑誌に掲載される論文

【成績評価の方法と基準】
評価は，①授業における議論の実施状況による得点（1回当たり5点満点で計35点満点），②2500字以上の長さの科目レポートの得点（65点満点）で，両者を足した総得点を規定による評価基準にそって評価する．ただし，これ以外に，必須の小レポートとして、書評レポートを課す．終了時に提出を求める科目レポートは，授業内容を自分なりに消化し，できるだけ自分の最終課題（修士論文テーマ）に引きつけて書くことが望ましい．

【学生の意見等からの気づき】
文献は、科目履修を決めた場合、出来るだけ早く図書館などで借り出すか、入手しておいていただきたい。なお、どうしても入手できない者のために、代替的な図書を指示することがある。

【学生が準備すべき機器他】
授業ではパワーポイントを使うことがある．

【その他の重要事項】

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of Employment Policy. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Employment Policy.
Goal
At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on employment, human resource management policies, and human resource management.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end reports : 65%、in class contribution: 35%

MAN520R1（経営学 / Management 500）

キャリア理論と統計分析

佐藤　雄一郎

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2単位**
群／プログラム：**経済・社会・雇用**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、修士論文を執筆する際にアンケートなどの量的調査を実施することを想定し、調査の実施方法、設問の作成方法、分析の手法、結果の読み取り方など、基本的な知識・スキルを学ぶ。また、最終的に量的調査を実際に行えるようになることを目標とする。学習の題材としてはキャリア理論に関する調査や論文を使用するが、あくまでも統計の理解を深めるための例示として用いるものである。そのため、キャリア理論以外のテーマを扱う場合でも問題なく学習できる。

【到達目標】
1.量的調査（アンケートの設計、実施、分析、結果の解釈）の一連の手法を理解し、自身の研究に活用できるようになる。
2.単純集計やクロス集計、t検定、分散分析、回帰分析などの基本的な統計手法を正しく用いて結果を読み解き、批判的に検証できるようになる。
3.統計分析を活用した論文や修士論文を理解・評価し、自分の研究テーマにも応用できる視点を身につける。
4.キャリア理論を題材とした調査事例を参照することで、量的調査の実践的なプロセスを把握し、学んだ統計手法を幅広いテーマに応用できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
各回の授業では、量的調査に関する基本事項を解説するとともに、授業支援システムを用いて受講者それぞれの研究テーマや調査内容を共有し、フィードバックを行う。さらに、グループワークを実施し、キャリアに関する調査や論文、量的調査を活用した修士論文の事例を解説することで、学習内容への理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	オリエンテーション / 量的調査実施の全体像	オリエンテーションでは、本授業の到達目標や成績評価の方法、授業の進め方を概説する。講義では、量的調査を実施する際の全体像を示し、本授業の方向性を提示する。
2回（3･4）	量的調査で実施できること /分析方法の全体像	量的調査を行うことで、修士論文執筆においてどのようなことが可能になるのかを説明する。あわせて、代表的な分析方法の種類と、それぞれで明らかにできることを示す。
3回（5･6）	アンケート調査の作り方	実際に行われたアンケート調査を例に取り、設問の作成手順や注意点について解説する。
4回（7･8）	統計の読み方・使い方① /単純集計、クロス集計、平均値、標準偏差など	量的データを分析する上で基本となる単純集計やクロス集計の読み取り方を中心に学ぶ。さらに、平均値などの代表値や分散、標準偏差についても理解を深める。
5回（9・10）	統計の読み方・使い方② /相関、χ^2 検定、平均の差の検定（t検定、分散分析）など	異なる対象群の比較を主眼に置き、統計的な差異を明らかにするための分析方法（主に多変量解析）を学ぶ。相関やχ^2 検定、t検定、分散分析などを扱う。
6回（11・12）	統計の読み方・使い方③ /（重）回帰分析など	原因と結果の因果関係を想定した分析手法（回帰分析）を中心に解説する。単回帰分析や重回帰分析を通じて、仮説の検証方法を理解する。
7回（13・14）	まとめ /量的調査を用いた修士論文を読む	これまでの内容を総括し、量的調査を用いた修士論文の具体例を確認することで、今後の修士論文執筆に向けた指針を示す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から論文や書籍に触れることが望ましい。授業で配布した論文や参考書をはじめ、関連する論文や書籍を読んでおくこと。
本授業では、準備学習１.5時間、復習時間１.5時間を標準とする。
統計学の知識に不安がある場合は、以下の本を事前に読んでおくことを推奨する。
・小島寛之『完全独習 統計学入門』ダイヤモンド社、2006年

【テキスト（教科書）】
授業では、レジュメと本授業用のテキストを配布し、これらをもとに進行する。必要に応じて、各テーマに関連する論文や調査報告書も配布する。たとえば、キャリア理論に関する文献として、キャリアレジリエンス、キャリアアダプタビリティ、キャリア焦燥感、キャリアプラトー、キャリア自律などを扱う予定である。ただし、本授業はキャリア理論自体を学ぶことを目的とするものではなく、あくまでも量的調査を実施する際の参考として、それらの論文を用いるものである。したがって、人的資源管理やキャリア論の事前知識がない院生でも問題なく履修できる。

【参考書】
・渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版、2018年
・宮本聡介・宇井美代子『質問紙調査と心理測定尺度』サイエンス社、2014年
・石山恒貴『越境的学習のメカニズム』福村出版、2018年
その他、必要があれば授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
次の配分によって成績評価を行う。
①平常点(授業への参加、グループワーク、課題) 30％
②最終レポート 70％

【学生の意見等からの気づき】
今年度から担当するため、現段階では特になし。

【学生が準備すべき機器他】
授業では、授業支援システムに各自が準備した課題や進捗状況をアップロードし、それを画面に投影して共有する予定である。そのため、パソコンを持参することが望ましい。

【その他の重要事項】
・最終レポートは手書きではなく、原則としてWordで作成し、授業支援システムを通じて提出することを求める。
・オフィスアワーは授業後に設けるとともに、メール等でも質問を受け付ける。
・授業の進め方や取り扱う題材は、履修する院生の状況やニーズに応じて柔軟に対応する。そのため、シラバスの内容や進め方が状況により一部変更になる場合がある。

【Outline (in English)】
In this class, students will acquire the fundamental knowledge and skills necessary for conducting quantitative research, including how to implement surveys, formulate questions, analyze data, and interpret findings. The overall goal is to enable students to incorporate quantitative research into their master's theses. The course will use surveys and papers on career theory as illustrative materials to deepen students' understanding of statistics; however, these examples are not restrictive. Therefore, students can still derive significant value from the class even if they plan to research topics other than career theory.

MAN520R1（経営学 / Management 500）

キャリア政策研究

岸田　泰則

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2単位**
群／プログラム：**経済・社会・雇用**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世の中の不確実性が高まるなか、個人のキャリア・マネジメントはますますその価値を高めている。本授業では、個人のキャリア・マネジメントについての理解を深めることを目的とする。授業では、一貫して働くことの意味を考えていく。授業では、主に組織行動論、キャリア心理学の概念を扱う。

【到達目標】
本授業では、個人のキャリア・マネジメントに関する課題への考察を通じて、働くことの意味を自ら考えるきっかけを得ることができる。さらには、キャリア・マネジメントの先行研究（質的研究）を自らのオリジナルな視点でレビューできることを最終的な到達目標とする。
By the end of the course,students should be able to do the following:
· Think about the meaning of work by themselves through consideration of career-related issues.
· Evaluate previous studies in terms of their metods,results,conclusions and implications.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
各回とも学生が分担して、先行研究（質的研究）をレビューし、その結果を発表する。その後、講師が先行研究の基本的な概念と研究方法について説明を加える。毎回、授業の後半でグループディスカッションを行い、グループごとにその結果を発表することで理解を深める。課題等に対するフィードバックは、授業内で適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	オリエンテーション	授業の目的・到達目標、そして、先行研究のレビューの仕方について説明する。中間発表のスケジュールを確定する。
2回（3･4）	ゲスト講演	キャリア政策の事例について、ゲスト講師から説明する。その後、ディスカッション、担当講師によるまとめを行う。
3回（5･6）	若年者のキャリア・マネジメント	若年者のキャリア・マネジメントについての理解を深める。
4回（7･8）	ミドル・シニアのキャリア・マネジメント	ミドル・シニアのキャリア・マネジメントについての理解を深める。
5 回（9・10）	女性のキャリア・マネジメント	女性のキャリア・マネジメントについての理解を深める。
6回（11・12）	フリーランスのキャリア・マネジメント	フリーランスのキャリア・マネジメントについての理解を深める。
7回（13・14）	グローバル人材（外国人を含む）のキャリア・マネジメントとまとめ	グローバル人材（外国人を含む）のキャリアマネジメントについての理解を深める。 授業全体のふりかえりを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として事前に指定された先行研究（論文）を読み、自らのオリジナルな視点でレビューをし発表することを課題とする。なお、課題は分担として、授業7回の中で1回は担当するようにする。本授業の準備学習・復習・宿題等の授業時間外の学習は、各回2時間を標準とする。
Students will be expected to read the previous study,review them from your own original perspective, and present your findings.　Before/after each class meeting,students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
各回の授業において、授業資料と論文（質的研究）を提示する。

【参考書】
近藤龍彰・浅川淳司『心理学論文解体新書―論文の読み方・まとめ方活用ガイド』ミネルヴァ書房　2022年

【成績評価の方法と基準】
次の配分によって成績評価を行う。
①平常点（授業への参加、グループ討議）30％
②各自が担当する発表(中間発表)　30％
③最終レポート　40％
　最終レポートとして、キャリア・マネジメントに関わる先行研究のレビューを
　3000字程度のレポートとして提出する。
Your final grade will be caluculated according to the following process:Usual performance score 30%,mid-term report 30％,and 40%final report.

【学生の意見等からの気づき】
授業の都度、学生から多くの発言が出るように工夫していく。

【学生が準備すべき機器他】
特にないが、授業時にPC等を利用することは構わない。

【その他の重要事項】
オフィス・アワーは、授業開始前と授業終了後とする。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acuquire an understanding of measures to encourage career management of workers.In this course,we will consider the meaning of work consistently.

MAN520R1（経営学 / Management 500）

地域雇用政策事例研究

石山　恒貴

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2単位**
群／プログラム：**経済・社会・雇用**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域における雇用につき国内の事例を調査研究する科目。先進的な事例、成功・失敗事例などの特色ある顕著な例を取り上げて多様なケーススタディを行う。
地域活性化における人材育成のあり方、コーディネーターのあり方、実践共同体などネットワークの構築方法についても議論する。
地域雇用のあり方を、事例を通じて検討していく。参加型で、受講院生自身が選択した地域について事例研究をし、報告することを求める。

【到達目標】
事例を通じて雇用を地域の観点から学習する科目。各人が特定の地域を選んで報告することが必須要件であるが、それを通じて地域と雇用とキャリアをみる視点が広がっていくことが主な目的となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
広い意味で雇用あるいは地域にかかわる仕事を行うか、または、これらに興味のある人を念頭に、地域雇用とはいかにあるべきかを、事例分析的に検討していく。
受講生がどこか一地域を担当して、その雇用の状況に関して、授業内で発表していただく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	地域雇用の定義と背景	そもそも地域雇用の定義、範囲、歴史とはどのようなものなのか、地域雇用の成功事例の共通点は何かを考える。
2回（3･4）	地域における創造的な人材の集積	地域雇用においては、如何に創造的な人材が集まるかによって、競争力が左右される。UIJターンを含め、創造的な人材を集めた成功例を考える。
3回（5･6）	地域のサードプレイスと関係人口	ゲスト講師の可能性もある。地域においては、その活性化においてサードプレイス（NPO、プロボノ、読書会など）や、よそものが地域に関わる関係人口という考え方が重要になっている。この新しい切り口を検討する。
4回（7･8）	働き方の形態と地域	地域においては、新しい柔軟な働き方が生じつつある。二地点居住、副業、ワーケーション、新しい自営など、働き方と地域について考える。
5 回（9･10）	地域雇用の対比 – 地域雇用の諸事例の対比と検討（その1）	地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する。
6回（11･12）	地域雇用の対比 – 地域雇用の諸事例の対比と検討（その2）	地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する。
7回（13･14）	地域雇用の対比 – 地域雇用の諸事例の対比と検討(その3）地域雇用の未来とまとめ	地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する、および授業の総括として地域雇用の未来を議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は以下のような事項に留意することが望まれる。
1．いずれかの地域を選び、その雇用状況と課題について、実地に調べること（その成果を授業中に発表していただく）
2．地域雇用政策をめぐる記事、番組などに注意を払うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業の都度配布する講義ノートによって行うので、教科書は使用しない。授業の際に、参考文献リスト等を配布することがある。

【参考書】
以下に掲げる主な参考書のほか、授業では地域雇用政策をめぐる各種論文、資料などを、その都度、必要に応じて紹介する。
石山恒貴編『地域とゆるくつながろう－サードプレイスと関係人口の時代』静岡新聞社　2019年
石山恒貴編『ゆるい場をつくる人々: サードプレイスを生み出す17のストーリー』学芸出版社　2024年

【成績評価の方法と基準】
①授業における議論の実施状況による得点（1回当り5点満点で計35点満点）、②各自が分担する地域雇用政策の事例研究の報告による得点（65点満点）の合計点を、規程による評価基準に沿って評価する。

【学生の意見等からの気づき】
地域をみる視点が変わってきたとの反応があるので、その到達目標には今年度も留意したい。

【学生が準備すべき機器他】
場合によってパワーポイントによる投影などを行う。事例発表の際にパワーポイントを用いるか、それともレジュメのみにて行うかは任意。

【その他の重要事項】
各人の事例研究報告が課されていることに留意して受講すること。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of Regional Employment Policy .At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of
Regional Employment Policy.
Goal
At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on employment and human resource strategies for regional revitalization.
Work to be done outside of class (preparation, etc.)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Presentation of case study assigned by each student: 65%、in class contribution: 35%

MAN520R1（経営学 / Management 500）

人材育成論

石山　恒貴

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2単位**
群／プログラム：**経済・社会・雇用**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営学における人材育成という観点で、キャリア理論も含めて幅広く議論する授業である。不確実で変化の激しい環境化において、従来のような長期的な安定を全体にした人材育成の考え方は通用しなくなってきている。そのような不確実な環境における人材育成のあり方を、人材育成理論とキャリア理論を踏まえて考察していく授業。
参加型とし、受講生自身が選択した人材育成に関する事例（企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など）について報告することを求める。

【到達目標】
不確実で変化の激しい環境化において、従来のような長期的な安定を全体にした人材育成の考え方は通用しなくなってきている。そのような不確実な環境における人材育成のあり方を、人材育成理論とキャリア理論を踏まえて考察できる視点を確立することを目的とする。また国際的な人材育成の視点を確立することも目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
人材育成とキャリアに関する幅広い理論と議論を紹介しつつ，日本の現在における人材育成を考える。また国際的な視点も考慮する。
各回の授業は、講義と議論の両者を併用して進める。毎回のテーマにそって講義をしたのち、関連した課題をめぐり、受講生がいくつかのグループをつくって議論し、その結果を報告し、相互に批判的な検討を加えるなどのディスカッションを行う。
参加型とし、受講生自身が選択した人材育成に関する事例（企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など）について報告することを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	人材育成の定義と能力開発	人材育成について議論を進めていくために、それらの基本的な考え方、基本用語の定義、理論枠組みなどを考える。また、能力開発の詳細についても、検討する。
2回（3･4）	キャリア理論	人材育成におけるキャリア理論の位置づけ、実務への応用、発展性について考える。
3回（5･6）	リーダーシップ理論	人材育成におけるリーダーシップ論の位置づけ、実務への応用、発展性について考える。
4回（7･8）	実践共同体と越境的学習	学習理論の発展とも深い関係がある実践共同体と越境学習について、特に状況学習論との関係で考える。
5回（9・10）	経験学習とジョブ・クラフティングおよび事例発表	学習理論において大きな比重を占める経験学習、および近年注目されるジョブ・クラフティングについて考える。さらに、受講者が、人材育成に関する事例を発表し、発表し、議論する。
6回（11・12）	事例発表	受講者が、人材育成に関する事例を発表し、議論する。
7回（13・14）	事例発表および人材育成の未来とまとめ	受講者が、人材育成に関する事例を発表し、発表し、議論する、および授業の総括として、人材育成の未来について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
いずれかの人材育成に関する事例（企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など）について調査し、授業内で発表する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回、授業で配布するパワーポイントをテキストとして使用する。

【参考書】
労働政策研究･研修機構『新時代のキャリアコンサルティング』2016年
石山恒貴『越境的学習のメカニズム』福村出版、2018年
石山恒貴『定年前と定年後の働き方』光文社、2023年

【成績評価の方法と基準】
評価は，①授業における議論の実施状況による得点（1回当たり5点満点で計35点満点），②各自が分担する事例発表の得点（65点満点）で，両者を足した総得点による。

【学生の意見等からの気づき】
理論の実務面への応用に受講者の興味・関心があるため、その点を重視して進める。

【学生が準備すべき機器他】
授業でパワーポイントを使うことがある。

【その他の重要事項】
受講者の事例発表が求められることにご留意いただきたい。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of Human Resource Development. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Human Resource Development.
Goal
At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on human resource development theory and career theory.
Work to be done outside of class (preparation, etc.)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Presentation of case study assigned by each student: 65%、in class contribution: 35%

ARSl520R1（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500）

地域コミュニティ論

中島　由紀

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2単位**
群／プログラム：**経済・社会・雇用**／
群／プログラム：**文化・都市・観光**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域コミュニティは多様な使われた方があり、その定義や理解も非常に多岐にわたる。本講義では、昨今使われている「地域コミュニティ」の本質を複数の観点から掘り下げていき、最後は最新事例をみながら考察を深める。
▼前半はコミュニティの理論の古典的概念とその変遷を整理していき、それらが日本社会でどのように扱われ、それによって社会生活の中でどのような位置づけで語られてきたかをみていく。
▼後半は、今日的「地域コミュニティ」の課題に焦点を当て、具体的な事例や現象から「地域コミュニティ」の何が問題で、どう解決していくべきかを考えていく。特に、コロナは私たちの生活や価値観に大きな影響を与え、この変化はコミュニティの在り方にも大きく影響を与えている。論点となるのはネット社会と新しいコミュニティ形成についてである。この点について考えていく。
▼最終回の2回は、ここ数年で激変している日本社会。これからの社会に求められているコミュニティの在り方を考えて、グループ討議する。

【到達目標】
①自身の問いが明確になり調査研究の方向性が固まること。
②自身の論文で「地域コミュニティ」を扱う場合に、コミュニティの何にアプローチし、どの観点から論じるのか、論点が明確になること。
以上の２点が到達できることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・講義形式を中心に、各回のテーマに沿った参考文献、資料、論文を読んだり、映像視聴や事例をみていき、適宜グループディスカッション形式も取り入れる。
・また、講義資料と参考論文から、社会科学でよくでてくるアンケート調査の統計処理方法を提示する。ここから、論文作成に必要な基礎的な統計データの読み方（主にクロス集計、多変量解析）について触れる時間も設けるので、各自論文作成に役立ててもらいたい。
・事前に読んでおいて欲しい資料は適宜提示する。その場合は、次の講義で同資料の輪読を中心にディスカッションを行うため必読である。
・毎回、講義終了時にコメントシートを配布するので、授業で得た気づきや疑問、論点整理などを記載して提出してもらうが、これが出席カードの代わりとなるので留意して記入いただきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	○イントロダクション ○コミュニティとは何か？ ―理論の系譜― ○近代から現代の変化	R.M.マッキーバー、F.テンニエス、ジンメル、ワース、バージェスらの古典的コミュニティの概念を整理する。 その上で、日本でいかに「コミュニティ」が捉えられ、議論されてきたか根幹を確認する。
2回（3･4）	○近代から現代 都市論からみたコミュニティ ○日本の共同体から都市化の変化	第１回に続き、コミュニティ論の変遷を都市論の観点でみていく。その上で、日本の共同体の概念から都市化を経た社会変化を背景に、現代的日本の課題は何かをディスカッションする。
3回（5･6）	○コミュニティ政策の変遷 ○自治体における地域コミュニティ活性化への取り組み	1970年代から始まった旧自治省のコミュニティ政策の変遷をたどり、政府が意図していたコミュニティの活性化と現実がどのように乖離したのか、なぜ乖離したのかを考えていく。本回は特に、町内会・自治会といった機能組織の側面からの変遷を捉えていく。
4回（7･8）	○コミュニティ参加の問題 ○「かかわり」の意識と「共同性」「公共性」の問題	日本のNPOや公共を担う団体組織の現状を概観し、どのような政策が進められてきたかをみていく。 ここから日本人の「個」と「共同性」「公共性」の問題について考える。人々の公共性はいかに醸成されるのか、行動につうすにはどうしたらいいのか。今日的コミュニティへの「参加」の問題を扱う。
5 回（9・10）	○日本人の生活と価値観の変化 ○「ウチ／ソト」「タテ／ヨコ」社会、「信頼と安心」 ○ネット社会がもたらしたコミュニティの変化	日本的生活様式、価値観はどのように変化してきたか。生活と価値観の変化は、そのまま「コミュニティの在り方の変化」と捉えることができる。 旧来型の地縁型コミュニティの特性は何か、その後のネット社会とコロナがあたえたコミュニティへの影響。今日的地域コミュニティの変化の問題を考えていく。
6回（11・12）	○「新しい地域コミュニティ」を考える ○関係人口、DAOといった新しい形のコミュニティ形成を考える	2020年以降のコロナ禍は、私たちの生活様式や価値観に大きな変化を与えた。さらに、ここ数年連続して起きている自然災害や、働き方が多様になり副業社会へと移行していきている日本。私たちの生活環境はここ数年で激変してきている。この社会変化の中で、コミュニティの存在意義を考える。これから求められているコミュニティの在り方は？ 特に、最近の新しいコミュニティの形として、関係人口創出事業やDAOについても触れる。 第６回は、これらの変化を念頭にグループに分かれてディスカッションし、各グループが描く「新しい地域コミュニティの在り方」をまとめていく。
7回（13・14）	○コミュニティの行方 ○新しいコミュニティの形はどこへ向かうのか？	第６回目でディスカッションしたグループの「新しい地域コミュニティの在り方」を発表。さらに、これからの日本社会における、新しい地域コミュニティの在り方を議論していく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義で参考資料や論文を配布するので、それらを次回講義までに必ず読了しておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

また、授業欠席者は資料を受取れるようにしておくため適宜キャッチアップして参加するのが望ましい。

【テキスト（教科書）】
以下の【参考書】の中で「●」は授業中に必ず使う。授業中に使う部分のみ一部をコピーして配布するが、全文を読了しておくことが望ましいです。

【参考書】
《必読》
●『安心社会から信頼社会へ』山岸俊男,1999（中公新書）
●『共同体の基礎理論』内山節,2010年（農山漁村文化協会）
●『生き心地の良い町』岡壇,2013（講談社）
『都市コミュニティの社会学』中村八朗, 1973（有斐閣双書）
『都市コミュニティ論』倉田和四生,1985（法律文化社）
『タテ社会の人間関係』中根千枝,1967（講談社現代新書）
『都市的共同性の社会学』中道實、神谷国弘,1997（ナカニシヤ出版）
『われらの子ども　―米国における機会格差の拡大』ロバート・D・パットナム,2017（訳（創元社）
『コミュニティを問いなおす』広井良典,2009（ちくま新書）
『集団と組織の社会学―集合的アイデンティティのダイナミクス』山田真茂留,2017（世界思想社）
『サードプレイス　「コミュニティの核になるとびきり心地よい場所」』レイ・オルデンバーグ,2013（みすず書房）

【成績評価の方法と基準】
・授業の参加とコメントシートの提出（60%）
・6回目のグループワーク＆7回目の発表（20%）
・最終レポート提出（20%）
※グループワークへの参加が難しい場合は個別取組みでの対応も可、但し事前に要相談

【学生の意見等からの気づき】
●今日的「コミュニティ問題」の扱い方について
コミュニティの変化は時代の変化に呼応している。本講義の後半は今日的「コミュニティの問題」を扱う訳であるが、本講義はシラバス公開後半年以上先の開講となるため、実際の講義は時代の変化に合わせた内容に適宜変更している。この時代感にマッチした内容の討議、事例の検討が学生からは非常に有益であったという意見があったため、今年度も継続して行う。
●毎年、講義以外に調査方法として多くの学生が良かった点で挙げてくれるのは以下の3点がある。実際にもらったコメントと併せて紹介する。
①コミュニティの歴史と年表について「コミュニティの概念を歴史を遡り各時代での意味と意義を考える行為は非常に参考になった。年表を作成して考えを整理する方法も、別のテーマでも応用できる」
②文献の探し方「国会図書館や公文書検索について「論文作成に非常に参考になった」
③統計データの探し方について「e-statは少しいじったことがあったが、具体的なリサーチ方法や入口を聞けて非常に役に立ちました」

【学生が準備すべき機器他】
授業で使う資料を都度、共有するため、各種資料を正確にダウンロードし一読した上での受講をお願いする。

【Outline (in English)】
The first half organizes the classic concept of community theory and its transition.From there, we will look at how it was treated in Japanese society.The second half will focus on today's "community" subject. With reference to concrete examples and phenomena, we will consider how to solve the "community".By the end of the course, students should be able to do the following:
· The point of discussion of the "community" will be clarified when preparing the paper.
· To be clear what you are focusing on in the ambiguous "community".
· Learn the basic knowledge of statistics used in questionnaire surveys.

ECN520R1（経済学 / Economics 500）

消費者政策論

柿野　成美

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2単位**
群／プログラム：**経済・社会・雇用**／
群／プログラム：**地域産業・企業**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
少子高齢化、デジタル化、グローバル化の進展の下で、複雑化・多様化する消費者問題に対し、消費者政策がどのように対応しているのか理解し、SDGs達成に向けた消費者政策の今後の在り方について検討する。

【到達目標】
身近にある消費者問題に気づき、具体的な事例をもとに消費者政策の現状について理解し、今後の在り方について検討できるようになることを目標とする。主な論点は、１．消費者被害とその対応、２．消費者の自立支援（消費者教育・啓発）、３.SDGs達成に向けた消費者と企業との共創（エシカル消費・消費者志向経営）である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義とディスカッションを中心に進める。授業前半では、消費者庁幹部等をゲストスピーカーに招聘する他、飯田橋にある東京都消費生活総合センターの実地調査を取り入れる。授業後半では、各自で消費者政策に関する具体事例を設定し、発表・討議を行い理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス	消費者政策の基本的な考え方や消費者政策の推進体制について学ぶ。
2回（3･4）	消費者の自立支援：消費者教育・啓発	学校、家庭、地域、職域における消費者教育の現状と課題について検討する。
3回（5･6）	地方消費者行政の実際（現地調査）	東京都消費生活総合センター（飯田橋）を訪れ、消費生活相談や自立支援策の現状と課題について学ぶ。最後に担当教員によるまとめを行う。
4回（7･8）	消費者政策の最前線（ゲストスピーカー）	消費者庁幹部をゲストスピーカーに招聘し、消費者政策の最前線について理解すると共に、これからの消費者政策の在り方についてディスカッションする。最後に担当教員からまとめを行う。
5 回（9･10）	消費者と企業の共創：消費者志向経営とエシカル消費	持続可能な社会に向けた企業と消費者の役割について具体的事例を用いて検討する。
6回（11･12）	個人発表・討議	消費者政策に関する具体事例を設定し、その現状と課題について発表・討議する。
7回（13･14）	個人発表・討議・まとめ	消費者政策に関わる具体事例を設定し、その現状と課題について発表・討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。日頃から新聞等に目を通し、消費者政策に関連ある諸課題に関心を持つようにすること。

【テキスト（教科書）】
『日本の消費者政策―公正で健全な市場をめざして―』樋口一清・井内正敏、創成社、2020年、2500円

【参考書】
『くらしの豆知識2022』国民生活センター編集・発行、全国官報販売協同組合
『消費者事件　歴史の証言』及川昭伍・田口義明、民事法研究会、2015年
『消費者教育の未来ー分断を乗り越える実践コミュニティの可能性』柿野成美、法政大学出版局、2019年

【成績評価の方法と基準】
レポート課題：50％、平常点：50％
毎回の講義における議論やリアクションペーパーへの記載等を平常点として評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】

【Outline (in English)】
This course aims to understand how the consumer policy is responding to the increasingly complex and diversified consumer issues under the declining birthrate and aging population, digitalization, and globalization. In addition, we will consider the remaining issues and the ways to solve them.

ARSl520R1（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500）

生活政策論

柿野　成美

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2単位**
群／プログラム：**経済・社会・雇用**／
群／プログラム：**地域産業・企業**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では公正で持続可能な社会の形成に向けて地域が抱える生活課題を取り上げ、その課題解決に向けた政策の在り方について議論することを目的とする。

【到達目標】
地域における生活課題を設定し、あるべき解決策に向けた政策を具体的に検討することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義とディスカッションを中心に進める。講義では具体的事例を紹介し、ゲストスピーカーによる講義を取り入れる。授業の後半では、各自で生活に関わる課題を設定し、その解決の方向性について発表・討議を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス	公正で持続可能な社会の実現に向けた生活政策が求められる背景を理解し、具体的な課題について検討する。
2回（3･4）	地域課題解決に向けたソーシャルデザイン（ゲストスピーカー：田中美帆氏）	地域における生活課題解決にデザインの力を活用したソーシャルインクルージョンや価値創造について検討する。最後に担当教員によるまとめを行う。
3回（5･6）	つながりを創るコーディネーターの役割	地域の関係者をつなぐコーディネーターの役割について、消費者教育コーディネーターの事例を通じて、連携・協働のメカニズムを議論する。
4回（7･8）	地域における生活政策の実務（ゲストスピーカー）	地域で生活政策に関わる実務家を招聘し、具体事例を理解する。
5 回（9･10）	生産者と消費者をつなぐ学習プログラムー「SDGs調査隊」を事例としてー	地元企業と小学生親子を対象としたプログラム「SDGs調査隊」を事例として、事業者と消費者の共創に向けた学習プログラム及び地域における消費生活の在り方について議論する。
6回（11･12）	発表・討議	生活課題を具体的に設定し、その処方箋ついて発表・討議する。
7回（13･14）	発表・討議・まとめ	生活課題を具体的に設定し、その処方箋ついて発表・討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。日頃から経済、社会に関する新聞、雑誌記事、ニュースなどを読み、政策に関する自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。「生活に関る政策の中で、私が考える最重要課題と解決のための処方箋」についてレポートを作成し発表する。

【テキスト（教科書）】
毎回、レジュメや参考資料を配布する。

【参考書】
○政府の白書
内閣府「高齢社会白書」「少子社会対策白書」「子供・若者白書」「障害者白書」「経済財政白書」
厚生労働省「厚生労働白書」「労働経済白書」
環境省「環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書」
消費者庁「消費者白書」等
○『消費者教育の未来―分断を乗り越える実践コミュニティの可能性』柿野成美、法政大学出版局、2019年

【成績評価の方法と基準】
授業中の議論への参加度（50％）、最終レポート（50％）を総合的に勘案する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to learn about the basic concepts that contribute to the realization of livelihood policies for the formation of a fair and sustainable society and to discuss the state of regional policies through specific examples.

ARSl520R1（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500）

男女共同参画政策論

池永　肇恵

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2単位**
群／プログラム：**経済・社会・雇用**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
性別に関わりなく能力が発揮できる男女共同参画社会は、誰にとっても暮らしやすい社会である。海外に比べて日本は男女共同参画で大きく後れをとっている。当授業では、様々な分野における男女共同参画の現状と課題、関連施策について学び、政策提言に必要な視点や知識を得ることを目的とする。

【到達目標】
男女共同参画に関するデータから日本の経済社会に潜むジェンダー（社会的・文化的な性別）のバイアスに気付き、ジェンダーへの感度を高める。家庭・職場・地域などで、多様な個人を尊重し性別にかかわりなく能力が発揮できる、いわゆるダイバーシティ,エクィティ&インクルージョンに向けた環境づくりに資する知識や視点を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
男女共同参画に関するテーマごとに、現状、背景、関連施策などを出来る限りデータを示して講義する。講義に加えて、受講生によるディスカッションにより、多様な視点の交換や課題解決の方策を検討する。
各回の講義については、疑問点、意見等をリアクションペーパーに記載し提出してもらう。提出されたリアクションペーパーは次回の授業で適宜取り上げ、全体にフィードバックする。
最終授業では、まとめとともに、受講生によるレポートの発表とディスカッションを実施する。
受講生の参加のしやすさを考慮し、オンライン（Zoom）講義を原則とするが、初回ガイダンスと最終日のレポート発表は対面とする予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	導入/経済分野	ジェンダーの概念、ジェンダーギャップ指数、男女の就業状況、女性活躍の経済への影響、関連法制度などを学ぶ。
2回（3･4）	政治分野/ハラスメント	女性議員の状況、政治分野に関する国内外の関連法制度、セクハラ、マタハラ・パタハラ、DVや性暴力など男女間の暴力の実態と対応策を学ぶ。
3回（5･6）	ワークライフバランス/法制度の中立性	家事・子育て・介護等と仕事のバランス、社会保障・税制・家族法制等が男女の行動に及ぼす影響を学ぶ。
4回（7･8）	健康・スポーツ/教育・科学技術	男女の健康・疾病状況、医療分野、教育・科学技術における女性の参画状況、多様性とイノベーションなどを学ぶ。
5回（9・10）	地域社会/防災	地域社会の様々な分野での担い手、意思決定過程、防災・被災現場・復興など各過程における女性参画の状況と意義を学ぶ。
6回（11・12）	国際動向と残された課題/最近のトピック	SDGsを含む国際的な関心の高まり、「意識」の問題、AIやコロナ禍の影響など新たな課題を学ぶ。
7回（13・14）	まとめ、レポート発表・ディスカッション	これまでの講義を振り返る。受講生が関心を持ったジェンダー課題とその対応策についてレポートを発表し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から経済、社会に関する新聞、雑誌記事、ニュースなどに接し、どのようなジェンダー課題があるか、必要な対応はどのようなものかに関して、自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回、レジュメを学習支援システムに事前にアップロードするので、受講生は事前にダウンロードし一読しておくこと。

【参考書】
内閣府「男女共同参画白書」
イリス・ボネット『ワークデザイン』NTT出版　2018年
キャロライン・クリアド＝ペレス『存在しない女たち』河出書房新社2020年
マシュー・サイド『多様性の科学』ディスカバー・トゥエンティワン　2021年
前田健太郎『女性のいない民主主義』岩波新書　2019年
山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学』光文社新書　2019年
牧野百恵『ジェンダー格差』中公新書　2023年
小西一禎『妻に稼がれる夫のジレンマ』ちくま新書　2024年

【成績評価の方法と基準】
レポート（70％）、平常点（30％）
毎回の授業におけるディスカッションへの参加やリアクションペーパーへの記載等を授業での学習や参加度（平常点）として評価する。
受講生自身が関心を持ったジェンダー課題とその解決のための処方箋についてレポートを作成し最終日に発表する。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションを通じて多様な背景からなる受講生の意見交換や情報共有を促したい。リアクションペーパーの提出期限は、受講生の受講スケジュールを考慮する。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン（Zoom）講義が受講できるように、Zoomが利用できる環境を整えること。

【その他の重要事項】

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire the necessary perspectives and knowledge needed for policy making through learning the current situation, challenges and related policy measures with respect to gender equality.

ARSl520R1（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500）

実践地方行政論

池永　肇恵

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2単位**
群／プログラム：**経済・社会・雇用**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
住民の暮らしに身近な存在である自治体は、国が決定した法制度の下で、地域の実情を踏まえて施策を推進する現場であり、日本が直面する人口減少、少子・超高齢化などの課題に対して、最前線で取組みを進めている。当授業では、地方行政が直面する課題を採り上げ、国の施策や先進事例に触れながら、自治体の様々な取組を学ぶ。

【到達目標】
生活者の目線で地方行政の課題と対応する取組を考察することで、自身が居住する、あるいは関心ある地域の課題を発見し、持続可能な地域づくりに主体的に関わる視点や知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
地方行政に関するテーマごとに、現状、背景、関連施策などを出来る限りデータを示して講義する。講義に加えて、受講生によるディスカッションにより、多様な視点の交換や課題解決の方策を検討する。
各回の講義については、疑問点、意見等をリアクションペーパーに記載し提出してもらう。提出されたリアクションペーパーは次回の授業で適宜取り上げ、全体にフィードバックする。
最終授業では、まとめとともに、受講生によるレポートの発表とディスカッションを実施する。
受講生の参加のしやすさを考慮し、オンライン（Zoom）講義を原則とするが、初回ガイダンスと最終回のレポート発表は対面とする予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	導入/人口減少の影響	地方公共団体の種類、国と地方公共団体の役割分担、人口減少のなかでの自治体運営の方向性を学ぶ。
2回（3･4）	財政/健康医療福祉	地方公共団体の財政の特徴や課題、介護・高齢化対応や健康増進、地域医療の課題を学ぶ。
3回（5･6）	商工・労働/農林水産業/地域公共交通	産業振興としての企業誘致、就労支援策の特徴、農林水産業のスマート化など担い手不足への対応、地域インフラとして重要な地域公共交通の動向を学ぶ。
4回（7･8）	生活インフラ/防災	老朽化や人口減少に対応したインフラの再構成、災害時、防災における行政の役割や取組を学ぶ。
5 回（9･10）	環境問題/文化・スポーツ・多様性への対応	ごみ行政、再生可能エネルギー、地域の特性を生かした文化・スポーツ、国籍・性別・障害などの多様性に配慮した取組を学ぶ。
6回（11･12）	住民参加/デジタル化	住民参加の意義や形態、地方議会の状況、行政手続や業務面などにおける自治体のデジタル化の動きを学ぶ。
7回（13･14）	まとめ、レポート発表・ディスカッション	これまでの講義を振り返る。受講生が関心を持った地域の課題とその対応策についてレポートを発表し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から経済、社会に関する新聞、雑誌記事、ニュース、自治体の広報などに接し、どのような地域の課題があり、自治体はどのような取組をしているか、課題と対応に関する自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回、レジュメを学習支援システムに事前にアップロードするので、受講生は事前にダウンロードし一読しておくこと。

【参考書】
総務省「地方財政白書」
大森彌・大杉覚「これからの地方自治の教科書」第一法規　2019年

【成績評価の方法と基準】
レポート（70％）、平常点（30％）
毎回の授業におけるディスカッションへの参加やリアクションペーパーへの記載等を授業での学習や参加度（平常点）として評価する。
受講生自身の居住地あるいは関心のある地域における課題とその解決のための処方箋についてレポートを作成し最終日に発表する。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションを通じて多様な背景からなる受講生の意見交換や情報共有を促したい。リアクションペーパーの提出期限は、受講生の受講スケジュールを考慮する。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン（Zoom）講義が受講できるように、Zoomが利用できる環境を整えること。

【その他の重要事項】

【Outline (in English)】
This course introduces challenges faced by local governments and their policy choices while referring to national government policies and examples of advanced cases.

ARSx520R1（地域研究（その他） / Area studies(Others) 500）

まちづくり事例研究

上山　肇

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2単位**
群／プログラム：**文化・都市・観光**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
具体的な都市や地域を対象として、資料収集やフィールドワークを行い、地域資源を活用した都市や地域のあり方を提示するとともに、今後の都市再生やまちづくりの手法を創造します。

【到達目標】
フィールド調査（あるいは資料分析）にもとづいた成果をまとめ、同時にプレゼンができる能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
これからのまちづくりは、都市や地域に積層する歴史や文化、また地域のコミュニティを活かしながら行っていくことが求められています。都市における既存の空間や景観に埋もれている資源、地域コミュニティ形成の実態を探るための調査や分析手法を学び、それらを表現する方法を習得します。学生による作品提出が課題となるため、受講生と相談したうえで授業を変則で行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス	当科目での課題について説明します。
2回（3･4）	テーマ設定	調査対象地（商店街、住宅地、公園、水辺、地域コミュニティの具体例等）を選定します。
3回（5･6）	事例研究及び作業①	各自の調査対象地の先行研究や情報について整理します。
4回（7･8）	事例研究及び作業②	各自の調査対象地の先行研究や情報について整理します。
5 回（9･10）	フィールド調査	調査対象地でのフィールドワークの結果について整理します。
6回（11･12）	事例研究及び作業③	各自の調査対象地の先行研究や情報について整理します。
7回（13･14）	発表	各自、事例研究及び作業の成果をプレゼンします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査対象地に関する資料収集とフィールドワークを行います。
本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
講義の中で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点50％、発言20％、作品30％で行います。

【学生の意見等からの気づき】
学生が時間内に課題（作品）を作成するための時間を確保しやすくできるよう授業を工夫する。

【Outline (in English)】
This course introduces the state of the city and the area utilized area resources, the technique of the city revival and the community development to students taking this course.

ARSk520R1（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 500）

比較都市事例研究

伴　宣久

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2単位**
群／プログラム：**文化・都市・観光**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
江戸から現代までの東京における各時代の都市政策の背景、課題、解決策を多角的に学びます。受講生は、ソフト・ハードの都市政策の変遷を学び、それを参考に自身で選んだ都市を、経営層になったつもりで特定のテーマに着目し今後の社会状況に変化に応じた新たな都市政策を提案します。

【到達目標】
・江戸から現代までの東京の都市政策を時系列で理解する。
・都市政策の課題解決策やその影響を多面的に分析する能力を身につける。
・将来の社会状況を考慮した政策提案を行うスキルを養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
江戸から東京の都市政策の変遷の歴史を講義し、その後、受講者によるディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス 講義（江戸時代の都市政策とその背景）	オリエンテーション 江戸の都市政策の特徴 ディスカッション
2回（3･4）	講義（明治初期の都市政策と東京の近代化）	東京の近代都市への転換 ディスカッション
3回（5･6）	講義（関東大震災後の復興と都市設計）	災害復興を通じた都市政策の進化 ディスカッション
4回（7･8）	講義（戦後復興と高度経済成長期の都市政策）	経済成長による都市政策の変革 ディスカッション
5 回（9・10）	事例研究（特別区のまちづくり）	特別区制度と東京のまちづくり政策の変遷 課題中間発表
6回（11・12）	講義（バブル崩壊後の都市政策と課題）	バブル崩壊の教訓と都市再生 ディスカッション
7回（13・14）	講義（今後のまちづくりの課題）	人口減少・高齢化・都市インフラの再編・サステイナブルなまちづくり 最終発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習・復習　3時間/各回　21時間
調査対象地に関する資料収集とフィールドワーク　8時間

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
東京の都市づくりのあゆみ（東京都）。
江戸・東京の「地形と経済」のしくみ（鈴木浩三、日本実業出版社）。東京都市計画物語（越沢明、ちくま書房）。東京都市計画の遺産（越沢明、ちくま書房）。
実践・自治体まちづくり学（上山肇編著、公人の友社）。その他については必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点50%、発言20%、作品（課題として取り上げる地域に関するパワポによるポスター製作）30%で行います。

【学生の意見等からの気づき】
学生が作品（課題として取り上げる地域に関するパワポによるポスター）製作に時間がさけるよう授業を工夫する。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
In this course,Students will learn the background from Edo to modern Tokyo and challenges and solutions of the urban policies of each period from various perspectives. Students will also learn about the changes in software-hardware of the city policies and use them as a reference to propose new city policies that will change according to future social conditions by focusing on specific themes with the intention of becoming a mayor.
[Grading Criteria /Policy]
Your final grade will be calculated according to the following process: Attendance (50%), Comment (20%), and Work production(30%).

ARSl520R1（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500）

コミュニティーメディア論

北郷　裕美

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2単位**
群／プログラム：**文化・都市・観光**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域社会を含む様々なコミュニティに帰属する一人の市民として、各々が多様な活動を行う際の、異なったセクター同士を結ぶコミュニケーションツールとしてのメディアの在り方、捉え方を考える。メディアも時代とともに多様化し、インターネットの普及でグローバルな発信のメディアとして市民が活用する機会・環境も生まれてきた。そこで市民社会(特に地域社会)の課題を前提に、如何様にコミュニケーション手段としてのコミュニティーメディア、市民のメディアを捉えるべきか，を考える。

【到達目標】
本講義は毎回テーマ文脈を埋めながらメディア・コミュニケーションの歴史等も時系列的に捉えなおし、最終的に、受講者に市民メディアの役割を理解してもらうとともに、理想的な市民社会のコミュニケーション・モデル(規範モデル)を考えることを目標とする。現状認識としてマス・メディアと市民メディアの定義や機能・役割の違い、及び課題に焦点を当て比較検討し、その視点を基にメディア相互の特性や機能についても考察していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に講義は対面、オンラインどちらの場合も、パワーポイント及びウェブサイト・リンクや視聴覚教材を使った形式を取る。必要に応じて音声や画像、You tube、DVD動画の視聴等も取り入れる。授業計画にあるような全体を繋ぐテーマを毎回設定しているため、講義後に提出いただく受講生のコメントや質問からピックアップした内容を基に、毎回講義内容を反映したQ＆Aやディスカッションも盛り込もうと考えている。これらのことは講義における双方の重要なコミュニケーションの一つと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス～地域情報・コミュニケーションの過去と現在（失われた空間の意味するところ）：マス・メディアの発展と限界	本講義の前提となる社会状況を俯瞰する：高度経済成長期の花形メディアは今いかなる状況にあるかを考える
2回（3･4）	市民メディアの種類と歴史：パブリックアクセスを学ぶ	多様なコミュニティメディアの役割を時系列で総論的に扱う：市民メディアのキーワードである『パブリックアクセス』について考える
3回（5･6）	映画視聴①：ディスカッションと解説	米国映画 (Public Access）を視聴する：米国映画(Public Access）についての意見交換と解説
4回（7･8）	映画視聴②：ディスカッションと解説	邦画(コミュニティ放送前夜の時代を描いた作品）を視聴する：日本のコミュニティ・メディアを念頭に映画についての意見交換と解説
5 回（9・10）	動画視聴講義 コミュニティ放送を観る：コミュニティ放送の概要と機能　公共性指標	日本のコミュニティFM放送を取材したNHKドキュメンタリーほか動画視聴　意見交換と解説：北海道のコミュニティFM放送調査を事例に解説
6回（11・12）	メディアと防災～コミュニティ放送を事例に	実際に起きた様々な事例より、コミュニティメディアの防災側面や　リスク最大値からの教訓を考える
7回（13・14）	コミュニティFM放送の組織経営課題「動画視聴講義」メディアリテラシー	コミュニティFM放送の組織経営の在り方と課題：コミュニティメディアの将来的な課題を探る テロ事件をテーマとした映像を用いてメディアリテラシー全般について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習のために、毎回事前に講義用のレジュメを学習支援システムにアップする。講義後はコメントシート作成も兼ねて授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧し、授業時間以外に学修してもらうことを望む。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。ただし普段から社会全体で議論されている内容（報道等）には注意深くあって欲しい。

【テキスト（教科書）】
･『コミュニティFMの可能性: 公共性・地域・コミュニケーション―』(北郷裕美著　青弓社）
･『市民が育む持続可能な地域づくり』（北郷裕美（第1章） 共著　同時代社）

【参考書】
･『日本のコミュニティ放送－理想と現実の間で－』（北郷裕美 共著　晃洋書房）
･『新・公共経営論』（北郷裕美 共著　ミネルヴァ書房）

【成績評価の方法と基準】
平常点 30％、レポート試験 70％を原則的な配分として評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回受講生のコメントや質問を参考にしながらその内容を具体的な事例を中心に講義内で反映しディスカッションを深める。

【学生が準備すべき機器他】
講義は原則としてPPTを用い、毎回PC機器、視聴覚機器（DVD等）を使ったスクリーン・プレゼンテーション型の講義を行う。受講生がPCを用意して講義ノートを作成することは差し支えない。

【Outline (in English)】
The purpose of this lecture is to think about how community media as communication means should be grasped on the premise of the problem of civil society (especially local, regional community).
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
- Class attendance and attitude in class: 30%
- Term-end examination reports: 70%

ARSl520R1（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500）

都市文化論

増淵　敏之

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2単位**
群／プログラム：**文化・都市・観光**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市と文化の関わりについての議論を学際的に行っていくが、基本的に経年的なアプローチを重視していく。都市の拡大とともに変容していく文化の諸相の考察が本授業のテーマになる。学生には都市文化を学んでいくための幅広い知識の習得を期待している。

【到達目標】
都市論の様々な議論を前提にした文化創出の政策的な手法、方法を理解することを到達目標としたい。とくに都市政策の面においても文化の活用は重要になってきているので、学生は具体的な事例を知識として習得することが必要で、それを自分なりに多角的に考察する姿勢を身につけて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
都市政策を考える上で、都市が内包する文化を把握することが極めて重要である。特にコミュニティ形成や新たな産業創出の上でも比重が高まってきているといえるだろう。本授業では1960年代以降に日本で盛んになってきた都市論全般を見ていくことから始めていくが、特に文化との関係性の強いものを中心に取り上げていく。文化面が強調されていくのは1980年以降になるが、前田愛、吉見俊哉などのいわゆるテクスト分析型の都市論、そして1990年代以降のカルチュラルスタディーズ、文化社会学領域での都市論までを概観していく。また都市文化を象徴する都市装置（劇場、映画館、カフェなど）にも着目、都市文化の生成に果たした役割も見ていきたい。ポップカルチャーもひとつの都市の文化として扱っていく。状況によっては授業内容の変更もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンスと都市論の系譜/Genealogy of guidance and urban studies	都市文化に関する基礎知識/Basic knowledge about urban culture
2回（3･4）	近代においての都市形成と博覧会の果たした役割/The role played by urban formation and expositions in modern times	都市形成とイベント/City formation and events
3回（5･6）	「考現学入門」解読とカフェ論/Deciphering "Introduction to Thinking and Learning" and Cafe Theory	フィールドワークの事例紹介と都市文化装置としてのカフェ/Case study of fieldwork and cafe as an urban cultural device
4回（7･8）	百貨店論、東京への文化的装置の集中/Department store theory, concentration of cultural equipment in Tokyo	都市文化装置としての百貨店、文化装置の東京への集中過程/Department store as an urban cultural device, the process of concentrating cultural devices in Tokyo
5回（9・10）	東京への文化的装置の集中、映画や小説の中の東京/Concentration of cultural equipment in Tokyo, Tokyo in movies and novels	文化装置の東京への集中過程、映画や小説の中に見る東京の変容/The process of concentration of cultural equipment in Tokyo, the transformation of Tokyo seen in movies and novels
6回（11・12）	アジアの諸都市/Asian cities	アジアの諸都市にみられる文化の変容を見ていく、例：バンコク、マニラ/Look at the cultural transformations of Asian cities, eg Bangkok, Manila
7回（13・14）	都市と異文化受容、都市というメディア/The media of cities, cross-cultural acceptance, and cities	異文化の受容による都市文化の変容、都市をメディアととらえるアプローチ/Transformation of urban culture by accepting different cultures, approach to seeing cities as media

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習をしてきてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。状況に応じて授業内容の変更もあります。

【テキスト（教科書）】
レジュメを使用

【参考書】
授業中に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、レポート70％

【学生の意見等からの気づき】
都市文化を地域再生に結びつける方策について適宜、議論していく。授業の内容も適宜、工夫していく。

【学生が準備すべき機器他】
PC.DVDの使用もある。

【その他の重要事項】
多少、内容等が変わる可能性もある。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。オフィスアワー：月16－18時。

【Outline (in English)】
Discussions on the relationship between cities and culture will be conducted interdisciplinaryly, but basically we will emphasize aging approaches. The theme of this lesson is the consideration of various aspects of culture that transforms as the city expands. I expect students to acquire a wide range of knowledge to learn urban culture.

TRS520R1（観光学 / Tourism Studies 500）

観光開発論

北郷　裕美

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2単位**
群／プログラム：**文化・都市・観光**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
観光開発、観光振興、地域振興の全体を俯瞰しながら、地域の観光化の功罪についても考察する。観光の歴史や観光産業の実態を検証しながら、観光は生活文化主体の地域文化であることを再確認する。さらにこの問題を最終的には政策や制度の問題と結びつけて観光開発のこれからを考える。

【到達目標】
この授業では、観光開発がもたらす社会問題に目を向け、それを観光地住民の課題として考える。観光開発の功罪という両側面から見ることで、最終的には、観光文化の意義、意味をネガティブなものからポジティブなものへと転換し、観光地住民の手で観光を創造するにはどのような方法があり得るのか、あるいはどのように支援することができるのかを学修する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
各自の論文執筆にどう活かせるかを学ぶ。教員のこれまでの具体的な調査活動や研究実績を基にして、基本的に座学で行うが、各自の研究テーマに沿った形でディスカッションを試みたい。具体的な講義形式は、毎回スクリーンにパワーポイント及びウェブサイト・リンクを投影しておこなう。必要に応じてレジュメの配布（学習支援システムに事前アップ）、板書、音声や画像、DVD動画の視聴等も取り入れる。また課題提出を毎回課す。詳細はガイダンス時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス　観光開発とは	最初に授業全体を概観し、本講義の目的や到達点を確認する 観光開発とは何かという原点を共有する
2回（3･4）	観光開発における功と罪　地域創生における観光	観光の意味を再確認しながら観光化におけるメリット、デメリットを考察する 観光資源の在り方を通して地域創生の課題を考える
3回（5･6）	サスティナブルツーリズム	現在盛んに語られているSDGsについて再考し、それと観光の関連を通して「サスティナブルなツーリズム」の意義、意味を考える
4回（7･8）	日本の観光開発の歴史	明治期から現在に至るまでの日本の観光開発の歴史を俯瞰していく 過去から現在、未来へとその足跡を辿っていくことで観光開発について再考する
5回（9・10）	観光産業の成り立ち	「旅行業」の在り方に関して、産業面での捉え方を前提に具体的な交通手段、宿泊施設について「観光産業論」として検証する
6回（11・12）	交通機関と宿泊機関を概観する	観光開発の主軸となる、交通機関と宿泊機関の全体を総括する
7回（13・14）	ホスピタリティと観光これからの観光行政を考える	「おもてなし」の意味を再検証し、正しく「ホスピタリティ」について考える　地域振興との関連から、観光を政策や制度面から捉えなおし、観光政策を取り巻く現状を踏まえた「観光開発のこれから」を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習のために、毎回事前に講義用のレジュメを学習支援システムにアップする。講義後はコメントシート作成も兼ねて授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧し、授業時間以外に学修してもらうことを望む。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。ただし普段から社会全体で議論されている内容（報道等）には注意深くあって欲しい。

【テキスト（教科書）】
特には設けないが毎回作成するPPTを通して独自のノートを作成してほしい　文献等はその都度紹介していく

【参考書】
以下一部ではあるが紹介する
ジョン・アーリ、加太宏邦訳『観光のまなざし―現代社会におけるレジャーと旅行』法政大学出版、1995年
須藤廣、遠藤英樹『観光社会学2.0―拡がりゆくツーリズム研究』明石書店、2018年
長谷政広『観光振興論』税務経理協会1998年

【成績評価の方法と基準】
平常点30点、レポート70点

【学生の意見等からの気づき】
コメントシート又は対面による学生の感想・意見を聞きながら授業を行う

【Outline (in English)】
With overlooking tourism development, tourism promotion, and regional promotion, we consider the advantages and disadvantages of regional tourism.　In addition, in this lecture, it is important to examine the history of tourism and the actual situation of the tourism industry.　Therefore, it is possible to reconfirm that tourism is a local culture centered on daily life.　Ultimately, we will consider the future of tourism development by linking this issue with policy and system issues.
Your overall grade in the class will be decided
based on the following:
- Class attendance and attitude in class: 30%
- Term-end examination reports: 70%

BSP520R1（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 500）

フィールドワーク論

北郷　裕美

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2単位**
群／プログラム：**文化・都市・観光**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、フィールドワーク(現地調査）の理論と基本技術を身に付けることを目的とする。この講義では基本的に「質的調査」に軸足を置く予定である。

【到達目標】
フィールドワークの技法にはさまざまな種類があるが、まずはそれらを体系的に理解し、最終的には各自の研究テーマに合った調査法を選択すべきである。論文執筆にあたり、全体構成の中でフィールドワークの役割と位置づけを構築し、実践できるようになることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
フィールドワークには様々なアプローチがあるが、論文執筆にそれらをどう生かすかについて学んでもらう。具体的な講義形式は、毎回スクリーンにパワーポイント及びウェブサイト・リンクを投影しておこなう。必要に応じてレジュメの配布（学習支援システムに事前アップ）、板書、音声や画像、映画、DVD動画の視聴等も取り入れる。また課題提出を毎回課す。また、ワークショップも実践したい。詳細はガイダンス時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス　フィールドワークの基本①	授業の目的と到達目標を確認し、講義全体を俯瞰する 質的研究（調査）の再評価を中心に歴史や意義を学ぶ
2回（3･4）	フィールドワークの基本②	エスノグラフィーを基に、フィールドワークの理論や概念、仮説の立て方等を学ぶ
3回（5･6）	フィールドワーク事例①	『映画視聴から学ぶ』 理論に基づいた事例研究に際し、方法論（調査技法）の長所短所について検証する
4回（7･8）	フィールドワーク事例　②	多様なフィールドワーク事例より、参与観察等を通して手法の実際を学ぶ
5 回（9･10）	フィールドワークの実践的なリアリティ	オンラインによる調査・フィールドワークについて考える
6回（11･12）	CASE　STUDY(事例をもとに学ぶ)	フィールドワークの分析手法について『暴走族のエスノグラフィー（佐藤郁哉著)』を用いて多角的に解説する
7回（13･14）	総括　ワークショップ	グループ型のワークショップ形式で具体的なフィールドワーク事例を基に、課題や改善点を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習のために、毎回事前に講義用のレジュメを学習支援システムにアップする。講義後はコメントシート作成も兼ねて授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧し、授業時間以外に学修してもらうことを望む。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。ただし普段から社会全体で議論されている内容（報道等）には注意深くあって欲しい。

【テキスト（教科書）】
特には設けないが毎回呈示するPPTを通して独自のノートを作成してほしい

【参考書】
佐藤郁也(2008)「質的データ分析法―原理・方法・実践』新曜社
佐藤郁哉（1984-2011）『暴走族のエスノグラフィー』新曜社
はか多くの参考文献は講義中に適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点30%、レポート70%

【学生の意見等からの気づき】
コメントシート又は対面による学生の感想・意見を聞きながら授業を行う

【Outline (in English)】
The aim of this lecture is to acquire the theory and basic techniques of fieldwork (fieldwork).This lecture will basically focus on qualitative research.
Your overall grade in the class will be decided
based on the following:
- Class attendance and attitude in class: 30%
- Term-end examination reports: 70%

TRS520R1（観光学 / Tourism Studies 500）

観光マーケティング論

青木　洋高

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2単位**
群／プログラム：**文化・都市・観光**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「観光」は不況、人口減少、高齢化など厳しい環境下におかれた我が国にとっての救世主として注目されている領域である。とりわけ疲弊した地方都市の「活性化」という側面ではその期待も大きい。
一方で、旅行者のニーズは多様化し、さらにインターネットの普及で旅行者個人による情報収集や手配が可能になり旧来の旅行代理店の優位性が崩れつつあるほか、地域の実態に即した「持続可能な観光」形態が求められてきたことなど、時代の変化による様々な要因を背景にその観光スタイルも変化しつつある。これら多種多様な旅行者のニーズを的確に捉え、旅行者の満足を最大化し、「持続可能な観光」を維持、発展させるためには「マーケティング」の発想が欠かせない。この授業では、「マーケティング」についての基礎的な理論を把握したうえで、観光産業における具体的な事例を交えながら、そのプロセスを学習していく。

【到達目標】
観光マーケティングの基礎的な理論を習得し、その役割や重要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
観光マーケティングの理論を考察する。観光産業における具体的な事例を積極的に紹介し、ケーススタディを交えながら進めていく。共通テーマでのディスカッションなどを取り入れた双方向な授業を目指す。
講義のなかで複数回、実務者のゲスト講師を迎えて講義・討議を行う（詳細は初回講義時に説明。そのため授業計画の順序は変更になる場合がある）。なお、その場合も担当教員が取り纏めを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス、授業の進め方	観光マーケティングとは何か、観光の「いま」を知る。
2回（3･4）	デスティネーションにおけるマーケティング戦略①	具体的事例をベースに各地域の取り組みと課題を考察する。
3回（5･6）	航空会社におけるマーケティング戦略	激動の航空業界の現況を理解する。ＬＣＣとＦＳＡ、プライシング戦略など。
4回（7･8）	鉄道会社におけるマーケティング戦略	観光需要の創造、地域振興に対する鉄道会社の取り組みを把握する。
5 回（9･10）	旅行会社におけるマーケティング戦略	旅行会社のプロモーション戦略、旅行商品の流通、これからの旅行業界の姿などを学ぶ。
6回（11･12）	宿泊施設におけるマーケティング戦略	多様化するホテル、旅館業界について学ぶ。宿泊施設の収益モデル、外資系ホテルの参入など。
7回（13･14）	デスティネーションにおけるマーケティング戦略②	具体的事例をベースに各地域の取り組みと課題を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で取り扱った内容を各自の研究テーマとリンクさせながら復習し、次の講義に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
レジュメを中心に授業を進める。

【参考書】
講義の中で、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、レポート70％。

【学生の意見等からの気づき】
各回の冒頭で理解の確認を図るための振り返りの時間を確保したい。

【その他の重要事項】
一部講義をオンラインで行う場合がある。

【Outline (in English)】
“Tourism” is a field currently gaining a significant attention as a savior of Japan in the tough environments such as economic depression, population decline, and aging. In particular, it has particularly large expectations for the aspect of “Revitalization” in exhausted local cities. On the other hand, needs of tourists become diversified and traditional travel agencies have been losing their advantageous grounds due to information collection and travel arrangement by each individual tourist himself through the wide spread of the Internet while the tourism style itself has also been changing on the background of various factors with the change of the times such as requiring a form of “Sustainable tourism” in harmony with actual local conditions. It will absolutely need a concept or idea of “Marketing” when accurately comprehending a large variety of tourist needs, maximizing the tourist satisfaction, and then developing “Sustainable tourism”. In this class, on the basis of understanding the basic theory of “Marketing”, you will learn the process of tourism industry by examining particular cases in the industry.

MAN520R1（経営学 / Management 500）

地域経営戦略論

橋本　正洋

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2単位**
群／プログラム：**地域産業・企業**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、教授からの俯瞰的な講義に加え、霞が関及び地方の政策責任者をはじめ、地域政策研究の第一人者、地方創生の担い手、地方の産業指標の見える化の専門家をゲストに迎えて話題提供をお願いし、地方創生に必要な取り組みを経済産業政策、企業経営戦略などの側面から多面的に考える。これにより、得た内容を実務（政策立案・運営、企業戦略）に活かすことを目指す。

【到達目標】
具体的に、日本経済の状況を踏まえたうえで、各地方における政策、取り組みなどを把握し、どのような成功例、課題があるかを理解することを目指す。その上で、地方経済再生のための戦略論を考察することを目指す。特に、地域経営とは何か、受講者自らが定義を示すことが重要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
イントロダクションにより地域経営戦略に関する概要を理解したうえで、官界、学界、実践家の第一人者からの話題提供を受け、担当教授の指導の下グループディスカッション及び全体討議を行い、今後の地方行政、政策運営、企業の経営戦略などに必要な発想、取り組みを考察する。
当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	イントロダクション	地域経営戦略とは何か。
2回（3･4）	地域経営と政策	ゲスト講師からのプレゼンテーションを基に、わが国の経済政策（マクロ、地方振興策など）の方向性、特徴を担当教授の指導の下確認する。その中で、地方の活性化、地方創生などのためにどのような政策が行われているか理解する。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。
3回（5･6）	地域経営戦略①	地域政策研究の第一人者からの話題提供を基に担当教授の指導の下議論する。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。
4回（7･8）	地域経営戦略②	国の地域イノベーション政策担当責任者からの話題提供を基に、地域におけるイノベーション創生の議論を担当教授の指導の下行う当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。。
5回（9･10）	地域経営戦略③	地域行政の責任者を招き、地域行政の進め方、課題についての話題提供に基づき担当教授の指導の下議論する。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。
6回（11･12）	地域経営戦略④	地域の様々なデータの分析手法について専門家からの話題提供を受け担当教授の指導の下演習を行う。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。
7回（13･14）	まとめ	担当教授の指導の下、一連の講義を通して、地域地方経営に必要な政策等を受講者間で議論する。また、地域経営に関する疑問を解決し、更なる学習への橋渡しを行う機会とする。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常起きている経済活動や経済事象について関心を高め、それが地方の経済、社会動向などと、どのような関係にあるか、深く検討することが必要。すべての履修者は、そうした検討に基づいてプレゼンテーション、ディスカッションに参加することが求められる。また毎回課題レポートを提出する。

【テキスト（教科書）】
教員、ゲストから資料を提示する。

【参考書】
授業の進展に伴い、適切な参考図書等を提示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点(授業中の発表・ディスカッションへの参加等)（おおむね５０％）、プレゼンテーション（おおむね５０％）とする。

【学生の意見等からの気づき】
グループディスカッションへの積極的参加が重要。
地域経営戦略分析に有効な手法に関する講義を含む。

【学生が準備すべき機器他】
一部遠隔講義がありうるので、パソコンを持参すること。

【その他の重要事項】
今年度限りの貴重なゲストもおられるので、受講機会を逃さないように。

【Outline (in English)】
In this lecture, having luctures of landscape for regional policy strategy by professor, I welcome leaders in regional policy research, leaders in regional revitalization, and experts in visualization of regional industrial indicators, as well as Kasumigaseki and regional policy managers. I consider initiatives from multiple perspectives, such as economic and industrial policy and corporate management strategy. Through this, we aim to utilize what we have learned in practice (policy planning and management, corporate strategy).Naturally, the overall discussion will be summarized by the teacher in charge.

ARSl520R1（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500）

地域イノベーション論

橋本　正洋

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2単位**
群／プログラム：**地域産業・企業**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、国の政策全般を俯瞰したうえで、イノベーション政策にフォーカスする。研究に政策要素（国、自治体の関与）がある学生には履修を推奨する。
ここでは、地域における経済再生戦略に必要な、国や地域のイノベーション政策のうち重要なものを取り上げ、それらの歴史的背景と現在の課題について検討する。これに基づき、地域イノベーションを創成するための地域産業政策の在り方、地域経済再生のための戦略論について考察する。

【到達目標】
政策立案の仕組みを明らかにするとともに、イノベーションとは何かを踏まえ、日本のイノベーション政策の大きな流れ、特に構造改革型政策を理解し、地域イノベーションとの関係を認識できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
政策の仕組みとイノベーション創生のモデルを理解したうえで、関係するイノベーション政策について概観したうえで、グループワークにより個別の政策、システムについて検討し、グループ及び全体で討議することにより本質的な理解を得る。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンスとイントロダクション	講義の目的、進め方について説明し、イノベーションに関する基本的概念とモデルを説明する。
2回（3･4）	政策プロセスとイノベーション政策概観	日本の政策プロセスとイノベーション政策を概観し、重要な事項について解説する。グループ分けを行い課題を選択する。
3回（5･6）	イノベーション政策1	科学技術基本法制定、総合科学技術・イノベーション会議設置と日本のイノベーション政策
4回（7･8）	イノベーション政策2	大学等技術移転促進法制定（ＴＬＯ法）、99年：産業活力再生特別措置法制定（日本版ﾊﾞｲﾄﾞｰﾙ）と大学技術移転、大学発ベンチャー
5回（9･10）	イノベーション政策3	国立大学法人化・大学改革
6回（11･12）	イノベーション政策4	産業クラスター・地域イノベーション政策
7回（13･14）	イノベーション政策5	省庁再編・独法改革

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常起きている産業経済活動や政策について関心を高め、それが国全体及び地方の政策、産業社会と、どのような関係にあるかを常に考えることが必要。すべての履修者は、そうした検討に基づいてプレゼンテーション、ディスカッションに参加することが求められる。十分な準備のもと、与えられた課題についてプレゼンを行うとともに、講義後課題レポートを提出する。

【テキスト（教科書）】
講義の際に配布する。

【参考書】
講義の際に適宜資料を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
グループディスカッションによるプレゼンテーション、講義への貢献及び必要に応じ最終課題（実施の場合およそ50％）により採点する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回講義後にアンケートによりフィードバックを行い、講義の内容を調整する。

【学生が準備すべき機器他】
プレゼン用のパソコン等を用意すること。

【その他の重要事項】
実務経験のある教員による授業です。経済産業省における実経験とそのネットワークにより内容を構成します。

【Outline (in English)】
This lecture will focus on innovation policy after taking a bird's-eye view of national policies in general。 Students who have policy elements(involvement of national or local governments) in their research are recommended to take this course.Innovation that occurs in a company is strongly influenced by the environment of each country (National Innovation System) in the company. This is due to the establishment of legal systems, tax systems, intellectual property systems, finance, and support organizations that differ from country to country. In order to bring about innovation in the region, it is necessary to establish appropriate innovation policies at the national and regional levels. In this lecture, we will take up important national and regional innovation policies necessary for regional economic revitalization strategies, and examine their historical background and current issues. Based on this, we will consider the ideal way of regional industrial policy to create regional innovation and the strategic theory for regional economic revitalization.

MAN520R1（経営学 / Management 500）

新産業創出論

小具　龍史

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2単位**
群／プログラム：**経済・社会・雇用**／
群／プログラム：**地域産業・企業**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
IoT、ビッグデータ、人工知能（AI）、ロボットに代表される技術革新によって新産業が生まれる第4次産業革命が、想定外のスピードとインパクトで進行しています。新産業の創出には、新規事業の開発が極めて重要となります。本講義では、新規事業開発手法である事業アイデア創造手法および事業性評価手法について習得します。

【到達目標】
新産業の創出に必要な新規事業の開発に関する一般的な知識を習得し、その役割と基本的な理論を理解するとともに、当該理論と実際に社会の中で実践されているイノベーションやマーケティングの手法を結びつけて理解できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義とグループディスカッション、発表（プレゼンテーション）等により実施します。授業内容に関する質問は、リアクションペーパー等により受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。※授業回によって完全対面と完全オンラインの日があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	新規事業開発プロセスと実施事項	本講義の目的・進め方および新規事業開発プロセスと実施事項についてレクチャーを行う。
2回（3･4）	事業アイデアの創造	事業アイデア創造に係る代表的な手法（フレームワークやツール）の紹介およびレクチャーを行う。
3回（5･6）	事業コンセプトの検討	事業アイデア創造手法を用いた事業コンセプトの検討および詳細化ワークを行う。
4回（7･8）	事業コンセプトの発表とブラッシュアップ	事業コンセプト案の発表（プレゼンテーション）および振り返り、ブラッシュアップワークを行う。
5 回（9･10）	一次スクリーニングによる事業性評価	事業性評価手法（一次スクリーニング）のレクチャーおよび事業コンセプト案の評価とブラッシュアップワークを行う。
6回（11･12）	二次スクリーニングによる事業性評価	事業性評価手法（二次スクリーニング）のレクチャーおよび事業コンセプト案に関する事業性評価（BusinessModel Canvas、BMO法による評価）とブラッシュアップワークを行う。
7回（13･14）	事業性評価結果の作成と発表	二次スクリーニング結果の作成と最終事業コンセプト案の発表（プレゼンテーション）、振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習ではシラバスをもとに参考図書等を用いて事前学習をしておいて下さい。復習では目安となる水準を講義中に示します。 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義の際に資料を配布します。

【参考書】
講義テーマごとに適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
本講義の到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での平常点（講義内での発言・グループディスカッション・プレゼンテーションへの貢献度）５０％、講義内で課す課題レポート５０％により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」
みずほリサーチ＆テクノロジーズ株式会社にて経営コンサルタントとしての実務経験を持つ教員が、その経験を基に新規事業開発について解説する。※本講義はAL(Active Leaning)形態による授業である。

【Outline (in English)】
The fourth industrial revolution, in which new industries are being created through technological innovation represented by IoT, big data, artificial intelligence (AI), and robotics, is progressing with unexpected speed and impact. New business development is extremely important for the creation of new industries. In this lecture, participants will learn about business idea creation methods and business feasibility evaluation methods, which are new business development methods.

MAN520R1（経営学 / Management 500）

コーポレートガバナンス

林　順一

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2単位**
群／プログラム：**地域産業・企業**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、コーポレートガバナンスとサステナビリティの基礎と最新の動向について学習します。学習に際して、グローバルな視点や実務の観点を取り入れ、また事例を用いて理解を深めます。

【到達目標】
コーポレートガバナンスとは何か、どのような論点があるのか、またサステナビリティのいくつかの論点について、具体的に理解し、自らの考えがまとめられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」
に関連

【授業の進め方と方法】
授業の前半では、講師作成のレジメに基づいた講義を行い、後半では、グループディスカッションなどの参加型授業を行い、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	イントロダクション	（1）授業の進め方の説明とその確認（2）最近のコーポレートガバナンスに関するトピックスに関する議論
2回（3･4）	米国のコーポレートガバナンス	（1）米国のコーポレートガバナンスの変遷（1930年代から現在まで、事例を含む)（2）最近の動き（ビジネス・ラウンド・テーブルの「会社の目的」の変更とその意味など）
3回（5･6）	英国のコーポレートガバナンス	（1）伝統的な英国のコーポレートガバナンスの仕組み（機関投資家の役割の重視など）（2）最近の動き（コーポレートガバナンス・コードの改訂とその意義など）
4回（7･8）	わが国のコーポレートガバナンス	（1）外国人機関投資家の圧力と日本企業の対応の歴史（2）アベノミクスのガバナンス改革の概要と現在の課題
5 回（9・10）	ドイツのコーポレートガバナンス、サプライチェーンの人権問題	（1）ドイツのコーポレートガバナンスの特徴と課題（2）サプライチェーンの人権問題への対応
6回（11・12）	フランスのコーポレートガバナンス、社会的企業	（1）フランスのコーポレートガバナンスの特徴（2）ベネフィットコーポレーション、ダノンの事例分析など
7回（13・14）	ESG投資とSDGs、ダイバーシティ、コンプライアンスとリスク管理	（1）ESG投資とSDGs（2）ダイバーシティ、コンプライアンスとリスク管理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
（1）事前配布資料がある場合には、事前に読んで、授業で発言できるように準備してください。（2）授業を振り返り、論点を整理してください。（3）期末レポートの作成があります。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布します。

【参考書】
林順一（2022）『コーポレートガバナンスの歴史とサステナビリティ－会社の目的を考える』文眞堂。

【成績評価の方法と基準】
平常点（５０％）、期末レポート（５０％）

【学生の意見等からの気づき】
コーポレートガバナンスに馴染みのない受講生にも理解しやすいよう、丁寧な説明を心がけています。また受講生の要望に柔軟に対応します。

【学生が準備すべき機器他】
該当ありません。

【その他の重要事項】
※「実務経験のある教員による授業」に該当する場合
実務家教員（非常勤）。銀行・証券業界28年、不動産・資産運用会社10年余の実務経験（コーポレートガバナンス関連の実務経験を含む）を活かして、実務家の視点を踏まえた授業を行います。

【Outline (in English)】
This course introduces the foundation of and recent trends in corporate governance and sustainability to students. In order to better understand the global and practical perspectives, a case study will be introduced.

ARSl520R1（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500）

地域活性特論Ⅰ

橋本　正洋

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2単位**
群／プログラム：**経済・社会・雇用**／
群／プログラム：**地域産業・企業**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域政策の研究者、実務家を主な対象とした実践的な講義である。教授からの基礎知識にに関する講義を踏まえ、地域の活性化の取り組みについて、その分野の専門家や各地域で活躍するキーパーソンをゲストスピーカーに招き、政策の枠組み、産業連関分析や産業クラスター論などの基礎的な分析の手法、課題と成功の要因を紹介していただき、それを基に受講生と討議を行う形式の講義とする。ゲストには、この分野で著名な有識者、行政、地域のリーダーにお願いする。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。

【到達目標】
地域における最新の取り組みを理解し、その戦略の在り方等について考察を深めることにより、自らの課題等の研究活動に活用できるよう努める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
イントロダクションに続いて、各界の識者から講義及び討議テーマをいただき、それについてグループディスカッションを進め、全体で討議を行う。必要に応じ、現地での実習を行うこともある。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	イントロダクション	地域活性化に関する基本的な問題点を俯瞰する。 招聘講師について詳細を提示する。
2回（3･4）	地域活性化ケース1	具体的な地域活性化プロジェクトに関するケースを紹介し、討議する当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。
3回（5･6）	地域活性化ケース２	具体的な地域活性化プロジェクトに関するケースを紹介し、討議する。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。
4回（7･8）	地域活性化ケース３	具体的な地域活性化プロジェクトに関するケースを紹介し、討議する。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。
5 回（9・10）	地域活性化ケース４	具体的な地域活性化プロジェクトに関するケースを紹介し、討議する。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。
6回（11・12）	地域活性化ケース５	具体的な地域活性化プロジェクトに関するケースを紹介し、討議する。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。
7回（13・14）	地域活性化ケース６	具体的な地域活性化プロジェクトに関するケースを紹介し、討議する。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゲスト講師を事前に提示するので、予習しておくこと。講義後には、毎回レポートを提出する。

【テキスト（教科書）】
講義の際に講師より配布、提示する。

【参考書】
講義の際に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
グループディスカッション、講義への貢献及び必要に応じ最終課題（実施する場合はおよそ50％）により採点する。

【学生の意見等からの気づき】
他では得られない講師の講義を受講できる。

【学生が準備すべき機器他】
ゲスト講師が遠隔で講義する場合もあるので、パソコンを持参すること。

【その他の重要事項】
本講義は原則隔年で行うが、他の講義との関係で、2025年度の開講は未定であり注意すること。

【Outline (in English)】
This is a practical lecture aimed primarily at regional policy researchers and practitioners. Based on the professor's lecture on basic acquaintanceship, experts in the field and key people active in each region will be invited as guests to talk about regional revitalization efforts. They will introduce policy frameworks, basic analytical methods such as input-output analysis and industrial cluster theory, as well as challenges and factors for success, and the lecture will be in the form of a discussion with students. Guests will be well-known experts in this field, government officials, and regional leaders.

OTR530R1（その他 / Others 500）

特別講義Ⅰ（統計学入門）

後藤　嘉孝

科目分類：**（選択）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、社会科学分野の研究に必要な統計学の基礎を学びます。統計に苦手意識を持つ受講者でも理解しやすいよう、理論と実践をバランスよく組み合わせ、データ分析の考え方や基本的な統計手法を習得することを目的とします。
修士課程で量的研究を予定している受講者は、統計の基礎知識を身につけ、自身の研究に活用できることを目指します。一方、質的研究を予定している受講者は、統計手法を用いた先行研究を適切に読み解く力を養うことを目指します。

【到達目標】
・統計学の基本概念を理解し、データの整理や可視化ができる。
・仮説検定や回帰分析などの基本的な統計手法を用いて、データを分析・解釈できる。
・先行研究の統計分析結果を読み解き、自身の研究に活用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・スライドを利用した講義形式で授業を進めます。
・実際に統計ソフト（エクセルを予定）を用いた演習により理解・定着を図ります。
・社会科学の論文を題材にし、統計的手法の具体的な活用例について、グループ討議を行います。
・統計学が初めての受講者を念頭に、丁寧に解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	イントロダクション（統計学とは）	講義の概要と進め方について説明する。また、データの集め方、データと母集団などの統計学の基本的概念を学びます。
2回（3･4）	母集団と標本、確率	母集団と標本の概念、確率の考え方とについて学びます。
3回（5･6）	推測統計と信頼区間	推測統計の考え方（標本から母集団を推測する）、点推定と区間推定（信頼区間の概念）、標本サイズと誤差の関係について学びます。
4回（7･8）	仮説検定の基本	仮説の立て方（帰無仮説と対立仮説）、p値の意味と統計的有意性、第一種の過誤・第二種の過誤について学びます。
5 回（9・10）	様々な仮説検定（t検定・分散分析・カイ二乗検定）	t検定、分散分析およびカイ二乗検定（クロス集計表を用いた分析）について学びます。
6回（11・12）	相関と回帰分析（単回帰・重回帰）	相関の考え方（相関係数の意味と注意点）、単回帰分析（最小二乗法・回帰直線・決定係数）、重回帰分析について学びます。
7回（13・14）	まとめ	本授業の復習・まとめと自身の研究に関連する論文を読み、研究に統計分析をどのように活用できるかを発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業後にテキストや資料を見直し、基本概念の理解度を確認します。
・演習問題を宿題として解きます。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業で配布するレジュメ（パワーポイント）をテキストとして使用します。

【参考書】
阿部真人『データ分析に必須の知識・考え方　統計学入門』ソシム（2021）
毛塚和宏『社会科学のための統計学入門　実例からていねいに学ぶ(ＫＳ専門書)』講談社（2022）
西内啓『統計学が最強の学問である』ダイヤモンド社（2013）
神林博史、三輪哲『【改訂新版】社会調査のための統計学　–生きた実例で理解する– 現場の統計学』技術評論社（2024）

【成績評価の方法と基準】
平常点（５０％）：授業への参加・貢献度
提出課題（５０％）：各回の演習課題、期末レポート課題

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
授業でエクセルを使うことがあるため、パソコンを持参すること。

【その他の重要事項】
※「実務経験のある教員による授業」に該当する場合
実務家教員（非常勤）。シンクタンクにおける社会調査・データ分析の経験を踏まえ、研究だけでなく実務にも役立つ事例を交えながら授業を行います。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces the fundamental statistical concepts necessary for research in the social sciences. The aim is to help students develop an understanding of statistical thinking and basic data analysis techniques through a balanced approach that combines theory and practice.
For students planning to conduct quantitative research, this course will provide the foundational knowledge necessary to utilize statistics effectively and apply it to their own studies. For those focusing on qualitative research, it will enhance their ability to accurately interpret previous studies that utilize statistical techniques.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to:
Understand fundamental statistical concepts and organize data effectively.
Apply statistical methods such as hypothesis testing and regression analysis to analyze and interpret data.
Read and interpret statistical results in academic papers and utilize statistical approaches in their own research.
Learning Activities Outside of Classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least four hours reviewing lecture materials and completing assigned exercises to reinforce their understanding of statistical concepts.
【Learning activities outside of classroom】
After each class, students are expected to review the textbook and lecture materials to reinforce their understanding of fundamental concepts.
Students will complete exercise problems as homework to apply and deepen their knowledge.
The standard preparation and review time for this course is two hours per session.
【Grading Criteria /Policy】
Class participation and contribution: 50%
Assignments and final report: 50%

ECN500R1（経済学 / Economics 500）

経済学

梅溪　健児

科目分類：**導入科目（選択）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では入門レベルの経済学（ミクロ経済学が中心）を数式なしで学ぶ。教材は政策設計に役立つであろう経済学の現実適用事例に重点を置く。授業の目的は、第一に、経済社会を形成する個人や組織の選択は経済学でどのように理論化されるのかを理解する。第二に、研究のストーリーづくりの一助となるように、経済学が地域の課題解決に役立つ枠組みを学ぶ。

これまで経済学を履修したことのない学生の受講を想定するが、履修経験のある学生にとっても本講義が少しでも役立つことを期待するので受講を歓迎する。

【到達目標】

本講義の目標は、①個人や組織が物事を選択する(質的ではなく)数量的な判断基準を理解すること（例．予算制約下の効用最大化)、②日常生活やビジネスで遭遇する事象を経済学の枠組みで解明できること（例．情報の非対称性)、③個人や組織の利便性を高めたり地域社会の困難に対処するために経済学が適用されている最近の事例（例．ダイナミック・プライシング（変動価格制)、ゲームの理論）を理解することの３点である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の進行は入門テキストに基づくが、その内容を順に取り上げるのではなく、必要な部分を抽出した教材を配布して講義を行う。各回の前半は講義とし、後半は輪読と討議、質疑応答にあてる。必要な教材は一部を除いて１週間前に配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	経済学の基本は最大化（最小化）をよしとする	消費者の効用の最大化、企業の利益の最大化という基本を通じて価格が果たす役割を学ぶ。効率と公平を考える。事例として、変動価格制（スーパーの総菜値引き)、移住を取り上げる。
2回（3･4）	経済学は資源配分の最適化を目指す	経済学は市場における自由な取引を通じて効率的な資源配分をゴールとするが、それを意味するパレート最適の考え方を学ぶ。事例として、チケット販売、外食、競争政策を取り上げる。
3回（5･6）	市場取引はベストというが実は失敗する	経済学は市場を重視するが、実は前提が満たされないと市場は失敗することを学ぶ。事例として、道路混雑と渋滞税、うその申告、地域における公共財、鉄道沿線開発を取り上げる。
4回（7･8）	非対称な情報が引き起こす問題は世に多い	市場の失敗の続きで、情報の非対称性の意味、逆選択を学ぶ。事例として、採用と学歴重視、過大コストをかける広告、観光地の土産物店を取り上げる。
5回（9・10）	ゲームの理論が提案する策により満足を高める	マッチングを用いて、相手の出方が関係する場合に参加者の満足を高める方策を学ぶ。事例として、学生のゼミ配属、高校入試単願制を取り上げる。
6回（11・12）	政策研究における経済学と社会学を比較する	経済学と社会学における分析の特徴を学ぶ。事例として、結婚に関して機会費用を用いる経済学、世間体や本人の心意気から迫る社会学を取り上げる。
7回（13・14）	レポート発表と討議	共通課題に関するレポートを発表し討議を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は１回の講義につき４時間を標準とする。日頃からニュースや記事に接し、経済学が問題解明や政策立案にどのように貢献しているのかに関心を持つことを勧める。

【テキスト（教科書)】

伊藤元重（2015）『入門経済学（第4版)』日本評論社

【参考書】

市村英彦・岡崎哲二他編（2020）『経済学を味わう』日本評論社
伊藤元重（2021）『ビジネス・エコノミクス』（第2版）日本経済新聞出版
小塩隆士（2024）『経済学の思考軸』ちくま新書
神取道宏（2014）『ミクロ経済学の力』日本評論社
坂井豊貴（2013）『マーケットデザイン』ちくま新書
坂井豊貴（2017）『ミクロ経済学入門の入門』岩波新書
日本経済新聞社編（2014）『身近な疑問が解ける経済学』日経文庫
松井彰彦（2018）『市場って何だろう』ちくまプリマー新書

【成績評価の方法と基準】

輪読及び討議（50％)、レポート作成と発表（50％）の合計

【学生の意見等からの気づき】

身近な事例の紹介は経済学の理解にとても役立つとの指摘があったので、本年度も重点を置く（例．百貨店vs業種専門店：消費者行動、自治体サービスと居住地選択：市場メカニズム、ワクチン接種の無料提供：外部経済効果、ネット保険はなぜ安いのか：情報の非対称性、人はなぜお土産を渡すのか：ゲームの理論など)。

【学生が準備すべき機器他】

教材は学習支援システムに掲載する。また、レポートは図表を各自作成するのでパソコンが必要。

【その他の重要事項】

対面授業を基本とする。経済学は数学が必要と認識している受講生が多いかもしれないが、本講義で数学的証明を用いる説明は行わない。代わりに、図表によって量的な比較を学んでいただきたい。マクロ経済学は、本講義では原則として取り上げない。

【Outline (in English)】

This is an introductory course of economics aiming to encourage students who have not studied economics at university to acquire basic principles of economics. The goal of this course is to understand the role of the economics in solving social problems related to local activities. Students are expected to prepare for the class by studying the course materials for four hours prior to and after the class. Students are graded according to the following scales: in-class discussion (50%) and the term paper (50%).

BSP500R1（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 500）

レポートライティング

佐藤　雄一郎

科目分類：**導入科目（選択）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、修士論文の執筆に必要な基本的知識とスキルを習得することを目的とする。修士論文を「序論」「本論」「結論」に分け、各パートで何をどのように書くかについて具体的な方法とスキルを学ぶ。特に、論文の作法と序論の書き方に力点を置き、問題意識、先行研究、リサーチギャップ、リサーチクエスチョンの流れに沿って構造的に論文を書く力を高める。最終レポートでは、今後作成する修士論文の序論に相当する部分を実際に書き上げることで、実践的な執筆力を養うことを目指す。

【到達目標】
学術論文の形式に関する知識をもとに、自ら設定したテーマに関する論文を書く力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、講義とグループワークを組み合わせて進行する。講義では、論文執筆に必要な知識を中心に扱う。グループワークでは、論文のテーマやリサーチクエスチョンの設定、先行研究の共有など、論文執筆に欠かせない事項を深め、参加者が研究の進め方や論文執筆に関する具体的なイメージを形成するように進める。さらに、授業支援システムを利用して、参加者は各セッションのテーマに関する考えや進捗を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	イントロダクション	・授業の進め方及びテキスト・参考書の紹介 ・研究や論文の概略 ・自分の研究テーマや問題意識を整理してみよう
2回（3･4）	論文の基礎事項	・論文の構成 ・論証の方法 ・自分の研究の「問い」（明らかにしたいこと）を考えてみよう
3回（5･6）	序論の記述（１）	・論文における序論の役割 ・問題提起と背景の説明 ・先行研究の記述とリサーチクエスチョンの設定
4回（7･8）	序論の記述（２）	・先行研究の調べ方 ・先行研究を踏まえた文章の書き方 ・先行研究からリサーチギャップの導き方 ・参考文献の記載の仕方 ・剽窃ソフトの活用
5 回（9・10）	本論の記述	・序論から本論へ ・本論の役割と記述 ・様々な研究手法 ・調査結果の記述方法
6回（11・12）	結論の記述	・本論から結論へ ・結論の役割と記述 ・結果と結論の違い ・研究の限界と課題について
7回（13・14）	まとめ	・読みやすい文章とは ・優秀論文の紹介 ・授業全体の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後の課題、および最終レポートを作成し提出する。

【テキスト（教科書）】
小熊英二『基礎からわかる　論文の書き方』講談社現代新書 2022年.
授業時にレジュメを毎回配布する。
当研究科の優秀論文を扱う。

【参考書】
ダン・レメニイほか著・小樽商科大学ビジネス創造センター訳『社会科学系大学院生のための研究の進め方 修士・博士論文を書く前に』同文舘出版 2003年.
木下是雄『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫 1994年.
栗田治『思考の方法学』講談社現代新書 2023年.
レスリー-ジェーン・イーグルズ-レイノルズ他著・楠見孝・田中優子訳『大学生のためのクリティカルシンキング―学びの基礎から教える実践へ』北大路書房 2019年.
高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書 1979年.
戸田山和久『新版 論文の教室－レポートから卒論まで』NHK出版 2012年.
吉田健正『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方（第2版）』ナカニシヤ出版 2017年.

【成績評価の方法と基準】
次の配分によって成績評価を行う。
①平常点（授業への参加、グループワーク、課題）30％
②最終レポート70％

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見からは、個々のテーマに即したコメントやフィードバックが重要であるという点が明らかになった。そこで、可能な限り学生の論文テーマを授業で取り上げ、修士論文や政策研究論文の序論執筆を進めるための場として活用できるようにすることを目指す。

【学生が準備すべき機器他】
授業では、授業支援システムに各自が準備した課題や進捗状況をアップロードし、それを画面に投影して共有する予定である。そのため、パソコンを持参することが望ましい。

【その他の重要事項】
・最終レポートは手書きではなく、原則としてWordで作成し、授業支援システムを通じて提出することを求める。
・オフィスアワーは授業後に設けるとともに、メール等でも質問を受け付ける。
・授業の進め方や取り扱う題材は、履修する院生の状況やニーズに応じて柔軟に対応する。そのため、シラバスの内容や進め方が状況により一部変更になる場合がある。

【Outline (in English)】
The aim of this class is to help students acquire the fundamental knowledge and skills necessary for writing a master's thesis. The course divides the thesis into three parts — introduction, body, and conclusion — and covers specific methods and techniques for what to write and how to write in each section. Particular emphasis is placed on the conventions of thesis writing and on structuring an introduction according to the logical flow of problem awareness, previous research, research gaps, and research questions. For the final report, students will develop practical writing skills by drafting the portion of their future master's thesis that corresponds to the introduction.

OTR600R1（その他 / Others 600）

プログラム演習

柿野　成美

科目分類：**演習科目（必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文、政策研究論文の完成に向けて、論文作成の基礎知識、質的及び量的調査の手法を習得するとともに、関連する分野の文献購読等を行い、論文作成の知識と研究スキルを身に付ける。

【到達目標】
研究スキルの習得及び修士論文の完成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
基本文献の輪読、ゲストを招いてのディスカッション、校外学習、参加者による発表及び討論などにより、各自の研究テーマを設定し深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス	授業の進め方、各自の研究テーマに沿って年間スケジュールについて確認する
2回（3･4）	論文作成の基礎	論文作成に関する基礎的な知識を講義し、討議を行う。
3回（5･6）	論文作成の基礎	論文作成に関する基礎的な知識を講義し、討議を行う。
4回（7･8）	研究テーマの選定	各自が研究テーマを選定し、研究テーマに関する討議を行う。
5 回（9・10）	先行研究の検討	先行研究のサーベイ方法と記述方法を学ぶ。
6回（11・12）	先行研究の検討	各自の研究テーマに関係する先行研究の発表と討議を行う。
7回（13・14）	基本文献の精読	共通の基本文献を精読し、クリティカルリーディングを身に付ける。
8回（15・16）	基本文献の精読	共通の基本文献を精読し、クリティカルリーディングを身に付ける。
9回（17・18）	リサーチクエスチョンの検討	先行研究を踏まえ、リサーチクエスチョンを設定する方法を理解し、各自検討する。
10　回（19・20）	質的調査の方法	質的調査の基本知識を理解し、研究への活用を討議する。
11　回（21・22）	量的調査の方法	量的調査の基本知識を理解し、研究への活用を討議する
12　回（23・24）	調査方法の検討	各自の研究テーマにおいてどのような調査方法がふさわしいのかを討議する。
13　回（25・26）	研究発表	各自の研究計画について発表し、討議する。
14　回（27・28）	研究発表	各自の研究計画について発表し、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献の精読、発表に向けたプレゼンテーションの準備等、事前に充分な準備を行うこと。復習の具体的内容については、授業内に指示する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
ゼミ生の研究の進捗状況に合わせて適宜指定する。

【参考書】
ゼミ生の研究の進捗状況に合わせて適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加貢献（50％）と個人発表内容（50％）に基づき総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、ＰＣを接続して画面をスクリーンに表示してプレゼンテーションを行う。受講生がネットに接続して情報検索できる環境が必要である。

【その他の重要事項】
校外学習、ゲストスピーカーの招聘を予定している。その場合、授業計画を変更することがある。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to master the basic knowledge of academic papers, the method of a qualitative and quantitative survey. Students can acquire knowledge and research skills for preparing master's theses by subscribing to previous literature and presenting research presentations.

OTR600R1（その他 / Others 600）

プログラム演習

柿野　成美

科目分類：**演習科目（必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文、政策研究論文の完成に向けて、論文作成の基礎知識、質的及び量的調査の手法を習得するとともに、関連する分野の文献購読等を行い、論文作成の知識と研究スキルを身に付ける。

【到達目標】
研究スキルの習得及び修士論文の完成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
基本文献の輪読、ゲストを招いてのディスカッション、校外学習、参加者による発表及び討論などにより、各自の研究テーマを深め、表現する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス	授業の進め方について確認する。夏休み期間の研究の進捗状況を報告する。
2回（3･4）	研究内容・方法の検討	各自の研究テーマに沿って年間スケジュールについて研究内容と方法の見直し・検討をする
3回（5･6）	文献・査読論文の輪読	文献・査読論文を選んで輪読し、発表する。
4回（7･8）	文献・査読論文の輪読	文献・査読論文を選んで輪読し、発表する。
5 回（9・10）	ゲスト講師による講義・ディスカッション	執筆論文のテーマに関するゲスト講師を招聘し、論文作成への視座を獲得する。最後に担当教員によるまとめを行う。
6回（11・12）	文献・査読論文の輪読	文献・査読論文を選んで輪読し、発表する。
7回（13・14）	中間レビュー	研究計画の発表・見直しを行う。
8回（15・16）	論文の記述方法の確認	序論・本論・結論の書き方や具体的な記述方法について確認する
9回（17・18）	ゲスト講師による講義・ディスカッション	執筆論文のテーマに関するゲスト講師を招聘し、論文作成への視座を獲得する。担当教員によるまとめを行う。
10　回（19・20）	文献・査読論文の輪読	文献・査読論文を選んで輪読し、発表する。
11　回（21・22）	文献・査読論文の輪読	文献・査読論文を選んで輪読し、発表する。
12　回（23・24）	研究発表	各自の研究計画について発表し、討議する。
13　回（25・26）	研究発表	各自の研究計画について発表し、討議する。
14　回（27・28）	研究発表	各自の研究計画について発表し、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献の精読、発表に向けたプレゼンテーションの準備等、事前に充分な準備を行うこと。復習の具体的内容については、授業内に指示する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
ゼミ生の研究の進捗状況に合わせて適宜指定する。

【参考書】
ゼミ生の研究の進捗状況に合わせて適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加貢献（50％）と個人発表内容（50％）に基づき総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、ＰＣを接続して画面をスクリーンに表示してプレゼンテーションを行う。受講生がネットに接続して情報検索できる環境が必要である。

【その他の重要事項】
校外学習、ゲストスピーカーの招聘を予定している。また、ゼミ生の進捗状況によって授業計画を変更することがある。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to master the basic knowledge of academic papers, the method of a qualitative and quantitative survey. Students can acquire knowledge and research skills for preparing master's theses by subscribing to previous literature and presenting research presentations.

OTR600R1（その他 / Others 600）

プログラム演習

石山　恒貴

科目分類：**演習科目（必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

広い意味での「雇用、キャリア、人材育成、人的資源管理」をめぐる修士論文・政策研究論文の作成に向けた体系的な知的作法の訓練をゼミ形式で行う。最低限の調査手法と調査研究論文・政策提言論文を作成する方法を勉強し、自立した調査研究のできるようにする。そのために演習は毎週２コマ連続で開催する。

【到達目標】

「雇用、キャリア、人材育成、人的資源管理」だけでなく、研究にあたり必要な知識と技術とセンスを育成することが目的となる。

また、論文に必要な、研究手法の選択、リサーチクエスチョンの設定、論文の表記、構成、定量調査の手法、定性調査の手法、考察の行い方について、包括的に習得できることを到達目標とする。

そのために演習は毎週２コマ連続で開催する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

資料の探し方、読み方、調査の方法、調査結果の分析法などの講義や討論。参加者による報告と相互の質疑応答、コメント。全体にゼミ形式で進める。

論文に必要な、研究手法の選択、リサーチクエスチョンの設定、論文の表記、構成、定量調査の手法、定性調査の手法、考察の行い方について、包括的に習得できるための内容も軸となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	演習運営への導入	演習の進め方に関する基本方針の検討
2回（3･4）	研究テーマの選定方法	研究テーマの選び方の検討
3回（5･6）	研究テーマの調査方法（その１）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その１）
4回（7･8）	研究テーマの調査方法（その２）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その２）
5 回（9・10）	研究テーマの調査方法（その３）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その３）
6回（11・12）	調査結果の分析方法（その１）	調査結果の分析手法の検討（その１）
7回（13・14）	調査結果の分析方法（その２）	調査結果の分析手法の検討（その２）
8回（15・16）	調査結果の分析方法（その３）	調査結果の分析手法の検討（その３）
9回（17・18）	調査結果から考察する方法（その１）	調査結果から考察する手法の検討（その１）
10　回（19・20）	調査結果から考察する方法（その２）	調査結果から考察する手法の検討（その２）
11　回（21・22）	調査結果から考察する方法（その３）	調査結果から考察をする手法の検討（その３）
12　回（23・24）	提言の検証方法（その１）	提言を検証する方法の検討（その１）
13　回（25・26）	提言の検証方法（その２）	提言を検証する方法の検討（その２）
14　回（27・28）	調査と研究についてのまとめ	調査と研究を実践できることの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実際には、通年で30数回の演習がなされるが、そのために

１．自身の調査研究テーマの推進

２．ゼミ全体の調査テーマなどへの参画

３．各人に与えられた課題の処理

４．合宿等のゼミ行事への参加に努めること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

その都度、必要な共通テキストを指定する。なお、必要な論文や資料はコピーして配布する。

【参考書】

参考書リストなどは別途配布する予定。文献の調べ方を教示し、各人で自分のテーマにそった文献を探し出すことを重視する。

【成績評価の方法と基準】

大学院の基準に従い、ゼミ活動への発言と作業状況と論文準備作業などをもとに総合的に評価する。

特に、ゼミの演習で課す課題対処の水準について重視する。

【学生の意見等からの気づき】

論文作成に向けた個別指導時間を多く設けるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

毎回持参する必要はないにしても、パソコンおよび一定のソフトの知識は必要である。パワーポイントも使っていただく。

【その他の重要事項】

ゼミ全体としての共同作業から得られるところは大きい。個人作業だけでなく、共同作業にもできるかぎり参加することを望む。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of employment policy, career theory, human resource development and human resource management.

Goal

At the end of the course, students are expected to acquire the knowledge and skills necessary for research.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

In accordance with the standards of the graduate school, students will be evaluated comprehensively based on their comments and work status in seminar activities and preparation work for the paper.

OTR600R1（その他 / Others 600）

プログラム演習

石山　恒貴

科目分類：**演習科目（必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

広い意味での「雇用、キャリア、人材育成、人的資源管理」をめぐる修士論文・政策研究論文の作成に向けた体系的な知的作法の訓練をゼミ形式で行う。最低限の調査手法と調査研究論文・政策提言論文を作成する方法を勉強し、自立した調査研究をできるようにする。そのために演習は毎週２コマ連続で開催する。

【到達目標】

「雇用、キャリア、人材育成、人的資源管理」だけでなく、研究にあたり必要な知識と技術とセンスを育成することが目的となる。

また、論文に必要な、研究手法の選択、リサーチクエスチョンの設定、論文の表記、構成、定量調査の手法、定性調査の手法、考察の行い方について、包括的に習得できることを到達目標とする。

そのために演習は毎週２コマ連続で開催する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

資料の探し方、読み方、調査の方法、調査結果の分析法などの講義や討論。参加者による報告と相互の質疑応答、コメント。全体にゼミ形式で進める。

論文に必要な、研究手法の選択、リサーチクエスチョンの設定、論文の表記、構成、定量調査の手法、定性調査の手法、考察の行い方について、包括的に習得できるための内容も軸となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	演習運営への導入	演習の進め方に関する基本方針の検討
2回（3･4）	研究テーマの選定方法	研究テーマの選び方の検討
3回（5･6）	研究テーマの調査方法（その１）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その１）
4回（7･8）	研究テーマの調査方法（その２）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その２）
5 回（9・10）	研究テーマの調査方法（その３）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その３）
6回（11・12）	調査結果の分析方法（その１）	調査結果の分析手法の検討（その１）
7回（13・14）	調査結果の分析方法（その２）	調査結果の分析手法の検討（その２）
8回（15・16）	調査結果の分析方法（その３）	調査結果の分析手法の検討（その３）
9回（17・18）	調査結果から考察する方法（その１）	調査結果から考察する手法の検討（その１）
10　回（19・20）	調査結果から考察する方法（その２）	調査結果から考察する手法の検討（その２）
11　回（21・22）	調査結果から考察する方法（その３）	調査結果から考察をする手法の検討（その３）
12　回（23・24）	提言の検証方法（その１）	提言を検証する方法の検討（その１）
13　回（25・26）	提言の検証方法（その２）	提言を検証する方法の検討（その２）
14　回（27・28）	調査と研究についてのまとめ	調査と研究を実践できることの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実際には、通年で30数回の演習がなされるが、そのために

１．自身の調査研究テーマの推進

２．ゼミ全体の調査テーマなどへの参画

３．各人に与えられた課題の処理

４．合宿等のゼミ行事への参加に努めること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

その都度、必要な共通テキストを指定する。なお、必要な論文や資料はコピーして配布する。

【参考書】

参考書リストなどは別途配布する予定。文献の調べ方を教示し、各人で自分のテーマにそった文献を探し出すことを重視する。

【成績評価の方法と基準】

大学院の基準に従い、ゼミ活動への発言と作業状況と論文準備作業などをもとに総合的に評価する。

特に、ゼミの演習で課す課題対処の水準について重視する。

【学生の意見等からの気づき】

論文作成に向けた個別指導時間を多く設けるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

毎回持参する必要はないにしても、パソコンおよび一定のソフトの知識は必要である。パワーポイントも使っていただく。

【その他の重要事項】

ゼミ全体としての共同作業から得られるところは大きい。個人作業だけでなく、共同作業にもできるかぎり参加することを望む。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of employment policy, career theory, human resource development and human resource management.

Goal

At the end of the course, students are expected to acquire the knowledge and skills necessary for research.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

In accordance with the standards of the graduate school, students will be evaluated comprehensively based on their comments and work status in seminar activities and preparation work for the paper.

OTR600R1（その他 / Others 600）

プログラム演習

高尾　真紀子

科目分類：**演習科目（必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論文の基礎知識、質的及び量的調査の手法の習得するとともに、関連する分野の文献購読等を行い、修士論文作成の知識と研究スキルを身に着ける。

【到達目標】
先行研究を適切に読み込み、質的または量的調査の実証分析による修士論文を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
基本文献の輪読、ゲストを招いての質疑応答、フィールドワーク、参加者による発表及び討論などにより、各自の専攻分野における研究を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス	授業の進め方、各自の研究テーマに沿って年間スケジュールについて調整する
2回（3･4）	論文作成の基礎	論文作成に関する基礎的な知識を講義し、討議を行う。
3回（5･6）	研究テーマの選定	各自が研究テーマを選定し、研究テーマに関する討議を行う。
4回（7･8）	先行研究のサーベイ	先行研究のサーベイの方法を学び、各自の研究テーマに関係する先行研究の発表と討議を行う。
5 回（9・10）	先行研究のサーベイ	先行研究のサーベイの方法を学び、各自の研究テーマに関係する先行研究の発表と討議を行う。
6回（11・12）	文献購読	共通の基本文献を輪読し、各自の研究に活用する。
7回（13・14）	文献購読	共通の基本文献を輪読し、各自の研究に活用する。
8回（15・16）	リサーチクエスチョンの設定	先行研究を踏まえ、研究テーマからリサーチクエスチョンを設定する
9回（17・18）	リサーチクエスチョンの設定	先行研究を踏まえ、研究テーマからリサーチクエスチョンを設定する
10　回（19・20）	質的調査の方法	質的調査の基本知識を講義し、研究への活用を討議する。
11　回（21・22）	量的調査の方法	量的調査の基本知識を講義し、研究への活用を討議する
12　回（23・24）	調査方法の検討	各自の研究テーマにおいてどのような調査方法がふさわしいのかを討議する。
13　回（25・26）	研究発表	各自の研究計画について発表し、討議する。
14　回（27・28）	研究発表	各自の研究計画について発表し、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表および討論のための十分な準備を行うこと。その他、必要に応じて指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
その都度指定する。

【参考書】
伊藤修一郎『政策リサーチ入門―仮説検証による問題解決の技法』2011年,東京大学出版会
上野千鶴子『情報生産者になる』2018年，ちくま新書
岡田正毅編著『働くひとの生涯発達心理学Vol.2 M-GTAによるキャリア研究』2021年，晃洋書房
佐藤郁哉『社会調査の考え方(上下)』2015年，東京大学出版会
佐藤郁哉『リサーチ・クエスチョンとは何か？』2024年，ちくま新書
その他についてはその都度指定する。

【成績評価の方法と基準】
演習への参加と研究発表による。

【学生の意見等からの気づき】
研究の基礎的な考え方、質的・量的調査手法の実践的方法を講義する。学生の多様な意見が反映されるようにディスカッションを活発化させる。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】
※授業の内容やスケジュールは変更する場合があります。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to master the basic knowledge of academic paper, the method of qualitative and quantitative survey. Students can acquire knowledge and research skills for preparing master's theses by subscribing to previous literature and presenting research presentations.

OTR600R1（その他 / Others 600）

プログラム演習

高尾　真紀子

科目分類：**演習科目（必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論文の基礎知識、質的及び量的調査の手法を習得するとともに、関連する分野の文献購読等を行い、修士論文作成の知識と研究スキルを身に着ける。

【到達目標】
質的または量的分析を活用した修士論文を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
基本文献の輪読、ゲストを招いての質疑応答、フィールドワーク、参加者による発表及び討論などにより、各自の専攻分野における研究を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	質的調査の方法	半構造化インタビュー、参与観察など質的調査の方法を学ぶ。
2回（3･4）	フィールドワーク	フィールドワークにより質的調査の方法を実践的に習得する。
3回（5･6）	文献購読	基礎的文献の輪読を行い、フィールドワークのまとめ方を学ぶ。
4回（7･8）	文献購読	基礎的文献の輪読を行い、フィールドワークのまとめ方を学ぶ。
5 回（9・10）	フィールドワーク結果の分析	フィールドワーク結果をもとにグループワークで分析を実施する。
6回（11・12）	フィールドワーク結果の発表	フィールドワークの分析結果を発表する
7回（13・14）	量的調査の方法	質問票の作り方等、量的調査の方法を学ぶ。
8回（15・16）	量的調査の分析	量的調査の分析手法を学び、実際のデータを使ってスキルを習得する。
9回（17・18）	量的調査の分析	量的調査の分析手法を学び、実際のデータを使ってスキルを習得する。
10　回（19・20）	調査結果の考察と提言	研究テーマに沿って調査結果の考察と提言を発表し討議する。
11　回（21・22）	調査結果の考察と提言	研究テーマに沿って調査結果の考察と提言を発表し討議する。
12　回（23・24）	論文作成の方法	論文作成の方法について学ぶ。
13　回（25・26）	研究発表	各自の研究について発表し、討議する。
14　回（27・28）	研究発表	各自の研究について発表し、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表および討論のための十分な準備を行うこと。
その他、必要に応じて指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
その都度指定する。

【参考書】
秋吉貴雄『入門公共政策学-社会問題を解決する「新しい知」』2017年，中公新書
伊藤修一郎『政策リサーチ入門―仮説検証による問題解決の技法』2011年,東京大学出版会
岡田正毅編著『働くひとの生涯発達心理学　M-GTAによるキャリア研究』2017年，晃洋書房

【成績評価の方法と基準】
演習への参加による。

【学生の意見等からの気づき】
研究の基礎的な考え方、質的・量的調査手法の実践的方法を講義する。学生の多様な意見が反映されるようディスカッションを活発化させる。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】
※授業の内容・スケジュールは変更する場合があります。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to master the basic knowledge of academic paper, the method of qualitative and quantitative survey. Students can acquire knowledge and research skills for preparing master's theses by subscribing to previous literature and presenting research presentations.

OTR600R1（その他 / Others 600）

プログラム演習

増淵　敏之

科目分類：**演習科目（必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士1年次の学生には専門性の高い教育に慣れてもらうために、導入的に文献購読、調査法、分析法の習得、そして修士論文の構成作業を通じて、論文執筆に当たっての基礎的な知識の習得を目標にし、学生の研究発表の機会において修士論文のベーシックな形を作ることを目標にする。
修士2年次の学生には具体的に修士論文を執筆することを目標にする。

【到達目標】
修士1年次の学生は2年次に速やかに調査、研究に臨めるような基盤を作るようにすることを到達目標にする。春学期ではその目的達成のための導入に充てる。
修士2年次の学生は修士論文の完成が到達目標になる。学生は修士論文として認められるものを完成させる。春学期では事前調査、本調査のための準備に充てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
文献輪読、研究発表を中心にフィールドワークも適宜、実施したい。学際的な研究は多様な文献を読まなければならず、また変化する時代の理解も深めなければならない。その点に留意して授業を進めたい。また修士2年次の学生には修士論文執筆のための個別指導を授業以外にも行う。内容が変更の場合もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス/guidance	授業の進め方について説明を行う/Explain how to proceed with the class
2回（3･4）	研究計画の発表/Announcement of research plan	研究計画の発表/Announcement of research plan
3回（5･6）	研究計画の発表/Announcement of research plan	研究計画の発表/Announcement of research plan
4回（7･8）	論文の書き方/How to write a dissertation	論文執筆の手順と方法/Procedure and method of writing a dissertation
5 回（9・10）	形式要件及び参考文献/Formal requirements and references	論文の形式要件及び参考文献リストの作成法/Format requirements for papers and how to create a bibliography
6回（11・12）	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation ※フィールドワーク/fieldwork
7回（13・14）	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
8回（15・16）	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
9回（17・18）	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
10　回（19・20）	研究発表/Research presentation ※フィールドワーク/fieldwork	研究発表/Research presentation ※フィールドワーク/fieldwork
11　回（21・22）	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
12　回（23・24）	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
13　回（25・26）	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer、 担当教員によるまとめ/summary
14　回（27・28）	まとめ/summary	本年度の振り返り/Looking back on this year

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献を事前に読むことは必要、また研究発表のための資料作成等も事前に用意すること。また授業内容も適宜、変更することもあり得るので留意されたし。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくになし。必要に応じて適宜、紹介する。

【参考書】
とくになし。必要に応じて適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
研究発表による評価50％、平常点50％

【学生の意見等からの気づき】
授業に参加している学生が活発に自由に発言できる環境作りに留意したい。

【学生が準備すべき機器他】
映像資料等を使用する場合もある。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは毎週月曜日16 − 18時。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。

【Outline (in English)】
Basic knowledge of writing a dissertation through introductory literature reading, research and analysis methods, and the construction of a master's dissertation so that students in the first year of the master's course can become accustomed to highly specialized education. The goal is to create a basic form of master's thesis at the opportunity for students to present their research.
The goal of second-year master's students is to write a master's thesis.

OTR600R1（その他 / Others 600）

プログラム演習

増淵　敏之

科目分類：**演習科目（必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士1年次の学生には専門性の高い教育に慣れてもらうために、導入的に文献購読、調査法、分析法の習得、そして修士論文の構成作業を通じて、論文執筆に当たっての基礎的な知識の習得を目標にし、学生の研究発表の機会において修士論文のベーシックな形を作ることを目標にする。
修士2年次の学生には具体的に修士論文を執筆することを目標にする。

【到達目標】
修士1年次の学生は2年次に速やかに調査、研究に臨めるような基盤を作るようにすることを到達目標にする。春学期ではその目的達成のための導入に充てる。
修士2年次の学生は修士論文の完成が到達目標になる。学生は修士論文として認められるものを完成させる。春学期では事前調査、本調査のための準備に充てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
文献輪読、研究発表を中心にフィールドワークも適宜、実施したい。学際的な研究は多様な文献を読まなければならず、また変化する時代の理解も深めなければならない。その点に留意して授業を進めたい。また修士2年次の学生には修士論文執筆のための個別指導を授業以外にも行う。内容が変更の場合もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス/guidance	授業の進め方について説明を行う/Explain how to proceed with the class
2回（3･4）	研究計画の発表/Announcement of research plan	研究計画の発表/Announcement of research plan
3回（5･6）	研究計画の発表/Announcement of research plan	研究計画の発表/Announcement of research plan
4回（7･8）	論文の書き方/How to write a dissertation	論文執筆の手順と方法/Procedure and method of writing a dissertation
5 回（9・10）	形式要件及び参考文献/Formal requirements and references	論文の形式要件及び参考文献リストの作成法/Format requirements for papers and how to create a bibliography
6回（11・12）	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
7回（13・14）	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
8回（15・16）	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
9回（17・18）	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
10　回（19・20）	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
11　回（21・22）	研究発表/Research presentation ※フィールドワーク/fieldwork	研究発表/Research presentation ※フィールドワーク/fieldwork
12　回（23・24）	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
13　回（25・26）	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer、担当教員によるまとめ/Summary by the teacher in charge
14　回（27・28）	まとめ/summary	本年度の振り返り/Looking back on this year

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献を事前に読むことは必要、また研究発表のための資料作成等も事前に用意すること。また授業内容も適宜、変更することもあり得るので留意されたし。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくになし。必要に応じて適宜、紹介する。

【参考書】
とくになし。必要に応じて適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
研究発表による評価50％、平常点50％

【学生の意見等からの気づき】
授業に参加している学生が活発に自由に発言できる環境作りに留意したい。

【学生が準備すべき機器他】
映像資料等を使用する場合もある。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは毎週月曜日16 − 18時。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。

【Outline (in English)】
Basic knowledge of writing a dissertation through introductory literature reading, research and analysis methods, and the construction of a master's dissertation so that students in the first year of the master's course can become accustomed to highly specialized education. The goal is to create a basic form of master's thesis at the opportunity for students to present their research.
The goal of second-year master's students is to write a master's thesis.

OTR600R1（その他 / Others 600）

プログラム演習

上山　肇

科目分類：**演習科目（必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論文作成に向けた演習

【到達目標】
各自の論文作成に向けた情報・知識の習得と論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
まちづくり等に関し、教員から提示された課題あるいは持ち寄り課題についての議論や基本図書の輪読等を通し、各自の論文作成に向けた情報や知識を習得します。また、その都度各自の論文の進捗状況について発表を通して確認していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス	プログラム演習の進め方について説明します。
2回（3･4）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
3回（5･6）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
4回（7･8）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
5 回（9・10）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
6回（11・12）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
7回（13・14）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
8回（15・16）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
9回（17・18）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
10　回（19・20）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
11　回（21・22）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
12　回（23・24）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
13　回（25・26）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
14　回（27・28）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表に向けた準備。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
必要に応じて提示します。

【成績評価の方法と基準】
発表や議論の場での発言、研究成果によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
共同研究・勉強会を通して他ゼミ等と交流を図ります。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This course introduces about writing method of a thesis to students taking this course.
[Learning Objectives]
Acquisition of information and knowledge for writing your own dissertation
[Learning activities outside of classroom]
Preparation for presentation.
[Grading Criteria /Policy]
Evaluation will be made based on the statements made at the presentations and discussions, and the research results.

OTR600R1（その他 / Others 600）

プログラム演習

上山　肇

科目分類：**演習科目（必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論文作成に向けた演習

【到達目標】
各自の論文作成に向けた情報・知識の習得と論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
まちづくり等に関し、教員から提示された課題あるいは持ち寄り課題についての議論や基本図書の輪読等を通し、各自の論文作成に向けた情報や知識を習得します。また、その都度各自の論文の進捗状況について発表を通して確認していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス	プログラム演習の進め方について説明します。
2回（3･4）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
3回（5･6）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
4回（7･8）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
5 回（9・10）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
6回（11・12）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
7回（13・14）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
8回（15・16）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
9回（17・18）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
10　回（19・20）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
11　回（21・22）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
12　回（23・24）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
13　回（25・26）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
14　回（27・28）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表に向けた準備。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
必要に応じて提示します。

【成績評価の方法と基準】
発表や議論の場での発言、研究成果によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
共同研究・勉強会を通して他ゼミ等と交流を図ります。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This course introduces about writing method of a thesis to students taking this course.
[Learning Objectives]
Acquisition of information and knowledge for writing your own dissertation
[Learning activities outside of classroom]
Preparation for presentation.
[Grading Criteria /Policy]
Evaluation will be made based on the statements made at the presentations and discussions, and the research results.

OTR600R1（その他 / Others 600）

プログラム演習

北郷　裕美

科目分類：**演習科目（必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では、論文作成のための知識と研究スキルを習得する。特にメディア学、観光学、社会学の包括的な知識を学修する。このゼミナールのテーマは観光およびメディアである。

【到達目標】
論文を作成する際に必要なスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、講義、受講者の研究発表・プレゼン、ディスカッションなどを中心に進める。また、個人の進度に応じた個別指導を並行して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス	演習の編成に関する方針とスケジュール
2回（3･4）	論文作成に向けた演習①	研究計画個人発表とディスカッション、研究スキルの学習、論文の形式について概説
3回（5･6）	論文作成に向けた演習②	研究計画個人発表とディスカッション、研究スキルの学習、論文の形式について概説
4回（7･8）	論文作成に向けた演習③	研究計画個人発表とディスカッション、研究スキルの学習、論文の形式について概説
5 回（9・10）	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション①	『既存先行論文購読』個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
6回（11・12）	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション②	『既存先行論文購読』個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
7回（13・14）	社会学思考についての学びとディスカッション	『映画視聴』 視聴後グループディスカッションと振り返りを行う
8回（15・16）	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション③	『既存先行論文購読』個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
9回（17・18）	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション④	『既存先行論文購読』個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
10　回（19・20）	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション⑤	『既存先行論文購読』個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
11　回（21・22）	社会学思考についての学びとディスカッション	『映画視聴』 視聴後グループディスカッションと振り返りを行う
12　回（23・24）	ゼミ越境授業 見学会	フィールドワーク調査演習を兼ねる 見学後グループディスカッションと振り返りを行う
13　回（25・26）	外部講師による講義	観光メディアプログラム・ゼミ全体に関わる知見を得る グループディスカッションと振り返りを行う
14　回（27・28）	夏休みの調査・研究の準備	各々の研究テーマ考察　夏休み中にどのような調査研究を行うのか具体的なプランを検討し共有する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の調査研究テーマにそった学習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
西村大志・松浦雄介編『映画は社会学する』法律文化社
そのほか各回の演習に必要な論文や資料は毎回コピーして配布する。

【参考書】
その都度提示する　基本的に観光社会学・メディア論関連書籍を予定している

【成績評価の方法と基準】
メディア学、観光学、観光社会学の視点と調査方法をどの程度身につけたのかを評価する。また、ゼミ参加と論文作成の進捗状況なども評の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
個人の関心や研究分野にしたがった指導を行う。受講生との対話によって柔軟に対応する。

【学生が準備すべき機器他】
基本的に資料の共有等、情報機器（ノートパソコン、タブレット等）を用意いただきたい

【Outline (in English)】
In this seminar, you will acquire knowledge and research skills for writing a thesis. In particular, students acquire comprehensive knowledge of tourism studies, media studies, and sociology. The theme of this seminar is tourism and media.

OTR600R1（その他 / Others 600）

プログラム演習

北郷　裕美

科目分類：**演習科目（必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では、論文作成のための知識と研究スキルを習得する。特にメディア学、観光学、社会学の包括的な知識を学修する。このゼミナールのテーマは観光・メディアである。

【到達目標】
論文を作成する際に必要なスキルを習得する。
修士 1 年次の学生は 2 年次に速やかに調査、研究に臨めるような基盤を作る
ようにすることを到達目標にする。
修士 2 年次の学生は修士論文の完成が到達目標になる。学生は修士論文とし
て認められるものを完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生の発表を基本に進める。校外学習（フィールドワーク）は合同ゼミ合宿を想定して行う（予定）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	秋学期ガイダンス 夏休み中の研究進捗・調査内容の報告	秋学期へのプラン発表　受講生各々が研究とスケジュール発表を行う
2回（3･4）	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション①	『既存先行論文購読』個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
3回（5･6）	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション②	『既存先行論文購読』個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
4回（7･8）	社会学思考についての学びとディスカッション	『映画視聴』視聴後グループディスカッションと振り返りを行う
5 回（9・10）	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション③	『既存先行論文購読』個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
6回（11・12）	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション④	『既存先行論文購読』個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
7回（13・14）	観光社会学を踏まえた社会学思考についての学びとディスカッション⑤	『既存先行論文購読』先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
8回（15・16）	ゼミ校外越境授業 見学会	フィールドワーク調査演習を兼ねる 見学後グループディスカッションと振り返りを行う
9回（17・18）	観光社会学を踏まえた社会学思考についての学びとディスカッション⑥	『既存先行論文購読』先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
10　回（19・20）	観光社会学を踏まえた社会学思考についての学びとディスカッション⑦	『既存先行論文購読』先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
11　回（21・22）	修士論文の口述試験予行演習	修士論文の構想を発表　確認ディスカッション
12　回（23・24）	M2修論中間発表準備演習	修士論文の全体について報告する
13　回（25・26）	外部講師による講義	観光メディアプログラム・ゼミ全体に関わる知見を得る グループディスカッションと振り返りを行う
14　回（27・28）	ビブリオバトル発表会　ゼミ振り返り	個々のテーマに沿ったおすすめの既存文献をプレゼン発表　ゼミ全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の調査研究テーマにそった学習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
演習に必要な論文や資料は毎回ポータルサイトにアップロードもしくはコピーして配布する。

【参考書】
その都度提示する　基本的に観光社会学・メディア論関連書籍を予定している　また関連する既存の各種論文を読み解く機会も設けたい

【成績評価の方法と基準】
メディア学、観光学、観光社会学の視点、その調査方法をどの程度身につけたのかを評価の基準とする。また、ゼミ参加と論文作成の進捗状況なども評価対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
個人の関心や研究分野にしたがった指導を行う。受講生との対話によって柔軟に対応する。

【学生が準備すべき機器他】
基本的に資料の共有等、情報機器（ノートパソコン、タブレット等）を用意いただきたい

【その他の重要事項】
ゼミへの積極的な参加を望む。やむを得ず欠席する際は事前に申し出ること。

【Outline (in English)】
In this seminar, you will acquire knowledge and research skills for writing a thesis. In particular, students acquire comprehensive knowledge of tourism studies, media studies, and sociology. The theme of this seminar is tourism and media.

OTR600R1（その他 / Others 600）

プログラム演習

橋本　正洋

科目分類：**演習科目（必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文・政策研究論文の作成に向けた研究指導を演習（ゼミ）形式で行う。研究計画書の作成、研究テーマの選定、先行研究のレビュー、調査分析手法（定性的・定量的）、調査結果の考察など、論文作成のための知識や研究スキルを習得する。

【到達目標】
①論文作成のための基礎的な知識を習得する
②研究に必要な先行研究レビューや調査分析手法を習得する
③調査分析結果の考察方法を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
演習（ゼミ）方式で、各自が研究テーマに沿った研究成果を順次発表し、全員で議論することで、研究内容を充実する。また、輪読などを行い、研究に必要な理論・分析手法などの習得をめざす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス	演習（ゼミ）の進め方についての説明。
2回（3･4）	論文作成の基礎知識①	問題意識について。問題意識がなぜ必要なのか。
3回（5･6）	論文作成の基礎知識②	資料・文献の収集方法について。理論研究と実証研究について。
4回（7･8）	論文作成の基礎知識③	研究論文執筆上のマナー（剽窃、注、参考文献）について。
5 回（9・10）	研究テーマの設定方法 個人研究発表	研究ネタの集め方について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
6回（11・12）	研究テーマの発表 個人研究発表	研究ネタの整理と集約について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
7回（13・14）	研究計画書の作成方法 個人研究発表	研究計画書の内容について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
8回（15・16）	研究計画書の発表 個人研究発表	研究計画書の構成について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
9回（17・18）	先行研究レビューの方法 個人研究発表	文研研究の方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
10　回（19・20）	定性的調査の方法 個人研究発表	事例研究、ヒヤリングの方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
11　回（21・22）	定量的調査の方法 個人研究発表	アンケート調査、統計分析の方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
12　回（23・24）	調査結果の分析手法 個人研究発表	事例記述、統計解釈について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
13　回（25・26）	調査分析結果の考察 個人研究発表	論証と理論展開について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
14　回（27・28）	まとめ	論文の書き方についての最終確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習では、文献の精読、研究発表のための資料作成等を重視する。復習では目安となる水準を演習中に提示する。また、プレゼンテーションの実施によって、ロジカルに見解を伝えるスキルを習得することを目指す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ゼミ生の研究の進捗状況等に合わせて、必要な教材を紹介する。

【参考書】
各回の演習テーマごとに適宜指示する

【成績評価の方法と基準】
本演習の３つの到達目標に対する達成度を評価基準に、演習内での発言・貢献度（５０％）、研究発表内容（５０％）により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
講義と異なり、ゼミは、学生自らが運営するとの意識をもって望むことが必要。

【学生が準備すべき機器他】
ゼミにはパソコンを用意すること。HDMI 端子があることが望ましい。

【その他の重要事項】
ゼミの日程は、研究の進捗状況により変更するので、橋本研の googledribe を確認すること。

【Outline (in English)】
The seminar will be run in order to accomplish master thesis. The goal of the seminar is to learn research planning, selection of research themes, reviews on the previous works and methodologies on analytic skills.

OTR600R1（その他 / Others 600）

プログラム演習

橋本　正洋

科目分類：**演習科目（必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文・政策研究論文の作成に向けた研究指導を演習（ゼミ）形式で行う。研究計画書の作成、研究テーマの選定、先行研究のレビュー、調査分析手法（定性的・定量的）、調査結果の考察など、論文作成のための知識や研究スキルを習得する。

【到達目標】
①論文作成のための基礎的な知識を習得する
②研究に必要な先行研究レビューや調査分析手法を習得する
③調査分析結果の考察方法を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
演習（ゼミ）方式で、各自が研究テーマに沿った研究成果を順次発表し、全員で議論することで、研究内容を充実する。また、輪読などを行い、研究に必要な理論・分析手法などの習得をめざす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス	演習（ゼミ）の進め方についての説明。
2回（3･4）	論文作成の基礎知識①	問題意識について。問題意識がなぜ必要なのか。
3回（5･6）	論文作成の基礎知識②	資料・文献の収集方法について。理論研究と実証研究について。
4回（7･8）	論文作成の基礎知識③	研究論文執筆上のマナー（剽窃、注、参考文献）について。
5 回（9・10）	研究テーマの設定方法 個人研究発表	研究ネタの集め方について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
6回（11・12）	研究テーマの発表 個人研究発表	研究ネタの整理と集約について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う
7回（13・14）	研究計画書の作成方法 個人研究発表	研究計画書の内容について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う
8回（15・16）	研究計画書の発表 個人研究発表	研究計画書の構成について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う
9回（17・18）	先行研究レビューの方法 個人研究発表	文研研究の方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う
10　回（19・20）	定性的調査の方法 個人研究発表	事例研究、ヒヤリングの方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
11　回（21・22）	定量的調査の方法 個人研究発表	アンケート調査、統計分析の方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
12　回（23・24）	調査結果の分析手法 個人研究発表	事例記述、統計解釈について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
13　回（25・26）	調査分析結果の考察 個人研究発表	論証と理論展開について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
14　回（27・28）	まとめ	論文の書き方についての最終確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習では、文献の精読、研究発表のための資料作成等を重視する。復習では目安となる水準を演習中に提示する。また、プレゼンテーションの実施によって、ロジカルに見解を伝えるスキルを習得することを目指す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ゼミ生の研究の進捗状況等に合わせて、必要な教材を紹介する。

【参考書】
各回の演習テーマごとに適宜指示する

【成績評価の方法と基準】
本演習の３つの到達目標に対する達成度を評価基準に、演習内での発言・貢献度（５０%）、研究発表内容（５０%）により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
講義と異なり、ゼミは、学生自らが運営するとの意識をもって望むことが必要。

【Outline (in English)】
The seminar will be run in order to accomplish master thesis. The goal of the seminar is to learn research planning, selection of research themes, reviews on the previous works and methodologies on analytic skills.

MAN710R1（経営学 / Management 700）

雇用政策特殊研究Ⅱ

石山　恒貴

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**4単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

雇用、キャリア、人的資源管理、職業能力開発などの領域を中心に、博士課程としての専門性に応じた授業を行う。文献レビュー、定量調査、定性調査、フィールドワークなど多角的に進める。

博士後期課程の中間の年度となることから、博士論文に着手できる条件をすべて整えるための内容を重点的に行う。

【到達目標】

学会発表、査読論文の執筆が可能となるレベルへの到達を目指す。体系的に博士論文を構築していく。

博士論文に着手できる条件を整えるために、特に査読論文の執筆が可能となるレベルへの到達を重視する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に個人指導が中心となるが、博士課程在籍者間における、情報共有と議論を効果的に交える。また、修士課程在籍者への指導経験をとおして、自身の研究領域への理解を深めていただく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
2回（3･4）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
3回（5･6）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
4回（7･8）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
5回（9･10）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
6回（11･12）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
7回（13･14）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
8回（15･16）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
9回（17･18）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
10回（19･20）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
11回（21･22）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
12回（23･24）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
13回（25･26）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
14回（27･28）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
15回（29･30）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
16回（31･32）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
17回（33･34）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
18回（35･36）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
19回（37･38）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
20回（39･40）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
21回（41･42）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
22回（43･44）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
23回（45･46）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
24回（47･48）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
25回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
26回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
27回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
28回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当領域および関連領域に関する、日本と海外の文献サーベイ。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

個別に指定する。

【参考書】

個別に指定する。

【成績評価の方法と基準】

議論、発表、論文の執筆状況により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が主体的に学んでいくことを基本とするが、同時にきめ細かい支援も行う。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of academic research for doctoral work.
Students will be evaluated comprehensively based on their discussions, presentations, and written papers.

Goal
At the end of the course, students are expected to reach a level where students can adequately present their work at conferences and write peer-reviewed papers. Emphasis will be placed on reaching a level that will enable students to write peer-reviewed papers.
Work to be done outside of class (preparation, etc.)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria
Students will be evaluated comprehensively based on their discussions, presentations, and written papers.

ARSl710R1（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 700）

文化政策特殊研究Ⅱ

増淵　敏之

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**4単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士課程ではより専門性を高めることになるため、文献講読、フィールドワーク、議論を中心に授業を進めながら、まずは学会発表、査読論文の執筆を当初の到達目標とする。そして博士論文の全体を構成を並行して決めていく。

【到達目標】
1年次はテーマ設定、修士論文の再検討から学会発表、投稿論文執筆へと進めていき、投稿、掲載に結びつけていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的にマン・ツー・マンで授業を進めていく。適宜、教員の学会出席、調査への同行を求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス/guidance	授業の進め方について説明を行う/Explain how to proceed with the class
2回	研究計画の発表/Announcement of research plan	研究計画の発表/Announcement of research plan
3回	論文の書き方/How to write a dissertation	論文の書き方/How to write a dissertation
4回	形式要件及び参考文献/Formal requirements and references	論文の形式要件及び参考文献リストの作成法/Format requirements for papers and how to create a bibliography
5回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
6回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
7回	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
8回	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
9回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
10回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
11回	教員の関心事/Faculty Interests	教員の関心事/Faculty Interests
12回	教員の関心事/Faculty Interests	教員の関心事/Faculty Interests
13回）	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer、担当教員によるまとめ/Summary by the teacher in charge
14回	まとめ/Summary of the lesson	まとめ/Summary of the lesson
15回	ガイダンス/guidance	授業の進め方について説明を行う/Explain how to proceed with the class
16回	研究計画の発表/Announcement of research plan	研究計画の発表/Announcement of research plan
17回	論文の書き方/How to write a dissertation	論文の書き方/How to write a dissertation
18回	形式要件及び参考文献/Formal requirements and references	形式要件及び参考文献/Formal requirements and references
19回	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
20回	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
21回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
22回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
23	教員の関心事/Faculty Interests	教員の関心事/Faculty Interests
24回	教員の関心事/Faculty Interests	教員の関心事/Faculty Interests
25回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
26回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
27回	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer、担当教員によるまとめ/Summary by the teacher in charge
28回	まとめ/Summary of the lesson	まとめ/Summary of the lesson

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
取り上げた文献及び関連文献の講読。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜、推薦する。

【参考書】
適宜、推薦する。

【成績評価の方法と基準】
発表、議論の場での発言、研究成果を中心に評価していく。

【学生の意見等からの気づき】
文献紹介、フィールド紹介など細かい点にも留意していく。

【その他の重要事項】
基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。

【Outline (in English)】
As the doctoral course will raise the level of expertise, we will initially make presentations on academic sessions and writing peer-reviewed papers as initial targets while promoting classes focusing on document reading, field work, and discussion. And we decide the whole of the doctoral dissertation in parallel.

ARSl720R1（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 700）

文化政策特殊研究Ⅲ

増淵　敏之

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**4単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士課程ではより専門性を高めることになるため、文献講読、フィールドワーク、議論を中心に授業を進めながら、まずは学会発表、査読論文の執筆を当初の到達目標とする。そして博士論文の全体を構成を並行して決めていく。

【到達目標】
1年次はテーマ設定、修士論文の再検討から学会発表、投稿論文執筆へと進めていき、投稿、掲載に結びつけていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的にマン・ツー・マンで授業を進めていく。適宜、教員の学会出席、調査への同行を求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス/guidance	授業の進め方について説明を行う/Explain how to proceed with the class
2回	研究計画の発表/Announcement of research plan	研究計画の発表/Announcement of research plan
3回	論文の書き方/How to write a dissertation	論文の書き方/How to write a dissertation
4回	形式要件及び参考文献/Formal requirements and references	論文の形式要件及び参考文献リストの作成法/Format requirements for papers and how to create a bibliography
5回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
6回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
7回	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
8回	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
9回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
10回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
11回	教員の関心事/Faculty Interests	教員の関心事/Faculty Interests
12回	教員の関心事/Faculty Interests	教員の関心事/Faculty Interests
13回）	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer、担当教員によるまとめ/Summary by the teacher in charge
14回	まとめ/Summary of the lesson	まとめ/Summary of the lesson
15回	ガイダンス/guidance	授業の進め方について説明を行う/Explain how to proceed with the class
16回	研究計画の発表/Announcement of research plan	研究計画の発表/Announcement of research plan
17回	論文の書き方/How to write a dissertation	論文の書き方/How to write a dissertation
18回	形式要件及び参考文献/Formal requirements and references	形式要件及び参考文献/Formal requirements and references
19回	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
20回	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
21回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
22回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
23	教員の関心事/Faculty Interests	教員の関心事/Faculty Interests
24回	教員の関心事/Faculty Interests	教員の関心事/Faculty Interests
25回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
26回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
27回	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer、担当教員によるまとめ/Summary by the teacher in charge
28回	まとめ/Summary of the lesson	まとめ/Summary of the lesson

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
取り上げた文献及び関連文献の講読。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜、推薦する。

【参考書】
適宜、推薦する。

【成績評価の方法と基準】
発表、議論の場での発言、研究成果を中心に評価していく。

【学生の意見等からの気づき】
文献紹介、フィールド紹介など細かい点にも留意していく。

【その他の重要事項】
基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。

【Outline (in English)】
As the doctoral course will raise the level of expertise, we will initially make presentations on academic sessions and writing peer-reviewed papers as initial targets while promoting classes focusing on document reading, field work, and discussion. And we decide the whole of the doctoral dissertation in parallel.

ARSl720R1（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 700）

地域社会政策特殊研究Ⅲ

高尾　真紀子

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**4単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
各自の研究テーマに応じた研究指導を行う。文献調査、統計データの分析、質問紙調査等の定量分析、事例研究等の定性的分析を踏まえた政策立案について議論し、博士論文の作成を目指す。

【到達目標】
地域政策、社会政策に関する理論を理解し、分析能力及び政策立案能力を向上させ、査読論文を基に博士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
各自の論文テーマに沿って個別指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	授業全体のガイダンス及び研究計画の確認	授業の進め方、論文作成に向けたスケジュール・研究計画の進捗確認
2回（3･4）	論文作成に向けた個別指導　博論の構成	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
3回（5･6）	論文作成に向けた個別指導　博論の構成	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
4回（7･8）	論文作成に向けた個別指導　博論の構成	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
5 回（9・10）	論文作成に向けた個別指導　博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
6回（11・12）	論文作成に向けた個別指導　博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
7回（13・14）	論文作成に向けた個別指導　博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
8回（15・16）	論文作成に向けた個別指導　博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
9回（17・18）	論文作成に向けた個別指導　博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
10　回（19・20）	論文作成に向けた個別指導　博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
11　回（21・22）	論文作成に向けた個別指導　博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
12　回（23・24）	論文作成に向けた個別指導　博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
13　回（25・26）	論文作成に向けた個別指導　博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
14　回（27・28）	論文作成に向けた個別指導　博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究テーマに応じて取り上げた文献の購読、論文の作成。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
各自の研究テーマに合わせて指定する

【成績評価の方法と基準】
授業における議論、発表、論文によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
In this course, research guidance will be conducted according to each student's research theme for preparing doctoral dissertations. Students learn analysis of statistical data, quantitative analysis such as questionnaire survey, qualitative analysis and policy planning.

ECN590R1（経済学 / Economics 500）

経済政策特殊講義（実証分析入門）

柿野　成美

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文執筆においては先行研究を丁寧に読み解くことが不可欠である。本講義は、実証研究を行っている雑誌掲載論文を教材として取り上げ、論文の作法と分析の手法に慣れるとともに、論文ポイントを把握するための読解力を養成することが目的である。

【到達目標】

１．実証研究論文の構成と作法を理解すること、２．先行研究の分析結果の読み方を習得すること、３．各自が今後執筆する論文に関わる実証研究の先行研究を読み進められるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

実証分析を行っている査読論文を各自の関心に応じて選び、グループで論文のポイントとなる分析手法や結論の読み方を紐解き、論点を明確にする。授業で扱う論文は、教育、福祉、人材育成、男女共同参画、地域連携、環境など幅広く扱う。事前に用意した論文に目を通してから講義に臨むこと。なお、データ分析の実習は行わない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス 実証分析の基礎	実証分析の基本的な考え方について理解する。
2回（3･4）	実証分析論文の収集	図書館の国内外の論文検索機能について理解し、各自の関心に応じた実証分析論文を収集する。
3回（5･6）	実証分析の考え方①	相関係数、有意差検定の基本的な考え方について理解し、論文を用いてグループで討議する。
4回（7･8）	実証分析の考え方②	重回帰分析、ロジスティック回帰分析の基本的な考え方について理解し、論文を用いてグループで討議する。
5 回（9・10）	実証分析の考え方③	因子分析・主成分分析等の基本的な考え方について理解し、論文を用いてグループで討議する。
6回（11・12）	先行研究論文の発表と討議	自身の執筆論文に関連した、実証研究で構成された論文を選び、その分析手法、内容検討結果を発表、討議する。
7回（13・14）	先行研究論文の発表と討議	自身の執筆論文に関連した、実証研究で構成された論文を選び、その分析手法、内容検討結果を発表、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。事前に配布する論文を読んでから講義に出席することを前提とする。各自の研究分野に関する雑誌（査読論文が望ましい）にアクセスし、論文を検索する習慣を身につけることを勧める。

【テキスト（教科書）】

教科書はなく、教材を毎回配布する。教材は優れた実証分析で構成された学術論文を予定している。

【参考書】

浦上昌則・脇田貴文（2021）『心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方　改訂版』東京図書
小塩真司（2021）『第3版　SPSSとAmosによる心理・調査データ解析　因子分析・共分散構造分析まで』東京図書
小塩真司（2021）『研究事例で学ぶSPSSとAmosによる心理・調査データ解析』東京図書

【成績評価の方法と基準】

平常点　５０％
期末レポート　５０％

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

毎回、パソコンを持参する。

【その他の重要事項】

教材で取り上げる論文は、回帰分析、因子分析などの量的分析手法を用いる研究が多いので、それらの考え方に慣れてほしい。

【Outline (in English)】

This course aims to enhance the ability to understand a paper through fast reading by familiarizing students with the structures and research methods of reviewed papers. Course materials will be mostly selected from established journals in Japanese focusing on empirical research on human resources, education, welfare, living economy, and consumer life.

ARSl590R1（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500）

経済政策特殊講義（消費者政策論）

柿野　成美

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化、デジタル化、グローバル化の進展の下で、複雑化・多様化する消費者問題に対し、消費者政策がどのように対応しているのか理解し、SDGs達成に向けた消費者政策の今後の在り方について検討する。

【到達目標】

身近にある消費者問題に気づき、具体的な事例をもとに消費者政策の現状について理解し、今後の在り方について検討できるようになることを目標とする。主な論点は、１．消費者被害とその対応、２．消費者の自立支援（消費者教育・啓発）、３.SDGs達成に向けた消費者と企業との共創（エシカル消費・消費者志向経営）である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義とディスカッションを中心に進める。授業前半では、消費者庁幹部等をゲストスピーカーに招聘する他、飯田橋にある東京都消費生活総合センターの実地調査を取り入れる。授業後半では、各自で消費者政策に関する具体事例を設定し、発表・討議を行い理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス	消費者政策の基本的な考え方や消費者政策の推進体制について学ぶ。
2回（3･4）	消費者の自立支援：消費者教育・啓発	学校、家庭、地域、職域における消費者教育の現状と課題について検討する。
3回（5･6）	地方消費者行政の実際（現地調査）	東京都消費生活総合センター（飯田橋）を訪れ、消費生活相談や自立支援策の現状と課題について学ぶ。最後に担当教員によるまとめを行う。
4回（7･8）	消費者政策の最前線（ゲストスピーカー）	消費者庁幹部をゲストスピーカーに招聘し、消費者政策の最前線について理解すると共に、これからの消費者政策の在り方についてディスカッションする。最後に担当教員からまとめを行う。
5 回（9･10）	消費者と企業の共創：消費者志向経営とエシカル消費	持続可能な社会に向けた企業と消費者の役割について具体的事例を用いて検討する。
6回（11･12）	個人発表・討議	消費者政策に関する具体事例を設定し、その現状と課題について発表・討議する。
7回（13･14）	個人発表・討議・まとめ	消費者政策に関わる具体事例を設定し、その現状と課題について発表・討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。日頃から新聞等に目を通し、消費者政策に関連ある諸課題に関心を持つようにすること。

【テキスト（教科書）】

『日本の消費者政策―公正で健全な市場をめざして―』樋口一清・井内正敏、創成社、2020年、2500円

【参考書】

『くらしの豆知識2022』国民生活センター編集・発行、全国官報販売協同組合

『消費者事件　歴史の証言』及川昭伍・田口義明、民事法研究会、2015年

『消費者教育の未来ー分断を乗り越える実践コミュニティの可能性』柿野成美、法政大学出版局、2019年

【成績評価の方法と基準】

レポート課題：50％、平常点：50％

毎回の講義における議論やリアクションペーパーへの記載等を平常点として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

【Outline (in English)】

This course aims to understand how the consumer policy is responding to the increasingly complex and diversified consumer issues under the declining birthrate and aging population, digitalization, and globalization. In addition, we will consider the remaining issues and the ways to solve them.

ARSl590R1（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500）

経済政策特殊講義（生活政策論）

柿野　成美

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では公正で持続可能な社会の形成に向けて地域が抱える生活課題を取り上げ、その課題解決に向けた政策の在り方について議論することを目的とする。

【到達目標】

地域における生活課題を設定し、あるべき解決策に向けた政策を具体的に検討することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義とディスカッションを中心に進める。講義では具体的事例を紹介し、ゲストスピーカーによる講義を取り入れる。授業の後半では、各自で生活に関わる課題を設定し、その解決の方向性について発表・討議を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス	公正で持続可能な社会の実現に向けた生活政策が求められる背景を理解し、具体的な課題について検討する。
2回（3･4）	地域課題解決に向けたソーシャルデザイン（ゲストスピーカー：田中美帆氏）	地域における生活課題解決にデザインの力を活用したソーシャルインクルージョンや価値創造について検討する。最後に担当教員によるまとめを行う。
3回（5･6）	つながりを創るコーディネーターの役割	地域の関係者をつなぐコーディネーターの役割について、消費者教育コーディネーターの事例を通じて、連携・協働のメカニズムを議論する。
4回（7･8）	地域における生活政策の実務（ゲストスピーカー）	地域で生活政策に関わる実務家を招聘し、具体事例を理解する。
5 回（9･10）	生産者と消費者をつなぐ学習プログラムー「SDGs調査隊」を事例としてー	地元企業と小学生親子を対象としたプログラム「SDGs調査隊」を事例として、事業者と消費者の共創に向けた学習プログラム及び地域における消費生活の在り方について議論する。
6回（11･12）	発表・討議	生活課題を具体的に設定し、その処方箋ついて発表・討議する。
7回（13･14）	発表・討議・まとめ	生活課題を具体的に設定し、その処方箋ついて発表・討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。日頃から経済、社会に関する新聞、雑誌記事、ニュースなどを読み、政策に関する自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。「生活に関る政策の中で、私が考える最重要課題と解決のための処方箋」についてレポートを作成し発表する。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメや参考資料を配布する。

【参考書】

〇政府の白書

内閣府「高齢社会白書」「少子社会対策白書」「子供・若者白書」「障害者白書」「経済財政白書」

厚生労働省「厚生労働白書」「労働経済白書」

環境省「環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書」

消費者庁「消費者白書」等

〇『消費者教育の未来―分断を乗り越える実践コミュニティの可能性』柿野成美、法政大学出版局、2019年

【成績評価の方法と基準】

授業中の議論への参加度（50％）、最終レポート（50％）を総合的に勘案する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to learn about the basic concepts that contribute to the realization of livelihood policies for the formation of a fair and sustainable society and to discuss the state of regional policies through specific examples.

MAN590R1（経営学 / Management 500）

雇用政策特殊講義（雇用政策研究（マクロ））

石山　恒貴

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働市場において働く人々のキャリア形成支援、職業能力開発、若年・女性・高齢者・外国人などの雇用への対応をめぐる多くの施策の有効な展開は、日本における喫緊の課題であり、その雇用政策全般(マクロ）について検討する．少子高齢化，グローバル化，知識基盤社会化のなかで，雇用はどのような課題を担い、どのように対策を講ずることが適切であるかを考える。

様々な組織において、雇用・人事管理施策・人的資源管理にかかわる仕事を行う実務家、または，これらに興味のある人を念頭に，雇用とはいかにあるべきかを、総論的に検討する．ただし、雇用の実務に直接関係ない院生にも，雇用に関心があり、仕事経験があれば、もちろん履修可能である。

【到達目標】

雇用プログラムの入門的な位置づけにある科目。雇用・人事管理施策・人的資源管理の全体的な展望を得ていただくことを目的にする。現状、沿革、国際比較などについて、総論的な知識を獲得するとともに、雇用を考える際の勘所を養っていただくことを到達目標に置く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

雇用の歴史的背景、国際比較、職業能力開発、キャリア形成支援、日本的雇用など、広い視点から、多角的な検討を行う。

各回の授業は，講義と議論の両者を併用して進める．毎回のテーマにそって講義を進めたのち，関連した課題をめぐり，受講生がいくつかのグループをつくって議論し，その結果を報告し，相互に批判的な検討を加えるなどのディスカッションを行う．必要なコメントも最後に与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	雇用の定義、論点および、雇用の歴史	– そもそも雇用の定義、範囲は何を意味するのか。また、当たり前と思い込んでいる雇用の論点を、あらためて考え直してみる。また、日本型雇用はいつ形成されたのか、その歴史を探る。
2回（3･4）	日本的雇用と雇用の国際比較	そもそも、日本的雇用とは何を意味するのだろうか。通説は正しいのか。日本と他国を国際比較すると、本質的な共通点と違いはどのようなものだろうか か？
3回（5･6）	雇用の流動化、内部労働市場と外部労働市場	雇用の流動化の必要性が指摘されているが、そもそもその定義、また流動化がもたらすものとは？ さらに、労働市場の基本構造を考える
4回（7･8）	職業能力開発	職業能力開発とは、通常の人材開発となにが違うのか？ 環境変化を踏まえ、求められる職業能力開発を考える
5 回（9･10）	非正規雇用、新卒一括採用、女性活躍、兼業・副業など柔軟な働き方	非正規雇用という問題が注目されているが、その本質は何か？ 日本特有の慣行と言われる、新卒一括採用の是非を検討する。さらに、女性活躍について考える
6回（11･12）	兼業・副業と雇用によらない働き方	兼業・副業、フリーランスなど新しい柔軟な働き方はなぜ生じたのか、その効果と課題について分析する。
7回（13･14）	ミドル・シニアの働き方とまとめ	日本型雇用において、ミドル・シニアの現状はどのようなものか。その課題と今後の方向性を考える。さらに授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

雇用に関連した事項を広く勉強することが望ましいです。
1.必須文献として指定された本を選択し、書評レポートを書くこと
2.授業で配布される資料、論文などに目を通すこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使用しないが，以下に掲げる7冊から1冊を選び、書評レポートをお願いする（どちらも早目に入手するか、図書館で借りるように）．このほか別途に挙げる主な参考書，授業でその都度，必要に応じて紹介する文献などを参照していただく．また，毎回の授業にはレジュメや参考資料を配付する予定.

1. ピーター・キャペリ（若山由美訳）『雇用の未来』日本経済新聞社,2001年
2.清家篤『雇用再生―持続可能な働き方を考える』NHK出版,2013年
3.山田久『失業なき雇用流動化』慶応義塾大学出版会，2016年
4.永野仁『労働と雇用の経済学』中央経済社,2017年
5. 川上淳之『副業の研究』慶應義塾大学出版会，2021年
6.小熊英二『日本社会のしくみ』講談社,2019年
7.西村純子・池田心豪『社会学で考えるライフ＆キャリア』中央経済社,2023年

【参考書】

・労働経済白書
・『日本労働研究雑誌』などの研究雑誌に掲載される論文

【成績評価の方法と基準】

評価は，①授業における議論の実施状況による得点（1回当たり5点満点で計35点満点），②2500字以上の長さの科目レポートの得点（65点満点）で，両者を足した総得点を規定による評価基準にそって評価する．ただし，これ以外に，必須の小レポートとして、書評レポートを課す．終了時に提出を求める科目レポートは，授業内容を自分なりに消化し，できるだけ自分の最終課題（修士論文テーマ）に引きつけて書くことが望ましい.

【学生の意見等からの気づき】

文献は、科目履修を決めた場合、出来るだけ早く図書館などで借り出すか、入手しておいていただきたい。なお、どうしても入手できない者のために、代替的な図書を指示することがある。

【学生が準備すべき機器他】

授業ではパワーポイントを使うことがある.

【その他の重要事項】

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of Employment Policy. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Employment Policy.
Goal
At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on employment, human resource management policies, and human resource management.
Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end reports : 65%、in class contribution: 35%

MAN590R1（経営学 / Management 500）

雇用政策特殊講義（人的資源管理論）

石山　恒貴

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義においては、変わりつつある日本的雇用を背景に、今後の人的資源管理をどのように設計・運用していくべきか、という点に焦点をあてる。人的資源管理に携わる人のみならず、企業の経営、人事施策、キャリア施策に興味を持つ人は、広く対象となる。人的資源管理論の知識を講義で解説した後に、受講者で今後の方向性を議論していくことにより、新しい知見の生成を目指していく。

参加型とし、受講生自身が選択した人的資源管理に関する事例（企業、公的団体、非営利を問わず組織の事例）について報告することを求める。

【到達目標】

人的資源管理の定義、概念、最新の動向を理解し、企業の組織経営、人事施策という大きな視野の中での位置づけることができるようにする。それを通じて、実際の企業／組織における人的資源管理を設計、運用、実施できるようになる知識とセンスの習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

人的資源管理の歴史的背景、日本的雇用の変化と課題、グローバルにおける人的資源管理の最新動向などを講義、解説したうえでグループディスカッションを行い、あるべき方向性を全員でつくりあげていく。また受講者相互の発表により、グローバルの状況、日本の状況の実態の理解を深める。

また、人的資源管理は、経営理論、リーダーシップ理論、キャリア理論との関係も重要である。こうした理論との関係性を踏まえながら、授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	人的資源管理の定義、歴史的背景、理論的背景	人的資源管理の定義を行い、どのような歴史的背景、理論的背景があるのかについて分析を行う。
2回（3･4）	組織開発と組織行動	人的資源管理との関連において、組織開発と組織行動の重要概念について、分析、考察する。
3回（5･6）	日本的雇用と職務、エンゲージメント	変化しつつある日本的雇用の状況を分析する。その変化を踏まえ、日本における職務主義と職能資格の実態を考察する。エンゲージメントを多角的に分析する
4回（7･8）	戦略的人的資源管理と人事部の機能・役割	特に欧米における人的資源管理論の発展には戦略的人的資源管理論の貢献が大きく、経営戦略との結びつきが基礎となっている。この観点から分析を行う。それを踏まえて、人事部門の機能・役割がどうあるべきなのかについて考えていく。
5回（9・10）	タレントマネジメントおよび受講者による事例発表	タレントマネジメントには、人材ポートフォリオ、報酬、評価、職務評価、目標管理、リテンションなど様々な要素がある。各要素とその統合の必要性を、タレントという観点から分析する。また、受講者による事例発表を行う。
6回（11・12）	受講者による事例発表	受講者による事例発表を行う。
7回（13・14）	受講者による事例発表とまとめ	受講者による事例発表と授業の総括として、人的資源管理の未来のあり方の総合的な考察。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、講義だけなく、グループ討議を積極的に取り入れていく。自分の所属する組織における人的資源管理についての問題意識を持ち、グループ討議にいかしていただきたい。

また講義で示す参考書については、積極的にお読みいただきたい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ノートについては、毎回の授業で配布する。

【参考書】

有沢正人・石山恒貴『カゴメの人事改革』中央経済社、2023年
石山恒貴『日本企業のタレントマネジメント』中央経済社,2020年
石山恒貴『越境的学習のメカニズム』福村出版,2018年

【成績評価の方法と基準】

評価は、①授業における議論の実施状況による得点（1回あたり5点満点で計35点満点）、②受講者による事例発表の得点（65点満点）で、両者を足した総得点を規定による評価基準に沿って評価する。

【学生の意見等からの気づき】

実務面の参考にしていただくべく、豊富な実例の紹介を行う

【学生が準備すべき機器他】

授業ではパワーポイントなどPCを使うことがある。

【その他の重要事項】

各人の事例研究報告が課されていることに留意して受講すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Human Resource Management. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Human Resource Management.

Goal

At the end of the course, students are expected to understand the definitions, concepts, and current trends in human resource management

Work to be done outside of class

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Presentation of case study assigned by each student: 65%、in class contribution: 35%

MAN590R1（経営学 / Management 500）

雇用政策特殊講義（人材育成論）

石山　恒貴

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学における人材育成という観点で、キャリア理論も含めて幅広く議論する授業である。不確実で変化の激しい環境化において、従来のような長期的な安定を全体にした人材育成の考え方は通用しなくなってきている。そのような不確実な環境における人材育成のあり方を、人材育成理論とキャリア理論を踏まえて考察していく授業。

参加型とし、受講生自身が選択した人材育成に関する事例（企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など）について報告することを求める。

【到達目標】

不確実で変化の激しい環境化において、従来のような長期的な安定を全体にした人材育成の考え方は通用しなくなってきている。そのような不確実な環境における人材育成のあり方を、人材育成理論とキャリア理論を踏まえて考察できる視点を確立することを目的とする。また国際的な人材育成の視点を確立することも目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

人材育成とキャリアに関する幅広い理論と議論を紹介しつつ，日本の現在における人材育成を考える。また国際的な視点も考慮する。

各回の授業は、講義と議論の両者を併用して進める。毎回のテーマにそって講義をしたのち、関連した課題をめぐり、受講生がいくつかのグループをつくって議論し、その結果を報告し、相互に批判的な検討を加えるなどのディスカッションを行う。

参加型とし、受講生自身が選択した人材育成に関する事例（企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など）について報告することを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	人材育成の定義と能力開発	人材育成について議論を進めていくために、それらの基本的な考え方、基本用語の定義、理論枠組みなどを考える。また、能力開発の詳細についても、検討する。
2回（3･4）	キャリア理論	人材育成におけるキャリア理論の位置づけ、実務への応用、発展性について考える。
3回（5･6）	リーダーシップ理論	人材育成におけるリーダーシップ論の位置づけ、実務への応用、発展性について考える。
4回（7･8）	実践共同体と越境的学習	学習理論の発展とも深い関係がある実践共同体と越境学習について、特に状況学習論との関係で考える。
5 回（9・10）	経験学習とジョブ・クラフティングおよび事例発表	学習理論において大きな比重を占める経験学習、および近年注目されるジョブ・クラフティングについて考える。さらに、受講者が、人材育成に関する事例を発表し、発表し、議論する。
6回（11・12）	事例発表	受講者が、人材育成に関する事例を発表し、議論する。
7回（13・14）	事例発表および人材育成の未来とまとめ	受講者が、人材育成に関する事例を発表し、発表し、議論する、および授業の総括として、人材育成の未来について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

いずれかの人材育成に関する事例（企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など）について調査し、授業内で発表する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、授業で配布するパワーポイントをテキストとして使用する。

【参考書】

労働政策研究･研修機構『新時代のキャリアコンサルティング』2016年
石山恒貴『越境的学習のメカニズム』福村出版、2018年
石山恒貴『定年前と定年後の働き方』光文社、2023年

【成績評価の方法と基準】

評価は，①授業における議論の実施状況による得点（1回当たり5点満点で計35点満点），②各自が分担する事例発表の得点（65点満点）で，両者を足した総得点による。

【学生の意見等からの気づき】

理論の実務面への応用に受講者の興味・関心があるため、その点を重視して進める。

【学生が準備すべき機器他】

授業でパワーポイントを使うことがある。

【その他の重要事項】

受講者の事例発表が求められることにご留意いただきたい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of Human Resource Development. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Human Resource Development.

Goal

At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on human resource development theory and career theory.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Presentation of case study assigned by each student: 65%、in class contribution: 35%

MAN590R1（経営学 / Management 500）

雇用政策特殊講義（地域雇用政策事例研究）

石山　恒貴

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域における雇用につき国内の事例を調査研究する科目。先進的な事例、成功・失敗事例などの特色ある顕著な例を取り上げて多様なケーススタディを行う。

地域活性化における人材育成のあり方、コーディネーターのあり方、実践共同体などネットワークの構築方法についても議論する。

地域雇用のあり方を、事例を通じて検討していく。参加型で、受講院生自身が選択した地域について事例研究をし、報告することを求める。

【到達目標】

事例を通じて雇用を地域の観点から学習する科目。各人が特定の地域を選んで報告することが必須要件であるが、それを通じて地域と雇用とキャリアをみる視点が広がっていくことが主な目的となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

広い意味で雇用あるいは地域にかかわる仕事を行うか、または、これらに興味のある人を念頭に、地域雇用とはいかにあるべきかを、事例分析的に検討していく。

受講生がどこか一地域を担当して、その雇用の状況に関して、授業内で発表していただく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	地域雇用の定義と背景	そもそも地域雇用の定義、範囲、歴史とはどのようなものなのか、地域雇用の成功事例の共通点は何かを考える。
2回（3･4）	地域における創造的な人材の集積	地域雇用においては、如何に創造的な人材が集まるかによって、競争力が左右される。UIJターンを含め、創造的な人材を集めた成功例を考える。
3回（5･6）	地域のサードプレイスと関係人口	ゲスト講師の可能性もある。地域においては、その活性化においてサードプレイス（NPO、プロボノ、読書会など）や、よそものが地域に関わる関係人口という考え方が重要になっている。この新しい切り口を検討する。
4回（7･8）	働き方の形態と地域	地域においては、新しい柔軟な働き方が生じつつある。二地点居住、副業、ワーケーション、新しい自営など、働き方と地域について考える。
5 回（9･10）	地域雇用の対比 – 地域雇用の諸事例の対比と検討（その1）	地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する。
6回（11･12）	地域雇用の対比 – 地域雇用の諸事例の対比と検討（その2）	地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する。
7回（13･14）	地域雇用の対比 – 地域雇用の諸事例の対比と検討(その3）地域雇用の未来とまとめ	地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する、および授業の総括として地域雇用の未来を議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は以下のような事項に留意することが望まれる。

１．いずれかの地域を選び、その雇用状況と課題について、実地に調べること（その成果を授業中に発表していただく）

２．地域雇用政策をめぐる記事、番組などに注意を払うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業の都度配布する講義ノートによって行うので、教科書は使用しない。授業の際に、参考文献リスト等を配布することがある。

【参考書】

以下に掲げる主な参考書のほか、授業では地域雇用政策をめぐる各種論文、資料などを、その都度、必要に応じて紹介する。

石山恒貴編『地域とゆるくつながろう－サードプレイスと関係人口の時代』静岡新聞社　2019年

石山恒貴編『ゆるい場をつくる人々: サードプレイスを生み出す17のストーリー』学芸出版社　2024年

【成績評価の方法と基準】

①授業における議論の実施状況による得点（1回当り5点満点で計35点満点）、②各自が分担する地域雇用政策の事例研究の報告による得点（65点満点）の合計点を、規程による評価基準に沿って評価する。

【学生の意見等からの気づき】

地域をみる視点が変わってきたとの反応があるので、その到達目標には今年度も留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

場合によってパワーポイントによる投影などを行う。事例発表の際にパワーポイントを用いるか、それともレジュメのみにて行うかは任意。

【その他の重要事項】

各人の事例研究報告が課されていることに留意して受講すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Regional Employment Policy .At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Regional Employment Policy.

Goal

At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on employment and human resource strategies for regional revitalization.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Presentation of case study assigned by each student: 65%、in class contribution: 35%

ARSl590R1（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500）

地域社会政策特殊講義（ウェルビーイング論）

高尾　真紀子

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、ウェルビーイングが国内外の政策や企業経営においても重要なテーマとして注目されている。身体的・精神的・社会的に良好な状態を示し、幸福、健康、福祉と訳されることもあるウェルビーイングについて、心理学、経済学、経営学など様々な領域で蓄積されてきた学術分野での研究成果を学び、地域や企業における実践事例を取り上げながら、人々がウェルビーイングを実現しながら生活し働くために、地域政策や企業経営においてどのような方策が必要かについて議論し、政策提言に必要な知識及び視点を養う。

【到達目標】
ウェルビーイングについての学術分野での研究成果、ウェルビーイングの測定、地域や企業における実践を踏まえ、ＥＢＰＭ（根拠に基づく政策形成）に資する政策立案・遂行に必要な知識や考え方を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
ウェルビーイングに関する学術的知見についてはできるだけデータに即した客観的な視点を提示し（講義）、地域や企業における実践についてワークショップやグループディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	イントロダクション：ウェルビーイングとは何か	ウェルビーイングの概念及び測定について学術的な知見を学び、ウェルビーイングとは何かについて議論する。
2回（3･4）	ウェルビーイングの規定要因	ウェルビーイング（幸福）に関する心理学、経済学からウェルビーイングの規定要因について学び、議論する。
3回（5･6）	ウェルビーイングに関する政策	世界各国及び日本におけるウェルビーイングに関する政策や指標について学び、政策のあり方について議論する。
4回（7･8）	お金とウェルビーイング（ワークショップ）	お金と幸せについてのワークショップを通じ、お金とウェルビーイングの関係について議論する。
5 回（9・10）	企業におけるウェルビーイング	人的資本経営、健康経営や生産性向上の観点からも注目されている働き方とウェルビーイングについての研究や実践例を学び、幸福な働き方について議論する。
6回（11・12）	地域におけるウェルビーイング	地域におけるウェルビーイングについて、人とのつながりや文化的な観点を含めて議論し、実践例を学ぶ。
7回（13・14）	課題発表	各自が関心を持つ領域におけるウェルビーイングを実現する政策（方策）について発表とディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ウェルビーイング（幸福、健康）は身近なテーマであり、自分の関心のある領域について参考図書に挙げた書籍を読んでおくと役に立つ。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回レジュメや参考資料を配布する

【参考書】
内田由紀子『これからの幸福について　文化的幸福観のすすめ』2020年、新曜社
大竹文雄 , 白石小百合 , 筒井義郎『日本の幸福度　格差・労働・家族』2010　　年，日本評論社
小塩隆士『「幸せ」の決まり方　主観的厚生の経済学』2014年，日本経済新聞社
キャロル・グラハム（多田洋介訳）『幸福の経済学』2013年，日本経済新聞出版社
経済協力開発機構『ＯＥＣＤ幸福度白書２―より良い暮らし指標：生活向上と社会進歩の国際比較』2015年，明石書店
島井哲志『幸福の構造 – 持続する幸福感と幸せな社会づくり　あなたの幸せは何に左右されているか？』2015年，有斐閣
ブルーノ・Ｓ・フライ（白石小百合訳）『幸福度をはかる経済学』2012年，ＮＴＴ出版
前野隆司『幸せのメカニズム－実践・幸福学入門』2013年，講談社現代新書
矢野和男『文庫　データの見えざる手　ウエアラブルセンサが明かす人間・組織・社会の法則』2018年，草思社文庫
矢野和男『予測不能の時代 データが明かす新たな生き方、企業、そして幸せ』2021年，草思社
山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学』2019年，光文社新書

【成績評価の方法と基準】
平常点（議論への参加・貢献）（30％）、各回の課題（20％）、最終レポート（50％）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の話し合いやワークショップによる気づきが得られたとの意見があり、グループディスカッションを積極的に取り入れていく。

【Outline (in English)】
In recent years, well-being has been attracting attention as an important theme in national policies and corporate management. In this course, we will study the results of research on well-being in various academic fields such as psychology, economics, and business administration. We will discuss what kind of measures are necessary in regional policies and corporate management for people to live and work with well-being , taking up practical examples in regions and companies, and cultivate the knowledge and perspectives necessary for policy proposals.

ARSl590R1（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500）

地域社会政策特殊講義（地域活性化システム論）

高尾　真紀子

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、地域活性化の様々な角度から焦点を当てて、内閣府の協力の下に、学外講師（関係省庁、自治体の政策担当者、民間専門家、有識者）が講義に臨み、受講者と直接ディスカッションを行う。受講者は地域活性化の現場で役立つ多角的な視点と実践的な知識を得ることを目指す。

【到達目標】

学外講師（関係省庁の政策担当者、有識者、民間専門家）とディスカッションを行うことにより、地域活性化をめぐる現状や課題、政策的知見を共有し、地域活性化に関する提言をまとめることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は対面を基本とし、一部地方とつなぐ等、オンラインを併用して実施する。毎回、学外講師による講義の後、受講者とディスカションを行う。また、受講者は毎回の講義テーマと関連し地域活性化に関するグループディスカッションを行う。最終日には地域経済分析システム（ＲＥＳＡＳ）を利用し、データに基づく地域活性化の提言をまとめて発表することが求められる。

地域活性化を多様な角度からとらえることとしているが、毎年統一テーマを決めて、講義内容や講師を検討している（2020年度：都市と地方、2021年度：地域のウェルビーイング、2022年：関係人口と地域、2023年度：地域活性化と人づくり、2024年度：人口減少時代の地域活性化）。2025年度のテーマは直近の社会経済情勢を踏まえて決定する予定。

参考までに、以下に2024年度の内容を記す（講師の肩書きは講義時のもの）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	講義 受講生によるディスカッション1 担当教員によるまとめ	イントロダクション 地域活性化政策の変遷
2回（3･4）	講義 受講生によるディスカッション2 担当教員によるまとめ	特定非営利法人　土佐山アカデミー事務局長　吉冨慎作氏 「土佐山アカデミーにおける地域課題の解決法」
3回（5･6）	講義 受講生によるディスカッション3 担当教員によるまとめ	一般社団法人　スマートシティ・インスティテュート　専務理事　南雲岳彦氏 「市民の幸福度を高めるまちづくり」
4回（7･8）	講義 受講生によるディスカッション4 担当教員によるまとめ	一般社団法人　スマートシティ・インスティテュート　専務理事　南雲岳彦氏 第3回のまとめとグループワークの発表
5回（9･10）	講義 受講生によるディスカッション5 担当教員によるまとめ	愛知県新城設楽建設事務所　道路整備課　課長補佐 あいち橋の会　事務局　　宮川　洋一氏 「人口減少時代のインフラのあり方」
6回（11･12）	講義及び対談 受講生によるディスカッション6 担当教員によるまとめ	株式会社価値総合研究所　主席研究員　鴨志田武史氏 「地方創生とＲＥＳＡＳ(地域経済分析システム)」内閣府地方創生推進事務局　　ご担当者 「地方創生の推進について」
7回（13･14）	受講生による発表 担当教員によるまとめ	各自が対象地域を設定し、分析に基づく地域活性化の方策について発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から地域活性化に関する新聞や雑誌記事、ニュースなどを読み、政策に関する自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとにレジュメを配布する。

【参考書】

前野隆司編著『システム×デザイン思考で世界を変える』日経BP社

木下斉『地方創生大全』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

平常点(1/3)、授業への貢献(1/3)、発表の内容（1/3）を総合的に勘案する。

【学生の意見等からの気づき】

Zoomのブレークアウト・セッションの利用による講師とのディスカッションが好評だったため、地方在住の講師を招いてディスカッションできるよう、オンラインと対面を併用した講義とする。

【その他の重要事項】

※オンライン授業の受講方法は学習支援システムに表示します。

※講義概要は講師の都合等により変更がある場合があります。

【Outline (in English)】

In this course, focusing on various angles of regional revitalization, guest lecturers such as practitioners, experts, administrative staff etc. give lectures and discuss directly with the students. This lecture is under the cooperation of the Cabinet Office.

ARSx590R1（地域研究（その他） / Area studies(Others) 500）

都市政策特殊講義（都市空間論）

上山　肇

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市空間の成立条件（構成要素、計画、ルール、プロセス等）について学び、都市空間形成に関する能力を養います。

【到達目標】
都市政策立案に必要な都市空間に関する基本事項を理解できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
都市空間の計画的利用を立案する行政、開発事業者、民間プランナーなどにとって必要な知識を、理論と実践（実務）の両方の視点から解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	(1)地域社会における都市空間 (2)都市環境と都市空間を取り巻く状況	(1)「まちづくり」とは (2)都市化と都市問題
2回（3･4）	(1)都市空間の構成要素 (2)都市空間を実現するための手段	(1)建築と敷地、緑と都市、オープンスペース (2)計画、ルール、事業　等
3回（5･6）	(1)都市空間の形成プロセス (2)都市空間の規制手法１	(1)市民参加と合意形成　等 (2)ゾーニングの歴史と理論
4回（7･8）	(1)都市空間の規制手法２ (2)都市空間における景観	(1)ゾーニングと地区まちづくり (2)景観コントロール
5 回（9･10）	(1)都市空間の開発手法 (2)都市空間の再生	(1)都市再開発の仕組み　等 (2)中心市街地の活性化
6回（11･12）	(1)都市空間の評価手法 (2)事例研究１（事業）	(1)評価の仕組み、具体的まちづくりの評価 (2)土地区画整理事業、再開発事業、密集事業　等
7回（13･14）	(1)事例研究２（制度） (2)事例研究３（テーマ型）	(1)地域地区、地区計画　等 (2)水辺空間の再生（国内・海外事例）　等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布する資料を読んできてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
実践・自治体まちづくり学（上山肇編著、公人の友社）。その他については講義の中で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点50％、発言20％、レポート30％で行います。

【学生の意見等からの気づき】
毎年、事例紹介が学生にとって有効であるため、今年度もできるだけ多くの事例（現地視察を含む）を授業に取り入れたいと考えています。

【その他の重要事項】
受講生と相談した上で、通常授業（1回程度）を休日を利用し現地視察に振り替えることがあります。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
In this course, you will learn about the conditions for establishing urban space (components, plans, rules, processes, etc.) and develop the ability to form urban space.
[Learning Objectives]
This course will help you understand the basics of urban space needed for urban policymaking.
[Learning activities outside of classroom]
Please read the materials to be distributed.
[Grading Criteria /Policy]
Your final grade will be calculated according to the following process: Attendance (50%), Comment (20%), and Reports(30%).

ARSx590R1（地域研究（その他） / Area studies(Others) 500）

都市政策特殊講義（まちづくり事例研究）

上山　肇

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
具体的な都市や地域を対象として、資料収集やフィールドワークを行い、地域資源を活用した都市や地域のあり方を提示するとともに、今後の都市再生やまちづくりの手法を創造します。

【到達目標】
フィールド調査（あるいは資料分析）にもとづいた成果をまとめ、同時にプレゼンができる能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
これからのまちづくりは、都市や地域に積層する歴史や文化、また地域のコミュニティを活かしながら行っていくことが求められています。都市における既存の空間や景観に埋もれている資源、地域コミュニティ形成の実態を探るための調査や分析手法を学び、それらを表現する方法を習得します。学生による作品提出が課題となるため、受講生と相談したうえで授業を変則で行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス	当科目での課題について説明します。
2回（3･4）	テーマ設定	調査対象地（商店街、住宅地、公園、水辺、地域コミュニティの具体例等）を選定します。
3回（5･6）	事例研究及び作業①	各自の調査対象地の先行研究や情報について整理します。
4回（7･8）	事例研究及び作業②	各自の調査対象地の先行研究や情報について整理します。
5 回（9･10）	フィールド調査	調査対象地でのフィールドワークの結果について整理します。
6回（11･12）	事例研究及び作業③	各自の調査対象地の先行研究や情報について整理します。
7回（13･14）	発表	各自、事例研究及び作業の成果をプレゼンします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査対象地に関する資料収集とフィールドワークを行います。
本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
講義の中で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点50％、発言20％、作品30％で行います。

【学生の意見等からの気づき】
学生が時間内に課題（作品）を作成するための時間を確保しやすくできるよう授業を工夫する。

【Outline (in English)】
This course introduces the state of the city and the area utilized area resources, the technique of the city revival and the community development to students taking this course.

ARSl590R1（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500）

文化政策特殊講義（都市文化論）

増淵　敏之

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市と文化の関わりについての議論を学際的に行っていくが、基本的に経年的なアプローチを重視していく。都市の拡大とともに変容していく文化の諸相の考察が本授業のテーマになる。学生には都市文化を学んでいくための幅広い知識の習得を期待している。

【到達目標】
都市論の様々な議論を前提にした文化創出の政策的な手法、方法を理解することを到達目標としたい。とくに都市政策の面においても文化の活用は重要になってきているので、学生は具体的な事例を知識として習得することが必要で、それを自分なりに多角的に考察する姿勢を身につけて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
都市政策を考える上で、都市が内包する文化を把握することが極めて重要である。特にコミュニティ形成や新たな産業創出の上でも比重が高まってきているといえるだろう。本授業では1960年代以降に日本で盛んになってきた都市論全般を見ていくことから始めていくが、特に文化との関係性の強いものを中心に取り上げていく。文化面が強調されていくのは1980年以降になるが、前田愛、吉見俊哉などのいわゆるテクスト分析型の都市論、そして1990年代以降のカルチュラルスタディーズ、文化社会学領域での都市論までを概観していく。また都市文化を象徴する都市装置（劇場、映画館、カフェなど）にも着目、都市文化の生成に果たした役割も見ていきたい。ポップカルチャーもひとつの都市の文化として扱っていく。状況によっては授業内容の変更もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンスと都市論の系譜/Genealogy of guidance and urban studies	都市文化に関する基礎知識/Basic knowledge about urban culture
2回（3･4）	近代においての都市形成と博覧会の果たした役割/The role played by urban formation and expositions in modern times	都市形成とイベント/City formation and events
3回（5･6）	「考現学入門」解読とカフェ論/Deciphering "Introduction to Thinking and Learning" and Cafe Theory	フィールドワークの事例紹介と都市文化装置としてのカフェ/Case study of fieldwork and cafe as an urban cultural device
4回（7･8）	百貨店論、東京への文化的装置の集中/Department store theory, concentration of cultural equipment in Tokyo	都市文化装置としての百貨店、文化装置の東京への集中過程/Department store as an urban cultural device, the process of concentrating cultural devices in Tokyo
5 回（9・10）	東京への文化的装置の集中、映画や小説の中の東京/Concentration of cultural equipment in Tokyo, Tokyo in movies and novels	文化装置の東京への集中過程、映画や小説の中に見る東京の変容/The process of concentration of cultural equipment in Tokyo, the transformation of Tokyo seen in movies and novels
6回（11・12）	アジアの諸都市/Asian cities	アジアの諸都市にみられる文化の変容を見ていく、例：バンコク、マニラ/Look at the cultural transformations of Asian cities, eg Bangkok, Manila
7回（13・14）	都市と異文化受容、都市というメディア/The media of cities, cross-cultural acceptance, and cities	異文化の受容による都市文化の変容、都市をメディアととらえるアプローチ/Transformation of urban culture by accepting different cultures, approach to seeing cities as media

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習をしてきてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。状況に応じて授業内容の変更もあります。

【テキスト（教科書）】
レジュメを使用

【参考書】
授業中に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、レポート70％

【学生の意見等からの気づき】
都市文化を地域再生に結びつける方策について適宜、議論していく。授業の内容も適宜、工夫していく。

【学生が準備すべき機器他】
PC.DVDの使用もある。

【その他の重要事項】
多少、内容等が変わる可能性もある。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。オフィスアワー：月16－18時。

【Outline (in English)】
Discussions on the relationship between cities and culture will be conducted interdisciplinaryly, but basically we will emphasize aging approaches. The theme of this lesson is the consideration of various aspects of culture that transforms as the city expands. I expect students to acquire a wide range of knowledge to learn urban culture.

ARSl590R1（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500）

文化政策特殊講義（文化地理学）

増淵　敏之

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域を論じて行く場合、地理学的な概念が不可欠になる。地理学は現代では空間の学問といわれており、学際的にその領域を拡張している。本授業は地域の文化的差異に注目する文化地理学の入門編である。講義全体を通じて、文化地理学とは何か、その方法上の特色はどこにあるかを考えていくが、また都市地理学の紹介も行って行きたい。

【到達目標】
到達目標は文化地理学の全貌把握にあり、その理論を個々が研究に活用できるようにすることにある。地理学が空間の学問である点を把握したうえで、学際的になっている現代の社会科学、人文科学の中でどのような位置を占め、文化的差異への注目はどのような効用をもたらせているのかを理解し、説明することができるところまで求めたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
一般的には地理学は人文地理学と自然地理学のふたつの領域で構成されるが、本授業では文化地理学を主にして進めていく。文化地理学のこれまでの流れを把握しながら、空間論的、文化的転換期を迎えて以降の様々な研究を紹介していく。適宜、議論を交えていくが、最後にレポート課題の提出を求めたい。なお、状況によって授業内容が変わることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	人文地理学と現代社会・人文地理学と地域/Human Geography and Modern Society・ Human Geography and Region	現代社会における地理学の位置付け、地域という概念について/About the position of geography in modern society and the concept of region
2回（3･4）	文化地理学入門/Introduction to Cultural Geography	文化地理学のこれまでの流れを説明/Explaining the history of cultural geography
3回（5･6）	食文化の地理学/Geography of food culture	おにぎり、稲荷寿司、どら焼き、バウムクーヘンなどの食文化を通じて文化的差異を見る/See cultural differences through food culture such as rice balls, Inari sushi, Taiyaki, and Baumkuchen
4回（7･8）	文化的地域差についての議論/Discussion of cultural regional differences1	テーマを設定し、学生間での議論を行う/Set a theme and have discussions among students
5回（9・10）	言語の地域性と景観の地域性/Regionality of language and regionality of landscape	言語地理学について学び、その後、景観論に言及する/Learn about linguistic geography and then mention landscape theory
6回（11・12）	習慣の文化的差異と文化的差異を形成する要因/Cultural differences in customs and the factors that form them	儀式、しきたり、風俗の違いによる文化的差異、文化的差異に影響する要因について/Cultural differences due to differences in rituals, customs, and customs, and factors that influence cultural differences
7回（13・14）	ポピュラーカルチャーの地理学/Geography of popular culture	これまでの地理学領域でのポピュラーカルチャーについての研究を紹介/Introducing research on popular culture in the field of geography so far

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習をしてくること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。状況によって授業内容が変わることもあります。

【テキスト（教科書）】
レジュメを中心に授業を進める。

【参考書】
森 正人、中川正（2022）「文化地理学ガイダンス」ナカニシヤ出版
森正人（2021）「文化地理学講義ー< 地理> の誕生からポスト人間中心主義へ 」

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、レポート70％

【学生の意見等からの気づき】
説明をできるだけ平易に、具体例を交えて授業を行うことをこころがける。適宜、タイムリーな内容への変更もあり得る。

【学生が準備すべき機器他】
PC、DVDを使用することもある。

【その他の重要事項】
オフィスアワー：金16 − 18時

【Outline (in English)】
When discussing regions, geographical concepts become essential. Geography is nowadays a discipline of space, and it has expanded its field interdisciplinarily. This lesson is an introduction to cultural geography focusing on cultural differences in the region. Throughout the lecture, I will consider what cultural geography is and what is unique about the method. I would also like to introduce urban geography.

TRS590R1（観光学 / Tourism Studies 500）

観光政策特殊講義（観光社会学）

北郷　裕美

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
観光社会学とは何か　社会学という視点でその意味するところを考え続けることが本講義の目的である。現代社会における観光のあり方を探究することによって、現代社会の成り立ちを考えるのが観光社会学である。したがって、本講義では、観光に含まれる文化的要素も併せて把握することで、「現代観光」についてより理解を深める。

【到達目標】
現代社会における観光のあり方を再考し、学生の分析力を養う。現代社会において観光はサービス商品であるとともに政策面での重要な手段である。単なる観光事例研究やツーリズム研究に留まるものではなく、社会学的な手法や知見を基に、観光という広い領域をどう捉え直すべきか。言い換えれば、観光現象を一定の社会を背景に構築され制度化されたもの（中略）として理論化するもの（須藤・遠藤 2018）である。そういう意味において、「観光」は両義的なものである。この両義性のなかで観光現象を的確に分析できる研究者及び実践者に資することがこの授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
各自の論文執筆にどう活かせるかを学ぶ。教員のこれまでの具体的な調査活動や研究実績を基にして、基本的に座学で行うが、各自の研究テーマに沿った形でディスカッションやワークショップを試みたい。具体的な講義形式は、毎回スクリーンにパワーポイント及びウェブサイト・リンクを投影しておこなう。必要に応じてレジュメの配布（学習支援システムに事前アップ）、板書、音声や画像、DVD動画の視聴等も取り入れる。また課題提出を毎回課す。詳細はガイダンス時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス　観光社会学が目指すもの	講義全体を俯瞰するとともに、観光のまなざしと映画に見る社会学という立ち位置で映画視聴による具体例の検証を行う
2回（3･4）	観光社会学とは何か	観光社会学とは何かという問いに対して社会学としての観光を考える　近代化と観光社会学および社会現象としての観光の構造に関して考察する
3回（5･6）	現代観光の特徴	マス・ツーリズムの出現と弊害～現代観光の特徴～新たな観光形態 観光の多様化へ
4回（7･8）	現代観光の特徴：新たな観光形態　観光の多様性	多様な観光形態を事例に観光について社会学的な視点を持つ
5 回（9･10）	現代観光の特徴：新たな観光形態　観光の多様性	文化、産業、家族、宗教等　多くの社会学領域が観光といかなる結びつきがあるかを検証する
6回（11･12）	現代観光の特徴：新たな観光形態　観光の多様性	観光に欠かせない多くの施設や文化装置について広く概観し各々が観光に果たす役割や課題を検証する
7回（13･14）	観光施設の社会性（観光の文化装置としての事例研究）	観光社会学総括　これからの観光を考える（湯布院を事例として）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習のために、毎回事前に講義用のレジュメを学習支援システムにアップする。講義後はコメントシート作成も兼ねて授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧し、授業時間以外に学修してもらうことを望む。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。ただし普段から社会全体で議論されている内容（報道等）には注意深くあって欲しい。

【テキスト（教科書）】
特には設けないが毎回作成配布するPPTを通して独自のノートを作成してほしい　文献等はその都度紹介していく

【参考書】
須藤廣・遠藤英樹『観光社会学 2.0』福村出版、2018年
遠藤 英樹、 堀野 正人、 寺岡 伸悟『観光メディア論 』ナカニシヤ出版、2014年
ジョン アーリ (著)、 ヨーナス ラースン (著)、加太 宏邦 (翻訳)『観光のまなざし』法政大学出版局、2014年
その他　講義内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点30点、レポート70点。

【学生の意見等からの気づき】
毎回提出いただくコメントシート又は対面による学生の感想・意見を授業に反映する

【Outline (in English)】
What is tourism sociology?　The purpose of this lecture is to continue to think about what tourism sociology means from the perspective of sociology.　Tourism sociology considers the origins of modern society by investigating the nature of tourism in modern society.　Therefore, this lecture deals with the "modern tourism" by grasping the cultural elements included in tourism.
Your overall grade in the class will be decided
based on the following:
- Class attendance and attitude in class: 30%
- Term-end examination reports: 70%

TRS590R1（観光学 / Tourism Studies 500）

観光政策特殊講義（フィールドワーク論）

北郷　裕美

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、フィールドワーク(現地調査）の理論と基本技術を身に付けることを目的とする。この講義では基本的に「質的調査」に軸足を置く予定である。

【到達目標】
フィールドワークの技法にはさまざまな種類があるが、まずはそれらを体系的に理解し、最終的には各自の研究テーマに合った調査法を選択すべきである。論文執筆にあたり、全体構成の中でフィールドワークの役割と位置づけを構築し、実践できるようになることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
フィールドワークには様々なアプローチがあるが、論文執筆にそれらをどう生かすかについて学んでもらう。具体的な講義形式は、毎回スクリーンにパワーポイント及びウェブサイト・リンクを投影しておこなう。必要に応じてレジュメの配布（学習支援システムに事前アップ）、板書、音声や画像、映画、DVD動画の視聴等も取り入れる。また課題提出を毎回課す。また、ワークショップも実践したい。詳細はガイダンス時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス　フィールドワークの基本①	授業の目的と到達目標を確認し、講義全体を俯瞰する 質的研究（調査）の再評価を中心に歴史や意義を学ぶ
2回（3･4）	フィールドワークの基本②	エスノグラフィーを基に、フィールドワークの理論や概念、仮説の立て方等を学ぶ
3回（5･6）	フィールドワーク事例①	『映画視聴から学ぶ』 理論に基づいた事例研究に際し、方法論（調査技法）の長所短所について検証する
4回（7･8）	フィールドワーク事例　②	多様なフィールドワーク事例より、参与観察等を通して手法の実際を学ぶ
5 回（9･10）	フィールドワークの実践的なリアリティ	オンラインによる調査・フィールドワークについて考える
6回（11･12）	CASE　STUDY(事例をもとに学ぶ)	フィールドワークの分析手法について『暴走族のエスノグラフィー（佐藤郁哉著)』を用いて多角的に解説する
7回（13･14）	総括　ワークショップ	グループ型のワークショップ形式で具体的なフィールドワーク事例を基に、課題や改善点を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
準備学習のために、毎回事前に講義用のレジュメを学習支援システムにアップする。講義後はコメントシート作成も兼ねて授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧し、授業時間以外に学修してもらうことを望む。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。ただし普段から社会全体で議論されている内容（報道等）には注意深くあって欲しい。

【テキスト（教科書)】
特には設けないが毎回呈示するPPTを通して独自のノートを作成してほしい

【参考書】
佐藤郁也(2008)「質的データ分析法―原理・方法・実践』新曜社
佐藤郁哉（1984-2011）『暴走族のエスノグラフィー』新曜社
はか多くの参考文献は講義中に適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点30%、レポート70%

【学生の意見等からの気づき】
コメントシート又は対面による学生の感想・意見を聞きながら授業を行う

【Outline (in English)】
The aim of this lecture is to acquire the theory and basic techniques of fieldwork (fieldwork).This lecture will basically focus on qualitative research.
Your overall grade in the class will be decided
based on the following:
- Class attendance and attitude in class: 30%
- Term-end examination reports: 70%

ARSI590R1

観光政策特殊講義（コミュニティーメディア論）

北郷　裕美

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域社会を含む様々なコミュニティに帰属する一人の市民として、各々が多様な活動を行う際の、異なったセクター同士を結ぶコミュニケーションツールとしてのメディアの在り方、捉え方を考える。メディアも時代とともに多様化し、インターネットの普及でグローバルな発信のメディアとして市民が活用する機会・環境も生まれてきた。そこで市民社会(特に地域社会)の課題を前提に、如何様にコミュニケーション手段としてのコミュニティーメディア、市民のメディアを捉えるべきか，を考える。

【到達目標】
本講義は毎回テーマ文脈を埋めながらメディア・コミュニケーションの歴史等も時系列的に捉えなおし、最終的に、受講者に市民メディアの役割を理解してもらうとともに、理想的な市民社会のコミュニケーション・モデル(規範モデル)を考えることを目標とする。現状認識としてマス・メディアと市民メディアの定義や機能・役割の違い、及び課題に焦点を当て比較検討し、その視点を基にメディア相互の特性や機能についても考察していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に講義は対面、オンラインどちらの場合も、パワーポイント及びウェブサイト・リンクや視聴覚教材を使った形式を取る。必要に応じて音声や画像、You tube、DVD動画の視聴等も取り入れる。授業計画にあるような全体を繋ぐテーマを毎回設定しているため、講義後に提出いただく受講生のコメントや質問からピックアップした内容を基に、毎回講義内容を反映したQ＆Aやディスカッションも盛り込もうと考えている。これらのことは講義における双方の重要なコミュニケーションの一つと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス～地域情報・コミュニケーションの過去と現在（失われた空間の意味するところ）：マス・メディアの発展と限界	本講義の前提となる社会状況を俯瞰する：高度経済成長期の花形メディアは今いかなる状況にあるかを考える
2回（3･4）	市民メディアの種類と歴史：パブリックアクセスを学ぶ	多様なコミュニティメディアの役割を時系列で総論的に扱う：市民メディアのキーワードである『パブリックアクセス』について考える
3回（5･6）	映画視聴①：ディスカッションと解説	米国映画 (Public Access）を視聴する：米国映画(Public Access）についての意見交換と解説
4回（7･8）	映画視聴②：ディスカッションと解説	邦画(コミュニティ放送前夜の時代を描いた作品）を視聴する：日本のコミュニティ・メディアを念頭に映画についての意見交換と解説
5回（9・10）	動画視聴講義 コミュニティ放送を観る：コミュニティ放送の概要と機能　公共性指標	日本のコミュニティFM放送を取材したNHKドキュメンタリーほか動画視聴　意見交換と解説：北海道のコミュニティFM放送調査を事例に解説
6回（11・12）	メディアと防災～コミュニティ放送を事例に	実際に起きた様々な事例より、コミュニティメディアの防災側面や　リスク最大値からの教訓を考える
7回（13・14）	コミュニティFM放送の組織経営課題「動画視聴講義」メディアリテラシー	コミュニティFM放送の組織経営の在り方と課題：コミュニティメディアの将来的な課題を探る テロ事件をテーマとした映像を用いてメディアリテラシー全般について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習のために、毎回事前に講義用のレジュメを学習支援システムにアップする。講義後はコメントシート作成も兼ねて授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧し、授業時間以外に学修してもらうことを望む。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。ただし普段から社会全体で議論されている内容（報道等）には注意深くあって欲しい。

【テキスト（教科書）】
・『コミュニティFMの可能性: 公共性・地域・コミュニケーション―』(北郷裕美著　青弓社）
・『市民が育む持続可能な地域づくり』（北郷裕美（第1章） 共著　同時代社）

【参考書】
・『日本のコミュニティ放送－理想と現実の間で－』（北郷裕美 共著　晃洋書房）
・『新・公共経営論』（北郷裕美 共著　ミネルヴァ書房）

【成績評価の方法と基準】
平常点 30％、レポート試験 70％を原則的な配分として評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回受講生のコメントや質問を参考にしながらその内容を具体的な事例を中心に講義内で反映しディスカッションを深める。

【学生が準備すべき機器他】
講義は原則としてPPTを用い、毎回PC機器、視聴覚機器（DVD等）を使ったスクリーン・プレゼンテーション型の講義を行う。受講生がPCを用意して講義ノートを作成することは差し支えない。

【Outline (in English)】
The purpose of this lecture is to think about how community media as communication means should be grasped on the premise of the problem of civil society (especially local, regional community).
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
- Class attendance and attitude in class: 30%
- Term-end examination reports: 70%

TRS590R1（観光学 / Tourism Studies 500）

観光政策特殊講義（観光開発論）

北郷　裕美

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
観光開発、観光振興、地域振興の全体を俯瞰しながら、地域の観光化の功罪についても考察する。観光の歴史や観光産業の実態を検証しながら、観光は生活文化主体の地域文化であることを再確認する。さらにこの問題を最終的には政策や制度の問題と結びつけて観光開発のこれからを考える。

【到達目標】
この授業では、観光開発がもたらす社会問題に目を向け、それを観光地住民の課題として考える。観光開発の功罪という両側面から見ることで、最終的には、観光文化の意義、意味をネガティブなものからポジティブなものへと転換し、観光地住民の手で観光を創造するにはどのような方法があり得るのか、あるいはどのように支援することができるのかを学修する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
各自の論文執筆にどう活かせるかを学ぶ。教員のこれまでの具体的な調査活動や研究実績を基にして、基本的に座学で行うが、各自の研究テーマに沿った形でディスカッションを試みたい。具体的な講義形式は、毎回スクリーンにパワーポイント及びウェブサイト・リンクを投影しておこなう。必要に応じてレジュメの配布（学習支援システムに事前アップ）、板書、音声や画像、DVD動画の視聴等も取り入れる。また課題提出を毎回課す。詳細はガイダンス時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	ガイダンス　観光開発とは	最初に授業全体を概観し、本講義の目的や到達点を確認する 観光開発とは何かという原点を共有する
2回（3･4）	観光開発における功と罪　地域創生における観光	観光の意味を再確認しながら観光化におけるメリット、デメリットを考察する 観光資源の在り方を通して地域創生の課題を考える
3回（5･6）	サスティナブルツーリズム	現在盛んに語られているSDGsについて再考し、それと観光の関連を通して「サスティナブルなツーリズム」の意義、意味を考える
4回（7･8）	日本の観光開発の歴史	明治期から現在に至るまでの日本の観光開発の歴史を俯瞰していく 過去から現在、未来へとその足跡を辿っていくことで観光開発について再考する
5回（9･10）	観光産業の成り立ち	「旅行業」の在り方に関して、産業面での捉え方を前提に具体的な交通手段、宿泊施設について「観光産業論」として検証する
6回（11･12）	交通機関と宿泊機関を概観する	観光開発の主軸となる、交通機関と宿泊機関の全体を総括する
7回（13･14）	ホスピタリティと観光これからの観光行政を考える	「おもてなし」の意味を再検証し、正しく「ホスピタリティ」について考える　地域振興との関連から、観光を政策や制度面から捉えなおし、観光政策を取り巻く現状を踏まえた「観光開発のこれから」を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習のために、毎回事前に講義用のレジュメを学習支援システムにアップする。講義後はコメントシート作成も兼ねて授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧し、授業時間以外に学修してもらうことを望む。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。ただし普段から社会全体で議論されている内容（報道等）には注意深くあって欲しい。

【テキスト（教科書）】
特には設けないが毎回作成するPPTを通して独自のノートを作成してほしい　文献等はその都度紹介していく

【参考書】
以下一部ではあるが紹介する
ジョン・アーリ、加太宏邦訳『観光のまなざし―現代社会におけるレジャーと旅行』法政大学出版、1995年
須藤廣、遠藤英樹『観光社会学2.0―拡がりゆくツーリズム研究』明石書店、2018年
長谷政広『観光振興論』税務経理協会1998年

【成績評価の方法と基準】
平常点30点、レポート70点

【学生の意見等からの気づき】
コメントシート又は対面による学生の感想・意見を聞きながら授業を行う

【Outline (in English)】
With overlooking tourism development, tourism promotion, and regional promotion, we consider the advantages and disadvantages of regional tourism.　In addition, in this lecture, it is important to examine the history of tourism and the actual situation of the tourism industry.　Therefore, it is possible to reconfirm that tourism is a local culture centered on daily life.　Ultimately, we will consider the future of tourism development by linking this issue with policy and system issues.
Your overall grade in the class will be decided
based on the following:
- Class attendance and attitude in class: 30%
- Term-end examination reports: 70%

MAN590R1（経営学 / Management 500）

産業政策特殊講義（地域産業論）

橋本　正洋

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、地域での産業の再生、興隆について学ぶ。このため、教授からのレクチャーで得た基本的知識を踏まえ、地方創生に実績のあるゲストを招いて話題提供をお願いし、実践的な講義と討議を行う。ここでは日本の地域における産業活動の実体を把握し、地方経済再生などを目指すために、どの様な政策・取り組みなどが必要かについて、理解を深める。

【到達目標】
日本の地域経済の状況を理解し、実務に応用可能な産業政策や企業の経営戦略などを立案・実行する能力をつけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
担当教授によるイントロダクション（第一回講義）に続き、全国的にも著名であり、具体的な地域産業興隆を進めているゲストスピーカーから担当教授の立ち合いのもと話題提供をお願いし、これを踏まえ担当教授による解説及びモデレートによるグループディスカッション及び全体討論を行う。当然のことながら全体討論のまとめが担当教員により行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	イントロダクション	地域産業の現状と課題について俯瞰する。
2回（3･4）	地域産業興隆の状況	地域経済興隆の先進的取り組みについてゲストスピーカーからの話題提供を基に教授と指導のもと討論する。担当教授によるイントロダクション（第一回講義）に続き、全国的にも著名であり、具体的な地域産業興隆を進めているゲストスピーカーから担当教授の立ち合いのもと話題提供をお願いし、これを踏まえ担当教授のモデレートによるグループディスカッション及び全体討論を行う。当然のことながら全体討論のまとめが担当教員により行われる。
3回（5･6）	地域産業の動向①	ゲスト講師による地域産業興隆のケーススタディの話題提供を基に教授の指導の下議論する。担当教授によるイントロダクション（第一回講義）に続き、全国的にも著名であり、具体的な地域産業興隆を進めているゲストスピーカーから担当教授の立ち合いのもと話題提供をお願いし、これを踏まえ担当教授のモデレートによるグループディスカッション及び全体討論を行う。当然のことながら全体討論のまとめが担当教員により行われる。
4回（7･8）	地域産業の動向②	ゲスト講師による地域産業興隆のケーススタディの話題提供を基に教授の指導の下議論する。担当教授によるイントロダクション（第一回講義）に続き、全国的にも著名であり、具体的な地域産業興隆を進めているゲストスピーカーから担当教授の立ち合いのもと話題提供をお願いし、これを踏まえ担当教授のモデレートによるグループディスカッション及び全体討論を行う。当然のことながら全体討論のまとめが担当教員により行われる。
5回（9･10）	地域産業の動向③	ゲスト講師による地域産業興隆のケーススタディの話題提供を基に教授の指導の下議論する。担当教授によるイントロダクション（第一回講義）に続き、全国的にも著名であり、具体的な地域産業興隆を進めているゲストスピーカーから担当教授の立ち合いのもと話題提供をお願いし、これを踏まえ担当教授のモデレートによるグループディスカッション及び全体討論を行う。当然のことながら全体討論のまとめが担当教員により行われる。
6回（11･12）	地域産業の動向④	ゲスト講師による地域産業興隆のケーススタディの話題提供を基に教授の指導の下議論する。担当教授によるイントロダクション（第一回講義）に続き、全国的にも著名であり、具体的な地域産業興隆を進めているゲストスピーカーから担当教授の立ち合いのもと話題提供をお願いし、これを踏まえ担当教授のモデレートによるグループディスカッション及び全体討論を行う。当然のことながら全体討論のまとめが担当教員により行われる。
7回（13･14）	まとめ	これまでの講義の内容を振り返り、地域産業のポイントをおさえる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常起きている経済活動や経済事象について関心を高め、それが地域産業とどのような関係にあるか、深く検討することが必要。すべての履修者は、そうした検討に基づいてプレゼンテーション、ディスカッションに参加することが求められる。本授業の準備・復習時間は、合計で5時間を標準とする。授業の内容により、準備または復習に重点を置くことに注意。復習結果を課題レポートとして提出する。

【テキスト（教科書）】
講義の際に配布する。

【参考書】
授業の進展に伴い、適切な参考図書等を提示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点(授業中の発表・ディスカッションへの参加等)（おおむね５０％)、プレゼンテーション（おおむね５０％）とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生からの評価に基づき、地域産業分析にかかる手法の講義も行う。

【学生が準備すべき機器他】
ゲストスピーカーが遠隔で話題提供を行う場合があるのでパソコンを持ち込むこと。

【その他の重要事項】
担当教員が資料を事前に提示するので、予習をしておくこと。

【Outline (in English)】
In this lecture, I will invite a guest who has a proven track record in the revitalization and prosperity of industry in the region, and give a practical presentation and sufficient discussion under professor's moderation. Here, we aim to deepen our understanding of what kind of policies and initiatives are necessary in order to grasp the reality of industrial activities in Japan's regions and to aim for regional economic revitalization.Naturally, the overall discussion will be summarized by the teacher in charge.

MAN590R1（経営学 / Management 500）

産業政策特殊講義（地域経営戦略論）

橋本　正洋

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、教授からの俯瞰的な講義に加え、霞が関及び地方の政策責任者をはじめ、地域政策研究の第一人者、地方創生の担い手、地方の産業指標の見える化の専門家をゲストに迎えて話題提供をお願いし、地方創生に必要な取り組みを経済産業政策、企業経営戦略などの側面から多面的に考える。これにより、得た内容を実務（政策立案・運営、企業戦略）に活かすことを目指す。

【到達目標】
具体的に、日本経済の状況を踏まえたうえで、各地方における政策、取り組みなどを把握し、どのような成功例、課題があるかを理解することを目指す。その上で、地方経済再生のための戦略論を考察することを目指す。特に、地域経営とは何か、受講者自らが定義を示すことが重要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
イントロダクションにより地域経営戦略に関する概要を理解したうえで、官界、学界、実践家の第一人者からの話題提供を受け、担当教授の指導の下グループディスカッション及び全体討議を行い、今後の地方行政、政策運営、企業の経営戦略などに必要な発想、取り組みを考察する。
当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	イントロダクション	地域経営戦略とは何か。
2回（3･4）	地域経営と政策	ゲスト講師からのプレゼンテーションを基に、わが国の経済政策（マクロ、地方振興策など）の方向性、特徴を担当教授の指導の下確認する。その中で、地方の活性化、地方創生などのためにどのような政策が行われているか理解する。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。
3回（5･6）	地域経営戦略①	地域政策研究の第一人者からの話題提供を基に担当教授の指導の下議論する。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。
4回（7･8）	地域経営戦略②	国の地域イノベーション政策担当責任者からの話題提供を基に、地域におけるイノベーション創生の議論を担当教授の指導の下行う当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。。
5回（9･10）	地域経営戦略③	地域行政の責任者を招き、地域行政の進め方、課題についての話題提供に基づき担当教授の指導の下議論する。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。
6回（11･12）	地域経営戦略④	地域の様々なデータの分析手法について専門家からの話題提供を受け担当教授の指導の下演習を行う。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。
7回（13･14）	まとめ	担当教授の指導の下、一連の講義を通して、地域地方経営に必要な政策等を受講者間で議論する。また、地域経営に関する疑問を解決し、更なる学習への橋渡しを行う機会とする。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常起きている経済活動や経済事象について関心を高め、それが地方の経済、社会動向などと、どのような関係にあるか、深く検討することが必要。すべての履修者は、そうした検討に基づいてプレゼンテーション、ディスカッションに参加することが求められる。また毎回課題レポートを提出する。

【テキスト（教科書）】
教員、ゲストから資料を提示する。

【参考書】
授業の進展に伴い、適切な参考図書等を提示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点(授業中の発表・ディスカッションへの参加等)（おおむね５０％）、プレゼンテーション（おおむね５０％）とする。

【学生の意見等からの気づき】
グループディスカッションへの積極的参加が重要。
地域経営戦略分析に有効な手法に関する講義を含む。

【学生が準備すべき機器他】
一部遠隔講義がありうるので、パソコンを持参すること。

【その他の重要事項】
今年度限りの貴重なゲストもおられるので、受講機会を逃さないように。

【Outline (in English)】
In this lecture, having luctures of landscape for regional policy strategy by professor, I welcome leaders in regional policy research, leaders in regional revitalization, and experts in visualization of regional industrial indicators, as well as Kasumigaseki and regional policy managers. I consider initiatives from multiple perspectives, such as economic and industrial policy and corporate management strategy. Through this, we aim to utilize what we have learned in practice (policy planning and management, corporate strategy).Naturally, the overall discussion will be summarized by the teacher in charge.

MEC500X1（機械工学 / Mechanical engineering 500）

機械振動学特論

相原　建人

単位数：2単位　｜　開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年，機械の大型化・高速化が進むにつれ，その機械の動的挙動を考慮した設計が必要となっている．そのためには動的挙動つまり振動現象を理解することが重要である．この授業では主に連続体を対象とし，発生する振動現象を学ぶ．

【到達目標】
1. 連続体の自由振動と強制振動の理論を理解し，運動方程式を立てて解くことができること．
2. 動吸振器理論を理解し，適切なダンパを設計できるようになること．
3. 非線形振動について理解し，理論解析，数値計算により現象解明ができるようになること．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回の演習と解説により理解を深める．　適時，学習等の実施内容に対してフィードバックを行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	1自由度系の振動	1自由度系の自由振動と強制振動について運動方程式を立て，その特性を理解する．
第2回	多自由度系の振動	多自由度系の自由振動と強制振動について運動方程式を立て，その特性を理解する．
第3回	連続体の振動	連続体の自由振動と強制振動について運動方程式を立て，その特性を理解する．
第4回	回転機械の振動	回転体の強制振動について運動方程式を立て，その特性を理解する．
第5回	動吸振器	動吸振器理論について理解する．
第6回	遠心振り子式動吸振器の理論	遠心振り子式動吸振器の理論について理解する．
第7回	遠心振り子式動吸振器の設計	遠心振り子式動吸振器の設計法について理解する．
第8回	モード解析	モード解析の理論について理解する．
第9回	実験モード解析	実験モード解析について理解する．
第10回	不規則振動	不規則振動の扱い方と応答について理解する．
第11回	非線形振動	非線形振動について運動方程式を立て，その特性について理解する．
第12回	自励振動	自励振動の特徴と応答について理解する．
第13回	非線形振動の解析手法	非線形振動に対する理論解析法と数値計算法について理解する．
第14回	振動の安定性とその判別法	非線形振動における解の安定性とその判別法について理解する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。】機械力学，機械振動学で学習した運動方程式の立て方および解き方を復習しておくこと．

【テキスト（教科書）】
配布プリント．教科書は使用しない．

【参考書】
吉川考雄，松井剛一，石井徳章，「機械の力学」，コロナ社

【成績評価の方法と基準】
評価方法：授業中に行う演習とレポート（100％）で評価する．
評価基準：本科目において設定した達成目標を60％以上達成している学生を合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
授業毎に配布する資料をベースとして授業が進められ，その資料に学生がメモしていくことで学生オリジナルの教材が完成する．授業で使用するスライドは学生がメモしやすいように構成されている．

【学生が準備すべき機器他】
貸与ノートパソコンを持参すること．

【その他の重要事項】
企業研究所にて自動車駆動系の研究開発経験を持つ教員が、その経験を活かし、研究や実務面での応用を踏まえた上で講義を行う。

【Outline (in English)】
In recent years, as the machine becomes larger and faster, it is necessary to design in consideration of the dynamic behavior of the machine. For that, it is important to understand the dynamic behavior. In this lesson, we will mainly focus on continuous system and learn the oscillation phenomena.
【Course outline】 This course provides a basic knowledge of mechanical vibration. Students will be motivated by understanding the mechanical vibration.
【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to achieve the objectives of the class and to acquire preliminary understanding and knowledge for mechanical vibration.
【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】 The total score of 60 or more out of 100 is considered acceptable.


法政大学
HOSEI University